漢和大字典

[A Japanese dictionary of Chinese characters]

1924 pages

LaAs
J355
[Japanese dictionary of Chinese characters]

貴族院議長學習院長公爵近衛篤麿序

貴族院議員文學博士重野安繹序

漢和大字典

吳汝綸題

貴族院議員文學博士重野安繹
東宮侍講文學博士三島毅監修
北京大學堂教習文學博士服部宇之吉

173702
12.9.22

三省堂編輯所編纂

漢和大字典叙

漢字之多。以千萬算。雖世稱博識者。亦不能盡見而悉記。閭巷編氓。欲録日常米鹽事。亦不可不知數百字。不便太甚矣。然我邦資

支那學藝。以啟發人智。以構成制度。浸潤之深。治習之久。不得一旦廢之。且輓近支那雖陵夷不振。其閒國家舊文物典章之可講明者。不尠矣。但其字數繁

萬毎字訓釋多岐。使人有望洋之嘆。於是乎。字書之用家急。著康熙字典玉篇。成于彼國人手。而歲月之久。不適邦人。今日之用。其他坊間瑣瑣編述。鹵莽杜

撰。徒誤學者。其不便益甚矣。三省堂主人有慨於茲。請重堅三島服部三博士監修。倣泰西辭典體裁。新編纂一書。意匠斬新。完整無比。洵斯學之津梁也。此

書一出。彼此情形。益相融
通。以金唇齒之誼。有補乎
東洋治安之策。余夙抱善
鄰之志者。安得不喜而叙
之。

明治卅六年癸卯孟春

公爵近衛篤麿撰

日下部東作書

漢和大字典序

字書之興。隨時世而變。在漢土。爾雅主訓詁。說文原六義。建部類。而音訓及篆籀附焉。是其類聚尤備。在玉篇以下。皆依倣之。然後世分部類。為標字形。而不復問造字之本。如信字。說文在言部。玉篇以亻入人部。是之則

其體又一變矣。本邦初無文字。假漢字以記言語。其字書新撰字鏡爲最古。尋有字鏡集數種。其他坊本。概皆節約玉篇字彙字典等。乃施我音訓者。陳陳相因。不足爲據也。東京書肆三省堂。多校刻內外字書。頃者倣泰西字書。音訓之外。附成語典故。其

有異義異訓者。每字別揭。而音訓並
雅俗兼收。命曰漢和大字典。揭我音
訓於漢字。故云爾。顧彼之注成語典
故。有佩文韻府諸書。而我邦和訓栞
等。皆与字書別行。令彙編歸之於一
不須檢閱他書。豈不亦至便乎哉。而
字書之體。於是又大變矣。夫字者學

也。孳乳而益多。説文九千餘字。康熙字典四萬餘。古字多假借。後世別製其字。且事物日益繁殖字數之益多。亦隨時世者。聞泰西字僅二十餘而其語今已至十四萬之多。漢字四萬餘。併音訓算之。亦當十數萬。字內言文之數。蓋無太差也。世有患漢字

過多者。爲一言之。

明治三十六年一月上浣

成齋重野安繹書

例言

泰西辭書中最も進步したるもの丶體裁に則りて、漢字を、平易に且つ秩序正し
[…]したるものとす。

[…]の排列の順序は、殆んど康熙字典に據り、甚しき廢字の外は、すべて之を收め、力めて字の遺脱なからんことを期したり。

一字毎に、其の下に、先づ漢音を記し、次ぎに吳音を記し（たゞ一音のみを記せるは、漢吳兩音共通）、切之に次ぎ、韻之に次ぐ。韻の四聲は、□の隅に小圈を附して、之を分かてり。卽ち□は平聲、□は上聲、□は去聲、□は入聲なりとす。

一其の字の音若しくは韻の異なるに從ひ、義もまた異なる場合には、更に同字を別項に掲げて訓釋し、其の字の音若しくは韻の異なるものありと雖も、同じき訓釋に屬する場合には、之を一字の下に湊合せり。

一其の字の有する異義に從ひ、項を分かちて訓釋する場合には、原義を前にし轉義を後にし、㊀㊁㊂の順に之を排列せり。若し其の中にて、若干の異義が、共通なる訓を有する場

合には、先づ其の訓を掲げ、次ぎに（い）（ろ）（は）の順を追ひて之を訓釋せり。

一解釋は、あらゆる字典を斟酌し、諸種の書史をも參照して、字義の內容を開展し異義の區別を明確にせんとを力めたり。

一和訓は、極めて普通なるものを取れり。若し和訓を附したるために、却つて誤謬を傳ふるの恐れあるものには、之を省略せるとあり。

一熟語成語は、汎く諸書より之を摘抄し、すべて其の語末にあたれる字の後に錄せり。

一引證せる典例出處は、正確簡明なるものを擇び、冠頭に、其の書名、若しくは其の作者の名、或は其の詞賦の題を掲げたるも、書名は、間々之を略記したるとあり。例へば、

〔書〕は書經、〔詩〕は詩經、〔易〕は易經、〔論〕は論語、〔孟〕は孟子、〔大〕は大學、〔中〕は中庸、〔老〕は老子　〔莊〕は莊子、〔管〕は管子、〔荀〕は荀子、〔韓〕は韓非子、〔周〕は周禮、〔儀〕は儀禮、〔戰〕は戰國策、〔左〕は左氏傳、〔國〕は國語、〔爾〕は爾雅、〔史〕は史記、〔漢〕は漢書、〔後漢〕は後漢書、〔晉〕は晉書、〔周、註〕は周禮の註、〔爾、註〕は爾雅の註、

どの如し。餘は類推すべし。

[illegible]を圖り、卷頭に新案の索引を附したり。考索せんとする者は、先づ字の偏傍に數へて、其の部に就き[illegible]を[illegible]

野頭にあるブラック體の數字は、頁數を示し、字の右肩にある亞剌比亞數字は、其の字を以て始まれる欄數を示し、白ヌキ數字は、畫を示せり。字數少くして索引に易き所には、白ヌキ數字を略したることあり。

一偏傍明確なる字は、容易に索引し得べきも、偏傍疑難なる字は、其の何の部に屬するかを知り難きが故に、索引の次ぎに檢字を設けたり。其の字の總畫を數へて、玆に就き之を檢せば、其の字の何の部に屬するかを知り得べし。

一音義殊別なれども、筆畫近似して混淆し易き字を判別するために、辨似を設け、檢字の次ぎに附せり。

一漢字のうちに、特に我が國に於て訓を附し、其の訓の我が國にのみ行はるゝものあり。之を稱して國訓といふ。又我が國に於て製作せる漢字あり。之を稱して國字といふ。共に諸書に散見し、俗間に使用せらるゝもの少しとなさず。其の著要なるものを蒐輯し、共に總畫數の順に隨ひて、之を卷尾に附せり。

一篆文は、今日使用せる漢字の前身原形なり。字畫を訂し字義を考ふるには、之を知るの必要あり。故に又之を卷の最尾に附せり。

一本書は、重野、三島、服部三博士監修の下に成りしも、三島博士は、東宮供奉の爲め不在

の事多かりしを以て全部の監修を請ふこと能はざりき。

例言終

索引摘要

（右方の數字は索引の丁數を表はす
左方の數字は本文の丁數を表はす）

索引

几部
（八〇）几八凡
（八一）尻処凤凧凬
凭𠘲凰凱凳凴
凵部
（八二）凵𠙴凶凷凸
凹出
（八三）函凾函𠚕
刀部（刂）
（八三）刀
（八三）刁刂刃办分
（八四）刅𠚫切切
（八五）刈𠚮刉𠛀刊
刋㓈
（八六）𠚾𠙶㓂切刎
制刉刘刿刑刑
荆㓈𠚰列刬划
（八七）刋刓㓋刕
刖㓛判列【五】刨
刹初

（八八）刟删刞剧刡
刢刻𠛮刣判别
（八九）刦刧刨𠛎刳
利
（九〇）别剌剢刻刻
𠛧剎创【六】刮刹
紃刎列𠛰刯到刑
剑𠛗𠛅刲
（九一）剞剡剉刳到
制
（九二）制剑刷剐券
刺刺
（九三）刻
（九四）剡刮则刭删
【七】剃到剅剆制
则剋
（九五）削剉削剌剩
剁剠剋刺
（九六）前前剑刺剆
剅剖剌剹到删

剔𠝏剕
（九七）剖剗剘契剴
𠞏剌剛剏剜剧
則剝剮剳剺剞
（九八）剟𠞰剒剥剡
剛剮剢剢【九】剸
𠝐剷剩劍剪剡
𠝉剆剣剪剸
剫剬𠞳剄剮
（九九）罰㓶副剳劄
剝剘劄割割剄
𠞟𠞰劇剢劂劉
剴𠞵罰剆剔創
（一〇〇）剩𠠃剸𠟯【十一】
剷𠟈劂剺剸劈
剹剹勢剺勢劐
劐𠞰劉剽
（一〇一）𠞿𠟭圖勦劊
𠞥𠟌𠠋勞剿劁
𠟵劀劓劈劁劌

𠠫劉劁勦劂劇
劃劍剹劄劑𠞦
劒劗剩劍劄【十二】
𠟙劉
（一〇二）創𠞸劘劃劋
劇剽劃劗劈劉
劊劋劌劍
（一〇三）剣剌劃劚劇
劚劓劑劒劐劁
劓劐劁劕劖𠠱
（一〇四）劉【十五】劂劉劇
劗劆劈劖劐
𠠝劉劚劈劈劖
劋劕𠠧劗劙劘
劚劙劚
力部
（一〇五）力
（一〇六）劜劧功
（一〇七）勼加𠡅𡆪勹
劣㔰劤劸劭劦

〔一三〕饑嬰

厂部

〔一三〕厂产厄厈厇
厄厉厊厍厎厏
厍区厑厙厎厎
厏居厔厚厗厓
（六）厝厜
〔一三〕厎厔厞厜厡厥
厖厗厘厘厙厚
酉厣厝
〔一二〕厤辱厦厩厞
厚厘原厚厦厧
厠原厡（十）厤厥
厦厦厧厧
〔一三〕厨厩厪厫厭
厭厯厰厱厲厳
厭厮厳厴
〔一六〕厴厵厭厮厰
厲厴厶厲厵

厶部

〔一三〕厶厷厸厹厺
厺去厽叁参叅
㕕

又部

〔一三〕又
〔一三〕叉叉及友叒
〔一三〕𠬝艮双収反
收叏叐岁叒叕
叀夋叜叔叚
〔一四〕叕取受叙叙
叚叛叙叟
〔一四〕叠叡叟叡叡
叢

口部

〔一四〕口
〔一四〕叱古句另另
叨
〔一四〕叩只叫召叭
台可可
〔一四〕台叱叱史右
〔一五〕古叵叶号司
（三）叮可吕吃各
叫呼
〔一六〕合吴吉吊吕
同
〔一七〕吖名
〔一八〕后吏吐向
〔一九〕吒吗否吐（四）
吘吟呀君吝
吞吟
〔一〇〕吠吭吓否吧
吨吡昏吆吣告
含
〔一三〕启听吭呃吮
启吠吰吹呈
吲吴吴吵
〔一三〕呙呐呋吸吹
吸吻
〔一三〕呒吽吾吒告
〔一四〕吓呀吻吕呃
呅吞吭咬呆味
呴咎呈咽（五）咣
呞味呗呱呤呻
〔一五〕呦呕昭呢周
呪咽咝呎咎
〔一五〕咀咕呱咣味
〔一七〕味呴咳呵呶
〔一八〕呷哇咲咢咜
呻呼命
〔一〇〕咀咕咀咂咄
咏杏咆咇咈
〔一二〕咉咊咋和
〔一三〕呆咍咎
〔一三〕咏咰咐咅哼
咽咞（六）咈咠咡
咢咣咪咎咾咥
〔一四〕咦咧咨咫咬
咕咪咙咨咯晴
咯响咱哂咳咾
〔一五〕咶咷咣咸咳

哧哊咮咔咺咻
咯咼咱哚咮咽
〔一六六〕咾咿哀品
〔一六七〕咖哂咸哃哊
哘哄哅哆哻哇
〔一六八〕哈咮哉哊哶
周咒咥【七】員唖
哢异哤哥哦
〔一六九〕咯哨哩哪哵
唲唄啊哮哭哯
哷唿哼唆哲
〔一七〇〕哳哏咧哷唆
哱哺唪哻啍哽
咈哅唔唲哿哷
唻唀唁㖇
〔一七一〕唂唄唅唆唇
唔唈唉唊唋唌
唍唎唏㖥唐
〔一七二〕听唑㖦豈𠲎
㖶【八】唷唆唾唪

唫唬唭售唯唰
啾
〔一七三〕唱唲唳唴唵
唶啨唸唹㖸啀
唺唻啳
〔一七四〕啺啗唾唖㖵
唿啀啁啯啚㖩
喈㖭唲啄啅啇
〔一七五〕商啈啉啊啋
啌㖧啍啎問啷
啐
〔一七六〕啄啑啯啓啕
啖啗啓啙
〔一七七〕啚啛啦啜啣
𠷝啞㖼唲啗𠴱
【九】啞啻啼㖷喙
〔一七八〕喞啾嘻喧喀
喁喂嗑喃善喍
喆喇喈
〔一七九〕喉啲喊喋喌

喍喫喻喏喰喐
喹嗖喑喲喒
〔一八〇〕喓喔㗈喢㖮
喗喘㗁喈㗇啹
喙喚喛
〔一八一〕㖻喜喖㖃喝
喞喟喠喔啻喤
㖷嗥
〔一八二〕喣㗇喭喼喥
喦喧喻喫𠽶品
喬喭
〔一八三〕單喥喉喪喬
【十】嗍嗒喿嗺嗄
嘓嗀嗠嗁嗂嗾
嗃嗄嗅
〔一八四〕嘼嘗嗆㗐嗇
嗥嗾嗉嗊嗗嗂
嗵嗌嗐嗑嗒嘫
嗔嗕嗃嗗嗙嗚
噂嗡嗜嗛

〔一八五〕嗜嘀㗘嘶嗖
嘐嘊嗞嘌嗟嗠
嘀嗢嗣
〔一八六〕嗤嘻啺【十一】嗷
嗸嘞嘀㗵嗹嗺
嚥嗼嗽嗾嗿嘛
嗽嚓啟嘁嘂嘯
〔一八七〕嗚嘅嘆嘇㗥
嘈嘉嘟嗺嘑嘡
嘌嘍嘎㗭嘖嘌
醫嘐嘏嘒嘐
〔一八八〕嘷嘒嘓嚓嘆
嘔嘵嘕㗸嘖嘗
嘘嘇
〔一八九〕嘍噝【十二】嘩嘳
嘫嘬嘮噍嘯嘰
嘱嚧嘲噴噂嘴
噌嘵嘶
〔一九〇〕嘣噑噎嘸嘺
嘻嘣嘂嘽嘾嚱

三畫　土　士　夂　夊

埻埈[3]埧埊埿垾
堬埀埂埃[4]埄埅
堋堶
〔二二五〕[1]埇埈埉埊埋
[2]埌埍城[3]埏埐[4]埒
埕坐〔八〕埜埄
〔二二六〕[1]埞域[2]埬埠埦
埡埢[3]埣埤埥埦
埧[4]埨埩埪埫埤
埫埭埮
〔二二七〕[1]埯埰埱埲埳
埳埴[2]埵埶執[3]埸
培[4]基
〔二二八〕[1]埾埻埼埽[2]埿
埿堀堁[3]堂
〔二二九〕[1]堄堅[2]堆[3]堇堈
堉堊[4]堋堌堍堎
〔九〕堖堗
〔二三〇〕[1]堞堙堚堛堜
堝堞[2]堿堰堳堠

堠[3]堡堢堰堤堥
[4]堦堧堨
〔二三一〕[1]堩堪堫堬堭
堭[2]堮堯堲堰報
[4]堲
〔二三二〕[1]堳場[2]堵[3]堶堷
堸堹堺堻[4]堼堽
堾墜〔十〕墍塈塉
塐塊
〔二三三〕[2]塋塌塍塎塏
塎塏[3]塑塒塓
塔[4]塕塖塗塗
〔二三四〕[3]塘塙塚塛塜
塝塞
〔二三五〕[2]塟塠[3]塡塢塣
塡[4]塢塤塥塦
塦
〔二三六〕[1]塨塩〔十一〕塲塴
塵[3]塷塸塹墀[4]塹
塶塷塻塼

〔二三七〕[1]墫墺墊塿墀
[2]墁墂境[3]墄[4]墅
墅墆墇
〔二三八〕[1]墉墇墈墊墋
墊[2]墋墌墍墎
[3]墐墑墒墓[4]墔墕
〔十二〕墖墜
〔二三九〕[1]墝[2]增墟墠墡
[3]墢墣墤墥墦[4]墧
墨墩墪墫墬
〔二四〇〕[3]墩墪墬墭墮
墯墰墱墲[4]墳墴
墵
〔二四一〕[1]墶墷墸[2]墹墺
墻墼墽墾墿
[3]壀壁壂壃壄
〔二四二〕[1]壅壆壇壈壉
壊壋[3]壌壍壎
〔十四〕壏壐壑壒[4]壓
壔壕壖

〔二四三〕[1]豎壓[2]壔[3]壕壖
壗壙壂壚[4]壘
〔二四四〕[1]壙墼壚[2]壢
壜壝壞[3]壟壠壡
壢壣壤[4]壥
〔二四五〕[2]壦壧壨壩
壪壬壞
士部
〔二四五〕[3]士
〔二四六〕[3]壬[4]壯
〔二四七〕[2]声壴[3]壳[4]壶
壷壻
〔二四八〕[1]壺壽[2]壿
夂部
〔二四八〕[2]夂[3]夅夆夆夅
夆夆
夊部
〔二四八〕[3]夊[4]夋夌夎夏
夏夐夑
〔二四九〕[1]夏[2]夏夔[3]夔

蘷

夕部

〔三九〕3夕4外
〔二〇〇〕2夗夘夙多3夜
〔二〇一〕1夝㚈㚇够夠
2㚋㚌㚍㚎夥
㚏夢
〔二〇二〕1夣夤2㚐夥夦
㚑

大部

〔二〇三〕2大
〔二〇四〕1天4太
〔二〇五〕1夫3夬夬夭4太
央夯
〔二〇六〕1夰夵失2夲夼
3夶夷
〔二〇七〕1夸夻夽2奄夾
夾㚗奈奃3奅奁
奄奆奎4奅㚞奆
臭奋㚟奇

〔二〇七〕2奈奉4奃奊奆
〔二〇八〕1奎奏3奐契
〔二〇九〕1奒奓2奔奕七
奓4奕奘奙奚奝
〔二一〇〕1奜奞奪奯奰
奏奄執奞奠2奥
3奡鉠奢4㚫奫奦
奮奱奨
〔二一一〕1奱奧3奩奪
〔二一二〕1奫奲奬2奭奮
奮奮4奲奮奰奮

女部

〔二一三〕4女
〔二一四〕2奴奴3奵奸4奸
她㚢奺奿
〔二一五〕1㚣好3妁妅妍
妁好如
〔二一六〕1妃2妄3妅妍妒
四妣妊妋妍4妍
妢妍妏妖妐妑

〔二一六〕1妒妓妔2妖妗
妙4妟妘妚妛妜
妝
〔二一七〕1妞玫妟妠妡
妣2妤妁妥妦妧
妨五妲妳3妴妵
妹妷妬妭妮妯
妯4妰妱妵姤妸
妹
〔二一八〕1姝妻2妼妽妾
姑妾3㚺姍姊姌
4妃姃姉姅姈姆
〔二一九〕1姐姕姈姊2姊
始姘3姍姎姏姐
4娍姑
〔二二〇〕1姛姑姒姓2姗
委3婷娈姷姸要
六姬姚4姛姜姝
〔二二一〕1姞姟姠姡姤
1娟姣姤3姥姦姧

娑4契姨姨姻姘
姪
〔二二二〕1姨姚姬2娈姮
姚姰姱3姾姳姴
姘姷姶姷姸姸
4姹姺姻
〔二二三〕1姼姽2姿姿姿
3娀威娄4娃娟七
娕娟娉娊
〔二二四〕1娋娒娓娔娕
娑娕娑2娒娓娑
娖娗3娘4娙娚
娛
〔二二五〕1娝娜娝娞2娠
娢娣婷娟3娟
娠4娥娑娗婀
娣娑娥
〔二二六〕1娭娩娪娬娩
2婄娗娭娨八婚
娵3娶娸婂婧4婉

孩
（二八七）1孚⑦孫孫孫
3猻孬孮孯孰4孲
孺孱
（二八八）1孹孰学孶孎
2孳敦孴孵孷學
（二八九）3孻孺孾孺4孏
孽
（二九〇）1孽孾孿

宀部

（二九〇）1宀宁2宂它3宄
宅4宊宆宇
（二九一）2㝃守4安
（二九二）1宋宎2宋完㝏
3宍实宏宆宖宑
宓4家家宔宕宖
（二九三）1宛宗2官4宙
（二九四）1定2宛3宜⑥4宔
容客
（二九五）2室

（二九六）1宼宨宣2宩3宥
宦4宧宨宬宩
（二九七）1宸宭宮2害宰
宮宰3家寉寏害
（二九八）1宴2宵3家
（二九九）2宷宸容
（三〇〇）⑧1宿寂宿3宿
宮寀寁寂4寄
（三〇一）1寅2密4寐寍寇
寇
（三〇二）1寏寊寔寋寍
寬寀富2寍寎3寏
寏寐寋寖寒4寃
寓寓
（三〇三）1寔2寋寛寖寗
索寘寙3寠寣寐
寤⑪𡩉寬4察
（三〇四）1寯寠2寡3寵寢
4寤寣寥
（三〇五）1寱實3𡫂寧4寨

（三〇六）1寱寲寳寴寷
審2寴寯寫3寬
4寷憲寮⑫憲寞
（三〇七）1寯寰寮寴寣
寱2寲寢寡寱
寴寵3寶4寷寷寢
寥寱寰寶
（三〇八）1寶寶寶寶寶

寸部

（三〇八）1寸2寺3寽尀导
封
（三〇九）1尃專射3尅將
（三一〇）1專2尉尊3尋尋
（三一一）1尌對對對2對
3導4導

小部

（三一二）4小
（三一三）2尐少3尕尔尖
4尗尗尖尖尚
（三一四）1尚2尟尛尠3覚

尞尞尞尭尞尞
尞尟4尠尠尠
尟尠尠尠

尢部

（三一四）1尢尤2尥尦尪
尦尥尨3尪尫尩
尫尩尬尭尯尰
4尳尮尯尰尲尩
尲尯尼就尴
（三一五）1尶尷尵尶尵尴
就尴尵尶2尷
尵就尶就3尷尷
尷尶尷尷尷
4就尷尷尷尷
尷尷尷

（三一六）1尶尷

尸部

（三一六）1尸
（三一六）2尹尺3尻尼4尽
屄尽屃尾

(三七三) 1 廞 廡 2 廢 4 廣 廥
廧
(三七六) 1 廜 廧 廝 廥 廮
廨 廦 廩 2 廦 廠 廞
廠 廡 廢 3 廦 廣 4 廛
廬 廫 廢 廠 廟 廬
(三七七) 1 廣 (十) 2 廞 廣 廢
廨 廠 廡 廥 廱 廳
3 廳 廱 廲 廳 4 廬 廱

廴部

(三七七) 4 廴 延 延 廷
(三七八) 1 廷 2 廸 建 3 廻 廼
廹

廾部

(三七八) 3 廾 廿 弁 4 弄 弃
弅 弄
(三七九) 2 弆 弇 弈 弇 弈
3 弊 弊 弊 弊 弊
弊
(三八〇) 1 弊 弊 弊 2 彝

弋部

(三八〇) 2 弋 弌 弍 弎 式
4 弐 弐 弑 弒

弓部

(三八〇) 4 弓
(三八一) 1 弔 弖 弔 2 引 4 弗
弘
(三八二) 1 弙 弙 弛 弞 弝
弟 2 弛 弜 弝 3 弝 弞
弦 弟 4 弣 弤 弥 弦
弣
(三八三) 1 弧 弦 弦 2 弨 弩
弧 弨 弩 (六) 3 弭 弭
弮 4 弴 弴 弶 弸 弰
弱
(三八四) 2 弲 弳 弴 弶 弸
發 號 弸 3 發 弸 弹
張 4 弶 弸 強
(三八五) 2 弸 3 強 弻 弼 彀
彃 4 彄 彅 彈 (十) 彍

彉 彊 彌 彎 彀
(三八六) 1 彈 彊 彄 彎 彏
彌 彏 彍 彌 3 彏
彎 彊 4 彎 彏 彌 彌
(三八七) 1 彍 彏 彏 彏 彏
2 彎 彏

彐部 (彑彐)

(三八七) 2 彐 彑 归 彔 3 彖
彖 彔 彗 4 彘 彙 彛
彙
(三八八) 1 彞 彝 彠

彡部

(三八八) 2 彡 彡 形 4 彣 彤
彥 彦
(三八九) 1 彧 彩 彩 彪 彩
2 彪 彫 3 彬 彬 彭 彭
4 彨 彩 彰
(三九〇) 1 彰 彲 影 2 彳 3 彯
彲 彲 彲

彳部

(三九〇) 3 彳 彴 彵 4 代 彵
彵 彶 彷 彷 彷
(三九一) 1 彸 彸 役 3 彺 彺
彼 4 彽 彽 彾 彿 彾
往
(三九二) 1 徂 征 征 2 徂 (六)
徊 徃 待 3 徇 徑 4 徉
徆 徇 很 很
(三九三) 1 徉 徊 徐 律 3 後
4 徍 徎 徔 徖 徐
(三九四) 1 徐 徔 徒 徙 徐
後 徜 徝 徙 徠
徟 徑 3 徒
(三九五) 1 徣 (八) 徤 徥 2 得
3 徘 徘 徙 4 徠 徛 徜
徛 徑 徛 徜
(三九六) 1 御 徝 從 3 徢 徠
御
(三九七) 1 徛 徛 2 徜 徥 徦
徧 假 3 徧 徯 徧 徧

悵悍[3]悶悷悹悺
悸[4]惻悻悼
[四二六][1]悆恇悃㥄悽
[2]悾悿悷惀[3]惁惂
惃𢙣惄情
[四二七][2]惆惇惈惤淲
怗[3]惊㤳㥊惋
惌[4]惗惍惎惒
惘㤭惏
[四二八][1]㥌惐惑[2]㥦㥶
惓[3]惓㤹惔惕[4]惖
悉惗㥓㤿惘㦅
[四二九][1]惚惛[2]惜惝惄
[3]㤟㤳惟惠[4]㤩惡
[四三〇][3]惢㥻㥑[4]惌惷
九 快㥛情
[四三一][2]惱惲想[4]惴
[四三二][1]㥜惵㦤惐惶
[2]惷惇惹[3]惹惺惻
㥐惼[4]愎㥚惛㥂

惾愐
[四三三][1]愲惿愀[2]愁愷
㥦像愃愄愱[4]悛
愬愫愺愿愆
[四三四][1]愈愉[2]㥏㥌愇
㥋㥽㤞[3]㤕愱
愔蠢愊愋㬇意
[四三六][2]㥫愐愍愅愭
㥑愘愒[3]恖愓
愔愕[4]愖愍
[四三七][1]愎愲愸愙[2]愚
愚[3]愛
[四三八][2]愿愜愝愞[3]感
[四三九][1]愠[2]愽愡愢愫
愫愭 十 愧[3]愨
[4]愪愫愬愭愮
㥥㥬
[四四〇][1]愫愰㦟㥷愲
愿愔愯愨愴[2]愵
慁㤽慉愷愸愱

[3]愧慅慓慎[4]慁
慂慃
[四四一][1]慅愿[2]慩慆慌
慀慁慖[3]慊慂
慃慄[4]慅慆
[四四二][1]慇慉慈[2]慉慼
慊[3]態慯
[四四三][1]慱愻慌慍悉
愭慉鴦慹[2]慆
瘱 十一 慒慓慔慕
[3]慱慖[4]慝慜慘慙
[四四四][1]慚慛慛慜慝
[2]慞慟慡慠[3]慦
慫慢[4]慣慤慥慦
慧
[四四五][1]慨慖[2]慫慨
慬[3]慡慪慫慬
慪慮
[四四六][1]慯[2]慰慰慲慱
慲[3]慳慴慵慴慵

[4]慶慷慸
[四四七][1]慹慺慻慼[2]慽
慿慾慿慽慾
慿慛[3]慾憑憀憁
憂[4]憃
[四四八][1]憁 十二 憂憃憄
憆憇[2]憈憉憊
憍憎[3]憏憐憑憐
[4]憓憑
[四四九][1]憓憔憒憕[2]憖
[3]憙憘憛憚[4]憛
[四五〇]憔憋憝憟憠
[2]憚憟憡憢憣
憣憤[4]憥
[四五一][1]憦憧憨憩憪
[2]憩憪憫憬憭
憫[3]憬憭憮憯憰
[4]憱憮憯憰憱
[四五二][1]憲憲[3]憳憴憵
憶憷憸憹憺

四畫 手

抏抐抑〔四七九〕抒抓抔投抖 抗折〔四八〇〕拏抙⿰扌五扫 五 抦抧抨抩挻抪 披〔四八一〕抬抗抰抮担 抉⿰扌瓜抱抲抳抴 抵〔四八二〕抶抷抸抹抽 抾抿拔抹抻押 拂〔四八三〕抑拃⿰扌目拄担 ⿰扌兒拆拇拈拉拊 拖批拌⿱比手拍〔四八四〕拎挐拐拑拒 拓拔〔四八五〕拕拖拗拘㧌 拙拚〔四八六〕招拜拘⿰扌皿挈

六 拪拫括拭拮〔四八七〕拯挋⿰扌亥拱拲 拳⿰扌百拴拵⿰扌州⿰扌戒〔四八八〕拶⿰扌林拷捎拸 拹捒⿰扌派拽拾拿 ⿰扌因拆持挂〔四八九〕⿰扌聿揉挧挃挓 挄⿰扌亟挄⿰扌桑⿰扌状拘 指挐〔四九〇〕⿰扌爪按挐拤挖 挎挋捚挌挛拏 挍挎挏捍挈〔四九一〕挑挒把挙挖 括搩挔挕拍挖 指搖挾扛 七 挨 挩挪挫捇捊挭 挮〔四九二〕振挹捏挱挴 挵挸捣挸挺挻〔四九三〕挼掛挽挧捣

挠捒捞挼挾插 捀捃捂捁捂捃 捄捅捆捆〔四九四〕捇捈捉捋捋 捌捕捍捉捊捽 捎捏捐捑捒捐〔四九五〕挪捔捕捖捗 挟捘捝捙挈捚 捀捁 八 捋捥捡 捘捛捈捡捧〔四九六〕挚捨捩捻掇 捫捬捭捰捭据 捯捰捱捲捳掂 掄掑掕掙捿〔四九七〕捸掕捹捼掭 捻掻掬捽掮捿 掙掘掀植〔四九八〕揀掁掉掂掽 掃掄掅掆掇授 掉

〔四九九〕掊掊掋掌 掍掎〔五〇〇〕掏掐掑排掓 掔掔掕掖掗 掘掙〔五〇一〕掚掛掜掝掞 掠掠採掛採 掣〔五〇二〕掤接控掦推 掩〔五〇三〕措掫掬掌掕 掭掭摯掔掻掌 掙擘掩揩 九 揸 掾掿掿〔五一〇〕揁揟揞揄揄 揠揣搜揥揆 揁揫揩揉〔五一二〕揃揊揋揌揍 揎揫揮提揷 揓揔揕揖

擨擬擉擽擹擕
擹擭擸擐擮
〔五三一〕擯擗擲擰(十五)
擲擳擴劉擤擶
擷擵擻擩擮擭
攄擻擇擿擺擻
擼擹擻擽
〔五三二〕擾擿擿擕攀
擸擺攝擦攄攢
攃擷擽擸擧(十六)
攇攈
〔五三三〕攘攥擦擢擿
擏攀擠擠擼擷
擴擶擴擬擘擶
擷擱擦擫擼擼
擧擺攑攖攫攖
〔五三四〕攓擦攑擭擶
擇攕攜攙(十八)攃
擠擦擡擡攌擾
擢攜攝

〔五三五〕攑攔攔攞攟
擛攤攦攢攣攣
攛攥攩攦攣攣
攩
〔五三六〕攪攫攫攭攬
攬攮攥攩攩攫
攮攮攭

支部

〔五三六〕支

攴部

〔五三七〕攰攱攲攳枝
敊敕攱攲攳

攴部(攵)

〔五三七〕攴攵收攷攴
〔五三八〕攸改攺攼攽
攻攷孜(四)放
攲枝敁攰敀攱
放
〔五三九〕收政
〔五四〇〕敃敂敄敆敃

〔五四一〕敁斂敂敃敄(六)
敍敕敕敆敇
敆敇敎敋敌
故
敁敆敇敄敇
〔五四二〕敁敂敃敄敇
敋敌敍敎敏
敐敓敔敕
〔五四三〕敕敎敏
〔五四四〕敕救敖敘敗
敕
〔五四五〕敖敘敚敗
〔五四六〕敚敛敜敝敞
敛敜敝敞敟敠
敡敢敤敥敦敧
〔五四七〕敢敦敧散敩
敨敩敪
〔五四八〕敫敬敭敮敯
敦敧敨敩(九)敫
敬敭敮敯敱敲

〔五四九〕敳敵敶敷敹
敺敻敼敽敾
敿斀斁斂斃
斄斅斆斈斉
敷敹數斁
〔五五〇〕斃敵斅斆斂(十一)斉
敵敹斀斂斉斄
敷敹數
〔五五一〕數
〔五五二〕斂敺斀斁斂斃
敼斁斂斃斄(十二)
斁斂斅斆斉斊
斂斃斄斅斆
斅斆
〔五五三〕斂斃斄斅斆
斁斂斄斅斆
斂斃斄斅斆斆
斅斆斈斉斊變
斆斆

文部

〔五三三〕文
〔五三四〕斂敫斊斌斐
斑
〔五三五〕斒斔斖斄數
鈌爛

斗部

〔五三六〕斗斗斘㪳料
斞斟斠料
〔五三六〕斜料斜斣斛
斜斝斟𣂏斠斡
斢斣𣂑斢
〔五三七〕𣂓𣂊斸

斤部

〔五三七〕斤斥所斧斨
斦㪿斪斫
〔五三八〕斮斫斬斷斱
斨斮斯斱新
新斲斲斷斷
斷斷
〔五三九〕斳斷斷斷斷
斸斷斷斷斷

方部

〔五五九〕方
〔五六〇〕㫃於扵斻於
〔五六一〕施𣃁斿㫄旁
〔五六二〕旂旸旃旄旊
旆旅
〔五六三〕旇旈旑旉旒
旋𣃳旌
〔六五四〕旍旎族
〔五六五〕八㫚旜旐㫦
𣄤旒旈旓旔旝
旑旖𣄴旗
〔五六六〕𣄖旟旝旔旝
旚旘旛𣄻旜旝
旞旟𣄾𣅂𣅃𣅄

无部

〔五六八〕无旡𣄽𣄾𣅀
〔五六七〕既旣𣅄𣅅

日部

〔五六七〕日
〔五六八〕旦𣅀亘旨㫐
早旪𣅃旬旭
〔五六九〕旱旰旱昊昇
𣅈昍旳旴旵㫓
四旹旺昊旼旽
昍昨昫昁昂㫘
旲昄昅
〔五七〇〕否昆皆昇昈
昉旻昊昌昍明
〔五七一〕昏昐昳昑昒
曶易
〔五七二〕映㫛昔昕昖
昳㫴昃五昄㫐
昛昜𣆊昞星
〔五七三〕昳昡昢昣昑
春𣅛昧
〔五七四〕昨昧昪昛晌
昬㫖昭昜𣅚昫
是𣆂昱昳昴昲

昵
〔五七五〕𥘨昷㫗六晠
晀晁時晃晄晅
晆晇晈晉晊晋
𣆶晌䀯
〔五七六〕晷晥𣆇𣇈㫐
𣆫𣆞晎晏晐𣆮
𣆖㬅㬂晗晘晿
晃𣆉𣆓晙晚晛
𣆀㫼㫷晝
〔五七七〕晞晟晡晢晣
晤晥㫲晦晧晨
㫸八㬉
〔五七八〕晪晫晬暃𣇉
晭普景𣈝晰晱
𣈆晲𣇃晴𣇹晵
晶
〔五七九〕𣇸𣇵晇最暑
暘智𣈊𣇩
〔五八〇〕晻暀𣈄晼晽

四畫　日　日曰　木月　木

晾暋睩九暄晅
暆暇暈暉暊暋
〔五八一〕暷暌㬌暍暎
睹暒暐㬎暑晳
㬁暕㬈暵曼暖
暗
〔五八二〕暘暐暚瞴暛
暒暓暐暞暟
暠暺暥暿暩暡
暢暣暡暪暱暫
暤暥暴十一暸
〔五八三〕暶暷暸暻暺
暫暬暭暲暮暮
暯暰暱暲暳暜
暳暴
〔五八四〕暵暶暸暸暹暹
暷暻暼暽暾暿
曀曁曂曃曅曄
暨曇曈曊曋
〔五八五〕曆曇曍曈曉

十三曎曏曑曒曓
曔曕曖
〔五八六〕曗曘曙曚曛曜
曝曞曟曠曡曢
曣曤曥曦曧曨
曬曭曮曯曰曱
曡曢曣
〔五八七〕曧曨十六曩曫
曪曫曬曭曮曯
曯曰曱曲曳更
〔五八九〕曬曭曮曯曰
曯曰曱
日　部
〔五八八〕曰曲曳曵曶
〔五八九〕更曷曺曻曼
書
〔五九〇〕曹曼曾
〔五九一〕替最朁會
〔五九二〕朄朅朆朇朁
朁朂朄朅

月　部
〔五九二〕月
〔五九三〕有朊朋朋朊
朋
〔五九四〕朋朌朎朏服
〔五九五〕朐朑朒朓朔
朓朔朕朖朗
〔五九六〕朘朙朚望朜
朝朞朝
〔五九七〕朞期朠朡朢
朣朤朥朦朧
朧
〔五九八〕朩朣朦朧朧
朧朦朧朧

木　部
〔五九八〕木
〔五九九〕朩朮朱末末
本
〔六〇〇〕札朮朱
〔六〇一〕朳朴朵朶朵

朵朷朸朹机机
〔六〇二〕朻朼朽朾束
杆杅杇杈杉
朴朷机杌杍李
〔六〇三〕朾杏杲材村
杒杓杔杕
〔六〇四〕杖宋杀杘杙
杚杜杝杞束
〔六〇五〕杠杢四杪杜
柴杭杭林柿杯
杰東杲杳
〔六〇六〕枚枠杶杷杭
枚枤枇枌杻杼
柔枅松板
〔六〇七〕条极茱枂杓
枃枆枇枈枉柳
枋柢枌枍枎
〔六〇八〕枏析桓枒科
枑枓枕枕枖枖
林林

〔六〇九〕1枘梔2枚枛枡
果
〔六一〇〕1枝3柈枓栘枕
五 枯枯4枰枱枭
枳
〔六一一〕1枴枴架2枷枸
3枹枺柂4枼柿柹
柝
〔六一三〕1柁柂2柃柄3柷
柅柆柇柈4柉柊
柭柋柌柅柍
〔六一三〕1柎柏2枲柑柒
3染4柔
〔六一四〕1柖柗柘2柙柚
柛柜柤3柝栟桴
4柞柟柠柡柢柣
〔六一五〕1柤査柦柧栓
柮2柨柩柪柫柰
柫柬枝3柮柯4柰
柱

〔六一六〕1柲柳2柴柴3柵
4柶柷柸
〔六一七〕六1栒栓栕栔
2柜栖栕栗4栘栙
栚栛栜栝栀
〔六一八〕1栜栝栞2栟栟
栠4栢栤栥栦
栧
〔六一九〕1栨栩株2栫栬
栭栮3栯栰栱栲
栱4栳栴栵栶栵
栵栶
栺栻格
〔六二〇〕1栟核2栠根3栗
〔六二一〕3栽4栾栿桀桁
〔六二二〕1桂2桄3桅桅
框案4桉
〔六二三〕1桊桋桌桍桎
2桏桐桑3桒桓柏
桗4桘桔桕桖桚

桛梣七桫
〔六二四〕1桬桭桮桯梆
2桰桱桲桳3桴桴
桵桶桷4桸桹
〔六二五〕1桺桻桼桽桾
桿2梀梁3梂4梃
梄梅
〔六二六〕1梆梇梈梉2梊
梋梌梍梎3梏梐
梑梒梓4梔梕梖
〔六二七〕1梗2梘梙梚梛
梜條3條4梞梟
〔六二八〕1梠梡梢2梣梤
3梥梦4梧梨梩
〔六二九〕1梪梫梬梭2梮
梯3械4梱梲梳梲
〔六三〇〕1梳梴梵2梶梷
八3梨棄
〔六三二〕1梶棣棆棇棈
2棉棊棋棋棌棍

3棎棐棑棒棓4棔
棕棖棗
〔六三三〕1棗棘2棙3棚棚
棛棜棝棞4棟棡
棠棡
〔六三三〕1棣2棤棠棥棦
棧3棨棩棪棫
棬
〔六三四〕1棭棯棰2棱棲
棳3棴棵棶棷
棸4棹
〔六三五〕1棺棻棼棽棾
棿2椀椁椂椃椄
3椅椆椇椈4椉
椊椋椌植椎椏
2椐椑椒3椓椔
植
〔六三七〕1椎椏椐2椑椒
3椓椔椕椖4椗 九

四畫　毛

毥毦
（七〇五）1毧毨毣毤毭
毯（七）2毫3毹毸毻
毬
（七〇六）1毿毬毳毭毮
毴毷2毲毢毧毩
毸毻毱毪3毱毷
毶毳毲毴4毴毼
毤毽毵
（七〇七）1毾毷毼毤毼
氀毹毷毿2毸氁
毽毹毹毷3毳毽
毹毷毸氃毶氃
氂毾毵毴毿毸
4毴毸
氃毷
（七〇八）1毿氉氂氁2氂
毹毽毸毵毸
毹毳3毹毳毹氂
4氇毵（十二）毹毹毹
（七〇九）1毵氃毳毳毳

毛氏气水氵

氂毺毸2毵氍毹
氅毸氇氃氌氎
氍3毸毹

氏部

（七〇九）3氏4氏民
（七一〇）4氐觗邸跌眡
（七一一）1氒

气部

（七一二）1气氛2氣
（七一三）4氤氦氧氳

水部（氵）

（七一三）4水
（七一四）1氶氷永2氻氿
汃汄汆汆汜3氿
汀4汁
（七一五）1氽3汃汉汋4汈
氿汎
（七一六）1汏汐汑汒2汓
汔汕汕汗4汙
（七一七）2污汛汜3汭汝

水

汞江池
（七一八）2汦汽（四）汥汦
汩3汩汪4汫汭汯
（七一九）1汰汱2汲汳汴
泠汶3汷汸汹汾
決
（七二〇）2汻汽汾沁浮
沁沂3沃沄4沅沆
沇
（七二一）1沈2沉沊沋沌
3沍沎沏沕4沐沑
（七二二）1沚沒2沗沓3沔
沕4沗沖沘
（七二三）1沙2沚3沜沝沛
4沛沟沢（五）沫
（七二四）2沫沭沮3沰沱
沲4河沴
（七二五）1沍沷沸2沯沺
油3沺沼4沽治
（七二六）2沾3沿況4泂泄

水

（七二七）1泅泗洟泉3泊
4沛泠泲
（七二八）1泌泳泎泏2泑
泆泒泓3泔法
（七二九）2泖泗泘泙泚
3泛泜泝泞4泟泟
泠泡
（七三〇）1波3泣泤泥
（七三一）1泦泧泧泩泪
注3泫4泬泭泮泮
泯
（七三二）1泰2泱泲泳泂
泙盜3洼（六）洸洧
泝泂洧4泥洆洇
洄洊洋
（七三三）1洌2洐洇流泊
洏洐洑洑3洒4洓
洔洕洗洗
（七三四）1洘洙洚洛2洜
洞3洟洠洡4洢洣

津
（七三三）1洦洧浚汧洩
2洪洫3沨洟洮洯
浩4沭洰洲洳
（七三六）1洴洵洶洷洸
2洹洺活4涭洼洽
（七三七）1派2洿3流
（七三八）2㳥涬涸浂𣳚
（七）浖浘3浙溢浚
洽浜4浞浟浡浢
涚浣
（七三九）1浤浥浧2浨浯
浩浪3浫浬浮
（七四〇）1浯浰浳浲涓
涀浴2涍涄浵浶
海4浸
（七四二）1浹浺涯浻浼
2涘浾涢涀浵涂
3浖涅涆涃4涇消
涉

（七四三）1淀涊2涘涌涎
涏3涐涑涒涓4涔
（七四四）1涕涖涗2涘渺
洄涏浿（八）涪涫
3涬涭涮涺涯4凝
液
（七四一）1浧涇涳淹沱
涴2涵涶㲾3渶涷
涸涹4溜涼
（七四五）1涽涾涿2淀淒
淂淃淄淅3淆淇
洴泟淉淊4淓淋
淮涻淌
（七四六）1淍淎淏淐淑
2淒淕淖3淳淗淘
淙淚
（七四七）1淛淜淝湾淞
游淟淠2涸淔淨
洦淡3淥4淢湪淣
淤

（七四八）1淥淦淀淨2淩
沵洑淿淪3洗淽
淫4淬
（七四九）1淭淙淮淯添
2淰淦深4淲淳
（七五〇）1淴淵2淶混3清
4淹
（七五一）1淺3淼淽添淨
涇4渢済沮浀源
漆溙湲涸渃涸
淸
（七五三）1滂洟涾湝渄
洒（九）渙湑2渚減
溪3渝渟渠4渡
（七五二）1渢渣渥渤2渥
渦渧3渨温4渹渟
渫
（七五四）1浸渭渏渟渱
渲2測港3渳渴渵
渷游4滈

（七五五）1湝渺渼濟渢
渾2湡溙湀湁滮
湃湄3湅湆湑湈
湒湊渫4涾湉湉
湋湌湍湊
（七五六）1湎湏湘湑2湚
湒溋湔湲湖
3湗渹湀湈湊湘
湙湫4湛
（七五七）1湜湝湞湟2湠
湢湣湤湥3渏潑
湄湧湨湩湭4湫
黎
（七五八）1湭湪溆湮湯
2湰湱湲湳湴3湺
湷激湹澄源葉
滓湤湶渊4漏湔
湶湷湷冽梨（十）
湽湣溏源
（七五九）2溒溓溔3溕溕

四畫 犬

臭猔狜狂狌狩
狢狍
〈八三六〉狎狆狏狏狐
狑狭狳狒狘猷
彼狔狕狖狘狗
〈八三七〉狙狚狛狜
狟狠狱狡狢狤
狣狥狦狧狨狩
〈八三八〉狤狭狨狧狥狸
狦狪狫狭狮狯
狛狥猃猈狩洞
猇猚狰狳猇狴狵
猈猇猚猗猜裝
〈八三九〉猞猠猡猣猤猥
猥猦猧猨猩猪
猀猂猃猄猅猆
猐猑猒猓猔猕
猖猗猘猙猚猛
〈八四〇〉猜猝猞猟猢獃
猣猤猥猦猧猨
猰猱猲猳猵猶

犬

猒猓猔猕猖猙
猛
〈八四一〉猜猝猴猵猚猢
猦猧猨猩猪猫
猬猭猯猰猱猲
猳猵猸猹猺猻
猫猬
〈八四二〉猩猵猷猺猼猽
猾猿獀獁獂獃
獄獅獆獇獈獉
〈八四三〉臭猴十猺獓
獊獋獌獍獎獏
獐獑獒獓獔獕
獖獗獘獙獚獛
獜獝獞獟獠獡
〈八四四〉獢獣獤獥獦獧
十一 獨獩獪獫獬獭
獮獯獰獱獲獳
獴獵獶獷獸獹

犬

獺獻獼獽獾獿
〈八四五〉獒獓十二獆獇
獈獉獊獋獌獍
獎獏獐獑獒獓
〈八四六〉獔獕獖獗獘獙
獚獛獜獝獞獟
獠獡獢獣獤獥
獦獧獨獩獪獫
〈八四七〉獬獭獮獯獰獱
獲獳獴獵獶獷
獸獹獺獻獼獽
十五 獾獿玀玁玂
獮玀玁玂玃
〈八四八〉獻玁玂玃玄
獺獻玁獽玃
獳玃玀玁玂玃
玃
〈八四九〉獵獽玃玁玂
玀玃

五畫 玄 玉

玄部
〈八四九〉玄玅兹率

玉部
〈八五〇〉玉王
〈八五一〉玒玓玔玕玖
玗玘玙玚玛玜
玝玞玟玠玡
玢
〈八五二〉玢玣玤玥玦
玧玨玩玪玫玬
玭玮五玱玲
玳玴玵
〈八五三〉玶玷玸玹玺玻
玼玽玾玿珀珂
珃珄珅珆珇珈
珉珊珋珌珍
〈八五四〉六珏珐珑珒
珓珔珕珖珗珘
珙珚珛珜珝珞

五畫 玉

玦珂球珢4珣珸
珥玴
〔八二五〕1珦珧珨珩珪
2珫珬班3珮瑙【七】
珍珴珵4珶珷琊
珸珹琽珼珽
〔八二六〕1琜現珿琀2琔
現琂球琄琅3理
〔八二七〕1琇琈琉琊【八】
2琔琾瑊琡琛琙
琖琗琘3琙琚琛
琜琟琠琡琢4琣
琤琥琦
〔八二八〕1𤦍𤥷琨琩琪
琫琬琭2琮琯琰
3琱琲琳琴4琵琶
〔八二九〕1琸【九】瑔琿瑓
瑀瑁2瑂瑄瑅瑆
瑇瑉瑊瑐瑋3頊
瑍瑎瑏瑜瑑4瑒

玉

瑓瑔瑀瑕
〔八三〇〕1瑕瑗瑈瑘瑙
2瑚瑛瑨瑜瑝瑞
4瑸瑟
〔八三一〕【十】1瑠瑢瑲瑣
2瑤𤨤瑥瑦瑫瑩
3瑪瑫𤩐𤩹4瑭瑮
瑯瑰瑱
〔八三二〕1瑲瑳瑴瑵2瑷
【十一】瑧瑻瑽瑾瑿
瑀環璀3璁璂璃
璈璄璅4璆璇璈
瑰璉璊
〔八三三〕1璕瑬璋璷瑳
璲瑱璷【十二】璣2璐
璑璓璔璕璡璗
璘3璒璙璚瑹璛
璜瑨璝璞4璠璡
璢璏璲璵璣
〔八三四〕1瓑【十三】璬璦璧

瓜

2璨璩璪𤩭瓗璫
3璬璉瓇𤪠瓌璯
𤪍璍4環
〔八三五〕1璱璲璵璶璬
璸𤪕2璹壘璻璽
3璾璿𤪜瓀瓁瓂
【十四】瑠瓄4瓅瓆瓈
𤪱瓚瓊瓡瓋
〔八三六〕1瓐瓌瓗瓍瓎
瓏瓐2瓓瓔瓖瓕
瓖靈瓗3瓘瓙瓔
瓚瓛瓛瓕瓙4瓘

瓜部

〔八三六〕4瓜瓝瓱
〔八三七〕1𤬝瓪瓲瓹瓞
𤬪瓟瓠2瓴𤬏瓡
瓟瓠瓡瓠𤬱3瓡
瓢瓣瓣瓡瓤瓥
瓞瓠瓞4瓞瓡瓢
瓢瓣瓤瓥

瓦

〔八三八〕1瓣𤬺𤬻瓤𤮉
2瓥

瓦部

〔八三八〕2瓦3瓧𤬫㼛瓬
𤬻瓰瓪瓨4㼜瓫
㼣瓨瓬瓬瓬
〔八三九〕1㼝瓵瓴瓮瓫
瓳瓴2瓵瓷瓯瓮
㼣𤭁瓵𤭂瓺𤭃
【六】瓶3甌瓶瓸𤭍
𤭐㼎瓷𤭓4𤭛瓺
𤭜𤭛㼧𤭩㼫𤭢
𤭓瓺
〔八四〇〕1瓿㼭𤭯瓻𤭊
瓾𤭎𤭮𤭲2𤮃𤮇
甞甊𤮏𤮐甈
3𤮖甀瓶𤮓𤮘
【九】4甄𤮍𤮑𤮚𤮜
甗𤮞題𤮟
〔八四一〕1𤮊𤮡𤮢𤮥2𤮦

五畫 疒

瘥瘯瘃瘨痌瘁
瘓痦瘯痥痎瘕
痏
〔八九四〕㾍痐㾉瘆疫
痓痆痒痓痢痔
痞痝痕痂痏痗
〔八九三〕痘痙痦痒痹
痕㿦痵痓瘊痛
痨痯痝痩痺疱
瘆瘂瘂痞瘱痏
瘦痰瘦痡
〔八九六〕瘌瘄痣瘊痤
痥瘍痓瘧瘦 八 瘄
瘷瘍瘢瘬瘗瘡
瘀痱痳瘀痳瘊
痂痵痵瘣瘝痤
癓瘵
〔八九七〕瘞瘊瘐瘛瘝
瘌瘴瘥瘖瘢瘩
瘖瘖瘖瘷瘝瘤

瘝瘤瘵瘭瘸瘦
瘀瘵瘭
〔八九八〕瘺瘴瘂瘃瘩
瘖 九 瘸瘇瘖瘦
瘵瘨瘊瘋瘌
瘺瘲瘍瘠瘧
瘖瘳瘳瘵瘠瘓
瘴瘥瘺瘢瘡瘃
〔八九九〕瘜瘥瘥瘅瘍
瘓瘵瘖瘕瘢瘌
瘦瘠瘍瘢瘺瘥
瘝瘓瘖 十 瘠瘴
瘨瘝瘵瘵瘺瘢
瘥瘜瘠
〔九〇〇〕瘵瘵瘜瘫瘺
瘵瘵瘟瘟瘵
瘠瘠瘤瘖瘢瘴
瘣瘤
〔九〇一〕瘵瘟瘜瘥瘌
瘢瘦瘜瘥瘴瘺

瘥瘼瘭瘴瘵瘵
瘳瘵瘢瘵瘠瘵
瘢
〔九〇二〕瘛瘥瘥瘥瘳
瘧瘴瘺瘵瘵瘢
瘵瘵瘠瘢瘍瘺
瘻瘵瘼瘴瘤瘴
瘥瘫瘥瘠 十一 瘴
瘥瘢
〔九〇三〕瘨瘵瘺瘠瘢
瘵瘺瘠瘢瘵瘥
瘥瘵瘢瘺瘠瘠
瘵瘵瘺瘵瘢瘢
瘢瘴瘢瘢瘢瘵
十二 瘴
〔九〇三〕瘠瘵瘺瘵瘢
瘢瘝瘥瘢瘵瘢
瘺瘵瘵瘢瘴瘴
瘵瘵瘝瘢瘵瘢
瘢

瘨瘵瘢瘢瘺瘢
〔九〇三〕瘥瘢瘨 十四 瘥瘺
瘢瘥瘢瘵瘵瘢
瘢瘢瘢瘵瘵瘢
瘢瘢瘵瘵瘺
〔九〇六〕 十三 瘢瘢瘢瘵
瘢瘢瘵瘺瘢瘢
瘢瘢瘢瘢瘢瘢
瘢瘵瘢瘢瘢瘢
瘢瘢瘢瘢瘢瘢
癬癰癴
癶部
〔九〇六〕癶癸
〔九〇七〕癹登發
〔九〇八〕癸發
白部
〔九〇八〕白百
〔九〇九〕皂皁皃皀皅
的皆皈皅皆皉
皇

癶白

〔九一〇〕1皅帥皈㊄皉
的2皋皌皐皓皎
3皏皓皐皒皓皔
皕4皖皞皗皖皘
皘皙皚
〔九一一〕1皜皞皝皚皛
皠2皡皜皝皞㊉
皡皥皠皦皧3皢
皤皥皦皞皧皨
皭皪皦4皧皬皭
皬皭皪皫皬
〔九一二〕1皬皭皪皫皬
皭皪皫

皮部

〔九一三〕2皮皯皰3皱皲
皲皴皳皵皶皷
皸皹皺4皻皼皽
皾皿盀盁盂盃
〔九一三〕1皷皸㊅皹皺
皻皼皽皾2皿盀

皾皿盀盁盂盃
3盄盅盆盇盈盉
益盋盌盍盎4盏
盐㊉盒盓盔盕
皷
〔九一四〕1皸皹皺皻皼
2皽皾盀盁盂
皾皿3盀盁盂
皾皿盀盁盂

皿部

〔九一四〕4皿盀盂盃盄
盂盃
〔九一五〕1盅盆盇盈盉
盃盅盆2盇3盈盉
盒㊄盓盔4盕盖
盗盘盙
〔九一六〕1盚盛盜盝盞
盟2盠盡盢盤盥
盦盧3盨盩盪盫
盬盭盛

〔九一七〕1盜2盝3盞盟盠
盡㊇盢盤盥盦
4盧盨盩
〔九一八〕1盪盫盬2盭盬
監3盧盤
〔九一九〕1盬盟盤盧盦
盧2盧3盦盩盨
盪盫4盬盭盬
〔九二〇〕1盪㊉盫盬盭盬
盬2盧盦盩盨
盬盪3盬

目部

〔九二〇〕3目
〔九二一〕2盯盰3盱盲盳
盱盰盲盳盱盲
4盯盰盱盲盳盱
〔九二二〕1盲盳直4見㊃
盵盷
〔九二三〕1相3盹盺省眂
眃4眄眅眆眇眈

盻眃眄
〔九二四〕1眇盾1昜2眈眉
昜眊眀眃3眄眅
眂4眃眄眅眆眇
〔九二五〕1眈眉眊2眍眎
眉3眏4眐眑
〔九二六〕1看2眓眔眕眖
眗㊄眘眙眚3眛
眜眝眞4眡
眾眢眣眤眥眦
眙
〔九二七〕1告2眧眨眩眪
眫眬眭4眮眯眰
眱眲
〔九二八〕2眳眴眵眶眷
3眸眹眺眻4眼眽
眾眿着睁
〔九二九〕㊅1睂睃睄睅
略睆2睇睈睉睊
睋3睌睍睎睏睐

五畫　矛 矢 石

矛部
〔九四六〕矛矵矷矸殺
矜矜矝矞矟矠
矠矡矞
〔九四七〕矟矠矡矢矣
矤矦矧矨矩
矪矫矬矮矯
矰矱矲(十)矴
矵矶矷矸矹
矺矻矼矽矾
矿砀
〔九四八〕矡矢矣矤矦
矍

矢部
〔九四八〕矢矣矦矤知
〔九四九〕矣矦矧矨矪
矩矩矪矫矬
矬矮矯矰矱
矲矬
〔九五〇〕矬矮短矮(八)

〔九五一〕矮矯矰矱矲
矱矲矰
矯矰
矱
〔九五二〕石矴矶矸矹矺
石部
〔九五二〕石矴矶矸矹
矻矼矽矾砍
〔九五三〕矼砀码砂砃砄
矼砂砆砇砈砉
砊砋砌砍砎砏
砐砑砒研砓
〔九五三〕砅砆砇砈砉
(五)砊砋砌砍砎砏
砐砑砒砓研
砕砖砗砘砙砚
砛砜砝砞砟砠
砡砢砣
〔九五四〕砤砥砦砧砨砩
砪砫砬砭砮砯

破砰砱砲砳破(六)
砵砶砷砸砹
砺砻砼砽砾砿
础硁
〔九五五〕硂硃硄硅硆硇硈硉
硊硋硌硍硎硏
硐硑硒硓硔硕
研硐硑硒硓
(七)硔硕硖
〔九五六〕硗硘硙硚硛硜
硝硞硟硠硡硢
硣硤硥硦硧硨
硩硪硫硬硭
〔九五七〕确硯硰硱硲硳
(八)硴硵硶硷硸
硹硺硻硼硽硾
硿碀碁碂碃
碄碅碆碇碈碉
碊碋碌碍碎碏

碐碑
〔九五八〕碒碓碔碕碖碗
碘碙碚碛碜
碝
〔九五九〕碞碟碠碡碢碣
碤碥碦碧碨碩
碪碫碬碭碮碯
〔九六〇〕碰碱碲碳碴碵
碶碷碸碹確碻
碼碽碾碿磀
(十)磁磂磃磄磅磆
磇磈磉磊磋磌
磍磎
〔九六一〕磏磐磑磒磓磔
磕磖磗磘磙磚
磛磜磝磞磟磠
磡磢磣磤磥磦
〔九六二〕磧磨磩磪磫(十一)

磚磛磃硜磥磃
磜磝磞磢磲磟
磡磠磖磳磺礀
磢磣磗磬磚礉
磬磦磟磭磦
〔九六三〕磝磧磨磩磼
磪磫磬磧碧磬
【十】磠磻磯磼礞
〔九六四〕磿磅磲礅磩
磃磶磴磹磴磵
磶磷磹磻礒磺
磴磬磻磼磼磽
磾隥
〔九六五〕礁磿髾礃礆
礆礇礃礈礉礊
礊礛礋礌礍礎
礏礐礑礒礓礔
礕礖礗礘礙
礚【十四】礥礦礨
〔九六六〕礬礙礚礛礜

礞礟礠礡礢礣
礤礥礦礧礨礩
礪礫礬礭
〔九六七〕礮礯礰礱礲礳
礴礵礶礷礸礹
礹礸礷礶礵
礻礼礽礿祀
礿祀祁祂
〔九六八〕礴礵礶礷礸

示部

〔九六八〕示礼礽社礿
〔九六九〕祀祁祇祈祆
祆祇祈祉
〔九七〇〕祊祋祌祍神
【五】祏祐祑祒祓祔
祠祓祔祕祗祢
祕祖
〔九七一〕祇祢祩祚祛
祛
〔九七二〕祜祝神祟祠

〔九七三〕祡祣祤祥祦祧
祧祥祩祪祫祧
票祩祫
〔九七四〕祪祫祬祭【七】
祰祲祳祴祵祶
祲祳祴祵祶
〔九七五〕祹祺祻祼祽
祾祿祼祽祾
祿禀禁
〔九七六〕禂禃禄禅禆禇
【九】禈禉禊禋禌禍
禍禎福禐
〔九七七〕禑禒禓禔禕
禕禖禗禘禙禛
禜禝禞禟禠禡
禢
〔九七八〕禣禤禥禦禧禨
禩禪禫禬禭禮
禮禯【十二】禰禱
禲禳禴禵禶

〔九七九〕禷禸禹禺离禼
禽禾禿秀私秃
〔九八〇〕禰禳禴禵禶
禷禸禹禺

禸部

〔九八〇〕内禹禺离禼
禽禽
〔九八一〕禸禺

禾部

〔九八二〕禾秃秀
〔九八三〕私秃秄秅秆
秆秇秈秉秊
秋秌
〔九八三〕秎秏秐科秒
【四】秓秔秕秖秗
秘秙秚
〔九八四〕秛秜秝秞租
秠秡秢秣秤秥
秦秧秨秩秪
【五】秫秬秭

〔一〇六二〕糈糐粲糃糠
糒糓糔糕糖
糗糢雜糭粹糑
糓糞【十一】糙糴䊍
糨䊩糐糦䊍粹
糛糜
〔一〇六三〕糚糒績糝糞
槩【十二】䊵糤糨糤
糶䊕䉵糨糦糑
糦糢糦糧
〔一〇六四〕糟糨䊤糕糠
䊭糯糪糣糧糪
糲糪糫糪糧糬
糳糰䊢䊡驥糷
糴䊫糯䊩糪糵
糲
〔一〇六五〕䊭䊧䊯䊳䊱
糴䊮䊳【十七】䊯䊰
䉶䊚䊯䊰䊴䊳
糴糶䊰䊴䊱䊹
糷䊷

系部
〔一〇六五〕系糺系
〔一〇六六〕紈紅糾紆紀
紆【三】紀紋紉紆
紕紂紂紃
〔一〇六七〕約紅紆
〔一〇六八〕紇紈紉紇紆
紒紅紊紋紞納
〔一〇六九〕紌紎紏紐紉
紑紌紒紓純
〔一〇七〇〕紖紕紘紐紊紻
紖紗紋紗約紘
紘紡紙
〔一〇七一〕級紛紜紝紞
紟素
〔一〇七二〕綾紱紅紡索
紊紼紇紧紭紩
紹紺綷紤紨絫

〔一〇七三〕紙紡絍紩絅
紕紫紬紙紭紮
紴累細
〔一〇七四〕紴紱紲紳紻
紴紶紸紷絅
組絆
〔一〇七五〕紷紸紹紺紻
紼紱紽紾紿
絁終
〔一〇七六〕紸組絅絆約
絈絋絇結絕絜
絉絊絒
〔一〇七七〕【六】絍絮絎絏
結絗絑絒絓絜
絔絗絕絕
〔一〇七八〕絲絖絡細紋
絃絹組經絛絖
絆契絝
〔一〇七九〕絞絟絠絡絢
絣絪絥給

〔一〇八〇〕綑絉絨絏絩
綑絮紙絮絮
〔一〇八一〕絯絰綠統絲
絳
〔一〇八二〕絪綀緈緊絆
絺絿綅【七】綆綈
綌綷絹絺綄綈
綎綌綍綀
〔一〇八三〕絕絾絿綁統
綃綄綅綆綉綊
綏綉綊綋綍
綎綏
〔一〇八四〕綐紗網綒經
〔一〇八五〕綠続綊綕綹
綎綖綗綯綘綵
綻【八】綜綫緑綞
綢綣綠
〔一〇八六〕綰綮綜綡綢
綱綮綫綣綢綿
綦綧綧綨綩綪

翍翠翣翑翐翐
栩翊翋翌翍翎
翍翎
〔二三一〕翏翎翐狗翑六
習翍翑翐翎
翐翑狗翑
〔二三二〕翑翑翐翎翐
翔翕翎翐翐翐
翑翑翑翑翐翑
翐翐翑翐翑翐
翐翐翑翑翐
〔二三三〕翐翐翑翑翑翟
翐翑翠翑翐翑
翐翑翐翠翐翐
九翐翥翦
〔二三四〕翐翐翐翐翐翐
翐翑翑翑翐翐
翐翐翐翑翐翐
翐翐翐翐翐
翻翻

〔二三五〕翐翐翑翁翐
翐翰翐翐翐
翺翑十二翐翐翐
翑翑
〔二三六〕翐翑翐翐翐翐
翐翐翐翑翐翐
翐翐翐翐翐翐
〔二三七〕翐翐翐翑翐翑
翐翐翐翐翐翐
耀
〔二三八〕翐翐翻翐
老部
〔二三九〕老考
〔二三九〕耇耄者耆耄
耈耋者耇耆
〔二四〇〕耋耋耊
而部
〔二四〇〕而耍耎耏耍
耏耐耑耏耎耏
耏耑耏耑耑耑

耒部
〔二四一〕耒
〔二四一〕耔耓耓耔耙
耕耖耗耘耙
耘耛耜耙耡
〔二四二〕耞耟耠耢耩
耠耡耥耤耩
耧耨耩耪耧
耩耩耪耫耬
耦耪九耬耪耪
耦
〔二四三〕耬耬耬耬耬
耭耨耩耪耬
耮耩耬耭耬
耯耬耬耬耬
耰耬耬耬耰
耰耰耱
耳部
〔二四四〕耳
〔二四五〕耴耵耶耶耼

耵耷耴耵耴
聆聇耻耾聃
耿耽
〔二四六〕聃耿聊五聃
聃聆聇聄聆
聇聆聊聊聋
聃聋聒聑聒
聒
〔二四七〕聒聒聒聒聒
聍聐聖聜聘
聓聐聊聊聒八
聏聏聐
〔二四八〕聙聚聛聜聟
聛聜聞聬聝聒
聟聟聡聢
〔二四九〕聠聡聢聣聤
聥聦聧聪聨聫
聬聭聮聯十聱
聲聳聴聵聶
聸聹聺聻聼聯

聰聕聻聜聊
〔二三〇〕聱聽聺聻聲
聵聊聲聳聽聹
〔二三一〕聽聵聴聽聽
聶聽聲職聹聹
聯聵聸
〔二三二〕聺聸聲聹聺
聾聮聵聽聽聾
聾聯

聿部

〔二三三〕聿肀津肆肁
肂
〔二三三〕晝肄肅肆
〔二三四〕肇肈

肉部

〔二三四〕肉月肊肋肑
肌
〔二三五〕肐肒肎冐肏
肓肌肐肑肒冐
肓肊肔肕肖肒

胺肕肘肙肚
〔二三六〕肛肜肝育肱
肞（四）肤肏肪股
肢肒肣股肤肥
〔二三七〕肦肞肚肛肟
肧肏胖肩肦肪
肫
〔二三八〕肬肭肮胝肯
肯肰胘肸肵育
冊肳肬肴肵肶
〔二三九〕肷肸肺胗肸
胳胎（五）胂胃胄
胋肤胠胆胊胇
〔二四〇〕胈胝胉胸貼
背胍胥胍胎
〔二四一〕胏胜胨胐胑
胐胬胒胓胕
胖胈胗胨胘胙
胜胥胚胆胛
〔二四二〕胴胜胝胞胟

胠胡胢脈胣胤
〔二四三〕胥胕胦服賀
胧背（六）胨胪胭
胳胬胯胰胱
胲胳胴胵
〔二四四〕胹胺胶胸胷
脂胹胺胺胼
脂胍胥胝胼能胦
胾
〔二四五〕胵脊脇脉脁
脂胞胍脋脆
〔二四六〕脅脈脉胸脊
胔脍脖脗脢脥
脉脋（七）脘脚脝
脍脘
〔二四七〕脙脚脚脛脜
胹脝脞脟脦
脌脖脗脘脡
脟
〔二四八〕脀脃脄脅脆脇

脢脣脤脥脦脧
脧脨脩脪脫
〔二四九〕脪脬脭脯脰
脾脹脺脻
〔二五〇〕腰腱腡腢腣
腟腠腤腥腦
腌（八）腧腩腪腫
腑腬腭腯腰
腱腲腳腴腵腶
腷腸腹腺
〔二五一〕腳腆腥腴腸
腵腶腷腸腹
腺腻腼腽腾
腿膀膁膂膃
腊腋
〔二五二〕腌腄腋腍腎
腏腐腑腒腓
腔
〔二五三〕腕腣腤腥腦
腫腨腩腪（九）
膃膄膅膆膇膈

興
〔一九四〕[1]槩[2]艖䑗舉
〔一九五〕[1]舋𦦿舊[2]𦧂[3]疊
𩱾與顨疇䢅巒
舌部
〔一九五〕[3]舌
〔一九六〕[1]舍[3]舐舲舐𦧇
敌[4]舕甜舒
〔一九七〕[1]䑛辞䑙舓𦧸
舔䑜䑝[2]舓䑞𦧻
舘䑝𦨙䑟䑡
舛部
〔一九七〕[3]舛舜舜[4]舝舞
〔一九八〕[1]䑞[2]䑟
舟部
〔一九八〕[2]舟[3]𦨁舠[4]𦨃𦨂
舣𦨊舡彤𦨌舤
〔一九九〕[1]舥𦨍𦨎舦舲
𦨙舤舨舩𦨊航
[2]舫[3]般（五）[4]𦨶𦨱艴

〔二〇〇〕[1]舳舴𦨣舵𦨠
舶[2]舷舸[3]𦨵䑿船
〔二〇一〕[1]舺𦩌𦨻[2]舼舥
𦩀艂𦩃𦩄𦩆艀
艄𦩍[3]𦩒艅艆艇
𦩟𦩚（八）[4]𦩷艋𦩲
𦩶𦩱𦩿𦩻𦩺艒
𦩢
〔二〇二〕[1]艒𦪆艎䑺𦪈
艐𦪇𦪂艘[2]䑻𦪍
𦪗艑𦪐𦪔𦪓𦪎
艓[3]𦪜艕𦪛𦪝𦪞
艖𦪤𦪗艘（十一）[4]𦪦
𦪲𦪩𦪸𦪯𦪱艚
〔二〇三〕[1]艢艛𦫄𦪽艣
𦫂𦫈艥𦫉𦫊[2]艜
𦫍艎𦫐𦫑艠𦫒
艟艞𦫕𦫖艡艢
𦫙艂𦫚艕艤[4]艥
𦫞（十四）艦𦫟艧

〔二〇四〕[1]艨艩艬艭艪
䒄艫[2]艦𦫼艬𦫽
艭𦫾
艮部
〔二〇四〕[1]艮良
〔二〇五〕[1]𦫴艱
色部
〔二〇五〕[2]色
〔二〇六〕[1]艴𦫵[2]艵𦫹艳
𦫽𦫿䒊𦬀[3]𦬁𦬂
𦬃𦬄艶䒋𦬆[4]艷
艸部（廾）
〔二〇六〕[1]艸卝芀芋芍
〔二〇七〕[1]艽芉艾[2]艿芌
𦬖芽𦬗[3]芄芅𦬚
𦬙芇芊芊[4]芋芌
𦬕芍
〔二〇八〕[1]芀苫芎芏芐
芑芒[2]苉芓[3]𦬧芳
芺（四）芀芘[4]芙芼

芛芞芝
〔二〇九〕[1]芟艾芊芺[2]芜
芣芫芤芥[3]芦芧
芶[4]芨𦬿芩芪
〔二一〇〕[1]𦬣芫芬芭[2]芮
芰花
〔二一一〕[1]苍芳[3]芴芙芷
[4]芸芹芺
〔二一二〕[1]芻芼茚芽[2]芾
𦭄芄茲[3]苒芾（五）
苑[4]芝苒苓苔
〔二一三〕[1]茗苗苗[2]苘苙
[3]苛芸苜[4]苝苞苟
〔二一四〕[1]茛苡苜苣[2]苤
若[3]苦[4]苧
〔二一五〕[1]𦭫苪苫茵苭
䒠苿[2]茲英[3]茬茱
茎苴苴[4]莞
〔二一六〕[1]荍茓莢茶荼
苷茉苹[2]莓荇茯

〔三三八〕⿱艹致萸蕃葙⿱艹是
葚⿱艹軌⿱艹品葛葜葝
蔿
〔三三九〕葞莿⿱艹拜葟葠
⿱艹辟葡萎葢董葑
葥葧葷葩萮葫
蕉⿱艹眇葬
〔三四〇〕葮葭葯葰蔥
葲葳葴葵葶葷
葸葹葺葻葼葽
〔三四一〕萩⿱艹迺蔥⿱艹肯蒀
蓼⿱艹拼葜葙蓍菜
蓩⿱艹道⿱艹送莌莞⿱艹秩
蔕⿱艹辞蒙菰（十）营
⿱艹旎蒢蒐蔞蒑蒒
蒓蒔蒇蒰蒖蔜
蒗蓻蒙
〔三四二〕蒚⿱艹酒⿱艹兢⿱艹害⿱艹除
蓀蒤蓄⿱艹隻⿱艹粟蒪
蓛⿱艹欲蒜蒝蒞蒟

⿱艹倭蒠蒡蒨蓇蒩
蒩
〔三四三〕蓴蒫蒬蒮⿱艹蒱
⿱艹都⿱艹脅⿱艹剖蒚⿱艹捕⿱艹建
⿱艹納蒲蒴蒵蒶蒀
蔦⿱艹兼蒸蒺⿱艹艳⿱艹弱
〔三四四〕⿱艹湟⿱艹豈蒼⿱艹迷⿱艹孫
⿱艹毛⿱艹蒴蓁蒿蓄⿱艹莫
蒦溥蒂
〔三四五〕蔀⿱艹容⿱艹扇⿱艹貢⿱艹翁
蓋蓌⿱艹森蓍蓎⿱艹渦
⿱艹鹹⿱艹軒⿱艹辱⿱艹袁⿱艹倍⿱艹差
〔三四六〕蒸⿱艹募⿱艹羔（十一）蓧
⿱艹脩蓩⿱艹通⿱艹速⿱艹遂蓬
蓭蓮⿱艹從⿱艹徒⿱艹淡⿱艹深
蓱⿱艹淺⿱艹區⿱艹斜
〔三四七〕蓴⿱艹捷⿱艹唯⿱艹摧⿱艹御
蔻蓺蓻⿱艹部⿱艹陪⿱艹異
蔘⿱艹章⿱艹函⿱艹宿⿱艹章⿱艹粟
⿱艹許⿱艹強⿱艹術⿱艹闔⿱艹脯⿱艹淩

⿱艹瓞⿱艹瓞⿱艹票
〔三四八〕⿱艹巷⿱艹蓑⿱艹焯⿱艹淑⿱艹脘
⿱艹款蘼蘿⿱艹設⿱艹商⿱艹商
⿱艹茂⿱艹煮蔓⿱艹萄⿱艹猗
〔三四九〕⿱艹泰⿱艹帶⿱艹盧⿱艹彭蔗
蔘⿱艹膂⿱艹旋⿱艹頃⿱艹尉⿱艹斛
⿱艹紫⿱艹敖⿱艹酥⿱艹婁⿱艹嗇⿱艹族
〔三五〇〕⿱艹終⿱艹蔡⿱艹婆⿱艹蔣⿱艹蓁
⿱艹營⿱艹蔥⿱艹移⿱艹蔦⿱艹彗⿱艹扁
⿱艹閻⿱艹黃⿱艹斬⿱艹蕒⿱艹焉⿱艹積
⿱艹疏⿱艹陰
〔三五一〕⿱艹國⿱艹蕉⿱艹陳⿱艹減⿱艹產
⿱艹膚⿱艹章⿱艹瓠⿱艹裝（十二）⿱艹草
⿱艹濤⿱艹敝⿱艹冀⿱艹傅⿱艹黎⿱艹膚
⿱艹斯⿱艹爲⿱艹皖
〔三五二〕⿱艹酤⿱艹棘⿱艹尋⿱艹婁⿱艹淩
⿱艹當⿱艹揖⿱艹滕⿱艹蒲⿱艹番⿱艹膳
⿱艹登⿱艹然⿱艹毳⿱艹婆⿱艹鼓⿱艹閬
⿱艹殺⿱艹蒿⿱艹濃⿱艹蒿⿱艹提⿱艹臧
⿱艹韋⿱艹葦⿱艹華⿱艹豫⿱艹勞⿱艹琴

蕉
〔三五三〕蕊⿱艹並⿱艹晶⿱艹渝⿱艹壽
⿱艹瑣⿱艹臻⿱艹豬⿱艹隊⿱艹華⿱艹寒
⿱艹閒⿱艹買⿱艹隋⿱艹雲⿱艹報⿱艹猶
⿱艹滇⿱艹戟⿱艹路⿱艹堯⿱艹森⿱艹敦
⿱艹惠⿱艹尊⿱艹幾⿱艹隸⿱艹趨⿱艹侵
〔三五四〕蕜⿱艹絕⿱艹最⿱艹廣⿱艹繁
⿱艹濁⿱艹賁⿱艹擒⿱艹贊⿱艹蕢⿱艹蕢
⿱艹集⿱艹舜⿱艹廚⿱艹𨌲⿱艹雉⿱艹雍
⿱艹須⿱艹粦⿱艹復⿱艹厥⿱艹蕩
〔三五五〕蕁⿱艹無⿱艹董⿱艹款⿱艹絲
⿱艹施⿱艹肅⿱艹蔦⿱艹葉⿱艹漢⿱艹菲
（十三）⿱艹豪⿱艹零⿱艹蘋⿱艹遼⿱艹轉
⿱艹雍⿱艹戟⿱艹棋⿱艹肆
〔三五六〕⿱艹耩⿱艹農⿱艹稀⿱艹雷⿱艹魔
⿱艹溫⿱艹奧⿱艹舊⿱艹敷⿱艹腸⿱艹滴
薄
〔三五七〕⿱艹華⿱艹婷⿱艹發⿱艹疊⿱艹稟
⿱艹微⿱艹會⿱艹薊⿱艹歲⿱艹塘⿱艹資
⿱艹鄉⿱艹亂⿱艹儀⿱艹意⿱艹經⿱艹稜

薑蔓

【三五八】[1]蕎藨薖蔽蓬　蕹[2]薚薛蕳薜蘗　薝[3]薘蕵蕟薠蕍　蕱蕈薢[4]薣蘺薥　薦

【三五九】[1]薨蕎[2]薨蕘薩　薪[3]蕁薍薡蔨蘞　蘯[4]蕣蘷蘵⑭薯　薰

【三六〇】[1]薱蕢薳薨薵　薶[2]蕅薸薹蕼　薺[3]藳藻薻蔯蘏　藈蔡薾薿蘮蘢　[4]薹蕤蔪蔘薪

【三六一】[1]藆藇蓩蘷藉　[3]蘧菁藷藊蔦藋　藟[4]蘯蘤藹藍藼　藘藎

【三六二】[1]藏[2]蔞[3]藪藐薨

薨藕蕺[4]藨⑮蕑　藕蘨蓶藖

【三六三】[1]蘨藇蘽藗藘　藤藪藙蕗蕡蘞　[2]藒藺藺藜蘆藝　[4]藱藼藒藟藾蘑　藢

【三六四】[1]蘢藤藥[3]蘼蘀　藨[4]藩藬

【三六五】[1]藪藫藚藭[2]藰　藹藲藝藪藭⑯　藶蘝藙[3]藕藱藤　藷藸藹藹[4]藺蕃　藻

【三六六】[1]藽蘓藾[2]藻藿　蘀[3]蘆蘂蘞蘊藸　蘇[4]蘄藻藩蘅蘊　蘆

【三六七】[1]蘇[2]蘈蘊蘧蘉　蘊[3]蘋蘿[4]蘗蘸蘙

蘩蕓蔞蕺蕙蘼　藾⑰蘖

【三六八】[1]蘗蘘蘙蘚[2]蘱　蘜蘜蘝蘰蘜蘟　[3]蘠蘡蘿蘢蘵蘆　蘳蘶[4]蘦蘮蘳蘥　蘧蘪蘨

【三六九】[1]蘩蘸蘪蘫蘬　蘭[2]蘮蘷蘆蘶⑱　[3]蘵蘳蘱蘿藂蘹　蘳蘹蘳[4]蘸蘴蘵　蘶蘷蘸蘗蘸蘸　蘼蘿

【三七〇】[1]蘺蘺蘻蘼蘽　蘾蘿蘿[2]蘿蘿蘿　蘹[3]蘺蘿蘿⑳蘿　蘺蘿蘿[4]蘿蘿蘿　蘿蘿蘿蘿蘿

【三七一】[1]蘿蘿蘿

虍部

【三七二】[1]虍虎[3]虒虐[4]虔　虑虒

【三七三】[1]虓虢虔[2]虙⑤　虘隙叡虘虢處　[4]虖

【三七四】[1]虙虝虛[3]虜虤　虖[4]虘虢虢虣　虡虞

【三七五】[1]虞[2]虝號[4]虞虢　虡虞虘

【三七六】⑨[1]虢虣虤虤　虩虦虧[2]虦　虩虧虧虪虩　[3]虧虧虩虩　[4]虪虪虪虪虪　虪虪

【三七七】[1]虪虪虪虪

虫部

【三七八】[1]虫虹虮虯[2]虰　[3]虱虳虴虵虶

虷虸⿰虫寸[4]蚩虹
〔三二七〕[1]虿虵虺虮虻
⿱宀虫 四 蚄[2]蚅蚆蚇
⿱夭虫蚊蚋蚌[3]蚍蚐
蚑⿱夹虫⿰虫止蚓[4]蚔蚕
蚖⿰虫允⿰虫丏蚗
〔三二八〕[1]蚢⿰虫尹蚙蚘蚚
蚛蚜蚝[2]蚞蚟⿰虫丑
⿰虫少蚠蚡蚢蚣[3]蚤
蚥蚦⿰虫不蚧[4]蚨蚩
蚪⿱父虫蚽胥
〔三二九〕 五 [1]蚭蚮蚯⿱召虫
蚰蚱蚲[2]蚳蚴蚵
蚶⿰虫台蚷蚸[3]蚹⿱去虫
蚼⿰虫司⿰虫出[4]⿰虫穴蚾蛆
⿱此虫⿰虫戊蚿蛀蛁
〔三三〇〕[1]⿰虫去⿱至虫⿰虫布⿱召虫⿰虫囟
⿰虫石蛂蛃⿰虫必[2]蛄蛅
⿱癹虫蛆蛇[4]⿰虫尔蛈蛉
蚕蛋

〔三三一〕 六 [1]蛐蛑蛒蛓
蛕⿱发虫蛫[2]⿱皇虫蛙⿱圭虫
⿱次虫⿰虫角蛚蛛蛜⿰虫𠂢
蛝蛞蛟[4]⿰虫匡⿰虫式⿰虫耳
⿰虫劦⿰虫羽⿰虫同
〔三三二〕[1]蛢蛣蚼蛅蛤
蛘蛇蛥⿱羌虫蛦[3]蛧
⿰虫兆蛛蛨蛱⿱臣虫[4]蜇
蛫蛞⿱埶虫蛭
〔三三三〕[1]⿱合虫蚈[illegible] 七 蛵
⿰虫豕⿰虫豙[2]蛷蛸⿱沓虫⿰虫吾
蛹[3]蛺蛻蛼⿰虫希[4]蛾
蛘蜀
〔三三四〕[1]蜂⿰虫定蜃[2]蜄蜅
蜆⿱攸虫[3]蜇蜥蜈⿰虫炭
⿰虫束⿰赤虫⿰虫赤蜉[4]⿰虫吉蜊
蜋蜍
〔三三五〕[1]蜌⿱否虫⿰虫㐬⿰虫兀蜎
[2]蜏⿱望虫蜐蝥蜒蜓
[3]⿰虫彔⿰虫匃蜖 八 蜘蜨

蜙[4]⿱至虫⿰虫空蜛蜜
〔三三六〕[1]⿱其虫蜞⿰虫帚蜻⿰虫坴
蜠蜡[2]⿰虫夜蜢⿰虫尭⿱陟虫
蜇蜥蝥⿰虫夌[3]蜦蜧
⿰虫奇⿰虫疌⿰虫虎⿰虫彔蜩[4]蜪
蜫⿰虫典⿰虫沓⿰虫戔⿱制虫蜬
〔三三七〕[1]蜭⿰虫屈蜮⿱或虫蜯
蜱⿱罟虫[2]蜱[illegible]蜉蜲
蜳⿰虫舍⿰虫長蜴[3]蜵⿰虫官
⿰虫𦐇⿰虫旨蛢蜷蜸[4]蜹
蜺蜻
〔三三八〕[1]蜼蜆蜽蜾⿰虫昌
蜿[2]蝬蝀蝁蝂蝃
⿰虫罔⿰叒虫螂[3]⿰虫風蝨蝲
蝏蝴⿱琴虫⿰虫京⿱琴虫⿰虫虎
九 蝌⿰虫耑[4]⿰虫某蝍蝎
蜳⿰虫要⿰虫冒蝑
〔三三九〕[1]蝒蝍蝓蝫蝕
[2]⿰虫呈蝖蝗蝘⿰虫若蝙
[3]⿰虫幽蝚[illegible]蝛⿰虫員蝝

⿱彖虫[4]⿰虫男⿰虫眉蝬蝟蝠
[illegible][illegible]
〔三四〇〕[1]⿰虫頁蝣蝤蝥[2]⿰虫荼
蝦⿰虫差⿰虫英蝨[3][illegible]蝩
蝪蝫[illegible]蝭[4]蝮蝛
蝯蝰⿱扁虫
〔三四一〕[1]⿰虫禺蝳⿰虫韋⿰虫彔蝙
⿰虫風⿰虫忽蝴[2]⿱發虫蝶螃
⿰虫便⿰虫侯[3]蝸蝀蝹⿱胃虫
[illegible][4]螢蝺⿰虫敫 十 螂
螃螄⿰虫宮
〔三四二〕[1]螅⿰虫貢⿰虫茸螇螈
螉⿰虫系[2]⿰虫幷⿰虫扇⿰虫荼蠊
⿰虫宿⿰虫犀螌融[3]螏⿰虫盍
螐⿰虫臭⿰虫桀⿰虫貴⿱𡨄虫蝹
[4]蟦⿰虫專螓⿰虫業螔⿰虫虎
螝蝑
〔三四三〕[1]⿰虫氣螗螘⿱幾虫蠪
⿰虫高螛⿱登虫[2]螝螞螟
螠蟲螢[3]螣[illegible][illegible]

豎 蜸4 蠹 螢 蝑

十三 蠓 蝠 蠻 蟋 蠍

蟞

〔二九四〕蟰1 蠮 蟒2 蟼 蠬

蟿 螬 蝽3 蠸 蟪 螵

蠹 蠶 蟨 蠲 蟖 螺

蠑4 蟧 蠸 蠢

〔二九五〕蠊1 蟷 蟯 蝂 蠛

蟯 蠡 蟥 蟉 蟹2 蟀

蟦 蠡 蟂 蟟 蟃 蟄

蟗3 蟖 蟆 蟇 蟈 蟉

蠿 蟊4 蟋 蟪 蟧 蟌

蟬 蟪

〔二九六〕十三 蟝1 蟒 蟒 蟓

蟔 蟙 蠵 蟖2 蟗 蟘

蠘 蟚 蟜 蟝 蟺3 蠑

蟞 蟟 蟠 蟡 蟢 蠛4

蟤 蟣 蟥 蟦 蟧

〔二九七〕蠒1 蟨 蟩 蟫 蟬

蝨 蟪 蟜 蟯2 蟀 蟮

蟬3 蟓 蟗 蟓 蟹

蟂4 蟤 蟲 蟪 蟫

蟰 蟱 蟳

〔二九八〕蠕1 蠀 蠁 蟃 蠄 蠅

十四 蠆 蠇 蠈 蠉

蟹3 蠊 蠋 蠌 蠍4 蠎

蠏 蠐 蠑 蠒

〔二九九〕蠓1 蠔 蠕 蠖 蠗

蠘2 蠙 蠚 蠛 蠜

蠝 蠞 蠟3 蠠 蠡 蠢

蠣 蠤 蠥 蠦 蠧 十五

蠨 蠩 蠪 蠫4 蠬 蠭

蠮 蠯 蠰 蠱

〔三〇〇〕蠲1 蠳 蠴 蠵 蠶

蠷 蠸 蠹2 蠺 蠻 蠼

蠽 蠾 蠿3 蠼 蠽

蠾 蠿 蠶4 蠹 蠺

蠵

〔三〇一〕蠹1 蠺 蠻 十六 蠼

蠽 蠾 蠿2 蠵 蠶

蟊3 蠹 蠺 蠿

〔三〇二〕蠲1 蠻 蠼2 蠽 蠾

蠿 蠹 蠺 十七 蠵3

蠶4 蠹 蠺 蠿 蠼

蠽 蠾 蠿 蠵 蠶

〔三〇三〕蠹1 蠺 蠻 蠼 蠽

蠾 蠿 蠵2 蠶 蠹

蠺 蠻3 蠼 蠽 蠾

蠿 蠵 蠶4 蠹

血部

〔三〇三〕血4

〔三〇四〕䘏1 衁 衂 衃 衄

衅2 衆 衇 衈 衉

衊 衋 衊3 衍 衎

衏 衐 衑 衒 術

衔 衕 衖 衘 衙

衚4 衛 衜 衝 衞

衟 衠 衡 衢

行部

〔三〇五〕行1

〔三〇六〕衍1 衎2 衏3 衐 衑

衒 衕

〔三〇七〕衖1 街2 衙 衚 衛

衜3 衝 衞 衟

衠4 衡

〔三〇八〕衢1 衣3 衤 衦

衧 衩 衪

衣部（衤）

〔三〇八〕衣4

〔三〇九〕衦3 卒4 衩 衪 衫

衭 表

〔三一〇〕衩2 衪 衫 衭 衯

衰3 衱 衲 四 衳 衴

衵4 衶 衷 衸

〔三一一〕衹1 衺2 衻 衼 衽

衾 衿 衹3 袀

衹 袂 袃 袄 袅

〔三一三〕衾1 衿 衹2 袁 袂

六畫 衣

袈袂袴袤袁衷
【五】袈袉袋裄袷
袋袠袍
〔三三〕袦袛袧袪袐
䙝䘮袑袒袓袜
袞袔䘳䘥袖袗
袘袙袚衹
〔三四〕袜䘴袘袧袠
袟袠䘤䘧袢袥
袣袤袪袧袨
袪袁袌被
〔三三〕袠衰【六】袱䘵
䘺袼袴䘳䘿袼
䘩䘸袾袿䘽袷
䘾袺䘹䘵裘袹
袺裸
〔三六〕裀裁袧裂裥
䘪𧙕裂裒䘲裏
䙄裍袋裓【七】裊
裎䙁裌䘼䘻䘽

〔三七〕裎𧚔䘯䘴裏
裡䘷裉裒裓䘳
䘯裖裔裕
〔三八〕䘾䙀𧛡䘻裘
裙裝䙉補
裝
〔三九〕䘾裞裟裠䘵
裹䙇【八】裦䘹裧
裦裩䙔䙖裿
䙐裬䘶䙑裛裯
裰䘿䙐
〔三二〕䘸裲裳䘹䙘
裂裵䙍裶䙎裷
䙅䘼䙈裻裸裺
裹䙊䙂䘽䘴裼
製
〔三二〕裞裿裷裾䙖
䙅䙅䘨䙎褢
䘺䙖【九】䙀䙒䙛
䙃複䙌褈褊

〔三三〕褸䙈䙏褵䙊褵
䙒䙆褌褍䙊褎
褏䙅䙔䙍褑褑
䙗䙘褐䙂褌
褖䙗䙏
〔三三〕䙅䙈褷䙛褳褗
褒䙇【十】䙛䙎䙒
褟䙋褥褲褍褧
褫褦褵褪褥䙡
褣䙖䙕褫䙗
〔三四〕䙔褥䙟䙔褧
褰䙛褫褵褳䙕
䙦褰䙝䙓褸䙞
褻褱䙥【十一】褵褶
褞褼
〔三五〕褶褷褼䙥褸䙗
䙧䙞䙙襀䙛襇
襅䙛褶䙚襅褌
襥䙞襌褼襆䙢

襋襄
〔三六〕襂褸䙟襈襘
【十二】襆襈襓襋襛
襍襉䙦襘襛
襆襆襊襡襗襘
襍襎襪䙩襫
襐䙪襀襘襘
襄襀
〔三七〕襒襓䙤襯襲
襡襦襲【十三】襩襖
襗䙳襘襖襋
襚襐襊䙰襝襝
襏襞襩襟嬴
〔三八〕襢襠襡襢襝
䙯襒䙬䙭襪襫
襖襬襤襛襦襦
襾襼襼襸【十五】
襭襥襦襦襽
襩襬
〔三九〕襭襭襺襱襶

〔三三〇〕[1]訰許[2]許詐詽
訩訜訨訷訮訾
設[3](五)訴[4]詗訶詉
評詘訷詠訹詥
〔三三一〕[1]診詅註証詝
訾[2]詉[3]詀詁詍詑
[4]詽該詄詄詅詎
詆
〔三三二〕[1]詆訣訳[2]詈詉
詳[3]誠誇說詌詍
詎詏詶詑訑[4]詐
詒
〔三三三〕[1]訹詓詔[2]詾詸
訦評[3]詖詑詞[4]詘
〔三三四〕[1]詨詛詚設詝
詔詞[2]設(六)詠[3]詡
詢詵[4]詣詥詶試
〔三三五〕[1]詓詍詎詎誑
[2]詨詇詛詧詨詩
[3]詪詸詭詫詼[4]詬

詭
〔三三六〕[1]詸詮詯誓詷
誄[2]詃詰話[3]該[4]詳
詴詵
〔三三七〕[1]誓誎詶詷詤
詥誅詝詹[2]詯詺
詽詻[3]詠詾詿誀
誁誃[4]誂誆誄誅
〔三三八〕[1]誇誷詬[2]誐詣
(七)誋誌認[3]誑誖
誗誗誎誏誐誑
[4]䛠䛕誒誓
〔三三九〕[1]誔誕[2]誺誖誗
訓[3]譖誁誘誙[4]詐
誸誘誚
〔三四〇〕[1]設誜語[3]誤誇
[4]誢誁誡
〔三四一〕[1]誡誤[2]誣誽詗
誥[3]誒䛅[4]誧誦
〔三四二〕[1]誨[2]語說[4]誇誴

誫
〔三四三〕[1]訴誫詗(八)誑
誇誰諳[2]課誳[3]誺
詢諒誚請誼誶
[4]誷誸諄誶誹誺
〔三四四〕[1]諮誻說誳誾
調[3]諀諁諗諂
[4]諨諄
〔三四五〕[1]諃誗誓詆諆
諳謍諍[2]諕談[3]請
諈諉諛[4]諊諑請
諫諍
〔三四六〕[1]諎諦諏[2]諐諑
諃諒諔諓[3]諕論
〔三四七〕[1]諁諘䛿誜諗
[2]誙諕諟諳諁(九)
諂諛[3]諴護諜諛
[4]諻諧諝諞諟諗
諠謚
〔三四八〕[1]諢誜諤諣諑

[2]諥諍諦諨諧[3]諫
[4]謎諄諫諮諯諭
〔三四九〕[1]諰諻諲[2]諱諳
[3]諴諵諶諤䜃[4]諹
諷諸
〔三五〇〕[1]諺諪諻[2]諼諡
諽諾[3]諿䛿謀
〔三五一〕[1]諑諟諤[2]謂諄
諗諰謌諱(十)[3]謄
謅謎諞諠諯誺
[4]謚謇謈謉謊
〔三五二〕[1]謋謌諃謍謎
謏謶[2]謐諸諸謑
[3]謕謖謓謔謼謕
[4]謖謞謅謗
〔三五三〕[1]謨謣謙[2]謚講
謜[3]謝[4]謖謉謞謟
謠
〔三五四〕[1]謠謬謪謗謳
謷謬謳謼[2]謫(十一)

豰豷豯豰豁貘
豱豳豲䝗
〔三四三〕䝊豴豵貗䝏
䝙䝐豮豶䝬豷
䝢䝛䝚䝧䝝䝜
䝤貛䝥

豸部

〔三四三〕豸䝰䝱豹豺
〔三四四〕豻貀豼䝵䝙
䝷豣䝹豿䝺䝻
豾䝼䝽䝾貀貁
貂貊貄〔六〕䞂䝿
貉貓貄貅貅貆
貅貇貈貉
〔三五三〕貊貌貍貎貏貌
貍貎貏貄貌貐
貅貆貏貓貑貒
〔三五六〕貒貇貇貐貓
貑貕〔十〕貘貕貗
貕貖貗貘貙貚

貜貘貙貚貚貛
貕貜貑貝貞䝦
貚貛貜貙貛

貝部

〔三五六〕貝
〔三五七〕貞負負負
貢財貢貣貤貥
〔三五八〕貦貦貨貧貨
販貪貫責
〔三五九〕貲貪〔五〕貯貰
貶貱貲貳貴貵
貼貶
〔四〇〇〕買貸貹貺貹
貶貽賁貼貾
貽
〔四〇一〕賍貿賀貹賀
貤賁賂賄賅賃
〔四〇二〕賄賅資賉賈
賅資賉賊賊
〔四〇三〕賑賓賚貸〔七〕

賄賊賌賍賑
賠賜賝賞賟賨
賣賦
〔四〇四〕賧賀賤賞賥
賏賠賍賿賮賩
賢
〔四〇五〕賣賣賓賤賦
賥賙賧賨賩
〔四〇六〕賬賤〔九〕賭賰
賭賰賱賲賳賴
賰賴
〔四〇七〕賵賱賲賳賴
賴賵賶賷賸賹
賁贇贈贉賸
賻贄購賾賽
〔四〇八〕賾贀贁贂贃
贂贅贆贇贈贉
贊贄贌〔十二〕贍
贍贎贏贐贑贒

贊贈賺贓
〔四〇九〕贕贖贗贘贙
贖贚贏贐贑
贗贘贓
〔四一〇〕贔贕贖贗贘
贙贚贛贜贝
贛

赤部

〔四一〇〕赤赥赦赧赨
赦赧赨赩
〔四一一〕赩赪赫赬赭
赫赬赭赮赯
赯赲赳赴赵赶赹
赺赻

走部

〔四一一〕走
〔四一二〕赳赵赴赶起
赶赶赸赹赺起
〔四一三〕赻赼赽赾赿
趁趀趁趂趃趄

七畫 走

[2]𧺆趜赼𧺒赽𧺈
赾赶[3]𧺊(五)趉趚
𧺺趁𧻂[4]趃𧻃趇
𧻀𧺳𧺯𧻁𧺿𧻅
𧺶
〔四二四〕[1]趄超𧻑赿𧺬
赸[2]𧺼𧻄䞠𧻆𧺨
𧺳[3]𧺮越[4]趄𧺨
〔四二五〕[1]趌趷𧻍䞣𧻊
𧻟𧻐趍趎[2]趏𧻌
趚𧻈趐越趑𧻃
[3]𧻏𧻓趒𧻒𧻖𧻕
趓趔𧻜(七)[4]趕趖
𧻔䞪趗𧻝𧻞趘
𧻘𧼃
〔四二六〕[1]𧻨䞭𧻪𧻲𧻬
𧻫𧻗䞯𧻭𧻯[2]𧻮
趙𧻰趚𧻯𧻰𧻲
趜[3]𧼄𧼅𧼂𧼆𧼇
趞𧼍[4]𧼀𧼋䞤𧼌

趣
〔四二七〕[1]趡𧼏𧼑𧼓𧼔
𧼕䞨𧼒趢𧼗[3]𧼘
𧼙𧼸[4]𧼚(九)𧼴𧼵
𧼲𧼹𧼺𧼶𧽖𧽗
〔四二八〕[1]𧽀趥𧽁𧽂趧
𧽃𧽄𧽆𧽇[2]𧽈𧽉
𧽘𧽊𧽌𧽍𧽎𧽏
𧽐𧽑𧽒[3]䞷𧾉𧽓
𧽝[4]趨𧽞𧽠𧽡𧽢
䞲𧽣𧽤
〔四二九〕[1]𧾔𧾕𧾖𧾗𧾘
𧾙𧾚𧾛𧾜𧾝[2]𧾞
𧾩𧾟(十)𧾠𧾡𧾢
𧾣𧾥𧾦[3]𧾧𧾤𧾨
趪𧾸趫[4]𧾪𧾫趬
𧾬𧾭𧾮𧾯𧾰𧾱
𧿁
〔四三〇〕[1]𧿂䟊𧿃𧿄𧿅
𧿆𧿇𧿈𧿉𧿊[2]𧿋

趯(十五)𧿌𧿍趲𧿎
𧿏𧿐𧿑[3]𧿒𧿓𧿔
𧿕𧿖𧿗𧿘𧿙[4]𧿚
𧿛趲𧿜𧿝

足部

〔四三〇〕[4]足
〔四三一〕[2]𧿒[3]𧿘𧿛趵𧿐
𧿕[4]𧿗𧿚𧿟𧿴𧿝
趹趆趺
〔四三二〕[1]䟑𧿳𧿲𧿦䟘
趼[2]𧿩𧿮𧿸𧿶𧿰
趾[3]𧿨𧿷𧿵𧿹𧿺
𧿲䟫[4]跂
〔四三三〕[1]𨀁䟕(五)跅𨀤
跆𨀂跇䟡[2]𨀊跈
跊䟆𨀍跸跉[3]𨀆
𨀀跊跋跁𨀋𨀌
[4]跌跕跎䟢𨀕
〔四三四〕[1]𨀖跍跏𨀜跐
跑跒[2]踇跓跔跕

跩跖[3]𨁊𨀗䟾跗
跘跙[4]𨀤跚跛
〔四三五〕[1]跜距[2]𨀚𨀊(六)
跟跠跡[3]𨀛跢跣
[4]跤跥䠹跦跧𨀈
〔四三六〕[1]跨𨀜[2]跍𨀔跦
𨀣𨀟𨀠𨀡𨀢跩
跪[3]𨀥跫跬跭跮
[4]跧路
〔四三七〕[3]𨁋跰䟶[4]䟕跱
䟟𨀷跲跳
〔四三八〕[1]𨀺𨀻𨀼𨀽𨀛
䠛(七)跼[2]𨁢𨁣𨁤
𨁥𨁦䠦𨁧踁𨁨
[3]𨁄𨁂𨁎𨁩踃䠴
䟵𨁪踄[4]𨁡𨁫𨁬
跨踆𨁒
〔四三九〕[1]𨁭𨁮踇𨁉𨁑
䟼䟰𨁯[2]踉𨁏踊
[3]𨁰𨁱𨁿𨀕(八)𨂂

走
足
足

七畫　車

【一四二五】2車
【一四二六】1軋2𨊠𨊧軌3𨋐
軍
【一四二七】1軔軎軏軓𨊰
軑2軒3𨊻軓𨊼軡
4軖𨋀𨋁軘軗軚
軛𨋂軜
【一四二八】1軝軞軟軥軞
軠軡𨋝軮軥
2軦軧軩3𨌌𨋿軪
軫4軬軭軭軮
軯
【一四二九】1輋輋輆𨌯軲
軳軶輊𨋰𨋱軳
輔2𨋼𨋽軸輅輎
軸3輘軹軺4軸軻
軼
【一四三〇】1軾輧2輌輂
輂衛輥輢輣輦
輚3輥輫輬輅4輆

【一四三一】1輀輁輂輋3輌
輕輂輅輆4輇輈
輐輑輒輓
【一四三二】1輔輕輖輗2輘輙
輚輛輜八3輞輟4輠
輡輢輣輤輥
輦
【一四三三】1輩輪輬輭輮輯
輝2輰輱輲輳輴
輵3輶輷輸輹輺
輻輼4輽輾輿
【一四三四】1轀轁轂轃2轄
4轅轆轇轈轉九
轊
【一四三五】1轋轌轍轎轏
轐轑轒2轓轔轕
轖轗轘3轙轚轛
轜轝4轞轟轠
轡

【一四三六】1轢轣轤轥十
轥2轄轅轆轇
輿3轎轏轐4轑轒
轓轔
【一四三七】1轕轖轗轘2轙
轚轛轜轝3轞
轟轠轡轢轣
轤
【一四三八】1轥车轧十二轨
轩2轪轫转轭
轮软轰4轱轲
轳轴轵轶
轷
【一四三九】1轸轹轺轻
轼载轾轿辀2辁辂
较辄辅辆辇十五3辈
辉辊辋辌4辍
辎辏辐辑
【一四四〇】1辒输辔辕
辖辗辘辙辚

七畫　辛辰辵⻌

辛部

【一四四〇】2辛辜3辝辞
4辟
【一四四一】2皋辝辡辣辤
辥辦3辧辨4辩
辨辩辪辫
【一四四二】1辨辭3辮辯辬辮
4辯

辰部

【一四四三】2辰辱4農晨䢅
䢆
【一四四四】1䢅辳

辵部（⻌）

【一四四四】1辵边辺2迂
迁迂3迃迄
迅4迆迉迊迋
迌
【一四四五】1迍迎迏迡
迒迓2运迕迖4迗
迠迡迢迣迤

七畫 辵

〔四六六〕（五）迣𨒅𨑳迠
迡迟𨑢迢迣迤
迥𨑦迺迦迧迨
𨑨迩𨑩迪迫迭
迮述
〔四六七〕迱迴迎迵迶
𨒔𨒂迷𨒪迸迹
迺𨒫
〔四六八〕迺逕迻𨒮迨
追迾迿退𨓈送
〔四六九〕逮适逃逄逅
逆逈（七）退逋逌
〔四七〇〕逍逷透逐逑
逗途逕逐𨔽逗
逘這逦通
〔四七一〕逛逜逝逞速
造
〔四七二〕逡逢連逤逪
週逨逩逯遣
〔四七三〕逫逬逭逮遊
逕遄逮週遈御
進逕逳逴
〔四七四〕逵逶逷逸（九）
逼遀逾逿遌遉
遁
〔四七五〕遂遃遂遀遊
遄遅遇遈
〔四七六〕遉遊遌運遷
遍過
〔四七七〕遏遐遑遒遒
遐道
〔四七八〕達
〔四七九〕違遏遝遘遚
遙
〔四八〇〕遛遛遜遙遲
遝遞遟遠
〔四八一〕遡遢遣遥遙
遜（十一）遭遺遨遼
遣適
〔四八二〕遪遬遬遭遭

辵 邑 阝

遶遺遮遭遳遮
遯遮遱遲遳
遮進遳遴
〔四八三〕遵遷遶遷遹
選還遹遺
〔四八四〕遴還遼遽（十三）
遽邃避澮邂邅
遶邀邁
〔四八五〕邀邁邂邃還
邅邇邆邈邇邈
〔四八六〕邋邃邂邉邊
邐邏邌邍邐
邏邏邁邏邐
邐

邑部(阝)

〔四八七〕邑邒邔邕邗
邘邛邛邦邠
郊邡邢那
〔四八八〕邦邡邨邦
祁邮邪扈（五）邯

邑

部挪邲邳邴
〔四八九〕邵邶邸邽巷
邾邿郁郃郄郄
郅郇郝郈邢郊
〔四九〇〕郯郕郗郖都
郿郜郚郛郝郝
郎郟郠郡郢郭
郜
〔四九二〕（八）郲郶部郪
郲郫郭郯郰郱
郴郳郴郵郾郺
郭都
〔四九三〕郾郿都鄂鄃
郵郶郸郷鄈鄉
鄅郹鄂鄐鄑
鄉鄉
〔四九四〕鄍鄎鄏鄐鄘
鄐鄑鄒鄝鄞
鄟鄪鄠
〔四九四〕鄔鄔鄗鄖（十二）

七畫　邑酉

鉀鉯3鉁鉠鉃鉄
鉅4鉆鉇鉈鉉
【五三五】1鉊鉋鉧鉌鉍
2鉎鉏鉐鉑3鉒鉓
鉔鉕鉖鉮鉗4鉘
鉙鉚鉛鉜鉝鉞
【五三六】1鉟鈌鉡鉢2鉣
鉤4鉥
【五三七】1鉖鉦鉧鉩⑥
鈲鉵2銂鋷鉷鉸
鉹鉺3鉻鉼鉽鉾
鉿銀4銂銃銅銆
銫
【五三八】1銇銈銉銊鋌
銌銍2銎銏銐銑
銒銓3銄鋘銔銕
銖銗4銘銙銚
【五三九】1銛銜2銝鉯鋗
銡⑦銙銲4銳銴
銌鋠鈔

【五三〇】1銶銷鋘銹鋈
2銼銽錸銿鋀鋁
鋂鋃鋖鋅3鋅鋛
鋈鋇鋈鋉鋊鋋
4鋌鋍鋎鋏
【五三一】1鋐鋛鋈鋑鋒
2鋓鉹鋔鋄鋕鋖
3鋗鋘鋙鋚4鋜鋝
鋞鋟鋠鋡
【五三二】1鋣鋤鋾鋻鋥
2鋦鋧鋩3鋪鍥鍐
⑧鋷鋸4鋹鋺鋻
鋼鋽鋾錡
【五三三】1錀錁錂鍛錖
鋈3錄錑錆錆
4錇錈錉鍩錊錋
錌錍鍚錎
【五三四】1錠錎2錐錛錒
錔錕鉼鎜3錗錘
4錙錚錛鍃錝錞

錟
【五三五】1錠錡2錎4錢錍
錌
【五三六】1錣錤鍣2錦錧
3錨鉷4鍚鍥鍊錭
錮錯
【五三七】2鍟⑨鍇鍈鍉
3鍊4鍋鍪鍈鍍鍎
鏂鍏鎪鍑
【五三八】1鍒鍐鍓鍔鍖
2鍗鍘鐩3錫鍛鍜
鍝鍞鍟鍠鍡鍢
4鍩鍤鍥鍦
【五三九】1鍧鍨鍺鍪鐁
2鏊鍬鍭錄鍯錆
鍰鍱鍲鑒鍴鍵
3鍶鐽鍸鍹鍡鍺
4鍷鍋鍼鎥鏧鍾
【五四〇】1鎦鏒鎯⑩鎈
2鎉鎊鎋鎌鎍鎏

3鎏鎝鎐鎑鎒鎓
4鎤鎳鎔鎐鎕鎟
鎖
【五四一】1鎗2鎬鎞鎈鎙
3鎝鎚鎤鍺鎛鎝
4鎞鎵鎥鏤鏚鏗
鎡鎢鎣
【五四二】1鎃鏃鏨鎦鎧
2鏶鏙鎩鏳鎫鎬
3鏕4鎮鎮
【五四三】1鄉鎰鐒鎊⑪
鏑鏁鏂2鏮鏻鐃
鏄鏅3鏆鏇鏈鏉
鏊4鏋鏌鏍鏎鏏
鏐鏑鏆鏒
【五四四】1鏸鍄鏓鍽鑌
鏖2鏗鏻鑵鍼鏦
3鏜鏝鏞鏠鏠鏡
4鏢鏇鏣
【五四五】1鏤鏥鏦2鎜鐁

闕闓闐闒闍闖
闚
〔一五二六〕闥闞闟雋闋
(十)闢闞闚闛闠
闘闠闟闖闓
闚
〔一五二七〕闥闠闞闡闟
闤闠闡闚闠闟
闔闢闓闔闟
闚
〔一五二八〕闤闥闡闢(十四)
闥闤闡闢闠
闟闢

阜 部 (阝)

〔一五二八〕阜阝阡阢防
阣阤阦阮阭阯
〔一五二九〕阪阰阱阨阫阬
阱阪阸阹阬阮
阹阮阯阸阱阴
防

〔一五三〇〕阹阳阴(五)陏
阹阷阸阭阹阺
阻阼阽阾阿
〔一五三一〕陀陁阬陂附
陏陊陋
〔一五三二〕陌陆陉降陎
陎陈陥限
〔一五三三〕陏陑陒陓陔陕
陔陖陕除(七)陖
陗陘陙陚陛陜
陛陞陝陝陟陟
陘
〔一五三四〕陠陡陣陡院陣
陦除陥陋陥陦
陪
〔一五三五〕陫陰陘陬陭
陮陯陰陰陰
〔一五三六〕陲陳陴陲陶陰
陳陳陵陴陵陶
〔一五三七〕陸陷陸陹陼

(九)陻陼陽
〔一五三八〕陾隀隁隂隃隄
隅隂隔隗隃隇
隄隊隅隈隆隇
〔一五三九〕隈隍隊隋隋
隍階隓隕隗
隑
〔一五四〇〕隒隓隔隔隕隖
隗隘隘隙
〔一五四一〕隙隟隥(十一)隦
隩隯隲隳隳
隮隯隭隢隧
〔一五四二〕隣隖隬隤
隥隦隧隩隮隭
隱隮隫隮隬
隯隰隱隲隳
隴隵隶隳隳
〔一五四三〕隩隟險隫隮
(十四)隭隮隮隯隯

隰
〔一五四四〕隱隳隲隮隳
隴隵隶隴隳
隱

隶 部

〔一五四四〕隶
〔一五四五〕隸隷隸隸隸
隸

隹 部

〔一五四五〕隹隺隻隼隽
隿雀隼雁雂雃
雀
〔一五四六〕雃雄雁雅雂
雅雄集雄雄
雄雅集
〔一五四七〕雎雇(五)雉翟
雊雒雓雔雕
雖雕雕雖雖
雝雞
〔一五四八〕雘雙雚翟雛

䧸雉翟䧿雜雜
鵃䧲雒雃雊瞿
雅雂雃雂雂雕
維雜雄雊(八)雓
雗雜雃雜雛雖
雟雋離雚魋雝
翟雘雕雔雡雞
雞鶿雞

【一五七九】雙翟難雖雖
雒韓臒雙髀雒
雚雛雜雝

【一五八〇】雞雋雙(十)雚
雞雠離雝
【一五八一】難雚雞歡難
雚雝雜瞿雜
雞雋鷺雞瞿雞
雧雠雧

雨部

【一五八二】雨
【一五八三】雩雯雪雰雲

雩雩雩電雯
雹雭
【一五八三】零雯雱霁雱
雲雳雰零雹
零雷
【一五八四】雸雯雹霁雾
雹霅電雹(六)霂
雪雰雾霄雳雹
霧雩雽霄霈
需雸雷
【一五八五】霂雩霃霞霙
霓霄霆霁霄
雪霌霆霆震霈
【一五八六】霉霞雯(八)霑
電霉霎霈霖霆
霤霍霜霪霁
霏霈霃霃霑
黔霓
【一五八七】霆霑霖霑霃
霸(九)霮霂霆霰

霛霙霭霭霬霭
霬霧霜霤霞
【一五八八】霥霧霪霏霤
霦霹霺霻霪
雳霣霣霟霤
霮霧霧霻(十)
霿霿霧霺霏
【一五八九】霏霆霆霰霖
霐霸霹霶霹
霙霣霫霁霵
霻霹霣霫霵
霰霰霧霳霔
霱露

【一五九〇】霳霵霰霜霵
霜(十)霰霰霸霰
霻霹霼霾霿
霾霾霾霿霿
霯

【一五九一】霰霱霰霰霸
霸霾霯霾霾霿

靄靈靄靄(十)
靆靂靃靄靄
靉靉靉靉靉
【一五九二】靆靇靈靊靋
靉靈靈靈
【一五九三】靈靉靈靈靈

青部

【一五九三】青彭晴靖靘
靗艳靚凝靛
【一五九四】靜靚靝靛靜
靠

非部

【一五九四】非奍靟靠啡
【一五九五】靡靟斐輩輩
啚靟靠靠靠
靠靡靟

面部

【一五九五】面
【一五九六】靣靤靦靧靨
靦靧靨靨靨

⿰面未靤⿰面乍⿰面占⿰面舌⿰面并
〔五九七〕1⿰面旨⿰面每⿰面巠⿰面忍⿰面含
⿰面足⿰面夋⿰面甫靦2⿰面免⿰面官
⿰面宛⿰面宜⿰面周⿰面奄⿱畺面⿰面面
⿰面音3⿱臨面⿰面柰⿰面臭⿰面冥⿱斬面
⿰面麻⿰面参⿱要面⿰面單⿱敢面⿰面焦
4⿰面尞⿰爭面靧⿰面然⿰面亶⿱漸面
靨
〔五九八〕1⿰面蔑⿰面韱⿰面羅⿰面靡

革部

〔五九八〕1革2靪靫靬3靭
⿰革乞⿰革丸靮靯⿰革于4⿰革亏
靲⿰革介⿰革欠⿰革丏靳靴
〔五九九〕1⿰革勾靵⿰革尹靶靷
⿰革殳⿰革厷2⿰革丰⿰革支⿰革毛⿰革比
靸⿰革卬⿰革氐⿰革少【五】3⿰革玄
⿰革氏⿰革巨⿰革尼⿰革它⿰革也靺
靻⿰革申⿰革丑⿰革必4靽⿰革由
⿰革弗靾靿鞀
〔六〇〇〕1⿰革甲⿰革瓜⿰革占⿰革句鞁

⿰革白鞉⿰革禾鞃鞄2⿰革令
⿰革外⿰革夬⿱白革3⿰革耳⿰革羊⿰革臾
⿰革夸⿰革交⿰革印⿰革并鞇⿰革夷
⿰革同4鞈鞉⿰革伏⿰革各鞊
⿰革色⿰革朵鞋
〔六〇一〕1鞌鞍⿰革旨鞎⿰革至
鞏2⿰革帛【七】⿰革夆鞓⿰革廷
⿰革夾⿰革豆鞔⿰革折⿰革余3鞕
⿰革見⿰革延⿰革甫⿰革兌⿰革沙⿰革妥
⿰革束⿰革坒鞗4鞘鞙⿱夆革
⿰革言⿰革昔⿰革走
〔六〇二〕1鞚⿰革長⿰革叕⿰革宛⿰革非
⿰革匋⿰革官2⿰革取⿰革忝⿰革兩⿱臤革
⿰革冏⿰革甾⿰革或⿰革奄⿰革奉⿰革戔
⿰革易3⿰革音⿰革奇鞜⿰革桃鞝
⿰革屈⿰革念⿰革畀⿰革夌⿰革奈4⿰革朋
⿰革享鞠【九】鞢
〔六〇三〕1⿰革复⿰革面⿰革亟⿰革咠鞣
⿰革室⿱封革2⿰革宣⿰革帝⿰革胃⿰革段
⿰革叚⿰革皆⿰革畐⿰革致⿰革京鞦

3⿰革酉⿰革咼⿰革芘⿰革兪⿰革度⿰革削
4鞪⿰革昜⿰革匐⿰革兔⿰革爰⿰革封
〔六〇四〕1鞬⿰革胡⿰革叟⿰革耎2⿰革糾
⿰革軍鞮鞰⿰革豈⿰革鬼鞱
⿰革芻3⿰革叟⿰革負⿰革昜⿰革桼鞲
⿰革旁⿰革泰⿰革茸鞳⿰革扇4⿱殸革
⿰革邑⿰革員⿰革盍⿰革萠⿰革䍃鞵
⿰革翁⿰革尃
〔六〇五〕1鞶⿰革累⿰革冤【十一】⿰革徙
⿰革畢鞹2⿰革莫⿰革庸⿰革崔鞺
⿰革責⿰革逢⿰革虒⿰革章⿰革區⿰革燕
⿰革焉3⿰革票⿰革參鞻⿰革徙⿰革賁
鞼⿰革買4⿰革意⿰革業⿰革需⿰革棘
⿰革童鞽⿰革舄鞾
〔六〇六〕1⿰革敫⿰革爲鞿⿰革雍⿰革匔
⿰革亶2⿰革意⿰革蕩⿰革鳥韁⿰革葡
韂⿰革蜀⿰革嗇3⿰革豐韃⿰革遂
⿰革葛⿰革睪⿰革解【十四】⿰革需⿰革爾
⿰革豪⿰革匱⿰革遺⿰革僕4韄韅
⿰革翟韆⿰革爾韇⿰革韱韈

〔六〇七〕1⿰革甸⿰革憲⿰革龍⿰革遺韀
⿰革薄⿰革蹇2⿰革毚⿰革闌⿰革巂韉
⿰革贊⿰革麗⿰革蘭⿰革顯3⿰革蘗⿰革襲

韋部

〔六〇七〕3韋韌⿰韋犬⿰韋內4⿰韋支
⿰韋殳⿰韋及⿰韋必⿰韋包⿰韋戉⿰韋斤
⿰韋它
〔六〇八〕1韍⿰韋弗⿰韋丕⿰韋主韎
⿰韋占⿰韋艮⿰韋戔2⿰韋交韏⿰韋伏
⿰韋亘韐【七】⿰韋束⿰韋甫⿰韋肖
3⿰韋夾⿰韋卷⿰韋或⿰韋宛⿰韋非⿰韋陀
⿰韋𦏲韓⿰韋長⿰韋沓⿰韋奄⿰韋复
4⿰韋爰⿰韋宣⿰韋柔⿰韋段⿰韋竟⿰韋軍
⿰韋枼韙⿰韋是
〔六〇九〕1⿱亶韋⿰韋亟⿰韋盾⿰韋專⿰韋隶
⿰韋鬼⿰韋韋⿰韋易⿰韋莆⿰韋荅2⿱害韋
⿰韋舀韝韞3⿰韋葡【十二】⿰韋雀
⿰韋巢韠⿰韋尋⿰韋登韥⿰韋番
⿰盧韋4⿰韋皐韡⿰韋惠⿰韋雍⿰韋斂
⿰韋詹

餸饒餾饐饅䭔
䭃饔饁𩟗饕䭙
饄饊饓
〔一六四四〕饜饅餳饆饛
饍饑饌饇饎
饎饘饌饊饛
饊(十二)饊饔饏饕
饋饌饐饌
〔一六四五〕饜饋饍饎饕
饚饎饑饐饒饓
饙饚饠饙饡
饊饑饝饐饈
饋饚饓饞饠
〔一六四六〕饛饗饟饘饚
饋饎饛(十四)饜饖
饟饝饛饝饞
饜饟饛饚饟
饜饢饘饚饟
饞饟饞
〔一六四七〕饢饡饠饡饢

首部

〔一六四七〕首䭫馗馘䭯
馘
〔一六四八〕䭱䭲䭳䭴

香部

〔一六四八〕香馚馛馜馝
馞馡馢馣馤
馥馦馧馨
〔一六四九〕馝馞馟馠馡
馢馣馤馥馦
馧馨馩馪馫

馬部

〔一六四九〕馬
〔一六五〇〕馮馭馯馰馱
馮馱馲馳馴馵
馴馶馷
〔一六五一〕馴馵馶(四)馶
駕駃駄駅駆駇
駈駉駊駋駌駍
駎駏駐駑駒

〔一六五二〕駝駞駟駠駡
駢(五)駣駤駥駦
駧駨駩駪駫
駬駭駮駯駰
駱駲駳駴
〔一六五三〕駵駶駷駸駹
駺駻駼駽駾
駿騀騁騂騃
〔一六五四〕騄騅騆騇(六)
騈騉騊騋騌
騍騎騏騐騑
騒験騔騕騖
騗騘騙騚騛
騜騝騞騟
騠
〔一六五五〕騡騢(七)騣
騤騥騦騧騨
騩騪騫騬騭
騮騯騰騱騲
騳騴騵騶騷

〔一六五六〕騂騃騆騀騉
(八)騐䮝騄騅騲
騇䮙䮔騈䮛
驂驃驄驅驆
驇驈驉驊驋
驌驍驎驏
驐驑驒
〔一六五七〕驓驔驕驖驗
驘(九)驙驚驛驜
驝驞驟驠驡
驢驣驤驥驦
驧驨驩驪
〔一六五八〕驫驲驳驴驵
驶驷驸驹驺
驻驼驽驾驿(十)
骀骁骂骃骄
骅骆骇骈骉
骊骋验骍骎
骏骐骑骒骓
骔骕
〔一六五九〕骖骗骘骙骚
骛骜骝骞骟

鶾騶騂騖騺䯄
驆騸騷
〔一六六〇〕騯騙騹䮶騤
〔十〕騪鷙騞騻䮼
䲜驏䮗騽驚騾
騯驀騋驁驐驂
驃騘驅
〔一六六一〕䮥䮲䮂〔十二〕驕
䮵驏驉驊驋䮻
驌驍騺驪驟驎
𩧆驐䮳驑驓驨
驙䮦驒驓驔驥
䮸驕
〔一六六二〕𨮮驨〔十三〕驁𩨎
鷩驖驗贏驙䮱
驖驚驛驜驞
〔一六六三〕驤䮹鸁驥䯁
驞驟𩨗驝驖
驥騴驃驪〔十六〕驠
驡鸗驢驨驩驁

驝驤驥驦驧䮬
鸁驨
〔一六六四〕䯀驩驩驪驫
驫

骨部

〔一六六四〕骨骫骭骪𩨬
骪骽骬骬
〔一六六五〕骮骬䯊骳骰
骰䯏骯骪骱骰
骰骱〔五〕骸骲髆
骯骶骲骬骳骯
骳骴𩨷骱骵䯌
骻骶骷䯍䯎〔六〕
骺骸
〔一六六六〕䯉骯骬骭骩
骹䯌骺䯐骻骼
䯅〔七〕䯊䯏䯐骾
骷骽骾骯骻䯁
䯌骾骺骷骱骿
䯥髀骑髋

〔一六六七〕隋𩩫髆䯏髃
骍髁䯕骹〔九〕䯧
髃髏骿骼髂骰
骩䯗髃䯢髃髃
骱髆䯨髇䯩䯒
髈髃䯚䯝䯛䯡
髊䯪〔十一〕髍䯯䯞
𩪂
〔一六六八〕䯫䯬髃髎䯭
䯟髏䯣䯤䯭髐
䯥䯰䯬䯱髑䯧
䯨䯩髓䯥䯯髊
髓髀體
〔一六六九〕䯢〔十四〕䯦䯬䯫
髕䯭髓䯮髗髓
髍髖䯼

高部

〔一六六九〕高髚亮
〔一六七〇〕髝髛亭髜臺
豪䯧䯨顥䯩鶮

𩫛䯪䯬䯭䯮䯯
䯰䯱䯲

髟部

〔一六七〇〕髟髮髣髡髠
䯾髱𩬊髴髩
髤鬆
〔一六七一〕髺髲髦髧髢
髮〔五〕髺髫䰀鬖
鬄鬃髶髲髭髮
〔一六七二〕髵鬐髠髯髡
髩鬐鬈鬘髧
鬍鬀鬌鬒鬋
髫髾鬅鬐鬑鬆
鬝髽鬒鬙鬍鬤
鬆鬐
〔一六七三〕〔七〕鬘鬈鬝
鬃鬄鬘髽鬖鬤
鬃髼鬊髿鬀鬙
鬊鬃鬋鬜鬏鬉
鬌鬆鬜鬤鬢鬠

十一畫 魚

鮗鮀(七)鯢鮶⿰魚段
鰍⿰魚巠鮷鮸鮹
〔一六八八〕鮝鮻鯵鮾䱍
⿰魚耴⿰魚析⿰魚系⿰魚邑⿰魚良鯁
鯅⿰魚酉⿰魚延鯆鯇鯈
⿰魚攸鯉⿰魚每鰤鰲鯊
魦⿰魚狂鮁(八)魴⿰魚卓
鰡
〔一六八九〕鯕鯖鯗⿰魚附鯘
⿰魚叔⿰魚昔⿰魚卑鯚⿰魚奈鯛
鯜⿰魚朋⿰魚居⿰魚朮鯝⿰魚悤
鯞鰊⿰魚果⿰魚匊鯠⿰魚府
鯡鯢鯣⿰弜魚鯤鮭
⿰魚爭⿰魚卒⿰魚臽⿰魚咎
〔一六九〇〕鯧鯨鯩鯪鯫
⿱劃魚鱉鯭⿰魚巠鯮(九)
鯶鯷鯸⿰魚耶鯹⿰魚奏
鯺⿰魚胥⿰魚匧⿰魚叟鯽鯾
鯿鰂⿰魚契⿰魚咼鰆鰇
⿰魚亭鰈鰉鰋

〔一六九一〕⿰魚飛⿰魚重鰌鰍鰎
⿰魚帝鰐鰑鰒鮲鰓
鰔鰕鯖鰒⿰魚僉鰗
(十)鰜鱄鰝⿰魚翁鰞
⿰魚郎鱭⿰魚唐⿰魚鬼鰟鰠
鰯鰢鰣鰵鰤⿰魚累
鰦
〔一六九二〕⿰魚叟鰧⿰魚易⿰魚鄉鰩
⿰魚差⿰魚豈⿰魚胥鰪鰫⿰魚脊
⿰魚叟鰭⿰魚展鰅鰮⿱蓑魚
鱉(十一)鰱鰲⿰魚婁鰺
鰳⿱微魚⿰魚匿鰶鰷⿱埶魚
⿰魚滿鰸鰹⿰魚辟⿰魚尉鰺
鰻鰼鰽
〔一六九三〕鰾鰿鱄鰵⿰魚既
⿰魚逐鱂⿰魚羨⿰魚巢鱄鱐
⿰魚敫⿰魚見鱆(十二)鱉鱎
⿰魚虛⿰魚頁⿰魚斯⿰魚脊⿰魚晉⿰魚替
⿰魚巽鱌鱍⿰魚爾鱎鱏
鱅鱑⿰魚爲鱒

魚鳥

〔一六九四〕⿰魚虜⿰魚童⿰魚款鱓鱔
鱕鱖鱗鱤⿰魚粟(十三)
⿰魚賣鱞⿰魚虜⿰魚義⿰魚解鱟
⿰魚農鱠⿰魚戚鱢鱣⿰魚感
⿰魚奥⿰魚僉⿰魚畺⿰魚黽鱧鸁
⿰魚業
〔一六九五〕鱛⿰魚普⿰魚嗇⿰魚聚鱬
⿰魚賓⿰魚壽鱭鱮鱯[illegible]
(十五)⿰魚節⿰魚黎鱳⿰魚截⿰魚織
鱶⿰魚鹿⿰魚雷鱸⿰魚歷⿰魚曹
⿰魚薄⿰魚舊⿰魚雚鱺⿰魚黨鱻

鳥部

〔一六九五〕鳥
〔一六九六〕鳦⿰鳥了⿰卜鳥⿱兒鳥鳧
⿰鳥力鳩⿰乃鳥鳰鳪⿰乂鳥
鳶鳫鳭鳱⿰鳥大⿰土鳥
鳩鳶⿰卩鳥鳿⿰鳥勺鳳
〔一六九七〕鳴⿰凡鳥鳶⿰弋鳥⿰弓鳥
(四)鴟⿰勿鳥鳼⿰臣鳥鳸
⿰鳥丏⿰鳥介鳹鴂⿰殳鳥⿰文鳥

鳥

⿰歹鳥⿱氐鳥鴀⿰弋鳥⿰木鳥⿰予鳥
⿰鳥心鴋⿰夭鳥⿰公鳥⿰王鳥⿰禾鳥
⿰夫鳥⿰夗鳥⿰夫鳥鴃
〔一六九八〕⿰匹鳥⿰尤鳥⿰由鳥⿰几鳥⿰牛鳥
⿰毛鳥鴈⿰母鳥⿰爿鳥⿰牙鳥⿰正鳥
⿰加鳥⿰旂鳥鴦⿱鼻鳥⿰鳥召鴦
鳶(五)⿰至鳥鴡⿰玄鳥鴆
⿰佀鳥鴐⿰生鳥鴒⿰玉鳥⿰㞢鳥
⿰之鳥
〔一六九九〕鴕⿰民鳥⿰石鳥鴛⿰瓜鳥
⿰耒鳥鴗⿰舟鳥鴙⿱秀鳥⿰糸鳥
⿰鳥犮鴝⿰鳥可⿱堯鳥鴽鴜
⿰出鳥⿰鳥只⿰只鳥⿰白鳥⿰旬鳥⿰弓鳥
⿰侯鳥⿰臣鳥⿰呂鳥⿰目鳥⿰冒鳥⿰巛鳥
鴣⿰鳥余
〔一七〇〇〕⿸尸鳥⿰鳥穴鵞⿰冗鳥⿰鳥甲
⿸尸鳥⿰由鳥⿰目鳥(六)鵄⿰鳥多
⿰虫鳥⿰虫鳥⿰臣鳥⿰卓鳥⿸虍鳥⿰臣鳥
鶵⿰瓜鳥⿰呂鳥⿰兄鳥⿰肖鳥⿰鳥戉
⿰呂鳥⿱㕯鳥⿰如鳥⿰徇鳥⿰忄鳥⿰元鳥

黤
〔一七二八〕 黭 黳 䵛 黗 黖
黥 䵗 黔 黦 黦 黣
䵝 黴 黨 黜 【九】
䵭 䵙 䵩 黮 黰
黷 黬
〔一七二九〕 黔 黳 黔 䵟 黜
䵘 䵚 黮 黭 黳 黯
黰 䵌 䵒 黲 䵡 黶
黰 䵓 黲 黲 黸 黳
黷 䵔 黲 䵢 黴 黵
纂
〔一七三〇〕 【十】 黱 黳 䵨 黧 黶
黴 䵩 黠 黵 黷 黵
黷 黲 黵 黳 黵 黶
黷 黲 黰 黶 黵 黧
黷 黵 黲 黶 黸 黶
〔一七三一〕 黶

黹部

〔一七三一〕 黹 黺 黻 黼 黼
黼 黼 黼 黼

黽部

〔一七三一〕 黽 黿 鼀 鼁 鼂
鼃 鼄 鼃 鼅 鼈 鼇
鼇 鼈 鼉 鼈
〔一七三一〕 鼂 鼄 鼅 鼆 鼇
鼊 鼊 鼇 鼈 鼊 鼊
鼈 鼉 鼊 鼈 鼍

鼎部

〔一七三二〕 鼎 鼏 鼐 鼒 鼎 鼎
〔一七三二〕 鼏 鼒 鼑 鼐 鼎

鼓部

〔一七三三〕 鼓 鼔 鼕 鼖 鼗
鼘 鼙 鼚 鼛 鼜 鼛
鼟 鼜 鼞 鼝 鼞 鼛
〔一七三四〕 鼞 鼟 鼜 鼞 鼟
鼟 鼞 鼟 鼛 鼝 鼚
鼛 鼟 鼞 鼜 鼝 鼞
鼟 鼝 鼟 鼛 鼞 鼟

鼠部

〔一七三四〕 鼠
〔一七三五〕 鼢 鼣 鼤 鼥 鼦
鼧 鼨 鼩 鼪 鼫 鼬
鼭 鼮 鼯 鼰 鼱 鼲
鼪 鼳 鼴 鼵 鼶 鼷
鼸 鼹 鼺 鼻 鼼
鼴 鼵 鼶
〔一七三六〕 【八】 鼷 鼸 鼹 鼺
鼲 鼳 鼴 鼵 鼶 鼷
鼸 鼹 鼺 鼶 鼷 鼸
鼹 鼺 鼷 鼸 鼹 鼺
鼷 鼸 鼹 鼺 鼷 鼸
鼹 鼺 鼷

鼻部

〔一七三六〕 鼻 鼼
〔一七三七〕 鼽 鼾 鼿 齀 齁 齂
齃 齄 齅 齆 齇 齈
齉 齊 齋 齌 齍 齎
鼾 【七】 齁 齂

鼻 鼽 鼾 鼿 齀
齁 齂 齃 齄 齅
〔一七三八〕 齆 齇 齈 齉 齈
齉 齊 齊

齊部

〔一七三八〕 齊 齋 齌 齍 齎
〔一七三九〕 齌 齍 齎 齏 齌 齍
齋 齌 齍 齎 齏
齎

齒部

〔一七三九〕 齒
〔一七四〇〕 齓 齔 齕 齖 齗
齘 齙 齚 齛 齜 齝
齞 齟 齠 齡 齢 【五】
齣 齤 齥 齦 齧
〔一七四一〕 齩 齪 齫 齬 齭
齮 齯 齰 齱 齲 齳
齴 齵 齶 齷 齸 齹
齺 齻 齼 齽 齾 齿

索引

終

検字

凡そ亻に从ふ字は、人の部に屬す。
凡そ刂に从ふ字は、刀の部に屬す。
凡そ㔾に从ふ字は、卩の部に屬す。
凡そ尣に从ふ字は、尢の部に屬す。
凡そ兀に从ふ字は尢の部に屬す。
凡そ川に从ふ字は、巛の部に屬す。
凡そ彑に从ふ字は、彐の部に屬す。
凡そ⺕に从ふ字は、彐の部に屬す。
凡そ忄に从ふ字は、心の部に屬す。
凡そ⺗に从ふ字は、心の部に屬す。
凡そ扌に从ふ字は、手の部に屬す。
凡そ攵に从ふ字は、攴の部に屬す。
凡そ旡に从ふ字は、无の部に屬す。
凡そ歺に从ふ字は、歹の部に屬す。
凡そ氵に从ふ字は、水の部に屬す。
凡そ氺に从ふ字は、水の部に屬す。
凡そ灬に从ふ字は、火の部に屬す。

凡そ爫に从ふ字は、爪の部に屬す。
凡そ牜に从ふ字は、牛の部に屬す。
凡そ犭に从ふ字は、犬の部に屬す。
凡そ王に从ふ字は、玉の部に屬す。
凡そ内に从ふ字は、禸の部に屬す。
凡そ罒に从ふ字は、网の部に屬す。
凡そ皿に从ふ字は、网の部に屬す。
凡そ冗に从ふ字は、网の部に屬す。
凡そ罓に从ふ字は、网の部に屬す。
凡そ耂に从ふ字は、老の部に屬す。
凡そ月に从ふ字は、肉の部に屬す。
凡そ艹に从ふ字は、艸の部に屬す。
凡そ西に从ふ字は、襾の部に屬す。
凡そ辶に从ふ字は、辵の部に屬す。
凡そ阝(在右)に从ふ字は、邑の部に屬す。
凡そ镸に从ふ字は、長の部に屬す。
凡そ阝(在左)に从ふ字は、阜の部に屬す。

一畫

一 丨 丶 丿 乙 亅(部首) 乀(部丿)
乙(部乙) 乚(部亅)

二畫

二 亠 人 儿 入 八 冂 冖 冫
几 凵 刀 力 勹 匕 匚 匸 十
卜 卩 厂 厶 又(部首) 丁 七(部一)
丩(部亅) 乂 乃(部丿) 九(部乙) 了(部亅)
二(部二) 凵(部凵) 刁 刂(部刀) 弓(部弓)

三畫

口 囗 土 士 夂 夊 夕 大 女
子 宀 寸 小 尢 尸 屮 山 巛
工 已 巾 干 幺 广 廴 廾 弋
弓 彐 彡 彳(部首) 万 丈 三 上(部一)
下(部一) 个 丫 丮(部亅) 凡 丸(部丶)
久 乇(部丿) 乞 也(部乙) 亍 于(部二)
亡(部亠) 兀(部儿) 亾(部入) 凡(部几) 凢

力部勻勹部叉又部卂千廾十部
卪卭卩部厶厶部平夂部孑孓
子部屮屮部川巛部己巳已部弓
弓部彑彐部才手部少止部歹歹部
卩阜部

四畫

心戈戶手支攴文斗斤
方无日曰月木欠止歹
殳毋比毛氏气水火爪
父爻爿片牙牛犬部首不
丐丏丑一部丮丰丯丨部丹
丶部之丿部予亅部云互五井
二部亢亠部什仄今介人部允
元儿部內仐入部公六兮八部
冄冂部冘冖部凶凵部分刀部匀
勿勹部化乇匕部卅卆升午
十部卄卞卜部卬卩部产厄厂部
厷厶部叉及友叒戏反収
反收又部圠壬土部壬士部夃
夊部天太夫夬夬夭太大部

孔子部尐少小部尢尢部尹尺
尸部屯屮屮部巛巛部巴己部市
帀巾部幻幺部廾廿廾部弖弔
引弓部攵攴部斗斗部旡无部朩
木部毌毋部毛毛部牙牙部王玉部
月肉部

五畫

玉玄瓜瓦甘生用田疋
疒癶白皮皿目矛矢石
示内禾穴立部首且丕世
丗丘丙一部丱丨部主丼丶部
乍乎乏丿部仚仝令以人部
兄充儿部仝入部兯八部冉冊
同冋冂部冬冬冫部凥処凨
凧几部凷凸凹出凵部刉切
刀部功加囚匃力部匄包勹部
北匕部卉半本卋卆十部卟
占卡卜部卮卯卩部〇厺去厶部
叏叐叏𠬝又部古句另叧
叨叩只叫召叴可台史

右叴叵号司口部回四口部
圣土部外夗夘夕部央夯夳
夵失本大部孕子部尒尔小部
屶屰屵山部左巧巨工部巵
㠯巳部市布巾部平平干部幼
务幺部弁廾部弗弓部彡彡部必
心部戉戊戈部戹戶部旡扎手部
斥斤部旦旧日部朮未末本
朮木部正止部歺歺歹部母毋部
民氏部氶氷永水部犮犬部生
生部由甲申田部禾禾部而而部
聿聿部艹艸部

六畫

竹米糸缶网羊羽老而
耒耳聿肉臣自至臼舌
舛舟艮色艸虍虫血行
衣襾部首西丞一部乑丿部亘
亙二部交亥亦亠部企人部兆
兆兇先光儿部全入部共关
八部冊再冎冂部劣劫劧力部

兇部勹乑㕯卌卉卑芉卍
部十支部卜危部卩叓叜叏部又
㕣各合吳吉吊吕同名
后吏向否部口同囟部口在
圭圱部土夅夆部夊夙多部夕
夵夷夸部大攺如部女字存
部子安部宀寺部寸尖示尗部小
尽部尸屰屮部屮巛㟂州巟
部巛帋帇部巾年幵部干弚部弓
归部彐戌戊戍部戈收攷部攴
旨㫐早旬旭旱部日曲曳
曳部曰有部月朱朵束部木次
部欠此部止死部歹汆部水汎灰
灯灸部火牟部牛由部田百部白
辛部立考部老禾部耒肎肓肙
部肉西部襾言言部言

七畫

見角言谷豆豕豸貝赤
走足身車辛辰辵邑酉
釆里部首丣部一乱部乙况部二

亨部亠余部人克兊兎部儿兩
岙合部入兵谷㒵部八初利
部刀努㧺劲助部力㕨㔾部匕
坔华部十卲卣部卜卵卵部卩㕚
部厂叓部又君吝呑否昏吿
含居启呈吳吴呙吾告
吕吾呆呇呈部口囧囱部口
坙坐部土壯声部士夆夆部夊
夋夌部夊奁奄夾夾奅奈
部大妟妝敢妟妥部女孚孛
孜孝孞孝部子寽衬尖
实𡯂部小尨尨尪部尢局部尸
巠㞫巡部巛巫部工巵部巳希
帋希帍部巾㡯部干妙幽部幺
牀部弋弟部弓彔部彐㣃部彡忒
部心戋成我部戈戺戼部戶抎
部手攸改攺攷攻攽攷
夆部攴斛部斗㫗部无旲昇旵
部日㫐更部曰肎部月杲宋杀
朿束朿部木㫳步歪部止叔

㚒部歹每毐毒部毋求求汞
泺部水㳄災灾部火牢部牛
瓧部瓦甫甬部用男甸甹甹
部田皃部白旬矣矦部矢矧
部石秂部禾㝉部立𥸤部米系部糸
罕罕部网芊部羊肙育肖肙
育部肉匝部臣自部自臼部臼良
部艮谷部谷辛部辛镸部長凬部風
麦部麥

八畫

金長門阜隶隹雨靑非
部首並部一弗部丨乖部丿乳部乙
事部亅些亞亟部二享京部亠
來部人兒兓兎兕兓部儿兩
部入其具典部八某冐部冂佟
部冫函部凵糾刪券券部刀劵
刿劵部力匊部勹卓部匕卒卑
卒卓協卌部十卝卤卦卣
部卜卷卺部卩叔叙取受部又
周呰命杏和呆咎部口垄

森侖入部 兼入部 冓冡冔冂部
冢冢冖部 务契剏刀部 匑勹部
卣卜部 叚叟又部 畁哥咯哭
哏唆哲哿唇唐哳㕭啚
坷口部 函口部 垂垩垐土部 夎
夏夊部 夠㚇夕部 套奚奘奄
奚畚大部 孫子部 射尅寸部 党
宲小部 猎島峹峷峎山部 差
工部 紟師席巾部 弱㢧弓部 或
彡部 恥恭𢛷心部 戞戦戈部 拳
拳拿挈挲挲挈挐拲手部
敇敊效敉攴部 敥敚斋文部
料料斗部 旁方部 旡旎旡部 晃
晉晉昝倏昚晏昌日部 書
曰部 朔朕月部 梵栞東栗栽
桀桊桒木部 㱙歹部 毣毦毛部
㡿氏部 泰㵑水部 衮烏烕烖
烝羙火部 爹𤕫父部 㸬牛部 玈
班玉部 瓴瓦部 甫用部 畀畐畜
畝畞畟畢田部 皋白部 冐罛

脊眚眞真眡目部 祟示部 秦
秊禾部 竜立部 粊粜粦米部 紊
原素索紊絫糸部 缹缶部 芨
𦍒羔羕羡羗羊部 耄老部 耎
而部 肁肂聿部 胄脅胷能胥
脅脊肉部 臭自部 舀舁臼部 舀
荊艸部 虎虓虒虔虍部 蚕蚊
臾蚩蚩虫部 衮衷衰袁衷
衰衣部 覓見部 訔訔言部 谸谷部
豈豈豆部 豗豗豕部 貨貝部 軎
車部 邕邑部 酒酉部 釜釡金部 隺
隹部 飛飛部 食食部 首首部

十一畫

魚鳥鹵鹿麥麻部首 亞一部
乾乙部 候人部 兜儿部 兪入部 冕
冕晟菡冂部 冨冖部 減冫部 凰
几部 務力部 匏勹部 匘匙匕部 斟
斟十部 厣厂部 叁参厶部 售商
商問啓啙啚口部 埶執基
堂堂堅堇堊𡊨土部 壼士部

𠬸又部 够夠夠夕部 奘奝奞
奞奢奄執大部 婁婁婪
女部 孰子部 㝏尞小部 就
尢部 㟉崇崛山部 巢巢巛部 巽
巸巷己部 帶常帶巾部 𢆯幺部
庶广部 彗彐部 參彪彡部 悤心部
戚戈部 挈手部 敍教教敏啟
救徼敓敔敕敖敗㪃敍
攴部 斌文部 㪺斛斗部 斬斤部 專
方部 既既旡部 晃昌昪昺畳
晝晟晨晧日部 曼曹曰部 朗
朙崩望月部 桼梁柴條梟
梦梵木部 毫毬毬毛部 羨
殹焉烹火部 翁父部 爽爻部 牽
犀牛部 猆犬部 率玄部 瓠瓜部 甜
甘部 產生部 甬用部 畢田部 皐白部
眷眾目部 䂓矢部 祭票祭示部
离禸部 案栗禾部 竟章立部 窣
菴肅粲米部 羕羞羍羊部 敎
老部 𦒸而部 脣脩肉部 𦤎至部 舂

白部 艆 舟部 虓 䖘 號 虍部 蚩 蚉
虫部 袌 袞 袤 袠 衺 衰
衣部 規 覝 覞 覓 見部 觓 觘 觕
觖 角部 詟 言部 豉 豉 豆部 豙 豚
豥 彖 豕部 赦 赦 赦 赤部 酒 酉部
雇 隹部 晴 青部 靠 非部 飡 食部

十二畫

黃 黍 黑 黹 首部 傘 人部 兟 儿部
冔 冕 冕 冕 冂部 減 凑 冫部 勱
勒 勝 勞 力部 博 十部 卿 卩部 桼
厶部 啻 善 喆 喌 喜 喬 喣 喦
喪 喪 喬 單 口部 圍 堯 堊 報
堅 堅 土部 壺 壹 壹 壻 士部 㚕
夕部 奠 奥 奡 奭 奢 奤 奣 奩
大部 媎 女部 孱 孱 孳 子部 寍 㓞
宀部 寐 寐 寔 就 尢部 㞸 嵒 嵓
山部 巽 巳部 幝 巾部 幹 干部 幾 嵑
幺部 弑 弋部 弼 弼 弓部 彘 彘 彐部
悶 惑 心部 掣 掊 掌 掔 掣 掔
搴 掔 掌 手部 敤 敘 敝 敞 敟
敢 敦 敪 攴部 斐 斑 文部 斝 斗部
𣄼 旡部 普 景 朞 晵 晶 晳 晷
最 智 日部 曾 替 最 朁 曰部 朝
朞 月部 棄 棗 棘 棶 棨 棗 棻
棽 棼 奞 㭬 木部 欽 欠部 歮 止部
毴 毛部 㲋 淼 渠 水部 閑 飧 爲
猻 焭 尉 㷀 煚 火部 爲 爪部 𤓯
牙部 猆 猒 犬部 琴 琵 琶 玉部 琟
甦 甥 生部 甯 用部 番 畫 畬 異
𤱽 𤱽 田部 疎 疏 疋部 登 癶部 䏮
𡕢 𥁫 𥄎 目部 矞 矛部 𥎦 矢部 硫
石部 萬 禼 内部 稟 粱 禾部 竦 童
立部 粟 粤 臬 粥 粦 米部 罦 网部
羨 羊部 翗 脊 背 肉部 臷 至部 舄
白部 舜 舜 舛部 根 艮部 菫 艸部 虒
虘 虍部 蛓 蛩 蛬 蛬 蛛 虫部
衺 裁 裂 裒 裘 衣部 覗 視 見部
詈 言部 谹 豥 豪 象 象 豚
豕部 貳 貴 賁 買 貝部 跫 足部 輋
軎 車部 挹 邑部 酓 酉部 寀 采部 量
里部 釜 金部 雁 集 雇 隹部 𩇕 非部
須 頁部 飧 𩚃 飱 食部 髙 高部 髮
髡 髟部

十三畫

黽 鼎 鼓 鼠 首部 亂 亃 乙部 僉
人部 𠎁 𠕃 入部 𠔧 八部 冞 冡 㝠
冂部 減 冫部 募 力部 𠨖 卩部 𠩄 厂部
𠬯 又部 喿 嗀 單 嘗 嗇 嗣 口部
塋 塍 塞 土部 壼 士部 㚋 奬 𡚇
奧 大部 媵 嫈 數 嫐 女部 學 㝭
㝅 孴 子部 尟 尠 小部 尲 尢部 嵞
嵡 㟴 嵳 嵬 山部 幏 巾部 幹 幹
幵 干部 廌 广部 𡫡 彀 弓部 韶 彙
彐部 惡 愛 感 心部 摮 擊 掣 擘
㨿 手部 敫 斂 敞 敬 敬 敤 攴部
斒 斔 斘 文部 旣 𣄩 旡部 暈 暋
㬎 暑 㬅 暓 暈 曼 日部 會 楝
日部 楘 楙 楚 楶 業 楝 榖 木部
歆 欠部 歲 止部 𣦸 歹部 毹 楙 棗
黎 滅 水部 塋 焭 煑 火部 𤍠 爺

部父 犛 部牛 猌 部犬 琹 瑟 部玉 甇
部瓦 甝 甞 歁 部甘 畍 畫 當 畬
畺 畚 畢 部田 睿 睿 睼 睪 睂
部目 矠 矟 部矛 碁 部石 稟 禁 凱
部示 禽 部内 稟 黎 部禾 竪 部立 舜
絲 綵 約 部糸 罻 部网 羣 群 羨
義 部羊 翛 部羽 耏 部而 聖 聋 部耳
肆 肅 肆 部聿 肏 部肉 臺 部至 舅
部臼 舝 部舛 蒸 葬 部艸 號 虢 唬
虡 虞 虞 號 部虍 蜀 蜃 蚕
蜚 部虫 裏 裹 部衣 覜 覓 部見 衞
觲 部角 詹 詹 詹 詹 部言 豉 豋
登 部豆 豢 豦 部豕 賈 部貝 輂 衛
載 部車 辟 辠 部辛 農 部辰 巷 部邑
截 部酉 雁 雍 部隹 靖 部青 養 部食
魝 部魚 鳫 部鳥

十四畫

鼻 齊 部首 僰 部人 兢 兢 部儿 凳
凴 部几 厲 劉 劄 劊 部刀 勬 勬
劈 整 勢 部力 勳 部勹 毿 部厶 嗇

啓 嘂 嘉 嘏 嘗 嘗 部卩 塵
塾 墅 墓 部土 壽 部士 夐 部夊 夢
夢 夤 夥 夥 夥 部夕 奩 奪 奫
奭 獎 部大 嫠 嫯 嫠 部女 孵 孶
部子 寢 部宀 尠 綠 尠 部小 屟 屠
島 部山 巢 部巛 徹 幣 幕 部巾 幾
幽 幽 部幺 廃 部广 徙 部彡 憲 寨
應 愈 瘞 部心 戥 截 戟 戚 戟
部戈 盤 翰 搴 擘 拿 部手 敦 敞
部支 暠 暜 暢 斡 纍 斯 部日 暕
暍 部曰 朝 朢 部月 穀 榮 膝 槀
稀 槿 對 部木 歷 部歹 毓 部毋 毚
部比 氈 部氏 滎 部水 滕 觳 淼 爾
部火 爾 部爻 穀 犖 部牛 穀 部犬 瑴
部玉 甄 部瓦 甡 部生 畫 疁 部田 疐
疑 部疋 瞀 煦 瞏 睪 睿 瞂 奭
部目 碧 部石 萬 部内 稯 部禾 窾 部穴
粼 部米 綦 綮 綵 縈 部糸 羴 部羊
翡 部羽 耑 部而 聚 聞 部耳 膂 賽
膏 部肉 臧 部臣 臭 部自 臺 臺 部至

督 與 部臼 舔 部舌 舞 部舛 蕣 蘜
蒙 蓋 蓋 部艸 虢 虧 部虍 蜚 蜜
蝨 部虫 褎 褒 裹 部衣 覞 部見 誓
億 部言 豎 部豆 豪 部豕 賫 賓 部貝
雌 翟 部隹 髚 部高 髟 髡 髦 髮
部髟 鬧 鬩 部門 鬲 鬳 部鬲 鳳 部鳥
鹵 部鹵 黑 部黑

十五畫

齒 部首 亂 部亠 勰 部力 叡 部又 嘶
嘼 器 嗇 部口 墨 墳 墳 部土 壿
部士 夠 部夕 奭 奭 部大 嫈 部女 嫳
尠 部小 巤 部巛 廢 部工 幟 部巾 幕
慭 慮 憲 慶 憂 部心 慰 擧 擊
摩 摯 拳 摯 摯 摯 摹 擊
部手 戳 敵 敻 敶 敶 數 數 敹
部支 斄 數 部文 斲 部斗 暫 暬 暮
暬 暴 部日 暫 部曰 槱 槃 樊 槃
部木 歎 部欠 殤 部歹 殽 毅 滕 漿
鼎 璟 部水 熲 部火 麻 部爪 犛
部牛 瑩 部玉 甇 部瓜 甍 部瓦 甾 畿

部田 暜 皝部白 皾 皸部皮 審 瞉
睪 䁊 睘 䁝部目 䃔部石 禜
部示 稾 穀 穟 穄部禾 窯部穴 𥨍
粼部米 緐 縻部糸 羛部羊 聵部耳
膚部肉 臱 敫部自 葷部艸 虢 虣
虤部虍 蝕 蕰部虫 褎部衣 覢部見
讋 闇 謽 譽部言 谿部谷 豯
部豕 賨 賽 發部貝 贛 斑 暈 輩
部車 輾部辰 鄖部邑 隸部隶 靟部非
韋部韋 韱部韭 韽部音 頵 頷部頁
餐 餐部食 髖部骨 臺部高 鬐 鬠
鬓 髳部髟 鬩部門 魄部鬼 飲 魯
部魚 鳸 鴈 鴟部鳥 黎部黍 鼏部鼎
龜部龜

十六畫

龍 龜首部 兟部儿 冀部八 劒 劃
部刀 劑 劓部力 嚮 嚮 器 噩 歔部口
墾部土 奮 奮部大 嬴部女 學 辨
孻部子 㝡部小 就 就部九 嶼部山
幪 幭部巾 幾部幺 弇 弆部廾 禾彔

部彐 憲部心 擎 擊 擧 擾 擘部手
彝 敾部支 敵部支 斢部斗 暹 暜
曁 曆 曇部日 暿部日 樹 橆 橐
橐 橐 橤 橐 橰 橋部木 歷部止
檄 磬部殳 毚部比 須 馮部水
談 谿 燚 燊 燩 燚 熭部火
鯀 甍 甍部瓦 甎部甘 畿 畔部田
疐部疋 皢部白 皻部皮 盧 盧部皿
瞀 瞢 瞢部貝 磬 磬 磨 磬部石
禦部示 瞽 稾 穎 糜 穌 穎 穎
穆部禾 穀 雜部米 縈 縉 絡 㬥
穀 穀部糸 穀部缶 羣 羲部羊
齡部而 耸部耳 齋 臆 齎 臋
部肉 艶 艘 艘部自 興部臼 舘部舌
虤 虤 虤 虤 虧 虤 虤
虞 虢部虍 融 蠹 蠛 螢 螣 螣
螅部虫 蓋 蝨部血 褭 褎 褱 褧
褰 襄 褻部衣 覞 覦部見 豋部豆
豫部豕 賴部貝 辟部辛 鄙部邑 雋
部隹 霒 霕 霓部雨 靚部青 鞗部革

頓 頒 頤部頁 飢部食 髟 髻 鬃
部髟 鬩部門 膚 壽部鬲 魁部鬼 鴞
鴂部鳥 塤部鼎 齊部齊

十七畫

龠部首 龕部入 勶 勱部力 嚭部口
壓部土 奮部大 嬰 壓 嬰 嬴
部女 孺部子 屨部尸 應部心 戲部戈
擊 擊 擊 擊 擊 擎部手 斂
部支 斂 曑 暴 曒 曙部日 曖部日
燧 檻部木 斂部歹 毚部比 檠 黏
瀨 辯部水 營 燮 燮部火 獲部犬
壓部玉 甑部瓦 甡部生 翼 甜 播
蹬部田 盪部皿 膽 罾 曡 簡部目
矞部矛 磨 礌部石 齋部示 穉部禾
夔部稈 竴部立 糜 糞 糞部米 糜
纍部糸 耄部老 聲 聲部耳 膺 臂
部肉 䝿部臣 臆 臬 臯部自 䑄部臼
藪部艸 虞 虧 虧 虤部虍 蟲 薹
蟊部虫 褻 褱 襄部衣 覬部見 觳
部角 膽 謇 謩 譽 謷 謐部言 谿

豋𧯷𧯸𧰀谷部 豆部 豰𧲆豳
豕部 𧲣賸賽賾殯賻貝部 膯
蹇足部 轝輿輦轂車部 鄰邑部
醟𨣘酉部 釐里部 𩃬𩅽雨部 斆
韱韭部 颯風部 飛飛部 餍食部 鬘
鬈鬙髟部 鮝魚部 鴻鳶鳶鴘
鳥部 齌齊部

十八畫

嚮卩部 叢又部 嚚口部 奭奩大部
巂山部 彍弓部 彝彐部 懟心部 戴
戈部 擥擧手部 斃支部 曓日部
膞月部 檃檳燹欝㰉𣽬䒢
檾木部 歸止部 殯歹部 毉殹殳部
氏部 氋氷部 辦片部 璽玉部
瞿田部 皦皿部 矇瞽瞿
𥈽瞿目部 闒内部 穫禾部 竄穴部
竅竆立部 簦竹部 糧米部 繹
糸部 翹羽部 膺肉部 臑
至部 舉臼部 虩虪虧虎部
蟲虫部 襟衣部 謦謳言部 讀聱

十九畫

劆刀部 嚭嚮口部 壡土部 壘
小部 嶲山部 攀攣手部 斄文部 曡
爨曡日部 曏日部 暴 瀵 爨 鬖
殰歹部 殿殳部 叡火部 爆
獸犬部 璺璽玉部 瓣瓜部 鏞用部
疆田部 皛皞白部 臀 瞽 瞑
目部 穧穫禾部 繇 緯 羸系部 羸
羹羊部 聱耳部 臛肉部 䫏 隸 騊
自部 闖臼部 䖂虍部 蠢 羸 蠶 蠭
虫部 蠃衣部 戀言部 謙豆部 贉貝部
䵹辰部 靡非部 鞹革部 韲韭部 譽
音部 颿風部 飜 飄飛部 霸雨部 顥
高部 鬌髟部 鯗魚部 鹵部 麗 麓 驪

鵰鬼部 黛 鯗魚部 鵬鳥部 黣黑部
隋骨部 鬌髟部 閱 闐門部 魔 魏
趪 韙韋部 題頁部 饗食部 馥香部
隊阜部 雜 癰 雚 巂 隹部 靆雨部
醫酉部 鏖里部 鎣金部 隮門部 隳
豈 豉豆部 殯貝部 豐 豎 𧯺 足部

二十畫

鹿部 龏 龐龍部 鼇龜部
顛 巔八部 馨 譚 嚳 嚴口部 霪
孃女部 孽子部 懿心部 戲戈部 攀
巢手部 瞽 融 曦日部 曨日部 龔
櫜木部 獻 爍 繙 𤒹火部 獻犬部
疇田部 矍目部 竇穴部 競 競立部
辮 纂糸部 羣羊部 鵠自部 豐 夔
興 舉臼部 麔 虤虍部 齋衣部
觀 覷見部 觴角部 豔 豐豆部 羸
贏 貝部 躉足部 農辰部 鄷邑部 隸隶部
隸雨部 毳非部 饜食部 騫 騰 騺
鶖馬部 鬌髟部 鬪門部 鵾鳥部 歎
黨黑部 齋齊部 龐龍部 龜 龜 龜
龜部

廿一畫

䵼土部 蠭儿部 劙力部 縈十部 嚶
囂口部 尠小部 學手部 爛文部 囊
日部 曥曰部 纂 鑣 鐃木部 靈玉部
燚瓦部 顉立部 纇 辮 緜 纍糸部

辨似

二字相似

匚 物を受くる器。　匸 かこみ。
刃 やいば。　刅 きず。
丏 さかしま。　歹 されぼね。
丸 まろし。　凡 およそ。
夂 おくる。　夊 おそし。
尢 かゞまる。　尢 尤の本字。
屮 草木の初生。　𠂇 左に同じ。
𣥂 あゆむ。　少 すくなし。
叉 こまぬく。　㕚 古文の爪の字。
𠫓 さかふ。　云 いふ。
㓞 かたな。　劧 ちから。
収 つゝしむ。　収 收に同じ。

爪 つめ。　爫 とる。
牙 きば。　㸦 互に同じ。
卝 あらがね。　丱 つのがみ。
殳 ほこ。　𠬛 古文の沒の字。
攴 うつ。　支 えだ。
友 とも。　犮 犬の走る貌にいふ字。
丏 かくす。　丐 こふ。
冃 かしらづつみ。　曰 いはく。
𡈼 よし。　壬 みづのえ。
从 古文の從の字。　㒳 兩に同じ。
不 あらず。　𣎵 ひこばえ。
斤 をの。　𣁬 古文の斗の字。

𤴓 たゞし。　疋 あし。
全 全に同じ。　仝 同に同じ。
匃 もとむ。　匈 胸に同じ。
𠩺 もつ。　厈 仄に同じ。
𠮟 くちあく。　叱 しかる。
她 妣に同じ。　奼 女の謹まざるにいふ字。
屳 仙に同じ。　仚 あがる。
𡗗 たすく。　宊 深く山に入る。
刋 きる。　刊 けづる。
忉 憂ふ。　㣼 忍に同じ。
氾 泛に同じ。　汜 みなまた。
𥝌 穖稽などの字此れに从ふ。　禾 あは。

四 よつ。　罒 あみ。
宂 しげし。　穴 あな。
卌 卌に同じ、　卉 草の總名。
艸 くさ。　𠬜 古文の攀の字
耒 すき。　禾 とかき。
聿 ふで。　聿 竹。
言 くちばや。　言 くちばや。
回 めぐる。　囬 古文の面の字、又、俗の回の字。
汏 よねあらふ。　汰 すなゆる。
朿 いばら。　束 つかね。
糸 ほそきいと。　系 つぐ。
忍 いかる。　忍 しのぶ。
冲 氷をわるこゑ。　沖 和融の意にいふ字。
次 つぐ。　㳄 よだれ。
圮 やぶる。　圯 つちばし。

刕 さく。　劦 ちからをあはす。
囟 ひよめき。　囪 聰に同じ。
技 わざ。　技 たゝく。
改 しはぶき。　改 わらふ。
牣 みつ。　牣 けもののゝな。
玑 たま。　玔 あまれし。
耴 かまびすし。　耴 たれみゝ。
串 うがつ。　丳 くし。
豕 ゐのこ。　豖 足をほだされたる豕。
辛 からし。　辛 つみ。
谷 たに。　谷 口の阿。
沂 水の名。　泝 さかのぼる。
皂 くろし。　皀 くろごめ。
肓 むなさき。　盲 めくら。
甹 をとこぎ。　粤 ひこばえ。

戻 輜車の旁の推戸。　戾 もとる。
夾 さしはさむ。　夾 物を盜む。
厎 といし。　底 そこ。
汩 しづむ。　汨 はやし。
沐 かみあらふ。　沭 みづの名、
免 ゆるす。　兔 うさぎ。
卲 たかし。　邵 姓。
庢 依る。　庢 こいへ。
抌 くむ。　抗 うつ。
留 助に同じ。　留 忽に同じ。
杲 あきらか。　某 古文の梅の字。
栂 桓に同じ。　栂 椰に同じ。
泬 水穴より疾く出づ。　沆 水の貌にいふ字。
匊 てをあはす。　匊 こゞめ。
盄 あらし。　盅 ち。

字	訓	字	訓
胖	脹に同じ。	牉	ゆたか。
欻	たちまち。	紈	ねりぎぬ。
芝	れいし。	芝	草の水に浮べる貌にいふ字。
屆	あな。	屆	いたる。
易	やすし。	昜	古文の陽の字。
軌	くるまのわだち。	軓	くるまのしきみの前。
刺	そしる。	剌	もとる。
糾	あざなふ。	紏	黄色の絲。
虯	みづち。	蚪	蝌蚪。
妹	いもふと。	妺	妺嬉。
門	かど。	鬥	たゝかふ。
斨	をの。	所	やぶる。
劵	わりふ。	券	つかる。
隹	とり。	佳	よし。
盂	わん。	盂	めしびつ。
幸	さいはひ。	幸	小なる羊。
郄	卻に同じ。	郤	隙に同じ。
玫	玫瑰。	玟	珉に同じ。
岡	おか。	罔	あみ。
郄	骨節の間。	郗	さとの名。
姫	つゝしむ。	姬	ひめ。
負	になふ。	貟	神の名。
眅	まなこ。	販	うる。
狊	犬みる。	臭	にほひ。
柰	木の名。	柰	きび。
穿	とづ。	穽	おとしあな。
苟	かりそめ。	苟	すみやか。
苗	なへ。	苗	あじか。
捍	わせ。	捍	ふせぐ。
昧	くらし。	味	ほし。
觓	角の貌にいふ字。	斛	量目。
洚	水の名。	洚	洪水。
苜	うまこやし。	苜	目たゞしからず。
段	きれ。	叚	かり。
泿	水の名。	浪	なみ。
冑	かぶと。	胄	よつぎ。
勅	みことのり。	敕	いましむ。
蚩	虫のびゆく。	蚩	わらふ。
秩	くろいね。	秩	ついで。
冠	かんむり。	寇	あだ。
眙	みる。	貽	のこす。
窋	出でんとする貌にいふ字。	窟	あな。
趺	趺坐。	跌	つまづく。
埧	堰に同じ。	埧	つゝみ。
聆	こゑ。	聆	きく。

浙 江の名。 淅 かしよね。
昚 古文の慎の字。 脊 せな。
敇 むちうつ。 敕 制書。
釚 いしゆみ。 鈄 姓。
釞 やす。 釟 いる。
釖 刀に同じ。 釗 剗に同じ。
陜 せばし。 陝 地名。
紙 かみ。 𥿻 糸くづ。
祗 つゝしむ。 衹 みじかきころも。
朕 われ。 眹 目のひとみ。
挺 なほし。 挻 とる。
祏 石の室。 袥 みじかきころも、
宷 古文の審の字。 寀 つかさ。
俳 たはむれ、 徘 たちやすろふ。
班 わかつ。 斑 まだら。

奘 大いなり。 奘 つよし。
凊 さむし。 清 きよし。
凍 こほり。 涷 暴雨。
菽 くき。 枝 いたむ。
殊 おそる。 殐 骴に同じ。
栗 くり。 栗 古文の栗の字。
覔 すゝむ。 覓 もとむ。
豈 樂をつられて見る。 豈 あに。
脩 束脩。 修 をさむ。
㞶 めしびつ。 晟 あきらか。
鄂 あぎと。 鄂 くにのな。
奞 卂に同じ。 奎 ほしのな。
敇 こえだ。 敕 こゝろみる。
拼 あたふ。 拚 なげうつ。
欸 つばきはく。 欵 よろこぶ。

淖 どろ。 淳 潮に同じ。
祇 神。 祇 祭。
躸 つかひ。 躸 肢に同じ。
釪 ほこ。 釪 つよし。
掐 つかむ。 搯 とる。
冕 かんむり。 冕 冤に同じ。
屝 わらぐつ。 扉 とびら。
訢 欣に同じ。 訴 うつたふ。
惕 うれふ。 愓 たはむる。
揚 かゝぐ。 揚 あぐ。
埸 さかひ。 場 には。
婬 たのしむ。 娙 うつくし。
啇 もと。 商 あきなふ。
脛 はぎ。 睲 みはる。
軝 車の轂。 軧 車の後。

祫 あはせまつり。　袷 あはせ。
羑 地名。　羨 うらやむ。
閠 くわんのき。　閏 うるふ。
晹 くもる。　暘 あきらか。
壺 つぼ。　壼 みち。
盡 つくす。　盡 つば。
詼 みちびく。　詼 そらごと。
頼 まのあたり。　頼 すこやか。
輓 ひく。　輗 くびき。
蕁 芭蕉。　蓴 ぬなは。
踢 ける。　踼 つまづく。
禔 さいはひ。　褆 ころもあつし。
禕 うつくし。　褘 ふくろ。
瘐 うゑじに。　瘦 やせる。
歐 はく。　毆 うつ。

鼂 むじな。　鼂 むじな。
頣 みる。　頤 おとがひ。
慹 おそる。　熱 ありさま。
菑 古文の災の字。　薔 薔薇。
禠 さいはひ。　褫 うばふ。
賣 うる、　賣 てらふ。
蕈 くさびら。　簟 たかむしろ。
橐 つく。　橇 そり。
楢 木の名。　槽 きのな。
曉 あかつき、　曉 おちいりめ。
彊 つよし。　疆 さかひ。
錫 すゞ。　鍚 むまのひたひのかざり。
澧 水の名。　灃 水の名。
鍊 くさび。　鍊 きたふ。
麈 麋のたぐひ。　麈 鹿のたぐひ。

闍 ちまた。　闍 たゝかふ
闃 しづか。　閴 めをたれてみる。
褺 重衣。　褻 私服。
禪 しづか。　襌 うすきころも。
涽 しめる。　滑 あつものゝしる。
欹 なげく。　攲 そばだつ。
祴 樂章。　裓 戒衣。
傅 かしづき。　傳 つたふ。
胥 いばりふくろ。　胥 みる。
絙 緩し。　絚 おほなは。
敄 あなどる。　敄 あがる。
䄈 祭器。　裋 みじかき衣。
掾 たすけ。　椽 たるき。
雁 鴈に同じ。　雁 たか。
揵 あぐ。　犍 つよきうし。

巛 川の本字。　巛 古文の坤の字。　巛 災の本字。

另 わかつ。　另 剮に同じ。　另 別に同じ。

夘 卿に同じ。　夘 夗に同じ。　卯 う。

本 もと。　朩 とゞまる。　夲 はしる。

艽 艽野。　芃 くささかんなり。　芄 芄蘭。

夅 古文の降の字。　夅 ふる。　夆 さへぎる。

朷 木の心。　朸 もくめ。　杒 桎杒。

臼 うす。　臼 古文の匊の字。　𠚕 古文の齒の字。

況 いはんや。　况 寒水。　况 俗の況の字。

翊 とぶ貌にいふ字。　翋 とぶ。　翌 あくるひ。

辦 力を致す。　辧 わかつ。　辨 わきまふ。

毋 なかれ。　毌 つらぬく。　母 はゝ。

四字相似

木 き。　朮 をけら。　朩 あさ。　巿 草木さかんなり。

戊 つちのえ。　戉 をの。　戌 いぬ。　戍 まもる。

㢟 あゆむ。　延 ゆく。　延 上に同じ。　延 のぶ。

芉 くさのな。　芊 くさしげる。　𦍌 羊の本字。　羋 姓。

卣 姓。　卤 西に同じ。　卥 古文の西の字。　鹵 くさきのみたる。

旴 日始めて出づ。　旰 ひぐれ。　盰 しろめ。　盱 みあぐ。

裒 あつむ。　襃 ほむ。　褎 そで。　褏 そで。

五字相似

月 つき。　円 丹の字。　月 肉の字旁。　冃 冒の字旁。　月 舟の字旁。

辨似終

漢和大字典

文學博士　重野安繹
文學博士　三島毅　監修
文學博士　服部宇之吉
三省堂編輯所編纂

一部

【一】イツ、於悉切　イチ。質　壹に通じ用ふ。

㊀ひとつ。(い)數の始め、物の極。○〔老〕「道生レ一、一生レ二」。(ろ)其の物のみにてあるを、單獨。○〔史〕「有二一范增一、而不レ能レ用」。(は)同じきを、變はりなきを。○〔孟〕「定二于一一」。「而取レ一何如」。(に)單位、單數。○〔孟〕「吾欲三二十而取二一」。

㊁ひとたび。○〔韓愈〕「方二一食三吐一」其哺一。

㊂ひとつゞ、いちく。○〔新書〕「諸侯萬人、而禹一皆知二其體一」。

㊃對なきを、最も勝れてあるを。○〔淮〕「一也者、萬物之本也、無レ敵之道也」。

㊄もはら、もッぱら。(い)ひとすぢなるを、まじりなきを。○〔易〕「貞夫一」。(ろ)ひたすらに、切に、ひとへに。○〔史〕「爲レ法之敝、一至レ此哉」。

㊅まこと、(誠)。○〔中〕「所二以行一之者、一也」。

㊆おなじ、ひとし、(均)。○〔孟〕「先聖後聖其揆一也」。

㊇わづか、すくなし、(少)。○〔顏延之〕「務レ一不レ尙二繁密一」。

㊈ある、(或)。○〔柳宗元〕「一夕自恨死」。

㊉全き、すべての、みな。○〔韓愈〕「一座大驚、皆感激爲レ雲涙下」。

〔天一〕星の名。

〔太一〕(い)物事の始め。○〔莊〕「主レ之以二太一一」。(ろ)星の名。○〔屈平〕「東皇太一」。(は)終南山の別名、又、太乙に作る。

〔大一〕至大なるを。○〔莊〕「至大無レ外、謂二之大一一」。

〔小一〕至小なるを。○〔莊〕「至小無レ內、謂二之小一一」。

〔守一〕其の事にのみ心を注ぐを、節操を固持するを、かはらざるを。○〔後漢〕「天神遺以二好女一、浮屠日、此但革囊盛レ血、遂不レ眄、其守一如レ此、乃能成レ道」。

〔主一〕前に同じ。○〔程顥〕「主一無適」。

〔第一〕最も勝れてあるを、最先。○〔漢〕「治爲二天下第一一」。

〔萬一〕萬分の一、わづか、又、萬に一つの場合。○〔韓愈〕「徼二倖萬一一」。

〔不一〕一樣ならず、又、一つばかりにあらず。○〔後漢〕「龍形狀不レ一」。

〔如一〕皆ひとし、同じ。○〔後漢〕「被服如レ一」。

〔一一〕ひとつゞゝ、いちく、又、詳細に。○〔韓〕「湣王立好二一一聽レ之」。

〔三一〕天、地、及び元氣。○〔漢〕「用二太牢一祠二三一」。

〔尺一〕詔勅を寫す版、版の長さ一尺なる故にいふ。○〔後漢〕「尺一選擧」。

〔執一〕變通を知らざるを、かはらざるを、其の事のみをとりまもるを。○〔孟〕「執レ中無レ權、猶レ執レ一也」。

【丁】テイ、當經切　チヤウ。靑

㊀十干の一、其の第四位のもの、ひのと。○〔爾〕「太歲在レ丁、日二彊圉一」。

㊁さかんなり、つよし、(壯)。○〔律書〕「丁者謂二萬物之丁壯一」。

㊂あたる、(當)。○〔詩〕「寧丁二我躬一」。

㊃賦役にあたる者。○〔晉〕「其賦男丁歲穀三斛、女丁半レ之」。

㊄壯年の男兒、一人前の男兒。○〔劉克莊〕「赤手募レ丁」。

㊅魚の頭骨中に在りて、形丁字に似たるもの、魚枕。○〔爾〕「魚枕謂二之丁一」。「中丁一」。

㊆釘に同じ、くぎ。○〔宋〕「當レ拔二眼中丁一」。

〔吉丁〕蟲の名、たまむし。

〔六丁〕神の名。○〔道書〕「陰官六丁」。

〔白丁〕軍に在りて戰ひに從はざる者、即ち、馬の口取りなどの稱。○〔南〕「求補白丁」。

〔庖丁〕古昔、肉の調理に巧みなりし人、轉じて料理人の稱、割烹者。○〔莊〕「庖丁爲二文惠君一解レ牛」。

〔園丁〕にはつくり、植木屋。○〔橘錄〕「園丁種レ之」。

〔畦丁〕農夫。○〔杜甫〕「畦丁負レ籠至」。

〔禿丁〕僧徒を冷罵していふ語。○〔北夢瑣言〕「僧徒禮念亦無レ罪、但以下此寺當上レ有二禿丁一作レ亂、吾是以厭レ之」。

〔成丁〕一人前の男子になるを、又、其の男子の稱。

〔零丁〕志を失へる貌にいふ語。○〔李密〕「零丁孤苦、至二於成立一」。

〔不識丁〕文字を讀むを知らざるを。○〔元〕「或憎不レ能レ識レ丁」。

【丅】タウ、中莖切　チヤウ。庚

木を伐る聲にいふ字。○〔詩〕「伐レ木丅丅」。

【七】シツ、親吉切　シチ。質

㊀一に六を加へたる數、なゝつ、又、易學にて少陽の數、即ち變ぜざる爻とす。○〔詩〕「豈曰レ無二衣七一」。

㊁なゝたび。○〔蜀〕「七擒七縱」。

【万】バン、無販切　マン。願

萬に同じ。

【丈】チヤウ、ヂヤウ。直兩切 [養]

㊀尺度の名、一尺の十倍。○〔左〕「廣―」。

㊁たけ、長さ。○〔左〕「厲レ役賦レ―」。

㊂他人を尊稱していふ字。○〔長編〕「富・鄭公稱二范文正公一、曰二范十二―一」。

㊃杖に借り用ふ、つゑ。○〔正譌〕「老人持レ杖、故曰二―人一」。

〔方丈〕(い)一丈四方なること。○〔孟〕「食前―・―」。(ろ)佛門長老の居室の稱、轉じて寺院の主僧の稱。○〔叢林盛事〕「歸―・―、一住三十年」。

〔嶽丈〕妻の父、しうと。○〔黄潛〕「呼二人之婦翁一曰二―・―一」。「老席二―・―一」。

〔函丈〕師の尊稱。○〔陸游〕「成童入二郷校一、諸

【三】サン、ソン。蘇甘切 [覃] ―參に通じ用ふ。

㊀一に二を加へたる數、みつ。○〔老〕「一生レ二、二生レ―」。

㊁みたび。○〔論〕「―思而後行」。「之」。

㊂しばしば、(屢)。○〔孟〕「―使二往聘一」。

㊃三族。○〔漢〕「秦造二―夷之誅一」。

〔再三〕たびたび。○〔易〕「初筮吉、―・―瀆」。

〔二三〕しばしば變はること。○〔詩〕「士也罔レ極、二―其德一」。

〔朝三〕同じきことを知らざるを評していふ語。○〔莊〕「勞二神明一爲レ一、而不レ知二其同一、謂二之―・―一、狙公賦レ茅曰、―・―而暮四、衆狙皆怒曰、然則朝四而暮三、衆狙皆悅、名實未レ虧、而喜怒爲レ用」。

〔六三〕易卦にて下より數へて三つ目の陰爻。○〔易〕「―・―含レ章可レ貞」。

〔九三〕易卦にて下より數へて三つ目の陽爻。○〔易〕「―・―君子終日乾々、夕惕若」。

〔初三〕月の初めの三日。○〔白居易〕「可レ憐九月―・―夜」。

〔重三〕三月三日。○〔陸游〕「佳日逢二―・―一」。

〔達尊三〕官爵の貴きと、年齡の長けたると、德の高きとの三つを稱するに用ふる語。○〔孟〕「天下有二―・―・―一、爵一、齒一、德一」。

〔舉一反三〕敏才あるを稱するに用ふる語。○〔秦當別傳〕「性通敏、兼レ人、―・―・―・―」。

【三】サン。蘇暫切 [勘] みたび、前條の㊁に同じ。

【三】シン。疏簪切 [侵] みつ。○〔詩〕「摽有レ梅其實―兮」。

【上】シヤウ、ジヤウ。時亮切 [漾]

㊀かみ、うへ。

(い)高き所。○〔史〕「輟レ耕之二壠―一」。

(ろ)尊き位。○〔呂氏春秋〕「賢者在レ―」。

(は)てつぺん、いただき。○〔史〕「藏二寶符於常山―一」。

(に)うはべ、そとづら。○〔左〕「猶三燕之巢二于幕―一」。

(ほ)かたはら、ほとり。○〔史〕「唯子貢廬二於冢―一」。

(へ)もと、はじめ、かしら。○〔柳宗元〕「黄神之―、揭レ水八十步」。

(と)いにしへ、むかし、まへ。○〔呂氏春秋〕「自レ此以―者」。

(ち)すぐれたること、たふときこと、たかきこと。○〔易〕「居二―位一而不レ驕」。

(り)貴人、尊屬、年長者、長官、主君などの總べて地位高き人、めうへ。○〔韓〕「輕レ―曰レ驕」。

(ぬ)天子の尊稱。○〔後漢〕「―聞レ之笑曰、吾理二天下一、亦欲下以二柔道一行上レ之」。

(る)天の稱。○〔書〕「光二被四表一、格二于―下一」。

㊁緣遠き親族、又、緣遠し、さほし。○〔儀〕「尊者、尊統レ―」。

㊂尙に通じ用ふ。

(い)こひねがふ。○〔詩〕「―愼レ旃哉」。

(ろ)たふとぶ。○〔賈誼〕「―レ親―レ齒、―レ賢―レ貴」。

(は)くはふ。○〔論〕「艸―二之風一必偃」。

〔太上〕此の上に立つものなきこと。○〔禮〕「―・―貴レ德」。

〔天上〕天に同じ。○〔易〕「雷在二―・―一、大壯」。

〔公上〕君王、又、官府の稱。○〔揚侯〕「治レ產以給二―・―一」。

〔奉上〕君上に仕へて忠を致すこと。○〔晉、傳〕「―レ―布レ德」。

〔馬上〕軍馬のうへにとの意にて戰場を[illegible]るときに用ふる語。○〔史〕「寧可下以二―・―一治上レ之乎」。

〔世上〕せけん。○〔[illegible]〕「非二―・―實一」。

〔蔽上〕君王、又、長上などの聰明をくらますこと。○〔史〕「御レ下―レ―、以成二其私一」。

〔三上〕馬の上、廁の上、枕の上。○〔歸田錄〕「歐公云、思二索文字一、多在二―・―一」。

〔掌上〕(い)手のひら。○〔孟〕「治二天下一可レ運二之―・―一」。(ろ)身近なる所にいふ語。○〔揮塵後錄〕「下視二羣嶺一、若レ在二―・―一」。

〔豐上〕額の廣く肥えたること。○〔淮〕「深目鳶肩、―・―而殺下」。

〔銳上〕額の狹く尖りたること。○〔唐〕「長七尺、豐下―・―」。

〔靑雲上〕高位高官など總べて地位高きにいふ語。○〔史〕「君能自致二于―・―之―一」。

〔形而上〕宇宙間の萬有の中にて、形狀なきものを指すに用ふる語。○〔易〕「―・―・―者謂二之道一」。

〔眼睛上〕めのまへ、眼前、極めて見え易き場所にいふ語。○〔指月錄〕「國師若在二三藏鼻孔上一、有二甚麼難レ見、殊不レ知國師在二三藏―・―・―一」。

【上】シヤウ、ジヤウ。時掌切 [養]

㊀しもよりうへに行く、うへになる、あがる、のる、のぼる。○〔禮〕「地氣―騰」。

㊁しもよりうへに行る、うへになす、あがらしむ、あぐ、のぼす、のす。○〔魏誌〕「令三下レ馬扶二―レ之」。

㊂たてまつる、すすむ(進)。○〔韓愈〕「向―二書及所レ著文一」。

〔炎上〕火のこと、轉じて火災にて燒失すること。○〔書〕「火曰二―・―一」。

〔奏上〕天子に上奏すること。○〔漢〕「當二―・―一」。

【下】カ、ゲ。故雅切 [馬]

㊀しも、した、もと。

(い)低き所。○〔漢〕「萬民之從レ利也、如二水之走一レ―」。

(ろ)賤しき位。○〔素問〕「何謂レ―」。

(は)うら、うち、そこ、もと。○〔呂氏春秋〕「出二魚乎十仞之―一」。

(に)足。○〔素問〕「取レ之―兪」。

(ほ)かたはら、ほとり、そば。○〔柳宗元〕「數州之士攙、皆在二衽席之―一」。

(へ)すゑ、のち、しりへ、すそ。○〔韓愈〕「若下河決二―流一而東注上」。

(と)後の世。○〔歷代名畫記〕「可三意求二於千歲之―一」。

(ち)賤しきこと、劣れること、ひくきこと。○〔左〕「―妾不レ得レ與二郊弔一」。

(り)目した、手した。○〔蘇軾〕「强將―無二弱兵一」。

(ぬ)しもじも、臣民。○〔北〕「帝推レ誠接レ―」。

(る)地の稱(上に對していふ)。○〔書〕「光二被四表一、格二于上―一」。

㊁馬。○〔雜記〕「客使自レ―、由二路西一」。

㊂緣近き親族、又、緣近し、ちかし。○〔儀〕「卑者卑統レ―」。

㊃偃せ仆す、たふす。○〔禮〕「天子殺則―二大綏一」。

〔羣下〕己れの配下にあるもの。○〔詩、序疏〕「以二恩意一接二及―・―一」。

〔天下〕あめがした、世界、又、一國內。○〔書〕「奄二有四海一、爲二―・―君一」。

〔殿下〕はたもと、麾下に同じ。○〔史〕「兵罷二―・―一、諸侯各就レ國」。

〔麾下〕大將の旗下、轉じて大將の尊稱。○〔左〕「曾攻二鄭師一、取二鄭旗于姚之―・―一」。

〔手下〕てした。○〔宋〕「―・―有レ由、由有二[illegible]一」。

〔宇下〕のきした、轉じて支配した。○〔左〕「況衞在二君之―・―一、而敢有二異志一」。

〔轅下〕車の長柄のした、轉じて部下。○〔語林〕「我輩皆出二其―・―一」。

(轂下) 君王の膝もと、又、君王の居城ある都會。○〔谷永〕「前爲二御史中丞一、執二憲一一一」。
(輦轂下) 前に同じ。○〔司馬遷〕「賴二先人之緒業一、得レ待二罪一一一二十餘年矣」。
(闕下) 宮門の下、轉じて朝廷の稱。○〔史〕「持二玉杯一、上二壽一一、獻レ之」。「拜賀咸悅喜」。
(陛下) 皇帝の尊稱。○〔宋〕二一一長壽考、羣臣
(閣下) 高位高官にある人の尊稱。○〔因話錄〕「古者三公開閣、郡守比古諸侯一、亦有レ閣、故皆稱二一一一」。「漢以後に始まれり。
(殿下) 皇太子、皇子、皇女、及び、諸王の尊稱にて
(門下) 他人の門の下に在ること、轉じて師の敎への下に在ること。○〔戰〕「寄二食一一」。
(膝下) 父母のひざもと、轉じて父母の尊稱。○〔唐〕「願得下至二尊居中一一一上」。
(足下) (い)あしもと、又、手近き所。○〔老〕「千里之行、始二於一一一」。(ろ)對等の人の尊稱、ごへん。○〔李陵〕「子卿一一、勤宣二令德一」。
(節下) 節鉞のもと、幕下に同じ。○〔南〕「一一有二范增一不レ能レ用、空誇何施」。
(鉞下) 前に同じ。○〔江淹〕「明使君一一一」。
(麾下) はたもとの。○〔張籍〕「一一御府分二冷食一」。
(臣下) 志もべ、けらい。○〔蘇洵〕「荏二褻一一一」。
(以下) それより志も。○〔韓愈〕「宋、齊、梁、陳、元魏一一一、事レ佛漸謹」。
(盆下) 失意の境遇などにいふ語。○〔劉長卿〕「一一無レ由レ見二太陽一」。
(駑下) 才の拙きこと。○〔戰〕「臣一一、恐不レ足二任使一」。
(殺下) 頰瘦せ頤尖りたること、豐上の例を見よ。
(豐下) 頰頤の肉付きたること、鋭上の例を見よ。
(牛口下) 五羖大夫の故事より牛飼ひなどの賤しき境遇にいふ語。○〔史〕「五羖大夫荊之鄙人也、被レ褐食レ牛、繆公知レ之、擧二之一一之一一、加二之百姓之上一」。
(板築下) 人足などの賤しき境遇にいふ語。○〔宋〕「擧薦二一一之一一、抽登二衆皂之間一」。
(形而下) 宇宙間の萬有の中にて形狀あるものを指すに用ふる語。○〔易〕「一一一謂二之器一」。

【下】カ、ゲ。胡駕切 禡

㊀くだる。
(い)うへより志もに行く、ひくゝなろ、おろ、さがる、おつ、ふる。○〔論衡〕「雨レ穀穀一如レ雨」。
(ろ)敵に降伏す。○〔史〕「惟莒即墨不レ一」。
(は)へりくだる(謙・遜)。○〔史〕「常有二以自一一」。
㊁くだす。
(い)うへより志もへ行ろ、ひくゝなす、ふらす、さぐ、おろす。○〔漢〕「吾詔書數一、勸二民種樹一、而功未レ興」。
(ろ)敵を降伏せしむ、又、已れと已れを抑ふ。○〔史〕「一二齊七十餘城一」。
㊂さる(去)、のぞく(除)。○〔禮〕「歲登一二其損益之數一」。
(吐下) 吐瀉に同じ、はきくだし。○〔晉〕「既食一一」。
(潤下) 水のこと。○〔書〕「水曰二一一一」。

三畫

【不】フウ、甫鳩切 尤 フウ、甫負切 宥 ブ。フ。數救切 宥

〔說文〕鳥飛翔不レ下也。

㊀疑問に用ふる字、否か。○〔杜甫〕「借問有レ酒一」。
㊁飛び上がりて下り來たらず、とびかけろ。

【不】ホツ、逋沒切 月 ホチ。フツ、數勿切 物 ホチ。

然らざる義を示す打消しの字、ず、あらず、あらじ、なし、せず、せじ、然らず。○〔詩〕「豈一レ懷レ歸、畏二此簡書一」。

【不】フ。芳無切 虞

花のほぞ(蕚・跗)。○〔詩〕「鄂一韡々」。

【不】ヒ、ビ。補美切 紙

いやし、又、いやしむ(鄙)。○〔荀〕「君子所レ敬、而小人所レ一者與」。

【不】丕に同じ。○〔秦詛楚文〕「一顯大神巫咸」。

【丏】ベン、メン。亡殄切 銑

㊀あらはさず、かくす、おほふ(蔽)。
㊁箭を避くる短牆、まがき。

【丐】カツ、居葛切 曷 ガチ。カイ。居太切 泰

㊀さる(取)、又、こふ(乞)。○〔唐〕「納二手一一、取レ士不レ以レ實」。
㊁あたふ(與)。○〔唐〕「沾二一後人一多矣」。
㊂人の施物によりて生活する者、物もらひ、こつじき。○〔柳宗元〕「皁・隸・傭・一、皆得レ上二父母之丘墓一」。
(乞丐) こつじき。○〔陳琳〕「曹操父嵩一一一」。
(流丐) 流浪せるこつじき。○〔元〕「詐爲二工商一一入二賊中一」。

【丑】チウ、敕久切 有 チユ。シウ、齒九切 有 シユ。

㊀十二支の一、其の第二位にあるもの、うし、時にては四更、即ち午前一時より三時までの間、方角にては北東に方たり、子と寅との間。
㊁てかし(械)。㊂むすぶ、つかぬ。
(女丑) 神の名。○〔山海經〕「一一之尸」。

四畫

【且】シヤ、セ。七也切 馬

㊀かつ。
(い)未定の意を表はすに用ふる字、まづ、志ばらく(姑)。○〔詩〕「一以喜樂」。
(ろ)假設して說くときに用ふる字、よし、たとへ。○〔論〕「一予與二其死二於臣之手一」。
(は)添加して說くときに用ふる字、其の上に、また。○〔論〕「先王以爲二東蒙主一、一在二邦域之中一矣、是社稷之臣也」。
(に)此の事をなしながら他の事をもなす意をあらはす字、つゝ、ながら。○〔左〕「鬪一出」。
(ほ)輕重を比べ說くときに用ふる字、でも、すら。○〔孟〕「聖人一有レ過與」。
㊁或る事を豫期する意を表はすに用ふる字、「まさに」と先づ讀み「す」と返し讀むを例とす。○〔史〕「若屬一レ爲レ所レ虜」。
㊂こゝに、これ(此)。○〔詩〕「匪二一有レ一」。
㊃と(與)。○〔戰〕「臣之求三利一二不利二」。
㊄雷同して志なきこと、因循姑息なること、かりそめ。○〔莊〕「與レ物一者、其身之不レ能レ容、焉能容レ人」。
㊅ほとんど(幾)。○〔戰〕「一天下之半」。
(姑且) 志ばらく。
(苟且) かりそめ。○〔陸機〕「爲レ上無二一一之心一、羣下知二膠固之義一」。

【且】シヨ、ソ。子余切 魚

㊀志さる(趄)。○〔易〕「其行次一」。
㊁すゝむ(薦)。
㊂俎に同じ、牲をすゝむる具、祭祀燕饗に用ふるもの、つくゑ、まないた。
㊃おほき貌にいふ字。○〔詩〕「籩豆有レ一」。
㊄無意味の助字。○〔詩〕「不レ見二子都一、乃見二狂一」。
㊅陰暦六月の異名。○〔爾〕「六月爲レ一」。
(即且) 蟲の名、むかで。
(巴且) 芭蕉に同じ。

【且】シヨ、ソ。象呂切 語

㊀恭謹の貌にいふ字、つゝしむ、うやう

やし。○〔詩〕「有レ萋有レ｜」。
㊁へだつ、(阻)。

【且】ソ、ズ。叢租切 [虞]
ゆく、(徂)。

【丕】ヒ。敷非切 [支]
㊀おほいなり、(大)。○〔書〕「嘉二乃｜績一」。
㊁さゝぐ、うく、(奉)。○〔漢〕「｜二天之大律一」。
㊂はじめ、(元)。○〔書〕「是有二｜子之責于天一」。
〔丕丕〕 大いなる貌にいふ語。○〔書〕「以並受二此｜｜基一」。

【世】セイ、セ。始制切 [霽]
㊀よ。
(い)三十年の閒。○〔論〕「必｜而後仁」。
(ろ)父死にて子繼ぐこと、相續。○〔周〕「九州之外、謂二之蕃國一、｜壹見」。
(は)一血統の存續、又、一家主の當時。○〔戰〕「汚二吾｜一矣」。
(に)一王朝の治代、又、一王者の當時。○〔蘇洵〕「周之｜、蓋有二周公一、爲レ之制レ禮」。
(ほ)時。○〔呂氏春秋〕「竊二神於｜一」。
(へ)歲。○〔禮〕「去レ國三｜」。
(と)生涯。○〔呂氏春秋〕「以終二其｜一」。
(ち)時勢。○〔屈平〕「能與レ｜推移」。
(り)人閒。○〔莊〕「千歲厭レ｜、去而上遷」。
(ぬ)過去現在未來の流轉、(佛家の言)。○〔法華經〕「於二未來｜一當レ得レ作レ佛」。
㊁代を重ぬ、だいだい、よゝ。○〔孟浩然〕「家｜重二儒風一」。
〔遯世〕 世俗を離るゝこと。○〔易〕「｜レ｜无レ悶」。

〔累世〕 代を重ぬること、代々。○〔書、傳〕「微子｜・｜
〔奕世〕 前に同じ。○〔國〕「｜・｜載レ德」。「享レ德」。
〔阿世〕 世俗に媚び諂ふこと。○〔史〕「｜二｜俗苟合」。
〔逢世〕 立身すること。○〔史、貨道｜」｜、
〔絕世〕 (い)血統の繼續者なきこと、又、子孫を絕滅すること。○〔書〕「乃｜厥｜一」。
(ろ)天下に雙びなきこと。○〔晉〕「鎭軍將軍裕、英叡奮發、忠勇｜レ｜」。
〔出世〕 (い)世俗を出離すること。○〔顏氏家訓〕「縱使得レ仙、終當レ有レ死、不レ能レ｜レ｜」。
(ろ)立身すること。○〔李白〕「浪跡未二｜・｜一」。
〔並世〕 (い)同一に世に立つこと。○〔晉〕「卿與二桓溫一豈｜レ｜哉」。「｜レ｜」。
(ろ)同一なる時代に生まるゝこと。○〔晉〕「朕與レ子
〔下世〕 死ぬること。○〔曹植〕「秦穆先｜｜」。
〔短世〕 早死すること。○〔晉〕「懷・帝｜・｜」。
〔還世〕 蘇生すること。○〔括異志〕「天未二遽奪一汝壽一、汝今｜レ｜」。
〔浮世〕 人事の定まりなきより斯の世の稱にいふ語。○〔李商隱〕「｜・｜本來多二聚散一」。
〔幻世〕 人事の消滅經過の迅速なるをはかなく思ふより斯の世にいふ語。○〔白居易〕「｜・｜如二泡影一」。
〔塵世〕 人事を汚れたるものとして斯の世の稱にいふ語。○〔蘇軾〕「｜・｜苦二局束一」。
〔往世〕 むかし。○〔楚辭〕「美｜・｜之登仙一」。
〔中世〕 なかごろ。○〔晉〕「｜・｜不レ競」。
〔前世〕 (い)むかし、又、以前の世。○〔楚辭〕「自｜｜而固然」。
(ろ)佛家の說、斯の世に生まれ出づる以前に居りし世。
〔先世〕 其の父、又、祖先以來。○〔唐〕「吾恭二｜・｜、且示二子孫不レ忘レ本」。
〔三世〕 (い)祖、父、及び當主。○〔禮〕「醫不二｜・｜一、不レ服二其藥一」。
(ろ)佛家の說、過去、現在、未來。○〔洛陽伽藍記〕「通二達過去未來一、預覩二｜・｜一」。
〔治世〕 無事泰平の時代、又、單にみよ。○〔後漢〕「子｜・｜之能臣」。「甍二于｜・｜一」。
〔淸世〕 政事の淸明なる時代。○〔唐〕「抱二此直節一、
〔盛世〕 國運の隆盛なる時代。○〔晉愍帝〕「雖二｜・｜一、｜猶或遇レ之」。「大」「｜・｜思二樂窮一」。
〔聖世〕 聖人の君位に當たれる世、よき世。○〔周必
〔末世〕 滅亡に近き時代、又、道義の壞亂せる時代。○〔左〕「叔向曰、齊其何如、晏子曰、｜・｜也」。
〔澆世〕〔澆季世〕 前に同じ。

〔金玉世〕 極めて泰平なる時代。○〔論衡〕「｜・｜之｜、故有二金玉之應一」。「｜・｜之｜一」。
〔含華世〕 亂世。○〔庾信〕「當今玉燭調和、既非二

【世】セイ、シヤウ。詩庚切 [庚]
うまる、生ず。○〔列〕「亦如二人自レ｜至レ老」。

【世】セツ、セチ。私列切 [屑]
㊀もる、(泄)。㊁時、又、時代。○〔詩〕「殷鑒不レ遠、在二夏后之｜一」。

【世】世に同じ。

【丘】キウ、ク。去鳩切 [尤]
㊀地の少しく高き處、山の小なるもの、をか。○〔韓愈〕「某水某｜、吾童子時所二釣遊一也」。
㊁あつまる、(聚)。○〔孔安國〕「九州之志謂二之九｜一、言二九州所レ有皆聚一此書一也」。
㊂むなし、(空)。○〔漢〕「寄二居｜亭一」。
㊃おほいなり、(大)、又、たかし、(高)。○〔漢〕「過二其｜嫂一食」。
㊄支那の古昔に於ける田里の區劃上の一名目、むら。○〔漢〕「四井爲レ邑、四邑爲レ｜」。
〔旄丘〕 前高くして後低き丘。
〔三丘〕 仙人の居處。○〔張衡〕「聞二｜・｜于句芒一、
〔註〕 蓬萊方丈方壺三者、群仙所レ居」。
〔比丘〕 梵語にて僧の義。○〔魏〕「｜・｜爲二行乞一」。
〔首丘〕 (い)本を忘れざること。○禮「狐死正二丘首一」。
(ろ)故鄕を思ふことに借り用ふる語。○〔後漢〕「能無レ依レ風｜・｜之思一哉」。

【丙】ヘイ、ヒヤウ。兵皿切 [梗]
㊀十干の一、其の第三位のもの、ひのえ。○〔爾〕「太歲在レ｜曰二柔兆一」。
㊁あきらか、(明)。㊂魚の名。
〔青丙〕 そら、蒼蒼。
〔大丙〕 前に同じ、又、神の名。

五畫

【丙】テン。他點切 [琰]
舌にて鉤け取る、さる。

【丞】シヨウ、ジヨウ。煮仍切 [蒸]
㊀すゝむ、(進)。○〔史〕「｜・｜乂不レ格レ姦」。
㊁たすけ、(輔佐)、そへ、(副貳)。○〔戰〕「禹有二五｜一」。
㊂うく、(承)、つぐ、(繼)。○〔史〕「｜二上指一」。
〔上丞〕〔下丞〕 共に星の名。

【丞】セイ、シヤウ。之郢切 [迥]
拯に通じ用ふ、すくふ。○〔揚雄〕「｜二民於農桑一」。

六畫

【丣】イウ、ウ。與久切 [有]
㊀日の入り時 ㊁なる、(就)

七畫

【並】竝に同じ。

十畫

【[illegible]】トウ、ヅ。徒口切 [有]
禮器の名。○〔詩〕「酌以二大｜一」。

丨部

【丨】シ、思二切 [寘] コン。古本切 [阮] ジヨ、ニヨ。忍與切 [語]
〔說文〕上下通也、引而上行、讀若レ囟、引而下行、讀若レ退。
㊀すゝむ、(進)。㊁しりぞく、(退)。

一畫

【丩】 キウ、ク。居尤切 尤

まじはりまとふ(糾-繚)。

二畫

【个】 カ、コ。古賀切 箇

㊀箇に同じ、物を數ふるに用ふる字、かず。〇[周]「容ニ大-扃七-｜-｜ニ」。「｜-｜ニ」。
㊁四面の偏室、ひさし。〇[禮]「居ニ右-
㊂牲肉の包み。〇[禮]「國-君七-｜」。
[二个] 一人。〇[大]「若有ニ一-｜-臣ニ」。

【亇】 介に同じ。〇[大]「一-｜-臣」。

【个】 カン。古汗切 翰

㊀幹に同じ、射侯(まと)の舌。〇[周]「梓-人爲レ侯、上兩-｜與ニ其身ニ三」。
㊁竹の枝、竹の字を半ば省くに从ひて意をなす。〇[史]「竹-竿萬-｜」。

【丫】 ア、エ。於加切 麻

㊀髮の結び方の名、あげまき、つのがみ、みづら。
㊁木のまた、木のえだ。

【㐄】 クワ、ケ。苦瓦切 馬

またがりあゆむ(跨-步)。

三畫

【中】 チウ、チユ。陟隆切 東

㊀まんなか。
(い)かたよらぬを、かたよらぬ場所、なか。〇[書]「自服ニ于土-｜ニ」。
(ろ)樞軸。〇[宋]「游ニ於樞-｜ニ」。
㊁うち、なか。
(い)內。〇[易]「美在レ｜也」。
(ろ)閒。〇[荀]「五-帝之-｜」。
(は)禁內。〇[後漢]「其事留レ｜」。
(に)心。〇[史]「深-｜寬-厚」。「衣」。
(ほ)身。〇[禮]「其｜退-然如レ不レ勝レ衣」。
(へ)臟腑。〇[素問]「五-｜所レ主」。
㊂かたよらざる性情の德。〇[中]「｜-者天-下之大-本也」。
㊃至正和順の道、過不及なき善誼。〇[書]「允執ニ厥-｜ニ」。
㊄天地の正氣。〇[左]「民受ニ天-地之｜以生」。
㊅二十四氣のうちにて雨水、春分、穀雨、小滿、夏至、大暑、處暑、秋分、霜降、小雪、冬至、大寒の稱。〇[左]「擧ニ正於｜ニ」。
㊆すなほ(忠)。〇[太元窮]「民好レ｜」。
㊇なほし(直)。〇[禮]「頭-頸必-｜」。
㊈ひとし(均)、たひらか(平)。〇[周]「𧾷斤レ摯必-｜」。
㊉たゞし(正)、よろし(宜)。〇[周]「求ニ民情ニ斷ニ民-｜ニ」。
⑪たふ(任)、よし(可)。〇[左、註]「不レ｜レ爲ニ之使-役ニ」。「｜」。
⑫なかば(半)。〇[列]「得亦-｜、亡亦-｜」。
⑬たひらぐ、なる(成)。〇[禮]「因ニ名-山ニ、升ニ-｜于天ニ」。「｜也」。
⑭をさまる(藏)。〇[禮]「冬之爲レ言｜也」。
⑮みつ(滿)。〇[漢]「制-｜ニ-二-千-石ニ」。
⑯うがつ(穿)。〇[周]「｜-ニ其莖ニ」。
⑰閒隙あり、へだつ。〇[禮]「亡則｜」。
⑱關與す、あづかる。〇[穀、註]「｜謂ニ關ニ與其事ニ」。「｜」。
⑲算數を盛る器。〇[禮]「司-射奉レ｜」。

(日中) 正午、又、正午前後にもいふ。〇[易]「｜-｜爲レ市」。「得レ君則｜-｜」。
(熱中) 熱望すること、又、もだえ煩ふこと。〇[孟]「不レ得レ君則熱-｜」。
(陽中) 春。〇[漢]「春爲ニ｜-｜ニ、萬-物以生」。
(陰中) 秋。〇[漢]「秋爲ニ｜-｜ニ、萬-物以成」。
(禁中) 宮閾。〇[四朝志]「掌ニ｜-｜待-奏之事ニ」。
(宇中) 天地四方。〇[淮]「｜-｜六-合」。「｜」。
(時中) 時に從ひ宜しきに處すること。〇[中]「君-子｜-｜」。
(彀中) 弓を引きしぼりたるやごろのうちの義、借りて人を籠絡する術のうちの義に用ふ。〇[唐語林]「天-下英-雄、入ニ我｜-｜ニ矣」。
(治中) 刺史の參佐。〇[蜀]「龐-士元非ニ百-里之才ニ、使レ處ニ｜-｜別-駕之任ニ」。
(司中) 星の名。「一-首」。
(人中) 鼻の下のみぞ。〇[相書]「｜-｜長一-寸、壽
(壓挨中) 汚辱を蒙れる境遇。〇[漢]「今罪至レ囹レ加、在ニ｜-｜之｜ニ」。
(畎畝中) 田夫などの微賤なる位置にいふ語。〇[孟]「舜發ニ於｜-｜之｜ニ」。
(襁褓中) むつきのうちの義にて極めて幼稚なるときにいふ語。〇[史]「臣-子在ニ｜-｜-｜ニ」。
(魚鹽中) 漁夫などの如き微賤なる位置にいふ語。〇[孟]「膠-鬲擧ニ於｜-｜之｜ニ」。

【中】 チウ、チユ。陟仲切 送

㊀あたる。
(い)的に至る。〇[魏]「三-發皆-｜」。
(ろ)合ふ。〇[左]「未ニ嘗不ニ｜ニ吾志ニ」。
(は)傷めらる。〇[莊]「｜レ身、當レ心」。
(に)應ず。〇[禮]「律｜ニ大-簇ニ」。
(ほ)其の當を得。〇[禮]「愛ニ百-姓ニ、故刑-罰｜」。「之」。
㊁あたらしむ、あつ。〇[唐]「危-法｜レ之」。
㊂かなめ(要)。〇[周]「都-鄙之治-｜」。
㊃なかごろ(仲)。〇[詩]「周-宗｜-興」。
(命中) 弓を射て物にあつること。〇[漢]「射｜-｜」。
(微中) 微言もて善に導くこと、諷諭。〇史]「談-言｜-｜、亦可ニ以解ニ紛」。
(試中) 試驗に及第すること。〇[蘇洵]「以策ニ｜-｜者、亦皆記-錄章-句、區々無-用之學」。
(陰中) 陰險なる手段もて人に害毒を及ぼすこと。〇[蘇軾]「傚ニ黨-人｜-｜之禍ニ」。
(百發百中) 的を射るに一の虛矢なきこと、又、事を計りて毫も誤りなきこと。〇[史]「去ニ柳-葉ニ百-步而射レ之、百-發而百-｜」。

【中】 得に同じ。〇[周]「｜-失之事」。

【丰】 フウ、ブ。符風切 東

㊀草の盛んなる貌にいふ字。
㊁顏の圓く肥えたるを、おもぶくら、又、容色美好なり、みめよし。〇[詩]「子之｜兮」。

【丮】 ケキ、ギヤク。訖逆切 陌

手に持つ、とる、もつ。〇[元包經]「｜レ之撫」。

四畫

【丱】 クワン、ケン。古患切 諫

あげまきの貌にいふ字、又、いとけなし(幼-稚)。〇[詩]「總-角｜兮」。

【丱】 クワウ。合猛切 梗

金玉の未だ器を成さざるもの。

六畫

【串】 クワン、ケン。古患切 諫

㊀慣に通じ用ふ、ならふ、なる。〇[荀]「悪ニ民之｜以無ニ分-得ニ也」。
㊁貨物の契、てがた。〇[文字指歸]「倉-庫收帖曰ニ｜-子ニ」。
(親串) ちたしき人、又、ちたしむこと。〇[謝惠連]「聊用布ニ｜-｜ニ」。

【串】 穿に同じ、つらぬく、うがつ。〇[陳櫵]「歌-珠一-｜鶯流-出」。

七畫

【丳】 サン、セン。楚閒切 潸

肉をつらぬきてあぶる器、くし、又、くしにつらぬく、くしさす。〇[韓愈]「如ニ以レ肉貫ヒ｜」。

丶部

【丶】チュ、ト。知庾切 麌
ゑるし(點)、又、點を打つ、ゑるす。

【丶】古文の主の字、鐙中の火。

二畫

【丷】イ。於宜切 支
佛書に用ふる伊の字。

【丸】クワン、グワン。胡官切 寒
㊀たま。
(い)はじき弓のたま。〇〔戰〕「左挾レ彈、右攝レ丸」。
(ろ)すべて圓くして轉ずるもの、稱。
〇〔唐〕「以二蠟丸一、裹レ書」。
㊁まろし、まろみ、(圜)。〇〔論衡〕「二丸之艾」。
㊂まろぶ、まろばす、(轉)。「丸變化二」。
㊃凸凹なく、又、屈曲せざると、なほし、すなほ。〇〔詩〕「松栢丸丸」。〇〔淮〕「揣二丸
㊄鳥の卵、かひ。〇〔呂氏春秋〕「流沙之西、丹山之南、有二鳳之丸一」。
〔彈丸〕はじき弓のたま、又、銃砲のたま。〇〔禮〕「日似二彈丸一」。
〔犢丸〕やづつ、矢房、えびら、箙。
〔弄丸〕鳥の名、くそむし、蜣蜋。
〔墨丸〕きんたま。
〔牢丸〕もち、餅。〇〔東晳〕「終日飽食、其牢丸乎」。

【丸】俗の丸の字。

三畫

【丹】タン。都寒切 寒
㊀丹砂、辰砂、赤硫化汞。〇〔書〕「礪砥砮丹」。
㊁あけ、赤し、又、赤くす。〇〔揚雄〕「朱二丹其轂一」。
㊂精煉したる藥物、又、仙家の所謂不老不死の藥。〇〔晉〕「煉丹秘術」。
㊃まごころ。〇〔李白〕「剖レ心輸レ丹」。
〔牡丹〕ぼたん、はつかぐさ、木芍藥。
〔卷丹〕おにゆり。
〔紫丹〕むらさき、紫草。
〔渥丹〕容色の麗しきに用ふる語。〇〔詩〕「顏如二渥丹一」。
〔契丹〕我が紀元一千五百六十年の頃より一千八百六十年の頃まで、支那の東北部にて勢力ありし種族の名。

四畫

【主】シュ、ス。之庾切 麌
㊀君王、みき。〇〔呂氏春秋〕「國日安、主日尊、天下日服、此所レ謂吉主也」。
㊁大夫の敬稱。〇〔左〕「成鱄對二魏舒一曰、主之舉也近二文德一矣」。
㊂又、大夫の妻の稱、一説に、婦人の敬稱。〇〔左〕「問二公父文伯之母一曰、主亦有二以語レ肥」。
㊃己れの仕ふる人の稱。〇〔戰〕「跖之狗吠レ堯、非二其主一也」。
㊄あるじ、ぬし。
(い)一家の長。〇〔禮〕「家無二二主一」。
(ろ)其の物の所有者。〇〔柳宗元〕「問二其主一、曰、唐氏之棄地」。
(は)客の對、受け身の者。〇〔禮〕「賓爲レ賓焉、主爲レ主焉」。
㊅つかさ、をさ、かしら。〇〔晉〕「爲二之統主一」。
㊆神靈の憑依、位牌。〇〔史〕「武王載二木主一」。
㊇かみ、(神)。〇〔史〕「丘主祠二蚩尤一」。
㊈宗要、おも、むれ、もと。〇〔易〕「樞機之發、榮辱之主也」。
㊉鐙中の火。
(十一)すぶ、(領)、つかさどる、(掌)、まもる、(守)。〇〔史〕「自レ陝以西、召公主レ之」。
(十二)たふさぶ、(上)。〇〔國〕「剛而主レ能」、
(十三)すわる、(坐)。〇〔禮〕「居不レ主レ奥」。
(十四)もとゝして、おもに。〇〔史〕「主爲二趙李一報レ德復レ怨」。
〔祊主〕位牌。〇〔五〕「祔二五室主于新廟一」。
〔公主〕天子のむすめ、皇女。〇〔漢〕「相二膠元王主一、亦皆貴」。
〔翁主〕諸侯のむすめ。〇〔史〕「遣二宗室女江都翁主一」。
〔王主〕王の女。
〔親主〕妻の稱。〇〔家語〕「妻者親之主也、敢不レ敬」。
〔女主〕皇后、又、女帝の稱。〇〔後漢〕「權歸二女主一」。
〔副主〕皇太子。〇〔後漢〕「儲君副主、莫二誰專精博學若レ此者一」。
〔人主〕君王。〇〔揚雄〕「上說二人主一」。
〔常主〕前に同じ。〇〔宋〕「人主之盛德」。
〔眞主〕眞に天子たるの性質資格を具ふる天子の稱。〇〔後漢〕「今劉氏復興、卽眞主也」。
〔弱主〕いとけなき君、又、暗柔の君。〇〔陳琳〕「彊秦弱主」。
〔伯主〕覇者に同じ。〇〔史〕「四國迭起、更爲二伯主一」。
〔國主〕諸侯をいふ。〇〔五〕「皇帝恭聞二江南國主一」。
〔盟主〕同盟者の内にて首となる者。〇〔左〕「晉爲二盟主一」。
〔謀主〕おもなる計畫者。〇〔左〕「析公奔レ晉、晉人以爲二謀主一」。
〔地主〕(い)諸侯などの會合する地の所領者。〇〔左〕「諸侯之會事既畢矣、侯伯致レ禮、地主歸レ之」。
(ろ)土地の所有者。〇陸游「敢煩二地主一、築二林塘一」。
〔債主〕金錢などの貸しぬし、かして。〇〔後漢〕「債主日至、詭求不レ已」。
〔世主〕人君。〇〔王惲〕「教禁繫二世主一」。「世主」。
〔尙主〕天子の女を娶ると。〇〔古今姓氏錄〕「五世尙主」。
〔祭主〕神明を祭るとき其の宰となる人。〇〔易〕「出可下以守二宗廟社稷一以爲中祭主上」。
〔長公主〕天子の姉妹。
〔社稷主〕帝王。〇〔禮〕「合二二姓之好一、以繼二先聖之後一、以爲二社稷主一」。
〔天下主〕前に同じ。〇〔後漢〕「陛下爲二天下主一」。
〔萬儲主〕前に同じ。〇〔晉〕「吾爲二萬儲主一、將レ營二一殿一、豈關二汝鼠子一乎」。
〔四海主〕前に同じ。〇〔宋〕「陛下爲二四海主一」。
〔高世主〕世に勝れて德ある人君。〇〔晉〕「高世之主、不レ尙二尤物一」。「也」。
〔五臟主〕こゝろ、心。〇〔淮〕「心者五臟之主」。
〔心肺主〕はらわた、腸。〇〔白虎通〕「腸爲二心肺主一」。「長爲二心肺之主一」。
〔百川主〕うみ、海。〇〔說苑〕「江海無レ不レ受、故長爲二百川之主一」。
〔東道主〕東方の道筋のあるじ、轉じて道の案内者、又、饗應をなす人。〇〔左〕「若舍レ鄭爲二東道主一」。
〔北道主〕北方の道筋のあるじ、轉義前に同じ。〇〔後漢〕「不レ如下以二一郡一爲中我北道主人上」。
〔大長公主〕天子の姑。

【主】チョ。涉慮切 御
そゝぐ、(注)。〇〔荀〕「主量必平似レ法」。

【丼】井に同じ。

【丼】タン、トン。都感切 感
物の井中に落つる聲、どんぶり。

ノ部

【ノ】ヘツ、普折ヘチ。切 屑　エウ。於兆切 篠
右より左に戻る。

【乀】エイ。餘制切 霽
地に至る、いたる。

【乀】リツ、力詰リチ。切 質　フツ、敷勿ホチ。切 物
左より右に戻る。

一畫

【乂】ガイ、ゲ。魚刈切 隊
㊀草を芟る、かる。
㊁をさむ、(治)。〇〔書〕「有レ能俾レ乂」、

㊂をさまる、乂、やすし。○[北]「朝-野安-ー」。
㊃ものさびし。○[陸雲]「山-澤含レ哀、天-地肅-ー」。
㊄賢才。○[書]「俊-ー在レ官」。
（康乂）安く治まる。○[晉]「ー二-ー東-夏一」。
（統乂）をさむ。○[晉]「維-民ー-ー」。
（英乂）賢き人。○[袁術]「ー-ー有レ爲之時也」。

【乂】 ガイ。牛蓋切 泰
こらす、（懲）、いましむ、（戒）。○[劉向]「屢懲ー-ー而不レ改」。

【乃】 ダイ、ナイ。奴改切 賄 ｜ 迺に同じ。
㊀すなはち。
（い）上を承け下を起こすときに用ふる字、それは、そのものは。○[韓愈]「不レ知造-物-者意竟如-何、無下ー所二好-惡一與レ人異上心哉」。
（ろ）事の繼續を説くときに用ふる字、そこで、斯くして。○[周]「ー命二其屬一入-會、ー致レ事」。
㊁語の末尾につくる無意味の助字。○[韋筆]「豈比二夫爾戈爾矛一、而勞二夫鍛ー礪ー一」。
㊂その、（其）。○[書]「惟ー祖ー父」。
㊃なんぢ、（汝）。○[書]「嘉二ー丕-績一」。
㊄かれ、（彼）。○[莊]「是自其所二以ーー一」。
㊅それがし、なにがし、（某）。○[禮]「子-孫曰レ哀、夫曰レー」。
㊆をさむ、（治）。○[禮]「五-月ーレ瓜」。

【乃】 アイ、エ。依亥切 賄
款ーーは、船に棹し相應ずる聲、又湖中の歌を節する聲。○[柳宗元]「款-ー一-聲山-水綠」。

二畫

【久】 キウ、ク。擧有切 有
㊀ひさし。
（い）時長し。○[後漢]「忘レ戰日ー」。
（ろ）易はらず。○[老]「天長地ー」。
㊁まつ、（待）。○[左]「是以ーレ子」。
㊂さゝふ、（柱）。○[周]「ー二諸牆一、以觀二其橈一」。
㊃ふさぐ、（塞）、おほふ、（蔽）。○[禮]「冪用二疏-布一ーレ之」。
（良久）やゝ時を經。○[晉]「咨-嗟ー-ー」。
（迂久）前に同じ。○[後漢]「市レ酒ー-ー、大-醉而還」。
（恒久）永くかはらず。○[易]「天-地之道、ー-ー而不レ已也」。
（長久）前に同じ。○[禮]「內和-理而後、家可二ー-ー一」「ー-也」。
（悠久）前に同じ。○[禮]「ー-ー所二以成一レ物也」。
（久々）前に同じ。○[史]「厥-吏ー-ー更富」。
（彌久）時長きにわたる。○[史]「太-傅之計曠-日ー-ー」。
（持久）長く其の儘にてもちこたふること。○[戰]「勿二共ーレー」。

【久】 キ。擧里切 紙
ひさし、前條の（い）に同じ。○[詩]「何其ー也、必有レ以也」。

【夂】 俗の久の字。

【乇】 タク、チヤク。陟格切 陌
草の葉。

三畫

【之】 シ。支而切 支
㊀いづ、（出）。○[說文]「枝-莖漸益大有レ所レー」。
㊁えだ、（枝）。○[玉篇]「象三草-木之枝、東-西旁-出、而常連二於根-本一、隷作レー」。
㊂ゆく。
（い）おもむく、（趣）。○[韓愈]「其於レ周不-可則去ーレ魯、於レ魯不-可則去ーレ齊」。
（ろ）いたる、（至）。○[詩]「ーレ死矢靡レ他」。
（は）かはる、（變）。○[左]「遇二觀ーーレ否」。
㊃直接に其の物事を指す字、これ、この。○[論]「老-者安レー、朋-友信レー、少-者懷レー」。
㊄單に、句調を緩くするに用ふる字、これ。○[論]「父-母唯其疾ー憂」。
㊅意味なき助字。○[詩]「知二子之來一ー」。
㊆姓名の閒に用ふる意味なき字。○[左]「介ー-推」「燭ー-ー武」。
㊇の。
（い）上下の係屬を示す字。○[韓愈]「天-池ー濱、大-江ー濆」。
（ろ）單に句調を緩くするに用ふる字。○[左]「皮ー不レ存、毛將何傅」。
㊈かな、（哉）。○[禮]「公曰、未ー卜也」。
㊉にて、おきて、（於）。○[大]「ー三其所二親-愛一而辟」。
⑪のこす、（遺）。○[揚雄]「ー二後-世君-子一」。

四畫

【乍】 サ、ゼ。鋤駕切 禡
はじめて、にはかに、しばらく、たちまち。○[淮]「燈將レ滅而ー明」。

【乍】 サク。郎各切 藥
作に同じ、つくる。

【朿】 シ。祖史切 紙
とゞまる、とゞむ、（止）。

【乎】 コ、ウ。戸呉切 虞
㊀形容の言に添へて其の音調を助くる字。○[韓愈]「追-々ー-ー四-海無レ所レ歸、恤-々ー-ー饑不レ得レ食、寒不レ得レ衣」。
㊁無意味の助字。○[論]「於レ從レ政ー何有」。
㊂か、や。
（い）疑問に用ふる字。○[論]「禮後ー」。
（ろ）疑問の反語となるときに用ふる字。○[史]「父死不レ葬、爰及二干-戈一、可レ謂レ孝ー、以レ臣弑レ君、可レ謂レ仁ー」。
（は）詠歎に用ふる字、かな。○[論]「中-庸之爲レ德、其至矣ー」。
（に）反語の詠歎となるときに用ふる字。○[孟]「不二亦善一ー」。
（ほ）呼びかくるに用ふる字。○[韓愈]「微-之ー、子眞安而樂レ之者」。
㊃于、於に同じ。
（い）に。○[左]「楚-子會二諸-侯ー申一」。
（ろ）より。○[孟]「孝-子之至、莫レ大二ー尊レ親一」。
（は）を。○[論]「攻二ー異-端一斯害也已」。
㊄呼に同じ、歎息の辭、あ、あゝ。○[詩]「於-ー小-子」。

【乏】 ハフ、ボフ。房法切 洽
㊀空虚なり、不足せり、なし、むなし、とぼし。○[禮]「振二ー絶一」。
㊁すつ、（廢）。○[戰]「不三敢以ー二國-事一」。
㊂皮もて作れる矢ふせぎ。○[周]「車-僕大-射共二三ー一」。
（人乏）人の不足すること。○[北]「ー-ー之秋、何容二方退一」。
（承乏）人の不足なるが故間に合はせに其の職を承くとの意。○[左]「敢告、不-敏攝レ官ーレー」。
（勞乏）疲る。○[五]「因二其ー-ー一而乘レ之、可二以勝一也」。

五畫

【乑】ギン。牛林切 〔侵〕
ならびたつ、又、あつまりたつ、（衆-立）。

【乑】ハン。普班切 〔刪〕
よづ、（攀）。〔揚雄〕「一二夫傳說一兮」。

七畫

【乖】クワイ、ケ。古懷切 〔佳〕 ｜說文「象背文北形」。
そむく、もとろ。
（い）正しからず。〔劉子〕「傳彌廣、理彌一」。
（ろ）異なり。〔岑參〕「春與人相一」。
（は）差ふ。〔後漢〕「機失而謀一」。
（に）逆ふ。〔左〕「衆而一」。
（ほ）離る。〔陸機〕「形-影-參-商一」。

九畫

【乘】ショウ、ジョウ。食陵切 〔蒸〕
㊀のる。
（い）騎す、駕す、跨がる。〔禮〕「婦-人不二立一一」。
（ろ）上がる、登る。〔列〕「一二彼白-雲一」。
（は）因る。〔孟〕「不レ如レ一レ勢」。
（に）屋を治む。〔詩〕「亟其一レ屋」。
（ほ）城を守る。〔漢〕「堅-守一レ城」。
㊁のらしむ、（㊀の條參照）、のす。〔左〕「使二公-子彭-生一一レ公」。
㊂かつ、（勝）。〔書〕「周人一レ黎」。
㊃はかる、（計）。〔周〕「一二其事一」。
㊄しのぐ、（淩）。〔漢〕「侵二一君-子一」。
㊅ある數をある數ほどに倍加す、かけざん。〔漢〕「因二其成-數一、以レ三一レ之」。
㊆衆生を載運して生死の苦海を出離し涅槃の彼岸に至らしむるを、佛家の言。〔法華經〕「如-來但以二一佛一一一」。
㊇史載、記錄。〔孟〕「晉之一」。
〔大乘〕 佛教中にて菩薩六波羅蜜の教へとなすもの、卽ち、煩惱卽菩提生死卽涅槃なるが故に不斷不求一心一念菩下に菩提を究覺するを得べしとの敎理。〔法華經〕「必以二一一一而得二度-脫一」。
〔小乘〕 佛教中にて聲聞比丘の法となすもの、卽ち、煩惱を斷じて菩提を求め生死を離れて涅槃を得べきが故にある一定の約束に從ひ漸々習錬して功驗を得べしとの敎方。〔大藏法數〕「一一一卽人-天乘」。
〔五乘〕 人乘、大乘、聲聞-乘、緣覺乘、菩薩乘。
〔家乘〕 家の記錄。〔老學庵〕「黃-魯直有二日-記一、謂二之一一一」。
〔史乘〕 歷史。
〔陪乘〕 貴人と車に同乘すること。〔東京賦〕「鳳-后一一一」。
〔驂乘〕 貴人の副へ馬に乘りて從ふこと、又、其の者。〔羽獵賦〕「未レ足三以爲二一一一」。
〔自乘〕 或る數に其れと同一なる數をかけあはす。
〔日乘〕 日々の記錄。
〔乘々〕 動くが如くにして、動かざる貌にいふ語。〔老〕「一一兮若レ無レ所レ歸」。

【乘】ショウ、ジョウ。食證切 〔徑〕
㊀雙對、つゐ、そろひ。〔左〕「弦-高以二一一韋-先、牛十-二犒レ師」。
㊁同じ物の四つあること。〔孟〕「發二一-矢一」。
㊂車の數をかぞふるにいふ字。〔詩〕「元-戎十一、以先啓レ行」。
㊃車馬、くるま、うま、のりもの。〔漢〕「驚-蹇之一」。
〔萬乘〕 天子の稱、古昔、支那にて天子は兵車萬乘を出だし得る地を所領する制なりきといふ。〔孟〕「以二一一之國一、伐二一一之國一」。
〔千乘〕 諸侯の稱。〔論〕「道二一一之國一」。
〔百乘〕 卿、大夫の稱。〔大〕「一一之家、不レ畜二聚-斂之臣一」。

乙部

一畫

【乙】イツ、イチ。於筆切 〔質〕
㊀十干の一、其の第二位のもの、きのと。〔爾〕「太-歲在レ一」。
㊁書を讀みて其のとゞまる所にしるしを付くること。〔史〕「讀レ之止輒一二其處一」。
㊂文章に脫字ある所にしるしを付くること。〔康熙〕「唐試レ士、字有二遺-脫一、勾二其旁一而增レ之曰レ一」。
㊃かゞまる、（屈）。〔說文〕「其出一一一」。
㊄魚の腸、一說に、魚の腮骨。〔禮〕「魚去レ一」。
㊅虎の脅の兩旁の皮下にありといふ乙字形のもの、これを佩びて官に臨めば衆に威あり、又、無官の人も他の憎みを受くるをなしといふ。〔蘇軾〕「得如二虎挾レ一」。
〔甲乙〕（い）優劣をいふときに相並べて用ふる語、又、單に相並べて、順序を示すときにも用ふる語。〔論衡〕「巢穴復有二一一一乎」。
（ろ）某の字と同じく、名、字不詳の人に借り用ふる語。〔漢〕長-子建、次一、次一、次慶」。
（は）假設の人名に借り用ふる語、誰れ彼れ、彼れ此れ。〔韓〕「一一變レ一」。

【乚】イツ、イチ。於質切 〔質〕 アツ、エチ。乙黠切 〔黠〕
㊀玄鳥、つばめ。〔張融〕「道-佛兩殊、非レ鳧則一」。
㊁物の出で難き貌にいふ字。〔陸機〕「思一一一其若レ抽」。

【九】キウ、ク。擧有切 〔有〕
㊀八に一を加へたる數、こゝのつ、易學にて陽の數。〔易〕「乾、元用一一」。
㊁こゝのたび。〔書〕「簫-韶一一成」。
㊂數多きことに借りいふ字、もろもろ。〔公羊〕「葵-丘之會、桓-公震而矜レ之、叛者一-國」。
㊃ひさし、（久）。〔陳絳〕「洪-容-齋五-筆一作レ久、陽-數一爲レ老、久義也」。
〔九々〕 算法をいふ。〔韓詩〕「有下以二一一一見者上」。
〔三九〕 三公九卿。〔後漢〕「一一之位」。
〔初九〕 易の卦にて陽爻の初め。
〔上九〕 易の卦にて陽爻の終り。
〔陽九〕 易にて老陽の數、窮厄、わざはひ。〔文天祥〕「嗟予遘二一一一」。

【九】キウ、グ。渠尤切 〔尤〕
㊀鳩に通じ用ふ、あつむ。〔論〕「一二合諸-侯一」。
㊁糾に通じ用ふ、たゞす。〔莊〕「一二雜天-下之川一」。

二畫

【乞】キツ、コチ。去訖切 〔物〕
㊀こふ。
（い）求む。〔禮〕「三-王有一レ言」。
（ろ）要む。〔黃庭堅〕「東-坡-居-士極不レ惜レ書、然不レ可レ一」。
（は）物もらひす、人に施與を願ふ。〔史〕「行一二于市一」。
㊁こじき、こつじき。〔進〕「盜レ財而予レ一」。
〔寒乞〕 こじき、こつじき、ものもらひ。〔宋〕「外-舍-家一一」。

【乞】キ、ゲ。丘既切 〔未〕
あたふ、（與）。〔晉〕「以レ墅一レ汝」。

【也】ヤ、エ。羊者切 〔馬〕

㊀決定の意を表はす字、なり。○〔孟〕「不レ遇二魯-公一天—」。
㊁語の發端に用ふる字、これ。○〔岑參〕「—知鄕-信日應レ疏」。
㊂疑問に用ふる字、か、や。○〔賈誼〕「死二人-手一、爲二天-下笑一者何—」。
㊃詠歎に用ふる字、かな。○〔左〕「惜—、不レ如三多與二之邑一」。
㊄說きあかしに用ふる字、ならば、なれば。○〔司馬遷〕「何—素所二樹-立一使レ然也」。
㊅呼びかけに用ふる字、や。○〔韓愈〕「是物—負三其異二於衆一」。

〔也〕
ヤ、エ。羊謝切 馮

また、亦よりは意やゝ緩かなる字。○〔杜甫〕「靑-袍—自レ公」。

六畫

〔乱〕
俗の亂の字。

七畫

〔乳〕
ジユ、ニユ。而主切 麌

㊀ち、ちゝ。
(い)人の左右の上胸にある凸狀のもの、獸類には腹胸にありて其の數も多し、すべて女性のものは男性のものに比して甚だ大きくこれより液汁を釀し出だす、ちぶさ。○〔耆舊記〕「有二—女-子一、浴二於渭-水一、—長七-尺」。
(ろ)ちぶさより出づる白色の液汁、生兒を哺育するに必要なるもの、ちしる。○〔魏〕「常飮二牛——一、色如二處-子一」。
(は)洞穴などにて鑛物の液の滴り凝りて種々の形を成せるもの、石鐘乳、いしのち。○〔韓愈〕「泄——交二巖-脈一」。
(に)すべて器具などに乳頭の如き凸狀をなすものゝ稱。○〔溪蠻叢談〕「長-笛三-十-六—、重百-餘-觔」。
㊁やはらか、又、やはらぐ、(柔)。
㊂子を生む(胎生のものにいふ)。○〔漢〕「婦-人免—」。
㊃ちを飮ます。○〔左〕「虎—レ之」。
㊄やしなふ、そだつ、いつくしむ、(字)。○〔李固〕「豈無二阿——之恩一」。

〔玉乳〕　梨の異名。
〔天乳〕　星の名。
〔竹乳〕　竹のあぶら。
〔孩乳〕　至りて稚きこと。○〔後漢〕「年在二——一」。
〔稚乳〕　前に同じ。○〔鄭俠〕「正當-時——」。
〔甦乳〕　歸るときの容易に得べからざる義にいふ語、漢の蘇武の故事。○〔漢〕「——乃得レ歸」。
〔哺乳〕　ちをのますこと、又、やしなひ。○〔後漢〕「絕二其———、立可二饑-殺一」。
〔孤犢觸乳〕　過愛の兒の親を毆ぐとに借りいふ語。○〔後漢〕「諺曰、————」。

八畫

〔丮〕
キウ、グ。渠尤切 尤

男女の道猥ならず、たゞし、(正)。○〔揚雄〕「謹二於娶—一、初貞後寧」。

十畫

〔乾〕
ケン、ゲン。渠焉切 先

㊀易の卦の名、☰（乾下乾上）○〔易〕「—元亨」。
㊁戌と亥との閒の方位、卽ち西北の閒、いぬゐ。○〔易〕「—西-北之卦也」。
㊂そら、あめ。
(い)思想上の天。○〔舊唐〕「承レ—之道、既光二被于無-垠一」。
(ろ)形體上の天。○〔庾信〕「基レ—峻極」。
㊃君主、帝位の義に借り用ふる字。○〔晉〕「儷二—儀一而合レ德」。
㊄行きて變はらず、息まず、勤めて倦まず、守りしつとむ、すゝむ。○〔易〕「君-子終-日———」。

〔連乾〕　乘馬の飾り。○〔晉〕「—-馬著二———一」。
〔九乾〕　九天に同じ。○〔崔駰〕「仰翔二遠于———一」。
〔皇乾〕　天の敬稱。○〔後漢〕「———眷レ命」。
〔靈乾〕　前に同じ。○〔齊〕「聖-皇應二———一」。

〔乾〕
カン。古寒切 寒

㊀かわく、ひる。
(い)濕氣去る。○〔周〕「朝曝夕乃—」。
(ろ)水涸る。○〔梁元帝〕「碧-海有レ—」。
(は)潤澤竭く、生氣絕ゆ。○〔左〕「外彊內—」。
㊁かわかす。
(い)かわかしむ、ほす。○〔莊〕「將二被-髮而——一」。
(ろ)甚しく貨利を収斂す。○〔史〕「始爲二小-吏一—-沒」。

〔旱乾〕　ひでり。○〔孟〕「——水-溢」。

十二畫

〔亂〕
ラン。郞段切 翰

㊀みだる、みだるゝこと、みだれ。
(い)規律やぶる、順序たゝず。○〔書〕「民-彝大泯—」。
(ろ)入りまじる、混雜す。○〔漢〕「諸-子之語、紛-然殽—」。
(は)はなれ散る、ちらばる、ばらばらになる。○〔史〕「起二糾-合之衆一、收二散—之兵一」。
(に)凶惡を行ふ、禮儀を失す。○〔禮〕「不レ可レ使レ爲レ—」。
(ほ)惑ふ、昏む、煩ふ。○〔蜀〕「今已失二老-母一、方-寸—矣」。
(へ)外寇、內騷。○〔韓愈〕「當二秦-氏之敗-——一、得二—-士一而可レ王」。
(と)事定まらず。○〔禮〕「仲-梁-子曰、夫-婦方—、〔註〕喪-次男-女哭-位、未レ成レ列也」。
(ち)みだれしむ、みだす。○〔史〕「非二當-世一、惑二——黔-首一」。
(り)河水の流れを橫切りわたる。○〔詩〕「涉レ渭爲レ—」。
㊁をさむ、(治)。○〔書〕「予有二——臣十-人一」。
㊂音樂のをはりの章。○〔論〕「師-摯之始、關-雎之—」。

〔內亂〕　國內の亂。○〔禮〕「——不レ與焉」。
〔霍亂〕　暑氣に中てられて起こる吐瀉病。○〔通典〕「夏-月暑-時、歐-洩——之病相-隨-屬也」。

〔亃〕
イ。於戲切 寘

㊀—-賫は、さも似たり、(依-稀)、一說に、錦の文の貌にいふ語。○〔左思〕「——賫錦-繢」。
㊁貪りて施すことを嫌ふ、なしむ、やぶさかなり、(吝)。

亅部

〔亅〕
ケツ、其月切 月
ゴチ。切

〔說文〕象形、凡亅之屬皆从亅、讀若「橜」。

鉤を逆にする狀をなせるもの、かぎ。

〔乚〕
ケツ、コチ。居月切 月

㊀かぎのしるし、(鉤-識)。
㊁かぎ。

〔乚〕
テイ、テ。陟衞切 霽

【乚】 テイ、テ。陟衛切 （霽）

ほこ、（戟）。

二畫

【了】 レウ。盧鳥切 （篠）

❶曉解す、さとる。〇〔晉〕「吾所レ不レ一、右・候巳一」。「分一一」。
❷あきらか、（明）。〇〔隋〕「惟周・易最爲二
❸さかし、（慧）。〇〔後漢〕「小而一一、大未二必奇一」。
❹すむ、（濟）、をはる、（訖）、さだまる、（決）。「〇〔北〕「責一矣」。
❺こゝろよし。〇〔揚雄〕「一快也、秦曰レ一」。「なす。

〔秦吉了〕 きうくわんてう、鸜鵒に似て善く人語を

三畫

【予】 ヨ。余呂切 （魚）

❶余に同じ、おのれ、われ。〇〔論〕「天生二德於レ一、桓・魋其如二一何一」。
❷與に通じ用ふ、あたふ、たまふ。〇〔周〕「聽二取一一以二書・契一」。

七畫

【事】 シ、ジ。鉏吏切 （寘）

❶こと。
（い）人世に起これる無形のもの、泛稱、ことがら。〇〔禮〕「物有二本・末一、一有二終・始一」。
（ろ）志こと、わざ、志わざ、つとめ。〇「一之國」。〇〔易〕「作レ一謀レ始」。
（は）異變、騷亂。〇〔蘇轍〕「四・方無レ一之」。
❷つかふ。
（い）つかへまつる、（奉）。〇〔禮〕「父亦
（ろ）もちふ、（役）。〇〔史〕「一二國・人一」。
❸こととす。
（い）ことを立つ、たつ。〇〔周〕「一レ典」。
（ろ）なす、（爲）、いとなむ、（營）、をさむ、（治）。〇〔書〕「惟一レ事、乃其有レ備」。
❹剚に同じ、さす、さしはさむ。〇〔漢〕「一二刃於公之腹一」。

〔幹事〕 主として其の業務を擔任すると、又、其の役。〇〔易〕「貞・固足レ以一レ一」。
〔從事〕（い）仕事を執り行ふと。〇〔詩〕「黽・勉一一、不二敢告レ勞」。（ろ）記錄を掌る役、刺史の下役。
〔錄事〕 官署に生じたる事柄を記錄する役。
〔判事〕 訴訟を斷定し犯罪を糺明する役。〇〔唐〕「決・斷不レ滯、與・奪合レ經、爲二一一之最一」。
〔理事〕 己れの擔任せる事を處置すると、又、其の役。〇〔晉、傳〕居レ位一レ一」。
〔主事〕（い）專ら一事を擔任すると。〇〔孟〕「使二之一レ一而事治」。（ろ）役の名。〇〔宋〕「一一四・人」。
〔執事〕（い）事を行ひ爲すと。〇〔論〕居・處恭、一レ一敬、與レ人忠」。「一一一」。
（ろ）一家の事務を擔任する役。〇〔左〕「使下臣犒二一一」。
〔稼事〕 農事に同じ。〇〔春〕「一一既超」。
〔故事〕（い）昔ありし事ども。〇〔史〕「余所レ謂述二一一、整二齊其世傳一、非二所レ謂作一也」。
（ろ）先例。〇〔漢〕「明二習一一、奉レ使不レ辱レ命」。
〔三事〕（い）三公に同じ。〇〔詩〕「一一大・夫、莫二肯夙夜一」。
（ろ）父と師と君との稱。〇〔國〕「民生二於レ一、一之如レ一、父生レ之、師教レ之、君食レ之」。
（は）農事に同じ。〇〔詩〕「不レ留不レ處、一一就レ緖」。
（に）己れを正しくし民を利すると。〇〔書〕「六・府一一允治」、〔註〕正二身之德一、利二民之用一、厚二民之生一、此一一惟當」諧二和之一」。「一不レ成」。
〔大事〕（い）大いなる事業。〇〔論〕「見二小利一、則一一不レ成」。
（ろ）大いなる事柄。〇〔老〕天・下一一、必作二于細一」。
（は）重に祭事にいふ。〇〔禮〕「大・夫、士有二一一、省二于其君一」、〔註〕「一一謂二給・祭一也」。
（に）又、兵事。〇〔孫〕「兵者國之一一」。
〔公事〕（い）一家外の事務。〇〔詩〕「婦無二一一」。
（ろ）官府の仕事。〇〔史〕「子・羽非二一一、不レ見二卿大・夫一」。
〔古事〕 故事に同じ。
〔成事〕 既に成就したる事柄。〇〔史〕「愚・者闇二一一、智・者睹二未・形一」。
〔遂事〕 前に同じ。〇〔論〕「一一不レ諫」。「方」。
〔好事〕（い）善き事柄。〇〔周〕「后有レ一一于四・方一」。
（ろ）或る一事を片寄り好むと、ものずき。〇〔孟〕「一一者爲レ之也」。
〔官事〕 官府の仕事。〇〔論〕「一一不レ攝」。
〔俗事〕 世間普通の仕事、主に利慾の意。〇〔神仙傳〕「欒・巴少而好レ道、不レ修二一一」。
〔百事〕 もろ〳〵の事業。〇〔書傳〕「舜舉八凱、使レ接・度一一一」。
〔萬事〕 前に同じ。〇〔書〕「一一墮哉」。
〔庶事〕 前に同じ。〇〔書〕「一一康哉」。
〔疑事〕 確とどり定めがたき事。〇〔戰〕「一一無レ功、疑・行無レ名」。「一」。
〔戎事〕 兵事に同じ。〇〔北〕「整二兩甲・兵一、戒二爾一一」。
〔私事〕 自家の事、公事の對。〇〔孟〕「公・事畢、然後敢治二一一」。
〔國事〕 國家の政。〇〔史〕「入則與レ王圖二議一一」。
〔封事〕 己れの意見を述べたる書を他見を憚り密封して直に君に上奏すると。〇〔漢〕「上令二吏・民得レ奏二一一」。「一二一周室」。
〔臣事〕 臣として服從すると。〇〔左、註〕「言其不レ
〔師事〕 師として事ふると。〇〔左〕「孟・懿・子與二南・宮・敬・叔一一二一仲・尼一」。
〔兄事〕 他人を我が兄の如くにし事ふると。〇〔禮〕「十・年以長、則一二一之」。「其一一」。
〔軼事〕 散逸して世にありふれざる事實。〇〔史〕「論二其軼事」。
〔陰事〕（い）房事。〇〔周禮〕「掌二王之一一陰・令」。
（ろ）祕密。〇〔史〕「有下能探二得趙・王之一一一者上」。
〔通事〕（い）外國との交際。〇〔周〕「掌二邦國之一一、而結二其交・好一」。「一之吏」。
（ろ）兩國人の語を通じ告ぐる人。〇〔李華〕「館二一一」。
（は）事を處置すると。〇〔梁元帝〕「劬・勞一レ一」。
〔絲事〕 紡績など婦人の仕事。
〔麻事〕 麻うみなど婦人の仕事。
〔蠶事〕 養蠶のと。
〔口事〕 讒言。〇〔戰〕「固知レ將レ有二一一」。
〔塵事〕 世俗の事。〇〔陶潛〕「遂與二一一冥」。
〔烟塵事〕 騷亂。〇〔張籍〕「若無二紫・塞一一一」。
〔閫外事〕 戰陣のと、又、地方の政。〇〔唐〕「一一一與二任・璞一籌レ之」。「之一一重損二人・力一」。
〔不急事〕 必要ならざる事業。〇〔北〕「不下爲二一一一」。
〔頭上事〕 手近なる事柄。〇〔白居易〕「不レ知二一一一」。
〔目前事〕 前に同じ。〇〔列〕「一一之一、或存或「廢」。
〔參知政事〕 宋の時、宰相の下に在りて國家の大政に參與し庶務を掌理したる役。
〔同平章事〕 唐の時、宰相の實權を握りたる役。
〔靑州從事〕 上き酒の異名。〇〔世說〕桓・公有二主簿一、善別レ酒、有レ酒輒令二先嘗一、好者謂二一一一、惡者謂二平・原督・郵一」。

二部

【二】 ジ、ニ。而至切 （寘） 一弍に通じ用ふ。

❶一に一を加へたる數、ふたつ。〇〔莊〕「一與レ一爲レ一」。
❷ふたゝび、（再）。〇〔蘇洵〕「一敗而三勝」。
❸つぎ、（次）。〇〔韓〕「君行一、臣行一」。
❹ならび、たぐひ。〇〔史〕「功無レ一二於天・下一」。
❺ふた心、又、うたがひ。〇〔左〕「必報レ德、有レ死無レ一」。

〔莫二〕 雙びなきと。〇〔後漢〕「親舉一レ一」。
〔不二〕 二樣にならざると。〇〔荀〕「精・神相反、一而一レ一爲二聖・人一」。
〔巽二〕 風の神。〇〔幽怪錄〕「一一起レ風」。
〔九二〕 易卦にて下より數へて二つ目の陽爻の稱。
〔六二〕 易卦にて下より數へて二つ目の陰爻の稱。
〔不知二〕 或る一事のみを知りて其の他を知らざると。〇〔鹽鐵論〕「知レ文而不レ知レ武、知レ一而一レ一」。「一」。
〔聞一知二〕 悟りの早きと。〇〔論〕「賜也、一レ一一」。

二畫

【亍】 チョク、恥錄切 （沃） チュ、屯句切 （遇） トク。ツ。

❶小しく步む、又、右足の步み。
❷步みをとゞむ、たゝずむ。〇〔左思〕「澤・馬一レ阜」。

【于】 ウ、チ。羽俱切 （虞）

❶語の發端に用ふる字、ここに。〇〔詩〕「一以采レ蘩」。
❷に。

(い)方向と動作との關係を表はすに用ふる字。〇〔論〕「志二一學一」。(ろ)地位と動作との關係を表はすにいふ字。〇〔孟〕「邑二一岐山之下一」。
㊂比較に用ふる字、より。〇〔書〕「一レ湯有レ光」。
㊃なす、(爲)。〇〔禮〕「宜レ之一レ假」。
㊄ゆく、(往)。〇〔書〕「予翼以一」。
㊅廣大なる貌にいふ字、おほいなり。〇〔禮〕「易一雜者、未二之有一也」。
㊆鐘の口の兩角の閒。〇〔周〕「銑閒謂二之一一」。
㊇迂に通じ用ふ、まぐ。〇〔禮〕「況一二其身一、以善二其身一乎」。
〔諸于〕大袖の衣。〇〔漢〕「衣二緋繡一一一」。
〔臺于〕〔軒于〕共にみそさゞいの別名。
〔單于〕匈奴の酋長。〇〔漢〕「匈奴大一一」。
〔于々〕(い)步行の貌にいふ語。〇〔韓愈〕「一一焉而來矣」。(ろ)自得の貌にいふ語。〇〔莊〕「其臥徐々、其覺「一一」。
〔友于〕兄弟の仲睦しきこと。〇〔書〕「惟孝一二一兄弟一」。

【于】キョ、コ。休居切 〔魚〕

吁に通じ用ふ、あ、あゝ、歎きの聲。〇〔詩〕「一嗟麟兮」。

二畫

【云】ウン、ヲン。王分切 〔文〕

㊀言を爲す、いふ、いはく、まうす。〇〔孟〕「入一則入、坐一則坐」。
㊁めぐる、(運)。〇〔管〕「四時一一下」。
㊂狎れ昵みて往來す、かへる、ゆきかふ。〇〔左〕「其誰一レ之」。
㊃無意味の助字、こゝにと讀むとあり。〇〔詩〕「伊誰一憎」。
㊄芸に同じ。〇〔莊〕「萬物一一一一」。
〔云々〕(い)くさぐの物語、又、雜話。〇〔史〕「獲レ若レ一一于陳倉北阪一」。(ろ)云かく、又、かくかく、語の多きを略するときに用ふる語。〇〔史〕「武帝曰、吾欲二一一一」。(は)事の盛んなる貌にいふ語。〇〔莊〕「萬物一一」。
〔紛云〕事の盛んに興こる貌にいふ語。〇〔司馬相如〕「威武一一」。
〔言云〕ことば、語ること。〇〔左〕「子之一一、又焉用レ盟」。
〔足云〕いふ程の價值あり、稍や可とするの意。〇〔魏都賦〕「張儀張祿亦一一」。
〔不足云〕いふ程の價値なし、輕視する意。〇〔耶律楚材〕「餘子紛々一レ一レ一」。
〔何足云〕意前に同じ。〇〔蘇軾〕「文章一一レ一」。

【互】コ、ウ。胡誤切 〔遇〕

㊀たがふ、(差)。〇〔薛能〕「差一忽離レ城」。
㊁入り代はる、かはる。〇〔書、疏〕「秋冬相與一」。
㊂入り雜る、まじはる。「一爲レ文」。〇〔書、疏〕「錯一」。
㊃かはるぐ、たがひに。〇〔白居易〕「除レ官遞一掌二綵綸一」。
㊄龜、鼈、蚌、甲殼の屬。〇〔周〕「掌レ取二一物一」。
㊅らち、(埒)。〇〔周〕「修閭氏掌レ比二國中宿一樣者一」、〔註〕「一謂二行馬一、所四以障二一禁三止人一」。「之一一」。
㊆肉を懸くる架。〇〔周〕「供二其牛牲之一一」。

【五】ゴ、グ。疑古切 〔麌〕

㊀一に四を加へたる數、いつゝ。〇〔韓愈〕「在レ十去レ一」。
㊁いつたび。〇〔蘇洵〕「一戰二於秦一」。
〔九五〕(い)易卦にて下より數へて五つ目の陽爻。〇〔易〕「一一、飛龍在レ天」。(ろ)九五の爻は君の位に配當する故に、轉じて君位の稱。〇〔易、疏〕「王者居二一一一」。
〔六五〕易卦にて下より數へて五つ目の陰爻。〇〔易〕「一一、黃裳玄吉」。
〔什五〕軍隊にて十人、或は五人の組合の稱。〇〔禮〕「軍旅一一、同レ爵則尙レ齒」。
〔三五〕(い)三皇と五帝と。〇〔史〕「述二一一之法一」。(ろ)三辰と五星と。〇〔史〕「爲レ天數一必通二一一一」。(は)十五夜、十五の數。〇〔古詩〕「一一明月滿」。

【井】セイ、シヤウ。子郢切 〔梗〕

㊀地に穴を掘りて水を出だせる所、ゐど。〇〔孟〕「掘レ一九仞、而不レ及レ泉」。
㊁一里四方の田地、卽ち、九百畝をいふ、古昔、支那にて其の面積を井の字形に劃して九區となし、一區百畝を一家に給與し、中央の一區を公田とし、周圍の八家をして共力して耕作せしめ、その收穫を以て官租とす。〇〔孟〕「方里而一、一九百畝」。
㊂古昔、支那にて天の星宿を全土に配當して分割して二十八星宿としたるもの丶一、ちゝり。〇〔史〕「五星聚二東一一」。
㊃易の卦の名、☵☴ 坎上巽下 〇〔易〕「一改レ邑」。
㊄ゐげた、又、ゐげた形、又、てんじやう。〇〔左思〕「綺一列疏」。
〔井々〕(い)物事の正しく整ひたる貌にいふ語。〇〔荀〕「一一兮其有二條理一」。(ろ)往來の連屬せる貌にいふ語。〇〔易〕「往來一一」。
〔市井〕古昔、支那にてゐどのある所によりて市を成し、よりて人家の多き處をいふ、卽ちまち。〇〔國〕「爲レ商就二一一一」。
〔閻井〕前に同じ。〇〔何承天〕「燒二却一一一」。
〔四井〕井田四つを合はせたるもの、卽ち邑。〇〔周〕「一一爲レ邑」。
〔藻井〕水草を畫きたる天井、又、單に天井。〇〔風俗通〕「今殿作二天井一、井者東井之象也、藻水中之物、皆所二以厭一レ火也」。
〔湯井〕溫泉。〇〔潘岳〕「一一溫谷」。
〔六十四井〕井田六十四を合はせたるもの、卽ち甸。〇〔詩、箋〕「一一一一一爲レ甸、甸方八里」。

四畫

【亘】クワン、グワン。胡官切 〔寒〕

桓に同じ。
〔烏亘〕鳥の名。

【亘】セン、ゼン。息緣切 〔先〕

㊀もとむ、(求)。
㊁志く、(布)。

【亙】コウ。古鄧切 〔徑〕

きはむ、きはまる、(極)、あまねし、(徧)、とほす、とほる、(通)、わたる、わたす、(竟)、又、のびひろがり、ながさ、ひろさ。〇〔詩〕「一二之秬秠一」。
〔聯亙〕連なりわたる。〇〔唐〕「第舍一一」。
〔綿亙〕前に同じ。〇〔謝靈運〕「山嶺一一」。
〔綿亙〕ながさ。〇〔後漢〕「一一數十里」。

【亙】コウ。古鄧切 〔徑〕

㊀ゆみはりづき、(月弦)。
㊁亙に同じ。

五畫

【亟】キヤウ、カウ。虛放切 〔漾〕

語の發端に用ふる字、こゝに。〇〔詩〕「一也永歎」。

【亟】ショク、ソク。之六切 〔屋〕

祝に借り用ふ、漢の管相の謂二孔廟一碑に祝基を一一其に作れり。

【些】シヤ、セ。寫邪切 〔麻〕

すこし、すくなし、(少)。〇〔辛棄疾〕「今較減一一」。
〔些々〕すこし許り、僅か、又すくなし。〇〔白居易〕「一一口業猶誇レ詩」。

【些】サ、セ。蘇箇切 〔箇〕

無意味の助字。〇〔楚辭〕「何爲四方一」。

〔止些〕山の名、竹の名處。〇〔博物〕「－・－山多竹、長千仞」。

【此二】シ。即移切 支
人の死をなげく。

【此二】サ。桑何切 歌
葬りを送るさきの挽歌の聲。
〔邏些〕吐蕃にある城の名。
〔崗些〕〔充光些〕皆嶺廣の名。

【此二】セイ、サイ。息計切 霽
㊀よし（可）。㊁この、これ（此）。
㊂なんぞ（何）。

六畫

【亞】ア、エ。衣駕切 禡
㊀背の曲がりし形などにいふ字、みにくし（醜）。「蕭之－」。
㊁つぐ、つぎ（次）。〇〔蜀〕「諸-葛-亮管-
㊂すくなし（少）。
㊃つく（就）。㊄相依る、よる。
㊅あはす（配）。
㊆婭に同じ、相婿。〇〔詩〕「瑣-々姻-－」。
㊇稏に通じ用ふ、いね（稻）。
〔流亞〕つぎ。〇〔晉〕「孫-仲-謀香-寶-玉之－－－也」。
〔匹亞〕前に同じ。〇〔歳寒堂詩話〕「其-得-意-處-子美之－－」。

【亞】ア、エ。於加切 麻
わかる、また、えだ（岐）。〇〔趙古則〕「物之岐者曰レ－」。

【亞】壓に通じ用ふ、おす、おさふ。
〇〔杜甫〕「花－欲レ移レ竹」。

【亞】チ、ウ。烏故切 遇
ます（增）。

【亞】アク。烏落切 藥
㊀堊に通じ用ふ、牆を塗り飾る。
㊁惡に通じ用ふ。〇〔語林〕「宋人有レ獲二玉-印一、文曰二周-惡-夫印一、劉-原-父曰、漢條-侯、（周－－）-父印」。

七畫

【亟】キョク、ケキ。訖力切 職
㊀急速に、直に、すみやかに。〇〔詩〕「經-始勿レ－、庶-民子來」。
㊁すみやかなり、はやし、とし（疾）。〇〔淮〕「火逾然而消逾－」。
㊂餘裕なし、けはし、いそがはし、あわただし。〇〔元稹〕「惜二其心太－一」。

【亟】キ。去吏切 寘
度を重ぬ、たびたび、しばしば。〇〔孟〕「－問－餽二鼎-肉一」。

亠部

【亠】トウ、ヅ。徒鉤切 尤
義闕く。

一畫

【亡】バウ、マウ。武方切 陽
㊀うす、うしなふ（失）。〇〔家語〕「楚人－レ弓、楚人得レ之」。
㊁ほろぶ、ほろぼす（滅）。〇〔左〕「脣－齒寒」。
㊂死ぬ、死にし者。〇〔潘岳〕「有二悼レ－詩一」。
㊃さる（去）、のがる、にぐ（逃）。〇〔漢〕「蕭-何聞二信－一、自追レ之」。
㊄忘に同じ、わする。〇〔北〕「古-事有レ所二遺－一」。
㊅存せず、なし。〇〔晉〕「人-琴倶－」。
〔荒亡〕飲酒に耽りて志を失ふこと。〇〔孟〕「流-連-－-－」。
〔脣亡〕輔けのほろぶることにいふ語。
〔逋亡〕惡事などをなして逃げ去ること、又、其の者。〇〔史〕「發-諸－－人一」。
〔流亡〕家居を定めずさまよふこと、又、其の者。〇〔漢〕「農-人所レ以－－一」。
〔往亡〕旅行、出陣などを忌む凶日の名。〇〔六帖〕「將レ攻二某-容-超一、諸將請レ忌二－－日一」。

二畫

【亡】ブ、ム。微夫切 虞
無に同じ、なし。〇〔論〕「－而爲レ有」。

【亢】カウ。居郎切 陽
くび（頸）、のんど（咽）。〇〔史〕「搤二其－一」。

【亢】カウ。苦浪切 漾
㊀二十八宿の一、あみぼし。〇〔春秋元命包〕「－四-星爲二廟-庭聽レ政之所一」。
㊁むね（棟）。〇〔逸周〕「重－重-郎」。
㊂あたる（當）。〇〔揚雄〕「威-謀無レ－」。
㊃すぐ（過）、さかふ（逆）。〇〔秦觀〕「此乃奸-人、故爲二矯－一、盜二虛-名一于亂-世一」。
㊄つよし、つよくす（强）。〇〔左〕「吉不レ能レ－レ身、焉能－レ宗」。
㊅おほふ（蔽）、ふせぐ（拒）。〇〔左〕「晉禦二其上一、戎－二其下一」。
㊆あぐ、あがる（擧）、又、自ら恃む、たかぶる。〇〔唐〕「塞－以二門-望一自-負」。
㊇けだかし、たかし（高）。〇〔左、疏〕「高-明謂二人-性之高－爽-明一也」。
㊈きはまる、きはむ（極）。〇〔左〕「可二以－レ寵」。
㊉あやまち、あやまつ（愆）。〇〔左〕「可レ無レ－」。
⑪陽威の甚だ盛んなること、ひでり（旱）。〇〔庾信〕「純-陽實久－」。

四畫

【交】カウ、ケウ。古肴切 肴
㊀此の方も彼の方も、こもごも、かはるがはる、たがひに、ともに。〇〔孟〕「上下－征レ利而國危矣」。
㊁まじはる。
(い)合ふ。〇〔屈平〕「爲二－佩一」。
(ろ)往來す、ゆきかふ。〇〔公羊〕「臣－－易爲レ言」。
(は)好みを通ず、つきあふ。〇〔五〕「傾レ貲－レ之」。
(に)入りまじる、行きあふ。〇〔宋〕「矢-石既－、呼-聲振二山-谷一」。
(ほ)めをとを媾合す。〇〔禮〕「虎始－」。
㊂まじはらしむ、まじふ。〇〔禮〕「男-女不レ－レ爵」。
㊃まじはること、まじはり、つきあひ、よしみ。〇〔諸葛亮〕「勢-力之－」。
㊄とも（朋-友）。〇〔史〕「鄙-況實レ－」。
㊅此れを與へて彼れを取る、かふ。〇〔宋〕「雖レ曰レ平二均物-直一、而不レ免二貨－以取レ利」。
㊆此れ去り彼れ來たる、かはる。〇〔周〕「天-地之所レ合也、四-時之所レ－」。
㊇かはる時、かはりめ、又、晦朔の間。〇〔詩〕「十-月之－」。
㊈會合する場所。〇〔典略〕「戰二于河-渭之－一」。
㊉えり（衣-領）。〇〔揚雄〕「衿謂二之－一」。

⑪蛟に同じ、みづち。○〔漢〕「見二――精旋目一」。「――龍於上一」。

⑫鵁に同じ、鳥の名、ごゐさぎ。○〔史〕「可平」。

〔定交〕 朋友となること。○〔易〕「――其――而後求」。

〔結交〕 前に同じ。○〔史〕「先生得二――于荊軻一、「地、以來二――一」。

〔外交〕 (い)他國とのつきあひ。○〔史〕「割二其主之彌――之――一」。(ろ)又、個人と國外の人とのつきあひ。○〔漢〕「無二楚之間、將レ爲二――也」。

〔國交〕 國と國とのつきあひ。○〔史〕「重幣輕使、秦

〔交々〕 鳥の飛びかふ貌にいふ語。○〔詩〕「――黃鳥」。「叔宅二――一」。

〔南交〕 支那の南方、交趾の地。○〔書〕「中二命義

〔絕交〕 つきあひをやむること。○〔戰〕「西生二秦患一、北――齊――一、則兩國兵必至矣」。

〔面交〕 上べのみのつきあひ。○〔宋〕「吾心實惡レ之、姑不レ爲二――一爾」。

〔舊交〕 昔よりのつきあひ、又、むかしよりの朋友。○〔史〕「見二子產一如二――一」。

〔莫逆交〕 交はりの極めて親しきこと。○〔唐〕「與二陽城一爲二――一」。

〔深交〕 〔至交〕 共に前に同じ。

〔金石交〕 決して心がはりのせざるつきあひ。○〔漢〕「足下自以下爲與二漢王一爲中――上」。

〔石交〕 前に同じ。○〔史〕「此所レ謂棄レ仇、而得二――一者也」。

〔膠漆交〕 前に同じ。○〔元稹〕「我實――」。

〔金蘭交〕 前に同じ。○〔易〕「二人同レ心、其利斷レ金、同レ心之言、其臭如レ蘭」。

〔刎頸交〕 死生を共にする交はり。○〔史〕「廉頗因二賓客一、至二藺相如門一謝レ罪、遂爲二――之――一」。

〔管鮑交〕 前に同じ、昔、管仲と鮑叔との二人の交はりの極めて睦しかりしよりいふ。○〔北〕「與宋弁結二――一」。

〔忘年交〕 年齡の多少に係はらず友となること。○〔唐〕「張鎰有二重名一、數從見語三日、奇レ之請レ爲二――一」。

〔市道交〕 利慾のつきあひ。○〔史〕「天下以二――一、君有レ勢則從レ君、々無レ勢則去、此固其理」。

〔權利交〕 前に同じ。○〔漢〕「――之――、古人羞レ之」。「雖レ善不レ親」。

〔烏集交〕 詐き易きつきあひ。○〔管〕「――之――、

〔布衣交〕 貴き人の賤しき人と貴賤の別を去りてまじはること。○〔史〕「與レ君爲二――一」。

【亥】 カイ、ガイ。 胡改切 〔賄〕

㊀十二支の一、最も終はりに在るもの、ゐ、方角にては西北と北との閒、又、時にては今の午後十時、月にては十月。○〔元〕「位レ―」。

㊁草の根、荄、 ㊂よる、(依)。

【亦】 エキ、ヤク。 羊益切 〔陌〕

㊀他の事情と同じ事情なる意を表はすときに用ふる字、故に此の字は他に照應する事情あるものをさす、此れも、其れも、此れにても、其れにても、また。

(い)直ちに照應するもの。○〔莊〕「人知レ之―囂々、人不レ知レ之―囂々」。

(ろ)遙かに照應するもの。○〔韓愈〕「昔疏廣、受、二子、以二年老一、一朝辭レ位而去、(中略)國子司業楊君巨源、方以レ能レ詩訓二後進一、一旦以三年滿二七十一、―白二丞相一、去歸二其鄉一」。

(は)文章外に照應するもの。○〔孟〕「叟不レ遠二千里一而來、―將レ有三以利二吾國一乎」。

㊁奕に通じ用ふ、おほいなり。「――服二爾耕一」。○〔詩〕

㊂掖に同じ、左右胕脅の閒、わき。

㊃すぶ、すべて、(總)。 ㊄たゞす、(格)。

㊅ふたゝび、(再)。

㊆諸侯の朝廷の羣臣に對しての自稱。○〔詩〕「―有二和羹一」。

五畫

【亨】 カウ、キヤウ。 許庚切 〔庚〕

㊀故障なく行はる、物事通達す、さはる。○〔易〕「―者嘉之會也」。

㊁脝に同じ、腹ふくる。○〔韓愈〕「家腹漲二彭――一」。

【亨】 ハウ、ヒヤウ切 披庚 〔庚〕 ハウ、鋪郎切 〔陽〕

烹に同じ、にる。○〔詩〕「七月―二葵及菽一」。

【亨】 キヤウ、カウ。 許兩切 〔養〕

享に同じ、たてまつる。○〔易〕「―二于天子一」。

六畫

【享】 キヤウ、カウ。 許兩切 〔養〕

㊀すゝむ。

(い)獻上す、貢獻す、たてまつる、みつぐ。○〔國〕「賓服者―」。

(ろ)禮物を供へて神を祭る、まつる。○〔易〕「―二于西山一」。

(は)酒食を設けて人を待つ、もてなす。○〔左〕「止而―レ之」。

㊁うく。

(い)すゝむるに應ず、すゝむるを納る。○〔孟〕「百神―レ之」。

(ろ)食む。○〔公羊〕「桓公之―レ國」。

(は)受く。○〔漢〕「久―二盛寵一」。

(に)當たる。○〔書〕「克―二天心一」。

【享】 キヤウ、カウ。 許陽切 〔陽〕

前條の㊀に同じ。○〔漢〕「庶幾宴―」。

【享】 キヤウ、カウ。 許亮切 〔漾〕

すゝむ、(薦)。○〔詩〕「―二祖考一」。

【京】 ケイ、キヤウ。 舉卿切 〔庚〕

㊀君王の居城ある地、みやこ。○〔唐〕「召至レ―、領二吏事一」。

㊁地の高く起こりてある處、をか。○〔蘇軾〕「碧畦黃隴稻如レ―」。

㊂おほいなり、(大)、又、たかし、(高)。○〔揚雄〕「燕之北鄙、齊楚之郊、凡人之大、謂二之―一」。

㊃兆を十倍せし數の名、(支那の算法)。○〔康熙〕「十億爲レ兆、十兆爲レ京」。

㊄くぢら、(鯨)。○〔揚雄〕「騎二―魚一」。

〔帝京〕 天帝の居處。○漢武帝故事「願二覩―――一」。

〔皇京〕 天子のみやこ。○〔夏侯湛〕「發二旁――一」。

〔華京〕 みやこの美稱。○〔張銑〕「作二則於――一」。

〔洛京〕 支那古代の君王の都せる處、洛陽に同じ、轉じてみやこ。○〔五〕「洛陽、梁、唐、晉、漢、周常以爲レ都、後唐爲二――一」。「――」。

〔京京〕 憂ひの去り難き貌にいふ語。○〔詩〕「憂心――」。

〔陵京〕 高き丘。○〔蘇軾〕「功成志自滿、積惡如二――一」。

〔三京〕 遼の時、宰相の政務を執る役所。○〔遼〕「―宰相府」。

【京】 キヤウ、カウ。 居良切 〔陽〕

同等にてあり、ひとし、(齊)。○〔左〕「八世之後、莫二之與―一」。

【京】 ゲン、グワン。 愚袁切 〔元〕

原に通じ用ふ。○〔禮〕「從二先大夫於九――一」〔註〕「晉大夫墓地在二九原一」。

七畫

【亭】 テイ、ヂヤウ。 特丁切 〔靑〕

㊀行旅者の停集會宿するを得るために設けたる處、志ゆくば、志ゆく、えき、やどや、はたごや。○〔漢〕「河水溢溢、敗二官――民舍一四萬餘所」。

㊁あづまや、ちん。○〔北〕「起二齋――

㊂渟に同じ、とゞまる、とゞむ。○〔漢〕「其水一一居」。
㊃とゝのふ。
(い)ひとし、たひらか。○〔淮〕「甘立而五味一矣」。
(ろ)ひとしくす。○〔漢〕「平ニ一一疑-法ニ」。
㊄なほし、直。○〔史〕「以征ニ不一一ニ」。
㊅いたる、(至)。○〔孫綽〕「義和一レ午」。
㊆そだつ、(化)。○〔老〕「一レ之毒レ之」。

〔亭々〕(い)山の名。○〔史〕「封ニ泰山ニ禪ニ一一ニ」。(ろ)聳え立つ貌、又、高き貌にいふ語。○〔太公兵法〕「高山聳石、其上一一」。(は)美しき貌にいふ語。○〔獨孤及〕「玉顔一一」。
〔旗亭〕料理店、酒樓、又、はたご屋。○〔靈異記〕「饗ニ一一貰酒、忽有ニ伶官數十人ニ」。
〔郵亭〕前に同じ。○〔白居易〕「毎レ到ニ一一先下レ馬」。
〔青亭〕色青くして大いなる蜻蛉の一名、やんま。

【亮】リヤウ。力讓切 漾　—諒に同じ。
㊀まこと、(信、諒)。○〔孟〕「君子不レ一、惡乎執」。
㊁あきらか、(明)、ほがらか、(朗)。○〔後漢〕「藥術淸一」。
㊂たすく、(佐)、みちびく、(導)。○〔晉〕「翼ニ一三世ニ」。

【亰】京に同じ。

八畫

【亳】ハク、バク。白各切 藥　古昔殷の湯王の都せし處、河南省歸德府。○〔書〕「自レ河徂レ一」。

十一畫

【亶】タン、ダン。多旱切 旱
㊀まこと、又、まことに、(信)。○〔書〕「誕告用レ一」。
㊁おほいなり、(大)、あつし、(篤)。○〔詩〕「逢ニ天一怒ニ」。
㊂かたぬぐ、(袒)。○〔荀〕「露一者也」。
㊃但に同じ、たゞ、たゞし、たゞに。○〔賈誼〕「非ニ一倒懸而已ニ」。

【亶】タン、ダン。杜晏切 翰　但に同じ。

【亶】セン。諸延切 先　行歩進まず、たゞずむ。

【亶】セン、ゼン。時戰切 霰　擅に同じ、もッぱら、ほしいまゝに。○〔荀〕「相國之於ニ勝レ人之勢ニ、一有レ之」。

【亶】タン。多寒切 寒　翾に同じ、飛ぶ、かける。○〔揚雄〕「堪巖一翔」。

十九畫

【亹】ビ、ミ。無匪切 尾
㊀倦まず、つとむ。○〔詩〕「一一文王、令聞不レ已」。
㊁すこし、(微)。
㊂うるはし、(美)。

【亹】ボン、モン。謨奔切 元　水の山と山との間を流れて兩岸の對かひ立つこと門の如き貌をなせる處、みなかど。○〔詩〕「鳧鷖在レ一」。

【亹】ビ、ミ。武悲切 支　眉に同じ、まゆ。○〔周韓城鼎銘〕「用祈ニ一壽ニ」。

【亹】キン、コン。許靚切 震　釁に同じ、きず、ひま。

人部(イ)

【人】ジン、ニン。而眞切 眞
㊀ひと。
(い)天地の間に生を受くる動物の中にて最も貴きもの、にんげん。○〔大〕「可ニ以レ一而不レ如レ鳥乎」。
(ろ)われより外の者、又、世の中の者。○〔孟〕「老ニ吾老ニ以及ニ一之老ニ、幼ニ吾幼ニ以及ニ一之幼ニ」。
(は)ある者。○〔史〕「使ニ一謂ニ子胥ニ曰、子之報レ讎、其以甚乎」。
(に)住む者、居る者。○〔韓愈〕「唯陽之一、不レ食十餘日矣」。
(ほ)こゝろね、たち、(性質)。○〔蘇軾〕「其爲レ一剛愎不遜」。
(へ)一人前の者。○〔歐陽修〕「以長以敎、俾レ至ニ於成ヒ一」。
(と)賢き者、有爲の人物。○〔左〕「子無レ謂ニ秦無ヒ一」。
(ち)たみ、たみぐさ、人民。○〔史〕「堯舜之一、以ニ堯舜之心ニ爲レ心」。
㊁ひとりぐ、ひとぐ。○〔史〕「家給一足」。
㊂ひとの數をあらはすに用ふる字。○〔史〕「劍者一一之敵也、不レ足レ學、不レ若レ學ニ萬一之敵ニ」。
㊃官の名、「封一」、「幕一」など。

〔一人〕皇帝の稱にいふ語。○〔書〕「一一有レ慶、兆民賴レ之」。
〔二人〕父母の稱にいふ語。○〔詩〕「明發不レ寐、有レ懷ニ一一ニ」。
〔良人〕妻の夫を稱するに用ふる語。○〔詩〕「見ニ此一一ニ」。

〔夫人〕(い)王の妃。○〔禮〕「有ニ一一、有ニ世婦ニ」。(ろ)諸侯の妻。○〔禮〕「公侯有ニ一一ニ」。(は)總べて貴人の妻の稱。
〔家人〕(い)易の卦名。(ろ)家の內の者。○〔史〕「卒爲ニ帝與ニ齊王ニ飮、亢禮如ニ一一ニ」。(は)家臣の稱。
〔丈人〕(い)老人の稱。○〔論〕「遇ニ一一以レ杖荷レ蓧」。(ろ)おごそかなる者の稱。○〔易〕「師貞、一一吉」。
〔孺人〕大夫の妻の稱。○〔禮〕「大夫妻曰ニ一一ニ」。
〔道人〕(い)佛者又は道家に入りて得道したる者の稱。○〔智度論〕「得レ道者名曰ニ一一ニ」。(ろ)世事を棄て拘はらざる者の稱。
〔仙人〕人間界を離れて山中に棲息し老いて死なざる者の稱。○〔南〕「此荊楚之一一也」。
〔散人〕禮法を以て羈束すべからざる者の稱、轉じて世事を棄てたる人の稱。○〔陸龜蒙〕「江湖一一」。
〔山人〕世事を棄てゝ山などに隱れたる者の稱。○〔九歌〕「一中一兮」。
〔達人〕(い)道德の極めて高き者の稱。○〔左〕「其後必有ニ一一、今將レ在ニ孔丘ニ乎」。(ろ)すべて諸藝などに妙を得たる者の稱。
〔至人〕〔眞人〕〔神人〕前に同じ。
〔聖人〕智、德、學の最も勝れて萬事に通じて明かなる者。○〔易〕「一一作而萬物覩」。
〔封人〕封城を掌る官。○〔論〕「儀一一請レ見」。
〔虞人〕山澤を掌る官。○〔戰〕「魏文侯與ニ一一ニ期レ獵」。
〔寺人〕後宮の事務を掌る官。○〔周〕「一一掌ニ王之內人及女官之戒令ニ」。
〔宮人〕後宮につかふる婦女。○〔淮〕「一一得レ戟則以刈レ葵」。「置ニ一一ニ」。
〔才人〕歌舞を以て後宮につかふる婦女。○〔宋〕「曾
〔行人〕賓容の接待を掌る官。○〔論〕「一一子羽修ニ飾之ニ」。
〔函人〕甲冑を製作する職工。○〔周〕「一一爲レ甲」。
〔舌人〕通譯を掌る官。○〔東京賦〕「重ニ之一一九譯ニ」。
〔偉人〕世に傑出したる人の稱。○〔魏〕「此三公者、乃一代之一一也」。
〔浪人〕官祿なくして流寓せる士。○〔柳宗元〕「李「赤江湖閒一一也」。
〔予一人〕皇帝の自稱。○〔禮〕「凡天子自稱曰ニ一一一ニ」。
〔斗筲人〕凡庸人の稱。○〔論〕「一一之一、何足「算也」。
〔我黨人〕我が仲間。○〔晉〕「鄕是一一一」。

〔大人〕(い)道徳ある者の敬稱。○〔孟〕「有二｜・｜者一、正レ己而物正者也」。(ろ)政事に與る者、又、地位高き者。○〔孟〕「有二｜・｜之事一」。(は)身の長高き者。○〔山海經〕「東海之外、大荒之中、有二｜・｜之國一」。

〔小人〕(い)心の曲がりし者、又、度量の狹き者。○〔論〕「｜・｜窮斯濫」。(ろ)身分の賤しき者。○〔孟〕「有二｜・｜之事一」。(は)身の長短き者。

〔細人〕(い)前條の(い)に同じ。○〔荘〕「由與レ賜｜・｜也」。(ろ)前條の(ろ)に同じ。○〔史〕「與レ之論二｜・｜一」、則以爲レ禍レ樞」。

〔佞人〕辯舌に巧みにして心術の正しからざる者。○〔論〕「遠二｜・｜一」。

〔成人〕一人前の者。○〔禮〕「已冠而字レ之、｜・｜之道也」。

〔庶人〕人民。

〔故人〕死にし者、又、舊友。

〔舊人〕久しく知り合ひてある者、又、むかしなじみ。○〔晉〕「任二｜・｜一共レ政」。

〔同人〕(い)易の卦の名。(ろ)同志の人。○〔易〕「天與レ火｜・｜、君子以類レ族辨レ物」。

〔上人〕佛家にて道徳堅固に才智圓滿なる僧の敬稱。○〔圓覺要覽〕「内有二智徳一、外有二勝行一、在二人之上一、曰二｜・｜一」。

〔豪人〕官位なきも富みて勢力のある者。○〔漢〕「｜・｜之家、連レ棟數百、膏田滿レ野」。

〔氷人〕婚姻の媒介者、なかうど。○〔晉〕「令狐策夢立二氷上一、與二氷下人一語、統曰、氷上爲レ陽、氷下爲レ陰、君在二氷上一、與二氷下｜一語、爲二陽語レ陰、媒介事一、君當下爲レ人作上レ媒」。

〔異人〕(い)不思議なる事をなす者、即ち仙人の類にいふ。○〔江淹〕「誕二｜・｜一乎精魄一」。(ろ)すぐれたる者。○〔漢〕「｜・｜並出」。

〔玉人〕(い)玉をみがく者。○〔周〕「｜・｜之事」。(ろ)玉にて造りし人形。○〔拾遺記〕「河南獻二｜・｜一」。(は)うつくしき者。○〔晉〕「風神高邁、容儀俊爽、時人謂二之｜・｜一」。

〔偶人〕人形。○〔史〕「土｜・｜與二木｜・｜一相與語」。

〔金人〕鑄物にて人の形を鑄造したる者。○〔賈誼〕「爲二｜・｜十二一」。

〔沒人〕水中に入ることを業とする者、あま。○〔蘇軾〕「南方多二｜・｜一、日與レ水居也」。

〔養形人〕衛生を主とする者。○〔荘〕「道引之士、｜レ｜之｜」。

〔心中人〕我が思ふ者、又、戀しき者。○〔徐幹〕「覩二此｜・｜・｜一」。

〔意中人〕前に同じ。○〔陶潛〕「念二我｜・｜・｜一」。

〔畫眉人〕妻、妾などをいふ。○〔獨孤嗣宗〕「猶是｜・｜・｜」。

〔向隅人〕用事なき者。○〔王均〕「方作二｜レ｜・｜一」。

〔紗籠中人〕宰相となる運命の備はれる者、轉じて、高位に上る見込みある者にいふ語。○〔原化記〕「李藩爲二判官一、有二新羅生能相一レ人、曰、判官是｜・｜・｜・｜、凡宰相姓名、冥司必潛以二紗籠一護レ之、恐レ爲二異物所一レ擾、後果爲レ相」。

〔旁若無人〕他を憚らず己れが儘に振舞ふこと。○〔晉〕「桓溫入レ關、猛被レ褐謁レ之、一面談二當世之事一、捫レ蝨而言、｜・｜・｜レ｜」。

〔南極老人〕天の南極にあたる處にある星の名。○〔史〕「狼比地有二大星一、曰二｜・｜・｜・｜一」。

〔咄々逼人〕能く其の人のものに似たること。○〔法帖釋文〕「王獻少甚能學二衛眞書一、｜・｜・｜レ｜」。

〔東西南北人〕住處を定めずさまよふ者、(各處の者の義にもいふ)。○〔禮〕「今丘也、｜・｜・｜・｜・｜也」。

〔淩煙閣上人〕唐の太宗の功臣の像を淩煙閣の壁に畫かしめしより功名を負ふ朝廷の貴臣をいふ語。○〔元好問〕「辛苦｜・｜・｜・｜・｜」。

二畫

〔什〕 シフ、ジフ。時立切 緝

❶十に同じ。○〔孟〕「或相｜佰」。

❷十人、又、十家。○〔管〕「十家爲レ｜」。

❸詩經にて雅と頌との十篇を一卷となせるを、轉じて詩編をいふ。○〔白居易〕「珠玉傳二新｜一」。

❹常に使用す、つかふ。○〔史、註〕「｜物謂二常用者一、其數非レ一、故曰レ｜」。

〔鳩摩羅什〕天竺より支那に來りて佛書を翻譯せし人の名。

〔仁〕 ジン、ニン。如鄰切 眞

❶體より言へば理の原にして一心の徳、用より言へば、行ひの綜にして萬事の善、道義の樞機、人生の達道。○〔論〕「其心三月不レ違レ｜、其餘則日月至焉而已」。

❷愛情の他に及ぶこと、いつくしみ、あはれみ、おもひやり、なさけ。○〔荘〕「愛レ人利レ物謂二之｜一」。

❸利潤の他に及ぶにもいふ字。○〔淮〕「江水肥｜而宜レ稻」。

❹ひと。○〔孟〕「｜者人也」。

❺人の心。○〔孟〕「｜人心也」。

❻しのぶ(忍)、したしむ(親)、いつくしむ(愛)、あはれむ(憐)。○〔韓愈〕「將下大二其聲一、疾呼而望上レ｜レ之」。

❼人情厚き風俗。○〔論〕「里｜爲レ美」。

❽仁の道を行ふ人、仁者。○〔論〕「愛レ衆而親レ｜」。

❾果實の核の中にありて芽を生ずるもの、即ちされ。○〔顏氏家訓〕「單服二杏｜一」。

〔三仁〕殷の代の三人の仁者。○〔論〕「微子去レ之、箕子爲二之奴一、比干諫而死、子曰、殷有二｜・｜一焉」。

〔不仁〕(い)仁徳なきこと。○〔左〕「臧文仲｜・｜者三」。(ろ)手足の疾病若しくは衰弱によりて心の儘に動かざることにいふ語。○〔方書〕「兒年七十、兩手｜・｜」。

〔輔仁〕朋友の互に道を得んとて勵ましあふこと。○〔論〕「以レ文會レ友、以レ友｜レ｜」。

〔同仁〕彼我の差別をなさずして平等に取扱ふこと。○〔關尹〕「聖人知二我無一レ我、故｜レ之以レ｜」。

〔仂〕 リヨク、ロク。歷徳切 職

❶數餘、あまり。○〔禮〕「祭用二數之｜一」。

❷十分の一。○〔禮〕「喪用二三年之｜一」。

❸三分の一。○〔周〕「以二其圍之｜一捎二其數一」。

❹懈らず、つとむ(勤)。

〔仄〕 ショク、シキ。壯力切 職

❶漢字の上さ、去さ、入さの三聲に屬する字。○〔沈約〕「上去入爲二｜聲一」。

❷そばだつ、かたぶく。○〔後漢〕「每日視レ朝、日｜乃罷」。

❸かすか、ほのか、又、いやし。○〔宋〕「無レ漏二于幽｜一」。

❹かたはら、そば。○〔漢〕「旁｜素餐之人」。

❺うらがへる。○〔魏〕「瞻望反｜」。

〔湢仄〕水の流るゝ貌にいふ語。

〔楅仄〕禾の簇り生ひたる貌にいふ語。

〔赤仄〕支那、漢時代の貨錢の名。

〔仆〕 フ、ホ。芳遇切 遇　フウ、敷救切 宥　ホク、ボク。普木切 屋

❶たふる。(い)前に伏す、ふす。○〔陳〕「銑硯正中二其額一、應レ手而｜」。(ろ)覆る。○〔唐〕「與レ｜植レ僵」。

❷たふれしむ、ふせしむ、たふす。○〔唐〕「相詬曳二｜諸前一」。

〔顛仆〕たふれふす。○〔漢〕「一旦｜・｜、無二以報一稱一」。

〔僵仆〕前に同じ。○〔戰〕「頭顱｜・｜」。

〔殪仆〕前に同じ。○〔王粲〕「顛倒｜・｜」。

〔偃仆〕前に同じ。○〔魏〕「時有レ風、旌旗皆｜・｜」。

〔頓仆〕前に同じ。○〔漢〕「｜二｜座上一」。

〔醉仆〕酒にゑひて倒る。○〔晉〕「｜二｜席上一」。

〔仇〕 キウ、グ。巨鳩切 尤

❶對耦者、配匹、あひて、たぐひ、さも、つれあひ。○〔梁武帝〕「鳴琴和二同｜一」。

❷怨敵(讐敵)、うらみ、あだ、かたき。○〔史〕「以レ軀借レ交報レ｜、藏レ命作レ姦」。

〔仇々〕傲る貌にいふ語。○〔詩〕「執レ我｜・｜」。

〔強仇〕優勢なる敵。○〔戰〕「棄二｜・｜一而立二厚交一也」。

(雪仇)　かたきをかへし恥をすゝぐ。○[魏]「昭-王血レ病以ーレー」。
(好女仇)　美しき女。○[史]「爽-女者ーー之ー」。
(君子仇)　德ある人のあひて。○[曹植]「結-髮辭ニ嚴-親一、來爲ニーーー一」。

【仇】　キ、ギ。渠之切　支

前條の㊁に同じ。○[詩]「公-侯好-ー」。

【仇】　キヨ、ゴ。恭於切　魚

くむ(挹)。○[詩]「賓載手ー」。

【今】　キン、コン。居吟切　侵

いま。

(い)當世、現代。○[王羲之]「後之視レー、亦猶ニーー之視ヲ昔」。

(ろ)現在、此の時。○[史]「楚-兵饑疲、ー釋不レ擊、此養レ虎自遺レ患也」。

(は)今日、けふ。○[黃庭堅]「學未レ覺而日西入、明追レー、終不レ及」。

(に)このごろ、ちかごろ、このたび。○[胡詮]「ー者無レ故、誘ニ致虜-使一」。○

(ほ)いまの世態。○[漢]「是レ古非レー」。

(へ)いまの境遇。○[秦觀]「四-者雖レ并、笑ニ我ーー」。

(と)急遽の意をあらはすときに用ふる字、たちまちの義。○[韓愈]「臣常以爲、高-祖之志、必行ニ陛-下之手一、今縱未レ能ニ即行一、豈可ニ恣レ之轉令ヒ盛也ー聞陛-下令ニ羣-僧迎ニ佛-骨於鳳-翔一」。

(ち)言の發端に用ふる殆んど無意味の字、「然るに」、「こゝに」、「ゆゑに」の義に解せらるゝとあり。○[鄒陽]「是以聖-王覺-寤、(中略)ーー人-主誠能却ニ驕-傲之心一(中略)ー夫天-下布-衣窮-居之士(中略)ー人-主沉ニ諂-諛之辭一(下略)」。

(自今)　現時より後。○[晉]「繼ニーー一」。
(而今)　前に同じ。○[楊基]「ーー白髮春風裡」。
(當今)　いまの時。○[左]「ーー吾不レ能ニ與レ晉爭一」。
(方今)　前に同じ。○[魏]「詔曰、ーーー」。
(如今)　前に同じ。○[杜甫]「飄泊至ニーー一」。

【介】　カイ、ケ。居拜切　卦

㊀彼れと此れとの間に立つ、はさまる。○[左]「ーニ居ニー大-國之間一」。

㊁よる、たよる(因)。○[左]「ーニ人之寵一非レ勇也」。

㊂へだつ(隔)。○[左]「偪-ー之關」。

㊃たすく(助)、又、そふ(副)。○[詩]「以ーニ眉-壽一」。

㊄やどる(舍)。○[詩]「攸レー攸レ止」。

㊅おほいなり(大)、よし(善)。○[詩]「ーニ爾景-福一」。

㊆ほそし、ちひさし(小)。○[揚雄]「升ニ東-嶽一而知ニ衆-山之峛-崺一也、況ーー丘乎」。

㊇かたし(堅-確)。○[易]「ーニ于石一」。

㊈あきらか(耿)。○[後漢]「ーーー獨惡レ是耳」。

㊉羣與なし、ひとり、又、ひとりだち(孤-立)。○[後漢]「鄕-黨譏ニ其ーー」。

(十一)獸の配耦なきこと。○[揚雄]「獸無レ耦曰レー」。

(十二)そへ、たすけ、彼れと此れとの間に立つ人、さし副へ人、なかうど。○[禮]「大-夫爲ニ上ーー」。

(十三)兵甲、よろひ、又、よろひを著く。○[禮]「ー冑則有ニ不レ可レ犯之色一」。

(十四)見識、又、節義。○[孟]「柳-下-惠不下以ニ三-公ニ易中其ーー上」。

(十五)ほとり(畔)。○[楚辭]「悲ニ江ーー遺-風一」。

(十六)かぎり(限)。○[易]「憂ニ悔-吝一者存ニ乎ーー」。

(十七)蟲類の甲殼、かふら、かふ、又、龜蟹等凡てかふある蟲類　○[韓愈]「非ニ常-鱗凡ーー之品-彙匹-儔一也」。

(十八)芥に同じ、あくた。○[漢]「不下以ニ往-事一爲中纖ーー上」。

(十九)樹の外部に凝著せる冰。○[漢]「木-冰爲ニ木ーー」。

(二十)ひとり、又、下男。○[左]「不レ使ニ一ーー行-李告ニ于寡-君一」。

(保介)　勸農の官。○[詩]「嗟々ーー」。
(紹介)　人と人との間に立ちて取り次ぐこと。○[史]「平-原-君曰、勝請爲ニーー一、而見ニ之於先-生一」。
(媒介)　人と人との間に在りて取り持つ者、なかうど。○[唐]「古-今用レ人、必因ニーー一」。
(耿介)　心明かにして世俗と相容れざること、又、決心して動かざること。○[後漢]「狷ーー不レ同レ俗」。
(狷介)　節操太だ堅くして人を包容する心の狹きこと。○[禮]「小-心ーー」。
(謹介)　つゝしみぶかきこと。○[宋]「性ーー不ニ好-狎一」。
(走介)　はしり使。○[歐陽原功]「ーー奉ニ一札一」。

【介】　カツ、ケチ。訖黠切　黠

㊀前條の㊉に同じ。○[漢]「ーーニ居河-北一」。

㊁前條の(十三)に同じ。○[漢]「ーー冑之士一」。

【仍】　ジヨウ、ニヨウ。如蒸切　蒸

㊀よる(因)。○[論]「ーニ舊-貫一如レ之何」。

㊁ある事情の繼續する意を表はすに用ふる字、なほ。○[史]「太-史-公ー父-子相-續」。

㊂たびたび、かさねて、しきりに(頻)。○[漢]「饑-饉ー臻」。

㊃かさぬ、かさなる(重)。○[漢]「吉-瑞累ー」。

(仍々)　志を得ざる貌にいふ語。○[漢]「ーー無レ知ニ揺-傾之足一難也」。

㊄乃に同じ、すなはち。○[國]「晉ー無レ道」。

㊅あつし(厚)。

㊆つく(就)。

三畫

【仔】　シ、ジ。祖似切　紙　子之切　支

たふ(任)、又、かつ(克)。○[詩]「佛ニ時ーー肩一」。

【仕】　シ、ジ。鉏里切　紙

㊀まなぶ(學)。

㊁官に就き又は主に役す、つかふ、つかへまつる、つかへ、みやづかへ。○[禮]「ーニ于公一曰レ臣、ーニ于學一曰レ僕」。

㊂あきらか、あきらむ(察)。○[詩]「弗レー弗レ親、勿レ罔ニ君-子一」。

(登仕)　仕へて然るべきか否かを極して後に官に就く。○[左]「畢-萬ーー」。
(致仕)　官職を辭す。○[唐]「德-言請ニーー一、太-宗「不レ許」。
(祿仕)　俸祿を受けん爲めに官に就く。○[韓愈]「陽-子將レ爲ニーー一乎」。

【仕】　事に同じ。○[詩]「豈不レー」。

【他】　タ。湯何切　歌　—佗、又、它と意同じ。

㊀ほか。

(い)此れ又は其れの外、別異。○[書]「無ニー技一」。

(ろ)我れ又は彼れの外、別人。○[白居易]「妬レー心似レ火、燒ニ我鬢一如レ霜」。

(は)別事、よそごと。○[孟]「王顧ニ左右一而言レー」。

(に)異所、よそ。○[左]「光遠而自レー有レ耀者也」。

(ほ)ふたごころ、(貳心)。〇[詩]「之レ死矢靡レ—」。㊁よこしま、(邪)。〇[揚雄]「君子正而不レ—」。
(由他)(任他)(從他) さもあらばあれ、打ち任す意を表はすときに用ふる語。

【他】 タ、ダ。唐佐切 箇

駄に同じ、おふ、おばす。
(他々) 禽獸の多く斃れ死にてある貌にいふ語。〇[司馬相如]「——藉々、塡レ坑滿レ谷」。

【仗】 チヤウ、直亮切 漾 ヂヤウ。呈兩切 養

㊀劒戟の總稱、つはもの、うちもの。〇二五二「取二魏鐵—一以給レ軍」。
㊁杖に通じ用ふ、つゑ。〇[南]「停三—於二松樹下一」。
㊂よる、たのむ、(倚)。〇[漢]「特立無レ可二據——一」。
㊃唐の制にて殿下の兵衛の稱、まもり。〇[儀衞志]「朝罷置レ—」。
(儀仗) 儀式に用ふる武器。〇[唐]「掌二戎器鹵簿——一」。
(糧仗) 糧食と武器と。〇[魏]「援宜不レ至、——俱盡」。
(玄仗) みち、道。〇[揚雄]「履二危行險、無レ忘二——一」。

【付】 フ、ホ。方遇切 遇

㊀あたふ、(畀)、さづく、(授)。〇[魏]「得二財物一、平均分—」。
㊁よる、(寄)、よす、(託)。〇[曹囧]「無レ所二寄——一」。
㊂祔に同じ、祭の名。〇[周]「旬人讀レ禱、—練詳、掌二國事一」。
(託付) たのむと、依賴に同じ。〇[蜀]「恐二——不レ効、以傷二先帝之明一」。
(囑付) いひつけ。〇[朱熹]「南湖親——」。
(天付) 天性に同じ。〇[舊唐]「——忠貞」。

【仙】 セン。蘇前切 先

㊀穀を食はず山に棲み長生不老の術を修むる人、やまびと。〇[史]「秦始皇東遊二海上一、求二—人羨門之屬一」。
㊁俗閒を離れしと、普通の人の企て及ぶべからざると、又、其の思想資格を具ふる者の稱。〇[釋皎然]「此爲二詩中之—一、拘忌之徒、非レ可二企及一矣」。
㊂黃帝老子を祖とし長生不老の術を修むる一種の敎方。〇[宋]「梁日廣釋—論一卷」。
㊃輕く擧がる、かろし、あがる。〇[杜甫]「行遲更覺レ—」。
(胎仙) 鶴の異名。〇[內景經]「琴心三疊舞二——一」。
(花仙) かいだうの別名。〇[花木錄]「以二海棠一爲二花中神仙一」。

【仚】 ケン、虛延切 先 ゲン。切

輕く擧がる、あがる。〇[鮑昭]「鳥—魚躍」。
[說文]人在二山上一也。

【仛】 タ、テ。丑亞切 禡

㊀おごろ、又、ほしいまゝ、(驕逸)。
㊁をとめ、(少女)。
㊂すくなし、(少)。

【仛】 タク、ダク。達各切 藥

㊀侘に同じ。
㊁よる、(寄)。

【仝】

同におなじ。

【仞】 ジン、ニン。而振切 震

㊀尺度の名、卽ち支那尺にて八尺、ひろ、又一說に、四尺、軔に作るとあり。〇[禮]「築レ宮—有三尺」。
㊁高深を試みる、はかる。〇[左]「—二溝洫一」。
㊂ふかし、(深)、たかし、(高)。〇[鄭谷]「峭——甃巍々」。
㊃認に通じ用ふ、志るす、みとむ。〇[列]「天地萬物不二相離一、—而有レ之者皆惑也」。
㊄牣に通じ用ふ、みつ。〇[司馬相如]「充二—其中一」。

【仟】 セン。蒼先切 先

㊀千人の長、をさ、かしら。
㊁千に同じ。〇[漢]「——伯之得」。
㊂芉に同じ、草木の生ひ志げれる貌にいふ字。〇[謝朓]「遠樹曖——」。

【仡】 キツ、ゴチ。許乞切 物

㊀勇壯なる貌にいふ字、いさまし、さかんなり、たけし。〇[公羊]「——然從二手趙盾一而入」。
㊁高大なる貌にいふ字、たかし、おほいなり。〇[詩]「崇墉——」。

【仡】 ゴツ、ゴチ。五忽切 月

舟の動く貌にいふ字、又、安からざる貌にいふ字。〇[柳宗元]「巨舟軒昂——還」。

【仉】 ハン、符咸切 咸 ボン。切 扶汎 陷

かろし、かろぐし、(輕薄)。

【伨】 ハク、彌角 覺 テキ、 ボク。切 ヂヤク。徒歷 切 シヤク、是若 ヤク、於略 ジヤク。切 アク。切 藥 錫

㊀よばひ星、はしりぼし、(流星)。
㊁つゞまやか、(約)。

【代】 ダイ、ダイ。度耐切

㊀かはる。
(い)他のものゝ爲すべき事を爲す他のものゝ身分となる、だいりす。〇[書]「人其—レ之」。
(ろ)此れ去り彼れ入る、去りしあとに立つ、いりかはる。〇[晉]「五行迭—」。「暴君—作」。〇[孟]
㊁かはりあひて、かはるぐ。
㊂かふ、(易)。〇[漢]「歲—レ處」。
㊃よ、(世)。〇[論]「鑒二于二——一」。
㊄血脈の循環の中止せると。〇[方書]「脈候有レ—」。
(絕代) 世に優れて、他にならぶもののなきと。〇[杜甫]「——有二佳人一」。
(冠代) 前に同じ。〇[舊唐]「大寶中詩名——」。
(希代) 前に同じ。〇[樂府]「烈著二——之績一」。
(曠代) 前に同じ。〇[庾信]「雄才——」。
(五代) (い)唐、虞、夏、商、周。〇[禮]「——所レ不レ變」。
(ろ)唐の後に起こりし五つの代の稱、梁、唐、晉、漢、周。〇[宋]「——諸侯」。
(三代) 支那、上古の三つの代の稱、夏、商、周。〇[禮]「——之禮一也、民共由レ之」。
(歷代) だいぐ。〇[晉]「世傳丘墳、——莫レ作」。
(奕代) 前に同じ。〇[陶潛]「綴文之士、——繼發」。
(綿代) 前に同じ。〇[晉]「——相傳」。
(聖代) 現今の代を尊稱していふ語、御世。〇[高適]「——休二兵甲一」。
(上代) むかし。〇[晉]「通二——之不通」。
(往代) 前に同じ。〇[晉]「師二蹤——一」。
(後代) 將來の世。〇[韓愈]「絕二——之惑一」。
(驕代) 華奢の風俗の盛んなる時。〇[張華]「——好二浮華一」。
(濁代) 道德のすたれたる世。〇[晉]「出處遇二——」。
(結繩代) 太古の世。〇[韓愈]「自二——之—一、以及二秦事一」。
(混元代) 最も古き世。〇[白居易]「疑レ返二——」。

【代】 テイ、ダイ。徒帝切 霽

かはる。〇[楚辭]「雖レ有二西施之美容一兮、讒妒入以自—」。

〔代〕テキ、チヤク　湯的切　錫

かはる。○〔揚雄〕「出レ險登レ丘、莫ニ之一一ニ。

〔令〕レイ、リヤウ。力政切　敬

㊀臣民をして遵ひ守らしむべき國家の規律、のり、おきて。○〔漢〕「漢興除ニ秦煩・苛一、約ニ法一一一」。
㊁君王の下命戒告、おほせ、みことのり、いましめ、をしへ。○〔管〕「四・維張則君一行」。
㊂すべて上に立つ人の下命戒告、まうしつけ、いひつけ、まうしわたし、いひきかせ。○〔孝〕「從ニ父之一一」。
㊃一省、又、一縣の長官など總べて長たる人、をさ、つかさ。○〔後漢〕「太子家一一一人千石」。
㊄よし、（善）。○〔左〕「忠爲ニ一德一、非ニ其人一猶不・可況不一一乎」。

〔勅令〕君王の命。○〔宋〕「新修ニ一一式一」。
〔格令〕國家の規則。○〔唐〕「當レ合ニ一一一」。
〔律令〕前に同じ。○〔史〕「一一圖書」。
〔憲令〕前に同じ。○〔史〕「造ニ爲一一一」。
〔禁令〕前に同じ。○〔周〕「掌ニ市之治教政・刑量・度一一一」。
〔德令〕恩惠ある命。○〔晉、疏〕「使ニ復奉ニ湯一一一」。
〔手令〕手づから書きし命。○〔南〕「得ニ天・后之一一一」。
〔時令〕〔月令〕一年、卽ち、十二ケ月の間に行ふべき政事上の順序を記錄せるもの。
〔辭令〕言葉づかひ。○〔禮〕「禮・義之始、在ニ于正ニ容・體一、齊ニ顏・色一、順ニ一一一」。

〔令〕レイ、リヤウ。呂貞切　庚

㊀いひつけに服從せしむ、したがふ、つかふ。○〔史〕「大・將不レ强、卒不ニ使一一一」。
㊁他に動作をなさしむる意を表はすに用ふる字、以て、して、しむ、せしむ、（この字、動作せしむる物事の上にある時、國語の讀方には先づ其の物事を「して」、と讀み動作の終はりたるときに「しむ」「せしむ」、と讀み返すを例とす）。○〔史〕「臣能一ニ君勝一」。

〔靑令〕蟲の名、とんぼ。
〔縱令〕先づ事を設けて豫め推量する語、よしさう、たとひ。「縱りとも、たとひ。
〔設令〕前に同じ。
〔令々〕狗の頸環の響きにいふ語。○〔詩〕「盧一一、其人美且仁」。
〔頤令〕おとがひもて指揮するの義、人を睨み視て使役するをいふ語。○〔唐〕「目使一一一」。

〔令〕レイ、リヤウ。郞丁切　靑

鴒に同じ、鳥の名、せきれい。○〔詩〕「脊一在レ原、兄・弟急・難」。

〔以〕イ。養里切　紙

㊀もちて、もッて、もて。
（い）用ひて。○〔論〕「一一言而可ニ興ヒ邦有諸」。
（ろ）ゆゑに。○〔詩〕「習・々谷・風、一陰一雨」。
（は）にして。○〔易〕「蓍之德圓而神、卦之德方一知」。
（に）句調を助くるに用ふる字。○〔論〕「可ニ一託ニ六・尺之孤一、可ニ一寄ニ百・里之命一」。
㊁もちふ、（用）。○〔論〕「不レ使ニ大・臣怨ニ乎不ヒ一」。
㊂なす、（爲）。○〔論〕「視ニ其所ヒ一」。
㊃やむ、（已）。○〔孟〕「無レ一則王乎」。
㊄物事の區分をなすときに用ふる字、これより、それより、より。○〔論〕「自レ行ニ束・脩一一一上、吾未ニ嘗無ヒ誨」。
㊅ゆゑ、（因）。○〔詩〕「必有レ一也」。
㊆おもふ、おもんみるに、おもへらく。○〔韓愈〕「伏一、佛者夷・狄之一・法耳」。
㊇與に同じ、（古昔、以と與と聲音通じ用ひたり）。
（い）と。○〔韓愈〕「凡今之人急ニ名一ヒ官」。
（ろ）あたふ。○〔禮〕「一ニ我安一」。
（は）さも、つれ、又、さもに。○〔老〕「衆・人有レ一、我獨頑且鄙」。
㊈にる、（似）。○〔易〕「箕・子一レ之」。
㊉ひきゐる、（率）。○〔左〕「凡師能左ニ右之ニ曰レ一」。
⑪とる、（執）。○〔詩〕「俟儀俟一」。

〔所以〕なすところ、又、理由、ゆゑ。○〔韓愈〕「察ニ其一一一」。
〔何以〕（い）なにが故に。○〔韓愈〕「舜・舜一一不レ毋ニ後・世一」。
（ろ）なに事をもて。○〔孟〕「大夫一一曰レ利ニ吾家一」。

四畫

〔仯〕サウ、セウ。初教切　效

おどろきおそる、（驚・悚）。

〔仯〕ベウ、メウ。弭沼切　篠

すくなし、又、ちひさし、（小）。

〔仰〕ギヤウ、ガウ。語兩切　養

㊀あふぐ。
（い）上へ向かふ、首を上ぐ、あをむく。○〔易〕「一以觀ニ于天・文一」。
（ろ）したふ、（慕）、うやまふ、（敬）。○〔金〕「孔子雖レ無レ位、其道可レ尊、使ニ萬世景一一」。
㊁貴きものより卑しきものに命ずると、おほせ。○〔康熙〕「今公・家文・移、上行レ下、用ニ一字一」。

〔偃仰〕（い）あふぎふす。○〔孫楚〕「交頸一一」。
（ろ）閑暇なるにもいふ。○〔詩〕「或棲・遲一一、或王・事鞅・掌」。
（は）物事に逆はざるにもいふ。○〔韓詩外傳〕「與世一一」。
〔俯仰〕（い）やうす、起居、動作。○〔史〕「先言ニ外事一、以觀ニ秦・王之一一一」。
（ろ）俯す間にも仰ぐ間にも、居常。○〔蘇武〕「一一一「內傷レ心」。

〔仰〕ギヤウ、ガウ。魚向切　漾

長上の力を藉る、たのむ、まつ、あふぐ。○〔史〕「衣食一ニ給縣官一」。

〔仰〕ガウ。五剛切　陽

昂に同じ、たかし、又、卬に作る。○〔摯虞〕「一一一低」。

〔仰々〕軍氣の勇みてはりあがれる貌にいふ語。○〔周、註〕「軍旅之容、闞々一一」。

〔仲〕チウ、ヂユ。直衆切　送

㊀始めと終はりとの閒、なか。○〔書〕「以殷ニ一春一」。
㊁第二、つぎ、又、兄弟の中にて第二人目の者、おさうと、いもうさ。○〔杜甫〕「伯一之閒、見ニ伊呂一」。
㊂百歳を經たる鼠。○〔抱朴〕「百・歳鼠色白、善憑レ人而卜、名曰レ一」。
㊃大いさ中位にある樂器の名。○〔爾〕「大籥謂ニ之産一、其中謂ニ之一一」。

〔仳〕ヒ。匹婢切　紙

わかる、はなる、（別・離）。○〔詩〕「有レ女一離」。

〔仳〕ヒ、ビ。頻脂切　支　ヒ。匹婢切　紙

みにくき女子、しこめ、（醜・女）、又、みにくし、あし。○〔論衡〕「衣・儀一脊」。

〔仳〕ヒ、ビ。兵媚切　寘

およぶ、（及）。

〔仵〕ゴ、グ。阮古切　麌

あひて、かたき、（匹・敵）、又、匹敵す、あふ、あたる。○〔應瑒〕「一一・齊倫・匹」。

〔仵〕ゴ、グ。五故切　遇

ひとし、おなじ、（同）。○〔莊〕「以二畸偶一不レ一之辭一相應」。

【件】ケン、其輦 ケン。切 銑　〔說〕从レ牛牛大文故可レ分。

㈠區別す、わかつ、わく。○〔北〕「郎二于黃・素一、楷二書大字一、具一二階・級一」。○〔陳傳〕「所レ欲果何一」。
㈡わかち、すぢ、くだん、くだり。
㈢物事を數ふるに用ふる字。○〔汪元量〕「花・毯褥・裀三・萬一一」。

【伶】ケン、ゴン。其淹切 鹽

音樂をもて職とする者、樂人、又、古の樂の名。

【伶】キョウ。居陵切 蒸

㈠おほいなり、（大）。
㈡つゝしむ、又、つゝしみ、（愼）。

【佽】ケン。丘翹切 豔

欠に同じ、あくび。

【伔】タン、ドン。徒感切 感

㈠とゞむ、又、とゞまる、（止）。
㈡髧に同じ、さげがみ、又、髮の垂れたる貌にいふ字。

【价】カイ、ケ。居拜切 卦

介に同じ、おほいなり、（大）、又、よし、（善）。○〔詩〕「一人維藩」。

【仸】エウ。於兆切 篠

㈠尫弱の貌にいふ字、よわし。
㈡伸びず、かゞまる。

【任】ジン、ニン。如林切 侵

㈠たもつ、（保）。○〔左〕「不レ能レ保二一其父之勞一」。
㈡あたる、（當）。○〔左〕「衆・怒難レ一」。
㈢おふ、（負）、になふ、（擔）。○〔詩〕「我一我輦」。
㈣たふ、（堪）。○〔左〕「擇レ一而往知也」。
㈤たつ、（立）。○〔周〕「太・宰一二百・官一」。
㈥前に持つ、いだく。○〔詩〕「是一是負」。
㈦壬に同じ、ねぢく。○〔書〕「難二一・人一」。
㈧友道に信あるを、誠篤。○〔周〕「一・恤」。

【任】ジン、ニン。汝鴆切 沁

㈠つとめ。
（い）責務、せめ。○〔論〕「仁以爲二己一一」。
（ろ）官職、やくめ。○〔後漢〕「有・司惰レ一而託不二奉・行一」。「邦・國一」。
㈡ことゝす、つかふ、（事）。○〔周〕「一一」。
㈢もちふ、（用）、又、まかす、（委）。○〔史〕「陳・平智有レ餘、然難二獨一一」。
㈣やくめを授く。○〔管〕「君擇レ臣而一レ官、則事不二煩・亂一」。
㈤命を受けてやくめを行ふ地。○〔宋〕「頃レ之徙二一義・興一」。
㈥妊、又は姙に同じ、はらむ。○〔史、註〕「刳二一者一觀二其胎・產一」。
㈦きまゝ、わがまゝ、ほしいまゝ。○〔晉〕「縱一不レ拘」。

（大任）重大なる責務。○〔孟〕「天將レ降二一一于是人一也」。「一一之一」。
（槐鼎任）宰相の役。○〔後漢〕「名應二圖・錄一、越登二槐鼎之任一」。
（棟梁任）前に同じ、又、總べて首領の任に用ふる語。○〔魏〕「荷二一一之一一」。
（蕭霍任）前に同じ、蕭何、霍光二人の宰相たりしよりいふ。○〔吳〕「無二其臣之才一、而受二大・吳一一一」。「吏・部在二一一之一一」。
（口舌任）口舌によりて事を辨ずる役。○〔梁〕「張・一・枝二頎・公之恐一揚・尙之上一」。
（刺任）刺客となること。○〔史〕「曹・子以二一一之一一」。

（將率任）將軍の任。○〔魏〕「授二一一之任一」。
（征敵任）前に同じ。○〔梁〕「一一之一、扞二禦三・垂一」。
（萬里任）地方官。○〔魏〕「授レ之以二一一之一一」。
（千里任）前に同じ。○〔曹植〕「逞二一一之一一」。

【仿】ハウ、バウ。符方切 陽

一一偟は、たゞずむ、さまよふ、たちもとほる、（徘・徊）。○〔史〕「一・偟不レ能レ去」。

【仿】ハウ、バウ。撫兩切 養

㈠にたり、さもにたり、（相・似）。○〔楊基〕「人・生還レ鄉樂、無三物堪二比・一一一」。
㈡一・佛は、見て審かならざる貌にいふ語、ほのか、かすか。○〔揚雄〕「一・佛其若レ夢」。

【伀】ショウ、シュ。諸容切 冬

㈠おそる、（懼）。○〔吳〕「卒奉二大・略一、一一瞭狼・狽」。
㈡あわつ、（遽）。○〔揚雄〕「潤・沐征一一」。
㈢志衆に及ぶ、ひろし。

【企】キ。去智切 寘　丘弭切 紙

㈠くはだつ。
（い）踵を擧げて立つ、つまだつ。○〔謝〕「其踵一」。「一一」。
（ろ）思ひ立つ。○〔韓愈〕「益深二勤一」。
㈡のぞむ。
（い）つまだてゝ望む。○〔王粲〕「伊佇」。「允一」。
（ろ）心を寄す。○〔賈島〕「仰一碧・霞・仙」。

（竊企）切に思を寄すること。○〔吳〕「不レ勝二一一一、萬・里託レ命」。「遣二使・者一、虛レ左授レ綏一一一」。
（鶴企）前に同じ、又、まつことに借り用ふる語。○〔晉〕
（鵠企）前に同じ。○〔晉〕「養・生所二以一一西・望一」。
（延企）（い）首をのべて遠きを望む。○〔曹植〕「登二高・丘一以一一」。
（ろ）遙に思を寄す。○〔辛曠〕「一一西・望」。「一」。
（竦企）待ちに待つ貌にいふ語。○〔韓愈〕「踊・躍一・」

【伃】ヨ。羊諸切 魚　一又好に作る。

うるはし、うつくし、（美）、又、女の美稱。
（倢伃）漢の時の宮女の官名。

【伃】ヨ。余呂切 語

㈠やすし、（安）。
㈡おほいなり、（大）。

【伃】ジョ。徐呂切 語

おもぶくら、又、其の人。○〔揚雄〕「豐・人楚謂二之一一」。

【伅】トン、ドン。杜本切 阮

㈠物事分明ならず、くらし。
㈡おろか、（暗・愚）。

【伆】ブン、武粉 モン。切 吻　ブツ、文拂 モチ。切 勿

㈠はなる、（離）。
㈡たつ、（斷）。

【伈】シン。斯甚切 寑　七鴆切 沁

おそる、（恐）。○〔韓愈〕「一一一一俔・々、爲二民・吏羞一」。

【伉】カウ。苦浪切 漾

㈠匹耦、對敵、あひて、たぐひ。○〔左〕「己不レ能レ庇二其一・儷一」。
㈡匹耦す、對敵す、ならぶ、たくらぶ、あふ、あたる。○〔張衡〕「何與乎比一一」。
㈢つよし、（强）、又、すこやか、（健）。○〔漢〕「選下一・健習二騎・射一者上」。
㈣すなほ、たゞし、（質・直）。○〔揚雄〕「事勝レ辭則一」。「子一」。
㈤おごる、（驕）。○〔韓〕「太・子輕、而庶・
㈥藏む、かくす。

【伉】カウ。居郎切 陽

㊀前條の㊀に同じ、あたる。○〔蔡邕〕「非二一-夫所一レ｜」。
㊁前條の㊃に同じ。○〔宋〕「爲レ人倚-｜」。
㊂閒に同じ、高き貌にいふ字、たかし。○〔詩〕「阜-門有レ｜」。

【伊】イ。於夷切　〔支〕
㊀彼に同じ、かれ、かの。○〔詩〕「所レ謂｜人、在二水一方一」。
㊁是に同じ、この、これ。○〔揚雄〕「｜年暮-春」。
㊂無意味の助字、又、發語に用ふる字、たゞ、これ、(維)。○〔禮〕「嘉-薦｜脯」。
㊃よる、(因)。
〔吾伊〕讀書の聲、伊、一に吚に作る。○〔黄庭堅〕「北-窓讀-書聲｜-｜」。
〔嚶伊〕好びさる貌にいふ語。○〔後漢〕「智-士｜-｜二｜於下一」。
〔郁伊〕歎く聲。○〔孫楚〕「呻吟｜-｜」。
〔軋伊〕車などのきしる聲。○〔馬祖常〕「轢-車｜-｜」。
〔皐伊〕支那古代の聖人、皐陶と伊尹と。○〔甘泉賦〕「｜｜之徒」。
〔呂伊〕前と同じく呂尙と伊尹と。○〔程鉅夫〕「爲レ臣志二｜-｜一」。

【仮】キフ。居立切　〔緝〕
いつはる、又、いつはり、(虛-詐)。○〔後漢〕「朝-廷多擧レ｜」。
〔仮々〕虛詐の貌にいふ語。

【伌】アイ、エ。烏懈切　〔卦〕
阨に同じ、くるしむ、たしなむ、(困)。

【伍】ゴ、グ。疑古切　〔麌〕
㊀五に通じ用ふ、いつゝ。○〔漢〕「見レ稅二什-｜一」。
㊁いつたり、(五-人)。○〔禮、註〕「五-人爲レ｜」。
㊂くみ、なかま。
(い)古昔、五戶相依りて相保護する義務ありとなしゝものゝ稱。○〔左〕「子-產使二廬-井有一レ｜」。
(ろ)昔、軍隊の組織上、五人を一組となしゝものゝ稱。○〔左〕「先レ偏後レ｜、｜承二彌-縫一」。
(は)同列、同境、同級。○〔司馬遷〕「獨與二法-吏一爲レ｜」。
㊃隊列、行列。○〔史〕「行-｜紊-陳」。
㊄入り雜はる、なかまさなる、あつまる、まじはる。○〔史〕「生乃與二噲等一｜」。
㊅彼れと此れさを合はす、まじふ、くむ。○〔史〕「控レ名責レ實、參-｜不レ失」。
〔卒伍〕兵士の組合、又、微賤の意にもいふとあり。○〔禮〕「歷二其｜-｜一」。
〔士伍〕前に同じ。○〔史〕「免二武安君一爲二｜-｜一」。
〔隊伍〕(い)前に同じ。○〔何承天〕「復二｜-｜一、坐二食廩-糧一」。(ろ)兵隊の部署。○〔宋〕「｜-｜有レ法」。
〔偏伍〕前に同じ。○〔晉〕「｜-｜有レ常」。
〔參伍〕(い)入り雜る。○〔易〕「｜｜以變」。(ろ)卿三人、大夫五人をいふ語。○〔周〕「設二其｜-｜一」。(は)取り調ぶること。
〔群伍〕衆多の仲間。○〔南〕「冠二絕｜-｜一」。
〔閭伍〕閭民の組合。○〔史〕「臣索-卑-賤、君擢二之｜-｜之中一」。
〔跛驢伍〕無能無用の境遇に借りいふ語。○〔晉〕「斂二逸-跡于｜-｜之｜一」。
〔燕雀伍〕愚者賤者の仲間に借りいふ語。○〔北〕「邁二回於｜-｜之｜一」。

【伎】キ、ギ。巨綺切　〔紙〕
㊀わざ。
(い)はたらき、(才-能)。○〔史〕「無二他｜-能一」。
(ろ)たくみ、(巧-藝)。○〔老〕「人多二｜-巧一」。
(は)歌舞音曲、わざをぎ。○〔曹植〕「墨-翟不レ好レ｜」。
㊁歌舞をなす人、わざをぎ。○〔唐〕「名-姝異-｜」。
㊂さもに、(與)。○〔詩〕「籥-人｜-｜」。
〔聲伎〕音樂の技。○〔南〕「｜-｜雜-藝頗多」。

【伎】キ、ギ。翹移切　〔支〕
跂に通じ用ふ、むつゆび。
〔伎々〕ゆるやかなる步みの貌にいふ語、一說に、行くこと速なる貌にいふ語。○〔詩〕「鹿斯之奔、維足｜-｜」。

【伎】シ、職吏切　〔寘〕
㊀そこなふ、(傷-害)。㊁かたむく、(傾)。

【伏】フク、ブク。扶腹切　〔屋〕
㊀ふす。
(い)うつむく、うつぶす、(偃)。○〔禮〕「寢毋レ｜」。
(ろ)かくす、かくる。○〔書〕「無二或敢｜一」。
(は)屈服す、志たがふ。○〔史〕「四-人慝-｜」。
㊁ふせたる兵、ふせぜい。○〔孫〕「鳥起者、｜也」。
㊂かくれたる罪。○〔漢〕「發レ姦摘レ｜」。
〔三伏〕極暑の候の名にて初伏、中伏、末伏のこと、夏至の後、第三の庚を初伏、第四の庚を中伏、立秋の初めの庚を末伏とす。○〔史、註〕「六月｜-｜之節、始自二秦德公一、周時無レ伏」。
〔設伏〕伏兵を置く。○〔漢〕「出レ奇｜レ｜」。
〔發伏〕隱匿せる罪惡をあばき出す。○〔後漢〕「摘レ姦｜レ｜」。
〔隱伏〕隱れて表にあらはれず。○〔易〕「坎爲レ水、爲二｜-｜一」。
〔蟄伏〕とぢこもる。○〔淮〕「百-蟲｜-｜」。
〔懸伏〕うづくまる。○〔柳宗元〕「｜-｜偸レ安」。
〔雌伏〕めん鳥の雄鳥に從ふ意にて人の下に立つといふ語。○〔後漢〕「大丈-夫當レ爲二雄-飛一、焉能｜-｜」。
〔消伏〕災禍などを救ふ。○〔後漢〕「｜-｜二災-譴一」。
〔委伏〕捨てゝ用ひず。○〔後漢〕「｜-｜二畎-畝一」。
〔棲伏〕志を得ざること。○〔晉〕「迍-邅｜-｜」。
〔沈伏〕前に同じ。○〔晉〕「｜-｜歷-年」。
〔睡伏〕ねむる。○〔後漢〕「被レ酒｜-｜」。
〔跪伏〕ひざまづく。○〔唐〕「｜-｜成レ禮」。
〔俯伏〕下を向きて頭をあげ得ず。○〔史〕「｜-｜侍-取レ食」。
〔歎伏〕感心して屈從す。○〔世〕「｜-｜以爲レ不レ能、加」。
〔馴伏〕懷き從ふ。○〔錄異〕「猛-虎｜-｜」。
〔寃伏〕無實の罪に陷る。○〔枚乘〕「｜-｜陵-谷一」。
〔慴伏〕畏れて屈從す。○〔史〕「一-府-中皆｜-｜、莫二敢起一」。

【伏】フウ、ブ。扶富切　〔宥〕
鳥卵を覆ふ、卵をあたゝむ。○〔漢〕「雌-雞｜レ子」。
〔覆伏〕鳥卵をかへす。○〔韓〕「｜-｜孚-育」。

【伏】ホク、ボク。步墨切　〔職〕
匐に通じ用ふ、はらばふ。○〔史〕「膝-行蒲-｜」。

【伐】バツ、ボチ。房越切　〔月〕
㊀うつ。
(い)罪ある者を攻む。○〔周〕「大-司-馬以二九-｜之法一正二邦-國一」。
(ろ)敵を擊つ。○〔左〕「凡師有二鐘-鼓一曰レ｜」。
(は)木を斫る、きる。○〔詩〕「勿レ翦勿レ｜」。
(に)鐘鼓を擊つ、たゝく。○〔禮〕「｜レ鼓何居」。
(ほ)殺す、斬る、刺擊す。○〔書〕「不レ愆二于四-｜五-｜六-｜七-｜一、乃止-齊焉」。
㊁たて、(盾)。○〔詩〕「蒙-｜有レ苑」。
㊂功を自慢す、ほこる。○〔禮〕「賢而勿レ｜、可レ謂レ恭」。
㊃うるはし。○〔小、爾〕「｜美也」。
㊄閥に同じ、いさを。○〔晉〕「旌二君｜一」。
㊅星の名、白虎宿に屬し、參と體を連ら

れたる六つの星。○[周]「熊-旗六-斿以象レ—」。
㊆垡に同じ、畝の上の高き土、又、すき起こしゝ土。○[周]「一-耦之—」。
〔克伐〕人に勝つことを好み、又、人に誇ることをなす。○[論]「—・—怨-欲不レ行、可三以爲二仁矣」。
〔剋伐〕强ひて己れに從はしむ。○[拾遺記]「武-帝好二黷行一、而尚二—・—一」。
〔征伐〕罪ある者をうち正す。○[書]「于—二—商一」。
〔討伐〕前に同じ。○[史]「挾二王-室之義一、以—・—」。
〔攻伐〕前に同じ。○[國]「有二刑-罰之辟一、有二—・—之兵一」。
〔畢伐〕前に同じ。○[史]「殷有二重-罪一、不レ可三以不二「—・—一」。
〔誅伐〕前に同じ、又、罪あるものを殺す。○[史]「刑-罰不レ可レ捐二于國一、—・—不レ可レ偃二于天-下一」。
〔翦伐〕(い)前に同じ、又、其の同類の者を絶やす。○[蘇舜欽]「醜類易二—・—一」。
(ろ)木をきる。○[詩]「蔽-芾甘-棠勿レ—勿レ—」。
〔斬伐〕(い)前に同じ。○[詩]「—・—二四國一」。
(ろ)前に同じ。○[禮]「行-木毋レ有二—・—一」。
(は)人を殺す。○[漢]「—・—不レ避二貴-勢一」。
〔侵伐〕敵をうつ。○[史]「諸-侯相—・—」。
〔戳伐〕前に同じ。○[魏]「連-年—・—、而介-冑生二蟣-虱一」。
〔攝伐〕前に同じ。○[莊]「諸-侯-暴-亂、擅相—・—、以殘二民-人一」。
〔殘伐〕前に同じ。○[國]「盛-怒勵レ兵、將レ—二—越-國一」。
〔自伐〕(い)自ら他に攻めうたるゝやうにす。○[孟]「國必—・—而後人伐レ之」。
(ろ)己れの功にほこる。○[後漢]「光-武未三嘗—二昆-陽之功一」。
〔功伐〕いさを。○[史]「自矜二—・—一」。「册一」。
〔洪伐〕大いなるいさを。○[晉]「勤二—・—于-余-」。
〔殺伐〕人を殺すこと、物の生命を絶つこと。○[史]「爲レ將三世者、其後必敗、必敗者何也、其所二—・—多矣」。
〔采伐〕材木をきること。○[唐]「掌レ—二—材-木一」。

【伐】　ハイ、ヘ。方廢切　隊
ふらげし米、又、ふらぐ、(精)、うすつく、(舂)。○[公羊]「觕者曰レ侵、精者曰レ—」。

【休】　キウ、ク。虛尤切　尤
㊀善美、吉慶、よし、さきはひ、よろこび。○[書]「實萬-世無-疆之—」。
㊁寬容なり、ゆるし、ひろし、やすし。○[書]「作レ德心逸日—」。
㊂おほいなり、(大)、又、ゆたか、(饒)。○[蜀]「允—元烈」。
㊃やすむ。
(い)とゞむ、とゞまる、(止)。○[呂氏春秋]「未二嘗—一也」。
(ろ)いこふ、(息)。○[禮]「季-秋之月、霜始降則百-工—」。
(は)官を退く、仕致す。○[宋]「退—十-五-年、謝二絕人-事一」。「起」。
(に)いぬ、(寐)。○[道德指歸]「暮—早起」。
㊄やすみ、賜暇、免職。○[漢]「賜二歸-—一」。
㊅つゞまやか、(儉-約)。○[書]「戒レ之以レ—、董レ之以レ威」。
㊆なだむ、(宥)。○[書]「雖レ—勿レ—」。
㊇くゞつのあそび。○[揚雄]「稱二傀-儡-戲一曰レ—」。
㊈實なき李。○[爾]「—無レ實杏」。
〔浮休〕生と死とのこと。○[莊]「其生若レ—、其死若レ—」。
〔燕休〕氣靜に休止す。○後漢]「離宮—・—之處」。
〔偃休〕いぬ、又、橫臥す。○歐陽修]「如レ—二—乎舟-中一」。
〔休々〕(い)儉約なること。○[爾]「—・—儉也」。
(ろ)樂しむ。○[詩、傳]「樂レ道之心」。
(は)ゆたかなる貌にいふ語。○[鄭玄]「寬-容貌」。
(に)うるはしく大いなる貌にいふ語。○[何休]「美-大之貌」。
〔蚤休〕藥の名。

【休】　ク、コ。呼句切　遇
㊀あたゝむ、(溫)。○[周]「蹙レ於レ剚、而—レ於レ氣」。
㊁咻に同じ、いたむ、(痛)、なげく、(歎)、

又、其の聲。○[左]「民-人痛-疾、而或燠二—之一」。

【伔】　チン、ヂン。直深切　侵
要を擊つ、うつ。○[淮]「在二於批—一」。

【亻幵】　ガウ、ギヤウ。魚萊切　庚
ゲン。魚肩切　先
徑に同じ。

五畫

【伮】　ド、ヌ。農都切　虞
㊀力つよし。㊁力をあはす。

【伯】　ハク、ヒヤク。博陌切　陌
㊀首長、をさ、かしら。○[晉陽秋]「二-陸乃今之詩—也」。
㊁第三等の爵の名。○[公羊]「三-公稱レ公、王-者之後稱レ公、其餘大-國稱レ侯、小-國稱二—子男一」。
㊂父の兄、をぢ。○[釋名]「父之兄曰レ—」。
㊃兄。○[詩]「—氏吹レ壎」。
㊄妻の其の夫を呼ぶに用ふる稱。○[詩]「—也執レ殳」。
㊅陌に同じ、みち、ちまた。○[史]「置二—格長一」。
㊆馬の神、馬祖、又、其の祭り。○[詩]「既—既禱」。
㊇神。○[史]「誅二風—一」。
〔河伯〕河の神。○[莊]「—・—欣-然自喜、以二天-下之美一、爲レ盡在レ己」。
〔水伯〕(魚伯)前に同じ。
〔火伯〕(戶伯)竈の神。
〔風伯〕風の神。○狄仁傑]「天-子之行、—・—淸レ塵、雨-師灑レ道」。
〔匠伯〕大工の棟梁。○[莊]「—・—不レ顧、遂行曰、散-木也、無レ所レ可レ用」。
〔方伯〕一方面の大諸侯、或は、最も權力の大なる地方官。○[禮]「千-里之外、設二—・—一」。
〔詞伯〕詩文などを善くする人を稱するに用ふる語。○[宋之問]「文稱二—・—雄一」。「也」。
〔詩伯〕前に同じ。○[晉陽秋]「二-陸乃今之—・—」。
〔歡伯〕酒の異名。○[易林]「酒爲二—・—一、除レ憂來レ樂」。
〔冥伯〕己に死に失せし人。○[莊]「—・—之丘」。

【伯】　ハ、ヘ。必駕切　禡
諸侯の盟主、はたがしら、後世侯伯の字と謬り混ぜんことを恐れ覇の字に通じ用ふ。○[左]「五-—之霸也、勤而撫レ之、以役二王-命一」。
〔五伯〕齊桓公、晉文公、秦繆公、宋襄公、楚莊王。

【估】　コ、ク。公烏切　虞
㊀市稅、代價、みつぎ、あたひ。○[唐]「高二鹽-價一、賤二帛—一」。
㊁うる、かふ、あきなふ。○[論]「—レ之哉、—レ之哉、我待レ賈者也」。
〔商估〕あきうど。○北]「—・—交入」。
〔市估〕物品の價額。○[宋]「平二其—・—一」。

【估】　コ、ク。古胡切　虞
おほいなり、(大)。

【伴】　ハン、バン。蒲管切　旱
㊀とも、(侶)。○[蜀]「思レ得二良—一」。
㊁ともなふ。
(い)よる、(依)。○[楚辭]「—二弛-張之信期一」。
(ろ)はんべる、(陪)。○[孫逖]「淸-尊「相—」。
㊂おほいなり、(大)。
〔接伴〕賓客をもてなすこと、又、應接を掌る人。○[宋]「至二境-首一—・—」。
〔酒伴〕酒飲み友達。○[孟浩然]「列レ筵邀二—・—一」。
〔待伴〕また消えざる雪。○[西淸詩話]「雪未レ消者、俗曰二—・—一」。
〔行伴〕道づれ。○[白居易]「祗攜二美-酒一爲二—・—一」。

〔臥雲伴〕隱者の伴侶。○〔白居易〕「疑作二——一」。

〔祕慶伴〕前に同じ。○〔韋莊〕「欲レ結二——一」。

【伴】ハン、バン。蒲旦切 翰

ひま、(閑‐暇)。○〔詩〕「—奐爾遊矣」。

【伶】レイ、リヤウ。來丁切 青 力正切 庚

㊀もてあそぶ、なぐさむ、(弄)、又、もてあそばれもの、なぐさまれもの、翫弄物、弄臣。○〔馬元來〕「木‐隅衣‐冠休レ嚇レ我、瓦‐—口‐頰欲レ謾レ誰」。○

㊁音樂、歌謠、樂工、樂師、わざをぎ。〔唐〕「制二新‐曲一教二女‐——一」。

㊂つかはれもの、こもの、(廝‐役)。○〔白居易〕「府‐—喚‐呼爭レ先到」。

㊃—俜は、行くを正しからざる貌にいふ語。

㊄—仃は、獨行の貌にいふ語。

㊅——俐は、小智慧あり、さかし。

㊆はる、(張)。

〔王門伶〕富貴の人に諂ふ者を冷評するに借りていふ語。○〔晉〕「不レ爲二——之—人一」。

【伸】シン。升人切 眞　〔說文〕古申字、後加レ人以別レ之。

㊀長くなる、ひろがる、たるみなくなる、直くなる、のぶ。○〔淮〕「時屈時—」。

㊁ひろぐ、のぶ、直くす、たるみなくす、長くす、のばす。○〔易〕「引而—レ之」。

㊂人のみづから體をのばすを、せのび。○〔禮、註〕「體倦則—也」。

〔欠伸〕あくびとせのびと。○〔禮〕「君‐子——、撰二杖‐屨一」。

〔眉伸〕愁ひの散じたるなどのときに用ふる語。○〔范成大〕「道逢二山‐險一且—レ—」。○

〔蹄伸〕馬の疲れしにいふ語。○〔職〕「服‐驥‐直二登二大‐行一、——膝‐折」。

〔目伸〕視力を此れのみに注ぐと、轉じて此れのみに目を注ぐに用ふる語。○〔管〕「——二五‐色一」。

【伹】ショ、ソ。七余切 魚

つたなし、にぶし、(拙)。

【伺】シ。相吏切 寘 相咨切 支

うかゞふ。

(い)のぞき見る、ひそかに察す。○〔宋〕「微—二趙‐王一」。

(ろ)まつ、ねらふ。○〔魏〕「密—二其過一」。

(は)訪問す、とふ、とぶらふ。○〔韓愈〕「—二候於公‐卿之門一、奔二走形‐勢之途一」。

(に)あきらかにす、(察)。○〔魏〕「明二—晷‐度一」。

〔眄伺〕互に正視せざると、轉じて甲乙兩者の交情の惡しきにいふ語。○〔漢〕「上下不レ和、更相——」。

〔掩伺〕不意に出でて他をのぞきみる。○〔宋〕「上數——二之一、不レ能レ得」。「取之」。

〔諦伺〕能く認む。○〔神仙傳〕「伺當二——一而促二」。

【伻】ハウ、ヒヤウ。普耕切 庚

㊀つかふ、せしむ、しむ、(使)。○〔書〕「—二來以レ圖及獻レ卜」。

㊁したがふ、(從)。㊂いそぐ、(急)。

【似】シ、ジ。詳子切 紙 相吏切 寘

㊀彼れと此れとひとし、たがひに同じ、ごとし、ちかし、らし、にる。○〔晉〕「酷—二其舅一」。

㊁にてあらしむ、かたどる、まねす、にす。○〔陸游〕「吳‐語我能—」。

㊂しめす、さゝぐ、たてまつる。○〔賈島〕「今‐日把—レ君」。

㊃つぐ、(嗣)、うく、(承)。○〔詩〕「以—以續」。

〔無似〕おろか、不肖なり。○〔禮〕「寡‐人雖二——一」。

〔疑似〕まぎらはしくて見分けがたし。○〔魏〕「——難レ分」。

〔近似〕(い)まぎらはしきと、又、よく似たると。○〔金〕「隱二于——一、乃生二論‐異一」。

(ろ)ちかし。○〔向子〕「——月當二于懷一」。

〔嫌似〕うたがはしく思ふ、邪推。○〔晉〕「以二——一而忘二至公一」。

【佀】イ。養里切 寘

前條の㊀に同じ。○〔詩〕「無レ曰二予小‐子一、召‐公是—」。

【伽】カ。求迦切 歌

㊀梵語の「か」「が」の音をあらはすに用ふる字。○〔梵〕「凡稱二釋‐氏一曰二僧‐—一」。

㊁茄に同じ、なすび。○〔揚雄〕「盛‐冬育レ筍、舊‐菜增レ—」。

〔僧伽〕佛者の稱。○〔韓愈〕「——後出」。

〔堅伽〕異獸の名。

〔頻伽〕鳥の名、人面鳥。○〔舊唐〕「僧祇僾——鳥」。

〔棱伽〕海中の山の名。

〔阿伽〕梵語にて木のと。

〔耶伽〕梵語にて威德。

〔乞カ伽〕藥草の名、おけら、朮の梵名。

〔畢楞伽〕草の名、とツくりいちご。

〔波羅伽〕梵語にて彼岸に渡すると。

【伾】ヒ、ビ。敷悲切 支 普鄙切 紙

㊀力あり、つよし。○〔詩〕「以レ車——」。

㊁おほし、又、もろ〳〵、(衆)。

ハイ、へ。哺枚切 灰

【佁】イ。羊己切 紙

立ち戾る、すゝまず、しりぞく、又、さゝこふる、(滯)。

【佁】アイ。夷在切 賄

おろか、(癡)。

【佂】セイ、シヤウ。諸盈切 庚

㊀おそる、(懼)。㊁あわたゞし、(急‐遽)。

㊂あわて行く貌にいふ字。

【佃】テン、デン。徒年切 先 蕩練切 霰

㊀開拓せし田、つくりだ、つくだ。○〔宋〕「募レ人耕レ—」。

㊁田を耕す、たつくる。○〔晉〕「開二水‐田一、募二貧‐民一—レ之」。

㊂人に代はりて田つくる農夫、小作人。○〔宋〕「訂二其主‐—一」。

㊃禽獸を狩り取る、かり、—に畋に作る。○〔易〕「以—以漁」。

㊄甸に同じ、古昔、卿位のものゝ乘車。○〔左〕「卿‐車—」。

【佅】バイ、マイ。莫敗切 卦

音樂の名、—に昧、又は韎に作れり。○〔班固〕「僸—兜‐離」。

【佅】バツ、マチ。摩葛切 曷

㊀肥えたる貌にいふ字。

㊁西方の夷人の音樂の名。

【但】タン、ダン。徒旱切 旱 杜晏切 翰

㊀かたぬぐ、(裼)。

㊁たゞ。

(い)衆多の中に就きて「此れ」と指すときに用ふる字、特に、單に、格別に。○〔歐陽修〕「故爲二人‐君一者、—當下退二小‐人之僞‐朋一、用中君‐子之眞‐朋上」。

(ろ)むなしく、いたづらに、たゞに。○〔通綱〕「—唯笑而已」。

(は)およそ、すべて。○〔漢〕「—除レ之」。

㊂誕に通じ用ふ、いつはり、いつはる。○〔淮〕「媒—者非レ學レ謾也」。

〔佇〕チョ、ド。丈呂切 語

㊀歩みを止どむ、立ちとゞまる、ひさしく立つ、たゞずむ、やすらふ、たつ、さどまる。○〔詩〕「瞻-望不レ及、――立以泣」。
㊁ひさし、(久)。○〔爾雅、釋〕「―久也」。
㊂うかゞふ、のぞむ、ねがふ、まつ。○〔陸贄〕「虛-襟以―、側-席以求」。
(延佇) たゞずみとゞまる。○〔屈平〕「――乎吾將レ反」。
(躊佇) ためらひとゞまる。○〔鮑照〕「舟-人不ニ――」。
(凝佇) 身動きもせずしてとゞまる。○〔朱熹〕「高-軒坐――」。
(欽佇) 思ひを寄す。○〔隋〕「常想ニ前-風、載懐ニ――」。
(眷佇) 前に同じ。○〔梁簡文帝〕「――之深」。
(夢佇) 夢になりとも其の人に逢ふをのぞむ。○〔梁武帝〕「旌レ賢求レ士、――斯急」。
(臨佇) 眺望す。○〔皇甫汸〕「――意何窮」。
(鶴立企佇) 前に同じ。○〔曹植〕「實懐ニ――――之心ニ」。

〔佈〕ホ、フ。博故切 遇

かたおちなし、あまねし、(遍)、又、志く、(布)。

〔侶〕セウ、ゼウ。蕭沼切 篠

紹に通じ用ふ、たすけおこなふ、(介-行)、又、たすけおこなふ人。

〔佋〕セウ、ゼウ。蕭韶切 蕭

昭に通じ用ふ、宗廟にて父たるものゝ位置、卽ち南面するもの。

〔佊〕ヒ。甫委切 紙

よこしま、(邪)。

〔佌〕シ。淺氏切 紙

㊀ちひさし、すくなし、(小)。
㊁ならぶ。○〔詩〕「――彼有レ屋」。
㊂錐ふ貌にいふ字。

〔位〕井。喩累切 寘

㊀くらゐ。
(い)中庭の左右、卽ち羣臣の列する處。○〔儀〕「就ニ―于東門ニ」。
(ろ)坐立の場處。○〔禮〕「揖レ人、必違ニ其―ニ」。
(は)君王の身分。○〔書〕「在レ―七十載」。
(に)官職の等級。○〔漢〕「爵―已極」。
(ほ)等級、又、分限、又、存在地。○〔易〕「同レ功而異レ―」。
㊁くらゐにつく、くらゐす、のぞむ、(莅)、つらなる、ならぶ、(列)、たゞし、(正)。○〔中〕「天-地―焉」。
㊂相似たり、にる。○〔康熙〕「高-麗人呼ニ相似ニ爲レ―」。
(等位) くらゐ。○〔荀〕「偷レ賢使レ能、而――不レ遺」。
(班位) 前に同じ。○〔晉〕「諸-侯持レ恩、各得ニ――ニ」。
(備位) 其の職の司となる。○〔漢〕「幸得レ―レ―」。
(拜位) 官吏となる。○〔易〕「―レ―逢レ時」。
(品位) 品格に同じ。○〔唐〕「其――旣崇」。
(祿位) 祿と官と。○〔周〕「――以馭ニ其士ニ」。
(攝位) 假りに君に代はりて政を行ふこと。○〔史〕「―レ―行レ政」。
(名位) 名譽ある官職。○〔晉〕「談ニ――ニ者、以ニ諂-媚-附レ勢」。
(寵位) よきくらゐ、貴き官。○〔宋〕「上則固ニ――、而快ニ恩-讐ニ」。
(大位) 前に同じ。○〔漢〕「典ニ兵-馬ニ處ニ――ニ」。
(崇位) 前に同じ。○〔晉〕「命ニ公――相國ニ」。
(殊位) 前に同じ。○〔張華〕「――盛-禮」。
(顯位) 前に同じ。○〔後漢〕「多歷ニ――ニ」。
(重位) 前に同じ。○〔南〕「明-智之士、據ニ――ニ而不レ傾」。
(寂位) 前に同じ。○〔韓愈〕「――無ニ赫-々之光ニ」。
(竊位) 其の職に居て其の責めを盡くさず。○〔論〕「臧-文-仲其―レ―者與」。
(充位) 前に同じ。○〔史〕「丞-相備ニ――ニ」。
(戸位) 前に同じ。○〔晉〕「太康――」。
(食位) 才能なくしての其官にあり。○〔史〕「非ニ其位ニ而居レ之、曰ニ――ニ」。
(盜位) 正當の順序にあらずして分限外のくらゐにあり。○〔後漢〕「王莽―レ―」。
(寶位) 天子のくらゐ。○〔魏〕「朕以ニ沖眇ニ、纂ニ承――ニ」。
(儲位) 皇太子のこと。○〔唐〕「況――乎」。
(紹位) 後を襲ぐ。○〔鹽鐵論〕「其子孫―レ―、百代不レ絕」。
(鼎位) 宰相のくらゐ。○〔孫逖〕「遠-枝――聲」。
(台位) 前に同じ。○〔楊巨源〕「心期玉帳親ニ――、蘭-草ニ」。
(宴位) 宴會のすわり場所。○〔孟郊〕「――臨ニ―ニ」。
(六位) (い)易卦の爻、卽ち陰と陽と(天の道)、柔と剛と(地の道)、仁と義と(人の道)、に象りて六つとなししもの、又、天、地、人の道。○〔易〕「――而成レ章」。(ろ)君臣、父子、夫婦。○〔莊〕「五紀――、何以爲レ別乎」。
(虛位) (い)其の處にあるべきものゝあらざる場所。○〔晉〕「太-祖――」。(ろ)假りの場所。○〔唐〕「仍設ニ――ニ」。(は)場所一定せざること。○〔文心彫龍〕「規-矩――」。(に)むなしき場所、何ものをも納れ得るところ。○〔韓愈〕「道與レ德爲ニ――ニ」。(ほ)其の權力なき官職。○〔南〕「呂文度專ニ制兵-權ニ、領ニ將-軍ニ、守ニ――ニ而已」。
(三九位) 三公九卿のくらゐ。○〔後漢〕「――之―、―之―ニ、未レ見ニ其人ニ」。
(九棘位) 九卿のくらゐ。○〔魏〕「垂レ沒之命、獲ニ――」。
(布衣位) 卑しき身分。○〔史〕「在ニ――之―ニ」。

〔低〕テイ、タイ。都奚切 齊

㊀高の對、ひくし、又、ひくき處。○〔九華山錄〕「高―無ニ一同者ニ」。
㊁ひくきに向かふ、ふす、たる、うなだる、かたぶく、さがる。○〔談藪〕「王元-景大醉、楊-彥-遹曰、何太―昂、答曰、黍熟頭―、麥熟頭昂、黍-麥俱有レ所ニ以――昂ニ」。

〔住〕チュ、ヂュ。持遇切 遇

㊀居處さなす、すむ、ゐる、又、居處、すまひ。○〔齊〕「櫂牽ニ船於岸-上ニ―」。
㊁さどまる、(留)。○〔晉〕「君少―」。
㊂たつ、(立)。○〔射雉賦〕「清レ道而行、擇レ地而―」。
㊃數と同じ意に用ふ。○〔列〕「漚-鳥之至者、百―而不レ止」。

〔佐〕サ。則箇切 箇 子我切 哿

輔貳す、そふ、たすく、又、輔貳の人、たすけ、そへ。○〔蜀〕「以ニ備之略ニ、三-傑―レ之」。
(王佐) 君王の輔けとなる、又、其の人。○〔後漢〕「王生一日千里、――才也」。
(輔佐) 人のたすけとなる、又、其の人。○〔左〕「皆有ニ親-暱ニ、以相――」。
(參佐) 前に同じ、又、下役。○〔魏〕「歸ニ功――ニ」。
(寮佐) 前に同じ。○〔晉〕「――並遇レ害」。
(規佐) 正したすく。○〔漢〕「何以―ニ―寡人ニ」。
(折衝佐) 武を以て君の輔けとなること、又、其の人。○〔晉〕「―――之―、豈可レ忽哉」。

〔佑〕イウ、ウ。云九切 宥

祐に同じ、たすく、たすけ。○〔詩〕「天其―レ之」。
(保佑) 護り助く。○〔詩〕「――命レ之」。
(啓佑) 導き助く。○〔書〕「―ニ―我後人ニ」。
(天佑) 天の助け。○〔詩〕「―其―レ之」。
(神佑) 神の助け。○〔班固〕「靈-威――」。

〔佒〕アウ。於郎切 陽 倚兩切 養

㊀體伸びず、かゞまる。
㊁み、からだ、(軀)。
㊂分を守る、又、たのしむ、(樂)。

〔体〕ホン、ボン。部本切 阮

此の字俗に、體の略の字となすは非なり。

㊀笨に同じ、密ならず、あらし、(麤)。
㊁おとる、(劣)。

佔 テン。丁兼切 [豔]
㊀たる（俛）。○[韓愈]「俛レ首一レ耳」。㊁一佔は、あさし、かろ〴〵し（輕薄）。㊂覘に同じ、其のわづかなる簡處のみを知りて、其の奧に通ぜず、うかゞふ。○[禮]「今之教者、呻二其一畢一」。㊃耳語す、さゝやく。○[漢]「今二喋々一一一」。

何 カ、ガ。胡歌切 [歌]
㊀なに。
(い)名を知らぬ物事を指すときに用ふる字。○[左]「民其謂二我一一」。
(ろ)疑問に用ふる字、なぞ、なぞや、いかん、いかで、いかでか、なんぞ、いかんぞ、いづくんぞ、いづくんか。○[蘇洵]「夫子之賞罰、一以異レ之、然則一足三以爲二夫子一、一足三以爲二春秋一」。
(は)上を承けて說くときに用ふる字、なんとならば、いかんとならば。○[蘇軾]「千金之子、不レ死二於盜賊一、一者其身可レ愛、而盜賊之不レ足レ死也」。
(に)其れより外、餘事。○[漢]「南方卑濕、君能日飮無レ一、可レ免レ禍也」。
㊁いくばく。
(い)數量の確かならぬ意を表はす字、數量を問ふにも用ふる字、そこばく。○[史]「孔居レ魯、祿幾一」。
(ろ)時間を經ることわづかなるにいふ字。○[史]「居無レ一、使者果召レ參」。
㊂訶に通じ用ふ、なじる、せむ。○[漢]「大譴大一」。
㊃曲調の遺聲、又、緩縵なる應答の聲。○[圖繪寶鑑]「人問二其氏族年壽一、但云二一一一、問二其鄕里一、亦曰二一一一」。
〔婉何〕漢代の宮女の官名。
〔奈何〕いかん、いかんぞ。○[莊]「知二其不レ可一一一」。
〔如何〕前に同じ。○[史]「爲レ牙一一」。
〔若何〕前に同じ。○[史]「棄レ之一一」。
〔云何〕前に同じ。○[詩]「旣見二君子一、一一不レ樂」。
〔誰何〕たれであるかとなじる、轉じて人を咎め呼ぶこと。○[賈誼]「陳二利兵一而一一」。

何 カ、ガ。下可切 [哿]
になふ（荷）、おふ（負）、たふ（任）。○[書]「百祿是一」。

佖 ヒツ、ビチ。薄必切 [質]
㊀威儀あり、たゞし、一說に、威儀なし、のりなし。○[詩]「威儀一一」。㊁みつ（滿）。○[揚雄]「駢衍一レ路」。

佗 タ。湯何切 [歌]
他、又、它に通じ用ふ、ほか、よこしま。○[揚雄]「正而不レ一」。

佗 タ、ダ。唐何切 [歌]
㊀うるはし（美）。○[荀]「弟二一其冠一」。㊁駝に通じ用ふ、おふ、おはす。○[漢]「以二一馬一自一負」。
〔佗々〕うるはしき貌にいふ語。○[詩]「委々一一」。

佗 タ。吐臥切 [箇]
くはふ、くはゝる（加）。○[詩]「舍二彼有レ罪、予之一矣」。

佗 タ、ダ。徒可切 [哿]
髮を被る、かうぶる、かぶる。○[史]「醮酒一髮」。

佗 イ。延知切 [支]
自得す、たのしむ。○[後漢]「委一一還レ旅與」。

余 ヨ。以諸切 [魚]
㊀己れの稱、われ、わ。○[韓愈]「一不レ負レ丞、而丞負レ一」。㊁餘に同じ、あまる、あまり。○[禮]「凡其一一粟以待二頒賜一」。
〔比余〕髮の飾りもの。○[史]「各一一一」。
〔接余〕草の名、荇菜、あさゞ、又、はなおゆんさい。
〔閏余〕第四月に得たる丁男。

佚 イツ、イチ。夷質切 [質]（說文）从レ人失聲。
㊀勞せず、たのしむ、やすし。○[孟]「四肢之於二安一一也」。㊁勞を厭ふ、敬を失す、なまける、あそぶ、ゆるがせ、おろそか。○[左]「國饒則民驕一」。㊂のがる、かくる（隱遁）。○[孟]「遺一而不レ怨」。㊃あやまち（過失）。○[書]「惟予一人有二一罰一」。㊄佾に通じ用ふ、行列。○[揚雄]「其一則接レ芬錯レ芳」。
〔奢佚〕驕侈に耽りて怠る。○[後漢]「方今時俗一一」。
〔淫佚〕男女の間の謹まざること。○[漢]「男女一一」。
〔久佚〕永く樂しむ。○[漢]「不二壹勞一者不二一一一」。

佚 テツ、デチ。徒結切 [屑]
㊀締りなし、ゆるし、又、ゆるくす（緩）。○[漢]「爲レ人簡易一蕩」。㊁迭に通じ用ふ、たがひに、かはる〴〵。○[史]「四國一興」。

佛 フツ、ボチ。符勿切 [物]
㊀仿一は、見て諟かならず、ほのか、さもにたり。○[揚雄]「仿一其若レ夢」。㊁れづ（捩）。○[禮]「獻レ鳥者一二其首一」。㊂拂に同じ、もとる、さかふ。○[揚雄]「荒二乎淫一、一二乎正一」。㊃ひかる、かゞやく。○[黃香]「銀一律以順游」。㊄おほいなり（大）、又、さかんなり（壯）。○[詩]「一二時仔肩一」。㊅玄妙の理を覺ると、衆生を覺すと、又、ほとけ、佛陀、浮屠。○[南]「成一必在二靈運後一」。㊆單に釋尊を指す。○[韓愈]「夫一本夷狄之人」。㊇釋尊の像。○[南]「過二郡吏一、燒レ臂照レ一」。㊈釋尊の說き示したる教方。○[韓愈]「一者夷狄之一法耳」。
佛法の支那に入りしは、後漢の明帝の永平七年なりしといふは非なり、秦の時、沙門室利房等至りしに、始皇之を囚へしとあり、又、漢の武帝の時、霍去病、焉支山を過ぎ休屠王が祭れる佛像を得て歸り、後、又、哀帝の時、伊存をして博士弟子秦景に、浮屠經を口授せしめしとあれば、明帝の時にありといへるは考據を失へり。「信一道」。
〔溺佛〕佛の教を迷信すること。○[梁]「武帝晚一二」。
〔佞佛〕佛の加護を得んとて甚しく崇信す。○[五]「非宗由レ此亦一レ一」。
〔禮佛〕佛を禮拜すること。○[唐]「獄中一レ一、口誦二梵言一」。
〔灌佛〕舊曆の四月八日は釋尊の誕生日なれば其の誕生の像に香水を灌ぐ之を灌佛會と名づく。○[南]「四月八日、見二衆人一一一」。
〔卽心是佛〕悟りをひらきて其の身其の儘に佛となるの義。○[傳燈錄]「馬祖道一一一一一」。

佛 ホツ、ボチ。蒲沒切 [月]

勃、又、浡に通じ用ふ、物事の壯んに興起する貌にいふ字、さかんなり。○〔荀〕「━━然平-世之俗起焉」。

【佛】ヒツ、ビチ。蒲密切 質
弼に通じ用ふ、たすく、又、たすけ。

【作】サク。則洛切 藥
㊀なす、(爲)。○〔書〕「内━二色荒一」。
㊁はたらく、はたらかす、(動)。○〔荀〕「━レ事」。「━レ之則將」。
㊂つかふ、(使)、もちふ、(用)。○〔周〕「凡
㊃かはる、うごく。○〔戰〕「顏-色變━」。
㊄つくる。
(い)こしらふ、(造)、いさなむ、(營)。○〔詩〕「━二于楚-宮一」。
(ろ)田を治む、たはたをつくる。○〔周〕「以レ涉揚二其芟一━レ田」。
(は)書を著はす、詞章を綴る。○〔書〕「帝庸━レ歌曰」。
㊅おこる。
(い)興起す、たつ。○〔易〕「聖-人━」。
(ろ)起立す、たつ。○〔禮〕「━而曰」。
(は)始まる、見はる、生ず。○〔史〕「大-夫懼レ罪而禍━」。
㊆おこす。
(い)振興す、ふるふ。○〔晉〕「━二新-民一」。
(ろ)竪立す、たつ。○〔周〕「羣-吏━レ旗」。
(は)始む、見はす、生ず。○〔史〕「善━「者」。
㊇志わざ、志ごと。○〔禮〕「敗二大━━一」。
㊈はたらき、わざ。○〔論衡〕「人之用-━」。「容-貌有レ常」。
㊉たちゐ、ふるまひ。○〔詩 註〕「動━━」。
(十一)耕種、たはたのわざ。○〔書〕「平二東━━一」。
(十二)えだち、工事。○〔晉〕「功-━之勤」。
(十三)著述、吟詠、又、製造。○〔江南野錄〕「田-舍翁火-爐-頭之━」。
(十四)ねむりより起つ、おく。○〔管〕「夜寐蚤━」。
(十五)やく、(燒)。○〔禮〕「卜-人━レ龜」。
(十六)魚の鱗を去る、けづる、(斮)。○〔禮〕「魚曰レ━レ之」。
(十七)使、令に同じ、命令の意を表はす字、志て、志む、せしむ。○〔周〕「會-同-朝-覲━二大-夫介一」。

〔將作〕官の名。○〔漢〕「━━少-府秦官、掌レ治二宮-室一」。
〔佃作〕農事。○〔史〕「民雖レ不二━━一、而足二於棗-栗一矣」。
〔末作〕商工などの業、昔は農業を以て本となし、よりいふ。○〔晉〕「農-夫苦二其業一、而━━不レ可レ禁也」。
〔力作〕骨折るゝはたらき、又、其の業に從ふ人。○〔晉〕「若二━━所レ致、雖二激必喜-慰一」。
〔細作〕廻はしもの、探偵、間者。○爾、註二左-傳一謂二之諜一、之也、━━也」。
〔著作〕事を記して書物につくりて世に出だすこと。○〔論衡〕「━━者爲二文-儒一」。
〔制作〕考へこしらふ、又、その物、制度、音律など。○〔史〕「乃採二風-俗一定二━━一」。
〔偕作〕ともどもに得す。○〔詩〕「修二我矛-戟一、與レ子━━」。
〔天作〕自然に出來てあることにいふ語。○〔韓愈〕「━而地藏レ之」。
〔動作〕ふるまひ、又、やうす。○〔列〕「有二亡レ鈇者一、意二其隣之子一、━━顏-度、無レ爲而不レ竊レ鈇也」。
〔工作〕(い)土木の事業。○〔宋〕「詔罷二内-外━━一」。
(ろ)はたらく、大工の業をなす。○〔劍俠傳〕「有二老-人一方━━」。
〔土作〕前條の(い)に同じ。○〔後漢〕「造二起九廟一、「窮二極━━一」。
〔農作〕たがやし。○〔宋〕「頗廢━━一」。
〔述作〕著作に同じ。○〔禮〕能━━者」。
〔坐作〕すわるとたつと、又、たちゐふるまひ。○〔周〕「教二━━進退疾-除疏-數之節一」。
〔聖作〕(い)天子のこしらへしものゝ敬稱。○〔唐〕「━━誠工」。
(ろ)ひじりの述べ置きたるもの。○〔柳宗元〕「━人有━、後-王式遵」。
〔營作〕家などをたつる。○〔史〕「乃━二━朝宮一」。
〔築作〕前に同じ。○〔左〕「興━━之役一」。○〔沈重〕「子-夏毛-公━━」。
〔合作〕二人以上にて一つのものを作る。
〔發作〕おこる。○〔韓愈〕「日夕━━」。
〔耕作〕農事に就く、たがやす。○〔史〕「越-王勾踐身自━━、夫-人身自織」。
〔操作〕はたらく。○〔後漢〕「著二布-衣一━━而前」。
〔賃作〕手間代をもらひてはたらく。○〔高士傳〕「━━不レ歸」。
〔傭作〕前に同じ。○〔曹植〕「━━致二甘-肥一」。
〔佳作〕出來ばえよきかきもの。○〔北〕「讀二碑-文一稱爲二━━一」。
〔英作〕すぐれたるかきもの。○〔文心彫龍〕「高-祖大風鴻-鵠之歌、亦天縱之━━也」。
〔傑作〕前に同じ。○〔陸游〕「太古寶━━」。
〔近作〕ちかごろのこしらへもの。○〔宋〕「以二其━━進上」。

【作】ソ。總古切 麌
つくる。○〔韓愈〕「惟此廟-學鄴侯所レ━」。

【作】ショ、ソ。側助切 御
詛に同じ、のろふ、そしる、(怨-謗)。○〔詩〕「侯━侯祝」。

【佝】コウ、ク。公豆切 宥
㊀怐に同じ、おろか、(愚-蒙)。
㊁短くつまりて醜き貌にいふ字。

【佝】ク、コ。擧朱切 虞
拘に同じ、かゝはる。

【佞】デイ、子イ。乃定切 徑
㊀はたらきあること、はたらきあるもの、才に同じ。○〔國〕「我不━、雖レ不レ識レ義亦不レ可レ惑」。
㊁辯才ありて心情の正しからざるにいふ字、かたまし、よこしま、ねぢく、又、其の人、ねぢけもの。○〔論〕「故惡二夫━者一」。
㊂慾の爲めに己れの節を折りて他を歡ばせ他に追從するにいふ字、へつらふ、おもねる、又、其の人、へつらひもの。○〔史〕「以二婉━━貴-幸」。

〔便佞〕辯才あれども實なきこと、又、其の人。○〔論〕「友二━━一」。
〔辯佞〕前に同じ。○〔晉〕「嘔-㖃━━」。
〔讒佞〕辯才に長じ言をもて人を陷るゝこと、又、其の人。○〔後漢〕「速行二━━放-逐之誅一」。
〔邪佞〕ねぢくること、へつらふこと、又、其の人。○〔唐〕「疾レ惡如レ讐不レ容二於衆一、━━切-齒」。
〔姦佞〕〔壬佞〕前に同じ。
〔卑佞〕身をひくゝし人にへつらふ。○〔晉〕「廣-城君每レ出、崇降二車-路左一、望レ塵而拜、其━━如レ此」。
〔纖佞〕度量ちひさくしてねぢけたること。○〔唐〕「劾二搖━━不レ可レ汙二臺-宰一」。
〔權佞〕威權をほしいまゝにする姦人。○〔唐〕「━━側目」。

六畫

【係】保に同じ。

【佩】ハイ、蒲昧切 隊
べ。俗に珮に作る。〔説〕从レ人从レ凡从レ巾、佩必有レ巾。
㊀支那古昔の服飾として玉類を大帶にかけ飾りしもの、卽ち天子は白き玉、公侯は玄き玉、大夫は蒼き玉を帶ぶるなど、位の高下によりて各々別ありき、おびもの、おびたま。○〔詩〕「青-々子━」。
㊁玉をかけ飾りたる大帶、おほおび。○〔後漢〕「當二其無-事一也、舒レ紳緩レ━、鳴レ玉以歩、綽有二餘-裕一」。
㊂おぶ。
(い)身に著く、腰に纏ふ、心に持つ。○〔晉〕「當下得二寶-劍一━上レ之」。
(ろ)水繞り纒ふ、又、他の支流を受け

て流る。〇〔水經、註〕「鮑丘水北……二謙澤一、肦-望無レ限」。
(紼佩) 官位あるとに借りいふ語。〇〔蔡邕〕「紼綬之徒、――之士」。
(服佩) 身につく、又、心に持つ。〇〔蔡邕〕「非二臣容體所一レ當二――一」。
(銘佩) 恩義に感じ、又、訓戒に悟りなどして其の事を深く心に持つ。〇〔杜甫〕「寸心――牢」。
(荷佩) 前に同じ。〇〔鮑照〕「不レ勝二――之誠一」。
(感佩) 前に同じ。〇〔晉書〕「其爲二――一」。
(韋弦佩) 修身上の訓戒となるとに借りいふ語。〇〔韓非〕「西門豹性急、故佩レ韋以自緩、董安于心緩、故佩レ弦以自急」。

【佩】ヒ、ビ。蒲眉切 支
おびもの。〇〔詩〕「何以贈レ之、瓊-瑰玉-――」。

【佩】ハイ、バイ。蒲邁切 卦
おびもの。〇〔屈平〕「紉二秋-蘭一以爲レ――」。

【㑥】シク、ソク。息逐切 屋
伸びず、かゞまる。

【佪】クワイ、エ。戸恢切 灰
㊀徘――は、たちもとほる、めぐる。〇〔漢〕「徘――往-來」。㊁くらし、(惛)。

【佬】レウ。力彫切 蕭
おほいなる貌にいふ字。

【佮】カフ、コフ。葛合切 合
合はせ取る、あはす、あつむ。

【佭】カウ、ゴウ。胡江切 江
伏せず、そむく。

【佯】ヤウ。與章切 陽
詳、陽、徉に通じ用ふる例多し。
㊀心さにはあらずして唯外面をのみ装ひ飾れるにいふ字、いつはる、いつはり、あらはに。〇〔淮〕「此善爲二詐――者也」。
㊁物事のはッきりとしたる貌にいふ字、あきらか。〇〔韓愈〕「――權-變偷廻レ面」。
㊂此處彼處を往來す、たちもとほる、さまよふ。〇〔楚辭〕「聊仿――而逍-遙」。
(相佯) さまよふ、又、たちもとほる。〇〔後漢〕「――而延佇」。
(倡佯) 前に同じ。〇〔司馬光〕「逍-遙――、惟意所適」。
(倘佯) 前に同じ。〇〔淮〕「――二冀-北之際一」。
(倚佯) 竹もてあんぺらの如く編みたるもの、あじろ。〇〔揚雄〕「萃-帝白關而東、周洛楚魏之間、謂二之――一」。

【佰】バク、ミヤク。莫白切　ハク、ビヤク。博陌切 陌
㊀十を十倍したる數、もゝ、(百)。〇〔說文〕「相什――也」。
㊁百錢。〇〔漢〕「仟――之得」。
㊂百人の長、かしら、おやかた、をさ。〇〔賈誼〕「俛二起什――之中一」。
㊃阡に通じ用ふ、田地の東西の經界、ちまた。〇〔漢〕「南以二閩-――一爲レ界」。

【侶】クワイ、ケ。虎猥切 賄
㊀みにくき貌にいふ字、みにくし、(醜)。㊁かゞ、(隅)。

【佲】ベイ、ミヤウ。母迥切 迥
㊀酩に同じ、大いに醉ふ、ゑふ。㊁よし、(好)。

【佳】カイ、ケ。古膎切 佳
㊀よし。
(い)可なり、よろし。〇〔世說〕「司-馬-徽畏-謹、有下以二人-物一問者上、每言二輒――一、妻責二徽無一レ別、徽曰、如二汝言一亦復――」。
(ろ)うつくし、うるはし、(美)、又、このまし、みめよし、(好)。〇〔論衡〕「偶[illegible]二形――骨媚一」。
㊁好む、よみす。〇〔老〕「――レ兵者不祥」。
㊂おほいなり、(大)。
(絶佳) 極めてよし。〇〔蘇軾〕「酘酒――」。
(彌佳) 益々善良の域に趣く。〇〔宜都記〕「彌習――」。
(景佳) 景色よし。〇〔陸游〕「今-歲光――」。
(致佳) 前に同じ。〇〔薛季宣〕「新-晴一日――」。
(殊佳) 前に比し取り分けて美しきこと。〇〔王羲之〕「僕近修二小園子一――」。
(常佳) 易はることなく永くよし。〇〔王羲之〕「體-氣――」。
(兩佳) 彼れも此れも共によし。〇〔蘇軾〕「雞-山雪-月――哉」。
(韵佳) 風景靜寂にしてよし。〇〔吳鎮〕「景――兮足二靜賞一」。

【佳】キ。居宜切 支
前條の㊀の(ろ)に同じ。〇〔揚雄〕「相態以二麗――一」。

【佳】カ。居何切 歌
前條に同じ。〇〔白居易〕「語-言亦何――」。

【㑊】エキ、ヤク。夷益切 陌
病の名。
(食㑊) 大食しつゝ漸次に瘦する病。
(解㑊) 眠擇の遲く且不規則なること。

【佴】ジ、ニ。仍吏切 寘
㊀相次ぐ、つぐ、又、そふ、(副)。〇〔司馬遷〕「李陵既生降、頽二其家聲一、而僕又――二之蠶-室一、重爲二天下觀-笑一」。
㊁さし、(佽)。㊂うたがふ、(疑)。㊃よこしま、(邪)。

【倂】併に同じ。

【佶】キツ、ギチ。巨乙切 質
㊀たゞし、(正)。
㊁壯健なる貌にいふ字、すこやか、又、さかんなり、つよし。〇〔詩〕「四-牡既――」。

【佷】コン、ゴン。戸懇切 阮　コウ、ゴウ。胡登切 蒸
很に同じ、もとる、たがふ。〇〔後漢〕「董卓自――用」。

【佸】クワツ、グワチ。戸括切　クワツ、クワチ。古活切 曷
㊀あふ、あつまる、あつむ、(會)。㊁力ある貌にいふ字、つよし。㊂いたる、(至)。〇〔詩〕「曷其有レ――」。㊃ふゆ、(生)。

【𠈀】キウ、ク。去仲切 送
㊀小なる貌にいふ字、ちひさし、いやし。〇〔張衡〕「怨二高-陽之相レ寓兮、――二顓-頊而宅レ幽」。㊁かゞむ、(屈)。㊂さぶし、(寒)。

【佹】キ。過委切 紙
㊀かさぬ、かさなる、(重-累)。
㊁さゝふ、(支)、又、攱に作ることあり。〇〔司馬相如〕「連-卷欐――」。
㊂よる、(依)。
㊃もとる、(戾)。〇〔周、註〕「畜-爪不二相――一」。

㊄常ならず、ことなり、くすし、（奇・異）。○〔淮〕「爭爲二一-辯一久積而不レ訣」。
〔佹佹〕常に異なり、くすし。○〔王逸〕「𤥙瑋--」。
〔佹迕〕かさなりもとる。○〔魯靈光殿賦〕「---雲起」。

【佹】キ。居爲切 支
殆ど似たる貌にいふ字。○〔列〕「----而成者」。

【佻】テウ。吐彫切 蕭
㊀竊み取る、ぬすむ。○〔國〕「-レ天以爲二己力一」。
㊁愛情薄し、思慮淺し、うすし、かろし。○〔詩〕「視レ民不レ-」。
㊂獨行の貌にいふ字、ひとりゆく、又、行きて勞苦に堪へざる貌にいふ字、つかる。○〔詩〕「---公-子、行二彼周-行一」。
㊃かりそめ、（苟-且）。○〔壯〕「惡二其--巧一」。
〔躁佻〕かろぐし。○〔韓〕「---反-覆謂二之智一」。
〔愚佻〕心暗くしてかろぐし。○〔陳琳〕「---短-略」。
〔輕佻〕氣早くはづむこと。○〔舊唐〕「率多--」。

【佻】テウ、デウ。直紹切 篠
㊀前條に同じ。
㊁はじめ、又、はじめて、（始）。○〔漢郊祀歌〕「-正二嘉-言一、弘以昌」。

【佻】エウ。餘韶切 蕭
㊀ゆるし、ゆるやか、（緩）。○〔荀〕「-二其期-日一、而利二其巧-任一」。
㊁かく、（縣）。○〔揚雄〕「-、抗、縣也」。

【佻】テウ。他弔切 嘯

にくむ、それむ、（疾）。○〔晉〕「骨-肉宜レ敦而猜--」。

【佼】カウ、ケウ。古巧切 巧
㊀容貌うるはし、よし、みめよし、かほよし、一に姣に作る。○〔詩〕「-人僚兮」。
㊁すこやか、（健）、さとし、（敏）。○〔淮〕「燕-雀-レ之」。
〔佼佼〕（い）鳥の飛びかふ貌にいふ語。○〔詩、箋〕「交-々猶二--一」。（ろ）みめよし。○〔後漢〕「庸-中--者也」。
〔肥佼〕肉づきふとりてみめよし。○〔論衡〕「面-狀---」。
〔壯佼〕年齡まさに盛んに身體の大きく容貌の好きこと、又、其のもの。○〔禮〕「養二--一」。

【佼】カウ、ケウ。古交切 肴
㊀交に同じ、まじはる、又、まじはり。○〔管〕「忘レ主而趨二私--一」。
㊁ならし、（效）。㊂かたち、（象）。
㊃郊に同じ、をか。○〔史〕「宜レ爲二上--一而今乃抵レ皐」。

【佼】カウ、ケウ。古孝切 效
㊀前條の㊀に同じ。㊁さとし、（敏）。
㊂たはる、又、みだりがはし、（淫）。

【佽】シ。七四切 寘　一通じて次又は㳄に作る。
㊀ついでよし、たよりよし、（便-利）。
㊁はやし、さし、かろし、（輕・疾、鋭-利）。○〔漢〕「募二--飛射-士一」。
㊂ならぶ、（比）。○〔詩〕「決-拾既-」。
㊃たすく、又、たすけ、（助）。○〔詩〕「人無二兄-弟一、胡不レ-焉」。
㊄かはる、（代）。㊅たがひに、（遞）。
㊆およぶ、（及）。

【佾】イツ、イチ。夷質切 質
㊀舞の行列、列と行との人員同じ、天子は八と八との行列にて六十四人、諸侯は六と六とにて三十六人、大夫は四と四とにて十六人、士は二と二とにて四人なるを周代の定めとす。○〔論〕「八--舞レ於レ庭」。
㊁逸に通じ用ふ、やすし、又、やすんず。○〔古本書〕「以二--悖一滅二厥德一」。

【使】シ。疎士切 紙
㊀爲さしむ、行はしむ、從ひて動かしむ、用ひて作さしむ、つかふ。○〔易〕「悅以-レ民」。
㊁動作を命ずる意をあらはす字、ゐて、ゐむ、せしむ（令の字の條參照）。○〔歐陽修〕「不レ能レ-下小-人不も爲二惡・極大-罪一」。
〔臂使〕思ひのまゝに役して思ひのまゝになるにいふ語。○〔賈誼〕「如二身之使レ臂、-之-ロ指、莫レ不二制-從一」。
〔指使〕物事を指さして人をつかふ。○〔禮〕「六-十曰レ耆、--」。
〔權使〕計略をもて人をつかふ。○〔史〕「-二--其士一」。
〔目使〕目づかひにて人を役すること、人を見下げて役する貌にいふ。○〔唐〕「--頤-令、自視二王-侯一」。
〔器使〕伎能ある人を役して物事の任に堪ふること。○〔蔡襄〕「豈無二人--一」。
〔任使〕物事をまかせて役す。○〔職〕「臣竊下恐不レ足二--一「-鬼-神一」。
〔役使〕命令に從ひて動作せしむ。○〔後漢〕「-二-社・公一」。
〔驅使〕追ひつかふ。○〔後漢〕「-二-社・公一」。
〔努使〕前に同じ。○〔白居易〕「不レ願レ見二--一」。
〔氣使〕もの言はずとも意氣合ひにてまらせて人をつかふこと。○〔漢〕「目・指--、是爲レ賢耳」。

【使】シ。疎吏切 寘
命を傳ふる人、聘問に遣はさるゝ人、命を受け出でて事に當たる人、つかひ、又、つかひと爲る、つかひす。○〔史〕「發二一-乘之-一、下二咫-尺之書一」。
〔客使〕他國より來たれるつかひの人。○〔左〕「無レ憂二--一」。「請二納-越一」。
〔馳使〕急ぎてつかひの人を遣る。○〔漢〕「南-レ-」。
〔報使〕（い）使ひしたる旨を報告すること、復命に同じ。○〔史〕「王・稽與二范・睢一、入二咸・陽一已--」。（ろ）彼れよりつかひの人のありたるに對し、此れよりもつかひの人を遣りて之に報ゆること。○後漢「-・-北・單于」。
〔走使〕驅せ廻りて用事を辨ずるためのつかひ。○〔通典〕「魏以二諸・曹--一曰二凫・鶩一、取二其迅・速一」。
〔奉使〕つかひとなること。○〔後漢〕「懷レ金垂レ紫、揭二節--一」。
〔郊使〕人を城外に迎へて慰勞するつかひの人。○〔左〕「又無三敢辱二賓敢辱二--一」。
〔譯使〕通辯をなすつかひの人をさす。○〔漢〕「漢之--自レ此還」。
〔密使〕人に知られざるやうにしてやるつかひの人。○〔盧思道〕「或陳二誠・欵一、--相尋」。
〔星使〕流星は天のつかひといふより天子の代理たる使者を稱するに用ふる語。○〔高適〕「--出二詞・賦一」。
〔大使〕前に同じ。○〔羊士諤〕「綬・榮二--一」。
〔雁使〕おとづれ、音信。○〔喬知之〕「寂寥無二--一」。
〔華使〕唐時代に使の名ある官多かりしより高貴の官吏にいふ語。○〔唐〕「要・官--、多出二北門一」。
〔傔使〕人のつかひ男。○〔易林〕「爲二人--一」。
〔僮使〕前に同じ。○〔崔浩〕「不レ任二--一」。
〔信使〕聘問の使者。○〔司馬相如〕「故遣二--、慰二諭百・姓一」。
〔邊使〕邊塞より來たれるつかひ。○〔王建〕「厲到二朝・元--急」。
〔府使〕君命を辱めざる善良なる使者にいふ語。○〔揚雄〕「雖二古之--、其猶劣諸」。
〔皇使〕天皇よりのつかひ。○〔曹植〕「欲二--一」。
〔一介使〕一人のつかひの者。○〔史〕「大・王遣二---之一」。
〔花鳥使〕男女の間を媒介する者。○〔唐〕「帝歲遣二---使、采二擇天下姝・好一、內二之後・宮一、號二---」。

（[illegible]節使）天子より節を賜はりて出づるつかひ。○〔後漢〕「以上公之錄、秉二―・―之一」。（持節使）前に同じ。○〔韓愈〕「丞相其選三宗室四品一人、―レ―往一三君長一」。（節度使）一方面の軍政を總轄し兼ねて其の方面内の諸政を監督する最も勢力ある地方官の名。（觀察使）官署を巡回して政成の良否を視る官の名。（樞密使）唐の時代にて宦官の職、五代の時代にては宰相の任、宋の時代にては天下の武事を掌る最高官。（招討使）叛亂の民を歛め來たし敵抗する者を征伐する一方面の總督。

【侀】 ケイ、ギヤウ。戸經切 [青] 形に通じ用ふ、かたち。○〔禮〕「刑者―也、―者成也」。

【侁】 シン。疏臻切 [眞] 駪に通じ用ふ。㊀馬羣行して先を爭ふ、さきがけ。㊁ゆく（行）。㊂つかひ（使）。㊃衆多の貌にいふ字、おほし。○〔楚辭〕「往來―――些」。

【侃】 カン。可旱切 [旱] 袪幹切 [翰] たゞし、つよし、なほし（剛直）、又、やはらぎたのしむ貌にいふ字。○〔論〕「―――如也」。

【侄】 シツ、之日切 [質] シチ。俗に姪の字となすは誤なり。㊀かたし（堅）。㊁かしこし（賢）。㊂おろか（癡）。㊃前ます、とゞまる。

【侙】 シ。職吏切 [寘] よる（依）。

【侅】 カイ、柯開切 [灰] ガイ。胡改切 [賄] ㊀つれならず（非常）。㊁むせぶ（咽）。○〔莊〕「―二溺於馮氣一」。

【來】 ライ。郎才切 [灰] 徠又は倈に作る。
㊀きたる、くる。
（い）此處に到る、いたる。○〔禮〕「禮尚二往―一」。
（ろ）此處に還る、かへる。○〔呂氏春秋〕「使者未レ―」。
（は）此處に及ぶ、およぶ。○〔漢〕「富貴之―」。
（に）將來に屬す。○〔論〕「往者不レ可レ諫、―者猶可レ追」。
㊁きたらしむ、よぶ、まねく、きたす。○〔周〕「大祝―レ瞽令二皐舞一」。
㊂將來、未來、前途、死後、さき、のち。○〔漢〕「擧レ往以明レ―」。
㊃このかた、又、から、より。○〔韓愈〕「入レ秋―、眠食何似」。
㊄いざなふ意を表はす字、いざ。○〔史〕「長鋏歸乎―」。
㊅音調を助くるに用ふる字。○〔范成大〕「知是兒孫鬪レ草―」。
㊆麳に通じ用ふ、こむぎ。○〔詩〕「貽二我―牟一」。
（如來）佛の十號の一。○〔道院集〕「本覺爲レ如、今覺爲レ來、故曰二―・―一」。
（本來）もとより、初めより、もと、はじめ。○〔傳燈錄〕「菩提本非レ樹、心鏡亦非レ臺、―・―無二一物一」。
（元來）前に同じ。
（由來）前に同じ。○〔楊炯〕「―・―天下傳」。
（未來）後の時、又、死後。○〔法華經〕「不レ能下於二―・―演二說無上道上」。
（將來）前に同じ。
（以來）其れより、このかた。○〔韓愈〕「漢氏―・―」。
（爾來）前に同じ。○〔岑參〕「―・―逢二歲酒一」。
（到來）きたる、又、他より贈りものあるにいふ語。
（推來）今より後の物事を考へ究むること。○〔揚雄〕「因レ往以―レ―」。
（朝來）あさまだきより。○〔晉〕「西山―・―致レ有二爽氣一」。
（招來）人を己れの方へ勸め至らしむること。○〔史〕「大夏之屬、皆可二―・―而爲二外臣一」。

【來】 リ。里置切 [寘] 前條の㊁に同じ。○〔荀〕「一往一―、結尾以爲レ事」。

【來】 リ。陵之切 [支] 前條に同じ。○〔詩〕「莫レ往莫レ―、悠悠我思」。

【來】 リヨク、リキ。六直切 [職] 前條に同じ。○〔詩〕「王猷允塞、徐方既―」。

【來】 ライ。落代切 [隊] きたりしものゝ勞を慰む、ねぎらふ、つさむ。○〔孟〕「勞レ之―レ之」。（勞來）己れの方に至りしものを慰む。○〔屈小〕「將送レ往―レ―無レ窮乎」。

【侇】 イ。延知切 [支] ㊀ひさし、ともがら、しな（儕、等）。㊁たひらか（平夷）。㊂うつる（移）。㊃しかばね（尸）。○〔儀、註〕「―之言尸也」。

【侈】 シ。尺氏切 [紙] 又、奓に作る。
㊀おごる　おごり。
（い）おほいなるを好む、ゆたかなるを求む、分に過ぎ度に越したる事を行ふ、おほく費す、みだりに飾る。○〔漢〕「其俗彌―」。
（ろ）みだる、ほしいまゝ。○〔孟〕「放辟邪―」。
㊁ひろし（廣）、おほいなり（大）。○〔國〕「已―大哉」。
㊂おほし（多）、ゆたか（饒）。○〔史〕「不レ陳二庶―一」。
㊃すぐ（過）、あまる（剩）。○〔莊〕「―二乎德一」。
㊄はる（張）。○〔詩〕「哆兮―兮」。
㊅鐘の口。○〔周〕「―弇之所二由興一」。
（華侈）華美を飾ること。○〔晉〕「性奢豪務在二―・―一」。
（奢侈）（泰侈）（豪侈）（浮侈）（淫侈）（驕侈）前に同じ。
（踰侈）分外の事をなす。○〔漢〕「―・―以相高」。
（傲侈）人に高ぶり、且、はでを飾ること。○〔北〕「恭儉福之興、―・―禍之機」。
（專侈）心の儘におごり振舞ふ。○〔東京賦〕「出下―二其―以莫二己若一」。
（雄侈）富有なること。○〔隋〕「用成二―・―一」。
（偉侈）前に同じ。○〔論衡〕「富人―・―」。
（弘侈）（い）おほいなること。○〔國〕「私欲―・―」。（ろ）おごること。○〔舊唐〕「帝心在二―・―一」。
（侈々）ゆたかなる貌にいふ語。○〔蜀都賦〕「―・―隆富」。

【侈】 シヤ。昌者切 [馬] 前條の㊅に同じ。○〔公羊〕「其言二至レ嶲弗レ及何―也」。

【侈】 イ。以支切 [支] 前條に同じ。○〔儀〕「主婦被二錫衣―袂一」。

【㑌】 ワウ。烏光切 [陽] 尫に同じ、足の彎曲せる不具者の稱、あしなへ（蹇）。○〔荀〕「賤レ之如レ―」。

【侉】 クワ、ケ。苦瓜切 [麻] 夸に同じ、おごる（奢）。○〔書〕「驕淫矜―」。

【侉】 ア。安賀切 [箇] 甚しく呼ぶ、さけぶ、わめく。

【侊】 クワウ。古黃切 [陽]

おほいなり、（大）、さかんなり、（盛）。○〔國〕「一一飯不レ及二壺飧一」。

【侊】クワウ。古横切　庚

㊀ちひさし、（小）。㊁おほいなり、（大）。

【例】レイ。力制切　霽

㊀比類、なみ、たぐひ。○〔史〕「臣子一一」。

㊁比證、引用、規程、典故、慣習、ひきごと、おきて、さだめ、ためし、ならはし、しきたり。○〔晉〕「集二罪一一以爲二刑名一」。

㊂大概、大略、總括、おほむね、おほよそ、あらまし、すべて、みな。○〔左、序〕「發レ凡以言レ一」。

〔常例〕平素のしきたり。○〔晉〕「不レ同二一一一」。

〔法例〕法律上今日迄のしきたり、又、法律。○〔晉〕「刑名一一」。

〔品例〕等級の定め。○〔舊、傳〕「閒二九德一一一」。

〔前例〕先時より行ひ來たりしためし。○〔南〕「漢之一一」。「釁之一一」。

〔斷例〕罪人を處決したる時のためし。○〔晉〕「纒二惟準一門一、不レ在二一一一」。

〔赦例〕特典によりて罪をゆるしたる前のためし。

〔引例〕前のためしを證として引くこと。○〔摭瘗錄〕「一レ一爲レ弊」。

【㑊】レツ、レチ。力蘖切　屑

まちまちにす、さへぎる、（遮）。

【侍】シ、ジ。時吏切　寘

㊀尊長の側近くに奉事す、つかふ、さぶらふ、はべる、つきしたがふ。○〔禮〕「一一坐于先生一」。

㊁側近くに奉事する人、さぶらひ、つきそひ。○〔唐〕「早喪レ妻、不レ置二妾一一」。「疾一レ老也」。

㊂やしなふ、（養）。○〔呂氏春秋〕「以養レ

㊃のぞむ、（臨）。○〔禮〕「大夫大胥一レ之」。

〔近侍〕主君又は長上の側近くにはべること。○〔漢〕「一二一唯幄一」。

〔陪侍〕君の側につき從ふこと。○〔魏〕「群僚一一一」。

〔隨侍〕前に同じ。○〔魏〕「弗レ獲二一一一」。

〔媵侍〕（い）女子の嫁するとき從ひて來る婦人。○〔唐〕「一一一疾病」。
（ろ）つきそひの人。

〔執筆侍〕佑筆の者。○〔唐〕「一レ一一、通宵不レ寢」。

【㐌】ダ、チ。奴下切　馬

皮のびひろがる。

【侎】ビ、ミ。綿婢切　紙

敉に同じ、なづ、（撫）、めづ、いつくしむ、（愛）、やすんず、（安）。○〔周〕「掌レ一二戢兵一」。

【侏】シュ。章倶切　虞

一一儒は。
（い）短小なる人、いっすんぼふし。○〔禮〕「一一儒百工」。
（ろ）梁上の短柱、うだち。○〔禮、註〕「藻レ梲畫二一一儒一」。

【侐】キョク、ケキ。忽域切　職　キ。火季切　寘

しづか、さびし、（靜、寂）、又、きよし、（清淨）。○〔詩〕「閟宮有レ一」。

【侑】イウ、ウ。于救切　宥

㊀たすく、（相）、すゝむ、（勸）。○〔周〕「膳夫以レ樂一レ食」。

㊁貴人に相伴して食事すること。○〔禮〕「一一食不二盡食一」。

㊂相輔、たすけ。○〔禮〕「卜筮瞽一」。

㊃むくゆ、むくい、（報、酬）。○〔宋〕「民有二報一一一」。

㊄姷に通じ用ふ、たぐひ、ならぶ。

㊅宥に通じ用ふ、ゆるやか、ゆるす。○〔管〕「文有二三一一、武無二一一赦一」。

㊆醑に同じ、盃の一種。○〔文子〕「三皇五帝有二勸戒之器一、命曰二一一卮一」。

〔獨侑〕一人にて酒を酌むこと。○〔蘇軾〕「一一一尋縁」。

〔璧侑〕玉もて作れる盃。○〔國〕「饗レ之以二一一一」。

〔享侑〕饗應すること。○〔宋〕「既一既一」。

【侒】井。葦委切　紙

さいはひ、（祐）。

【侒】アン。烏寒切　寒

㊀やすし、やすんず。㊁おそし。

㊂さかもり。

【侓】ロツ、ロチ。勒沒切　月

大いなる貌にいふ字。

【侔】ボウ、ム。莫浮切　尤

㊀ひとし。
（い）そろふ。○〔後漢〕「士強弱相一」。
（ろ）おなじ。○〔鄒陽〕「五伯不レ足レ一」。

㊁蝨又は蛑に通じ用ふ、いなむし。「一一一二」。

㊂つとむ、つよし、（強）。

〔比侔〕相較べて一つにすること。○〔韓愈〕「氣象難二一一一」。

〔敵侔〕相匹敵すること。○〔戰〕「韓與レ魏一一之國」。

【侕】ジ、ニ。人之切　支

衆多の貌にいふ字、おほし、又、もろもろ。

【侖】ロン。盧昆切　元

㊀おもふ、（思）。㊁まろし。

㊂ついづ、（敍）。

〔昆侖〕（い）山の名、崑崙に同じ。
（ろ）物體の圓きこと。

〔渾侖〕物の圓くして剖かれざること。

〔離侖〕神の名。○〔山海經〕「槐江之山、槐鬼一一居レ之」。

【㑍】ライ。力對切　隊

つぐ、（亞）。

【侗】トウ、ツ。他東切　東

㊀おろか、（無知）、又、おろかなる人、うつけもの。○〔論〕「一而不レ愿」。

㊁身體の機能未だ發達せず、をさなし、（稚）、又、をさなき者。○〔揚雄〕「倥一顓蒙」。

【侗】トウ、ツ。吐孔切　董

㊀なほし、すなほ、（直）。

㊁ながし、又、おほいなり、（長大）。

【侗】トウ、ヅ。徒弄切　送

すなほ、まこと、つゝしむ、（誠愨）。○〔莊〕「一一然而來」。

【侘】タ、テ。丑亞切　禡　敕加切　麻

㊀おごる、ほこる、（誇）。○〔史〕「郎欲三以一二鄙縣一」。

㊁傺の字の條を見よ。

【侙】チョク、チキ。恥力切　職

恜に同じ、おそる、（惕）。○〔國〕「於二其心一一然」。

【侚】シュン、ジュン。辭閏切　震

㊀殉に通じ用ふ、生命を任かす、したがふ。○〔書〕「一レ于二貨色一」。

㊁佝に通じ用ふ、ゆく〳〵しめす、しめす、となふ。○〔漢〕「車-裂以-｜」。㊂傳に通じ用ふ、さし、はやし、すみやかなり。○〔史〕「黃-帝幼而｜-齊」。㊃さほし、（遠）。

〔侚〕シユン、ジユン。松遵切 〔眞〕
㊀つかふ（使）。㊁すがめみる（偏-視）。

〔佪〕ケン。黃絹切 〔霰〕
まよふ（迷）。

〔供〕キヨウ、ク。九容切 〔冬〕　共に通じ用ふ。
居用切 〔宋〕
㊀そなふ。
（い）まうく（設）。○〔論〕「子-路｜レ之」。
（ろ）たてまつる（奉）、すゝむ（進）。○〔左〕「敢不ニ｜-給一」。
（は）たす（給）。○〔魏〕「常-郵常-｜」。
（に）さづく（授）、又、たまふ（賜）。○〔周〕「｜ニ其貨-賄一」。
㊁そなふること、そなふる物、そなへ、そなへもの。○〔晉〕「一-日之｜、以ニ錢二-萬一爲レ限」。
㊂ものそなへられてあり、そなはる。○〔左〕「爾貢包-茅不レ入、王祭不レ｜、無ニ以縮一レ酒」。
〔珍供〕常にあらざるそなへもの。○柳貫「倘食來ニ｜-｜一」。
〔異供〕前に同じ。
〔給供〕入用にそなふること。○〔魏〕「詔｜ニ百-五-十-人｜一」。
〔獻供〕物を奉ること。○〔徐陵〕「提河｜-｜之侶」。
〔資供〕人よりの贈り物。○〔南〕「凡所ニ｜-｜一、一無レ所レ受」。
〔法供〕佛の祭り。○〔魏〕「設ニ大-｜-｜一」。
〔祖供〕餞別の設け。○〔漢〕「設ニ｜道一、｜-｜ニ帳東-都門-外一」。
〔午供〕晝飯の設け。○〔僧清珙〕「山-厨修ニ｜-｜一」。
〔茶供〕茶を煮てすゝむること。○〔方岳〕「山-泉明レ佛結ニ｜-｜一」。
〔齋供〕僧家の食事の設け。○〔貫雲〕「｜-｜薦ニ芳-胦一」。

〔侜〕チウ、チユ。張流切 〔尤〕
㊀おほひかくす（廱-蔽）。○〔詩〕「誰｜ニ予美一」。㊁あざむく（誑）。㊂のす（載）。㊃はる（張）。

〔依〕イ、エ。於希切 〔微〕
㊀よる。
（い）もたる（憑）。○〔詩〕「君-子所レ｜」。
（ろ）たのむ（恃）。○〔左〕「輔-車相｜」。
（は）したがふ（循）。○〔論〕「｜ニ於仁一」。
（に）佑く。○〔左〕「惟德是｜」。
（ほ）愛す。○〔詩〕「有レ｜ニ其士一」。
㊁よること、よる所。○〔班固〕「似ニ無レ｜而洋-々一」。
㊂其のまゝ、昔ながら。○〔韋嗣立〕「谿-嶂各｜-然」。
㊃樹木のしげれる貌に用ふる字、しげる、さかんなり。○〔詩〕「｜彼平-林」。
〔依々〕（い）物事のたどたどしき貌にいふ語。○〔後漢〕「皆助ニ朕之｜-｜」。（ろ）しげれる貌にいふ語。○〔詩〕「昔我往矣、楊-柳｜-｜」。（は）何となく情を含むらしく見ゆる貌にいふ語。○〔元好問〕「｜-｜如レ有レ意」。
〔憑依〕より助くること。○〔左〕「神所ニ｜-｜一、將レ在ニ德矣一」。
〔因依〕互にたのみ合ふこと。○〔阮籍〕「寒-鳥相｜-｜」。
〔歸依〕たよること、又、邪を去りて正に就くこと。○〔王維〕「｜-｜宿ニ化-城一」。

〔依〕イ、エ。隱豈切 〔尾〕
㊀やすし、やすんず（安）。○〔詩〕「于レ京｜斯」。
㊁革もて弓弦に纏へるもの、つるまとひ。○〔禮〕「設ニ｜-撻一焉」。
㊂扆に通じ用ふ、其の狀屏風の如き継具にて赤地の絹に斧の形を繍せるものを張る、其の高さ八尺ありて天子の背後に在り、武威を示すために設けしもの。○〔儀〕「天-子設ニ斧-｜于ニ戶-牖之閒一」。
㊃戶牖の閒。○〔儀〕「佐-食無レ事、則出レ戶負レ｜南-面」。
㊄たとふ、又、たとへ（譬-喩）。○〔禮〕「不レ學ニ博-｜一、不レ能レ安レ詩」。

〔㑓〕ジウ、ニユ。如融切 〔東〕
支那の西方にあるえびす（戎）。○〔正字通〕「未レ聞下｜人身有ニ三-角一者上」。

〔侞〕ジヨ、ニヨ。人余切 〔魚〕
ひとし（均）。○〔孔穎達〕「欲レ安ニ遠-方一、當ニ先順ニ｜其近一」。

〔伳〕エツ、羊列切 〔屑〕 エイ。羊制切 〔霽〕 エチ。
外部に見はるゝこと、うつるかげ。○〔淮〕「容-貌顏-色、理-詘｜-倨、佝知ニ情-僞一矣」。

〔侟〕セン。作甸切 〔霰〕
薦に同じ。

七畫

〔侮〕ブ、ム。文甫切 〔麌〕
㊀慢易す、かろんず、しのぐ、なかす、もてあそぶ、あなどる、あなどり。○〔史〕「淮-陰少-年有ニ｜レ信者一」。
㊁賤者の稱、又、奴婢を罵りていふ稱。○〔揚雄〕「秦晉之閒、罵ニ奴-婢一曰レ｜」。
〔狎侮〕なれあなどる。○〔書〕「｜-｜ニ君-子一」。
〔輕侮〕あなどる。○〔後漢〕「｜-｜ニ道-術一」。
〔侵侮〕しのぎあなどる。○〔禮〕「不ニ｜-｜一、不ニ好-狎一」。
〔陵侮〕前に同じ。○〔北〕「每ニ｜-｜之一、驅ニ於｜前-面一、折ニ素短一」。
〔抵侮〕前に同じ。○〔唐〕「敵｜-｜、終卒不レ校也」。
〔賤侮〕いやしめあなどる。○〔北〕「恃レ才矜レ貴、｜-｜朝-臣一」。
〔倨侮〕高ぶりて人をあなどる。○〔韓〕「日ニ草-野一倨」。
〔慢侮〕前に同じ。○〔史〕「上｜-｜人一」。
〔外侮〕外國より受くるあなどり、骨肉外の人より受くるあなどり、總べて關係を同じくする者の外より受くるあなどりにいふ語。○〔左〕「北懷ニ柔天-下一也、猶懼レ有ニ｜-｜一」。
〔內侮〕外侮の反、關係を同じくする者の相合せざること、主に兄弟にいふ。○〔國〕「兄-弟鬩ニ於牆一、外禦ニ其侮一、則｜-｜雖レ鬩不レ敗レ親也」。
〔禦侮〕外侮をふせぐこと。○〔詩〕「予曰有ニ｜-｜一」。

〔㑗〕シン。升人切 〔眞〕
㊀身重もになる、はらむ。㊁神の名。

〔㑌〕ラウ、ロウ。郎刀切 〔豪〕
㊀おほいなり（大）。㊁あらし（麤）。

〔侯〕コウ、グ。胡鉤切 〔尤〕
㊀十尺四方ある射布、鵠其の中にあり、まと。○〔詩〕「終-日射レ｜、不レ出レ正兮」。

（侯之圖）

㊁封土を天子に受けて、其の封內の大小の政權を握れる人、大名、小名、古へは、射術もて賢を選び射中てし者に封爵を與へしより此の稱起こりぬ。○〔史〕「九-合ニ諸-｜一」。
㊂特に五等爵の中にて、第二のもの、周にては土地百里四方を領する定めなりき。○〔春秋〕「齊-｜-鄭-伯盟ニ于石-門一」。

㊃封土なき一官爵。○〔史〕「倫―」。
㊄王城を去ること五百里の地、卽ち侯服のもの、天子の斥候となりて事ふるの意。○〔書〕「五-百-里―-服」。
㊅うかゞふ(候)、むかふ(迎)。○〔周〕「―禳」。
㊆うつくし、よし(美)。○〔詩〕「洵直且―」。
㊇惟、維、伊に同じ、語の發端に用ふる字、これ、こゝに。○〔詩〕「―于レ周服」。
㊈何に通じて疑ひ問ふときに用ふる字、なに、なんぞ。○〔司馬相如〕「君乎君乎、―不レ邁哉」。
㊉兮に通じ用ふ、無意味の助字。○〔史〕「高-祖過レ沛、詩有三三―之章一」、〔註〕「沛-詩有三三兮一、故曰三三―詩一」。

(大侯) (い)大いなる射布、諸侯の射る的。○〔詩〕「――既抗、弓-矢斯張」。(ろ)大國の大名。○〔史〕「――不レ過二萬-家一、小-者五六-百-戸」。
(小侯) 小國の大名。○〔禮〕「庶-方――」。
(熊侯) 天子の射る的。
(麋侯) 諸侯の射る的。
(布侯) 士大夫の射る的。○〔儀〕「天-子熊-侯白-質、諸-侯麋-侯赤-質、大-夫布-侯、畫以二虎-豹一、士布-侯、畫以二鹿-豕一」。
(陽侯) 海の神の名。○〔博物誌〕「晉―國―溺レ水、因爲二大-海之神一」。
(列侯) もろもろの大小名。○〔史〕「論レ功與二諸――一、剖レ符行レ封」。
(封侯) 封ぜられて大小名となること、又、大小名。○〔史〕「安得二――事一乎」。
(君侯) 丞相又は列侯の尊稱。○〔漢〕「――長何憂乎」。
(素侯) 諸侯とならずしてその樂みあること。○〔蘇軾〕「雖レ辭二功與一レ名、其樂實――」。
(孟侯) 諸侯の旗頭、又、太子の年十八なるをいふ。
(通侯) 列侯に同じ。○〔史〕「擢爲二丞-相一、封爲二――一」。
(徹侯) 前に同じ。○〔漢〕「爵-級二十―-―、金印紫綬」。
(藩侯) 大名。○〔典略〕「吾雖二薄-德一、位爲二――一」。
(萬戸侯) 大いなる大名の稱。○〔史〕「如令三子當二高-帝之時一、――――豈足レ道哉」。
(萬里侯) 京城より遠き地方、卽ち邊塞などの大名の稱、政を行ふに朝廷の牽制を受くること最も少なきもの。○〔後漢〕「燕-頷虎-頸、飛而食レ肉、――――之相也」。
(管城侯) 筆の異名。○〔文房四譜〕「宣-城毛-元-銳字文-鋒、封爲二―――一」。
(卽墨侯) 墨の異名。○〔文房四譜〕「石-虛-中字居-默、南-越人、拜二―――一」。
(好時侯) 紙の異名。○〔文房四譜〕「華-陰楮知-白字守-玄、亦曰二―――一」。

【侲】シン。之刃切 震　之人切 眞
㊀よし(善)。○〔薛綜〕「―之言、善也」。
㊁わらはべ、ちご(童子)。○〔張衡〕「―子萬-童」。
㊂馬を飼ふ人、うまかひ。○〔揚雄〕「燕-齊之閒謂二養レ馬者一爲レ―」。

【⿰亻延】タン、ダン。杜晏切 諫　徒亶切 旱
おほいなり(大)。

【⿰亻沙】サ。桑何切 歌
㊀ゆく(行)。㊁舞ひて止まざる貌にいふ字、まふ。

【侳】サ、ザ。側臥切 箇
㊀やすし、又、やすんず(安)。㊁はづかしむ(恥)。○〔淮〕「君-子不レ入レ市爲二其―一レ廉也」。㊂所有す、たもつ。

【侳】サ、ザ。臧戈切 歌
前條の㊀に同じ。

【侶】リョ、ロ。力擧切 語
㊀同行、同類、同羣、徒伴、たぐひ、なかま、つれ、とも、ともがら。○〔南〕「飾二賓-―之所一レ集」。
㊁ともとす、つれだつ、ともなふ、くむ。○〔陸璣〕「麟不二―行一」。

(儔侶) たぐひ、又、ともがら、なかま。○〔張華〕「安知二其――一」。
(伴侶) 前に同じ。○〔韓愈〕「我來無二――一」。
(儕侶) 前に同じ。○〔義恭〕「興-言集二――一」。
(故侶) 舊友、又、もとのなかま。○〔劉禹錫〕「――不レ可レ追」。
(義侶) 義を守れるなかま。○〔晉〕「孰非二――一」。
(官侶) 同役の人、同僚に同じ。○〔駱賓王〕「行旅二―――一」。
(緇侶) 僧侶のなかま。○〔任華〕「――之澄-璧」。
(詩侶) 作詩の贈答をなすなかま。○〔白居易〕「醉思――有二同-年一」。
(醉侶) 酒飲みなかま。○〔皮日休〕「――相邀宴二早-陽一」。
(受業侶) 學問修業のつれ。○〔北〕「橫レ經――レ之―、偏二於鄉-邑一」。
(羽化侶) 仙人のなかま。○〔凌敬〕「方追二―――一」。
(桂冠侶) 官途を退きたるなかま。○〔韋嗣立〕「每把二―――一」。
(會心侶) 互に心のよく合へるなかま。○〔杜甫〕「惟有二―――一」。
(斷金侶) 前に同じ。○〔吳澄〕「此中―――」。
(花下侶) 俱に花を觀賞するなかま。○〔劉禹錫〕「豈無二―――一」。
(方外侶) 俗事を捨てたるなかま、僧に同じ。○〔僧皎然〕「消-遙―――」。
(塵網侶) 世の中の事にのみ齷齪する者を冷評していふ語。○〔梁簡文帝〕「徒迷―――」。

【侵】シン。七林切 侵
をかす。
(い)漸進す、漸入す、しだいにすゝむ、しだいにいる、すゝむ、いりこむ。○〔史〕「天-子始巡二郡-縣一、―二尋泰-山一」。
(ろ)陵ぐ、抵る。○〔進〕「各守二其分一、不レ得二相―一」。
(は)法を破る、非を行ふ。○〔管〕「―臣事二小-察一以折二法-令一」。
(に)朘削す、橫領す、けづる、かすむ。○〔漢〕「又爲二諸-侯所一レ―」。
(ほ)寇を爲す、攻め入る。○〔史〕「敵-國深―」。
(へ)鐘鼓を用ひず師を潛めて不意に敵地を掠む、襲ふ。○〔周〕「負レ固不レ服則―レ之」。
(と)迫る、害す、うつ、やぶる、そこなふ。○〔北〕「加以二風雨所一レ―、漸至二虧-墜一、非レ所下以追二隆-堂構一、儀中刑萬-國上也」。
(大侵) 五穀の總べて登らざること、大饑饉。○〔穀梁〕「五-穀不レ登曰二――一」。

【侵】シン。七稔切 寑
容貌揚がらず、身の丈みじかし、たけひくし、ちひさし、みにくし。○〔魏〕「王-粲貌―而體弱」。

【侷】キョク、ゴク。渠玉切 沃
身の丈短し、たけひくし。

【侸】シュ、ジュ。殊遇切 遇
たつ(立)。

【侸】トウ、ツ。當侯切 尤
㊀たる(下垂)。㊁つかる(疲-勞)。

【侹】テイ、チャウ。他頂切 迥　他定切 徑
㊀かはる(代)。㊁うやまふ、つゝしむ(敬)。㊂たゞし、なほし(直)。㊃たひらか(平-坦)。㊄ながし(長)。㊅地に著く、つく。

【⿰亻耴】テフ、セフ。丁協切　尺涉切 葉
小人の貌にいふ字、いやし、ひくし。

【侺】シン、ジン。時鴆切 沁
臨の字を見よ。

【侻】タツ、タチ。他活切 曷

㊀あはす、あふ（合）。○〔揚雄〕「荀・卿非二數・家之書一也」。「情」。
㊁やすし（簡・易）。○〔淮〕「其行一而順」。
㊂かろし（輕）。○〔魏〕「粲體・弱通一ー」。
㊃よし（可）。
㊄脱に通じ用ふ、ておち、ぬかり。○〔蜀〕「頗以レ彼レ酒ー失」。

【俀】タイ、テ。他外切　泰
㊀緩かなる貌にいふ字、ゆるし。「忽」。
㊁かろし、あわたゞし、又、あわつ（粗・

【俘】ホツ、ボチ。薄沒切　月
㊀つよし（强）。　㊁うらむ（懟）。
㊂もとる（很）。

【侾】カウ、ケウ。虚交切　肴
おほいなる貌にいふ字。

【便】ヘン、ベン。切　眺面　霰　〔説文〕从レ更从レ人、人有レ不レ便更レ之。
㊀やすし（安）、したがふ（順）。○〔淮〕「氣和體ー」。
㊁利あり、よろし、よし。○〔史〕「置二諸侯二不レー」。
㊂敏なり、さし、すばやし。○〔荀〕「齊・給ー・利而不レ順二禮・義一」。
㊃たより。
（い）なすに利あるを、かつて。○〔夏侯湛〕「不レ知二當世之ー一」。
（ろ）おさづれ、音信。○〔徐陵〕「浮・雲西・北徒懷二魏・帝之文一、行・雨東・南假思二飛・山之ー一」。
㊄安きに就く、くつろぐ、やすむ。○〔漢〕「ー・殿火」。
㊅ならふ（習）。○〔禮〕「自謂二ー・人一」。
㊆いばり（溲）。○〔漢〕「郎有下醉ー二殿・上一者上」。
㊇上から承け下を起こすさきに用ふる字、すなはち。○〔韓愈〕「宮湍ー終二老嵩下一」。

〔方便〕假りに手段を設けて人を其の教へに導くこと、又、單に手段。○〔維摩經〕「巧・語以二無・量ー・ー一、儀二・徵衆生一」。
〔輕便〕身がるにあること。○〔後漢〕「騎二ー・ー一者言二飛燕一」。
〔穩便〕都合よきこと。○〔後漢〕「不レ失二ー・ー一」。
〔勝便〕前に同じ。○〔魏〕「稍非二ー・ー一」。
〔優便〕前に同じ。○〔宋〕「有レ力者多得二ー・ー一」。
〔穩便〕前に同じ。○〔宋〕「踏二逐ー・ー官・置一」。

【便】ヘン、ベン。房連切　先
㊀やすし（安）。○〔蘇軾〕「毎レ到二寛處一差安ー・ー」。
㊁ならふ（習）。○〔梁簡文帝〕「妾家住二湘・川一、菱・歌本自ー」。
㊂うやくしきに過ぐるを、へつらひ、へつらふ。○〔皮日休〕「其文如レ可レ用不二敢佞與レー」。
㊃よどみなく辨明する貌にいふ字。○〔論〕「其在二宗・廟朝・廷一、ー・ー言、唯謹爾」。
㊄肥滿せる貌にいふ字。○〔後漢〕「邊・孝・先腹ー・ー」。
㊅閑雅なる貌にいふ字、みやびやか。○〔韓詩外傳〕「ー・ー閑・雅貌」。
㊆ひとし（平）。○〔史〕「ー二章百・姓一」。
〔輕便〕輕くして自在になること。○〔許楨〕「風動似レ觶尤ー・ー」。

【便】ヒン、ビン。眦賓切　眞
前々條の㊁㊂に同じ。○〔陳琳〕「豈若二陶・梓一爲二用ー・ー一兮」。

【俀】タイ、テ。吐猥切　賄
よわし（弱）。

【俁】グ、ゴ。五矩切　麌
㊀容貌大いなり、おほいなり。○〔詩〕「碩・人ー・ー」。
㊁まつ（待）。

【係】ケイ、カイ。吉詣切　霽
㊀つながる、かゝはる、かゝる。○〔易〕「ー二小子一失二丈夫一」。
㊁つなぐ。
（い）かく（繫）。○〔左〕「以二朱・絲一ー二玉二・瑴一」。
（ろ）しばる（縛）。○〔左〕「ー二與人一、以圍二商・密一」。
㊂曳に同じ、ひく。○〔莊〕「ーレ履而見二魏王一」。
〔關係〕かゝはること、又、かゝりあひ。

【促】ショク、ソク。切　七玉　沃　〔説文〕从レ人足聲。
㊀せまる。
（い）間近くなる、手づまる、狹くなる、小さくなる、短くなる、蹙まる。○〔柳宗元〕「長・來覺二日・月益ー一」。
（ろ）急になる、忙しくなる、速になる。○〔陸機〕「絃ー催レ人」。
（は）いそぎて爲さしむ、うながす、もよほす。○〔魏〕「速見二催ー一」。
（に）より聚まる、又、いたる（至）。○〔南〕「王・郎名高望ー」。
㊁せばし（狹）、みじかし（短）、ちかし（近）、きびし（急）、ちひさし（小）、はやし（速）。○〔道德指歸論〕「神・氣煩ーー」。
〔褊促〕度量狹きと緩かならざると。○〔南〕「承・天性ー・ー」。
〔悵促〕前に同じ。○〔新論〕「急者敗二於ー・ー一」。
〔切促〕手づまりたること。○〔後漢〕「州期ー・ー」。
〔窘促〕ちゞまる。○〔韋承慶〕「鬱・塞而ー・ー」。
〔惶促〕おそれちゞまる。○〔後漢〕「羣臣ー・ー」。
〔刺促〕世事に身をつかはれていそがしきこと。○〔晉〕「一何ー・ー、ー・ー不レ得レ休」。
〔催促〕うながす、もよほす。○〔古蒿里辭〕「鬼伯一何相ー・ー」。
〔局促〕器量のちひさき貌にいふ語。○〔漢〕「ー・ー效二轅・下駒一」。
〔跛促〕前に同じ。○〔李白〕「傲・々容・衣食、身計何ー・ー」。

【促】サク、ソク。側角切　覺
齪に同じ、せまる。

【俄】ガ。牛何切　歌
㊀いくほどもなく、しばらく（須臾）、又、急にたちまち、にはかに。○〔關尹〕「鳥・獸ー旬・々、ー逃・々」。
㊁峩に同じ、斜になる、あふのく、かたぶく。○〔世説新語〕「其醉也傀・ー、若二玉・山將レ頽一」。

【俺】バウ、モウ。切　胡項　講　切莫江　江
媚びず。

【俅】キウ、グ。渠尤切　尤
冠の飾りある貌にいふ字、一説に恭順なる貌にいふ字、つゝしむ。○〔詩〕「載レ弁ー・ー」。

【俆】ショ、ゾ。商居切　魚
徐に通じ用ふ、ゆるやか、ゆるし。

【俇】キヤウ、カウ。求往切　漾
とほきにゆく貌にいふ字、又、遑遽の貌にいふ字、あわたゞし。○〔楚辭〕「魂ー・ー而南征」。

【俶】ソク。蘇谷切　屋
頭うごく。

【告】コク。苦沃切　沃

てあらし、あらし、(暴)。

【俉】グ、ゴ。五顧切　遇

㊀むかふ、あふ、(迎)。〇[史]「其人逢ー」ー「化ー言」。
㊁おごろく、(驚)。
㊂みる、(見)。

【俊】シュン。祖峻切　震　ー儁又は峻に通じ用ふ。

㊀才智衆人に秀づるにいふ字、すぐる、さし。〇[禮]「論ニ選士之秀者ニ而升ニ之學一、曰ニー士ニ」。
㊁秀でたるもの、すぐれたる人物。〇[晉]「號爲ニ五ーー」。
㊂たかし、(高)、又、おほいなり、(大)。〇[書]「克明ニー德ニ」。
㊃毚に同じ、うさぎ。〇[戰]「世無ニ東ー郭ー、盧・氏之狗ニ」。

(英俊) 才智の衆人に秀でたると、又、その人。〇[史]「異姓並起、ーー烏・集」。
(才俊) 前に同じ。〇[晉]「君性烈而ーー、其能免乎」。
(桀俊) 前に同じ。〇[禮]「選レ士厲レ兵、簡ニ練ーーニ」。
(豪俊) 前に同じ。〇[漢]「爵ニーーニ講ニ文・學ニ」。
(髦俊) 前に同じ。〇[王朗]「論ニ天・下ーー之見・在者ニ」。
(髦俊) 前に同じ。〇[史]「祭・澤天・下ーー弘・辨智士也」。
(良俊) 前に同じ。〇[後漢]「簡ニ用ーーニ」。
(寒俊) 才智の秀でて家貧しく地位なき人。〇[唐]「璧ニ引ーーニ、士・類多レ之」。
(輕俊) 才智の秀でて行ひのかるぐしき人。〇[宋]「惡ニ其ーー特・龍レ之」。
(敏俊) 前に同じ。〇[元稹]「豆・箕才ーー」。
(青衿俊) 書生中の才智の秀でたる人。〇[曹公彥]「函丈之儒、ーー之ー」。
(一黌俊) 其の校中第一に才智の秀でたる人。〇[魏]「聞ニ縉ーー之ーニ」。
(洛中俊) 京師の中にて第一に才智の秀でたる人。〇[歐陽修]「追ニ懷ーーー」。
(岩穴俊) 世を避け岩穴の間に隱れてある才智の秀でたる人。〇[孫綽]「處レ己以招ニーー之ーニ」。

【俋】イフ。一入切　緝

㊀いさましき貌にいふ字、つよし、(勇ー壯)。
㊁ゆく、(耕者にいふ)。〇[莊]「ーーー乎耕而不レ顧」。

【伋】ギフ、ゴフ。逆及切　緝

人の多き貌にいふ字、おほし。

【俌】フ、ホ。方矩切　麌

輔に通じ用ふ、たすく、又、たすけ。

【俍】リヤウ。呂張切　陽

良に同じ、よし。〇[莊]「工ニ乎天ニ、而ーニ乎人ニ者、惟全・人能レ之」。

【俍】ラウ。盧黨切　養

人の丈高き貌にいふ字、たかし、ながし。

【俍】ラウ。郎宕切　漾

よき工人、良工。

【俎】ショ、ソ。側呂切　語　[説]从ニ半肉在ニ且上ニ从ニ𩰪ニ。[文]半肉字。

平面の板に脚を施したる器具、まないたつくゑ。
(い)祭事又は燕饗のとき牲を載するに用ふるもの。〇[後漢]「起ニ謀於尊ーー之閒ニ」。
(ろ)菜を載せて魚肉を料理するに用ふるもの。〇[韓詩]「伊・尹負ニ鼎ーーニ」。

(俎之圖)

(折俎) 機を設けて脚を横にたゝおことを得るつくゑ。〇[左]「宴有ニーーニ」。
(彫俎) ほりものを施しあるつくゑ。〇[梁]「宗・廟貴レ文、誠宜ニーーニ」。
(嘉俎) よきそなへものの載せてあるつくゑ。〇[宋]「ーー咸薦」。
(芳俎) 前に同じ。〇[宋]「乃迎ニーー以薦ニ高・明ニ」。「則徹王之ーー」。
(胙俎) 祭肉の載せてあるつくゑ。〇[周]賓・客食
(阼俎) 祭事にて主人に屬する肉俎。〇[儀]「ー羊肺一、祭肺一」。
(燔俎) 火に熟したる肉を載せたるつくゑ。〇[家語]「不レ致ニーー于大・夫ニ」。「ーニ」。
(牢俎) 大牢を載せたるつくゑ。〇[梁]「載ニ華ーー」。
(素俎) 白木のつくゑ。〇[通典]「陶・匏ーー」。
(樽俎) (い)たるとつくゑと。〇[禮]「陳ニーー列ニ籩・豆ニ」。「ーニ」。
(ろ)宴會の義に借り用ふる語。〇[乾鑿]「談ニ笑ーー」。
(登俎) (い)祭肉を供ふると。〇[左]「鳥・獸之肉不レ登ニ于ーー、則君不レ射」。「賓客ニ」。
(ろ)肉を料理すると。〇[謝朓]「命以ーー、用待ニ

【俏】セウ。七肖切　嘯

㊀かたどる、(像)、まねす、にる、(似)。〇[列]「迷生ニ於ーニ」。
㊁容色美好なり、みめよし、よし。
㊂ちひさし、(小)。
㊃のり、(法)。

【俏】セウ。思邀切　蕭

琴などかへす聲にいふ字。〇[莊]「孔子ー然反レ琴而絃・歌」。

【俐】リ。力至切　寘

小才あり、さかし。

【俑】ヨウ、ユ。尹竦切　腫

人がた、木偶の中に機を設け手足などの發動をして意の如くならしめ、全く人に似せて殉死者の代はりに埋めしもの。〇[禮]「爲ニ芻・靈ニ者善、爲レー者不・仁」。

(作俑) 惡しき端緒を爲しはじむるにいふ語。〇[論]「ーレー者夫無レ後乎」。

【侗】トウ、ツ。他紅切　東

いたむ、いたみ、(痛)。

【俒】コン、ゴン。胡困切　願

まったし、(完)、一説に、慁に通じ用ふ、みだす、けがす。〇[逸書]「朕實不・明、以ーニ伯・父ニ」。

【俓】ガウ、ギヤウ。牛耕切　庚

㊀急に、にはかに、すみやかに、たゞちに。
㊁いそぐ、あわつ、すみやかなり。
㊂身の丈高くみめ好き貌にいふ字、たかし。

【俓】ゲン。牛燕切　先

㊀うらむ、(恨)。
㊁前條に同じ。

【俓】ケイ、キヤウ。居正切　敬

さもに、又、さもにす。

【俓】ケイ、キヤウ。吉定切　徑

㊀前々條の㊁に同じ。
㊁なほし、(直)。
㊂かたし、(堅)。
㊃たけたかし。
㊄徑に通じ用ふ、わたる、さほる、すぐ、みちす。〇[史]「ーレ峻赴レ險」。

【俔】　ケン。輕甸切　霰
たさふ、又、たさへ、(譬)。○[詩]「—二天之妹一」。

【俔】　ケン、胡典切　ゲン。切　銑　—(說)从人从見。(文)
㊀睍に同じ、ひそかにみる、うかゞひみる、うかゞふ、(偵・察)、又、うかゞふ者、まはし者、ものびの人、細作。○[韓愈]「伈・々—・—」。
㊁船上の風を候ふ器、かざみ。○[淮]「—之見レ風、無二須・臾之間定一矣」。

【[亻折]】　テイ。丑制切　霽
つぎあはす、ぬふ、(縫)。

【[亻折]】　セツ、セチ。之列切　屑
きざむ、ほる、(刻)。

【[亻忒]】　トク。胎德切　職
偵—は、おろか。

【[亻坒]】　ヘイ、バイ。部禮切　薺
行歩す、ありく、あゆむ、ゆく。

【[亻弄]】　ロウ、ル。盧貢切　送
正直にして暗愚なること、おろか。

【[亻媵]】　ヨウ。余證切　徑
行く者を送る、みおくる。○[康熙]「古者諸侯取二夫人一、則同姓二國—レ之」。

【[亻宋]】　サン、ソン。先紺切　勘
㊀おろかなる貌にいふ字。
㊁老いて適當せる仕事なし、おいぼる、又、おいぼれ。

【俖】　ハイ、ヘ。匹亥切　賄
よからず、よろしからず、あし、(不・可)。

【俗】　ショク、ゾク。似足切　沃
㊀時代の風習、土地の習慣、ならひ、ならはし。○[禮]「禮從レ宜、使從レ—」。
㊁世の中、世の人。○[漢]「有二負レ—之累一、而立二功・名一」。「主虧レ情」
㊂凡庸、つれ、なみ。○[呂氏春秋]「—
㊃鄙陋、いやし、ひくし。○[崔寔]「聖人能興レ世推・移、—士苦不レ知レ變」。

(汚俗)　正しからぬならはし。○(書)「舊・染—・—」。
(殊俗)　(い)ならはしを異にす。○(詩、序)「國異レ政、家—レ—」。「慕レ義、重・譯來・庭」。
(ろ)ならはしの殊なりたる國の人。○(宋)「—・—
(異俗)　前の(い)に同じ。○(漢)「齊二正—・—一」。
(流俗)　(い)古へより瀬を追ひてならはし來たりたる風習。○(曹植)「正二—・—之華・說一」。
(ろ)世上、世人。○(成公綏)「—・—未レ悟、獨超・然而先覺」。
(隨俗)　土地の習慣にしたがふこと。○(史)「—レ—爲レ變」。
(疏俗)　遠く隔たりたる異國のこと。○(漢)「遐・方—・—」。
(殊俗)　(い)解れたる人と普通の人と。○(後漢)「—・—無レ所レ失」。
(ろ)高尚なるものと普通なるものと。○(唐)隋文・帝始分二—・—二部一」。
(離俗)　(い)世事に關係せざること。○(淮)「躍豹倍レ世—レ—、巖・居谷・飲」。
(ろ)凡庸ならぬこと。○(司馬相如)「靑・琹宓・如之徒、絕・殊—レ—」。
(絕俗)　(い)前の(い)に同じ。○(王褒)「眇・然—レ—離レ世」。「日」。
(ろ)前の(ろ)に同じ。○(晉)「條・幹—レ—、光・彩耀レ
(超俗)　世俗の上に身を置く。○(人物志)「—レ—乘レ高、獨行二乎三・等之上一」。
(改俗)　惡しき習慣をはる、又、之をなほす。○(東觀漢記)「以レ身率レ下、河・西—・—」。「者也」。
(舊俗)　古昔よりの習慣。○詩、序)「懷二其—・—
(殘俗)　其の國々の習慣。○(詩、序)「—・—傷・敗焉」。
(易俗)　惡しき習慣をなはしかふ。○(禮)「移レ風—レ—」。
(矯俗)　前に同じ。○(後漢)「—レ—厲レ化一」。
(遺俗)　古昔より殘りてあるならはし。○孟)「其故・家—・—」。
(習俗)　古昔よりのならはし。○(左思)「情有二險・易一者、—・—之殊也」。
(世俗)　つねなみのなかま。○史)「其所レ謂—・—之「所レ知也」。
(拘俗)　世の習慣にからまれて勝れたる思慮なし。○(唐)「凡—・—之人哉」。
(負俗)　世の中に容れられず。○(李康)「忠・直之迕二于上一、獨・立之—二于—一、理・勢然也」。
(厲俗)　世の中をすゝめてはげます。○(史)「其風・聲足二以激二貪—一」。
(末俗)　惡しき事に染みたるならはし。○(漢)「今—・—之弊、政・事頗・多」。
(獷俗)　荒々しき習慣。○(後漢)「政移二—・—一」。
(拔俗)　普通の上に抜き出づ。○後漢「至・人能變、達・士—レ—」。「皆—・—語」。
(俚俗)　いやしき習慣、又、其の者。○(五)「翔所レ作—・—不可也」。
(庸俗)　常なみの者、又、下賤なる者。○(宋)「竦・二動
(凡俗)　前に同じ。○(詩品)「去二—・—遠矣」。
(驚俗)　世人をおどろかす。○(韓愈)東野動—レ—」。
(塵俗)　世の中。○(任昉)「脫二落—・—一」。
(風俗)　ならはし。○(班固)「痛乎—・—移レ人也」。
(還俗)　僧尼を止めて普通の人となる。○(宋)「命使レ—レ—」。「先」。
(民俗)　(い)たみぐさ、人民。○(韓愈)「—・—爭相
(ろ)ならはし。○(庾信)「年・代殊二—・—一」。

【俙】　キ、香衣切　紙
ケ。切　許豈切　尾
㊀うッたふ、(訟)。㊁さく、(解)。
㊂はッきりせず、ほのか、(依・稀)。

【[亻谷]】　ケキ、ギヤク。渠戟切　陌
卻の省文、うむ、つかる、(倦)。

【俘】　フ。方無切　虞
㊀戰ひにて擒はれとなりたるもの、とりこ、とらはれ。○[唐]「凱・旋則陳二馘—於二廟南・門之外一」。
㊁とる、(取)。○[書]「—二厥寶・玉一」。
(禽俘)　とりこ、とらはれ。○(唐)「將・卒—・—」。
(囚俘)　前に同じ。○(左)「覽・人執レ之以爲二—・—一」。
(生俘)　いけどり、とりこ。○(左、註)「—・—死、殲二厥寶・實一」。
(楚俘)　前に同じ。○(盧思道)「—・—霧・集」。
(反俘)　とりこにせる者をかへしやる。○(左)「—・—類」。
(歸俘)　(還俘)　前に同じ。「—二」。
(釋俘)　とりこにせるものをゆるし還はす。○(北)「—レ—免・歸」。
(告俘)　生捕のありしことを天子の廟に告ぐ。○(唐)「傾・利至二京・師一、—二—太・廟一」。
(我俘)　戰ひてとりこにせるもの。○(李德裕)「獻二—・—一、皋帝受而勞レ之」。

【俚】　リ。良士切　紙
㊀たよる、たのむ、たより、たのみ、(聊・賴)。○[漢]「其畫無レ—之至耳」。
㊁鄙俗なり、いやし。○[史]「質而不レ—」。
㊂世俗のうたふいやしき歌。○[孟浩然]「謬承二巴—和一」。
㊃つさむ、(勤)。
(下俚)　(い)いやしく下等なり、又、其の者。○(舊唐)「至二閭・閻—・—一惡傳二諷之一」。
(ろ)いやしき歌。○(舊唐)「巴・人—・—、更合郢・中之聽一」。
(鄙俚)　前に同じ。
(蕪俚)　いやし。○(宋)「爲二—・—之言一」。
(哇俚)　前に同じ。○(遼)「—・—不經」。

【俛】　ベン、メン。美辨切　銑
㊀首を垂る、下を向く、ふす、うつぶく、たる。○[蘇軾]「問二其姓・名一、—而不レ答」。
㊁勉に同じ、勤勞の貌にいふ字、つとむ。○[禮]「—焉日有二孳・々一」。
(拜俛)　首を垂れて拜禮をなす。○(唐)「振・讓—・—伏・輿之節」。

〔眉俛〕 稍や首を垂れて禮をなすこと。〇〔揚雄〕「將相不ニ一・一ニ」。
〔寢俛〕 寢ころぶ。〇〔蔡希寂〕「晩來恣ニ一・一ニ」。

【俛】 フ、ホ。匪父切 麌
前條の㊀に同じ。〇〔漢〕「在ニ一・仰之閒ニ耳」。

【俜】 ヘイ、ピヤウ。扶丁切 青
㊀をとこだて、（俠）。㊁つかふ、（使）。
㊂一-伃は、やすらふ。

【保】 ハウ、ホウ。補抱切 皓
㊀たもつ。
（い）やすんず、（安）。〇〔書〕「懷ニ一小-民ニ」。
（ろ）たすく、（佑）。〇〔書〕「天-迪格-一」。
（は）たふ、（任）。〇〔周〕「令ニ五-家爲レ比、使ニ之相一ニ」。
（に）たのむ、（恃）。〇〔左〕「一ニ君-父之命ニ」。
（ほ）もつ、（持）、まもる、（守）。〇〔淮〕「獨-身不レ能レ一」。
（へ）そだつ、やしなふ、（養）、いだく、（抱）。〇〔賈誼〕「一ニ其身-體ニ」。
（と）知る、信ず。〇〔楚辭〕「羌不レ可レ一」。「則有レ一、出則有レ師」。
㊁かしづき、もり、つきそひ。〇〔禮〕「入
㊂人々相互に責めを任ふくみあひ。
〇〔宋〕「籍ニ十-人ニ爲レ一」。
㊃かゝへ人、雇はれ者。〇〔史〕「窮-困賃ニ傭齊ニ、爲ニ酒-家一ニ」。
㊄都邑の城、又、ちひさき城。〇〔禮〕「四-鄙入レ一」。「閉」。
㊅褓に通じ用ふ。〇〔禮〕「一-介之御-
〔天保〕 上帝其の人をたすけ安んず。〇〔詩〕「一-一ニ宗-爾ニ、亦孔之固」。「是格、中-錫無レ疆」。
〔祐保〕 鬼神其の人をたすけ安んず。〇〔宋〕「一・一
〔師保〕 （い）天子又は諸侯の子の幼少なるものをそだてかしづく役の名。〇〔禮〕「虞、夏、商、周、有ニ一・一、有ニ疑-丞ニ」。
（ろ）又教導保護する義にも用ふる語。〇〔書〕「昔周-公一ニ一萬-民ニ」。
〔庸保〕 雇はれ人。〇〔史〕「高-漸-離變ニ名-姓ニ、爲ニ人一・一ニ」。
〔自保〕 みづからたもつ。〇〔魏〕「猶不レ能ニ一・一ニ、「而況衆-人乎」。
〔靈保〕 神に事ふる者、みこ、神巫。〇〔九歌〕「思ニ一・一兮賢-姱ニ」。
〔太保〕 官の名、三公の一つ。〇〔書〕「立ニ太-師太傅一・一、茲惟三-公」。「一、曰ニ三-孤ニ」。
〔少保〕 官の名、三孤の一つ。〇〔書〕「少-師少傅一・一
〔大保〕 五十戸相依り互に取り締り合ふ大組合。〇〔宋〕「五十-戸爲ニ一・一ニ」。
〔小保〕 五戸相依りて互に取り締り合ふ小組合。〇〔宋〕「五-戸爲ニ一・一ニ」。
〔郊保〕 城下に近き野に築きたる城。〇〔左〕「焚ニ我一・一、遇ニ陵我城-郭ニ」。
〔城保〕 城に同じ。〇〔何承天〕「一・一之境」。
〔隣保〕 小組合。〇〔五〕「一・一皆族-誅」。
〔連保〕 掛り合ひになりて罪を受く。〇〔宋〕「持レ法苛-嚴、追-胥一・一、罪及ニ妻-孥ニ」。
〔任保〕 責めを負ひて證明す。〇〔宋〕「士大-夫亦無ニ敢爲ニ其一・一ニ」。

【保】 ホ、フ。博古切 麌
前條の㊀の（ろ）に同じ。〇〔易林〕「燕-婉行-人父-子相一」。

【俖】 ハウ、ヒヤウ。補梗切 梗
いつはり、（詐）、又、いつはりを爲す人。

【俟】 シ、ジ。牀史切 紙
㊀まつ、（待）、うかゞふ、（候）。〇〔儀〕「先一ニ於門-外ニ」。
㊁隊を爲して徐行する貌にいふ字、又、おほし、（衆-多）。〇〔詩〕「儦-々一・一」。

【俠】 ケフ、ゲフ。胡頰切 葉
㊀然諾を重んじて生死を輕んじ、己れの利を捨てゝ人の難を助くるを、をとこだて、又、其の行爲ある人。〇〔史〕「其自喜爲レ一益甚」。
㊁たもつ、もつ。〇〔史、註〕「一持也」。
㊂挾に通じ用ふ、さしはさむ、はさむ。〇〔漢〕「殿-下郎-中一レ陛」。
㊃ちかづく、（近）。〇〔書〕「懷爲レ一」。
〔大俠〕 大いなるをとこだて。〇〔史〕「騶-公心知ニ朱-家一・一ニ」。「有レ名ニ于楚ニ」。
〔任俠〕 をとこだて、又、其の人。〇〔史〕「爲レ氣一・一、游俠
〔游俠〕 前に同じ。〇〔史〕「好レ學一・一任ニ氣-節ニ」。
〔豪俠〕 前に同じ。〇〔漢〕「始以ニ一・一ニ爲レ名、拔ニ起風塵中ニ」。
〔氣俠〕 前に同じ。〇〔後漢〕「皆以ニ一・一ニ立レ名」。
〔勇俠〕 前に同じ。〇〔魏武帝〕「一・一輕-非」。
〔抗俠〕 權威に屈せずしてをとこだてをなす。〇〔漢〕「一・一好レ交」。
〔輕俠〕 行ひのかろぐしきをとこだて、又、其の人。〇〔漢〕「少-時通ニ一・一ニ、借レ客報レ仇」。
〔鋒俠〕 男達をなすに萬事の鋭きと其の勢鋭鋒の如きにいふ語。〇〔後漢〕「慓-狡一・一」。
〔姦俠〕 腹惡しき男達の人、無賴者、ならず者。〇〔梁〕「遠招ニ通-逃ニ、多聚ニ一・一ニ」。「之徒ニ」。
〔凶俠〕 前に同じ。〇〔蘇軾〕「其人多ニ一・一不-遜「至レ如ニ一・一之一ニ」。
〔閭巷俠〕 村里の間に住まへる男達の人。〇史〕
〔鄉曲俠〕 前に同じ。〇〔史〕「一・一之一」。
〔布衣俠〕 身分卑き男達の人。〇〔史〕「古一・一之一、靡ニ得而聞ニ矣」。「一」。
〔匹夫俠〕 前に同じ。〇〔史〕「自レ秦以-前、一・一之

【俠】 カフ、ケフ。古洽切 洽
夾に通じ用ふ、そふ、（傍）ならぶ、（並）。〇〔儀〕「婦-人一ニ牀東-西ニ」。

【信】 シン。思晉切 震
㊀忠實なるを、欺かざるを、言行一致せるを、約に違はざるを、まこと。〇〔易〕「忠-一所ニ以進ニ德」。
㊁まことゝ思ふ、固く守る、疑ひを懷かず、まことゝす。〇〔韓愈〕「一レ道篤」。
㊂明か、審か。〇〔國〕「言以一レ名」。
㊃志るし。
（い）効驗、あかし。〇〔老〕「其中有レ一」。
（ろ）符契、わりふ。〇〔後漢〕「取ニ棨-一ニ」。
㊄まかす、（任）。〇〔荀〕「不レ一レ怒」。
㊅ふたよさどまり、（再-宿）。〇〔詩〕「于レ女一-處」。
㊆つかひ、使者。〇〔史〕「發ニ一-臣ニ、多ニ其車ニ、重ニ其幣ニ」。
㊇おとづれ、たより。〇〔劇談錄〕「以爲ニ登-科之一ニ」。
〔信々〕 （い）四たび宿を重ぬ。〇〔詩〕「有レ客一・一」。
（ろ）まことゝすべきをまことなりと思ひ定むること。〇荀「一レ一信也」。「學」。
〔篤信〕 心にかたく認めて疑はず。〇〔論〕「一・一好
〔惇信〕 前に同じ。〇〔書〕「一・一明レ義」。
〔寡信〕 忠實少なし。〇〔老〕「輕-必一レ一」。
〔鄉信〕 故鄉のおとづれ。〇〔孟浩然〕「往-來一一斷」。
〔春信〕 春のおとづれ、春の景色來そめしにいふ語。〇〔劉克莊〕「一・一分明到ニ草廬ニ」。
〔秋信〕 秋のおとづれ、前に同じ。〇〔賈島〕「一-點新-螢報ニ一・一ニ」。
〔至信〕 此の上もなく忠實なること。〇〔詩、傳〕「有ニ一・一之德ニ則慽レ之」。
〔約信〕 誠實にして變はらざることを約す。〇〔禮〕「一レ一曰レ誓」。
〔加信〕 益々誠實なり。〇〔禮〕「言一レ一」。
〔誠信〕 まこと。〇〔禮〕「身致ニ其一・一ニ」。
〔瑞信〕 志るし、符。〇〔禮〕「以爲ニ一・一ニ」。
〔符信〕 前に同じ。〇〔史〕「用爲ニ一・一ニ」。
〔底信〕 人にまことをいたす。〇〔左〕「盟以一レ一」。
〔二信〕 誠實を二つにす、卽ち臣として君に二心を抱くなどの義、又、いつはりの義にもいふ語。〇〔左〕「義無ニ一・一ニ」。「一レ一」。
〔必信〕 一たび約したることは固く履行す。〇〔論〕「言一・一」。
〔威信〕 威重あり忠實なること。〇〔後漢〕「黨-與聞ニ
〔通信〕 たより、又、たよりをなす。〇〔晉〕「卽ニ杜-弢汲一・一ニ」。
〔音信〕 前に同じ。〇〔北〕「理無ニ一・一ニ」。
〔雁信〕 前に同じ、雁のもたらし來たれるたよりの義

にて蘇武といへる人の故事より起これり。○〔溫庭筠〕「若向㆓三湘㆒逢㆓——㆒」。
〔風信〕前に同じ、風のたより。○〔皮日休〕「明-朝擬-付南——」。〔北〕「不㆓寄——㆒」。
〔偏信〕かたよりて信ず、信ずると公平ならず。○
〔音信〕たより。○〔沈約〕「若欲㆑寄㆓——㆒」。
〔家信〕己れの家よりの音信。○〔北〕「等而——至」。
〔自信〕己れの見識を是なりとして固く守ると、又、己れ自ら有爲の人なりと思ひ定むるとにもいふ語。○〔唐〕「何不㆓——㆒」。
〔寛信〕心廣くまことあり。○〔唐〕「爲㆑人——」。
〔梅信〕梅の花の開き初めたるたより。○〔皮日休〕「——微侵㆓地障紅㆒」。「遲」。
〔驛信〕傳遞のたより。○〔劉迎〕「雜道江梅——」
〔立信〕まことの道を守る。○〔漢〕「——布㆑德」。
〔憑信〕いつはりなきと思ふ。○〔宋〕「爲㆑可㆓——㆒、怙不㆑置㆑疑」。
〔委信〕疑はず。○〔周〕「深相——」。
〔尾生信〕古昔、尾生といふ人女子と或る橋の下に會せんとを約し其の處に至る、女子の未だ至らざるに洪水俄に至れり、されど尾生は信を重んじて固く橋柱を抱きて遂に溺れ死にたる故事より轉じて、固く信を守りてかはらざるとに借りいふ語。○〔呉、註〕「——篤—、水至不㆑去」。
〔抱柱信〕前に同じ。○〔古詩〕「安得㆓——㆒蹤-日以爲㆑期」。
〔然諾信〕一たびうべなひたるとを誠實に履行す。○〔後漢〕「沒㆑身不㆑負㆓——之—㆒」。
〔千里信〕遠きより至れるたより。○〔杜牧〕「故-國音無㆓———㆒」。

【信】シン。升人切　[眞]

㊀伸又は申に同じ、のぶ。○〔易〕「往者屈也、來者—也」。
㊁志たしむ、(親)。○〔詩〕「庶-民弗㆑—」。
㊂身に同じ、み、からだ。○〔周〕「侯執㆓—圭㆒伯執㆓躬-圭㆒」。

八畫

【修】シウ、シュ。胥遊切　[尤]　—脩に通じ用ふ。

㊀をさむ。
(い)整理す、とゝのふ。○〔國〕「諸-侯朝—㆓天-子之業㆒」。
(ろ)學ぶ、習ふ。○〔史〕「——道就㆑閉」。
(は)正しくす。○〔大〕「先—㆓其身㆒」。
(に)かざる、(飾)。○〔後漢〕「雕——繕-飾」。
(ほ)つくろふ、(繕)。○〔左〕「復㆓—㆒—舊-德㆒」。
(へ)そなふ、(備)。○〔國〕「—㆓其簠-簋㆒」。
㊁をさまる。
(い)とゝのひ行はる、行き届く。○〔劉賁〕「敎-化—則爭-競息」。
(ろ)正し。○〔史〕「湯至㆓大-吏㆒內-行——也」。
(は)成る、備はる。○〔韓愈〕「事—而毀來」。
㊂人にすぐれたる人の稱、或る物事のをさまりてある人の義。○〔屈平〕「謇吾法㆓夫前——㆒」。
㊃ながし、(長)。○〔詩〕「四-牡——廣」。
㊄卣に通じ用ふ、酒を盛る祭器、たる、(尊)。○〔周〕「廟用㆑—」。
〔自修〕己れの身を正しくす。○〔禮〕「如㆑琢如㆑磨者——也」。
〔行修〕行ひ正し。○〔漢〕「經明——」。
〔身修〕己れの身正しくなる。○〔大〕「——而后家齊」。
〔靚修〕美人。○〔揚雄〕「——既信」。
〔繕修〕つくろふ、修復す。○〔左〕「庫廐——」。
〔追修〕學び習ふ。○〔史〕「——㆓經術㆒」。
〔束修〕己れの身を約かにして正しくす。○〔後漢〕「故能——不㆑觸㆓羅-網㆒」。
〔編修〕(い)整ひ正しくなる。○〔後漢〕「百-禮——而不㆑瀆」。(ろ)史書を著述す、又、其の官名。○〔東京記〕「——俗呼爲㆓史-院㆒」。
〔同修〕數人共に史書を著述す。○〔宋〕「——成㆓十八卷㆒」。
〔監修〕史書の著述を監督す、又、其の官名。○〔合璧事類〕「唐太宗以㆓宰-相㆒——國-史」。
〔改修〕前の惡しきをあらためなほす。○〔晉〕「—㆓—其德㆒」。
〔靜修〕おちつきて身を正しくす。○〔諸葛亮〕「——以㆑身、儉以㆑養㆑德」。
〔進修〕己れの足らざるを知り勵みをさむ。○〔韓愈〕「夫古人之——、或幾㆓乎聖人㆒」。
〔退修〕妄りに進むとをせず、又、後へ引き下がりて己れの身を正しくす。○〔陳琳〕「文-王有㆓——之軍㆒」。
〔廟堂修〕朝廷の政正しくなる。○〔晉〕「———既—」。
〔田畝修〕田地の耕作よく行き届く。○〔後漢〕「——則穀-入多」。
〔衣服修〕衣服すべて整ふ。○〔管〕「民-家無㆑積而——、侈-國之俗也」。
〔溝渠修〕水を通ずる堀の浚へをなし終はる。○〔說苑〕「晉叔向曰、三月而——」。
〔德行修〕行爲正しくなる。○〔管〕「———者王道狹」。
〔六府修〕水、火、金、木、土、穀甚だ其の宜しきを得。○〔書〕「四海會-同、—㆑—孔—」。

【俯】フ。弗武切　[麌]

ふす。
(い)下に向く、身を曲ぐ、首を垂る、かゞむ、うつむく、うつぶく、たる。○〔禮〕「習㆓其—仰㆒」。
(ろ)とぢこもる、かくる。○〔呂氏春秋〕「蟄-蟲咸—」。
(は)臥す。○〔荀〕「三—三起」。
〔畏俯〕おぢて首を垂る。○〔唐〕「逡-巡——」。
〔陰俯〕陰氣かくれこもる。○〔春秋繁露〕「冬至之後、——而西入」。
〔三命俯〕上卿となりて身をかゞむると、轉じて官位の高くなればなるほど謙遜するに借りいふ語。○〔左〕「一-命而僂、再-命而傴、——而—」。

【⿰亻⿰禾卩】クワ、ワ。和臥切　[箇]

やはらぐ。

【倶】ク、コ。恭于切　[虞]

㊀何れも、同じく、みな、ともに。○〔孟〕「父-母—存」。
㊁そなふ、そなはる、(具)。○〔史〕「孔-子適㆑周、魯-君與㆓之一-乘車㆒、兩-馬一-豎-子—」。
㊂つる、つれ立つ、ともなふ。○〔史〕「荊-軻有㆑所㆑待、欲㆓與—㆒」。

【俳】ハイ、ベイ。反皆切　[佳]

優伎、たはむれ、わざをぎ。○〔史〕「戲-抵—優之觀」。
〔詼俳〕たはむれを言ふと。○〔韓愈〕「寄-詩雜㆓——㆒」。
〔倡俳〕藝人、又、たはむれ。○〔傅休奕〕「專爲㆓萬-物作㆓——㆒」。

【俳】

徘に同じ、たちもとほる。○〔淮〕「坐—而歌-謠」。

【俴】セン。千淺切　[銑]

あさし、(淺)。○〔詩〕「小-戎—收」。

【⿰亻昏】コン。呼昆切　[元]

くらし、(闇)。○〔揚雄〕「闇㆓諸幽——㆒」。

【⿰亻昏】コン。呼困切　[願]

おいぼる、(耄-忘)。

【⿰亻林】ラン、ロン。盧含切　[覃]

おろかなる貌にいふ字、にぶし。

【俵】ヘウ。彼廟切　[嘯]

㊀ちる、あらく、(散)。㊁わかちあたふ、(分-畀)。

【⿰亻易】イ。以豉切　[寘]

易に借り用ふ、かろんず、あなどる。

【俶】シュク、ソク。昌六切　[屋]

㊀はじめ、又、はじめて、(始)。○〔書〕「—擾㆓天紀㆒」。

㊀おこる、おこす、(作)、うごく、うごかす、(動)。○〔詩〕「有レ—ニ其成一」。㊁とゝのふ、(整)。○〔張衡〕「簡ニ元-辰一而—レ裝」。㊂よし、(善)、あつし、(厚)。○〔宋〕「禮-文有レ—祀-事孔明」。

【俶】テキ、チヤク。他歷切 [錫]
高し、又、すぐる、(倜)。○〔史〕「好ニ奇-偉—儻之畫-策一」。

【俷】ヒ。父沸切 [未]
㊀やぶる、(敗)、うすし、(薄)。㊁そむく、(背)。○〔史〕「無レ作レ怨、無レ—レ德」。

【俸】ホウ、ブ。扶用切 [宋]
君主又は官府より其の臣下官僚にあて賜はる定額の金穀、秩祿、給料、ふち、たまもの、又、奉に作くるをあり。○〔漢〕「小-吏勤レ事而—薄」。

(分俸) 給料を分かちて他人に與ふ。○〔後漢〕「—ニ—祿賞賜一、以贍ニ貧-者一」。
(班俸) 前に同じ。○〔魏〕「君—ニ其—一」。「游-士ニ」。
(推俸) 前に同じ。○〔宋〕、嘗—ニ其—一、以食ニ四-方一。
(罰俸) 官吏過失により罰として給料を減ぜらるゝもの。○〔唐〕「—ニ一-月—一」。
(月俸) つきづきに得る給料。○〔宋〕「加ニ文-武職-官——一」。
(秩俸) 上より得る給料。○〔後漢〕「所レ得——」、「厚施ニ朋-友一」。
(公俸) 前に同じ。○〔梁〕「生-平——、咸以供焉」。
(料俸) 前に同じ。○唐「所レ收——、乃多ニ于賑-「養親-族一」。
(祿俸) 前に同じ。○〔後漢〕「所レ得——、輒以收ニ員一」。
(食俸) 前に同じ。○〔晉〕「——日五斛」。
(常俸) 前に同じ。○〔晉〕「羣-僚——、並皆寡約」。
(廩俸) 前に同じ。○〔梁〕「不レ受ニ——一」。
(制俸) 給料を定む。○舊唐〕「依レ品—レ—」。
(倍俸) 給料を二倍し與ふ。○〔唐〕「乃—ニ其—一」。
(續俸) 以前の給料通りにつゞけ與ふ。○〔宋〕詔「逐ニ——一」。
(日俸) にちくに得る給料。○〔白居易〕「爲レ貧—ニ其—一」。
(薄俸) うすき給料。○〔陸龜蒙〕「不レ辭ニ——一」。
(學俸) 學術修業のために與ふる給料。○〔朱德潤〕「城-中書-生無ニ——一」。

【俸】ホウ、フ。補孔切 [董] 敷奉切 [腫]
すくなし、ちひさし、(小)。

【㑏】ア、エ。衣駕切 [禡]
よる、又、かたよる、(倚)。

【俹】ア、エ。於加切 [麻]
おごる、(傲)。

【俺】エン。於驗切 [豔]
㊀我に同じ、われ。㊁おほいなり、(大)。

【俺】ダン、ナン。女感切 [感]
われ。

【俺】エフ、オフ。乙業切 [葉]
おほいなり、(大)。

【俻】備に同じ。

【俽】キン、コン。許斤切 [文]
よろこぶ、(欣-喜)、又、忻に作るをあり。

【俾】ヒ。補弭切 [紙]
㊀ぁむ、せしむ、(使)。○〔詩〕「—ニ爾昌而熾一」。㊁ぁたがふ、(從)。○〔書〕「罔レ不ニ率-—一」。㊂ます、(益)。㊃もつ、(持)。㊄つかさ、つかさどる、(職)。

【俾】ヒ、ビ。毗至切 [寘]
睥に通じ用ふ、なゝめに視る、ながしめにみる、ぁりめにみる。○〔史〕「侯-生下見ニ其客朱-亥一、—倪故久立」。

【倠】チ、ヂ。直離切 [支] 池爾切 [寘]
傂に同じ、車の輪。○〔揚雄〕「車-槊—ニ其—一、馬蹵ニ其蹄一」。

【倀】チヤウ。敕良切 [陽]
㊀くるふ、(狂)、たふる、(仆)、くるひて道を失しなふ、まよふ。○〔禮〕「瞽-者無レ相——-乎其何之」。㊁鬼の名。○〔聽雨記談〕「—可レ謂ニ鬼之愚者一也」。

【倀】タウ、ヂヤウ。直庚切 [庚]
獨立の貌にいふ字、ひとりたつ。

【倀】タウ、チヤウ。豬孟切 [敬]
㊀ふみまよふ。㊁あらし、(疎-率)。

【倁】チ、ヂ。陳知切 [支]
ゆく、(行)。

【偕】タウ、ドウ。徒合切 [合]
偕—は、事に任へず。

【併】ヘイ、ビヤウ。部迥切 [迥]
ならぶ。
(い)なむ、つらなる、つらぬ。○〔禮〕「行肩而不レ—」。
(ろ)きそふ、(競)、あたる、あつ、(敵)、まじはる、まじふ、(雜)。○〔賈誼〕「高-皇-帝與ニ諸-侯一—起」。

【併】ヘイ、ヒヤウ。卑正切 [敬] 卑盈切 [庚]
㊀拚に同じ、あふ、あはす。○〔孟題辭〕「後爲ニ晉所レ—」。㊁屏に同じ、すつ、ぁりぞく。○〔荀〕「—ニ己之私-欲一必以レ道」。

【倃】カウ、コウ。公勞切 [豪] キウ、グ。渠久切 [有]
こぼつ、そしる、(毀)。

【倄】カウ、ゲウ。胡茅切 [肴]
㊀さす、(刺)。㊁痛みて呼ぶ、わめく、なげく、又、其の聲にいふ字。

【倅】サイ、セ。取內切 [隊]
㊀そへ、(副)。○〔周〕「掌ニ王——車之政一」。㊁子息の未だ仕官せざる者、せがれ。○〔周〕「國-子存ニ遊——一」。

【倅】ソツ、ソチ。藏沒切 [月]
卒に通じ用ふ、百人の組合の稱。

【倆】リヤウ。良獎切 [養] 力仗切 [漾]
—伎は、たくみ、わざ。

【倅】シユ、ズ。遵遇切 [遇] サ。子歌切 [歌]
うながす、もよほす、せまる、(促)。

【倇】エン、ヲン。於阮切 [阮]
㊀たのしむ、(歡-樂)。㊁すゝむ、(勸)。

【倉】サウ。且郎切 [陽]
㊀穀物を藏むる方形の建物、こめぐら、くら。○〔潛夫論〕「寧積-粟腐レ—、而不レ忍レ貸ニ人一-斗一」。

㊁にはか、あわつ、(遽)。○〔杜甫〕「ーー皇己就二長-途一往」。
㊂蒼に通じ用ふ、あをし。○〔漢〕「ーー頭鷹-兒」。
㊃臟に通じ用ふ、はらわた。○〔漢〕「ーー之術」。
㊄滄に通じ用ふ、あをうなばら、うみ。○〔揚雄〕「東燭ニーー海ニ」。

〔困倉〕米ぐら、くら。○〔禮〕「穿ニ竇-窖ー、修ニーーニ」。
〔空倉〕米穀のなきくら。○〔梁〕「ーー數十-所」。
〔官倉〕官にて設けたる米ぐら。○〔隋〕「ーー貯積」。
〔發倉〕官の米ぐらを開きて民に米を給すること。○〔漢〕「ー河-內ー粟」。
〔神倉〕神に供ふる米を藏むるくら。○〔周〕「收、藏ニ於ーーニ」。○〔周〕「耕-田之
〔禁倉〕帝室用の米ぐら。○〔史〕「虛ニ御-府之藏ー以賞ニ元-戎ー、開ニーーー以賑ニ貧-窮ニ」。
〔天倉〕(い)星の名。○〔晉〕「ーーー六-星在ニ婁-南ニ」。(ろ)山の名。○〔成都記〕「ーー山在ニ蒲-縣ニ」。
〔太倉〕(い)おほいなる米ぐら、又、官府の米ぐら。○〔史〕「ーー之粟、陳-々相因」。「掩ニーーニ」。○(ろ)胃の臟の別名。○〔黄庭內景經〕「脾長一-尺(は)官の名。○〔漢〕「大-司-農屬官、有ニーー令-丞ニ」。
〔扁倉〕支那古代の名醫二人の姓。○〔史〕「ー-鵲以ニ其伎ー見レ殃、ー公乃匿レ迹自隱」。
〔三倉〕字書の名。○〔隋〕「ーー三卷」。
〔社倉〕飢饉を救助せんために各州縣に設くる米ぐら、平年は民に米を貸し其の利息を收めて蓄殖をなすも饑に遇へば收めず。○〔舊唐〕「武-德元-年九-月、置ニーーニ」。
〔義倉〕凶年の備へに設けたる米ぐら。○〔唐會要〕「開-成四-年、詔曰、ーー防ニ水旱ニ」。
〔倉々〕音律の響きを形容するにいふ語。○〔宋〕「閉レ口吐レ聲謂ニ之商ー、其音將-々ーー然」。
〔常平倉〕穀の價低きときは其の價を增して之を買ひ儲へて農を利し、穀の價貴きときは價を減じ賣りて貧民を救助し、常に穀の價を平均ならしむる爲めに設けたる米ぐら。○〔後漢〕「帝嘗欲レ置ニーーー、議者多以爲レ便」。

【倉】シヤウ。楚亮切　漾
愴に借り用ふ、うしなふ、(喪)。○〔詩〕「ーー兄塡兮」。

【傯】ソウ。子弄切　送　偬と同字。
困しむ貌にいふ字、又、くるしむ。

【個】個に同じ。

【倌】クワン。古丸切　寒　古患切　諫
駕を掌る人、又、小臣、されり。○〔詩〕「命ニ彼ーー人ー、星言速駕」。

【倍】ハイ、べ。補妹切　隊　補亥切　賄　補枚切　灰
㊀益加す、くはゝる、くはふ、ます、特にあるものに其れと同じものをますにいふ字。○〔易〕「利-市三ーー」。
㊁そむく。(い)反く。○〔禮〕「民不レー」。(ろ)背誦す、そらよみす。○〔韓愈〕「讀レ書ーレ文」。
㊂いやし、(俗)。○〔論〕「斯遠ニ鄙ーーニ」。
㊃二十、はたち。○〔禮〕「年長以ー則父ニ事之ニ」。

〔百倍〕或る物事よりはなはだまさりて多きとの形容にいふ語。○〔漢〕「戰-勝之威、民-氣ーーー」。
〔萬倍〕前に同じ。○〔易林〕「貸-貨ーーー」。「矣」。
〔千倍〕前に同じ。○〔戰〕「趙-國之守-備亦以ーーー」。
〔功倍〕結果を收むると常のものよりも多し。○〔孟〕「故事半ニ古之人ー、ー必ーレ之」。
〔子倍〕元金に利子のまし加はること。○〔孟、註〕「擧-貸ーー而益ニ滿之ニ」。「利ーーー」。
〔歲倍〕年々に增し加はる。○〔後漢〕「上下戮レ力、ーーー」。
〔過倍〕一倍に超ゆ。○〔晉〕「古以レ步百爲レ畝、今以ニ二-百四-十-步ー爲ニ一-畝ー、所レ覺ーーー」。
〔兼倍〕一倍に同じ。○〔王融〕「周-官三-百、漢-位ーーー」。
〔利倍〕得益あること一倍す。○〔白居易〕「雁疾而化速、ーー而功兼」。「ー」。
〔壯倍〕勇氣ますく加はる。○〔韓愈〕「每レ發ー益

〔才倍〕智能常人よりも多し。○〔白居易〕「ー雖レー、無レ益ニ於理ー矣」。
〔勇氣倍〕物に屈せざる氣象常よりも加はる。○〔晉〕「乘レ勝而來、ーー兼ー」。「劣相ーーー」。○
〔懸倍〕はなはだかけはなれてあること。○〔張說〕「倏-

【倏】シュク。式竹切　屋
すみやか、又、たちまち、又、犬走るとはやし。

【儵】俗の倏の字。

【戾】レイ、ライ。郞計切　霽
㊀いかる、(怒)。㊁もと戾に作る、もどる。

【儥】トク、ドク。徒沃切　沃
うごく、さわぐ、(動)。

【們】ボン、モン。莫困切　願
ーー渾は、肥滿の貌にいふ語、ふさし、こゆ。

【們】ボン、モン。莫奔切　元
自稱にそへ用ふる字、など、ども、がら。

【倒】タウ、トウ。都皓切　皓
たふる、たふす、(仆)。○〔魏〕「馬-上持レ幢不ニ傾ーーニ」。

〔絕倒〕大いに笑ふ。○〔晉〕「衛-玠談レ道、平-子ーー-」。
〔傾倒〕かたぶきたふる、かたぶけたふす、又、轉じて深く心を寄するにいふ語。○〔杜甫〕「志士懷ニ感-傷ー、心-胃已ーーー」。
〔潦倒〕吏事に適せざる貌にいふ語、又、老人らしき貌にもいふ語、擧動の緩かなるにもいふ語、轉じて、時勢に適せざる貌にもいひ、又、零落するにもいふ語。○〔杜甫〕「多-才依レ舊能ーーー」。

〔壓倒〕人をして己れの下風に立たしむ。○〔唐〕「今-日ーニーー元-白ー矣」。
〔推倒〕前に同じ。○〔宋〕「ーニーー一-世之智勇ニ」。
〔醉倒〕酒によひてたふる。○〔岑參〕「斗-酒相逢須ーーーニ」。
〔驚倒〕おどろきたふる、又、おどろかしたふす。○〔蘇軾〕「忽-然一-鳴ーニーー人ニ」。○〔杜
〔昏倒〕目くるめきてたふる。○〔陸龜蒙〕「花-時ーー」。「自ー非ニ人推ニ」。
〔玉山倒〕醉ひてたふるゝにいふ語。○〔李白〕「ーーー
〔應弦倒〕弓の弦音につれて敵兵たふる。○〔漢〕「李-廣度レ不レ中不レ發、發卽ーレー而ー」。
〔筆頭不倒〕事を記すとの忙しきにいふ語。○〔老學菴筆記〕「吏-勵封-著ーーーーレー、戶-度-金-倉日-夜窮レ忙」。
〔廻狂瀾於既倒〕衰退せし事を挽回するにいふ語。○〔韓愈〕「尋ニ墜-緒之茫-々ー、獨旁搜而遠紹、障ニ百川ー而東レ之、ーニーーーーーニ」。

【倒】タウ、トウ。刀號切　號
㊀上下順序の差ふと、さかしま。○〔晉〕「坦-之汗流沾レ衣、ー執ニ手-板ニ」。
㊁さからふ、さかふ、(逆)。○〔韓〕「至-言忤ニ于耳ー、而ーニ于心ニ」。

〔心倒〕こゝろさかしまになる、こゝろ驕きて常ならざるにいふ語。○〔左〕「ーー北言悖」。
〔顚倒〕さかしまになる。○〔杜甫〕「尊-心ーー極」。
〔影倒〕物の影の水にさかしまに映るにいふ語。○〔杜甫〕「忽風飄而ーー」。

【倓】タン、ドン。徒甘切　覃　吐淡切　感
しづか、(靜)、やすし、(恬)、又、安んじて疑はざるにいふ字。○〔荀〕「ーー然見ニ管-仲之能、足ニ以託ー國也」。

【倓】タン、ドン。吐濫切　勘
賧に同じ、蠻夷にて罪を贖ふ貨。○〔後漢〕「殺レ人者、得下以ニーー錢ー贖上レ死」。

【倔】クツ、ゴチ。巨物切　物

もさろ貌にいふ字、こはし、つよし。○[宋]「鼎不レ附二和-議一、檜曰、此老ーー强猶レ昔」。

【倕】スヰ、ズヰ。是推切 支
物を押さふる器、おもし、おもり。

【倖】カウ、ギヤウ。胡耿切 梗
㊀幸に同じ、さいはひ。○[班固]「優-者有二不-遇一、劣-者有二僥-ーー」。
㊁よたしむ、（親）、へつらふ、（佞）。○[後漢]「素-餐私-ー必加二榮-擢一」。
〔孫倖〕必正しからざる氣に入りの人。○[後漢]「ーーー斜二罰ーーー」。
〔過倖〕さいはひ多きに過ぐ。○[後漢]「讒者讒二其ーーー」。
〔恩倖〕めぐみ。○[南]「其四代被二ーーー者」。
〔徼倖〕さいはひあれかしとねがひもとむ。○[韓愈]「ーーーー于萬-一」。
〔佞倖〕へつらひを以て君の寵をうく、又、其の人。

【倖】ケイ、ギヤウ。下頂切 迥
もさろ、（狠）。

【倗】ホウ、ボウ。蒲登切 蒸
㊀たすく、（輔）。㊁ゆだぬ、（委）、よす、（託）。

【倘】シヤウ。齒兩切 養
㊀忽ち止ごまる貌にいふ字、やむ、さゞまる。○[莊]「雲將見レ之、ーー然止」。
㊁自失す、あきる、ほる。

【倚】イ。於擬切 紙　於義切 寘
㊀よる。
（い）もたろ、（憑）。○[左]「設レ机而不レー」。
（ろ）ちなむ、（因）。○[老]「福所レー」。
（は）たのむ、（恃）。○[漢]「容-々無レ所レー」。「天-下靡」。
（に）かたよる、（偏）。○[中子]「一-言ー

（ほ）ちかづく、（近）。○[呂氏春秋]「男-女切ーー」。
（へ）まかす、（任）。○[荀]「ーー二其所レ私」。
（と）樂器の音調に合はして歌ふ。○[漢]「愼-夫-人ーレ瑟而歌」。
㊁かたよりし場處、かたはら。○[禮]「居二於ーー廬一」。
㊂たつ、（立）。○[易]「參レ天兩レ地而ーレ數」。
〔毗倚〕たよる。○[晉]「太保元老高行、朕所二ーー以隆二政道一者也」。
〔眷倚〕前に同じ。○[金]「其女爲二昭-儀一、ーー益重」。
〔親倚〕前に同じ。○[金]「卿達二機-務一、朕所二ーーー」。
〔依倚〕（い）前に同じ。○[馮衍]「ーー二ー鄭-令一、如レ居二天-上一」。
（ろ）身を寄せかく、もたれかゝる。○[韓偓]「ーーー雕-梁輕二社-燕一」。
〔傾倚〕（い）前の（い）に同じ。○[蔡邕]「皇-帝寬-仁、四-國ーー」。
（ろ）前の（ろ）に同じ。○[李充]「ーーー偃-息」。
〔徙倚〕（い）ちよと立ち寄る。○[論衡]「盜-賊之人見レ物而取、睹レ敵而殺、皆在二ーーー漏-刻之間一」。
（ろ）立ちまはる。○[洛神賦]「ーーー彷-徨」。
〔攀倚〕のぼる。○[高適]「石-屏可二ーーー」。
〔騰倚〕のぼりかゝる。○[宋]「爲二龍-鸞ーー之狀一」。
〔邐倚〕道路などの屈折高下ある貌にいふ語。○[西京賦]「墱-道ーーー」。

【倚】キ。居宜切 支
㊀奇に同じ。○[荀]「ーー魁之行」。
㊁畸に同じ、かたはもの、不具。○[莊]「南-方有二ーー人一焉」。

【倛】キ。丘其切 支
頬、又は倛に通じ用ふ、鬼やらひをなすにかぶるもの、方相。○[荀]「仲-尼面曰二蒙ーー一」。

【倛】キ。欺忌切 寘
すゝます、たちもどる。

【倜】テキ、チヤク。他激切 錫
不羈獨立の貌にいふ字、又、奇異俊拔の貌にいふ字、又、高擧の貌にいふ字。○[荀]「ーー然乃擧二太-公於州-人一而用レ之」。

【倜】テウ。多嘯切 嘯
大いなる貌にいふ字、おほいなり。

【倜】チウ、チユ。張流切 尤
華美なる貌にいふ字、はなやかなり、はなぐし。○[揚雄]「物咸ー倡」。

【倝】カン。公旦切 翰
㊀日出の貌にいふ字。㊁もちふ、（用）。

【倞】リヤウ。力讓切 漾
㊀とほし、（遠）。㊁もとむ、（索）。

【倞】キヤウ、其亮切 漾　ケイ、渠映切 敬　カウ。ギヤウ。
つよし、（彊）。○[詩]「秉レ心無レー」。

【倸】傑に同じ。○[禮]「已ーー卑」。

【借】シヤ、子夜切 禡　セキ、資昔切 陌　セ。シヤク。
㊀かる。
（い）しばらく他のものを以て此の用を充たす、かりに他の所有を以て己れの使用と爲す。○[家語]「使二其臣一如レーー」。
（ろ）他の助けを受く、他の力に依る。○[後漢]「前-代外-戚賓-客假二ーー威-權一」。
㊁かす。
（い）貸す。○[薛逢]「三-年欲レ飛、長-風不レー」。
（ろ）許容す、ゆろす。○[史]「假ーー用レ之」。
㊂かり。
（い）永久にあらざるを、又、眞正にあらざるを。○[莊]「生者假ーー也」。
（ろ）かりたるを、又、かりたる物。○[宋之問]「何補二一-年之ーー」。
㊃或る事を設け說くさきに用ふる字（論旨を更に進むるときに多し）よし、たさひ、かりに。○[詩]「ーー曰レ未レ知、亦既抱レ子」。
㊄すゝむ、（推-奬）。
〔不借〕草履の別名。○[揚雄]「絲作者曰二ーーー」。
〔通借〕互にかしかりをなす。○[蜀]「書-籍有-無不二相ーーー」。「可二ーーー」。
〔貸借〕かしかり、又、ゆるす。○[南]「更相扇-誘、不レ
〔邑借〕官の名。○[後漢]「次有二ーーー」。
〔彊借〕理非を論せずしひて物をかり受く。○[南]「或ーー二百-姓麥-地一」。
〔乞借〕人に物を求めかる。○[陸游]「ーー二ーー春-陰-獲二海-棠一」。

【借】カ、ケ。古訝切 禡
假に通じ用ふ、かる、かり。○[後漢]「無レ所二ーーー」。

【倠】キ。呼維切 支
容貌惡し、いやし、みにくし、又、みにくき人。
〔仳倠〕みにくき人、又、醜き婦人。○[淮]「嫫-母ーー」。

【倡】シヤウ。齒羊切 陽
㊀わざをぎ。
（い）遊伎、戲樂、歌舞。○[鄒陽]「縱レ酒作レー、傾レ盌罄レ觴」。
（ろ）游伎、戲樂、歌舞を爲す者、やくしや、げいにんの類。○[史]「優ーー侏-儒、爲レ戲而前」。
㊁やはらぐ、（和）。○[揚雄]「陽去二其陰一、陰去二其陽一、物咸倜ーー」。

㊂みだろ、又、くるふ、一に猖に作る。○〔莊〕「——狂妄行」。「—こ。

〔俳倡〕わざをぎ。○〔漢〕「樂人興鼓歌吹作ニ—·
〔天倡〕星の名。○〔春秋元命包〕「翼星爲ニ樂庫ー倡ニ—·—ニ。「—こ。
〔名倡〕世に名あるわざをぎ。○〔魏〕「賜ニ妓樂—·
〔幸倡〕君より寵を受くるわざをぎ。○〔漢〕時有ニ—·—郭舍人ニ。「—こ。
〔妍倡〕みめよき俳優。○〔曹植〕「作ニ齊鄭之—·

【倡】シヤウ。尺亮切 漾

唱に通じ用ふ、さなふ。○〔禮〕「壹—而三歎」。

【倢】セフ。疾葉切 葉

㊀捷に通じ用ふ、すみやか、又、はやし、たよりよし、又、さとし。
㊁婕に通じ用ふ、うつくし。

【倣】ハウ、バウ。分罔切 養

ならふ、傚、よる、（依）、まなぶ、（學）。○〔唐〕「翕然慕—」。

【値】チ、ヂ。除利切 寘

㊀あたる。
（い）當たる。○〔顏延之〕「規周矩—」。
（ろ）遇ふ。○〔陸機〕「適—ニ時運來ニ。
㊁たつ、（植）、又、もつ、（持）。○〔詩〕「—ニ其鷺羽ニ。
㊂あたひ、（價）。○〔唐彦謙〕「翡翠鮫綃何所レ—」。「厭レ觀而常—」。
㊃すつ、（捨）、又、おく、（措）。○〔周邦彦〕

【値】チヨク、ヂキ。徐力切 職

おく、（措置）。

【倥】コウ、ク。苦紅切 東

倥に同じ、無知なり、おろか。

【倥】コウ、ク。康董切 董

事迫る、いそがはし。

【倥】コウ、ク。苦貢切 送

困しむ貌にいふ字、くるし。○〔楚辭〕「愁—ニ傯於山陸ニ。

【倦】ケン、ゴン。渠眷切 霰

㊀氣懈る、力疲る、いさふ、あく、おこたる、つかる、なまける、うむ。○〔禮〕「敦行而不レ—」。
㊁なげすわる、（倨）。○〔淮〕「方—ニ龜殼ニ、而食ニ蛤梨ニ。「—レ—」。

〔無倦〕（い）うむことなし。○〔王韶之〕「樂有レ文、體
（ろ）うむことなかれ、（戒めていふ語）。○〔論〕「請レ益、曰、—レ—」。「—こ
〔怠倦〕なまけうむ。○〔後漢〕「日夜尋誦、未嘗—·
〔懈倦〕前に同じ。○〔南〕「自强不レ息、無レ有ニ—·—ニ。
〔飢倦〕食に乏しくして疲勞す。○〔職〕「以ニ士卒—·—可ニ且休ニ。「死」。
〔疲倦〕つかれて事を爲すを厭ふ。○〔蜀〕「—·—欲レ
〔忘倦〕うむを忘る、少しもうむとなき意に用ふる語。○〔晉〕「聽者—レ—」。
〔神倦〕心氣つかる。○〔拾遺記〕「形勞—·—」。
〔氣倦〕前に同じ。○〔論衡〕「精盡—·—之效也」。
〔體倦〕身疲勞す。○〔韋曜〕「神迷—·—」。
〔講倦〕史書の講義をなすを厭ふ。○〔李紳〕「—·—許レ僧聽」。
〔耳倦〕聞くを厭ふ。○〔魏〕「—·—ニ絲竹ニ。
〔口倦〕口舌を使用する力乏しくなる。○〔拾遺記〕「誦レ經—·—」。
〔筆倦〕文を草し、又、字を書くとなどの鈍くなるにいふ語。○〔南〕「習與レ性成、不レ覺ニ—·—ニ。

【倧】ソウ、ス。租宗切 冬

やまびこ、又、上古の神人。

【倨】キヨ、コ。居御切 御

㊀不遜なり、おごる。○〔禮〕「遊毋レ—」。
㊁箕坐す、なげすわる。○〔漢〕「高祖箕—」。
㊂さしがね、（矩）、又、まがる、まぐ、（曲）。○〔禮〕「—中レ矩、句中レ鉤」。
㊃臥して思慮なき貌にいふ字。○〔淮〕「臥—·—興盱々」。

〔驕倨〕人にたかぶる。○〔漢〕「—·—不レ奉レ法」。
〔簡倨〕人に接するに禮儀なし、おごる。○〔宋〕「—·—自恣」。「理ニ。
〔句倨〕まがる。○〔說苑〕「北鼻下—·—皆循ニ其

【倩】セン。此見切 霰

㊀うるはし、みづくし、又、あざやか。○〔杜甫〕「披顏爭ニ—·—ニ。
㊁口もとあいきやうあり。○〔詩〕「巧笑—兮」。
㊂男子の美稱。○〔漢〕「陳平雖レ賢、須ニ魏—·—而後進」。

【倩】セイ、シヤウ。七性切 敬

㊀むこ、（婿）。○〔史〕「黃氏諸—」。
㊁やとふ、（雇）。○〔魏〕「汝—レ人邪」。

【倪】ゲイ。魚雞切 齊

㊀をさなし、又、をさなきもの、（幼弱）。○〔唐〕「垂髫之—、皆知ニ禮讓ニ。
㊁わかち、（分）、きは、（際）、はし、（端）。○〔韓愈〕「乾端坤—、軒豁呈露」。
㊂かぎりを設く、かぎる、又、わかちを爲す、わかつ。○〔莊〕「惡至而—ニ貴賤ニ。
㊃裨益す、おぎなふ、ます。

〔天倪〕自然の分。○〔莊〕「和レ之以ニ—·—ニ。
〔無倪〕限りなし。○〔孫超〕「絕境勝—レ—」。
〔旄倪〕老人と小兒と。○〔孟〕「反ニ其—·—ニ。

【倪】ゲイ。宜制切 霽

㊀埤に同じ、かき、ひめがき。○〔杜預〕「陴城上僻—也」。
㊁睨に同じ、ながしめ。○〔莊〕「馬知ニ介—ニ。

【倪】ガイ、ゲイ。牛皆切 佳　ガ、ゲ。牛加切 麻

涯に同じ、ほとり、かぎり、きは、はし。○〔莊〕「不レ知ニ端—ニ。

【倪】ゲツ、ゲチ。五結切 屑

觬に同じ、くろしむ。○〔古文易〕「困ニ于—伉ニ。

【倫】リン。龍春切 眞

㊀たぐひ。
（い）ろゐ、（類）。○〔禮〕「儗レ人必于ニ其—ニ。
（ろ）ならび、くらべ、（比）。○〔中〕「毛猶有レ—」。「於等—·—ニ。
（は）志な、さもがら、（等）。○〔漢〕「絕ニ
（に）さも、くみ、（伍）。○〔國〕「且臣之レ—」。
㊁すぢ。
（い）きめ、（理）。○〔周〕「折レ幹必—」。
（ろ）みち、（義）。○〔禮〕「祭有ニ十—ニ。
㊂ついで、（序）。○〔中〕「行同レ—」。
㊃つね、（常）。○〔書〕「彝—攸レ敍」。
㊄のり、（紀）。○〔家語〕「羣僕之—」。
㊅みち、（道）。○〔淮〕「莫レ得ニ其—ニ。
㊆くらぶ、ならぶ、（比）、えらぶ、よる、（擇）。○〔儀〕「雍人—レ膚」。

〔天倫〕自然のすぢめ。○〔公羊〕「兄弟—·—也」。
〔人倫〕人たるみち。○〔孟〕「聖人—·—之至也」。
〔彝倫〕（い）人類。○〔王浚〕「至德敗ニ—·—ニ。
（ろ）常の道、例前に出づ。「也」、
〔大倫〕人の大いなるすぢめ。○〔孟〕「人之—·—
〔等倫〕ともがら、儕輩。○〔漢〕「絕ニ於—·—ニ。
〔儕倫〕たぐひ、なかま。○〔韓愈〕「今古無ニ—·—ニ。
〔絕倫〕最も儕輩に超え出づ。○〔三〕「未レ及ニ寄ニ—·—逸羣也」。
〔冠倫〕前に同じ。○〔揚雄〕「—ニ乎羣—」。

〔異倫〕儕輩に勝る、又、その人。○〔四子講徳論〕「招ニ——一拔ニ俊茂ニ」。
〔超倫〕前に同じ。○〔蔡邕〕「絕レ出——」。
〔出倫〕前に同じ。○〔後漢〕「有ニ——之才ニ」。
〔軼倫〕前に同じ。○〔鶡冠子〕「——超レ等」。
〔後倫〕人よりおくる。○〔莊〕「貢-職不レ美、春-秋——」。
〔三倫〕君と官人と近侍の臣と。○〔禮〕「不レ可レ不レ愼ニ乎——ニ」。
〔反倫〕みちにそむく。○〔埤雅〕「負レ類——、何所レ不レ有」。
〔常倫〕なみ〳〵の輩。○〔江淹〕「高-步超ニ——ニ」。
〔冠帶倫〕開化の人のたぐひ。○〔司馬相如〕「今封-疆之內、——之—」。

【倬】タク、トク。知角切 覺
著明なり、著大なり、あきらかなり、おほいなり、あらはる、いちじるし。○〔詩〕「—彼雲-漢」。

【倭】井。於爲切 支
㊀柔順の貌にいふ字、謹愼の貌にいふ字、すなほ、うや〳〵し。㊁まはりどほき貌にいふ字。○〔詩〕「周-道—-遲」。

【倭】クワ、ワ。烏禾切 歌
やまと、大日本の稱、又、古昔筑紫の一部落の稱、支那人より附したる名なりといふ。○〔漢〕「樂-浪海-中有ニ—-人ニ」。

【倭】クワ、ワ。烏果切 哿
きりさげがみ、(鬌)。

【倮】ラ。力果切 哿
裸に同じ、又、臝、躶、果、蓏にも作る、あかはだか、はだか、(赤-體)。○〔禮〕「中-央土、其蟲—」。

【倮】クワ。古火切 哿
せばし、いやし、(陜-隘)。○〔左思〕「風-俗以ニ韰——ニ爲レ嫿」。

【倮】クワ、ゲ。戸瓦切 馬
かたぬぐ、又、すはだ、(赤-袒)。

【倰】ロウ。魯鄧切 徑
㊀行く貌にいふ字。㊁疲れたる貌にいふ字。

【倰】ロウ。力膺切 リョウ。閭承切 蒸
㊀麦に通じ用ふ、こゆ、志のぐ、をかす。㊁ながし、(長)。

【倱】コン、ゴン。戸本切 阮
㊀物事の開通せざる貌にいふ字、ふさがる、くゞもる。㊁慧からざる貌にいふ字、おろか。

【倲】トウ、ツ。都籠切 東 多貢切 送
にぶくして劣れる貌にいふ字、おとろ、おろか。

【倳】シ。側吏切 寘
㊀剚に同じ、さしはさむ、さす。○〔李奇〕「東-方人以レ物插レ地皆爲レ—」。㊁おく、(置)、たつ、(立)。○〔周、註〕「任猶レ—也」。

【㑪】ガン、ゴン。五敢切 感 シン。照晉切 震
㊀首をあぐる貌にいふ字、あたむく。㊁好き貌にいふ字、みめよし。

【倯】ショウ、ジュ。息恭切 冬
㊀つれ(庸)。㊁ものうし、おこたる、(嬾)。

【倯】シウ、シュ。息中切 東
㊀おそる、(怯)。㊁のろ、のゝしろ、(罵-詈)。㊂形小さくして憎むべき貌にいふ字、「にくし」。

九畫

【偝】ハウ、ビヤウ。蒲倖切 梗
併に同じ、ならぶ。

【偂】セン。則前切 先 子淺切 銑
すゝむ、(進)。

【偃】エン。乙蹇切 阮 於殄切 銑
㊀ふす。
(い)たふろ、たふす、(仆)。○〔儀〕「—レ旌興而偃」
(ろ)なびく、なびかす、(靡)。○〔論〕「草上ニ之風ニ必—」。
(は)志たがふ、(服)。○〔漢〕「不レ可レ—ニ天-下ニ」。
(に)いぬ、やすむ。○〔唐〕「不ニ休——ニ」。
(ほ)止む。○〔呂氏春秋〕「無レ有レ—レ兵」。
㊁たかぶる、たかし、(高)。○〔屈平〕「瑤-臺之—蹇」。
㊂鼴に同じ、うぐろもち。○〔莊〕「—鼠飲レ河」。
㊃堰に同じ、せく、ゐせき。○〔左〕「規ニ—-豬ニ」。
㊄かはや、(厠)。○〔莊〕「觀レ室者周ニ於寢-廟ニ、又適ニ其—ニ焉」。
〔息偃〕休らひ臥す。○〔詩〕「或——在レ牀」。
〔偃偃〕前に同じ。○〔唐〕「服-巴豆-劑ニ——」。
〔商偃〕卜商、言偃とて孔子の門人にて文學に名ありし人。○〔漢〕「包ニ——之文-學ニ」。
〔傾偃〕たふれふす、又、たふしふす。○〔晉〕「旄-旗戟-飾皆——」。
〔仆偃〕前に同じ。○〔元好問〕「旗旆紛——」。
〔兵偃〕武器を藏めて用ひず、轉じて戰を止どむるにいふ語。○〔新序〕「——而不レ動」。
〔武偃〕前に同じ。○〔劉積中〕「文修——」。
〔戈偃〕前に同じ。○〔湯巨源〕「——征苗後」。
〔尊偃〕自ら尊大にす。○〔急就篇〕「嵩——」。
〔柯偃〕木の枝下に伏す。○〔王涯〕「——乍疑レ龍」。
〔棲偃〕世を避けかくる。○〔張文琮〕「——瓢-濠-梁ニ」。

【偄】ダン、ナン。乃亂切 翰 ダ、ナ。奴臥切 箇
㊀よわし、(弱)。㊁やはらか、(柔)。

【偄】ゼン、ナン。而讋切 銑
㊀前條に同じ。㊁つゝしむ、(敬)。

【偅】ショウ、シュ。朱用切 宋
足の疲れたる貌にいふ字。
〔傭偅〕龍鍾に同じ、不遇の貌にいふ語、又、龍東に同じく兵の敗れ拔く貌にいふ語。

【偅】ショウ、シュ。書容切 冬
憧に同じ、おろか。○〔易京房本〕「——往-來」。

【偅】トウ、ヅ。徒紅切 東
僮におなじ、やっこ、志もべ。○〔漢〕「驂ニ白-鹿ニ兮、從ニ仙——ニ」。

【偆】シュン。尺尹切 軫
賰に同じ、さむ、とみ、(富)、あつし、(厚)。

【假】カ、ケ。居馬切 馬
㊀かり。
(い)永久のものにあらざるを、わづかの間なるを志ばし。○〔詩〕「不レ遑ニ——寐ニ」。
(ろ)他の職をかぬるを、兼攝。○〔楚漢春秋〕「會-稽——守殷-通」。

(は)眞成ならざるを、似て非なるを、にせ、いつはり。○〔江總〕「明レ眞照レ―」。

㊁かる。

(い)借る。○〔禮〕「大夫祭器不レ―」。

(ろ)因る。○〔禮〕「―二爾泰筮有一レ常」。

㊂かす。

(い)貸す。○〔左〕「天―二之年一、而除二其害一」。

(ろ)容す。○〔北〕「大臣犯レ法、無レ所二寛―一」。

㊃おほいなり(大)。○〔詩〕「―哉天命」。

㊄嘉に通じ用ふ、よし(美)。○〔詩〕「―樂君子」。

㊅かりに。

(い)かりさして、又、暫く。○〔柳宗元〕「存義―令二零陵一二年矣」。

(ろ)事實、若しくは議論を設け說くさきに用ふる字、たとひ、よしや、もし。○〔史〕「令二晏子而在一、余雖レ爲二之執一レ鞭、所二忻慕一焉」。

㊆嘏に通じ用ふ、さいはひ、おほいなり。○〔禮〕「是謂二大―一」。

〔藉假〕已れの功にほこる。○〔書〕「不二自―・―一」。

〔私假〕人に諮らず己れ一個の考へにて物を貸し與ふ、又、ひそかに物を借用す。○〔禮〕「不レ敢―・―一」。

〔陷假〕他の害に遇ひて己れの在る位を去る。○〔漢〕「―・―離朝」。

〔狐假〕狐、虎の威をかりて他の獸を嚇す、轉じて人の權力あるものゝ威をかりて威を人に振る舞ふにいふ語。○〔戰國〕「虎威―・―」。

〔貸假〕金錢物品を人にかし與ふ。○〔史〕「蒙二鰲富人一相―・―」。

〔乞假〕前に同じ。○〔禮〕「不レ通二―・―一」。「之」。

〔優假〕よく待遇す。○〔後漢〕「美二其義一特―・―二」。

〔容假〕よく人をいる。○〔唐〕「殷・語使レ之、無レ所二―・―命一」。

〔虛假〕いつはり、又、いつはる。○〔晉〕「―二―王一」。

〔四大假〕人の身、佛家にて人體は地、水、火、風の四大和合より成りて假りに形を現ずとの說に本づく。○〔梁簡文帝〕「―・―成、豈有二眞我一」。

【假】カ、ゲ。何加切 麻

遐に通じ用ふ、はるか、とほし。○〔揚雄〕「―言周二於天地一、贊二於神明一」。

【假】カ、ゲ。胡駕切 禡

暇に同じ、ひま、いとま、やすみ、休息、休沐、致仕。○〔隋〕「學生每二十日一給レ―」。

〔長假〕致仕す、官を辭す。○〔晉〕「乃取二―・―一還二鄉里一」。

〔告假〕前に同じ。○〔韓杭紀談〕「患二背疽一乞二―・―一」。

〔請假〕ひまを請ひねがふ。○〔隋〕「遇レ疾―レ―」。

〔賜假〕ひまを許したまはる。○〔晉〕「詔特―レ―」。

〔番假〕かはるがはる順番によりてひまをとること。○〔南〕「開二―・―一遞令二休息一」。

〔恩假〕ひまを賜はりしを謝していふ語。○〔宋〕「蒙レ賜二―・―一」。

【假】カク、キヤク。柯額切 陌

格に同じ、いたる(至)。○〔易〕「王―二有廟一」。

【假】コ、ウ。胡故切 遇

かる、又、かり。○〔宋玉〕「結二撰至思一、蘭芳―些、人有レ所レ極、同心賦些」。

【假】クワ、グワ。古我切 哿

いつはり、又、かり。○〔陶潛〕「既見二其生一、實欲二其可一、人亦有レ言、斯情無レ―」。

【偈】ケツ、ゲチ。渠列切 屑

㊀疾く馳する貌にいふ字、はやし、すみやか。○〔詩〕「匪二車―一兮」。

㊁揭に通じ用ふ、たけし(武)。○〔詩〕「伯兮―兮」。

㊂力を用ふる貌にいふ字。○〔莊〕「―・―乎揭二仁義一而行」。

〔偈偈〕たけし。○〔揚雄〕「其人―且―」。

〔邪偈〕旗竿。○〔揚雄〕「建二―・―之旖旎一也」。

【偈】ケイ。其例切 霽

㊀憩に通じ用ふ、いこふ。○〔揚雄〕「度二三巒一兮―二棠梨一」。

㊁佛家の詩詞、句を成す字數には五字、七字、同じからざれども多くは四句を以て一偈となす、又、頌ともいふ。○〔徐陵〕「說レ―論レ經」。

〔梵偈〕佛家の詩詞。○〔徐陵〕「―・―寶唱」。

〔法偈〕教法を說く佛家の詩詞。○〔傳法正宗記〕「多付二―・―一」。

〔妙偈〕前條の敬稱。○〔蘇軾〕「―・―瞻仰讚」。

〔寶偈〕前に同じ。○〔蘇軾〕「慈皇付二―・―一」。

〔遺偈〕臨終の際に作りて後人にのこす佛家の詩詞。○〔周賀〕「―・―病時書」。

【偉】ヰ。于鬼切 尾

㊀くし(奇)。○〔史〕「獨視―レ平」。

㊁おほいなり(大)。○〔晉〕「體貌環―、腰帶十圍」。

㊂うつくし(美)、さかんなり(盛)。○〔韓愈〕「儀觀甚―」。

〔英偉〕優る、又、その人。○〔晉〕「夫―・―大寶、多出二于山澤一」。

〔魁偉〕大いなり、たくましし。○〔後漢〕「容貌―・―」。

〔溫偉〕おとなしくして大いなり。○〔後漢〕「姿貌―・―」。

〔瑰偉〕めづらしくりッぱなること。

〔奇偉〕りッぱなること。○〔吳〕「形貌―・―」。

〔秀偉〕前に同じ。○〔晉〕「姿望―・―」。

〔卓偉〕すぐれてえらし。○〔吳〕「―・―之才」。

〔雄偉〕前に同じ。○〔晉〕「容貌―・―」。

〔豐偉〕肥えふとりて大きし。○〔晉〕「體貌―・―」。

〔俠偉〕前に同じ。○〔北〕「秦王體度―・―」。

〔修偉〕身の長ながくして立派なり。○〔南〕「容質―・―」。

〔雅偉〕寛く大いなり。○〔吳〕「器量―・―」。

【偊】グ、ゴ。魚矩切 麌　ウ、ヲ。王矩切

―踽に通じ用ふ。

㊀獨り行く貌にいふ字、ゆく。○〔詩〕「獨行―・―」。

㊁せぐくまり步む貌にいふ字。○〔漢〕「行步―旅」。

【偍】テイ、ダイ。杜兮切 齊

進み難し、おさる。

【偍】シ。承旨切 紙

媞に同じ。

【偎】ワイ、エ。烏回切 灰

㊀昵近す、なじむ、なる、むつぶ、いつくしむ。○〔列〕「不レ―不レ愛」。

㊁よる(倚)。

【⿰亻享】シユン、ジユン。松閏切 震

さし、はやし(疾)。

【⿰亻享】ケイ、ギヤウ。渠營切 庚

みなしご(孤兒)。

【⿰亻卻】キヤク、ガク。其虐切 藥

㊀はづかしめ(尻辱)。

㊁おばらく(須臾)。

【⿰亻卻】キヤク、ゲキ。乞逆切 陌

―⿰亻卻に同じ。

㊀いたはる(勞)。

㊁あく、うむ(倦)、つかる(疲)。

㊂きはまる(極)。

㊃大いに笑ふ。

【偏】ヘン。芳連切 先

㊀中正にはづる、一方にのみ傾く、ななめになる、かたよる、かたむく、え

こ、かたおち。○〔書〕「無レ黨無レ━、王━道平━々」。

㊁かたよりたる場處、かたつら、かたはら、かたがは、かたほとり。○〔左〕「晉楚其━ニ」。

㊂かた

（い）かば。○〔左〕「衣身之━」。

（ろ）黨屬なぐひ。○〔左〕「擧ニ其━━」。不レ爲レ黨」。

㊃たすけ、（佐）。○〔左〕「司━馬令━尹之━」。

㊄軍隊の組織上の一名目、車戰にては二十五乘をいひ士卒にては五十人をいふ。○〔左〕「先レ━後レ伍」。

㊅翩又は篇に通じ用ふ、ひるがへる。○〔古文、易〕「━━不レ富、以ニ其鄰ニ」。

〔察偏〕かたおち。○〔劉頳〕「物━類無ニ━━ニ」。
〔明偏〕物事の觀察正しからず。○〔中論〕「━━而示レ之以レ幽、弗レ能レ服也」。
〔貧偏〕富者のみますく貨財多くなりて貧者はますく窮乏すること。○〔宋〕「━━則民病」。
〔幽偏〕市城より隔たりたる地、ゐなか。○〔杜甫〕「━━得ニ自怡ニ」。

【偏】ヘン。匹戰切　霰

かたよる、正しからず。

【㑘】カン、ケン。口減切　豏

意安からず。

【偐】ガン、ゲン。五晏切　諫

いつはる、又、にせもの、（僞）。

【偒】タウ。他莽切　養

㊀蕩に通じ用ふ、なほし、たひらか。○〔揚雄〕「晉━仲━連━而不レ剬、藺━相━如〔剬而不レ━」。

㊁ながき貌にいふ字。

【偓】アク、オク。於角切　覺

━━促は、かゝはろ。

【偔】ガク。逆各切　藥

おほし、（多）。

【偕】カイ、ケイ。古諧切　佳

㊀つよくさかんなる貌にいふ字、つよし、さかんなり、ちからあり、すこやか、（强━壯）。○〔詩〕「━━士━子、朝━夕從レ事」。

㊁俱に同じ、とも、ともなふ、ともに、おなじ、ひとし、ひとしく。○〔易〕「與レ時━行」。

㊂適合す、とゝのふ、かなふ。○〔曹植〕「金━石━而齊響」。

〔計偕〕漢の武帝の時、吏民の俊秀なる者を朝廷に徵し出だすに每年郡國の會計吏の其の帖簿を朝廷に納むる者と同道せしめしより轉じて朝廷より徵し出たさるゝ者に借りいふ語。○〔漢〕「徵下吏━民明ニ當━世之務ニ、習ニ先━聖之術ニ者上、縣━次續━食、令ニ與レ━━ニ」。

〔儷偕〕とも、ともなふ、つれ立つ。○〔九辯〕「陰━陽不レ可ニ與━━ニ」。

〔志不偕〕思ひ通りに事のとゝのはざること。○〔顏延之〕「年往━━レ━」。

【偖】キ。擧里切　紙

ともなふ。○〔詩〕「嗟予弟行レ役、夙━夜必━、上愼レ旃哉、猶來勿レ死」。

【偖】捨に同じ、ひらく、さく、（裂）。

【偗】セイ、シヤウ。所湶切　梗

㊀ながき貌にいふ字、ながし。

㊁なほき貌にいふ字、すなほ、なほし。

【偘】カン、ガン。可旱切　旱

侃に同じ。○〔唐〕「━━━不レ干ニ虛━譽ニ」。

【偸】ボウ、モ。莫候切　宥

なしむ、又、いやし、（鄙━吝）。

【偙】テイ、タイ。都計切　霽

㊀くるしみおとろ、（困━劣）。

㊁さし、（儲）。

【做】俗の作の字。

【偛】サフ、セフ。楚洽切　洽

たけひくき人の貌にいふ字、ちひさし。

【停】テイ、チヤウ。唐丁切　青　もと亭に作れり。

㊀とゞまる。

（い）さだまる、（定）。○〔王瓚〕「上━下不レ━」。

（ろ）やむ、（止）。○〔魏〕「躅ニ━徭━役ニ」。

（は）とゞこほる、（滯）。○〔梁〕「淹━━不ニ時施━行ニ者」。

（に）やすむ、（息）。○〔晉〕「攸乃小━━夜━中發去」。

㊁とゞまらしむ、とゞむ。○〔世說〕「婦便捉レ裾━レ之」。

〔停々〕草木の若芽の出づると長からず。○〔關尹〕「草━木假━━」。
〔稽停〕止とまる、とゞむ。○〔晉〕「何敢━━」。
〔休停〕休息に同じ。○〔晉〕「始無ニ三━日━━ニ」。
〔息停〕前に同じ。（〔南〕「使得ニ━━ニ」。
〔閑停〕閑暇に同じ。○〔魏〕「無レ事━━」。
〔沈停〕物事とゞこほる。（〔梁〕「主者━━」。
〔調停〕中間に立ちて和解をなす。○〔宋〕「不レ主ニ━━ニ」。
〔雲停〕（い）雲處に止とまりて流動せず。○〔林登秀〕「四━時疑レ有ニ彩━━ニ」。
（ろ）人の多きよ、雲の止どまり集まるが如きに比べていふ語。○吳先賢〕「猗━々茂━才、執レ節━━」。

【停】タウ、ダウ。徒唐切　陽

【偝】ハイ、ベ。步昧切　泰

㊀すつ、（棄）。○〔禮〕「民不レ━」。

㊁倍、又、背に同じ、そむく。○〔禮〕「毋ニ━立ニ」。

とゞむ、又、とゞまる。○〔韓愈〕「還━走不レ及レ━」。

【偞】クワ、ケ。古瓦切　馬

行く貌にいふ字。

【偞】エフ。弋涉切　葉

㊀かろし、うすし、（輕━薄）。

㊁かたちうつくし、みめよし、（美━容）。

【偞】ケフ。虛涉切　葉

㊀いやしむ、（卑）。○〔禮〕「若祭爲ニ已━卑ニ」。

㊁前條の㊀に同じ。

【偞】テフ、デフ。直涉切　葉

かろきやまひ、又、疾ひ甚しからず、（微━恙）。

【偟】クワウ、ワウ。胡光切　陽

㊀たちやすらふ、たゞずむ。○〔莊〕「茫━然傍ニ━━乎塵━垢之外ニ」。

㊁遑に通じ用ふ、いとま、ひま。○〔揚雄〕「忠━臣孝━子、━━乎不レ━」。

〔徬偟〕たちやすらふ、たゞずむ。○〔史〕「━━不レ能レ去」。

【偠】エウ。於了切　篠

腰の細き貌にいふ字、容姿多き貌にいふ字、なよやか、たをやか。○〔張衡〕「━━紹便━娟」。

【偡】タン、丈減切 [豏] タン、徒感切 [感] デン。ドン。
齊整なる貌にいふ字、さゝのふ。

【偢】セウ。七肖切 [嘯]
いつくしまず、(不-仁)。

【偢】シウ、シュ。側鳩切 [尤]
愁ふる貌にいふ字、うれふ。

【偯】
偯に同じ。

【偣】エン、オン。衣炎切 [鹽]
きよからず、(不-淨)。

【偤】イウ、ウ。以周切 [尤]
はべる、さぶらふ、(侍)。

【健】ケン、ゴン。渠建切 [願]
㊀勢力の强盛なるにいふ字、强めて息まざるにいふ字、まめ、たけし、つよし、すこやか。○[易]「天-行一君-子以自强不レ息」。
㊁さからふ、あたる、(伉)。○[公羊]「有二辨-護伉一者一、爲二里-正一」。
(剛健) すこやかにして强し。○[易]「大哉乾乎、一-中正純-粹精也」。
(至健) こよなくすこやかなり。○[易]「夫乾天下之一-一也」。
(魁健) 身體大きくしてカつよし。○[唐]「一-一能「騎-射」」。
(勇健) 强くして物に屈せず。○[魏]「少而一-一」。
(豪健) 前に同じ。○[後漢]「俗稱一-一」。
(勁健) 前に同じ。○[晉]「種-類一-一、世爲二大-人一」。
(趫健) 步行迅速なり。○[南唐]「生-敢-月、一-一「能-跳-走」。
(老健) 文詞などの老練にしてすこやかなること。○[朱熹]「筆-力一-一」。
(雅健) 文のみやびやかにしてすこやかなること。○[唐]「韓之一-一」。
(官健) 官府より衣糧を給する州兵。○[李德]「擇少-壯一-一三-百-人一」。
(精神健) 心氣疲勞せず。○[文天祥]「獨喜一-一「一-一」。
(筋骨健) 骨格の逞しきこと。○[金華]「一-一輕一」。
(筆鋒健) 筆さきつよし。○[方岳]「凍-吟可-但一-一」。

【偼】ケン、ゲン。巨展切 [銑]
㊀はゞむ、かたんず、(難)。
㊁あぐ、あがる、(擧)。

【偨】トツ、ドチ。陀訥切 [月]
おごる、(不-遜)。

【偭】
便の本字。

【偦】ショ、ソ。私巨切 [語]
さとし、かしこし、又、才智ある者の稱。

【偦】ショ、ソ。相居切 [魚]
あらし、さほる、(疏)。

【偧】タ、陟加切 サ、莊加切 テ。 セ。 [麻]
はる、(張)。

【偨】タク。他客切 [藥]
㊀よる、(寄)。㊁やぶる、(毀)。

【偨】シ。初蟻切 [紙]
齊しからず、そろはず、かたゝがひ。○[揚雄]「一-傂參-差」。

【偯】ヨウ。余證切 [徑]
㊀にぶし、(鈍)。㊁媵に同じ、つきびと、こしもと。

【偩】フウ、ブ。扶九切 [有]
㊀よる、(依)、又、かたどる、(象)。○[禮]「禮-樂一二天-地之情一」。「辭レ助」。
㊁負に同じ、たのむ。○[淮]「自-一而一」。

【偪】ヒョク、ヒキ。鄙力切 [職]
㊀せまる。
(い)逼る。○[禮]「君-子不レ僭レ上、不レ一レ下」。
(ろ)大便を催す。○[晉]「內迫郎謂「下」。一也」。

【偫】チ、ヂ。直理切 [紙]
㊀待に同じ、まつ。㊁庤、跱、跱、偫に同じ、そなふ、(具)、まうく、(設)、たくはふ、(儲)。○[國]「一二而畚-挶一」。
㊁むかばき、(行-縢)。○[詩]「邪一在レ」。

【偬】ソウ、子貢切 ス。作孔切 [送] [董]
くるしむ、(困-苦)。

【偬】ソウ、ス。倉紅切 [東]
志多し、みだる。

【偭】ベン、メン。緜偏切 [霰]
むかふ、そむく。○[屈平]「一二規-矩一而改-錯」。

【偭】ベン、メン。彌兗切 [銑]
㊀前條に同じ。㊁かなふ、(偕)。

【偮】シフ。側入切 [緝]
人の衆き貌にいふ字、おほし、一に緝に作る。

【偯】イ、エ。於豈切 [尾]
なげく聲の餘音、又、なく、なげく。○[禮]「童-子哭不レ一」。

【偱】シュン、ジュン。須倫切 [眞]
㊀したがふ、(順)。㊁のぶ、(述)。

【偲】シ。相恣切 [支]
互に善み責めあふ、つとむ、(勉)、一に愢に作る。○[論]「切-々一-一」。

【偲】サイ。七才切 [灰]
オカ多し、一說に鬚の多き貌にいふ字。○[詩]「其人美且一」。

【偲】シ。胥里切 [紙]
安んぜざる貌にいふ字、おそる、一に愢に作る。

【偳】タン。都官切 [寒]
すこし、すくなし、ちひさし、(小)。

【側】ショク、ソク。札色切 [職]
㊀そば、かたはら。
(い)程近き處、其の左右。○[詩]「止二于邱一一」。
(ろ)正しからざる方、一方にかたより し處。○[禮]「升レ自二一-階一」。
㊁かたぶく。
(い)かたよる、そばだつ、ねぢく。○[詩]「一-弁之俄」。
(ろ)昃く。○[後漢]「日一乃罷」。
㊂かたおち、ねぢけ、えこ、なゝめ。○[書]「無レ反無レ一」。
㊃そむく、(背)。○[齊]「不二敢背一一」。
㊄いやし、(陋)。○[書]「明-々揚二一-陋一」。
㊅伏す、又、縮む。○[淮]「一二谿-谷之閒一」。
㊆かすか、ほのか。○[韓愈]「一-聞、閒-下抱二不-世-出之才一」。

㈧ひとり。
(い)ひとつ。〇〔儀〕「一一尊」。
(ろ)ここに。〇〔禮〕「一授二宰幣一」。
㈨惻に同じ、いたむ。〇〔楚辭〕「隱思レ君兮俳一一」。
〔傾側〕(い)かたぶく。〇〔元稹〕「亞水依レ岩半一一」。
〔赤側〕漢の時の錢の名。〇〔史〕「鑄二鍾官赤一一」。
(ろ)志を枉ぐ。〇〔宋〕「端然正レ己、不レ爲レ物一一」。
〔欹側〕前の(い)に同じ。〇〔杜甫〕「一一風帆滿」。
〔旁側〕そば近き處、又、そば近くに居る人にいふ語。〇〔漢〕「內寵嬖二事一一」。「賢人夜誦之音」。
〔坐側〕前に同じ。〇〔後漢〕「頭置二坐一一」、以當二
〔偃側〕よりかゝりて伏す。〇〔管〕「一一一一」。
〔兌側〕かたぶきて其の舊を失ふ。〇〔易林〕「女謁橫行、正道一一」。
〔枕側〕伏し臨む。〇〔水經注〕「山形方峭、一二一一江濱一」。「羽翼」。
〔離側〕はなれそむく。〇〔七發〕「常無二一一以爲二
〔反側〕(い)そむく。〇〔後漢〕「使二一一子自安一」。
(ろ)寐かへる。〇〔詩〕「輾轉一一」。「一一」。
〔偏側〕かたよりかたぶく。〇〔謝靈運〕「勢有二一一
〔斜側〕前に同じ。〇〔柳宗元〕「危足一一」。
〔卑側〕いやし。〇〔雲笈〕「一一媚悅之巧」。
〔側々〕(い)いたむ。〇〔古樂歌〕「一一力々、念君無レ極」。
(ろ)轉じて寒暖の感じにもいふ語。「側寒剪々風」。〇〔韓愈〕「一一一
〔臥榻之側〕ねだいのそば、轉じて自己の領分內の義に借りいふ語。〇〔長編〕「一一一一豈容二他人鼾睡一乎」。

【偵】テイ、チヤウ。恥慶切　敬

㈠うかゞふ、(伺)、さぐる、(探)。〇〔後漢〕「內使三御者一一二伺得失一」。
㈡敵狀を探伺すると、敵狀を探伺する者、ものみ、しのび、まはしもの。〇〔後漢〕「羅二一一候戍卒一」。
〔游偵〕しのび。〇〔左〕「諜者曰二一一一」。
〔遠烽偵〕敵の來たるを候ひてのろしを打ち擧げ味方に告げ知らする所を遠き方に設け置く。〇〔唐〕「築二遠烽臺一、一二一一一爲二守備一」。

【偶】ゴウ、グ。五口切　有　一　耦に通じ作る。

㈠對の數、そろひたる數、二を以て除してあまりなき數てふ。〇〔禮〕「鼎俎奇而籩豆一」。
㈡そろふ、(雙)、ならぶ、(竝)、あふ、あはす、(合)、かなふ、(諧)、たぐふ、たぐはす、(匹)。〇〔家語〕「聖人因レ時以合二一一男女一」。
㈢たぐひ。
(い)夫たる者、妻たる者、夫妻、伉儷、つれあひ。〇〔北〕「璃有レ女始笄、始選二良一一」。
(ろ)同等にてある者、同類、儕輩、なかま、とも。〇〔漢〕「率二其曹一一、亡二之江中一」。
㈣俑に同じ、ひとがた、でく、人形。〇〔史〕「木一一人謂二土一一人一」。
㈤遇に同じ、志あはせ。〇〔唐〕「有レ才如レ此、而使二之流落不一一」。
㈥寓に同じ、やどる、やどかる。〇〔禮〕「相與宿一一」。
㈦おもひもよらず、たまさか、たまたま、(適然)。〇〔列〕「鄭國之治一一耳、非二子之功一也」。
〔奇偶〕單獨なる數と對の數と。〇〔易〕「陽卦一、陰卦一」。
〔陰偶〕易の卦にて陰の數は對合せるもの。〇〔參同契〕「龍陽數奇、虎一數一」。
〔凡偶〕普通人の仲間。〇〔後漢〕「豈徒俗之一一近器而已者哉」。
〔俗偶〕つれあひ、又、つれあひとなる。〇〔易林〕「安・從・樂富有二一人一一一」。
〔仇偶〕前に同じ。〇〔王褒〕「鳴・聲相應、一一一相
〔伴偶〕前に同じ。〇王褒「夜入二交關一一一一」。
〔非偶〕仲間にあらず、又、仲間とすべきものにあらず。〇〔薩能〕「自高輕二月桂一、一レ一一一瞰二池蓮一」。
〔違偶〕つらねあはす。〇〔後漢〕「一二一一俗語一」。
〔喬松偶〕仙人の仲間となる。〇〔魏〕「身爲二一一・一之一一」。
〔鴛鴦偶〕をし鳥のめとをと、轉じて睦じき夫婦に借りいふ語。〇〔李白〕「猶羨二一一・一一」。

【偶】ゴウ、グ。牛遘切　宥

前條の㈡と㈢と㈦とに同じ。

【偶】グ、ゴ。牛具切　遇

前々條の㈣に同じ、本、耦に作る。

【偶】ギヨ、ゴ。五擧切　語

やどる。〇〔後漢〕「祟山幽都何可レ一、黃鉞一下無二處所一」。

【偷】トウ、ツ。託侯切　尤

㈠苟且、因循、かりそめ。〇〔左〕「貳一一之不レ暇」。
㈡因循苟且に事を爲す、かりそめにす、いやしくもす。〇〔禮〕「安肆日一」。
㈢うすし、(薄)、かろくし、(佻)。〇〔左〕「趙孟之語一」。
㈣ぬすむ、ぬすびと、(盜)。〇〔管〕「一一二得利一而有レ害」。「一脆也」。
〔綠偷〕其れなりに延引す。〇〔宋〕「一一一驟弊、甚可
〔小偷〕こぬすびと。〇漢「一一悉來賀」
〔狗偷〕前に同じ。〇〔王粲〕「村落有二一・一一」。
〔寇偷〕他の領內に入りて盜賊又は狼藉をなす者。〇〔韓愈〕「國風氣以閉二一一」。
〔苟偷〕なまけて輕薄なると。〇〔宋〕「風俗一一」。
〔惰偷〕前に同じ。〇〔陸游〕「兒童勿二一一一」。
〔智偷〕前に同じ。〇〔王阮〕「羣生亦一一」。
〔罰偷〕怠惰なる者を處分す。〇〔荀〕「賞克一一則民不レ偷」。「不レ暇」。
〔貳偷〕かりそめにす。〇〔左〕「晉政多門、一一之

【偷】ユ。容朱切　虞

前條の㈢に同じ。〇〔張衡〕「敬二愼威儀一、示二民不レ一、我有二嘉賓一、其樂愉々」。

【候】コウ、ク。胡遘切　宥　一に候に作る。

㈠うかゞふ。
(い)竊かに狀況を探る。〇〔孫炎〕「伺二一盜賊一」。
(ろ)考ふ、占ふ。〇〔史〕「以一二氣應一」。
(は)望む。〇〔周〕「市有二一館一」。
(に)まつ、(待)むかふ、(迎)。〇〔晉〕「當レ有二男子一レ之與語一、便縛來」。
(ほ)さぶらふ、さふらふ、(訪)、さぶらふ(侍)まもる、(護)。〇〔後漢〕「上臨二一禹一」。
㈡ものみ。
(い)狀況を竊探する者、事情を遠望する者。〇〔後漢〕「案二飛一一參二察衆政一」。
(ろ)敵狀を望みうかゞふ處。〇〔後漢〕「築二亭一一修二烽燧一」。
㈢邊疆を守る官吏。〇〔左〕「藪之薪蒸虞一一守レ之」。
㈣きざし、(兆)、しるし、(證)。〇〔晉〕「凡遊氣蔽レ天、日月失レ色、皆是風雨之一」。
㈤支那の昔の氣象學にて時氣の小變動ありとする一期間、卽ち五日、轉じて時節。〇〔魏〕「推二七十二一一、因二冬至虎始交後一、五日一一」。
〔門候〕時刻をうかがひて門の開閉を掌る官の名。〇〔漢〕「署二小苑東一一一」。
〔伍候〕民をして組合を爲して其の狀況を探らしむ。〇〔左〕「明二其一・一一」。
〔元候〕古昔、軍に上中下の別ありて中軍に設けたる官。〇〔國〕「使レ爲二一・一一」。
〔中候〕官の名。〇〔史〕「責任レ人爲二一・一一」。
〔軍候〕官の名。〇〔漢〕「陵一一管敢亡」。
〔障候〕官の名。〇〔漢〕「左・遷敦煌滿澤一一」。
〔都候〕官の名。〇〔後漢〕「左右一一各一人」。
〔伺候〕上たる人を見舞ふ。〇〔韓愈〕「一二一一于門牆者日益進」。
〔承候〕前に同じ。〇〔魏〕「暇二案閣前一、一二一一安否一」。
〔奉候〕前に同じ。〇〔宋〕「日一二一一于新亭一」。

（伺候）見舞ふ人。○〔史〕「分二衛兵一護レ郎、──踵レ路」。
（叅候）其の様子をうかゞはしむ。○〔後漢〕「遣レ人──、果如二其言一」。
（占候）うらなふ。○〔後漢〕「父宗能望レ氣、──吉凶一」。
（偵候）うかゞふ。○〔唐〕「──朝廷事一」。
（狙候）ねらふ。○〔唐〕「──中國一」。
（氣候）氣節に同じ。○〔譙周〕「昏旦變二──一」。
（測候）天文を度り知ること。○〔隋〕「漢初──、乃知二五星皆有二逆行一」。
（表候）あらはれたるしるし。○〔隋〕「察二──一以知レ命」。
（迎候）來たる人を出迎ふ。○〔梁〕「乃自往──、同乘而歸」。
（偵候）敵の動靜を探ること、又、其のものゝ名。○〔後漢〕「遂止二能──戍卒一」。
（踐候）前に同じ。○〔宋〕「遣二兵二千餘人一──」。
（病候）病氣の狀況。○〔北齊〕「說二──治方一」。
（色候）顏色によりて病狀を知る。○〔魏〕「深得二病形一、兼知二──一」。
（診候）脈を察して病狀を知る。○〔北齊〕「雖レ不二──、有二十全功一」。
（潮候）海水の滿干の時、志ほどき。○〔寰宇記〕「瓊州──不レ同」。
（時候）氣節に同じ、四時の變はり目。○〔李頎〕「──復蒸レ梅」。
（景候）折々のありさま。○〔圖書見聞誌〕「四時──」。
（察候）うかゞふ。○〔唐〕「妖祥──皆可二推考一」。
（心候）口の異名。（腎候）耳の異名。○〔白虎通〕「口者心之候、耳腎之候」。
（農桑候）耕作蠶養の時期。○〔宋〕「欲レ知二──一」。
（秧稻候）田植ゑの時期。○〔馮澄〕「黃犢烏犍──」。
（司馬候）官の名。○〔史〕「郡守──御史各二八」。

十畫

【傀】クワイ、古回切 灰　キ。古委切 紙　ケ。
㊀天の貌にいふ字、大いなる貌にいふ字、おほいなり、（偉）。○〔荀〕「──然獨立二天地之閒一而不レ畏」。
㊁あやし、くし、あやしきもの、ものゝけ、わざはひ、（怪-異）。○〔周〕「大──異-裁去レ樂」。

（傀儡）容貌の醜き婦女。○〔四子講德論〕「嫫母──、善譽者不レ能レ掩二其醜一」。

【傀】クワイ、ケ。呼乖切 佳
前條の㊀に同じ。○〔莊〕「達二生之情一者──」。

【傀】クワイ、ケ。口猥切 賄
──儡は、あやつり人形くゞつ。○〔通鑑〕「徵二巧匠楊思齊一造二──儡一」。

【傁】ソウ、シユ。思口切 有
叟に同じ、おきな、老人の敬稱。○〔左〕「趙──在レ後、怒レ之使レ下」。

【僽】シウ、ス。側救切　キウ、ク。休救切 宥
身を傭作に任すを、やとはれ。

【㑳】シユ、ス。莊俱切 虞
小人の貌にいふ字。

【傂】チ、ヂ。地爾切 紙　シ。息移切 支
齊しからず、かたゝがふ、（參-差）。

【傄】カツ、カチ。呼八切 黠
傄──は、すこやかなる貌にいふ語、又、悍ることなし、はゞからず。○〔韓愈〕「塡レ隍滅傄──」。

【⿰亻索】サク、シヤク。山責切 陌
にくむ、（惡）。

【傃】ソ、ス。桑故切 遇
㊀むかふ、（向）。○〔蘇軾〕「縱二其所一レ如、暮則──二東山一而歸」。
㊁常の分に遵ふ、志たがふ。

【㑴】侵に同じ。

【⿰亻癸】キ、ギ。瞿龜切 支
左右を視まはす、かへりみる。

【傅】フ、ホ。方務切 遇　〔說文〕从レ人尃聲。
㊀輔佐、看護者、養育者、たすけ、そへ、つきそひ、もり、かしづき。○〔詩〕「王命二──御一、遷二其私人一」。
㊁つく。
（い）かしづく、つきそふ、まもる、たすく、つかふ。○〔漢〕「──二太子一」。
（ろ）著く。○〔左〕「毛將二安──一」。
（は）至る。○〔詩〕「亦──二于天一」。
（に）近づく。○〔禮〕「──レ人則密」。
（ほ）守る。○〔淮〕「──レ堞而守」。
（へ）記入す、登錄す、かきつく。○〔周〕「聽二稱責一以二──別一」。
（と）徭役者の姓名簿に姓名を登錄して公家に徭役す、えだつ。○〔漢〕「蕭何發二關中老弱未レ──者一」。

（太傅）官の名、三公の一。○〔書〕「立二太師──太保一」。
（少傅）官の名、三孤の一。○〔書〕「少師──少保」。
（台傅）宰相。○〔北〕「坐致二──一」。
（帝傅）前に同じ。○〔歐陽修〕「具二──之業一」。
（師傅）人に道を傳へ德を附くるを務めとする人。○〔史〕「大者爲二──卿相一」。
（外傅）學校の教師などの如き外にありて教ふる人。○〔禮〕「十年出就二──一」。
（王傅）王に附き副ひて守り立つる役。○〔蘇軾〕「毀門明日逢二──一」。
（保傅）かしづき、つきそひ、たすけ。○〔戰〕「不レ離二──之手一」。「殷」。
（中傅）宦官のこと。○〔漢〕「坐レ殺二──一、廢遷二防一」。
（姆傅）附き副ひの女官。○〔後漢〕「訓二諸──一」。
（伊傅）殷代の聖賢伊尹と傅說とのこと。○〔後漢〕「美二──之選一時一」。「──舉兮殷周興」。
（呂傅）周の呂尙と殷の傅說とのこと。○〔王褒〕「──」
（三傅）太傅と少傅と。○〔齊〕「數二──一同」。
（友傅）王の子弟を守り立つる役。○〔宋〕「亦王──也」。
（姆傅）女子にかしづく婦人。○〔庾信〕「──習言、公宮教レ業」。

【傅】フ、ホ。芳無切 虞
敷に同じ、志く、のぶ、つぐ。○〔漢〕「──納以レ言」。

【傆】ケン、グワン。魚怨切 願
さかし、（黠）。

【傆】ゲン、グワン。五袁切 元
いかる、（怒）。

【傊】井ン。羽敏切 軫　ウン。迂蘊切 問
まさる、ゆたか、（優）。

【傔】ケン。詰戰切 霰　乞件切 銑
行き及ぶ、おひつく、およぶ。

【傇】ジヨウ、ニユ。而隴切 腫
茸に通じ用ふ、おほし、（衆）。

【傋】カウ、コウ。古項切 講
㊀おろか、（㣺）。○〔漢〕「不レ敬而──霧之所レ致也」。
㊁なまめかず、（不-媚）。㊂になふ、（擔）。

【傋】コウ、ク。居候切 宥
おろか、（無-知）。○〔荀〕「愚-陋──-瞀」。

【傌】バ、メ。莫亞切 禡
罵の本字、のゝしる、はづかしむ。○〔漢〕「髡-刖笞──之法」。

【傍】　ハウ、バウ。蒲當切　陽

㊀旁に通じ用ふ、そば、わき、はた、ほとり、てぢか、かたはら。○〔禮〕「士於レ一三-拜」。
㊁字畫の右方、つくり、右文。○〔晉〕「王-右-軍書多不レ講二偏-一」。
㊂みだりに、（妄）。○〔禮〕「不二一狎一」。

〔水傍〕　みづのほとり。○〔易、疏〕「沙-岸一-之地」。
〔道傍〕　路のほとり。○〔禮〕「食二于一-一」。
〔路傍〕　前に同じ。○〔北〕「過二一-一主人一」。
〔劇傍〕　路の三方に通じたるところ。○〔爾〕「三達謂二之一-一」。
〔無傍〕　限りなし。○〔王安石〕「揚レ湖吹レ漂浩一レ「一」。
〔偏傍〕　字畫のへんとつくりと。○〔蘇軾〕「強尋二一-一推二點畫一」。
〔兩傍〕　左と右と。○〔詩、疏〕「在二身之一-一」。
〔四傍〕　四方のほとり。○〔黃溍〕「青-山環二一-一」。
〔岐傍〕　路の二方に通じたるところ。○〔爾〕「二達謂二之一-一」。

【傍】　ハウ、バウ。蒲浪切　漾

そふ。
（い）よる、（依）。○〔晉〕「皇-家便當レ倚二一先-代一耳」。　「馬-頭一生」。
（ろ）ちかづく、（近）。○〔李白〕「雲一二一」。

〔難傍〕　近づきがたし。○〔王逢〕「莓苔滑一レ一」。
〔依傍〕　よる、助く。○〔梅堯臣〕「幸願相一-一」。

【傍】　ハウ、バウ。北朗切　養

左右に侍す、そふ。○〔賈誼〕「仁-者養レ之、孝-者福レ之、四-聖一レ之」。

【傍】　ハウ、ヒヤウ。甫盲切　庚

已むを得ざる貌にいふ字。○〔詩〕「四-牡彭-々王-事一-一」。

【傸】　シツ、シチ。秦悉切　質

㊀いやし、（賤）。
㊁嫉に通じ用ふ、ねたむ、それむ、そこなふ。

【傒】　キ、ケ。許氣切　未

いかる、（怒）。

【僀】　タイ。他代切　隊

態に同じ、わざ、すがた、こゝろばへ。

【傏】　タウ、ダウ。徒郎切　陽

おごる、（不-遜）。

【傑】　ケツ、ケチ。奇哲切　屑

㊀すぐる。
（い）智勇才德多くの人に超ゆ。○〔孟〕「豪一之士」。
（ろ）すべて物事の特立秀出せるにいふ字、ひいづ、ぬきんづ。○〔詩〕「有二厭其一一」。
㊁すぐれたる人物、すぐれびと。○〔史〕「諸-侯豪一竝起」。
㊂すべてすぐれたるものゝ稱にいふ字、をさ、かしら。○〔水經、註〕「吳有二秦-望-山一、在二州-城正-南一爲二衆-峰一、涉レ境便見」。
㊃おごる、（傲）。㊄さる、（執）。

〔邦傑〕　國中第一のすぐれたる人。○〔詩〕「伯兮朅兮、一-之一兮」。　「一-一化レ之」。
〔英傑〕　才智衆人にすぐれたる人。○〔荀〕「其通也
〔人傑〕　衆にすぐれたる人。○〔魏〕「劉-備一-一也」。
〔三傑〕　（い）漢の高祖に仕へて最も衆人にすぐれたる人、張良、蕭何、韓信の三人。○〔史〕「此一-人者皆人-一也」。
（ろ）三國の時、蜀の國にて衆人にすぐれたる人、諸葛亮、關羽、張飛の三人。○〔傅子〕「劉-備之翠、一-一之才」。
（は）唐の玄宗に仕へて衆人にすぐれたる人、宋璟、張説、源乾曜の三人。○〔小學紺珠〕「明-皇賜二一-一詩一」。
〔四傑〕　唐代の初めにて文章に秀でたる人、王勃、楊炯、盧照隣、駱賓王の四人。○〔唐〕「皆以二文-章一齊二名天-下一、稱二王楊盧駱一-一一」。
〔時傑〕　其の時代に秀でたる人。○〔隋〕「爲二一-一之一-一」。　「驍-悍」。
〔偶傑〕　すぐれたると、又、其の人。○〔韓愈〕「一-一
〔雄傑〕　前に同じ。○〔漢〕「一-一之士、因レ勞輔レ時」。
〔名傑〕　前に同じ。○〔劉峻〕「海-内一-一」。
〔高傑〕　前に同じ。○〔沈約〕「神-才一-一」。
〔挺傑〕　前に同じ。○〔晉〕「英-姿一-一、有二雄-霸之風一」。
〔魁傑〕　前に同じ。○〔歐陽修〕「予-時一-府之士、皆一-一賢-豪、日相往-來」。
〔瓌傑〕　前に同じ。○〔魏〕「容-貌一-一、志-氣宏-放」。
〔羽傑〕　鳥類の中にて最もすぐれたる鳥類。○〔孫綽〕「鵾爲二一-一一」。
〔文傑〕　人にすぐれて文詞を善くする人。○〔梁簡文帝〕「士-衡一-一」。
〔生民傑〕　人類中の最もすぐれたる人。○〔曹植〕「於鑠仲-尼一-一之一」。
〔天下傑〕　世の中にて最もすぐれたる人。○〔孟郊〕「元-戎一-一-一」。　「一-一」。
〔殿中傑〕　殿中にて優れたる人。○〔鄒浩〕「御-史一-

【傛】　ベイ、ミヤウ。母迥切　迥

㊀酩に同じ、ゑふ。㊁よし、（好）。

【傎】　テン。丑展切　銑

たけたかし、（形長）。

【傑】　キヨウ、グ。渠凶切　冬

㊀のゝしる、のろ、（罵）。
㊁にくむ、（憎）。

【傒】　ケイ、ガイ。胡雞切　齊

繫に同じ、つなぐ、とらふ。○〔淮〕「一二人之子-女一」。

【傒】　ケイ、ガイ。戸禮切　薺

徯に同じ、まつ、さぶらふ、一說に奚に同じ、徯さは別なりさ。

【傓】　セン。舒緖切　霰

さかんなり、（熾-盛）。○〔詩〕「豔-妻一方處」。

【傔】　ケン。去念切　豔

はべる、（侍）、したがふ、（從）、つかふ、又、其の人、そば、おつき。○〔唐〕「奏二一-從三-十-人一」。

【傖】　サウ、ジヤウ。仕衡切　庚

㊀鄙賤者、いやしきもの、ゐなかもの、又、鄙賤なり、いやし。○〔晉陽秋〕「陸-機呼二左-思一、爲二一-父一」。
㊁吳國の人の中國の人を呼ぶ稱。○〔陸龜蒙〕「歌-冠難レ適レ越、羊-酪未レ饒レ一」。

〔老傖〕　年老いたるゐなか者。○南「彥德獨受二一-一之目一」。
〔不足齒之傖〕　人に對して無禮なる人を罵るにいふ語。○〔晉〕「傲二主人一非レ禮也、以レ貴驕レ士非レ道也、失二此二者一レ一-一耳」。

【傖】　サウ。千岡切　陽

一-囊は、亂るゝ貌にいふ語。

【傗】　チク、トク。敕六切　屋

㊀一-佩は、のびず、かゞまる。
㊁畜に通じ用ふ、やしなふ、禽獸、やしなふ。○〔古三墳歸藏易、註〕「聖-人以致二養六-一一」。

【傗】　キク、コク。許六切　屋

憤る貌にいふ字、いかる。

【傘】サン。蘇旱切 旱

登舒すべくつくりたる雨を禦ぎ日を蔽ふ用具、ひがさ、あまがさ、からかさ、きぬがさ。○〔魏〕「持二白-｜白-擔一」。

【備】ヒ、ビ。皮祕切 寘

㊀そなふ。
(い)あらかじめ完整す、そろふ、とゝのふ。○〔禮〕「唯賢-者能｜｜」。
(ろ)あらかじめ設置す、まうく、おく。○〔書〕「官不二必｜一、惟其人」。
(は)あらかじめ警防す、いましむ、ふせぐ。○〔左〕「弗レ｜必敗」。
(に)補足す、たす、そふ、おぎなふ。○〔漢〕「補二｜之一」。
(ほ)具有す、たもつ、もつ。○〔蘇軾〕「氣｜二孟-軻之剛-大一」。
㊁そなはる。
(い)すでに完整す、すでに設置す、すでに警防す、とゝのふ、なる。○〔周〕「凡樂成則告レ｜」。
(ろ)もとより豐足す、もとより完全す、もとより具有す、たる、とゝのふ。○〔易〕「易之爲レ書也、廣-大悉｜」。
(は)加はる、副ふ。○〔漢〕「身｜二漢-相一」。
㊂そなへ。
(い)志たく、ようい。○〔書〕「有レ｜無レ患」。
(ろ)器具、用品、使用のもの。○〔淮〕「遂爲二天-下｜一」。
(は)儀仗、警護、軍隊。○〔左〕「家｜盡往」。
㊃つぶさに、ことごとく、みな。○〔禮〕「農-事｜收」。
㊄つめ、(搔)。○〔周〕「其皮-革、齒、須、｜」。
㊅長き兵器、槍、矛などの類。○〔左〕「齊致レ死莫レ如レ去レ｜」。

〔求備〕完全ならんことをもとむ。○〔書〕「無レ｜二｜于一-夫一」。
〔責備〕前に同じ。○〔淮〕「君-子不レ｜二｜于一-人一」。
〔武備〕軍事上の用意。○〔穀梁〕「雖レ有二文-事一、必有二｜-｜一」。
〔戒備〕前に同じ。○〔左〕「誡以二｜-｜一」。
〔軍備〕前に同じ。○〔歐陽修〕「課レ田而實二｜-｜一」。
〔文備〕學問上の用意。○〔史〕「有二武事一者、必有二｜-｜一」。
〔準備〕そなへ。○〔宋〕「岳-飛爲二｜-｜將一」。
〔守備〕國内の防禦。○〔左〕「巡二大-城一繕二｜-｜一」。
〔具備〕物事落ちなく用意整ふ。○〔晉〕「兩-造｜-｜」。
〔富備〕前に同じ。○〔詩、疏〕「棣-々-然｜-｜」。
〔充備〕物事滿足に整ふ。○〔後漢〕「贈-送什-物無レ不二｜-｜一」。
〔完備〕前に同じ。○〔歐陽修〕「首-尾｜-｜、可レ見二當-時之制一也」。
〔周備〕物事至らざる所なく整ふ。○〔文心雕龍〕「朝-章國-采亦云｜-｜」。
〔預備〕物事の生ぜざるに先だちて其の用意を爲す。○〔漢〕「邊兵｜爲レ｜」。
〔逆備〕前に同じ。○〔左〕「民｜-｜レ之」。
〔官備〕官職缺くる所なし。○〔左〕「百-官｜-｜」。
〔設備〕物事の支度。○〔史〕「是以｜-｜未レ息」。
〔兼備〕彼の物事と此の物事と併せ整ふ。○〔史〕「管-仲之家、｜二｜三-歸一」。
〔防備〕國又は城を守禦するそなへ。○〔後漢〕「｜-｜不-虞一」。
〔撤備〕守禦の兵を取り除く。○〔唐〕「吐-蕃聞二營｜-｜一、乃縱二鑿之一」。
〔法備〕諸規則落ちなく整ひ揃ふ。○〔管〕「名止｜-｜、聖-人無レ事」。
〔百物備〕諸般の物事一として整はざるとなし。○〔禮〕「｜-｜既｜」。
〔三資備〕地を闢め、民を富まし、徳を厚くす。○〔史〕「｜-｜-｜者｜、而王隨レ之矣」。
〔金石備〕樂器悉く整ひ揃ふ。○〔晉〕「四-廂｜-｜-｜始｜」。

【亻蚤】サウ、ソウ。蘇刀切 豪

おごる、たかぶる、(驕)。

【傚】カウ、ゲウ。胡教切 效　カウ、コウ。居高切 豪

效に通じ用ふ、かたどる、(象)、のっとる、(法)、ならふ、(習)、まなぶ、(學)、なずらふ。○〔詩〕「爾教矣、民胥｜矣」。

〔則傚〕模範として學ぶ。○〔詩〕「君-子是｜是｜」。
〔法傚〕前に同じ。○〔詩、傳〕「言可二｜-｜一也」。
〔不敢傚〕決して其の眞似をなさず。○〔詩〕「我｜-｜-｜二我友自逸一」。

【傛】ヨウ、ユ。餘封切 冬

㊀身を曲ぐ、くゞまる。㊁安からず。
㊂はなやか、(華)。
〔傛々〕(い)疾安からず。(ろ)威儀に習ひ其の實なき貌にいふ語。

【傜】エウ。余招切 蕭

㊀徭に同じ、つかふ、えだち。○〔潘岳〕「今掌二河-朔｜一」。
㊁なゝめ、又、もっぱらならず。○〔揚雄〕「｜衺也、自レ山而西 凡物不レ純者謂二之｜一」。

【偒】タン、トン 他紺切 勘

自ら安んぜず、やすからず。

【傝】タフ、トフ。他盍切 合

㊀｜儑は、あし、(惡)、一說に、謹まざる貌にいふ語、みだる。
㊁｜嫭は、おろか、(不肖)。

【傞】サ。素何切 歌

醉ひて舞ふ貌にいふ字。○〔詩〕「屢舞｜-｜」。

【傟】アウ、オウ。於項切 講

もとる、(戾)。

【亻畟】ショク、シキ。子力切 職

すこし、又、ちひさし、(小)。

【亻罰】ベツ、ボチ。房越切 月

伐に同じ、うつ。○〔揚雄〕「勇-侏之｜、盜-蒙決-夬」。

【亻致】チ。陟利切 寘

物をあつむ、あつむ。

十一畫

【傪】サン、ソン。倉含切 覃

好き貌にいふ字、みめよし。

【傪】サフ、ソフ。七合切 合

たけし、(猛)。

【催】サイ、セ。倉回切 灰　一本、趣に作る。

もよほす。
(い)うながす、(促)。○〔晉〕「以レ惡爲二軍-諸-祭-酒一、數諮二訪得-失一、每造二書-檄一、越或驛-馬｜レ之、應レ命立成」。
(ろ)せまる、(迫)。○〔羅鄴〕「孤-劍向レ誰開二壯-節一、流-年｜レ我自堪レ嗟」。
(は)くはだつ、はじむ。○〔王昌齡〕「貴-人粧-梳殿-前｜」。
(に)きざす、おこる。○〔李憕〕「別-館春還淑-氣｜」。

〔漏催〕定めの時刻のせまるにいふ語。○〔梁簡文帝〕「洞-門扇未レ掩、金-壺｜已｜」。
〔明催〕曉近くなりてあかるくなる。○〔白居易〕「｜-｜竹窓曉」。
〔雨催〕雨もやうとなる、又、雨ふりそむ。○〔楊維楨〕「不レ怕二城-頭小｜-｜一」。
〔興催〕おもしろくなる。○〔李白〕「容-花逸-｜-｜」。
〔歲月催〕年寄る。○〔駱賓王〕「容-華｜-｜-｜」。
〔二毛催〕白髮まじりとなる。○〔李商隱〕「惟感｜-｜-｜」。

【傭】チョウ、チュ。恥恭切 冬

㊀ひとし、(均)。○〔詩〕「昊-天不レ｜」。
㊁もちふ、(用)。○〔荀〕「近-世而不レ｜」

【傭】ヨウ、ユ。餘封切 冬

㊀勞作の賃錢、ちんせん、あたひ。○〔李翺〕「厚二其錢―一以餉二饑人一」。

㊁あたひを受けて勞作す、かせぐ、やとはる、又、あたひを給して勞作せしむ、つかふ、やとふ。○〔後漢〕「爲レ官―書」。

㊂賃錢を受けて勞作する者、やとひ、やとはれ、ひようかせぎ。○〔後漢〕「爲二治家―一」。

〔耕傭〕耕作にやとはる、又、其の人。○〔後漢〕「隱二處琅邪澤一、身自―・―」。

〔家傭〕家の召使。○〔史〕「變二名姓一、爲二齊太史敫家―一」。

〔斈傭〕ものかきにやとはる、又、其の人。○〔吳要暘〕「近來鄕曲號二―・―一」。

〔客傭〕雇はれ人。○〔後漢〕「變レ服―・―」。

〔流傭〕故鄕を去りて他鄕の人にやとはる、又、其の人。○〔漢〕「民匱二于食一、―・―未二盡還一」。

〔老傭〕年とりたる雇はれ人。○〔後漢〕「諸卿皆―・―也」。

〔賣菜傭〕野菜を鬻ぐに雇はれたる人、又、卑賤なる人の義に借りいふ語。○〔後漢〕「豈能知二此―・―・―乎」。

【傮】サウ、ソウ。作曹切 豪　シウ、ジユ。祀牛切 尤

㊀をはり、(終)、めぐり、(周)。○〔揚雄〕「二周日二―・―一」。「然要レ時務レ民」。

㊁力を盡くす貌にいふ字。○〔荀〕「―・―

【⿰亻密】バツ、マチ。莫刮切 黠

すこやかなる貌にいふ字。

【傯】傯に同じ。

【傰】ホウ、ボウ。蒲登切 蒸

とも、(朋)。○〔管〕「練レ之以散レ羣―・署」。

【傱】ショウ、シュ。荀勇切 腫

㊀疾き貌にいふ字、はやし、すみやか。○〔揚雄〕「風―・―以扶レ轄」。

㊁走る、進む。○〔漢〕「旌容―々、騎沓―々、般―・―」。

【傲】ガウ、ゴウ。五到切 號

㊀おごる、(倨)、ほこる、(誇)。○〔禮〕「―不レ可レ長」。

㊁あなどる、(慢)、しのぐ、(陵)。○〔管〕「事者生二於慮一、成二於務一、失二於―一」。

㊂あそぶ、(遊)、たのしむ、(樂)。○〔陶潛〕「嘯二―東軒下一」。

〔惰傲〕物事をあなどりて勉めず。○〔左〕「―・―以爲二己心一」。

〔怠傲〕前に同じ。○〔孟〕「般樂―・―」。

〔長傲〕おごりの心を增し加ふ。○〔止蒙〕「―レ―且遂レ非、不レ智孰甚レ焉」。

〔奢傲〕華美を飾りて高ぶること。○〔左〕「六卿强而―・―」。

〔侈傲〕前に同じ。○〔史〕「行二暴虐一―・―」。

〔倨傲〕高ぶりあなどること。○〔魏〕「魯國孔融、高才―・―」。

〔驕傲〕前に同じ。○〔離騷〕「保二厥美一以―・―兮」。

〔亢傲〕前に同じ。○〔王維〕「―・―迷二東西一」。

〔憮傲〕前に同じ。○〔禮〕「毋レ―毋レ―」。

〔放傲〕氣儘にしてあそびたのしむ。○〔洛陽伽藍記〕「性愛二恬靜一、丘園―・―」。

〔縱傲〕前に同じ。○〔陸龜蒙〕「岑寂且―・―」。

〔偃傲〕前に同じ。○〔權德輿〕「琴觴恣二―・―一」。

〔忽傲〕物事をあなどりて疎畧なること。○〔北〕「諸府主自―・―」。

〔刺傲〕前に同じ。○〔北〕「好レ飮レ酒、頗涉二―・―一」。

〔誅傲〕高ぶる者を誅戮す。○〔徐陵〕「作二茅鴟一―レ―、彰二魯史之文一」。

【⿰亻既】カイ、ケイ。古載切 隊

かりのぬし、(假主)。

【傳】テン、デン。直攣切 先

㊀つたふ。

(い)うつる、(轉)。○〔左〕「―乘而歸」。

(ろ)さづく、(授)。○〔呂氏春秋〕「得レ―レ國」。「君二」。

(は)ゆづる、(讓)。○〔戰〕「欲レ―二商・

(に)つぐ、(繼)。○〔漢〕「父子相―」。

(ほ)しく、(布)。○〔孟〕「置・郵―レ命」。

(へ)送る。○〔呂氏春秋〕「―二鉅子於田襄子一」。

(と)通ず。○〔孟〕「―レ質爲レ臣」。

(ち)述ぶ。○〔禮〕「―二著于鐘鼎一」。

(り)説く。○〔禮〕「有司失二其―一」。

㊁つたはる。

(い)つゞく、(續)。○〔莊〕「指窮二於爲一レ薪、火―也」。

(ろ)至る。○〔呂氏春秋〕「人事之―」。

(は)及ぶ、延ぶ。○〔陳〕「盛―二於世一」。

(に)聞こゆ。○〔荀〕「舜獨―」。

(ほ)移る。○〔陸澄〕「其閒五―」。

㊂うつす、(移)。○〔禮〕「父母舅姑之衣衾簟席枕几不レ―」。

〔家傳〕其の家に世々讓り來たること。○〔陳〕「―・―賜書數千卷」。

〔承傳〕然れより此れへつたはり受く。○〔舊唐〕「贊者―・―焉」。

〔流傳〕世に布きわたる。○〔郭受〕「新詩海内―・―遍」。

〔稱傳〕其の人又は物事を賞めて語りあふ。○〔梁簡文帝〕「百神咲仰、千佛―・―」。

〔周傳〕遍く行きわたる。○〔謝超宗〕「馨芳四塞、華火―・―」。「韻二、珥二文本一―・―一」。

〔舊傳〕古よりつたへ來たる。○〔庾信〕「寶刀仍世―・―」。

〔芳傳〕美しき名後の世までも殘る。○〔唐太宗〕「傳賢德之流、慶畢二萬業一而―・―」。

〔神傳〕天賦といふに同じ。○〔楊復光〕「李克用―・―將略」。「―菊細聽」。

〔喧傳〕盛んに言ひ囃し布く。○〔楊萬里〕「松竹―・―」。

〔嫡傳〕正流を承け繼ぐ。○〔戴復古〕「君家名父子爲二晦翁―・―一」。

〔宣傳〕上より下に命令を布く。○〔北〕「―・―文武號令」。

〔累世傳〕代々に承けつぐ。○〔晉〕「―・―猶―之」。

〔臚句傳〕上より下に告げ、又、下より上に告ぐること。○〔漢〕「大行設二九賓―・―・―一」。

〔衣鉢傳〕禪家にて法を授くること。○〔蘇軾〕「公子豈我徒、―・―・―二一塵一」。

〔曉漏傳〕夜の明けんとするとき時計の壁の漏れ聞こゆること。○〔梁武帝〕「期門―・―・―」。

【傳】テン。株戀切 霰

㊀旅舍、宿驛、やど、しゆくつぎ、はたごや、しゆくば。○〔後漢〕「繕二理亭―一」。

㊁しゆくつぎの車馬。○〔漢〕「乘レ―奏レ事」。「投レ―而去」。

㊂關門出入の符信、わりふ。○〔後漢〕

〔卽傳〕割符のこと。○〔周〕「凡所レ達二守節一者、則以二―・―出レ之」。

〔郵傳〕宿より宿へ人馬を繼ぎ立て荷物を送る。○〔蘇軾〕「閱レ世如二―・―一」。

〔軺傳〕輕々しく出でたちたる宿つぎの馬。○〔漢〕「駕二一封―・―一、還レ詣二京師一」。

〔輕傳〕前に同じ。○〔沈佺期〕「細草承二―・―一」。

〔縣傳〕縣より出だす宿つぎの乘馬。○〔漢〕「省二縣馬一以賦二―・―一」。

〔驅傳〕宿つぎの人馬を馳せて遠に事を辨ぜしむること。○〔五〕「―二―于湘水一」。

〔急傳〕宿つぎの馬に乘りていそぎ行く使者。○〔韓〕「―指二湘江一」。「發二―・―一而問レ之」。

〔星傳〕急を要する宿つぎの乘馬。○〔權德輿〕「―・

〔飛傳〕前に同じ。○〔盧照鄰〕「拂レ曙驅二―・―一」。

〔驛傳〕宿つぎの乘馬。○〔張翥〕「叨乘二―・―一」。

【傳】テン、デン。柱戀切 霰

㊀經書の義解、賢人の著書。○〔後漢〕「採レ經摭レ―」。

㊁事迹の記録、書き記して後世につたへ示す義。○〔南〕「著二五柳先生―一、蓋以自況」。

㊂つゞく、つぐ、(續)。○〔孟〕「―二食於諸侯一」。

〔書傳〕賢人の記載したる著述。○〔後漢〕「超有二口辯一、而涉二獵―・―一」。

〔列傳〕羣臣の事蹟を書き載せたる記録。○〔史〕「作二七十―・―一」。

〔記傳〕歷史。○〔後漢〕「校二中書五經―・―一、補二續漢記一」。

〔三傳〕孔子の著せる春秋の傳へ註したるもの三つ、卽ち左氏傳、公羊傳、穀梁傳。○〔文中子〕「一一作春秋散」。「續筆一一、以立二一一」。
〔訓傳〕經書の解釋をなしたるもの。○〔書、序〕「探二一一」。
〔史傳〕前に同じ。○〔晉〕「博涉一一」。
〔家傳〕其の家の事迹を書き遺せる記錄。○〔北〕「公宜ㇾ自載二一一」。
〔小傳〕人の事蹟の或る部分を記錄せる歷史、猶は略傳といふに同じ。○〔金〕「作二王子一一」。

【傴】ウ、チ。於武切　麌

㊀背を曲ぐ、せぐくまる、かゞむ。○〔左〕「一命而僂、再命而一」。
㊁背のかゞみて伸びざる病、又、其の不具者、くゞせ、せむし。○〔宋〕「幼病ㇾ一、人目爲二槖駝兒一」。
〔俯傴〕ふしかゞむ、又、おぎすることに借りいふ語。○〔黃庭堅〕「聊欲ㇾ效二一一」。
〔尪傴〕かゞみてのびず、又、せむし、くゞせ。○〔爾、註〕「一一瘻腫無ㇾ枝條」。
〔蹇傴〕あしなへどくゞせと。○〔唐〕「女兄弟觀ㇾ之、士之醜野一一者呼二其名一、輒笑於堂上二」。
〔伸傴〕體をのばすとかゞむるとの、又、せむしを療治して伸ぶることの出來るやうにす。○〔七啓〕「一ㇾ一起躄」。「揖讓則一ㇾ一」。
〔變傴〕健康なる體軀のせむしとなる。○嵇康「修二

【傱】ス、井。息維切　支

かたよる、ひさへに、（偏）。

【債】サイ、セ。側賣切　卦

㊀おひめ。
（い）借りたる金錢を返濟すべき責めあること、ふやくぎん、かり、借財。○〔漢〕「賣二田宅一、鬻二子孫一、以償ㇾ一」。
（ろ）すべて、濟ませはたすべき責めあることに借りいふ字。○〔陸游〕「宿身缺讀書一」。

㊁貸したる金錢、かしきん、かし。○〔〕「誰習二會計一、能爲ㇾ文收二一于薛一者乎」。
〔起債〕借財す、又、借財する手續をなす。○〔漢〕「爲ㇾ人一ㇾ一、分ㇾ利受ㇾ謝」。
〔舉債〕前に同じ。○〔梁〕「姑亡一ㇾ一斂葬」。
〔酒債〕酒を估ひて其の支拂ひの出來ざること。○〔張謂〕「俸錢供二一一」。
〔詩債〕他より詩作を送りたるに應じて我よりも作りて返すべきに作り返さずにあること、又、詩を作らさるべからざる材料あり、又は其の境遇に臨みながら其の儘に作らずしてあること。○白居易「顧我酒狂久、負ㇾ君一一多」。
〔理債〕借金を取りをさむ。○〔世說補〕「有二沙門道研一求ㇾ調、意在ㇾ一ㇾ一」。
〔徵債〕前に同じ。○〔魏〕「一一之科、一準二舊格一」。
〔負債〕おひめ。○〔晉〕「我一一未ㇾ畢、ㇾ去」。
〔宿債〕ふるくよりあるおひめ、又、かし。○〔宋〕「滷租一一勿二復收一」。

【傜】エウ。餘招切　蕭

㊀よろこぶ、（喜）。㊁大さ小さ同じからず、ことなり、ひとしからず。㊂くらぶ（比）。㊃えだち、（徭役）。㊄まごはす、（誑惑）。

【僐】セン、ソン。側嚴切　鹽

たちながらはべる、（立侍）。

【傗】タウ、トウ。陟降切　絳

立つ貌にいふ字。

【傷】シヤウ。式羊切　陽

㊀いたむ。
（い）憂ひ思ふ、痛み煩ふ、うれふ、なげく、なやむ。○〔史〕「蘇秦聞ㇾ之而慙自一」。
（ろ）痛はしく思ふ、いたむ、あはれむ。○〔魏〕「冗々之命、實可二矜一一」。
（は）破損す、戕害す、やぶる、そこなふ、きずつく。○〔書〕「若跣弗ㇾ視ㇾ地、厥足用一」。
㊁いたむと、いたみ、又、きず、（創）、又、はすれ、（瘍）。○〔韓〕「吳起懷二瘳實一而吮ㇾ一」。
〔憂傷〕うれひいたむ。○〔詩〕「豈不二爾思一、我心一一」。「父母、不二敢一一」。
〔毀傷〕やぶりきずつく。○〔孝〕「身體髮膚受二之」。
〔悲傷〕かなしみいたむ。○〔晉〕「自ㇾ有二宇宙一有二此山一、由來賢達勝士登ㇾ此遠望、如二我與ㇾ卿者多矣、皆湮滅無ㇾ聞、使二人一一」。
〔藥傷〕きずを治療す、いたみをなほす。○〔荀〕「彼得ㇾ之、不ㇾ足二以ㇾ一ㇾ一補ㇾ敗」。
〔挫傷〕勢力くじけいたみを生ず。○〔淮〕「秋風下ㇾ霜倒生一一」。「於一一」。
〔折傷〕前に同じ。○〔漢〕「往者敗不ㇾ料、敵、而至二力可ㇾ想」。
〔摧傷〕くじけやぶる。○〔柳宗元〕「一一之餘、氣」「林」。
〔凋傷〕しぼみやぶる。○〔杜甫〕「玉露一一楓樹林」。
〔感傷〕物事の爲めに心を動かされていたみ思ふ。○阮籍「晤言用一一」。
〔惋傷〕いたむ。○〔杜甫〕「感ㇾ時撫事增二一一」。
〔讒傷〕人にそしられたる爲めに禍にかゝるなどにいふ語。○〔李德裕〕「再罹二一一」。「一二一之」。
〔閔傷〕あはれむ。○〔詩、疏〕「作二黍離蟀之詩一以」
〔究傷〕無實の罪を言ひ立てにして其の人をそこなふ、又、無實の罪にかゝりたるを見聞きして其の人を痛はしく思ふ。○〔漢〕「咸一二一之」。
〔流傷〕はやり病ひなどの爲めに害せらるゝにいふ語。○〔後漢〕「癘疫之氣、一二一于牛」。
〔中傷〕人を讒訴し、又は無實の罪を被らせなどしてそこなひきずつく。○〔後漢〕「有下忤二逆於心一者上、必求ㇾ事一一」。
〔夭傷〕命數の短きこと、わかじに。○〔晉〕「凡草木」「之一二一于山林一者」。
〔缺傷〕かけやぶる。○〔晉〕「一一殘毀」。
〔威傷〕長上の權勢の薄くなりしにいふ語。〔法傷〕規則の規則通りに行はれずなりしにいふ語。〔教傷〕教育の振はざるにいふ語。〔衆傷〕人と人との交はりの睦まじからざるにいふ語。○〔管〕「威傷則重在ㇾ下、法傷則貨上流、教傷則從ㇾ令者不ㇾ輯、衆傷則百姓不ㇾ安二其居一」。
〔敗傷〕やぶれそこなふ。○〔韓〕「藏二大器一而敵伐ㇾ之、則多二一一」。「一一」。
〔瘀傷〕そこなはれやぶる。○〔九辨〕「形銷鑠而一一」。
〔暑傷〕あつさの爲めに病氣などのおこるにいふ語。○〔呂氏春秋〕「冬則暍、濕、夏則一一」。
〔爽傷〕たがひそこなふ。○〔淮〕「五味亂ㇾ口、使二口一一」。
〔怛傷〕うれひ思ふ。○〔楚辭〕「心一二一之憯々」。
〔悽傷〕前に同じ。○〔陸機〕「歎二茲文一而一一」。
〔歎傷〕前に同じ。○〔溫庭筠〕「今來倍一一」。
〔愍傷〕前に同じ。○〔杜甫〕「帷幄未ㇾ改神一一」。
〔損傷〕やぶれそこなふ。○〔白居易〕「恐被二行人一被二一一」。「一一、補二卒乘一」。
〔夷傷〕きずつきたる者。○〔左〕「子反命二軍吏一察二」
〔不重傷〕一度きずつきたる者を二度とはきずつけず。○〔左〕「君子一ㇾ一ㇾ一」。

【傸】ジヤウ。初丈切　養

あし、（惡）。

【傺】テイ、勅厲切　セイ。子例切　タイ。切　霽

さゞまる、（止）。○〔楚辭〕「坎一而沈藏」。
〔侘傺〕失望せる貌にいふ語。○屈平「忳鬱邑余侘一一兮」。

【傻】サ、セ。沙雅切　馬

㊀小慧の貌にいふ字、さとし。
㊁いつくしみなし、（不仁）。

【傾】ケイ、キヤウ。去營切　庚

かたぶく
（い）一方に偏す、かたよる、かたよす。○〔淮〕「重ㇾ鈞則衡不ㇾ一」。○〔老〕「高下相一」。
（ろ）なゝめ、よこしま。「舊穀亦一」。
（は）つくす、つく、（盡）。○〔應璩〕「新芻」
（に）くつがへす、くつがへる、（覆）。○〔淮〕「持ㇾ盈而不ㇾ一」。
（ほ）歸伏す。○〔漢〕「一坐盡一」。

(へ)危し。○〔荀〕「齊二一天下一而莫二能一一」。
(と)競ふ。○〔鮑昭〕「各相一一奪」。
(ち)交ふ。○〔家語〕「孔子之レ剡、遭二程子於塗一、一レ蓋而語終日」。
(り)圯る。○〔國〕「體有レ所レ一」。
〔葵傾〕あふひの花の日光の方にかたぶき向かふより、君王、長上の徳に敬仰するに借りいふ語。○〔曹植〕「一一藿之一一葉、太陽雖レ不三爲レ之回二光、終向レ之者誠也」。
〔攲傾〕かたぶく。○〔杜甫〕「墨淡字一一」。
〔側傾〕前に同じ。○〔傅休奕〕左看如レ一一、右視如レ一一」。
〔倒傾〕前に同じ。○〔元稹〕「無二幾不一一一」。
〔斜傾〕前に同じ。○〔溫庭筠〕「流水一一出二武關一」。
〔敧傾〕前に同じ。○〔顏延之〕「歸軫慎二一一一」。
〔倚傾〕前に同じ。○〔上林賦〕「嶔巖一一」。
〔內傾〕內心のよこしまなること。○〔荀〕「心一一則不レ足三以決二麤理一」。
〔靡傾〕なびきつく。○〔魏文帝〕「寄二身流波一、隨レ風一一」。
〔履傾〕かたぶきし箇所を履むの義、國勢のかたぶかんとする時に當たり其の政事の局に當たること、又は危難誹謗の起こり易き地位に居ることなどにいふ語。○〔新語〕「乘レ危一レ一、則以二聖賢一爲レ杖」。
〔持傾〕かたぶきたるをかたぶかざるやうに力を盡くす。○〔劉向〕「扶レ急一レ一、爲二一切之權一」。
〔扶傾〕前に同じ。○〔韓偓〕「一手撥レ一レ一」。
〔河傾〕(い)河の水をうつす、雨などのすさまじく降る貌にいふ語。○〔管輅別傳〕「須臾大雨一一」。(ろ)銀河のなゝめになりしにいふ語。○〔羅泰〕「星沒曉一一」。
〔肝膽傾〕誠實をつくす。○〔晉書〕「談笑相逢一一」。

【偃】エン。於建切 願
㊀賣買す、うる、かふ、あきなふ。㊁物價を判斷する者、又、仲買人。

【傿】鄢に同じ。

【傹】キヤウ、カウ。居良切 陽
僵に同じ、たふる、たふす。○〔荀〕「可二吹而一一也」。

【傹】ケイ、ギヤウ。渠敬切 敬
競に同じ、きそふ。○〔周、註〕「繁遏執一一也」。

【僺】サウ、ゼウ。土絞切 巧
㊀ながし（長）。㊁ちひさし（小）。○〔柳宗元〕「傭二一一宇一而處焉」。

【僀】テイ、タイ。都計切 霽
さし、すぐる（傻）。

【[illegible]】タク、チヤク。陟革切 陌
㊀あし（惡）。㊁憚りなし、みだりがはし。

【[illegible]】タ、テ。展賈切 馬
偈一一は、行く貌にいふ語。

【僁】セツ、セチ。先結切 屑　シツ、シチ。息七切 質
㊀ほそき聲にいふ字、こゞゑ。㊁うめく（呻吟）。

【僁】サツ、サツ。息八切 黠
うごく（動）。

【僃】備に同じ。

【僂】ル、ロ。隴主切 麌　ル。隴遇切 遇　ロウ、ル。郎侯切 尤　郎豆切 宥
㊀背を曲ぐ、かゞむ、せぐくまる。○〔左〕「三命而一」。㊁背の曲がる病、又、其の不具者、せむし、くゞせ。○〔史〕「卻克一」。㊂かゞむ（屈）。○〔荀〕「雖レ有二聖人之知一、未レ能二一レ指也」。
〔俛僂〕(い)せむし。○唐「陋短一一」。(ろ)せぐくまる。○〔南〕鞠躬一一、不二敢正行直視一」。
〔傴僂〕(い)せむし。○〔淮〕「子求行年五十有四而病二一一一」。(ろ)せぐくまる。○〔歐陽修〕「一一提攜、相往來而不レ絕者、滁人遊也」。
〔痀僂〕せむし。○〔莊〕「仲尼適レ楚、出二於林中一、見二一一者一」。
〔背僂〕せむし。○〔白虎通〕「周公一一」。
〔聚僂〕材を曲げて作り物を聚むるに用ふる器具の名、ふごの類。○〔莊〕「一一之中則爲レ之」。

【僄】ヘウ。匹妙切 嘯　ヘウ。撫招切 蕭
性情輕疾なり、身體輕便なり、はやし。○〔荀〕「怠慢一棄、則炤レ之以二禍災一」。

【僅】キン、ギン。巨鎮切 震　堇、廑、廑に通じ作る。
㊀わづかに。(い)からうじて。○〔蘇軾〕「一乃克レ之」。(ろ)すこしばかりにて。○〔柳宗元〕「一二千歲」。㊁及ぶ、なんなんとす、ちかし。○〔晉〕「所二殺害一一三十萬人一」。

【僆】レン。郎殿切 霰
㊀したがふ（從）。㊁雞のひな。

【僆】レン。果銑切 銑
ふたご（雙生子）。

【僆】レン。力延切 先
及ばず、とゞかず。

【[illegible]】グ、ゴ。牛矩切 麌
俁に同じ、困しむ貌にいふ字、いたまし。○〔揚雄〕「一一兒人遇レ雨」。

【僇】ロク。盧谷切 屋
はぢ、はづかしめ（辱）。○〔莊〕「爲二世大一一」。

【僇】リク、ロク。力竹切 屋
戮に同じ、ころす。○〔史〕「不レ用レ命一二社一」。

【僇】リウ、ル。力救切 宥
おろかなる行爲。○〔說〕「癡行一一」。

【僇】レウ。落蕭切 蕭
㊀かつ（且）。㊁ねがふ（願）。

【僈】バン、マン。莫晏切 諫
ゆるし、おそし、のろし（舒遲）。○〔荀〕「君子寬而不一」。

【僈】バン、マン。莫半切 翰
漫に同じ、けがる、けがす、けがれ。○〔荀〕「汙一突盜、常危之術也」。

【偋】ヘイ、ビヤウ。必影切 梗
屏に通じ用ふ、しりぞく、のぞく、すつ。○〔荀〕「恭儉者一二五兵一也」。

【偋】ヘイ、ビヤウ。皮命切 敬
㊀ひがむ、よこしま（隱僻）。㊁やつくし、いやし（僻褻）。

【僉】セン。且廉切 鹽
㊀みな（皆）、ことごとく（咸）。○〔書〕「一曰於縣哉」。㊁からざを（連枷）。

【僉】セン。七豔切 豔

前條の㊁に同じ。

【僊】センㇾ。司連切 先
仙に同じ。〇〔唐〕「知-章見二其文一歎曰、子謫-一人也」。
〔僊々〕、輕く擧がる貌にいふ語。〇〔詩〕「屢舞一-一」。
〔神僊〕長生不老の術を修めて神通力ある者。〇〔天隱〕「能通レ變曰二一-一」。

【儃】タン、トン。他紺切 勘
おろかなるさ、（癡）。

【傲】ヨウ。余陵切 蒸
をさむ、又、ことわり、（理）。

【傯】音、訓、韻、ともに詳ならず、拘囚せられたる貌にいふ字。〇〔荀〕「一-然若二終-身之虜一」。

【僯】粦に同じ。

【傶】シヤ、セ。正奢切 麻
一-僁は、健くして德あらざるさ。

【僂】音、訓、韻、ともに詳ならず。〇〔揚雄〕「秦晉言レ非二其事一、謂二之皮-一一」。

十二畫

【僘】ヘツ、ベチ。辟列切 屑
衣服のひらめく貌にいふ字。

【僎】セン、ゼン。雛免切 銑 士戀切 霰
㊀あばく、（數）。㊁ととのふ、（整）。
㊂そなふ、（具）。

【僎】シユン。子倫切 眞

㊀選に通じ用ふ、あたがふ。
㊁たすく、たすけ、（佐）。

【僎】サン、ザン。雛睆切 潸
㊀たもつ、（持）。㊁前々條の㊁と㊂とに同じ。

【僎】シユン。子峻切 震
前條の㊂に同じ。

【像】シヤウ、ザウ。徐兩切 養 もと象に作る。
㊀かた、又、かたち。
（い）物象。〇〔曹植〕「骨-一應レ圖」。
（ろ）法式。〇〔家語〕「見レ一而勿レ强」。
（は）ある物のすがたをうつせしもの。〇〔後漢〕「何故不レ書二伏-波將-軍一一」。
㊁物のかたちを摹倣肖似す、うつす、かたどる、なずらふ、ならふ。〇〔荀〕「一一二上之意一」。
〔石像〕石にてあつらへたるにすがた。〇〔南〕「供二養一-一」。「鋼一-一」。
〔佛像〕ほとけのにすがた。〇〔五〕「詔悉毀二天下之一-一」。
〔鐵像〕鐵にてあつらへたるにすがた。〇〔舊唐〕「其一-一委二本州一、鑄爲二農器一」。
〔銅像〕あかゞねにてあつらへたるにすがた。〇〔唐〕「盡壞二一一爲レ錢」。
〔泥像〕土にてあつらへたるにすがた。〇〔唐〕「刻-繪一-一以惑二天下一」。
〔塑像〕前に同じ。〇〔元〕「從-祀諸-賢無二一-一」。
〔繡像〕糸にて布帛などの面に縫ひあつらへしにすがた。〇〔僧貫休〕「常憶團-圓一-一前」。
〔木像〕木材にてあつらへたるにすがた。〇〔葛長庚〕「一-一入レ廟汗流」。
〔彫像〕ほりきざみてあつらへしにすがた、又、にすがたをほりきざむ。〇〔釋氏要覽〕「優-陀-延-王一レ一」。
〔聖像〕にすがたの敬稱。〇〔宋〕「謁二一-一奉二安於玉-淸-宮一」。
〔瑞像〕前に同じ、（靈驗あるものにいふ）。〇〔王安石〕「一-一西歸自二本-朝一」。
〔眞像〕前に同じ、（道を傳へしものにいふ）。〇〔捃隱小牘〕「僧下供二奉一-一之所上」。
〔賢像〕賢者のにすがた。〇〔陳琳〕「睢開古畫多二一-一」。
〔烋像〕前に同じ。〇〔滿士璠〕「一-一居然戰-鬪場」。
〔釋像〕釋迦牟尼佛のにすがた。〇〔無字〕「鑿二一-一於上一」。
〔蓮像〕蓮座に結伽せる釋迦牟尼佛の像。〇〔鴻有經〕「一-一留二唐代一」。
〔素像〕采色裝飾を施さゞるにすがた。〇〔張蠙〕「古-巖雕二一-一一」。
〔面像〕かほかたち。〇華嚴經〕「明-鏡中見二其一-一」。
〔骨像〕ほねがまへ。〇〔曹植〕「奇-服曠レ世、一-一應レ圖」。
〔彷像〕かたどる。〇〔晉〕相國之府一二一紫宮一」。
〔想像〕かくあらんとおもひかたどる。〇〔張元幹〕「澄-潭一-一雲-濤起」。
〔麒閣像〕元勳功臣のにすがた、漢の孝宣帝の時に功臣霍光等のにすがたを麒麟閣上に畫かしめたりしよりいふ。〇〔高適〕「帝思一-一一」。
〔雲臺像〕前に同じ、後漢の孝明帝の時に先代の功臣二十八將のにすがたを南宮の雲臺に畫かしめたりしよりいふ。〇〔梁元帝〕「一-一之一、終微二勞薪一」。
〔凌烟像〕前に同じ、唐の太宗の時、其の功臣のにすがたを凌烟閣に畫きしよりいふ。〇〔黄庭堅〕「寫二一-一-一一」。

【像】ヤウ。餘亮切 漾
うつす、（寫）。

【僿】ジ、ニ。而志切 寘
貳に同じ、ます、（益）、そふ、（副）。

【僐】セン、ゼン。常演切 銑
かたちづくろ、みづくろひす、よそほふ。

【僑】ケウ、ゲウ。巨嬌切 蕭
㊀たかし、（高）。㊁たびのやどり、（寓）。
㊂いろ、（容）。

【僑】ケウ。居夭切 篠
かゞむ、伸びず。

【僸】キン、グン。求敏切 軫
窘に通じ用ふ、かゞむ、くるしむ、たしなむ。〇〔賈誼〕「一若二囚-拘一」。

【僓】タイ、デ。徒回切 灰 クワイ、エ。火媧切 佳
あたがふ、（順）。〇〔莊〕「一-然而道盡」。

【僓】タイ、テ。吐猥切 賄 カイ、エ。胡對切 隊
㊀ながくしてふさし、（長-大）。
㊁あづか、みやびやか、（嫺）。

【僬】シフ。卽入切 緝
人衆まろ、あつまる。

【僷】キヨ、ゴ。求於切 魚
渠に通じ用ふ、かれ、（彼）。

【僔】ソン。祖本切 阮
㊀あつまる（聚）。
㊁おほし、もろ〳〵、（衆）。
㊂あつまり語る、かたる、又、ものがたり、うはさ、（噂）。
㊃うや〳〵し、つゝしむ、（恭-敬）。〇〔荀〕「恭-敬而一」。

【僕】ホク、ボク。蒲沃切 沃
㊀家に使役せらるゝ者、家事に給する者、やっこ、あもべ、つかはれもの、めしつかひ。〇〔禮〕「仕二于家一曰レ一」。
㊁車の御者、卽ち策を執りて馬を馭する者。〇〔論〕「冉-有一」。
㊂すべて、賤役に服する者の稱。〇〔左〕

「秦伯送ニ衞于晉ニ三千人、實紀綱之ー」。
四自己の謙稱、われ、やつがれ。○〔漢〕「自稱爲ㇾー」。
五はづかしめ、(辱)。○〔戰〕「傳ニ命ーー官ニ。
六同類の者、なかま、ともがら、(徒)。○〔莊〕「是聖人ー也」。
七つく、(附)。○〔詩〕「景命有ㇾー」。
八かくす、(隱)。○〔左〕「作ニーー區之法ニ。
九煩はしき貌にいふ字。○〔孟〕「使ニ己ーーー爾亟拜ニ」。

〔臣僕〕使役せらるゝ者、又、賤役に服する者、古は罪ある者の未た刑するに及はさる者は收めて臣僕となすとあり。○〔書〕「我罔ㇾ爲ニーーニ」。
〔隷僕〕前に同じ。○〔周〕「ーー掌ニ五寢之掃除糞灑之事ニ」。
〔奴僕〕前に同じ。○〔漢〕「衞青奮ニ于ーーニ」。
〔騎僕〕前に同じ。○〔唐〕「班公是行若ニ登仙ニ、吾恨不ㇾ得ㇾ爲ニーーニ」。
〔陪僕〕前に同じ。○〔後漢〕「ーー告ニ其君長ニ」。
〔胥僕〕前に同じ。○〔李翺〕「ーー之與鄰」。
〔豪僕〕前に同じ。○〔晉〕「沐ニ雨櫛ニ風等ニ勤ーーニ」。
〔皂僕〕前に同じ。○〔晉〕「或加ニ兵伍ニ、或出ニーーニ」。
〔傭僕〕やとはれてつかはるゝ者。○〔開天傳信記〕「與ニーー雜作。」
〔門僕〕門の守りを爲す者。○〔張籍〕「ーー告逆遣」。
〔擔僕〕荷物をになふにつかはるゝ者。○〔范成大〕「ーー輿夫盡勞悴」。
〔太僕〕(い)周の時の司馬政官の屬官。○〔周〕「ーー掌ㇾ正ニ王之服位ニ」。(ろ)輿馬を掌る官の名。○〔揚雄〕「肅々ーー、車馬是供」。(は)すべて衆僕の長をいふ。○〔杜甫〕「閹人ーー者惆悵」。
〔臧僕〕馬を御するに熟練なせる者。○〔周〕「校人秋祭ニ馬祉ーーニ」。
〔羈絏僕〕物事にからまれて進退の自由を缺ける者にいふ語。○〔左〕「居者爲ニ社稷之守ニ、行者爲ニーー之ーニ」。

【僕】ホク、ボク。普木切 屋
○むらがりとぶ、羣飛の貌にいふ字。○〔莊〕「賁蘊ーー緣」。

【僕】ボク。鼻墨切 職
給事のもの。○〔柳宗元〕「入降ㇾ廉猶ニ臣ーーニ」。

【僖】キ。許其切 支
喜に通じ用ふ、よろこぶ、たのしむ、よろこび。

【僗】ラウ、ロウ。郎到切 號
一さもなふ、(伴)。二勞に同じ、ねぎらふ。

【儣】クワウ、ワウ。古黄切 陽
たけき貌にいふ字。

【僐】ゼン、チン。如善切　セン。矢善切 銑
一おそる、(懼)。二もろし、(脆)。三心ひろし、又、おだやか、やはらか。○〔六書故〕「今人亦以ニ和易無ㇾ他者ニ爲ㇾー」。

【僚】レウ。落蕭切 蕭　ー寮に通じ作る。
一官に出仕せるもの、つかさ。○〔書〕「百ー師々」。
二其の人の同官、とも。○〔晉〕「聲蓋ニ朋ー、稱爲ニ領袖ニ」。
三賤役に服する人。○〔左〕「隸臣ー」。

〔羣僚〕多くの役人。○〔舊唐〕「接ニ待ーーニ」。
〔大僚〕輔相、又、高等官。○〔書〕「服在ニーーニ」。
〔達僚〕前に同じ。○〔舊唐〕「ーー權臣爭湊ニ其門ニ」。
〔元僚〕前に同じ。○〔南〕「盛府ーー實難ニ其選ニ」。
〔百僚〕もろもろの官吏。○〔書〕「ーー庶尹」。
〔庶僚〕前に同じ。○〔舊唐〕「激ニ勵頽俗ニ、儀ニ刑ーーニ」。
〔同僚〕同役の人。○〔詩〕「我雖ㇾ異ㇾ事、及ㇾ爾ーー」。
〔下僚〕地位低き官吏。○〔後漢〕「得ㇾ及ニ明時ニ秉ニ事ーーニ」。
〔末僚〕前に同じ。○〔宋璟〕「早造ニーーニ、預參ニ下庶ニ」。
〔散僚〕前に同じ、又、事務少き官吏。○〔舊唐〕「置ニ之ーーニ、黜ニ之遠郡ニ」。
〔壙僚〕官位なきこと。○〔韋少翁〕「五世ーー至ニ我節侯ニ」。
〔陪僚〕ともべ。○〔荀勗〕「胥子ーー」。
〔官僚〕下役。○〔國〕「吾子教ニーーニ」。
〔職僚〕官吏。○〔任昉〕「寅佐ーー」。
〔佐僚〕輔佐の官吏、又、其の屬官。○〔史〕「下至ニーーニ」。
〔屬僚〕前に同じ。○〔舊唐〕「當時ーー數服不ㇾ暇」。
〔幕僚〕上官を輔佐する者。○〔宋〕「藩鎭ーー勿ㇾ得ㇾ任ニ臺官ニ」。

【僚】ラウ、ロウ。盧皎切 皓
みめよし、(好)。○〔詩〕「佼人ー兮」。

【僚】レウ。郎鳥切 篠
たはぶる、又、たはぶれ、(戲)。

【僛】キ。去其切 支
攲に通じ用ふ、自ら正しからざる貌にいふ字、かたぶく、(傾)、そばだつ、(側)、又、醉ひて舞ふ貌にいふ字、まふ。○〔詩〕「屢舞ーー」。

【僜】トウ、ドウ。唐亙切 徑　チョウ。丑升切 蒸
一ながし、(長)。二のぼる、(登)。三ゆきて疲れたる貌にいふ字。四醉ひて行く貌にいふ字。五心をさだめず。

【僝】サン、ゼン。仕山切 刪
にくみのゝしる、(惡罵)。

【僝】セン、ゼン。子兗切 銑
あらはす、しめす、(見)。○〔書〕「共工方鳩ーㇾ功」。

【僝】セン、ゼン。除戀切 霰
そなふ、(具)。○〔左思〕「ーニ共木於山林ニ」。

【僞】ギ。危睡切 寘　說文从ㇾ人聲。
一いつはり。
(い)自然のまゝにあらざること、人爲なること。○〔荀〕「桀紂性也、堯舜ー也」。
(ろ)誠實ならざること、又、矯めてうはべのみを飾ること。○〔書〕「恭儉惟德、無ㇾ載ニ爾ーニ」。
(は)事實にあらざること、誣妄をもて人をたぶらかすこと。○〔宋〕「希亮察ニ其非ニ辜出ㇾ之、已而果得ニ其造ㇾー者ニ」。
(に)眞正のものにあらざること、かり。○〔禮〕「作ニーー主ニ以行」。
二いつはりを行ふ、いつはる、あざむく。○〔鹽鐵論〕「幣數變而民滋ー」。

〔情僞〕まことゝいつはりと。○〔易〕「設ㇾ卦以盡ニーーニ」。
〔眞僞〕前に同じ。○〔漢〕「使ニーー毋ニ相亂ニ」。
〔誠僞〕前に同じ。○〔何晏〕「察ニ俗化之ーーニ」。
〔詐僞〕いつはりあざむくこと。○〔管〕「不ㇾ强ㇾ民以ニ其所ㇾ惡、則ーー不ㇾ生」。
〔虛僞〕前に同じ。○〔漢〕「信ㇾ道不ㇾ篤或耀ニーーニ」。
〔狡僞〕惡しき工みを以て人をたぶらかすこと。○〔葛洪〕「異法之盛、其人ーー」。
〔姦僞〕前に同じ。○〔史〕「ーー萌起、其極也上下相遁」。
〔假僞〕かりに設く、又、いつはり。○〔玄眞〕「ーー爲ㇾ眞」。
〔澆僞〕道德すたれていつはり多きこと。○〔晉〕「季末ーー、設ㇾ網彌密」。
〔侈僞〕うはべをかざりつくろふこと。○〔徐積〕「萬物之中有ニーーニ」。
〔矯僞〕いつはりかざること。○〔歐陽修〕「ーー之行不ㇾ作、而澆薄之風歸ㇾ厚」。
〔華僞〕前に同じ。○〔晉〕「履ニ信實ニ去ニーーニ」。
〔浮僞〕前に同じ。○〔後漢〕「開ニ長姦門ニ、興ニ致ーーニ、非ニ所ㇾ謂ニ率由ニ舊章ニ也」。
〔巧僞〕小才ありていつはり多きこと、又、いつはることにたくみなり。○〔漢〕「ーー之徒」。
〔妖僞〕あざむきまよはす。○〔荀悅〕「ーー之言槩、而性命之理得矣」。

〔淫僞〕前に同じ。○〔潛夫論〕「僞レ政者明二督工商、勿レ使二—·—一」。
〔妄僞〕事實になきことをありとていつはる。○〔陸游〕「其—·—亂レ眞、大抵如レ此」。
〔彫僞〕（い）はりものを施しかざり、又は寶物を眞物らしくかざりみすること。○〔晉〕「路不レ拾レ遺、器不二—·—一矣」。
（ろ）いつはり。○〔孫頠〕「道并二古賢一、風改二—·—一」。
〔矜僞〕いつはる。○〔韓〕「—·—不レ長」。
〔闇僞〕道理にくらくしていつはる。○〔後漢〕「明二智之所レ得、—·—之所レ失也」。
〔雜僞〕（い）他のものゝまじりて本來に異なりしもの、又、まじりたる他の物。○〔宋〕「去二其—·—一」。
（ろ）眞實ならざるものをさし加ふること。○〔歐陽修〕「濫レ浮—·—」。
〔巧僞〕いつはりをなせば物事に心を勞しわづらひ多きよりいふ。○〔魏〕「若乖レ一則—·—生」。
〔善僞〕よきといつはりと。○〔唐〕「并二容—·—一」。
〔智僞〕小智慧をはたらかするにいふ語。○〔文子〕「欲レ行二非—·—一」。
〔大僞〕自然のまゝにあらざる物事にいふ語。○〔左〕「大道廢有二仁義一、智慧出有二—·—一」。
〔僭僞〕其の資格なくして分外の事をなしかりに其の地位に在るにいふ語、卽ち叛臣の王號を稱ふるとなど。○〔南〕「姦宄具殲—·—亦滅」。
〔隱僞〕かくれたるいつはりの罪。○〔北〕「摘二發—·—一、姦吏無レ所レ匿」。
〔敵僞〕敵人のたくみ。○〔韓〕「參伍既用二於內一、觀聽又行二於外一—·—得」。

【僞】グワ。五禾切　[歌]
訛に同じ。○〔周、註〕「辨二秩南—·—一」。

【僞】井。洧悲切　[支]
雜に通じ用ふ。○〔禮〕「素錦褚加二—·—許一」。

【僟】キ、ケ。渠希切　[微]
㊀つまびらか、又、くはし（詳）。
㊁つゝしむ（謹）。㊂ちかし（近）。

【傒】ケイ、カイ　遣禮切　[薺]
㊀襟をひろぐ。㊁脚をひろげてゆく貌にいふ字。

【僣】テツ、テチ。他結切　[屑]
みだりがはし（俗に踰僭の僭と同視するは非なり）。

【僤】タン、ダン。徒案切　[翰]
㊀あつし、まこと（篤）。○〔詩〕「逢二天—怒一」。
㊁はやし、すみやか、さし（疾）。○〔周〕「句-兵欲レ無レ—」。

【僤】セン、ゼン。齒善切　[銑]
行き動く貌にいふ字。○〔司馬相如〕「象-輿婉二—於西-清一」。

【僥】ケウ、ゲウ。堅堯切　[蕭]
いつはる、又、いつはり（僞）。

【僥】ケウ、ゲウ。吉了切　[篠]
利を求む、もとむ、さいはひ。

【僦】シウ、シユ。卽就切　[宥]
㊀使用の報酬、勞作の賃錢。○〔漢〕「或不レ償二其—費一」。
㊁賃錢報酬を給して使用す、やとふ、賃錢報酬を受けて使用せらる、やとはる。○〔北〕「虛—二千-餘-車一」。
〔酬僦〕其の勞にむくゆること、又、賃錢。○〔韓愈〕「功入莫二—·—一」。
〔賃僦〕やとふ。○〔敎陶孫〕「月粟供二—·—一」。

【僧】ソウ。蘇增切　[蒸]
㊀佛門に入りたる人の總稱、比丘、沙門、出家。○〔禪宗記〕「講—衣レ紅」。
㊁特に佛門の道理を會得せる出家の稱。○〔法華經〕「三-明入二解-脫一、得二四-无-碍-智一、以二是等一爲レ—」。
〔度僧〕僧となりたる證として度牒を與ふること、轉じて官府より俗人を出家せさするとに借りいふ語。○〔宋〕「限二—レ—法一」。
〔高僧〕德の高き出家。○〔隋〕「—·—傳六-卷」。
〔名僧〕名高き出家。○〔南〕「—·—碩-學」。
〔實僧〕戒を保ち得道せる者。○〔大智度論〕「釋初品是僧四-種、有-羞-僧、無-羞-僧、啞-羊-僧、—·—」。
〔禪僧〕禪宗の沙門、又、坐禪を行ふ沙門。○〔白居易〕「室靜有二—·—一」。
〔如僧〕僧は出家の身なるより世事に執着せざる衣食住の淡泊なる境遇のさびしきなどを僧にくらべていふ語。○〔宋〕「蒲-團紙-帳—レ—然」。
〔雲水僧〕住所不定の出家。○〔黃庭堅〕「淡如二—·—·—一」。
〔物外僧〕世俗の事物に頓着せざる出家。○〔李中〕「乘レ興因尋二—·—·—一」。
〔水飯僧〕人の無勢力なるを罵りていふ語。○〔五代〕「廢-帝曰二宰相一曰、此—·—·—耳、以謂飽-食終-日而無レ所レ用レ心也」。
〔火宅僧〕一定の俗住あり妻室ある出家の稱。○〔雞肋雜記〕「僧有二室-家一者、曰二—·—·—一」。
〔行脚僧〕諸國をめぐりありく沙門。○〔蘇軾〕「某蕭-然二—·—·—」。
〔佛法僧〕ほとけと、ほとけの說きたりしのりの道と其の道に身を委ぬる出家とのこと、佛家にて所謂三寶、又、其歸依する點よりは三歸といふ。○〔魏〕「其始修レ心、則依二—·—·—之三-歸一、若二君-子之三-畏一也」。
〔有羞僧〕能く戒を持すれども未だ道を得ざる出家。
〔無羞僧〕戒をたもつ能はざる墮落せる出家。
〔啞羊僧〕戒の行ひあれども鈍根にして勇猛精進の力なき者。

【㒈】カン、ケン。許鑑切　[陷]
㊀たくましき貌にいふ字（選）。
㊁たかし（高）。㊂あやふし（危）。

【僨】フン、ホン。方問切　[問]
㊀たふる、たふす（僵）。○〔左〕「鄭-伯之車、—二于濟一」。
㊁やぶる（敗）。○〔大〕「一-言—レ事」。
㊂うごく（動）。○〔左〕「張-脈—-興」。
〔疾僨〕はやくたふる。○〔國〕「高-位寔—·—、厚-味寔腊毒」。
〔孤僨〕孤立して援助する者もなければ勢力も從ひて衰退せるにいふ語。○〔漢〕「—·—之君、生二于沮澤之中一、長二于平-野牛-馬之域一」。
〔中僨〕なかごろよりおこりて盛かんになる。○〔唐〕「唐—·—而振、奚有レ勞焉」。
〔旗僨〕軍旗たふる、敗軍することに借りいふ語。○〔呂氏春秋〕「豈必—·—將斃而知-勝-敗-哉」。
〔傾僨〕くつがへる。○〔抱朴子〕「御非二造父一、則—二—·—險途一」。
〔一起一僨〕物事のおこりもしたふれもするにいふ語。○〔莊〕「一-死一-生、—·—·—·—」。

【僨】ホン。逋昆切　[元]
おごろ（驕）。○〔韋昭〕「雄-豪怒、元-惡—」。

【㒒】ヤウ。弋亮切　[漾]
立ち動く貌にいふ字、はたらく、又、ふるまひ。

【僬】セウ。卽消切　[蕭]
あきらか（明）。○〔荀〕「誰能以二己之—·—一、受二人之掝-々一」。

【僬】セウ。子肖切　[嘯]
體を斂め容つくらずして走る、はしる。○〔禮〕「士蹌-蹌、庶-人—·—」。

【僬】セウ。子了切　[篠]
おごろきおそる（驚-竦）。

【僮】トウ、ドウ。徒紅切　[東]
㊀未だ冠せざる者、わらは、わかもの。

又、愚昧にして亂暴なるわかもの。〇〔詩〕「狂ーー之狂也」。

㊁めしつかひ、奴僕、下婢、すべて給事の者。〇〔史〕「卓王孫家ー八百人」。

㊂おろかなる貌にいふ字。〇〔揚雄〕「ーー然未レ有レ知」。

㊃おそれつゝしむ貌にいふ字、うやうやし、おごそか。〇〔詩〕「被之ーー、夙夜在レ公」。

〔孱僮〕かよわきめしつかひ。〇〔唐〕「ーー罪騎、即日載馳」。「並引」。

〔侍僮〕そばづかへの者。〇〔唐〕「騎奴ーー夾轂」。

〔賸僮〕こしもと。〇〔急就篇〕「妻婦聘嫁齎ニーー」。

〔官僮〕官府の給事の者。〇〔馬汝驥〕「陰陽繫ニーー」。

〔妖僮〕みめよきめしつかひ。〇〔後漢〕「ーー美妾塡ニ于綺室ニ」。

〔歌僮〕うたをうたふことを習ひたるめしつかひ。〇〔晉〕「ーー舞女擇ニ極一時ニ」。

〔材僮〕遊藝あるめしつかひ。〇〔傅休奕〕「乃有ニーー妙技ニ」。

〔弱僮〕めしつかひ。〇〔五〕「衣冠儼然、ーー甚莊」。

〔三尺僮〕年も若く身の長たけもみじかくして役に立たぬめしつかひ。〇〔賀冠卿〕「生計唯餘ーーー」。

〔應門僮〕取り次ぎのめしつかひ。〇〔李密〕「內無ニーーー五尺之ー」。

【僯】リン。里忍切 軫

はづ、又、はぢ（慚恥）。

【僢】セン。樞絹切 霰　シン。尺尹切 銑

そむく（背）。〇〔淮〕「分流ー馳」。

【僰】ホク、ボク。蒲北切 職　〔說文〕从レ人在ニ棘中一。

まりぞく（屏）、せまる（迫）。〇〔禮〕「屏ニ之遠方一西曰レー」。

【偺】タフ、テフ。竹洽切 洽

ーー眸は、忽ち人に觸る、ふる。

【僩】カン、ゲン。下簡切 潸

㊀勇武なる貌にいふ字、たけし。〇〔荀〕「陋者俄且ー」。

㊁寛大なる貌にいふ字、ゆるやか、ひろし。〇〔詩〕「瑟兮ー兮」。

㊂瞯に同じ、うかゞふ。〇〔論衡〕「姦人ーレ之」。

㊃撊に通じ用ふ、いかる。〇〔唐〕「ーー然以爲ニ天下無レ人」。

【僪】ケツ、ケチ。古穴切 屑

㊀くるふ、又、くるはし（狂）。〇〔甘泉宮賦〕「扶ニー狂ニ」。

㊁太陽の旁の氣。〇〔呂氏春秋〕「其日有ニ鬭蝕一、有ニ倍ーニ」。

【僭】セン。子念切 豔

㊀分限を超えて長上に擬す、かざる、なぞらふ。〇〔穀梁〕「始ーレ樂」。

㊁分限を超えて奢侈を爲す、おごる。〇〔後漢〕「崇ニ財貨一而行ニ驕ーニ」。

㊂たがふ（差）。〇〔書〕「天命弗レー」。

〔賞僭〕格別の手柄なき者に賞を與ふ。〇〔左〕「ー不ー而刑不レ濫」。

〔踰僭〕（い）なずらふ。〇〔宋〕「桓溫入覲、闔朝致レ拜、ーー之甚也」。（ろ）おごる。〇〔後漢〕「吏民ーー、厚レ死傷レ生」。

〔淩僭〕前に同じ。〇〔白居易〕「ーー不レ度者畫之以レ威」。

〔狂僭〕くるひたがふ。〇〔後漢〕「匡專既申、ーー屢革」。

〔奢僭〕おごり。〇〔後漢〕「富者ーー、貧者單レ財」。

〔侈僭〕おごり、又、はなはだしくす。〇〔唐〕「ーー帝慕」。

〔冗僭〕餘分なるつひえ、おごり。〇〔宋〕「斥ニ游惰ニ、去ニーーニ」。

〔僞僭〕度に過ぐ。〇〔顏氏家訓〕「禮數ーー不レ與ニ諸王ニ等ニ」。

〔姦僭〕わるがしこくして道にたがふ者。〇〔歐陽修〕「豈暇レ誅ニーーニ」。

【僣】シン、ソン。側禁切 沁

不信、いつはり、いつはる。〇〔詩〕「亂之初生、ー始既涵」。

【僭】シン。七林切 侵

みだる（亂）。〇〔詩〕「以雅以南以籥不レー」。

十三畫

【僵】キヤウ、カウ。居良切 陽

たふる、たふす（仆）、ふす（偃）。〇〔史〕「百足不レー、一人有レ慶」。

〔仆僵〕たふれふす。〇〔潘岳〕「人馬ーー」。

〔顚僵〕くつがへりたふる。〇〔韓愈〕「羸馬ー且ー」。

〔踣僵〕いつはりてたふる。〇〔戰〕「乃ーーー棄レ酒」。

〔枯僵〕樹木かれふす。〇〔漢〕「柳樹ーーー」。

〔卒僵〕にはかにたふれふす。〇〔後漢〕「下レ殿ーー」。

〔凍僵〕寒氣にとぢられてたふれふす。〇〔南〕「擧レ體ーー、水漿不レ入レ口」。

〔冷僵〕前に同じ。〇〔夢溪筆談〕「卽身ー而ー」。

〔植僵〕物事の衰退せんとするをさゝへて舊に復す。〇〔唐〕「能興仆ーレー」。「不ニーーーニ」。

〔傾僵〕かたぶきたふる。〇〔易林〕「千柱百梁終」

【僶】ビン、ミン。武盡切 軫

心に欲せざることを勉めてなす、つとむ。〇〔陸機〕「在ニ有無一而ー勉」。

【僷】エフ。弋涉切 葉

㊀のびざる貌にいふ字。〇〔楚辭〕「衣攝ーー以儲與兮」。

㊁容貌美し、うるはし、うつくし。〇〔揚雄〕「美容謂ニ之奕一、或謂ニ之ーニ」。

【僸】キン、ゴン。居蔭切 沁

㊀頭を仰ぐ貌にいふ字、あふぐ。〇〔潘岳〕「ーー而方馳」。

㊁音樂の名。〇〔班固〕「ー侏兜離罔レ不ニ具集ニ」。

【㒓】サフ、ソフ。悉盍切 合

謹まざる貌にいふ字。

【價】カ、ケ。古訝切 禡

㊀あたひ、ねうち。

（い）品物の上に設け定めたる金錢の額、ね、ねだん。〇〔家語〕「鬻ニ羔豚ニ者不レ飾レー」。

（ろ）品位、又、評判。〇〔南〕「名ーー日重」。

㊁おほいなり（大）。

〔善價〕よきあたひ。〇〔論〕「求ニーーー而沽レ諸」。

〔市價〕買物のねだん。〇〔孟〕「ーーー不レ二」。

〔同價〕同じねだん。〇〔孟〕「巨屨小屨ーレー、人豈爲レ之哉」。

〔時價〕當時の相場。〇〔唐〕「ーーー不レ踊」。

〔下價〕やすきねだん。〇〔唐〕「ーレー而出レ之」。

〔增價〕ねだんをます。〇〔漢〕「ーニ其ー一而糶利レ農」。

〔減價〕ねだんをひきくす、又、評判をおとす。〇〔晉〕「二陸入レ洛、三張ーレー」。

〔諧價〕ねだんをかたおちなきやうに定む。〇〔後漢〕「先至ニ西國ーレー」。

〔奠價〕前に同じ。〇〔周〕「平レ肆展レ成ーレー」。

〔上價〕よきあたひ。〇〔漢〕「極ニ育肤ーーー」。

〔高價〕（い）前に同じ。〇〔天中記〕「自內ニ市埒ーー買レ物」。（ろ）よき評判。〇〔岑參〕「ーー振ニ臺聽閣ニ」。

〔韞價〕材智あるも世人に知らせざるにいふ語。〇〔駱賓王〕「懷レ材ーレー」。

〔爭價〕買ふと賣るとのねだんにつきて相談のまとまりがたきこと。〇〔詩〕「可下千ニ東南廿里ニ賣上レ之、愼勿レーレー」。

〔燿價〕あたひを高くす。〇〔晉〕「ーニー還城ニ」。

〔賤價〕當然のものよりねだんをひきくす。〇〔唐〕「ーレー而糶」。

〔聲價〕評判。〇〔後漢〕「以レ虛獲レ實、遂藉ニーーーニ」。

〔光價〕前に同じ。〇〔魏〕「引ニ後生一爲ニ其ーーニ」。

〔飛價〕評判の四方に行き届くことにいふ語。〇〔劉緄〕「馳ニ光于千里一、ーニ于王侯ニ」。

(踊價) ねだん。○〔莊綽〕「買ㇾ適——未ㇾ諸」。

(聲價) ねだんの知ること、評判の立つこと。○〔臧琥〕「夜光之璧、——ニ於和氏之肆ニ」。

(羅價) 買ひ入るゝねだん。○〔顏師古〕「——翔踊、明工商賈之」。

(不二價) 品物のねだんを一樣にせぬこと、又、顧客を欺かざるにいふ語。○〔後漢〕「采ニ藥名山ニ、賣ニ于長安市ニ、口不ニ——ニ」。

(連城價) 昔、趙の和氏の玉より見はれたる璧の城を以てこれと換ふるのあたひありしより、ねだん、又は評判のたかきに借りいふ語。○〔韓愈〕「自許——」。

(千金價) ねだんの高きことに借りいふ語。○〔論衡〕「利劍有ニ——之—ニ」。

(增紙價) 著作者の評判よきに借りいふ語、其の著作のよく賣るゝゆゑ之に用ふる紙のおびたゞしきより其の價の遽に騰貴するにいふ語。○〔白居易〕「振ニ金聲於字海ニ、——ニ于京師ニ」。

【儈】 クワイ、エ。戸賄切 [賄]

價に同じ。

【僺】 セウ。七肖切 [嘯]

たけ高き貌にいふ字。

【僻】 ヘキ、ヒヤク。芳辟切 [陌]

㊀一方にのみ偏す、正しくあらず、かたよる、ひがむ、ねぢく。○〔管〕「有ㇾ度不ㇾ直則治—、治—則國亂」。

㊁條理にたがひしこと、心の曲がりたるを、あやまり、よこしま、ひがみ。○〔南〕「與ㇾ人語亦多ニ謬—ニ」。

㊂惡しき習慣、かたより好む事、くせ。○〔宋〕「進士益相習爲ニ奇—ニ」。

㊃かたよりたる場處、かたはら、片ゐなか、ゐなか。○〔史〕「蜀西——之國」。

㊄いやし、(鄙)。○〔唐〕「邊人陋——不ㇾ知ニ文儒貴ニ」。

㊅忌憚なく心まかせに行ふこと、ほしいまゝ。○〔舊唐〕「驕——偶全、實賴ニ遺愛ニ」。

(遐僻) 片ゐなか。○〔高適〕「那能訪ニ——ニ」。

(幽僻) 前に同じ。○〔杜甫〕「溶柳元——」。

(靜僻) 前に同じ。○〔皮日休〕「——無ニ人到ニ」。

(荒僻) 前に同じ。○〔韓愈〕「莫ㇾ歎——、斷ニ知聞ニ」。

(疎僻) 前に同じ、又、物事の粗忽にして疎しきくせあるにいふ語。○〔水經註〕「考ㇾ地驗ㇾ狀、咸爲ニ——ニ」。「得ㇾ用ㇾ事」。

(乖僻) 正しからざること。○〔唐〕「王政——、宰相

(深僻) (い)文章などの無理に本意を表はさずに屈曲してあるにいふ語。○〔宋〕「爲ㇾ文——難ㇾ曉」。(ろ)奥ふかきゐなか。○〔元稹〕「窮ニ——ニ」。

(介僻) 性質の一てつなること。○〔宋〕「性——、篤ニ于孝友ニ」。

(淫僻) みだりがはしくよこしまなること。○〔大戴禮〕「風俗——、百姓荒亡」。

(側僻) 心かたぶきひがむ。○〔陸龜蒙〕「鄙委——」「—」。

(陋僻) いやし。○〔嘯賦〕「狹ニ世路之——ニ」。

(□僻) 餘りに正直なること。○〔劉基〕「又病ニ——無ニ藥可ㇾ療」。

(嗜僻) 最もすき好むこと。○〔劉基〕「——惟彝史」。

(頗僻) かたよる。○〔張衡〕「行ニ——而獲ㇾ志兮、循ニ法度ニ而離ㇾ殃」。

【僻】 ヒ。匹智切 [寘]

㊀埤に同じ、城の上のひめがき。○〔杜預〕「城上——倪」。

㊁避に同じ、さく。○〔詩〕「宛然左—」。

【儙】

嗇に同じ。

【僽】 シウ、ジユ。鉏祐切 [宥]

のゝしる(罵)。

【僽】 シウ、ジユ。側鳩切 [尤]

うれふる貌にいふ字。

【僾】 アイ。烏代切 [隊]　キ、許既切 [未]　ケ。切

㊀微しく見はること、ほのか、(彷彿)。○〔禮〕「祭之日入ㇾ室、—然必有ㇾ見ニ乎其位ニ」。

㊁むせぶ、(唈)。○〔荀〕「俛詭唈—、而不ㇾ能ㇾ無ニ時至ニ焉」。

【僿】 シ。相吏切 [寘]

㊀細かく碎く、くだく。

㊁悃誠なし、まことなし。○〔史〕「救ㇾ—莫ㇾ若ㇾ以ㇾ忠」。

【儀】 ギ。魚羈切 [支]

㊀のり。

(い)事の準則法度、きそく、てほん。○〔國〕「度ニ之於軌—ニ」。

(ろ)禮の典例設備、ぎしき。○〔周〕「設ㇾ—辨ㇾ位」。

(は)動作、容姿、服飾、態度の修整、ぎやうぎ、さほふ、かたちづくり、かたち、たちゐ。○〔詩〕「其—不ㇾ忒」。

(に)習慣、風俗、ならはし、ならひ。○〔荀〕「諸侯之國、同—服同—」。

㊁匹偶、たぐひ。○〔詩〕「實維我—」。

㊂のっとる、(法)、かたどる、(象)。○〔詩〕「—刑文王ニ」。

㊃はかる(度)。○〔詩〕「我—ニ圖之ニ」。

㊄胖合す、あふ、あはす。○〔國〕「丹朱馮ㇾ身以—ㇾ之」。

㊅よし、(善)、たゞし、(正)、よろし、(宜)。○〔揚雄〕「各遵ニ其—ニ」。

㊆きたる、(來)。○〔揚雄〕「來也、淮穎之間曰ㇾ—」。

㊇天體を模しつくりたる器械、天文の測度に用ふるもの。○〔唐〕「渾—無ニ黄道ニ久矣、太宗因詔爲ㇾ之、七年—成」。

(兩儀) 天と地と、又、陰と陽と。○〔易〕「易有ニ太極ニ是生ニ——ニ」。

(二儀) 前に同じ。○〔潘岳〕「自ニ初創ニ——絪縕ニ」。

(三儀) (い)天と地と人と。○〔揚雄〕「攡ニ——ニ」。(ろ)赤道と冬至及び夏至との三線。○〔遼〕「設ニ——以明ニ度分ニ」。

(五儀) 公、侯、伯、子、男の五爵の階級に關する儀式。○〔周〕「掌ニ諸侯之——ニ」。

(六儀) 祭祀、賓客、朝廷、喪紀、軍旅、車馬の六事に關する儀式。○〔周〕「保氏養ニ國子ニ、以ㇾ道敎ニ之——ニ」。

(九儀) 正吏、上士、下大夫、上大夫、子、男爵の諸侯、子、男爵諸侯の王の卿となりし者、卿の等を加へて侯伯爵の諸侯となりし者、侯伯爵の諸侯の王の公となりし者、公の功德ありて諸侯の長となる者、以上の九階級の人々に對しての朝廷の待遇に關する節目。○〔周〕「以ニ——之命ニ正ニ邦國之位ニ」。

(禮儀) 階級區別の存するに從ひて一定せる法式の汎稱。○〔中〕「——三百」。

(威儀) (い)前に同じ。○〔中〕「——三千」。(ろ)立ち居振舞、又、みめかたち。○〔顏眞卿〕「以ニ行住坐臥四——ニ攝ニ善心ニ」。(は)法式正しき外貌。○〔詩〕「——棣々不ㇾ可ㇾ選」。(に)すべての儀式にもいふ。○〔後漢〕「不ㇾ圖今日復見ニ漢官——ニ」。

(羽儀) (い)旗旛の頭にある鳥の羽のかざりもの。○〔易〕「鴻漸于陸、其—可ㇾ用爲ㇾ—」。(ろ)轉じて朝廷に出仕するに借りいふ語。○〔韓愈〕「吾知ニ其去ㇾ是而——ニ於天朝ニ」。

(朝儀) 朝廷における諸侯、百官に關する儀式。○〔周〕「正ニ——之位ニ、辨ニ其貴賤之等ニ」。

(母儀) 人の母たる者のてほん。○〔鹽論祖〕「——掩ニ鄭國ニ」。

(風儀) みめかたち。○〔五〕「爲ㇾ人美ニ——ニ」。

(形儀) 前に同じ。○〔南〕「不ㇾ持ニ——ニ」。

(藝儀) 六藝と六儀と。○〔周、註〕「敎ニ之——ニ」。

(軌儀) のり、てほん。○〔國〕「度ニ之于——ニ」。

(律儀) 前に同じ。○〔王褒〕「示ニ整聞之——ニ」。

(彝儀) 前に同じ。○〔金〕「備擧ニ——ニ」。

(宸儀) 天子の聖德の外に表はるゝこと。○〔北〕「陛下躬履ニ謙虛ニ、——未ㇾ彰」。

(軍儀) 兵備に關しての儀式。○〔北〕「帝詔督十二軍ニ、闕具得ニ——ニ」。

(遊儀) すべての儀式にいふ語。○〔玉海〕「國家有ニ厳容ニ、不ㇾ必ニ野外之——ニ」。

(標儀) 外貌に表はれし所。○〔孫樵〕「——倏贍」。

(惰儀) なまけたるかたち。○〔漢〕「無ニ——ニ」。

〔享儀〕鬼神にそなへしかざりもの。○〔高啓〕「列-祖──崇」。
〔太儀〕(い)萬物の根原、太極に同じ。〔張華〕「──斡運、天廻地游」。(ろ)唐時代の女官。○〔王建〕「──前日暖房來」。
〔令儀〕よろし、たゞし。○〔詩〕「豈弟君子、莫レ不ニ──一」。
〔聖儀〕(い)天子ののり。○〔舊唐〕「一始一終、光ニ──一」。(ろ)大子行幸の行列。○〔顏延之〕「金鑣總馭──「─載佇」。
〔震儀〕前の(い)に同じ。○〔南〕「──磬玉度虞」。
〔皇儀〕前に同じ。○〔東都賦〕「究ニ──一而展ニ帝容一」。
〔表儀〕てはん、のり。○〔韓詩〕「智如ニ泉源一、可ニ以爲ニ──一」。
〔典儀〕のり、てはん、又、法式に應じたるかざりもの。○〔後漢〕「備列ニ──一」。
〔昭儀〕唐の時の最も高き女官の名。○〔唐〕「──位視ニ丞相一」。
〔儀々〕みめかたち、たちゐふるまひの法式にかなひし貌にいふ語。○〔揚雄〕「麟之──、鳳之師々」。
〔渾天儀〕天象を畫きたる今日の地球儀の如きもの、日月星辰の進行を測るに用ひし器具。○〔後漢〕「研ニ覈陰陽一、妙ニ盡璇璣之正一、作ニ──一」。
〔候儀〕前に同じ。○〔舊唐〕「羅蘊──、是後魏遺範」。
〔辱儀〕前に同じ。○〔後漢〕「定ニ精微于──一」。

【儗】ギ。語綺切 紙
なずらふ(擬)。○〔漢〕「皆心ニ──霍將軍女一」。

【儁】シュン。子峻切 震
❶俊に通じ用ふ。○〔左〕「得レ─曰レ克」。
❷ことなり(異)。○〔左〕「其以レ中─也」。
❸すぐる(卓特)。○〔世說〕「神鋒太─」。
〔爽儁〕氣象のさわやかにして凡人にすぐれたること、すぐる人こと。○〔晉〕「神明──」。
〔克儁〕すぐる。○〔陸機〕「克明──」。
〔疎儁〕才學あれども粗忽なること。○〔宋〕「爲レ人──、不レ修ニ威儀一」。
〔輕儁〕擧動かろ／＼しくて才あること。○〔宋〕「惡ニ其──特罷レ之」。
〔時儁〕其の當時にてすぐれたる人物。○〔魏、註〕「必擢ニ──一」。
〔奇儁〕人にすぐれたる才識ある人物。○〔北〕「超ニ擢──一」。
〔瑰儁〕器量大にしてすぐれたる人。○〔陸雲〕「神明之緒、實番ニ──一」。

【儂】ドウ、ノウ。奴冬切 冬
❶自家の稱、われ。○〔韓愈〕「牙眼怖ニ殺──一」。
❷われに對する者の稱、あれ、あのひと。○〔楊維楨〕「勸レ郎莫レ上南高峰、勸レ──莫レ上北高峰」。
❸某人の稱、ひと。○〔尋陽樂〕「雞亭故──去、九里新──還」。
❹おやぢ(叟)、やっこ(奴)。○〔李賀〕「自課ニ越──能種レ瓜」。
❺苗族の一。○〔康熙〕「──人今雲南苗類」。

【儃】セン、ゼン。市連切 先
❶なり、ふり(態)。
❷──佪は、進まざる貌にいふ語、たゞずむ。○〔楚辭〕「欲──佪以干傺兮」。

【儃】タン、ダン。徒亶切 旱
舒閒なる貌にいふ字、おもむろ。○〔莊〕「──然不レ趨」。

【儃】タン、ダン。徒案切 翰
たゞに、いたづらに(徒)、なんぞ(何)。

【儃】セン、ゼン。時戰切 霰
つたふ(傳)、ゆづる(禪)。○〔揚雄〕「允哲ニ堯──レ舜之重一」。

【億】ヨク、オク。於力切 職
❶萬を萬倍せし數、又、萬を十倍せし數。○〔禮、疏〕「──之數有ニ大小二法一」。
❷衆多、多數。○〔詩〕「時萬時──」。
❸料度す、おもんぱかる、はかる。○〔論〕「──則屢中」。
❹やすんず(安)。○〔左〕「心──則樂」。
❺臆に通じ用ふ、むね。○〔漢〕「餘悲濕レ──」。
❻かけごと、ものあて。○〔吳幼淸〕「──賭レ錢也」。
〔千億〕物事の數太だ多きにいふ語。○〔詩〕「子孫──」。
〔萬億〕前に同じ。○〔書〕「公其以予ニ──一」。
〔巨億〕前に同じ。○〔後漢〕「動資ニ──一」。
〔麗億〕前に同じ。○〔詩〕「商之子孫、其─不レ─」。
〔庾億〕倉に米穀の多く積み儲へたるにいふ語。
〔盈億〕上に同じ。○〔詩〕「我倉既盈、我庾維億」。
〔積億〕つみかさなりて多くなるにいふ語。○〔漢〕「衆人或々、好惡──」。
〔累億〕前に同じ。○〔何承天〕「鑿結ニ網罟一、興ニ──之罪一」。
〔穰億〕物事の數多くてはかり知り難きときに用ふる語。○〔梁簡文帝〕「渤海之東、不レ知ニ──一」。
〔億々〕むらがりあつまりて其の數の太だ多き貌にいふ語。○〔崔駰〕「荊山之獸──而屯」。
〔兆億〕たみぐさ、人民、其の數多きよりいふ。○〔梁武帝〕「君ニ臨──一」。
〔供億〕とぼしき者に與へて安心せしむ。○〔左〕「寡人只是一二兄弟不レ能ニ──一」。
〔愊億〕誠實なること。○〔漢〕「策ニ腐──一」。

【⿰亻達】タツ、タチ。他達切 曷
❶肥滿の貌にいふ字、ふとし。
❷のがる、にぐ(逃)。
❸そむく(叛)。

【儅】タウ。都郎切 陽　他浪切 漾
とゞまる(止)。

【⿰亻蜀】トク、ドク。徒谷切 屋　ショク、ゾク。殊玉切 沃
❶丈低し、又、みにくし(醜)。
❷頭をふり動かす貌にいふ字。

【儆】ケイ、キヤウ。擧影切 梗　ケイ、ギヤウ。渠敬切 敬
警に通じ用ふ、いましめ、いましむ。○〔書〕「──ニ戒無虞一」。
〔申儆〕用心す。○〔春秋〕「討ニ軍實一而──ニ之一」。
〔自儆〕自分の身を自分ながら用心す。○〔元〕「朕當ニ──一」。
〔儆儆〕注意す、いましむ、又、いましめ。○〔國〕「猶ニ──ニ于國一」。
〔儆々〕用心する貌。○〔詩、疏〕「──然不レ能レ寐」。
〔關徼儆〕關所を設けて往來の人をあらたむること。○〔後漢〕「罷ニ──之──一」。

【儇】ケン。許緣切 先
❶輕捷なり、さとし、はやし。○〔詩〕「揖レ我謂ニ我──一兮」。
❷才智あり、さかし、さとし。○〔荀〕「鄉曲之──子」。
〔巧儇〕物事の上手なること。○〔韓維〕「鮮章麗句鬭ニ──一」。
〔便儇〕物事に捷利なること。○〔李仲通墓誌銘〕「所レ貴者資ニ──一」。

【儈】クワイ、ケ。古外切 泰
市人を會合せしむる者、賣買の間を周旋するを業とする者、さいとり、すあひ、仲買人、古は會の字に借り用ひたり。○〔唐〕「世爲ニ商──、往ニ來廣陵一得ニ諸賈之驩一」。
〔買儈〕商人のさいとり。○〔宋松〕「無ニ以異ニ於──之交一」。
〔牙儈〕前に同じ。○〔唐〕「買レ婢遷レ約爲ニ──一」。
〔書儈〕書籍の賣買のさいとり。○〔尚書故實〕「京師──孫盈」。
〔女儈〕婦女を賣買するさいとり。○〔賓退錄〕「──及粥レ棺者、出ニ入其門一不レ絕」。

【儉】ケン、巨險切 琰　ケン、ゲン。詰念切 豔
❶ほしいまゝにせざること、おごらざること、事を省き用を節すること、つゞまやか。○〔左〕「大羹不レ致、粢食不レ鑿、昭ニ其──也」。

㊀つゞまやかにてあり、つゞまやかに爲す、つゞむ、つゞまる。○〔書〕「克勤二于邦一、克―二于家一」。
㊂豐かならず、多からず、とぼし、すくなし。○〔南〕「家素貧―」。
㊃年稔らず、食歉らずりい。○〔晉〕「比歲荒―」。
㊄險に同じ、けはし。○〔荀〕「下疑俗―」。
〔勤儉〕事をつとめ費用を省く。○〔陸游〕「――敎見童一」。
〔共儉〕物事を慎む。○〔禮〕「――而好レ禮」。
〔行儉〕節約を爲す。○〔陸贄〕「居レ豐―レ―」。
〔躬儉〕己れの躬に節約を行ふ。○〔舊唐〕「―――化レ人」。
〔至儉〕極めて節約なること。○〔宋〕「自奉―――」。
〔節儉〕奢をいましめ無用の費をなさず。○〔史〕「以二―――力行一重二于齊一」。「動」。
〔約儉〕前に同じ。○〔漢〕「毎事――、非レ禮不レ動」。
〔纖儉〕物事を量るにこまかにして華美を爲さず。○〔史〕「其俗――習レ事」。
〔豐儉〕物の多少をいふ。○〔北〕「蔡管之禮、―――之節、義理可レ見」。
〔崇儉〕節約を貴ぶ。○〔隋〕「戒レ奢―レ―」。
〔旱儉〕天久しく雨ふらずして禾穀稔らず。○〔北〕「西北州郡――」。
〔饑儉〕飢饉に同じ。○〔北〕「水旱――」。
〔年儉〕前に同じ。○〔北〕「羅二――、日出二家粟一、賑二賜貧窮一」。
〔慈儉〕物を愛し費を省く。○〔舊唐〕「愛レ之以二――一」。「―――」。
〔勤儉〕事を勉め費を省く。○〔唐〕「湊爲レ人彊力―――」。
〔鄙儉〕節約に過ぐ。○〔五〕「性――」。「――二」。
〔敬儉〕長上に對して禮を失なはず。○〔金〕「愈加二―――」。
〔褊儉〕吝嗇なること。○〔蘇軾〕「魏風――」。
〔積儉〕質素なること。○〔宋〕「臣眷生無二他長一、惟――自度」。

【儸】アウ、オウ。烏江切　江
從はず、伏せず、そむく。

【儶】カイ、ケ。擧蟹切　蟹

豪强の貌にいふ字、つよし。

【儊】ショ、ソ。瘡據切　御
滑かならず、志ぶる、とゞこほる。

【儈】クワ。苦禾切　歌
よし、うつくし、うるはし（美）。

【儋】タン、トン。都甘切　覃
になふ（荷）、おふ（負）。

【儋】タン、トン。都濫切　勘
もたひ（甖）。○〔漢〕「守二―石之祿一」。

【儃】セン、ゼン。時豔切　豔
贍に同じ、にぎはす。

【儌】ケウ、ゲウ。古了切　篠
ゆく（行）。

【儌】ケウ、ゲウ。堅堯切　蕭
非望を抱く、うかゞふ、もとむ、ねがふ

【儮】ワ。於靴切　歌
おろかなる貌にいふ字。

十四畫

【儐】ヒン。必刃切　震
㊀賓の禮を行ふを導く、主の禮を行ふを相く、みちびく、たすく、すゝむ。○〔周〕「王命二諸侯一則―」。
㊁賓をみちびく人、主をたすくる人。○〔禮〕「主人三―」。
㊂ならぶ（陳）。○〔詩〕「―二爾籩豆一」。
㊃擯に同じ、志りぞく。○〔戰〕「六國從親以―レ秦」。

〔上儐〕首位に立ち應接を掌る人。○〔禮〕「卿爲二―、大夫爲レ承」。
〔介儐〕應接を掌る人。○〔馬融〕「接武如二朋儕一、承迎如二――一」。

【儐】ヒン。卑民切　眞
㊀敬禮を以て應接す、うやまふ、つゝしむ。○〔禮〕「所三以―二鬼神一也」。
㊁擯に同じ、志わむ、ひそむ。○〔枚乘〕「―笑連便」。

【儞】ベン、メン。彌延切　先
低くたるゝ貌にいふ字、ひくし、たる、さがる。

【儑】ガン、ゴン。吾含切　覃
㊀さかしからず、おろか（不慧）。
㊁たはごと（譫言）。

【儑】ガン、ゴン。吾紺切　勘
自ら安んぜず、やすからず。

【儑】ガフ、ゴフ。鄂合切　合
㊀儑―は、事に著かず。「則棄而―」。
㊁わづらふ（累）、うれふ（憂）。○〔荀〕「窮

【儊】サウ、ソウ。初諫切　諫
多くの物齊し、ひとし、そろふ。

【儗】ギ。魚其切　支
狐狸の鳴く聲。

【儒】ジュ、ニュ。人朱切　虞
㊀やはらか（柔）、やはらぐ（和）。○〔禮、註〕「―之言優也、和也、言能安レ人能服レ人也」。
㊁藝道を教授する人、學問を攻究する人、學者。○〔周〕「四曰、―以レ道得レ民」。
㊂孔子を祖とせる一種の教學。○〔淮〕「―墨乃始列レ道而議」。
㊃孔子の教學を奉ずる學者。○〔北〕「河北諸―」。
㊄懦弱、よわし、おくびやう。○〔荀〕「勞苦之事、則偸―轉脫」。
〔侏儒〕（い）身體短小の人。○〔漢〕「――長三尺、奉二一嚢粟一」。（ろ）梁上の短柱、つかばしら。「―」。
〔豎儒〕童子の如き無知なる學者、人を罵るときに用ふる語。○〔韓愈〕「樗櫟―二」。
〔腐儒〕其の志行の頹れて能く爲すとなき學者、前に同じ。○〔史〕「――幾敗二通公事一」。
〔鄙儒〕見識の狹くして心卑しき學者、又、變通の才なく、或は鄙劣なる志行あるなどの學者。○〔史〕「爲二天下安用二――一」。
〔俗儒〕前に同じ。○〔後漢〕「――小拘」。
〔辟儒〕身を守り人を教ふると精一にして雜駁ならざる學者の稱。○〔漢〕「眞二非毀一、――學者由レ是多見二排詆一」。
〔宿儒〕年老いて閱歷あり名望ある學者。○〔漢〕「涉二獵書記一、不レ能レ爲二――一」。
〔耆儒〕前に同じ。○〔後漢〕「是時――胡常與二方進一同レ經」。「舍人一」。
〔舊儒〕前に同じ。○〔陶〕二「郡國――、皆補二郎一」。
〔老儒〕前に同じ、時として年老いて物の用にたゝぬ學者を卑しめいふに用ふる語。○〔宋〕「都下――咸推二重之一」。
〔碩儒〕前に同じ。〔部〕「上怒召二吏部尙書張昭一、面質二其事一、昭――氣直、免冠上前一、抗聲曰、教匪レ上」。
〔大儒〕學術深淵なる學者、大學者。○〔後漢〕「宿德――、從レ政有レ迹」。
〔頑儒〕前に同じ。○〔後漢〕「荀爽南遁二漢濱一、以二著述一爲レ事、遂稱爲二――一」。「時二」。
〔鴻儒〕前に同じ。○〔晉〕「――碩學、無レ乏二于時一」。
〔拘儒〕一事に泥みて變通を知らざる學者。○〔後漢〕「――拂レ几」。
〔文儒〕文學の才に長けたる學者。「武二、崇二尙――一」。○〔晉〕「遠二于孝
〔散儒〕閑散にして卑賤の地に在る學者、又、他の拘

東を受けざる學者。○〔西京雜記〕「大丈夫當レ立ニ功殊域一、何能坐事ニ——一」。

〔陋儒〕鄙儒に同じ。○〔荀〕「不レ免レ爲ニ——一而已」。

〔雅儒〕志行の高潔なる學者。○〔荀〕「用ニ——一、則千乘之國安」。

〔世儒〕世に持て囃さるゝ學者。○〔曹植〕「君子通ニ大道一、無レ願レ爲ニ——一」。

〔通儒〕博識多聞にして萬事に明らかなる學者。○〔後漢〕「時稱ニ——一」。

〔鉅儒〕大儒に同じ。○〔隋〕「四方鴻生——負レ袠「自レ遠而至」。

〔名儒〕世に評判高き學者。○〔漢〕「——有ニ師傳萬恩一」。

〔迂儒〕世の事情に通せざる學者。○〔戴復古〕「人道是——」。

〔章句儒〕文字の末にのみ拘りて道に通せざる學者。○〔漢〕「所レ謂——小——破ニ碎大道一」。

〔君子儒〕道を明らかにし德を樹つる學者。

〔小人儒〕利を貪り名を求むる學者。○〔論〕「女爲ニ君子儒一、無レ爲ニ小人儒一」。

【⿰亻盈】タウ、チヤウ。張梗切 梗

㊀いさむ(勇)、又、勇悍なる者。㊁形貌惡し、みにくし。

【⿰亻㥯】イン、オン。於謹切 吻

人に依ろ、よる。

【⿰亻穩】ヲン。烏本切 阮

㊀前條に同じ。㊁おだやか(穩)。㊂かくる(隱)。

【儓】タイ、ダイ。徒哀切 灰

臺に同じ、卑賤の役に服する者、志もべ、つかへびと、またげらひ。○〔左〕「僕臣——」。

〔田儓〕農夫を賤しめいふ語。

〔陪儓〕官吏に隸屬して使はるゝ人。○〔博雅〕「有司股肱——皁隸牧圉臣也」。

〔輿儓〕輿を舁く人夫、こしかき。

【儓】タイ。他代切 隊

おろかなる貌にいふ字。

【儔】チウ、ヂュ。直流切 尤

㊀等類、同衆、とも、なかま、つれ、くみ、さもがら、たぐひ、特に其の四人以上のものにいふ字。○〔張輔〕「殆與ニ伊呂一爭レ——、豈徒樂毅爲レ伍乎」。
㊁たれ(誰)。○〔揚雄〕「——克爾」。
㊂ひとし(同一)。○〔張九齡〕「還開ニ吉甫頌一、不下共ニ郢歌一——上」。

〔良儔〕善良なる友人。○〔趙至〕「——交ニ其左一」。

〔絕儔〕なかまをはづれてすぐれたるをいふ。○〔隋煬帝〕「青徹固——」。

〔杜儔〕人、又は、物事勝れ出で比類すべきもの少なきと。○〔杜甫〕「晩定崔李交、會レ心眞——」。

〔寡儔〕前に同じ。○〔魏〕「守レ志清恪、離レ羣——」。

〔匹儔〕つれあひ、又、あひて。○〔曹植〕「中有ニ孤鴛鴦一、哀鳴求ニ——一」。

〔同儔〕同輩、又、同僚。○〔宋璟〕「詩朝重起局、持レ此詫ニ——一」。

〔結儔〕交を約して同輩となる。○〔蜀都賦〕「養ニ交都邑一、——附黨」。

〔侶儔〕友だち、又、なかま。○〔宋〕「鹿鳴呦々、命ニ——與ニ——」。

〔朋儔〕友人のこと。○〔韓愈〕「予之——」。

〔異儔〕常凡ならざる類のもの。○〔劉允濟〕「鱗介羽毛之——」。

〔故儔〕舊友に同じ。○〔徐彥伯〕「婉孌——心」。

〔伊呂儔〕殷の太甲を輔けし伊尹、周の武王の師となりし呂尙にも比べつべき善良なる君王の輔佐。○〔張輔〕「觀ニ孔明之忠一、殆與ニ——一爭レ——」。

〔史魚儔〕衞の大夫にして正直の聞こえ高かりし史魚にも比べつべき正直なる人の仲間。○〔魏〕「忠直不レ回、則——之——」。

〔賈晁儔〕漢に仕へて國家を經綸せし賈誼、晁錯の仲間、轉じて、經國の材ある人の仲間。○〔隋〕「經國大體、是——生——錯之——」。

〔蕭曹儔〕漢に仕へて將相となりし蕭何、曹參にも比べつべき善良なる將相の仲間。○〔桓譚〕「其將相非ニ——一也」。

〔獲育儔〕古へに勇力の聞こえ高かりし烏獲夏育にも比べつべき勇力ある人の仲間。○〔西京賦〕「乃使ニ黃中之士、——之——一」。

〔良平儔〕漢に仕へて君の腹心となりて謀略をらしたりし張良、陳平の仲間、轉じて君のために謀を運らす人の仲間。○〔盧思道〕「爪牙皆韓白之佐、心腹盡——之——」。

〔稷契儔〕古へ虞舜に仕へて功德ありし稷と契とにも比べつべき功德ある人の仲間。○〔蔡邕〕「臣聞——之——、以レ德受レ命、功德靡レ堪」。

〔曾閔儔〕古へ親に仕へて孝なりし曾參と閔損とに等しき孝行の人。○〔元稹〕「昔公孝ニ父母一、行與ニ——一」。

〔管樂儔〕齊の桓公をもて霸となしゝ管仲、燕の昭王を輔佐せし樂毅にも比べつべき善良なる君王の輔佐。○〔孟浩然〕「白頭躬耕者、才非ニ——一」。

【儔】タウ、ドウ。徒刀切 豪 大到切 號

㊀かざす、おほふ(翳)。㊁かくす(隱蔽)。

【⿰亻翟】テウ、デウ。徒了切 篠

㊀佻に同じ、かろぐし。㊁獨立す、ひとりたつ。

【⿰亻粤】ヘイ、ヒヤウ。普丁切 青

娉に同じ、つかふ(使)。

【儕】サイ、ゼイ。仕皆切 佳 セイ、ザイ。在詣切 霽

㊀等類、同輩、なかま、たぐひ、ともがら。○〔左〕「文王猶用レ衆、況吾——乎」。
㊁相伴ひて、一つになりて、ともに、ひとしく。○〔列〕「長幼——居」。

〔同儕〕同輩、又、同等の人。○〔左〕「晉鄭——レ——、其遇ニ子弟一、固將レ禮焉」。「癸」、

〔等儕〕前に同じ。○〔後漢〕「或曾與レ我爲ニ——一」。

〔朋儕〕前に同じ。○〔元稹〕「銀輪困ニ——一」。

〔吾儕〕吾輩に同じ。○〔左〕「——小人、食而聽レ事」。

〔爾儕〕人を指すにいふ語、其の方たち。○〔梅堯臣〕「惟此尻ニ以待ニ——一」。

〔匹儕〕つれあひとなるもの。○〔韓愈〕「猛虎雖レ云惡、亦各有ニ——一」。

【⿰亻聚】ソウ、ゾウ。徂送切 送

あつまる(聚)、おほし(衆)。

【儖】ラン、ロン。盧甘切 覃

形貌惡し、みにくし。

【⿰亻對】タイ、テ。都隊切 隊

うりかひ、あきなふ、さりひき、あきなひ(互市)。

【⿰亻寋】ケン。吉典切 銑

⿰亻憲に同じ、おごる(傲)。

【⿰亻與】ヨ。演女切 語

㊀つゝしむ(謹)。㊁よる(倚)。

【儗】ギ。魚紀切 紙

㊀なぞらふ。
(い)分限を超えて長上にまねす。○〔漢〕「位號比——、亡ニ上下之分一」。
(ろ)比較す、くらぶ、たくらぶ。○〔元〕「李洞每以ニ李太白一自——」。
㊁うたがふ、うたがひ(疑)。○〔荀〕「無レ所ニ——怠一」。
㊂薿に通じ用ふ、志げる、さかんなり。○〔漢〕「黍稷——」。

〔竊儗〕表にあらはさず心にての眞似をなす。○〔十六國〕「尙父之況、非レ敢——」。

〔佁儗〕(い)たちもどろ、進まず。○〔司馬相如〕「佁——以——兮」。(ろ)寬大の辭。○〔長笛賦〕「或植持纏縱、——寬容」。

【儗】イ。以智切 寘

さゞこほる貌にいふ字、さゞこほる。

【儗】カイ。海愛切 泰

おろかなる貌にいふ字。

【儘】ジン。慈忍切 軫
盡に同じ、みな、こと〴〵く、すべて、

【⿰亻遣】ケン。去戦切 霰
ひらく、あく(開)。

【⿰亻夢】ボウ、モウ。莫登切 蒸
㊀くらし(惛)、㊁まよふ(迷)。

【⿰亻蒙】ボウ、モウ。謨東切 東
はづ(慙)。

【儛】ブ、ム。文甫切 麌
舞に同じ、まふ、まひ。○〔莊〕「鼓-歌以ーレ之」。

【儜】ダウ、ニヤウ。女耕切 庚
㊀困弱す、くるしみよわる、もてあます　○〔韓愈〕「始知樂二名-教一、何用苦二拘ーー一」。
㊁互に呼び合ふ聲、よぶ。○〔唐〕「鼓-吹裴-回、其聲儜ーー」。

【⿰亻焉】タイ、テ。知駭切 蟹
鷈に同じ、つよき貌にいふ字。

【⿰亻⿱習皿】シフ。師立切 緝
及ばず。

【⿰亻⿱習足】サウ、ソウ。蘇合切 合
はやくち(疾-言)。

十五畫

【償】シヤウ、ジヤウ。市亮切 漾　市羊切 陽　書兩切 養
㊀つくのふ、あがなふ。
(い)値ひする所を還す、かへす。○〔漢〕「不-疑買レ金ーレ之」。
(ろ)ある物が受けし代はりにある物を與ふ、ある事を受けし代はりにある事を行ふ、むくゆ。○〔史〕「無レ意レー二趙城-邑一」。
(は)ある物を出だし又はある事を爲して罪過を犯し又は損害を與へし責めを免る。○〔史〕「願沒-入爲二官-婢一、以ー二父刑一」。
㊁つくのふを、あがなふを、つくのふ所、あがなふ所、つくのひ、あがなひ、賃金、代價、報酬、損害の料、罰金など。○〔西京雜記〕「與二其傭一作、而不レ求レー」。
〔取償〕損害の埋め合はせをなす。○〔國〕「是王失二於齊一、取二ー于秦一也」。
〔報償〕返報をなす。○〔漢〕「每レ漢-兵入二匈-奴一、匈-奴輒ーー」。
〔代償〕人にかはりて損害の埋め合はせをなす。○〔宋〕「汝-明爲二譽-中裝一、ーニー之一」。
〔酬償〕物の埋め合はせをなす。○〔元稹〕「ーニー貰レ麥隣一」。
〔一飯必償〕一度の食を與へられたる人にも返禮をなす、轉じて少しの恩にもむくいをなすとに借りいふ語。○〔史〕「蕩-推散二家財-物一、ーーーー之德ーー」。

【⿰亻嘗】シヤウ、ジヤウ。時亮切 漾
そなふ(備)。

【儠】レフ、ロフ。力涉切 葉
㊀ながし(長)。㊁さかんなり(壯)、㊂ひげおほし(多-鬚)。

【⿰亻臘】ラフ、ロフ。盧合切 合
惡き貌にいふ字。

【⿰亻臱】ヘン、ベン。蒲眠切 先

【⿰亻蔑】ベツ、メチ。莫結切 屑
㊀身正しからず、みだる、くづる、ひろむ、㊁舞ふ貌にいふ字。

【儡】ライ、レ。力回切 灰
詐り多し。

【儡】ライ、レ
敗壞す、やぶる。○〔淮〕「孔墨之弟-子、以二仁-義一教二導於世一、不レ免二於ーー一」其身一。

【儡】ギ、語韋切 微
心勞す、くるしむ。

【儡】ギ。魚鬼切 尾
意安んじ定まらざる貌にいふ字、やすからず。

【儡】ライ、レ。魯猥切 賄
傀ーは、でく、くゞつ。○〔列〕「周穆-王之時、巧-人有二偃-師者一、爲二木-人一、能歌-舞、此傀ーー之始也」。

【儡】ライ、レ。盧對切 隊
物重大にして片寄る、又、きはまる(極)。

【⿰亻節】セツ、セチ。子結切 屑
うやまふ(僔ー)。

【儢】リヨ、ロ。力擧切 語
爲すを好まず、勉強せず。○〔荀〕「ーーーー然離-々-然」。

【儣】クヮウ。苦晃切 養
平かならず。

【儤】ハウ、ヘウ。布校切 效
㊀官府の宿直、とのゐ。㊁すなほ、なほし(直)。㊂こゆ(越)。

【儥】イク。余祝切 屋　テキ、亭歴切 錫　チヤク。切
㊀賣買す、うる、かふ、あきなふ。○〔周〕「以二量-度一成レ賈而徵レー」。㊁うごく(動)。㊂ながし(長)。

【⿰亻賣】トク、ドク。徒谷切 屋
㊀うごく(動)。㊁しめす(見)。

【⿰亻豎】ジユ。常裕切 遇
豎に同じ、神の名。

【儦】ヘウ。悲遙切 蕭
㊀盛壯なる貌にいふ字、さかんなり。○〔詩〕「朱-幩ーー」。
㊁衆多なる貌にいふ字、おほし。〔詩〕「ーー俟-々」。○「ーー」。
㊂行く貌にいふ字。○〔詩〕「行-人ーー」。

【儹】サン、子管切 旱
㊀あつまる(聚)。㊁あつめて事を計る、はかる。

【儨】シツ、シチ。職日切 質
㊂たゞし(正)。
懫に同じ。㊀とゞまる(止)。㊁ふさぐ(塞)。

【儩】シ。息吝切 寘
つく(盡)。○〔唐〕「斂-庾之藏、有レ時而ー」。

【優】イウ、ウ。郁牛切 尤
㊀ゆたか。
(い)おほし(饒)、あつし(渥)。○〔詩〕「既ー既渥」。

（ろ）餘力あり、餘裕あり、あまりあり。○〔論〕「仕而ー則學」。
（は）やはらぐ、（和）。○〔詩〕「徳-政ーー」。
（に）ひろし、ゆるやか、（寛）。○〔詩〕「維其ー矣」。
（ほ）柔順、閑舒、やさし、やはらか、また、さやか。○〔準〕「ーーー節々」。
㊂委從して違はず、委從して斷ぜず、また、たがふ、のろし。○〔管〕「人-君惟ー與ニ不-敏一爲ニ不-可一」。
㊃劣の對、すぐる、まさる。○〔晉〕「參レ名比レ譽、誰劣誰ー」。
㊄調戲す、たはぶる。○〔左〕「長相ー」。
㊅遊伎、雜樂、俳人、倡者、おどけ、たはぶれ、わざをぎ、やくしや。○〔左〕「飲レ酒且觀レー」。
㊆足らざるとなしに、十分に、ゆるやかに、ゆたかに。○〔禮〕「周-公ー爲レ之」。
（伊優）　おもねり（つらふ貌にいふ語。○〔趙壹〕「ーー北-堂上」。
（俳優）　戲劇を爲す人、わざをぎ。○〔家語〕「ーー侏-儒戲ニ於前一」。
（倡優）　前に同じ。○〔史〕「鐵-劍利而ーー拙」。
（伶優）　前に前じ。○〔蘇軾〕「俠窮者ーー」。
（褒優）　待遇を厚くす。○〔漢〕「上新即レ位、ーーー大臣一」。
（誂優）　人の意志を迎へて阿りをなす佞人。○〔管〕「淊ニ其ーー一、繁ニ其鐘-鼓一」。
（饒優）　太だ多し。○〔易林〕「得レ利ーー」。
（剛優）　勇氣多し。○〔丁己〕「ーー勁-勇、忩-速-輕-急」。
（過優）　己れの分に過ぐ。○〔蘇軾〕「正作ニ尙-書一已ーー」。

【優】　オウ、ウ。影鉤切　㊉

辭いまだ定まらざるに發する聲にいふ字。○〔漢〕伊ーー亞者、辭未レ定者也」。

【僇】　ハウ、ヘウ。匹交切　カウ、ケウ。丘交切　㊊

さかんなり、（盛）。

【儷】　ヒ。筆委切　㊋

とどむ、又、とどまる、又、やむ、（停）。

【儓】　タウ、チヤウ。中莖切　㊌

ー偒は、いつくしみなし、（不-仁）。

【儱】　コン、ゴン。胡困切　㊍

たはぶる、又、たはぶれ、（戲）。

十六畫

【儴】　デウ、テウ。乃了切　㊎

㊀うつくし、又、たをやか、（美）。
㊁まふ、（舞）。㊂舞ふ人の身を曲ぐると環の如きにいふ字、たわむ、一說に腰細し。

【儭】　シン。千刃切　㊏

㊀いたる、（至）。㊁たひらか、（平）。
㊂襯に通じ用ふ、うら、うち、（裏）、又、はだぎ、（下-衣）。

【儭】　シン。雌人切　㊐

親に通じ用ふ、おや、（父-母）。

【儴】　クワイ、ケ。古回切　㊑

㊀よし、うつくし、うるはし、（美）。
㊁さかんなり、（盛）。㊂おほいなり、（大）。
㊃あやし、（怪-異）。

【儵】　トウ、ドウ。徒登切　㊒

丈高き貌にいふ字、ながし、（長）。

【儶】　カイ、ゲ。下介切　㊓

せまし、（狹）。○揚雄「何文肆而質ー」。

【儰】　井。羽委切　㊔

㊀うごく、又、うごかす、（動）。
㊁安からず。

【儱】　ロウ、リユ。力用切　㊕

㊀才智未だ發達せず。㊁行くと正しからず。
㊂おさる、（劣）。

【儱】　ロウ、力董切　㊖　ロウ、盧谷切　㊗
リユ。　　　　　　　　　リユ。

前條の㊀に同じ。

【儚】　ボウ、モウ。武登切　㊘

儚に同じ、くらし、まごふ、みだる。

【儚】　バウ、ミヤウ。莫更切　㊙

もだゆ、（悶）。

【儲】　チヨ、ヂヨ。直魚切　㊚

㊀あらかじめ積聚す、積聚して用を待つ、たくはふ。○〔張衡〕「實俟實ー」。
㊁たくはふると、たくはへたる物、たくはへ。○〔淮〕「有ニ九-年之ー一」。
㊂そへ。
（い）國君の世子、とうぐう、はるのみや。○〔左〕「安得レ爲ニ國ーー一」。
（ろ）ある物事の副貳。○〔類苑〕「下レ酒者謂ニ之飲ーー一」。
（東儲）　（い）皇太子のと、東宮に同じ。○〔南齊〕「太子曰ニーー一」。
（ろ）廟の室の名。
（帝儲）　（い）前條に同じ。○〔謝朓〕「君牽ニ筆于ーー一」。
（ろ）星の名。
（倉儲）　くらの中に貯へ置く米穀。○〔魏〕「皆置ニーー一」。
（斗儲）　僅かばかりの貯へ。○〔左思〕「內-顧無ニーー一」。
（軍儲）　兵糧に同じ。○〔晉〕「文-帝立ニ度支-尙-書一、以計ニーー一」。
（兵儲）　前に同じ。○〔魏〕「內無ニーー一」。
（資儲）　貯蓄に同じ。○〔晉〕「ーー漸豐」。
（皇儲）　帝儲に同じ。○〔陸機〕「ーー延ニ髦-俊一」
（戒儲）　準備のための貯へ。○〔南〕「ーー宰-匱」。
（邊儲）　國境の倉庫に貯へ置く米穀の類。○〔北〕「散ニ費ーー一」。
（司儲）　唐の時代に米穀の貯蓄を掌りし官の名。○〔唐〕「龍朔初改ニ司-庾-大夫一爲ニーー一」。
（見儲）　其の處に現在せる貯へ。○〔魏〕「割ニーー以卒ニ大-事一」。
（贏儲）　餘裕ある貯へ。○〔西京雜記〕「供-養每有ニーー一」。
（留儲）　貯へをなし置くと。○〔唐〕「家無ニーー一」。
（儲々）　無頓着なるさまにいふ語。○〔靈樞經〕「太陽之人、其狀軒-々ーー」。○「禁-布-散ニーー一」。
（公儲）　政府の貯蓄せる米粟の類。○〔羽獵賦〕「開ニーー一」。
（內外儲）　韓非が作れる文章の篇の名。○〔史〕「作ニ孤-憤、五-儲、ーーー、說-林、說-難十餘-萬-言一」。
（東西儲）　廟の室の名。○〔晉〕「改ニ作太-廟-殿一、正-室十-四-間、ーーー各一-間」。
（天府儲）　身志を勞せずして自然に生ずる貯へ。○〔魏〕「猥損ニーーー之ー一」。○「之ー一」。
（儋石儲）　僅かばかりの貯へ。○〔魏〕「家無ニーーー」

十七畫

【儇】　ケン。居偃切　㊛　九件切　㊜

おごる、あなどる、ほこる、（傲）、あしなへ、（跛）。

【儳】　リン、ロン。良鴆切　㊝

ー儳は、頭前に向かふ。

【儡】　キ。奇龜切　㊞　居章切　㊟

つかふ、又、つかひ、（使）。

【儳】　サン、ゼン。仕咸切　㊠

㊀儳ーは、醜き貌にいふ語、みにくし。
㊁列整はず、ひとしからず、さゝのはず、みだる。○〔左〕「聲盛致レ志、鼓レー可也」。

㊂はやし、又、さし、（疾）。○〔後漢〕「進鶩馳、從二——道一歸レ營」。

【儳】サン、ゼン。牀陷切 [陷]
㊀輕賤の言をなす、かろんじいふ。
㊁靜肅ならず、そろはず、一說に輕賤すべし、いやし。○〔禮〕「君-子不三以一日、使二其躬——焉如一レ不レ終レ日」。
㊂ちばらく、（暫）。

【儹】サン、ソン。七紺切 [勘]
齊一ならず、參雜す、いりまじろ、まじる。○〔禮〕「長-者不レ及、毋二——言一」。

【儫】コウ。呼肱切 [蒸]
㊀くらし、まどふ、（惛）。㊁うらむ、（恨）。

【儴】ジヤウ、ナウ。爾羊切 [陽]
㊀くるしむ、（困）。「——」。
㊁攘に同じ、ぬすむ。○〔書〕「無二敢寇-——」。
㊂よる、ちなむ、又、ちなみ、（因-緣）。

【儵】シュク。式竹切 [屋]
㊀倏の本字、たちまち。○〔楚辭〕「——而來兮忽而逝」。
㊁禍毒に罹る、かゝる。
㊂黑さ青さをまじへたる色、あをぐろ。

十八畫

【㑭】ダイ、子。奴回切 [灰]
㑲に同じ。

【儸】セフ、ソフ。尺涉切 [葉]
㊀なづく、ちたがふ、（心-服）。
㊁懾に通じ用ふ、おそる。

【儶】ケイ、エ。下桂切 [霽]
さし、はやし、（疾）。

【儶】ケイ、エ。懸圭切 [齊]
㊀ひさぐ、（提）又、たづさふ、（携）。
㊁はなる、（離）。

【儻】ホウ、フ。孚公切 [東]
そまびさ、やまびさ、（仙-人）。

【儽】ライ、レ。力回切 [灰]
㊀くるしむ、つかる、（極-困）。
㊁儡に同じ、やぶる。

十九畫

【儷】レイ、ライ。呂詣切 [霽]
㊀ならぶ、（並）。○〔淮〕「與レ俗——走」。
㊁配偶、つれあひ、めをさ。○〔左〕「鳥-獸猶不レ失レ——」。
㊂比類、たぐひ、さもがら。○〔蜀〕「其程-郭之儔——耶」。

〔鮮儷〕比類少なし。○〔揚雄〕「顏-淵以レ退爲レ進、天-下——焉」。
〔失儷〕配偶を無くなす。○〔易林〕「——後旅」。
〔魚儷〕魚の列を爲したる如くに配列す。○〔後漢〕「——漢-舳、雲二屯冀-馬一」。
〔駢儷〕四六文として漢魏六朝の時代に行はれたる文章の一體。○〔柳宗元〕「——四—六、錦-心繡-口」。
〔伉儷〕つれあひ。○〔國〕「今陳-侯棄二其——妃-嬪一」。
〔嬪儷〕前に同じ。○〔梦黽〕「夙喪二——」、妾不レ二「變-御一」。
〔作儷〕同輩となす。○〔繼事祕辛〕「擇賢——除-代所レ先」。
〔相儷〕並び合ふこと。○〔文心彫龍〕「字-々——」。
〔淑儷〕善良なるつれあひ。○〔潘岳〕「奈何悼二——」。「以レ——不レ全」。
〔辟儷〕人のつれあひを盜みとる。○〔楊雄〕二御辟

【儷】リ。鄰知切 [支]

【儺】俗の儺の字。

【儸】ラ。力柯切 [歌]
㊀主なりて事を辨ず、わきまふ。○〔五〕「諸-君可レ謂二僂——兒一」。
㊁儸——は、健くして德あらず。

【僊】セン。司連切 [先]
仙の本字。

【儹】サン。子管切 [旱]
儧の本字、あつまる、又あつむ、（聚）。

【儵】テン。都田切 [先]
傎、又は顚に同じ、つまづく、たふす、たふる。○〔唐〕「晉君-臣以二怡-曠一致レ——」。

【儺】ダ、ナ。奴何切 [歌]
木の枝の垂るゝ貌にいふ字、ちなふ。
㊀疫鬼を驅る儀式、おにやらひ。○〔論〕「鄕-人——、朝-服而立二於阼-階一」。
㊁鬼面を著けておにやらひを行ふ人。○〔梅堯臣〕「我慙賤-丈-夫、豈異三帶二レ面——一」。
㊂たをやか、（娜）。○〔詩〕「猗-——其枝」。

〔行儺〕疫鬼を驅る式を爲す。○〔唐「歲終——」」。
〔驅儺〕疫鬼を逐ひ走らす。○〔孟郊〕「——擊レ鼓吹二長-笛一」。
〔贈儺〕疫鬼を驅る式を擧げて不吉を拂ひ出だす。○〔舊唐〕「季-冬晦-堂——、磔二牲於宮-門及城四-門一」。

【儺】ダ、ナ。乃可切 [哿]
㊀行くと法度あり、たゞし。○〔詩〕「佩-玉之——」。

㊁旎、那、娜に通じ用ふ、うつくし、たをやか。

【儱】チョウ、チュ。丑用切 [宋]
なゝめ、（斜）。

【儾】ダイ、子。奴回切 [灰]
のべふす、ふす、（偃）。

【儽】ダイ、子。奴回切 [灰]
のべふす、ふす。

二十畫

【儻】タウ。他朗切 [養]
㊀傑出す、卓特す、すぐる、こゆ。○〔司馬遷〕「富-貴而名磨-滅、不レ可二勝記一、只倜——非-常之人稱焉」。
㊁不羈なり、豁達なり、ほしいまゝ、ひろし。○〔關尹子〕「心——、物迭-々」。
㊂倏忽、たちまち。○〔莊〕「物之——來寄也」。
㊃萬一、あるひは、もし、もしくは、たまたま。○〔列女傳〕「——言レ之」。
㊄志を失ふ貌にいふ字、又、明きらかならざる貌にもいふ字。○〔莊〕「——乎若三行而失二其道一也」。
㊅いやしくも、（苟）。○〔莊〕「時恣-縱而不レ——」。

【儼】ゲン。宜檢切 [琰]
㊀いかめし、おごそか、（矜-莊）。○〔詩〕「碩-大且——」。
㊁うやうやし、つゝしむ、うやまふ、（恭-敬）。○〔禮〕「——若レ思」。
㊂あふぐ、（仰）。

㊃よし、（好）。㊄さかんなり、（盛）。㊅巘に通じ用ふ、ひのめぐり、（日-行）。

（神容儼）神佛の像のおごそかなること。○〔王勃〕「蓮-座——」。

（車從儼）隨從せる車馬、儼は供への儀衛のいかめしきこと。○揚烱「———兮在レ門」。

（玉山儼）玉もて築きなせる山の如くに人の容貌の美しくいかめしくあること。○〔唐寫名氏竹賦〕「———而猗峙」。

【儼】ガン、ゴン。五犯切 〔𨻶〕

前條の㊁に同じ。

廿一畫

【儹】ケウ。許嶠切 〔蕭〕

ほころ、おごろ、（傲）。

【儽】ライ、レ。盧對切 〔隊〕

㊀おこたる、（懈、又、ものうし、（懶）。㊁たろ、（垂）。㊂やむ、つかろ、（病）㊃やぶろ、（敗）。㊄あざむく、（欺）。㊅高き處に憑り衆く立つ貌にいふ字。

【儸】ラ。力果切 〔哿〕

倮又は躶に同じ、はだか、はだかむし。○〔荀〕「有ニ物于此一、———兮其狀、屢化如レ神」。

廿二畫

【儾】ダウ、ナウ。奴浪切 〔漾〕

ひろし、（廣）ゆるやか、又、ゆろし、（緩）。

廿四畫

【𠑊】セン。青天切 〔先〕

水をもて鹽に和す、やはらぐ。

【𠑋】セン。且廉切 〔鹽〕

儿部

古文の奇の字、みな、こさぐく。

【儿】ジン、ニン。而鄰切 〔眞〕

人に同じ、ひさ。○〔六書略〕「人象ニ立-人一、—象ニ行-人ニ」。

【兀】カイ、ケ。居拜切 〔卦〕

仁ある人、あばれみあろひさ。

一畫

【兀】ゴツ、ゴチ。五忽切 〔月〕

（說文）从ニ一在ニ人上一。

㊀上平かにして高し、又、高し。○〔李白〕「崒——棲ニ猛-虎ニ」。

㊁動かざる貌にいふ字。○〔韓愈〕「焚ニ膏油一以繼レ晷、常——以窮レ年」。

㊂禿げたる貌にいふ字。○〔杜牧〕「蜀-山—阿房出」。

㊃無知なる貌にいふ字。○〔孫綽〕「—同ニ體於自-然ニ」。

㊄安からず、あやふし。○〔歐陽修〕「豈如ニ扁-舟一任ニ飄-—ニ」。

㊅あしきろ、（刖）。○〔莊〕「魯有ニ—者ニ」。

（敖兀）高ぶりて屈せざる貌にいふ語。○〔韓愈〕「—坐-試-席ニ」。

（搖兀）ゆるゝこと。○〔范成大〕「竹-輿——走婆婆」。

（碑兀）危險なる石。○〔柳宗元〕「邊ニ-突——ニ」。

（臬兀）物事のおからざる貌にいふ語。○〔杜甫〕「生-涯臨ニ——ニ」。

（突兀）つきでてたかし。○〔宣和畫譜〕「瀬-臺——、碧落孕-育」。

二畫

【允】イン、ヱン。余準切 〔軫〕

㊀誠實にして僞りなきこと、まこさ。○〔書〕「告ニ汝朕—ニ」。

㊁あたろ、（當）。○〔後漢〕「案レ法平——、務存ニ寬-恕ニ」。

㊂うけがふ、うべなふ、がへんず、（肯）、又、ゆるす、（許）、ぶたがふ、（從）。○〔韓愈〕「不レ蒙ニ察——ニ」。

（忠允）眞實にして虛僞なし。○〔晉〕「溫-恭——」。

（聽允）智明かにして誠實なり。○〔薛瑩〕「——之德著矣」。

（明允）前に同じ。○〔書〕「惟—克—」。

（開允）許すこと。○〔唐〕「所ニ奏-建一無レ不ニ——ニ」。

（詳允）物事にくはしく處置の其の道にかなふこと。○〔沈約〕「才-學-淹-通、識-裁———」。

（該允）前に同じ。○〔沈約〕「可ニ詳-議務令ニ——ニ」。

（兪允）ゆるし。○〔宋〕「覺得ニ——ニ」。

（哀允）あはれみゆるす。○〔任昉〕「如蒙ニ——ニ」。

（矜允）前に同じ。○〔崔融〕「區-々之誠敢希ニ——ニ」。

（曲允）ねんごろにしてまことあり。○〔庾信〕「—微-誠」。

【元】ゲン、グワン。愚袁切 〔元〕

㊀天地の太德。○〔易〕「—者善之長也」。

㊁氣。○〔公羊註〕「變レ一爲レ—、—者氣也」。

㊂天。○〔淮〕「執ニ—德於心ニ」。

㊃善。○〔禮〕「天-子之—士」。

㊄もさ。

（い）原始、ねもさ。○〔易略例〕「統レ之有レ宗、會レ之有レ—」。

（ろ）其のねもさは、其のおこりは。○〔匡謬正俗〕「—起ニ軍-戎ニ」。

㊅端初、はじめ。○〔王燭〕「歲之—、時之—、月之—」。

㊆改曆の第一日、年號の第一年、卽位の第一年、革命の第一年。○〔後漢〕「光-晃所レ據、殷-曆之—也」。

㊇王朝の革命、君王の卽位、曆日又は年號。○〔晉〕「大-晉闡レ—」。

㊈かしら。

（い）頭首、かうべ。○〔孟〕「勇-士不レ忘レ喪ニ其—ニ」。

（ろ）首長、をさ、つかさ。○〔春秋繁露〕「君レ人者國之—」。

㊉たみぐさ、人民。○〔漢〕「陛-下躬發ニ聖-德一、統ニ楫羣——ニ」。

（乾元）天、そら、あめ。○〔易〕「大哉——、萬-物資始」。

（坤元）地、つち、とち。○〔易〕「至哉——、萬-物資生」。

（允元）よきことをまことにす、又、信實にして善良なること。○〔書〕「惇レ德—レ—、而難ニ任レ人ニ」。

（宗元）もと。○〔易、略〕「統レ之有レ—、會レ之有レ—」。

（一元）はじめ。○〔漢〕「春-秋謂ニ———之意ニ」。

（混元）もと。○〔晉〕「分ニ——ニ」。

（天元）（い）もと、又、そら、あめ。○〔史〕「推ニ本——」。

（ろ）國君。○〔後漢〕「啟ニ——之尊ニ」。

（は）音樂の名。○〔庾信〕「合ニ——于六-舞ニ」。

（眞元）もと、はじめ。○〔蘇轍〕「病-根欲レ去——在」。

（玄元）前に同じ、又、老子の追尊號。○〔常袞〕「尊ニ———于上宮一、本-枝既盛」。

（霄元）あめ、そら。○〔雲笈〕「氣貫ニ——ニ」。

（改元）（い）年號をあらたむ、代をかふ。○〔中說〕「—レ—立レ號非レ古也」。

（ろ）轉じて、政治をあらたむるにもいふ語。○〔春秋、疏〕「諸-侯于ニ其封-內一各得レ—レ—」。

（三元）（い）歲と月と日とのはじめなるより一月一日をいふ。○〔隋〕「萬-壽——始」。

（ろ）上元、中元、下元、卽ち陰曆一月十五日と七月十五日と十月十五日と。○〔十六國春秋〕「天-地一變盡ニ——而止」。

（は）天と地と人と。○〔王昌齡〕「王-德——正」。

（に）進士の試に及第して第一第二第三の席次にあたる三人。○〔李東陽〕「本-朝科-甲重ニ——ニ」。

（元々）（い）もとをもとゝす、又、もと。○〔後漢〕「—レ本レ本」。

（ろ）たみぐさ、人民、又、多くあつまりてあはれむべき貌にもいふ語。○〔戰〕「制ニ海-內一子ニ——ニ」。

（黎元）前の（ろ）の前段に同じ。○〔後漢〕「消ニ-救災-害一、安ニ輯——ニ」。「—三-場ニ」。

（狀元）及第進士の第一席にあたる者。○〔宋〕「—ニ

三畫

【兄】ケイ、キヤウ。許榮切 庚

あに。
(い)親を同じくして先きに生まれたる男子の稱、このかみ、いろせ。○[孝]「敬二其一弟悦」。
(ろ)優位にある人、長者。○[世說]「元方難レ爲レ一、季方難レ爲レ弟」。
(は)親密なる同輩の敬稱。○[蘇軾]「雖二一之愛一レ我厚二」。

〔伯兄〕第一の兄。○[書]「伯父一一」。
〔長兄〕前に同じ。〔中兄〕第二のあに。○[晉]「長兄最善、中兄次レ之」。
〔適兄〕あに。○[班固]「歸々國老適父一一」。
〔外兄〕をばの子にて己れより年上の者。○[後漢]「呼下之一一也」。
〔從兄〕いとこにて己れより年上の者。○[左]「兵二其一一二不レ養レ親也」。「一稱レ兄」。
〔母兄〕同じき母より生まれたる兄。○[公羊]「一一」。
〔老元〕年老いたる兄、又、年長の友人の尊稱。○[白居易]「如三弟弱二一一二」。
〔阿兄〕あに。○[古詩]「一一得レ聞レ之」。
〔家兄〕あに。○[晉]「一一不レ改二其樂二」。
〔庶兄〕妾腹の兄。○[史]「紂之一一也」。
〔尊兄〕またしき友人の敬稱、又、人のあにの敬稱。「未二推抑二」。
○[蜀]「一一應レ期」。
〔仁兄〕前に同じ、又、あにの敬稱。○元稹]「一一
〔吾兄〕またしき友人の敬稱、又、われのあに。○[韓愈]「獲二一一二十四日之手書二」。
〔女兄〕あね。○[史記]「俾二同氣一一學二弁引決二」。
〔孔方兄〕四角のあなある貨幣、轉じて金錢の汎稱。○[蘇軾]「一一有レ絕レ交書二」。

【兄】キヤウ。許放切 漾

㊀怳に同じ、おそる。○[詩]「不レ殄二心憂一、倉一塡兮」。
㊁況に同じ。
(い)いはんや、まして。○[樊毅]「君善必書、一乃盛德」。
(ろ)たくらぶ、くらぶ、たさふ。○[白虎通]「一者況也況二于父一也」。
㊂おほいなり。○[釋名]「一荒也」。

【充】シウ、昌終切 東 ジュ。切

——充に作るは非なり。

㊀みつ、(滿)。○[淮]「怒則血一」。
㊁ふさぐ、ふさがか、(塞)。○[詩]「褎如二一耳二」。
㊂あつ、(當)、そなふ、(備)、おこなふ、(行)。○[漢]「一二庖廚二而已」。
㊃ながし、(長)、たかし、(高)、又、おほいなり、(大)、又、うつくし、よし、(美)。○[淮]「近レ之則鐘音一」。「也」。
㊄おほふ、(覆)。○[禮]「服之襲也一レ美也」。
㊅おく、(置)。○[周]「射則一二椹質二」。
㊆こゆ、ふさる、(肥)。○[儀]「宗人視牲告レ一」。
㊇わづらはし、(煩)。○[左]「事一政重」。

〔殷充〕多きこと。○[吳都賦]「物産一一」。
〔肥充〕肥滿に同じ。○[周]「使之一一二」。「矣」。
〔擴充〕推しひろげ滿たすこと。○[孟]「知二皆一而一レ之

四畫

【兜】コ、ク。公戶切 麌

㊀おほふ、(蔽)。㊁めしひ、めくら、(瞽)。

【兆】テウ、デウ。治小切 篠

㊀龜の甲を灼き其の坼けたる象に依りて占ふこと、うら。○[周]「掌二三一之法二」。
㊁うらに見はれたる形象、うらかた。○[漢]「一得二大橫二」。
㊂壇域、塋界、まつりのには、はかばのさかひ。○[孝]「卜二其宅一一二」。
㊃事まさに作らんとす、はじまる、きざす、物まさに見はれんとす、はじまる、きざす。○[老]「我則泊兮其未レ一」。
㊄物事の徵候、はじまり、きざし、まろし。○[劇談錄]「略無二陰曀之一二」。
㊅形象、かた、かたち。○[晉]「聽レ無レ聲視レ無レ一」。
㊆億を萬倍したる數の稱、又、億を十倍したる數の稱。○[戰]「有二億一一之數二」。「計二億事一材二一物二」。
㊇衆庶、多數、おほし、もろく。○[國]

〔萌兆〕きざし。○[晉]「吉凶之一一、榮辱所二由生二也」。「一紓疾」。
〔綴兆〕舞樂をなす者相連なるさかひ。○[禮]「一一
〔三兆〕玉兆即ち帝顓頊の用ひしうらかた、瓦兆、即ち帝堯の用ひしうらかた、原兆、即ち周の用ひしうらかたの三つ。○[周]「掌二一一之法二」。
〔基兆〕もとゐ、はじめ。○[漢]「正二一一二而防二未然二也」。
〔京兆〕(い)みやこ、首府。○[漢]「更爲二一一尹二」。
(ろ)京兆尹、首府に於ける行政の長官。○[漢]「敞爲二一一二、爲婦畫眉」。
〔形兆〕かたち。○[論衡]「兩無二一一二」。
〔壇兆〕鬼神を祭る場所。○[後漢]「修二光武山南一一二」。
〔郊兆〕天を祭る場所。○[漢]「漢家一一」。
〔徵兆〕まるし、きざし。○[漢]「一一爲レ之先見」。
〔朕兆〕前に同じ。○溫岐]「窺二勝負于一一二」。
〔祥兆〕めでたきまるし。○[鶡冠]「表二僞一一二」。
〔休兆〕前に同じ。○[唐]「一一必彰」。
〔億兆〕(い)億と兆の數と、又、物事のおびたゞしきことに借りいふ語。○[識]「相去有二一一之數二」。
(ろ)たみくさ、人民、其數のおほきよりいふ。○[劉琨]「一一所レ歸、曾無二與二二」。
〔卦兆〕うらかた。○[淮]「稽二一一二察吉凶二」。
〔古兆〕うらかた。○[國]「天一既一」。
〔機兆〕きざし。○[劉禹錫]「禍來應二一一二」。
〔膺符兆〕天子となるしるし。○[後漢]「大運蕩除之群、聖帝一一之一」。
〔遊兆〕ひのえ。○[史]「一一執除三年」。

【兇】キヨウ、許容切 冬 クウ。切

——[說文]从二人在凶下一。

㊀凶に通じ用ふ、あし、あらし、わるもの、わざはひ。○[唐太宗]「除レ一報二千古二」。
㊁恟に通じ用ふ、おづ、おそる、みだる。「○[左]「曹人一懼」。

〔聚兇〕あつまりてあるあぶれ者。○[唐]「一一所レ聚宜二先攻一レ之」。
〔嚚兇〕前に同じ。○[王晉]「築レ壘防二一一二」。
〔委兇〕わる者。○[宋]「行二威令一一一二」。「一」。
〔懾兇〕兇寒さ甚しきにいふ語。○[韓愈]「歲弊一一

【先】セン。蘇前切 先

㊀さき。
(い)はじめ、(始)。○[老]「象二帝之一二」。
(ろ)まへ、(前)。○[史]「春夏一秋冬後、四時之序也」。
(は)かしら、(首)。○[左]「晉楚爭レ一」。
(に)むかし、(故)。○[韓愈]「未レ知レ修二明一王之道二」。「之功二」。
(ほ)高きこと。○[戰]「有二明レ古一レ世」。
(へ)急なること。○[禮]「教學爲レ一」。
(と)早きこと。○[韓愈]「生二乎吾前二其聞レ道也固一二乎吾二、吾從而師レ之」。
(ち)さきだち、さきて、さきがけ。○[漢]「項王伐レ齊、身負二版築一爲二士卒一二」。
(り)さりもち、なかだち、又、まれたち、まれたく。○[漢]「此眞吾所レ願二從游一、莫レ爲二我一二」。
㊁已に身まかりたる父祖、せんぞ、もと。○[司馬遷]「太上不レ辱レ一」。
㊂さきに、さきさして、はやく、まづ。○[歐陽修]「必一正二穿之惡二」。

〔最先〕はじめ、はじまり、又、第一、まさき。○[漢]「宜當一一褒レ之」。
〔一先〕前に同じ。○[截復古]「梅信與レ春開一一」。
〔秀先〕すぐれて第一。○[楚辭]「激楚之結獨一一」。
〔奉先〕せんぞにつかふ。○[書]「一レ一思レ孝」。「〔典〕」。
〔古先〕むかし、いにしへ。○[晉]「一一智士」。
〔儒先〕文字を知りたる年長けし人。○[史]「一一以爲欲レ說二折其辨二」。
〔祖先〕身まかりし父祖、せんぞ。○[參同契]「搽紹二一一二」。
〔機先〕物事の起こるさき。○[宋]「與呂晦同見」。「一一二」。

【先】　セン。先見切　霰

㊀さきんづ、さきだつ。
(い)さきさなる、さきにあり。〇〔禮〕「天—ニ乎地一君—ニ乎臣一」。
(ろ)さきに唱ふ、さきに宣ぶ。〇〔莊〕「楚-王使ニ大-夫二-人往—一」。
(は)さきに知る、さきに爲す。〇〔易〕「—レ天而天弗レ違」。
(に)あさにあるべき者のさきさなるにいふ字。〇〔孟〕「疾行—ニ長-者一」。
(ほ)みちびく、つれだつ、さきさなりてあんないをなす。〇〔國〕「二-人執レ矛—レ爲」。
㊁さきだつ。
(い)さきとなす、さきにおく。〇〔左〕「—ニ吳壽-夢之鼎一」。「而後レ德」。
(ろ)尙ぶ。〇〔呂氏春秋〕「五-帝—レ道」
㊂兄の妻を弟の妻の呼ぶに用ふる稱、あによめ(姒)。〇〔漢〕「見ニ神—-後宛-若一」。

〔身先〕自分が他よりさきだちて爲す。〇〔舊唐〕「入レ陣率以—-—」。
〔帥先〕さきにたりてみちびく。〇〔晉〕「躬ニ稼-穡之艱-難一、以—ニ-—天-下一」。
〔推先〕おして第一となす。〇〔後漢〕「然皆—ニ-—」「于愼一」。
〔越先〕其の人のさきになる。〇〔吳〕「非下爲ニ臣所上レ可ニ—-—一」。「秋」「凡兵欲ニ急-疾—-—一」。
〔提先〕はやくすゝむこと、又、さきがけ。〇〔呂氏春〕
〔後先〕おくれたりさきたちたりすること。〇〔宋〕「各—-—」。

【先】　セン。蘇典切　銑

洗に同じ、さきがけ、みちびき(前-驅)。〇〔國〕「句-踐親爲ニ夫-差—-馬一」。

【光】　クワウ。古黃切　陽　〔說文〕从ニ火在ニ人上一、本作レ炗。

㊀ひかり。
(い)物を照らす氣。〇〔後漢〕「有ニ赤-—照ニ室-中一」。
(ろ)あかり。〇〔戰〕「我無ニ以買レ燭、而子之燭—幸有レ餘」。
(は)つや、いろ。〇〔論衡〕「珠—-—出ニ於魚-腹一」。
(に)さかえ、ほまれ、威勢。〇〔淮〕「然莫ニ能與レ之同レ—者一」。
(ほ)かげ、景。〇〔揚雄〕「炎—-—飛-響」。
㊁ひかりを放つ、てらす、かゞやく、ひかる、あきらか、つやゝか。〇〔漢〕「畫冥宵—」。「—有ニ天-下一」。〇〔左〕
㊂おほいなり(大)、ひろし(廣)。

〔謙光〕へりくだれば尊に居るも其の德のますくあらはるゝこと。〇〔易〕「—尊而—」。
〔輝光〕かゞやく、又、ひかり。〇〔易〕「—-—日新ニ其德一」。「—也」。
〔道光〕德のあらはるゝことにいふ語。〇〔易〕「地-—」
〔重光〕一つのひかりのある上に更に他のひかりかさなる、轉じて前後相繼いで德を行ふことにいふ語。〇〔書〕「文-王武-王宣ニ—-—一」。
〔龍光〕君子の德を賞讚していふ語。〇〔詩〕「既見ニ君-子一、爲レ—爲レ—」。「—也」。
〔三光〕日と月と星辰と。〇〔禮〕「三-賓象ニ—-—一」
〔寵光〕君上の恩德を蒙むるとの敬稱。〇〔左〕「宴-語之不レ懷、—-—之不レ宣」。
〔流光〕(い)日月の影などの水にうつりて其のひかりのながるゝにいふ語、又、其のながるゝ影にいふ語。〇〔蘇軾〕「擊ニ空-明一兮泝ニ—-—一」。
〔搖光〕たまのひかり、又、うつくしきひかり。〇〔江淹〕「變ニ—-—之暉一」。
〔容光〕(い)ふくむひかり。〇〔孟〕「—-—必照」。
(ろ)みめかたちのうつくしきにいふ語、又、德貌の盛んなるにいふ語。〇〔張華〕「蘭-室無ニ—-—一」。
〔末光〕すゑのひかり、又、おかげ。〇〔史〕「依ニ日-月之—-—一」。
〔餘光〕前に同じ。〇〔史〕「子可レ分ニ我—-—一」。
〔爭光〕(い)かゞやくことをくらぶ。〇〔晉〕「拔レ劍與ニ夕-火一—レ—」。「月ニ—上—可也」。
(ろ)德を同じくす。〇〔史〕「推ニ此志一也、雖下與ニ日-月一—レ—」。
〔參光〕前に同じ。〇〔莊〕「吾與ニ日-月ニ—レ—」。

〔神光〕不思議のひかり。〇〔漢〕「常有ニ—-—一」。
〔靈光〕(い)前に同じ。〇〔蜀〕「—-—徹レ天」。
(ろ)恩德。〇〔汲冢周書〕「未レ被ニ先-王之—-—一」。
〔景光〕(い)ひかり、又、恩德、榮譽。〇〔後漢〕「可下垂ニ—-—致ニ休-祥上」。
(ろ)ひかげ、歲月。〇〔蘇武〕「隋時愛ニ—-—一」。
〔壁光〕漢の匡衡の故事よりかべを透して來る燈のひかりにいふ語、轉じて苦學することにも借りいふ語。〇〔漢〕「衡勤レ學、家貧無レ燭、隣-舍有レ燭而不レ逮、乃鑿レ—引ニ其—一而讀レ之」。
〔和光〕德をかゞやかさゞることにいふ語。〇〔老〕「—ニ其—一同ニ其塵一」。「—一」。
〔精光〕(い)さえわたるひかり。〇〔北〕「目有ニ—-—一」。
(ろ)ほまれ。〇〔晉〕「—-—赫ニ於楊-楚一」。
〔朝光〕あさひかげ、又、あさひ。〇〔唐太宗〕「箋-閣媚ニ—-—一」。
〔葆光〕(い)道德を內に藏蓄してひかりを外にあらはさず。〇〔莊〕「注焉而不レ滿、酌焉而不レ竭、而不レ知ニ其所ニ由-來一、此之謂ニ—-—一」。
(ろ)勢力、榮譽などの依然たるにいふ語。〇柳宗元〕「身富而家强、子-孫—レ—」。
〔晨光〕朝のひかげ。〇〔陶潛〕「恨ニ—-—之熹微一」。
〔朱光〕(い)あかきひかり。〇〔曹植〕「目發ニ—-—一」。
(ろ)太陽。〇〔謝眺〕「—-—既夕」。
〔幽光〕かすかなるひかり、又、あらはれざる德。〇〔韓愈〕「發ニ潛-德之—-—一」。
〔素光〕しろきひかり、月影にいふ語。〇〔宋熹〕「川-谷流ニ—-—一」。「—鋪ニ碧-簟一」。
〔曉光〕夜あけになりてあかるきこと。〇〔劉禹錫〕「—-—且莫レ去」。〇〔春宴錄〕
〔春光〕はるげしき。
〔韶光〕うらゝかなる太陽のひかり、又、はるげしき。〇〔溫庭筠〕「—-—染レ色如ニ蛾-翠一」。
〔晶光〕きらめくひかり。〇〔韓愈〕「—-—蕩相射」。
〔國光〕其の國の勢、其の國の政化。〔觀光〕其の國の勢、又、政化などを視察すること、又、ながめ、けしきの義にも用ふる語。〇〔易〕「觀ニ國之光一、利レ用ニ賓于王一」。
〔耿光〕あきらかなるひかり、又、德。〇〔書〕「以覲ニ文-王之—-—一、以揚ニ武-王之大-烈一」。
〔顯光〕ひかりをあらはす、德をあらはす、又、あきらかなるひかり、あきらかなる德。〇〔史〕「人之好レ德、克明ニ—-—一」。

〔光々〕ひかりのまばゆき貌、又、かゞやく貌にいふ語。〇〔詩、傳〕「成-王有ニ—-—之善-德一」。
〔榮光〕さかゆるほまれ、德、勢、又、くもりなきひかり。〇〔李白〕「—-—休-氣紛」。
〔休光〕おほいなるほまれ、いさを。〇〔韓愈〕「士之能垂ニ—-—一」。
〔威光〕おそれ敬ふべき勢、德。〇〔曹植〕「—-—佐ニ掃辰-彗北-鐙一」。
〔遺光〕後世にのこりたる德澤。〇〔李安〕「永思ニ庶ニ先-哲之—-—一」。
〔陽光〕大陽のひかり、又、天子の德の敬稱。〇〔柳宗元〕「—-—鏡ニ四-濱一」。

【光】　クワウ。古曠切　漾

ひかり、いろ、つや、ひかる、つやゝか。〇〔史〕「漆-城—-—寇來不レ可レ上」。

五畫

【克】　コク。苦得切　職　—剋に通じ用ふ。

㊀爲し得、たふ、あたふ、よくす。〇〔易〕「小-人弗レ—」。「德一」。
㊁爲し得て、よく。〇〔書〕「—明ニ峻-德一」。
㊂かつ。
(い)他に超ゆ、すぐる、まさる。〇〔書〕「沈-潛剛-—、高-明柔-—」。
(ろ)敵を敗る。〇〔禮〕「我戰則—」。
(は)私慾を抑ふ。〇〔論〕「—レ己復レ禮」。
㊃何事によらず、他にかたんさ爭ふにいふ字、志のぐ、すれあふ、かち氣。〇〔左〕「不レ忌不レ—」。

〔溫克〕きはめておだやかなること。〇〔詩〕「飮レ酒—-—」。
〔相克〕たがひにかちあふ。〇〔易〕「大-師相遇言ニ—-—一」。
〔掊克〕あつめをさむること、重き租稅を取り立つること、又、其の者。〇〔孟〕「—-—在レ位則有レ讓」。
〔铩克〕くはしくつまびらかになす。〇〔書〕「其罪惟均、其—ニ-—之一」。

(鑿克) 敵將をとりこになし敵をやぶる。○[吳]「征必――、誠如二明詔一」。「慮レ不二――一」。
(辯克) 物事を處置することを得。○[宋]「貴名尙輕、
(攄克) かつ。○[唐]「奮二奇兵一出二不意一、多レ所二――一」。「咨二利慾一」。
(謙克) へりくだること。○[蔡邕]「雅性――、不
(武克) 武を以て勝つこと。○[王安石]「文馴――」。
(忌克) 他をいみ之にまさらんと思ふこと。○[左]「其言多二――一」。

【兌】タイ、デ。徒外切 泰

㊀易の卦の名、☱☱(兌下兌上)。○[易]「―亨利レ貞」。
㊁よろこぶ(悅、說)。○[易]「和―、吉」。
㊂あつまる(聚)。○[荀]「仁人之兵―則若二莫邪之利鋒一」。
㊃水のあつまる處、さは(澤)。○[易]「―爲レ澤」。
㊄さほる(通)。○[詩]「行道―矣」。
㊅なほし(直)。○[詩]「松栢斯―」。
㊆あな(穴)。○[老]「塞二其―一、閉二其門一」。
㊇かふ(貤易)。○[丁芝仙]「十千―得二餘杭酒一」。

【兌】エイ、エ。兪芮切 霽

銳に通じ用ふ、するどし。○[史]「隨二北端―一」。

【兌】エツ、エチ。雨厥切 月

說に通じ用ふ、よろこぶ。○[禮]「――命曰」。

【免】ベン、メン。亡辨切 銑

㊀まぬかる。
(い)避けて其の事に預らず。○[禮]「臨レ難毋二苟―一」。
(ろ)抑へて其の事を爲さず。○[禮]「人情之所レ不レ能レ―」。
㊁脫し去る、ぬぐ。○[國]「―レ胄而聽レ命」。
㊂其の束縛を解く、はなつ、ゆるす。○[漢]「遂―二丞相勃一遣就レ國」。
㊃官職を解く、やむ、しりぞく。○[漢]「不レ察レ廉不レ勝レ任也當レ―」。
(解免) (い)まぬかる。○[宋]「雖二常世宿學一不レ能二自――一也」。「―己上」。
(ろ)しりぞけらるゝこと。○[舊書]「有二犯贓一至二――一、並終身勿レ齒」。
(赦免) 罪をゆるすこと。○[舊唐]「縱逢二――一、家居沒齒」。
(病免) やまひにて官をやむ。○[漢]「相如既――」。
(優免) 情狀をくみはかりてゆるす、又、くつろげて自由ならしむ。○[北]「境內偏旱者――二租調一」。
(完免) 無事にまぬかる。○[後漢]「惟文公大小負レ糧提レ步、悉得二――一」。
(宥免) ゆるす、ゆるし。○[北]「皆蒙二――一」。
(寬免) 前に同じ。○[元]「下二――之令一」。
(罷免) 職を解く。○[舊唐]「至レ是並令二――一」。
(除免) 前に同じ。○[舊唐]「有レ以二――一」。
(黜免) 罪に依りてしりぞけらるゝこと。○[舊唐]「誅伐――以懲レ惡」。
(貴免) 前に同じ。○[宋]「貶除――者量移敍用」。
(庇免) かげにてまぬかる。○[唐]「魏人德二華――一」。
(徐免) なまけて物事の延引すること。○[唐]「依阿――」。
(放免) はなちゆるす。○[宋]「皆入男女爲二奴婢一、轉傭利者並――」。
(蠲免) 賦役、租稅をのぞきまぬかれしむ。○[元]「――有二以恩免者一、有二以災免者一」。
(停免) とゞめゆるす。○[宋]「――二兩浙水災州郡夏稅一」。
(開免) 其のまゝにしてゆるす。○[宋]「――通負」。

【免】バン、マン。無飯切 願

喪中にありて被る冠。○[春秋傳]「陳侯―擁レ社」。

【免】ブン、モン。文運切 問

㊀娩に通じ用ふ、こなうむ。○[國]「將レ―者以告」。
㊁一に絻に作る、喪中にありて冠を去り髪を括ると、一說に始めて喪を發する時に著くる服、一說に棺を引く索。○[左]「季氏不レ―」。
㊂物の新鮮なること。○[禮]「堇荁枌―二―薨一」。

六畫

【兔】ト、ツ。湯故切 遇

一種の小獸、うさぎ、耳長く脣缺けて長き鬚あり、其の毛は筆に製すへし、古昔支那にては之を明月の精となし月を視て生むと傳へたりき、兎は兔の字に从ひ一點を加ふ、俗に兎に作るは非なり、一に菟に作る。○[論衡]「―舐レ毫而孕」。
(脫兔) にげゆくうさぎ。○[蘇軾]「鷙鴻――擊二牛後一」。「搏―――」。
(蹇兔) あしなへのうさぎ。○[史]「譬若三逐二韓盧一而
(狡兔) すばしこきうさぎ。○[戰]「――有二三窟一」。
(蟾兔) 月の異名。○[劉孝綽]「――屢盈虛」。
(銀兔) 前に同じ。○[隋煬帝]「淸露冷――影」。
(玉兔) 前に同じ。○[賈島]「――潭底沒」。
(月兔) 前に同じ。○[劉孝威]「高宣掩二――一」。

【兒】ジ、ニ。汝移切 支

㊀こ。
(い)幼少なる者、弱年なる人、ちご、をさなご、みどりご、わらはべ、こども、わかもの。○[南]「公以二十歲―一付二吾等一、當レ共思レ竭レ力」。
(ろ)兩親の閒に生まれたる人、其の生みたる兩親に對していふ。○[晉]「天道無レ知、使二伯道無一レ―」。
(は)すべて、をさめの閒に生まれたるもの、其の生みたるをさめに對していふ。○[梅堯臣]「東池蝦蟆―、無レ限相跳梁」。
(に)人を輕んずる意を含みたる稱呼に用ふる字。○[後漢]「布目レ備曰、大耳―最可レ信」。
㊁動植物又は器具などの名稱に付け用ふる字。○[蓋嘉運]「打二起黃鶯―一」。
(嬰兒) みどりご。○[老]「――之未レ孩、終日號而不レ嗄」。
(孤兒) みなしご。○[史]「號レ泣趙――」。
(侍兒) こしもと。○[李純甫]「――醉臉潮二春風一」。
(弄兒) 君王にめし使はるゝこども。○[漢]「日磾子二人、皆愛爲二帝――一」。
(義兒) 他人の兒を養ひて己れの子としたるもの。○[五]「往々養以爲レ兒、號二――軍一」。
(健兒) 勇壯のわかもの。○[王智興]「三十年前老――」。
(偸兒) ぬす人。○[世說]「子敬曰、――、靑氈是吾家舊物、可二特置一レ之」。
(鳳兒) 人に勝れて賢明なること。○[指月錄]「龍生二龍子一、鳳生二――一」。
(牧兒) 牛馬を飼養する童子。○[朱熹]「――吹レ笛晚風斜」。
(廬兒) めし使ひのもの。○[漢]「蒼頭――皆用致レ富」。
(童兒) わらはべ。○[漢]「――牧豎莫レ不二眩耀一」。
(大兒) (い)あに。○[杜甫]「――色淸徹、秋水爲レ神玉爲レ骨」。
(ろ)轉じて相似たる賢者の優劣を判するに優者の地位に借り用ふる語。○[後漢]「――孔文擧、小兒楊德祖、餘子碌々不レ足レ數也」。
(小兒) (い)おとうと。○[杜甫]「――五歲氣食レ牛」。
(ろ)劣者の地位に借り用ふる語。○前の(ろ)の例に同じ。
(は)こども。○[史]「拜二大將一如レ呼二――一耳」。
(に)轉じて他を賤しめて呼ぶに借り用ふる語。○[晉]「――輩大破レ賊」。
(男兒) をとこのこ。○[唐]「南八――死耳、不レ可下爲二不義一屈上」。
(驕兒) 氣儘に育ちたるこども。○[杜甫]「――惡臥踏二裏裂一」。
(家兒) 父祖の血系を承けたる子供、其の家に生まれたる男子。○[韓愈]「稱二其――一者也」。
(雄兒) 人にすぐれたるやつ。○[魏]「姜維自一時――也」。
(瞎兒) すが目のもの。○[晉]「吾聞――一淚、信乎」。
(吳兒) 吳の國のやつ、賈充の言より無情の人に借りいふ語。○[晉]「賈充稱レ統、此――石人木腸也」。
(乞兒) ものもらひ、こつじき。○[天寶遺事]「此皆向レ火――、一旦炭冷當レ委二骨溝中一」。
(焠兒) かねとかねとを打ち合はせて火を發せしむる器、火打箱の如きもの。○[輟耕錄]「――之名

發レ火、及代ニ燈燭ー用也」。
〔魚兒〕うをのこ。○〔杜甫〕「細雨一一出」。
〔輕薄兒〕情義に乏しく狡猾なる行ひある人。○〔沈約〕「長安一一一一」。
〔豚犬兒〕おろかにして物事の役に立たぬこども。○〔吳歷〕「生レ子當レ如ニ孫仲謀ー、劉景升一子若ニ一一耳」。
〔羽林兒〕近衛兵。○〔岑參〕「鳴レ弓擐レ甲一一一一」。
〔寧馨兒〕斯の樣の男子の義にて俗語なりといふ。○〔世說〕「何物老嫗生ニ此一一一ー」。
〔阿孩兒〕みどりご。○〔摭言〕「一雙前進士、兩箇一一一一」。
〔黃口兒〕ちゝのむこども、智慮經驗の淺き人を冷罵するに用ふる語。○〔古辭〕「當レ用ニ此一一一ー」。
〔黃頷兒〕前に同じ。○〔北〕「一一小一一塌ニ當軍任ー不」。「白」「西秦一一一」。
〔豪傑兒〕人にすぐれて勇壯なるわかもの。○〔李咕囁耳語」。
〔女曹兒〕をんなこども。○〔漢〕「乃效ニ一一一一」。
〔竊果兒〕東方朔の西王母をまどよりうかゞひし故事よりぬすびとにいふ語。○〔博物志〕「此一レ一小一、官三來偸ニ我桃ー」。「一」。
〔傭販兒〕やとはれもの。○〔五〕「此汴宋一一一一」。
〔田舍兒〕ゐなかもの。○〔五〕「用レ人不レ以ニ門閥ー、而先ニ一一一一耶」。「一一一爲レ遺」。
〔葫蘆兒〕ふくべ、へうたん。○〔夢華錄〕「以ニ新一一」。
〔籜龍兒〕竹の子。○〔朱希年〕「一雷驚起一一一」。

【兒】ゲイ、ガイ。五稽切 齊
倪に通じ用ふ、幼き者、こども。

【兟】シン。子心切 侵
するどし（銳）。

【兟】サン。則旰切 翰
たすく、ほむ（贊）。

【兕】シ、ジ。徐姊切 紙
野牛に似たる一種の獸。○〔說文〕「狀如ニ野牛ー而靑」。

七畫

【兀】ゴツ、ゴチ。五骨切 月
卼に同じ、あやふし。

六畫

【兗】エン。以轉切 銑
たゞし（端）、まこと（信）。

【兜】タウ。底朗切 養
人の姓。

【兒】昆に同じ、兄の別稱、このかみ、あに。○〔計有功曰〕「一有レ意乎」。

九畫

【兜】トウ、ツ。當侯切 尤
一〔說文〕从レ兜从ニ兒省ー、象ニ人頭形ー。
㊀かぶと（首鎧）。㊁さわがし、まごふ。○〔唐〕「脫ニ一鍪ー」。○〔國〕「在レ列者獻レ詩使レ勿レ一」。

十畫

【兟】シン。所臻切 眞
㊀すゝむ（進）。㊁おほし（衆）。

十二畫

【兢】キヨウ、コウ。居陵切 蒸
㊀つよし（强）、かたし（堅）。○〔詩〕「矜々一一、不レ騫不レ崩」。
㊁いましむ（戒）、つゝしむ（愼）、又、おそる（懼）、又、自ら安んぜざる貌にいふ字。○〔書〕「一一業々」。
㊂戰栗す、ぞッとする、ふるふ、わなゝく。○〔漢〕「入ニ淩一一」。
〔戰兢〕おそれつゝしむ、又、わなゝく。○〔詩〕「戰一一、如レ臨ニ深淵ー、如レ履ニ薄氷ー」。
〔慫兢〕おそれやすんぜず、又、わなゝく。○〔西京賦〕「悼慄而一一」。「一一」。
〔惕兢〕つゝしむ、おそる。○〔顧淸〕「爲ニ感歲時ー復一一」。
〔凛兢〕わなゝく、ふるふ。○〔顧淸〕「捫レ蘿踏レ雪幾一一」。

十四畫

【兢】涼に同じ。

【兟】ゼウ、テウ。日嬌切 篠
とほし（遠）。

十九畫

【兟】クワウ、ワウ。虎晃切 養
火の光り明らかなり、かゞやく。

廿四畫

【兟】フ、ホ。芳句切 遇
㊀はやし、とし（急疾）。㊁おもむく（赴）。

入部

【入】ジフ、ニフ。日汁切 緝
㊀いる。
（い）內へ至る。○〔史〕「爭レ門而入」。
（ろ）內へ致す。○〔史〕「爲レ我呼一」。
（は）すゝむ（進）。○〔禮〕「比レ御而不レ一」。
（に）うく（受）。○〔國〕「箴諫以不レ一」。
（ほ）志づむ（沒）。○〔周〕「三一爲レ纁」。
（へ）をさむ、をさまる（納）。○〔左〕「貢之不レ一、寡人之罪也」。
（と）おつ、おとす（墮）。○〔呂氏春秋〕「煤臬一ニ甑中ー」。
（ち）かへる、かへす（還）。○〔戰〕「將軍無レ解レ兵而一レ齊」。
（り）きたる、きたす（來）。○〔禮〕「非ニ養者ー、一主ニ人之喪ー」。
（ぬ）中央政府の吏となる、中央政府の吏となす。○〔韓愈〕「一守ニ內職ー」。
（る）宮禁に仕ふ、宮禁に召す。○〔晉〕「選一ニ成帝宮ー有レ寵」。
（を）國都を侵す、侵して地を有せず。○〔春秋〕「莒人入レ向」。
㊁租稅、收得物。○〔禮〕「每年之率一一均分爲ニ四分ー」。
〔六入〕眼、耳、鼻、舌、身、意をいふ。○〔楞嚴經〕「眼入レ色、耳入レ聲、鼻入レ香、舌入レ味、身入レ觸、意入レ法、皆虛妄」。
〔輸入〕彼れより此れへ運び來たる。○〔史〕「市租皆一一ニ莫府ー、爲ニ士卒費ー」。
〔闌入〕許可を得ずしてはひる。○〔漢〕「一一ニ尚方掖門ー」。
〔撞入〕勢强くつきいる。○〔史〕「噲直一一」。
〔突入〕前に同じ。○〔後漢〕「吏卒一ニ一其家ー」。
〔直入〕猶豫せずにいる。○〔漢〕「樊噲聞ニ事急ー、一一怒甚」。
〔徑入〕前に同じ。○〔宋〕「宗、謂與ニ其親ー一一」。
〔排入〕支ふるものをおしのけている。○〔晉〕「一一羽營」。
〔邑入〕所領の地より收め得たる賦稅。○〔漢〕「賓ニ賜一一」。「之」。
〔廩入〕俸祿として得るもの。○〔唐〕「以ニ一一ー奉」。
〔日入〕日暮る。○〔晉〕「離下坤上、以譬ニ一一於地ー」。
〔收入〕穀物又は金錢などの利得。○〔詩、箋〕「年豐一一踰前」。「地」。
〔陷入〕はまりこむ。○〔左〕「無レ令ニ輿師一ニ一君」。
〔沒入〕官府に取り上げて其の所得とす。○〔漢〕「一一ニ一其器物ー」。
〔歲入〕一年間の收得。○〔宋〕「苟便ニ於民ー、何顧一一一也」。
〔出入〕（い）家より他に往き、又、他より家に歸る。○〔五〕「絕ニ人一一」。
（ろ）金錢の出納。○〔史〕「黃金四萬斤、與ニ陳平ー恣ニ所レ爲、不レ問ニ其一一ー」。
（は）君王の許に往來すること。○〔詩〕「或一一風議、或靡ニ事不レ爲」。
（に）女子の他家に嫁ぎ、又、己れの家にかへるもの。○〔禮〕「四日、一一」。
（ほ）變化の義にも用ふる語。○〔莊〕「油然勃然莫レ不ニ一一焉、油然漻然莫レ不レ一レ焉」。

〔崔四入〕唐の崔垂休といふ人の四たび朝に入りて宰相となりたる故事。〇〔唐〕「四拜二宰相一、世謂二――――一」。

〔早出暮入〕朝往き日暮れて歸る。〇〔晉〕「賢者之治邑也、――――」。

一畫

【亾】亡の本字。

二畫

【內】ダイ、奴對切。ナイ。〔隊〕——説文「从二冂入一、自レ外而入也。」

㊀うち。

(い)あひだ、うら、なか。〇〔左〕「苟主二社稷一、國――之民、其誰不レ爲レ臣」。

(ろ)へや、ねや、つぼれ。〇〔漢〕「築二室家一、有二一堂二――一」。

(は)宮禁、後宮。〇〔韻會〕「天子宮禁曰レ――」。

(に)我が國。〇〔漢〕「貪レ外虛レ――」。

(ほ)我が黨。〇〔史〕「畏二太子妃知而――泄レ事」。

(へ)親族。〇〔儀〕「――賓立二于其北一」。

(と)室家。〇〔漢〕「求二窈窕一、不レ問二佳色一、所二以助レ德理レ――」。

(ち)妻妾。〇〔家語〕「好レ外者士死レ之、好レ――者女死レ之」。

(り)宮人。〇〔周〕「辨二外――一」。

(ぬ)心意。〇〔易〕「君子敬以直レ――、義以方レ外」。

(る)臟腑。〇〔枚乘〕「扁鵲治レ――」。

(を)うちに關する物事。〇〔禮〕「男不レ言レ――、女不レ言レ外」。

㊁いる、(入)。〇〔史〕「惡レ――二諸侯客一」。

〔職內〕官の名。〇〔周〕「――掌二邦之賦入一」。

〔桑內〕賢者を賊ひ人民を害ふ。〇〔周〕「――陵レ外則壇レ之」。

〔宇內〕天が下。〇〔史〕「席二卷天下一、包二擧――一」。

〔海內〕前に同じ。〇〔戰〕「主二威蓋――一」。

〔方內〕國うち。〇〔史〕「――安寧」。

〔大內〕天子の府庫を掌る官の名。〇〔史〕「以二――一爲二二千石一」。

〔五內〕五臟に同じ。〇〔魏〕「聞レ命驚愕、――失レ守」。

〔無內〕物事の極めて細小なること。〇〔莊〕「至小――、謂二之小一一」。

〔正內〕(い)家に在りて婦人たる道を守ること。〇〔易〕「女――位乎――一」。(ろ)路寢を掌る官の名。〇〔周〕「王之――五人」。

〔畿內〕天子の直轄の地。〇〔獨斷〕「京師天子之――――千里」。

〔郊內〕城外の近野。〇〔禮、疏〕「天子以二四郊一爲レ――外、圜丘方澤明堂社稷、皆在二――一」。

〔覓內〕境內に同じ。〇〔左〕「猶在二――一、則衞君也」。

〔彌內〕前に同じ。〇〔史〕「淸二理――一」。

〔治內〕(い)後宮、又、室家を取り締まる。〇〔禮〕「昏后――」。(ろ)身體のうちを醫療す。〇〔枚乘〕「扁鵲――」。(は)國のうちを取り締まる。〇〔謝靈運〕「寧レ外而――」。(に)心を取り締まる。〇〔晉書〕「能使下尊物之援二于我一者、不上レ能レ累二其內一、所二以――一也」。

〔封內〕領地に同じ。〇〔史〕「致二教――一」。

〔期內〕定めたる時限の間。〇〔周〕「――之治聽、期外不レ聽」。

〔序內〕東西の牆のうち。〇〔儀〕「賓升立二於――一東面」。

〔閨內〕婦人の居る處。〇〔左、疏〕「婦人主二――之事一」。

〔信內〕婦人の言を實とし用ふ。〇〔左〕「嗜レ酒――多レ怨」。

〔關內〕函谷關のうち、又、散關など他の關にも用ふ。〇〔史〕「悉發二――兵一」。

〔臥內〕寢處。〇〔史〕「出二入王――一」。

〔房內〕前に同じ。〇〔晉〕「於二――一造二重閤一」。

〔閫內〕郭門のしきみのうち、轉じてくにうちの義に借りいふ語。〇〔史〕「―以―寡人制レ之」。

〔閾內〕前に同じ。〇〔漢〕「――不レ理、無二以終レ外」。

〔禁內〕宮中に同じ。〇〔後漢〕「徵拜二儀郎一、侍二講――一」。

〔省內〕官署の中。〇〔後漢〕「專二制――一」。

〔第內〕邸の中。〇〔後漢〕「游二觀――一」。

〔帷內〕陣中にて將軍の居處。〇〔後漢〕「侍二中坐――與語一」。

〔城內〕所領の中。〇〔蜀〕「終二於邦―之―一」。

〔閨閣內〕寢處。〇〔史〕「蹈冬病臥二――――一」。

〔名敎內〕聖人の敎への中。〇〔晉〕「―――自有二樂地一、何必乃爾」。

〔眉睫內〕眉と睫との間、極めて接近したる所にいふ語。〇〔列〕「近在二――之――一」。

〔六合內〕天地四方の中。〇〔莊〕「――之―、聖人論而不レ議」。

【內】ゼイ、ナイ。儒稅切〔霽〕

㊀枘に同じ、ほぞ。〇〔周〕「調二其鑿――一而合レ之」。

㊁汭に同じ、水の入り合ふところ。

【內】ダフ、ノフ。奴答切〔合〕

納に同じ、いろ。〇〔孟〕「若二己推而――一二之溝中一」。

【內】トツ、トチ。多沒切〔月〕

肭に同じ、こゆ、(肥)。〇〔楚辭〕「―鶬鴿鵠、味豺羹只」。

【从】リヤウ。里養切〔養〕

二つ。

【仐】タウ、トウ。通刀切〔豪〕

とる、(取)。

三畫

【仝】セン、ゼン。從緣切〔先〕

全に同じ、全の字もと仝に作れり、仝の字とおなじからず。

【尒】ジ、ニ。兒氏切〔紙〕

爾に同じ、爾の部に詳なり。

四畫

【全】セン、ゼン。疾緣切〔先〕

㊀まったし。

(い)缺けたるところなし、具はらざるものなし。〇〔揚雄〕「君子道――小人道缺」。

(ろ)わざはひなし、あやふからず。〇〔後漢〕「鄕里賴レ――者以二百數一」。

(は)まじりけなし。〇〔周〕「天子用二――玉一」。

㊁まったきを得、まったきを得しむ、まったうす、たもつ。〇〔韓愈〕「其將往―レ之歟」。

〔死全〕何事をも成さずいたづらに身をたもつことにいふ語。〇〔北〕「大丈夫寧可二玉碎一、不レ能二――一」。

〔苟全〕前に同じ。〇〔諸葛亮〕「――二性命於亂世一」。

〔得全〕害はれざること。〇〔漢〕「民命―レ―」。

〔十全〕毫も缺けたるとなし。〇〔周〕「――爲レ上」。

〔百全〕前に同じ。〇〔史〕「言レ事――」。

〔萬全〕前に同じ。〇〔史〕「我之取二天下一、可二以――一也」。

〔大全〕前に同じ。〇〔莊〕「吾不レ知二天地之――一」。

〔求全〕十分ならんことを願ふ。〇〔孟〕「有二―レ―之毀一」。

〔曲全〕よくまがりて後にまッたきを得との老子の教旨。〇〔老〕「―則―、枉則直」。

〔圖全〕身危からざらんことを求む。〇〔晉〕「游飲自晦、匿レ智―レ―」。

〔身全〕身危からず。〇〔隋〕「名遂――」。

〔德全〕道を心に得て毫も缺けたるとなし。〇〔莊〕「執レ道者――」。

〔神全〕心氣物に賊はれず。〇〔李德裕〕「――而正氣凝」。

〔守全〕執るところ缺けたるところなし。〇〔莊〕「其天――、其神無レ郤」。

〔雙全〕彼れも此れもともに缺けたるとなし。〇〔杜甫〕「名器重二――一」。

〔安全〕危きところなし。〇〔後漢〕「推レ兵固守、獨――」。

〔成全〕功を遂げて危きとなし。〇〔史〕「夫人之立レ功、豈不レ期二於――一耶」。

〔保全〕身、又は國を護りて危きに近よらず。〇〔後漢〕「天――一身、孰二若――天下一乎」。

〔功全〕爲したる仕事の缺けたるとなきをいふ。〇〔潘孟陽〕「五材稟以――」。「力――」。

〔完全〕缺けたるところなし。〇〔劉琨〕「吟詠詩籍

五畫

【㒳】リヤウ。力掌切 [養]

古文の兩の字。

【⿱入百】スヰ。所追切 [支]

よろし（宜）。

【⿱入出】コツ、クチ。胡骨切 [月]

いづ（出）。

六畫

【兩】リヤウ。里養切 [養]

㊀ふたつ（二）、ふたゝび（再）。〇〔易〕「兼二三才一而兩レ之」。

㊁匹耦、ふたり、つゐ、たぐひ、ならび。〇〔史〕「爲二將・相一持二國・秉一貴・重矣、於二人・臣一無レ兩」。

㊂彼れも此れも、ふたつながら。〇〔晉〕「忠・孝之道安得二兩・全一」。

㊃匹に同じ、端の倍、布帛を數ふるに用ふる字。〇〔左〕「重・錦三十兩」。〇〔唐〕「籍二其家一、有二鍾・乳五・百・兩一」。

㊄衡の目の名、二十四銖の稱。

㊅裲に同じ、かざる。〇〔左〕「兩レ馬掉レ鞅而還」。

㊆緉に同じ、くつのひも。〇〔詩〕「葛・屨五・兩」。

㊇輛に同じ、車を數ふるにいふ字。〇〔後漢〕「載レ之兼・兩」。

㊈隊伍の編制、廿五人を一組とす。〇〔周〕「五・人爲レ伍、伍・伍爲レ兩」。

〔參兩〕天地に同じ。〇〔易〕「參レ天兩レ地而倚レ數」。

〔九兩〕民を合はせ偶べて離散せしめざること九つあるをいふ。〇〔周〕「以二九・兩一繫二邦・國之民一」。

〔兩々〕二つヽつ相並ぶこと。〇〔史〕「兩・兩相比」。

〔副兩〕第二のもの、そへ、又、世つぎ。〇〔唐明皇〕「承二之副・兩一」。

〔儲兩〕前に同じ。〇〔魏〕「椒・宮韙レ誕二儲・兩一、而「羆・熊無・兆」。

〔銖兩〕はかりの目方。〇〔子華〕「加二銖・兩一則移矣」。

七畫

【兩】リヤウ。力仗切 [漾]

前條の㊇に同じ。〇〔詩〕「百・兩御レ之」。

【兪】イユ、ユ。弋朱切 [虞]

㊀承諾の意を表する應答の詞、さやう、左かり。〇〔書〕「帝曰、兪」。

㊁木を空にして造りたる舟、うつろ舟。

【兪】イウ、ユ。以周切 [尤]

前條の㊀に同じ。

【兪】イユ、ユ。勇主切 [麌]

㊀愈に同じ、いよいよ。〇〔國〕「聞レ之兪章」。

㊁打ちくつろぎたる貌にいふ字、やはらぐ。〇〔莊〕「無・爲則兪・兪」。

【兪】シユ、ス。春遇切 [遇]

前條の㊁に同じ。

【兪】シヨ、ソ。商居切 [御]

背の穴。〇〔梁簡文帝〕「患起二膏・盲一、痾興二府・兪一」。

【⿱入示】キ、ギ。渠移切 [支]

かたゝがひ、ながしみじかし（參・差）。

【⿱入兵】ヘン。布犬切 [銑]

ちひさし、すこし（小）。

八畫

【⿱入林】ラン、ロン。盧感切 [感]

うれひかなしむ貌にいふ字、うれふ、かなしむ。

【㒼】リン、ロン。力稔切 [寑]

ほのほ、ひのて。

十一

【⿱入爽】ヒツ、ヒチ。卑吉切 [質]

ひ（火）。

【⿱入爽】シヨウ、ジヨウ。神情切 [庚]

あきらか（明）。

【贊】セイ、サイ。照細切 [霽]

かゞやく、ひかる、てる（輝）。

十五畫

【⿱入輦】シヤウ、ジヤウ。牀情切 [庚]

くるま（車・乘）。

八部

【八】ハツ、ハチ。博拔切 [黠]

㊀やつ。

(い)一に七を加へたる數。〇〔易〕「天七地八」。

(ろ)易の卦にて少陰の數。〇〔左〕「穆・姜薨、始往而筮レ之、遇二艮之八一」。

㊁やたび。〇〔後漢〕「八・戰八・克」。

㊂わかつ、わかる（分）。〇〔趙古則〕「象二分・別相・背形一」。

〔十八〕とをにやつを加へたる數、又、物事の全部に近きをいふ。〇〔風俗通〕「武・帝探レ策得二十・八一」。

〔二八〕二つに八つを乘ずると、又、其の數、即ち十六。〇〔史〕「有二玄鶴二・八一、集二乎廊・門一」。

〔八八〕(い)八つに八つを乘ずると、又、其の乘じたる數、即ち六十四。〇〔漢〕「八・八六・十・四、其義極二天・地之變一」。(ろ)八と八と。〇〔漢〕「自二背・鏡一始而左・旋、八・八爲レ伍」。

〔尺八〕笛の一種にて竪に吹くもの。〇〔博雅〕「名尺・八・管、一名竪・篴」。　「減り。

〔鑿八〕一石の米を舂きて八斗を得ると、即ち內二割

〔六八〕(い)易卦にて陰の數。〇漢、詁〕「七九陽數、六・八陰二數」。

(ろ)六つに八つを乘ずると、又、其の乘じたる數、即ち四十八。〇〔正易心法〕「毎レ卦八・變、六・八」。

〔音八〕音樂の上にて聲を出だす八つの器、即ち金、石、絲、竹、匏、土、革、木をいふ。〇〔白虎通〕「聲五音八」。

〔闔八〕天井のこと。〇〔夢溪筆談〕「今文中謂二之闔・八一」。

〔丈八〕長さ一丈八尺あること。〇〔通俗文〕「矛長丈・八謂二之矟一」。

〔响八〕銅鑼の一名。〇〔清異錄〕「鼓曰二堅・牛兒一、鑼曰二响・八一」。

〔臘八〕十二月の八日。〇〔瑣碎錄〕「正臘日及臘・八一日、皆日二王・侯臘一」。

〔初八〕月の初めの八日。〇〔齊東野語〕「只怕來・朝初・八」。

〔天門登八〕陶侃の故事より仕官して殆ど其の極に近づくことに借りいふ語。〇〔晉〕「侃夢生二八・翼一、飛而上レ天、見二天・門九・重一、已二其八一、唯一・門不レ得レ入」。

【八】ハイ、ヘ。補內切 [隊]

前條の㊀に同じ。

二畫

【公】コウ、ク。古紅切 [東]

（說文）从レ八从レ厶、八猶レ背レ厶、（音私）

㊀おほやけ。

(い)邪曲ならざると、たゞし。〇〔呂氏春秋〕「必先レ公」。

(ろ)偏頗なきと、たひらか。〇〔淮〕「何可二以公・論一」。

(は)弘通なると、一般。〇〔荀〕「此心術之公・患也」。

(に)差別なきと、平等。〇〔淮〕「此俗庸・民之所二公・見一也」。

(ほ)隱蔽せざると、明白。〇〔史〕「宋・昌曰、所レ言公、公二言之一」。

(へ)專有ならざると、共同。〇[禮]「大-道之行二天-下一爲レ―」。
(と)官府、やくしよ。〇[詩]「退-食自レ―」。
(ち)官事、つとめ。〇[詩]「夙-夜在レ―」。
(り)世間、衆人。〇[漢]「背レ―死レ黨之信」。
(ぬ)おほやけに關する物事。〇[周]「―旬用二三-日一」。
㊁いさを(功)。〇[詩]「以奏二膚―一」。
㊂きみ。
(い)天子、諸侯、主君。〇[左]「可レ羞二于王―一」。
(ろ)父の敬稱。〇[列]「家―執レ席」。
(は)舅の敬稱。〇[漢]「與レ―併-倨」。
(に)神祇の敬稱。〇[易林]「上謁二神-―」。
(ほ)長者の敬稱。〇[賈誼]「此六-七-―一」。
(へ)同輩の敬稱。〇[史]「―-等祿-々」。
(と)五等爵の首位。〇[書]「建二爾于上-―一」。
(ち)天子の宰相。〇[詩]「三-―九-卿」。
(三公)官の名、周にては太師、太傅、太保、漢にては大司馬、大司徒、大司空、後漢にては太尉、司徒、司空。〇[書]「玆惟―-―、論レ道經レ邦」。
(貳公)三公に副ふ官、少師、少傅、少保。〇[書]「―-―弘レ化」。
(宗公)宗廟の神。〇[詩]「惠二于―-―一」。
(辟公)諸侯をいふ。〇[詩]「相維―-―」。
(寄公)地を失ひて他國に身を寄する君。
(兄公)妻より夫の兄を敬稱する語。
(迺公)乃公に同じ、おのれ。〇[漢]「幾敗二―-―事一」。
(家公)父の敬稱。〇[列]「―-―執レ席」。
(鉅公)天子。〇[漢]「天-子爲二天-下父一、故曰二―-―一」。
(漆公)力を君上に盡くす。〇[漢]「遁-高志在二―-―孤-立、而湯舞レ智以御レ人」。
(壬公)水の異名。〇[蘇軾]「―-―飛レ空丁女藏」。
(仙公)仙人に同じ、やまびと。〇[杜甫]「少容疑二杜-屯、多-術怪二―-―一」。
(狙公)猿を使ふ人、さるまはし。〇[莊]「―-―賦レ茅、朝三而暮四」。
(社公)國土を鎭護する神の名。〇[禮、註]今人謂二「社-神」、爲二―-―一」。

(女公)夫の姉の敬稱。〇[爾]「夫之姉爲二―-―一」。
(至公)極めて私なきこと。〇[仲長統]「人-主臨レ之以二―-―一」。
(十八公)松のこと。〇[江表傳]「古-者日、松於レ―文爲二―-―-―一」。
(亡是公)此の世になき人の意。〇[漢]「言二―-―-―無二此人一也」。
(信天公)信天翁に同じ、あはうどり。〇[攻媿記]「水-禽名―-―-―、嘗開レ口待レ魚」。
(主人公)一家の長たる人、轉じて首となりて物事を取り扱ふ人。〇[韓愈]「更煩將二享-事一、來報―-―-―」。
(竺乾公)佛をいふ。〇[馬戴]「獨禮―-―-―」。

【公】ショウ、シュ。諸容切　冬

夫の兄、夫の姉、又は夫の父の敬稱、鐘に通じ作る。

【六】リク、ロク。力竹切　屋

㊀むつ。
(い)五に一を加へたる數。〇[易]「天五地―」。
(ろ)易の卦にて老陰の數。〇[易]「初-―履レ霜堅-冰至」。
㊁むたび。〇[晉]「―黜二淸-能一、―進二否-劣一」。
(陽六)十二律の中にて陽の律六つあること、卽ち一に黃鐘、二に太簇、三に姑洗、四に蕤賓、五に夷則、六に亡射。〇[漢]「律十-有-二、―-―爲レ律」。
(二六)二と六とを乘じたる數、卽ち十二。〇[陶潛]「我年―-―、爾纔九-齡」。
(丈六)一丈六尺。〇[北]「寧二僧數-千人一、鑄二―-―金-像一」。
(藏六)龜の異名。〇[元好問]「可レ能―-―便安二之災阨一」。
(百六)災難。〇[漢]「遭二无妄之卦一、運直二―-―至一」。
(上六)易の卦にて下より數へて六つ目の陰爻にて最も其の上に位するもの。〇[易]「―-―、龍戰二于野一」。
(五六)(い)天と地との數にて天に六つの氣あり地に五つの味を含めるよりいふ。〇[漢]「夫―-―者天-地之中」。
(ろ)いつたびむたび。〇[王安石]「爭-議至二―-―一」。
(は)五つに六つを乘ずること、又、其の乘じたる數、卽ち三十」。

(什六)十の中にて六つ。〇[漢]「量二其富一居二―-―一」。
(駕六)天子の車の稱、天子は六馬の車に駕する故にいふ。〇[管]「天-子所レ御則駕六一」。
(六六)六に六を乘ずること、又、其の乘じたる數、卽ち三十六。〇[埤雅]「鯉三-十-六-鱗、具二―-―之數一」。
(駢四儷六)四字と六字とを配合して作れる文章、駢儷體、又、四六體の文ともいふ、支那の南北朝の時代に最も勢力ありし文體。〇[柳宗元]「―-―-―-―、錦-心繡-口」。

【兮】ケイ、ガイ。弦雞切　齊

語句の間又は語句の下に用ひて音調を助くる字、(語氣のとどまりかんがふる意ありて更に音調のあがる所に用ふ)。〇[史]「風蕭-々―易-水寒」。
(簡兮)禮儀少き貌にいふ語。〇[詩]「―-――-―、方將二萬-舞一」。
(侻兮)挩に通じ用ふ、物事の判然せぬにいふ語。〇[老]「―-―忽-兮」。
(綽兮)寬大の貌にいふ語。〇[詩]「寬兮―-―」。
(晏兮)鮮明なる貌にいふ語。〇[詩]「羔裘―-―」。
(瑳兮)前に同じ。〇[詩]「―-――-―、其之展也」。
(爛兮)判明なる貌にいふ語。〇[詩]「錦-衾―-―」。
(薈兮)草木の盛にして多き貌にいふ語、又、物のむらがり出づる貌にいふ語。〇[詩]「―-―蔚-兮」。
(樂兮)喜悅の貌にいふ語。〇[夏人歌]「―-――-―、四-牡蹻-兮」。
(與兮)躊躇する貌にいふ語。〇[老]「―-―若二冬涉一レ川」。
(猶兮)前に同じ。〇[老]「―-―若レ畏二四-隣一」。
(儼兮)物事の莊重なる貌にいふ語。〇[老]「―-―其若レ容」。
(渙兮)物の解け散ずる貌にいふ語。〇[老]「―-―若二冰之將一レ釋」。
(湫兮)氣象の淸涼なる貌にいふ語。〇[高唐賦]「―-―如レ風」。
(振々兮)仁厚の貌にいふ語。〇[詩]「宜二爾子-孫一―-―-―」。
(菲々兮)草の茂れる貌にいふ語。〇[離騷]「芳―-―-―雜レ靄兮」。
(怦々兮)心の實直なる貌にいふ語。〇[楚辭]「心―-―-―諒-直」。
(嚶々兮)鳥の鳴く貌にいふ語。〇[梁鴻]「鳥―-―-―友之期」。

三畫

【㕣】キョウ、コウ。居陵切　蒸

朽ちたる骨の餘り、されかうべ。

四畫

【共】キョウ、グ。渠用切　宋

㊀彼れも我れも差別なしに、みな、おなじく、ともに。〇[禮]「父之讐、弗二與―戴一レ天」。
㊁ともに同一なる事を爲す、ともに同一なる事を受く、ともにす、おなじくす、おほやけにす。〇[史]「法者與二天下一―レ之」。
㊂もろもろ、おほし(衆)。〇[荀]「物者大―之名也」。
(公共)おほやけ、又、ともにす。〇[漢]「法者天子所下與二天下一―-―上也」。
(通共)彼れと此れと同じく流用す。〇[吳]「升レ堂拜レ母、有無―-―」。
(參共)參考に同じ。〇[隋]「―-―辯-定」。

【共】キョウ、ク。居容切　冬

㊀恭に同じ、うやうやし、つつしむ。〇[左]「三-命玆益―」。
㊁供に同じ、そなふ、そなへもの。〇[周]「雍-人―レ之」。
(靖共)やすんじつつしむ。〇[詩]「―-―爾位一」。
(小共)ちひさき國より奉る供へ物。〇[詩]「受二―-―大-共一」。
(敬共)つつしみ恭ふ。〇[左]「―-―朝-夕」。
(不共)そなへものを奉らさること。〇[左]「君謂二許―-―一」。

【共】キョウ、ク。居悚切　腫

むかふ(向)。〇[論]「居二其所一、而衆-星―レ之」。

【共】 ク、コ。忌遇切 週

そなふ、又、そなへ（具）。〇〔周〕「掌レ―二羞脩刑膴胖骨鱐一」。

【关】 セウ。私召切 嘯

古文の笑の字、又、咲に作る。〇〔漢〕「罷二歸倡優之―一」。

五畫

【兵】 ヘイ、ヒヤウ。甫明切 庚

㊀つはもの。
（い）戰鬪に使用する刃器の總稱、はもの、武器。〇〔世本〕「蚩尤以レ金作レ―、―有レ五」。
（ろ）武器を携へて軍に從ふ人、もののふ、軍士。〇〔禮〕「選レ士厲レ―」。
㊁軍事、戰術。〇〔戰〕「公不レ論レ―、必大困」。
㊂戰鬪、爭亂。〇〔史〕「天下初定、又復立レ國、是樹レ―也」。
㊃敵を撃つ。〇〔左〕「士―レ之」。
㊄寇に死ぬ。〇〔禮、註〕「能捍二國難一、爲二寇所一レ殺者、謂爲レ―也」。

〔觀兵〕軍威を敵に示す、又、兵隊の整否を調査すること。〇〔國〕「先王燿レ德不レ―レ―」。
〔甲兵〕鎧と武器と轉じて軍士のことにいふ。〇〔詩〕「王于興レ師、修二我―一―」。「―五盾」。
〔五兵〕戈、殳、戟、酋矛、夷矛。〇〔周〕「司兵掌二―一―」。
〔治兵〕軍隊の操練。〇〔周〕「中秋敎二―一―」。
〔發兵〕軍士を徵集すること。〇〔周〕「以二銅虎符一―レ―」。
〔州兵〕二千五百家を以て一州として之に命じて軍士を出ださしむ。〇〔左〕「晉于レ是乎作二―一―」。
〔動兵〕戰爭を引き起こす。〇〔孟〕「是―二天下之―一也」。
〔構兵〕戰爭を爲出だす。〇〔孟〕「吾聞秦楚―レ―」。
〔按兵〕軍士を響め止めて妄りに發せしめず。〇〔策〕「―レ―而後起」。
〔疑兵〕敵軍をして或はしむべき虛僞の軍隊。〇〔史〕「益爲レ張二旗幟諸山上一、爲二―一―」。
〔精兵〕極めてよく操練したる軍隊。〇〔戰〕「招二天下之―一―」。
〔伏兵〕山谷原野の間に匿れ不意に起こりて敵を襲ふ軍隊。〇〔史〕「―レ―從二夏陽一以二木罌一渡レ軍」。
〔義兵〕正道を守りて亂暴なる者を誅伐する軍隊。〇〔史〕「以二―一―從二思東歸一之士」。
〔游兵〕附屬を定めず戰ひの形勢を觀、機宜に應じて敵に當たる軍隊。〇〔史〕「爲二漢―一―」。
〔奇兵〕敵の油斷に附けこむ軍隊。〇〔史〕「秦將白起聞之、縱二―一―佯敗走」。
〔屯兵〕駐在せる軍隊。〇〔漢〕「城門校尉、掌二京師城門―一―」。
〔忿兵〕事に激して氣をいらちたる軍隊。〇〔漢〕「不レ忍二憤怒一者、謂二之―一―」。
〔驕兵〕敵に誇りて威を示さんとする軍隊。〇〔漢〕「欲レ見二威於敵一者、謂二之―一―」。
〔步兵〕徒行して戰ひに從ふ軍士。〇〔晉〕「爲二―一校尉一」。「―」。
〔徒兵〕前に同じ。〇〔左〕「諸侯之師、敗二鄭―一」。
〔戈兵〕武器のこと。〇〔易〕「爲二甲冑一、爲二―一―」。
〔戎兵〕前に同じ。〇〔詩〕「修二爾車馬弓矢―一―」。
〔厲兵〕武器を砥ぐこと。〇〔戰〕「綴レ甲―レ―」。
〔良兵〕善良なる武器。〇〔周〕「―一―良器、以待二邦之大用一」。
〔習兵〕軍隊の操練。〇〔周〕「古者因田―レ―、閱二其車徒之數一」。
〔簡兵〕前に同じ。〇〔左〕「子產乃―レ―大蒐」。
〔好兵〕軍國の術を嗜む。〇〔史〕「樂毅賢―レ―、鄭人舉レ之」。「―以爲レ名」。
〔弭兵〕戰爭を止どむること。〇〔左〕「欲下―二諸侯之―一」。
〔戢兵〕前に同じ。〇〔左〕「武禁レ暴―レ―」。
〔偃兵〕前に同じ。〇〔國〕兩君―レ―接レ好、日中爲レ期」。「卒甲楯之數」。
〔車兵〕車に乘りて戰ふ軍士。〇〔左〕「賦二―一―徒―兵甲」。
〔銳兵〕精利なる武器、又、するどき軍隊。〇〔家語〕「―一―在レ前、强弩在レ後」。
〔長兵〕武器の丈長きもの、卽ち戈矛の屬。〇〔戰〕「―一―在レ前、强弩在レ後」。
〔敝兵〕兵をそこなふ。〇〔戰〕「―レ―勞レ衆」。
〔鈍兵〕銳利ならざる武器。〇〔戰〕「頓二―一―」。
〔騎兵〕馬に乘りて戰ひに從ふ軍士。〇〔漢〕「罷二―一―、留二弛刑一」。
〔從兵〕軍士を率ゐる、又、隨行せる軍士。〇〔史〕「―一―以レ萬數」。
〔短兵〕丈長からざる武器、卽ち刀劍の屬。〇〔史〕「―一―接」。「也」。
〔勁兵〕（い）强勇なる軍隊。〇〔漢〕「天下―一―處」。
（ろ）銳利なる武器。〇〔玉海〕弩者中國之―一―」。
〔散兵〕軍隊の法にて間を隔て處々に散布し置くもの。〇〔隋〕「軍中―一―」。
〔都兵〕音樂などに關する事柄を掌る軍士。〇〔隋〕「―一―掌二鼓吹太樂雜戶等事一」。
〔禁兵〕宮城を守護する軍士。〇〔唐〕「段秀實見二―一―寡弱一」。「兵」。
〔衙兵〕前に同じ。〇〔唐〕「掌二―一―及內外八鎭―一―」。
〔衞兵〕前に同じ。〇〔唐〕「天子禁軍者、南北―一―也」。
〔尺兵〕長さ一尺ばかりなる短き武器。〇〔唐〕「不レ持二―一―」。
〔羸兵〕疲勞したる軍士。〇〔徐陵〕「分二給―一―」。
〔帝王兵〕道德を以て天下を治むるを主とする人の率ゐる軍隊。〇〔戰〕「―一―之―」。「天下」。
〔仁義兵〕前に同じ。〇〔荀〕「以二―一―之―一、行二于天下一」。
〔爪牙兵〕鳥の爪あり獸の牙あるが如く己れの輔けとなる軍士。〇〔侯鯖錄〕「潛蓄二―一―一」。

【兵】 ハウ、ヒヤウ。必良切 陽

前條の㊀に同じ。〇〔史〕「天下偃レ―、百姓寧昌」。

【谷】 カク、コク。古若切 覺

志かる、いさふ、（呵）。

【皃】

貌に同じ、皃の譌字。

六畫

【其】 キ、ギ。渠之切 支

㊀直接なる物事を指し示していふ字、その、それ、そ。〇〔易〕「―旨遠、―辭文」。
㊁語句の音調を助くるに用ふる字、それ。〇〔詩〕「溫―如レ玉」。
㊂無意味の助字。〇〔詩〕「夜如何―」。

〔何其〕疑ひて問ふときにいふ語、なんぞや。〇〔詩〕「彼人是哉、子曰、―」。
〔淒其〕ものすごし。〇〔詩〕「―以風」。

【其】 キ。居吏切 寘

無意味の助字。〇〔詩〕「彼―之子」。

【具】 ク、ゴ。渠句切 遇

㊀設備す、そなふ。〇〔荀〕「―レ具而王」。
㊁完備す、そなはる。〇〔淮〕「湯沐―而蟣虱相弔」。
㊂設備、志たく、そなへ。〇〔史〕「市二牛酒一夜灑掃、早張レ―」。
㊃うつは。
（い）器物、だうぐ。〇〔蜀〕「有二刑吏一、于二人家一索二得釀―一」。
（ろ）器量、はたらき。〇〔李陵〕「信命世之才抱二將相之―一」。
㊄倶に通じ用ふ、ともに、ことごとく、つぶさに。〇〔詩〕「則―是違」。
㊅きたる（來）。〇〔詩〕「兄弟―來、〔箋〕猶レ來也」。

〔禮具〕儀式完備す。〇〔禮〕「其治辨者其―」。
〔寒具〕（い）冬を禦ぐに用ふる衣服。〇〔宋〕「方レ冬無二―一―」。
（ろ）環餅のこと。〇〔集韻〕「―一―環餅也」。「―」。
〔草具〕粗末なる食物、又、器物。〇〔戰〕「食以二―一」。
〔治具〕（い）物事の準備をなす。〇〔史〕「―レ―自旦至レ今」。「―之―」。
（ろ）政治を行ふに必要なる事柄。〇〔史〕「法令者―」。
〔千具〕いろいろのうつは、又、いろいろの用意。〇〔史〕二「辨席―一―」。「之―、投二之江一」。
〔博具〕賭事を爲す器物。〇〔晉〕「取二其酒器蒲―一―、亡二側隱之實一」。
〔文具〕修飾の備はれること。〇〔漢〕「其飲徒―一―」。
〔家具〕家財に同じ。〇〔晉〕「―一―少于車一」。
〔參具〕主は明かに、相は智に、將は能あること。〇〔管〕「主レ兵必―一―者也」。「―」。
〔備具〕すべて缺くる所なく整ふ。〇〔唐〕「寶帳―」。

〔燕具〕 酒宴を爲す用意、又、器物。○〔詩、毛傳〕「待ニ賓-客一爲ニ一・一こ。

〔大具〕 重要なる材料。○〔魏〕「治ニ天-下一之一・一 「有レ二、文-事武也」。

〔寶具〕 飾りを爲す器物。○〔禮〕「一・一君子恥レ具」。

〔珍具〕 希に有る馳走、又、うつは。○〔禮〕「養-老之一・一」。 「牲-體一・一」。

〔完具〕 一も缺くる所なく揃ひとゝのふ。○〔周、註〕

〔饌具〕 飮食をなすに用ふる器物。○〔周〕「供ニ王膳-羞飮-食一・一之事」。 「舊典一レ一」。

〔不具〕 (い)缺けて完からず。○〔後漢〕「文-書散-亡、

(ろ)癈疾に罹れる人、かたはもの。○〔晉〕「生既有ニ目-疾一、非レ所レ謂不足一・一」。

〔美具〕 麗しき器物、又、麗しきもの兼ね備はる。

○〔左〕「天-地之一・一焉」。

〔兵具〕 いくさに用ふる器具。○〔後〕「飭ニ一・一こ。

〔供具〕 賓客に出だすうつは。○〔史〕「張ニ羽-旗一、設ニ一・一こ。 「神こ。

〔祭具〕 神を祀る器物。○〔漢〕「從ニ一・一以致ニ天・

〔裝具〕 化粧の器具。○〔後漢〕「易ニ脂-澤一・一こ。

〔臥具〕 寢に就くときに用ふる物。○〔南〕「適見黄・一一こ。

〔拐具〕 家に備へ置きて用ふる器物。○〔唐〕「列ニ館・宇一、飾ニ一・一こ。 「以ニ一・一こ。

〔什具〕 罪人を吟味するに用ふる器械。○〔唐〕「環

〔佃具〕 農具に同じ。○〔唐〕「耕-牛一・一」。

〔戎具〕 戰爭に用ふる器械。○〔宋〕「戰-馬金-甲寶-劍一・一」。

〔茗具〕 茶器に同じ。○〔袁桷〕「拾レ新供ニ一・一こ。

〔漁具〕 魚を捕らふるに用ふる器物。○〔黄庚〕「蘇-子收ニ一・一こ。 「一」。

〔冬裘具〕 防寒の衣裳備はる。○〔周〕「隕レ霜一・一

〔廟廊具〕 朝廷に在りて大政を執る材略にいふ語。○〔晉〕「吾素自無ニ一・一・一こ。

〔將相具〕 大將又は宰相となる資力ある人物にいふ語。○〔李陵〕「信命世之才、抱ニ一・一之一こ。

【具】 キツ、キチ。居律切 質。

【具】 キウ、ク。忌救切 宥

前條の㊁と㊂とに同じ。○〔詩〕「爾牲則一」。

前々條の㊂と㊃とに同じ。○〔漢〕「獵-者效レ一」。

【典】 テン。多殄切 銑 〔說文〕从ニ冊在ニ丌上一。

㊀つかさどる、(司)。○〔戰〕「我一ニ主東-地こ。

㊁つね、(經)。○〔揚雄〕「斯受レ命者之一・一「業也」。

㊂のり、(法)。○〔禮〕「守レ一奉レ法」。

㊃五帝の書、ふみ。○〔南〕「屋-漏恐レ濕ニ墳一・一」。

㊄遵奉すべき書。○〔國〕「瞽獻レ一」。「乃舒レ被覆レ書」。

〔五典〕 五倫に同じ。○〔書〕「愼徽ニ一・一こ。

〔舊典〕 古へより行ひ來たれる法則。○〔書〕「一・一時式」。

〔六典〕 (い)周の制にて邦國を治むる六つの法則、治典、教典、禮典、政典、刑典、事典。 「と」。

(ろ)禮記にて大宰、大宗、大史、大祝、大士、大卜の

(は)唐時の律令制度を記せる書。○〔宋〕「唐明皇一・一三十卷」。

〔治典〕 邦國の政治を掌り王を佐けて邦國を均一にする法則、太宰の職に屬す、轉じて邦を治むるすべての法則。○〔周〕「一日、一・一」。

〔教典〕 教育を掌り王を佐けて邦國を安んずる法則、司徒の職に屬す、轉じて教育に關するすべての法則。○〔周〕「二日、一・一」。

〔禮典〕 祭祀宴亨等に關する節文を掌り王を佐けて邦國を和ぐる法則、宗伯の職に屬す、轉じて禮儀に關するすべての法則。○〔周〕「三日、一・一」。

〔政典〕 兵寇に關する事を掌り王を佐けて邦國を平ぐる法則、司馬の職に屬す、轉じて政治に關するすべての法則。○〔周〕「四日、一・一」。

〔刑典〕 禁令に關する事を掌り王を佐けて邦國の刑を行ふ法則、司寇の職に屬す、轉じて刑罰に關するすべての法則。○〔周〕「五日、一・一」。

〔事典〕 諸般の事を行ひ邦國を富ます法則、司空の職に屬す。○〔周〕「六日、一・一」。

〔輕典〕 重からざる法律。○〔周〕「刑ニ新-國一、用ニ一・一こ。

〔中典〕 重からず輕からざる通常の法律。○〔周〕「刑ニ平-國一、用ニ一・一こ。 「一こ。

〔重典〕 輕からざる法律。○〔周〕「刑ニ亂-國一、用ニ一・

【典】 テン、デン。徒典切 先

堅くしてうるほひある貌にいふ字、堅くして志なやかなる貌にいふ字、一說に車のひも。○〔周〕「輴欲ニ頎一・一こ。

七畫

【𠔃】 リン。陸雲切 文

おもふ、又、おもひ、(思)。

八畫

【兼】 ケン。堅嫌切 鹽 居欠切 豔

㊀かぬ。

(い)あはす、(幷)。○〔史〕「諸-侯相一」。

(ろ)ます、(倍)。○〔張衡〕「事一ニ未-央こ。

(は)本官ある上に他の官務をもつかさどる。○〔漢〕「縣-宰欲者、數-年守一・一」。 「一服レ之」。

㊁かねて、ふたつながら。○〔禮〕「麻葛

〔幷兼〕 すべて合一す。○〔史〕「秦一ニ一諸-侯こ。

〔智勇兼〕 智識と勇氣とをもつ。○〔史〕「一・一可レ謂レ一レ之矣」。

〔兼愛兼〕 墨翟は人を兼ね愛して親疎の別なく偏私の心なからんことを主要とす。○〔尸子〕「一・子一レ一」。

〔膽力兼〕 豪氣人に勝る。○〔劉克莊〕「聖賢自收極界謙、後學才高一・一」。

十畫

【𡡆】 レン、ロン。力鹽切 鹽

たつ、たゆ、(絶)。

十二畫

【㒺】 ハン、ヘン。布還切 刪 ヒ。市尾切 尾

いやしきわざ、(賤-業)。

十四畫

【冀】 キ。居致切 寘 〔說文〕北方州レ北

㊀古昔、支那を九州に區劃せしときの一州の名、今の直隸、山西の兩省及び河南省と滿州との一部分の稱。○〔晉〕「一・州其地有レ險有レ易、常王所レ都」。

㊁欲する所を成さんと思ふ、ねがふ、のぞむ、こひねがふ、のぞみ、ねがひ。○〔蜀〕「天-命不レ可ニ妄一こ。

〔無冀〕 願ひ望むことなし。○〔論衡〕「絕レ意一レ一」。

〔幸冀〕 萬に一を得んと願ひ望む。○〔宋〕「一日、絕ニ一・一こ。

〔希冀〕 願ひ望む。○〔吳〕「下無ニ一・一之望こ。

〔徼冀〕 前に同じ。○〔宋〕「武-夫一ニ一不肯之寵こ。

〔不冀〕 願ひ求めず。○〔荀子〕「爾必一レ一矣」。

十八畫

【顛】 テン。都堅切 先

俗の顛の字。○〔揚雄〕「德-兵俱一、靡レ不ニ悴-荒こ。

二十畫

【顛】 テン。都堅切 先

顛に同じ。○〔唐〕「君-臣以ニ夷-曠一致ニ一・覆こ。

冂部

【冂】 ケイ、キヤウ。古螢切 青

㊀國邑の遠界、まき、(坰)。

㊁とほし、(遠)。

㊂おほふ、(覆)。

【冂】 ケイ、キヤウ。戸茗切 迥

㊀むなし、(空)。

㊁とほし、(遠)。

一畫

【冃】 バウ、モウ。亡保切 皓 ホウ、モ。亡救切 宥

かさなりおほふ、(重・覆)、

二畫

【冃】 バウ、モウ。亡報切 號
冒、又、帽にも作る、小兒の用ふるづきん、頭づつみ。

【冂】 ボウ、モ。莫候切 宥
おほふ、(覆)。

【冄】 ゼン、而琰切 琰 ／ チン。汝鹽切 鹽
㊀毛髮の柔くして下に垂るゝ貌にいふ字、よわし、ふさく。
㊁ゆく、(行)、すゝむ、(進)、をかす、(侵)。○[楚辭]「時亦――而將レ至」。
㊂龜の甲の緣。○[漢]「元・龜岠レ―、長尺-二-寸」。

三畫

【冉】 ゼン、チン。而琰切 琰
前條に同じ。○[晉]「漸―相放、莫ニ以爲ヒ恥」。
〔顏冉〕 孔子の門人顏回と冉求とのこと。○[晉]「――之才」。「――而就レ過」。
〔苒冉〕 すゝみ行く。○[陶潜]「行-雲逝而無レ語、時―」

【冊】 サク、シャク。測革切 陌　〔册に作るを可とす、今、皆册に作る、策、又は筴に通じ用ふ。〕
㊀食封を賜ひ又は爵位を授くるときの勅詔、符命。○[江淹]「改ニ―湘-區、分ニ瑞-衡-服ニ」。「草ニ」。
㊁詔勅。○[北]「凡大-詔―令ニ褒具ヒ」。
㊂文書、典籍、ふみ、かきつけ。○[晉]「晉――于レ是飛レ華ニ」。
㊃謀略、てだて、はかりごと。○[漢]「全レ師保レ勝之―」。「青-史ニ」、
〔丹冊〕 書籍のこと。○[江淹]「俱啓ニ――、竝圖ニ」
〔方册〕 書籍に同じ、古は方形なるものに記しゝ故にいふ。○[禮]「文・武之政、布在ニ――ニ」。
〔竹册〕 竹を削りて記せる文書。○[五]「――封之」。
〔詔冊〕 詔勅を記せる書。○[金]「最長ニ――ニ」。
〔書册〕 前に同じ。○[禮]「先-生――琴-瑟」。
〔楮册〕 紙にて作れる書籍。○[寳章待訪錄]「―――小楷」。
〔梵册〕 佛教の書。○[唾玉集]「―――幹・齊」。
〔小册〕 記せる事柄の少なく大部ならざる書籍。○[癸辛雜識]「取ニ――-」鴻-呈」。
〔蠹册〕 しみ蟲の食める書物、轉じて物の役に立たぬ書物の稱。○[沈約]「披レ藤辨ニ――ニ」。
〔璽册〕 君王より賜はれる符命。○[江淹]「――沖-正、愈賜ニ砥礪ニ」。
〔綸册〕 前に同じ。○[江淹]「復降ニ――」、徽-柔兼-明」。
〔瑞册〕 めでたき符命。○[李義府]「――開ニ珍鳳ニ」。
〔兎園册〕 讀むほどの價値なき書物、やくざ本。○[五]「遺下―――耳」。
〔夾袋册〕 袋の中に藏めて貯ふる書籍。○[東軒筆錄]「――中有ニ小――子ニ」。
〔袖中册〕 衣袂の中に入れて携ふる書籍。○[東軒筆錄]「虞-沱文爲レ相、――有ニ一-小-方-―ニ」。

【冊】 サン、セン。初晏切 諫
栅に同じ、まがらみ、かき。

【冋】 ケイ、キヤウ。戶茗切 迥
古文の坰の字、義、土の部に詳かなり。

【冘】 ダフ、ネフ。女洽切 洽
ひくゝ垂る。

四畫

【冊】 冊に同じ。

【再】 サイ。作代切 隊
同一なる事の二度あるにいふ字、にど、また、かされて、ふたゝび、ふたつ。○[唐]「千-載休-期時難ニ―得ニ」。
〔一再〕 一二同に同じ。○[宋]「唐營―――翠-行」。
〔歡未再〕 快樂を盡くすべき時節は、二度とはなし。○[獨孤及]「白-髮俱生――」。

【冎】 クワ、ケ。古瓦切 馬
剮、又は另に作る、人の肉を剔りて其の骨を置く、わかつ。

五畫

【冏】 ケイ、キヤウ。古熒切 青
あきらか、(明)、ひかる、(光)。○[木華]「――然烏逝」。

六畫

【㓈】 ヘイ、ベイ。脾世切 霽
やれごろも、(敝衣)、又、やぶる、(壞)。

【㒸】 サウ、セウ。側狡切 巧
枝に多くの果實を結べるにいふ字。

【冐】 俗の冒の字。

七畫

【冑】 チウ、ヂユ。除救切 宥　〔說文〕从レ冃由聲、
冑の字冑子の冑と同じからず、冑は冃に从ひ、冑は月に从ふ。
兵士の被る冠、かぶと、首鎧、兜鍪。○[戰]「被レ甲冒レ―以會-戰」。
〔甲冑〕 戰時に兵士の著けて身を護り敵を防ぐに用ふる具、よろひかぶと、具足。○[書]「惟――起レ戎」。
〔介冑〕 前に同じ。○[禮]「――則有ニ不レ可レ犯之色ニ」。
〔鎧冑〕 前に同じ。○[唐]「共――精-良」。
〔免冑〕 かぶとを脫ぐ。○[左]「―レ―入ニ狐師ニ死焉」。
〔釋冑〕 前に同じ。○[唐]「―レ―大呼」。
〔冠冑〕 かぶとを被ること。○[漢]「―レ―帶レ劍」。
〔著冑〕 前に同じ。○[吳]「解レ鎧―レ―」。
〔脫冑〕 前に同じ。○[隋]「―レ―擲レ地」。
〔懸冑〕 敵を恥ぢしむること、魯の僖公邾人と戰ひし時公の兜を魚門に懸けて恥ぢしめられたる故事より出づ。○[鄭偉]「上ニ魚-門ニ而――」。
〔玄冑〕 黑色の兜。○[王粲]「――耀レ日」。

【冒】 バウ、モウ。亡到切 號　〔說文〕蒙而前也、从ニ冃目ニ以レ物自蔽而前也、
㊀をかす。
(い)顧慮する所なく前む、辨別する所なく爲す。○[國]「――沒輕-儳」。
(ろ)法を破る、分を僭る。○[戰]「至レ今無レ―」。「上而無レ忠レ下」。
(は)しのぐ、あなどる。○[國]「有レ――怒ニ」。
(に)ふる、あたる。○[後漢]「犯ニ――王「衆-僞之―ヒ眞」。
(ほ)かくす、くらます。○[張衡]「思ニ
(へ)假稱す。○[漢]「―レ姓爲ニ衛-氏ニ」。
㊁貪慾におほはれて義理を見ず、むさぼる。○[左]「諸-侯貪――」。
㊂おほふ、(蔽)。○[書]「不―ニ海-隅ニ」。
㊃おほひに用ふる物、おほひ。○[禮]「綾、紟、衾、―、死而後制」。
㊄かうぶる、(蒙)。○[戰]「被レ甲――レ冑」。
㊅頭に蒙る布、づきん、かぶりもの。○[史]「薄-太-后以レ―絮ニ惕文-帝ニ」。
㊆娼に通じ用ふ、それむ、ねたむ、いむ。○[書]「――嫉以惡レ之」。
㊇瑁に同じ、たま。○[周]「天-子執ニ―四-守ニ、以朝ニ諸-侯ニ」。
〔覆冒〕 おほひつゝむ。○[朱熹]「闢-朝受レ命、―ニ―區-宇ニ」。
〔布冒〕 前に同じ。○[書]「―ニ―天-下ニ」。
〔相冒〕 互に他の域に侵し入る。○[史]「廉-恥――」。
〔陵冒〕 しのぎをかす。○[南]「寒-暑――」。
〔侵冒〕 前に同じ。○[謝朓]「三-省無ニ――ニ」。
〔抵冒〕 衝突す。○[漢]「民-人――」。
〔觸冒〕 前に同じ。○[後漢]「茂與レ弟――」。
〔欺冒〕 人を詐る。○[宋]「――者以レ讖論」。
〔僞冒〕 前に同じ。○[揮塵後錄]「防ニ――ニ」。
〔濫冒〕 己れの分に過ぎ踰ゆ。○[宋]「廢移――」

（變冒）敵を不意に犯し伐つ。○〔史〕「以二北部五千人一、一二變一楚一」。

【冒】ボク、モク。密北切 職 ㊀むさぼる。○〔左〕「貪—之民」。㊁をかす。○〔漢〕「—二白刃一」。（干冒）をかし入る。○〔呂温〕「—二—陳獻一」。

【冐】バイ、メ。莫佩切 隊 龜の甲、たいまい。○〔漢〕「毒—鼈黿」。

【𠕅】ボウ、モウ。莫卺切 豪 芼に同じ、さる、えらぶ。○〔枚乘〕「—以二山膚一」。

【冎】カツ、ガチ。何葛切 曷 曷に同じ、いづくんぞ、又、なんぞ、いづれ。○〔石鼓文〕「—不二余反一」。

八畫

【冓】コウ、ク。古候切 宥 ㊀材木を交へ積む、かまふ、くむ。㊁宮中の奥隱なる處、おくでんのおくまりたるところ、へや、ねや、内房。○〔漢〕「聽二閒中—之言一」。㊂聽を十倍したる數の名。（内冓）宮中の奥まりたる室、寢室。○〔詩、傳〕「中冓—也」。

【𠕧】ダ、ナ。乃可切 哿 衣服調度を納め置く室、なんど。

【冔】ク、ナ。况于切 虞 ㊀おほふ（覆）。㊁冔に作る、殷時の冠。○〔禮〕「周弁、殷—」。

九畫

【覒】バウ、モウ。莫報切 號 ふる（觸）。

【覓】ボク、モク。密北切 職 つきすゝむ（突-前）。

【冕】ベン、メン。靡蹇切 銑 —絻、又、俛に作る。大夫以上の人の朝廷の祭祀などの如きはれほやけの儀式に列するときに著用する冠、附屬の裝飾は位階の高下によりて異同あれども前の狹くて圓く後の廣くして方なるは一定なり、其の前を低くして後を昂くしたるは人の俛して敬禮を行へる態度にかたどり恭を主とする意を寓したるものといふ、傳說によれば黃帝の創作なりとぞ、たまのかむり、かむり。○〔左〕「我有二伯父一、猶三衣-服之有二冠—一」。

（麻冕）赤黑の色に染めたる布にて作れる冠の名。○〔論〕「——禮也」。

（衮冕）先王を享祀するとき衮衣を服して被る冠、唐の時にては、一品の位の人の著けしもの。○〔禮〕「——路車可ㇾ陳也」。

（鷩冕）先公を享祀し、又、饗射のとき鷩衣を服して被る冠、唐の時にては、二品の位の人の著けし服。○〔周〕「享二先公・饗射則——」。

（毳冕）四方及び山川を祀るとき毳衣を服して被る冠、唐の時にては五品の位の人の著けしもの。○〔周〕「祀二四・望山・川一則——」。

（希冕）社稷及び五祀を祭るとき希服を服して被る冠、唐の時にては四品の位の人の著けしもの。○〔周〕「祭二社稷五祀一則——」。

（衮冕之圖）

（毳冕之圖）

（鷩冕之圖）

（希冕之圖）

（玄冕）小祀をなすとき玄服を服して被る冠、唐の時にて五品の位の人の著けしもの。○〔周〕「祭二羣小祀一則——」。

（裨冕）諸侯の朝廷に出づるときに著くる冠。○〔禮〕「——以祭」。

（黻冕）韋の膝おほひと貴人の冠とのこと、又、禮服の義にも借り用ふる語。○〔論〕「致二美乎——一」。

（軒冕）貴人の被る冠、轉じて官祿のことにもいふ。○〔南〕「何宜ㇾ任二——之客一」。

（釋冕）冠を免ぎ捨つること、轉じて名位を却け世を遁るゝこと。○〔石崇〕「—一投紱夕希二彭聃一」。

（端冕）高貴の冠を被りて正しき裝束となす。○〔禮〕「——則有二敬色一」。

（紱冕）印綬を帶び高貴の冠を被る、轉じて高貴の位地にあるにいふ語。○〔後漢〕「吾雖ㇾ無二——之緒一、頗有二讓爵之高一」。

（挂冕）冠を柱に懸けて被らざること、轉じて官途を退くことにいふ語。○〔祖鴻勳〕「東都有二——之臣一」。

（旒冕）索に玉を貫きて前と後とに垂れたる高貴の人の被る冠。○〔隋〕「穆々——」。

（九旒冕）玉を貫ける索の前後に附きたるもの各九とほりある冠。○〔宋〕「———、親王中書門下奉祀則服ㇾ之」。

（玄冕之圖）

【宬】セイ、ジヤウ。時征切 庚 いひびつ（飯-匱）。

【㒼】ベン、メン。亡殄切 銑　バン、マン。亡安切 寒 ㊀たひらか（平）。㊁あたる（當）。㊂瓦に孔を穿てるを、あな。

十畫

【𠖉】カフ、ケフ。苦洽切 洽 帢に同じ、士の著くるもの、狀は弁の如くにて四方の角を缺きたるもの、かしらづつみ。

【𠖐】ケン、コン。丘員切 先 小兒の帽、かしらづつみ。

【冤】エン。縈圓切 先 —此の字、冂に从ひ兔に从ふ冠冕の冕の字と同じからず。寃に同じ、まがる、かゞまる。○〔漢〕「吏稱二—一」。

【𠕵】タウ、デウ。都敎切 效 おほひもの（覆）。

十一畫

【𠖊】シ。施智切 寘　イ。餘致切 寘 かしらづつみ、かほかけ（面-衣）。

【𠖃】ユ。翌句切 遇　シユ、春朱切 虞 𦅛に同じ、かほかけ。○〔博雅〕「𦅛—謂二之帪帕一」。

【𠖒】カウ、ケウ。古巧切 巧 いつはる、又、いつはり（詐）。

二十畫

【𦋗】リ。鄰知切 支 ほろきかしらづつみ、攡又は纚、𢄙にも通じ用ふ。

冖部

【冖】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫 —說文从二一下垂一。巾をもて物を覆ふ、おほふ、又、おほふに用ふる巾、おほひ、つゝみ。

二畫

【冗】穴に同じ。

【冘】 イン。餘針切 侵
ゆく(行)。○〔漢〕「窮冘閼與」。

【冘】 イウ、ユ。以周切 尤
定まらず、又、ためらふ、うたがふ、(狐疑)。○〔後漢〕「計冘豫未レ決」。

【𠔁】 チフ、トフ。得立切 緝
いる(入)。

二畫

【冗】 宂に同じ。

四畫

【完】 エウ。翁標切 蕭
くぼみたるめ、いりめ(目深)。

六畫

【同】 トウ、ヅ。徒籠切 東
まろきふた(圓蓋)。

【罙】 ビ、ミ。武移切 支 ベイ、メイ。綿兮切 齊
宋の字と同じからず、宋の字は宀に从ひ木に从ふ罙の字は冖に从ひ米に从ふ。
いる(入)、ふかす(冒)、めぐりゆく(周行)、ふかし、あまねし(周)。○〔詩〕「罙入其阻」。

七畫

【冟】 セキ、シャク。詩亦切 陌
㊀さゝのふ(調)、さゝのはず(不調)。
㊁剛柔宜しきに適へる飯。
㊂剛柔宜しきに適はざる飯。

【冠】 クワン。沽歡切 寒 【說文】从冖元、冠有法制、故从寸。
かんむり、かむり。
(い)儀貌をとゝのふるために頭上にかむるものゝ總稱。○〔新論〕「人之須レ善、猶首之須レ冠、足之須レ履、首不レ加レ冠、是越類也、足不レ躡レ履、是夷民也」。
(ろ)雞の頭上にある肉塊、とさか。○〔溫庭筠〕「翠羽花冠碧樹雞、未明先上短墻啼」。

(素冠) 白き糸を練りて作れる飾りなきかむり。○〔詩〕「庶見素冠兮」。
(練冠) 絹をさらし練りて作れるかむり。○〔禮〕「主人深衣練冠待于廟」。
(玄冠) 天子の著くるかむり、赤黑の色を爲せるもの。○〔禮〕「玄冠朱組纓、天子之冠也」。
(衣冠) 衣裳と冠と、又、禮貌の義にも借り用ふる語。○〔論〕「君子正其衣冠」。
(皮冠) 韋をもて作れるかむり。○〔孟〕「敢問招虞人何以、曰、以皮冠」。
(儒冠) 學者の被るかむり。○〔史〕「沛公不レ好レ儒、諸客冠儒冠」。
(圜冠) 圜き形をなせるかむり、學士の被るもの。○〔莊〕「儒者冠圜冠」。
(纓冠) かむりの紐を結びつくること。○〔孟〕「被レ髮纓レ冠而救レ之」。
(加冠) 男子二十歲にして始めて冠を著くること、元服す。○〔說苑〕「君子始冠、必祝成禮加冠、以屬其心」。
(解冠) 官途を退くことにいふ語。○〔漢〕「即解レ冠掛東都門、將家屬浮レ海、客于遼東」。
(掛冠) 前に同じ。○〔崔明〕「東歸我掛レ冠」。
(彈冠) 出仕するに方りかむりの塵を指先にてはじき拂ふより、出仕の用意をなすことに借りいふ語。○〔蘇洵〕「彈レ冠而相慶」。
(鵔鸃冠) かはせみ鵔の羽を聚めて作れるかむり。○〔左〕「子臧好鵔鸃冠」。
(進賢冠) 公、侯、又は學士の著くるかむり。○〔杜甫〕「良相頭上進賢冠」。
(通天冠) 天子の著くるかむり。○〔獨斷〕「天子冠通天冠」。
(高山冠) 帽の名、製通天冠に似たり。○〔後漢〕「高山冠、一日側」。

(進賢冠之圖) (通天冠之圖) (高山冠之圖)

(緇布冠) 黑き布もて作れるかむり。○禮「始冠緇布冠、自諸侯下達」。

【冠】 クワン。古玩切 翰
㊀かむりを著く。○〔漢〕「安可復冠也」。
㊁男子成年に達し始めてかむりを著くる禮、元服。○〔禮〕「冠者禮之始也、故聖王重レ冠」。
㊂元服の禮を擧ぐ、成年に達す。○〔漢〕「昭帝既冠委任霍光」。
㊃首位にあること、かしら。○〔晉〕「終日容止不レ怠、風流爲一時之冠」。
(弱冠) 男子の二十歲前後なること。○〔漢〕「賈生矯矯弱冠登レ朝」。
(重冠) 元服の禮を輕くせず。○〔禮〕「古者重レ冠」。○後漢
(勇冠) 勇猛なること、全軍の首位に居る。○〔後漢〕「勇冠古人」。
(卓冠) 勝れてあること。○〔全唐詩話〕「卓冠詞林」。
(挺冠) 前に同じ。○〔隋〕「挺冠儕伍」。
(榮冠) 光榮他の上に在ること。○〔通典〕「冠有成人之容」。
(笄冠) 男女ともに成人の禮を擧ぐ。
(虎而冠) 虎に帽を著けしめたる如く形は人なれども心は匪惡にして虎に類せること。○〔史〕「齊王母家、駟鈞惡戾、虎而冠者」。
(沐猴冠) 顏をあらひたる猿のかんむりをつくること、外は人らしけれども其の智は人の如くならざるより、人の智の足らざることを冷評するに借り用ふる語。○〔史〕「人言、楚人沐猴而冠、果然」。

八畫

【冡】 ボウ、モウ。莫紅切 東
蒙に通じ用ふ、おほふ(覆)。

【冢】 チョウ、チユ。知隴切 腫 塚に通じ用ふ。
㊀おほいかり(大)。○〔周〕「乃立天官冢宰」。
㊁山頂、いたゞき。○〔詩〕「山冢崒崩」。
㊂土地の高起せる處、たか。○〔沈約〕「郎冢堆冢流レ眄」。
㊃封土、もりつち。○〔詩〕「乃立冢土」。
㊄屍を葬りたる處のもりつちせるもの、つか、はか。○〔後漢〕「常過レ冢拜謁」。
㊅鬼神の舍る所、やしろ。○〔史〕「祭黃帝冢山」。
(守冢) 墓の番をなす者。○〔漢〕「守冢二十家」。
(發冢) 人の墓地を掘りあばく。○〔後〕「發冢河東、攻劫丘壟」。
(汲冢) 書籍の名、魏の襄王の墓を掘りて得たるものなりといふ。○〔隋〕「汲冢書井竹書同異一卷」。
(筆冢) 常に使用して廢物に屬したる筆を埋めて紀念とせる塚。○〔國史補〕「棄筆堆積埋山下、號曰筆冢」。
(枯冢) 荒れたる草の下に埋もれて人の弔ふものなき墓。○〔杜甫〕「斯人各枯冢」。
(文冢) 常に作れる文章の草藁を埋めたる墓。○〔蘇軾〕「石室舊學郎」「如文冢」。
(蟻冢) 蟻の築ける塔、ありづか。○〔王安石〕「巴星如蟻冢」。
(壽冢) 己れの生存中に設け置く墓。○〔南〕「令家人豫作壽冢」。
(舊冢) 年ふりたる墓地。○〔晉〕「上無舊冢」。
(古冢) 前に同じ。○〔水經、註〕「獨頭山南有古冢、陵柏蔚然」。
(相冢) 墓地を定むるにつき吉凶を占ふこと。○〔晉〕「圖レ宅相レ冢」。
(義冢) 葬る者なき死人の遺骨を哀みて葬りたる墓。○〔宋〕「收瘞頻年交兵遺骸、立爲義冢」。
(丘冢) 小高きをかの如くに築きなせる冢。○〔梅堯臣〕「赤松不レ見天地長、黃石共葬丘冢荒」。
(荒冢) 人の弔ふものなくあれすさみたる墓。○〔錢起〕「藤草蔓古渠、牛羊下荒冢」。

【冣】シュ、ジュ。從遇切 遇 ―最に借り用ふるは誤る。

つむ（積）、又、をさめあつむ（收聚）。

【冤】エン、チン。於袁切 元 ―説从レ兔从レ冖、兔在二冖下一不レ得レ走、益屈折也。（文）

㊀かゞむ、かゞまる。

（い）伸び得ず。〇〔馬融〕「纏―蜿―蟺」。

（ろ）無實の罪を受く。〇〔江淹〕「名辱身―」。

㊁無實の罪、なきこが、こへたけ。〇〔史〕「嗟乎―哉烹也」。

㊂うらみ（恨）、あだ（仇）。〇〔續韻府〕「此乃宿-世―也、宜二遠避一レ之」。

〔深冤〕ふかきうらみ。〇〔韓愈〕「孤-魂抱二――一」。

〔理冤〕無實の罪なる旨をいひ開く。〇〔後漢〕「上-書極-諫、―陳-寃之―」。

〔至冤〕極めて無實の罪なること。〇〔舊唐〕「雖レ抱二――一固不レ爲レ恨」。

〔直冤〕枉屈の民をして其の情を達せしむ。〇〔宋〕「不レ識―レ―」。

〔侵冤〕こへたげられたること。〇潛夫論〕「――小-民、州司不レ治レ令、遂詣二闕上一書訴-訟」。

〔幽冤〕あらはれざる無實の罪。〇〔崔駰〕「天-道何期乎、――遂見レ明」。

〔沈冤〕前に同じ。〇〔張南英〕「雖レ有二――一、莫二能伸雪一」。

〔結冤〕むすぼれてのびざること、又、無實の罪。〇〔後漢〕「解二釋――一」。

〔煩冤〕（い）ぐるぐるとながること。〇〔風賦〕「勃-鬱――」。（ろ）思ひのやるせなきこと。〇〔沈與〕「撫レ事念-往多二――一」。

〔譽冤〕あた、うらみ。〇〔韓愈〕「貨二我――一」。

【冥】ベイ、ミヤウ。忙經切 青

㊀くらし。

（い）あかりなし、ひかりなし。〇〔史〕「風-雨晦―」。

（ろ）知るべからず、見るべからず。〇〔素問〕「謂二之――一」。

（は）知なし、解せず。〇〔禮〕「惷-愚――」。〇「煩」。

㊁さほし（遠）、かすか（幽）。〇〔杜甫〕「川-原紛眇――」。

㊂ふかし（深）、おくふかし（窈）。〇〔論衡〕「深-―奇-怪」。

㊃いさけなし（幼）。〇〔詩〕「噦-々其―」。

㊄そら（天）。〇〔劉向〕「升レ虛凌レ―」。

㊅溟に通じ用ふ、あをうなばら、うみ。〇〔莊〕「北―有レ魚、其名曰レ鯤」。

㊆よる（夜）、やみ（闇）。〇〔蔡文姬傳〕「―當レ寢兮不レ安」。

〔玄冥〕水神の名。〇〔禮〕「其神――」。

〔滄冥〕奥深きこと。〇〔李白〕「誰人測二――一」。

〔高冥〕高く離れたること。〇〔後漢〕「沈-精重淵、抗レ志――」。

〔紫冥〕天のこと。〇〔高允〕「鷄」翠九-皐、翰飛――」。

〔窅冥〕前に同じ。〇〔李東陽〕「望疑山-色繞二――一」。

〔青冥〕前に同じ。〇〔楚辭〕「據二――一而攄レ虹」。

〔幽冥〕高妙深遠なる域、又、かすかにして暗きこと。〇〔宋〕「大-和宣-洽、通二于――一」。

〔溟冥〕前に同じ。〇〔柳宗元〕「虛-無――」。

〔顓冥〕性質おろか。〇〔呂晦〕「伏念臣――、所レ賦忠-朴」。「手之――」。

〔鈍冥〕行ひにぶく心愚かなり。〇〔梅堯臣〕「惡二心―」。

【冥】ベン、メン。莫甸切 霰

視力の微なると、めよわし、めくるめく。〇〔後漢〕「夫-人年高、目―誤傷二后額一」。

【冥】ベイ、ミヤウ。毋迥切 迥

おほふ（蔽）、又、くらし（晦）。〇〔詩〕「維塵――」。

【冥】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫

縄をもて禽獸をつなぎとるを、わな。〇〔周〕「――氏掌下設二弧-張一爲二阱-獲一、以攻中猛-獸上」。

九畫

【冨】富に同じ。

十畫

【託】ト、ツ。丁故切 遇

咤、宅、詫に作る、さかづきを地におく、おく。〇〔書〕「三-宿三-祭三――」。

【託】タ、テ。陟嫁切 禡

㊀こらす（懲）。㊁いましむ（戒）。

十三畫

【〓】チン、トン。知禁切 沁

㊀地を掘るに用ふるもの、すき。

㊁赤さ黒さの合色、あかぐろし。

【冪】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫 ―本、冖に作る。

㊀おほふ（覆）。〇〔周、註〕「―二八-尊一」。

㊁食をおほふ巾、ふきん。〇〔周〕「――人掌二共巾―一」。

㊂まく、たれぬの。〇〔魏都賦〕「溥-戍絲―、無レ異二蜘-蛛之網一」。

十九畫

【〓】テン。多年切 先

はるか、又、たかくさほし（高-遠）。

冫部

【冫】ヒヨウ、ホウ。碑陵切 蒸

水結ぶ、こほる、こほり。

二畫

【汀】テイ、チヤウ。他丁切 青 盧打切 迥

水の結ぶ貌にいふ字。

三畫

【冬】トウ、ツ。都農切 冬

㊀四時の中にて最終最寒の季節、ふゆ。〇〔司馬相如〕「背レ秋涉レ―」。

㊁冬季を經過するにいふ字、ふゆごもる、ふゆごもり。〇〔史〕「土-地苦-寒、漢-馬不レ能レ―」。

㊂つく（盡）、をはる（終）、をさまる（藏）。〇〔鶡冠〕「斗-柄北指、天-下皆―」。

〔御冬〕ふゆの寒さを防ぐ。〇〔詩〕「我有二旨-蓄一、亦以―レ―」。

〔孟冬〕ふゆの始めの月、即ち十月のこと。〇〔禮〕「――之月」。

〔仲冬〕ふゆの中間にある月、即ち十一月のこと。〇〔禮〕「――之月」。

〔季冬〕ふゆの終はりにある月、即ち十二月のこと。〇〔禮〕「――之月」。

〔大冬〕極寒の季節。〇〔漢〕「陰常居二――一」。

〔隆冬〕前に同じ。〇〔唐太宗〕「其字勢疎瘦、如二――枯樹一」。

〔盛冬〕前に同じ。〇〔雲林異景志〕「――客至不レ燃レ火」。

〔上冬〕十月のこと。〇〔梁元帝纂要〕「十-月曰二――一」。「享二先-王一」。

〔蒸冬〕前に同じ。〇〔周〕「太-宗-伯之職、以二――一」。

〔玄冬〕ふゆのこと。〇〔劉楨〕「自レ夏涉二――一」。

〔九冬〕前に同じ。〇〔張正見〕「――韜二遠-雪一」。

〔杪冬〕十二月のこと。

〔暮冬〕前に同じ。

〔門冬〕草の名、天門冬のこと、藥に用ひ、又、菓子の料とす。〇〔本草〕「天――麥――」。

〔立冬〕陰曆にては十月の節、陽曆にては十一月の八日、二十四氣の一に屬す。〇〔禮〕「先二――一三-日」。

〔忍冬〕草の名、古名すひかづら、藥用に供す。〇〔本草別錄〕「――金-銀-花、一名鷺-鷥-藤」。

〔游冬〕草の名、にがな、たんぽゝに似て路傍に生ずる草。〇〔本草〕「苦-菜、一名――」。

〔連冬〕幾冬もつゞくこと。〇張籍「海花蠻草—・—有」。
〔殘冬〕春の節になりても寒さのいまだ消えやらずあること。〇〔呉寛〕「晏眠不レ覺過二—・—一」。
〔舊冬〕昨年の冬のこと。〇〔沈明臣〕「敝盡春・袍憶二—・—一」。
〔十餘冬〕十餘年といふに同じ。〇〔白居易〕「生來—・—・—」。

〔太〕タイ。他蓋切　泰　—今は泰に作る。
一おほいなり(大)。二とほる(通)。三なめらか(滑)。四ゆたか(豐)。五おごる(侈)。六やすし(安)。七はなはだ(甚)。

〔太〕タツ、ダチ。他達切　曷　—俗には汰又は達に作る。
一前條の三に同じ。二すぐ(過)。

四畫

〔冰〕ヒヨウ。筆陵切　蒸
一水の寒氣に會ひて凝結したるもの、こほり、つらゝ。〇〔荀〕「—生二於水一、而寒二於水一」。
二あぶら(脂)。〇〔莊〕「肌-膚若二—・雪一」。
三矢づつの蓋。〇〔左〕「公徒釋レ甲執レ—而踞」。
〔履冰〕こほりを踏み渉る、轉じて危懼に堪へざるにいふ語。〇〔呉〕「懷二—レ—之險一」。
〔踐冰〕前に同じ。〇〔南〕「—レ—之慮、已除二大-山之安一」。
〔疑冰〕心蒙昧にして物事を臆斷するに借りいふ語。〇〔晉〕「晒二夏-曝之—・—一」。
〔抱冰〕刻苦するに借りいふ語。〇〔呉越春秋〕「冬常—レ—、夏還握レ火」。
〔寒冰〕(い)極寒の節に結べるこほり。〇〔後漢〕「—・—冱」。
(ろ)單にこほりのこと。〇〔曹植〕「—・—辟二炎-景一」。
〔伐冰〕卿、大夫以上喪祭の時にこほりを用ふるを得ること、轉じて高貴の義に借りいふ語。〇〔禮〕「—・—之家、不レ畜二牛・羊一」。
〔摧冰〕こほりを槌もて打ち碎く。〇〔北〕「齊・人—・—」。
〔剖冰〕こほりを打ち割る。〇〔晉〕「祥解レ衣將二—・—求一レ之」。
〔如冰〕(い)清きとこほりのごとし。〇〔江總〕「心・抱—レ—、不レ欺二暗・室一」。
(ろ)冷かなること、こほりの如く、交際の冷澹になれるにいふ語。〇〔陸游〕「舊・社冷—レ—」。
〔積冰〕(い)極北の地。〇〔淮〕「北・方日二—・—一」。
(ろ)こほりの幾層も重なり結ぶこと。〇〔張衡〕「行二—・—之磑・々一兮」。
〔紅冰〕楊貴妃が唐の玄宗の召しに應じて父母と訣るゝ時泣ける血涙の結びて赤きこほりとなりたりとの故事。〇〔方千里〕「情-涙滴二—・—一」。
〔泮冰〕こほり解く。〇〔潘岳〕「寒・風兮—・—」。
〔議冰〕己れの見聞せざる物事を論議するにいふ語。〇〔嵇康〕「欲二以レ所レ見以定二古・人之所一レ難言、得レ無レ似二蟪・蛄之—一レ—耶」。
〔垂冰〕水の結びて下にたれたるもの、つらゝ。〇〔庾肩吾〕「—・—溜二玉手一」。
〔玉壺冰〕心情の清きとの譬喩に用ふる語。〇〔鮑照〕「直如二朱-絲縄一、清如二—・—・—一」。
〔至堅冰〕微細なるきざしの先づ見はれやがて重大なる事情の到來する義に用ふる語。〇〔易〕「履レ霜堅冰至」。
〔渉春冰〕春の日に結べる薄きこほりの上を行く、轉じて危懼に堪へざる貌にいふ語。〇〔書〕「心憂危若下踏二虎尾一—・—・—上」。
〔履薄冰〕うすく結べるこほりの上を行く、轉義前に同じ。〇〔詩〕「戰-々兢-々、如レ臨二深-淵一、如レ—二—・—一」。
〔六月冰〕大暑の節にとけずしてあるこほりのこと。〇〔西征記〕「陵-臺冰-井、有二—・—・—一」。
〔千歳冰〕永き年月の間解けずしてあるこほり。〇〔酉陽雜俎〕「頗-梨—・—・—所レ化也」。
〔畫脂鏤冰〕力を勞して其の效なきとに借りいふ語。〇〔鹽鐵論〕「内無二其實一、而外學二其文一、若二—・—・—・—一、費レ日損レ工」。

〔冰〕ヒヨウ。逋孕切　徑　前條の一に同じ。〇〔唐〕「涕-泗—須」。

〔冰〕ギヨウ、ゴウ。魚陵切　蒸　凝に同じ、こほる、いつ。

〔冰〕リヤウ、ロウ。閭承切　蒸　綾に同じ、あや。

〔冱〕コ、ゴウ。胡誤切　遇　—涸に通じ用ふ。
一さむさに會ひて凝結す、こほる、ひゆ、さゆ、さづ、こる、いつ。〇〔列〕「霜-雪交下、川-池暴—」。
二さむし、さむさ(寒)。〇〔于邵〕「同-雲不レ開、積-雪增レ—」。
〔涸冱〕氣候寒くして水凝結す。〇〔裴度〕「外去二—・—之節一、内見二發-生之理一」。
〔氷冱〕前に同じ。〇〔劉楨〕「—・—露凝、氷-雪皚々」。
〔凝冱〕前に同じ。〇〔舊唐〕「火-林霞雪、湯-泉—・—」。
〔寒冱〕前に同じ。〇〔陳稍〕「由二—・—一以生レ姿」。
〔冬冱〕前に同じ。〇〔楊治〕「玄-—方—、寒-夜未レ央」。
〔渙冱〕水の解け散じ、又、凝結すること。〇〔郭璞〕「—・—期二乎寒・暑一」。

〔沍〕俗の冱の字。

〔冲〕チウ、ヂユ。直中切　東　—沖に同じ。
一むなし、うつろ(空-虛)。二やはらぐ(和)。三ふかし(深)。
四水又は湯などの地上に吹き出づるにいふ字、わく。
五幼稚なり、をさなし、いとけなし。〇〔書〕「惟予—人弗レ及レ知」。
六冰を鑿つ聲にいふ字。〇〔詩〕「鑿レ冰—・—」。
七物の垂れ下がる貌にいふ字。〇〔詩〕「鞗-革—・—」。

〔冲〕トウ、ヅ。徒總切　董　とほる(通)。

〔决〕俗の決の字。

五畫

〔况〕俗の況の字。

〔冶〕ヤ、エ。羊者切　馬
一いる。
(い)金屬を鎔解(とか)し模型(かた)に入れて金器を造る。〇〔史〕「用二鐵—一爲レ業」。
(ろ)化育す。〇〔論衡〕「天-地所二陶-—一」。
二いたる金器、いもの、かなもの。〇〔後漢〕「銘二昆-吾之—一」。
三いものを業とする工人、いものし、鑄匠。〇〔莊〕「以二造-化一爲二大—一」。
四なまめかしき態をなす、うつくしく裝ふ、なまめく、なまめかす。〇〔左〕「—レ容誨レ淫」。
五妖媚なり、艷麗なり、なまめかし、うつくし、みやびやか。〇〔戰〕「佳—窈-窕、趙-女不レ立二於側一也」。
〔都冶〕みやびなること、又、其のもの、美女。〇〔蔡邕〕「—・—嫵-媚」。
〔姚冶〕前に同じ。〇〔荀〕「美-麗—・—」。
〔姣冶〕前に同じ。〇〔抱〕「南-威青-琴—・—之極」。
〔艷冶〕前に同じ。〇〔庾肩吾〕「少-婦多二—・—一」。
〔妍冶〕前に同じ。〇〔沈約〕「土-地多二—・—一」。
〔妖冶〕前に同じ。〇〔司馬相如〕「—・—嫻-都」。
〔遊冶〕定めたる職業なくたゞ容色をかざること。〇〔孟珠曲〕「道-逢二—・—郎一」。
〔陶冶〕(い)すゑ物を作りいものを作る、又、すゑものしといものしと。〇〔孟〕「不レ爲二—・—一」。
(ろ)轉じて、生育、教訓の義にも借り用ふる語。〇〔淮〕「包二裹天-地一—・—萬-物一」。
〔黄冶〕古昔、支那にて言ひ傳へし道家の丹砂をとかして黄金に變化せさること。〇〔史〕「—・—變-化」。

〔冷〕レイ、リヤウ。魯杏切　梗
一ひやゝか。
(い)熱乏し、さむし、つめたし。〇〔南〕「非レ—非レ熱」。

（ろ）氣清し、すゞし。〇〔淮〕「精-神曉-―」。
（は）勢乏し、さびし。〇〔石門題跋〕「此書若ニ凄――ー」。
（に）同情少なし、あざける意あり。〇〔北〕「直此――矣」。
㊁ひやゝかになる、ひやゝかになす、ひゆ、ひやす。〇〔後漢〕「勿レ令レ――」。
〔清冷〕きよらかなること。〇〔梁武帝〕「心――其如レ水」。
〔激冷〕甚しく寒きこと。〇〔潘岳〕「寒-風凄以――」。
〔凉冷〕すゞしきこと。〇〔鄭谷〕「――臥ニ池東ニ」。

【冷】レイ、リヤウ。力鼎切 迥
前條の㊀の（い）と㊁とに同じ。

【冷】レイ、リヤウ。郎丁切 青
こほる、こほり、（冰）。〇〔潘岳〕「露淒-淸以凝――」。

【泮】ハン。普半切 翰
泮に通じ用ふ、氷解く、さく。〇〔詩〕「士如歸レ妻、迨ニ冰未ヒ―」。

【泼】フツ、ホチ。分物切 勿。ハツ、ホチ。方伐切 月。
㊀さむし、風寒し　㊁こほり、（寒冰）。

【洦】ヒョウ。彼孕切 徑
飛ぶ聲にいふ字。

【洞】ケイ、キヤウ。古迥切 迥
すゞし、ひやゝか、さむし、（冷）。

六畫

【活】クワツ、グワチ。胡括切 曷
こほり、（冰）。

【洞】トウ、ヅ。徒弄切 送
すゞし、ひやゝか、（冷）。

【洛】カク、ガク。下各切　ラク。歷各切 藥
こほる貌にいふ字。〇〔楚辭〕「冰-凍兮――澤」。

【洗】ショウ。色拯切 迥
さむき貌にいふ字。

【洇】イン。伊眞切 眞　一本、湮に作る。
前條に同じ。

【洪】キョウ、グ。巨勇切 腫
こほる、（凝）。

【洌】レツ、レチ。力蘗切 屑
㊀さむし、ひやゝか、ひゆ、（寒）。〇〔賈島〕「威-稜高ニ騰――一、煦-育極ニ春-溫ニ」。
㊁寒さ烈し、はげし。〇〔蘇轍〕「雜ニ雷霆之震-驚、與ニ霜-雪之嚴――ニ」。
〔凜冽〕さむさはげし。〇〔李白〕「寒-氣――」。
〔凝冽〕こほりてさむし。〇〔陳子昂〕「豈不レ厭ニ――ニ」。
〔冽々〕寒さのはげしき貌にいふ語。〇〔陶潛〕「――氣遂嚴」。

【冽】レイ。力制切 霽
いさぎよし、いさぎよくす、きよむ、（潔）。〇〔易〕「井―寒-泉食」。

【洽】ケフ、ゲフ。回渉切 葉
㊀やはらぐ、（和）。㊁うるほふ、（霑）。

【津】セン、ソン。宗占切 鹽
すゝむ、（進）。

【凎】セイ、シヤウ。充生切 庚
すゞし、ひやゝか、（冷）。

【修】タウ、トウ。天高切 豪
紖（ひつぎなは）の頭にある銅のかざり、ひつぎなはのかざり。

七畫

【浗】キウ、グ。渠尤切 尤
浗――は、手足のひゆる貌にいふ語、こゞゆ。

【浸】シン。千尋切 侵
すゞし、ひやゝか、（冷）。

【浸】シン。七稔切 寑
さむき貌にいふ字、さむし。

【浹】ケフ、ゲフ。切 胡頰 葉　カフ、ゲフ。切 胡夾 洽
こほりつく、（凍-著）。

【涇】ケイ、ギヤウ。巨井切 梗
さむし、（寒）。

【涊】デン、ヂン。奴典切 銑
惡しき酒。

【涗】キョウ、ゴウ。其拯切 迥
さむき貌にいふ字、さむし。

【涽】ヒ、ビ。毗意切 寘
なみだ、（涕）。

【涷】ソウ、ス。心奏切 宥
㊀ひやゝか、（冷）。㊁こほる、（凍）。

【凋】ケイ、キヤウ。古丙切 梗
ひやゝか、（冷）。

八畫

【淟】テン。他典切 銑
惡しき酒。

【凄】セイ、サイ。七西切 齊　―淒に通じ用ふ。
さむし、（寒）、すゞし、（凉）。〇〔陶潛〕「秋-日――厲」。

【淕】リク、ロク。力竹切 屋
㊀さむし、（寒）。
㊁雨雪交はり下るを、みぞれ、（霙）。

【涸】コ、タ。古暮切 遇
こほる、（凝）、又、とづ、（閉）。〇〔張衡〕「――陰冱-寒」。

【涬】ケイ、ギヤウ。下頂切 迥
さむし、（寒）、ひやゝか、（冷）。

【淮】俗の準の字。

【涵】カン、ゴン。胡南切 覃
さむし、（寒）。

【淞】ショウ、ス。相龍切 冬
㊀こほり、（冰）。㊁こほりつく、（凍-著）。

【淞】ソウ、ス。蘇弄切 送
點滴の冰結して物に附著し垂下せるもの、つらゝ。〇〔曾鞏〕「月淡千-門霧――寒」。

【淨】サウ、シヤウ。楚耕切 庚

ひやゝかなる貌にいふ字、ひやし、すゞし。

【凉】俗の涼の字。

【凊】セイ、シヤウ。七正切 [敬]
さむし、(寒)、ひやゝか、(冷)、すゞし、(涼)。○[墨]「冬則不レ重而溫、夏則不レ輕而—」。
〔溫凊〕あたゝかとひやゝかと、又、子たる者父母を介抱して冬はあたゝかにし夏はすゞしくすること。○[南]「晨昏—・—、勤容戚顏、未ニ嘗暫改一」。

【淬】サイ、ゼ。祖對切 [隊]
さむし、(寒)。

【凋】テウ。丁聊切 [蕭]
生氣なかば絶ゆ、勢力なかば盡く、かじく、しぼむ、かる、そこなふ。○[盡誌]「根淺難レ固、莖弱易レ—」。
〔零凋〕花の散り樹の枯るゝこと、轉じて物事の身の衰へたるにいふ語。○[歐陽修]「不レ覺成ニ恨俱—・—一」。
〔枯凋〕前に同じ。○[孟郊]「惟言無ニ—・—一」。
〔榮凋〕盛衰に同じ。○[劉遯]「—・—榮者不レ謝、—・—零者不レ滅」。
〔後凋〕多くのものよりおくれてしぼむ、轉じて節義を守るに借りいふ語。○[蘇軾]「草中實—・—」。

【凌】リヨウ、力膺切 [蒸] ロウ。里孕切 [徑]
㊀積冰、あつきこほり、たくはへたるこほり、ひ。○[漢]「未央宮之—室」。
㊁冰を藏め置く室、ひむろ。○[詩]「三之日納ニ于—陰一」。
㊂戰栗す、ふるふ、わなゝく、おのゝく。○[漢]「虎豹之—遽」。
㊃越歷す、ふ、こゆ、わたる。○[呂氏春秋]「雖レ有ニ江河之險一則—レ之」。

【凍】トウ、ツ。多貢切 [送] 德紅切 [東]
㊀寒氣のために凝結す、こほる、特に、こほる勢のさかんなる時にいふ字。○[禮]「孟冬、地始—」。
㊁こほり、あつきこほり。○[唐]「陰霧凝—封ニ樹木一」。
㊂さむし、(寒)。○[風俗通]「暑則鬱蒸寒則凜—」。
㊃寒さのために身體の感覺を失す、こゞゆ。○[孟]「不レ煖不レ飽謂ニ之—餒一」。
〔結凍〕物に附着せる氷。○[金]「稽槊—・—如レ椽」。
〔寒凍〕さむさにこゞゆ。○[淮]「冬則—・—、夏則暑傷」。
〔貧凍〕まづしくしてこゞゆる者。○[梁]「以施ニ—・—一」。
〔噤凍〕寒さの爲めにもの言ふとも出來ぬ迄にこゞゆ。○[南]「倮偃縛ニ諸庭樹一、時天夜雪、—・—久レ之」。
〔呵凍〕李白の故事より寒中に文を草し字を書することに借りいふ語、硯のこほりてつめたき筆に息を吹きかくる義。○[天寶遺事]「李白撰ニ詔誥一時、大寒硯凍、帝勅ニ宮嬪一執ニ牙筆一呵レ之」。
〔饑凍〕うゑこゞゆ。○[杜甫]「歲暮—・—逼」。
〔赤凍〕人の身體の寒さにこゞえてあかき色をなすこと。○[梅堯臣]「痩兒雨脛不ニ—・—一」。
〔殘凍〕冬のこほりの春になりてもまだとけやらぬもの。○[孟浩然]「—・—因レ風解」。
〔閉凍〕こほる。○[韓]「冬日之—・—」。
〔氷凍〕こほり。○[禮]「—・—消釋」。

【凑】テフ、デフ。定聶切 [葉]
すゞし、ひやゝか、ひゆ、(冷)。

【冫巠】ケイ、キヤウ。孔丙切 [梗]
寒き貌にいふ字。

九畫

【减】俗の減の字。

【冫音】ヒヨウ、ホウ。匹孕切 [徑]
飛ぶ聲にいふ字。

【凐】イン。伊眞切 [眞]
寒き貌にいふ字。

【冫南】ダン、ナン。奴含切 [覃]
うすきこほり、(薄冰)。

【冫枼】テフ、デフ。徒協切 [葉]
こほる、いつ、(凍著)。

十畫

【凒】ギ、魚衣切 [微] グワイ、ゲ。吾回切 [灰]
霜雪などの白き貌にいふ字、しろし。○[楚辭]「霜雪兮漼—」。

【㓕】俗の滅の字。

【冫射】シヤ、セ。祠夜切 [禡]
しぼむ、(凋)。

【凓】リツ、リチ。力質切 [質] —通じて栗に作る、
さむき貌にいふ字、さむし。○[歐陽修]「天日毎陰翳、風飆多—・—」。

【凔】シヤウ、サウ。初亮切 [漾] 千剛切 [陽] サウ、シヤウ。楚耕切 [庚]
さむし、(寒)、ひやゝか、(冷)。○[列]「日初出則—・—涼々」。

【冫朕】リヨウ、ロウ。閭承切 [蒸]
凌に同じ、こほりつく、いつ。

【冫兼】レン。盧忝切 [琰]
うすきこほり、(薄冰)。

【冫函】カン、ガン。胡南切 [覃]
さむし、(寒)。

【冫冥】ベイ、ミヤウ。莫迥切 [迥]
さむき貌にいふ字、さむし、(寒)。

【冫旁】ハウ、ボウ。品雙切 [江]
こほりつく、いつ、(凍著)。

【冫唐】タウ、ダウ。定都切 [陽]
義前條に同じ。

十一畫

【冫移】イ。弋支切 [支]
冰室の門、ひむろのかど。

【冫堅】ケン、ゲン。胡涓切 [先]
ひやゝか、又、ひゆ、(冷)。

【冫戚】サク、シヤク。率摑切 [陌]
さむき貌にいふ字、さむし、(寒)。

【冫崔】サイ、ゼ。昨回切 [灰]
霜雪の積聚せる貌にいふ字、ふりつもる。○[楚辭]「霖雪兮—凒」。

【冫翏】リウ、ル。力求切 [尤]
—冰は、手足の寒氣にかじくる貌にいふ語、こゞゆ。

【冫爽】シヤウ、サウ。楚兩切 [養]
ひやゝかなる貌にいふ字、すゞし、ひやゝか。

【滭】ヒツ、ヒチ。卑吉切 質
波に同じ、風寒し、さむし。

【滲】シン、ソン。所禁切 沁 サン、ソン。七感切 感
さむし(寒)。

十二畫

【凘】シ。息移切 支 息漬切 寘 セイ、サイ。先齊切 齊
㊀氷解けて流る、ながる、解けて流るゝ氷、こほり。○[後漢]「河・水流一・一、無レ船不レ可レ濟」。
㊁こほり(氷)。○[方干]「更長硯結レ一」。
(夜凘) こほり。○[杜甫]「巴・東之峽生二一・一二」。
(凝凘) こほる、又、こほり。○[孫綽]「夏無二烈・日一、冬不二一・一二」。「前・旆風・流逐二一・一二」。
(斷凘) きれぐになりてながるゝこほり。○[范椁]

【㓗】俗の潔の字。

【⿰冫禽】キン、ゴン。其吟切 侵
さむき貌にいふ字、さむし(寒)。

【⿰冫森】シン、ソン。詩品切 寢
さむき貌にいふ字、さむし(寒)。

十三畫

【⿰冫農】ドウ、ヌ。奴凍切 送
さむし(寒)。

【⿰冫鼎】テイ、チヤウ。他領切 梗
こほる貌にいふ字。

【⿰冫畺】キヤウ、カウ。居良切 陽
こほりさづ(凍凝)。

【凙】タク、ダク。徒洛切 藥
こほりむすぶ(冰結)。

【凚】キン、ゴン。渠飲切 寢
寒さ極まる、ふるふ、こゞゆ。○[韓愈]「磔・毛各一・瘁」。

【凜】リン、力稔切 寢
㊀さむし(寒)。○[陸機]「遺・涼清且一」。
㊁はげし、すさまじ(凄)。○[温子昇]「壯・士一以爭レ先」。
(凜々) 寒さの肌身に浸みいる時などにいふ語、又、勇氣のはげしき貌にもいふ語。○[潘岳]「寒凄々以一・一」。「氣入レ肌以一・一」。
(淒凜) さむし、ぞッとするほどさむし。○[池万生]
(修凜) すさまじ。○[陸游]「鬖・毛一・一誰復支」。

十四畫

【凝】ギヨウ、ゴウ。魚陵切 蒸
㊀堅まる、結ぼる、こる。○[蔡邕]「蒹葭蒼而白・露一」。「思」。
㊁こらしむ、こらす。○[陸機]「以一レ
㊂さだむ、さだまる(定)、とゞむ、とゞまる(止)。○[楚辭]「一二汜・濫一」。
㊃なす、なる(成)。○[書]「庶・績其一」。
㊄かたし(堅)。○[周]「一・土以爲レ器」。
㊅きびし(嚴)。○[淮]「典一・如レ冬」。
㊆聲を徐かにし調を引くを。○[謝玄暉]「一・笳翼二高・蓋一」。
(端凝) 正しく確きを。○[舊唐]「其文一・一若レ頑」。
(冰凝) こほりかたまる。○[後漢]「一既擗・釋、遝復一・合」。「地髮」。
(凍凝) 前に同じ。○[論衡]「雨・露一・一者、皆由」
(疎凝) こまやかなるとには注意せざれども節操のかたきと。○[韓琦]「才・謀秀・博、風宇一・一」。
(嵓凝) わだかまりなくしてさだまる。○[雲笈]「一・一淡泊怡二其性一」。「堂凝」。
(濃凝) こまやかにこる。○[李賀]「蛇・毒一・一洞
(堅凝) かたくしてたゞし、又、こる。○[荀]「惟一・一之難」。

【凝】ギヨウ、ゴウ。牛孕切 徑
たまりみづ(止・水)。

【凞】キ。曉伊切 支
やはらぐ(和)。

十五畫

【⿰冫質】シツ、シチ。職日切 質
㊀はださむし。
㊁寒さにて身動く、わなゝく、ふるふ。

【⿰冫奥】エン。以剪切 銑
かくす(藏・匿)。

十六畫

【瀨】ライ。落蓋切 泰
さむし(寒)。

【⿰冫隷】レイ、ライ。盧帝切 霽
こほり(冰)。

【瀝】レキ、リヤク。狼狄切 錫
さむし寒、又、さむさはげし(冽・寒)。

十七畫

【⿰冫斛】カク、ガク。下各切 藥
志ほやく(煎鹽)。

【⿰冫爵】セウ。子肖切 嘯
こほりさく(冰裂)。

二十畫

【⿰冫嚴】ゲン、ゴン。魚杴切 鹽 魚窆切 豔
㊀さむし(寒)。㊁こゝろ(凝)。

几部

【几】キ。居履切 紙
㊀人の坐してよりかゝる具、おしまづき、つくゑ。○[禮]「主・人徹レ一改レ筵」。
㊁安らかにおもくしき貌にいふ字。○[詩]「赤・舃一・一」。

(几之圖)

(綈几) 美麗なる織物を加へたるひぢつき。○[西京雜記]「天子玉几、冬則加綈錦其上二、謂二之一・一二」。「一・一清淨」。
(棐几) かやの木にてこしらへたるつくゑ。
(案几) つくゑ。○[丘爲]「窺二室惟一・一」。○[晉
(曲几) 彎形をなしたるおしまづき。○[晁冲之]「一・一數行題二別・字一」。「足用二一・一二」。
(燕几) 燕室にてよりかゝるおしまづき。○[儀]「緻レ
(椅几) おしまづき。○[蘇軾]「一・一滑・淨不レ容剞」。「讀二文・史一」。
(淨几) きよらかなるつくゑ。○[蘇軾]「細・翫一・一

【𠘧】シユ、ジユ。市朱切 虞
㊀鳥の短き羽。㊁兵車の装飾にのみ用ふるほこ。

一畫

【凡】ハン、ボン。符咸切 咸
㊀かず(數)。○[管]「計レ一付レ終」。
㊁最計す、あつめはかる、すぶ、かぞふ。○[漢]「一號レ奮爲二萬・石・君一」。
㊂およそ。
(い)要概、大指、あらまし、志めくゝり。○[漢]「請略擧レ一」。

(ろ)みな、(皆)、すべて、(總)、ことごとく、(悉)。〇[書]「一有二辜-罪一」。
㊃賤しきこと、輕きこと、すぐれてあらざること、なみ、なみ〳〵、つね。〇[魏]「受レ恩非レ一、不三敢不二レ陳」。
㊄つねなみのもの、かろ〴〵しきもの。
㊅俗界。〇[范縝]「聖-人之形必異二於一一」。〇[趙抃]「物-外尋レ眞頓離レ一」。
(刑凡) 莊子の寓言の刑滦の君と凡の君との問答より存すると亡ぶるとは孰れも定め難きことに借りいふ語。〇[莊]「凡未二始亡一、而楚未二始存一」。
(不凡) いやしからず、又、なみ〳〵ならず。〇[晉]「貌-狀一レ一」。
(非凡) 前に同じ。〇[蜀]「皆怪二此樹一レ一」。
(總凡) おほよそ、すべて。〇[宋祁]「蒐-乘之一一」。
(都凡) 前に同じ。〇[韓維]「止存二一・一一耳」。
(愚凡) おろかなるなみ〳〵の者。〇[歐陽修]「屢出二言-語一、驚二一・一一」。
(塵凡) けがらはしき物となみ〳〵のものと、又、轉じて世の中の義に借り用ふる語。〇[蘇軾]「山-前雨水隱二一・一一」。

三畫

【尻】キヨ、コ。斤於切 魚
居に同じ、おる、(處)。〇[晉]「一背二東-壁一」。

【処】ショ、ソ。敞呂切 語
處に同じ。

【⿵几彡】シン。止忍切 軫 之刃切 震
新に羽生えて初めて飛ぶにいふ字、さぶ。

五畫

【⿵几尤】イウ、ウ。於鳩切 尤
かぜ、(風)。

【⿵几出】クツ、コチ。曲勿切 物
風吹く。

六畫

【凭】ヒヨウ、ビヨウ。皮冰切 蒸 ベイ、ミヤウ。皮命切 敬 皮孕切 徑
肢體を倚す、もたせかく、よす、もたる、よる。〇[孟貫]「危-檻不レ堪レ一」。

【谻】ケキ、ギヤク。竭戟切 陌
つかる、(疲)、うむ、(倦)。〇[漢]「徼一一受レ詘」。

九畫

【凰】クワウ、ワウ。胡光切 陽
想像上の一種の鳥、頭は雞の如く頸は蛇の如く頷は燕の如く龜の如き背魚の如き尾にて全身五彩の色をなし高さ六尺許ありて天下治平の嘉兆として見はるゝ鳥、雌を凰といひ雄を鳳といふ。〇[詩]「鳳兮鳳兮求二其一一」。

十畫

【凱】ガイ。苦亥切 賄
一愷、豈に通じ作る。
㊀戰勝の時に奏する音樂、かちいくさのがく。〇[周]「令レ奏二一樂一」。
㊁戰勝の時に揚ぐる歡呼、かちどき。〇[劉克莊]「六-軍張レ一聲如レ雷」。
㊂たのしむ、(樂)。〇[漢]「天-下既平、天-子大一」。
㊃やはらぐ、(和)。〇[詩]「一-風自レ南」。
㊄よし、(善)。〇[史]「高-陽-氏有二才-子八-人一、謂二之八-一一」。

十二畫

【凳】トウ、ツウ。丁鄧切 徑
こしかけ、(牀)。〇[輟耕錄]「用二祇一一」。

【凴】凭に同じ。

凵部

【凵】カン、コン。口范切 豏 苦紺切 勘
㊀物を受くる器具。㊁口を張ること。㊂あくび、(欠)。

【凵】キヨ、コ。去魚切 魚
一盧は、めしいれ、飯器。

二畫

【凶】キヨウ、ク。許容切 冬
㊀あし。
(い)わざはひあり、さがめあり。〇[史]「知二吉與レ一」。
(ろ)穀稔らず。〇[孟]「一-年不レ免二死-亡一」。
(は)よこしま。〇[陳琳]「崇-虎讒-一」。
㊁わざはひ、さがめ、又、きゝん。〇[管]「穢亡二三之一一者命曰二小一一」。
㊂わるもの。〇[陸機]「夷レ一翦レ亂」。
㊃天年を全うせずして早死せること、わかじに。〇[書]「一日一短-折」。
(吉凶) 賀すべき事と悲しむべき事と。〇[易]「定二天-下之一一」。
(除凶) 兇惡の徒を攘ひ去る。〇[唐太宗]「一レ一報二千古一」。
(救凶) 饑饉の年にうゑに惱める人を救助す。〇[白居易]「與レ汝一二一・年一」。

【凶】キヨウ、ク。凶勇切 腫
恟に通じ用ふ、うれふ、おそる。〇[國]「敵入而一」。

三畫

【凷】クワイ、ケ。苦對切 隊 苦會切 泰 苦怪切 卦
あらつち、(墣)、つちくれ、(土-塊)。〇[蔡邕]「九-河盈-溢、非二一-一所一能防一」。

【凸】トツ、トチ。他骨切 月
高起せる貌にいふ字、おこる、いづ、たかし、なかたかし。〇[杜牧]「酒一二觥-心一瀲-灩光」。
(凹凸) ひくきとたかきと。〇[神異]「大-荒石-湖千-里無二一・一一」。
(窊凸) 前に同じ。〇[圖畫見聞]「皴淡即生二一・一之形一」。

【凸】テツ、デチ。徒結切 屑
たかし、(高)。

【凹】アフ、オフ。烏合切 合
低下せる貌にいふ字、くぼむ、くぼし、中くぼし。〇[神異經]「無二一-凸一」。

【凹】アウ、エウ。於交切 肴
くぼたまり、(窊)。

【出】シユツ、シユチ。尺律切 質
自からいづるときは入聲となり、自からいづるにあらずして之をいたすときは去聲となる、されども互用を妨げず。
㊀いづ、でる。
(い)外へ至る。〇[史]「穎-脫而一」。
(ろ)外に在り。〇[荀]「一忘二其雛一」。
(は)見はる。〇[史]「寶-鼎一」。
(に)生ず。〇[易]「萬-物一二乎震一」。

(ほ)去る。○〔詩〕「既醉而―」。
(へ)遠ざかる。○〔江淹〕「―レ國而辭レ友。」
(と)進む。○〔漢〕「五將軍分レ道而―」。
(ち)行く。○〔荀〕「―三日而五災至」。
(り)逃る。○〔周〕「其不レ能レ改而―二圜土一者殺」。
(ぬ)罷る。○〔呂氏春秋〕「君可三以―一」。
(る)成る。○〔史〕「功有レ所レ―」。
(を)仕ふ。○〔易〕「或―或處」。
(わ)於きて爲す。○〔史〕「是計將二安―一」、令尹對曰、―二下計一。
(か)ぬきんづ、すぐる。○〔晉〕「桓溫高爽邁―」。
(よ)地方官となる、宮禁外の人となる。○〔晉〕「―爲二永嘉大守一」。
㊁いだす、だす。
(い)外へ致す、外へ處く。○〔漢〕「一歲―入」。
(ろ)生ず、作す。○〔國〕「無レ所レ―二其計一」。
(は)歸す、縱す。○〔國〕「秦王―二楚王一以爲レ和」。
(に)與ふ、納む。○〔戰〕「―二百里之地一」。
(ほ)逐ふ、遠ざく。○〔左〕「逐―二武穆之族一」。
(へ)降す、召す。○〔國〕「乃―二陽人一」。
(と)拔く、見はす。○〔宋〕「當レ避三此人―二一頭地一」。
(ち)吐く、瀉ぐ。○〔唐〕「要レ嘔二―心一」。
㊂男子より其の姉妹の生める男の子を呼ぶ稱、をひ。○〔左〕「康公我之自―」。
〔悖出〕道にそむきていづ。○〔禮〕「言―而―者、亦悖而入」。
〔日出〕太陽いづ、ひので。○〔詩〕「―・―有レ曜」。
〔竝出〕彼れと此れと違なりいづ。○〔漢〕「教化廢而奸邪―・―」。
〔湧出〕湧きいづ。○〔後漢〕「醴泉―・―」。「―」。
〔輩出〕後を追ひて續々といづ。○〔後漢〕「名臣―・―」。
〔挺出〕他に拔きんづ。○〔杜甫〕「自謂頗―・―」。

〔師出〕軍隊の進み行くこと。○〔呉子〕「故―・―之日、有二死之榮一、無二生之辱一」。
〔趨出〕こばしりにはしり行く。○〔書〕「相揖―・―」。
〔躍出〕をどりいづ。○〔禮〕「爲二其矢之―而―一也」。
〔會出〕使用したる費えを算す。○〔周〕「歲終則―二其―一」。
〔懸出〕高きより低きに落つ。○〔爾〕「沃泉―・―」。
〔突出〕つきいづ。○〔唐〕「新豐有レ山、因レ震―・―」。
〔奔出〕勢よくはしり流る。○〔後漢〕「水泉―・―」。
〔理出〕道理の發見すること。○〔後漢〕「唯陛下留レ神澄省、時見二―・―一」。
〔輕出〕かろ〴〵しくしていづ。○〔呉志〕「至三于―・―微行一、從官不レ暇レ嚴」。
〔四出〕四方にでゆく。○〔後漢〕「使者―・―相二望于道一」。
〔暴出〕俄に現はれいづ。○〔後漢〕「山水―・―」。
〔悉出〕こぞりていづ。○〔南〕「省内―・―」。
〔馳出〕先を急ぎて驅け行く。○〔後漢〕「恂即勒レ軍―・―」。
〔徑出〕直ちにいで行く。○〔後漢〕「横レ刀長揖―」「―」。
〔晨出〕早朝よりいで行く。○〔晉〕「常―・―晩歸」。
〔橫出〕はしいまゝなる貌にいふ語。○〔南〕「辭氣―・―」。
〔百出〕種々の狀の現はるゝこと。○〔唐〕「變態―・―」。
〔晏出〕時に後れておそくいで來る。○〔金〕「―・―盜休者訓二勵之一」。
〔重出〕前にありし事どものかさなりていで來たること。○〔摯虞〕「臣猶謂、卷多文煩、類皆―・―」。
〔崛出〕起こり出づ。○〔蔡邕〕「其後雄俊豪傑往々―・―」。
〔湊出〕種々なるものあつまり現はる。○〔張融〕「自縱橫―・―」。
〔層出〕かさなり現はる。○〔陸佃〕「峯巒如レ削、間見二―・―一」。
〔簡出〕擇びいだす。○〔後漢〕「宜下―二宮女一、資中其姻嫁上」。
〔傑出〕俗の中よりすぐる。○〔摭言〕「唐取レ士有二英材―・―科一」。
〔偶出〕前に同じ。○〔北〕「若有二高明卓爾才具―・―者一、朕亦不レ拘二此例一」。

【出】スヰ。尺類切 〔寘〕
外へ致す、外へ處く、だす、いだす。○〔書〕「―二納王言一」。

【出】セツ、セチ。側劣切 〔屑〕
すぐる、ぬきんづ。○〔曹植〕「惟聖善岐嶷秀―」。

六畫

【函】カン、ゴン。胡男切 〔覃〕
㊀いる(容)。○〔禮〕「席間―レ丈」。
㊁つゝむ(包)。○〔漢〕「―レ蒙」。
㊂ふくむ(含)。○〔漢〕「―レ之如レ海」。
㊃よろひ(鎧)。○〔周〕「燕非レ無レ―也」。

【凾】カン、ゴン。戸感切 〔感〕
志たあご、おとがひ。○〔通俗文〕「口上曰レ臄、口下曰レ―」。

【凾】カン、ゲン。胡嵒切 〔咸〕
㊀ひつ、はこ(匱)。○〔晉〕「以二大木一―盛レ石沈レ之」。
㊁文書を藏むる具、ふみばこ、ふばこ。○〔晉〕「竟達二空―一」。
〔經函〕佛書をいれたるはこ。○〔洛陽伽藍記〕「―・―至レ今猶存」。
〔密函〕他見を憚りて秘密にせるふばこ。○〔南〕「―・―去來日中以レ十數」。
〔玉函〕玉もて作りたるはこ、たまてばこ。○〔拾遺記〕「貯以二―・―一」。

【凾】俗の函の字。

七畫

【臿】サフ、セフ。測洽切 〔洽〕
本、臿に作る、舂つきて麥の皮を去る、うすつく、むぎつく。

十畫

【匫】タウ、トウ。土刀切 〔豪〕
古代の器物、ふるきうつは。

刀部（刂）

【刀】タウ、トウ。都高切 〔豪〕
㊀物をきりさくに用ふる器の泛稱、かたな、はもの、きれもの。○〔左〕「未レ能レ操レ―而使レ割也」。
㊁貨錢の名、ぜに、かたなの形に似たるよりいふ。○〔初學記〕「黄帝採二首山之銅一、始鑄爲レ―」。
㊂一種の小船、こぶね、かたなの形に似たるよりいふ。○〔詩〕「誰謂二河廣一、曾不レ容レ―」。
〔雛刀〕さきのとがりたる小さきかたな、轉じて些細なる義にいふ語。○〔左〕「―・―之末、將二盡爭一レ之」。
〔牛刀〕(い)牛を割くに用ふるかたな。○〔論〕「割レ雞焉用二―・―一」。
(ろ)前の例の義より轉じて些細なる事柄に對し不相應なる材力又は手段を用ふる義に借りいふ語。○〔蘇軾〕「欲下來二小邑一試中―・―上」。
〔鼓刀〕かたなを鳴らす、多く屠者の肉を割くに借りいふ語。○〔漢〕「舞陽―レ―、滕公廏騶」。
〔金刀〕(い)漢時代の貨錢の名。○〔漢〕「作二―・―之利一、幾以濟レ之」。
(ろ)こがねづくりのかたな。○〔錢起〕「三宮版架脫二―・―一」。
〔契刀〕前の(い)に同じ。○〔漢〕「更造二大錢一、又造二―・―錯刀一」。
〔鉛刀〕なまりにてつくりたるかたな、又、なまくらがたなに借りいふ語。○〔後漢〕「駑馬―・―不レ可二強扶一」。
〔三刀〕州の字の隱語。○〔晉〕「濬夜夢レ懸二―・―于臥屋梁上一、須臾又益二一刀一、驚覺意甚惡レ之、主簿李毅賀曰、―・―爲二州字一、又益レ一者、明府其臨二益州一乎、及誅二賊殺益州刺史一、果遷二益州刺史一」。
〔夢刀〕前の例より州の刺史となるに借りいふ語。○〔元稹〕「商々公侯欲レ―・―」。
〔銛刀〕切れ味のよきかたな。○〔唐〕「植二―・―一俯レ身就レ鎚」。
〔錢刀〕ぜに。○〔卓文君〕「男兒重二意氣一、何用二―・―爲一」。

〔鋏刀〕はさみ。○〔張説〕「愁腸恐逐二—・—一斷」。
〔剪刀〕前に同じ。○〔賀知章〕「二月春風似二—・—一」。
〔劉刀〕前に同じ。○爾、註〕「南方人呼二剪刀一爲二—・—一」。
〔銀刀〕小さき香魚などの色銀に似て其の刀に似たるより借りいふ語。○〔蘇軾〕「恐看修網出二—・—一」。
〔霜刀〕よく切るゝかたなの光り霜の白くおけるが如くに見ゆるよりいふ。○〔韓愈〕「—・—剪レ汝天女勞」。「如二—・—一」。
〔鐵刀〕極めてはそき身のかたな。○〔孟郊〕「枝々
〔書刀〕支那にては古昔、竹を編みて之に文字を書きしをもてそを書き更むるとき其の竹を削るに用ひしちひさきかたな。○〔東觀漢記〕「建初中以二—・—一賜二馬嚴一」。
〔蜀刀〕前に同じ。○〔漢〕「欲レ請二—・—一」。
〔布刀〕ぬのをきりさくに用ふる小がたな。○〔漢、註〕「—・—謂下婦人割二裂財布一刀上也」。
〔御刀〕天子の佩ぶる刀。○〔後漢〕「尙方令六百石、掌レ作二—・—劍諸好器物一」。
〔歐刀〕人を刑するに用ふるかたな。○〔後漢〕「寧伏二—・—一以示二遠近一」。
〔横刀〕おびたるかたなを横さまになす、又、かたなを腰に佩ぶるにもいふ語。○〔魏〕「—レ—長揖而去」。
〔跳刀〕かたなをそらす、かたなを勢強くふりまはすことにいふ語。○〔晉〕「左右人皆—レ—大呼」。
〔飛刀〕かたなを振るとすみやかなるにいふ語。○〔北〕「—レ—亂斫」。
〔單刀〕たゞひとつのかたな。○〔南〕「—・—直前、魏軍奔退」。「—・—」。
〔儀刀〕儀式のかざりに用ふるかたな。○唐〕「班劍
〔輕刀〕かろ〴〵しく人を刑罰に處するにいふ語。○〔隋〕「齊文宣之—二—臠割一」。
精刀〕よくきたへ、又、かざりてあるかたな。○〔唐〕「以二—・—寶鞭一賜レ之」。
〔長刀〕はわたりのながきかたな、又、ながき柄あるかたな、卽ちなぎなたの稱をもいふ。○〔宋〕「手奮二—・—、所二殺傷一甚衆」。「甲—・—」。
〔短刀〕みじかきかたな、わきざしの類。○〔南〕「短・
〔雙刀〕兩刀といふに同じ。○〔齊東野語〕「能馬上揮二—・—一」。
〔鉤刀〕長き柄にさきのまがりたるはものをすげてある兵器、馬上の人を掛けて引き下すに用ふ。○〔齊東野語〕「執二—・—、夜伏二篠中一」。

〔鎌刀〕かま。○〔春渚紀聞〕「鎌取二馬草一歸、—・—透成二金色一」。
〔竹刀〕竹にてかたなの形にこしらへたるもの。○〔齊民要術〕「以二—・—骨刀一四破レ之」。
〔戒刀〕出家沙門の用ふるかたな。○〔釋氏要覽〕「—・—皆是道具」。「—・—」。
〔剃刀〕かみそり。○〔段成式〕「超就二夕陽一磨二—・—一」。
〔銀裝刀〕銀もてかざりたるかたな。○〔南〕「獻二—・—・—、帝報以二金如意一」。
〔笑中刀〕外面はうちとけてわらふが如く見ゆるも其の心の中人をきりさくかたなをふくみてあるの義、外貌の温順にして內心の陰險なるにいふ語。○〔唐〕「貌柔恭與レ人言、嬉怡微笑、而陰賊褊忌著二于心一、凡忤レ意者、皆中二傷之一、時號二義府—・—・—一」。
〔斬馬刀〕刃の長さ三尺餘り柄の長さ一尺餘りもありて人をきるにこしらへたる刀の名。○〔玉海〕「淵寧五年、作坊造二—・—・—一、刀長三尺餘、鐔長尺餘、首爲二大環一、上出以示二蔡挺一、挺奏、制作精巧便二手擊一、戰陣之利器也」。

〔刁〕

テウ。都聊切 蕭

㊀銅もて造りたる一斗の量を容れ得る軍器、晝閒は食物を炊ぐの具となし、夜中は陣の警戒をなすに擊つ具となす、どら。○〔宋〕「邊陲靜謐、夜息二鳴—一」。
㊁風の止まんとして微しく動く貌にいふ字、やゝうごく、うごく。○〔莊〕「而獨不レ見二之調調・刁刁一乎」。
〔夜刁〕夜間に鳴らすどら。○〔黃庭堅〕「邊城聞二—・—一」。
〔斗刁〕どら。○〔蘇軾〕「弓弩—・—」。「—・—」。
〔調刁〕風のそよぐ意にいふ語。○〔董其昌〕「—・—聞二爽籟一」。

〔刂〕

刀に同じ。

一畫

〔刃〕

ジン、如振ニン。切 震

俗に刄に作るは非なり。

㊀やいば。
(い)きれものゝふちの鋭く尖りて物を切るべき處、は、やきば、○〔書〕「礪二乃鋒—一」。
(ろ)かたな、つるぎ、ほこなど總べてはある物の稱、きれもの、はもの。○〔家語〕「塵埃相接、挺レ—交レ兵」。○
㊁やいばを加ふ、きる、さす、ころす。○〔晉〕「拔レ刀將二手—レ之」。
〔白刃〕しらは、はの色のしろきよりいふ、又、切れ物。○〔禮〕「—・—可レ踏也」。「定二三革一、隱二—・—一」。
〔五刃〕五とほりのはもの、刀、劍、矛、戟、矢。○〔國
〔接刃〕(い)はものを物にまじへつく。○〔漢〕「爭—二—于公之腹一、以復二其怨一、而成二其功名一」。
(ろ)はものとはものとをまじふ、切り結ぶ、又、戰端をひらく義にいふ語。○〔晉〕「大軍相臨、交レ鋒—レ—」。「—・—不レ頓」。
〔芒刃〕は、又、切ッ先。○〔史〕「一朝解二十二牛一而—・—不レ頓」。
〔鬱刃〕あらみに毒藥を塗りてきたへしはもの、一說に涙入背の鑄たるはもの。○〔唐〕「獻二鑄鞘涙劍—・—一」。
〔刀刃〕かたな、はもの。○〔元稹〕「羅列—・—光」。
〔霜刃〕しもの如き光りあるはもの、きたへのよきはものにいふ語。○〔吳都賦〕「剛鏃潤、—・—染」。
〔智刃〕智力の物事を裁斷して處置するをはものゝよく物を切り斷つに譬へていふ語。○〔獨孤及〕「電二發神機一、霜二淬—・—一」。
〔兵刃〕きれもの、はもの。○〔孟〕「—・—既接」。
〔堅刃〕鍛ひのよくしてはのたやすくこぼれざるはもの、轉じて兵勢のくじけ難きに借りいふ語。○〔史〕「持二威重一執二—・—一」。「不レ用二—・—一者也」。
〔弦刃〕弓と刀と、轉じていくさの具。○〔史〕「攻而
〔自刃〕おのれとおのれの身にはものをあつ、自害に同じ。○〔史〕「我寧—・—」。
〔血刃〕はものに血をぬる、人をころすの義。○〔漢〕「兵可レ無レ—レ—而但罷」。「—之急者三」。
〔合刃〕接刃の(ろ)に同じ。○〔漢〕「用レ兵臨レ戰、—レ—」。
〔矢刃〕弓のやとはものと、又、すべていくさの兵器の汎稱。○〔李陵〕「路窮二絕—・—一」。
〔伏刃〕やいばにおのれとおのが身をふせかけて死す。○〔漢〕「仰レ藥而—レ—」。「仇」。
〔推刃〕刃を加ふ。○〔魏〕「不レ能下—レ—爲二天下一報上レ」。
〔寸刃〕一寸はどのはもの、又、いさゝかなるはものゝ義にもいふ語。○〔吳〕「江南寡弱、無二方—之—一」。

〔尺刃〕短きはもの。○〔溫子昇〕「不レ勞二—・—一」。
〔冒刃〕はものを恐れず生命をも顧みざるに借りいふ語、又、戰陣に臨むの義にも借りいふ語。○〔後漢〕「屆二盧—レ—而前」。
〔蹈刃〕前に同じ。○〔吳〕「擐二甲周旋、—レ—屠レ城」。
〔虛刃〕無理非道にはものにて人をころすにいふ語。○〔宋〕「—・—交至」。「〔宋〕「諸校—二—于庭一」。
〔露刃〕はものを室より脫しぬき身にてあること。○〔七命〕「—・—駭足」。○
〔利刃〕よくきるゝはもの。○〔七命〕「霜鍔水凝、—・—露」。
〔氷刃〕(い)こほりの如くに光りあるはもの。「暖初落」。
(ろ)はものに似たるこほり。○〔韋莊〕「池邊—・—
〔吹毛刃〕毛をやいばの上に吹きかくれば吹きかけられたる毛は鋭きやいばの爲めにきるゝほどきれあぢよきはもの。○〔韓愈〕「吁無二—・—・—一」。

二畫

〔办〕

シヤウ、サウ。楚良切 陽

創に同じ、きず、きずつく、やぶる、そこなふ。

〔分〕

フン、ブン。府文切 文

㊀わかつ、わく。
(い)ちぎる、かぎる。○〔漢〕「中二—天下一」。
(ろ)さく、わる。○〔漢〕「比干所二以横—一」。「三」。
(は)はなす、ちらす。○〔史〕「—レ軍爲レ
(に)異にす。○〔漢〕「—レ道而出」。
(ほ)くばる、あたふ。○〔左〕「—レ貧振レ窮」。「辯レ訟」。
(へ)わきまふ、みわく。○〔禮〕「—レ爭
㊁わかる。
(い)かぎらる、へだたる。○〔何承天〕「疆—里析」。
(ろ)さく、わる、はなる、ちる。○〔漢〕「所レ備者多、力—」。
(は)明か、審か、又、別異となる。○〔呂氏春秋〕「不レ可レ不レ—」。

㈢はした、わかれ。○〔穀梁〕「積レ一而成二於月一」。
㈣なかば、(半)。○〔公羊〕「師喪レ一焉」。
㈤尺度の單位、古昔は、黍一粒の長さを度となしぬ。○〔禮、疏〕「一-黍爲レ一」。
㈥二十四氣の一、春又は秋の半にあたりて晝夜長短なき時。○〔左〕「日過レ一而未レ至」。
㈦紛に通じ用ふ、みだれたる貌にいふ字、みだる。○〔淮〕「執肯一一一然、以レ物爲レ事」。
〔一分〕(い)いちぶ、即ち黍一粒の長さ。○〔登徒子〕「揖二之一一一則太長」。(ろ)ひとわかち、又、わづかの義にいふ語。○〔宋〕「能寬二一一一、則民受二一一賜一矣」。
〔十分〕(い)分十を合はせたる尺度。○〔禮、疏〕「一一一爲レ寸」。(ろ)物事の全量に滿つるに用ふる語。○〔孔平花〕「花開已一一一」。
〔支分〕細かにわかつ。○〔朱熹〕「一一一節·解、脈·絡貫·通」。
〔觀分〕ほどこすことをすゝむ、即ち有無相濟ふの義にいふ語。○〔左〕「務レ稽一レ一、此其務也」。
〔中分〕眞二つにす。○〔史〕「乃與二漢·王一約ヨ一二一天·下一」。
〔瓜分〕うりをさくが如くにわく、すべて物をわくるとの形容に用ふる語。○〔漢〕「一二一天下一、以王二功·臣一」。
〔横分〕物を截ちわる。○〔漢〕「比干所二以一一一」。
〔夜分〕よなか、夜中。○〔後漢〕「數引二公·卿郎·將一、講二論經·理一、一一一乃寐」。
〔半分〕眞二ツにわく、又、其のもの。○〔白居易〕「賜二寒風·光請二一一一」。
〔八分〕書體の一。○〔張懷瓘〕「一一一者、秦羽·人上·谷王·次仲所レ作也」。
〔春分〕春の中にて晝夜相ひとしき時、此の日よりは晝間は夜間よりも長し。〔秋分〕秋の中にて晝夜相ひとしき時、此の日よりは晝間は夜間よりも短し。○〔管〕「以二春·分之夕一見二於丁一、以二秋·分之夕一見二於丙一」。
〔制分〕わく、又、わかる。○〔左〕「有二不·與之田一、與レ女一一而食レ之」。「制二井·田之法一一ニ一之」。
〔口分〕人數に割りあてゝわく。○〔公羊、註〕「聖人
〔洞分〕中間に在る故障物をとほしわく。○〔宋〕「一二一沈·壁一、徹二見游·魚一」。
〔區分〕わく、又、わかる。○〔郭璞〕「萬·殊之一一一」。
〔銖分〕こまかくわく。○〔遼〕「一二一邪正一、升·黜分·明、天·下幸甚」。
〔博分〕わけ與ふることの行き屆くやうにす。○〔管〕「一一一以致レ衆」。
〔處分〕物事を取り扱ふ。○〔世說〕「小人皆辭不レ可二一一一」。
〔乖分〕わかる。○〔陶潛〕「語默自殊レ勢、亦知レ當二一一一」。
〔明分〕あきらかにわかる。○〔歐陽修〕「惟玉·石之一一、亦薰·蕕之自別」。
〔了分〕わかる。○〔蘇軾〕「雨·窗一一一」。
〔涇渭分〕涇水は清み渭水は濁り清濁全くわかる、すべて區別の定まるに借りいふ語。○〔蘇軾〕「胸中一一一一」。

【分】フン、ホン。府吻切 [吻]

音律。○〔爾〕「律謂二之一一」。

【分】フン、ブン。符問切 [問]

㈠區別、わかち。○〔史〕「是儒·墨之一」。
㈡區界、さかひ。○〔淮〕「各守二其一一」。
㈢等差、しな。○〔荀〕「一均則不レ偏」。
㈣部曲、こわけ。○〔禮〕「一夾而進」。
㈤人倫、みち。○〔禮〕「禮達而一定」。
㈥位地、くらゐ。○〔國〕「別二其一一主一」。
㈦職責、つとめ。○〔禮〕「男有レ一」。
㈧制定、さだめ。○〔荀〕「詩書禮樂之一」。
㈨程度、ほど。○〔南〕「忝·叨踰レ一」。
㈩器量、性質、ちから、もちまへ。○〔人物志〕「聰·明者英之一也不レ得二雄之膽一則不レ行」。
⑪因緣、運命、ちなみ、まはりあはせ。○〔劇談錄〕「當レ有二宿一一」。
⑫列宿の位置を支那の全土に割りあてたる一區域。○〔漢〕「五·星聚二東·井一、東·井者秦一也」。
⑬わかちて均しくす、そろふ、わかつ。○〔禮〕「一毋レ求レ多」。
⑭わかれて均し、ひとし、わかる。○〔呂氏春秋〕「日·夜一」。
〔推分〕己れのぶんを推しはかり自から安んずること。○〔晉〕「任レ眞一レ一澹如也」。
〔揣分〕前に同じ。○〔唐〕「一レ一二宜レ休也」。
〔職分〕つとめ。○〔諸葛亮〕「此臣所下以報二先·帝一而忠中陛·下上之一一也」。
〔定分〕さだまりたるぶん。○〔杜甫〕「浮·生有二一一、饑·飽豈可レ逃」。
〔恆分〕前に同じ。○〔晉〕「繫·鼓之刑、囚之一一一」。
〔常分〕前に同じ。○〔梁〕「汝等自有二一一一、豈可二妄·求叨·越一」。
〔素分〕前に同じ。○〔梁〕「復篤二一一一、有レ踰二曩日一」。
〔才分〕かたこきうまれつき。○〔魏〕「一一一所レ長」。
〔天分〕(い)性質、又、運命。○〔世說〕「應·務縱レ心、一一一有レ限」。(ろ)たましひ。○〔列〕「精·神者一之一」。
〔部分〕わかれ、又、わかち(すべてのものにいふ)。○〔蕭穎士〕「指二麾一一一、爲二天·子扞·城一」。
〔眼分〕めのつとめ。〔耳分〕みゝのつとめ。○〔梁〕「若レ庸レ可レ寄二於一一一、何故不レ寄二于一一一」。
〔仙分〕仙人の性質。○〔南〕「君有二一一一、尋當二相候一」。
〔器分〕備はりたる性質、又、事に堪ふるもちまへ。○〔魏〕「一一一定二于下一、爵·位懸二于上一」。
〔瀆分〕人倫のわかちに關してけがれたる行ひあること。○〔宋〕「妾有·姑居レ西而婦居レ東、一中上·下之一、不二敢從一」。
〔審分〕(い)人々のつとめを明了ならしむること、即ち民をして其の職務に勉勵せしむること。○〔管〕「一二其一一、則民盡レ力矣」。(ろ)人倫のぶんざいを正しくして亂れざらしむること。○〔呂氏春秋〕「人主必一レ一、然後治可二以至一」。(は)ぶんをよく考ふ。○〔白居易〕「省レ躬一レ一何僥·倖」。
〔地分〕ほね、からだ。○〔列〕「骨·骸者一之一」。
〔功分〕功用の性質。○〔莊〕「知二東·西之相反而不一レ可二以相無一、則一·一定矣」。
〔名分〕人倫のぶん、又、萬物の名あれば必ず其れに應じての性質あることにもいふ。○〔莊〕「春·秋以道二一·一一」。
〔氣分〕うまれつき。○〔家語〕「一·一不レ同、而凡·人莫レ知二其情一」。
〔宿分〕生前より定まりたる運命。○〔劇談錄〕「汝得レ至レ此、當レ有二一·一一」。
〔契分〕ちぎりを結ぶべき因緣あること。○〔李華〕「一一四·般同」。
〔奎分〕文明の司命たる奎星の區域のわりあたれる土地。○〔名山記〕「閩·里當二一·一一、斯文在レ茲」。
〔委分〕ぶんのまゝになしおく。○〔陶潛〕「樂レ天一一以至二百·年一」。
〔涯分〕かぎり、わかち。○〔晉鑒〕「環二視其中所一有、頗識二一·一一」。
〔甘分〕ぶんに滿足すること。○〔梅堯臣〕「貧·賤常一レ一」。
〔賦分〕運命。○〔溫庭筠〕「一·一知二前定一」。「一一」。
〔命分〕前に同じ。○〔蘇軾〕「窮·人一·一薄」。
〔口分〕食料。○〔楊萬里〕「一·生一·一兩無レ爭」。
〔塞分〕くるしき運命。○〔司空圖〕「偶能甘二一·一一」。
〔去就分〕つかへざるとつかふるとのわかち。○〔漢〕「知二一·一之一」。
〔介然分〕世におもねらずして獨立する性質。○〔陶潛〕「遂盡二一·一一」。
〔國士分〕一國に名ある人のぶんざい。○〔江淹〕「竊感二豫·讓一·一之一」。
〔烈士分〕義にいさむ人のぶんざい、又、其のなかま。○〔駱賓王〕「田·光豫·讓一·一之一也」。
〔相知分〕朋友となること。○〔白居易〕「與レ君別有二一一一」。
〔膠漆分〕前に同じ。○〔白居易〕「同二謝·塵之遊一、定二一·一之一一」。
〔攀桂分〕立身出世する運命。○〔賈島〕「若無二一·一一」。

【刟】テウ。丁聊切 [蕭]

きる、たつ、(斷)、とる、(取)、又、きりとる、(斷-取)。

【刵】ジ、ニ。而利切 [寘]

けづる、(削)。

【𠚥】キウ、ク。居虯切 [尤]

大いなるかたな、(大-刀)。

【切】セツ、セチ。千結切 [屑]

㈠きる、(刌)、さく、(割)、きざむ、(刻)。○〔禮〕「聶而一レ之爲レ膾」。

㊁せまる、(迫)、又、ちかづく、(近)、いそぐ、(急)。○〔禮、疏〕「祭-祀之事、必以積レ漸敬-愼不二敢偪-｜一也」。
㊂忠實なるを、まこと、ねんごろ。○〔後漢〕「明-君不レ惡二｜-愨之言一」。
㊃確實なるを、たしか。○〔唐〕「善陳二時-事一律-｜精-深」。
㊄必要なるを、かなめ。○〔揚雄〕「客自覽二其｜一」。
㊅おさふ、(按)。○〔史〕「不レ待レ｜レ脈」。
㊆そしる、(譏)。○〔漢〕「譏二｜王-氏一、故終不レ見レ納」。
㊇ある字の發聲とある字の聲韻と相磨して一の聲韻を成す法、例へば切の字は千結の切にて「千」の發聲の「せ」と、結の發聲の「け」と相磨して、結の韻の「つ」と結びて「せつ」と成るが如し、上なるを父字といひ下なるを母字といふ、反(シカヘ)と同じ。○〔徐鉉〕「時未レ有二反｜一」。
㊈しきり、(門-限)。○〔漢〕「｜皆銅沓-冒、黃-金塗」。

〔剴切〕ねんごろ、又、たしか。○〔唐〕「徵-展二盡-底-蘊一無レ所レ隱、凡二百-餘-奏、無下不二｜-｜一當二帝心一者上」。
〔急切〕いそぎせまる。○〔後漢、註〕「背二當-時之｜-｜一、而慕二所レ聞之事一也」。
〔勁切〕つよくせまる、きびし。○〔魏〕「寒-氣｜-｜、秋-捶難レ任」。
〔縷切〕いとの如くほそくきる。○〔杜甫〕「鸞刀｜-｜空紛-綸」。
〔淒切〕いたみせまる、かなしくあり。○〔皮日休〕「君詞亦｜-｜」。
〔切々〕(い)ねんごろなるが上にねんごろなると、又、ねんごろなる貌にいふ語。○〔論〕「｜-｜偲-々怡-々如也」。
(ろ)せまりいそぐ、又、間斷なき貌にいふ語。○〔白居易〕「小絃｜-｜如二私-語一」。
〔痛切〕太だねんごろなると。○〔漢〕「其言多｜-｜、發二于至-誠一」。
〔摩切〕(い)すりちかづく、すれ合ふ。○〔王庭珪〕「劍戟相｜-｜」。
(ろ)すりきる、轉じて人をはげますにいふ語。○〔宇文之邵〕「以二禮-節廉-恥一｜-｜二臣下一」。

〔激切〕あまりにせまりいそぎてころあひを失ふと。○〔漢〕「其言多｜-｜」。
〔苛切〕せまりきびし、からくして餘裕なし。○〔後漢〕「厭二明-帝之｜-｜一、事從二寬-厚一」。
〔絞切〕前に同じ。○〔後漢〕「本二于諫-爭一則｜-｜」。
〔指切〕さしあてゝねんごろに說く。○〔歐陽修〕「極-二陳古-今治-亂成-敗一、以｜-｜二常-世一」。
〔忠切〕まこと、ねんごろ。○〔漢〕「以二言-事｜-｜一蒙二尊-榮一」。
〔隱切〕言に出ださずして心にそしる。○〔後漢〕「含二｜-｜-志一欲二相中一」。
〔諷切〕明らさまに其れと言はずしてそしる。○〔晉〕「咸復興二諷-箋一｜-｜二之一」。
〔致切〕とゞこほりなくしてたしかなると。○〔魏〕「辭-義｜-｜、辨而有レ禮」。
〔峻切〕きびし、はげし。○〔魏〕「夢無二善-徵一、但卜-命｜-｜、不二敢不一レ赴」。
〔嚴切〕前に同じ。○〔孔融〕「明-詔｜-｜勅二州-郡一」。
〔硬切〕かたくしてたしかなると。○〔唐〕「持-論｜-｜、以二謀-略一高自標-顯」。
〔苦切〕きはめてねんごろなると。○〔唐〕「激-勵｜-｜、故轉レ禍爲レ忠」。
〔要切〕かなめ。○〔元〕「其言｜-｜、皆見二施-行一」。
〔精切〕くはしくしてたしかなると。○〔元〕「布-置謹-嚴、援-據｜-｜」。
〔清切〕(い)位地高くして執務の樞要なると。○〔文心雕龍〕「溫-嶠｜-｜于費-役」。○〔夢溪筆談〕「舊翰林學士地勢｜-｜、皆不レ兼二他務一」。
(ろ)きはめてきよらかなると。○〔杜甫〕「緣レ雲｜-｜歌-聲上」。
〔側切〕いたみせまる。○〔傅咸〕「心｜-｜以興レ思」。
〔課切〕わりあてゝきびしくうながす。○〔蕭子良〕「嚴レ期兼レ夜、｜-｜二新-稅一」。
〔楚切〕音調のかなしくしていそぐ聲にいふ語。○〔傅咸〕「慨二感物一而哀鳴、聲｜-｜以懷-傷」。
〔悄切〕音調のせまりて耳につよく感ぜらるゝ聲にいふ語。○〔潘岳〕「訣-厲｜-｜、又何摩-折」。「視レ歷」。
〔饑切〕飲食の足らずして生活の困難なると。○〔王融〕「溫-養自取、｜-｜豈悟」。
〔惻切〕かなしみせまる。○〔梁昭明太子〕「｜-｜」。
〔慘切〕前に同じ。○〔杜牧〕「雋思長｜-｜」。
〔酸切〕前に同じ。○〔任昉〕「表-啓｜-｜、義感二人-神一」。
〔琢切〕みがきけづる、又、善を責むるの義にいふ語。○〔韓愈〕「｜-｜奉二明-誠一」。
〔磋切〕前に同じ。○〔李紳〕「金鈴玉佩相｜-｜」。
〔鐫切〕前に同じ。○〔王安石〕「靡-磨｜-｜、沉-浸灌-養、行完而才備」。
〔究切〕きはめつくす。○〔韓愈〕「時有レ所二遺-漏一、不レ｜-｜二之一」。
〔簡切〕文章の簡單にして、字句の優長ならざると。○〔蘇河〕「還固之雄-剛、孫吳之｜-｜」。
〔深切〕ふかくねんごろなると。○〔史〕「不レ如レ見二之于行-事之｜-｜著-明一也」。

【切】セイ、サイ。七計切　霽

㊀おほきものを指すときに用ふる字、もろ〳〵、おほし、おほよそ、すべて。○〔晉〕「遠-近禮-贄一｜斷レ之」。
㊁砌に通じ用ふ、みぎり。○〔張衡〕「設二｜-厓-隒一」。

【切】シ。七四切　寘

刺に通じ用ふ、そしる、そしり。○〔儀、註〕「采二時-世之詩一爲二樂-歌一、所二以通レ情相風｜一也」。

【刈】ガイ、ゲ。魚肺切　隊

㊀かる。(い)生ふる草を芟り取る、くさかる、いねかる、かりとる。○〔屈平〕「願竢レ時乎吾將レ｜」。
(ろ)たつ、(絕)。○〔國〕「而又｜二亡之一是天-王之無二成-勞一也」。
(は)けづる、(削)。○〔管〕「地與レ他若一者從而｜レ之」。
(に)つくす、(勦)。○〔大戴禮〕「以｜二百-姓一」。
(ほ)ころす、(殺)。○〔金〕「應レ敵力-戰、研｜甚多」。
㊁かま、(鎌)。○〔國〕「時-雨既至挾二其槍-｜-耨-鎛一」。

〔穫刈〕かりとる。○〔魏〕「種-麥｜-｜」。
〔斬刈〕(い)草木をかりとる。○〔論衡〕「山-野草茂、鉤-鎌｜-｜、乃成二道-路一也」。
(ろ)薙ぎたふす、きりころす。○〔金〕「整レ兵奮-擊、｜-｜甚衆」。
〔剗刈〕かる。○〔柳宗元〕「｜-｜二穢-草一、伐二去惡-木一」。
〔劁刈〕かる。○〔齊民要術〕「別收二選好穗絕色者一、｜-｜高懸レ之」。
〔揃刈〕すべてのものをそろへかる、又、彼れも此れも同じくころす。○〔韓愈〕「不二｜-｜一、不レ足レ令二震-駭一」。

【刈】ゲイ。倪制切　霽

さく、わる、(割)。

【刂】ハク、ホク。北角切　覺

剝に同じ、むく、はぐ。

三畫

【刉】

剴に同じ。

【㓚】コウ、ク。古紅切　東

㊀かま、(鎌)。㊁かる、いれかる、(刈)。

【刊】カン。口干切　寒

〔說文〕从レ刀干聲。

㊀けづる、のぞく、(削)。○〔揚雄〕「萬-世不レ｜」。
㊁きる、(斫)。○〔禮〕「｜二陽-木一而火レ之」。
㊂きざむ、ゑる、(刻)。○〔謝莊〕「玉-牒斯｜」。

〔追刊〕其の事の了はりし後よりけづる。○〔唐〕「國-史已送レ官、不レ可二｜-｜一」。
〔改刊〕けづりなほす。○〔曹植〕「文-字無二｜-｜一」。

【刋】セン。七見切　霰

刊は干に从ひ刋は千に从ふ。

㊀けづる。㊁きる、(切)。

【刟】テキ、チャク。都歷切　錫

きる、たつ、(斷)。

【刉】ギツ、ギチ。魚乙切 質
たつ、（斷）。

【刓】コン。枯昆切 元 ＿
木の枝を斫る、きる。

【刌】ソン、忽混切 阮 セ此演ン。切 銑 （說文）从レ刀寸聲。
スン。切
切斷す、細切す、たつ、きる、さく、きざむ。○〔儀〕「—レ肺三」。「—節・度二」。
（分刌）わかちきる。○〔漢〕「自度レ曲被二歌聲一、—二

【切】テツ、テチ。知鐵切 屑
刀に血を塗る、ちぬる。

四畫

【刎】ブン、モン。亡粉切 吻
頸を斷つ、くびきる、くびはぬ。○〔禮〕「不レ至者—二其人一」。

【制】シ。昌止切 紙
物を割く、さく。

【刏】キ、居依切 微 ケ。吉器切 寘
きる、（切）、たつ、（斷）、さく、（割）さきやぶる、（刲・傷）、又、さす、（刺）、又、牲を殺す、ほふる。○〔周〕「凡—珥」。

【刏】クワイ、古對切 隊 ケ。古外切 泰
㊀たつ、きる、（斷）。㊁刀をみがく、とぐ。

【刬】サン、セン。所鑑切 陷
㊀きる、（切）。㊁かる、（刈）。

【𠛅】サ、セ。所罵切 禡
㊀さす、（刺）。㊁うばふ、（奪）。

【刊】タン。得旱切 旱
さく、わる、（割）。

【刑】ケイ、戶經切 青 ギヤウ。切 （說文）从レ刀幵聲。
㊀のり。
（い）常法、つれ。○〔國〕「天・地之—」。○
（ろ）つみをたゞす法律、おきて。
〔國〕「國斯無レ—」。
㊁のッとる、（法）。○〔禮〕「—レ仁講レ讓」。
㊂たゞす、（制）。○〔荀〕「—レ下如レ影」。
㊃のりを犯すこと、つみ。○〔禮〕「服二大—一」。
㊄つみの處分、しおき。「致レ—」。
㊅つみを制す、しおきに行ふ、つみす、つみなふ。○〔易〕「折レ獄致レ—」。
㊆くびきる、（剄）ころす、（戮）。○〔易〕「利二用—一レ人」。○〔呂氏春秋〕「—二人之父・子一」。
㊇なる、（成）。○〔禮〕「敎之不レ—」。
㊈鉶に通じ用ふ、羹を盛る器。○〔史〕「啜二土—一」。
㊉形に通じ用ふ、かたち。○〔荀〕「剖レ—而莫・邪已」。

（五刑）（い）五とほりの仕置、即ちいれずみ、（墨・劓）、はなきる、（劓・剕）、あしきる、（剕・劓）、勢を割く、（宮・辟）、死に處す、（大・辟）。○〔書〕「—・—之屬三・千」。（ろ）周の代に行ひし五とほりのつみ、即ち農功を害せしこと、（野・刑）、軍に在りて將の命に違ひしこと、（軍・刑）、不孝、及び他の不德をなしたること、（鄕・刑）、官吏にして其の任をつくさゞること、（官・刑）、國民にして謹愼ならざること、（國・刑）。○〔周〕「以二—・—一糾二萬・民一」。
（九刑）九とほりの仕置、前の（い）の外に遠地にながすこと、（流）、科料を出だして罪をあがなはしむること、（贖）、鞭を以て打つこと、朴を以て打つこと（笞）の四つを加へたるもの。○〔左〕「周有二亂・政一而作二—・—一」。
（八刑）周の代にて八とほりの罪、即ち親に善く事へざること、（不・孝）、兄弟の和合せざること、（不・睦）、九族に親しまざること、（不・婣）、長上を敬はざること、（不・弟）、外族に對して無情なること、（不・任）、窮困する者をあはれまざること、（不・恤）、無根の風說をつくること、（造・言）、民人をまよはしめたること、（亂・民）。○〔周〕「以二
鄕—・—一糾二萬・民一」。
（象刑）刑に行はれし者の服飾を刑の種別によりて區別すること。○〔書〕「厥敘方施、—・—惟明」。
（儀刑）のり、又、のッとる。○〔詩〕「—・—二文・王一、萬・邦作レ孚」。
（繁刑）罪の箇條を多くす。○〔韓詩〕「嚴レ令—レ—、「不レ足二以爲一レ威」。
（修刑）刑を正しくす。○〔國〕「序成而有レ不レ至則—レ—」。
（天刑）自然に定まりたる法、又、罰。○〔周〕「上非二天刑一」（「—・—、下非二地・德一」。）
（肉刑）肉體を傷けて生存せしむる罰。○〔漢〕「自以二德衰一而制二—・—一」。「法—レ—」。
（愼刑）罰に行ふことかろ〴〵しくせず。○〔隋〕「敎レ厲レ議—レ—以惠二百・姓一」。
（輕刑）罰に行ふことをなるべく寬大になすこと。○〔魏〕
（腐刑）宮刑に同じ、其の局部のくされてくさきにほひあるよりいふ。○〔司馬遷〕「最・下—・—極矣」。
（常刑）旣に定まりたるのり。○〔書〕「其或不レ恭、邦有二—・—一」。
（義刑）宜しきに適へる仕置。○〔書〕「用二其—・—一義・殺一」。
（薄刑）かろき仕置。○〔禮〕「斷二—・—一、決二小・罪一」。
（大刑）おもき仕置。○〔周〕「其有二不・共一則國有二—・—一」。「息二—・—一」。
（淫刑）其の宗を得ざる仕置。○〔唐〕「明レ訟恤レ獄以—・—一」。
（威刑）威光と法則と、又、嚴に罪すること。○〔隋〕「國之所レ恃、不レ在二—・—一」。
（賞刑）善を褒め惡を罰すること。○〔左〕「惡二此中・國一以綏二四・方一、不レ失二—・—一之謂也」。
（峻刑）きびしき仕置。○〔史〕「殘二傷民一以二—・—一」。
（深刑）前に同じ。○〔漢〕「上失二其道一、而繩レ下以二—・—一」。「能レ禁也」。
（嚴刑）前に同じ。○〔晉〕「雖二處以二—・—一、而不レ
（峭刑）前に同じ。○〔韓詩〕「吳・起—レ—而車・裂」。
（肆刑）仕置。○〔淮〕「免二憂・患一休二—・—一」。
（過刑）あやまちて人を罪すること。○〔漢〕「孝・文之仁、丞・勃之知、猶有二—・—一謬・論一如レ此甚也」。
（陰刑）宮刑に同じ。○〔漢〕「除二去—・—一害レ民者誅」。「見二其事一」。
（罪刑）つみ、とが。○〔後漢〕「—・—未レ著、後世不レ」。
（追刑）已に宗まれる罰に更に罰を加ふること。○〔晉〕「父・母有レ罪—・—」。
（隆刑）仕置の度を高むること。○〔晉〕「—・—峻レ法、非二明・主之急・務一」。「—之極」。
（殊刑）とりわけて重き仕置。○〔晉〕「大・辟之罪、—・
（武刑）武をもて罪をたゞすこと、征伐。○〔柳宗元〕「弛二其—・—一、諭二我德・心一」。
（果刑）罪ある者はかならず罰に處すること。○〔沈亞之〕「—・—信賞、國之筋・絡也」。
（秋刑）秋氣の爲めに物のかれしぼむを刑罰の人體をころしきずつくるに比していふ語、轉じて物事の處置のきびしきに借りいふ語。○〔宋濂〕「和而春陽、肅而—・—」。
（寃刑）無根の罪にて仕置にあふこと。○〔漢〕「獄亡二—・—一、邑亡二盜・賊一」。
（連伍刑）或る仕置にあひたる者の爲めに罪を犯さずともかゝりあひとなりて罰をかうむること。○〔晉〕「重行二不レ順レ時之令一、覓二—・—之—一」。
（斧鑕刑）死罪の仕置。○〔元稹〕「—・—之—坐追、椒蘭之氣外薰」。
（筆削刑）文章字句の惡處をけづり去ること。○〔任昉〕「蓄二—・—一、懷二輕・重之意一」。

【㓝】刑に同じ。

【刢】テウ。丁聊切 蕭
いれの穗を取る、さる。

【㓞】カツ、恪八切 黠 キ。去冀切 寘
カチ。
契に通じ用ふ、ちぎる、むすぶ、（約）。

【列】ヒン。紕民切 眞
わかつ、（分）。

【𠛘】フン、ホン。敷文切 文
文と質との相雜はれること、まだら。

【刘】キ。紀披切 支
刀を用ひて物をさる、きりさる。

【刘】キ。擧綺切 紙
剞に同じ、曲がりたる刀。

【划】クワ、ゲ。胡瓜切 麻
舟をひらき進む、さをさす。

【划】クワ、ゲ。古臥切 箇
かま（鎌）。

【划】クワ。古火切 哿
さく、わる（劃）。

【刑】研に同じ。

【刓】虞袁切 元 五丸切 寒 グワン。ゲン、グワン。
一廉隅を削去す、かどゝる、まどかにす、まろむ、けづる、ひさしくす、つぶす、又、きる、たつ。〇〔楚辭〕「｜レ方以爲レ圓」。
二廉隅すれて壞ろ、まろまろ、つぶろ、つひゆ、つく。〇〔唐〕「天下戸板｜、隱人多去二本籍一」。
〔鑽刓〕きりけづる。〇〔揭佑民〕「雕鑽加二｜・｜一」。
〔神刓〕天然に圓くなりてあるにいふ語。〇〔延平志〕「｜・｜天巖高下相屬」。

【刾】ケツ、ケチ。古穴切 屑
ほる、くじる（剔）。

【刟】陟隆切 東 之容切 冬 シヨウ、シユ。チウ、チユ。
けづる（削）。

【刕】力脂切 支 リ。憐題切 齊 レイ、ライ。
きる（切）、さく（劃）。

【刖】ゲツ、グワチ。五厥切 ゴツ、ゴチ。五忽切 月 一本䟷又䠊に作る。
足を絶つ、あしきる、足を絶たる、あしきらる、古代の刑罰の一 〇〔韓〕「吾非レ悲レ｜也」。
〔殘刖〕あしきられたると。〇〔晉〕「｜・｜之長廢」。
〔雙刖〕兩方の脚をきられたると。〇傳咸「痛二兩趾之｜・｜一」「搖」。
〔䠊刖〕あやふき貌にいふ語。〇〔七命〕「｜・｜蛻」。

【刔】ガツ、ガチ。五割切 曷
たつ（絕）。

【刮】クワツ、ゲチ。下刮切 黠
あやふし（危）。

【刅】刃に同じ。

【刵】イ。余時切 支
たくみ（巧）。

【列】レツ、レチ。力列切 屑
一分解す、わかつ、わかる。〇〔左〕「昔天子班レ貢、輕重以レ｜」。
二布陳す、つらなる、つらぬ、ならぶ、なむ、しく。〇〔史〕「｜二組豆一」。
三わかち、くらゐ、ついで。〇〔漢〕「恤二我九｜一」。
四くみ、なみ、ならび、つら。〇〔左〕「不レ鼓不レ成レ｜」。
五うれに設けある小堘、こどて。〇〔周〕「以レ｜舍レ水」。
〔行列〕なみならび、又、其のもの。〇〔禮〕「｜・｜得レ正焉」。
〔等列〕(い)前に同じ。〇〔漢〕「居常鞅々、羞下與二絳灌一｜・｜上」。(ろ)くらゐ、ついで。〇〔左〕「明二貴賤一、辨二｜・｜一」。
〔鶴列〕つるの翼を張りたるが如くに左右にならぶと、重に軍隊の備へにいふ語。〇〔庾信〕「開二｜・｜之陣一」。
〔朝列〕朝廷にて百官のつらなる位。〇〔南康記〕「不レ及二｜・｜一、化爲二白鵠一」。
〔淸列〕よきくらゐ。〇〔柳宗元〕「叨冒二｜・｜一」。
〔顯列〕前に同じ。〇〔漢〕「父子俱爲二｜・｜一」。
〔羅列〕つらなりならぶ。〇〔杜甫〕「衾裯｜・｜」。
〔陳列〕つらぬ、つらなる。〇〔杜甫〕「播二其聲音一以｜・｜之」。
〔編列〕くみてつらぬ。〇〔詩、傳〕「｜二｜他髮一爲レ」。
〔爵列〕くらゐ。〇〔禮〕「其賞罰用二｜・｜一」。
〔齒列〕ならぶ、又、ならび。〇〔漢〕「猶復｜・｜」。
〔序列〕順序を追ひてならぶ。〇〔史〕「｜二｜古之仁聖賢人一」。
〔伍列〕隊を作ると、又、其のもの。〇〔左〕「使二城下之人｜・｜登一レ城」。
〔整列〕みだれずして正しくならぶ。〇〔左〕「建鼓｜・｜」。
〔環列〕圓形を作りてつらなる。〇〔隋〕「百靈｜・｜」。
〔參列〕まじはりつらなる。〇〔戰〕「魏卒戍二四方一、守二亭障一者｜・｜」。
〔爭列〕(い)他の者の上位に立たんとあらそふ。〇〔史〕「不レ欲下與二廉頗一｜上レ｜」。(ろ)又、他と殆ど位置を同じうする意に用ふる語。〇〔權德輿〕「不レ能下與二房魏一｜上レ｜」。
〔限列〕かぎりを付けてわかつと。〇〔漢〕「其議二｜・｜後庭一」。
〔備列〕つらなる、ならぶ。〇〔後漢〕「宮女數千｜・｜」。
〔條列〕區別を設く。〇〔後漢〕「檢二閱庫藏一、收二其珍寶一、悉｜・｜上言」。
〔棊列〕碁盤の目の如くにならぶ。〇〔後漢〕「府署第館｜二｜于都鄙一」。
〔星列〕星のならびたてる如くにならぶ。〇〔後漢〕「醮火營中｜・｜」。
〔官列〕くらゐ。〇〔宋〕「延之｜・｜猶卑」。
〔騶列〕供を揃へて列をなしあると、卽ち儀衞。〇〔魏〕「排二儔｜・｜一」。
〔警列〕行儀正しくならび居る。〇〔隋〕「百司｜・｜」。
〔周列〕不足するとなくならぶ。〇〔唐〕「樂器｜・｜」。
〔品列〕くらゐ。〇〔唐〕「雜二｜・｜一異二服章一以飾レ虛也」。
〔辯列〕言語をもてときわく。〇〔唐〕「賢二二縣史一將レ非レ之、焦等｜・｜尤苦」。
〔駢列〕ならぶ。〇〔遼〕「井邑｜・｜、最爲二衝會一」。
〔列々〕ならべる貌にいふ語。〇〔張衡〕「鍔々｜・｜」。
〔儔列〕同じきくらゐのもの。〇〔夏侯湛〕「視二｜・｜一如二草芥一」。
〔鷺列〕朝廷にての百官の坐次。〇〔岑參〕「平明端レ笏陪二｜・｜一」。
〔森列〕物のきびしくならぶと。〇〔韓愈〕「天地鬼神昭布｜・｜」。
〔僚列〕同役のもの。〇〔李嶠〕「臣二同省｜・｜一」。
〔鷟列〕あひるの歩むが如くに次づくとならぶ、朝廷にての百官の進退にいふ語。〇〔周邦彥〕「｜・｜以就レ次」。
〔殊列〕すぐれたると、なみなみならぬと。〇〔杜甫〕「作者｜・｜」。

【列】レイ。力制切 霽
ならぶ、くらぶ（比）。

五畫

【刯】コウ、ク。古侯切 尤
かま（鎌）。

【刜】フツ、ホチ。扶弗切 物
うつ（擊）、きる（斫）、たつ（斷）。〇〔白居易〕「君勿レ誇二我鍾可一レ｜」。

【初】ショ、ソ。楚居切 魚
一はじめ。
(い)おこり、はじまり、とりつき、第一著、端緒。〇〔禮〕「夫禮之｜始二諸飮食一」。
(ろ)もと、ねもと、本原。〇〔莊〕「無三以反二其性情一而復二其｜一」。
(は)まへかた、もと、以前。〇〔三〕「先主曰、孤負二黃權一、權不レ負レ孤也、待レ之如レ｜」。
(に)幼時。〇〔詩〕「我生之｜尙無レ爲」。
(ほ)もとありしこと、がら、故事。〇〔禮〕「夫嘗有レ｜」。
二はじめに、はじめて。〇〔韓愈〕「民之｜生固若二禽獸一然」。
三のぶ（舒）。
〔太初〕萬物の由りて生ずるもと、宋儒の說ける太極に同じ。〇〔列〕「｜・｜者氣之始也」。
〔有初〕事をなすのはじめ、事のはじめ、注意して粗漏ならざると。〇〔詩〕「靡レ不レ有レ｜、鮮二克有一レ終」。
〔遂初〕はじめの思ひ通りになる、孫綽の賦よりおこ

に官を辭して野に處るとに借りいふ語。○〔晉〕「孫綽居ニ會稽一、游ニ放山水一十餘年、作ニ──賦一以致ニ其意一」。

〔厥初〕はじめ。〔愼初〕事をなすにはじめをかろくしくせず。○〔書〕「愼ニ厥初一、惟厥終一、終以不ㇾ困」。

〔始初〕はじめ。○〔漢〕「承ニ──事一」。

〔古初〕むかし、以前。○〔宋〕「禮官不ㇾ能ㇾ推ニ明經訓一、務合ニ──一」。

〔往初〕前に同じ。○〔任昉〕「德冠ニ──一、功無ニ與二一」。

【刎】刎に同じ。

【删】サン、所姦　セン。切　删　〔說文〕从ニ刀册一。册書也。

けづる。

(い)古昔、支那にて簡を編み文字を記して冊となし其の不要の文字を除くに刀にて剟りしにいふ。○〔書、序〕「─ㇾ詩定ㇾ書」。○〔漢〕「─ニ其僞辭一取ニ正義一」。

(ろ)削除す、のぞく。

(は)取捨す、さだむ。○〔歐陽修〕「詩厚ニ風化之本一、吾得ニ以擇而─一」。

〔採删〕善きものをとりてあしきものをのぞく。○〔後漢〕「─ニ左氏國語一、─ニ世本戰國策一」。

〔加删〕足らざるをくはへ、用なきをけづる、おもに詩文をなほすとに用ふる語。○〔韓駒〕「懇謝請ニ──一」。

〔討删〕善くとりえらべさだむ、又、誤に取りえらぶる義に用ふる語。○〔方回〕「古籍勤ニ──一」。

〔刊删〕けづる、又、えらぶ。○〔范梈〕「進士竢──」。

【刞】ショ、ソ。七慮切　御

土を起こす器、すき、(耝)。

【㓷】ヒ、符碎　ビ。切　支　披義　切　寘

㊀はぐ、むく、(剝)。㊁きりわく、(刃析)。

【刡】ビン、莫忍　ミン。切　軫　莫賓　切　眞

けづる、(削)。

【刢】レイ、リヤウ。郞丁切　靑

㊀刀をもて物を剖く、さく、わかつ。㊁覺るとはやし、さとし、かしこし。

【刻】ケン、ゲン。胡千切　先

自ら頸を刎ぬ、くびはぬ。

【㓠】クワ、ケ。古華切　麻

さく、(割)。

【㓟】ショウ、シュ。職容切　冬

けづる、(削)。

【判】ハン、普半　バン。切　翰　〔說文〕从ㇾ刀半聲。

㊀分散す、別離す、ちる、はなる、わかる。○〔左〕「紀於ㇾ是始─」。

㊁わかつ、わく。

(い)區別す、剖析す、はなす。○〔淮〕「剖ニ─大宗一、竅ニ領天地一」。

(ろ)裁決す、斷定す、きむ、さだむ。○〔唐〕「初試選人皆糊ㇾ名令ニ學士考──一」。

㊂裁決、斷定、きめ、さだめ、はんだん、さいばん、又、官廳の指令書、公事の裁決文、可否善惡の決定書。○〔唐〕「元紘大ニ署──後一曰、南山可ㇾ移、─不ㇾ可ㇾ移」。

㊃なかば、(半)、又、かたわれ、(片)、又、配耦者の一人、夫若しくは婦。○〔周〕「掌ニ萬人之─一」。

㊄總べて、かたわれさかたわれさを合して一の用をなすもの丶稱。○〔周〕「凡有ㇾ責者、有ニ─書一以治則聽」。

㊅宰相の地方の事務を典掌するにいふ字、つかさどる。○〔韻會〕「宰相出典ㇾ州曰ㇾ─」。

〔分判〕わかつ、又、わかる。○〔陳〕「文案盡付ㇾ局、參議──」。「疑」。

〔質判〕よしあしをたゞしわかつ。○〔唐〕「─ニ─所ㇾ」。

〔離判〕はなれわかる。○〔國〕「七德──、民乃攜貳」。

〔詳判〕事わけをつまびらかにしてわけ定む。○〔宋〕「下ニ禮官一──」。

〔察判〕前に同じ。○〔南〕「委ニ刺史一以時──」。

〔研判〕とりしらべわけさだむ。○〔魏〕「事付ニ有司一、未ㇾ被ニ──一」。

〔報判〕囚人の罪人をとりしらべさだむると。○〔魏〕「自ㇾ爾迄ㇾ今、未ㇾ蒙ニ──一」。

〔通判〕(い)すべての事をわかちさだむ。○〔唐〕「市令掌ニ交易一禁ニ姦非一、──ニ市事一」。

(ろ)宋の時の官名、卽ち朝官にして出でて一州の政事を監督するもの。○〔宋〕「始置ニ諸州之──一」。

〔攝判〕朝官にして他の職を兼ぬ。○〔隋〕「專以ニ本官一──ニ東宮一」。

〔咨判〕とひてよしあしをわかつ。○〔唐〕「就ㇾ第──」「──」。

〔銓判〕よしあしをわかち定む。○〔唐〕「不ニ復──一」。

〔校判〕たゞしわかつ。○〔唐〕「糊ㇾ名──」。

〔臆判〕己れの心一つにてよしあしをわかち定む。○〔唐〕「本末駁舛、──自私、不ㇾ足ニ以訓一」。

【別】ヘツ、ベチ。必列切　屑

㊀わかつ、わく。

(い)はなす、さく、かぎる。○〔淮〕「宮庖之切割分──也」。

(ろ)わきまふ、よりわく。○〔書、箋〕「簡ニ─其德行修者一」。

㊁わかる。

(い)はなる、さく、ちる。○〔爾〕「小山─ニ大山一鮮」。

(ろ)判明す、きはだつ。○〔論〕「草木區以─」。

(は)知親にはなれ隔たる、いさまごひす。○〔南〕「詣ニ王儉一─」。

㊂同じからざると、殊異。○〔張衡〕「枝─條異」。「上」。

㊃よそ、ほか。○〔史〕「─循ニ江淮一而

㊄わかち、たてわけ、へだて。○〔禮〕「婚姻之禮所ニ以分ニ男女之─一也」。

㊅わかれ。

(い)わかれ出でたるもの。○〔後漢〕「其先魏之支─」。

(ろ)いきわかれ、志にわかれ、いさまごひ。○〔梁〕「鏗告ㇾ─」。

〔傳別〕てがた、券書。○〔周〕「聽ニ稱責一以ニ──一」。

〔旌別〕あらはしわかつ。○〔書〕「──淑慝一」。

〔區別〕わかつ。○〔論〕「譬ニ諸草木一、區以─矣」。

〔辨別〕わきまへわかつ。○〔元稹〕「機能──ニ東西位一」。

〔支別〕わかれ。○〔後漢〕「其先魏之──」。

〔識別〕志りわきまふ。○〔魏〕「──人物一、海內翕然莫ㇾ不ㇾ注ㇾ意」。

〔族別〕(い)親族のわかち、卽ち其の系統の遠近によりて親疎のわるゝと。○〔周〕「當ニ三──之一」。

(ろ)種類の異なるによりてわかつと。○〔道德指歸論〕「物以──」。

〔種別〕前の(ろ)に同じ。○〔漢〕「──爲ニ七略一」。

〔界別〕わかち、又、わかつ。○〔漢〕「天地所ニ以──一」。

〔科別〕志なによりてわかつと。○〔後漢〕「──行能一、必由ニ鄕曲一」。

〔乖別〕異なると。○〔魏〕「性趣則──」。

〔甄別〕わかつ。○〔元〕「──能否一」。

〔銓別〕えらびわかつ。○〔文心雕龍〕「括ニ囊雜體一切在ニ──一」。

〔䠶別〕ふたまたにわかる。○〔釋名〕「兩肢各──」。

〔派別〕わかれ〳〵になる。○〔吳都賦〕「百川──、歸ㇾ海而會」。

〔優別〕すぐれたる地位。○〔何承天〕「漸就ニ──一」。

〔差別〕わかち。○〔白居易〕「一音無ニ──一」。

〔離別〕はなれわかる。○〔楚辭〕「余既不ㇾ難ニ夫──一兮」。

〔訣別〕いとまごひ。○〔後漢〕「今子遠適ニ千里一、會面無ㇾ期、故輙行相候以展ニ──一」。

〔告別〕前に同じ。○〔梁〕「弘景辭ニ──一」。

〔叙別〕前に同じ。○〔元稹〕「遙巡來──」。

〔生別〕いきわかれ、互に生きながらへて斯の世にあるもはなれ〴〵になると。○〔家語〕「孔子聞ニ哭聲甚一、顏回曰、此有ニ──離者一」。

〔遠別〕 とほき處に離れわかる。〇〔白居易〕「――恆苦-悲」。
〔析別〕 わかればなる。〇〔後漢〕「太后感ニ――之「僕、各賜ニ王赤紱ニ」。
〔淵別〕 會見せざること。〇〔王羲之〕「――稍久」。
〔寵別〕 いとまごひにねんごろの情を致すこと。〇〔昕〕「徵レ文ーレー」。「寨-城闉」。
〔餞別〕 他處に行く人を送ること。〇〔韋應物〕「ーレー
〔死別〕 ながくわかれ、死にて再び會見する能はざること。
〇〔右樂府〕「生人作ニ――ニ」。
〔君臣別〕 君と臣との人倫上の關係の區別あること。
〇〔禮〕「示ニ民有ニ――之ーニ」。
〔夫婦別〕 をツとたる者とつまたるものとに各の職分に先天のたがひあるものなれば相犯し相みだるべからざること。〇〔禮〕「――、父子親、君臣嚴」。
〔兒女別〕 こどもやをみなのわかれ、深くわかれを悲むことに借りいふ語。〇〔高適〕「丈夫不レ作ニ――ーニ」。

【刦】 ケフ、コフ。訖業切 〔葉〕 ―刧に通じ用ふ。
㊀うばふ、(奪)、かすむ、(掠)、おびやかす。(剽)。〇〔左思〕「ーニ剞熊-羆之室ニ」。
㊁せまる、とどむ、(禁-持)。〇〔荀〕「ーレ之以ニ師-友ニ」。

【刧】 俗の刦の字。〇〔荀〕「齊桓-公ーニ於魯莊ニ」。

【刨】 ハウ、ベウ。蒲交切 〔肴〕 けづる、(削)。

【刘】 リウ、ル。力久切 〔有〕 さく、わる、(割)。

【㓠】 テン。都念切 〔豔〕 ―又、玷に作るとあり。 かく、きず、(缺)。〇〔詩〕「白-圭之ー」。

【㓠】 テン。多忝切 〔琰〕 ㊀きる、(斫)。㊁かく、はをかく、(刀缺)。

【利】 リ。力至切 〔寘〕
㊀とし。(い)するどし、(銛)。〇〔孟〕「非レ不ニ堅-ーニ」。
(ろ)はやし、(疾)。〇〔戰〕「手-足便-ー」。
㊁なめらか、(滑)。〇〔周〕「軸有ニ三-理ー、三-者以爲レー也」。
㊂よし、(吉)、よろし、(宜)。〇〔易〕「ーレ有レ收レ往」。
㊃とほる、とほす、(通)、したがふ、(順)。〇〔後漢〕「通ニー壅-塞ニ」。「ーニ」。
㊄便宜、つがふよきこと。〇〔史〕「趙受ニ其ーニ」。
㊅有功、用にたつこと。〇〔禮〕「火之ー」。
㊆要害。〇〔孟〕「天時不レ如ニ地ーニ」。
㊇權力。〇〔老〕「國之ー器」。
㊈戰勝、かち。〇〔史〕「戰少レー」。
㊉巧致、たくみ。〇〔老〕「絕レ巧棄レー」。
⑪福祿、さいはひ。〇〔書傳〕「中不レ容レー」。
⑫富饒、とみ。〇〔戰〕「巴-蜀漢-中之ー」。
⑬私益、とく。〇〔國〕「將レ求ニー於我ニ」。
⑭潤益、まうけ。〇〔史〕「逐ニ什-一之ーニ」。
⑮貪る。〇〔禮〕「先レ財而後レ禮則民ー」。
⑯養ふ。〇〔禮〕「告レー」。
⑰益す。〇〔荀〕「以治レ情則ー」。
〔地利〕 (い)戰略上土地の形勢の便りよきこと。〇〔孟〕「天時不レ如ニ――ニ」。
(ろ)土地より產出する財貨の益あること。〇〔管〕「ー不レ可レ竭」。
〔興利〕 功益となることを作り爲す。〇〔易〕「損以遠レ害、益以ーレー」。
〔人利〕 衆多の人々の便りとなること。〇〔孔叢子〕「今王不レ修ニ――ニ以應ニ天祥ニ也」。
〔大利〕 なみなみならざる利益。〇〔史〕「伐レ齊――也」。
〔廣利〕 大いなる便益。〇〔宋〕「普濟レ下曰ニ――ニ」。
〔尸利〕 其の職に居て其の責めを盡くさずして收益を圖ること。〇〔禮〕「近而不レ諫則――也」。
〔周利〕 財產の增殖を圖るに注意の行き屆くもの。〇〔孟〕「ーニ於ー者、凶-年不レ能レ殺」。
〔長利〕 永久の功益となること。〇〔周〕「社-稷之――也」。
〔名利〕 名譽と財貨の利益とのこと。〇〔尹文子〕「――治ニ小人ニ」。
〔姦利〕 道ならぬことを爲して己れの利益を圖ること。〇〔史〕「徒――相告」。「兵――」。
〔犀利〕 武器の鋭くあること。〇〔魏〕「上下相習、五-兵――」。
〔舍利〕 釋迦佛の火葬せる骨のこと、梵語設利羅の略。〇〔管〕「――從ニ西-方ニ來」。
〔鈎利〕 私益を己れの方へ引き寄す。〇〔管〕「ーレー之君、無ニ王-主ニ焉」。
〔權利〕 (い)勢力を逞しくすること、又、其の人。〇〔唐〕「不レ與レ交ニ――ニ」。
(ろ)己れの分限內に於て自ら處分することを得る能力。
〔殉利〕 私の利益を圖らんがために生命を顧みざること。〇〔莊〕「小人則以レ身ーレー」。
〔調利〕 便利なること。〇〔淮〕「擺-揻――」。
〔貨利〕 財貨に同じ。〇〔書〕「惟王不レ邇ニ聲-色ニ、不レ殖ニ――ニ」。
〔寵利〕 君の特別なる恩遇を受くること。〇〔書〕「臣罔下以ニ――ニ居中成-功上」。
〔安利〕 平穩にして危害の虞なきこと。〇〔史〕「就ニ――ニ而避ニ危-殆ニ」。
〔遠利〕 目前の小利にあらずして末の大なる利益。〇〔宋〕「不レ求ニ近-效ニ而貴ニ――ニ」。
〔忠利〕 誠實にして其の者の便益を圖ること。〇〔禮〕「有ニ――之敎ニ」。
〔財利〕 金錢の利益。〇〔韓詩〕「興ニ仁-義ニ而賤ニ――ニ」。
〔薄利〕 (い)些少なる得分。〇〔宋光湣〕「爲レ貪ニ――ニ故輕レ生」。
(ろ)私益を賤む。〇〔公〕「君子篤ニ于禮ニ、而ー于ーニ」。
〔放利〕 私の便益を得んとにのみ心を寄す。〇〔論〕「ーニ於ーニ而行多レ怨」。
〔征利〕 人より取りて己れの身を益す。〇〔孟〕「上-下交ーレー而國危矣」。
〔市利〕 貨物の賣買交易を爲す場處の得分。〇〔孟〕「以左-右望而罔ニ――ニ」。
〔正利〕 公道によれる得分。〇〔戰〕「伐レ齊――也」。
〔沒利〕 利益を失ふこと。〇〔戰〕「ーニーニ于前ニ、而易ニ患于後ニ也」。
〔輕利〕 (い)利益を卑しみ薄んず。〇〔荀〕「重レ義ーレー」。
(ろ)物事の宜しきに適して便りよきこと。〇〔陸龜蒙〕「竹-篠――擇-冠斜」。
(は)刀劍などのよく切るゝこと。〇〔程史〕「弩極――、能破ニ堅于三-百-步外ニ」。
〔功利〕 (い)業達を圖り得分を重んずること。〇〔史〕「無レ益ニ于俗ニ、稍驚ニ于――ニ矣」。
(ろ)其の人の樹てたる勳勞によりて萬民の幸福を得ること。〇〔何晏〕「當-時享ニ其――ニ、後-世賴ニ其英-聲ニ」。
〔水利〕 田圃に灌漑する溝渠の便益あること。〇〔史〕「至レ今皆得ニ――ニ、民人以給-足」。
〔重利〕 至りて大いなる得分。〇〔史〕「千-金――、卿-相尊-位也」。
〔厚利〕 前に同じ。〇〔史〕「說レ之以ニ――ニ」。
〔末利〕 すゑの功用、又、まうけ、古昔は農を本となしゝより商工業をいふ語。〇〔後漢〕「理レ國之道、擧ニ本-業而抑ニ――ニ」。
〔贏利〕 得分あること。〇〔史〕「與レ時俯-仰、獲ニ其――ニ」。
〔機利〕 時機に投じて利益あること。〇〔史〕「民-俗懁急、仰ニ――ニ而食」。
〔遺利〕 落ちこぼれて人の拾ひ取らざる利益。〇〔漢〕「地有ニ――ニ、民有ニ餘-力ニ」。
〔完利〕 劍などの堅くしてよく切るゝこと。〇〔漢〕「兵不ニ――ニ、與ニ空手ニ同」。
〔買利〕 商業上の收益。〇〔漢〕「穿ニ軍-垣ニ以求ニ――ニ」。
〔收利〕 利益、又、取り集めたる得分。〇〔後漢〕「――十倍」。
〔儲利〕 前に同じ。〇〔唐〕「――佐ニ公-上ニ」。
〔榮利〕 顯達と福益と。〇〔魏〕「韜ニ性恬-靜樂レ道、淡ニ于――ニ」。
〔福利〕 幸福に同じ。〇〔後漢〕「姦-人擅ニ罪-罰之――」。
〔浮利〕 一時の榮華に過ぎざることにいふ語。〇〔後漢〕「飾ニ智ー以逐ニ――ニ者乎」。
〔細利〕 些少なる利益。〇〔晉〕「無レ求ニ――ニ」。
〔淨利〕 私の利益に身を陷らしめて道を顧みざること。〇〔魏〕「人-情ーレー、爲ニ法所レ禁」。
〔私利〕 己れの身、又は家をのみ益すること。〇〔管〕「民多ニ――ニ者、其國貧」。
〔巨利〕 大いなる得分。〇〔南〕「更招ニ――ニ」。
〔走利〕 急ぎて己れの得分となる方に向ふ。〇〔魏〕「咸爭途以ーレー」。
〔射利〕 利益を目あてとして事をなす。〇〔唐〕「豪賈ーレー、或時倍レ之」。「官之糴ニ」
〔息利〕 利子に同じ。〇〔唐〕「倍ニ稱――ニ、非ニ馭レ」
〔伏利〕 財貨の隱れて表に見はれざるもの、卽ち金銀の山中に在るが如きの類。〇〔管〕「開ニ國之――、其可レ應ニ人之急ニ者、幾何所上」。
〔奇利〕 常に容易には得べからざる得分。〇〔管〕「ー求レ在ニ其中ニ也」。
〔兌利〕 物事の調子よきこと。〇〔管〕「公-子開-方、爲レ人巧-轉而――」。
〔牢利〕 堅牢にして便りよきこと。〇〔管〕「機-旋相得、用レ之――」。

〔勁利〕堅くして鋭きこと。○〔尹文子〕「兵-甲一一」。
〔甘利〕利益を得るを最も好むこと。○〔潛夫論〕「多ニ饜レ賤一レ一之人ニ」。
〔偷利〕道ならざることによりて得たる利益。○〔淮〕「一一不レ可ニ以爲ニレ行」。
〔銛利〕刀劍などの鋭くしてよく切ること。○〔淮〕「服レ劍者期ニ于一一ニ」。
〔博利〕公益を廣め得ること。○〔韓詩〕「崇レ恩一レ一」。「以懷レ衆」。
〔淺利〕餘分なる得分。○〔鹽鐵論〕「禁ニ一一ニ」。
〔犧利〕かまの如く鋭きこと、物事の鋭利なるにいふ語。○〔黄庭堅〕「好作ニ芒-角一一ニ」。
〔愈利〕鋭きこと益々加はる。○〔揚雄〕「衆-人一一而後鋭」。
〔貞利〕正しくして義に協ふこと。○〔揚雄〕「升其一一乎」。
〔犄利〕鋭くしてよく切るゝこと。○〔呂溫〕「劍-匣益一一」。「尖一一」。
〔纖利〕精緻にして鋭きこと。○〔歐陽炯〕「畀-楯鷹爪……」。
〔快利〕刀劍などのよく切るゝこと、すべて物事を處分するとの敏頴なるにいふ語。○〔朱熹〕語-意蹇拙終不ニ一一ニ也」。
〔銳利〕前に向き。○〔田錫〕「太-一鮮ニ一一之衍ニ」。
〔頑利〕刀劍などのきツさきのよく切るゝこと、すべて物事を處分するに鋭くあること。○〔黄庭堅〕「功成在ニ瀨-刻ニ、一一處レ囊錐」。
〔勝利〕(い)物事につきて勝ちを占むること。○〔歐陽修〕「競因ニ一一ニ延ニ錫禧-祥ニ」。(ろ)われのみの利益に打ち勝つ。○〔魏玄同〕「名一ニ於一一、故小人之道消」。
〔網利〕まうけを一手に引き寄すること。○〔劉均〕「一一者能レ登ニ龍斷ニ」。「一一」。
〔休利〕大いなる便益。○〔歐陽修〕「與ニ愚-民之一一」。
〔微利〕些細なるまうけ。○〔范成大〕「不レ爭ニ一一即爭レ名」。「信一一」。
〔蠭利〕蜂の針の如くに鋭くあること。○〔葉適〕「與-兵……」。
〔耒耨利〕農業上の功用。○〔易〕「一一之一以教ニ天-下ニ」。
〔舟楫利〕水を航るの便りよきこと。○〔易〕「一一之一以濟ニ不-通ニ」。
〔臼杵利〕五穀を精げて食料に供する便り。○〔易〕「一一之一、萬-民以濟」。
〔魚鹽利〕海濱にありてうをを捕らへしほを煮て得る所の得分。○〔史〕「便ニ一一之一ニ」。
〔一時利〕其の時限りの便益、又、其の得分。○〔史〕「奈何以ニ一一之一ニ、而加ニ萬-世功ニ乎」。
〔百世利〕永久の功用。○〔史〕「皆爲ニ一-時之説ニ、不レ顧ニ一一之一ニ」。「一之一、或ニ當-時之譽ニ」。
〔目前利〕卑近の便益、又、其の得分。○〔魏〕「昧ニ一一……」。
〔甲兵利〕武器の鋭きこと。○〔司馬法〕「馬-車堅、一一一、輕乃重」。
〔一世利〕社會の功用。○〔莊〕「不レ拘ニ一一之一ニ、以爲ニ己私-分ニ」。
〔毫末利〕些細なる得分、又、功用。○〔歐陽修〕「有-司屢變ニ其法ニ、以爭ニ一一之一ニ」。

【剈】クワイ、ケ。公懐切〔佳〕　きる、たつ、(斷)。
【刺】シ。昌止切〔紙〕　さく、わる、(割)。
【刿】セン。丑全切〔先〕　獸畜の皮を去る、かはとぐ、はぐ、むく。
【刭】剠に同じ。
【剓】リ。力支切〔支〕　さく、(割)。
【刵】ジ、ニ。二位切〔寘〕　なづ、さする、こする、する、(摩)。
【刹】サツ、サチ。生括切〔曷〕　さく、(刹)
【刣】古文の割の字。

六畫

【刮】クワツ、ケチ。古滑切〔黠〕　㊀けづる、(削)。○〔史〕「茅-茨不レ剪、采-椽不レ一」。「郎吏一レ日相待」。㊁する、こする、(摩)。○〔三〕「士別三-日、一一」。㊂かく、(掊)。○〔拾遺記〕「人舌尖處倒向ニ喉-內一、以レ爪徐一レ之、則嘯-聲益遠」。
〔寒刮〕さむさを感ずること甚しきにいふ語。○〔杜甫〕「一一肌-膚北-風利」。
〔箇刮〕黄金のへらもて病眼の膜をけづり去ること、轉じて眼病を治療することに借りいふ語、又、愚なる者を教ふることにも借り用ふる語。○〔杜甫〕「金一一ニ眼-膜ニ」。
〔清刮〕きよくなるやうにこする。○〔孟郊〕「劍-霜「夜一一」。
〔磨刮〕みがきする、すりけづる。○〔梅堯臣〕「興-事盡一一」。
〔洗刮〕あらひけづる、表面に附着するものを除くこと、又、生地を見はすとの義に用ふる語、轉じて既往の事、秘密の事などを探し出だすことにも借り用ふる語。○〔蘇軾〕「豈效ニ世-俗人ニ、一一求ニ瘢-痍ニ」。

【剢】タク、チヤク。恥格切〔陌〕　やぶる、(壞)、さく、(割)、又、其の聲。
【剓】シツ、シチ。初栗切〔質〕　物をきり割く聲にいふ字。
【刹】キウ、ク。居尤切〔尤〕　罪惡を白狀せしむ、訊問す、たゞす。
【刴】タ。丁可切〔哿〕　㊀つかむ、(摑)。㊁うつ、(打)。
【剏】テウ。他彫切〔蕭〕　きりくだく、けづる、(剔)、又、たつ、(斷)。
【刯】コウ。居曾切〔蒸〕　カウ、キヤウ。古衡切〔庚〕　わる、わかつ、(剖)。
【到】タウ、トウ。刀號切〔號〕　いたる。
(い)達す。○〔戰〕「一ニ於天ニ」。
(ろ)來たる。○〔後漢〕「聞ニ使-君一一喜、故來奉-迎」。
(は)ゆきとゞく、きはまる、つく。○〔晉〕「所レ奏懇一、形ニ于翰-墨ニ」。
〔兩到〕彼れと此れとに其の極處に行き屆きてあり。○〔梁〕「何如今一一、復仰ニ凌レ寒竹ニ」。
〔門到〕家ごとに行く。○〔任昉〕「不-言之化、若ニ一戸説ニ矣」。「臣-也」。
〔至到〕極度に達す。○〔晉〕「忠-亮一一、可レ謂ニ王-人一レ一」。
〔深到〕前に同じ。○蘇舜欽〕「指亦有ニ一一ニ」。
〔罕到〕人の來たること少なし。○〔北〕「深ニ居山-谷ニ、「絡賓鑑」「用-意一一」。
〔精到〕物事緻密にして其の極處に至り屆く。○〔圖
〔筆到〕筆を運びて意の欲する所に至る。○米黻「誰云存レ心乃一一」。

【刑】刑の本字。
【刳】フウ、フ。方九切〔有〕　フ、ホ。斐父切〔麌〕　㊀刀劍の柄の手にする處、つか、(刀-握)。㊁弝に同じ、弓の中閒の手にする處、ゆづか、にぎり。
【刴】シヤウ、サウ。楚浪切〔漾〕　創に通じ用ふ、はじむ、はじめ。○〔南〕「首ニ一一大-義一、威-名著ニ天-下ニ」。
〔經剏〕始めてこしらへなす。○〔沈約〕「昔在有-晉、一ニ一汇-左ニ」。
〔新剏〕あらたにこしらへなす。○〔沈亞之〕「一一ニ「仙亭-羅ニ石-壇ニ」。
【刿】シヤウ、サウ。初良切〔陽〕　きずつく、やぶる、そこなふ、(傷)。
【剈】エン。縈玄切〔先〕　一もと別に作れり。
【刮】㊀かゝげさる、(挑-取)。㊁けづる、(剜)。㊂かゝげさりたる跡、あな、(窒)。
【刲】ケイ、ケ。口圭切〔齊〕　涓惠切〔霽〕　刲に作ることあり、さす、ころす、(刺)、わる、さく、わかつ、(割)、又、ほふる、(屠)。○〔易〕「一レ羊無レ血」。

〔屠刳〕畜類を殺し割く。〇〔蘇軾〕「登レ庖更作レ器、何以免ニ—ー一」。

【刳】コ、苦孤切 虞　コウ、墟侯切 尤　ク。　ク。

㊀わる、さく、わかつ、（剖）、又、ほふる、（屠）。〇〔漢〕「與ニ巧-屠一共—ニ剝之一」。㊁物の內部を空洞ならしむ、ほる、くぼむ、ゑぐる、うつろにす。〇〔易〕「—レ木爲レ舟」。「之—ヒ之」。

〔刲刳〕畜類を屠り割く。〇〔禮〕「炮取レ豚若レ將ニ—ー」

【剢】タ。丁臥切 箇

細くきる、きり碎く、又、きる、（斫）、けづる、（削）。

【剶】セン。逡緣切 先

【剺】ラク。力各切 藥

㊀さく、けづる、（剔）。㊁枝の節を去る。

【耴】ジ、而至切 寘　ゲイ。牛芮切 霽

二。耳を斬る、みゝきる。〇〔書〕「無三或劓ニ—一人一」。

【制】セイ。征例切 霽

㊀たつ、（裁）。〇〔淮〕「巧-工之—レ木」。㊁つくる、（作）。〇〔孟〕「—レ梃」。㊂さく、（割）。〇〔禮、註〕「斷ニ—牲-肝一」。㊃さだむ、（斷）。〇〔禮〕「凡—ニ五-刑一」。㊄たゞす、（正）、とゞむ、（竪）。〇〔淮〕ニ「人不レ能レ—」。㊅をさむ、（御）、とりしまる、（檢）。〇〔戰〕「王因而—レ之」。㊆つかさどる、（主）。〇〔呂氏春秋〕「以告ニ—レ兵者一」。「之—也」。㊇もッぱらにす、（擅）。〇〔國〕「ニ—三-子」。㊈さらふ、（禽）。〇〔淮〕「見レ—ニ於人一」。

㊉かつ、（勝）。〇〔淮〕「子勝レ母曰レ—」。〇〔孝〕「—-節謹-度」。㊀㊀ほどよくなす、（節）。㊀㊁程度、ほど。〇〔後漢〕「封-賞踰レ—」。㊀㊂職分、ぶんざい。〇〔荀〕「士大-夫莫レ不ニ敬レ節死ヒ—」。㊀㊃等差、しな。〇〔荀〕「處レ國有レ—」。㊀㊄命令、おほせ。〇〔禮〕「士死レ—」。㊀㊅準度、のり。〇〔國〕「天-地之恆—」。㊀㊆成法、おきて。〇〔左〕「非レ—也」。㊀㊇術數、はかりごと。〇〔呂氏春秋〕「威-主好レ—」。㊀㊈法態、形式、したてかた、つくりかた、かた、かたち。〇〔詩、疏〕「體—又異」。㊁㊉布帛の幅と長さ。〇〔禮〕「度-量數—」。

〔時制〕其の時節に應じてのこしらへ。「則一珍、衣稱ニ—ー一」。
〔節制〕（い）規則に合ふやうにす、とりしまる。〇〔庾信〕「膳〇（唐）「是當ニ代レ吾—ー者」。
（ろ）規律正しきこと、又、規律。〇〔五〕「晉兵素驕、而守-貞重-慮爲レ將、皆無ニ—ー一」。
〔宰制〕つかさどりをさむ。〇〔史〕「洋-々美-徳乎、—ニ萬-物一、役ニ使羣-衆一」。
〔稱制〕天子の命令を下すこと、おほせいだされ、又、天子の位にあらざるも天子と同一なる權力ある人の命令。〇〔漢〕「太后—レ—、王ニ昆-弟諸-呂一」。
〔覊制〕たづす。〇〔漢〕「乃反爲ニ一-臣所ニ—ー一耶」。
〔品制〕等級、又、位階。〇〔後漢〕「明-君賜-賚、宜レ有ニ—ー一」。「—一」。
〔風制〕やうす、ありさま。〇〔晉〕「自謂得ニ朱-實—」
〔跨制〕兩方を幷せてとりしまりをなす。〇〔晉〕「割ニ據山-川一、—ニ荊-吳一」。
〔索制〕つなぎとめてとりしまりをなす。〇〔中論〕「苟過ニ其任一而强—ー、則將ニ昏-齧委-滯、而逐ニ疑君子一以爲レ欺レ我」。
〔維制〕前に同じ。〇〔詩、箋〕「—ー—ニ四-方一」。
〔法制〕おきて、のり。〇〔禮〕「命ニ有-司一修ニ—ー一、繕ニ囹-圄一」。
〔典制〕のり、規則。〇〔史〕「擅作ニ—ー一」。
〔割制〕（い）わりさだむ。〇〔漢〕「—ー—ニ廬-井一、定ニ阡-土-田一」。

ろ）とりたゞすべきをとりたゞさゞあること。〇〔魏〕「—
「倫因ニ疲-俗之間一有レ所レ—ー、衆-臣見ニ其能推ニ移于事一、亦因レ時而向レ之」。
〔創制〕おきてをあらたにこしらふること。〇〔後漢〕「高-帝受レ命誰-何—レ—」。
〔服制〕上下の衣服に關するおきて。〇〔書、傳〕「觀示法-象之—ー一」。「以レ禮—ニ—一國一」。
〔防制〕禍をふせぎてとりしまる。〇〔詩、箋〕「國-君」
〔擦制〕おさへとゞむ、とりしまる。〇〔唐〕「忠-嗣帶ニ四將印一、勁-兵重-地、—ー—ニ萬-里一」。
〔禁制〕其の事を爲さゞるやうにとりしまる。〇〔後漢〕ニ「東-州人侵-暴爲ニ民患一、不レ能ニ—ー一」。
〔拘制〕とりおさふ。〇〔宋〕「內則—ー—ニ於權-臣一」。
〔班制〕高下の階級に關するさだめ。〇〔禮〕「修ニ其—ー一以與ニ四-鄰一交」。「有レ宜」。
〔裁制〕（い）こしらへ方。〇〔唐〕「興ニ復殿-寢一、—ー—ー也」。
（ろ）きりもりしてとゞむること。〇〔魏〕「聖-慮所レ宜ニ—ー一」。「制、以爲ニ諸-侯之—ー一」。
〔城制〕城の建築に關するおきて。〇〔周〕「宮-隅-之—ー」。
〔明制〕私曲なき規則、又、それぞれの敬稱。〇〔戰〕「承ニ大-王之—ー一」。
〔聖制〕聖人のこしらへたるのり、又、のりの敬稱。〇〔漢〕「循ニ—ー一定ニ天-位一」。「天-下知レ所レ歸矣」。〇
〔形制〕ありさま。〇〔漢〕「示ニ諸-侯—ー之勢一、則」
〔帝制〕君王ののり。〇〔王勃〕「爰述ニ—ー一」。
〔力制〕つとめてひきとゞむ、をさむ。〇〔漢〕「今陛下—ー—ニ天-下一、頤-使如レ意」。
〔權制〕威權と法則と、又、威權を以てをさむ、又、單に法則。〇〔蜀〕「約ニ官-職一從ニ—ー一」。
〔定制〕法則をさだむ、又、さだまりたるおきて。〇〔漢〕「漢爲—レ—封-號輒別屬ニ漢-郡一」。
〔受制〕其の部下に屬すること。〇〔後漢〕「不レ爲ニ之備-終—レ—矣」。「觀」。
〔音制〕音聲の調子。〇〔北〕「風-采—ー足レ有レ可レ」
〔詭制〕常なるものにことなりたるかた。〇〔後漢〕「殊-形—ー—」。
〔通制〕時と處とを論ぜず何れにもたがひなきさため。〇〔後漢〕「殺レ人者死、三-代—ー—」。
〔全制〕其の物事をことごとく己れのものとしておさへをなす。〇〔魏〕「—ー—ニ其險一」。
〔牽制〕ひきとゞむ。〇〔魏〕ニ「莫ニ能—ー一」。
〔緘制〕かたくおさへをなす。〇〔魏〕「—ー—ニ衆-城一」。
〔科制〕班制に同じ。〇〔魏〕「特使レ不レ拘ニ—ー一」。
〔大制〕（い）國家の重きのり。〇〔魏〕「爵ニ王-法—

—也」。「臣」。
（ろ）おほいにとりとゞむ。〇〔南〕「非ニ小勞而—ー一（は）最も善くこしらふること。〇〔老〕「故—ー不レ割」。
〔盛制〕德のさかんなる法則、又、法則の敬稱。〇〔魏〕「誠帝-王之—ー也」。
〔軌制〕のり、おきて。〇〔蜀〕「爲ニ之—ー一」。
〔節制〕規則通りに行はざ。〇〔晉〕「抑レ禮—レ—以彰ニ公-志一」。
〔羈制〕おさへとゞむ。〇〔唐〕「—ー—ニ西-戎一」。
〔捕制〕とらへおさふ。〇〔晉〕「主ニ—ー一」。
〔達制〕極めてよく行き屆きたるのり。〇〔晉〕「百王之—ー也」。「傷レ心之怨一」。
〔峻制〕きびしきおきて。〇〔晉〕「嚴-刑—ー以買」
〔嚴制〕前に同じ。〇〔南〕「周-旋既犯ニ—ー一」。
〔偏制〕かたよりてをさむ。〇〔晉〕「不レ可ニ以—ー一」。
〔姿制〕すがたかたち、又、すがたかたちをつくること。〇〔南〕「甚有ニ—ー一」。
〔猛制〕たけきおきて、卽ち罪を重くすること。〇〔晉〕「豈嚴-刑而—ー哉」。
〔國制〕國のおきて。〇〔遼〕「以ニ—ー一治ニ契-丹一」。
〔虛制〕實益なき規則。〇〔晉〕「以ニ—ー一損ニ實-力一」。
〔囚制〕囚人のとりしまり、又、囚人の如くにをさむ。〇〔晉〕「蘇-峻凶-逆無-道、—ー—ニ人-主一」。
〔檢制〕とりしらべおさふ。〇〔唐〕「—ー—ニ盜賊一」。
〔憲制〕國家の規則、のりおきて。〇〔晉〕「王-命無レ二、—ー宜レ信」。
〔軍制〕兵事に關するすべてのおきて。〇〔南〕「不レ顧ニ「—ー—一、輒離ニ所-部一」。
〔曲制〕（い）規則をまげて正しく行はざ。〇〔南〕「溺レ情—レ—」。
（ろ）軍隊の部曲に關するおきて。「—官-道丰用也」。
〔細制〕さゝいなる事までもきびしくとりたゞす規則。〇〔孫〕「法者—ー、〇〔南〕「宜下除ニ宋大-明以-來苛-政—ー一以崇ニ簡-易上」。「高-宇—ー麗-飾是也」。
〔壯制〕立派なるこしらへ方。〇〔北〕「晉レ力者齊-宅其困一」。
〔坐制〕勞せずしてとりおさふること。〇〔唐〕「—ー」「—ニ朝-廷一」。
〔遙制〕遠き處に居りながらおさへをなす。〇〔北〕「—
〔容制〕みめかたち。〇〔唐〕「物有ニ—ー一」。
〔橫制〕思ひの儘にとりおさふ。〇〔唐〕「—ー—ニ宇宙一」。
〔待制〕天子のおほせの下るまでまちうく、又、おほせをうけたまはりて事を行ふ、轉じて詔勅を草する朝官となること。〇〔唐〕「境-外事不レ足レ行、宜ニ留—ー一」。

〔劫制〕おびやかして服從せしむ。○〔唐〕「操二殺-生之柄一、ーニ一天-下一」。
〔脅制〕前に同じ。○〔唐〕「餘皆ーー僉合」。
〔豪制〕勢力强くして他を服從せしむ。○〔唐〕「ーニー綿曲一」。
〔規制〕おきて。○〔唐〕「ーー遂定」。
〔馴制〕ならして服從せしむ。○〔唐〕「太原統-遐-荒、梁-楚、沙-陀三-部雖二ーー一」。
〔矜制〕つゝしみて我然にかつ。○〔唐〕「以二禮-法一自ーー」。
〔墨制〕太子のおほせは朱書する例なるを聞に合はせにすみもてかきし勅書。○〔五〕「知-祥稱-王、以二ーー一行レ事」。
〔統制〕すべくゝりてをさむ。○〔唐〕「ーー尤非レ所レ書」。
〔總制〕前に同じ。○〔却掃編〕「以二參-知政-事一兼ーニー戸-部財-用一」。
〔儀制〕儀式に關するおきて。○〔宋〕「預依二ーー一、多レ所二增-損一」。
〔操制〕規則正しくとりたゞす。○〔宋〕「雖レ不レ勞二ーー一、「苟玩而弗レ慮」。
〔外制〕宮廷外の事にかゝるおほせ。○〔五〕「凡掌二ーー一、必試而後命」。
〔內制〕宮廷內の事にかゝるおほせ。○〔宋〕「遷二中-書舍-人一兼掌二ーー一」。
〔經制〕つねのおきて、のり。○〔新書〕「若夫ーー不レ定、是猶下渡二江-河一無中維-楫上」。
〔限制〕かぎり。○〔宋〕「長汀千里不レ爲二ーー一」。
〔刑制〕罪ある者を罰するおきて。○〔元經〕「國之ーー原レ情輕-重」。
〔樣制〕かたどりかたち。○〔聞見後錄〕「ーー甚朴」。
〔格制〕くらゐどり。○〔野老遺聞〕「唯ーー高耳」。
〔扞制〕ふせぎとゞむ。○〔漫叟詩話〕「汎-漢有レ滸、以ーニー泛-濫一」。

【制】制の譌字。

【㓣】カフ、ケフ。苦洽切 洽
いる(入)、おちいる、おさしいろ(陷)。

【㓣】古文の割の字。

【刷】サツ、セチ。數滑切 黠 セツ、セチ。所劣切 屑
㊀きよむ(淸)、ぬぐふ(拭)、はらふ(掃)、そろ(剃)、きる(剪)、けづる(削)、すゝぐ(滌)。○〔周〕「夏頒レ冰、掌レ事秋ー」。
㊁摩切す、こする、する。○〔夢溪筆談〕「ー-板印ーー、已自布レ字」。
㊂物をはらひきよむるに用ふる器。○〔五〕「劉-守-光自王、爲二鐵-籠鐵-ー一、有二過者一坐二之籠中一、外燎以レ火、ーニ-剔其皮-膚一以死」。
〔根刷〕たづねきはむ、根はりはばりたづぬるにいふ語。
〔搧刷〕はらふ。○〔爾、註〕「振-訊拔-拭ーー皆所二以爲二潔-淸一」。
〔燥刷〕(い)沐浴して身體をかわかしぬぐふこと。○〔南〕「皮-膚ーー不レ謹、澣-沐失レ時」。(ろ)轉じて行を勵み德を修むるに借りいふ語。○〔蘇舜欽〕「德盛資二ーー一」。
〔拘刷〕取り盡くす。○〔元〕「民-間訛-言、朝-廷ーニー童男童女一、一時嫁-娶始盡」。
〔振刷〕志を勵まし惡をのぞく。○〔蘇轍〕「ーー磨-淬、不二自屈-服一」。
〔帶刷〕はらふ、不潔のものを取り除く。○〔齊民要術造酒法〕「ーー治レ之」。
〔刮刷〕する、又、すりきる。○〔蘇舜欽〕「必已ーー無二完-根一」。
〔㓨刷〕きる、けづる。○〔蘇軾〕「歲-時ーー供二帝-闕一」。
〔擻刷〕すゝぎあらふ。○〔釋氏要覽〕「設二ーー一、尙有二餘津-膩一」。
〔牙刷〕齒磨き楊子。○〔郭鈺〕「南-州ーー寄-來日」。

【剐】別の本字。

【券】ケン、クヱン。去願切 願 〔說文〕从レ刀 关聲。
㊀約束す、ちぎる。○〔莊〕「ーレ內者行二乎無レ名、ーレ外者志二乎期-費一」。
㊁約束の證標となせるもの、てがた、わりふ、古昔、支那にては、木の板にちぎりたる件を記し之を兩つに分かちて當事者雙方おのおの其の一を藏めたりといふ。○〔史〕「合レー焚レ之、市レ義而反」。
〔折券〕わりふを折りて捨つ、轉じて貸金を取り立てざることなどの義に用ふる語。○〔史〕「此兩家常ーー棄レ責」。
〔焚券〕てがたをやきすつ、轉義前に同じ。○〔溫庭筠〕「市レ義盡ーーレー」。
〔左券〕兩分したるわりふの一方のもの、又、ちぎりしことに借りいふ語。○〔史〕「公管執二ーー一、以責二於秦韓一」。
〔右券〕前に同じ。○〔史〕「事成操二ーー一以責」。
〔鐵券〕てつにてこしらへたるわりふ。○〔漢〕「丹-書ーー、金匱石室」。
〔銅券〕あかゞねのわりふ。○〔晉〕「破二ーー一與盟」。
〔懸券〕王宏の故事より金を貸して抵當を取ることにいふ語。○〔南梁臨川王宏傳〕「懸レ錢立レ券、毎以二田-宅邸店一懸二上文ー一、期訖、便驅二券主一奪二其宅一」。
〔驛券〕えゆくつぎにて人馬を徵發することを得るわりふ。○〔宋〕「赴二任川-峽一者給二ーー一」。
〔契券〕わりふ、○〔荀〕「合二符-節一別二ーー一者、所二以爲レ信也」。
〔虛券〕記してある文面の效力なきこと、即ち返金を請求する處なき貸金證の如きもの。○〔史〕「焚二無-用ー-償之ー一、捐二不レ可レ得之虛-計一」。
〔符券〕わりふ。○〔唐〕「封二ーー一給二傳驛一」。
〔楮券〕紙にてこしらへたるわりふ、又、紙幣。○〔宋〕「蜀用二鐵錢一以二其艱一於二轉-移一、故權以二ーー一」。
〔宅券〕官府より其の家屋敷の所有たることを記載して所有者に下付してあるもの。○〔宋〕「因以二ーー一獻二淨-吉一」。
〔地券〕所有者に官府より其の地處の所有者たることを證明して下付しあるもの。○〔宋〕「或持二ーー一自言、有下借二增步-數一者上」。
〔誓券〕約束したることを記しあるもの。○〔宋〕「賜二ーー黃金印一曰、子-孫傳レ國、世-々不レ絕」。
〔短券〕あてがふべきてはん。○〔管〕「苟合二于國-器君用一者、皆有レーニー於上一」。
〔俸券〕俸を受取る證標。○〔福波雜誌〕「以二ーー一還レ府」。

【刹】サツ、セチ。初八切 黠
㊀はしら(柱)。○〔顧況〕「斷-幡猶挂レー」。
㊁寺院、てら。○〔元〕「詔起二大ーー于京-西壽-安-山一」。
㊂家の上に柱を立て其の內に舍利子を藏むる處、佛塔。○〔洛陽伽藍記〕「壽-丘里-閭列ーー相望」。
㊃國土、くに。○〔華嚴經〕「一-佛所レ化之境、以二大-千-世-界一爲二一ーー一」。
㊄一念、又、極めて短き時間、即ち刹那の義を略しいふ字。○〔朱熹〕「至-理無レ言絕二淺-深一、塵-々ーー不二相侵一」。
〔佛刹〕てら、又、佛塔。○〔華嚴物〕「ーー出二高枝一」。
〔梵刹〕前に同じ。○〔宋〕「鳴-鐘ーー淸」。
〔寶刹〕佛塔の敬稱。○〔唐太宗〕「ーー遙承レ露」。
〔金刹〕金の裝飾を施したる佛塔。○〔李白〕「水-動ーー影」。
〔僧刹〕てら。○〔宋〕「栖二寄ーー一」。
〔羅刹〕惡鬼の名。○〔宋〕「夜-叉弟羅貿名二ーー一」。

【刺】シ。七賜切 寘 〔朿に从ひ刀に从ふ俗に刺に作るは譌る。〕
㊀さす。(い)直ちに傷ふ、傷ひ殺す、ころす、そこなふ。○〔春秋〕「公-子買戍レ衞、不レ卒レ戍ーレ之」。(ろ)つきこむ、つきいる、つきさす。○〔廣韻〕「以レ針ーレ物」。
㊁かる(剗)、のぞく(除)。○〔儀〕「庶-人則曰二ー-草之臣一」。
㊂擇び取る、とる。○〔漢〕「ーニ六-經中一作二王-制一」。
㊃はり(鍼)、のぎ(芒)、とげ(棘)。○〔漢〕「若レ有二芒ー在レ背」。
㊄ほこさき、ほさき(鋒)。○〔淮〕「修-戟無レー」。
㊅せむ(責)。○〔詩〕「天何以ー」。
㊆さひさだむ、さふ(訊)。○〔周〕「司-刺掌二三ーー、一訊二羣-吏一、二訊二羣-臣一、三訊二萬-民一」。
㊇そしる(譏)。○〔齊〕「彬才操不レ羣、文多二指ーー一」。
㊈姓名を記したる札、なふだ。○〔後漢〕「ー-字漫-滅」。

（毛刺）（い）草木の莖に生ずるとげなどにいふ語。○〔詩、疏〕「葉厚而長有二—・—一」。
（ろ）はりねずみの別名。
（逆刺）先のまがりたるはり、又、とげ。○〔唐〕「內置二—・—一」。
（面刺）まのあたり責む、目前にてそしる。○〔晉〕「有下—二—孤罪一者上、酬以二束帛一」。
（譏刺）そしる。○〔後漢〕「因二朝會一—二—寵等一」。
（斫刺）きりころす。○〔後漢〕「何罪復見二—・—一」。
（構刺）事件をこしらへて責む、又、そしる。○〔魏〕「豫告—・—擯離、使二凶邪之謀不一レ遂」。
（招刺）えらび取る。○〔宋〕「—二—三千人一、賜二名必勝軍一」。
（按刺）とりしらべてのぞく。○〔宋〕「非二才不一レ勝レ任、則—・—易レ爲可也」。
（論刺）缺點を論じせむ。○〔莊〕「文主盡レ之也、而又何—・—焉」。
（解刺）さすとをとく、即ち苦痛を感ずるとを去るの義にいふ語、又、そしりせめらるゝとをいひわくる義にもいふ語。○〔鶡冠〕「釋レ約—レ—」。
（灸刺）病ある局處にやいとをすうるとはりさすと。○〔急就篇〕「—・—和レ藥逐二去邪一」。
（黥刺）其の職に堪へざるものをとりぞく。○〔潛夫論〕「—二—簡二練其材一」。
（雪刺）眞白き色の髮。○〔宋琬〕「—・—滿レ頭」。
（名刺）名札。○〔元稹〕「自拎二—・—一占二陂湖一」。
（怨刺）うらみそしる。○〔漢〕「周道始缺、—・—之詩起」。
（風刺）あらはには其れと言はずして責むると。○〔詩、序〕「上以レ風化レ下、下以二—・—一上」。
（諷刺）前に同じ。○〔文心雕龍〕「詩人—・—」。
（擊刺）うちころす、又、其の術。○〔史〕「以レ善二—・—一學レ用レ劍、立二名天下一」。
（乖刺）そむきそしる。○〔漢〕「外戚親屬無二—・—之心一」。
（修刺）名札をとゝのふ、轉じて人を訪問する用意をなすの義に借り用ふる語、又、人を訪問するに丁重なるとにも借り用ふる語。○〔後漢〕「府掾孔融王朗竝—レ—候焉」。
（漫刺）姓名を記せる字のけがれてある名札。○〔黃庭堅〕「袖中有二—・—一」。
（棘刺）とげのさき、いばら。○〔韓〕「衛人能以二—・—之端一爲二母猴一」。
（投刺）（い）名札を指し出だす、轉じて面謁を求むるとに借りいふ語。○〔梁〕「未下嘗—二—邦宰一、曳中裾府寺上」。
（ろ）名札をなげすつ、轉じてすべて面會を止むる義にも、亦、世の關係を絶つとにも借り用ふる語。○〔梁武帝〕「—レ—解レ職、以遵二歸路一」。
（擧刺）よきものをあげ、あしきものをのぞく、又、單に、あしきものをかぞへあげてのぞく。○〔宋〕「專二—・—之事一」。
（手刺）手ふだ、名札の小さきもの。○〔朱熹〕「—・—謁謝、爲レ禮亦恭」。
（通刺）名札を差し出して面會を求む。○〔異苑〕「—レ—字不レ可レ識」。
（謁刺）面會を求めて差し出す名札。○〔事文類聚〕「題二—・—一置二案上一不レ問」。
（毒刺）毒を含みたるとげ、又、物を害するとげ、轉じて害を爲すものに借りいふ語。○〔梁簡文帝〕「—・—爭興」。
（挿刺）さしはさむ、さす。○〔元稹〕「—二—・—頭鬢一相誇張」。
（規刺）あしきとをたゞしせむ。○〔白居易〕「不三是章句無二—・—一」。
（監刺）監督してあしきとをせむ。○〔趙懷〕「雖レ有二—・—一、而宰二制威福之重一」。
（榛刺）いばらのとげ。○〔李羣玉〕「大道生二—・—一」。
（殊刺）ころさるゝと。○〔宋祁〕「—・—而殞レ身」。
（枉刺）無實なる事を言ひ合はしてそしる。○〔趙師秀〕「—・—怨相親」。
（從傷刺）きずつきたるにつけいりて之をころす、轉じて他人の失敗したる時に乘じて己れの欲望を逞しくするとに借りいふ語。○〔史〕「兩虎方且レ食レ牛、食甘必爭、爭則必鬪、鬪必大者傷、小者死、—レ—而—レ之、一擧必有二兩虎之名一」。
（赤紱刺）詩經の候人の章より君主の君子を遠ざけ小人を近づけ、又、位に在る者は其の德に堪へざるとをそしるとにいふ語。○〔後漢〕「將レ被二詩人三百—・—之—一」。
（曹人刺）前に同じ、候人の章は曹國の人の作に係かるよりいふ。○〔晉〕「傳擧二天下儁德茂材獨行君子一、以荅二—・—之—一」。
（角弓刺）詩經の角弓の章より君王の便佞の者を近づけて宗族を親しまざるをそしれると。○〔魏〕「恩澤衰薄、則—・—之章—」。
（眼中刺）まなこのなかのとげ、邪魔物の義に借り用ふる語。○〔白居易〕「新人迎來舊人棄、掌中蓮花—・—・—」。
（爵里刺）其の人の官位及び住所を記しある名札。○〔駱賓王〕「言投二—・—・—一」。

【刺】セキ、シヤク。七迹切 陌

❶さす。
（い）そこなふ（傷）、うがつ（穿）、やいばす（刃）。○〔孟〕「—レ人而殺レ之」。
（ろ）針もて布帛に黹す、はりさす、ぬふ。○〔史〕「—二繡文一不レ如レ倚二市門一」。
（は）さをさす（橾）。○〔史〕「—レ船而去」。
❷偵伺す、うかゞふ。○〔漢〕「—二侯朝廷事一」。
❸言葉の多き貌にいふ字。○〔管〕「爲能去二—・—一爲二嬰・々一乎」。

（持刺）はたし合ひ、決鬪。○〔史〕「住手衆鬪、勇二于—・—一」。
（剝刺）着たる服を奪ひ取り肉體をきずつけそこなふ。○〔史〕「免二—・—之患一」。
（劖刺）けづりそこなふ。○〔陳〕「—二—其面一、或加二燒熱一」。
（觸刺）さはりそこなふ。○〔論衡〕「爪牙相—・—也」。
（傷刺）きずつく。○〔國史補〕「裴晉公爲二盜所一—・—」。
（殘刺）やぶりそこなふ、物事の亂るゝにいふ語。○〔獨孤及〕「百揆—・—」。
（瘡刺）腫物と肉體とをさゝると、苦痛の義に借り用ふる語。○〔蘇舜欽〕「胸懷積二—・—一」。
（縫刺）布帛をぬふ。○〔書、疏〕「以二絣帛一爲レ質、白黑之線、—・—爲レ黼」。
（縷刺）朱絲を以てぬふ。○〔孫炎〕「—二—質文一」。
（探刺）事情をさぐりうかゞふ。○〔後漢〕「互作二威福一—・—」。
（促刺）せまりそしる。○〔王建〕「—・—復—・—」。
（橕刺）舟にさをさす。○〔韓琦〕「纜官綏二—・—一」。
（補刺）衣類のやぶれたる處をおぎなひぬふ。○〔梅堯臣〕「懷婦思二—・—一」。

【刺】セイ、サイ。七計切 霽

そしる、（譏）。○〔詩〕「維是褊心、是以爲レ—」。

【刻】コク。苦則切 職 〔說文〕从レ刀亥聲

❶物の形をゑり作る、ほる、ちりばむ、ゑる、きざむ。○〔後漢〕「自書二冊于碑一、使二工鐫一—、立二于大學門外一」。○
❷けづる（削）、さく（割）、はぐ（剝）。○〔莊〕「—レ意尙レ行」。
❸そこなふ（害）、いたむ（病）。○〔書〕「我舊云—レ子」。
❹仁心薄きと、殘酷なると、きびしきに過ぐると。○〔漢〕「凡事怨レ已、毋レ行二苛—一」。
❺みづどけいの漏箭に時を候ふ爲めにきざみたる度にいふ字、轉じて時間の義にいふ字。○〔唐〕「毎三延二英對二宰臣一、率漏下十一—」。
❻豕の跡。○〔爾〕「豕其跡—」。

（深刻）入情忍ぶべからざるを忍びて殘酷なると。○〔後漢〕「用レ刑—・—」。
（漏刻）水時計のと。○〔漢、註〕「掌レ知二—・—一」。
（晷刻）時といふに同じ。○〔梁〕「毎レ見二高祖一、與語常移二—・—一」。
（景刻）前に同じ。○〔謝靈運〕「愛レ客不レ告レ疲、飲讌遺二—・—一」。
（篆刻）古代の文字を彫ると、轉じて文章を細技としていふときに用ふる語。○〔揚雄〕「童子雕蟲—・—、壯夫不レ爲也」。
（石刻）石に文字を雕りたると。○〔書、序〕「其文則夏侯二家之所レ說、蔡邕碑—・—之古文」。
（鏤刻）金屬に物を雕るを鏤といひ木に彫るを刻といふ、合はせてすべて物を雕ると。○〔輟耕錄〕「以二粟木一—・—」。
（雕刻）前に同じ。○〔吳〕「所レ乘船—・—丹鏤青蓋絳襜」。
（侵刻）殘忍なると。○〔漢〕「和二輯其心一、而刻二—・—一」。
（數刻）數時といふに同じ。○〔漢〕「頤暘二—・—之閒一」。
（杜刻）道にはづれて殘忍なると。○〔後漢〕「非務在二均平一、無レ令二—・—一」。
（忌刻）人の能あるを嫉み且つ殘忍なると。○〔晉〕「內多—・—」。
（嚴刻）きびしきと殘忍なると。○〔晉〕「以二—・—立レ功」。
（峻刻）前に同じ。○〔宋〕「風俗—・—」。
（急刻）前に同じ。○〔唐〕「斷レ獄能者名在二—・—一」。
（慘刻）前に同じ。○〔唐〕「頗用二—・—一」。

〔晷刻〕前に同じ。○〔宋〕「無二晷漏一・一之暇二」、
〔晝刻〕晝間のこと。○〔唐〕「晝爲二一・一一、夜爲二夜刻二」。
〔夜刻〕夜間のこと、出處前條に見ゆ。
〔辰刻〕時といふに同じ。○〔宋〕「定二一・一二」。
〔減刻〕減らし少なくす。○〔唐〕「一・一二一軍賜二」。
〔裒刻〕前に同じ。○〔南〕「守宰多倚二附權門一、一・一聚斂」、「命一・一」。
〔刊刻〕書籍を刊行すること。○〔宋〕「眞宗然レ之、遂
〔板刻〕前に同じ。○〔輟耕錄〕「蘭亭帖集十二刻、有二定武一・一二」。「一貞・順之名二」。
〔雕刻〕文字又は物の形を雕る。○〔水經、註〕「一・一二
〔印刻〕前に同じ。○〔東觀餘論〕「但若二一・一二耳」。
〔頃刻〕暫時の間といふに同じ。○〔韓愈〕「一・一青紅浮二海蜃一」。

【㓠】列に同じ。

【劉】サツ、サチ。姊末切　曷
けがる、けがれ、きたなし、(穢)。

【刮】カツ、カチ。口八切　黠
㊀面の皮を剝ぐ、つらはぐ。○〔韓愈〕「敗レ面碎剝一・一」。
㊁きる、(切)。

【則】コン。古痕切　元
けづる、(削)。

【㓦】チン。知巾切　眞
かたな、(刀)。

【删】古文の删の字。

七畫

【剃】テイ、他計切　霽　タイ。　本、鬀又は　別に作る。
髮を去る、そる、けづる、かみそる。

【剄】ケイ、キヤウ。古挺切　迥

【剅】テイ、ヂヤウ。囊丁切　青
頸を斷つ、くびきる、くびはぬ。○〔史〕「令二從者魏敬一レ之」。

【剅】ロウ、洛侯切　尤　トウ、當侯切　ル。　ツ。
㊀すこしく穿つ。㊁すこしく裂く。
㊂さく、わる、(割)。

【劆】ラ。良何切　歌　力可切　哿
うつ、(擊)。

【㓢】クワイ、ケ。口怪切　卦
たつ、きる、(斷)。

【則】ソク。子得切　職
㊀のりとして從ひ依る、のりとなす、のッとる。○〔詩〕「君子是一是傚」。
㊁人の從ひ依るべきものゝ稱、のり、天理、制度、品式、禮法、規定。○〔詩〕「有レ物有レ一」。
㊂上を承け指してその關係を接續せしむるときに用ふる字、其の如きときは、然るときは、はすなはち、すなはち。
(い)直ちに上を承け指すもの。○〔論〕「用レ之一行、舍レ之一藏」。
(ろ)字を隔てゝ上を承け指すもの。○〔禮〕「人之學也、或失二一多一、或失二一寡二」。
(は)句を隔てゝ上を承け指すもの。○〔鄒陽〕「素無二根柢之容一、雖丁竭二精思一、欲丙開二忠信一、輔乙人主之治甲、一人主有二按レ劍相眄之跡二」。

〔天則〕人爲に基かずして自然にさかあるべき法。○〔易〕「乾元用九、乃見二一・一二」。
〔乾則〕前に同じ。○〔後漢〕「若夫上稽二一・一二」。
〔表則〕模範といふに同じ。○〔揚雄〕「爲二鹽梅之器一、用作二生靈之一・一二」。「三・墳」。
〔成則〕衆人、皆、標準として從ひ守る。○〔書〕「一・一二
〔典則〕人をして從ひ守らしめんとて設けたる法。○〔北〕「選レ吏擧レ人、未レ遵二一・一二」。
〔作則〕衆人の常に從ひ守るべきのりを設けなす。○〔書〕「明哲實一レ一」。
〔民則〕衆庶の從ひ守るべき法。○〔書〕「弘敷二五典一、式和二一・一二」。
〔帝則〕君王の示したる法。○〔詩〕「不レ識不レ知、順二「一之一二」。
〔爽則〕音樂の調子の上にて十二の調子の一に在りて之を十二ヶ月に配當すれば七月に當たるもの。○〔禮〕「孟秋之月、其音商、律中二一・一二」。
〔內則〕家の中にありて守るべき法。○〔後漢〕「述二宣陰化一、修二成一・一二」。
〔八則〕古昔、周の世に行はれし八の法、一に祭祀に關する法、二に諸の法則、三に無用を廢し有用を置くの法、四に祿位に關する法、五に租賦に關する法、六に禮俗に關する法、七に刑罰賞與に關する法、八に出役に關する法。○〔周〕「以二一・一一治二都鄙二」。
〔世則〕子々孫々の後までもしたがひ守らしむべき法。○〔禮〕「言而一爲二天下一二」。
〔爲則〕標準として倣ふ。○〔左〕「以二善人一一レ一」。
〔百則〕すべての法。○〔國〕「比二類一・一二」。
〔垂則〕法を設けて人に示し敎ふ。○〔李尤〕「昔在先聖、配レ天一レ一」。「已而貽レ一兮」。
〔貽則〕法を設けて後の人に示し敎ふ。○〔漢〕「終保レ
〔祖則〕先代の人の貽されたる法。○〔後漢〕「仰監二唐虞一、中述二一・一二」。
〔嘉則〕從ひ守るべき善良なる法。○〔王粲〕「愼二爾所主一、率二由一・一二」。
〔盛則〕從ひ守るべき立派なる法。○〔沈約〕「仰二休老之一・一一、請二徽齡于夕陽二」。
〔聖則〕古代のひじりの殘されたる法。○〔揚雄〕「共二條率舊一、一・一聿遵一」。
〔物則〕萬物の上に存する自然の法。○〔國〕「昭二明一・一以訓レ之」。「祀二而正二一・一二焉」。
〔法則〕人の從ひ守るべきのり。○〔禮〕「體行二于五一・一二」。
〔矩則〕前に同じ。○〔齊〕「吉凶奔騎、動違二一・一二」。
〔楷則〕前に同じ。○〔後漢〕「善二史書一、當時以爲二一・一二」。
〔模則〕前に同じ。○〔魏〕「以二莊周一爲二一・一二」。
〔儀則〕前に同じ。○〔史〕「經二緯天下一、永爲二一・一二」。
〔軌則〕前に同じ。○〔宋〕「示二民一・一二」。
〔式則〕前に同じ。○〔劉向〕「有二一・一一使二人冷々輕々不レ使二人狂二」。
〔都則〕古昔、周の代にありて都會にある家の從ひ守るべき法規を掌る官の名。○〔周〕「一・一中士一人、下士二人」。
〔徳則〕深く模範として從ひ倣ふ。○〔漢〕「一・一二師「德一、下氏成旗」。
〔常則〕年久しきを經とも替もかはらざる法。○〔漢〕「令・散消息、安有二一・一」。「禮二」。
〔依則〕模範として從ひたよる。○〔漢〕「一・一二古陶窕二」。
〔擬則〕前に同じ。○〔成公綏〕「法二象金華一、一・一二
〔九則〕田を上中下に分かち尙ほ之を九等に分かちたる法。○〔屈原〕「地方九一、何以墳レ之」。
〔崇則〕貴重なる法。○〔後漢〕「師二孔聖之一・一二」。
〔士則〕人の模範とすべき法。○〔魏〕「言爲二世範一、行爲二士一二」。
〔閫則〕婦人の從ひ守るべき法。○〔宋〕「內範二先猷一、夙昭二一・一二」。
〔憲則〕前に同じ。○〔唐〕「永垂二一・一一、貽二範後昆二」。
〔續則〕前に同じ。○〔宋〕「形爲二一・一一、凤心己化」。
〔圜則〕前に同じ。○〔天問〕「一・一九重、孰營二度之二」。
〔貞則〕前に同じ。○〔柳宗元〕「獲二一・一一于典章二」。
〔勳則〕功勞を樹てたる模範となること。○〔曹植〕「金紫綬、以彰二一・一二」。
〔通則〕時の古今を論ぜず國の內外を問はず用ひらる法。○〔沈約〕「滅二秩居レ官、前代一・一」。
〔彝則〕前に同じ。○〔顏師古〕「宜尼一・一」。
〔庾則〕世の模範となること。○〔庾信〕「孝實天性、忠爲二一・一二」。
〔四方則〕天下の人々より模範とせらるゝこと、又、其の模範となること。○〔詩〕「豈弟君子、一・一爲レ一」。
〔上下則〕貴賤尊卑の法。○〔左〕「會以訓二一・一之一二」。
〔萬世則〕永遠の後までも法となること。○〔漢〕「定二大明之制一爲二一・一二」。
〔無窮則〕前に同じ。○〔魏〕「爲二一・一二」。
〔百王則〕衆王の標準として守るべき法。○〔宋〕「仲尼制二作春秋一、論二究人事一以貫二一・一之一二」。

【㓭】タイ、デ。徒外切　泰
けづる、(削)。

【剈】エン。於玄切 先　ケツ、娟悦切 屑

㊀けづる(剜)。㊁かゝげさる(挑-取)。㊂くぼむ(窪)。

【剉】サ。千臥切 箇

㊀芒角を去る、芒角欽く、きる、かく。○〔莊〕「廉則―」。

㊁折傷す、やぶる。○〔梅堯臣〕「應當ニ爲設レ榻、勿レ使ニ賞-心―ニ」。

㊂細かくす、きざむ、くだく。○〔王昌齡〕「粉-―楚-山鐵」。

(擣剉) つきくだく。○〔齊東野語〕「蔡-倫以レ布―・―作レ紙」。

(摧剉) くじく。○〔蘇轍〕「行-意被ニ―・―ニ」。

(猛剉) はげしくきりくじく。○〔文同〕「新-霜著ニ庭-樹ニ、葉-下如ニ―・―ニ」。

(細剉) こまかくきざむ。○〔孫作〕「蒲歡雜ニ―・―ニ」。

【削】シャク、思約切 藥　サク。切　〔説文〕从レ刀肖聲。

㊀けづる(けづらる)。

(い)刮治す、へぐ、こそぐ。○〔詩、箋〕「剝-―淹-漬以爲レ菹」。

(ろ)減少す、へす、かく。○〔史〕「不レ戰而地已―」。

(は)殺ぐ。○〔進〕「衣無ニ隅-差之―ニ」。

(に)刻む。○〔神異經〕「周-圓如レ―」。

(ほ)奪ふ。○〔史〕「―ニ六-郡ニ」。

(へ)除く。○〔史〕「筆則筆、―則―」。

(と)折く。○〔國〕「齊―レ城封ニ田-嬰ニ」。

(ち)小しく侵す。○〔書〕「無ニ倚レ法以―ニ」。

(り)弱む。○〔孟〕「魯之―也滋甚」。

㊁弱し、小さし、少なし。○〔呂氏春秋〕「魏-國從レ此―矣」。

㊂小刀の類。○〔周〕「築-氏爲レ―」。

(刻削) 物をきざみけづること、轉じて人に對して苛酷なる處置あるにいふ語。○〔書、傳〕「行ニ―・―之政ニ」。

(魯削) 魯の國に產し切れ味よき小刀。○〔周〕「鄭之刀、宋之斤、―之―、吳、越之劍、遷ニ其地ニ、而弗レ能レ爲レ良、地-氣然也」。

(日削) 一日ましに勢の減少すること。○〔史〕「屈-原既死之後、楚―以―」。

(戌削) 衣服を裁つこと、美しき貌にいふ語。○〔史〕「衯-々裶-々、揚-袘―・―」。

(繩削) 墨繩を施し除き去るべきを除く、すべて正しからざるを正すこと。○〔韓愈〕「不レ煩ニ―・―ニ而自合也」。

(正削) 正しきとの勢を失ふ。○〔易〕「剛頤柔長、則―・―而凶來也」。

(剡削) 木をけづること。○〔易、疏〕「楫必須ニ纖-長ニ、理當ニ―・―ニ」。

(侵削) 他の領土を犯しとること。○〔禮〕「小-兵時起、土-地―・―」。

(酸削) 頭の痛みを感ずる病の名。○〔周〕「痟―・―也、首病頭-痛也」。

(刊削) (い)木をけづりとること。○〔周、疏〕「―・―以去ニ其皮ニ乃燒レ之」。

(ろ)板木をけづり去ること、轉じて筆もて削り去ることにいふ語。○〔南〕「諸制-度興-造、不レ論ニ是-非ニ、一皆―・―」。

(壞削) 土地のけづり取らるゝこと。○〔戰〕「―・―主困、爲ニ天下戮ニ」。

(法削) 法律を犯されて其の効力を失へること。○〔史〕「今縱ニ君-家ニ而不レ奉レ公、―・―、―則國弱」。

(刓削) 四角なる木をけづりて圓き形とす。○〔史、註〕「人―ニ―方-木ニ、欲ニ以爲レ圓」。

(蠲削) 除きとる。○〔漢〕「漢興―ニ―煩-苛ニ、兆-民大悅」。

(編削) 書籍を纂輯す。○〔後漢〕「走昔以ニ磨-研―・―之才ニ、與ニ國-師公從事ニ、出入校ニ定秘-書ニ」。

(瘦削) 體軀のやせ衰ふること。○〔鮑照〕「纖-腰―・―、髮-蓬-亂」。

(金削) 黃金づくりの小刀。○〔唐〕「太宗召試賜ニ所レ佩―・―刀ニ」。

(浸削) 漸を追ひて衰へ廢まること。○〔唐〕「匠-角應-勢、援-虜―・―」。

(斲削) (い)匠人の材木をきりけづりて家屋などの工事を施すこと。○〔鹽鐵論〕「無ニ―・―之事、磨-礱之功ニ」。

(ろ)前の義より轉じてすべて物事を裁制するにいふ語。○〔進〕「聖-人之―ニ―物ニ也、剖レ之判レ之、離レ之散レ之」。

(鏟削) 鏟の別名。○〔爾〕「鏟或曰レ銷、銷削也、能有レ所ニ―・―ニ也」。

(減削) 物の分量を減らすこと。○〔華陽國志〕「但當ニ崇-重ニ、豈當ニ―・―ニ」。

(刪削) 筆もて文字をけづり去る。○〔周書考〕「孔-子―・―之餘」。

(刑削) 身軀やせ衰ふ。○〔江淹〕「臨ニ白-日ニ而―・―」。

(毀削) 減らしけづる。○〔梁簡文帝〕「胡-學斯忍、復加ニ―・―ニ」。

(抑削) おさへつけて其の勢を失はしむ。○〔陳子昂〕「吳-起事レ楚、―ニ―虜-族ニ」。

(染削) 佛の教のこと。○〔陸羽〕「子不レ知ニ西-方―・―之道ニ、其名大矣」。

(秀削) 山の高く聳えたること。○〔汪克寬〕「衡-山―・―芙-蕖-朶」。

(危削) あやふくよわし。○〔韓〕「國家―・―、主-上勞-辱」。

(雕削) きざみつくろふ、轉じてわざとこしらふることに借りいふ語。○〔文心雕龍〕「―・―取レ巧、雖レ美非レ秀」。

(礱削) とぎけづる。○〔廣川書跋〕「求ニ―・―之跡ニ、殆不レ可レ見」。

(翦削) きりけづる。○〔白居易〕「―ニ―乾-蔓ニ、插ニ寒-竹ニ」。

【削】セウ。仙妙切 嘯

㊀鞘に同じ、かたなのさや、刀劍の室。○〔漢〕「賈-氏以レ洒レ―而鼎-食」。

㊁峭に同じ、きびし。○〔王褒〕「宰-相刻―・―」。

㊂網羅、あみ。○〔莊〕「―-格羅-落罝-罘之知」。

【削】セウ。相邀切 蕭

和樂の意あるにいふ字。○〔莊〕「孔-子―・―然反レ琴而絃-歌」。

【削】サウ、セウ。所交切 效

大夫の采地。○〔周〕「家-―之賦」。

【削】サ。蘇果切 哿

きる(斫)。

【⿰車刂】リツ、リチ。力一切 質

㊀けづる(削)。㊁たつ(斷)。

【⿰臿刂】サフ、セフ。初洽切 洽

刀をもて物を利くする聲にいふ字、きる。

【⿰孚刂】ラツ、ラチ。力活切 曷

けづる(削)。

【⿰⿱乂厶刂】剎に同じ。

【⿰⿱土己刂】シン。七鴆切 沁

かつ(剋)。

【剋】コク。乞得切 職

㊀ころす(殺)。㊁けづる(削)。㊂かつ(克)。○〔後漢〕「何征不レ―」。㊃たふ、あたふ、よくす、よく(能)。○〔莊〕「至レ伐ニ大-木ニ、非レ斧不レ―」。㊄必ず差へずと約す、かならずさす、ちぎる。○〔後漢〕「與―レ期俱至」。㊅急迫なり、いそがはし、きびし。○〔宋〕「性嚴―」。㊆刻に通じ用ふ、きざむ。○〔吳〕「謹以―レ心、非ニ但書レ紳」。

(忌剋) 人の能あるを嫉みて勝つことを好む。○〔左〕「今其言多ニ―・―ニ、難哉」。

(儉剋) つゞまやかにしてきびし。○〔宋〕「性―・―、少ニ恩-情ニ」。

【剌】ラツ、力達切　ラチ。切 曷　約束の束に从ひ刀に从ふ。刺の字とは同じからず。

㊀もとる(戾)、たがふ(差)、ひがむ(僻)。○〔漢〕「朝-臣舛-午、繆-戾乖-―」。

㊁はづ(耻)。

(潑剌) やぶれもとる。○〔唐〕「百-孩―・―、如ニ沸-粥紛-糜ニ」。

(操剌) 勇猛なるとの俗語。○〔五〕「此都軍甚―・―」。

(睢剌) 禍亂のこと。○〔張衡〕「方今天-地之―・―」。

(剌々) (い)物の聲にいふ語。○〔李商隱〕「去-程風―・―、別-夜漏丁-々」。

(ろ)もとる貌、又、不平の貌にもいふ語。

(弧剌) 弓の正しからざるもの。○〔鹽鐵論〕「若ニ隱-括輔-檠之正ニ―・―ニ也」。

(牢剌) そむきもとる。○〔馬融〕「―・―拂-戾、諸-貧之氣也」。

(撥剌) 弓を張る聲にいふ語。○〔張衡〕「彎ニ威-弦之―・―ニ」。

(ろ)魚の躍る貌にいふ語。〇〔李白〕「――ニ銀鬣、鬐欲ニ飛去ニ」。「[illegible]而――」。
[illegible]剌〕事の意の如くならざること。〇〔劉蛻〕「逐沒」

【前】センゼン。昨先切 先

㊀まへ、さき。
(い)後(うしろ、志りへ)の反、おもて。〇〔禮〕「執レ策立ニ於馬――ニ」。
(ろ)端初、未然、はじめ、さき。〇〔中〕「可ニ以――知ニ」。
(は)ゆくへ、ゆくさき。〇〔禮〕「先生書・策琴瑟在レ―、坐而遷レ之」。
(に)其れに對するを、其れに對する所。〇〔禮〕「君―臣名」。「見レ―」。
(ほ)めのまへ、てぢか。〇〔漢〕「事効見レ―」。
(へ)むかし。〇〔禮〕「未ニ之―聞ニ」。
(と)さきだち、さきて、みちびき。〇〔韓愈〕「莫レ爲ニ之――、雖レ美不レ彰」。〇
㊁まへに行く、まへに導く、さきんづ、さきだつ、すゝむ、みちびく。〇〔梁〕「因鼓而―、竟至ニ阜莢橋一築レ壘」。

〔御前〕 貴人の左右に侍る。〇〔史〕「出則驂乘、入則――」。
〔無前〕 進み進みて敵するものなし。〇〔後漢〕「武帝爲ニ軍鋒、力戰――」。
〔目前〕 めのまへ、すべて極めて近き距離及び近き時にいふ語。〇〔唐〕「所レ任者雖ニ數千里外、奉ニ教令一如ニ――」。「――」。
〔眼前〕 前に同じ。〇〔杜甫〕「歷々開元事、分明在ニ――」。
〔膝前〕 (い)物事の喜ぶべくしてひざの前にすゝみ出づること。〇〔北〕「毎ニ與談論、不レ覺ニ――於席ニ」。(ろ)ひざのまへのこと。〇〔梁簡文帝〕「歛ニ垂衫於――」。
〔望前〕 月の十五日よりまへのこと。〇〔春秋、疏〕「日・月遇食、交在ニ――ニ」。
〔筵前〕 席にしきたるむしろのまへ。〇〔隋〕「皇帝負レ扆、設ニ神璽于――之右ニ」。
〔龍前〕 食を爲すとき席のまへを殘さず進み出づること。〇〔禮〕「虛坐盡レ後、食坐――」。
〔歇前〕 屋の壁なきもの。〇〔春秋、註〕「無レ室曰レ榭、謂ニ屋――ニ」。「入――ニ」。
〔行前〕 (い)歩みすゝむ。〇〔漢〕「夜行ニ澤中、令ニ一人――」。(ろ)陳列のまへ。
〔直前〕 躊躇する所なくたゞちに進み出づること。〇〔左〕「君之――、不ニ敢逃ニ刑」。〇〔漢〕「嬀・佇徙――當レ熊而立」。
〔突前〕 たゞちにつき進む。〇〔蜀〕「超負ニ其多力、陰欲ニ――挑ニ戰公ニ」。「將ニ」。
〔徑前〕 前に同じ。〇〔舊唐〕「躍レ馬――、手斬ニ賊――」。
〔導前〕 先に立ちて案内をなす。〇〔宋〕「有ニ兩炬火――」。「昧者――」。
〔競前〕 先を爭ひて進む。〇〔晉〕「明者獨遊、引則龍」「日――而不レ御、遙聞レ聲而相思」。
〔進前〕 前先の方に向かひて進み行くこと。〇〔文心雕龍〕
〔牽前〕 助けてまへの方にひき出だす、卽ち人を庇護するに用ふる語。〇〔隋〕「劉昉――、鄭譯推レ後」。
〔駕前〕 天子の乘る車のまへ、卽ち天子の前といふことに用ふる語。〇〔舊唐〕「明・皇東巡勅ニ州縣、以レ禮徵・召至ニ――、年已九十二」。
〔忌前〕 己れの上に立てる人を嫉む。〇〔舊唐〕「契苾何力沈・毅持重、有ニ統御之才、然頗有レ――」。
〔處前〕 人の上に立つこと。〇〔魯褒〕「錢多者――、錢少者居レ後」。「得――」。
〔旅前〕 羣をなして進む。〇〔易林〕「齊・魯羣行、相」
〔嬰前〕 みどりごを抱く。〇〔爾〕「人始生曰ニ嬰兒、胸前曰レ嬰、抱レ之――乳ニ養之ニ也」。
〔漏前〕 古昔の事柄を鄭重にす。〇〔論衡〕「俗・儒好長レ古而短レ今、言レ瑞則――而薄レ後」。
〔昭前〕 古昔の事實に對し名譽ありて光輝を放つこと。〇〔劉寔〕「在・昔既無ニ堂構、――之績、中レ規不レ察、明・神弗レ祜」。「開ニ――ニ」。
〔眸前〕 目のまへ。〇〔張均〕「九圍觀ニ掌内ニ、萬象至ニ――」。
〔至尊前〕 天子の御まへ。〇〔漢〕「舞入無レ樂者、將レ至ニ――之――、不ニ敢以樂ニ也」。
〔萬乘前〕 前に同じ。〇〔後漢〕「無レ緣レ至ニ――之――、永無ニ見レ信之期ニ」。
〔軒轅前〕 黃帝よりまへの時代、卽ち太古の意に用ふる語。〇〔漢〕「――之―遐哉、邈乎其詳不レ可レ得レ聞已」。
〔結繩前〕 文字のいまだあらざりし時のこと。〇〔陸游〕「自疑身在ニ――ニ」。

【前】セン。子淺切 銑

㊀そろへてきる、(齊斷)、俗に剪に作る。〇〔周〕「木路――樊鵠纓」。
㊁淺黑き色、うすぐみいろ。

【剞】ホ、フ。補護切 遇

㊀きる、(截)。㊁ものたちがたな、(裁刀)。

【剆】カン、コン。古南切 覃

禾を刈る具、かま。

【刺】俗の刺の字。〇〔史〕「博士諸生、――ニ六經中一作ニ王制ニ」。

【觓】ケツ、ケチ。古屑切 屑

角を理む、けづる。

【剆】ラウ。盧坱切 養

朗の字と同じからず、曇りなし、あきらか(ほがらか)。〇〔淮〕「耳聽ニ滔――奇麗激抮之音ニ」。

八畫

【剒】サク、且落切 藥

一に錯に作る。
きる、さく、けづる。

【剕】ヘイ、ハイ。篇迷切 齊

或は批に作る。
㊀けづる(削)、へぐ(剝)。㊁きる(斫)。

【剌】ヘイ、ハイ。匹計切 霽

わる、さく(割)。

【剺】リ。力杏切 支

一本、務に作る。
㊀はぐ(剝)。㊁つんざく、つきわる(劃)。

【剄】ア、エ。乙牙切 麻 衣架切 禡

㊀けづる、ゑぐる(剜)。㊁くびはぬ(刎)、くびきる(剄)。㊂さく。

【剻】ホウ、北朋切 蒸

きる、うつ(斫)。

【剔】テキ、チヤク。他歷切 錫

一說文从レ刀易聲。

㊀肉を肆き解く、骨を解く、きりほごく、たちわる、ほふる、さく、きる。〇〔書〕「刳ニ剔孕婦ニ」。
㊁のぞく。
(い)汚穢を除き去る、けづる。〇〔詩〕「攘レ之――レ之、其檿其柘」。
(ろ)世上に害毒をなすものを除き去る。〇〔後漢〕「糾ニ――姦盜ニ、不レ得レ旋レ踵」。

〔疏剔〕 堅きを貫き妨げとなるものを除き去る。〇〔唐〕「經ニ度蠶山ニ―レ鑿―レ竅、爲ニ天子游觀ニ」。
〔剪剔〕 害となるものを淸め除く。〇〔唐〕「時事無レ不レ言、――抉摩、多見ニ聽可ニ」。
〔カ剔〕 カを盡くしてきり取る。〇〔驍鶩錄〕「築公好レ石――、山骨森然發露」。
〔爬剔〕 かきむしりくじりとる。〇〔韓愈〕「―羅―抉、刮レ垢磨レ光」。
〔捜剔〕 隱れたるをさがしもとめて除き去る。〇〔柳宗元〕「――疑互、探ニ抉遯隱ニ」。
〔擿剔〕 かきのくること。〇〔崔道融〕「酒醒――殘灰火」。
〔抉剔〕 くじり出だす、卽ち物事を探がし出だすにいふ語。〇〔蘇舜欽〕「――雖ニ强成ニ、徒使ニ腸胃沸ニ」。

【剔】セキ、シヤク。施隻切 陌

をさむ(治)。

【剃】テイ、タイ。他計切 霽

剃に同じ、そる。〇〔北〕「婦・人皆翦――、以著ニ假髻ニ」。

【剮】クワ。古火切 哿

わる、さく(割)。

【剕】ヒ、ビ。扶沸切 未

古昔、皐陶の制定せし五刑の一にて臏骨を切り去る刑、あしきる。

【剖】 ホウ、普后切 [有]　フ、方武切 [麌]　フ。モ。切

㊀わかつ。

(い)わく、(判)、わる、(破)、さく、(拆)。○[史]「－レ符封二功-臣一」。

(ろ)是非を裁決す、さだむ、わきまふ。○[唐]「夜-分輒決レ事、裁－精-明、吏稱爲レ神」。

㊁わかる、(分)。○[揚雄]「四-分五－、並爲二戰-國一」。

㊂やぶる、(破)。○[淮]「蠹啄－二梁-柱一」。

〔不剖〕われず、又、わらざること。○[後漢]「貝-璞－、必有レ泣レ血以相明者一矣」。

〔拆剖〕さけわるゝこと。○[史]「陸終生二子六-人一、－・－而產焉」。

〔豆剖〕まめの如くに細かくわるゝこと。○[晉]「平-王東遷、星-離－・－」。

〔刀剖〕かたなもてわる。○[歐陽難]「－則苦」。

〔評剖〕是非をあげつらひわかつ。○[宋濂]「大-啓金匱藏、－・－共－・－」。

〔良工剖〕善き工人の玉をわり治むること、楚の和氏の璧を治めたる故事より出づ。○[鹽鐵論]「荊-和抱レ璞而泣レ血曰、安得二－・－一而－レ之」。

【剗】 サン、セン。初限切 [潸]

たひらぐ、(平)、けづる、(削)。○[戰]「－三而類破二吾家一」。

〔大剗〕いたく削り去る。○[舊唐]「刑-名－・－二于煩-苛一」。

〔革剗〕あらため削り去る。○[孫逖]「－・－二浮-靡一」。

〔裁剗〕たち削りさる。○[梅堯臣]「寶刀－・－泥如レ剗」。

【剷】 セン。側展切 [銑]

除き去る、かる。○[蘇軾]「賊-壘何足レ－」。

【剗】 サン、セン。初諫切 [諫]

をさむ、(治)。○[韓愈]「活-計以レ鋤－」。

【剞】 キ、ギ。渠宜切 [支]

【剒】

㊀かつ、(克)。㊁まこと、(信)。

㊂さく、(割)、又、たつ、きる、(截)。

【契】 カツ、ケチ。古滑切 [黠]

刮に同じ。

【剆】 ダウ、ノウ。奴皓切 [皓]

腦に同じ。○[周]「甕二于－一而休二于氣一」。

【剏】 俗の剙の字。

【剚】 シ。資四切 [寘]

插しこむ、さしはさむ、さす、つきこむ。○[管]「春有二以－・－耜一、夏有二以－・－耘一」。

【剛】 カウ。古郎切 [陽]

こはし、(こはきもの)。

(い)柔かならず、かたし、(堅)。○[詩]「柔亦不レ茹、－亦不レ吐」。

(ろ)折れず、つよし、(勁)。○[論]「血-氣方－」。

(は)外物に對して主義節操を變ぜざる德あるにいふ。○[論]「吾未レ見二－-者一」。

〔重剛〕こはさが上にもこはきをかさぬ。○[易]「－而不レ中」。

〔制剛〕强きを抑ふ。○[易]「柔能－レ－」。

〔勝剛〕前に同じ。○[老]「柔－レ－、弱勝レ强」。

〔乾剛〕健にして物に屈せざる地位。○[歐陽修]「－奮-發－・－、嗣二承天-統一」。

〔至剛〕極めて强し。○[孟]「其爲レ氣也、至-大－・－」。

〔我剛〕車の名。○[七命]「列二緩武一、整二－・－一」。

〔外剛〕强きさまの表に見はれたること。○[易]「內柔而－・－」。

〔內剛〕前の反。○[歐陽修]「外柔而－・－」。

〔不吐剛〕强者の威を畏れず。○[漢]「執二憲轂下一、－二－レ－茹レ柔」。

【剜】 コ、ク。苦姑切 [虞]

㊀剖判す、わかつ。

㊁ほふる、やぶる、切り破る。

【剜】 ワン。於丸切 [寒]

けづる、(削)、ゑぐる、(抉)、ゑる、(雕)。○[韓愈]有レ洞若二神－・－一。

【剠】 俗の列の字。○[潘岳]「前－二重-劈一、旁截二疊-翩一」。

【剫】 ケキ、キヤク。古闃切 [錫]

やぶりひらく、(剔)。

【剝】 ハク、ホク。北角切 [覺]

㊀はぐ、むく。

(い)牲を殺し體を解く。○[詩]「或－或亨」。

(ろ)表皮を去る。○[周]「－二陰-木一」。

(は)被服を奪ふ、蔽覆を去る。○[晉]「－二裸士-女一」。

(に)刮り去る、離し去る。○[荀]「不二－-脫一、不二礪-砥一」。

㊁はがる。

(い)はがる、むかる。○[文子]「其文好者皮必－」。

(ろ)脫落す、はぐ、むく、おつ。○[南]「風吹紙－殆盡」。

㊂おとす、おつ、(落)。○[易]「－レ牀以レ足、蔑レ貞凶」。

㊃おほひをなさず、覆はず。○[禮]「喪不レ－、－レ奠也與」。

㊄けづる、(削)、さく、(裂)、わる、(割)。○[屈平]「怫-鬱兮肝切－・－」。

㊅傷害す、そこなふ、やぶる、きずつく。○[書]「－二喪元-良一」。

㊆易の卦の名、☷☶坤下艮上〇[易]「－・－不レ利レ有レ攸レ往」。

㊇事利あらざること、運拙きこと。○[定命錄]「命多二蹇－・－一」。

㊈人の足音にいふ字。○[韓愈]「－・－啄-々有レ客叩レ門」。

〔頹剝〕壞れはがる。○[唐]「視二左-壁－・－一」。

〔摧剝〕前に同じ。○[陸游]「－・－觀二萬-穴一」。

〔圮剝〕毀り害なふ。○[後漢]「陵二長間一、舊、－二－・－至親一」。

〔刻剝〕人を虐げ傷ふ。○[唐]「由レ是爲二－・－一」。

〔剽剝〕ちわよりてはげ傷るゝこと。○[蘇轍]「文-字－・－因二風雨一」。

〔剝剝〕そこなふ。○[史]「－・－二儒-墨一」。

〔刊剝〕けづり去る。○[周、誌]「必先－二－・－之一」。

〔吞剝〕他人のものをはぎて己れのものとなすこと。○[齊]「－・－二民-物一」。

〔鉤剝〕かくれたる罪をさぐりてむき出すことなどにいふ語。○[唐]「深-文－・－」。

〔黜剝〕官位をおとす。○[唐]「無二－・－之患一」。

〔貶剝〕おとす。○[蘇軾]「輒－・－令二一-錢不一レ直」。

〔否剝〕運あし。○[世說]「屯蹇－・－」。

【剝】 ホク、ボク。普卜切 [屋]

うつ、(擊)。○[詩]「八-月－レ棗」。

【剮】 セツ、ゼチ。食列切 [屑]

皮を治む、なめす。

【剳】 カフ、ケフ。苦洽切 [洽]

入る。

【剎】 サツ、セチ。初轄切 [黠]

刹に同じ。

【剞】 キ。居綺切 [紙]　居宜切 [支]　〔說文〕从レ刀奇聲。

㊀きざむ。○[淮]「－・－劂無レ迹」。

㊁ほりもの刀、又、曲がりたる刀。○〔楚辭〕「握二ー剟一而不レ用兮」。

【剟】テツ、テチ。竹劣切　屑　——〔説文〕从レ刀叕聲。
㊀けづる、（刊）。○〔商子〕「有下敢ー二定法令一者上死」。
㊁さす、（刺）。○〔史〕「吏治榜笞數千、剟ーー身無二可レ擊者一」。
㊂さく、（割）。○〔漢〕「ー二寢戸之簾一」。
㊃さし、（利）。○〔淮〕「聖人制二弭ー・オ一、無レ所レ不レ用矣」。

【剟】タツ、タチ。都活切　曷
けづりさる、けづる、（削）。○〔郭璞〕「ーー二其瑕礫一」。
〔削剟〕けづる。○〔呉越〕「無二ー・ーの利一」。
〔刊剟〕前に同じ。○〔史〕「經二史家ー・ー一」。

【[illegible]】剟に同じ。

【[illegible]】セイ。征例切　霽　一本、制に作る。
㊀たつ、（斷）。㊁たゞす、（正）。

【剠】リヤウ。力讓切　漾
ぬきさる、（鈔取）。

【剠】リヤク、ラク。力灼切　藥
うばひさる、（奪取）。

【剠】ケイ、ギヤウ。渠京切　庚
黥又は劓に同じ、墨刑を面上に施すを、いれずみ。

【剡】エン。以冉切　琰
㊀けづる、（削）。○〔易〕「ーレ木爲レ楫」。
㊁きる、（斬）。○〔荀〕「安欲レーニ其脛一」。
㊂さし、するどし、（利）。○〔漢〕「ーー手以衝二仇人之胷一」。
㊃ほこさき、（鋒）。
㊄光り輝く貌にいふ字。○〔屈平〕「皇ーー其揚レ靈」。
㊅身を起こす貌にいふ字、たちあがる。○〔禮〕「弁行ーー起レ屨」。
〔磨剡〕研ぎ磨きて益々鋭利ならしむ。○〔桑甕〕「拙者亦ーー」。
〔翠剡〕草の緑の色を爲して其の穗の鋭くあること。○〔蘇軾〕「春秧欲レ老ー・ー齊」。
〔剞剡〕たちけづりてするどくす。○〔馬融〕「ー・ー度擬」。
〔刻剡〕きざみけづる。○〔曾鞏〕「高下逆生如二ー・ー一」。

【[illegible]】テウ。丁聊切　蕭
文を刻むゑる、うつ、（琢）。

【[illegible]】レイ、ライ。力計切　霽
割き破る、又、さく、（解）。

【剢】トク。丁木切　屋
すきけづる。

【剓】リ。連二切　寘
さく、わる、（割）。

九畫

【[illegible]】テフ、ドフ。直葉切　葉　一本、牒に作る。
肉を薄く切る、きざむ。

【[illegible]】サツ、ゼチ。仕鎋切　黠
草をかる刀、くさりがま。

【割】クワク、コク。霍虢切　陌
物の破るゝ聲。

【[illegible]】サフ、セフ。測洽切　洽
物を斷ち切る聲にいふ字。

【剩】ショウ、ジョウ。食證切　徑
㊀滿ちて尙ほ殘るにいふ字、あまる、あまり、ながし、おほし。○〔范成大〕「掠レー增二釜甑一」。
㊁其れのみにてなく、啻ならず、あまつさへ。○〔高適〕「聽レ法還應レ難、尋レ經ー欲レ翻」。
〔足剩〕充分にして餘りあること。○〔周〕「知二其ーー、謂二之捨一」。

【[illegible]】トウ、ヅ。徒溝切　尤
ゑる、けづる、又、きざむ。

【[illegible]】エイ、ヤウ。於丙切　梗
㊀けづる、（削）。㊁さす、（刺）。

【[illegible]】シウ、シュ。疎鳩切　尤
かる、（刈）。

【[illegible]】ヘン。紕延切　先
けづる、（削）。

【[illegible]】ヘイ。匹銳切　霽
ひさしくす、（釣）。

【[illegible]】テイ、タイ。丁奚切　齊
刀をもて物を解く、さく、きる、くじる、うがつ。

【[illegible]】エン、オン。於巖切　鹽
つみす、（刑）。

【[illegible]】ゼン、ナン。乳兗切　銑
さす、（刺）。

【剪】俗の翦の字。

【[illegible]】ショウ、シュ。尺容切　冬　一本、劅に作る。
さす、（刺）。

【剫】タク、ダク。達各切　藥
わかつ、（分）、をさむ、（治）、又、えらぶ、（擇）。○〔左〕「山有レ木工則ーレ之」。

【[illegible]】ド、ヅ。動五切　麌
とづ、ふさぐ、（閉）。

【剬】タン。多丸切　寒　セン。主兗切　銑
とゝのふ。
（い）剸に同じ、切りて齊しくす、きりそろふ、そろふ、こまかく切る、きざむ、きる。
（ろ）制裁す、きりもりす。○〔淮〕「人君揄二策廟堂ー一二有司一」。
（は）整齊す、つゝしむ。○〔揚〕「魯仲連傷而不レー、藺相如ー而不レ傷」。

【剭】ヲク。烏谷切　屋
重き刑に行ふ、ころす。○〔漢〕「底レー二鼎臣一」。

【[illegible]】アク、オク。乙角切　覺
罪に行ふ、つみす。

【[illegible]】ケイ、ケ。苦圭切　齊
刲に同じ、さく、わる。

【剮】クワ、ケ。古瓦切　馬　一に冎又は咼に作る。
肉を切りて骨を置く、さく。

【剽】ガク、ギヤク。逆各切 藥
刀劍の刃、やいば、又、刃物の尖りし處、ほこさき。

【㓞】ケツ、ケチ。詰結切 屑 ―鍥に通じ作る。
きざむ、(刻)。○〔晉〕「―而舍レ之、朽木不レ知」。

【副】フク、ホク。芳六切 屋
わかつ、(判)、わる、(割)、さく、(裂)。

【副】ヒヨク、ヒキ。普逼切 職
わる、さく、(析)。○〔禮〕「爲二天子一削レ瓜者―レ之」。

【副】ヒウ、フ。敷救切 宥
㊀そふ。
(い)主なる者に屬次す、主なる者を輔佐す、つぐ、たすく。○〔晉〕「參二―朝右職一掌二銓衡一」。
(ろ)適合す、かなふ。○〔後漢〕「盛名之下、其實難レ―」。
㊁輔佐、屬次、そへ、たすけ、すけ、かいぞへ。○〔漢〕「爲二將軍―一」。
㊂原本の謄寫、ひかへ、うつし。○〔後漢〕「移二―三公府一」。
㊃つまびらか。○〔爾〕「審也」〔註〕「―者次レ長之稱、審猶レ察也」。
㊄髮を編みたる首飾、かみかざり、古昔の婦人の裝ひ。○〔詩〕「―笄六珈」。
〔儲副〕君の嗣となる人、即ち太子。○〔後漢〕「太子國之―」。
〔國副〕前に同じ。○〔宋〕「既爲二―一」。
〔寫副〕本書のうつしぶみ。○〔晉〕「泰始以來、大事皆撰錄、秘書―」。
〔次副〕そへ。○〔宋〕「副御―又各三十」。
〔軍副〕將軍に屬して輔佐となる役。○〔齊〕「安國以二建威將軍一、爲二勵―一」。
〔贏副〕必要の外更に餘饒あること。○〔唐〕「服用無二―一」。
〔光副〕大いに助くること。○〔蕭國〕「―二皇極一」。

【剳】音韻未だ詳かならず。
遂に同じ、步行進まず、とどまる。○〔揚雄〕「―跙」。

【剜】ワン。於歡切 寒
けづりきざむ、(削刻)。

十畫

【劓】ゲイ。牛例切 霽
劓に同じ、鼻をきる罪、はなきる。

【劕】サ。指果切 哿
きりてまどかにす、きる、(切)。

【㓸】トツ、トチ。他骨切 月
刺し入るゝ貌にいふ字、又、さしとほす、さしこむ、突きいる。

【割】カツ、カチ。柯曷切 曷
㊀さく、(裂)。○〔漢〕「拔レ劍―レ肉、何壯也」。
㊁きる、(切)、たつ、(斷)、わる、(破)。○〔王褒〕「水斷二蛟龍一、陸―二犀革一」。
㊂わかつ、わかる、(分)。○〔杜甫〕「陰陽―二昏曉一」。
㊃損害す、そこなふ。○〔書〕「洪水方「―」。
㊄災害、わざはひ。○〔書〕「降二―于我家一」。
㊅肉を解く、ほふる、はぐ。○〔周〕「膳羞之―亨」。
〔裁割〕刀をもて物をきりたつ、又、物事をきりもりして宜しきに合はしむる意にいふ語。○〔後漢〕「隨レ形―」。
〔斷割〕前に同じ。○〔書〕「金能―」。「絕」。
〔午割〕縱と橫とに切りたつ。○〔儀〕「―可レ使―、猛志誰能降」。
〔宰割〕主となりて處置す。○〔孟郊〕「當時獨―「―而等二異之一」。
〔分割〕彼と此とをわかつ。○〔荀〕「古者先王―手自頒賜」。
〔齊割〕不平均なくたちわる。○〔南〕「綦坐―、不レ得二―一」。
〔刲割〕牛羊などを屠り殺す。○〔北〕「市取二小牢一、―」。
〔屠割〕前に同じ。○〔淮〕「―烹殺」。
〔剝割〕前に同じ。○〔北〕「刀劍―」。
〔烹割〕料理に同じ。○〔元稹〕「無レ恡二牛刀一、爲レ我「破」―」。
〔中割〕眞中よりたちわる。○〔傅休奕〕「―而」
〔牛刀割〕牛を調理するかたなもて雞を調理すること、大事を處理するに足る智力もて極めて容易なる小事を處理するの義にいふ語。○〔陳造〕「令尹活人手、小試―」。

【剳】タフ、トフ。德合切 合
㊀かぎ、鉤。㊁かま(鎌)。

【㔉】タク、トク。竹角切 覺
斵に同じ、きる、(斫)。○〔史〕「―レ木爲レ梠」。

【剅】トウ、ツ。當侯切 尤
㊀少しく穿つ。㊁さく、わる、(割)。

【㓹】セイ、セ。此芮切 霽
少しくそこなふ。

【㓹】エイ、エ。唯芮切 霽 ―銳の籒文。
のぎ、(芒)。

【㓾】セイ、サイ。先稽切 齊
剛に同じ、皮傷る。

【劇】ケン、コン。居言切 元
㊀きる、(切)。㊁たちわる、(剔)。

【劇】ケン、ゲン。經天切 先
㊀牛の勢を去る、へのこきる。
㊁けづる、(削)。

【㓶】セツ、ゼチ。士列切 屑
皮を治む、なめす。

【㓵】テイ、タイ。天黎切 齊 チ、丑豸切 紙
けづる、(削)。

【㓷】シヨク、シキ。節力切 職
耜の銳利なるにいふ字。

【剴】ガイ、五來切 灰 カイ。古哀切 灰 居代切 隊 ―說文从レ刀豈聲。
㊀する、(摩)。㊁きる、(切)。
㊂うごく、(動)。㊃ちかづく、(近)。
㊄大いなる鎌。

【剫】オ、ウ。汪乎切 虞
草を刈る刀、くさかりがたな。

【剄】剛に同じ。○〔史〕「而民―殺」。

【剻】ヘイ、ハイ。匹奚切 齊 匹計切 霽
ヘツ、ヘチ。方蔑切 屑 ―本、剕に作る。
㊀きる、(斫)。㊁さく、(割)。㊂けづる、(削)。

【剬】タフ、トフ。都盍切 合
物の相著く聲にいふ字、又、つく。

【創】シヤウ、サウ。千羊切 陽

㈠刃にて傷つく、きずつく。○[後漢]「復傷——甚」。㈡きずつきたる箇處、きず。○[後漢]「乃勃-然裹ㇾ—而起」。㈢瘡に同じ、かさ。○[禮]「頭有ㇾ—則沐」。㈣始造す、はじむ、つくる。○[漢]「禮-義是—」。㈤瑲に同じ、玉の音にいふ字。
[傷創] きずつく、又、きず。○[後漢]「戰-于昆-定ㇾ大破ㇾ之、復———甚」。
[痍創] 前に同じ。○[道德指歸論]「誅ㇾ騎制ㇾ暴、而無ニ——一也」。
[金創] 刃物にて食へる傷。○[宋]「以ニ虎-魄-治ニ—ニ」。
[刃創] 前に同じ。○[周、註]「金瘍——也」。
[重創] (い)負傷の上に重ねて負傷すること。○[穀梁]「古者不ㇾ—ㇾ—、不ㇾ禽ニ二-毛ニ」。(ろ)甚だしき負傷。○[北]「延遜職、身被ニ——ニ」。
[草創] 物事のはじめ、又、其のはじめをこしらへなす。○[後]「庶-事——、日不ㇾ暇ㇾ給」。
[始創] はじめてこしらへなす。○[晉]「—ニ—衣-冠-、而玄-黃殊ㇾ采」。
[造創] 前に同じ。○[晉]「經-史大-業—ニ—帝基ニ」。

【創】 シヤウ、サウ。初亮切 漾
㈠前條の㈣に同じ。○[孟]「—ㇾ業垂ㇾ統」。㈡いたむ、(傷)。○[漢]「人-民—ニ艾戰-鬪ニ」。㈢こる、こらす、(懲)。○[書]「予—ㇾ若ㇾ時」。
[懲創] (い)人を戒めて再び其の事なからしめんことを期す。○[書、疏]「聖-人之制-刑-罰ニ、所ニ以——ニ-罪-過ニ」。(ろ)自ら警めて再び其の事なからんことを期す。○[韓愈]「生-還是可ㇾ冀、劍ㇾ己自——」。

【剌】 リツ、カ一切 質
—本、剌に作る。

【剗】 サ、セ。初牙切 麻
㈠けづる、(削)。㈡たつ、(斷)。

さす、(刺)。

【劕】 サイ、セ。初皆切 佳
小さき矛。

【㓨】 ケフ、コフ。去劫切 葉
强ひて取る、かすむ、うばふ。

【剡】 セン。充眠切 先
木の枝を去る、えだきる、えだはらふ。

十一畫

【剷】 サン、セン。楚隨切 濟 初諫切 諫
剗に同じ、けづる。○[杜牧]「府-兵内—」。

【剟】 シツ、シチ。初栗切 質 シ。初紀切 紙
㈠さく、(割)。㈡そこなふ、やぶる、(傷)。

【劘】 バ、マ。眉波切 歌
俗の劘の字。

【剹】 策に同じ。○[史]「諸-靈數-—、莫ㇾ知ニ汝信ニ」。

【剸】 タン、ダン。徒官切 寒 セン。旨兗切 銑
きる、(截)たつ、(裁)。○[禮]「其刑-罪則纖-—」。

【剬】 セン。之轉切 銑
細切す、切斷す、きる、きざむ、たつ、きりきざむ。○[王褒]「陸—ニ犀-兕ニ」。
[斷剬] 刀をもて物をきりたつ。○[范寧]「百-怪日-夜出、思ニ欲一——ニ」。
[裁剬] 刀をもて物をたつ、物事を決斷するにいふ語。○[細貫]「妙在ニ巧——ニ」。

【剸】 セン。朱遄切 先
專に同じ、ほしいまゝ、ほしいまゝにす、又、合はせて領す、あはす、すぶ。○[漢]「上以ㇾ此—屬ニ任何關-中事ニ」。

【劈】 ビ、ミ。忙皮切 支
靡に同じ、わかつ、(分)。○[易]「吾與ㇾ爾—ㇾ之」。

【剹】 リク、ロク。力竹切 屋
㈠けづる、(削)。㈡戮に同じ、ころす。

【剹】 キウ、ク。居尤切 尤
物の回轉する貌にいふ字、めぐる。

【剿】 シウ、シユ。鋤弓切 東 仕仲切 送
鍤の屬、すき、又、くは。

【𠝹】 リ。力㕦切 支 —說文从ㇾ刀声聲、
㈠きずつく、(創)。㈡はぐ、(剝)。㈢きる、きりわる、(劃)。

【𠝹】 シツ、シチ。初栗切 シユツ、シユチ。所律切 質
剟に同じ、さく、やぶる。

【勢】 カウ、コウ。乎刀切 豪 —豪に通じ用ふ。
すこやか、(健)、つよし、(强)。

【㓵】 コン。古困切 願
けづる、(削)。

【剾】 ロウ、ル。虜侯切 尤
うがつ、(穿)。

【劆】 ロウ、ル。郎豆切 宥

細かに切る、きざむ、ほる。

【㓻】 セイ、サイ。素奚切 齊
皮を傷る、かはくぐ。

【犀】 チ。陳知切 支
㈠前條に同じ。㈡魚を切る。

【㓸】 サン。師銜切 咸
㈠たつ、(絕)。㈡かる、(刈)。

【剽】 ヘウ。匹妙切 嘯 —說文从ㇾ刀票聲。
㈠砭刺す、攻擊す、さす、うつ。○[史]「用—ニ剝儒-墨ニ」。㈡はぐ、(剝)、きる、(截)、けづる、(削)、わかつ、(分)。○[史]「—ニ—分ニ-方ニ」。㈢劫奪す、かすむ、おびやかす。○[史]「杰」「攻——爲ニ群-盜ニ」。㈣かたし、(堅)。○[管]「五-沃之狀—」。㈤さし、(疾)。○[周]「其爲ㇾ獸必—」。㈥あらし、(悍)。○[晉]「流-人剛——」。㈦かろし、(輕)。○[唐]「江-左浮——」。
[推剽] 威權を以て劫し奪ふ。○[唐]「新-安大-豪連-結——」。「卒爲ニ七-郡ニ」。
[掮剽] 分割すること。○[史]「項後——分ニ三-方ニ、」
[𨍭剽] 其の擧動のかろぐしきこと。○[魏]「好ㇾ奇取ㇾ異、皆——之才」。
[仇剽] 仇とし劫す。○[唐]「隋無ㇾ信、反見ニ——ニ」。
[殘剽] 人を劫す、害ふ。○[唐]「—ニ——州-縣ニ」。
[剠剽] 前に同じ。○[五]「——弗ㇾ堪」。
[鹵剽] 他人の物を掠め奪ふ。○[唐]「—ニ——小-利ニ」。

【㔆】 ヘウ。符消切 蕭
㈠樂器の名、其の大いさ中位にある鍾。㈡志るす、(識)。

【剽】 ヘウ。匹沼切 篠

すゑ、(末)。○〔莊〕「有レ長而無二本一一者宙也」。

【⿰爽刂】 シヤウ、サウ。初兩切 [養] 皮傷る、やぶる。

【⿰雪刂】 サツ、サチ。先活切 [曷] ㊀さく、(割)。㊁けづる、(削)。

【剾】 コウ、恪侯切。オウ、烏侯切 [尤] けづる、(削)。

【剿】 セウ。子小切 [篠] 巢に从ひ刀に从ふ勦の字とは同じからず。 ㊀たつ、(絶)。㊁ころす、(殺)。

【勦】 サウ、セウ。楚教切 [效] かすめとる、(略-取)。

【⿰巢力】 サウ、セウ。初交切 [肴] 一本、鈔に作る。 抜き取る、とる。

十二畫

【⿰曾刂】 ソウ。七鄧切 [徑] ㊀わる、さく、(割)。㊁過ちて傷つく。

【⿰景刂】 リヤウ。力漾切 [漾] ㊀とる、(取)。㊁うばふ、(奪)。

【⿰登刂】 トウ。都騰切 [蒸] かぎ。

【⿰粦刂】 リン。離珍切 [眞] ㊀けづる、(削)。㊁する、(刮)。

【⿰絕力】 セツ、租悅切 [屑] 一本、絕に作り、或は䪣に作る。 物を斷つ、きる、たつ。

【⿰粟刂】 ショク、ソク。思錄切 [沃] 細かに切る、きざむ。

【⿰尊刂】 ソン。祖本切 [阮] ㊀へらす、そぐ、(減)。㊁斷ち切る、たつ、きる、

【劀】 クワツ、ケチ。古刹切 [黠] 傷口を刮る、膿血を去る、惡創の肉を切り去る、けづる、又、さく、(割)。○〔周〕「瘍-醫一-殺之劑」。

【⿰肅刂】 セウ。先弔切 [嘯] わる、さく、(割)。

【⿰焦刂】 セウ、ゼウ。慈焦切 [蕭] 才笑切 [嘯] ㊀きる、たつ、(斷)。㊁いねかる、(穫)、かる、(刈)。

【⿸厤刂】 レキ、リヤク。狼狄切 [錫] 一本、歷に作る。 さく、わる、(割)。

【⿰單刂】 タウ、テウ。涉教切 [效] タウ、トウ。刀號切 [號] おほいなり、(大)。

【⿰執刂】 シツ、ジチ。職日切 [質] かる、(刈)。

【菿】 タク、トク。竹角切 [覺] 草おほいなり。○〔詩〕「一彼甫田」。

【⿰蔪刂】 サン、ゼン。士減切 [豏] 鋤銜切 [咸] サン、ソン。徂感切 [感] さす、(刺)、又、ちゞむ、(縮)。○〔揚雄〕「替一-蛆」。

【⿰散刂】 ⿰蔪刂に同じ。

【⿰發刂】 ハツ、ハチ。普括切 [曷] ㊀もろはの鎌、草かり鎌。㊁きる、(切)、さす、(刺)。

【⿰乘刂】 剩に同じ。

【⿱敝刀】 ヘツ、ヘチ。匹蔑切 [屑] ヒ。匹智切 [寘] けづる、(削)。

【劂】 ケツ、コチ。居月切 [月] ケイ、ケ。居衛切 [霽] ㊀ほりものがたな、(刻-刀)、又、まがりしのみ、(曲-鑿)。○〔漢〕「棄二其剞-一」。㊁ほる、けづる。○〔張皓〕「不レ劂不レ一」。(剞劂) 彫刻に用ふる曲がりし刀と曲がりし鑿と。○〔楚辭〕「握二一-一一而不レ用兮」。(剞劂) けづりきると。○〔張衡〕「不レ一不レ一、如レ磋如レ切」。

【⿰善刂】 セン。旨善切 [銑] 槌もて牛の陰勢を去る。

【⿰孱刂】 サン、ゼン。仕限切 [潸] ㊀をさむ、(攻)。㊁きる、たつ、(戩)。

【⿰屖刂】 シン。初覲切 [震] 平げをさむ。

【⿰畫刂】 クワク。呼麥切 [陌] 一劃又は剨に作る。 ㊀分破す、つきとる、やぶる、きざむ、そぐ、さく、わかつ、わく。㊁末の尖りし小さき刃、ほそのみのやいば、錐刀。

【⿰壴刂】 タク、トク。竹角切 [覺] けづる、(削)。

【⿰翕刂】 キフ、コフ。許及切 [緝] わる、さく、(割)。

【⿰堯刂】 ゲウ。魚弔切 [嘯] けづる、(削)。

【⿰莆刂】 フ。芳武切 [麌] 草を割る、くさぎる、くさかる。

【⿰童刂】 ショウ、シユ。尺容切 [冬] さす、(刺)。

【⿰粥刂】 ガク。逆各切 [藥] 刀劍の刃、かたなのは、やいば。

【劎】 劍に同じ。

【⿰貴刂】 サツ、サチ。出八切 [黠] たつ、(斷)。

【⿰聚刂】 シユ。青主切 [麌] 細かく斷つ、きざむ。

【劔】 劍に同じ。

【⿰葛刂】 カツ、カチ。古怛切 [曷] 惡肉を去る、きりとる。

十三畫

【⿰悉刂】 シツ、シチ。所櫛切 [質] さす、(刺)。

【⿰蜀刂】 タク、トク。竹角切 [覺] 一本、斀に作る。

除を去る刑、かくしごころをきると、又、其の刑に行ふ、つみす、きる。〇〔書〕「劓-刵-𠠊-黥」。

【劗】 セン、ソン。章厤切 鹽 けづる、（削）。

【𠠎】 レイ、リヤウ。郎定切 徑 力丁切 青 さく、（割）。

【劆】 レン、ロン。力鹽切 鹽 輕く刺す、さす。

【𠠚】 ショク、シキ。所力切 職 さす、（刺）。

【𠠫】 ゲフ、ゴフ。逆怯切 セフ。七接切 葉 繩索を接續す、つぐ。

【劇】 ケキ、ギヤク。巨戟切 陌 ㊀いたむ、（痛）、なやむ、（艱）。〇〔王粲〕「蕕レ身ーレ心」。㊁繁多なり、おほし、おほし。〇〔荀〕「猶然而材ー志大」。㊂煩忙なり、いそがはし、わづらはし。〇〔論衡〕「儒-生栗-々不レ能レ當レー」。㊃ます、（增）、はなはだし、（甚）。〇〔後漢〕「家-道崩-壞、五-年巳-來日甚歲ー」。㊄せむ、（責）、いさむ、（諫）。〇〔陳〕「勤ー無レ所レ至」。㊅游戲を演ず、たはむる、又、游戲、たはむれ。〇〔李白〕「折レ花門-前ー」。

〔雜劇〕 芝居狂言のしくみ。〇〔古今詩話〕「山公云、作レ詩如レ作ニー・ーニ」。
〔衆劇〕 多くしていそがはし。〇〔後漢〕「戶-口率少、過レ役ーー」。
〔辨劇〕 なやむ。〇〔後漢〕「乘-石萬-鎰而轉-運ー
〔碎劇〕〇物事くたくたしくしていそがはし。〇〔魏〕「繩-尺ー・ー」。
〔烦劇〕 役事く務いそがはし。〇〔唐〕「厭ニー・ー一求爲左衛胄曹參軍ニ」。
〔崇劇〕 官位の高くしてさかんなると。〇〔唐〕「歷ニ將相位任ニー・ーニ」。
〔顯劇〕 前に同じ。〇〔唐〕「位雖ニー・ー一、以ニ儉-約自將一」。
〔叢劇〕 事の多くしていそがはしきと。〇〔符載〕「掛以ニー・ー之務ニ」。
〔要劇〕 肝腎なる位地にありて事務のいそがはしきと。〇〔唐〕「耆任ニー・ーニ」。
〔差劇〕 病ひの癒ゆるとはげしきと。〇〔元〕「嘗ニ藥以驗ニー・ーニ」。
〔篤劇〕 あつく甚しくなる。〇〔論衡〕「ー・ー扁-鵲乃良」。
〔博劇〕 かけごとのたはむれ。〇〔顏琰〕「ー・ー或設「奕」。
〔加劇〕 ますますはげしくなる。〇〔揚雄〕「凡病少兪而ー・ー」。
〔繁劇〕 事務の極めて繁忙なると。〇〔杜氏通典〕「其將-宮從-事-史最爲ニー・ーニ」。
〔緊劇〕 物事のいそがはしきと。〇郭璞〕「以ニ無-用之才一、管ニー・ー之任ニ」。
〔勞劇〕 勞していそがはしきと。〇陶弘景〕「省ニ息ー・ーニ」。
〔殷劇〕 盛んなると、又、いそがはしきと。〇〔蘇軾〕「ー・ーニ。早從ニー・ーニ」。
〔紛劇〕 まぎらはしく忙し。〇〔張九齡〕「至レ邑無ニ璧劇」 京師の繁忙なる處。〇〔韓休〕「超ニ於ーー、佐ニ此神-京ニ」。
〔京劇〕 前に同じ。〇〔李頎〕「故-人吏ニー・ーニ」。
〔綿劇〕 引き續きてはげし。〇〔李白〕「衰-疾乃ーー」。
〔狂劇〕 くるひたはぶる。〇〔韓愈〕「ー・ー時穿レ壁」。
〔猿劇〕 さるの芝居。〇〔姚合〕「映-竹猿ニー・ーニ」。
〔諧劇〕 ふざけたはむる、又、たはむれ。〇〔梅堯臣〕「酒半時ー・ー」。
〔戲劇〕 前に同じ。〇〔鄧文原〕「仙-人好レ幻多ニー・ー」。

【劇】 キヨク、コク。竭億切 職 交通の便利なる處、ちまた。〇〔唐〕「陳-留據ニ水-陸ーニ」。

【𠞚】 リツ、リチ。力質切 質 けづる、（削）。

【𠟉】 セン。旨善切 銑 式戰切 霰 うつ、（擊）、きる、（伐）。

【𠠍】 タン。黨旱切 旱 さく、（割）。

【𠠑】 セイ、セ。初髙切 霽 物をたつ聲にいふ字、又、たつ、（切）。

【𠞰】 サツ、セチ。㓤刮切 黠 たつ、きる、（斷）。

【劈】 ヘキ、ヒヤク。普擊切 錫 ハク。普革切 陌 〔說文〕从レ刀辟聲。 わく、わかつ、（分）、つんざく、（裂）、やぶる、（破）、わる、（割）。

【劉】 リウ、ル。力求切 尤 ㊀斧の屬、まさかり。〇〔書〕「一-人執レー」。㊁つらぬ、つらなる、のぶ、（陳）、しく、（敷）。〇〔淮〕「ー-覽偏照」。㊂ころす、（殺）。〇〔書〕「重ニ我民一無ニ盡ーニ」。㊃木の枝葉のまばらにして均しからざるにいふ字、そこなふ。〇〔詩〕「捋采其ー」。

【鎦】 リユ、ル。龍珠切 虞 意前條の㊃に同じ。

【𠞶】 リウ、ル。力九切 有

【劊】 クワツ、クワチ。古活切 曷 〔說文〕从レ刀會聲。 クワイ、ケ。古外切 泰 よし、かほよし、（美-好）。きる、（斫）、たつ、（斷）。

【劋】 セウ。子小切 篠 勦に同じ。 たつ、（絕）、きる、（截）。〇〔漢〕「征-伐ーニ絕之ニ」。

【𠠔】 サウ、ソウ。子皓切 皓 狡獪に同じ、わるがしこし。

【𠟭】 サウ、セウ。楚教切 效 かすめとる、（略-取）。

【劌】 ケイ、ケ。居衛切 霽 〔說文〕从レ刀歲聲。 刃物にて物を傷割す、やぶる、さく。〇〔戰〕「雖ニ干-將莫-邪一、非レ得ニ人-力一、則不レ能ニ割ーニ」。

【𠟻】 カイ、ケ。呼對切 隊 あつまる、（會）。〇〔揚雄〕「天-地相名、日-月相ー」。

【劍】 ケン。居欠切 豔 ㊀腰に帶ぶる兵器、たち、つるぎ。〇〔戰〕「倚レ柱彈ニ其ー一、歌曰、長-鋏歸來乎、食無レ魚」。㊁つるぎを加ふ、殺す、きる。〇〔潘岳〕「白-日手レ市手ーニ父讎ニ」。㊂つるぎを使ふ方、刺擊の技。〇〔史〕「項-籍少-時學レ書不レ成、去學レー、又不レ成」。㊃檢に同じ、しらぶ、いましむ。〇〔爾〕「ー檢也、所ニ以防ニ檢非-常一也」。

㊄わきばさむ（挾）。

〔礪劍〕つるぎを硏ぎ磨く。○〔左〕「勝自一ㇾ一」。
〔手劍〕つるぎを携へ持つ。○〔公羊〕「兆・公登ㇾ堰、西・ナー一ㇾ一而從ㇾ之」。
〔執劍〕前に同じ。○〔史〕「皆一ㇾ一以衛ニ武王ニ」。
〔持劍〕前に同じ。○〔説苑〕「子路一ㇾ一」。
〔利劍〕極めてよく切るゝつるぎ。○〔公羊〕「子之劍蓋一・一也」。
〔試劍〕つるぎの鋭と鈍とをためす、又、其の使用法をためしこゝろみる。○〔孟〕「好ㇾ鬭ㇾ馬一ㇾ一」。
〔撫劍〕つるぎをなづ。○〔後漢〕「惆焉若ㇾ醒、一ㇾ一而嘆」。「利ニ」。
〔服劍〕つるぎを佩ぶ。○〔淮〕「一ㇾ一者期ニ于銛・利ニ」。
〔按劍〕つるぎに手をかく。○〔史〕「毛・遂一ㇾ一歷・階而上」。
〔杖劍〕つるぎを杖つく。○〔史〕「鯨布一ㇾ一以歸ㇾ漢」。「一」。
〔伏劍〕つるぎもて死ぬと。○〔南〕「常欲ニ結ㇾ纓一ㇾ一」。
〔説劍〕つるぎの良否、或は其の使用法につきて談論す。○〔高適〕「一ㇾ一尙ニ慷・慨ニ」。
〔論劍〕前に同じ。○〔史〕與ニ蓋・聶ニ一ㇾ一」。
〔腰劍〕こしに佩ぶるつるぎ。○〔李白〕「豈無ㇾ橫ニ一・一ニ」。
〔推劍〕璽の一種にて一方のはさみ鬪穴なるもの。○〔孟浩然〕「負游一一來」。「頤」。
〔修劍〕長きつるぎ。○〔戰〕「冠若ㇾ箕、一・一柱ㇾ頤」。
〔長劍〕前に同じ。○〔唐太宗〕「慨然撫ニ一・一ニ」。
〔大劍〕前に同じ。○〔米芾〕「武・士後列萠ニ一・一ニ」。
〔寶劍〕世に貴きつるぎ。○〔史〕「乃解ニ其一・一ニ」。
〔拔劍〕つるぎを鞘よりぬく。○〔後漢〕「更・始怒一ㇾ一」。
〔插劍〕前に同じ。○〔左〕「一ㇾ一斷ㇾ靷」。〔釁ㇾ之〕。
〔挺劍〕前に同じ。○〔戰〕「唐雎一ㇾ一而起」。
〔御劍〕皇帝のつるぎ。○〔後漢〕賜ニ一・一于陵前ニ」。
〔賜劍〕つるぎを賜ひて自殺せしむること。○〔後漢〕「此義・士死ㇾ節、可ニ一以ㇾ一」。「一ニ」。
〔木劍〕木にて作りしつるぎ。○〔遼〕「太宗時制ニ一・一游四方ニ」。
〔隻劍〕一本のつるぎ。○〔汪華〕「一・一孤琴、出ニ遊四・方ニ」。
〔孤劍〕前に同じ。○〔陳子昂〕「一・一將ニ何託ニ」。
〔一劍〕前に同じ。○〔王維〕「一・一曾當ニ百萬師ニ」。
〔三尺劍〕長さ三尺あるつるぎ。○〔史〕「吾以ニ布衣ー提ニ一・一・一、取ニ天・下ニ」。
〔斬馬劍〕馬を斬るほどの快利なるつるぎ。○〔漢〕「雲曰、臣願賜ニ尙・方一・一・一ニ」。
〔智慧劍〕鋭利善良なる智力に借りいふ語。○〔維摩經〕「以ニ一・一・一ー破ニ煩・惱網ニ」。
〔屬鏤劍〕屬鏤といふ地にて作りしつるぎ。○〔史〕「吳・王聞ㇾ之大怒、賜ニ子・胥一・一之一ー以死」。
〔湛盧劍〕吳王闔閭の寶として藏めしつるぎ。○〔吳越春秋〕「楚昭・王臥而得ニ吳・王一・一之一于牀ニ」。
〔吳干劍〕古の快利なるつるぎ。○〔戰〕馬服・君曰、夫一・一之一、肉試則斷ニ牛・馬ニ」。

【劍】ケツ、ケチ。古屑切　屑
魚類を料理すると、魚を切る。

【剾】ク、コ。古驅切　虞
くむ（剾）。

十四畫

【𠠆】ジユ、ニユ。汝朱切　虞
革の柔滑なる貌にいふ字、なめらか、やはらか。○〔周〕「革欲ニ其柔滑ー而腥ニ脂之ー則一」。

【𠠆】ゼン、チン。乳兗切　銑
さす（刺）。

【𠠐】カン、ケン。古銜切　咸
切る、又、細かく切る、きざむ。

【𠠐】カン、ゲン。戸黤切　豏
さし（鋭-利）。

【𠠐】カン、格懺　陷　ラン、盧瞰　勘
ゲン。切　ロン。切
するどき刀（利-刀）。

【𠠐】ラン、ロン。盧甘切　覃
聚め切る。

【劐】クワク、ワク。黄郭切　藥
㊀さく（裂）。㊁穀を刈る、いれかる。

【𠠇】クワク、キヤク。胡馘切　陌
前條の㊀に同じ。

【𠠑】ソウ、才奏　宥　將侯　尤
ズ。切　切
たつ（斷）、又、細かく斷つ、きざむ、きる。

【𠠑】ソウ、ス。此荀切　有
薪を析く。

【𠠋】サツ、セチ。初刮切　黠
切る聲。

【劗】セイ、初芮　霽　サン。鄒萬　願
セ。切　切
たつ（斷）、

【劑】シ。津私切　支　―説从刀齊聲〔文〕。
㊀剪りそろふ、そろへ切る、そろふ。○〔爾〕「一翦・齊也」。
㊁賣買上の券書、賣買の件を書したる一札を兩分して他日の徵證となすものにして長短の兩樣あり、長きものを質といひ短きものを劑といふ、おもに小さき市に用ふ、わりふ。○〔周〕「以ニ質・一ー結ㇾ信而止ㇾ訟」。

【劑】セイ、ザイ。在詣切　霽
㊀分量して調合す、まぜあはす、又、調合の分量、ほど。○〔王叡〕「各有ニ限一・一、須ㇾ定ニ等・差ニ」。
㊁まぜあはせたる製味、まぜあはせたる製藥。○〔史〕「化ニ丹・砂諸藥・一・一爲ニ黃・金ニ」。

〔砭劑〕はりとくすりと、轉じて疾病の療治。○〔唐〕「武爲ニ救ㇾ世一・一ニ」。
〔分劑〕わかつ、わかち、又、くすりの調合、量の加減。○〔魏〕「心解ニ一・一ニ」。一侍・醫敦ニ進一・一ニ」。
〔湯劑〕湯にて煎じ出して用ふるくすり。○〔書〕「詔ニ醫劑〕くすり。○〔書〕「自料ニ一・一ニ」。
〔丸劑〕ぐわん藥。○〔墨經〕「凡一・一不ㇾ可ㇾ不ㇾ熟」。

【劒】正文の劍の字。

【劀】クワツ、古滑　黠　―本、剮に作る。
ケチ。切

【劋】セウ。子小切　篠
惡肉を去る、切りすつ。

【劋】剿に同じ。

【劓】ギ。魚器　寘　ゲイ、午例　霽
切　ガイ。切
㊀さく（割）。○〔書〕「我乃一殄ニ滅之ニ」。
㊁鼻を殺ぐ、はなきる、古の刑。○〔書〕「一・罰之屬千」。

【劗】サン。初官切　諫　鄒萬切　願　―本、劗に作る。
きる、たつ（斷）。

【𠠎】ケン。呼典切　銑
けづる（削）。

【劙】レイ、ライ。盧啓切　薺
刀にて刺す、さす。

【𠟅】セン。七廉切　鹽
さく（割）、又、きりさく（切-割）。

【𠠊】テウ、デウ。直紹切　篠
さす（刺）

【劅】 タク、トク。知提切〔覺〕 きる、(斫)。

十五畫

【⿰巤刂】 レフ、ロフ。良涉切〔葉〕 ㊀けづる、へらす、(減-削)。㊁えらぶ、(擇)。

【⿰黎刂】 リ。力之切〔支〕 直ちに破る、つきやぶる。

【⿰廓刂】 クワク、口郭切〔藥〕 クワウ。古晃切〔養〕 分解す、さく、わかつ、さく。

【劕】 シツ、シチ。職日切〔質〕 ㊀わりふ、(劑)。㊁あつむ、(最)。

【⿰貭刂】 チ。陟利切〔寘〕 物相あつまる、あつまる。

【⿰厲刂】 レイ、ライ。力計切〔霽〕 きる、さく、(割)。

【⿰薛刂】 セツ、セチ。私列切〔屑〕 ギツ、ゴチ。逆乙切〔質〕 たつ、(斷)、又、きる、(斫)。

【⿰壽刂】 ジウ、ニユ。而由切〔尤〕 たふ、こらふ、しのぶ、(柔-忍)。

【⿰厤刂】 レキ、リヤク。狼狄切〔錫〕 さきひらく、きりひらく、さく、(劙-開)。

【[illegible]】 ラ。郎可切〔哿〕 木を斫る、又、えだうつ、(柯-擊)。

十六畫

【⿰霍刂】 クワク。丘獲切〔藥〕 さく、(解)。

【⿰錢刂】 セン、ソン。千廉切〔鹽〕 きる、さく、(割)。

【⿰嬰刂】 アウ、イヤウ。於莖切〔庚〕 材木を切る、きをきる。○〔賈思勰〕「山-澤林-木大者—二殺之一」。

【⿰厤刂】 レキ、リヤク。郎狄切〔錫〕 さく、きる、(割)。

十七畫

【⿰薛刂】 シツ、シチ。初栗切〔質〕 さく、(割)。

【⿰霝刂】 レイ、リヤウ。郎丁切〔青〕 物を剖かつ、わかつ。

【劖】 サン、ゼン。士咸切〔咸〕 きる、たつ、(斷)、又、けづる、(剟)、又、ほる、(刻)。○〔元稹〕「離-心覺二刃—一」。
(鑱劖) ものはる、轉じて物事をこしらふるよに借りいふ語。○〔韓愈〕「造-化何以當二——一」。
(彫劖) 前に同じ。○〔沈遼〕「突-兀三-室瓏——」。
(削劖) けづる。○〔文同〕「巧-者强——」。

【⿰縻刂】 靡に同じ。

十八畫

【⿰巂刂】 ケイ、ケ。胡圭切〔齊〕 ㊀けづる、(削)。㊁へらす、へる、(滅)。

十九畫

【⿰䜌刂】 ワン。烏還切〔刪〕 けづる、(削)。

【劗】 サン、ザン。徂丸切〔寒〕 剪又は鑽に通じて作る。 ㊀そる、(剃)。㊁きる、(切)。㊂へらす、(減)。

【⿰賛刂】 セン、ゼン。子踐切〔銑〕 剪に同じ、きる。○〔漢〕「—レ髮文レ身之民也」。

【⿰麗刂】 レイ、ライ。郎計切〔霽〕 劙に同じ。 さく、(解)、さく、(割)、やぶる、(破)。

【劘】 バ、マ。莫婆切〔歌〕 ビ、ミ。忙皮切〔支〕 けづる、(削)、わかつ、(分)、する、(劃)、きる、(切)。○〔漢〕「自レ下—レ上」。
(紛劘) 入りまじりてすれあふ。○〔陳子昂〕「萬物相——」。

廿一畫

【⿰羼刂】 サン、セン。楚限切〔潸〕 こゝのふ、ひとしくす、(齊)、きる、(截)、わかつ、(分)。

【劙】 リ。呂支切〔支〕 レイ、ライ。力霽切〔霽〕 分かち割く、わかつ、さく、又、やぶる、(破)又、さく、(解)。

【⿰彖刂】 レイ、ライ。里弟切〔薺〕 刀にて刺す、さす。

廿二畫

【⿰疊刂】 テフ、デフ。徒協切〔葉〕 さす、(刺)。

力部

【力】 リヨク、リキ。林直切〔職〕 (說文)「象人筋之形」。

㊀筋肉、すぢ。○〔韓〕「絕レ—致レ死」。
㊁ちから。
(い)筋肉のはたらき。○〔孟〕「或勞レ心、或勞レ—」。
(ろ)筋肉のはたらき強きこと。○〔漢〕「秦武-王好レ—、任-鄙叩レ關自-鬻」。
(は)精神のはたらき。○〔孟〕「聖-人、既竭二目—一焉、既竭二耳—一焉」。
(に)精神のはたらき健かなること。○〔吳〕「以二膽—一稱」。
(ほ)負擔に堪ふる限度、具有せる勢氣。○〔史〕「孤嘗不レ料レ—以與レ吳戰」。
(へ)勢氣の强きこと。○〔史〕「負レ—而驕、數動二甲-兵一」。
(と)恩德、威望。○〔史〕「此非二臣之功一也、主-君之—也」。
(ち)いさを、功績。○〔周〕「治-功曰レ—」。
(り)ちからをつかひて成りあがりたるものゝ稱。○〔禮〕「凡在二天-下九-州一之民者、無レ不下咸獻二其—一以共中皇-天上-帝社-稷寢-廟山-林名-川之祀上」。
(ぬ)功事、わざ。○〔左〕「農—以事二其上一」。
(る)徭役、えだち。○〔禮〕「量二地遠-近一、興レ事任レ—」。
(を)智、又、德の對、卽ち勇。○〔史〕「吾寧鬪レ智不レ鬪レ—」。

(わ)又、總べての作用、はたらき。○〔宋之問〕「信爲ニ造-化一ニ」。

㊂筋肉のはたらき強き者、ちからある人、勇士。○〔孫楚〕「謀一・一雲-合」。

㊃つとむ。

(い)事を執る、業に就く。○〔書〕「若ニ農服レ田一レ穡、乃亦有レ秋」。○

(ろ)ちからを盡くす、心を用ふ。〔後漢〕「身被ニ三-創一而戰方一」。

㊄病甚し、はなはだし。○〔漢〕「臣犬-馬病一」。

㊅人に使はるゝ者、しもべ、僕。○〔陶潛〕「遣ニ此一一、助ニ汝薪-水之勞一」。

〔心力〕こゝろと筋肉と、又、心のはたらき。○〔孟〕「盡ニ一・一而爲レ之」。

〔宣力〕ちからをのばす、力を見はす。○〔書〕「予欲レ一ニ一四-方一」。

〔旅力〕もろ〳〵のちから。○〔詩〕「一・一方剛」。

〔有力〕ちからあり、つよし、又、いさをあり。○〔莊〕「夜-半一レ一者負レ之而走」。

〔食力〕ちからわざもて生活す。○〔禮〕「一レ一無-數」。

〔勇力〕つよきちから。○〔周〕「凡國之一・一之士」。

〔弛力〕百姓のちからに餘裕あらしむること、租物を輕くして徭役を省くこと。○〔周〕「四日、一レ一」。

〔量力〕負擔する限度をはかる。○〔周〕「一ニ其一有ニ三-均一」。

〔餘力〕ちからのある限りをつくす。○〔左〕「一ニ一于王-室一」。「能者止」。

〔陳力〕ちからの限りをのぶ。○〔論〕「一レ一就レ列、不レ能者止」。

〔日力〕終日のはたらき、又、日々のはたらき。○〔孟〕「去則極ニ一之一ニ而後宿哉」。

〔詐力〕いつはりを以て事を成すこと。○〔史〕「先ニ一・一ニ而後ニ仁-義一」。

〔借力〕他の勢をかり、又、他の恩德にたすけらる。○〔史〕「不レ如下藉ニ他-國一レ一以雪中父之恥上」。

〔盡力〕ちからのあるたけをつくしてはたらく。○〔漢〕「頤一レ一」。

〔畢力〕前に同じ。○〔後漢〕「一レ一補-綴」。

〔帝力〕天子の勢、又、其の恩德。○〔史〕「一・一何在ニ于我一哉」。「遇レ戰一・一」。

〔疾力〕爲る事のすばやくして力を盡すこと。○〔漢〕「不レ能ニ爲レ朕盡ニ一・一一」。

〔櫂力〕他をして或る事物を爲さしめ、又は、爲さしめざるちから、即ち他をして服從せしむるいきほひ。○〔漢〕「況莫ニ大-諸-侯一・一且十ニ此者一乎」。

〔綿力〕ちからのうすきこと。○〔漢〕「越人一・一薄-材不レ能ニ陸-戰一」。

〔天力〕(い)人のちからにて爲し得べからざることにいふ語。○〔後漢〕「得レ託ニ命將-帥一、乃一・一也」。

(ろ)天子の恩德に借りいふ語。○〔蘇軾〕「微-生員艸-木、無ニ以謝ニ一・一一」。

〔拏力〕つとめ。○〔南〕「宜各自一・一」。

〔才力〕才智の作用、又、才智と筋肉とのちから。○〔晉〕「一・一絕レ人、慮レ心下レ士」。

〔筆力〕筆跡の勢あること。○〔南〕「極有ニ一・一一」。

〔風力〕人を感化せしむべきちから。○〔宋〕「治レ身有ニ法-度一、一・一精-强、所レ至有ニ治-迹一」。

〔願力〕ねがひのぞむちから、おもに佛家の用ふる語。○〔黄庭堅〕「三-乘-如-來-悲一・一」。

〔賓力〕ちからわざをなして生活す、賃錢を受けて使役せらるゝなどにいふ語。○〔潛夫論〕「見-寬一ニ一于都-巷一」。「一レ徳」。

〔同力〕共に事をなすこと、又、ちから均し。○〔書〕「一レ一」。

〔齊力〕前に同じ。○〔國〕「戎事一レ一」。

〔武力〕(い)たけくしてちからつよきこと。○〔詩〕「孔一有レ一」。

(ろ)又、其の者。○〔戰〕「大-王之卒、一・一二-十-餘-萬、蒼-頭二-十-萬、奮-擊二-十-萬、厮-徒十-萬」。

〔角力〕ちからをくらぶ、又、すまふ。○〔禮〕「講レ武習ニ射-御一レ一」。

〔貨力〕金錢のいきほひ、又、其のはたらき。○〔柳宗元〕「不レ作ニ兵-革一、不レ竭ニ一・一一」。

〔强力〕(い)心を用ふ、つとめ、つとむ。○〔禮〕「雖レ有ニ一・一之容、肅-敬之心一、皆倦-怠矣」。

(ろ)つよきちから、又、其の者。○〔管〕「甲-兵一・一、不レ足ニ以應レ敵」。

〔能力〕或る事を爲し得るちから。○〔柳宗元〕「命有ニ好-醜一、匪ニ汝一・一一」。「不-拒一」。

〔勵力〕いさを。○〔國〕「鄭武、莊、有レ大ニ一・一一于」

〔餘力〕あまりあるちから、即ち擔當せる事業の外に尙ほ他の事業をも擔當し得ること。○〔論〕「行有ニ一・一、則以學レ文」。

〔勤力〕つとめつとむ。○〔史〕「一ニ一廼-事一」。

〔忠力〕まめやかなるはたらき。○〔史〕「不レ能ニ爲レ朕盡ニ一・一一」。

〔氣力〕(い)心のはたらきと筋肉のはたらきと。○〔白居易〕「年-顏一・一漸-衰-殘」。

(ろ)おもに、心のはたらきにいふ語、又、其のはたらきのつよきこと、即ち物事におぢけざるにもいふ語。○〔史〕「朱-虛-侯劉-章有ニ一・一一」。

〔重力〕おもみとちからと、又單にちから。○〔史〕「以ニ一・一相-壓、猶ニ烏-獲之與ニ嬰-兒一」。

〔作力〕わざをなす。○〔管〕「民非ニ一・一、毋ニ以致レ財」。

〔物力〕あらゆるものゝちから、又、いきほひ。○〔漢〕「亡レ度一・一必屈」。

〔死力〕一命を借まぬにちからをつくすこと。○〔漢〕「得ニ士一・一一」。「兼ニ一・一一」。

〔私力〕おほやけならざるちから。○〔陶潛〕「大-鈞無ニ一・一一」。

〔助力〕たすけ。○〔漢〕「幾得ニ其一・一一」。

〔戰力〕たゝかひのちから。○〔後漢〕「降及ニ秦漢之世一、資ニ一・一一」。

〔精力〕精神のはたらき、氣根。○〔漢〕「一・一過レ人」。

〔懋力〕つとめつとむ。○〔後漢〕「或ニ一・一一以耘-耔」。

〔勢力〕(い)いきほひとちからと、又單にいきほひのこと。○〔後漢〕「協ニ羣-英一・一一」。

(ろ)いきはひあること。○〔隋〕「楷-緋無ニ一・一之門一」。

〔智力〕ちゑとちからと、又、これを有する者、又ちゑのはたらき。○〔魏〕「吾任ニ天-下之一・一一、以レ道御レ之、無レ所ニ不可一」。

〔展力〕ちからをのばす。○〔魏〕「此熊虎之子、一レ一之秋也」。

〔資力〕資財の力、又單にちから。○〔董仲舒〕「因ニ乘-富-貴之一・一一、以與レ民爭ニ利于下一」。

〔手力〕己れの手足を勞せるはたらき。○〔魏〕「自レ非ニ一・一一、不レ坂ニ之于人一」。

〔肆力〕十分にちからを出だすこと。○〔魏〕「使ニ民一ニ一于農-事一」。「國-家之恥一」。

〔威力〕威權のちから。○〔晉〕「仰-憑ニ一・一一、庶雪ニ國-家之恥一」。

〔骨力〕書畫などの筆跡にて最も主とするちから。○〔晉〕「獻之一・一遠不レ及レ父、而頗有ニ媚-趣一」。

〔校力〕ちからをくらぶ、轉じてあらそふことにいふ語。○〔晉〕「雖ニ與一レ一、當ニ以レ計破レ之」。

〔志力〕こゝろざし。○〔陶弘景〕「一・一剛-明」。

〔身力〕現在其の處にゐあはせたる役夫。○〔宋〕「卒ニ一・一決-戰」。

〔業力〕事業につとむるちから。○〔宋〕「雖ニ一・一弘-正一、而年位未レ高」。

〔公力〕えたち。○〔宋〕「多役ニ一・一一、坐免レ官」。

〔神力〕不思議なるちから、尋常人の及ぶべからざる力。○〔宋〕「飛-生有ニ一・一一、未レ冠挽ニ弓三-百斤弩八-石一」。

〔大力〕(い)おほいなるちからあること。○〔南〕「所レ謂一・一者負レ之而趨一」。

(ろ)又、造化の義にも借り用ふる語。○〔李白〕「一・一運ニ天-地一」。

〔局力〕才智あること。○〔宋〕「剛-正有ニ一・一一」。

〔殊力〕人にすぐれたるちから、又、いさを。○〔北〕「渭-橋之戰、卿有ニ一・一一」。

〔豪力〕人にすぐれたる勢、又、其の者。○〔唐〕「細-弱下-戶、爲ニ一・一所レ兼」。「一」。

〔劬力〕骨折る、はたらく。○〔唐〕「不レ耗レ神、不レ一」。

〔國力〕くにのいきほひ、又、くにの富。○〔唐〕「以レ困ニ一・一一」。「二-十-萬-斛」。

〔耕力〕たがやしはたらく。○〔宋〕「務ニ一・一ニ一求レ穡」。

〔拳力〕腕力あること。○〔宋〕「以ニ一・一一爲ニ軍-校一」。

〔丁力〕一人前の男のちから。○〔金〕「以ニ一・一一等-第-畫レ之」。

〔勉力〕つとむ。○〔金〕「卿等一・一稱ニ朕意一」。

〔多力〕つよきこと。○〔金〕「長身一・一」。

〔身力〕からだのちから。○〔管〕「盡知ニ短-長與ニ一・一之所レ不レ至」。

〔務力〕つとむ。○〔韓〕「故明-君一・一」。

〔勸力〕はげましてカを奮はしむ。○〔淮〕「此擧レ重一レ一之歌也」。

〔功力〕いさを。○〔白居易〕「神-速一・一倍」。

〔福力〕さいはひ。○〔易林〕「獨蒙ニ一・一一、時災不レ至」。

〔窮力〕ちからのあらん限りになす。○〔文心雕龍〕「彌滿」「一レ一而追レ新」。

〔眞力〕まことのちから。○〔二十四詩品〕「一・一彌滿」。

〔化力〕造化のちから。○〔揮麈後錄〕「神-謀一・一、非ニ人所ニ能爲一」。

〔耗力〕ちからを益なき事に使用して減少せしむること。○〔夏侯湛〕「徒費レ精而一レ一」。

〔糜力〕前に同じ。○〔周朗〕「習無レ一レ一」。

〔道力〕道を修むるちから、おもに佛家に用ふ。○〔楞嚴經〕「未レ全ニ一・一一」。

〔佛力〕ほとけの功德。○〔梁武帝〕「宜下承ニ一・一一、弘中茲實-大上」。

〔苦力〕くるしみつとむ。○〔江淹〕「安能精-意一・一求ニ身後之名一哉」。「學成」。

〔妙力〕たへなる功德。○〔沈約〕「神-功一・一無レ待」。

〔雄力〕すぐれたるちから。○江淹「驥才――」。
〔勁力〕つよきちから。○〔劉孝威〕「無以遠其―」「――」。選其致遠。
〔徴力〕わづかばかりのちから。○〔霍融〕「侍馬中」
〔鵬力〕鵬の鳥の如きちから、大いなるちからあるにいふ語。○〔駱賓王〕「擧――以揚威」。
〔蚉力〕あぶの如きちから、ちひさきちからの義、卑下していふ語。○〔劉禹錫〕「――自知微」。
〔膂力〕ちから。○〔獨孤及〕「大悲自定之――」。
〔財力〕金錢上にて負擔の出來得る限度。○〔白居易〕「――不足」。「身病」。
〔穡力〕農事につとむること。○〔白居易〕「――嫌」
〔膂力〕うでずぢの作用、又、其のちからのつよきこと。○〔歐陽原功〕「時平――無所施」。
〔怪力〕あやしきことちからわざと、又、あやしきまでにつよきちからの義にもいふ。○〔論〕「子不語――亂神」。
〔慈力〕なさけぶかき功德。○〔楞嚴經〕「與佛如來同一――」。
〔吟力〕詩を作るちから。○〔高啓〕「老來――退」。
〔通力〕何事にもよらずとほりてあるちから。○〔傳燈錄〕「――不宮、應念而變」。
〔汗馬力〕馬にあせかゝするいさを、卽ち戰場に臨みたるいさをの義。○〔史〕「――之―」。
〔熊羆力〕くま又はえぐまの如きちから、つよきちからにいふ語。○〔漢〕「秦以――之―、虎狼之心」、
〔螳螂力〕かまきりのちから、かまきりの楚王の車にむかひたりし故事より己れの力を計らずして、大敵にむかふちからの義にいふ語。○〔駱賓王〕「振――之―、拒轍當車」。
　竄食諸侯。
〔神通力〕かみの如く何事にも通じたるちから。○〔王僧孺〕「得六――」。「―」。
〔自在力〕前に同じ。○〔楞嚴經〕「得大――」。
〔無量力〕はかり得べからざる程のちから。○〔王僧孺〕「大功――」。「――」。
〔踏中力〕妻のはたらきにいふ語。○〔杜甫〕「用盡――」。
〔股肱力〕もゝとひぢとのちから、卽ち、全身に在る限りのちからの義に借り用ふる語。○〔左〕「臣竭其――之―、加之以忠貞」。
〔拔山力〕山をさへぬきとる程のちから、勢の强さといふ語。○〔李白〕「――盡、蓋世心違」。
〔陪方力〕〔い〕ふるき事をとりならべたるちから、卽ち擧照したる功績の義。○〔後漢〕「以榮爲少傳、賜以輜車乘馬、榮大會諸生、陳其車馬印綬、曰、今日所蒙――之―也」。
（ろ）前例より轉じて閲閥を以て官職を受くることに借り用ふる語。○〔陸游〕「一點不蒙――」。
〔秋毫力〕僅かばかりのいさを。○〔李白〕「愧無――」。

一畫

〔劜〕
アツ、エチ。乙點切　黠

つよし、（强）。

二畫

〔劤〕
キウ、ク。居尤切　尤

大いなる力。

三畫

〔功〕
コウ、ク。古紅切　東

〔說文〕从力工聲。

㊀事業、こゝ、わざ、ぢごと。○〔周〕「典婦――、授內人女―之事」。
㊁職務、つとめ、つかさ、やくめ。○〔周〕「稽其――緒」。
㊂いさを、いさをし。
（い）勤めたること、力を用ひしこと、いそしみ、はたらき。○〔史〕「追修高祖時遺――臣」。
（ろ）特に國家に對して勤めたること。○〔周〕「國功曰―」。
（は）物事の成就したること。○〔國〕「相陳以―」。
（に）戰爭に勝利ありしこと。○〔周〕「若師有―」。
（ほ）利益あること、有用なること。○〔孟〕「然則子非食志也、食―也」。
㊃できあがりたるもの、いさをある者。○〔書〕「崇德報―」。
㊄古昔、忌中のさきに著くる定式の喪服。○〔儀傳〕「大―八升若九升、小――十升若十一升」。

〔聖功〕いさをの敬稱、おもに天子に關していふ。○〔易〕「正――也」。
〔天功〕自然のいさを。○〔書〕「欽哉惟時亮――」。
〔成功〕いさをの成就すること。○〔論〕「巍々乎其有――也」。
〔土功〕土木の事業。○〔書〕「惟荒度――」。
〔康功〕人民をやすんじたるいさを。〔田功〕上に同じ。○〔書〕「文王卑服、卽康功田功」。
〔敉功〕天下を安じたるいさを。○〔書〕「率惟――」。
〔武功〕たけきいさを、おもに戰事に關したることにいふ語。○〔詩〕「載纘――」。
〔宮功〕宮中のつとめ。○〔詩〕「上入執――」。
〔膚功〕大いなるいさを。○〔詩、傳〕「―大公―也」。
〔奏功〕事の成就したることを君上に申す、轉じて總べて成就したることにいふ語。
〔戎功〕大いなるいさを。○〔詩〕「念茲――」。
〔獻功〕出來上がりたるものを進む。○〔詩〕「在泮――」。
〔程功〕わざにかぎりを設く。○〔禮〕「――積事」。
〔勸功〕わざに力を出だす。○〔禮〕「民咸安其居、樂事――」。
〔婦功〕をみなのわざ、特に裁縫紡績などにいふ語。○〔周〕「婦德婦言婦容――」。
〔苦功〕粗末なる出來上がりたるもの。○〔周〕「受――以其賈、揭而藏之、以待時頒」。
〔興功〕わざをはげむ、又、事業をはじむ。○〔周〕「以庸制錄、則民――」。
〔王功〕王家に對していさをあること。〔民功〕人民に對していさをあること。〔事功〕苦勞して國を治むること。〔治功〕法律を制定したるなどのいさを。
〔戰功〕いくさにていさをあること。○〔周〕「王功曰勳、國功曰功、民功曰庸、事功曰勞、治功曰力、戰功曰多」。
〔銘功〕いさをありたることを記して金石などにはりつく。○〔左〕「――晉―」。「思之」。
〔農功〕耕作のわざ。○〔左〕政如――、日夜
〔元功〕天子を補佐していさをありたる人。○〔國〕「以贊――」。
〔講功〕わざ、又、つとめの成否をはかる。○〔國〕「仁者――、而智者處物」。
〔美功〕はなはだすぐれたるいさを。○〔家語〕「――不伐」。「―」。
〔矜功〕いさをありしことをほこる。○〔論〕「伐德―」。
〔爭功〕我れいさをありとて他の人とあらそふ。○〔漢〕「羣臣飲――」。
〔舊功〕以前にありたるいさをも其の爲めにかひなくなりたること。○〔漢〕「失身――」。
〔誦功〕いさををとなへいふ。○〔史〕「羣臣――請刻于石」。「――」。
〔歲功〕年月のつとめ。○〔漢〕「立閣定時、以成――」。
〔考功〕いさをあるか否かをかんがふ。○〔漢〕「舜習――則治」。「――祖廟」。
〔薦功〕成就なしたることを神明に告ぐること。○〔漢〕
〔邊功〕邊塞にてがらあること、卽ち境を接する外國を攻めて土を拓くなど。○〔唐〕「崇勸天子、不求――」。「――爲先」。
〔表功〕いさをありしことをあらはす。○〔唐〕「號以――」。
〔案功〕てがらあるか否かをかんがへただす。○〔管〕「――其――而行賞」。
〔蘇功〕殆ど成らざることを成らしむ。○〔管〕漁利――、以將順其君」。
〔全功〕缺くるところなしに出來上がるもの。○〔荀〕「天地無――」。
〔希功〕いさをを立てんことねがふ。○〔呂公著〕「不敢――而生事」。
〔覇功〕はたがしらとなりしいさを。○〔淮〕「豈有此――哉」。「册――」。
〔顯功〕あきらかなるいさを。○〔崔駰〕「鑑玄珪」
〔挾功〕いさをありたることを恃みにして威張ること。○〔陸機〕「――震主、自古所難」。
〔册功〕いさをありしことを辭命に記すること。○〔韓愈〕「――度封晉國公」。
〔非常功〕つねなみならぬいさを。○〔漢〕「有――之―者、必待非常之人」。
〔阿保功〕まもりそだてたるいさを。○〔漢〕「朕散眇眇時嘗有――」。
〔萬世功〕いつの世までもほろびざるてがら。○〔漢〕「蕭何常全關中待陛下、此――也」。
〔帷幄功〕出陣せずして常に內に據り知謀を以ていさを立てしことにいふ語。○〔漢〕「運籌策――中、決勝千里外、子房―也」。

（尺寸功）わづかばかりのいさを。○〔漢〕「終無二一一之一一」。
（竹帛功）書史にしるしつたふるいさを。○〔晉〕「以二其功一書二于竹帛一、傳二遺後世子孫一」。
（定策功）皇太子をさため立て、帝位に卽かしめたるいさを。○〔漢〕「一一一自二霍光一至二史樂成一、皆封侯益土」。

【劾】コツ、クチ。苦骨切 月

勞れ極まる貌にいふ字、つかる。

【加】カ、ケ。古牙切 麻 〔說文〕从二力口一。

㊀くはふ。
（い）多くす、かさぬ、そふ、ます。○〔論〕「又何一焉」。
（ろ）高くす、のぼす、あぐ。○〔儀〕「有二諸公一則辭レ一レ席」。
（は）しのぐ（陵）。○〔論〕「我不レ欲三人之一二諸我一」。
（に）ほどこす（施）、つく（著）。○〔禮〕「三一爾尊、一レ有レ成也」。
（ほ）當つ、置く。○〔儀〕「一二弛弓于其上一、遂以執レ弣」。
（へ）犯す、擊つ。○〔左〕「胥一二于郥一」。
㊁くはゝる。
（い）多くなる、かさなる、ふゆ、ます。○〔國〕「祀一二於擧一」。
（ろ）高くなる、のぼる、こゆ、あがる。○〔禮〕「獻子一二於人一一等矣」。
（は）處る。○〔孟〕「一二齊之卿相一」。
（に）及ぶ。○〔呂氏春秋〕「光耀一二於百姓一」。
㊂いよいよ、ますます。○〔國〕「使二百姓一勇一」。
（橫加）はゞかるところなくくはふ。○〔晉〕「一一二誣謗一」。
（褒加）ほめてくはふ、卽ち其の功を賞し官祿をのぼすなど。○〔晉〕「一一各因二其時一爲二師文一」。
（普加）あまねくほどこす。○〔南〕「一一二沾賚一」。
（追加）あとよりましくはふ。○〔隋〕「一二一一榮命一、宜レ優二恆禮一」。
（踰加）地位ますくすゝむことにいふ語。○〔十六國春秋〕「一二一一殊禮一」。
（曲加）くはふる上に、又、くはふ。○〔蘇洵〕「敢望二其一一一」。
（侵加）をかしくはへる。○〔韓愈〕「倖橫一一」。
（一矢加）戰端をひらくことに借りいふ語。○〔左〕「惟是一一相一遺、焉用レ樂」。
（罪當加）刑罰をほどこすことに借りいふ語。○〔史〕「怒則一一一」。
（斧鉞加）征伐することに借りいふ語。○〔晉〕「斯皆一一一所レ宜一」。

【劝】ケン、コン。居偃切 阮 一に讓に作る。

㊀かたし、はげむ（難）。㊁ごもる（吃）。
㊂つとむ（力）。

【⿴囗力】クワ、ワ。戶臥切 箇

船を牽く聲、ふれのゆくおと。

【劶】カウ、ガウ。下黨切 養

まこと（信）。

四畫

【劣】レツ、レチ。力輟切 屑 〔說文〕从二力少一。

㊀おとる。
（い）才鈍し、又、つたなし（拙）。○〔晉〕「安碁常一二于玄一」。
（ろ）力足らず、又、よわし（弱）。○〔蔡邕〕「哀二其羸一一」。
（は）等降る、又、いやし（鄙）。○〔夏侯湛〕「是以頓レ于二鄙一一」。
㊁わづかに（僅）。○〔宋〕「一通二車軸一」。
㊂おとりたる者。○〔晉〕「施二之寒一一」。
（懦劣）よわし。○〔唐〕「臣才志一一」。
（賤劣）いやし。○〔漢、註〕「其一一如二僮豎一」。
（愚劣）おろかにしてつたなきこと。○〔漢〕「永等一一、不レ能レ褒二揚萬分一」。
（駑劣）前に同じ。○〔後漢〕「臣竭二一一一、伏待二節度一」。
（下劣）おとる。○〔漢〕「其人材一一、尙作二關內侯一」。
（微劣）よわし、又、いやし。○〔吳〕「自省一一一罷二卒須鎔一」。
（淺劣）あさくしてつたなし。○〔吳〕「智慧一一」。
（惰劣）なまけて才智にぶる。○〔晉〕「以二一一一無レ益二社佐一」。
（怯劣）よわし。○〔晉〕「愼法者謂二之一一一」。
（雄劣）すぐれたるとおとりたること。○〔晉〕「一一不レ同」。
（優劣）前に同じ。○〔晉〕「定二陸之一一一」。
（弱劣）よわし。○〔魏〕「稟性一一」。
（濫劣）法にかなはずしておとりたること。○〔隋〕「奢迹一一者、飮二墨水一一升」。
（瘦劣）やせて力よわし。○〔唐〕「皆一一不レ能レ穀」。
（寡劣）才智すくなくしておとること。○〔傳亮〕「臣以二一一一、負二荷國恩一」。
（乏劣）とぼしくおとること、又、其のもの。○〔王羲之〕「吾竝二一一一」。
（庸劣）なみなみのもの、又、いやし。○〔沈約〕「猥班二」
（項劣）さへいなること。○〔元稹〕「詞旨一一一」。
（陋劣）いやし。○〔蘇軾〕「習氣餘二一一一」。

【⿰冘力】チン。陟甚切 寢

力を用ふ、つとむ。

【劤】キン、コン。居僅切 震 許斤切 文 許謹切 吻 居焮切 問 ロク。歷德切 職

力多し、つよし。

【劼】キツ、ゴチ。極乙切 質

劫に同じ、志力あり、はげむ、いさむ。

【劥】カウ、キヤウ。口庚切 庚

力あり、つよし。

【劦】ケフ、ゲフ。胡頰切 葉

㊀力を一つにす、あはす。
㊁にはか、いそがはし（急）。

【劦】レフ。力協切 葉

力めて勵ます、つとむ。

【⿺走力】キ。居胃切 未

力乏し、こぼし、つかる（疲）、やす（瘦）。○〔魏〕「彫一之民」。

【扐】シ。諸氏切 紙

いさをかたし（功堅）。

五畫

【⿰弗力】ヒ、ビ。父沸切 未

たけし、つよし、さかんなり（勇壯）。

【⿰比力】ヒ、ビ。平祕切 寘

㊀前條に同じ。㊁さしはさむ（挾）。

【助】ショ、ゾ。鉏據切 御 〔說文〕从二力且一聲。

㊀たすく、すく。
（い）力を藉す、便を與ふ。○〔史〕「王陵少戇、陳平可二以一レ之」。
（ろ）物を給す、貧を救ふ。○〔後漢〕「各省二俸祿一以賑二一之一」。
（は）成功を得しむ。○〔呂氏春秋〕「不レ一二農於下一」。
㊁たすくるを、たすくる人、たすけ、すけ。○〔漢〕「亡二貫人左右之一一」。
㊂殷と周との時に井田の法によりたる租稅の取り立て方、殷の時には公田七十畝のうち十四畝を廬舍となし其の周圍の田を受け耕す八家のもの餘の五十六畝を七畝づつに分かち耕して其の收穫をもて租稅とせり、周の時に至り公田百畝のうち二十畝を廬舍となし其の周圍の田を受け耕す八家のもの餘の八十畝

を十畝づつに分かち耕し其の收穫をもて租稅とせり、（井田の條參照）、要するに十一分の一を取り立つる租稅の取り立て方なり。○〔孟〕「殷人七十而ー」。
〔天助〕天よりたすく、又、天のたすけ、時としては人の意想外の幸福ありしとにもいふ語。○〔易〕「ー之所ㇾー者順也」。
〔神助〕かみのたすけ、轉義前に同じ。○〔李白〕「先・師有ㇾ訣ー將ㇾー」。
〔借助〕たすけ。○〔左〕「寡君是願ニーーー焉」。
〔援助〕たすけ。○〔後漢〕「招ニ何奴ー迎ニ烏桓ー以爲ニーーこ。
〔賻助〕品物を送りて弔ひをたすく。○〔後漢〕「爲ニ護ニ喪事ーーー丸豐。
〔談助〕はなしのたすけ。○〔後漢〕「秘・玩以爲ニーーーこ。
〔內助〕うちのたすけ、卽ち妻妾の其の夫に力を添ふること。○〔魏〕「不ニ惟外・輔ー、亦有ニーーー」。
〔祐助〕上より下をたすく。○〔易〕「自ㇾ天祐ㇾ之、吉無ㇾ不ㇾ利、子曰、ー者ー也」。
〔扶助〕たすく。○〔詩、箋〕「將・猶ーーこ。
〔福助〕さいはひをますこと。○〔南〕「結爲ニ兄・弟ー、以祈ニーーこ。
〔勸助〕すゝめたすく。○〔詩、箋〕「有ニ嘉・味ーー・ニー之ニ也」。
〔輔助〕たすく。○〔趙壯〕「留爲ニ羽・翼ー以自ーー」。
〔假助〕ゆるして成就せしむ、又、たすく。○〔左〕「天之ーニー不善ー、非ㇾ祚之也」。
〔補助〕おぎなひたすく、又、たすけ。○〔孟〕「春省ㇾ耕而ーㇾ不ㇾ足、秋省ㇾ斂而ーㇾ不ㇾ給」。
〔裨助〕前に同じ。○〔後漢〕「庶ㇾ有ニ補ニ益ーニー汝身こ。
〔一助〕ひとつのたすけ、又、たすけ。○〔史〕「來以爲ㇾ客則ーー也」。
〔救助〕すくひたすく。○〔戰〕「至ニ其相ーー、如ㇾ一也こ。
〔陰助〕表立たずしてかげながらたすく。○〔宋〕「我祠ニ四・瀆ー、謹甚、必其ーーー」。
〔潛助〕前に同じ。○〔陸龜蒙〕「主ニ忠ーー亦無ㇾ成」。
〔衆助〕おほくのものゝたすけ。○〔文子〕「擧ㇾ事以爲ㇾ人者ーーㇾ之」。
〔自助〕みづからの身のたすけ、又、已れと已れの身をたすくること。○〔新語〕「人・君莫ㇾ不ㇾ知ㇾ求ㇾ賢ーーこ。
〔肘腋助〕ひぢ又はわきの人の左右につきてあるが如くに其の人の最もたよりにするたすけとなること。○〔宋〕「使下糾ニ合宗・黨ー、爲ㇾ漢有ニーーー之ー上」。
〔解衣助〕己れの著たる衣服を脱ぎ與へてまでも人をたすくること、轉じて資力を盡くして人をたすくることに借りいふ語。○〔宋〕「四・方人皆ーㇾ爲ㇾー」。
〔烏龍助〕緣談の調ひたることに借りいふ語。○〔張光朝〕「臺成ーーー」。
〔內德助〕內助に同じ。○〔任昉〕「ーーー云ー」。

【助】ソ、ゾ。牀祚切 〔遇〕
㊀請求す、もとむ。㊁嚴重、おごそか。㊂さる（去）。○〔莊〕「師ニ聲・梧ー以ーニ其色ー」。

【努】ド、ヌ。奴古切 〔麌〕
力を盡くす、つとむ（勉）、はげむ（勵）。○〔李陵〕「ー力崇ニ明・德ー」。

【努】ド、ヌ。農都切 〔虞〕
戮力す、ちからをあはす。

【𠡦】サ。祖賀切 〔箇〕
たすく、又、たすけ（助）、そふ、又、そへ（副）。

【劫】ケフ、コフ。居怯切 〔葉〕　ー劫、刦に作る。
㊀勢威を以て迫る、おどす、おびやかす。○〔左〕「以ㇾ兵ーニ魯・侯ー」。㊁おどし取る、奪ひ去る、かすむ、うばふ、おびやかす、さる。○〔漢〕「薄・暮塵起剽ニーー行・者ー」。㊂かすめおびやかすことをなす人、おひはぎ、盜賊。○〔晉〕「寇ーー强多」。㊃せまる（迫）。○〔傅毅〕「從ㇾ容得ㇾ志不ㇾー」。㊄つさめて息まざる貌にいふ字。○〔韓愈〕「人皆ーーーー」。㊅最も長き時間、又單に、時間、（佛家の言）。○〔唐〕「天・地淪・壞、ーー數終盡」。㊆宮殿の階級、きざはし。○〔杜甫〕「浩ーー因ニ王・造ー」。
〔威劫〕威權を以ておびやかす。○〔漢〕「秦以ーー而行ㇾ之敝也」。
〔掠劫〕かすむ。○〔世說〕「使ニ少・年ーーこ。
〔萬劫〕際限なき時の義、萬世に同じ。○〔何承天〕「豈以ニーーー爲ㇾ奢」。
〔塵劫〕物と時とのこと、轉じて世間の義。○〔頭陀寺碑〕「功濟ーーーこ。
〔劫々〕時々に同じ。○〔白居易〕「生・々ーーーー長爲ニ我師ー」。
〔彊劫〕かすむ。○〔史〕「彭・越ーニーー外・黃ー」。
〔誘劫〕言に從ふやうにさそひおびやかす。○〔史〕「使ニ人ーニーー鄒大夫・甫瑕ー」。
〔內劫〕其の部內にありておびやかしを行ふこと。○〔史〕「挾ニ强・秦之勢ー、以ーー其主ー」。
〔生劫〕いかしおきておどす。○〔史〕「欲下ーニーー之ー、必得ニ約・契ー以報中太・子上也」。
〔擅劫〕心の儘におびやかす。○〔漢〕「ーニーー諸・侯兵ー入ㇾ關ー。
〔迫劫〕せまりておびやかす。○〔漢〕「ーニーー萬・民ー、殺ニ伐無ㇾ罪ー」。
〔執劫〕おびやかす。○〔權德輿〕「遭ニ權ーーこ。
〔脅劫〕世上の評判をもておびやかす。○〔齊〕「ーニーー幼・主ー」。
〔盜劫〕ぬすみとる、又、ぬすびと。○〔隋〕「三日、ーー」。
〔千劫〕千歲といふに同じ。○〔唐太宗〕「無ㇾ滅無ㇾ生・歷ニーーーこ。
〔焚劫〕やきかすむ。○〔宋〕「ーニーー我郡・縣ー」。
〔[illegible]劫〕あだをなしかすむ。○〔宋〕「縣・鄕相ーーー」。
〔鈔劫〕かすむ。○〔宋〕「諸・僮有ニーーー爲ㇾ惡」。
〔壅劫〕上下の情通せずして臣下の爲めに君主の牽制せらるゝこと。○〔韓〕「世・主所ニ以ーーー失ニ其所ㇾ有ー也」。
〔朋劫〕黨與の勢により上に向かひてせまること。○〔韓〕「羣臣持ㇾ祿養ㇾ交、行ニ私道ー而不ㇾ致ニ公・忠ー、此謂ニーーーこ。
〔事劫〕外には權威をほしいまゝにして、上の心を動かす言をなしおもねりへつらふこと。○〔韓〕「寵擅ㇾ權矯ㇾ外以勝ㇾ內、險ニ言禍・福得・失之形ー、以阿ニ人主之好・惡ー、此謂ニーーーこ。
〔刑劫〕臣下のもの刑罰上の權力を勝手にとり行ふこと。○〔韓〕「守ニ司・國・禁制刑罰ー、人・臣擅ㇾ之、此謂ニーーーこ。
〔億劫〕無限に大いなる時。○〔王昌齡〕「ーーー同不ㇾ移」。
〔遐劫〕はるかなる時。○〔淨住子〕「蒙ㇾ報歷ニーーーこ。
〔百千劫〕百年千年といふに同じ。○〔楞嚴經〕「歷ーーー、猶如ㇾ彈ㇾ指」。

【劬】ク、ゴ。渠俱切 〔虞〕
㊀つとむ（勉）。○〔梁簡文帝〕「必盡ニ勤・ーこ。㊁つかる（疲）。○〔蕭子良〕「奉ㇾ上無ニ艱ーー之貌ー」。
〔忘劬〕心に勞苦を感せず。○〔束皙〕「鑒・々ーーー」。
〔情劬〕心につかれを感ず。○〔趙景眞〕「太・陽戢ㇾ曜、則ーーニ於夕・陽ー」。
〔慰劬〕勞苦をなぐさむ。○〔黃鎮成〕「然ㇾ薪燎ニ我衣ー、取ㇾ酒ーニ我ーこ。
〔千里劬〕遠き路程を歩み來たりたる勞苦。○〔程俱〕「解ㇾ衣臥ニ禪・龕ー、慰ニ我ーーーこ。
〔劬々〕いそがはしくして勞苦せる貌にいふ語。〔路振〕「我・宮ーー」。

【劭】セウ、ゼウ。實照切 〔嘯〕
初堯切 〔蕭〕
〔說文〕从ㇾ力召聲。
㊀勸めて爲さしむ、すゝむ。○〔宋〕「屢詔勸ーー觀ニ稼于ㇾ郊ー」。㊁勸めて爲す、つとむ。○〔魏〕「老而益ーー者也」。㊂高し。○〔齊〕「器・宇淵ーー」。㊃美し。○〔晉〕「風・姿美ーー」。
〔淸劭〕きよくしてうるはし。○〔晉〕「天・姿ーーー」。
〔功劭〕勳勞高し。○〔晉〕「虞・舜登・庸、勳ーー彌ーー」。
〔聲劭〕名譽美し。○〔晉〕「鞞・鼓之臣、聲ーー彌ーー」。
〔德劭〕勝れて高し。○〔晉〕「帝下ニ詔・書ー曰、惟爾ーーー英・毅」。
〔高劭〕前に同じ。○〔宋〕「雅・量ーー、風・鑒明・遠」。
〔光劭〕耀きて高し。○〔宋〕「弘德・猷ーー、器・識明・遠」。
〔明劭〕あきらかにして美し。○〔齊〕「皇・刻・敵・荒ーーこ。
〔才劭〕智慧高し。○〔王逸〕「ー益ー者其識遠」。
〔名劭〕譽れうるはし。○〔王巾〕「身逾・遠而ーーー」。
〔洪勳劭〕大いなる勳勞高し。○〔宋〕「自ㇾ茲迄ㇾ今、ーーー彌ーー」。

【劮】イツ、イチ。余質切〔質〕—或は妷に作る。
㊀たのしむ（豫）。㊁たはぶる、みだる。

【⿰皮力】ヒ。滂悲切〔支〕
つとむ（勤）、はげむ（勵）。

【勅】チツ、徹七切〔質〕チョク、チキ。徹力切〔職〕
天子の命、みことのり。

【⿰石力】ショ、ソ。只如切〔魚〕
つよし（强）。

【⿰白力】バク、マク。莫各切〔藥〕
つとむ（勤）。

六畫

【劵】ケン、渠卷切〔霰〕ゴン。切—契券の券と異なり、券は刀に从ひ此なるは力に从ふ。
つかる（疲）、うむ（倦）。

【⿰后力】コウ、ク、去厚切〔有〕
力を用ふ、つとむ（勤）、はげむ（勵）。

【⿰羊力】ヤウ。余章切〔陽〕
すゝむ（勸）。

【⿰圭力】アイ、エ。於佳切〔佳〕
せまる（逼）。

【効】カウ、ゲウ。胡教切〔效〕
俗の效の字、古昔は攴の文に从ふ力に从ひし者なし、さるを後人寫し訛れること既に久しく相承けて之を用ふるとなれり。○〔漢〕「殺レ身自ー」。
（自効）己れと誠實を人に差し出たす。○〔漢〕「天・下輻湊ーー」。「非レ無ニー・ーニ」。
（勞効）功勤のあるし。○〔溫子昇〕「論ニ其 功・圖ー、

（犬効）犬馬に等しき賤しき功。○〔孫逖〕「誓圖ニーー、庶答ニ鴻・休ニ」。
（遠効）一朝一夕に望み得べからざる結果。○〔孔文仲〕「人之常・情、薄ニーー而貴ニ速・成ニ」。

【⿰牟力】ボウ、ム。莫侯切〔尤〕
㊀勸め勵ます、はげます。㊁自ら勉む、つとむ。

【劻】キヤウ、カウ。曲王切〔陽〕
急迫なる貌にいふ字、せまる、にはか。

【⿰并力】ハウ、ヒヤウ。哺橫切〔庚〕
㊀おほいなり（大）。㊁大いなる力、強し。

【劼】カツ、カチ。恪八切〔黠〕キツ、キチ。契吉切〔質〕—〔說文〕从レ力吉聲。
㊀つとむ（勤）。㊁かたし（堅・固）。㊂戒め謹みて過失なきを期す、いましむ、つゝしむ。○〔書〕「汝ーニ毖殷獻臣ニ」。

【劽】レツ、レチ。力蘖切〔屑〕
力あり、つよし（强）。

【⿰朔力】サク、ソク。側角切〔覺〕
すこやか、つよし（健）。

【⿰自力】タイ、テ。都罪切〔賄〕
力を用ひて牽く、ひく。

【劾】カイ、ガイ。戸代切〔隊〕胡海切〔賄〕下蓋切　コク、ゴク。胡得切〔職〕
㊀罪状を考檢す、罪人を推窮す、きはむ（鞫）、かんがふ（覈）しらぶ（按）、おす（推）。○〔史〕「告ー不レ服、以ニ掠ー笞ニ定レ之」。㊁罪狀の調書、罪人の窮問狀、とりしらべがき。○〔後漢〕「知ニ意不ヒ行、投レー去ニ」。㊂つとむ（勤・勉）。
（案劾）罪あるものを窮め出たす。○〔史〕「求ニ其罪過ニ、ーーニ之ニ」。「ー・ーニ」。
（重劾）極めて手おもき罪の推究。○〔漢〕「敞身被ニ
（自劾）自身と己れの罪過を吟味し出たすこと、即ち自ら責を引きて退く義。○〔韓愈〕「行當ニーー去ニ、漁・釣老ニ菽亂ニ」。
（鞫劾）罪を調ぶ。○〔晉、疏〕「上ニ其ー・ー文・辭ニ」。
（盡劾）殘す所なく其の罪を官に告げて吟味せしむ。○〔漢〕「皆不レ得ニーー沒ニ入官ニ」。
（通劾）他の罪ある者と共に揃へて其の罪あることを官に告げて吟味せしむ。○〔漢〕「將軍以ニ勝議ニ、不レ可者ー・ーニ之ニ」。「以定ニ大綱ニ」。
（手劾）自身に其の事柄をしらぶ。○〔漢〕「ーーレ之
（追劾）職を去りたる後に至りて其の在職中の罪を告發す。○〔後漢〕「刺史張・敬、ーニ・ー榮ニ、以ニ擅去ニ過、有レ詔捕レ之」。
（符劾）災鬼を避くるまじなひの書きもの。○〔後漢〕「爲ニ丹・書ー・ーニ、厭ニ殺鬼・神ニ」。
（奏劾）人の罪あることを書きつけ上聞に達すること。○〔晉〕「每レ有ニー・ーニ、或値ニ日暮ニ、捧ニ白簡ニ」。
（厭劾）災鬼を避くるためのまじなひ。○〔晉〕「自行ニ巫・祝ニ、ー・ー而不レ能レ絕」。
（深劾）いたく其の罪をきはむ。○〔齊〕「詔曰、澄表據多レ謬、不レ足ニーーニ」。
（糾劾）罪をたゞし出たす。○〔南〕「與性剛・直多レ所ニー・ーニ、朝廷甚敬ニ憚之ニ」。「ーニ」。
（繩劾）前に同じ。○〔北〕「曉以ニ義・理ニ、不レ加ニーー」。
（收劾）捕らへて其の罪を推問す。○〔南〕「奏ーニーー之ニ」。
（功劾）罪を推究するの上手なること。○〔周〕「今之從レ政者、深・文ー・ー」。
（露劾）罪をあらはして按檢す。○〔唐〕「爲ニ有・司ーーニ」。
（排劾）推し除けて罪に陷る。○〔唐〕「疑レ逼己、遂「ーニーー之ニ」。
（驗劾）吟味を遂ぐ。○〔唐〕「有司ー・ー」。
（按劾）前に同じ。○〔宋〕「監・司ー・ー」。
（推劾）前に同じ。○〔宋〕「官・吏ー・ー」。
（繫劾）獄に囚へて吟味を爲す。○〔杜氏通典〕「置ニ東西二獄ニ、以自ー・ー」。
（誣劾）罪なきを罪ありとして推問に附す。○〔稗史〕「怒ニ其不ヒレ降レ己、ー・ー以レ非」。
（彈劾）罪をしらべあぐ。○〔北〕「南・臺將レ加ニーー」。
（拜劾）前に同じ。○〔唐〕「ーニ・ー誥ニ」。

【⿰兔力】逸に同じ。

【⿰舌力】励の譌字。

【⿰谷力】イツ、イチ。欲匹切〔質〕
うごく（動）。

七畫

【勀】コク。苦得切〔職〕
㊀かつ（勝）。㊁つとむ（自彊）。㊂けやけし（尤極）。

【勁】ケイ、キヤウ。吉聖切〔敬〕
つよし（强）、こはし（剛）、かたし（堅・固）、すこやか（健）。○〔淮〕「弓先調而後求レー」。
（權勁）中軍は謀をめぐらし後軍はつよし。○〔左〕「中・ー後・ー」。
（後勁）後軍のするどくしてつよきこと。○〔王僧孺〕「提レ戈ー・ー、厠ニ龍・約之謀ニ」。
（端勁）正しくして強し。○〔朱巻〕「語・意清婉、字畫ー・ー」。
（堅勁）かたし。○〔述異記〕「草・木皆化爲レ石、精明ー・ー」。
（筋勁）すぢの強きこと。○〔人物志〕「ーー植固」。
（風勁）かぜの力つよし。○〔姚合〕「ーー衣・巾脆」。
（廉勁）我慾少なくして強直なること。○〔後漢〕「ーー不レ阿ニ權貴ニ」。
（燥勁）濕氣なくしてつよし。○〔晉、傳〕「江・南其氣ー・ー」。

〔捷勁〕すばやくしてつよし。○〔爾、疏〕「此鳥——」。
〔果勁〕決心したることを爲しおふせてつよし。○〔魏〕「北兵數衆、而——不レ及レ南」。
〔奮勁〕勇氣ふるひてつよし。○〔魏〕「忠烈——、知レ死而往」。
〔淸勁〕純潔にしてつよし。○〔魏〕「——貞白」。
〔高勁〕氣高くしてつよし。○宣和畫譜〕「修篁——、架二雪凌一レ霜」。
〔忠勁〕心に信實ありて氣つよし。○〔晉〕「道徽——」。
〔猛勁〕たけくしてつよし。○〔晉〕「隴上多豪、秦風——」。
〔躁勁〕かろがろしくしてつよし。○〔北〕「炫性——、頗好二俳諧一」。
〔精勁〕よく練鍊してつよし。○〔宋〕「中山兵——」。「冠二河朔一」。
〔遒勁〕を入しくつよし。○圖畫見聞誌〕「落筆——」。
〔越勁〕すぐれてつよし。○〔荀〕「古者桀紂筋力——」。
〔肥勁〕こえふとりて強し。○〔論衡〕「形體——」。
〔質勁〕もちまへの強きこと。○傳感〕「——體直立」。
〔古勁〕いにしへの風を存して力つよし。○〔談〕「篆文甚——」。○〔夢溪筆談〕「——淸潤」。
〔豪勁〕かたくしてつよし。○〔山谷題跋〕「——」。
〔奇勁〕珍しく力つよし。○〔石門題跋〕「便自——」。
〔貞勁〕正しくしてつよし。○〔徐陵〕「厥體——」。
〔筆鋒勁〕筆を用ふる勢のつよきこと。○〔柳貫〕「盧前吳後——」。

【勂】カウ、ゴウ。胡刀切 豪

休暇を得て歸省せんと上申す、つぐ、まうす。

【勃】ホツ、ボチ。蒲沒切 月 〔說文〕从レ力孛聲。

㊀にはか、にはかに、（卒）。○〔莊〕「忽然出、——然動」。

㊁顏色にはかに變ずるにいふ字、いろかはる。○〔論〕「色——如也」。

㊂他を排して興起す、おしひらく、おこる。○〔文選〕「氣噴——以布覆」。

㊃盛んなる貌にいふ字、又、怒る貌にいふ字。○〔南〕「猛氣咆——」。

㊄あらそふ（爭）、もとる（戾）。○〔莊〕「室無二虛空一、則婦姑——谿」。

㊅己か心のまゝに行ふを、ほしいまゝ（放）。○〔晉〕「肆二其猖——一」。

㊆渤に通じ用ふ、海の名。○〔漢〕「薊南通二齊趙——碣之閒一」。

〔興勃〕起こり出づることにはかなり、又、おこる。○〔左〕「禹、湯罪レ己、其—也—焉」。「鼓之皮」。
〔馬勃〕馬屁菌の別名。○〔韓愈〕「牛溲——敗鼓之皮」。
〔蓬勃〕盛んなるにいふ語。○〔香譜〕「香氣——」。
〔鬱勃〕前に同じ。○〔武帝內傳〕「雲彩——、靄爲二香氣一」。
〔蓊勃〕前に同じ。○〔柳宗元〕「路——以揚芬」。
〔蚉勃〕前に同じ。○〔陸龜蒙〕「埃塩——」。
〔狂勃〕物くるはしくはしいまゝなること。○〔晉〕「此兒——、宜二早除一レ之」。
〔凶勃〕心かしましくしてもとる。○〔晉〕「其奸心——未レ已」。「不レ可レ反乎」。
〔勃々〕盛んなる貌にいふ語。○〔揚雄〕「——乎其」。
〔恣勃〕前に同じ。○〔司馬相如〕「晻曖——」。
〔泰勃〕にはかなること。○〔杜牧〕「天下平一、——消削」。

【勆】ハイ、ベ。蒲妹切 隊

㊀前條の㊀に同じ。

㊁孛に同じ、妖星の名、わざはひぼし。

【勅】チョク、チキ。蓄力切 職 一本、勑或は飭に作る。

敕に同じ。

【勉】バク、モク。墨角切 覺

つとむ、（勤）。

【勼】キウ、ク。局虬切 尤

つよき貌にいふ字、つよし、すこやか。

【勑】俗の勑の字。

【努】サン、ザン。財干切 寒

ころしさく、そこなふ、（殺・割）。

【勆】ラウ。盧當切 陽 力宕切 漾

力あり、つよし。

【勇】ヨウ、ユウ。余隴切 腫 〔說文〕从レ力甬聲。

㊀氣力充ち張れるを、決斷のよきを、外物に對しておそれざるを、事を行ふに撓まざるを、心を動かさゞるを、すこやか、つよし、おもひきりよし、こはし、たけし、するどし。○〔莊〕「臨二大難一而不レ懼者聖人之—也」。

㊁奮ひ起こるを、怒るを。○〔孟〕「詩云、王赫斯怒、爰整二其旅一、以遏二徂莒一、以篤二周祜一、以對二于天下一、此文王之—也」。

㊂服從せざるを、爭ふを。○〔孟〕「好レ—鬪狠、以危二父母一」。

㊃筋肉の力强し、つよし。○〔漢〕「雖二賁育之—一、不レ及二陛下一」。

㊄氣力充ち張る、果決して行ふ、いさむ、はたす。○〔史〕「民—二於公戰一、怯二於私鬪一」。

㊅物におぢざる氣力、事にたわまざる精神、又、筋肉のつよき力。○〔孟〕「孟施舍之所レ養レ—也」。「河—」。

㊆猛者、つはもの。○〔李嶠〕「決レ勝三—」。

〔餘勇〕十分にあらはさずしてあまりある勇氣。○〔左〕「欲レ勇者賈二余——一」。
〔賈勇〕（い）物を與へ人をして其の勇氣を盡くさしむること。○〔唐〕「不レ立二重賞一、何以—二士—一」。（ろ）己れの勇氣あることを示して功を立てんとすること。○〔唐玄宗〕「壯徒恆—レ—」。
〔傷勇〕勇氣の本領をそこなふ。○〔孟〕「可二以死一、可レ無二以死一、死—レ—」。
〔大勇〕おほいなる勇氣、首に血氣の勇に對して義理より發せる勇氣にいふ語。○〔孟〕「子好レ勇乎、吾嘗聞二——於夫子一矣」。
〔上勇〕最も高尙なる勇氣、即ち浩然之氣の至大至剛にして少しも餒うることなきもの。○〔荀〕「天下有レ中、敢直二其身一、先王有レ道、敢行二其意一、仁之所レ在無二貧窮一、仁之所レ亡無二富貴一、天下知レ之、則欲下與二天下一同中苦樂上、天下不レ知レ之、則傀然獨立二天地之閒一而不レ畏、是——也」。
〔中勇〕上勇に次げるもの、俠者の類。○〔荀〕「禮恭而意儉大二齊信一焉輕二貨財一、賢者敢推而尙レ之、不肖者敢援而廢レ之、是——也」。
〔下勇〕理義に暗く偏狹醜惡の事を爲して顧みざること。○〔荀〕「輕レ身而重レ貨、恬レ禍而廣レ解、苟免不レ恤、是非然不然之情、以レ期レ勝レ人爲レ意、是——也」。
〔拳勇〕筋力の強くして勇氣あること。○〔詩〕「無レ—無レ—、職爲二亂階一」。「無レ好二——一」。
〔小勇〕大勇の反、血氣より發せるもの。○〔孟〕「王請無レ好二小勇一」。
〔姦勇〕心ねぢけて事をなすにいさむこと、又、其のもの。○〔國〕「——爲レ賊」。
〔悍勇〕あらあらしくしていさむこと、又、其の者。○〔史〕「三晉之兵、素——而輕レ齊」。
〔賢勇〕さかしくて勇氣あること。○〔史〕「始皇以爲二——一」。「驕盈」。
〔矜勇〕勇氣にほこる。○〔漢〕「灌夫——、武安」。
〔武勇〕たけだけしき氣力あること、又、其の者。○〔漢〕「今大王誠能反二其道一、任二天下——一、何不レ誅」。
〔義勇〕義を見ていさむこと。○〔漢〕「諸虜懾懼、——奮發」。
〔仁勇〕あはれみ深くして勇氣あること。○〔漢〕「質行正直——、得二衆心一」。
〔精勇〕えりたるつはもの。○〔晉〕「滑、匿——、見二其老弱一」。「—自行」。
〔氣勇〕事をなすにいさむこと。○〔後漢〕「以二肉・骨—」。
〔勁勇〕つよし、又、つよき者。○〔晉〕「郭翻率二——五百一、追二石生於蘇脂故亭一」。
〔鷙勇〕鷙の如くにあらあらしくしてつよし。○〔魏〕「太祖壯二其——一」。「怯——」。
〔內勇〕外にあらはさず勇氣を蓄ふること。○〔魏〕「外」。
〔沈勇〕かろがろしからずして勇氣あること。○〔漢〕「爲レ人——有二大略一」。
〔驍勇〕勇氣多きこと、つよきこと、又、其のもの。○〔孫楚〕「——百萬、蓄レ力待レ時」。

〔忠勇〕 心に僞りなくして勇氣あること。〇〔晉〕「英・略奮發、——絶レ世」。
〔果勇〕 つよきこと、屈せざること。〇〔晉〕「性——、其「闘到レ死乃止」。
〔材勇〕 才智あり勇氣あること。〇〔晉〕「世貧・賤以ニ——」、「詩」幸ニ于河・間・江・陝ニ。
〔壯勇〕 年わかくしてつよきこと、又、其のもの。〇〔陸贇〕「渾ニ四方——一」、贇ニ之邊・城ニ。
〔剽勇〕 あらくしくしてつよし、又、其の者。〇〔晉〕「巴・郡俗性——、久善ニ歌・舞ニ」。
〔專勇〕 時を擇ばずいつもくつよきとのみを主とすること。〇〔梁〕「爲ニ將當レ有ニ法・時一、不レ可ニレ——」。
〔强勇〕 つよし、又、其のもの。〇〔晉〕「其人——」。
〔雄勇〕 人よりすぐれてつよし、又、其のもの。〇〔晉〕「至・孝寛・厚、——過レ人」。
〔英勇〕 前に同じ。〇〔南〕「爰命ニ——一、因レ機劈レ銳」。
〔膽勇〕 膽力あり勇氣あること。〇〔南〕「景宗以ニ——聞、頗愛ニ史・書ニ」。
〔神勇〕 凡人の企て及ぶ可からざる勇氣あることにいふ語。〇〔南〕「吏・人嘆・服、稱ニ——ニ」。
〔辭勇〕 事を處置するにいさましきこと。〇〔北〕「頗以ニ——一賜レ識、今・日之事不ニ敢辭ニ」。
〔踊勇〕 動作のはしこくしてつよきこと。〇〔五〕「爲レ人——、走及ニ奔・馬ニ」。
〔毅勇〕 如何なる事に會しても志を屈せざること。〇〔元稹〕「實資ニ——ニ」。
〔健勇〕 すこやかにしてつよし、又、其のもの。〇〔宋〕「招ニ置壯人——輕・捷者ニ」。
〔慣勇〕 いかる、又、かり。〇〔汲冢〕「左・右——」。
〔誠勇〕 外面のみならず本來つよきこと。〇〔人物志〕「——必有ニ矜・奮之色ニ」。「者多ニ——ニ」。
〔私勇〕 個人間の爭ひにつよきこと。〇〔商子〕「兵弱」
〔剛勇〕 たけきこと。〇〔鄧析子〕「——無ニ以勝レ人」。
〔猛勇〕 前に同じ。〇〔論衡〕「主人——、姦・客不ニ敢闘ニ也」。

【勉】 ベン、メン。亡辨切 〔銑〕 —— 免に通じ作る。
すゝむ、つとむ。
（い）力を盡くして行ふ、はたらく、（勤）、はげむ、（勵）。〇〔論〕「喪・事不ニ敢不レ——」。
（ろ）力を盡くさしめんと誘ふ、はげます。〇〔左〕「巡ニ三軍一、拊而——レ之」。
〔黽勉〕 つとめはげむ。〇〔詩〕「何有何亡、——求レ之」。
〔勉々〕 前に同じ。〇〔詩〕「——我王、綱ニ紀四・方ニ」。
〔勤勉〕 前に同じ。〇〔國〕「——以勸レ之」。
〔彊勉〕 前に同じ。〇〔漢〕「——行レ道、則德日起而大有レ功」。
〔勞勉〕 ねぎらひはげます。〇〔後漢〕「朝・廷嘉レ之、數璽・書——」。「順レ令」。
〔敦勉〕 親切につとむ。〇〔史〕「安・和——、莫レ不レ」
〔誡勉〕 いましめはげます。〇〔北〕「——之ニ」。
〔弔勉〕 凶變に會ひし者をなぐさめはげます。〇〔後漢〕「初除之日、士大夫皆見ニ——ニ」。
〔慰勉〕 なぐさめはげます。〇〔北〕「文・帝大悦、手・書——」。「深自——」。
〔剋勉〕 卑陋なる慾情をおさふるに力を盡す。〇〔北〕
〔淬勉〕 はげみ行ふこと。〇〔唐〕「——自彊」。
〔矜勉〕 つゝしみ深くしてはたらく。〇〔唐〕「至ニ窮・里厩家ニ相——」。「父——之ニ」。
〔力勉〕 つとめはげむ、又、すゝめはげますこと。〇〔宋〕
〔激勉〕 はげます。〇〔宋〕「第——ニ將・士ニ可也」。
〔和勉〕 やはらぎはたらく。〇〔管〕「夫・婦——矣」。
〔奬勉〕 すゝめて善に赴かしむること。〇〔論衡〕「可ニ教・告——使ニ之爲レ善」。
〔寛勉〕 正當よ、言はゞゆるすべからざることをなためてゆるすやうに力を盡す。〇〔王獻之〕「願深——」。
〔忍勉〕 力を盡くしてたへしのぶこと。〇〔飽照〕「——自療・治」。「——弘遵ニ舊・業ニ」。
〔策勉〕 勤勉に同じ。〇〔梁簡文帝〕「宜ニ應共相——」
〔諷勉〕 其れとはあからさまに言はずしてすゝめて善に從はしむること。〇〔歐陽修〕「詔・書——」。
〔不勉〕 つとめず、なまける。〇〔左〕「扶ニ其——者ニ」。

八畫

【勌】 ケン、ゴン。巨員切 〔先〕
健かなる貌にいふ字、すこやか、又、つとむ、（勉）。

【勸】 ケン、グワン。區願切 〔願〕
つとむ、すゝむ、（勸）。

【勬】 ケン、ゴン。渠眷切 〔霰〕
倦に同じ、うむ、つかる、（疲）。〇〔莊〕「學レ道不レ——」。
〔罷勬〕 つかる、うむ。〇〔漢〕「士卒——」。

【㔩】 アイ、エイ。幺皆切 〔佳〕 —— 一に劾に作る。
せまる、（逼）。

【㔹】 リヨウ。力承切 〔蒸〕
あのぐ、（陵）、をかす、（侵）。

【㔸】 リヨウ。里孕切 〔徑〕
馬を止どむ。

【勍】 ケイ、ギヤウ。渠京切 〔庚〕
つよし、たけし、こはし、（彊）。〇〔左〕「——敵之人」。

【勎】 リク、ロク。力竹切 〔屋〕
勠に同じ、力を幷はす、あはす。

【勈】 リヤウ。呂奬切 〔養〕
㊀せまる、（逼）、ちかづく、（近）。㊁つとむ、（勉）。㊂こばむ、（拒）。㊃ものうし、（懶）、おこたる、（惰）。

【㔶】 コウ。肯登切 ホウ。悲朋切 〔蒸〕
大いなる力。

【㔭】 シ。祖似切 〔紙〕 —— 一に事に作る。
役を爭ふ、あらそひつとむ。

【㔴】 ホウ、ブ。蒲口切 〔有〕
力を用ふ、つとむ。

【㔞】 クワイ、ケ。苦乖切 〔佳〕
力ある貌にいふ字、つよし。

【㔮】 クツ、ゴチ。巨勿切 〔物〕
足に力多し、あしつよし。

【㔯】 バウ、ミヤウ。莫杏切 〔梗〕
㊀猛に同じ、たけし。㊁おごそか、きびし、（嚴）。㊂そこなふ、（害）。㊃あし、（惡）。

【勑】 ライ。落代切 〔隊〕
徠に同じ、勤めし者を慰む、いたはる、來たりし者を撫づ、ねぎらふ。

【勅】 チヨク、チキ。蓄力切 〔職〕 —— 一に勑さ飭さに作る。
㊀いましむ、いましめ、（誡）。〇〔易〕「先王以明レ罰——レ法」。
㊁敕に通じ用ふ、たゞし、（正）、又、かたし、（固）、又、まこと、（誠）、又、天子の命令制書、みことのり。〇〔後漢〕「猶爲ニ謹——之士ニ」。

九畫

【勂】 カツ、カチ。許鎋切 〔曷〕
力を用ふる聲にいふ字、又力を用ふ、はたらく、（動）、つとむ、（勤）。

【勒】 ロク、盧得切 〔職〕 〔說文〕从レ革力聲。
㊀馬の口に銜ます器具、此れに轡（たづな）を付して馬を御するに用ふるもの、ふくみ、くつわ、くつばみ、一說に馬頭の絡、おもがひ、又、一說に銜（くつわ）ある馬轡、たづな。〇〔淮〕「人不レ弛レ弓、馬不レ解レ——」。

㊁ゑる、(雕)、ほる、(鏤)、きざむ、(刻)。〇〔馮衍〕「銘二—金石一、令-聞不レ忘」。
㊂おさふ、(抑)。〇〔南〕「潛相約—、無下敢歷二殷-氏門一者上」。
㊃をさむ、(治)。〇〔後漢〕「親—二六-軍一、大陳二戎-馬一」。
〔籠勒〕天子の車を牽く馬にふくますくつわ。〇〔周〕「華-路—-—」。
〔部勒〕部わけをなしをさむ。〇〔史〕「以二兵-法一—二賓-客及子-弟一」。
〔敎勒〕善ををしへ惡をおさふ。〇〔後漢〕「不レ能レ拔、—二—子-孫一」。
〔盤勒〕ととのへをさむ。〇〔魏〕「—二—兵-馬一欲二赴」。
〔鐫勒〕きざむ。〇〔晉〕「晛二嶠-山一而—-—」。
〔誡勒〕惡をいましめおさふ。〇〔宋〕「備加二—-—一」。

【勓】カイ、ケ。口戒切 卦
つとむ、(勉)。

【勔】ベン、メン。彌淺切 銑 ビン。ミン、彌盡切 軫 ―或は偭さ僶に作る。
㊀つとむ、(勉)。㊁すゝむ、(勸)。

【㔙】ソウ、ス。作弄切 送
すゝむ、(勸)、はげます、(勵)。

【動】トウ、ヅ。徒孔切 董
㊀うごく。
(い)うつる、ゆく。〇〔淮〕「日行月—」。
(ろ)ゆるぐ、うごく、うごめく。〇〔傳燈錄〕「風非レ幡、仁-者心自—耳」。
(は)感ず。〇〔淮〕「同-氣相—」。
(に)仕ふ。〇〔謝朓〕「—-息無二氣遂一」。
(ほ)おこる、(發)。〇〔魏〕「兵以レ義—」。
(へ)はたらく、なす。〇〔孟〕「終-歲勤-—」。
(と)まごふ、(惑)。〇〔淮〕「不二隨レ物而—一」。
(ち)かはる、(變)。〇〔戰〕「色—而意變」。
(り)おどろく、(驚)、さわぐ、(躁)。〇〔戰〕「襄-子如レ厠心—」。
(ぬ)あらはる、いづ。〇〔禮〕「蟄-蟲咸—」。
(る)ふるふ、(震)。〇〔書〕「天-休震—」。
(を)みだる、(亂)。〇〔後漢〕「天-下蟺-—、是忠-臣立レ功之日」。
㊁禽獸蟲魚及び人類などの稱。〇〔梁獻大閱賦〕「萬-邦以平、羣—成遂」。
㊂時としては、ともすれば、やゝもすれば。〇〔韓愈〕「來-往—皆經レ月」。
〔萠動〕(い)めばえいづ。〇〔禮〕「天-地和同、草-木—-—」。
(ろ)すべて物事のはじまるをいふ語。〇〔漢〕「奸-軌不レ得二—-—一」。
〔地動〕土地ふるふ、地震のこと。〇〔漢〕「郡-國被二—-—、災-甚者、無レ出二租-稅一」。
〔蠕動〕(い)うごめきうごく、おもにちひさき蟲にいふ語。〇〔晉〕「蚑-行—-—、方聚類-分」。
(ろ)うごめく小さき蟲。〇〔易林〕「蜎-飛—-—、各具二配-偶一」。
〔蠢動〕(い)前の(い)に同じ。〇〔傳休奕〕「陶-蟄—-—」。
(ろ)騷亂すること。〇〔吳〕「武-陵蠻-夷—-—」。
〔變動〕かはりうごく。〇〔易〕「—-—不レ居、周二流六-虛一」。
〔發動〕おこりうごく。〇〔史〕「古五-帝三-王—-—舉レ事、必先決二蓍-龜一」。
〔開動〕はじまる。〇〔漢〕「靑-陽—-—」。
〔騷動〕さわぐ、又、其のこと、さわぎ、兵亂。〇〔史〕「形-神—-—」。
〔蟻動〕ありのさわぐが如くに國亂れて人民のさわぎ立つるにいふ語。〇〔後漢〕「天-下—-—、是忠-臣立レ功之日、志-士馳-驚之秋也」。
〔機動〕機會を見て事をなす。〇〔後漢〕「兵以—-—」。
〔擧動〕たちゐふるまひ。〇〔王粲〕「—-—多レ宜」。
〔迅動〕はやく移る、又、物に感ずることはやきにいふ語。〇〔南〕「寂-性—-—、好二文-章一」。
〔搖動〕ゆるぐこと。〇〔北〕「恐-生二—-—一」。
〔浮動〕定まらず、又、あちらこちらにうごく。〇〔北〕「外若二方-格一、內-實—-—」。「—於鴻-閣一」。
〔言動〕ものいひとたちゐふるまひと。〇〔北〕「記二—-
〔竦動〕心うごく。〇〔五〕「蜀-人聽レ之皆—-—」。
〔飛動〕(い)とびて處を易ふ。〇〔宗楚客〕「水-邊重-閣含二—-—一」。
(ろ)勢のいきいきしたる貌にいふ語。〇〔宋〕「神-采—-—」。
〔通動〕すべての物にかよひはたらく。〇〔新語〕「—-—無-量」。「起」。
〔超動〕(い)たちゐふるまひ。〇〔易林〕「—-—安-相一」。
(ろ)おこる。〇〔邵昭明〕「寡-理寂-然無二—-—一」。
〔多動〕うごくとおほし、又、心のいろいろかはるにもいふ語。〇〔文中子〕「多-言不レ可二與謀一、—-—不レ可二與久處一」。
〔流動〕ながれうごく、又、うごき定まらず。〇〔梁昭明太子〕「生-滅—-—」。
〔生動〕いきてうごく、書畫などの筆跡の氣韻にいふ語。〇〔畫史〕「筆-彩—-—」。
〔顫動〕ぶるぶるとふるふ。〇〔宣和畫譜〕「勢若二—-—一」。「—-—抑-揚」。
〔運動〕めぐりうごく、はたらく、移る。〇〔董仲舒〕

【動】トウ、ヅ。徒弄切 送
うごかしむ、うごかす、うつす、おこす、感ぜしむ、まごはす、ゆるがす、さわがす、おどろかす、ふるふ、(前條の㊀參照)。〇〔易〕「雷以レ—之」。

【勖】キョク、許玉切 沃 コク。―說文 从レ力冒聲。
事を勵みなす、つとむ、(勉)。〇〔書〕「—哉夫-子」。

【勘】カン、コン。苦紺切 勘
㊀つきあはしてとりしらぶ、かんがふ、又、くりかへしてかんがへさだむ、さだむ。〇〔左、疏〕「史-籍散-亡無レ可二檢-—一」。
㊁囚人の罪をとり調ぶ、とふ、きはむ、(鞫)。〇〔宋〕「有二鞫—失レ實者一」。
〔點勘〕しるしをつけてとりしらぶ。〇〔韓愈〕「丹-鉛事二—-—一」。
〔推勘〕罪人をとりしらぶ。〇〔宋〕「置二詳-覆—-—官一」。
〔寄勘〕つばらにかんがふ。〇〔宋〕「仰二提-刑司-守—-—一」。「—-—」。
〔參勘〕他のものとつき合はす。〇〔參同契〕「此書
〔契勘〕前に同じ。〇〔攝塵後錄〕「—-—元無二支-僞-遣一」。
〔覈勘〕前に同じ。〇〔夢溪筆談〕「—-—以防二僞-

【勘】カン、コン。口含切 覃
よくす、(能)。

【務】ブ、ム。亡遇切 遇 ―說文 从レ力敄聲。
㊀つとめ。
(い)國政、家業、世間のすべての業事、こと、わざ、まつりごと。〇〔易〕「開レ物成レ—」。
(ろ)己れの負擔、責任、職分。〇〔齊〕「惟以於二經-國一爲レ—」。
㊁專ら力を盡くす、つとめさなす、いそなむ、つとむ。〇〔後漢〕「前-哲首-務、—二下-學上-達一」。
〔三務〕春と夏と秋との農のわざ。〇〔左〕「—-—成レ功」。
〔時務〕その時のつとめ。〇〔國〕「民不レ廢二—-—一」。
〔世務〕前に同じ。〇〔漢〕「上-書言二—-—一」。
〔機務〕まつりごと、わざ、つとめ。〇〔南〕「—-—繁-多」。
〔事務〕わざ、つとめ。〇〔書、疏〕「任レ賢委レ能、令二—-—順一レ理、如レ是則政治而國安」。
〔內務〕國內のつとめ。〇〔公羊、註〕「恐二其虛二—-—爲二—-—一、情外-好上也」。
〔先務〕主としてなすべきつとめ。〇〔宋〕「以レ改レ刑
〔急務〕前に同じ。〇〔漢〕「天-子之—-—也」。
〔農務〕耕作に關するつとめ。〇〔國〕「王-事惟—-—」。
〔要務〕大切なるつとめ。〇〔史〕「知二常-世之—-—一」。
〔大務〕前に同じ。〇〔漢〕「以二教-化一爲二—-—一」。
〔勉務〕つとむ。〇〔後漢〕「百-姓—二—桑-稼一」。
〔政務〕國を治むること、まつりごと。〇〔後漢〕「—-—之績、有二絕-異之效一」。
〔物務〕つとめ、わざ。〇〔後漢〕「獨勤二心—-—一」。
〔趣務〕其の事に向かひつとむ。〇〔魏、註〕「人之所二—-—一者、常-謙-退不レ爲也」。
〔碎務〕細かなるつとめ。〇〔晉〕「不レ宜三勞以二—-—一」。「談—レ—」。
〔煩務〕己れのつとめに心を用ひざること。〇〔晉〕「虛-
〔國務〕まつりごと、國家に關するつとめ。〇〔梁武帝〕「—-—少閑」。
〔家務〕己れの家のつとめ。〇〔南〕「不レ事二家—-—一」。

〔朝務〕朝廷のつとめ、まつりごと。○〔南〕「雖レ不レ參二―・―一而言レ事、密謀多見二信納一」。
〔庶務〕もろ〳〵のつとめ。○〔南〕「雖レ未レ經二―・―一、而雅得二人心一」。
〔細務〕こまかきつとめ。○〔宋〕「日親二―・―一」。
〔王務〕國家、又は王室に關するつとめ。○〔南〕「鞅二掌―・―一」。
〔綜務〕つとめをすぶ。○〔隋〕「置二六官一以―レ―」。
〔亶務〕かまびすしきつとめ。○〔北〕「―・―既屏」。
〔劇務〕いそがはしきつとめ。○〔北〕「不レ能レ處二―・―一」。
〔煩務〕わづらはしきつとめ。○〔北〕「少減二―・―一」。
〔釐務〕つとめ、又、つとむ。○〔舊唐〕「亦聽二―・―一」。
〔樞務〕最も大事なるつとめ、おもに天下の政事にいふ語。○〔元稹〕「謬參二―・―一」。
〔邊務〕邊塞のつとめ、卽ち外敵を拒ぎ又は外國を攻め地を拓くなどにいふ語。○〔宋〕「留二心―・―一」。
〔滯務〕とゞこほりたるつとめ、事の裁決せずして其のまゝになりあること。○〔宋〕「三司多二―・―一」。
〔我務〕いくさのつとめ。○〔李翺〕「參二三軍之―・―一」。「不レ怠」。
〔勸務〕心をひきたてつとむ。○〔進〕「羣臣―・―而」
〔膺務〕世の中のつとめ。○〔世說〕「―・―經レ心」。
〔俗務〕前に同じ。○〔杜甫〕「瑣細隘二―・―一」。
〔外務〕世の中のうるさきつとめ、又、外國に關するつとめ。○〔常袞〕「放二絕―・―一」。

【務】バウ、モウ。謨袍切 〔豪〕
前の高く後のひくきにいふ字。

【務】ボウ、モ。莫候切 〔宥〕
くらし、(昏)。

【務】ブ、ム。罔古切 〔麌〕
侮に同じ、あなごろ、又、あなどり。○〔詩〕「兄弟鬩二于牆一、外禦二其―一」。

十畫

【勛】
勳の古字。

【虔力】ケン、ゲン。渠焉切 〔先〕
物を負ふ、おふ。

【劼】カツ、ゲチ。胡瞎切 〔黠〕
力を用ふ、つとむ。

【[illegible]】ヘツ、ヘチ。方結切 〔屑〕
㊀おほいなり、(大)。㊁大力の貌にいふ字、つよし。

【倝力】カン、ガン。下罕切 〔旱〕
つとむ、(勸)。

【勜】ヲウ、ウ。烏孔切 〔董〕
こはし、つよし、(屈强)。

【勜】アウ、オウ。鄔項切 〔講〕
力多し、つよし。

【勝】ショウ。書蒸切 〔蒸〕 〔說文〕从レ力朕聲、本从レ舟省作レ几。
㊀たふ。(い)なし能ふ、さゝへ得。○〔論〕「執レ圭鞠躬如也、如レ不レ―」。(ろ)かなふ、(稱)。○〔周〕「角不レ―レ幹」。㊁あげて、(擧)、ことごとく、(盡)。○〔孟〕「材木不レ可二―用一」。

【勝】ショウ。詩證切 〔徑〕
㊀かつ。(い)競ひて敵に優る、戰ひて敵を破る。○〔史〕「百戰百―」。(ろ)制す、壓す、過ごむ、按ふ。○〔國〕「尊レ明―レ患」。㊁超出す、優過す、すぐる、まさる。○〔周子通書〕「名―恥也」。㊂すぐれたるもの、又、すぐれたる場處。○〔南〕「皆歎三有二濟レ―之具一」。㊃首飾、かみかざり、かつら。○〔荊楚歲時記〕「造二花―一以相遺」。
〔最勝〕わきてすぐれたること。○〔史〕「―・―之遺事也」。
〔剛勝〕戰爭せぬ中に謀略にて敵に打ち克つ。○〔孫〕「不レ戰而屈二人之兵一、―・―之術也」。
〔厚勝〕大いにかつ。○〔戰〕「非レ能二―・―一之也」。
〔逐勝〕かちにのる。○〔史〕「趙軍―レ―、追二造秦壁一」。
〔厭勝〕巫蠱のまじなひ。○〔後漢〕「以二寃爲―・―之術一」。
〔常勝〕つねに打ちかつ。○〔列〕「天下有二―・―之道一」。
〔連勝〕志きりにかつ。○〔後漢〕「―・―逐前」。
〔自勝〕己れの私慾に打ちかつ。○〔呂氏春秋〕「欲レ勝レ人者、必先―・―」。
〔持勝〕かちを保ちて長きにわたる。○〔呂氏春秋〕「惟有道之士、能―レ―」。
〔雅勝〕みやびやかなることをもてまさる。○〔晉〕「識理淹長、風流―・―」。
〔尙勝〕上流に立つを貴ぶこと。○〔南〕「景宗爲レ人自恃―レ―」。「―所レ親」。
〔貴勝〕前に同じ、又、地位高き人。○〔魏〕「不レ爲二―・―一」。
〔形勝〕土地の有樣のすぐれたること、又、其の地。○〔南〕「淮南近畿國之―・―」。
〔兙勝〕打ちかつこと。○〔南〕「外州超レ兵、鮮レ有二―・―一」。○
〔賢勝〕かしこくしてすぐれたること、又、其の人。○〔魏〕「韜二滯―・―一、以自克勉」。
〔幽勝〕景色のしづかにして勝れたること。○〔唐〕「沼石林叢、岑繚―・―」。
〔奇勝〕(い)思ひもつかざる珍らしきかちを得ること。○〔王令〕「相謀務二―・―一」。(ろ)思ひもつかざる謀をもて敵にかつこと。○〔孫〕「凡戰者以レ正令、以レ―・―」。(は)珍らしくすぐれたること。○〔唐〕「王維別墅在二輞州一、地―・―」。
〔角勝〕敵にかつことを爭ふ、又、あらそふ。○〔唐〕「爭二雄於宇內一、―二―於疆原一」。
〔雄勝〕形勢のよきこと、又、其の處。○〔蘇舜欽〕「盤植擇二―・―一」。
〔坐勝〕兵を交じへずして敵にかちを占むること。○〔元〕「若二前所レ陳、是所レ謂―・―也」。
〔全勝〕十分にかつこと。○〔管〕「―・―而無レ害」。
〔兼勝〕彼れと此れとにあはせかつ。○〔論衡〕「高祖誅レ秦殺レ項、―二―二家一、力倍二湯武一」。
〔超勝〕越えすぐる。○〔杜海康衞志〕「風味―・―」。
〔占勝〕景色のすぐれたる處に據る、又、かちを占む、かつ。○〔白居易〕「―レ―坐二前簷一」。
〔絕勝〕此の上もなくすぐれたること。○〔何遜〕「陰負二―・―一尤嶮岑」。
〔殊勝〕取りわけてすぐれ出でたること。○〔朱熹〕「天然―・―、不レ關二風露冰雪一」。
〔特勝〕前に同じ。○〔朱熹〕「此山水之―・―處也」。
〔尊勝〕たふとくしてすぐれたること、又、其の人。○〔法苑珠林〕「如來於二天人中一、最爲二―・―一」。
〔豪勝〕豪傑といふに同じ。○〔何景明〕「自レ昔慕二―・―一」。
〔靈勝〕神佛の效現いやちこなる境。○〔神仙感遇傳〕「歷二諸仙山一、更尋二―・―一、去而不二復返一」。

【勞】ラウ、ロウ。魯刀切 〔豪〕
㊀力を盡して事に服す、はたらく、いたはる、つとむ。○〔書〕「服二―王家一」。㊁力極まる、つかる、くるしむ。○〔詩〕「不二敢告レ―一」。㊂うれふ、(憂)。○〔淮〕「竭レ力而―二萬民一」。㊃なやむ、(病)。○〔淮〕「好憎者使二人之心―一」。㊄いさを、(功)、こと、(事)。○〔國〕「平桓莊惠皆受二鄭―一」。
〔忘勞〕身の疲れを感せず。○〔易〕「說以使レ民、民忘二其―一」。
〔心勞〕心に物案じをすること。○〔晉〕「作レ僞―・―日拙」。
〔作勞〕田畝を耕耘することのいたはり。○〔陸游〕「何曾歎二―・―一」。
〔勤勞〕力を盡くして務むること。○〔書〕「昔公―二―王家一」。
〔劬勞〕力をつくすこと。○〔詩〕「哀々父母、生レ我―・―」。
〔勳勞〕てがら。○〔禮〕「成王以二周公一爲レ有二―・―於天下一」。
〔大勞〕大いなるてがら、又、大いなるいたはり。○〔左〕「―・―未レ艾、君子勞レ心、小人勞レ力」。
〔伯勞〕鳥の名、もず。○〔左、註〕「伯趙―・―也」。
〔博勞〕前に同じ。○〔晉〕「歌曰、阿得脂、阿得脂、―・―舊父是讎」。
〔賢勞〕かしこきものとし使はる。○〔孟〕「此莫レ非二賢勞一、我獨―・―也」。

（□勞）心を配りて楽じわづらふこと。〇〔史〕「三王之ー二ー天下一久矣」。
（太勞）はなはだ疲る。〇〔杜甫〕「眞會不二復久一、此生何ーー」。
（久勞）長きが間つとむ。〇〔史〕「其在二高宗一、ーー二于外一」。
（舊勞）前に同じ。〇〔書〕「其在二高宗一、ーー二于外一」。
（先勞）（い）主として功を立つ。〇〔禮〕「ーレー而後レ祿」。（ろ）人々のさきに立ちてつとむ。〇〔論〕「子曰、ーレ之ーレ之」。
（罷勞）疲る。〇〔左〕「民不二ーー一」。
（私勞）公ならぬつとめ。〇〔左〕「爲レ政者、不レ賞二ーー一」。
（負勞）鶺鴒の別名。
（忠勞）君のために盡くす骨折り。〇〔晉〕「白首戎陣、ーー未レ叙」。
（衆勞）多くの人のつとめ。〇〔魏〕「庶以レ酬二答ーー一」。
（執勞）骨折り仕事を爲す。〇〔宋〕「躬自ーレー」。
（軍勞）軍事上の功。〇〔唐〕「以二ーー一累授二沁州刺史一」。
（惱勞）骨折ることを嫌ふ。〇〔唐〕「對二先聖之言一、何復ーレー」。
（償勞）骨折りのうめあはせをなす。〇〔宋〕「此不レ足二以ーー卿之ー一」。
（旌勞）其の功あることを褒美し發表して人に知らしむ。〇〔元〕「治レ河功成、宜レ有二旌・敍以ー一其ー一」。
（苦勞）思ひをくるしめ身をいたはる。〇〔莊〕「ーレ心ーレ形、以危二其眞一」。
（待勞）疲れたるをあひしらふ。〇〔孫〕「以レ逸ーレー者勝」。
（耕勞）農作のいたはり。〇〔說苑〕「甯越中牟鄙人也、苦二ーー之ー一」。
（微勞）些細なる功。〇〔王況〕「得レ竊二ーー一、佩レ紫懷レ黄、蓋以レ百數」。
（報勞）人の骨折りにむくゆ。〇〔中說〕「古者祿以ーレー」。
（累勞）重ねて勳功を立つ。〇〔司馬遷〕「積レ日ーレー、取二尊官厚祿一」。
（煩勞）心わづらはしくしてうれふ。〇〔張衡〕「何爲ーー懷二愁心一ーー」。
（徒勞）更に功なきいたはり。〇〔高適〕「微祿果ーー」。
（至勞）ことよなきいたはり。〇〔元結〕「能執二勞倹一以成二大業一、故爲二ーー之詩一」。
（塵勞）俗界のつとめ。〇〔耿湋〕「ー事日爲レー」。
（焦勞）思ひをこがして楽じ煩ふ。〇〔梅堯臣〕「降下減レ膳心ーー」。
（前勞）先時に立てたる功勳。〇〔司馬光〕「痛鼎刻二ーーー一」。
（口舌勞）言語の上にて立てたる勳功。〇〔史〕「相如徒以二ーーー一爲レー」。
（汗馬勞）馬に汗せしめたる功勳、即ち戰爭の間に在りて樹てたる勳功のこと。〇〔史〕「今蕭何未三嘗有二ーー之ー一」。
（州郡勞）州郡を治むる骨折り、即ち刺史縣令などの任にあること。〇〔後漢〕「ーーー之職、徒ーレ人耳」。
（薪水勞）薪を採り、又は水を汲む卑しき業の骨折り。〇〔陶潛〕「毎役二ーーー之ー一」。
（人事勞）人間社會の苦しみ。〇〔盧照隣〕「稍覺二眞途遠一、方知二ーーーー一」。
（蠶織勞）まゆを養ひ衣をおる人のいたはり。〇〔詩、疏〕「躬二ーーー之ー一」。
（吐握勞）食する時にあたりてみたび食をはき出し沐する時にあたりて髮をにぎりて士を待つのいたはり。〇〔漢〕「昔周公躬二ーーー之ー一」。
（筋骨勞）身體を役するいたはり。〇〔杜甫〕「寘レ身ーーーー」。
（胼胝勞）手足の甲にひゞあかぎれの切るゝ程のいたはり。〇〔梁〕「不レ憚二ーーー之ー一」。
（駑蹇勞）鈍くして且つ跛なる馬の骨折り、轉じてこれの無能なる皆をもて骨折りをなすにいふ語。〇〔柳宗元〕「庶盡二ーーー之ー一」。
（杼柚勞）機を織るいたはり。〇〔司馬光〕「安知ーーーー」。
（篆刻勞）文字を作るいたはり。〇〔蘇軾〕「兒童ーーーー」。
（鉛槧勞）文章を作るいたはり。〇〔陸游〕「豈遑忘二ーーーー一」。

【勞】ラウ、ロウ。郎到切 [號]
はたらきを謝す、つかれを慰む、なぐさむ、いたはる、ねぎらふ。〇〔楊惲〕「烹レ羊炰レ羔、斗酒自ー」。
（郊勞）城外の野までいで迎へて慰むること。〇〔禮〕「大夫ーー」。
（閒勞）とひなぐさむること。〇〔宋〕「ーーー甚至」。
（加勞）ねぎらひの上にもねぎらひを加ふること。〇〔左〕「ーーー賜二一級一、無二下降一」。
（犒勞）ねぎらひいたわる。〇〔魏〕「持レ節ーー」。
（賜勞）品物を與へてねぎらふ。〇〔魏〕「使者持レ節ーー」。
（逆勞）むかへていたはる。〇〔周〕「ーー二于畿一」。
（迎勞）前に同じ。〇〔後漢〕「錫レ酒ーー」。
（撫勞）なでねぎらふ。〇〔後漢〕「車駕親幸ーー」。
（慰勞）なぐさめねぎらふ。〇〔晉〕「宜レ加二ーー一」。

【勣】ヨク、イキ。余力切 [職]　エツ、エチ。余烈切 [屑]
いたはる、つとむ、(功)。

十一畫

【募】ボ、モ。莫故切 [遇]
廣く求む、招き集む、つのる、まねく、めす、よぶ。〇〔後漢〕「ー下吏民有二氣節一勇猛者上」。
（雇募）やとひ賃を出だしてつのる、又、つのられたる者。〇〔宋〕「改二ーー一爲二招募一」。
（招募）つのる。〇〔後漢〕「ーー猛士」。
（簡募）えらびつのる。〇〔後漢〕「令下過二本郡一ーー上」。
（占募）前に同じ。〇〔吳〕「ーーー兵民一」。
（選募）前に同じ。〇〔宋〕「按試ーーー」。
（點募）前に同じ。〇〔宋〕「所レ至ーーー」。
（勇募）勇氣ありてつのりに應じたる兵士。〇〔北〕「四方ーー」。
（召募）つのる、又、つのられたる兵士。〇〔李華〕「荊韓ーー」。

【勱】バク、マク。末各切 [藥]
はたらく、うごく、(動)。

【勠】リク、ロク。力竹切 [屋]　リウ、ル。力求切 [尤]　レウ。憐蕭切 [蕭]　〔說文〕从レ力翏聲。
戮に通じ作る、力を併す、あはす、かなふ。〇〔書〕「與レ之ーレ力」。

【[illegible]】オウ、ウ。烏侯切 [尤]
足の筋。

【勢】カウ、ゴウ。胡刀切 [豪]
㊀すこやか、(健)。㊁つよし、(強)。
㊂すぐる、(俊・健)。

【勡】ヘウ。匹妙切 [嘯]　〔說文〕从レ刀票聲。
剽に同じ、強ひて取る、奪ふ、おびやかす。〇〔漢〕「ーレ吏」。

【勢】セイ、セ。舒制切 [霽]　一に埶に作る。
㊀いきほひ。
（い）行動の力。〇〔淮〕「各有二其自然之ー一」。
（ろ）制御の權。〇〔史〕「主ー降二乎上一、黨與成二乎下一」。
（は）權力つよきこと、權力ある地位、權力ある者。〇〔戰〕「爲レ慕レー」。
（に）形狀、ありさま。〇〔易〕「地ー坤」。
（ほ）機會、たより。〇〔史〕「羽非レ有二尺寸一、乘レー起二隴畝之中一」。
（へ）形狀勝れたるを、機會利あるを、勝地、好機。〇〔魏〕「今乘レ高據レー、臨二其項背一」。
（と）意氣、氣燄。〇〔史〕「李將軍果ー壯勇」。
㊁外腎、へのこ。〇〔晉〕「盜淫者、割二其ー一」。
（權勢）他人をして己れに服從せしむる力、又、其の官位、又、其の力ある者。〇〔晉〕「ーー者人主之所二獨守一也」。
（逐勢）いきほひのあるところを追ひゆく。〇〔列〕「工追レ術、仕ーー」。
（兩勢）ふたつのいきほひ、又、ふたりいきほひあるもの。〇〔說苑〕「ーー不レ可レ同」。
（鈴勢）引き留むるいきほひ。〇〔淮〕「所レ決レ勝者ーー也」。
（地勢）土地の物を生出する力、又、土地のありさま。〇〔周〕「凡天下之ーー、兩山之間必有レ川」。
（形勢）かたちといきほひと、又、ありさま。〇〔吳〕「曹公新得二表衆一、ーー甚盛」。
（氣勢）いきほひ。〇〔論衡〕「動作巧便、ーーー勇」。
（重勢）おもおもしきいきほひ。〇〔史〕「久居二尊位一、長執二ーー一」。
（事勢）ことのいきほひと、又、ありさま。〇〔漢〕「ーー不二兩大一」。
（位勢）くらゐといきほひと、又、互にくらひ。〇〔魏〕「相國ーー、誠爲二尊貴一」。
（威勢）他をして恐れ憚らしむるいきほひ、又、互にいきほひ。〇〔吳〕「□行二ーー一、所在擾攘」。

（大勢）（い）おほいなるいきはひ、又、大局面のありさま。○〔魏〕「威刑已合、一一以見」。（ろ）おほいなる威權、又、其の地位。○〔晉〕「一一雖レ居、不レ可レ不レ愼」。
（盛勢）さかんなるいきはひ。○〔魏〕「折二其一一一」。
（常勢）つねのありさま。○〔唐〕「一勝一負、兵家之一一」。
（積勢）いきはひをつみかさねて其の量を大きくす、又、つみかさねて其の量大きくなりたるいきはひ。○〔晉〕「一レ一如二彍弩一」。
（聲勢）地位高くしていきはひのつよきこと。○〔劉翹〕「貴レ身而忘レ賤、故一一不レ能レ動」。
（乘勢）前に同じ。○〔南〕「其恬二一一一如レ此」。
（藉勢）己れの地位を利用して威權を振ふことにいふ語。○〔晉〕「一レ一擅權」。
（橫勢）各國連合するありさま、支那戰國の時六國を橫につらねて秦に事ふるより來たる。○〔晉〕「蘇子出而六主合、張儀入而一一成」。
（死勢）死ぬべきありさま。○〔南〕「西南巷有二一一一」。
（豪勢）つよきいきはひ。○〔晉〕「百姓妻有二美色一、「一一因而脅レ之」。
（手勢）手ぶり。○〔北〕「善鼓レ琴以二新聲一一一、京師士子、翕然從學」。
（窄勢）己がいきはひをたのむにいふ語。○〔唐〕「一レ「一凌レ入」。
（挾勢）前に同じ。○〔唐〕「一レ一肆貪」。
（財勢）資產多くしていきはひあること。○〔拾遺記〕「矜二其一一一」。
（富勢）前に同じ。○〔拾遺記〕「雖レ居二一一一、閉レ門絕レ遊」。
（隆勢）權力ある地位に立つこと。○〔劉超〕「一レ一處レ位」。
（激勢）物と衝突しはげまされて一層つよくなりたるいきはひ。○〔劉駰〕「能拔二堅木一轉二重石一者、一一之所レ成也」。
（盈勢）うついきはひ、又、物をうちて意氣の盛んなるをしめすことにもいふ語。○〔阮籍〕「乃怒レ目一一而大言」。
（滔天勢）天にまでもはびこるいきはひ、いきはひの太たしきこと。○〔晉〕「劉石有二一一之一一」。
（掎角勢）一人は鹿の脚を執り一人は鹿の角を執るのありさま、卽ち負けず劣らず相敵するにいふ語。○〔北〕「督二啓北人一爲二河內諸州一、欲レ爲二一一一一」。
（猿臂勢）手長き猿のひぢのありさま、卽ち都合よき時には進み都合あしきときには退くことにいふ語。○〔唐〕「勝則出、敗則守、表裏相應、此一一一也」。
（破竹勢）竹をわるに一たび其の端をわれば刃を迎へて次第にわれゆくより敵を攻め城を取る最初に勝ちたる勢につれて其の後は容易く目的を達することに借りいふ語。○〔元稹〕「賈二餘勇一者、宜レ乘二一一一之一一」。
（騎虎勢）虎にのりてゆけば其の噛むところとなるゆゑに下りたくも已れを得ず其のまゝにてあること、卽ち人の或る事を爲し初めたれば事情のためにかまれて中止する能はずせん方なく仕來たり通りにすることに借りいふ語。○隋「一レ一之一、必不レ得レ下」。
（常山蛇勢）常山の蛇の這ふありさま、物の或は見はれ或は隱れするも其の實聯絡は一貫せることに借りいふ語。○〔晉〕「初諸葛亮造二八陣圖於魚復平沙之上一、壘レ石爲二八行一、相去三丈、溫見レ之謂、此一一一一也」。

【勣】セキ、シャク。則歷切 錫 ―績に通じ用ふ。
㊀いさを、(功)。㊁わざ、(事)。
㊂わざに就く、つとむ。

【勤】キン、ゴン。渠斤切 文 ―懃に通じ作る。
㊀つとむ。
(い)心を用ふ、事に服す、力を勞す、はたらく、いたはる、いそしむ。○〔書〕「克一二于邦一」。
(ろ)情を寄す、難を卹む、勞を慰む、いたはる、たすく、ねんごろにす。○〔國〕「秦人一レ我矣」。
(は)疲勞す、苦艱す、つかる、くるしむ、いたつき、なやむ。○〔揚雄〕「民有二三一一一」。
㊁おこなふ、(行)。○〔禮〕「一二大命一」。
㊂情深篤なること、親切なる心ばせ、ねんごろ。○〔詩〕「恩斯一斯」。
（憂勤）其の事を氣に掛けて力を勞す。○〔詩、序〕「始二於一一一、終二於逸樂一」。
（重勤）かさねてのつとめ。○〔左〕「敢拜二大夫之一一一」。
（殷勤）ねんごろ。○〔漢〕「重賜二文君侍者一、通二一一一」。
（祗勤）まさにつとむ。○〔書〕「小子一一二于德一」。
（農勤）農夫のつとめ。○〔梁簡文帝〕「已修二一一一、則我庾維億」。
（酬勤）力を勞せしことにむくゆ。○〔左〕「爵祿以一レ一」。
（恪勤）つゝしみてつとむ、わき目を振らずして力を盡くす。○〔國〕「朝夕一一、守以二惇德一、奉以二忠信一」。
（勳勤）いさをあり。○〔宋〕「南北多士、一一彌積」。
（勞勤）つとむ、又、つとめ。○〔史〕「一二一一心力耳目一」。
（盡勤）前に同じ。○〔後漢〕「愛憎一一一」。
（精勤）前に同じ、又、精神をつからす。○〔孫逖〕「錄二一一一」。
（功勤）いさをあり、はねをりあり。○〔後漢〕「富二井一一一一從レ之」。
（劬勤）勞勤に同じ。○〔後漢〕「不レ憚二一一一」。
（敬勤）恪勤に同じ。○〔韓愈〕「克自一一一」。
（忠勤）忠義を盡すこと。○〔晉〕「稱爲二一一一」。
（篤勤）ねんごろ。○〔晉〕「自レ非二一一一、不レ能二恣見一也」。
（肆勤）力を入れてつとむ。○〔宋〕「遊食省而一一一、衆則吏作繁」。
（辛勤）からきいたつき。○〔南〕「以二禁旅一一一、求レ爲二閒職一」。
（奉勤）つかふ。○〔逸周書〕「一二一一於商一」。
（愁勤）うれひいたむ。○〔楚辭〕「居二一一一其誰告兮」。
（厄勤）わざはひにていたむ。○〔東征賦〕「念二夫子之一一一」。
（邮勤）あはれみたすく。○〔鮑照〕「秩禮一一一、散二露臺之金一」。
（周勤）物事に行き屆きいたはる。○〔溫庭筠〕「一一體レ物」。
（虔勤）つゝしみつとむ。○〔張方平〕「諒二一一之懇一」。
（夙夜勤）朝ははやく起き夜はおそく寢ねてはねをること。○〔書〕「一一一罔二或不一レ一」。
（乙夜勤）天子の夜更くるまでつとめらるゝことにいふ語。○〔殷文昌〕「有二光武一一一之一一」。
（四方勤）或は將軍となり出でて邊塞を守り、或は地方官となりて州治にはねをること。○〔元稹〕「備二歷一一一之一一」。

【勤】キ、ギ。渠羈切 支
期に同じ、老人の稱。

【勥】キヤウ、ガウ。巨兩切 養 渠良切 陽
㊀せまる、(迫)。㊁おふ、(迫)。
㊂つとめてふせぐ、こばむ、(力拒)。

【勦】サウ、セウ。楚交切 肴 ―說文从レ力巢聲。
㊀讓に同じ、人の說を取りて己れの說となす、さる。○〔禮〕「毋二一一說一」。
㊁さし、ばやし、(輕捷)。○〔韓愈〕「稟生肖二一剛一」。
㊂其の勞を慰む、いたはる、ねぎらふ。○〔左〕「其以一レ民」。

【勦】サウ、セウ。楚敎切 效
强ひて取る、おびやかす、かすむ。○〔韋懿〕「不レ奪二農事一、不レ一二人力一」。

【勦】セウ。子小切 篠
㊀ころす、(殺)。㊁たつ、(斷)、きる、(截)。

【⿰啇力】
敵に同じ。○〔十六國春秋〕「一日縱レ一、悔將何及」。

十二畫

【⿱棘力】リヨク、リキ。林直切 職
棘に同じ、いばら、おごろ。

【⿱棘力】ケキ、キヤク。訖逆切 陌
あらそふ、(棘力)。

【⿱⺮⿰合力】タウ、テウ。竹洽切 洽
つとむ、(勤)、はげむ、(勵)。

【⿰禾幼】イウ、ウ。於尤切 尤
やはらぐ、やはらか、(軟)。

【⿰力典】テン、デン。多殄切 銑
おされる貌にいふ字、おさる、(劣)。

【勨】ヤウ。余兩切　ヤウ、ザウ。徐兩切　〔養〕
㊀ゆるやか(緩)。㊁つとむ(勉)。
㊂うごく、はたらく(動)。

【⿸厥力】ケツ、ゴチ。渠月切　〔月〕　一に𠢕に作る。
せまる、おふ(迫)。

【勩】エイ。以制切　〔霽〕　イ。以至切
シ、ジ。神至切　〔寘〕
いたはる、つかる(勞)、くるしむ(苦)。
○〔詩〕「莫レ知ニ我勩ー一」。

【勪】キヤク、ガク。極虐切　〔藥〕
蹻に同じ、足を擧げて行くを高したかあしにありく。

【⿰絕力】セツ、セチ。子悅切　〔屑〕
物を斷つ、たつ、きる。

【⿰絜力】ケツ、ケチ。䫄劣切　〔屑〕
ひく(拽)。

【勫】ヘン、ハン。方煩切　〔元〕
すこやか(健)。

【⿱敝力】ヒ、ビ。平祕切　〔寘〕　或は省きて㔽に作る。
㊀さしはさむ(挾)。㊁さかんなり(壯)。

【勬】ケン。居倦切　〔霰〕　キン。居員切　〔先〕
㊀つとむ(勸)。
㊁つよし、すこやかなり(强-健)。

【勭】トウ、ヅ。徒東切　〔東〕
丁年に達す、八さ成る、おさなぶ。

【勭】トウ、ヅ。杜孔切　〔董〕
おこる、おこす、なす(作)。

【⿱敕力】セイ、シヤウ。照井切　〔梗〕
ねがひ、ねがふ(願)。

【勠】リク、ロク。呂竹切　〔屋〕
勠に同じ、力をあはす。

十三畫

【勷】ヤウ。羊兩切　シヤウ、ザウ。徐兩切　〔養〕
つとむ(勉)。

【勮】キヨ、コ。其據切　リヨ、ロ。良據切　〔御〕
㊀つとむ(務)。㊂おそる(懼)。
㊁こし、すみやか(疾)。㊃うごく(動)。

【勯】タン。多寒切　〔寒〕
力竭く、つく。○〔呂氏春秋〕「烏-獲引ニ牛-尾一、絕、力勯而牛不レ行」。

【⿱禁力】キン、ゴン。巨禁切　〔沁〕
力を用ふ、つとむ、はげむ。

【勰】ケフ、ゲフ。胡頰切　〔葉〕　説文　从レ劦从レ思。
意思和合す、やはらぐ、あふ。

【勱】バイ、メ。莫話切　〔卦〕
つとむ、はげむ(勉力)。○〔書〕「用勱ニ相我國-家一」。

【⿱解力】カイ、ケ。口懈切　〔卦〕
㊀つかる、又、つかれ(疲)。
㊁懈に同じ、おこたる。

【⿰嗇力】ショク、シキ。殺測切　〔職〕
たすく、たすけ(助)。

【⿰爲力】ヤウ、以兩切　〔養〕
つとむ(勉)。

十四畫

【勳】クン、コン。許云切　〔文〕　説文　从レ力熏聲。
王事國務に盡くしゝ功勞、いさを、いさをし。○〔禮〕「成-王以ニ周-公一爲レ有ニ勳勞於天-下一」。

〔司勳〕むかし功勞を調ぶることを司れる役の名。○
〔周〕「夏-官司ー、掌ニ六-卿賞-地之法一」。
〔舊勳〕ふるきいさを。○〔左〕「我襄-公未レ忘ニ君之
ーー一」。
〔前勳〕前に同じ。○〔左〕「追ニ念ーー一」。
〔功勳〕てがら。○〔晉〕「敬ニ宣ーー一」。
〔元勳〕國家創造の際に功勞ありし者、又、大いなる
てがら。○〔梁簡文帝〕「校-尉立ニーー一」。
〔盛勳〕さかんなるいさを。○〔阮籍〕「元-功ーー」。
〔茂勳〕前に同じ。○〔晉〕「ーー格ニ於皇-天一」。
〔奇勳〕めづらしきいさを。○〔李白〕「麟-閣著ニー・
ー一」。　「ーー一」。
〔華勳〕立派なるてがら。○〔孟郊〕「然後致ニー・
〔大勳〕非常なるてがら。○〔書〕「ーー未レ集」。
〔洪勳〕前に同じ。○〔宋〕「ーー盛-烈」。
〔濟勳〕功を奏すること。○〔魏氏春秋〕「任レ德ーレー、
如レ彼之難」。
〔著勳〕てがらを立つ。○〔晉〕「ーニー西-夏一」。
〔立勳〕前に同じ。○〔晉〕「佐レ命ーレー」。
〔垂勳〕、てがらを後の世にまでものこす。○〔馮籍〕
「竹帛ーレー」。
〔重勳〕かろからぬ功績。○〔宋〕「殊-績ーー」。
〔積勳〕功をつみかさぬ。○〔晉〕「ーレー累レ功」。
〔殊勳〕特に秀でたる功勞。○〔李德林〕「立ニーー
于魏-室一」。　「之高-下一」。
〔策勳〕功勞の上下の順序を立つ。○〔唐〕「蔵一ーニー
〔堯勳〕古の堯帝の樹てたるにも比べつべき大いなる
功勞。○〔宋〕「永輔ーー一」。

〔虞勳〕古の舜帝の樹てたるにも比べつべき大いなる
いさを。○〔宋〕「既纘ニーー一」。
〔國勳〕國家のために樹てたる重大なるいさを。○
〔魏〕「職多不レ論ニーー一」。
〔光勳〕かゞやくいさを。○〔馮衍〕「昭ニ往昔之ー・
ー一」。　「々無レ疆」。
〔休勳〕善美なるいさを。○〔班固〕「ーー顯-祥、永-
〔懋勳〕前時に樹てたるいさを。○〔陸機〕「知ニーー
之可レ矜」。　「野一」。
〔榮勳〕名譽あるいさを。○〔陸雲〕「流ニーー于朝-
〔邁勳〕勝れ出でたるいさを。○〔潘岳〕其在于漢
ーー一」。　「不レ足以ー其ー一」。
〔顯勳〕いさをの高きことを書き付く。○〔郭璞〕「五-嶽
〔筆勳〕筆もて書き載することのいさを。○〔成公綏〕
「皆是ー之ー、入日用而不レ窮」。　「都ー・ー」。
〔名勳〕世にすぐれて評判高きいさを。○〔江淹〕「東-
〔刻勳〕功勞のあることを物に彫りつく。○〔王褒〕「封レ
山刊レ石、鐫レ銘ーレー」。　「敬ニ答ーー一」。
〔忠勳〕公上のために功を盡くせるいさを。○〔徐陵〕
〔樹勳〕功勞を立つ。○〔杜甫〕「將-軍ーレー　起ニ安-
西一」。　「簡-策一、ーニー戈-鉞一」。
〔篆勳〕いさををを物にきりつく。○〔許敬宗〕「凝ニ徽
〔邀勳〕ことさらに功を立てんとむかへもとむ。○
〔王維〕「單-車曾出レ塞、報レ國敢ーレー」。　「ー」。
〔効勳〕功勞を上にいたす。○〔陸賈〕「聖-應レ天而ーレ
〔聖勳〕ひじりのたてたるいさを。○〔于邵〕「纘レ武
繼-文、時惟ーー」。　「光ニ旅臺-階一」。
〔碩勳〕大いなるいさを。○〔韓雲卿〕「恢ニ張ーー一、
〔儒勳〕道德をもて人を導く學者のいさを。○〔殷文
圭〕「史-官調レ筆待ニーー一」。　「ーー」。
〔光祿勳〕漢の時代の官名。○〔漢〕「郎-中-令爲ニー
〔塞丁勳〕邊塞の戰爭にて立てたる功勞。○〔孟浩
然〕「而無ニーー・ー一」。　「ーー」。
〔翼贊勳〕帝王を輔けたる功績　○〔蘇軾〕「三-朝ー
〔方面勳〕一面の敵を引受けたるいさを。○〔後漢〕
「故復少ーーー之ー一」。　「親則君有ニーーー之ー一」。
〔輔弼勳〕君を佐けて國を治めしいさを。○〔魏〕「以
〔佐命勳〕君を助けて天下を取らしめたるいさを。○
〔晉〕「以ニーーー之ー一、進-號ニ　軍-將-軍一」。　「輔一」。
〔匡佐勳〕前に同じ。○〔晉〕「ーーー之ー、朕所ニ倚-
〔文武勳〕諸政を施し戰ひを爲すのいさを。○〔蔡邕〕
昭-公ーー之ー一藹」。　「副ニ哉ーーー之ー一」。
〔巍々勳〕高大なるいさを。○〔魏〕「前所ニ賞-陟一、未

(不朽勳) 後の世までも磨滅せざるいさを。○[鄭丞]「成ニ諸侯一一之一」。
(蕩寇勳) 所領内に入りて寇を動く兵を討ち拂へるいさを。○[李商隱]「誰定常-時一レ一」。
(夾輔勳) 幼君を輔へたすけたるいさを ○[沈約]「圖ニ一一之一」。
(累葉勳) 父祖の代より世々樹て來たりたるいさを。○[元明善]「忠-蹇-王襃ニ一一之一」。
(翰墨勳) 文筆の上にて樹てたるいさを。○[楊載]「果拔ニ英-警頴一、遂收ニ一一一」。
(一擧勳) 一たび手を下して收め得たるいさを。○[王粲]「率ニ彼東南路一、將レ定ニ一一一」。

【[illegible]】 コン。孔忖切 [阮]
しきみ、(門-限)。

十五畫

【勴】 リヨ、ロ。良據切 [御]
心を以て助く、たすく、つとむ。

【⿰畾力】 ライ、レ。盧對切 [隊]
㊀おす、(推)。㊁いだく、(懷)。

【⿰畾力】 ル非。倫追切 [支]
㊀前條の㊀に同じ。㊁つとむ、(勉)。

【[illegible]】 シン。思沈切 [沁]
前條に同じ。

【⿰罷力】 ハイ、ベ。薄蟹切 [蟹]
㊀つかる、(疲)。㊁いかる、(怒)。

【勵】 レイ。力制切 [霽] 厲に通じ用ふ。
㊀氣力を振ひ興こす、奮ひて勉力す、つとむ、はげむ。○[唐]「賦レ詩以警-一」。㊁勉力せしむ、振興せしむ、はげます、すゝむ。○[後漢]「獎ニ一一吏-兵一」。

(督勵) 惡をたゞして善をはげます。○[書、疏]「陳ニ忠-孝之義一以一ニ一之一」。
(糾勵) 前に同じ。○[魏]「循レ名考レ實、一ニ一成-規一」。
(飭勵) いましめはげむ。○[漢]「親自一一」。
(精勵) はげむ。○[後漢]「學-習一一」。
(慰勵) 失望したる などをなぐさめはげます。○[魏]「盛呼ニ所レ從人一、喩以ニ成-敗一、一一懇-切」。
(改勵) 以前の行をかへはげみて善にすゝむ。○[晉]「慨-然有ニ一一之志一」。
(矯勵) あしきことをためなほしはげむ。○[晉]「雖ニ嘗自一一、而輒復縱-逸」。
(誡勵) いましめはげます、又、いましめはげむ。○[晉]「數一一」。
(勤勵) つとめはげみて力を盡くす、又、他をして斯くなさしむ。○[南]「夙-夜一一、政-績甚美」。
(率勵) 自からさきだちて他をひきゐはげます。○[北]「一ニ一鄉-人一」。
(綏勵) 安堵させさせはげます。○[唐]「一ニ一士-卒一」。
(激勵) 或る事に感じてはげむ、又、他をして斯くなさしむ。○[唐]「宋璟等一一」。
(貶勵) 己れは人より劣りたるものなりと思ひ力を盡くす。○[唐]「痛自一一」。
(警勵) 自らいましめはげむ、又、人をいましめはげます。○[茅亭客話]「一ニ一流-俗一」。
(策勵) 怠らざるやうむちうちはげます、又、むちうちはげむ。○[鑑子見]「夜-々一一」。
(剋勵) 己れの慾にかち事をなすに怠らず。○[顏氏家訓]「不レ能ニ一一一」。
(振勵) 志をふるひ行ひをはげむ、又、他をして斯くなさしむ。○[名臣錄]「益自一一」。
(奮勵) 前に同じ。○[傳粹]「一ニ鋒-穎一、一ニ羽-翼一」。
(恪勵) つゝしみて怠らず。○[劉崇]「一一無レ替」。

【[illegible]】 カク、キヤク。珂伯切 [陌]
つとめなす、はたらく、(勤-作)。

【⿰養力】 ヤウ。以兩切 [養]
すゝむ、(勸)。

【⿰徹力】 テツ、テチ。諸列切 [屑] 撤、徹に通じ用ふ。
㊀すつ、さる、(去)。㊁おこす、おこる、(發)。㊂こほる、こほす、(通)。

【[illegible]】 ケン、ゴン。渠眷切 [霰]
くつのぬひめ、(靴-縫)。

【[illegible]】 リヨ、ロ。良倨切 [御]
たすく、(助)。

【[illegible]】
勳に同じ。

十六畫

【[illegible]】 リヨ、良據切 [御] ロ、龍都切 [虞]
㊀たすく、(助)。㊁つとむ、(勉)。

【[illegible]】 キヤウ、ガウ。渠良切 [陽]
せまる、(迫)。

【勥】 キヤウ、ガウ。巨兩切 [養]
おふ、(迫)。

十七畫

【[illegible]】 サン、セン。初銜切 [咸]
抜き取る、とる、(抄)。

【勷】 ジヤウ、ナウ。如羊切 [陽]
㊀走る貌にいふ字、はしる。㊁せまる、(迫)。

【勸】 ケン、クワン。去願切 [願] 說文 从レ力 雚聲。
すゝむ、つとむ。
(い)勉め行はしむ、勵み爲さしむ、はげます、又、たすく、(助)。○[左]「懲レ惡一レ善」。
(ろ)善に赴かしむ、道に進ましむ、又、をしふ、(教)。○[書]「一レ之以ニ九-歌一」。
(は)勵みて爲す、勉めて行ふ。○[戰]「荊-王大悅、救レ許甚一」。
(に)善に赴く、教に從ふ、志たがふ。○[禮]「不レ賞而民一」。

(競勸) 先を爭ひてはげみなす。○[左]「軍師彊-禦、卒-乘一一」。
(戒勸) いましめはげます。○[詩、序]「作ニ是詩一以一ニ一之一」。
(沮勸) 惡をとゞめ善をすゝむ。○[左]「賞-罰無レ章、何以一-一」。
(勉勸) つとめすゝむ。○[漢]「一ニ一農-桑一」。
(勑勸) 前に前じ。○[漢]「一ニ一耕-桑一」。
(彊勸) 前に同じ。○[漢]「吾本不レ欲レ來、諸-生一一、我覺爲ニ豎-子所一レ辱」。
(勤勸) 前に同じ。○[魏]「研ニ開荒-萊一、一ニ一百-姓一」。
(諫勸) いさめて善に赴かしむ。○[漢]「因ニ天-變一而切一一一」。
(曉勸) 說きさとしてすゝむ。○[後漢]「援又爲レ書、田ニ譚將楊-廣一、使レ一ニ一于囂一」。
(諷勸) それとはなしにさとしすゝむ。○[後漢]「造ニ構文辭一、終以一一一」。
(悅勸) よろこびしたがふ。○[晉]「四-海一一」。
(督勸) たゞしすゝむ。○[晉]「一一開レ荒五-千餘-頃」。
(禁勸) 前に同じ。○[魏]「一一各有レ所レ宜」。
(獎勸) すゝめてなさしむ。○[北]「一ニ一文-學一」。
(誘勸) いざなひをしふ。○[唐]「一ニ一後-生一」。
(激勸) はげむ、又、はげます。○[柳宗元]「褒レ寵勸-賢、一一之方也」。
(務勸) つとめはげみて事を爲す。○[荀子]「生者一一一」。
(褒勸) ほめはげます。○[文心雕龍]「能盡ニ一一脊-飭之意一」。
(率勸) ひきゐすゝむ。○[黃瓊]「一ニ一農-功一」。
(開勸) 智をひらき道にすゝむ。○[沈約]「一一一之功」。
(除勸) さとしすゝむ。○[元稹]「或有ニ能相一一、翻-然改レ圖」。
(敎勸) をしふ。○[李翺]「不レ在ニ于一一一」。
([illegible]勸) 他の心を向かはしはげます。○[蘇軾]「以爲ニ一一之具一」。
(勞勸) はねおりはげむ。○[杜甫]「杜-酒偏一一」。
(講勸) 學問道德を說き聞かせて敎ふ。○[宋祁]「吾侍レ上一一凡十-七年」。
(風勸) なびかししたがはしむ。○[呂陶]「一ニ一四方一」。
([illegible]勸) 前に同じ。○[梁武帝]「因茲一一」。

十九畫

【[illegible]】レン。力董切 [銑]
劣る貌にいふ字、おとる。

廿三畫

【勴】リョ、ロ。良據切 [御]
㊀たすく（助）、㊁みちびく（導）。

勹部

【勹】ハウ、ヘウ。布交切 [肴] 〔説文〕象二人曲形有レ所二包裹一。
つゝむ（裹）。

一畫

【勺】シャク、ジャク。時灼切 [藥] 〔説文〕象形中有レ實。
㊀酌に通じ用ふ、挹み取る、くむ。○〔漢〕「—二椒-漿一」。
㊁杓に同じ、酒をくむに用ふる器、ひさご、さかづき。○〔禮〕「—-觶角-柶」。
㊂ひさごにてくみたる量、轉じて物の分量の少なき義にもいふ字、すくなし。○〔禮〕「今夫水一—-—之多」。
㊃周公旦の創作せし音樂の名。○〔儀禮〕「舞則—」。
〔觴勺〕さかづき、ひさご。○〔說苑〕「—-—有レ彩」。
〔蠡勺〕前に同じ。○〔黃滔〕「蝸海蠡二—-—一」。
〔升勺〕ますとひさごと、又、物の量にも借り用ふる語。○〔元好問〕「金粟論二—-—一」。
〔圭勺〕圭をもてこしらへたる爵、天子より有爵の者に錫ひたるもの、轉じて榮名のあらはるゝの義に借り用ふる語。○〔王禹偁〕「功-業無二—-—一」。

二畫

【勻】イン。羊倫切 [眞] 〔説文〕从勹从二。
㊀すくなし（少）。○〔薩都剌〕「風-湖-面平」。
㊁とゝのふ（齊）。○〔杜甫〕「肌-理細-膩骨-肉—」。
㊂ひとし（均）。○〔白居易〕「頭比二蕭-翁一白未レ—」。
㊃あまねし（徧）。○〔方孝孺〕「雨初歇、而香—」。

【匀】キン。規倫切 [眞]
均に同じ。

【勼】キウ、居求切 [尤] 或は九に作り、今、鳩に作る。
㊀あつむ（聚）。○〔莊〕「—二雜天-下之川一」。
㊁さく（解）。

【勽】ブン、武粉切 [吻] モン。切　ハウ、ボウ。薄皓切 [皓]
おほふ（覆）。

【[illegible]】ハウ、ヘウ。必教切 [效]
鳥の卵をいだくにいふ字、かひこあたゝむ。

【勾】コウ、古侯切 [尤] ク。古候切 [宥]
句に同じ。

【勿】ブツ、モチ。文拂切 [物]
㊀禁じ止むる意を表はす字、不可の義、あらず、なし、なかれ。○〔論〕「過則—レ憚レ改」。
㊁古昔、州里にて事變に際し人民を聚むる時に用ひたる信號旗、其の半幅は色を異にしたりといふ。○〔禮〕「九-旗雜-帛爲レ—」。
㊂にはか（遽）。○〔陸機〕「—-—少レ暇」。
㊃いつくしむ（愛）、又、つとむ（勉）。○〔禮〕「—-—-乎其欲二其饗一之也」。
〔四勿〕孔子の顏回に敎へたる非禮なる事は視るなかれ聽くなかれ言ふなかれ動くなかれとの戒。○〔朱熹〕「顏-生躬二—-—一」。
〔密勿〕君上に近づくこと、又、臺閣の顯職、又、樞要の政務の義にもいふ語。○〔魏〕「與二聞政事一、—-—大-臣寧有二懇-々憂一此者一乎」。

【[illegible]】ボツ、モチ。莫勃切 [月]
塵を去る、はらふ（拂）。○〔禮〕「—-—驅塵不レ出レ軌」。

三畫

【匃】カツ、カチ。古達切 [曷] カイ、居大切 [泰]、一に丐に作る。
㊀もとむ（求）、こふ（乞）。○〔漢〕「乞—無レ所レ得」。
㊁あたふ（與）。○〔漢〕「我—二若馬一」。

【匄】前に同じ。○〔漢〕「—以啓告レ朕」。

【包】ハウ、ヘウ。布交切 [肴] 〔説文〕象二人裹妊巳在レ中、象二子未レ成形一也。
㊀はらごもる、はらごもり（孕）。○〔路史〕「子者字之始、而已者—之始也」。
㊁いる（容）。○〔易〕「九二—レ荒」。
㊂つゝむ（裹）。○〔禮〕「倒二載干-戈一、—以二虎-皮一」。
㊃をさむ（藏）、ふくむ（含）。○〔後漢〕「潛—二禍-心一」。
㊄とる（取）。○〔漢〕「—レ漢擧レ信」。
㊅かぬ（兼）。○〔拾遺記〕「—二含萬-象一」。
㊆つと、つゝみ。○〔韓愈〕「橘-柚之—、竹-箭之美」。
㊇あつまりはゆ（叢-生）、おひしげる（豐茂）。○〔書〕「草-木漸—」。
㊈庖に同じ、くりや。○〔易〕「—有レ魚」。
㊉匏に同じ、ふくべ。○〔陸游〕「打レ—僧趂寺-樓鐘」。
〔總包〕すべて兼ね合はす。○〔易、疏〕「乾-坤—二—六-爻一」。
〔兼包〕前に同じ。○〔禮、註〕「孔-子—二—堯、舜、文、武之盛-德一」。「體」。
〔並包〕前に同じ。○〔皇極經世〕「—-—含容之謂」。
〔荷包〕荷物につゝみいる、又、雁に荷物、つゝみ。○〔高啓〕「小舟送レ餉—-—レ飯」。
〔潛包〕かくし持つ。○〔後漢〕「—二—禍-謀一」。
〔含包〕ふくみつゝむ。○〔後漢〕「—-—元-—」。
〔緘包〕つゝむ。○〔歐陽修〕「從-嫂三-四勤—-—」。
〔潛包〕かくし懷く。〔後漢〕「—二—納-謀一」。
〔浸包〕をかし合はす。○〔遼〕「—二—長-城之境一」。
〔牢包〕かたくつゝみて外に發せず。○〔王安石〕「深-藏—-—三-十年」。

【[illegible]】クワツ、クワチ。各末切 [曷]
もとむ（求）。

【[illegible]】シャク。照削切 [藥]
㊀ひとし（均）。㊁とゝのふ（齊）。

四畫

【匈】キョ、許用切 [宋] ウク。切　許容切 [冬] 〔説文〕从勹凶聲。
㊀胸に同じ、むね。○〔漢〕「其於二—中一曾不二蔕-芥一」。
㊁騷擾して業に安んぜざる貌にいふ字、みだる、さわぐ。○〔漢〕「天下—-—」。
㊂讙しく議論する聲にいふ字、かまびすし。○〔荀〕「君-子不下爲二小-人之—-—一而輟中其行上」。
〔擅匈〕和げる氣の心に積めるにいふ語。○〔管〕「平-正—-—」。

【[illegible]】アウ、エウ。於交切 [肴]
目の窪みし貌にいふ字、ゐどめ。

五畫

【[illegible]】ハウ、ヘウ。布交切 [肴]
ころも（衣）。

【匉】ハウ、ヒヤウ。普耕切 庚
大いなる聲。

六畫

【𠣘】シウ、シュ。之由切 尤
周に通じ用ふ。あまねし。

【匊】キク、居六切 コク。屋 ―或は掬に作る。
㊀兩の手。一の手。又、手の中。たなごころ(掌)。〇[詩]「椒聊之實蕃衍盈レ匊」。
㊁物を手の中に入る、すくふ、にぎる、むすぶ、つかむ(握)。〇[賈島]「虬龍一匊波」。

【匋】タウ、徒刀切 ドウ。豪 ―今、陶に作る。
㊀すゑもの(陶器)。㊁陶器を製す、すゑものをつくる。㊂やしなふ(養)。

【𠣛】エウ。餘韶切 蕭
窯に同じ、陶器を製するに用ふるかま、かはらくど。

【匌】カフ、コフ。公合切 合
㊀めぐる(周)。㊁あふ、あはす(合)。㊂かさなる(重疊)。〇[木華]「磊匒匌而相豗」。㊃氣むすぼる、いきごもる、ふさぐ。〇[杜甫]「蓊匌川氣黃」。

七畫

【𠣫】古文の軍の字。

【匍】ホ、ブ。步乎切 虞 フ、ホ。馮無切 虞 ―説文 从勹甫聲。
―匐は、はらばふ。
(い)手を地に著けて行く、はふ。〇[詩]「誕實匍匐」。
(ろ)倒れ蹶く、地に伏す、ふす、つまづく。〇[王僧孺]「顚匍可レ俟」。
(は)いそぎ趨りて力を盡くすにいふ字。〇[詩]「匍匐救レ之」。

【𠣞】シュン。七倫切 眞
㊀伏し退く、ゐざる。㊁やむ、とゞまる(止)。

【𠣟】クワイ、口怪切 ケ。卦 ―或は欳、喟に作る。
㊀おほいき、ためいき(太息)。㊁なげく、なげき(歎息)。

八畫

【𠣺】アフ、オフ。烏合切 合
奢侈ならず、おごらず、つゞまやか。

【𠣸】シュン、須倫切 ジュン。眞 先尹切 軫
或は惸に作る、おどろく(驚)。

【𠤀】セウ、ゼウ。時召切 嘯
かぎ(鉤)。

九畫

【𠤅】キク、丘六切 コク。キョク、渠六切 ゴク。屋
背を曲ぐ、かゞむ、くゞせ。

【𠤃】クワイ、ケ。苦怪切 卦
蒯に同じ、草の一種。

【𠤄】ト、ツ。旦烏切 麌
伏して行く、はらばふ。

【匏】ハウ、薄交切 ベウ。肴 ―説文 从レ夸包聲。
㊀瓜の屬、其の實頸短く腹大きく肉食ふべし、乾かして其の中を空にし器となす、或は水漿を入るゝに用ひ、或は腰に著けて水を泳ぐに用ひ、又、用ひて飲器(さかづき)となす、ひさご、ふくべ。〇[詩]「匏有二苦葉一」。
㊁笙竽の稱、笙に十三簧あり竽に三十六簧ありて皆管を匏の內につられ簧を管の端に施せるよりいふ。〇[王褒]「不周之竹、曾城之匏」。
(陶匏) 酒を酌むに用ふるもの、さかづき。〇[宋]「相二我熙事一、酌以二陶匏一」。
(弦匏) 器の名、樂を奏するときに用ふるもの。〇[歸子]「夫忘二弦匏一、然後知二樂之道一」。
(繫匏) 棚にかゝれるふくべのこと、轉じてふくべの棚にかゝりて爲すことなきが如く事をないづることもなく徒に日を過ごせるにいふ語。〇[薛能]「三載從レ戎類二繫匏一」。
(苦匏) ひさごのこと、其の葉の味にがきが故にいふ。
(匏瓠) 大根とひさごと、又、粗食の義に借り用ふる語。〇[唐]「夕食惟匏瓠而已」。
(金匏) 樂を奏するときに用ふる器、卽ち鐘、笙などの類。〇[王融]「㮣俏陳レ階、金匏在レ席」。
(青匏) あをき色をなせるひさご。〇[朱慶 荒蔓露二青匏一」。
(匏瓠) 樂器の名。〇[揚雄]「日落二海門一吹二匏瓠一」。
(無口匏) 口のつきてをらざるひさご、卽ち人の言葉すくなくしてよく爲すことなきものにいふ語。〇[宋]「外-議以二大-兄一爲二無口匏一」。

【匐】ホク、蒲北切 ボク。職 步木切 屋 ―説文 从勹畐聲。
地に伏す、はらばふ。
(匍匐) (い)手を地に著けて行く、又、地に伏す。〇[元稹]「蹣跚成雨匍匐」。
(ろ)あわていそぎて力を盡くすにいふ語。〇孟二「匍匐往救レ之」。「匍匐道路」
(扶匐) 前の(い)に同じ。〇[稽]「夜著二青衣一、扶匐」

十畫

【匔】キク、丘六切 コク。屋 キウ、居雄切 東
或は躬に作る、謹み敬ふ意を表する貌にいふ字、又、背を曲ぐ、かゞむ。

【𠤕】アフ、オフ。烏合切 合
或は鬠に作る、髻の飾り物、かみかざり。〇[杜甫]「翠爲二匐葉一垂二鬢脣一」。

【𠤔】ホク、ボク。蒲北切 職
匐に同じ。

【𠤓】フ、ボ。符遇切 遇
ふす(伏)。

【匒】タフ、トフ。德合切 合
かさなる貌にいふ字。〇[木華]「磊匒匌而相豗」。

十一畫

【𠤗】ロ、ル。郎古切 麌
地に伏す、はらばふ。

【𠤘】イヨ、オ。依倨切 御
あく(飽)、いとふ(厭)、おもに祭祀にいふ字。

【𠤙】キウ、ク。居又切 宥
㊀あく(飽)。㊁いとふ(厭)。㊂はかる(謀)。

十二畫

【𠤝】フウ、扶富切 フ。宥 フク。扶福切 屋
今、復に作る、かさなる、かさぬ、又、かさねて、また。

【復】ホク。匹北切　職
はらばふ。

【匔】キウ、居祐切　宥　イヨ、依據切　御
ク。　　　　　　　オ。
あく、（飽）。

【勬】ゼン、ネン。日延切　先
犬の肉。

十四畫

【匑】キク、コク。丘六切　屋
背を曲ぐ、かゞむ。

【匑】キウ、ク。丘弓切　東
つゝしむ、（謹）、又、うやまふ、（敬）。○〔史〕「ーー如レ畏然」。

十五畫

【匔】キウ、グ。巨弓切　東
謹み敬ふ貌にいふ字。

匕部

【匕】ヒ。卑履切　紙
㊀ならぶ、（比、敍）。
㊁飯又は鼎肉を載せ取るに用ふる具、さじ、かひ、（匙）。○〔詩〕「有ニ捄棘ーー」。
㊂やじり、（矢鏃）。○〔左〕「ー入者三寸」。
〔矢匕〕蜀の先主の故事より驚愕することに借りいふ語。○〔蜀〕曹公從容謂ニ先主ニ曰、今天下英雄惟使君與レ操耳、本初之徒不レ足レ數也、先主方食ーニーー箸ニ。
〔食匕〕飲食するに用ふるさじ。○〔劉弇〕「ーー驚ニ浮世ニ」。「神丹ニ」。
〔玉匕〕たまにて作りたるさじ。○〔翰苑〕「ーー合ニ

二畫

【化】クワ、呼覇切　禡　ケ。　呼瓜切　麻
㊀生育す、死滅す、見出す、消盡す。○〔中〕「天地之ー育」。「言レー」。○
㊁生滅消長の道。○〔呂氏春秋〕「可ニ與〔巾〕
㊂徳おのづと人を導く、行おのづと人を感ず。○〔禮〕「ーレ民成レ俗」。
㊃告げて心を同さしむ、諭して行を改めしむ。○〔書〕「ーニ誘我友邦君ニ」。
㊄導かれ移る、感じ倣ふ、聽き從ふ。○〔老〕「無爲而ー」。
㊅其の然る所以を講ぜずして移す、又、從ひ變ぜしむ。○〔禮〕「人ーレ物」。
㊆其の然る所以を知らずして移る、又、從ひ變ず。○〔中〕「變則ー」。
㊇全く變改す、あらたむ、あらたまる、かふ、かはる。○〔莊〕「腐果ー爲ニ新奇ニ」。
㊈貿易す、とりかふ、うりかひす。○〔易〕「遷ニ有無ーーレ居」。
㊉異類のものに變ず、ばかす、ばく。○〔禮〕「鷹ー爲レ鳩」。
⑪徳敎、訓諭、又、風俗、習慣。○〔人物志〕「國有ニ俗ーー」。
⑫變轉常なきこと。○〔國〕「勝敗若レー」。
⑬天年を竟へて死ぬ。○〔莊〕「其死也物ーー」。
⑭行き過ぎて無禮なること（齊人の語）。○〔公羊〕「寔來ーレ我也」。
⑮訛に同じ、なまり、あやまり。○〔史〕「其人逢倍ーー言」。
⑯幻術、てづま。○〔列〕「西極之國有ニー人ニ」。
⑰道士の居室。○〔玉篇〕「蜀有ニ文昌二十四ーーニ」。「ー」。
〔變化〕（い）かはる、又、かふること。○〔易〕「乾道ーー」
（ろ）ばく、又、ばけもの。○〔拾遺記〕「其人能機ニ巧ーー、異形改眼、大則興レ雲起レ霧、小則入ニ于纖毫之中ニ」。「ー也」。
〔敎化〕上より下ををしへ導くこと。○〔禮〕「禮之ーー」。
〔改化〕既往をあらためて上の敎に從ふこと。○〔史〕「黔首ーー」。
〔洪化〕徳政を布くこと、又、其の普及することの敬稱。○〔晉〕「元首敷ニーー」。「槃」。
〔羽化〕（い）羽翼の生ずること。○〔搜神記〕「ーー爲レ
（ろ）仙人となること。○〔晉〕「偏遊ニ名山ー、後莫レ測ニ所レ終、皆謂ニ之ーーニ」。「ーーニ」。
〔心化〕心をもて心に傳へをしふる義。○〔南〕「稱爲ニ
〔胎化〕とばらのなかよりうまる、卵よりうまるゝに對していふ。○〔相鶴經〕「ーー而產」。
〔轉化〕うつりかはる。○〔淮〕「ーー推移」。
〔文化〕（い）威力刑罰を用ひずして他をさとし導くこと。○〔說苑〕「ーー不レ改、然後加レ誅」。「略」。
（ろ）學問の進歩すること。○〔王逢〕「ーー有レ餘戎事
〔濡化〕仁德にうるほひ導かるゝこと。○〔揚雄〕「被レ風ーレー」。「ーニ」。
〔初化〕はじめて生ずること。○〔陸機〕「覽ニ天極之ーー
〔坐化〕すわりしまゝ往生すること。○〔夷堅志〕「留飮數杯、謂ニ明ーーニ」。「德ニ」。
〔弘化〕ひろく德をしくこと。○〔褚遂良〕「ーー諧
〔慕化〕其の德をしたひ其の敎へに從ふこと。○〔晉、傳〕「四夷ーー、貢ニ其方賄ニ」。
〔火化〕（い）火をもて物を烹る。○〔禮〕「昔先王未レ有ニーー、食ニ草木之實、鳥獸之肉ニ」。
（ろ）蟆の一名。○〔中華古今注〕「飛蛾善拂レ燈、一名ニーーニ」。
〔百化〕くさぐさにかはること、又、其の物。○〔禮〕「鼓レ之以ニ雷霆ー、奮レ之以ニ風雨ー、動レ之以ニ四時ー、煖レ之以ニ日月ー、而ーー興」。
〔上化〕耕作すること。○〔周〕「掌ニーー之法ニ」。
〔敦化〕まめまめしくなること、まめまめしくなるやうにをしふること、又、篤厚なるをしへ。○〔禮〕「小德川流、大德ーー」。
〔淳化〕まがりたる心のなくなること、斯くをしふること、すなほなるをしへ。○〔史〕「ーニー鳥獸蟲蛾ニ」。
〔善化〕惡をあらため善にうつる、又、志かなす。○〔史〕「ーニー男女ニ」。
〔弱化〕己れを頂くして下民をなびかす。○〔詩、序〕「本ニ于文王之ーーニ」。「天地之ーー也」。
〔施化〕萬物の生育すること、又、せしむること。○〔淮〕
〔宣化〕徳政を下に布くこと、○〔前〕「下レ車ーレー」。
〔德化〕仁德を以て下民をみちびくこと、○〔漢〕「譬牧ニ養民ー而風ニーーー」。
〔遺化〕其の人の死にたる後までものこれる仁德。○〔漢〕豈非ニ聖人ーー好レ學之國哉レ。
〔鄉化〕一鄉の風俗の善に向かふこと、又、單に風俗の善に向かふこと。○〔漢〕「令ニ百姓ーレー」。
〔風化〕ならはし、又、善良なるならはし。○〔漢〕「承ニ本朝之ーー」。
〔造化〕自然の道、又、天地の主宰者。○〔莊〕「以ニ天地ー爲ニ大鑪ー、以ニーー爲ニ一治ニ」。
〔政化〕法をもて下を治むること、德をもて人を導くこと、又、國を治むること。○〔後漢〕「禮樂ーー之本」。
〔恩化〕仁德に同じ。○〔後漢〕「吏民恩ニ均ーーニ」。
〔惠化〕前に同じ。○〔魏〕「所在有ニーーニ」。
〔仁化〕前に同じ。○〔吳〕「務修ニーーニ」。「ーニ」。
〔王化〕君主の仁德。○〔後漢〕「不レ能レ宣ニ揚ーー
〔感化〕他の心をうごかして善に移らしむること。○〔後漢〕「爲說ニ通義ー、以ーニーー之ニ」。
〔禮化〕禮儀を下に布く、又、禮儀にあつき風俗。○〔後漢〕「示ニ人ーーニ」。
〔儒化〕次第々々に善に赴くこと、又、儒者の道の行はるゝこと。○杜甫「文翁ーー成」。「外ニ」。
〔遷化〕うつりかはる。○〔魏〕「宜下模ニ範鄭ーーー于
〔淑化〕よきをしへ。○〔魏、註〕「ーー流行」。
〔歸化〕他國の者の籍をかへて當國の籍となること、當國の德を慕ひて歸服するの義。○〔唐〕「及ニ四夷ーーー之事ニ」。「北ニ」。
〔附化〕前に同じ。○〔魏〕「徙ニ漢南ーー民于漢宣ーーニ」。「下ニ」。
〔朝化〕朝廷の仁德、又、單に政治。○〔蜀〕君其明ニ
〔訓化〕をしへみちびくこと。○〔晉〕「且以ーニーー天法以整レ俗、ーー之本」。
〔理化〕をさめみちびくこと。○〔晉〕「禮以訓レ世、而
〔反化〕かへりあらたまりて善良となること。○〔道德指揮論〕「ーニー大聖之所レ尙」。
〔懷化〕なづき志たがふ。○〔晉〕「百姓ーー」。
〔染化〕德に志みうつる、又、志かなさしむ、轉じて政を施すにいふ語。○〔唐高宗〕「ーーー日深」。
〔陶化〕善にみちびくこと。○〔晉〕「ーニーー八紘ニ」。
〔潛化〕前に同じ。○〔晉〕「聖人所ニ以ーーーニ」。
〔幻化〕まぼろしの如くに生存すること。○〔列〕「知ーーー不レ異ニ生死ニ」。

〔皇化〕天子の德政。○〔李白〕「七葉運ニ――ー」。
〔隱化〕死ぬることの敬稱。○〔李白〕「先生六十而――」。
〔堯舜化〕上は仁德を布き下は仁德に從ふことにいふ語、古昔、堯と舜との二帝のとき斯くありたりしよりこれにもとづきていふ。○〔晉〕「弘ニ――之一」。
〔唐堯化〕前に同じ、堯のとき斯くありたりしよりこれに基きていふ。○〔魏〕「陛下力隆ニ――之一」。
〔不言化〕說き聞かさゞるも其の德に感じて他のものゝ善に赴くこと。○〔南〕「明公――之ー」。
〔玄默化〕前に同じ。○〔陳子昂〕「――之ー、海內又安」。
〔垂拱化〕無爲の化に同じ。○〔晉〕「致ニ――之ー」。
〔關雎化〕詩經の關雎の篇に夫婦の和合したることを詠じたるより夫婦琴瑟和合したる德に下民のまたがふにいふ語。○〔張說〕「外假ニ――之ー」。
〔無爲化〕上たるもの言をもて喩さず術を設けて敎へずとも自然に其の德になびき從ふこと。○〔晉〕「羲皇穆穆、――而ー」。
〔芝蘭化〕德に感じ敎に從ふことにいふ語。○〔家語〕「與ニ善人一居、如レ入ニ――之室一、久而不レ聞ニ其香一、卽與レ之ー」。
〔鮑魚化〕惡に染み邪に從ふことに借りいふ語。○〔家語〕「與ニ不善人一居、如レ入ニ――之肆一、久而不レ聞ニ其臭一、亦與レ之ー」。
〔時雨化〕仁德をば適當なる時にふる雨にたとへて其の民をうるほし化することにいふ語。○〔孟〕「有ニ如ニ――ー之者一」。

【乍】　ハウ、ホウ。布抱切　晧

㊀相次ぐ、ならぶ。
㊁十家づつ組み合ひて互に保護をなすを、十人ぐみ、くみあひ。

三畫

【北】　ホク。必勒切　職

〔說文〕从ニ二人相背一。

㊀たがふ（違）、そむく（乖）。○〔史〕「士無ニ反ー之心一」。
㊁きた。
（い）日の出づる方に向かひて左にあたれる方位、子の方。○〔鶡冠子〕「斗柄ー指、天下皆冬」。
（ろ）きたの方にあたれる處。○〔後漢〕「撫ニ鳴劍一而抵レ掌、志馳ニ于伊吾之ー一矣」。
㊂ふす（伏）。○〔漢〕「ー伏也、陽氣ー二于下一、于レ時爲レ冬」。
㊃にぐ（奔）。○〔漢〕「民守戰至レ死而不ニ降ーー」。「未ニ嘗敗ーー」。
㊄やぶる（敗）。○〔史〕「身七十餘戰、
㊅きたの方へ行く、きたす。○〔管〕「鴻雁秋南春ー、不レ失ニ其時一」。
〔西北〕いぬゐの方。○〔易〕「乾――之卦也」。
〔有北〕極めてきたの方にある土地。○〔詩〕「投ニ畀――」。
〔日北〕太陽の北の方にあること、寒氣の烈しき時節をいふ。○〔周〕「――則景長多レ寒」。
〔三北〕三たびまで、又、數度の敗れをこうりたるにもいふ。○〔國〕「三戰――」。
〔冀北〕冀州の北にあたりて馬を產する地。○〔齊〕「秦西――、實多ニ駿騾一」。
〔奔北〕逃ぐ。○〔魏〕「――知ニ其不レ仕一」。
〔鴈北〕雁の春になりてきたに歸ること。○〔呂氏春秋〕「魚上レ氷、獺祭レ魚、候ニ――」。
〔研北〕手もと、又、その敬稱。○〔陸友仁〕「名曰ニ――雜志一」。
〔東北〕うしとらの方。○〔易〕「――喪レ朋、乃終有レ慶」。
〔大北〕いたく敗れをとる。○〔國〕「吳師――」。
〔城北〕王城のきたの方にあたれる處。○〔戰〕「――徐公、齊國之美麗者也」。
〔直北〕まきたの處。○〔史〕「帝壇「遂因ニ其――」、立ニ五
〔佯北〕敗れたるまねして僞りて逃ぐること。○〔史〕「匈奴小入、――不レ勝」。
〔折北〕勢力くじけて逃ぐ。○〔史〕「――不レ救」。
〔幕北〕沙漠のきたの方の地。○〔史〕「居ニ――」。
〔遐北〕前に同じ。○〔唐〕「輝武――、高會而還」。
〔摧北〕敵の力くじけて逃ぐ。○〔唐〕「每レ戰必爲ニ先鋒一、所レ嚮――」。
〔遁北〕勝利なくして逃ぐ。○〔淮〕「無ニ――之形一」。
〔逃北〕前に同じ。○賈誼「百萬之徒、――而遂壞一」。
〔朔北〕北方の地。○〔李陵〕「幾死ニ――之野一」。
〔衝北〕敵の背面を突き破る。○〔梁〕「韜・軒委・驗、以ー二其ー一」。
〔挫北〕勢力くじけてにぐ。○〔杜牧〕「戰必――」。
〔窮北〕北の最端に位する地。○〔趙蝦〕「――海雲中」。
〔岐路南北〕物事のへだたりて差異を生ずるにいふ語。○〔說林〕「楊朱見ニ――一而泣、爲下其可ニ以ー、可中以ー上也」。
〔胡馬望北〕故鄉を戀ふるにいふ語。○〔中叔儀〕「――レー而立、越燕向レ日而飛」。

【北】　ハイ、ヘ。步昧切　隊

別異にす、わかつ。○〔書〕「分ニ――三苗一」。

五畫

【㕦】　ギ。愚其切　支

物事の未だ定まらざるにいふ字。

【㐌】　ヤウ。餘香切　陽

のぶ（暢）。

六畫

【𠤏】　タク、トク。竹角切　覺

卓に同じ、高き貌にいふ字、高し。

九畫

【𡿺】　ダウ、ノウ。奴晧切　晧

腦に同じ、又、腦に作る、のうずゐ（腦髓）。

【匙】　シ、ジ。是支切　支

〔說文〕从レ匕是聲。

頭に小さき皿の形をなせるところありて之に柄のつきて物をすくひとるに用ふる器具、かひ、さじ。○〔黃庭經〕「玉ー金鑰」。
〔茶匙〕茶の湯をたつ筋ときに用ふるさじ。○〔茶錄〕「――要レ重、擊拂有レ力」。
〔飯匙〕めしを盛るときに用ふるさじ。○〔辭令之〕「ー澀レー難、綰、羹稀筋易レ寬」。
〔銀匙〕白かねにて製したるさじ。○〔白居易〕「ー封ニー寄汝一」。
〔停匙〕さじを止めて茶を喫することをやむ。○〔歐陽修〕「ーレー側レ盞試ニ水路一」。

匚部

【匚】　ハウ、バウ。分房切　陽

筐に通じ用ふ、一斗の量を受くる四角形の器、はこ（筐）。

三畫

【匛】　キウ、グ。渠救切　宥

柩に同じ、ひつぎ。

【匜】　イ。余支切　支　養里切　紙

ダ、ダ。唐何切　歌

柄に水を通はす道ありて水を盛り物に注ぐ器、ひしやく、はんざふ。○〔儀〕「執レー者西面レ」「西沃淳」
〔卮匜〕酒漿を盛る器。○〔禮〕「敦牟ーー、非レ餕莫ニ敢用一」。
〔槃匜〕水を注ぐ器。○〔儀〕「小臣具ニ――一在ニ東堂下一」。
〔奉匜〕水を注ぐ器を捧げもつ。○〔左〕「ーレー沃レ盥、――之不若一」。
〔穽匜〕かはらもて作れる水を注ぐ器。○〔傅咸〕「穽「祭祀用ニ――一」。
〔洗匜〕物を濯ふに用ふる盥やうの器。○〔梁武帝〕
〔銅匜〕あかがねもて作り水を注ぐ器。○〔陸游〕「又破ニ――牛家香一」。

（匜之圖）

【匝】俗の帀の字、又迊に作る。

四畫

【⿷匚今】カン、ゴン。胛南切　覃
物を受くる器、はこ。

【匟】カウ。口浪切　漾
ゆか（坐-牀）。

【⿷匚公】ソウ、ス。祖紅切　東
米を盛る器、こめびつ、ほどぎ。

【⿷匚丛】セン、ゼン。縱緣切　先
いかき、ざる（竹-籠）。

【匠】シヤウ、疾亮切　漾　〔説文〕从匚从斤。
たくみ。
（い）木工、だいく、こだくみ。○〔孟〕「大──不下爲二拙──一改中廢繩-墨上」。
（ろ）職工。○〔北〕「天下將下作二功-役一、因加中程-課上、丁──苦レ之」。
（は）技術を業となす者。○〔韓渥〕「入-意雲-山輸二畫──一」。
（に）官吏、官僚。○〔晉〕「何不三徵レ之以爲二朝──一」。
（ほ）工事、計畫、製作、考案、著想。○〔洛陽名園記〕「皆出二其目-營心──一」。
（梓匠）棺槨を製する工人。○〔孟〕「──輪輿」。
（大匠）（い）天工の棟梁。○〔曹植〕「──無二棄-材一」。
（ろ）工事を監督する官の名。○〔唐、註〕「武-德初改二將-作-監-令一曰二──一」。
（少匠）大匠の下に在りて事を執る官の名。○〔唐、註〕「少-令曰二──一」。
（巧匠）上手なる大工。○〔史〕「──不レ斲兮、孰察二其揆正一」。
（良匠）（い）前に同じ。○〔淮〕「──不レ能レ斲レ金、巧-治不レ能レ鑠レ木」。
（ろ）巧みなる工人の總稱。○〔唐〕「朕方自比二于金一、以レ卿爲二──一而加レ罪焉」。
（天匠）人爲ならぬ天然の工事。○〔張羽〕「十手可二對レ飲一、斧鑿自──」。
（工匠）（い）大工のこと。○〔莊〕「殘レ樸以爲レ器、──之罪也」。
（ろ）工人の總名。○〔遼〕「太平五年、禁下──一不レ得レ鎔二毀金銀器一」。
（女匠）鳥の名、ふくろふ。○〔陸疏廣要〕「鵜鴂關·州人、謂二之鶚鴃一、或曰、巧婦、或曰、──」。
（宰匠）天下を治むる工人、卽ち丞相にいふ語。○〔晉〕「爲二天-下──一」。
（時匠）世を治むる工人、卽ち宰相にいふ語。○〔南〕「豈非二──一失一乎」、
（謝匠）言をもて大工を抑へて己れの言に從はしむ。○〔韓〕「虞-慶──而屋壞」。
（班匠）古の巧みなる工人の名。○〔異苑〕「聞君巧侔二──一」。
（心匠）思を運らすこと。○〔白居易〕「想入二──一、寫從二筆精一」。
（哲匠）事理に明かなるもの。○〔王維〕「謀猷歸二──一」。
（制匠）物をこしらへたくむこと。○〔爾示〕「女媧有レ體、孰──之一」。
（意匠）思を運らすこと。○〔杜甫〕「──慘淡經營中」。
（師匠）模範となること、又、其の人。○〔王均〕「機辨無·破、一代──」。
（軌匠）模範として倣ふべき工人、卽ち模範となる人にいふ語。○〔晉〕「紹幼沖便居二館副之貴一、當下爲二──一以袪中蒙蔽上」。
（筆匠）ふでを作る工人。○〔唐〕「秘書省有二──六人一」。
（都匠）水を治むる官の名。○〔管〕「使レ爲二──水工一」。
（員匠）道にかなひたる計畫。○〔釋慧〕「渾々萬品忠二──一」。
（裝潢匠）書畫などの裝潢をなす工人。○〔唐〕「熟紙──八人」。
（治天下匠）宰相のこと。○〔輟耕錄〕「豈治天下、不レ用下治二天下一──上耶」。

【匡】キヤウ、カウ。去王切　陽
㊀ただす（正）。○〔論〕「一二──天-下一」。
㊁ただし（方）。○〔詩〕「既──既敕」。
㊂たすく（輔）。○〔漢〕「──二朕之不一レ逮」。
㊃すくふ（救）。○〔書〕「胥──以生」。
㊄恇に同じ、おそる。○〔禮〕「年雖二大-殺一、衆不二──懼一」。
㊅斜に曲がる、まがる。○〔周〕「輪雖レ敝不レ──」。
㊆飯を入るゝ器、又、はこ（筥）。○〔周、註〕「以レ瓦爲レ──」。
㊇眶に同じ、目ぶち。○〔史〕「涕滿レ──而橫流」。
㊈蟹の甲。○〔禮〕「蠶則有レ績、而蟹有レ──」。
（胥匡）惡しき所をあひ正す、なほす。○〔書〕「民非レ后罔二克──以生一」。
（靖匡）天下を安んじ正す。○〔蜀〕「揃二除寇難一、──二王-室一」。
（翊匡）たすけ正す。○〔梁昭明太子文選序〕「戒出二於──一」。
（高匡）目ぶたの高きこと。○〔牛上士〕「方-頤犂額、隅-目──」。

【匩】ワウ。烏老切　陽
尩に通じ用ふ、背の曲がる疾、くゞせ、又、よわし。○〔荀〕「傴-巫跛──」。

【匢】コツ、コチ。呼骨切　月
匫に同じ、古き器。

五畫

【匣】カフ、ガフ。胡甲切　洽　〔説文〕从匚甲聲。
くしげ、ひつ、はこ（匱、箱）。○〔漢〕「虎-文-衣廢二藏在室──中一者」。
（玉匣）たまにて作りたる箱、たまてばこ。○〔劉歆〕「必藏レ之以二──一」。
（鏡匣）かゞみを入るゝ箱。○〔李崇嗣〕「今-朝開二──一」。
（寶匣）珠玉などにて作りたる箱。○〔孫知之〕「──裝二珠·璞一」。
（妝匣）けしやう箱。○〔楊炯〕「──要二餘·粉一」。
（漆匣）うるしにて塗りたる箱。○〔荷堯臣〕「──甲-乙收盈レ匱」。
（劍匣）刀劍をいるゝ箱。○〔白居易〕「──塵-埃滿」。
（虛匣）何物もいれてなき箱。○〔李白〕「古-篥藏二──一」。
（古匣）ふるびたる箱。○〔李益〕「今藏二──中一」。

【⿷匚占】セン、ゼン。似沿切　先　式撰切　銑
㊀匴に同じ、はこ。
㊁いかき、ざる（籅）。

【⿷匚玉】キヨク、コク。丘玉切　沃
くしげ。

【匥】ヘン、ベン。皮變切　霰
㊀笲に通じ用ふ、冠を納るゝ器、かうぶりいれ。
㊁はこ（筲）、たけのうつは（竹-器）。

六畫

【⿷匚兆】テウ、デウ。徒聊切　蕭
土などをはこぶ器、あじか（田-器）。

【⿷匚缶】エウ。餘招切　蕭
鞉に同じ、つゞみ（鼓）。

【⿷匚全】セン、ゼン。從緣切　先
み、ちりとり（箕）。

七畫

【⿷匚攸】テウ、デウ。徒弔切　嘯　徒聊切　蕭
田に用ふる器、あじか（蕢）。

【匧】ケフ。口頰切　葉
㊀篋に同じ、はこ、衣を藏むる笥。
㊁をさむ（藏）。
㊂とづ（緘）。

【⿷匚含】カン、ゴン。胡耽切　覃
舩水底に沒す、ちづむ。

【⿷匚㞷】匡の本字。

【⿷匚乞】キツ、キチ。枯詰切　質
物まがる、まがる、かゞまる。

【匛】柩に同じ。

八畫

【匪】ヒ、ピ。甫尾切　尾
㊀篚に同じ、竹にて作りたる四角形の器、はこ、かたみ。〇[孟]「――二其玄黃一」。「篚」。
㊁非に同じ、あらず。〇[易]「――レ寇婚媾」。
㊂あやある貌にいふ字、いろどり。〇[周]「且其――色」。

【匪】ヒ、ピ。芳微切　微
行くに文飾ある貌にいふ字、うるはし、又、馬の行きて止まざる貌にいふ字、すゝむ。〇[禮]「軍-馬之美、――翼-々」。

【匪】フン、ホン。敷文切　文
わかつ、くばる（分）。〇[周]「――頒之式」。

【⿷匚卑】ヒ。補彌切　紙
今、箄に作る、かご（籠）。

【匫】コツ、コチ。呼骨切　月
古き器。

九畫

【⿷匚臾】ユ。以主切　麌
庾に同じ、水上を運漕し來たりし販物を藏むる倉、又、屋宇なき倉、くら。

【匬】ユ。余主切　麌
斞に同じ、物の量をはかるに用ふる器、十六斗の量を受くるのさだめなり、き、ます。

【⿷匚豆】トウ、ヅ。徒侯切　尤
酒を入るゝに用ふる甖、もたひ。

【匭】キ。古洧切　紙
㊀はこ（匣）。〇[唐]「配二置法――一以濟二窮·寃一」。
㊁まとひむすぶ、まとふ（纏·結）。〇[書]「包二――菁-茅一」。
(土匭) 土にてあつらへたるはこ。〇[史]「飯二土――一、啜二土鉶一」。
(招諫匭) 君上の非を改めんがため下々の人より諫言せしめんとて設け置く投書箱。〇[宋]「徒-步詣二――――一上-書」。
(延恩匭) 前に同じ。〇[杜甫]「不レ羨二蕪-濊一謹投二――――一」。

十畫

【⿷匚倉】サウ。此郎切　陽
古き器。

【⿷匚條】テウ、デウ。徒弔切　嘯
田に用ふる器、すき。

【⿷匚舀】タウ、トウ。土刀切　豪
古き器。

十一畫

【⿷匚異】ヨク、イキ。與職切　職
㊀田を耕す器、すき。
㊁大いなる鼎、おほがなへ。

【匯】クワイ、エ。胡罪切　賄　胡對切　隊
（說文）从レ匚淮聲。
水波旋回す、めぐる、又、水波のめぐれる處。〇[書]「東――澤爲二彭-蠡一」。
(迴匯) 水流のなゝめにめぐれること。〇[李華]「因二――一而瀦レ之」。
(渟匯) 水の止まりたまれること。〇[王勃]「北――虛澄徹如レ鏡」。
(淪匯) 水のうづまくこと。〇[何景明]「漂疾――、爛-漫旋-汰莫レ得二旁-礙一」。
(鼓湍匯) 水の集まり漏まく音のつゞみを撃つが如くにあること、又、其の處。〇[陳浩]「亦復―――」。
(滄溟匯) あをうなばらの水の會合せること。〇[周權]「宗二此―――一」。

十二畫

【⿷匚帝】テイ、ダイ。大計切　霽
かたなのさや（刀-鞘）。

【⿷匚全】セン。且緣切　先　ショ、ソ。此與切　語
竹にてあつらへたる器、又、簿。

【⿷匚巽】セン。須兗切　銑
うつは（器）。

【匰】タン。丁安切　寒
宗廟の祭に木主をのする器、つくゑ。〇[周]「祭-祀則共二――主一」。

【匱】キ。具位切　寘
㊀櫃に同じ、物を藏めおく器の大いなるもの、ひつ。〇[韓愈]「商-賈藏二于篋――一」。
㊁むなし（空）、とぼし（乏）、又、つく（竭）。〇[詩]「孝-子不レ――」。
㊂簣に同じ、あじか、もっこ。〇[漢]「綱-紀成張成在二一――一」。
(偪匱) 窮迫にして乏し。〇[周、注]「事有二常-次一、則不二――一」。
(窮匱) 貧困にして財に乏し。〇[左]「不レ分二孤-寡一、不レ恤二――一」。
(乏匱) とぼし、財に乏し。〇[國]「無二讖·寒――之患一」。
(困匱) 前に同じ。〇[後漢]「百-姓財-産以之――」。
(盡匱) 前に同じ。〇[後漢]「百-姓――」。
(空匱) 前に同じ。〇[後漢]「京-師――」。
(恤匱) 貧窮なるものをめぐみあはれむ。〇[國]「俗則不二――一」。
(饑匱) 饑ゑて食料に乏し。〇[後漢]「比年不レ登、人用――」。
(罄匱) 財盡きて乏し。〇[宋]「家無二――之憂一」。
(窘匱) たしなみて乏し。〇[宋]「酒計――」。

十三畫

【匳】レン、ロン。雜鹽切　鹽
奩に同じ。

【⿷匚𣪊】コウ、ク。古候切　宥
彀に同じ、やごろ。

【匲】レン、ロン。力鹽切　鹽
本、籢に作る。鏡櫛などを納るゝ匣、かゞみばこ、くしげ、又、香を盛る器。〇[漢]「鏡――中物」。

(匳之圖)

【⿷匚歇】アツ、アチ。阿葛切　曷
大呼して力を用ふ、わめく、をめく。

【⿷匚瓦】ゴウ、グ。吾口切　有
かはらけ、かめ。

十四畫

【匴】サン。先管切　旱　セン。式撰切　銑

㊀冠を納る、箱。○〔儀〕「爵弁皮弁緇布冠各一匴」。㊁米をかすざる、こめあげざる。

【𠥓】ブ、ム。罔甫切 麌 さや（刀室）。

【匾】ヘン。補堅切 先 籩に同じ竹のたかつき。

十五畫

【匵】トク、ドク。杜谷切 屋 櫝に通じ用ふ、はこ、ひつ。○〔漢〕「乃匵去之」。

十七畫

【匶】キウ、グ。巨救切 宥 籒文の柩の字。ひつぎ（柩）。○〔周〕「及レ朝御レ匶乃奠」。

十八畫

【匷】キョ、ゴ。其余切 魚 車の類。○〔淮〕「推車至レ今無二蟬匷一」。

廿四畫

【𠥼】カン、コン。古禫切 感 ㊀箱の類、はこ。㊁ふた、おほひ（覆頭）。

【𠥽】コウ、ク。古送切 送 〔説文〕从匚贛聲。小さき杯。

匸部

【匸】ケイ、ガイ。胡禮切 薺 〔説文〕从乚有一覆レ之。覆ひ藏す、おほふ、かくす。

二畫

【匹】ヒツ、ヒチ。背謐切 質 俗に疋に作る。㊀布帛二端の稱。○〔漢〕「布帛廣二尺二寸爲レ幅、四丈爲レ匹」。㊁畜類を數ふるに用ふる字。○〔左〕「馬物皆百匹」。㊂たぐひ。(い)儕輩、ともがら。○〔詩〕「率二由羣匹一」。(ろ)配耦、つれあひ。○〔漢〕「甚哉妃匹之愛」。(は)双對、つゐ、ならび。○〔屈平〕「獨無レ匹兮」。(に)對敵、あひて。○〔國〕「秦晉匹也」。(ほ)朋友、とも。○〔禮〕「好二其匹一」。㊃あふ、あはす（合）、たぐふ（配）、ならぶ、（二）。○〔詩〕「作レ豐伊匹」。

〔儔匹〕おのれと肩を並ぶるもの、同階級なるもの。○〔漢〕「求二之遠近一、少レ有二儔匹一」。
〔良匹〕よきつれあひ、相應の配耦者。○〔漢〕「妾姉高行殊遐、未レ遭二良匹一」。
〔令匹〕前に同じ。○〔唐〕女禍豐厚必有二令匹一。
〔好匹〕前に同じ。○詩傳「宜レ爲二君子之好匹一」。
〔亞匹〕たぐひ、ともがら。○〔蜀〕「亮之器能理レ政、抑亦管蕭亞匹」。
〔仇匹〕たぐひ。○〔詩、疏〕「與レ子同爲二仇匹一而往征レ之」。

四畫

【匹】ポク、モク。莫木切 屋 鶩に通じ用ふ、あひる（家鴨）。○〔禮〕「庶人之摯匹」。

【𠤭】ロウ、ル。郎豆切 宥 陋の正字。

五畫

【𠥄】ロウ、ル。郎豆切 宥 〔説文〕从匸丙聲。㊀のがる（側逃）。㊁箕のたぐひ。

【医】エイ。於計切 霽 〔説文〕从匸从矢。㊀弓弩の矢を盛る器、うつぼ、やたて、ゆぎ（靫）。○〔國〕「兵不レ解レ医」。㊁矢を蔽ふもの、やおほひ、翳に作る。

六畫

【匼】アン、オン。烏感切 感 アフ、オフ。遏合切 合 ㊀他の意を迎へ合はす、こぶ、へつらふ（媚）。○〔唐〕「盧杞諂諛阿匼」。㊁巾の名、づきん。○〔杜甫〕「晩風爽二烏匼一」。㊂まとひめぐる。○〔杜甫〕「車頭金匼匝」。

七畫

【匽】エン。於幰切 阮 〔説文〕从匸妟聲。㊀偃に同じ、ふす、かくる、かくす（隱）。○〔漢〕「與レ文匽レ武」。㊁路ばたにあるたまり溝、みぞ。○〔周〕「爲二井匽一」。

九畫

【匾】ヘン。補典切 銑 扁に通じ用ふ。㊀うすし（薄）。㊁まどかならざる貌にいふ字、かど。

【匿】ヂョク、ニキ。女力切 トク。惕得切 職 ㊀かくる。(い)のがる、にぐ、さく。○〔史〕「逋二匿其家一」。(ろ)ひそむ、おさまる。○〔淮〕「時見時匿」。㊁かくす。(い)ひそます、かくまふ、くらます。○〔史〕「敢有二舍匿一、罪及二三族一」。(ろ)あらはさず、おほふ、をさむ。○〔論〕「匿レ怨而友二其人一」。㊂陰密なる罪悪、伏藏せる姦心。○〔阮籍〕「側匿頗僻」。

〔服匿〕罌の屬。○〔漢〕「賜二武馬畜服匿穹廬一」。
〔潛匿〕ひそみかくる、ひそめかくす。○〔晉〕「潛二匿精勇一、見二其老弱一」。
〔蔽匿〕おほひかくす、己れの惡事をかくすなど。○〔史〕「多受二吳王金錢一、專爲二蔽匿一」。
〔晦匿〕くらます、昏鈍の風をなす。○〔隋〕「深自晦匿」。
〔逃匿〕のがれかくる。○〔孟〕「佯醉逃匿」。
〔亡匿〕にぐ。○〔史〕「更二姓名一亡二匿下邳一」。
〔避匿〕さく、さけかくる。○〔史〕「引レ車避匿」。
〔隱匿〕(い)かくれにぐ、又、かくれてあらはれず、又、かくす。○〔史〕「恐下擧二賢戚及隷遠隱匿一者上」。(ろ)かくれて惡をはたらくこと。○〔後漢〕「以破二朋黨一以懲二隱匿一」。
〔秘匿〕内々にして人に知らせず。○〔北〕「積日秘匿」。
〔飾匿〕外をかざりて實情をかくす。○〔後漢〕「郡縣更相飾匿、莫二肯糾發一」。
〔竄匿〕のがれかくる。○〔金〕「竄二匿淮海一」。
〔淪匿〕ひそみかくる。○〔參同契〕「幽潛淪匿」。
〔辟匿〕陰僻、又、遠地の義にもいふ語。○〔史〕「戎王處二辟匿一」。
〔伏匿〕現はれず、かくる、又、現はさず、かくす。○〔史〕「遂操二北雕一亡匿」。
〔舍匿〕やどらしめかくす、かくまふ。○〔史〕「敢有二舍匿一、罪及二三族一」。
〔藏匿〕かくす、又、かくる。○〔晉〕「藏二匿原郷山一」。
〔貶匿〕身をおとし才をかくす。○〔齊〕「深自貶匿」。
〔容匿〕かくまふ。○〔北〕「委レ命歸レ之便能容匿」。
〔退匿〕志りぞきさく。○〔世說〕「諸客罷二其神姿一退匿」。

【區】ク、コ。丘于切 虞 〔説文〕从匸品在二匸中一。㊀物を藏むる處。○〔荀〕「區區蓋之閒」。㊁居止する所、すまゐ、ゐどころ。○〔漢〕「發二起賊主名區處一」。㊂小さき室、小さき舍。○〔漢〕「穿二北軍壘一以爲二賈區一」。㊃分域、こわけ、さかひ。○〔史〕「有二裨海一環レ之、如二一區一」。㊄差別、あな、わかち。○〔梁〕「聖人定分、毎絶二常區一」。

⑥場所。○〔班固〕「殊-方別-｜」。
⑦方位。○〔揚雄〕「洋ニ溢八-｜ニ」。
⑧おの〳〵類を異にするを、まち〳〵、べつ〳〵、ひとつ〴〵。○〔論〕「｜以別」。
⑨分別す、たきる、かぎる、わかる、わかつ。○〔南〕「各以レ言｜」。
⑩玉五對の稱。○〔爾、註〕「雙-玉曰レ瑴、五-瑴爲レ｜」。
⑪ちひさき貌にいふ字。○〔禮〕「｜-｜小-國」。
⑫得意の貌にいふ字。○〔呂氏春秋〕「｜-｜焉相樂」。
〔六區〕東西南北上下の方位。○〔張衡〕「上下無レ常、窮ニ｜-｜ニ」。
〔大區〕大いなる家、又、天。○〔淮〕「以馳ニ｜-｜ニ」。
〔里區〕家を宿さゞる家。
〔鬼區〕鬼の方位、鬼門。○〔典引〕「行ニ乎｜-｜ニ」。

【區】キウ、ク。袪尤切 尤
①さかひ（域）、又、わかち（分）。○〔左思〕「瓜-疇芋-｜」。
②たか（阜）。○〔陸機〕「普ニ厥｜-宇ニ」。

【區】オウ、ウ。烏侯切 尤
①かくす（匿）。○〔左〕「楚文-王作ニ僕-｜之法ニ」。
②量の名、十六升。○〔左〕「豆-｜-釜-鍾」。

【區】コウ、ク。居侯切 尤
句に同じ、まがる。○〔禮〕「｜-萌-達」。

十畫

【⿷匸虒】テイ、タイ。土雞切 齊
うすし（薄）。

十九畫

【⿷匸麗】テイ、タイ。天黎切 齊
①ふす（臥）、②虎の臥息。

十部

【十】シウ、ジウ。是執切 緝 〔說文〕「一爲ニ東西ー爲ニ南北ニ」。
①數の名、一に九を加へたる數、とを。○〔易〕「天九地｜」。
②とたび。○〔中〕「人｜能レ之」。
③をはり（終）。○〔太元〕「｜-年不レ復」。
④全き數、又、全きもの丶義にいふ字。○〔漢〕「利不レ｜者不レ易レ業」。
〔重十〕十月十日。○〔勝秀實〕「節臨ニ｜-｜ニ慶ニ天-寧ニ」。
〔一當十〕一つのもの十はどのもの丶はたらきをなす。○〔漢〕「諸侯皆從ニ壁-上ニ觀ニ楚-戰ニ、士無レ不ニ｜-｜-｜」。
〔得一忘十〕記憶力のうすきをいふ語。○〔陸游〕「｜-｜レ｜-｜レ眞-搗レ昭ニ」。
〔聞一知十〕物事を覺ゆるとの早きをいふ語。○〔論〕「回也｜レ｜以｜レ｜」。

一畫

【十】シン、ジン。是吟切 侵
前條の①に同じ、とを。○〔白居易〕「紅-欄三-百九-｜-橋」。

【卂】シン。思進切 震 〔說文〕「从ニ飛而羽不レ見」。
迅に同じ、はやし、とし、すみやかなり、又、疾く飛ぶ。

【千】セン。蒼先切 先
①數の名、百を十倍したるもの。○〔史〕「僮-手指｜」。
②ちたび。○〔中〕「己｜レ之」。
③阡に同じ、南北に通ふ路、ちまた。○〔管〕「正ニ｜-伯ニ」。
④數量多きを、ちゞ。○〔左思〕「羅レ肆巨-｜」。
〔十千〕數量の多きにいふ語。○〔詩〕「倬彼甫-田、歲取ニ｜-｜ニ」。
〔億千〕前に同じ。○〔易〕「高-山之巔、去レ地｜-｜」。
〔萬千〕前に同じ。○〔范仲淹〕「氣-象｜-｜」。
〔千千〕前に同じ。○〔杜牧〕「越-香巴-錦萬-｜-｜」。
〔大千〕前に同じ、又、大千世界の義にもいふ語。○〔李白〕「｜-｜入ニ毫-髮ニ」。

二畫

【廿】ジフ、ニフ。如拾切 緝
二十。○〔顏之推〕「有レ子百｜」。

【卅】サフ、ゾフ。悉合切 合
三十。○〔韓愈〕「孔-世｜-八」。

【卆】卒の字の譌り。

【升】ショウ。書蒸切 蒸
①量目の名、一合を十倍したるもの。○〔漢〕「｜者登レ合之量也」。
②十合の量をはかる器、いッしようます、又、ますにてはかる量、ますめ。○〔隋〕「獲ニ古玉-｜ニ」。
③なる（成）。○〔禮〕「男-女無レ辨則亂｜」。
④布八十縷の稱、よみ。○〔禮〕「朝-服十-五-｜」。
⑤易卦の名、☷☴ 坤上巽下 ○〔易〕「｜元亨」。
⑥のぼる、のぼす（登）、あぐ、あがる（上）。○〔詩〕「如ニ月之恆ニ、如ニ日之｜ニ」。
⑦すゝむ（進）。○〔呂氏春秋〕「農乃｜レ麥」。
⑧さかる（隆）。○〔書〕「道有ニ｜-降ニ」。
⑨穀物成熟す、みのる。○〔論〕「舊-穀既沒、新-穀既｜」。
〔盈升〕分量の一升に滿つると。○〔詩〕「椒-聊之實、蕃衍｜レ｜」。
〔斗升〕一斗と一升との分量、轉じて些少なる量目にいふ語。○〔莊〕「君豈有ニ｜-｜之水ニ而レ我哉」。
〔大升〕三升を入るゝ量。○〔舊唐〕「三-升爲ニ｜-｜、三-斗爲ニ大-斗ニ」。
〔約升〕ますめを內端にすると。○〔白居易〕「紅-稻｜レ｜炊」。
〔朝升〕あさ早くあがる。○〔詩、箋〕「薈-蔚之小雲、｜-｜于南-山ニ」。
〔超升〕位次を越えて進みゆく。○〔後漢〕「朋者多從ニ郎-官ニ｜-｜ニ此位ニ」。
〔允升〕誠實をもて進み行く。○〔易〕「初-六｜-｜、大吉」。
〔陽升〕陽氣立ち昇る。○〔易、疏〕「密-雲不レ雨者、若ニ｜之上-｜ニ」。
〔陰升〕前の反、陰氣立ち昇る。○〔陸機〕「太-陽夙-夜降、少-｜忽已｜」。
〔昭升〕あきらかにあらはる。○〔書〕「｜-｜于上ニ」。
〔猱升〕猨の木に上ると。○〔詩〕「毋レ教ニ｜-｜レ木」。
〔後升〕おくれてのぼり行く。○〔禮、註〕「爲レ勸ニ｜-｜者ニ」。
〔特升〕已れ一人のみわきて上り行く。○〔儀〕「執ニ弛-弓ニ｜-｜飮」。
〔皆升〕すべての人盡く上りをはる。○〔儀〕「｜-｜就レ席」。
〔雨升〕祭の名。○〔公羊〕「山-縣-水-沈-風-磔-｜-｜」。
〔一升〕（い）一たび昇る、又、其の中の一つのみ昇る。○〔爾、疏〕「｜-｜一-降」。（ろ）量目の名、合を十あはせたるもの。○〔周〕「㮚氏爲レ量、其耳三寸、其實｜-｜」。
〔迭升〕互に上り進む。○〔後漢〕「如ニ管隱之｜-｜ニ恆世ニ」。
〔濳升〕ひそむと昇ると。○〔魏〕「麟-龍｜-｜之道」。
〔延升〕引き招きて席に上らしむ。○〔後漢〕「乃｜-｜ニ上-座ニ」。
〔躋升〕高きに登り往く。○〔宋〕「天-神定レ位、雖ニ以｜-｜ニ」。
〔陟升〕前に同じ。○〔陸雲〕「｜ニ｜熊-嶌ニ」。
〔援升〕助けすゝむ。○〔人物志〕「仲-尼不レ試、無ニ所ニ｜-｜ニ」。
〔肆升〕はしいまゝにのぼる。○〔馬融〕「薌-香｜-｜、消-烟冒-雲」。
〔究升〕極處をきはめ往く。○〔西京賦〕「孰能超而」。
〔躍升〕をどり上がる。○〔謝靈運〕「暘谷｜-｜」。
〔褒升〕ほめて其の位地を進めやる。○〔白居易〕「嘉ニ其忠-効ニ、宜可ニ｜-｜ニ」。
〔黜升〕職務に過あるときは貶し功あるときは陟す。○〔歐陽修〕「相所ニ｜-｜、惟否惟能」。
〔騰如升〕きもの大いさますの如くにあり。○〔南〕「刻ニ析心-腹ニ、見ニ其｜-者ニ、乃｜レ｜焉」。

(元凱升) 虞舜の時八元八凱とて善人ありて進みたること、卽ち善人の進みたるにいふ語。〇〔辨命論〕「重華立而｜｜｜」。
(揖讓升) 射禮の時己れと組み合ひたる人に對し禮をなして堂に上ること。〇〔論〕「君子無レ所レ爭、必也射乎、｜｜而｜」。
(後進升) 後學の士の漸を逐ひて進み來たること。〇〔梁簡文帝〕「｜｜多｜」。「角｜」。〇
(朝暾升) 朝日の昇ること。〇〔郊祀〕「曉起｜｜｜屋・

【午】ゴ、グ。疑古切 麌
㊀うま。
(い)十二支の一、第七位にあるもの。〇〔書〕「六月庚｜」。
(ろ)辰の名。〇〔爾〕「太歲在レ｜」。
(は)時の名、正午十二時、まひる、方の名、正南、みなみ。〇〔宋〕「蚤作起視レ事、逮レ｜而畢出」。
(に)馬に同じ。〇〔韻會〕「馬屬レ｜、晉姓司馬、因改二司馬官一爲二典｜｜一」。
㊁さかふ、もとろ、さからふ、順ならず。〇〔漢〕「朝臣舛｜」。
㊂交横す、いきあふ、きりあふ。〇〔儀〕「本末｜二割之一」。
(端午) 五節句の一、五月五日に楚の屈原の汨羅に投じて死にたる靈を弔ふより起これりとぞ、又、重午ともいふ。〇〔于公異〕「節臨二｜｜一」。
(日午) 正午に同じ。〇〔風騷旨格〕「｜｜遊二鄴市一、天寒住二華山一」。
(亭午) 正午に同じ。〇〔錄異記〕「或平旦、或｜｜、髣髴移レ晷、仍漸散滅」。

三畫

【卉】俗の卉の字。

【半】ハン。博漫切 翰
㊀物を中分す、ふたつにわく、わかつ、わく。〇〔世說〕「斫二諸屋柱一悉割｜爲レ薪」。
㊁なかば。
(い)中分、はんぶん。〇〔戰〕「秦不レ接レ刃而得二趙之｜一」。
(ろ)中央、まなか。〇〔淮〕「鶴知二夜｜一」。
㊂大部、大片。〇〔漢〕「令三車士人持二二升糒一｜冰二」。
(月半) 月のなかば、卽ち十五日のこと。〇〔晉、孫〕「日月相二望、故以二｜｜一爲レ望」。
(過半) なかば以上へること。〇〔南〕「衣帶｜レ｜」。
(居半) 半分程あること。〇〔南〕「山池｜レ｜」。
(逾半) 中程よりうへ、半分以上なること。〇〔孟〕「贈レ食レ實者｜レ｜矣」。
(大半) 前に同じ。〇〔史〕「龍且軍｜｜不レ得レ渡」。
(太半) 前に同じ。〇〔東方朔〕「年既已過二｜｜一」「｜」今」。
(倍半) 前に同じ。〇〔杜氏通典〕「以レ律計自｜｜」。
(強半) 前に同じ。〇〔杜牧〕「｜｜春寒去卻來」。
(夜半) よなか。〇〔莊〕「然而｜｜有レ力者負レ之而走」。
(功半) 結果を得ることなかばより上に達せぬこと。〇〔禮〕「不二善學一者、師勤而｜｜」。
(事半) 爲し行ふ事がらのなかばなること。〇〔孟〕「故｜｜古之人功必倍レ之」。
(十半) 十分の中の五分だけにあること。〇〔後〕「還レ兵疾歸、尚得二｜｜一」。「｜レ｜頭レ康」。
(餘半) 半分だけを殘しあます。〇〔後〕、卽自服レ半、
(天半) 空の中ば。〇〔梁〕「雲穿二｜｜一晴」。
(晉半) 前に同じ。〇〔李德裕〕「釜岑登二｜｜一」。
(折半) 半分づゝにす。〇〔太眞外傳〕「｜二其｜一授二使者一」。
(一半) 半分といふに同じ。〇〔酉陽雜俎〕「倒者｜｜已下通」。
(宵半) よるのなかば。〇〔謝惠連〕「辰轉長二｜｜一」。
(途半) 途中といふに同じ。〇〔隋〕「晝喩｜始｜」。
(臘半) 十二月のなかば。〇〔耶律楚材〕「留得晩瓜過二｜｜一」。
(敎學半) 人に敎ふるとは單に人の利となるのみならず己れの學を爲して利を得るとのなかばになる功力あるものなりとのこと。〇〔書〕「惟｜｜｜念二終始典二于學一」。
(飲矢半) 物を射て中たれる矢のなかばを沒せること。〇〔金〕「射レ之中二其背一、｜二之｜一、僨而死」。
(夜漏半) 夜にあたりて仕掛けたる水時計の水の滴り落つること既になかばになりたること、卽ち夜半になりしとの意。〇〔劇談錄〕「｜｜｜將レ｜」。
(陰晴半) 空のくもりては晴れ晴れてはくもることにいふ語。〇〔元好問〕「江雲淺々｜｜｜」。
(得失半) 利害各々そのなかばづつにあること。〇〔金〕「時論｜｜｜レ之」。
(歲云半) 其の年のもなかに逹したること。〇〔沈約〕「傷二此｜｜｜一」。

【朩】シ。卽里切 紙
とまる、とゞまる(止)。

【卋】世に同じ。

【卆】ソツ、ソチ。倉沒切 月
にはか(猝・急)。

四畫

【卋】世に同じ。

【卌】シフ。先立切 緝
㊀數の名、十を四倍したるもの よそ、よそぢ、四十。
㊁落葉穀物などを掻きよする具、くまで、さらひ、ちりさらひ(杷)。

【卉】キ。許偉切 尾 許貴切 未
㊀衆艸の總名、くさ。〇〔詩〕「秋日淒々、百｜具腓」。
㊁草木の總名にもいふ字、くさき。〇〔詩〕「山有二嘉｜一、侯栗侯梅」。
(陽卉) 春夏の間に生ひ茂る草木。〇〔謝靈運〕「淒々｜｜腓」。
(庶卉) もろもろの草。〇〔後漢〕「百穀蓁々、｜｜蕃蕪」。
(昆卉) 前に同じ。〇〔宋〕「留愛｜｜、誠若二晩李一」。
(禾卉) 穀草のこと。〇〔晉〕「｜｜苯蓴以垂レ穎」。
(榛卉) 生ひ茂れる草木。〇〔宋〕「橫二｜｜一以荒レ阡」。
(花卉) 花ある草。〇〔梁〕「蒸植｜｜於家園一」。
(異卉) 珍らしき草。〇〔西京雜記〕「獻二名果｜｜三千餘種一」。
(奇卉) 前に同じ。〇〔魏都賦〕「｜｜蔞々」。
(珍卉) 前に同じ。〇〔李翰〕「前有二芳樹｜｜一」。
(生卉) いきたる草、又、なまなる草。〇拾遺記「不レ食二｜｜一、不レ飲二濁水一」。
(藉卉) 草をしきて茵のかはりとす。〇〔世說〕「｜レ｜飲宴」。
(仁卉) めでたき草、卽ち一本の莖に穗の二つなるの類。〇〔諸祥記〕「嘉禾者｜｜也」。
(靈卉) くしびなる草。〇〔江總〕「神木｜｜不レ知二揚蕤一」。
(寒卉) 冬の日に花を開く草。〇〔蜀都賦〕「｜｜冬馥」。
(池卉) いけの汀に茂れる草。〇〔顏延之〕「｜｜具二紅紫一」。
(翠卉) 綠の色をなせる草。〇〔李群玉〕「關山｜｜迎二飛燕一」。
(野卉) 野におふる草。〇〔歐陽修〕「｜｜爭二花嬋一」。
(瓏卉) 草花のこと。〇〔王安石〕「山路｜｜繁」。
(炎卉) 色紅にしてもゆるばかりの色なせる草。〇〔鮑照〕「｜｜耀二朱芳一」。

【𠦒】ハン。北官切 寒
華に同じ、あくたを棄つる器の名、ちりとり。

【卍】バン マン。無販切 願
佛書にある萬の字。〇〔宛成〕「蓮花｜字總由レ天」。

【卙】ヒツ、ヒチ。卜失切 質
氣を出だす聲、いきふく。

五畫

【尗】俗の叔の字。

【畢】ヒツ、ヒチ。卑吉切 質 ハン。北潘切 元
箕の類、あくたを棄つる器の名、ちりとり。

六畫

【巩】キョウ、ク。居竦切 腫

抱へ持つ、かゝふ、いだく、(擁)。

【卑】ヒ。補支切 支

㊀ひくし。

(い)ひくし、(低)。 ○〔禮〕「一一高已陳」。

(ろ)いやし、(賤)。 ○〔史〕「一名一」。

㊁ひくしとなす、みくだす、いやしむ。

○〔國〕「何以一レ我」。

㊂己れをひくゝす、へりくだる、いやしくす。

○〔禮〕「自一而尊レ人」。

㊃ひくきこと、ひくき度、ひくき場處、ひくきもの。 ○〔左〕「計二丈-數一端二高-一一」。 「一只」。

〔鮮卑〕(い)帶の名。 ○〔楚辭〕「小-腰秀-頸若ニ一-

(ろ)古昔支那北方に住める夷の名。 ○〔魏〕「魏之先出レ自ニ黃-帝軒-轅-氏一黃-帝子意昌之少-子受ニ北國一、有ニ太-一-一-山一、因以爲レ號」。

〔聽卑〕低き所に聞く、高きに居て下の情を聞き知るにいふ語。 ○〔史〕「天高一レ一」。

〔就卑〕低き位地に趣く。 ○〔漢〕「鞠-躬降レ尊一レ一」。

〔禮卑〕禮讓を守りて人に下る。 ○〔易〕「知崇一一」。

〔謙卑〕へりくだる、他を敬ひ己れを卑くす。 ○〔易、疏〕「恆以一-一、自養ニ其德一」。

〔自卑〕我が身を低くす。 ○〔禮〕「夫禮者一-一而尊レ人」。 「無レ諂」。

〔辨卑〕身をおとしひきくす。 ○〔禮〕「立容一-一

〔辭卑〕他に對して言葉を鄭重にす。 ○〔國〕「使者往而復來、一愈一禮愈尊」。

〔位卑〕位地ひくし。 ○〔孟〕「一一而言高罪也」。

〔恭卑〕おのれを低うしへりくだる。 ○〔梁〕「容-止同-規矩、賓從盡一-一」。

【卑】ヒ。幷弭切 紙

俾に同じ、他を使令し動作せしむるときに用ふる字、して、しむ、せしむ。

○〔荀〕「一ニ民不ニ迷」。

【卑】ヒン。毗賓切 眞

顰に同じ、しかむ、ひそむ。

【卒】ソツ、ソチ。作沒切 月

㊀事に給する隷人、しもべ、やっこ。 ○〔漢〕「斯-輿之一」。

㊁最下級の軍兵、古昔は徒步するものなりき、雜兵、人夫。 ○〔左〕「具ニ一一 「乘ニ」。

㊂もろく。

(い)羣衆。 ○〔莊〕「人-一九-州穀-食之所レ生」。

(ろ)軍隊。 ○〔戰〕「見一不レ過ニ二-十-「萬ニ而已矣」。

㊃兵士二百人の稱、一說に兵士百人の稱。 ○〔左〕「廣有ニ一-一ニ」。

㊄民戶三百ある邑、むら。 ○〔國〕「三-十-家爲レ邑、十-邑爲レ一」。

㊅にはか、(暴-急)。 ○〔漢〕「亡ニ以應レ一」。

㊆あわつ、(匆-遽)。 ○〔漢〕「一-一無ニ須-臾之閒ニ」。

〔輕卒〕身がるにいでたつ兵士。 ○〔戰〕「一-一銳-兵 「長-驅至レ國」。

〔戍卒〕まもりの兵、要害の處をまもる兵士。 ○〔史〕「馬蓐-食」。 減ニ一-一之半ニ」。

〔訓卒〕兵士を調練すること。 ○〔左〕「一レ一利レ兵、秣レ

〔徒卒〕かちだちの兵士。 ○〔左〕「車-兵一-一」。

〔銳卒〕するどき兵士。 ○〔漢〕「輕-車一-一」。 「一」。

〔選卒〕えらび拔きたるよき兵士。 ○〔戰〕「良-士一-

〔勁卒〕つよき兵士。 ○〔晉〕「良-將一-一」。

〔騎卒〕馬に乘りて出で立てる兵士。 ○〔漢〕「一-一十萬-人」。

〔羸卒〕つかれて弱き兵士。 ○〔朱熹〕「擁ニ一-一ニ守ニ「孤-城ニ」。

〔隸卒〕賤しき輩、下衆のもの。 ○〔北〕「一-一子-息皆習ニ其父兄所レ業、不レ聽ニ私立ニ學-校ニ」。

〔烏合卒〕寄り聚まりの兵士、烏合の兵に同じ。 ○〔漢〕「足-下起ニ一-一之一、收ニ散-亂之兵ニ」。

〔厮輿卒〕賤役の人、賤業を執るもの。 ○〔漢〕「一-一之一有ニ一不レ備而歸者ニ」。

〔抱關卒〕門の出入開閉を掌る賤役の者。 ○〔蘇軾〕「城-門一-一-一、怪レ我此何求」。

【卒】シュツ、シュチ。卽聿切 質

㊀をはる。

(い)つく、やむ。 ○〔禮〕「三-日五-哭「一」。

(ろ)生命つく、死ぬ。 ○〔孟〕「一ニ於鳴-條ニ」。

(は)特に大夫の死ぬるにいふ字。 ○〔禮〕「大-夫死曰レ一」。

(に)又、天年を全うして死ぬるにもいふ字。 ○〔禮〕「壽-考曰レ一」。

㊁やむ、つくす、をふ。 ○〔史〕「一レ世不レ見」。

㊂はて、をはり、死。 ○〔晉〕「臨レ一之際」。

㊃ある事をなしをはりたる意を表はす字、のちに、はてに、しまひに、つひに。 ○〔左〕「遂敗ニ鄭師於蒲-騷一、一盟而還」。

【卒】サイ、セ。取內切 隊

倅に同じ、せがれ。 ○〔禮〕「諸-侯卿大-夫士之庶-子之一」。

【卓】タク、トク。竹角切 覺

㊀たかし、(高)、又、とほし、(遠)。 ○〔臥遊錄〕「江-山嚴-厲而峭-一」。

㊁こゆ、(超)、すぐ、(殊)。 ○〔韓愈〕「負ニ超-一之奇-材一、蓄ニ雄-剛之俊-德ニ」。

〔守卓〕見識を高うしまもる。 ○〔揚雄〕「多見則「信含ニ異-氣ニ」之以レ一」。

〔卓々〕高き貌にいふ語。 ○〔文心雕龍〕「孔-氏一-一出ニ「爲ニ卿相ニ」。

〔奇卓〕くすしくすぐる。 ○〔宋〕「其淩-麗一-一出ニ乎天-成ニ」。

〔恢卓〕大いにすぐる。 ○〔桓子〕「其政一-一、可ニ以「亮ニ、一-一不レ羣」。

〔瑰卓〕前に同じ。 ○〔論衡〕「一-一之義、發ニ于顛-沛之朝ニ」。

〔淸卓〕きよくしてすぐる。 ○〔法苑珠林〕「幼懷ニ雅-

〔高節卓〕みさを高し。 ○左思「功成恥レ受レ官、一-一-一不レ群」。

【協】ケフ、ゲフ。胡頰切 葉 —說文 从レ劦十聲。

㊀和合す、やはらぐ、かなふ。 ○〔書〕「一ニ和萬-邦ニ」。 「ニ下-民祇一」。

㊁和合して服す、したがふ、つく。 ○〔書〕

〔不協〕和合せず。 ○〔蜀〕「情-好一-一」。

〔允協〕まことによくやはらぎかなふ。 ○〔晉〕「故能一-一時雍」。 「六•變成」。

〔翁協〕調子のよく合ふこと。 ○〔舊唐〕「六-鐘一-一

〔諧協〕やはらぎかなふ。 ○〔宋〕「詞-律不ニ和一-一ニ」。

【卌】シフ。七入切 緝

卅に同じ、十を四倍したるもの、よそ、よそぢ、四十。

七畫

【南】ダン、ナン。那含切 覃

㊀みなみ。

(い)方位の名、太陽の出づる方に向きて右の方、北の反、午の方。 ○〔後漢〕「晝短日一則北景」。

(ろ)みなみの方にあたれる處。 ○〔史〕「大-江之一五-湖之閒」。

㊁みなみの方へ行く、みなみす。 ○〔北〕「北-竄不ニ復一ニ」。

㊂はらむ、(任)。 ○〔漢〕「太-陽者南-方一任也、陽-氣任ニ養物一、於レ時爲レ夏」。

㊃樂の名。 ○〔詩〕「以雅以一」。

〔雙南〕金に同じ。 ○〔范仲淹〕「英-華旣發、一-一之價彌高、鼓-鑄未レ停、百-鍊之功可レ待」。

〔和南〕掌を合はせて禮を作すこと。 ○〔翻譯名義集〕「合-掌作レ禮曰ニ一•一ニ」。

〔指南〕意指南車の故事より起こる、敎へ示すこと、學藝を敎ふること。 ○蜀「足-下當ニ以爲ニ一•一ニ」。

〔周南〕〔召南〕詩經の篇の名、又、樂歌の名。 ○〔呂氏春秋〕「周-公召-公取レ風焉、以爲ニ周•南召-南ニ」。

〔日南〕太陽の南の方にあること。 ○〔周〕「一-一則景短多レ暑、日北則景長多レ寒」。

〔山南〕山の南、山の日に向かひたる方面。 ○〔穀一〕「一-一爲レ陽」。

(極南)　南の方のはて。○[書、疏]「―・―五十度、」
(二南)　詩經の周南と召南との二篇のこと　○[詩、註]「周召ニ―・―、風雅ニ六代ニ」。

九畫

【卙】シフ。子入切　緝　―卙に作るは惡し。
⊖多く一處に集まる、つどふ、むらがる、あつまる。
⊜さかんなり、(盛)、特に蠶の盛んなるにいふ字。

【𠦬】シフ。秦入切　緝
詞のあつまれるもの。

十畫

【博】ハク。補各切　藥
⊖ひろし。
(い)狹からず、大いなり。○[史]「壤-土之―、人-徒之衆」。
(ろ)おほし、(多)、あまねし、(普)。○[史]「載-籍極―」。
(は)知ること多し。○[荀]「多-聞曰レ―」。
⊜ひろき度合、ひろさ。○[儀]「―三-寸」。
⊜ひろくなる、ひろまる、又、ひろくなす、ひろむ。○[莊]「―レ之不ニ必知ー」。
㊃とりかはす、かふ、(交-換)。○[韻會]「古琴曲有ニ不―金ー」。
㊄箸を投じ棊を行りて勝負を爭ふ遊戲、ばくち、すごろく、又、其の遊戲を行ふ。○[家語]「君-子不レ―」。
(六博)　すごろくのこと。
(褐博)　ひろそでの衣、賤者の服、又、其の人。○[揚雄]「沒ニ齒―・―ー」。
(褐寬博)　前に同じ。○[孟]「不レ受ニ於―・―・―ー」。
(宏博)　大いにひろし。○[史]「化隆者―・―、治-淺者褊狹」。
(精博)　くはしくしてひろし、細密に行き渡る。○[漢]「旣―旣―、吾何加焉」。
(辨博)　わきまふるよひろし。○[晉]「才辯ニ―・―ー」。
(德博)　めぐみ遠きに及ぶ、恩德ひろし。○[易]「善世而不レ伐、―・―而化」。
(學博)　學問の廣きこと。○[禮]「君-子之―也―、其服也鄉」。
(溥博)　大いに廣し。○[禮]「―・―如レ天、淵-泉如レ淵」。
(施博)　ひろく施す。○[淮]「德之所レ―者―、則威之所レ行者遠」。
(豐博)　ゆたかにしてひろし。○[晉]「顏-辭-論―・―、廣笑而不レ言」。
(贍博)　足らひて廣し。○[晉]「學-業―・―、辭-藻溫-麗」。
(洽博)　あまねくひろし。○[晉]「經-學―・―」。
(富博)　とみてひろし。○[南]「時重ニ其―・―ー」。
(夷博)　平かにして廣し。○[唐]「壤-土―・―」。
(浩博)　ひろし。○[宋]「汪-洋―・―」。
(該博)　彼れと此れとにかねて廣く通ず。○[搜神記]「經-書靡レ不ニ―・―ー」。

卜　部

【卜】ボク。博木切　屋　―[說文]象ニ灸ー龜之形ー。
⊖龜の甲を灼きてあらはれたる縱橫の象によりて未來の吉凶を判斷するにいふ字、轉じてある象によりて未來の吉凶を判斷するにもいふ字、うらなふ、うらなひ。○[詩]「考レ―維王、宅ニ是鎬-京ー、維龜正レ之」。
⊜賜與す、あたふ、たまふ。○[詩]「君曰―レ爾萬-壽無レ疆」。
(枚卜)　かぞへうらなふこと。○[書]「―ニ―功臣ー」。
(賣卜)　あたひを受けてうらなふ。○[後漢]「―レ―給レ食」。
(筮卜)　うらなひ。○[漢]「易爲ニ―・―之書ー」。
(簡卜)　えらびかんがふ。○[北]「請更―・―」。
(龜卜)　うらなふ。○[宋]「如ニ燭照―・―ー」。

二畫

【卝】クワン。古患切　諫
⊖總角の貌にいふ字。○[詩]「總-角―兮」。
⊜あげまき、つのがみ、總角。○[中論]「始ニ乎笄-―ー」。
⊜をさなし、(稚)。○[晉]「童―時」。

【卝】古文の礦の字。

【卞】ヘン、ベン。皮變切　霰
⊖かろ〴〵し、さわがし、(躁-疾)。○[左]「邾莊-公―-急而好レ潔」。
⊜のり、(法)。○[書]「率ニ循大―ー」。
⊜かはる、(化)。○[孔宙碑]「於―時雍」。

【卞】ハン、バン。蒲官切　寒
般に同じ、たのしむ、なぐさむ。

三畫

【卟】ケイ、カイ。堅奚切　齊
うらかたを考ふ、かんがふ、うらなふ。

【占】セン、ソン。之廉切　鹽　―[說文]从ニ卜-口ー。
⊖兆を視て物事の吉凶を知る、數を推して未來の禍福を考ふ、うらなふ、うらなひ。○[詩]「大-人―レ之」。
⊜みる、(瞻)、又、うかゞふ、(候)。○[莊]「夢之中又―ニ其夢ー」。
⊜とふ、(問)、又、ためす、(驗)。○[荀]「請ニ之五-泰ー」。
㊃心に隱度す、はかる。○[史]「各以ニ其物ー自―」。
㊄うらなふ形兆、うらなひの方技、うらかた、うら、又、うらなひたる言辭。○[易]「卜-筮者尙ニ其―ー」。
㊅隱度して其の意を人に書せしめしもの。○[顏延之]「式遵ニ遺―ー」。
(口占)　くちすさぶ、くちすさび。○[後漢]「瀕レ几―・―」。
(官占)　官府のうらなひ。○[書]「―・―惟先蔽レ志」。
(卜占)　うらなひ。○[後漢]「善ニ―・―之術ー」。
(繇占)　うらかたのこと。○[周、註]「佐ニ明其―之―ー」。
(天占)　天にあらはれたる吉凶の徵候。○[隋]「―・―兆、人-事又見」。
(工占)　卜筮の官。○[史]「使ニ―・―之所レ言當ー」。
(兆占)　うらなふ、又、うらなひ、又、うらかた。○[漢]「咸-應ニ―・―ー」。

【占】セン。章艷切　艷
わが所有とす、領す、しむ、たもつ、(有)。○[韓愈]「―ニ小-善ー者率以錄」。
(私占)　己れのものとなす。○[晉]「通-逃―・―」。
(包占)　つゝみしむ。○[宋]「因而―・―」。
(冒占)　をかし取る。○[宋]「爲レ人―・―」。
(侵占)　前に同じ。○[元]「不レ許ニ―・―ー」。
(獨占)　ひとりで己がものとなす。○[蘇軾]「―・―人-間分-外榮」。

【卡】サフ、ザフ。從納切　合
まもり、(守)。

四畫

【友】キヨウ、コツ。居陵切　蒸
朽ちたる骨の餘り。

五畫

【卣】イウ、ユ。于求切　尤　／　云九切　有
酒を盛る一種の尊、さかだる、彝より小さく罍より大きく其の中位にあり。○[詩]「秬鬯一―」。

（卣之圖）

【⿰召卜】セウ、ゼワ。之少切 [嘯] 市沼切 [篠] テウ、デウ。田聊切 [蕭] 市昭切
うらなひ問ふ。

六畫

【⿰兆卜】テウ、デウ。直紹切 [篠] ―[説文]从二卜兆一。
兆に同じ、龜を灼きてわれたるきざし、うらかたきざし。

【卦】クワイ、ケ。古畫切 [卦]
筮易にて六畫の算木の面にあらはれたる兆象、其の兆象にて事の吉凶を見る、うらかた、かた。○[周]「掌二三易之法一、一曰連山、二曰歸藏、三曰周易、其經一一皆八、其別六十四」。
〔八卦〕うらなひの算木の面にあらはるゝ象、乾、兌、離、震、巽、坎、艮、坤の八つをいふ。○[易]「四象生二一一」。
〔陽卦〕〔陰卦〕易象の上にて陰と陽との二つに分かれ其の陽の部と陰の部とに屬する卦。○[易]「陽卦多レ陰、陰卦多レ陽」。
〔乾卦〕乾の卦のこと。○[漢]「蒙一一用レ事」。
〔兆卦〕易象の上にあらはれたるきざし。○[詩、傳]「體二一一之體一」。
〔筮卦〕前に同じ。○[晉]「一一用二五行相生殺」。
〔蓍卦〕前に同じ。○[蔡邕]「一一利レ貞、天見二三光一」。
〔吉卦〕めでたき象。○[劉向]「貧者一一而歎レ之「乎」。
〔賣卦〕卜者となりて生活す。○[蔡邕]「乃一二一「之一一」。于梁宋之域一」。
〔畫卦〕こしらへたる易象。○[成公綏]「蓋二羲氏一
〔神卦〕くすしきはたらきをもてる易の象。○[柳宗元]「八方定レ位開二一一一」。

【⿴囗⿱卜乂】ジヨウ、ゾウ。如乘切 [蒸]
㊀驚く聲にいふ字、おどろく。
㊁ゆく(往)。

【𠧧】𠧧に同じ。

七畫

【𠧴】テウ、デウ。徒聊切 [蕭] 多嘯切 [嘯] テウ。
草木の實の垂れたる貌にいふ字。○[類篇]「艸木實垂一一然也」。

八畫

【卣】イウ、ユ。以周切 [尤] ―一に逌に作る。
㊀氣のめぐる貌にいふ字、ゆく、すゝむ。
㊁攸に同じ、ところ。○[漢]「萬國一レ平」。

卩部（㔾）

【卩】セツ、セチ。子結切 [屑]
今、節に作る、志るしてがた、わりふ。

一畫

【卪】セツ、セチ。子結切 [屑]
前條に同じ。

【卫】ソウ、ス。子候切 [宥]
㊀前條に同じ。○[藝文備覽]「反レ一復」。
㊁かく(闕)
㊂おさふ(抑)。「命二于君一」。

二畫

【卬】カウ、ガウ。五剛切 [陽]
㊀己れの稱に用ふる字、われ、わ。○[詩]「一一須二我友一」。
㊁昂に同じ、たかし、たふとし、あがる ○[漢]「萬物一貴」。
㊂意氣あがる、激厲す、あがる、はげむ。○[司馬相如]「貫歷覽其中操兮意慷慨而自一」。

【卬】ギヤウ、ガウ。魚向切 [漾]
あふぐ(仰)、のぞむ(望)、むかふ(向)、ねがふ(願)。○[荀]「上足レ一則下可レ用」。

【夘】セイ、サイ。子禮切 [薺] ケイ、キヤウ。丘京切 [庚]
よろしきやうにとり行ふ、はからふ、はからひ(處分)。

三畫

【卭】邛の譌字。

【卮】シ。旨而切 [支]
㊀酒漿を盛る圜き器の名、さかづき。○[漢]「上置二酒未央宮一、奉二玉一一」爲二太上皇壽一」。
㊁滿つれば傾き空しければ仰ぐを、物に因り變に隨ふを ○[莊]「一一言日出」。
㊂煙支、べに。○[史]「巴蜀地饒レ一」。
〔玉卮〕たまにてこしらへたるさかづき。○[漢]「奉二一一」。
〔瑤卮〕前に同じ。○[王融]「縮二一一」。
〔瓦卮〕かはらにてこしらへたるさかづき。○[徐渭]「樓上張レ燈倒二一一」。「河不レ能レ實二一一」。
〔漏卮〕入れたるものゝもるゝさかづき。○[淮「汎一一」。
〔酒卮〕さかづき。○[庾信]「金船代二一一」。
〔操卮〕さかづきを手に持つ、又、酒を飲むの義にも用ふる語。○[劉伶]止則一レ一執レ觚」。
〔倒卮〕さかづきをかへす、又、酒を飲むをとゞむるの義にも用ふる語。○[蘇軾]「吾雖レ不レ飲强一レ一」。

【卯】バウ、メウ。莫飽切 [巧]
一に丣に作る、俗に夘に作るは惡し。
㊀地を冒して出づ、をかす、いづ。
㊁おふ、志げる。○[晉]「一茂也謂二陽氣生而孳茂一也」。
㊂十二支の一、第四位にあたるもの、う ○[詩]「十月之交、朔日辛一」。
㊃今の午前六時、舊制の明け六つ時。○[吳越春秋]「十二月戊寅之日、時加レ一」。
㊄方角の名、ひがし。○[武元衡]「兎居二一位一」。
㊅辰の名。○[爾]「歲在レ一曰二單閼一」。

四畫

【印】イン。伊刃切 [震] ―[説文]从レ爪从レ卩、象二相合之形一。[文今文作卩]。
㊀文字又は物の形を木又は金石などに刻りつけて證信とせるもの、志るし、おして。○[漢]「二千石皆銀一一、二百石以上皆銅一一」。
㊁ある物の痕迹を他の物の上に附著するにいふ字。○[青瑣高議]「口脂在レ手、偶一二手花上一」。
〔金印〕金にて造りたる印、古諸王及び列侯、御史大夫のおびしもの。○[史]「懷黄一之一、結二紫綬於腰一」。「其磨下一」。
〔佩印〕印を身に帶ぶ。○[史]「張耳乃一二其一一、收二其磨下一」。
〔銀印〕銀にて造りたる印、祿二千石以上のものゝおぶるもの。○[漢]「凡吏秩比二二千石以上、皆一一青綬」。
〔銅印〕銅にて造りたる印、祿百石以上千石までのものゝおぶるもの。○[漢]「秩比二六百石以上一、一一黑綬」。
〔玉印〕玉にて造りたる印、即ち天子の印。○[漢]「天子又刻二一一」。「一一」。
〔相印〕宰相の佩ぶる印。○[史]「蘇秦佩二五國之一」。
〔官印〕官署にて用ふるしるし、官符に同じ。○[漢]「佩二千石一一者、家唯給二宮賦一、若無レ有所レ佩」。
〔信印〕いつはりなきのしるし、いつはりなし。○[漢]「使三各佩二其一一一、廼可レ使レ通二言于神人一」。

〔節印〕　志るし、わりふ。〇〔漢〕「使ㇾ遠取ニ—・—ー歛ㇾ物、甚逆ニ天理ニ。
〔法印〕　佛のみち。〇〔倚無可〕「從ㇾ誰得ニ—・—ニ。
〔心印〕　(い)さとりの道。〇〔李華中〕「諸長老寄ニ持—・—ニ。「—金」。
(ろ)意氣といふに同じ。〇〔辨才〕素與ニ曹・公ニ—・

〔危〕　キ、牛爲切　ギ。〔支〕　〔說文〕从ㇾ厃、人在ニ厓上ニ、自ㇾ卩ㇾ止之ニ。

㊀あやふし。
(い)高くして懼るべし、險にして戒むべし、難んずべし、疾むべし、怖づべし。〇〔孝〕「高而不ㇾ—」。
(ろ)不正にして信じ難し。〇〔史〕「眞傾—ー之士哉」。
(は)死に近し、亡ぶるに近し、敗るゝに近し、傾くに近し、隕つるに近し。〇〔戰〕「魏必—」。
㊁あやふからしむ、あやふくす、傷ふ、害す、妨ぐ。〇〔禮〕「比・黨而—ㇾ之」。
㊂あやふしとなす、あやぶむ、懼る、難んず、疑ふ。〇〔呂氏春秋〕「日以相—」。
㊃高し。〇〔莊〕「去ニ其—冠ニ」。
㊄正し。〇〔莊〕「—然處ニ其所ニ」。
㊅厲し。〇〔論〕「—言—行」。
㊆屋棟の高き處。〇〔禮〕「皆升ㇾ自ニ東榮ニ、中ㇾ屋—」。
㊇あやふき處、あやふき事、あやふき心。〇〔國〕「搖・木不ㇾ生ㇾ—」。
㊈二十八宿の一、うみやめ。〇〔左〕「玄武之宿、虛—之星」。

〔登危〕　あやふき處に上がる。〇〔南〕「歆尤愛ニ山水ニ、—ㇾ—履ㇾ嶮、必盡ニ幽・遐ニ」。
〔守危〕　わざはひに遇はぬやうに注意す。〇〔禮〕「故明ニ于順ニ、然後能—ㇾ—也」。
〔懷危〕　あやぶむ心を抱きもつ。〇〔漢〕「中・材苟容求ㇾ全、下・材—ㇾ—內・顧」。
〔去危〕　難をよく、禍を避く。〇〔漢〕「或聞ㇾ己以鎭ニ北蹤ニ、或—ㇾ—以圖ニ北安ニ。　—ニ。
〔殆危〕　あやふし。〇〔易林〕「寒・風凜冽常憂ニ—・
〔定危〕　あやふきを定め治む。〇〔漢〕「存・亡—・—」。
〔持危〕　前に同じ。〇〔南〕「—ㇾ—冒ㇾ險」。
〔欹危〕　かたぶきてあぶなし。〇〔杜甫〕「行・步—・—實怕ㇾ春」。
〔澆危〕　衰へたるすゑの世。〇〔元倉子〕「—・—之世、務取ニ可ㇾ聞可ㇾ見之材ニ。
〔累卵危〕　卵を積み重ねたるが如くに極めて崩れ易くあやふし。〇〔漢〕「而欲ㇾ乘ニ—・—之—ニ走中上天之難上」。

五畫

〔卲〕　セウ、市招切　ゼウ。〔蕭〕　市照切　〔嘯〕
たかし、すぐる、まさる。〇〔揚雄〕「穜・蠡不ニ彊・諫ニ而山・棲、賢不ㇾ足ㇾ—也」。

〔即〕　俗の卽の字。

〔却〕　俗の卻の字。

〔卵〕　ラン。盧管切　〔旱〕
鳥、又は蟲などすべて乳なき動物の生みて後に子に孵るもの、たまご、かひこ。〇〔左〕「子・西曰、白・公・勝如ㇾ—、予翼而長ㇾ之」。
〔累卵〕　かさねたるたまご、物事のあやふきに借りいふ語。〇〔史〕「秦・王之國、危ニ於—・—ニ」。
〔重卵〕　前に同じ。〇〔韓〕「臣之所ㇾ處—・—也」。
〔穀卵〕　生育すること、そだつ。〇〔吳、誌〕「少蒙ニ—・—呴・伏之恩ニ」。

〔卵〕　コン。古門切　〔元〕
魚の子、魚のたまご。〇〔禮〕「濡ㇾ魚—・醬實ㇾ蓼」。

〔𠨘〕　ヒ、ビ。兵媚切　〔寘〕
つかさどる、きりもりす、(宰)。

〔卹〕　シツ、シチ。所櫛切　〔質〕
玉の鮮潔なる貌にいふ字、あざやか。

六畫

〔卶〕　シ。施智切　〔寘〕　敕介切　〔卦〕
大慶あり、よろこぶ、よろこび。

〔卷〕　ケン、クワン。居倦切　〔霰〕
㊀卷まがる、まがる、かゞまる。〇〔莊〕「有ニ—・婁者ニ」。
㊁書畫をまき收むるやうに裝製したるもの、まきもの、まき。〇〔揚雄〕「—・—之書、必立ニ之師ニ」。
〔連卷〕　つらなりまがる。〇〔謝靈運〕「蹬・閣—・—」。
〔黃卷〕　書物を云ふ。〇〔唐〕「—・—中方與・聖・人—對ニ。「司會ㇾ心、—・—忽而笑」。
〔掩卷〕　書物をおほひて讀書を止む。〇〔李白〕「片言執ニ—・—ニ、試・策殿・最」。　〇〔漢〕「手「—」。
〔經卷〕　經書、卽ち四書五經などのこと。
〔披卷〕　書物をひらきみる。〇〔宋〕「晉執ㇾ袂而—」。
〔握卷〕　書物を手ににぎる。〇〔齊〕「夜讀ㇾ書隨ニ月・光ニ、—ㇾ—升ㇾ屋」。
〔偷卷〕　いつはりて書物を讀みたるふりす。〇〔高啓〕「左・右睡・讀失ニ次・第ニ、或—ㇾ—度ㇾ紙」。
〔廢卷〕　讀書を止む。〇〔南〕「見ニ忠・臣烈・士ニ、未ニ嘗不ㇾ—ㇾ—」。
〔不廢卷〕　書物をやむときなく披き讀む。〇〔晉〕「猶「手—ㇾ—ㇾ—」。

〔卷〕　ケン、クワン。居轉切　〔銑〕
捲に同じ、まく。
(い)曲げたゝむ、曲げ束ぬ。〇〔周〕「—而摶ㇾ之ニ」。
(ろ)斂む。〇〔韓愈〕「—舒不ㇾ隨ニ于時ニ」。
(は)取る。〇〔淮〕「南—ニ沅・湘ニ」。
〔席卷〕　むしろをはくが如くにまきとる。〇〔史〕「明天・子在ㇾ上、兼ニ文武ニ、—ニ—四・海ニ」。
〔雲卷〕　くもの如くにまく。〇〔晉〕「霞・舒—・—」。
〔焦卷〕　やけちゞまる。〇〔歷瑾〕「草・木—・—」。
〔半卷〕　なかばまきをさむ、又、其のもの。〇〔李賀〕「—・—紅旗臨ニ易・水ニ」。「無ㇾ河」。
〔四卷〕　四方よりとりまく。〇〔韓愈〕「白・雲—・—天
〔作卷〕　かちまちをさまる。〇〔上官遜〕「林・塢—・—、廊嬢外・拃—」。
〔內卷〕　境內をまろめ治む。〇〔晉〕「將・齒—・—」。
〔懷卷〕　身の才能を隱す。〇〔張衡〕「—・—而同ニ其塵ニ」。
〔高卷〕　智を見はさずして世を遁る。〇〔高士傳〕「寮ニ觀乾・象ニ、懷ㇾ珍高—」。

〔卷〕　コン。古本切　〔阮〕
袞に同じ、高貴の人の衣る服の名。〇〔禮〕「三・公一・命ㇾ—、天・子—・冕」。

〔卷〕　ケン、ゲン。巨員切　〔先〕
㊀まがる、かゞまる、(曲)。〇〔莊〕「—・曲而不ㇾ中ニ規・矩ニ」。
㊁匾々たる貌にいふ字、ちひさし。〇〔巾〕ニ「—・—石之多」。
㊂惓に通じ用ふ、つゝしむ、(謹)、ねんごろ、(懇)。〇〔漢〕敢味・死竭ニ—・—ニ。
㊃好き貌にいふ字、かほよし、みめよし。〇〔詩〕「有ニ美・人ニ碩・大且—」。
〔風卷〕　風まき吹く。〇〔鮑照〕「飄・風ニ秋・權、—・—寒・蓬ニ」。「—・—」。
〔波卷〕　なみうちまく。〇〔玉海〕「茨・苔雲舒、漫苔—・—方—、郢・氣巳昧」。
〔朝霞卷〕　あさがすみなどをさまり霽る。〇〔江淹〕
〔薜蘿卷〕　つたもみぢなどの物にまきつく。〇〔江淹〕「無ㇾ幽・居之士、—・—可ㇾ—」。

〔卸〕　シヤ、セ。四夜切　〔禡〕
㊀車に著けたる馬を解く、馬の鞍を解く、著けたる衣を脫す、擐きたる甲を脫す、舟上の荷物を出だす、結び付け飾り付けてあるものを解き去り又は解き下すにいふ字、とく、ぬぐ、すつ、おろす。〇〔陸龜蒙〕「俗・狀既能遺、塵・冠聊以—」。
㊁上に著しもの下に落つ、おる、おつ

○〔復齋漫錄〕「侯二花凋一ー、卽以レ酥煎食レ之」。

【卹】 シユツ、シユチ。雪律切 〔質〕 卩に从ふ、阝は誤なり。

恤に同じ、めぐむ、あはれむ。○〔周〕「以二凶荒一」。

〔賑卹〕人にわりつけて賑しめぐむ。○〔後漢〕「死者無レ數、帝曠二ーー有一レ虛」。

〔賜卹〕上よりたまひめぐむ。○〔後漢〕「隨宜二ー一」。

〔贍卹〕にぎはしめぐむ。○〔後漢〕「常分二損租奉一、ー二ー宗親一」。

〔振卹〕前に同じ。○〔南〕「會二平、荒計口ーー」。

〔賙卹〕前に同じ。○〔金〕「其友商衡、徙爲レ之經且ーーー焉」。

〔勞卹〕ねぎらひめぐむ。○〔唐〕「猶式ー二ー之一」。

【卹】 ソツ、ソチ。蘇骨切 〔月〕

かきなづ、(搔摩)。○〔禮〕「以二策彗一ーー勿」。

【㕁】 俗の卻の字、後變じて却となれり。

【卺】 キン、コン。乞隱切 〔軫〕

俗に巹に作る、婚禮の式に用ふる酒を盛る器、ひさご、さかづき。○〔儀〕「四爵合ーー」。

七畫

【卻】 キヤク、去約切 〔藥〕 カク。 俗に却、又は㕁に作る。

㊀しりぞく。

(い)受けず。○〔孟〕「ーレ之爲二不恭一」。

(ろ)後へ行る。○〔漢〕「引二ー愼夫人座一」。「冀」。

(は)攘ふ、除く。○〔老〕「ー二走馬一以レ

(に)放つ、舍つ。○〔耳目記〕「甲仗總拋ーー」。「而ーレ之」。

(ほ)止どむ、拒む、○〔韓〕「輪中レ繩引

(へ)後へ引く。○〔韓〕「戰竦而ー」。○〔梁昭明太子〕「似二秋隆暑斯ー一」。

(と)去る、遠ざかる、止む。○〔莊〕「今吾心正ー矣」。

(ち)息む。○〔素問〕「血氣內ー」。

(り)閉づ。

㊁閒隙、ひま、すきま、あひだ。○〔列〕「其神無レー」。

㊂さはなくて、かへりて。○〔晉〕「若臨レ時有レ故、ー在二明年一」。

㊃あふぐ、あをむく、(仰)。○〔儀〕「啓レ會ー二于敦南一」。

〔前卻〕(い)進むとしりぞくと。○〔詩、箋〕「載蹌將レ歸、出入ーーー」。

(ろ)進ましむるとしりぞかしむると、轉じて思ふがまゝに人を使ふの義にいふ語。○〔吳、註〕「近爲鼠子所二ーー一、令三人氣湧如レ山」。

〔擯卻〕しりぞけ遠ざく。○〔漢〕「宗室ーー」。

〔敗卻〕いくさに敗れてしりぞく。○〔史〕「ーニー彭城一」。「文一」。

〔賣卻〕うりさる。○〔耳目記〕「ー二ー一雜三十

〔反卻〕しりぞく、又、かへりて。○〔史〕「方今楚易レ取、而漢ーーー自奪二其便一」。

〔根卻〕推し落とす。○〔唐〕「爲二仇怨所一ーー一」。

〔退卻〕しりぞく。○〔魏、註〕「ーー避レ之」。

〔披卻〕ひらきしりぞく。○〔唐〕「衆皆ーーー」。

〔排卻〕おしりぞく。○〔參同契〕「ー二ー衆陰一」。

〔消卻〕けしとゞむ。○〔論衡〕「災害變二于上天一、賢君不レ能二ーー一」。

〔棄卻〕すてさる。○〔搜神記〕「將二歸髑髏安二頭上一、便搖レ之落者ーーー」。

〔忘卻〕わする。○〔夢遊錄〕「舞袖弓彎渾ーーー」。

〔潛卻〕ひそみしりぞく、來たらず。○〔劉寬夫〕「冬霜不レ到、夏日ーーー」。

【卼】 ゴツ、ゴチ。五忽切 〔月〕 ー或は杌に作る。

やすからず、あやふし、(危)。○〔易〕「上九、困二于葛藟于臲ーー一」。

【㠶】 ギヨ、ゴ。魚據切 〔御〕

㊀をさむ、(理)。㊁すゝむ、(進)。

【𠨗】 キ、ケ。虛宜切 〔支〕

骨節の閒をいふ。

【卽】 シヨク、ソク。子力切 〔職〕 ー俗に卽、又即に作る。

㊀つく、(就)、又、ちかづく、(近)。○〔詩〕「豈不二爾思一、子不二我ー一」。

㊁ちかし(近)、又、いま(今)。○〔爾、疏〕「ー今相近也」。

㊂すなはち

(い)其の場合の迅急なる意を表はして上の語と下の語とを接續するときに用ふる字、たゞちに。○〔史〕「歲餘高后崩、ー罷レ兵」。

(ろ)上を承け指して他のものにあらざる意を表はす字、とりもなほさず。○〔史〕「或曰、儋ー老子、或曰非也」。

(は)萬一、もし。○〔左〕「ー辭レ之、君且レ怒レ之」。

㊃燭炬の燒餘、もえさり。○〔管〕「左手執レ燭、右手執レー」。

㊄充實す、みつ。○〔漢〕「礥々ーーー」。

㊅煩惱と菩提と相合して離れざると、又二者其の相は異なれども、其の性は同一眞如なるを、又二者の無差別なるをいふ字、或は彼れと此れとを會得して融通なすをにもいふ字、(佛家の言)。○〔觀無量壽經疏妙宗鈔〕「ー者其體不二一」。

〔移卽〕うつりつく。○〔沈約〕「訪二安上一而ーーー」。

〔六卽〕佛家にて理、名字、觀行、相似、分證、究竟をいふ。○〔傳燈錄〕「復創二ーー之義一、以絕二斯ー一」。

〔往卽〕其の處に到りて其の事を爲す。○〔書〕「ーー乃封一」。「羣謀一」。

〔延卽〕己れの處に引き付けて近づく。○〔宋〕「ーー二

九畫

【鄂】 ガク。逆各切 〔藥〕 ー又鄂に作る、邑に从ふ鄂と別なり。

【卿】 ケイ、キヤウ。丘京切 〔庚〕 〔說文〕从レ卯皀聲。

口中の上鄂、うはあご。

㊀あきらか。○〔白虎通〕「ー爲レ言章也」。

㊁朝廷の上官、執政の大臣。○〔禮〕「大國三ー、小國二ーー」。

㊂天子の臣下を呼ぶに用ふる稱、秦、漢以後に始まる。○〔宋〕「帝笑曰、吾意正如レ此、特試レー耳」。

㊃人の敬稱にも用ふる字。○〔晉〕「敦大怒曰、ー壽幾何」。

〔六卿〕周の代の官名、卽ち冢宰、司徒、宗伯、司馬、司寇、司空の六等、又、宋の代の官制、卽ち右師、大司馬、司徒、左師、司城、大司寇の六等。

〔九卿〕周の代の官名、前の六卿に少師、少保、少傅を加へたるもの、又、漢の代の官名、卽ち太常、光祿、衞尉、太僕、廷尉、鴻臚、宗正、少府、司農。

〔三卿〕周の代の官名、諸侯の所屬のもの、卽ち司徒、司馬、司空。

〔公卿〕公の官と卿の官と轉じて高位高官の者を指していふに用ふる語。○〔孟〕「ーーー大夫此人爵也」。

〔國卿〕國政に關與する高等の官位。○〔左〕「ーー君之貳也」。「爲二貶識ーー一」。

〔世卿〕代々繼ぎ來たれる上位のもの。○〔公羊〕「譏ー

〔客卿〕他國より來たりて卿相の位にあるもの。○〔史〕「拜二范雎一爲二ーー一、謀二兵事一」。

〔冢卿〕最高の臣。○〔左〕「先君有二ーー一、以爲二師保一」。

〔亞卿〕卿相につぐ官人の稱。○〔左〕「仕二諸秦一爲二ーー一」。

〔月卿〕雲客に同じ。○〔高祖容〕「歸奏蕃籬拜二ーーー」。

〔綠卿〕竹の異名。○〔清異錄〕「ーー高撫レ直」。

十畫

【卽】 シヨク、ソク。子卽切 〔職〕

久に同じ、ひさし。

十一畫

【𠨬】 シツ、シチ。息七切 〔質〕 ー或は膝に作る

俗の膝の字、ひざふし。○[漢]「頓-首—-行」。

【[illegible]】シュン。子悶切 願 危に同じ、あやふし。

十六畫

【[illegible]】セン。七然切 先 遷に同じ、うつす、うつる。○[漢]「周人—二其行-序一」。

厂部

【厂】カン。呼旰切 翰 呼旱切 旱 ㊀いはほ、いは(巖)。㊁きし(岸)。

【厂】ゲン、ゴン。魚欣切 鹽 巖に同じ、或は省きて厂に作る。

二畫

【厃】セン、ソン。之廉切 鹽 ギ。五委切 紙 ㊀あふぐ(仰)。㊁のき、けた、すみぎ(屋-梠)。○[揚雄]「秦謂二之桷一、齊謂二之—一」。

【厄】クヮ。五果切 哿 ㊀栀に同じ、木のふし(木-節)。㊁肉なき骨。

【厄】アク、ヤク。於革切 陌 戹に同じ、あやふし、わざはひ。○[郭忠恕]「有下作二科—一之—一爲中困—戹上、其順非有二如レ此者一」。

三畫

【[illegible]】キク、コク。居六切 沃 —[説文]从二反丮一。たもつ、にぎる(持)。

【厇】タク、チヤク。陟格切 陌 はる、ひらきはる、又、磔に作る。

【[illegible]】シン、ツン。市眞切 眞 辰に同じ。○[道藏洞靈眞經]「夫雞—而作、負レ日任レ勞」。

四畫

【[illegible]】カイ、ケ。居拜切 卦 いたる(到)。

【[illegible]】ケイ、カイ。口兮切 齊 地に倒る、たふる。

【厊】ガ、ゲ。五下切 馬 合はず、たがふ、くひちがふ。

【[illegible]】ヒ、ビ。符羈切 支 水なゝめに流る、ながる、すぢかひになる。

【[illegible]】ハイ、ヘ。疋賣切 卦 水わかれ流る、わかる、又、みなまた。

【厈】セキ、シヤク。川隻切 陌 しりぞく、おふ(逐)。

【[illegible]】シ。之是切 紙 ㊀いたす(致)。㊁ひとし(均)。㊂たひらか(平)。㊃こゑ(聲)。

【[illegible]】ショク、シキ。阻色切 職 ㊀いやし(陋)。㊁かたふく、傾-側一。

五畫

【[illegible]】キヨク、コク。拘玉切 沃 コク。古祿切 屋 もつ(持)。

【[illegible]】カフ、ケフ。古洽切 洽 おほいなり(大)。

【厎】シ。軫視切 紙 —或は石に从ひ、砥に作る。㊀刀刃を磨くに用ふる石、と、といし、其の石質の柔かなるもの。○[漢]「爵-祿天-下之—石也」。㊁といしにて磨す、とぐ。○[漢]「—二厲鋒-鍔一」。㊂いたす(致)。○[書]「西-旅—二貢厥獒一」。㊃さだむ(定)。○[書]「朕言惠可二—行一」。

【厎】シ。旨而切 支 前條の㊀㊁に同じ。

【厎】テイ、タイ。都黎切 齊 丁計切 霽 いたる(至)。○[書]「三-后協レ心—二于道一」。

【厎】チ。陟利切 寘 いたす(致)。○[書]「震-澤—レ定」。

【厏】サ、セ。側下切 馬 相合はず、くひちがふ、たがふ。

【厏】サク、シヤク。陟格切 陌 俗に窄に作る、せばし(狹)。

【[illegible]】ト、ツ。當古切 ウ、コ。後古切 麌 美しき石。

【[illegible]】ラフ、ロフ。落合切 合 リフ。力入切 緝 —或は砬に作る。㊀石の聲 ㊁とりひしぐ(拉)。

【[illegible]】トウ、ヅ。徒冬切 冬 おくまりたる家。

【[illegible]】ケフ、コフ。乞業切 葉 きし(厓)。

【[illegible]】ヤク。弋灼切 藥 岸上の出で見はれたる貌にいふ字、あらはる。

六畫

【[illegible]】カフ、コフ。渇合切 合 ケフ、コフ。乞業切 葉 山の左右にある水の岸、やまぎし。○[爾]「左-右有レ岸—」。

【厓】ガイ、ゲ。宜佳切 佳 —或は崖に作る、今の山崖の字は皆崖に作る。㊀きし。(い)水と陸との際、みぎは、水畔。○[爾]「涘爲レ—」。(ろ)山際の削絶なる處、がけ、きりきし。○[魏]「將-士皆攀レ木緣レ—、魚-貫而進」。㊁際限、かぎり、きは。○[莊]「望レ之而不レ見二其—一」。㊂かぎりあり、きはたつ。○[莊]「行不二—異一、謂二之寛一」。㊃睚に同じ、まなじり、にらむ。○[漢]「—-眥莫レ不二誅-傷一」。
[丹厓] あかききり岸。○[晉]「—-千-丈、靑-壁萬-尋」。

（房厓）岩石の幾重にもかさなりたる岸。〇〔水經、註〕「——刻レ天」。
（枯厓）あしき場處。〇〔孟郊〕「上容虛・華・地一、下・僚宅ニ——」。
（斷厓）切りたちたるが如くに急に聳ゆる岸。〇〔周賀〕「——昔向壁中禪」。
（絶厓）前に同じ。〇〔張載〕「緣・積・岑之——」。
（岐厓）前に同じ。〇西都賦「越二——一」。
（懸厓）前に同じ。〇〔方岡〕「——樵・屋小」。
（霜厓）（い）ちもの置けるきし。〇〔鮑照〕「——滅二土・膏一」。
（ろ）霜の凛冽たるが如くに人の精神のきは立ちありて犯すべからざるを形容するに用ふる語。〇〔南〕「介・然之志峭二聳——一」。
（陰厓）山かげのがけ。〇〔鮑照〕「——積二夏・雪一」。

【厓】ギ。魚羈切　支

前條の㊀に同じ。〇〔揚雄〕「樵・蒸焜・上、配・藜四・施、北熿二幽・都一、南煬二丹——一」。

【厓】ガイ、ゲ。牛懈切　卦

前々條の㊃に同じ。

【㕉】イ、エ。隱豈切　尾／アイ、エ。於改切　隊

かくす（藏）。

【厔】シツ、シチ。式質切　質

やまのくま（山・曲）。

【㕊】カフ、コフ。渇合切　合

店に同じ、おす、ふす。

【厏】サ、セ。側下切　馬

著かず、はなる（離）。

七畫

【欣】イ。以支切　支

或は厥に作る、すひこむ、すふ、すゝる、（歠）。

【厖】バウ、モウ。莫江切　江／母講切　講　（說文）从レ厂尨聲。

㊀おほいなり、（大）、あつし、（厚）、ゆたかなり、（有）。〇〔左〕「民・生敦——」。
㊁まじはる、まじる、（雜）。〇〔書〕「不レ和政——」。
（駿厖）すぐれておほいなり。〇〔詩〕「受二小・共大・共一、爲二下・國——一」。
（奇厖）珍らしく大いなると、又、其のもの。〇〔蘇〕「將必擇二其——禍・厚者一」。
（豪厖）大いなり。〇〔杜牧〕「流・品極——」。
（豐厖）ゆたかなり。〇〔方岳〕「文有二氣・骨一——而——」。
（紛厖）まじる。〇〔范梈〕「——異・方俗」。

【厎】カフ、ゲフ。轄夾切　合

辟に同じ、いやし。

【厫】ガ。牛何切　歌　——又莪に作る。

峨に同じ、けはし、さがし、山の切りたちたる貌にいふ字。

【厘】テン、デン。直連切　先　——俗に釐の字の省きたるものとなすは非。

市の商品を陳ぬる處、みせ、たな、いちぐら。

【㕓】フ。芳無切　虞

石の土に雜はりて見はれ出づるにいふ字。

【庯】ホ。滂模切　虞

石のもやうの見ゆるにいふ字。

【厚】コウ、グ。很口切　有

㊀あつし。
（い）薄からず。〇〔詩〕「謂二地蓋——一、不二敢不一レ蹐」。
（ろ）少なからず。〇〔唐〕「褒・予甚——」。
（は）濃し。〇〔禮、疏〕「郎濃——也」。
（に）睦まし。〇〔漢〕「深結——焉」。
（ほ）丁寧なり。〇〔諸葛亮〕「羣・臣上・下、皆怪二臣待レ平之——一」。
（へ）沈著なり。〇〔柳宗元〕「吾・子行——而詞深」。
㊁あつからしむ、あつくす。〇〔論〕「躬自——而薄責二於人一」。
㊂あつき度合、表と裏との閒、あつさ。〇〔晉〕「鐵——一寸、射而洞レ之」。
㊃物事のあつき場處、又、高位、富家、榮職などにもいふ字。〇〔老〕「大・丈・夫處二其——一、不レ居二其薄一」。
（顏厚）かほあつし、人に對し世に對して感じの少なきと、殊に恥を恥とも思はざるに借りいふ語。〇〔詩〕「巧・言如レ簧、——之——矣」。
（温厚）温順にして篤實なると。〇〔後漢〕「疾二惡嚴・刻一、務崇二——一、仁・貴之政流二聞後・世一」。
（篤厚）誠實なると。〇〔漢〕「貴二仁・義一、賤二權・利一、上二——一、下二佞・巧一」。「禮是也」。
（寶厚）前に同じ。〇〔韓〕「——者貌薄、父・子之家——仁及二草・木一」。
（忠厚）前に同じ。〇〔詩、序〕「行・葦——也、周・家——仁及二草・木一」。
（醇厚）まじりなくあつし。〇〔詩、疏〕「上・皇之世、人・性——」。「聞・不レ忘」。
（豐厚）ゆたかなり、繁昌す。〇〔國〕「子・孫——令・勢・位——」、「蓋可レ忽乎哉」。
（富厚）富みさかゆ、富有なり。〇〔戰〕「人・生世・上」「亦復爲レ之」。
（謹厚）つゝしみ深し。〇〔後漢〕「皆鱗曰、——者」。
（仁厚）なさけ深し。〇〔魏〕「素以二——一稱」。
（敬厚）大いに尊崇せらる。〇〔後漢〕「此覓儒・生也、以レ是愈見二——一」。「謀」。
（沉厚）落ちつきてあると。〇〔晉〕「寨——有二智・計一」。
（優厚）あつくもてなす。〇〔晉〕「帝甚傷・悼、賵賻——」。「豈敢辭二職事之勞一」。
（寵厚）待遇あつし。〇〔晉〕「受レ遇三・世、恩隆——、——有二智計一」。
（謙厚）いたく身を卑下す、深くへりくだる。〇〔南〕「——有二智・計一」。
（生業厚）生計の度高し、富有なり、財產多し。〇〔南〕「靈運因二祖・父之資一、——甚——」。
（面皮厚）つらのかはあつくして恥を恥とも思はず。〇〔南〕「腹無二一・寸腸一、——如レ許——」。
（奉膳厚）膳に供ふる食饌豐かなり、盛に美味を供ふ。〇〔南〕「冬・月猶無二綿纊一、而——甚——」。
（資產厚）財多し。〇〔宋〕「——則心有レ所レ繫」。
（慰勞厚）人の骨折りを謝し、あつくねぎらふ。〇〔宋〕「賜二龍・茶銀・合一、——甚——」。

【㕑】イウ、シウ、シユ。以周切　子由切　尤

のき、のきづけ、たるき、（簷・檐）。

八畫

【厜】シ。姊宜切　支／スヰ、ズヰ。是爲切

或は崒に作る、山の項上、いたゞき、又、いたゞきのけはしき處。〇〔爾〕「崒者——巖」。

【厝】サク。淸各切　藥　（說文）从レ厂昔聲。

㊀刀刃を磨ぐに用ふる石、といし、と、又、といしにて磨す、みがく。〇〔詩〕「他・山之石、可二以爲一レ——」。
㊁入りまじる、入れまじふ、まじふ、まじはる、古文の錯の字。〇〔漢〕「五・方雜——、風・俗不レ純」。

【厝】ソ、ス。倉故切　遇

おく。
（い）置く。〇〔漢〕「夫抱レ火——二之積・薪之下一」。
（ろ）葬る。〇〔宋之問〕「——二窮・泉壤一」。
（安厝）安んじ置く。〇〔魏〕「就二黃・壚一而——」。
（容厝）いれ置く、ゆるし置く。〇〔晉〕「浮・華邪・佞、無レ所二——一」。
（遷厝）うつしおく。〇〔南〕「家貧無二以——一」。
（投厝）すておく。〇〔晉〕「不レ知二軀・命所一レ——」。

【㕒】カフ、コフ。克盍切 合
山の左右の岸、やまぎし。

【㕓】ガイ。牛代切 隊 タク、チヤク。陟革切 陌
㊀幕を張る、おほふ、かぶす。㊁石の名。

【㕔】ショク、シキ。札色切 職
㊀かたぶく（傾）。㊁いやし（陋）。

【㕕】ゲキ、ギヤク。六歷切 錫
ガク、ギヤク。逆革切 陌
石の多き土地、いしち。

【厞】ヒ、ビ。父沸切 未 符非切 微
㊀かくろ、かくす（隱）、くらし、かすか（幽）。○〔儀〕「几在レ南一」。
㊁いやし、せまし（陋）。

【㕖】シュン、ジュン。朱倫切 眞
㊀いたる（至）。㊁ねんごろ（誠懇）。
㊂ひたす、つく（漬）。

【㕗】タイ、テ。都回切 灰
或は堆に作る、うづたかし、うづたかくす、もりつち。

【原】ゲン、グワン。魚袁切 元
㊀陸地の平かにして廣き處、はら。○〔禮〕「孟夏命二野虞一、出行二田一一、爲二天子一勞レ農」。
㊁もと。
（い）根本、始元、おこり、ねもと、はじめ。○〔漢〕「道之大一一出二於天一」。
（ろ）源に通じ用ふ、水の流れ出づる處、みなもと。○〔漢〕「猶下塞二川一一爲中潰上湊上」。
㊂ふたゝび（再）、又、かさぬ（重）。○〔易〕「一筮元永貞」。
㊃もとゝ爲す、もとを察す、もとづく、たづぬ。○〔易〕「一レ始要レ終」。
㊄罪を宥む、ゆるす。○〔晉〕「會二詔一レ之」。
㊅愿に同じ、つゝしむ、すなほ。○〔荀〕「孝弟一愨」。
〔鄕原〕媚びへつらひて好き評ある者。○〔論〕「一一德之賊也」。
〔中原〕（い）野はらの中。○〔詩〕「一一有レ菽」。（ろ）轉じて中國、又、廣き場處の義に用ふる語。○〔北〕「光二宅一一」。（は）競爭場裡の義にも借り用ふる語。○〔晉〕「若遇二光武一、當レ並二驅一一一、未レ知二鹿落二誰手一」。
〔周原〕大いなる原。○〔詩〕「一一膴々」。
〔曠原〕ひろ〴〵したる原。○〔穆天子〕「六師之人、翔二畋于一一一、得獲無レ疆」。
〔鮮原〕善き原。○〔詩〕「度二其一一一、居二岐之陽一」。
〔川原〕川のほとりの水涸れて沙石などのある處。○〔詩、疏〕「中國一一以レ百數」。
〔峻原〕けはしき原。○〔國〕「高山一一、不レ生二草木一」。
〔修原〕長き原。○〔北〕「而二一一一而帶二流水一」。
〔一原〕根本、はじめ。○〔正蒙〕「性者萬物之一一也」。
〔九原〕（い）地の名。○〔禮〕「觀二乎一一一」。（ろ）心の一名。○〔黃庭外景經〕「一一之山何亭亭」。
〔本原〕（い）もと、みなもと。○〔漢〕「敎化之一一一也」。（ろ）みなもとにもとづく。○〔史〕「思レ迹一レ一」。
〔平原〕たひらかなるはら。○〔左〕「凡一一出水爲二大水一」。
〔洪原〕大いなるはら。○〔漢〕「乃堙二一一一、決レ江疏レ河」。
〔砥原〕平かなることといしの如きはら。○〔鮑照〕「東則一一遠濕」。
〔荒原〕あれはてゝ耕す人もなきはら。○〔泉補之〕「四顧盡一一」。
〔推原〕たづぬ。○〔陸游〕「世諧一一自二楚狂一」。
〔赦原〕ゆるす、ゆるし。○〔魏〕「後見二一一一」。

【厚】厚に同じ。

九畫

【㕘】饋の古字、餽に通じ用ふ。

【廋】シウ、シュ。所九切 ソウ、ス。蘇后切 有
くま（隈）。

【厠】シ。初寺切 寘
㊀溷清、かはや、べんじよ。○〔左〕「如レ陷一而卒」。
㊁まじふ、まじはる（雜）。○〔西京雜記〕「雜寶錯一一」。
㊂つぐ、ついづ（次）。○〔葛澧〕「層二一一輕二一金銀一」。
㊃いやし、いやしむ（賤）。○〔宋〕「不三敢一一碧瓦一」。
㊄そば（側）。○〔論衡〕「尊鼎不レ在二陪一之側一」。○〔史〕「居レ北臨レ一」。
㊅水の岸、きし、ほとり。
〔同厠〕まじはる、入り合ふ。○〔孔叢子〕「男女無レ別、一一而浴」。
〔溷厠〕かはや。○〔急就篇〕「近二一一一者則被二汙染一」。
〔閒厠〕入り込む、まじはる。○〔元稹〕「雜亂一一一無レ可二奈何一」。

【原】ゲン、グワン。魚袁切 元
源に同じ、みなもと。

【㕙】リ。陵之切 支
さく、ひらく（拆）。

【㕚】チ、ヂ。澄之切 支
治に通じ作る、をさむ、又、をさまる。

十畫

【厤】レキ、リヤク。力的切 錫
㊀をさむ、又、をさまる（治）。
㊁歷に同じ、ふ、わたる。
㊂古文の曆の字。

【厥】ケツ、コチ。居月切 月 ―〔說文〕从レ厂㰦聲。
㊀其に同じ、その、それ。○〔詩〕「詒二一孫謀一」。
㊁撅に同じ、ほる、あばく。○〔荀〕「卞和之璧、井里之一也」。
㊂みじかし（短）。○〔中山詩話〕「今人呼二禿尾狗一爲二一尾一、犬之短尾者亦曰レ一」。
㊃頓に同じ、さぐ、たる。○〔漢〕「漢諸侯王一角稽首」。
㊄神氣逆上の病。○〔韓詩〕「人主之疾二十、其一曰一、無レ使二小民飢寒一則一不レ作」。
〔甚厥〕疾の名。○〔古今注〕「陽氣衰爲二一一一」。
〔熱厥〕疾の名。○〔古今注〕「陰氣衰爲二一一一」。
〔劣厥〕おとりてみじかし。○〔蔡邕〕其餘尫幺一一僂寠」。
〔價厥〕のぼせ疾。○〔列〕「已二一一之疾一」。

【厥】クツ、コチ。九勿切 物
突一一は、匈奴の種族の名。

【厦】サ、セ。所嫁切 禡
いへ、はりだしたるいへ（旁屋）、或は廈に作る、广に從ふは誤りなり。

【廋】シウ、シュ。所柳切 宥
くま（隈）。

【㕛】ソウ、ス。蘇后切 有
㊀前條に同じ。
㊁年とりたる人、おきな（老人）。

【㕜】カフ、コフ。克盍切 アフ、オフ。烏合切 合
碎けこほる、くづる（崩損）、又、山の旁にある穴、ほら穴。

【㕝】サ、ザ。才何切 歌
嵯に同じ、さがし。

【厧】 テン。多年切 [先]
㊀山のいたゞき、てッぺん、(塚)。㊁とゞむ、とゞまる、(止)。

【廉】 廉の本字。

十一畫

【厩】 キウ、ク。居又切 [宥]
俗の廏の字、うまや、(馬-舍)。

【厪】 キン、ギン。渠遴切 [震]
㊀小さき家屋、こや。㊁僅に同じ、わづか、すこしく、わづかに。○〔漢〕「茅-焦亦－－脫レ死如ニ毛-釐ニ耳」。

【厫】 ガウ、ゴウ。牛刀切 [豪]
本、廒に作る、くら、こめぐら。

【厬】 ケイ、ケ。九芮切 [霽]
せまる、(迫)、せまし、(迮)。

【厭】 カフ、口合切 [合] コウ、苦後切 [有]
コフ。ク。
口を閉づる聲にいふ字。

十二畫

【㕒】 シ。胥里切 [紙] イ。養里切 [紙] ヨク、イキ。逸織切 [職]
石の稜隅の銳きにいふ字、とがる、とがり、かど。

【厰】 ギン、ゴン。魚金切 [侵]
けはし、さがし、崟、又、がけの狀にいふ字。

【厳】 カン、虎覽切 タン、吐敢切 [感]
コン。 トン。
山のけはしき貌にいふ字。

【厳】 ガン、ゴン。五敢切 [感]
山石の峙ちたる貌にいふ字。

【厬】 キ。矩鮪切 [紙]
水涸渴す、かわく、ひる、又、水厓の枯れたる土。○〔爾〕「水醮曰レ－」。

【厲】 シヤ、セ。洗野切 [馬]
仄に同じ、ほのか、かたはら、かたぶく。

【厭】 エフ、於葉切 [葉]
オフ。
〔說文〕从レ厂猒聲。
㊀おす。
(い)しづむ、(鎭)。○〔漢〕「折レ衝－レ難」。
(ろ)ふす、(伏)。○〔禮〕「－－冠不レ入ニ公-門ニ」。
(は)おさふ、(抑)。○〔漢〕「抑－遂退」。
(に)つぶす、(潰)。○〔漢〕「地震ニ隴-西ニ、－ニ四-百-餘-家ニ」。
(ほ)はらふ、(禳)。○〔史〕「於レ是因東-游以－レ之」。
(へ)あふ、あはす、(合)。○〔國〕「克－ニ帝心ニ」。
(と)おとす、そこなふ、(損)。○〔左〕、「及ニ晉處-父ニ盟以－レ之」。
(ち)あたる、あつ、(當)。○〔後漢〕「毎以ニ禮-讓ニ相－」。「后－-翟」。
(り)つぐ、(次)、せまる、(迫)。○〔周〕「王-－晉軍ニ」。
(ぬ)備へざるに迫る。○〔國〕「荊－ニ
㊁したがふ、(從)。○〔荀〕「天下－レ爲、與レ鄕無ニ以異ニ也」。
㊂兩手を引きて胸の前に合はす敬禮。○〔儀〕「賓－レ介入レ門左」。
㊃鬼夢を驚かす、惡夢に驚く、おそふ、おそはる。○〔山海經〕「服レ之使ニ人不レ－」。
〔鎭厭〕おす。○〔後漢〕「蹐ニ高-天ニ蹐ニ厚-地ニ、猶恐レ有ニ－－之-虞ニ」。
〔覆厭〕おほひつぶす。○〔子華〕「有ニ雷-霆崩-墜－－」。
〔搖厭〕しりぞけさる。○〔柳-譚〕「－ニ－窮-巷ニ」。
〔禳厭〕災をはらひさる、まじなひ。○〔陸說〕「蓋－－之術一-端也」。
〔彈厭〕おし付く。○〔陳子昂〕「－ニ－諸-侯ニ」。
〔控厭〕ひかへしづむ。○〔崔翔〕「－ニ－夷-落ニ」。
〔頹厭〕くづれおつ。○〔杜甫〕「九-崩超ニ－－ニ」。
〔推厭〕おしつぶす。○〔蘇軾〕「－－－樽-板墮」。
〔摧厭〕くだきつぶす。○〔蘇轍〕「崇-高畏ニ－－ニ」。

【厭】 エン。於豔切 [豔]
㊀あく、あかす、(飽)、たる、たす、(足)、みつ、みたす、(滿)。○〔漢〕「－ニ上-帝之心ニ」。
㊁いとふ。
(い)つかる、(疲)、うむ、(倦)。「而不レ－」。○〔論〕「學
(ろ)にくむ、(惡)、たつ、(絕)、すつ、(棄)。
○〔論〕「天－レ之」。
㊂ふさぐ、(塞)。○〔荀〕「－ニ其源ニ」。
㊃勢の滿ち足りてある貌にいふ字。○〔詩〕「－－－其苗」。
㊄饜に通じ作る、神靈に食を供ふるを。○〔禮〕「攝-主不ニ－祭ニ」。
〔厭厭〕滿足す、あく。○〔左〕「－－而已」。「－ニ
〔盈厭〕前に同じ。○〔左〕「使-欲崇-侈、不レ可ニ－－
〔裕厭〕まじ足す。○〔史〕「叔-孫-通知ニ上－ニ－之也、說レ上徵ニ魯諸-生ニ、共起ニ朝-儀ニ」。
〔無厭〕滿足することなし。○〔禮〕「好レ色－レ－」。
〔欣厭〕よろこぶときらふと。○〔謝靈運〕「－－迭來、終歸ニ憂-苦ニ」。
〔疲厭〕つかれうむ。○〔謝錄〕「昂-上粗若ニ－－ニ」。

【厭】 エン。於琰切 [琰]
㊀かくす、(藏)、おふ、(掩)。○〔荀〕「－レ目而視者、視レ一以爲レ兩」。

【厭】 エン。於鹽切 [鹽]
㊀魘に同じ、おそふ、おそはる。○〔韓愈〕「怵-惕夢成レ－」。

【厭】 アフ、エフ。乙甲切 [洽]
㊀懕に同じ、やすし、(安)、しづかなり、(靜)。○〔詩〕「－－夜-飲」。
㊁猒に同じ。○〔左〕「屬－而已」。

【厭】 イフ、ヰフ。乙及切 [緝]
㊀おす、(抑)。○〔漢〕「抑－遂退」。
㊁のぞむ、(臨)。○〔荀〕「－レ旦於ニ牧之野ニ」。

【厭】 イフ、ヰフ。乙及切 [緝]
濕ふ貌にいふ字、うるほふ。○〔詩〕「－－浥行-露」。

【厭】 アン、オン。鄔感切 [感]
溺るゝ貌にいふ字、おぼる。○〔莊〕「其－也如レ緘」。

【厮】 シ。相咨切 [支]
㊀めしつかひ、しもべ、こもの。○〔漢〕「有ニ－養卒ニ」。
㊁わかつ、わかる、(分)。○〔史〕「－ニ二-渠ニ」。
㊂はなる、はなつ、(離)。○〔西域傳〕「尙-書－-留甚衆」。
〔女厮〕召し使ひの女。○〔揚雄〕「官-婢－－－謂ニ之娠ニ」。
〔趨厮〕走り使ひの下部。○〔皮日休〕「－－走-養」。

【㡘】 テン、デン。堂練切 [霰]
奠に同じ、さだむ。○〔揚雄〕「天-地－レ位」。

【厝】 サク。蒼各切 [藥] ソ。七故切 [遇]

錯に同じ。

【⿸厂盍】 カフ、コフ。口合切 合。門を閉づる聲にいふ字。

十二畫

【⿸厂義】 キ、ギ。許爲切 支 / 語韋切 微。けはし。○〔韻〕「岑者厜ーー」。

【厫】 ガウ、ゴウ。牛刀切 豪。こめぐら（倉）。

【⿸厂辟】 セキ、シャク。之石切 ヘキ、ヒヤク。匹歷切 陌。㊀かたぶく（仄）。㊁いやし（陋）。

【厱】 カン、ケン。苦咸切 咸 ケン、ゴン。丘嚴切 鹽 カン、コン。枯含切 覃 ケツ、ケチ。呼血切 屑。山の崖の空穴の處、いはあな。

【厱】 ラン、ロン。盧甘切 覃。玉石を治む、みがく。

【厱】 ゲン。魚檢切 琰。厓岸の危き貌にいふ字。

【厲】 レイ。力制切 霽 〔說文〕从厂蠆省聲。
㊀刀刃を磨くに用ふる麁質の石、あらと、といし、と。○〔詩〕「取レー取レ鍛」。
㊁摩りて鋭くす、とぐ、みがく。○〔荀〕「鈍金必將下待二礱ーー一然後利上」。
㊂おごそか、きびし（嚴）。○〔論〕「聽二其言一也ー」。
㊃はげし（烈）、たけし（猛）。○〔禮〕「不レー而威」。
㊄あやふし（危）、又、たかし（高）。○〔易〕「ー无レ咎」。
㊅いそがし（急）、又、はやし（疾）、○〔漢〕「蒼隼橫ーー」。
㊆おこる、おこす（興）。○〔穀梁〕「始ーレ樂」。
㊇あがる、あぐ（抗）。○〔荀〕「是以威ーー而不レ試」。
㊈ふるふ（奮）、又、はげむ、はげます（勵）。○〔管〕「兵而弱士不レー」。
㊉にくむ（疾）。○〔莊〕以爲三不レ知レ己者一詬ー也」。
⑪やます（病）、又、しへたぐ（虐）。○〔孟〕「ーレ民以自養也」。
⑫衣の裳を揭ぐ、かゝぐ、又、かゝげて水を渡る、わたる。○〔詩〕「深則ー」。
⑬あし（惡）、みにくし（醜）、又、其の者。○〔子華子〕「誅鋤醜ーー」。
⑭やむ（病）、又、病者。○〔史〕「六畜遂レ字、民不二夭ーー一」。
⑮特に、癩病、又、其の病にかゝれる者、かったい、又、すべての癈疾にもいふ字。○〔史〕「漆レ身爲レー」。
⑯えやみ（疫）、わざはひ（禍）、たゝり、（祟）、又、えやみのかみ、惡しき氣。○〔左〕「子產曰、鬼有レ所レ歸、乃不レ爲レー」。
⑰岸の危き處、がけ、きし、ほとり ○〔詩〕「在二彼淇ーー」。
⑱界域、さかひ、かぎり。○〔周〕「物爲二之ーー」。
⑲昔、支那にて禮服に下垂したる大帶、おほおび。○〔左〕「鞶ー斿纓」。

〔蹈厲〕 氣力をはげしくなす、又、奮ひ起こす。○〔禮〕「發揚ーー太公之志也」。
〔委厲〕 勇氣も無きにたけきふりをす、から勇氣。○〔左〕「與二其ーー一、寧爲二無勇一」。
〔色厲〕 見かけのきびしくはげしきにいふ語。○〔宋〕「ーー而內荏」。

〔矜厲〕 禮儀正しく愼みて嚴格なり。○〔蜀〕「ーーー有二威容一」。
〔陵厲〕 おごそかなること。○〔晉〕「不レ修二常人之節一、不レ爲二ーー之事一」。
〔札厲〕 あらあらしくはげし。○〔列〕「士氣和無二ーーー」。
〔嚴厲〕 きびし、おごそか。○〔後漢〕「以二ーー一爲レ名」。
〔災厲〕 わざはひ、災禍。○〔書、疏〕「祭享有レ度、ーー不レ生」。
〔摩厲〕 とぐ、みがく。○〔左〕「君ーー以須レ王」。
〔伉厲〕 意氣あがりてはげし。○〔史〕「ーー守レ高不レ能レ屈」。
〔專厲〕 ひたすらにはげし。○〔漢〕「年少者ーー」。
〔峻厲〕 さがしくきびし。○〔晉〕「濟性ーー、明レ法繩レ之」。
〔壯厲〕 さかんにはげむ、さかんに奮ふ。○〔晉〕「人情挫辱、則ーー之心生」。
〔狂厲〕 くるひはげし。○〔晉〕「迴風ーー白日寢レ光」。
〔矯厲〕 ためておごそかにす。○〔晉〕「敦務自ーー善自居雅尙」。
〔[illegible]厲〕 正しくおごそかなること。○〔南〕「性甚ーー」。
〔揭厲〕 裳をかゝぐ、又、水を渡る。○〔王維〕「跳波誰ーーー」。
〔揚厲〕 高くあぐ、○〔韓愈〕「ー二ーー無前之偉績一」。
〔疾厲〕 やまひ。○〔孝、疏〕「人無二ーー一」。
〔淫厲〕 わざはひ、たゝり。○〔左〕「匹夫匹婦強死、其魂魄猶能馮レ人爲二ーー一」。
〔癘厲〕 前に同じ。○〔穀梁、序〕「鬼神爲レ之ーー」。
〔切厲〕 （い）甚だはげし。○〔後漢〕「言甚ーー、坐レ免レ官」。（ろ）はげます。○〔後漢〕「ーー相戒」。
〔勁厲〕 つよし、はげし、たけし。○〔魏、註〕「ーー能直言」。
〔益厲〕 はげしきを加ふ。○〔魏〕「鎧中二數箭一、意氣ーー」。
〔[illegible]厲〕 はげみ行ふこと。○〔南〕「ーー爲二後進之美一」。
〔高厲〕 たかし。○〔人物志〕「以レ陵レ上爲二ーー一」。
〔狷厲〕 思ひやり少なくしてきびし。○〔蜀〕「ーー好爲二清議一」。
〔苛厲〕 からくきびし。○〔晉〕「式遏二寇虐一、ーー不レ作」。
〔瘴厲〕 やまひ。○〔唐〕「五嶺罹二ーー之役一」。
〔整厲〕 とゝのへはげます、又、きびしくなす。○〔晉〕「疾雖レ困、尙自ーー」。
〔奮厲〕 ふるふ、又、はげむ。○〔唐〕「ー二ーー衆士佐レ道進」。
〔[illegible]厲〕 かぶる。○〔漢〕「ーーー以爲レ勇」。
〔騰厲〕 のぼりあがる。○〔嵇康〕「壯氣ーー」。
〔敦厲〕 人をあつきに勵ます。○〔晉〕「ー二ーー風俗一」。
〔激厲〕 はげし。○〔南〕「性頗ーー、少二威重一、有レ所二是非一、形二於辭次一」。
〔暴厲〕 あらあらしくはげし。○〔唐〕「性ーー、眸子多レ白」。
〔猛厲〕 雄々しくたけし。○〔宋〕「吳敏用レ事、以二昌ーー經行一、爲レ可レ助レ己」。
〔[illegible]厲〕 やまひ。○〔管〕「歲凶庸人ーー」。
〔振厲〕 勇み奮ふ。○〔范、製〕「威ーーし、氣勃鬱」。

【厲】 ライ。落蓋切 泰。前條の⑮に同じ。

【厲】 レツ、レチ。良薛切 屑。前々條の㊂に同じ、一說に、囊に飾りを垂る。

十四畫

【⿸厂坐】 エウ。餘昭切 蕭。其の處にあり、居る、又、ゐどころ（座）。

【⿸厂豩】 レキ、リヤク。郎狄切 錫。わかつ、又、わく（分）。

十七畫

【厴】 エン。於琰切 琰。蟹の下腹。

十九畫

【⿸厂顛】 テン。多年切 先。いたゞき（塚）。

廿九畫

【厵】 源に同じ。

ム 部

【ム】シ。息夷切 支
私に通じ用ふ、かたまし、わたくし。○〔韓〕「倉-頡造レ字、自-營爲レ一」。

【厶】ボウ、モ。亡后切 有
某に同じ、それがし。○〔穀梁、註〕「鄧ー-地、陸-德-明-釋-文、不レ知ニ其國一、故云ニ一-地一」。

一畫

【厷】トツ、ドチ。徒骨切 月。
㊀子を産むうむ。㊁不孝の子。
說文 不レ順忽出、从ニ倒子一。

二畫

【厷】コウ。姑弘切 蒸
肱の本字。○〔漢〕「月-刑元レ股、考レ方法レ矩、日-德元レ一、考レ圜合レ規」。

【厸】リン。力神切 眞
古文の鄰の字。○〔漢〕「ーレ悳而助レ信」。

【厹】キウ、グ。巨鳩切 尤
㊀厹に同じ、三つかどの矛。○〔詩〕「ーー矛鋈-錞」。
㊁けだかし、(氣高)。

三畫

【厺】去の本字。
說文 从ニ大ム聲。

【去】キョ、コ。丘據切 御
㊀さる。
(い)へだたる、(隔)、はなる、(離)、たがふ、(違)。○〔孟〕「地之相ー也、千-有-餘-里」。
(ろ)たちのく、いづ、はなる、遠ざかる、行く、還る、亡ぐ、其の處に止どまらず。○〔史〕「汲-黯招レ之不レ俠、麾レ之不レ一」。
(は)たちのかす、はなす、だす、遠ざく、行る、還す、亡がす、其の處に止どまらしめず。○〔宋〕「妻-子連-逮者數-百-人、亮縱ーー」。
(に)過ぐ。○〔杜牧〕「朝-々醉-中ー」。
(ほ)棄つ。○〔後漢〕「人所レ畔者天所レー」。
㊁經過せし時、生前、古昔、現今の前。○〔圓覺經〕「無レ起無レ滅、無ニーー來-今一」。
〔揚去〕とびあがりゆく。○〔魏〕「譬如レ養レ鷹、飢則爲レ用、飽則ーーー」。
〔逃去〕のがる。○〔史〕「荊軻默而ーー」。「ー一」。
〔引去〕後へ引きさる。○〔魏〕「會日暮、太祖乃得ニー
〔擲去〕かこみをときさる。○〔宋〕「淮-人ーー」。
〔斂去〕爲すことを止どめてさる。○〔宋〕「敵驚以爲レ神、逡-巡ーー」。
〔委去〕すてさる。○〔世說〕「駁レ車ーー」。
〔過去〕(い)とほりこす。○〔陸龜蒙〕漁舟ーー水生レ風」。
(ろ)現今の前、むかし。○〔金剛經〕「ーーー心不レ可レ得」。

四畫

【去】キョ、コ。口擧切 語
㊀のぞく、(除)、すつ、(徹)。○〔論〕「ーレ喪無レ所レ不レ佩」。
㊁をさむ、(收)、かくす、(藏)。○〔漢〕「掘ニ野-鼠ーニ草-實ニ而食レ之」。

【去】キョ、コ。丘於切 魚
驅に同じ、はす、かる。○〔詩〕「鳥-鼠攸レー、君-子攸レ芋」。

【厽】ルヰ。力委切 紙
土をかされて牆壁をつく。

【厽】サン、ソン。七貪切 覃
倘書に參の字と爲せり。

九畫

【羗】イウ、ユ。與久切 有
誘に同じ、もよほす、いざなふ、さそふ、みちびく。

【參】サン、ソン。倉含切 覃
俗に參に作る。
㊀三に通じ用ふ、みつ。○〔論〕「ーニ分天下一有ニ其二一」。
㊁思量す、はかる、又、差別なす、わかつ。○〔李華〕「俯察仰ー」。
㊂まじはる。
(い)閒厠す、交錯す、まじらふ、まじる、はさまる、いりあふ。○〔易〕「ー伍以變」。
(ろ)干與す、列加す、かゝはる、あづかる、ならぶ、くはゝる、つらなる。○〔南〕「同ーニ機-密一」。
㊃まじはらしむ、まじふ、まず。○〔史〕「控レ名貴レ實ー-伍不レ失」。
㊄君王に謁す、長上に詣る、まゐる、まみゆ。○〔舊唐〕「朝ー之處」。
㊅二十八宿の一、からすき。○〔漢〕「ー爲ニ白-虎一」。
㊆禪家にて衆僧相集まりて法を聽き道を尋ね經を誦するなどにいふ字。○〔陸游〕「惰レ耕村-叟罷レー僧」。
㊇郞黨、僕隸、關係者、同伴、つれ、みうち。○〔北〕「親率ニ內ーー臨-拒」。
〔月參〕毎月一回づつまゐる。○〔北〕「令ニ首-領毎レ月ーー」。
〔交參〕入りまじる。○〔郭璞〕ニ厥圖五-丈、枝相ーー」。
〔稽參〕かんがへはかる。○〔漢〕「ーニー政-事一」。
〔上參〕まゐる。○〔謝靈運〕「誠ニ王-子ニ而ーー」。
〔早參〕つとにまゐる。○〔宋〕「近-臣但赴ニーー」。
〔新參〕あらたにまゐる、あらたにまじはる、又、其の者。○〔東都事略〕「袖-中彈-文乃ーー也」。「ー一」。
〔差參〕入りちがひにまじる。○〔韓愈〕「應-對多ニー
〔小參〕禪家にて、不時に衆僧を集めて法を説くにいふ語。○〔傳燈錄〕「坐ニ妙-善-臺ニ受ニ大-衆ーー」。
〔公參〕出仕す。○〔寶儀〕「ーー之禮」。
〔趨參〕まゐる。○〔梅堯臣〕ニ「權-門誰解更ーー」。

【參】サン、ソン。桑感切 感
糝に同じ、まじふ、まじはる。○〔周〕「ー七-十、千-五-十」。

【參】シン、ソン。所今切 侵
㊀叢がり立つ貌にいふ字。○〔東晳〕「ーーー其檣」。
㊁參に同じ、齊しからざる貌にいふ字。○〔詩〕「ーー差-荇-菜」。「佩之ーーー」。
㊂長き貌にいふ字。○〔張衡〕「長ニ金-

十一畫

【叅】俗の參の字。

十二畫

【䨒】シュン。七倫切 眞 子峻切 震 セン。逡緣切 先
狡兎の名。○〔戰〕「東-郭ー天-下之狡-兎也」。

又 部

【又】イウ、ウ。有救切 宥
說文 象形。

㊀て、(手)。
㊁そのほかに、そのうへに、ならびに、かされて、さらに、ふたゝび、また。○[孟]「及ニ紂之身一、天下一大亂」。
㊂宥に同じ、ゆるす、たすく。○[禮]「王三一、然後制レ刑」。

〔多又〕 おほし、ふたゝび。○[詩]「弗敢一一」。
〔一又〕 一度二度。○[韓愈]「一一相語」。

二畫

【叉】 サ、セ。初牙切 麻

㊀兩手の指を相交ふ、兩手を拱く、まじふ、こまぬく。○[柳宗元]「逢レ人手盡一」。
㊁末二つ以上に分かる、わかる。○[蘇轍]「揷竹强支一一」。
㊂末の二つ以上にわかれたるもの、ふたまた、また、さすまた。○[西征賦]「挺レ一佅往」。
㊃魚を取る、とる、叉、またにて刺す、さす。○[高啓]「持レ燭一レ魚」。

〔野叉〕 猛惡なる鬼神、叉、夜叉に作る。○[黄庭堅]「安如九天闕、虎豹守ニ一一」。
〔三叉〕 三つに分かる、叉、三つまた。○[蘇軾]「溪邊古路一一口」。
〔戲叉〕 さすまた。○[漢]「旄頭叉以ニ一一」。
〔佅叉〕 前に同じ。○[九州春秋]「宮門衞士持ニ長戟一一」。
〔矛叉〕 前に同じ。○[蘇軾]「呼來蜩々從ニ一一」。
〔笋叉〕 笋を插す器具、腰に帶ぶるもの。○[韓翃]「一一抽レ笋太如レ笛」。「用ニ一一挑ニ取一塊」。
〔畫叉〕 畫を掛くるに用ふるまた。○[蘇軾]「平且了叉」。
〔了叉〕 こまぬく。○[陸游]「一一拱ニ手人」。
〔吒叉〕 小兒の手の動きの未だ自由ならぬをしてからくこまぬくにいふ語。○[杜牧]「初識時兒未レ識」。
〔撥叉〕 さす。○[牛僧孺]「一一鋒刃簇」。
〔攫叉〕 さす。○[沈遼]「正如ニ子戟相一一」。

【叉】 サイ、セ。初皆切 佳

釵に同じ、婦人の兩枝のかんざし、叉、ふたまた。

二畫

【𠬞】 サウ、セウ。側巧切 巧

古文の爪の字、手足の甲。

【及】 キフ、渠立ゴフ。切 緝

〔說文〕从レ又从レ人。

㊀およぶ。
(い)いたる、(至)。○[詩]「燕一ニ皇天一」。
(ろ)かゝる、(繫)。○[左]「從自一也」。
(は)つぐ、(繼)。○[公羊]「一生一一」。
(に)つく、(就)。○[管]「一ニ齊君之能用レ之」。「而能止レ之哉」。
(ほ)ごとし、(如)。○[管]「豈一ニ彭生一」。
(へ)おふ、(追)。○[國]「往言不レ可レ一」。
(と)しく、(布)。○[詩]「覃一ニ鬼方一」。
㊁およばしむ、およぼす。○[孟]「老ニ吾老一以一ニ人之老一」。
㊂および。
(い)物事をならべ說くときに用ふる字、ならびに。○[史]「斬ニ捕虜首二十一萬餘級、一渾邪王以レ衆降」。
(ろ)いたりて。○[史]「一レ至ニ穎當城一生レ子」。
㊃與に同じ。
(い)と。○[公羊]「公一ニ邾儀父一」。
(ろ)ともに、ともにす。○[詩]「載胥一溺」。
(は)とも。○[管]「罰有レ罪不ニ獨一一」。

〔波及〕 次第におよび來たる。○[左]「其一ニ一晉國一晉君之辭也」。
〔覃及〕 ひきおよぶ。○[詩]「一ニ一鬼方一」。
〔延及〕 前に同じ。○[左、疏]「起ニ雉門而一ニ一兩觀一」。「可ニ一一也」。
〔企及〕 くはだておよぶことになる。○[唐]「揚雄枚皐」
〔耄及〕 年よる。○[左]「老將レ知而一一レ之」。
〔世及〕 代々承け次ぐ。○[禮]「大人一一以爲レ禮」。
〔追及〕 あとをおひ驅く。○[禮]「一ニ吳師一レ之」。
〔下及〕 下までにも至りとゞく。○[禮]「行レ慶施レ惠、一一ニ兆民一」。「一」。
〔洊及〕 つゞけて至る。○[晉]「兵革屢興、荒饉一一」。
〔連及〕 つらなる、關係す。○[後漢]「相一一者多至ニ數百一」。
〔賚及〕 頂戴す、賜はりおよぶ。○[南]「雖ニ蒙ニ一一、不ニ敢輒受、敎旨、以ニ潔ニ平生之操一」。
〔幾及〕 ほとんどおよぶ。○[五]「追ニ環一一」。

【友】 イウ、于九ウ。切 有

一古文は𠬛に作る。

㊀志を同じうするもの、親しく交はる人、氣類の合同せるもの、とも、ともどち、ともがら。○[禮]「父之一吾哭ニ諸廟門之外一」。
㊁兄弟間の情愛に篤きにいふ字、いつくしむ、いつくしみ。○[書]「惟孝一ニ于兄弟一」。
㊂志を同じくす、氣類合同す、親交す、ともと爲す、ともとす、ともなふ。○[司馬光]「君子相一道德以成」。

〔益友〕 交はりて己れの利になるとも。○[論]「一者三一」。「三一」。
〔損友〕 交はり己れの利とならぬとも。○[論]「一者」
〔賢友〕 かしこきとも。○[論]「樂レ多ニ一一」。
〔爭友〕 惡をたゞし善を勸むるとも。○[孝]「士有ニ一一、則身不レ離ニ於令名一」。
〔死友〕 死ぬとも契りをかへぬとも。○[漢]「出行則從ニ一一」。「常レ在ニ弟子列一」。
〔老友〕 年よりたるとも。○[宋]「此吾一一也、不レ」
〔面友〕 面前にては好きとを言ひ背けば惡しくいふへつらひのとも。○[揚雄]「友而不心一一也」。
〔頑友〕 和らぎ親しむ。○[書]「一一柔克」。
〔擇友〕 友をたゞす。○[詩、疏]「設ニ言辭以一ニ其一」。「喜」。
〔好友〕 親しきとも。○[詩]「雖レ無ニ一一、式燕且」
〔知友〕 心を善く知る友。○[盧]「拒ニ絕一一」。
〔師友〕 師とし仰ぐべき程のとも。○[漢]「唯以ニ同郡荀淑陳寔爲ニ一一」。
〔和友〕 やはらぎ親しむ。○[逸周]「父子之間、觀ニ其一一」。「則實交不レ親」。
〔姑友〕 ねたみ心のあるとも。○[荀]「上有ニ一一、」
〔同友〕 とも。○[鶡冠子]「長則一一」。
〔正友〕 たゞしきとも。○[素書]「枉士無ニ一一」。
〔篤友〕 兄弟むつましきと。○[晉、傳]「不レ一ニ一于弟」。
〔睦友〕 前に同じ。○[禮]「孝弟一一」。
〔悌友〕 前に同じ。○[韓愈]「大孝慈祥一一」。
〔益友〕 よきとも。○[陶潛]「中道逢ニ一一」
〔畏友〕 おそれうやまふべきとも。○[陸游]「嚴一一之間」。「頻」
〔舊友〕 久しく交はるとも。○[許運]「一一比來。」
〔鄕友〕 故鄕を同じうせるとも。○[蘇軾]「大呼ニ一一作ニ新年一」。「一レ一」。
〔寶友〕 友をいつはりあざむくと。○[後漢]「雖ニ一一」「諮レ書」
〔親友〕 したしきとも。○[後漢]「雖ニ一一、希レ得レ見レ之」。
〔豪友〕 すぐれたるとも。○[漢]「以ニ賤貿自絕ニ一一耳」。「一」。
〔士友〕 ともどち。○[唐]「一一以レ此親レ之」。
〔德友〕 德の有るとも。○[莊]「一一而已矣」。
〔忠友〕 まめやかなるとも、正實なるとも。○[說苑]「大夫蔽レ游、無レ所レ取ニ一一」。
〔諤々友〕 直言のとも。○[漢]「士無ニ一一之一、其亡可ニ立而待一」。
〔忘年友〕 年齡に關せずして交はるとも。○[陳]「雅相推重爲ニ一一一」。「爲ニ一一之一」。
〔布衣友〕 貧富を離れて交はるとも。○[史]「願與レ君」
〔莫逆友〕 別懇なるとも、親しきとも。○[莊]「一ニ于心一、遂相與一」。「一之一」。
〔金蘭友〕 仲よきとも。○[劉峻]「把レ臂之英、一」
〔連璧友〕 才智すぐれて仲よき二人にいふ語。○[晉]「夏侯湛與ニ潘岳一友善、毎行止同レ輿接レ茵、京師謂ニ之一一一」。
〔詩酒友〕 互に詩の唱答をなし毎に酒宴の席を同じくするとも。○[歷代名畫記]「與ニ杜甫李白ニ爲ニ一一一」。
〔同門友〕 師を同じくして學びたるとも。○[古詩]「昔我一一一」。

【𠬛】 古文の沒の字。

【𠬝】ハン。普姦切　ひく、（引）。

【𠬚】フク、ボク。房六切　をさむ、（治）。

【双】俗に雙を双に作るは惡し。

【𠬟】キョウ、ク。居竦切　手をあはす、つゝしむ、（竦-手）、又、拜に作る。

【反】ヘン、ハン。甫遠切

㊀かへる。
（い）故に歸す、もどる。○〔左〕「皆具二其器-用一、而―二其邑一」。
（ろ）重ねて到る、もどる。○〔漢〕「使-者五-―」。
（は）覆る。○〔周〕「人-車不二―-覆一」。
（に）却く。○〔莊〕「―走再-拜」。
（ほ）省る。○〔孟〕自―而縮、雖二千-萬-人一吾往矣」。
（へ）轉ず。○〔詩〕「展-轉―-側」。
（と）變ず。○〔列〕「回能仁不レ能レ―」。
（ち）本づく。○〔禮〕「―レ情」。

㊁かへす。
（い）かへらしむ、もどす、くつがへす、かふ。○〔儀〕「―レ之」。
（ろ）重ねて爲す、くりかへす。○〔論〕「歌而善、必使レ―レ之」。
（は）考ふ。○〔論〕「擧二一-隅一不下以二三-隅一―上則不レ復也」。
（に）報ゆ。○〔國〕「―二使-者一」。
（ほ）責む。○〔荀〕「―二之人一」。

㊂そむく。
（い）たがふ、もとる。○〔戰〕「子其勿レ―也」。
（ろ）道にもとり理にたがふ。○〔管〕「好二佼―一而行二私-請一」。
（は）むほんをなす、はむかふ。○〔史〕「日-夜望二將-軍至一、豈敢―乎」。
（に）相異す。○〔莊〕「其味相―」。

㊃循環、復歸、かへし、もどり、又、表裏、相異、うら、うらはら。○〔老〕「―者道之動」。

㊄服從の義をすてゝ抗抵するを、むほんてむかひ。○〔左〕「圖レ―」。

㊅さはなくて、うらはらにて、うッてかはッて、かへりて。○〔史〕「望レ之如レ雲、及レ到三-神-山―居二其中一」。

㊆つゝしみておもく〳〵しき貌にいふ字。○〔詩〕「威-儀―-―」。

〔違反〕たがひもとる。○〔後漢〕「―二―經-文一、豫「國-之甚者」。
〔疾反〕いそぎかへる、はやくかへる。○〔史〕「―-―レ「―一」。
〔往反〕ゆきかへり、又、ゆきかへりす。○〔魏〕「―-―七-里」。
〔旋反〕めぐりかへる、かへる。○〔詩〕「不レ能二―-―一」。
〔回反〕前に同じ。○〔惠洪〕路窮―-―無二澗-谿一。
〔思反〕おもひかへす、かへりみる。○〔詩〕「信-誓旦-旦、不レ―二其―一」。

【反】ハン、ヘン。孚艱切

㊀かへす、かへる。
（い）寃罪の者を鋒して無罪となす、又、寃罪の者宥されて無罪となる。○〔漢〕「杜-周治レ之、獄少二―-者一」。
（ろ）翻に同じ、ひるがへす、ひるがへる。○〔漢〕「―二水-漿一」。

㊁一字の聲と一字の韻と相摩して他の一字の音を發するをにもいふ、切に同じ、其の條を見よ、かへし。○〔韻會〕「一-音展-轉相呼謂二之―一」。

【反】ハン、ベン。部版切

販に同じ、ひさぐ。○〔荀〕「積二―-貨一而爲二商-賈一」。

【反】ハン。方願切

かたし、（難）、一説に、順ひ習ふ貌にいふ字、ゑたがふ。○〔詩〕「威-儀―-―」。

【反】ベン、バン。孚萬切

くつがへす、くつがへる、（覆）。

【収】俗の收の字。

三畫

【夬】クワイ、ケ。古邁切

わかちひらく、（分-決）。○〔易夬彖〕「剛―レ柔也」。

【𠬪】ケツ、ケチ。古穴切

弦をひらくに用ふるもの、（ゆがけ）。

【叐】犮の譌字。

【㕚】タウ、トウ。他刀切

㊀なめらか、（滑）。
㊁挑に同じ、とる、かゝぐ。
㊂つゞみ。○〔集韻〕「戎-鼓大-首謂二之―一」。

【㕛】ホ、フ。奔模切

相次ぐ貌にいふ字、ならぶ、ついづ。

四畫

【𠬢】ジヤク、ニヤク。而灼切

㊀東方の神木、（榑桑）。
㊁ゑたがふ、（順）。

【叏】古文の史の字。

【㕟】ヘウ。平表切　標に通じ用ふ、おつ、（落）。〔説文〕从レ爪从レ又。

【㕝】シフ。先立切　ゆく、（行）。

五畫

【叓】古文の史の字。

六畫

【叔】シュク、ソク。式竹切

㊀收拾す、とる、ひろふ。○〔詩〕「九-月―レ苴」。
㊁兩親の兄弟、をぢ。○〔書〕「分二寶-玉于伯-―之國一」。
㊂同胞の順序の上にて第三にあたる者。○〔儀〕「伯某甫、仲-―-季、唯其所レ當」。
㊃婦より夫の弟を指していふ稱、こじうと、小舅。○〔禮〕「嫂不レ撫レ―、―不レ撫レ嫂」。
㊄年長けず、わかし、いとけなし、又、其の者、こども、わかもの。○〔釋名〕「―少也、幼者之稱也」。
㊅澆季の世、滅亡に近き時、すゑ。○〔左〕「昔周-公弔二二―之不一レ咸、故封二建親-戚一以蕃二屏周一」。
㊆すゑとなる、おとろふ。○〔蘇軾〕「負レ險乘二衰―一」。
㊇菽に同じ、まめ、（豆）。○〔漢〕「得下以二―-粟一當中賦上」。
㊈俶に同じ、よし、（善）。

【㕞】セツ、セチ。所劣切

刷に同じ、ぬぐふ、（拭）、はらふ、（掃）、きよむ、（淸）。

【叕】テツ、テチ。陟劣切　屑

㊀つらなる（連）。㊁つゞる（聯）。

【取】シュ、此主切　麌　ス。（說文 从二又耳一。）

とる。

（い）收めて我が有となす。○〔戰〕「戰勝攻—、不レ知二其數一」。
（ろ）資る。○〔易〕「遠近相—」。
（は）持つ。○〔詩〕「如—レ如レ攜」。
（に）使ふ。○〔南〕「與筆之吏、—レ筆失レ旨」。
（ほ）採る。○〔史〕「以レ貌—レ人、失二之子羽一」。
（へ）治む。○〔老〕「故—二天下一者」。
（と）奪ふ。○〔北〕「卽令二逼—一」。
（ち）娶る。○〔左〕「昭公—二于吳一」。
（り）受く。○〔禮〕「—レ衣者亦以レ篋」。
（ぬ）索む。○〔禮〕「力行以待レ—」。
（る）捕らふ。○〔詩疏〕「能捕二—猛獸一」。
（を）行ふ、爲す。○〔莊〕「成其自—、怒者其誰耶」。
（わ）擊つ、殺す。○〔史〕「吾爲レ公—二彼一將一」。
（か）戰ひに師徒を用ひずして敵のものに克つにいふ字。○〔春秋〕「鄭伯伐—レ之」。

〔進取〕すゝみとる、進み出でて事をなす。○〔論〕「狂者—・—」。
〔義取〕道理によりて物をとる。○〔論〕「—然後—、人不レ厭二其取一」。
〔逆取〕正しきに反して取る。○〔漢〕「湯武—・—、而以レ順守レ之」。
〔羅取〕網を以てとらふ。○〔詩疏〕「畢掩レ之、而—レ之」。
〔掌取〕とる、うばふ。○〔禮疏〕「毋レ得下—二—人之稅一、以爲二己諸一上」。
〔掠取〕うちとる。○〔周註〕「籍謂下以レ杖刺二泥中一—二—之上」。
〔掩取〕掩ひ取る。○〔穀梁註〕「—二—禽獸一」。
〔簡取〕えらび取る。○〔蜀〕「—二—賢才一、以爲二官屬一」。
〔徵取〕とり上ぐ。○〔衛〕「稅レ汀稅レ市、—・—百端」。
〔競取〕先をあらそひてとる。○〔北〕「—・—而食レ之」。
〔去取〕取捨に同じ。○〔史〕「有司商搉—・—」。
〔鉤取〕ひきかけてとる。○〔宋〕「三司—・—無レ法」。
〔博取〕ひろく取る。○〔宋〕「—・—二衆善一」。
〔漁取〕網もて取る、又、取る。○〔宋〕「吏加—・—」。
〔辭讓取〕義を守りて取る。○〔詩傳〕「古者以二—・—一、不下以二勇力一取上」。
〔拱手取〕手をこまぬきて取る、容易に取る。○〔戰〕「可二—レ—而—一」。
〔不安取〕わいためなく取らす。○〔宋〕「毫髮—二—一」。

【取】ソウ、ス。此苟切　有

とる、もとむ。○〔詩〕「如二酌孔—一」。

【受】シウ、ジュ。時酉切　有

うく。

（い）得。○〔易〕「—二其福一」。
（ろ）納む。○〔禮〕「士拜—レ之」。
（は）奉ず。○〔史〕「君令有レ所レ不レ—」。
（に）繼ぐ。○〔孟〕「殷—レ夏、周—レ殷」。
（ほ）容る。○〔論〕「君子不レ可二以知一、而可二大—一也」。
（へ）盛る。○〔杜甫〕「野航恰—兩三人」。
（と）傳ふ。○〔漢〕「往—レ之」。
（ち）載す。○〔儀〕「以レ篋—」。
（り）迎ふ。○〔大戴禮〕「有レ所レ—無レ所レ歸不レ去」。
（ぬ）被る。○〔說苑〕「—レ恩尙二必報一」。
（る）聽く。○〔書疏〕「勿レ聽二—之一」。

〔虛受〕己れを空しうして人の意見などを聽き容る。○〔易〕「君子以—・—レ人」。
〔授受〕己れ人に與へ、又、己れ人よりとる。○〔孟〕「男女—・—不レ親」。
〔膚受〕身にさし逼る、身に切なり。○〔論〕「—・—之愬」。
〔聽受〕聞き納る。○〔書疏〕「無下可二考驗一之言上、勿レ—二—之一」。
〔翕受〕あはせてうく。○〔書〕「—・—敷施」。
〔實受〕あたりうく。○〔書〕「惟予一人、—二—多福一」。
〔拜受〕敬禮してうく。○〔禮〕「大夫親賜二士一、士—・—」。「所二—・—一」。
〔報受〕返禮を受く。○〔後漢〕「各致レ書奉レ禮、華—」。
〔超受〕頃を追はずしてうく、事を越えてうく。○〔漢〕「容—之間、—二—大恩一」。
〔容受〕納れうく。○〔魏〕「寬而宥レ之、可二以示一—・—」。
〔跪受〕ひざまづきうく、敬みて受く。○〔唐〕「舉レ衣—・—」。
〔心受〕心にうく、さとる。○〔參同契註〕「口傳—・—」。
〔稽首受〕額を地に叩き敬みてうく。○〔儀〕「勞者再拜—・—・—」。

七畫

【[illegible]】クワイ、ケ。口漑切　卦

息をつく貌にいふ、いきづかひ。

【[illegible]】キ。丘媿切　寘

喟に同じ、太息す、大いに歎く、いきつく。

【叙】俗の敍字。（攴に从ひ余に从ふ、今、敍に作る、又に从ふは誤なり。）

【叚】カ、ケ。居馬切　馬

㊀かる（借）、又、かす（貸）。㊁瑕に通じ用ふ、きず。

【叛】ハン、パン。薄半切　翰（說文 从レ半反聲。）

㊀去りて敵に從ふ、離れて我に敵す、服從せしもの離反す、はなる、そむく。○〔禮〕「殷人作レ誓而民始—」。
㊁かゞやく（煥）。○〔張衡〕「譬下衆星之環二北極一、—赫戲以煇煌上」。

〔離叛〕はなれそむく。○〔漢〕「沮二向レ化之心一、生二—・—之隙一」。
〔背叛〕そむく。○〔史〕「羣臣稍々—二—之一」。
〔反叛〕前に同じ。○〔晉〕「恐二其—・—之咎一」。
〔旁叛〕前に同じ。○〔宋〕「東人苦レ之、或至二—・—一」。
〔攜叛〕みだれそむく。○〔詩疏〕「思不レ出二其位一、無二復—・—一」。
〔乖叛〕そむく。○〔漢〕「制レ遠之道散而無二—・—之難一者」。
〔逆叛〕ておかひしそむく。○〔魏〕「昔呂布—・—、漢祖親戎」。
〔違叛〕たがひそむく。○〔張養浩〕「由レ弗レ修二善道一乃—・—」。
〔外叛〕そむく。○〔漢〕「生二心—・—一者半」。
〔親戚叛〕親族をそむき離る。○〔孟〕「寡助之至、—・—・—レ之」。

八畫

【叞】井。紆胃切　未

㊀安に同じ、やすし。㊁尉に同じ、ひのし。

【叟】ソウ、蘇后切　有　ス。先侯切　尤

尊老の稱、老人の稱、おきな、おやぢ、としより。○〔孟〕「—不レ遠二千里一而來」。

〔路叟〕途上の老夫。○〔漢〕「聽二民庶之謠吟一、問二—・—之所レ憂」。
〔田叟〕田舍おやぢ。○〔漢〕「見二康柴車幅巾一、以爲二—・—一」。
〔釣叟〕魚つるおやぢ。○〔嵇康〕「嘉二彼—・—一、得レ魚忘レ筌」。
〔國叟〕一國にて德の高き翁。○〔東京賦〕「執二鸞刀一以袒割、奉二觴豆于—・—一」。
〔樵叟〕木こりおやぢ。○〔沈佺期〕「伐木丁々—・—」。
〔若叟〕年とりたる人。○〔白居易〕「白頭—・—泣且言」。
〔耆叟〕前に同じ。○〔晉〕「—・—荷二槃養之德一」。
〔山叟〕山間に棲むおやぢ。○〔晉〕「—・—知レ材」。
〔迂叟〕世事にうときおやぢ。○〔聞見後錄〕「司馬公在二洛陽一、自號二—・—一」。

〔㪅叟〕前に同じ。◯〔李紳〕「雖二――之復生一、焉能移二其咫步一」。「振レ錫聞二幽・谷一」。
〔緇叟〕老いたる僧侶。◯〔劉眘虚〕「山門二――一、
〔垂白叟〕白髮のおやぢ。◯〔拾遺記〕「遊昆・丘之山一、見レ有二――之一」。
〔白頭叟〕前に同じ。◯〔東皙〕「東野遺二――一」。
〔蒼髯叟〕松の異名。◯〔高僧傳〕「指レ松曰二――之一」。

【叟】シウ、シユ。疎鳩切 尤
米をとぐ聲。◯〔詩〕「釋レ之――、蒸レ之浮々」。

【叜】サウ、ソウ。蘇遭切 豪
搜に同じ、動く貌にいふ字、うごく、又、さわぐ。

十一畫

【𠭥】リ。力戸切 支
ひく、（引）。

十二畫

【㕡】カク。黒各切 藥
壑に同じ、たに又みぞ。

十三畫

【𠭯】ヘキ、ヒヤク。卑亦切 陌
のっとる、のり、（法・度）。

【𣪘】セツ、セチ。職悅切 屑
短き貌にいふ字、みじかし。

十四畫

【叡】エイ。兪芮切 霽
奴に从ひ目に从ひ谷の省に从ふ、奴に从ふは其の穿てるを取り目に从ふは明なるを取り谷に从ふは谿の窮まらざるを取れるなり。

㊀物事の理に深く通ずるにいふ字、あきらか、とほる、ゑる、さとる。◯〔漢〕「非三惟兩・主有二明――之姿一」。
㊁識明か、智深し、さとし、かしこし。◯〔南〕「太・宗敏――過レ人」。
〔聰叡〕さとし。◯〔晉〕「陛・下天・資――、超・邁・唐・虞一」。「―」。
〔英叡〕人よりかしこし、人にすぐ。◯〔晉〕「武・服――」。
〔神叡〕鬼神の如くさとし。◯〔拾遺記〕「神・力英・明、翌二成萬・象一、億・兆流・其――一焉」。「綜レ物通レ靈」。
〔精叡〕くはしく明かなり。◯〔蔡邕〕「思・心――、
〔慧叡〕さとし。◯〔晉〕「沙・門――、才・識高・明」。

十六畫

【叢】ソウ、ズ。徂紅切 東
㊀あつまる、むらがる、あつむ、（聚）。◯〔書〕「是――二于厥身一」。
㊁草莉などの生ひ茂れる地、くさむら。◯〔淮〕「險・阻林――」。
〔幽叢〕ふかく茂りたるくさむら。◯〔張協〕「扣二跋――一」。
〔蘭叢〕蘭のうわりてあるところ。◯揚巨源〕「會二香春・露濕二――一」。
〔芳叢〕花の咲きたるくさむら。◯〔劉憲〕「――舞不レ前」。
〔榛叢〕荊のはえてあるところ。◯〔杜甫〕「時菊碎二「蠑礁――、繞二――一」。
〔竹叢〕たかやぶ。◯〔祖孫登〕「搖・颺楚・王宮、徘・徊
〔攢叢〕くさむら。◯李白〕「巉・嶁上二――一」。

口部

【口】コウ、ク。苦厚切 有
〔文說〕象形。

㊀くち。
（い）面部の下方にありて喉に通ふ穴、卽ち飲食を受け言聲を發する官。◯〔禮〕「掩レ―而對」。「民之――」。
（ろ）かたるを、はなすを。◯〔國〕「防二民之口一」。
（は）食らふを。◯〔詩〕「以就二―食一」。
（に）うつろなる所、くぼみたる箇處、あな。◯〔陶潛〕「山有二小――一」。
（ほ）内外の際、出入の路、こぐち、ではいりぐち。◯〔新序〕「江出二汶・山一、其源如二甕――一」。
㊁くちに出だす、くちに受く、もらす、いる、くちにす。◯〔後漢〕「――二說罪・囚姓・名坐・狀輕・重一、無レ所二遺・脫一」。
㊂にんべつ、ひとかず、ひと。◯〔孟〕「八―之家、可二以無一レ飢」。
㊃ゑなかず、ものかず、ゑな。◯〔晉〕「跪獻二劍一――一、置レ前再・拜而去」。
㊄手腕動脈の處。◯〔史〕「右―氣急」。
〔過口〕言ひ過ぎし。◯〔書〕「其發有二――一」。
〔利口〕辯說よきこと。◯〔史〕「子・貢――巧・辭」。
〔辯口〕前に同じ。◯〔史〕「齊・襄・王聞・睢――、乃使三八賜二睢金十・金及牛・酒一」。「人」。
〔訥口〕辯說の鈍きこと。◯〔史〕「隨――少レ言與」。
〔出口〕くちにだして言ふ。◯〔史〕「願君愼勿レ――二于――一」。「積使二上・下不一レ和」。
〔弄口〕いろ〳〵に言ひなすこと。◯〔漢〕「左・右――、
〔飾口〕前に同じ。◯〔南〕「――利・辭、誑相推薦」。
〔有口〕善く議論すること。◯〔漢〕「呂・后欲レ王二諸・呂一、畏二大・臣――者一」。「―成レ音」。
〔發口〕（い）口をあく。◯〔成公綏〕「動レ唇有レ曲、――
（ろ）くちにいだしいふ。◯〔蘇軾〕「不二敢――一」。
〔開口〕（い）前の（い）に同じ。◯〔杜牧〕「塵・世難レ逢――笑」。
（ろ）前の（ろ）に同じ。◯〔韓詩〕「仁以爲レ質、義以爲レ理、――無レ不レ可レ爲二人法・式一者上」。「幾何」。
〔緘口〕語らしめざること。◯〔國〕「――二其――一、其與能
〔防口〕前に同じ。◯〔國〕「――民之――、甚二于防一レ川」。
〔杜口〕くちをとぢ、轉じていはず、又、言はしめず。◯〔蔡邕〕「羣・臣――、以レ臣爲レ戒」。
〔閉口〕前に同じ。◯〔史〕「願陳・子――、毋二復言一」。
〔塞口〕前に同じ。◯〔漢〕「欲下止二兒啼一――中其――上也」。
〔箝口〕くちのあかぬやうにくちをゑばること、轉義前に同じ。◯〔漢〕「君自閉二――天・下之――一、而日益厲」。
〔噤口〕くちとづること、又、默す。◯〔史〕「悵然――不レ能レ言」。
〔默口〕語らざること。◯〔孔叢子〕「――二于小・道一、而復二寡・君一」。
〔藉口〕言ひわけをすること。◯〔左〕「苟有レ以――」。「欲レ殺二秦中・君一以――」。
〔滅口〕北の事件に就いての證言をなくする。◯〔史
餬口〕からき生計をなすこと、他に寄食すること。◯〔左〕「寡・人有レ弟、不レ能二和・協一、而使レ――二其――于四・方一」。
〔餬口〕食用すること、生計をたつること。◯〔戰〕「夜行而晝伏、無二以――其――一」。
〔絕口〕（い）食せざること。◯〔曹植〕「以二――一爲レ厚」。
（ろ）たえて言はざること。◯〔漢〕「――不レ道二前・恩一」。
〔一口〕同じき聲、又、同じき言葉、同じき議論。◯〔唐〕「天・下翕・然、――頌・歌」。「――所レ稱、毋レ翼而飛」。
〔衆口〕多人數の稱說、又、風說、世評。◯〔戰〕「――
〔守口〕沈默すること。◯〔朱熹〕「――如レ瓶」。
〔朱口〕婦人の口。◯〔古詞〕「――發二豔・歌一」。
〔美口〕うるはしき貌のくち、又、よきことをいふくち。◯〔左思〕「和・顏善笑、――善言」。
〔雜口〕低き階級、又は小數團體などの首席者たることにいふ語。◯〔戰〕「寧爲二――一、毋レ爲二牛・後一」。
〔讒口〕讒言に同じ。◯〔詩〕「――囂々」。
〔可口〕口にかなふ、味よきにいふ語。◯〔莊〕「其味相反而皆――二于――一」。
〔適口〕前に同じ。◯〔張蘊古〕「縱二八・珍于前一、所レ食不レ過レ――」。「我」。
〔忘口〕食らふことをわする。◯〔史〕「――二其――一而念
〔潤口〕（い）くちよりこぼる、味の太だしくよきことなどに用ふる語。◯〔張載〕「美・味――」。
（ろ）作爲せずして言葉の出づること。◯〔韓愈〕「笑・言――」。
〔甚口〕くちのひろきこと。◯〔蘇軾〕「――秀・眉」。
〔缺口〕ゐぐち。◯韓愈〕「衣レ褐之徒、――而長・鬚」。
〔黃口〕鳥の雛、くちばしの黃色なるによりいふ、轉じて年稚き人。◯〔淮〕「古之伐レ國、不レ殺二――一、不レ獲二二・毛一」。「于――一」。
〔虎口〕危難なることに借りいふ語。◯〔左〕「乃得レ免二
〔餓狼口〕前に同じ。◯〔晉〕「塡二――之――一」。
〔不容口〕はなはだしく賞讚することを形容する語。◯〔史〕「贊レ之皆――」。
〔三緘口〕多言を戒むることにいふ語。◯〔家語〕「孔・子觀二周・廟一、有二金・人一焉、――二其――一、而銘二其背一曰、古之愼・言人也」。
〔如出一口〕異口同音といふに同じ。◯〔孔叢子〕「羣・臣和者――二――一」。

（錦心繡口）文辭をよくする人を賞讃するに用ふる語。○〔柳宗元〕「駢四儷レ六、ー・ー・ー・ー」。

【口】コウ、ク。苦勁切〔董〕
むなし、むなしき所（空）。

二畫

【叱】イツ、イチ。億姞切〔質〕
鳥の聲、さへづる。

二畫

【古】コ、ク。公戸切〔麌〕
㊀過ぎ去りし時、遠く隔たりし世、いにしへ、むかし、もと。○〔書〕「ー帝堯」。
㊁先王、祖先、もと。○〔詩〕「ー訓是式」。
㊂むかしの法、むかしの事。○〔禮〕「合ー葬非レー也」。
㊃ふるし。
（い）時を經る久し。○〔陳子昂〕「石-室千-年ー」。
（ろ）いにしへの風旨あり。○〔唐〕「瑰-邁奇ーー」。
（上古）おほむかし。○〔易〕「ー・ー結レ繩而治」。
（邃古）前に同じ。○〔蔡邕〕「仰ニー・ー一、輝ニ昆後一」。
（中古）なかむかし、又、なかごろ。○〔袁宏〕「ー・ー陵遲」。
（振古）むかし。○〔詩〕「匪ニ今斯今一、ー・ー如レ茲」。
（往古）前に同じ。○〔賈誼〕「驗ニ之ー・ー一」。
（前古）前に同じ。○〔宣和畫譜〕「輝ニ映ー・ー一」。
（千古）（い）いにしへ。○〔宋之問〕「聖德超ニー・ー一」。（ろ）無限の時間。○〔歐陽〕「激ニ清一時一、流ニ娛ー・ー一」。
（萬古）（い）前の（い）に同じ。○〔魏〕「軌ニ儀ー・ー一」。（ろ）前の（ろ）に同じ。○〔杜甫〕「不レ廢ニ江河ー・ー流一」。
（稽古）いにしへの事をたづねかんがふ、古の道を修め學ぶにいふ語。○〔書〕「惟ーレー」。
（放古）むかしにならふ。○〔漢〕「宜ニ少ーレー以自節一焉」。
（謀古）むかしの道を說く。○〔柳宗元〕「言レ道ーー」。
（茹古）むかしの事わきまへ居ること。○〔皇甫湜〕「ーー涵レ今、無レ有ニ端涯一」。
（先古）祖先。○〔禮〕「祀ニ山川社稷ー・ー一」。
（終古）常の義に用ふる語。○〔周〕「ー・ー登ニ阤一」。
（懷古）思ひを昔に馳すること。○〔北〕「悵然ーレー」。
（雜古）草の名、おほけたで。

【古】コ、ク。顧暮切〔遇〕
むかし。○〔劉向〕「興ニ離騷之微文一兮、冀ニ靈修之壹悟一、還ニ余車于南郢一兮、復ニ姓軌于初ーー一」。

【句】ク、コ。九遇切〔遇〕
㊀字を聯られて章の一小節をなすものゝ稱、古は之を言と謂ふ、秦漢以後に此の稱始まれりとぞ即ちことばのこまかくかぎられたる部分、ことばの志ばしとゞまれる箇處、若しくはことばのある部分の完全なる意味を形づくれるもの、例へば「博愛之謂レ仁」、「行而宜レ之之謂レ義」の如き「力拔レ山兮氣蓋レ世」などの如し、こゑのふし、ことばのふし、くぎり、きり。○〔文心雕龍〕「因レ字而生レー、積レー而爲レ章」。
㊁長上の者の卑賤の者に告ぐること。○〔史〕「大行設ニ九賓臚ー傳一」。
㊂屈曲す、まがる、かゞまる、まぐ。○〔禮〕「ー中レ鉤」。
（絕句）漢詩にて起、承、轉、合の四句を以て組み立てられたるもの、五言、（字）七言、（字）の別あり、往々四言六言など或は減じ或は加ふるもあり。○〔金〕「作詩得ニ晚體一、尤工ニー・ー一」。
（起句）又は、（發句）詩にて第一次の句。○〔滄浪詩話〕「ー・ー好尤難レ得」。（承句）漢詩にて第二次句。（轉句）絕句の前の句。
（結句）漢詩にて最後の句。○〔滄浪詩話〕「ー・ー好難レ得」。
（對句）甲乙兩句の字數相同じく虛字は虛字と、實字は實字と相照應して表といへば裏といひ陽といへば陰といふさまなるものゝ稱、例へば韓愈の進學解にて「口不レ絕レ吟ニ於六藝之文一、手不レ停レ披ニ於百家之編一」の二句の如き此れなり、要するに支那六朝時代にては對偶を作るに重きを措きしも大抵は押韻のもの散文には多く用ひず、漢詩は固より押韻を主とするものなれば對句を用ふること最も多し、杜甫の莫哀歌に「豫樟翻レ風白日動、鯨魚破レ浪滄溟開」の如し、殊に律詩の前後兩聯の如きは必ず對句ならざるべからず。
（連句）又は（聯句）二人以上の人相集まり彼れ一句を作れば此れ一句を詠じて、遂に一篇をなせるもの。○〔白居易〕「秋燈夜寫ー・ー詩」。
（警句）すぐれたる句。○〔本事詩〕「夜來双月滿、曙後一星孤、當時以爲ニー・ー一」。
（奇句）人の言ひ及ばざる句。○〔宋〕「林逋嘗爲レ詩、其詩澄浹峭特多ニー・ー一」。
（麗句）美しき句。○〔韓愈〕「研ニ字ー・ー不レ可レ蹤」。
（好句）よき句。○〔六一詩話〕「詩人貪ニ求ー・ー一」。
（傑句）前に同じ。○〔蘇軾〕「我詩無ニー・ー一」。
（豪句）氣象雄大なる句。○〔蘇軾〕「願君發ニー・ー一」。
（鑱句）巧に構へたる句、又、巧に句を構ふ。○〔元稹〕
（險句）難字を斷べたる句。○〔王建〕「騁ニ驟ー・ー一」
「無レ非ニ雕詞ー・ー之才一」。　「最先投」。
（難句）前に同じ。○〔蘇軾〕「奇險ー・ー」。
（活句）活氣ある句。○〔滄浪詩話〕「須レ參ニー・ー一」。
（死句）意味少く淺く動きなきもの。○〔陸游〕「文章切忌參ニー・ー一」。「予實錄一」。
（冗句）無用の句。○〔梁武帝〕「遊辭ー・ー無レ取ニ
（陽關句）別離の情を敘する句。○〔趙彥端〕「忍レ唱ニー・ー・ー一」。
（長短句）長き（字數多し）句と短き（字數少し）句と。○〔宋〕「襄ニ樂府之ー・ー・ー一」。
（金章玉句）他人の詩文を美賞するに用ふる語。○〔揚萬里〕「ー・ー・ー・ー鳴ニ天球一」。「ー・ー一」。
（月章星句）前に同じ。○〔許有孚〕「博ニ得ー・ー・ー

【句】コウ、ク。古候切〔宥〕
㊀任務に當たる、あたる。○〔宋〕「江南ーニ當ニ公事一」。
㊁すく、ひく、からぐ、かゝはる（拘）。○〔卻掃編〕「祇託ニ春風ー管ー來」。
㊂はる、みつ、やごろ（彀）。○〔詩〕「敦弓既ー」。
（總句）すべあたる。○〔唐〕「旋終ー・ー」。
（檢句）とりしらぶ。○〔唐〕「訊鞠ー・ー而處レ事平」。
（巡句）めぐりあるきて任務を行ふ。○〔唐〕「ー・ー以絕ニ奇徼一」。

【句】コウ、ク。古侯切〔尤〕　ー俗に勾に作る。
㊀かゞまる、まがる（曲）。○〔禮〕「ー者畢出」。
㊁矩形を對角に折半せしものゝ稱、即ち直角三角の稱。○〔周髀算經〕「折レ矩爲レー」。

【句】ク、ゴ。權俱切〔虞〕
㊀約に同じ。○〔周〕「青ー」。
㊁拘又は佝に作る、ひく、とゞむ。
㊂矩に同じ、けた（方形）。○〔莊〕「履ニー履ー者知ニ地形一」。

【句】キウ、ク。古有切〔有〕
まがる、まぐ（曲）。○〔淮〕「ー瘻民一」。

【另】レイ、リヤウ。郎定切〔徑〕
㊀分かれ居る、わかる。
㊁割き開く、さく。

【另】クワ、ケ。古瓦切〔馬〕　ー咼又は剮に作る。
肉を剔きて其の骨のみを置く、わかつ、さく。

【叨】タウ、トウ。土刀切〔豪〕
㊀分外の欲望を恣にす、むさぼる（貪）、むさぼりくらふ（饕）。○〔書〕「ー懫日欽」。

㊂楙殘す、忝濫す、むさぼりそこなふ、そこなふ、かたじけなくす、みだりに、かたじけなし。○〔後漢〕「横二―天功一」。

【叩】コウ。苦后切 [有] 丘候切 [宥] 本、訽に作る、又、扣に同じ。

たゝく。
(い)うつ、(擊)。○〔論〕「以レ杖―二其脛一」。
(ろ)おこす、ひらく、(發)。○〔論〕「我―二其兩端一而竭」。
(は)たづぬ、とふ、(問)。○〔梁武帝〕「獨・學少二擊―一」。
(に)稽顙す、ぬかづく。○〔漢〕「―頭自請」。
(ほ)引き止む、ひかふ。○〔史〕「―レ馬而諫」。
(瞻叩) さしひかへ居る。○〔梅堯臣〕「無二能久―・―一」。
(叩々) (い)たゝく。○〔梅堯臣〕「閑レ門誰―・―」。(ろ)種々にとひとぶらふとに用ふる語。○〔朱熹〕「―・―陳二苦詞一」。

【只】シ。掌氏切 [紙] 支移切 [支]

㊀此れのみの意を表はす字、たゞ。○〔嚴先生祠堂記、々事〕「范・希・文作二此記一、李・太・伯在レ座、問曰、公此文一出名レ世、―一字未レ安」。
㊁詞のをはりに用ふる助字。○〔左〕「諸・侯歸二晉之德一―」。
㊂一說に是れの意をなす助字。○〔詩〕「樂―君・子」。

【叫】ケウ。古弔切 [嘯] 古幼切 [宥] 俗に呌に作るは惡し。

㊀烈しく呼ぶ、大聲を出だす、なく、よぶ、さけぶ。○〔詩〕「或不レ知二―・號一」。
㊁さけぶ聲にいふ字、遠き聲にいふ字。○〔揚雄〕「大・語―・―」。
(絕叫) 大いにさけぶ。○〔晉〕「投レ馬―・―」。
(鼾叫) 前に同じ。○〔南〕「由レ是不二復―・―一」。
(呼叫) 前に同じ。○〔唐〕「毎二大・醉一―・―狂・走」。
(喤叫) 前に同じ。○〔北〕「―・―泣・涕」。
(齊叫) 衆人一切にさけぶ、かちどきを上ぐ。○〔南〕「衆馳入―・―、吏・士驚・散」。
(餓鴟叫) うゑたる鴟鳥のさけび、又、箭の劇しく飛ぶ響などに用ふる語。○〔南〕「弦作二霹靂聲一、箭如二―・―・―一」。
(鳳凰叫) 鳳凰のさけび、多くは玉の響き、又、笛などの響に借り用ふる語。○〔李賀〕「崑山玉碎―・―・―」。
(蚯蚓叫) みゝずのさけび、多く炭火のおこり熾きさまの響に借り用ふる語。○〔蘇軾〕「銅鐺得レ火―・―・―」。
(戍卒叫) 衛戍の兵鬨を上ぐ、轉じて叛逆人あるとに借りいふ語。○〔杜牧〕「―・―・―函・谷擧」。

【召】テウ、デウ。直少切 [嘯]

長上の者の卑下の者を呼び來たすにいふ字、よぶ、めす、まねく、めし、よびだし。○〔禮〕「父―無レ諾唯而起」。
(號召) 呼び出だす。○〔國〕「―二―天下之賢・士一」。
(徵召) 前に同じ。○〔說〕「擲以二次・第一爲レ書、長二尺以―・―一」。
(擧召) 官吏などに採用すること。○〔後漢〕「累徵・聘―・―、皆不レ應」。
(辟召) 前に同じ。○〔後漢〕「不レ應二州・郡―・―一」。
(採召) 前に同じ。○〔宋〕「修二復學舍一、―二―生・徒一」。
(聘召) 前に同じ。○〔齊〕「崇二―・―之禮一」。
(鑿木召) 下のものを氣儘に呼び出だすとに用ふる語。○〔柳宗元〕「鳴レ鼓而聚レ之、―レ―而―レ之」。
(弓旌召) 高官に採用せらるゝこと。○〔李元成〕「臣素微二經・藝之術一、謬忝二―・―之―一」。
(燕臺召) 君王に優待せらるゝと、燕の昭王の臺を築きて賢者を招きたる故事。○〔李白〕「謬忝二―・―・―一」。
(安車召) 鄭重なる呼び出しに借りいふ語。○〔李商隱〕「想レ就―・―・―」。
(朝奏夕召) 早く任用せらるゝとに借りいふ語。○〔唐〕「望二―・―・―・―一、豈易レ得哉」。

【召】セウ、ゼウ。時照切 [嘯] 地の名、人の名。

【叭】ハツ、ハチ。普八切 [黠] 聲にいふ字。

【叭】ハツ、ハチ。普活切 [曷] 口開く。
(喇叭) 軍中の吹器、一名を號筒といふ。

【㕣】エン。以轉切 [霰] 山間の陷りたる泥地、どろち。

【叮】テイ、チヤウ。當經切 [靑] ㊀ねんごろ。㊁あつらふ。㊂わかる。

【可】カ。肯我切 [哿]

㊀肯ふ、承諾す、同意す、或る條件に適合するものと認む、行ひて宜しと爲す、ゆるす。○〔文中子〕「達・人哉山・濤也、多レ―而少レ怪」。
㊁べし。
(い)決定の意を表はす字。○〔論〕「其或繼レ周者、雖二百・世一―レ知也」。
(ろ)想像の意を表はす字。○〔史〕「―二以少安一」。
(は)命令の意を表はす字。○〔論〕「父・母之年、不レ―レ不レ知也」。
(に)許諾の意を表はす字。○〔孟〕「―二以仕一則仕、―二以止一則止、―二以久一則久、―二以速一則速」。
(ほ)能ふの意を表はす字。○〔孟〕「水搏而躍レ之、―レ使レ過レ顙、激而行レ之、―レ使レ在レ山」。
㊂よし、よろし。
(い)ゆるすべし。○〔史〕「號曰二皇・帝一、他如レ議、制曰―」。
(ろ)未だ足らざるもやゝゆるすべし。○〔論〕「子曰、―也簡」。
(は)止むべし。○〔儀〕「郎レ席曰、―矣」。
(に)宜し。○〔漢〕「物有二相・感一、事有二適・―一」。
㊃かしづき、もり、(傅・御)。○〔禮〕「擇二于諸・母與一―者一」。
㊄ところ、(所)。○〔禮〕「不レ―レ遺」。
(獻可) 君王に善言を上りて其の過失を補ふと。○〔左〕「君所レ謂可而有レ否焉、臣獻二其否一以成二其可一、君所レ謂否而有レ可焉、臣―二其―一以去二其否一」。
(薦可) 前に同じ。○〔國〕「―レ―而替レ否」。
(奏可) 上奏を採用すると。○〔漢〕「請二皆罷一、―・―」。
(裁可) 君王の群臣の決議を行ふべしと許すと。○〔晉〕「參二俳君―・―一」。
(肯可) ゆるす、又、ゆるし。○〔歐陽修〕「未三嘗有二所―・―一」。
(許可) 前に同じ。○〔世說〕「世・尊默・然、則爲二―・―一」。
(印可) 前に同じ。○〔維摩經〕「若能如レ是坐、佛所二―・―一」。
(開可) 前に同じ。○〔歐陽修〕「終蒙二于―・―一」。
(不可) ゆるすべからざると、又、あしきと。○〔論〕「顏・淵死、門・人欲二厚葬一之、子曰、―・―」。
(無一可) 一つとして取りどころなし。○〔後漢〕「韓遂不レ悟、報・書云、如レ此僕亦―二―・―一耶」。
(無可無不可) (い)執着する所なし。○〔論〕「我則異二於是一、―レ―二―・―一」。(ろ)是非の說くべきなし。○〔後漢〕「高・帝―レ―・―・―、今上好二吏・事一、動如二法・度一、又不レ喜二飲・酒一」。(は)させる効なき意にも用ふるとあり。
(自可) (い)これもよし。○〔世說〕「但與―・―、何必飯也」。

(ろ)みづからゆるす、己れが見識を信ず。〇〔韓愈〕「寡言——、不ニ與レ人交一」。

(夕可)　道を求め學を勉むるに勇むといふ語。〇〔論〕「朝聞レ道、則—雖レ死—也」。

【可】　カ。居何切　歌

㊀古文の歌の字。
㊁何に通じ用ふ。〇〔石鼓文〕「其魚隹—」。

【台】　イ。延知切　支

㊀われ、わが、(予、我)。〇〔書〕「非ニ—小子敢行一レ稱レ亂」。「虞舜不レ—」。
㊁よろこぶ、(悅)。〇〔史〕「唐堯遜レ位、虞舜不レ—」。
㊂やしなふ、(養)。〇〔揚雄〕「養也、晉、衛、燕、魏曰レ—」。「之閒曰レ—」。
㊃うしなふ、(失)。〇〔揚雄〕「失也、宋、魯」。

(台々)　よろこばしき貌にいふ語。〇〔越采葛婦歌〕「葛不レ連、蔓、棻——」。

【台】　タイ。湯來切　灰

㊀星の名。〇〔晉〕「三—、六—星」。
㊁三公の稱。〇〔晉〕「奕世登レ—」。
㊂胎に同じ、はらごもり。〇〔九辯〕「收ニ恢—之孟夏一兮」。
㊃鮐に通じ用ふ、いたく老いたる人の背膚はしわよりて鮐の文の如くなるがゆゑに老人の義に借りいふ字。〇〔詩〕「黃耉—背」。

(輔台)　君王を補佐すること。〇〔晉〕「朝夕納レ誨、以輔ニ——德一」。

【台】　シ、ジ。祥吏切　寘

嗣に同じ、つぐ。〇〔古文尙書〕「弗レ—」。

【叱】　シツ、シチ。尺栗切　質

㊀しかる、(訶)、ののしる、(罵)、又口舌の中にて聲をなす、したうち。〇〔公羊〕「手レ劍而—レ之」。
㊁いかる、(怒)。〇〔南〕「華出入逢ニ徐羨之等一、每切齒憤—、嘗歎曰、當レ見ニ太平時一否」。
㊂いかる聲、しかる聲、又、したうちする聲。〇〔漢〕「以レ杖擊ニ殿檻一、呼ニ方朔一曰、——朔來」。「—羣司ニ」。

(虎叱)　勢はげしくしかる貌にいふ語。〇後漢「—ニ羣司一」。
(廷叱)　朝廷羣臣の前にて人をしかる。〇〔史〕「以ニ秦王之威一、相如—ニ—之一」。
(咤叱)　しかる。〇〔後漢〕「鞭官——」。
(詬叱)　ののしりしかる。〇〔宋〕「衆摔蹴——」。
(騷叱)　おひまはしてしかる。〇〔雲笈七籤〕「衆騷レ之——、甚于僕隸ニ」。

【吪】　クワ、ケ。火跨切　禡

口を開く貌にいふ字。

—一に吪に作る。

【史】　シ。疎止切　紙

㊀事を記すことを掌る官。〇〔禮〕「動則左—書レ之、言則右—書レ之」。
㊁又、官屬。〇〔詩〕「旣立ニ之監一、或佐ニ之—一」。
㊂事の過程を記せるもの、文書、載籍、ふみ、れきし。〇〔北〕「琛父弟密、淸謹少ニ嗜慾一、頗涉ニ書—一、疾ニ世俗貪競爲レ風」。

(太史)　周時代の宗伯、(禮官の一職)、太史公は漢の大官、太史令は後漢の顯官、秩六百石なり。〇〔周〕「掌下建ニ邦之六典一、以逆中邦國之治上」。「之志ニ」。
(小史)　(い)前の初師に同じ。〇〔周〕「——掌ニ邦國之志ニ」。(ろ)後代に至りて左右に侍する者をいふ。〇〔徐陵〕「未レ若ニ宋玉之——、含レ情而死ニ」。
(內史)　官內の事を記錄する官。〇〔周〕「——掌ニ王之八枋之法一、以詔ニ王治ニ」。
(外史)　(い)官外に係かる事を記錄する官。〇〔左〕「季孫召ニ——一」。「稱に用ふ。
(ろ)後代に至りて無官にて事を記することをなす者の國史」　其の國の臣僚にして封內の事を記するもの。

〇〔宋書〕「諸侯又各有ニ——一」。
(巫史)　神事を掌るもの。〇〔禮〕「藏ニ于宗祝——一」。「非レ禮也」。
(府史)　役場の書記。〇〔後漢〕「周禮三百六十官之下、皆有ニ——胥徒ニ」。
(瞽史)　周の時代、常に主君の左右に伺候して詩を誦し箴を誦しなどし君王をして失墜することあらさらしむるめしひの者。〇〔國〕「臨レ事有ニ——之道ニ」。
(女史)　後宮に事へて其の記事を掌る女官。〇〔後漢〕「—ニ—彤管、記ニ功書一過」。
(從史)　官僚の從者。〇〔史〕「嘗有ニ——一、盜ニ愛妾一侍兒ニ」。「兩——、秩千石」。
(長史)　漢の丞相の屬僚。〇〔漢〕「置ニ—丞相一、有ニ—」。
(御史)　周、及び漢、唐の朝の官の稱。
(刺史)　漢、唐の州の長官の稱。
(文史)　文章と歷史と。〇〔隋〕「耽ニ——一、以怡レ神」。
(靑史)　歷史のこと。〇〔歐陽修〕「名姓已光ニ——上ニ」。「——ニ」
(圖史)　圖畫と史書と。〇〔唐〕「獨處ニ一室一、左ニ右圖史一」。
(三史)　史記、漢書、後漢書をいふ。〇〔蜀〕「尤銳ニ意——一、長ニ于漢家舊典ニ」。
(二史)　春秋と尙書と。〇〔中艦〕「朝有ニ——一、左史記レ言、右史記レ動、動爲ニ春秋一、言爲ニ尙書ニ」。
(經史)　經書と歷史と。〇〔方回〕「——入ニ胸中ニ」。
(子史)　諸子類と歷史と。〇〔隋〕「五經——纔四千卷」。
(瑣史)　書史のこと。〇〔隋〕「篤好ニ——ニ」。
(馬史)　史記の稱、司馬遷の修めし歷史なるが故にいふ。〇〔隋〕「遍覽ニ——班書ニ」。
(家史)　自家の記錄。〇〔隋〕「——舊書」。
(野史)　官命にあらずして私に記錄せるもの。〇〔歷鑑〕「自愛垂ニ名——中ニ」。「師傅ニ」。
(稾史)　草稿をいふ。〇〔唐〕「今——殘缺、譌付ニ」。
(正史)　正確の歷史、又、史を正す。〇〔王勣〕「依レ經「——」。
(稗史)　演義體の歷史もの。
(掾史)　長官の屬僚。〇〔後漢〕「郡國皆置ニ諸曹——ニ」。
(丞史)　前に同じ。〇〔史〕「擇ニ——而任レ之」。
(侍史)　左右に侍坐するもの、そば役人。〇〔史〕「屛ニ風後常有ニ——ニ」。
(詠史)　歷史上にある事柄を詠ずること。〇〔晉〕「會爲ニ——詩一、是其風情所レ寄」。

【右】　イウ、ウ。云久切　有　イウ、ウ。尤救切　宥

㊀みぎ、左の對。
(い)日の出に對して南にあたる方位。〇〔後漢〕「救レ左則擊ニ其—一、臣無下能出ニ其—一者上」。
(ろ)高きこと、かみ。〇〔史〕「漢廷臣無下能出ニ其—一者上」。
(は)みぎなるもの。〇〔戰〕「欲ニ與レ我誅レ齒者祖レ—」。
㊁かみとす、たふとぶ、(上)。〇〔漢〕「守成上レ文、遭—レ武」。
㊂たすく、(助)、又、みちびく、(導)。〇〔詩〕「保—命レ爾」。
㊃侑に通じ用ふ、すすむ。〇〔周〕「以レ享ニ—祭祀ニ」。
㊄つよし、(强)。〇〔後漢〕「無レ令下豪—得中固ニ其利上」。
㊅みぎの方に向く、みぎす。〇〔新序〕「欲レ—者—」。

(戎右)　戎車の右にありて其の兵革を掌る勇者、轉じて勇者の其の主を護衞することにいふ語。〇〔國〕「知ニ荀賓之有レ力而不レ暴也、使レ爲ニ——ニ」。
(車右)　前に前じ。〇〔庾信〕「樊噲將ニ漢王——、不レ惱ニ鋒刀一、何辭ニ巵酒ニ」。
(左右)　(い)ひだりとみぎと。
(ろ)そば、側傍。〇〔晉〕「置ニ諸其——ニ」。
(は)近臣、そばに侍る者。〇〔史〕「——欲レ兵レ之」。
(に)たすく、みちびく。〇〔晉〕「予欲レ——ニ有ニ民ニ」。
(ほ)勝手に之を使用することにいふ語。
(折右)　みぎの臂を折る、轉じて志を得ざることに借り用ふる語。〇〔崔駰〕「豐ニ其——一、而鼎覆ニ其餗ニ」。
(卜右)　戎車の右となるべきものを占ひ定むること、すべて人選することに借りいふ語。〇〔崔駰〕「擇レ御——、探レ德用レ良」。
(寢右)　魚を俎に載せて進上する式、魚の頭を己れの方に寢ねしめ其の背を人に向かはしむ。〇〔儀〕「魚——」。
(朝右)　朝廷の高官。〇〔後漢〕「使下其隨才職ニ、位ニ——一」。「隨レ才職、量」。
(權右)　權利ある高き地位の人。〇〔晉〕「終狷ニ戾于——ニ」。「請退」。
(端右)　高き位。〇〔北〕「雖レ位ニ居——一、而愈自挹損」。
(推右)　尊重す。〇〔宣和書譜〕「爲ニ時人所ニ——一」。

〔姒石非右〕 石昂の故事より節を屈せざるよに借り用ふる語。○〔五〕「昂上詩、贊-者以二彥-朋諍石一、更二其姓一曰レ右、昂仰賁二彥朋一曰、內-侍奈何以レ私害レ公、昂一一レ一也、彥朋怒起」。

【叴】 キウ、グ。巨鳩切 尤

❶刃の隈の三角形をなせる矛。○〔詩〕「一一矛鋈-錞」。❷たかぶる(高)。

【叵】 ハ。普火切 哿

❶否定の意を表はす字、べからず、なし、かたし。○〔後漢〕「大-耳-兒最一レ信」。❷つひに(遂)。○〔後漢〕「帝知二其終不一レ爲レ用、一欲レ討レ之」。

【叶】 協に同じ。

【号】 號に同じ。

【司】 シ。息茲切 支

❶主事す、督察す、つかさどる。○〔左〕「惟器與レ名、不レ可二以假一レ人、君之所レ一也」。❷つかさ。

(い)つかさどるを、つとめ、職務。○〔何承天〕「耳-目殊レ一、工-藝異レ業」。○(ろ)つかさどる人、官吏、當局者。○〔左〕「備レ物典レ策、官一一彝-器」。

〔有司〕 官吏。○〔書〕「玆用不レ犯二于一一一」。

〔諸司〕 (い)多くの官吏。○〔左〕「撫二小民一以レ信、訓二一一以レ德」。(ろ)附屬の官吏。「之一一一」。

〔里司〕 村の小官吏。○〔唐〕「三-省六-部之屬、皆謂二一一一」。○〔南〕「秀爲二江-州刺-史一、聞二前-刺-史取二陶-潛曾-孫一爲二一一一、歎曰、陶-潛之德、豈可レ不レ及二後-裔一、卽日辟爲二西-曹一」。

〔羣司〕 多くの小官吏。○〔左〕「盜爲二門-者庇二一一一」。

〔牧司〕 地方長官。○〔晉〕「僑二置一一一一」。

〔春司〕 行政の官吏。○〔張鷟〕「共賀一一能聚-識」。

〔憲司〕 官吏。○〔元結〕「復來官二一一一」。

〔臣司〕 臣下、及び官吏。○〔後漢〕「引レ災自厚、不レ責二一一一」。

〔臺司〕 宰相の稱。○〔南〕「一-門有二三一一一一、實所二畏-憚一」。

〔鼎司〕 前に同じ。○〔後漢〕「三-公一一無レ所レ不レ「統」。

〔宰司〕 (い)前に同じ。○〔張說〕「縱二宴一一一一」。(ろ)つかさどる。○〔梁武帝〕「逐因二時來一、一一二一一邦-國一」。

〔百司〕 もろ〳〵の官吏。○〔書〕「一一一庶-府」。

〔南司〕 御史中丞。○〔南〕「君何敢以二罪人一屬二一一一」。「曰二一一一一」。

〔北司〕 宦官。○〔唐〕「宦-人握レ兵、橫二制海-內一、號二一一」。

〔門司〕 門を守るもの。○〔吳晉邊錄〕「一一未レ報、君何抵レ此」。

〔職司〕 つとめ。○〔左〕「未レ有二一一于王-室一」。

〔大司〕 おほいなるつとめ。○〔左〕「男-女辨レ姓、禮之一一也」。「說一」。

〔判司〕 賤しき官吏。○〔韓愈〕「一一卑官不二敢說一」。

〔朝司〕 つかさ。○〔曹植〕「一一惟良」。

〔尹司〕 前に同じ。○〔傅亮〕「一二一一京-畿一」。

〔劇司〕 いそがはしきつとめ。○〔柳宗元〕「拔レ自二卑-品一、委以二一一一」。

【司】 シ。相吏切 寘

❶つかさ。○〔王粲〕「酒-正膳-夫家-宰是一、虞-瀠二器-用一、敬滌二蘊-饎一」。❷伺に同じ、うかゞふ、うかゞひ。○〔漢〕「太-后亦已利二入候一一一」。

三畫

【叿】 コウ、ク。呼公切 東

❶ゑかる(呵)。❷大いなる聲。❸かまびすし(哄)。

【吁】 ク、チ。況于切 ウ、チ。羽俱切 虞

❶あ、あゝ。

(い)おどろき怪しみて發する聲、又、おどろき怪しむ意を表はす字。○〔書〕「益曰、一戒哉」。

(ろ)なげきて發する聲、又、なげく意を表はす字。○〔詩〕「云何一矣」。

❷あゝの聲を發す、なげく、おどろく。○〔五燈會元〕「二-默一-言、一一一-笑乃至種-々方-便」。

〔長吁〕 長き歎きの聲を發す。○〔宋〕「神-宗覽レ圖、一一歎-息」。

〔嗟吁〕 あゝ、歎きの聲。○〔元稹〕「遇レ醉少一一一」。

〔吁々〕 おどろく、又、なげく。○〔柳宗元〕「一一一爲レ詐」。

〔掩卷吁〕 讀書にて感動せしときなどにいふ語、書物をふせての義。○〔蘇轍〕「一レ一輒長一」。

【吁】 キョ、休居切 魚 ウ、王遇切 遇

コ。

噓に同じ、ふく。○〔論衡〕「猪-馬以レ气一レ之」。

【吂】 バウ、マウ。莫郎切 陽

❶問ふに答へず。❷知らず。

【吂】 バウ、マウ。莫浪切 漾

老いて物事を知らざるを、おいぼれ、おいぼる。

【吃】 キツ、コチ。居乙切 質

❶言語の澁滯蹇難なるにいふ字、どもる、どもり。○〔史〕「非レ爲レ人、口一不レ能二道-說一、而著レ書」。❷進み難し、とゞまる。○〔孟郊〕「凍-馬四-蹄一」。❸喫に同じ、くらふ。○〔新書〕「越-王之窮、至二乎一二山-草一」。❹笑ふ貌にいふ字。○〔文同〕「靜能知二此趣一、一一笑レ勞レ生」。

〔吶吃〕 (い)口どもるよ。○〔括〕「形-氣一一一」。(ろ)すゝみ難し。

〔乾吃〕 どもる。○〔沈适〕「猶有二常-年一一一見一」。

〔老吃〕 年老いてどもる。○〔管〕「吾畏レ事不レ爲レ事、畏レ言不二敢言一、行-年六-十、如二一一一爾」。

〔蹇吃〕 (い)どもる、又、語出で難し。○〔蘇軾〕「改二更-句格一各一一一」。(ろ)すゝまず、又、失望のさまなどにもいふ語。○〔畜庭堅〕「張-子耽レ酒又一一一」。

〔牧豎吃〕 鄭偉の故事より類似せし者あるをいふ語。○〔周〕「偉性吃、少-時逐レ鹿失レ之、問二牧-豎一、一一一亦一、偉怒謂二其效一レ己、射殺レ之」。

〔鄧艾吃〕 鄧艾の故事より吃者の笑ふべからざるをいふ語。○〔世說〕「一一一口一、語稱二艾-々一、晉文-王曰、卿云二艾-々一、爲二是幾艾一、曰、鳳兮鳳兮、故是一-鳳」。

【各】 カク。古洛切 藥

おの〳〵。

(い)二個以上のものを同時に指すさきに用ふる字、「其れ〳〵」、「自分〳〵」の義。○〔書〕「一守二爾典一、以承二天-休一」。

(ろ)二個以上のもの丶相異せるにいふ字。○〔王禹偁〕「出-處岐-路一」。

〔各々〕 おの〳〵。○〔後漢〕「諸-夫-人一一一前言二趙-熹篤-義多レ恩」。

〔盍各〕 彼れ此れ同じ。○〔南〕「但爲二一一一、則未二之敢許一」。

【吅】 ケン、況袁切 元 セン、荀緣切 先

コン。切 ゼン。切

❶驚き呼ぶ、さけぶ。❷聲集まる、かまびすし。

俗に喧に作るは惡し。

【吅】 古文の訟の字。

【吇】 シ、ジ。祖似切 紙

鳥の聲。

【合】カフ、ゴフ。胡閤切　合

㊀あふ。
(い)同じくあり。○〔鶡冠〕「神・靈威・明興レ天一」。
(ろ)配ふ。○〔荀〕「男・女之一」。
(は)交はる。○〔呂氏春秋〕「才・民未レ一」。
(に)會す。○〔禮〕「不レ能二五・十・里一者、不レ一二于天・子一」。
(ほ)和ぐ。○〔呂氏春秋〕「物一而成」。
(へ)聚まる。○〔論〕「苟一矣」。
(と)應ず。○〔史〕「一二生・氣之和一」。
(ち)重なる。○〔王褒〕「薄索一沓」。
(り)著く。○〔周〕「秋合二三・材一則一」。
(ぬ)結ばる、閉づ。○〔後漢〕「光・武至二滹沱・河一無レ船、適遇二冰一、一得レ過」。
(る)答ふ。○〔左〕「既一而來奔」。
㊁あはしむ、同じくす、たぐはす、あつむ、交ふ、和ぐ、重ぬ、著く、とづ、結ぶ、あはす。○〔論〕「桓・公九二一天・下一、不レ以二兵・車一」。「夯」。
㊂配耦、對匹。○〔屈平〕「湯禹儼求レ一」。
㊃あふ場處、あひ。○〔廣韻〕「後・魏置二一・州一、蓋涪漢二一水合・流之處也」。
㊄物を盛る一種の器、はこ、盒に同じ。○〔茶經〕「羅一以二竹・節一爲レ之、或屈レ杉以漆レ之」。
㊅物の量をはかる名目、即ち龠、(勺)の十倍にて斛の千分の一。○〔西京雜記〕「曹・元・理明二算・術一、陳・廣・漢曰、吾有二二・囷米一、忘二其石・數一、子爲計レ之、元・理以二食・筯一十・餘・轉曰、東囷七・百・四・十・九・石・二・升・七・一、西囷六・百・九・十・七・石・七・斗・九・升」。
㊆當に同じ、適合の意をあらはす字、べし、べく。○〔家〕「桑・穀野・木而不レレ生レ朝」。

〔苟合〕雷同す。○〔史〕「此豈有レ意レ阿二世・俗一一・一而已哉」。
〔媮合〕前に同じ。○〔史〕「一・一取レ容」。
〔遇合〕心にかなふ。○〔史〕「力・田不レ若レ逢レ年、善仕不レ若二一・一一」。
〔好合〕(い)愛情親密なり。○〔詩〕「妻・子一・一、如レ鼓二瑟・琴一」。
(ろ)よき結婚。○〔黃爾〕「夫・子新一・一、不レ能レ思二故・家一」。
〔訢合〕よろこばしき事にあふにいふ語。○〔柳宗元〕「休・嘉一・一兮、邪・怪遁・藏」。
〔和合〕やはらぐ、むつまし。○〔漢〕「百・姓一一二于下一」。「此一・一也」。
〔配合〕つれそふ、又、つれあひ。○〔張衡〕「日與レ月
〔牉合〕兩者相あつまり始めて完全なるもの、一方と一方とあふにいふ語、多く結婚などに用ふ。○〔陸機〕「且伉・儷之一・一」。
〔野合〕(い)正當なる媒介者なくして男女心のまゝに歡慇を通ず。○〔史〕「叔・梁・紇與二顏・氏女一一・一而生二孔・子一」。
(ろ)原野にてあふ。○〔後漢〕「良・騎一・一、交レ鋒接レ矢」。
〔媾合〕あつむ、又、あつまる。○〔陸機〕「一二一同・志一以謀二王・室一」。
〔暗合〕期せずしてあふ。○〔陸機〕「必所レ擬之不レ殊、乃一二一乎曩・篇一」。
〔符合〕相互の同一にして異點なきにいふ語、わりふの如くにあふの義。○〔晉〕「若以レ道耶、道固一・一矣」。
〔勘合〕つきあはす、又、異否を考ふる義にもいふ。○〔宋〕「下一・枚・中露二來・魚一、合レ可二一・一一」。
〔瓦合〕(い)圭角を見はさずして、人に接するにいふ語。○〔禮〕「慕レ賢而容レ衆、毀レ方而一・一」。
(ろ)敗死のあつまりの義、あつまりて整齊せざるにいふ語。○〔漢〕「起二一・一之卒一、收二散・亂之兵一、不レ滿二萬・人一」。
〔烏合〕烏のあつまるが如く散じ易し。○〔後漢〕「發二突・騎一以轔二一・一之衆一」。
〔雲合〕雲の如くにあつまる義、ものゝ多くあつまるを形容するに用ふる語。○〔漢〕「天・下萬・士、一・一歸レ漢」。
〔霧合〕前に同じ。○〔盧思道〕「虎・夫萬・隊、駒・驕千・羣、並・骨勇・肉、風・駭一・一」。
〔寡合〕氣にあふとすくなし、又、朋友すくなし。○〔歸田錄〕「剛・勁一レ一」。

〔綺合〕(い)詞才の多きにいふ語。○〔江總〕「藻・思一・一、尺・牘・繡・揚」。
(ろ)うつくしき貌にいふ語。○〔北齊〕「月・松風・草、緣レ庭一・一」。
(は)事の煩雜なるにいふ語。「繁・文一・一」。
(に)位置の適當なる貌にいふ語。○〔稜納〕「禪・宮星・稠、○〔揚胄〕「周・廬一・一、靡・著星・分」。
〔百合〕ゆり。○〔陸游〕「更乞雨・叢香一・一」。
〔六合〕天、地、及び東西南北をいふ。○〔莊〕「一・一之外、聖・人存而不レ論、一・一之內、聖・人論而不レ議」。
〔夜合〕ねぶの木。○〔韋應物〕「一・一花開香滿レ庭」。
〔玉合〕珠玉にて飾りあるはこ。○〔劇談錄〕「常實二念・珠一、貯レ之以二繡・囊一・一」。
〔小合〕ちひさきはこ。○〔開天遺事〕「捉二蜘・蛛于一・一中一」。
〔細合〕かんざしを入るゝはこ。○〔太眞外傳〕「是夕授二金・釵一・一一」。
〔風雲合〕朋友相あふ、又、君臣相遇ふなどに用ふる語。○〔駱賓王〕「意・氣一・一・一」。
〔膚寸合〕〔膚合〕切れ〴〵の雲のあつまるにいふ語。○〔公羊〕「觸レ石而出、一・一而一、不レ崇レ朝而徧二雨乎天・下一」。
〔魚水合〕相互の太た親密なるにいふ語。○〔孟郊〕「但嘉一・一・一、莫レ令二風・雲乘一」。

【吴】クワ、ゲ。胡化切　禡

㊀わめく、かまびすし、又、大いなる聲。
㊁大いなる口、一說に魚の大いなる口。

【吉】キツ、キチ。居質切　質

㊀福利、善祥、凶災なきを、ことあはせ、よろこび、さいはひ。○〔書〕「身其康・彊、子・孫其逢レ一」。
㊁さいはひあり、よろこばし、めでたし、よし。○〔易〕「黃・裳元一」。
㊂朔日、ついたち。○〔周〕「正・月之一」。
〔貞吉〕節操を改めずして好運來たる。○〔易〕「需有レ孚光亨、一・一」。
〔終吉〕始めは吉ならざるもつひには吉あり。○〔易〕「小有レ言、一・一」。
〔樂吉〕災難なし。○〔晉〕「脩レ德賞レ能、可二一・一一」。

【吊】俗の弔の字。

【𠮛】キ。居理切　紙

㊀さく(說)、いふ(言)。
㊁たひらぐ、たひらか(平)。

【同】トウ、ドウ。徒東切　東

㊀彼れと此れと異ならず、一樣なり、まち〳〵ならず、ひとし、おなじ。○〔詩〕「我馬既一」。
㊁おなじくす、あはす。
(い)ひとしからしむ。○〔書〕「一二律・度量・衡一」。
(ろ)ともにす(共)。○〔周〕「一レ貨」。
㊂ともがら(輩)。○〔易〕「天與レ火一・一人」。
㊃あつまる、あつむ(聚)。○〔詩〕「萬・福所レ一」。
㊄やはらぐ、やはらか(和)、又、たひらぐ、たひらか(平)。○〔禮〕「是謂二大・一一」。
㊅音律の上にて、陰の聲をあはするもの、銅を以て管を作る。○〔周〕「六・律合二陽・律一、六・一合二陰・聲一」。
㊆古昔、周の時に天子十二年每に天下を巡狩す、若し果たす能はざるときは大いに諸侯を京師にあつめて其治績を述べしむるを、即ち諸侯の天子に會見するを。○〔周〕「時見曰レ會、殷見曰レ一」。
㊇古昔の制にて方百里の地。○〔司馬法〕「十・成爲レ終、々十爲レ一」。
㊈爵の一種、さかづき。○〔書〕「上・宗奉二一・瑁一」。
㊉通に同じ、さほる、さほり、障ふるもののなきの義。○〔莊〕「聞二廣・成・子在一於空・一之上一」。

〔會同〕あつまる。○〔書〕「四海ー・ー」。
〔混同〕あつむ。○〔左思〕「一二八方一而ー・ー」。
〔合同〕一つになる、あつまる、あつむ。○〔禮〕「流而不レ息、ー・ー而化」。
〔畢同〕ことごとく同じ。○〔莊〕「萬物ー・ー」。「動」。
〔和同〕やはらぐ。○〔禮〕「天地ー・ー、而萬物萌」。
〔玄同〕彼我の區別なきこと。○〔文中〕「無レ所レ樂、無レ所レ苦、無レ所レ喜、無レ所レ怒、萬物ー・ー」。
〔愛同〕父母に事ふるに愛情おなじきことにいふ語。○〔孝〕「資二於事一レ父、以事レ母而ー・ー」。
〔敬同〕君親につかふる敬意のおなじきことにいふ語。○〔孝〕「資二於事一レ父、以事レ君而ー・ー」。
〔雷同〕自家の見識なくてたゞ他の意見にのみ從ふこと。○〔禮〕「毋二勦說一、毋二ー・ー一」。
〔苟同〕前に同じ。○〔韓詩〕「偸合ー・ー、以持レ祿養レ交、是謂二國賊一也」。
〔注同〕前に同じ。○〔陳〕「希レ旨ー・ー」。「ー」。
〔闇同〕暗合に同じ。○〔世說〕「老莊正與二人意一ー」。
〔將無同〕はたおなじきことなからんやと讀む、即ち兩者相同じといふの反語。○〔晉〕「太尉王君見二阮千里一而問曰、老莊與二聖教一同異、阮曰、ー・ー・ーレ、太尉善二其言一、辟爲レ掾、世號爲二三語掾一」。
〔同於同〕おなじきとにつれておなじきことをなす。○〔莊〕「是蜩與二鸒鳩一ー二ー・ー一也」。
〔不同同〕人爲によらずして自然におなじくある。○〔莊〕「ーレー・ー、是爲二大同一」。

【吚】キ。馨伊切 シ。申之切 支

キ。香義切 寘

うめく、よぶ、うたふ(咿)。

【名】メイ、ミヤウ。武并切 庚

㊀な。
(い)無形となく有形となく事々物々につきて他より區別して知り易からしめんが爲めに付したる稱、即ち、實の對。○〔老〕「無ーー天地之始、有ーー萬物之母」。
(ろ)人の姓氏に對して其の通稱。○〔左〕「九月丁卯子同生、公問二ー于申繻一」。
(は)人の姓氏通稱。○〔唐〕「初試選人皆糊レー、令二學士考判一」。
(に)人倫上の稱號、即ち君臣、父子など。○〔論〕「必也正レー乎」。
(ほ)職責上の稱號、即ち、官民、文武など。○〔史〕「而主二刑ーー」。
(へ)聞聲、令譽、きこえ、ほまれ。○〔戰〕「爭レー者于レ朝」。「以爲二己ー一」。
(と)功績、いさを。○〔國〕「勤二百姓一ー」。
㊁通稱を呼ぶ、ないふ。○〔禮〕「父前子ー」。
㊂稱號を付す、なづく。○〔莊〕「視レ之不レ見、ー曰レ夷」。
㊃文字。○〔儀〕「不レ及二百ー一、書二于方一」。
㊄命令。○〔周〕「言以レ信ー」。
㊅眉と眼との閒。○〔爾〕「目上爲レー」。
㊆人を數ふるに用ふる字。○〔莊〕「丘里者合二十姓百ー一、而以爲二風俗一也」。
㊇大いなるを、勝れたるを、なの聞こえたるを、なあるを、きこえ高きを。○〔書〕「告二于皇天后土所レ過ー山大川一」。

〔成名〕名譽をなしとぐ。○〔易〕「善不レ積、不レ足二以ー・ー一」。
〔顯名〕隱れなきほまれ。○〔禮〕「身不レ失二天下之ー・ー一」。
〔揚名〕よき名をあぐ。○〔孝〕「立レ身行レ道、ー二ー于後世一」。
〔立名〕ほまれをなす。○〔史〕「閭巷之士、欲二砥レ行ー・ー一者」。
〔策名〕(い)前に同じ。○〔李陵〕「勤宣二令德一、ー二ー清時一」。
(ろ)名前をしるす、即ち朋友となる、又、臣下となる。○〔後漢〕「吾ー二ー漢室一、可レ專二二姓一哉」。
〔知名〕(い)その名を知る。○〔禮〕「男女非レ有二行媒一、不二相ー・ー一」。
(ろ)我が名を世人に知らる、ほまれあり。○〔魏〕「以二才秀一ーレー」。
〔滅名〕ほまれをなくすこと。○〔史〕「奈何畏二沒レ身之誅一、終ー賢弟之ー一」。

〔釣名〕ほまれを得んと思ふ。○〔漢〕「以二三公一爲二六被一、誠二飾詐一欲二以ーレー一」。
〔徼名〕前に同じ。○〔漢〕「不レ修二廉隅一以ー・ー于當世一者」。
〔沽名〕ほまれを賣る。○〔漢〕「硜々有レ類二ーレー一」。
〔采名〕前に同じ。○〔漢〕「幸二誅不レ加、欲二以ーレー一」。
〔干名〕前に同じ。○〔漢〕「矯作二威福一以從二民望一、ーレー采レ譽」。
〔盜名〕その實のなき名、又、用なきほまれ。○〔魏〕「養二ー・ー一而無二實用一」。
〔威名〕威光の強き評判、(畏敬の意)。○〔唐〕「江淮草木亦知二爾ー・ー一」。
〔盛名〕立派なるほまれ。○〔漢〕「ー・ー之下、其實難レ副」。
〔逃名〕ほまれあることをさく。○〔漢〕「ー・ー而名我隨」。
〔高名〕たかきほまれ。○〔後漢〕「少有二ー・ー一、與二光武一同遊學」。
〔才名〕天才あるとの評判、敏捷なりとのほまれ、又、詞才すぐれしなどのきこえ。○〔杜甫〕「ー・ー四十年、坐客寒無レ氈」。
〔浮名〕その實にすぎたる評判。○〔陸龜蒙〕「最無二根帶一是ー・ー」。
〔光名〕よきほまれ。〔汙名〕けがれし名、わるき評判。○〔晉〕「四鄰賓客入者悦、出者譽、光名滿二天下一、入者不レ悦、出者不レ譽、汙名滿二天下一」。
〔傳名〕その名を人に知らす、又、評判あり。○〔林子山〕「當年森榜首ーレー」。
〔嫌名〕君王若しくは父母などの名と相似たる事物の稱號。○〔禮〕「不レ諱二ー・ー一」。
〔諱名〕君王若しくは父などの名と同一なる名字を使用するを忌みきらふ。○〔孟〕「ーレー不レ諱レ姓」。
〔休名〕うるはしき評判。〔烈名〕いさましき評判。○〔人物志〕「骨直氣淸、則休名生焉、氣淸力勁、則烈名生焉」。
〔功名〕いさをとほまれと。○〔戰〕「成二ー・ー于天下一」。
〔務名〕ほまれを取るに力をそゝぐ。○〔戰〕「好用レ兵而甚ーレー」。
〔指名〕なざしをなす。○〔史〕「非二世所一ー・ー一也」。
〔假名〕眞實の名にあらず、又、他の名義をかる。○〔後漢〕「卜者王郎ーレー」。
〔賣名〕ほまれを求む。○〔李白〕「洗レ心得二眞情一、洗レ耳徒ーレー」。
〔託名〕己れの名を先方に付託する義、即ち先方の人の幕下となるにいふ語。○〔後漢〕「非レ眇無レ足二以ーレー一」。
〔華名〕よきほまれ。○〔後漢〕「釣二采ー・ー一、庶二幾三公之位一」。

〔佯名〕ほまれをひとしくす。○〔後漢〕「比レ隆ー・ー、早二晏相一」。
〔梟名〕驍勇なりとの評、又、姦雄なりとのうはさ。○〔後漢〕「劉備有二ー・ー一」。
〔標名〕名をしるす。○〔後漢〕「ーレー爲レ證」。
〔重名〕人望あること。○〔後漢〕「孔文舉有二ー・ー一」。
〔清名〕廉潔なりとのうはさ。○〔晉〕「少有二ー・ー一天下一」。
〔著名〕名をあらはす、評判となる。○〔晉〕「以二清談一ー二ー于時一」。
〔播名〕ほまれをひろぐ。○〔楚辭〕「尚欲レー二ー乎」。
〔仰名〕名を付く、(かしこみていふ意)。○〔魏〕「自與二羲農一齊レ烈、臣豈能ーレー」。
〔署名〕己れの名前を書きつく。○〔唐〕「陛惟ーレー」。
〔匿名〕名を記さず、又、明記せず。○〔舊唐〕「遣二ー・ー一書于前一」。
〔藏名〕(い)己れの名をかくして人の尊稱する場處に入れ置くをいふ語。○〔唐〕「ー二ー于太廟一」。
(ろ)名をあらはさず。○〔李白〕「酒肆ーレー三十春」。
〔通名〕人に會見するに己れの名を其の人にまで届かすこと、又、名刺をさし出す。○〔唐〕「ーレー謁二主司一第二謁」。
〔損名〕ほまれあしくなる。○〔唐〕「糾刺少レ恕、由レ是ーレー」。
〔御名〕君王の名。○〔宋〕「有下犯二ー・ー一者上、帝曰、豈以二朕名一妨二人進取一耶」。
〔竊名〕その實なくしてそのほまれあること。○〔顏氏家訓〕「下士ーレー」。
〔空名〕稱號のみにてその實なきこと。○〔新書〕「雖二ー・ー一弗レ使レ踰焉」。
〔嘉名〕よきほまれ。○〔說苑〕「鴻永路有二ー・ー一」。
〔餓名〕ほまれを求むるの切なるにいふ語。○〔道德指歸論〕「ーレー渦レ勢」。
〔馳名〕ほまれをあぐ。○〔華陽國志〕「ー二ー當世一」。
〔啖名〕ほまれを求むるを事とするにいふ語。○〔世說〕「簡文在二殿上一行、王右軍與二孫興公一在レ後、右軍指二簡文一語レ孫曰、此ーレー客」。
〔晦名〕隱遁して名をくらます。○〔錄異記〕「草服素冠、ーレー匿レ位」。
〔身後名〕己れ死にし後までもほまれあること。○〔晉〕「使二我有二ー・ー・ー一、不レ如二即時一杯酒一」。
〔千古名〕死後いつまでも存在するほまれ。○〔李白〕「豈傳ー・ー・ー」。

【名】メイ、ミヤウ。莫經切 青

銘に同じ、しるす、(記)。○〔禮〕「銘者自―也」。

【名】　メイ、ミヤウ。彌正切　敬

諾に同じ、なづく。

【后】　コウ、胡口切　有　グ。切　胡遘切　宥　〔說文〕从厂、从一口。

㊀のち、おくる、(後)。○〔禮〕「再拜稽首而―對」。

㊁きみ。
(い)君主の位置を承けつぐ者、繼體の君。○〔書〕「徯二予―一」。
(ろ)君主の諸侯を呼ぶに用ふる敬稱。○〔書〕「班二瑞于羣―一」。
(は)君主の其の臣を呼ぶに用ふる敬稱。○〔書〕「汝―稷播二時百穀一」。
(に)土地は羣物の主たるより土を司る神の尊稱。○〔書〕「告二于皇天―土一」。

㊂君主の正配の稱、天子よりおくろゝものにて、又、其の後胤を廣くする義といふ、殷以前には之を妃といひ周に至りて王后といひ秦漢以後にては皇后といへり、ひめ、きさき。○〔禮〕「天子有レ―」。

〔元后〕　天子のこと。○〔書〕「衆非二―何戴一」。
〔天后〕　前に同じ。○〔宋〕「諸侯執レ帛、―當レ陽」。
〔東后〕　諸侯のこと。○〔書〕「肆覲二東―一」。　「制」。
〔女后〕　皇后に同じ。○〔宋〕「宜レ使二―相繼稱一」
〔聘后〕　結婚の式を擧ぐるに聘物を用ふるの義より或る女を妃となすにいふ語。○〔國〕「―二于蔡姫一」。
〔納后〕　臣下の女をきさきとなすにいふ語。○〔後漢〕「光武納二王郎、至二眞定一因―レ―」。
〔皇太后〕　天子の嫡母。
〔太皇太后〕　天子の嫡祖母。

【吏】　リ。力地切　寘

㊀つかさ。
(い)人を統ぶるの任に膺たれる者。○〔孟〕「無レ敵二于天下一者天―也」。
(ろ)官府の長。○〔禮〕「五官之長曰レ伯、是職レ方、其擯二于天子一也、曰二天子之―一」。
(は)官府に屬して官府の事を執る者。○〔周〕「廢置以馭二其―一」。

㊁人を統御す、をさむ、(理)。○〔史〕「―治刻深」。

〔小吏〕　地位極めて低きつかさ。○〔史〕「年少時爲二郡小―一」。
〔三吏〕　三公に同じ。○〔左〕「王使レ委二于三―一」。
〔五吏〕　文書のみを司る者。○〔唐〕「闕召二―、執レ筆各二占其辭一」。
〔汚吏〕　邪曲の事をなすつかさ。○〔孟〕「暴君―、必慢二其經界一」。
〔委吏〕　政府の米廩を掌る役人。○〔孟〕「孔子嘗爲二委―矣、曰、會計當而已矣」。
〔獄吏〕　罪囚をつかさどる者。○〔史〕「以二千金一與二獄―一」。　「獄曹」。
〔豪吏〕　勢力いさましき役人。○〔史〕「少年豪―如二」
〔姦吏〕　法を枉げて私慾の事をなす役人。○〔史〕「脩二法律一而督二姦―一」。
〔漆吏〕　〔漆園吏〕　莊周のこと。○〔史〕「周嘗爲二漆園―一」。
〔佐吏〕　部下の官吏。○〔晉〕「大會二佐―一」。
〔循吏〕　謹みて規則を守り執務に勉強する官吏。○〔史〕「奉レ法循レ理之―、不レ伐二功矜一レ能、百姓無レ稱亦無レ過」。
〔酷吏〕　苛酷なる刑罰を以て下民を御する官吏。○〔魏〕「酷―爲レ禍、綿古同レ患」。
〔文吏〕　(い)古昔、主に法を司りし官吏。○〔漢〕「疾二朋黨一、文―、必於二儒者一、偕二儒者一必於二文―一、以相參檢」。　「恐二事下一就」。
(ろ)武官外の官吏。
〔俗吏〕　氣節なく見識なく、又、伎能なき官吏を罵るにいふ語。○〔漢〕「蕭曹等皆俗―、自安二筆匡篋一、而不レ知二大體一」。○〔漢〕「俗―之所レ能爲者、在二于刀筆一」。
〔廏吏〕　官府の飼馬の事を掌る官吏。○漢「長安廏―乘二駟馬車一、來迎二頁臣一」。
〔贓吏〕　官物を私費し、又は他の賄賂を受けて法を曲げしなどの官吏。○〔朱熹〕「痛二懲贓―一者、紬二民之要道也」。
〔什吏〕　十人の長。○〔左〕「使下其什―率二其卒一乘二官屬一以從上于下上」。　「―一」。
〔苛吏〕　人情を知らぬむごき官吏。○〔漢〕「願二擇乎苛―」
〔良吏〕　其の任に適當せる者。○〔漢〕「雖レ有二材力一、不レ得二良―一、猶亡レ功也」。
〔世吏〕　父子相繼ぎて、或る官となるの資格あること。○〔漢〕「好用二世―子孫新進年少者一」。「―也」。
〔能吏〕　はたらきある官吏。○漢「其治有レ跡亦能―」
〔候吏〕　斥候をつとむる官人。○〔後漢〕「候―還曰、河水流澌、無レ船不レ可レ濟」。　「之」。
〔閽吏〕　門番、又、玄關番。○〔芝田錄〕「閽―拒」
〔餽吏〕　性をいふ。○〔雲笈七籤〕「性者餽―之―也」。
〔司牧吏〕　牧畜を司る官吏。○〔史〕「嘗爲二司牧―一而畜蕃息」。
〔文法吏〕　法規に精通せる吏。○〔漢〕「宣帝所レ用多二文法―一、以二刑名一繩レ下」。
〔黃綬吏〕　黃色の綬を帶ぶる官吏、卽ち地位卑き者。○〔漢〕「公卿以下至二郡縣黃綬―一、皆保二養軍馬一」。
〔刀筆吏〕　古昔は字を簡牘に彫せしをもて字をかするには刀と筆とを要せしよりたゞ字を書くのみの瑣細なる事務を執る小官吏をいふ語。○史「蕭相國何于二秦時一爲二刀筆―一、錄々未レ有二奇節一」。
〔朱衣吏〕　鄕導をなす官吏。○〔唐〕「得二朱衣―一前導」。
〔石壕吏〕　杜甫の詩より收斂又は人情乏しき官吏をいふ語。○〔杜甫〕「暮投二石壕―村、有レ―夜捉レ人」。

【吏】　シ。神至切　寘

㊀つかふ、うく、うけたまはる、(奉)。
㊁まつりごと、つとめ、(職事)。
㊂つかる、いたはる、(勞)。

【吐】　ト、統五切　麌　ツ。切　土故切　遇

㊀はく。
(い)口より出だす。○〔詩〕「柔則茹レ之、剛則―レ之」。
(ろ)出だす、寫ぐ、舒ぶ。○〔漢〕「發二明詔一、―二德音一」。

㊁はきいだせしもの。○〔魏〕「掬レ―盡レ歠レ之」。

〔神吐〕　神靈の非義をなす人の祭享を受けざるにいふ語。○〔左〕「若晉取レ虞而明レ德、以薦二馨香一、神―レ之乎」。
〔三吐〕　周公の故事より高位にある者の人に接見するに倦まざるにいふ語。○史「周公戒二伯禽一曰、我於二天下一亦不レ賤矣、然我一沐三捉レ髪、一飯三―レ哺、起以待レ士、猶恐レ失二天下之賢一」。
〔吾吐〕　ものいふ聲。○〔元〕「氣宇端亦、―洪亮」。
〔辭吐〕　(い)ことばづかひ。○〔北〕「辭―傲然」。
(ろ)議論すること。○〔唐〕「一旦消讓而辭―不レ屈、奇士哉」。
〔宣吐〕　書物の讀み方。○〔晉〕「借二善宣―一」。
〔占吐〕　くちずさび。○〔南〕「美二風儀一善二占―一」。
〔談吐〕　談話すること。○〔南〕「美二風儀一能二談―一」。
〔柔不茹剛不吐〕　己れより賤しきもの弱きものなりとて之を侮らず、又、己れより貴きもの强きものなりとて之を畏れざるにいふ語。○〔詩〕「維仲山甫、柔亦不レ茹、剛亦不レ吐」。

【向】　キヤウ、許亮切　漾　カウ。〔說文〕从レ宀、从レ口

鄕、又は嚮に作るをあり。

㊀むかふ、むく。
(い)面す、對す。○〔戰〕「西―事レ秦」。
(ろ)趣く。○〔後漢〕「師之攸レ―、無レ不二披靡一」。
(は)傾く。○〔冊府元龜〕「溫藉風流爲二時稱―一」。　「興」。
(に)近づく。○〔抱朴〕「天下―二平中一」。

㊁むかはしむ、むく。○〔南〕「使下引二―三公榻一坐上」。

㊂むかふを、むかふ所、むき、むかひ。○〔柳宗元〕「進不レ知レ―、退不レ知レ守」。

㊃昔に同じ、今より前の時、むかし、さき。○〔莊〕「若二―也俯、而今也仰一」。

㊄牖に同じ、まど。○〔詩〕「塞レ―墐レ戶」。

〔背向〕　敵となると、味方となると。○〔漢〕「離合背―、變化無レ常」。
〔嚮向〕　なづく。○〔唐〕「人心嚮―」。
〔希向〕　ねがひのぞむ。○〔刑部〕「大教還流、行二乎中土一、中土之士、炯踊涉闡」。

（意向）　心のむかふところ。○（南）「要是——ト如レ此」。　「不ニ——ニ」。
（化向）　德に懷くこと。○（後漢）「自ニ日之所ロ入、莫レ
（回向）　己れの功德をめぐらして他に向かはしむること、誦經稱佛の功德によりて亡者の冥福を祈ること、又、功德を施して趣向するとにいふ語。○（大藏法數）「三業所レ修一切諸善、乃至懺悔勸請、種々功德、回ニ施法界一切衆生一、同證ニ菩提一、是名ニ——ニ」。
（一向）（い）其れにのみ、ひたすら。○（韓偓）「擁レ鼻「悲吟——愁」。
（ろ）一たびむく。○（李白）「——ニ黃河一飛」。
（葵藿向）　ひまはり草の太陽の光に向かひて花を開くより德を慕ふとに借りいふ語。○（曹植）「——之傾葉、太陽雖レ不レ回レ光、然——レ之者誠也」。

【吒】　タ。陟嫁切　禡　知加切　麻
㊀ゝかる、いかる、ゝたうちす、叱のやゝゝづかなるもの。○（禮）「毋ニ——一食ニ」。
㊁痛く惜む、なげく。

【吒】　タク。陟格切　陌
あざける（嘲）。

【⿰口丂】　呼の本字。

【⿱下口】　アウ。烏郎切　陽　—本映に作る。
應答の聲（同龔、又は下位のものに對して）。

【⿰口亡】　バウ、マウ。莫浪切　漾
問ひて答へず。

四畫

【吘】　ゴウ、グ。五苟切　有
㊀よぶ（呼）。㊁やはらぐ（和）。

【⿰口兮】　エイ、アイ。烏弟切　薺
よし、ゆるす（可）。

【吙】　クワ。呼肥切　歌
よぶ、ふく（呼）、いき（呼氣）。

【吚】　イ。於宜切　支
なげく、うめく（呻）。

【君】　クン、コン。擧云切　文
㊀きみ。
（い）天子、主上、國民の元首。○（書）「爲ニ天下之—一ニ」。
（ろ）諸侯、公卿、大夫、封土を有する者。○（國）「事レ—者」。
（は）主宰者、つかさ。○（老）「事有ニ—ニ」。「—レ之」。—王ニ。
（に）主人、あるじ。○（國）「三世仕レ家—ニ」。
（ほ）夏人、をっと。○（禮）「—已食」。
（へ）夫人、おくがた。○（詩）「我以爲レ—」。
（と）父母又は祖先の稱。○（孔安國）「先—孔子生ニ乎周末ニ」。
（ち）總べて人の敬稱に用ふる字。○（史）「舍人曰、臣非レ知レ—、知レ—」。「—ニ乃蘇—」。
（り）封號にも用ふ。○（史）「號爲ニ商—ニ」。
（ぬ）鬼神の尊稱。○（史）「湘—何神」。
㊁成德あるを。○（易）「—子豹變」。
㊂祿位あるを。○（禮）「古之—子」。
（小君）　諸侯のおくがた。○（穀梁）「——非レ君也、以ニ其爲ニ公配一、可ニ以稱ニ君也」。
（東君）　日の神。○（魏武帝）「見ニ西王母一、謁ニ——ニ」。
（細君）　他人に對して自己の妻の稱。○（漢）「歸遺ニ——」、又何仁也」。
（使君）　節を持ち出でて使ひする者。○（後漢）「——建レ節、銜レ命以臨ニ四方ニ」。
（徵君）　めされたる隱士の稱。○（後漢）「暫到ニ京師ニ而還、竟無レ所レ就、天下號曰ニ——ニ」。
（聘君）　前に同じ。○（南）「徵召不レ起、號曰ニ——」。「—ニ」。
（此君）　王徽之の言より竹の異名となる。○（晉）「嘗寄ニ居空宅中一、便令レ種レ竹、或問ニ其故一、但嘯詠指レ竹曰、何可ニ一日無ニ——邪」。
（夫君）　夏人の敬稱。○（朱昱）「獨有レ思ニ——ニ」。
（郎君）　年若き男子の敬稱、若主人、多くは仕官する人に用ふ。○（摭言）「値ニ新進士前導一、曰回ニ避新——ニ」。
（嚴君）　父の敬稱。○（易）「家人有ニ——ニ」。
（國君）　きみ。○（禮）「士見ニ于——ニ」。
（寡君）　他邦の人に向かひて己れの事ふる君の稱に用ふる語。○（左）「——聞レ命矣」。
（儲君）　世嗣ぎの君。○（公）「——副主不レ可下以ニ諸侯一會上レ之」。
（家君）　きみのこと。○（晉）「——觀ニ政于商ニ」。
（少君）（い）小君に同じ。○（左）「從レ我而朝ニ——ニ」。
（ろ）仙人。○（李益）「秦祠謁ニ——ニ」。
（府君）（い）年長者の尊稱。○（吳歷）「策謂レ歆曰、——年德名望、遠近所レ歸」。
（ろ）山の神、轉じて妻の父、ふうと。○（搜神記）「胡母班嘗至ニ泰山側一、爲ニ泰山——所レ召、令レ致ニ書於女婿河伯ニ」。
（良君）　よき君。○（左）「——將ニ賞レ善而刑ニ淫」。
（聖君）　聖德ある主君。○（舊唐）「但遇ニ——」。「——」。　御出見」。
（盛君）　さかんなる德ある君主。○（晏子）「天下之——ニ」。
（麴君）　酒の異名。○（陳師道）「風味如ニ——ニ」。
（不忘君）　忠義の心あつきをにいふ語、きみが身をわすれず。○（左）「戊之爲レ人也、遠不レ—レ—、近不レ偪レ同」。
（堯舜君）　德の盛んなると、昔の聖王、堯と舜との如くなる君王、（敬稱に用ふる多し）。○（孟）「使ニ是君爲ニ——之—ニ」。
（寡小君）　諸侯のおくがた、其の臣下の者より他に對しての稱。○論）「稱ニ諸異邦一曰ニ——ニ」。
（繼體君）　世つぎの主君。○（匡衡）「——之—、心存下於承ニ宣先王之德一、而褒中大功上」。

【吝】　リン。良刃切　震　｜俗に悋、又惜に作る。
㊀をしむ。
（い）爲しゝをを恨む、くやむ。○（易）「君子幾不レ如レ舍、往—」。
（ろ）爲すをを難んず、やぶさか。○（書）「改レ過不レ—」。
（は）過度に貪る、貪りて與へず、失はんをを恐る、與ふるを難んず、やぶさか。○（論）「驕且—」。
㊁をしむをはなはだし、やぶさかなり、ゝはし、いやし。○（後漢）「鄙—之萌、復存ニ乎心ニ」。　「由成」。
（慳吝）　やぶさか。○（原化記）「——未レ除、術何」。
（惜吝）　をしむ。○（史）「輕去レ之、非レ所ニ——ニ」。
（鄙吝）　いやしき心根。○（後漢）「去ニ——ニ將ニ以道周性全ニ」。「歛」。
（儉吝）　物ををしみをするを。○（晉）「性——而好取」。
（吝吝）　わざはひ。○（後漢）「庶無ニ——ニ」。
（慊吝）　ををしむ。○（世說）「略無ニ——ニ」。
（前吝）　先の恥。○（後漢）「用ニ後勳ニ雪ニ——ニ」。

【呑】　トン。吐根切　元　テン。他年切　先
のむ（吐の反）。
（い）口に入る、咽に下す。○（司馬相如）「—ニ若雲夢一八九ニ」。
（ろ）合はせて己れの有とす、あはす、ほろぼす。○（戰）「陰謀有下—ニ天下ニ之心上」。　「際ニ」。
（は）包む、藏む。○（吳師道）「江—ニ天ニ」。
（に）容易なりとなす、輕んず。○（五）「—ニ」「心ニ」。「廻當ニ以レ氣—上レ之」。
（兼呑）　あはす。○（孔叢子）「秦有ニ—ニ天下ニ之」。
（並呑）　あはす。○（過秦論）「—ニ—八荒ニ之心」。
（噬呑）　かみくらふ。○（柳宗元）「蜂蠆爭ニ——」。
（咀呑）　くらふ。○（韓愈）「——而汗駭」。
（鯨呑）　くぢらの如くにのむ、のむ勢のさかんなるさまにも、おそろしきさまにも用ふる語。○（舊唐）「大則——虎據」。
（狼呑）　前に同じ、又、小さきものをすてゝ大いなるものを取るにいふ語。○（鹽鐵論）「辭レ小取レ大、雞脈——」。「諸公—亦—」。
（聲呑）　聲を立てずに泣く。○（秦觀）「天子色爲動、

【吟】　ギン、ゴン。魚音切　侵
㊀憂ひて大息す、痛みて呻聲す、うめ

く、うなる、なげく、ためいきをつく、うめき、ためいき、なげき。○〔山海經〕「其聲如レ|」。
㊁うたふ。
(い)詩歌に述ぶ。○〔詩、大序〕「|二咏性-情一」。
(ろ)詩歌を唱ふ。○〔莊〕「倚レ樹而|、據二槁-梧一而瞑」。
(は)言ひ傳ふ。○〔荀〕「盜-跖|レ口」。
㊂うたふを、うたふ詞章、うた。○〔後漢〕「聽二庶-民之謠-|一」。
㊃なく、(鳴)、さけぶ、(叫)、うそぶく、(嘯)。○〔李白〕「笛奏龍|レ水」。
〔微吟〕聲を低めてうたふ。○〔後漢〕「雍-門-子壹-|-|、孟-嘗-君爲之於邑」。「語」。
〔沈吟〕(い)操り返しうたふ。○〔李白〕「|・|黄-絹
(ろ)思ひ入ること、考ふること。○〔後漢〕「晝-夜研-精、|・|專レ思」。「|・|有レ辭」。
〔苦吟〕骨折りて詞歌をつくること。○〔齊東野語〕
〔吳吟〕故鄕を思ふことに借りいふ語。○〔戰〕「陳軫曰、王獨不レ聞二吳人游レ楚者一乎、楚-王甚愛レ之、病、故使二人問一レ之曰、誠病乎、意亦思乎、左右曰、誠思則將二|・|一、今軫將レ爲レ王|・|一」。「漢」。
〔謳吟〕德などを稱ひてうたふこと。○〔漢〕「|・|思レ
〔嘩吟〕多人數のもの、調子を揃へて大聲をなす。
○〔吳越春秋〕「三-軍|・|、以振二其旅一」。
〔默吟〕聲を發せずして詞歌を讀む。○〔孟郊〕「|・|寫綿-々」。

【吟】ギン、ゴン。牛錦切 寢
うめく。○〔揚雄〕「蔡-澤以噤-|而笑二唐-擧一」。

【吟】ギン、ゴン。宜禁切 沁
㊀うたふ。○〔韓愈〕「白-鶴叫相-|」。
㊁うめく。○〔史〕「雖レ有二舜禹之智一、|而不レ言」。

【吠】ハイ、バイ。扶廢切 隊
犬鳴く、ほゆ、又、犬の鳴く聲。○〔詩〕「無レ使二尨也|一」。
〔狗吠〕(い)狗のほゆるは人家多き處なるゆゑ人家多きことに用ふる語。○〔孟〕「雞-鳴|・|之聲相聞」。
(ろ)狗は己れの主より外の人は怪しみてほゆるより人の主に報ゆることにいふ語。○〔史〕「跖之狗|レ堯、々非二不-仁一、|固|レ非二其主一」。
(は)狗は怪しき者をほゆるより世平かならずして夜中に怪しき者の行き通ふことなどにいふ語。○〔史〕「今中-國無二|・|之驚一」。
〔搏吠〕人を陷らしむる爲めに其の人を惡口すること。○〔唐〕「|二・|所レ憎」。
〔守吠〕狗の家を守るより守護することに借り用ふる語。○〔唐〕「世-々爲二國一-犬一|二・|天-子北-門一」。
〔鳴吠〕(い)なきほゆ。○〔陶潛〕「雞-犬互|・|」。
(ろ)僅かばかりの技能に借りいふ語。○〔柳宗元〕「|・|之能、猶希二效-用一」。
〔取吠〕己れの意見を主張するものを採用することに借りいふ語。○〔北〕「狗本|二其|一、今以二數吠一殺レ之、恐將-來無二復吠一」。

【㕫】ハウ。撫兩切 養
聞くが如し、ほのか。

【吘】ホウ、フ。普溝切 尤
すふ、(吸)。

【否】ヒウ、フ。俯九切 有
㊀可とせず、いなむ。○〔左〕「或欲或|」。
㊁然なさず、然かせず。○〔詩〕「害|」。
㊂然あらず、然からず。○〔書〕「|則威レ之」。
㊃然あらざるか、然からざるか、いなか。○〔詩〕「嘗二其旨|一」。

【否】ヒ、ビ。符鄙切 紙
㊀善からず、清からず、通ぜず、あし、けがる、ふさがる。○〔詩〕「未レ知二臧-|一」。
「○〔易〕「利レ出レ|」。
㊁あしき事、けがれし物、ふさがる所。
㊂易の卦☷☰坤下乾上○〔史〕「得二觀之レ|」。
〔可否〕よし、あし、又、許すべきか許すべからざるか。○〔左〕「諫二|・|一、而告二澤-簡-子一」。
〔然否〕其の如くにてあると其の如くにてあらざると、又、あやまりならざるかあやまりたるか。○〔史〕「世莫レ知二其|・|一」。
〔他否〕常とかはりしこと、恙なきにいふ語。○〔後漢〕「伯-春無二|・|一、覺不レ能レ言」。
〔顯否〕出世の出來ると出來ぬこと。○〔後漢〕「榮-辱之本、而|・|之基也」。
〔黜否〕小人、又、愚者などを去りぞくること。○〔晉〕「舜レ賢|レ|、則不-仁者遠」。
〔校否〕失策を取り調ぶること。○〔魏〕「考レ功|レ|」。
〔安否〕やすきかおからざるかとのこと、即ち其の人の狀況、やうす。○〔讀〕「今-日|・|何如」。
〔旨否〕味のよしあし。○〔詩〕「嘗二其|・|一」。
〔民否〕人民が官府の政令などを理にたがひたりとなすこと。○〔書〕「|・|則其心違-怨」。
〔姸否〕容色のよしあし。○〔白居易〕「婦-人無二他材一、榮-枯繋二|・|一」。
〔工否〕下手と上手と。○〔後漢〕「何|・|之殊乎」。
〔獻否〕〔去否〕臣下の其の君主を善に導くことにいふ語。○〔左〕「晏-子對レ公曰、君所レ謂可而|・|焉、臣獻二其否一、以成二其可一、君所レ謂否而有レ可焉、臣獻二其可一以去二其否一」。「之」。
〔若否〕よしあし。○〔詩〕「邦國|・|、仲-山甫明レ
〔休否〕前に同じ。○〔易〕「九・五|・|、大・人吉」。
〔淪否〕運命あし。○〔李益〕「舂-心久|・|」。
〔傾否〕前に同じ。○〔易〕「上・九|・|、先否後喜」。
〔出否〕けがれしもの、又、あしきものを外にいたすこと。○〔易〕「鼎顚レ趾、利レ|レ|」。
〔通否〕運命のひらくとひらけざるとのこと、即ち官位の陟ると黜けらるゝとのことなどに用ふる語。○〔晉〕「總二陟黜朝一、|・|任レ時」。
〔困否〕運命わろし。○〔風俗通〕「時有二|・|一」。
〔屯否〕前に同じ。○〔梁元帝〕「頃歲|・|」。
〔道泰身否〕行ふところ正しきも立身の出來ぬこと。○〔李商隱〕「時享命屯、|・|・|」。

【吧】ハ、ヘ。披巴切 麻
|・|呀は、小兒の忿爭するにいふ語、口の大いなる貌にいふ語。

【吨】トン、ドン。徒渾切 元　他衰切 阮
㊀了からず、言語明かならず。
㊁意氣合ひ難し。

【吡】ヒツ、ピチ。毘必切 質
鳥の聲にいふ字。

【吡】ヒ。匹婢切 紙
そしる、(訾)。○〔列〕「|二其所レ不レ爲者一」。

【唇】クワツ、クワチ。古活切 曷
クワツ、ゲチ。下刮切 黠
口を塞ぐ、又、塞ぐ。

【吰】コウ、沽紅切 東　ショウ、諸容切 冬
ク。　シュ。
口衆し、かまびすし。

【吪】クワ、グワ。吾禾切 歌
㊀うごく、(動)。○〔詩〕「尙寐無レ|」。
㊁かはる、(化)、又あやまる、(謬)。○〔詩〕「周-公東-征、四-國是|」。

【吪】クワ、ゲ。乎瓜切 麻
口を開く。

【㕦】古文の化の字。○〔揚雄〕「陰-陽啓-|」。

【含】カン、ゴン。胡男切 覃
㊀ふくむ。
(い)口に入る、口に持つ。○〔莊〕「|レ哺而熙」。
(ろ)つゝむ、(包)、いる、(容)。○〔易〕「|二萬-物一」。
(は)いだく、(懷)。○〔國〕「|レ怒日久」。
(に)忍のぶ、(忍)。○〔左〕「國-君|レ垢」、

（ほ）中に有して未だ外に申びす。○〔江淹〕「臨レ風默一レ情」。
㊁茂り盛んなる貌にいふ字、さかんなり、ゑげし。○〔後漢〕「惟季-春兮華阜、麥一一兮方秀」。
〔緒含〕蓄記してあることにいふ語。○〔後漢〕「一ニ一六-籍一」。
〔包含〕ふくむ。○〔傳燈錄〕「問如何是海、曰、一ニ一萬-物一」。
〔容含〕ふくむ。○〔南〕「山-海一一」。「洞-清二」。
〔內含〕うちにふくむこと。○〔南〕「一一ニ玉-潤一、外表ニ」
〔通含〕事情に明瞭なること。○〔蔡邕〕「知レ幾-達レ要一一紬-契」。「以一一」。
〔廻含〕取り卷きてあること。○〔劉恭伯〕「県-廠四-注」
〔鶏舌含〕小ざかしく辯論せしを廢止することにいふ語。○〔顧瑛〕「一一他-年自可レ一」。

【含】 カン、ゴン。胡紺切 〔勘〕
古昔支那にて死者の口中にふくましめたる玉、一說に喪に贈る珠玉の類、琀、又は唅に同じ。○〔春秋〕「王使ニ榮-叔歸レ一一」。

【启】 テツ、テチ。陟列切 〔屑〕
ふさぐ、(塞)。

【听】 ギ。魚其切 〔支〕
口を開く貌にいふ字。

【听】 ギン、ゴン。擬引切 〔軫〕
㊀笑ふ貌にいふ字、わらふ。
㊁口の大いなる貌にいふ字。

【听】 ギン、疑巾切 〔眞〕 ゴン。疑斤切 〔文〕

【听】 ギツ、魚乙切 〔質〕 ギチ。
前條の㊁に同じ。

【听】 ギ、ゲ。魚衣切 〔微〕

沓に同じ、媿づる貌にいふ字、はづ。

【吭】 カウ、胡郎切 〔陽〕 ガウ。下浪切 〔漾〕
口の奧より胸部に至る迄の呼吸飲食の通路、のんど、のど、轉じて物事の要處の義に借りいふ字。○〔左思〕「弄ニ一清-渠一」。
〔搤吭〕肢體の要部たるのんどをしめつくとの義にて要害の地に據りて敵を制することに借り用ふる語。○〔史〕「今陛下入レ關而都、案ニ秦之故-地一、此亦一ニ天下之一一、而拊ニ其背一也」。
〔絕吭〕のんどをたちきること、卽ち生命を捨つることにいふ語。○〔後漢〕「投レ死一レ一而不レ悔」。
〔引吭〕くびをさしのぶること。○〔宋〕「蒼-鶴一レ一向ニ洪-進一、洪-進視レ之、有レ魚陾ニ其喉一」。
〔伸吭〕前に同じ、物事を待つさまにいふ語。○〔柳宗元〕「仰レ首一レ一張レ目而視曰、庶幾有ニ當レ路而垂レ仁者一耶」。
〔呀吭〕鳥の鳴くこと。○〔王勃〕「翠-飛當一レ一」。
〔喉吭〕のんど、出入口の義にかり用ふる語。○〔沈周〕「金-焦業-蔽當ニ一一一」。
〔斧其吭〕他の人ののんどに斧を打ち込むとの義、卽ち人の生命をたつこと ○〔韓愈〕「郭爲ニ不-順一、往一ニ一一」。
〔扼龍吭〕龍ののんどをしめつくることにて危險を冒すことに借りいふ語。○〔柳宗元〕「一ニ一一一拔ニ鯨-鬣一」

【吭】 カウ。口朗切 〔養〕
㊀こゑ、(聲)。㊁前條に同じ。

【吅】 ヒツ、ヒチ。僻吉切 〔質〕
唾をはく貌にいふ字。

【吮】 セン、粗兗切 ゼン。エン。以轉切 〔銑〕
すふ、(軟)。○〔史〕ニ「卒有ニ病レ疽者一、起爲一レ之」。

【吮】 シュン、食允切 〔軫〕 ジュン。セン、豎兗切 ゼン。〔銑〕

れぶる、(舐)。

【启】 ケイ、康禮切 〔薺〕 カイ。〔說文〕从レ戶从レ口。
本啓に作る、ひらく、(開)。○〔爾〕「明-星謂ニ之一-明一」。

【呅】 アウ、エウ。於交切 〔肴〕
㊀みだりがはしきこゑ、(婬-聲)。
㊁犬のあつまりなく聲にいふ字。

【吰】 クワウ、ワウ。胡觥切 〔庚〕
鐘の聲にいふ字。

【㕮】 フ、ホ。匪父切 〔麌〕
咀嚼す、含味す、商量斟酌す、かみさく、かみわく、あぢはふ、はかる。○〔方書〕「藥之粗-齊爲ニ一一咀一」。

【吱】 シ。章移切 〔支〕
こゑ、(聲)。

【岐】 キ。去智切 〔寘〕
行きてあへぐ貌にいふ字。

【呈】 テイ、直貞切 〔庚〕 ヂヤウ。〔說文〕从レ口壬聲。
㊀とく、(解)。○〔抱朴子〕「吳-王閑-居、赤-雀銜レ書、不レ知ニ其義一、使レ問ニ仲-尼一曰、故遠沓一一」。
㊁しめす、(示)、あらはす(見)。○〔盧思道〕「外一ニ厚-貌一」。「畤、衆-態畢一一」。
㊂あらはる、(露)。○〔董傳策〕「玉-立劍-衡-石一量レ書、日-夜有レ一、不レ中レ一不レ得ニ休-息一」。
㊃程に通じ用ふ、ほど。○〔史〕ニ「至下以ニ
〔肆呈〕十分にあらはす。○〔謝靈運〕「一一一窺-窕容」。「之餘一」。
〔擢呈〕よろこびのあること。○〔胡翰〕「一一朝曼
〔進呈〕人に物を獻ず。○〔宋〕「先以ニ所-業ニ一一一」。
〔的爾呈〕必ずその物事の到來するに借りいふ語。○〔韓愈〕「霏-然有レ象、一一一而一」。
〔肺腑呈〕心の奧底までも人に知らすることにいふ語。○〔元稹〕「愧レ捧ニ金-鬮贈一、還披ニ一一一」。
〔毫髮呈〕髮なその細きまでもあらはる。○〔王起〕「燭ニ一一而心一」。
〔百戲呈〕いろ〳〵のたはぶれなどをなすこと。○〔張說〕「合レ宴千-宮人、來レ褒一一一」。

【呈】 テイ、ヂヤウ。直正切 〔敬〕
てらふ、(衒)。○〔唐〕「恐無ニ一レ身之御史一」。

【呈】 テイ、チヤウ。丑郢切 〔梗〕
逞に同じ、たくまし、こゝろよし。

【㖈】 シン。矢忍切 〔軫〕
本、弞に作る、相好をくづさずして笑ふ、わらふ。○〔晉〕「田-千-秋一言致レ相、匈-奴一レ之」。

【吳】 ゴ、グ。午胡切 〔虞〕
㊀おほいなり、(大)。㊁大言す、ほこる。
㊂かまびすし、(譁)。○〔詩〕「不レ一不レ敖」。
㊃娛に通じ用ふ、たのしむ。
㊄國の名。○〔史〕「太-伯之奔ニ荊-蠻一、號ニ句一一」。

【吳】 グ、ゴ。元俱切 〔虞〕
おもんぱかる、慮は古は吳に作れり。

【吴】 俗の吳の字。

【吵】 ベウ、メウ。亡沼切 〔篠〕
なく、(鳴)、又、きじなく、(雉鳴)。

【吵】 サウ、セウ。初爪切 〔巧〕

こゑ(聲)。

〔吵〕 サウ、セウ。楚教切 〔效〕
本、訬に作る、かろし、(輕)。

〔㕯〕 ダツ、ナチ。女滑切 〔黠〕
㊀ひくき聲。㊁訥に同じ、くちごもる。

〔㕯〕 ゼツ、子チ。如劣切 〔屑〕
前條の㊁に同じ。

〔呐〕 トツ、奴滑切 〔月〕。ナチ。切　ゼツ、女劣切　子チ。切 〔屑〕
言語澁滯す、言語を出だすに苦しむ、言語明かならず、言語遲鈍なり、くちぶし、くちにぶる、どもる、訥に同じ。○〔禮〕「其言——然、如レ不レ出二諸其口一」。

〔吷〕 ケツ、ケチ。許劣切 〔屑〕
㊀小さき聲をなすさゝやく。○〔莊〕「吹二劍首一者—而已矣」。

〔吷〕 セツ、ゼチ。昌悅切 〔屑〕
㊁のむ(歠)。
本、歠に作る、のむ、すゝる。

〔吷〕 ケツ、ケチ。呼決切 〔屑〕
㊀疾き貌にいふ字、はやし。
㊁鳥の聲にいふ字。
㊂決に同じ、わかつ。

〔吸〕 キフ、訪及 コフ。切 〔緝〕 〔說文〕从レ口及聲。
㊀すふ。
(い)息を引き入る。○〔淮〕「一吐一—」、「時詘時伸」。
(ろ)引き入るゝ息につれて物を喉內に引き入る。○〔楚辭〕「—二沆瀣一、—二湛露之浮涼一」。

は)一氣に飲む、のむ。○〔杜甫〕「飲如三長鯨—二百川一」。
(に)翕に同じ、引き入る、ひく。○〔詩〕「戢—二其舌一」。
「戾」。
㊁こゑ(聲)。○〔劉向〕「雲——以湫—」。
〔呼吸〕(い)息をすること。○〔莊〕「吹呴——、吐レ故納レ新」。
(ろ)單に息を入るゝこと、すふ。○〔後漢〕—二—精和一、求二至人之彷彿一。
(は)極めて短き時間に借りいふ語。○〔晉〕「決二勝負於一朝一、定二成敗于——一」。
(に)靈氣の義に借り用ふる語。○〔元稹〕「風雲劍一合、——期二萬里」。
〔噓吸〕(い)前の(い)に同じ。○〔莊〕「孰——」。
(ろ)前の(ろ)に同じ。○〔木華海賦〕「——百川、洗二滌淮漢一」。「集」。
(は)前の(は)に同じ。○〔魏〕「——之間、煙景以—」。
〔一吸〕ひと息、又、ひとのみ。○〔陸游〕「得レ酒——輒倒レ壺」。
〔阻吸〕すふ。○〔抱朴子〕「—二—寶華一」。
〔噴吸〕草木の風に動く響を形容するに用ふる語。○〔史〕二劉花——、叢象二金石之聲、管簫之音一」。
〔翕吸〕風などの吹き過ぐる響にいふ語。○〔謝朓〕「卷二風飈之——一」。
〔呼不給吸〕 甚きて「はつ」と息の出づるも引く息することの出來ざる義、物事の到來迅速にして之に應ずるに暇なきことにいふ語。○〔淮〕「脉不レ給レ撫、——」。

〔吹〕 スヰ。昌垂切 〔支〕
㊀ふく。
(い)風うごく、又、風うごきて其の物にあたる。○〔詩〕「蘀兮蘀兮、風其—レ女」。
(ろ)急に息を吐き出だす、脣をちゞめすぼめ息を吐き出だす。○〔莊〕「生物之以レ息相—也」。
(は)息をこめて鳴らす。○〔詩〕「鼓レ瑟—レ笙」。
㊁他の才能を稱揚す、他の便利を幫助す、たがひに相佐助す、たすけあふ、たすく。○〔庾信〕「小人司二刺舉一、時時實濫—」。
〔齊吹〕(い)多人數の一時に揃ひてふく。○〔韓〕「齊王使二人吹竽、必三百人——」。
(ろ)轉じて一同に執務することにいふ語。○〔何遜〕「妄忝侔二齊、濫同二——一」。
〔獨吹〕 衆く連れのなきにひとりにてふく。○〔庾信〕「桁伊能——」。
〔倒吹〕 落花などの水に映るにいふ語。○〔杜甫〕「風妒二紅花一却——」。
〔衆口吹〕 多くの人の同じ樣に言ひなす。○〔晉〕「相與雷同、—レ——而煦レ之」。
〔凱風吹〕 和げる風、又、春風のふく、又、恩澤を被ることに用ふる語。○〔詩〕「——自レ南、—二彼棘心一」。

〔吹〕 スヰ。昌瑞切 シ。齒僞切 〔寘〕
ふきならす音樂の稱、はやし。○〔禮〕「上丁命二樂正一、入レ學習レ——」。
〔鼓吹〕 樂器を調子に合はせて打ち鳴らすこと、はやし。
(支那にて、朝廷の典儀に用ひ、又、高官の通行の儀式に用ひ或は軍隊の樂に用ふ)。○〔唐〕「旭開二——而得二筆法一」。
〔蛙吹〕 孔珪の故事よりかわづの鳴くことにいふ語。(〔南〕「門庭之內、草不レ翦、中有二—鳴一、珪笑曰、我以レ此當二兩部鼓—一」。
〔繁吹〕 調子の節のしげきはやし。○〔韓愈〕「——蕩二人心一」。
〔歌吹〕(い)うたひ、はやし。○〔漢〕「——諸生」。
(ろ)にぎはしきことにいふ語。○〔江淹〕「黃塵匝レ地、——四起」。
〔妙吹〕 笛などを吹くはやしの巧みなること。○〔列仙傳〕「簫史——、鳳雀舞レ庭」。
〔鐃吹〕 はやし。○〔唐〕「——部七曲」。
〔鬼吹〕 鬼の吐く息、即ち邪氣などに用ふる語。○〔雲笈七籤〕「地狱不レ入、——不レ干」。
〔肉鼓吹〕 李匡の故事より人をおちうつ聲にいふ語。○〔雲史補〕「樂聞二操擬之聲一、曰、此一部——」。
〔詩鷗鼓吹〕 戴顒の故事より鶯聲にいふ語。○〔世說〕「往聽二黃鸝一、此俗耳鍼砭、——」。

〔吺〕 トウ、ツ。丁侯切 〔尤〕
㊀ことばおほし、(多言)。
㊁輕く言を出だす、くちばしる、くちがろ。
㊂兜に同じ、かぶと。○〔韓愈〕「開レ弓射二鵰——一」。

〔吺〕 ジユ、ニユ。汝朱切 〔虞〕
さゝやく。

〔吻〕 ブン、モン。武粉切 〔吻〕
㊀口の上下の緣、くちさき、くちもと、くちばた。○〔周〕「銳レ喙決レ—」。
㊁轉じて物のでばりたる邊にいふ字。○〔孔平仲〕「雲依二殿—一浮」。
〔虎吻〕(い)虎の如きくちびるの義、害意をつゝむ人の容貌に用ふる語。○〔漢〕「或間以二莽形貌一、曰、莽所レ謂鴟目——豺狼之聲者也」。
(ろ危險なること、又、人の容易に近づき能はざることに借りいふ語。○〔嵇康〕「蹈二路虎吻一、身于——一」。
〔口吻〕 くちとくちびると、轉じて言語の義に用ふる語。○〔舊唐〕「禍福出二乎胸懷一、榮枯生二于——一」。
〔濯吻〕 唾もてくちびるをうるほす、即ち嚥みつく用意して物事の到來を待ち居る貌にいふ語。○〔唐〕「索元禮來俊臣之徒、—レ—磨レ牙噬二紳纓一」。
〔黃吻〕 きいろなるくちびる、雛鳥のくちびるの黃色なるより、人の經驗少なくして思想の幼稚なることに借りいふ語。○〔世說〕「——年少勿レ爲レ評二論宿士一」。
〔燥吻〕 かわくくちびるの義、詩文の容易に口に浮び出でざることに借りいふ語。○〔陸機〕「始躑二躅于——一」。
〔枯吻〕 前に同じ。○〔顧瑛〕二坐來詩句生二——一」。
〔血吻〕(い)くちびるより血の出づること。○〔范成大〕「嗾禽唯杜鵑、——日夜啼」。
(ろ)轉じて物凄き迄に勇猛なる相貌にいふ語。○〔宋〕「——婁淮、無レ所二顧藉一」。
〔引吻〕 くちびるを前に出だす。○〔宋〕「—レ—就レ刀、食レ肉無レ所レ憚」。
〔搖吻〕 くちびるをうごかすの義にてものをいふこと。○〔宋〕「汝且爲二敵人一、—レ—作二說客一耶」。

(罵吻) 眼中に人なく、人をあざける癖あること。○〔全唐詩話〕「士子豪氣―・―、遊諸侯門」。
(掋吻) くちびるに力を入るゝこと。○〔駒服「鐵歷―ㇾ―」。「除ㇾ類」。
(肆吻) 遠慮なくものいふこと。○〔柳宗元〕「莫ㇾ敢―其―矣」。
(抗吻) 議論することにいふ語。○〔何遜〕「並―ㇾ―以猿・エ―ㇾ―噪」。
(裂吻) 大口を開くことの形容に用ふる語。○〔蘇舜欽〕
(飲吻) ものいふことをやむ。○〔張耒〕「此蛙―ㇾ―收ㇾ足、匿糞土中、―噬不ㇾ出」。
(怒吻) くちびるを引き揚げ歯をあらはす貌にいふ語。○〔張耒〕「―・―所飲ㇾ受」。
(饞吻) 久しく食物を口に入れざることをいふ語。○〔范成大〕「―・―不ㇾ待ㇾ熟」。
(鍛吻) 前に同じ。○〔劉克莊〕「強鳴―・―和寒蛩」。
(鼓吻) 辯明せんと欲して勇氣を張ることにいふ語。
(狼吻) 支那風の建築にて祠堂などの屋根端の反りたる處の稱。○〔舊唐〕「尋觀―・―落者殆半」。
○〔薩都剌〕「提ㇾ筆―ㇾ―趨文場」。
(豺狼吻) 豺や狼のくちびるの義、無慈悲にして殘酷なる處置あることに借り用ふる語。○〔蜀〕「百姓困于―・―之―」。
(學口吻) 人の口眞似をなすの義にいふ語。

【吼】 コウ、ク。呼后切 有 許候切 宥

一に呴に作る。

牛鳴く、虎鳴く、獸怒り鳴く、總べて高く長き聲を出だすにいふ、なく、ほゆ。○〔後漢〕「―虎低ㇾ頭閉ㇾ目、狀如震懼、卽時殺ㇾ之、其―視ㇾ恢鳴―踊躍自奮」。

(虓吼) さけびほゆ。○〔晉〕「猛獸在檻中、―・―震ㇾ地」。
(哮吼) 前に同じ。○〔博物志〕「師子―・―奮超」。
(叫吼) 前に同じ。○〔郝經〕「―・―怒如ㇾ狂」。
(鳴吼) 前に同じ。○〔西京雜記〕「魚常―・―、孔尾皆動」。
(師子吼) 佛家にて羣邪異學を畏れずに說法することにいふ語、獅子はえて衆獸の畏服するに喩ふ。○〔法華經〕「其多寶佛雖久滅度、以大誓願而―・―」。

(吹脣唱吼) 前に同じ。○〔南〕「―ㇾ―・―而上」。

【吽】 イン、オン。於今切 侵 ゴウ、グ。五侯切 尤

吼に同じ、ほゆ。

【吾】 ゴ、グ。五乎切 虞

㊀われ、わが。
(い)自己の稱。○〔史〕「不ㇾ莫―勇」。
(ろ)自己の屬する方（敵の對）、みかた。○〔左〕「我張―三軍、而被―甲兵」。
(は)相親しむ意にいふ字。○〔儀〕「願―子之教ㇾ之」。
(に)自己の存在、自己の意識。○〔陸游〕「草庵寂默我忘ㇾ―」。
㊁ふせぐ（禦）、とゞむ（止）。○〔後漢〕「―猶ㇾ禦也」。
㊂唔に通じ用ふ、吟哦の聲にいふ字。○〔黃庭堅〕「北窗讀ㇾ書聲―伊」。
㊃梧に通じ用ふ、さゝふ、又、たがふ。○〔朱熹〕「至其必不ㇾ可支―而去」。

(從吾) 己れの思ふ通りに爲す。○〔論〕「如不ㇾ可ㇾ求―所ㇾ好」。
(金吾) (い)鳥の名、不祥を避くるといふ。(ろ)銅を以て造り其の兩端を金もて塗りたる棒の稱。
(伊吾) (い)地の名。○〔後漢〕「志馳于―・―之北矣」。(ろ)咿唔に同じ、讀書又は吟哦の聲にいふ。
(紛吾) 外貌の盛にして內質の美なるにいふ語。○〔楚辭〕「―・―既有此內美兮、又重之以修能」。
(故吾) むかしの自己。○〔莊〕「田子方曰乎―・―」。
(今吾) いまの自己。○〔王炎〕「心事―・―非故吾」。
(忘吾) 自己の存在するに氣付かぬ、深く思ひに沈むときに用ひ、又、無念無想の域に達したるにいふ語。○〔陸游〕「草庵寂默我―ㇾ―」。
(執金吾) 漢の時兵器を執りて宮門を譽衛し非常をふせぐ事を司どれる官名。○〔後漢〕「仕官當ㇾ作―・―・―、娶ㇾ妻當ㇾ得陰麗華」。
(誰知吾) 自己の心中を知りくるゝ人なし。○〔楚辭〕「吁嗟嘿々兮、―・―・―之廉貞」。

【吾】 ギョ、ゴ。牛居切 魚

親まざる貌にいふ字。○〔國〕「暇豫之―・―」。

【吒】 カク、コク。黑角切 覺

恚り呼ぶ貌にいふ字、又、怒る聲。

【告】 カウ、コウ。古到切 號

㊀つぐ。
(い)しらす（報）。○〔左〕「諜―曰、楚幕有ㇾ烏」。
(ろ)かたる（語）。○〔國〕「犀首―ㇾ臣」。
(は)をしふ（教）。○〔禮〕「燕居―溫―々」。
(に)しめす（示）。○〔管〕「聖人之治於世也、不人―也、不戶說也」。
(ほ)まをす（啓）。○〔書〕「―厥成功」。
(へ)おほす（命）。○〔易〕「上六自ㇾ邑―命」。
(と)こふ（請）。○〔儀〕「以―先生君子可也」。
㊁とふ（問）。○〔禮〕「月―ㇾ存」。
㊂やすみ（休暇）。○〔史〕「汲黯多病、々且ㇾ滿三月、上常賜ㇾ―者數」。

(無告) 己れの狀況をつげん者なし、卽ち助けとなる人なし、又、其の境遇に在る者、卽ち鰥、寡、孤、獨の如き者。○〔書〕「不ㇾ虐―・―」。
(世告) 古昔支那にて九州の外の諸蕃國は其の君長となる人の世に一度朝覲して其の旨を時の天子に告ぐる制なりしより諸蕃國をいふ語。○〔禮〕「四塞―・―至」。
(播告) すべての者に漏れなくつぐ。○〔書〕「王―・―之修、不ㇾ匿厥意」。
(布告) 前に同じ。○〔漢〕「―・―天下、使明知朕意」。
(敷告) 前に同じ。○〔晉〕「可―・―天下、使ㇾ知區々之朝、思ㇾ聞ㇾ過也」。
(普告) 前に同じ。○〔魏〕「可―・―令ㇾ知」。
(班告) 前に同じ。○〔北〕「以爲大慶、―・―天下」。
(誕告) 大いに事を四方の者に告ぐ。○〔書〕「王歸ㇾ自ㇾ克ㇾ夏、至於亳、―・―萬方」。

(大告) 前に同じ。○〔書〕「越三日庚戌、柴望―・―武成」。
(咸告) 漏れなくつぐ。○〔書〕「予旦已受人之徽言、―・―孺子王矣」。
(移告) 其れより其れへとうつしつぐ。○〔晉〕「涕泣登ㇾ舟、―・―四方征鎭」。
(情告) 有りし次第を告ぐ。○〔唐〕「若不ㇾ可則以―・―其人」。
(訓告) 氣の付きしことをしへつぐ。○〔書〕「猶胥―・―」。
(傳告) 直接ならずして人づてにてつぐ。○〔詩、箋〕「必先令寺人―・―之」。
(譴告) 罪あることをせめつぐ。○〔漢〕「天地之氣、以ㇾ類相應、―・―人君、甚微而著」。
(詔告) つぐ。○〔禮〕「聲音之號、所以―・―於天地之間也」。
(豫告) 物事の到來せざる前につぐ。○〔周、註〕「―・―之齊戒也」。
(就告) 其の許に到りてつぐ。○〔儀、註〕「―・―僚友」。
(勅告) いましめのことを言ひ聞かす。○〔儀、註〕「使於衆介之前、北面讀書、以―・―士衆、爲其犯ㇾ禮暴掠也」。
(誣告) 無實の罪を他人に被らせ訴へ出づること。○〔漢〕「自ㇾ今以來、諸年八十以上、非ㇾ―・―殺傷人、佗皆勿ㇾ坐」。
(辨告) 理解して聞かす、さとす。○〔漢〕「以文法教訓―・―、勿笞辱」。
(曉告) 前に同じ。○〔北〕「乃―・―焉以酒脯代用」。
(風告) 他の事をもて其の人の自ら覺るやうに語り聞かす。○〔漢〕「廣漢聞ㇾ之、先―・―建、々不ㇾ改」。
(啓告) 申し上ぐ、つぐ。○〔蜀〕「十反來相―・―」。
(堅告) 其の事を指して申し出づ。○〔魏〕「―・―守令不ㇾ如ㇾ法者」。
(宣告) 君王又は官府の意思を臣下にのべつぐること。○〔唐〕「制勅計奏之數、省符―・―之節」。
(饗告) 祖先の靈などに供物を捧げ祭ること。○〔唐〕「作神主、長安、將―・―如宗廟」。
(警告) 災害の來たるなどをいましめつぐること。○〔宋〕「近年寺觀屢災、此殆天示―・―」。
(陳告) のべつぐ。○〔王令〕「敎誨日―・―」。
(與告) 功勞ある者、又は特別の事情ある者は願はずとも休暇を與ふること。○〔漢〕「吏從官縣、被ㇾ害者―・―」。
(賜告) 三月以上の不勤者は當に免官なすべき害なるも特旨にて休暇を與ふること。○〔漢〕「父子俱移ㇾ病、滿三月、―ㇾ―」。
(休告) やすみ。

〔長休告〕辭職すると。○〔漢〕「掾吏有ㇾ罪、報不ㇾ得ㇾ聽、輒予ニ一一」、終無ㇾ所ニ案-驗一」。

【告】カウ、ニウ。居勞切 豪 まをす（白）。

【告】コク。古沃切 沃 ㊀つぐ、まをす、前々條の㊀に同じ。○〔禮〕「爲ニ人子一者、出必一、反必面」。㊁やすみ、前々條の㊁に同じ。○〔後漢〕「一一寧之典」。

【告】キク、コク。居六切 屋 鞠に同じきはむ。○〔禮〕「其刑-罪則纖-剸、亦一ニ于甸-人」。

【告】カク、コク。轄覺切 覺 カウ、ゴウ。胡刀切 豪 やすみ（休-謁）。

【咂】サフ、ソフ。子答切 合 一或は嗟又は唼に作る。口に吸入す、すふ、すゝる、のむ、くらふ。○〔洞冥記〕「惟一ニ葉-上垂-露一」。

【呀】カ、ケ。許加切 麻 口を開く、口を張る、あく、くちあく、轉じて物の內部の空洞なる貌にもいふ字、ほがらか、むなし。○〔韓愈〕「如ニ口開一一一」。

〔呢呀〕小兒の言ひ爭ふ貌にいふ語。
〔歔呀〕よろこびて口を張り聲を出だす。○〔韓愈〕「踊躍一・一」。
〔豗呀〕口を張る。○〔柳宗元〕「豺-羣一讙一」。
〔吽呀〕ほゆ。○〔梅堯臣〕「一・一閧ニ爭犬一」。
〔驚呀〕おどろきて口をあく。○〔范成大〕「路逢ニ眞-境一只一・一」。
〔喘呀〕息せきて口をあけ居る貌にいふ語。○〔韓駒〕「腹鳴肩聳氣一・一」。「相一・一」。
〔笑呀〕わらひて口をあく。○〔梅堯臣〕「只販-勝負-

〔頤呀〕口もとにしまりなきにいふ語。○〔王惲〕「自笑謔-一-空-一」。
〔谽呀〕大いに凹みたると、空しきと、深谷などの形勢にいふ語。○司馬相如〕「一・一豁-閜」。
〔閜呀〕口をひらく。○〔孟郊〕「一・一彼無ㇾ底」。
〔缺呀〕かけて洞となる。○〔歐陽修〕「巖-崖一・一」。
〔𡋯呀〕凹む、穴明く。○〔孔武仲〕「惟有ニ口-鼻-隨一一・一」。
〔怒呀〕いかりをあらはして口を開く、獸類などの餌に對するときなどの貌にいふ語。○〔張耒〕「目-光爛燁射、一・一一欲ㇾ受」。

【呀】カ。虎何切 歌 くちあく、あく。○〔韓愈〕「王-母聞以笑、衛-官助一・一、不ㇾ知萬-々-人、生-身埋ニ泥-沙一」。

【呁】キン、クン。九峻切 震 ㊀はく（吐）。㊁とぶらふ（唁）。

【呂】リヨ、ロ。力舉切 語 ㊀せぼね（脊-骨）。○〔說〕「昔太-嶽爲ニ禹心一一之臣一」。㊁つらぬ、つらなる（旅）。○〔詹〕「一旅也、言ニ陰-氣旅ニ助陽-氣一也」。㊂ながし（長）。○〔揚雄〕「弥一長也、東-齊曰ㇾ弥、宋、魯曰ㇾ一」。㊃陰の音律。○〔史〕「制ニ六-律六-一一」。

〔六呂〕陰の音律にて六通りあるもの、即ち、黃鐘、大呂、姑洗、南呂、夷則、小呂。
〔大呂〕（い）六呂の一。○〔周〕「乃奏ニ黃-鍾一、歌ニ一・一」。（ろ）大いなる鐘の名、下の引例にては齊國の鐘なりといふ。○〔戰〕「一・一陳ニ于元英一、故鼎反ニ乎磨-室一」。
〔律呂〕音樂、又、音調、古昔支那にては人事の異動をまでも律呂に關係するものとなせり。○〔國〕「一・一不ㇾ易無ニ姦-物一也」。
〔伊呂〕殷の伊尹と周の呂尙とのこと。○〔漢〕「董-仲舒有ニ王佐之才一、雖ニ一・一無ニ以加一」。
〔九鼎大呂〕九鼎と大呂とは共に周廟の寶器にて重量甚だ重し、故に世間に於ける地位の重きに借りいふ語。○〔史〕「使ニ趙重ニ於一・一・一・一」。

【呃】アイ、エ。烏界切 卦 不平の思ひあらはるゝ聲にいふ字。

【呃】呃に同じ。

【㕨】ハン、バン。博漫切 寒 普半切 翰 ㊀容を失ふ、即ち、笑ひて顏の相好をくづすなどにいふ。㊁剛强なる貌にいふ字、つよし。

【㕯】コク。古得切 職 財多し、ゆたか。

【𠯷】イウ、ウ。羽求切 尤 犬吠ゆ、ほゆ。

【𠮾】バイ、マイ。莫杯切 灰 口をつむ、一說に、笑ふ。

【呅】ブン、モン。武粉切 吻 吻に同じ。

【呆】ハウ、ホウ。補道切 皓 保に同じ。

【呆】ボウ、モ。莫厚切 有 古文の某の字、今は癡と同義なりとするは誤なり。

【味】クワツ、ゲチ。下刮切 黠 口を塞ぐ、ふさぐ。

【呴】コウ、ク。火候切 宥 笑ふ貌にいふ字、わらふ。

【呇】ケイ、カイ。輕禮切 薺 よあけぼし（明-星）。

【呈】王に从ひ口に从ふ、呈の字と異にして古文の㞷又は狂の字。

【㕼】キョウ、ク。詡拱切 腫 かまびすし、訩に同じ。○〔荀〕「以爲ニ一・一・一」。

五畫

【呃】アク、ヤク。於革切 陌 ㊀なく（喔）。㊁鳥の聲、又、雞の聲にいふ字。

【呝】アイ、エ。烏懈切 卦 聲平かならず。

【呞】シ。書之切 支 本齝又は齝に作る、かむ、かみかへす、にれかむ。

【呠】ホン。普本切 阮 はく、ふく（噴）。

【呡】吻に同じ。

【吰】ワウ。烏宏切 庚 なく、ほゆ（吼）、又、牛のなく聲にいふ字。

【呤】レイ、リヤウ。郎丁切 青 さゝやく（小-言）、又、かたる（語）。

【呥】ゼン、如占切 鹽 子ン。而琰切 琰

⊖かむ貌にいふ字、かむ。○〔荀〕「——而噍」。

㊁自安の貌にいふ字、やすんず。

【呦】イウ、ユ。於求切 尤 於糾切 有

鹿の鳴くにいふ字、なく、又、其の聲にいふ字。○〔詩〕「鹿鳴——」。

【呦】アウ、エウ。於教切 效

をしふ、（教）。

【呧】テイ、タイ。都禮切 薺 テイ、ダイ。田黎切 齊

⊖志かる、（呵）。㊁そしる、（詆）。

【昭】テウ。癡消切 蕭

のどなる、（喉鳴）、又、なる、（鳴）。

【呎】嘔に同じ。

【周】シウ、シュ。之由切 尤

⊖いたる、（至）。○〔書〕「雖レ有二—親一、不レ如二仁人一」。

㊁あまねし、（遍）。○〔易〕「知—二乎萬物一」。

㊂をふ、をはる、（終）。○〔左〕「以—レ事レ子」。「——二」。

㊃まがる、くま、（曲）。○〔詩〕「生二于道—」。

㊄めぐる、めぐらす、（繞）。○〔國〕「—レ軍飭レ壘」。

㊅かへす、かへる、（復）。○〔大元〕「陽氣—レ神」。

㊆そなふ、そなはる、（備）。○〔漢〕「鍛錬而—内レ之」。

㊇まはり、めぐり、俗に週に作るは非なり。○〔漢〕「—回五里有餘」。

㊈こまか、ひそか、（密）。○〔管〕「—者不レ出二于口一、不レ見二于色一」。

㊉まこと、（忠信）。○〔詩〕「行歸二于—一」。

⊕かたし、（固）。○〔左〕「盟所二以—信一」。

⊕賙に同じ、すくふ。○〔孟〕「君之於レ氓也、固—レ之」。

⊕啁に同じ、ほとゝぎす、子規。○〔韓〕「鳥有レ—、—者重首而屈尾、將欲レ飮二于河一則顚、乃銜二其羽一而飮レ之」。

⊕古昔の王朝の名、卽ち我が紀元前四百五十九年、武王發といふもの商を滅ぼして天子の位に就き國號を周と名づけぬ、傳へて三十八世、赧王に到り紀元四百十二年秦王政に亡ぼさる、年を歷ること八百七十餘年なりき、又、紀元千六百十一年郭威、漢に代りて天子の位に就き傳へて三世恭帝に至り紀元千六百二十三年に趙匡胤に滅ぼさる、三世合して十年、卽ち五代の周なり、又、六朝の時、宇文泰、西魏の後を受けて紀元千二百十七年天子の位に卽き國號を周と改む、傳へて五世闡に至り紀元千二百四十年隋に滅ぼさる、年を歷ること僅に二十五年なりき、所謂後周なり。○〔詩〕「於レ—受レ命」。

（成周）三代の時の周の美名。○〔書〕「以二——一之衆一命二畢公一」。

（孔周）孔子は周の武王の弟周公旦とのこと。○〔韓愈〕「所レ學者——」。

（宗周）（い）始めは三代の周の創業地にして後世の所謂關中にて今の陝西省鳳翔府をいひ其の天子となるに及びて王都の稱に用ふ、今の陝西省西安府。○〔書〕「王來レ自レ奄、至二于——一」。

（ろ）又、三代の時の周の時代。○〔杜牧〕「四百年炎漢、三十代——」。「——一」。

（京周）前條の（い）に同じ。○〔詩〕「懷我寤歎、念二彼——一」。

（況周）習ふ。○〔周、註〕「小車有レ蓋以——」。

（圜周）めぐり。○爾「周天百十萬一千里者、是——之里數也」。

（姬周）三代の周は姬姓なる故にいふ。○〔魏〕「——之樹レ國」。

（匡周）あまねし。○〔晉〕「輿望——」。

（回周）めぐる、又、めぐり。○〔淮〕「與萬物——旋轉」。

（環周）めぐる、又、めぐり。○〔柳宗元〕「菖蒲被レ——」。「之、靑蘚——」。

（慮周）考ふることの行きとゞく。○〔文心雕龍〕「——而藻密」。

（外周）そとをめぐる、又、そとがこひ。○〔西京賦〕「徼道——、千廬內附」。

（列周）まはりにならぶ。○〔李尤高〕「容閣——」。

（徧周）あまねし。○〔嵇康〕「殊レ類難二——一」。

【呪】シウ、シュ。職救切 宥

禍福に關して神靈に祈る、神靈の力によりて願ひを成さんことを求む、主に怨みある人に災難を降し或は己れにかゝる災難を禳ふなどにいふ、のろふ、まじなふ、又、のろふこと、まじなふこと、其の法、まじなひ、のろひ、其の詞、のりと、祝に作ることも多し。○〔後漢〕「時夏大旱、輔乃自暴二庭中一、慷慨—曰、輔爲二股肱一、不レ能下和二調陰陽一、承中順天意上、咎盡在レ輔、今敢自祈請、若至二日中一不レ雨、乞以レ身塞二無狀一」。

（神呪）のりと、又、のろひ、まじなひ。○〔晉〕「少學レ道、善誦二——一、能役二使鬼神一」。

（禁呪）前に同じ。○〔魏〕「曉二術數——一」。

（經呪）佛に向かひて唱ふる詞。○〔隋〕「每旦澡洗、以レ楊枝淨レ齒、讀二誦——一」。

（詛呪）災を禳ふ、又、敵をのろふ。○〔文心雕龍〕「後之——、務二于善罵一」。

（密呪）人に知らしめざるのろひ、又、まじなひ。○〔高僧傳〕「以持二——一爲レ務」。

（隱呪）前に同じ。○〔道經〕「——威二制萬靈一」。

（巫呪）のろひ、まじなひ。○〔傪子容〕「言歸二故鄕一、降二神——一」。

【呤】レイ、リヤウ。郎丁切 庚

衆の聲、かまびすし。

【呬】キ。虛器切 寘

呬又は嘆に作る、いき、又、いこふ、（息）。○張衡「—二河林之蓁々一」。

【呬】チ。丑利切 寘

本、詍に作る、陰かに知る、志る。

【呭】エイ。餘制切 霽

言多しくどくどし、一說に、樂しむ。○〔詩〕「無二然——一」。

【呭】セツ、セチ。私列切 屑

一に喚に作る、たのしむ、（樂）。

【呮】キ。去致切 寘

足を垂れて坐る。

【呰】シ。將此切 紙

⊖せむ、（苛）、そしる、（訾）。○〔漢〕「衞文生買レ物呵—、減レ價乃售」。

㊁此に同じ、これ、この。○〔爾〕「—已此也」。

㊂よわし、（弱）、又、なまくろ、（惰）、かりそめ、（苟）。○〔史〕「地勢饒レ食、無二饑饉之患一、以レ故—窳」。

【呰】シ、ジ。才支切 支

⊖前條の⊖と㊁とに同じ。

㊁疵に同じ、きず、（瑕）、やまひ、（病）。○〔漢〕「闔尹之—、穢二我明德一」。

【呰】セキ、シャク。資昔切 陌

前々條の⊖に同じ。

【呰】セイ、サイ。思計切 霽 サ。四箇切 箇

些に同じ。

【呴】キウ、ク。祛尤切 尤
㊀こゑ、(聲)。㊁くち、(口)。

【呫】テフ。他叶切 セフ。尺涉切 葉 テン。他兼切 鹽 チン。張甚切 寢
㊀なむ、(嘗)。○〔古本、穀梁〕「未三嘗有二―レ血之盟一」。
㊁小さき貌にいふ字、ちひさし。○〔唐〕「―――小人」。
㊂耳に附き小さき聲にて語る、さゝやく、又、言語多し、くど〳〵し。○〔史〕「乃效二女兒―囁耳語一」。

【呱】コ、攻乎切 虞 ワ、烏瓜切 麻 ク。エ。
乳のみ兒の泣く聲にいふ字。○〔書〕「啓――而泣」。

【呲】シ、ジ。才支切 イ。余支切 支
呰又は疵に作る、食を嫌ふ、きらふ。

【呲】シ、ジ。牆之切 支
食らふものなし。

【味】バツ、マチ。莫撥切 曷
黑き光

【味】ビ、ミ。無沸切 未
㊀あぢ、あぢはひ。
(い)舌の飲食物に觸れて生ずる感覺。○〔禮〕「鮮二能知一レ―也」。
(ろ)きもち、うまみ、おもむき、わけ。○〔晉〕「不レ求二榮利一、潛二心道―一」。
㊁あぢはふ。
(い)嚙み分く、食らふ、あぢを知る。○〔列〕「有二―レ味者一」。
(ろ)とり調ぶ、かんがへ知る、商量斟酌す。○〔後漢〕「含二―經籍一」。
㊂あぢある物、飲食物、又、あぢよき物。○〔史〕「弋射漁獵、犯二晨夜一、冒二霜雪一、馳二阬谷一、不レ避二猛獸之害一、爲レ得レ―也」。

〔五味〕五つのあぢ、からし、すし、にはからし、にがし、あまし。○〔禮〕「―――六和」。
〔異味〕めづらしきあぢはひの物。○〔左〕「他日我如レ此、必嘗二―――一」。
〔滋味〕あぢよき物。○〔史〕「負二鼎俎一、以二―――一說レ湯」。
〔珍味〕異味に同じ。○〔後漢〕「晝夜紡績市二―――一」。
〔無味〕うまみなし、あぢはひなし、轉じて、庸常の意に用ふる語。○〔老〕「道之出レ口、淡乎其―レ―」。
〔脆味〕あぢよきもの。○〔韓非〕「香美――、厚酒肥肉」。
〔風味〕あぢ、おもむき。○〔開天傳信記〕「麴生――、不レ可レ忘也」。
〔大味〕いやしからざるあぢはひ。○〔揚雄〕「――必淡」。
〔回味〕あぢはひ出づ。○〔王元之〕「良久有二――一」。
〔鹵味〕志はからきあぢ。○〔書、疏〕「其地變而爲レ鹵、――乃鹹」。
〔焦味〕にがきあぢ。○〔書、疏〕「其臭焦、其味苦、苦爲二――一」。
〔土味〕あまきあぢ。○〔書、疏〕「甘是土之所レ生、故甘爲二―之―一也」。
〔褻味〕脂肪強きあぢのもの。○〔禮〕「不三敢用二常―――一」。
〔食味〕(い)あぢあるものをくらふ。○〔禮〕「人者天地之心也、五行之端也、―レ―別レ聲、被レ色而生者也」。
(ろ)くらふもの。○〔聞見錄〕「不レ得レ飯二――于四方一」。
〔品味〕あぢのしなさため。○〔禮〕「問レ―、曰、子亟食二于某一乎」。
〔致味〕最も善きあぢ。○〔禮〕「樂之隆非二極音一也、食饗之禮非二――一也」。
〔試味〕普通の飲食物に更にそふる飲食物。○〔禮〕「車不レ雕幾一、器不レ刻鏤一、食不二――一」。
〔司味〕料理のとをつかさどる。○〔左〕「臣實―レ―」。
〔內味〕食らふとにいふ語。○〔國〕「夫口―レ―、而耳內レ聲」。
〔疾味〕食らひてやまひを生ずる食物、害を作す者などに借り用ふる語。○〔國〕「不レ可下用二疾―人一而嗜中其――上」。
〔備味〕料理の行届きし物、又、あぢはひよき物。○〔荀〕「目視二備色一、耳聽二備聲一、口食二――一」。
〔兼味〕一種のみならぬあぢはひ、食物に奢りをなせるにいふ語。○〔後漢〕「食不レ―レ―、衣無二二綵一」。
〔重味〕前に同じ。○〔史〕「公孫弘以二漢相一、布被、食不レ―レ―、爲二天下先一」。
〔新味〕なつもの。○〔後漢〕「凡供二薦――一、多非二其節一」。
〔群味〕能く考へあぢはふ。○〔後漢〕「嘗獨二――一此子之風度一、雖下經二國之術一、無上レ足二多謝一、而追二想之禮一、良可レ言矣」。
〔鼎味〕料理、又、其の物。○〔齊〕「伏多二藝能一、愛及二――一、閑無レ不レ解」。
〔妙味〕たへなるあぢ。○〔晉〕「斯玉鉉之――、經世之徽猷也」。
〔誦味〕よみかんがふ。○〔晉〕「――久レ之」。
〔義味〕物事の意趣。○〔晉〕「所レ造數萬言、皆有二―――一」。
〔絕味〕極めてよきあぢ。○〔宋〕「以爲二――一獻レ之」。
〔海味〕海より得たる食物、魚介などにいふ語。○〔齊〕「會稽―――、無レ不二畢致一」。
〔賞味〕ほめあぢはふ。○〔宋〕「――不レ已、以爲二有鮑、謝風致一」。
〔飲味〕前に同じ。○〔魏〕「爲二當時偶儕所一――一」。
〔時味〕其の時節に出づる食物。○〔魏〕「自二酒米一至二鹽醢百品、皆爲二――一」。
〔遺味〕あぢはふ。○〔唐〕「帝―――曰、啓成之言也」。
〔探味〕意義をさがし考ふ。○〔北〕「――玄宗注老子道德經二卷一」。
〔繹味〕意義をたづね考ふ。○〔唐〕「論議深博、極二爲政之體一、公宜レ―二―之一」。
〔旨味〕(い)うまきあぢ、又、その食物。○〔張敏頭〕「―――弗レ嘗、食二粟茹一レ菜」。
(ろ)其の物のあぢをうましとす。○〔韓愈〕「猶有二此言一、豈識―二于―一耶」。
〔腴味〕うまき味の度を過ごす、おごきあぢ。○〔唐〕「弗下敢以二肴品之多一而―上―」。
〔厚味〕前に同じ。○〔列〕「豐屋美服、――姣色」。
〔調味〕あぢをとゝのふ、料理す。○〔鶡冠子〕「―レ―葷レ色正レ聲」。
〔燎味〕遠方より得たる食物。○〔尸子〕「珍怪―――」。
〔好味〕(い)うまきものをくらふ、このむ。○〔韓非〕「齊桓――、易牙蒸二其首子一而食レ之」。
(ろ)よきあぢの物。○〔陶潛〕「―――止園葵」。
〔正味〕たゞしきあぢ、眞實にうまきもの。○〔莊〕「民食二芻豢一、麋食二薦一、鯽且甘レ帶、鴟鴉嗜レ鼠、四者孰知二――一」。
〔適味〕食らふに堪へたるあぢはひの物、又、口にかなひたる食物。○〔呂氏〕「飲食酏醴、足二以――一、充レ虛而已矣」。
〔殊味〕(い)あぢのたがふ。○〔鹽鐵論〕「華レ――、假レ菜而―レ―」。
(ろ)よきあぢ。○〔戴叔倫之〕「宜レ爲二荀―――一」。
〔至味〕前に同じ。○〔春秋繁露〕「雖レ有二天下之―――一、弗レ嘗弗レ知二其旨一也」。
〔嚼味〕かみわく、あぢはふ。○〔淮〕「――含レ甘」。
〔怪味〕常に食らはざる珍らしき物。○〔淮〕「――人之所レ美」。
〔盈味〕うまきあぢ口一ぱいになる、甚しきうまみあるとにいふ語。○〔漢武帝內傳〕「挑味甘美、口有二――一」。
〔澹味〕あはきあぢ。○〔論衡〕「大羹必有二――一」。
〔濁味〕あぶら強きあぢ、又、うまきもの。○〔論衡〕「甘脆――之物、當生常多」。
〔嘉味〕よきあぢ。○〔中鑒〕「酸鹹甘苦不レ同、――以濟、謂二之和羹一」。
〔情味〕こゝろもち。○〔人物志〕「著二乎形容一、見二乎聲色一、發二乎――一」。
〔別味〕あぢのよしあしを知る。○〔抱朴子〕「舞舌不レ能レ―レ―」。
〔奇味〕前に同じ。○〔西京雜記〕「競致二――一」。○〔世說〕「皆是名嘗――之所レ不レ得」。
〔尋味〕あぢはひをたづねてその善惡を知る。○〔世說〕「諧名實所レ可二――一、而不レ能レ投二理於郭向之外一」。
〔趣味〕前に同じ。○〔文心雕龍〕「揚雄――、亦言二體同詩雅一」。
〔諷味〕あぢ、おもむき。○〔柳宗元〕「況茲――、成レ自二遐方一」。
〔韻味〕なみ〳〵ならざるあぢ、おもむき、又、其の物。○〔宣聖〕「終之二――一」。
〔精味〕こまかきおもむき。○〔南部烟花記〕「東南――也」。
〔佳味〕よきあぢ。○〔酉陽雜俎〕「臙酒之――、世中所レ絕」。
〔芳味〕かうばしきあぢ、よきあぢ。○〔尚書故實〕「百越人以二蝦蟆一爲二――一」。
〔上味〕第一のあぢよきもの、すぐれたるあぢ。○〔尚書故實〕「百越人以二蝦蟆一爲二――一」。
〔族味〕鶉の別名。○〔瑞異錄〕「鶉捕レ之者、多論二網而獲一、故遂擇二群子一、同被二鼎俎一、世人文二其名一、爲二――一」。

（深味）（い）極めてよくあぢはふ。○〔遊齋閒覽〕「余嘗二ーー其言一、服二其精當一、而未レ能レ行也」。（ろ）はなはだよきあぢはひ。○〔陶潛〕「悠々迷レ所レ留、海中有二ーー一」。
（玩味）いろ〳〵にあぢはふ。○〔蘇軾〕「反覆ーー、則白‐鹽赤‐甲、灑‐潑黄‐牛之狀」。
（諷味）前に同じ。○〔姑溪題跋〕「風‐流閒雅、超二出意表一、ーー研‐究、字々有レ據」。
（趣味）おもむき。○〔氷心題跋〕「怪偉伏二於易之中一、在二言語之外一」。
（睡味）ねぶたき心地。○〔玉壺冰〕「此非二眞知一、ーー未レ易レ語レ此也」。
（禪味）禪學のおもむき。○〔蘇軾〕「久參二白足一知二ーー一」。
（美味）うまきあぢ。○〔梁簡文帝〕「陳二晨鳧之ーー一」。
（百味）いろ〳〵のあぢ、又、食物。○〔曹植〕「口厭二ーー一」。
（俊味）すぐれたるあぢ。○〔陸雲〕「東‐海之ーー、肴‐膳之至‐妙也」。
（耽味）心を入れてあぢはふ。○〔陸雲〕「可レーー高‐文一也」。
（澁味）しぶる〻程のあぢ、はなはだしきうまさにいふ語。○〔張鎡〕「芳茶冠二六‐淸一、ーー播二九‐區一」。
（逸味）うまきもの。○〔傅休奕〕「八‐口流‐溢、ーー離レ原」。
（勤味）つとめむきのやうす。○〔王儉〕「ーー二ーー消‐腴一、幸遵二雅尚一」。
（單味）他にまじりなき一とすぢのあぢ。○〔謝朓〕「列レ俎歸二ーー一」。
（新味）とりたらべ。○〔梁武帝〕「昔在二弱‐年一日經二ーー一」。
（法味）佛教のおもむき。○〔梁昭明太子〕「已知二ーー樂一」。
（根味）老ふ。○〔梁簡文帝〕「ーー之懷、轉復無レ極」。
（蘭味）朋友の交はり善き閒柄。○〔駱賓王〕「情諧者ーー寧忘」。
（鄉味）故鄉に在る心持。○〔蘇轍〕「早知二ーー勝一爲レ客」。
（氣味）あぢ、おもむき。○〔杜甫〕「ーー濃‐香幸見レ分」。
（華味）美味のこと。○〔盧綸〕「ーー懸二初鬪一」。
（香味）かをりとあぢと。○〔杜甫〕「飯レ糯添二ーー一」。
（餘味）飲み下したあとまでものこりしあぢ。○〔溫庭筠〕「酴‐香餡‐齒有二ーー一」。
（吟味）（い）取り調ぶ、考ふ。○〔李群玉〕「持レ甌默ーー」。（ろ）あぢ、おもむき。○〔僧貫休〕「ーー不レ如レ秋」。
（高味）けたかきおもむき。○〔韓偓〕「此時ーー更誰論」。
（淸味）俗氣なきあぢ、又、おもむき。○〔李瑈〕「可レ憐ーー屬二儒家一」。
（庶味）いろ〳〵のあぢはひ。○〔王禹偁〕「如今知二ーー一」。
（古味）ふりにしおもむき。○〔歐陽修〕「ーー雖二淡淳一不レ薄」。
（眞味）まことのあぢ。○〔歐陽修〕「子言六淡有二ーー一」。
（興味）おもしろみ。○〔蔡襄〕「轉‐覺林‐泉ーー長」。
（天味）自然のおもむき。○〔蔡襄〕「嘉‐卉得二ーー一」。
（咀味）あぢはふ。○〔高啓〕「ーー得二大‐羹一」。
（醇味）美酒の味。○〔梅堯臣〕「上樽ーー易二酡‐顏一」。
（世味）世のあぢ、人情、又、境遇などにいふ語。○〔陸游〕「ーー年‐來薄似レ紗」。
（嚼味）あぢをかみ分く。○〔蘇軾〕「嗅レ香ーレー本非レ別」。
（家味）いへのおもむき、ありさま。○〔蘇轍〕「ーー宛如レ昔」。
（貧味）まづしき生活のあぢ。○〔方岳〕「濟‐漠諳二ーー一」。
（官味）官吏となりてあるおもむき。○〔范梈〕「ーー故依‐然」。
（意味）おもむき、わけ。○〔楊載〕「ーー存二鷄‐助一」。
（陸味）土地に生ぜる食物。○〔戴良〕「ーー萃二南‐品一」。
（地味）（い）前に同じ。○〔引契經〕「劫‐初時人無二男‐女根一、形‐相不レ異、後食二ーー一、男‐女根生」。（ろ）土地の殖產物の生長に於ける適否。
（不知肉味）肉の味をさへ感ぜぬ、或る物事に專心になりて餘の物事に氣付かざるに借りいふ語。○〔論〕「子在レ齊聞レ韶、三‐月ーレーニーー一」。

【味】バイ、マイ。莫拜切 [卦]
前條の㊀の（い）に同じ。

【味】バイ、マイ。莫珮切 [隊]
器物の光澤、つや。

【味】バツ、マチ。亡曷切 [曷]
沬に同じ、面を灑ふ、あらふ。○〔禮〕「瓦不レ成レー」。

【呴】ク、コ。匈于切 [虞]
㊀口を張り氣を出だす、いきふく、ふく、（噓・吹）。○〔漢〕「ー噓呼‐吸」。
㊁悅ぶけはひ言語にあらはる〻にいふ字、よろこぶ、又、言語の順序と〻のふにいふ字、をさまる。○〔漢〕「愉‐々ーー」。
㊂しかる（呵）。○〔戰〕「ー籍叱‐咄、則徒‐隸之人至矣」。

【呴】コウ、ク。呼侯切 [尤]
しはがれ聲、又、喉中の聲。

【呴】コウ、ク。呼后切 [有]
吼に同じ、ほゆ。○〔郭璞〕「溢‐流雷ー而電激」。

【呴】ク、コ。火羽切 [麌]
欨に同じ、ふく。

【呴】ク、コ。吁句切 [遇]
吹く氣にて溫む、あたゝむ。○〔莊〕「魚相ー以濕」。

【呴】コウ、ク。居候切 [宥]
雊に同じ、なく。○〔史〕「有下飛‐雉登二鼎‐耳一而ー上」。

【呴】シャク、ジャク。市若切 [藥]
雉鳴く、又、其の聲にいふ字。○〔王逸〕「雲深‐々兮雷儵‐爍、孤‐雛、雛‐鷟兮鳴ーー」。

【吷】バツ、ボチ。房越切 [月]
廢又は瞂に同じ、たて。○〔戰〕「革‐抉ー‐芮」。

【呵】カ。虎何切 [歌]
㊀とがむ、せむ、（責）。○〔蜀〕「好二公‐羊春‐秋一、而譏二ー左‐氏一」。
㊁怒りて責む、しかる、いかる、（訶）。○〔史〕「霸‐陵尉醉ーニ止廣一」。
㊂氣を吹く、ふく、ふきかく、いきふく。○〔蘇軾〕「夜寒手凍無二人ー一」。
㊃わらふ（笑）、又、わらふ聲にいふ字。○〔范成大〕「不レ滿二一笑ーー一」。
（譙呵）せむ、しかる。○〔史〕「文‐帝謂二景‐帝一曰、綰長‐者善遇レ之、及二景‐帝立一、歲‐餘不レーニ綰一」。
（受呵）しかりをうく、しからる。○〔揚雄〕「諧不レ由レ德、退不レーレー」。
（迴呵）振りむきてしかる。○〔曹植〕「ーニーー飛‐廉一」。
（叱呵）しかる。○〔蘇軾〕「ーー不レ去」。
（前呵）古昔、高位高官の人の行列を作りて往來するとき前を遮るものをしかりせめて去らしむるにいふ語、さきばらひ。○〔韓愈〕「武‐夫ーー、從‐者塞レ途」。
（道呵）前に同じ。○〔白居易〕「ーー揮レ鞭」。
（護呵）前に同じ。○〔袁桷〕「百‐靈ーー」。
（鞭呵）むちを手に持ちて振り廻す、すべて人の物を執りて力を入る〻とき氣を吹きかくるの態あるよりいふ。○〔蘇〕「翁出坐レ曹ー復ー」。
（筆呵）寒さのはげしくて筆の柄の冷かなるより息氣を吹きかけて煖むるをいふ、轉じて寒さの時に字を書くにいふ語。○〔樂史〕「白撰二制‐詔‐誥一、時筆凍、帝勅二宮‐嬪一、執レ牙ーー之」。
（潤呵）前の義よりして字を書くとにいふ語。○〔伏挺〕「須下得二善‐寫一更請中ーー上」。
（呵々）聲高く打ちくつろぎて笑ふ聲にいふ語、又、笑ふこと。○〔閒丘徭〕「撫レ掌ーー大笑、良久而去」。
（噓呵）氣を吹く、又、吹き出だす。○〔韓愈〕「紫‐焰ーー」。
（咄呵）氣を一時に吹き出だす、又、極めて短き時間にいふ語。○〔梅堯臣〕「吳‐盤成二ーー一」。

【呵】カ。許箇切 [箇]
前條の㊀と㊂とに同じ。

【呵】ア。烏何切 [歌]
阿に同じ、緩く應ふる聲にいふ字。

【呶】ダウ、ネウ。泥交切 [肴]　ダ、ネ。女加切 [麻]

謸に同じ、聲多し、言語多し、やかましかまびすし。○[詩]「賓既醉止、載號載一」。

（呶々）かまびすしく、くどくどしし、無用の言を並ぶ。○[韓愈]「一一以害其生」。
（喧呶）前に同じ。○[柳宗元]「談-泊辭一一」。
（讙呶）前に同じ。○[韓愈]「黄、敢有中一一叫號於城郭者上」。
（凶呶）前に同じ。（[曹植]「禍-心氛一一」。
（逐呶）前に同じ。○[韓愈]「渇-擲信一一」。
（叫呶）前に同じ。○[柳宗元]「狂-猝一一以干天刑」。
（紛呶）前に同じ。○[蘇轍]「叫-號一一」。
（酣呶）酒氣となりてかまびすしく言ふ。○[唐]「一一朝夕非愛人憂國者」。

【呷】カフ、ゲフ。呼甲切 洽
㊀すふ(吸)、のむ(飮)。○[周曇]「一一村-漿-春-隻-雞」。
㊁聲衆し、かまびすし。○[王褒]「哮一眩-喚」。「蔡」。
㊂はる(張)。○[司馬相如]「噏一萃-」
㊃鴨の聲にいふ字。○[爾]「鵠鳴喈-々、鴨鳴一一」。

（呀呷）口をあけてのゝしる、又、聖に口を張りてあるにいふ字。○[五]「劉聰毎視殺人、不覺恐頤垂涎一一、人以爲乳蛟蜜也」。
（喔呷）のゝしる。○[吳都賦]「諠譁一一」。
（吸呷）つばきをのみ口を張る、時としては我れを忘れて歎賞せるときの貌にいふ語。○[土延壽]「歸-珩蟹於庭廊、觀者一一而忘返」。
（唼呷）引く息。○[梅堯臣]「一一氣其危」。
（喋呷）かまびすし。○[劉基]「一一蘼-荇-亂-蓬「萵」。

【咮】チユ、チヨ。冢庚切 麌
口正しからず、くちゆがむ。

【咮】シユ、シヨ。腫庚切 麌
雛を呼ぶ聲。

【咮】シユ。朱戍切 遇
咮に同じ、くちばし、くちさき(喙)。

【咦】イツ、イチ。弋質切 質
㊀牛羊の草をかむにいふ字、かむ、くらふ。
㊁とし、はやし、疾。

【咥】チツ。勑栗切 質
こゑ(聲)。○[揚雄]「蘮一一肹以掍根兮」。

【呺】ケウ。許嬌切 蕭
虛大なる貌にいふ字、むなし。○[莊]「非不一然大也」。

【呺】カウ、ゴウ。乎刀切 豪　後到切 號
風の聲にいふ字、又、怒り叫ぶ、さけぶ。○[莊]「萬竅怒一」。

【唼】サフ、セフ。側洽切 洽
豕食らふ、ついばむ。

【呻】シン。失人切 眞
憂へて息つく、惱みて呼ぶ、總べて苦痛を感じて聲を漏らすにいふ字、によふ、うなる、うめく。○[列]「一一呼徹早息焉」。

（嚬呻）額をしかめてうなる、苦痛の外に見はるゝ貌にいふ語。○[韓愈]「察其一一與其所呴」。
（酸呻）うなる聲。○[孟郊]「一一亦成文」。

【呼】コ、ク。荒胡切 虞　一乎又は虖に作る。
㊀よぶ。
（い）氣息を外に出だす。○[韓愈]「五-白氣爭一」。
（ろ）大いなる聲を發す、よばふ、さけぶ。○[史]「如順風而一」。○[蘇軾]「不勞折簡一」。
（は）來たらしむ、招く。○[史]「遮道而一涉」。
（に）聲をかけて招く。○[史]「遮道而一涉」。
（ほ）稱ふ。○[北]「通一一爲弟子」。
㊁歎息の聲、又、歎息の意を表はすときに用ふる字、あ、あゝ。○[禮]「曾子聞之瞿然曰、一」。

（招呼）まねきよぶ、來たす。○[蘇軾]「一一明月到芳樽」。「一曷歸」。
（鳴呼）歎息の聲、あゝ、其の長きもの。○[書]「一一
（傳呼）其れより其れへとつたへよぶ。○唐「一一促官就班」。
（歌呼）大いなる聲にて歌をうたふ。○[史]「日飮一一」。
（酣呼）大いなる聲をなす。○[南]「由是不復一一」。
（歎呼）よろこびて大いなる聲をなす。○[元稹]「萬姓一一」。
（叫呼）さけぶ。○[後漢]「一一俯濶、瞻旋自表、非蘭和之寶也」。
（囂呼）さわがしくよぶ。○[後漢]「歎儛一一」。
（謼呼）前に同じ。○[唐]「督責一一」。
（疾呼）いそがはしくよぶ。○[韓愈]「府中不聞急歩一一」。
（嘽呼）うなる。○[列]「番則一一而卽事」。
（夜呼）いはすき、蒲蘆の別名。

【呼】コ、ク。火故切 遇
前條の㊀の(は)に同じ、よぶ、さけぶ。○[詩]「式號式一」。

【呼】カウ、ケウ。虛交切 肴
㊀詨に同じよぶ。
㊁前々條の㊁に同じ。○[禮]「曾子聞之、瞿然曰、一」。

【呼】カ。許箇切 箇
怒り又は驚きて發する聲にいふ字、あ、あゝ。○[左]「江-芊怒曰、一役-夫」。

【呼】カ、ケ。虛訝切 禡
罅に同じ、さく、又、さけたる場處。

【命】メイ、ミヤウ。眉病切 敬
㊀使に同じ、つかふ。○[左]「十年十一戰、民不堪一」。
㊁教諭、政令、敕語、告示、誓戒、任免、其の他すべて尊者より卑者にある事を爲さしむるに下したる言の稱、みことのり、のり、をしへ、ゐめし、つげ、いましめ、おほせ、まうしつけ。○[書]「王言惟作一」。
㊂尊者より卑者に或る事を爲さしむるために言を下すにいふ字、のる、をしふ、つぐ、いましむ、ゐめす、おほす、まうしつく。○[書]「乃一羲-和」。
㊃政令盟會の辭、敎戒告示の文、官吏任免の書、すべて尊者より或る事を卑者にまうしつくる文書。○[周]「作六-辭以通上下親-疏遠-近、一曰、詞、二曰、一」。
㊄自然の曆數、天道の配劑、窮達吉凶の際會、生死慶弔の遭遇、めぐりあはせ、まはりあはせ、かず、うん。○[呂氏春秋]「死-生一也」。
㊅天地の閒に生息し得る性元又は生息し得る際限、いのち。○[禮]「性-一不同」。
㊆天より人への付與。○[中]「天一謂性」。
㊇みち(道)。○[詩]「維天之一、於穆不已」。
㊈天子の諸侯を封じ又は諸侯の繼位を承認する證として與ふる圭玉。○[國]「襄-王賜晉惠-公」。

⊕十 官服。〇〔國〕「襄王賜二晉文公―一」。
⊕十一 名を附く、なづく。〇〔史〕「因―曰二胥山一」。
⊕十二 住民たる證として其の地の官府の簿籍に姓名を記載しあるを、名籍。〇〔漢〕「嘗亡―遊二外黃一」。
⊕十三 指名する處、まと。〇〔漢〕「射レ―中」。
⊕十四 はかる、(計)。〇〔漢〕「先其尊―」。
⊕十五 めす、(召)。〇〔後漢〕「隱居教授、不レ應二――一」。

〔天命〕天は人事を支配し榮達、失敗、長壽、夭死も天より定めをなす、殊に天子の位に卽くが如きは最も天の眷顧を蒙れるものとせり、故に古昔天子の言には天命を說くこと多し。〇〔書〕「誕膺二――一、以撫二方夏一」。
〔成命〕定まりし命。〇〔詩〕「昊天有二――一、二后受レ之」。
〔大命〕(い)天よりの命にいふ語。〇〔書〕「集二――于厥躬一」。
(ろ)君上よりの命にいふ語。〇〔後漢〕「臣蒙二――一」。
〔明命〕前に同じ。〇〔書〕「顧諟天之――」。
〔寶命〕前に同じ。〇〔書〕「無レ墜二天之降――一」。
〔休命〕前に同じ。〇〔易〕「君子以遏レ惡揚レ善、順二天――一」。
〔知命〕(い)天より己れに付與せられたるものゝ眞相を會得す。〇〔易〕「樂レ天―レ―、故不レ憂」。
(ろ)生年五十をいふ語。〇〔論〕「五十而―二天―一」。
〔申命〕かさねてまをしきかす。〇〔孔叢子〕「――二冢宰一、而後淸レ道而出」。
〔方命〕命にさかふ。〇〔書〕「――圮レ族」。
〔革命〕一國の前統治者滅亡して新統治者之に代はること、政事組織の根本的改革あること、天命あらたまるの義。〇〔易〕「湯武―レ―、順二乎天一而應二乎人一」。
〔受命〕(い)申し付けをうく。〇〔諸葛亮〕「―レ―以來、夙夜憂歎」。
(ろ)他の言に服することに用ふる敬語。〇〔說苑〕「敬―レ―、願聞二餘教一」。
(は)新に一國の統治者となること、天命を受くるの義。〇〔史〕「自二生民一以來、未レ有二―レ―若レ斯之亟一也」。
〔官命〕公府よりの申し付け。〇〔左〕「無レ失二――一」。
〔符命〕(い)未來記に必ず天運の其の人にあたるをしるしあること、轉じて天より命ずるの義に用ふる語、(主に天子の位に卽くにつきていふ)。〇〔翰林志〕「帝王之興、必有二――一」。
(ろ)天子の勅命。〇〔文心雕龍〕「――炳爍」。
〔內命〕朝廷を經ざる君上の申しつけ。〇〔翰林志〕「專掌二――一」。
〔性命〕(い)上天の萬物に付與すること。〇〔易〕「乾道變化、各正二――一」。
(ろ)いのち。〇〔張衡〕「屑二瓊蘂一以朝飡、必二――之可レ度」。
〔有命〕(い)申し付けあること。〇〔易〕「大君―レ―、開レ國承レ家、小人勿レ用」。
(ろ)人力の及ぶところにあらず、卽ち天の爲すところ。〇〔孟〕「孔子曰、―レ―」。
(は)めぐりあはすこと、よきめぐりあはせ。〇〔後漢〕「於赫―レ―、系二我皇漢一」。
〔眷命〕(い)めぐりあはせの他にすぐれてよきこと、上天の其の人を顧みて付與せし義。〇〔書〕「皇天――、奄二有四海一」。
(ろ)君上より特に思ひを寄せての申し付け。〇〔梁武帝〕「――二侯伯一」。
〔佑命〕天よりたすけて付與せる義よきめぐりあはせにいふ語。〇〔書〕「我有周――」。
〔光命〕光輝ある命の義、敬語。〇〔書〕「對二揚文武之――一」。
〔策命〕君上の臣下に付與する文書。〇〔吳〕「諸文誥――將國書符、皆琮之所レ作也」。
〔誓命〕君上の誓戒を作りて臣下に附與すること、又、單に誓戒の義。〇〔孔安國〕「典謨訓誥、――之文」。
〔年命〕いのち。〇〔漢〕「受二天祿一而永二――一」。
〔誕命〕大命に同じ。〇〔後漢〕「光武――、顯睨自顯」。
〔聘命〕禮物を賜はりて呼び出だす。〇〔後漢〕「首加二――一」。
〔優命〕ゆたかなる申し渡し。〇〔魏〕「光寵並臻、――屢至」。
〔徵命〕公府、又、君長よりの呼び出だし。〇〔魏〕「耽二思經典一、不レ應二――一」。
〔顯命〕天下にあらはれし道。〇〔晉〕「無レ墜二祖宗之――一」。
〔寓命〕いのち、めぐりあはせ。〇〔晉〕「恭二乃――一」。
〔壽命〕いのち。〇〔東方朔〕「養二――一之士、莫二肯進一也」。
〔業命〕天子より申し付けられし事。〇〔國〕「諸侯朝修二天子之――一」。
〔嚴命〕きびしき言ひ付け、敬稱。〇〔史〕「追受二――一」。
〔祿命〕めぐりあはせ、うん。〇〔北〕「――有レ限」。
〔竄命〕流罪に處せらるゝこと。〇〔晉〕「―二―甕州一」。
〔乾命〕天命に同じ。〇〔晉〕「恭承二――一、有二何不可一」。
〔生命〕いのち。〇〔北〕「人之所レ寶、莫レ寶二於――一」。
〔朝命〕朝廷よりの申しつけ。〇〔北〕「昔因二――一、與レ之克諧」。
〔使命〕君上よりの使者。〇〔宋〕「毎二――至一、惟設二肉器一」。
〔丕命〕大命に同じ。〇〔北〕「朕將二――一、女以二厥官一」。
〔靈命〕言の敬稱。〇〔北〕「蚤二敷祖宗之――一」。
〔婚命〕夫婦の約束。〇〔北〕「與レ君――雖レ畢、二門多故、未レ及二相見一」。
〔身命〕いのち。〇〔北〕「誓レ終二――一」。
〔品命〕等級、順序。〇〔唐〕「――失レ序、綱紀不レ立」。
〔特命〕つねならざる命令。〇〔唐〕「攝祭――也」。
〔恩命〕めぐみ深き命。〇〔程鉅夫〕「君承二――一、佳二天台一」。
〔教命〕皇后よりの申し付け。〇〔五〕「交二通藩鎭一、太后稱二詔令一、皇后稱二――一」。
〔殊命〕他にことなりまさりたる命令。〇〔宋〕「今命二敎中一、――也」。
〔憲命〕國家の規則、君主の政事上の命令。〇〔宋〕「――既成、天下亦莫レ如レ之何」。
〔謫命〕官を貶し遠地の官吏となす申し渡し。〇〔宋〕「二新州――下、卽日就レ道」。
〔吉命〕めぐりあはせよきこと。〇〔論衡〕「――之人、逢二吉祥一」。
〔宣命〕みことのり、申し付け。〇〔顏環〕「――周求」。
〔餘命〕殘りすくなきいのち。〇〔向秀〕「寄二――于寸陰一」。
〔軀命〕からだといのちと。〇〔吳師道〕「誓不レ顧二――一」。
〔銜命〕使者となりて往きし次第をかへりて言上すること。〇〔左〕「遂歸――、而自拘二于司敗一」。
〔反命〕前に同じ。〇〔禮〕「亦足二以――一矣」。
〔司命〕(い)星の名。
(ろ)其の人の擧動によりて生死の關係すること。〇〔孫〕「將者民之――」。
〔俟命〕(い)天運にさからはざること。〇〔禮〕「君子居レ易以レ――」。
(ろ)申し付けの下るを待つ。〇〔禮〕「寡君敢不レ敬、須二以――一」。
〔傳命〕彼れより此れへと命令をつぎつたふ。〇〔禮〕「介紹而―レ―」。
〔三命〕(い)三たび申し付けらるゝこと。〇〔國〕「――而後卽二冕服一」。
(ろ)上卿となること。〇〔史〕「一命而僂、再命而傴、――而俯」。
〔一命〕はじめて士となること。〇〔高適〕「淺才登二――一」。
〔將命〕取り次ぐ。〇〔儀〕「某固願レ聞二名于―レ―」。
〔奔命〕命令に從ひてかけまはること。〇〔左〕「楚罷二于――一者」。
〔奸命〕命令通りに爲さぬ。〇〔左〕「城濮之戰、祁瞞―レ―、司馬殺レ之」。
〔國命〕政令をいふ。〇〔論〕「陪臣執二――一」。
〔正命〕上天の附與に從ふこと。〇〔孟〕「盡二其道一而死者、――也」。
〔委命〕己れの一身を他の指揮にまかす、いのちをまかすの義。〇〔史〕「―レ―下レ吏」。
〔藏命〕亡命に同じ、己れの住處を去りて蹤跡をくらますこと。〇〔漢〕「藉レ友報レ仇、―レ―作レ姦」。
〔薄命〕めぐりあはせうすし、幸運來たるなし、ふしあはせ。〇〔北〕「時人傷二其――一」。
〔佐命〕天子を輔佐すること、天命の鍾會せし人をたすくるの義。〇〔後漢〕「感二會風雲一、奮二其智勇一、稱爲二――一」。
〔旌命〕(い)賢才を章かにして能吏に任ずること。〇〔晉〕「――三十餘人、皆顯二名當時一」。
(ろ)旌旆。〇〔陸機〕「――交二于塗巷一」。
〔擅命〕君上よりの命なきに思ひの儘に計らひなすこと。〇〔魏〕「阻兵―レ―」。
〔竊命〕君上の寵思にあらざるを己が心の儘に振舞ふこと。〇〔蜀〕「高后稱レ制、而諸呂―レ―」。
〔制命〕(い)いのちを支配する義、其の者を自由に左右し得ることに借りいふ語。〇〔晉〕「能以二數萬之衆一、―二群羌之―一」。
〔歸命〕(い)降伏すること。〇〔五〕「荊楚諸國相次――」。
(ろ)一身を打ち委かせてたよるの義。〇〔惠洪〕「佛祖重二――一」。
〔屬命〕前の(ろ)に同じ。〇〔張華〕「群生―レ―、奄二有庶邦一」。
〔續命〕絕えなんとするいのちをつゞく。〇〔南〕「呼二其家一、曰二――田一」。
〔自命〕己れのことを己れにて謳歌すること。〇〔唐〕「英爽喜レ耆、以二風流一――」。
〔致命〕(い)天運のある限度まで力をつくす。〇〔易〕「君子以―レ―遂レ志」。

(ろ)いのちを君上にさしいだす、死を以て忠を君上に盡くす。○〔袁宏〕「慨然志在レ――」。
(改命)(い)在來の行爲をあらたむ。○〔左〕「――〔吉〕」。
(ろ)名をかふ。○〔左〕「――曰レ生」。
(請命)(い)或る官吏に申し付けられんことをねがふ。○〔五〕「譚光、獨以レ賊、詔二州一、――于京師一」。
(ろ)辭退ねがひをなす。○〔後漢〕「――乞レ身」。
(待命)君上、官府より沙汰のあるまで其の儀になしてまつ。○〔職〕「留レ之十日、而――也」。
(授命)いのちを投げ出して事を爲す。○〔論〕「見レ危――」。
(投命)前に同じ。○〔晉〕「誓念レ――以報レ所レ受」。
(聞命)御沙汰を承けたまはる。○〔班固〕「軼、斯之倫、衰周之凶人、既――矣」。
(承命)前に同じ。○〔左〕「苟列定矣、敢不レ――」。
(洩命)祕密なる君命を外の人に知らす。○〔左〕「――重刑、臣亦不レ爲」。
(藉命)申し付けによる。○〔左〕「所下以――寡君之――、結中二國之好上」。「君」。
(稟命)承命に同じ。○〔穀梁、註〕「臣當レ――于君」。
(辱命)官吏に任せられし時などに己れの身を卑下していふ語。○〔陳琳〕「昨恩加レ――」。
(專命)君上の意を受けずして己が氣儘に事を爲す。○〔史〕「稟レ命則不レ威、――則不レ孝」。
(延命)長生すること。○〔參同契〕「養レ性――」。
(捐命)いのちをすつ、死ぬる覺悟。○〔孫〕「願――二一旦之一」「――」。
(借命)死ぬることをきらふ。○〔後漢〕「――二邪レ盡之」。
(懸命)生死を顧みざること。○〔後漢〕「守レ塞候レ望、――二鋒鏑一」。
(出命)命をなげたす。○〔後漢〕「――之秋」。
(嚮命)いのちのあらん限りに力を盡くす。○〔吳〕「投レ刀――」。
(全命)無事に生活す。○〔後漢〕「不レ得二溫飽以――」。
(寄命)生命をうちまかす。○〔劉峻〕「流二離大海之南一、――二瘴癘之地一」。
(竭命)オカのあらん限り事を執る。○〔隋〕「自以二荷レ恩深重一、懷二――之志一」。
(乞命)死罪に定まりしものたすからんを乞ふ。○〔北〕「殿下以二臣侍講日久一、哀レ臣――耳」。
(塞命)申し付けられたることを行ひすます。○〔宋〕「比屬尋塞、亡以――」。

(丐命)いのちのたすからんことをねがふ。○〔宋〕「賊呼――、飛令勿レ殺」。
(安命)天の賦與したる分に安んじて分外の事をなさず。○〔鮑照〕「任レ性樂レ道――」。
(輕命)いのちを大事と思はぬ。○〔曹植〕「重レ氣――」。
(矯命)いつはりて君上より出づる命令となす。○〔陳琳〕「操又――稱レ制」。
(芟命)いのちを短くす。○〔吳越春秋〕「操鋒履レ刃、――投レ死者、士之所レ重也」。
(樂命)安命に同じ。○〔李白〕「男兒百年且レ――」。
(不辱君命)主君の旨を承け使者となりて能く其の職を全うすることにいふ語、主君の申し付けに恥辱を來たさぬ義。○〔論〕「使二於四方一、――二――一」。

〔命〕ピン、ミン。眉辛切 [眞]
おほせ、まうしつけ。○〔詩〕「保有――レ之、自レ天申レ之」。

〔呾〕タツ、タチ。當割切 [曷]
㊀叱かる、(呵)。○〔韓愈〕「不肖者之――也」。
㊁相呼ぶ聲にいふ字。

〔呾〕アツ、エチ。乙鎋切　タツ、テチ。暵軋切 [黠]
㊀前條の㊀に同じ。
㊁語正しからず、言ひそこなふ。

〔呿〕カ、ケ。丘加切 [麻]　キョ、コ。丘於切 [魚]　丘據切 [語]　エフ、オフ。於業切 [葉]
口を張る、はる、あく。○〔莊〕「公孫龍口――而不レ合」。

〔呿〕ケフ、コフ。乞業切 [葉]
寢臥してなす息、ねいき、いびき。

〔咀〕ショ、ソ。慈呂切 [語]
咬決す、含味す、商量斟酌す、かみわく、あぢはふ、かむ、くらふ、かんがへはかる。○〔韓愈〕「含レ英――レ華」。
(吟咀)詩文などを讀みては、又、讀みなどしつゝ其の義を考ふることにいふ語。○〔景龍文館記〕「循環――、賞歎彌懷」。「含嚼瓊華一」。
(噍咀)くらふ、かむ。○〔司馬相如〕「――芝英一」。
(涵咀)よく味はふ。○〔陸龜蒙〕「每レ――二義味一、獨坐二日昃一」。
(吹咀)清樂のこと。○〔梅堯臣〕「刀几爲二――一」。

〔咀〕ショ、ソ。子與切 [御]
藥を修むること。

〔咂〕サフ、ソフ。子答切 [合]
口に入る、かむ、くらふ。

〔咄〕トツ、トチ。當沒切 [月]
㊀叱かる、(訶)、叱たうち、(吒)。○〔戰〕「恣睢奮撃、呴籍叱――、則徒隸之人至矣」。
㊁叱かる聲にいふ字、叱たうちの聲にいふ字。○〔漢〕「朔笑レ之曰、――」。
㊂呼びかくる聲にいふ字、相謂ふ聲にいふ字、やあ。○〔漢〕「――、少卿良苦」。
㊃驚き怪む聲にいふ字、呰き語る聲にいふ字。○〔晉〕「爲レ客作二豆粥一、――嗟便辦」。
(咄々)(い)意外なるに驚きて發する語。○〔後漢〕「帝卽二臥所一、撫二光腹一曰、――、子陵不レ可二相助爲一理耶」。(ろ)驚歎の意を寓して句調を助くるに用ふる語。○〔宣和書譜〕「故已――逼之矣」。
(訶咄)叱かる。○〔陸龜蒙〕「安能致二――一」。
(樂嗟苦咄)何事にても開鬱ならざることにいふ語。○〔鶡冠子〕「――――、則徒隸之人至矣」。

〔[illegible]〕ジヤ、ニヤ。人者切 [馬]
本、喏に作る、應ふる聲にいふ字、こたふ。

〔咅〕トウ、ツ。他豆切 [宥]　ホウ、フ。普后切 [有]
㊀あざける、わらふ、(嗤)。
㊁つばき、つばきす、(唾)。

〔咆〕ハウ、ベウ。薄交切 [肴]
㊀烈しく叫ぶ、怒り叫ぶ、ほゆ、特に熊虎などの叫ぶにいふ。○〔淮〕「虎豹襲レ穴而不レ敢――」。
㊁威強く怒れる貌にいふ字、いかる、たけし。○〔潘岳〕「何猛氣之――勃」。
㊂魚に通じ用ふ、のむ。○〔左思〕「吞滅――咻」。
(鳴咆)なきほゆ。○〔林邑記〕「――命儔」。
(咾咆)ほゆ。○〔輟耕錄〕「忽一虎來、踞二洞口一――怒說」。

〔咆〕ハウ、ベウ。皮教切 [效]
前條の㊀に同じ。

〔咇〕ヒツ、ビチ。毘必切 [質]
㊀かうばし、かをり、(芳香)。○〔司馬相如〕「晻薆――勃」。
㊁叱に同じ、なく。
㊂言明かならず。
㊃多言なり、ことばおほし、かまびすし。

〔咇〕ヘツ、ベチ。蒲結切 [屑]
㊀かたる、(語)。
㊁前條の㊁に同じ。

〔咇〕ヒ、ビ。毘至切 [寘]
哀み鳴く、なく。

〔咈〕フツ、ホチ。符勿切 [物]　ヒツ、ビチ。薄宓切 [質]
㊀もとる、(戾)、たがふ、(違)。○〔書〕「――二其耇長舊有位人一」。

㊁いな、（否）。○〔書〕「吁ー哉」。

【咈】 ハイ、バイ。歩昧切　隊

馬を牽きとむ、とゞむ。

【咉】 アウ。烏郎切　陽

一に𠯗に作る、膺答の聲。

【映】 アウ　烏朗切　養

むせぶ、（咽）、かなしむ、（悲）、塞がりて通ぜず、ふさがる。○〔左思〕「泉-流迸集而ーー咽」。

【咊】 古文の和の字。

【咋】 サク、シヤク。側格切　陌

㊀大いなる聲、おほごゑ、又、聲大いにして外に漏る、うなる。○〔周、註〕「ーーー然」。
㊁聲多し、大いに呼ぶ、かまびすし、さけぶ。○〔韓愈〕「王坐二南-方北-向落二其角-距一、賊死ーー不レ能レ入二寸-尺一」。
㊂くらふ、（啖）、かむ、（嚙）。○〔漢〕「孤-豚之ーレ虎」。

〔讙咋〕大聲を發す、又、かまびすし。○〔劉峻〕「譊-々ーー、異-端斯起」。
〔喧咋〕前に同じ。○〔李翰〕「躪二ーーー之辭一、逓レ袂並-驅者、効二趨-走之技一」。「嚙レ肌碎レ骨」。
〔齗咋〕かみくらふ、かみつく。○〔淮〕「ーーー足二以一ーー而齧齗」。
〔嘆咋〕前に同じ。○〔傅休奕〕「或ーーー而齧齗」。
〔嗾咋〕前に同じ。○〔韓愈〕「與レ汝恣二ーー一」。

【咋】 サ、ゼ。助駕切　禡

語る聲、一說に、しばらく、（暫）。○〔左〕「桓-子ー謂二林-楚一曰、而先皆季-氏之良也」。

【和】 クワ、ワ。戸戈切　歌

㊀やはらぐ。
（い）かなふ、（諧）。○〔國〕「樂從レー」。
（ろ）とゝのふ、（調）。○〔呂氏春秋〕「夔能ーレ之」。
（は）したがふ、（順）。○〔淮〕「治而不レ能レーレ下」。
（に）たひらぐ、たひらか、（平）。○〔山海經〕「鳳-鳥見則天-下ー」。
（ほ）むつぶ、むつまじ、（睦）。○〔國〕「言レ惡必及レー」。「且孺」。
（へ）あふ、あはす、（會）。○〔詩〕「ーー樂且孺」。
（と）ひとし、ひとしくす、（齊）。○〔呂氏春秋〕「無レ致レー」。
（ち）おなじ、おなじくす、（同）。○〔素問〕「ー二於陰-陽一」。
（り）争はず。○〔論〕「ー而不レ同」。
（ぬ）自得す。○〔淮〕「不レ足三以滑二其ー一」。
（る）交易す。○〔管〕「而萬-人之所二ー而利一也」。
（を）剛柔相適す。○〔周〕「知、仁、聖、義、忠、ー」。
（わ）可否相濟す。○〔詩〕「終ー且平」。
㊁仇怨を解きて交誼を結ぶと、なかなほり、わぼく、たひらぎ。○〔戰〕「割レ地求レー」。
㊂行爲の宜しき節度（ほど）にかなふと。○〔中〕「發而中レ節謂二之ー一」。
㊃宜しき節度にかなふ行爲、至正太中の道。○〔中〕「ー者天-下之達-道也」。
㊄萬物の元氣。○〔淮〕「此皆生二一父-母一而閱二一ーー一」。
㊅身心の精氣。○〔後漢〕「嗇レ神養レー」。
㊆陰陽の順氣。○〔荀〕「性之ー所レ生」。
㊇春暖の時氣。○〔史〕「陽ー方起」。
㊈時氣やはらぐ、のどか、のどけし、うらゝけし、あたゝかし。○〔漢〕「方二春ー之時一、草-木羣-生之物、皆有二以自樂一」。
㊉車の軾に懸くる鈴、すゞ。○〔詩〕「ーー鸞雝-々」。
⑪小さき笙。○〔爾、註〕「ー十三-簧」。
⑫陣營の正門、ぢんやのいりぐち、軍門。○〔戰〕「與レ秦交ー而舍」。

〔雲和〕（い）琴の名。○〔周〕「孤-竹之管、ーー之琴-瑟」。
（ろ）雲和より製出せる琴瑟。○〔王昌齡〕「斜抱二ーー一深見レ月」。
〔太和〕（い）身心の精氣、萬物の元氣、又、至正太中の道。○〔易〕「各正二性-命一、保二合ーー一」。
（ろ）はなはだやはらぐ。○〔荘〕「調二-理四-時一、ーー二萬-物一」。
〔養和〕（い）身心の精氣をやしなふと、事物のために精神をみだらしめざると。○〔後漢〕「嗇レ神ーレ、不下以二榮-利一滑中其生-術上」。
（ろ）背後におきて身體をもたせかくる具、よりかゝり。○〔松陵集〕「皮-日-休以二五-物一送二魏不-琢一、有二烏-龍ーー桐-燧ーー一」。
〔修和〕政化をとゝのへさめて天下をやはらぐ。○〔書〕「ー二ー我有-夏一」。
〔合和〕やはらぐ。○〔後漢〕「四-海ーー、萬-世蒙レ福」。
〔人和〕ひとぐゝのやはらぐと、人心の一致。○〔孟〕「地利不レ如二ーー一」。
〔共和〕合議して政事を執ると。○〔史〕「周-公召-公二相行レ政、號曰二ーー一」。
〔隨和〕（い）古昔、隨侯の所有せし珠と和氏の璧との稱、其の當時に有名なる寶器。○〔溫庭筠〕「効レ珍者先韜二ーー一」。
（ろ）轉じて、すぐれたる材德の義に借りいふ語。○〔漢〕「材懷二ーー一」。
〔淸和〕（い）きよらかにしてやはらげると。○〔晉〕「ーー思レ理、留二心文-藝一」。
（ろ）のどかなり、うらゝけし。○〔魏文帝〕「天ーーー而溫-潤」。
（は）春の時節。○〔謝靈運〕「首-夏猶二ーー一」。
（に）陰曆の四月一日。○〔劉〕「四-月朔、爲二ーー節一」。
〔沖和〕（い）やはらぎたると、おだやかなると、しとやかなると。○〔晉〕「神-氣ーーー、而不レ知二向-人所一レ在」。
（ろ）元氣、精氣。○〔夏侯湛〕「呼二-吸ーー一、吐レ故納レ新」。
〔中和〕（い）物事の過不及なくして最も宜しきにかなふと、無上の達道。○〔中〕「致二ーー一、天-地位焉、萬-物育焉」。
（ろ）樂の名。○〔漢〕「王褒頌二漢德一、作二ーー樂一」。
（は）陰曆の二月一日。○〔舊唐〕「詔以二二-月一-日一、爲二ーー之節一」。
〔元和〕（い）最もやはらぎてあると、又、元氣、精氣。○〔舊唐〕「體二ーー之氣一、根二貞-一之德一」。
（ろ）唐の憲宗の元和年中、當時の詩人、元稹、白居易の二人、最も詩に名ありて、其の詩、卑近細俗に陷るの弊なきにあらざるも、流暢平易にして詩張牽强の態なく、情致曲に盡くし、讀者明かに其の意を解するとを得るより、人々傳誦して天下を風靡せり、其の詩體を名づけて元和體といふ。○〔白居易〕「詩到二ーー一體變-新」。
〔盜和〕自己の生命を私すると。○〔列〕「ー二陰-陽之ー一、以成二若生一、載二若形一」。
〔委和〕自然に出來たると。○〔荘〕「生非二汝有一、是天-地之ーー也」。
〔滑和〕やはらぐ。○〔荘〕「不レ足二以ーー一」。
〔微和〕すこしくあたゝかし。○〔陶潛〕「春風扇二ーー一」。
〔同和〕一致す、やはらぐ。○〔徐陵〕「三靈允降、萬-國ーー」。
〔協和〕やはらぐ、かなふ。○〔書〕「ー二ー萬-邦一」。
〔柔和〕やさしきと、おだやかなると。○〔史〕「報二吾馬ーー一」。
〔敦和〕輕薄ならずしてやはらぎてあると、又、六いにやはらぐ、又、やはらぐとをあつくす、やはらぐとをつとむ。○〔禮〕「樂者ーレー、率レ神而從レ天」。
〔燭和〕やはらぐ。○〔荘〕「無レ所レ甚-親一、無レ所二甚疎一、抱レ德ーレー、以順二天下一」。
〔妍和〕あたゝかなり、のどかなり。○〔張九齡〕「春盡却ーー」。
〔卞和〕古昔、寶玉を所持せし人の名、轉じて稀有の寶玉に借りいふ語。○〔元稹〕「圭-璧無二ーー一」。
〔諧和〕かなふ、やはらぐ。○〔周〕「掌下司二萬-民之難一、而ー中ー之上」。
〔膠和〕にかはもて合はす、太だ一致してあるとにもいふ語。○〔韓詩外傳〕「ー-漆之ー」。
〔惠和〕（い）やはらぐ。○〔左〕「文-王ーー」。

(ろ)あたゝかし。○(范成大)「春風ーー如二主人一」。
(休和)やはらぐ。○(左)「若能ーー、遠人將レ至」。
(慈和)(い)君上は能く臣下をいつくしみ、臣下はよく一致すること。○(左)「上下ーー」。
(ろ)なさけ深くしてやはらかなること。○(晉)「性退讓ーー」。
(平和)(い)治安なること。○(晉)「七曜由二乎天衢一、則天下ーー」。
(ろ)やはらぐ。○(晉)「性ーー」。
(參和)(い)人を愼むこと、正しきこと、直きことの三つを備ふるにいふ語。○(左)「恤レ民爲レ德、正レ直爲レ正、正レ曲爲レ直、ーー爲レ仁」。
(洽和)おつまじきこと。○(權德輿)「ーー二鼎實一」。
(ろ)まじへあはす。○(史)「親屬ーー」。
(連和)二つ以上の獨立せしもの、連合すること。○(史)「欲レ與ーー俱西一」。
(陽和)(い)あたゝかきこと。○(史)「時在二中春一、ーー方起一」。
(ろ)轉じて、春の時節にいふ語。○(舊唐)「今屬ーーー」。
(調和)(い)とゝのへやはらぐ。○(漢)「三公典レーー二陰陽一」。
(ろ)調子よく物事の行くこと。○(賈誼)「相應而ーー」。
(燮和)(い)前の(い)に同じ。○(晉)「ーー二二氣一」。
(ろ)陰陽を調和するは宰相の職責なりといふより、轉じて、宰相の職に借り用ふる語。○(姚合)「ーー皆達識」。
(温和)(い)おだやかなり。○(宋)「性ーー、頗能延二譽時儁一」。
(ろ)あたゝかし。○(漢)「地ーー田美」。
(安和)(い)前の(い)に同じ。○(漢)「爲レ人ーー、備二于諸事一」。
(ろ)前の(ろ)に同じ。○(十洲記)「天氣ーー、芝草常生」。
(衆和)(い)多人數の者の一致してあること。○(後漢)「ーー師克」。
(ろ)もろ／＼のもの、よりて生產すること。○(鹽鐵論)「含二ーー之氣一、生二育萬物一」。
(雍和)温和に同じ。○(後漢)「ーー終レ日」。
(淳和)あつくやはらぎてあること。○(後漢)「ーー達レ理」。
(純和)(い)すなほにしておだやかなり。○(晉)「性ーー美二姿容一」。
(ろ)まじりけなき天地の精氣。○(魏)「文帝含二乾坤之ーー一」。
(は)いさゝか寒氣のなくしてあたゝかなること。○(曹植)「夏節ーー」。
(讓和)人にへり下りておだやかなること。○(宋)「ーー不二與レ物競一」。

([illegible]和)をさめて秩序を正しくす。○(晉)「ーー二政道一」。
(撫和)なでやはらぐ。○(晉)「ーー二百姓一、甚得二歡心一」。
(貞和)終始かはらずしておだやかなること。○(晉)「恭順ーー、甚有二婦德一」。
(通和)人情をよく會得して人に對するにおだやかなること。○(晉)「ーー温雅、家人不レ見二喜怒之色一」。
(寧和)やすくやはらぎてあること。○(齊)「市朝寧逸、中外ーー」。
(緝和)をさめやはらぐ。○(夏侯湛)「ーー二我七子一、訓二諸我五妹一」。
(保和)志を他に馳せざることにいふ語。○(白居易)「知レ足ーー」。
(函和)やはらぐ。○(魏)「天地ーー、日月光曜」。
(暄和)のどかなり、あたゝかし。○(宋)「春氣ーー、萬物暢茂」。
(講和)彼れ此れ兩國の間隙を止どめんことを介議すること。○(唐)「ーレー以休息」。
(燕和)(い)打ちくつろぐ。○(唐)「重城深宮、ーー而居」。
(ろ)のどかなり。○(宋)「天容澄鑑、景氣ーー」。
(舒和)ゆるやかにしてやはらぐ。○(歐陽修)「得二其ーー高暢之節一」。
(靜和)心志づかにしておだやかなり。○(鬼谷子)「ーー者養レ氣」。
(歡和)よろこびやはらぐ。○(馮衍)「思レ享二ーーー」。
(蹈和)行も心もすべてやはらぐことにいふ語。○(曹植)「ーレー履レ貞」。
(紹和)あきらかにしてやはらぐ。○(王粲)「表レ聲ーー」。
(閑和)志づかなること。○(陶潛)「始妙密以ーー」。
(幽和)前に同じ。○(鮑照)「雲表ーー」。
(垂和)佛家にて教訓することにいふ語。○(王筠)「仰承二ーー一」。
(沛和)あたゝかし、のどかなり。○(隋)「ーー猶レ春」。
(渾和)なごくやはらぐ。○(元結)「心混々兮意ーー」。
(沖和)おちつきておだやかなること。○(常袞)「氣識ーー、風儀端偉」。
(浹和)彼れも此れも共に仲善くなる。○(韓愈)「人吏ーー」。
(日和)日光のうらゝかなること。○(歐陽修)「風恬ーー」。
(晴和)はれてのどかなること。○(白居易)「ーー日出レ天」。
(同而不和)徒黨しながら打ち解けておつまじくならず。○(論)「小人ーーーー」。
(以和致和)一國內の人々のやはらぎてあることに應じて自然に豐年などの幸福の到來すること。○(漢)「始自レ天降、此皆ーレーーレー、獲二天助一也」。
(執中含和)人世の無上の達道を心に持ち身に行ふことにいふ語。○(淮)「聖人ーレーーレー、不レ下二廟堂一、而德行二于四海一」。

和　クワ、ワ。胡臥切　箇

㊀こたふ。
(い)他の發する聲に應じて聲を發す、又、他の歌ふに繼ぎて歌ふ。○(易)「鳴鶴在レ陰、其子ーレ之」。
(ろ)他の詩作の韻によりて作詩す。○(白居易)「詩成遣二誰ーー一」。
(は)返答す、いらふ。○(列)「主ーレ之」。
㊁ある事に見傚ひて同一なる事を爲す、まねす。○(漢)「小大鄕レー、承レ風從レ化」。
㊂調合す、分齊す、まぜあはす、まじふ、まづ、とゝのふ。○(黄庭堅)「別蒸二百種一、煩二烹ーー一」。
(倡和)倡或は一に唱に作る、彼れとなへ此れこたふ。○(詩)「ーレ予ーレ女」。
(應和)互にこたへあふ。○(史)「取レ酒張二坐飲一、亦歌呼與相ーー」。
(酬和)前に同じ。○(晉)「以二常詞一ーー」。
(繼和)つぎこたふ。○(白居易)「又以二近作一命二僕ーー一」。
(屬和)つぎて歌ふ。○(宋玉)「國中ー而ー者數千人」。
(隨和)またがひ見傚ふ。○(劉克莊)「雖二浮名虚譽一世所レ崇、不レ肯ーー一」。
(賡和)こたふ。○(段成巳)「有レ酒相獻酬、有レ詩互ーー」。
(影咊)見傚ひて同じ事を爲す。○(唐)「一二好惡一相ーー、朋黨益熾」。
(遍和)前に同じ、まねす。○(漢)「ーー承レ意」。
(甘受咊)あまきものは如何なる味ひに調ふることをよくす、轉じて、性質の善良なる者は道に進むことを得るに借りいふ語。○(禮)「ーーーレー、白受レ采、忠信之人可二以學一レ禮」。
(齊和)(劑和)分量をはかりてとゝのふ。○(鹽鐵論)「雜二其ーー一」。
(煎和)煮て味ひをとゝのふること。○(周)「割亨ーー」。

咊　クワ、ワ。戶戈切　歌　胡臥切　箇

小兒の啼き聲にいふ字。

咍　カイ。呼來切　灰

㊀わらふ、又、わらひ。○(左思)「東吳王孫輾然而ー」。
㊁よろこび、よろこぶ、(悅)、又、たのしみ、たのしむ、(樂)。○(韓愈)「笑言溢レ口何歡ーー」。
㊂あざける、あざけり、(嘲)。○(杜甫)「任レ受二衆人ーー一」。
(咍々)わらひたのしむ貌にいふ字。○(皇甫湜)「昔民嗷々、今民ーー」。

咎　キウ、其九切　有

(說文)从レ人、从レ各、各者相違也。

㊀仇と思ふ、忌み嫌ふ、にくむ、とがむ、(惡)。○(書序)「殷始ーレ周」。
㊁とがめ。
(い)惡むこと、とがむること、にくみ。○(左)「小人之言、僭而無レ徵、故怨ー及レ之」。
(ろ)惡むべきこと、とがむべきこと、あやまち、(罪過)。○(詩)「寧適不レ來、微二我有レー」。
(は)疾病、其の他總べての災難にいふ字、わざはひ、天より其の人ににくみとがむるより斯かる災難を降すの意。○(書)「天降二之ー一」。
㊂古文、皐に通じ用ふ。○(荀)「晉之ー犯」。
(休咎)よろこびとわざはひと。○(北)「積善餘慶、積惡餘殃、豈非二ーー一耶」。
(歸咎)非のもの、行爲よりして斯かる事變の出來たるものとしてとがむること。○(左)「禁レ所レーー」。
(引咎)とがめを己れの身に引き受く。○(吳)「擁ーレー責レ躬」。

〔譴咎〕 譴れをかとがめん、とがめん人もなし。○〔易〕「出門同人、又——也」。 「—二」。
〔罪咎〕 あやまち、又、災難。○〔書、傳〕「非我—」。
〔棄咎〕 とがめをすつ、行を改めて善に移るの義。○〔後漢〕「諸以前妖惡禁錮者、一皆蠲除之、以明—之路」。 「—必至」。
〔殃咎〕 わざわひ、あやまち。○〔左〕「哀樂失時、—」。
〔怨咎〕 前に同じ。○〔戰〕「蒙——、欺舊交」。
〔悔咎〕 前に同じ。○〔歐陽修〕「肅將王命、守靜翳光、以遠——而已」。
〔凶咎〕 前に同じ。○〔後漢〕「事令宜則無——」。
〔災咎〕 前に同じ。○〔後漢〕「深悼——」。
〔纍咎〕 前に同じ。○〔南〕紲馬之身、通罹——」。
〔譴咎〕 前に同じ。○〔北〕「歷事五帝、出入三省五十餘年、初無——」。
〔訾咎〕 前に同じ。○〔唐〕「實不副則——深」。
〔愆咎〕 前に同じ。○〔道德指歸〕「物類託之無有——」。
〔謫咎〕 前に同じ。○〔後漢〕「———速見」。
〔後咎〕 後日の災難。○〔戰〕「公今言破趙太易、恐有——」。
〔念咎〕 あやまちを注意して再びせざらんとす。○〔後漢〕「思過—」。
〔消咎〕 わざはひ消えやむ。○〔後漢〕「今方念慾應—厥—」。
〔遺咎〕 其の人の行爲より後日まで災難のあること。○〔後漢〕「要君致釁、自—其—」。
〔寡咎〕 わざはひのなきやうにす。○〔後漢〕「庶令微臣——免悔」。
〔任咎〕 わざはひを己れの一身に引き受く。○〔宋〕「推所從來、則必有—其—者矣」。
〔降咎〕 天災地變あることにいふ、天よりわざはひをくだすの義。○〔白帖〕「——垂誡」。
〔陷咎〕 わざはひにおちいる。○〔忠經〕「小人不常所以自—其—」。
〔憂咎〕 うれひわざはひ。○〔董仲舒〕「民被害、爲漏主——」。 「久必畏——」。
〔天咎〕 天變地異などにいふ。○〔揚雄〕「有國雖—」。
〔督咎〕 過失をたゞす。○〔諸葛亮〕「請自貶三等—厥—」。 「—歸士」。
〔謝咎〕 過失ありしわびごとをなす。○〔陳琳〕「—」。
〔禦咎〕 わざはひ。○〔潘岳〕「——彌消」。
〔招咎〕 己れの行ひによりてわざはひの來るやうになる。○〔張說〕「盧則——」。
〔速咎〕 前に同じ。○〔姚崇〕「無掉弄舌、以——」。
〔察咎〕 過失の原因を探くり極はむ。○〔梁武帝〕「原情——、或有可矜」。
〔譴神咎〕 神明の存在若しくは靈威あるに之を駁擊せるより受けし災難、俗にいふ、神のばち。○〔後漢〕「遂被卒死、蓋亦——之—也」。
〔追咎〕 其の事の濟み果てし後に至りてとがめ立てをすること。○〔王羲之〕「——往事、亦何所復及」。
〔盈滿咎〕 物事の十分に揃ひ調ふときは却りて災難を生ず。○〔後漢〕「吾門戸殖財日久、——之—、道家所忌」。
〔灰滅咎〕 盡く殺戮せらる、災難。○〔後漢〕「身首被梟懸之誅、妻孥受——之—」。
〔旣往不咎〕 過ぎ去りて濟み果てし事柄はとがめ立てをせぬ。○〔論〕「成事不說、————」。

【咏】 エイ、ヤウ。爲命切 敬

詠に同じ、うたふ、又、うた。○〔漢〕「彈琴其中、以—先王之風」。

【呴】 コウ、ク。呼公切 東

大いなる聲、おほごゑ。○〔荀〕「以爲——」。

【咐】 フ、ボ。奉蒲切 虞

息を吹く、ふく、(噓)。○〔淮〕「相嘔—醞釀、而成育群生」。

【呰】 シュツ、シュチ。赤律切 質

人を喚ぶ聲、又、よふ。

【哼】 アン。羊甘切 覃

羊鳴く、なく、又、其の聲にいふ字。

【咖】 カウ、ゴウ。胡刀切 豪

熊又は虎の如き猛獸の聲を發するにいふ字、ほゆ。

【呼】 アク。影霍切 藥 —呼の字とは異なり。

呵りて拒絕す、ふせぐ、こばむ。

六畫

【哯】

哯に同じ。

【咠】 シフ。七入切 イフ。一入切 緝

㊀耳に附きて語る、又、口舌の間にのみ聞こゆる小さき聲をなす、さゝやく。
㊁譖言す、志こづる。

【咡】 ジ、ニ。仍吏切 寘 人之切 支

くちさき、(口吻)、くちもと、(口旁)、一說に、口と耳との間。○〔禮〕「負劍辟—詔之」。

【咢】 ガク。五各切 藥

㊀おどろく、(驚)。○〔馬祖常〕「湛露與徒—」。
㊁歌はずして徒に鼓を擊つ、つゞみうつ。○〔詩〕「或歌或—」。
㊂おごそかにして高き貌にいふ字。○〔張衡〕「冠——其映蓋」。
㊃諤に通じ用ふ、言を直うして言ひ爭ふ、あらそふ。○〔漢〕「———黃髮」。
㊄鍔に同じ、つば。○〔漢〕「越砥斂其—」。

【咣】 クワウ。古橫切 庚

能くもの言ふ。

【哢】 グ、ゴ。五矩切 麌

笑ふけはひ見はるゝにいふ字、ほゝゑむ。

【咅】 トウ、ツ。多侯切 尤

かろ〳〵しく言ふ、くちかしまし。

【咤】 タ、デ。陟嫁切 禡

㊀吒に同じ。○〔禮〕「毋—食」。
㊁かなしむ、(悲)。○〔蔡琰〕「怛——靡肝肺」。
㊂詫に通じ用ふ、ほこる、おごる。○〔後漢〕「轉相誇—」。
〔叱咤〕 怒りてしかる、怒氣現はれて大聲を發す、意氣捲き荒く舌打ちす。○〔史〕「項王喑啞——、千人皆廢」。
〔歎咤〕 (い)なげきいきどはる。○〔蜀〕「怨憤形于聲色、——之音發于五內」。 (ろ)なげき惜しむ。○〔語林〕「仰望七日、——而去」。
〔赫咤〕 怒る。○〔吳〕「賢良怨憤、智士——」。
〔恨咤〕 意の如くならざるを恨みて其の事の成らざるを惜しむ。○〔唐〕「挺之有狹、幸閒官得自養、帝——久之」。 「百萬」。
〔肆咤〕 わけもなくいかる。○〔列〕「——則徒卒」。
〔嚇咤〕 息を吐く、轉じて、意中を陳ぶるに借りいふ語。○〔李白〕「——從此興」。
〔悲咤〕 かなしむ。○〔杜甫〕「使入幾——」。
〔啞咤〕 愛らしき音調にいふ語。○〔蘇軾〕「——隔花聞好語」。

【咤】 タ、テ。陟加切 麻

【咤】 ト、ツ。都故切 遇 タク。逵各切 藥

前條の㊀に同じ。

【咥】 ケ。許既切 未 虛器切 寘 許羈切

鬼神に進め祭りし酒爵を地に置く、おく。○〔書〕「三祭三—」。

【咥】 チツ、チ。丑栗切 質 テツ、デチ。徒結切 屑 支

わらふ、(笑)、又、わらふ貌にいふ字、にこやかに。○〔詩〕「—其笑矣」。

【咥】シ。職吏切 [寘] テツ、徒結切 デチ。[屑] かむ、(齧)。○〔易〕「履ニ虎尾ニ、不レ一レ人」。

【咥】チ。陟利切 [寘] とゞまる、(止)。

【咦】イ、以之切 [支] タイ、直皆切 デイ。[佳] ㊀大いに呼ぶ、よぶ。㊁笑ふ貌にいふ字、又、わらふ。

【咧】レツ、レチ。力蘖切 [屑] 鳥の聲、又、さへづる。

【咨】シ。津夷切 [支] ㊀物事を相談す、善良の人士にたづぬ、はかる、(謀)、又、とふ、(問)。○〔書〕「一ニ十有二牧ニ」。㊁なげく、なげき、(嗟)。○〔書〕「浩々滔レ天、下民其一」。㊂歎息の聲、あゝ、あ。○〔書〕「一汝羲暨和」。㊃茲と同じ、これ、こゝに、(茲)。

〔怨咨〕うらみなげく。○〔書〕「夏暑雨、小民惟曰、一一」。

〔嗟咨〕なげく。○〔蘇軾〕「父老猶一一」。

〔訪咨〕とひはかる。○〔左〕「一ニ問于善ニ爲レ一」。

〔諏咨〕前に同じ。○〔國〕「文王一ニ于八虞ニ、而一ニ于二虢ニ」。

〔謀咨〕前に同じ。○〔曹植〕「仰ニ其聖ニ以一一」。

〔究咨〕詳細にとひきはむ。○〔柳宗元〕「是一是一、皇德既舒」。

〔嚌咨〕未練らしくとひこたへするにいふ語。○〔趙朴〕「一一肯復兒女如」。

〔仰咨〕己れの尊崇するところのものにはかるにいふ語。○〔陸雲〕「一一遺訓ニ」。

〔欽咨〕前に同じ。○〔顏延之〕「敬詢ニ故老ニ、一一ニ聖君ニ」。

〔悉咨〕彼れも此れも相談す。○〔諸葛亮〕「無ニ大小ニ一以一ニ之人ニ。「己一一ニ之人ニ。

〔博咨〕彼れにも此れにも相談す。○〔姚燧〕「不レ専

〔咨々〕なげく貌にいふ語。○〔韓愈〕「父母不ニ聲一々ニ、妻子不ニ一一ニ。

【𠯑】シ。資四切 [寘] 前條の㊂に同じ。○〔易〕「齎一涕洟」。

【咫】シ。諸氏切 [紙] ㊀尺度の名目、周の制にて八寸の長さ、(周にては人の體を尺度の基となす、婦人の手の長さ八寸なるを咫といふ)、後世に至りても同じく其の名目を通用す。○〔國〕「肅愼氏貢ニ楛矢石砮ニ、其長尺有一」。㊁轉じて、短き間の義に借り用ふる字。○〔國〕「吾不レ能レ行也、一聞則多矣」。

【咬】カウ、ケウ。居肴切 [肴] 鳥の聲、又、さへづる。○〔嵇康〕「一一黃鳥」。

【咬】アウ、エウ。於交切 [肴] ㊀淫猥なる聲、たはれごゑ、又、みだりがはし。「一一者」。㊁哀しむ聲、又、なげく。○〔莊〕「宎者

【咬】カウ、ケウ。吉巧切 [巧] こゑ、(聲)。

【咬】ガウ、ゲウ。五巧切 [巧] 齩に同じ、骨を嚙む、かむ。

【咳】カイ、ケ。許介切 [卦] 風の吹く聲。

【咭】キツ、キチ。巨吉切 [質] ㊀笑ふ貌にいふ字、又、わらふ。㊁本、款に作る、喜ぶ貌にいふ字、又、よろこぶ。

【咭】カツ、カチ。丘八切 [黠] 鼠の鳴く聲。

【咮】チウ、チユ。陟救切 [宥] トウ、ツ。都豆切 [宥] シユ、ス。朱戍切 [遇] 鍾輸切 [虞] くちばし、(喙)。○〔詩〕「維鵜在レ梁、不レ濡ニ其一ニ」。

【咮】チユ、ツ。中句切 [遇] 鳥の聲。

【咮】ジユ、ニユ。汝朱切 [虞] 嚅に同じ、多言なり、ことばおほし。

【咮】チウ、チユ。張流切 [尤] まがりたるくちばし、(曲喙)。

【哦】エイ。以制切 [霽] セツ、私列切 セチ。[屑] 呭に同じ。

【哦】セイ、ザイ。時制切 [霽] 詍に同じ、ことばおほし、(語多)。

【咎】トウ、ツ。丁侯切 [尤] 吺に同じ。

【咆】キ、ギ。居委切 [紙] いつはり許す、又、いつはり、(詭)。

【咻】シウ、シユ。舒救切 [宥] 鳥を趁ふ聲、又、おふ。

【咯】ラク。歷各切 [藥] いひあらそふ、(訟言)。

【咯】カク。剛鶴切 [藥] 雉の聲にいふ字

【响】シユツ、シユチ。朔律切 [質] のむ、(飮)。

【响】シユン、ジユン。須倫切 [眞] 詢に同じ、とふ。

【咱】サツ、子葛切 サチ。[曷] シヤ、茲沙切 ゼ。[麻] 自己の稱、われ、みづから。

【呴】コウ、ク。許后切 [有] ㊀厚く怒る、いかる、又、厚く怒れる聲。㊁吐かんと欲す、えづく、又、はく。

【呴】コウ、ク。呼漏切 [宥] はぢ、(耻辱)、又、そしり。○〔禮〕「皇々惟敬口生レ一」。

【咳】カイ、戸來切 ガイ。[灰] 古文には孩に作れり。㊀嬰兒の笑ふにいふ字、わらふ、ほゝゑむ。○〔史〕「一嬰之兒」。㊁非常なり、めづらし。○〔史〕「五色診奇一」。㊂該に同じ、かぬ。○〔晏子外篇〕「頸尾一ニ於天地ニ」。

【咳】カイ、ガイ。苦代切 [隊] 欬に同じ、しはぶき、せき。○〔禮〕「不ニ敢噦噫嚏一ニ」。

【咵】クワ、ケ。苦瓦切 [禡] 言戾る、もとる。

【咶】クワイ、ケ。火怪切 卦 クワツ、ゲチ。下刮切 黠 いき、鼻いき(息)。

【咶】クワ、ゲ。胡化切 禡 いふ、又、ことば(言)。

【咶】シ、ジ。善指切 紙 舐に同じ、ねぶる。〇〔管〕「十口之家、十人一レ鹽」。

【咷】タウ、徒刀切 豪 テウ。他弔切 ドウ。切 嘯 テキ、チヤク。亭歴切 錫 なく(泣)、さけぶ(叫)。〇〔易〕「先號一而後笑」。
〔嗷咷〕なく、さけぶ、又、楚にて小兒の泣きて止まざるにいふ語。〇〔漢〕「望二見延壽車一、一一嗷歌」。

【咧】セツ、セチ。山劣切 屑 一俗の唽の字。小しく飲む、すふ、又、なむ、嘗。

【咸】カン、ガン。胡監切 咸 ㊀易卦の名、☱☶ 兌上艮下。〇〔易〕「一亨利レ貞取レ女吉」。㊁感に同じ、氣相應じて動く、こたふ、うごく。〇〔易〕「初六一二其拇一」。㊂總べて、いづれも、彼れも此れも、みな(皆)、ことごとく(悉)。〇〔書〕「庶績一熙」。㊃おなじ(同)。〇〔左〕「周公弔二二叔不レ一」。㊄あまねし(徧)。〇〔莊〕「周、徧、一三者、異レ名同レ實、其指一也」。㊅はやし、又、すみやか(速)。〇〔易〕「一、速也」。㊆やはらぐ(和)。〇〔論衡〕「任レ氣卒一、「不レ揆二於人一」。㊇緘に同じ、とづ、又、棺を束ぬるに用ふる繩、ひつぎなは。〇〔禮〕「凡封二大夫士一以レ一」。㊈函に同じ、はこ。〇〔周〕「掌二國之大祭祀一、共二其杖一一」。㊉堯の時代に用ひし音樂の名、即ち、大咸、咸池。〇〔沈遼禪僧嚴詩〕「可レ參二韶一」。

【咸】カン、ケン。古斬切 豏 減に同じ、へる、又、へらす、(損)。

【咸】カン、ゴン。戸暗切 勘 あきたる、又、みつ(滿)。〇〔左〕「窕則不レ一」。

【咹】アツ、アチ。烏葛切 曷 ㊀ごもる、又、ごもり(吃)。㊁さゞめく、又、さゞめごと(小言)。㊂さゞまる、又、とゞむ(止)。

【咹】アン。於旰切 翰 聲止まる、聲止む。

【咯】ゲキ、ギヤク。宜戟切 陌 へどはく、はく(嘔)。

【喌】シユウ、シユ。之由切 尤 雛を呼ぶ聲にいふ字。

【咮】シユク。子六切 屋 ㊀或は、喌に作る、前に同じ、雛を呼ぶ聲にいふ字。㊁もと、喊に作る、なげく(歎)。

【咮】ヰク、チク。于六切 屋 行くを平易なり、やすし。

【咭】セキ、ジヤク。前歴切 錫 靜かにして聲なし、しづか、ひつそり。

【哢】ロウ、ル。力涷切 送 言語もていろいろにあやなす、あざけろ、なぶる、もてあそぶ(言哢)。

【咺】ケン、クワン。況晚切 阮 ㊀いたむ、かなしむ(痛)。㊁小兒の泣きて止まざるにいふ字、「く。㊂威儀容貌のいちじるしく人目に立つにいふ字、あきらか、いちじるし。㊃おそる(懼)。〇〔詩〕「赫兮一兮」。

【咺】ケン、クワン。許元切 元 ㊀おそる(懼)。㊁はかる(權)。㊂ゆるやかなり(汙緩)、又、其の人。〇〔列〕「墨尿單至單一、憋數四人相與遊二於世一」。

【咻】ク、ゴ。切況羽 麌 キウ、ク。切虛尤 尤 ㊀痛みを感じて聲を發す、いたむ、なげく。〇〔黃滔〕「夜半齊呀一」。㊁かまびすし、又、かまびすしくす(讙)。〇〔黃庭堅〕「衆口莫二能一一」。
〔咻々〕いたみなく。〇〔高適〕「旅雁悲一一」。
〔楚人咻〕孟子の語に由來して、世人のいろいろに言ひ囃すにいふ語。〇〔孟〕「一齊人傳レ之、衆一一一レ之」。

【咻】カウ、ケウ。虛交切 肴 烋に同じ。

【咻】ク、コ。呼句切 遇 呴に同じ、氣を以て溫かにす、あたゝむ。〇〔蘇軾〕「山川之所レ習、風氣所レ一」。
〔咻々〕氣の物をあた、むるにいふ語。〇〔揮麈淺抄〕「冢中有二大蟾蜍一、如二斗輪一氣一一然」。

【哼】ソン。粗本切 阮 大いなる口、又、口ひろし。

【咼】クワ、ケ。空媧切 麻 ㊀口もと正しからず、くちゆがむ。㊁もとる(斜戻)。㊂和に通じ用ふ。〇〔淮〕「一氏之璧」。

【咱】エツ、エチ。於列切 屑 怒れる貌にいふ字、又、いかる。

【啖】ゼン、チン。而剡切 琰 口の動く貌にいふ字、うごく。〇〔王延壽〕「嚼咀一一而囁唲」。

【咥】チ。丑知切 支 わらふ(笑)。

【咽】エン。烏前切 先 のんど(喉)、轉じし、物事の要所の義に借り用ふる字。〇〔戰〕「韓天下之一喉」。
〔下咽〕食らひし物ののんどを通りて腹中に入るにいふ語、又、食らふの義に借りいふ語。〇〔史〕「饕朮及レ一一、酒未レ及レ濡レ唇」。
〔搤咽〕のんどをしめつく、即ち、人の要事、又、他の要害などをしめつくるとに用ふる語。〇揚雄〕「西搤二彊秦之相一、一一二其一一而亢二其氣一」。
〔控咽〕前に同じ。〇周邦彥〕扼レ襟一レ一」。
〔琉璃咽〕音吐の朗々として出づる咽にいふ語。〇〔初學記〕「一一一、瑠璃舌」。

【咽】イン。於巾切 眞 ふし短く疊み掛けて打つ鼓の聲にいふ字。〇〔詩〕「鼓一一」。

【咽】エン。於甸切 [霰]

嚥に同じ、のむ、（呑）。○[孟]「三一然後耳有レ聞、目有レ見」。

（嚥咽）食ちひのむ。○[魏]「以ニ莚・藥一内ニ其口中ニ、令レ一ニ一之ニ」。

（含咽）ふくみのむ、轉じて、心に知りて言に出ださゞるに借りいふ語。○[風俗通義]「漢文帝忍ニ容言ニ、一ニ一臣子之短ニ」。

（呑咽）のみくらふ。○[愁說篇、註]「所ニ以一ニ一物一也」。

（乾咽）食欲の起こりてからつばきをのむ。○[東晳]「羹・糸・脊蒸・饗、立待者一レ一」。

【咽】エツ、エチ。烏結切 [屑]

㊀ふさがる、（塞）。○[新序]「雲・霞充一し、則奪ニ日・月之明ニ」。

㊁噎に同じ、むせび、又、むせぶ。

（い）悲しさ胸につかふ、泣く音喉にふさがる。○[岑參]「董賢氣一不レ能レ語」。

（ろ）總べて、聲の物に支へられてうらゝかなる音の發せざるにいふ字。○[漢]「隴・頭流・水鳴・聲幽一」。

（嗚咽）むせぶ、又、むせびなく。○[齊]「拜ニ受茅土ニ、流・涕一・一」。「不レ能レ言」。

（哽咽）前に同じ。○[劉琨]「揮レ手長相謝、一・一」。

（哀咽）前に同じ。○[陸雲]「言增ニ一・一ニ」。

（委咽）前に同じ。○[徐彥伯]「崩湍一・一日・夜流」。

（感咽）感動してむせびなく。○[任昉]「因便一・一「若レ不ニ自勝ニ」」。

（掩咽）顏を伏せてむせびなく。○[江淹]「深・酸舊・物、一ニ一故・臣ニ」。

（怨咽）うらむ心のからじてむせびなく。○[梁武帝]「一・一雙念・斷」。「一・一」。

（悽咽）かなしみむせぶ。○[歐陽修]「未レ語春・容先一・一」。

（悲咽）前に同じ。○[陳叔]「往々一・一嬾ニ胸・委ニ」。

（叫咽）むせぶ。○[殷陶]「水・聲一・一出ニ花溪ニ」。

（唱咽）むせぶ。○[陸龜蒙]「到レ口復一・一」。

（嬌咽）聲のこぶりてあいらしきにいふ語。○[周密]「流・鶯一・一」。

（嗔咽）こやくりなく。○[元稹]「啼・兒屢一・一」。

【咾】ラウ、ロウ。魯皓切 [皓]

こゑ、（聲）。

【咿】イ。於夷切 [支]

㊀強ひて笑ふ、つくりわらふ、又、つくりわらひ。○[韓愈]「跪進再・拜語・嗢一」。

㊁もの言ふ、聲を發す、かたる、（語）。○[陸游]「茅・屋聞ニ咿一一ニ」。

（喔咿）（い）つくりわらふ。○[屈平]「一一嚅・唲以事ニ婦・人ニ乎」。
（ろ）かたる。○[韓愈]「天・扉牢落雞一・一」。

（咿々）聲を發す。○[李賀]「女・垣素月・角一・一」。

（嚅咿）つくりわらふ。○[鍾嶸]「母笑不レ嗔還一・一」。

【哀】アイ。烏開切 [灰]

㊀歎かはし、傷はし、かなし。○[詩]「一・一父・母」。

㊁かなしく思ふ、かなしむ。○[詩]「一ニ我人一斯」。

㊂かなしみ。

（い）かなしむこと。○[管]「居同レ樂得、同レ利死同レ一」。

（ろ）己れに緣あるものゝ死によりて物忌みするを、喪中、其の死をかなしむの義。○[宋]「居レ一毀・滅、孝・道淳・至」。

㊃あはれむ。

（い）他人の事をかなしむ、ふびんに思ふ。○[韓愈]「如有レ力者一ニ其窮ニ而運ニ轉之ニ、蓋一・舉手一・投足之勞也」。

（ろ）恩を施す、愛す、いつくしむ、こたしむ。○[呂氏春秋]「人・主胡可ニ以不一務一ヒ士」。

（七哀）七通りのかなしむべきこと、即ち、痛みてかなしむ、義にからまれてかなしむ、感動してかなしむ、怨みてかなしむ、耳に聞き目に見るにつれてかなしむ、口つならしてかなしむ、言語にあらはしてかなしむ、魏、晉時代の詩人に七哀の詩を作りしもの多し。○[杜甫]「未レ許一・一詩」。

（佞哀）漢の王粲の南郊に到りて六いに哭せしときこれにつれて哭せしものは皆な郎の官となりしより長上に倣ひて其の氣に合はんとする者をいふに用ふる語。○[西征賦]「投ニ一・一以拜レ郎」。

（悲哀）かなしむ、又、かなしみ。○[韓偓]「子・山新賦劇一・一」。

（剩哀）其の事の濟み果てゝ後にても尙は名殘のかなしみあるにいふ語。○[李嶠]「莫レ聽西・秦奏、箏・々有ニ一・一ニ」。

（餘哀）前に同じ。○[杜甫]「何事有ニ一・一ニ」。

（矜哀）あはれむ。○[左]「一ニ一寡人ニ而賜ニ之盟ニ、則寡・人之願也」。

（含哀）かなしみを心に持するにいふ語。○[琴賦]「傷レ心一レ一、懊・咿不レ能ニ自禁ニ」。

（茹哀）前に同じ。○[梁簡文帝]「咀レ痛一レ一」。

（吐哀）音樂などにてかなしき音のするにいふ語。○[江淹]「一レ一也則瓌・瑕失レ彩」。

（凄哀）ものすごくかなし。○[劉妙容]「歌宛・轉宛・轉一以一」。

（易樂多哀）たのしみやすきものはかなしむこともおほし、心のかろがろしきゆゑの義。○[中說]「一レ一者必一レ一、輕レ施者必好レ奪」。

【哀】エ。於希切 [微]

かなし、かなしむ、かなしみ。○[詩]「山有ニ蕨・薇一、隰有ニ杞・桋一、君・子作レ歌、維以告レ一」。

【品】ヒン、ホン。丕飲切 [寢] [說文]「从ニ三口一、人三爲レ衆、故從ニ三口ニ」。

㊀こな。

（い）衆庶の物、もろもろ、もの。○[易]「一・物流レ形」。

（ろ）物の種類、又、件數、たぐひ、かず、いろ。○[書]「厥貢惟金三一」。

（は）物の性質、又、態度、たち、かたち。○[後漢]「情一萬・區、質・文異レ數」。

（に）尊卑の差ひ、高下優劣の分かち、總べての階位、等級、區別。○[書]「五一不レ遜」。

（ほ）儀式、法度、のり。○[漢]「叔・孫・通遁レ秦歸レ漢、制・作儀一ニ」。

㊁物の種類、件數を分かち、又、性質、態度を評し、又、階位、等級、區別を設くるなどにいふ字、はかる、こなさだめ。○[禮]「一ニ節斯ニ之謂レ禮」。

㊂ひとし、又、ひとしくす、（齊）。○[國]「一ニ其百・籩ニ」。

㊃おなじ、又、おなじくす、（同）。○[漢]「百・里爲レ一」。

（千品）（い）多くの位階。○[國]「天・子有ニ一・一萬・官ニ」。
（ろ）いろいろの物かず。○[漢]「庭實一・一」。

（程品）規則、のり。○[漢]「天下作ニ一・一ニ」。

（上品）人にては貴人、物にては逸物、すべてまさりてあるもの。（下品）人にては卑賤、物にては劣物、すべておとりてあるもの。○[晉]「上品無ニ寒・門ニ、下・品無ニ勢・族ニ」。

（神品）最もすぐれたるこな。（能品）出來はへのよきこな。

（妙品）すぐれたるこな、又、其の物。○[輟耕錄]「氣・韻生動出ニ於天・成ニ、人莫ニ窺ニ其巧ニ者上、謂ニ之神・品ニ、筆・墨超・絕、傳・染得レ宜、謂ニ之妙・品ニ、得ニ其形・似ニ而不レ失ニ規・矩ニ者、謂ニ之能・品ニ」。

（殊品）（い）妙品に同じ。○[曹植]「麗・草交・植、一・一詭・類」。
（ろ）階段を異にす。○[隋]「賢・聖一レ一、殊・芳異レ姿」。

（逸品）前の（い）に同じ。○[梁]「蓉登ニ一・一ニ」。

（名品）前に同じ。○[隋]「取ニ官・曹一・一之書ニ、搜而錄レ之」。

（精品）擇び拔きたるこな。○[晉史]「故所レ收者一・一也」。「推・安・國ニ」。

（奇品）めづらしきこな。○[司馬光]「一・城一・一」。

（鹽品）前に同じ。○[江淹]「藥寶一・一」。

（異品）前に同じ。○[江淹]「應ニ四海之一・一ニ」。

（鴻品）立派なるこな。○[江淹]「一・一清・飾」。

（差品）差別、等級、たがひ。○[漢]「各有ニ一・一ニ」。

（科品）前に同じ。○[後漢]「各有ニ一・一ニ」。

（條品）前に同じ。○[論衡]「五・曹自有ニ一・一ニ」。

（區品）前に同じ。○[後漢]「陰・陽物・類之一・一」。

（資品）其のもの、性質。○[陸機]「謹條ニ一・一ニ、乞蒙ニ簡・察ニ」。

（門品）家の階級、門地。○[魏]「若欲レ爲レ治、陛・下今・日何・爲專崇ニ一・一ニ、不レ有ニ拔レ才之詔ニ」。

〔班品〕くらゐ。○〔周〕「官員――、嗜レ意變革」。
〔清品〕よき官位。○〔魏〕「排ニ抑武人一、不レ使レ預ニ在――一」。
〔華品〕前に同じ。○〔宋〕「載ニ秩――一」。
〔栄品〕前に同じ。○〔易林〕「子孫――」。
〔極品〕最もよき官位。○〔宋〕「遂爲ニ内臣之――一」。
〔轉品〕官をかふること。○〔宋〕「如遇ニ――一、許ニ更蔭ニ一子一」。
〔題品〕高下優劣す、判定す、ゑな定め。○〔宋〕「當時文士成輸ニ其―――一」。
〔甄品〕前に同じ。○〔唐〕「雖レ有ニ所ニ推進一、而之ニ――一」。
〔評品〕前に同じ。○〔元〕「平居未ニ嘗――ニ人・物一」。
〔目品〕たぐひ。○〔筆記〕「劉夔得ニ巧于用事一、故韓柳不レ加ニ――一」。
〔生品〕生息せるもの、種類。○〔沈約〕「默爲ニ――之末一」。
〔腳品〕唐時代の腰に佩ぶる飾。○〔清異錄〕「唐飾具稍短、常施ニ于腰下一者、名ニ――一」。
〔標品〕薄弱なるたち。○〔沈約〕臣實――、謬ニ掌天憲一。
〔彝品〕つねののり。○〔江淹〕「弼諧ニ――一」。
〔銓品〕ゑな定め。○〔任昉〕「――ニ人倫一、各盡ニ其用一」。
〔庶品〕もろ／＼のもの。○〔陸倕〕「銓ニ衡――一」。
〔鑒品〕前に同じ。○〔易、序〕「參ニ天地一而育ニ――一」。
〔匯品〕前に同じ。○〔張文成〕「爲ニ――之聲王一」。
〔量品〕はかりさだむ。○〔白居易〕「――而授ニ地一」。
〔賤品〕いやしきもの。○〔封儒〕「恭甲庸放、違衛――」。

【唎】レイ、リヤウ。郎丁切 青 衆の聲、かまびすし。

【哂】シン。式忍切 軫 わらふ、又、わらひ（笑）。
(い)おもしろさにわらふ、一説に、微しくわらふ、ほゝゑむ、又、大いにわらふ、おほわらひ。○〔蘇軾〕「纓頭三百萬、不レ買ニ一微――一」。
(ろ)誇りてわらふ、あざわらふ、又、あざける、又、あざわらひ、あざけり。○〔白居易〕「恐レ爲ニ人所レ―、聊自書ニ諸紳一」。

〔衆哂〕多くの人のあざけりわらふ、又、世上の人のあざけり。○〔列〕「――而怨レ之」。
〔一哂〕すこしくわらふ、わらふ。○〔陳師道〕「喜極不レ得レ語、涙方盡――」。
〔嘲哂〕あざける。○〔負侯湛〕「踐ニ蝶卿・相一、――ニ豪傑一」。
〔笑哂〕わらひ。○〔李翺〕「假令述ニ――之狀一」。
〔微哂〕わらわんとする貌にいふ語、又、はゝゑむ。○〔沈弘之〕「或――レ壞レ容」。
〔鼻哂〕せゝらわらひす、又、鼻にかけてあざける、物事をかろんずる貌にいふ語。○〔劉子翬〕「少年――輕ニ流俗一」。
〔肉食哂〕富貴の人のあざけり。○〔杜甫〕「――ニ菜色一」。
〔莊買哂〕其の事の實情を知る人にわらはるゝことに借りいふ語。○〔圖書見聞志〕「馬正惠嘗得ニ鬪水牛一軸一、展ニ曝于書室一、屁外有ニ輸レ租―――一、凝玩久レ之、既而竊―、公呼問レ之、莊買曰、某非レ知レ畫者一、但知ニ眞牛一、其鬪也尾夾ニ髀間一、雖ニ壯夫一不レ可ニ少開一、此畫牛尾舉起、所ニ以笑ニ其失ニ眞」。
〔後代哂〕のちの時代の人のあざけり。○〔晉〕「將レ爲ニ――所レ―、義不ニ敢拜一也」。
〔有識哂〕見識のあるかしこき人のあざけり。○〔隋〕「頗爲ニ――所レ―」。

【哾】シュツ、シュチ。雪律切 質 口をすぼめて氣を吹き出だす貌にいふ字、又、斷くして發する聲にいふ字。

【哫】シュ、シヨ。春遇切 遇 犬を使ふ聲にいふ字。

【哃】トウ、ツ。徒工切 東 眞實ならざるを語る、いつはる、又、いつはりごと、そらごと（妄語）。

【[口曲]】キウ、去仲切 送 キヨク、區玉切 沃 コク。切 罪を問ふ、さふたゞす。

【[口冊]】サツ、セチ。桑割切 曷 音變す、こゑかはる。

【[口冊]】サイ、セイ。所邁切 卦 聲敗る、こゑやぶる。

【哄】コウ、ク。胡貢切 送 本、嗊に作る、かまびすし、又、さきのこゑ（衆聲）。

【哄】コウ、ク。呼公切 東 叿に同じ。

【哄】キヨウ、ク。居容切 冬 こゑ（聲）。

【哅】哅に同じ。

【哆】シ。尺氏切 紙 ㊀口を張る、はる。○〔蔡襄〕「食・飲嘘――」。㊁おほし（衆）、おほいなり（大）。○〔詩〕「―兮侈兮」。
〔侈々〕物事の立派なる、又は數多きにもいふ。○〔路史〕「龍顏――、四目靈光」。

【哆】シヤ、セ。昌者切 馬 ㊀脣の下に垂るゝ貌にいふ字、くちびるたる。○〔王惲〕「口――頰重出」。㊁よこしま（邪）。○〔孫復〕「妖・艷――之言」。㊂おほいなり（大）。○〔穀梁〕「――然而外ニ齊・侯一也」。

【哆】タ。典可切 哿 ㊀語る聲。㊁口を張る、はる。

【哆】タ。敕加切 麻 前條の㊁に同じ。

【哆】シヤ。昌遮切 麻 おほいなり（大）。

【哆】シ。昌志切 寘 語る聲にいふ字。○〔梅堯臣〕「逆風口――」。

【哆】タ。丁佐切 箇 ㊀語を助くる聲。㊁緩き脣。

【哆】タ。陟駕切 禡 口を張る、又、大いなる口。

【呬】ヒ。匹智切 寘 嚊に同じ、あへぐ（喘）、又、其の聲。

【哇】アイ、ヱ。於佳切 佳 ㊀淫りがはしき聲、又、諂ふ聲、又、正しからざる音曲。○〔揚雄〕「中・正則雅、多レ―則鄭」。㊁はく（吐）。○〔孟〕「出而―レ之」。
〔流哇〕はやりのたはゝしき音曲。○〔張衡〕「揚ニ――而脈ニ激楚一」。
〔淫哇〕みだりがはしき聲、又、たはゝしき音曲。○〔駱賓王〕「弘ニ茲雅奏一、抑ニ彼――一」。
〔咬哇〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「何必絲・管喧――」。

【哇】クワイ、エ。烏媧切 カイ、ケ。希佳切 佳 氣平かに暢びず、喉結び塞がる、ふさがる。○〔莊〕「屈・服者其言若レ―」。

【哇】ケイ、ケ。涓畦切 齊 うた、うたふ（謳歌）。

【哇】ア、ワ。烏瓜切 麻、

㊀みだりかはしき聲。

㊁小兒の聲、こゑ。○〔王安石〕「中使猶作二哦兒一」。

㊂又、他の聲にいふ字。○〔梅堯臣〕「二啜入レ腹鳴哰一」。

（哇哇）（い）小兒の聲にいふ字。○〔歐陽修〕「見畫眺鼠聲―――」。（ろ）笑ふ聲などにいふ字。○〔元包經〕「言唯々、笑――」。

【咶】クワイ、エ。胡卦切 卦

喉ふさがる、ふさがる。

【哈】ガフ、ゴフ。五合切 合

魚の口を動かす貌にいふ字、又、魚の多き貌にいふ字。

【唝】サウ、セウ。色洽切 洽

口をつけてすゝり飲む、のむ、すゝる。○〔淮〕「嘗一一レ水」。

【㗅】カフ、コフ。曷閤切 タフ、トフ。託合切 合

㊀歠に同じ、大いに歠る、すゝる。

㊁餂に同じ、くらふ（食）、又、齧む聲。

【唻】ライ、レ。魯猥切 賄

言を以て相遮る、さへぎる、又、言ひふせぐ。

【哉】サイ。將來切 灰 古文才に作る。

㊀はじめ（始）。○〔書〕「朕―レ自レ亳」。

㊁かな。

（い）確斷の意を表はすときに用ふる字。○〔左〕「請三之後、有レ罪殺レ之、公曰、諾―」。

（ろ）賞歎の意を表はすときに用ふる字。○〔論〕「君子―若人」。

㊂や。

（い）疑問の意を表はすときに用ふる字。○〔韓愈〕「今閑之於二艸書一、有二旭之心一―」。

（ろ）反語の意を表はすときに用ふる字、又、反語を成す句の意を强くする爲めに附加する字。○〔柳宗元〕「烏能得二其心服一―」。

㊃材と通じ用ふ、はかる。○〔論、註〕「古字材―同」。

㊄載に通じ用ふ、のす。○〔詩〕「陳錫―レ周」。

〔乎哉〕（い）賞歎の意を表はすときに用ふる語。○〔史〕「爲諸侯十餘世宜―・―」。（ろ）疑問の意を表はすときに用ふる語。○〔韓愈〕「閤下且以爲二仁人一―・―」。（は）反語の意を表はし、又、反語を爲す句に附加するに用ふる語。○〔史〕「何征而不レ服―・―」。

〔矣哉〕（い）斷定の意の最も强きを表はすときに用ふる字。○〔柳宗元〕「不レ勉己而欲レ勉レ人、難――」。（ろ）賞歎の意の最も强きを表はすときに用ふる字。○〔左〕「尚――能歆二神人一」。

〔也哉〕（い）前の（い）に同じ。○〔蘇軾〕「增亦人傑「―・―」。（ろ）乎哉の（は）に同じ。

〔焉耳乎哉〕乎哉の（ろ）に同じ。○〔論〕「子游爲二武城宰一、子曰、女得レ人――――」。

〔也乎哉〕乎哉の（い）と（ろ）と（は）とに同じ。○〔左〕「獨吾君―――」。

【㖾】キク、チク。于大切 屋

はく（吐）、又、其の聲。

【㖿】ガツ、ガチ。五割切 サツ、ザチ。才達切 曷

こゑ（聲）。

【㖴】ゲツ、ゴチ。語許切 月

相訶り拒む、こばむ。

【㖷】キ、ギ。許貴切 未

志かる聲。

【㖼】古文の周の字。

【㘴】坐に同じ。

【㖶】音、韻未だ詳かならず。

口を閉づ、とづ。○〔呂氏春秋〕「君呿而不レ―」。

七畫

【員】エン、チン。于權切 先 〔說文〕从レ貝口聲。

㊀物の數、かず、特に、人のあたまかずにいふ字。○〔史〕「願君卽以レ遂備レ―而行矣」。

㊁轉じて、人の義にも用ふることあり。○〔唐〕「太宗嘗踐二此官一、故累聖曠不レ置レ―」。

㊂隕に通じ用ふ、まはり、めぐり、（周）。○〔詩〕「景―維河」。

㊃度を重ぬ、ますます。○〔素問〕「其逆則頭痛――」。

〔常員〕きまりてある人數。○〔唐〕「職有二常守一、而位有二―・―一也」。

〔定員〕前に同じ。○〔魏〕「正樂―・―、唯置二三百八十人一」。

〔吏員〕官につかふる者のあたまかず、又、官につかふる人。○〔後漢〕「省二減――一」。

〔舊員〕以前の人數。○〔晉〕「自二侍中一以下、――「四人」。

〔大員〕高位の者のあたまかず、又、高位の人。○〔晉〕「不レ可下徒充二―・―一、以塞中聰儁之路上」。

〔剩員〕あまりたるあたまかず、又、無用の人かず。○〔玉海〕「初置二――一以處二退兵一」。

〔見員〕其の儘に、其の處に居るあたまかず。○〔魏〕「博士――足レ可二講習一」。

〔士員〕前に同じ。○〔北〕「省二六府之―・―一」。

〔散員〕任務なきあたまかず、又、其の人。○〔白居易〕「―・―足レ庇レ身」。

〔朋員〕前に同じ。○〔舊書〕「班行多二―・―一」。

〔闕員〕あたまかずにかけたること。○〔舊唐〕「―・―旣少」。

〔備員〕あたまかずの足りみちたること。○〔論衡〕「其「置二文吏一也、備二數――」。

〔正員〕其事のおもなる人數、又、其のもの。○〔唐〕「能通者依二―・―一」。

〔冗員〕用なき人數。○〔白帖〕「損二不急一、罷二――一」。

【員】ウン、チン。于分切 文

㊀數多くなる、ます、（益）。○〔詩〕「―二于爾輻一」。

㊁云と通じ用ふ、無意味の助字。○〔詩〕「聊樂レ我―」。

【𠯑】ケイ、キヤウ。古定切 徑

こゑ（聲）。

【哢】ロウ、ル。盧貢切 送

鳥吟ふ、うたふ、さへづる。○〔左思〕「雲飛水宿、哢二吭清渠一」。

【咿】イ。羊委切 紙

鴨を呼ぶ聲。

【哤】バウ、モウ。莫江切 江

言語亂雜な又、又、雜じへ語る、みだる。○〔國〕「雜處則其言―」。

【哥】カ。居何切 歌

㊀古文の歌の字、うたふ、うた、又、こゑ、（聲）。○〔漢〕「―永レ言」。

㊁兄の義にいふ字、あに。○〔酉陽雜俎〕「帝呼二寧王一爲二大――一」。

【哦】ガ。牛何切 歌 語可切 哿

うたふ、うなる、（吟）。○〔韓愈〕「日―二其間一」。

〔吟哦〕うたふ、うなる、おもに、詩歌を高調に唱ふるにいふ字。○〔宋〕「一-一上下、諷-詠從-容」。
〔口哦〕くちずさむ、くちずさみ。○〔陸游〕「一-一七-字黃-庭篇」。
〔長哦〕時間ながくうたふ。○〔宣和書譜〕「醉-酣一-一」。
〔幽哦〕物靜かにうたふ、又、聲かすかにうなる。○〔文同〕「候-蟲伴二一-一一」。
〔七字哦〕詩を稱すること。○〔陳師道〕「聽二渠一-一一」。

【咯】 カク、キヤク。古百切 陌
木の枝の横になりたる者、又、單にえだ、(枝)。

【哨】 セウ。七肖切 嘯 相邀切 蕭
㊀壺などの口の小さくして物を容れられざるにいふ字、ちひさし、又、口正しからず、ゆがむ、一說に、壺の口の黠きにいふ字。○〔禮〕「枉-矢一-壺」。㊁言多し、くちがまし。○〔揚雄〕「禮-義一-一、聖-人不レ取也」。

【哨】 サウ、セウ。所教切 效
㊀腈、臑、燿に同じ、ちひさし、ほそし、そぐ。○〔馬融〕「大-匈一-後」。㊁兵を屯して警戒を加ふるにいふ字、みはり、ものみ、ばんぺい。○〔元〕「命二率-師一巡二一-襄-樊一」。
〔懸哨〕本陣をかけはなれたるところに見張りすること。○〔宋〕「一-一家-鴿百-餘、自二合-中一記盤二-飛軍上一」。
〔陣哨〕陣營の見張りする者。○〔宋〕「一-一不レ可二輕動一」。

【哨】 サウ、ソウ。蘇遭切 豪
犬を使ふにいふ字、秦と晉との西部にて叢隴より西の方言。

【哩】 リ。力忌切 寘
語の餘聲、本邦の俗語にて、ことばの末尾に附して意味を強むる「わい」の義意味をなす字、元の時には、詞曲の助字となしたり。

【哪】 ダ、ナ。囊何切 歌
儺ひを行ふ聲。

【哪】 ナ。乃箇切 箇
那に作る、㖠に同じ、語の助けをなす字、又、なに、なんぞ。

【吺】 トウ、ヌ。奴侯切 尤
呪ふ語に用ふる字。

【哫】 ショク、ソク。即玉切 沃
言をもて媚ぶ、こぶ。○〔楚辭〕「一訾慄斯」。

【㖃】 テフ、トフ。丁愜切 葉
多言なり、ことばおほし。

【哬】 カ、ガ。寒歌切 歌
訶に同じ、衆くの聲あるにいふ字、かまびすし、

【哮】 カウ、ケウ。許交切 肴
家の驚きて聲を發するにいふ字、又、大いなる聲を發す、ほゆ、さけぶ、(闞)、又、いかる、(怒)。○〔詩〕「闞如二一-虎一」。
〔咆哮〕(い)大いなる聲してたけりよばはる。○〔抱朴子〕「一-一者不二必勇一」。(ろ)獸たけりほゆ。○〔常建〕「日入聞二虎鬪一、空山滿二一-一一」。(は)河などの大いなる聲を爲して流る、にもいふ。○〔庾曉〕「澎-湃洸-泱鬱-怒一-一」。
〔嗷哮〕ほえ鳴くこと。○〔杜甫〕「一-一來二九-天一」。
〔嘷哮〕懼れて鳴くこと。○〔杜甫〕「一-一其音、颼爽其虛」。
〔訇哮〕大きなる聲して鳴る。○〔韓愈〕「一-一簸二陵-丘一」。
〔怒哮〕たけり怒りてほゆ。○〔張來〕「排以二巨-峽一、道以二高-楚一、而後一-一、吼聲震二百-里一」。
〔跳哮〕はねあがりてほゆ。○〔修行道地經〕「一-一騰-吼」。

【哮】 カウ、ケウ。孝狡切 巧
大いに呼ぶ、よばはる。

【哮】 カウ、ケウ。呼教切 效
よぶ、よばはる、(喚、呼)。

【哮】 カク。黑角切 覺
狗に同じ、家の聲にいふ字。

【哭】 コク。空谷切 屋
㊀哀みて大いなる聲を發す、なく、さけぶ。○〔淮〕「仰レ天而一」。㊁人の死にしとき之を悲みてなきさけぶ禮。○〔禮〕「陽-門之介-夫死、而子-罕一レ之」。
〔痛哭〕哀しき聲を發すること。○〔漢〕「可レ爲二一-一一者一」。
〔大哭〕甚だしく聲をあげてなき悲しむ。○〔史〕「漢-王聞レ之、袒而一-一」。
〔號哭〕聲をあげてさけび泣く。○〔史〕「子-產病死、鄭民一-一」。
〔絕哭〕前に同じ。○〔晉〕「古人一-一、金革弗レ避」。
〔悲哭〕かなしみなく。○〔北〕「每二一-一一、聞者爲レ之流-涕」。
〔陪哭〕他の人にそひて泣きさけぶ禮をなす。○〔魏〕「脫二朱-衣一、服二單-衣介-幘一、一-一」。
〔強哭〕悲しからざるを故意に悲しみ泣くこと。○〔莊〕「一-一者雖レ悲不レ哀」。
〔偽哭〕たばかりて泣きさけぶ。○〔唐〕「過二重-榮墓一、一-一而祭」。
〔嘆哭〕なげきなく。○〔元結〕「兵興向二十年一、所レ見堪二一-一一」。
〔啼哭〕前に同じ。○〔王建原〕「春來梨-棗盡、一-一小-兒飢」。
〔送哭〕人の柩をおくりながら泣き悲しむ禮をなす。○〔于鵠〕「一-一誰家車」。
〔嫁哭〕ならび泣く。○〔趙抃〕「常記五-六歲、不レ見還一-一」。
〔三日哭〕(い)廟の燒けたるとき三日の間泣きかなしむ禮。○〔禮〕「有レ焚二其先-人之室一、一-一一-一」。(ろ)單に長き間なきさけぶこと。○〔庾信〕「一-一一于都-亭一、三-年四二於別-館一」。
〔抱玉哭〕楚の和氏が玉を王に獻じて知られずして刖刑に處せられたる故事、卽ち撫じつの罪にかゝりてかなしむ者にいふ語。○〔劉向〕「荊-王立、和一二其一-一、晝-夜一」。

【哯】 ケン、ゲン。乎典切 銑 形甸切 霰
嘔氣なくして吐く、はく、又、小兒の乳を吐くにいふ字。

【哰】 ラウ、ロウ。魯刀切 豪
言語解せられず、ことばわからず。○〔宋穆修〕「風-籬窣-々嚥一-一」。

【唭】 キ、ギ。渠記切 寘
くらふ、(食)。

【哱】 ホツ、ホチ。普沒切 月
㊀氣を吹く聲。㊁みだる、(亂)。

【哱】 ハイ、バイ。補妹切 隊
㊀悖に作る、もとる。㊁前條の㊁に同じ。

【㗅】 ギフ、ゴフ。逆及切 緝
衆くの聲あるにいふ字、かまびすし。

【哲】 テツ、テチ。陟列切 屑
物事の正しき道理を會得す、さとる、(知)、又、善く知ること、あきらか、又、才智すること、さとし、さかし、又、其の德を備へたる者の稱 ○〔洪範〕「明作レ一」。
〔濬哲〕すぐれてさとし、又、其の人。○〔書〕「一-一文-明、溫-恭允-塞」。
〔明哲〕あきらかにしてさとし、又、其の人。○〔書〕「知レ之曰二一-一一」。
〔宣哲〕理に通じあきらかなるさとりあること。○〔詩〕「一-一維人、文武維后」。

〔前哲〕さきの世に出でたる明らかなる知を備へたる人。○〔左〕「賴ー・ー以免也」。
〔先哲〕前に同じ。○〔曹植〕「德配二[illegible]・嫌、不レ忝ー・ーこ。
〔往哲〕前に同じ。○〔晉〕「ー・ー攸歎」。
〔聖哲〕事理に通じて明らかならざるなき知ある人。○左「需求ー・ー之上こ。
〔良哲〕性行善良にして才智すぐれたると、又、其の人。○〔後漢〕「[illegible]慈ー・ーこ、承二我天祿こ。
〔叡哲〕前に同じ。○〔後漢〕「明愼聘二ー・ー、欽求二ー・ーこ。
〔聰哲〕さとし　○〔晉〕「誕文・欽・明、服二膺ー・ーこ。
〔後哲〕のちの世に至りて出で來たるべき明らかなるさとりを備へたる人。○〔晉〕「求二相于ー・ーこ。
〔宗哲〕前に同じ。○〔宋〕「前待二ー・ーこ。
〔碩哲〕學德に明らかなるもの。○江淹「應二名文・哲一、齊二影ー・ー」。
〔賢哲〕かしこし、又、其の人。○〔唐〕「旣ー且ー」。
〔睿哲〕すぐれてさとし、又、其の人。○〔唐〕克生二ー・ー、祚二我休明こ。
〔舊哲〕前に同じ。○〔李嶠〕「茂哉ー・ー」。
〔俊哲〕前に同じ。○〔陸雲〕「國・土之邦、實生二ー・ーこ。
〔英哲〕前に同じ。○〔魏都賦〕「ー・ー雄豪、佐二命帝・室こ。
〔穎哲〕前に同じ。○〔傅亮〕「神・姿ー・ー」。
〔才哲〕前に同じ。○〔白居易〕「內愧レ非二ー・ーこ。
〔十哲〕孔子の門人の中にてすぐれたるさとりを備へたる人のこと。○〔小學紺珠〕「顏淵、閔子騫、冉伯牛、仲弓、宰我、子貢、冉有、季路、子游、子夏、顏子配享、升二曾子一爲二ー・ーこ。
〔宿哲〕經驗に富みて明らかなるさとりを備へたる人。○〔梅堯臣〕「朝仍二ー・ー者」。
〔耆哲〕前に同じ。○〔胡宿〕「匪二ー・ー一而莫レ居」。

【哳】 タツ、テツ。陟鎋切 黠
鳥の節繁く音細き聲を出だすにいふ字、さへづる。○〔楚辭〕「鵾雞啁ー而悲鳴」。

【哴】 リヤウ、ロウ。力讓切 漾
あまり啼きて聲出でざるにいふ字、なきいろ、又、さくりなく。

【哴】 ラウ、ロウ。盧當切 陽

㊂前に同じ、又、こどもの啼いて止まざるにいふ字。
㊁吹く貌にいふ字。

【哵】 ハツ、バチ。博拔切 曷

【哷】 レツ、レチ。力輟切 屑
㊀なく(鳴)。㊁鳥の聲。
雞鳴く、なく

【唆】 サイ、セ。素回切 灰
嗺に同じ、口すさみ。

【哹】 フウ、フ。披尤切 尤
㊀吹く聲にいふ字。
㊁喉の中に聲あるにいふ字。

【哺】 ホ、ブ。蒲故切 遇
㊀食物を己れの口中に入る、くらふ、あぢはふ、かむ、ふくむ、又、口中にふくむ食物。○〔白居易〕「食輟レー夜輟レ寢」。
㊁食物を他の口中に入る、くらはしむ、はぐくむ、やしなふ、又、ふくます食物。○〔宋〕「無二能乳ーこ。
〔吐哺〕口中の食物をはきいだす、又、周公の言より轉じて、賢者を延見することの親切なることに借りいふ語。○〔史〕「一沐三握レ髮、一飯三ーレー、起以待レ士」。
〔拘哺〕手許におきてやしなふ。○〔漢〕「ー二ー其子、與レ公併倨」。
〔咽哺〕のみくひをなす。○〔漢〕「邊・城守・境之民、父・兒綏レ帶ー・ー」。
〔反哺〕始めにやしなはれたる恩あるゆゑ、其のかへしとしてやしなひくれたるものにくらはしめやしなふ、卽ち、兒子の親をやしなふといふ語。○〔舊譯〕「禁・烏ー・ー」。
〔削哺〕衛立屏風の如きもの。○〔後漢〕「有二風吹二ー・ーこ。
〔資哺〕たすけくらはす、又、糧食を送ることにもいふ語。○〔唐〕「更相ー・ー」。
〔喂哺〕ふくめ食らはしむ。○〔元〕「手除二瀰・漿一、ー二ー飲・食こ。
〔朝哺〕あさ入にす、おる御膳。○〔陳子昂〕「ー・ー夕・膳」。

【哺】 フ、ホ。匪父切 麌
咬に同じ、かむ、又、はかる。

【哄】 コウ、ゴウ。胡公切 東
吽に同じ、大いなる聲。

【哻】 カン、ガン。胡旰切 翰
れむる(睡)。

【哼】 カウ、キヤウ。虛庚切 庚
愚かにして怯るゝ貌にいふ字、又、おろか。

【哽】 カウ、キヤウ。古杏切 梗 ― 或は、鯁に作る。
言語舌のために介まる、喉塞がる、悲みて聲支へ塞がる、音聲ふさがる、ふさがる、むせぶ。○〔莊〕「壅則ー」。
〔哀哽〕かなしみて泣く、聲ふさがる。○〔南〕「左・右莫レ不二ー・ーこ。
〔悲哽〕前に同じ。○〔陸游〕「伏・讀ー・ー」。
〔哽々〕聲のきれぐに出づるにいふ語。○〔宋〕「面青而光、氣ー・ー」。

【哽】 アウ、ヤウ。於杏切 梗
むせぶ聲。

【咈】 フツ、ブチ。符勿切 物
もどる(戾)。

【响】
呴の僞字。

【口吞】 トン。通懇切 阮
癡かなる貌にいふ字、又、おろか。

【口吞】 チン、トン。他禁切 沁
まく、ちらす(撒)。

【哾】 セツ、セチ。山芮切 霽　セイ、ゼイ。式芮切 霽
なむ(嘗)。

【哿】 カ。古我切 哿 ―〔說文〕从レ可加聲。
よし。
(い)めでたし(嘉)。○〔詩〕「ー矣富人」。
(ろ)よしとすべし(可)。○〔詩〕「ー矣能言」。

【哿】 カ。居何切 歌
珈に借り用ふ、婦人の首のかざりもの。○〔揚雄〕「婦・人易レー」。

【口辛】 ガツ、ガチ。五葛切 曷
訶りて距む、こばむ、ふせぐ、さゞむ。

【口朿】 スヰ、シ。祖委切 紙
嘴に同じ、鳥の喙、くちばし。

【口束】 ソウ、ス。先奏切 宥　ショク、ゾク。輸玉切 沃　サク、ソク。色角切 覺
すふ(吮)。

【唀】
俗の誘の字。

【唁】 ゲン。魚變切 霰　ゲン、ゴン。牛偃切 阮
災難に罹りたる者又、俘となりたる者などを訪ふ、とむらふ、とふ、おとづる。○〔詩〕「歸ー二衛・侯一」。
〔問唁〕おとづる、訪問す。○〔唐〕「未レ聞二執・事ー・ーこ。
〔慶唁〕よろこび慰すること、災難をとむらふこと。○〔陸游〕「相遇忘二ー・ーこ。

【口甬】 ヨウ、ユ。尹竦切 腫
喀に同じ。

【哠】コク。古祿切 屋　一に哳に作る。
鳥鳴く、雉鳴く、なく。

【唄】ハイ、バイ。薄邁切 卦
佛の功德をほめたる韻文、即ち、頌をいふ、ほめうた、又、頌を誦するにもいふ字、となふ。○〔法苑〕「西方之有レ一、猶二東國之有一レ讚」。
〔梵唄〕ほめうた、ほめうたをうたふ。○〔唐〕「常飯二萬僧禁中一自爲二一一一」。
〔吟唄〕ほめうたをとなふ。○〔馬祖常〕「梵山一一不レ移レ朝」。
〔諷唄〕前に同じ。○〔唐〕「禁中祀レ佛、一一齋薰、號二內道場一」。
〔膜唄〕手を合はせて佛を拜しほめうたをとなふること。○〔唐〕「王公士人奔走一一」。

【唅】カン、コン。火含切 覃
㊀口を開く、くちあく。○〔南〕「聽事上有二一大白蛇一長、丈餘一一有レ聲」。
㊁含と通ず、ふくむ。○〔漢〕「羹レ藜一レ糗」。
〔唅呀〕口をひらく、又、多言の義に借りいふ語。○〔程曉〕「所レ說無二一急一、一一一何多」。
〔唅㗇〕あざけりて口をひらく、あざけりいふの義。○〔范梈〕「快哉東方生、一一得二吾師一」。

【唅】カン、ゴン。胡紺切 勘
㊀琀に通じ用ふ、古昔、支那にて、死者の口にふくます玉。○〔晉〕「殯一一之物、一皆絕レ之」。
㊁前條の㊀に同じ。

【唆】サ。桑何切 歌
㊀小兒の相たがひに應ふるにいふ字、こたふ。
㊁誘ふて爲さしむ、そゝのかす。

【唆】スワ、セ。數化切 禡
諺に同じ、まぐ、まがる、(枉)。

【唇】シン。之人切 眞　俗に、脣（くちびる）の字と通じ用ふるは非なり。
おどろく、(驚)。

【唇】シン。之刃切 震
おどろく聲。

【咶】クワツ、ゲチ。乎刮切 黠

【咶】クワイ、ケ。火夬切 卦
咶に同じ、いき、いきつく、(息)。

【唈】アフ、オフ。烏答切 合　イフ。乙及切 緝
氣短かくなく、恚やくりなく、むせぶ、又、なげく。○〔淮〕「孟嘗爲レ之增欷歍一流涕狼戾不レ可レ止」。

【唉】アイ。烏開切 灰
㊀慢りに譍ふる聲、あゝ。○〔莊〕「一吾知レ之」。
㊁驚きて問ふ、とふ。○〔管〕「禹立二諫鼓於朝一、而備二訊一一」。

【唉】キ。虛其切 支
誒に同じ、恨み歎きて發する聲、又、歎き恨む意を表はすときに用ふる字、あゝ。○〔史〕「一豎子不レ足二與謀一」。

【唉】アイ。英皆切 佳　倚亥切 賄　於代切 隊　イ。羽已切 紙　於其切 支
應ふる聲。

【唉】アイ、エ。倚駭切 蟹
㊀前に同じ。
㊁食に飽きて逆ひ出づる聲。

【唊】ケフ。古協切 葉
㊀妄語す、いつはる、又、其のこと、たはごと。
㊁多言なり、ことばおほし。

【唊】ケフ。訖洽切 洽
前の㊀に同じ。

【唊】ケン。謙琰切 琰
猴の頰に食を藏すにいふ字、ふくむ。

【唋】ト、ツ。通都切 虞
はく、(吐)。

【唌】セン、ゼン。夕連切 先　タン、ダン。唐干切 寒
語りて歎く、なげく。

【唌】エン。夷然切 先
讒言の急しき貌にいふ字。○〔後漢〕「咸先レ佞唌一一」。

【唌】タン、ダン。蕩旱切 旱
誕に同じ。

【唍】クワン、ゲン。板胡切 潸
少しく笑ふ貌にいふ字、にこ〳〵と笑ふ、わらふ。

【唎】リ。力至切 寘
こゑ、(聲)。

【唏】キ、ケ。許豈切 尾　〔說文〕从レ口稀省聲。
わらふ、(笑)。

【唏】キ、ケ。許几切 紙
㊀こゑ、(聲)。
㊁哀しみて泣かざるにいふ字、かなしむ、又、いたむ、(痛)。○〔揚雄〕「哀而不レ泣曰レ一」。

【唏】キ、ケ。香依切 微　許既切 未
欷に同じ、なげく、(歔)、又、其の聲にいふ字、一說に、懼るゝ貌にいふ字、おそる。○〔史〕「紂爲二象箸一而箕子一」。
〔嘘唏〕なげく、又、おそる。○〔史〕「一一服聽」。

【唏】キ。虛器切 寘
㊀咥に同じ、わらふ、(笑)。
㊁なく、(啼)。
㊂痛む聲。

【唏】カイ、ケ。許介切 卦
齂に同じ、ねいびき、(臥息)。

【嗊】コウ、ク。胡孔切 董
鳥の聲。

【唐】タウ、ダウ。徒郎切 陽　〔說文〕从レ口庚聲。
㊀限りなくひろし、至大なり、ひろし、おほいなり。○〔文選〕「浩一一之心」。
㊁むなし、むなしく、(空)。○〔梵書〕「福不二一捐一」。
㊂意味の取りつゞまり付かぬことば、むなしき事などかきつられたることば、(大言)。○〔莊〕「荒一之言」。
㊃塘に同じ、つゝみ。○〔國〕「陂一一汚庳」。
㊄堂中または庭中に設けある通行の途。○〔詩〕「中一有レ甓」。
㊅亡失す、うしなふ。○〔莊〕「其求二一一子一」。
㊆ねなしかづら、ひめかづら、(唐蒙、又、女蘿)。○〔詩〕「爰采レ一矣」。
㊇上下のみ彎形をなして中間の曲がらざる弓。○〔周〕「一弓大弓」。

㊈王朝の名、又、處の名。
〔陶唐〕我が紀元前千七百六年より千六百七年に至るまでの支那を支配せし王朝を唐といふ、卽ち、支那にて古昔の太聖として尊崇する堯の在位の間にして其の陶丘に居城ありしよりいふ、當時天下極めて治平なりしと言ひ傳ふるより世の治平なるに引用す。○〔書〕「惟彼―・―」。
〔虞唐〕舜と堯との在位間、又、前の末段に同じ。○〔宋〕「配ニ踨―・―ニ」。
〔李唐〕我が紀元一千二百七十八年より同千五百六十六年まで支那を支配せし王朝の號を唐といふ、其の君主の李姓たりしよりいふ。○〔周朴〕「擧玉才名冠ニ―・―ニ」。
〔後唐〕我が紀元千五百八十三年より千五百九十五年まで支那を支配せし王朝の號。○〔五〕「―・―爲ニ洛・陽ニ」。「玉―・―」。
〔荒唐〕限りなく廣がるにいふ語。○〔司馬相如〕「垠
〔唐々〕ひろくなる貌にいふ語。○〔道德指歸〕「淪ニ―・―含ニ冥々ニ」。
〔頽唐〕くづれおなしくなる、勢のおとろふるにいふ語。○〔洞簫賦〕「―・―遂往」。

【[illegible]】カツ、カチ。乎割切 [曷] いき、又、いきす、（息）。

【唑】セイ、ゼイ。時制切 [霽] 噬と同じ。○〔海監圖說〕「土人以爲ニ海―・―ニ」。

【呿】カ。虎何切 [歌] 口を開く聲。

【[illegible]】ケン。駈演切 [銑] 小ひさき塊、つちくれ。

【[illegible]】カ、ケ。枯駕切 [禡] 歎く聲。

【[illegible]】テイ、タイ。丁計切 [霽] 鼻噴くを、くさみ、はなひる。

八畫

【[illegible]】クワン　古環切 [删] 關に同じ、やはらぎなく、（和鳴）。

【[illegible]】シウ、ジュ。承呪切 [宥] 言語もて誨ふ、さづく。

【唩】ワ。烏和切 [歌] 小兒の啼くにいふ字、なく。

【唩】井。鄔毀切 [紙] こゑ、（聲）。

【唪】ホウ、フ。邊孔切 [董] ㊀おほいなるこゑ、（大聲）。㊁おほいなるわらひ、（大笑）。

【唪】ホウ、フ。父勇切 [腫] ㊀口高き貌にいふ字、こゑたかし。㊁前條の㊀に同じ。

【唫】キン、ゴン。巨錦切 [寑] ㊀言語の急迫なるにいふ字、いそがし、どもる。㊁口を閉づ、聲を出ださず、とづ。○〔揚雄〕「萬物各―」。
〔呿唫〕口を開きたり閉ぢたりすると、又、語りたり默したりすると、又、聲おこりたり、又、やみたりするとにもいふ語。○〔素問〕「―・―之徵」。

【唫】ギン、ゴン。魚音切 [侵] ㊀前條の㊀㊁に同じ。「風爲レ我―」。㊁吟の古文、うたふ、うなる。○〔漢〕「秋―」。㊂釜に同じ。○〔穀梁〕「必於ニ殽之巖―之下ニ」。

【唬】カ、ケ。呼訝切 [禡] 虎の聲、又、唬ぶ聲。

【唬】カウ、ケウ。虛交切 [肴] ほゆ、（哮）。

【唬】カウ、ゴウ。乎刀切 [豪] よぶ、（呼）。皐、號に作る。

【唬】カウ、ゴウ。下老切 [皓] 虎の聲。

【唬】クワク、カク。郭擭切 [陌] ㊀前に同じ。㊁鳥啼く、なく。

【唭】キ。去吏切 [寘] ㊀閉見するをなし、みず、きかず、又、くらし、又、おろか、又、聲ありて辭なきにいふ字。○〔揚雄〕「―・―噦唫無レ辭」。㊁あざむく、（紿）。

【售】シウ、ジュ。承呪切 [宥] うる。（い）價を受けて物を與ふ、うりたるものをてわたしす、あきなふ。○〔詩〕「賈用不レ―」。（ろ）用ふる者あり、求むるものあり。○〔列女傳〕「鍾離春者齊無鹽女、爲レ人極醜無レ雙、行年四十、無レ所ニ容入ニ、衒嫁不レ―、于レ是自謁ニ宣王ニ、願レ備ニ後宮ニ、宣王納レ之爲レ妃」。（は）行はる。○〔張衡〕「扶邪作レ蠱、于レ是不レ―」。
〔沽售〕賣買のこと。○〔舒元輿〕「雖レ欲レ求ニ―・―ニ不ニ獨棄ニ其糞土ニ」。
〔買售〕前に同じ。○〔張羽〕「一紙千金爭―・―」。

【唯】井。以追切 [支] 惟、又、維と通じ用ふる字、だゞ、ひとり。○〔易〕「其―聖人乎」。

【唯】ス井。視隹切 [支] 誰に同じ。

【唯】井。以水切 [紙] ㊀他の言ふ所をうべなふ意を表はす應答の敬辭、本邦の俗語の「はい」に同じ、うけこたへ。○〔禮〕「必愼ニ―諾ニ」。㊁出入に制せられざる貌にいふ字、一說に、行きて相隨順する貌にいふ字、又、柔順なる貌にいふ字。○〔詩〕「其魚―・―」。「苑・唯曰、―・―」。
〔唯々〕（い）うべなふの意を表はす應答の敬稱。○〔戰〕（ろ）轉じて、他の言說に對して少しもさからはざるにもいひ、又、他の意に從ひて阿ねるにもいふ語。○〔史〕「諸大夫朝徒唱ニ―・―ニ、不レ聞ニ周舍之諤々ニ」。（は）又、柔順なるにもいふ語。○〔詩〕「魚其―・―」。
〔應唯〕うけがひたるこたへ、あいさつ、返事。○〔辭〕「―・―敬對」。
〔諾唯〕前に同じ。○〔韓〕「必知ニ其非ニ、口―・―」。

【唰】セツ、サチ。所劣切 [屑] 鳥のその毛を治むるにいふ字、はれつくろふ。一に、㕞に作る。

【唰】サツ、セチ。數滑切 [黠] 少しく嘗む、なむ。

【[illegible]】セキ、ジャク。前歷切 [錫] ものづか、さびし、（寂）。

【[illegible]】シュク。子六切 [屋] ㊀前に同じ。㊁なげく、（歎）、又、其の聲にいふ字。

【啾】キク、チク。于六切 屋
行くをやすし。

【唱】シヤウ。尺亮切 漾
㊀となふ。
(い)高く呼ぶ、よばゝる。○〔北〕「人・吏俱―二萬歲一」。
(ろ)こゑをながくして吟ず、うたふ。○〔禮〕「一―而三歎」。
(は)爲しはじむ、先んじおこなふ。○〔淮〕「一人―而天下應レ之者、積怨在二于民一也」
(に)先んじて吟ず、うたひはじむ、うたひそむ、うたひそめ。○〔魏〕「吾爲レ汝―、汝爲レ和」。
(ほ)いざなふ、みちびく、(導)。○〔晏〕「君―而和、教之隆也」。
㊁節を付けて吟ずるもの、詩、歌。○〔晉〕「國人痛二其忠烈一、爲作二小海―一」。
〔高唱〕(い)聲高くうたふ。○〔西京雜記〕「後宮齊レ首―、聲入二雲霄一」。(ろ)高尚なるうた。○〔陸機〕「絕節―非二凡耳所レ悲」。
〔低唱〕聲ひくゝうたふ。○〔長篇〕「淺斟―」。
〔首唱〕眞先きにとなへ始むる。○〔晉〕「丘明―敍二妖夢一」。
〔淸唱〕すみ亘りたる聲にてうたふこと。「杜送二――一」。
〔絕唱〕他に比ぶべきもののなきほどのよきうた。○〔韓愈〕「高―」。
〔講唱〕書籍などの意味を解釋して述べ言ふ。○〔晉〕「――髙蹤、久無二嗣響一」。
〔翻唱〕高官の人などの行列をと、のへて道路の先拂ひすること。○〔北〕「――不レ入レ宮」。○〔魏〕「每二――門徒千數」。
〔暗唱〕文字にて記しあるものを見ずして其の記しあることを述べいふこと。○〔唐〕「――無二一差謬一」。
〔酬唱〕詩文の贈答をなすこと。○〔劉禹錫〕「――井二珠璣一」。
〔鼓唱〕先んじみちびくことにいふ語。○〔宋〕「于レ是言者論二其――擇造一」。「――路二」。
〔推唱〕他をおしみちびく。○〔鄭谷〕「孤散恨無二
〔先唱〕第一のものになりてとのふ、他に先だちみちびく。○〔文子〕「――者窮之路」。「吹」。
〔道唱〕述べ言ふ、いふ。○〔張祜〕「――梁州急遍」
〔流唱〕彼より此へとつたへ傳へてとなふ。○〔水經〕「依擬所レ造」。
註〕「役夫――」。
〔梵唱〕佛家の詩歌。○〔異苑〕「今之――皆植
〔盧唱〕おなしきとなへ。○〔浄住子〕「有二德名一非二――一」。「―二―大乘數部一」。
〔演唱〕のべとなふ。○〔洛陽伽藍記〕「安二置佛徒一
〔謳唱〕うた、又、うたふ。○〔開元寶天遺事〕「美二姿色一善二――一」。
〔歌唱〕前に同じ。○〔夢華錄〕「對レ酒――」。
〔浩唱〕こゑをおほいにしてうたふこと、又、觀念の大いなる詩歌。○〔陸龜蒙〕「――義皇言」。
〔棹唱〕舟にさをさしてうたふ、又、其のうた、ふなうた。○〔劉長卿〕「弄レ月時――」。
〔菱唱〕ふなうた。○〔羅隱〕「中流――泊二何處一」。
〔樵唱〕きこりのうた。○〔盧照鄰〕「狹、從聞二――一」。
〔呼唱〕よびとなふ。○〔柳宗元〕「―二―于朝廷一」。
〔艶唱〕いろつやのある聲もてうたふこと、又、痴情を含めるうた。○〔劉希夷〕「――潮初落」。
〔絹唱〕前の後段に同じ。○〔李紳〕「里吟傳二――一」。
〔萬唱〕いくたびもうたふこと。○〔元稹〕「千彊――者咽」。
〔蒌唱〕みの着たる者のうたふうた、農夫のうた。「〔杜枚〕「――牧牛兒」。○
〔新唱〕あらたにつくりたるうた。○〔蘇軾〕「爲レ公過レ嶺傳二――一」。
〔漁唱〕すなどる者のうたふうた。○〔鄭谷〕「懸黴「聞二――一」。
〔賡唱〕詩文を贈答すること。○〔趙抃〕「元和――今猶レ古」。「―一」。
〔舊唱〕ふるきうた。○〔范成大〕「來歲如今翻二――
〔吟唱〕くちずさみとなふ、うたふ。○〔元好問〕「遺編――必自足」。

【唲】ジ、ニ。如支切 支
曲げて從ふ、へつらふ、おもねる、又、強ひて笑ふ、わらふ、又、多言なり、かまびすし。○〔楚辭〕「喔咿嚅―」。

【啀】アイ、エ。英佳切 佳
小兒の語るにいふ字、かたる、又、其の語、かたること。○〔荀〕「拊二循之一―三嘔之二」。

【唳】レツ、レチ。練結切 屑
鳥鳴く、なく、又、其の聲にもいふ字。

【唳】レイ、ライ。力霽切 霽
鶴又、雁の鳴くにいふ字、なく。○〔晉〕「華亭鶴―」。

【啈】キヤウ、カウ。丘亮切 漾
泣きて止まざるにいふ字、又、小兒の啼くにいふ字、なく。

【唵】アン、オン。烏感切 感
㊀手にて食を進む、すゝむ。
㊁ふくむ、(含)。

【唶】シヤ、セ。子夜切 禡
なく、(鳴)、又、其の聲にいふ字、なげく、(歎)、又、其の聲にいふ字。○〔後漢〕「―曰、氣佳哉」。
〔咋唶〕わめきなく、其の聲にもいふ語、又、虫歌、ひなうた。○〔鹽鐵論〕「鄙夫樂二――一」。

【唶】サク、ジヤク。助伯切 陌
㊀大いに呼ぶ、大聲を發す、さけぶ、又、多言なり、くちがまし。○〔史〕「晉鄙嚄―」。「〔左〕「行扈――」。○
㊁聲にいふ字、特に、鳥の聲にいふ。
㊂歎く聲。

【啨】イク、ヨク。於六切 屋
聲を出だす、こわづくる。

【唸】テン。丁練切 霰 都念切 豔
うなる、(叩)。○〔詩〕「民之方―叩」。

【唹】オ、ヨ。史居切 魚 歐許切 語
わらふ貌にいふ字、又、わらふ、(笑)。

【啘】ヤ、エ。羊謝切 禡
鳥の夜鳴くにいふ字、なく。○〔禽經〕「水鳥以レ夜―」。

【啙】シ、ジ。才支切 イ。余支切 支 ｜本ﾆ貲に作る。
呲に同じ、食を嫌ふ、きらふ。

【唺】テン、デン。他典切 銑
はく、(吐)。

【唻】ライ、レイ。賴諧切 佳 來改切 賄
唱歌の聲にいふ字、又、うたふ。

【唻】ライ。郎才切 灰
こゑ、(聲)。

【唻】ライ。落代切 隊
よぶ聲。

【唼】サフ、ソフ。作答切 合 ｜本、哧に作る。
咂、啑に同じ、すゝる、くらふ、のむ。○〔楚辭〕「鳧雁皆―二夫梁藻一兮」。○

【唼】セフ。七接切 葉
㊀捷に作る、讒言す、ますこづる、いつはる。○〔揚雄〕「靈修既信二椒蘭之――佞一兮」。「勝」。
㊁喋に同じ、すゝる。○〔史〕「―レ血乘レ

【唼】サフ、セフ。色甲切 洽
鳥の食ふにいふ字、ついばむ。○〔司馬相如〕「―二喋菁藻一」。

【啺】セキ、シヤク。先的切 [錫]
一に嗁に作る、鳥の聲にいふ字、又、なく。

【唅】カン、ゴン。胡南切 [覃]
いかる、（怒）、又、其の聲。

【唾】タ、ダ。湯臥切 [箇]
㊀口中の粘液、つば、つ、つばき。○〔揚雄〕「涕――流レ沫」。「食不レ―」。
㊁つばきす、つばきを吐く。○〔禮〕「讓レ」
（欬唾）つばき。○〔李白〕「―・―落ニ九・天ニ」。
（乾唾）唐の婁師德といふ人、その弟を戒めたりし故事より、何事にも辱しめを忍ぶとに假り用ふる語。○〔唐、婁師德傳〕「其弟守ニ代・州ニ辭之レ官、教ニ之耐レ事、弟曰、人有レ唾レ面、絜レ之乃已、師・德曰、未也、絜レ之是違ニ其怒ニ正使ニ自乾ニ耳」。
（咳唾）つばきの讚稱、佳句又、名言などに借りいふ語。○〔韓愈〕「―・―拾未レ盡」。「章」。
（珠唾）前に同じ。○〔楊萬里〕「銀鈎―・―千萬・斛」。
（口唾）つばき。○〔論衡〕「與レ人談・言―・―射レ人」。
（止唾）（楨）がつらの異名。「銀ニ」。
（津唾）つばき。○〔物類相感志〕「―・―可レ溶ニ氷・」
（藥唾）吐きすつるつばき、借氣のなき物に借りいふ語。○〔蘇軾〕向來名宦事、何レ首如ニ―・―ニ。
（零唾）おちたるつばき、前に同じ。○〔惠洪〕「藥・道不レ惜如ニ―・―ニ」。
（唾唾）にくみてつばきを吐く、卽ち、にくむ擧動にいふ語。○〔范成大〕頭・質買ニ―・―ニ。
（咳唾）せきとつばはくこと、せきばらひ、又、言語の敬稱に借り用ふる語。○〔漢〕「大・王誠賜ニ―・―ニ」。

【唼】セフ、ソフ。山涉切 [葉]
多言なり、かまびすし。

【喒】オウ、ウ。於口切 [有]
歐に同じ、はく、（吐）。

【唿】コツ、コチ。呼骨切 [有]
うれふ、（憂）。

【啀】ガイ、ゲ。五佳切 [佳]
狗の齧まんさするにいふ字、又、犬の鬪ふにいふ字、かみあふ。

【啁】タウ、テウ。陟交切 [肴]
㊀鳥鳴く、なく。○〔禽經〕「林・鳥朝―」。
㊁嘲、謿に通じ用ふ、たはむる、あざける。○〔漢〕「倶在ニ左・右ニ詼―而已」。
（戲啁）ふざけたはむる。○〔蜀〕「謗・體輕・脫好ニ―」。「―ニ」。
（啁啁）前に同じ。○〔蜀〕「―・―無レ方」。
（啁々）鳥のしげく鳴く聲にいふ語。○〔禽經〕「鷃・雀―・―」。

【啅】タウ、トウ。都勞切 [豪]
語多し、かまびすし。

【啁】チウ、チユ。張流切 [尤]
鳥鳴く、又、其の聲。○〔禮〕「至ニ于燕・雀一猶有ニ―、噍之頃ニ焉」。

【啁】テウ。他弔切 [嘯]
わらふ、（噱）。

【啒】コ、グ。洪孤切 [虞]
牛の頷の垂るゝにいふ字、のむごたる。

【啗】キン、ギン。渠隕切 [軫]
吐く貌、又、吐かんと欲する貌にいふ字、又、はく。

【啂】ドウ、ヌ。乃后切 [有]
㊀食物、くひもの。
㊁子に乳呑ます、ちのます、やしなふ。

【啫】タフ、ドウ。徒合切 [合]
うはさ、（噂）。

【啌】トウ、ツウ。丁動切 [董]
多言なり、ことばおほし、かまびすし。

【啘】アイ、エ。於叙切 [佳]
小兒の言。

【啄】タク、トク。竹角切 [覺] トク、丁木切 [屋]
㊀鳥の物を食ひ又は嘴にて物を突き掘るにいふ字、つゝく、はむ、くらふ、ついばむ。○〔詩〕「率レ場―レ粟」。
㊁聲にいふ字。○〔韓愈〕「剝々―・―有レ客至レ門」。
（剝啄）こつ〳〵と音のすること、おとづる客の戶を叩く音、又、其のあし音などにいふ語。○〔輟耕錄〕「門無ニ―・―、松・影參・差」。
（餐啄）くらひついばむ。○〔魏〕「時或―・―」。
（舐啄）なめくらふ。○〔神仙傳〕、雞・犬―ニ―之ニ盡」。「―ニ」。
（飲啄）のみくらふ。○〔洛陽伽藍記〕「任ニ其―・―」。
（啄啄）こつ〳〵とついばむ音。○〔韓愈〕「―ニ―庭・中ニ拾ニ蟲・蟻ニ哺レ之」。「煖々」。
（呀啄）口をあけてくらふ。○〔盧同〕「天・狼―・―明」。
（㭰啄）さしくらふ。○〔王周〕「―ニ―人肌・膚ニ」。
（餘啄）くひあまり。○〔韓愈〕「犁・奴―・―」。

【啄】チウ、チユ。職救切 [宥]
㊀前條に同じ、ついばむ。○〔漢〕「尻益高者、鶴俛―也」。
㊁くちばし、（嘴）。○〔韓詩〕「鳥之美・羽句―者鳥畏レ之」。

【啅】タク、トク。竹角切 [覺]
㊀ことおほし、（衆口）、又、こゑおほし、かまびすし、（衆聲）。
㊁啄に通ず、ついばむ。○〔杜甫〕「雀―江・頭黃・柳・花」。

【啅】タウ、テウ。陟教切 [效]
鳥の聲。

【商】シヤウ。式陽切 [陽]
㊀外より內を知る、知りて定む、あきらかにす、（章）、はかる、（度）。○〔易〕「―レ兌未レ寧」。
㊁有無をはかりて財貨を通じ鬻ぐこと、賣買の業、あきなひ、又、其の業を爲す、あきなふ、又、定まりたる店に居坐りてあきなふ者、一說に、店を定めずして行く〳〵あきなふ者、今は、總べてのあきなふ者にいふ字、あきうど。○〔易〕「―・旅不レ行」。
㊂くだる、（降）。
㊃はる、（張）。
㊄つれ、（常）。
㊅つよし、（强）。
㊆五音の一、强くして淸く冱えて聞こゆる音のもの、卽ち、金に屬する音、大簇、又、悲哀の情を含みたる音にもいふ。○〔禮〕「其音―」。
㊇西の方位。○曹植〕「秋・風發ニ乎西・―ニ」。「害レ生」。
㊈秋、又、秋の風。○〔楚辭〕「―・風蕭而
㊉水の滅度を驗するために漏箭にきざみある度、きざみ、轉じて、時の義にいふ字。○〔儀、註〕「日入三―爲レ昏」。
㊉㊀處の名、又、王朝の名。○〔書〕「變ニ伐―ニ」。「大・―ニ」。
㊉㊁星の名。○〔王勃〕「似ニ參・―之永・年ニ」。
（宮商）宮と商との音、又、音調の儀にも用ふる語。○〔楊方〕「―・―聲相和」。
（申商）戰國時代の刑名法律を以て治國の要となす申公と商鞅といふ人のこと、又、二人の學術をいふ、轉じて、刑名法律の稱にも用ふ。○〔史〕「賈・生晁・錯明ニ―・―ニ」。

〔淸商〕商の音、其の音聲の淸らかなるよりいふ。○〔陸機〕「含二ー・ー一以絕レ節」。
〔素商〕秋の別名。〔高商〕上に同じ。○梁元帝〕「秋日二素商一、亦日二高商一」。
〔仲商〕八月の別名。〔暮商〕九月の別名。
〔季商〕上に同じ。○〔梁元帝〕「八月日二仲商一、九月日二暮商季商一」。
〔參商〕參と商との兩星の隔たり遠ざかるより、親しき人と離別して容易に會合する能はざるに借りいふ語。○〔陸機〕「形・影ー・ー乖」。
〔通商〕あきうど、又、あきなふ。○〔柳宗元〕「ーレー「平レ貨」。
〔良商〕よきあきうど。○〔職〕ー・ー不二與レ人爭一レ買」。
〔富商〕資產多きあきうど。○〔史〕「ー・ー大賈」。
〔萬商〕いろ〳〵のあきうど。○〔蜀都賦〕「市・廓所レ會ー・ー之淵也」。
〔海商〕海運業をなすあきうど。○〔王建〕「津橋稅二ー・ーー」。
〔殷商〕成湯の創業なせし王朝の名、神武紀元前一千百二十四年より同四百六十三年までの間支那を支配せり。○〔詩〕「自二彼ー・ーー」。

【啇】テキ、チャク。丁歷切 錫
もと、(本)。

【啇】セキ、シャク　施隻切 陌
やはらぐ、又、やはらか、(和)。

【啈】カウ、ヤヨウ。亨孟切 敬
互に利害を主張す、瞋り語る、あらそふ。

【啈】ガツ、牙葛 サツ、才達 曷
ガチ。切　ザチ。切
吰、噴に同じ。

【啉】ラン。盧含切 覃
一亦、書して
啽に作る。
㊀酒の巡り匝るにいふ字、めぐる、又、飮み畢はるにいふ字、をはる。㊁かまびすし、(聒)。㊂むさぼる、(貪)。

【啊】ア。安賀切 箇
こゑ、(聲)。

【嘄】ケウ。ケ。許饒切 蕭
ケキ、キヤク。迄逆切 陌
㊀安く靜かならず、又、うごく、(動)、又、かまびすし、(諠)。㊁おほいなり、(大)。

【啋】サイ。倉來切 灰
語辭いやし。

【啌】カウ、コウ。虛江切 江
㊀瞋り語る、ほかる、(咄)。㊁くちそゝぐ、(嗽)。

【㖧】
吻の古字。

【㖧】コン、ゴン。呼昆切 元
日にて見えざる所。○〔揚雄〕「著二古・昔之ー・ー一傳二千・里之忞・忞一莫レ如レ書」。

【啍】トン。他昆切 元
㊀口より吐く氣、いき。㊁いつはる、おほいなり、(誕)。○〔荀〕「無レ取二口ー・ー一」。㊂おもく〳〵しくていそがざる貌にいふ字、おもし。○〔詩〕「大車ー・ーー」。

【啍】シュン。朱倫切 眞
諄に同じ、誨へて倦まず、をしふ、すゝむ、又、多言なり、くど〳〵しく言ふ、かまびすし。○〔莊〕「ー・ー已亂二天下一」。

【啍】タイ。覩猥切 賄
たはごと、(譫言)。

【啎】ゴ、グ。五故切 遇
ふれ、(觸)、さかふ、(逆)、又、あふ、(逢)。○〔楚辭〕「重・華不レ可レー兮」。

【問】ブン、モン。亡連切 問
㊀とふ、たづぬ。
（い）他の述べんことを要む、己れの聞かんことを求む、きく、たゞす。○〔書〕「好レー則裕」。
（ろ）起居を訪ふ、音信を通ず、とぶらふ、おとづる。○〔儀〕「小・聘曰レー」。
（は）囚人の罪狀をとり調ぶ。○〔詩〕「淑ー如二皐・陶一」。
㊁とふを、とふ所、だい、とひ、たづれ、おとづれ、みまひ。○〔晉〕「羈二寓京・師一久無二家ーー」。
㊂物を遺る、おくる、つかはす。○〔詩〕「雜・佩以ーレ之」。「孟・嘗・君二」。
㊃つぐ、(告)、いふ、(言)。○〔戰〕「或以ーー」
㊄めす、(命)。○〔左〕「期戍公ー不レ至」。
㊅聞に通じ用ふ、きこえ、ほまれ。○〔詩〕「不レ隕二厥ー一」。
〔學問〕習ひたづぬること。○〔易〕「君・子ー以聚レ之、ー以辨レ之」。
〔間問〕間をおきてたづねとふこと。○〔周〕「ー・ー以論二諸・侯之志一」。「ー・ー」。
〔訪問〕人の處をおとづる。○〔左〕「朝以聽レ政、晝以ー・ーー」。
〔下問〕己れより目下の人に尋ねとふこと。○〔論〕「敏而好レ學、不レ恥二ー・ーー」。
〔驗問〕ちらべたづぬ。○〔漢〕「ー・ー定二著令一」。
〔聖問〕高明人よりたづねとはるゝこと。○〔漢〕「造二貴朝一承二ー・ーー」。
〔聞問〕おとづる。○〔漢〕「數・年不二ー・ーー」。
〔詰問〕責めとふ。○〔漢〕「治・吏ー二・ー嘉一」。
〔顧問〕己れの知らざること疑はしきことをば尋ねとふこと、又、其の人。○〔宋〕「以二方・外一備二ー・ーー可也」。
〔通問〕おとづれをなす。○〔禮〕「嫂叔不レーレー」。
〔聘問〕時節見舞のために尋ね行くこと。○〔周〕「時ー日レー」。
〔切問〕懇にたづねとふこと。○〔論〕「ーー而近思」。
〔勝問〕吟味すること。○〔宋〕「守變レ服入二營中一、ーー得レ狀」。「親・戚一」。
〔存問〕たづね見舞ふこと。○〔史〕「使・使ー・ー、歡二遺
〔購問〕賞金を懸てたづねとふ。○〔史〕「販二茄・政尸一、暴二于市一ー・ーー」。
〔延問〕召し出だしてたづねとふこと。○〔後漢〕「毎レ有二災・異一、輒ー二・ー公・卿一」。
〔策問〕當世の事務につき題を出だして試驗すること。○〔後漢〕「帝親臨ー・ーー」。「輒下レ詔ー・ーー」。
〔難問〕容易くはえこたへざるとひを爲す。○〔後漢〕
〔糾問〕吟味すること。○〔後漢〕「畏二其勢・援一、莫二敢ー・ーー」。「ー・ーー」。
〔慰問〕おとづれなぐさむ。○〔後漢〕「帝使二中黃・門
〔ー問〕はかりたづぬ。○〔後漢〕「朝・廷每レ有二疑・政一、輒驛・使ー・ーー」。「ー・ーー」。
〔詢問〕おとづる。○〔後漢〕「時京・師地・震、特見二
〔責問〕せめたづぬ。○〔後漢〕「乘レ驛ー・ーー」。
〔勞問〕ねぎらひたづぬ。○〔北〕「降レ書ー・ーー」。
〔推問〕吟味すること。○〔晉〕「ー・ー皆符・驗」。
〔借問〕試みにたづぬ。○〔陶潛〕「ー・ー爲レ誰悲」。
〔裁問〕吟味すること。○〔梁〕「若有二犯者一、嚴加二ー・ーー」。
〔條問〕罪狀を簿に記したづぬ。○〔魏〕「親臨ー・ーー」。
〔候問〕起居をたづねとふ。○〔唐〕「帝命二磬二苑・垣一、以便二ー・ーー」。
〔質問〕疑はしきをたづねとふ。○〔陸游〕「稺・子挾レ書勤二ー・ーー」。「ー之二」。
〔摘問〕拔き出だしてとふ。○〔唐〕「試擧二諸・條一ー二ー」。
〔按問〕ちらべたづぬ。○〔宋〕「就レ第ー・ーー」。
〔鞫問〕前に同じ。○〔宋〕「李・鉞ー・ーー」。
〔訊問〕たづねとふ。○〔說苑〕「ー・ー者智之本」。
〔察問〕善しあしをちらべとふ。○〔金〕「上謂二宰・相一曰、ー二・ー細・微一」。「筆答レ之」。
〔劇問〕急速なるたづね。○〔文士傳〕「有二ー・ーー以レ瀉・生ー・ー、允迪」。
〔哲問〕明らかにすぐれ出たるとひ。○〔陸機〕「變々
〔扣問〕意見をたゝきたづぬ。○〔魏了翁〕「哆・然自是恥二于ー・ーー者」。「鴻」。
〔細問〕事こまかにたづぬ。○〔元好問〕「ーー北來

【〓】ケキ、キヤク。去逆切 陌
俗の隙の字、わらふ、わらひ、(笑)。

【啐】サイ、セ。七內切 隊
㊀おどろく、(驚)。㊁よぶ、よばふ、(噱)。㊂口に入る、なむ、又、少しく酒を飮む、

のむ、又、其の聲にいふ字。○[禮]「衆-賓兄-弟則皆ーレ之」。

【啐】サイ、セ。倉夬切 [卦]
くらふ（啗）。

【啐】シュツ、セチ。昨律切 [質]
㊀すふ（吮）、又、其の聲。
㊁衆くの聲、又、かまびすし。

【啐】ガツ、ガチ。五割切 [曷]
語もて呵り、さゞむ、いましむ（戒）。

【啐】サツ、サチ。才割切 [曷]
噴に同じ、聲にいふ字。

【口彔】ロク。盧谷切 [屋]
㊀わらふ（笑）。㊁鳥の聲。

【啑】サフ、セフ。所甲切 [洽]
水鳥の魚を食らふ貌にいふ字、ついばむ、くらふ。

【啑】サフ、セフ。子答切 [合]
咂に同じ、すゝる、すふ。○[南]「刺レ鼻不レ知レー」。

【啑】セフ。即渉切 [葉]
多言なり、かまびすし。

【啒】コツ、コチ。呼骨切 [月]
うれふ、うれふる貌、又、うれひ（憂）。

【啓】ケイ、カイ。康禮切 [薺]
㊀ひらく。
(い)智識を開發せしむ、をしふ、さとす。○[書]「ーニ廸後-人一」。
(ろ)智識開發す、志る、さとる。○[論]「不レ憤不レー」。
(は)あけはなる、あけはなす、とく、あく。○[左]「晏-子立ニ于崔-氏之門-外一、門ー而入」。
(に)ひろぐ、ひろがる。○[南]「編-戸歲滋、疆-宇日ー」。
(ほ)おこる、おこす。○[徐陵]「皇-運勃ーー」。
(へ)導く、佐く。○[國]「天ーレ之」。
(と)とほる、とほす、疏通す。○[南]「鑿ニ河-津于孟-門一百川復ー」。
(ち)なしはじむ、はじむ、はじまる。○[柳宗元]「是ーレ之也」。
(り)ひざまづく（跽）、ひざくむ（蹢）。○[詩]「不レ遑ニー處一」。
(ぬ)わかつ、わかる（別）。○[禮]「ー灌ニ藍-蓼一」。
(る)文書にて陳述す、まをす。○[晉]「皆先密ー、然後公奏」。
(を)隊列などのさきばらひをなす。○[詩]「元-戎十乘以ーレ行」。
(わ)雨降りて晝晴るゝにいふ字。
㊁さきばらひ、おさへ、軍前、選鋒。○[詩、註]「軍-前曰レー後曰レ殿」。
㊂事を陳述するもの、手翰、上書。○[晉]「時稱ニ山-公ー事一」。
㊃星の名。○[詩]「東有ニー明一」。

(天啓) 天よりひらく天運。○[晉]「用非ニーー一」。
(乾啓) 前に同じ。○[晉]「凶-衆土崩、可レ謂ニーー一」。
(欣啓) 小さき孔の通りあること、見聞の少きとに借りいふ語。○[莊]「ーー寡-聞之民也」。
(佑啓) たすけひらく、教ふ、發達せしむ、開通せしむ、力を添へて爲し始めしむ。○[孟]「ーニーー我後一」。
(密啓) 他人にひらかせざる書翰。○[晉]「羊-祜ーー「ー」。ー留レ充」。
(肇啓) はじむ、又、はじまる。○[李東昏]「井-田ーー」。
(洞啓) あきひらく。○[何遜]「千-門始擴、百常ーー」。
(首啓) 軍前先拂ひ。○[劉琨]「ーー先ニ士卒一」。
(列啓) わかつ。○[鮑照]「ーニーー源-陸一」。
(陳啓) 申し上ぐ、まをす。○[梁武帝]「宜レ有レ所レ論可レ入ニーー一」。
(上啓) 前に同じ、又、上書など。○[梁昭明太子]「苟有ニ愚-心一願得ニーー一」。
(興啓) おこりはじまるにいふ語。○[耶律楚材]「我道將ニーー一」。
(勃啓) にはかに發達す、盛んになる。○[徐陵]「皇-運ーー」。

【啕】タフ、ドフ。徒刀切 [豪]
㊀多言なり、かまびすし。
㊁本、詢に作る、啕に同じ、往來す、又、ゆきき。
㊂小兒の未だ正しく言ふ能はざるを
㊃いはふ、いはい（祝）。

【啖】タン、ドン。徒覽切 [感]
噉、啗に同じ
㊀くらふ。
(い)食す、はむ、かむ。○[晉]「狼ーニ一脚一」。
(ろ)轉じて、併せ取るの義にもいふ字。○[史]「秦割レ齊而ーニ晉楚一」。
㊁くらはす。
(い)食せしむ、はます、かます。○[漢]「吉婦取レ棗以ーレ吉」。
(ろ)欲するものを與へて誘ふの義にもいふ字。○[避暑清話]「疑ニ以レ俸厚ーレ出」。

(健啖) 多量にくらふ、大食。○[癸辛雜識]「趙卿ーーー、歐欲下作ニ小羨一心相識上」。
(食啖) くらふ、又、食物。○[晉]「人相ーーー、白-骨盈-積」。
(冷啖) ひやゝかなるものをくらふ、又、其の食物。○[金]「穴-居野-處ーーー寒-眠」。
(啖々) 併せくらふ貌、又、くらふ貌にいふ語。○[荀]「ーー常欲ニ人之有一」。
(虎啖) 強大の弱小を壓するとに借りいふ語。○[淮]「大之與レ小、強之與レ弱也、猶下石之投レ卵ー之ー上レ豚」。
(常啖) つねにくらふ、又、つねの食物。○[酉陽雜俎]「蠡-蕁-子如ニ彈-丸一魏武帝ーーレ之」。
(飽啖) かみくらふ。○[夢溪筆談]「潤-州亦使ー「ー」」。
(咀啖) 前に同じ。○[春渚紀聞]「聽ニ其ーー一」。
(狼啖) くらふこと。○[陳陶]「鬼-魚爭ーーー」。
(鹽啖) かみくらふ。○[王令]「ーニーー善-人實一」。
(快啖) こゝろよくくらふ、十分にくらふ。○[蔡襄]「大嚼ーー」。

【啖】タン、ドン。徒濫切 [勘]
㊀くろふ（狂）。㊁かむ（噍）。
㊂淡に同じ、あはし、又、あはきもの、卽ち、甘味なき食物など。○[史]「呂-后與ニ陛-下一攻レ苦食レー」。

【啗】タン、ドン。徒覽切 [感] 徒濫切 [勘]
㊀啖の字に同じ。○[韓]「先飯レ黍而後ーレ桃」。
㊁のむ、のます（飲）。○[唐]「右手持レ酒「ー」」。

(膳啗) くひもの、食物。○[戰]「衣-服之便ニ於體一、ーーー之嗛ニ於口一」。
(飲啗) のみくらふ、食事をなす。○[漢]「與ニ從官ーーー」。
(吞啗) のみくらふ、又、奪ひ取る。○[參同契、注]「相ー相ー」。
(剝啗) 皮をはぎ肉をくらふ、又、他の所有物を奪ひ取る。○[湘山野錄]「遂類ニ猛-虎ー脂ーレ肉之害一」。
(餌啗) ゑばをくらはす、又、其の人の欲するものをもて其の人を誘ふとにもいふ語。○[劉禹錫]「害張ーー、不レ可ニ遍-伏一」。

【啵】ハ、バ。步臥切 [箇]
人の惡事を言ふを喜ぶ、そしる。

【啙】シ、シ。蔣氏切 [紙]　セイ、ザイ。在禮切 [薺]　祖稽切 [齊]
㊀なまけるを、かりそめ（苟且）、又、よはし（弱）、又、ゆがむ（窳）。○[漢]「ー窳偸レ生而亡ニ積-聚一」。

㊀みじかし、(短)。○[揚雄]「—孅短也」。

【呰】シ、ジ。才資切 [支] 呰に同じ。

【呰】セキ、シャク。子亦切 [陌] この、これ(此)。

【啚】ヒ、方美 ビ。切 [紙] 俗に圖の字となすは非なり。㊀鄙に同じ、いやし、又、いやしきと、いやしき場處、いなか、又、いやしきもの、いなかもの。㊁をしむ(嗇)。

【唼】サイ、セイ。取内切 [隊] さきに嘗む、なむ。

【唈】キフ、コフ。乞及切 [緝] 舟を送る聲。

【啜】テツ、テチ。株劣切 [屑] ㊀諁に同じ、かまびすし。㊁泣く貌にいふ字、氣を縮めてなく、すゝりなく、なく、すゝる。○[詩]「—其泣矣」。

【啜】セツ、セチ。昌悅切 [屑] ㊀口に吸ひ入る、すゝる、又、なむ、(嘗)、又、ついばむ(喙)、又、くらふ(茹)。○[戰]「樂羊坐二幕下一而—レ之」。㊁なく、(泣)。
(餔啜) 食ひすゝる 又、くらふ、又、食事をなす、又、生活す。○[孟]「子之從二于子敖一來徒——也」。
(長啜) 時間ながくすゝる、多量にすゝる。○[唐]「——大嚼」。
(吾啜) すゝる。○[洛陽伽藍記]「—二—鯽羹一」。
(飲啜) のみすゝる、すゝる。○[沈括]「養嫩有レ節——有レ宜」。「俗」。
(飽啜) 腹十分にすゝる。○[梅堯臣]「——時出」

【啜】テイ。株衛 セイ、嘗芮 ゼイ。切 切 [霽] なむ、嘗。

【啝】クワ、ワ。戸戈切 [歌] ㊀こたふ(應)。㊁小兒の啼くにいふ字、なく。

【㖩】シユ、ス。子于切 [虞] 廉ならず、むさぼる。

【𠻘】ソウ、ス。蘇后切 [有] 嗾に同じ、犬を使ふ聲にいふ字。

【啞】アク、ヤク。烏格切 [陌] ㊀わらふ、(笑)。○[林希逸]「升沈付二——一」。㊁わらふ聲、又、わらひ語る聲にいふ字。○[劉寔]「夜悉笑語—」。㊂又、わらふ貌にもいふ字。○[揚雄]「—爾笑曰、須二以發レ策定レ科」。
(啞啞) 笑ふ聲、又、わらひ語る聲にいふ語。○[易]「笑言——」。
(笑啞) わらひ。○[范成大]「傀狀發二——一」。
(鳴啞) わらふ聲にいふ字、又、わらふ。○[李賀]「弄レ月聊——」。

【啞】ア。烏下切 [馬] 瘂、又、瘖に同じ、もの言ふ能はざる不具者、おし、おふし。○[史]「漆レ身爲レ厲、呑レ炭爲レ—」。
(瘖啞) おはし、又、言説せざるをいふ語。○[唐]「好-人——」。

【啞】ア。於加切 [麻] ㊀小兒の不了の言をなすを、かたこと、又、かたる。○[蘇軾]「小兒——語二繡帳一」。

㊁他の聲にもいふ字。○[易林]「鳧雁——以レ水爲レ家」。
(嘔啞) 小兒のかた言、又、他の聲にいふ語。○[杜牧]「管絃——」。

【啞】ア。衣駕切 [禡] ㊀驚きて發する聲、あゝ。○[韓]「—是非二君レ人者之言一也」。㊁鳥の聲。

【啯】カク、キヤク。忽麥切 [陌] ㊀こゑ、(聲)。㊁大いに笑ふ貌にいふ字。

【啯】キヨク、井キ。忽域切 [職] こゑ(聲)。

【啯】イク、ヰク。乙六切 [屋] 或は、啼に作る、のむどのこゑ。

【唲】アイ、エ。於佳切 [佳] 小兒の言。

【咃】タ。通多切 [歌] 呪語に用ふる字。

【啅】タウ、トウ。丁奏切 [號] たはごと、又、たはごとを言ふ。○[帝京景物略]「—喇者、搯撥而數唱二雜劇之名一」。

【噎】咽に同じ。○[山海經]「服レ之不レ—」。

【啻】シ。施智切 [寘] ㊀物事の過多にして尙ほ他に餘りありとなす意、即ち、其ればかりかは、其れのみかの意を表すときに用ふる字、つれに、單用することなく、打ち消しの字、又、反語をなす字を上に附け加へ用ふるものとす、不啻、豈啻の如し、たゞ、たゞに。○[國]「奚—其聞レ之也」。㊁諦に同じ、あきらか、つまびらか。

【啻】テイ、タイ。丁計切 [霽] たかきこゑ(高聲)。

【啼】テイ、ダイ。杜兮切 [齊] 嗁に同じ、なく。
(い)感動の餘りに涙を流し聲を發するにいふ字、なげく。○[穀梁]「驪-姬下レ堂而—」。
(ろ)又、鳥などの聲高く鳴くにもいふ字。○[杜甫]「自-在嬌-鶯恰-々—」。
(悲啼) かなしみなく。○[韓愈]「中-路正——」。
(愁啼) うれひてなく。○[傅休奕]「戯二我——一」。
(含啼) なかんとする情のあらはるゝをいふ語。○[江總]「玉-臉—レ—還似レ笑」。「裝」。○
(銜啼) 前に同じ。○[張正見]「—レ—拂レ鏡不レ成レ
(深啼) なき入る。○[杜甫]「晉轉——犹」。
(偸啼) 人に知らさじとなく。○[陳後主]「小婦夜——」。

【𠲗】シ。是支切 [支] 鳥鳴く、なく。

【𠲗】テイ、ダイ。田黎切 [齊] 嗁に同じ、なく、さけぶ。○[顏氏家訓]「子生咳—」。

【唅】ガン、ゴン。吾含切 [覃] れいびき、(寢聲)。○[列]「眠中—囈呻呼」。

【𠹭】キヤク、極虐切 藥　ガク、其逆切 陌
大に笑ふ、わらふ

【啾】シウ、シュ。即由切 尤
小さき聲にて鳴く、なく、なげく、さゝやく、又、其の聲にいふ、又、小兒の聲にもいふ字。○〔楊載〕「依レ林白-鳥｜｜」。
（啾々）なく、又、なく聲にいふ字。○〔楚辭〕「鳴ニ玉-鸞之｜｜ニ」。
（喇啾）前に同じ。○〔柳宗元〕「｜｜有ニ餘-樂ニ」。
（喧啾）かまびすしくなく。○〔韓愈〕「｜｜百-鳥聲」。
（聊啾）耳のなるにいふ語。○〔楚辭〕「耳｜｜而憹慌」。
（嘲啾）なく、聲を發す。○〔晁仲之〕「鳥聲上｜｜」。
（號啾）前に同じ。○〔利登野農謠〕「炊多羅少饑｜｜」。

【嘾】タン、ドン。徒感切 感
豊かにして厚き貌にいふ字、又、ゆたかなり、あつし。○〔漢〕「羣-生｜｜」。

【嗁】
嚎に同じ。

【喀】カク、キヤク。苦格切 陌
吐く聲にいふ字、又、はく、（嘔）。○〔列〕「兩-手據レ地而歐レ之、不レ出｜｜然」。

【喁】ギヨウ、グ。魚容切 冬
㊀魚の口のうかみ見はるゝにいふ字。○〔韓詩〕「水濁則魚｜」。
㊁聲を發す、さなふ、よぶ、又、其の聲にもいふ字。○〔莊〕「前-者唱レ于、而後-者唱レ｜」。
（噞喁）魚あつまりてあぎとふ。○〔傅肩吾〕「江鱷乍｜｜」。
（喁々）（い）あつまりあぎとふ貌にいふ語、轉じて、人の仰ぎ向ふの義に借りいふ語。○〔史〕「延レ頸擧レ踵｜｜然」。
（ろ）いろ〳〵にものいふ、下らぬことをいふ。○〔史〕「公等｜｜者也何知ニ長-者之道ニ乎」。

【喁】ゴウ、グ。語口切 有
前條の㊀に同じ。

【喁】ゴ、グ。虞矩切 麌
魚口の聚まりつどふ貌にいふ字。

【喂】井。於韋切 微
おそる、おそれ、（恐）。

【[口盆]】ホン、ボン。步奔切 元
はく、（吐）。

【[口盆]】ホン、ボン。芳問切 問
湓に同じ、水の聲。

【喃】タン、尼咸切 咸　ナン。那含切 覃
言語多し、くご〳〵し、又、くご〳〵しく語る、かたる、又、其の聲にいふ字。○〔北〕「乃向ニ西-北ニ奮レ頭｜｜細語」。
（呢喃）言多くかたる、又、其の聲、特に、燕にいふ字。○〔摭言〕「見ニ梁上雙-燕｜｜ニ」。
（詀喃）前の上半段に同じ。○〔元稹〕「詀報語｜｜」。

【喃】ダン、ナン。乃感切 感
なむ、（嘗）。

【善】セン、ゼン。上演切 銑
㊀惡の反、正理に戻らざるを、法則に適ふを、又、物事の正しき極度に至るを、完全なるを、總べて、人の良心に譽め敬ふものなるを、即ち、德行、仁政、直言など、又、人の良心に願ひ望めるものなるを、即ち、快樂、幸福、便利など。○〔老〕「皆知ニ｜之爲レ｜、斯不｜已」。
㊁よし。
（い）惡しからず、（前項對照）。○〔易〕「出ニ其言｜則千-里之外應レ之」。
（ろ）まされり、貴し。○〔論〕「求ニ｜賈ニ而沽レ諸」。
（は）多し。○〔禮〕「嘗レ饌｜則世-子亦能食」。
（に）親し、睦まし。○〔左〕「伍-擧與ニ聲-子相｜」。
（ほ）快し、安し。○〔戰〕「象-牀甚｜」。
㊂よく。
（い）惡しからざるやうに、親切に、委しく、巧みに。○〔老〕「｜戰者服ニ于上-刑ニ」。
（ろ）大いに、多く、やゝもすれば、たび〳〵。○〔詩〕「女-子｜懷」。
㊃よくす。
（い）よく其の物の處置をなす。○〔莊〕「｜レ刀而藏レ之」。
（ろ）よく其の事を爲し得。○〔韓愈〕「籍又｜ニ於古-詩ニ」。
㊄よしと爲す、よしとす、よみす。○〔公羊〕「君-子之｜レ善也長」。
㊅よき道を行ふ者、孝子、貞婦、賢者、君子など。○〔左〕「能擧レ｜也」。
㊆單と通ず。○〔漢〕「單干曰ニ｜-于ニ」。
㊇膳と通ず。○〔莊〕「具ニ大牢ニ爲レ｜」。
（積善）良きことを重ねつむ。○〔易〕「｜｜之家、必有ニ餘-慶ニ」。
（小善）僅かばかりのよきこと。○〔易〕「小-人以ニ｜｜爲レ無レ益而弗レ爲也」。
（勸善）良きことをすゝめてなさしむ。○〔左〕「子-文無レ後、何以｜レ｜」。
（責善）良きことをせよと互にすゝめあふこと。○〔孟〕「父-子之間、不レ｜レ｜」。
（遷善）惡を改めて良きかたにむかふこと。○〔孟〕「民日｜レ｜」。
（詐善）僞りかざりてよきものゝやうに見す。○〔後漢〕「人皆詐レ惡、我獨｜レ｜、不ニ亦可ニ乎」。
（獨善）人にかゝはらず己れのみおさむること。○〔隋〕「藏レ用足ニ以｜｜ニ」。
（片善）僅かばかりのよきこと。○〔舊唐〕「｜｜而天-下必聞」。
（聖善）すぐれて良きこと。○〔詩〕「母-氏｜｜、我無ニ令-人ニ」。
（嘉善）（い）良きことをよみす。○〔論〕「｜レ｜而矜ニ不-能ニ」。
（ろ）良きこと。○〔詩、疏〕「我有ニ｜｜之賓-客ニ」。
（慶善）自出度きこと。○〔易、疏〕「能自光-大、章ニ顯其德ニ、而獲ニ｜｜也」。
（順善）良きことに從ふ、又、よし。○〔詩、箋〕「撫ニ萬-邦ニ使レ｜レ｜也」。
（利善）鋭くして良し。○〔詩、箋〕「農-人以ニ｜｜之耜ニ」。
（和善）やはらぎて良きこと。○〔禮、疏〕「私-燕所レ居色尚ニ｜｜ニ」。
（至善）此の上もなきよきこと。○〔禮〕「在レ止於｜｜ニ」。
（忠善）誠實にして良きこと。○〔左〕「子產曰、｜｜以損レ怨」。
（盡善）よきこと此の上もなし。○〔論〕「子謂レ韶、盡レ美矣、未レ｜レ｜也」。
（獻善）よきことを上なる人にすゝめたてまつる。○〔揚雄〕「｜レ｜宣レ美、而譏-說是折」。
（仁善）なさけありてよきこと。○〔史〕「薄-氏｜｜」。
（珍善）めづらしくむつまし。○〔史〕「情-好｜｜」。
（完善）全くしてよし。○〔史〕「示レ不レ如ニ旃-裘之｜｜也」。
（異善）他にことなりてよきこと。○〔漢〕「有ニ｜｜厚加ニ賞賜ニ」。

【[口柔]】ヂウ、ニウ。尼猷切 尤
小兒の聲。

【[口柔]】ジウ、ヌ。如又切 宥
惡ざまにいふを、わるくち。

【喆】
詰、哲に同じ。○〔漢〕「聖｜之治」。

【喇】ラツ、ラチ。郎達切 曷
言語急なり、ことばはげし、ことばはやし、はやくち、くちばや。

【喈】カイ、ケイ。居諧切 佳
㊀鳥の鳴く聲の和らぎて遠く聞ゆるにいふ字、さへづる、又、やはらぐ。○〔詩〕「黃-鳥于飛、集ニ于灌-木ニ其鳴｜｜」。

㊁疾速なる貌にいふ字、とし、はやし。○〔詩〕「北-風其一」。㊂鐘の響にもいふ字。○〔詩〕「鼓レ鐘一一」。

【喈】　カイ、ケ。許介切　〔卦〕
こゑにいふ字。

【喉】　コウ、ク。胡鉤切　〔尤〕
㊀咽に同じ、のむど、のどぶえ。○〔左〕「富-父終-甥椿二其一一」。㊁のむどは人體の要處なるゆゑに、物の要處の義に借りいふ字。○〔詩〕「出二納王命一王之一-舌」。
〔扼喉〕のむどをしめつく、又、要害に據有するとにもいふ語。○〔魏〕「畫レ地而守レ之、一二其一一而不レ得レ進」。
〔心喉〕むねとのむどと、又、要處。○〔晉〕「夏-口東關賊之一一-一」。
〔結喉〕のどぶえの高く出でたるにいふ語。○〔列女傳〕「白-頭深-目卬-鼻一-一」。
〔咽喉〕のむど、又、物の要處。○〔戰〕「韓天-下之一-一」。「以通二蜀-漢一-一二」。
〔衿喉〕えりとのむどと、義前に同じ。○〔唐〕「勤レ兵」
〔乾喉〕かわきたるのむど、力のあらん限りに言說しつくしたるとに借りいふ語。○〔說苑〕「一-一燋-脣仰レ天而歎」。
〔歌喉〕うたふのむど、卽ち、うたふ音聲の發するところの義。○〔白居易〕「何郞小-妓一-一好」。
〔嬌喉〕なまめかしき音聲を出だすのむど。○〔許有孚〕「其奈一-一百-囀新」。
〔狂喉〕神經の人なみならぬくるひたるのむど、卽ち、如何なる物をも食らふを憚らざるにいふ語。○〔陸龜蒙〕「一-一恣二呑-噬一」。
〔啟喉〕音聲を平素の如く發する能はざるにいふ語。○〔蘇軾〕「踵息殆一一」。

【哿】　カ、ガ。下可切　〔哿〕
慢りに響ふる聲にいふ字、又、こたふ。

【喊】　カン、ゲン。下斬切　〔豏〕
こゑ、(な)、いかれるこゑ、(怒聲)、又、聲を發す、怒聲を發す、いかる、よぶ、さけぶ。○〔柳宗元〕「跳-踉大-一、斷二其喉一盡二其肉一」。
〔齊喊〕あつまりあふ人々の一時にさけぶこと、ひとしくよぶ。○〔盧肇〕「衝レ波突-出人一-一」。
〔吶喊〕大聲を發す、さけぶ。○〔戚繼光〕「各兵一-一」。

【噉】　カン、コン。呼覽切　〔感〕
㊀嚂に同じ、こゑ、(聲)。㊁よし、(可)。㊂あぢはふ、(味)。○〔楊雄〕「狄-牙能一」。

【㖶】　カン、コン。盧咸切　〔咸〕
㊀堅く持つ、もつ、又、口を閉づ、とづ。㊁ゑかる、(呵)。

【喊】　カン、コン。苦濫切　〔勘〕
ゑかる、(呵)。

【喋】　テフ、デフ。徒叶切　〔葉〕
㊀よどみなくして多言す、口さがしく語る、ゑやべる、又、かまびすし、くちがまし。○〔周文璞〕「出レ語重二繫一一」。㊁血の流るゝ貌にいふ字、ながる。○〔王安石〕「夏-楚血常一」。㊂蹀に同じ、ふむ。○〔漢〕「一レ血」。
〔喋々〕くちがましくしやべるにいふ語。○〔史〕「嗟土室之人顧無二多辭令一一-一而佔-々二」。

【㗱】　タフ、デフ。直甲切　〔洽〕
鳧雁などの餌を食ふにいふ字、くらふ、ついばむ、ふくむ、又、他のものにもいふ字。○〔沈遼〕「老穫二空-腹一二」。
〔唼㗱〕すゝりくらふ。○〔史〕「一-一青-藻」。
〔唼㗱〕前に同じ。○〔沈遼〕「孤-蒲觀二一-一二」。
〔噞㗱〕のみくらふ。○〔吳越春秋〕「烏-鵲呼一-一」。

【喋】　ケフ、コウ。去渉切　〔葉〕
ごもる、ごもり、(吃)。

【㖼】　シク、ソク。之六切　〔屋〕　シウ、ス。之由切　〔尤〕
雞を呼ぶ聲、(重ね言ふ)。

【喍】　サイ、ゼ。鉏佳切　〔佳〕
犬の鬪ふ貌にいふ字、かみあふ。

【㖲】　ジュン、ニン。乳尹切　〔軫〕
すふ、ねぶる、(吮)。

【喘】　セン、ゼン。才先切　〔先〕
㊀熟く煎る、にる。㊁わらふ、(嗤)。

【喏】　ジヤ、ザ。尒者切　〔馬〕　シヤク、ジヤク。俗酌切　〔藥〕
敬みて應ふる聲にいふ字、又、いらへ、こたへ。○〔淮〕「子-發曰、一」。

【喆】　諾の古文。

【嗿】　タイ、ダイ。徒亥切　〔賄〕　湯來切　〔灰〕
言ひて止まず、ことばおほし。

【喐】　ヰク、ヰク。乙六切　〔屋〕
こゑ、(聲)、又、喉のこゑ。

【㗁】　チツ、チチ。陟栗切　〔質〕
かむ、(齧)。

【嗖】　シウ、シユ。所救切　〔宥〕
鳥を驅る聲。

【㗩】　シユク、ソク。所六切　〔屋〕
笑ふ聲、又、わらふ。

【喑】　イン、オン。於金切　〔侵〕
㊀兒の泣きて止まざるにいふ字、なく、さけぶ。㊁言說する能はざる者、おふし、又、聲を失ふたる者にもいふ。○〔文子〕「皐-陶一而爲二大-理一」。㊂言說せず、默す。○〔墨〕「近-臣則一、遠-臣則唫」。
〔喑々〕言ふと能はざる貌にいふ語。○〔風俗通儀〕「無二聲-響一徒一-一而已」。
〔坐喑〕事をも行はず言をもいはざると。○〔易林〕「箕-踞一-一、名爲二無-用一」。
〔聾喑〕つんぼとおふしと、轉じて、上たる者は、下情を知らず、下の者は上を恐れて言はず上下阻隔するとに借りいふ語。○〔子華子〕「一-一之朝、上有二放-志一、下多二忌-諱一」。

【㘅】　アン、オン。烏含切　〔覃〕
㊀泣き〳〵て聲なきにいふ字、又、なきむせぶ、なきいる。㊁大呼す、よぶ。

【𠲿】　イン、オン。於錦切　〔寑〕　アン、オン。烏紺切　〔勘〕　鄔感切　〔感〕
氣を聚むる貌にいふ字。○〔莊〕「自レ本觀レ之生者一-𩞟物也」。

【暗】　イン、オン。於禁切　〔沁〕
㊀大いに叱す、怒聲を發す、ゑかる、ゑたうちす。○〔史〕「項-王一-噁叱-咤千-人皆廢」。㊁前々條の㊀に同じ。

【呦】　イウ。於求切　〔尤〕
㊀鹿鳴く、なく。㊁吟聲にいふ字。

【㗝】　サン、ソン　子感切。〔感〕
あぢはふ、あぢ、(味)。

【嘤】　エウ。伊消切　［蕭］
聲にいふ字。○〔詩〕「――草蟲」。

【喔】　アク、於角　［覺］　チク。烏谷　切　オク　切　［屋］
㊀强ひて笑ひ顏をつくる貌にいふ字、へつらひわらふ、わらふ。○〔楚辭〕「吾將――咿嚅・喔以事二婦人一乎」。
㊁鳥鳴く、なく、又、其の聲。○〔韓愈〕「天星牢落雞――咿」。
〔喔咿〕强ひて笑ひへつらふこと。○〔王逸〕「諓々兮――」。
〔呃喔〕鳥の鳴くにいふ語。○〔潘岳〕「貝游――「悲」。引二之規裏一」。
〔㗘喔〕前に同じ。○〔傅休奕〕「――――聲正」。
〔喔々〕前に同じ。○〔白居易〕「――十四雛」。
〔咿喔〕前に同じ、又、へつらひ笑ふことにもいふ語。○〔韓愈〕「正言免二――一」。

【嗁】　シ。商支切　［支］
雞を驅る聲、ここ。

【喕】　ベン、メン。彌演切　［銑］
言はず。

【喖】　コ、ウ　洪孤切　［虞］
のむど（咽喉）。○〔揚雄〕「爲二喖――一」。

【喗】　グン、ゴン。牛殞　切　［軫］　。
魚吻切　［吻］　ソン、ゾン。粗本切　［阮］
口大いなり、くちひろし、又、大いなる口、又、口ひろくして齒醜き貌にいふ字。○〔賈誼〕「―潛多飮レ酒」。

【喘】　セン、ゼン。昌流切　［銑］
㊀氣息の出入疾きにいふ字、いきせく、あへぐ、せく、又、いきせくこと、いきせく病、せき。○〔漢〕「匈―膚汗」。
㊁睡中の鼻息、いびき、又、いびきを發す、いびく。○〔蘇軾〕「鶴瘦龜不レ―」。○〔張說〕「假――殘生」。
㊂氣息、又、生存の義にもいふ字。「言」。
㊃微かに言ふ、さゝやく。○〔荀〕「―而言」。
〔餘喘〕絕ゆるに近き氣息、又、死に近き生存。○〔隋〕「殆及二――一、薄言二胸臆一」。
〔假喘〕前に同じ。○〔張說〕「――殘生」。
〔窮喘〕前に同じ。○〔李嶠〕「――無レ恨餘生知レ幸」。
〔殘喘〕前に同じ。○〔郝經〕「老吟寄二――一」。
〔微喘〕かすかなるせき、又、氣息、義、前に同じ。○〔李朝隱〕「借臣――、使レ延二晷刻一」。
〔號喘〕聲高くあへぐ。○〔蘇軾〕「萬竅自――」。
〔一喘〕一つのあへぎ、一の氣息、轉じて、極めて短かき時間に借りいふ語。○〔蘇軾〕「高劫付二――一」。
〔諠喘〕めぐる。○〔揚雄〕「――悼也」。
〔懼喘〕おそれてせく。○〔沈約〕「停レ鑣――」。
〔荒喘〕あらきせき、又、不愉快の生存。○〔張說〕「――窮情」。「驟」。
〔咳喘〕せきばらひ。○〔柳宗元〕「聞二人――一步」。
〔潛喘〕鼻息の音をひそむ。○〔韓愈〕「縮レ身――」。
〔喘々〕せきする貌にいふ語、又、心もとなくあくせくする貌にいふ語。○〔韓愈〕「――焉無レ以冀二朝夕一」。「隱」「――細疑レ況」。
〔嬌喘〕なまめかしき氣息、美人にいふ語。○〔李商〕
〔惕喘〕おそれおどろきて氣息あらきこと。○〔樊衡〕「――窮レ悵」。
〔臥喘〕ねいびき。○〔孔平仲〕「――氣吸々」。
〔憊喘〕つかれて氣息疾きこと。○〔孔平仲〕「悲號與二――一」。
〔呀喘〕口を開けてあへぐ。○〔蘇軾〕「登者尙――」。「―」。
〔熱喘〕あつさの爲めにあへぐ。○〔唐庚〕「雨餘――殊減・呀」。
〔息喘〕氣息す、いきする、又、せく、あへぐ。○〔戴良〕「コ――倚二茂松一」。
〔吳牛喘〕（見月喘）　吳の國は暖熱の地にて晝間の暑さ苦しきものから北の地の牛の夜間月の出づるを見て太陽と誤り認めて夜も暑さに苦しめらる、かと思ひ過ごして、暑からざるに已れとあへぐとの故事より、思ひ過ごして取り越し苦勞することに借りいふ語。○〔世說〕「滿奮畏レ風、在二晉武帝坐一、北窗作二琉璃屛一、實密似レ疎、奮有二難色一、帝笑問レ之、奮答曰、臣猶二吳牛見レ月而喘一」。

【咢】　ガク。五各切　［藥］
はぐき（齶）。

【喒】　セイ、シヤウ。所湯切　［梗］
口を緘づ、つぐむ、又、言はず。

【𠲿】　カ、ケ。居牙切　［麻］
きたなきことば、穢言。

【㗊】　吻に同じ。○〔呂氏春秋〕「口―不レ言以レ精相告」。

【喙】　カイ、許穢　切　［隊］　セイ、充芮　切　ケ。　セ。
ケイ、呼惠切　［霽］　トウ、丁候切　［宥］　ケ。　ツ。
㊀くちさき。
（い）くち（口）。○〔莊〕「丘願有二―三尺一」。
（ろ）特に、鳥のくちにいふ字、くちばし。○〔戰〕「鷸啄二其肉一、蚌合而箝二其―一」。
（は）言語。○〔說苑〕「婦人之―可二以死敗一」。
（に）さきはし。○〔盧肇〕「孰觀二地平深泉之涯一」。
㊁くるしむ（困）。○〔詩〕「維其―矣」。
㊂氣の短かき貌にいふ字。○〔國〕「郤獻子傷曰、余病―」。
〔烏喙〕（い）（植）烏頭とりかぶとの別名、莖に劇しき毒ある草。○〔戰〕「饑人不レ食二――一、爲下其充レ腹與二餓死一同上レ患也」。
（ろ）からすの如きくちばし、烏は汗穢腐敗をも擇ばずして食するより人の貪慾なる相貌、或は、性質に借りいふ語。○〔宋〕「蜂目――、怙二寵恃一功」。
〔豕喙〕ぶたの如きくち、轉義、前の（ろ）に同じ。○〔國〕「虎目而――」。
〔虎喙〕虎のくち、猛惡、貪慾なることに借りいふ語。○〔漢〕「忍二百萬之師一、以推二餓―之―一」。
〔鳥喙〕（い）星宿の名。○〔漢〕「柳爲二――一」。
（ろ）鳥の如きくちばし、卽ち、口先きの尖りたるもの、人相上にては貪慾の性質といひ、又、明白に人情を察するの智ありとなす。○〔白虎通〕「皐陶――」。
〔鋭喙〕さきのするどきくちばし。○〔周〕「――決吻」。
〔長喙〕ながきくちばし、又、餘計なる事をしやべり立つることにも借りいふ語。○〔柳宗元〕「何――之縱二辛一」。「耆相鄕・傅作二醜語一」。
〔有喙〕もの言ひ能ふこと。○〔柳宗元〕「―レ―有レ耳」。
〔開喙〕入り口をあく、又、もの言ふこと。○〔柳宗元〕「―レ―倒レ腹」。「宗元」「―レ―而隱レ志」。
〔合喙〕くちをあはす、又、ものを言はざること。○〔柳〕
〔動喙〕くちをうごかしてものを食ふ、ものを言ふ。○〔陳造〕「別語費レ―レ―」。
〔萬喙〕おほくのくち、又、おほくの人の言說。○〔劉克莊〕「費レ香譽レ味――同」。「鳴」。
〔衆喙〕前に同じ。○〔劉克莊〕「憶昨紛々――」。

【喚】　クワン、呼貫切　［翰］　―本、嚾に作る。
呼に同じ、よぶ。
（い）大聲を發す、さけぶ、わめく、なく。○〔宋〕「連叫大―」。
（ろ）招く、來らしむ、めす、又、聲をかけてめす。○〔世〕「桓見レ機馳―」。
〔叅喚〕鳥の名。
〔勅喚〕天子の招き。○〔北〕「且云――」。
〔通喚〕衆くのもの、名を一々よぶこと、又、よび出だすこと。○〔冊府元龜〕「舊禮、宰臣謝レ恩須二於正殿――一」。
〔鳴喚〕聲を發す、なく。○〔蘇軾〕「饑腸自――」。
〔呼喚〕よぶ。○〔洽聞記〕「有二磬石――一則應」。
〔叫喚〕さけびわめく。○〔通典〕「聲レ鼓拒・戰不レ得二――一」。
〔追喚〕去りしあとより招き寄す。○〔通典〕「忽有二不・隣一、――亦易」。「傷害」。
〔招喚〕まねく。○〔冊府元龜〕「令―――不レ得二輒」
〔宣喚〕君上の旨を受けて招く。○〔楊維楨〕「羌笛未レ受二――促一」。「綠若」。
〔催喚〕いそがしよぶ。○〔陸游〕「―二―兒・童一掃二」

【喛】　クワン。火貫切　［翰］
㊀いかる（恚）、又、いかり呼ぶ、さけぶ。
㊁響ふるを欲せずして强ひて答ふるにいふ字、こたふ。
㊂かなしむ（哀）。

【喛】ケン、クワン。許元切 元
㊀おそる、(恐懼)。㊁うれふ、(愁)。
㊂いかる、(恚)。

【喛】エン、于元切 元　カイ、虎猥切 賄
チン。切　ケ。切
かなしむ、(哀)。

【喛】クワ、ワ。胡戈切 歌
泣く貌にいふ字、又、なく。

【喛】ケン、コン。火遠切 阮　喧に同じ。

【[口+便]】ヘン、ベン。毗連切 先
巧みに言ふ、へつらふ。

【喜】キ。許里切 紙
㊀うれしく感ず、よろこぶ、又、たのしむ、(樂)。○〔詩〕「吉甫燕―、既多受レ祉」。
㊁よろこぶこと、よろこび、たのしみ、又、さいはひ、(福)。○〔周〕「賀慶以贊二諸侯之―一」。
〔欣喜〕よろこぶ。○〔國〕「事レ神保レ民、莫レ不二―――」。
〔歡喜〕前に同じ。○〔馬融〕「―――何量」。
〔至喜〕こよなくよろこぶ。○〔詩〕「田畯――」。
〔和喜〕やはらぎよろこぶ。○〔史〕「古者太平、萬民―――」。
〔隨喜〕(い)佛家五悔の一。○〔大藏法數〕「隨二他修一得善因、喜三他得二成他善果一、是爲二――一」。(ろ)贊成の意。○〔法華經〕「世尊說二是法一、我等皆―――」。
〔說喜〕心に滿足しよろこぶ。○〔齊〕「衆庶翕然、莫レ不二―――一」。
〔吉喜〕めでたきこと。○〔晉〕「人主有二――一、且得レ地」。
〔嘉喜〕よみしよろこぶ、又、さいはひ。○〔易林〕「寡樂有レ緒、長安二――一」。「居二――一」。
〔善喜〕よろこばしきこと。○〔易林〕「行者危殆、利レ番息二」。
〔賀喜〕めでたきこと。○〔易林〕「――從レ福、日利二騁駒―――」。
〔樂喜〕たのしみよろこぶ。○〔易林〕「虞人共レ職、
〔福喜〕さいはひ。○〔易林〕「東隣西國、―――同樂」。
〔溢喜〕此の上なきよろこび。○〔鮑照〕「不レ勝二殊歡―――一」。
〔暗喜〕人知れずよろこぶ。○〔馬臻〕「紅燭有レ花心―――」。「覷二」。
〔驚喜〕おどろきよろこぶ。○〔朱熹〕「――非二昔

【喜】キ。許記切 寘
憙に同じ、よろこぶ、たのしむ、又、このむ、(好)。○〔詩〕「我有二嘉賓一中心―レ之」。

【喜】シ。昌志切 寘
饎に同じ。

【[口+胡]】コ、ウ。洪孤切 虞
咽に垂れさがれる肉、又、聲を發するに咽ふくるゝなどにいふ字。○〔王褒〕「蹎二嗣――一以紆鬱」。

【[口+厚]】コウ、ク。胡口切 有
はく、(吐)。

【喝】アイ、エ。乙芥切 卦
㊀喉乾きて聲枯る、しはがる、しやがる。○〔後漢〕「悪陰――不レ得レ對」。
㊁聲喉に塞がる、むせぶ。○〔論衡〕「兒生號啼之聲鴻朗高暢者壽、嘶――濕下者夭」。「長楊流――蠱」。
㊂聲の幽かなるにいふ字。○〔張正見〕
〔喘喝〕あへぎむせぶ、呼吸苦しきにいふ語。○〔素問〕「因二于暑一汗煩則――」。
〔嗚喝〕なきて聲しはがる。○〔韓愈〕「蟬煩―轉レ―」。

【喝】カイ、ガイ。苦蓋切 泰
嘅に同じ、こゑ、(聲)。

【喝】カツ、カチ。許葛切 曷　一本、嚇に作る。
㊀志かる。
(い)聲を勵まして責む、とがむ。○〔晉〕「裕勵レ聲―之」。
(ろ)勢強く迫る、おどしおびやかす。○〔戰〕「橫人日夜務以二秦權一恐二―諸侯一以求レ割レ地」。
㊁よぶ、(呼)。○〔宋祁〕「蜩蟧―レ秋」。
㊂怒りたる聲。○〔五二〕「北兵何能爲三常二陣上之――一」。「高躍而不二敢進一」。
〔虛喝〕虛勢をもておどかす。○〔戰〕「恫二疑――一、
〔搊喝〕指圖をしてしかる、又、服從せさする義に用ふる語。○〔柳宗元〕「爭レ英披レ華、發輝―二―雷霆一」。
〔呼喝〕よばはる、又、よびしかる、又、道おさへの聲。○〔白居易〕「報道前驅少二――一」。
〔嗔喝〕いかりてしかる。○〔杜甫〕「誰能即――」。
〔殿喝〕殿上にて制止すること。○〔開元天寶遺事〕「―傳呼」。「於中有二――之聲一」。
〔引喝〕餘り聲長く引きて呼ぶ。○〔東齊遺事〕「――」。
〔呵喝〕しかる。○〔應璩〕「無用相――」。
〔叱喝〕しかる。○〔盧同〕「――誅二奸強一」。
〔棒喝〕禪家の理に通せざる言說を爲せば、或は棒にて打ち、或は、大聲を發してしかるにいふ語、轉じて、禪家の問答の義に借りいふ語。○〔五燈會元〕「枉費二精神一施二――一」。

【喞】ショク、節力切 職　シツ。子悉切 質
シキ。
小さき聲の多く集まりたるにいふ字、又、衆くの聲、鳴く聲にいふ字、又、なく。○〔王皓〕「大鵬始欲レ擧燕雀何啾――」。
〔唶喞〕おほくの聲あるにいふ語。○〔陳造〕「續レ舟垂――」。「蛩蝸絕二――一」。
〔喞喞〕蟲などのしげく鳴く聲にいふ語。○〔虞集〕
〔喞々〕なく。○〔歐陽修〕「四壁蟲聲――如レ助二余之歎息一」。「――」。
〔喧喞〕まかびすしく聲を發す。○〔袁桷〕「候吏語

【喟】キ。丘媿切 寘
㊀心憂ひて發する長太息、ためいき。○〔戴表元〕「寢少愁多頻發レ―」。○
㊁ためいきをつく、又、なげく、(歎)。○〔禮〕「出二遊于觀之上一、――然而歎」。
〔喟々〕なげくこと。○〔劉向〕「行鉏畢旁聲――」。
〔傾喟〕いきどほりなげく。○〔孔叢〕「則可三以發二憤――忘二己貧賤一」。

【喟】クワイ、ケ。苦怪切 卦
嘳に同じ。

【喠】ショウ、シュ。主勇切 腫
㊀口に出だして言ふを能はざるにいふ字。
㊁吐く氣味あること、むかひけ
㊂急に喘ぐ、せく。

【嚃】タフ、トフ。他合切 合
狗の物を食ふ貌にいふ字、いぬくらふ。

【[illegible]】チウ、陳留切 尤　ヂ、女夷切 支
ヂュ。切　ニ。切
鸕に同じ、雉の異名。○〔爾〕「南方日レ―」。

【[illegible]】
壽の古字。

【喡】井。于非切 微　羽鬼切 尾
㊀驚きて聲を失す、こゑかる。
㊁呼ぶ聲、よぶ。

【喡】井。于貴切 未
小兒の啼き聲にいふ字、なく。

【喢】セフ、叱涉切 葉　サフ、山洽切 洽
セフ。切　セフ。切
呫の字の葉の韻の解に同じ、ここさ、多言なり、こさばおほし、又、かまびすし。

【[口+隺]】カク、各核切 陌　一に、嗃に作る。
キヤク。切
雉の鳴くにいふ字。

【呴】 ク。況羽切 麌 許句切 遇 倶于切 虞
㊀欨、又は、呴に作る、いきふく、ふく、（吹）、又、いき、（息）。○〔漢〕「衆―漂レ山」。
㊁煦に同じ、あたゝむ、（温）。○〔唐〕「護ニ民之勞一、―レ之若レ子」。
㊂諂ひ笑ふ貌にいふ字、又、へつらふ。○〔柳宗元〕「―――趄趄」。
㊃あらはし示す、あめす、（呈示）。

【嘏】 カ、ゲ。何加切 カ、虚加切 ケ。切 麻
のど、（咽）。

【㬊】 バン、マン。毋官切 寒
あざむく、（欺）、或は曰はく、㬊の譌字。

【喤】 クワウ、ワウ。胡光切 陽
小兒の泣く聲、又、なく。○〔詩〕「其泣――」。

【喤】 クワウ、キヤウ。胡盲切 庚
㊀前條に同じ。
㊁やはらぐ、（和）。○〔詩〕「鐘鼓――」。
㊂かしまし、かまびすし、（諠）、又、いかる、（怒）。○〔詩〕「―― 厥聲」。
㊃さきばらひす、又、さきばらひ。○〔通雅〕「梁制、令ニ僕中丞各給ニ威儀十人一、武冠絳韝、皆呼入レ殿、引―至レ階、一人執ニ儀囊一不レ―」。

【喤】 クワウ、ワウ。虎晃切 養
おほし、（衆）。

【嗄】 タ。陟嫁切 麻
咤に同じ、本、吒に作る。

【嗄】 ト、都故切 遇 タク、達各切 藥 ツ。切 ダク。切
㊀前條に同じ。
㊁言葉づかひの度なきにいふ字。

【喋】 デフ、チフ。尼輒切 葉
多言す。

【喋】 セフ、而涉切 葉 ゼフ。切
本、讘に作る、或は囁に作る。
爭ひ言ふ、あらそふ。

【喧】 ケン、許元切 元 クワン。切 許遠切 阮
吅又は、咺に同じ、大聲にて語る、音聲聞くに厭はし、かまびすし、やかまし。○〔拾遺記〕「惡ニ車轍馬跡之――」。
〔塵喧〕 世事のやかましきにいふ語。○〔張華〕「烟霞――」。「遐尺少ニ――」。
〔囂喧〕 かまびすし。○〔謝靈運〕「區中寶――」。
〔紛喧〕 前に同じ。○〔鮑照〕「遯レ跡避ニ――」。
〔浮喧〕 前に同じ。○〔任昉〕「雖レ曰ニ人境一、實少ニ――」。
〔啾喧〕 小さき聲かまびすし。○〔朱熹〕「呫囁徒――」。
〔諠喧〕 かまびすし。○〔劉基〕「掩レ關獨坐辭ニ――」。

【喩】 ユ。兪戍切 遇
諭に同じ。
㊀告げて了解せしむ、導きて改善せしむ、をしふ、いさむ、さとす、をしへ、「さとし」。○〔禮〕「入則有レ保、出則有レ師、是以教―而德成也」。
㊁了解す改悟す、考へつく、さとる、「さとり」。○〔論〕「君子―ニ於義一、小人―ニ於利一」。
㊂擬へ言ふ、言ひ比ぶ、たとふ、たとへ、（譬）。○〔魏〕「脣齒之―、豈惟虞虢」。
〔曉喩〕 さとす。○〔漢〕「欲ニ以――ニ衆庶一、不ニ亦難一乎」。
〔風喩〕 他に擬へてさとす。○〔詩、序〕「上皇道質、「故――之情寡」。
〔敎喩〕 をしへさとす。○〔禮〕「是以――而德成也」。「可レ謂ニ――一矣」。
〔善喩〕 よくさとす、よきたとへ。○〔禮〕「和易以思、可レ謂ニ――一」。
〔博喩〕 ひろくさとす。○〔禮〕「能――然後能爲レ師」。
〔安喩〕 安心するやうにさとす。○〔左〕「欲レ――ニ國人一」。
〔告喩〕 守るべき條項をつげしらす。○〔左、註〕「共先――ニ猶有前一」。
〔陰喩〕 ひそかにさとす。○〔漢〕「提ニ其足一――レ之」。
〔諷喩〕 遠しきをいさむ。○〔魏〕「或時以ニ――一不レ納、淵而起」。「官、――招納」。
〔諭喩〕 我が思ふ所にしたがひさとす。○〔魏〕「習到レ――、遂相親睦」。
〔訓喩〕 をしへさとす、又、おしへ。○〔魏〕「每事――」。「害」。
〔解喩〕 理を說き明かにさとす。○〔蜀〕「―ニ――利」。
〔陳喩〕 理由を述べさとす。○〔呉〕「與レ權談說、――未ニ嘗切一」。「――」。
〔敦喩〕 ねんごろにさとす。○〔晉〕「宣旨優詔――」。
〔明喩〕 口に出ださずして心にさとる。○〔荀〕「君子至德、――然而―」。「默然以――」。
〔託喩〕 或る事にことよせてさとす。○〔曹植〕「假ニ

【喩】 ユ。容朱切 虞
やはらぐ、（和）、よろこぶ、（悅）、一に、うたふ、（歌）。○〔漢〕「嘔―受レ之」。
〔喩々〕 よろこぶ。○〔博雅〕「嘔々――喜也」。
〔呴喩〕 前に同じ。○〔杜甫〕「小人――」。

【喫】 ハツ、ハチ。普活切 曷
妄りに說く、いつはる、又、いつはり、又、いふ、（言）。

【喫】 ケキ、キヤク。苦擊切 錫
㊀くらふ、（食）。○〔杜甫〕「果熟許下同ニ朱老一―上」。
㊁のむ、（飲）。○〔杜甫〕「對レ酒不レ能レ―」。
〔淺喫〕 みだりにくらふ。○〔杜甫〕「秋卵方――」。
〔生喫〕 なまにてくらふ。○〔隋〕「淸河――ニ人一」。
〔談喫〕 少しづゝくらふ。○〔續組堂雜志〕「每レ食先――三口」。

【喫】 カイ、ケイ。口戒切 卦
カ詐す、あらそふ、いさむ。○〔莊〕「使ニ――諸索レ之、而不レ得也」。

【颫】
吹に同し。

【咠】 シフ、ソフ。阻立切 キフ、コフ。訖立切
ヒフ、ホフ。北及切 緝
〔說文〕从ニ四口一。
おほきくち、おほきことば、（衆口）。

【喬】 ケフ、ゲフ。巨嬌切 蕭 ケウ。擧夭切 蕭
橋と通じ用ふ。
㊀上がり曲がる、まがる。○〔爾〕「句如ニ羽―一」。
㊁上がり竦つ、たかし。○〔書〕「厥木惟「―」。
㊂矛の柄の刃に近き處に設けあるかぎ、矛の飾りの毛羽を掛くるもの。○〔詩〕「二矛重―」。
㊃高き處、又、高き山。○〔列〕「周以ニ――陟一」。
㊄驕に通じ用ふ、ほしいまゝ、おごる。○〔表記〕「―而野」。
㊅意平かならざる貌にいふ字。○〔莊〕「天下始――詰卓鷙」。
〔遷喬〕 鳥の高き木にうつること、轉じて進歩す、出世す。○〔詩〕「出レ自ニ幽谷一、―ニ于―木一」。
〔凌喬〕 高きところ。○〔潘岳〕「飛莖秀ニ――」。

【嗲】 ゲン。魚變切 霰
唁に同じ。

【嗲】 ガン。魚旰切 翰
禮貌を失へるにいふ字、又、粗俗なり、いやし、あらし。○〔論〕「由也―」。

【嗲】 ガン、ゲン。語限切 潸
いさゝか笑ふ貌にいふ字、わらふ。

【單】タン、ダン。都寒切 寒

㊀ことごとく、(盡)。○〔國〕「夏禹能｜平二水土一」。
㊁複ならぬもの、うらなき衣、ひとへ。○〔杜甫〕「歲暮衣裳｜」。
㊂ひとり、ひとつ。
(い)其の物のみにてあるを、つれなきを、又、其のもの。○〔史〕「形｜影隻」。
(ろ)援けなきを、又、其のもの。○〔後漢〕「以二｜兵一固二守孤城一」。
(は)又、餘りなきを、又、其のもの。○〔詩〕「其軍三｜」。
㊃めぐる、めぐり、(周)。○〔揚雄〕「｜倦垣兮」。
㊄ひとりにてあらしむ、ひとりにす、又、ひとへにてあらしむ、ひとへにす。○〔禮〕「鬼神之祭｜レ席」。

〔特單〕ひとりもの、兄弟なきもの。○〔書〕「無レ虐二｜｜一而畏二高明一」。
〔孀單〕夫なきひとりもの、やもめ。○〔唐〕「斃二先人之夥一、以濟二｜｜一」。
〔輕單〕かろきひとへのもの、又、身がろくしてひとりなること。○〔南〕「出入｜｜、不レ資二翊衛一」。
〔微單〕勢薄くして援なきこと。○〔唐〕「本｜｜」。

【嘽】セン、ゼン。時連切 先 上演切 銑

廣大なる貌にいふ字、おほいなり。○〔漢〕「｜于者廣大之貌」。

【亶】タン。多簡切 旱

本、亶に作る、穀多し、おほし、ゆたか、又、まこと、(信)、あつし、(厚)、又、ゆたかにす、まことにす、あつくす。○〔書〕「乃｜二文祖德一」。

【單】セン、ゼン。之膳切 霰

輕發の貌にいふ字、かろくおこる。

【喭】ヘン。陂驗切 豔

舌を轉ばして呼ぶ、よぶ。

【喉】喉の本字。

【喪】サウ、ソウ。四浪切 漾

本、喪に作る。

㊀亡失す、ほろぼす、うしなふ、ほろぶ、うす。○〔易〕「震驚二百里一、不レ｜二匕鬯一」。
㊁死の通辭。○〔周〕「禮二國之凶荒、民之札｜一」。

〔彫喪〕つひえうす。○〔蘇軾〕「豈惟催老大漸復成二｜｜一」。
〔淪喪〕おちぶれほろぶ。○〔朱熹〕「淳風反｜｜」。
〔悼喪〕人の死ぬるなどをいたむこと。○〔左〕「小人恥レ失二其君一、而｜レ｜二其親一」。
〔得喪〕うることとうしなふこと。○〔韓詩〕「諸侯不レ言二利害大夫不レ言二｜｜一」。「私悰恤」。
〔敗喪〕やぶれほろぶ。○〔王羲之〕「安西｜｜公私｜｜」、
〔斷喪〕失敗といふに同じ。○〔任昉〕「致二茲｜｜一」、「所レ遭」。何所レ逃レ罪」。
〔剝喪〕はがれてうしなふ。○〔柳宗元〕「｜｜宜」。

【喪】サウ、ソウ。蘇郎切 陽

㊀人の死にし時緣故ある者、一定の期日の間凶服を著けてうれひにこもり居るを、忌服、も。○〔禮〕「子夏｜二其子一而喪二其明一」。
㊁ひつぎ、(柩)。○〔唐〕「吏民數百、皆縞服送レ｜」。

〔達喪〕上は天子より下は庶人に至るまで行ふべきぶく。○〔禮〕「三年之喪、天下之｜｜也」。
〔除喪〕喪服のあけたること。○〔禮〕「即而｜レ｜道也」。

【㖡】前條に同じ。

【哹】フウ、フ。縛謀切 尤

氣を吹く、ぶく。

十畫

【嗔】シン。之人切 眞

おごろく、(驚)。

【喿】サウ、ソウ。蘇到切 號

鳥の群がり鳴くにいふ字、なく。

〔說文〕从二品在二木上一。

【喿】セウ。千遙切 蕭

一に、鍱に作る、すき。

【嗺】ツ井。陟隹切 支

口に滿つる貌にいふ字、みつ。

【嗎】ケン。丘虔切 先

嗎に同じ、よろこぶ、(喜)、たのしむ、(樂)。

【嘓】井ク、ヨク。於六切 屋

喉に聲の立つにいふ字。

【㱿】カク、コク。許角切 覺 黑各切 藥

コク。呼木切 屋

はく、(吐)。○〔左〕「君將レ｜レ之」。

【嗁】ゲキ、ギヤク。宜戟切 陌

啼に同じ、はく、(吐)。

【嗁】テイ、ダイ。杜兮切 齊

さけぶ、(號)、なく、(啼)。○〔漢〕「家人立而｜」。

【嗂】エウ。餘昭切 蕭

よろこぶ、(喜)、たのしむ、(樂)。

【嗚】ア。烏化切 禡

小兒の啼くにいふ字、なく。

【嗃】カク。黑各切 藥

㊀おごそかなる貌にいふ字、おごそか。○〔易〕「家人｜｜、悔レ厲、吉」。
㊁おごそかにして大いなる聲にいふ字、又、こゑ、(聲)。
㊂悅び樂しむ、たのしむ。
㊃熱に苦しむ意にいふ字。

【嗃】コク。呼酷切 沃

前條の㊁と㊂とに同じ。

【嗃】カウ、ケウ。許交切 肴

叫呼す、さけぶ、又、其の聲にいふ字、又、勢の迅き聲にいふ字、一說に笛の音。○〔莊〕「夫吹レ筦也、猶有レ｜也」。

【嗃】カウ、ケウ。孝狡切 巧

哮に同じ、大いに呼ぶ、ほゆ、さけぶ、わめく、よぶ。

【嗃】カウ、ケウ。呼教切 效

詨に同じ、大いに呼ぶ、よぶ、さけぶ。

【嗄】サ、セ。所嫁切 禡

聲變はる、かはる、しはがる、又、しはがれ聲。○〔老〕「終日號而聲不レ｜、和之至也」。

【嗄】アイ、エ。於邁切 卦

㊀啼くを極まりて聲の立たざるにいふ字、又、聲敗る、やぶる、しはがる。
㊁氣逆上す、のぼす。

【嗅】キウ、許救切 宥 キウ、香仲切 送 キユ。切 ク。

齅に同じ、鼻にて氣を吸ふ、かぐ。○〔論〕「三｜而作」。

【單】 ダ、諾何切 歌 ダン、乃旦切 翰 ナ。ナン。
儺に同じ、疫を除くを、おにやらひ。

【嘗】 俗の嘗の字。

【嗆】 シャウ、サウ。千羊切 陽
㊀鳥の食ふにいふ字、ついばむ、あさる。㊁愚なる貌にいふ字、おろか。

【嗆】 サウ、サウ。鋤庚切 庚
おろか(愚怯)。

【㗕】 コウ、ク。古候切 宥
㊀なく、さけぶ(鳴)。㊁雊に同じ、雉鳴く、なく。

【㗕】 コウ、ク。古侯切 尤
㊀さなふ(唱)。㊁聲の亂るゝにいふ字、又、大いなる聲を發するにいふ字。

【嗇】 ショク、シキ。所力切 職 一本、嗇に作る。
㊀費やすを嫌ふ、をしむ(愛)。○〔家語〕「―ニ於時ニ」。㊁過度に欲しく思ふ、むさぼる(貪)。○〔左〕「―ニ于禍ニ」。㊂をしむを、むさぼるを、やぶさか、又、やぶさかなり、志はし。○〔淮〕「譬白公之―也、何異ニ梟之愛ニ其子ニ」。㊃總べて、費やすを少きにいふ字。○〔老〕「治レ人事レ天莫レ如レ―」。㊄穡に通じ用ふ、禾穀を收むるを。○〔漢〕「服レ田力レ―」。
(儉嗇) 志はし。○〔荀〕「嗇家累ニ千金ニ、性―・―」。
(吝嗇) 前に同じ。○〔漢〕「性實―・―」「財ニ」。
(鄙嗇) 前に同じ。○〔史〕「晩―・―、惟恐レ不レ足ニ于」
(嗇嗇) 前に同じ。○〔蘇軾〕「恐致ニ―・―霖ニ」。

【嘈】 サウ、ソウ。采老切 皓
人の無き貌にいふ字、志づか(靜)、又、さびし(寂)。

【㗨】 シツ、ジチ。秦悉切 質
こゑ(聲)。

【嗉】 ソ、ス。桑故切 遇
食を受くる處、ゑぶくろ。○〔爾〕「其粻―」。

【嗊】 コウ、ク。呼孔切 董 呼貢切 送
うたふ、又、うた(歌)。

【嗋】 ケフ、コフ。許劫切 葉
㊀すふ(吸)、あふ(合)。○〔莊〕「吾口張而不レ能レ―」。㊁口言もて人をおどし迫る、おどす。

【嗂】 嗂の譌字。

【㗲】 ドウ、ノウ。奴等切 迥
多言なり、ことばおほし。

【嗌】 エキ、ヤク。伊昔切 陌
のむど、のど(咽)。○〔史〕「飲-食下レ―」。

【嗌】 アク、ヤク。乙革切 陌
㊀前に同じ。㊁笑ふ貌にいゝ字。○〔韓詩外傳〕「疾-笑―・―」。

【嗌】 アイ、エ。烏懈切 卦
咽の痛むにいふ字、いたむ、又、むせぶ、(噎)。○〔揚雄〕「―噎也」。

【嗌】 エイ、アイ。壹計切 霽
のむど(咽)。

【嗐】 カツ、ガチ。下瞎切 黠 カイ、ガイ。下蓋切 泰
㊀口を開く、あく。㊁こゑ(聲)。

【嗑】 カフ、ゴフ。谷盍切 合
㊀多言なり、ことばおほし、かまびすし。㊁かたる(語)。㊂あふ(合)。㊃笑ふ聲にいふ字、又、わちふ。㊄すふ(吸)。

【嗒】 タフ、トフ。託合切 合
㊀肢體の打ち解けてくつろぐ貌にいふ字、又、懷ふ事を忘る、わする。○〔莊〕「―然似レ喪ニ其耦ニ」。㊁ねぶる(舐)。

【嘫】 俗の然の字。

【嗔】 テン、デン。徒年切 先
氣の盛んなる貌にいふ字、さかんなり。

【嗔】 シン、ジン。昌眞切 眞
いかる、いかり(瞋)。

【嗕】 ジョク、ニク。而蜀切 沃
憐れむ貌にいふ字、又、あはれむ。

【㗵】 コウ、グ。胡貢切 送
㊀あつまりて貨物の交換を行ふ人、市人。㊁衆くの聲、又、かまびすし。

【嗢】 アツ、エチ。烏八切 黠
飲む聲にいふ字、又、のむ。

【嗙】 ハウ、バウ。補盲切 庚
㊀誦ふ聲にいふ字、又、うたふ。㊁志かる(喝)、又、其の聲にいふ字。

【嗙】 ハウ、バウ。補曠切 漾
こゑ(聲)。

【嗚】 ヲ、ウ。哀都切 虞
㊀歎息して發する聲、又、歎息の意を表はすときに用ふる字、あゝ、其の調緩くして長し。○〔書〕「―呼曷歸」。㊁烏に通じ用ふ。○〔史〕「歌-呼―快ニ耳目ニ者、眞秦之聲也」。

【嗚】 ヲ。烏故切 遇
歎き傷む、なげく、いたむ。○〔後漢〕「噫-―流レ涕」。

【㗘】 ハク、バク。伯各切 藥
嚼む貌にいふ字、かむ。

【㗙】 シュ、ス。窻俞切 虞
叱る聲にいふ字、又、しかる。

【嗡】 ダフ、デフ。昵洽切 洽
小人の言說の輕薄なる貌にいふ字、うすし。

【嘡】 タウ、ダウ。徒郎切 陽
語の中らざるにいふ字、いつはり、又、大言、ねなしごと。

【嗛】 ケン。苦簟切 琰
㊀頰の裏に食を貯ふる處、ふくみ。○〔爾雅〕「寓-鼠曰レ―」。㊁歉に同じ、足らず、無し、腹に滿たず、

又、五穀の升らざるにもいふ字。○〔呂氏春秋〕「天固有二衰ー廢伏一」。㊂小さき貌にいふ字、ちひさし。○〔國〕「ーー之德」。
〔寡嗛〕すくなし、足らず。○〔顏延之〕「猷二滋旨一而識二ーー之急一」。「雖レ和比室ーー」。
〔饑嗛〕うゑて足らず、食物少し。○〔爾子貝〕「穀價

【嗛】カン、ゲン。戸監切 咸
㊀ふくむ。「肉豈二其上一」。
(い)口にくはへ持つ。○〔史〕「鳥ーレ
(ろ)恨む○〔史〕「心ーレ之而未レ發也」。
㊁食盡く、つく。○〔管〕「唯ー之視」。

【嗛】ケン。苦兼切 鹽
謙に同じ、へりくだる、ゆづる。○〔漢〕「溫良ー退」。
〔嗛々〕へりくだる貌にいふ字。○〔漢〕「易之ーー」。

【嗛】ケフ。詰叶切 葉
たる、(足)、かなふ、(愜)、又、足り愜ふ、こゝろよし、(快)。○〔荀〕「ーー然而終日不レ言」。

【嗜】シ、ジ。時利切 寘
㊀過度に其の物事を喜び樂しむ、たしなむ、たしむ、又、このむ、(好)、又、むさぼる、(貪)。○〔書〕「神ー二飮食一」。
㊁たしなむを、たしなみ、情慾。○〔書斷〕「一味之ー五味不レ同」。
〔甘嗜〕すき好む。○〔書〕「ーレ酒ーレ音」。
〔貪嗜〕むさぼりたしなむ。○〔史〕「ー二ー於財一」。
〔私嗜〕己れの情慾。○〔後漢〕「奔二其ーー一」。
〔情嗜〕前に同じ。○〔顏延之〕「ーー不レ禁」。
〔愛嗜〕たしなむ、たしなみ。○〔沈約〕「生平ーー不レ在二人中一」。「ー儒術一」。
〔耽嗜〕其の物事に心を寄せたしなむ。○〔閻復〕「ーー二
〔饑嗜〕前に同じ。○〔揮子〕「ーー者、必忘二於痛苦一」。
〔辟嗜〕己れのたしなみ次第に事をなす。○〔楊雄〕「ーレー弁レ欲」。

【[口豹]】ハウ、ヘウ。巴校切 效
ほこる、(誇)。

【[口展]】テン。丑犍切 阮
おろかなる貌にいふ字、おろか、(癡)。

【哳】タツ、テチ。知轄切 黠
鳥の聲を發するにいふ字、さへづる、なく、又、其の聲にもいふ字。

【[口复]】キツ、コチ。許律切 質
口にて吹く、ふく、うそぶく。

【[口挈]】ケツ、ケチ。口結切 屑
くらふ、(噉)。

【[口豈]】カイ、ガイ。何開切 灰
本、咳に作る、わらふ、(笑)、特に、小兒にいふ。

【嗞】シ。子之切 支
㊀うれふ、(憂)、なげく、(嗟)、又、其の聲にもいふ字。
㊁啼きて止まざるにいふ字、なく。
㊂わらふ、(笑)。

【㗚】リツ、リチ。力質切 質
言の明瞭ならざるにいふ字、もつる、(拏)。

【嗟】シヤ、セ。子邪切 麻
㊀深く心に感ず、なげく、又、なげき、(歎)。○〔柳宗元〕「俄成二失路ー一」。
㊁歎きて發する聲、の口に含まれたるもの、うなりごゑ、あゝ、あ。○〔書〕「王曰、ー六事之人、予誓告レ汝」。
㊂美を稱す、となふ、たゝふ。○〔舊唐〕「三二復規・諫一、累・夕稱ー」。
〔猝嗟〕にはかに發する嘆きの聲。○〔漢〕「項王意烏ーー、千人皆廢」。
〔咄嗟〕語をなさずして發するうなり聲、急忽の意に用ふる語。○〔王勃〕「ーー可レ以降二雷雨一」。
〔嘆嗟〕なげきより發する嘆息の聲。○〔何遜〕「臨レ觴獨ーー」。
〔悲嗟〕かなしみより來たる嘆息。○〔孟郊〕「向レ物空ーー」。「ー」。
〔怨嗟〕怨望より發する嘆息。○〔何遜〕「臨レ風自ーー」。
〔長嗟〕長嘆といふに同じ、ながく嘆息の聲を發するに用ふる語。○〔任昉〕「望々獨ーー」。「兮」。
〔于嗟〕(い)あゝと訓ず、嘆息の聲。○〔詩〕「ーーー麟
(ろ)なげくこと。○〔後漢〕「一夫ーー、王道爲レ虧」。
〔縮嗟〕あゝと訓ず、嘆賞の聲。○〔詩〕「ーー昌兮」。
〔嶶嗟〕こりてなげくこと。○〔詩〕「僭莫二ーー一」。
〔嗟々〕あゝと訓ず、なげきの聲。○〔郭翼詩言〕「ーー鳳・凰無レ處レ棲」。
〔呼嗟〕なげきの聲。○〔後漢〕「頓・踣ーー」。
〔咨嗟〕(い)嘆賞すること。○〔鮑照〕「偏爲レ梅ーー」。
(ろ)なげくこと。○〔孔叢子〕「燕・驥同レ轅、伯・樂爲レ之ーー」。
〔驚嗟〕おどろきて嘆息すること。○〔李白〕「萬古共「ーー」。
〔憂嗟〕うれひなげく。○〔舊唐〕「惕・然ーー」。
〔哀嗟〕前に同じ。○〔孫楚〕「追二慕先・軌一、感・想ーーー」。
〔慘嗟〕いたみなげく。○〔舊唐〕「能無二ーー一」。
〔傷嗟〕前に同じ。○〔徐陵〕「實可二ーー一」。
〔憐嗟〕あはれみなげく。○〔徐陵〕「自レ古共ーー」。

【嗟】サ、セ。子夜切 禡
啫に同じ。

【嗟】サ、セ。遭哥切 歌
なげく。○〔易〕「不レ鼓レ缶而歌、則大耋之ー」。

【嗠】ラク。歷各切 藥
本、酪に作る、ちゝ、(乳漿)。

【嗡】ヲウ、ウ。烏紅切 東
牛、及び、蟲の鳴くにいふ字、なく、又、其の聲。

【嗡】ヲウ、ウ。鄔孔切 董
鬧の聲、さきかちごき。

【嗢】ヲツ、乙骨切 月 アツ、烏八
ヲチ。切 アチ。切 黠
むせぶ、(咽)。○〔潘岳〕「先ーー而理レ氣」。

【嗣】シ、ジ。祥吏切 寘
〔說文〕从レ冊从レ口司聲。
㊀後を承く、うく、つゞく、つぐ」○〔書〕「舜讓二于德一弗レー」。
㊁後を承くる者、つぎ。○〔書〕「罰弗レ及レー」。「不レーレ音」。
㊂ならふ、(習)。○〔詩〕「縱我不レ往、子寧
〔後嗣〕あとつぎ。○〔書〕「俾レ輔二于爾ーー一」。
〔嫡嗣〕正統なる順序によりてあとをつぐべき人。○〔左〕「舍二ーー一不レ立」。「疆」。○
〔承嗣〕受けつぐこと。○〔宗㦤〕子々孫々ーー無レ
〔義嗣〕立つべき筈の世つぎ人。○〔左〕「季札辭曰、君ーー也、誰敢奸レ君」。
〔守嗣〕父の遺業をまもりつぐ。○〔錢瑚〕「臣立レ朝ーレー、莫レ繼二前・修一」。「或叙彝倫一」。
〔家嗣〕其のいへのよつぎ人。○〔史〕「卒傳二ーー一、
〔國嗣〕君の世つぎとなること、又、其の人。○〔後漢〕「哀、平短レ祚、ーー三絕」。「望」。
〔聖嗣〕前に同じ。○〔後漢〕「ーー未レ立、群下繼レ望」。
〔血嗣〕家のちすぢ。○〔後漢〕「身絕二ーー一非レ孝也」。「秩」。
〔統嗣〕前に同じ。○〔後漢〕「諸・呂擅レ權、ーー幾
〔萬嗣〕千代萬代の後までの子孫。○〔魏〕「保二入天・命一、安二固ーー一」。
〔享嗣〕其の後を受けつぐ。○〔南〕「不レ與而ーレー」。
〔家嗣〕太子といふに同じ。○〔唐〕「旣不旣ーー、安用二元・帥一」。

（儲嗣）前に同じ。○（唐制冊皇太子文）「建ニ立——、崇ニ嚴國本ニ」。「明、—ニ—日光ニ」。
（追嗣）前なるものにひきつぐこと。○（易林）「嗟-夜
（遺嗣）先代の人に離れたる子孫。○（潘岳）「嗽-々——筆々孤-臣」。「立」。
（後嗣）家を相續すべき血筋。○（後漢）「——當」

【嗤】シ。赤之切　支　｜俗に蚩に作る、誤り省きて嗤に作るはあし。
輕蔑して冷笑す、あざけりわらふ、あざける、そしる、さげしむ、わらふ、又、わらひ、あざけり、そしり、さげしみ。○〔後漢〕「時人—レ之」。
（巨嗤）大いなるあざけり。○（抱朴子）「速ニ非-時之—•—ニ」。「嬰ニ—•—之患ニ」。
（謗嗤）そしり、わらひ。○（易林）「有ニ絲-肇之師ニ、必—•—」。
（嘲　）前に同じ。○（劉禹錫）「此必相—•—」。
（笑嗤）前に同じ。○（劉基）「桐暇防ニ—•—ニ」。

【⿰口恚】イ。於避切　寘
いかるこゑ（恚聲）。

【⿰口易】タフ、トフ。徳盍切　合
口動く、うごく。

十一畫

【嗷】ガウ、ゴウ。牛刀切　豪
通じて囂、敖、又は、謷、嗸に作る、さはぐ、なく、又、かまびすし。○〔西京雜記〕「紛-紜翔-集、嘈—鳴啼」。
（哀嗷）かなしげに啼きさけぶ。○（于石）「—•—墮ニ弓-㘀ニ」。「爾發ニ鐘-鼓之音ニ」。
（讙嗷）かまびすしくなく。○（說苑）「雜-豚—•—」、
（嘈嗷）聲かまびすし。○（王鑒）「雲-鵠何—•—」。

【嗸】前に同じ。○〔詩〕「鴻-雁于飛、哀-鳴—•—」。

【⿰口動】コウ、戸冬切　冬　トウ、徒弄切　送　ク。切　ヅウ。切
㊀多言なり、ことばおほし、又、かまびすし。
㊁うたふ（歌）。

【⿰口動】コウ、ク。呼公切　東
歌ふ聲にいふ字、又、うたふ。

【⿰口動】トウ、ヅウ。杜孔切　董
大いに歌ふ、うたふ。

【⿰口動】コウ、グウ。乎宋切　宋
㊀大いなる聲。㊁うたふ（歌）。

【⿰口离】リ。力之切　支
言の止まざるにいふ字、いひやまず。

【嗺】嚼に同じ。

【嗹】レン。陵延切　先
本、謰に作る、多言なり、ことばおほし、又、かまびすし。

【嗺】スヰ、サイ。子雖切　支
口を撮む、つぼくち。

【嗺】サイ、セ。素同切　灰
㊀人を見送る歌。
㊁飲むを促す、うながす。「—レ酒逐レ歌」。○〔趙嘏〕
㊂なげく（嗟）。
㊃口の動く貌にいふ字、くちうごく。

【嗺】サイ、セ。祖猥切　賄
くちみにくし（口醜）。

【嗻】シャ、セ。之夜切　禡
㊀さへぎる（遮）。
㊁多言の貌にいふ字、ことばおほし。

【嗻】ショ、ソ。章恕切　御
語の要ならざるにいふ字。

【嗻】シャ、セ。之奢切　麻　｜或は、謶に作る。
多言なり、ことばおほし。

【嗼】バク、マク。莫各切　藥
㊀安らかに定まりてあるを、ひっそりとしたるを、やすらか、しづか。○〔呂氏春秋〕「饑-馬盈レ廐、—然未レ見レ芻也」。
㊁くさめ。

【嗼】バク、ミヤク。莫白切　陌
前條の㊀に同じ、又、やすし、しづか、（安）。

【嗽】ソウ、シュ。先奏切　宥
本、瘶に作る、又、欶に作る、疾息す、せく、しはぶく、しはぶき、せき。○〔周〕「冬-時有ニ—上-氣疾」。

【嗽】シウ、シュ。所救切　宥
本、漱に作る、口を盪ふ、くちあらふ、くちすゝぐ。○〔史〕「日—三-升」。

【嗽】ソク、スク。桑谷切　屋　サク、タク。所角切　覺
本、欶に作る、嗍に同じ、口すふ、すふ、（吮）。

【嗾】ソウ、シュ。蘇后切　有　蘇奏切　宥　先侯切　尤　サ、蘇臥切　箇　ソク、ゾク。作木切　屋
本、⿰口取に作る、⿰口造に同じ。
㊀犬を使ふ聲、又、犬を使ひて敵に向かはしむ、けしかく。○〔左〕「公—ニ夫獒ニ」。
㊁轉じて、教唆するをにいふ字。「爲ニ人所レ—」。○〔北〕
（指嗾）指し圖。○（蘇軾）「北伐ニ犬-戎ニ嗾ニ——ニ」。

【嗿】タン、トン。他感切　感
こゑ（聲）、又、衆き貌にいふ字、おほし。○〔詩〕「有ニ—其饁ニ」。

【⿰口律】リツ、リチ。呂䘏切　質
嗶に同じ、さへづる、なく、（鳴）。

【⿰口率】セツ、所劣切　屑　セチ。　サイ、楚快切　卦　セ。
小しく飲む、のむ。

【⿰口率】シュツ、ソツ。朔律切　質
こゑ（聲）。

【⿰口率】セイ。山芮切　霽
なむ（嘗）。

【⿰口康】カウ。口朗切　養
咳の聲、しはぶき、せきのおと。

【⿰口桼】シツ、シチ。測乙切　質
叱る聲にいふ字、しかる。

【⿱戚口】シュク、ソク。子六切　屋
呑きて慙づ、又、はづ、（忸怩）。

【嘁】⿱戚口に同じ。

【嘂】ケウ。古弔切　嘯　｜〔說文〕从ニ㗊丩聲ニ。
大いに呼ぶ、よぶ、さけぶ、又、たかごゑ。○〔周〕「以—ニ百-官ニ」。

【⿰口庸】シュウ、シュ。昌中切　東
食らふ貌にいふ字、又、くらふ。

【嘄】ケフ。古堯切〔蕭〕吉弔切〔嘯〕
叫に同じ、さけぶ、よぶ。○〔漢〕「狂夫ー二譟於東崖一」。

【嘅】カイ。苦漑切〔隊〕丘蓋切〔泰〕可亥切〔賄〕
なげく、又、なげき、(嘆)。○〔詩〕「ー其嘆矣」。
(歎嘅)なげき。○〔胡天游〕「佇立増二ーー一」。

【嘆】タン。他晏切〔翰〕他干切〔寒〕
本、歎に作る、なげく、又、なげき、太息す。○〔詩〕「而無二永ー一」。

【嘇】サン、セン。師咸切〔咸〕所斬切〔豏〕サン、ソン。桑感切〔感〕
物の口中にあるにいふ字、ふくみくらふ。

【嘇】サン、ソン。七紺切〔勘〕
こゑ、(聲)。

【嘓】クワク。苦郭切〔藥〕
㊀叩く聲にいふ字。㊁いきふく、(嘘)。

【嘈】サウ、ゾウ。昨勞切〔豪〕セウ、ゼウ。慈焦切〔蕭〕サウ、ゾウ。在到切〔號〕
騷がし、かまびすし、(喧)、又、さわがしき聲にいふ字。○〔成公綏〕「ー長引而憀亮」。
(啾嘈)騷がしき聲するにいふ語。○〔龍城錄〕「翠羽ーー」。
(嘈々)前に同じ。○〔白居易〕「大絃ーー如二急雨一」。
(畷嘈)前に同じ。○〔杜甫〕「太常樓船聲ーー」。
(嘲嘈)前に同じ。○〔歐陽修〕「下レ筆點竄皆ーー」。
(啁嘈)前に同じ。○〔貢璋〕「祈賽聲ーー」。
(豪嘈)聲あらくしてかまびすし。○〔元稹〕「涼州大遍最ーー」。

【嘉】カ、ケ。古牙切〔麻〕
㊀よし。(い)うつくし、うるはし、(美)。○〔詩〕「山有二ー卉一」。(ろ)めでたし、よろこばし、(慶)。○〔晉〕「京室是ー」。(は)あぢよし、うまし、(旨)。○〔詩〕「爾殽ー」。(に)あしからず、たゞし、よろし。○〔儀〕「爾有二ー謀ー猷一」。㊁よろこぶ、(喜)、たのしむ、(樂)。○〔禮〕「交獻以ー二魂魄一」。㊂このむ、(好)、よみす、(善)。○〔國〕「財用可レー」。㊃さいはひ。○〔史〕「神降二之ー一」。㊄よきもの、うまきもの。○〔歐陽修〕「飲レ旨食レー」。
(亨嘉)時節に遭遇すること。○〔歐陽修〕「早遘二ーー之會一」。
(靜嘉)やすくしてよし。○〔詩〕「其告維何、籩豆ーー」。
(柔嘉)やはらぎてよし。○〔詩〕「仲山甫之德、ーー維則」。
(寵嘉)愛しよみす。○〔左〕「其自二唐叔一以下、實ー二ー之一」。
(休嘉)めでたきこと。○〔晉〕「令聞ーー、千載承レ風」。
(素嘉)日頃之を慕ひよみす。○〔舊唐〕「以二雀群舊將一、ーーレ之」。
(允嘉)眞正によきこと。○〔王粲〕「度量ーー」。
(清嘉)きよくしてよみすべし。○〔陸機〕「土風ー且ー」。
(欣嘉)喜びよみす。○〔陸雲〕「上下ーー、則ーー」。
(珍嘉)めづらかにしてよし。○〔傳咸〕「ーー在昔、寶用罔レ極」。
(寧嘉)安らかにしてよし。○〔韓愈〕「擧政宣和、人用二ーー一」。
(靖嘉)前に同じ。○〔曾鞏〕「今方内ーー、百揆攸叙」。
(歎嘉)感じよみす。○〔歐陽修〕「益彰二材敏一、尤
(眷嘉)貴き人より寵遇しよみせらるゝこと。○〔歐陽修〕「俾レ佃二寵賚一、式示二ーー一」。
(褒嘉)はめよみす。○〔歐陽修〕「示二ーー之意一」。

【嘉】カ、ゲ。亥駕切〔禡〕
前條の㊀の(い)に同じ。

【嘮】ラウ、ロウ。郎刀切〔豪〕
こゑ、(聲)、又、大いなる聲にいふ字、又、かまびすし。○〔成公綏〕「衆音繁奏、若レ笳若レ簫、磞硠震隱、訇磕ー嘈」。

【嘊】ガイ、ゲ。宜佳切〔佳〕
啀に同じ、或は、犴に作る、犬の齧まんとする貌にいふ字。○〔管〕「北郭有レ狗、ーー、旦暮欲レ齧二我猳一」。

【嘑】
嘑に同じ。

【口窒】チツ。チ丶。陟栗切〔質〕
しかる、しかり、(呵)。

【口垤】テツ、テチ。丁結切〔屑〕
語りて節度なきにいふ字、はやこと。

【嘌】ヘウ。撫招切〔蕭〕匹妙切〔嘯〕
疾く吹く貌にいふ字、又、疾くして節度なき貌にいふ字、さし、はやし、又、其の聲にいふ字。○〔詩〕「匪二車ー一兮」。

【嘍】ロウ、ル。朗口切〔有〕
煩はしき貌にいふ字、わづらはし。

【嘍】ロウ、ル。郎侯切〔尤〕
本、謱に作る、鳥の聲にいふ字、さへづる。

【嘎】カツ、ケチ。古黠切〔黠〕
鳥の聲にいふ字。

【口速】
俗の嗽の字。

【嘕】エン。以淺切〔銑〕于線切〔霰〕イン。余忍切〔軫〕
大いに笑ふ、わらふ。

【口巢】サウ、ゼウ。仕教切〔效〕
衆くの聲にいふ字、又、かまびすし。

【口啓】カイ、ケ。希佳切〔佳〕
笑ふ貌にいふ字、わらふ。

【口殹】アイ、エ。倚蟹切〔蟹〕キツ、コチ。許訖切〔質〕
笑ふ聲にいふ字。

【嗄】サ、セ。楚瓦切〔馬〕
わるくち、他の惡事をいふこと、(惡言)。

【嘏】カ、ケ。古雅切〔馬〕
壯にして大いなり、おほいなり、又、大いにして遠きに亘りたり、さほし、又、時を經る久し、ながし、(長)、又、かたし、(固)、又、物事の幸運なること、さいはひ、(福)。○〔詩〕「純ー爾常矣」。

【口習】シフ。息入切〔緝〕
寒さを忍ぶ聲にいふ字、又、其の聲を發す、わなゝく。

【嘐】カウ、ケウ。許交切〔肴〕
㊀志大いなり、言大いなり、おほいなり。○〔孟〕「其志ーーー然」。

㊁誇りて語る、かたる。
㊂駭く貌にいふ字、おごろく。
㊃雞の鳴くにいふ字、なく。○〔詩〕「鷄鳴――」。

【嘐】ハウ、ヘウ。披交切 ハウ、ベウ。蒲交切 [肴]
言實あらずして誇る、ほこる。

【嘐】ラウ、ロウ。郎刀切 [豪]
語多し、かまびすし。

【嘐】ハウ、ヘウ。巴校切 [效]
こゑ、（聲）。

【嘐】ビウ、ピユ。眉救切 [宥]
謬に同じ、狂者の妄言、たはごと、いつはり。

【嘑】コ、ウ。荒烏切 [虞]
㊀大いなる聲を發す、よぶ、さけぶ。○〔周〕「夜―レ旦」。
㊁滹に同じ。○〔史〕「南有二―沱易水一」。

【嘑】コ、ウ。荒故切 [遇]
㊂前條の㊀に同じ、よぶ、さけぶ。○〔漢〕「仰レ天大―」。
㊃咄咋す、ふかる、ふたうち。○〔孟〕「―爾而與レ之」。

【嘒】ケイ、ケ。呼惠切 [霽]
㊀聲急なり、いそがし、きびし、又、聲和らぐ、やはらぐ、又、聲の節に中たるにもいふ字、又、小さき聲にいふ字、こゑ。○〔詩〕「鳴蜩――」。
㊁微かなる貌にいふ字、かすか、ちひさし。○〔詩〕「―彼小星」。

【嘓】カク。キヤク。古獲切 [陌]
わづらはし、うるさし、（煩）。

【⿰口祭】セツ、セチ。千結切 [屑]
㊀小さき聲を發す、小さく語る、さゝやく、さゝめごと、又、其の聲にいふ字。
㊁⿰言祭に同じ、正しく言ふ、たゞす。

【⿰口祭】セイ、サイ。子例切 [霽]
前條の㊀に同じ。

【⿰口菫】キン、ギン。丘引切 [軫]
脣に生ずる瘡、くちびるがさ。

【嘔】オウ、ウ。烏侯切 [尤]
㊀小兒の語るにいふ字、かたる。○〔荀〕「拊二循之一――」「々」。
㊁よろこぶ、（喜）。○〔博雅〕「――喩-」。
㊂謳に通じ用ふ、うたふ、又、うたふもの、うた。○〔漢〕「毋レ歌二―道中一」。
㊃聲。○〔陸游〕「――啞々車轉急」。

【嘔】ク、グ。匈于切 [虞] ウ、ヰ。威遂切 [遇]
悅び言ふ、よろこぶ、又、慈愛の聲にいふ字。○〔史〕「言語―――」。

【嘔】シユ、ス。春朱切 [虞]
怒りたる聲にいふ字、又、いかる。

【嘔】オウ、ウ。烏后切 [有]
歐に同じ、腹中より逆に喉へ出だす、ゑづく、もどす、又、單に、口へ出だすにもいふ字、はく、（吐）。○〔左〕「伏レ弢―レ血」。
〔嘔噦〕むせびはく。○〔蘇軾〕「舉レ箸―――」。
〔嘔嘔〕はく。○〔新語〕「諫二――之情一」。
〔干嘔〕吐く物なきに吐く氣の催ふすこと。○〔王襃之〕「――轉劇」。

【⿰口窕】テウ、デウ。徒了切 [篠]
誂に同じ。

【嘕】ケン。許延切 [先]
よろこぶ、（喜）、たのしむ、（樂）、わらふ、（笑）、又、其の貌にいふ字。○〔楚辭〕「靨輔奇牙、宜笑―只」。

【⿰口淡】タン、ドン。徒甘切 [覃]
味少し、あはし、うすし。

【嘖】サク、セキ。士革切 [陌]
㊀大いに呼ぶ、爭ひ言ふ、よぶ、なく、さけぶ、あらそふ。○〔管〕「名曰二―室之議一」。
㊁聲多し、言多し、かまびすし。○〔陸游〕「幸免二煩言―一」。
㊂賾に同じ、いたる、（至）。○〔左〕「會同難、―有二煩言一、莫二之治一」。
㊃情。○〔元瑩〕「陰陽所二以―レ抽也」。
㊄物事の初、はじめ。○〔易傳〕「聖人有三以見二天下之―一」。
〔嘖嘖〕大聲を發してさけぶ、呼びてかまびすし。○〔柳宗元〕「跳浮――」。
〔嚄嘖〕前に同じ。○〔蔡邕〕「――怒語與レ人相拒」。
〔怨嘖〕うらみていろ／＼にそしるにいふ語。○〔唐〕「宦豎知二訓事連一レ天子一相與――」。
〔唧嘖〕小さき聲のかまびすしきにいふ語。○〔陸龜蒙〕「――蛩吟壁」。

【嘗】シヤウ、ジヤウ。市羊切 [陽] ―一に、甞又は、嘗に作る。
㊀なむ。
(い)口に味はふ、あぢはひを試驗す、○〔詩〕「―二其旨否一」。
(ろ)經歷して知る。○〔左〕「險阻艱難備―レ之矣」。
㊁試驗す、こゝろみる。○〔戰〕「疑則少―レ之」。
㊂過去の事件を說くときに用ふる字、あるときに、まへかたに、かつて。○〔史〕「吾―爲二隴西守一」。
㊃新穀を廟に薦めて神を祭るにいふ字、即ち、秋期の祭事、まつる、あきのまつり、にひなめ。○〔禮〕「未レ―不レ食レ新」。
〔禘嘗〕王者の其の祖先に新穀を進めてまつる。○〔禮〕「郊社之禮、――之義」。
〔辨嘗〕食物の旨否をわけなむ、毒試。○〔禮〕「先飯――」。
〔奉嘗〕まつる、又、まつりのこと。○〔後漢〕「後世子孫―二―我一」。
〔烝嘗〕すゝめまつる、又、まつりのこと。○〔漢〕「二百鬼――」。
〔享嘗〕前に同じ。○〔禮〕「――乃止」。
〔歆嘗〕前に同じ。○〔崔駰〕「―二―百神一」。
〔咳嘗〕味はふ。○〔白虎通〕「口能――」。
〔新嘗〕新穀を鬼神に供ふこと。○〔杜甫〕「野齋及二――一」。

【噓】キヨ、コ。休居切 [魚] 許御切 [御]
㊀緩き氣を吹き出だす、口を張り開けて氣を吹き出だす、ふく、はく、ふきだす、はきだす。○〔莊〕「仰レ天而―」。
㊁轉じて、物の吹き出づる貌にいふ字。○〔蘇軾〕「――雲霧出」。
㊂歎息して發する聲、又、歎息の意を表はすときに用ふる字、あゝ。○〔李白〕「噫―嚱危乎高哉」。
〔吹噓〕いきを吹くこと。○〔魏〕「主上直信二李沖――之說一」。
〔呴噓〕前に同じ。○〔王褒〕「――呼吸如二喬松一」。
〔噓々〕(い)いきの出づる貌より雲などの出づるに用ふる語。○〔傳燈錄〕「――隱レ峯」。(ろ)いびきの聲。○〔蘇軾〕「日高鼾睡聲――」。
〔呵噓〕氣を吹きかく。○〔韓愈〕「――不二相炎一」。

【⿱尚多】タ。陟加切 [麻]
脣の厚き貌にいふ字。
〔說文〕从レ多、从レ尚。

【嘜】 ハ、バ。皮波切 歌
呪の語に用ふる字。

【噝】 シツ、シチ。思栗切 質
ひゞきておこるこゑ、ひゞき、(響)。○[絃索辨譌]「—律々」。

十二畫

【嘩】
譁に同じ。

【嘪】 バイ、メ。莫蟹切 蟹
羊の鳴くにいふ字、なく。

【嘫】 ダン、女閑切 刪 ゼン、如延切 先 子ン。切 子ン。切
語る聲にいふ字、又、かたる、又、こたふ、(譍)。

【嘬】 サイ、セ。楚快切 卦
㊀一擧して食らひ盡くす、つくす、くらふ。○[禮]「無—炙」。
㊁かむ、(齧)。○[孟]「蠅蚋姑—之」。

【嘮】 タウ、丑交切 肴 タ。丑加切 麻 テウ。切
かまびすし、(讙)。

【嘐】 カウ、ケウ。虚交切 肴
詨に同じ、よぶ、さけぶ、又、ほこる。

【嘮】 ラウ、ロウ。郎刀切 豪
誇に同じ、かゞやく、(灼)、又、聲多し、かまびすし。

【嗼】 シフ。子入切 緝
㊀かむ貌にいふ字、かむ、(嚥)。㊁すふ、すゝる、(歃)。

【嘯】 セウ。蘇弔切 嘯
口を蹙めて聲を出だす、又、吹きて聲を發す、總べて、長き音調の聲を發するにいふ字、うそぶく、ふく、又、轉じて、詩歌などを曲節を付けてこゑ長くうたふにいふ字。○[司馬相如]「長—哀鳴」。
〔吟嘯〕 うそぶく、又、詩歌などをうたふ。○[李白]「撫劍夜——」。「語、而好——」。
〔長嘯〕 音調を長くうそぶく。○[後漢]「不好言語、而好——」。
〔曼嘯〕 前に同じ。○[飛燕外傳]「悵然——」。
〔永嘯〕 前に同じ。○[嵆康]「——長吟」。
〔淸嘯〕 聲きよらかに歌ふ。○[世說]「登樓——」。
〔舒嘯〕 ものしづかにうそぶく。○陸游「蘇門晝寂聞——」。
〔高嘯〕 聲高く歌ふ。○[陶潛]「——返舊居」。
〔悲嘯〕 かなしさの餘りに聲を發す。○[古今注]「倚戶而——」。
〔諷嘯〕 うたふ。○[晉]「——良久」。
〔歌嘯〕 うたふこと。○[世說]「劉眞長善——、聞者莫不留連」。
〔牧嘯〕 牛かひわらべなどのうたふこと。○[淸波雜誌]「爽歌——之爲樂」。
〔叫嘯〕 さけびうそぶく。○[木華海賦]「更相——」。
〔頭嘯〕 いとも聲あきらかにうたふ。○[王績]「高吟——」。
〔唱嘯〕 となへうそぶぐ。○[雲笈]「——呼我儔」。
〔鳴嘯〕 なきうそぶく。○[法苑珠林]「飮啄自在——無爲」。
〔蘇門嘯〕 阮籍の故事より、うそぶく聲のすぐれたることに借りいふ語。○[晉]「籍嘗於——山遇孫登、與商略終古、及栖神道氣之術、登皆不應、長—而退、至半嶺聞有聲若鸞鳳之音響乎巖谷、乃登之嘯也」。
〔孫登嘯〕 前に同じ。○[陸游]「學林梟々——」。
〔倚柱嘯〕 婦人の嫁することの遲きを憂へ、さして國家を憂ふることに借りいふ語。○[列女傳]「魯漆室之女、過時未適人、倚柱而—、鄰婦曰、子欲嫁乎、曰、吾豈爲不嫁之悲哉、憂吾君老太子少耳」。

【嘯】 シュク、ソク。息六切 屋
氣を吹くを歌ふが如きにいふ字、ふく。○[詩]「有女仳離、條其—矣」。

【嘯】 シツ、シチ。尺栗切 質
叱に同じ、しかる。○[禮]「不—不指」。

【嘰】 キ、居希切 微 キ、渠希切 ケ。切 ゲ。切 巨至切 寘
㊀小しく食らふ、くらふ。○[司馬相如]「嚥咀芝英而—瓊華」。
㊁なげく、(唏)。○[淮]「號而哭、—而哀、而知聲動矣」。
㊂口醜し、みにくし。

【嘱】
囑に同じ。

【嚄】 クワク、カク。胡麥切 陌
さけぶ、よぶ、(叫)。○[蔡邕]「—嘖怒語」。

【嘲】 タウ、テウ。陟交切 肴
あざける、又、あざけり。
(い)戲れ言ふ、たはむる、又、おどけ。○[韓愈]「中靜雜—戲」。
(ろ)下げしみて言ふ、恥かしめ言ふ、そしる、又、わらひ、そしり、下げしみ、はづかしめ。○[晉]「博士王齊於衆中—之」。「——」。
〔吟嘲〕 詩もてあざけること。○[歐陽修]「安能事——」。
〔善嘲〕 巧にあざける。○[南]「伯固——諸」。
〔好嘲〕 あざけることをこのむ。○[宋]「然佻薄—」。
〔詼嘲〕 おもしろくあざける。○[宋]「——譏刺」。
〔朝嘲〕 鳥のあさ啼くこと。○[禽經]「山鳥——」。
〔狂嘲〕 無法にあざける。○[白居易]「——更讓誰」。
〔自嘲〕 自身をあざける。○[白居易]「一以——」。
〔謗嘲〕 そしり。○[王安石]「——出異己」。
〔譏嘲〕 前に同じ。○[司馬光]「既處——地」。
〔鞏嘲〕 多人數にてあざける。○[蘇軾]「是以——而聚罵者、動滿千百」。
〔嘲々〕 たはむれたわむる。○[柳宗元]「——自鳴爲辟痺」。
〔笑嘲〕 わらひあざける。○[黃庭堅]「——懊詰」。

【嘳】 クワイ、ケ。苦怪切 卦
㊀氣息の出入、いきづかひ、又、いき。○[文選]「——息激昂」。
㊁太息す、おほいきつく、又、なげく。○[晏子雜篇]「——然而歎」。
㊂他を譏る、そしる。
㊃あはれむ、(憐)。○[揚雄]「凡言相憐哀謂之—」。

【嘳】 キ。丘媿切 寘
喟に同じ。

【嗶】 ヒツ、ヒチ。逼密切 質
なく、(鳴)。

【嘴】 シ。祖委切 紙
本、觜に作る、くちばし。

【嗿】 アン、オン。烏甘切 覃
啖に同じ、あはし、うすし。

【嘵】 キヤウ、ケウ。馨幺切 蕭
おそる、(懼)、又、其の聲にもいふ字。○[詩]「予維音——」。

【嘶】 セイ、サイ。先稽切 齊
㊀むせぶ、(噎)。○[周、疏]「人患頭痛—、則有酸—而痛」。
㊁聲破る、やぶる。○[北]「崔公聲—、股戰不能一言」。
㊂馬鳴く、いなゝく、いばゆ。○[梁簡文]「搖頭櫪上—」。

(驕嘶) 馬の勢壯んにいなゝくにいふ語。○(杜甫)「顧レ影－－自矜レ寵」。(鳴嘶) なきむせぶ。○(吳淑)「鳴二白・露二而－－」。

【嘑】カ、ケ。虛加切 麻 許下切 馬
❶口を開く。
❷谺に同じ、谷中の大いに空虛なる貌にいふ字、むなし。

【嘷】カウ、ゴウ。乎刀切 豪
❶猛獸の聲を發するにいふ字、ほゆ、(咆)。○[左]「豺・狼所レ－」。
❷さけぶ、(號)。○[莊]「兒子終・日、－而嗌不レ嗄、和之至也」。
(羣嘷) むらがりてほゆ、あつまりてさけぶ。○(魏)「夜繞レ城而－－」。
(吠嘷) ほゆ、さけぶ。○(柳宗元)「代二挽・牢之－・－一」。
(淸嘷) きよらかなる聲にてさけぶ。○(歐陽修)「不レ如二雙・鶴能－・－一」。

【嗁】テイ、タイ。都黎切 齊
聲小さく語る、さゝやく、又、其のこと、さゝめごと。

【嘸】ブ、フ。斐父切 麌 ブ、ム。罔甫切 麌
應答の明了ならざるにいふ字。○[漢]「諸・將皆－－然陽應曰、諾」。

【嘺】ケウ、ゲウ。渠堯切 蕭
❶明かに知れざるを、おぼろ、又、其の貌にいふ字、おぼつかなし。
❷問ひて知らざるにいふ字。

【嘺】ケウ、ゲウ。丘召切 嘯
口の正しからざるにいふ字、まがる。

【嘻】キ。許其切 支
❶やはらぐ、(和)、たのしむ、(樂)、又、其の聲にいふ字、あゝ、あ。○[易]「婦子－－、終吝」。
❷贊美す、ほむ、又、其の聲にいふ字、あゝ、あ。○[詩]「噫－－成・王」。
❸かなしむ、(悲)、うらむ、(恨)、いたむ、(痛)、又、其の聲にいふ字、あゝ、あ。○[公羊]「慶父聞レ之曰、－」。
❹おそる、(懼)、又、其の聲にいふ字、あゝ、あ。○[左]「從・者曰、－速鷲」。
❺歎息す、なげく、ためいきつく、又、其の聲にいふ字、あゝ、あ。○[史]「－、子毋二讀レ書遠遊一、安得二此辱一乎」。
❻おどろく、(驚)、又、其の聲にいふ字、あゝ、あ。○[史]「秦・王與二群・臣一相視而－」。
❼わらふ、(笑)、又、其の聲にいふ字、あゝ、あ。○[史]「因－・笑曰、將・軍貴・人也」。
❽總べて、心思の動くにいふ字、又、心思動きて發する聲にいふ字、あゝ、あ。○[詩、疏]「成・湯見二四・面羅者一曰、－盡レ之矣」。
❾自得の貌にいふ字。○揚雄]「－－旭・々」。
(嘆嘻) なげき。○(王令)「毋送拊レ背父－・－」。

【嘻】キ、ギ。許記切 寘
或は、噫に作る、わらふ、(笑)。

【嘻】イ。於其切 支
噫に同じ。

【𡄔】ガン、ゲン。五閑切 刪
本、斷に作る、犬の嚙みあふにいふ字、又、あらそふ、(爭)、うッたふ、うッたへ、(訟)。

【嘼】古文の畜の字。○[揚雄]「－之初生」。

【嘽】ダン、ナン。他干切 寒
❶喘息の貌にいふ字、あへぐ。○[詩]「－－駱・馬」。
❷衆多なり、おほし。○[詩]「－」。
❸よろこぶ、(喜)、たのしむ、(樂)。○[詩]「戎・車－－、徒・御－－」。
❹閒暇餘力ある貌、又、盛んなる貌にいふ字。○[詩]「王・旅－－」。

【嘽】セン。稱延切 銑
❶迂緩なる貌にいふ字、ゆるし、ぬるし。○[列]「墨・㞊、單・至、－・喧」。
❷怒りて噎び噫く、なく、むせぶ。○[揚雄]「凡怒而噎・噫、南・楚江・湘之閒、謂二之－・喧一」。

【嘽】タ。湯何切 歌
❶おほし、(衆)。
❷泣く貌にいふ字、なく。

【嘽】タン。藁旱切 旱
❶ふるふ、をのゝく、又、おそろ、(慄)。
❷聲の舒びて緩やかなるにいふ字、ゆるし。○[王褒]「－・啴逸・豫戒二其失一」。

【嘽】セン。昌善切 銑
打ちくつろぎたる貌にいふ字、ひろし、(寬)。○[禮]「其樂・心感者、其聲－以緩」。

【嘽】タン、ダン。徒案切 翰
喜び樂しむとの盛んなるにいふ字、よろこばし。

【嘾】タン、ドン。徒感切 感
含むを深し、ふくむ。○[莊]「大・甘而－」。

【嘾】タン、ドン。徒南切 覃
むさぼる、(貪)。

【嘬】サイ、セ。楚夬切 卦
本、歠に作る、かむ、くらふ、(囓)。

【嚽】セツ、セチ。昌悅切 屑
歠に同じ、のむ、すゝる。

【嘿】ボク、モク。莫北切 職
默に同じ、だまる、しづか。○[戰]「政獨安可二－・然而止一乎」。

【嘿】コク。迄得切 屋
欬に同じ、しはぶき、(欬)。

【嘿】ボク、モク。莫六切 屋
欺く。

【噀】ソン。蘇困切 願 一本、僎に作る。
水を噴く、ふく、はく、又、酒を飲みて噴き出だす。○[神仙傳]「飲レ酒西・南－レ之」。

【噁】ヲ、ウ。烏故切 遇
怒る貌にいふ字、いかる。

【噁】アク。遏鄂切 藥
鳥の聲にいふ字。

【噂】ソン。子損切 阮
譐に同じ、聚まり語る、かたろ、又、うはさ。○[詩]「－・沓背・憎」。

【噃】ハン、ホン。孚袁切〔元〕 こゑ、(聲)。

【噅】キ。許爲切〔支〕 ㊀口の正しからざるにいふ字、くちゆがむ。㊁口に正しきを言はざるにいふ字、いつはる、又、いつはり。㊂みにくし、あし、(醜)。○〔淮〕「啳-睽哆-レ—」。㊃言ひせむ、せむ、(誚)。

【⿰口欻】クツ、コチ。許勿切〔物〕 ㊀いき、(氣)。㊁明かならず、くらし。

【噆】サン。七感切〔感〕 サフ。子答切〔合〕 口に銜む、ふくむ、又、かむ。○〔莊〕「蚊-虻—レ膚」。
〔噆噆〕言語聲音の聲中に籠もるが如くに聞えて明了ならざるにいふ語。○〔沈約〕「其聲也聾-詭—-—紛-紆雜亂」。
〔噬噆〕かむ。○〔元〕「—-—剖ニ殖乎其陽ー」。

【噇】タウ、ドウ。宅江切〔江〕 本、饍に作る。 食らふに檢束なきにいふ字、又、くらふ貌にいふ字、又、くらふ、(喫)。

【噈】シュク、ソク。子六切〔屋〕 口と口とを著く、又、すふ。

【噈】カフ、ゴフ。曷閤切〔合〕 やはらか、(柔)。

【噉】啖に同じ。○〔後漢〕「更相—食」。

【噊】イツ、イチ。余律切 シュツ、ジュツ。食律切〔質〕 ㊀あやふし、(危)。㊁鳥の鳴くにいふ字、なく。

【⿰口歰】シフ。色入切〔緝〕 口言ふを能はず、ごもる。

【噌】サウ、シヤウ。楚耕切〔庚〕 市人の聲、かまびすし。

【噌】ショウ、ゾウ。慈陵切〔蒸〕 かまびすし、(囂)。○〔晉〕「以ニ泓—-—ー爲ニ雅-量ー」。

【噍】セウ、ゼウ。才笑切〔嘯〕 ㊀かむ、かみこなす、(嚼)。○〔荀〕「呥-々而—、鄉-々而飽已矣」。㊁食らひて生活せる者、生民。○〔漢〕「襄-城無ニ——類ー」。
〔數噍〕度を重ねてかむ。○〔禮〕「—-—毋レ爲ニ口-容ー」。
〔餘噍〕生き殘りたる人民。○〔齊〕「衆-黎—-—、或能自推」。「—ー」。
〔瀆噍〕前に同じ。○〔南〕「曾不ニ崇-朝ー、併レ無ニ—-—」。
〔咀噍〕かむ。○〔司馬相如〕「—ニ—芝-英ニ兮」。

【噍】セウ、ゼウ。即消切〔蕭〕 ㊀鳥の鳴くにいふ字、なく。○〔揚雄〕「———昆-咀」。㊁しづか、(淑)、又、きびし、(急)。○〔禮〕「其哀-心感者、其聲—以殺」。

【噍】シウ、ジユ。將由切〔尤〕 前條の㊀に同じ。○〔禮〕「至ニ于燕-雀ー、猶有ニ啁-—之頃ニ焉、然後乃能去レ之」。

【噍】嚼に同じ。

【噎】エツ、エチ。一結切〔屑〕 イツ、イチ。益悉切〔質〕 咽喉に蔽ひ塞がる、むせぶ、又、むせび。○〔詩〕「中-心如レ—」。
〔澀噎〕しぶりてむせぶにいふ字。○〔禮、疏〕「喉-中不レ令ニ—-—ー」「喉-嚨ー」。
〔鬱噎〕ふさがりむせぶ。○〔元稹〕「已被ニ—-—ー衝ニ—-—ー」。
〔塞噎〕前に同じ。○〔文同濇生鍾親詩〕「嘔-吐—-—」。
〔嗚噎〕むせぶ。○〔晁補之〕「玉-君擾ニ—-—ー」。
〔喘噎〕せきむせぶ。○〔李覯〕「何カ禁ニ—-—ー」。
〔茹噎〕くらひむせぶ。○〔元好問〕「胷-中郎—-—」。

【噎】エイ、イ。壹計切〔霽〕 咽痛む、いたむ。○〔揚雄〕「噺-嗌-—」。

【噎】アイ、エ。乙界切〔卦〕 嗄に同じ、しはがれごゑ。

【⿰口敵】テツ、デチ。直列切 デツ、テチ。丑列切〔屑〕 語の正しからざる貌にいふ字。

【噏】キフ、コフ。許及切〔緝〕 ㊀吸に同じ、すふ。○〔揚雄〕「—-—ニ淸-雲之流-瑕ー」。㊁歙に通じ用ふ、つぐ、(襲)。○〔史〕「汩-域—-習以永逝」。㊂翕に同じ、をさむ、又、をさまる、(斂)。○〔老〕「將欲レ—レ之、必固張レ之」。

【噐】俗の器の字。

【⿰口賈】嚶に同じ。

【⿱來回】嗇の本字。

【⿰口坐】唾の本字。

十三畫

【噞】ゲン。魚檢切〔琰〕 牛廉切〔鹽〕 魚芝切〔鹽〕 魚の口の水上に見はるゝにいふ字、又、魚の口の水面に上下する貌にもいふ字、くちつごふ、あぎとふ。○〔淮〕「水濁則魚—」。

【⿰口解】カイ、ゲ。下解切〔卦〕 譺に同じ、怒りて聲を發するにいふ字、いかる、又、其の聲にもいふ字。

【噠】タツ、ダチ。宅軋切〔黠〕 語正しからざるにいふ字。

【⿰口愁】シウ、ジユ。側鳩切〔尤〕 サウ、セウ。莊交切〔肴〕 啾に同じ、嬰兒の啼くにいふ字、なく、又、其の聲にもいふ字。

【噡】セン、ソン。職廉切〔鹽〕 言ひ語る、ものいふ、又、多く言ふ。○〔荀〕「口-舌之均、—-—唯則節」。

【噡】タン、トン。都甘切〔覃〕 煩はしき語。

【⿰口過】クワ。古禾切〔歌〕 小兒の相應答する聲にいふ字、こたふ。

【⿱殸口】ケイ、カイ。吉詣切〔霽〕 カク。克革切〔陌〕 こゑ、(聲)。

【噭】喫に同じ。

【噢】イク、チク。乙六切〔屋〕 ウ。於武切 ク、コ。顆羽切〔麌〕 內心に悲しむ、かなしむ、又、かなしみ。

【噢】イウ、ウ。於九切〔有〕 病む聲にいふ字、うなる。

【噢】 燠に同じ。

【口粤】 エツ、チチ。王伐切 月
本、粤に作る、無意味の助字、こゝに。

【噆】 俗の噆の字。

【口殿】 テン。丁練切 霰
本、唸に作る、うなる、うめく(呻)。

【噣】 チウ、チユ。陟救切 トウ、ツ。都豆切 宥
❶くちばし(喙)。○[史]「射二ー-鳥于東海一」。❷星の名。○[詩傳]「三-心五-ー」。

【噣】 タク、トク。竹角切 覺 ―本、啄に作る。
鳥の子の餌を口にするにいふ字、ついばむ。○[戰]「黄雀因レ是俯二ー白粒一」。

【噤】 キン、ゴン。渠飲切 寢 巨禁切 沁 ―〔說文〕从レ口禁聲。
❶口を閉づ、つぶる、さづ、つぐむ、特に凍えて閉づるにいふ字。○[史]「悵-然ーレ口不レ能レ言」。❷轉じて、言はず、聲を發せざる義にいふ字。○[潘岳]「下-吏之肆二其ー-害一、則皆妒之徒也」。
(鉗噤) 口を閉づ、語らぬ。○[唐]「左-右ー-ー自安「耳」。
(寒噤) 寒氣の爲めにこゞえて口をつぐむ。○[李洞]「ー-ー入レ川人」。
(凍噤) 前に同じ。○[張來]「饑-喉ー-ー誰與解」。

【噥】 ドウ、ノウ。奴冬切 冬
多言にして中たらざるを、たはごと、そらごと。

【噥】 ダウ、ノウ。濃江切 江
❶噴りて發する聲にいふ字。❷食甘し、あまし。○[呂氏春秋]「甘而不レー」。❸語の明かならざるにいふ字。

【口感】 カン、ゴン。許含切 覃
❶ほゆ(吼)。

【口感】 カン、コン。古禫切 ガン、ゴン。五感切 感
❶鳥鳴く、なく、また、其の聲にもいふ字。❷よし(可)。

【口感】 カン、コン。苦濫切 勘
喊に同じ。

【口業】 ゲフ、ゴフ。逆怯切 洽
口の動く貌にいふ字、うごく、又、喋に作る。

【嚮】 キヤウ、カウ。許兩切 養
本、響に作る、應ふる聲、ひゞき。

【噦】 エツ、チチ。於月切 月 エツ、ワチ。乙劣切 屑
氣逆らひて喉に通ふこと、又、吐くに聲ありて物の出でざるにもいふ字、さくり、しやくり。○[禮]「不二敢ー-噫-嚏-咳一」。

【噦】 クワイ、ケ。呼外切 泰
❶鳥の鳴くにいふ字、一說に、徐かに行きて節度亂れざるにいふ字。○[詩]「鸞-聲ー-々」。❷寛くして明かなる貌にいふ字。○[詩]「ー-ー其冥」。

【噦】 カイ、ケ。許穢切 隊
顪に同じ、頤の下にある毛、ふたひげ、一說に、頰。

【噧】 カイ、ケ。訶介切 卦 タツ、タチ。他達切 曷 ―〔說文〕从レ口蠆省聲。
氣勢を高くして多言す、こゑたかし、かまびすし。○[春秋傳]「ー言」。

【噧】 キ、ギ。許倚切 紙
❶勢强き聲。❷多言、ことばおほし。

【器】 キ。去冀切 寘
❶うつは、うつはもの。
(い)内部の空虚にて物を盛るに用ふるもの。○[史]「ー-械一レ量」。
(ろ)一の形體をなすもの、品物、もの。○[易]「形乃謂二之ー一」。
(は)使用に堪ふる有形物の汎稱、だうぐ。○[書]「如二五ー-ー一」。
(に)使用すべきもの、作すに操るべきもの。○[禮]「禮-義以爲レー」。
(ほ)一定せる使用の目的を有して流通する能はざるものにもいふ字。○[論]「君-子不レー」。
(へ)才能、度量、總べて事を擔當し得る心智の動き、はたらき、きりやう、ちから。○[論]「管-仲之ー小哉」。
❷使用に堪ふるを得しむ、うつはにす。○[論]「及二其使一レ人也ーレ之」。

【大器】 (い)大いなるうつは、轉じて、人の大器量あるにいふ語。○[老]「ー-ー晩成」。
(ろ)政權のこと、又、權柄にも借りいふ語。○[左]「重レ之以二ー-ー一」。
【戎器】 いくさにつかふ道具、兵器といふに同じ。○[禮]「ー-ー不レ粥二於市一」。「以成二ー-ー一」。
【利器】 (い)よく切る、刃もの。○[書、傳][illegible]。(ろ)轉じて他に優りたる才能など。○[韓愈]「懷二-抱ー-ー一、鬱-々適二茲土一」。
(は)權勢のこと。○[後漢]「威-柄不レ以放レ下、ー-ー不二以假一レ人」。
【彝器】 宗廟に用ふる酒樽。○[北]「猶二盛ー-ー于太廟一」。
【祭器】 神を祭るに用ふるうつは。○[禮]「大夫ー-ー不レ假」。
【祠器】 前に同じ。○[史]「上爲二封-禪ー-ー一」。
【重器】 大事に取扱ふべきうつは、又、人の大器量。○[蜀]「媿二其早成不レ爲二ー-ー一耳」。「ー-ー一」。
【宗器】 祭祀のおもなるうつは。○[禮]「陳二其ー-ー一」。
【寶器】 たからもの。○[左]「遂入レ成、周取二其ー-ー一而還」。
【飲器】 杯のこと。○[周]「梓-人爲二ー-ー一」。「ー-ー一」。
【酒器】 前に同じ。○[說苑]「智-伯漆二其首一爲二ー-ー一」。
【凶器】 葬りに用ふるうつは。○[周]「遂藏二ー-ー一」。(ろ)總べて、不祥なる事に用ふるもの。○[史]「兵者ー-ー也」。
【械器】 うつは。○[管]「交レ物因レ方則ー-ー備」。
【國器】 國を治むる任に堪ふる者。○[史]「從-者皆ー-ー」。
【珍器】 世に稀れなるうつは。○[史]「車-甲ー-ー」。
【溺器】 しゆびん、(溲瓶)。○[唐]「至爲二ー-ー之一奉」。
【用器】 常に用ふるうつは。○[禮]「ー-ー不レ中レ度、不レ粥二於市一」。
【田器】 農事に用ふるうつは。○[禮]「修二耒耜一、具二ー-ー一」。
【佃器】 前に同じ。○[後漢]「賦二與ー-ー一、使レ就二農-業一」。
【耕器】 前に同じ。○[管]「ー-ー具則戰-器備」。
【禮器】 俎豆など禮式に用ふる器具、又、制度、文章にもいふ。○[禮]「ー-ー是故大備」。
【燕器】 燕居自由の時に用ふるもの。○[禮]「祭-器未レ成、不レ造二ー-ー一」。
【褻器】 便器に同じ、(虎子、一說に飲酒の器をいふ。○[周]「掌二王之燕衣-服、衽-席、牀-第凡ー-ー一」。
【溲器】 前に同じ。○[韓]「漆二其頭一以爲二ー-ー一」。
【佳器】 よきうつは、轉じて立派なる人物となること。○[晉]「此子長大必爲二ー-ー一」。
【射器】 弓矢のこと。○[儀]「命二有-司一納二ー-ー一」。
【廬器】 矛戟などの柄。○[周]「廬-人爲二ー-ー一」。
【材器】 才能器量をいふ。○[漢]「ー-ー名-稱稍不レ能レ及レ父」。
【數器】 權衡をいふ。○[周]「同二其ー-ー一」。
【任器】 使用する器物。○[周]「爲二百官一積二ー-ー一」。
【飾器】 かざりもの。○[周]「設二其ー-ー一」。
【德器】 德の高き器量。○[後漢]「就二成ー-ー一」。

（才器）才智あるもの。○〔晉〕「愛ニ其ーー一」。
（智器）前に同じ。○〔王隱〕「有ニーー文藻一」。
（皇器）帝位のこと。○〔後漢〕「ーー自移矣」。
（偉器）衆に優りたる大器量。○〔後漢〕「高明必爲ニーー一」。
（凡器）常なみのもの。○〔晉〕「此人非ニーー一也」。
（俊器）衆に優りたるもの。○〔晉〕「良久果ーー」。
（雋器）前に同じ。○〔人物志〕「遂爲ニーー者一」。
（美器）うつくしきうつは。○〔唐〕「前後賜ニ良田ーー一」。
（正器）（い）たゞしき器具。○〔風俗通〕「今器長五尺五寸則非ニーー一也」。（ろ）法令のこと。○〔鶡冠子〕「法者天地之ーー也」。
（薄器）竹又は葦にて作りたる器具。○〔荀〕「木器不レ斲、陶器不レ成、ーー不レ内」。
（生器）人の生まれたる時に用ふる器具。○〔荀〕「ーー文而不レ功」。
（天器）人間の生まれしまゝの性質。○〔淮〕「此至ニ其ーー一者」。
（茗器）茶事に用ふるうつは。○〔滄城集仙錄〕「姥乃持ニ所レ賣ーー一、自ニ牖中一飛去」。
（精器）鋭利なる戎具のこと。○〔傅休奕〕「國之ーー、軍之要用也」。
（鈍器）鋭利ならぬ器具、又、人の愚なる者を稱していふとあり。○〔王褒〕「工人之用ニーー一也」。
（瑣器）ちひさきもの、小器、才能のすぐれざるに用ふる語。○〔皇甫謐〕「瓶缶ーー、實非ニ瑚璉之求一」。
（瓌器）世に珍らしき器量。○〔梁元帝〕「宇宙之ーー」。
（宏器）大いなる器量。○〔任昉〕「瑚璉之ーー」。
（瑚璉器）貴き品位あるもの。○〔杜甫〕「鄭公ーーー」。
（滑稽器）太公望の故事より將帥の器量を稱していふ語。○〔儲光義〕「超々ーーー」。
（斗筲器）平凡なる器量。○〔李綱〕「顧兹ーーー」。

【噫】イ。於其切 支
㊀歎息の聲又は悲痛の聲又は寤めさる聲にいふ字、あゝ、あ。○〔論〕「ー天喪レ予」。
㊁なげく、なげき。○〔謝靈運〕「梁去レ覇而長ー」。
（憂噫）うれひなげく。○〔孟郊〕「漣々但ーー」。
（歡噫）なげく。○〔王逸琴〕「憂懷感結重ーー」。
（雅噫）歌ひてなげく。○〔揚雄〕「不レ用ニーー一者」。

【噫】イ、於希切 微 イ。隱已切 紙 エ。於記切 寘
哀しみ痛みて發する聲、又、其の意を表はすときに用ふる字。○〔論〕「ー斗筲之人、何足レ算也」。

【噫】アイ、エ。乙介切 卦
㊀食に飽きて發する息、おくび、又、おくびを發す、おくびす。○〔莊〕「大塊ー氣」。
㊁應答の聲、あ、あゝ。○〔魏〕「對應レ聲曰、ー」。
（秋噫）秋風の吹くにいふ語。○〔黃庭堅〕「萬籟聽ニーー一」。
（憑噫）腹中に物のもたれておくび出づ。○〔司馬相如〕「心ーー而不レ舒」。
（抑噫）おさへくて腹ふくれおくび出づ。○〔韓愈〕「悶懷空ーー」。

【噬】セイ、ゼイ。時制切 エイ。以制切 霽
㊀かむ、（齧）、くらふ、（食）、ついばむ、（啄）。○〔左〕「國狗之瘈、無レ不レー」。
㊁およぶ、（逮）。○〔詩〕「ー肯適レ我」。
（噬嗑）つかみくらふ。○〔王粲〕「蹲如ニ虎豹一奮ーー」。
（捕噬）前に同じ。○〔魏〕「思レ展ニーー一」。
（反噬）そむきかむといふより今まで恩を受けたる者、又、親しかりし者に刃向かふこと。○〔劉知幾〕「終ーーー而相屠」。
（狼噬）狼の如くに他を齧む。○〔北〕「鴟張ーー」。
（毒噬）蟲などの毒をさすこと。○〔左思〕「昆蟲ーー」。
（呑噬）のみくらふといふより他國を攻伐し併呑するに用ふ。○〔唐〕「有下ーー二四海一意上」。
（哮噬）たけりたちて齧みつくといふより攻伐の猛烈なるにいふ語。○〔唐〕「當ニ祿山反一、ーー無レ前」。
（交噬）兩者のかみあふことより相爭ふにいふ語。○〔蘇氏易傳〕「皆處ニ爭地一、而致ニーー一者也」。

【⿰口瑟】シツ、シチ。色櫛切 質
志かる、（叱）、又、其の聲。

【⿰口乹】クワ。呼肥切 麻
氣を吐く聲。

【⿰口雋】シ。祖委切 紙
觜に同じ、鳥の喙、くちばし。

【⿰口葉】俗の喋の字。

【⿰口虜】ロ、ル。籠五切 麌
猪を呼ぶ聲にいふ字。

【⿰口⿷匚瓦】クワ、ゲ。戸瓦切 馬
甖の大いなる口のもの、もたひ。

【⿰口楚】ショ、ソ。楚居切 魚
人を呵叱す、志かる。

【噭】ケウ。古弔切 嘯
㊀響きの高くして急しき聲を發するにいふ字、よぶ、さけぶ、ほゆ、（吼）。○〔禮〕「毋ニー應一」。
㊁哭泣す、なく、又、其の聲にいふ字。○〔左〕「昭公子レ是ー然而哭」。
㊂くち、（口）。○〔漢〕「馬蹏ー千」。

【噭】ケキ、キヤク。吉歷切 錫
㊀喫に同じ、くらふ、かむ。
㊁聲激し、はげし。○〔史〕「噑ー之聲興、而士奮」。

【噩】ガク。五各切 藥
㊀愕に同じ、おどろく、又、おどろき。○〔周〕「二曰、ー夢」。
㊁嚴肅なる貌にいふ字、おごそか、つゝしむ。○〔揚雄〕「周書ーー爾」。

【嘺】ケウ。丘召切 嘯
安からず、あやふし又、たかし、（高）。

【噪】サウ、セウ。蘇到切 號
譟又は、喿に同じ、かまびすしく呼ぶ、よぶ、さわぐ、さわがし。○〔拾遺記〕「有ニ白鵶一遶レ煙而ー」。
（號噪）さけびさわぐ、かまびすしく大聲を發す。○〔鮑照〕「ーー驚ー」。
（叫噪）前に同じ。○〔劉基〕「ーー喧ニ草莽一」。
（啅噪）前に同じ。○〔蘇舜欽〕「出嫉ニ鳥ーー一」。
（棲噪）すまひしてさわぐ、又、住居の義にも借り用ふる語。○〔沈約〕「構ニーー之所レ集」。
（嘶噪）なきさわぐ。○〔元稹〕「亂蟬ーー欲ニ黃昏一」。

【噮】エン。烏縣切 先
食甘し、あまし。○〔呂氏春秋〕「不レー而香」。

【噯】アイ。烏蓋切 泰
いき、（氣息）。

【⿰口閜】カ、ケ。許下切 馬
わらふ、（笑）。

【⿰口閜】カ。許我切 哿
歌に同じ、大いにわらふ、わらふ、大わらひ。

【⿰口閜】カ、ケ。呼訝切 禡
責め怒る、せむ、いかる。

【⿰口閜】カ、ケ。虛加切 麻
谷中の大いに空しき貌にいふ字。

【⿰口亶】セン。式善切 銑
視て面色變ず、かほいろかはる。

【⿰口戢】シフ、ソフ。阻立切 緝
ささる、たささふ、（喩）。

【噰】ヨウ、ユウ。於容切 ［冬］
嗈に同じ、鳥の聲、なく、さへづる、其の聲の和げるにいふ字、やはらぐ、又、樂しき聲。

【噰】ヨウ、ユウ。委勇切 ［腫］
むせぶ、（咽）、又、ふさがる、（塞）。

【噱】キヤク、ガク。其虐切 ［藥］
㊀笑ひて止まず、大いに笑ふ、わらふ、又、其の聲にいふ字。○〔漢〕「談-笑大―」。
㊁口内の上下、あご、又、あごを張る、くちあく。○〔揚雄〕「遙―二虖紘-中一」。
〔詼噱〕へつらひわらふ。○〔韓愈〕「親-交歡二―-―一」。
〔飲噱〕酒のみてわらふ。○〔唐〕「數過二友-家―-―一」。
〔歡噱〕よろこびわらふ。○〔集異記〕「不レ知諸郎-君、何此―-―」。
〔嘲噱〕あざけり。○〔陸游〕「祗自取二―-―一」。
〔叫噱〕さけびて口をあく。○〔高啓〕「須-臾顏熱起二―-―一」。

【噝】シ、シ。牆之切 ［支］
愧づる貌にいふ字、はづかし。

【(口殹)】エイ。烏兮切 ［齊］
こゑ、（聲）。

【噲】クワイ、ケ。苦夬切 ［卦］
㊀小さきのむど、又、のむど、（咽）。
㊁寬やかにして明かなる貌にいふ字、又、こゝろよし、（快）。○〔詩〕「――其正」。
㊂すゝる、のむ、（嚵）。

【噲】ワイ、エ。烏快切 ［卦］
少しく咽ぶ、むせぶ。

【噲】クワツ、クワチ。古活切 ［曷］
顏色意氣の衰へたるにいふ字、やつる、やつれ。○〔莊〕「顏-色腫―、手-足胼-胝」。

【噳】グ、ゴ。五矩切 ［麌］
㊀麌鹿の羣りて口のあひ聚まる貌にいふ字、あつまる、又、おほし、（衆）。○〔詩〕「麀-鹿――」。
㊁笑ふ貌にいふ字、又、わらふ。

【噴】ホン。普悶切 ［願］ ホン。普魂切 ［元］
㊀鼻を鼓す、ならす、又、聲荒らげていふ、いかる、（叱）。○〔韓詩〕「瞋レ目扼レ腕、疾-言――」。
㊁氣を吐く、はく、又、吐く、出だす、吐き散らす、ふく。○〔戰〕「俛而―、仰而鳴」。
〔飯噴〕口中にある食物をふき出だす、大いに笑ふ貌にいふ語。○〔蘇軾〕「失-笑――滿レ案」。
〔嚏噴〕くさみしてふき出だす、又、くさみ。○〔傾眞子〕「俗-說以二人――一爲二人-說一」。
〔跳噴〕飛ぶが如くにふき出だす。○〔岑參〕「――浩-森」。
〔吼噴〕ほえてふき出る。○〔王維〕「瀑-泉―而―」。

【噴】フン、ホン。芳問切 ［問］
㊀吹く聲にいふ字。㊁しかる、叱る。

【嘓】コク、カク。古或切 ［職］
口に聲あるにいふ字、くちのおと。

十四畫

【嗑】アイ、エ。乙芥切 ［卦］ カツ、カチ。許葛切 ［曷］
喝に同じ。

【嗑】アイ、ア。於蓋切 ［泰］
むせぶ、（噎）。

【(口㬎)】ガフ、ゴフ。五合切 ［合］
衆多なる聲、こゑ。

【嘍】ル、ロ。良遇切 ［遇］
呉人の狗を呼ぶにいふ方言。

【噽】本嚭に作る。

【(口賾)】サク、シヤク。士革切 ［陌］
通じて嘖に作る、幽深にして見難きにいふ字、かすか。

【噿】ス井。祖誄切 ［紙］
鳥の喙、くちばし、又、鳥の聲。

【嚀】デイ、子イ。奴丁切 ［青］
寗と通じ用ふ、ねんごろ。

【嚁】テキ、ヂヤク。亭歷切 ［錫］
こゑ、（聲）。○〔成公綏〕「聲激―而淸-厲」。

【嚂】ラン、ロン。盧瞰切 ［勘］
貪り食らふ、むさぼる、くらふ貌にいふ字。○〔淮〕「以―二其口一」。

【嚂】カン、コン。苦濫切 ［感］
㊀しかる、（呵）。
㊁喊に同じ、こゑ、（聲）、こゑを出だす、いふ。○〔戰〕「橫-人―-口利-機」。

【嚂】ラン、ロン。盧甘切 ［覃］
嚂に同じ、貪る貌にいふ字、むさぼる。

【㘅】銜に同じ。

【(口臺)】タイ、テイ。坦亥切 ［賄］ タイ、ダイ。堂來切 ［灰］
㊀言の止まざるにいふ字、やます。
㊁言の舛ふにいふ字、いつはる、又、いつはり。

【嚃】タフ、トフ。託合切 ［合］ タイ、ダイ。吐內切 ［隊］
一時に多量を口に入る、のむ、すゝる、又、あらのみ。○〔禮〕「無レ―レ羹」。

【嚄】クワク、ワク。胡伯切 ［陌］ ワク。屋虢切 ［陌］
㊀大いに喚ぶ、よぶ。
㊁多言なり、かまびすし。○〔史〕「晉-鄙――宿-將」。
㊂痛くをしむときに發する聲、驚愕して發する聲、又、其の意を表はすときに用ふる字、あゝ、あ。○〔史〕「武-帝下レ車泣曰、―、大-姊何藏之深也」。

【嚄】ワク。屋郭切 ［藥］
臒に同じ、味無し。

【嚛】ラク、ロク。呂角切 ［覺］
俗の犖の字、口辨あり、ことばすぐる。

【嚅】ジユ、ニユ。人朱切 ［虞］
㊀多言なり、かまびすし。○〔黃晞〕「啁-――」。
㊁又、言ひ掛けて口を縮む、つぐむ。○〔韓愈〕「口將レ言而囁-―」。
〔呫嚅〕さゝやきて多言す。○〔唐〕「嚅等數附二永-喜耳一――、紹-之翻然不二復顧一」。
〔喔嚅〕かまびすしくいふ。○〔易林〕「[illegible]―-―」。

【嚆】カウ、ケウ。虛交分 ［肴］
喋に同じ、さけびよぶ。○〔莊〕「焉知二曾-史之不一レ爲二桀跖―-矢一也」。

【嚇】カ、ケ。呼訝切 [禡] カク、キヤク。許白切 [陌] 赫又は、嚇に作る。

㊀言語もて他を拒む、いかる。○〔詩〕「反予來｜」。㊁怒りて發するあらくしき聲。○〔莊〕「鴟得二腐-鼠一、鵷-雛過レ之、仰而視レ之曰、｜」。㊂笑ふ聲。○〔雪占古諺〕「正-月三-日田-公笑｜｜」。

〔鴟嚇〕莊子の言より、思想の卑しき者も思想高き者も己れと同樣なる者と心得、己れが重しとするものは微らはしきものなるにも係はらぞ之を奪はれんことを恐るゝに借りいふ語、轉じて、思想卑しき者の他を臆斷するに借りいふ語。○〔鹽鐵論〕「公-卿以二其富-貴一笑二儒-者一、得レ挑若二太-山｜｜一鵷-雛一乎」。〔梁國嚇〕前に同じ。○〔莊〕「今子欲下以二子之｜一而｜上我耶」。〔腐鼠嚇〕前に同じ。○〔蘇軾〕「｜・｜何勞レ｜」。〔喘嚇〕あへぎくてあらくしき氣息の出づるにいふ語。○〔任昉〕「｜・｜狀二雷奔一」。〔呀嚇〕口を開けてあらくしき氣息を發す。○〔柳宗元〕「｜・｜匍-匐」。〔叱嚇〕いかる。○〔舒元輿〕「啟-拍｜・｜」。〔驅嚇〕追ひ拂はんとていかる。○〔司馬光〕「｜・｜不レ可レ攖」。〔恐嚇〕おどかしいかる。○〔傳占衡〕「穴二金於｜｜」。

【嚇】カク、キヤク。郝格切 [陌] 前の㊀と㊁とに同じ、又、いかる、(怒)。

【嚶】エイ、ヤウ。于兄切 [庚] なく、(啼)。

【噎】ヲン。烏本切 [阮] 小さき口。

【嚊】ヒ。匹備切 [寘] 喘ぐ息の聲あるにいふ字、いき、はないき。

【嚊】キ。虛器切 [寘] 呬に同じ、いき、又、いきす。○〔揚雄〕「飛-廉雲-師吸-｜」。

【噭】アツ、アチ。烏八切 [黠] 咽の中の聲の利ならざるにいふ字、むせぶ、(噎)、又、其の聲にもいふ字。

【嶷】ギヨク、ゲキ。魚力切 [職] ギ、キ。偶起切 [紙] 魚記切 [寘] ㊀小兒の智多きにいふ字、さとし。○(詩)「克岐克｜」。㊁聞見するをなし、くらし。㊂あざむく(紿)。㊃笑ふ貌にいふ字、わらふ。

【嚋】チウ、ヂユ。除留切 [尤] たれ、たそ、(誰)。

【嚋】チウ、チユ。張流切 [尤] 譸に同じ、たぶらかす、あざむく、たぶらかし、あざむき。

【嶼】ヨ。羊諸切 [魚] 重き物を引くに力を勸むる歌、はやし、きやり。

【嚎】ボウ、モウ。謨蓬切 [東] 言明らかならざるにいふ字、くらし。

【嚌】セイ、ザイ。才詣切 [霽] ㊀なむ(嘗)。○〔禮〕「主-人之酢也｜レ之」。㊁祭に同じ、まつる、又、まつり。○〔儀〕「加レ爼｜レ之」。㊂なむろに供ふろもの、又、まつりに供ふろもの、牲肉など。○〔禮〕「君執二鸞-刀一羞レ｜」。

〔揺嚌〕なむ。○〔唐〕「｜二｜道眞一」、「我詩」。〔味嚌〕あぢはひなむ。○〔蘇軾〕「旣｜二我泉一、亦｜二」

【嚌】セイ、ザイ。前西切 [齊] 鳥の哀しき聲を發するにいふ字、なく。

【嚌】カイ、ケイ。居諧切 [佳] 衆くの聲。○〔班彪〕「鵙-鷄鳴以｜｜」。

【嚌】サイ、セイ。莊皆切 [佳] 笑ふ貌にいふ字、わらふ、(嚌啀)。

【嚍】シン。即忍切 [軫] いきどほる、又、いきどほり、(憤)。○〔揚雄〕「捈二中心之所レ欲通二諸人之｜｜一者、莫レ如レ言」。

【嚃】サフ、ザフ。從納切 [合] 深く算ろ、はかる。○〔淮〕「至-虚無二純-一一、而不レ｜二喋苛-事一也」。

十五畫

【嚻】レフ、ロフ。良涉切 [葉] 骨を齧む聲、又、齧む聲。

【㘉】シツ、シチ。阻瑟切 [質] 聲出づろ貌にいふ字、(唧嚙)、又、言多し、かまびすし。○〔王褒〕「啾咇｜｜而將レ吟」。

【嘖】シツ、シチ。之日切 [質] 野人の言にいふ字、いやしきことば。

【嚁】セキ、シヤク。施隻切 [陌] たのむ、あつらふ、(囑)。

【嚏】テイ、タイ。丁計切 [霽] 鼻より氣の逆ひ出づるにいふ字、はなひる、くさめす、くさめ。○〔詩〕「願言則｜」。

【嚏】チ。陟利切 [寘] 本疐に作る、礙りて行かず、さゝはる。

【嚕】ロ。籠五切 [麌] ㊀かたる、(語)。㊁へつらふ、(諂)。㊂惜しむ可し、かなし。○〔梁王女阿〕「吐-｜吐-｜段-阿-奴」。

【嚁】イフ。域及切 [緝] 噏に同じ、衆くの聲。

【嚁】キフ、コフ。迄及切 [緝] 衆くの聲の疾き貌にいふ字、こゑはやし。○〔王褒〕「｜-嚽嘩-㖕」。

【嚫】ケン、ゲン。胡千切 [先] ㊀なじる(雖)。㊁こゑ(聲)。㊂礙に同じ、けはし。

【嘹】ラウ、ロウ。盧皓切 [晧] 人無し、ものづか(靜)、さびし、(寂)。

【噱】ゲキ、ギヤク。奇逆切 [陌] ㊀たはむろ、又、たはむれ、(戲)。㊁笑ひて止まざるにいふ字、わらふ、(嘔嚙)。

【嚱】シツ、シチ。貲悉切 質 蟲鳴く、なく、又、むしのね、又、鼠の聲。

【嚗】ハク、ホク。北角切 覺 ㊀怒る聲、又、いかる。㊁杖を投げ放く聲にいふ字。○〔莊〕「―然放レ杖而笑」。㊂こゑ（聲）。

【嚗】ハウ、ボウ。披教切 效 前條の㊂に同じ。

【嚗】ハウ、ボウ。薄報切 號 聲多し、かまびすし、さわがし。

【嘌】ハウ、ベウ。蒲交切 肴 咆に同じ。

【嚁】チ、ヂ。陳知切 支 緩慢なる語音。

【嚘】イウ、ウ。於求切 尤 ㊀辭いまだ定まらざるを、かたこと。㊁なげく。○〔韓愈〕「佇立久咿―」。㊂むせぶ。

【嚙】ガウ、ゲウ。五巧切 巧 齩又は咬に同じ、骨を齧む、かむ。

【嚚】ギン、ゴン。語巾切 眞 ㊀語の聲。㊁道理にくらし、おろか（愚）。○〔書〕「父頑母―」。

【嚚】ガン、ゲン。牛閑切 刪 語の聲。

【嚽】セツ、セチ。昌悅切 屑 口正しからず、ゆがむ。

【噴】トウ、ヅ。大透切 宥 本、讀に作る、書を讀む、よむ。

【囈】囈に同じ。

【嚛】コク。火沃切 沃 コク。呼木切 屋 ㊀辛きものを食らふ、くらふ。㊁大いに啜る、すゝる。

【嚛】カク。黑各切 藥 前條の㊀に同じ。

【嚜】ビ、ミ。密二切 寘 バイ、メ。莫佩切 隊 詐はり言ふ、いつはる、又、あざむく、みだる、惡才あり、わるがしこし。○〔揚雄〕「江湘之間、凡小兒多レ詐而獪、或謂二之―尿一」。

【嚜】ボク、モク。密北切 職 ㊀前條に同じ。㊁自得せざる貌にいふ字。○〔史〕「子嗟――兮、生之無レ故」。

【嚝】クワウ。虎横切 庚 鼓鐘の聲にいふ字、こゑ、ひゞき。

【嗽】シユ、ス。雙遇切 遇 犬を使ふ聲にいふ字。

十六畫

【嚥】エン。於甸切 霰 のむど、（咽）、又、のむどに下す、のむ、（呑）。○〔譚子化書〕「聞二珍羞之名一、則妄有レ所レ―」。

【嚦】レキ、リヤク。郎狄切 錫 こゑ（聲）。

【嚗】ハウ、ヘウ。披教切 效 こゑ（唎）、又、大いなる聲。

【嚧】ロ、ル。落胡切 虞 ㊀豬を呼ぶ聲。㊁一說に笑ふ貌にいふ字（呼―）。

【嚨】ロウ、ル。盧紅切 東 のむど、のごぶえ（喉）。○〔後漢〕「吏買レ馬、君買レ車、請爲二諸君一鼓二―胡一」。

【嚨】ロウ、ル。盧紅切 東 大いなる聲にいふ字。

【嚩】ハク、バク。符攫切 藥 無意味の字、呪の語。○〔延命陀羅尼呪〕「吽々尸棄薩――賀」。

【嚪】タン、ドン。徒覽切 感 徒濫切 勘 啖又は啗に同じ、くらふ、又、くらはす。○〔史〕「令三趙―レ秦以二伐レ齊之利一」。

【嘘】キヨ、コ。休居切 魚 なく（欷）。

【嘻】噫に同じ。

【嚫】シン。初覲切 震 ほどこす、又、ほどこし（施）。○〔隋煬帝〕「弟子―曰恭―」。

【嚬】ヒン、ビン。符眞切 眞 眉を蹙む、額に皺を寄す、ひそむ、ひそむ（憂ひの見はれて）。○〔通鑑〕「明主愛二一―一笑一」。

〔開嚬〕ひそみを開く、憂ひを去る。○〔薛道衡〕「擾城歌」中愁思不レ―」。
〔小嚬〕すこしくひそむ。○〔劉昴〕「―――猶唱渭・」。
〔效嚬〕前に同じ。○〔王筠〕「欲笑効―――」。
〔學嚬〕君上の人ひそめば阿りて其れに傚ひひそみをいふ、上に阿るに借りいふ語。○〔宋〕「―――之蔽將來」。
〔下嚬〕ひそみの他に勝ぐれて可憐なるにいふ語、主に美人にいふ。○〔呂向〕「王顏絳脣巧笑――」。

【嚷】クワイ、ケ。姑回切 灰 よぶ（呼）。

【嚭】ヒ。匹鄙切 紙 おほいなり（大）。

【嚮】キヤウ、カウ。許亮切 漾 ―古文、向に作る。
㊀向に同じ、むく、むかふ。○〔書〕「作二―卽有レ僚」。
㊁さきに。○〔漢〕「―使三四丞相不レ先聞二馭吏言一、何見二勞勉一之有」。
㊂まど（牖）。○〔淮〕「四方皆道之門戶牖―也」。
㊃うく（享、受）。○〔史〕「已―二其利一者、爲レ有レ德」。
㊄響に同じ。○〔易〕「其受レ命也如レ―」。
〔新嚮〕己れが思ひ通りに物事の成就せんとを思ふ、又、ねがひ。○〔莊〕「予雖レ有二――一、不レ可レ得也」。
〔對嚮〕向きあふこと。○〔論衡〕「故―二―之誓、懷・憎惑・懼音也」。

【嚮】キヤウ、カウ。許兩切 [養] 兩つの階、きだはし。

十七畫

【嚱】キ。虛宜切 [支] ㊀口に聲あるにいふ字。㊁驚きて發する聲、又、其の意を表はすときに用ふる字、あ、あゝ。○[李白]「噫嚱——危乎高哉」。

【嚱】キ。香義切 [寘] こゑ、(聲)。

【[口韱]】セン、子廉切 [鹽] セン、子豔切 [豔] ソン。廉ならず、むさぼる。

【[殸告]】タウ、ドウ。大到切 [號] 本[illegible]に作る。年齡九十の者、一說に、年齡七十の者、さしより。

【[口蹇]】ケン。居件切 [銑] ごもる、又、ごもり、(吃)。

【[口謦]】ケイ、キヤウ。詰定切 [徑] 長き聲。

【嚲】タ。丁可切 [哿] 本[illegible]に作る。㊀ひろし、(廣)。㊁あつし、(厚)。㊂垂れ下がる貌にいふ字、たる、さがる。○[岑參]「柳—鶯嬌花復殷」。

【嚳】コク。苦沃切 [沃] 急ぎて告ぐ、つぐ。

【[口闌]】ラン。落干切 [寒] 言語雜亂にして解くべからざるにいふ字、もつろ、わからず。

【[口應]】譍に同じ。

【[口闌]】ラン。魯旱切 [旱] 讕に同じ、誣ひて言ふ、ゐふ。

【嚴】ゲン、ゴン。魚杴切 [鹽] ㊀威ありて畏憚すべきを、禮儀正しく整ひたるを、總べて、他をしてかろ〲しく思はしめざる勢あるをにいふ字、おごそか。○[禮]「師—然後道尊」。㊁おごそかなり、いかめし。○[漢]「日磾長八尺二寸、容貌甚—」。㊂きびし。(い)殘酷なり、からし、(苛)。○[歸論]「罸峻刑—」。(ろ)ゆるからず、急なり。○[道德指歸]「—」。○[史]「督責益—」。(は)規律太だ正し。○[後漢]「闡門甚—」。(に)はげし、(烈)、つよし、(毅)、はなはだし、(甚)。○[李白]「始知殺氣—」。㊃たふとし、(尊)。○[禮]「收族故宗廟—」。㊄いましむ。(い)おごそかにす、いかめしくす、きびしくす。○[禮]「中二—號令一」。(ろ)敵に對して備を設く。○[晉]「何故夜—」。㊅つゝしむ、つゝしみ、(敬)。○[書]「日—祗敬六德」。㊆憚る、尊ぶ。○[史]「—重之」。

(威嚴) 威力ありておごそかなること。○[職]「——不足以易於位」。(中嚴) いましむ。○[禮]「季秋之月——號令」。(矜嚴) つゝしみおごそかなること。○[漢]「于參爲人——」。(淸嚴) 廉潔にしてきびしきこと。○[魏]「爲政——有威惠」。

(苛嚴) きびしきに過ぐること。○[宋]「御下——少縱舍」。(尊嚴) たふとくおごそかなること。○[漢]「——若神」。(崇嚴) 前に同じ。○[李嶠]「項闘——」。(禁嚴) 天子の宮殿を指していふ語。○[蘇軾]「入禁——、出膺方面」。(整嚴) 正しくおごそかなること。○[宋]「御軍——」。(方嚴) 前に同じ。○[晉]「志氣——」。(端嚴) 前に同じ。○[舊唐]「——峻整」。(戒嚴) きびしくいましむること、おもに戰爭の警戒に用ふ。○[唐]「京師——」。(莊嚴) おごそかなること。○[王僧孺]「百福——、萬祉周集」。(剛嚴) つよくしてきびしきこと。○[舊唐]「皆以——操下」。(森嚴) おごそかなること。○[唐]「法度——」。(靜嚴) 志づまりてつゝしめること。○[唐]「王師部伍——、賊有懼色」。(齊嚴) 正しくつゝしむ。○[貫山至言]「故君子不常見其——之色、肅敬之容」。(幽嚴) 鬼神などの目には見えねど何となくおごそかなるさまに用ふる語。○[顏延之]「神路——」。(凛嚴) きびしくして犯すべからざること。○[韓琦]「融和變——」。

【嚴】ガン、ゲン。魚銜切 [咸] 巖に通じ用ふ。○[左]「制—邑也」。

【嚴】ガン、ゴン。五犯切 [豏] 儼に通じ用ふ。○[詩]「有—天子」。

【嚶】アウ、エイ。烏莖切 [庚] ㊀兩つの鳥互に應答して鳴くにいふ字、轉じて朋友の互に相切磋するにいふ字。○[詩]「鳥鳴——」。㊁人の明瞭ならざるの言をなすにもいふ字。○[楊萬里]「兒女吚——」。

(鳴嚶) なく。○[謝靈運]「——已悅豫」。(流嚶) 鳥の鳴きわたるにいふ語。○[沈約]「——復滿枝」。(呦嚶) 獸の鳴くと鳥の鳴くと。○[張說]「——鳥獸馴」。

(嚶嚶) 不了の言をくど〲しくいふこと。○[韓愈]「若嘛若啼書欲——」。(塞嚶) 聲のおどにふさがりてなく、むせびなく。○[李賀]「——折翅雁」。

【[口賾]】古文の頤の字。○[漢祝睦碑]「探—窮神無物不辨」。

十八畫

【嚻】囂に同じ。

【嚼】シヤク、ザク。才爵切 [藥] 口に入る、齒にて碎く、食す、かむ、くらふ、又、翫味す、あじはふ。○[說苑]「飲不—者浮大白」。

(咀嚼) かみくらふこと。○[史]「——[illegible]」。(噍嚼) 前に同じ。○[韓愈]「逆賊相——」。(大嚼) おほいにくらふ。○[唐]「長噉——」。(含嚼) 口中にふくみかむこと。○[三輔黃圖]「出入必皆——」。(抱嚼) ふくみくらふこと。○[陸龜蒙]「何人能—」。

【嚼】セウ、ゼウ。子肖切 [嘯] 噍に同じ。

【嚄】カク、クワク。胡伯切 [陌] ㊀誇る貌にいふ字、ほこる。㊁言語の壯んなる貌にいふ字、さかん「なり」。㊂志ばく相怒るにいふ字、いかる。

【[口蒦]】ワク。零白切 [陌] クワ、戶瓦切 [馬] ㊀自ら是とする貌にいふ字。㊁言の疾き貌にいふ字、はやこと。

【[口贅]】啜、又は歠に同じ。○[荀]「—菽飲水」。

【[口顏]】ガン、ゲン。牛姦切 [刪] 爭ふ貌にいふ字、あらそふ。

【嚾】クヮン。呼玩切 翰
喚に同じ、よぶ、わめく。○〔禮〕「咀—者九-竅而胎-生」。

【嚾】タン。吐玩切 翰
めす、(召)、よぶ(呼)。

【嚾】クヮン。呼官切 寒
囂に同じ、よぶ、又、かまびすしき貌にいふ字。○〔荀〕「世-俗之溝-猶瞀儒、———然不レ知二其所一レ非也」。

【嚿】カク、ワク。胡白切 陌
ほこる(誇)。

【囀】テン。知戀切 霰
㊀聲の轉ずること、てうし、しらべ。○〔顏延之〕「聽二邊-笳之斷——一」。
㊁鳥鳴く、さへづる、なく。○〔庾信〕「新-年鳥-聲千-種—」。
〔清囀〕聲きよらかにさへづる。○〔何景明〕「簫二而——一、協二雲韶-章一」。
〔百囀〕幾度もさへづる。○〔賈至〕「——流-鶯繞二建-章一」。
〔悽囀〕さびしげにさへづる。○〔庾信〕「落-花——」。
〔嬌囀〕こぶるが如き聲してさへづる。○〔張說〕「——一鶯亂飛」。「—春-風-裏」。
〔急囀〕聲せはしげにさへづる。○〔蘇頲〕「黃-鸝——」。
〔妙囀〕たへなるしらべ。○〔元稹〕「引二——一而一皆闋」。

【囁】セフ、ゼフ、ソフ。之涉切　子フ。而涉切 葉
口に節なし、即ち、漫りに言語するなど、又、口動く貌にも、私に罵るにもいふ字、うごく、かまびすし、さゝやく。○〔史〕「乃效二女-兒呫——耳-語一」。

【囂】ケウ。許嬌切 蕭 〔說文〕从レ㗊从レ頁。
㊀聲多し言煩はし、かまびすし、さわがし、わづらはし。○〔左〕「湫-隘——塵」。
㊁おほし(衆)。○〔淮〕「莫レ—二大-心一」。
㊂自得して慾なき貌にいふ字、又、ゑづか。○〔孟〕「人知レ之亦——、人不レ知亦——」。
㊃又、憂ふる貌にもいふ字。○〔莊〕「天-下何其——也」。
〔囂囂〕かまびすし。○〔詩〕「聽二我——一」。
〔譊囂〕前に同じ。○〔禮註〕「聞二——一則人意動」。
〔譁囂〕前に同じ。○〔柳宗元〕「益爲二輕-薄小-兒——一」。
〔紛囂〕前に同じ。○〔朱熹〕「自レ此還二——一」。
〔鬨囂〕喧譁爭鬪のこと。○〔周〕「禁二其——者與二其虣-亂者一」。
〔軒囂〕意氣あがりてかまびすし。○〔唐〕「——欲二相效一」。
〔煩囂〕わづらはし。○〔杜牧〕「還-悟脫二——一」。
〔氛囂〕世の中のかまびすしきこと。○〔符載〕「振二拔——一」。
〔浮囂〕物事の上べのみを喋々すること。○〔蘇舜欽〕「先可レ去二——一」。

【囂】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪
㊀前條の㊀さ㊁こに同じ
㊁山の凹みたる地。○〔梁宣帝〕「神——岧-々而特-立」。
㊂鳥の名。○〔山海經〕「梁-渠之山有レ鳥、狀如二夸-父一、四-翼一-目犬-尾、名曰レ—」。
㊃獸の名。○〔山海經〕「羭-次之山有レ獸、狀如レ禺長-臂善投、名曰レ—」。

【噰】ヨウ、ユウ。於容切 冬
鳥の聲。

【囃】サフ、ソフ。倉雜切 合
舞を助くる聲、はやし。

十九畫

【囅】テン。丑展切 銑　テツ、テチ。敕列切 屑
笑ふ貌にいふ字、わらふ。○〔莊〕「——然而笑」。

【囈】ゲイ、ガイ。倪制切 霽
睡中にて語ること、たはごと、ねごと、又、寢る聲。○〔列〕「眠-中啽——呻-呼」。

【㘍】ラフ、ロフ。盧盍切 葉
骨を齧む聲にいふ字。

【囉】ラ。魯何切 歌
㊀歌の調を助くる聲、又、聲のゆるやかにして單純ならざる調あるにいふ字。○〔王褒〕「行-鐋-鉦以-餘——」。
㊁轉じて、小兒の語るにいふ字。

【囉】ラ。利遮切 麻
多言なり、かまびすし。

【囉】ラ。朗可切 哿
こゑ(聲)。

【囉】ラ。郎佐切 箇
うたふ、又、うた(歌)。

【𡅵】ウン、ヲン。禹慍切 問
鳥鳴く、さへづる。

【囊】ダウ、ナウ。奴當切 陽
㊀底を緘ぢ口を設けて物を藏め納るゝに用ふる具、紙、革、巾などにて作る、ふくろ。○〔詩〕「于レ橐于レ—」。
㊁轉じて、物を藏め納るゝものに借りいふ字。○〔晉〕「且吾投レ老扣二——底智一、足二以剋一レ之」。
㊂ふくろに藏め納る、ふくろにす、又、つゝむ。○〔孫覿〕「編二桃-沿二村-徑一—レ沙-塞二市-門一」。
㊃擴に同じ、はらふ。○〔莊〕「乃始臠-卷傖——而亂二天-下一」。
〔奚囊〕このふくろ、ふくろ。○〔柳貫〕「故留二錦-韭一厩二——一」。
〔傾囊〕ふくろをかたむく、有る丈のものを出だすにいふ。○〔雲笈〕「——相付」。
〔括囊〕ふくろを結ぶといふよりまとまりあるにいふ語。○〔後漢〕「或見-信之佐、——守-祿」。
〔藥囊〕くすりのふくろ。○〔職〕「以二北所レ恭——一提二荊-軻一」。
〔智囊〕智惠のふくろといふより智慧の多き人を稱するに借り用ふる語。○〔史〕「太-子家號曰二——一」。
〔香囊〕香のいれてある袋。○〔晉〕「兩-雄持二——一」。
〔飯囊〕めしぶくろといふより不凡なる人物を唯だ食事して生活するためで何の効能なきことをあざけりいふ語。○〔金樓子〕「餘皆酒-甕——」。
〔含囊〕つゝむこと。○〔道德指歸論〕「——二陰-陽一」。
〔鹿囊〕むしろにて作りたる袋。○〔南方草木狀〕「交-趾人以二——一貯レ蟻」。
〔懸囊〕つるしある袋。○〔一統志〕「形如二——一」。
〔米囊〕楊花の別名。
〔隱囊〕身體を凭せ掛くるにこしらへたる大いなるふくろ。○〔王維〕「——紗-帽坐-彈棊」。
〔繅囊〕はなた色の巾もてしつらへたるふくろ、書籍を入るゝに用ふるもの。○〔隋〕「總二括羣-書一、盛以二——一」。
〔錦囊〕にしきのきれにてしつらへたるふくろ。○〔五〕「—一」「盛以二——一、嘗置二之坐-側一」。
〔枕囊〕くゝりまくら。○〔陸游〕「采二得黃-花一作二——一」。
〔詩囊〕作りたる詩を入るゝふくろ。○〔陸游〕「古-錦——貢レ句忙」。
〔衣囊〕衣服に付けたるふくろ、かくし。○〔王安石〕「欲レ春付二——一」。
〔浮囊〕うきぶくろ、水に浮ぶの助けに用ふるもの。○〔齊虛〕「城-塊——、不レ可レ不二完也」。
〔方便囊〕いろ〱のものを入るゝ手提げぶくろ。○〔淸異錄〕「唐-李-王-侯競作二———一」。
〔寄生囊〕人身のこと。○〔淸異錄〕「書二一-頌一曰、撿-來好箇———云-々、趺-坐而化」。

【囋】サツ、ザチ。才達切 曷
鼓の聲、又、聲、又、聲の多きにいふ字。○〔陸機〕「務-嘈——而妖-冶」。

【囋】サン、ザン。才賛切 [翰] そしる、（譏）。

【囋】サン。千安切 [寒] ㊀贊、讚に同じ、言をもて助く、たすく。○[荀]「問レ一而告レ二謂二之ー一」。㊁餐に同じ、のむ、くらふ。

【囋】サン。在坦切 [旱] あざける、あざけり、（嘲）。

【嚵】サン、ザン。士咸切 [咸] ㊀小しく啐る、すゝる。㊁くちばし、（喙）。

【嚵】サン、ザン。初銜切 [鹽] 人に代はりて説く、いふ（謙言）。

【嚵】セン、ゾン。慈染切 [琰] 小しく食らふ、くらふ、又、なむ、（嘗）。

【嚵】サン、ゼン。士減切 [豏] 小しく飲む、のむ、すゝる。

【嚵】サン、ゼン。楚鑒切 [陷] 人の食を試む、なむ、あぢはふ。

二十畫

【𡅅】ガン、ゲン。五銜切 [咸] ゲン、ゴン。牛廉切 [鹽] ゲキ、ギヤク。宜戟切 [陌] うめく、うなる、（呻）。

【囏】古文の艱の字。○[周]「恤二民之ー阨一」。

【囐】サツ、サチ。才割切 [曷] 本、哸に作る。○[張衡]「奏二嚴鼓之嘈ー一」。

【囐】ゲツ、ゲチ。魚列切 [屑] 本、讞に作る、罪を議す、さふ、はかる。

【囒】嘈の古字。

廿一畫

【囑】シヨク、ソク。之欲切 [沃] ー俗に嘱に作る。付託す、よす、たのむ、つぐ、あつらふ。

【囐】シノ、ゾフ。仕戢切 [緝] 衆くの聲の疾き貌にいふ字、さわがし、かしまし。

【囂】クワン。呼官切 [寒] 荒貫切 [翰] 喚に同じ、よぶ、（呼）。

【囓】齧に同じ。○[後漢]「猶二昆‐蟲之相ー一」。

廿二畫

【囉】ラ。勒可切 [哿] さく、（裂）。

囗部

【囗】古文の圍の字。

【囗】古文の國の字。○[商]「民弱ー强」。

一畫

【乙】日に同じ、唐の武后の作。

二畫

【囘】回の本字。

【囙】俗の因の字。

【囚】シウ、ジユ。似由切 [尤] 〔說文〕从二人在二口中一。

㊀身體の自由を奪ひて拘置す、捕らへて牢獄に繫ぐ、とらふ、又、單に、自由をうばふの義にもいふ。○[書]「ー二蔡‐叔于郭‐鄰一」。

㊁とらへらる、とらはる。○[史]「斯卒ー」。

㊂とらへらるゝと、又、とらへられたる者、めしうど、罪人、俘虜など、とらはれ、又、單に、自由を奪はれたる者にもいふ。○[禮]「擬二重ー一益二其食一」。

㊃罪を裁判したる辭。○[書]「不レ蔽二要ーー一」。

〔楚囚〕楚の國のとらはれ、他國にて自由を奪はれ故鄕の思ひ切なるものにいふ語。○[左]「晉‐侯觀二於軍‐府一見二鍾‐儀一、問レ之曰、南‐冠而繫者誰也、有司對曰、鄭‐人所レ獻ーー也」。

〔南冠囚〕前に同じ。○[王渙]「今學二ーーー一」。

〔俘囚〕敵の捕はれ人。○[唐]「ーーー出、乃退」。

〔幽囚〕くらき場處に捕はるゝと。○[史]「吾ーーー受レ辱」。

〔報囚〕囚人の罪を論じ決行を奏報するゝと。○[漢]「ー適見ニーー一、母大驚」。

〔繫囚〕とらふ、とらはる、獄につながれたる者。○[杜牧]「洛‐中如二ーー一」。

〔纍囚〕前に同じ。○[左]「兩釋二ーー一以成二其好一」。

〔宿囚〕囚人に飲食をあたへずして眠らしめざるゝと。○[唐]「閉二絕飮‐食一、使レ不レ得レ眠、號曰二ーー一」。

〔孤囚〕たよる處なき捕らはれ。○[柳宗元]「況我萬‐里爲二ーー一」。「嘗繫二ーー一」。

〔重囚〕おもき罪を犯せし捕はれ。○[宋]「獄‐戶未ー」。

〔禁囚〕拘禁せられし者。○[宋]「丞決二ーー一、辨二其寃者一、遣レ之」。「ー多二垢‐膩一」。

〔窮囚〕勢ひきはまりたるとらはれ。○[沈佺期]「ーーー

〔憂囚〕うれひの中にくるしめるとらはれ。○[周曇]「關作二ーー一病‐弱一」。「皆是自ーー」。

〔拘囚〕とらふ、とらはる、とらはれ。○[韓愈]「早知

〔抱官囚〕官吏となりて自由のきかぬもの。○[黃庭堅]「守‐錢‐奴與二ーーー一」。

〔徒囚〕とらはれ。○[隋]「遷免二ーー一」。

〔禽囚〕とらはれ。○[柔遠]「取二右于ーー一」。

〔閉囚〕とぢこめとらはる。○[沈佺期]「ーー斷二外‐事一」。「期」「傷今ーーー」。

〔邊地囚〕遠き國境にとらはれてある者。○[沈佺期]「ーーー

〔章句囚〕文章字句のために苦しみを受くる者。○[韓愈]「壯‐士豈爲二ーーー一」。

【𡆧】ダフ、女洽切 [洽] 子フ。切 ダフ、昵立切 [緝] 子フ。切 私かに物を取りて藏む、さる、かくす、ぬすむ。

【㘝】チフ、トフ。得立切 [緝] うごく、又、うごかす、（動）、𡆧の譌字。

【四】シ。息利切 [寘] ー亖に、肆に作る。

㊀一つさ三つさを併せたる數、よつ、よッつ。○[易]「兩‐儀生二ー‐象一」。

㊁よたび。○[漢]「嘉‐謀ー囘」。

㊂易にて陰の數。○[易]「天三地ー」。

㊃よも、四方。○[易]「初登二于天一ー‐國也」。

〔絕四〕執著するとなき義に借りいふ語。○[論]「子ーーー、毋レ意毋レ必毋レ固毋レ我」。

〔朝三暮四〕〔暮四〕朝三に同じ。

〔第四〕一より數へてよつ目。○[史]「作二周本紀ー」。「ー」。

〔數四〕三つよつ、又、三たびよたび。○[後漢]「分レ上不レ過二大‐縣ーー一」。

〔石四〕つゞみ、（鼓）。〔㮺四〕まめ、（豆）。〔鈞四〕いし、（石）。〔區四〕かま、（釜）。

〔三四〕（い）三度又は四度といふと。○[識食譜]「嘗見二此雪‐鍋ーー一」。（ろ）三ッ四ッの義。○[韓愈]「當レ戶羅二ーー一」。

〔駢四〕四六對の文章の四字句をさしていふ。○[柳宗元]「ーー儷‐六、錦‐心繡‐口」。○

〔什四〕十分の中の四をいふ。○[漢]「郡‐國被レ災、ーーー以上、毋レ收二田‐租一」。

三畫

【囝】ケン。九件切 [銑] 兒を呼ぶにいふ字、ちご。○[青箱雜記]「顧況有二哀レー詩一」。

【囝】月に同じ、唐の則天武后の作。

【回】クワイ、エ。戸恢切 灰 ―俗に、囬に作る。

❶めぐる。
(い)まどかに動く、わなりに移轉す。○〔淮〕「日―而月周」。
(ろ)一處を往復す、立ちまはる、徘徊す。○〔史〕「余低―留ㇾ之不ㇾ能ㇾ去」。
(は)其れから其れへと互り行く。○〔沈佺期〕「仙-槎何處―」。
(に)とり捲く、圍む。○〔李嶠〕「合-浦夜-光―」。
(ほ)曲折す。○〔孟浩然〕「尋ㇾ幽石-徑―」。
(へ)故に戻る、かへる。○〔楊維楨〕「將-軍奏ㇾ凱―」。
(と)後へ向く。○〔杜牧〕「兩-行紅-粉一-時―」。
❷めぐらしむ、まはす、めぐらす、又、かへす。○〔屈平〕「―二朕車一以復ㇾ路」。
❸正理に違ふを、邪曲なるを、よこしま、又、たがふ、ねぢく、ひがむ。○〔詩〕「求ㇾ福不ㇾ―」。
❹伸びず、かゞむ、(屈)。○〔後漢〕「可下加二赦-怒一中宥中―-枉上」。
❺そとのかこひ、まはり、めぐり。○〔盧山記略〕「周―垂二三-五-百-里一」。
❻同一の事柄をくりかへすを、たび、度數。○〔孟郊〕「一-日踏ㇾ靑一-百-―」。
❼聲にいふ字。○〔關尹子〕「人之善ㇾ琴者有二悲-心一、則聲―-―-然」。
❽明かなる貌にいふ字。○〔張衡〕「炎-―-―其揚ㇾ靈」。
〔姦回〕よこしまなること。○〔左〕「其―-―昏-亂、雖大輕也」。
〔私回〕前に同じ。○〔國〕「若君縱二―-―一而棄二民-事一」。
〔遷回〕ゆきつもどりつ。○〔孟浩然〕「林-下莫二―-―一」。
〔幾回〕いくたび。○〔杜甫〕「一-柱觀-頭眠二―-―一」。
〔邅回〕度々行きかへりすること。○〔淮〕「―-―川-谷之-間一」。
〔周回〕(い)とりまく。○〔謝靈運〕「四-山―-―、雙-逶-迤-流」。
(ろ)まはりのこと。○〔孫元晏〕「數-千珠-翠繞二―-―一」。
〔裴回〕さまよふ貌、又、進まざる貌、一に徘徊に作る。○〔馬融〕「―-―安-步」。
〔縈回〕めぐること。○〔韓愈〕「流-水―-―山-百-轉」。
〔庸回〕才智平凡にして性質ねぢけたること。○〔左〕「靖二譖―-―一」。
〔避回〕畏れ避く。○〔漢〕「即有二―-―一」。

【囘】クワイ、エ。胡對切 隊

❶曲折す、めぐり。○〔漢〕「―-―遠千-里」。
❷畏れて避く、諱む、さく。○〔漢〕「刺-擧無ㇾ所二―-避一」。

【囟】シン。息晉切 震 息忍切 軫 シ。息利切 寘

頭會の腦蓋、あたまのはち、又、嬰兒の頭上の中央、おどり、ひよめき、頂門。○〔方書〕「頂中-央旋-毛中爲二百-會一、百-會前一-寸半爲二前-頂一、百-會前三-寸爲二―-門一」。

【因】イン。伊眞切 眞

❶よる。
(い)つく、(就)、したがふ、(從)。○〔國〕「其民沓-貪而忍不ㇾ可ㇾ―」。
(ろ)つてとなす、託す、たよる、たのむ。○〔孟〕「時-子―二陳-子一而以告二孟-子一」。
(は)よりかく、もたれかゝる。○〔漢〕「大-倉之粟、陳-々相―」。
(に)ちなむ、もとづく、かゝる。○〔呂覽〕「必有ㇾ―也」。
❷ある事相の發生せる根本となれるものゝ稱にしてまた之を發生せしむる所以の理體にもいふ、即ち結果の對にして、譬へば、種子の如く、又、種子の發生力の如きもの。○〔智大師偈〕「欲ㇾ知二前-生―一、今-世受者是、欲ㇾ知二後-世―一、今-生作者是」。
❸理由。○〔鄒陽〕「明-月之珠、夜-光之璧、以ㇾ暗投二人於道一、莫下不二按ㇾ劍相眄一者上、無ㇾ―而至ㇾ前也」。
❹つて、かゝりあひ、たより、ゆかり、ちなみ。○〔蘇軾〕「更結來-世未-了―」。
❺したがひて、たよりて、ちなみて、もとづきて、よりて。○〔史〕「自-立爲二齊假-王一、漢―而立」。
❻姻に通じ用ふ。○〔劉長卿〕「渡ㇾ海有二良-―一」。
〔勝因〕すぐれたる因緣。○〔裴休〕「萬-里香-華結二―-―一」。
〔襲因〕つぐ、したがふ。○〔李光〕「維漢―-―」。
〔依因〕前に同じ。○〔喬彝立志馬賦〕「導有ㇾ力於―-―」。
〔諸因〕心の打ち解けてたよりあふ。○〔鮑照〕「見―-―」。
〔一因〕事々物々すべて平等なること、即ち、佛と衆生との性のもと同一なること。○〔瑜珈論釋〕「証二得―-―一、即成二佛道一」。
〔正因〕物の本有、即ち、理體、又、根本。○〔大藏法數〕「正謂二中-正一、中必雙-照、三-諦具-足、故名二―-―一」。
〔了因〕理體を照らしさとること。○〔法華經、註〕「今日梵-行得二光-漏取-果一者―-―義」。
〔生因〕人性の本來は一切の善法を發生するものなること。○〔大藏法數〕「本具二法性之理一、則能發二生一-切善-法一、如二穀-麥等種能生二芽-莖一、是名二―-―一」。
〔緣因〕事物の發力を助くるものなること。
〔證因〕因をあきらかにす、修行。○〔司空圖〕「峯-北齒-亭顧―-―」。
〔常因〕きまりの因緣。○〔支遁〕「託-好有二―-―一」。
〔積因〕つみかさなりたる因緣。○〔沈約〕「積-智成ㇾ明、―-―成ㇾ業」。
〔舊因〕ふるきちなみ。○〔吳融〕「消-開-見二―-―一」。
〔結因〕ちなみを結ぶこと、おもに佛と衆生とのちなみをさしていふ。○〔劉〕「樂-山重二―-―一」。
〔宿因〕前生の因緣。○〔林鴻〕「禮-謁知二―-―一」。
〔前因〕前に同じ。○〔釋貫休〕「始似ㇾ有二―-―一」。
〔往因〕前に同じ。○〔宗鏡錄〕「酬二其―-―一」。

【幺】ヤウ、エウ。伊肖切 嘯 神の名。○〔酉陽雜俎〕「第七-重曰二[illegible]-―一」。

四畫

【囤】トン、ドン。徒損切 阮 徒渾切 元 本、笆に作る、米穀を盛る器、こめかご、又、小さき廩。

【囥】カウ。口浪切 漾 くら、(藏)。

【囦】古文の淵の字。○〔元包經〕「物萌二於―一」。

【囧】ケイ、キヤウ。倶永切 梗 烱に同じ、ひかる、又、あきらか。○〔韓愈〕「月吐窻―-―」。
〔高囧〕たかく明かなること。○〔韓愈〕「靈-燭望二―-―一」。
〔光囧〕ひかること。○〔潘子翼〕「珠-璧照―-―」。

【囨】ヘン。匹懸切 先 唾する聲にいふ字、つばはく。

【囩】ウン。王分切 文 エン、ヲン。于元切 元 ヰン、ウン。爲贇切 眞 〔說文〕从口云聲。めぐる、又、めぐり、(回)。

【囪】サウ、ソウ。楚江切 江 俗に、窻に作る、まど、(屋にあるもの)。

【囱】ソウ、ス。倉紅切 東 けむだし、(竈突)。

【口勿】 コツ、コチ。 呼骨切 月

まったし、(完)。

【口囬】 俗の回の字、一說に、古文の面の字。

【园】 グワン。 五丸切 寒

刓に同じ、圭角の磨滅するにいふ字、圓くなる、へる、つぶる、又、團に同じ、まろし。〇〔莊〕「五者、ー而幾向レ方」。

【囮】 クワ、グワ。 五禾切 歌　イウ、ユ。 以周切 尤　イウ、ウ。 以九切 有

㊀鳥を誘ふ爲めに生鳥を繫ぎ置くもの、をさり、(鳥媒)。

㊁吪に同じ、生ず、うまる、かはる、(化)。〇〔元包經〕「羣-類ー-育」。

【囯】 俗の國の字。

【困】 コン、クン。 苦悶切 願 ―〔說文〕从レ木在二口中一。

㊀くるしむ。

(い)くたびる、うむ、つかる、(倦)。〇〔後漢〕「昨夜ー乎」。

(ろ)てづまる、おしつまる、きはまる、(窮)。〇〔中〕「事前定、則不レー」。

(は)傷み思ふ、歎き悲しむ、うれふ、(憂愁)。〇〔書〕「汝不レ憂二朕攸一レー」。

(に)禮儀を失ふ、みだる、(亂)。 〇〔論〕「不レ爲二酒ー一」。

(ほ)生活になやむ。 〇〔書〕「四-海ー-窮」。

(へ)危きに臨む。 〇〔呂覽〕「身以ー-ー」。

(と)理解に惑ふ、通じ難くある。 〇〔論〕「ー而學レ之、又其次也」。

(ち)總べて、苦痛を感じ、艱難に會するにいふ字。 〇〔孟〕「ー二於心一、衡二於慮一而後作」。

(り)くるしみに會せしむ、(い)より、(ち)まで參照)。 〇〔國〕「謀而ーレ人」。

㊁くるしむと、くるしみ、なやみ、又、其の境遇に在る者、貧民、無告者など。〇〔史〕「急二人之ー一」。

㊃易の卦名、☱☵ 坎下兌上。 〇〔易〕「ー亨、貞」。

〔阨困〕 くるしみ。 〇〔史〕「不レ愛二其軀一、赴二士之ー-ー一」。「救二其ー-ー一」。

〔彫困〕 資產破ぶれてくるしむ、又、其の者。 〇〔晉〕

〔昏困〕 目先きくらみて氣力つかる。 〇〔甲申雜錄〕「忽ー-ー如レ夢」。

〔抑困〕 おさへてくるしましむ。 〇〔英雄記〕「ー-ー使レ在二窮-苦之地一」。

〔乏困〕 とぼしくしてくるしむ、生活になやむ、又、其の者。 〇〔左〕「供二其ー-ー一」。 「矣」。

〔窮困〕 くるしむこと。 〇〔史〕「呂-尙蓋嘗ー-ー年老

〔貧困〕 まづしきこと、まづしきもの。 〇〔史〕「管仲ー-ー、嘗欺二鮑-叔一」。

〔蹇困〕 前に同じ。 〇〔唐〕「濟二親-舊之ー-ー者一」。

〔醉困〕 酒にゑひつかる。 〇〔漢〕「行數-里ー-ー臥」。

〔病困〕 やみつかる。 〇〔漢〕「補レ政歲餘、ー-ー」。

〔衰困〕 おとろへつかる。 〇〔後漢〕「老病ー-ー」。

〔愁困〕 うれひくるしむ。 〇〔後漢〕「百-姓ー-ー」。

〔艱困〕 困難のこと。 〇〔後漢〕「雖レ遭二ー-ー一、操-持不レ離レ身」。

〔飢困〕 うゑつかる。 〇〔後漢〕「雖二常ー-ー一、而講-論不レ輟」。

〔勞困〕 つかる。 〇〔吳〕「彼益我損、加以二ー-ー一」。

〔疲困〕 前に同じ。 〇〔晉〕「道遠行速、軍-人ー-ー」。

〔乏困〕 とぼしきこと。 〇〔唐〕「財-力ー-ー」。

〔極困〕 くるしむものをすくふ。 〇〔符載〕「次者以レ財ー-ー」。

〔難困〕 くるしみ。 〇〔班固〕「ー-ー不レ違」。

〔嬾困〕 なまけつかる。 〇〔杜甫〕「春-光ー-ー倚二微風一」。 「未レ摇レ詣レ府」。

〔弊困〕 つひえくるしむ。 〇〔蕭穎士〕「志-力ー-ー、

〔苦困〕 くるしむ、又、くるしみ。 〇〔李陵〕「ー-ー獨零-丁」。

五畫

【口石】 タウ、ダウ 徒浪切 漾

啚に同じ、石を碎く聲にいふ字。

【口石】 古文の橐の字。

【口必】 ヒョク、ヘキ。 彼側切 職

こづ、(閉)。

【口甲】 古文の柙の字。

【囷】 キン、コン 去倫切 眞 キン、ゴン。 巨隕切 軫 ―〔說文〕从二禾在一口中一。

㊀穀類を藏むる建物、こめぐら、(外圓の圓形をなせるもの)。 〇〔詩〕「不レ稼不レ穡、胡取二禾三-百ー一兮」。

㊁屈曲盤戾せる貌にいふ字、まがる、(曲)、もとる、(戾)。 〇〔漢〕「蟠-木根-柢、輪ー-離-奇」。

〔石囷〕 いしぐら。 〇〔湘中記〕「望二見ー-ー一」。

〔輪囷〕 まがること。 〇〔陸游〕「詩成肝-膽空ー-ー」。

〔天囷〕 星の名。 〇〔蘇軾〕「石-實見二ー-ー一」。

〔草囷〕 くさにてふきたる倉。 〇〔宋〕「結二ー-ー一、以隱二妖-黨之桑-露者一」。

〔廩囷〕 米ぐら。 〇〔論衡〕「ーレー不レ空」。

〔倉囷〕 方形のくらと圓形のくらと、又、單にくら。 〇〔白居易〕「廩-祿二-百-石、歲可レ盈二ー-ー一」。

〔倒囷〕 くらに貯へたる物を盡く出だす、轉じて、所有せるものを殘らず出だすの義にいふ語。 〇〔宋〕「人-人皆ー-ー以應レ之」。 「而進-也」。

〔傾囷〕 前に同じ。 〇〔韓愈〕「猶將二倒レ廩ーレー、羅-列囷廩一」。

〔空囷〕 あきぐら。 〇〔陸游〕「雀亦棄二ー-ー一」。

〔盤囷〕 ぐるぐるとめぐる。 〇〔杜牧〕「ー-盤焉ー-ー困焉」。

【囹】 レイ、リヤウ。 郎丁切 青 ―〔說文〕从レ口令聲。

ひとや、(獄)、をり、(檻)。 〇〔禮〕「命二有-司一省二ー-圄一」。

〔拘囹〕 ひとや。 〇〔韓愈〕「守-官類二ー-ー一」。

〔圄囹〕 ひとや。 〇〔北齊〕「ー-ー空-虛」。

〔幽囹〕 くらきひとや。 〇〔韓維〕「曠如レ出二ー-ー一」。

〔窓囹〕 罪人なきひとや。 〇〔黃庭堅〕「郡-縣或ー-ー」。

【固】 コ、ク。 古慕切 遇 ―〔說文〕从レ口古聲。

㊀かたし。

(い)破れず、碎け易からず。 〇〔論〕「學則不レー」。

(ろ)定まれり、動きなし、安し。 〇〔國〕「國可二以ー一」。

(は)備へ嚴し、守り整ひたり。 〇〔荀〕「兵勁城ー敵-國不二敢ー一也」。

(に)險阻なり、要害なり。 〇〔水經、註〕「爲レ詩也」。「長-岸峻ー-ー」。

(ほ)變通なし。 〇〔孟〕「ー哉高-叟之爲レ詩也」。

(へ)禮儀を知らず、いやし、(鄙)。 〇〔禮〕「寡-人ー-不レー焉、得レ聞二此言一」。

㊁かたくなる、かたまる、又、かたくす、かたむ。 〇〔詩〕「式ー二爾猷一」。

㊂かたむる所、かため、守備、要害などにもいふ。 〇〔周〕「掌レ修二城-郭溝-地樹-渠之ー一」。

㊃もとより。

(い)初め-よりかくある意を表はすさきに用ふる字、「初めより」の義。 〇〔孟〕「天-下ー畏二齊之强一」。

(ろ)以前にかくありたる意を表はすさきに用ふる字、「かつて」の義。 〇〔孟〕「夫世レ祿滕ー行レ之矣」。

(は)常にかくある意を表はすさきに用ふる字、「つねに」の義。 〇〔孟〕「若二ー有レ之」。

㊄錮に通じ用ふ。 〇〔禮〕「季-冬行二春-令一、國多二ー-病一」。

〔貞固〕 ただしくして誠あること。 〇〔易〕「ー-ー足二以幹レ事」。

〔牢固〕 かたし。 〇〔南〕「雖レ以二鈴-物一、並不二ー-ー一」。

〔堅固〕 かたし。 〇〔元稹〕「道-性尤ー-ー」。 「守」。

〔確固〕 前に同じ。 〇〔柳宗元〕「當二其時一而ー-ー自守」。

〔膠固〕 にかはにて合はせ付けたる如くにかたきこと、結合のかたきことにいふ語。 〇〔曹大〕「諸-侯强大、盤-石ー-ー」。 「軍之ー-ー」。

〔阻固〕 敵をとどむるかため。 〇〔左〕「高二其壘一以爲二

〔險固〕 けはしくして堅きこと。 〇〔宋〕「洛-陽ー-ー」。

〔純固〕 もつぱらにしてかたきこと。 〇〔宋〕「行-義ー-ー」。

（彊固）前に同じ。○〔權德輿〕「侃直信厚、ー・ー、博洽」。
（酧固）前に同じ。○〔魏〕「以レ賢則君有二ー・ー之茂一焉」。
（窮固）いやしきこと。○〔國〕「近二頑・童ー・ー一」。
（敦固）あつくしてかたし。○〔後漢〕「資質ー・ー」。○〔後漢〕「ー二ー所一レ累」。
（滯固）一つにかたまりて他に通せぬこと。
（深固）ふかくしてかたきこと。○〔後漢〕「陽・鴻等自以二ー・ー一、不二復設一レ備」。
（鄙固）いやしくして禮讓を知らぬこと。○〔屈原〕「夫惟黨人之ー・ー兮」。
（永固）永久にかたし。○〔舊唐〕「愼レ終如レ始、可二以ー・ー一」。
（雄固）すぐれてかたし。○〔宋〕「謀・壤ー・ー」。
（沉固）極めてかたし。○〔韓〕「ー・ー愼・完」。
（篤固）志のあつくしてかたきこと。○〔夏侯湛〕「琉乃沉・毅ー・ー」。
（玉固）玉の如く堅きこと。○〔蔡邕〕「如二ー之ー一、如二嶽之密一」。
（蒙固）愚昧にして道に通せざること。○〔顏延之〕「末・臣ー・ー」。

六　畫

【⿴囗凡】ヨウ、ウ。烏孔切　董
圓き穴。

【⿴囗至】チツ、陟栗切　質　テツ、丁結切　屑　チ丶。切
下に入る、おちいる。

【囿】イウ、ウ。于救切　宥　于九切　有
井ク、チク。于六切　屋
〔説文〕从レ口有聲。
❶苑の外圍に垣の設けあるもの、その、古は、禽獸を放ち畜ふ場所とす。○〔孟〕「文・王之ー」。
❷區域ある場所、範圍。○〔通鑑外紀〕「人・皇・氏依二山・川土・地之勢一、財・度爲二九・州一、謂二之九・ー一」。
❸區域の爲めに設けたるもの、垣、藩なごゝかき。○〔禮〕「正・月祭二韭・ー一」。
❹區域を設く、かぎる、轉じて、物事に拘泥するにもいふ字、かゝはる。○〔尸子〕「ー二其學一之相非也、皆弇二於私一也」。
（文囿）文事の社會。○〔蘇軾〕「病二詞ー・ー一」。
（禮囿）禮儀を講究する場所。○〔宋〕「崇二殖ー・ー一、舊二至・德之光一」。
（深囿）ふかきとかぎりと區域と物の奥底と。○〔管〕「誰知二其則一言ー・ー一」。
（墟囿）むかしのその。○〔謝靈運〕「ー・ー散二紅・桃一」。
（苑囿）そのゝこと。○〔史〕「諸故秦ー・ー園・池、皆令二人得一レ田レ之」。
（辯囿）辯舌の達者なるなかま。○〔莊〕「能二勝人之口一、不レ能レ服二人之心一、ー者之ー也」。
（圃囿）園のこと。○〔後漢〕「始置二ー・ー一署、以二宦者一爲レ令」。
（廣囿）ひろきその。○〔王粲〕「回レ翔游二ー・ー一」。
（臺囿）うてなと園と。○〔劉向〕「多築二ー・ー一」。
（淵囿）安んじて居住すべき處。○〔杜篤〕「斯固帝・王之ー・ー、而守レ國之利・器也」。
（場囿）その、又、かぎり、又、かぎりある場所。○〔周〕「掌二國之ー・ー一」。

七　畫

【⿴囗方】古文の國の字、唐の則天武氏の作。

【⿴囗乇】タク、チヤク。陟革切　陌
硬き貌にいふ字、かたし。

【圎】セン、ゼン。辭沿切　ケン。縈緣切　先
セン、ゼン。隨戀切　霰
まろし、まどか、又、めぐる、又、まどかなるのり、（規）。

【圂】コン、ゴン。胡困切　願
〔説文〕从二豕在一レ口中。
かはや、（廁）。

【圂】クヮン、ゲン。胡慣切　諫
豢に同じ、家に畜ふ豕。○〔禮〕「君・子不レ食二圂・腴一」。

【圃】ホ、フ。博古切　麌
❶菜を種うる場所、一説に、果蓏を植うる場所、はたけ、その、には。○〔周〕「園・ー毓二草・木一」。
❷轉じて、區域ある場所、又、範圍。○〔穆天子〕「銘二跡於玄ー之上、以詔二後・世一」。
（園圃）草木をうゝるその。○〔洛陽名園記〕「洛・人云、ー・ー之勝、不レ能二相兼一者六」。
（場圃）はたけ。○〔周〕「掌二國之ー・ー一」。
（蔬圃）ながきあるはたけ。○〔詩〕「折二柳ー・ー一」。
（老圃）農事に老練なる者。○〔論〕「吾不レ如二ー・ー一」。
（禁圃）天子のはたけ。○〔漢〕「上・林・苑有二ー・ー一」。
（射圃）弓いる場所。○〔蜀〕「置二擾觀ー・ー一」。
（庭圃）園庭。○〔晉〕「麃與二猛・獸一、擾二其ー・ー一」。
（蔬圃）野菜を作るはたけ。○〔唐〕「花・卉ー・ー居レ前」。
（後圃）家の後に設けあるには。○〔歐陽修〕「乃作二書・錦之堂於二ー・ー一」。
（陋圃）せばきはたけ。○〔何劭〕「周二旋我ー・ー一」。
（舊圃）ふるさとのはたけ。○〔黃庚〕「何時鋤二ー・ー一」。
（文圃）文學をまなぶ場所。○〔駱賓王〕「以遊レ魂」。
（辯圃）辯論をなす場所。○〔王僧孺〕「辭・人才・子、ー・ー學・林」。
（藥圃）くすりに製すべき草木の植ゑあるはたけ。○〔王維〕「荷レ鋤修二ー・ー一」。
（幽圃）靜かなるその。○〔陸游〕「ー・ー尋レ梅認二暗香一」。
（茗圃）茶ばたけ。○〔孟郊〕「ー・ー無二荒・疇一」。

【圄】ギョ、ゴ。魚呂切　語
❶罪人の自由を奪ひて留置す、とゞむ、（止）、ふせぐ、（禦）、一説に、さとらしむ、（悟）。○〔左〕「ー二伯・嬴于轑・陽一而殺レ之」。
❷罪人を留置する場所、ひとや。○〔李嶠〕「狴・ー空而京・坻實」。
（囹圄）牢獄のこと。○〔禮〕「命二有・司一省二ー・ー一、去二桎・梏一」。
（獄圄）前に同じ。○〔潮子良〕「明・詔深矜二ー・ー一」。
（幽圄）前に同じ。○〔王延壽〕「況復ー・ー中」。
（敦圄）虎に似て小なる獸の名。○〔淮〕「騎二蟄・虞一而從二ー・ー一」。

八　畫

【圅】函の本字。

【⿴囗函】カン、コン。戸感切　感
おさがひ、（口下）。

【⿴囗壬】テイ、チヤウ。知檉切　庚
趙宋の時進士を試驗するに進士の編號に用ひし字。○〔司馬光〕「ー・毬兩號所二對・策一、辭・理倶高」。

【⿴囗充】セン。旨兗切　銑
人の出づるを錮づ、とらふ。

【圈】ケン。驅圓切　ケン、ゴン。逵員切　先
ケン、ゲン。去爰切　元
棬に同じ、木を屈げてこつらへたる飲器、さかづき。○〔禮〕「母沒而杯・ー不レ能レ飲」。

【圈】ケン、グヮン。逵眷切　霰
渠篆切　銑　ケン、ゴン。窘遠切　阮
なり、（檻）、ひとや、（獄）。○〔漢〕「熊出佚レ、ー攀レ檻欲レ上レ殿」。

【圈】ケン、コン。去遠切　阮
❶前條に同じ。
❷めぐる、（轉）。○〔禮〕「ー豚行不レ擧レ足」。

【⿴囗石】カク、コク。克角切　覺
轂うつ聲にいふ字。

【⿴囗命】 ワウ、チウ。烏宏切 庚
むなし(空)。

【圉】 ギョ、ゴ。魚巨切 語
❶馬を養ふ、かふ。○〔左〕「將レ—ニ馬於成一」。
❷馬を養ふ者、うまかひ。○〔周〕「掌ニ養ニ馬芻牧之事一、以役ニ—師一」。
❸又、馬を養ふ場所にもいふ、うまや、まき。○〔晉鑿〕「廄—囷倉、以固以密」。
❹國の外圍、ほとり、邊陲。○〔左〕「亦聊以固ニ我—一也」。
❺十二支の丁に中たりたる月の名。○〔爾〕「月在レ丁曰レ—」。
❻圄に同じ、罪人の留置所、ひとや。○〔漢〕「圄—空虛」。
❼とゞむ(止)、ふせぐ(捍)。○〔莊〕「其來不レ可レ—」。
❽敔に通じ用ふ、樂器の名。○〔詩〕「鞉磬柷—」。
❾困しみて舒びざる貌にいふ字、かゞむ。○〔孟〕「始舍レ之——焉」。
〔牧圉〕(い)馬をかふ、又、うまかひ。○〔左〕「庶人工商皁隸——、皆親睦有ニ以相輔佐一也」。(ろ)邊陲の地。○〔左〕「不レ有ニ行者一、誰扞ニ——一」。
〔馬圉〕うまかひ。○〔尉繚子〕「嘗及ニ牛童——」。
〔隸圉〕使はるゝ人とうまかひと、すべて、賤しき者の義にいふ語。○〔國〕「堙替——」。
〔僕圉〕前に同じ。○〔劉峻〕「身充ニ——一」。
〔下圉〕下等のうまや、又、低き位地の義にもいふ語。○〔拾遺錄〕「退則羈ニ棄于——一」。
〔邊圉〕邊陲の地。○〔魏了翁〕「慕レ耕賢ニ——一」。

【圉】 ギョ、ゴ。魚據切 御
前條の❼に同じ。○〔管〕「安能—レ我」。

【⿴囗石】 タウ、ダウ。大浪切 漾
石より發する聲にいふ字。

【⿴囗合】 カウ、ゴウ。曷閤切 合
部に同じ、あふ、あつまる、あはす、あつむ(會合)。

【圊】 セイ、シャウ。七情切 庚 倉經切 青
❶かはや(廁)。❷まじる(雜)。

【國】 コク、カク。古或切 職 古文口、国、圀に作る。
くに。
(い)獨立したる政權の下に支配せらるゝ土地及び人民。○〔周〕「以分レ—爲ニ九州一」。
(ろ)諸侯の封域。○〔禮〕「監ニ于方伯之—一」。
(は)地理上の區劃、又、行政上の區劃。○〔孟〕「大—地方百里、次—地方七十里、小—地方五十里」。
(に)故地、ふるさと。○〔禮〕「去レ—三世、爵祿有レ列ニ于朝一」。
(ほ)外邦、とつくに。○〔書〕「重レ譯來朝者六—」。
(へ)城郭內、都邑。○〔呂覽〕「有レ狼入ニ于—一」。
〔建國〕くにをはじむ、創業、又、くにの基本をたつ、制法。○〔周〕「惟王—レ—」。
〔大國〕土地廣く人民多きくに、又、單に、土地廣きくにの義にもいふ語。○〔詩〕「外——是疆」。
〔小國〕土地狹く人民少なきくに、又、單に、土地狹きくにのみにもいふ語。○〔禮〕「——之君、不レ過ニ五命一」。
〔土國〕たひらかなる地。○〔周〕「——用ニ人節一」。
〔澤國〕水澤多き地。○〔周〕「——用ニ龍節一」。
〔山國〕山岳多き地。○〔周〕「——用ニ虎節一」。
〔樂國〕うれひなきくに、又、愉快なる天地。○〔詩〕「適ニ彼——一」。
〔番國〕えびすぐに。○〔周〕「九州之外、謂ニ之——一」。
〔敵國〕己がくにゝ寇をなすくに。○〔周〕「訟——」。
〔當國〕くにの政事を執る。○〔左〕「子罕—レ—」。
〔上國〕地位進みたるくに、又、都邑、京城。○〔史〕「爲レ使ニ——一未レ獻」。
〔故國〕むかしより成り立ちてあるくに。○〔孟〕「所レ謂——者、非下有ニ喬木一之謂上也」。
〔宗國〕わがくにに對してもとのくにの稱。○〔孟〕「吾——魯先君莫ニ之行一」。
〔通國〕くにをすべて。○〔孟〕「匡章——皆稱ニ不孝一焉」。
〔彊國〕力のつよきくに、兵力の足りたるくに。○〔史〕「河山以東——六」。
〔異國〕とつぐに、外國。○〔史〕「不レ在ニ此而在ニ——乎」。
〔與國〕彼れと我れと互に好を通じ、緩急相助くる情誼あるくに。○〔史〕「——非レ可レ恃也」。
〔絶國〕遠き處にあるよそぐに。○〔文子〕「——殊レ俗」。
〔屬國〕よそのくにの己が國につき從ふもの。○〔漢〕「何不■試以レ臣爲ニ——之官一」。
〔死國〕くにの爲めに身を果たす。○〔漢〕「——埋レ名」。
〔貧國〕資産とぼしきくに。○〔漢〕「卑濕——」。
〔許國〕己が身を捨て、國のために盡くすにいふ語。○〔晉〕「以レ身—レ—」。
〔殉國〕前に同じ。○〔宋〕「忘レ身—レ—」。
〔軍國〕いくさのこと、くにのこと。○〔唐〕「——不レ同」。
〔富國〕くにの資産を多からしむること。○〔唐〕「華山生レ金、采レ之可ニ以—レ—」。
〔壽國〕國の存在をながからしむ、即ち、國を能く治むるやうになすの義。○〔管〕「一言而—レ—」。
〔侈國〕人民のおごることさかんなるくに。○〔管〕「侈儉之國可レ知也」。
〔儉國〕人民おごらざるくに。
〔實國〕資産おほきくに。
〔虛國〕資産すくなきくに。○〔管〕「實虛之國可レ知也」。
〔饑國〕食用足らざるくに。
〔飽國〕食用の足りたる國。○〔管〕「—・飽之—可レ知也」。
〔狗國〕國をいやしめていふ語。○〔晏子春秋〕「使ニ——者、由ニ狗門一入」。
〔弱國〕兵力よわきくに、いきはひよわきくに。○〔列〕「吾——也」。
〔京國〕みやこ、都邑。○〔曹植〕「表ニ揚——一」。
〔水國〕河湖多きくに。○〔顏延之〕「——周地險」。
〔鄉國〕ふるさと。○〔王勃〕「盛年眇々辭ニ——一」。
〔觀國〕くにの風俗政事などを視察すること。○〔易〕「—ニ—之光一」。
〔王國〕王位にあるもの、支配するくに。○〔書〕「以長ニ我——一」。
〔邦國〕くに。○〔書〕「司馬掌ニ邦政一、統ニ六師一平ニ——一」。
〔新國〕あらたにたてたるくに。○〔禮〕「維興之日、從ニ——之法一」。
〔中國〕世界のまなかにあるくにの義、支那本土の誇稱。○〔詩〕「惠ニ此——一、以綏ニ四方一」。
〔夷國〕えびすのくに、野蠻のくに、又、くにの賤稱。○〔禮〕「九—之—、東門之外、西面北上」。
〔蠻國〕前に同じ。○〔禮〕「八——之—、南門之外、北面東上」。
〔疵國〕總べて、政亂れ俗弊るゝくにのこと。○〔禮〕「刑肅而俗敝、則民弗レ歸也、是謂ニ——一」。
〔鄰國〕境の接するくに。○〔孟〕「察ニ——之政一、無下如ニ寡人之用上レ心者上」。
〔貴國〕他のくにの敬稱。○〔國〕「其——之賓至、則班加ニ一等一益虔」。
〔援國〕たすけをなすくに。○〔戰〕「楚、魏者燕之——也」。
〔孤國〕たすけなきくに。○〔戰〕「齊、魏有ニ何重ニ于——一也」。
〔雄國〕すぐれてつよきくに。○〔戰〕「天下之——」。
〔肥國〕くにをひらく、又、くにを富ます。○〔史〕「裂ニ楚之地一、足ニ以—レ—」。
〔相國〕宰相。○〔史〕「拜ニ丞相何一爲ニ——一」。
〔外國〕とつぐに。○〔史〕「承ニ靈威一兮、降ニ——一」。
〔戰國〕(い)たゝかひの絶ゆる間なきくに。○〔史〕「凡天下——七、燕處レ弱焉」。
(ろ)支那の時代の名、我が紀元二百三十六年、即ち、周の威烈王より同四百三十九年、即ち、秦始皇帝の天下を統一せし迄二百四年間。○〔漢〕「海內得レ離ニ——之苦一」。
〔賣國〕己が利を占めんためにくにの不利なることをなすこと。○〔史〕「左右—レ—反覆之臣也」。
〔舊國〕(い)むかしありしくに。○〔漢〕「魏豹韓王信、田儋兄弟、爲ニ——之後一」。
(ろ)ふるさと。○〔高適〕「登レ高臨ニ——一」。
〔窮國〕極めて遠きところのくに、又、己れのくにの賤稱。○〔漢〕「若將軍遠道至ニ于——一、敢請ニ菹醢之罪一」。
〔城國〕ふるさとくにと、又、單にくに。○〔許敬宗〕「才携ニ手——一」。
〔倭國〕支那より日本を指していひし語。○〔後漢〕「—奴—奉レ貢朝賀」。
〔他國〕ほかのくに、又、ふるさとをはなれたる處。○〔蜀〕「初入ニ——一、恩信未レ著」。
〔州國〕くに。○〔晉〕「割ニ裂——一、分ニ王子弟一」。
〔三國〕(い)みつのくに。○〔晉〕「撰ニ魏吳蜀——志一」。
(ろ)支那の時代の名、我が紀元八百八十一年、即ち、後漢の孝獻皇帝、曹丕に廢せられしより同九百四十年、即ち、晉の武帝の吳を滅ぼすに至る

まで五十九年間。○〔王高揖〕「——事無遠」。
〔列國〕たちならぶくにぐに、又、境のつゞきあるくに。○〔淮〕「韓、晉——也」。
〔當國〕四方に敵を受くる地勢の地。○〔管〕「壤正方四面受レ敵謂二之——一」。「方——」。
〔偏國〕かたよりてあるくに、ゐなかぐに。○〔列〕「殊俗之國」。
〔報國〕くにの恩澤にむくいて力を盡くすこと。○〔曹植〕「思下一効二新力一、擧レ驅以—上」。
〔海國〕うみに近きくに、又、うみの中にある島ぐに。
○〔張籍〕「——戰騎」。
〔兄弟國〕ちなみ深きくに。○〔周〕「親二——之一二」。
〔千乘國〕大諸侯の封土。○〔論〕「道二——之一二」。
〔四戰國〕四方に敵を受けてたゝかふくに。○〔史〕「趙——之—也、其民習レ兵」。
〔禮儀國〕禮儀を重んずるくに。○〔漢〕「爲二其守レ節——之一」、乃持二羽旄一示二其父兄一」。
〔四塞國〕四方に山河を以て敵國の通路をふさぎてあるくに。○〔史〕「秦——之—也」。
〔父母國〕ふるさと。○〔孟〕「遲遲吾行也、去二——一二之道也」。「——一二」。
〔上柱國〕戰國時代の楚の國の上官。○〔戰〕「官爲二——一」。
〔冠帶國〕禮儀正しきくに。○〔漢〕「越方外之地、劗レ髮文レ身之民也、不レ可下以二——之—法度一理上也」。
〔用武國〕形勝要害の地。○〔蜀〕「荊州北據二漢沔一、利盡二南海一、東連二吳會一、西通二巴蜀一、此—一之—」。
〔君子國〕禮儀正しく道德莊しき風俗のくに。○〔淮〕「東方有二——之—一二」。
〔華胥國〕列子の寓言より夢に借りいふ語。○〔列〕「黃帝晝寢夢遊二——氏之—一二」。

九畫

【圔】アツ、エチ。乙轄切　黠
馲駝の鳴き聲。○〔韓愈〕「載レ實駝鳴レ—」。

【圌】セン、ゼン。市緣切　先
篅に同じ、穀を盛る器、竹の圍きを判かちたるもの、こめかご。

【[illegible]】エン。因連切　先
火の氣、けぶり、籀文の烟の字。

【圍】井。羽非切　微
㊀かこむ、かこふ。
(い)周りをとり捲く、四面を繞り塞ぐ、めぐる。○〔莊〕「至精無レ形、至大不レ可レ—」。
(ろ)城をめぐりて攻む、敵を包みて戰ふ。○〔史〕「擊二楚軍于垓下一—レ之」。
(は)又、禽獸を四面より迫りて捕ふるにいふ字。○〔禮〕「國君春田不レ—レ澤」。
㊁かこみに會ふ、かこまる。○〔莊〕「酒薄而邯鄲—」。
㊂かこひ、かこみ。
(い)かこむこと、又、かこむ爲めに設けたるかき、又、かこみてある敵兵。○〔後漢〕「平城之—、嫚書之恥」。
(ろ)五寸の圓さ、又、一說に、兩手を擴げたる丈の圓さ。○〔莊〕「櫟社樹、其大蔽レ牛、絜レ之百—、散木也」。
㊃衞に同じ、まもる、又、まもり。○〔管〕「以—二峯碶一」。
〔規圍〕まはりかこむ。○〔詩、疏〕「九二分天下一各爲二九圍一、——然」。
〔四圍〕よもをかこむ。○〔癸辛雜識〕「青山——」。
〔塞圍〕敵の來たるをふさぎて守ること、かこひ。○〔北〕「築二鐵上——一」。
〔長圍〕長くつゞきてあるかこひ。○〔南〕「設二——一守レ之」。
〔範圍〕きまりのかこひ。○〔易〕「——二天地之化一而不レ過」。
〔周圍〕めぐり。○〔范成大〕「汙萊一稜水——」。
〔合圍〕切れめなくかこむ。○〔禮〕「天子不二——一」。
〔旨圍〕尖などの石づきのまはり。○〔周〕「凡爲レ殳參二分其圍一、去レ一以爲二——一」。
〔彰圍〕車の楷木のまはり。○〔周〕「六二分其廣一、以レ一爲二之——一」。
〔障圍〕へだてかこむ、又、かこひ。○〔國〕「在レ旁曰レ帷、々圍也、以自——也」。「可レ解」。
〔堅圍〕堅固なるかこみ。○〔袁淑〕「振レ辨則——」。
〔攻圍〕せめかこむ。○〔祖君彥〕「四面——」。
〔翠圍〕みどりの色なせる樹木のまはりにあること。○〔汪元量〕「——紅陣知二多少一」。
〔礁碧圍〕戰陣の名。○〔沈約〕「將レ摧二——一」。
〔暈圍〕太陽のまはりに水氣の圍きれをなすこと。○〔韓〕「日月——二於外一」。
〔重圍〕かさなりたるかこひ。○〔潘岳〕「介二乎——之裏一」。「——減レ尺」。
〔帶圍〕おび、又、からだのかこひ。○〔列〕「帶憂感——一」。

【圍】井。于貴切　未
前條の㊀の(い)に同じ、めぐる、まもふ。

【[illegible]】ワン、エン。烏還切　刪
水曲がる貌にいふ字、よどむ。

【[illegible]】クツ、クチ。區勿切　物
くら、(囷倉)。

十畫

【圑】フ、ボ。符遇切　遇
俗の圃の字、その、はたけ。

【[illegible]】チフ、トフ。陟立切　緝
ほだし、又、つなぐ、(羈紲)。
〔說文〕从二馬在二口中一。

【園】エン、ヲン。羽元切　元
㊀苑の藩を設けあるもの、その、多く樹木を植うる所とす。○〔周〕「以二場圃一任二——地一」。
㊁そのゝかき(樊)。○〔詩〕「將仲子兮、無レ踰二我—一」。
㊂帝王の陵、みさゝぎ。○〔司馬相如〕「爲二文——令一」。
〔丘園〕小高きその、又、村里のこと。○〔北〕「怡二神墳籍一、養二素——一」。
〔灌園〕はたけに水をそゝぐこと、その、仕事をなすにいふ語。○〔史〕「爲レ人——」。
〔山園〕山にこしらへあるその。○〔北〕「毎二——一游宴一、必見二招請一」。
〔林園〕樹木の茂りたるその。○〔舊唐〕「予也私第——」。「有二佳——一」。
〔故園〕ふる里。○〔駱賓王〕「獨似二——花一」。
〔名園〕名高きその。○〔杜甫〕「——依二綠水一」。
〔果園〕くだものゝ植ゑあるその。○〔史〕「與レ君游二——一」。
〔祇園〕寺院のこと。○〔劉孝孫〕「—應二——一」。
〔公園〕官有のその、又、一般人民の遊樂にそなへたるその。○〔北〕「表滅二——之地一、以給二無業一」。
〔瓜園〕瓜ばたけ。○〔舊唐〕「弘義乃狀言——中有二白兔一」。
〔莊園〕別莊とそのと、又、私領地。○〔語林〕「李夫人曰、子弟成長盡置二——一」。「——」。
〔空園〕果樹蔬菜のなきその。○〔王敬〕「野雀滿二——一」。
〔虛園〕前に同じ。○〔王儉〕「流月汎二——一」。
〔寒園〕寂しきその。○〔庾信〕「——星散居」。
〔慈園〕寺院をさしていふ。○〔梁昭明太子〕「——義修行一」。
〔閑園〕靜かなるその、又、何物も植ゑ付けてなきはたけ。○〔劉恭〕「地主多二——一」。
〔一園〕一とつのその、又、そのゝ全體、滿園に同じ。○〔馬祖常〕「聚侯亭前花——」。
〔鄉園〕郷里のその。○〔韋莊〕「——不レ可レ問」。
〔御園〕天子の御苑をいふ。○〔李紳〕「詔許看レ花入二——一」。
〔禁園〕前に同じ。○〔上官儀〕「——凝二晚氣一」。
〔寸園〕小園といふに同じ。○〔陸游〕「尺宅——」。「有二——一頃一」、今始歸」。
〔梨園〕(い)なしの木のうゑあるその。○〔三輔黃圖〕
(ろ)唐の玄宗の故事より伎曲、演劇などにいふ語。○〔唐〕「明皇既知二音律一、又酷愛二法曲一、選二坐部伎子弟三百一、教二于——一、聲有レ誤者、帝必覺而正レ之、號二皇帝——弟子一」。
〔寢園〕みさゝぎ。○〔唐〕「祇謁——」。

【圓】エン、ウン。王權切　先
チン。
王問切　問
圜に同じ。
㊀まろし、まろし、又、まどか。
(い)其の面の中心より外邊の何れの

點に至るも同距離なるもの、卽ち、車の輪の如き貌にいふ字。○〔隋〕「月者陰之精也、其形—、其質淸」。

(ろ)總べて、四邊滑かに曲がりて角の見はれざるにいふ字。○〔禮〕「蓋—以象レ天」。

(は)てづまらず、窮まりなし。○〔淮〕「智欲レ—、行欲レ方」。

(に)滿ちて豐かなり、缺けたるをなし。○〔蘇軾〕「遶レ牀彈レ指性自—」。

(ほ)かど立ちたる事を爲さず、順和なり。○〔文心雕龍〕「事—而音澤」。

㊁まどかなる形、又、まどかなるもの。○〔隋〕「左畫レ方、右畫レ—」。

㊂まどかならしむ、かどをとり去る、まろくす、まろむ、又、まどかになる、まろがる。○〔陳師道〕「不レ用山公更削—」。

㊃員に同じ、めぐる、又、めぐり、(周)。○〔詩、箋〕「—猶レ周也」。

㊄卵に同じ、たまご。○〔山海經〕「丹山之陽、有二鳳之—一」。

㊅古昔支那にては、天はまろくして地はかくなるものとせしより、天の義に借り用ふる字。○〔易〕「乾爲レ天爲レ—」。

〔周圓〕めぐる、めぐり。○〔後漢〕「所レ居城邑—・—百餘里」。

〔通圓〕變通多くして窮なりなきこと。○〔後漢〕「雖「事非二—・—一」。

〔寫圓〕まろし、又、天の義に借りいふ語。○〔晉〕「補二—・—於已家一」。

〔淸圓〕さよらかにしてまろし。○〔杜甫〕「昨夜月「—・—」。

〔碧圓〕蓮の葉などの靑くまろきものをさしていふ語。○〔韓愈〕「荷折—・—傾」。

〔高圓〕天空のこと。○〔韓愈〕「遂起飛二—・—一」。

〔渾圓〕まろし。○〔元〕「天・體—・—」。

〔自圓〕人爲によらず自然にまどかなること。○〔韓〕「恃二—・—之木一、千歲無レ輪矣」。

〔廣圓〕ひろやかにしてまろし。○〔山海經〕「帝都之山、—・—百里」。

〔一圓〕全體のこと、又、一方だけまろきこと。○〔吳越春秋〕「—・—三方」。

〔團圓〕まろきこと。○〔溫庭筠〕「—・—莫レ作二波中月一」。

〔素圓〕團扇の稱。○〔傳毅〕「鄲々—・—、淸風截「揚」。

〔圓圓〕まろき貌をうつすに用ふる語。○〔溫庭筠〕「雀扇—・—掩二香玉一」。

〔幽圓〕天上のこと。○〔包佶〕「陟二降左右一、誠達二「—・—一」。

〔虛圓〕中うつろとなりてまろし。○〔權德輿〕「其動也懸如レ天、其用也—而—」。

〔洪圓〕おほいにしてまろし。○〔法苑珠林〕「譬如二黍・粟、—・—纖・長一」。

〔範圓〕のりのめぐり、限られたる場所。○〔祭邕〕「爲二學・藝之—・—一」。

〔平圓〕ひらたくしてまろきこと。○〔鮑照〕「天錢荷「—・—」。

【圔】アフ、烏洽切 洽　アフ、烏合切「合」。聲下き貌にいふ字、こゑひくし。○〔馬融〕「窾—寘・被」。

十一畫

【圖】ト、ヅ。同都切 虞 〔說文〕从二口啚一。

㊀はかる。

(い)問ふ、質す。○〔呂覽〕「君其—レ之」。

(ろ)おもふ、(度)。○〔詩〕「是究是—」。

(は)除き治む、さる、(去)。○〔左〕「無レ使二滋蔓一、蔓難レ—也」。

(に)かぞふ、(計)。○〔周〕「—二國用一而進二退之一」。

(ほ)所有とす、とる、(取)。○〔戰〕「天下可レ—也」。

㊁はかりたくみたる所、手段、謀策、はかりごと、又、制定したる法、又、事業にもいふ。○〔屈平〕「前—未レ改」。

㊂山、川、土地の形狀を畫きたるもの。○〔周〕「掌二天下之—一、以掌二天下之地一」。

㊃國土。○〔沈約〕「展レ事昌二國—一」。

㊄物の形象を畫きたるもの、繪。○〔博物志〕「畫二北風—一、人見レ之覺レ涼」。

㊅將來の運命をしるしたるもの、未來記。○〔韓愈〕「膺レ—受レ禪」。

㊆繪にかく、ゑがく、(畫)。○〔南〕「凡所二遊・履一悉—レ之」。

〔河圖〕黃帝の世に龍馬ありて、其の背に八卦の圖を負ひて黃河より現はれ出でたるものなりと稱するものにいふ語。○〔書〕「大・玉夷・玉天球—・—在二東序一」。

〔馬圖〕前に同じ。○〔禮〕「河出二—・—一」。

〔永圖〕永遠のはかりごと。○〔書〕「惟懷二—・—一」。

〔長圖〕前に同じ。○〔鮑照〕「—・—大念」。

〔遠圖〕とほき先のはかりごと。○〔左〕「榮成伯曰、—・—者忠也」。

〔版圖〕戸籍と地籍のことにては卽ち領地をいふ。○〔白居易〕「—・—十萬戸」。

〔後圖〕後日のはかりごと。○〔淮〕「使二管仲出レ死捐レ生、不レ顧二—・—一、豈有二此霸功一哉」。

〔令圖〕良きはかりごと。○〔左〕「君子能知二其過一、必有二—・—一」。

〔良圖〕前に同じ。○〔李白〕「何以佐二—・—一」。

〔休圖〕前に同じ。○〔南〕「承二帝—・—一」。

〔負圖〕(い)漢の武帝霍光の忠厚にして幼主を寄託すべき人物たるを知り黃門をして周公の成王を負ひて諸侯を朝せしめし圖を畫かしめて光に賜ひ幼帝を輔翼せしめられし故事、轉じて、幼主を輔翼する義に借りいふ語。○〔庾徐書〕「寄二重先顧一、任均二—・—一」。

(ろ)圖を負ふ意。○〔孝〕「天子孝、天龍—レ—、地龜「出レ土」。

〔浮圖〕(い)佛のこと、一に浮屠に作る、又、佛圖に作る。○〔後漢〕「宮中立二黃・老—・—之祠一」。

(ろ)塔のこと。○〔洛陽伽藍記〕「永寧寺中有二九層—・—一」。

〔雄圖〕すぐれたるはかりごと。○〔晉〕「斷二—・—于「霸表一」。

〔英圖〕前に同じ。○〔李白〕「—・—可」。

〔皇圖〕天子の領地。○〔李賀〕「—・—跨二四海一」。

〔籙圖〕未來記。○〔運命論〕「名載二於—・—一」。

〔壯圖〕さかんなる計策。○〔羅隱〕「爲レ文愧二—・—一」。

〔深圖〕ふかくはかること。○〔左〕「而諸侯寔—二「之一」。

〔淵圖〕前に同じ。○〔南〕「—・—遠算、蓋在レ無レ遺」。

〔規圖〕はかる。○〔蜀〕「爲二曹・操耳・目一、—・—益州一」。

〔鴻圖〕おほいなるはかりごと。○〔晉〕「克固二—・—一、載淸二天步一」。

〔玉圖〕前に同じ。○〔元〕「纂二成前列一、底レ定二—・—一」。

〔帝圖〕天子のはかりごと。○〔北齊〕「—・—雜レ霸」。

〔啓圖〕(い)天子のはかりごとを稱するに用ふる語。○〔舊唐〕「臣謬司二邦計一、虔奉二—・—一」。

(ろ)聖人卽ち孔子の像圖畫をいふ。○〔顏延之〕「虔序設レ館、—・—炳・蔚」。

〔乾圖〕天象の義に同じ。○〔舊唐〕「仰則二—・—一」。

〔橫圖〕よこに廣くかゝれたる書。○〔唐〕「高文洪天・文—・—一卷」。

〔輿圖〕地籍、又、土地。○〔元〕「—・—之廣、歷古所レ無」。

〔豫圖〕事の來たらざる前にはかる。○〔曹植〕「霧達「難二—・—一」。

〔畫圖〕ゑがく、又、ゑ。○〔宋〕「望レ之如二—・—一」。

【圗】俗の圖の字。

【團】タン、度官切 寒　セン、淳沿切 先　ダン。ゼン。

㊀圓に同じ、まろし、まどか、まろし、まろむ、まろがる。○〔班婕妤〕「裁爲二合・歡扇一、—・—似二明・月一」。

㊁聚合す、あつまる。○〔盧象〕「澗深冰已—」。

㊂あつまりたるもの、聚合體、かたまり。○〔陸游〕「蒸・炊豆作レ—」。

㊃軍隊の組織、又、其の名稱。○〔隋〕「十隊爲レ—、—有二偏・將一人一」。

〔黃團〕(摳)瓜蔞の別名、からすうり。○〔韓愈〕「—・—繫二門・衡一」。

〔粉團〕穀類などの粉末もてこしらへたるもの、だんご。○〔開元天寶遺事〕「宮中每レ到二端陽節一、造二—・—角黍一、貯二於金盤中一」。

〔月團〕滿月の如きまろきこと。○〔淸異錄〕「嘗出二一「—・—還二」。

〔一團〕あつまりたるもの、又、ひとかたまり。○〔伊雒淵源錄〕「渾是—・—和氣」。

〔蒲團〕ふとん、夜具。○〔蘇軾〕「此身分付一—・—」。

〔兵團〕軍隊の組織。○〔晉書〕「—・—之制、以訓二練—爲・事一」。

〔我團〕前に同じ。○〔朔宿〕「霜縮—・—、分二持—・—」。

〔軍團〕前に同じ。○〔唐〕「卒伍—・—之名」。

〔疑團〕うたがひのかたまり。○〔傳燈錄〕「從レ人覓二處分明諸・標・符、—・—猶在也」。

【團】セン、淳沿切 先 セン、ゼン。 ゼン。 豎兗切 銑
槫に同じ、柩を載する車。

十二畫

【圚】クワイ、エ。 胡隊切 隊
かご、(門閭)。

【圌】セン。 須緣切 先
面圓し、まるがほ。

十三畫

【圛】エキ、ヤク。 羊益切 陌
回り行くにいふ字、ゆく、めぐる。 ○〔逸周書〕「━━升レ雲、半有半無」。

【圜】エン、ウン。 王權切 先
圓に同じ。 ○〔周〕「規レ之以眡二其━一也」。

【圜】クワン、ゲン。 戶關切 删
めぐる、(繞)、かこむ、(圍)。 ○〔賈誼〕「天下━━視而起」。

十四畫

【𡈼】古文の獄の字。

十六畫

【𡈽】キン、クン。 俱倫切 眞 苦殞切
𡿬 クン、コン。 丘粉切 吻
つかぬ、(束)。

【𡇾】コン。 苦本切 阮
成就す、なる。

十九畫

【圞】ラン。 落官切 寒
圓に同じ。 ○〔孟郊〕「意比二小團━一」。

土 部

【土】ト、ツ。 逹戶切 麌

㊀つち。
(い)地球の水もて蔽はれざる部分、即ち、陸。 ○〔書〕「咨禹汝平二水━一」。
(ろ)陸の植物の生ひ出で、又、耕種すべき部分、(或は、物自生すれば土といひ、耕種すれば壤といふと、區別しての說あれども土は、彼此の總稱にいふと多し)。 ○〔易、傳〕「百穀草木麗二乎━一」。
(は)前項の部分を構成して草木其の他種々の物を生じ出だすもの、(岩石、鑛物などと分かつ)。 ○〔後漢〕「其山有二丹━一」。
(に)五行(支那古昔の學說にて、萬物の原素となす五つのもの、即ち、木、火、土、金、水)の一にして其のうちにて主となり、又、中となるもの、故に五行を人倫に配すれば土は、君の宮にあたり、時氣に配すれば夏の中にあたり、五音に配すれば宮となり、五星に配しては塡星にあたり、十干にては戊己にあたる。 ○〔春秋繁露〕「━者五行之主也」。
(ほ)又、支那古昔の學說にて、萬物の生出し、又、歸著する所となすもの。 ○〔莊〕「百昌皆生二於━一而反二乎━一」。

㊁山地に對して、平地。 ○〔周〕「━國用二人節一」。 「不レ宜乎」。
㊂邦國、又、領地。 ○〔國〕「晉之啓レ━、亦「衆庶一」。
㊃場所。 ○〔歐陽詹〕「致二民樂━一、而安二其志一也」。
㊄居處。 ○〔後漢〕「安レ━重レ居、謂二之域一、年老思レ━」。
㊅故鄕、ふるさと。 ○〔後漢〕「久在二絕域一、年老思レ━」。
㊆事業、わざ。 ○〔皇極經世〕「天子以二九州一爲レ━、仲尼以二萬世一爲レ━」。
㊇なる、(居)。 ○〔詩〕「自━二沮漆一」。
㊈はかる、(度)。 ○〔周〕「以致レ日、以━レ地」。
㊉地を守護する神、つちのかみ。 ○〔董仲舒〕「諸侯祭レ━」。
⑪八音の一、つちを燒きてこしらへたる樂器。 ○〔周〕「金石━革」。
⑫墍に同じ、棺の穴の周りをふさぐ磚。 ○〔禮〕「下殤━周」。
⑬桑の木の植物の根の白き皮。 ○〔詩〕「徹二彼桑━一」。 「━━」。

〔壤土〕耕すべきつち。 ○〔國〕「鑄二鉏夷斤欘一、試二諸━━一」。
〔邦土〕前に同じ。 ○〔書〕「司空掌二━━一」。
〔王土〕帝王の領地。 ○〔詩〕「普天之下、莫レ非二━━」。
〔撮土〕ひとつまみのつち、又、少しばかりのつち。 ○〔禮〕「今夫地一━━之多」。 「民」。
〔圜土〕獄屋、ひとや。 ○〔周〕「以二━━一聚二教罷民一」。
〔食土〕(い)つちに生ふるものをくらふ、生活す。 ○〔左〕「━━之毛、誰非二君臣一」。
(ろ)領地を得。 ○〔班固〕「功成━レ━、德被二遐邇一」。
〔糞土〕ぼろくせるつち、賤劣なる物事に借りいふ語。 ○〔國〕「玉帛酒食猶二━━一」。
〔瘠土〕やせて、物の生長あしきつち。 ○〔國〕「━━之民、莫レ不レ嚮レ義勞也」。
〔沃土〕肥えたるつち、物の生長のよきつち。 ○〔西京賦〕「處二━━一則逸」。
〔尺土〕少しばかりの土地。 ○〔漢〕「漢亡二━━一之階一、繇二一劍之任一」。 「之曠」。
〔寸土〕前に同じ。 ○〔宋〕「民勤二耕作一、無二━━一」。

〔抔土〕一つかみのつち、又、張釋之の言よりみさゝぎのつちの義に借り用ふる語。 ○〔漢〕「殆冠謝曰、假令愚民取二長陵一━━一、陛下且何以加二其法一乎」。
〔路土〕(い)旋ごきの地。 ○闇「━━何時歸」。
(ろ)他處より取り來りたるつち。 ○〔漢〕「━━疏惡」。
〔茅土〕漢の時諸侯に封せらるゝ者(天子より授け賜はる方面のつちに白茅を置きたるもの、轉じて、諸侯の義に借りいふ語。 ○〔李陵〕「足下當レ享二━━之薦一」。
〔邊土〕邊部の地。 ○〔李陵〕「━━慘裂」。
〔后土〕つちのかみ。 ○〔書〕「其神━━」。
〔冢土〕前に同じ。 ○〔書〕「宜二乎━━一」。
〔淨土〕三毒五濁の業なき世界、極樂國に同じ、佛家の語。 ○〔魏〕「伽藍━━、理無二一切雜穢一」。
〔壤爾土〕小さき地。 ○〔陸機〕「光二于四表一者、繫二乎━━之━一」。
〔有土〕くにをたもつ、又、其の人、天子若しくは諸侯。 ○〔書〕「達二于上下一、敬哉━━」。
〔坫土〕ねばつち。 ○〔書、疏〕「埴爲二粘土一」。
〔下土〕低き地、又、天に對しての地。 ○〔詩〕「日居月諸、照二臨━━一」。
〔方土〕くに。 ○〔書、疏〕「譖貢二其方土所レ生之物一」。
〔彊土〕前に同じ。 ○〔晉〕「遂戢二干戈一、靖二我━━一」。
〔國土〕前に同じ。 ○〔阮籍〕「━━嘉祚、巍巍如レ此」。
〔率土〕僻地のよ。 ○〔詩〕「━━之濱、莫レ非二王臣一」。
〔斎土〕前に同じ。 ○〔國〕「余一人、其流二辟于━━一、其何辭之與有」。
〔塵土〕ちり。 ○〔李正封〕「九陌無二━━一」。
〔鄕土〕ふるさと、又、場所。 ○〔晉〕「━━不レ同」。
〔曠土〕あき地、荒れて居る地。 ○〔禮〕「無二━━一、無二游民一」。
〔吉土〕善き地。 ○〔禮〕「因二━━一以饗二帝于郊一」。
〔鹼土〕鹽田。 ○〔宋〕「民之有二━━一者」。
〔鹹土〕鹽分を多量に含めるつち。 ○〔後漢〕「地有二━━一」。 「━及前後令能否」。
〔風土〕氣候とくにのありさまと。 ○〔漢〕「測二其━━一、可レ備」。
〔焦土〕燒けつち。 ○〔阿房宮賦〕「楚人一炬、可レ憐━━」。
〔一塊土〕一とかたまりのつち。 ○〔說苑〕「今爲二一人一言レ施二一人一猶爲二━━一下レ雨也」。
〔嚙土〕田畝。 ○〔春秋繁露〕「農不レ離二━━一」。

〔一捔土〕一とすくひのつち。○〔佛國記〕「遇ニ釋-迦-佛行乞食一、小-兒戲ニ-嬉、卽以ニ一-一ニ施レ佛」。

【土】タ、テ。丑下切 [馬]

糟粕、査滓、かす、ごもく。○〔莊〕「其一-一苴以治ニ天-下ニ」

一畫

【圠】アツ、エチ。乙黠切 [黠]

㊀土密に凝る、かたまる。㊁測られず、涯際なし、分明ならず、かすかなり、くらし。○〔淮〕「坱兮一-」。

〔坱圠〕くらし、かすかなり。○〔漢〕「一-一無レ垠」。

【𡈼】テイ、チヤウ。丑郢切 [梗]　壬の字とは同じからず。

㊀よし、(善)。㊁はゆ、又、出づ。

【𡈼】テイ、タイ。展禮切 [薺]

すむ、(澄)。

【𡈼】テイ、ヂヤウ。唐丁切 [青]

㊀くき、(莖)。㊁うつばり、(屋梁)。㊂古文の徵の字

二畫

【圢】テイ、チヤウ。切他頂 [迥] テン。切他腆 [銑]

㊀たひらか、なだらか、(平坦)。㊁たのあぜ、(田畔)。

【圣】コツ、コチ。切苦骨 [月] クワイ、ケ。切古懷 [卦]

力を地に致す、たつくろ、又、力を致す、つとむ、(勤)。

【⿰土力】キン、ギン。渠巾切 [眞]

かべ、(土壁)。

【圤】ハク、ボク。切匹角 [覺] ホク、ボク。普木切 [屋]　一に墣に作る。

つちくれ、(塊)。○〔淮〕「土勝レ水、非ニ一-一塞ヒ江」。

三畫

【在】サイ、ザイ。盡亥切 [賄]　昨代切 [隊]　土に从ひ才に从ふ本は、杜に作り今は、在に作る。

㊀あり、(います、は敬語)。

(い)居る、すむ、あらはる、とゞまる。○〔易〕「一ニ下-位一而不レ憂」。

(ろ)生存す、ながらふ。○〔論〕「父一觀ニ其志ニ」。

㊁あきらかにす、みる、(察)。○〔書〕「一ニ璿-璣玉-衡一、以齊ニ七-政ニ」。

〔行在〕天子の假りにいますの處、又、假りの宮。○〔漢〕「徼至ニ一-一ニ」。「一阮-元-瑜」。

〔好在〕まめにある。○〔杜甫〕「因レ君問ニ消-息一、一-一」

〔健在〕前に同じ。○〔黄庭堅〕「身一-一且加レ餐」。

〔存在〕ながらふ、ゐる。○〔禮、疏〕「焉知ニ禮-樂所ニ一-一ニ」。

〔自在〕物の障りなく思ひのまゝになること。○〔晉書〕「乃知萬-事皆一-一」。

〔昔在〕むかし。〔所在〕あるところ。

〔見在〕(い)時間の上の區別、過去と未來とに對して今の時をいふ。○〔金剛經〕「過-去心不レ可レ得、一-一心不レ可レ得未-來心不レ可レ得」。(ろ)いまあり。○〔韓愈〕「今一-一人、莫レ如ニ韓-愓ニ」。

【在】シ。雌氏切 [紙]

よし、(善)。○〔詩〕「不レ屬ニ于毛一、不レ離ニ于裏一、天之生レ我、々時安一」。

【圩】ウ、チ。雲俱切 [虞]

かはの邊に築く堤、きし、(岸)。○〔史〕「孔-子生而一-項、故名レ丘」。

【圪】デフ。女涉切 [葉]

牆の高き貌にいふ字、たかし。

【圪】ギツ、ゴチ。魚迄切 [物] 魚乙切 [質]

たかきつち、(高土)。

【圬】チ、ウ。汪胡切 [虞]

杇に同じ、こて、又、こてを使用すること。○〔左〕「一-人以レ時塓ニ館-宮-室ニ」。

【圭】ケイ、ケ。切涓畦 [齊]　又、珪に作る。

㊀上のとがりて下の方なる玉、圭に天子の諸侯を封ずる時しるしとして賜はりたるもの、又、聘問の信としても用ひしもの、又、神を祭るにも、○〔史〕「成-王與ニ叔-虞一戲、削ニ桐-葉一爲レ一、曰、以レ此封レ若」。

㊁潔に同じ、いさぎよし。○〔孟〕「卿以-下必有ニ一-田ニ」。

㊂量の名、ます、黍を六十四あつめたるもの。○〔漢〕「量ニ多-少一者、不レ失ニ一-撮一」。「測ニ土深ニ」。

㊃閨に同じ、くゞり。○〔禮〕「篳-門一-竇」。

㊄かど、(廉)。○〔韓愈〕「法-吏多ニ少-年一、磨-淬出ニ角-一ニ」。

〔介圭〕大いなる玉。○〔詩〕「錫ニ爾一-一」、以作ニ爾「寶ニ」。

〔白圭〕潔白なる玉。○〔詩〕「一-一之玷、尙可レ磨也、斯言之玷、不レ可レ爲也」。

〔刀圭〕藥をすくひ取るに用ふる具、さじ。○〔庾信〕「量レ藥用ニ一-一ニ」。

〔簪圭〕かんざしと瑞玉と、轉じて、官位のことに借りいふ語。○〔孟郊〕「客來暫遊-戲、意欲レ忘ニ一-一ニ」。

【圮】ヒ、ビ。切部鄙 [紙]　此の條の圮は人己の己に从ひ、次の條の圯上は巳矣の巳に从ふ、二字自ら別かちあり。

やぶる、(毀)、又、くつがへす、(覆)。○〔書〕「方レ命一レ族」。

〔奪圮〕志したがふこと、失敗、あくじり。○〔晉〕「志安ニ乎一-一之域ニ」。

〔通圮〕とほるとやぶるゝと、又、仕合はせと、不仕合はせと。○〔晉〕「世有ニ險-夷一、運有ニ一-一ニ」。

〔湮圮〕うづまりやぶる。○〔唐〕「見-原隍-堞一-一」。

〔搥圮〕くだけやぶる。○〔唐〕「若一-一繕レ之則已安」。

〔頽圮〕前に同じ。○〔朱熹〕「彝-倫日一-一」。

【圯】イ。延知切 [支]

つちのはし。○〔漢〕「良嘗閒從-容遊ニ下邳一-一上一、遇ニ一-老-夫ニ」。

【地】チ、ヂ。徒利切 [寘]

㊀つち。

(い)太陽を中心として西より東へ運行する一の遊星にて、吾人の生息する廣大なる土塊の稱、其の形は球狀を成し、俗に世界といふ、支那古昔の學說にては、方形にして且つ動かざるものとせり、又、元氣の濁りて重きもの、下りて之を組成すともいふ。○〔列〕「積-氣成レ天、積-形成レ一」。

(ろ)前項に說きたるものゝ水に蔽はれざる部分の稱、くが、とち、つち、をか。○〔左〕「若闕レ一及レ泉隧、而相見、其誰曰レ不レ然」。

㊁邦國又は領土、くに。○〔史〕「不レ忘レ接ニ一-于齊ニ」。

㊂ばしよ、ところ。○〔晉〕「名-教內自有ニ樂-一ニ」。

㊃居處、をりばしよ。○〔孟〕「禹稷、顏-子易レ一則皆然」。

㊄基本地、たちば。○〔韓〕「以ニ大-王之明、秦-兵之彊一、棄ニ霸-王之業-一ニ」。

⑥低き處、底、又、下位、しも、（天に對して）。○〔易〕「始登二于天一、後入二于一一」。
⑦預め供へ設くるもの、したち。○〔金圖經〕「其門十二、各有二標名一、墨書粉一一」。
⑧支那古昔の學說にて萬物の依りて生ひ出づる根原、（天と共に）。○〔管〕「一者萬物之本原、諸生之根菀也」。
⑨つちを主宰する神。○〔漢〕「尊レ天敬レ一」。
⑩たゞ（但）。○〔漢〕「西曹一忍レ之」。
⑪又、語に添へ用ふる無意味の字。○〔王建〕「忽一下レ階裙帶解」。

〔采地〕領分の土地。○〔詩、箋〕「自レ館還、在二一一之都一」。
〔掃地〕（い）つちのうはべをはらひ清む。○〔國史補〕「焚レ香一レ一而坐」。
（ろ）轉じて、其のところに止まるものなきにいふ語。○〔漢〕「上古之道、烈、一レ一而盡矣」。
〔與地〕世界の表面、つち。○〔歐陽修〕「拔二夫一一、特啓二于新卦一」。
〔動地〕とちをゆるがす勢、又、聲のいと盛んなるにいふ語。○〔漢〕「車騎雷起、殷レ天一レ一」。
〔尺地〕少しばかりのつち。○〔孟〕「一一莫レ非二其有一」。
〔井地〕井田に同じ。○〔孟〕「一一不レ均」。
〔廣地〕ひろき土地、又、土地をひろむ。○〔史〕「一一萬里」。
〔塗地〕地にまみる。○〔史〕「王腦一レ一」。
〔醜地〕みにくきところ、即ち、好ましからざるところ、遠きゐなかなど。○〔史〕「今盡王二故王於一一一」。
〔赤地〕旱魃に遇ひて穀物などの熟せざるにいふ語。○〔史〕「大旱一一三年」。
〔丹地〕朱塗りにして飾りたる處。○〔梁簡文帝〕「升紫霄之一一」。
〔九地〕極めて低きところ、又、其の處。○〔後漢〕「昭二於一一之下一」。
〔墮地〕つちにおつ、又、生まれおつるの義にもいふ語。○〔傅休奕〕「男兒當門戶、一レ一自有レ神」。
〔落地〕前に同じ。○〔陶潛〕「一一爲二兄弟一」。
〔寶地〕（い）すぐれてよきところ。○〔論衡〕「獻二其一一一」。
（ろ）特に、佛を安置しあるところにいふ語。○〔王勃〕「香城一一」。「爲レ構」。
〔勝地〕風景のすぐれて居る土地。○〔唐〕「求二一一一」。

〔壘地〕地のある限りみなことごとく國。○〔齊南郊歌〕「率土奉レ贄一一來賓」。
〔貸地〕依り所。○〔韓愈〕「困二於無一一一、不レ能二自出一」。
〔職地〕たゝかひをなすところ、又、たゝかひしところ。○〔孫〕「先處二一一一、而待レ敵者佚」。
〔委地〕地におつ、又、おとす、又、勢の衰ふるにもいふ語。○〔北〕「立髮一レ一」。
〔隊地〕前に同じ、轉義、物の荒廢に歸したるにいふ語。○〔論〕「文武之道、未レ一二於一一」。
〔祿地〕知行。○〔禮、疏〕「卿大夫一一、多踰二古制一」。
〔餘地〕あまりのつち、又、場所、（無形のものにもいふ）。○〔莊〕「有二一一一矣」。
〔沒地〕つちのなかにいる、即ち、死ぬの義。○〔左〕「得レ一二于一一」。
〔壞地〕つち、又、くに。○〔孟〕「一一褊小」。
〔隙地〕あきてあるところ、又、耕作せざる田畝。○〔左〕「宋鄭之間、有二一一一焉」。
〔死地〕死ぬる場處。○〔孫子〕「置二之一一一而後生」。
〔鹹地〕鹽氣ありて草木などの生ひ立ちあしき土地。○〔張翥〕「風吹二一一一結二陰雲一」。
〔壁地〕つい地。○〔戰〕「營二一一一植レ表」。
〔田地〕耕種すべき陸の部分。○〔史〕「君胡不二多買一一一一」。
〔苑地〕その。○〔漢〕「獨舍二長安城南一一一、以爲二田獵之圃一」。
〔惡地〕あしきところ。○〔史〕「王諸將善地、徙レ王々一一」。
〔散地〕無用のところ。○〔唐〕「乃置二一一一非レ所レ宜」。
〔天府地〕自然に備はりたる要害の場所。○〔漢〕「據二一一一一、以レ義征伐」。
〔用武地〕據りて戰をなすところ、又、要害の土地。○〔晉〕「山河四塞、亦是一レ一之一」。
〔禁地〕或る事をとゞめあるところ　○〔魏〕「乃敢[illegible]吾一一一」。
〔邊地〕邊塞。○〔陳琳〕「報書往二一一一」。
〔安地〕やすらかなるところ。○〔晉〕「置二之一一一則安」。
〔門地〕いへがら。○〔晉〕「司徒王導以二一一一降レ述」。
〔才地〕ちゑといへがらと。○〔晉〕「自負二一一一」。
〔故地〕嘗て其の人の所有せしところ、又、嘗て其の物事のありしところ。○〔劉長卿〕「千里按レ圖收二一一一」。
〔舊地〕前に同じ。○〔王勃〕「山陰一一、王逸之少池亭」。
〔內地〕うち、（外に對して）。○〔北〕「如レ在二一一一」。
〔瘴地〕邪氣多きところ。○〔白居易〕「一一風霜早」。

〔心地〕こゝち、又、俗にいふむねのうち。○〔宋〕「有二員實一一一」。
〔隱地〕（い）官府の帳簿に記しあらざる田畝。○〔宋〕「括二一一二萬三千頃一」。
（ろ）かげになりたるところ。○〔倪瓚〕「將レ尋二一一一看二長松一」。
〔艱地〕其の物事を行ふにやすからざるところ。○〔六韜〕「此騎之一一也」。
〔竭地〕其の物事の盡き果つるところ。○〔六韜〕「此騎之一一也」。
〔圮地〕險阻にて車の滿行し難きところ。〔衢地〕市内道路のあるところ。〔絕地〕遠きところ、又、他の吾が軍と聯絡の通せざるところ。〔圍地〕人に前後左右をかこまれたるところ。○〔孫〕「圮地無レ舍、衢地合レ交、絕地無レ留、圍地則謀」。
〔僻地〕ゐなか。○〔張說〕「居二一一一」。
〔當地〕其の處。○〔神仙傳〕「非二一一一所レ有」。
〔封地〕諸侯となりて拜領したるくに。○〔吳越春秋〕「一一百里」。
〔宅地〕家居のあるところ、屋敷。○〔枕中書〕「一一四面、並方三萬里」。
〔意地〕心の物事に應じて動くこと。○〔淨住子〕「原二衆惡所レ起皆緣二一一一貪瞋癡一」。
〔出一頭地〕勢力、才智、聲望などの他より拔きいづることにいふ語。○〔宋〕「吾當レ避二此人一二一一一」。
〔經天緯地〕たてとよこと、又、勢力包容の大いなることに借りいふ語。○〔庾信〕「一一一一之才」。
〔活潑々地〕勇氣の止揚するときにいふ語。○〔中〕「鳶二一一一一一一」。
〔特地〕ことさらに。○〔朱淑〕「貧虫煩君一一過」。
〔剗地〕見てゐるうちに。〔一味地〕無理やりに。
〔立地〕たちどころに。〔撲地〕うつと。
〔撲嚪々地〕くわらくと。〔隱々地〕かすかに。
〔明々地〕あからさまに。
〔立錐地〕きりのほ先の立つところ、すこしのあひだの義。○〔後漢〕「貧者亡二一一一之一一」。
〔方外地〕度外にして置くべき土地。○〔漢〕「越一一之地、翦髮文身之民也」。
〔方寸地〕すこしばかりのところ。○〔唐〕「陛下何惜二玉陛一一一、不レ使二臣披二露肝膽一乎」。
〔紀綱地〕國家の規則に係はる基本、肝要なる位置。○〔唐〕「崇憲省一一一、府縣貴レ成之所レ設」。
〔佳麗地〕繁華のところ。○〔謝朓〕「江南一一一」。
〔歌舞地〕前に同じ。○〔杜甫〕「同レ首可レ憐一一一」。

【阡】セン。倉先切　先
廣さ三里にわたれる田。

【圳】シウ、ジユ。市流切　尤
田の畔の周りにある溝。

【圴】シヤク、サク。職略切　藥
つちのあさ（土跡）。

四畫

【圻】キ、ゲ。渠希切　微
㊀京城の周りの地四方千里の稱。○〔左〕「天子之地一一」。
㊁垠と通ず、かぎり、さかひ。○〔淮〕「四達無レ境、通二于無一一」。

【圽】歿に同じ。○〔史〕「偷合取レ容、以致レ一レ身」。

【圾】キフ、ゴフ。忌立切　緝　ガフ、ゴフ。五盍切　合
岌に同じ、あやふし。○〔莊〕「殆哉一一乎天下」。

【圿】カツ、ケチ。訖黠切　黠
ちり、あくた（塵埃）。○〔韓愈〕「蹋翻聚二林嶺一、斗起成二埃一一」。
〔垢圿〕あくた。○〔山海經、註〕「石可二以去一一一」。

【址】シ。諸市切　紙
阯に同じ、物事の根據、もとゐ、もと、ふもと、いしずゑ、ねもと、どだい。○〔後漢〕「立二至化之基一一」。
〔故址〕以前のもとゐ、（いへのいしずゑ）。○〔北〕「宮闕府寺僉復二一一一」。
〔舊址〕前に同じ。○〔舊書〕「廟因一一而葺」。
〔遺址〕のこりあるいしずゑ。○〔宋齡〕「梵林一一在二松蘿一」。
〔餘址〕前に同じ。○〔張九齡〕「[illegible]有二一一一」。

（廢址）すたれたるいしずゑ。○〔陳子〕「我偶過ㇾ此訪二——一」。
（丕址）大いなるもとゐ。○〔蔡襄〕「益厚二——一」。

【坻】シ。掌氏切 [紙]
本、坻に作る、とゞまる、（箸）。

【坂】ハン、ホン。甫遠切 [阮] 部版切
[潸] 阪、岅に同じ、或は、阺に作る。

㊀山の斜面なる處、又、山の脅、さか。○〔晉〕「是以丘—存二其陳-草一」。
㊁澤の障、つゝみ。○〔黃庚書館郎事〕「二——平-田隔二草-塘一」。
（峻坂）さか、又、極めてけはしきさか。○〔漢〕「帝馳二下——一」。
（苦坂）をか。○〔北堂書鈔〕「——曰ㇾ阜」。
（遐坂）長く續きたるつゝみ。○〔西京賦〕似下閩-風之——、横二西-洫而絕中金-墉上」。
（絕坂）きりそげてけはしきところ。○〔高適〕「——水達下」。
（盤坂）まがりまがりたるつゝみ。○〔孟郊然〕「平-田出ㇾ郭少、——入ㇾ雲長」。

【坃】古文の壎の字。

【垼】エキ、ヤク。營隻切 [陌] トウ。ヅ。度侯切 [尤]
—に、瓮に作る。
せともの を燒くかまどの窩、けぶだし、（陶竈窩）。

【坅】キン、コン。丘甚切 [寑] ギン。ゴン。牛錦切 サン、ソン。子感切 [感]
穿てる坎、あな。○〔儀〕「甸-人築二——坎一」。

【均】キン、クン。規倫切 [眞]

㊀不同なし、ひとし、又、たひらかなり、（平）、又、不同なからしむ、ひとしくす。○〔史〕「平爲ㇾ宰分ㇾ肉—」。
㊁とゝのふ、（調）。○〔詩〕「六-轡既—」。
㊂あまねし、（徧）。○〔周〕「大——之禮恤ㇾ衆也」。
㊃はかる、（度）。○〔周〕「掌ㇾ—二萬-民之食一」。
㊄瓦を造るに用ふる具、旋轉して用をなすもの、ろくろ。○〔董仲舒〕「泥之在ㇾ—、惟甄-者之所ㇾ爲」。
㊅漢の時の酒の量名、二千五百石をいふ。○〔漢〕「令-官作ㇾ酒、以二二-千-五-百-石一爲二一—一率開二—盧一以賣」。
㊆樂器の名。○〔漢〕「冬-夏陳二八-音一聽二五——一」。
㊇音樂上にて音律の變化。○〔唐〕「其聲由ㇾ濁至ㇾ淸爲二一——一」。
（平均）ひとしきこと。○〔詩、傳〕「下上——如ㇾ一」。
（國均）國内をして不平なからしむること、又、政事に借り用ふる語。○〔詩〕「尹-氏大-師秉二—之—一」。
（成均）成就しとゝのふ、又、子弟を敎育する學校のこともいふ語。○〔周〕「掌二——之法一、以治二建-國之學-政一」。
（天均）是非可否通じて一となること。○〔莊〕「聖-人和ㇾ之以二是非一、而休二乎——一」。
（陶均）瓦をつくるに用ふる器具、ろくろ。○〔晉〕「至-仁齊ㇾ民育ㇾ物擬二——一」。
（調均）とゝのふこと。○〔晉〕「八-音——」。
（靡均）事少くして調ふこと。○〔新論〕「使二其曲繁省而——一」。
（淑均）よく平かなること。○〔諸葛亮〕「將-軍向-寵性-行——」。「道——」。
（遐均）遠くまで行き渡る。○〔七啓〕「顯-朝惟淸、王-——一」。
（淸均）極めてひとしきこと。○〔何承天〕「成化ㇾ由二——一」。
（齊均）不同なく揃ふ。○〔景福殿賦〕「房-屋——、堂-庭如ㇾ一」。

【均】ウン、チン。王問切 [問]
古の韻の字、こゑ、ひゞき、（響）。

【均】エン。與專切 [先]
沿に同じ、そふ。○〔史〕「—二河、海一通二淮、泗一」。

【垿】ジョ。徐呂切 [語]
序に同じ、東と西とにあるつゐぢ、（牆）。

【坈】カウ、キヤウ。丘庚切 [庚]
坑に同じ、あな。

【坳】クワイ、ケ。苦對切 [隊] デフ、ネフ。奴協切 [葉]
㊀ふかし、（深）。㊁しづか、（靜）。

【坉】トン、ドン。徒混切 [阮]
㊀水の通ぜざるにいふ字、たまる。
㊁草土をもて水を塞ぐ、ふさぐ、又、ふさがる、（塡塞）。
㊂うね、（田隴）。

【坊】ハウ、バウ。府良切 [陽]
㊀邑里の區別の稱、又、人の住家の比びあつまりたる處、ちまた、まち。○〔宋〕「俠-里人揭二其閭一爲二鄭-公——一」。
㊁比びあつまりたるへや、室房、（うまや、をり、などにもいふ）。○〔蕭子範〕「直二中-舍之—一」。
㊂いがた、（土形）。○〔淮〕「鑪-橐埵——、設非二巧治一、不ㇾ能二以治ㇾ金」。
㊃ふせぐ、さゝふ、（障）。○〔坊〕「君-子刑以—ㇾ淫、命以—ㇾ欲」。
㊄ふせぐもの、ふせぎ、又、つゝみ、どて、（隄）。○〔禁〕「祭三—與二水-庸一」。
（寶坊）てら。○〔宋之問〕「仙-輿歷二——一」。
（內坊）太子の妃の宮。○〔唐〕「妃以二——印一」。
（雞坊）雞を畜ふところ。○〔東城老父傳〕「索二長-安雄-雞千-數一、養二于——一」。
（織坊）巾帛を織るへや。○〔晉〕「時后爲二宮-人一、在二——中一」。
（春坊）太子の宮。○〔宮僚備要〕「太-子宮曰二——一」。
（馬坊）うまや。○〔北〕「置二——一以畜-牧」。
（村坊）村ざと。○〔唐〕「書二于縣-門——一」。
（僧坊）寺。○〔宋〕「爲-豪-族——所二占冒一」。
（敎坊）唐の玄宗の時に音樂をもて宮中に事ふる女伎の居るへや、轉じて、妓院の義にもいふ。○〔唐〕「放二後宮及——女-妓六-百-人一」。「衆共嗤」。
（茗坊）茶店。○〔談苑〕「中-簷下ㇾ馬入二——一、呼ㇾ　「止于——一」。
（別坊）へや。○〔北〕「皆於二——一遣ㇾ醫救-護」。
（京坊）みやこのまち。○〔歐陽修〕「愧ㇾ身客二——一」。
（客坊）宿屋に同じ。○〔玉海〕「還二于京都一、或、寓二——一」。
（梵坊）てら。○〔秦觀〕「餔-餐就二——一」。
（礎坊）石うすのある部屋。○〔五燈會元〕「入二——一、服二勞於杵-臼之間一」。「爐坐二——一」。
（酒坊）さけをうる小さきみせ。○〔張五〕「玉-貌當ㇾ——一」。
（宮坊）御殿。○〔廸賢〕「新翻二花-樣一學二——一」。

【坊】ハウ、バウ。甫妄切 [漾]
前條の㊄に同じ。

【坋】フン、ホン。父吻切 [吻] 扶問切 [問]
㊀ちり、（塵）。○〔呂巖〕「拋二塵——一出二凡-流一」。
㊁大いなる防、つゝみ。
㊂振りかく、かく、（拌）。○〔漢、註〕「以二末椒-薑—一ㇾ之」。

【坌】フン、ホン。方問切 [問]
坋、又は、拚に同じ、はらふ。

【坌】フン、ボン。歩悶切 ホン。普悶切 [願]
㊀ちり、（塵）。○〔元好問〕「靄-々集二微——一」。
㊁ちり積もる、げがる。○〔圖畫見聞誌〕「幅裂汗——觸而塵起」。
㊂あつまる、（聚）、ならぶ、（並）。○〔唐〕「——集京-師一」。
（頹坌）屋壁のくづれて堆き塵となりたるなどにいふ語。○〔圖畫見聞誌〕「乃募二壯-夫一、操二斤刀一、剗二於——之際一」。

〔遝茁〕 勢力などの發散するを得ずしてとゞまりあつまるにいふ語。○〔陸龜蒙〕「勇-衝-一-一」。
〔隱茁〕 仙人の居處なりといふ山の名。○〔阮籍〕「徃遊二乎赤水之上一、來登二乎一一之丘一」。

【坍】 タン、トン。他酣切 覃 ―坍又は、坩に作る。
❶水、岸を打つにいふ字、うつ。
❷崩れたる岸、きし。

【坒】 ヒ、ビ。毘至切 寘
坒に同じ、本、比に作る、ならぶ。○〔左思〕「工-賈駢-一」。

【坎】 カン、コン。苦感切 感
❶土地の凹みてうつろになりたる處、あな（穴）。○〔儀〕「既夕掘レ一」。
❷險難なり、さがし、けはし、又、其の事、其の處。○〔易〕「習-一重-險也」。
❸穴に落つ、おちいる、又、險難に會ふ、なやむ。○〔黃滔〕「抑人之白一、其命也」。
❹穴に入らしむ、あなにす、おさしいろ、埋む。○〔書〕「函使二閉-一一」。
❺易の卦の名、☵☵坎下坎上。○〔易〕「習-一、有レ孚維心亨」。
❻方角の名、正北。○〔易〕「一者水也、正-北-方之卦也」。
❼前項の例より水の義にいふ。○〔蘇轍〕「得レ一浮-槎應レ有レ命」。
❽物を擊つ聲。○〔詩〕「一其擊レ鼓、一其擊レ缶」。
❾力を用ふる聲。○〔詩〕「一-一伐レ檀兮」。
❿はかる（銓）。○〔爾、註〕「一-卦主二法-律一、所三以銓二量輕-重一」。
⓫壺に似たる小さきかづきの名。○〔爾〕「小-罍謂二之一一」。
⓬星の名。○〔星經〕「九-一九-星、在二牛-星南一」。
〔埳坎〕 死骸を埋るあな。○〔儀〕「既夕、甸-人築二一-一」。
〔窞坎〕 穿てるま丶にしてある穴。○〔北〕「一-一不レ掩」。
〔缺坎〕 ゆがみ、窪める處。
〔科坎〕 あな。○〔系襄〕「平二一-一而撫レ之」。
〔屯坎〕 なやむ。○〔張仲素〕「濟二萃-生于一-一」。
〔壈坎〕 前に同じ。○〔劉長卿〕「一-一難二歸-來一」。
〔幽坎〕 かすかなるあな、死者を葬り埋めたるあな。○〔杜牧〕「重-行一-一已生レ苔」。

【坎】 カン、コン。苦紺切 勘
けはしき岸、きし。

【坏】 ハイ、鋪枚切 灰 ―通じて阫、又、坯に作る。
❶一つ重なりたる山、又、をか（阜）。○〔爾〕「山-上更有二一-山一、重-累者名レ一」。
❷未だ燒かざる瓦、瓦のまたち。○〔後漢〕「一-治一-陶、羣-生得レ理」。
❸土をもて壁の隙を封ず、ふさぐ、さづ。○〔禮〕「孟-冬使三有-司一二城-郭一」。
❹屋後にある牆壁。○〔揚雄〕「故士或自盛以レ槖、或鑿レ一而亡」。
〔堛坏〕 古の神の名。○〔莊〕「一-一得レ之、以襲二崑崙一」。
〔陶坏〕 素燒きのもの。○〔周文璞〕「雕-鐫若二一-一」。
〔瓶坏〕 破れたる瓦と未だ成らざる瓦と、轉じて一物一事其の中を得ざれば完成せざるに借りいふ語。○〔揚雄〕「歎二陶天-下一者、其在和乎、剛則一、柔則一」。

【坐】 サ、ザ。徂臥切 箇 徂果切 哿
❶すわる。
（い）膝節を屈して身を席に落ち著かす、下に居る。○〔禮〕「一如レ尸」。
（ろ）居處を占めて動かず、止まる。○〔新語〕「席レ仁而一」。
（は）ひざまづく、（跪）、（古に謂ひしもの）。○〔禮〕「先-生琴-瑟書-策在レ前、一而遷レ之」。
❷座に通じ用ふ、すわるべき場處、席。○〔世〕「吾每レ登レ一、見二張-譏在レ席使二人懍-然一」。
❸守護す、まもる。○〔左〕「楚-人一二其北-門一」。
❹罪を理めらる丶を、鞫問にあふを、（鞫問處にすわるの義）。○〔左〕「鍼-莊-子爲レ一」。
❺四罪を理むるを、鞫問するを。○〔潛夫論〕「猾-吏崇二姧-究一、而不二痛-一一」。
❻何事も爲さずに、容易に、やすくさ、ゐながら。○〔蜀〕「使三孫-策一大遂二幷江-東一」。
❼覺えずに、何故ともなく、そゞろに。○〔杜牧〕「停レ車一愛楓-林晚」。
〔偶坐〕 向かひあひてすわる。○〔禮〕「偶-一不レ辭」。
〔蹇坐〕 くつろぎすわる。○〔戰〕「孟-嘗-君一-一」。○
〔閑坐〕 格別の用事もなくてしろぢづかにすわる。○〔史〕「司-馬季-主一-一、弟-子三-四-人侍-坐」。
〔箕坐〕 みのゝ如きさまにすわる、膝をくみてすわるにいふ語。○〔論衡〕「趙佗椎-髻一-一、好レ之若レ性」。
〔深坐〕 邊近からざる處にすわる。○〔李白〕「一-一顰二蛾-眉一」。「後偏一」。
〔破坐〕 一處に止まらぞ。○〔詩、疏〕「弄レ口一レ一、而」
〔矩坐〕 かぎなりにすわる。○〔張載〕「一二一四-周一」。
〔禪坐〕 參禪してすわる。○〔王維〕「欲レ知二一-一久一」。
〔靜坐〕 心を落ち著けてすわる。○〔王陽明〕「須二一-一」。
〔盤坐〕 ひざをくみてすわる。○〔吳師道〕「一-一白-石臺」。「前」。
〔蹲坐〕 うづくまる。○〔張蠙〕「共レ僧一-一石-階」。
〔跪坐〕 ひざまづく。○〔韓愈〕「一-一陳二清-獻一」。
〔趺坐〕 足をくみてすわる。○〔蓮華經〕「結-跏一-一」。
〔頑坐〕 いつまでもかたくるしくすわる。○〔貫休〕「覓レ句雖一-一」。
〔危坐〕 正しくすわる。○〔史〕「正レ襟一-一」。
〔端坐〕 前に同じ。○〔北〕「虛席一-一、讀二孝作一老」。「博-士一」。「去-臺-澤」。
〔兀坐〕 つくねんとしてすわる。○〔宋之問〕「一-一」
〔班坐〕 それぞれに割りつけたる席、又、坐をわりつく。○〔漢〕「欲一レ一-綿席、孔二諸-將之右一」。
〔露坐〕 身を空にさらしてすわる。○〔漢〕「天子親自一二一德-陽-殿東-廂一請レ雨」。
〔圓坐〕 まろきかたちをつくりてすわる。○〔晉〕「六-孟盛レ酒一-一相向」。
〔盛坐〕 盛んなる會筵。○〔晉〕「當-時每レ有二一-一、而武-子不レ至」。「歎」。
〔齒坐〕 ならびすわる。○〔晉〕「與二鄉-老一一-一歡」。
〔侍坐〕 はべりすわる、他人の側にすわる。○〔禮〕「一二一於先生一」。「之中」。
〔廣坐〕 衆人のすわる廣き場所。○〔戰〕「衆人一-一」
〔上坐〕 上位に在る席。○〔史〕「題二一-一無レ所レ謂」。
〔禁坐〕 帝王の居所、內裏。○〔漢〕「光-武數引二公-卿若-將、列二一-一一」。
〔寢坐〕 休息する席。○〔神仙傳〕「常陳二此器于一-一」。
〔緣坐〕 まきぞへ。○〔晉、疏〕「殷-周以後、其罪或相一-一」。
〔連坐〕 前に同じ。○〔史〕「令下民爲二什-伍一、而相收-司一-一上」。
〔隨坐〕 前に同じ。○〔史〕「妻得レ無二一-一乎」。
〔貶坐〕 おとし罪す。○〔漢〕「雖-學不レ實、皆無二一-一」。
〔詘坐〕 前に同じ。○〔易林〕「一-一不レ伸」。「一」。
〔逮坐〕 罪をまちぶ。○〔魏〕「使極二一-一一」。
〔盡坐〕 國法によりて罪す。○〔魏〕「如其無レ功、分受二一-一一」。「職」。
〔彈坐〕 罪を理む。○〔汪藻〕「文-武一-一、亦悉復レ」

【坑】 カウ、キヤウ。丘庚切 庚 カウ。居郎切 陽 ―阬に通じ用ふ。
❶あな、（穴）。○〔東方朔〕「與二麋-鹿一同レ一」。
❷穴に入る、あなにす。○〔史〕「詐一二秦降-卒三-十-萬一」。「唐-陂一」。
❸ほり、（塹）。○〔揚雄〕「跐二轡一-一超二」
〔穴坑〕 くらきあな。○〔魏〕「見二汾-東有二一-一、東-西三-百-餘-里一」。「有二一-一一」。
〔銅坑〕 あかがねの出づる穴。○〔唐〕「郴-州永-陽郡」
〔焚坑〕 秦始皇の書史を焚き儒生をあなにせしより

學者の困厄にあふことに借りいふ語。○〔書、序〕「—書—屈」。「君踏ㇾ之」。

〔閤坑〕くらき穴。○〔法苑珠林〕「亦如ニ—・—盲・

【坒】ヒ、ビ。毘至切 寘

㊀ならぶ。（い）土地相次ぐ。（ろ）肩を比ぶ。

㊁あふ、（配合）。

【坒】陛に同じ。○〔賈誼〕「人・君如ㇾ堂、羣・臣如ㇾ—」。

【毦】耗に同じ。○〔家語〕「—・土之人醜」。

五畫

【坡】ハ。匹波切 歌 ヒ。彼義切 寘

㊀さか、（阪）。○〔唐〕「德・宗移ニ學・士・院於金・鑾・—」。

㊁つゝみ、（堤）。○〔朝野簽載〕「—・—上乘・畦麥・隴、依・然不ㇾ動」。

〔斷坡〕切れ離れたる土堤。○〔趙元鼎〕「—・—寂・歷對ニ寒・松ニ」。「松修竹纜ニ—・—」。

〔層坡〕幾重にもかさなりたるつゝみ。○〔張翥〕「長・

【坢】ハン、バン。普伴切 旱

㊀たひらか、（平坦）。

㊁地を發こす、おこす。

【坢】ハン、バン。薄半切 翰

ふりかく、かきます、（坋）。

【坤】コン。枯昆切 元 —〔說文〕从ㇾ土从ㇾ申。

㊀乾の對、くが、なか、とち、つち、大地、土地。○〔易〕「地・勢—、君・子以厚ㇾ德載ㇾ物」。

㊁易の卦の名、☷☷坤下坤上。○〔易〕「—、元亨、利ニ牝・馬之貞ニ」。

㊂方角の名、西と南との間、ひつじさる。○〔蘇軾〕「我本、放・浪人、家寄ニ西・南—ニ」。

㊃したがふ、（順）、（乾にしたがふの義）、又、すなほ、やはらか、（柔）。○〔易〕「夫—天・下之至・順也」。

㊄萬物の資りて生ずる所。○〔舊唐〕「父ㇾ乾而母ㇾ—」。

〔旋乾轉坤〕天下の大勢を變換し挽回し、若しくは、改革することに借りいふ語。○〔宋〕「君・子稱ニ其有ニ—レ—レ—之功ニ」。

〔厚地〕あつき土地。○〔杜甫〕「俯入裂ニ—・—ニ」。

〔統坤〕天下を治むることに借りいふ語。○〔劉基〕「惟漢五・世握ㇾ乾—レ—」。「—、魁ニ群・山ニ而獨尊」。

〔摩乾軋坤〕天地に塞がるの義。○〔劉基〕「—レ—」

【坥】ショ、ソ。千余切 魚 七慮切 御

みゝずのつか、（螾場）。

【坦】タン。儻旱切 旱

ひろし、（寬）、又、たひらか、なだらか、（平）。○〔何景明〕「互儉—而多ㇾ岐」。

〔坦々〕ひろくとしたる貌、又、たひらかなる貌にいふ語。○〔易〕「履ㇾ道—・—」。「君・子之操ニ焉」。

〔夷坦〕平らかなること。○〔南〕「胸・襟—・—、有ニ士

〔平坦〕前に同じ。○〔笑〕〔發蒙笑〕「凡平地曰ニ—・—ニ」。

【坧】セキ、シャク。之石切 陌

墌に同じ、もとゐ、（基址）。

【坩】カン、コン。苦甘切 覃

土器の名、つぼ。○〔晉〕「侃嘗監ニ魚・梁ニ、以ニ一—鮓ニ遺ㇾ母」。

【坪】ヘイ、ビヤウ。符兵切 庚 皮命切 敬 —垩に作る。

地の平かなる處。○〔吳船錄〕「更上六・十・里有ニ夷・坦道ニ、曰ニ芙・蓉—ニ」。

【坶】古文の坶の字。

【坫】テン、デン。都念切 豔

㊀杯をおくに用ふる具、土や甓にて築れてこつらへたるもの。○〔禮〕「崇・—康ㇾ圭」。

㊁地の際限、かぎり、さかひ。○〔淮〕「道出ニ一・原ニ、通ニ九・門ニ、散ニ六・衢ニ、設ニ于無・垓—之宇ニ」。

〔反坫〕古昔、周の時代にて諸侯の會見する場所に獻酬了はりて其の爵を反しおくもの、さかづきだい。○〔論〕「邦・君爲ニ兩・君之好ニ有ニ—・—ニ」。

〔爵坫〕さかづきを置く土製の臺。○〔金〕「—・—在ニ神・座前ニ」。

【坬】カ、ケ。古罵切 禡

地のはて、ほとり、（土陲）。

【坭】ヂ、ニ。乃里切 紙

泥に同じ、水土相和合せるもの、どろ、ひぢりこ。

【坮】臺に同じ。

【坯】ヒ。攀悲切 ヒ、ビ。貧悲切 支

坏に同じ。

【坰】ケイ、キヤウ。古螢切 青

林外の地、又、郊野、まき。○〔詩〕「駉・々牡・馬、在ニ—之野ニ」。

〔林坰〕はやしの周りの地。○〔杜〕「朝・儀限ニ霄・漢ニ、客・思迴ニ—・—ニ」。

〔郊坰〕城外の野。○〔沈約〕「亘ニ繞州・邑ニ、欽ニ跨—・—ニ」。

〔野坰〕前に同じ。○〔陸機〕「巡ニ郊・澤・戲ニ—・—ニ」。

〔四坰〕四方の野。○〔張駿〕「慶・雲蔭ニ八・極ニ、甘・雨潤ニ—・—ニ」。

〔舊坰〕嘗てある物事のありし野。○〔顏延之〕「眷・思纏ニ故・里ニ、巡・駕市ニ—・—ニ」。

〔近坰〕邑近き野。○〔唐德宗〕「駕自ニ中・禁ニ狩ニ于「—ニ」。

〔遠坰〕遠き原野。○〔錢起〕「垂ニ耳長・坂ニ、蹋ニ足—・—ニ」。

〔原坰〕原野をいふ。○〔王粲〕「泛ㇾ舟蓋ニ長・川ニ、陳ㇾ卒被ニ—・—ニ」。

【坱】アウ。倚朗切 養 於郎切 陽

㊀ちり、ほこり、（塵埃）。○〔柳宗元〕「高・步謝ニ塵・—ニ」。「軋兮」。

㊁分明ならず、くらし。○〔楚辭〕「—兮軋」。

㊂際限なき貌にいふ字。○〔正蒙太和篇〕「氣—・然太・虛」。

㊃高下ありて平かならざる貌にいふ字。○〔吳都賦〕「地・勢—・圠」。

〔圠坱〕くらし、又、かぎりなき、又、平かならざる貌にいふ字。○〔袁宏〕「錄・衣入ニ閶・闔ニ、茶・粒視ニ—・—ニ」。

〔氛坱〕ちり。○〔許有孚〕晴・空散ニ餘・霞ニ、秋・水滌ニ—・—ニ」。

【坲】フツ、ブチ。符勿切 物 ヘツ、ベチ。蒲結切 屑

塵の起こる貌にいふ字、むらがる。○〔韓愈〕「牙・纛前坌—・—」。

【坳】アウ、エウ。於交切 肴 於教切 效

窊下の處、くぼみ。○〔莊〕「覆ニ杯・水於—・堂之上ニ、則芥爲ニ之舟ニ」。

【坴】リク、ロク。力竹切 屋 —陸に通じ用ふ。

土塊の堆くなりたる處、くが、なか、（高壇）。○〔漢〕「河溢ニ皐・—ニ」。

【坵】俗の丘の字。

【坭】キク、コク。居六切 屋 —鞠又、阬に作る。

曲がれる厓、きし、又、水厓の外。

【坷】カ。口我切 哿 口箇切 箇

㊀平かならず、さがし、けはし。○〔蘇轍〕「豈覺二山・徑——一」。㊁さがしきに會ふ、なやむ。○〔蘇軾〕「空・室自困——」。

〔坎　〕さがし、又、なやむ。○〔揚雄〕「淺二南・巣之——一」。

〔[illegible]坷〕前に同じ。○〔論衡〕「爽二——一爲二坷平一」。

【坌】フン。於問切 問 又、坋に作る、はらふ、のぞく、(掃除)。

【坹】ケツ、ケチ。胡決切 屑 ㊀空しくして深き貌にいふ字、むなし、ふかし。㊁あな、(穴)。㊂ふさぐ、又、ふさがる、(塞窒)。

【坺】ハツ、ボチ。蒲撥切 月 ハチ、バチ。北末切 曷 —又、墢に作る。土を鍤く、土を發こす、すく、又、をさむ、(治)。○〔國〕「王・耕一——」。

【坻】チ、ヂ。直尼切 支 ㊀ま。(い)小さき洲。○〔詩〕「宛在二水中一——」。(ろ)總べて、水中に在る高き地にいふ字。○〔左〕「有レ酒如レ淮、有レ肉如レ——」。㊁波の打ちぎは、水さ陸の際、なぎさ、みぎは、又、船を繋ぐ處。○〔王粲〕「薄——暮未レ安——」。

〔巖坻〕岩石などあるなぎさ。○〔海賦〕「——之隈、沙石之欽」。

〔涯坻〕なぎさ。○〔柳宗元〕「丘・陵林麓距二其——一」。

【坁】シ。掌氏切 紙 ㊀さゞまる、(止)。○〔左〕「官宿二其業一、其物乃至、若レ泯二棄之一、物乃——伏」。㊁小高き處、つか。○〔王粲〕「墜者若レ雨、僵者若レ——」。

〔丘坁〕をかを云ふ。○〔潘尼〕「譬猶下——望二華・岱一、恒・星之繫中日・月上」。

【坻】テイ、タイ。都禮切 薺 さか、(坂)。○〔上林賦〕「下二磧・歷之——一」。

〔坂坻〕さか。○〔西京賦〕「坂——巌・嶸而成レ巘」。

【⿰土末】バツ、マチ。莫跋切 曷 —塻に通ず。あくた、ちり、ほこり、(塵埃)。

【坼】タク、チヤク。恥格切 陌 —[illegible]、拆、[illegible]に同じ。

㊀さく、(裂)。○〔漢〕「日・南地——長百・餘里」。㊁ひらく、(開)。○〔易〕「雷・雨作、而百・果草・木皆甲——」。

〔離坼〕はなれさく。○〔李〕「寄レ聲西飛鴻、贈レ爾慰二——一」。

〔開坼〕ひらく。○〔韓愈〕「當レ軒乍騈・羅、隨レ勢忽——」。

〔發坼〕ひらく。○〔鴉鼓錄〕「柳・杏皆已——」。

〔墜坼〕おちいりわる。○〔夏侯湛〕「土墳——谷枯川竭」。

〔占坼〕古昔、龜の甲を燒きて其のさけ形に依りてうらなふこと。○〔周〕「卜人——」。

〔龜坼〕(い)前に同じ。(ろ)又、田地などの旱にてさけたるさまの占ひに用ひたる龜の甲のさけ方に似たるにいふ語。○〔劉基〕「耳・田半作二——兆——一」。

〔頹坼〕やぶれさく。○〔杜牧〕「疑龍忽——」。

〔紅坼〕花ひらく。○〔白居易〕「露杏——初——、烟楊綠未レ成」。

〔焦坼〕やけ割る。○〔梅堯臣〕「天・津燥・日欲二——一」。

【坽】レイ、リヤウ。郞丁切 青 けはしききし、(峻岸)。

【坾】チヨ、ド。丈呂切 語 積みてある塵、ちり。

【坿】フ、ホ。防無切 虞 ㊀水晶石の別名、白石英。○〔司馬相如〕「雌・黃白——」。㊁竹木を綴ぢて水に浮べ運ぶもの、いかだ、(筏)。

【坿】フ、ホ。符遇切 遇 —附に通ず。ます、(益)。

【垀】コ、ク。荒胡切 虞 ㊀かまへ、くろわ、らち、(埒)。㊁わづらはし。○〔淮〕「嬴——有・無之精」。

【垁】チ、ヂ。直几切 紙 雉に同じ、かき、(障屏)。○〔太玄經、註〕「宗・廟中有二黃——金・策一」。

【垂】スヰ、ズイ。是爲切 支 ㊀たる。(い)上より下に縋る、さがる。○〔柳宗元〕「連・山倒——、萬・象在レ下」。(ろ)さがりてあらしむ、さぐ。○〔詩〕「——レ帶而厲」。(は)後世に布く。○〔後漢〕「——二功・名於竹・帛一」。㊁陲に同じ、ほとり。(い)堂上の階に近き處。○〔書〕「一・人冕執レ瞿、立二于東——一」。(ろ)他國に接する境土、國のはて。○〔漢〕「四・方賓・服、三——晏・然」。㊂將に及ばんとす、なんなんとす、ちかし、ほとんど、(殆)。○〔後漢〕「自レ在二漢・川一、——三・十・年一」。

〔邊垂〕國のはて。○〔蔡邕〕「——飛・羽・檄一」。

〔低垂〕ひく、たる。○〔杜〕「白・頭吟・望苦二——一」。

〔藁垂〕藁席の如き者の四隅に繩をつけて土芥などを盛りて擔ふもの、𦊆。○〔淮〕「天下大・水、禹身執二——一爲二民先一」。

〔下垂〕下へさがる、さがる。○〔酉陽雜俎〕「旁・枝皆——」。

〔垂垂〕さがる貌にいふ語。○〔庾信〕「不レ惑風——、正耐雪——」。

〔千古垂〕後世にまで及ぶ。○〔朱熹〕「事紀二一・朝勝一、名從二———一」。

【垂】スヰ、ズヰ。殊僞切 寘 前條の㊂の解に同じ。

六畫

【型】ケイ、キヤウ。乎經切 青 —又、𠛊に作る。かた。(い)金類の器を鑄て造る具、土を以て造りたるもの、いがた、(鑄式)。○〔淮〕「金・錫不二消・釋一、則不レ流レ——」。(ろ)轉じて、模範、のり、てほんの意にもいふ。○〔朱熹〕「甕・牖前・頭翠作レ屏、晚・來相對靜二儀——一」。

【垌】トウ、ツ。拖孔切 董 つぼ、ほさぎ、(缶)。

【垍】キ。奇寄切 寘 ㊀かたきつち、(堅土)。㊁すゑもの、(陶器)。

【垎】カク、ギヤク。轄格切 陌 ㊀水乾く、かわく。㊁かたし、(堅)。㊂くるふ、又、ものぐるひ、(狂)。

【垒】ルヰ。力委切 紙 —累に通ず。ねりつちを積む、かさぬ、又、其れをかされて造りたる牆壁、ついぢ。

【垓】カイ。柯開切 灰 ㊀國のはて、極土。○〔淮〕「吾與二汗漫一、期二九——之地一」。

㊁さかひ、(界)。○〔歐陽修〕「井-邑審二田-―一、以防二暴-卒一」。
㊂まもり、(守)。○〔揚雄〕「重レ垓累レ―、」
㊃數の名、京の千倍、又、支那にては京の十倍をもいふ。○〔風俗通〕「十-億曰レ兆、十-兆曰レ京、十-京曰レ―」。
〔八垓〕八方の國のはて。○〔王安石〕「書成不レ得レ獻二國-論一、但此容-語傳二―-―一」。

【垓】カイ、ケイ。古諧切 佳
かさぬ、(重)、又、重ねつみたる階級、だん。○〔史〕「太-乙壇三―」。
〔崇垓〕高く構へ作れる壇。○〔李庾〕「太-行枕-甸發二址―-―一」。
〔壇垓〕だん。○〔王安石〕「白-草廢-壇容―-―」。

【垔】イン。伊眞切 眞 シュ、ジュ。時注切 遇 トウ、ヅ。徒候切 宥
堙、垔、堊に同じ、ふさぐ、(塞)。

【垍】堆の本字。

【垗】テウ、デウ。治少切 篠 ―兆に通じ作る。
㊀死者を葬りたる地のさかひ。○〔孝〕「卜二其宅―一而安二厝之一」。
㊁祭の名、又、まつる。○〔周〕「―二五-帝于四-郊一」。

【垘】フク、ボク。房六切 屋 ホク、ボク。鼻墨切 職
土ふさがる、(壅)、又、くづる、(崩)、一說に、ながる、(流)。○〔史〕「川塞谿―」。

【垙】クヮウ。古黃切 陽
陌に同じ、䟫、又は、𣅿にも作れり、ちまた、みち。

【垛】タ、ダ。杜果切 哿
㊁弓射を習ふさき的をかけ置く處、土にて作る、あづち、(射垛)。○〔唐六典〕「武-擧制有二長―馬-射一」。
㊂いへ、かどや、(堂塾)。

【垜】垛に同じ。

【垝】キ。古委切 紙 ―陒に作る。
垣墉の毀損するにいふ字、やぶる。○〔詩〕「乘二彼―垣一」。

【垝】キ。居僞分 寘
坫に同じ。○〔爾〕「―謂二之坫一」。

【垞】タ、ダ。直加切 麻
陁に同じ、小さき丘。○〔揚雄〕「兗-人呼レ寶二城-中一曰レ―」。

【垟】ヤウ。余章切 陽
土の精、又、其の化けたるものゝ名。○〔易說〕「泰-山失二金-雞一、西-嶽失二玉-―一」。
〔羵垟〕土の精のばけもの。○〔史〕「以レ丘所レ聞、土之怪則―-―也」。

【垠】ギン、ゴン。疑巾切 眞 疑斤切 文
㊀物事の界限、さかひ、かぎり。○〔楚辭〕「違二絕―一乎寒-門一」。
㊁きし、ほとり、(岸)。○〔歐陽修〕「有レ石露-出寒-溪―」。
㊂かぎりを設く、かぎる。○〔宋〕「國-祚何―」。
〔九垠〕天地のはて、又、最も遠き處の義にもいふ語。○〔爾〕「九-天之際曰二―-―一」。
〔天垠〕天のはて、又、前條の後段に同じ。○〔杜甫〕「若-懸二南-轅使一、書-札到二―-―一」。
〔八垠〕八方のはて、又、前々條の後段に同じ。○〔杜甫〕「揮-灑動二―-―一」。
〔邊垠〕はて、ほとり。○〔蘇軾〕「橫-斜挂二―-―一」。
〔睽垠〕限り、又、はて。○〔淮〕「進-退屈-伸不レ見二―-―一」。
〔高垠〕高き處のはて、絕頂。○〔鍾會〕「託二靈-根于玄圃一、植二崑-山之―-―一」。
〔絕垠〕前に同じ、又、最も遠きはて。○〔鮑照鶴賦序〕「或、凌二赤-霄之際一、或、託二―-―之外一」。

【垠】コン。古恨切 願
土の起こりて跡あるにいふ字、岺など。

【垡】バツ、ボチ。房越切 月 ―墢、㘸に作り、又、坺に作る。
耕して土をおこす、たがへす、又、耕しおこしたる土。○〔韓愈〕「予期拜レ思後、謝レ病老二耕―一」。

【垢】コウ、ク。擧后切 有
㊀あか。
(い)皮膚に付著せるけがれ。○〔史〕「浴不二必江-海一、要二之去レ―」。
(ろ)塵埃、ちり。○〔陸贄〕「至-淸無レ―」。
(は)恥辱、はぢ。○〔左〕「國-君含レ―、天之道也」。
(に)不德なるを、又、惡念。○〔王僧孺〕「大招二離レ―之賓一、廣集二應レ眞之侶一」。
(ほ)不淨なるもの、よごれもの、又、淸淨を蔽ひかくすもの。○〔韓〕「不レ洗レ―、而察レ難レ知」。
㊁あか物に付く、よごろ、けがろ、あかつく。○〔禮〕「面―燂レ潘請レ靧」。
㊂あかを物に付かす、あかづかす、よごす、けがす。○〔傳燈錄〕「如-何是淨-土、曰、誰―レ汝」。
〔汚垢〕あか、けがれ。○〔儀、註〕「湯-沐所-以洗二去―-―一」。
〔汗垢〕前に同じ。○〔王褒〕「―-―流-離」。
〔塵垢〕(い)あか、けがれ、ちり。○〔淮〕「崑-山之玉瑱、而―-―不レ能レ汚也」。
(ろ)穢れ、卽ち、斯の世の中の義にも用ふる語。○〔莊〕「彷二徨乎―-―之外一、逍二遙乎無-爲之業一」。
〔氛垢〕塵を云ふ。○〔王維〕「極-目無二―-―一」。
〔痕垢〕あか、けがれ跡。○〔獨孤及〕「洗二―-―一、咸使二維-新一」。
〔紛垢〕まどひもつる、けがれ。○〔王融〕「入來殊二景-物一、行復洗二―-―一」。
〔浮垢〕あか。○〔詩、疏〕「耆-面凍-梨、色如二―-―一」。
〔莘垢〕あか。○〔儀、註〕「澡-齎、治二去―-―一、不レ絕二其本一也」。
〔宿垢〕日ごろのあか。○〔晉〕「洗-濯祓除去二―-―一」。

【垢】コウ、ク。丘候切 宥
詬曲の言說、いつはり。○〔莊〕「解―同-易之變多、則俗惑二于辨一矣」。

【垢】キク。居六切 屋
淨からず、けがろ、又、其のと、其のもの、あか、けがれ。○〔詩〕「維彼不-順、征以二中―一」。

【垣】エン、ヰン。雨元切 元 クヮン。胡官切 寒
㊀かき。
(い)やしきにはなどすべて區劃したる地に設けあるかきり、かき、(其のひくきもの)。○〔左〕「子-產盡壞二其館之―一、而納二車-馬一焉」。
(ろ)援けおほひとなるもの。○〔詩〕「大-師維―」。
㊁上中下ある星の名。○〔史〕「上-―太微、宮―十-星」。
〔阤垣〕やぶれたるかき。○〔詩〕「乘二彼―-―一、以望二復-關一」。
〔毀垣〕前に同じ。
〔短垣〕卑きかき。○〔左〕「子有二―-―一、而自踰レ之」。
〔嬰垣〕玉の名。○〔山海經〕「瑜-次之山、其陽多二―-―之玉一」。
〔踰垣〕かきを越す。○〔書〕「無-敢寇-攘踰二―-墻一」。
〔埒垣〕圍ひ。○〔公羊、註〕「匝周二―-―一」。

（門垣）　かき、又、かきは家の廻りにある故に、轉じて、手近なる處に借り云ふ語。○〔漢〕「炎-宥之勢遶、則――近在二事-署一」。
（籬垣）　まがき。○〔晉〕「數畝小宅、――疚-陋」。
（女垣）　丈低きかき、ひめがき、（女墻）。○〔說文〕「堞城上――也」。
（複垣）　二重に作りたるかき。○〔舊唐〕「作二――洞-穴一、實二金-錢於其中一」。
（壘垣）　とりでのかき。○〔舊唐〕「使二善射者三-千-人、伏-於――内一」。
（縈垣）　めぐれるかき。○〔西京賦〕「――緜-聯四-百-餘-里」。
（崇垣）　高きかき。○〔張希復〕「碧-甍煥二――一」。

【垤】　テツ、デチ。徒結切　屑　チツ、ヂ。直質切　質

㊀蟻の巢、泥上を積みて作りたるもの、ありづか、ありのたふ、（蟻塚）。○〔淮〕「螘知レ爲レ―」。㊁小高き土地、つか。○〔孟〕「泰-山之於二丘-―一」。
（阜垤）　地の小高き處。○〔新論〕「踄二――一而好顚-蹶者、輕二于小一也」。
（堯垤）　前に同じ。○〔柳宗元〕「託二地――一、反二時燠寒一」。
（糟垤）　比較にもならぬ卑しきものに譬へていふ語。○〔黃庭堅〕「嵩-崙視二――一、旣化不二自知一」。
（封垤）　蟻塚。○〔柳貫〕「覈哉―・―・―」。

【垥】　ケフ、コフ。虛業切　葉

つゝみの水、（堤水）。

【[土列]】　レツ、レチ。力蘖切　屑

はたけの土手、くろ、うね、（塍）。

【[巩土]】　キョウ、グ。渠容切　冬

水ぎはの石もて成りたる島。

七畫

【埕】　デツ、チツ。奴結切　屑

㊀ふさぐ、又、ふさがる、（塞）。㊁くだす、又、くだる、（下）。

【埩】　セイ、シャウ。息營切　庚

垶に同じ、黑くしてこはき土。

【垷】　ケン、ゲン。古典切　銑

㊀ひぢりこ、どろ、（泥塗）。㊁大いなる坂。

【垸】　クワン、グワン。胡官切　寒　胡玩切　翰

㊀漆を灰に和して塗る、ぬる、一說に、補ひぬる。㊁量の名。○〔周〕「爲二殺-矢一、刃長寸、圍寸、鋌十レ之、重三―」。

【[土究]】　リウ、ル。力救切　キウ、ク。居又切　宥

地を耕す、土を起こす、たがへす、一說に、はた、（疇）。

【垹】　ハウ、ホウ。悲江切　江

土の精。○〔宋小說〕「徐-評監二廬-州酒-稅一、河次得二一-物一、如二小-兒一、掌無レ指、懼而埋レ之、或曰、此白-澤-圖所レ謂――也、食レ之多レ力」。

【[土孛]】　ホツ、ボチ。蒲沒切　月　―或は、坲に作る。

ちり、（塵）、又、ちりの起つ貌にいふ字。

【垺】　フ、ホ。芳無切　虞

㊀郛に同じ、又、埰に作る、かまへ、くるわ、（郭）。㊁山上に水のあるにいふ字。○〔釋名〕「山上有レ水曰レ―」。

【垺】　ホウ、ブ。蒲侯切　尤

おほいなり、（大）、さかんなり、（盛）。○〔莊〕「精小之微也、―大之殷也」。

【垺】　ホウ、ブ。蒲口切　有

培に同じ、つか、（塚）。

【垻】　ハイ。博蓋切　泰

水を塞ぐ所、せき、ゐぜき、（堰、埭）。

【垻】　ハ、ヘ。必駕切　禡

平かなる川。○〔黃庭堅〕「君家冰-茄白-銀-色、殊-勝――襄-紫-彭-亭」。

【[坄土]】　エキ、ヤク。營隻切　陌

坄に同じ、陶器を燒く竈。○〔禮〕「甸-人爲二―于西-牆下一」。

【垽】　ギン、ゴン。疑僅切　震　語靳切　問

どろ、あか、（滓）。○〔爾〕「澱謂二之―一」。

【垾】　カン、ガン。侯旰切　翰

㊀小さきつゝみ、（小隄）。㊁俗の岸の字。

【坶】　バイ、マイ。謨杯切　灰　―塵に同じ

塵に同じ、ちり。

【埀】　俗の垂の字。

【埂】　カウ、キヤウ。居行切　庚　古杏切　梗

小さきあな、又、あな、（坑）。

【埃】　アイ。於開切　灰

塵の細かくして飛び散るもの、ほこり、ちり、又、ごみ。○〔漢〕「杳-冥晝-昏、塵-―-抪-覆」。
（塵埃）　（い）ほこり。○〔莊〕「野-馬也、――也」。（ろ）世の中の義にいふ語。○〔史〕「浮二游――之外一」。
（黃埃）　ほこり、其の色の黃なるよりいふ。○〔蘇軾〕「飮二鵠東-海一、生二――一」。
（氛埃）　ほこり。○〔馬融〕「清二――一、埽二野場一」。
（纖埃）　細かきちり。○〔藉田〕「微-風生二於輕-轍一、――起二於朱-輪一」。
（輕埃）　かろきちり。○〔謝朓〕「容-裔如二游-霧一、散-漫似二――一」。
（浮埃）　ほこり。○〔楊師道〕「長-黃-塵-奔-溜、清-氣-蕭――」。
（芳埃）　かうばしきほこり、花の下のほこりにいふ語。○〔孟郊〕「一-日踏レ春一-百-廻、朝-朝沒レ脚走二――一」。
（風埃）　風とほこりと、又、俗事の義に借りいふ語。○〔宣和畫譜〕「花二朝市――中一」。
（涓埃）　しづくとちりと、少しばかりの義に借りいふ語。○〔杜甫〕「未レ有二――答二聖朝一」。
（塵埃）　世間の俗事の意にいふ語。○〔漢〕「蟬-蛻――之中一」。

【埄】　ホウ、ボウ。蒲蠓切　董

埲に同じ、塵の起こる貌にいふ字。

【埅】　ハウ、バウ。扶方切　陽

防に同じ、つゝみ、又、ふせぐ、ふせぎ。○〔呂氏春秋〕「季-春之月、命二有-司一修二利隄――一」。

【[阝土]】　チ、ヂ。題利切　寘

古文の地の字。○〔亢倉子〕「―生レ物」。

【[土弄]】　ロウ、ル。盧貢切　送

穿ちたる穴、あな。

【埆】　カク、コク。克角切　覺

㊀礐に同じ、山に大石多きにいふ字、いしおほし、又、石の聲にいふ字。㊁地味薄し、地勢傾く、やす、かたむく、ある、又、やせたる地、かたむける地、やせち、さか。○〔史〕「燕地墝―」。

〔塉埆〕やせたる土地。○〔漢〕「西州墝䧟、土地——」。
〔墽埆〕前に同じ。○〔呉志〕「方土——、穀稼不レ殖」。
〔垸埆〕前に同じ。○〔王禹〕「——費二耕種一」。
〔犖埆〕石多き貌にいふ語。○〔韓愈〕「山石——行徑微」。

【埇】ヨウ、ユウ。尹竦切 腫
甬道の甬に同じ、道の上に加へたる土、おきつち。

【埈】陖に同じ。

【埉】カフ、ケフ。訖洽切 洽
水旁の地、みぎは。

【垄】チ、ヂ。徒利切 寘
古文の地の字。○〔漢〕「令レ不レ得レ歸二肥饒之——一」。

【埋】バイ、マイ。謨皆切 佳 一本、薶に作り、又、貍に作る。
❶うづむ。
（い）おほひす、かくす、をさむ（藏）。○〔淮〕「塵垢弗レ能レ—」。
（ろ）特に、物を地中にかくすにいふ字。○〔左〕「—二璧于太室之庭一」。
（は）粗末なる葬りをなす。○〔爾〕「葬不レ如レ禮曰レ—、痗也、趨使二痗腐一而已」。
❷現はれず、地下にかくる、をさまる、かくる、うづもる。○〔王安石〕「寒雲沈屯白日—」。
〔椎埋〕殺し埋むること。○〔漢〕「王溫舒少時椎埋爲レ姦」。
〔瘞埋〕うづむ。○〔禮〕「——于泰折祭レ地也」。
〔狐埋〕一方にて事をなさんとするも一方にて其れを妨ぐる意。○〔國〕「諺曰、——レ之、而狐搰レ之、是以無二成功一」。
〔幽埋〕はるかにうづむ。○〔孟郊〕「——盡二洗一」。
〔暗埋〕塵などにて物の黑くなる迄うづもる。○〔元稹〕「塵壁——、悲二舊札一」。

【埌】ラウ。郎宕切 漾
❶つか（冢）。○〔揚雄〕「秦晉謂レ冢曰レ—」。
❷迥かなる貌にいふ字、はるか、ひろし。○〔莊〕「遊二無何有之鄕一、以處二壙—之野一」。

【埍】ケン、ゲン。刮眹切 銑
徒隷の居る所、又、女のひさや、一說に、亭部。

【城】セイ、ジヤウ。是征切 庚
❶しろ。
（い）都邑、みやこ、又國土、くに。○〔左〕「乘レ堙而窺二宋—一」。
（ろ）都邑、又、國土の防備の爲めに土石を積み設けたる圍ひ、內郭壁。○〔淮〕「夏鯀作二三仞之—一」。
（は）轉じて、防備の爲めに土石を積み設けたるもの、卽ち、堡壘など。○〔戰〕「雖レ有二長—鉅防一、何足二以爲レ塞」。
（に）宮殿、祠堂などの外壁、又、貴顯の人のいます處、鬼神の居處、又、壘壁などに圍まれたる地、（墓地、又は、棺の義に用ふるとあり）。○〔史〕「來也常以レ夜、光輝若二流星一、從二東方一來、集二于祠—一」。
❷しろを造る、きづく（築）。○〔管〕「使二軍人—二鄭南之地一」。
〔崇城〕天子のしろ。○〔白虎通〕「天子曰二——一」。
〔產城〕常の制に超えたる諸侯のしろ。○〔康〕「諸侯僭侈、建レ城踰レ制、謂二之——一」。○
〔火城〕炬火の列をなし圍ひとなるをいふ語。○〔王禹稱〕「相君啓レ行、煌煌——」。
〔層城〕天帝の居處。○〔天台山賦〕「荷台嶺之可レ攀、亦何羨二于——一」。
〔干城〕盾としろとの意にて國家を守護するものに借りいふ語。○〔詩〕「赳赳武夫、公侯——」。
〔傾城〕城をかたぶく、國家を破る、轉じて、女子のかはかたちのすぐれて好きにいふ語。○〔漢〕「一顧—二人—一、再顧—二人國一」。「之害也」。
〔都城〕しろ、又、京地。○〔左〕「——過二百雉一、國之害也」。
〔堅城〕構への固くして容易に陷らざるしろ。○〔蜀〕「二門悉開、——皆下」。
〔帝城〕天子のいます都邑。○〔漢〕「郎蒙二子公力一、得レ入二——一、死不レ恨」。「而——降」。
〔邊城〕國のほとりにあるしろ。○〔戰〕「衛橋不レ施
〔佳城〕墓地の敬稱、又、よきしろ。○〔史注〕「——鬱鬱、三千年見二白日一」。
〔禁城〕天子のしろ。○〔岑參〕「——春色曉蒼蒼」。
〔鳳城〕前に同じ。○〔王維〕「春深五——」。
〔百代城〕百年たつとも毀れぬと云ふ程の堅固なる城。○〔管〕「使下寘二人城二鄭南之地一、立二——一上焉」。
〔維城〕このしろ、卽ち城の如くに備りとなるもの。○〔詩〕「懷レ德維寧、宗子——」。
〔牙城〕城の內郭、主將の居る所。○〔唐〕「率二左右一登二——一」。「南一」。
〔皇城〕天子のしろ。○〔唐〕「興慶宮在二——東南一」。
〔宮城〕前に同じ。○〔唐〕「西接二——之東北隅一」。
〔離城〕主將の出遊の爲めに設けたるしろ。○〔越絕書〕「古城者、吳王所レ置二美人一——也」。
〔鐵城〕堅固なるしろ。○〔世說〕「湯池——、無二可レ攻之勢一」。「萬世之業也」。
〔金城〕前に同じ。○〔史〕「——千里、子孫帝王
〔防意如城〕城の敵を防ぐが如く私の慾を未萌に打ち破ること。○〔朱熹〕「守レ口如レ瓶——レ——」。

【埏】エン、夷然切 先 タン。徒按切 霰
❶地の極まる處、はて。○〔元〕「神功者定澤被二埏——一」。
❷つかあなの道、みち。○〔後漢〕「民趙宣葬レ親、而不レ閉二隧——一」。
〔八埏〕地のかぎり。○〔淮〕「九州之外、乃有二——一」。「——」。
〔寰埏〕前に同じ。○〔王勃〕「思周二宇宙一、樂極二——一、亦八千里」。
〔九埏〕前に同じ。○〔王勃〕「風行電擊、求二寸燄一、而浹二——一」。

【埏】セン。尸連切 先
❶水をもて土に和す、ねやす、又、やはらかなる土。○〔坐忘論〕「澡雪柔—、復二歸純靜一」。
❷瓦を燒くに用ふる型、かた。○〔管〕「堯之治二天下一也、猶二埴之存レ—也、唯陶之所二以爲一」。

【埐】シン。次林切 侵
つち（地）。

【埒】レツ、レチ。力輟切 屑
❶低き垣、又、塲所の圍ひ、らち。○〔世說〕「晉王濟有二馬—一、謂下于レ外作二短垣一繞上レ之」。
❷界を畫し程を分かちたる處、かぎり、（厓）。○〔淮〕「聽明不レ損、而知二八紘九野之形—一」。
❸山上に水の湛へてある處、又、其の堤、つゝみ。○〔爾〕「山上有レ水—」。
❹ひとし（等）。○〔國〕「叔向、子產、晏嬰之才、相等—」。
〔金埒〕黃金にて圍ひたる堤。○〔晉〕「布二——之泉一、粉二珊瑚之樹一」。
〔塲埒〕騎射を習はん爲めに設けたるらち。○〔魏〕「有司預修二——一」。
〔畦埒〕畔と埒と、又、物の界限。○〔謝靈運〕「阡陌縱橫、——交經」。

【陘】峻に同じ。

【埿】沙に同じ。

八畫

【埜】古文の野の字、○〔史〕「膏液潤二——一、草而不レ辭」。

【堶】ヒ、ビ。甫尼切 尾 房味切 未
ちり（塵）。

【埞】堤に同じ。

【域】ヨク、ヰキ。越逼切 職

㊀土地の經界、さかひ、かぎり、(物事にもいふ)。○〔周〕「土二其地一、而制二其ー一」。
㊁土地の極端、はて、きは、(物事にもいふ)。○〔宋〕「遠使二地ー一」。
㊂土地、又、くに、(邦)。○〔晉〕「殊ー既賓、僞吳亦平」。
㊃場所。○〔淮〕「至德之世、甘二瞑于溷ー淵之ー一」。
㊄さかひを設く、かぎりとなす、さかひす、かぎる、(ゐきりをなす)。○〔詩〕「肇ー二彼四海一」。

(西域) 東土耳機斯坦、今の支那新疆省。○〔漢〕「張騫始通二西ー一」。
(也域) さかひ。○〔周〕「九州之ーー」。
(畛域) (い)かぎり、さかひ、はて、まわり。○〔權德輿〕「蒼端棘剌分二ーー一」。(ろ)さかふ、かぎる、又、はつ。○〔莊〕「泛々乎若二四方之無レ窮、其無レ所二ーー一」。
(兆域) 墓所。○〔周〕「掌二公墓之地一、辨二其ーー一」。
(壇域) かぎり。○〔淮〕「獨不レ離二其ーー一」。
(寰域) 宇宙間の義、又、郛內。○〔江淹〕「ーー之治未レ興」。
(墟域) 古昔ありし家屋、又、都城の地どり。○〔郭璞〕「成周之ーー」。「ー一」。
(封域) 國の界、又、くに。○〔史〕「諸侯各守二其ー一」。
(絕域) 遠く隔たりたる國。○〔漢〕「州郡縣吏民有下可レ爲二將相一使中ーー上者」。
(日域) 東のはて、或は、遠き處。○〔漢〕「西獻二月窟一東震二ーー一」。「際蟠土」。
(月域) 西のはて、又、遠き國。○〔齊〕「ーー來賓、日」
(淨域) 汚れのなき場所、即ち、彌陀の淨土。○〔南〕「先生已生二彌陀ーー一矣」。
(里域) 邑里の境。○〔管〕「ーー、不レ可二以横通一」。
(邊域) 邊際の土地。○〔陸雲〕「或、生二羌狄一或、在二ーー一」。「ーー」。
(圀域) 圀內を云ふ。○〔崔駰〕「愛叶二台極一、妥二平ーー一」。
(萬域) 萬邦に同じ。○〔曹植〕「翱二翔ーー一」。
(靜域) ものづかなる處、又、寺。○〔李群玉〕「松-聲-掃二白-月-霽-夜來二ーー一」。
(牛馬域) 牛馬の居る處、(いやしみていふ)。○〔漢〕「長二於平-野ーー之ー一」。
(土域) 國內を云ふ。○〔史〕「賞及二牛馬一、恩肥二ーー中一」。
(邦域) 國內。○〔論〕「且在二ーー之中一矣」。
(鞠域) 窟室の如き苦しき居處。○〔漢〕使レ居二ーー一。
(異域) 外國を云ふ。○〔後漢〕「立二功ーー一以取二封-侯一」。「ー既賓」。
(殊域) 前に同じ。○〔詩〕百-揆時序、聽-斷以レ情ーー。
(遠域) 前に同じ。○〔晉〕「狐-州ーー、首-尾多-難」。
(遐域) 前に同じ。○〔宋〕「夕惕永念、心馳二ーー一」。
(彌域) 土地の區界。○〔晉〕「判二山-河而考二ーー一」。
(塋域) 墓所をいふ。○〔晉〕「更爲二ーー制-度一耳」。
(區域) 土地の區畫、又一國內を云ふ。○〔晉〕「陰-教洽二于宮-闈一、淑-譽騰二于ーー一」。

【埱】チヨク、トク。丑玉切 沃
けもののありく道。

【埻】ホ、ブ。薄故切 遇
船の出入する所、ふなば、はさば、又、貨物を籠め積みて、商人の舟を泊す者に販ぐ所。

【埦】淤に同じ。

【埡】ヰ、ウ。於五切 麌
一隖、又は塢、碼に作る。小さき土手、(小障)、一説に、小さきとろ、(庫城)。

【埡】ヰ、ウ。烏故切 遇
原野に人家のあつまりたる處、むら。

【埢】ケン。居轉切 銑
つかの土、(冢土)。

【埢】ケン。古倦切 霰
かぎり、(限)、まがる、(曲)。

【埢】ケン、コン。驅圓切 元
まろきかき、(圓牆)、又、まがれるかき、(曲牆)、又、まろくまがれる貌にいふ字。○〔揚雄〕「登-降峛-崺、單ーー垣兮」。

【埣】サイ、セ。蘇對切 隊
黏らざる土、かれつち。

【埣】ソツ、ソチ。蘇骨切 月
土くづれ落つ。

【埤】ヒ、ビ。頻彌切 支
㊀つく、(附)、ます、(增)、あつくす、(厚)、おぎなふ、(補)。○〔詩〕「政-事一ー二益我一」。
㊁低き牆、かき。○〔杜甫〕「披-垣竹ーー「梧十-尋」。

【埤】ヒ、ビ。部比切 紙
㊀百畝の田をいふ。
㊁下くして濕りけのある地。○〔國〕「松-柏不レ生レー」。

【埤】ヘイ、ハイ。匹計切 霽
とろのついぢ、(女牆)、陴堄、俾に同じ。

【埥】セイ、シヤウ。七盈切 庚
㊀靑くさびたる土。㊁埩に同じ。

【埦】ヲン。鄔管切 旱
小さきさかづき、盌、甇、椀に同じ。

【堁】ク、ゴ。忌遇切 遇
つゝみ、(堤塘)。

【埨】リン。縷尹切 軫
なかのつち、(壟土)。

【埨】ロン。盧困切 慁
おとしあな。

【埩】サウ、ジヤウ。側莖切 庚
地を理む、又、たがへす、(耕)。

【埪】コウ、ク。苦紅切 東
ひつぎ、又、ひむろ、(龕)。

【埫】チヨウ、チユ。丑勇切 腫
安からざる貌に用ふる字、やすからず、(ー塎)。

【堺】埤に同じ。

【塔】タフ、ドフ。託合切 合
㊀物の落つる聲。㊁累なる土。

【埭】タイ、ダイ。侍戴切 隊
ー通じて碌に同る。
土を以て河水を堰ぎたる處、ゐせき、(堰)、即ち、官より出張して舟船の往來の税を收むる爲めに設けたる所、其の兩岸に轉軸を樹て、過ぐる舟の尾に綆か繫け、或は、人或は、牛もて軸を推し之を輓きて前む。○〔晉中興書〕「以二牛-車一牽レー、取二其税一」。
(堰埭) 舟の通行税を取るゐせき。○〔唐〕「江淮ーー」。
(津埭) 海舶の繫ぎ場と河舟のとめ場、轉じて、舟つき。○〔顏子眞〕「殄二過ーー一」。

【埮】タン、トン。吐濫切 勘
ひらたくして長き地。

【埮】タン、ドン。徒甘切 覃
かめの屬、もたひ、俗に壜に作る。

【埯】エン。衣檢切 琰
㊀土もて物を覆ふ、おほふ。
㊁坑合ふの窊、あな。

【埯】アン、オン。鄔感切 感
小さき坑。

【埰】サイ。倉代切 隊
領分の土地、ちぎやう、（采地）。

【埰】サイ。此宰切 賄
つか、（塚）。○〔揚雄〕「冢或謂二之一一」。

【埸】チヤウ。仲良切 陽
㊀場に同じ、神をまつるに設けたる道。
㊁耕さゞる田、又、一說に、穀を治むる田。

【埸】チヤウ。知亮切 漾
沙の墳起せる貌にいふ字、うごもつ。

【埱】シユク、ソク。昌六切 屋
㊀氣の土より發するにいふ字、むしのぼる。
㊁始に同じ、はじめ、はじむ、はじまる。

【埲】ホウ、プ。補孔切 董
塵の起つ貌にいふ字、ほこりたつ。

【埳】坎に同じ。○〔莊〕「一井之蛙」。

【埴】シヨク、ジキ。丞職切 職
埴に作る、ねばつち、はに、（黏土）。○〔書〕「厥土赤一墳」。
〔摶埴〕ねばつちをうつこと、又、陶工。○〔周〕「一一之工二人」。
〔擿埴〕瞽者の杖もて地をうちながら試み行くにいふ語。○〔揚雄〕「一一索レ塗冥行而已」。
〔治埴〕陶器を造ること。○〔莊〕「陶者曰、我善一レ一」。

【埵】タ。都果切 哿
かたきつち、（堅土）。

【埶】ゲイ、ゲ。倪制切 霽
藝に同じ、うう、（種）、又、わざ、（才技）。

【埶】セイ、セ。始制切 霽
勢に同じ。○〔漢〕「秦得二百二、地一一便利」。

【執】シフ。之入切 緝
㊀とる。
（い）手に取る、もつ、（持）。○〔詩〕「左手一レ籥」。
（ろ）保ちて失はず、まもる、（守）。○〔書〕「允一二厥中一」。
（は）さばく、はからふ、（處）。○〔禮〕「請誦二其所レ聞、吾子自一焉」。
（に）あつかふ、つかさどる、（掌）。○〔西溪叢話〕「一二金革一以禦二非常一」。
（ほ）閉かしめず、ふさぐ、（塞）。○〔左〕「願以閉二一讒慝之口一」。
（へ）めし捕ろ、とらふ、（拘）。○〔孟〕「一レ之而已」。
（と）解けず、むすぶ、（結）。○〔國〕「又與二大國一一レ讎」。
㊁とも、（友）。
（い）父の同志の者。○〔禮〕「見二父之一一、不レ問不二敢對一」。
（ろ）己れと同志の者。○〔潘岳〕「慘爾其傷、念二我良一一一」。
㊂藝に通ず。○〔淮〕「一除之歲」。
㊃慹に同じ、おそる。○〔漢〕「豪强一一服」。
㊄待に同じ、もてなす。○〔荀〕「貌一一之士」。
〔固執〕かたく守る。○〔禮〕「誠レ之者、擇レ善而一レ一之者也」。
〔捕執〕召し捕ふ。○〔禮〕「愼二罪邪一、務二一一一」。
〔秉執〕○〔周、註〕「柄所二一一以起レ事者」。
〔虜執〕主ひたげ捕らふ。○〔左〕「今奮焉震怒、一二一使臣一、則吳知レ所レ備矣」。
〔拘執〕召し捕る。○〔後漢〕「遂見二一一一十餘」。
〔幽執〕召し捕りて牢などにおしこむ。○〔吳〕「身不レ免二於一一一」。「可二悲傷一」。
〔禁執〕前に同じ。○〔梁武帝〕「老人皆年一一大」。
〔友執〕ともたち。○〔晉〕「導與二元帝一契同二一一一」。
〔朋執〕ともたち。○〔盧思道〕「內無二怙恃一、外寡二一一一」。

【場】エキ、ヤク。夷益切 陌
㊀田の畔界、くろ、あぜ。○〔詩〕「疆一翼々」。
㊁くにざかひ、（邊境）。○〔左〕「鄭人怒二君之疆一一」。
〔境場〕國ざかひ。○〔穀〕「聘弓鍭矢不レ出二一一一」。
〔郊場〕前に同じ。○〔應瑒奕勢〕「雲合星羅、侵二偪一一一」。
〔邊場〕前に同じ。○〔劉允〕「偃二干戈於一一一」。

【培】ハイ、ベ。蒲枚切 灰
㊀土を被ひ益す、土を被ひ益して養ふ、ます、やしなふ、つちかふ。○〔中庸〕「栽者一レ之」。
㊁瓦の未だ燒かざるもの。
㊂つか、（封埒）。
〔饒培〕こやしやしなふ。○〔韓愈〕「楚壤獲二一一一」。
〔耘培〕くさぎりつちかふ、又、耕作の義にもいふ語。○〔歐陽修〕「日夕勞二一一一」。

【培】ホウ、プ。薄口切 有
つゝみ、（隄）、又、小さき阜。○〔國〕「趙簡子使二尹鐸爲二晉陽一、曰、必墮二其壘一一一」。

【培】ハイ、薄亥切 賄 ホク、鼻墨切 職
バイ。ボク。
かさなる、かさぬ、（重）、又、そむく、（陪）。○〔莊〕「而後乃今一レ風」。

【基】キ。居之切 支
㊀もとゐ。
（い）物事の根據、物事の起始、おこり、よりどころ、ねもと、はじめ、もと。○〔詩〕「溫々恭人、維德之一」。
（ろ）事業、わざ。○〔淮〕「建以爲レ一」。
（は）建造物の下趾、どだい。○〔詩〕「自レ堂徂レ一」。
㊁もとゐとなす、もとゐす、もとづく、又、はかる、（經）。○詩「夙夜一レ命」。
㊂はじまる、はじむ、又、まうく、（設）。○〔國〕「一レ德十五而始平、一レ禍十五其不レ濟乎」。
㊃田を耕すに用ふる具、すき。○〔孟〕「雖レ有二鎡一一、不レ如レ待レ時」。
〔國基〕國を維持する根本。○〔左〕「仲尼謂二子產一、於二是行一也是以爲二一一一矣」。
〔福基〕さいはひの起こる本。○〔南〕「恭敬撙節、一之一也」。
〔大基〕大いなるもとゐ、又、帝王の事業。○〔漢〕「陛下詳覽二得失盛衰之效一、以定二一一一」。
〔洪基〕前に同じ。○〔王融〕「朕獲纂二一一一、思弘二至道一」。
〔開基〕もとゐをおこす、又、はじむ。○〔景福殿賦〕「肇二天地一以一レ一」。
〔肇基〕はじめてもとゐを開く、又、はじめ設く。○〔書〕「至二于太王一、一一二王迹一」。
〔身基〕我が身の世に立つもとゐ。○〔左〕「禮身之幹也、敬一之一也」。
〔弘基〕大いなるもとゐ。○〔晉〕「斯雍熙之至美、王者之一一也」。
〔樹基〕もとゐを起こす。○〔晉〕「元帝一二一淮海一、百度權輿、夢二想群材一、共康二庶績一」。

〔乾基〕帝王の事業。○〔晉〕「圖二崇ー・ー一、篡二成先・志一」。
〔門基〕家のもとゐ。○〔南〕「此兒必荷二ー・ー一」。
〔舊基〕古るき土臺。○〔溥〕「覩二故・城ー・ー一、宮・宰以下與二百・姓一雜居上」。「ー蕪・梧之野一」。
〔盤基〕わだかまり立つ。○〔水經、註〕「九・疑・由ー二」。
〔元基〕もとゐ。○〔景福殿賦〕「大哉惟魏、世有二哲・聖一、武創二ー・ー一」。「立」本、兆二乎先・代一」。
〔創基〕もとゐをはじむ、又、はじむ。○〔子貢〕「ーレー

【𡋯】臺に同じ。

【埻】ジュン。之尹切 軫
ゆみのまと（射的）。

【埻】シュン、ジュン。朱潤切 震
かされたるつち（壘土）。

【埵】タ、ダ。徒臥切 箇
あづち（射堋）。

【埻】タイ、テ。都回切 灰
土を塗りて覆ふところのもの。

【埼】キ、ギ。渠宜切 支 渠希切
國 或は碕、崎、隑に作る。きしのくま、又、さき（岸頭）。○〔司馬相如〕「觸二穹・石一激二ー・堆一」。

【埽】サウ、ソウ。蘇老切 皓 先到切 號
〇一 はらふ。
（い）帚もて地を拭ふ。○〔周〕「掌二ー一門・庭一」。
（ろ）汙穢のものを去る、のぞく（除）。○〔禮〕「疾・病内・外皆ー」。
（は）盜寇を退治し、兇邪を追ひ去りぞくるなどにもいふ字。○〔後漢〕「電二ー群・孽一」。

〇二 竹と木とにて梁簀を作り、柳の枝葉に土を和してもて其の中に實てたるものにて成りたる岸。○〔康〕「隄岸曰レーー、竹・木爲レ枋、柳實二其中一、和レ土以捍レ水、今黃・河之役用レ之」。
〔灑埽〕す、ぎはらふ。○〔詩〕「ーニーー穹・窒一」。
〔却埽〕志りぞけはらふ。○〔陳〕「恆閉レ門、ー・ー無レ所二交・遊一」。
〔汎埽〕前に同じ。○〔唐〕「廷・宇不ニーー一、樂・器塵「蠹一」。
〔如埽〕はらふが如く奇麗にして塵一つ程も無き貌に云ふ語。○〔湘山野錄〕「遙望二碧天一淨ーレー」。
〔拔埽〕ひらきはらふ。○〔図〕「ーニ・ー凶・黨一、收ニ入財・賄一」。
〔清埽〕きよめはらふ。○〔魏〕「ー・ー所レ災之處」。
〔拜埽〕墓參りを云ふ。○〔北〕「託以二ー・ー一求レ歸」。

【埾】シュ、ズ。才遇切 遇
土を積む、又、其のもの、あづちなど、又、きづく（築）。

【埿】デイ、ナイ。奴低切 齊 乃計切 霽
泥に同じ、ひぢりこ。

【埿】ハン、ベン。蒲鑑切 陷
濫に同じ、ゆるきごろ（淖）。

【堀】コツ、コチ。苦骨切 月
窟に同じ、あな（孔穴）。○〔左〕「吳公子光、伏二甲于ー・室一而享レ王」。

【堀】クツ、コチ。具物切 物
地を穿つ、ほる。○〔宋玉〕「ーレ堁揚レ塵」。

【堁】クワ。苦臥切 箇
〇一 ちり、ほこり、又、塵の起こる貌にいふ字。○〔淮〕「揚レー而弭レ塵」。
〇二 ひ（火）。○〔揚雄〕「ー火也」。

【堁】クワ。苦果切 哿
前條の〇一に同じ。

【堁】クワイ、ケ。窺待切 隊
〇一 前條に同じ。〇二 草器、あじか。

【堂】古文、坣 タウ、ダウ。得郎切 陽
〇一 高く顯はれたる家屋の義、東西の廂なきもの、昔は、陽に向かひて構へ、位階の高下に依りて、土臺の高さを異にせりといふ、（天子は九尺、諸侯は七尺、大夫は五尺、士は三尺）人つれに起臥せず、物つれに納め置かず、會見集合に用ひし處、おもてごてん、おもてざしき、おほひろま、との、正寢。○〔詩〕「路二彼公ー一」、「稱二彼兕・觥一」。
〇二 轉じて官府の執務する家屋、神佛を奉祀する家屋、衆人の集會する家屋、又、總べて他より棟高く建てたる家屋にして廂なきものにいふ字。○〔唐〕「議二事于門・下之政・事ー一」。
〇三 時として住家、居室の義にいふ字。○〔老〕「金・玉滿レー」。
〇四 たかし（高）。○〔西京賦〕「刊レ層平レー」。
〇五 威儀狀態の整ひたる貌にいふ字、たゞし（正）、又さかんなり（盛）。○〔孫〕「勿レ擊二ー・ー之陣一、勿レ邀二正・々之旗一」。
〇六 山のひろくして平かなる處。○〔詩〕「終・南何有、有レ紀有レー」。
〔廟堂〕靈屋の内と正殿の上との義、轉じて、朝廷、又、政府。○〔管〕「抱レ蜀不レ言而、ー・ー既修」。
〔北堂〕北の方にある高き家、卽ち、母の起臥するところ、轉じて、母の稱。○〔韓愈〕「主婦治二ー・ー一、膳・服適二親・疎一」。
〔明堂〕昔王者の諸侯を朝參せしめしごてん。○〔禮〕「昔者周・公朝二諸侯於ー・ー之位一」。

〔高堂〕たかきもや、家屋。○〔漢〕「常坐二ー・ー一施二絳・紗一」。
〔玉堂〕玉をちりばめ飾りたる御殿。○〔漢〕「揖二ー・ー之盛一、登二天・樹之重一」。
〔後堂〕奥ざしき。○〔漢〕「禹將レ崇、入二ー・ー一飲・食」。
〔深堂〕前に同じ。○〔漢〕「倡・謳妓・樂列二乎ー・ー一」。
〔講堂〕講釋又説教などの席に用ふる室。○〔漢〕「親御二ー・ー一、命二皇太子諸・王一說レ經」。
〔孔堂〕孔子の門といふに同じ。○〔梁昭明太子〕「冋升二ー・ー一」。
〔坳堂〕堂の凹みてある處。○〔莊〕「覆二杯・水于ー・ー之上一、則芥爲二之舟一」。
〔草堂〕茅ふきの粗末なる家。○〔北山移文〕「鍾・山之英、ー・ー之靈」。
〔書堂〕書を讀み物を書くに用ふる部屋。○〔廬山赤〕「李白ー・ー、在二五・老峰下一」。
〔空堂〕人なき家。○〔阮籍〕「徘二徊ー・ー上一、切・怛莫二我知一」。
〔哄堂〕あまた打ち揃ひて笑ふ。○〔因話錄〕「御史有二臺院・殿院・察院一、一人知二雜事一、名二雜端一、三院上レ堂絕二言笑一、雜端大笑、而三・堂皆笑、遂謂二ー・ー一」。
〔琴堂〕あがたづかさ。○〔呂氏春秋〕「宓子賤鳴レ琴而單・父治、故曰二ー・ー一」。
〔雁堂〕佛堂を云ふ。○〔釋氏要覽〕「毗・舍・離爲レ佛作レ堂、形如二雁字一、故名二ー・ー一」。
〔室堂〕家屋のうち。○〔禮〕「斂二枕・簟一灑二掃ー・ー一」。
〔朝堂〕朝廷のこと。○〔漢〕「乃並集二ー・ー一、奉レ觴上レ壽」。
〔祠堂〕神佛のやしろ。○〔漢〕「爲立二ー・ー一、盡レ禮而去」。
〔殿堂〕高きごてん。○〔晉〕「應二對ー・ー一、奏・酬閒・雅」。
〔閑堂〕靜かなるざしき。○〔壯、註〕「靜ー・ー之裏」。
〔濕堂〕低き住居。○〔論衡〕「ー・ー不レ灑・處」。
〔巖堂〕いはや。○〔水經、註〕「ー・ー之內、每レ時見二神・人之往來一」。
〔豐堂〕大いなる堂。○〔洛陽伽藍記〕「ー・ー挺・起、高・門洞・開」。
〔天堂〕淨土。○〔洛陽伽藍記〕「往・觀者、以爲レ至二ー・ー一」。
〔青堂〕（植）合歡の別名。○〔埤雅〕「欲レ蠲二人之忿一、則贈レ之以二ー・ー一」。
〔瑤堂〕玉もて飾りたる家。○〔漢郊祀歌〕「偏觀眺二ー・ー一」。
〔茅堂〕わらや。○〔溫庭筠〕「ー・ー對二薇・蕨一」。
〔心堂〕こゝろざし。○〔盧同〕「爽・氣盈二ー・ー一」。
〔禪堂〕寺。○〔沈佺期〕「忍・睡臨レ樓、ー・ー枕レ江」。

（黌堂） 學舍。○〔余靖〕「延二開一・一、以登二師・儒一局列二校・室一、以來二雋・秀一」。
（塾堂） 前に同じ。 〔余堂〕「閭有二一・一、巷有二校・室一」。 「上、孩・兒更共誰」。
（萱堂） 北堂の解に同じ。○〔葉夢得〕「白・髮一・一」。
（梵堂） 禪堂の解に同じ。○〔華嚴經、疏〕「梵西・方國名、佛自二西・域一來、故曰二一・一」。
（黄堂） 郡のつかさの居る室。○〔演繁露〕「春・中・君子假・君之地也、數失・火、以二雌・黄一塗レ之、乃止故名」。

【堄】ゲイ、ガイ。研計切 霽 吾禮切 薺 箭眼を開きて城下を窺ひ見る所を設けたる城上のひめがき（女牆）。○〔王維〕「城・烏揀一・一曉、宮・井轆・轤聲」。

【堅】ケン。經天切 先
㊀かたし。
（い）破れかたし、動かしかたし、變じかたし。○〔管〕「聖・君設二度・量一、置二儀・法一如二天・地之一一」。
（ろ）充實してあり。○〔呂氏春秋〕「其穀不レ一」。
（は）つよし（强）、たけし（悍）。○〔陳帳道〕「其人悍一、恃レ氣尙レ力」。
㊁かたき所、又、かたきもの。○〔鹽鐵論〕「消レ一釋レ石」。
㊃かたくなる、かたまる、又、かたむ。○〔戰〕「三・晉相親相一」。
㊃ひさし（久）、ながし（長）。○〔舊唐〕「儔・宗誠曰、敬服二誠・辭一、永一茂レ業」。
（攻堅） かたきものを取り扱ふ、又、つよき敵をせむ。○〔晉〕「一レ一蹈レ險三・十餘・戰」。
（乘堅） 固くこしらへたる車、又、きたひよき鞍などに身を載するにいふ語。○〔漢〕「一レ一策レ肥」。
（鑽堅） 固きをきるといふとにて學を攻め道を求むる意に云ふ語。○〔論〕「一レ之彌一」。
（被堅） 甲冑を著くると。○〔漢〕「一レ一執レ銳匽レ兵息レ民」。
（中堅） 大將の居る中軍。○〔漢〕「與二敢・死者三・千・人一、衝二其一・一」。
（貞堅） たたしくしてかたし。○〔舊唐〕「一・一表レ志」。
（確堅） 金石の如きかたきものをとぐ。○〔淮〕「攻レ大一レ一莫二能與爭一」。
（白堅） 石のかたきは觸れて知るを得、石の白きは見て知るを得、されはかたきをいへば色の白きを意味せず白きを說けば石のかたきを意味せず、ゆゑに白石は石にあらずと、古昔戰國時代の公孫龍辯士が說きたるより無理なる理解をなすとに借りいふ語。○〔莊〕「目見二其一一、不レ見二其一一」。
（蒸堅） ちやうぶにきづく。○〔詩、箋〕「一・一以爲レ塀」。
（深堅） かろぐしからずしてかたきと。○〔史〕「守レ城一・一、招レ之不レ來、麾レ之不レ去」。
（陷堅） かたきいくさを破る。○〔史〕「常一レ一破レ陣」。
（排堅） つよき敵をせめやぶる。○〔宋〕「一レ一陷・陣、氣・力絕レ人」。
（摧堅） 前に同じ。○〔梁〕「一レ一覆レ銳」。
（比堅） かたきをくらぶ。○〔北〕「志・業與二金・石一一」。
（冐堅） かたき敵をものともせず進む。○〔舊唐〕「一レ一而衝レ之」。
（鐵堅） 鐵の如くかたく守る。○〔杜本〕「爲レ道有レ心如二一・一」。
（絕堅） 至極かたきと。○〔管〕「時至而擧レ兵、一・一而攻レ國」。
（釋堅） 强き敵を避く。○〔管〕「釋レ實而攻レ虛、一レ一而攻レ脆」。
（剛堅） こはきと。○〔管〕「彊・力一・一」。
（兩堅） 二方ながらかたきもの。○〔淮〕「一・一不レ能二相和一」。
（牢堅） かたきと。○〔論衡〕「一・一不レ可二復變一」。
（操堅） かたく守る。○〔東方朔〕「一愈一而不レ衰」。
（磷堅） かたきものを摩りて薄くす。○〔韓子見〕「未レ足レ一二其一一」。
（窮益堅） 困窮に陷りては挫けず、益其の志をかたく守る。○〔王勃〕「寧知白首之心、一且一、不レ墜二青雲之志一」。

【堆】タイ、テ。都回切 灰 一に、碓に作る。
㊀盛りあがりて高し、積もりて高し、うづだかし。○〔劉向〕「陵魁一以蔽レ視兮」。
㊁うづだかき處、をか（阜）。○〔藥州記〕「有二土一一、高五・丈、生二細・竹一」。
㊂おく（舍）。○〔戰〕「鍾・期一レ琴」。
（培堆） 岡の如く高く積もる、又、をか。○〔王安石〕「堰一・株臨レ路雪一・一」。
（阿濫堆） （い）（動）鳥の名。○〔譚賓錄〕「山有レ鳥、曰二一・一・一」。（ろ）北の鳥の聲を摸して唐の玄宗の作りたる曲の名。○〔張佑〕「村笛猶吹二一・一・一」。
（打灰堆） 吳の國にて元日の曉に婢僕の杖もて壤を打ちつゝ、祝ひて利市あらんとを祈ると。

【堇】キン、ゴン。渠斤切 文 堇（すみれ）は艸に从ふ、堇の廾に从ふと殊なり。
㊀ねばつち（黏土）。○〔五代〕「劉・守・光圍二滄・州一、城・中雜二食一・塊一」。
㊁とき（時）。○〔管〕「修二隄水・土一、以待二乎天一・一」。

【墐】キン、ゴン。渠吝切 震
㊀つちぬる（塗）。
㊁僅、勵に通じ用ふ、わづか（少）。○〔漢〕「豫・章出二黃・金一、然一・一物之所レ有」。

【堈】カウ。居郎切 陽 みづがめ、かめ（甕）、亦、甌に作る。

【堉】イク、ヰク。余六切 屋 〔說文〕以二其能生二長萬・物一、故从レ育从レ土。 草木などの能く生長する土地、卽ち、肥えて居る土地。

【堊】アク。遏各切 藥 ヲ、烏故切 遇
㊀いろいろの異なれる色を帶ぶる土、いろつち。○〔山海經〕「葱・聾之山、其中大谷多二白一・黑・青・黃一・一」。
㊁特に、白き色を帶ぶる土、しらつち、屋壁などをぬるに用ふるもの（しっくひ、石灰などをもいふ）。○〔山海經〕「大・次之山、其陽多レ一」。
㊂ごろ（堊泥）。○〔莊〕「盡レ一而鼻不レ傷」。
㊃先づ泥を塗り次にいろつちを塗る、ぬる、又、つぐ（亞）、總べて、ぬり飾るにいふ字。○〔周〕「守・祧黝二一之一」。
㊄ぬり飾りたる壁、又、墻。○〔蘇轍〕「臺・觀飛・湧、丹・一炳・煥」。
㊅又、ぬらざる壁、又、墻。○〔禮〕「三・年之喪廬二一・室之中一」。
（素堊） しらかべ。○〔後漢〕「樓閣相接、丹青一・一」。
（赭堊） 赤くぬりたる壁。○〔宋〕「畫易宮・殿・繚・繪、以二一・一」。

【堋】ホウ。逋鄧切 徑
㊀喪葬に土を下すに云ふ字、はうむる、うづむ。○〔左〕「鄭簡・公葬、司・墓之室、有二當レ道者一、毀レ之則朝而一、不レ毀則日中而一」。
㊁振るひ動く貌にいふ字。

【堋】ヒヨウ、ボウ。披冰切 ホウ、蒲登切 蒸
㊀あづち（射埒）。○〔庾信〕「轉レ箭初調レ筈、橫レ弓先望レ一」。
㊁江水をふさぎて灌漑に便にする處、「ゐせき」。
㊂牆を削りて其の土のおつる聲。

【堌】コ、ク。公悟切 遇 ふるき家。○〔山東考古錄〕「曹・縣有二冉一・一、乃穰・侯魏・冉家、今以爲二仲・弓一云」。

【埜】ヤ。以者切 馬 ゆるきごろ（泥淖）。

【[illegible]】埴に同じ。

九畫

【堗】トツ、ドチ。陀沒切 月 竈の窻、けむりだし、一に突に作る。

【堘】シヨウ、ジヨウ。神陵切 蒸 田の中の畦、うね、畻、塖、塍に同じ。

【⿰土柴】　サイ、ゼ。仕懈切　［卦］　俗の柴の字、叉、寨の本字、砦に同じ、さりで、叉、まがき、（藩落）。

【堙】　イン。伊眞切　［眞］　─陻に通ず。
㊀垔に同じ、ふさぐ、ふさがる、（塞）。○［左］「晏弱城二東陽一、而遂圍レ萊、寅甲─レ之、環レ城傳二于堞一」。
㊁土を積みて築きたる山、つちやま。○［公羊］「子反乘レ─而窺二宋城一」。
（距堙）城に登るに設けたるもの、土を漸次に高く積みて城に傳ふ。○［孫］「攻レ城之法、修二櫓轒轀一、具二器械一、三月而後成二─・─一」。
（慆─）まどひふさぐ。○［左］「煩手淫聲、─二─心耳一」。

【壼】　コン、戸昆切　［元］　クヮン、胡關切　［刪］　ゲン。切　つち（土）。

【堛】　ヒョク、フク。拍逼切　［職］　つちくれ（凷）。

【⿰土度】　ト、ヅ。動五切　［麌］　うづむ、叉、うづまる、（塡）、ふさぐ、叉、ふさがる（塞）。

【堝】　クヮ。古禾切　［歌］　金銀を熔かすに用ふる壺、るつぼ、（坩堝）。

【堞】　テフ、デフ。達協切　［葉］　─堞、塖、垜に作る。
城の上のものみのへい、ひめがき、（女牆）、叉、ひめがきを設く、きづく。○［左］「盧蒲嫳攻二崔氏一、崔氏─二其宮一而守レ之」。
（雉堞）丈の低き城のひめがき。○［宋］「皐城─・─亦偏設」。
（危堞）高き城。○［宋］「蠶武─・─、城然僅存」。
（樓堞）物見のやぐら、ひめがき。○［宋］「表二治城池一修二起─・─一」。
（陴堞）城上のひめがき。○［唐］「─・─完新」。
（城堞）ひめがき。○［宋］「官軍無二─・─一、毎以二兵木一爲レ柵」。
（高堞）高きしろのひめがき。○［謝靈運］「登二─・─一以詳覺知二吳爈之衰盛一」。
（粉堞）白塗りの壁。○［梁簡文帝］「平江含二─・─一」。

【⿰土威】　井。於歸切　［微］　きれたるつゝみ（決塘）。

【⿰土臿】　シフ。測入切　［緝］　重なりたる土（累土）。

【⿰土則】　ショク、シキ。察色切　［職］　さへぎる（遮）、ふさぐ（塞）。○［正法念經］「─滿充偪」。

【⿰土彖】　テン、デン。杜兗切　［銑］　耕して土を巻き合はす、たがへす、（耕合）。

【堠】　コウ、ク。胡遘切　［宥］　或は、堠に作り、通じて候に作る。
㊀里程を誌せる標、いちりづか、みちのつか、古昔支那のは壇ある封土にて五里に一つ、十里に二つありきといふ。○［韓愈］「堆─堆路傍─、一雙復一隻」。
㊁敵の動靜を探らんとて設けたる土堡、ものみ。○［漢］「遠二斥─・─一未二嘗遇一レ害」。
㊂封土、つか。○［舊唐］「立二石─・─一」。
（亭堠）（い）宿場に置く物見。○［後漢］「築二─・─一修二烽燧一」。（ろ）宿驛と一里づかと、轉じて道里にいふ語。○［駱賓王］「陽關─・─迂」。
（土堠）一里塚に同じ。○［周］「路側一里置二─・─一」「─」。
（石堠）石にて疊みたるつか。○［舊唐］「立二石─・─一志レ之、題曰二懷忠冢一」。
（烽堠）軍中にて合圖にのろしを打ち上ぐる爲めに設けたるものみのをか。○［唐］「鎭戍─・─」。
（標堠）みちのつか。○［天中記］「─・─二于道傍一」。
（關堠）關所に立てたる里程の冢。○［何承天］「累二上嚴立二─・─一、杜二嚴開蹊一」。
（里堠）みちのつか。○［王僧］「入レ山詣曲登陟、無レ復─・─一」。
（兵堠）ものみ。○［皮日休］「境上多二─・─一」。

【堡】　ハウ、ホウ。博抱切　［皓］　保に作る、或は、堢、堡に作る。
㊀つゝみ、どて、（隄）。
㊁土石を高く積みて敵を拒ぐに設けたる處、とりで、こゝろ。○［唐］「拔二連城─・─一」。
（屯堡）とりで。○［唐］「多下二─・─一」。
（城堡）前に同じ。○［唐］「據二要險一築二─・─一、斥地甚遠」。
（烽堡）のろしの用意をなしあるとりで。○［唐］「要地築二─・─一」。
（營堡）陣屋に同じ。○［宋］「令二河北一葺二于─・─一」。
（戰堡）前に同じ。○［蘇轍］「城外羅二─・─一」。

【堢】　堡に同じ。

【⿰土复】　フク、ホク。方六切　［屋］　⿱穴复に同じ、地に穴ほりて住まふ所、つちむろ、（窟）。

【堤】　シ、ジ。常支切　［支］　地の界に土を盛り上げてある處、つゝみ、うね、どて。

【堤】　テイ、タイ。都黎切　［齊］　物のすわりよき爲に下底に工夫を施したるところ。○［淮］「瓶甌有レ─」。

【堤】　テイ、タイ。典禮切　［薺］　─隄に通じ用ふ。
土を築きて水を遏ごむる處、つゝみ、叉、ふせぎ（防）。

【堥】　ホウ、ム。莫浮切　［尤］
㊀こだかき岡（小隴）。
㊁かはらけ（瓦器）。
㊂すやきのつぼ（瓦合）。○［周註］「五毒之藥、合二黃─一」。

【堥】　ブ、ム。微夫切　［虞］　前條の㊀に同じ。

【堦】　階に同じ。

【⿰土耑】　タ。都果切　［哿］　うごく（動）、一説に、垂るゝ貌にいふ字、たる。

【堧】　ゼン、ヂン。而宣切　［先］
㊀壖に同じ、河のほとりの地、かはばた、叉、城の旁の地、一説に城下の田。
㊁廟の外と垣の内との間のあき地、には。○［漢］「鼂錯穿二太上皇廟─垣一」。

【堧】　ダ、ナ。乃臥切　［箇］　沙まじりの地、いさご（沙土）。

【堧】　ダン、ナン。奴亂切　［翰］　水のほとり、かはばた。

【堨】　アツ、アチ。阿葛切　［曷］
㊀壁のすきま。
㊁土を築きて水を壅ぐもの、つゝみ、ゐせき。○［魏］「劉馥治二吳塘諸─一、以溉二稻田一」。

【堨】　ケツ、ゲチ。巨列切　［屑］　前條の㊁の解に同じ。○［唐］「渠─爲レ寇毀」。

〔隄堨〕つゝみ。○〔宋〕「民得レ立ニ――一、大以爲レ利」。
〔水堨〕ゐせき。○〔水經、註〕「建ニ層樓于隅阿一、下際ニ―・―一」。 「蒲・葦一」。
〔陂堨〕つゝみ。○〔杜預〕「――蔵決、皀・出變生ス」

【堨】アイ。於蓋切 泰
あをきつち、(靑土)。

【堌】コウ。 居鄧切 徑
みち、(道)。○〔儀〕「唯君命止ニ匛于――一」。

【堪】カン、枯含切 覃 ゴン。切
一通じて勘、戡、或に作る。
㊀爲し能ふ、當たり得、たのぶ、こらふ、たふ。○〔家語〕「子貢曰、吳-王爲レ人猛-暴、羣-人不レ―」。
㊁山の形の奇怪なる貌にいふ字、そばだつ。○〔揚雄〕「堪-當隱-倚」。
㊂地中の穴。
〔克堪〕よく其の任にたふ、たふ。○〔晉〕「補-吏之召、非レ所ニ―・―一」。
〔自堪〕たのぶ、我慢す。○〔晉〕「吾氣-力猶足ニ―一」。「―一」。

【堫】シン、ソン。 楚錦切 寢
つち、(土)、一說に淸く澄まざる貌にいふ字。

【堫】ソウ、祖叢 東 サウ、初江 江 スウ。切 ソウ。切
うう、(種)、一說に、其の中に內る、又、曰はく、耕さずしてうう。

【堲】俗の墾の字。

【堬】ユ。 容朱切 虞
つか、(冢)。○〔揚雄〕「秦晉之閒、冢謂ニ之―一」。

【堭】クワウ、ワウ。 胡光切 陽

㊀室の四方に壁なきもの、あひごの。○〔博雅〕「堂-―合-殿也」。
㊁隍と通じ用ふ、城下の池、ほり。○〔子夏易傳〕「城復ニ于――一」。

【堮】ガク。 逆各切 藥
鍔に作る、きし、きりぎし、がけ、(厓岸)。

【堯】ゲウ。 倪幺切 蕭 〔說文〕从ニ垚在ニ兀上一。
たかし、(高)、又、とほし、(遠)。○〔白虎通〕「―猶レ嶢也、嶢-嶢至-高貌」。
〔吠堯〕其の主に忠義なるにいふ語。○〔史〕ニ跖之狗―レ―、堯非ニ不仁一、狗固吠レ非ニ其主一。
〔纂堯〕堯帝の聖德を繼ぐと、國家の治安なるとにいふ語。○〔漢〕「皇矣漢-祖、―ニ―之緒一」。
〔堯々〕山などの至りて高きと。○〔釋名〕「毎-石――獨處而出見也」。
〔體堯〕堯帝の聖德を身に受け得ると。○〔崔寔〕「―レ―踏レ舜」。「爲レ君也」。
〔大堯〕堯帝を崇めて謂ひし語。○〔論〕「―哉―之
〔述堯〕帝堯の道をのべ布くと。○〔尙書旋璣鈐〕「―ニ―理レ世、平ニ制禮-樂一」。

【坐】古文の垂の字。

【堰】エン。於扇 霰 伊甸 霰 切 於建 阮 切
水の流れを塞ぐ處、ふせぎ、ゐせき、(埭)。○〔楊佺期〕「千-金-堰在ニ洛-陽城西一、――上有ニ穀-水-塢一」
〔海堰〕うみの潮をふせぎとむる處」 ○〔元〕「豪-民瀕ニ―・―一、專ニ舸-船一以射レ利」。
〔畦堰〕田の用水を塞ぎとむる處。○〔水經、註〕「雖ニ――溉-灌一、猶保ニ肅-田之稱一也」。「―」。
〔廢堰〕効用をなさゞるゐせき。○〔蘇軾〕「古-陂――
〔堤堰〕ゐせき、又、どて。○〔南〕「修ニ立――一」。
〔硬堰〕丈夫なるゐせき。○〔宋〕「以ニ軟-堰一爲レ名實作ニ―・―一」。

【報】ハウ、ホウ。 博號切 號
㊀受けたるに應じて返す、こたふ、(答)、かへす、(復)、むくゆ、(酬)。○〔詩〕「投レ我以ニ木-瓜一、―レ之以ニ瓊-琚一」。
㊁むくい。
(い)へんばう、たかへし、返禮、復讎。○〔曹鄴〕「豈望ニ白-環―一」。
(ろ)善を行へば福あり惡を爲せば災あると。○〔中論〕「況人-事之應――乎」。
㊂知らす、まうす、(白)、つぐ、(告)、又、返答、通知。○〔漢〕「無ニ文-書一口――」。
㊃あはす、(合)。○〔禮〕「下-殤小-功帶ニ澡-麻一、不レ絕レ本、詘而反以―レ之」。
㊄囚人の罪を論ずると、罪の判決を下すと。○〔漢〕「爰-書訊-鞫論――」。
㊅下として上のものに淫すると、漢の律にては、季父の妻を婬するとにいふ。○〔左〕「鄭文-公―ニ鄭-子之妃一、曰ニ陳-嬀一」。「報-葬者――虞」。○〔禮〕
㊆赴に同じ、いそぐ、急疾の意。
〔投報〕詩經の語より男女互に戀情を通ずるとにいふ語。○〔詩〕「―レ我以ニ木・桃一、―レ之以ニ瓊-瑤一」。
〔徧報〕施されたるものにあまねくむくゆ。○〔史〕「―下諸所ニ嘗見レ德者上」。
〔福報〕さいはひあるむくい。○〔史〕「夫造レ禍而求ニ其――一、詌淺而怨深」。
〔陽報〕あらはにくるむくい。○〔說苑〕「有ニ陰-德一者必有ニ―・―一」。
〔反報〕むくいをなす、又、むくい。○〔魏〕「無レ害ニ于身一、又何――焉」。
〔秋報〕秋の祭、新穀を神に奉ると、稻の熟せしは神の威德によるものとして。○〔詩、序〕「貝-耜―ニ―社-稷一」。「―焉」。
〔祈報〕いのる、又、まつる。○〔禮〕「祭有レ―焉、有レ
〔寵報〕あつくむくゆ。○〔左〕「不レ怒而以―ニ―之一」。
〔厚報〕前に同じ。○〔漢〕「嘗有レ德必――、有レ怨必以レ法滅レ之」。
〔顧報〕あはれみを掛けむくゆ。○〔左〕「君若―ニ―周-室一、施及寡-人一、以奬ニ天-忠一君之惠也」。
〔超報〕他のものよりこえてむくゆ。○〔晉〕「若不ニ――、無下以勸ニ狗功臣一慰中熊-羆之志上」。
〔啓報〕いひ開き。○〔吳〕「士大-夫方有ニ倒-懸之患一、故便振-狗不レ及ニ―・―一」。
〔饗報〕驅走して其の功德にむくゆ、又、神を祭りて其の功德にむくゆ。○〔晉〕「昭告ニ神-祇一、―ニ―功-德一」。
〔酬報〕むくゆ。○〔晉〕「名-位不レ同、本無ニ――之禮一」。
〔果報〕善惡に依りて禍福の來たると。○〔南〕「手-勅「曰、――不レ可レ不レ信」。
〔顯報〕あらはれたる、又、盛んなるむくい。○〔羅隱〕「事雖レ無ニ―・―一、理合レ有ニ除-功一」。
〔優報〕ゆたかなるむくい。○〔南〕「朝-議―ニ―之一」。
〔豐報〕前に同じ。○〔蘇軾〕「勞徵矣、不レ足ニ以望ニ―・―一」。「當ニ――一」。
〔仰報〕あふぎむくゆ。○〔北〕「若天哀ニ矜兒一、大――一」。
〔賞報〕褒美を賜ふと。○〔北〕「―・―過-優」。
〔諜報〕書簡にて知らせつぐ。○〔宋〕「還-蠼-蓄一ニ―瀘-事一」。
〔奏報〕下よりの上奏。○〔金〕「有ニ不-測――一」。
〔天報〕天然のむくい。○〔說苑〕「爲レ善者――以福」。「無ニ――一」。
〔鴈報〕かりの玉づさ、ふみ、手紙。○〔李商隱〕「歸-期
〔急報〕急速なる知らせ。○〔戴表元〕「――傳來」。
〔誤報〕あやまりの知らせ。○〔王逢〕「――迎レ鑾出ニ禁宮一」。
〔一飯報〕少し許りにても受けたる恩にむくいをなすとにいふ語。○〔後漢〕「切感ニ六-人――之――一」。
〔泥金報〕唐の故事より及第したる知らせにいふ語。○〔開天遺事〕「新-進士才及レ第、以ニ――帖子一附ニ家-書中一、用レ―登科之喜一」。

【報】ハウ、ホウ。 博毛切 豪
すゝむ、(進)。○〔周〕「禮有レ―、而樂有レ反」。

【堲】ショク、セキ。 在力切 職
㊀にくむ、(疾)。○〔書〕「―ニ讒-說殄レ行」。
㊁ともしびの燃えかす、もえさゝり、(燭頭燼)。○〔管〕「左-手秉レ燭、右-手折レ―」。
㊂土を燒きて已に熟したるもの。○〔禮〕「夏-后-氏――周」。

【堲】シツ、シチ。 子悉切 質
前條の㊀の解に同じ。

【墍】シ。疾之切 支
古文の塈の字、解六畫に詳かなり。

【堳】ビ、ミ。旻悲切 支
かこひの土手、かき、（壇埒）。

【場】チヤウ、直良切 陽　ヂヤウ。
（場は塲とは別なり、或は暘、塲に作る、俗には塲に作れり。）

㊀にはば。
（い）古昔、神を祭るため掃ひ淨めたる地面、轉じて、神佛を奉祀する地。〇〔史〕「諸-祠各增₂廣壇-｜｜₁」。〇〔詩〕「九-月築₂｜-圃₁」。
（ろ）禾を收むる圃、はたけ。
（は）平坦なる地。〇〔應瑒奕〕「雲-合星-羅、侵₂逼郊-｜｜₁」。
（に）區劃の設けある地。〇〔唐〕「鬪₂廣-｜｜₁羅₂兵三-萬₁」。
（ほ）總べて、ある物の存在する地、ある事の行はるゝ境、又は物事の發生地などにいふ字、たちば、なりばしよ、ところ。〇〔沈約〕「自₂中-智₁以-下、洎咸得₂以爲₁レ｜」。
㊁區節。〇〔宋〕「雜出₂六-題₁、分爲₂三-｜₁、每-｜體-制、一古一今」。「｜」。
㊂時期。〇〔王禹稱〕「紅-葉開時醉一｜」。
〔鹿場〕鹿の息ふ處。〇〔鮑照〕「不₂覩₁車-馬跡₁、但見₂鹿-｜｜₁」。
〔戰場〕たゝかひの場處。〇〔馘〕「綴レ甲屬レ力、効₂勝于｜-｜₁」。
〔文場〕士を登用する試驗處。〇〔劉孝綽〕「義-府｜-｜、詞-人髦-士」。
〔科場〕前に同じ。〇〔宋〕「博求₂俊彥於₂｜-｜₁」。
〔寇場〕敵の擊ち寄する處。〇〔唐〕「失レ洄則淮-南爲₂｜-｜₁」。
〔詞場〕詩文などを研究する處。〇〔王勃〕「直-轉高-驅、踐₂｜-｜之關-闕₁」。
〔壇場〕神を祭る處。〇〔史〕「增₂諸-祀｜-｜珪-幣₁」。

〔靈場〕神佛を奉祀するところ。〇〔李嶠〕「駐レ蹕降₂｜-｜₁」。
〔敵場〕敵地に同じ。〇〔晉〕「兵寡少深入₂｜-｜₁、甚以爲レ憂」。
〔戎場〕前に同じ。〇〔晉〕「長-沙勤レ王、擁₂旆｜-｜₁」。
〔陣場〕陣屋に同じ。〇〔北〕「從-征身殞₂｜-｜₁」。
〔馬場〕まきば。〇〔北〕「南-北千-里爲₂牧-地₁、今之｜-｜是也」。
〔獵場〕前に同じ。〇〔梁宣帝〕「牧-馬恣₂｜-｜₁」。
〔道場〕沙門道士などの道を修する處。〇〔白居易〕「紗籠燈-下｜-｜前」。
〔亭場〕宋時代の鹽を賣買するところ。〇〔宋〕「鬻レ鹽之地曰₂｜-｜₁」。
〔疆場〕葦などの茂り合ふ不地。〇〔宋〕「江-淮沙田｜-｜頃-畝、悉追正レ之」。
〔射場〕射術を習ふ處。〇〔拾遺記〕「開₂馬-埒｜-｜₁、「周-閣四-百-步」。
〔名場〕評判よきところ。〇〔南唐〕「卿早奮₂｜-｜₁」。
〔擁場〕賣買を獨占するところ。〇〔金〕「復-綏-德軍｜-｜、仍許₂就レ館市-易₁」。「｜-｜」。
〔擧場〕士を登用する試驗場。〇〔玉海〕「間-歲一開₂｜-｜、功名今-日媿₂劉-郎₁」。
〔翰墨場〕文學者の仲間。〇〔汪藻〕「轆昔追隨｜-｜之｜₁」。
〔無爲場〕自然の境遇を云ふ。〇〔王襃〕「恬-淡｜-｜-｜之｜₁」。「婆｜-｜之｜₁」。
〔術藝場〕文學を研究するところ。〇〔班固〕「婁₂｜-｜₁」。
〔選佛場〕釋氏の法筵を開きて戒を設くる處。〇〔傳燈錄〕「丹霞天-然-禪-師將レ應レ擧、道-遇₂一-禪-客₁、曰、選-官何₂如選-佛₁、霞曰、選-佛當-往₂何所₁、曰、江-西馬大-師出-世、此｜-｜-｜也」。

【場】シヤウ、ジヤウ。尸羊切 陽
つか、（垤）、一に曰はく、うきづか、（浮壤）。〇〔揚雄〕「蚍-蜉犂-鼠之場、謂₂之坻-｜₁」。

【堵】ト、ツ。董五切 麌
㊀宅舍の墻垣、かき。〇〔韓詩外傳〕「原-憲居₂環-｜之室₁、茨以₂蓬-蒿₁」。
㊁鐘磬などを懸くる物の名。〇〔周、註〕「凡編-鐘編-磬各、十-六-枚、半、懸レ之在₂一-簴₁、謂₂之｜₁」。

㊂畜へ積む貌にいふ字。〇〔莊〕「欲レ富就レ利、故滿如レ｜」。
〔如堵〕人の多く寄り集まりたる貌にいふ語。〇〔禮〕「孔子射₂於矍相之圃₁、蓋觀者₂如｜₁」。
〔環堵〕前に同じ。〇〔陶潛〕「｜-｜蕭-然、不レ蔽₂風-日₁」。
〔阿堵〕物を指していふ語、此のものといふに同じ。〇〔蘇軾〕「｜-｜不レ解レ醉」。
〔隨堵〕かき。〇〔西京賦〕「河-渭爲₂之波-盪₁、吳-嶽爲₂之｜-｜₁」。「故」。
〔安堵〕やすらかなること。〇〔史〕「吏-民皆｜-｜如レ故」。
〔完堵〕壞れぬ垣根。〇〔隋〕「家無₂｜-｜₁」。
〔周堵〕まはりの垣、又、まはり。〇〔沈約〕「連-房極-跡｜-｜如レ雲」。
〔橫堵〕橫さまにたふれて居る垣。〇〔孫樵〕「蜀-兵渦-闘、如レ傾₂｜-｜₁」。
〔粉堵〕ぬつくひもて塗りたる垣。〇〔杜牧〕「深-鎖入₂借-夢₁、月-色陣₂｜-｜₁」。

【堵】シヤ、時遮切 麻 ト、東徒切 虞 ザ。ツ。
城門の臺、又、うてな。

【墮】タ、ダ。徒禾切 歌
一至又瓶に作る。
いんちうち、（飛博戲）。〇〔梅堯臣〕「輕-浮賭勝各飛レ｜」。

【堷】アン、オン。烏感切 感
穴の中の埋めかくす處。〇〔管〕「瘞-｜所₂以使₂貧-民₁也」。

【墢】坺に同じ、又、墩に作る。

【堭】サウ。慈郎切 陽
臧に同じ、をさむ、（收藏）。

【堸】フウ、ボウ。符風切 東
蟲の巢、（蟲室）。

【塚】チヨウ、チユ。竹用切 宋

【堺】界に同じ。
いけのつゝみ、（池塘）、又、くろ、土堤、（塍埂）。

【墅】野に同じ。

【墐】シン。資辛切 眞
うろほふ、又、うろほひ、（潤澤）。

【隆】シユン。須閏切 震
峻、嶠に同じ、たかし、（高）、又、けはし、（險）。

十畫

【塈】チ、ヂ。直利切 寘
くだろ、又、おぼろ、（墊）。

【堙】岡に同じ。

【塉】セキ、ジヤク。秦昔切 陌　前歷切 錫
山の脊の岡、又、やせつち、（薄土）。〇〔抱朴子〕「處レ｜則勞勞則不レ學」。
〔埆塉〕やせち。〇〔系宮〕「地有₂｜-｜₁、川有₂殺-下₁」。
〔墝塉〕前に同じ。〇〔曾鞏〕「自銀₂瘠-牛₁理₂｜-｜₁」。
〔曠塉〕やせち。〇〔孔平仲〕「吾田雖₂｜-｜₁、餅-粥籬可レ給」。

【塳】リヨウ、リユ。鯵勇切 腫　良用切 宋
ボウ、モウ。蒙弄切 送
ぬろ、又、ごろ、（塗）。

【塊】クワイ、ケ。苦潰切 隊　苦會切 泰
㊀土壤の凝結したるもの、つちのかたまり、つちくれ、（墣）。〇〔左、晉

公子重耳出亡過レ衛、乞二食於野一、野人與二之—一。
❷轉じて、凝結したるもの、かたまり。○[宋]「鄧家巷婦、產二肉—三一」。
❸われ、(我)。○[楚辭]「—獨守二此無澤一兮」。
❹ひとり、(孑)。○[陸機]「—孤立而特峙、非二常音之所一レ緯」。
(土塊) つちくれ。○[齊民要術]「立春後——散上」。
(墝塊) 墝埆の土地。○[論衡]「去レ之百里、不レ見二——一」。
(苫塊) 古昔父母の喪中には男子は中門の外、女子は中門の內に廬を構へてとまを席とし、つちくれを枕とするの義ありしより、轉じて、父母の喪あることに借りいふ語。○[儀禮]「凡喪居二倚廬一、寢レ苫枕レ—」。
(大塊) おほいなるつちくれ、又、地球。○[莊]「——載レ我以レ形、勞レ我以レ生」。
(銜塊) つちくれを口に含むこと、昔支那にて罪を謝ふに死を決せる意を示すときの仕方、轉じて、罪を謝ふことに借りいふ語。○[唐]「賈妃——請レ死、帝意阻乃止」。
(累塊) 重なりたるつちくれ。○[列]「其宮榭若二——積蘇一」。
(雨不破塊) あめしとやかにふりてつちくれをやぶらぬ、太平の象にいふ語。○[鹽鐵論]「太平之時、雨不レ—レ—、而一雨、必以レ夜」。
(遷塊) ちりとつちくれと。○[陳與義]「向來千萬峰、項細等二——一」。
(粘塊) ねばる、かたなる。○[蘇軾]「東池浮萍半——」「黃色」。
(石塊) いしころ。○[酉陽雜俎]「形似二——一赤」。
(磊塊) 前に同じ、又、平かならざるもの、義にいふ語。○[夢溪筆談]「入聲中合二轉換處、無二——一」。
(壘塊) 前に同じ、特に、心思の平穩ならざるにいふ語。○[世說]「胸中——故須二酒澆一レ之」。
(垤塊) 小さき岡。○[白居易]「——。雜木異草蔭二蘙其上一」。
(旱塊) 日でりに渴ひて乾きたるつちくれ。○[元稹]「——敲二牛蹄踔々一」。
(躓塊) つちくれにつまづく、轉じて、失敗を取りたることに借り用ふ。○[柳宗元]「陷レ泥——、常在二草野一」。
(韓盧逐塊) 韓盧(犬の名)のつちくれを追ひ掛くすること精神意氣を無用なる事に費すにいふ語。○[五燈會元]「直須二師子咬一レ人、莫レ學二———一」。

【塋】 エイ、ヤウ。于平切 [庚]
はうむりどころ、はか、(墓)。○[後漢]「修二家——一、開二神道一」。
(墳塋) はかば。○[潘岳]「思纏二綿于——一」。
(壠塋) 土を盛りて高く築きたる墓。○[水經註]「因レ山爲レ墳、——侈大」。
(先塋) 祖先の墓。○[過庭錄]「吾恐愚民致レ疑害二爾——一」。
(丘塋) はかのこと。○[潘岳]「退守二——一、杜レ門不二出遊一」。
(廬塋) 亡者に事へん爲めに墓の旁に構へたる草庵。○[方干]「才高登二上第一、孝極歿二——一」。
(孤塋) 無緣の亡者の墓處。○[黃滔]「野猿相聚叫二——一」。

【墷】 セイ、シヤウ。思營切 [庚]
あかき色にてかたき質の土、(赤剛土)、本墷に作り、又、埩に作る。

【塌】 タフ、トフ。託盍切 [合]　塌の字土に从ひ羽に从ふ、日に从ふにはあらず。
❶地の低下なるにいふ字、くだる、又、ひくし。
❷おつ、おとす、(墮)、又、たる。○[陳琳]「垂レ頭—レ翼」。
❸はじめて耕すをいふ、たがへす。○[王盤農書]「初耕曰レ—」。

【[月+坴]】 塍に同じ。○[西都賦]「溝——刻鏤」。

【塮】 セツ、セチ。先結切 [屑]。ソツ、ソチ。蘇骨切 [月]。
ほこり、(細塵)。

【塎】 ヨウ、ユウ。尹竦切 [腫]
やすからざる貌にいふ字。

【塏】 カイ、ケイ。苦亥切 [賄]
小高き地、高くして濕り少なき地。○[左]「請レ更二諸爽—者一」。
(爽塏) 小高くして四方の眺めよき地。○[梁簡文帝]「實惟——棲心之地」。
(勝塏) 風景のよき小高き地。○[唐]「子昂盛言二東都——可レ營二山林一」。
(塏々) 岡などの高き貌にいふ語。○[何景明]「山——以頹顏兮、野蕭條而無レ色」。
(幽塏) 靜かなる岡。○[王守仁]「披萊歷二風磴、移レ居喜二——一」。

【塐】 ソ、ス。蘇故切 [遇]　—通じて、素又は塑に作る。
土をこれて、人の容貌、又は、鬼神などの像に肖せつくる、つくる、又、其のつくりたるもの、でく。

【塑】 ソ。蘇故切 [遇]
前條に同じ。○[程子語錄]「明道終日端坐如二泥——人一、及レ接レ人、渾是一團和氣」。
(繪塑) 彩色したるでく。○[蘇舜欽]「——神靈雜、飛僭爪角獵」。

【塒】 シ、ジ。辰之切 [支]
ついぢを鑿りて雞を棲ましむる處、さぐら、とや、ねぐら、又、總べて鳥の棲む處。○[詩]「君子于レ役、雞棲レ于—一」。

【塓】 ベキ、ミヤク。莫狄切 [錫]
ぬる、(塗)。○[左]「圬人以レ時—レ館」。

【塔】 タフ、トフ。託合切 [合]　—一に墖に作る。
❶物の墮つる聲。
❷土石を積み累ねて、高くこしらへ上に火珠を置きたる「しやり」を藏むる處、方墳、そとば、さふば、其の制に級を設けたるものあり、級なきものあり、又、級あるものにても、其の級數にくさぐ〜あり、佛家の說に歸依して印度の建築を移し來たりたるもの。○[法華經]「諸佛滅後起二七寶—一、亦以二華香一供二養舍利一」。
❸佛殿に添へて建つる層級ある家屋。○[魏]「募二建宮宇一曰レ—、近稱二刹宇一」。
(雁塔) そとば、たふば。○[沈佺期]「——風霜古」。
(踊塔) ぬき立ちてある高き堂。○[梁簡文]「多寶——之瑞」。
(牙塔) 象のきばにて刻みたる堂。○[齊]「白檀像一軀、——二軀」。
(佛塔) 佛像を安んずる堂。○[南]「梁武帝改二造阿育王——一」。
(寶塔) 堂の尊稱。○[南]「內經——、高華堪二室千萬一」。
(廟塔) 佛像を安置する處。○[唐]「武后鑄二浮屠一立二——一」。
(經塔) 佛經を藏め置く高き佛堂。○[白帖]「豈非二秦前已有二——一」。
(層塔) 幾級もあるそとば、又、佛堂。○[元稹]「舍利開二——一、香爐占二小峯一」。

【塕】 ヲウ、ウ。烏孔切 [董]　烏公切 [東]
塵の起こる貌、又、風の聲にいふ字。○[宋玉]「庶人之風、——然起二于窮巷之間一」。

【[土+屖]】 墀に同じ。

【塖】 塍に同じ。

【塗】 ト、ヅ。同都切 [虞]
❶どろ、ひぢりこ、(泥)。○[書]「厥土惟——泥」。
❷みち。
(い)往來する所。○[潘岳]「啓二四——之廣阡一」。
(ろ)方向、地位。○[晉]「少仕二清——一」。
(は)行ふこと、ゐかた。○[易]「天下同レ歸而殊レ—」。

(に)條理。○〔晉〕「斯皆冥二踐義——一」。

㊂ぬる。

(い)擦りつく、なする。○〔揚雄〕「木摩而不レ彫、牆—而不レ畫」。

(ろ)揩抹す、すりけす、けす。○〔李義山〕「—二改淸廟生民詩一」。

(は)あなをとづ、ふさぐ、(杜、塞)。○〔書〕「惟其—墍茨」。

(に)あら壁を修飾す、かざる。○〔穀梁〕「臺榭不レ—」。

(ほ)けがす、(汚)。○〔莊〕「夷齊曰、周以—二吾身一、不レ如三避レ之以潔二吾行一」。

(へ)上に重ぬ、あつくす、(厚)。○〔禮〕「菆二—龍楯一以レ椁」。

㊃ぬられたる如くになる、ふさがる、けがる、まみる。○〔漢〕「肝腦—レ地」。

㊄あつき貌にいふ字、重れり、あつし。○〔楚辭〕「白露紛以——」。

(糊塗) はッきりとせざること、曖昧なること。○〔宋〕「太宗曰、端小事——、大事不二——一」。

(畫塗) 道路にゑがくこと、道路にゑがくは消えやすきものなるより物の消滅の早きにたぐへて謂ふ語。○〔王褒〕「忽若二篲氾——一」。

(銀塗) 白がねをぬり飾る。○〔吳均〕「長劍者玉具、短笛悉——」。

(墐塗) ねばつち、又、ぬる、ふさぐ。○〔蘇軾〕「——以塗レ之」。

(土塗) 泥に同じ。○〔蘇轍〕「陶二——一、鑿二崖石一、掘二淸泉一」。

(塲塗) 匈奴の語にて子といふ義。○〔漢〕「匈奴謂レ天爲二撐犁一、謂レ子爲二——一」。

(塈塗) ぬる。○〔北齊書〕「其本所レ住團焦、乃以レ石——之、留而不レ毀」。

(圖塗) ちり、又、どろ。○〔荀悅申鑒〕「衣裳服者不レ昧二——一、愛也」。

(榮塗) さかゆるみち。○〔眞德秀〕「——足二趨走一」。

(名塗) 評判を取る地位。○〔朱熹〕「——定何事」。

(幡塗) 幅のひろきみち。○〔蜀都賦〕「蓋二方レ軌之——一」。

(弱塗) 弱氣ある仕方。○〔梁肅〕「其文雄富出二于——一者也」。

(一塗) ひとすぢ。○〔宋〕「民忘二宋德一、雖レ非二——一」。

(二塗) ふたみち。○〔唐〕「惟邪正——」。

(情塗) こゝろの持ちかた。○〔宋〕「——捐隔」。

(國塗) 國家の方針。○〔南〕「——恍繆」。

(政塗) (い)政事のしかた。○〔梁〕「思弘二——一、莫レ知二津濟一」。(ろ)政事に與かる地位。○〔金〕「一登二——一、便多二坎壈一」。

(衢塗) みち。○〔荀〕「楊朱哭二——一」。

(世塗) 世の中のみち。○〔李白〕「——多二翻覆一」。

(客塗) たびぢ。○〔陸游〕「最是——秘絶處」。

(曠塗) ひろ〴〵したるみち、とほきみち。○〔韓愈〕「——絶嶮」。

(岐塗) 分かれみち、不分明なる條理。○〔孔穎達〕「——詭譎」。

(就塗) 出立す。○〔馬祖常〕「具レ食起——」。

(複塗) 高く掛かりたるみち、樓より樓に亘したる架廊の如きもの、稱。○〔沈約〕「——希二紫鄉一」。

(廻塗) まわりたるみち。○〔魏都賦〕「綿々——」。

(恭塗) ちまた。○〔蘇洵〕「西人聚觀二于——一」。

(陷塗) 泥の中に落ち入る、墮落の境遇にあること。○〔柳宗元〕「——猶レ漾兮、榮若二繊縞一」。

(泥塗) (い)どろ。○〔杜甫〕「漁樵架二——一」。(ろ)恥かしき地位、賤しき境遇。○〔左〕「使二吾子辱在——一矣、武之過也」。(は)價値なき物の義に借りいふ語。○〔范仲淹〕「——二軒冕一」。

(豕負塗) 易の語より疑念を以て觀察するといふ語。○〔易〕「見二豕負—一、載二鬼一車一」。

【塗】ト、ヅ。徒故切 [遇]

みち、(途)。○〔張衡〕「雲師䨴以交集兮、凍雨沛其灑レ—」。

【塗】タ、ダ。直加切 [麻] 除駕切 [禡]

かざる、又、かざり、(飾)。

【塗】ト、ド。動五切 [麌]

水びたりの地、(濕地)、又、どろみち、(泥路)。○〔史〕「周二流天下一、還二復其所一、上至二昦天一、下薄二泥——一」。

(椒塗) 濕氣を防がん爲めに泥にたうがらしを和して壁などにぬる。○〔晉〕「石崇—レ屋以レ椒」。

【塘】タウ、ダウ。徒郞切 [陽] 唐に通じ作る。

土を長く高く築きて水の流れを止むるもの、つゝみ、どて。○〔錢塘志〕「曹華信立二防海——一、募二集土石一、一斛與二錢一千一」。

(池塘) いけのつゝみ。○〔南〕「夢見二惠連一、便得二——生二春草一之句一」。

(春塘) 堤草の春めきたること。○〔江淹〕「——秀色」。

(蓮塘) はすの植わりてある池のつゝみ。○〔畫苑〕「劉益作二——一、荷風花葉百態」。

(芳塘) 前に同じ。○〔謝朓〕「雨洗二花葉一、新泉漫二——一」。

【塙】カク。克角切 [覺]

土の高きをいふ、一說にかたきつち、(堅土)。

【塙】カウ、コウ。丘交切 [肴]

石の多き地、いしぢ、墽、墝、墼、並に同じ。

【塚】俗の冢の字。

【塛】リツ、リチ。力質切 [質]

ふさぐ、又、ふさがる、(塞)。

【塜】ホウ、ホ。蒲紅切 [東]

塳に同じ、塚と別なり。

【塝】ハウ、バウ。蒲浪切 [漾]

㊀地のかたはら、くろ、あぜ、(畦畔)。㊁平たき阜をいふ、(吳楚間の方語)。

【⿰土砦】俗の砦の字。

【塞】ソク。悉則切 [職]

㊀ふさぐ。

(い)とざす、○〔左〕「新作二南門一、書レ不レ時也、凡啓—從レ時」。

(ろ)みたす、(滿)、うづむ、(瘞)、おぎなふ、(補)。○〔晉〕「腹旁有二一孔一、常以レ絮—レ之」。

(は)防ぎ支ふ、通ぜず、行はしめず、絶ち止む、せく、又、へだつ、(隔)。○〔漢〕「河決可レ—」。

(に)ふさがる、㊀の義に同じ。

㊁閉づ、滿つ、又、通じ得ず、行はれず、せかる、又、へだゝる、ふさがる、志きらる、ふさがり、さゝはり。○〔莊〕「去二德之累一、達二道之—一」。

㊂國土山川の險阨なる處、かため、要害、卽ち、隣國との通路のふさがる義、一說に、城、郭、墻、塹をもいふ。○〔史〕「秦四——之國、披レ山帶レ渭」。

㊃運の惡しきこと、薄命。○〔北〕「雖三久滯二小官一、深體二通——一、無二孜々之望一、儒者以レ是尙レ焉」。

㊄月の辛の星宿にあること。○〔爾〕「月在レ庚曰レ窒、在レ辛曰レ—」。

㊅安んぜざる貌にいふ字。○〔揚雄〕「迹々屑々不レ安也、秦晉或謂二之——一」。

(障塞) さゝへふさぐ、さゝはりふさがること。○〔禮〕「導二濆開通一、塡レ路無レ有二——一」。

(閉塞) とぢふさがる、又、とざしふさぐ。○〔禮〕「天地不レ通、——而成レ冬」。

(責塞) わが役目のつくること。○〔漢〕「今王已出二吾——一矣」。

(蔽塞) おほひふさぐ、又、おほひふさがる。○〔漢〕「虛美薰レ心、實禍——」。

(滯塞) とゞこほりふさがる。○〔詩、疏〕「其水壅遏——」。

(壅塞) ふさぐ、又、ふさがる。○〔漢〕「擅二殺生之柄一、通二——之塗一」。

(充塞) ふさぐ、みたす、又、ふさがる、みつ。○〔孟〕「邪說誣レ民、——仁義」。

(堅塞) きびしくふさぐ。○〔戰〕「君二——兩耳一、無レ聽二其談一也」。

(隔塞) 彼れと此れとの間へだゝる。○〔漢〕「下情——」。

(疑塞) うたがひへだつ。○〔漢〕「——治道」。

(距塞) 防ぐ、又、へだゝる。○〔漢〕「——道」。

(原塞) ねりと斷ち止む。○〔漢〕「大水之門斷埃異之——矣」。

【防塞】ふせぐ。〔漢〕「一ニ一大姦之隙一」。
【搖塞】前に同じ。○〔漢〕「中尙書宦官一一大異」。
【淵塞】奥ゆかしく德のみちたること。○〔後漢〕「皇帝聰明一一」。
【報塞】むくいみたすこと。○〔後漢〕「竭ニ盡其力一以一ニ一天恩一」。
【掩塞】おほひかぶす。○〔呉越春秋〕「上天蒼々、不レ可ニ一一一」。
【孤塞】わが意見をのみ善として人の諫を拒むこと。○〔後漢〕「一一之政、亡國之風也」。
【窮塞】つまりふさがる、又、きはめふさぐこと。○〔晉〕文理有ニ一一一、故使ニ大臣釋滯一」。
【壁塞】ふさがり通せぬこと。○〔晉〕「兩耳一一、言者大惑」。　「吾徒之師表也」。
【盈塞】充つること。○〔答賓戲〕「譬一ニ一天淵一、眞吾徒之師表也」。
【塡塞】前に同じ、ふさぐ、又、ふさがる。○〔梁〕「內外百司奏レ事者、一ニ一于前一」。
【蔽塞】運のあしくておちぶれたること。○〔宋〕「坐被レ徙、一一不レ預ニ榮位一」。
【沈塞】ふづみふさがる。○〔邵正釋義〕「嗟ニ道義之一一一、愍ニ生民之顚沛一」。
【抑塞】おさへつけて、ふさぐ、又、おさへられて止まる。○〔劉基〕「蠖蟻有ニ微忱一、一一無ニ由揚一」。
【拝塞】ふせぐ。○〔魏〕「山中險路之處悉令ニ一一一」。
【哽塞】氣息をふさぐこと、むせぶ。○〔北〕「一一泑泗交流」。
【杜塞】ふさぐ、又、ふさがる。○〔呉越春秋〕「羣邪一一一」。
【厄塞】困じふさがる、禍に逢ふ、薄命。○〔揚言〕「及ニ第卽一坐ニ一一一」。
【淪塞】前に同じ。○〔任昉啓〕「年世賀遷、孤裔一一」。
【鬱塞】氣むすぼれて愉快ならざること。○〔劉蕡〕「抵一一以俟」。
【壅塞】掩はれふさがる、又、掩ひふさぐ。○〔陸龜蒙〕「顚倒漫漶一一、無ニ一通者一」。
【梗塞】ふさがる。○〔秦觀〕「道塗一一」。
【關塞】要害。○〔漢〕「築ニ長城一以爲ニ一一一」。
【險塞】要害の場所。○〔漢〕「銳軍挫ニ於一一一」。

【塞】サイ。　先代切　隊

㊀國土の境、邊地、さはきさかひ。○〔漢〕「百蠻鄕レ風、欵一來享」。
㊁とりで。
（い）邊地を守る爲めに土石を積み壁を作り或は樹木を植て柵を設けなどして兵を屯する處、邊障。○〔漢〕「秦時北攻ニ胡貉一、築ニ一河上一」。
（ろ）轉じて、本城を離れて番兵の屯する所、小城。○〔史〕「漢王收ニ諸侯一、還守ニ成皐榮陽一、下ニ蜀漢之粟一、深レ溝壁レ壘、分レ卒守レ徼乘レ一」。
㊂前條の㊂に同じ。○〔左〕「晉侯使下詹嘉處レ瑕、以守中桃林之一上」。
㊃樗蒲に用ふる具、さい、骰子。○〔莊〕「問ニ穀何事一、博一而遊」。
㊄賽に同じ、神佛の恩に報い奉ること。○〔漢〕「冬一禱レ祠」。

【固塞】かため、險阻なる處。○〔史〕「一一不レ樹、機變不レ張」。　「種曰ニ一一蠻一」。
【欵塞】北蠻の一種。○〔後漢〕黎州諸蠻凡十二
【關塞】國のさかひに設けあるとりで。○〔漢〕「築ニ長城一以爲ニ一一一」。
【朔塞】北のさかひのとりで。○〔王昌齡〕「兵氣連ニ一一一」。
【要塞】さかひにあるとりで、城壁など。○〔禮〕「孟冬之月、固ニ封疆一備ニ邊竟一、完ニ一一一」。
【障塞】とりで、又、かため。○〔戰〕「爲除レ守ニ徼亭一一一、見卒不レ過ニ二十萬一」。
【絕塞】さかひを離ること、又、國の最もはて。○〔戰〕「奏敢一レ一而伐レ韓、者信ニ東周一也」。
【邊塞】國ざかひ。○〔史〕「宜レ專ニ一一之思慮一」。
【險塞】かため、又、けはしき處に設けあるとりで。○〔漢〕「銳軍挫ニ於一一一」。
【濱塞】はとり、さかひ。○〔後漢〕「嬀者欲レ還ニ之一一」。　「一一」。
【窮塞】最もはて。○〔歐陽修〕「可レ憐勝境當ニ一一」。
【疆塞】國疆のこと。○〔王叢之〕「在ニ一一極難之地一」。　「有レ誰」。
【防塞】ふせぎ、とりで。○〔蘇舜欽〕「國家一一今

【塟】俗の葬の字。

【壒】ケフ、コフ。　迄業切　洽
ゐせき、つゝみ、（堤）。

【墜】瘞に同じ。

【塨】ギツ、ゴチ。　逆乙切　質
小さき山、こやま。

【搥】タイ、テ。　都回切　灰
おつ、又、おとす、（落）。

【塠】サイ、セ。　倉回切　灰
㊀つみせらる、又、せむ、（謫）。
㊁一說に、堆に同じ。

【塡】テン、デン。　徒年切　先
〔說文〕从レ穴眞聲、亦从レ土。
㊀ふさぐ、又、ふさがる、（塞）。○〔博物志〕「常取ニ西山之木石一、以一ニ東海一」。
㊁したがふ、（順）。○〔班固東都賦〕「一ニ流泉一而爲レ沼」。
㊂鼓の聲。○〔孟〕「一然鼓レ之」。
【補塡】おぎなひふさぐ。○〔舊唐〕「節檢百計一一」。
【配塡】くばりあつ。○〔宋〕「武藝淺弱、入一一　「既不ニ訓練一」。
【充塡】あてはむ。○〔宋〕「取レ人分レ頭一一」。
【委塡】ふさぐ。○〔劉咸〕「遇ニ溝陂一兮一一、遇ニ丘陵一兮開鑿」。

【塡】テン、デン。　徒典切　銑
力つく、又、やむ、（病）。○〔詩〕「哀我一一寡」。

【塡】チン。　知鄰切　眞
㊀鎭に同じ、しづむ、さだむ、さだまる、しづまる。○〔漢〕「一ニ國家一吾不レ如ニ蕭何一」。
㊁ひさし、（久）。○〔詩〕「孔一不レ寧」。

【塡】チン。　陟刃切　震
前條の㊀の解に同じ。

【塡】テン、デン。　徒偃切　阮
厚重の貌にいふ字、おもし、あつし。○〔莊〕「至德之世、其行一一」。

【塡】テン、デン。　堂練切　霰
㊀眞の韻の㊀に同じ。○〔禮〕「主人既祖一池」。
㊁寘に同じ、おく。○〔漢〕「武帝時多取ニ好女一、以一ニ後宮一」。
㊂正と同じ、ただし、軍旗の嚴重に立てる貌にいふ字。○〔淮〕「不レ擊ニ一一之旗一」。

【塢】チ、ウ。　於五切　麌
本、隖に作る、別に碼、瑦に作る。
㊀隖に同じ、小さきどて、（小障）、一說に、小じろ、（庫城）、又、とりで、（營居）。○〔後漢〕「築ニ一於郿一號ニ萬歲一一」。
㊁むら、（村落）。○〔杜甫〕「谿行盡日無ニ村一一」。

【塢】チ、ウ。　烏故切　遇
前條の㊁の解に同じ。

【塤】壎に同じ。

【塥】カク、キヤク。　各額切　陌
土の附著して重なりたるにいふ字、つちかさなる。○〔管〕「沙土之次曰ニ五一一、五一一之狀纍然如ニ僕纍一」。

【埾】シユク。　側六切　屋
ふさぐ、又、ふさがる、（塞）。

【塦】陣と同じ。

【堲】デイ、ナイ。　年題切　齊
水を受くる丘、たか。

【⿰土廻】クワイ、エ。胡對切 隊
地の形のめぐりまがれるにいふ字、まがる。

【⿰土巠】チフ、ヂフ。□立切 緝
ます、(益)、一說に、下り入る貌にいふ字、おちいる。

十一畫

【塲】場に同じ。

【塴】堋に同じ。

【塵】チン、ヂン。直珍切 眞
㊀ちり。
(い)粉末渣滓の飛散せるもの、ほこり、ごみ、あくた。○〔後漢〕「甑-中生レ|范-史雲」。
(ろ)汙穢なるもの、汚らはしきもの、けがれ。○〔首楞經〕「有二言-句一盡屬二法之|一」。
(は)遺業の義に借りいふ字。○〔後漢〕「二-方承則八-慈繼レ|」。
(に)騷亂の義にも借りいふ字。○〔宋〕「四-表靜レ|」。
㊁塵にまみる、汙染す、けがる、又、けがれにそましむ、けがす。○〔詩〕「無レ將二大車一、祇自|兮」。
㊂ひさし、(久)。○〔後漢〕「允|-|遡而難レ虧」。
〔囂塵〕(い)繁華なる地のやかましく且つ往來たえずちりたつにいふ語。○〔左〕「湫-隘|-|、不レ可二以居一」。
(ろ)けがらはしくわづらはしきこと。○〔植法圖〕「當レ知勝-地遠、於レ此絕二|-|一」。
〔望塵〕(い)ちりをのぞむ、(人馬の行步によりて起こるちり)。○〔五〕「|レ|知二敵數一」。
(ろ)石崇の故事より長者を送迎すること、又、阿り事ふることにも借りいふ語。○〔晉〕「石-崇與二潘-岳一、諂二事賈謐廣-成君一、每レ出崇降二車-路左一、|レ|而拜」。
〔拜塵〕前の(ろ)に同じ。○〔晉〕「|レ|遇レ皆一」。
〔絕塵〕(い)前に行く人の行步によりて起こるちりの後に行く人の前にたゆること、卽ち、前者と後者との隔離あるに借りいふ語。○〔莊〕「夫-子步亦步、夫-子趨亦趨、夫-子奔-逸、|レ|而回瞠二若乎後一矣」。
(ろ)轉じて走るの迅速なるに借りいふ語。○〔蘇軾〕「並轡天衢二兩|レ|」。「如也」。
〔凝塵〕むすばりたるちり。○〔晉〕「|・|滿レ席湛-」
〔同塵〕世に處するに圭角を去りて渾異の行ひをなさゞること。○〔老〕「和二其光一、同二其|一」。
〔灑塵〕ちりをそゝぐ。○〔九歌〕「使二涷-雨兮|レ|」。
〔灰塵〕はひとちりと價値なきもの、細きものに借りいふ語。○〔干寶〕「以爲二|・|一而相詬-病矣」。
〔游塵〕浮き立ちて居るちり。○〔洞冥記〕「風至自拂二塔-上|・|一」。
〔風塵〕世のなか。○〔世說〕「自-然是|・|外-物」。
〔埃塵〕ちりほこり。○〔蔡邕〕「淸二宇-宙之|・|一」。
〔紅塵〕浮世のちり、又、浮世の義に借りいふ語。○〔陸琥〕「|・|蔽二于機-榻一」。「不レ動」。
〔輕塵〕かろきちり。○〔海賦〕「|・|不レ飛、纖-蘿」。
〔六塵〕佛說に人の障碍になるといふ、眼、耳、鼻、舌、身、意の六つより種々の煩惱を惹き起こして心を汚染するの義。○〔昭明太子〕「庶鼓袪二八-倒一、冀此遣二|・|一」。
〔香塵〕おとづれ。○〔謝莊〕「美-人邁兮|・|隔」。
〔沙塵〕すなぼこり。○〔杜甫〕「同-風颯-々吹二|・|一」。
〔微塵〕極めてこまかきちり、轉じて、極めて細かきことに借りいふ字。○〔法華經〕「三-千大-千世-界事在二|・|中一、時有二智-人一、破二彼|・|一」。
〔幻塵〕人の身なその現に見えてあるもやがて消え失するもの故、其のかりそめなるものに譬へていふ語。○〔圓覺經〕「幻-心滅故|・|亦滅」。
〔驅塵〕馬などのはせてちりをけあぐること。○〔長孫正隱〕「車-馬亂|レ|」。「飛走二」。
〔超塵〕ちりをおこす。○〔左、註〕「曳レ柴|レ|、詐僞二」。
〔煨塵〕灰に同じ。○〔後漢〕「懷二琉-琰一、而就二|・|一」。「奠」。
〔荒塵〕すたれたること。○〔宋〕「詩-書|・|、頌-聲寂」。
〔鏤塵〕ちりに刻む勞して功なきにいふ語。○〔關尹子〕「言レ之如レ吹レ影、思レ之如レ|レ|」。「昏」。
〔飛塵〕ちりをけたつ。○〔風賦〕「|レ|則日-月晝」。
〔颺塵〕とぶちり。○〔古、詩〕「人-生寄二一-世一、奄-忽若二|・|一」。「之|・|」。
〔遺塵〕古人のこされたるわざ。○〔魏都賦〕「列-聖
〔餘塵〕前に同じ。○〔宋〕「思二追-景許之|・|一」。
〔將塵〕こな、ちり、細きもの。○〔溫庭筠〕「蛺-蝶雙々護二|・|一」。
〔軟塵〕やはらかきちり、主に、花柳界に係かりていふ語、又、其の事。○許有壬「東-華足二|・|一」。
〔滑塵〕ちづくとちり、些少なる義にたとへいふ語。○〔梁武帝〕「慈如二河-海一、孝如二|・|一」。
〔心塵〕こゝろのけがれ。○〔梁昭明太子〕「使二|・|伏一」。
〔垢塵〕あかとちりと、けがれ、又、世の中。○〔鄭四〕「朝」「萬-吹皆|・|」。
〔喧塵〕市井のさうぐしきに借りいふ語。○〔梁簡文帝〕「|・|是時息、靜對二重-巒一」。
〔元規塵〕王導の故事より、心よからぬ人の行爲に借りいふ語。○〔晉〕「庾-亮居二外-鎭一、而執二朝-廷之權一、導內不レ能レ平、常遇二西-風塵起一、擧レ扇自蔽曰、|・||・|汙レ人」。
〔謁後塵〕人の下に就くことにいふ語。○〔古今詩話〕「曾把二文-章一謁二|・||・|一」。
〔三斗塵〕積み重なれるちり、多くのちり。○〔唐〕「寧飮二|・||・|一、無レ逢二禰-懷恩一」。

【⿸广⿱里土】テン、デン。徒年切 先
前の㊀の解に同じ。○〔易林〕「大-車多レ|、小-人傷レ賢」。

【⿰土鹵】ロ、ル。籠五切 麌
鹵に同じ、西方の鹹地。

【⿰土梟】ケウ。計堯切 蕭
地に伏して卵を生む、うむ。

【⿱殹土】エイ、アイ。煙奚切 齊 於計切 霽
ちり、ほこり、(塵埃)。

【塸】オウ、ウ。於口切 有
すなのうづだかくなりたる處、(沙堆)、一說に、はか(墓)。

【塸】オウ、オ。烏候切 尤
あつまりたるすな、(聚沙)。

【塹】セン。七豔切 豔 ―壍、又は、嶄に作る。
㊀城を遶れる水、ほり、(濠)、あな、(坑)。○〔唐〕「巨-|長-壕」。
㊁ほりを設く、あなを穿つ、ほる。○〔史〕「|レ山堙レ山千-八-百-里」。
〔天塹〕天然に出來たる要害のほり。○〔南〕「長江|・|古-來限二隔南-北一」。
〔環塹〕まはりにみぞをはる、又、柵などの外にめぐらしたるほり。○〔左〕「使二隨-人與二後至者一守一之|而|レ之」。「城」。
〔圍塹〕前に同じ。○〔魏〕「作二|・|一決二障-水一灌」。
〔湟塹〕ほり。○〔水經、註〕「四-周|・|」。
〔深塹〕深きほり。○〔水經、註〕「|・|三-重」。
〔浚塹〕前に同じ。○〔江淹〕「兹營二崇-壘|・|一」。
〔郭塹〕城の外に在るほり。○〔水經、註〕「更增-修|・|一」。「涼榛-莽」。
〔頹塹〕荒廢したるほり。○〔賈至〕「愍-默|・|、悲
〔複塹〕二重に周らしたるほり。○〔李商隱〕「長-溝|・||埋二雲-子一」。

【⿰土從】ショウ、シュウ。子容切 冬
くさびら(土菌)。

【塺】バイ、マイ。謨杯切 灰
バ、マ。莫臥切 箇 ―一に坶に作る。
ちり、ほこり、(塵)。○〔楚辭〕「羅-土忽兮|・|」。

【塻】バク、マク。模各切 藥
ちり、ほこり、(塵)。

【⿰土㒼】バン、マン。謨官切 寒 ―又、墁に作る。
㊀土をもて覆ふ、おほふ。
㊁こて、(鐵杇)。

【塼】 團に同じ。

【塼】 セン。朱遄切 [先]
甎に同じ、かはら、(燒墼)。○〔風俗通〕「甃レ—修レ井也」。
〔紡塼〕 絲をまき置く具、いとまき。○〔詩、箋〕「—・—其所レ有レ事ニ於紡・績一也」。

【塽】 シヤウ、サウ。楚兩切 [養]
地の高くしてあたりの開けてある處。

【塾】 シユク、ジユク。神六切 [屋]
へや。
(い)門の側の堂、いへ。○〔儀〕「具ニ饌于西—一」。
(ろ)學術を修むる堂にて弟子を寄宿せしむる部屋、轉じて、修學する處、學舍。○〔禮〕「古之教者、黨有レ庠、家有レ—」。
〔横塾〕 學校に同じ。○〔後漢〕「遊ニ庠・序一、聚ニ—・—一、昔、並布ニ之于邦・域一矣」。
〔義塾〕 公益のために設けたる學校。○〔慊耕錄〕「月・巖先生買ニ地於府城之郛・兒坊一、栽ニ—・—一以淑ニ後・進一」。
〔鄕塾〕 村里にある學校。○〔任昉〕「—・—無ニ横・議之士一」。
〔里塾〕 前に同じ。○〔任昉〕「鄕・校—・—、耻レ談ニ五・霸一」。

【塿】 ロウ、ル。郞口切 [有]
—通じて蔞に作る。
小さき阜、又、ありづか。○〔揚雄〕「小・冢謂ニ之—一」。

【墀】 チ、ヂ。陳知切 [支]
—墀に同じ。
石を敷きたる庭、には、昔支那にては階上に設けたりき。○〔漢〕「願登ニ文・石之殿一、陟ニ赤・—之塗一」。
〔丹墀〕 丹砂もてぬりこめたる庭。○〔西京賦〕「青・瑣—・—」。
〔玄墀〕 漆をもてくろく塗りたる庭。○〔西都賦〕「—・—釦・砌」。
〔玉墀〕 玉石を以て疊みたるには。○〔鮑照〕「璇・閨—・—上ニ椒・閣一」。
〔瑤墀〕 前に同じ。○〔王昌齡〕「松・影開ニ—・—一」。
〔金墀〕 金石をもて飾りたる庭。○〔梁昭明太子〕「造ニ—・—於前・檻一」。
〔軒墀〕 のき先の庭。○〔許善心〕「承ニ—・—一而顧・步」。
〔趨墀〕 庭前にはしる、役吏の伺候する處。○〔隋〕「容有ニ—・—之名一、了無ニ提・鸛之實一」。
〔椒墀〕 濕氣を防ぐ爲めにたうがらしを雜へ塗りたる庭。○〔梁昭明太子〕「紺・殿—・—」。

【墁】 バン、マン。莫半切 [翰]
—墁に同じ。
牆壁を塗り飾る、ぬる、又、ぬりたる壁。○〔孟〕「毀レ瓦畫レ—」。

【墂】 ヘウ。卑遙切 [蕭]
土を高く盛り立てゝ目じるしとなす塚、しるしのつか。

【墩】 ハイ、ヘ。薄賣切 [卦]
小さき隄、こごて。

【境】 ケイ、キヤウ。擧影切 [梗]
—竟に通じ作る。
さかひ。
(い)物の相接はる處、かぎり。○〔國〕「外・臣之言不レ越レ—」。
(ろ)事の分かるゝ際、きは。○〔孟郊〕「常言一・粒藥、不レ墮ニ死・生—一」。
(は)場所、又、邦土。○〔陶弘景〕「雖ニ跡混ニ教・途一、而心標ニ逸—一」。
〔邊境〕 國ざかひ。○〔禮〕「固ニ封・彊一備ニ—・—一」。
〔佳境〕 よき場所。○〔世說〕「漸入ニ—・—一」。
〔人境〕 人間のなかま、世の中。○〔陶潛〕「結レ廬在ニ—・—一、無ニ車・馬喧一」。
〔殊境〕 此の方のさかひにあらざるもの、他國。○〔晉〕「威振ニ—・—一」。
〔異境〕 前に同じ。○〔金〕「潞・州北郎爲ニ—・—一」。
〔勝境〕 風景のよき處。○〔南〕「—・—名・山多レ所ニ尋・履一」。
〔鄰境〕 となり、並びつゞきて居るところ、となりぐに。○〔南〕「爲ニ—・—所レ憚」。
〔遠境〕 國はづれ。○〔唐〕「固ニ命・城于—・—一」。
〔擧境〕 一國内をいふ。○〔唐〕「牛・羊踐・暴、—・—何賴」。
〔奧境〕 おくのて。○〔唐〕「先・生所レ說紙・上語耳、若ニ—・—彼有ニ所レ未レ見者一、當ニ何觀一」。
〔聖境〕 ひじりのさかひ。○〔淨注子〕「今出・家者、未レ登ニ—・—一」。
〔逆境〕 意の如くならざる地位。○〔宋〕「夫閭・閻匹・夫處ニ閭・門—・—一、容レ有ニ縱レ酒自放者一」。
〔眞境〕 すこしのけがれなきまことのさかひ。○〔宋〕「三・山—・—勝ニ人・間一」。
〔美境〕 身分のよきさかひ。○〔宋〕「櫛・風沐・雨反爲ニ—・—一」。
〔魔境〕 心をまよはす場所。○〔徐陵〕「心居ニ—・—一、爲ニ魔所レ迷」。
〔末境〕 はて、さかひ。○〔曹植〕「踐ニ南・畿之—・—一」。
〔絕境〕 極めてよき地。○〔陶潛〕「來ニ此—・—一、不ニ復出一焉」。
〔仙境〕 仙人の住めるところ、又、極めて淸靜なる處。○〔宋之問〕「脊・闢茅・軒舁・搖入ニ神・—之—一」。
〔凡境〕 なみ〳〵の所。○〔法書要錄〕「迥出ニ—・—一」。
〔幻境〕 人生はまぼろしの如くかりそめなるもの故に世間を指していへる語。○〔李嶠〕「蒙ニ埃於夢・—之—一」。
〔現境〕 うつゝのさかひ、卽ち、人のいろ〳〵の相を感覺するところ。○〔梁武帝〕「善・惡交謝、生ニ乎—・—一」。
〔眼境〕 まなこにて見ゆるかぎり。○〔梁〕「外淨ニ—・—一」。
〔幽境〕 靜かなる地。○〔李頎〕「行・人與レ我翫ニ—・—一、驅ニ萬・端一」。
〔靜境〕 前に同じ。○〔郝經〕「—・—求ニ初・心一、滯・慮—・—一」。
〔妙境〕 言語もて現はすべからざるたへなる場所。○〔王僧孺〕「洞ニ玆—・—一」。
〔塵境〕 世俗の間、俗間。○〔李白〕「朱綬遺ニ—・—一、靑・山謁ニ梵・筵一」。
〔蓮境〕 寺をいふ。○〔楊巨源〕「方尋ニ—・—一去、又値ニ竹・房一空」。
〔靈境〕 人間界にてはあり得られざる場所。○〔皮日休〕「玆地足ニ—・—一」。
〔夢境〕 ゆめ。○〔韓維〕「—・—覺來元一・際」。
〔攝境〕 精神を養ふところ。○〔指月錄〕「—・—安・心覺・觀」。

【墄】 シヨク、シキ。七則切 [職]
きれめ、きだ、(限)。○〔三輔黃圖〕「未・央前・殿左—右平」。

【墇】 チヤウ。知亮切 [漾]
沙のうごもち起これる貌にいふ字、おこる。

【墅】 シヨ、ソ。承與切 [語]
田畝の中に收穫の用に供ふる爲めに設けある廬、轉じて、ゐなか、や、しもやしき、(別館)。○〔晉〕「於ニ土・山一營レ—」。
〔別墅〕 しもやしき。○〔晉〕「圍レ碁賭ニ—・—一」。
〔家墅〕 前に同じ。○〔唐〕「裴・休與ニ兄・弟一隱ニ—・—一講レ經著レ書」。
〔郊墅〕 ゐなか。○〔唐〕「貧ニ寓—・—一」。
〔草墅〕 くさ葺のゐなか家。○〔曹植〕「劇哉邊・海民、寄ニ身於—・—一」。
〔遠墅〕 人里を離れたるところ。○〔王維〕「孤・鶯吟ニ—・—一、野・杏發ニ山・郵一」。
〔荒墅〕 あれたる處。○〔唐浩〕「草迷ニ—・—一」。
〔幽墅〕 靜かなるところ。○〔溫庭筠〕「事迫離ニ—・—一」。

【墅】 ヤ、エ。以者切 [馬]
みやこのそとの地、はら、(郊外)。○〔沈約〕「山・陰柳・家女、薄言出ニ田・—一」。

【墳】 フン、ホン。方問切 [問]
—又、墍に作る。
はらふ、(掃除)。

【墆】 テツ、デチ。徒結切 [屑]
たくはふ、(貯)、又、とゞむ、(止)。○〔漢〕「富・商・賈—レ財役レ貧」。

【墆】 テイ、タイ。特計切 [霽]
㊀陰翳をなす貌にいふ字、おほふ、かざす。○〔楚辭〕「擧ニ霓・旌之—・翳一」。

㊁高き貌にいふ字、たかし。○〔張衡〕「直—霓以高居」。

【塼】
罅、又は墇と同じ。

【墇】
シヤウ。諸良切 陽　之亮切 漾
ふさぐ、ふさがる、(壅、塞)、又、へだつ。

【堁】
ラ。盧戈切 歌
草にて製し土を盛るに用ふる具、もつこ。

【勘】
カン、コン。苦紺切 勘
けはしき岸、きし、(險岸)、又、俗に土の突き立ちて居るものをいふ。

【墉】
ヨウ、ユウ。餘封切 冬
㊀城の垣、かき、壘壁、かべ、又、小さき城。○〔詩〕「以伐二崇—一」。
——庸と通じ、又、隬、牅に作る。
㊁單にかき(牆)。○〔書〕「若レ作二室家一、既勤二垣—一、惟其塗墍茨」。
㊂みぞ(溝)。○〔禮〕「祭二水—一」
㊃仙人の居處。○〔武帝內傳〕「我—宮玉女王子登也」。
〔天墉〕天然自然にできたる堅固なる垣。○〔十洲記〕「崑崙山有二—·—城一」。
〔長墉〕ながき垣。○〔李尤〕「—·—重關閉固不レ踰」。
〔周墉〕まはりの垣。○〔張載〕「—·—無二遺堵一」。
〔頽墉〕やぶれたる垣。○〔李百藥〕「—·—寒雀集」。
〔故墉〕ふるきかき。○〔耶律楚材〕「頽垣積二—·—一」。

【塹】
テン。都念切 豔
㊀困苦す、おぼる、(溺)、墮落す、くだる、(下)。○〔書〕「下民昏—」。
㊁うろほふ(濕)。○〔後漢〕「郭太行遇レ雨、巾一角—、時人乃故折二巾角一以爲二林宗巾一」。
「黃泉二」。
㊂ほる(掘)。○〔莊〕「厠レ足而—レ之致二黃泉一」。
㊃けがる(穢)。○〔富弼〕「民被二蹟—一、田入二汙莽一」。
㊄下の部、した。○〔揚雄〕「埊—下也、凡柱而下曰レ埊、屋而下曰レ—」。
〔黝塹〕うれひ。○〔後漢〕「人無二宿儲一、下生二—·—一」。
〔頽塹〕破ぶれ落つ。○〔湘山野錄〕「子城一角—·—、得二一古碑一」。
〔濕塹〕うるほふ。○〔元稹〕「洲渚—·—」。

【墊】
テフ、デフ。徒協切 葉
前條の㊃に同じ。

【墋】
シン、ソン。楚錦切 寑
㊀すなち、いさご(沙土)。○〔沈約〕「寧方割二于下土一、廓重氛二于上—·—一」。
㊁まじりにごりて淸く澄まざる貌にいふ字、にごる。○〔陸機〕「茫々宇宙上—下黷」。

【墌】
セキ、シヤク。之石切 陌
シヤク、サク。之若切 藥
坧に同じ、土を築きて土臺と爲すもの、もとゐ(舊址)。

【墍】
キ、ギ。奇寄切 寘
キ、ゲ。許既切 未
㊀仰ぎ塗る、又、ぬる。○〔書〕「惟其塗—茨」。
㊁とる(取)。○〔詩〕「頃筐—レ之」。
㊂いこふ(息)。○〔詩〕「民之攸レ—」。

【墩】
壁に同じ。

【墎】
クワク。光鑊切 藥

はかる、又、はかり(度)。

【墱】
シヤウ、サウ。此兩切 養
もとゐ(基)。

【墐】
キン、ゴン。渠斤切 文
墐に同じ。

【墐】
キン、ギン。渠吝切 震
㊀ぬる(塗)、又ふさぐ(塞)。○〔詩〕「塞レ向—レ戶」。
㊁うづむ(瘞、薶)。○〔詩〕「行有二死人一、尙或—レ之」。
㊂溝のほとりの道。○〔同語〕「陸阜陵—」。

【墒】
テキ、チヤク。丁歷切 錫
㊀きざはし(階段)。
㊁的に通ず、まと(射的)。

【墒】
シヤウ。尸羊切 陽
新に耕す土、かへしつち、一說に、滴の譌字ともあり。

【墓】
ボ、ム。莫故切 遇　蒙晡切 虞
人の屍を葬る處、はか、つか、盛り土なきもの(塋域)。○〔禮〕「古不レ修レ—、又易レ—非レ古也」。
〔封墓〕はかの荒廢したるを繕ひをさむ。○〔書〕「釋二箕子囚一、—二比干—一」。
〔廬墓〕父母、又は、長者の德を思慕して其のはかの傍に庵を作りて住む、昔、支那にての禮。○〔史〕「孔子喪、唯子貢—二于—上一凡六年」。
〔墟墓〕草莽の裡に在りて誰れも訪はぬはか。○〔禮〕「—·—之間、未レ施二哀于民一而民哀」。
〔墳墓〕はか。○〔禮〕「奈何去二—·—一也」。
〔丘墓〕はか。○〔漢〕「亦何面目復上二父母之—·—一乎」。
〔表墓〕死人の無聞に湮滅せんとを憂へて其の人の名などを記し表はす。○〔後漢〕「到レ官—二嚴遂之—一」。「心二遂—爲レ—」。
〔贊墓〕はかをこしらふ。○〔魏〕「嗐然有二終焉之—一」。
〔題墓〕はかばに其の人の名、又は、號などを表記す。○〔南〕「身沒之後—二吾—一、曰二陳故酒徒陳君之神道一」。

【墔】
サイ、ゼ。徂回切 灰
をか、(丘)、又、土の聚まりてうづだかくなれる貌にいふ字、たかし、うづだかし、又、其の處、をか、(丘)。

【壞】
コン。古困切 願
つち、(土)。

十二畫

【塯】
リウ、ル。力救切 宥
飯を盛る瓦器、かはらけ。○〔韓〕「堯舜飯二土—一」。

【墜】
ツヰ。直類切 寘　シユツ、シユチ。直律切 質
㊀おつ。
(い)下に至る、下りて地に著く。○〔列〕「天積氣爾何憂レ—」。
(ろ)衰ふ、滅す、亡失す、うす。○〔薛季宣〕「終念二家聲—一」。
㊁上より下に遣る、下して地に致す、衰滅せしむ、亡失せしむ、うしなふ、おとす。○〔書〕「乃其—レ命」。
〔顚墜〕ころげ落つ。○〔家語〕「不レ觀二高崖一、何以知二—·—之患一」。
〔醉墜〕酒に醉ひてころげ落つ。○〔莊〕「—者之—レ車雖レ疾不レ死、其神全也」。
〔失墜〕おとす、おつ、うす、うしなふ。○〔後漢〕「臣下奉レ職、無レ所二—·—一」。
〔隮墜〕おつ。○〔晉、傳〕「顚隕—·—」。
〔隕墜〕おつ。○〔荀〕「列星—·—、旦暮晦盲」。
〔排墜〕おとす。○〔吳〕「忠良—·—、信臣被レ害」。

（隋墜）かたむきおつ。○〔魏〕「俾二我國家柄一二―・―一」。

（豐墜）ゆたかに下る。○〔晉〕「化厚物感、甘露―・―」。

（頽墜）やぶれおつ。○〔魏〕「繕二修―・―一、興二復生業一」。

（潰墜）やぶれおつ。○〔越絕〕「越師―・―」。

（蹈墜）くつがへり落つ。○〔莊〕「雖二天地―・―一、亦將レ不二與レ之道一」。

（弛墜）ゆるびおつ。○〔孔叢子〕「文武之道或―「而―」。

（零墜）おつ。○〔易林〕「李梅―・―、心思精憤」。

（毀墜）前に同じ。○〔易林〕「傷敗―・―」。

（崩墜）くづれおつ。○〔論衡〕「―二―于坑谷之間一矣」。

（隕墜）前に同じ。○〔抱朴子〕「隨二―・―於雲霄之間一」。

（凋墜）前に同じ。○〔抱朴子〕「文武之軌、將二溺―・―一」。

（跌墜）つまづきおつ。○〔劉勰〕「登二峭坂一而不二―・―一者愼二于大一也」。

（橫墜）盛んにおつ。○〔王粲〕「湖―・―而弗レ禁」。

（飄墜）ひるがへりおつ。○〔白居易〕「須臾風日暖、處々皆―・―」。「勤レ心少―・―」。

（塞墜）世に出でられざるにいふ語。○〔王融〕「自來―・―、覇道昏凶」。

（殄墜）ほろぶ。○〔徐陵〕「宗姫―・―」。

（落墜）前に同じ。○〔徐陵〕「梟獍虔劉、宗社―・―」。「章―・―」。

（湮墜）消え失すること。○〔隋煬帝〕「經典散逸、憲―・―而不二敢寧一」。

（惕墜）恐れて氣おちす。○〔梁肅〕「才輕―・―而不二敢寧一」。

（傾墜）かたぶきおつ。○〔白居易〕「城堞多―・―」。

（紊墜）みだれて本體を失ふ。○〔卻昂〕「綱紀之―・―」「至二」。

（破墜）やぶれ落つ。○〔張耒〕「檐瓦―・―無二復―」。

（淪墜）しづみおつ。○〔葉適〕「禹箕之道―・―矣」。

【墽】カウ、ケウ。丘交切 㸃肴 ―磽、墝、墩に同じ。

やせたる地、（瘠土）、又、やせたる田、（薄田）。○〔淮〕「舜耕二歷山一、田者爭處二―・墽一、以二肪饒一相讓」。

【墝】カウ、コウ。口教切 㸃效

地の平垣ならざるにいふ、たひらならず。

【墢】坼に同じ、一に𡎺に作る。

【增】ソウ。咨騰切 㸃蒸 子孕列 㸃徑

㊀ます、（益）。

（い）數加はる、多くなる、重なる。○〔詩〕「如二川之方至一、以莫レ不レ―」。

（ろ）數を加ふ、多くなす、重ぬ。○〔漢〕「廣二―諸祀壇場珪幣一」。

㊁加はりて、多くなりて、重なりて、ますく。○〔史〕「歲―變」。

㊂少なからず、おほし、（衆）。○〔詩〕「烝徒―・―」。

㊃層と通ず、重なれる家屋。○〔揚雄〕「―・―宮參差」。

㊄曾と通ず。

（加增）ます。○〔漢〕「不レ可二復以―・―一」。

（彌增）ます。○〔隋〕中疾―・―非レ可二超走一。

（脩增）修理をくはふ。○〔管〕「歲―・―而無レ已」。

（添增）ます。○〔僧惠洪〕「江南春思倍―・―」。

【增】ソウ。子鄧切 㸃徑

前條の㊀に同じ。

【壈】レウ。力照切 㸃嘯 憐蕭切 㸃蕭

まはりの垣、又、まはりの垣を設く、めぐらす。○〔班固西都賦〕「―以二周垣一」。

【墟】キョ、コ。去魚切 㸃魚

㊀古昔は其の處に物ありて今は廢れたる地、ふるきあと、あと、（古跡）。○〔張望〕「荒―人迹稀」。

㊁大いなる丘、をか。○〔洞簫賦〕「原夫簫幹之所レ生兮、于二江南之丘―一」。

㊂大いなる壑、たに。○〔木華海賦〕「南渰二朱崖一、北灑二天―一」。

㊃あきなひのしろもの丶聚まる處、市場、まち、いち。○〔南部新書〕「端州以南、三日一市、謂二之趂―一」。

（故墟）ふるき城跡。○〔朝宿〕「麥秀漸々偏二―・―一」。

（靈墟）神社佛閣などの在る尊き高地。○〔古詩〕北上二巴山一入二靈―一。

（村墟）村里をいふ。○〔梅堯臣〕「竹間鳴二澗水一、原際見二―・―一」。

（寒墟）さびしきあと。○〔李洞〕「亂葉落二―・―一」。

（郊墟）山やをか。○〔韓愈〕「時秋積雨霽、新涼入二―・―一」。

（舊墟）ふるきあと。○〔班固〕「徒觀二迹于―・―一」。

（廢墟）前に同じ。○〔韓維〕「寒花亂二―・―一」。

【墠】セン、ゼン。常演切 㸃銑 時戰切 㸃霰 ―一に壇に作る。

神靈を祭るに掃ひ淨めたる處、まつりの庭、（靈時）。○〔禮〕「王立二七廟一、一壇一―・―」。

【墠】タン。他干切 㸃寒

㊀ひろし、ゆるやか、（寬）。

㊁壇と通じ用ふ。

【壒】エイ。壹計切 㸃霽

天のくもるばかりに塵の起つ、つちふる、又、つちけぶり。

【壇】イ。乙冀切 㸃寘

くもりてくらし、（陰晦）。

【墡】セン、ゼン。常演切 㸃銑

しろき埴土、しらつち。

【墭】俗の埭の字。

【墢】坺に同じ。

【墣】ハク。匹角切 㸃覺

圤に同じ、つちくれ、（塊）。○〔楚語〕「楚靈王出亡、涓人疇枕レ之以レ―」。

【墤】塊に同じ。

【墥】トウ、ツウ。覩動切 㸃董

ありづか、（封垤）。

【墵】タン。土緩切 㸃旱 上

疃、畽、又、畯、疃に同じ、禽獸の踐み通ふ道。

【墦】ヘン、ホン。蒲袁切 㸃元 ハン、ヘン。符覯切

ハン。孚干切 㸃寒 㸃刪 ―一に蟠に作る。

つか、はか、（冢）。○〔孟〕「東郭―間之祭者」。

【墧】墝に同じ。

【墨】ボク、モク。莫北切 㸃職

㊀すみ。

（い）磨りみがき黑き汁を出だし書畫をかくに用ふる具、油煙を膠汁にて固めて作る。○〔李堅〕「古有二李廷珪―一爲二第一一、張遇―次レ之、兗州陳朗―又次レ之」。

（ろ）前項のものを磨りみがきて出だしたる汁。○〔圖畫見聞誌〕「每レ醉揮二―于綃紈粉堵之上一」。

（は）前項の汁を物に點じたる痕、筆跡。○〔唐〕「詔書數函、皆大宗手―」。

（に）黑き色。○〔蘇軾〕「布衫漆―手」「若レ龜」。

(ほ)黑き色を帶ぶる塵埃、(油煙など)。○[家語]「有二埃—一墮二甑-中一」。

(へ)工匠の黑き線を作るに用ふる具、すみなは。○[古樂府]「大-匠持二斧-繩-鋸—一、齊二兩-端一」。

(と)轉じて、曲れるを直すもの、即ち、法則などに借りいふ字。○[晉]「正レ色立レ朝、擧レ綱引レ—、朱-紫有レ分」。

㊁すみ色となる、くろむ、又、すみ色なり、くろし。○[法書要錄]「臨レ池學レ書、池-水盡—」。

㊂あきらかならず、くらし、(闇昧)。○[荀]「—以爲レ明」。

㊃默と通ず、聲無し、志づかなり。○[史]「武-王諤-々以昌、殷-紂—-—以亡」。

㊄不潔なるを、汚れたるを、けがれ。○[左]「貪以敗レ官爲レ—」。　「五-百」。

㊅五刑の一、入れずみ。○[周]「—-罪

㊆ものさしの名、五尺の長さ。○[國]「不レ過二—-丈尋-常之間一」。

㊇氣色の下るを、へりくだる。○[左]「肉-食者無レ—」。

㊈墨翟、又は、其の學派。○[梁]「抑二揚孔-—一、流二連釋-老一」。

(深墨)　きはめてくろきと、又、面色の艶消えうせてくろみたるにいふ語。○[孟]「歠レ粥面—-—」。

(繩墨)　すみなは、又、規則の義にもいふ語。○[禮]「禮之于レ正レ國也、猶二—-—之于一レ曲-直一也」。

(涅墨)　いれずみ。○[書、傳]「—以レ—」。

(文墨)　文字。○[史]「徒持二—-—一議-論」。

(粉墨)　白ろき粉、(おしろい)とすみと、又、物の相異するものに借りいふ語。○[後漢]「朱-紫共レ色、—-—雜-糅」。

(翰墨)　筆蹟に同じ。○[宋]「特妙二于—-—一、沈-著飛-翥、得二王-獻之筆-意一」。

(佳墨)　よきすみ。○[舊唐]「褚-遂-良非二精-筆—-—一、未二嘗輙書一」。

(刀墨)　前に同じ。○[國]「有二斧-鉞—-—之刑一」。

(副墨)　文字に同じ。○[翰苑新書]「中-丹所レ藉、—-—難レ殫」。

(矩墨)　さしがねとすみなはと。○[潛夫論]「造二規-繩—-—一、以敎二後-人一」。　「揮-灑一」。

(淡墨)　うすき墨汁。○[孔武仲]「敗-毫—-—任二

(沉墨)　志づかなること。○[淮]「至二乎—-—之鄕一」。

(黛墨)　まゆをひくに用ふるすみ。○[唐]「以二—-—一鑄レ眉」。

(淸墨)　よごれてくろくなる、よごす、又、よごるゝこと などにいふ語。○[李遠]「危-梁蘚-剝、—-—蟲-穿」。

(貪墨)　物事の理にくらくして貪欲なること。○[左]「—-—賊-殺皐-陶之刑也」。　「自-私」。

(苛墨)　殘酷にしてけがらはしきこと。○[唐]「—-—

(朱墨)　朱書きをなして誤りを直す。○[魏志、註]「董-遇善二左-氏傳一、更爲作二—-—一」。

(綱墨)　刑罰に同じ。○[宋]「居-官輕レ任、尙二—-—一」。　「—-—一」。

(緇墨)　黑きこと。○[鹽鐵論]「緇-素不レ能、自分二于

(朱墨)　(い)朱とすみと、又、物の異なることに借りいふ語。○[魏]「更爲二—-—別-異一」。
(ろ)朱とすみとにて帳簿に志るすこと、轉じて、官務を執ること。○[北]「始制二文-案一、程-式—レ出—レ入、及二計-帳戸-籍之法一」。　「手自研」。
(は)又、轉じて、詩文の推考添削。○[蘇軾]「—-—

(烟墨)　煤をいふ。○[水經、註]「新-爨—-—猶存」。

(詔墨)　詔勅を書きたる書。○[中吳紀聞]「—-—猶未レ乾、奈何以二直-言一罪レ人」。

(汙墨)　けがれたることをいふ。○[蔡邕]「以レ獸辱二顯-列一、轉流二—-—一」。

(寶墨)　たからとなして仕舞ひ置くべき程の書畫の帖。○[歐陽修]「—-—飛-雲動二金-文一」。

(醉墨)　酒に醉ひたるときの筆蹟。○[歐陽修]「新-詩—-—時一揮」。　「土-塊一」。

(灰墨)　もえかす。○[西京雜記]「盡—-—復無二

(弄奇墨)　筆とすみとをもてあそぶ、書畫などをかくこと。○[王僧孺]「垂レ帷—二—-—一」。

(傅粉墨)　おしろいとすみとをつく、即ち、顏におしろいをつけあをゆをひくこと、化粧するにいふ語。○[後漢]「今乃衣二綺-縞一、—二—-—一、豈謂所レ願哉」。

【墨】ビ、ミ。旻悲切 支
だまり居て人をすかす貌にいふ字、すかす、(默詐)、又、軟弱の貌にいふ字、よわし。

【墩】トン。都昆切 元
平地にあるうづだかき處、をか、(丘)。○[六朝事迹]「眞-武湖-中有二大—一、里-俗相傳曰二郭-璞墓一」。
(孤墩)　一つの小さきをか。○[崔輔國]「茫-々水-中渚、上有二—-—一」。

【墼】前條に同じ。

【墜】チ、ヂ。徒利切 寘
籀文の地の字。○[漢]「周-宮天—之祀」。

【墭】セイ、シヤウ。市政切 敬
盛と通ず、もる、又、もる器。

【[illegible]】糞に同じ。

【[illegible]】壞に同じ。

【[illegible]】ケツ、ケチ。丘傑切 屑
さかひ、(界)。

【[illegible]】シフ。即入切 緝
水、地より出づ、わく。

【[illegible]】シフ。悉盍切 合
水のわきいづる聲。

【墮】タ、ダ。吐火切 哿 キ。許規切 支
或は隳に作る。

㊀やぶる。
(い)くづす、(頽)、こはす、こぼつ、(毀)、つぶす、(潰)。○[荀]「猶下以二錐-刀一—中太-山上也」。
(ろ)くだける、こはる、くづる、つぶる。○[史]「士-卒指—」。

㊁おつ。
(い)下る、入る、おる、はまる。○[淮]「而後—二谿-壑一」。
(ろ)脫す、うす。○[說苑]「齒再—而舌猶存」。

㊂おとす。
(い)下す、おろす、はむ。○[史]「楚-騎追二漢-王一、漢-王急推二—孝-惠魯-元車-下一」。
(ろ)廢す、脫す。○[呂氏春秋]「—-—武」。

㊃惰と通ず、おこたる、なまける。○[韓]「侈而—者貧」。

(陷墮)　はまる、又、はむ。○[易林]「—二—谷-中一」。

(飄墮)　ひるがへりおつ。○[范成大]「天-風吹-嬋-娟—-—寂-寞濱」。

(頽墮)　くつがへり落つ、くづる。○[宋]「乘レ車常以二　「—-—處レ之」。

(損墮)　そこなひおとす、又、そこなはれおつ、くづる、くづす。○[淮]「辭レ不レ能而受レ所レ能、則得レ無二—-—之勢一」。　「烟-雨村」。

(謫墮)　おちぶる、零落す。○[蘇軾]「玉-妃、—-—

(遺墮)　忘るといふに同じ。○[韓愈]「猶レ有二鬼-神寧—-—一」。

(倭墮)　ふりさげがみ、みだれがみ、(髻)。

(解墮)　おこたりなまける。○[禮]「民-氣—-—」。

(怠墮)　前に同じ。○[史]「不二敢—-—一」。

【[illegible]】隳に同じ、おつ。○[漢]「周-道衰、法-度—」。

【[illegible]】隳に同じ、おつ、又、おとす。○[史]「漢-王急推二—二-子一」。

【墰】タン、ドン。徒南切 覃
壜に同じ、さかがめ。

【墱】トウ。丁鄧切 徑 ―隥と通ず。
㊀小さき阪、又、たかきはし、閣道。〇〔西京賦〕「――道邐倚以正東」。
㊁小さきあな、又、水の支流。〇〔魏都賦〕「――流十二、同レ源異レ口」。

【墱】トウ。都騰切 蒸
牆を築く聲にいふ字。

【墲】ボ、ブ、莫胡切 微夫切 虞 モ。ム。
墓地となすべき處、又、はか、つか、（冢地）。〇〔漢〕「初-陵之―」。

【墳】フン、ボン。符分切 文
㊀はか、（墓）、もり土の設けあるもの。〇〔北〕「孝-文望レ―掩レ涕」。
㊁地の高き處、をか、（丘）。〇〔屈原〕「登ニ大――一以遠-望兮」。
㊂つゝみ、（大防、塘）。〇〔射雉賦〕「崇――夷-靡、農不レ易レ壠」。
㊃おほいなり、（大）。〇〔周〕「司-烜-氏共ニ――燭一」。
㊄わかつ、（分）。〇〔楚辭〕「地-方九則何以―レ之」。
㊅伏羲、神農、黄帝の書の名。〇〔左〕「三―五-典」。
〔典墳〕三皇の書と五帝の書と、轉じて古書の義。〇〔文賦〕「佇ニ中-區一以玄-覽頤ニ情-志於――一」。
〔皇墳〕三墳に同じ。〇〔韓愈〕「險-語破ニ鬼-膽一高-詞媲ニ――一」。
〔丘墳〕をか。〇〔漢〕「涉ニ乎蓬-蒿一、馳ニ乎――一」。
〔先墳〕祖先を葬むれる墓。〇〔宋〕「咸-信知ニ曹-州一、上言――在レ洛欲レ立レ碑」。
〔墟墳〕草莽の裡に埋もれてあるつか。〇〔東方朔〕「敬-間ニ――一、企ニ佇原-濕一」。
〔古墳〕ふるきつか。〇〔賈島〕「枯-株傍ニ――一」。
〔荒墳〕前に同じ。〇〔許渾〕「茅-花落-處認ニ――一」。
〔壞墳〕前に同じ。〇〔周禮〕「寒-狸出ニ――一」。

【墳】フン、ブン。父吻切 吻
肥えたる土。〇〔書〕「白―、黒―、赤-埴―」。

【墳】フン、ボン。部本切 阮
地高く起こる、うごもつ。〇〔左〕「公祭レ地、地―」。

【壄】古文の野の字。〇〔楚辭〕「天-時懟兮、威-靈殺-盡兮、棄ニ原――一」。

【壙】クワウ、ワウ。胡光切 陽
壙に同じ。

十三畫

【墺】アウ、於到切 號 ヰク、乙六切 屋 オウ。オク。
㊀四方の土の居るべき處、ゐどころ。
㊁水のほとり、（水厓）、又、隩に作る。

【墻】俗の牆の字。

【墼】ケキ、キヤク。吉歷切 錫
ふきがはら、（瓴）甋、一說に、瓦の下地、卽ち未だ燒かざる瓦、かはらふたち。

【[土遂]】隧に同じ。

【墽】墝に同じ。〇〔淮〕「韓地―民險」。

【貇】コン。口很切 阮
㊀新に地を開きおこして田畝となすにいふ字、ひらく、又、つとむ、（力）、をさむ、（治）。〇〔國〕「陰-陽分-布、震-雷出レ滯、土不ニ備―一、辟在ニ司-寇一」。
㊁やぶる、（傷）、又、やぶれたるもの。〇〔周〕「陶-旊之事、髻―薜-暴不レ入レ市」。
〔古墾〕わが所有としてひらく。〇〔漢〕「――ニ―草-田數-百-頃一」。
〔耕墾〕田畝をたがへし拓く。〇〔宋〕「縱レ民――、勿レ收ニ租-稅一」。
〔闢墾〕田畝をひらきをさむ。〇〔柳宗元〕「乃―乃―、乃宣乃理」。

【[土過]】窩に同じ。

【墿】エキ、ヤク。夷益切 陌
わだち、（軌道）。

【墿】ト、ヅ。同都切 虞 徒故切 遇
みち、（道、塗）。

【壀】塀に同じ。

【[戠土]】籀文の埴の字。

【[號土]】カウ、ゴウ。後到切 號
土にて造りたる釜、（土釜）。

【壁】ヘキ、ヒヤク。必歷切 錫
㊀かべ、又、かき。
（い）家の圍ひ又は室の隔てなどの土を塗れるもの、風雨を避け防ぐ義。〇〔禮〕「溫-風始至、蟋-蟀在レ―」。
（ろ）敵を防がんとて築きたる障壘、とりで、軍壘。〇〔漢〕「帝晨馳入ニ韓-信張-耳―一奪ニ之軍一」。
（は）崖の切りたちたる處、がけ。〇〔隋〕「其山絕―千-尋、由-來乏レ氷」。
㊁なまめ、二十八宿の一。〇〔晉〕「東-―二-星主ニ文-籍一、天-下圖-書之府」。
〔四壁〕まはりのかべ。〇〔戰〕「何愛ニ乎餘-明之照ニ――一者上、何爲去レ我」。
〔複壁〕二重になしたるかべ。〇〔後漢〕「藏ニ岐――中一」。
〔椒壁〕濕氣を防がんとて泥にたうがらしを混へて塗りたるかべ、（多く高貴の家に用ふ）。〇〔後漢〕「后-妃以レ―塗レ―、取ニ其繁-衍多-子一」。
〔高壁〕高く築きたるかべ。〇〔魏〕「――深レ壘、挫ニ其銳-氣一」。
〔題壁〕かべに賛辭を書すること。〇〔南〕「―ニ其贊于――一」。
〔古壁〕ふるきかべ。〇〔盧照鄰〕「空-梁無ニ燕-雀一、――有ニ丹-青一」。
〔破壁〕やぶれたるかべ。〇〔蘇軾〕「長-廊敧ニ雨-脚一、――撼ニ鐘-音一」。
〔敗壁〕前に同じ。〇〔宋〕「殘-垣――、蓬-蒿翛-然」。
〔峭壁〕けはしき山がけ。〇〔劍門山記〕「――中-斷、兩崖相嶔」。
〔壘壁〕とりで。〇〔前秦錄〕「――悉降」。
〔疊壁〕前に同じ。〇〔史〕「趙-軍築ニ――一而守レ之」。
〔塢壁〕前に同じ。〇〔後漢〕「修ニ理――一、威-名大行」。
〔墻壁〕かべ。〇〔後漢〕「戶-牖――各置ニ刀-筆一」。
〔玉壁〕玉をちりばめたるかべ。〇〔晉〕「珠-簾――」。
〔粉壁〕しらかべ。〇〔漢〕「以ニ胡-―一塗レ―」。
〔巖壁〕けはしき岩。〇〔博物志〕「天-門山有ニ大-――、直-上數-千-仞」。
〔峻壁〕前に同じ。〇〔水經、註〕「崇-巖――、非ニ輕-功可上レ舉」。
〔赬壁〕赤き切りぎし。〇〔水經、註〕「丹-崖山悉――」。
〔籬壁〕まがきとかべと、近き處にもいふ。〇〔世〕「德之休-肅明-愼貢ニ其楛-矢一、如ニ其不レ爾、――間レ物、亦不レ可レ得」。
〔秀壁〕高く聳えてある崖。〇〔述異記〕「淸-溪――」。
〔崖壁〕切りぎし。〇〔始興記〕「――千-仞、猿-狖不レ能レ攀」。
〔礴壁〕石をもて疊みたるかべ。〇〔吳郡諸山錄〕「蟠ニ基――一十-餘-里」。
〔丹壁〕あかき切りぎし。〇〔黃公望〕「翠-崖――」。
〔森壁〕けはしききし。〇〔吳均〕「――爭レ霞、孤-峯限レ日」。
〔竦壁〕けはしき岩のきりぎし。〇〔杜甫〕「――攢ニ鎭-鄂一」。
〔瓶壁〕前に同じ。〇〔袁宏〕「于レ嶺上ニ――」。
〔幽壁〕さびしき室といふに同じ。〇〔方干〕「――部ニ蟲-壁一」。
〔層壁〕幾重にもかさなりてあるきりぎし。〇〔殷成式〕「嶺-々鬼-怪――寬」。
〔嶄壁〕きりぎし。〇〔李中〕「兩崖――連レ天起」。
〔剝壁〕かべをはがす、又、はがれたるかべ。〇〔王令〕「風-雨―レ―頹ニ柱-棟一」。

【壂】 テン、デン。　堂練切　霰

さの、（殿、堂）、一說に、堂のもとゐ、（堂基）。

【壈】 クワン、ゲン。　胡關切　刪

環に同じ。

【墶】 㙩に同じ。

【壃】 疆に同じ、本、畺、又、畕に作る。

【壅】 ヨウ、ユウ。　於用切　宋　委勇切　腫

㊀閉塡す、梗塞す、とづ、せく、ふさぐ、ふさがり。　○〔中論〕「賢‐者歸レ我、猶下決レ‐導二滯‐水一注中之大‐壑上」。

㊁草木の根に土を被ひてやしなふ、つちかふ、（培）。

〔雍壅〕（植）みづゐき。　○〔稽含南方草木狀〕「雍‐頭一‐名‐‐、棐‐如レ沸、有二芒‐刺一」。

〔積壅〕つもりふさがる。　○〔釋〕「‐‐‐凝‐迷、沈‐流莫レ反」。

〔壓壅〕枉げてふさぐ。　○〔魏〕「雖レ曰二司‐存一、毎多二‐‐‐一」。

〔梗壅〕ふさがる。　○〔唐〕「鄭‐白‐渠‐‐、民不レ得レ歲」。　「〔唐〕、詔‐勅‐‐‐」。

〔障壅〕と、こほりふさがる、又、と、こほらす。　○

〔蔽壅〕おほひふさぐ、おほひふさがる、又、人の世に出でられざるとなどにいふ語。　○〔東方朔〕「懷二沙‐礫一而自沈兮、不レ忍見二君‐‐‐一」。

〔叢壅〕おほひふさがる。　○〔張說〕「荒‐居無二‐‐‐一」。

【擁】 壅に同じ。

【壈】 𡒄に同じ、本、坎に作る、又、城に作る。

【壇】 タン、ダン。　唐干切　寒　タン。　德旱切　旱

〔說文〕从レ土亶聲。

土をもりて築ける高き場、祭祀、會見、盟誓、特に將相を拜する時など、すべて大事を行ふ時に設くるもの、まつりのには、にはゝ　○〔左〕「鄭‐伯如レ楚、舍不レ爲レ‐」。

〔泰壇〕天を祭るにはゝ　○〔禮〕「燔二柴於‐‐一、祭レ天也」。

〔石壇〕石にてたゝみたるにはゝ　○〔李遠〕「紅‐花滿二‐‐‐一」。

〔圓壇〕まろき形に作りたる祭壇。　○〔隋〕「梁南‐郊爲二‐‐‐一」。

〔郊壇〕天を祭るにはゝ　○〔高適〕「透‐迤出二‐‐‐一」。

〔瑤壇〕玉にてたゝみたるには、仙人の居處。　○〔張協〕「脊二椒‐庭一塗二‐‐‐一」。

〔仙壇〕仙人のをるにはゝ　○〔元結〕「其上有二‐‐‐一」。

〔祠壇〕祭りのにはゝ　○〔史〕「常有二流星一、經二於‐‐上一」。

〔墠壇〕土にて埓をつくりて壇にかたどる。　○〔儀〕「爲二‐‐‐一　畫‐階」。

〔靈壇〕神祇を祭るにはゝ　○〔漢〕「神‐祇見レ光、集二於‐‐‐一」。　「於‐竈‐上」。

〔道壇〕道敎を修むるには、壇場。　○〔晉〕「立二‐‐‐一」。

〔柴壇〕天を祭る時に柴薪を焚くにはゝ　○〔宋〕「以レ奉二玉‐璧‐牲‐體‐諸‐饌‐物一登二‐‐‐一」。

〔燎壇〕前に同じ。　○〔唐〕「大‐祀之‐‐‐也」。

〔蜡壇〕年終に行ふ祭のにはゝ　○〔唐〕「高尺廣丈‐‐也」。　「門‐外‐‐‐猶存」。

〔盟壇〕ちかひの時に使用するにはゝ　○〔梁州記〕「今

〔古壇〕むかし作られたるにはゝ　○〔伍喬〕「人帶二月‐光一登二‐‐‐一」。

〔荒壇〕頹廢せるにはゝ　○〔李端〕「帶レ綬上二‐‐‐一」。

〔鷄壇〕友人相會するには、轉じて、友人の會する場處。　○〔北戶錄〕「越‐人毎二相交一、作レ壇祭以二白‐犬丹‐雞一」。

〔師壇〕天下の大臣又は大將軍を拜する禮を行ふにはゝ　○〔唐〕「四登二‐‐‐一」。

【壜】 タン、ダン。　他案切　翰

ひろく～さしてある貌にいふ字。　○〔子虛賦〕「案‐衍‐‐曼」。

【壇】 セン、ゼン。　時戰切　霰　上演切　銑

テン、デン。　亭年切　先

墠に同じ、地をはらひ淨めたる祭場。

【壛】 セン。　昌豔切　豔

ふさぐ、おほふ、おほはる、（蔽）。

【壈】 ラン、ロン。　盧感切　感

―一、廩に作る。

志を得ざる貌に用ふる字。　○〔楚辭〕「坎‐‐兮貧‐士失レ職而志不レ平」。

【堀】 堀の本字。

十四畫

【壍】 塹に同じ。

【墊】 チフ。　敕立切　緝

㊀おちいる、おつ、（下入）。

㊁土を累ぬ、又、ます、（益）。

【壏】 テフ、ドフ。　直涉切　葉

㊀地ひくし、くだる、（墊）。

㊁おぼる、（溺）。

【㙞】 テフ。　直業切　洽

田みのる。　○〔賈思勰〕「秋‐田‐‐實」。

【壎】 ケン、ゴン。　況袁切　元

クン、コン。　許云切　文

―塤と同じ。

樂器、土を燒きて造り上尖り底平たくして、其の形、稱錘に似たるもの、其の聲叫ぶが如くに聞こゆ。　○〔詩〕「伯‐氏吹レ‐」。

【壎】 キン、クン。　吁運切　問

いひばち、（盂）。

【壏】 カン、ゴン。　胡覽切　感

堅き土。　○〔管〕「纏‐土之次曰二五‐‐一、五‐‐之狀芬‐焉若レ糠以肥」。

【壏】 ラン、ロン。　盧瞰切　勘

地平かにして長きにいふ字、たひらかなり、ながし、𡎟に通じ作る。

【壐】 璽に同じ。

【壒】 ケン。　去演切　銑

小さき阜。

【壑】 カク。　黑各切　藥　黃格切　陌

俗に壑に作るは惡し。

雨山の間の凹くしてうつろなる處、たに、（谷）、みぞ、（溝）、あな、（坑）。　○〔張衡西京賦〕「谿‐‐錯‐繆而盤‐紆」。

〔溝壑〕みぞ。　○〔孟〕「志‐士不レ忘レ在二‐‐‐一」。

〔谿壑〕たに。　○〔張協〕「‐‐無二人‐跡一」。

〔洞壑〕ほら、又、みぞ。　○〔後漢〕「超二‐‐一、越二峻‐‐‐一」。　「‐爭レ流」。

〔萬壑〕おほくのたにがは。　○〔晉〕「千‐巖競レ秀、‐‐爭レ流」。

〔巨壑〕海の異名。　○〔曹植〕「食若レ塡二‐‐‐一」。

〔深壑〕ふかきみぞ。　○〔王褒〕「‐‐藏レ舟」。

〔澮壑〕ふかきみぞ。　○〔謝靈運〕「俯‐鏡二‐‐‐一」。

〔坑壑〕あなみぞのとこ。　○〔吳〕「頓二仆‐‐‐一」。

〔汚壑〕前に同じ。　○〔淮〕「蹪二蹈于‐‐‐一穽‐陷之中一」。　「‐‐」。

〔幽壑〕ふかきみぞ。　○〔蜀〕「初升二高‐岡一、終隕二‐‐‐一」。

〔淵壑〕たにがは。　○〔孔壽〕「蹟‐荇緣二‐‐‐一」。

〔巖壑〕前に同じ。　○〔謝靈運〕「‐‐寒二耳‐目一」。

〔潭壑〕ふかき水あるほり。　○〔鮑照〕「悲滿二‐‐‐一」。

〔大壑〕海の異名。　○〔莊〕「‐‐爲レ物也注レ焉而不レ滿、酌レ焉不レ竭」。

【壒】 アイ。　於蓋切　カイ。　丘蓋切　泰

―省いて塧に作り、又、俗に塧に作る。

ちり合す、ちりたつ、又、塵埃、ごみ、ちり。○〔班固〕「軼二埃—之混濁一」。
〔埃壒〕ちりほこり。○〔梅堯臣〕「——生二路軌一」。
〔呼壒〕ちり、惡人に借りいふ語。○〔謝莊〕「躬溝二——一」。
〔浮壒〕かろきちり。○〔劉禹錫〕「——莫二能停一」。
〔烟壒〕けむりとちりと。○〔元稹〕「谷深——淨」。
〔纖壒〕極めてこまかきちり。○〔僧貫休〕「錦帳無二——一」。
〔塵壒〕前に同じ。○〔趙抃〕「深淨去二——一」。
〔紛壒〕紛雜とちりとのことよりうつして市井の間を稱するに用ふる語。○〔廼賢〕「自言遠二——一」。
〔騎壒〕馬の蹴たつるちり。○〔唐〕「——蒙二京師一」。
〔涓壒〕こまづくとちりと、轉じて少しばかりといふ意に用ふる語。○〔王融〕「思策二鉛驁一、樂陳二——一」。

【堅】堅に同じ。

【壓】アフ、エフ。乙甲切 〔洽〕
㊀おす。
(い)うへより重みにて推す、おさふ、(抑)。○〔漢〕「萬鈞之所レ—、無下不二糜滅一者上」。
(ろ)威力もて服せしむ、しづむ、(鎭)。○〔齊〕「不下得二天下第一人一爲中行事上、無三以—二一州一」。
(は)下に置く。○〔江總〕「雲飛風起追—二漢帝之辭一」。
(に)おし迫る。○〔姚鵠〕「樓—寒江上」。
(ほ)おし倒す。○〔魏〕「因二其傾一而—レ之」。
(へ)しぼる、(笮)。○〔蘇舜欽〕「糟牀新—響冷々」。
(と)おつ、(墮)、やぶる、(壞)。○〔左〕「棟折榱崩、僑將レ—焉」。
(ち)ふす、(伏)。○〔人物志〕「貧賤窮匱勢之—也」。
(り)あたる、(當)。○〔戰〕「以二重力一相—、猶三烏獲之與二嬰兒一」。
(ぬ)ふさぐ、(塞)。○〔李君元〕「獨立而光連二日月一、橫行而氣—二山川一」。
(る)備へざるを討つ、襲ふ。○〔左〕「楚晨—二晉軍一而陣」。
㊁おすと、おすもの、おし、おもし。○〔孔平仲〕「觀二其纒—意一」。
〔彈壓〕たゞしおさふること。○〔唐〕「輦轂之下、——爲レ先」。
〔鎭壓〕(い)しづむ。○〔晉〕「以——二內外一」。(ろ)つぶる、ふす。○〔後漢〕「遠二巖墻一而有二——之患一」。
〔壞壓〕やぶる。○〔唐〕「——之變、天所三以示二敎戒一」。
〔抑壓〕おさへて下に置く。○〔唐〕「否則——以退二仲尼之徒一」。
〔覆壓〕おほひかぶす。○〔杜牧〕「——二三百餘里一」。
〔占壓〕ふさぐ。○〔宋〕「——二御河一」。
〔推壓〕倒す、おさふ。○〔文心雕龍〕「——二鯨鯢一」。
〔低壓〕さがりふす。○〔何夢桂〕「茅簷——半蒼苔」。
〔擠壓〕しりぞけおさふ、ふす、下に置く。○〔梁武帝〕「——莫レ通」。
〔羅壓〕つらねおさふ。○〔呂溫〕「湖中七郡——二上游一」「十萬家」。
〔控壓〕ひかへしづめおさふ。○〔杜牧〕「——平江」。
〔沉壓〕しづみふす。○〔陸游〕「——擯廢」。
〔傾壓〕かたぶきやぶる。○〔葉適〕「前臨久——」。
〔翻壓〕くつがへりふす。○〔劉廻〕「人牛——嗚聲哀」。

【壓】エフ、オフ。益涉切 〔葉〕
葉の韻の厭に同じ、(其の條參照)。○〔荀〕「如二墻—レ之」。

【壓】デフ、子フ。諸協切 〔葉〕
一の指をもて抑ふ。

【壓】エン、オン。於豔切 〔豔〕 或は、厭、饜に作る。
豔の韻の厭に同じ。○〔漢〕「朕甚—二苦之一」。

【壔】タウ、トウ。都皓切 〔皓〕
とりで、(堡)、一說に高き土、つか、本、壔に作る、又、嶹、島、隝に通ず。

【壕】カウ、ゴウ。胡刀切 〔豪〕
城下の池、ほり。○〔柳宗元〕「鴈鳴二寒雨一下二空—一」。
〔邊壕〕外部のほり。○〔宋〕「皆出至二——一、則賊己去矣」。

【壖】セン、ゼン。而宣切 〔先〕
㊀岸のほとりの地、きし。○〔陶翰〕「迢遞濟二江—一」。
㊁墻の外に設けあるたけ短き垣、かき、又、垣の外の地。○〔路史部說〕「廟有二——之護一」。
〔瀕壖〕陸地のはて。○〔謝靈運〕「周覽倦二——一」。
〔津壖〕岸。○〔于濆〕「巨浸無二——一」。

【塗】塗に同じ、みち。○〔漢犍爲〕「——路崟難」。

【塝】ボウ、モウ。謨中切 〔東〕
さは、(澤)。

【壝】井。於龜切 〔支〕
處々に通はるゝみち、九達の道。

【壝】キ。求位切 〔寘〕
㊀累なりたる土、もりつち。
㊁簣に同じ、もつこ。○〔後漢〕「爲レ山而不レ終、踰二乎一——一」。

【壏】カン、コン。呼覽切 〔感〕
土かたし。

十五畫

【壥】俗の廛の字。

【壘】ルヰ、ライ。魯水切 〔紙〕
㊀本城を離れて築ける小城、柵又はどてなどを構へ兵士を置く所、とりで、(軍壁)。○〔左〕「請深レ—固レ軍以待レ之」。
㊁星の名。○〔史〕「虛南衆星曰二羽林天軍一、軍西爲レ—」。
〔軍壘〕とりで。○〔杜甫〕「妻孥隔二——一」。
〔高壘〕たかきとりで、又、とりでを高くす。○〔史〕「足下深レ溝—レ—、堅レ營勿二與戰一」。
〔壁壘〕とりでのこと。○〔陰鏗〕「幷二我勇力一、重二堅——一」。
〔營壘〕兵營ととりでと。○〔後漢〕「乃盛修二——樓觀數十一」。
〔堅壘〕固きとりで、又、とりでを固守すること。○〔魏〕「宣王—レ—不レ應」。
〔城壘〕とりで。○〔魏〕「高爲二——一」。
〔對壘〕とりでのむかひあふこと。○〔晉〕「與レ之——百餘日」。
〔故壘〕むかしのとりで。○〔晉〕「屯二于韓王——一」。
〔柵壘〕木柵を立てたるとりで。○〔北〕「士衆勞疲、——未レ安」。
〔邊壘〕邊陲の地にあるとりで。○〔舊唐〕「左衽輸レ欵、——連降」。
〔峭壘〕けはしきとりで。○〔唐〕「浚池——」。
〔槍壘〕敵軍の奔突を禦ぐ爲めに尖りたる木を立てあるとりで。○〔唐〕「引レ衆據レ險設二——一」。
〔魁壘〕さかんなる貌にいふ字。○〔漢〕「朝臣亡レ有二大儒骨鯁白首耆艾——之士一」。

【壘】キ。艮斐切 〔尾〕
山の重なりたる貌にいふ字、さがし。

【壘】ルヰ。力追切 〔支〕
㊀累に同じ、かさぬ、かさなる、かく、かゝる。○〔荀〕「不レ憂二其係——一也」。
㊁壯んなる貌にいふ字、さかんなり。○〔柳宗元〕「質魁——而無レ所レ隱」。
㊂冢相次ぐ、つゞく。○〔張載七哀〕「北邙何——」。
㊃礧に同じ。○〔漢〕「下二——石一」。

【壘】リツ、リチ。呂卹切 〔質〕

神の名。〇〔風俗通〕「上古有二神荼鬱壘一兄弟二人一」。

【壙】 クワウ。 苦晃切 養
㊀あな。
(い)墓の穴。 〇〔禮〕「弔二於葬一者必執レ引、若從レ柩及レ—皆執レ紼」。
(ろ)地の空洞なる處。 〇〔孟〕「猶二水之就一レ下、獸之走ヲレ—」。
㊁野原のひろき貌にいふ字、ひろし。 〇〔賈誼〕「天下—・—、一人有レ之」。
〔塚壙〕 つかあな。 〇〔詩、箋〕「穴謂二—・—中一也」。
〔甎壙〕 かはらもてこつらへたるあな。 〇〔稽神錄〕「一擲レ弛得二自然—・—一」。

【墼】 テキ、ヂャク。 亭歷切 錫
ひめがき、(堞)。

【[土+臱]】 ベン、メン。 民堅切 先
地を平かにす、又、たひらかにす、たがへす。

十六畫

【壚】 ロ、ル。落胡切 虞 リヨ、ロ。 凌如切 魚
一に爐、又、鑪に作る。
㊀色黑くして剛き土、くろつち、あらつち。〇〔書〕「豫州下土墳—」。
㊁酒家の酒を賣れる處、昔は其の狀を爐の如くす。〇〔史〕「令二文君當一レ—」。
㊂爐に同じ、ゐろり、ろ。〇〔陸游〕「茶—烟起知二高興一」。
〔黃壚〕 黃泉のこと、地の底、又、冥土、よみぢ。 〇〔淮〕「蟠二乎—・—之下一」。「交入二—・—一」。
〔酒壚〕 さかつぼ、又、さけを賣る場處。〇〔杜甫〕「論
〔賣壚〕 酒うる處。 〇〔元稹〕「—・—高掛小旗青」。
〔紅壚〕 赤色の酒つぼ。〇〔皮日休〕「—・—高幾尺」。
〔空壚〕 酒つぼの酒のいれてなきもの。 〇〔陸游〕「酒壚人散有二—・—一」。

【壛】 エン、オン。 余廉切 鹽
檐に同じ、のき。 〇〔楚辭〕「曲屋步—」。

【壜】 墰に同じ。

【壝】 ヰ。 以水切 紙 欲鬼切 尾 以追切 支 夷隹切 佳 スヰ。 以醉切 寘
土にて築きたるらち、ごて、(土埒)、一に、壇のまはりに築きたる低き垣。 〇〔周〕「封人掌レ設二王之社—一」。

【壞】 クワイ、ケ。 古怪切 卦 —說文 从レ土褱聲。
やぶる。
(い)碎きくづす、やぶる、こはす、(毀)。 〇〔國〕「天之所レ支不レ可レ—」。
(ろ)碎けくづる、こはる。 〇〔史〕「上蔡之郡—」。
〔廢壞〕 くづれやぶる。 〇〔後漢〕「家既—・—」。
〔敗壞〕 前に同じ。 〇〔後漢〕「若衣—・—、一以相補」。
〔殘壞〕 前に同じ。 〇〔魏〕「今雖二—・—一、猶易二以自保一」。
〔獘壞〕 やぶる。 〇〔魏〕「衣裳—・—者、謂二之解潔一」。
〔朽壞〕 くされやぶる。 〇〔晉〕「軍旅樂器在レ庫、遂至二—・—一」。
〔撓壞〕 うちくづす。 〇〔晉〕「欲レ—二—之邪一」。
〔折壞〕 をれやぶる。 〇〔晉〕「七篇簡書—・—、不レ識二名題一」。
〔沮壞〕 やぶれくづる。 〇〔說苑〕「遇二天大雨一、子必—・—」。「緝レ之」。
〔斷壞〕 きれくづる。 〇〔陸龜蒙〕「有二編簡—・—者一」。
〔荒壞〕 あれくづる。 〇〔曹植〕「感二—・—一而莫レ振」。
〔裂壞〕 さけやぶる。 〇〔王惲〕「坐看長堤驚二—・—一」。
〔隳壞〕 すき間を生じこはる。 〇〔左〕「墻之—・—誰之咎也」。
〔弊壞〕 つひえやぶる。 〇〔魏〕「衣冠—・—」。
〔震壞〕 ふるひやぶる。 〇〔漢〕「大室—・—」。
〔阻壞〕 はゞみやぶる。 〇〔唐〕「有レ所レ欲二—・—一」。
〔打壞〕 うちやぶる。 〇〔南〕「奪取—・—」。

【壞】 クワイ、エ。 胡罪切 賄
瘣に同じ、はれもの、又、木のこぶ。 〇〔詩〕「譬二彼—木一、疾用無レ枝」。

【壟】 リヨウ、リユ。 魯勇切 腫 ロウ、ル。 盧東切 東 —隴に通じ用ふ。
㊀つか、はか、(冢)。 〇〔梁〕「但懸二劍空—一、有レ恨如何」。
㊁田の中の高き處、うね、くろ、(畔)。 〇〔史〕「輟レ耕之二—上一」。
〔丘壟〕 をか。 〇〔郭璞〕「聲振二—・—一」。「—」。
〔厚壟〕 土をあつくもりたるつか。 〇〔唐〕「高墳—・—」。
〔高壟〕 たかきをか。 〇〔唐〕「乃坐二—・—一待レ之」。
〔峻壟〕 たかきつか。 〇〔張衡〕「超二—・—一、搏二大槲一」。
〔頹壟〕 くづれたるつか。 〇〔張載〕「—・—並墾發」。
〔麥壟〕 むぎばたけのうね。 〇〔張正見〕「滑風吹二—・—一」。
〔畦壟〕 はたけのうね。 〇〔李白〕「常恐レ委二—・—一」。
〔先壟〕 先人のはか。 〇〔蘇軾〕「歸及レ埽二—・—一」。

【壠】 壟の本字。

【壡】 古文の叡の字、又の部の十四畫に詳かなり。

【壢】 レキ、リヤク。 郎擊切 錫
あな、(坑)。

十七畫

【[土+戲]】 キ、ケ。 虛宜切 驅爲切 支
㊀やぶる、こぼつ、そこなふ、(毀)。
㊁巇の譌字。

【壣】 リン。 離珍切 眞
蔬菜を植うる處、はたけ、(蔬田)。 〇〔宋穆修〕「蕪菁秀出レ—」。

【壤】 ジヤウ、ナウ。 汝兩切 養
㊀とち。
(い)大地、大塊、ちきう、ち、つち。〇〔晉〕「不レ意天—之間、乃有二王郎一」。
(ろ)陸地の耕種すべきところの稱、特に其のすでに耕種してあるところの稱。 〇〔史〕「膏—沃野千里」。
(は)耕種すべき地を組成せるもの、つち(岩石などに對していふ)、特に其の柔くして塊なきもの。 〇〔書〕「厥土惟—」。
(に)國土。 〇〔束晳〕「九—茫々」。
㊁場所、ところ。 〇〔程晉〕「誠神明之奧—、乃尤物所レ處」。
㊂釀に通じ用ふ、こゆ、(肥)。 〇〔雒陽上吳王書〕「—子王レ梁」。
㊃穰に通じ、ゆたかなり、(富足)。 〇〔列〕「一年而給、二年而足、三年大—」。
㊄やぶる、そこなふ、(傷)。 〇〔穀梁〕「日食レ之、何也吐者外—、食者內—」。
㊅入り亂るゝ貌にいふ字。 〇〔史〕「天下—・—、皆爲レ利往」。「—」。
㊆數の名。 〇〔風俗通〕「京生レ垓、々生レ—」。
〔土壤〕 つち。 〇〔後漢〕「—・—膏腴」。
〔黃壤〕 黃色なるつち。 〇〔書〕「厥土惟—・—」。
〔蟻壤〕 ありの巢あるつち、又、下に引く例より泉の穴の義にいふ語。 〇〔戰〕「去二—・—一寸有レ水」。
〔膏壤〕 あぶらけありて肥えたるつち。 〇〔漢〕「—・—殖レ穀」。
〔糞壤〕 けがれたるつち。 〇〔韓愈〕「孤豚眠二—・—一」。「低」。
〔豐壤〕 肥えたる土地。 〇〔晉〕「猶下樹藝之有二—・—一、良歲之有中膏澤上」。
〔天壤〕 天地といふに同じ。 〇〔張協〕「名與二—・—一」、
〔擊壤〕 むかしの遊戲の名。 〇〔張協〕「黃髮—・—」。
〔朽壤〕 くされづち。 〇〔左〕「山有二—・—一而崩」。
〔槁壤〕 かわきたるつち。 〇〔孟〕「上食二—・—一、下飮二黃泉一」。
〔肥壤〕 こえたるつち。 〇〔淮〕「嘷以二—・—一」。

〔沃壤〕前に同じ。○〔溫子昇〕「考ニ茲ーー一、建ニ此精廬一」。
〔泉壤〕地下のこと。○〔晉〕「不レ令ニ敵臣銜ニ恨ーー一」。
〔枯壤〕水氣なく草木などの生せぬかれたるつち。○〔晉〕「碧原青野、倏爲ニーー一」。
〔燋壤〕水氣なくやけたる土地。○〔魏〕「孝婦涇刑、東海ーー」。
〔勝壤〕勝地といふに同じ、すぐれたる土地。○〔駱賓王〕「陜西開ニーー一」。
〔鬭壤〕戰爭の場處。○〔舊唐〕「淮漢之間、鞠爲ニーー一」。
〔沙壤〕すなはら。○〔唐〕「骨葬ニーー一」。
〔異壤〕異境といふに同じ、外國のこと。○〔唐〕「人生有レ死、獨委ニ骨ーー一耶」。
〔閒壤〕一年おきに穀を植うる田地。○〔管〕「ーー守レ之若干」。
〔公壤〕官地のこと。○〔管〕「鄕吏視レ事、葬ニ于ーー一」。
〔掬壤〕ひとつかみの土。○〔抱朴子〕「龍門洄瀧、非ニーー所一レ遏」。
〔礫壤〕小石ある土地。○〔茶經〕「中者生ニーー一」。
〔善壤〕極めてよきつち。○〔荔枝譜〕「皆擇ニーー一、終莫ニ能及一」。
〔蹊壤〕野莱の生せし土地。○〔韋應物〕「春流灌ニーー一」。
〔浩壤〕ひろき土地。○〔白居易〕「宜レ輟ニ材于ーー一」。
〔精壤〕沙礫なき純粹のつち。○〔楊夔〕「抉ニ去砂石一質以ニーー一」。
〔鹹壤〕しほけのある土地。○〔楊侃〕「ーー宜ニ北鄕之羊一」。
〔荒壤〕あれ土のこと。○〔袁伯長〕「讐田課ニーー記一」。
〔瘠壤〕やせ土。○〔蔡襄〕「勾萌牙ニ于ーー一」。
〔要壤〕要害の地。○〔蔡襄〕「常宿ニ勁兵一號稱ニーー一」。
〔糞壤〕糞土を掃き積む處、ちりづか。○〔莊〕「戸內之ーー、雷霆居レ之」。
〔蓋壤〕天地。○〔韓愈〕「ーー兩劉拂」。
〔息壤〕(い)處の名。(ろ)つか、塚土。○〔柳宗元〕「永州龍興寺ーー」。
〔州壤〕くに、くにざかひ。○〔魏〕「雖レ同ニーー一、未ニ嘗詣一レ門」。
〔邊壤〕さかひ。○〔魏、註〕「今ーー之守與レ賊相遠、間諜不レ行、耳目無レ聞」。
〔穹壤〕天地。○〔晉〕「ーー倹ニ其交泰一」。
〔潛壤〕かくれてあらはれざるつち、そこのつち。○〔南〕「有ニ銅鐘十二一、出ニ于ーー一」。
〔幽壤〕地のそこ。○〔晉〕「埋ニ之ーー一」。
〔邦壤〕くに。○〔梁武帝〕「聲著ニーー一」。

【壤】ジヤウ、ナウ。如陽切 [陽]
こえつち(肥土)。○〔急就章〕「墼、絫廥廄庫東、廂屏廁溷渾糞土ー」。

【壥】サン、ゼン。士減切 [豏]
墓のさかひ、又、壇のさかひ。

十八畫

【[雝+土]】壅に同じ。

【[土+闒]】タフ、ドフ。杜盍切 [合] 古文は塌の字。
おつ(隮)、一說に、地の下きにいふ字。

【[土+聶]】セフ、ソフ。質涉切 [葉]
[聶+瓦]に同じ、もたひ、ほとぎ。

二十畫

【壧】ガン、ゲン。魚銜切 [咸]
地の穴。○〔漢郊祀歌〕「ーー處傾聽」。

廿一畫

【壩】ハ、ヘ。必駕切 [禡]
ゐせき(堰)。

【[广+雝+土]】雍、壅、[雝+土]に同じ。○〔劉向九歎〕「徑ニ淫曀一而道ー」。

【[堯+堯]】ケウ、ゲウ。丘召切 [嘯]
たかし(高)。

廿二畫

【[土+囊]】ダウ、ナウ。乃浪切 [漾]
ちり(塵)、一說に、土のほら穴。

士部

【士】シ、ジ。鉏里切 [紙]

㊀さぶらひ。
(い)曲直を判かちをさむる官、裁判官など。○〔書〕「帝曰皐陶汝作レー」。
(ろ)官位ある者、俸祿を受くる者、(周の時代にては、大夫の下にありて四民の上に立つ者)。○〔書〕「猷ニ告爾多ーー一」。
(は)戰場にて將校を助けて卒伍を帥ゐる者。○〔左、註〕「甲ーー三人、步卒七十二人」。
(に)もののふ、武夫。○〔史〕「介冑之ー不レ拜、請以ニ軍禮一見」。
(ほ)義理を行ふ者、學藝を修むる者、鄙凡ならざる行爲職分あるもの。○〔論〕「ー不レ可レ不ニ以弘毅一、任重道遠」。
(へ)單に、男兒の稱。○〔史〕「三晉多ニ權變之ー一」。
㊁事に通じ用ふ。
(い)仕ごと、わざ、又、ことがら、こと。○〔書〕「見ニー于周一」。
(ろ)爲す、治む、ことゝす。○〔詩〕「勿レーニ行枚一」。

〔吉士〕善良なるさぶらひ。○〔詩〕「藹々王多ニーー一」。
〔貞士〕前に同じ。○〔詩〕「好樂無レ荒、ーー瞿々」。
〔正士〕德のたゞしきさぶらひ。○〔漢〕「羣枉盛則ーー消」。
〔甲士〕よろひを著けたる戰ひびと。○〔家語〕「匡人簡ニ我以ニーー一圍レ之」。
〔爪士〕たすけになるさぶらひ。○〔詩〕「祈父予王之ーー」。
〔女士〕をんなにしてさぶらひの行ひある者。○〔詩〕「釐ニ爾ーー一」。
〔髦士〕すぐれたるさぶらひ。○〔宗欽〕「廣闢ニ四門一、拔ニ廷ーー一」。
〔秀士〕前に同じ。○〔光〕「銓ニ簡ーー一、以爲ニ賓友一」。
〔俊士〕前に同じ。○〔後漢〕「輔佐賢明則ーー充レ朝」。
〔名士〕世間に名を知られたるさぶらひ。○〔禮〕「聘ニーー一、禮ニ賢者一」。
〔進士〕(い)周の時代に大樂正よりすぐれたる士を選び拔きて王に告げ司馬に升することあり其の選ばれたるを進士といひしより後世鄕中より選ばれて中央政府の試驗に及第せる者の稱に用ひられたる語。○〔五〕「前鄕貢ーー李珙、常置ニ之座側一」。(ろ)士を推擧すること。○〔魏〕「亦推レ賢ーレー」。
〔居士〕(い)德高く藝術ある人の官に就かずして野にをる者。○〔禮〕「ーー錦帶」。(ろ)佛敎にて不求官仕、寡欲蘊德、居財天富、守道自悟の四德を具したるもの、美稱、梵語には迦羅越といふ、轉じて、佛葬の法號の下に附する名稱。○〔法華經〕「諸婆羅刹利ーーー、皆恭敬圍繞」。
〔方士〕周の時代の官名、不死の藥をきつらふといふ道を行ふさぶらひ。○〔江淹〕「ーー鍊ニ玉液一」。
〔朝士〕周の時代の官名、又、朝廷に仕官せるさぶらひ。○〔金〕「以ニ官職一借ニーー之無レ馬者乘レ之」。
〔國士〕一國の中にすぐれたるさぶらひ。○〔左〕「不レ足ニ以害レ吳、而多殺ニーー一、不レ如レ已也」。
〔義士〕節操高き人。○〔左〕「ーー猶或、非レ之」。
〔力士〕ちから強き者。○〔史〕「此特一ーー之事耳」。
〔勇士〕氣力強き者。○〔孟〕「ーー不レ忘レ喪ニ其元一」。
〔志士〕意志の厚きさぶらひ。○〔陸機〕「ーー多ニ苦心一」。
〔上士〕(い)周の時代に士の位を上、中、下の三等に別かちたることあり其の最もかみに位する稱號。○〔孟〕「ーーー位」。(ろ)德のすぐれて士中第一等の人物。○〔老〕「ーー聞レ道、勤而行レ之」。
〔處士〕官途に就かぬ民間にあるさぶらひ。○〔孟〕「ーー橫議」。
〔廉士〕寡慾にしていさぎよきさぶらひ。○〔孟〕「陳仲子豈不ニ誠ーー一哉」。
〔善士〕よきさぶらひ。○〔後漢〕「皆天下ーー」。
〔豪士〕俊士に同じ。○〔孟〕「東門ーー皆飲レ酒」。
〔文士〕文學に從事する人。○〔舊唐〕「ーー雖レ犯、雖レ修ニ睦于外一、而蓄ニ怒于內一」。
〔壯士〕氣力のさかんなるさぶらひ。○〔戰〕「ーー一去不ニ復還一」。

〔節士〕節義に富める人。○〔漢〕「雲者好レ――」。
〔博士〕學者の位階。○〔史〕「――七十人前爲レ壽」。
〔學士〕（い）學問に從事するものにして學者といふに同じ。○〔史〕「天下之――、靡然鄕レ風矣」。（ろ）官位。○〔通鑑〕「――之職、本以二文學言語一被二顧問一、出入侍從」。
〔烈士〕節義にいさめるさぶらひ。○〔史〕「貪夫徇レ財、――徇レ名」。
〔淸士〕節操のきよらかなるさぶらひ。○〔史〕「擧レ世混濁、――乃見」。
〔天士〕天道を知れる者。○〔史〕「拔二擢――一、授以二大職一」。
〔奇士〕衆に超えてすぐれたるさぶらひ。○〔史〕「雖レ有二――一不レ能レ用」。
〔材士〕體格のすぐれて强き者。○〔史〕「盡徵二其――一五萬人一」。
〔高士〕德たかきさぶらひ。○〔史〕「齊國之――也」。
〔通士〕事物の理に明達せるさぶらひ。○〔荀〕「若レ是則可レ謂二――一矣」。
〔達士〕前に同じ、又、道を覺り知れる者。○〔後漢〕「至人能變、――拔レ俗」。
〔門士〕門卒に同じ、門番のこと。○〔後漢〕「給二事縣庭一、爲二――一」。
〔道士〕黄老の敎に得度したる者。○〔太眞外傳〕「度爲二女――一」。
〔寒士〕まづしきさぶらひ。○〔晉〕「服飾肴膳如二布衣寒士一」。
〔窮士〕前に同じ。○〔韓詩外傳〕「富而分レ貧、則――弗レ惡也」。
〔俠士〕弱きを助け强きを挫くをとこだてのさぶらひ。○〔金〕「性倜儻疏レ財而尙レ氣、有二古――風一」。
〔曲士〕心のまがりて狹きさぶらひ。○〔莊〕「――不レ可二以語一レ於道一者、束二於敎一也」。
〔褻士〕智德開けざる下等のさぶらひ。○〔晉〕「具二訓于――一」。
〔美士〕（い）すがたの立派なるさぶらひ。○〔漢〕「身長大肥白如レ瓠、時王陵見而怪二其――一」。（ろ）德のすぐれしさぶらひ。○〔魏〕「皆一世之――也」。
〔大士〕（い）周の時代の官名。○〔左〕「士榮爲二――一」。（ろ）大德あるさぶらひ。○〔管〕「務物之人無二――一焉」。
〔闘士〕いくさびと。○〔左〕「師少二於我一、――倍レ我」。
〔戰士〕前に同じ。○〔史〕「招二――一、明二功賞一」。
〔猛士〕をゝしきいくさびと。○〔史〕「安得二猛士一兮守二四方一」。
〔死士〕いのちがけのさぶらひ。○〔吳越春秋〕「越王斷遡二――一、出二三江之口一、入二五湖之中一」。

〔罷士〕才能の劣りたるさぶらひ。○〔荀〕「無二國不一レ有二賢士一、無二國不一レ有二――一」。
〔健士〕强きさぶらひ。○〔戰〕「此――也、居レ中不レ便二於相國一」。
〔游士〕他國に游歷するさぶらひ。○〔史〕「文信侯招二致賓客――一、欲三以幷二天下一」。
〔騎士〕馬に乘れるさぶらひ。○〔漢〕「屯騎校尉掌二――一」。
〔茂士〕才德のすぐれたるさぶらひ。○〔漢〕「廣延二――一」。
〔信士〕（い）信義の厚きさぶらひ。○〔後漢〕「世稱二來君叔天下――一」。（ろ）俗人にて佛門に歸依し、又は、佛葬にて法號の下に附する名稱。
〔徵士〕令名ありて朝廷よりめし出したるさぶらひ。○〔顏延之〕「有二晉――潯陽陶淵明一」。
〔吏士〕役人のこと。○〔後漢〕「時三輔――、東迎二更始一」。
〔雅士〕正しきさぶらひ。○〔魏〕「言少理多、眞――也」。
〔彥士〕前に同じ。○〔魏〕「可レ謂二國之貞臣、時之――一矣」。
〔儒士〕儒學に從事する學者。○〔魏〕「登二――一、擧二逸民一」。
〔俗士〕凡庸なるいやしきさぶらひ。○〔蜀〕「德操曰、儒生――、豈識二時務一」。
〔偉士〕すぐれたるさぶらひ。○〔蜀〕「許文休英才――、智略足二以計一レ事」。
〔銳士〕するどく强きさぶらひ。○〔吳〕「自擇二選――一五千人一」。
〔白士〕年若きさぶらひ。○〔晉〕「以二――一、而居二重位一」。
〔異士〕凡庸とかはりてすぐれたるさぶらひ。○〔南〕「千載上有二英才――一沈沒而不レ聞者一」。
〔隱士〕身の顯達を望まずして世を避れたるさぶらひ。○〔南〕「世論以レ黙爲二孝――一」。
〔虓士〕武勇のさぶらひ。○〔唐〕「――爪臣、氣力未レ衰」。
〔莊士〕おごそかなるさぶらひ。○〔唐〕「纖艷不レ逞、非二――一雅人所レ爲」。
〔蹇士〕忠直のさぶらひ。○〔唐〕「作二――一賦、以自況」。
〔碩士〕大德あるさぶらひ。○〔晉書〕「宿師――、傑然相望」。
〔放士〕役人とならずして山野に放逸せるさぶらひ。○〔山海經〕「其縣多二――一」。
〔愨士〕正直なるさぶらひ。○〔荀〕「若レ是則可レ謂二――一矣」。
〔能士〕才藝あるさぶらひ。○〔荀〕「足下以容二天下之
〔顯士〕世に名を知られたるさぶらひ。○〔韓詩外傳〕「遂爲二天下――一」。

〔慧士〕さときさぶらひ。○〔淮〕「――可二與辨一レ物」。
〔餒士〕うゑたるさぶらひ。○〔孟郊〕「山野多二――一」。
〔英士〕前に同じ。○〔高郵〕「曹劌者何、魯國――」。
〔熊羆士〕强くして助けとなるべきさぶらひ。○〔書〕「則亦有二――之――、不二二心之臣一」。
〔弓馬士〕軍人のこと。○〔晉〕「益者――之士驅走之人」。
〔觀筆士〕文人のこと。○〔隋〕「如何――、翻作二負戈人一」。
〔骨鯁士〕剛直なるさぶらひ。○〔唐〕「臣誠恐天下――、以二黨言一爲レ戒」。
〔布衣士〕官位なきもの。○〔後漢〕「以二――之一、尙有二列顯之交一」。
〔都人士〕みやこのひと。○〔詩〕「彼――、狐裘黃々」。
〔虎賁士〕（い）近衞兵。○〔周〕「王出將――居二前後一」。（ろ）つよき車兵。○〔史〕「――之―百餘萬」。
〔巖穴士〕いはあなの間に身を置く人、卽ち、隱遁のさぶらひ。○〔史〕「――之―趣舍有レ時」。
〔山谷士〕前に同じ。○〔莊〕「此――之―非レ世之人枯槁赴レ淵者之所レ好也」。
〔枯槁士〕零落の士。○〔莊〕「――之士宿レ名」。
〔招世士〕世の中より歡迎せるさぶらひ。○〔莊〕「――之士榮レ朝」。
〔蓽門士〕いやしきもの。○〔鮑照〕「我以二――一」。

【壬】　一畫　ジン、ニン。如林切　侵

㊀えとの名、十干の一、辛の次、癸の前、みづのえ、方位にては北。○〔孔叢子〕「凡類禡皆用二甲丙戊庚―之剛日一」。
㊁辰の名、星座。○〔爾〕「太歲在レ―曰二玄黓一、月在レ―曰レ終」。
㊂任に同じ、はらむ、又、おふ。○〔史〕「―之爲レ言任也、言陽氣任二養萬物于下一也」。
㊃へつらふ、おもねる、ねぢく（佞）。○〔書〕「巧言令色孔―」。
㊄おほいなり、（大）。○〔詩〕「百禮既至、有レ―有レ林」。

〔憸壬〕おもねる。○〔唐〕「左右附レ之、――甚レ之」。
〔巧壬〕たくみにおもねる。○〔周必大〕「知レ人非二堯帝之難一、――奚患」。

【壯】　四畫　サウ、シヤウ。側亮切　漾　側羊切　陽

壯の字、士に从ひ爿の聲、土に从ひて壮に作り、又、省きて壮に作るはあし。

㊀さかんなり。
（い）勢力の强健なるにいふ字、つよし。○〔後漢〕「大丈夫爲レ志、窮當二益堅一、老當二益―一」。
（ろ）形貌の雄大なるにいふ字、おほいなり。○〔陸雲〕「形瑰者徵レ告、體―者爲レ纖」。
（は）すべて犯すべからざる勢あるにも伸張の勢あるにもいふ字。○〔荀〕「――然」。
（に）人の最も强健なる時なり、卽ち三十歲のなり、又、三十歲前後より四十歲前後までの間、わかざかり。○〔後漢〕「及二臣齒―一、力能經二營劇事一」。
㊁氣力さかんなる者、勢つよき者、わかざかりの者、三十歲前後より四十歲前後までの者。○〔禮〕「幼―孝悌、耆耋如レ禮」。
㊂すみやかなり、すみやか、（速）、又、はやし、さし、（疾）。○〔莊〕「百工有二器械之巧一則―」。
㊃傷に同じ、やぶる。○〔郭璞〕「淮南呼レ―爲レ傷」。
㊄灸の一灼、ひさひ。○〔康〕「醫用二艾灸一、一灼謂二之―一」。
㊅八月の異名。

〔大壯〕（い）はなはださかんなり。○〔陸機〕「帝命赫而――」。（ろ）易の卦の名、☳☰乾下震上。○〔易〕「――利レ貞」。

(少壯) 年若くして健かなり。 ○(後漢)「ーーー色如㆓桃-花㆒」。
(丁壯) 血氣さかんなる者、わかもの。 ○(史)「ーーー苦㆓軍-旅㆒」。
(悲壯) あはれを含みて勢つよきこと。 ○(後漢)「辭-節ーーー、聽者莫㆑不㆓慷-慨㆒」。
(健壯) つよし、さかんなり。 ○(韓愈)「騰-踔較ーーー」。 「ーーー」。
(甚壯) いみじくさかんなり。 ○(史)「猿-嶕加㆓其上㆒
(彊壯) つよし。 ○(史)「公-子章ーーー而志驕」。
(盛壯) 前に同じ。 ○(史)「騏-驥ーーー之時、一日而馳㆓千-里㆒」。
(勇壯) いさまし、勇氣さかんなり。 ○(漢)「年十八ーーー許-諾」。 「固-守㆒」。
(美壯) うるはしく立派なり。 ○(漢)「ー㆓ー商之
(偉壯) 立派なり、大いなり。 ○(後漢)「有㆓八-子㆒、皆ーーー」。 「ー」。
(雄壯) 前に同じ、又、つよし。 ○(高適)「楚-關之ー・
(通壯) 物事に對して滯らずさかんなること。 ○(蜀)「少有㆓ーーー之節㆒」。
(肥壯) こえて健かなり、又、こえて丈夫なり。 ○(南)「形-體益ーーー」。 「則伏」。
(充壯) 前に同じ。 ○(北)「容-貌ーーー、坐則仰、偃
(魁壯) 大きく立派なり。 ○(北)「姿-貌ーーー」。
(貞壯) 正しくしてつよし。 ○(顏延之)「ーーー之氣、勇-烈之志」。
(奇壯) 常に勝れて立派なり。 ○(宋)「詞-語ーーー、讀者爲㆑悚」。
(瑰壯) 前に同じ。 ○(西京雜記)「晉靈-公冢甚ーーー」。
(沈壯) おもおもしくしてつよし。 ○(宋)「其文ーーー淳-麗」。
(堅壯) 固くして大いなり。 ○(遼)「規-制ーーー」。
(宏壯) 廣くして立派なり。 ○(歐陽修)「寺甚ーーー、畫-壁尤妙」。
(高壯) 勝ぐれて盛大なり。 ○(宅經)「德-位ーーー」。
(完壯) 缺損する所なくして立派なり ○(夢溪筆談)「然後布-苑至㆑今ーーー」。
(雅壯) みやびやかにして立派なり。 ○(圖畫見聞誌)「筆-蹤ーーー、體涉㆓古-今㆒」。
(崇壯) 高くして立派なり。 ○(蔡邕)「ーーー幽-峻、如㆑山如㆑淵」。 「ー」。
(驗壯) すぐれてさかんなり。 ○(杜武)「武事何ー・

(英壯) 秀で、盛んなり。 ○(徐密)「平-生ーーー節」。
(豪壯) えらくさかんなること。 ○(陸游)「白-浪如㆑山寄㆓ーーー㆒」。

【声】 俗の聲の字。

六畫

【壴】 チュ。 冢庾切 麌 | 豈に从ひ豆に从ふ。士の部に附するは非。

㊀豈の譌字、樂を陳ぬ、つらぬ。
㊁豎の字に借り用ふ。

八畫

【壺】 コ。 洪孤切 虞

㊀腹張り口窄める一種の器、つぼ、其の形方圓一ならず、おもに酒漿などを盛るに用ふ、周にては之を禮器となせり。 ○[儀]「穴ーー設㆓于西-序㆒」。
㊁つぼに矢を投げ入るゝ遊戲、古昔には賓客と燕飮するに行ふの禮となせり。 ○[左思]「拚射ー博」。
㊂爪の屬、ふくべ、ゆふがほ、(瓠)。 ○[歇冠子]「一ーー千-金」。
(方壺) 腹圓くして口の方なる酒器。 ○(儀)「司-宮奠㆓于東-楹之西㆒、兩ーーー」。
(投壺) 古昔、燕飮の時に用ひし禮にて矢を執りて壺中に投ぜること。 ○(禮)「ーーー之禮、主-人奉㆑矢、司-射奉㆑中、使㆑執㆑壺、主-人請曰、某有㆓枉-矢哨-壺㆒、請以樂㆑賓」。
(瓠壺) ひさごもて作れる酒器。 ○(蜀)「張-府君如㆓ーーー㆒、外雖㆑澤而內實粗」。
(瓢壺) 前に同じ。 ○(李白)「感㆑此勸㆓一-觴㆒、願君覆㆓ーーー㆒」。 「漏-水多」。
(金壺) 金屬にて作れるつぼ。 ○(李白)「銀-箭ーー
(漏壺) 水時計の水を受くるつぼ。 ○(蘇軾)「夜長眠-々添㆓ーーー㆒」。
(鹽壺) 大きくして多量の滿ちてある酒器。 ○(梁簡文帝)「ーーー遨㆓上-客㆒」。 「玉-漿㆒」。
(雕壺) 物の象を刻みたる器。 ○(劉孝威)「ーーー承㆓
(殘壺) 酒の僅かに殘りてあるつぼ。 ○(歐陽修)「濁-酒傾㆓ーーー㆒」。

(綠壺) 其の色のさびてはなたをなせる酒器。 ○(范浚)「ーーー買㆑酒洗㆓牽-懸㆒」。
(唾壺) つばきつぼ。 ○(晉)「敦酒-後、輒詠㆓魏-武樂-府㆒、以㆓如-意㆒擊㆓ーーー㆒爲㆑節」。

九畫

【壹】 イツ、イチ。 益悉切 質

㊀ひとつ、はじめ、ひとり。 ○[周]「公之士ー-命」。 「讓」。
㊁ひとたび、一回。 ○[儀]「主-人ー揖ー
㊂專一なること、ひとすぢ、もっぱら。 ○[孟]「志ー則動」。
㊃あはす、(合)。 ○[漢]「有㆑所㆓統-ー㆒、爲㆓羣-儒首㆒」。
㊄まこと、(誠)、又、あつし、(醇)。 ○[史]「載㆓其清-淨㆒、民以寧ー」。
㊅とづ、(閉)、ふさぐ、(塞)。 ○[管]「臣-下賦-斂競㆑得、使㆓民偸-ー㆒」。
㊆ひとし、又、おなじ、(同)。 ○[國]「鎭-靖者修㆑之則ー」。
㊇すべて、まったく、おなじく、みな。 ○[家語]「ー諸-侯之相也」。
(均壹) ひとし、おなじ。 ○(詩、箋)「有㆓ーーー之德㆒」。
(和壹) やはらぎ合ふ。 ○(禮)「羣居ーーー之理盡矣」。
(齊壹) ひとし。 ○(禮、疏)「萬人之德皆ーーー」。
(專壹) もはら。 ○(左)「若㆓琴-瑟之ーーー㆒、誰能聽㆑之」。 「侯㆒」。
(混壹) 合はす。 ○(史)「經㆓營天-下㆒、ー㆓ー諸-
(誠壹) まことにして貳心なし。 ○(史)「皆ーーー之所㆑致」。
(淨壹) まじりなし。 ○(漢)「恭-儉ーーー」。
(醇壹) 篤し。 ○(漢)「秉㆑義ーーー」。 「ーーー」。
(幷壹) ひとつになる。 ○(後漢)「今-年不㆑往、恐復
(平壹) たひらかに一つとなる。 ○(北)「區-宇ーーー」。
(齋壹) (い)嚴重にしてあつし。 ○(唐)「其操㆑下ーーー、吏-人畏-愛」。
(ろ)まじはりて一つとなる。 ○(唐)「閫部ーーー」。
(樸壹) 心、所行のすなほにして飾りなきこと。 ○(商子)「民-衆不㆑淫㆓于言㆒則民ーーー」。

【壹】 イン。 於眞切 眞

絪、氤と通じ用ふ。

【壷】 壺に同じ、壼とは別なり。

【壼】 ウン、チン。 於云切 文 紆問切

問 委隕切 軫 | 縕に通じ用ふ。

氣伸びず、むすぼる、(鬱)。

【壻】 セイ、サイ。 思計切 霽 | 說文 从㆑士胥聲。

㊀むすめの夫の稱、又、妻の夫を呼ぶ稱、むこ。 ○[儀、疏]「女父先于㆑廟設㆓神-席㆒、乃迎㆑ー也」。
㊁單に、わか者、男子。 ○[晉]「翼見㆓桓-溫總-角之中㆒、便期㆑之以㆓遠-略㆒、因言㆓于成-帝㆒曰、桓-溫有㆓英-雄之才㆒、陛-下勿㆔以㆓常-ー㆒畜㆓之」。
(兩壻) あひむこ。 ○(爾)「ーーー相謂爲㆑亞」。
(佳壻) 前に同じ。 ○(唐)「始良嗣爲㆓洛-州長-史㆒、坐㆓ーーー累㆒」。
(姻壻) 前に同じ。 ○(唐)「內㆓附明-皇ーーー㆒」。
(女壻) むすめのをっと、即ち、むこのこと。 ○(杜甫)「ーーー近乘㆑龍」。
(子壻) 前に同じ。 ○(史)「禮甚卑、有㆓ーーー禮㆒」。
(佳壻) よきむこ。 ○(唐)「吾求㆓ーーー㆒、無㆑如㆓於盧賢㆒」。 「二-女㆒、擇㆓ーーー㆒」。
(良壻) 前に同じ。 ○(酉陽雜俎)「信-都民蘇-氏有㆓
(贅壻) 出でゝ妻の家に居るむこ、いりむこ。 ○(史)「淳-于髡齊之ーーー也」。
(少壻) すゑのむこ。 ○(史)「秦-王之ーーー也」。
(姉壻) あねむこ。 ○(晉)「幼爲㆓ーーー陳-臺所㆒賞」。
(帝壻) 天子の公主を娶りたる者。 ○(北)「以㆓ーーー之重㆒、數于㆓上-前㆒面㆓折素㆒」。 「駙-馬㆒矣」。
(國壻) 前に同じ。 ○(搜神記)「今之ーーー、亦爲㆓
(姑壻) 父の姉妹の夫。 ○(北)「隆之父幹爲㆓ーーー高-氏所㆑養」。 「弟也」。
(妹壻) いもうとむこ。 ○(唐)「鎭ーーー源-瑚者休
(猥壻) いやしきむこ。 ○(顏氏家訓)「或ーーー在㆑門」。 「兩-郎」。
(新壻) にひむこ。 ○(全唐新話)「姚-家ーーー是

十畫

【壼】コン。苦本切 阮
宮中を往來する道、閤道。○〔詩〕「室-家之——」。
〔宮壼〕宮中のみちといふより奥向きを稱するに用ふる語。○〔唐〕「——事無レ不レ聽」。
〔中壼〕宮中のこと。○〔書〕禮始ニ——一、行ニ天下ニ。

十一畫

【壽】シウ、ジュ。承呪切 宥 是酉切 有
㊀ひさし（久）。
（い）物の存在長し、ながし。○〔莊〕「櫟社-樹散-木也、爲レ舟則沉、爲ニ棺-槨一則速腐、是不-材之木、無レ所レ可レ用、故能若レ是之——」。
（ろ）人の生存ながし、いのちながし。○〔莊〕「使ニ聖-人——一、使ニ聖-人富一、使ニ聖-人多ニ男-子ニ」。
㊁いのちながき者、長生者。○〔詩〕「三-—作レ朋」。
㊂ことぶき。
（い）いのちながきを、ながいき、長生、長命、又、いのちながき幸福あるを。○〔漢〕「心有ニ堯舜之志一、則體有ニ松-喬之——ニ」。
（ろ）品物を送り酒盃を進めなどして好意を表はすを。○〔史〕「嚴-仲-子奉ニ黃-金百-鎰一、前爲ニ聶-政-母——ニ」。
㊃生存の間、年齒、とし、よはひ。○〔莊〕「無-爲則俞-々、俞-々者憂-患不レ能レ處、年——長矣」。
㊄いのちながかれとれがふ、いはふ、ことほぐ。○〔國〕「夫盈而不レ偪、憾而不レ貳者、臣能自——也、不レ知ニ其它ニ」。
㊅星の名。○〔爾〕「——星角-亢也」。

〔萬壽〕いのちながし。○〔詩〕「——無レ期」。
〔三壽〕三卿の尊稱。○〔詩〕「——作レ朋、如レ岡如レ陵」。
〔仁壽〕仁德ありていのちながきこと。○〔漢〕「堯舜行レ「德、則民——」。
〔長壽〕いのちながし、又、生命を長く保つこと。○〔傅休奕〕「服レ之者——、食レ之者通レ神」。
〔福壽〕しあはせよくいのちながきと、ことぶき。○〔五色綫〕「郛-公社-稼、——少ニ倫匹ニ」。
〔老壽〕ながいき。○〔後漢〕「致ニ——之福ニ」。
〔永壽〕前に同じ。○〔東晳〕「物極ニ其性一、人—ニ其「——ニ」。
〔高壽〕前に同じ。○〔宋〕「其間父-子怡-愉、同享ニ——
〔靈壽〕木の名、竹に似枝ふしありて杖に作るべきもの。○〔蘇軾〕「——扶來似ニ孔光ニ」。
〔富壽〕財に豐かにしていのち長きこと。○〔宋〕「大賚ニ四-海一、——無レ疆」。
〔皇壽〕天子のいのち。○〔宋〕「南山之[illegible]、——無レ「窮」。
〔貴壽〕身分たふとくしていのち長きこと。○〔易林〕「隆ニ我福-祉一、——光レ極」。
〔鶴壽〕つるのいのちは千年と稱するよりことぶきを祝するに用ふる語。○〔陸璣〕「——千-歲ニ」。
〔南山壽〕終南山のかぎりなく世に存在する如く限りなきいのち、多くは、人の長壽を祝するに用ふる語。○〔張正見〕「願禰ニ——ニ」。
〔龜龍壽〕かめとりようとの如き長きいのち。○〔揚雄〕「——鴻-鵠不ニ亦—一乎」。
〔柏葉壽〕柏の木の葉は枯れ落ちざるより長きいのちといふにかり用ふる語。○〔武平一〕「願捧ニ——一、長奉ニ萬-年歡ニ」。
〔天地壽〕天地の如く長くつきせぬいのち。○〔王維〕「願將ニ——一、同以獻ニ君-王ニ」。

十二畫

【壿】シュン、スン。七倫切 眞 ソン、ゾン。粗本切 阮
よろこぶ（喜）、又、まふ（舞）。

夂部

【夂】チ。陟移切 支 ｜與ニ夊字ニ不レ同、夂右畫長出ニ于外ニ、夊右畫短縮ニ于中ニ。
㊀あとより至る、おくる（後）。
㊁古文の終の字。

二畫

【𡕒】クワ、ケ。枯化切 禡 ｜跨、胯、又髁に通ず。
またがり歩む、又、またぐ。

三畫

【夃】コ、ク。攻乎切 虞 果五切 麌
あきなひして多く利を得、ひさぐ、うる、今、沽の字を用ふるはあし、沽は水の名なり。

【夅】古文の降の字。

【𡥅】學に同じ。

四畫

【夆】ホウ、ブ。符容切 冬
㊀あひさからふ（逆牾）。㊁ひく（牽挽）。㊂逢に通じ用ふ、あふ。

【夆】バウ、モウ。莫江切 江
あつし（厚）。

【夆】カイ、ガイ。下蓋切 泰 カイ。古拜切 卦 ケツ、ケチ。吉列切 屑
要害にて遮る、さへぎる。

夊部

【夊】スヰ、サイ。山垂切 支 シ。初危切 支 ｜古文の綏の字。
行くとの遲き貌にいふ字、おそし、又、やすく行く、しづかにありく、ゆく。

四畫

【夋】シュン、スン。七倫切 眞
行く貌にいふ字、ゆく。

【𡕥】ホク、ボク。蒲沃切 沃
前條に同じ、㚆の譌字。

五畫

【夌】古文の陵の字。○〔史〕「泰-山之高、跛-牂牧ニ其上一、——僤故也」。

【㚟】ベン、メン。美忝切 琰 バン、マン。亡范切 豏 ｜別に、㚟に作り、俗には、㚑に作る。
あたまのはち（腦蓋）。

【㚏】古文の長の字。

六畫

【复】フク、ボク。房六切 屋
もとの道を行く、ゆく。

【㚇】ソウ、ス。祖叢切 東 作弄切 送
㊀鳥の飛ぶとき其の足ををさむるにいふ字、あしかゞむ、或は䘵に作る。○〔爾〕「鵲-鵙醜其飛也——」。
㊁鑁と同じ、馬の首の飾り。○〔晉〕「金——而方-釳」。

七畫

【㚔】サ。祖臥切 箇
拜する時に禮容を失ふにいふ字、みだる、一說に、跪きて膝の地に著かざるにいふ字。○〔禮〕「介者不レ拜、爲ニ其拜而——拜ニ」。

【夎】 サ、セ。側駕切 禡
㊀前の解に同じ。
㊁今人の衣服の張り起こりみだれてある貌にいふ字。

【夏】 カ、ゲ。亥駕切 禡
㊀一年四時の一つ、春の次、秋の前にて最も暑き節、なつ。○〔詩、箋〕「盛―養二萬物一之時」。
㊁なつのあつさ。○〔陸龜蒙〕「銷レ―復「銷レ憂」。
㊂おほいなり、又、おほいにす、（大）。○〔釋名〕「―假也、寬二假萬物一、使二生長一也」。
〔盛夏〕 あつさの眞盛りなる時。○〔唐〕「持レ寘殿雖二―、虢令士皆若レ負二霜雪一」。
〔炎夏〕 なつ、又、あつさ。○〔獨孤及〕「當二三伏之―・―一」。「―・―」。
〔長夏〕 なつのながき時にいふ語。○〔素問〕「春勝二長夏」。
〔朱夏〕 なつ。○〔李羣玉〕「氣吹二―・―一轉」。
〔孟夏〕 なつのはじまりの月。○〔禮〕「―・―之月、日在レ畢」。
〔仲夏〕 なつの第二の月。○〔禮〕「―・―之月、日在二東井一」。
〔季夏〕 なつの終はりの月。○〔禮〕「―・―之月、日「在レ柳」。
〔立夏〕 なつの節に入る日。○〔抱朴子〕「―・―之日」。
〔陽夏〕 なつ、陽氣のいと盛なりとの意よりいふ。○〔淮〕「和・春―・―」。
〔首夏〕 夏のはじめ。○〔魏文帝〕「―・―之初・期」。
〔司夏〕 南方の神の掌るところ。○〔漢〕「執レ衡―」。

【夏】 カ、ゲ。胡雅切 馬
㊀四方の夷狄に對して中央の開けたる國、中國、中華。○〔書〕「用肇造二我區―一」。
㊁國の號、我が紀元前千五百七十一年より九百十三年迄支那を統治せし王朝の稱、即ち、禹王の即位より桀王の滅亡まで四百五十八年の間。○〔梁簡文帝〕「呑レ虞孕レ―」。
㊂青、黃、赤、白、黑の五色。○〔周〕「孤乘二―篆一、卿乘二―縵一」。「―」。
㊃大いなる家屋。○〔宋玉〕「冬有二突―」。
㊄大いなる俎、高き跗ありて家屋に似たるもの。○〔詩〕「於レ我乎―屋渠渠」。
㊅こひさぎ、（榎）、又、こひさぎの木にてつくりたるつゑ、人を鞭つ刑具。○〔詩〕「不レ長二―以レ革」。
〔大夏〕 （い）夏の禹王の舞樂の名。○〔禮〕「可下以衣二裘帛一、舞中―・―上」。（ろ）地の名、今の支那の甘肅省の寧夏。○〔史〕「―・―在二大宛西南二千餘里一」。
〔有夏〕 中國。○〔書〕「肇二我邦於―・―一」。
〔諸夏〕 京師以外の國々。○〔左〕「以服二事―・―一」。
〔旌夏〕 其の行列の志るしに用ふる大旗。○〔左〕「舞・師題以二―・―一」。
〔華夏〕 中國。○〔魏〕「今―・―已平」。
〔中夏〕 前に同じ。○〔晉〕「恒・温、經二略―・―一」。

【夐】 ケン、ゲン。其年切 先
夏の字なりと。

八畫

【夎】 カウ、ガウ。胡畂切 養
理非の辨へなくみだりに剛き貌にいふ字、つよし。

十一畫

【夐】 ケン。呼眩切 霰
いさなみもとむ、いさなむ、もとむ、（營求）。一に、夐の譌字。

【夐】 ケイ、ギヤウ。戸頂切 迥
迥に同じ、とほし、はるかなり、又、はるか。○〔謝朓〕「故・鄕邈已―」。
〔譲夐〕 はるかにとほし。○〔馬融〕「―・―勿・罔」。
〔遙夐〕 前に同じ。○〔梁武帝〕「江・途―・―家無レ指」。
〔悠夐〕 前に同じ。○〔梁簡文帝〕「玉・牒―・―青・史綿・長」。「―」。
〔阻夐〕 へだゝりはるかなり。○〔沉約〕「洛・波―・―」。

十二畫

【夒】 シュン、スン。視峻切 震
獵する時に服する韋の袴、かはばかま。

二十畫

【夔】 キ、ギ。渠龜切 支
㊀木石の怪、ものゝけ。
㊁敬み懼るゝ貌にいふ字、おそる、つゝしむ。○〔書〕「―・―齊・慄」。

夕部

【夕】 セキ、ジヤク。祥易切 陌 〔說文〕从二月半見一。
㊀ゆふべ、ゆふ、（朝の對）。
（い）太陽の地平線下に沒せんとして空の小暗くなれる時、日暮れ。○〔左〕「吾儕偸レ食、朝不レ謀レ―、何其長也」。
（ろ）月のをはり、歲のをはり。○〔晉〕「獄有二死・囚一歲―・―攄行レ獄」。
（は）夜間、よる。○〔後漢〕「吾子有レ病雖レ不二省・視一、而竟―不レ眠」。
（に）ゆふべに君上に謁見すると、又、ゆふべの行事。○〔禮〕「妻不レ在、妾御莫二敢當レ―」。
㊁ゆふべに君上に謁見す、又、ゆふべの行事をなす、ゆふべす。○〔國〕「平・公射レ鴞、不レ死使二豎・襄搏一レ之失、公怒將レ殺レ之、叔・向聞レ之―」。「室二」。
㊂なゝめ、（斜）。○〔呂覽〕「正二坐于―・―室一」。
〔日夕〕 （い）ゆふべ。○〔詩〕「―之―、羊牛下來」。（ろ）ひるとよると、常時。○〔陶潛〕「―・―欲相待」。
〔發夕〕 宿りを出立すると。○〔詩〕「齊・子―・―」。
〔終夕〕 よもすがら。○〔任昉〕「―・―不レ寐」。
〔宿夕〕 一夜のと。○〔戰〕「據二閔・王之筋一、懸二于其梁一、―・―而死」。
〔旦夕〕 あさとゆふべと、あさばん。○〔漢〕「與レ帝―・―相近」。
〔曉夕〕 前に同じ。○〔漢〕「―・―號・泣」。
〔七夕〕 （い）支那の傳說に、七月七日のいふべには、牽牛星の天の河を渡りて織女星と交会すとて婦女祭奠を設くる例あり。○〔風俗記〕「織・女―・―當レ渡レ河、使二鵲爲一レ橋」。
〔除夕〕 大みそか、一年の最終日のゆふべ。○〔風土記〕「至二―・―一、達レ旦不レ眠」。
〔望夕〕 陰曆の十五日のゆふべ。○〔幽怪錄〕「開・元十・八・年正・月―・―」。
〔佳夕〕 よきゆふべ。○〔韋應物〕「翫レ月愛二―・―一」。
〔通夕〕 よもすがら。○〔白居易〕「長・歌醉二―・―一」。
〔霧夕〕 きりのたちのぼるゆふべ。○〔李商隱〕「―・―詠二芙・蓉一」。

二畫

【外】 グワイ、ゲ。五會切 泰
㊀ほか、（うちの對）。
（い）範圍區劃を出で離れたる方、物事の表面、おもて、そと。○〔莊〕「六・合之―、聖・人存而不レ論」。
（ろ）關係なきと、別なると、よそ、又、他人、他所、（自家に對しては他人の家、自國に對しては他國）。○〔禮〕「君・子非レ有二大・故一、不レ宿二于―一」。
（は）宮中に對しては朝廷、又、朝廷に對しては、地方、出征軍など。○〔羊祜〕「雖レ歷二内・―之寵一、不レ異二寒・賤之家一」。

(に)意思に對して行爲、威儀。○[國]「敬以直レ內、義以方レ一」。

(ほ)妻妾に對して臣僕。○[國]「好レ內女死レ之、好レ一士死レ之」。

(へ)私事に對しておほやけ事。○[禮]「男不レ言レ內、女不レ言レ一」。

(と)女系の親、母妻などの血緣。○[詩、疏]「實是齊之一-甥」。

(ち)奧室に對しておもて座敷。○[禮]「男-子居レ一」。

(り)はづれたるを、はづれたる處、とりのけ、はづれ。○[管]「天覆而無レ一也」。

㊁そとに置く、よそにとりなす、ほかにす、そらす、はづす、又、とりそく、(斥)、うさんず、(疏)。○[易]「內二君-子一而一二小-人一」。

㊂そこに出づ、よそに移る、そる、はづる。○[呂覽]「貪-汙之利一矣」。

(方外) (い)範圍のほか、又、外國。○[漢]「願給二厮-養一、暴二骨一・一一、以盡二臣節一」。(ろ)世のほか、又、世のほかに身を置く者、世すて人。○[莊]「游二一之一一者也」。

(閫外) ときみのそと、轉じて、出征軍のこと。○[史]「一以內寡-人制レ之、一以一將-軍制レ之」。

(度外) きまりのほか、とはづれ。○[後漢]「當レ置二此二子於一・一一耳」。

(荒外) くにのはか、えびすぐに。○[晉]「一・一狂-誕之言」。

(員外) きまりの人數のほかの者。○[唐]「是時已有二一・一一」。

(化外) はかのくに。○[宋]「禁二銅錢一、無レ出二一・一一」。

(綴外) すみなはのはか、卽ち、規則のほか。○[管]「不レ牧之民一之一也」。

(疏外) うとんじとりぞく。○[諸葛亮]「背二先-帝所一、一・一」。

(遐外) 遠きところ。○[劉]「任レ職在二一・一一、不レ得レ陪二列閣-廷一」。

(天外) 天のそと、最も遠きところ、又、最も高き處の義にいふ語。○[宋玉]「長-劍耿-々倚二一・一一」。

【外】 グヮツ、グヮチ。五活切 曷

前條の㊀さ㊁さに同じ。○[黃庭經]「洞-視得レ見無二內一・一一」。

【夗】 エン、チン。於阮切 阮 〔說文〕作レ夗从レ夕从レ卩、臥有レ卩也。

臥しまろぶ貌にいふ字、まろぶ。

【夘】 エン、チン。烏勉切 銑

すごろくの采、(簙)。

【外】 古文の外の字。

三畫

【夙】 シュク、ソク。息六切 屋

㊀はやし、(早)。(い)晩からず、後れず。○[家語]「昧-爽一興」。(ろ)ふるし、(舊)。○[歐陽修]「庶少價二其一-志一」。

㊁早朝に、つとに。○[詩]「一興夜寐」。

㊂早朝、あした。○[書]「一-夜惟寅」。

㊃早朝より敬む、つゝしむ、早朝より業に就きつゝしみて怠らざる義。○[詩]「載震載一」。

(昏夙) 日暮と早朝と、卽ち終日敬みて業に就くこと。○[張養浩]「承レ務酬レ官在二一・一一」。

【多】 タ。當何切 歌

㊀おほし。(い)數重なれり、量大いなり、少なからず、(衆)。○[易]「君-子以裒レ多益レ寡」。(ろ)求むる所むごし、責むる所はげし。○[左]「後之人必將レ求二一于女一、々必不レ免」。

㊁他に超ゆ、過ぐ、まさる、(勝)。○[史]「某之業所レ就、孰二與仲一一」。

㊂稱美す、賢れりとす。○[漢]「諸-公聞レ之皆一レ益」。

㊃更に加ふ、增す、おほくす。○[魏]「一レ事好レ亂」。

㊄戰場の功、いさを。○[周]「治-功曰レ力、戰-功曰レ一」。

㊅まさに、(適)。○[論]「一見二其不一レ知レ量也」。

(三多) 文章を學ぶに就きて三通りおほきを要すること、歐陽修の言、讀書するとおほく、文詞を作るとおほく、推敲するとおほからねば文章は上達せぬものとの義。○[后山詩話]「歐陽永叔謂、爲レ文有二一-一、看多做多商量多」。

(波羅蜜多) 「はらみつ」ともいふ、煩惱を去りて解脫すること、佛家の語。○[心經、註]「一・一・一・一、此云レ到二彼-岸一」。

(滋多) おほし。○[左]「所レ亡一・一」。

(多多) おほければおほきほど、いとおほし。○[史]「臣一・一而益善耳」。

(夥多) いみじくおほし。○[顏眞卿]「凡斯一・一、靡可二悉數一」。

(猥多) みだりにおほし。○[後漢]「賓-客一・一」。

(孳多) 畜類などの數、ふえたるにいふ語。○[舊唐]「蕃-息一・一」。

(盛多) ゆたかなり。○[揚雄]「凡物一・一謂二之寇一」。

(吃栗多) 賤しき人。

(底栗多) 畜生。

五畫

【夜】 ヤ、エ。寅謝切 禡 〔說文〕从レ夕亦省聲。今文省作レ夜、亦作レ夜。

㊀日暮れより曉までの間、よ、よる、よべ。○[論]「逝者如レ斯夫、不レ舍二晝一一」。

㊁よるの時刻重なりたるを、よふけ、よは。○[詩]「夙興一寐」。

㊂臥す處、ふしど。○[禮、註]「侍レ一勸レ息」。

㊃よるの時刻。○[詩]「子興視レ一」。

(長夜) (い)よるのながきこと。○[寗戚]「一・一漫-々何時旦」。(ろ)よ明かしをなすこと。○[淳于髡]「好爲二一・一飮一」。

(不夜) 燈影、又、月光などにてよるにても暗からざること、卽ち夜にして夜のさまにあらざる義。○[杜甫]「一レ一月臨レ關」。

(宣夜) 天文を現しある器具、卽ち、渾天儀の如きもの。○[唐]「渾-天周-髀一・一之說」。

(星夜) よる星のあらはる、よりよるの義にいふ語。○[晉]「夏-晝無レ及兼二一・一一」。

(時夜) 雞の鳴きて夜の時を告ぐること。○[莊]「見レ卵而求二一・一一」。

(悠夜) よるのながきこと。○[楚辭]「悠一・一而宛-轉」。

(五夜) よるの時を甲乙丙丁戊の五つにわかつこと。○[漢]「晝-漏盡夜-漏起、省-中黃-門持二一・一一」。

(甲夜) 天子の事を視て取り調べらるゝ時、卽ち、午後の八時頃。

(乙夜) 天子の讀書せらるゝ時、卽ち午後の十時頃。○[杜陽雜編]「文-宗視レ朝後、卽閱二群-書一、謂二左-右一曰、若不二甲-夜視レ事乙-夜讀レ書、何以爲二人-君一耶」。

(熙夜) 螢の火。

(幽夜) よる。○[王融]「一・一有二四-知一」。

(燭夜) (い)夜のやみを照らす。○[湛宿]「一レ一燿-々」。(ろ)雞の異名。

(禁夜) よるの番をなすこと。○[西都雜記]「傳呼以二一-一行一」。

(放夜) 夜番する者のやすむよる。○[西都雜記]「正-月十五夜、勅許弛レ禁前-後各一日、謂二之一-一」。

(遙夜) 前に同じ。○[岑參]「一・一惜二已半一」。

(獨夜) ひとり閨にふすよる。○[王粲]「一・一不レ能レ寐」。

(永夜) ながきよ。○[謝靈運]「發二寤-夢于一・一一」。

(玄夜) 眞くらきよる。○[庾信]「一・一思レ歸、終有二蘇-紹之勞一」。

(白夜) あかるきよる。○[孟郊]「秋-月吐二一・一一」。

(莫夜) いふまぐれ、又、よる。○[後漢]「一・一無二知者一」。

(夙夜) 早朝より夜深まで其の間敬みて事を執ること。○[詩]「一・一在レ公」。

(晨夜) 前に同じ。○[詩]「不レ能二一・一一」。

(日夜) ひるとよると、又、絕え間なき義にいふ語。○[左]「一・一思レ之」。

(終夜) よもすがら。○[禮]「譬如二一・一有レ求二于幽-室之中一、非レ燭何見」。

(昏夜) よる。○[漢]「至二一・一乃去」。

(半夜) よるのまなか、よなか。○[漢]「語至二一・一、咸睡二頭-觸屏-風一」。

(守夜) 夜の番。○[後漢]「司-昏一レ一」。

(通夜) よどほし。○[晉]「一レ一不レ寢」。

〔深夜〕よふけ。○〔宋〕「毎ニ一一同舍生皆寐一、乃潜抄而默ニ誦之一」。
〔警夜〕夜の警戒すること。○〔晉書〕「誰何一レ一」。
〔竊夜〕よあかしすること。○〔南〕「盡レ日一レ一」。
〔徹夜〕前に同じ。○〔朱熹〕「青燈一一課ニ晨書一」。
〔晦夜〕やみのよ。○〔十洲記〕「一一即見ニ此山一」。
〔清夜〕よくはれ亘りたるよる。○〔曹植〕「一一遊ニ西園一」。
〔佳夜〕よきよる。○〔蘇軾〕「良月一一、先生能一「出乎」。
〔涼夜〕すゞ風のそよぐよさ。○〔秋興賦〕「覺ニ一一之方永一」。
〔殘夜〕よあけがた。○〔王灣〕「海日生ニ一一一」。

【夜】テキ、チヤク。他歷切 錫
前條の㊀の解に同じ。○〔列〕「師曠方レ一、擿レ耳俛レ首而聽レ之、弗レ聞ニ其聲一」。

【姓】セイ、シヤウ。疾盈切 サウ、シヤウ。甾莖切 庚
晴に同じ、はろ、雨のはれて星の見ゆるにいふ字、一に暒に作る。

七畫

【夠】ヰン、ウン。羊倫切 眞
一本、匀に作る。
あまねし、（周）。

【㚇】タン、トン。丁含切 覃 都感切 感
おほし、（多）。

八畫

【够】コウ、ク。古候切 宥 墟侯切 尤
おほし、（多）。○〔左思〕「繁富夥一不レ可ニ單究一」。

【夠】够に同じ。

【㚊】セン、ソン。處占切 鹽
おほし、（多）。

【㚋】蝸に同じ。

【夡】ジヨウ、ニユウ。而隴切 腫
衆多なり、おほし。

【㚅】セン、ソン。昌占切 鹽
おほし、（多）。

九畫

【夥】キ。馨致切 寘
おほし、（多）。

【夥】ワイ、エ。余怪切 卦
姊妹の子、をひ。

十畫

【㚌】シン。所臻切 眞
おほし、（多）。

十一畫

【夢】ボウ、ム。莫鳳切 送 莫忠切 東
〔說文〕从レ夕瞢省聲。

㊀明かならず、くらし。○〔詩〕「民只方殆、視レ天一一」。
㊁睡眠中にうつゝの如く感ぜらるゝ現象、ゆめ（古昔は、ゆめは、未來の事の感應をなし此れに因りて吉凶禍福を占ひたりき）。○〔詩〕「乃占ニ我一一」。
㊂過ぎ去りて形跡なくはかなく思ふとに借りいふ字。○〔杜荀鶴〕「眼豁浮生一」。
㊃ゆめに見る、ゆめを見る、ゆめみる、ゆめむ。○〔列〕「其寢不レ一」。
㊄想象。○〔荀〕「不ニ以レ一劇ニ亂知一、謂ニ之靜一」。
㊅くさむら、（叢）。○〔左〕「使レ棄ニ之一「中一」。

〔噩夢〕おどろきたるゆめ。○〔范成大〕「早晩北窗尋ニ一一」。
〔寤夢〕晝間にありし事を其の夜さにゆめみること。○〔漢〕「一一之芒々」。
〔吉夢〕めでたきゆめ。○〔詩〕「一一維何」。
〔惡夢〕あしきゆめ。○〔短〕「連ニ三夜一有ニ一一一」。
〔妖夢〕あやしくいまはしきゆめ。○〔左〕「晉之一一是踐」。
〔大夢〕おほいなるゆめ、長き時の間のゆめ、轉じて、人生のとに借りいふ語。○〔莊〕「且有ニ大覺一而後知ニ一一一也」。
〔春夢〕はるの日のゆめ、又、はるは心ののどかなるより何となく眠り氣さしてうつらうつらする間にゆめをみるより、物事のはかなきとに借りいふ語。○〔侯鯖錄〕「內翰昔日富貴一場一一」。
〔歸夢〕ふるさとにかへりたるゆめ。○〔謝朓〕「一一北歸雖「一一相思夕」。
〔鄉夢〕たび路にてふるさとをゆめみる。○〔孫逖〕
〔客夢〕たび路のゆめ。○〔岑參〕「孤燈燃ニ一一一」。
〔役夫夢〕列子の寓言より富貴のはかなきとに借りいふ語。○〔列〕「周之尹氏大治レ產、有ニ老一一一、晝則呻呼而卽レ事、夜則昏憊而熟寐、昔之一爲ニ國君一、其樂無レ比、覺則役人」。
〔蕉鹿夢〕列子の寓言より得失はゆめの如くにはかなきとにいふ語。○〔列〕「鄭人有下薪ニ於野一者上遇ニ駭鹿一、禦而擊レ之斃レ之、恐ニ人見一レ之也、遽而藏ニ諸隍中一、覆レ之以レ蕉、不レ勝ニ其喜一、俄而遺ニ其所レ藏之處一、遂以爲レ夢焉、順レ途而詠ニ其事一、傍人有ニ聞者一、用ニ其言一而取レ之、既歸、告ニ室人一曰、向薪者夢得レ鹿而不レ知ニ其處一、吾今得レ之彼直眞夢者矣、室人曰、若將是夢見ニ薪者之得一レ鹿耶、詎有ニ薪者一耶、今眞得レ鹿、是若之夢眞耶、夫曰、吾據得レ鹿、何用レ知ニ彼夢我夢一耶」。
〔華胥夢〕列子の寓言より安心自得のゆめのとに借りいふ語。○〔列〕「黃帝晝寢而夢遊ニ於華胥氏之國一、其國無ニ師長一、自然而已、其民無ニ嗜慾一、自然而已、黃帝既寤、怡然自得」。
〔蝴蝶夢〕莊子の寓言より物と我れとのけぢめなきと、又、人生のはかなきとに借りいふ語。○〔莊〕「昔者莊周夢、爲ニ蝴蝶一、栩々然胡蝶也、自喩適レ志與、不レ知レ周也、俄而覺則蘧々然周也、不レ知周之夢爲ニ蝴蝶一與、一一之爲レ周與、周與ニ蝴蝶一則必有レ分矣、此之謂ニ物化一」。
〔邯鄲夢〕〔盧生夢〕〔黃粱夢〕富貴功名のはかなきとはゆめの如くなるにいふ語。○〔枕中記〕「道士呂翁得ニ神仙術一、遊ニ邯鄲一、道中遇ニ少年盧生一、以ニ囊中枕一授レ之、生枕而夢、一生榮辱備歷、欠伸而寤、黃粱尚未レ熟也」。
〔發夢〕ゆめみること。○〔魏〕「臣晝則謳吟、宵則一一、終身誦レ之」。
〔如夢〕（い）分明ならざるとにいふ語。○〔南〕「巫言「惚一レ一」。（ろ）殆ど失神する如きとにいふ語。○〔桑悅〕「桃一レ一」。
〔對癡人說夢〕ばかものに向かひてゆめがたりをすると、卽ち、言ひて無益なるとに借りいふ語。
〔說夢〕ゆめのうちにゆめの話をすると、此の上もなき不明なるとにいふ語。○〔冷齋夜話〕「唐李邕作ニ碑、不レ曉ニ其言一、乃書レ傳曰、大師姓何、何國人、此正所レ謂對ニ癡人一說レ夢耳、僧贊寧以傳、編ニ入僧史一、又從而解レ之、此又夢中說夢耳」。〔夢中說夢〕
〔靈夢〕ふしぎなるゆめ。○〔劉兼〕「南柯一一莫ニ相通一」。
〔昨夢〕きのふのゆめ、又、過ぎ去りたる事にいふ語。○〔陸游〕「化蝶飛時喧ニ一一」。「一一」。
〔殘夢〕のこりのゆめ。○〔李洞〕「藥杵聲中搗ニ一一」。
〔佳夢〕よきゆめ。○〔杜牧〕「自是求ニ一一」。
〔寒夢〕さぶさにねぶりてゆめみると。○〔杜牧〕「熟濕侵ニ一一」。
〔獸夢〕物におそはれておそろしきゆめみすると。○〔李白〕「寒燈一一魂欲レ絕」。
〔香夢〕かうばしきゆめ、花咲く頃のゆめにいふ語。○〔武元衡〕「春風一夜吹ニ一一」。
〔醉夢〕酒にゑひ眠りてのゆめ。○〔蘇舜欽〕「恍蝉冷香通ニ一一」。「園生ニ一一」。
〔綺夢〕うつくしきとのゆめ、有情のと。○〔黃哲〕「梁庭塢ニ王晨冷驚破ニ一一」。
〔倦夢〕つかれていと不調子なるゆめみると。○〔溫
〔三刀夢〕王濬の故事より立身出世するゆめのとにいふ語。○〔晉〕「濬夜夢懸ニ三刀于臥屋梁上一、須臾又益ニ一刀一、濬驚覺意甚惡レ之、主簿李毅再拜賀曰、三刀爲レ州、又益一者、明府其臨ニ益州一乎」。

（襄王夢）下に引く例より美婦と交會すること。○〔神女賦〕「楚——與宋玉、遊二於雲夢之浦一、使三玉賦二高唐之事一、其夜王寢、果——與二神女一遇、其狀太麗」。

（揚州夢）揚州といふ國の事のゆめ、即ち、春を買ひ酒を飮みて遊蕩すること。○〔杜牧〕「十年一覺——」。

（巫山夢）美人と枕席を同じくすること、故事は宋玉の賦より出でたり。○〔高唐夢〕「昔者、先王嘗遊二高唐一、怠而晝寢、夢見二一婦人一、曰、妾巫山之女也、爲二高唐之客一、聞君遊二高唐一、願薦二枕席一、王因幸レ之、去而辭曰、妾在二巫山之陽高丘之岨一、旦爲二朝雲一暮爲二行雨一、朝々暮々、陽臺之下、旦朝視レ之如レ言、故爲立レ廟號曰二朝雲一」。

（南柯夢）（槐安夢）わづかの時間、又、富貴のはかなきことにもいふ語、淳于棼の故事より出づ。○〔異聞錄〕「淳于棼家二居廣陵一、宅南有二古槐樹一、棼醉臥二其下一、夢、二使者曰、槐安國王奉レ邀、棼隨使入二穴中一、見レ榜曰、大槐安國、其王曰、吾南柯郡政事不レ理、屈レ卿爲レ守理レ之、棼至レ郡凡二十載、使送歸一、遂覺、因尋二古槐下穴一、洞然明朗、可レ容二一榻一、有二一大蟻一乃王也、又尋二一穴一、直上二南柯一、即棼所レ守之郡也」。

【夢】ボウ、モウ。彌登切　蒸

ゆめ。○〔詩〕「甘三與レ子同二レ—」。

【夣】俗の夢の字。

【夤】イン。夷眞切　眞

〔說文〕从レ夕寅聲。寅に通じ作る

㊀つゝしむ（敬）、おそる（惕）。○〔易〕「夕惕若—」。

㊁推輓す、牽引す、とりもつ、ひきあぐ、ひく、すゝむ、又、緣連す、附緣す、よりすがる、よる、つらなる、又、てづる、つて、ひき。○〔宋穆修會遇詩〕「介立傍無レ援、夤緣排密有レ—」。

㊂さほし（遠）、又、さほき處。○〔淮〕「九州之外、仍有二八——」。

㊃一に殥に作る、腰に絡ひたるもの。○〔易〕「列二其—」。

㊄おほいなり（大）。○〔揚雄〕「岑——大也」。

【夤】イ。延知切　支

前條の㊀さ㊁さに同じ。

【夠】テウ。丁聊切　蕭

【夥】クワ、胡果切　哿　カイ、懷枴切　蟹　クワ。切　ゲ。切

㊀おほいなり（大）。㊁おほし（多）。

物事の盛なるにいふ字、おびたゞし、おほし。○〔唐〕「晉地狹而人—」。

（番夥）おびたゞし、澤山なり。○〔唐〕「他物——」。

（禍夥）前に同じ。○〔元〕「民物——」。

（壘夥）前に同じ。○〔張載〕「——蹌二於互巖一」。

【夥】夥に同じ。

十二畫

【夥】俗の夥の字。

大部

【大】タイ、ダイ。徒蓋切　泰

㊀おほきなり、おほきし、おほいなり、（小の對）。

（い）ひろし、ゆたかなり。○〔易〕「—哉乾元、萬物資始」。

（ろ）おほし、ずくなからず。○〔漢〕「匈奴必以レ吾爲二——軍之誘一」。

（は）はなはだし、はげし。○〔史〕「——風起兮雲飛揚」。

（に）ながし、ひさし。○〔莊〕「小年不レ及二—年一」。

（ほ）檢束なし、度なし。○〔史〕「劉季固多二—言一、少二成事一」。

（へ）系統上に一級を加へたり。○〔史〕「李少君見二九十餘老人一、言下與二其—父一遊射處上、一座甚驚」。

（と）高し、すぐれたり。○〔戰〕「無レ—二「大王一」。

（ち）强勢なり、さかんなり。○〔左〕「國小而偪、族—寵多」。

（り）重要なり、主なり。○〔王儉〕「貌者情之華、服者心之文、嚴廊盛禮、衣冠爲レ—」。

（ぬ）至らざるなし、あまねし。○〔荀〕「夫是之謂二—化至一」。

（る）容易ならず、常ならず。○〔史〕「項氏世々將家有レ名二于楚一、今欲レ擧二——事一、將非二其人一不可」。

（を）密ならず、あらし。○〔莊〕「衣二——布一而補レ之」。

（わ）尊し、富めり。○〔孟〕「說二——人一、則藐レ之」。

（か）傲慢なり、おごれり。○〔孫楚〕「苟以二夸——一爲レ名」。

（よ）年長けたり。○〔沈千運〕「年—自疎隔」。

（た）立派なり、逞し。○〔唐〕「骨利幹處二瀚海北一、產二良馬一、筋骼壯—、日中馳二數百里一」。

（れ）概略なり、あらまし。○〔魏略〕「三人務二于精熟一、亮獨觀二其——略一」。

（ら）總べて、歎稱、贊美に用ふる辭。○〔韓愈〕「——唐受レ命有二天下一」。

（つ）ふさし、㊀に同じ。

㊁ふさし。

（い）層ばれり、圍ひ長し。○〔杜甫〕「仙李盤根—」。

（ろ）肥えたり、ふくれたり。○〔唐〕「腹—垂レ膝」。

㊂おほきなると、ふさきと、又、其の度合、おほきさ、ふとさ、面積、容量、層、圍ひ。○〔宋〕「吾面不レ過二樸子—一」。

㊃極致、原初、きはみ、つめ、はじめ、おこり、もと。○〔荀〕「兩者合而成レ文、以歸二——一」。

㊄他をおほきなりと爲す、たふとぶ、おもんず。○〔荀〕「——二齊信一而輕二貨財一」。

㊅みづからおほきなりと爲す、たかぶる、おごる、すぐ。○〔書傳〕「不二自盈——一」。

㊆おほきに、（おほいに）、あまねく、おほく、はなはだしく、ながく、すぐれて、さかんに、おもに。○〔穆天子傳〕「—奏二廣樂一」。

㊇中間の曲がらざる弓の名。○〔周〕「唐弓—弓」。

（惇大）厚くおほいなり。○〔唐〕「晩節務爲二寬平——一」。

（昌大）さかんにおほいなり。○〔詩〕「俾二爾——而—一」。

（尾大）末のおほいなること。○〔左〕「末大必折、——不レ掉」。

（寬大）ゆるやかにおほいなること。○〔漢〕「——好二禮讓一」。

（尊大）たかぶること。○〔後漢〕「子陽井底蛙耳、而妄自——」。

（斗大）酒盃の如きおほいさ。○〔晉〕「取二金印如二—一—繫レ肘」。

（措大）書生のこと。○〔五〕「晏怒曰、老——毋二妄沮二吾軍一」。

（長大）長くおほいなること、又、たけたること。○〔帝〕「年行已——」。

（張大）ひろげておほいにす、又、ひろがりたり。○〔魏文帝〕「而太史氏又能——二其事一爲レ傳」。

（廣大）ひろくしておほいなり。○〔漢〕「不レ知漢—「——二」。

（碩大）おほいなること。○〔詩〕「——無レ朋」。

（弘大）ひろくおほいなり。○〔宋書〕「弘德元功、器量——」。

（肥大）こえてふとし。○〔禮〕「牲不レ及二——一」。

（崇大）たかくおほいなること。○〔左〕「以——二諸侯之館一」。

（廷大）さかりておほいなること。○〔史〕「——而難」

（細大）こまかきと、おほいなると、又、何も彼も。○〔史〕「——盡レ力、莫二敢怠荒一」。

〔博大〕廣大なり。○〔漢〕「漢家至德ーー」。
〔般大〕盛んなること。○〔後漢〕「戶口ーー」。
〔矜大〕ほこること。○〔後漢〕「在レ上無ニーー之色一」。
〔賁大〕前に同じ。○〔諸葛亮〕「廖立生自ーー」。
〔洪大〕おほいなること。○〔舊唐〕「元幹體貌ーー」。
〔恢大〕ひろくおほいなること。○〔唐〕「志向ーー」。
〔雄大〕立派なること。○〔唐〕「崇以ニ館局ーー一、不ニ敢居一。「蔵ーー」。
〔渾大〕まろやかにしておほいなること。○〔唐〕「其論
〔頎大〕ながくしてふとし。○〔唐〕「人物ーー、故以自名」。「無レ吏」。
〔博大〕ひろし。○〔管〕「土地ーー、野不レ可ニ以
〔强大〕强きこと。○〔管〕「威不レ信ニ於ーー一」。
〔老大〕年齒のたけたること。○〔杜甫〕「ーー意轉拙」。
〔廓大〕ひろやかなること。○〔柳宗元〕「階序ーー」。
〔雄大〕すぐれておほいなること。○〔王惲〕「首尾固ーーー」。
〔眼孔大〕見識のおほいなること。○〔唐〕「祿山ーーー、每レ令レ笑レ我」。
〔夜郎大〕夜郎といふ夷の國が其の仲間にて羽振り好かりしよりおろかなる者が其の仲間にて羽振りよきことに借りいふ語。○〔漢〕「西夷君長以レ十數、ー
ー最ー」。
〔四大〕佛家の說に萬物の原素は地、水、火、風の四つなりと其の形相の大にして万物を生ずるよりいふ、又、色、香、味、觸の四微に對してもいふ。○〔智度論〕「得ニ微妙ーー一」。
〔都大〕趙宋時代の官名。

【大】 タ。唐佐切 箇

前條に同じ、おほいなり。

【大】 タ、ダ。吐臥切 箇

はなはだし、(甚)、たけし、(猛)。○〔禮、註〕「鄭康成爲ニー溫一也」。

一畫

【天】 テン。他前切 先 〔說文〕从ニ一大一。

㊀地球の四方を圍みたる空間、吾人の頭上遙かの方に圓き形をなすが如くに見え、日月星辰の其の中に掛かりあるもの、あめ、そら、支那古昔の學說にては其の形圓く常に動きて已まざるものとなせり、又、元氣の淸くして輕きもの上りて形づくれりとも說けり。○〔荀〕「ー無ニ實形一、地之上至虛者皆ー也」。
㊁萬物主宰の神、帝、造化、あめ。○〔進〕「上ーー之誅也」。
㊂おのづから然ることを、宇宙の精力、自然。○〔莊〕「知ニーー之所レ爲者、ー而生也」。「人準レ今方レ古」。
㊃眞理、正義、無上道。○〔漢〕「觀レー察レ
㊄造化、又、自然に代はりたるものゝ義を表はすに用ふる字。○〔唐〕「皇帝稱ニー皇一、皇后稱ニー后一」。
㊅君主にかゝはる事の敬稱に用ふる字。○〔文選〕「ー兵四臨」。
㊆そらの頭上にあるよりいたゞくものにいふ字。○〔後漢〕「人皆一ーー、我獨有ニ二ーー一」。
㊇高き處、いたゞき、(頂)、うへ、かみ、(上)。○〔詩〕「鶴鳴ニ于九皐一、聲聞ニ于ー一」。
㊈自然の結果、又、造化の賦與に係かりて人爲以外のもの、うまれつき、性質、又、めぐりあはせ、運命。○〔易〕「樂レー知レ命」。
㊉五刑の一、かみをきらるゝこと、髡刑。○〔易〕「其人ー且劓」。
⑪氣候、又、時節。○〔花品〕「牡丹開日多有ニ輕雲微雨一、謂ニ之養花ー一」。
〔先天〕人の生れ來る以前、又、天の定まらざる以前、又、うまれ付の義にもいふ語。○〔易〕「ー而天弗レ違」。
〔後天〕人の生まれ來たれる以後、又、天の定まりし後、又、人爲の義にもいふ語。○〔李商隱〕「皆慶ニーーー之壽一」。「憂」。
〔樂天〕天命をたのしむ。○〔易〕「ーレー知レ命、故不レ
〔昊天〕そらの敬稱、又、主宰の神。○〔左〕「君履ニ后土一、而戴ニーー一」。
〔蒼天〕(い)春。○〔爾〕「春爲ニーー一、夏爲ニ昊天一、秋爲ニ旻天一、冬爲ニ上天一」。
(ろ)東方のそら。○〔漢、註〕「九天者謂ニ中央鈞天一、東方ーー、東北旻天、北方玄天、西北幽天、西方皓天、西南朱天、南方炎天、東南陽天也」。
(は)あをき色のそら、虛空。○〔詩〕「ーー蒼天視ニ彼驕人一、矜ニ此勞人一」。
〔戴天〕天空をいたゞく、即ち、世上に生息せること。○〔禮〕「父之讐弗ニ與共ーレー」。
〔圓天〕(い)そらにめぐる。○〔禮〕「星ーニ于ー一」。
(ろ)そらをめぐらす、勢力の甚だしきことに借りいふ語。○〔唐〕「張公論レ事、有ニーー之力一」。
〔六天〕天上に靑、赤、白、黑、黃の五帝あり之に天帝を加へて六つあるよりいふ。○〔禮、疏〕「鄭氏謂ニ天有ニーー一」。
〔鈞天〕音樂の名。○〔孔融〕「ーー廣樂、必有ニ奇麗之觀一」。「ー之上一」。
〔九天〕そらの最も高き處。○〔孫〕「善攻者動ニ于ーー
〔中天〕そらのなか程。○〔杜甫〕「ーーー懸ニ明月一」。
〔所天〕いたゞき敬ふ人にいふ義、人君、(人臣より)、をツと、(つまより)。○〔宋〕「堯舜篤ニ善道一以逝レ化、而民謂ニ之ーー一」。「雲一」。
〔垂天〕そらよりたれさがる。○〔莊〕「翼若ニーー之
〔半天〕そらのなかほど。○〔鮑照〕「高峯挿ニーー一」。
〔彌天〕そら一面にわたる。○〔應琥〕「頓ニーー之網一、收ニ萬仞之魚一」。
〔壺天〕壺公といふ仙人の仙術もて一の壺の中に天地を現はし出だしたる故事より小さきそらの義にも、又、小さくとも自家の安身地あることにも借りいふ語。○〔參同契〕「身中自有ニ一ーー一」。
〔景天〕螢火の異名。○〔古今、註〕「螢火、一名燿夜、一名ニーー一」。
〔拂天〕そらをはらふ、即ち、たけ高きこと。○〔王粲〕「建ニーー之旌一」。
〔凌天〕そらをしのぐと高き貌にいふ語。○〔柳宗元〕「泝ニーー之驚波一」。
〔規天〕天は圓形といふよりそらのことに用ふる語。○〔陸雲〕「ーー有レ光、矩地無レ疆」。
〔氷天〕寒きそら。○〔江淹〕「聲歛燭ニーー一」。
〔長天〕ながきそら。○〔王勃〕「秋水共ニーー一一色」。「ー一」。
〔曉天〕夜あけのそら。○〔陳子昂〕「長河沒ニーー一」。
〔涼天〕すゞしきそら。○〔韋應物〕「散步咏ニーー一」。
〔在天〕天のうへにあること。○〔易〕「飛龍ーレー、利レ見ニ大人一」。
〔動天〕そらをうごかす勢力强きことにいふ語。○〔宋〕「勇力ーレー、勁志撼レ日」。
〔震天〕前に同じ。○〔晉〕「烟塵ー起、ーレー駭レ地」。
〔溥天〕ひろきそらのこと、又、一に普に作る意味同じ。○〔詩〕「ーー之下、莫レ非ニ王土一」。「於ー一」。
〔振天〕そらにふること。○〔家語〕「鐘鼓之音、上ニ
〔金天〕秋のそら。○〔杜甫〕「爽氣ーー豁」。
〔穹天〕そらのこと、そらの圓形に見ゆるよりいふ。○〔陸雲〕「儀ニーー一而承レ規」。「ーーー一」。
〔人天〕君主のこと。○〔劉禹錫〕「天爲ニ人君一、君爲ニ
〔雲天〕そら。○〔隋〕「精義薄ニ乎ーー一」。
〔梅天〕入梅の時節のそら。○〔圖繪寶鑑〕「非レ陰非レ霽如ニーー一」。
〔苞天〕そらをつゝみおふ、容量の大いなるにいふ語。○〔崔寔〕「陛下以ニーー之大一、承ニ前聖之迹一」。
〔遠天〕遠方のそら。○〔張正見〕「長檜拔ニーー一」。
〔遙天〕前に同じ。○〔張正見〕「風伯靜ニーー一」。
〔翔天〕そらを飛ぶ。○〔阮籍〕「群鳥ーレー、百獸交馳」。
〔滿天〕そら一面。○〔岑參〕「城頭月出星ーレー」。
〔空天〕そら。○〔李白〕「粉壁爲ニーー一」。
〔雪天〕ゆきぞら。○〔皇甫曾〕「柴門閑ニーー一」。
〔瞑天〕日暮れ後のそら。○〔伍喬〕「山磬數聲敲ニーー一」。「雪相激」。
〔翻天〕そらにひるがへること。○〔蘇軾〕「花浪ーレー
〔低天〕雲卑きそら。○〔張耒〕「春樹接ニーー一」。
〔忉利天〕佛家にいふ三十三天の總名。○〔王勃〕「天倡ニ梵樂一、肅然ーー之ー」。
〔非想天〕佛家にいふ無色界に四天あり其の一にして無爲無思の念。○〔駱賓王〕「我出ニ有爲界一、君登ニーーー一」。
〔無雲天〕佛家に說く最も高きそら。○〔法苑珠林〕「遍淨天至ニーーー一、復遠一倍」。
〔種民天〕佛にいふ四天の總名にして災の至らざること。○〔雲笈七籤〕「三界上四天、名爲ニーーー一」。

【太】 タイ、他蓋切 泰 ダイ。切 本、大に作る、大、泰と同じ。

㊀おほきなり、又、ふとし、(大)。○〔李嶠〕「試ニ懷レ生之永ーー一」。

㊁はなはだし、(甚)。○〔歐陽修〕「春-雨其多已—」。
㊂さほる、(通)。○〔陸雲〕「險—其靡二常道一」。
㊃度合にては正しきをの極點に至ること、つめ、又、順序にては、最初なること、おこり、はじまり。○〔易、傳〕「易有二—極一」。

【夫】　フ、ホ。風無切　〔虞〕

㊀一人前の男子の通稱、をのこ、をとこ。○〔書〕「無レ求二備於一—一」。
㊁妻と配合せる男、をッと、つま、せこ、をびと、(良人)。○〔易〕「夫—婦々」。
㊂賦役、又、賦役に出づるをのこ。○〔後漢〕「諸懷-姙者、賜二胎-養-穀一人三-斛復二其—一」。
㊃發語の辭、下文に說くところを汎く指してその端を開くときに用ふる字、それ。○〔史〕「—學者、載-籍極博」。
㊄ある物事を指し示すに用ふる字、かの、かれ。○〔左〕「楚人謂二—旌子-重之麾一也」。
㊅語の末に附加して感歎の意を表はすときに用ふる字、かな、か。○〔史〕「於戯悲—」。「求、—何思レ舊」。
㊆復に同じ、また。○〔文選〕「獲二我所レ」。
㊇漢時代の尺度の名、六萬尺の長さ。○〔漢〕「六-尺爲レ步、步百爲レ晦、々百爲レ—」。

〔狂夫〕氣まぐれしたるをとこ。○〔漢〕「——之言、聖-人擇焉」。
〔萬夫〕萬人といふに同じ、多數の人をいふ。○〔書〕「——之長、可二以觀一政」。
〔丈夫〕男子といふに同じ。○〔左〕「所-以爲二女-子遠一——也」。
〔匹夫〕身分卑き男。○〔論〕「——不レ可レ奪レ志也」。
〔武夫〕(い)軍人、又は、武士。○〔詩〕「赳々——、公-侯干-城」。(ろ)玉に次ぐ美石。○〔史〕「猶二——于美-玉一」。

〔僕夫〕下男、しもべ。○〔杜甫〕「——穿レ竹語」。
〔哲夫〕すぐれて賢き男。○〔詩〕「——成レ城」。
〔販夫〕物を賣る男、あきうど。○〔秦觀〕「稚-子隨二——一」。
〔馭夫〕車馬をあつかふ者。○〔周〕「——掌レ馭二貳-車從-車使-車一」。
〔褐夫〕あらき毛織の布の衣を著したるいやしき者。○〔孟〕「若レ刺二——一」。
〔頑夫〕心正しからぬ者。○〔孟〕「聞二伯-夷之風一者、——廉、懦夫有レ立レ志」。
〔懦夫〕心おぢたる者。○〔袁宏〕「後-生堅レ節、——增レ氣」。
〔鄙夫〕心いやしき者。〔薄夫〕心の狹く行の輕き者。○〔孟〕「聞二柳-下-惠之風一者、鄙-夫敦、薄-夫寬」。
〔貪夫〕慾深き者。○〔史〕「語曰、——徇レ財、烈-士徇レ名」。
〔壯夫〕(い)壯年の男。○〔韓愈〕「君爲二——一我少-年」。(ろ)氣性はげしきをとこ。○〔李白〕「僕本——、慷-慨不レ然」。
〔樵夫〕きこりする男。○〔王維〕「隔レ水問二——一」。
〔潛夫〕名のあらはれざるいやしき者。○〔後漢〕「不レ欲レ顯二章其名一、故號曰二——論一」。
〔曠夫〕年長けても尙は妻なき男。○〔孟〕「外無二——一」。
〔勇夫〕すぐれたる男子。○〔陳琳〕「——烈-士、奮レ命之良-時也」。
〔擔夫〕荷物をになふ者。○〔唐〕「見二公-主——爭一レ道」。
〔凡夫〕つねなみの男。○〔蘇轍〕「側レ盆翻レ雨洗二——一」。
〔節夫〕みさを高き者。○〔任昉〕「義-士——聞レ之有レ立」。
〔征夫〕いくさのために他國に在る者。○〔詩〕「駪々——、毎レ懷靡レ及」。
〔芸夫〕草刈る男。○〔後漢〕「——牧-豎」。
〔邪夫〕心のまがりたる者。○〔後漢〕「——顯-濟、直-士幽-藏」。
〔健夫〕強勇なる者。○〔晉〕「得二——二-三-十人一」。
〔廉夫〕正直にして潔白なる者。○〔李白〕「——惟重レ義」。
〔故夫〕もとのをッと。○〔李商隱〕「不レ許二文-君憶二——一」。
〔窮夫〕貧しくして困餓せる者。○〔劉基〕「郭-南有二——一」。
〔大夫〕古昔の周時代の官名、士の上、卿の下に位するもの、後世官位あるもの、稱に用ふ。○〔禮〕「三-公九-卿、二-十-七——、八-十-一元-士」。
〔餘夫〕十六歲以上にして未だ丁年に達せざるもの。○〔周〕「夫一廛田百-畝、——亦如レ之」。
〔賤丈夫〕心いやしきをのこ。○〔孟〕「征レ商自レ此———始」。
〔小丈夫〕前に同じ、丈低く小さきをのこ、亦、心の狹きをのこにもいふ語。○〔孟〕「予豈若二是———一然哉」。
〔大丈夫〕節義あるをのこ、又、見識の高きをのこ。○〔孟〕「富-貴不レ能レ淫、貧-賤不レ能レ移、威-武不レ能レ屈、此之謂二———一」。
〔偉丈夫〕前に同じ、又、丈長く立派なるをのこ。○〔宋書〕「夢下———被二金-甲一入二殿-庭上一」

【夬】　クワイ、ケ。古邁切　〔卦〕　―叏に通じ作る

㊀わけさだむ、きむ、(分決)。○〔易彖傳〕「—決也、剛決レ柔也」。
㊁易の卦の名、䷪乾下兌上。○〔易〕「—揚二于王-庭一孚號」。

【夬】　ケツ、ケチ。古穴切　〔屑〕

弦をひらくに用ふるもの、つるびき。

【叏】

俗の夬の字。

【夭】　エウ。伊堯切　〔蕭〕

㊀顏色の和ぎてある貌にいふ字、のびやか、やはらか。○〔論〕「——如也」。
㊁草の盛んなる貌にいふ字、又、ながし、(長)。○〔書〕「厥草惟—」。
㊂年少くしてかほ好き貌にいふ字、うつくし。○〔詩〕「桃之——」。
㊃わざはひ、(災)。○〔詩〕「天—是椓」。

【夭】　アウ、オウ。烏皓切　〔皓〕

物のまだ壯んならざるにいふ字。○〔禮〕「孟-春毋レ殺二胎—一」。

【夭】　エウ。於兆切　〔篠〕　―殀に同じ。

㊀かゞむ、(屈)。○〔陶弘景〕「其同二枉——一、安可レ勝レ言」。
㊁おひ先きの長き身にて天年を全うせず中途にして死ぬること、わかじに、(短折)。○〔戰〕「生-命壽-長終二其年一、而不二—傷一」。

〔殤夭〕わかじに。○〔雲笈〕「白-夜——、多二肉-食一」。
〔躁夭〕心のせかれてさわがしきものはわかじにす。○〔雲笈〕「靜者壽、—者—」。

【夳】

立の本字。

二畫

【央】　ヤウ、アウ。於良切　〔陽〕

㊀なかば。(い)四邊の何れの點へも片寄らぬ所、まなか、(中)。○〔詩〕「宛在二水中—一」。(ろ)二つにわけたる一つ、半分。○〔詩〕「夜如-何其、夜未レ—」。
㊁つく、(盡)。○〔漢武帝〕「惜二蕃-華之未一レ—」。
㊂ひさし、(久)、又、とほし、(遠)。○〔素問〕「與レ道相失、則未二—絕-滅一」。
㊃物の廣き貌にいふ字、ひろし。○〔司馬相如〕「覽二曲-臺之——一」。
㊄周の時代の邑の一名、六里ある中にあるもの。○〔管〕「方六-里名レ之曰レ社、有レ邑焉名曰レ—」。

【央】　エイ、ヤウ。於京切　〔庚〕

㊀聲の和げる貌にいふ字、やはらぐ。○〔詩〕「和-鈴——」。
㊁旗色のしるしなど鮮明なる貌にいふ字、あざやか。○〔詩〕「白-旆——」。

【夯】　カウ、コウ。呼講切　〔講〕

力を用ひ堅きに堪へて物を肩に舉ぐ、かたぐ、になふ、おふ。○〔禪林寶訓〕「黃-龍-南-和-尙曰、昔同二文-悅一遊二

湖南一、見二衲-子擔-籠行-脚者一、悅呵曰、自-家閨-閤-中物不二肯放-下一、反累及二他-人擔-一一。

【夵】亦の本字。

【夰】カウ、古老切 コウ。切 [皓]〔說文〕从二大而八分一。
㊀はなつ（放）。
㊁昊に同じ。○〔元包經〕「泰一入二于囦一、元-氣降也」。

【失】シツ、シチ。式質切 [質]
㊀爲しまがふ、あやまつ、あやまる、あやまち。○〔漢〕「智-者千-慮、必有二一-一一」。
㊁うしなふ。
（い）ものを無くす、なくす。○〔論〕「旣得レ之、患レ一レ之」。
（ろ）すておく、はなつ、（縱）。○〔書〕「時哉弗レ可レ一」。
（は）おこす、わする、（遺）。○〔後漢〕「罔-然若レ有レ一」。
㊂はなれ去る、無くなる、おつ、亡ぶ、うす。○〔韓〕「威一位危、將三何以遺二子-孫一」。
〔損失〕そこねうす。○〔後漢〕「若レ有レ所二一-一一」。
〔廢失〕すたれうす。○〔後漢〕「惴レ有二一-一一」。
〔懲失〕あやまち。○〔北〕「積二其一-一一」。
〔乖失〕そむきうしなふ、又、あやまち。○〔北〕「一二一-人和一」。「一-一一」。
〔蹶失〕つまづきて怪我するあやまち。○〔五〕「懼二馬前に同じ。○〔列〕「還無二一-一一也」。
〔跌失〕なくなりへる。○〔宋〕「戸-口常-日一-一」。
〔耗失〕わすれうしなふ。○〔韓〕「非二吾敢一-一而能盡之雖一」。
〔橫失〕はろびうす。○〔阮籍〕「捐-棄而一-一」。
〔淪失〕かけうしなふ、又、あやまち。○〔隋〕「一二一-一藩-禮一」。「一-一一」。
〔虧失〕うす、わする、うしなふ。○〔王安石〕「罔レ有二
〔曠失〕うす、おつ。○〔梁適〕「遺-論稍已一-一」。
〔墜失〕おほいなるあやまち。○〔史〕「此四-君者、皆
〔大失〕僞二一-一一、而天-下非レ之」。
〔過失〕あやまち。○〔蘇轍〕「君雖二少-年一少二一-一一」。「遠獨有二一-一一」。
〔遺失〕のこしおとす、わする。○〔後漢〕「無レ使二幽
〔闕失〕あやまち。○〔五〕「每レ陳二朝-廷一-一、多斥二權臣一」。
〔荒失〕すさみすつ。○〔書〕明-聽二朕言一、無レ一二一「朕命一」。
〔亡失〕なくす、うしなふ。○〔史〕「所二一-一一、以二十-萬-數」。
〔自失〕自身の威儀をうしなふ、ぼんやりす。○〔列〕「子-貢茫-然一-一」。「一-一一」。
〔漏失〕もれうしなふ。○〔後漢〕「太-初效-驗無レ所二
〔積失〕あやまちをかさぬ、又、つもりかさなりたるあやまち。○〔後漢〕「王-莽政-令苛-酷、一二一百-姓之心一」。
〔忘失〕わするゝこと、又、あやまちあるをわする。○〔後漢〕「立レ政之要、記レ功一レ一」。
〔酒失〕酩酊の上のあやまち。○〔呉〕「數有二一-一一」。
〔銷失〕きゆ、けす、うす、うしなふ。○〔白居易〕「一-沃亦一-一」。「効之一」。
〔違失〕たがひあやまつ。○〔後漢〕「有二一-一一、擧二

【失】イツ、イチ。弋質切 [質]
佚と軼とに通じ用ふ、逸に同じ。○〔荀〕「其馬將レ一」。

【夲】タウ、他刀切 トウ。[豪]〔說文〕从二大十一。
本の字とは別なり。

㊀すゝむ、（進）、おもむく、（趨）。
㊁大いに奄ひ有する貌にいふ字、たもつ、おほふ。
㊂往來しつゝ見る貌にいふ字、ながむ、「みる」。

三畫

【夵】エン。以冉切 [琰]
物の上の大にして下の小なるにいふ字。

【夲】タウ、トウ。他刀切 [豪]
すゝむ（進）。

【夶】古文の比の字。

【夷】イ。延知切 [支]
㊀たひらかなり、たひらけし、たひらか、（平）。
（い）高低なし、ひら地なり、又、其のこと。○〔後漢〕「從二壺-頭一則路近而水險、從レ充則塗一而運遠」。
（ろ）むづかしからず、やすし、やさしてがるし。○〔王文憲集序〕「一-雅之體」。
（は）無事なり、穩かなり、やすし、（安）。○〔國〕「亂生不レ一」。
（に）滿足せり、悅ばし。○〔國〕「不レ一二於先-子一」。
㊁たひらぐ。
（い）高低をなくなす、ひら地となす、やさしくす、てがるくす、無事になす、たをさむ、たひらかにす。○〔國〕「一レ竈堙レ井」。
（ろ）敵を殺す寇を滅ぼす、惡を除くなどにいふ、ころす、ほろぼす、のぞく。○〔荀〕「一-人有レ罪、而三-族皆一」。
㊂おほいなり、（大）。○〔詩〕「降レ福孔一」。○
㊃人の常に執り守るべき道、つね。○〔孟〕「有レ物有レ則民之秉レ一也」。
㊄たぐひ、（等）、ともがら、（儕）。○〔禮〕「在二醜一一不レ爭」。
㊅つらぬ、（陳）。○〔禮〕「男-女奉レ尸一二於堂一」。
㊆箕坐す、あぐらかく、あぐむ、（踞）。○〔論〕「原-壤一俟」。
㊇きずつく、やぶる、（傷）。○〔孟〕「繼レ之以レ怒則反一」。
㊈刃物にて受けたる創、かたなきづ。○〔左〕「察二一-傷一」。
㊉草をかる、かる、（芟）。○〔周〕「日夏-至而一レ之」。
⑪開けぬさつ國、又、其の民、えびす。○〔白居易〕「王-粲向二荊-一一」。
⑫鋤の類、すき。○〔管〕「惡-金以鑄二斤-斧鉏-一鋸-檽一」。
〔九夷〕九種のえびす。○〔晉〕「遂通二道於一-一八-蠻一」。「一-一一」。
〔四夷〕四方のえびす。○〔史〕「親二天-下一、而服二一-一一」。
〔陵夷〕衰ふること。○〔漢〕「帝-王之道、日以一-一」。
〔馮夷〕（氷夷）河の神のこと。○〔莊〕「一-一得レ之以遊二大-川一」。「亡一」。
〔金夷〕刃きず。○〔班昭〕「身被二一-一一、不レ避二死-
〔荒夷〕荒服の外に在るえびす。○〔韓愈〕「不下以二珍怪一誇中一-一上」。
〔坦夷〕平かなること。○〔韓愈〕「銑-山一而一」。
〔女夷〕風の神の名。○〔淮〕「一-一鼓-吹、以司二天-和一、以長二百-穀一」。
〔執夷〕（動）虎に似たる獸、又、白き色のきぐま。○〔詩、疏〕「貔一-名一-一」。
〔夷夷〕はらひ平ぐ。○〔魏〕「一二一-一凶逆一」。
〔蘊夷〕きり平らぐ。○〔劉琨〕「皆盡レ忠竭レ節以一二一-一夫二寇一」。
〔恢夷〕ひろめ平ぐること。○〔隋〕「一二一-一宇-宙一」。
〔曠夷〕廣く平かなること。○〔唐〕「省-知章性一-一善二談-說一」。
〔鴟夷〕馬の革をもて作れるもの、酒をいるゝ器。○〔吳越春秋〕「吳-王乃取二子-胥尸一、盛以二一-一之器一、投二之江-中一」。
〔玆夷〕（動）海中に生息する玳瑁に似たる龜。○〔嶺表錄異〕「嶠-蟻俗謂二之一-一一」。「黽-蘇」。
〔遐夷〕遠方のえびす。○〔王褒〕「一-一貢-獻、萬-祥
〔創夷〕きず。○〔陳琳〕「各被二一-一一」。
〔戡夷〕平定といふに同じ。○〔曹植〕「羣-雄一-一、拯二民于下一」。
〔盪夷〕討ち平ぐ。○〔何承天〕「使二一-擧一-一一」。
〔蕈㭍夷〕（植）たやくやくのこと。○〔廣雅〕「芍-藥也」。
〔優婆夷〕佛家にて淸淨なる婦女をいふ。○〔圓覺經〕「優-婆-塞一-一此在-家二衆」。
〔視險若夷〕險阻なる場處も平地の如く易らかに見なすこと。○〔傅亮〕「鞠レ旅陳レ衆、「一レ一一レ一」。
〔辛夷〕（植）こぶし、山中に自生して木蓮に似たる白き花の開くもの。○〔白居易〕「南-宅訪二一-一一」。

〔威夷〕長くたひらかなること。○〔傳毅〕「臨ニ□-江之--」。

〔滂夷〕とほきえびす。○〔左〕「-・-之俘」。

【夸】クワ、ケ。枯瓜切 麻　〔說文〕从ㇾ大亏聲。

㊀おほいなり、(大)。○〔呉都賦〕「邑-屋隆--」。

㊁體の柔きにいふ、やはし、やはらかなり。○〔詩〕「無ㇾ爲ニ--毗ニ」。

【夸】クワ、ケ。苦瓦切 馬

㊀跨に同じ、またがる。○〔漢〕「-ㇾ州兼ㇾ郡」。「銀-黃-ニ郷-里ニ」。

㊁自ら大いにす、ほこる。○〔楊僕〕「懷ニ-之非ㇾ是」。

【夸】ク、コ。匈于切 虞

㊀おごる、(奢)。○〔隋〕「知ニ恣--之非ㇾし」。

㊁美しき貌にいふ字、うつくし、みめよし。

【夸】ク、コ。區遇切 遇

たかし、(高)。○〔左思〕「横-塘査-下、邑-屋隆--、長-于延-屬、飛-甍舛-互」。

【夸】クワ。苦禾切 歌

馬の韻の㊁の解に同じ。○〔陸機〕「或、招ㇾ世而自-」。

【奞】夸に同じ。

四畫

【会】グン、ゴン。魚吻切 吻

おほいなり、(大)、たかし、(高)。○〔元包經傳〕「觀ニ其辭ニ則--然而不ㇾ及」。

【奄】シユン。常倫切 眞

おほいなり、(大)。

【夾】カフ、ケフ。訖洽切 洽　〔說文〕从ㇾ大俠ニ二人ー。

㊀左右より持つ、旁より扶く、はさむ、たすく。○〔左〕「-ニ輔成-王ニ」。

㊁ちかし、ちかづく、(近)。○〔書〕「懷ㇾ爲ㇾ--」。「日以飛」。

㊂かぬ、(兼)。○〔呂溫〕「滑授ニ五-龍-、-ㇾ-、乃能行」。

〔扶夾〕さしはさみ扶助すること。○〔漢〕「常雨-吏-」。

〔梵夾〕佛家の經文。○〔通鑑〕「唐懿-宗於ニ禁-中ー、設ㇾ講自唱ㇾ經、手錄ニ--ー」。

〔鉗夾〕巧みに言說して論破し易からざること。○〔柳宗元〕「膠如ニ--ー」。

【夾】ケフ。吉協切 葉

㊀かたはら、(傍)。

㊁たをこだて、(俠)。

㊂つか、(把)。○〔周、註〕「莖謂ニ劍--ー」。

㊃狹に同じ、せばし。○〔後漢〕「東沃-沮其地東-西-、南-北長」。

㊄中間の屈曲せざる弓の名。○〔周〕「--弓」。

【夾】セン、ソン。失冉切 琰　セキ、シヤク。施隻切 陌　夾の字の从に从ふとは異なり。

物を盗み取る、さる。

【奅】ハ、ヘ。披巴切 麻

おほいなり、(大)。

【奈】ライ、レイ。力改切 賄

小船のかぢ。

五畫

【奙】ワ、エ。烏瓜切 麻

おほいなり、(大)。

【奓】サ、セ。仕下切 馬　夸に通じ作る。

ほこる、おごる、(夸大)。

【奃】テイ、タイ。都兮切 齊　典禮切 薺

おほいなり、(大)。

【奄】エン。衣檢切 琰　〔說文〕从ニ大中ー。

㊀上より被ひて餘りあり、あまる、おほふ。○〔詩〕「--ニ有四-方ニ」。

㊁一面におほひて、おほいに、又、總べてを一時に、ことごとく、たちまち、(忽)、にはかに、(遽)。○〔書〕「-甸ニ萬-姓ニ」。

【奄】エン。衣炎切 鹽

觀ることを久し、留まることを久し、ひさし。○〔詩〕「-觀ニ銍-艾ニ」。

【奄】エン。於豔切 豔

精氣閉ぢ藏まる、ふさがる。○〔李密〕「氣-息--」。

【奅】ハウ、ヘウ。披教切 效

㊀起こし釀す、おほいなり、(大)。○〔揚雄〕「以ニ大-言ニ冒ㇾ人曰ㇾ-」。

㊁敵陣に投げ掛くる石、なげいし、(礟石)、又、其の石の崩るゝ聲。○〔韓愈〕「投ㇾ-鬭ニ䃜-礉ニ」。

【奔】テフ、ノフ。尼輒切 葉

㊀人を驚かすに使用するもの。

㊁罪を犯すを止まず、盗むを止まず、やまず。

㊂大いなる聲、おほごゑ。

【奞】ヒツ、ビチ。房密切 質　フツ、ボチ。分物切 物　一に𡙇、奰に作る。

拂、弼に通じ用ふ、おほきなり、(大)。

【𡘟】奞に同じ。

【奆】ケン、コン。求阮切 阮

甚だ大いなり、おほいなり。

【臭】カウ、コウ。古老切 皓　セキ、シヤク。施隻切 陌

大いに白き光澤、つや。

【臭】古文の澤の字。

うるほひ、つや、(光潤)。

【奢】シヤ、ゼ。才邪切 麻

㊀大いなる口の貌にいふ字、おほぐち。

㊁大いなる貌にいふ字、又、ふさし。

【扶】ハン、バン。簿旱切 旱

並び行く、又、其のもの、とも、(侶)。

【奇】キ、ギ。渠羈切 支　〔說文〕从ㇾ大从ㇾ可、俗作ㇾ竒非。

㊀異物。○〔國〕「-生ㇾ怪」。

㊁くすし。

(い)なみなみのものならず、すぐれたり。○〔三國〕「太-祖喜持ニ彰鬚ニ曰、黃-鬚兒竟大--也」。

(ろ)つれに差へり、ことなり。○〔周〕「-服怪-民不ㇾ入ㇾ宮」。

(は)つれに存せず、めづらし。○〔禮〕「天-林多ㇾ寶、天-族多ㇾ-」。

(に)ありきたりのものならず、あたらし。○〔莊〕「萬物一也、臭腐化爲二神奇一、神奇復化爲二臭腐一」。
(ほ)不思議なり、意外なり。○〔朱熹〕「宇宙乃爾奇」。
㊁正當に力を較べずして敵に勝つ手段、詭計。○〔劉勰〕「萬-奇齊發、孫-臏之奇」。
㊂正しからざること、いつはり、よこしま、(邪)。○〔管〕「奇身名廢」。
㊃隱して示さゞるを、ひそか、(秘)。○〔史〕「平凡六出二奇計一、其奇秘世莫レ得レ聞」。
㊄二の數もて除し盡くされざる數、はしのかず、はん、(一三五七九など)。○〔易〕「陽卦奇」。
㊅相比ぶべきもの〻一方、ひとつ、(隻)。○〔禮〕「一算爲レ奇」。
㊆未だ丁年に達せざる十六歳以上の男子、半人前のをのこ、餘夫。○〔韓〕「遺下有二奇人一者上」。
㊇仕合はせ悪しきこと、不運。○〔史〕「李廣老數奇、毋レ令三獨當二單于一」。
㊈ながし、(長)。○〔淮〕「聖人無二屈奇之服一」。
㊉いとめづらしく、いとあやしく、はなはだしく。○〔世説〕「綿定奇溫」。
〔珍奇〕めづらし、つねに存せざること。○〔書〕「奇獸、不レ育二於國一」。
〔高奇〕すぐれたること。○〔宋〕「王安石議論高奇」。
〔權奇〕くすしきこと、又、詭計。○〔漢〕「志倜儻精二權奇一」。
〔瑰奇〕めづらしきこと。○〔韓愈〕「鄭君所レ寶尤瑰奇」。
〔好奇〕まさりたることをすく。○〔晉〕「此見闊達好奇」。
――能破二人家一、或能成二人家一。
〔偶奇〕變則なること。○〔南〕「以二偶奇一相尚」。
〔英奇〕すぐれたること。○〔五〕「壯而器貌英奇」。
〔新奇〕あたらしきこと。○〔宋〕「別取二新奇之説一」。
〔韜奇〕すぐれたることをつゝみかくす。○〔抱朴〕「應侯韜二奇於溺簀一」。
〔逐奇〕めづらしきを求む。○〔文心雕龍〕「新學之銳則逐レ奇而失レ正」。
〔懷奇〕心の中にめづらしき才能をいだく。○〔韓愈〕「懷レ奇負レ氣」。
〔恢奇〕いたくめづらしきこと。○〔韓愈〕「勢到二飛佛一尤恢奇」。
〔魁奇〕すぐれたること。○〔韓愈〕「意必有二魁奇忠信材德之民生二其間一」。
〔瓌奇〕すぐれて大いなること。○〔歐陽修〕「次公才瓌奇」。
〔偉奇〕前に同じ。○〔蘇軾〕「少小稱二偉奇一」。
〔奇奇〕めづらし。○〔高啓〕「吐辭實奇奇」。
〔詭奇〕前に同じ。○〔王令〕「胸中少二詭奇一」。

【奇】
イ。隱綺切　紙

倚と通ず、よる。○〔漢〕「輪困離奇」。

【奇】
アイ、エ。倚懈切　蟹

矮に同じ、たけひくき人、ひくし。○〔後漢〕「童謠見二奇奇人一、言レ欲レ上レ天」。

【奈】
柰に同じ。

【奉】
ホウ、ブ。父勇切　腫

㊀うく、(承)。
(い)恭しくのせ持つ、○〔禮〕「長者與レ之提攜、則兩手奉二長者之手一」。
(ろ)うけつぐ、つぐ。○〔白居易〕「陛下苟能勤二教令一撫レ之推二誠信一奉レ之、則三年化成、五年理定」。
(は)仰せを受く、うけたまはる。○〔公羊〕「注以下所二銜奉一之國事上執レ之」。
㊁さゝぐ。
(い)㊀の(い)に同じ。○「心推奉」。
(ろ)上に戴く、いたゞく。○〔晉〕「傾レ奉」。
(は)上に獻ず、たてまつる。○〔陸游〕「敬奉二君子宴一」。
㊂尊長に事ふ、つかまつる、はべる、はんべる。○〔梁簡文帝〕「叨籍二殊寵一、陪二奉末塵一」。
㊃力を添ふ、たすく、(助)、かす、(藉)。○〔淮〕「風雨奉レ勢」。○〔左〕「天奉レ我也」。
㊄あたふ、(與)、又、おくる、(送)。
㊅食事を供ふること、供ふる食事、やしなひ。○〔孟、疏〕「子路有二列鼎之奉一」。
㊆用度を給すること、給する用度、まかなひ、費用。○〔孫〕「興レ師十萬、出征千里、百姓之費、公家之奉、日費二千金一」
㊇獻上すること、貢獻の物、みつぎ。○〔後漢〕「日之所レ入、莫レ不レ向レ化、大小欣々、貢奉不レ絶」。
㊈給與すること、あてがひ、又、其のもの、特に、臣下に對して秩祿、(知行、扶持米、給料など)。○〔漢〕「小吏勤レ事而奉薄、其益二百石以上什五一」。
〔順奉〕したがひうく。○〔易、疏〕「奉二順天德一」。
〔承奉〕うく、つかふ。○〔晉〕「入則盡レ歡承奉」。
〔修奉〕との〻へもつ。○〔晉〕「自宜二於此修奉一」。
〔嗣奉〕引きつぐ。○〔晉〕「嗣二奉成業一」。
〔營奉〕あてがひ、おくり與ふること、又、やしなひ。○〔南〕「外史貧闕、恆營奉供養」。
〔常奉〕さだまりてつかふる道。○〔魯靈〕「人臣之常奉」。
〔資奉〕たすく、かす、又、前に同じ。○〔後漢〕「供養資奉」。
〔進奉〕さゝぐ、すゝむ、たてまつる。○〔唐〕「以レ時進奉」。
〔祇奉〕つかへまつる。○〔阮籍〕「祇二奉君上一」。
〔薦奉〕たてまつる。○〔後漢〕「遠國珍饈、本以薦二奉宗廟一」。
〔統奉〕うけ嗣ぐ。○〔後漢〕「朕日二不德一、統二奉鴻業一」。
〔虔奉〕つゝしみうく、つゝしみつかふ。○〔晉〕「虔二奉皇運一」。
〔肅奉〕前に同じ。○〔晉〕「欽二承舊章一、肅二奉典制一」。
〔遵奉〕前に同じ。○〔晉〕「三祖典制、所レ宜二遵奉一」。
〔仰奉〕敬ひつかふ。○〔晉〕「仰二奉慈親一、葬レ無二後親一」。
〔衞奉〕看護すること。○〔南〕「義康入侍二醫藥一、盡レ心衞奉」。
〔眼奉〕よくつかふること。○〔南〕「兩姑晨夕眼奉、盡二其誠敬一」。
〔畏奉〕おそれつかふ。○〔唐〕「官者用レ事、尤所二畏奉一」。
〔寅奉〕前に同じ。○〔程浩〕「寅二奉詔旨一」。
〔秩祿俸〕祿のてあて。○〔史〕「今有下無二秩奉之奉、爵邑之入一、而樂與レ之比者上、命曰二素封一」。

【奉】
ホウ、ブ。房用切　宋

前條の㊅と㊆と㊇と㊈とに同じ。○〔史〕「高祖以レ吏繇二咸陽一、吏皆送二奉錢三一、何獨以レ五」。

【奆】
カイ、ケ。許戒切　卦

瞋りて、發する大いなる聲。

淺氏切　紙　一に、奘に作る。

【奊】
ケツ、ゲチ。奚結切　屑　一に、奘に作る。

頭の形まがりて正しからざるをいふ字、まがる、ねぢく、一説に、見識なし、みさをなし。○〔賈誼〕「奊詬亡レ節」。

【奊】
レツ、レチ。力結切　屑

前條の上段に同じ、一説に、節目多し、ふしぐおほし。

【奊】
ヘイ、ベ。扶畦切　齊

頭を傾けて態を作る。

【奊】
キ、ギ。渠龜切　支

かへりみる、(顧)。

六畫

【奩】
クワン、グワン。胡官切　カン、ガン。河干切　寒

エン、ヲン。雨阮切　ケン、コン。火遠切　阮

㊁おごる、(奢)。㊂おほいなり、(大)。
㊃大いなる口の貌にいふ字。

【奎】ケイ、ケ。傾畦切 [齊]
㊀兩髀の間。
㊁星の宿り、二十八宿の一つにて西方の十六星をいふ、兩髀に象りたるもの。○〔禮〕「中-春日在レ—季-夏—旦中」。

【奎】キ、ギ。苦委切 [紙]
蹞に同じ、足を擧げて行く貌にいふ字、ゆく、(奎踽)。

【奏】ソウ、ス。則候切 [宥]
㊀すゝむ、(進)。
(い)君王に白す、上言す。「—以レ言」。
(ろ)上にさし出だす、君に致す。○〔書〕「敷-
〔詩〕「以—二膚-公一」。○
(は)むかふへ遣る、上位へ推す。○
〔莊〕「—レ刀騞-然」。
(に)君王の許に至る、上へ行く、むかふへ出づ。○〔梁〕「盾美二風-婆一善二擧-止一、每二趨-—一、高-祖甚悅焉」。
㊁君王に上る書。○〔史〕「上不レ冠望三見黯一避二帳-中一、使三人可二其—一」。
㊂樂の端を更むること、調の更はること。○〔周〕「九—乃終、謂二之九-成一」。
㊃音樂を爲す、かなづ。○〔梁〕「晩-年頗好二音-樂一、有二妓-妾十-數-人一、竝無二被-服姿-容一、每レ有レ客、常隔レ簾—レ之」。
㊄簡の類、ふだ、文字を記し傳ふるに用ふるもの、又、其の文案。○〔晉法〕「召二王-公一以二一-尺—一、以下以二一-尺版一」。
㊅勝に通じ用ふ、皮膚の分かれめ、すち、肉理。○〔儀〕「載レ體進レ—」。
㊆輳、湊に通じ用ふ、あつまる。○〔漢〕「帝帥二群-臣一、横二大-河一、—二汾-陰一」。○

〔金奏〕鐘の音に道へる音樂、卽ち、鐘の音など。○〔周〕「鐘-師掌二—・—一」。
〔章奏〕君王に上る書。○〔漢〕「好觀二漢故-事及便-宜—・—一」。「諡之飾也」。
〔節奏〕音樂のふしの調へること。○〔禮〕「文-采—・—」、
〔擧奏〕かぞへて言上す。○〔後漢〕「—二—州-郡吏-行貪-汙者一」。
〔條奏〕逐一に事柄をならべて言上す。○〔漢〕「百-官各省レ費—・—」、「毋レ有レ所レ諱」。「—」。
〔錄奏〕前に同じ。○〔北〕「未レ蒙二追-贈一者、亦皆—
〔白奏〕まうし上ぐ。○〔唐〕「臣備二位宰-相一、大-事當二—・—一」。「太浮-華」。
〔表奏〕君王への上書。○〔唐〕「帝曰、諸-鎭—・—
〔劾奏〕他人の罪を推したゞして言上すること。○〔漢〕「以二元-成實不レ病、—二—之一」。
〔顯奏〕あたよくあらはれざることをあからさまに言上すること。○〔漢〕「黨-與承二其指-意一、—二—之一」。
〔郵奏〕音書の送達を扱ふものによりて上言すること。○〔後漢〕「因二—・—一」。「-遲」。
〔牋奏〕表奏。○〔後漢〕「文吏能二—・—一、乃得レ應レ
〔疏奏〕前に同じ。○〔疏〕「願對二中-常-侍—・—一」。
〔建奏〕言上すること。○〔後漢〕「皆忠所二—・—一」。
〔糾奏〕事をたゞして言上す。○〔宋〕「多レ所二—・—一」。
〔彈奏〕前に同じ。○〔晉〕「明之—・—、不レ畏二彊-禦一、皆此類也」。「與二領—・—一」。
〔調奏〕音樂の調子、しらべ。○〔晉〕「使三義-和劉-歆
〔淫奏〕正しからぬ音樂のしらべ。○〔晉〕「—・—既興」。「事則—・—」。
〔稟奏〕君王の問ひをうけて答へをなす。○〔宋〕「大-
〔封奏〕上書に封を爲して差出すこと。○〔晉〕「謹—二—其姓名一」。「先聆二其音一」。
〔繁奏〕聲しげくかなづ。○〔晉〕「管-絃—・—、鶉牙
〔申奏〕まうし上ぐ。○〔宋〕「皆聽二躬自—・—一」。
〔仰奏〕前に同じ。○〔宋〕「—・—請レ行レ事」。
〔陳奏〕前に同じ。○〔宋〕「—・—無レ隱」。
〔進奏〕前に同じ。○〔魏〕「操二樹-瑟—・—一」。
〔復奏〕明かにしらべて上疏す。○〔舊唐〕「在-京諸-司五—・—」。「鳴レ琴—・—」。
〔獨奏〕他の樂に和せず單獨にかなづ。○〔庾闡孫〕
〔仰奏〕罪の判決につきての上書。○〔齊〕「尙-書-掌二—・—一。「得二—・—一」。
〔擊奏〕鳴り物をうちかなづ。○〔魏〕「二十-三-曲、猶
〔薦奏〕上位に推しすゝむ。○〔魏〕「中二—・—之恩一」。
〔讜奏〕前に同じ。○〔唐〕「—・—中-解」。「—一」。
〔遺奏〕死後に書き殘したる上書。○〔唐〕「使レ草二—・
〔冊奏〕王公を任命し召し出だす文書、又、其のふた。○〔唐〕「—・—之工、當-時未レ有二及者一」。「—一」。
〔追奏〕すゝむ、申し上ぐ。○〔柳宗元〕「以備二—・
〔雅奏〕正しき音樂の調子。○〔宋〕「—・—具揚」。
〔協奏〕合はせあひてかなづ。○〔宋〕「麗-質—・—」。
〔合奏〕前に同じ。○〔張衡〕「金-石—・—」。

【奐】クワン。呼玩切 [翰]
㊀おほいなり、(大)、さかんなり、(盛)。○〔漢〕「惟懿惟—」。
㊁暇ありてたのしむ貌にいふ字、ゆるやか、ゆたか、たのしむ。○〔詩〕「伴-—爾游矣」。
㊂文采ありて粲明なること、あきらか。○〔丘光庭〕「—・—新-宮」。

〔輪奐〕文采ありてあきらかなること、特に、建築物にいふ語。○〔禮〕「美哉—焉、美哉—焉」。
〔離奐〕前に同じ。○〔王僧孺〕「室-宇畏二其—・—一」。

【契】ケイ、カイ。詰計切 [霽]
㊀ちぎる、又、ちぎり
(い)事を約束す、むすぶ、又、とりきめ。○〔韓詩外傳〕「約—盟-誓」。
(ろ)交はりを結ぶ、匹となる、又、まじはり、よしみ。○〔搜神記〕「君是生-人、我鬼也、共レ君宿—、此會可二三-宵一」。
㊁あはす、あふ、(合)。○〔蜀〕「故應レ際而生、與レ神合—」。
㊂ちぎりたるしるしに、其の事を記しあるものを兩分して互に、其の半片づゝを持ち、若しちぎりたる事を濟さんこと求むるときは互に、持てる其の半片を合はせて其の誤りなきを證するもの、總べて、一つのちぎりたる事のしるしのものにいふ字、てがた、わりふ。○〔書傳〕「百-官有-司主二券—一」。「—・—寤-歎」。
㊃うれふ、(憂)、くるしむ、(苦)。○〔詩〕
㊄古昔、うらなひの龜の甲を灼くに用ひし具、又、其の具を使用す、やく。○〔詩〕「爰—二我龜一」。「需一」。
㊅おそる、おづ、(怯)。○〔周〕「馬不二—・

〔書契〕文字をしるしたる手形。○〔易〕「後-世聖-人易レ之以二—・—一」。
〔官契〕公府のてがた。○〔周〕「掌二—・—一以治レ藏」。
〔右契〕券書は兩分して左右の券となす、右契は先に書する故に尊くして人に渡すもの。○〔禮〕「獻レ粟者執二—・—一」。
〔左契〕わりふのひだりのかたわれ、己れの許に留め置くもの、又、約束せしことに借りいふ語。○〔老〕「聖人執二—・—一、而不レ責二于人一」。
〔靈契〕天運の會合するにいふ語。○〔揚雄〕「旭合二—・—一」。「矩之數一」。
〔券契〕わりふ、てがた。○〔管〕「定二—・—之齒、金
〔要契〕前に同じ。○〔雲笈〕「必獲二靈-仙之—・—一」。
〔同契〕おなじ、又、あふ。○〔晉〕「千-載—・—」。
〔協契〕かなふ、あふ、又、ちぎる。○〔南〕「推レ赤-爲二盟-主一、同レ力—・—」。
〔冥契〕知らずしらずに合ふ。○〔晉〕「自レ古君-臣—・—之重、豈直此耶」。「—」。
〔齊契〕同じく合ふこと。○〔晉〕「允膺二靈-休一、天-人—・
〔淸契〕きよらかなるちぎり。○〔北〕「—・—甚厚」。
〔諧契〕かなひ合ふ。○〔唐〕「探レ微揣レ端、無レ不二——一」。「予一、用二—・—一」。
〔玉契〕たまにて作りたる手形。○〔唐〕「古者、召二太-
〔符契〕わりふ。○〔五〕「能使二契-丹容レ國興レ師、應若二—・—一」。
〔盟契〕ちぎり。○〔京房〕「—・—無レ差」。
〔勘契〕てがた、ちぎり。○〔夢溪筆談〕「如二古之——也」。
〔矜契〕交はり。○〔世說〕「遂爲二—・—一」。
〔深契〕淺からぬちぎり。○〔王績〕「故-人有二—・—一、
〔交契〕交際に同じ。○〔杜甫〕「人-生—・—無二老-少一」。

〔魚水契〕　劉備と諸葛亮との故事より君臣のちぎり深きをいふ語。○〔岑參〕「感通君臣分、義激魚水契」。
〔斷金契〕　極めて固きちぎり。○〔水經、註〕「與山陽范式有斷金契」。
〔金石契〕　前に同じ。○〔孟郊〕「常恐金石契、斷為相思腸」。
〔膠漆契〕　堅く結びつきて離れざる交はり。○〔白居易〕「囊者膠漆契、邇來雲雨睽」。

【契】　セツ、私列切 屑 ─ 卨に同じ、別に、偰に作る。
人の名、高辛氏の子、舜の五臣の一人にて商の祖なり。○〔書〕「帝曰、契汝作司徒」。

【契】　ケツ、ケチ。苦結切 屑
㊀挈に同じ、勤め苦しむ、くるしむ。○〔詩〕「死生契闊」。
㊁面晤せざるをひさし、とほし、うとし、（疎闊）。○〔後漢〕「行路急卒、非陳契闊之所上」。
㊂鍥に通じ用ふ、きざむ、（刻）。○〔呂覽〕「契舟求劍」。
㊃たつ、（絕）、又、かく、（缺）。○〔司馬相如〕「陛下謙讓而弗發、契三神之歡」。

【契】　キツ、コチ。欺訖切 物
國の名、契丹、（丹の熟字參照）。

【契】　カツ、ケチ。訖黠切 黠
たはむる、又、たはむれ、（戲）。

【奊】　カイ、ケイ。丘哀切 灰
おほきなる貌にいふ字、おほいなり、（大）。

【奓】　タ、テ。陟加切 麻
㊀はる、（張）、又、ひらく、（開）。○〔莊〕「神農闔戶晝瞑、婀荷甘奓戶而入」。
㊁ほころ、（奓）、又、おごろ。○〔唐〕「奓言無驗」。

【奓】　シヤ、セ。詩車切 麻 タ、テ。陟駕切 禡 シ。敞尒切 紙
侈に同じ、おごろ。○〔張衡〕「有馮虛公子、心奓體忲」。

【奔】　ホン。逋昆切 元 ─ 〔說文〕从天賁省聲。
古文は犇に作り、俗には、省きて奔に作る。
㊀はしる。
（い）疾く行く、馳せ赴く、勢はやく墧所を轉ず。○〔詩〕「鹿斯之奔、維足伎伎」。
（ろ）禮を備へずに婚す、みだりに嫁娶す。○〔周〕「仲春之日、令會男女、奔者不禁、謂不必六禮備、非淫奔也」。
㊁はしらしむ、はしらす、又、おりぞく、おふ、（逐）。○〔穀梁〕「是以奔父也」。○〔晉〕「末世奔奔、以文代質」。
〔流奔〕　ながれはしる。
〔驚奔〕　おどろきてはしる。○〔南〕「象果驚奔」。
〔駿奔〕　とくはしる。○〔詩〕「駿奔走在廟」。
〔雷奔〕　かみなりの如くに轟きはしる。○〔蘇軾〕「永巷車雷奔」。
〔星奔〕　ほしの飛ぶが如くにとくはしる。○〔劉琨〕「斜甫匐星奔」。
〔來奔〕　にげきたる。○〔左〕「管夷吾召忽奉公子糾來奔」。
〔僞奔〕　たばかりてにげはしる。○〔舊唐〕「子儀僞奔」。
〔跳奔〕　のがれはしる。○〔唐〕「密以數十騎跳奔」。

【奔】　フン、ホン。方問切 問
覆敗す、くつがへる、やぶる、にぐ。○〔李陵〕「斬將搴旗、追奔逐北」。

【奙】　ホン。補悶切 願
急に赴く、又、おもむく。○〔爾〕「奙變也、有急變奙赴之也」。

【奕】　エキ、ヤク。羊益切 陌
㊀おほきなり、（大）。○〔詩〕「奕奕梁山、維禹甸之」。
㊁うつくし、（美）。○〔詩〕「新廟奕奕」。
㊂さかんなり、（盛）。○〔詩〕「四牡奕奕」。
㊃光りかゞやく貌にいふ字、かゞやく、ひかる。○〔北齊〕「瑯邪眼光奕奕、數步射人」。
㊄次序、ついで。○〔詩〕「萬舞有奕」。
㊅容姿をかざる、又、かたちづくる。○〔揚雄〕「奕、偞容也、自關以西、凡美容謂之奕、或謂之偞」。
㊆うれふ、（憂）。○〔詩〕「未見君子、憂心奕奕」。
㊇かさぬ、（重）。○〔國〕「奕世載德」。
㊈碁を圍むこと。○〔孟〕「奕秋通國之善奕者也」。
〔遊奕〕　水神の名。○〔翰府名談〕「某江之遊奕將也」。
〔賓奕〕　佛家の所謂四梵天の一。
〔奮奕〕　はやきこと。○〔後漢〕「徽嫿奮奕」。
〔佾奕〕　おとやかにしてうつくし。○〔何承天〕「士女佾奕、跌原灑」。
〔姽奕〕　うつくし。○〔何頻瑜〕「雖姽奕而不親」。
〔煜奕〕　光りかゞやく貌にいふ語。○〔典引〕「發祥流慶、煜奕乎千載」。
〔赫奕〕　前に同じ。○〔李商隱〕「赫奕君乘御史驄」。
〔英奕〕　すぐれて美しき貌にいふ語。○〔張纘〕「英奕發于流眄」。

七畫

【套】　タウ、トウ。他皓切 皓
套に同じ、長くして大きし、ながし。

【套】　タウ、トウ。叨號切 號
㊀すべて物の重なるにいふ字、かさなる。○〔志〕「河套本內地」。
㊁地の曲がりたる處、くま。○〔明一統〕
〔落套〕　人に籠絡せらる、ことにいふ語。
〔脫套〕　事を執ると簡略にして時流と背支せざるにいふ語。

【稟】　コン、ゴン。胡本切 阮
大いに束ぬ、つかぬ、一說には、稛の字の譌り。

【奘】　サウ、ザウ。徂朗切 漾 オ浪切 養
さかんなり、（壯）、おほきし、（大）。○〔揚雄〕「秦晉之間、人之大謂之奘」。

【奄】
畚の字の譌り。

【奚】　ケイ、ガイ。弘雞切 齊
㊀めしつかひのもの、けらい、こもの、おもべ。○〔周〕「酒人奚三百人」。
㊁いづくんぞ、なにぞ、なにすれぞ、又、なに。
（い）疑ひて問ふさきに用ふる字。○〔孟〕「子奚不去也」。
（ろ）反語をなすさきに用ふる字。○〔陶潛〕「樂夫天命復奚疑」。
〔𡚱奚〕　氣にいりの下部。○〔孟〕「趙簡子使王良與嬖奚乘」。
〔小奚〕　年少のおもべ。○〔唐〕「賀奚奴、背古錦囊」。
〔菟奚〕　（植）ふきの別名。○〔爾〕「菟奚顆涷」。
〔老奚〕　年老いたるおもべ。○〔蘇軾〕「奚奚官騎且顧」。
〔驒奚〕　駿馬の名、生まれて七日立たば其の母に超ゆといふ。○〔漢〕「騊駼驒奚」。

【畚】　ホン。補衮切 阮 ─ 本、畚、畚に作り、譌りては、奄にする。
藁筵の四隅に繩をつけ物を盛りて擔ふもの、あじか、ふご。○〔晉〕「少以織畚為業」。

八畫

【奜】ヒ。敷尾切 尾　父沸切 未
おほいなり、(大)。

【奝】テウ。丁聊切 蕭
㊀おほいなり、(大)。㊁おほし、(多)。

【奞】シュン、スン。私閏切 震
スヰ、サイ。息遺切 支　奮に通じ用ふ。

【⿱大或】ヨク、ヰキ。越逼切 職
鳥の兩翼を相撃つと、はたゝき、(鼓翼)。
力の大いなる貌にいふ字、つよし。

【⿱大戓】キョク、ケキ。忽域切 職
㊀けた、(方)。㊁おほいなり、(大)。

【⿱大長】套に同じ。

【⿱大桊】ケン。吉典切 銑
㊀小さく束ぬ、つかぬ。㊁桊の字に同じ。

【⿱大电】奄の本字。

【⿰⿱大羊丸】執に同じ。

【⿱大佳】ケイ、ケ。苦圭切 齊
星の宿り、今、奎に通じ作る。　與二奞字一不レ同、此从二隹人之佳一、宜レ辨。

九畫

【奠】テン、デン。堂練切 霰
㊀さだむ。
(い)別かつ、きさむ。○〔周〕「―二其錄一」。「辨二其物一而
(ろ)安んず、移さず。○〔書〕「―二厥攸レ居」。「後取レ之」。
㊁おく。
(い)地にすう、置く。○〔禮〕「―レ之、而
(ろ)神を祭りて酒爵を其の靈前に据う、物を神前に供ふ、たてまつる、さゝぐ、つらぬ、(陳)、すゝむ、(薦)。○〔禮〕「朝―日出、夕―逮レ日」。
㊂別かる、決まる、安まる、さだまる、又、とゞまる、(停)。○〔劉基〕「王業丘山―」。
㊃神を祭る、まつる、まつり、又、其の供へ物。○〔舊唐〕「陳二誠非―一」。
〔壇奠〕土地より生ひ出でたる祭りの供へもの、野菜など。○〔書〕「敢執二―・―一」。
〔釋奠〕孔子の祭祀。○〔晉〕「親―二―于中堂一」。
〔饋奠〕神を祭ると、又、其の供へ物。○〔禮〕「可二以與於―・―之事一乎」。
〔川奠〕かはに生じたる供へもの、魚類。○〔周〕「祭祀賓客共二―・―一」。
〔薄奠〕粗末なるまつり、又、其の供へ物。○〔後漢〕「薄・斂―・―」。「哉致二―・―一」。
〔蘋奠〕野菜のそなへもの、又、粗末なる祭り。○〔宋〕まつり。○〔北〕「―・―無レ主」。
〔祭奠〕
〔進奠〕たてまつる、さゝぐ。○〔唐〕「―二―」、神座前一」。「無二後繼者一」。
〔拜奠〕前に同じ。○〔柳宗元〕「了立―レ―顧盼
〔禱奠〕神を拜して祭る。○〔宋〕「―二―先塋一」。
〔安奠〕おく、又、さたまる、さだむ。○〔晁啓〕「四海始―・―」。

【⿱㐬大】テイ、ヂヤウ。徒徑切 徑
前條の㊀と㊂とに同じ。○〔周〕「小吏掌二邦國之志一、―二繫世一、辨二昭穆一」。

【⿱亠奠】テイ、ヂヤウ。唐丁切 靑
とゞまる。○〔周〕「行二―水一、磬折以二參伍一」。

【㚖】チャク、タク。陟略切 藥
獸の名、兔に似て青色にして大いなりといふ。

【奡】カウ、ゴウ。凝到切 號
㊀傲に通じ用ふ、おごる、あなどる、(嫚)。㊁つよくして健き貌にいふ字、つよし、たけし。○〔韓愈〕「横レ空盤硬語妥貼力排レ―」。

【鉄】鈌に同じ。○〔張九齡〕「每二―官―一、以二不次一用レ之」。

【奢】シヤ、ジヤ。詩車切 麻
㊀おごる。
(い)分に過ぐ、度に超ゆ、又、はる、(張)、まさる、(勝)、又、自らまされりとなす、ほこる。○〔史〕「臣見下其所レ持者狹、而所レ欲者―上」。
(ろ)分に過ぎたる生活をなす、度に超えてはでやかにかざる。○〔漢〕「自レ吉至レ崇、世名二清廉一、而皆好二車馬衣服一、其自奉養極爲二鮮明一、天下服二其廉一、而怪二其―一」。
㊁あり餘ると、ゆたか。○〔張華〕「貲財亦豐―」。
〔阿奢〕めのとのをつと、媼婿。○〔通鑑〕「竇懷貞再娶二韋后乳媼一、爲レ妻奏請輒自二署皇后―・―一、不レ慙」。
〔闊奢〕西蕃にて人を譽むる時に用ふる語。○〔朱子語錄〕「王導爲レ相、只周二旋人過二一生一、嘗坐客二十許人、逐一稱讚、獨不レ及二西僧一、徐謂レ僧曰、―・―」。
〔誇奢〕世間の聞こえ見えを張りておごると。○〔江淹〕「百民染二其―・―一」。
〔嬌奢〕なまめかしき容體を作りて衣服をかざると。○〔曹鄴〕「昭儀正―・―」。
〔驕奢〕おごりはでやかなると。○〔南〕「後世若有二―・―不レ節者一、可下以二此衣一示上レ之」。
〔窮奢〕おごりを盡くし極むると。○〔晉〕「―レ―惑」費謂二之忠義一、省レ煩從レ簡、呼爲二薄俗一」。
〔豪奢〕非常なるおごり。○〔張正見〕「未レ是闘二―・―一」。「―、人亦念二其家一」。
〔紛奢〕はでやかなるおごり。○〔杜牧〕「染愛二―・―一」。
〔僭奢〕おごる、身分に超えたるとをなす。○〔後漢〕「遠近豪俊凡―・―者、莫レ不レ改レ操而歸レ心焉」。
〔饒奢〕おごり、又、ゆたか。○〔晉〕「上―・―、下―・―」。「遍之妖也」。
〔侈奢〕おごる。○〔南〕「主衣中有二玉介一、導以下長二―・―一之源上、命打二破之一」。
〔縱奢〕氣儘におごる。○〔北〕「不レ可二―・―以忘レ儉、自安以忘一レ危」。
〔繁奢〕物事のさばくしてゆたかなると。○〔拾遺記〕「東都繼二其―・―一」。
〔肆奢〕おごる。○〔東京賦〕「必以二―・―一爲レ賢、則是黃帝合宮、有虞總期固不レ如二夏癸之瑤臺、殷辛之瓊室一也」。

【⿰幸及】報の本字。

【奣】ワウ。烏猛切　クワウ。古猛切 梗
天地四方の淸く明らかなるにいふ字、あきらか。

【⿱大夏】キョク、ケキ。迄力切 職
肥ゆ。

【⿱大面】ハン。普伴切 旱
面の大きなるにいふ字、おほいなり。

十畫

【⿱大焦】ケウ。馨幺切 蕭
㊀おほいなり、(大)、又、こゆ、(肥)。㊁かぐはし、(香)。㊂膮に同じ、家肉の羹、ぶた汁。

【⿱茲大】シ。津私切 支
おほいなり、(大)。

【㚈】 ブ、ム。亡遇切 遇

㊀おほいなり(大)。㊁こと、わざ(事)。㊂にごる(濁)。○〔典引〕「有ニ沈而―ニ、有ニ浮而淸ニ」。㊃積みあつむ、つみ聚まる、つむ。○〔國〕「野無ニ―草ニ」。㊄烹て和ぐ、にる。○〔荀〕「泔レ之傷レ人、不レ若レ―レ之」。

(媚奧) 奧を君主に喩へて君主に媚ぶることにいふ語。○〔論〕「與ニ其―ニ於―ニ、寧媚ニ於竈ニ」。
(窈奧) 行きつまりたる地、おく。○〔七命〕「杳ニ響乎幽-山之―・―ニ」。
(壼奧) 物事のおく。○〔韓愈〕「後-來相繼生、亦各臻ニ―・―ニ」。
(窔奧) 前に同じ。○〔杜甫〕「文-章開ニ―・―ニ」。
(樞奧) 物事の主なること、又、秘密なること。○〔晉〕「啓レ塗及レ階、遂升ニ―・―ニ」。
(秘奧) 前に同じ。○〔潘岳〕「窺ニ天-文之―・―ニ」。
(玄奧) 前に同じ。○〔白行簡〕「宣-父窮ニ―・―ニ」。
(神奧) 前に同じ。○〔曹攄〕「精-義測ニ―・―ニ」。
(蘊奧) 前に同じ。○〔宋〕「發ニ揮聖賢―・―ニ」。
(深奧) あさはかならぬこと、ふかし。○〔易、疏〕「乾-坤易之門-戸、義-理―・―」。
(幽奧) 前に同じ。○〔謝莊〕「贊ニ揚―・―ニ、超ニ聲前-古ニ」。
(奇奧) すぐれて深きこと。○〔宋〕「命-題皆―・―」。
(禁奧) 宮闕の中をいふ。○〔魏〕「出ニ入往ニ來―・―ニ」。
(精奧) こまかくしておくふかきこと。○〔北〕「學不ニ師-受ニ、探ニ其―・―ニ」。
(弘奧) 廣くして深きこと。○〔文心雕龍〕「武-帝崇レ儒、選レ言―・―」。
(閑奧) せきとおくと、おもなる場所にいふ語。○〔南〕「三-吳國之―・―」。
(房奧) おくの座敷、又、物事のおく。○〔蔡邕〕「探ニ孔-子之―・―ニ」。
(邃奧) はるかにしておくまりたること。○〔陸雲〕「就ニ精―・―ニ」。
(隅奧) 室のすみ。○〔顏延之〕「―・―有レ竈」。
(潭奧) おく、又、ふかし。○〔郭璞〕「學ニ覽-者之―・―ニ」。

【奧】 アウ、オウ。於到切 號 (宀に从ひ、釆に从ふ、俗に奥に作るはあし。)

㊀おく。
(い)室の隅、特に、西南の隅。○〔儀〕「奠ニ菜-席于廟―ニ東面、右ニ几-席于北-方ニ南面」。
(ろ)家の内部、うち、うらざしき、かくれたる室、寢處。○〔儀〕「御袵ニ于―」。
(は)内へ入りこみたる方、遠くして幽かなる處。○〔謝靈運〕「銅-陵之―、卓-氏充ニ鋹-槻之端ニ」。
(に)總べて、おもてたゞざる場所、又、隱れてあらはならざる處にいふ字。○〔魏〕「出ニ入往ニ來禁―ニ交-通書-疏有レ所ニ探-問ニ」。
(ほ)秘密なること、知り難きこと。○〔蔡邕〕「文-藝典-籍、尋レ道入レ―」。
(へ)肝要なること、主なること。○〔禮〕「人-情以爲レ田、故人以爲レ―」。
(と)行きつまりたる場所、最後の地、極處。○〔唐〕「保ニ太-白-山之東-北阻-―ニ」。
㊁ふかし、おくふかし。
(い)内へ入りこめり、遠くして幽かなり。○〔晉〕「地-勢險-―、亡-逃所レ聚」。
(ろ)おもて立たず、隱れてあらはならず。○〔文心雕龍〕「蔡-邕釋-誨體―而文炳」。
(は)知り易からず、秘密なり。○〔梁昭明〕「至-理希-夷、微-言淵-―」。
(に)あさはかならず、おもくくし、底に妙味を含みたり、品位高し、容量狹からず。○〔南〕「言精理―」。

【奧】 サン。七亂切 翰

かまどの神。○〔禮〕「―者、老-婦之祭也」。

【奧】 井ク、チク。乙六切 屋

㊀隩、澳に通じ用ふ、水の内に曲がり入りたる處、崖の内、轉じて、かぎりの義にいふ字、くま(隈)。㊁燠に通じ用ふ、あつし、又、あたゝか、あたゝむ。○〔詩〕「日-月方―」。

十一畫

【奩】 レン、ロン。離鹽切 鹽 (一に、籢に作り、又、匳に通じ作る。)

香料を盛るに用ふる器、かうばこ、一に、鏡匣、けしやうばこ。○〔梁簡文帝〕「花落飄ニ粉―ニ」。

(香奩) かうばこ。○〔全唐詩話〕「―・―集、合魯公之詞也、惟其艷麗故貫」。
(妝奩) 嫁入りの道具。
(函奩) 前に同じ。○〔舊唐〕「取ニ―・―金寶之飾與ニ其玉軸ニ而棄レ之」。

【奪】 タツ、ダチ。徒活切 曷

㊀うばふ。
(い)強ひて物を取る、物を取るべき理由なくして取る、とる。○〔漢〕「大-賈富-家不レ得レ豪ニ―吾民ニ」。
(ろ)秩祿をけづる、官位を褫ぐ、又、官府に罪人の資産を取り上ぐるなどにいふ字。○〔論〕「―ニ伯-氏駢-邑三-百ニ」。
(は)迫りて他の存在を失はす、おごして他の持てる物をなくなさしむ。○〔史〕「地者、洸ニ―萬-物氣ニ也」。
(に)去る、棄つ、失ふ。○〔史〕「楚易レ取、而漢反-却自―ニ其便ニ」。
㊁うばはる。
(い)さらる、はがる、迫られてうしなふ、おごされてなくなす。○〔史〕「諸-侯削―之地」。
(ろ)無くなる、うす、消ゆ、減少す、(うばはれたる如くなるより)。○〔晉〕「内怖而色―」。
㊂みだる、又、みだす(亂)。○〔書、傳〕「八-音能諧、理不ニ錯-―ニ、則神-人咸和」。
㊃狹き路、こみち、こうち。○〔禮〕「齊莊-公襲ニ莒于奪ニ」。

(與奪) あたふると取ること。○〔左〕「七-年之中、一-―一-―、二-三孰甚レ焉」。
(攻奪) せめうばふ。○〔李康〕「利-害生ニ其左ニ、―・―出ニ其右ニ」。
(覆奪) 取りかへす。○〔詩〕「人有ニ民-人ニ、女―ニ―之ニ」。
(匃奪) うばふ。○〔左〕「毋ニ或―・―ニ」。
(强奪) 强ひてとる。○〔史〕「秦-王度レ之、終不レ可ニ―・―ニ」。
(侵奪) をかしうばふ。○〔史〕「項-王數―ニ―漢甬-道ニ」。
(矯奪) 上の命なりと詐はりて取る。○〔史〕「魏-信-陵-君亦―ニ―晉-鄙軍ニ、往救レ趙」。
(削奪) へらし取る。○〔晉〕「且可ト―ニ―威-權-使レ散ニ居藩-國ニ」。
(損奪) 前に同じ。○〔漢〕「宜レ有ニ以―ニ―其權ニ」。
(襲奪) 不意に攻めて取る。○〔史〕「―ニ―齊-王軍ニ」。
(脇奪) おびやかし取る。○〔後漢〕「璽-丞使-符-節令孫-徽以レ刃―ニ―之ニ」。
(剽奪) 前に同じ。○〔後漢〕「兵-士輒―ニ―之ニ」。
(劫奪) 前に同じ。○〔淮〕「不レ可ニ―而―ニ也」。
(逼奪) 前に同じ。○〔大唐新語〕「父-子母-子尚有ニ―・―ニ」。
(竊奪) 前に同じ。○〔袁楙〕「―ニ―陰-陽ニ、天所レ怒」。
(枉奪) 前に同じ。○〔後漢〕「今貴-主尚見ニ―・―ニ、何況小人哉」。
(貶奪) おとしうばふ。○〔晉〕「以ニ私-憾ニ―ニ―公-論ニ」。
(詭奪) いつはりて取る。○〔魏〕「而無ニ闌-生―・―之誑ニ」。
(敓奪) ぬすみ取る。○〔亢倉子〕「以ニ耳-目ニ取レ人者、―・―以買レ譽」。
(攘奪) みだしとる。○〔唐〕「―ニ―梁、宋閒ニ」。
(剝奪) はぎ取る。○〔元稹〕「患在ニ于―・―之不レ已」。
(躩奪) 官位をうばはるゝなどにいふ語。○〔齊〕「屢見ニ―・―ニ」。
(略奪) かすめうばふ。○〔東觀漢記〕「財-物悉被ニ―・―ニ」。
(掠奪) 前に同じ。○〔中鑒〕「桑-迫而取レ之、謂ニ之―・―ニ」。
(移奪) うばふ、又、うばはるゝ。○〔南〕「不レ可ニ―・―ニ」。
(鈔奪) とりうばふ。○〔五〕「常苦ニ―・―ニ」。
(遏奪) 或る物事をとゞめてなさゞらしむ。○〔淮〕「至-道之人、不レ可ニ―・―ニ也」。

(古奪) 所有となす、うばふ。○〔褚約別傳〕「ー二ー卑・里先人田・地一」。
(漏奪) もれうす。○〔戴叔倫〕「當時ー・ー無二人問一」。「ー亦已隨」。
(謫奪) 罪を責めて官位などをはぐ。○〔元稹〕「ー・
(訐奪) 罪を摘り出だし官位などをはぐ。○〔韓愈〕
「引・章ー・ー」。「相ー・ー」。
(傾奪) とりあひをなす。○〔史〕「爭下士致二賓客一」

【奪】ケツ、コチ。丘月切 月

うばふ。○〔白居易〕「何此巴・峽中、桐・花開十月、草・木堅・彊所レ物、稟固難レー」。

【奫】ヰン、ウン。紆倫切 眞

水の深くひろびろとしたる貌にいふ字、ふかし、ひろし。○〔左思〕「泓・澄ー潫」。

【㦸】チツ、直質切 質。テツ、徒結切 屑。ヂ、デチ。切

おほいなり、(大)、さかんなり、(盛)。

【奬】シヤウ、子兩切 養 サウ。切 ｜ 獎に同じ。

㊀すゝむ。
(い)推選す、とり持つ。○〔南〕「好ー二人・才一」。
(ろ)いざなふ、はげます、みちびく、(導)。○〔唐〕「尊二尙師・儒一、發・揚勸ーー海・内知レ嚮」。
㊁よしとなす、(美)、ほむ、(褒)。○〔宋〕「賜二御・書一嘉ー」。
㊂たすく、(助)、なす、(成)。○〔陳〕「建二樹藩・屏一、翼二ー王・室一」。
(恩奬) あはれみたすく。○〔五〕「親得レ持二晉玉・璽一獻二契・丹一、以黎二ーー一」。
(推奬) おしすゝむ、取り持つ。○〔杜甫〕「平・昔濫ーー」。「ー王・室二」。
(尊奬) たふとびたすく。○〔蜀〕「傾二覆寇・敵一、ーー
(僭奬) ほおること。○〔南〕「今區・宇寧晏、宜レ加二ー・ー一」。「行ー爲レ先」。
(提奬) 人を取り立つ。○〔北〕「ー二ー後・進一、以二名・
(愛奬) 人材をしみて取り立つ。○〔唐〕「李・華ー二ー士類一名隨以重」。
(崇奬) あがめはげます。○〔宋〕「令・學・官一列二崇祀一、以永二ー・ー之意一」。
(開奬) 人を誘ひはげます。○〔顏氏〕「吾甚憐・愛、倍加二ー・ー一」。
(慈奬) あはれみたすく。○〔梁簡文帝〕「叨逢二ー・ー一、事出二希・世一」。
(超奬) 拔きんでゝすゝむ。○〔李嶠〕「猶レ涯揣レ分、敢希二ー・ー一」。
(拔奬) 拔きんでゝすゝむ。○〔呂溫〕「未レ踰レ年、忽蒙二ー・ー一」。
(寵奬) 前に同じ。○〔元稹〕「陛下察二臣無一レ罪、ー・ー嗣二本朝一」。ー途深」。
(殊奬) 異なれるたすけ。○〔徐陵〕「遂蒙二ー・ー一、歸
(公奬) 私の事情に拘はらずしておほやけに取り用ふ。○〔白居易〕「宜下加二ー・ー一擢在中近・侍上」。

十二畫

【奭】セキ、施隻切 ケキ、迄逆切 陌 シヤク。切 キヤク。切 ｜ 古文には奭に作れり。
カク。黑各切 藥

㊀赤き貌にいふ字、一說に、盛んなり。○〔詩〕「路・車有レー」。
㊁いかる、(怒)。○〔漢〕「嬰謝レ病、高遂說レ嬰曰、有レ如三兩・宮ー二將・軍一、則妻・子無レ類矣」。

【𡙡】古文の奪の字。○〔山海經〕「其音如レー二百・聲一」。

十三畫

【𡘼】無に同じ。○〔鶡冠子〕「坱・軋ーレ垠」。

【奮】フン、ホン。方問切 問

㊀ふるふ。
(い)翼を鼓す、はたゝきす、又、とぶ、飛び上がる。○〔詩〕「不レ能二ー・飛一」。
(ろ)震動す、うごく、うごかす。○〔易〕「雷出地ー」。
(は)發作す、おこる、おこす。○〔書〕「能ーレ庸」。
(に)發揚す、あぐ、あがる。○〔書〕「ー二至・德之光一」。
(ほ)振拂す、はらふ。○〔禮〕「ー不レ由二右・上一」。
(へ)競爭す、きそふ。○〔荀〕「民・心ー而不レ可レ說也」。
(と)起立す、たつ。○〔唐〕「左・史江・融有二美・名一、興指下融與二徐・敬・業一同上謀、斬二于市一、尸ー而行、刑・者蹴レ之、三仆三作」。
(ち)振矜す、おごる。○〔荀〕「ー二於言・華一、ー二於行・伐一」。
(り)勇む、勵む、決心す、又、はげます。○〔漢〕「小・時家貧、自ー應レ募」。
(ぬ)さかんなり、つよし、又、さかんにす、つよくす。○〔論衡〕「意ー而筆縱、故文見而實露也」。
(る)振掉す、ふる。○〔王珪〕「手ー二三・尺劍一」。
(を)憤激す、いかる。○〔史〕「項・羽怨三秦破二項・梁軍一ー」。
(雷奮) かみなりの轟くこと、又、かみなりの如くにひゞきふるふこと。○〔李德裕〕「大・咤ー・ー、重・隨電・注」。
(感奮) 感じうごく、おこること。○〔唐〕「聞者、莫レ不二ー・ー一」。
(虛奮) 實なくしてうはべのみを飾る。○〔韓〕「ー・ー之學不レ設」。
(振奮) 氣力。○〔韋應物〕「ー・ー士・玄・覽」。
(讙奮) よろこびうごく、多人數のさわがしくあるにいふ語。○〔唐〕「挾二一・矢一寵二之三軍ー・ー一」。
(矜奮) つゝしみ省みて行を改む。○〔韓愈〕「民各自ー・ー」。
(騰奮) たちあがる。○〔文心雕龍〕「慰・宗ー・ー」。
(爭奮) あらそひきそひてたつ。○〔稽康〕「威・武殺伐、功・利ー・ー」。

【奯】クワツ、クワチ。呼括切 曷

㊀空しくして大いなり、おほいなり。
㊁目の動く貌にいふ字、うごく。○〔元包經〕「豐・晴之ー」。

十四畫

【𡚇】クワン。呼官切 寒

はじむ、又、かはる。○〔揚雄〕「始也、化也」。

十五畫

【奰】ヒ、ビ。平秘切 寘

㊀壯大なり、おほいなり、さかんなり。
㊁せまる、(迫)。
㊂いかる、(怒)、又、酒に醉はずしていかる。○〔詩〕「內ー二于中・國一、覃及二鬼・方一」。
(眉奰) はげしきこと。○〔韓愈〕「寒・氣ー・ー、頑無二風一」。
(怨奰) うらみ怒る。○〔元結〕「上・下隔・塞、人・神ー・ー」。

【𡘞】ライ、レ。魚猥切 賄

おほいなり、(大)。

女部

【女】ヂヨ、ニヨ。尼呂切 語

㊀男に配し子を孕みて産む機能を備ふる人類、をんな、をみな、め。○〔易〕「坤・道成レー」。
㊁未だ人に嫁がざるをみな、むすめ。○〔禮〕「歸レー之家三・夜不レ息レ燭、思二相離一也」。
㊂汝に同じ、なんぢ。○〔孝〕「ー知レ之乎」。

〔虹女〕するぎん、丹汞。○〔參同契〕「河上ーー得レ火則飛」。
〔須女〕〔婺女〕同一の星の名、布帛をつかさどるといふ。○〔史〕「東至二于須・女一」。
〔玄女〕天帝の妃。○〔黃帝內傳〕「帝伐二蚩・尤一、ーー爲レ帝制二夔・牛鼓八・十・面一」。
〔青女〕霜雪をふらす神。○〔淮〕「ーー乃出降二霜・雪一」。
〔金女〕西王母のこと。○〔集仙錄〕「ーー西・王・母也」「厥姓緱・氏」。
〔雪衣女〕(動)あふむの別名、(鸚鵡)。
〔縊女〕ちゃみかひの別名、(蜆)。
〔戎女〕(動)あをむしの別名、(螟蛉)。
〔天女〕(い)織女星の別名、絲、帛をつかさどるといふ。○〔史、註〕「織・女一・名ーー也」。(ろ)天に住むをみな。○〔魏〕「欻見二輜・軿自レ天而下一、美・婦・人自稱二ーー一」。
〔神女〕(い)かみのむすめ。○〔宋玉〕「夢與二ーー一遇」。(ろ)かさゝぎの別名、(鵲)。
〔淑女〕令德あるをみな。○〔詩〕「窈・窕ーー、君・子好・逑」。
〔艷女〕なまめかしき女子。○〔梅堯臣〕「善則善矣、未レ若二ーー之歌・喉一」。
〔織女〕星の名、俗に、たなばたひめといふ。○〔劉禹錫〕「ーー分・明銀・漢・秋」。
〔處女〕未だ男子に接せざるむすめ。○〔蘇軾〕「幽・花如二ーー一」。
〔息女〕むすめ。○〔史〕「臣有二ーー一、願爲二季・箕・帚妾一」。
〔紅女〕工女のこと。○〔鮑照〕「ーー事二蠶・作一」。
〔嬖女〕寵愛ある女子。○〔戰〕「左抱二幼・妾一、右擁二ーー一」。
〔好女〕みめよき女子。○〔史〕「其人家有二ーー一」。
〔御女〕漢の時代の官の稱。○〔後漢〕「二・十・七世・婦、八・十・一ーー」。
〔采女〕前に同じ。○〔後漢〕「又置二美・人宮・人ーー三・等一」。
〔妒女〕嫉み深き婦女。○〔宋之間〕「ーー猜憐鏡・中髮」。
〔罷女〕德義なき女子。○〔管〕「罷・士無レ伍、ーー無レ家」。
〔漂女〕衣類などを洗ふをみな。○〔劉孝威〕「ーー擇二平・沙一」。
〔醜女〕容貌のみにくきをみな。○〔范成大〕「翩使二鄉・山多二ーー一」。
〔誕女〕生まれたるむすめ。○〔綠珠〕「汲二此井一者、ーー必多二美・麗一」。
〔佚女〕美しきをみな。○〔屈平〕「望二瑤・臺之偃・蹇一兮、見二有娀之ーー一」。
〔麗女〕前に同じ。○〔蔡邕〕「ーー盛・飾、曄如二春・華一」。
〔妖女〕前に同じ。○〔曹植〕「名・都多二ーー一」。
〔嬌女〕前に同じ。○〔左思〕「左家有二ーー一」。
〔櫂女〕舟をこぐをみな。○〔鮑照〕「輿・鼓唱二棠・椒一、ーー歌二采・蓮一」。
〔辯女〕辯舌のすぐれたるをみな。○〔曹植〕「ーー解二父命一」。
〔稚女〕幼きむすめ。○〔元稹〕「ーー憨レ人問」。
〔樵女〕木こりする女子。○〔李白〕「ーー洗二素・足一」。
〔騃女〕愚かなる女子。○〔白居易〕「痴・男ーー喚二鞦・韆一」。
〔針女〕衣服を縫ふをみな。○〔白居易〕「因命二染・人與二ーー一」。
〔丱女〕幼女の未だ髮をあげざるもの。○〔白居易〕「童・男ーー舟・中老」。
〔績女〕糸をつむぐをみな。○〔陸游〕「ーー窺レ籬・牧・豎迎」。
〔未笄女〕元服せざる若きむすめ。○〔孟、疏〕「雖二未レ冠之士ーレー之ー一、亦且綏レ之」。
〔采桑女〕桑の葉を摘むをみな。○〔劉希夷〕「秦・家ーーー」。
〔小家女〕貧しき家のむすめ。○〔白居易〕「本是揚・州ーーー」。
〔田中女〕ひなのむすめ。○〔孟郊〕「妾是ーーー」。
〔京城女〕都のむすめ。○〔白居易〕「自言本是ーーー」。

【女】 ジョ、ニョ。尼據切 御 配して妻となす、めあはす。○〔書〕「ー二于時一」。

二畫

【女匕】 籀文の妣の字。

【女七】 シツ、シチ。尺栗切 質 女の謹まざるにいふ字、みだり。（妣とは別なり。）

【奴】 ド、ヌ。農都切 虞 ㊀やつこ。(い)人に役せらるゝ賤しき男女、古は、連坐の罪人、又、敵の捕らはれ人を採り用ひたり。○〔漢〕「人ーー之生、得レ無二笞・罵一足矣、安望二封・侯一乎」。(ろ)後世にては、多く賤役の男子にいふ。○〔南〕「耕當レ問レー、膳當レ問レ婢」。㊁澤の名。○〔水經、註〕「四・面有レ水曰レ雍、不レ流曰レー」。
〔念奴〕官にて召し使ふ妓女の稱。○〔元稹〕「力・士傳・呼覓二ーーー一」。
〔燭奴〕燭臺。○〔天寶遺事〕「申・王以二檀・木一刻二童・子一、執二畫・燭一、名曰二ーーー一」。
〔盧奴〕愚かなるしもべ。○〔王安石〕「[illegible]二晚・衆・吏一如二ーーー一」。
〔飛奴〕唐の張九齡の故事より傳書鳩を稱していふ。○〔楊維楨〕「翩・々兮、ーーー」。
〔奚奴〕しもべ。○〔陸游〕「詩・囊隨・處累二ーーー一」。
〔竹奴〕たけのかごのこと、一名、竹夫人といひ、又、青奴ともいふ。○〔王炎〕「ーー夏・日涼、脚・婆冬・夜有」。
〔豪奴〕つよきしもべ。○〔蘇洵〕「家有二主・母一、而ーー悍・婢、不三敢與二弱・主一抗上」。
〔木奴〕(植)柑橘の稱。○〔襄陽耆舊傳〕「吾有二千・頭ーーー一」。
〔錫奴〕ゆたんぽ、あんか、足を暖むる器。
〔荔枝奴〕(植)龍眼の別名。
〔狸奴〕(動)かはをその別名。

【奴】 ド、ヌ。奴故切 遇 己れを謙り又は他を賤しみ呼ぶ稱に用ふる字。○〔後漢〕「帝笑曰、狂ーー故・態也」。

【奵】 テイ、チヤウ。當經切 青 ㊀女の名。㊁面の平かなるにいふ字、たひらか、「(㜲奵)」。

【奵】 テン。他典切 銑 かほよき貌にいふ字、かほよし、(好)。

【奵】 テイ、チヤウ。都挺切 迥 自ら持する貌にいふ字、たもつ。

三畫

【奸】 セン。蒼先切 先 女の字(あざな)、一に、奸の譌字。

【奸】 カン。古寒切 寒 ㊀非禮の事を爲す、おかす、(犯)、みだる、(亂)、又、たはる、(淫)。○〔漢〕「使三神・人各處二其所一、而不二相ーー」。㊁干と通じ用ふ、もとむ。○〔史〕「尚以二漁・釣一ーレ周」。㊂堅とも讀めるときあり、かたし。○〔史〕「寒・暑不レ和、賊・氣相ー、同レ歲異レ節其時使レ然」。

【奸】 カン、ケン。居顏切 刪 わたくし、わたくしす、(私)、又、いつはる、いつはり、(僞)。

【她】 古文の姐の字。

【[illegible]】 キウ、ク。己有切 有 ㊀女の字(あざな)。㊁やもめの貞節を守りて、他に移らざるにいふ字。（一に、奺に作る。）

【奻】 ダン、テン。奴還切 刪 女患切 諫 諠しく訟ふ、又、うつたふ。

【奼】 タ、テ。丑亞切 馬 をさめ、(少女)。

【奼】 ト、ツ。都故切 遇 タ、テ。陟嫁切 禡 うつくしきをみな、(美女)、さしわかきをみな、(少女)、又、かほ好し、みめよし、うつくし。○〔韓愈〕「閑愛老・農愚、歸弄小・女ー」。
〔玉奼〕玉の如くに美しきをみな。○〔陸龜蒙〕「香、穠或霞・棄、侍・女忽玉ーー」。

(妖姙) うつくし、かほよし。○〔韓琦〕「不レ論二姚花與一レ魏花一、只供二俗目一倍二――一」。
(嫋姙) なまめきてうつくし。○〔范成大〕「秋鶯偸――、晩蝶成二飄泊一」。

【妷】ヨク、エキ。逬職切 [職] 一弋に通じ作る。

をみなのつかさ、(婦官)。○〔後周皇后紀〕「皇后率二六宮三――、祭二先蠶西陵氏神一」。

【好】カウ、コウ。許皓切 [皓]

㊀よし。

(い)程に適ふ、よろし。○〔詩〕「緇衣之―」。

(ろ)意に合ふ、よろこばし。○〔詩〕「驕人――、勞人草々」。

(は)すぐれたり、まされり。○〔唐〕「一摘使二瓜―一」。

(に)醜からず、うつくし、みめよし、かほよし。○〔西京雜記〕「人醜――老少必得二其眞一」。

(ほ)親密なり、むつまし。○〔曹鄴〕「見二他夫婦―一」。

(へ)惡しからず、正し。○〔史〕「女不二必貴種一、要二之貞―一」。

(と)決定の意をあらはすに用ふる字、返し讀むときは、「べし」の意をなす。○〔魏〕「盛德壯烈、―レ建二功勳一」。

㊁むつましきこと、よしみ、又、よしみを結ぶ會合。○〔詩〕「永以爲レ―也」。

(相好) よしみ。○〔詩〕「兄及弟矣、式――矣」。
(燕好) うちとけてむつましきこと。○〔左〕「禮レ之加二――一」。
(恩好) よしみ。○〔周、註〕「所レ以結二――一也」。
(嘉好) よしみ、又、よしみの會合。○〔左〕「唯――聘享」。
(情好) よしみ。○〔史〕「――珍善」。
(友好) ともだちなかのむつましきこと。○〔後漢〕「特相――」。
(朋好) 前に同じ。○〔顏延之〕「――雲雨乖」。
(親好) したしみ。○〔北〕「遂相――」。
(隣好) となりとのよしみ。○〔北〕「初修二――一」。
(遐好) 災害をまぬかること。○〔漢〕「近二―之―一」。
(靜好) しづかにしてよし。○〔詩〕「琴瑟在レ御、莫レ不二――一」。
(美好) 容色のうつくしきこと。○〔王安石〕「留侯――如二婦人一」。
(姣好) 前に同じ。○〔漢〕「董偃年十三、左右言二其――一」。
(妍好) 前に同じ。○〔杜甫〕「新寵方――」。
(堅好) 固くしてよし。○〔韓琦〕「鄴宮之瓦甃埋二荒草一、取レ之爲レ硯成二――一」。
(姝好) たわやかにしてよし。○〔唐〕「時帝歲遣レ使、采二擇天下――一」。
(精好) こまやかにしてよし。○〔宋〕「制作――、風雨夜斷」。
(華好) はでやかにしてよし。○〔宋〕「不レ取二其堅利一、取二其――一」。
(鮮好) あざやかにして美し。○〔曹植〕「忽逢二二龍一、顏色――」。
(完好) 不足なく備はりて立派なること。○〔葉適〕「極精正――」。
(殊好) すぐれたり、よし。○〔世說〕「家有二一李樹一、結レ子――」。
(總角好) あげまきの時よりむつまじきこと。○〔吳、註〕「周公瑾與レ孫、有二――之―、骨肉之分一」。

【好】カウ、コウ。呼到切 [號]

㊀其の物事をよろこぶ、愛づ、すく、このむ、よろこぶ。○〔禮〕「君―レ之、民必欲レ之」。

㊁璧の孔、あな。○〔周〕「璧羨度レ尺、―三寸、以爲レ度」。

(志好) こゝろざしとこのみと、又、このみ。○〔茅亭客話〕「――益堅」、
(時好) 其の時のこのみ、はやり。○〔劉論〕「性隨二――一也」。
(俗好) 前に同じ。○〔歐陽修〕「羞レ紫誇紅隨二――一」。
(悅好) よろこぶ、このむ、すく。○〔漢〕「文君竊從戸窺、心―而―レ之」。
(雅好) つねのこのみ。○〔南〕「――賦レ詩」。
(宿好) 前に同じ。○〔陶潛〕「詩書敦二――一」。
(愛好) このみ。○〔南〕「素所二――一」。
(嗜好) たしなみこのむこと。○〔宣和畫譜〕「平居無レ所二――一」。
(崇好) たふとびこのむ。○〔左〕「―二―道術一」。
(耽好) 心をもつぱらにしてこのむ。○〔北〕「―二―經史一」。

【⿰女山】セン。相然切 [先]

女の字、(あざな)。

【妀】キ。居里切 [紙]

女の字、(あざな)。

【⿰女亏】嫮に同じ。

【妁】シャク。職略切 [藥]

酌に同じ、婚姻のなかだちする人、なかうど。

【⿰女于】ウ、ヲ。雲俱分 [虞]

禮を以て交はる、まじはる、一に、義を取るを當たらず、譌字ならん。

【如】ジョ、ニョ。人諸切 [魚]

㊀ごとし。

(い)比べて異ならず、にたり、(似)、おなじ、(同)、ひとし、(均)。○〔書〕「―レ初」。

(ろ)推しはかりていふ意を表はすに用ふる字、和語の「らむ」と同じくて「やうなるべし」の義。○〔大〕「人之視レ己―レ見二其肺肝一然」。

(は)多くあるうちに此れと指し示すときに用ふる字、和語の「など」に同じ。○〔史〕「雖二三代征伐一、未レ能レ竟二其義一―二其文一也、亦少褒矣」。

(に)ほどを推しはかりていふときに用ふる字、ばかり。○〔史〕「出―二食頃一、秦追果至レ關」。

㊁比するに足る、ごとく、此の字のある句には多くは打ち消しの字あるか、若しくは、反語をなす字ありて、比するに足らざる意を表はす、其の字なきときも其の意は存す。○〔左〕「何不祥―レ是」。

㊂假りに說くときに用ふる字、ごときとあらば、萬一、もし。○〔史〕「公叔病有二如不レ可レ諱一」。

㊃ごとくにす、ごとくす、したがふ、(從)。○〔列〕「胥―レ志」。

㊄他の字に付け用ひて推しはかる意を表はす字。○〔易〕「突―其來―」。

㊅語調を助くるに用ふる字。○〔論〕「足躩―也」。

㊆何の字の下に付け加へ「いかに」と讀みて、疑ひ問ふときに用ふる字。○〔古樂府〕「書中竟――」。

㊇而に通じ用ふ、して、て。○〔漢〕「星隕―雨」。

㊈此れより彼れに至る、ゆく、(適)。○〔劉伶〕「幕レ天席レ地、縱二意所一レ―」。

㊉あたる、(當)、およぶ、(及)。○〔戰〕「夫宋之不レ足レ―レ梁」。

⑪時により處によりて、すべて變異なきこと、本覺、理性、眞理、(佛家の言)。○〔法華經科註〕「覺加令說與レ佛不レ異、二者約レ理以二諸法皆―一故也」。

(一如) 眞理のおなじきこと。○〔首楞嚴三昧經〕「魔界如、佛界如、――而無二二一」。
(如々) 變せざ、異ならざ。○〔金光明最勝王經〕「自利益者、是法――、利二益他一者、此――智」。
(眞如) 一切萬有のまことの理。○〔大般若經〕「常如二其性不一レ虛妄、不二變易一、故名二――一」。
(班如) 旋りて進まざる貌にいふ語。○〔易〕「乘レ馬――」。
(漣如) したゝる貌にいふ語。○〔易〕「泣血――」。
(翕如) 合ふ貌、又、盛なる貌にいふ語。○〔論〕「始作――也」。
(純如) 和らぎあふ貌にいふ字。○〔論〕「從レ之――也」。

(繹如)　續きて絕えざること。○〔論〕「一一也、以成」。
(皦如)　明らかなる貌。○〔論〕「一一也」。
(襜如)　整へる貌にいふ語。○〔論〕「衣前後一一也」。
(翼如)　鳥のつばさを舒べたるが如くに正しく好き貌にいふ語。○〔論〕「趨進一一也」。
(齊如)　おごそかに整へる貌にいふ語。○〔論〕「必一一一也」。
(豁如)　ひろやかなる貌　○〔史〕「高祖爲レ人、仁而愛レ人、喜レ施、意一一也」。
(自如)　かはらざる貌にいふ語。○〔漢〕「吏士無ニ人色一、而廣意氣一一」。
(晏如)　やすらかなる貌。○〔高適〕「四時常一一」。
(澹如)　泊如といふに同じ、さッぱりとして拘泥せざること。○〔陶〕人爲之恨慨一一也」。
(婉如)　柔順なる貌、又、美麗なる貌にいふ語。○〔詩〕「有ニ美一人一、一一淸揚」。
(粲如)　鮮明なる貌にいふ語。○〔史〕「雍元元、狩之間、文辭一一也」。
(蔑如)　ないがしろにす。○〔魏〕「不ニ與レ己同一者、視レ之一一也」。
(翳如)　かゞやく貌にいふ語。○〔晉〕「目有ニ精曜一、顧眄一一」。
(闟如)　つゝしむ貌にいふ語。○〔揚雄〕「見ニ其貌一者、一一也」。
(廓如)　開く貌にいふ語。○〔揚雄〕「孟子闢レ之一一也」。
(恂々如)　信實ある貌、又、溫恭の貌にいふ語。○〔論〕「孔子於ニ鄕黨一、一一一也」。
(恰恰如)　和ぎ悅べる貌にいふ語。○〔論〕「出降ニ一等一、逞ニ顏色一、一一一也」。
(愉愉如)　顏色の和げる貌にいふ語。○〔論〕「私覿一一一也」。
(踧踖如)　恭敬の貌にいふ語。○〔論〕「君在一一一也」。

【如】　ジョ、ニョ。　如倨切　御
前條の九に同じ、ゆく。○〔東方朔〕「忽容々其安之兮、超荒忽其焉一、苦ニ衆人之難レ信兮、願離レ羣而遠擧」。

【如】　ダ、ナ。　乃箇切　箇
ごとし(若)。

【妃】　ヒ。　芳微切　微
㊀男子に配合せる婦人の汎稱、たぐひ、つれあひ、古は、貴賤に限らず通じて用ひき。○〔儀〕「以ニ某一配ニ某氏一」。
㊁后に次ぎて最も貴き嬪御の稱、きさき、ひめ、又、太子の嫡室。○〔禮〕「舜葬ニ於蒼梧之野一、蓋三一未ニ之從一也」。
(元妃)　始めに適きたる夫人。○〔史〕「姜源爲ニ帝嚳一一」。
(正妃)　前に同じ。○〔史〕「嫘祖爲ニ黃帝一一」。
(湘妃)　(い)竹の別名。○〔竹譜〕「其斑如ニ淚痕一、出ニ古辣一者佳、出ニ陶廬山中一」。(ろ)湘水の名、虞舜の二妃の故事より起こる。○〔湘中記〕「琴操有ニ一一怨一」。
(天妃)　水を掌る神の名。
(晉妃)　唐の時代の女官の稱。○〔唐〕「內官一一惠妃、麗妃、華妃各一人」。

【妃】　イ。　盈之切　支
姬に同じ、ひめ、衆くの妾の總稱。

【妃】　ハイ、ヘ。　滂佩切　隊
配に同じ、つれあひ。○〔史〕「高祖微時一」。

【妄】　バウ、マウ。　巫放切　漾
㊀誠實ならざると、虛謬なるを、空しきを、うそ、みだり、いつはり、あやまり。○〔圓覺經〕「認レ一爲レ眞、雖レ眞亦一」。
㊁空しく、いつはりて、みだりに。○〔莊〕「吾嘗爲レ汝一言レ之」。
㊂凡に同じ。○〔漢〕「諸一校尉以下、材能不レ及レ中、以ニ軍功一侯者、數十人」。
(无妄)　易の卦の名、☳☰震下乾上。○〔易〕「一一之疾、勿レ藥有レ喜」。
(盧妄)　いつはり。○〔南〕「言不ニ一一一、蓋天性也」。
(僞妄)　前に同じ。○〔詩、疏〕「讒諂是一一之言」。
(妖妄)　怪しくてまことならざること。○〔晉〕「詭詐近ニ于一一」。
(詭妄)　いつはり。○〔唐〕「以ニ一一出ニ入禁中一」。
(諂妄)　前に同じ。○〔唐〕「極ニ論延齡一一不レ可レ任」。
(荒妄)　前に同じ。○〔唐〕「極ニ陳一一慢誕不レ可レ信」。
(誕妄)　前に同じ。○〔王令〕「仙者虛荒喜ニ一一」。
(詐妄)　前に同じ。○〔郭璞〕「若以レ谷爲ニ妖蠱一一者一、則當レ投ニ畀豺土一」。

【妄】　バウ、マウ。　武方切　陽
なし(無)。

【妅】　コウ、ク。　胡公切　東
女の字(あざな)、一に、娂に作る。

【⿰女刃】
古文の姬の字。

【⿰女广】　ゲン。　魚檢切　琰
㊀嬐に通じ作る、婦人の容儀の整へる貌にいふ字、みごしらへよし。
㊁さし、はやし(敏疾)。

四畫

【妉】　タン、都含切　トン。切　覃
一本、媅に作る、又、湛、愖にも作る。たのしむ、又、たのしみ。

【妊】　ジン、汝鴆切　沁　ニン。如林切　侵
一別に姙に作る。胎內に子をやどす、はらむ、(懷孕)。○〔埤雅〕「鶻不レ擊レ一」。
(懷妊)　みごもりすること。○〔後漢〕「詔令ニ諸一一者、賜ニ胎養穀人三斛一」。

【妋】　フ。　風無切　虞
㊀むさぼる(貪)。㊁女の貌にいふ字。

【妖】　イウ、ウ。　於求切　尤
眉と目との間に恨らむるさまを帶ぶるにいふ字、うらむ。

【妌】　セイ、ジヤウ。　疾政切　敬
女の德をそなへて妄りに動かざるにいふ字、しづか、又、しづかなり。

【妍】
妍に同じ。

【妎】　カイ。　胡蓋切　カイ、ケイ。　居拜切　卦
一に、嫎に作る。ねたむ、そねむ(妒)、又、やぶる。○〔路史〕「太古之民與レ物相友、人無ニ一レ物之心一」。

【妎】　ケイ、ガイ。　胡計切　霽
からくす(苛)、又、おほふ(覆)。○〔國〕「弭ニ其百苛一、一ニ其讒慝一」。

【姌】　子ン、ゼン。　而琰切　琰
一本、㚩に作る。たけ長くしてかほよき貌にいふ字、たをやか。

【妏】　ブン、モン。　無分切　文
女の字(あざな)。

【妏】　ブン、モン。　文運切　問
一には、免に从ふ。うむ、又、うまる(生)。

【⿰女毛】　カウ、コウ。　虛到切　號
魹に同じ、えやみのかみ。

【妐】　ショウ、シユ。　諸容切　冬
㊀夫の兄、こじうと。
㊁夫の父を呼ぶ稱、しうと、(關中の語)。○〔呂覽〕「姑一知レ之曰、爲ニ我婦一而有ニ外心一、不レ可レ畜」。

【妑】　ハ、ヘ。　邦家切　麻
㊀女の名。㊁女兒の雙髻、ちごわ。

【妒】ト、ツ。都故切 遇 妬に同じ。

㊀ねたむ。
(い)羨みてにくむ、にくしと思ふ。○「列」「爵高者人━レ之」。
(ろ)特に其の男女の間の痴情にかゝれるものにいふ字。○「詩、註」「以レ色曰レ━、以レ行曰レ忌」。

(妖妒) ねたむ。○〔史〕「今戰能勝、必━ニ━吾功ニ」。
(讒妒) たかぶりて人をねたむ。○〔漢〕「趙氏姊弟━━」。
(忮妒) 前に同じ。○〔顧野王〕「那思他人不ニ━━ー」。
(嫵妒) なまめかしくしてねたみ心あり。○〔後漢〕「公主━━」。

【妓】キ、ギ。巨綺切 紙

音曲歌舞などもて宴席の興を助くるを業とする女、あそびめ、うたひめ、まひひめ、わざをぎ、又、其の技、女樂。○〔柳宗元〕「畜レ━能傳ニ宮中聲ニ」。

(營妓) 軍營のうちに置くうたひめ。○〔嫩言〕「命ニ━━、人與ニ紅綾一匹ニ」。
(官妓) 容色うるはしく歌舞の技藝をもてみやづかへする女子。○〔宋〕「韓元獻ニ━━百餘ニ」。
(家妓) 女樂、又、うたひめ。○〔舊唐〕「家有ニ奇樂━━ニ」。
(聲妓) 前に同じ。○〔唐〕「供帳━━與ニ天子ニ等」。
(宮妓) 前に同じ。○〔徐陵〕「碧玉━━自嬌妍」。
(歌妓) 前に同じ。○〔孟浩然〕「━━莫レ停レ聲」。
(艶妓) 美しきうたひめ。○〔白居易〕「花低羞ニ━━ニ」。
(佳妓) 前に同じ。○〔壁巖叢〕「━━如レ福一━驚」。
(妙妓) たへなる女樂、又、非れをなすうたひめ。○〔七啓〕「才人━━」。

【妓】キ。居宜切 支

女のすがた。

【妔】カウ、キヤウ。客庚切 庚

美しき女、又、うつくし。

【妔】カウ、ガウ。寒剛切 陽

㊀女の字（あざな）。
㊁伉に同じ、女の性質急しくしてれちけたるにいふ字、もさろ。

【妖】エウ。伊堯切 蕭

㊀巧みに笑ふ、うつくしくして媚を含む、なまめく、又、なまめくらし、なまめかし、たをやかなり。○〔梁簡文帝〕「繁華炫姝色、燕趙艶妍━」。
㊁常ならず、不思議なり、あやし、（異）。○〔舊唐〕「索有ニ風疾、而語涉ニ妄━ニ」。
㊂あやしきを、わざはひ、もののけ、ばけもの。○〔左〕「人棄レ常則━興」。

(妖妖) つやゝか、又、うつくし。○〔舒元輿〕「灼々━━」。
(瑞妖) めでたきしるしと禍のしるしと。○〔唐六典〕「━━星氣有ニ諸家雜占ニ」。
(氛妖) わざはひ。○〔徐陵〕「江左━━」。
(災妖) 前に同じ。○〔左〕「誠以ニ━━、使レ從ニ福祥ニ」。
(憑妖) かこつけてあやしきことを説くにいふ語。○〔唐〕「附安━━」。
(姦妖) わざはひ。○〔雲笈〕「━━無レ生」。○

【姈】セン、ソン。處占切 ケン。馨兼切 鹽

善く笑ふ貌にいふ字、わらふ。

【姈】ケン。許兼切 鹽 カン、ケン。虛咸切 咸

㊀うつくし、（美）。
㊁女の輕薄なる貌にいふ字、かろくしきうさめ、（男母）、俗の言。

【妗】キン、ゴン。巨禁切 沁

【妙】ベウ、メウ。彌笑切 嘯

㊀精微なること、勝れたること、巧みなることを、神なること、物事の太だ善美なること、不可思議なること、たへなること、又、たへなる技術、たへなる道理。○〔老〕「玄之又玄、衆━之門」。
㊁年長けず、わかし、弱少。○〔杜甫〕「明公獨━年」。
㊂ほそくしてみめよし、うつくし、かよわし、又、たをやか、しなやか、（纖媚）。○〔漢〕「━麗善舞」。

(高妙) すぐれていみじきこと。○〔北〕「僧坦醫術━━」。
(微妙) 極めてこまかくたへなること。○〔晉〕「━━有ニ奇趣ニ」。
(英妙) すぐれたる少年。○〔潘岳〕「終蘇山東之━━」。
(衆妙) もろもろのたへなる自然のことわり。○〔老〕「玄之又玄、━━之門」。
(玄妙) 極めて深く精微なることわり。○〔孟浩然〕「漸通ニ━━理ニ」。
(深妙) 前に同じ。○〔史〕「其精微━━、多レ所ニ賞失ニ」。
(淵妙) 前に同じ。○〔沈約〕「━━欲ニ飛動ニ」。
(微妙) 極めて精微なる理。○〔馬臻〕「嘗觀ニ━━ニ」。
(大妙) 道の至極せる處、又、いみじく神妙なること。○〔莊〕「九年而━━」。
(至妙) 前に同じ。○〔七啓〕「論ニ變化之━━ニ」。
(奥妙) 前に同じ。○〔呂溫〕「深居ニ穆清、親覩ニ━━、所レ辨」。
(沖妙) 前に同じ。○〔魏〕「夫學跡━━、非ニ浮識━━ニ」。
(絕妙) 極めてたへなること。○〔北齊〕「當時以爲ニ━━、稱ニ絕華ニ」。
(殊妙) 前に同じ。○〔陶潛〕「神力既━━」。
(巧妙) いたく上手なること。○〔李白〕「良工━━━」。
(勁妙) するどくすぐれたること。○〔唐〕「筆詞━━」。
(詭妙) ふしぎ、又、其の術。○〔新序〕「意者、有ニ他━━ニ」。
(精妙) こども。○〔潛夫論〕「年雖ニ━━、未レ脫ニ桎梏ニ」。
(莊妙) おごそかにしてすぐれたること。○〔水經、註〕「誚責ニ」。
(麗妙) うるはしくたへなること。○〔水經、註〕「晉盤東都西域供爲ニ━━ニ矣」。
(姸妙) うるはし。○〔世說、註〕「時有ニ━━、如ニ婦人好女ニ」。
(纖妙) かぼそくたへなること。○〔長笛賦〕「激風━━、若レ存若レ亡」。
(端妙) たゞしくすぐれたること。○〔歐陽建〕「白加ニ婦人━━絕世ニ」。
(勝妙) すぐれたること。○〔楞嚴經〕「━━殊絕」。
(穿妙) 滑らかにしてうつくしきこと。○〔元稹之〕「━之花、春聚ニ總持之苑ニ」。
(妖妙) なまめかしくしてうつくし。○〔歐陽修〕「━━衒ニ嬰媛ニ」。

【姫】サフ、ソフ。悉合切 合

㊀女の字（あざな）。㊁かたち、（容）。

【娇】胚に同じ。

【妧】姼に同じ。

【妛】嫙に同じ。

【妜】ケツ、ケチ。古穴切 屑

美しき貌にいふ字、うつくし。

【妜】エツ、エチ。一決切 屑

㊀眉と目との間の貌にいふ字、又、まゆもと。
㊁うれひねたむ、（憂妒）。

【妝】サウ、シヤウ。側霜切 陽 〔說文〕从レ女牀省聲、俗作ニ粧、裝ー。

物を添へて貌姿をつくろふ、けしやうをなす、衣服を著かざる、修飾す、うつくしき色を見はす、よそほふ、かざる、又、つくり、けしやう、かざり、よそほひ。○〔開元天寶遺事〕「妃嬪施ニ素粉于兩頰、號ニ淚━ニ」。

(紅妝) べにもてあかきいろやうによそほふこと。○〔粧臺記〕「━━翠眉」。
(靚妝) けしやう。○〔南〕「嘗於ニ閣上━━ニ」。○〔隋〕「━━巳覺」。
(墨妝) 素顏のまゝにてくろみを帯びたること。○〔隋〕「婦人━━黃眉」。
(新妝) 今なしたるけしやう。○〔徐陵〕「朱鳥窗前━━ニ」。
(曉妝) 朝はやくするけしやう。○〔沈佺期〕「斜光映ニ━━ニ」。
(輕妝) 手がろきよそほひ。○〔梁簡文帝〕「粉光闇里ニ━━薄」。

(畫妝) 眉にまゆずみを付け顔にけしやうすること、又、よそほひ。〇〔徐陵〕「城-中巧二——一」。
(艶妝) つや、かなるうつくしきよそほひ。〇〔陳陶〕「春-臺——蓮-枝」。「服奪二春-暉一」。
(明妝) 人目につくよそほひ。〇〔李白〕「——麗-
(整妝) よそほひをなす。〇〔舞賦〕「顧二形-影一自——
—」。「多二——一」。
(研妝) うつくしきよそほひ。〇〔鮑照〕「京洛女-兒
(鮮妝) あざやかなるよそほひ。〇〔秦觀〕「——濯二綠-酒一」。「嬌-羞偏二髻-鬟一」。
(宿妝) きのふなしたるけしやう。〇〔岑參〕「——

【妞】古文の好の字。

【敁】前に同じ。

【妟】アン、エン。於諫切 [諫]　晏に同じ、やすし。

【妠】タフ、ナフ。諸答切 [合]　めとる、(娶)、一に、物を聚む、又、小兒の肥えたる貌にいふ字、こゆ。〇〔韓愈〕「巴-豔收二婠——一」。

【妠】タン、ナン。奴紺切 [勘]　とる、(取)、又、いる、(入)。

【妡】キン、コン。許斤切 [文]　女の字、(あざな)。

【妣】ヒ。補履切 [紙]　失せたる母を呼ぶ稱、なきはゝ、されど古は、生きたると亡せたるとに別ちなく何れにも呼びなせり。〇〔禮〕「生曰二父-母一、死曰二考-—一」。
(考妣) 此の世になき父と母と。〇〔唐〕「兄-弟分レ宮、則各祭二——于正-寢一」。
(祖妣) 此の世になき祖父と祖母と。〇〔詩〕「爲レ酒爲レ醴、烝二畀——一」。

【妤】ヨ。雲居切 [魚]　女の美稱、うつくしきをみな、婕—は、漢の時代の位高き一女官の名。〇〔史〕「褚-先-生曰、婕——秩比二列-侯一」。

【㚬】キン、クン。規倫切 [眞]　女の始めての妝ひ、よそほふ。

【妥】タ。吐火切 [哿]　別に、綏、致に作る。
㊀やすし、又、やすんず、(安)。〇〔詩〕「以—以侑」。
㊁墮に通じ用ふ、おつ。〇〔杜甫〕「花—鸎捎レ蝶」。
(安妥) やすし。〇〔宋〕「湖-廣江-浙亦獲二——一」。
(平妥) やすし。〇〔韓維〕「語-法就二——一」。
(帖妥) やすし。〇〔李賀〕「空-光——水如レ天」。

【妦】ハウ、ホウ。敷容切 [冬]　或は、嫎に作る。凡そ物の好くして輕きにいふ字、かろし。〇〔揚雄〕「凡好而輕者、趙、魏、燕代之間曰レ—」。

【妧】グワン。五換切 [翰]　好き貌にいふ字、よし、かほよし。

【妨】ハウ。敷房切 [陽]　さまたげをなす、障りをなす、そこなふ、(害)、さまだく、(礙)、又、おやま、さまたげ。〇〔國〕「將レ—二於國-家一」。

五畫

【妲】タツ、タチ。當割切 [曷]　タン。得案切 [翰]　—己は、殷の紂王の妃。〇〔國〕「殷-辛伐二有-蘇-氏一、有-蘇以二—-己一女焉」。

【妳】俗の嬭の字。唐の時代に晝睡ぬるにいふ語、(黃—)。

【妴】エン、ヲン。委遠切 [阮]　於袁切 [元]　紆願切 [願]
㊀婉と娩とに通じ用ふ、たをやか、すなほ。
㊁獸の名。〇〔山海經〕「尸-山有レ獸、狀如レ麋而魚-目、名曰レ—」。

【㚥】嫻に同じ。

【妵】トウ、ツ。他口切 [有]　好き貌にいふ字、よし、かほよし。

【妚】胚に同じ。

【妬】妒に同じ。

【妭】ハツ、バチ。蒲撥切 [曷]
㊀美しき婦、つま。
㊁魃に通じ用ふ、ひでり。〇〔文字指歸〕「女——無レ髮、所レ居處天不レ雨」。

【妮】ヂ、ニ。女伊切 [支]　下をんな。〇〔六書故〕「今-人呼レ婢、曰レ—」。

【㚭】アウ、エウ。伊鳥切 [篠]
㊀優、嫈、嬈に同じ、美しき貌にいふ字、うつくし。
㊁順ならず、もとる、(㚭嫪)。

【妯】チク、ヂク。佇六切 [屋]　兄弟の妻、あひよめ、姒婦。〇〔廣雅〕「兄-弟之妻、相呼曰二—-娌一」。

【妯】ロク。盧谷切 [屋]　トク、ヂク。徒沃切 [沃]　テキ、チヤク。亭歷切 [錫]　チウ、ヂユ。陳留切 [尤]　靜かならず、うごく、(動)。〇〔揚雄〕「人不レ靜曰レ—、晉、秦曰レ蹇、齊、宋曰レ—」。

【妯】チウ、チユ。丑鳩切 [尤]　心動く、むなさわぎす。〇〔詩〕「憂-心且—」。

【妰】チヤク、タク。陟略切 [藥]　まづか、(靜)、又、婦人の貌にいふ字、又、をみな。

【妱】セウ。之遙切 [蕭]　女の字、(あざな)。

【妷】姪に同じ。

【妷】イツ、イチ。弋質切 [質]
㊀たはぶる、(婸)。㊁みだる、(淫)。

【㚸】キウ、ク。去鳩切 [尤]　女の字、(あざな)。

【姛】嬰の本字。

【妹】バイ、マイ。莫佩切 [隊]　莫貝切 [泰]　いもびと、いもうと、いもと。
(い)後に生まれたる女の子。〇〔宋〕「俱侍二鄭皇-后一、結爲二姊——一」。
(ろ)女子を親みて呼ぶ稱。〇〔詩〕「俔二天之—一」。
(歸妹) 易の卦の名、☳☱兌下震上。〇〔易〕「——征凶、无レ攸レ利」。

〔外妹〕母を同じうして、父の異なれるいもうと。○〔左〕「嫁二其ーー於施孝叔一」。「ー・ー」二。
〔女妹〕をっとの妹を稱する語。○〔衛〕「夫之女弟爲二
〔娵妹〕兄のよめと己れのいもうとと。○〔史〕「兄弟ーー弄妾、寤皆笑レ之」。
〔妹々〕よめ、又、つまの稱。○〔北〕「婦爲二ー・ー一」。

【妹】バツ、マチ。莫曷切 曷
ー嬉は、夏の桀王の后、妹嬉に通じ作る。

【妻】セイ、サイ。千西切 齊 シ。千咨切 支
夫に配合せる女、にようばう、つま。○〔詩〕「士如レ歸レ妻、迨二冰未一レ泮」。
〔令妻〕よき德行あるつま、又、他人のつまの尊稱。○〔詩〕「ーー壽母」。
〔旁妻〕そばめ。○〔漢〕「多娶二ーー一」。
〔小妻〕前に同じ。○〔魏〕「還二郷里一、求二ーー一」。
〔後妻〕のちぞひ。○〔家語〕「高宗以二ーー一殺二孝己一」。
〔寡妻〕德すくなきつまの義にて己れの妻を卑下してとなふる語。○〔詩〕「刑二于ーー一」。
〔山妻〕ゐなかびたるつまの義にて己が妻を卑下して稱ふる語。○〔杜甫〕「方法報二ーー一」。
〔拙妻〕前に同じ　○〔李白〕「ーー好レ乘レ鸞」。
〔痩妻〕前に同じ。○〔杜甫〕「ーー面復光」。
〔荊妻〕前に同じ。○〔許渾〕「ーー早報蒸梨熟」。
〔初妻〕最初に娶りたるつま。○〔左〕「使三侍人誘二其ーー之娣一」。
〔忌妻〕ねたみ心のふかくして夫につかふることをつゝしまざるつま。○〔梁〕「馮敬通有二ーー一」。
〔嫡妻〕正妻に同じ。○〔爾〕「妾謂二夫之ーー一曰二女君一」。
〔醜妻〕みにくきつま、又、己が妻を稱する語。○〔蘇軾〕「ーー惡妾勝二空房一」。
〔良妻〕善きつま。○〔揚雄〕「家貧思二ーー一」。
〔糟糠妻〕をっとと共に貧苦を忍びたるつま。○〔後漢〕「貧賤之知不レ可レ忘、ーー之ー不レ下レ堂」。

【妻】セイ、サイ。七計切 霽
配せてつまとなす、めあはす。○〔論〕「以二其子一ーレ之」。

〔強妻〕しひてめあはす。○〔晉〕「ーー以二蟲茲王女一」。
〔逼妻〕前に同じ。○〔晉〕「王乃ー以ー爲」。

【妣】ヒ、ビ。毗至切 寘 ヒツ、ビチ。毗必切 質
女の容儀あるにいふ字、かたちよし。

【妽】シン。升人切 眞
女の字（あざな）。

【⿰女氐】テイ、タイ。都黎切 齊
女の字（あざな）。

【⿰女占】セン、處占切 鹽 ソン。切 セフ、尺涉切 葉 ソフ。切
㊀小くして弱し、いさけなし、よわし。㊁女の體の輕くして善く走るにいふ字、かろし、一説に、技藝多きにもいふ、わざおほし。

【妾】セフ、サフ。七接切 葉
〔說文〕从レ立从レ女。
㊀正妻の外のつま、そばめ、めかけ。○〔孟〕「客室之美、妻ーー之奉」。㊁女子、むすめ。○〔左〕「將レ行、謀二于桑下一、蠶ー在二其上一」。㊂女の己れを卑下していふ稱、わらは。○〔後漢〕「心觀二夫子之志一耳、ー自有二隱居之服一」。㊃給使に供する者、つかひびと。○〔國〕「納二女工ー三十人一」。
〔妃妾〕そばめ。○〔漢〕「我廼人之ーー」。
〔下妾〕女子の稱、己れを卑下していふ。○〔左〕「猶有二先人之敝廬在一、ーー不レ得レ與二于郊弔一」。
〔賤妾〕（い）いやしきそばめ。○〔左〕「鄭文公有二ーー一」。（ろ）前に同じ。○〔安熙〕「君心或有レ猜、ーー終「不レ疏」。
〔內妾〕そばめ。○〔左〕「棄二聘后一而立二ーー一」。
〔臣妾〕けらいとそばめと、又、服從者の義に借りいふ語。○〔書〕「馬牛其風、ーー逋逃」。

〔副妾〕そばめ。○〔左〕「爲二倍子ーー一」。
〔愛妾〕氣にいりのそばめ。○〔後漢〕「欲レ殺二其ーー、以レ食中兵將上」。
〔寵妾〕前に同じ。○〔史〕「景公ーー芮姫」。
〔處妾〕童女、又、おぼこむすめ。○〔漢〕「ーー過レ之而至」。
〔僕妾〕しもべとそばめと、服從者の義にいふ語。○〔史〕「ーー餘二粱肉一」。
〔婢妾〕前に同じ。○〔史〕「ーー被二綺縠一、餘二粱肉一」。
〔媵妾〕こしもと。○〔漢〕「詔出二ーー一、皆歸レ家得レ嫁」。
〔鄙妾〕賤しきそばめ、又、婦人の己れを謙遜して稱する語。○〔晉〕「嗟余ーー銜レ恩特深」。
〔陋妾〕みぐるしきそばめ。○〔潛夫論〕「圖二西施毛嬙一可レ悅二于心一、不レ若二醜妻ーー之可レ御二于前一也」。
〔伎妾〕歌舞をなすそばめ。○〔晉〕「後房ーー以「百數」。

【⿱加女】ア。於何切 歌 カ。古俄切 歌
むすめに教ふる女、おつけうばゞ、又、かしづき（女師）。

【⿰女加】上に同じ。

【⿰女禾】クワ、ワ。胡戈切 歌
㊀女の字（あざな）。㊁みやびなるすがた。

【姁】ク。況于切 虞
美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。

【姁】ク、ゴ。權俱切 虞
和好の貌にいふ字、やはらぐ、よし。

【姁】ク、コ。火羽切 麌
佚樂す、たのしむ。○〔呂覽〕「燕雀處レ堂、子母ーー然相樂也」。

【姁】ク、ナ。吁句切 遇

【姂】ハフ、ボフ。房法切 洽
㊀ばゞ、おうな（嫗）。㊁つま（婦）、南河地方にていふ語。

【姃】セイ、シャウ。諸盈切 庚
㊀婦人の貌にいふ字。㊁かほよし（好）。

【姃】セイ、シャウ。之盛切 敬
女の字（あざな）。

【⿰女布】ホ、フ。普故切 遇
㊀前條に同じ。㊁女の容姿正し、おごそか。
美しき女。

【姅】ハン。博漫切 翰
婦人の月經、めぐり、月のさはり。○〔漢律〕「ーー變不レ得二侍祠一、古者、嬪婦以レ鉸御二夫君一、有二月事一者、以レ丹注レ面」。

【⿰女冬】トウ、ツ。都宗切 冬
女の字（あざな）。

【姆】ボ、モ。莫補切 麌
別に母、娒、嫫に作る。
㊀姥に同じ、五十歳になりて子なき婦人の復た外に嫁がず婦たる道をもて人に教ふるもの、又、總べて女子にして人の師さなる者をいふ、かしづき（女師）。○〔唐〕「師姥在レ右、保ーー在レ左」。㊁弟の妻より夫の嫂を呼ぶの稱、あによめ。○〔呂祖謙〕「呂氏母々受二嬸房婢拜一、嬸見二母々房婢拜一、即答、今俗、兄婦呼二弟妻一爲二嬸々一、弟妻呼二兄嫂一爲二姆々一、即母々也」。

【姆】 ボウ、モ。莫候切 宥

前條の㊀の解に同じ。○〔禮〕「妻將レ生レ子、及二月辰一居二側室一、夫使三人日再二問之一、作而自問レ之、妻不三敢見一、使二ー衣服而對一」。

【妃】 姒の字、古は妃に作れり。

【⿱夫女】 フ、ホ。芳無切 虞

うつくし（美）。

【⿱付女】 フ、ホ。方遇切 遇

㊀前條に同じ。㊁よろこぶ（悅）。

【⿱付女】 フウ、フ。房尤切 尤

玗に通じ作る、玉に采色あるにいふ字、つや。

【姈】 レイ、リヤウ。郎丁切 青

㊀女の字（あざな）。㊁女のさかしきにいふ字、又、さかし、「（巧慧）。

【姉】 シ。蔣兕切 紙 ｜姊の本字。

あね、いろね。

（い）親を同じくして先きに生まれたる女子の稱、同胞の女の年上への者。○〔詩〕「遂及二伯ーー一」。

（ろ）婦人を親み、又は尊びて呼ぶ稱。○〔李商隱〕「階前逢二阿ーー一」。

〔大姉〕最も年長けたるあね、あねの敬稱。○〔漢〕「ーーー何藏之深也」。

〔處姉〕いまだよめいりせざるあね。○〔後漢〕「ーー未レ適、先行可乎」。

〔姉々〕乳母の稱。○〔司空圖〕「ーー教レ人」。

〔貴姉〕あねの敬稱。○〔西京雜記〕「今日佳辰、ーー懋二膺洪冊一」。

〔賢姉〕前に同じ。○〔陸雲〕「ーーー涕泣」。

【姊】 上に同じ。

〔小姉〕年の最も少きあね。○〔襄陽記〕「娶二諸葛孔明ーー一」。

〔月姉〕つきのこと。○〔司空圖〕「ーー懇懃留不レ住」。

【始】 シ。首止切 紙

㊀はじめ、はじまり、もと、おこり、われもと、さいしよ、初に同じ。○〔易〕「君子以作レ事謀レー」。

㊁はじめて、あたらしく。○〔左〕「ー用二六佾一」。

㊂新に作す、はじむ、又、新に作る、はじまる。○〔禮〕「立レ愛自レ親ー」。

〔七始〕〔華始〕音樂の名。○〔漢安世〕「ーーーー、肅倡和聲」。

〔旬始〕星の名。○〔漢〕「ーー出二北斗之傍一」。

〔資始〕なしはじむ、又、はじまる。○〔易〕「大哉、乾元、萬物ーー」。

〔大始〕もと、はじめ。○〔易〕「乾知二ーー一」。

〔太始〕前に同じ。○〔列〕「有二太易一有二太初一、有二ーー一」。

〔終始〕（い）をはりとはじめと、又、其の事のつゞく間、又、をはるとはじまると。○〔書〕「ーー惟一時乃日新」。「〔易〕「懼以ーー」。（ろ）をはるとはじまると、又、其の事をしはたす。○

〔正始〕たゞしはじむ、又、たゞしきもと。○〔柳宗元〕「ーーー之美」。

〔經始〕なしはじむ。○〔詩〕「ーー二靈臺一」。

〔更始〕ふるき物事のかはりてあたらしき物事のはじまる。○〔禮〕「數將レ幾レ終、歲且二ーー一」。

〔本始〕もと、はじめ。○〔柳宗元〕「勤二此休銘一、以昭二ーー一」。

〔造始〕つくりはじむ。○〔阮籍〕「ーー之教」。

〔從隗始〕燕の昭王の四方の賢者を招くとき、先其の臣の郭隗を重く禮せしより、事を爲すに近きよりはじむることに借りいふ語。○〔史〕「燕昭王於二破燕之後一、卑レ身厚レ幣以招二賢者一、郭隗曰、王必欲レ致レ士、先レーーー、況賢二於隗一者、豈遠二千里一」。

【姘】 ヒン、ビン。毗賓切 眞

そばめ、めかけ、（妾）。

【姍】 サン、セン。相干切 寒 ｜ 師姦切 刪 所晏切 諫

よし、みめよし（好）、一說に、そしる（誹）。○〔漢〕「秦自任二私智一ー二笑三代一」。

【姍】 ハン。鋪官切 寒

みにくし（醜）。

【姍】 セン。篇前切 先

足もさしごろに歩み行く貌にいふ字。○〔漢〕「立而望レ之、何ーーー其來遲」。

【姍】 サツ、サチ。桑葛切 曷

婦人のありく時にもすその地を曳く貌にいふ字、ひく。○〔司馬相如〕「便ーー嬖屑」。

【姎】 アウ、オウ。於郎切 陽 ｜ 倚朗切 養 於浪切 漾 ｜ 印に轉じ作る。

女の自稱、われ（我）、又、男女共に通ず。○〔後漢〕「名二渠帥一曰二精夫一、相呼爲二ー徒一」。

【⿰女甘】 バン、モン。謨甘切 覃 莫紺切 勘

老女の自稱、ばゞ、女の老いたる者はよく甘言をなすよりいふ。○〔晉〕「ーー姆尼僧、尤爲二親昵一」。

【姐】 シヤ、セ。子野切 馬

㊀あね（姉）、俗言。㊁はゝ（母）、蜀人の語。㊂あなどる（慢）。

【姐】 シヨ、ソ。臻魚切 魚

すがた（態）。

【姐】 シヨ、ソ。將豫切 御

おごる、又、おごり（驕）。○〔嵇康〕「恃レ愛肆レー、不レ訓不レ師」。

【⿰女戉】 エツ、チチ。王伐切 月

かろし（輕）。

【姑】 コ、ク。攻乎切 虞

㊀をっとの母、又、妻のはゝ、しうとめ。○〔淮〕「齊寡婦庶賤之女也、無レ子不レ嫁、事レー謹敬」。

㊁父の姉妹、をば。○〔詩〕「問二我諸ーー一」。

㊂しばらく（且）。○〔書〕「ー惟教レ之」。

〔小姑〕こじうとめ、夫のいもうと。○〔王建詩〕「先遣二ーー嘗一」。

〔黃姑〕星の名、たなばたぼし、或は曰ふ、ひこぼし。○〔荊楚歲時記〕「ーー牽牛星、一曰、河鼓」。

〔作姑〕よこみち。○〔後漢〕「三輔繇人出二翻街ーー一」。

〔三姑〕庚申の日に人の過失を上帝に告ぐるよりいふ神の名、三尸に同じ。○〔酉陽雜俎〕「上尸青姑、中尸白姑、下尸血姑」。

〔祀姑〕幡の名。○〔國〕「吳王與レ晉爭レ長乃戒レ夜、中官師擁レ鐸建二ーー一」。

〔先姑〕をっとの母の既に死にたる者をば妻より稱する語。○〔國〕「公父文伯之母曰、吾聞二之ーー一」。

〔君姑〕存世中のをっとの母を妻より稱する語。○〔爾〕「舅姑在、則曰二君舅ーー一」。

〔王姑〕おばをば。○〔爾〕「王父之姉妹爲二ーー一」。

〔皇姑〕前に同じ。○〔禮〕「不レ祔二于ーー一」。

〔義姑〕義に勇みたるをば。○〔劉向列女傳〕「號曰二ーー一」。

〔麻姑〕手の爪の鳥の如くにありし仙人の名。○〔李白〕「ーー搔レ背指爪輕」。

〔舅姑〕をっとの父と母と。○〔禮〕「婦事二ーー一、如レ事二父母一」。

〔外姑〕妻の母ををっとより稱する語。○〔爾〕「妻之母、爲二ーー一」。

〔雪姑〕（動）鶺鴒の異名。○〔物類相感志〕「又性好食レ雪、故名曰二ーー一」。

〔和姑〕（植）はんげの異名。○〔本草〕「半夏一名ーー」。

(鼠姑)(植)ぼたんの異名。○(本草)「牡丹一名ー-ー」。

(金僕姑)矢の名。○(左)「公以二ー-ー-ー一射二南-宮長萬一」。

【⿰女司】シ。新慈切 支　女の字(あざな)。

【⿰女去】カ、ケ。去伽切 歌　前に同じ。

【姒】シ、ジ。象齒切 紙　古文には、娰に作れり。

❶あによめ、(兄婦)、弟の妻より兄の妻を呼ぶ稱。○[爾]「稚-婦謂二長-婦一爲二ー-婦一」。❷あね、(姉)。○[爾]「女-子同出、先生爲レー、後生爲レ娣」。

(太姒)文王の妃、有莘氏の女。○(詩)「ー-ー嗣二徽-音一」。

(褒姒)周の幽王のきさき。○(詩)「赫-々宗-周ー-ー滅レ之」。

【姓】セイ、シヤウ。息正切 敬

❶一の祖先より分かれ出でつゞき來たりたる系統の稱號、子々孫々に相傳へて用ふ、かばね、うぢ、家名。○[左]「天-子建レ德、因レ生賜レー」。❷一系統に屬する者、家族、やから。○[詩]「振-々公ー」。❸うまれ子。○[左]「庚-宗之婦-人獻以レ雉、問二其ー一、對曰、吾子長矣、能奉レ雉而從レ我矣」。

(子姓)まご、(孫)。○(國)「率二其ー-ー一、從二其時-享一」。

(百姓)(い)天が下の民の總稱、たみ、(ろ)主に農民にいふ。○(漢)「鎭二國-家一撫二ー-ー一」。(ろ)もろ〳〵のつかさ、百官。○(詩)「群-黎ー-ー、徧爲二爾德一」。

(萬姓)(い)前の(ろ)に同じ。○(書)「俾二ー-ー咸曰一「大哉王言」。(ろ)前の(い)に同じ。○(漢)「益選二溫-良上-德之士一、以親二萬-姓一」。

(族姓)同族と異姓と、又、同じきやから。○(書)「王曰、敬レ之官-伯ー-ー」。

(庶姓)血縁なきもの。○(詩、疏)「同-姓是父之黨、異-姓王-舅之親、ー-ー與レ王無レ親者」。

(同姓)祖先を同じうせるもの。○(詩)「不レ如二我ー-ー一」。

(内姓)前に同じ。○(左)「ー-ー選二于親一」。

(大姓)勢力のあるやから。○(漢)「豪猾吏及ー-ー犯レ法、輒論輸レ府」。

(著姓)世間に知れわたりたるいへ。○(後漢)「世以二貨殖一ー-ー」。

(豪姓)前に同じ。○(呉)「益州ー-ー雍-闓」。

【⿰女卯】バウ、メウ。莫飽切 巧　一に、媌に作る。　よし、(好)。

【委】ヰ。鄔毀切 紙　(說文)从レ女从レ禾。

❶ゆだね、又、まかす。(い)代はりて行はしむ、主となりて處置せしむ、つく、(屬)。○[左]「ー二之常-秩一」。(ろ)其のまゝになる、其の成り行きに就く、したがふ、(隨)。○[國]「親ー二重-罪一」。❷おく。(い)つむ、(積)。○[唐]「詔-書雲ー」。(ろ)すつ、(棄)。○[孟]「ー而去レ之」。❸細かく分くるを、つまびらか、つぶさ。○[史]「ー-瑣握-齪」。❹すゑ、(末)。○[禮]「或原也、或ー也」。

(墳委)みちかさなる。○(蘇轍)「圃-書日ー-ー」。

(信委)疑はずにまかす。○(北)「毎-事ー-ー之」。

(任委)まかす。○(南)「及二乎一見ー-ー、長-驅伊-洛一」。

(親委)前に同じ。○(舊唐)「深見二ー-ー一」。

(端委)周の時代の禮服。○(左)「弁-冕ー-ー」。

(紛委)みだれつむ。○(宋)「揚光ー-ー」。

(注委)氣を付けてまかす。○(元)「卿向不レ負二朕ー-ー一」。

【委】ヰ。於僞切 寘

❶官府に貯蓄しあるかこひ米、及び薪、蒭などの總名、熏恤に備ふるものにて積に對し量の少なきにいふ。○[周]「掌二國之ー-積一」。❷貨物をつみおく官府の名、即ち、倉庫などをつかさどる官府。○[孟]「孔子嘗爲二ー-吏一」。

【委】ヰ。邕危切 支　雍容自得の貌にいふ字、ゆったりさしておちつけり。○[詩]「ー-蛇ー-蛇」。

【⿰女孕】俗の孕の字。

【姕】シ。即移切 支　❶小き婦人。❷婦人の媚びざる貌にいふ字、こびず。

【姕】シ。淺氏切 紙　❶まふ、又、まひ、(舞)。❷婦人の貌にいふ字。

【⿰女𡵂】ゲン。語蹇切 阮

【⿰女平】ハウ、ヒヤウ。匹耕切 庚　❶つみそろふ、さゝのふ、(積齊)。「よし」。❷容の好き貌にいふ字、みめよし、かほいそぐ、又、にはかなり、(急)。

【㚻】ケ、キ。居希切 微　男子の男子に淫するを、男色、かたまし。○[正韻箋]「律有二ー-姦罪條一」。

六畫

【姙】妊に同じ、はらむ。○[後漢]「以二貴-人有一レー」。

【姚】エウ。餘昭切 蕭

❶美好なる貌にいふ字、よし、みめよし、うつくし、かほよし。○[荀]「美-麗ー-冶」。❷遙に同じ、はるかなり、とほし。○[漢]「雜-變並會、雅-聲遠ー」。❸謠に通じ用ふ。○[說苑]「美哉德乎、ー-ー者乎」。

【姚】テウ。他弔切 嘯　窕に同じ、かろし。○[春秋]「楚-師輕-ー」。

【姚】エウ。弋笑切 嘯　勁く疾き貌にいふ字、はやし、さし。○[漢]「的容-與以猗-靡兮、縹飄-ー-虖愈莊」。

【姛】トウ、ヅ。吐孔切 董　一本、敵に作る。　直なる項の貌にいふ字、すぐなり。

【姛】トウ、ヅ。徒弄切 送　項の端しきにいふ字、たゞし。

【姜】キヤウ、カウ。居良切 陽　人の姓、又、水の名。○[說文]「神-農居二ー-水一以爲レ姓」。

【姝】シユ、ス。春朱切 虞

❶顏好し、うるはし、みめよし、又、其の者、美人。○[詩]「靜-女其ー」。❷やはらか、にぶし、よわし。○[莊]「暖-々ー-ー」。❸粉を塗り飾る、又、其のかざり。○[揚雄]「粉二其題-頩一、雨二其渥一、須二視無レー」。

〔名姝〕すぐれたる美人。○〔舊唐〕「――樂賞‐貨不レ可二勝計一」。「書者二」。
〔麗姝〕うるはしき女。○〔唐〕「宮人更求二――一知レ女――帝者寵レ之」。
〔國姝〕一國の中にてすぐれたる美人。○〔唐〕、一‐
〔侍姝〕側にはべりて居る婦人。○〔唐〕「弘使二者以二――一至、秀‐曼都‐雅、一‐宜二黨祝一」。
〔姝莊〕おごそかにして且つうるはし。○〔神女賦〕「貌豐盈以――矣」。
〔艷姝〕なまめかしくうるはし、又、其のもの。○〔李瀚賡〕「出二瓊‐樓之――一」。
〔仙姝〕仙宮の美人。○〔蘇軾〕「獨攀二書‐室一窺二巖‐竇一、還訪二――一款二石‐闌一」。
〔傾城姝〕主の心をとらかし城又は、國を危ふからしむる程の美人。○〔蘇軾〕「風‐骨自是――」。

【姞】キツ、キチ。極乙切 質
人の姓、又、あざな、（字）。

【姟】ガイ、ケイ。柯開切 灰
數の名、兆を百倍したるもの。○〔康〕「十兆曰レ經、十‐經曰レ―」。

【姠】シヤウ、式亮キヤウ、許亮切 漾
サウ。切　カウ。切
女の字、（あざな）。

【姽】グワ。五果切 哿 ―俗に、㛂に作るは非なり。
㊀美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。○〔韓愈〕「日‐君月‐妃煥‐赫嫘―」。
㊁よわし、たをやか、（弱）。○〔揚雄〕「曹‐々之離不レ宜二嫈且―一」。

【娜】ダ、ナ。努果切 哿
好き貌にいふ字、かほよし、みめよし、よし。

【姡】クワツ、クワチ　戸栝切 曷
いつはろ、いつはり、（詐）、又、はづ、はぢ、（靦）。○〔揚雄〕「獪、或曰レ―、今建‐平‐郡人呼レ狡爲レ―」。

【姡】クワツ、クワチ。古活切 曷
婚に同じ、面醜し、つらあし、みにくし。

【娟】娟に同じ。

【姣】カウ、ケウ。古巧切 巧 ―佼、又は、妖に通じ用ふ。
㊀うつくし、（美）、又、なまめかし、（媚）、又、其の者、美人。○〔史〕「前有二樓‐閣軒‐轅一、後有二長―美‐人一」。
㊁才智あり、さとし。○〔後漢〕「卿所レ謂鋏‐中錚‐々傭‐中――者也」。
〔娃姣〕美しきもの。○〔賈誼〕「――動レ心、蠱‐惑喪レ心」。
〔夭姣〕うつくし、又、其のもの。○〔張羽〕「靈――「芳好‐服」。
〔娥姣〕うつくし、又、其のもの。○〔列〕「處‐子之――者、必晻而招レ之」。
〔至姣〕極めて美し、又、其のもの。○〔愼子〕「毛‐嫱西‐施、天‐下之――者也」。
〔天姣〕うまれつきうつくし。○〔南唐〕「――環二青‐鸞一」。

【姣】カウ、ケウ。何交切 肴
みだる、みだり、たはる、又、みだりごとす、（淫）。○〔左〕「穆‐姜曰、棄レ位而――不レ可レ謂レ貞」。

【姣】カウ、ケウ。後教切 效
前條に同じ、又、人の姓。

【姤】コウ、古候切 宥 很口切 有
ク。
㊀易の卦の名、☴☰巽下乾上。○〔易〕「―女壯、勿レ用レ取レ女」。
㊁あふ、（遇）。○〔易〕「上‐九―二其角一、吝无レ咎」。
㊂顏好し、うつくし、みめよし。○〔管〕「其人彝――」。

【姥】ボ、莫補切 麌 ホウ、莫候切 宥
モ。　モ。
姆に同じ、年老いたる女子、ばゞ、うば、又、母に同じ。○〔晉〕「有二老―一、持二六‐角‐扇一、羲‐之各書二五‐字一、人爭買レ之」。
〔姆姥〕うば、又、ばゞ。○〔晉〕「――尼‐僧、尤爲二親‐暱一」。
〔山姥〕山家に住めるばゞ。○〔章孝標〕「――燒レ錢古‐柏寒」。

【姦】カン。居顏切 删
㊀道に背きたるを、法を犯すを、情慾を縱にするを、欺くを、盜むを、公ならざるを、正しからざるを、總べて、善き行のうらなるを、わたくし、（私）、いつはり、（詐）、みだら、みだりがわし、（淫）、わろし、あし、（惡）、かたまし、よこしま、（邪）。○〔書〕「烝‐々又不レ格レ―」。
㊁あしき事をなす、みだりがはしき行爲あり、みだる、いつはる、かたる、をかす。○〔揚雄〕「不レ―レ姦、不レ詐レ詐」。
㊂あしき事を行ふ者、罪人、惡漢、媱婦佞人。○〔漢〕「翼レ―以獲二封‐侯一」。
〔防姦〕よこしまを爲さゞらしむ。○〔禮〕「刑以―二其―一」。「刑」。
〔禦姦〕前に同じ。○〔家語〕「禦レ軌以レ德―レ―以レ刑」。
〔大姦〕はなはだよこしまなると、又、其の者。○〔漢〕「――之於二重‐誅一、固不レ避也」。
〔豪姦〕前に同じ。○〔蘇軾〕「祗有二金‐帛一資二――一」。
〔長姦〕前に同じ、又、よこしまを增す。○〔管〕「私意者所三以生レ亂―レ―、害二公‐正一者也」。
〔陰姦〕人志れずよこしまなると。○〔韓愈〕「本以儲二――一」。
〔藏姦〕よこしまなる者をかくまふ、又、其の心を蓄ふると。○〔左〕「盜‐賊――爲二凶德一」。

【姧】前條に同じ。

【婟】コ、後五 麌 胡故 ウ。切 烏故 遇
グ。切　チ、
むさぼる、（貪）。

【娶】ケツ、ケチ。吉屑切 屑
潔に通じ用ふ、きよし。

【姨】イ。延知切 支
㊀妻の姉妹にして妻と同腹の者。○〔左〕「息‐嬀過レ蔡、々‐公曰吾―也、止而享レ之」。
㊁母の姉妹、をば。○〔唐〕「幼失レ所レ恃、爲二竇―鞠‐養一」。
〔堂姨〕母の同堂の姉妹。○〔朝野僉載〕狄仁傑爲レ相、候二問盧‐氏――一、仁傑曰、表弟有二何願一、盧曰、老―止二一子一、不レ欲レ令レ事二女‐主一」。
〔阿姨〕をば。○〔王獻之〕「不レ審――所レ患得レ差否」。
〔大姨〕あね。〔小姨〕いもうと。○〔事文類聚〕「舊‐女婿爲二新‐女婿一、大‐姨夫爲二小‐姨夫一」。
〔封家姨〕（十八姨）風の神の異名。○〔傳異記〕「崔‐元‐徽月‐夜於二苑‐中一見二諸‐女伴一、皆殊‐色、頃二元‐徽一每二歲‐旦一作二一‐幡一、上圖二日‐月五‐星一、以求二―――一相庇一、崔如二其言一、後風疾花飛、而苑‐中花不レ動」。

【娭】イ、エ。於希切 微
女の字、（あざな）。

【㛅】ジヨ、ニヨ。而煮切 語
魚肉敗る、くさる、やぶる、あざる。

【姩】デン、チン。乃見切 霰
美しき女、うつくし。

【姩】デン、チン。寧顚切 先
女の字、（あざな）。

【姪】テツ、デチ。杜列切 屑
一に、妷に作る、俗に、侄に作るは非なり。

㊀兄弟の生みたるむすめ、めひ。○〔春秋〕「—其從レ姑」。
㊁兄弟の生みたる子、をひ。○〔聞見錄〕「宋眞-宗過レ洛、幸二呂蒙-正第一、問諸-子孰可レ用、對曰、臣諸-子皆豚-犬、有二—夷-簡一宰-相才也」。
㊂妻の兄弟の子にもいふ。○〔唐〕「仁-傑諫二武-后一曰、姑-—與二母-子一孰親」。

【姪】チツ、ヂ、。直一切 〔質〕
㊀前條の㊀と㊁と㊂とに同じ。
㊁蜑に通じ用ふ、さしより。○〔漢郭究碑〕「耆-—士-女」。

【娩】媟に同じ。

【㛐】娼に同じ。

【姫】シン。止忍切 〔軫〕
つゝしむ、又、つゝしみ、（愼）。

【姫】キ。居之切 〔支〕
㊀人の姓。○〔說文〕「黃-帝居二—水一、以レ—爲レ氏、周-人嗣二其姓一」。
㊁ひめ。
（い）王の后の別名。○〔詩〕「曷不二肅-雝一、王-—之車」。
（ろ）女子の美稱。○〔詩〕「彼美—-—」。
（は）妾の稱。○〔史〕「孟-嘗-君使下人抵二昭-王幸-—一求中解上」。
〔妖姫〕美しくなまめきたるひめ。○〔陳后主〕「—-—臉似二花含一レ露」。
〔寵姫〕愛妾のこと。○〔史〕「以二王之—-—二人一、各爲二隊-長一」。
〔幸姫〕前に同じ。○〔史〕「孟-嘗-君使二人抵二昭-王「—-—」」。
〔貫姫〕女子の官名。○〔明〕「明-帝秦-始三-年置二—-—一」。
〔美姫〕うつくしきひめ。○〔史〕「貪二於財-貨一好二美-—一」。
〔歌姫〕うたひめ。○〔唐〕「孝-恭重二遊-宴一、—-—舞-女百-有-餘-人」。
〔姣姫〕うつくしきひめ。○〔高唐賦〕「其少-進也晰兮若二姣-—一、揚レ袂鄣レ日而望レ所レ思」。

【嫈】ケン。許欠切 〔豔〕
好き貌にいふ字、みめよし、うつくし。

【姮】コウ、ゴウ。胡登切 〔蒸〕
女の字、（あざな）。

【姯】クワウ。姑黃切 〔陽〕
㊀女の字、（あざな）。
㊁顏色の姸麗なるにいふ字、うつくし、あでやか。

【姰】シュン。須倫切 〔眞〕
くるふ、ものくるはし、（狂）。

【姰】ケン、ゲン。熒絹切 〔霰〕
㊀前條の解に同じ。
㊁よそほひを作す、かたちづくる。

【姰】キン、クン。規倫切 〔眞〕
優り劣りなくひとしく適ふ、男と女と相應す、かなふ、ならぶ、ひとし。

【姱】クワ、ケ。枯瓜切 〔麻〕
夸に通じ用ふ、美行あり、容色すぐれたり、よし、うるはし。○〔屈平〕「紛獨有二此—-節一」。
〔㛓姱〕かはよき貌にいふ語。○〔大招〕「朱-脣皓-齒「—以—只」」。

【姱】ク、ナ。匈于切 〔虞〕
㊀前條に同じ。㊁おごる、（奢）。

【姱】コ、ウ。後五切 〔麌〕
㊀前條の㊀に同じ。○〔楚辭〕「思二靈-寶一兮賢—一」「姱」。
㊁性質端良ならず、あし、かたまし、（姦）。

【㛂】アン、エン。於諫切 〔諫〕
女の字、（あざな）。

【姳】ベイ、ミヤウ。莫迴切 〔迴〕
よし、（好）。

【㚚】レツ、レチ。力蘖切 〔屑〕
うつくし、（美）。

【姰】ジ、ニ。仍吏切 〔寘〕
女の號。

【㛃】ハイ、蒲蓋 バイ。切 〔泰〕 ハイ、蒲昧 ベ。切 〔隊〕
女の名。

【姶】アフ、オフ。遏合切 〔合〕 古文は、娭に作る。
㊀うつくし、かほよし、（美好）。
㊁女の姓、又、其の名。

【姶】アフ、エフ。乙洽切 〔洽〕
女のたくみ、（巧）。

【姷】イウ、ウ。于救切 〔宥〕
たぐふ、ならぶ、あはす、（耦）。

【娙】ケイ、ギヤウ。戸經切 〔靑〕
女の身の長け高き貌にいふ字、たかし。

【姸】ゲン。倪堅切 〔先〕
㊀うるはし、（麗）、なまめかし、（媚）、うつくし、（美好）。○〔韓愈〕「爭レ—而取レ憐」。
㊁事を精しくしてあやまりなきにいたす、物に附著したる汙染を去る、鏡からしむ、とぐ、みがく、（硏）。○〔吳越春秋〕「—二營-種之術一」。
〔花姸〕花の花の咲きたるが如くにうるはし。○〔古樂府〕「足-趺如二—-—一」。
〔媗姸〕そら晴れて日の色うら、かなるにいふ語。○〔鮑照〕「是節是—-—」。
〔豐姸〕ふっくりとこえてうつくし。○〔宣和畫譜〕「婉-約—-—」。
〔精姸〕物事のときみがかれてあるにいふ語。○〔蕪城賦〕「オ-カ雄-富、士-馬—-—」。
〔華姸〕うつくし、はなやかなり、又、其の者、美人。○〔魏〕「不レ著二—-—」。
〔詳姸〕うるはし。○〔陶潛〕「擧-止—-—」。
〔妖姸〕つや、かにしてうつくし。○〔顧野王〕「齊-倡趙-女盡—-—」。
〔纖姸〕ほそくしてうつくし。○〔魏〕「潔-—-—潔-白、如二美-婦-人一」。
〔嬿姸〕みにくきとうつくしきと。○〔法書要錄〕「「指二示—-—一」」。
〔便姸〕媚ぶること。○〔盧思道〕「—-—不レ離レ識一」。

【姹】咤に同じ、○〔司馬相如〕「過—二烏-有先-生一」。

【姺】シン。所臻切 〔眞〕 セイ、小禮 サイ。切 〔薺〕
ソン。鎖本切 〔阮〕 セン。蘇典切 〔銑〕
國の名。

【姺】セン。蕭前切 〔先〕
跚に同じ、行く貌にいふ字、ゆく。○〔司馬相如〕「媥-—徶-㣯」。

【姻】イン。伊眞切 〔眞〕
㊀夫婦となりて人倫上のちなみを生ずるを、よめ取り、むことり、又、其のちなみを結びたる者、緣者、又、壻の家族、よめの家族、緣家。○

[後漢]「將軍令與二袁術一結レ一、必受二不義之名一」。
㊁因緣、ちなみ。○[蘇軾]「結レ夢南柯一一」。
㊂夫婦のちなみを結ぶ、ちなむ、とつぐ。○[謝莊]「王姬下一一」。

[昏姻] 夫婦のちなみを結ぶこと。○[左]「重之以二一一一」。
[舊姻] 己れより以前、家の人の夫婦のちなみを結びたること、其の家、又、己がむかし嘗て夫婦のちなみを結びたること、又、其の家。○[詩]「不レ思二一一一」。
[外姻] むこの家族、又、よめの家族。○[左]「士踰レ月而葬、一一至」。
[族姻] 前に同じ、又、一家親類。○[左]「夫獨無二一一一乎」。
[國姻] 王室と夫婦のちなみを結びたる家族。○[南]「門爵一一一無二貶・絕一」。
[帝姻] 前に同じ。○[宋]「端・禮一一不レ可レ任二執政一」。
[天姻] 前に同じ。○[江數]「不レ隔二一一一」。
[遠姻] 夫婦のちなみより親戚となること、又、其の家族。○[世說]「一一二晉・戚一」。
[戚姻] 前に同じ。○[馮子振]「王家一一一」。
[締姻] 前に同じ。○[宋元]「黃香早一レ一」。

【⿰女缶】フウ、フ。方九切 有　ハイ、ヘ。鋪來切 灰　ハウ、ヘウ。班交切 肴
㊀色めく貌にいふ字、うつくし、よし。㊁をみなののり（女儀）。

【姼】シ、ジ。是支切 支　承紙切 紙
㊀おや（父母）。○[揚雄]「南・楚謂二父・考一曰二父一一、母・妣曰二母一一一」。
㊁うつくし、みめよし、又、其の者、美女。
㊂かろぐしくしてうすき貌にいふ字、かろし、輕薄。

【姼】タ。典可切 哿
前條の㊁に同じ。

【姼】テイ、ダイ。田黎切 齊
媞に同じ、やすし（安）、又、うつくし、かほよし（美好）。○[漢]「一一公主、乃女二烏孫一」。

【姼】キ、ギ。巨綺切 紙
㊀妓に同じ。㊁小さき婦人。

【姽】キ、過委切　ギ。五季切 紙
姿のしなよくしてあゆむさまのしづ〳〵としたるにいふ字、しなやか、たをやか、又、よし（好）。○[宋玉]「既一一二嫿於幽・靜一」。

【姾】セン、ゼン。遂緣切 先
女の字（あざな）。

【姿】シ。卽夷切 支
すがた、しな。
(い)性質、たち。○[史]「天一一善爲レ容、不レ能レ通二禮經一」。
(ろ)形態、かたち。○[後漢]「體・貌魁梧有二異一一」。
(は)趣味、おもむき。○[陸龜蒙]「自然鍾二野一一」。

[瓌姿] めづらしきすがた。○[曹植]「一一一豔逸」。
[聖姿] 帝王の容を稱していふ語。○[劉琨]「一一合二于兩儀一」。
[玉姿] うつくしきすがた。○[魚玄機]「曾觀二夭・桃一想二一一一」。
[艷姿] つや、かなるすがた。○[晁]「一一一者、不レ待二文・綺一以致レ愛」。
[鳳姿] 高尚なるすがた。○[晉]「人以爲二龍章一一、天・質自・然一」。
[神姿] すぐれたるすがた。○[世說]「大尉一一一高徹、如二瓊林瓊樹一」。
[淑姿] よきすがた。○[文心雕龍]「盼倩生二于一一」。
[靈姿] 前に同じ。○[沈約]「一一一外溢」。
[瓊姿] 前に同じ。○[高啓]「一一只合レ在二瑤臺一」。
[雄姿] すぐれてつよきかたち。○[傅休奕]「一一邁レ世、逸・氣橫・生」。
[仙姿] 俗氣なきすがた。○[朱熹]「一一一蕭・灑出二風塵一」。

【姿】シ。資四切 寘
すがたを飾る、かたちづくろ、又、こぶ（媚）。○[韓愈]「羨之俗、書姚二一一媚一」。

【娀】シュウ、シュ。息弓切 東
人の姓。

【威】ヰ。於非切 微
㊀尊嚴なり、畏憚すべし、たけし、おごそか。○[易]「一如之吉」。
㊁禮貌、容儀。○[禮]「收其一一」。
㊂勢力、又、權柄。○[周]「馭二其一一」。
㊃畏る、憚る。○[詩]「死喪之一」。
㊄畏憚の念を起こさしむ、服從せしむ、おどす。○[易]「弧矢之利以一二天下一」。

[憲威] 法則をとり行ふ勢力。○[孫戎]「臨レ式假二一一」。
[重威] おも〳〵しくして憚るべきこと。○[論]「君子不レ一則不レ一」。
[聲威] 評判をもておどす。○[史]「三戰而三勝、一一一天下一」。
[靈威] くしびにしておそるべき勢力。○[班固]「一一一神祜」。
[國威] くにのおそるべき勢力。○[後漢]「宣二明一一」。
[天威] (い)天帝の勢力。○[詩]「畏二一之一、于レ時保レ之」。(ろ)天子の勢力。○[南]「今日可レ謂レ仰二藉一一、帝意乃釋」。(は)天然に備はりたる威光。○[漢晉春秋]「獲曰、公一一也、南人不二復反一矣」。
[德威] 恩德とたけき力とのこと。○[韓愈]「況今天子鋪二一一一」。
[淫威] おほいなる勢力。○[詩]「既有二一一一、降レ福孔夷」。
[稜威] みいつ、卽ち、天子、又は、神靈などのたふとくおそるべき勢力。○[南]「一一直指、勢踰二風電一」。
[嚴威] きびしき威光。○[禮]「莊敬則一一一」。
[寒威] さむさのはげしきこと。○[宋濂]「勢欲レ釀、雪增二一一」。
[炎威] 暑氣のはげしきこと。○[劉禹錫]「蔽日無二一一」。

【⿰女朶】タ、ダ。都果切 哿
㊀はかる、はかり（量）。
㊁女の容貌の花の朶の垂るゝが如くに美好なるにいふ字、うつくし、うるはし。

【娃】アイ、エ。於佳切 佳　ア、ヱ。烏瓜切 麻
㊀容色美なり、うつくし、みめよし、かほよし、又、其のをみな、美女。○[揚雄]「資二娵一一之珍・髢一」。
㊁深く凹みて圓き目の貌にいふ字、ゐごめ、くぼみめ。

[春娃] 花咲く頃に美人にいふ語。○[白居易]「一一無二氣力一」。
[宮娃] ごてん女中の美人。○[劉得仁]「白・髮一一不レ解レ悲」。
[村娃] ゐなかのみめよきむすめ。○[陸龜蒙]「一一練束レ衣」。

【⿰女自】シ、ジ。疾二切 寘
ねたむ、それむ（妒）。本、嫉に作る。

七畫

【⿰女夾】ケフ。苦協切　セフ。卽協切 葉
㊀志を得たり、こゝろよし。㊁いこふ、やすむ（息）。

【⿰女呂】リヨ、ロ。兩擧切 語
醜き貌にいふ字、みにくし。

【娉】ヘイ、ヒヤウ。匹正切 敬
聘に同じ、とふ（問）、めす（召）、めとる（娶）。○[左思]「一二江・斐一而與レ神遊」。

【娉】ハウ、ヒヤウ。彼耕切 庚
美しき貌にいふ字、うつくし。○[杜甫]「不レ嫁惜二一婷一」。

【娊】ケン、ゲン。胡典切 銑
女の字（あざな）。

【娋】サウ、セウ。所交切 肴
最も年長けたる姉、おほあね、孟姉。

【娋】サウ、セウ。所教切 效
シヤク、サク。七約切 藥
人に侵侮せらる、なかさる、あなどらる。

【娍】キウ、ク。渠尤切 尤
㊀女の字、(あざな)。㊁たぐひ、(匹)

【婡】テフ、トフ。陟涉切 葉
女の善からざる貌にいふ字、あし。

【娌】リ。良己切 紙
夫の兄弟の妻の互に呼びあふにいふ字、あひよめ、(妯)。

【娍】セイ、ジヤウ。時征切 庚
女の名。

【娍】セイ、ジヤウ。時正切 敬
身の長けたかく好き貌にいふ字、又、うつくし、(美)。

【娎】ケツ、ケチ。許列切 屑
一に、㛎に作る、よろこぶ、(喜)、こゝちよし、(悏)。

【娙】嫁に同じ、あによめ。○〔酈炎〕
「加二供養一謝レ｜」。

【娑】サ。素何切 歌
㊀舞ふ。○〔詩〕「子仲之子、婆二娑其下一」。
㊁彼處此處にふみめぐる貌にいふ字、ふむ。○〔杜甫〕「方知不才者、生長漫婆｜」。
㊂衣の揚がる貌にいふ字、ひらめく。○〔張衡〕「修二初服之婆｜一」。
㊃安坐する貌にいふ字、ゐる。○〔黃庭經〕「金鈴朱帶坐婆｜」。
㊄琴の聲の曲折多き貌にいふ字。○〔嵇康〕「紆餘婆｜」。

【娑】サ。蘇可切 哿
走る貌にいふ字、はやし。○〔三輔黃圖〕「駊｜馬迅疾貌、借爲二宮名一」。

【娒】姆に同じ。
本、娒に作る。

【娒】侮に同じ、あなどる。○〔漢〕「上所レ不レ能レ致者四人、皆以二上嫚一｜士一、故逃二匿山中一」。

【娓】ビ、ミ。旻悲切 支　明祕切 寘
武斐切 キ。誹尾切 尾
㊀したがふ、(順)。㊁うつくし、よし、(美)

【娎】サン。蒼按切 翰　｜粲に通じ作る。
うつくし、(美)、又、三たりのうつくしき女、三美人。○〔詩〕「今夕何夕、見二此｜者一」。

【娗】トウ、ヅ。丁候切 宥
言語のおだやかならざる貌にいふ字、いつはる。

【娖】サク、ソク。測角切 覺　一躖に、に作る。
つゝしむ、(謹)。○〔史〕「｜｜廉謹、備レ員而已」。

【娖】ソク、スク。叉足切 沃
さゝのふ、(嫧)。○〔梅堯臣〕「廚架整｜｜齊二籤牙一」。

【娗】テイ、ヂヤウ。徒鼎切 迥
㊀女の外出したる病容にいふ字、一說に、女の陰部の病。
㊁身の長けたかくして好き貌にいふ字、みめよし、うつくし。
㊂あなどる、(慢)。

【娗】テイ、ヂヤウ。唐丁切 靑
かたちづくる、(容)。

【娗】テン、デン。他典切 銑
㊀開らけ通はざる貌にいふ字、ふさがる。○〔列〕「眠｜諈諉」。
㊁欺き慢る語、あなどる。
㊂偄くして劣る、おさる。

【娘】ヂヤウ、ナウ。女良切 陽　孃に通じ用ふ。
㊀年わかきをみな、むすめ、少女。○〔唐〕「高祖女柴紹妻、高祖起レ兵、主與レ紹得二數百人一以應レ帝、定二京師一、號二｜子軍一」。
㊁むすめの名に加へ用ふる字。○〔唐〕「喬之知婢窈｜美且善歌」。
㊂母の稱、(通俗の語)。○〔白居易〕「兒別二爺｜一夫別レ妻」。
〔伯娘〕あねむすめ。〔仲娘〕つぎのむすめ。○〔舊唐〕「奉天縣竇氏二女、｜｜｜雖レ長二于村野一、而幼有二志操一」。
〔師娘〕女の巫のこと、又、男の巫をいふこともあり。○〔輟耕錄〕「女巫曰二｜｜一」。
〔夫娘〕（い）婦人の品行よからぬ者を稱する語。○〔輟耕錄〕「南人謂二婦人之無レ行者一、亦曰二｜•｜一」。（ろ）妻の稱の俗語、○〔輟耕錄〕「苗人謂レ妻曰二｜•｜一」。
〔花娘〕あそびめ、遊女。○〔輟耕錄〕「娼婦曰二｜｜一」。
〔嬌娘〕みめよきむすめ。○〔李賀〕「東家｜｜求二對値一」。
〔雪衣娘〕(動)鸚鵡の異名。○〔明皇雜錄〕「開元中、嶺南獻二白鸚鵡一、養二之宮中一、頗聰慧、洞二曉人言一、上及貴妃皆呼二｜•｜｜一」。
〔馬頭娘〕蠶の神。○〔原化傳拾遺〕「宮觀塑二女子之像一披二馬皮一、謂二之｜•｜｜一、以祈二蠶桑一焉」。
〔舞媚娘〕唐の樂府の曲名。○〔海錄碎事〕「天下歌二｜•｜｜一」。
〔絡絲娘〕(動)こはろぎの別名。○〔爾雅翼〕「莎雞以二六月一、振レ羽作レ聲、連夜札々不レ止、其聲如二紡レ絲之聲一、故一名二梭雞一、一名二絡緯一、今俗人謂二之｜•｜｜一」。
〔纖腰娘〕ほそきこしつきのむすめ、すがたよきむすめ。○〔杜牧〕「眼底不レ顧二｜•｜｜一」。

【娙】ガウ、ギヤウ。五莖切　カウ、キヤウ。丘耕切 庚
㊀身のたけ長くみめよき貌にいふ字、かほよし。
㊁女の身のたけ長し、たけたかし。

【娙】ケイ、キヤウ。戶經切 靑
｜娥は漢の時代の女官の稱。

【娚】タン、ナン。尼咸切 咸　今時は、皆、喃に作る。
男の語の聲、はなしごゑ。

【娛】グ、ゴ。元俱切 虞　ゴ、グ。
五故切 遇　虞、又は、惆に通じ用ふ。
たのしむ、たのしみ、(樂)。○〔張衡〕「窮レ歡極レ｜」。
〔細娛〕いとこまやかなるたのしみ、(大事に對していふ)。○〔漢〕「樂二｜•｜一、而不レ圖二大患一」。
〔游娛〕あそびたのしむ。○〔後漢〕「省二去｜•｜不急之務一」。
〔康娛〕たのしむ。○〔離騷〕「日｜•｜而自忘兮」。

〔歡娛〕よろこびたのしむ、又、たのしみ。○〔蘇武〕「――在二今夕一」。「――」。
〔晏娛〕こゝろやすくたのしむ。○〔高適〕「焚レ香即――」。
〔嬉娛〕たのしむ。○〔晉〕「――忘レ反」。
〔娛々〕前に同じ。○〔柳宗元〕「――笑-語」。
〔宴娛〕さかもりの筵を張りてたのしむ。○〔唐〕「夜――晝洪レ事」。
〔媮娛〕たのしむ。○〔東方朔〕「聊――以忘レ憂」。
〔酣娛〕我を忘れてたのしむ。○〔古樂府〕「式-宴盡――」。「城幽」。
〔戲娛〕たはむれてたのしむ。○〔王安石〕「――西-」

【娸】キ、ギ。渠記切　㊤寘
いかる、（怒）。

【娜】ダ、ナ。乃可切　㊤哿
しなやか、たをやか。
（い）優美なるを、柔和なる容姿あるを、ほそやかにしてやさしきを、又、のびやかにしてしづかなる貌にもいふ、又、うつくし、みめよし、又、うつくしく見ゆ、みめよく惑ぜしむる、なまめく、（おもに女の風采にいふ）。○〔李白〕「花-腰呈二嬝-娜一」。「萬-柳枝―――」。
（ろ）柔かにして長きを。○〔梅堯臣〕「――」。
〔婀娜〕しなやか、たをやか、うつくし、みめよし、又、なまめく。○〔洛神賦〕「華-容――、令二我忘一レ餐」。
〔嫋娜〕前に同じ。○〔杜甫〕「漣-笮動――」。
〔夭娜〕前に同じ。○〔袁桷〕「――瑤-池神」。

【娓】ダ、ナ。囊何切　㊤歌
女の字、（あざな）。

【娑】サ。蘇禾切　㊤歌
前條に同じ。

【姞】カウ、コウ。居號切　㊤號
女の名。

【婝】ヒ。補美切　㊤紙
姓に用ふる字。

【娪】フ、ボ。芳無切　㊤虞　ホウ、フ。普構切　㊤尤
おろか、（不肖）。

【娑】サ、ザ。徂禾切　㊤歌
㊀女の字、（あざな）。○〔穆天子傳〕「盛-姬之喪、叔――爲レ主」。
㊁年すくなし、わかし、（少）。
㊂うつくし、（美）。

【㛗】サ、セ。醋加切　㊤麻
さし、はやし、（疾）。

【㛗】サ。祖臥切　㊤箇
かろし、（輕）。

【娞】ダイ、子。奴罪切　㊤賄　—婑に同じ。
うつくし、みめよし、かほよし、（姸）。

【娞】ス井、サイ。宣佳切　㊤佳　—綏に通じ用ふ。
やすし、（安）。

【㛙】ホツ、ボチ。普沒切　㊤月
㊀乳母の字、（あざな）。「――」。
㊁女の肥えたる貌にいふ字、こゆ、（㛙）。

【婞】シン、ジン。斯辛切　㊤眞
女の字、（あざな）。

【婅】トウ、ヅウ。吐乳切　㊤董
女の字、（あざな）。

【婅】ヨウ。尹竦切　㊤腫

【娟】㊀女の名。
㊁齊ひたる貌にいふ字、ひとし。

【娟】エン。於緣切　㊤先　—嬛、又は嬽に通じ用ふ。
㊀美くして好し、うつくし、みめよし、又、うるはしき貌にいふ字。○〔孟郊〕「菱-荇成嬋-娟」。
㊁ほそやかにしてやさしきを、しなやか、たをやか、纖弱。○〔漢武帝〕「美連-娟以修-嫮」。
㊂微しく曲がれる貌にいふ字、まがる。○〔宋玉〕「眉聯-娟以蛾-揚」。
㊃輕く動く貌にいふ字、かろし、又、舞ふ貌にいふ字、まふ。○〔謝靈運〕「初便二娟于廊-廡、末縈二盈于帷-席一」。
㊄幽かにして遠き貌にいふ字、かすかなり、とほし。○〔杜甫〕「風含二翠-篠―娟淨」。
㊅女の名。
〔嬋娟〕姿態の好き貌にいふ字、みめよし。○〔宋之問〕「修-竹――同-一色」。
〔幽娟〕しづかにしてうつくし。○〔杜顗〕「見二藤-篠之――一」。

【娟】ケン。規淵切　㊤先
㊀前條の㊀に同じ。
㊁こぶ、へつらふ、（媚）。

【娟】エン。榮元切　㊤元
女の字、（あざな）。

【娠】シン。失人切　㊤眞　之刃切　㊤震　—身に通じ作る。
㊀胎内に兒をやどす、身おもになる、はらむ、みごもる、みもち。○〔左〕「后緡方―」。
㊁賤しきしもべ、つかはれ者、うまかひ、はしためなど。○〔揚雄〕「燕、齊之間、養レ馬者、及官-婢女-厮、通謂二之――一」。

【媀】前條に同じ。

【嫈】イウ、ユ。夷周切　㊤尤
女の字、（あざな）。

【媤】シ。職夷切　㊤寘　—本、志に作る。
女の名。

【媨】イウ、ウ。余救切　㊤宥　云九切　㊤有
みにくし、（醜）。

【娢】カン、コン。胡南切　㊤覃
女の字、（あざな）。

【娣】テイ、ダイ。特計切　㊤霽
㊀いもうと、（女弟）。○〔陸機〕「奄復喪二同-生――一」。
㊁古昔、支那にて嫁する女の從へ行きし其の血緣の女子の稱、卽ち、いもうと、めひなど。○〔漢〕「爲二衞太-子良-娣、產二悼-皇-考一」。
〔乳娣〕ち、のむ程のちひさきいもうと。○〔沈亞之〕「引二――一戲」。
〔娙娣〕おほくのいもうと。○〔禮〕「至二于叔姪――之間一、盡二其禮-節一」。

【娤】妝に同じ。

【娥】ガ。五何切　㊤歌
よし、みめよし、かほよし、うつくし、（美好）、又、其の者、美女。○〔江淹〕「趙妃燕-后、秦-―吳-娃」。
〔娙娥〕漢の武帝の時の女官の稱、うつくしき義。○〔漢〕「――視二中二-千-石一、比二關-內-侯一」。
〔湘娥〕湘水といふ河の神、又、美人に借りいふ語。○〔王勃〕「結二漢-女一邀二――一」。
〔靑娥〕みめよきをみな。○〔白居易〕「夜-燭舞二――一」。

〔孀娥〕やもめ。○〔楊炯〕「相-婦——之泣」。
〔嬪娥〕宮中につかふる美人。○〔元稹〕「笙鏞不レ御停ニ——ニ」。
〔宮娥〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「——捧ニ玉盤ニ」。
〔國娥〕すぐれてみめよき女。○〔李山甫〕「千隊——輕似レ雪」。
〔姮娥〕姮娥といふ者不死の藥を竊みて月に奔りぬといふ故事より月の異名に用ふることあり、又、姮の字は、一に嫦に作る。○〔李商隱〕「——照ニ玉輪ニ」。
〔素娥〕天女のこと。○〔韓愈〕「終令ニ——抉レ女出ニ」。
〔雲娥〕前に同じ。○〔張華〕「——薦ニ瓊石ニ」。
〔瓊娥〕前に同じ。○〔陸雲〕「——起而清嘯」。
〔帝娥〕前に同じ。○〔李羣玉〕「——淨掩容波蕩」。
〔娥々〕うつくし。○〔沈佺期〕「天上——紅粉席」。

【嫃】嬾に同じ。

【娧】タイ、テ。他外切 泰 ㊀舒かにして遲き貌にいふ字、ゆるやか、おもむろ、のびやか。㊁よろこぶ、(喜)。

【娨】バン、マン。母版切 潸 自ら高ぶりて人を下げしむ、あなどる、(傲慢)。

【娊】カン、ゲン。下晏切 諫 あなどる、(婺)。

【㛂】ホ、フ。滂模切 虞 女の字、(あざな)。

【娩】ベン、マン。無遠切 阮 したがふ、(順)、こぶ、(媚)。○〔禮〕「女子十年不レ出、姆教ニ婉——聽從ニ」。
〔婉娩〕やすらかにしたがふこと。○〔余邕〕「——舒ニ寫情懷ニ」。

【娩】ブン、モン。文運切 問 ベン、メン。美辯切 銑

㊀女の字、(あざな)。㊁うまる、(生)。

【娪】ゴ、グ。訛胡切 虞 うつくし、又、うつくしき人、美女。

【娪】ギョ、ゴ。牛居切 魚 ゴ、グ。五故切 遇 をみな、(女)。

【娫】エン。以然切 先 ㊀女の字、(あざな)。㊁美しくして好き貌にいふ字、うつくし、みめよし、かほよし。

【娭】キ。設其切 支 — 嬉に同じ。㊀婦人の賤稱、いやし。○〔漢〕「群ニ——虖其中ニ」。㊁たはむる、(戲)。
〔娭娭〕たのしみたはむる。○〔漢安世房中歌〕「神來——」。
〔娭々〕たはむる、貌にいふ語。○〔元結〕「至化之深兮、猗々——」。

【娭】アイ、エイ。於開切 灰 しもをんな、(婢)。

【娰】姒に同じ。

八畫

【婒】タフ、トフ。他合切 合 俛伏す、ふす、うつふす、一に、服從の意。

【娵】シュ、ス。子于切 虞 ㊀星の次りの名、(——訾)。㊁蠻人の語にて魚をいふ、うを。○〔郝隆〕「——隅躍ニ清池ニ」。
〔閭娵〕(い)魏國の美人の名。(ろ)みにくし、(醜惡)。

【娵】スウ、シュ。側尤切 尤 女の名。

【娵】ソウ、シュ。此苟切 有 うつくしきをみな、(美女)。

【娶】シュ、ス。七句切 遇 女を迎へて妻となす、めとる。○〔胡安定〕「——レ婦須レ不レ若ニ吾家一、則事ニ舅姑一必謹」。
〔外娶〕とつ國の人をめとる。○〔儀、疏〕「古者大夫不ニ——ニ」。
〔博娶〕誰れ彼れの區別をせずにめとる。○〔漢〕「——而廣求」。
〔婚娶〕夫婦のかためをすること。○〔宋〕「躬自訓導爲ニ——ニ」。
〔專娶〕己れの心一つにてめとる。○〔白虎通〕「男不ニ自——ニ」。
〔冐娶〕女に如何なる事情のあるにか、はらぞめとること。○〔續博物志〕「黃公好レ謙、女有ニ國色一、而謙ニ其美一以爲レ醜也、女至レ難レ嫁、有ニ鰥夫一——ニ之一、乃國色、果信ニ黃公之謙ニ」。
〔嫁娶〕よめいりとよめとりと。○〔史〕「太皞始制ニ——ニ」。

【姘】ハウ、ヒヤウ。普耕切 庚 ヘイ、ビヤウ。滂丁切 靑 除くべきを、卽ち罪、男と女と私に情を通ずるにいふ、漢の律にては己が妻の使へる婢に通ずるを、又、齋戒のときに女と交はることを。

【娷】ツヰ、タイ。竹恚切 支 事相屬ぐ、かさなる、(累)。

【娷】スヰ、サイ。樹僞切 ツヰ、ダイ。馳僞切 寘 女の字、(あざな)。

【娸】キ。去其切 支 醜しとなす、そしる、にくむ、又、其のこと、そしり。○〔漢〕「安昌貨殖、朱雲作レ——」。
〔詆娸〕そしる。○〔唐〕「漢枚皐作レ賦——ニ東方朔ニ」。

【嫙】ケン、ゲン。胡田切 先 守りあり、まもる。— 一に嫈に作る、

【娺】タツ、テチ。丁滑切 黠 ㊀さし、(疾)、たけし、(悍)。㊁好き貌にいふ字、よし、みめよし、かほよし。

【娺】ツヰ、タイ。陟誰切 支 前條の㊀に同じ。

【娻】トウ、ツウ。都籠切 東 國の名。

【娻】トウ、ツウ。多貢切 董 女の字、(あざな)。

【娼】俗の倡の字。

【媏】バン、モン。母敢切 感 鄉の名。

【婪】ラン、ロン。盧感切 感 好き貌にいふ字、かほよし、みめよし、よし。

【娽】ロク。盧谷切 屋 したがふ、つく、(隨從)。

【娽】リョク。力玉切 沃 錄と碌とに同じ。

【娾】ガイ、ゲイ。五駭切 蟹 たのしむ、よろこぶ、(喜悅)。

【娃】カイ、ゲ。宜佳切 佳
みにくし、（醜）。

【婀】ア。於何切 歌
決せず、きまらず、さだまらず。○〔韓愈〕「詎肯感激徒婀－－」。

【婀】ア。烏可切 哿
しなやか、たをやか、（娜）。○〔洛神賦〕「萃容－－娜」。

【婀】前條に同じ。

【婁】ル、ロ。隴主切 麌
牛を繫ぐ、つなぐ、又、つながる、（維）。○〔左〕「牛馬維－－」。
〔卷婁〕身心を役してつかれたるにいふ語。○〔莊〕「舜舉二童土之地一、齒長明衰、不レ得二休歸一謂二之－－一」。

【婁】リヨ、ロ。亙據切 御
度に同じ、たびたび、しばしば。○〔漢〕「上方興二功業一－舉二賢良一」。

【婁】ル井、ライ。倫爲切 支
埶－は西羌の地の名。

【婁】ロウ、ル。洛侯切 尤
㊀二十八宿の一、たゝみ。○〔禮〕「日在二婺女一昏－中」。
㊁褸に同じ、ゐのこ。○〔左〕「既定二爾－－猪一」。
㊂獸の名。○〔韓詩外傳〕「北方有レ獸、名曰レ－、更食而更視」。

【婁】ル、ロ。龍珠切 虞
㊁ひく、（曳）。○〔詩〕「子有二衣裳一、弗レ曳弗レ－」。
㊂鏤刻の貌にいふ字、又、其のきざみ方のはッきりさしたる貌にいふ字、ちりばむ。○〔何晏〕「繚以二藻井一、編以二綷疏一、紅葩𩍐𩍐、丹綺離－」。
㊂分別なし、おろかなり、（愚）、くらし、（昧）。○〔蘇氏演義〕「時人以下無二分別一者上爲二郲－不レ辨」。

【婁】ロウ、ル。朗口切 有
嘍に同じ、ちひさきをか、（小阜）。○〔左〕「部－無二松柏一」。

【婁】俗の婁の字。

【娵】ソウ、スウ。徂宗切 冬
女の字、（あざな）。

【婄】ホウ、ブ。蒲口切 有
婦人の肥えたる貌にいふ字、一説に、不才なる貌、おろかなる貌にいふ字、（－娊）。

【婅】キク、コク。居六切 屋
女の名。

【婆】ハ、バ。蒲波切 歌
㊀ばゞ。
（い）年老いたる母、又、しうとめ、（よめよりいふ語）。○〔魏〕「憲郎爲レ固長－育恒呼二固夫婦一爲二郎－－一」。
（ろ）年老いたる女。○〔侯鯖錄〕「東坡在二昌化一、負二大瓢一、行歌二田畝間一、饁婦年七十、曰、內翰昔日富貴一場春夢、坡然レ之、里人因呼爲二春夢－－一」。

㊁娑に同じ、（其の條參照）。○〔王禹偁〕「老松擘レ雪白娑－－」。
〔公婆〕しうと、しうとめ。○〔朝野僉載〕「莫二浪語一－－－」。○〔唐〕「方俗稱二舅姑一曰二－－一」。
〔黃婆〕脾の臟の神、脾のよく他の臟を養ふよりいふ。○〔參同契〕「－－居二中神一四方二」。
〔孟婆〕風の神。○〔宋徽宗〕「－－好做二些方便一吹二箇船兒倒轉一」。
〔鼙婆〕琵琶のこと。○〔楊維楨〕「梅卿上レ馬彈二－－一」。
〔搭婆〕浮圖、たふば、そとば。○〔釋氏要覽〕「浮屠梵語－－－」。
〔脚婆〕足をあたゝむる瓶、湯たんぽ。○〔黃庭堅〕「千金買二－－一」。
〔耆婆〕長壽の天神、轉じて醫道の祖。○〔宋〕「－－脈經三卷、－－六十四問一卷」。
〔睒婆〕梵語の木綿。
〔羅婆〕十たび息する間。○〔法苑珠林〕「六十刹那爲二一息一、十息爲二一－－一」。
〔老婆〕ばゞ。○〔傳燈錄〕「被二－－一摧折一」。
〔頻婆〕（植）からなし。○〔法苑珠林〕「脣色潤澤如二－－菓一」。
〔茶婆〕（動）つのむし、一名に香娘子と稱す。○〔本草〕「蜚蠊一名二－－蟲一」。
〔草師婆〕（植）もぐさの異名。○〔本草〕「艾一名－－－」。

【婇】サイ、セイ。此宰切 賄 倉代切 隊
女の字、（あざな）。

【婎】キヤウ、カウ。丘仰切 養
亂るゝ貌にいふ字、みだる。

【婧】妯に同じ。

【婈】リヨウ。閭承切 蒸 ぞ
女の字、（あざな）。

【婉】エン、チン。於阮切 阮
㊀したがふ。
（い）逆らはず、かなふ。○〔左〕「婦聽而－」。
（ろ）離れず。○〔文選〕「－轉輕利」。
（は）親しむ。○〔文選〕「－－彼二一人一」。
㊁しとやか。
（い）和ぎしたがふと、すなほ、溫和。○〔晉〕「貞－有二志節一」。
（ろ）意義をあらはに言ひ表はさゞること、露骨に言說せざること。○〔左〕「春秋之稱、－而辨」。
㊂わかし、（少）、うつくし、（美）、又、少婦、美人。○〔詩〕「－兮變兮」。
㊃飛び動く貌にいふ字、うごく。○〔文選〕「象輿－二於西淸一」。
〔微婉〕文詞言語の意味の深くしてすなはなるとにいふ語。○〔史〕「左氏之－－」。
〔愿婉〕律義にしてすなはなること。○〔韓詩外傳〕「－－端慤」。
〔淑婉〕うつくし。○〔宣和畫譜〕「工レ寫二人物一、纖濃－－之態、華二于毫端一」。
〔阿婉〕美人。○〔揚維楨〕「－－有レ才還有レ累」。
〔淸揚婉〕目淸く眉秀で、うつくし。○〔詩〕「猗嗟孌兮、－－－兮」。
〔燕婉〕（い）やすらかにしてしとやかなること。○〔詩〕「－－之求」。
（ろ）うつくし、又、美人。○〔西京賦〕「捐二衰色一從二－－一」。
〔華婉〕はなやかにしてうつくし、又、はなやかにしてしとやかなり。○〔唐〕「爲レ文－－、當時未レ有二諧者一」。
〔柔婉〕やはらかにしてすなはなり。○〔北〕「后性－－不レ妬」。
〔諧婉〕かなふ。○〔世說〕「金石－－、將レ有二大慶一」。
〔沉婉〕おちつきてしとやかなり。○〔會稽後賢記〕「－－有二雅望一」。
〔婉婉〕（い）飛びうごく貌にいふ字。○〔楚詞〕「駕二八龍之－－一兮」。
（ろ）すなは。○〔王逸〕「－－以順レ上」。
〔纖婉〕しなやかにしてうつくし。○〔鮑照〕「引二類阮之－－一」。
〔妖婉〕うつくし。○〔王勃〕「南隣少婦多二－－一」。

【婉】ワン。鄔管切 旱 エン、迂絹切 霰 チン。切
前條の㊁に同じ。

【婋】カウ、ケウ。虚交切 肴
女の心俊慧なり、さかし、さとし。

【⿰女乳】ドウ、ヌ。乃后切 有
㊀女の肥えたる貌にいふ字、こゆ、ふとろ(―婞)。㊁ちゝ、ち、(乳)。

【婌】シユク。殊六切 屋
後宮の女官の稱。

【婍】キ。去倚切 紙
かほよし、みめよし、よし、(好)。

【婎】キ。許維切 支
㊀すがた、(姿)。㊁みにくし、(醜)。

【婎】キ。香季切　ヒ。必至切 寘
前條の㊁に同じ。

【婎】キ。虎癸切 紙
雙に同じ、自ら縦なる貌にいふ字、ほしいまゝ。

【婐】ワ。烏果切 哿　―別には、倮に作る。
㊀身弱くして好き貌にいふ字、たをやかなり、又、うつくし、(美)。○[古樂府]「珠-佩―-婉戲二金-闕一」。㊁側近く事ふる女子、こしもと、侍女。

【婑】スヰ。儒隹切 支　―婑に通じ用ふ。
美しき貌にいふ字、うつくし。

【婑】ワ。鄔果切 哿
婐に同じ、たをやかなり、うつくし。○[列]「公-孫-穆好レ色、擇二稚-齒―-婧者一」。

【婒】タン。徒甘切 覃
女の字、(あざな)。

【㛃】ケイ、カイ。許廚切 霽
㊀あし、(兇)。㊁ほしいまゝ、(恣)。

【婓】ヒ。芳非切 微
往き來する貌にいふ字、ゆきかふ。○[揚雄]「昔仲-尼之去レ魯兮、―――遲-々而周-邁」。
(江婓) 神の名。○[左思]「娉二――一與レ神遊」。

【婔】婓に通じ用ふ。

【婕】セフ、サフ。卽葉切 葉
美しき貌にいふ字、うつくし。

【婖】テン。他兼切 鹽
女の字(あざな)。

【婖】テン。他點切 琰
女の醜靦なる貌にいふ字、はづかし、おもはゆし。

【婗】ゲイ、ガイ。研奚切 齊
㊀人始めて生まれいづ、うまる、又、あかご、みどりご、赤子、嬰兒。㊁あか子の啼き聲。㊂婦人の惡き貌にいふ字、あし、みにくし。

【婗】ゲイ、ガイ。吾禮切 薺
嫵媚の貌にいふ字、こぶ、なまめく、(媞―)、一説に、疑ひて決せず、さだまらず、まよふ。

【婘】ケン、ゲン。巨員切 先
孉、嬽に同じ、よし、みめよし、(好)、かほよし。

【婘】ケン。古倦切 霰
脊に同じ。○[史]「誅二諸-呂-―-屬一」。

【婩】エン、オン。於劍切 豔
㊀ゑこつ、(誣挐)。㊁ゑもをんな、(婦)。

【婩】エン、オン。衣廉切 鹽
女の貌にいふ字。

【婚】コン。呼昆切 元　―昏に通じ作る。
男と女とちなみを結びて夫婦となること、むこどり、よめいり。○[易]「求二―媾一」。
(連婚) 夫婦となりたるによりて親族となること。○(漢)「大-將-軍-鳳―二―楊-肜一」。
(賓婚) よめいりする時男の家より女の家へ資を與ふること。○(史通)「山-東-士-人尙二門-閥一、嫁-娶必多取レ資、謂二之―-―一」。
(降婚) 地位高き女の卑しき者と夫婦となること。○(晉)「―二―卑-陋一」。
(冥婚) 生前に夫婦とならずして死亡せる男女を合葬すること。○(舊唐)「贈-汝-南-王-洵與二至-忠-亡-女一、――合-葬」。
(定婚) 夫婦のいひなづけ。○(金)「朕四-五-歲、與二皇-后一―レ―」。「有レ命既集」。
(結婚) 婚儀をむすびなす。○(後漢)「―-―之際、

【婛】ケイ、キヤウ。居卿切 庚
女の字、(あざな)。

【婜】カン、ケン。丘閑切 刪
うつくし、(美)。

【婜】キン。頸忍切 軫
女の字、(あざな)。

【婝】テン。堂練切 霰
女の字、(あざな)。

【婞】ケイ、ギヤウ。胡頂切 迥　―悻に同じ。
たがふ、もとる、(很)。○[屈平]「鮌―-直以亡レ身」。

【婞】カウ、ギヤウ。下耿切 梗　―一に嫤に作る。
さいはひ、(倖)、一説に、ゑたしむ、(親)。

【婟】コ、ウ。胡誤切 遇　コ、ゴ。後五切 麌
戀惜す、をしむ、ゑたふ。

【婠】ワン。一丸切 寒
品性好し、よし。

【婠】クワン、グワン。古玩切 翰　アツ、エチ。烏八切　クワツ、ゲチ。乎刮切 黠
好き貌にいふ字、みめよし、かほよし、よし。

【⿺辶女】テン、トン。丑廉切　セン、ソン。詩廉切 鹽
喜び笑ふ貌にいふ字、わらふ、(姈―)。

【婡】ライ。郎才切 灰
女の字、(あざな)。

【婡】ライ。落蓋切 泰
好き貌にいふ字、かほよし、よし。

【婢】ヒ、ビ。部弭切 紙
人にめしつかはるゝいやしき女子、をんなゑもべ、こしもと、はしため、(又、女子の己れをいやしめていふ稱)。○[南]「耕當レ問レ奴織當レ問レ―」。

〔官婢〕 罪ありて官に捕はれてはしためとなりたる女。○〔漢〕「願没入爲二一一以贖二父刑一」。
〔魚婢〕 小さき魚。
〔菊婢〕 (植)鳳仙花の別名、金鳳花。
〔傅婢〕 附添ひの女。 ○〔顏氏家訓〕「不レ如二一一之指揮一」。 「人一」。
〔奴婢〕 男女のしもべ。 ○〔唐〕「帝嘗賜二一一各一
〔侍婢〕 こしもとのこと。 ○〔蜀〕「琰一一數十」。
〔從婢〕 前に同じ。 ○〔北〕「穆后一一也」。
〔乳婢〕 乳母のこと。 ○〔晉〕「賜二一一一口、穀一百石、雜綵四十匹一」。 「一請レ淘二酒米一」。
〔爨婢〕 食物を養たきするはしため。 ○〔范成大〕「一一

【婣】 婣に同じ。

【婤】 チウ、チュ。 丑鳩切 ［尤］

【婤】 シウ、シュ。 職流切 ［尤］
好き貌にいふ字、よし。

【婤】 テウ。 丁聊切 ［蕭］
女の字(あざな)。
女の名。

【婥】 シヤク、サク。 昌約切 ［藥］ 一綽、又は、綽に通じ用ふ。
美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし、よし(一約)。

【婥】 テキ、ヂヤク。 亭歴切 ［藥］

【婥】 タウ、デウ。 女教切 ［效］
女の病、やまひ。

【婦】 フウ、フ。 房九切 ［有］
負に通じ作り、又、別には、媍に作る。
㊀よめ。
(い)夫に嫁ぎたる女子、卽ち、夫に服從すべき義務ある義。 ○〔禮〕「一一入先レ嫁三月、教以二一德一言一容一功一」。
(ろ)子の妻。 ○〔漢〕「姑女告二一殺レ母」。
㊁女子、をみな。 ○〔吳〕「極二粉黛一窮二盛服一未三必無二醜一一」。
㊂陰の性の物類の名稱にも用ふる字。 ○〔埤雅〕「鵓鳩陰則逐二其一一、晴則呼レ之」。
㊃よめたる道を守ること、服從の義務を盡くすこと。 ○〔左〕「吾妻殆不レ一」。 ○
㊄好き貌にいふ字、よし、みめよし。 ○〔荀〕「其容一」。

〔屬婦〕 てかけ、そばめ。 ○〔書〕「至二于一一一」。
〔寡婦〕 夫を失ひたる女、やもめ。 ○〔禮〕「一一不二夜哭一」。
〔嫠婦〕 前に同じ。 ○〔蘇軾〕「泣二孤舟之一一」。
〔孀婦〕 前に同じ。 ○〔鮑昭〕「寒機思二一一」。
〔巧婦〕 (い)鷦鷯の別名、みそさざい。
(ろ)裁縫などするをみな、又、わざのたくみなるをみな。 ○〔古捉搦歌〕「弊衣難レ護付二一一」。
〔命婦〕 大夫のつま。 ○〔禮〕「卿、大夫從レ君一一從二夫人一」。
〔冢婦〕 本妻。 〔介婦〕 そばめ。 ○〔禮〕「介婦請二于冢婦一」。
〔世婦〕 天子の宮につかふる女子。 ○〔禮〕「有二夫人一有二一一」。
〔主婦〕 一家をつかさどるをみな、又、祭祀に主となるをみな。 ○〔禮〕「雖レ無二一一可也」。
〔販婦〕 さ、やかなるものをうるをみな、又、賤しき者の義にいふ語。 ○〔周〕「販夫一一爲レ主」。
〔匹婦〕 ひとりつれそふをみな、又、賤しき女子。 ○〔孟〕「樹二墻下一以レ桑、一一蠶レ之」。
〔孕婦〕 子もちをみな。 ○〔史〕「修二一一之墓一」。
〔桑婦〕 くはの葉をつむをみな。 ○〔列〕「道見二一一、悅而與言」。
〔嬾婦〕 (動)こほろぎの一名。 ○〔陸璣〕「蟋蟀鳴、一一驚」。
〔宗婦〕 世つぎむすこのよめ。 ○〔禮〕「祇事二宗子一一一」。
〔長婦〕 〔姒婦〕 あによめ。 〔稚婦〕 〔娣婦〕 おとうとよめ。 ○〔爾〕「長婦謂二稚婦一爲二娣婦一、娣婦謂二長婦一爲二姒婦一」。
〔蕩婦〕 あそびめ。 ○〔梁元帝〕「況乃倡樓一一」。
〔悍婦〕 禮にくらくして氣のあらくしきをみな。 ○〔史通〕「此乃强梁之一一」。
〔怨婦〕 をつとの事にかゝりてうらみをいだくよめ。 ○〔吳少徵〕「城南有二一一」。
〔節婦〕 行ひ正しきつま。 ○〔傅休奕〕「美此一一」。
〔饞婦〕 めしたきをみな。 ○〔蘇軾〕「關レ食惟應二一一知一」。 「肯覷」。
〔俚婦〕 いやしきをみな。 ○〔蘇軾〕「田翁一一那
〔黃絹幼婦〕 絕妙の二字の隱語。 ○〔會稽典錄〕「祭碣題曰、一一一一、外孫虀臼」。
〔貞婦〕 よめたる道を守るもの。 ○〔禮〕孝子弟弟一一」。 「一之失計一」。
〔驕婦〕 夫に善く事へざるつま。 ○〔後漢〕「內聽二一
〔織婦〕 はたおるをみな。 ○〔後漢〕「農夫一一」。
〔蠶婦〕 かひこをやしなふをみな。 ○〔北〕「一一得レ就二其功一」。
〔絡絲婦〕 赤き斑のある蜘蛛。

【婧】 セイ、シヤウ。 疾政切 ［敬］
㊀女たゞし(貞)。
㊁竦しみて立つ、たつ。
㊂才あり品あり、けだかし、すぐれたり。 「(健)」
㊃すこやかなる貌にいふ字、つよし、
㊄纖弱の貌にいふ字、かよわし、よわし、たをやか。 ○〔張衡〕「舒二眇一之纖腰一」。

【婧】 セイ、シヤウ。 疾郢切 ［梗］
前條の㊀と㊁と㊄とに同じ。

【婧】 セイ、シヤウ。 績嶺切 ［梗］ 答盈切 ［庚］
前々條の㊂と㊃とに同じ。

【婨】 ロン、リン。 盧昆切 ［元］
女の名。

【⿰女岸】 ガン。 魚肝切 ［翰］
㊀よし、みめよし(好)。
㊁をみなの姿容の齊整したるにいふ字、さゝのふ。

【⿰女岸】 ゲン。 魚變切 ［霰］
㊀前條に同じ。
㊁鮮明なること、あざやか(一嫃)。

【⿰女岸】 キヤク、カク。 迄約切 ［藥］
解悟せざる貌にいふ字、くらし、おろか(一斫)。

【婪】 ラン、ロン。 盧含切 ［覃］
むさぼる、(貪)。 ○〔韓愈〕「韋執誼性貪一詭賊」。

【婪】 ラン、ロン。 盧感切 ［感］
謹まず、みだりなり。

【婫】 コン、クン。 公渾切 ［元］
女の字(あざな)。

【婫】 コン 戸袞切 ［阮］
おほふ、(蒙)。 ○〔通鑑〕「人々以二荷葉一裹レ飯、一以二鴨肉數臠一」。

【婸】 セキ、シヤク。 先的切 ［錫］
女の名。

【婬】 イン。 餘針切 ［侵］
たのしむ、(逸)、たはむる、(戲)、又、淫に通じ用ふ。 ○〔家語〕「作二一聲一」。

【婭】 ア。 依嫁切 ［禡］
已れと同じく其の家の壻たる者、卽ち、已が妻の姉妹の夫、あひむこ、轉じて親戚、みうちの義。 ○〔唐〕「宰相楊國忠、支一一、所在橫猾」。

〔姻短〕あひむこ、又、みうち。○〔詩〕瑣々——、則無二膴仕一。「下こ」。
〔親短〕前に同じ。○〔後漢〕「閨人——、侵二唐天、
〔婚短〕縁組みしてみうちとなること。○〔唐〕「故尚ュ——こ。
〔宗短〕一家みうち。○〔唐〕「——賓客」。

【婈】リク、ロク。力竹切 屋
女の字（あざな）。

【婰】テン。多殄切 銑
女の名。

【婤】セキ、シャク。思積切 陌
女の字（あざな）。

九畫

【婷】婝、又は娉に同じ、美好なる貌にいふ字、うつくし、みめよし。○〔杜甫〕「審·年不レ嫁惜二娉——こ。

【婸】タウ、ドウ。徒朗切 養　—別に、媄に作る。
㊀ほしいまゝ、（放）。
㊁みだりなり、又、あそびたはぶる、（淫「戲）。
㊂われ（我）。○〔漢〕「夸·人自稱曰レ—」。
〔阿婸〕われ。○〔揚雄〕巴濮之人、自呼二——こ。

【媄】ヤウ　余章切 陽
女の字（あざな）。

【媨】シウ、ジュ。即就切 宥
㊀醜き老嫗の貌にいふ字、みにくし。
㊁嬥に同じ、よし。

【媨】シュク、ソク。七六切 屋
前條の㊁に同じ。

【媖】エウ。烏皎切 篠
弱き貌にいふ字、よわし、かよわし。

【婺】ブ、ム。亡遇切 遇
繇はず、さかふ。

【媌】ボウ、ム。迷浮切 尤　ボク、モク。莫木切 屋
美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。

【媆】ダン、ナン。奴紺切 勘
㊀美しき貌にいふ字、うつくし、うるは「し。
㊁小しく肥ゆ、こゆ。

【嫂】サウ、ソウ。蘇老切 皓
兄の妻の稱、あによめ。○〔後漢〕「援敬二事寡——、不レ冠不レ入レ廬」。
〔丘嫂〕あによめ、長嫂に同じ。○〔漢〕「時·々與二賓·客一過二其——一食」。

【婼】シャク、ジャク。昌約切 藥　ジャ、ニャ。人奢切 麻
順はず、さかふ。

【婼】ジ、ニ。如支切 支
—羌は國の名。

【媊】テン。追萬切 願
配耦、つれあひ、（拖—）。

【媔】ベン、メン。亡辨切 銑
娩に同じ。

【婚】婚に同じ。

【媧】カ、ケ。吉馬切 馬

【媁】ワイ、エ。烏回切 灰
好き貌にいふ字、よし、みめよし、かほよし。
女の字（あざな）。

【媃】ワイ、エ。鄔賄切 賄
かほよし、うつくし、（—綏）。

【媮】ユ、ヨ。羊朱切 虞　—愉に通じ用ふ。
㊀まゝにまかす、志たがふ、（靡）。○〔宋〕「大·臣推·諉、小·臣苟——」。
㊁うすし、（薄）。○〔左〕「晉未レ可レ—也」。
㊂ぬすむ（偷）。○〔屈平〕「將二從レ俗富·貴以—レ生乎」。
㊃愉に通じ用ふ、たのしむ、（樂）。○〔呂氏春秋〕「齊威·王鼓レ瑟、騶·忌·子曰、攫而深、醉而—者政·令也」。

【媮】トウ、ツ。託侯切 尤　—今、偷に作る。
㊀前條の㊀に同じ。○〔賈山至言〕「——合取レ容」。
㊁前條の㊁に同じ。○〔國〕「—レ居幸レ「生」。
㊂巧黠なり、かしこし、わるがしこし。○〔左〕「齊·君之語—」。

【媦】壻に同じ。

【媀】ゴ、グ。元俱切 虞　ゴウ、グ。語口切 有
ギョウ、ゴウ。魚容切 冬
女の字（あざな）。

【媀】グ、ゴ。元具切 遇
女の男を妒むにいふ字、ねたむ、それむ。

【媁】井。於非切 微
㊀美しく盛なる貌にいふ字、立派なり、うつくし。
㊁悅ばざる貌にいふ字、よろこばず。

【媁】井。羽鬼切 尾
前條の㊀に同じ。

【媞】テイ、ダイ。田黎切 齊
女の字（あざな）。

【媞】テイ、タイ。丁計切 霽
㊀閫室の神の名、かはやのかみ。
㊁女の貌にいふ字たをやか。

【嫛】エイ。餘制切 セイ、サイ。征例切 霽
婦人胎を病む、みごもりやむ。

【媃】ジウ、ニュ。而由切 尤
㊀女の名。
㊁女の媚ぶる貌にいふ字、なまめく、こ「ぶ。

【媄】ビ、ミ。無鄙切 紙
色好し、よし、かほよし、うつくし。

【媱】ダウ、ノウ。乃老切 皓
惱、媱、惱に通じ作る、恨痛する所あり、うらむ、いたむ、なやむ、わづらふ。

【嫩】ドン、ナン。奴困切 願
嫩に同じ、少くして好き貌にいふ字、わかし、かほよし、よわし。

【媆】ゼン、ナン。乳袞切 銑
好き貌にいふ字、よし、みめよし、うつくし。

【媁】キ。吁韋切 微 コン、ゴン。吾昆切 元 女の字、（あざな）。

【媉】チク。烏谷切 屋 かほよし、よし、（好）。

【媉】アク、オク。乙角切 覺 前條に同じ、一說に、かたちづくろ、かたち、（容）。

【媊】セン、ゼン。才先切 先 子淺切 銑 シ、ジ。津私切 支 女ーは星の名。○〔星經〕「太・白上・公妻女ーー」。

【媋】シユン、スン。樞倫切 眞 ㊀女の字、（あざな）。㊁女の美なるにいふ字、うつくし。

【媌】バウ、メウ。莫交切 肴 莫飽切 巧 眉教切 效 ボク、モク。謨沐切 屋 ー娳に同じ。㊀目の裏好し、めもとよし、美好なり、みめよし、うろはし。○〔列〕「娥ー靡・曼者」。㊁うかれめ、あそびめ、（妓女）。○〔方言、註〕「閩・人謂二妓・女一爲レー」。

【㛳】セイ、シヤウ。所景切 梗 へらす、へろ、（滅）。

【媍】婦に同じ。

【媏】タン。多官切 寒 女の字、（あざな）。

【嫨】タン、ダン。多案切 翰 儀適なき貌にいふ字、かたちづくらず、のりなし、（ー媻）。

【媻】ハン、バン。薄半切 翰 前條を見よ。

【㜁】イ。與之切 支 よろこぶ、（悅）、たのしむ、（樂）。

【㜁】キ。許其切 支 ㊀前條に同じ。㊁妃に通じ用ふ。○〔揚雄〕「君子利レ用レ取レーー」。

【媑】チヨウ、ヂユ。柱勇切 腫 女の字、（あざな）。

【媒】バイ、マイ。莫杯切 灰 ㊀なかだち。(い)男と女との間に立ちて、嫁娶の約をとりもつ者。○〔禮〕「男・女無レー不レ交」。(ろ)兩者の間をとりもちて關係を生ぜしむる者、介者。○〔韓愈〕「以二石・生一爲レー」。(は)ある物事を誘致する物事の稱、（鳥のをとりなどにもいふ）。○〔文中子〕「見レ譽而喜者、佞之ー也」。㊁酒の酵、もと。○〔漢〕「ー二孽其短一」。
〔良媒〕よきなかだち。○〔詩〕「匪二我愆一期、子無二ーー一」。
〔閒媒〕ひまのなかだち。○〔林逋〕「一・丘松・竹是ーー」。
〔睡媒〕ねむけのなかだち。○〔陸游〕「書・卷纔開作二ーー一」。
〔慵媒〕ものうきなかだち。○〔陸游〕「多・病作二ーー一」。
〔行媒〕なかうど。○〔禮〕「男・女非レ有二ーー一、不レ相二知名一」。
〔龍媒〕(い)駿馬のこと。○〔杜甫〕「莫レ恨レ少二ーー一」。(ろ)むぐらもち、（土龍）。○〔庾信〕「來レ道晝二ーー一」。
〔合媒〕なかだち。○〔參同契〕「蘇・秦通・言、張・儀ーー」。
〔雉媒〕雉を呼び寄するをとり。○〔潘岳〕「城宕歷二「ー・ー」。

【媒】バイ、マイ。莫佩切 隊 ㊀くらし、（昧）。○〔莊〕「ーー晦・々、無二心而不レ可二與謀一」。㊁むさぼる、（貪）。

【媒】ボウ、モウ。彌登切 蒸 前條の㊁に同じ。

【媔】ベン、メン。彌兗切 先 目の美しき貌にいふ字、めもとうつくし、うろはし。○〔楚辭〕「靑・色直・眉美・目ー只」。

【媔】ベン、メン。彌兗切 銑 ねたむ、（妒）。

【媓】クワウ、ワウ。胡光切 陽 はゝ、（母）。○〔揚雄〕「南・楚母謂二之ー一」。

【媿】コク、ク。乞得切 職 老女の卑賤なる者。

【嫛】ケイ、カイ。堅奚切 齊 女の字、（あざな）。

【媕】エン、オン。衣檢切 琰 女の思ふ心あるやう見ゆるにいふ字、したふ。

【媕】アン、オン。烏含切 覃 決せず、さだまらず。○〔韓愈〕「詎肯感・激徒ー・娿」。

【媕】アフ、オフ。遏合切 合 女の字、（あざな）。

【媖】エイ、アウ。於驚切 庚 女の美稱。英に通じ作る。

【媗】ケン、クワン。許元切 元 火遠切 阮 セン、ゼン。荀緣切 先 女の字、（あざな）。

【㛾】カン、ゲン。下斬切 豏 健かなる貌にいふ字、すこやか、つよし。

【媘】カイ、ケイ。居諧切 佳 女の字、（あざな）。

【媙】井。於非切 微 美しき女の貌にいふ字、うつくし、かほよし、みめよし、たをやか。

【媚】ビ、ミ。明秘切 寘 ㊀こぶ。(い)他を悅ばす、他の意向を迎ふ、他に追從す、へつらふ、（諂）。○〔後漢〕「多用二佞ーー一」。(ろ)艶を帶ぶ、うつくしき色を含む、みめよき姿を爲す、なまめく、いろめく。○〔宣和畫譜〕「喜爲二古衣・冠、多作二貿・野不ーー之狀一」。㊁親しみ從ふ、したがふ、（順）、いつくしむ、（愛）。○〔詩〕「ー二茲一・人一」。㊂悅ぶ可し、愛す可し、あいらし、うつくし、みめよし。○〔吳〕「自恨二疏・節骨・體不レー」。

㊃魅に通じ用ふ。○〔列〕「鬼ーー不ㇾ能ㇾ欺」。

〔側媚〕こぶ。○〔唐〕「ーー取ㇾ容」。

〔娬媚〕あいらし、又、なまめく。○〔蔡邕〕「都冶ーー」。

〔儇媚〕こぶ。○〔楚辭〕「忘ニーー以背ㇾ衆兮」。

〔狐媚〕狐のよく人を惑はすより人の巧みにこび他を惑はすにいふ譬。○〔晉〕「欺ニ他孤兒寡婦一、ーー以取ニ天下一」。

〔親媚〕したしみいつくしむ。○〔漢〕「以求ニーー于主上一」。

〔容媚〕いれしたしむ。○〔後漢〕「以求ニーー一」。

〔幸媚〕なれしたしむ。○〔後漢〕「遠獻ニ大珠一以求ニーー一」。

〔阿媚〕こびへつらふ。○〔抱朴〕「ーー曲從以ㇾ水濟ㇾ水」。

〔諛媚〕前に同じ。○〔唐〕「祿山百計ーー」。

〔曲媚〕我が意を枉げてこぶること。○〔宋〕「以ㇾーニーー王安石一、神宗數ニ其邪僻姦同一」。

〔柔媚〕前に同じ。○〔唐〕「以ニーー一自進」。

〔妍媚〕うつくし、なまめく。○〔列仙傳〕「春景ーー」。

〔鮮媚〕あざやかにしてうつくし。○〔法書要錄〕「筆力ーー」。

〔明媚〕前に同じ。○〔劇談錄〕「烟水ーー」。

〔軟媚〕やはらかにしてなまめく。○〔宣和畫譜〕「若非下胥柔ーー、取ニ悅兒女子一者上」。

〔綺媚〕うつくしきこと。○〔王粲〕「婉約ーー」。

〔淑媚〕前に同じ。○〔陸雲〕「耳存ニーー音一」。

【媛】エン、ワン。于眷切〔霰〕エン、ヲン。于願切〔願〕

㊀うつくし、たをやか。○〔潘岳〕「妙好弱ーー」。

㊁美しき女、たをやかなるむすめ、ひめ。○〔詩〕「展如ㇾ之人兮、邦之ー也」。

㊂女官、又、こしもと、侍女。○〔唐〕「太子內官、良ー六人」。

〔淑媛〕(い)才德すぐれし美人。○〔王逸〕「窈窕ーー」。(ろ)又、女官の稱。○〔三國〕「ーー位視ニ御史一」。

〔英媛〕前の(い)に同じ。○〔崔駰〕「乃降ニーー一、有ニ淑其儀一」。

〔嬙媛〕こしもと、又、女官の稱。○〔後漢〕「ーー侍見」。

〔宮媛〕前に同じ。○〔張適〕「花明ーー佩」。

〔歌媛〕うたひめ。○〔沈立〕「翻曲教ニーー一」。

【媛】エン、ヲン。雨元切〔元〕

牽引の貌にいふ字、ひく。○〔楚辭〕「心嬋ーー而傷ㇾ懷兮」。

【⿰女侯】コウ、グ。胡溝切〔尤〕

女の字、(あざな)。

【媥】ヘン、ベン。房連切〔元〕

美しき貌にいふ字、うつくし。

【⿰女叜】ソウ、スウ。祖叢切〔東〕

女の字、(あざな)。

【媜】テイ、チヤウ。知盈切〔庚〕

女の字、(あざな)。

【⿰女音】アン、オン。烏含切〔覃〕

女の志淨からざるにいふ字、汚れたり、きたなし、俗に、物の淨からざるにいふ語、(ー臢)。

【⿱秋女】シウ、シユ。雌由切〔尤〕

女の字、(あざな)。

【媞】テイ、ダイ。田黎切〔齊〕シ。常支切〔支〕

㊀うつくし、(美好)。○〔東方朔〕「西施ーー而不ㇾ得ㇾ見」。

㊁やすし、(安)。○〔張九齡〕「相顧幸ニーー」。

【媞】シ、ジ。承紙切〔紙〕

㊀つまびらか、(諦)。㊁姘黠なり、かしこし、わるがしこし。㊂江淮の間の語にて、はゝ、(母)。

【媞】テイ、ダイ。待禮切〔薺〕

はますげ草の子、かうぶし。○〔夏小正〕「薃也者莎隋也、ー也者其實也」。

【媞】タイ、テ。得懈切〔卦〕タ。陟嫁切〔禡〕

あなどる、(侮)。○〔揚雄〕「姣ーー欺嫚」。

【⿰女奎】クワイ、ケ。空媧切〔麻〕

美しき貌にいふ字、うつくし(跨ー)。

【媟】セツ、セチ。私列切〔屑〕

古は、(褻)、(暬)、(渫)とも通じ用ひたり。憚らず、あなどる、(慢)、あなどりて交はる、なる、(狎)、なれて禮を亂る、けがす、(瀆)、又、あなどりを受く、けがる。○〔班固〕「應・龍潛ニ於潢・汙一、魚・黿ーㇾ之」。

〔宴媟〕さかもりをして誰れ憚らざると、禮にかゝはらぬさかもり。○〔左〕「從ニーー一」。

〔交媟〕まじはる。○〔晉〕「策ニ名人臣一、ーニーー人父一」。

〔酣媟〕なれたはむる。○〔晉〕「雖ㇾ有ニーーー之累一、牽ㇾ上純一」。

〔淫媟〕みだりにしてけがらはしきこと。○〔宋〕「多道ニ市井ーー謔浪語一」。

〔戲媟〕たはむれはゞからぬ。○〔唐〕「ーー無ㇾ度」。

〔慢媟〕あなどる。○〔唐〕「談ーー不ㇾ恭、不ㇾ可ㇾ不ㇾ寘ニ之法一」。

〔鄙媟〕いやしくけがる。○〔蘇舜欽〕「身今ーー」。

【媠】タ。吐火切　ダ、ナ。努果切〔哿〕タ、ダ。徒臥切〔箇〕

㊀豔美なり、うつくし、うるはし。○〔漢〕「車・馬ーー遊之具」。

㊁惰に同じ、敬まず、なまける、おこたる。○〔漢〕「ー・嫚亡・狀」。

〔婑媠〕うつくし。○〔列〕「擇ニ稚齒ーー者一盈ㇾ之」。

〔娃媠〕前に同じ。○〔揚雄〕「ーー窕豔美也」。

〔輕媠〕かろぐしくしてつゝしまぬ。○〔漢〕「然被ニーー之名一」。

〔燕媠〕あそびおこたる。○〔漢〕「要不下敢以ニーー一見上ㇾ帝」。

【媢】バウ、モウ。莫到切〔號〕武道切〔皓〕ビ、ミ。蜜二切〔寘〕ボク、モク。謨沐切〔屋〕蜜北切〔職〕バイ、マイ。莫佩切〔隊〕

忌みきらふ、惡む、ねたむ、そねむ、いむ、ねたみ、又、うらむ、いかる、(怒)。○〔論衡〕「妒・夫ーー婦」。

〔忌媢〕いみねたむ。○〔宋〕「ーー者飛語」。

〔妬媢〕ねたむ。○〔史〕「王后亦以ニーー一、不ニ常侍ㇾ病」。

〔排媢〕前に同じ。○〔唐〕「帝以爲ニーー一」。

【媣】ゼン、ネン。而琰切〔琰〕カン、コン。沽三切〔覃〕

媣に同じ。

㊀つまびらかなり、たゞし、(諟)。㊁うつくし、(媞)。

【媤】

姛に同じ。

【媥】ヘン。芳連切〔先〕

輕き貌にいふ字、かろし。○〔司馬相如〕「ー姚徶僴」。

【⿰女臿】サフ、セフ。楚洽切〔洽〕テフ、トフ。丑聶切〔葉〕

疾く言ひて序を失ふと、はやくち、又、いひそこなひ。

【⿰女臿】サフ、セフ。實洽切〔洽〕

女の貌にいふ字。

【媦】ヰ。于貴切〔未〕

いもうと、（妹）、楚の國の言。〇〔唐〕「同-安公-主高-祖同-母-一也」。

【媧】 クヮイ、古蛙切［佳］ クヮ、姑華切［麻］
ケ。　　ケ。
女一は、古の神聖なる女子、又、山の名。

【嫙】 フク、ボク。房六切［屋］
女の字、（あざな）。

【娺】 テツ、テチ。他結切［屑］
貪り食ふ、むさぼる。

【㛅】 ダイ、ナイ。乃帶切［泰］
女の名。

【婌】 シク、ソク。子六切［屋］
かほよし、よし、（好）。

【媨】 イウ、ウ。以九切［有］
みにくし、（醜）。

【媞】 ケイ、ガイ。研計切 デイ、デイ。女世切［霽］
ゐつけうば、うば、（姥）。

十畫

【嫋】 ス、ジュ。仕于切［虞］
㊀やもめ、（嫠婦）。〇〔清河王誄〕「悳二子一-嬬一」。
㊁女の名。

【嫍】 スウ、シュ。傖尤切［尤］
前條の㊁に同じ。

【嫐】 シュ、ス。逡遇切［遇］
㊀姓に用ふる字。
㊁妊娠するを、はらむ。

【嫋】 シウ、シュ。測救切［宥］
㊀好き貌にいふ字、よし、みめよし。
㊁㑳に同じ、はらむ。

【嫸】 キク、ギク。許竹切 チク。敕六切［屋］
なまめく、こぶ、（媚）。

【媱】 エウ。餘招切［蕭］
㊀背を曲げて行く貌にいふ字、かゞまりゆく。
㊁たはむる、（戲）。
㊂美好なり、うつくし。

【㜀】 ベイ、メイ。彌計切［霽］
はゝ、（母）、吳の俗言。

【婍】 イ。於避切［寘］ スヰ、サイ。時髓切［紙］
悅ばず、いかる、ふづくむ。

【媐】 エフ、オフ。益涉切［葉］
女の態、ふり。

【媲】 ヘイ、ハイ。匹計切［霽］ ヒ、ビ。匹寐切［寘］
あふ、（配）。

【㜁】 ヘイ、ハイ。邊迷切［齊］
小き貌にいふ字、ちひさし、（嫛一）。

【媲】 ヒ、ビ。頻脂切［支］
女の字、（あざな）。

【嫛】 ボク、モク。莫木切［屋］
美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。

【媳】 セキ、シャク。思積切［陌］ 一息に通じ作る。
子の婦、よめ。

【嬽】 エン、チン。于元切［元］
女の名。

【媵】 ヨウ。以證切［徑］
円に从ふ、俗に、月に从ふはあし。
㊀おくる。
（い）よす、（寄）。〇〔儀〕「主-人一二爵于賓一」。
（ろ）嫁する女子に從ひ行かす、（古昔支那にて、諸侯の女を嫁がしむるときは其の同姓の者の女をゐたがへ行かしむる禮制なりき）。〇〔左〕「以二秦穆-姬一」。
（は）みおくる、（送）。〇〔楚辭〕「魚鱗-々兮一レ予」。
㊁嫁に從ひ來たりたる女、こしもと、侍女、又、そばめ、側室。〇〔韓〕「從二衣レ文之一七-十-人一至レ晉」。

（妾媵）　そばめ。〇〔後漢〕「今一-一韓-人閹-尹之徒」。
（嬪媵）　前に同じ。〇〔後漢〕「令下中宮博嬪二一-一兼採二微-賤宜レ子之人一、進中御至-尊上」。
（姬媵）　前に同じ。〇〔北〕「嘗一幸二一-一一、病臥累レ旬」。
（妓媵）　前に同じ。〇〔唐〕「室無二一-一一」。
（嬖媵）　愛妾のこと。〇〔劉蛻〕「希二權-門一以媚二一-一一」。

【媶】 ジョウ、ニュ。如容切［冬］
美しき貌にいふ字、うつくし、（婷一）。

【媷】 ジョク、ニク。而蜀切［沃］
おこたる、（懈怠）。

【媸】 シ。赤之切［支］ 一蚩に作る。
みにくし、（醜）、みだりなり、（淫）、おろかなり、（癡）、おとる、（劣）。〇〔陸機〕「姸-一好-惡」。

【嬼】 リウ、ル。功求切［尤］
女の字、（あざな）。

【嬫】 ヨウ、ユウ。於容切［冬］
女の貌にいふ字。

【嬍】 ビ、ミ。毋鄙切［紙］
美に同じ、よし、うつくし、又、其のもの、美女、麗人。〇〔周〕「輈-人軸有二三-理一、一者、以爲レ一-也」。

【媻】 ハン、バン。薄官切［寒］
㊀往き來する貌にいふ字、ゆきかふ。
㊁婆に同じ、うば、ばゞ、老媼。
㊂おごる、（奢）。

【㜊】 ハン、バン。薄半切［翰］
前條の㊂に同じ。

【嫅】 セツ、セチ。先結切［屑］
小き貌にいふ字、ちひさし、又、さゝやか、（瑣）。

【嫓】 シ。霰夷切［支］
をんなみこ、（女巫）。

【嫃】 コウ、クウ。古送切［送］
女の字、（あざな）。

【媼】 アウ、オウ。烏皓切［皓］
㊀老いたる女の稱、ばゞ。〇〔漢〕「高-祖常從二王-一武-負一貰レ酒、此兩-家常折レ券棄レ責」。
㊁母の別稱。〇〔史〕「一-一之愛二燕-后一、賢二于長-安-君一」。
㊂土地の神。〇〔漢〕「一-一神蕃-釐」。

〔翁媼〕老男と老女との稱、又、父と母との稱。○〔韓愈〕「垣水媼ニ一一」。
〔乳媼〕うば、乳母。○〔宋〕「公主有ニ一一」。
〔寡媼〕をつとなき老女。○〔宋〕「有ニ一一、僮一子以ニ不孝一告」。
〔慈媼〕いつくしみある母。○〔梅聖臣〕「持歸奉ニ一一」。
〔巫媼〕あやしき術を施す老女、みこ。○〔南〕「師巫「一一」。

【媙】滅に同じ。たつ、つく、ほろぶ。○〔老〕「五色使ニ人目盲皆一一」。

【媽】ボ、モ。莫補切 麌
㊀はゝ、(母)。㊁めうま、(牝馬)。

【媞】タイ、デイ。直皆切 佳
嫵媚の貌にいふ字、こぶ、なまめく、(娃一)。

【嫃】テン。知演切 銑
好き貌にいふ字、よし、かほよし、みめよし、(一好)。

【媪】オン。烏痕切 元
女の字、(あざな)。

【婉】エン、チン。於袁切。元 紆願切。願
㊀やすし、(宴一)。㊁うつくし、(一媴)。

【媾】コウ、ク。古候切 宥
㊀かれてよりの姻戚とかされて嫁娶をなすを、かさなるえんぐみ、又、かさなるえんぐみの親戚、みうち。○〔國〕「今將ニ婚一一以從ニ秦」。
㊁寵愛す、親しむ、いつくしむ、志たしむ、いつくしみ。○〔詩〕「彼其之子、不レ遂ニ其一一」。
㊂交合す、男性と女性とちぎりをなす。○〔李白〕「交一一騰ニ精魄一」。
㊃和睦するを、怨敵の關係を止むるを、よしみ、媾和。○〔史〕「不レ如下發ニ重使一爲ち一上」。
〔婚媾〕重ねて緣組みするを、又、緣組、又親戚。○〔晉〕「不下稽ニ顙下一一一爲中門戸上耳」。
〔親媾〕前に同じ。○〔魏〕「戚里一一」。
〔歡媾〕よろこびいつくしむ、又、よろこばしき緣組。○〔曹植〕「願ニ懼ニ一一之不ニ成」。

【㜋】エキ、ヤク。伊昔切 陌
女の字、(あざな)。

【媿】キ。基位切 寘 ―醜の字、古は一に作れり。
愧に同じ、はづ、はづかしむ、はぢらふ、はぢ、はづかしめ。○〔漢〕「世不レ知レ一、故姦軌浸長」。
〔小媿〕さゝやかなるはぢ。○〔鶡冠子〕「扶ニ杖于一一一者、大功不レ成」。
〔荒媿〕はなはだしきはぢ。○〔徐陵〕「黙ニ汚濁朝一、豈不ニ一一一」。
〔悲媿〕なげき耻づるを。○〔徐陵〕「天下含靈誰無ニ「一一」。

【嫀】シン、ジン。慈鄰切 眞
女の字、(あざな)。

【嫁】カ、ケ。古訝切 禡
㊀適きて人の妻となる、とつぐ。○〔禮〕「女子二十而一」。
㊁ゆく、(往)。○〔列〕「列子居ニ鄭圃一四十年、無ニ識者一、將レ一ニ于衛一」。
㊂惡しき事を他に推し他をして其の難を受けしむ。○〔史〕「是欲レ一ニ禍於趙一也」。
〔下嫁〕地位高き家より卑き家にとつぐ、おもに帝王の女などの臣下にとつぐに用ふる語。○〔詩、序〕「王姫一ニ于諸侯一」。
〔娶嫁〕よめとりとよめいりと。○〔後漢〕「男女一一既畢」。
〔許嫁〕よめいりを定めおく、いひなづけ。○〔禮〕「女子一一笄而字」。

【嫂】サウ、スウ。蘇老切 皓 ―嫂に同じ。
兄の妻、あによめ。○〔史〕「臣聞平居レ家時、盜ニ其一一」。
〔丘嫂〕最も年長けたるあによめ。○〔漢〕「時々與ニ賓客一、過ニ其一一食」。
〔家嫂〕己が家のあによめ。○〔晉〕「一一調情懷「一一」。
〔寡嫂〕寡になる兄の妻。○〔宋〕「奉ニ宗姑一、事ニ

【嫃】シン。之人切 眞
女の字、(あざな)。

【𡢕】妎に同じ、或は、俗字ならんともいふ。

【嫄】ゲン、グワン。愚袁切 元 ギン。魚倫切 眞
周の祖先、棄の母の字。○〔詩〕「赫々姜一」。

【嫅】サ、セ。咨邪切 麻
女の字、(あざな)。

【嫅】サ。想可切 哿
女の貌にいふ字、みめよし。

【嫆】ヨウ、ユウ。餘封切 冬
女の字、(あざな)。

【嫇】ベイ、ミヤウ。莫經切 靑
小心の態にいふ字、おぼこごゝろ、うちは氣。

【嫇】バウ、ミヤウ。謨耕切 庚
㊀嫈一は、こむすめ、幼婦。○〔韓愈〕「彩伴颯嫈一」。
㊁明淨の貌にいふ字、あきらか、又、きよし。○〔王逸〕「蘅芷彫兮嫈一」。
㊂小人の貌にいふ字。

【嫇】ベイ、ミヤウ。莫迥切 迥
自から持つ、もつ、一説に、面の平かなる貌にいふ字、又、ひらがほ。

【嫈】エイ、アウ。烏莖切 庚
㊀青の韻の嫇に同じ。㊁庚の韻の嫇の㊀に同じ。㊂よし、みめよし、かほよし、(好)。㊃下里の婦人の貌にいふ字、いやし、みにくし、(嫈一)。㊄女の名。

【嫈】エイ、ヤウ。娟營切 庚 ケイ、キヤウ。元扁切 靑 ワウ、アウ。於郞切 陽
㊀よし、(好)。㊁すがた、ふり、(態)。

【嫈】ケイ、キヤウ。火熒切 靑 エイ、ヤウ。於丁切 靑
㊀前條に同じ。㊁婦人の淸潔なる貌にいふ字、きよし、「いさぎよし」。

【嫈】エイ、オウ。縈定切 徑
繚一は國の名。

【嫉】シツ、シチ。秦悉切 質 シ、ジ。疾二切 寘
又、嫉に作る、疾に通じ作り、或は、偞さ瘱さにも作るとあり。
他のすぐれたるを害とす、うらやみて憎む、うらむ、にくむ、そねむ、ねたむ、「そこなふ、うらみ、にくみ、そねみ、ねたみ。○〔史〕「無ニ賢不肖一、入レ朝見レ一」。

〔妬嫉〕　ねたみ。○〔荀〕「不能則一一怨誹以傾覆人」。
〔讒嫉〕　あしざまに告げぐちすること。○〔宋〕「邦彦等一一無所不至」。
〔忿嫉〕　いかりにくむ。○〔南〕「賊徒一一成勅、余「之」。
〔憤嫉〕　前に同じ。○〔五〕「羣臣一一、莫敢出「作威」。
〔諂嫉〕　上にへつらひ人をねたむこと。○〔陳〕「一一一」。
〔猜嫉〕　にくむ。○〔北〕「元預兄弟本相一一」。

【㝅】　トウ、乃后切　有　コウ、古候切　宥
ヌ。　　ク。
㊀子に乳をのます、やしなふ。㊁乳を取る、しぼる、さる。

【嫊】　ソ、ス。蘇故切　遇
女の字（あざな）。

【嬈】　デウ、乃了切　篠　―嫋に通じ用ふ、俗に嬝に作る。
ㅤㅤジウ。
㊀風動く、そよぐ、うごく。○〔楚辭〕「一一兮秋風」。
㊁長くして弱き貌にいふ字、たをやか、しなやか、又、かよわし、ながし。○〔鮑照〕「一一柳垂條」。
㊂音色のびやかに揚がる、長く響く、ひく、つゞく。○〔蘇軾〕「餘音一一」。

【嫋】　ジャク、ニヤク。日灼切　藥　ダク、ニヤク。
昵格切　陌　デキ、ニヤク。乃歴切　錫
前條の㊀に同じ。○〔司馬相如〕「嫵媚嫋娜一一」。

【嫭】　タウ、トウ。徒郎切　陽
女の字（あざな）。

【嫛】　ケイ、ガイ。弦雞切　齊　―奚に通じ作る。
をんなしもべ、（女隷）。○〔楊穀〕「掃去千迴賴老一一」。

〔膳嫛〕　みづしめ。○〔沈周〕「煎茶帶牛酥膳一一」。

【嫈】　ケイ、ガイ。胡計切　霽
㊀おづ、（怯）。㊁ねたむ、（妒）。

【嫌】　ケン、ゲン。賢兼切　鹽　―或は慊に作ることあり。
㊀きらふ。
（い）心に平かならず、滿足せず、あきたらず、こゝろよからず。○〔唐〕「丈夫意氣相期勿以小一一介意」。
（ろ）惡む、忌む、憚る、恨む、又、にくみ、うらみ。○〔晉〕「睚眦之一、輒加刑殺」。
（は）度外に置く、愛情隔たる、うさんず、（疎）、又、情厚からず、うすし。○〔禮〕「示民不一一也」。
（に）うたがふ、又、うたがひ、（疑）。○〔禮〕「禮者、所以定親疎決一一疑也」。
㊁區分定かならず、うたがひ起こり易し、まぎらはし。○〔禮〕「禮不諱一一名」。

〔譏嫌〕　そしりにくまる。○〔後漢〕「猶復慮致一一一「也」。
〔辟嫌〕　さけきらふ。○〔公羊〕「此其言伐、何一一一」。
〔諫嫌〕　きらふ、うとんず。○〔後漢〕「漸至一一一」。
〔怨嫌〕　うらみにくむ。○〔後漢〕「欲免譏、口濟一一一、豈不難哉」。
〔猜嫌〕　それみきらふ。○〔宋〕「無所一一、不亦「一一」善乎」。
〔憎嫌〕　にくみきらふ。○劉歆「高門頻入莫一一、豈可以一一廢遠圖哉」。
〔乖嫌〕　きらふ。○〔詩〕「豈可稍以一一廢遠
〔譬嫌〕　あた、うらみ。○〔舊唐〕「臣素知倭倖亦無一一「忌」。
〔曲嫌〕　いさゝかなるきらひ。○〔何承天〕「一一細
〔纖芥嫌〕　すこしばかりなるきらひ。○〔後漢〕「臣之與卓、未無一一之一一」。

〔瓜李嫌〕　瓜の田にて履をなほせば瓜を盜むにはあらぬかと人のうたがひ李樹の下にて冠を正せば李を取るにはあらぬかと人のあやしむとの譬へよりともすればうたがひのやすく起こる義に借りいふ語。○〔舊唐〕「一一之一何以戶曉」。

【嫍】　タウ、トウ。土刀切　豪　エウ。以沼切　篠
女の字（あざな）。

【媞】　タイ、テ。都回切　灰　―本、媞に作る。
女の字（あざな）。

【嫎】　ハウ、ホウ。蒲光切　陽
女の名。

【嫎】　ハウ、ホウ。補曠切　漾
さまたぐ、さまたげ、（妨）。

【嫏】　ラウ、ロウ。盧當切　陽
一嬛は天帝の書を藏むる處をいふ、ふみぐら。

【嫐】　ダウ、ノウ。奴好切　皓　デウ、ナウ。奴鳥切　篠
たはむる、なぶる。

【嫛】　ケイ、ガイ。研計切　霽
うば、はゝ（姥）。

十一畫

【嫭】　カウ、ゴウ。後到切　號
女の名。

【嫕】　エイ。於計切　霽
或は、嫕に作る、したがふ、（順從）。○〔宋玉〕「澹清淨其愔一一」。

〔婉嫕〕　柔順の貌にいふ語。

【嫖】　ヘウ。撫沼切　蕭　―又、僄に作る。
匹妙切　嘯
㊀かろし、（輕）。
㊁邪淫なり、みだりがはし。○〔漢廣王望鄉歌〕「背尊章一一以忽」。

【嫖】　ヘウ。卑遙切　蕭
女の字（あざな）。

【嫗】　ウ、チ。衣遇切　遇
㊀はゝ（母）。○〔漢〕「延年兄弟五人皆大官、母號萬石一」。
㊁をみな（女）。○〔南〕「從少一一三十一並著絳紫羅繡袿襦、年皆可二十七八」。
㊂年老いたる女、ばゞ。○〔古樂府〕「願得三兩箇爲翁一一」。

〔老嫗〕　ばゞ。○〔史〕「後人來至蛇所、有一一夜哭曰、吾子白帝子也、化爲蛇當道、今者赤帝子斬之」。「一一之訊」。
〔乳嫗〕　うば。○〔古今詩話〕「頭童齒豁敢辭一一」。
〔媼嫗〕　はゝ。○〔北〕「父老一一皆遠相攀追號泣不絕」。「一一一」。
〔媒嫗〕　なかうどばゞ、けいあん。○〔韓愈〕「卽設謂一一

【嫗】　ウ、ヲ。委羽切　麌　オ、ヨ。於語切　語
あたゝむ（煦）。○〔禮〕「煦一一覆育萬物」。

【嫗】　コウ、ク。墟侯切　尤
人の名、又、山の名。

【嫘】　ルヰ、ライ。力追切　支　力爲切　寘
ライ、レイ。魯回切　灰
人の姓。

【嫙】センゼン。似宜切 先　好き貌にいふ字、よし、かほよし、みめよし。

【嫘】センゼン。隨戀切 霰　うつくし、うるはし、（美）。

【嫚】バン、マン。謨晏切 諫　ベン、メン。彌箭切 霰　—別には、嫚に作る。
㊀見下ぐ、易しさす、あなどる、（侮）。〇〔漢〕「上—下暴則陰-氣勝」。
㊁不敬を加ふ、いやしめをかす、けがす、（汚）。〇〔漢〕「單-于爲レ書—二呂太-后一」。
（侮嫚）あなどる。〇〔左〕「其言—ニ—於鬼-神一」。
（黷嫚）けがす。〇〔左〕「正レ德以幅レ之、使レ無二—一」。
（怠嫚）おこたる。〇〔漢〕「後稍——也」。
（媟嫚）前に同じ。〇〔漢〕「流-湎——」。
（詆嫚）そしり侮る。〇〔文心雕龍〕「——媟-弄」。

【嬞】トウ、ツウ。他東切 東　女の字、（あざな）。

【嫛】エイ。煙奚切 齊　イ。於夷切 支
㊀生まれたちの小兒、みどりご、（婗）。
㊁みどりごの聲。
㊂婦人の惡き貌にいふ字、みにくし、あし。
㊃一說に、この、これ、（是）。

【嫛】エイ。壹計切 霽　—嫕に同じ。したがふ、すなほ、（順從）。

【嫶】サウ、ゾウ。財勞切 豪　かほよし、みめよし、よし、（好）。

【嫜】シヤウ。諸良切 陽　章に通じ作り、或は、偉に作るもあり。夫の父母、しうと、しうとめ。〇〔杜甫〕「妾身未二分-明一、何以拜二姑——一」。
（兄嫜）夫の兄の稱、小じうと。

【嫝】カウ、コウ。丘岡切 陽　㊀女の字、（あざな）。㊁やすし、（安）。

【嫞】ショウ、ジュ。常容切 冬　女の字、（あざな）。

【嫞】チョウ、チュ。癡凶切 冬
㊀前條に同じ。
㊁慵に通じ用ふ、ものうし。

【嫟】ヂョク、チキ。昵力切 職　なる、（狎）、ちかづく、（近）。

【嫪】サン、ソン。七感切 感　倉含切 覃　サフ、ソフ。七合切 合　むさぼる、（婪）。

【嫪】シン、ソン。疏簪切 侵　たはる、すぐ、（淫）。

【嫠】リ。陵之切 支　夫なき婦、女の獨身者、やもめ。〇〔左〕「—也何害」。
（釐嫠）やもめ。〇〔七命〕「——爲レ之拚-摽一」。
（嫠婺）前に同じ。〇〔孫應物〕「且願撫二——一」。
（鰥嫠）年とりて妻なき者とをツとなき女子とのこと。〇〔柳宗元〕「錆二太和一以惠二——一」。
（嫠首嫠）年老いたるやもめ。〇〔應璩〕「臨-背之叟、——之—」。

【嫡】テキ、チヤク。丁歷切 錫　—適に通じ作る。
㊀正當の妻、ほんさい、むかひめ、（そばめに對して）。〇〔釋名〕「姪-娣曰レ媵々承二事—一也」。
㊁ほんさいの腹に生まれて家督をつぐもの、諸子のうちにて首位に立つ者、嗣子、よつぎ。〇〔晉〕「僉以祟レ—明レ統」。
（首嫡）ほんさい、又、よつぎ。〇〔晉〕「養二姑于堂一、子爲二——一」。
（元嫡）前に同じ。〇〔南〕「仲-子非二晉惠-公——一」。
（長嫡）長子にして正妻の生みし者。〇〔南〕「身居二——一、爲二文-帝所一レ禮」。
（世嫡）嫡嗣に同じ、親の家を相續すべき正妻の子。〇〔北〕「故恢崇二儒-術一、以訓二——一」。「—也」。
（家嫡）前に同じ。〇〔北〕「明二——之重見一乎天一」。

【嫡】タク、テキ。陟革切 竹益切 陌　テキ、チヤク。切
㊀つゝしむ、（矯）。
㊁審諦なる貌にいふ字、つまびらか、あきらか。

【嫭】サ、ゼ。鋤加切 麻　女の字、（あざな）。

【嫭】ショ、ソ。七慮切 御　㊀れたむ、（妒）。㊁なまめく、（嬌）。

【嫭】シュ、ス。逡遇切 遇　前條の㊁に同じ。

【嫢】シ。姊宜切 支
㊀盈ちたる姿の貌にいふ字、こゆ、さかんなり。
㊁ほそごし、（細腰）。

【嫢】ケン、ゲン。胡典切 銑　前條の㊀に同じ。

【嫢】キ。均窺切 支　前條に同じ、一說に、婦人の審かに諦かなる貌にいふ字、あきらか。

【嫢】キ。規恚切 寘　よし、（好）。

【嫣】エン。於乾切 先
㊀美しき貌にいふ字、うつくし、又、巧みに笑ふ態にいふ字。〇〔宋玉〕「——然一-笑」。「蟬——」。
㊁つらなる、（連）。〇〔揚雄〕「有-周-氏之

【嫣】ケン。虛延切 先
㊀好き貌にいふ字、みめよし、かほよし。
㊁たけたかし、ながし、（長）。

【嫣】エン。於蹇切 銑　前條に同じ、又、人の名。

【嫤】キン、ゴン。渠吝切 震
㊀女の字、（あざな）。
㊁好き貌にいふ字、かほよし、みめよし、よし。

【嬶】ヒツ、ヒチ。卑吉切 質　はゝ、（母）。

【嫥】セン。朱遄切 先
㊀もツぱら、（壹）。〇〔淮〕「提二挈陰-陽一、嫥二挠剛-柔一」。
㊁愛すべし、あいらし、かはゆらし。

【嫥】タン、ダン。徒官切 寒　よし、うつくし、（媙）。

【嫦】姮に同じ。

【嫧】サク、セキ。側革切　セキ、シャク。七迹切 [陌]
㊀とゝのふ（齊）。㊁つゝしむ（謹）。㊂鮮かにして好き貌にいふ字、あざやか、よし、うつくし（嫧｜）。

【嫨】カン。虛干切 [寒] ―戁に通じ作る。
㊀老嫗の貌にいふ字。㊁いかる（怒）。

【嫨】ゼン、チン。忍善切 [銑]
つゝしむ、又、うやまふ（敬）。

【嫩】俗の嫰の字。○〔杜甫〕「紅入二桃花一嫩」。
（肥嫩）こえてやはらかなり。○〔齊民要術〕「剪二去研生二｜｜一」。
（柔嫩）やはらか。○〔圖書寶鑑〕「筆意｜｜」。
（輕嫩）かろくしてやはらか。○〔王逍〕「翠眉｜｜怕二春風一」「無二人覺一」。
（偷嫩）やはらかなること。○〔庾肩吾〕「染レ絲｜｜」。

【娽】ロク。盧谷切 [屋]
女の字（あざな）。

【嫪】ラウ、ロウ。郎到切 [號]
慕ひ思ふ、心を寄す、志たふ、こふ（戀）、をしむ（惜）。○〔陸龜蒙〕「偶往心已｜」。
（娟嫪）こひしたふ、又、北の人、特にあそびめの情郎。
（戀嫪）思ひしたふ。○〔韓愈〕「感レ物增二｜｜一」。

【嫪】ラウ、ロウ。魯刀切 [豪]
ねたむ（妒）。

【𡢾】シュク、ソク。所六切 [屋]
春人無稽なるにいふ字、淫樂に耽る、たのしむ、ふける。

【嫫】ボ、モ。莫胡切 [虞] ―本、摹に作る。
大いに醜し、みにくし。○〔易林〕「｜｜母銜レ嫁、媒不レ得レ坐」。

【𡝰】嫫の本字。○〔楚辭〕「｜｜母姣而自好」。

【嫬】シャ、セ。之奢切 [麻] ショ、ソ。商署切 [御]
女の字（あざな）。

【娐】フ、ブ。馮無切 [虞]
女の字（あざな）。

【嫭】コ、ウ。胡誤切 [遇]
美好なり、うつくし、みめよし、かほよし、よし。○〔漢〕「衆｜並綽奇麗」。
（豐嫭）こえてうつくし。○〔魯泉〕「肌骨｜｜」。
（妖嫭）うつくし。○〔梅堯臣〕「披レ青擁レ綠出二｜｜一」。
（嫮嫭）前に同じ。○〔陳造〕「北餘紅白爭二｜｜一」。

【嫮】コ、ウ。胡誤切 [遇] ―省きて、嫭に作る。
㊀嫭に同じ。○〔張衡〕「西施之徒、眘容修｜」。㊁ほこる、おごる。○〔漢〕「卽以｜二鄙小縣一」。

【嫯】ガウ、ゴウ。五到切 [號] ―敖さ傲さに通じ用ふ。
あなどる（侮・易）。

【嫰】前條に同じ。

【㜝】ガン、ゴン。五感切 [感]
㊀怒りを含む、ふくむ、ふづくむ。㊁知り難し、ふかし。㊂豐豔の貌にいふ字、うるはし、うつくし。○〔韓詩外傳〕「碩大且｜」。

【㜝】カン、ゴン。戸感切 [感]
惡しき性、あし。

【㜝】アン、オン。鄔感切 [感] ケン、ゲン。魚檢切 [琰]
怒を含む意にいふ字、いかる、ふづくむ。

【㜝】エン。於鹽切 [鹽] 衣檢切 [琰]
よし、うつくし（美）。

【㜝】アン、オン。烏含切 [覃] ―媕に通じ作る。
情を含む、他を思ふ心あり、おもふ。

【孎】俗の孎の字。

【嫸】サン、ザン。財甘切 [覃]
女の名。

【嫸】セン、ゼン。七豔切 [豔]
美しき貌にいふ字、うつくし（嬮｜）。

【媊】媊の本字。○〔甘氏星經〕「太白上公妻曰二女｜一」。

【嫠】古文の嫠の字。○〔汲冢周書〕「將下寘二而大｜一、及中王子于治上」。

十二畫

【嫳】ヘツ、ヘチ。普蔑切 [屑]
㊀怒らしめ易し、又、いかる。㊁輕薄なる貌にいふ字、かろし、うすし。

【嫴】コ、ク。古胡切 [虞]
まかす、又、あづく。

【嫵】ブ、ム。文甫切 [麌] ―娬に通じ用ふ。
なまめく、こぶ（媚）。○〔司馬相如〕「｜｜媚纖弱」。
（媚嫵）こぶ。○〔元好問〕「意態工二｜｜一」。

【嫃】娟に同じ、おほあれ（孟姊）。

【㜣】ゼン、チン。如延切 [先]
人の姓。

【㜣】セン。失善切　ゼン、チン。忍善切 [銑]　デン、チン。乃見切 [霰]
㊀前條に同じ。㊁女の姿態ある貌にいふ字。

【嬋】デン、チン。乃玷切 [琰]　シン、ソン。式荏切 [寢]
下志にして貪頑なり、いやし、かたくな、又、むさぼる。

【嬋】タン、ドン。徒南切 [覃] 徒感切 [感]
女の名。

【嬋】テン。他點切 [琰]
婦人の細長き貌にいふ字、ながし、たけたかし。

【嫶】セウ、ゼウ。慈焦切 [蕭] ―顦、顦、焦、蕉とならびに通じ用ふ。
憔に同じ、うれふ、又、うれひになやみて面色衰ふ、やつる、かじく。○〔漢〕「｜妍太息」。

【婧】婧の本字。○〔漢〕、然被ニ輕ー—之名ニ。

【〓】セン、ゼン。旨善切 [銑] 好みて人の言語を枝格す、さゝふ、こさばさがめず、一説に、惡みて耻を與ふ、にくむ、はづかしむ、(靳)。

【嫹】バウ、メウ。莫交切 [肴] 美好の貌にいふ字、かほよし、うるはし、うつくし。

【嫺】カン、ゲン。戸閒切 [刪] ケン、ゲン。胡田切 [先] ㊀鄙しからざると、騷がしからざると、ゑづか、みやびやか、ゑなやか、ゑさやか、品よくして見ばえよし、うつくし。○〔司馬相如〕「妖冶——都」。㊁閒に通じ作る、熟達す、ならふ、(習)。○〔史〕「屈原—ニ于辭令ニ」。〔雅嫺〕やはらぎて靜かなること。○〔唐〕「進止——」。〔妍嫺〕うつくしくして靜かなること。○〔魏文帝〕「好ニ靈雀之——ニ」。

【嫻】嫺に同じ。

【嫼】コク。呼北切 ボク、モク。密北切 [職] いかる、(怒)。

【〓】ホク、フク。博木切 フク、ホク。方六切 [屋] ホク、ブク。蒲沃切 [沃] 女の字、(あざな)。

【〓】ソウ、ゾウ、咨騰切 [蒸] 前條に同じ。

【〓】シ。相支切 [支] 前條に同じ。

【〓】バイ、マイ。莫佳切 [佳] わるがしこし、こざかし、(黠)。

【嫽】レウ。落蕭切 [蕭] ㊀女の字、(あざな)。㊁相戲る、たはぶる。

【嫽】レウ。力小切 [篠] 力弔切 [嘯] ㊀前條の㊀に同じ。㊁好き貌、よし、みめよし、かほよし。㊂女の名。

【嫽】ラウ、ロウ。盧皓切 [皓] 媼に通じ用ふ、ばゞ。〔嫽々〕母方のばゞ、外祖母、(北人の言)。

【嫾】レン。靈年切 [先] 女の字、(あざな)。

【嬧】クワク、グワク。胡麥切 [陌] ㊀靜かにして好し、みやびやか、ゑさやか、うつくし、よし。○〔嵇康〕「明—際—惠」。㊁矜りて自ら恃む貌にいふ字、おごる、ほこる。○〔左思〕「風俗以ニ𨏥—慄ニ爲レ——」。㊂馳する貌にいふ字、かく、はしる。○〔馬融〕「徽—霍—奕」。㊃慬に同じ、もさろ、又、かたくな。〔嬧嬧〕たをやか、又、馳せ行く。○〔神女賦〕「既——ニ—于幽—靜ニ」。

【嬀】キ。居爲切 [支] 水の名、人の姓、又州の名。

【嬀】キ。居僞切 [寘] たけくしてわるがしこし、(健狡)。

【嬁】トウ、ツウ。都騰切 [蒸] 美女の貌にいふ字、うつくし、みめよし。

【嬂】ショク、シキ。賞力切 [職] 女の字、(あざな)。

【嬃】シュ、ス。錫兪切 [支] ㊀女の字、(あざな)。㊁姉、あね、(楚人の言)。○〔屈平〕「女——」「之嬋媛」。

【嬠】サイ、セ。祖外切 [泰] 女の字、(あざな)。

【嬄】イツ、イチ。益悉切 [質] 婦人の貌にいふ字、かよわし、うつくし。

【嬮】エツ、ヂチ。於月切 ケツ、クワチ。居月切 [月] ㊀前條に同じ。㊁こゆ、(—娍)。

【〓】サン、ソン。祖含切 [覃] 女の字、(あざな)。

【〓】サン、ソン。七感切 [感] 嫪に同じ、むさぼる、(婪)。

【嬅】クワ、ゲ。胡化切 [禡] ㊀女の名。㊁女の容の俊麗なるにいふ字、うるはし、うつくし。

【〓】ジン、ゾン。徐心切 [侵] 女の名。

【嬆】キフ、コフ。許及切 [緝] 女の性の淨きにいふ字、きよし、いさぎよし。

【嬇】クワイ、エ。胡對切 [隊] クワイ、ケ。苦怪切 [卦] 女の字、(あざな)。

【嬈】ゼウ、デウ。如招切 [蕭] 姸媚の貌にいふ字、かほよし、みめよし、うつくし、又、こぶ、なまめく。○〔杜甫〕「佳人屢出董嬌——」。〔妖嬈〕うつくし、又、なまめく。○〔唐彥謙〕「新曲定——」。

【嬈】デウ、デウ。奴鳥切 [篠] ㊀戲れ弄ぶ、たはぶる、もてあそぶ、又、みだる、(擾)。○〔徐陵〕「頗ニ似阿難、更爲ニ魔之所レ—」。㊁苛酷なり、からし、わづらはし。○〔漢〕「除レ苛解レ—」。〔苛嬈〕からし、わづらはし。○〔唐〕「華ニ——之風ニ」。〔嬈嬈〕たはむる、又、みだる。○〔陸雲〕「方愁山——」。

【嬈】エウ。伊鳥切 [篠] 美しき貌にいふ字、うつくし、又、やはし、(柔)、よわし、(弱)。○〔王褒〕「優——以婆—々」。

【嬈】ゼウ、デウ。裹聊切 [蕭] 心欲せず、ねがはず、又、わづらはし、(煩)。

【嬈】ケウ。火弔切 [嘯] ダウ、ヂウ。女教切 [效] あはれみなし、いつくしまず、(不仁)。

【孄】ラン。盧玩切 [翰] 或は、敵に作り、又、亂に通じ作る。
㊀わづらはし(煩)。㊁變に同じ、すなほ、したがふ(順)。

【嬉】キ。許其切 [支]
㊀たのしむ(樂)、あそぶ(遊)、たはぶる、(戲)。○[史]「爲レ兒——戲常陳二俎-豆一」。「嫦娥——華蕩-漾」。㊁うつくし、うるはし(美)。○[韓愈]
(水嬉) 水に舟をうかべてたのしむ、舟あそび。○[述異記]「日與二西-施一爲二——一」。
(遨嬉) 遊び樂しむ。○[方夔]「丹-霄恣二——一」。
(攀嬉) 登り戲る。○[歐陽修]「爽-路肆二——一」。
(娛嬉) 樂しみ遊ぶ。○[蘇軾]「與レ我相——」。
(姱嬉) 美人のこと。○[韓愈]「省二——之大-甕一」。
(游嬉) あそび戲る。○[陸游]「汗-陷恣二——一」。
(諧嬉) 戲るゝこと。○[王安石]「便脫二巾-幭一相——」。
(盤嬉) めぐり遊ぶ。○[陳與義]「湖-中可二——一」。

【嬉】キ。記巳切 [紙]
㊀前條の㊀に同じ。○[白居易]「濟-灩九-折池、縈-回十-餘-里、四-月芰-荷發、越-王日遊-—」。㊁姿と顏とそろひて美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。㊂女の名。

【嬩】ユ、ヨ。羊朱切 [虞]
前條の㊀に同じ。○[劉楨]「素-秋二-七天-漢指レ隅、民-胥祓-禊國-子水-—」。

【嬋】セン、ゼン。市連切 [先]
㊀色めきたる態あるにいふ字、うつくし、うるはし、又、たをやか。○[孟浩然]「花——娟沃二春-泉一」。㊁緣連らなる、つゞく、つながる、又、つゞき、つゞきあひ、親族。○[劉向]「惟楚-懷之——連」。
(嬋娟) うるはしき貌にいふ語。○[梁簡文帝]「颭二金-翠之——一」。

【嬌】ケウ。擧喬切 [蕭] 擧夭切 [篠]
㊀媚びを含む、みめよき態を作す、こぶ、なまめく、又、なまめきて見ゆ、なまめかし、うつくし(妖嬈)。○[盧照鄰]「黃-鸝一-々向レ花——」。㊁なまめかしき婦人、妖姿。○[費昶]「金-屋貯レ——時」。㊂むすめ(女-兒)。○[輟耕錄]「閩-中以二兒-女一爲二阿——一」。㊃女の名、又、あざなに用ふる字。○[漢武故事]「若得二阿——一當下以二金-屋一貯上レ之」。
(嬌啼) 酒の異名。○[輟耕錄]「名レ酒曰二——一」。
(嬌態) 媚ぶること。○[王昌齡]「——轉-盼泣二君前一」。

【𡢁】シ。脂利切 [寘] シフ、ソフ。之入切 [緝]
贄に同じ、いたる(至)。

【嫷】タ、ダ。徒果切 [哿]
㊀惰に同じ、おこたる。㊁鳥の名、こふのとり(鸛鶚)。

十三畫

【㜵】アウ、オウ。於到切 [號]
ねたむ(妒)。

【嬐】セン、ソン。思廉切 [鹽]
さし、はやし、すみやか(敏疾)。○[司馬相如]「—侵-潯而高縱兮」。

【嬐】ギン、ゴン。牛錦切 [寢]
頭を仰ぐ、あぐ、あふぐ、あふむく。

【嬐】ゲン、ゴン。魚檢切 [琰]
さゝのふ(齊)。

【嬒】ワイ、エ。烏外切 [泰] ワツ、ワチ。烏括切 [曷]
女の色黑きにいふ字、いろくろし。○[揚雄]「—可レ惡也」。

【嬓】ケウ、吉弔切 [嘯]
人の名。

【嬑】イ。於記切 [寘]
女の字(あざな)。

【嬔】ヘン、バン。芳萬切 [願] ヘン、ボン。孚袁切 [元]
フ、ホ。芳遇切 [遇]
婏に同じ。

【嬕】セキ、シヤク。施隻切 [陌]
女の名。

【嬖】ヘイ、ハイ。博計切 [霽] ヒ。卑義切 [寘]
㊀寵愛す、いつくしむ。○[拾遺記]「漢武-帝深——二李-夫-人一」。㊁いつくしみを受くる者、心に適ひたる者、きにいり、愛女、寵士など。○[左]「知-罃之父成-公之—也」。㊂官の名。○[左]「使レ從二——六-夫一」。
(外嬖) 男子の氣に入りたるもの。○[左]「飲二——嬖-叔一」。
(內嬖) 宮中にての氣に入りの者、即ち、寵愛をうけたる婦人。○[左]「——如二夫-人一者六-人」。
(便嬖) 君にへつらひ事へてその心に適ふもの。○[漢]「谷-在下親二——一、所レ任非中仁-賢上」。
(妖嬖) あやしき氣に入りの者、即ち、其の者より災の生ずる義。○[漢]「內-造二——一」。
(寵嬖) いつくしむ、又、氣に入りの者。○[拾遺記]「宮-人——者」。

【嬗】襌に同じ。○[史]「五-年之間、號-令三—」。

【嬗】タン。他干切 [寒] 多旱切 [旱]
㊀ゆるし(緩)。㊁こしもと、はしため(婢)。

【嬗】セン、ゼン。上演切 [銑]
善に同じ、よし。

【嬗】嬋に通じ用ふ。○[賈誼]「形-氣轉-續變-化而—」。

【嬘】スヰ、ズヰ。徐醉切 [寘] 又、嫁に作る。
女の字(あざな)。

【嬁】ショ、ソ。子呂切 [語]
人の姓。

【嬴】本、嬴に作る。

【嬙】シヤウ、サウ。在良切 [陽]
婦人の官の名、又、宮中に仕ふる女子、官女。○[梁簡文帝]「麗-姫與二妖-—一」。
(嬪嬙) 女官の稱、又、官女の義に借りいふ語。○[左]「以備二——一」、「寡-人之望也」。
(嫱嬙) 前に同じ。○[杜牧]「妃-嬪——王-子皇-孫」。
(妃嬙) 前に同じ。○[左]「宿-有二——嬪-御一焉」。
(毛嬙) 古の美人の名、轉じて美人の義に借りいふ語。○[莊]「——麗-姫、人之所レ美也」。

【嬙】シヤウ、ジヤウ。徐羊切 [陽]
ショク、ジキ。殺測切 [職]
女の字(あざな)。

【嫢】キ。許委切 [紙] ㊀にくむ（惡）。㊁人の貌にいふ字。

【嬚】レン。力鹽切 [鹽] ㊀女の字（あざな）。㊁清くして美なり、うるはし。

【嬚】レン。力冉切 [琰] 女の名

【嬛】嬛に同じ、惸に通じ用ふ。○[詩]「———在レ疚」。

【嬛】ケン。許緣切 [先] うるはし（麗）。○[司馬相如]「靚-粧刻-飾便-—綽-約」。

【嫛】ケイ、カイ。苦計切 [霽] カイ、ケイ。口賣切 [卦] ——懿に同じ、又、𣪠に作る。

【嫛】カイ、ケ。口蟹切 [蟹] かたし（難）。

【嬜】キン、コン。許金切 [侵] こゝろなやむ（意難）。

【嬜】アン、オン。烏含切カン、ガン。呼談切 タン、ダン。徒南切 [覃] いつくしむ（愛）、むさぼる（貪婪）。

【𡣍】ヨウ。以證切 [徑] 孕に同じ、はらむ。○[揚雄]「沈其腹、好レ—惡レ粥」。

【𡣍】ヨウ。余陵切 [蒸] 蠅に同じ、はへ。

【嬝】嫋に同じ。

【嬦】嫥に同じ。○[揚雄]「——人衆多」。

【嬎】バン、マン。莫晏切 [諫] 人の姓。

十四畫

【嬣】ダウ、ネウ。尼耕切 [庚] 女の劣りたる貌にいふ字、みにくし、一說に、女の態の舒徐なるにいふ字、しづか、ゆるやか、しさやか。

【嬣】デイ、ネウ。嚢丁切 [青] 女の字（あざな）。

【嬷】バ、マ。忙果切 [哿] ——は俗の母にいふ語。

【嬵】俗の嫵の字。

【嬮】懕に同じ。

【嬥】テウ、デウ。徒了切 [篠] ㊀直くして好き貌にいふ字、なほし、よし。㊁みだる（嬈）。㊂往き來する貌にいふ字、ゆきかふ。㊃蠻人の歌、えびすうた（—歌）。

【嬥】テウ、デウ。徒弔切 [嘯] 不仁なり、いつくしみなし、あはれまず（—嬈）。

【嬥】テウ。他彫切 テウ、デウ。田聊切 [蕭] ㊀往き來する貌にいふ字、ゆきかふ。㊁ほそごし（細腰）。

【嬥】タク、ドク。直角切 [覺] テキ、チヤク。他歷切 [錫] かほよし、よし、みめよし（好）。

【嬦】チウ、ヂユ。陳留切 [尤] シウ、ジユ。承呪切 [宥] 女の字（あざな）。

【嬧】ジン。在忍切 [軫] 前條に同じ。

【嬨】シ、ジ。牆之切 [支] ㊀前條に同じ。㊁女の性の寬かにして順なるにいふ字、ひろし、すなほ、しとやか。

【嬩】ヨ。以諸切 [魚] 演女切 [語] 前條の㊀に同じ。

【𡣡】ショ、ジョ。常恕切 [御] 前條に同じ。

【嬪】ヒン、ビン。毗眞切 [眞] ㊀夫に配する女、つま、よめ（婦）。○[顏延之]「婉彼幽閑女、作レ—君子室」。㊁つまさ爲る、夫に就く、したがふ（服）。○[書]「—二于虞一」。㊂女官の名、轉じて、君王の左右にはべる女、官女。○[禮]「三夫人、九—」。㊃女子の美稱、ひめ。○[邊讓章華賦]「攜二西子之弱腕一兮、援二毛—之素肘一」。㊄數多き貌にいふ字、おほし。○[漢]「——然成レ行」。

〔貴嬪〕女官、又、女子の敬稱。○〔宋〕「進二——位一、比二丞相一」。

〔妃嬪〕女官、又、女子の泛稱。○〔杜牧〕、「——媵嬙」、

〔笑嬪〕官女をわらはす、己が氣に入りの官女の歡心を買ふことをつとむるにいふ語。○〔劉繼〕、齊侯以「——破レ國」。

〔良嬪〕よきつま。○〔高允〕「——洞-厳、選二于夢想一族二」。

〔奉嬪〕よめとなる。○〔寡婦賦〕「爰——二—于高

【嬫】エイ、ヤウ。于平切 [庚] 女の字（あざな）。

【嬬】ジユ、ニユ。人朱切 [虞] ㊀よわし（弱）。㊁つま（妻）、又、そばめ（下妻）、一說に、そばめの名。

【嬬】ドウ、ヌ。乃豆切 [宥] 女の字（あざな）。

【𡣸】ラン、ロン。盧瞰切 [勘] ——濫に同じ、或は、纜に作る。㊀過ちて差ふ、たがふ、あやまつ。㊁むさぼる（貪）。

【𡣸】ラン、ロン。盧甘切 [覃] 女の字（あざな）。

【𡤌】ワイ、エ。烏回切 [灰] ——本、䫹に作る。低き風。

【嬭】ダイ、ネ。奴蟹切 [蟹] 或は、妳に作る、ち、ちゝ（乳）。

【嬭】デイ、ナイ。奴禮切 [薺] はゝ（母）、楚人の語。

【嬭】ジ、ニ。忍氏切 紙
あれ、(姉)。

【嬭】デイ、ナイ。乃計切 霽
女の名。

【嬮】エン。一鹽切 鹽
㊀かほよし、みめよし、よし、(好)。㊁志さやか、志づか、(和靜)。

【嬮】エン。於豔切 豔
美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。

【嬮】エフ。益渉切 葉
㊀かほよし、みめよし、よし、(好)。㊁盛によそほふを、けしやう、(靚粧)。

【嬐】カン、ゴン。胡感切 感
—嬐に作るをよしとす。
惡性なり、あし。

【嬯】タイ、ダイ。徒來切 灰
㊀愚癡の貌にいふ字、にぶし、おろか。㊁儓に同じ、志もべ下男、(隷)。

【嬰】エイ、ヤウ。於盈切 庚
㊀生まれだちの兒、みどりご、ちご、赤子、主に女の兒にいふ字とぞ。○〔歐陽修〕「舌-端啞-咤如₂嬌—₁」。㊁年少し、わかし、いとけなし、又、其の者、小兒、幼者。○〔淸異錄〕「顏-色反₂—刃₁」。㊂くはふ、(加)。○〔賈誼〕「—₂之以₁芒-」。㊃ふる、さはる、(觸)。○〔韓〕「龍喉-下逆-鱗、—ₗ之則殺ₗ人」。㊄めぐる、(繞)。○〔後漢〕「—ₗ城者相望」。○〔陸機〕「世-網—₂吾身₁」。㊅まとふ、(縈)、つなぐ、(絆)。㊆瓔に同じ、女の首飾、くびかざり。○〔荀〕「處-女—₂寶-珠₁」。㊇纓に同じ、冠の紐、又、むながひ、(馬鞅)。○〔國〕「亡-人所₂懷-挾—ₗ」。㊈罌に通じ用ふ、ほどき、(盂)。○〔穆天子傳〕「黃-金之—之罍」。
(白嬰) 志ろきくびかざり。○〔山海經、註〕「蛟似₂龍-蛇₁、而小頭細頸、頸有₂—₁」。
(孺嬰) みどりご。○〔陶潛〕「時尙—-—」。
(孩嬰) 男女のみどりご、みどりご。○〔鮑照〕「兒-女皆—-—」。
(啼嬰) なくこども。○〔岳珂〕「牽ₗ袂有₂—-—₁」。
(緌嬰) まとふ。○〔雲笈七籤〕「七-曜—-—」。
(愛嬰) いつくしきみどりご、かはいらしきみどりご。
(句嬰) 背かゞまりて小兒の如くに身の長短き人。○〔梅堯臣〕「—-—嬌啞-々」。○〔淮〕「有₂跂-踵民—-—民₁」。
(咳嬰) みどりご。○〔史〕「不ₗ可ₗ以告₂—-—之兒₁」。
(九嬰) 水火の物の怪。○〔淮〕「殺₂—-—于凶-水之上₁」。

【嫖】ヘウ。紕招切 蕭
女の字、(あざな)、又、女の名。

【嬲】デウ、奴鳥切 篠　ダウ、乃老切 皓
㊀親しみ戲る、たはぶる、なる。○〔韓駒〕「弟-妹乘₂羊-車₁、堂-中走相—」。㊁戲れ擾る、なぶる、なやます、はぢらはす。○〔嵇康〕「—ₗ之不ₗ置」。

【嬳】ワク。憂縛切　クワク、屋郭切 藥
姿態を作る、かたちづくる、つくろふ。

【嬳】コ、ウ。胡故切 遇
をしむ、(惜)。

【嬴】エイ、ヤウ。以成切 庚
㊀さく、(解)。○〔禮〕「天-地始肅、不ₗ可₂以—₁」。㊁みつ、(滿)、あまる、(餘)。○〔史〕「歲-星—-縮」。㊂はし、(端)。○〔史〕「命乎命乎、曾莫₂我—₁」。㊃嬴に通じ用ふ。○〔國〕「反及₂—-內₁」。
(黔嬴) 造化の神の名。○〔屈平〕「召₂—-—₁而見ₗ之兮」。「發妙辭₂—-—₁」。
(更嬴) 古の善く弓を射し人の名。○〔左思〕「控-弦—-—」。
(長嬴) 夏の名。○〔爾〕「夏爲₂—-—₁」。

【㜪】シン、ジン。所臻切 眞
有—は國の名、又、女の名。

【㜗】サン、ソン。七含切 覃
むさぼる、(貪)。

【嬵】ベン、メン。彌延切 先
女の字、(あざな)。

【嬉】キ。虛其切 支
㊀よろこぶ、(悅)、たのしむ、(樂)。㊁婦人の賤稱、又、いやし。

十五畫

【嫡】
適に同じ、出でゝ夫に從ふ、つまさなる、さつぐ、ゆく。○〔元包經〕「隨女有ₗ—」。

【嬸】シン、ソン。式荏切 寢
㊀をば、(叔母)、俗の言。㊁夫の弟の妻、おとうとよめ。

【嬹】キヨウ、コウ。許應切 徑
よろこぶ、(悅)。

【嬹】キヨウ、コウ。虛陵切 蒸
㊀前條に同じ。㊁女の字、(あざな)。

【嫣】
嫣に同じ。○〔宋玉〕「澹幽-靜—」。

【嬫】ヤク、以灼切　シヤク、式藥切 藥
美しき貌にいふ字、うるはし、うつくし。

【嫖】
嫖に同じ。

【嬛】エン。於緣切 先
㊀みめよし、かほよし、(好)。㊁蛾眉の貌にいふ字、まゆよし。㊂柔くして屈する貌にいふ字、かゞまる。○〔司馬相如〕「柔-撓—-—」。

【嬽】エン。榮元切 元
美容の貌にいふ字、うつくし。

【嬽】ワン。透關切 删
こぶ、なまめく、(媚)。

【𡤛】リヨ、ロ。雨舉切 語
心に爲すを欲せず、心すゝまず、きらふ、おこたる。

【嬠】サイ。七蓋切 泰
女の字、(あざな)。

【孅】セツ、セチ。子列切 屑
かほよし、みめよし、よし、(好)。

【嬻】トク、ドク。徒谷切 屋 狎れて不法をなす、よき名をつぶす、けがす。○〔國〕「不ニ亦ーレ姓矣乎」。

【⿰女質】シツ、シチ。職日切 質 女の字（あざな）。

【嬼】リウ、ル。力久切 有 やもめ（嫠婦）。

【嬼】リウ、ル。力救切 宥 なまめかし（妖）。

【嬼】リウ、ル。力求切 尤 うつくし（美）。

【嬌】嬌に同じ。

【嬛】嬛の本字。

十六畫

【嬮】エン、オン。余廉切 鹽 女の字（あざな）。

【⿰女褱】クワイ、エ。乎乖切 佳 安和なり、やすし、やはらぐ。

【嬾】ラン。洛旱切 旱 懶に同じ、おこたる、又、おこたり易し、ものうし。○〔蘇軾〕「半-火對ニーー殘ニ」。

【⿰女蕭】セウ。先彫切 蕭 女の字（あざな）。

【嬿】エン。伊甸切 霰 燕に通じ用ふ。うつくし（美）。○〔西京賦〕「從ニーー婉ニ」。〔歡嬿〕よろこびたのしむ。○〔楚語〕「於レ是ーー」。〔榮嬿〕さかえてたのしむ。○〔顏延之〕「生無ニーー飫洽」。

【⿰女燕】エン。於殄切 銑 安順なり、やすし、こゝろよし、志たがふ、たのし。

【⿰女燕】エン。因連切 先 女の字（あざな）。

【⿰女嬴】俗の嬴の字。

【⿰女嘗】俗の嘗の字。

十七畫

【孀】サウ。色莊切 陽 色壯切 漾 夫に死に分かれたる婦女、夫なきもの、やもめ。○〔淮〕「童-子不レ孤、婦-人不レー」。〔遺孀〕夫に死に別かれたるやもめ。○〔韓愈〕「足-以益レ業爲ニーー永-久之弱ニ」。〔孀孀〕やもめ。○〔王崔〕「惠ニ于ーーニ」。

【⿰女毚】ベン、バン。孚萬切 願 つれあひ（匹耦）。

【孁】レイ、リヤウ。郎丁切 青 女の字（あざな）。

【⿰女彌】ビ、ミ。武移切 支 ベイ、メイ。緜批切 齊 はゝ（母）、齊人の言。〔阿⿰女彌〕はゝ。○〔唐〕「李賀稱レ母曰ニーーニ」。

【⿰女彌】セン。息淺切 銑 女の字（あざな）。

【⿰女辥】俗の媟の字。

【⿰女盧】ケウ。居夭切 蕭 キ。矩鮪切 尾 キウ、苦糺切 有 テン。兼忝切 琰 身を竦む貌にいふ字、つゝしむ、をのゝく、おそる。

【⿰女監】コク、ク。訖得切 職 つかぬ（束）。

【孽】俗の孼の字、

【孃】ジヤウ、ナウ。汝陽切 陽 汝兩切 ダウ、ナウ。奴當切 養 ㊀煩擾なり、わづらはし、みだる。㊁肥太さなる、こゆ。

【孃】娘に同じ。○〔古樂府〕「不レ聞耶ー喚レ子聲」。

【孄】嬾に同じ。

【孅】セン。息廉切 鹽 ㊀纖に通じ用ふ、鋭くして細し、ほそくし、ほそし。○〔漢〕「至ー至悉」。㊁よわし、かよわし、たをやか。○〔司馬相如〕「嫵-媚ー弱」。㊂巧みに佞ふ、へつらふ、おもねる。○〔史〕「公所レ謂賢-者、皆可レ羞、卑-疵而前、ー-趨而言」。

十八畫

【孇】ソウ、サウ。疎江切 江 女の字（あざな）。

【孈】イ　移尒切 紙 ㊀おろかにしてみぶり多し（愚戇多態）。㊁北方の神の名。○〔王逸〕「回-𡰥兮北逝、遇ニ神ーー兮宴娭」。

【孈】イ。以水切 ヰ、尹捶切 紙 クワイ、胡卦切 卦 キ、呼恚切 ヰ。ギ。羽委切 寘 エ。スヰ。山垂切 キ、ギ。鬩規切 支 ㊀前條に同じ。㊁すぐ（過）。

【⿰女聶】ダフ、ノフ。昵洽切 洽 美しき貌にいふ字、うつくし、うるはし。

【⿰女雚】嬗に同じ。

【⿰女瞿】ク、ゴ。權俱切 虞 蠻峒の歌、えびすうた。

【⿰女瞿】オウ、ウ。烏侯切 尤 巴人の歌、いやしきうた。

【孅】セン。止兗切 銑 女の名。

【孄】嬾に同じ。

十九畫

【⿰女贊】サン。則旰切 翰 白くして好し、かほよし、よし。

【⿰女羅】ラ。良何切 歌 女の字（あざな）。

【孊】ビ、ミ。文彼切 紙
前條に同じ。
(倢孊) 漢の時代の女官の名。

【孋】リ。鄰知切 支
國の名、又、人の名。

【孋】レイ、ライ。郎計切 霽
うつくし、(美)。

【孌】レン、力兗切 銑　ラン。力眷切 霰 ─別には、孌に作る。
㊀美好の貌にいふ字、うつくし、みめよし、よし。○〔詩〕「婉兮─兮」。㊁したがふ、(從順)、したふ、(慕)。○〔詩〕「思二─季女一逝兮」。
(婉孌) かほよし、みめよし。○〔晉〕「昔伯瑜之──兮」。
(姝孌) 前に同じ、又、美人。○〔陳傅良〕「初不レ著二

【孌】ラン。盧丸切 寒　バン、謨還切 刪
女の字、(あざな)。

【⿰女樂】鑠に同じ。○〔漢郭亮碑〕「於─我君」。

二十畫

【孍】ゲン、ゴン。魚杴切 鹽
女の字、(あざな)。

【孍】ゲン、ゴン。魚檢切 琰
おごそか、(莊)、又、しづか、(靜)。

【孈】カ、ケ。苦加切 麻
女の姿態を作るにいふ語、かたちづくる、(窐──)。

【⿰女矍】嬳に同じ。

廿一畫

【孎】ショク、ソク。朱欲切 沃
㊀女の謹み順ふ貌にいふ字、つゝしむ、又、しさやか。㊁女の字(あざな)。

【孎】サク、ソク。測角切　タク、トヨク。竹角切 覺
前條に同じ、一說に、よし、(善)。

【孏】嬾に同じ。○〔後漢〕「其惰──者恥不レ致」。

廿二畫

【⿰女疊】娙に同じ。

【⿰女戀】孌に同じ。

子部

【子】シ。卽里切 紙
㊀をとめとの間に生まれて其の種族血統を嗣ぎ息やす者、こども、こ、(人より外の動物にもいふ)。○〔左〕「愛レ─教レ之以二義-方一」。
㊁植物の果實種核、み、たね。○〔後趙錄〕「大如二橡──一」。
㊂本より分かれたる部分。○〔後漢〕「腐レ身薰レ─」。
㊃年未だ長ぜざる者、こども、むすこ、むすめ。○〔莊〕「肌膚如二冰-雪一綽-約如二處──一」。
㊄主に、男兒の通稱、をとこ、をのこ。○〔詩〕「招-々舟──」。
㊅人の敬稱。○〔詩〕「君──好-逑」。
㊆五等の爵の第四位にあたれるもの。○〔春秋〕「公會二杞-侯莒──一、盟二于曲-池一」。
㊇物の名稱に附加して用ふる字。○〔王建〕「衆-中遺-却金-釵──」。
㊈十二支の第一位、ね、辰の名、正北の方、又、昔時の時刻にて今の午後十二時の稱。○〔爾〕「太-歲在レ─曰二困-敦一」。
㊉こまかく、くはしく。○〔杜甫〕「醉把二茱-太一──細看」。
⑪愛みて己がこの如くにす、ことす。○〔中〕「──二庶-民一」。
⑫生まる、たれとなる、みのる。○〔種樹書〕「冬花夏─」。

(元子) 天子の嫡子。○〔書〕「有レ王雖レ小──哉」。
(孺子) こども。○〔書〕「──其朋」。
(赤子) 生まれ出で、間もなきこ、あかご。○〔書〕「若レ保二──一」。
(小子) (い)こども。○〔書〕「誥二敎──一」。(ろ)門人。○〔論〕「吾黨之──」。(は)祭祀の小事を掌る官の稱。○〔周〕「──、下-士二-人、史二-人、徒八-人」。
(冢子) 本妻の腹に生まれたる惣領、卽ち、父の跡を承け繼ぐ者。○〔左〕「太-子、奉二冢-祀社-稷之粢-盛一、以朝-夕視二君膳一者也、故曰二──一」。
(支子) 本妻腹の惣領を除きて他のこ、一に、別子ともいふ。○〔禮〕「──不レ祭」。
(餘子) (い)前に同じ。○〔周、疏〕「──與二太-子一」。(ろ)其の人よりほかの人。○〔蘇軾〕「氣吞二──一無二全目一」。
(眸子) 眼中のひとみ。○〔李賀〕「關東酸風射二──一」。
(瞳子) 前に同じ。○〔唐〕「──黑-白明-徹」。
(猶子) 己が兄弟のこ。○〔禮〕「兄弟之子─レ─也」。
(婢子) (い)世婦以下の者の自稱、又、婦人の自稱にもいふ語。○〔左〕「寡-君之使二──一侍二執巾櫛一、以固レ子也」。(ろ)はしため。
(虎子) (い)おまるの類、便器。○〔范成大〕「──鬪爭君莫レ聞」。○〔西京雜記〕「漢-朝以レ玉爲二──一」。(ろ)とらのこ。○〔後漢〕「不レ入二虎穴一、不レ得二──一」。
(國子) 公卿大夫の子弟。○〔周〕「以二三-德一敎二──一」。
(才子) 智慧多き人。○〔文〕「昔高陽氏有二──八-人一」。
(內子) 卿大夫の妻。○〔左〕「以二叔-隗一爲二──一」。
(豎子) (い)疾に借りいふ語。○〔左〕「公夢疾爲二二-──一」。(ろ)たけひき、こども、又、他を賤しめていふに用ふる語。○〔史〕「遂成二──名一」。
(爭子) 兩親の非行を止めあらそふこ。○〔孝〕「父有二──一、則不レ陷二于不-義一」。
(質子) 結約を替へざるの證として他の國へ遣はしおくこ。○〔史〕「莊-襄-王爲レ秦──二于趙一」。
(黑子) はくろ。○〔史〕「左-股有二七-十二──一」。
(帝子) 天子のみこ、又、神のみこ。○〔王維〕「桂-尊迎二──一」。
(遊子) 旅に在る者。○〔史〕「──悲二故鄉一」。
(客子) 前に同じ。○〔史〕「得レ無レ與二諸侯──一俱來乎」。
(行子) 前に同じ。○〔鮑照〕「──心腸斷」。
(卿子) 人の敬稱。○〔史〕「諸別將皆屬二宋義一、號爲二──冠軍一」。
(蕩子) 酒色に溺るゝをのこ。○〔古詩〕「昔爲二倡-家女一、今爲二──婦一」。
(驕子) 氣まゝそだちのこ。○〔漢〕「若レ泰二──一」。
(稚子) をさなご。○〔陶潛〕「──候レ門」。
(漁子) すなどるをのこ。○〔江賦〕「擢-八──」。
(螟蛉子) 桑に居る小さき蟲のこ、又、詩經の意より他家に養はるゝものにいふ語。○〔詩〕「──有レ子、蜾-蠃負レ之」。
(千金子) 千金の資產ある家のむすこ、又、總べて財產家のむすこにいふ語。○〔蘇軾〕「──之─不レ死二於盜賊一」。
(輕薄子) 行爲のかろ〳〵しきもの。○〔後漢〕「昭爲二天-下之──一」。
(田舍子) ゐなかもの。○〔唐〕「爲二──一所レ留」。
(毛錐子) 筆の異名。○〔五代〕「直須二長-槍大-劍一、若二──一、安足レ用哉」。
(管城子) 前に同じ。○〔韓愈〕「累-將-軍閣二毛-氏之

旗ニ、披ニ其章ニ、亂ニ旗而降、獻ニ俘於章ニ臺宮ニ、環ニ其旗ニ而加ニ束縛ニ焉、秦皇帝使ニ恬賜ニ之湯沐ニ、而封ニ諸管城ニ、號曰ニ─・─ニ。

〔稚樸子〕事に暗くして熱心なる者。○〔程曉〕「今世─・─、觸レ熱到ニ人家ニ」。

〔天子〕國の元首たる皇帝の稱、天より子となすの義にて天に代はりて庶民を治むるもの。○〔書〕「─・─作ニ民父母ニ」。

〔胥子〕物領むすこ。○〔書〕「與ニ樂教ニ─・─ニ」。

〔夫子〕人の敬稱。○〔書〕「勗哉─・─」。

〔孟子〕天子のこと。○〔書〕「有ニ─・─之責于天ニ」。

〔公子〕爵位ある者のこ。○〔詩〕「麟之趾、振振─・─」。

〔姝子〕うつくしきをみな。○〔李白〕「茂陵─・─皆見レ求」。

〔學子〕學問する年わかきもの、書生。○〔林景熙〕「─・─滿レ戸」。

〔士子〕さぶらひ。○〔詩〕「偕偕─・─、朝夕從レ事」。

〔長子〕惣領のこ。○〔詩〕「─・─維行」。

〔太子〕國君の後を承けて其の位に就くべき人。○〔禮〕「─・─王子」。

〔世子〕諸侯の後を承けて其の位に就くべき人。○〔禮〕「文王之爲ニ─・─也」。

〔嗣子〕世つぎむすこ。○〔禮〕「大夫士之子、不ニ敢自稱ニ曰ニ─・─ニ」。

〔魚子〕魚のたまご。○〔禮、疏〕「卵謂ニ─・─ニ」。

〔孤子〕みなしご。○〔宋玉〕「─・─寡婦」。

〔門子〕卿の嫡子。○〔左〕「其大夫、─・─」。

〔甲子〕きのえね。○〔左〕「臣生之歲、正月─・─」。

〔族子〕親類のこども。○〔漢〕「或言─家─也」。

〔孿子〕ふたご、雙兒。○〔戰〕「─・─之相似者、惟其母知レ之而已」。

〔弟子〕門人。○〔史〕「─・─名姓文字」。

〔兒子〕こども。○〔漢〕「夫人─・─」。

〔贅子〕入り婿、即ち、出で、妻の家に生活するもの、又、古昔、借財の保證の爲めに債主の許に還はし置けるこども。○〔漢〕「賣レ爵─レ─」。

〔惡子〕あしき事を行ふもの。○〔漢〕「雖ニ舉長安中輕薄少年─・─ニ」。

〔養子〕他家のこを養ひて己れのことなす。○〔五〕「所レ得駿勇、多─以爲レ─」。

〔假子〕おにやらひを行ふこども。○〔後漢〕「選ニ逐疫─・─之半ニ」。「就ニ」。

〔漢子〕をのこ。○〔北〕「何物─・─我與レ官不ニ肯就ニ」。

〔郎子〕前に同じ。○〔南〕「─・─姓溫、必當レ無レ智」。

〔扇子〕黍館。○〔南〕「賜以ニ─・─及銀裝箏ニ」。

〔日子〕日づけ。○〔南〕「今本無ニ上書年月─・─ニ」。

〔蛤子〕はまぐり。○〔北〕「剖ニ得─・─ニ」。

〔褸子〕ぬのこ。○〔舊唐〕「合褸─・─」。

〔碁子〕碁石。○〔唐〕「方若ニ棋局ニ、圓如ニ─・─ニ」。

〔倡子〕うたをうたひ、たはぶれをする者。○〔唐〕「與ニ外庭朝會、闘鷄、竪─・─鳴レ玉曳レ履」。

〔偃子〕前に同じ。○〔唐〕「彼倅兒─・─、言語無レ度」。

〔邏子〕巡回して警戒をなす者。○〔唐〕「選ニ─・─兩服覘レ賊」。

〔牧子〕牛馬を養ふ者。○〔五〕「田夫─・─之所レ誦」。

〔骰子〕さい、すごろくの戲れなどに用ふるもの。○〔五〕「以ニ─・─擲レ之、而勝者爲レ直」。

〔帖子〕帖溝、ちやうめん。○〔宋〕「六品以下、具ニ─・─以進」。

〔罷子〕おやのかはいがるこども。○〔說苑〕「此君之─・─乎」。「午」。

〔笠子〕かぶりがさ。○〔本事詩〕「頭戴ニ─・─日卓午」。

〔帽子〕巾もてこしらへたるかぶりもの。○〔王建〕「未レ載柘枝花─・─」。

〔劄子〕宋時代の天子の勅令にあらずして官省より發する命令書。○〔却掃編〕「其後中書指ニ揮事ニ、凡不レ降レ敕者、曰ニ─・─ニ」。

〔丁子〕おたまじやくしの異名。○〔顧況〕「浮漚─・─珠聯聯」。

〔瑠子〕前に同じ。○〔本草〕「科斗皆出謂ニ之─・─ニ」。

〔髻子〕結髮のもとゞり。○〔揚維楨〕「新興─・─換ニ宮粧ニ」。

〔毬子〕まり、又、まりの形をなすもの。○〔范成大〕「─・─深黃」。

〔椰子〕椰樹の實。○〔七命〕「剖ニ─・─之殼ニ」。

〔荔子〕（植）れいし。○〔韓愈〕「─・─丹兮蕉黃」。

〔樵子〕きこり、木を採る者。○〔白居易〕「靜聞─・─語」。

〔妃子〕姬。○〔杜牧〕「一騎紅塵─・─笑」。

〔反側子〕彼にそむきて此れに就き、此れにそむきて彼れに就く、服從定まりなき者。○〔後漢〕「令ニ─・─自安ニ」。

〔傀儡子〕あやつり人形、くゞつ。○〔顏氏家訓〕「俗名ニ─・─ニ爲ニ郭禿ニ、有ニ故實ニ乎」。

〔錄囲子〕一家の依りて生活するを得る者の稱にいふ語。○〔明皇雜錄〕「阿摠、─・─倒矣」。

【子】

シ、ジ。疾之切　支

慈に通じ用ふ、いつくしむ、いつくしみ。○〔禮〕「易直─諒之心油然生」。

【子】

ケツ、吉列　屑　ゲチ。切　ギツ、激質　ギチ。切　質

一おくろ、（後）、のころ、（遺）、あまろ、（餘）、又、健全なり、すこやか。○〔詩〕「靡レ有ニ─遺ニ」。

二特出孤立にいふ字、ひとりだつ、ひとり、又、ひとりもの、（單獨）。○〔柳宗元〕「延陵巳上、四房子姓、各爲ニ單─ニ」。

三刃なき戟、又、一說に、戟のまたの旁に出でたるもの、ほこ。○〔左〕「授ニ師─ニ焉、以伐レ隋」。

四みじかし、（短）。

〔子々〕（い）水中の赤虫、ぼうふり。○〔淮〕「─・─爲レ蟁」。（ろ）孤立する貌にいふ語、又、特出の貌にいふ語。○〔詩〕「─・─干旌」。

〔句子〕ほこ。○〔周、註〕「戈─・─戟也」。

【孒】

ケツ、グワチ。居月切　月

一みじかし、（短）。二かたひぢ、片臂。

【孓】

キョウ、居竦　腫　ク。切　クツ、九勿　物　クチ。切

井中に棲める小き蟲、ぼうふり。

一畫

【孔】

コウ、ク。康董切　董

一はなはだ、はなはだし、（甚）。○〔詩〕「德音─昭」。

二むなし、（空）。○〔老〕「─德之容」。

三さほろ、（通）。○〔揚雄〕「─道夷如」。

四物のむなしくしてさほりたる箇處、あな、あひだ、すき間。○〔史〕「穿ニ其家旁─ニ」。

〔眼孔〕（い）めのたまのあな、轉じて、物事を觀察するとにいふ語。○〔唐〕「祿山─・─大、毋レ令レ笑レ我」。

〔毛孔〕身體に毛の生ふるあな。○〔韻會〕「平生不平事、盡向ニ─・─ニ散」。

〔隙孔〕あな。○〔詩、疏〕「使ニ室無ニ─・─ニ」。

〔百孔〕多くのあな、過失、缺點の義にも借りいふ字。○〔韓愈〕「─・─千瘡隨亂隨失」。

二畫

【孕】

ヨウ。以證切　徑

胎內に兒を懷く、身重になる、はらむ、はらみ。○〔易〕「婦─不レ育」。

〔胎孕〕兒をはらむ。○〔劉言史〕「豈有ニ─・─篇ニ」。

〔懷孕〕前に同じ。○〔後漢〕「妻還─・─」。

〔育孕〕前に同じ。○〔魏〕「乞停ニ李獄ニ以俟ニ─・─ニ」。

〔含孕〕前に同じ。○〔北〕「詔禁レ屠ニ殺─・─ニ」。

〔字孕〕前に同じ。○〔元〕「禽獸─・─、時無ニ狐獵ニ」。

〔娠孕〕前に同じ。○〔異苑〕「婦人─・─、未レ滿ニ三月ニ」。

〔畜孕〕前に同じ、禽獸にいふ語。○〔大戴禮〕「虎豹─・─焉」。「所ニ」。

〔孳孕〕前に同じ。○〔齋琳〕「不レ知ニ揉息─・─之」

三畫

【孖】

シ。子之切　支　疾置切　寘

古文の孳の字。

一雙生の子、ふたご。二滋に同じ、ますし、さかんなり。

【字】

シ、ジ。疾置切　寘

一子を生む、うむ。○〔山海經〕「服レ之不レ─」。

二乳を與ふ、ちのます、やしなふ、（養）。○〔左〕「使レ─ニ敬叔ニ」。

三あはれむ、いつくしむ、（愛）。○〔左〕「楚雖レ大非ニ吾族ニ也、其肯─レ我乎」。

四言語、意義を紙面に書き見はすに用ふる記號、支那にては、其の義相生じて窮まりなき意に採りて名づく、昔、黃帝の臣、沮誦と蒼頡との二人、鳥の

跡を摹して、創制せしをいふ、斯く、支那の字は、形象を本とするが故に、形象文字といふ。〇〔書斷〕「[illegible]隸書三千──奏レ之」。

㊄又、字を聯ねて一つの意味を成したるもの、即ち語句などにもいふ。〇〔元〕「片言隻─、流二傳人間一、咸知二寶重一」。

㊅實名の外の呼び名、あざな。〇〔蜀〕「嘗呼二先主一─」。

㊆あざなを付す、あざなす。〇〔儀〕「冠而─レ之、敬二其名一也、君父之前稱レ名、他人則稱レ─也」。

㊇女の許嫁するにいふ字、いひなづけ。〇〔易〕「女子貞不レ─、十年乃─」。

㊈牸に作る、女性の畜類。〇〔史〕「乘二─牝一者、擯而不レ得二聚會一」。

〔冠字〕男子のかんむりを着けあざなを付くること、元服、又、丁年に達したることに附りいふ語。〇〔禮〕「男子二十、─而─」。
〔笄字〕女子の人の妻となる約束と、のひて髮を結び笄を挿すこととなりてあざなをつくること、又、結婚の約をなすにもいふ語。〇〔禮〕「女子許嫁、─而─」。
〔文字〕言語意思を書き見はすに用ふる記號、又、章句。〇〔帝王世紀〕「蒼頡造二──一」。
〔玉字〕筆蹟のすぐれたるもじ、又、意味のすぐれたるもじの敬稱。〇〔沈約〕「金簡──之書」。
〔奇字〕形狀のくしき文字の六體の一。〇〔漢〕「劉棻嘗從レ雄學、作二──一」。
〔小字〕ちひさきときのあざな。〇〔後漢〕「變慨然而歎二呼幹──一」。
〔撫字〕いつくしみやしなふ。〇〔北〕「頻爲二本州一、留レ心──」。
〔草字〕最も畫を簡略ならしめたる字體。〇〔唐〕「與二子弟一屬レ吏書、不レ作二──一」。
〔沒字〕體の分明ならざるやうになしたる字、又、斯くなす、又、意味の不明なる文章を冷笑していふ語。〇〔五〕「不レ通二文字一、所レ爲鄙陋、時人謂二之──碑一」。
〔相思字〕互に思ひ思はる、心をあらはしたる文章。〇〔酬應物〕「反覆──、中有二故人心一」。
〔不立文字〕其の意義を文字もて書き見はすこと能はざること、即ち、以心傳心なること。〇〔高僧傳〕「達摩曰、我法以心傳心、不レ立二──一」。
〔譌字〕字畫正しからざる文字。〇〔北〕「刪二正──一、名曰二字辨一」。
〔古字〕むかし用ひて今は廢れたりし字。〇〔漢〕「初左氏傳多二──一」。
〔畜字〕獸類をそだてやしなふ。〇〔漢〕「天下亭々、有二──馬一」。
〔遂字〕十分に生育す、よくそだつ。〇〔漢〕「六畜─レ─」。
〔卑字〕いやしきあざな。〇〔漢〕「厭二高美之尊號一、好二匹夫之──一」。
〔號字〕となへ、又、あざな。〇〔許敬宗〕「今故雜以二──一、稍欲レ存二于古體一」。
〔姓字〕苗氏とあざなと。〇〔南〕「不レ詳二──一」。
〔寶字〕詔勅などの尊稱。〇〔宋〕「──煌々、冊書燦々」。
〔鳳字〕（い）前に同じ。〇〔宋〕「煌々──、玉氣宛延」。（ろ）凡鳥の隱語、人の凡庸なるを冷笑するにいふ語。〇〔世說〕「題二門上一作二──一而去」。
〔虛字〕おもに動作に關することを言ひ見はすに用ふる字。〇〔詩品〕「語無二──一」。
〔幼字〕をさな。〇〔水經、註〕「安定蓋其──也」。
〔題字〕人の見易き所へ字を書くこと、又、其の字。〇〔隋道銘〕「飛白──二十一」。
〔欠字〕文句の排列中に不足せる字。〇〔老學菴筆記〕「但似レ─二四─一」。
〔千金字〕價値ある字、（意味の上にも、又、形狀の上にも）。〇〔王維〕「市闕二──一」。

【存】ソン、ゾン。徂尊切　元

㊀命を保つ、生きてあり、いきながらふ、ながらふ。〇〔禮〕「致レ愛則─」。

㊁現在す、亡失せず、居る、あり、います（敬語）。〇〔孟〕「操則─、舍則亡」。

㊂亡失せざらしむ、ながらへしむ、保護す。〇〔漢〕「大王定二關中一、─レ亡定レ危、救レ敗繼レ絕、以安二萬民一、功盛德厚」。

㊃慰む、恤み問ふ、とふ。〇〔禮〕「養二幼少一、─二諸孤一」。

㊄かへりみる、（省）、みる、（察）。〇〔周〕「天官大喪─二奠彝一」。

㊅すゝむ、（前）、又、いたる、（至）。〇〔荀〕「所レ─者神」。

㊆安泰なり、やすし。〇〔史〕「─亡之難」。

〔思存〕心の、こり居ること。〇〔詩〕「雖二則如レ雲、匪二我──一」。
〔著存〕死者をしたひて其のなはながらへてある如く感せらるゝこと、おもふ、思念す。〇〔禮〕「──不レ忘二乎心一」。
〔普存〕徧く行き屆く。〇〔左〕「謂二民力之──一也」。
〔臨存〕其の人の許に往きて問ふ。〇〔漢〕「使二重臣──一」。
〔默存〕物事を安想の上に抽き出たすこと、想像すること。〇〔列〕「左右曰、王──耳」。
〔生存〕いきながらふ。〇〔陸游〕「──惟冀酒泉封」。
〔撫存〕なでいつくしむ、あはれみとふ、又、居る者をいつくしむ。〇〔後漢〕「──二萬姓一」。
〔愛存〕前に同じ。〇〔舊唐〕「敬徹──」。
〔安存〕やすらかなること。〇〔吳〕「忘二──之本一、邀二一時之利一」。
〔苟存〕無能にして生活すること。〇〔晉〕「靦然──」。
〔偷存〕前に同じ。〇〔江淹〕「豈敢──」。
〔寵存〕いたく親愛してあはれみとふ。〇〔晉〕「優二其禮秩一、──之」。
〔治存〕をさまりてやすし。〇〔說苑〕「乃──之風、安樂之爲也」。
〔長存〕ながらふ。〇〔楚辭〕「食二元氣一兮──」。
〔遺存〕のこりながらふ。〇〔歎逝賦〕「顧二舊要一於──」。

【[illegible]】存の本字。

四畫

【孚】フ。芳無切　虞

㊀鳥の卵、たまご、又、植物の種子、たね。〇〔禮、註〕「萬物皆解二─甲一、自抽二軋而出一」。

㊁孵化す、かへる、かへす、又、やしなふ（育）。〇〔揚雄〕「雞伏レ卵而未レ─」。

㊂期して違はざること、いつはりなきこと、まこと（信）。〇〔詩〕「成二王之─一」。

㊃玉の采光、つや。〇〔禮、疏〕「玉之爲レ物、─二尹於中一、而旁二達於外一」。

〔中孚〕易の卦の名、䷼兌下巽上。〇〔[illegible]〕
〔節孚〕言の少くしてまことのこもれること。「五辭──」。
〔信孚〕まこと。〇〔左〕「小─未レ─、神弗レ福也」。
〔忠孚〕まこと。〇〔[illegible]〕「──信格」。

【孚】フ。芳遇切　遇

前條の㊁に同じ。〇〔詩〕「萬邦作レ─」。

【孛】ハイ、ベ。蒲昧切　隊

㊀艸木盛んなり、しげる。

㊁むッとして顏色變ず、かほいろかはる。

㊂彗星、はゝきぼし、（其のあらはるゝは災異の徵なりとて忌む）。〇〔春秋〕「有二星─一、入二于大辰一」。

〔彗孛〕はゝき星。〇〔漢〕「──飛流、日月薄食」。
〔飛孛〕前に同じ、運行の迅速なるよりいふ。〇〔晉〕「──橫二於天漢一」。
〔妖孛〕前に同じ。〇〔舊唐〕「──夜移」。

【孛】ボツ、ボチ。蒲沒切　月

㊀色惡し、又、惡氣生ず、又、光の蔽はれて明かならざる貌にいふ字、くらし。〇〔漢〕「星辰不レ─、日月不レ蝕」。

㊁前條の㊀に同じ。

㊂借りて悖の字となす、もとる。

〔孛々〕くらし、又、色あし、又、惡氣あり。〇〔春秋、疏〕「言二其狀如レ─芒光──然一」。

【孛】ヒ、ビ。方味切　未　ホツ、ボチ。敷勿切　物

前々條の㊀に同じ。

【孜】シ。子之切　支

力めて愛を篤くす、つとむ、あつし、いつくしむ、又、念々其の物事を放棄せざるにもいふ、おもふ。〇〔書〕「惟曰──無二敢逸豫一」。

【孝】カウ、ケウ。呼教切 㕜 〔說文〕从二老省一、从レ子、子承レ老也。

㊀善く父母に事ふること、又、周の時代にては人の階級に從ひて其の稱へを異にす、天子にては、なる、（度）、卿、大夫にては、ほむ、（譽）、士にては、きはむ、（究）、庶人にては、やしなふ、（畜）、といふ。○〔孝〕「夫一者德之本也」。

㊁孝の道を行ふ人、善く父母に事ふる者。○〔漢〕「與レ廉擧レ一」。

〔純孝〕極めて善く父母に事ふること。○〔左〕「潁考叔一一也」。

〔追孝〕死にし人の靈に能く事ふること。○〔書〕「一于前文人二」。

〔達孝〕善く父母に事へて何れの時、何れの場處に係はらず人々の認めし孝行すること。○〔禮〕「武王周公夫一一矣乎」。

【斈】カウ、ケウ。古肴切 肴

ならふ、（效）。

【𡥈】カウ、ケウ。加孝切 效

みちびく、（導）。

五畫

【孟】バウ、ミヤウ。莫更切 敬

㊀人の上に立つ者、をさ、かしら、（長）、又、兄、姉にもいふ。○〔書〕「王若曰、一侯朕其弟小子封」。

㊁はじめ、（始）。○〔禮〕「一春之月」。

㊂つとむ、（勉）。○〔班固〕「盍三一晉以迨二羣辰一、候忽其不レ再」。

㊃おほいなり、（大）。○〔管〕「高言一行、以過二其情一」。

〔四孟〕春、夏、秋、冬の其のはじめの月。○〔漢〕「辰星出レ於二一一一」。

〔孔孟〕孔子と孟子とのこと。○〔張協〕「主希二一一一」。

〔優孟〕楚の樂人にて多辯滑稽にして諷諫をなしたる人。○〔漢　文帝〕「託二似於一一」。

【孟】バウ、マウ。母朗切 養 莫浪切 漾

疎漏なること、虛誕なること、みだり、おろそか。○〔莊〕「夫子以爲二一一浪之言一」。

〔浪孟〕みだり、おろそか。○〔笙賦〕「罔二一一一以惆悵一」。

【孡】タイ、テイ。土來切 灰

胎に作る、はらむ、（孕）。

【𡥉】シ。七支切 支

ほそわた、（小腸）、卽ち、胃の臟に連系せる長管の大腸、（くそぶくろ）までの稱。

【孢】ハウ、ヘウ。平巧切 巧

はらむ、（孕）。

【季】キ。居悸切 寘 〔說文〕从レ子从二稚省一。

㊀わかし。

（い）年少なし。○〔詩〕「有二齊一女一」。

（ろ）未だ成熟せず。○〔周〕「凡服耜斬二一材一」。

㊁わかき者、幼者、少年。○〔詩〕「母曰、嗟予一行レ役」。

㊂ちひさし、（小）、ほそし、（細）。○〔儀〕「掛二於一指一」。

㊃すゑ。

（い）兄弟の中にて最も年少き者。○〔左〕「高辛氏有二才子八人一、以二伯仲叔一一爲レ序」。

（ろ）終はりの時、又、終はらんとする時。○〔禮〕「一冬之月」。

（は）勢力の衰へたる時、亡ぶに近き時、秩序みだれたる時。○〔左〕「叔向問二晏子一曰、齊其何如、晏子曰、此一世也、叔向曰、雖二吾公室一、亦一世也」。

㊄時節。○〔夏侯湛〕「伊朱明之一節兮、暑熾赫以盛興一」。

〔標季〕すゑの時。○〔漢〕「當二陽數之一一一」。

〔艱季〕世のむつかしく亂れたる時。○〔齊〕「朕以二寡昧一、屬値二一一一」。

〔澆季〕亡びなんとする時、亂れたる時、すゑの時。○〔北〕「遭二當一一一」、思復二古始一」。

〔昏季〕智識なはくらくして年なほわかし　○〔隋〕「臣昔在一一一」。「多二花木一」。

〔四季〕春、夏、秋、冬、又、時のすゑ。○〔張蠙〕「一一一

〔昆季〕すゑのもの、弟、又、兄弟の義にもいふ語。○〔除陵〕「孤二三一一、方可レ載レ天被二此榮恩一」。

〔末季〕すゑの時。○〔曹植〕「子生二一一一」。

〔節季〕節の終はり、又、時節。○〔謝靈運〕「月孟一一」。

【孤】コ、ウ。古乎切 虞

㊀幼くして父なき者、又、兩親なき者、卽ち、恃みなき者、みなし兒、窮民の一つ。○〔禮〕「君子已一不レ更レ名」。

㊁王侯の謙稱。○〔禮〕「凡自稱小國之君曰レ一」。

㊂官の名、公の次ぎ。○〔書〕「立二少師、少傅、少保一曰二三一一」。

㊃ひとり。

（い）援けなきこと。○〔晉〕「固守經レ年、勢一力屈」。

（ろ）其の物のみなること、單獨なること、つれなきこと。○〔書〕「嶧陽一桐」。

㊄そむく、（負）。○〔李陵〕「陵雖レ一レ恩、漢亦負レ德」。

〔獨孤〕ひとり異ること。○〔杜甫〕「骨肉滿レ眼身一一」。

〔南面孤〕王者、又、諸侯、主は南に向かひて坐し孤と自稱するよりいふ。○〔劉孝威〕「昔爲二北方將一、今爲二一一一」。「以託二一一之一」。

〔六尺孤〕十四五歲ばかりなるみなしご。○〔論〕「可

〔朕孤〕そむく。○〔易〕「上九一一」。

〔幼孤〕みなしご。○〔漢〕「一一得二遂長一」。

〔孱孤〕（い）たよりなきみなしご、又、たよりなきもの。○〔後漢〕「賑二恤一一、則恩澤下暢」。

（ろ）獨立なること、たすけなきこと。○〔吳越春秋〕「願大王以二望人之心一、哀二一一之士一」。

〔煢孤〕前の（い）に同じ。○〔唐〕「君操一一」。

〔貞孤〕節を守りて獨立すること。○〔南〕「危機迴慴方識二一一之風一」。

〔偏孤〕助けなき幼者。○〔潘岳〕「少伶俜而一一」。

〔嫠孤〕たすけなきこと。○〔蘇軾〕「我生如レ寄良一一」。

【孥】ド、ヌ。農都切 虞

㊀帑に通じ作る、人の後に屬するもの、こ、（子）、又、つまこ、（妻子）、又、子孫、轉じて、鳥の尾。○〔孟〕「罪レ人不レ一」。

㊁僕隷、つかはれもの、やつこ、又、俘虜、さらはれ人、（古は、俘虜を收めて僕隷となしき）。○〔史〕「怠而貧者、擧以爲二收一一」。

〔妻孥〕つまとこと、又、眷族。○〔詩〕「宜二爾室家一、樂二爾一一」。「頌蹈交手傳レ權」。

〔徒孥〕つかはれ者、又、とりこ。○〔李淸臣〕「一一

【𡥦】ド、ヌ。暖五切 麌

こ、（子）。

【𡥧】ド、ヌ。奴故切 遇

つまこ、（妻子）。

六畫

【孨】セン。旨兗切 銑

㊀つゝしむ、（謹）。㊁みなしご、（孤）。

㊂あはれむ、（憐）。

【𡦂】エン。以轉切 獮

孱に同じ、つゝしむ、又、よわし。

【孩】カイ、ガイ。戸來切 灰

㊀生まれて少しく月を經たる兒、（齒類などにもいふ）又、笑ひ得る頃となり

たる兒、みどりご、ちのみご。　〇〔老〕「若₂嬰兒之未₁レ孩」。
㊁幼稚なり、いときなし、わかし。〇〔蘇廸〕「仲季時童孩」。
㊂嬰兒の笑ふにいふ字、わらふ。〇〔朱熹〕「小兒知₂孩笑₁」。　「之」。
㊃あごのした、頷下。　〇〔禮〕「孩而名レ」
㊄嬰兒の如くにとりなす。〇〔老〕「聖人皆孩レ之」。

〔嬰孩〕（い）ちのみご。　〇〔杜甫〕「自晒同₂嬰孩₁」。（ろ）ちのみごの笑ふにいふ語。〇〔顏氏家訓〕「敎₂婦始來₁、敎₂兒嬰孩₁」。
〔提孩〕前の（い）に同じ。　〇〔韓愈〕「提孩巧相如」。
〔始孩〕ちのみご、生まれたちのこども。〇〔寡婦賦〕「孤女藐焉始孩」。
〔棄孩〕すてご。〇〔蘇軾〕「灑レ涕循レ城拾₂棄孩₁」。
〔泥孩〕つちにんぎやう、土偶。　〇〔周必大〕「爭騎₂竹馬₁弄₂泥孩₁」。

【孯】　ケン。　居先切　先

㊀みなしご、ひとりご、（孤獨）。
㊁敬拜す、かゞむ、なかむ。

七畫

【㝆】　テイ、タイ。　土禮切　薺

わらはべ、（小兒）。

【孹】　セツ、セチ。之列切　屑　セイ。征例切　霽

いなむし、いなご、（蝗蟲子）。

【孫】　ソン。　蘇昆切　元

〔説〕从レ子从レ系。

㊀まご、うまご。
（い）先祖の後をつぐ者。　〇〔幽明錄〕「訊問得₂七世孫₁」。
（ろ）特に子の子、（祖父母に對していふ）。〇〔韓〕「今人有₂五子₁、不レ爲レ多、又有₂五子₁、而有₂二十五孫₁」。
㊁總べて、一つの分かれ生じたるものより更に分かれ生じたるものゝ稱。〇〔周〕「孫竹之管」。

〔子孫〕ことまごと、又、世つぎのもの、己れより分かれ出でたる血屬の稱。〇〔詩〕「宜爾子孫振々兮」。
〔子々孫々〕前の後段に同じ。〇〔詩〕「子子孫孫、勿₂替引₁レ之」。
〔曾孫〕孫の子、ひまご、重なるまでの義、又、外事の祭祀に祭主となりての自稱。　〇〔書〕「惟有道曾孫周王發」。
〔玄孫〕ひまごの子。　〇〔史〕「孫之孫爲レ何、曰、爲₂玄孫₁」。
〔來孫〕玄孫の子。〇〔爾〕「來孫此在₂無服之外₁」。
〔昆孫〕來孫の子。　〇〔左〕「孔張君之昆孫」。
〔仍孫〕昆孫の子。〇〔爾〕「仍孫以レ禮、仍付レ之耳」。
〔雲孫〕仍孫の子。　〇〔杜甫〕「玄元皇帝聖雲孫」。
〔外孫〕女子の子、即ち、外家に緣付きたる者より生まれたる者の義。　〇〔漢〕「遷外孫平通侯楊惲祖₂述其書₁」。　「錦裳」。
〔天孫〕たなばた、織女星。〇〔蘇軾〕「天孫爲織雲」
〔孽孫〕妾腹の子の子。〇〔史〕「故韓襄王孽孫也」。
〔耳孫〕玄孫の子、一說に、ひまご、又、一說に、玄孫のひまご。　〇〔漢〕「及₂內外公孫耳孫₁」。
〔順孫〕善くしたがひ事ふるまご。　〇〔漢〕「孝孫弟弟貞婦順孫」。
〔含飴弄孫〕祖父母のまごのもりをするとに借りいふ語。〇〔後漢〕「但當₂含レ飴弄レ孫、不₃復能₂關レ政」。
〔稻孫〕稻を刈りたる株に生えたるもの。〇〔番禺雜錄〕「稻再生曰₂稻孫₁」。
〔龍孫〕（い）駿馬の種類。　〇〔康〕「靑海旁馬多₂龍種₁、曰₂龍孫₁」。
（ろ）竹の一種。〇〔東齋紀事〕「辰州有₂一種小竹₁、曰₂龍孫竹₁、生₂山谷間₁、高不レ盈レ尺、細如レ鍼」。
（は）筍の別名。〇〔陸游〕「蒲林無レ數長₂龍孫₁」。
〔弱孫〕いとけなきまご。　〇〔王羲之〕「率₂諸子₁抱₂弱孫₁」。
〔王孫〕公子に同じ、貴族の若君。　〇〔楚辭〕「王孫遊兮不レ歸」。
〔神孫〕天子の位を承くる人の敬稱。　〇〔韓愈〕「聖子神孫繼₂々承₁々於千萬年₁」。
〔孝孫〕子の子より以下のまでの家の祭祀に臨むときの自稱。〇〔詩〕「孝孫有レ慶」。
〔離孫〕姉妹の子の子。
〔歸孫〕前に同じ。　「之」。
〔從孫〕兄弟のまご。　〇〔國〕「共之從孫、四岳佐レ」
〔公孫〕王侯のまご。〇〔漢〕「及₂內外公孫耳孫₁」。
〔嫡孫〕家を繼ぎ位を承くるまご。　〇〔漢〕「爲₂世嫡皇孫₁」。
〔皇孫〕天子のまご。〇〔後漢〕「皇孫綠車以從」。
〔兒孫〕こどもとまごと。〇〔王勃〕「弄₂兒孫₁於礎祿₁」。
〔末孫〕すゑの血統に在る者、子の子の順序にてすゑに在る者。〇海錄碎事〕「雖レ有₂禹湯之德₁、不レ能レ訓₂末孫之桀紂₁」。
〔穉孫〕いとけなきまご。　〇〔陸游〕「醉中亦有₂穉孫扶₁」。　「懷抱₁」。
〔雛孫〕前に同じ。　〇〔李商隱〕「稚子雛孫滿吾

【孫】　ソン。　蘇困切　願

遜に同じ。
（い）したがふ、（順）。　〇〔論〕「孫以出レ之」。
（ろ）のがる、（遁）。〇〔春秋〕「三月夫人孫₂于齊₁」。

【娩】　ベン、メン。無遠切　阮　美辨切　銑
ハン、ホン。　芳萬切　願　ブン、モン。　文運切　問

子を生む、うむ。

【㜸】　クワイ、ケ。　呼怪切　卦

好からず、あし。

八畫

【孮】　ソウ、ズ。　徂宗切　冬

子孫の隆盛なるをにいふ字、さかんなり。

【孯】　カン、ケン。　苦閑切　刪

かたし、（固）。

【孰】　シュク、ジュク。殊六切　屋

㊀煮えとほりてなま氣を失す、にゆ、又、煮えをとほらしむ、にる。　〇〔禮〕「腥其俎、孰₂其殺₁」。
㊁豐かに實のる、みのる、（稔）。　〇〔禮〕「五穀時孰」。
㊂精しくして細かなるを、つまびらか、つばら、又、つまびらかならしむ、つまびらかにす、つばらにす、（審）。　〇〔漢〕「其孰レ之復レ之」。
㊃問を設くるときに用ふる字。
（い）如何なる人かの義、たれ、たぞ、たれぞ、（誰）、（人、若しくは、人として對するときに）。　〇〔楚辭〕「辭圜則九重、孰營₂度之₁」。
（ろ）如何なるものか、いづれか、いづれぞ。　〇〔論〕「是可レ忍也、孰不レ可レ忍也」。

九畫

【孲】　ア、エ。　於家切　麻

あかご、（赤子）。

【㝅】　ク、コ。　臼許切　語

ひとり、みなしご、（孤）。

【孱】　セン、ゼン。　士連切　先

㊀呻吟す、うめく、うなる。　〇〔張雨〕「覆レ杯酒腸孱」。
㊁せまる、（迮）、ちゞまる、ちゞむ、（蹙）、又、くるしむ、（窘）。　〇〔曾鞏〕「懊₂爾慄寒₁、養₂其饑孱₁」。　「王孱王也」。
㊂よわし、（弱）、おとれり、（劣）。〇〔史〕「吾王孱王也」。
〔孱孱〕鄙しくしてかよわし。　〇〔沈約〕「臣以₂孱孱、幼無₂秀業₁」。
〔虛孱〕有をすて、おなしきに就き剛を避けてよわきに就く道、黃帝、老子の主義とせる所のもの。　〇〔白居易〕「投レ道安₂虛孱₁」。
〔膚孱〕淺はかにして堅固ならぬ。　〇〔宋祁〕「謬局膚淺、術學孱孱」。
〔窘孱〕懦弱にして身心に堪ふる所なし。　〇〔强至代都運趙待制謝表〕「若レ臣窘孱、于レ事迂拙」。

〔疾孱〕やみてよわし。○沈遼「千里馳レ書慰二ーー一」。

〔愚孱〕性質おろかにしてこゝろよわし。○〔司馬光〕「山林付二ーー一」。

【孱】サン、ゼン。作閑切 刪

せばし、（窄）。

【孱】サン、ゼン。士限切 潸

懦に通じ用ふ。○〔蘇軾〕「攝レ衣歩二ーー

顏一」。

【孭】ベイ、ミヤウ。眉病切 敬

初めて孕む、はらむ。

【孻】ケツ、ケチ。傾雪切　エツ、エチ。一決切 屑

かく、（缺）。

十畫

【孶】ケイ、キヤウ。葵營切 庚

俗の煢の字、ひとり、（獨）。

【孵】フウ、ブ。扶留切 尤

おほし、（多）。

【孺】シユ、ス。仄遇切 遇

本孀に作る、はらむ、みごもる、みもち、（孕身）。

【孳】シ、ジ。子之切 支

㊀殖えて數多くなる、ふえる。○〔論衡〕「田則有二種一ー速熟之穀一」。

㊁孜に同じ、つとむ。○〔孟〕「ーーー爲レ善者」。

【孶】シ、ジ。疾二切 寘

さかる、こゝをおもふ。○〔書〕「鳥獸ーー尾」。

【㝅】コウ、ク。居候切 宥　ドウ、ヌ。奴豆切 宥

㊀乳を給す、ちのます、やしなふ。

㊁知識なし、おろか、（ー瞀）。

【㝆】ギ。牛起切 紙

盛んなる貌にいふ字、又、衆多なる貌にいふ字、おほし、又、さかんなり。○〔杜甫〕「羅二詭異一以戢ーー」。

【孵】フ。芳無切 虞

卵を子に化せしむ、かへす 又、卵子に化す、かへる。○〔陸績〕「自ー而鷇」。

【孵】フ。芳遇切 遇　一或は、㝊に作る。

そだつ、（育）。

十一畫

【孷】リ。里之切 支　艮志切 寘

㊀一たびの產にて生まれたる兩兒、ふたご、雙生。○〔揚雄〕「陳、楚間、凡人嘼乳而雙產曰二ーー孖一」。

㊁一說に、孤に同じ、ひとり、又、みなし「ご」。

十三畫

【學】カク、ゴク。胡覺切 覺

㊀まなぶ。

（い）他を標準として從ひなす、まねて行ふ、ならふ。○〔許敬宗〕「ーレ鑿齊二柳嫩一」。

（ろ）教を受く、業を授かる、從ひて修む、ならひて研く、又、知る、覺悟す、さとる。○〔中〕「博ーレ之、審問レ之」。

㊁まなびの道、さとる法則、一の條理を定めて物事を研修する方法、又、其れに關しての主義、定見。○〔唐〕「長盡能通二六經百家ーー」。

㊂人のあつまりてまなびの道を修むる處、學校、庠序。○〔禮〕「天子命二之教一、然後爲レー」。

㊃まなびの道にたづさはる者、學生、學者。○〔程顥〕「初ーー入レ德之門也」。

〔幼學〕（い）をさなくして學びの道に志す。○〔孟〕「夫人ー而ーレ之」。

（ろ）年十歲なるもの、稱、古へ支那にて十歲になりぬれば學校に入りしよりさかいへり。○〔禮〕「人生十年曰二ーー一」。

〔宦學〕上に仕ふると人たる道をまなぶと。○〔禮〕「ーーー事レ師、非レ禮不レ親」。

〔獨學〕師友のたすけをからずしてひとりまなぶと。○〔禮〕「ーー而無レ友、則孤陋而寡レ聞」。

〔強學〕勉めて學ぶ。○〔禮〕夙夜ーー以待レ問」。

〔好學〕學びの道をすく。○〔禮〕「ーレー不レ倦」。

〔文學〕（い）經史詞章の學び。○〔論〕「ーーー子游子夏」。

（ろ）文字にたづさはる職。○〔史〕「恬嘗書レ獄典二ーー一」。

〔曲學〕道ならぬ學び。○〔史〕「窮鄕多レ異、ーーー多レ辨」。

〔經學〕道德の學び。○〔漢〕「見レ上語二ーー一、上說レ之」。

〔鄕學〕（い）學びの道に心を寄す。○〔漢〕「湯由レ是「ーレー」。

（ろ）二千五百家ある邑に設けたる學校。

〔內學〕未來の事を知る學びの道、其の秘密を崇ぶが故に內といふ。○〔後漢〕「自レ是習爲二ーー一」。

〔耳學〕自ら修めずして耳に人よりきゝて知り得たる學び。○〔南〕「衆人附二見古今一、不レ如二下官ーー一也」。

〔淫學〕節儉にしてたゞれたる學問。○〔呂氏春秋〕「至治之世、其民不レ好二ーー流說一」。

〔心學〕こゝろをさむる學びの道。○〔韓愈〕「猶自將二ーー一」。「司徒一」。

〔升學〕學校に入る。○〔禮〕「ー二於ー一者、不レ征二於

〔視學〕學舍に行きて其の景況をしらべみる、又、其の人。○〔禮〕「王親ーレー」。

〔右學〕大夫の老いたる者を養ふ處。〔左學〕庶氏の老いたる者を養ふ處。○〔禮〕「殷人養二國老於右ー、養二庶老於左ーー一」。

〔講學〕學問をならふ。○〔禮〕「ーー以明レ之」。

〔博學〕汎く學問に渉ると、又、其の人。○〔禮〕「博ーーー而不レ窮、篤行而不レ倦」。

〔國學〕天子の都及び諸侯の城中に設けたる學校にて天子と諸侯との子弟及び國中の俊秀の子弟を教育する學校。○〔禮〕「術有レ序、ー有レー」。

〔廢學〕學びの道をすて、習はず。○〔吳景逸〕「兒嗜甘二ーー一、母老最關レ心」。

〔善學〕學問のすゝみのよきと。○〔禮〕「ーー者、師逸而功倍、又、從而庸レ之、不二ーー一者、師勤而功半、又從而怨レ之」。

〔志學〕學問に心を寄す、又、古昔支那にて十五歲になりぬれば大學に入りて修身、齊家、治國、平天下のとを學びたりしより年十五になるもの、稱とす。○〔論〕「吾十有五而ー二於ー一」。

〔庠學〕五百家の邑に設けたる學校。○〔周、疏〕「鄕中有二賢者一、皆集在二ーー一」。

〔精學〕精に學問を研きをさむ。○〔後漢〕「隱居ーー、博貫二五經一」。

〔遊學〕鄕里を離れて他鄕にまなぶ。○〔讖〕「ーーー博聞」。

〔儒學〕人倫道德の學問、又、特に孔孟の學派。○〔史〕「好二ーーー一被服、造次必于二儒者一」。

〔篤學〕學びの道に志あつし。○〔史〕「顏淵雖二ーーー一、附二驥尾一而行益顯」。

〔私學〕（い）己れ一人の利益のみを主とする學問。○〔史〕「ーーー乃相與、非二法敎之制一」。

（ろ）政府の補助を仰がずに、一個人、又は、多數の人の力によりて設けたる學校。

〔宿學〕碩學鴻儒といふに同じく學問上の經歷淺からざる人。○〔史〕「雖二宗世ーーー一、不レ能二自解免一也」。

〔校學〕諸侯の國に設けたる學校。○〔漢〕「ーーー置二經師一人一」。

〔五學〕東學、西學、南學、北學、太學の五つの學舍。○〔漢〕「此ーーー者、既成二於上一」。

〔六學〕國子學、大學、四門學、律學、書學、算學の六つの學科。○〔舊書〕「國子監有二ーーー一」。

〔字學〕文字をかく學びの道。○〔後漢〕「敎二之ーーー一、遂以二通博一稱」。

〔卒學〕學問を受け習ふ。○〔後漢〕「卒當レ從レ汝ーーー、勿レ畏也」。

〔術學〕學問といふに同じ。○〔後漢〕「面レ牆――、不レ識二賢否一」。
〔薄學〕學びの道に經驗の乏しきもの。○〔後漢〕「又以二――一、充二在講勸一」。
〔敦學〕あつくまなぶ、又、學にあつき人。○〔蘇頲〕「――舊爲レ師」。
〔傳學〕つたへ來たれる學びの道を受けつぐ。○〔後漢〕「子孫―レ―不レ絕」。
〔義學〕人たる道を教ふる學問。○〔後漢〕「由レ是――大興」。
〔碩學〕學びの道にあかるくして名高き人。○〔後漢〕「――之徒、莫二之或從一」。
〔積學〕學問をかさね長ぜ。○〔後漢〕「夫子――、當三日知二其所一レ亡」。
〔祕學〕天文、算數、曆、陰陽、占候などの學び。○〔晉〕「訓少好二――一」。
〔友學〕貴人の學問するに副ひて共に學ぶと、又、其の人。○〔梁〕「天監初、臨川王以下、竝置二――一」。
〔未學〕未熟なる學問。○〔陳〕「臣――小生、詞無レ足レ算」。
〔晩學〕年長けて後の學問。○〔陳〕「――鑽仰、徒深二倚レ席之歎一」。
〔家學〕己れが家に傳はり來たりし學問。○〔北〕「式少專二――一」。
〔俗學〕鄙しくして高尙ならざる學問。○〔北〕「――鄙習、復加二虛造一」。
〔就學〕學びの道に入る。○〔北〕「初――、始讀二孝經一」。
〔玄學〕高妙深遠なる學問、又、老子、莊子の學。○〔北〕「能言二名理一、以二――一知レ名」。
〔蕃學〕外國の學問。○〔宋〕「乞置二――一、以敎二蕃酋子弟一」。
〔僞學〕眞正ならぬ學問、又、其の時代の宗とするに反する學問。○〔宋〕「官專臂二――一、然未レ有二誦言攻レ之者一」。
〔奥學〕まなびの道にふかし。○〔宋〕「高偉醇レ文――、爲二世宗仰一」。
〔苦學〕はなはだつとめまなぶ。○〔宋〕「隨レ父官二江寧一、閉レ戶――」。
〔勤學〕前に同じ。○〔魏〕「人少好レ學則思專、長則善忘、長大而能――者、惟余與二袁伯業一耳」。
〔道學〕道德を主とする學問、又、宋儒が說く所の理氣の學問。○〔朱熹〕「――心期未二遠失一」。
〔雜學〕種々なることをまなび知れる學問、又、其の人。○〔關尹子〕「野物不レ爲二犧牲一、――不レ爲二通儒一」。

〔詞學〕文辭の學び。○〔劇談錄〕「蜚者、仰二卿材器一、今日親二卿――一」。
〔梵學〕佛教の學問。○〔甘澤謠〕「――之外、音律大通」。
〔竺學〕前に同じ。○〔朱熹〕「迷二心味性一、洒二――一」。
〔洛學〕程顥程頤の二子が主として說ける性命理氣の學問。○〔雲麓漫抄〕「紹熙尙二程氏一、曰二――一」。
〔禪學〕心を明かにし理に達する佛家の學。○〔羅湖野錄〕「――高妙」。
〔字學〕文字の學問、卽ち書家の學び、又、文字の畫を取り調ぶる學問。○〔硏北雜志〕「晉、宋人、書法妙絕、未二必盡曉一――」。
〔膚學〕淺薄なる學問。○〔謝靈運〕「淺思――」。
〔贍學〕學問の豐富なること。○〔鮑照〕「鉅生六年、――淵聞」。
〔同學〕同じき學びの窓におひたちたる友。○〔杜甫〕「取二笑――翁一」。
〔種學〕學問の增殖をはかる。○〔韓愈〕「――績文以蕃二其有一」。
〔蘊學〕學問をつむ、學問深し。○〔錢珝〕「以二――之優一、當二否選求之要一」。
〔後學〕後進の學生。○〔蘇軾〕「前生自是廣行者、――過呼韓退之」。
〔冬學〕農家にて十月の交に農隙を利用して子弟を學に就かしむること。○〔陸游〕「俚儒朱邊開二――一」。
〔放學〕每日の課業を終へて學校を退き去ること。○〔陸游〕「食香乳却還家飯、恰似兒童――時一」。
〔四門學〕天子の宮門に設けたる學校、周の時には四方の郊に設けたりしが路程のあまりに遠きをもて四門に置くこととなりぬ、隋の時には國子監に隷屬したりしが唐に至りて大學と同じく置くことはなりぬ。○〔唐〕「入二――一爲二俊士一」。
〔申韓學〕申不害、韓非子が主とせる法律の學、意、刑名の學に同じ。○〔後漢〕「性嚴厲、好二――之―一」。
〔章句學〕一章一句の些末なる詮索にのみ拘はり心を費やして大體に通せざる學問。○〔後漢〕「少能辯理、而不レ爲二――一」。
〔大乘學〕佛教中の深理の部分を說きたる學問、又、單に、佛教の學校。○〔周書〕「四方競爲二―――之―一」。
〔國子學〕天子の都城內に設けて貴族、及俊秀の子弟を敎育する學問、唐の時に始めて置かれたり。○〔唐〕「願二入學一者、除二―――一讀レ書」。
〔從橫學〕合從連衡の學問、卽ち蘇秦張儀が說き始めたるにもとづきていふ、辯をもて人を說伏し己れの意見に從はしむる學問。○〔唐〕「伯耆者、有二――一、志健而望高、急二於立一レ名」。

〔老莊學〕老聃と莊周とが主とせる虛無澹泊の學問。○〔金〕「后好二詩書一、尤喜二――一」。
〔程朱學〕宋の程顥程頤の兄弟と朱熹とが說ける性命理氣の學問。○〔元〕「北方知レ有二――之―一」。
〔楊墨學〕楊朱、墨翟が說きたる學問、楊朱は自學を說き墨翟は兼愛を說く孔孟の學よりは異端の學として卻けられたり。○〔論衡〕「――之―、不レ亂二傳義一、則孟子之傳不レ作」。
〔瞿曇學〕佛氏の學。○〔宣和畫譜〕「精二黃、老――之―一」。
〔淨土學〕前に同じ。○〔劉程之〕「集二於廬山之般若臺一、修二――之―一」。
〔鄒魯學〕孔孟の學。○〔李白〕「地扇二――一」。
〔洙泗學〕前に同じ。○〔盧象〕「人歸二――之―一」。
〔墨池學〕文字を書き習ふ學問、卽ち書家の學問。○〔權德輿〕「猶輕昔日――」。
〔臨池學〕前に同じ。○〔陸游〕「小草――」。
〔我猶學〕兵法の學問。○〔李泌〕「早洞二――之―一」。
〔方外學〕孔孟の教の外の教、卽ち佛氏の教などにいふ語。○〔眞德秀〕「雖二早從二――之―一、而跬步不レ忘二君父一」。
〔西晉學〕澹泊を宗とし世事に拘はらざる學問。○〔劉克莊〕「玄詠易レ流――」。
〔記問學〕修練を積まざる學問。○〔禮〕「――之―、不レ足二以爲一レ人師」。

【⿰子卑】ヒ、ビ。頻彌切 支

俾に同じ、城の上にあるひめがき、(女墻)。

【⿰子者】ト、ツ。董五切 麌

かき、(垣)。

【⿰子重】チョウ、チュウ。竹用切 宋

ちしる、(乳汁)。

十四畫

【孺】ジュ、ニュ。而遇切 遇 〔說文〕从レ子需聲。

㊀幼弱なり、いさけなし、をさなし、又、をさなきもの、ちのみご、こども。○〔史〕「――子可レ教」。
㊁をさなきもの父母に親しみなつく、志たふ、(慕)。○〔詩〕「和樂且―」。
㊂自ら專にせず、他に從ふ、つく、(屬)。○〔禮〕「大夫曰二――人一」。
㊃交尾す、つるむ。○〔莊〕「烏鵲―、魚傅レ沫」。
〔庸孺〕つねなみなるものと幼稚なるものと。○〔歐陽修〕「――人――子、皆得二易而侮一レ之」。
〔童孺〕いとけなきもの。○〔南〕「元嘉時――、哀樂盡レ猶」。
〔孩孺〕前に同じ。○〔北〕「――時、家有二柳樹一、高百許尺」。
〔幼孺〕前に同じ。○〔酷顓士〕「有二啼呼之――一」。
〔嬰孺〕前に同じ。○〔盧肇〕「捽二我――一」。
〔孤孺〕いとけなくして父母に離る。○〔唐〕「宗族――者、皆爲二婚嫁一」。

【孻】ダイ、ナイ。泥台切 灰

老人の生みたる幼き子、をしよりご。

十六畫

【孽】ゲツ、ゲチ。魚列切 屑

㊀官に沒入せられたるはした女の君王の寵を受けて生みたる子、卽ち、罪あるもの丶子、轉じて、總べての妾腹に生まれたる者の稱、わきばらの子。○〔史〕「商君衞之諸庶――公子也」。
㊁賤しき生まれの者、又、其の人の血統を賤しめていふ稱。○〔張憲〕「癩梟本爲二太原―一」。
㊂頭に戴く、いたゞく、盛んに飾る、かざる。○〔詩〕「庶姜――、庶士有レ朅」。
㊃うれふ、(憂)、いたむ、(痛)。○〔戰〕「有下鴈從二東方一來上、更羸以二虛發一而下レ之曰二此―也一」。

㊄將に壞れんとする貌にいふ字。○〔詩、箋〕「言-々猶二——一將レ壞貌」。

㊅妖害、わざはひ。○〔左〕「蘊レ利生レ——」。

〔孤孽〕助けなくしてひとりたちたるもの、又、血すぢの賤しきもの。○〔孟〕「獨——臣——子、其操レ心也危、其慮レ患也深」。

〔庶孽〕妾腹の子。○〔漢〕「備二位-介、願二——一」。

〔支孽〕前に同じ。○〔史〕「大臣蕃-輔、——楚-夷」。

〔餘孽〕滅びたる家より生まれたる子。○〔晉〕「祚且——、附二傳家臣一」。

〔妖孽〕前に同じ。○〔後漢〕「——並興、無功之致」「之——」。

〔庶孽〕身分賤しき者。○〔晉〕「暴二萬機之重一、委二——一」。

〔戚孽〕親族中の血統賤しき者。○〔唐〕「頃王室不レ造、中宗獻レ代、——專レ亂」。

〔守孽〕佞幸の臣。○〔荀悅〕「省閨淸淨、——不レ生」。

〔雜孽〕前に同じ。○〔王回〕「納二——於驕奢一兮」。

十七畫

【孽】俗の孼の字。

【孆】エイ、ヤウ。於盈切 庚 みどりご（孩）。

廿二畫

【孿】サン、セン。生患切 諫 レン、ラン。力貫切 先 ㊀ふたご（雙生）。㊁かはる（變）。

宀部

【宀】ベン、メン。武延切 先 交へ覆ふ深き室、おほふ。

二畫

【宁】チヨ、ヂヨ。直呂切 語 ㊀佇立す、たゞずむ。○〔禮、註〕「人君視レ朝、所ニ——立一處」。

㊁門の内と屏の外との間には。○〔詩〕「俟二我于——一」。

〔庭宁〕門内のには。○〔御正〕「——未レ踐、而棟折榱翟」。

【宂】ジヨウ、ニユ。而隴切 腫

㊀むだ、いたづら、あだ。（い）必要の外なるを、無能なるを、不用なるを、又、足りて餘分あるを、あまり（剩）。○〔杜牧〕「衆皆以爲二除レ煩去一レ—」。（ろ）無事なるを、閑散なるを、ひま。○〔周〕「稾人掌レ共二外-内朝——食者之食一」。

㊁入り亂る、まじる（雜）、又、繁雜なり、いそがはし（忙）。○〔金〕「天-下之大、萬-幾之衆、錢-穀之——、非二九-重所一能兼一」。

㊂定まりたる居處なし、流浪す、さまよふ。○〔後漢〕「流二——道-路一、朕甚愍レ之」。

〔浮宂〕むだ、あだ、無益不用。○〔漢、註〕「刪二去——一」。

〔疲宂〕勢力のおとろへて無能なること。○〔宋〕「吾雖二——一、亦嘗聽二君-子之緖-論一」。

〔疾宂〕地位いやしくしてひまなること。○〔白帖〕「或自二——一、擢-進至二侍-從一」。

〔宂々〕入り亂れたること、又、いそがはしきこと。○〔王僧孺〕「枚二——于畏途一」。

〔凡宂〕無能なること。○〔蔡邕〕「臣愚以二——一、招二致禍患一」。

〔庸宂〕其の實なくして不用なること。○〔蔡邕〕「沙二汰——一」。

〔閒宂〕職務なきこと。○〔魏〕「——之官、本非二虛置一」。

〔散宂〕前に同じ。○〔王禹偁〕「況復官——」。

〔濫宂〕無用なるものをいつでも多くおくこと。○〔宋〕「員既——」。

〔纖宂〕こまかき事柄の入り亂れたること。○〔梅堯臣〕「百事乃——」。

〔除宂〕粗末にて不用なること。○〔韓愈〕「雜器多二——一」。

【宅】タ。湯何切 歌 古文の佗の字。

㊀へび（蛇）。○〔說文〕「上-古艸-居慮レ—、故相二問無レ—乎一」。

㊁佗と他とに同じ、其の物事に非ざるを、ことなり、よそ、ほか。○〔易〕「終來有二—吉一」。

【宄】キ。居洧切 紙 外にて惡事をはたらくを、あし、かしまし、よこしま（姦）。○〔書〕「寇-賊姦——」。

三畫

【宅】タク。場伯切 陌 〔說文〕从レ宀毛聲。

㊀託居の處、ゐどころ、すまひ。○〔書〕「太-保朝至二于洛一卜レ—」。

㊁地位。○〔書〕「克用二三——三-俊一」。

㊂住居を構ふ、をる、すまふ、又、地位を與ふ、おく。○〔書〕「使レ—二百-揆一」。

㊃安らかならしむ、さだむ（定）。○〔書〕「亦惟助レ王——二天-命一」。

㊄死者を葬る處、墓穴、つかあな。○〔禮〕「大-夫卜レ—與二葬-日一」。

〔田宅〕田地と家屋と。○〔史〕「王-翦請二——園-池甚衆一」。

〔樂宅〕たのしきすまひ。○〔晉〕「安-鄕——」。

〔靈宅〕すまひ。○〔天台賦〕「仙-靈之所二——一」。

〔湫宅〕せばき家。○〔揚雄〕「——閑レ門」。

〔弊宅〕あばらや、又、己れの家を稱するに用ふる語、○〔王維〕「——僻因レ之」。

〔雲宅〕顔面のこと、又、尺宅ともいふ。○〔黃庭內景經〕「——既淸玉-帝遊」。

〔常宅〕いつものすまひ。○〔宋、鮑照七誡〕「生-氣變-動、不レ居二——一」。

〔舊宅〕もとの家。○〔後漢〕「置二酒——一」。

〔故宅〕前に同じ。○〔水經、註〕「孔-廟卽夫-子之——也」。

〔園宅〕いへ、すまひ。○〔後漢〕「——充レ破-壞者」。

〔火宅〕佛家よりうき世をさしていふ語、煩惱のために身をなやまさるゝ、熱、苦しき場處。○〔法華經〕「三-界無レ安、猶如二——一」。

〔第宅〕屋敷。○〔杜甫〕「王-侯——皆新-主」。

〔大宅〕（い）おほいなるすまひ。○〔吳〕「僞將家有起二——一者」。（ろ）天地。○〔後漢〕「遊二精——一」。

〔別宅〕ほかのやしき、べつさう。○〔晉〕「營-造二——一、而居耳」。

〔寄宅〕かりのすまひ。○〔莊〕「——二于旦一、死則夜」。

〔安宅〕身をやすらかにするところ。○〔孟〕「仁天之尊-爵也、人之——也」。

〔甲宅〕立派なるすまひ。○〔李白〕「連レ甍開二——一」。

〔枯宅〕さかえざる地位。○〔阮籍〕「灰-心寄二——一」。

〔義宅〕人を救助する爲めに建てたるすまひ。○〔宋〕「凡得二恩-例賜-俸一、均二分于族-人一、并置二義-田——一焉」。

〔私宅〕官のいへに對しておのが所有のいへ。○〔梁〕「無二——一、常假二官-客-車-輿-居一焉」。

〔肆宅〕みせ。○〔尉繚〕「農不レ離二其——一」。

〔帝宅〕宮城。○〔唐〕「東-都乃——、公當レ守レ之」。

【宊】キウ、ク。居又切 宥 イウ、ウ。與久切 有 本、疚に作る。貧しくしく病む、やむ。○〔詩〕「煢-々在レ—」。

【宆】寧に同じ、寧と宆とを分かちて二となすは非なり。

【宇】ウ、ヂ。王矩切 麌 籀文には寓に作る。

㊀家のやねの四邊の壁よりでばりて覆ひ下がりたる處、のき、又、のきの下、のきした。○〔易〕「上-棟下—、以蔽二風-雨一」。

㊁轉じて、やね、又、家屋、いへ。○〔晉〕「剪レ茅結レ—」。

㊂國土の境、邊土、さかひ、ほとり。○〔國〕「先-王規-方千-里、以爲二甸-服一、其餘以均二分公、侯、伯、子、男一、使三各有二寧——一」。

㊃無限の空間、天地、上下四方。○〔莊〕「有レ實、而無乎處者宇也」。
㊄物の垂れ下がりたる處、でばりたる處。○〔周〕「輪人爲レ蓋、下欲レ尊、而宇欲レ卑」。
㊅人の度量、規模、品性、たち、人さなり、きりやう。○〔晉〕「風度宏邈、器宇高雅」。
㊆おほいなり、(大)。○〔荀〕「爾宇寬瑣」。
㊇心胸、こゝろ、精神、たましひ。○〔莊〕「宇泰定者、發二乎天光一」。

〔峻宇〕たかきのき。○〔書〕「峻宇彫牆」。
〔胥宇〕相ともに居る、同棲す。○〔詩〕「爰及二姜女一、聿來胥宇」。
〔土宇〕くに、天下。○〔詩〕「爾土宇昄章亦孔之厚矣」。
〔疆宇〕さかひ。○〔後漢〕「秦二承鴻業一、大開二疆宇一」。
〔德宇〕人の品性。○〔魏〕「其沖虛德宇、未レ若二徐幹之粹一也」。
〔姿宇〕すがたかたち。○〔晉〕「劉生姿宇神調、命世之才也」。
〔天宇〕そら、あめ。○〔晉〕「丹二儀天宇一」。
〔衡宇〕木を横たへたるのき、粗末なるいへ。○〔陶潛〕「乃瞻二衡宇一、載欣載奔」。
〔邃宇〕奥深きのき、即ち、大家高屋ののき、轉じて、大家高屋、又、貴人の家の義にいふ語。○〔鹽鐵論〕「高堂邃宇」。
〔眉宇〕かほ、みめ。○〔唐〕「眉宇秀整、性謹潔」。
〔萬宇〕天下、四境。○〔宋〕「澤被二萬宇一」。
〔玉宇〕たまにてかざりたるのき。○〔拾遺記〕「瓊樓玉宇」。
〔杜宇〕(動)はとゝぎす。○〔衡經〕「江左曰二子規一、蜀右曰二杜宇一」。
〔閒宇〕しづかなるいへ。○〔曹植〕「幽房閒宇」。
〔顏宇〕やうす、たち。○〔王儉〕「顏宇弘深喜慍莫レ見」。
〔隣宇〕すきまあるのき、やぶれたるいへ。○〔柳宗元〕「頽簷隣宇而處焉」。
〔梵宇〕寺、寺ののき。○〔江總〕「飛開二梵宇一、面二臨丘一」。
〔紺宇〕くろきいろののき、貴人の家。○〔蘇軾〕「朱門收二眞截一、紺宇出二青蓮一」。
〔宮宇〕すまひ、らへ。○〔後漢〕「宮宇器服」。

〔館宇〕(い)やかた。○〔晉〕「館宇崇麗」。
(ろ)人を容る、制限の義に假り用ふる語。○〔梁〕「賢開二館宇一、招二內後進一」。
〔基宇〕(い)度量、規模。○〔蜀〕「機權幹略不レ逮二魏武一、是以基宇亦狹」。
(ろ)もとゐ。○〔北〕「齊之基宇、止在二於斯一」。
〔帝宇〕くにの敬稱。○〔晉〕「功冠二帝宇一」。
〔區宇〕さかひ、さかり。○〔晉〕「表二提類一而分二區宇一」。
〔宅宇〕いへ、又、のき。○〔晉〕「家乘二宅宇一」。
〔風宇〕人のやうす、又、たち。○〔晉〕「神識沉敏、風宇條暢」。
〔牆宇〕(い)かきとのきと。○〔孔融〕「繕二治牆宇一」。「以俟レ還」。
(ろ)度量。○〔晉〕「牆宇凝曠逸操金貞」。
〔重宇〕層樓ののき、かさなれるいへ。○〔衛恒〕「崇臺重宇」。
〔峯宇〕國のはとり。○〔揚雄〕「徐州之土、邑二於峯宇一」。
〔頃宇〕前に同じ。○〔吐固〕「恢拓頃宇一」。
〔甍宇〕かはらにて葺きたる屋根。○〔曹植〕「甍二其甍宇一」。
〔飛宇〕高大なる家などののき、高くあがりたるよりいふ。○〔何晏〕「飛宇承レ霓」。
〔海宇〕くに、國土。○〔陳傳良〕「海宇正無レ虞」。
〔氣宇〕度量、品性、規模。○〔陶弘景〕「氣宇調暢」。
〔僧宇〕てら。○〔蘇軾〕「却傍二孤城一得二僧宇一」。
〔蓬宇〕よもぎの生えてあるやね、いぶせき家。○〔袁楠二僞沢蓬宇徒低擢〕。

【宅】

古文の冏の字。○〔元包經〕「惟宅衆宅レ不レ順」。

【守】

シウ、シュ。書九切 宥 〔說文〕从レ宀从レ寸。

㊀まもる。
(い)其の局に臨む、其位を占む、其の職に就く。○〔易〕「何以守レ位、曰仁」。
(ろ)持ちて失はず、をさめて放さず、したがひて背かず。○〔王羲之〕「謹守二時命一、宣二國家威德一、固當レ不レ同二乎凡使一」。
(は)保護す、たもつ。○〔周〕「獸人職、掌二田則守一レ罟」。
(に)視掌す、つかさどる。○左「山林之木、衡麓守レ之」。
(ほ)防禦す、ふせぐ。○〔易〕「王公設レ險、以守二其國一」。

㊁まもり。
(い)職掌、責任、つとめ、やくめ。○〔周〕「平二其守一」。
(ろ)節操、主義、みさを、むね。○〔易〕「失二其守一者其辭屈」。
(は)防備、警戒、そなへ、ふせぎ。○〔左〕「設レ守」。

〔居守〕とゞまりまもると。○〔左〕「荀罃居守」。
〔自守〕みづからたもつ。○〔道德指歸論〕「自二守一我之精神一」。
〔株守〕古昔宋のすに農夫あり兎の走りて株にふれ死ぬるを視しより耕作をやめて株を守り再び兎を得んと望みたる故事よりいつまでも一事をかたくまもりて變はらざる者をあざけりいふ語。○〔王禕〕「乃知兎株守」。
〔神守〕すつぽんの異名。○〔養魚經〕「魚滿二三百六十一則能飛去、內有レ鱉則不レ飛、故謂レ鱉爲二神守一」。
〔專守〕業務、しごと。○〔禮〕「是天子之專守也」。
〔警守〕戒め護る。○〔左〕「警守而下」。
〔堅守〕前に同じ。○〔史〕「陳留堅守不レ能レ下」。
〔屯守〕とゞまりまもる。○〔後漢〕「發二屯守之士一」。
〔鎭守〕しづめ護る。○〔魏〕「又宜レ有二鎭守之重臣一」。「有二鎭守一」。
〔德守〕德義をまもる。○〔逸周書〕「貧賤者、觀二其德守一」。

【守】

シウ、シュ。舒救切 宥

もまり。
(い)まもろ場處。○〔魏〕「至レ今境守淸靜」。
(ろ)まもる官人、つかさ。○〔魏〕「秦始能レ侯置レ守、設レ官分レ職不二與レ古同一」。
〔郡守〕一郡を支配する宮、秦の時に始まりき。○〔庸〕「郡守縣令」。
〔太守〕前に同じ、漢の景帝の時に始まりき。○〔漢〕「郡守秦官、掌二治其郡一、秩二千石、景帝更名二太守一」。
〔留守〕主たる人の外に在るに代はりてつかさどる人。○〔唐〕「以二高祖一爲二弘化留守一」。
〔假守〕かりのつかさ。○〔史〕「誅二秦所レ置長吏一、以二其黨一爲二假守一」。
〔邊守〕はとりをまもるつかさ。○〔後漢〕「赦二魏尙之罪一、使レ爲二邊守一」。
〔宰守〕つかさ。○〔後漢〕「宰守曠遠、戶口殷大」。
〔良守〕よきつかさ。○〔晉〕「足レ食足レ兵、在二於良守一」。
〔屯守〕たむろ。○〔晉〕「大興屯守」。

【安】

アン。烏寒切 寒 〔說文〕从三女在二宀下一。

㊀やすし、又、やすらか。
(い)靜かなり、定まれり、無事なり。○〔禮〕「國安而天下安」。
(ろ)うれひなし、よろこばし、心地よし。○〔宋〕「好レ安願レ逸、萬物之大趨」。
(は)危からず、災害に遠し。○〔賈誼〕「置二之安處一則安、置二之危處一則危」。

㊁やすんず。
(い)定む、しづむ、やすらかにあらしむ、おちつかす。○〔禮〕「此五行者、足二以正レ身安一レ國」。
(ろ)定まる、しづまる、やすらかなり、しづかなり、やすむ、おちつく。○〔後漢〕「令二反側子自安一」。
(は)すう、おく、(置)、又、とゞむ、(止)。○〔戰〕「安二其兵一」。
(に)とゞまる、進まず、滿足す、自ら十分なりとす。○〔禮〕「君子莊敬、日强、安肆日偸」。

㊂焉に同じ、反語をなして否定の意を表はす字、何として、いかにぞの義、いづくにか、いづくにぞ、(何)。○〔禮〕「吾將安仰」。

〔安々〕やすらか。〇〔書〕「欽-明文-思一一」。
〔晏安〕一に、燕安に作る、たのしむ、又、滿足す。〇〔左〕「一一鴆-毒不レ可レ懷也」。「一」。
〔乂安〕をさまりてやすらかなり。〇〔史〕「諸-夏一一」。
〔治安〕前に同じ。〇〔漢〕「因-陳二一・一之策一」。
〔輕安〕てがるくして心地よし。〇〔王安石〕「下レ牀投レ杖覺二一・一一」。「一之貫一」。
〔舒安〕たふとくしてあやふからず。〇〔史〕「處二一
〔平安〕無事なり、やすし。〇〔名臣言行錄〕「得二家-書一、見二一・一字一、卽-投-篋中一、不二復展-讀一」。
〔完安〕あやふからず。〇〔漢〕「勢必一・一」。
〔全安〕前に同じ、又、やすんず。〇〔漢〕「所二以一二一之一也」。
〔便安〕たよりよし。〇〔後漢〕「爲二吏-民所二一・一一」。
〔撫安〕なづむ、やすんず。〇〔魏〕「一二一百-姓一」。
〔苟安〕かりそめに一時のやすきをむさぼること。〇〔後漢〕「愉-存二一・一一」。
〔偸安〕前に同じ。〇〔宋・范〕「年豐何幸且一・一」。〇
〔慰安〕なぐさめやすんず。〇〔唐〕「召二見其家一一二一之一」。
〔恬安〕なづか。〇〔漢〕「其性一・一」。
〔偏安〕かたよりやすんずること。〇〔諸葛亮〕「漢賊不二兩-立一、王-業不二一・一一」。
〔閑安〕靜かにしてやすらかなること。〇〔李白〕「婦-子得二一・一一」。「一之一」。
〔悅安〕よろこばし、よろこばす。〇〔禮〕「弟以一二一之一」。
〔妥安〕やすし。〇〔唐〕「關-中一・一」。
〔鎭安〕なづむ、又、なづまる。〇〔宋〕「一二一百-姓一」。
〔磐石安〕いはほのゆるがざるがごとくに定まりてやすきこと。〇〔荀〕「仁-人用レ國、則國安如二磐-石壽二於旗翼一」。
〔泰山安〕泰山といふ大いなる山のゆるがぬが如くにやすきこと。〇〔符夫論〕「居二累-卵之危一、而圖二一・一之一」。
〔容膝安〕ひざをいる・とやすし、卽ち、起居のやすきにいふ語。〇〔陶潜〕「審二一・一之易一」。

〔宂〕古文の突の字。〇〔乾坤鑿度〕「下一濟二河-沱一」。

四畫

〔宊〕トツ、トチ。他骨切 [月]
本、突に作る、出で見はるゝ貌にいふ字、又、出づる貌にいふ字、いづ、あらはる。〇〔揚雄〕「江-湘間謂二卒相見一曰レ一」。

〔宋〕ソウ、スウ。蘇統切 [宋] 〔說文〕从レ宀从レ木。
㊀國の名、昔殷の微子の周に奔りて封ぜられたる處、春秋十二列國の一、隋の時に至り改めて州となす、宋の時には更に改めて應天府となす、卽ち、今の河南省の歸德府なり。〇〔左〕「一大辰之墟也」。
㊁をる、ゐる、(居)。

〔完〕クワン、グワン。胡官切 [寒] 〔說文〕从レ宀元聲。
㊀全に同じ、まったし。〇〔戰〕「不レ如二伐レ蜀之一一」。
㊁まったうす。
(い)全からしむ。〇〔史〕「子-胥之智、而不レ能レ一レ吳」。
(ろ)つくろふ、(繕)。〇〔左〕「大-叔一レ聚」。
㊂古文の寬の字。
〔繕完〕つくろふ。〇〔左〕「以二敝-邑之爲一レ盟-主一、一二-其墻一」。「可二以息一レ師」。
〔修完〕前に同じ。〇〔左〕「敝-邑雖レ陋若早一・一其
〔補完〕前に同じ。〇〔唐〕「一・一溫レ費」。
〔堅完〕すぐれてかけたるところなし。〇〔唐〕「銳-士三-千、武-備一・一」。
〔謹完〕つゝしみふかくして缺けたるところなし。〇〔唐〕「履-操一・一」。「一・一」。〇
〔堅完〕かたくしてまったし。〇〔文徵明〕「秉レ志亦
〔完完〕かけたるところなし。〇〔韓愈〕「月形如二白-盤一、一・一上天-東一」。

〔完〕グヮツ、ゴチ。五勿切 [物]
髮を去るの刑。〇〔漢〕「一爲二城-旦一」。

〔宀介〕カイ、ケ。古拜切 [卦]
ひとり、(獨)。〇〔揚雄〕「畜無レ偶曰レ一」。

〔宍〕古文の肉の字、本、宍に作る。〇〔淮〕「欲レ一之心亡二於中一、則餓-虎可レ尾」。

〔宎〕エウ。伊鳥切 [篠] 伊堯切 [蕭]
亦、窔に作る。
㊀室の東南の隅、すみ。〇〔莊〕「鶉生二於一一」。
㊁ふかし、(深)、又、ふかき處、又、あなゝごより發する聲。〇〔莊〕「一者咬者」。

〔宏〕カウ、コウ。戶崩切 [庚]
㊀屋の深き響、ひゞき、又、おほいなり、(大)、ひろし、(廣)、又、ふかし、(深)。〇〔班固・賦〕「泓一融-裔」。
㊁ふかくす、ひろぐ、おほいにす。〇〔書〕「用一二茲-賁一」。
〔恢宏〕廣きこと。〇〔蘇軾〕「餘-地多一・一」。
〔宏々〕ひろし、おほいなり、ふかし。〇〔集異記〕「新-宮一・一」。

〔宾〕ベン、メン。莫甸切 [霰]
冥合す、かなふ。

〔宐〕宜の本字。

〔宑〕セイ、シヤウ。積省切 [梗]
舍の非、ゐど。

五畫

〔宓〕ビツ、ミチ。美畢切 [質]
㊀ひそか、(祕)、しづか、(靜)。
㊁だまる、(默)、又、とゞまる、とゞむ、(止)。
㊂疾を去る、いゆ。㊃やすし、(安)。

〔宓〕フク、ボク。房六切 [屋] 今の伏ノ字、古は宓をもて虙と爲すは傳寫の誤りなり。
人の名。

〔宲〕ハウ、ホウ。搏抱切 [豪]
をさむ、かくろ、又、かくす、(藏)。〇〔書〕「陳一二赤-刀一」。

〔家〕寂に同じ。〇〔楚辭〕「野一一漠其無レ人」。

〔宔〕シユ、シユ。腫庾切 [麌] 〔說文〕从レ宀主聲。
主に通じ作る、たまやのぬし、(神主)、又、たまやのぬしを藏むる石の櫝。〇〔左〕「許-公爲レ反二祏一一一」。

〔宕〕タウ、ダウ。大浪切 [漾] 〔說文〕从レ宀碭省聲。
㊀すぐ。
(い)ゆきすぐ、とほる。〇〔穀梁〕「長-翟弟-兄三-人、佚二一中-國一」。
(ろ)度に超ゆ。〇〔隋〕「久棄二舊-體一、競造二繁-聲浮一一一」。
㊁聲にいふ字。〇〔曹植〕「一一當二何依一」。
㊂岩石の深く凹みたる處、あな、ほらあな。〇〔集韻〕「采-石-工謂二之一-戶一」。
〔偈宕〕かたよりあること。〇〔後漢〕「典-辭一・一」。
〔流宕〕遠方に出づること。〇〔漢樂府艶歌行〕「一・一在二他-縣一」。
〔跌宕〕常度に過ぐ。〇〔金〕「一・一不-羈」。
〔疎宕〕前に同じ。〇〔北〕「一・一不レ拘レ時」。
〔豪宕〕前に同じ。〇〔金〕「性一・一不レ拘二細-行一」。
〔砰宕〕舟の水を擊つ貌にいふ語。〇〔左思〕「汨乘レ流以一・一」。

〔宖〕カウ、グワウ。胡肱切 [庚]
㊀屋の響にいふ字。㊁やすし、(安)。

【窌】ハウ、ヘウ。披教切 效

醉ひて起つ、たつ、又、さけに醉ふ。

【宗】ソウ、ス。作冬切 冬

❶分出したる物の本源、おもなるを、かなめなるを、もと、みなもと、おほもと。○〔莊〕「以レ天爲レ一、以レ德爲レ本」。

❷第一なり、地位高し、たふとし、（尊）。○〔書〕「今王即命曰、記二功一一」。

❸首位者、おも立ちたる人、たふとき者、をさ、つかさ。○〔晉〕「若學必爲二一代談一一」。

❹祖先の中にて最も德のあらはれたる者、又、祖先の通稱。○〔禮〕「周人祖二文王一而一二武王一」。

❺一の祖先より分かれ出でたる親族、即ち同姓。○〔詩〕「一一子維城」。

❻一の主要なる說より分かれ出でたる學派、又、教旨。○〔靑巖叢錄〕「道家南北二一、南一先レ性、北一先レ命」。

❼君王に謁見す、朝會す、まみえ、まみゆ。○〔周〕「諸侯朝二於天子一、春見曰レ朝、夏見曰レ一」。

❽奉じて本源となす、のっとる、むれとす、尊しとなす、たふさぶ、又、歸向す、おもむく。○〔史〕「孔子以二布衣一傳二十餘世一、學者一レ之」。

❾種類。○〔後魏〕「書以二八十一策一、誤作二八十一一一因曲爲二之解一」。

〔六宗〕尊びて祭る所のもの、天地四方をいふ、又、一說に、三昭、三穆を稱すといひ、又、一說に、天にては日、月、星の三つと地にては河、海、岱の三ッとを併せて稱すといふ語。○〔書〕「禋二于一一」。

〔岱宗〕泰山は四嶽のをさたるよりいふ。○〔書〕「東巡狩至二于一一」。

〔朝宗〕群臣の天子に謁見する義より川流の海に聚まり注ぐにいふ語。○〔書〕「江漢一二一于海一」。

〔瞽宗〕殷の時代の學校の稱。○〔禮〕「一一殷學也」。

〔文宗〕文章につきて一家の流派のもと、なること。○〔唐〕「是必爲二海內一一一」。

〔詩宗〕詩をつくる人の中にて最もたふとき者。○〔漢〕「世爲二魯一一一」。

〔强宗〕勢力あるいへ。○〔後漢〕「一一右族」。

〔河宗〕かはのつかさ、かはのかみ。○〔穆天子傳〕「以祭二一一」。

〔眞宗〕まことのおね、いつはりなき教理。○〔孟郊〕「謁レ師見二一一一」。

〔祖宗〕せんぞ。○〔漢〕「功光二一一、業垂二後嗣一」。

〔殊宗〕ことなれる流派、教旨。○〔五燈會元〕「勿下以二一一一爲上レ戒」。

【官】クワン。古丸切 寒

〔說文〕从レ宀从レ㠯。

❶一國の大小の政をあつかふ所、政府、朝廷、又、私に對して、おほやけ、（公）。○〔周〕「二曰、一禁」。

❷つかさ。

（い）政府に奉仕する地位、おほやけの等級、又、地位等級に割りあてられたる職責、やくめ、つとめ。○〔禮〕「班レ朝治レ軍涖レ一行レ法非レ禮威嚴不レ行」。

（ろ）おほやけのくらゐに處り其のつとめに當たり其のことをあつかふ人、吏員、司僚。○〔後漢〕「善事二上一一無レ失二名譽一」。

（は）はたらきありて一の任にあたるもの。○〔孟〕「心之一則思、思則得レ之」。

❸つかさ人の出勤する廳舍、やくば。○〔禮〕「在レ一不レ俟レ屨」。

❹つかふ。

（い）奉仕す、任用せらる、やくに就く。○〔禮〕「一二於大夫一者之爲二之服一也」。

（ろ）吏となす、任用す、やくに就かす。○〔荀〕「一レ人益レ秩」。

❺法に從ふ、つとめに任ふ。○〔荀〕「以二正志一行二察論一則萬物一矣」。

❻つとめに當たる、ことを處置す、主となりて掌視す、つかさどる。○〔禮〕「大德不レ一」。

〔戶官〕つかさとなりて其のはたらきなきこと。○〔書〕「羲和一二厥官一、罔二聞知一」。

〔五官〕（い）五つ通りのつかさ。○〔禮〕「一一之長曰レ伯」。

（ろ）耳と目と鼻と口と皮膚と。○〔荀〕「心居二中虛一、以治二一一一」。

〔天官〕（い）周の時の宰相、つかさのをさにして宮禁を治むる者。○〔周〕「一一冢宰、曰二治官之屬一」。

（ろ）星のこと。○〔史〕「學二一一於唐都一」。

（は）天子につかふる者の義よりつかさの敬稱。○〔獨斷〕「百官小吏曰二一一一」。

（に）前條の（ろ）に同じ。○〔包〕「聖人淸二其天君一、正二其一一一」。

〔地官〕司徒の役、即ち、主に教育をつかさどり、軍政、刑罰、禮法、祭祀、土木を除くの外、國內にある土地人事に係はる總べてのわざをつかさどるもの。○〔周〕「一一司徒、曰二教官之屬一」。

〔春官〕宗伯の役、即ち、禮法祭祀をつかさどるもの。○〔周〕「一一宗伯、曰二禮官之屬一」。

〔夏官〕周の時代の司馬、即ち、軍政をつかさどりしもの。○〔周〕「一一司馬、曰二政官之屬一」。

〔秋官〕司寇の役、刑罰をつかさどるもの。○〔周〕「一一司寇、曰二刑官之屬一」。

〔冬官〕六職の役、土木工作をつかさどるもの。○〔周〕「一一、考工記、國有二六職一、百工與居レ一焉」。

〔庶官〕もろ〳〵の役人。○〔書〕「推レ賢讓レ能、一一乃和」。

〔兼官〕本官の外に別の役向きを司ること。○〔詩、疏〕「上云二卿士一、此云二元老一、皆一一也」。

〔門官〕門衞の役、又、其の人。○〔左〕「公傷レ股、一一殲焉」。

〔世官〕代々同じ役目を守る。○〔孟〕「士無二一一一」。

〔學官〕學校の官舍をいふ。○〔漢〕「修二起一一于成都市中一」。

〔上官〕高き役、又、其の人。○〔後漢〕「善事二一一一、無レ失二名譽一」。

〔千官〕百官といふに同じ、もろ〳〵のつかさびと。○〔王維〕「共蓉闕下會二一一一」。

〔史官〕歷史を編輯する役、又、其の者。○〔晉〕「司馬談父子、皆爲二一一一」。

〔中官〕宮中に仕ふる役にて宦者をいふ。○〔後漢〕「於レ是一一始盛焉」。

〔宦官〕前に同じ、又、閹官とも稱す。○〔後漢〕「中興之初、一一悉用二閹人一」。

〔兵官〕武官に同じ。○〔後漢〕「一一皆肄二孫、吳兵法六十四陣一」。

〔音官〕音樂のつかさ。○〔國〕「瞽率二一一一、以省二風土一」。

〔美官〕高き位地の役。○〔詩話總龜〕「誘以二一一一」。

〔微官〕卑官に同じ地位のひくき役。○〔岑參〕「不敢恥二一一一」。

〔卑官〕前に同じ。○〔韓愈〕「判司一一不レ堪レ說」。

〔左官〕諸侯につかふるつかさ。○〔後漢〕「一一外附之臣、依二託權門一」。

〔稗官〕世間の風說などを書きとむるつかさ。○〔漢〕「小說者流、蓋出二于一一一」。

〔鄉官〕さとの役場。○〔漢〕「鄉亭一一」。

〔熱官〕事務のはげしきつかさ。○〔北〕「非レ不レ愛二一一一」。

〔諫官〕君王の非惡をいさむるつかさ。○〔唐〕「亂一一也」。

〔衙官〕役所。○〔唐〕「我文章、當下得二屈宋一作中一一上」。

〔冷官〕秩祿のうすく地位のいやしきつかさ。○〔張籍〕「獨宜レ作二一一一」。

〔譯官〕つうべんのつかさ。○〔漢〕「有二行人一一一」。

〔法官〕裁判のつかさ。○〔唐〕「處斷平允爲二一一之最一」。

〔長官〕つかさのをさ。○〔唐〕「故事臺無二一一一」。

【宙】チウ、チユ。直又切 宥

❶無限の時間、むかしよりいまになり更にゆくへに及ぶひま、過去、現世、未來の流轉、往古來今。○〔莊〕「有レ長而無二本剽一者一也」。

❷そら、あめ、天。○〔王勃〕「霜凝二碧一一、水瑩二丹霄一」。

〔紫宙〕あめ、そら。○〔徐彥伯〕「告二一一之成功一」。

〔宇宙〕上下四方、天地間、又、世の中。○〔後漢〕「可下以陵二霄漢一、出中一一之外上矣」。

【定】テイ、ジヤウ。徒徑切 徑

㊀さだまる。
(い)穩かにある、平ぎ治まる、おちつく、志づまる(靜)、やすまる(安)。○[書]「一-戎衣天-下大ー」。
(ろ)移らず、散らず、一所に著きてゆるがず、とゞまる(止)、こる(凝)。○[莊]「宇泰ー者、發ニ乎天-光ー」。
(は)易はらず、疑はしからず、判明す、たしかになる、きまる(決)。○[禮]「位ー然後祿レ之」。
(に)寢に就く、休息す、やすむ。○[白居易]「入ー月朧明」。
(ほ)にえさほる、熟す、にゆ。○[禮]「羹ー詔ニ於堂ー」。
㊁さだむ。
(い)さだまりてあらしむ、志づむ、やすんず、たゞす、きむ、とゞむ、やすます、にろ、㊀の條參照)。○[易]「天-地ーレ位」。
(ろ)おく(奠)。○[國]「ーニ三-革ー」。
(は)寇を亡ぼす、敵を降服せしむ。○[史]「可ニ傳レ檄而ー一也」。
㊂丘の名。○[爾]「左-澤曰レー」。
㊃星の名。○[詩]「ー之方中、作ニ于楚-宮ー」。
㊄ひたひ(額)。○[詩]「麟之ー」。
㊅すき(鋤)○[爾]「斪-斸謂ニ之ーー」。
㊆佛家にて坐禪觀法をおさめ、寂靜三昧、即ち、無念無想の域に住するをいふ、又、淸淨心。○[智度論]「入レー水-火不レ能レ害、亦不ニ命終ー」。
㊇疑ひなく、必ず、さだめて。○[世說]「綿ー奇溫」。
(未定) まださだまらぬこと。○[[illegible]子]「雖ニ[illegible]ニ野、衆人逐レ之、分ーレー也」。
(鑒定) くらべたゞす、おもに書物についていふ。○[唐]「ーニー墓-書ー」。
(校定) 前に同じ。○[唐]「皆手ーー」。
(戡定) 勝ち鎮む。○[梁元帝]「ーー方無レ遠」。
(討定) 前に同じ。○[南]「道-濟雖レ不ニーー河-南、全レ軍而反」。「之と」。
(輯定) 前に同じ。○[唐]「臣請下發ニ州兵ーーー」。
(綏定) やすんず。○[漢]「未レ能ニーーー」。
(保定) 前に同じ。○[詩]「天ーニーー爾ー」。
(擊定) 討ち平ぐ。○[史]「將軍蒙驁ーニーー之ー」。
(建定) たてまうく。○[漢]「ーニーー天-地之大禮ー」。
(撫定) やすんじ鎮む。○[漢]「欲ニ以ーニーー韓地ー」。
(更定) 改めきむること。○[漢]「張-湯以レーニーー律-令ー、爲ニ廷尉ー」。
(清定) 何事もなくをさまること。○[後漢]「今海内「ーー」」。
(創定) 始めさだむ。○[魏、誌]「ーニーー王-業ー」。
(制定) 作りきむること。○[後漢]「肅-宗欲レーニーー禮-樂ー」。
(豫定) 前以てきむること。○[後漢]「既不ニーーーー」。
(落定) おほいにさだむ。○[魏、誌]「ーニーー西-隴ー」。
(奏定) 上聞に達してきむること。○[後漢]「ーニーー六-經文字ー」。
(撰定) 撰びさだむ。○[晉]「ーニーー官-卷ー」。
(匡定) 輔けさだむ。○[晉]「ーニーー大-業ー」。
(刊定) 削りさだむ。○[唐]「讎-校精審、明ニ于ーーー」。
(僉定) をさまること。○[周書]「九-州ーー、景-福在レ民」。
(釐定) さだむること。○[唐]「乃詔ニ有司ーーー」。
(商定) はかりさだむ。○[唐]「亦請ニ一-切ーーー」。
([illegible]定) あらためさだむ。○[唐]「無レ所ニーーー」。
(戡定) をさめしづむ。○[唐]「陛下ーニーー多-難ー」。
(寧定) やすらかに治なる。○[淮]「天-下ーー」。
(簡定) 撰びさだむ。○[曹植]「ーニーー律-曆ー」。
(定々) 止どまる貌にいふ語。○[李商隱]「ーー住ニ天-涯ー」。

【宛】エン、ヲン。於阮切 阮 [說文]屈レ草自覆也。

㊀曲ぐ、曲がる、かゞむ(屈)。○[周]「弓有ニ六-材ー、爲ニ欲ニー而無レ負レ弦」。
㊁逆はず、志たがふ(順)、又、ゆづる(讓)。○[詩]「好-人提-提、ー-然左辟」。
㊂坐ろに志かく見ゆるにいふ字、さながら、あたかも。○[詩]「ー在ニ水中-央ー」。
㊃四邊高くて中央の低きこと、なかくぼ。○[詩]「ー-邛之上」。
㊄四邊低くして中央の高きこと、なかたか。○[爾]「ーー中ーー丘」。
(宛々) のびかゞみする貌にいふ語。○[漢]「ーー黃-龍興レ德」。
(曲宛) かゞむ。○[爾]「[illegible]-別之間、曰レ淵、々宛也、言ニーーー也」。
(東宛) たけのこの異名。

【宛】エン、ヲン。於願切 願

小なる貌にいふ字。○[詩]「ー彼鳴-鳩」。

【宛】ウツ、ヲチ。紆勿切 物

死さ鬱さに通じ用ふ、ふさがる、いきごもる。○[史]「寒-濕氣ー」。

【宜】ギ。魚羈切 支

㊀よろし、又、よし。
(い)其の事に適す、其の所を得たり。○[周]「山-林、其動-物ーニ毛-物ー、植-物ーニ皂-物ー」。
(ろ)安しとする所なり、このまし、可とすべし。○[列]「教-化不レ能レ違レ所レー」。
(は)相應せり。○[梁簡文帝]「春-風本自奇、楊-柳最相ー」。
(に)便利なり。○[淮]「用ーニ其人ー」。
(ほ)和順なり。○[詩]「ーニ其室-家ー」。
(へ)善美なり。○[太元]「是ーー-德」。
(と)よろしき程度、よろしき理義、よろしき物事。○[禮]「不レ易ニ其ーー」。
㊁好む、よろしとす、よみす(善)。○[禮]「子甚ーニ其妻ー」。
㊂よろしきに適せしむ、よろしくす、又、事に從ふ、こととす。○[詩]「公-尸來燕來ー」。
㊃志かあるべき理なること、當然、うべ、むべ。○[禮]「武之遲-久、不ニ亦ーー乎」。
㊄決定の意を表はすときに用ふる字、よろしく(先づ讀みて)、べし(返し讀む)。○[孟]「ーニ若レ小然ー」。
㊅祭りの名、又、其の祭りを行ふ、まつる。○[書]「類ニ于上帝ー、ーニ于冢-土ー」。
(時宜) ときのよろしきこと。○[漢]「動-欲レ慕レ古、不レ度ニーーー」。
(便宜) たよりよきこと。○[漢]「臣願見レ上言ニーーー」。
(權宜) 前に同じ。○[後漢]「計-日用之ーーー」。
(機宜) よきはづみ。○[韓愈]「衆-動合ニーーー」。

六畫

【[illegible]】クワイ、ケ。吉娃切 佳

たかどの(樓)。

【[illegible]】カフ、コフ。口合切 合

あふ(合)。

【客】カク、キヤク。苦格切 陌 [說文]从レ宀各聲。

㊀まらうど。
(い)招待したる人、訪ひ來たれる者。○[禮]「然後出迎レー」。
(ろ)國內に居る他國の人。○[史]「十-年大索逐レー」。
(は)すべて、外より來たれる者の稱、外寇などにもいふ字。○[易]「重-門擊-柝、以禦ニ暴ーー」。
㊁主者に對する者の稱。○[老]「不ニ敢爲レ主而爲レー」。
㊂旅行せる人、とほりがゞりの人、故郷を離れたる人、定まりたる住居なき者、たびゝと。○[史]「關-法雞鳴而出レー」。
㊃身を託する人、寄食者、同寓者。○[論衡]「漢將-軍衞-青及霍-去-病、門無ニーーー、亦稱ニ名-將ー」。
㊄人士。○[謝朓]「寄レ言賞-心ー」。

⑥故鄕を離れたるを、たび。○〔閻寛〕「―土何時歸」。

⑦添へ加へたるを、後より至りたるを。○〔漢〕「―土疏惡」。

〔嘉客〕よきまらうど。○〔詩〕「我有二―一」。

〔尊客〕身分高きまらうど。○〔譚〕「―之前不レ叱レ狗」。

〔貴客〕前に同じ。○〔楊訓〕「開レ筵引二―一」。

〔食客〕かゝりうど。○〔史〕「―數千人」。

〔說客〕他を說きに行く者、卽ち、辯士のこと。○〔史〕「酈生常爲二―一」。

〔劍客〕劍術つかひ。○〔漢〕「―輻湊」。

〔俠客〕男だて。○〔王融〕「驅レ車追二―一」。

〔狎客〕人の遊びに供する人。○〔陳〕「號爲二―一」。

〔閑客〕（い）（動）しろさぎの異名。○〔楊文公談苑〕「白鷳曰二―一」。

（ろ）ひまなる客。○〔杜牧〕「願爲二―一此閑行」。

〔雪客〕（い）（動）さぎの異名。○〔楊文公談苑〕「鷺曰二―一」。

（ろ）雪中の客。○〔李洞安〕「挑レ燈――棲二寒店一」。

〔仙客〕（い）（動）つるの異名。○〔楊文公談苑〕「鶴曰二―一」。

（ろ）やまびと。○〔唐明皇〕「――獻二人間一」。

〔南客〕（い）（動）くじやくの異名。○〔楊文公談苑〕「孔雀曰二―一」。

（ろ）南方の旅人。○〔耿湋〕「苑偶宿俱――」。

〔西客〕（動）あうむの異名。○〔楊文公談苑〕「鸚鵡曰二―一」。

〔詞客〕詩歌などを作る人。○〔張子容〕「凌レ雲――語」。

〔詩客〕前に同じ。○〔周賀〕「―往來頻」。

〔淸客〕（植）うめの異名。○〔花譜〕「梅爲二―一」。

〔嬌客〕（い）（植）しやくやくの異名。○〔三柳軒雜識〕「芍藥爲二―一」。

（ろ）女壻を稱していふ語。○〔蘇軾〕「王郞非二――一」。

〔水客〕（い）（植）ひしの花の異名。○〔三柳軒雜識〕「菱花爲二―一」。

（ろ）水中に沒する人、又、漁人にいふ語、沒人に同じ。○〔七命〕「――唱二江南之曲一」。

〔淵客〕前の（ろ）に同じ。

〔浮客〕旅人。○〔鮑照〕「――未二西歸一」。

〔征客〕前に同じ。○〔王褒〕「飛-過似二―一」。

〔逋客〕世をさけのがれたる人。○〔耿湋〕「失意成二――一」。

〔賓客〕まらうど。○〔漢〕「至レ犇偏召二昆弟――一」。

〔飛客〕矢の異名。○〔吳越春秋〕「矢爲二―一」。

〔傭客〕やとはれ人。○〔韓〕「――致レ力而疾耕」。

〔商客〕旅あきうど。○〔易林〕「――善賈」。

〔假客〕おごそかなるまらうど。○〔道德指歸論〕「俠若二――一」。

〔方客〕道士のこと。○〔太玄經〕「大開二帷幕一、以引二――一」。

〔寄客〕かゝりうど。○〔抱朴〕「榮-位勢-利、譬如二――一」。

〔墨客〕書家書師を稱していふ語。○〔李愿〕「洛-陽――遊二雲-門一」。

〔幽客〕（植）らんの異名。○〔花譜〕「蘭曰二――一」。

〔巖客〕（植）もくせいの異名。○〔西溪叢話〕「木犀爲二――一」。

〔寒客〕（植）ろうめの異名。○〔西溪叢話〕「臘-梅爲二――一」。

〔俗客〕（い）（植）ゆすらうめの花の異名。○〔三柳軒雜識〕「李花爲二――一」。

（ろ）俗人のまらうど。○〔杜甫〕「休レ怪兒-童延二――一」。

〔雋客〕（植）たちばなの花の異名。○〔三柳軒雜識〕「橘-花爲二――一」。

〔隱客〕（植）しやうぶの花の異名。○〔三柳軒雜識〕「菖-蒲-花爲二――一」。

〔[illegible]客〕（植）びはの異名。○〔三柳軒雜識〕「枇-杷爲二――一」。

〔泪客〕（植）はうせん花の異名。○〔三柳軒雜識〕「鳳仙爲二――一」。

〔書客〕（い）（植）つくしの異名。○〔三柳軒雜識〕「土-筆爲二――一」。

（ろ）書家のこと。○〔張籍〕「――多呈レ帳」。

〔羈客〕旅客に同じ。○〔溫庭筠〕「自憐――尙-飄-蓬」。

〔媚客〕（植）ばらの異名。○〔中吳紀聞〕「張敏叔以二薔-薇-爲二――一」。

【室】

シツ、式質切。シチ。〔質〕〔說文〕从レ宀从レ至、至所レ止也。

㊀人の住居し、又は、物を藏め置く大小の建物の稱、いへ。○〔詩〕「築レ―百-堵、西-南其戶」。

㊁岩に穿ちたる洞、地に掘りたる穴のものを實たす用をなすもの、むろ、又、棺槨を埋むる處、つかあな、〔壙穴〕。○〔詩〕「百-歲之後、歸二于其―一」。

㊂窗戶の內、へや。○〔史〕「蘇-秦乃閉レ―、不レ出、出二其書一、偏觀レ之」。

㊃おもてざしきなどに對して、おくざしき、ゐま、寢處。○〔詩〕「鸛鳴二于垤一、婦歎二于―一」。

㊄妻の稱、つま、又、妾の稱にもいふ字、おくざしきに起臥する者の義。○〔禮〕「和二於―人一」。

㊅家族、一門、又、同じやから。○〔晉〕「公-族公―之本」。

㊆家の資產、むろに納め置くものゝ義。○〔國〕「施二二-師一、而分二其―一」。

㊇刃劍の鞘、さや。○〔史〕「刃-劍―以二珠-玉一飾レ之」。

㊈器具を藏むるもの、袋、匣など。○〔詩、傳〕「韔-弓―也」。

〔居室〕家に在ること、又、すまひ。○〔易〕「君-子―二其―一」。

〔宮室〕家屋、又、立派なる構への家、卽ち、君王の住居など。○〔論〕「卑二――一而盡二力乎溝-洫一」。

〔太室〕廟に五つのへやありて北の中央のもの。○〔書〕「王入二――一祼」。

〔堊室〕しらかべにて塗りたる家、士たる者は、此の中にて喪に服す。○〔禮〕「士居二――一」。

〔世室〕宗廟をいふ。○〔春秋〕「――屋壞」。

〔營室〕星の名。○〔禮〕「孟-春之月、日在二――一」。

〔窨室〕地中の暖室、卽ちむろのこと。○〔輟耕錄〕「北-門外有二――花-五-開一」。

〔幽室〕暗きへや、おくまりたるへや。○〔禮〕「求二於――之中一」。

〔私室〕自身のへや。○〔北〕「雖レ在二――一、終-日儼-然」。

〔深室〕囚人をいるゝへや。○〔左〕「晉-人執二衞-侯一、歸二之於京-師一、置二之――一」。

〔側室〕（い）支子の家。○〔左〕「卿置二――一」。

（ろ）そばめ。○〔漢〕「朕高-皇-帝――之子」。

〔窟室〕地中のへや。○〔左〕「爲二――一夜飲」。

〔蔭室〕漆をかわかすへや、日かげにあるむろ。○〔史〕「顚-難レ爲二――一」。

〔溫室〕あたゝめてあるへや。○〔漢〕「獨-夜設二九-賓――一」。

〔淸室〕涼しきへや。○〔漢〕「醴-泉涌二於――一」。

〔綺室〕美麗なるへや。○〔後漢〕「妖-童美-妾、塡二乎――一」。

〔茅室〕かやぶきの家、あばらや。○〔後漢〕「――土-階」。

〔瓊室〕玉をちりばめたる家、又、美麗なる家を稱するに用ふる語。○〔揚雄〕「瑤-臺――」。

〔禪室〕禪坐參禪するへや、又、佛堂のこと。○〔謝靈運〕「傍二危峰一立二――一」。

〔蓬室〕見苦しき家、あばらや。○〔宣〕「寢二――一、隱二陋-巷一」。

〔陋室〕狹き家。○〔韓愈〕「――有二文-史一」。

〔晦室〕くらきへや。○〔說苑〕「人始入レ官、如レ入二――一」。

〔繼室〕のちぞひ。○〔左〕「齊-侯使二晏-嬰請二――於晉一」。

〔廬室〕住家。○〔漢〕「躬率二行士-卒――一」。

〔廟室〕先祖の靈をまつるへや。○〔南〕「時――頹-毀」。

〔悍室〕心の戾れる妻。○〔南〕「余有二――一」。

〔浴室〕湯あみするへや。○〔水經、註〕「相傳皇后――」。

〔黌室〕學校。○〔唐彥謙〕「――靑衿盡」。

〔麴室〕かうぢむろ。○〔皮日休〕「酒-甕移來近二――一」。

〔融室〕己れの身のみを容るゝ、狹き家。○〔陳陶〕「――無二妻-兒一」。

〔氷室〕ひむろ、こほりを藏むる處。○〔左思〕「下二――一而沍-寒」。

〔蠶室〕（い）かひこを養ふへや。○〔禮〕「天-子諸-侯必有二公-桑――一」。

（ろ）宮刑を行ふべき罪人を囚へ置く所。○〔司馬遷〕「僕又、佴以二――一、重爲二天下觀笑一」。

〔相室〕宰相の別名、又、家令のこと。○〔漢〕「不レ當賞而賞易二――一」。

〔帝室〕天子の御一門。○〔漢〕「天降二威-明一、用翼二――一」。

〔記室〕事をしるす屬官。○〔南〕「以爲二――一」。

〔請室〕ひとや。○〔漢〕「徵-繫二――一」。

〔藏室〕くら、倉庫。○〔後漢〕「充二-積――一」。

〔土室〕あなぐら、地中にあるへや。○〔後漢〕「作二――一如レ冢」。

〔宗室〕（い）一門のもと、本家。○〔職〕「周天下之――也」。

（ろ）一門のもの。○〔後漢〕「錄二功臣一、睦二――一」。

（は）太宗の廟。○〔詩〕「于以奠レ之、――牖-下」。

〔房室〕へや。○〔禮〕「審二門閭一、謹二――一」。

〔十室〕十戶ばかりの家、少きいへかずにいふ語。○〔論〕「――之邑、必有二忠-信如レ丘者一」。

〔正室〕（い）本妻。○〔北〕「欲レ立爲二――一」。

（ろ）嫡子。○〔周〕「其――皆謂二之門-子一」。

〔干室〕君子の第一門。○〔書〕「同ニカ一一」。
〔家室〕(い)いへ。○〔詩〕「宜其家一一」。
(ろ)一家族。○〔詩〕「之子千歸、宜其一一」。

【室】シ。式至切 〔寘〕
前條の㊀と㊁と㊂と㊃とに同じ。○〔左思〕「鏤二玉-策於金-縢、按二圖-錄於石-一、考二曆-數之所一レ在、察二五-德之所一レ湊」。

【宺】クワウ、ヲウ。呼晃切 〔養〕 呼浪切 〔漾〕

【㝪】クワウ、ワウ。呼光切 〔陽〕
むなし(宦)、又、ひろし(廣)。

【宄】キ。古委切 〔紙〕 居僞切 〔寘〕
をろ、又、すまひ(居)。
㊀こぼつ、やぶる(毀)。㊁さほる(通)。

【宣】セン。息緣切 〔先〕
㊀あまねし(徧)。○〔詩〕「既順迺一」。
㊁のぶ。
(い)遠く及ぶ、あまねく至る、とほる、(通)。○〔詩〕「一哲維人」。
(ろ)あらはれ盛る、おこる(發)、あがる(揚)。○〔左〕「寵-光不レ一」。
(は)あまねく致す、とゞかす、及ぼす、施す、しく(布)、ちらす(散)、又、あらはれしむ、おこす、あぐ。○〔書〕「日一二三-德一」。
(に)殘らず致す、つくす(盡)、あらはに揭ぐ、あきらか、あきらかにす、(明)、あらはす、しめす(示)。○〔國〕「爲レ川者決レ之使レ導、爲レ民者、一レ之使レ言」。
(ほ)苛きをなくなる、打ちくつろぐ、又、ゆるむ(緩)。○〔宋-文一則方滅」。

㊂君王みづから告げ知らす、のたまふ、のたまはく、又、のたまふこと、おほせ、みことのり、敕諭。○〔詔書別錄〕「唐故-事、中-書舍-人掌二詔-誥、皆寫二兩-本一、一爲レ底、一爲レ一」。
㊃めす(召)。○〔包佶〕「隔レ屏初聽玉-音一」。
㊄羣臣と會見すること、朝政を聽くこと、みことのりを傳ふること。○〔淮〕「武-王破二紂牧-野、殺二之于一-室一」。
㊅對角線に從ひて半折したる長方形、直角三角形。○〔周〕「車-人之事、半-矩謂二之一一」。
㊆大いさ六寸の徑ある璧。○〔爾〕「璧大六-寸、謂二之一一」。
㊇頭髮の皓くなりて拔け落つること、はげ。○〔易〕「其爲二一-髮一」。

〔翼宣〕たすけ明らかにす。○〔李光〕「一一二儀刑一」。
〔述宣〕のべつくす。○〔隋〕「不レ足下以一一功-德上」。
〔明宣〕あきらかにしめす。○〔蜀〕「一一二朝-化一」。
〔曉宣〕前に同じ。○〔舊唐〕、「一一二將-令一」。
〔弘宣〕ひろめ明らかにす。○〔晉〕「皆所下以一一二天-意一、顯中-彰人-理上」。
〔敷宣〕あまねしめす。○〔晉〕「一一二五-教一」。
〔流宣〕前に同じ。○〔舊唐〕「一一二陰-教一」。
〔遐宣〕遠くにまで布く。○〔舊唐〕「王-略一一」。
〔譯宣〕つゝしみて布きしめす。○〔唐〕「必待二刺-史縣-令一一二而奉二行之一」。
〔振宣〕ふるひおこす。○〔柳宗元〕「一一二幽-光一」。
〔傳宣〕旨をつたへのぶ。○〔周必大〕「勅-使一一坐賜レ茶」。

【宎】エウ。伊鳥切 〔篠〕
㊀室の東南の隅、おく。○〔禮〕「掃レ室聚二諸一一」。
㊁戶樞の聲、さしまりのおと。

【窔】エウ。一呌切 〔嘯〕
本、宦に作り、俗には窔に作る、或は、突にも作れり。
㊀隱れて暗き處、おく。
㊁ふかし(幽深)。

【宥】イウ、ウ。于救切 〔宥〕
㊀ゆるす。
(い)苛くとりたゞさず、きびしく責め問せず、ゆるぶ、なだむ。○〔易〕「君-子以赦レ過一レ罪」。
(ろ)自由に任す、干涉せず。○〔莊〕「一レ之也者、恐二天-下之遷二其德一」。
㊁宏くして深し、ふかし。○〔詩〕「夙-夜基レ命一-密」。
㊂たすく(助)。○〔左〕「晉-侯朝二於王一、王饗-醴命二之一一」。
㊃侑に同じ、すゝむ(勸)。○〔荀〕「此蓋一-坐之器」。

〔赦宥〕ゆるす。○〔左〕「君不二一一一」。
〔保宥〕助くること。○〔後漢〕「一一二生民一」。
〔特宥〕ことの外のとりあつかひもてゆるす。○〔晉〕「宜下蒙二一一一以全中穆-親之典上」。
〔濟宥〕ゆるす。○〔魏〕「昭以一一省、前-後數-十」。
〔洗宥〕罪なきを明らかにして赦す。○〔唐〕「隳二發北-征一、多從二一一一」。
〔慶宥〕よろこびの爲めに罪人を赦す。○〔齊〕「宜レ弘二一一一」。
〔護宥〕まもりたすく。○〔唐〕「一一者、數-十百-姓」。
〔蕩宥〕ゆるめ赦す。○〔唐〕「宜下以二仁-化一一一上」。
〔含宥〕ゆるむ。○〔家語〕「明-君必一一」。
〔矜宥〕やすめゆるす。○〔場帝〕「一一二耆-幼一」。
〔降宥〕罪の等をひく、してゆるす。○〔後漢〕「多有レ所二一一一」。
〔貸宥〕罪を見逃す。○〔後漢〕「宜下裁加二一一一、以崇中厚-德上」。
〔全宥〕盡くゆるす。○〔後漢〕「欲レ一二一一之一」。
〔原宥〕ゆるす。○〔後漢〕「請レ加二一一一」。

【宦】クワン、ゲン。胡慣切 〔諫〕
㊀まなぶ(學)。○〔左〕「一二三-年矣」。
㊁官に奉仕す、つかふ、つかへ、みやづかへ。○〔國〕「與二范-蠡一入一二於吳一」。
㊂つかさ。
(い)官位、官職、くらゐ、やくめ。○〔南〕「才-名位一、當二遠-蹤二於兄一」。○
(ろ)つかふる人、官吏、臣隸。○〔唐〕「羣一一不レ平」。

〔仕宦〕みやづかへ。○〔史〕「不レ得二一一一爲レ吏」。
〔巧宦〕仕宦にたくみなるにいふ語。○〔潘岳〕「一一成二何味一」。
〔薄宦〕地位卑きみやづかへ。○〔陳遊〕「回-看一一賤二農-牧一」。
〔內宦〕內廷に奉仕する宦官などをいふ。○〔史〕「高固一一之際-役也」。
〔游宦〕遠方に出で役人となること。○〔陸機〕「一一久不レ歸」。
〔閹宦〕內廷の小臣。○〔後漢〕「一一充レ朝」。
〔隱宦〕前に同じ。○〔後漢〕「所二與居一者、惟一一而已」。
〔貶宦〕外戚と內廷の宦者とをいふ。○〔後漢〕「北皆一一之臣所レ致レ然」。
〔通宦〕いやしからざる役。○〔北〕「竝仕二清-容一、爲二一一一」。
〔末宦〕卑しき役。○〔任昉〕「往-來一一一」。
〔散宦〕前に同じ。○〔吳師道〕「一一不レ適-意」。
〔冷宦〕前に同じ。○〔盧琦〕「一一莫レ遷二卿-國遠一」。

【宧】イ。與之切 〔支〕
㊀室の東北の隅、すみ、又、日光の漏れ入る處。
㊁やしなふ(養)。○〔李巡〕「東-北陽-氣始起、育二養萬-物一、故曰レ一」。

【宨】テウ。土了切 〔篠〕
ほしいまゝ(放肆)、一說に、窕の僞字。

【𡧖】窔に同じ。○〔石鼓文〕「天-子永一」。

七畫

【宬】セイ、ジヤウ。是征切 〔庚〕
物を受け容るゝ屋、ものおきぐら、又、特に、書を藏むる室。○〔字彙補〕「明大內有二皇-史一一」。

【宱】タ。宅加切 〔麻〕 恥價切 〔禡〕
㊀嬌態の貌にいふ字、こぶ、なまめく。
㊁正しからず、よこしま。

【宸】ラウ、ロウ。魯堂切 陽 盧黨切 養
屋ひろし、又、むなし、(空虛)。○〔司馬相如〕「委二參-差一以康-一」。

【宭】クン、グン。仇文切 文
羣に通じ用ふ、むらがる。

【宮】キウ、ク。居戎切 東
㊀みや。
(い)人の住居する處、すまひ、いへ、古昔は、貴賤とも通じて用ひき。○〔儀〕「夙-夜莫レ違二一-事一」。
(ろ)帝王、及び其の一門の者の居處、皇居、王城、秦以後に始まりたる專稱。○〔漢〕「蕭-何作二未-央一-一」。
(は)祖先の靈を祭れる處、宗廟。○〔詩〕「于以用レ之、公-侯之一」。
(に)神仙の居處、又、すまひの尊稱。○〔決疑經〕「銀-一金-闕、列-仙攸レ館」。○
㊁隱れ蔽はれたる室、おくの間、寢處。○〔周〕「以二陰-禮一教二六-一一」。
㊂后妃、皇子女、(貴きものにては)、又、妻子、(賤しき者にては)の稱にいふ字。○〔荀〕「賜二予其一-室一」。
㊃かき、(墻、垣)。○〔禮〕「儒有二一-步之一一」。
㊄五音の一、其のうちの中聲にして主となるもの。○〔史〕「一上音、聲出二於脾一、合二於口一而通レ之」。
㊅男は、淫勢を割き、女は、淫部を幽閉する刑、腐刑。○〔禮〕「公-族無二一-刑一」。
㊆圍む、めぐる、(環)。○〔爾〕「大-山一、「小-山霍」。
〔泮宮〕學校。○〔詩〕「旣作二泮-一、淮-夷攸レ服」。
〔行宮〕天子のみゆきせる處にたつるみや、かりのみや。○〔吳都賦〕「一-一之基」。
〔東宮〕皇太子の在す宮殿、又、皇太子を稱するに用ふる語。○〔詩〕「一-一之妹」。

〔澤宮〕周の時代に賢材を選擇する宮殿をいふ。○〔禮〕「天-子習二射于一-一」。
〔中宮〕漢の時代には皇后を稱する語。○〔漢〕「有二椒-房一-一之重一」。
〔後宮〕內宮のことにて轉じて、妃嬪を稱するに用ふる語。○〔西都賦〕「一-一之號、十-有-四-位」。
〔法宮〕正殿をいふ。○〔漢〕「五-帝神-聖處二一-一之中一」。
〔離宮〕皇居をはなれて別處にある宮殿。○〔漢〕「離
〔儲宮〕よつぎの君、卽ち、太子を稱していふ。○〔晉〕「詔曰、脩躬訓二一-一」。「以二一-一一」。
〔春宮〕前に同じ。○〔竹書紀年〕「周穆-王居二一-一一」。「太-子宮也」。
〔靑宮〕前に同じ。○〔初學記〕「一-一一日二春-宮一、
〔震宮〕震は東方の卦にて長男の象あり、前解に同じ。○〔庾信〕「木-德婦二一-一一」。
〔齋宮〕いつきの宮、卽ち神に仕へまつる宮殿。○〔國〕「王卽二一-一一」。「一一」。
〔淨宮〕佛寺をいふ。○〔梁簡文帝〕「慈-波流二一-
〔梵宮〕前に同じ。○〔朱慶餘〕「閒-雲入二一-一一」。
〔黃宮〕道家にて用ふる語にて腦fをいふ。○〔蘇軾〕「一-一氣應纔滿月」。

【㝬】ゴ、ク。五故切 遇
寤に同じ、さむ、又、ねざめ。

【宯】カウ、許交 肴 或は、宯に作る
ケウ。切 ることあり。
氣上がり蒸す、うむす。

【宮】ゴウ、グウ。五東切 東
やはらぐ、(和)。

【宰】サイ、ゼイ。子亥切 賄
㊀司掌す、處置す、をさむ、(治)、きりもりす、(制)、つかさどる、(主)。○〔史〕「一二制萬-物一、役二使羣-動一」。
㊁つかさ。
(い)つかさどる者、主任者、官吏、職員。○〔周〕「里-一掌レ比二其邑之衆-寡、與二其六-畜兵-器一」。

(ろ)家臣の長、をさ。○〔詩〕「諸-一君-婦」。
㊂料理す、膳羞をつかさどる、にる、(烹)、ほふる、(屠)。○〔通〕「夜則烹-一燕-樂」。
㊃料理人、ぶだし方。○〔漢〕「里-中社平「爲レ一」。
〔家宰〕天子を相けて百官を統御する役、相國、大丞相、(又、周の時代の最上官)。○〔書〕「一-一掌二邦-治一、統二百-官一、均二四-海一」。
〔天宰〕前に同じ。○〔書〕「吉-甫踐二一-一一」。
〔衡宰〕前に同じ。○〔後漢〕「絳-灌臨二一-一一」。
〔台宰〕前に同じ。○〔後漢〕「一-一追-器國-命所レ繼」。
〔太宰〕文治行政の長官、又、前に同じ。○〔左〕「將以求二一-一一」。
〔守宰〕つかさ。○〔後漢〕「一-一數見レ換」。
〔庖宰〕料理人、仕出し方。○〔韓〕「身執二鼎-俎一爲二一-一一」。
〔主宰〕つかさ。○〔荀〕「心者、道之一-一」。
〔匠宰〕つかさ。○〔魏〕「一-一失レ位」。
〔判宰〕料理す。○〔唐〕「躬視二一-一一」。
〔屠宰〕前に同じ。○〔宋〕「主二一-一烹-殺一」。
〔眞宰〕まことのつかさ、造物者。○〔老〕「有二一-一足三以制二萬-物一」。
〔操宰〕つかさどる。○〔張九齡〕「何時遇二一-一一」。

【宊】キウ、グ。巨鳩切 尤
求に同じ、室內を搜す、もとむ、さぐる。

【宱】サ。助駕切 禡
㊀ひろし、ゆるし、(寬)。㊁まこと、(實)。

【㝔】カ、ケ。虛解切 禡
罅に同じ、ひま、すきま、(隙)。

【害】ガイ。何蓋切 泰
㊀そこなふ。
(い)創を負はす、うちたゝく、切り割く、傷つく。○〔水經、註〕「水-流迅-急、勢同二三-峽一、破二一舟-船一」。

(ろ)不利を被らす、危からしむ、患にいたす、災難に逢はす。○〔易〕「鬼-神-一レ盈而福レ謙」。
㊁さはりを爲す、さまたぐ、(妨)。○〔左〕「謂二其三-時不レ一、而民和年豐一」。
㊂己れに不利の及ぶを患ひて惡む、そねむ、いむ、(忌)。○〔史〕「上-官大-夫與レ之同レ列爭レ寵、而心一二其能一」。
㊃傷つけらるゝこと、不利なること、危患、わざはひ、災難、さはり、さまたげ、惡み。○〔後漢〕「上畏二不-測之難、下懼二劍-客之一一」。
㊄山、川、地形の國防上に最も利益あること、又、其の場所、卽ち、敵の不利となる義。○〔戰〕「秦之號-令賞-罰地-形利-一天-下不レ如也」。
〔貫害〕わざはひ、さはり、又、惡みを受くるやうなる行をなすにいふ語。○〔左〕「吾焉用レ此其以一レ一也」。
〔忮害〕そこなふ。○〔漢〕「而上克レ暴或一-一」。
〔尅害〕前に同じ。○〔沈亞之〕「致二力一-一一」。
〔剋害〕前に同じ。○〔魏〕「一-一之聲、聞二於朝-野一」。
〔天害〕自然に起こりたる災をいふ。○〔公羊〕「火者、皆是一-一也」。
〔敦害〕厚き禍をいふ。○〔漢〕「深作二一-一一」。
〔險害〕あらくしくして人をそこなふ。○〔後漢〕「性一-一邑-里患レ之」。
〔隱害〕陰に人をそこなふ。○〔後漢〕「刑性刻-害一-「一之吏」。
〔嚴害〕きびしく過ぎて人をそこなふ。○〔後漢〕「一-一」。
〔蠹害〕木を喰ふ虫の物をそこなふより人の他をそこなふものにいふ語。○〔晉〕「非二灼-然一-一、不レ得二輒加二非-理一」。「一-一一」。
〔劫害〕おびやかし傷ふこと。○〔魏〕「地險人悍、數爲二一-一一」。
〔鬱害〕甚しきそこなひ。○〔周書〕「俱見二一-一一」。
〔妨害〕さまたげ。○〔楊修〕「豈與二文章一、相一-一哉」。
〔猜害〕そねみにくむ。○〔陶弘景〕「而內懷二一-一一」。
〔鷙害〕猛き鳥の物をそこなふより、よくそこなふことにいふ語。○〔唐〕「陰-忍一-一」。
〔濟害〕おとしそこなふ。○〔元〕「一-二一脫-々一」。

(昏害) 時機をうかゞひてそこなふ。○〔書〕「——喉毒天下無レ不ニ痛-憤ニ」。
(賊害) そこなふ。○〔劉楨〕「——忠-德ニ」。
(毛害) わざはひ。○〔阮籍〕「多-財爲ニ——ニ」。
(毒害) そこなふこと。○〔杜武帝〕「心懷ニ——ニ」。
(惱害) なやましそこなふ、又、さまたげ。○〔法苑珠林〕「無ニ相——ニ」。
(隘害) 必要の箇處。○〔東京賦〕「不レ恃ニ——ニ」。
(要害) 前に同じ。○〔韓愈〕「中ニ汝——處ニ」。

【害】 カツ、ガチ。何割切 曷

曷に同じ、反語にて疑問の意を表はすときに用ふる字。
(い)いつか(時に就きて)。○〔孟〕「時日—喪」。
(ろ)いづれ(物に就きて)。○〔詩〕「—澣—否」。
(は)何故に、なんぞ、なんすれぞ、いづくんぞ。○〔書〕「王—不レ違レ卜」。

【宴】 エン。於甸切 霰 ——醼、讌、燕に通じ作る。

㊀やすし。
(い)てひまなり、間暇なり。○〔蕭穎士〕「蠶罷里-閭—」。
(ろ)たのしむ可し、靜かなり。○〔黃庭內景經〕「大-神合-集虛-中—」。
㊁たのしむ、たのしみ(樂)。○〔詩〕「總-角之—、言-笑晏-々」。
㊂ひまにて居る、心志づかに起臥す、やすむ、いこふ。○〔易〕「君-子以嚮レ晦、入—-息」。
㊃醼に同じ、酒飲みてたのしむと、客に酒食をすゝむると、さかもり。○〔左〕「—有ニ折-俎ニ」。
(息宴) やすむ、いこふ。○〔西都賦〕「惟所ニ——ニ」。
(休宴) 前に同じ。○〔王安石〕「吏—而—」。
(飫宴) さかもり。○〔後漢〕「登-降——之禮」。
(嘉宴) 善美なるさかもり。○〔水經、註〕「賓享ニ——ニ」。「歡-樂ニ——ニ」。
(狎宴) 夜分のさかもり。○〔謝莊〕「君-王乃、厭ニ
(私宴) おほやけならぬさかもり。○〔漢〕「羽曰、今不レ郎ニ士卒ニ、而徇ニ——ニ、非ニ社-稷之臣ニ也」。
(酺宴) さかもり。○〔後漢〕「置-酒——、賞-賜數-百-千-萬」。
(朝宴) 朝廷內のさかもり。○〔隋〕「毎ニ——ー命-同ニ、與ニ侍-中近-臣ニ、並侍ニ帷-[illegible]ニ」。
(高宴) 盛なるさかもり。○〔虞世南〕「——將レ闌」。
(歡宴) 心よろこばしきさかもり。○〔晉〕「欲下與ニ親-知一時共中——上」。
(押宴) うちとけたる酒もり。○〔宋〕「其主命ニ貢-臣四-人ニ——」。「陳ニ——ニ」。
(賀宴) めでたきさかもり。○〔楊汝士〕「伴-歲生-徒
(淫宴) 禮儀のみだれたるさかもり、度なきさかもり。○〔後漢〕「設ニ長-夜之——ニ」。
(曲宴) 心の儀に打ちくつろぎたるさかもり。○〔魏〕「帝遊ニ後-園ニ、召ニ才-人以-上ニ、——極レ樂ニ」。
(禊宴) 弦をはらふ祭りを行ふさかもり。○〔陶〕「芳-林-園——」。

【宵】 セウ。相邀切 蕭 ——〔說文〕从レ宀、下冥也、肖聲。

㊀よひ、よさ、よる、(夜)。○〔詩〕「肅-々—行」。
㊁明坦の途に由らざると。○〔莊〕「—人離ニ外-刑ニ者」。
㊂ちひさし(小)。○〔禮〕「—雅肆レ三」。
㊃かはる(化)。○〔洛神賦〕「悵ニ神—而蔽レ光」。
㊄綃に通じ用ふ。○〔儀〕「姆纚-笄—衣」。
(中宵) 夜のなかば。○〔晉〕「每レ語ニ世-事ニ、——起-坐」。
(通宵) よもすがら。○〔舊唐〕「——達-日、情忘ニ厭-倦ニ」。
(奔宵) 周の穆王の愛で畜ひし馬の名。○〔拾遺記〕「穆-王馭ニ八-龍之駿ニ、名ニ——ニ、夜行ニ萬-里ニ」。
(春宵) 春のいふべ。○〔李商隱〕「鳳-城寒盡怕ニ——ニ」。
(夙宵) 夙夜といふに同じ、朝は早く起き夜は晩く寢ねつとめて事を勵むにいふ語。○〔蜀〕「——惶懼、不レ能レ[illegible]」。
(達宵) 達夜といふに同じ、毎よさり。○〔魏〕「隆-冬達-暗、盛-暑——」。
(累宵) 前に同じ。○〔韋應物〕「——同ニ燕-酌ニ」。
(晝宵) 晝夜といふに同じ。○〔淮〕「喜-怒與ニ——ー寒-暑並明」。
(元宵) 正月十五日の夜。○〔韓偓〕「——清-寒「弘ニ元-正ニ」、
(霽宵) 氣の澄める夜。○〔梁昭明太子〕「——出罷レ園ニ」。
(良宵) 良夜といふに同じ。○〔李嶠〕「甲-第驅レ直入ニ——ニ」。
(終宵) よもすがら。○〔韓愈〕「——遶ニ幽-室ニ」。
(徹宵) 前に同じ。○〔徐鉉〕「興來何惜—レ—看ニ」。

【宵】 セウ。私妙切 嘯

にる、(肖)。○〔淮〕「浸ニ想—類ニ」。

【家】 カ、ケ。古牙切 麻 ——〔說文〕从レ宀、豭省聲。

㊀いへ。
(い)住居する建物の總稱。○〔史〕「平-原君—樓臨ニ民——ニ」。
(ろ)住居、すまひ。○〔賈誼〕「六-合爲レ—、殽-函爲レ宮」。
(は)寄留の生活にあらざると、定まりたる獨立の生活。○〔韓愈〕「歲久此地還爲レ—」。
(に)自己のすまひ、うち。○〔後漢〕「未ニ棄レ官還レ—」。
(ほ)つま、(妻)、(をっとよりいふ)、をっと、(夫)、(つまよりいふ)。○〔國〕「罷-女無レ—」。
(へ)一つのすまひにすまふ同血脈の者、一門、同族、うから、やから、又、奴婢なども併せていふとあり。○〔詩〕「之子于歸、宜ニ其—-人ニ」。
(と)祖先より傳へ來たりたる一門の名跡。○〔晉〕「興ニ吾—ー者、必此女也」。
(ち)同族の地位、門閥、いへがら。○〔史〕「呂-太后時、以ニ良—子ニ、入レ宮侍ニ太-后ニ」。
(り)自己の資產。○〔漢〕「割レ財損レ—以帥ニ羣-下ニ」。
(ぬ)知行處、采地。○〔周〕「掌ニ都-—之國-治ニ」。
(る)一主宰の下に支配せらるゝ土地、國。○〔周〕「正國—、宮-室車-旗衣-服」。
(を)姓氏、うち。○〔蘇轍〕「晏—不レ願諸-侯賜、顏-氏遂成陋-巷風」。
(わ)殊特の學問、主義、又、技能をもて世に立つ者、又、其の流派、其の流派を修むる者。○〔史〕「通ニ諸-子百-—之書ニ」。
㊁いへを構ふ、住居す、いへす。○〔史〕「以ニ好-畤田-地善ー、往—レ焉」。
(王家) 君王の一門、又、君王の義。○〔書〕「王-季其勤ニ——ニ」。
(世家) (い)特典を代々つぎ承くるいへがら、卽ち、王族の如きもの。○〔唐〕「取ニ——子ニ以聞」。
(ろ)單に代々承けつぐと。○〔王安石〕「何-遂能レ詩有レ—レ—」。
(雜家) いろ〳〵の學派、又、純粹にあらざる學說。○〔宋〕「子-類十-七-八、名曰ニ——ニ」。
(克家) よく家を治む。○〔易〕「子—レ—」。
(承家) 家をうけつぐ。○〔易〕「開レ國—レ—」。
(大家) (い)卿大夫など身分の高き人。○〔書〕「封川ニ厥庶-民暨ニ厥臣ニ、達ニ——ニ」。
(ろ)碩學鴻儒など經驗に長けたる人。
(は)人を尊敬していふ語。○〔舊唐〕「區-々稿-心、唯願ニ——萬-歲ニ」。
(に)近侍の官より天子を稱する語。○〔獨斷〕「親-近侍-從官、稱ニ天-子ニ曰ニ——ニ」。
(夫家) (い)をっとの家。○〔漢〕「婦-人內ニ——ニ、外ニ父-母家ニ」。
(ろ)男女相配合せる家。○〔周〕「都-鄙之——、九-比之數」。
(故家) 長き歲月の間、其の土地に住居せるいへ。○〔孟〕「——遺-俗流-風」。
(道家) 黃帝老子の說ける虛無恬澹の道を修め得たる學派。○〔史〕「孝文好ニ——之—ニ」。
(名家) 名高き家柄。○〔史〕「然——之子-孫、諸-侯皆聞レ之」。
(法家) 法律を修めたる學者。○〔史〕「——嚴而少レ恩」。
(墨家) 墨翟の唱へたる道を修めたる學派。○〔宋〕「子-類十-七、五曰ニ——類ニ」。
(勢家) 權力ある家柄。○〔後漢〕「——橋ニ其高-節ニ」。

〔權家〕前に同じ。○〔南〕「依レ事劾奏不レ憚ニ一ー」。

〔小家〕貧賤の家柄、又、さゝやかなる建物。○〔漢〕「樂成ーー子」。

〔田家〕ゐなかや。○〔魏〕「汝ーー子」。

〔官家〕皇室のこと、又、天子を稱するに用ゐることあり。○〔湘山野錄〕「五帝官ニ天下ニ、三王家ニ天下ー、故曰ニーーー」。

〔宅家〕前に同じ。○〔資暇錄〕「官家又稱ニーーー」。

〔皇家〕前に同じ。○〔晉〕「輔ニ亮我ーーー」。

〔天家〕天子を稱するに用ゐる語。○〔獨斷〕「天子無レ外、以ニ天下ー爲レ家、故稱ニーーー」。

〔邦家〕國家といふに同じ。○〔詩〕「ーー之光」。

〔都家〕周の時代に王の子弟及び公卿の采地と大夫の采地とをいふ。○〔周〕「方士掌ニーーー」。

〔將家〕將軍の家柄。○〔史〕「項氏世々ーー、有レ名ニ於楚ー」。

〔豪家〕おほいなる家、即ち、ものもち。○〔史〕「趙ーー「ー女也」。

〔儼家〕物事のきびしき家。○〔晉〕「拘束若ニーーー「ー所レ忌」。

〔兵家〕兵學を修めたる者。○〔後漢〕「恐惧之師、ーー之餓諱ー」。

〔數家〕（い）術數を修めたる者。○〔漢〕「上嘗使ニ諸ーーー射覆ー」。
（ろ）五六軒の家をいふ。○〔韋應物〕「ーーー砧杵「秋山下」。

〔吏家〕役人の家。○〔漢〕「府縣ーーー子弟」。

〔外家〕外戚の家柄。○〔後漢〕「遂盡以分ニ與昆弟ーーーー」。

〔婦家〕妻の家。○〔後漢〕「北婚姻皆就ニーーー」。

〔出家〕俗家を去り佛又は、道家の道に入りたる者。○〔南〕「自レ今公私皆不レ得ニーーー爲レ道」。「ーー」。

〔勳家〕いさをある家。○〔唐〕「關內田宅悉賜ニーー」。○

〔貴家〕位高き人の家、又、他人の宅を稱する敬語。○〔林逋〕「却憶ーーー臨館裏」。

〔梵家〕寺院のこと。○〔白居易〕「早晚移栽到ニーーー」。

〔樵家〕きこりの家。○〔劉滄〕「ーー路入橋烟散」。

〔積善家〕善事をかさね陰德ある家。○〔易〕「ーーー之ー、必有ニ餘慶ー」。

〔伐冰家〕卿大夫のいへ柄。○〔禮〕「ーーー之ー、不レ畜ニ牛羊ー」。

〔百乘家〕周の時代の戰爭に用ゐる百輛の車を出だすいへ、即ち卿、大夫。○〔禮〕「ーーー之ー、不レ畜ニ聚斂之臣ー」。

〔陰陽家〕天文曆數を考へ日月星辰又は、風雨氣色の妖祥より占筮、相地等の術を修めたる流派。○〔漢〕「ーーーー者流、蓋出ニ于羲和之官ー」。

〔縱橫家〕戰國の世に出でたる蘇秦張儀の如く合縱連橫の說を以て諸侯の國を遊說する術を修めたる流派。○〔漢〕「ーーーー者流、蓋出ニ于行人之官ー」。「ーーー」。

〔赤松家〕仙人の盧をいふ。○〔孟浩然〕「邀レ我ーーー」。

〔朱門家〕門扉を朱にて塗りたる家、又、地位高き人の家を稱していふ語。○〔杜甫〕出入ーーー」。

〔室家〕（い）すまひの建物。○〔書〕「若作ニーーー」。
（ろ）一家內。○〔書〕「似徂之民、ーー相慶」。

〔公家〕官家に同じ。○〔禮〕「扎勤ニーーー夙夜不レ懈ー」。「間ニ起居ー者上」。

〔外家〕女系親のやから、外戚。○〔後漢〕「見下ーーー所ニ生母魏本ーーー」。

〔傾家〕家財をむなしくす。○〔後漢〕「ーレー賑ニ卹九族ー」。

〔寒家〕いやしきいへがら、又、まづしきいへ。○〔南〕

【家】古文の審の字。

【宸】シン、ジン。植鄰切 眞

㊀のき。

（い）家屋の宇。○〔周〕「君若不レ忘ニ周室ー、而爲ニ蔽邑ーー宇ー、亦寡人之願也」。

（ろ）地上を覆ふ虛空、そら。○〔西京賦〕「消ニ氣埃於中ーー」。

㊁奧深き室、後世にては、帝居の專稱、宮禁。○〔唐〕「改ニ左右千牛府ー、曰ニ左右奉ー衞ー」。

〔紫宸〕帝王の宮殿。○〔孫逖〕「龍輿下ニーーー」。

〔帝宸〕前に同じ。○〔李商隱〕「淪謫千年別ニーーー」。

〔玉宸〕前に同じ。○〔蘇軾〕「閬苑仙葩映ニーーー」。

〔中宸〕前に同じ。○〔司馬光〕「得レ入ニ覲于ーーー」。

〔楓宸〕前に同じ。○〔李東陽〕「早聞長策動ニーーー」。「ーー」。

〔楓宸〕前に同じ。○〔楊萬里〕「蒼龍觀闕啓ニーーー」。

【容】ヨウ、ユ。餘封切 冬

㊀いる。

（い）つゝむ、（包）、又、うく、（受）、もろ、（盛）。○〔莊〕「瓠落無レ所レー」。

（ろ）聽く。○〔唐〕「納レ忠ーレ諫」。

（は）宥す。○〔後漢〕「每能回ーー、宥ニ其小失ー」。

（に）用ふ。○〔漢〕「不レ能取ニー於當世ー」。

（ほ）まうしこむ、とりもつ、すゝむ。○〔蘇軾〕「非ニ左右爲ニ之先ーー」。

㊁入れ受くる度合、又、內にいれあるもの。○〔漢〕「用ニ度數ー以審ニ其ーー」。

㊂かた、かたち。

（い）外觀、形式。○〔書秋說題辭〕「禮者所下以設ーレ明中天地之體上也」。

（ろ）姿儀、姿貌、なり、ふり、すがたかたちづくり。○〔家語〕「澹臺子羽有ニ君子之ーー、而行不レ勝ニ其貌ー」。

㊃かたちを飾る、かたちをつくろふ、かたちづくる。○〔史〕「士爲ニ知レ己者ー死、女爲ニ悅レ己者ーー」。

㊄かたを模し取る、かたにまねず、かたどる。○〔劉京莊〕「更無ニ詩句可ニ形ーー」。

㊅餘裕多し、うちくつろげり、迫らず、又、やすし、（安）。○〔書〕「從ーー以和」。

㊆飛び揚がる貌にいふ字。○〔楚辭〕「紛ーーー之無レ經兮」。

㊇矢を防ぐに用ゐる具、やごて、やふせぎ、小曲屛風（まくらびやうぶ）の如き形にて其のうちに隱れて矢の來るをふせぐもの。○〔爾〕「ー謂ニ之防ー」。

〔手容〕てつき。○〔禮〕「ーーー恭」。

〔聲容〕こわね。○〔禮〕「ーーー靜」。

〔目容〕めつき。○〔禮〕「ーーー端」。

〔軍容〕軍のいでたち。○〔禮〕「ーーー不レ入レ國」。

〔修容〕みづくろひすること。○〔漢〕「ーニー乎禮園ー」。

〔婉容〕柔和のかたち。○〔禮〕「有ニ愉色ー者、必有ニーーー」。

〔婦容〕女子のみづくろひ。○〔劉向〕「盥ニ洗塵穢ー、服飾鮮潔、是謂ニーーー」。

〔從容〕打ちくつろぎてゆったりとしたる貌にいふ語。○〔莊〕「儵魚出游ーーー」。「ーー」。

〔禮容〕禮儀のかたち。○〔史〕「常陳ニ俎豆ー、設ニーーー」。

〔動容〕ふるまひ。○〔孟〕「ーー周旋中レ禮者、盛德之至也」。「ーーー」。

〔壯容〕年わかき姿。○〔南〕「陶弘景年八十、而有ニーーー」。

〔斂容〕威儀をとゝのふること。○〔漢〕「上虛レ己ーー、禮下レ之」。「ーーー」。

〔華容〕うつくしき姿。○〔虞世南〕「與レ兒洗而作ニーーー」。「ーー」。

〔苟容〕他の心に協はんとて從ふこと。○〔伯〕「偸合ーーー」。

〔佼容〕威儀を正したるかたち。○〔韓〕「亦無ニーーー可レ觀」。

〔威容〕おごそかなるかたち。○〔華陽國志〕「ーーー」。「態」。

〔婷容〕うつくしき貌にいふ語。○〔楚詞〕「ーーー修法ニ孔氏之ーーー」。

〔雍容〕やはらぎたるすがた。○〔史〕「南陽行賈、盡ーーー」。

〔寬容〕ゆったりとしたること。○〔韓詩外傳〕「德行ーーー」。

〔周容〕用ひられんことを求む。○〔楚詞〕「背ニ繩墨ー以追レ曲兮、競ニーーー以爲レ度」。

〔冶容〕かたちづくる。○〔班固〕「ーーー求レ好、君子所レ醜」。

〔聖容〕帝王の容體。○〔盧貞〕「穆々ーーー」。

〔秋容〕あきのかたち。○〔李白〕「萬物生ニーーー」。

〔風容〕風采といふに同じ、なりふりのこと。○〔後漢〕「ーーー甚盛」。「ーーー」。

〔惰容〕なまけたるふり。○〔北〕「自レ旦至レ暮、略無ニーーー久矣」。

〔包容〕つゝみいる。○〔唐〕「婁公盛德、爲レ所ニーーー」。「ーー」。

〔餘容〕（植）芍やく。○〔本草〕「芍藥一名ニーーー」。

〔喜容〕（い）（植）きく。○〔本草〕「菊一名ニーーー」。
（ろ）よろこぶかたち。○〔大唐新語〕「旣無ニーーー、亦無ニ愧詞ー」。

〔督容〕愧づるかたち。○〔魏都賦〕「有ニ靦ーーー」。

〔蔽容〕すがたをかくしつゝむ。○〔李尤〕「屛以ーレーー」。

〔悴容〕やせ衰へたるかたち。○〔謝靈運〕「ーーー變ニ柔顏ー」。「ーー」。

〔羊容〕うつくしき容色。○〔謝靈運〕「升長皆ーーー」。

〔舊容〕もとの姿。○〔于武陵〕「故人非ニーーー」。

〔殊容〕すぐれたるかたち。○〔劉禹錫〕「娛樂ーーー」、

〔儀容〕かたち。○〔雍陶〕「風流空想舊ーーー」。

〔瘦容〕やせたるさま。○〔樊阜〕「自把ニ梅花ー比ニーーー」。

【容】 ヨウ、ユウ。余襲切 腫
前條の㊁の(ほ)と㊂とに同じ。

八畫

【寁】 キヨ、コ。九魚切 魚 一本、貯に作る。
㊀うる(賣)。㊁たくはふ(貯)。㊂をる、(居)。㊃やどる、おく(舍)。

【寎】 ウ。衣過切 過
かりね、うたゝね(假寐)、一說に、寐の譌字とあり。

【宿】 シュク、ソク。息逐切 屋
㊀とまる、とゞまる。
(い)一定の處に居りて移らず。○[荀]「使下臣下百吏莫上ㇾ不ト二一ㇾ道郷ㇾ方而務一」。「所二歸ーー一」。
(ろ)とりつゞまる。○[荀]「倜然無ㇾ
(は)やどる、㊁に同じ。
㊁やどる。
(い)夜中にとまる、とまりて夜を過ごす、特に、一夜とまるにいふ字、○[左]「有ㇾ客ーー」。
(ろ)途中にて息む。○[北]「街坐巷ー、處々遊行」。
(は)暫の間假りて住む、やど借る。○[莊]「仁義先王之蘧廬也、止可二以一ー、而不ㇾ可二以久處一」。
(に)星其の座に移る。○[說苑]「日月五星之所ㇾー也」。
㊂とゞむ。
(い)移らしめず、又、やどらしむ、やどを借す、やどす。○[後漢]「光武笑因留ー閒語」。
(ろ)猶豫す、ひまをいる。○[論]「子路莫ㇾーㇾ諾」。

㊃やどり、又、とまり。
(い)やどると、又、やどる場所、やど、旅舍、やどや、はたごや。○[周]「三十里有ㇾー」。
(ろ)星移ると、又、星の座、卽ち、星のあつまりて一團をなす現象、支那古昔の天文にては之を二十八區に分かちたりき。○[素問]「故天有二ー度一」。「旋」。
㊄一よさ。○[王褒]「連二五ーー一兮建ㇾ直二ー九重一」。
㊅やすんず(安)。○[左]「官ー二其業一」。
㊆まもる(守)、とのゐ(直)。○[劉孝威]「晉部護嚐ー將」。
㊇ひさし(久)、ふるし(舊)、又、もと(素)。○[史]
㊈夙に同じ、はやし、はやくす(早)。○[周]「世婦掌二女宮之ー戒一」。
㊉肅に同じ、つゝしむ、又、つゝしますいましむ(戒)。○[禮]「宮宰ー二夫人一」。
⑪ひさしく其の事に從事したる者、老練者、又、年を重ねたる者、老人。○[杜甫]「深藏供二老ーー一」。

(齊宿) ものいみして一夜さをすごす。○[孟]「弟子ーー而後敢言」。
(信宿) 二日のとまり。○[詩]「於ㇾ女ーー」。
(再宿) 前に同じ。○[左]「一宿爲ㇾ舍、ーー爲ㇾ信、過ㇾ信爲ㇾ次」。
(露宿) 家の外にやどる。○[後漢]「衞人ー二ー于道一」。
(草宿) 前に同じ。○[南]「霜行ーー」。
(遞宿) 前に同じ ○[唐]「ーー草次」。
(名宿) 名高き老人。○[後漢]「浮降二召州中ーー涿郡玉岑之屬一」。
(託宿) やどかる。○[莊]「假二道于仁一、ー二ー于義一」。
(老宿) 年たけたる者。○[蘇軾]「山中ーー依然在」。
(宿宿) 一夜とまる。○[詩]「有ㇾ客ーー」。
(寄宿) やどる、又、かりの住居。○[史]「ー二ー羅氏第舍一」。
(棲宿) やどる、とまる。○[列]「ーー去來」。
(投宿) とまると。○[張籍]「行客欲ーー一」。

(止宿) 前に同じ。○[後漢]「當獨ー二ー崇上一」。
(淹宿) 前に同じ。○[唐]「故朝廷動靜輒報、不ニーー而知」。「因請ニーー一」。
(寓宿) 前に同じ、又、やどり。○[後漢]「遂與共言、」
(耆宿) 老人の德望ある者。○[後漢]「ーー大賢多見二廢棄一」。
(經宿) 一夜を過ごす。○[宋]「異香ーㇾー不ㇾ散」。
(屯宿) とゞまる。○[宋]「皆當下ー二ー重兵一、倚爲中形勢上」。
(遠宿) 遠き處にてやどる。○[易林]「王伯ーー、長婦在ㇾ室」。「方重」。
(累宿) 日をかさねてとまる。○[盧照隣]「ーー思

【㝛】 古文の宿の字。

【㝡】 セキ、シャク。思積切 陌
よる、よさり(夜)。

【寀】 サイ、此宰切 賄 倉代切 隊 又、采に作る。
つかさ。
(い)官府の職務、つとめ。○[封禪文]「展ー錯事」。
(ろ)官府の職務を帶ぶる者、官吏、官人、特に、其の釆邑あるものゝ稱。○[宗]「督二吏ーー一繕葺」。

(儲寀) 太子に屬する官。○[舊唐]「率以二ーー王宮ー雜二稱之一」。
(寮寀) 官吏のと。○[孟浩然]「ーーー非ㇾ攀ㇾ躋」。
(宮寀) 宮中に奉仕する役人。○[劉迫]「ーー無二因以進ㇾ言」。
(朝寀) 朝廷の役員。○[沈佺期]「ーーー候二征麾一」。
(賓寀) 賓客と役人と。○[白居易]「其ーーー宜ㇾ有二以稱ㇾ之」。

【寁】 サン、子感切 感 セフ、ソン。切 ゾフ。切 疾葉 葉
さし、はやし、すみやか、(速、亟)。○[詩]「無二我惡一兮、不ㇾーㇾ故也」。

【寂】 セキ、ジヤク。前歷切 錫
しづか。
(い)動かざると、定まり安んずると。

○[易]「ーー然不ㇾ動感而遂通二天下之故一」。
(ろ)人の居らざると、音聲の聞こえざると、むなしくしてはろかなると、ひッそりとしたるを、さびし。○[晉]「晝日垂ㇾ簾、門階閑ーー」。

(寂寂) さびしく靜かなる貌にいふ語。○[左思]「ーーー揚子宅」。
(閴寂) 前に同じ。○[杜甫]「多病獨愁常ーーー」。
(靜寂) 前に同じ。○[謝靈運]「列筵皆ーーー」。
(虛寂) 滯碍なくして靜かなると。○[淮]「ーーー以待」。
(淪寂) 志づかなると。○[參同契]「ーーー無ㇾ聲」。
(澹寂) 前に同じ。○[劉因]「端居得二ーーー一」。
(沈寂) 前に同じ。○[文心雕龍]「子雲ーーー」。
(幽寂) 奥深く靜かなると。○[歐陽辯畑]「應鄉有二山、觀甚ーーー」。
(歸寂) 死ぬると。○[通社高賢傳]「遠公ーーー、乃入二石耶山一」。「ーーー也」。
(淳寂) まじりけなく靜かなると。○[王績]「何壯
(玄寂) 高妙にして靜かなると。○[方于]「若把二重門一論二ーー一」。
(湛寂) 前に同じ。○[唐太宗]「法流ーーー、挹ㇾ之莫ㇾ測二其源一」。「名言」。
(沖寂) 前に同じ。○[孔安國]「道本ーーー、非ㇾ有二
(空寂) (い)前に同じ。○[宋之問]「遂本知二ーー一」。
(ろ)さびしき。○[李俊民]「一菴ーーー地」。

【寄】 キ、ギ。居義切 寘
㊀よす。
(い)まかす、たのむ、ゆだぬ、委任、囑託。○[論]「可三以ー二百里之命一」。
(ろ)おくる、遺る又、傳ふ。○[南]「先以二一匹錦一相ー、今可ㇾ見ㇾ還」。
(は)むかふ、かたむく、つく。○[洛神賦]「長ー二心於君王一」。
(に)やどかす、とゞむ、やどす。○[周註]「不下爲二廬舍一、以ー中羈旅之客上」。
(ほ)もたせかく、又、かこつく。○[晉]「ー二身聖世一」。

㊁よる。
(い)もたれかゝる、すがる、もたる、たよる、因緣す、繫がる、かゝる、ちなむ、又、てづる、たより、ちなみ、つて、因緣。○〔漢〕「請—爲レ姦、羣—小日進」。
(ろ)假りに住む、やどる、故土を離れて住む、寓居、羇旅。○〔淮〕「生者—也、死者歸也」。
(は)迫まる、近づく。○〔盧道人〕「若ニ玄・音有レ—」。
㊂やどりする場所、やどり、やど。○〔國〕「國無ニ—・寓ニ」。

〔重寄〕おもき委任。○〔魏〕「明・公荷ニ國——ニ」。
〔浮寄〕あたなるたのみ。○〔張華〕「人・生若ニ——ニ」。
〔深寄〕ふかくまかす。○〔江淹〕「彌感ニ——ニ」。
〔閫寄〕將軍の委任。○〔李納〕「膺ニ茲——ニ」。
〔我寄〕前に同じ。○〔柳宗元〕「忝承ニ——ニ」。
〔託寄〕ゆだねまかす。○〔晉〕「帝問レ華、誰可レ—ニ—後・事ニ者」。
〔委寄〕前に同じ。○〔齊〕「深相——、事皆見レ從」。
〔任寄〕前に同じ。○〔江淹〕「——隆・深」。
〔邊寄〕國境を守備する委任。○〔歐陽修〕「久習ニ兵・戎ニ、嘗委ニ——ニ」。
〔朝寄〕朝廷よりの委任。○〔晉〕「安雖レ受ニ——、然東山之志、始・末不レ渝」。
〔高寄〕俗を離れたること。○〔沈約〕「風・趣——」。
〔藩寄〕藩屏の委任。○〔談苑〕「久忝ニ——ニ」。
〔隆寄〕さかんなる委託。○〔蘇頲〕「仍受ニ——ニ」。
〔親寄〕したしみまかす。○〔范雲〕「匪レ—孰爲レ—」。
〔寵寄〕いつくしみまかす。○〔裴度〕「又承ニ——ニ」。
〔投寄〕よす。○〔元稹〕「律・詩以相——」。
〔柱石寄〕重き委任のこと。○〔朱浮〕「事有ニ——之—ニ」。
〔方面寄〕一方面を守る大將の任務。○〔名臣言行錄〕「當ニ——ニ不ニ敢辭ニ」。

【寅】イン。弋眞切 眞 イ。以脂切 支 本、寅に作る。
㊀十二支の一つ、とら。
(い)十二ケ月に配しては夏の時代の正月。○〔韓愈〕「來—其徵」。
(ろ)時刻に配しては午前四時。○〔韓愈〕「—而入盡レ辰而退」。
(は)方位に配しては、東と北との間を三等分して等分點の二つあるものゝ中にて東の方に近き處。○〔爾〕「太・歲在レ—、曰ニ攝・提・格ニ」。
㊁つゝしむ(敬)、又、つゝむ(强)。○〔書〕「夙・夜惟—」。
㊂演に同じ、のぶ、のべ、すゝむ(奏)。○〔白虎通〕「少・陽見レ—、—者演也」。
㊃しりぞく(擯斥)。

【密】ビツ、ミチ。美畢切 質
㊀ひそか。
(い)奧深きこと、窺ひ易からざること。○〔易〕「必退藏ニ於—ニ」。
(ろ)外に知れざること、隱れたること。○〔易〕「幾・事不レ—則害成」。
(は)しづか(靜)。○〔詩〕「夙・夜基レ命宥—」。
㊁ぬかりなきこと、漏れなきこと、手おちなきこと、さゝやかなる事にも行き届くこと、つまびらか、こまやか。○〔漢〕「謹・愼周—」。
㊂まばらならず、あらからず、あつまり重なれり、こまか、しげし。○〔易〕「—雲不レ雨」。
㊃とゞむ(止)、又、とづ(閉)。○〔禮〕「陰而不レ—」。
㊄近接す、ちかづく。○〔書〕「—ニ邇王・室ニ」。
㊅外人に示さざる處、かくしたる事件、○〔禮〕「不レ窺レ—」。
㊆山の形の堂の如き處、山脊、やまのせ。○〔尸子〕「松・柏之鼠不レ知三堂・—之有ニ美・樅ニ」。

〔遏密〕とゞむ。○〔書〕「四・海—ニ—八・音ニ」。
〔縝密〕つゝしみ深きこと。○〔南〕「性——、未ニ嘗言ニ禁中事ニ」。
〔祕密〕極めてひそかなること。○〔漢〕「兵・事上ニ——ニ」。
〔堅密〕かたきこと。○〔漢〕「甲不ニ——、與ニ袒・裼ニ同」。
〔麗密〕うつくしくこまやかなること。○〔漢〕「雖レ與ニ道ニ純・綿之——ニ」。
〔機密〕政事などの相談、又、政事をさしていふ語。○〔晉〕「與ニ荀・勗ニ共掌ニ——ニ」。
〔樞密〕前に同じ。○〔北〕「久在ニ——、特レ寵自專」。
〔近密〕皇帝にちかづく地位。○〔後漢〕「陛下以ニ臣嘗在ニ——、識ニ臣狀・貌ニ」。
〔嚴密〕きびしきこと。○〔後漢〕「宮・禁——」。
〔禁密〕(い)皇宮内の秘密。○〔魏〕「——不レ得ニ宣・露ニ」。(ろ)前々條に同じ。○〔崔駰〕「居ニ——之地ニ」。
〔綿密〕こまやかなること。○〔宣和書譜〕「下レ筆——」。
〔蒙密〕草木などの茂れる貌にいふ字。○〔江淹〕「或、殖ニ疏・園之——ニ」。
〔微密〕こまやかにしてかくれたること。○〔漢〕「刺ニ求——ニ、不レ見ニ尋・怒ニ」。
〔陰密〕かくれて顯はれぬこと。○〔唐〕「性——、誅・殺」
〔周密〕あまねくゆきわたること。○〔漢〕「樞・機——」。
〔疏密〕あらくしきこととこまやかなることと。○〔梁簡文帝〕「——俱巧」。
〔篤密〕てあつきこと。○〔漢〕「用レ士——」。
〔謹密〕つゝしみ深きこと。○〔漢〕「貌若ニ儻・蕩不一レ備、然心甚——」。
〔愼密〕前に同じ。○〔易〕「是以君・子——而不レ出也」。
〔繁密〕しげきこと。○〔後漢〕「觧ニ王・莽之——ニ」。
〔詳密〕ことこまかなること。○〔唐〕「性——、出・納雖ニ尋尺、皆自按・省」。
〔纖密〕前に同じ。○〔晉〕「倪性——好レ間」。
〔碎密〕こまやかなること。○〔南〕「萬・機——、不レ歸ニ外・司ニ」。
〔茂密〕しげりこもる。○〔南〕「桃・李——」。
〔綢密〕前に同じ。○〔謝朓〕「禁林——」。
〔鬱密〕こもりてちらぬこと。○〔陸[illegible]〕「氣・象仍——」。
〔翠密〕あをあをと茂る。○〔宇文逌〕「——圍レ簷竹」。
〔密密〕しげれる貌にいふ字。○〔陸游〕「——疎・疎自在花」。

【(宀+林)】リン。力針切 侵 室深し、ふかし。

【(宀+亞)】ア、エ。於加切 麻 正しからず、ゆがむ(—宗)。

【(宀+亞)】ア、エ。於價切 禡 懸かる貌にいふ字、かゝる。

【宼】俗の寇の字。

【寇】コウ、ク。苦候切 宥
㊀あつまりて民人を攻めおびたけ財物をかすめ取る一むれのもの、あだ。○〔書〕「—・賊姦・宄」。
㊁仇をなす、攻めおびたぐ、そこなふ、ぬすむ、かすむ、かすめさる、あだす。○〔莊〕「山・木自—也」。
㊂侵入せる敵兵、あだ。○〔呂覽〕「左・右有下言ニ秦・—之至ニ者上」。
㊃物多し、おほし。○〔郭璞〕「今江・東有ニ小・凫、其多無・數、俗謂ニ—・凫ニ」。

〔司寇〕古の官名にておもに刑罰盜賊などの事をつかさどる役。○〔書〕「——掌ニ邦・禁ニ」。
〔窘寇〕困阨の位地に陷りたるあだ。○〔漢〕「此——不レ可レ追也」。
〔侵寇〕をかしあたす。○〔晉〕「邊・境數被ニ——ニ」。
〔彊寇〕優勢なるあだ。○〔魏〕「外有ニ——、衆心不レ安」。
〔凶寇〕わるづよきあだ。○〔宋〕「境接ニ——、政・績既著」。
〔劇寇〕はげしきあだ。○〔唐〕「梁・王數[illegible]ニ——ニ」。
〔遺寇〕うちもらされたるあだ。○〔班固〕「野無ニ——ニ」。
〔懲寇〕あだを伐ちこらす。○〔陳琳〕「亟ニ先・懲之——」。
〔窮寇〕勢力の盡きてくるしめるあだ。○〔漢〕「——不レ可レ追也」。
〔伏寇〕かくれてあらはならざるあだ。○〔管〕「——在レ側」。

（外寇）他國より攻め來たるあた。〇〔國〕「猾ニ─ ─」而不レ害」。
（邊寇）國のさかひをおかすあた。〇〔漢〕「─ ─ 皆少刋」。

【寇】叟に同じ。〇〔齊周〕「鼓─郎 聲腰也」。

九畫

【貞】テイ、チヤウ　知盈切　庚
人の名。

【宮】セイ、シヤウ。　所景切　梗
省に通じ作る、宮禁に設けある官署、つかさどころ。

【寋】ケン。　九件切　銑
徒に磬を鼓つ、うつ。

【寒】ケン、コン。　巨偃切　阮
女の字、（あざな）。

【窒】古文の煙の字。

【寛】ウツ、チチ。　紆勿切　物
ひだれ、うづみび、（火種）。

【家】テン、デン。　丑院切　銑
篆に同じ。

【富】フウ、フ。　方副切　宥　─俗には富に作る。
㊀さむ。
（い）そなはる、（備）、又、みつ、（充）。〇〔禮〕「后稷之祀易レ─」。
（ろ）厚し、多し、豐かなり。〇〔玉部之樂章〕「歌白ニ德─一、舞由ニ功深ニ」。
（は）裕に貯ふ、多く積む。〇〔史〕「悼惠王─ニ於春秋ニ」。
（に）資產など多く有つ。〇〔易〕「不ニ耕穫一不レ─」。
㊁とみ。
（い）とめるを、資產多きを、（㊀の條參照）。〇〔禮〕「辭レ─不レ辭レ貧」。
（ろ）貯ふる度合、資產の量。〇〔禮〕「都城不レ過ニ百雉一、家─不レ過ニ百乘ニ」。
（は）貨財、又、資產、又、價あるもの、汎稱。〇〔書〕「非レ訖ニ于威一、惟訖ニ于─ニ」。「力子天所レ─」。
㊂とみてあらしむ、さます。〇〔後漢〕
（貨富）（い）財寶多きを尙ぶ。〇〔禮〕「殷人─レ─而尙レ齒」。「珪─ ─矣」。
（ろ）地位高く且つ財寶多し。
（殷富）さかんにとむ。〇〔史〕「今在レ趙執─ ─」。
（昌富）前に同じ。〇〔易林〕「家國─ ─」。〇〔詩序〕「國家─ ─」。
（饒富）ゆたかにとめること。〇〔漢〕「欲レ視ニ─ ─ 一、用怖ニ山東ニ」。
（豐富）前に同じ。〇〔晉〕「家產─ ─」。
（豪富）すぐれてとめること、又、其の者。〇〔史〕「徙ニ天下─ ─於咸陽ニ」。
（巨富）前に同じ。〇〔後漢〕「自レ是桑至ニ─ ─ ニ」。
（强富）强くして且つとめること。〇〔吳〕「君レ國者、以レ據ニ彊土ニ爲ニ─ ─ ニ」。
（沖富）さかりなること。〇〔晉〕「主上春秋─ ─」。
（宏富）ひろくゆたかなること。〇〔宋〕「文章─ ─」。
（贍富）ゆたかなること。〇〔晉〕「辭義─ ─」。
（殷富）前に同じ。〇〔梁〕「辭歸ニ─ ─ ニ」。「─ ─」。
（詳富）あきらかにして豐かなること。〇〔魏〕「器識─ ─」。
（美富）うるはしく豐かなること。〇〔魏〕「仁風─ ─」。
（暴富）にはかにとめること。〇〔擲振記〕「民多ニ─ ─ ニ」。
（雄富）すぐれて多し。〇〔鮑照〕「才力─ ─」。
（淵富）深くゆたかなること。〇〔何承天〕「文詞─ ─」。

【寍】古文の寧の字。

【寎】ヘイ、ヒヤウ。　皮命切　敬　兵永切　梗
或は、窉に作る。

【寤】寢臥中に驚き覺むる病、おびえ、おそはれ、一說に、多く寐ぬ。

【寏】クワン、グワン。　胡官切　寒
まはりのかき、かき、（周垣）。

【寅】クワン、グワン。　巨官切　寒
地の名。

【寐】ビ、ミ。　密二切　寘
寢に就く、いぬ、（寢）、やすむ、（息）、又、ふす。〇〔詩〕「夙興夜─」。
（寤寐）目さむるにも、いぬるにも、絕えず思ふにいふ語。〇〔詩〕「窈窕淑女、─ ─求レ之」。
（假寐）うたゝね。〇〔詩〕「─ ─永歎」。
（夢寐）いねてゆめみる。〇〔後漢〕「夙夜─ ─」。
（熟寐）うまいす、よくいぬ。〇〔列〕「夜則昏憊而─ ─」。
（寢寐）臥床に入りていぬ。〇〔公羊〕「─而不レ─」。
（屑寐）人の死ぬるにいふ語。〇〔古詩〕「─ ─黃泉下」。
（失寐）いぬべき機會をうしなひていぬること能はぬ。〇〔劉邦〕「通宵─ ─」。
（昏寐）くたびれて前後を知らぬにいぬること。〇〔顔況〕「滌ニ通宵之─ ─ ニ」。

【寱】エイ、アイ。　於計切　霽　エツ、エチ。　烏結切　屑
ねごと、（靜）、やすし、（安）。

【寑】古文の寢の字。

【寒】カン、ガン。　胡安切　寒
㊀さむし、（あつしの對）。
（い）はなはだ冷かなり、熱さいさゝ少し、冬の時氣なり。〇〔莊〕「毛可ニ以禦ニ風─ ─ ニ」。
（ろ）さむさを感ず、又、ぞッさする心地す、身ぶるひす。〇〔名臣言行錄〕「西賊聞レ之、心骨─」。
（は）いやし、まづし、ひくし。〇〔晉〕「出レ自ニ─ 微一、有ニ文武才幹ニ」。
㊁さむきを、さむき度合、さむさ、又、冬の季節。〇〔易〕「一─ 一暑」。
㊂窮窘す、くるしむ、なやむ。〇〔史〕「范叔一─如レ此哉」。
㊃さむさになやむ、こゞゆ。〇〔韓愈〕「父饑兮兒─」。
（祁寒）大寒に同じ、いみじうさむし、又、其の季節。〇〔書〕「冬─ ─」。「─」。
（沍寒）さえてさむし。〇〔左〕「深山窮谷、固陰─ ─」。
（盟寒）既に誓ひたることを冷淡に思ひて行はぬ。〇〔左〕「今吾子曰、必尋レ盟、若尋レ─也、亦可レ─也、乃不レ尋レ盟」。
（盛寒）さむさのまさかりなること、又、其の時。〇〔晉〕「隆冬─ ─」。
（隆寒）前に同じ。〇〔魏〕「松栢之茂、─ ─不レ衰」。
（奇寒）例に異なりていとさむし。〇〔歐陽雜俎〕「今歲─ ─」。「─ ─ ニ」。
（淒寒）物すごくさむし。〇〔景福賦殿〕「冬不ニ─ ─之氣」。
（凝寒）陰氣こりてさむし。〇〔禮、疏〕「冬時─ ─也」。
（陰寒）前に同じ。〇〔詩、箋〕「春則避ニ─ ─ 一而南圖」。
（極寒）こよなきさむさ、又、其の季節。〇〔易稽覽圖〕「日冬至之後、三十日─ ─」。
（猛寒）前に同じ。〇〔晉〕「奈何以ニ─ ─攻レ城」。
（嚴寒）前に同じ。〇〔年曆〕「一冬只辨作ニ─ ─ ニ」。
（饑寒）飢とこゞえと。〇〔後漢〕「─ ─倶解」。
（凌寒）さむきを物の數とも思はぬ言す。〇〔梁〕「復似ニ─ ─竹ニ」。「─ ─ ニ」。
（微寒）すこしのさむさ。〇〔黃清老〕「孫月帶ニ─ ─」。
（餞寒）前に同じ。〇〔梁簡文帝〕「─ ─迎レ節」。

【寃】バン、マン。　無遠切　阮
ひく、（引）。

【寓】籀文の字の字。

【寓】グ、ゴ。　牛具切　遇　ギヨ、ゴ。　牛居切　魚　─或は、庽に作る。

㊀よす。
(い)よす(寄)。○〔禮〕「大夫－二祭器一、大夫、士－二祭器於士一」。
(ろ)つく(屬)。○〔左〕「得二臣與一－レ目焉」。
(は)やどかす、やどす、居らしむ。○〔孟〕「無レ－二人於我室一」。
(に)或る目的の爲めに或る事を假り用ふ、かこつく、ことよす。○〔史〕「著書十萬餘言大抵率－言也」。

㊁よる。
(い)かゝりゐる、やどかる、やどる。○〔禮〕「諸侯不レ臣二－公一」。
(ろ)たる(居)。○〔左〕「請－乘」。

㊂かりのすまひ、やど、やどや。○〔國〕「國無二寄－一」。

㊃鳥の名、其の形は、鼠の如くに形翼あり其の音は羊の如しとぞ。

㊄獮猴の類、木の上により棲むよりいふ。○〔爾〕「有二－屬一」。

〔流寓〕故郷を離れて他に居ること。○〔周書〕「南北－－之士」。
〔漂寓〕前に同じ。○〔杜甫〕「飄能忍二－－一」。
〔寄寓〕(い)一族の者を寄宿せしむる處舍、やどや、○〔國〕「國無二－－一」。(ろ)他の家にやどり居る。○〔吳〕「賓旅－－之士」。
〔託寓〕ことよす。○〔史〕「依レ類－－」。
〔羈寓〕他郷にやどる、又、やどや。○〔北〕「雖二少－－一、而志世雅重」。
〔旅寓〕前に同じ。○〔杜甫〕「瓜時猶－－」。「－遊矣」。
〔萍寓〕水草の如くに處定めなかなたこなたに身をよすること。○〔高士傳〕「段干木自レ言－－於西河一」。
〔飄寓〕處定めず身をよすること。○〔王勃〕「我之－－」。
〔僑寓〕かりのすまひ。○〔司馬光〕「可レ使下孤遠者有二差遣一、－－者各思上レ還二本土一矣」。

【寔】シヨク、シキ。丞職切 職
まことに(實)、又、たゞ(止)、又、これ(是)。○〔左〕「春正月－來」。

【蛇】タ、ダ。唐何切 歌
㊀ふくろ(囊)、一説に、馬上の連囊。
㊁おふ(負)。

【寛】ケウ。牽幺切 蕭
むなし(空)。

十畫

【寖】寑に同じ。

【寗】寧に同じ。○〔漢〕「永以康－」。

【索】サク、シャク。所責切 陌
家に入りて搜す、さがす、又、もとむ(求)。○〔史〕「大－二天下一」。

【索】サク。蘇各切 藥
㊀つく、つくす(盡)。
㊁ちる、あらく(散)。
㊂さびし(寂寞)。○〔書〕「惟家之－」。

【寘】シ。支義切 寘 ―俗に、寘に作るはあし。
(い)納る。○〔詩〕「－二予于懷一」。
(ろ)すつ(廢)。○〔詩〕「－二彼周－一」。
(は)移らしめず、とゞむ(止)。○〔周〕「－二之圜土一」。「－二於許一」。
(に)藏む、○〔左〕「凡而器用財賄、無レ－おく。
〔援寘〕助けておく。○〔宋〕「－－二仕祿一」。
〔召寘〕呼びよせおく。○〔宋〕「復－－二二府一」。
〔私寘〕己れのみの利をはかりて偏頗なる處置をなす。○〔魯〕「功被二天下一、而不二－－一」。
〔貲寘〕たからと、てをさめおく。○〔程史〕「趙忠定得レ之－－」。「－門・揣一」。
〔收寘〕とりいれおく。○〔朱熹〕「方二其未レ用而、－二

【寙】ユ。勇主切 麌 ―窳の字とは音義ともに別なり。

【𡪢】コウ、ク。居候切 宥 ―本、冓に作る。
㊀おこたる(懶)。○〔史〕「呰－偸レ生」。
㊁ゆがむ(邪)。○〔史〕「器不二苦－一」。

【窈】ヲウ、ウ。烏孔切 董
㊀よる(夜)。
㊁室の深くひそまりたる處、ねや、お「く。

室の中暗し、をぐらし。

【寐】ベイ、マイ。莫禮切 薺 ―或は、寱に作る。
熟く寐ぬ、いぬ。

【寣】バウ、マウ。謨郎切 陽
ねごと(寐語)。

十一畫

【康】カウ、コウ。苦岡切 陽 口朗切 養
或は、㝩に作る。

屋の閑かなるにいふ字、しづか、又、むなし(空虛)。○〔司馬相如〕「委參差以－良」。

【寞】バク、マク。暴各切 藥 ―本、嗼に作る。
聲なきを、定まり安んずるを、ひッそりとしたるを、しづか、さびし。○〔王勃〕「氣恬海－」。
〔沖寞〕ふかくしてしづか。○〔韓維〕「道造－－」。
〔窈寞〕かすかにしてしづかなること。○〔王諶〕「仰二岸蒼之－－一兮」。「－」。
〔索寞〕しづか、さびし。○〔方岳〕「太陽無レ光天－－」。
〔寂寞〕さびし、又、しづかなること。○〔淮〕「－－者音之主也」。
〔落寞〕前に同じ。○〔釋辨才〕「披レ雲同－－」。
〔芴寞〕かたちの定まらざる貌にいふ語。○〔莊〕「天下－－無レ形」。

【察】サツ、セチ。初八切 黠 ―〔説文〕从レ宀祭聲
㊀あきらか。
(い)了解するを、疑はざるを、又、つまびらか(審)。○〔李陵〕「功大罪小不レ蒙二明－一」。
(ろ)昭かに著はれたるを、知れ亘りたるを、又、いちじるし。○〔中〕「言二其上下－一」。
(は)注意の行き屆くを、こまやかしき事に迄もおちなきを。○〔荀〕「人太－則無レ徒」。
(に)智慧の多きを、才のすぐれたるを。○〔漢〕「淮陽憲王于二時諸侯一爲二聰－一矣」。

㊁あきらかに分別す、つまびらかに了解す、つまびらかにす、あきらかにす、あきらむ、しる、(知)。○〔左〕「補二－其政一」。

㊂くりかへして正す、究めあきらむ、かんがふ(考)、仔細に取り調ぶ、つまびらかにみる、みる(視)。○〔唐〕「二－二官人善惡一二－一二賦役一」。

㊃已れのみの想像なるを、不公平のかんがへなるを、偏見。○〔莊〕「道德不レ一、天下多得二－－一焉、以自好」。

㊄潔清の貌にいふ字、きよし、いさぎよし。○〔屈平〕「安能以二身之－－一、受二物之汶々一」。

㊅不必要の細事多し、多くして厭ふべし、くだくだし、わづらはし。○〔老〕「其政－－」。

〔苛察〕こまかき事にまでも目をつくること。○〔莊〕「君子不レ爲二－－一」。「－」。
〔財察〕分別してあきらかにす。○〔漢〕「惟陛下－－」。
〔督察〕たゞしみる。○〔唐〕「－－姦訛」。
〔糾察〕前に同じ。○〔後漢〕「莫二肯－－一」。
〔按察〕しらべかんがふ。○〔北〕「－－無レ貸」。

〔賾察〕あきらかにしらぶ。〇〔北〕「勅ニ放泰ニ――」。
〔潤察〕つまびらかにみる。〇〔周〕「巡刑而――ニ――之ニ」。
〔明察〕くもりなくあきらかなること。〇〔孝〕「天地――、神明彰矣」。
〔彰察〕前に同じ。〇〔易〕「夫易――往而――來」。
〔齊察〕前に同じ。〇〔說苑〕「思慮――」。
〔洽察〕前に同じ。〇〔晉〕「――ニ――善惡ニ」。
〔聽察〕きゝわく。〇〔漢〕「雉者――」。
〔詳察〕つまびらかに考ふ。〇〔史〕「足下――ニ――之ニ」。
〔熟察〕くはしく考ふ。〇〔史〕「願大王――ニ――之ニ」。
〔考察〕かんがへしらぶ。〇〔杜預〕「以詳ニ――ニ」。
〔審察〕物事に氣のつきて怜悧なること。〇〔南〕「少而――」。
〔檢察〕しらべみる。〇〔後漢〕「以相――」。
〔監察〕前に同じ。〇〔後漢〕「――ニ――五郡ニ」。
〔斷察〕前に同じ。〇〔後漢〕「能――ニ――疑獄ニ」。「也」。
〔推察〕おしきはめ考ふ。〇〔後漢〕「所レ宜ニ――ニ――者」。
〔猜察〕そねみ考ふ。〇〔後漢〕「智盡ニ於――ニ」。
〔究察〕十分にしらぶ。〇〔呉〕「明朝所レ當ニ――ニ」。
〔照察〕あきらかにみる。〇〔脩父論〕「求ニ相――而求ニ深固ニ」。
〔鑒察〕かんがみる。〇〔晉〕「――ニ――成敗ニ」。
〔診察〕うかゞひみる。〇〔南〕「尤工ニ――ニ」。
〔巡察〕めぐりしらぶ。〇〔北〕「遣ニ侍臣――」。
〔省察〕あきらかに考ふ。〇〔唐〕「惟陛下――」。
〔訶察〕探りしらぶ。〇〔唐〕「多レ所ニ――ニ」。
〔糾察〕たゞしらぶ。〇〔唐〕「性恬淡不レ喜レ爲ニ――ニ」。
〔體察〕さとる。〇〔宋〕「同列不レ能ニ――ニ」。
〔偏察〕かたよりておしはかること。〇〔宋〕「明好ニ――名ニ」。
〔諮察〕たづねしらぶ。〇〔元〕「楚材――、得ニ其姓」

【寖】浸に同じ、一說に、寢の譌字。

【窶】ク、ゴ。其矩切 麌 ル、ロ。良遇切 遇
禮なくして居る、又、まづし、(貧)、まづしければ禮を備ふるを能はざる義、又、まづしきになやめり、やつる、やつ〳〵し。〇〔詩〕「終――且貧」。
〔貧窶〕まづしきこと。〇〔晉〕「差少――」。
〔困窶〕前に同じ、又、貧の爲にくるしむ。〇〔文仲子〕「姚義――ニ於――ニ」。
〔羈窶〕他國にありてまづしきこと。〇〔唐〕「少――、所レ向少レ諧」。
〔凋窶〕おとろへつかる。〇〔唐〕「海內――」。
〔寒窶〕前に同じ。〇〔唐〕「家――」。

【窶】ロウ、ル。郎侯切 尤
甌窶は高地のせばくほそき處、一說に、かたよりそばだちたる處。〇〔史〕「甌窶滿レ篝」。

【寡】クワ、ケ。古瓦切 馬（俗に、力に从ひ、寡に作るはあし。）
❶多からず、すくなし、(少)。〇〔易〕「吉人之辭――」。
❷勢力すくなきもの、孤立のもの、劣等の地位に立つ者、小人數の者。〇〔周〕「馮レ弱犯レ――」。
❸五十歳にて夫なき女、老いて夫なき女、夫に死に別かれたる婦、やもめ、ごけ、又、老いて妻なき男子にもいふ、やもを。〇〔大戴禮〕「五十無レ夫曰レ――」。
❹德すくなしさの義より、王侯の己れの謙稱、又、臣下の他邦の人に對して己れが事ふる王侯を指したる謙稱に用ふる字。〇〔禮〕「諸侯自稱曰ニ――人ニ」。
❺減らす、すくなくす、又、弱むるの義にもいふ字。〇〔禮〕「故君子――ニ其言、而行以成ニ其信ニ」。
〔鰥寡〕老いて妻なき者とをっとなき者と、又、無告の民。〇〔書〕「不レ敢侮ニ――ニ」。
〔塡寡〕一に、疹寡に作る、病みたるやもめ。〇〔詩〕「哀我――」。
〔多寡〕おほきとすくなきと、又、物の量の義にもいふ語。〇〔孟〕「五穀――同、則價相若」。
〔弱寡〕よわむ、又、よわし。〇〔詩、疏〕「――ニ――王室ニ」。
〔孤寡〕みなしごとやもめと。〇〔禮〕「恤ニ――ニ」。
〔疲寡〕つかれたる小人數。〇〔戰〕「以ニ衆強ニ敵ニ――也」。
〔簡寡〕すくなし。〇〔後漢〕「務從ニ――ニ」。
〔衆寡〕おほきとすくなきと。〇〔後漢〕「齊ニ民財之――ニ」。
〔凋寡〕おとろへてすくなくなること。〇〔晉〕「言ニ戶口

【寵】バウ、マウ。莫江切 江
いぬ、(寐)。

【寢】シン、ソン。七稔切 寢
❶やすむ。
(い)睡に就く、ふし戶に入る、いぬ、ふす、(臥)。〇〔詩〕「乃――乃興」。
(ろ)休息す。〇〔五代〕「解レ鞍而――」。
❷やむ。
(い)其の事絕ゆ。〇〔漢〕「兵――刑措」。
(ろ)其の事を絕つ。〇〔唐〕「淮南――レ謀」。
❸東西の廂なき建物の房室、卽ち堂の室、又、しんぬ處、ふし戶。〇〔周〕「王公六――」。
❹廟の神を安置しある處、神殿。〇〔詩〕「奕々――廟」。
❺墓所の側にありて祭をなすに設けある屋、みたまや。〇〔史〕「三代以前、未レ有ニ墓祭、至レ秦始出レ――起ニ於墓側ニ」。
〔小寢〕やすむ座敷。〇〔禮〕「退然後適ニ――ニ」。
〔安寢〕心もちよくいぬ。〇〔詩〕「下莞上簟、乃――斯――」。
〔別寢〕間を別にす、又母屋よりはなれたる座敷。〇〔後漢〕「兄弟相戀不レ能ニ――ニ」。
〔園寢〕みたまや。〇〔後漢〕「漢諸陵皆有ニ――、承ニ秦所レ爲也」。
〔路寢〕周の時代の制度に王公は六寢あり北の一にして事を治むる處、おもてでん、おもてざしき。〇〔詩〕「――孔碩」。
〔正寢〕前に同じ。〇〔唐〕「徵家初無ニ――ニ」。
〔孤寢〕獨り臥すこと。〇〔李白〕「燈燭熒々照ニ――ニ」。
〔高寢〕始めて封侯せられし君の堂をいふ。〇〔史〕「居ニ雍――ニ」。
〔客寢〕旅ねのこと。〇〔史〕「――孤妾」。
〔假寢〕うたゝねのこと。〇〔呉〕「不レ遑ニ――ニ」。
〔裸寢〕はだかにていぬること。〇〔晉〕「――ニ――其中ニ」。
〔草寢〕くさはらの中にいぬ。〇〔宋〕「露宿――」。
〔興寢〕おきふし。〇〔隋〕「勞ニ于――ニ」。
〔閟寢〕みたまやのこと。〇〔隋〕「――翼々」。
〔丹寢〕あかく塗りたる室。〇〔王勃〕「紫房――」。
〔午寢〕晝ねのこと。〇〔趙抃〕「――忘ニ識刺ニ」。

【寣】コツ、コチ。呼骨切 月
❶臥せりて驚く、おびゆ、さむ、(覺)。
❷小兒の啼く聲、又、相呼ぶ聲。

【寤】ゴ、グ。五故切 遇（一に、窹に作る、俗に、寤に作るはあし。）
❶さむ。
(い)睡りより起く。〇〔史〕「七日而――」。
(ろ)晝間に見し事を夜間に夢む。〇〔周、註〕「精神――見、覺而占レ之」。
(は)睡眠中に現の如くにもの曰ふ。〇〔詩〕「獨寐――言」。
(に)閉ぢたる目を開く。〇〔風俗通〕「凡兒墮レ地能開レ目、視者謂ニ之――生ニ」。
❷悟に通じ用ふ、さとる、さとす。〇〔爾〕「別爲ニ音圖、用祛レ未レ――」。
〔覺寤〕さむ、又、さとる。〇〔漢〕「――ニ――黎蒸ニ」。
〔改寤〕さとる。〇〔漢〕「時君終不ニ――ニ」。
〔瞭寤〕あきらかに覺る。〇〔王褒〕「惡曉暢兮――」。
〔醒寤〕さむ。〇〔呉質〕「――之後、不レ識レ所レ言」。
〔幽寤〕ふかくさとる。〇〔孫楚李子贊〕「玄覽――」。
〔愧寤〕はぢさとる。〇〔江淹〕「――終レ朝」。
〔悖寤〕おそれさとる。〇〔蘇軾〕「坦然――」。

【寥】レウ。落蕭切 蕭 ラウ、レウ。力交切 肴 レキ、リヤク。郎狄切 錫（一本、廖に作る。）
❶しづか、さびし、(寂)。〇〔楚辭〕「寂――兮收レ潦而水清」。

㊂むなし、(空虛)。〇〔莊〕「支・冥聞ニ之寥—一ニ。」

(寥寥) ものさびし。〇〔左思〕「—・—空宇內」。
(瀟寥) 前に同じ。〇〔孟郊〕「—・—激ニ前階ニ。
(寥寥) 前に同じ。〇〔程頤〕「且容ニ花鳥伴ニ—・—ニ。
(碧寥) 青ぞら。〇〔范成大〕「臘ニ鶴—・—ニ。
(廓寥) ひろきそら。〇〔皇甫湜〕「志在ニ—・—ニ。
(豁寥) ひろし。〇〔雲笈七籤〕「百方千塗、莫レ不ニ—・—ニ。

【寳】 オウ、ウ。 烏侯切 尤

いへ、(屋)。〇〔康〕「闇—彝人屋」。

【實】 ジツ、ジチ。 神質切 質

㊀みつ。
(い)物事の空虛ならざるにいふ字、むなしからず、からにあらず。〇〔程頤〕「心有レ主則—、—則外患不レ能レ入」。
(ろ)たる、(足)、そなはる、(備)、とむ、(富)。〇〔韓〕「公家虛而大臣—」。
(は)塞ぐ、盛る、備ふ、富ます、みたす。〇〔儀〕「—ニ籩豆一」。

㊁み。
(い)花の後に結びて種となるべきもの。〇〔周〕「加ニ豆之—」。
(ろ)其の內に存在せるもの。〇〔易〕「女承レ筐无レ—」。
(は)すべて外形に對して內容の稱にいふ字、なかみ。〇〔史〕「貌言華也、至言—也」。

㊂みを結ぶ、み成熟す、みのる、みいり、みのり。〇〔禮〕「季春爲レ民祈ニ麥—ニ。

㊃まこと。
(い)いつはりならざるを、かげひなたなきを、眞誠なるを、まめやか、虛僞の反。〇〔易〕「剛健篤—」。〇〔韓〕「反擧ニ浮淫之蠹一加ニ之功—之上ニ。
(ろ)現在の事跡。

㊄名の對、一の名存すれば其の名を受用せるもの、即ち、物事の本體、言說に對しては、行爲、官職に對しては其の秩祿、權勢、事務、又、法紀に對しては施行制裁を指し、君子さいへば德行、美人さいへば姿容のうつくしきを、酒盃さいへば、其の飮器に堪ふるを指すなど。〇〔後漢〕「名—不ニ相應ニ。

㊅ある場處をみたすを、物事の存在。〇〔淮〕「—出ニ於虛ニ。

㊆備ふるを、堅固なるを。〇〔唐〕「避レ—擊レ虛」。

㊇貨物、富、又、器械、器具。〇〔左〕「庭—旅レ百」。

㊈いつはりなからしむ、いつはりなくす、まことにす。〇〔史〕「使ニ黔首自—レ田」。

㊉けみす、(驗)。〇〔後漢〕「使ニ四各—ニ千石以下至ニ黃綬ニ。

⑪あつ、(當)。〇〔書〕「閱ニ—其罪ニ」。

⑫疑ひもなく、いつはりなく、げに、まことに。〇〔在〕「陳嬀歸ニ于京師、—惠后」。

⑬これ、こゝに、(是)。〇〔詩〕「—墉—壑」。〇〔書〕

(口實) いひわけの因緣となすを、かごつけ。「以レ台爲ニ—・—」。
(木實) くだもの。〇〔易、疏〕「—・—爲レ果、苽實爲レ蓏」。
(豐實) (い)ゆたかにとめるを。〇〔晉、傳〕「百姓—・—」。
(ろ)ゆたかにみのれるを。〇〔杜牧〕「五穀—・—」。
(充實) 多くみちたるを。〇〔後漢〕「財富—・—」。
(秀實) ひいでみのる、よく生長しよく成熟す。〇〔論〕「苗而不レ—者有矣夫、秀而不レ—者有矣夫」。
(故實) ふるくありたる事柄。〇〔後漢〕「爲ニ東漢之—・—ニ。
(典實) 前に同じ。〇〔晉〕「屬書—・—」。
(事實) ことがらのまこと。〇〔史〕「考ニ驗—・—ニ。
(情實) 前に同じ。〇〔史〕「具得ニ—・—ニ。「心」。
(忠實) まことある心、まめやか。〇〔史〕「彼其—・—

(剛實) すこやかにしてまことあるを。〇〔史〕「—而—」。
(公實) 公平正直なるを。〇〔漢〕「舍ニ—・—之臣ニ。
(虛實) 兵備軍糧などのかけたるとそなはれると。〇〔唐〕「諜ニ—・—ニ」。「—・—」。
(完實) まったくしてみつるを。〇〔後漢〕「今上谷
(殷實) さかんにみつるを。〇〔後漢〕「戶口—・—」、
(淸實) きよらかにして信あるを。〇〔後漢〕「少以ニ—・—爲レ稱」。
(芰實) 菱のみ。〇〔南〕「—・—持花」。「幹ニ。
(愨實) 正直なるを。〇〔南〕「子顯符—・—、有ニ境
(誠實) まことと。〇〔唐〕「持ニ此—・—、以答ニ讒咎ニ。
(樸實) かざりけなく正直なるを。〇〔宋〕「直諒—・—」。

【寘】 シ。 脂利切 寘

至に同じ、いたる、いたらしむ。〇〔禮〕「使ニ某—ニ。

【寋】 ソク。 悉則切 職

本、作レ𡨄、从レ宀屋也、从レ廾兩手舉也、从レ玨 竅ト𡒊ニ物形一、舉而寘ニ於屋中一。

塞に同じ、ふさぐ、ふさがる。

【𡫳】 サイ。 先代切 隊

さかひ、(邊地)。

【寧】 デイ、奴丁切 靑 乃定切 徑 (說文) 从レ丂寍聲。 子イ。

㊀やすし。
(い)治まる、平かなり。〇〔易〕「萬國咸—」。
(ろ)疾病なし。〇〔書〕「三日、康—」。

㊁やすんず。
(い)やすからしむ。〇〔書〕「輯ニ—爾邦家一」。
(ろ)みづから滿足す。〇〔書〕「不ニ敢荒—ニ。

㊂嫁ぎたる女の生家の父母を訪ふにいふ字、みる、かへりみる、さとがへり。〇〔詩〕「歸ニ—父母ニ。

㊃幾度もくりかへして言說す、ねもごろ、(諄復)。〇〔後漢〕「丁—再三」。

㊄かつて、(曾)。〇〔詩〕「—不ニ我顧ニ。

㊅彼れよりは此れぞ願はしさの意を表はす字、本邦の俗語の「なまじ」の義、むしろ。〇〔韓愈〕「吾—樂レ之」。

㊆反語をなして否定の意を表はす字、いかで、いかんぞ、いづくんぞ。〇〔史〕「—可下以ニ馬上一治上之乎」。

(安寧) (い)やすらか。〇〔史〕「天下—・—」。
(ろ)冬のこと。〇〔爾〕「冬爲ニ—・—ニ。
(晏寧) 前の(い)の解に同じ。〇〔宋〕「方今中外—・—」。「其民一也」。
(丁寧) (い)鉦のこと。〇〔國〕「戰以錞于—・—、儆ニ
(ろ)ねもごろなるを。〇〔北〕「輒—・—曉以ニ義理ニ。
(太寧) 極めてやすらかなるを。〇〔馬融〕「天地—・—、君之德也」。
(洪寧) 前に同じ。〇〔蔡邕〕「有ニ幾皇之—・—、唐虞之至時ニ。「之用也」。
(攖寧) 亂れて平かに成るを。〇〔莊〕「其名爲ニ—・—ニ。
(和寧) やはらぎやすらかなるを。〇〔禮〕「—・—禮
(撫寧) なでやすんぞ。〇〔晉〕「故得下—ニ—萬國一、綏中靜四方上」。
(綏寧) 前に同じ。〇〔司馬光〕「痠俗待ニ—・—ニ。
(弼寧) 輔けてやすらかにす。〇〔晉〕「用能—ニ—晉室ニ」。
(廓寧) ひろめやすんぞ。〇〔魏〕「—ニ—宇內ニ」。
(保寧) やすんぞ。〇〔李吉甫〕「—ニ—社稷ニ」。
(無寧) むしろ、いづくんぞ。〇〔左〕「—・—玆許公復奉ニ社稷ニ。
(予寧) 喪に居るを。〇〔漢〕「父母喪、—・—三年」。

【寨】 サイ、豺夬切 卦 塞、寨に通ぜ。 じ作る。

砦に同じ、木柵もて圍みたる山居、又、さりで、(壘)、まがき、(藩籬)、又、羊の棲む處にもいふ。〇〔遼〕「硬—爲レ宮」。

【𡫶】 ソク。 悉則切 職

やすし、(安)。

【[宀+爿+含]】ガン、ゴン。午含切 覃
唅に同じ、寐中の語、ねごと、又、いびき、(寐聲)。

【[宀+者]】チヨ。展呂切 語
貯に同じ、たくはふ、たくはへ。〇〔周、註〕「—二米・穀一而暗二久・雨・疫・病一、貴賣レ之」。

【窿】リウ、リユ。力公切 東
天の形にいふ字。〇〔元好問〕「龜石穹—與レ天終」。

十二畫

【[宀+爿+星]】セイ、シヤウ。息井切 梗
惺に通じ作り、又、借りて醒に作る、さむ、さとる、(悟)。

【[宀+曾]】サウ、シヤウ。鋤耕切 庚
屋大いなり、おほいなり。

【審】シン。式荏切 寑 〔說文〕本、作二宷一从レ宀从レ釆。
㊀くはしく分別すること、熟く研究すること、事情を悉くすこと、つまびらか、あきらか。〇〔唐〕「當レ局者迷、旁・觀者—」。
㊁きはむ。
(い)つまびらかに考ふ、はかる。〇〔禮〕「—二卦吉・凶一」。
(ろ)罪を取り調ぶ、たゞす。〇〔書〕「其—二克之一」。
㊂束ねたるもの、たば。〇〔周〕「十・羽爲レ—」。
(精審) くはしく明らかなること。〇〔禮、序〕「義・理—・—「辭」。
(覆審) 再び罪をしらぶ。〇〔晉、疏〕「—二—四・諳之」。
(淸審) 濁りなく明らかなること。〇〔晉〕「此兒神・明—・—」。
(詳審) あきらかなること。〇〔漢〕「光爲レ人、沈・靜—・—」。
(諦審) しらべあきらかにす。〇〔後漢〕「曾不二—・—一」。
(檢審) 前に同じ。〇〔魏〕「—・—相酬」。
(端審) 正しく明らかなること。〇〔宋〕「精神—・—」。
(沉審) 靜かにして明らかなること。〇〔北〕「—・—寬恕」。
(覈審) 十分にしらぶ。〇〔北〕「更令二—・—一」。
(究審) 前に同じ。〇〔隋〕「汪通・皆—・—」。
(研審) 前に同じ。〇〔北〕「詔レ收更加二—・—一」。
(勘審) 前に同じ。〇〔隋〕「令下與二太・史舊・曆一、並加中—・—上」。
(省審) 前に同じ。〇〔唐〕「必反覆—・—」。

【審】盤に同じ、めぐる。〇〔莊〕「止水之—爲レ淵」。

【[宀+取+殳]】サイ。麤最切 泰
さかひ、(塞)。〇〔陸贄〕「儻有二賊・臣一踏レ—」。

【[宀+喬]】ケウ、ゲウ。巨嬌切 蕭
よる、よす、(寄寓)、又、たびれ(客)。

【[宀+爲]】ヰ。羽委切 紙
㊀屋の貌にいふ字、又、いへ、あやかた。
㊁人の姓。

【[宀+爲]】ギ。虞爲切 支
安からざる貌にいふ字、やふし。

【寫】シヤ、セ。悉也切 馬
うつす。
(い)はこぶ、(輸)、おく、(置)、かたぶく、(傾)、つくす、(盡)、のぞく、(除)。〇〔詩〕「以—二我憂一」。
(ろ)そゝぐ、(瀉)、もらす、(洩)。〇〔周〕「以レ澮—レ水」。
(は)原圖によりて摹畫す、まねゑがく。〇〔史〕「—二放其宮・室一」。
(に)原本によりて謄鈔す、かきうつす。〇〔古諺〕「書三—、魚成レ魯、帝成レ虎」。
(ほ)まねて形どる、まね。〇〔國〕「王令下工以二良・金一—中范・蠡之狀上、而朝二禮之一」。
(輸寫) おくる。〇〔詩、傳〕「—・—其心也」。
(模寫) にせてうつす。〇〔後漢〕「特工二—・—一」。
(臨寫) 前に同じ。〇〔唐〕「以レ不二—・—一故也」。
(傳寫) つたへうつす。〇〔晉〕「三・都賦成、競相—・—」。
(鈔寫) すきうつす。〇〔晉〕「或、手自—・—」。
(繕寫) つくろひうつす。〇〔北〕「梁武帝聞レ之—・—」。
(紓寫) のべうつす。〇〔蔡邕〕「—二—情・懷一」。
(描寫) にせてゑがく。〇〔圖繪寶鑑〕「頗能—・—」。

【寫】シヤ、セ。四夜切 禡
卸に通じ用ふ、おろす。〇〔石鼓文〕「宮車其—、四・馬其—」。

【寬】クワン。苦官切 寒
㊀ゆるやか、ゆたか。
(い)猛からず、きびしからず、苛からず。〇〔左〕「—以濟レ猛、々以濟レ—」。
(ろ)愛情多きこと、安和なること、うちくつろぎたること、物事に偏狹ならざること。〇〔書〕「敬敷二五・教一在レ—」。
㊁ゆるし。
(い)急迫ならず、せまらず。〇〔國〕「—二於死一」。
(ろ)無事なり、急變なし。〇〔韓〕「—則寵二名・譽之人一」。
㊁ゆるくして大いなり、のびのびさひらけ亘れり、狹からず、餘地多し、行きづまりなし、ひろし。〇〔宋之問〕「乘レ高宇・宙—」。
㊂ゆるむ。
(い)ゆるからしむ、ゆろうす、ひろくす。〇〔列〕「善平能自—者也」。
(ろ)きびしくせず、ゆるす、(宥)。〇〔史〕「不レ圖將・軍—レ之至レ此也」。
(は)ゆるくなる、ゆるまる。〇〔庾信〕「琴覆絃—」。
(優寬) ゆるやか。〇〔齊〕「多用二—・—一」。
(平寬) 前に同じ。〇〔唐〕「日知獨—・—無二文・致一」。
(裕寬) 前に同じ。〇〔管〕「人能正・靜、則皮・膚—・—」。
(華寬) うつくしくして廣し。〇〔魏彥深〕「屋必—・—」。

【寑】寢に同じ。

【寭】ケイ、エ。穴桂切 霽
あきらか、みる、さとる、(察)。

【寮】レウ。連條切 蕭
㊀官職を帶ぶる者、つかさ、官吏、官僚。〇〔書〕「百—庶・尹」。
㊁同官の者、同僚。〇〔禮〕「—友稱二其弟一也」。
㊂小さき窗、こまど。〇〔梁簡文帝〕「窓—野・霧入」。
㊃轉じて、小さき住家。〇〔溪蠻叢笑〕「雖三有レ屋以庇二風・雨一、不レ過二剪レ毛叉レ木而已、名曰二打—一」。
(綺寮) うつくしき小屋。〇〔李商隱〕「紅・綺結二—・—一」。
(禪寮) 僧房のこと。〇〔陸游〕「小・窗寂々似二—・—一」。
(僧寮) 前に同じ。〇〔陸游〕「屋窄似二—・—一」。
(草寮) くさぶきの家。〇〔戴表元〕「夢覺依・然—・—」。
(新寮) あたらしき家。〇〔吳澄〕「方士構二—・—一」。

十三畫

【[宀+禺+心]】俗の寓の字。

【[宀+奥]】俗の奧の字。

【寯】シュン。子峻切 震
㊀あつむ、あつまる（聚）。
㊁才傑る、すぐる、又、かしこし。

【寰】クワン、ゲン。戸關切 刪 一本、寰に作る。
㊀天子の封畿內、又、宮の周りの垣、かぎり。〇〔黃滔〕「三秦二十四畿—」。
㊁場處、又、天地。〇〔唐〕「睿感通レ—孝思浹レ寰」。
（區寰）くぎり內の場處、又、世の中にもいふ語。〇〔蘇軾〕「要不レ出二——一」。
（仙寰）仙境といふに同じ、仙人の棲む場處。〇〔陳旅〕「龍虎之山、—所—」。
（塵寰）俗地のこと。〇〔蘇軾〕「不レ知門外有二——一」。
（大寰）天下といふに同じ。〇〔吳萊〕「——幸混一」。

【寰】ゲン。元甸切 霰 縣に同じ、あがた。〇〔穀梁〕「—內諸侯」。

【⿱宀敫】ケキ、キヤク。古歷切 錫 揚がる貌にいふ字、一說に、譌字。

【⿱宀覡】セキ、シヤク。倉歷切 錫 いたる、（至）。〇〔秦石刻文〕「—二巡遠方一」。

【⿱宀絹】ケン。古犬切 銑 あみ（網）。

【⿱宀昊】デイ、チイ。囊丁切 青 おほぞら（昊天）。

十四畫

【寱】ゲイ、ガイ。研計切 霽 ねごと（瞑言）。〇〔莊〕「不レ得レ寢必且レ—」。

【寲】ギ。魚基切 支 あきらか、みる（察）。

十五畫

【寑】古文の寢の字。

【⿱宀旁】ベン、メン。民堅切 先
㊀見えず、くらし。
㊁室に人なし、一に、人を省ず、さびし。

十六畫

【[illegible]】鞠に同じ。

【寳】俗の寶の字。

【寴】親の古字。〇〔秦石刻文〕「—二輈遠方一」。

【寴】シン。七遴切 震
㊀いたる（至）。
㊁屋の空しき貌にいふ字、むなし。

【寵】チヨウ、チユ。丑壟切 腫 〔說文〕从レ宀龍聲。
㊀めぐむ（恩）、又、いつくしむ（愛）、又、恩愛を受る者、嬖人など。〇〔書〕「—二綏四方一」。
㊁たふとし（尊）、さかゆ（榮）、又、尊榮なる地位、又、尊榮なる地位にあるもの、貴族など。〇〔國〕「其—大矣」。
（天寵）上帝よりのめぐみ、又、天子よりのいつくしみ。〇〔徐陵〕「遂膺二——一」。
（內寵）婦人のいつくしみ。〇〔左〕「齊侯好レ內、多二——一」。
（貴寵）位高くさかゆ。〇〔國〕「明二賢良一、尊二——一」。
（尊寵）前に同じ。〇〔後漢〕「毋氏莫レ不二——一」。
（故寵）もとのまゝの尊榮。〇〔史〕「將軍又何以得二——一乎」。
（優寵）すぐれたるいつくしみ。〇〔後漢〕「帝每二—之一」。
（殊寵）前に同じ。〇〔後漢〕「得レ爲二貴人一、有二——一」。
（光寵）さかんなるさかえ、又、すぐれたるいつくしみ。〇〔蔡邕〕「窮二生人之——一」。
（敬寵）うやまひ愛す。〇〔漢〕「——異二于他國一」。
（盛寵）十分のいつくしみ。〇〔漢〕「久享二——一」。
（隆寵）前に同じ。〇〔晉〕「虛忝二——一」。
（愛寵）いつくしみ。〇〔漢〕「即——偏二于一人一」。
（榮寵）貴き地位。〇〔後漢〕「——不レ及焉」。
（權寵）勢力ある尊貴の者。〇〔後漢〕「以レ此見レ害二于——一」。
（華寵）尊榮なる地位。〇〔王安石〕「逐使二寵途坐陛二——一」。
（勳寵）いさをあるさかえ。〇〔後漢〕「——相承」。
（餘寵）あまりのいつくしみ。〇〔後漢〕「蒙二先君之——一」。
（爵寵）位高きさかえ。〇〔南〕「身荷二——一」。
（親寵）したしみめづ。〇〔晉〕「——無レ比」。
（慈寵）なさけ深きいつくしみ。〇〔梁武帝〕「特鍾二——一造二符命上」。
（戚寵）外戚のいつくしみ。〇〔呂溫〕「王莽乃欲下憑二

【寶】ハウ、ホウ。博浩切 晧 〔說文〕从二宀玉一、貝缶聲。
㊀玉璧の類の汎稱、たま。〇〔史〕「金—之上皆有レ氣」。
㊁爵位領土のある者の符璽、まるし、おして、其の物に玉を用ひたりしよりいふ。〇〔書〕「分二—玉于叔伯之國一」。
㊂おもんず、おもし（重）、たふとぶ、たふとし（貴）。〇〔周〕「凡國之玉鎭大—器藏焉」。
㊃おもんじたふとぶべきもの、珍しきもの、保ち失はざらんとを力むるもの、たから。〇〔史〕「美哉山河之固、此魏國之—也」。
（大寶）（い）おほいなるまるし。〇〔易〕「聖人之——曰レ位」。（ろ）すぐれたるたから。〇〔關子〕「藏レ之以爲二——財一」。
（珍寶）めづらしきたから。〇〔史〕「收二其——貨—」
（異寶）前に同じ。〇〔宋〕「取二——一以奉二皇上一」。
（重寶）たふときたから。〇〔家語〕「——以悅二其心一」。
（貨寶）たから。〇〔史〕「收二其——婦女一而東」。
（財寶）前に同じ。〇〔魏〕「其俗以二璣珠一爲二——一」。
（秘寶）秘藏のたからもの。〇〔後漢〕「御二東序之——一」。
（遺寶）のこされたるたから。〇〔梁〕「可レ謂二東南之——一矣」。
（佳寶）よきたから。〇〔南〕「並爲二——一」。
（偉寶）すぐれたるたから。〇〔崔伯易〕「天下之——」。
（受命寶）天命を受けて天子となる者のをさむる符璽。〇〔五〕「作二———一」。
（傳國寶）帝位に卽く者のうけつぐ符璽。〇〔五〕「得二———一玉杯一、有レ文、曰二———萬歲林一」。

十八畫

【⿱宀寳】寶に同じ。

【寷】フウ、ホウ。敷戎切 東 大いなる屋、いへ。

【⿱宀⿰爿覆】ヨ、オ。依據切 御 ジヨ、ニヨ。人渚切 語 いぬ（寐）、又、かりね、うたゝね（假寐）。

【㝱】ボウ、ム。莫鳳切 送 〔說文〕从レ宀从レ爿、夢聲。夢に同じ、ゆめ、ゆめみる。〇〔周〕「占二六—之吉凶一」。

十九畫

【⿱宀⿰爿隶】キ、ギ。其季切 寘 熟く寐ぬ、ねいる。

【⿱宀顛】テン。都年切 先 高くしてとほし、一說に、俗の顚の字。

【⿱宀⿰爿票】ヒウ、フ。匹尤切 尤 寐れて聲を作す、いびく、又、ねいびき。

【⿱宀懵】ボウ、モウ。忙等切 迥 一本、懜に作る。おろかなり、くらし、（—[illegible]）。

二十畫

【⿱宀⿰爿瞢】ボウ、モウ。忙肯切［迥］
おろか、くらし、（懜）。

廿一畫

【⿱宀⿰爿𥸨】ベイ、㕣禮マイ。切［薺］ビ、㕣被ミ。切［紙］
寐に同じ、寐ねて覺めず、ねいる、一說に、おそはる、（魘）。

廿二畫

【⿱宀⿰爿⿱帚𠬪】シン。七稔切［寑］一才、作ル寢、从ニ省聲。
病みて臥す、ふす、又、いぬ、（寢）。

【⿱宀⿰爿敢】カン、ゴン。火含切［覃］
冠帶を脫がずして寐ぬ、又、ふす、（偃）。

廿五畫

【⿱宀⿰爿⿱𠂊囊】
寐に同じ。

寸部

【寸】ソン、スン。倉困切［願］
㊀尺度の名、一分の十倍の長さ。〇〔家語〕「布レ指知レ―」。
㊁おもふ、はかる、（忖）。〇〔漢〕「―者忖也、有二法-度可レ忖也」。

〔一寸〕（い）十分の長さ。〇〔漢〕「鑄-鹵銅-人皆生レ毛、長―・―許」。（ろ）僅かばかりの長さ。〇〔賈誼〕「―・―之地、一-人之衆」。
〔膚寸〕前條の（ろ）に同じ。〇〔戰〕「齊人伐レ楚戰勝、―・―之地無レ得者、形弗レ能レ有也」。
〔方寸〕（い）一寸四方のこと。〇〔漢〕「黃-金―・―而重一-斤」。（ろ）心を稱する語。〇〔蜀〕「今已失二老-母一、―・―亂矣」。
〔徑寸〕さしわたし一寸あること。〇〔史〕「尚有下―・―之珠、照二車-後十二-乘一者十-枚上」。
〔尺寸〕わづか、又、すこしの義に用ふる語。〇〔史〕「無二―・―之功一」。
〔分寸〕前に同じ。〇〔史〕「無レ有二―・―之功一」。
〔寸々〕（い）一寸の長さ毎に。〇〔牧乘〕「―・―而度レ之、至レ丈必過」。（ろ）きだ〳〵。〇〔晉〕「―・―毀-裂」。（は）少しづゝ。〇〔唐太宗〕「溪-陰―・―生」。

三畫

【寺】ジ。祥吏切［寘］〔說文〕从レ寸㞢聲。
㊀政事をとりあつかふ所、つかさ、やくしよ、省廳、府廷。〇〔唐〕「後-魏以-來、卿-名雖レ仍レ舊、而所レ涖之局謂二之―一」。
㊁佛を安置して僧尼の住む家、てら、精舍、梵刹。〇〔南〕「幸レ―捨レ身」。
㊂君王のそばにさぶらひて其の使令に供せらるゝ者、おもらびさ、おそば、內小臣、宦官、侍從の者。〇〔周〕「―・人掌二王之內-人一」。

〔閹寺〕內廷に奉仕する宦者。〇〔禮〕「深レ宮固レ門、―・―守レ之」。
〔蕭寺〕さびしきてら。〇〔許渾〕「月高―・―夜」。
〔省寺〕役所のこと。〇〔杜甫〕「文-翰飛二―・―一」。
〔府寺〕前に同じ。〇〔後漢〕「―・―寬-敞」。
〔官寺〕（い）前に同じ。〇〔漢〕「攻二―・―一累二囚-徒一」。（ろ）朝廷より建てられたるてら。〇〔白居易〕「―・―行レ香少」。
〔北寺〕宦官の役所、又、轉じて宦者をさしていふ語。〇〔漢〕「下二―・―獄一」。「性頗豪-率」。
〔閹寺〕前に同じ。〇〔魏〕「思-逸身雖レ在二―・―一、而「之」。
〔宦寺〕前に同じ。〇〔唐〕「方二是時一―・―氣-盛凌二朝-廷一」。
〔嬖寺〕寵者をいふ。〇〔晉〕「下及二―・―一、皆服レ」。
〔佛寺〕てらのこと。〇〔晉〕「修二-營―・―一」。
〔野寺〕のはらの中に建てられたるてら。〇〔岑參〕「―・―荒-臺晚」。
〔靈寺〕神聖なるてら。〇〔高允〕「肅二敬-恭于―・―一」。
〔嚴寺〕あれたるてら。〇〔許渾〕「―・―入レ門禾-黍高」。
〔僻寺〕かたゐなかにある寺。〇〔賈島〕「―・―多二高-樹一」。
〔將作寺〕隋の時代に建築土木の事を掌る役所の名。〇〔隋〕「―・―・―掌二諸營-建一」。
〔宗正寺〕唐の時代に皇室の親族の屬籍を掌る役所の名。〇〔唐〕「―・―・―卿一-人、少-卿二-人」。
〔太僕寺〕唐の時代に廐牧輪輿の政を掌る役所の名。〇〔唐〕「―・―・―卿一-人、少-卿二-人」。
〔太常寺〕唐の時代に禮樂郊廟社稷の事を掌る役所の名。〇〔唐〕「―・―・―卿一-人、少-卿二-人」。
〔鴻臚寺〕唐、宋の時代に賓客の事を掌る役所の名。〇〔唐〕「―・―・―卿一-人、少-卿二-人」。

四畫

【寽】リツ、リチ。劣戌切［質］
五ッの指にて持ち取る、とる。

五畫

【尅】
剋に同じ。

【导】ガイ、ギ。午代切［隊］
礙に同じ。

六畫

【封】ホウ、フウ。府容切［冬］〔說文〕从レ之从レ土从レ寸。
本、對に作る。

㊀君王よりあてがはれたる諸侯の領土、ちぎやう、食邑、采地。〇〔東方朔〕「裂レ地定レ―」。
㊁諸侯となし領地をあてがふ、爵位を與ふ。〇〔史〕「以レ此―レ若」。
㊂土地の境疆、さかひ、又、其の標しとして土を盛りてつくりたるどて、昔は、固めのために必ず其の上に樹木を植ゑたりといふ。〇〔周〕「掌下設二王之社-壝一、爲二畿-―一而樹上レ之」。
㊃どてを起こす、さかひを設く。〇〔周〕「制二其地-域一、而溝二―之一」。
㊄土を聚む、砂を盛る、もる、あつむ、又、あつめもりたる土砂、もりつち、つか、など。〇〔周〕「以二爵-等一、爲二丘-―之度與二樹-數一」。
㊅古昔山を祭るに設けたるもり土、又、もり土を設けて山を祭ること。〇〔白虎通〕「王-者―-禪以告二大-本一」。
㊆つちかふ、やしなふ、（培）。〇〔國〕「―二殖越-國一」。
㊇おほいなり、おほいに、おほいにす、（大）。〇〔詩〕「―建二厥福一」。
㊈利を專にす、自ら私を行ふ、あつくす。〇〔詩〕「無レ―二靡于爾邦一」。
㊉富みて厚きこと、有福なること、資產多きこと。〇〔史〕「無二秩-祿之奉、爵-邑之入一、而樂與レ之比者、命曰二素-―一」。
⑪さつ。
（い）他見を憚りて書翰の包みめ、結びめなどを用意の爲めに糊にてつけ糸にて綴ぢ、更に墨を引き印を捺しなどするにいふ字、又、すべてのものに斯くなすをにもいふ。〇〔漢、註〕「―以二御-史大-夫印一」。
（ろ）閉ぢこむ。〇〔春秋、註〕「冰―著レ樹」。「重天」。
⑫書翰、上奏。〇〔韓愈〕「一―朝奏九-重天」。
⑬土の精。〇〔白澤圖〕「物如二小-兒手無レ指名レ―、食レ之多レ力」。

〔益封〕知行の地を增す。〇〔史〕「蕭-何―・―二千-戶一」。
〔提封〕知行の地。〇〔皮日休〕「雲-塹是―・―」。
〔雷封〕縣令を稱するに用ふる語。〇〔六帖〕「雷震二百-里一、故縣-令稱二―・―一」。
〔遺封〕のこしおかれたる知行の地。〇〔蕭昭〕「身沒有二―・―一」。
〔緘封〕ふうたとづ。〇〔漢〕「緘二一-處―・―」。

〔摺封〕 諸侯の位と知行の地と。○〔後漢〕「周之——一千·有八·百」。
〔函封〕 はこに入れてとぢふうぜ。○〔唐〕「降·符——、使二合而行一レ之」。
〔蟻封〕 ありの築きたるつか。○〔東觀漢記〕「——穴レ戸、大·雨將レ至」。
〔襲封〕 諸侯の後をうけ嗣ぐこと。○〔宋〕「——之印、奕·世相傳」。
〔馬鬣封〕 馬のくびすぢの如き形に土をもりたるつか。○〔禮〕「———之謂也」。
〔若堂封〕 堂屋の形に土をもりたる塚。○〔柳宗元〕「九·原猶寄二———一」。

【尌】 シユク。式竹切 屋

㊀叔に同じ。㊁ひろふ、(拾)。

七畫

【尃】 〔說文〕从レ寸甫聲。 敷に同じ。

【射】 シヤ、ジヤ。食夜切 禡 〔說文〕本作レ䠶、从レ身从レ矢、或从レ寸、寸法度也、亦手也。

いる。
(い)箭を弦に番へて放つ、ゆみいる、古は、之をもて諸侯、卿、大夫、士を撰びたりといふ。○〔周〕「禮、樂、—、御、書、數」。
(ろ)用ひてゆみいる。○〔金〕「賜二宋-使—レ弓宴一」。
(は)轉じて、物の箭を放ちたるが如きさまに急進し、或は飛ぶにも、又は發出するにもいふ字。○〔徐照〕「電橫天-白—」。
〔賓射〕 客を會してゆみいる。○〔周〕「以二——之禮一、親二故·舊朋·友一」。
〔注射〕 そゝぎはなつ、又、水をそゝぐが如く箭をいるが如くに勢よく放ち出だすにいふ語。○〔唐〕「詞·辨——」。
〔馳射〕 車馬をはせてゆみいる。○〔史〕「飾二車·騎一、習二——一」。
〔善射〕 上手にゆみいる。○〔戰〕「楚有二養·由·基者一——」。
〔騎射〕 馬上にてゆみいる。○〔史〕「漢有二善——者樓·煩一」。

〔戰射〕 いくさの時にゆみいる法。○〔後漢〕「習二——之教一」。
〔重射〕 善くゆみいる、又、大切にゆみいる。○〔史〕「君第——」。
〔工射〕 巧みにゆみいる。○〔晉〕「猿·臂——」。
〔博射〕 財物を賭けてゆみいること。○〔顏氏家訓〕「別有二——一」。
〔弋射〕 飛鳥などをとるに繩を矢につなぎて射ること。○〔宋〕「盤·游——之娛」。
〔鬪射〕 弓術の巧拙をたゝかはす。○〔神仙傳〕「與二人共——一」。
〔豔射〕 うつくしくひかる。○〔雜事秘辛〕「和·雪——、不レ能二正視一」。
〔濺射〕 水のそゝぎ飛ぶこと。○〔元稹〕「——不レ可レ援」。
〔照射〕 ひかりかゞやくこと。○〔韓琦〕「國·艶天·姿相——」。

【射】 エ、ヤ。羊謝切 禡

僕——は官の名。○〔朱熹〕「禮僕-人·師扶レ左、射·人·師扶レ右周-官大-僕之職、——之名、蓋起二於此一」。
〔藐姑射〕 仙人の棲むといふ山の名。○〔莊〕「———之山有二神·人一」。

【射】 セキ、ジヤク。食亦切 陌

いる、(泛くいるといふときは禡の韻なれども特に一つの物を目標としているときには本韻となる)。
(い)ゆみいて物に狙ひ中つ。○〔論〕「弋不レ—レ宿」。
(ろ)賭け事をなす、又、隱くしたる物を曰ひ中つ。○〔韓〕「有下設二桓·公隱一者上、曰、一-難、二-難、三-難、何也、桓-公不レ能—」。
(は)中たる。○〔呂太一士賦〕「光-彩—レ人」。
〔彈射〕 (い)物を指しあつ。○〔蜀〕「每二——利-病一」。
(ろ)害をなす、あつ。○〔南〕「互相——」。
〔蜮射〕 蜮といふ虫は水邊に潛みて人の水を渉る影に沙を吹きあつ、吹きとめられたるは病に罹るといふ、又、轉じて、小人の人を毒害するに借りいふ語。○〔歐陽修〕「水·渉愁二——一」。
〔逐射〕 馬を走らせ弓射る勝負のかけ事。○〔史〕「——二千金一」。
〔暗射〕 的なきに狙ひあつ、又、物を見ずしていひあつ。○〔元好問〕「長·箭不二——一」。

【射】 エキ、ヤク。羊益切 陌

いとふ、(厭)。○〔詩〕「無レ—二于人一斯」。
〔無射〕 十二律の一ツ。○〔禮〕「季·秋之月律中二——一」。

【尅】 剋に同じ。

八畫

【將】 シヤウ、サウ。卽良切 陽

㊀まさに、(返して再讀するには、す、さ讀む)。
(い)其の物事の漸くにはじまりかゝる意を表はす字。○〔易〕「是以君-子—レ有レ爲也、—レ有レ行也」。
(ろ)想像の意を表はす字、たぶん、たいてい、あらかた、おほかた、おそらくは。○〔史〕「如三兩-鼠鬪二於穴-中一、—勇者勝」。
㊁上の意を翻すときに用ふる字、「さはなくて」の義、はた。○〔屈平〕「寧誅二-鋤草-茆一以力-耕乎、—遊二大-人一以成レ名乎」。
㊂かつ、(且)。○〔詩〕「—安—樂」。
㊃やしなふ、(養)。○〔詩〕「不レ遑レ—レ父」。
㊄たすく、(助)。○〔史〕「補レ過—レ美」。
㊅おくる、(送)。○〔詩〕「百-兩—レ之」。
㊆うく、(承)、さゝぐ、(奉)。○〔詩〕「湯孫之—」。
㊇おこなふ、(行)。○〔書〕「今予以二爾有-衆一、奉二—天-罰一」。
㊈すゝむ、(進)。○〔詩〕「日就月—」。
㊉したがふ、(隨從)。○〔漢〕「九-夷賓—」。
⑪おほいなり、(大)。○〔詩〕「亦孔之—」。
⑫さかんなり、(壯)。○〔詩〕「鮮二我方—一」。
⑬ながし、(長)。○〔楚辭〕「恐二余壽不一レ—」。
⑭さる、(去)。○〔荀〕「時幾—」。
⑮ほとり、(側)。○〔詩〕「在二渭之—一」。
⑯とる、(執)、もつ、(持)。○〔荀〕「吏謹—レ之」。
⑰こふ、ねがふ、こひねがふ、(幾、願)。○〔詩〕「—子無レ怒」。
⑱聲にいふ字。○〔詩〕「佩-玉——」。
⑲嚴正なる貌にいふ字、おごそか。○〔詩〕「應-門——」。
⑳あつまる、(集)。○〔詩〕「磬-筦——」。
㉑與にす、ともなふ、ひきゐる。○〔史〕「—レ軍擊レ趙」。
〔干將〕 古の劍をきたへし名人、又、其の人の作りたる劍の名。○〔戰〕「蘇·秦曰、今雖二——莫·邪一、非レ得二人·力一、則不レ能二剸·斷一矣」。
〔賓將〕 客となり從ふ。○〔漢〕「九·夷——」。
〔輸將〕 はこび送る。○〔漢〕「——之費益寡」。
〔逝將〕 ゆき去る。○〔陸雲〕「悲矣永-言、指レ途——」。
〔扶將〕 扶持といふに同じ、たすくること。○〔朱熹〕「歸-路相——」。
〔提將〕 前に同じ。○〔元結〕「羸·弱相——」。
〔摘將〕 つまみとる。○〔元稹〕「村·中女·兒爭——」。

【將】 シヤウ、サウ。子諒切 漾

兵をひきゐる人、指揮官、統率者、一軍のかしら、隊のおさ、轉じて、一團體のをさ。○〔漢〕「願爲二諸-君一潰レ圍、斬レ—刈レ旗」。
〔大將〕 軍隊を指揮する最上位の者、又、官名。○〔漢〕「漢·王問レ魏、——誰也」。
〔次將〕 大將の次位に立つ者。○〔史〕「項·羽爲二——一」。
〔別將〕 本隊外にある一隊のかしら。○〔漢〕「項·梁盡召二——一」。
〔世將〕 何代もつゞきて軍隊の頭たる者。○〔史〕「天-子以爲二李·氏——一」。
〔名將〕 名高きいくさのをさ。○〔漢〕「梁·父卽楚——項·燕也」。
〔裨將〕 すけ大將のこと。○〔漢〕「籍爲二——一」。
〔亞將〕 前に同じ。○〔漢〕「以レ平爲二——一」。
〔梟將〕 わる強きいくさのをさ。○〔漢〕「九-江-王布楚——」。
〔猛將〕 強きいくさのをさ。○〔漢〕「——如レ猛、謀-臣如レ虎」。
〔郡將〕 一郡中の兵卒を指揮する者。○〔漢、注〕「受二——之命一」。
〔部將〕 小隊のかしら。○〔後漢〕「——殺二人于潁-川一」。

(謀將) 謀畧に富める軍のかしら。○(隋)楊素是良將非ニ——ニ。
(驍將) 驍兵を指揮する者。○(五)「爲ニ劉·守·光——ニ」。
(智將) 智畧ある軍のかしら。○(東軒雜錄)「——不レ如ニ福將ニ」。
(軍將) 軍のかしら。○(詩、箋)「天子以ニ其賢ニ任爲ニ——ニ」。
(上將) 最も高位の軍のかしら。○(宋)「延·納自ニ偏·士ニ至ニ——ニ」。
(宿將) 兵事にたけたる老將のこと。○(戰)「齊田盼——也」。
(雄將) すぐれたる軍のかしら。○(後漢)「雖ニ屢獲ニ——、[隸·衛]將多」。
(邊將) 國境を守るいくさぎみ。○(後漢)「家世——」。
(健將) つよきいくさぎみ。○(唐)「祐賊——也」。
(驍將) 前に同じ。○(五)「王·彥·章——也」。

【專】 セン。朱遄切 先 〔説文〕从レ寸叀聲。

㊀もッぱら、もばら。
(い)純一なること、まじりけなきこと、又、まこゝろ(誠)。○(孟)「不ニ—レ心致レ志、則不レ得也」。
(ろ)自ら是と信ずること、己が儘に行ふこと、ほしいまゝ(擅)。○(中)「賤而好ニ自—ニ」。
(は)ひさり㊀の(ろ)に同じ。
㊁ひさり。
(い)其のものゝみなること、他を加へざること。○(左)「是四·國者—足レ畏也、又加レ之以レ楚」。
(ろ)其のものゝみにて占有すること。○(書)「罔レ俾ニ阿·衡—ニ美有商ニ」。
㊂ちやうめん(文簿)。
(靜專) まづかにしてまことあること。○(宋)「德協ニ——ニ」。
(貞專) たゞしくしてまことあること。○(劉歆)「彼屈·原之——兮、交放ニ沈於湘·淵ニ」。
(精專) まじりけなきこと。○(漢)「祗·戒——以接ニ神·明ニ」。
(專々) 前に同じ、又、其の物のみなること。○(宋玉)「計ニ——之不レ可レ化兮」。
(驕專) ほしいまゝ。○(後漢)「不レ敢有ニ——之心ニ」。
(獨專) ひとり。○(文同)「勝·境乃——」。

【專】 タン、ダン。徒官切 寒

あつまる(聚)。○(周)「其民—而長」。

【尉】 井。於胃切 未 〔説文〕从ニ上按ニ其下ニ也、从レ尸从レ火从レ又、持レ火所ニ以尉ニ繒也。

㊀上より下を按ふ、おさふ、おす。㊁うかゞふ(候)。㊂やすんず(安)。
㊃官の名、下を按ふるの義、又、良民をやすんずるの義、又、上にうかゞひて事を處置するの義。○(漢)「大·縣兩—、長·安四—」。
(大尉) 軍事を掌る役の名。○(唐)「——司·徒司·空各一·人、是爲ニ三·公ニ」。
(廷尉) 刑獄を掌る役の名。○(史)「陛·下卽問ニ決·獄ニ、責ニ——ニ」。
(壘尉) 障壁の事をつかさどる役の名。○(後漢)「時有ニ長·人巨·無·霸ニ長一·丈、大十·圍、以爲ニ——ニ」。

【尉】 ウツ、チチ。於勿切 物

俗に、火を加へて熨に作る。
ひのし(火斗)。

九畫

【尊】 ソン。祖昆切 元

㊀品位高し、等級重し、あがめ敬ふ可し、たふさし、たかし、又、たふさき人。○(易)「天—地卑、乾·坤定矣」。
㊁あがめつかふ、たふさぶ、うやまふ、(敬)。○(禮)「自卑而—レ人」。
㊂酒を注ぐ器具、たる、さかだる、俗に、たるを樽の字に作るは非なり、樽の字は別義なり。○(周)「掌ニ六·彝六·—之位ニ」。
(至尊) 極めてたふときこと、天子を稱するに用ふる語。○(王維)「無ニ人隨ニ——ニ」。
(壯尊) 釋迦佛のこと。○(杜甫)「——亦塵·埃」。
(最尊) すぐれてたふとし。○(晉、傳)「上·帝太·乙·神在ニ紫·微宮ニ、天之——者」。
(極尊) 前に同じ、又、父母を稱するに用ふる語。○(書、疏)「緣ニ其施ニ孝於——ニ、乃能施ニ友於甚·親ニ」。
(敬尊) たふとぶこと。○(禮)「君·子雖ニ自卑ニ、而民—ニ—之ニ」。
(達尊) (い)すぐれてたふとし。○(孟)「天下有ニ——三ニ」。(ろ)貴きに隨む。○(桑弢)「因レ卑—レ—之意也」。
(卑尊) ひくき者と貴き者と。○(孟)「長·幼——、皆薛·居·州也、王誰與爲ニ不·善ニ」。
(追尊) 死にたる者をたふとぶこと。○(史)「—ニ—莊·襄·王ニ、爲ニ太·上·皇ニ」。
(佯尊) 心よりせざうはべに敬ふこと。○(史)「項·羽乃—ニ—懷·王ニ爲ニ義·帝ニ」。
(獨尊) 自身のみ他にすぐれて貴きこと。○(傳燈錄)「天·上天·下、唯·我——」。
(威尊) たけく貴きこと。○(呉)「——無レ上」。
(家尊) 家長の意に同じ己が父を稱する語。○(韓愈)「自足·殆ニ——ニ」。
(推尊) すゝめたふとぶ。○(歷九疇)「畫·史——爲ニ第·一ニ」。
(北斗尊) 北極星の衆星中にすぐれて貴きより極めて貴きに借りていふ語。○(顔眞卿)「尙·書——」。
(萬乘尊) 古は、天子の國よりは戰車萬乘を出だせるより天子の位を稱するに用ふる語。○(李白)「漢·皇——」。
(兩足尊) 釋迦佛の福足り智慧足りしといふ故事より釋迦佛を稱するにかり用る語。○(法華經)「無·上——、願說ニ第·一·法ニ」。
(九五尊) 周易にて天子の位を稱するに用ふる語。○(于邵)「成ニ——之一ニ、享ニ八·百之祚ニ」。
(南面尊) 天子の位を稱するに用ふる語。○(漢)「處ニ——之一ニ、乘ニ萬·乘之權ニ」。
(四海尊) 前に同じ。○(梁簡文帝)「秦·兼ニ——之一ニ、握ニ天·下之富ニ」。
(黃屋尊) 天子の屋は黃色なるより天子の位を稱するに用ふる語。○(劇談錄)「陛·下不下以ニ——ニ爲上」。

【[illegible]】 セン。須全切 先

㊀をさむ(修)。㊁おもて、ほか(表)。
㊂手にて循づ、なづ。

【尋】 ジン。徐林切 侵 〔説文〕本作レ㝷、从ニ工口ニ、从ニ又寸ニ、工口亂也、又寸分レ理之、彡聲。

㊀たづぬ。
(い)分明ならぬものをさがす、もとむ(求)。○(列)「其夜眞夢ニ藏レ之之處ニ、又夢ニ得レ之之主ニ、爽·旦案ニ所レ夢、而—得レ之」。
(ろ)聞きたゞす。○(北)「研·精—問、更求ニ師·友ニ」。
(は)考へ分く。○(謝靈運)「退—ニ平·常時ニ」。
(に)追跡す、おひかく。○(宋)「疑ニ高·祖淹·久ニ、恐爲ニ賊所ニ困、乃輕·騎追ニ—之ニ」。
(ほ)訪ふ、おとづる。○(李白)「相約相期何太·深、棹·歌搖·艇月·中—」。
(へ)肢體の感にてさぐる。○(孟郊韓愈聯句)「流·滑隨ニ仄·步ニ、搜——得ニ深·行ニ」。
(と)入りこむ、侵し來たる。○(王安石)「行·路老侵——」。
㊁もちふ(用)。○(左)「將レ—レ師」。
㊂かさぬ(仍)、つぐ(繼)。○(左)「日—ニ干·戈ニ、以相征·討」。
㊃間もなく、ついで、又、にはかに(俄)。○(晉)「傾·覆亦—至」。
㊄借りて燖に用ふ、あたゝむ。○(左)「吳使ニ人請—レ盟」。
㊅尺度の名、八尺の長さ、ひろ。○(大載禮)「十—而索」。
㊆ながし、ながさ(長)。○(揚雄)「自レ關以·西、秦·晉·梁·益間、凡物長謂ニ之—ニ」。
㊇つね、なみく(常)。○(指月錄)「淵中消·息也—常」。
(千尋) ちひろ、尺度の長さにいふ語。○(貝信)「高·閣——起」。
(萬尋) ちひろを十倍したるもの、前に同じ。○(梁賦)「靑·壁——」。
(招尋) まねきもしおとづれもす、交はることに借りいふ語。○(李白)「與レ爾相——」。
(溫尋) たづぬ。○(禮、疏)「旣能——ニ故·事ニ」。
(蹤尋) 前に同じ。○(漢)「文·吏——、不レ得ニ轉·移ニ」。
(研尋) 究めたづぬ。○(梁)「晝·夜——、便有ニ養·生之志ニ」。

〔究尋〕前に同じ。○〔法書要錄〕「一二一筆跡一」。
〔窮尋〕前に同じ。○〔法苑珠林〕「一二一理性一」。
〔精尋〕くはしくたづぬ。○〔雲笈七籤〕「學者自應下一一得レ一知上レ萬」「已」。
〔考尋〕かんがへたづぬ。○〔梁〕「同レ事者一一不レ」
〔思尋〕前に同じ。○〔雲笈七籤〕「閉レ目一一」。
〔探尋〕さがす。○〔法書要錄〕「一二一源流一」。
〔熟尋〕よくたづぬ。○〔庾信〕「或、開レ經而一一」。
〔登尋〕のぼりたづぬ、名山などを訪ふにいふ語。○〔顧况〕「牽纏曠一一」。
〔參尋〕おとづる、まゐる。○〔韓愈〕「由來鈍騃寡二一一」。
〔訪尋〕（い）前に同じ。○〔惠洪〕「渡レ水何辭數一一」。（ろ）問ひたゞす。○〔黃庭堅〕「必有二人材備二一一」。「宜二一一一」。
〔緣尋〕よりたづぬ。○〔雲笈七籤〕「誠非二小醜所レ」

【尌】

シュ、ジュ。常具切　遇
〔說文〕从レ壴从レ寸、持レ之也。

一 たつ、（立）。○〔乾坤鑿度〕「定レ風一レ信」。「牧一一」。
二 わらは、ゐもべ、童僕。○〔後漢〕「耘夫

十畫

【剅】

剅の字の譌り。○〔史〕「一一氣不レ怒」。

十一畫

【剩】

俗の剅の字。

【對】

タイ、ツイ。都內切　隊
本、對に作る。

一 こたふ、こたへ。
（い）むくゆ、むくい、（酬）。○〔詩〕「以一二于天下一」。
（ろ）いらふ、いらへ、（答）。○〔禮〕「君子問更レ端則起而一」。
二 むかふ、むく、（向）。○〔史〕「廣年六十餘矣、終不レ能三復一二刀筆之吏一」。
三 あたる、あつ、（當）。○〔吳〕「凡兩軍交一一勝負在レ將不レ在二衆寡一」。
四 あふ、あはす、（配）。○〔易〕「先王以茂一レ時育二萬物一」。
五 ならぶ、（竝）。○〔杜甫〕「岸絕兩壁一」。
六 配偶者、つれあひ。○〔後漢〕「擇レ一不レ嫁」。
七 抗敵者、あひて。○〔南〕「有二才儁一自謂無レ一」。
八 ふたつ、そろひ。○〔晉〕「千里蓴羹、末下鹽豉、時人稱爲二名一一」。
九 任にあたる者。○〔詩〕「帝作レ邦作レ一」。
十 ひとし、（等）。○〔呂氏春秋〕「本大而莖葉格一」。

〔應對〕うけこたへ。○〔左〕「以一二一賓客一」。
〔問對〕前に同じ。○〔左〕「一二一于晏桓子一」。
〔專對〕獨斷のうけこたへ。○〔論〕「使二於四方一、不レ能二一一一」。
〔置對〕いらふ。○〔金〕「凡涉レ旬乃始一一」。
〔彊對〕强敵。○〔吳〕「劉備天下知レ名、曹操所レ憚今在二境界一、此一一也」。
〔引對〕召し近づけてこたへをなさしむること。○〔宋〕「躬自一一」。
〔酬對〕こたふ。○〔宋〕「有二問者一、一一如レ響」。
〔參對〕天子の下問に答ふること。○〔後漢〕「入則一一而議二政事一」。「所二曲折一」。
〔正對〕正直に答ふ。○〔後漢〕「與據レ經一一、無レ見レ異」。
〔捷對〕應對のすみやかなること。○〔吳〕「以二一一一」
〔婚對〕つれあひ、配偶者。○〔隋〕「擇二一一一」。
〔酣對〕酒を飮みあふ。○〔南〕「相得輒一一盡レ歡」。
〔接對〕應接すること。○〔舊唐〕「衆皆一一」。
〔偶對〕相あふ。○〔舊唐〕「爲レ文者多拘二一一一」。
〔屬對〕前に同じ。○〔宋〕「一一應レ聲」。
〔陛對〕天子に拜謁すること。○〔宋〕「未レ經二一一一」。
〔晤對〕面會すること。○〔謝靈運〕「一一無二厭歌一」。

十三畫

【對】

對に同じ。

【導】

タウ、ドウ。杜到切　號

一 みちびく。
（い）さきだつ、てびきす。○〔孟〕「君使下人一レ之出上レ疆」。
（ろ）ひらく、（啓）。○〔淮〕「不レ可二以一レ人」。
（は）とほす、（通）。○〔周〕「疏爲二川谷一、以一二其氣一」。
二 みちびくこと、案內者、先進者、みちびき。○〔周〕「候人爲レ一」。
三 櫛の一種、けすぢたて、簪導。○〔釋名〕「南齊高祖、性儉約、見三主衣中有二玉一一、曰、留レ此興二長檄源一、命擊二碎之一」。

〔輔導〕助けみちびく。○〔宋〕「初年以二舊學一一一之功一、召二用宿儒一」。
〔贊導〕前に同じ。○〔詩、箋〕「尸之入也、使下祝一二一之扶中翼之上」。
〔利導〕つがふ好きやうにみちびく。○〔史〕「善戰者、因二其勢一而一二一之一」。
〔疏導〕通じみちびく。○〔疏〕「其隨レ宜一一」。
〔訓導〕教へみちびく。○〔南〕「甚有二一一之益一」。
〔化導〕德を以てみちびく。○〔後漢〕「隨レ俗一一」。
〔補導〕足らざるを補ひ善にみちびく。○〔魏、註〕「知二一一之術一」。
〔弼導〕前に同じ。○〔晉〕「實有二佐命一一之勳一」。
〔獎導〕勸めみちびく。○〔晉〕「所下以一二一民萌一、裁中成庶政上」。「入レ宮」。
〔儀導〕儀仗行列のみちびき。○〔晉〕「將下設二一一一」。
〔鄉導〕みち案內をなす者。○〔晉〕「以レ泥爲二一一一」。
〔抽導〕引きみちびく。○〔晉〕「皆所下以一二一幽滯一、啓中廣才思上」。
〔引導〕みちびく、又、みちびきをなす。○〔南〕「有二羣魚一、躍レ水飛レ空一一」。
〔軍導〕軍隊のみちびき。○〔北〕「請レ爲二一一一」。
〔前導〕先に立ちて案內す、又、其の者。○〔宋〕「執二威儀一一一」。

十四畫

【導】

古文の導の字。

小部

【小】

セウ。私兆切　篠
〔說文〕从レ八从レ丨、見而分レ之。

一 ちひさし、（大の反）。
（い）狹し。○〔韓愈〕「坐レ井觀レ天曰二天一一」。
（ろ）弱し。○〔左〕「國家之立也、本大而末一」。
（は）低し。○〔漢〕「泰山卑一」。
（に）短し。○〔莊〕「一年不レ及二大年一」。
（ほ）鄙し。○〔後漢〕「位一卑輕」。
（へ）輕し。○〔史〕「亡二南陽一之害一」。
（と）すくなし、（少）。○〔易〕「力一而任重」。
（ち）わかし、（幼）。○〔晉〕「我一未レ能二榮養一」。
（り）僅かなり、すこし。○〔史〕「反形未レ見、以二苛一一案誅二滅之一」。
（ぬ）ほそし、（細）。○〔周〕「轂一而長則柞」。
（る）こまか、（微）。○〔莊〕「秋毫爲レ一」。
（を）恭し。○〔詩〕「一一心翼々」。
（わ）劣れり。○〔劉勰〕「何者術一故也」。
（か）主要ならず。○〔後漢〕「濶二略杪一之禮一」。
二 心ねぢけたる者、品性よろしからざる人、小人。○〔漢〕「衆一在レ位」。
三 めかけ、（妾）。○〔詩〕「憂心悄々、慍二于群一一」。
四 幼者、こども、わらはべ、わかて。○〔北〕「其老一殘疾」。
五 下賤の者、いやしき人。○〔書經〕

「張-擧不-羈好飮レ酒、與二羣‐‐一日遊二市-肆一」。
㊅ちひさきもの。○〔國〕「距レ險而鄰二于‐‐一」。
㊆ちひさきこと、ほそきこと、其の度合、ほそさ。○〔晁補之〕「雖二‐‐一擧二吾不下以二百-金一售上レ之」。
㊇ちひさしとす、又、かろんず　○〔左〕「必‐レ羅」。
㊈ちひさくす、ほそくす、ほそむ、へらす、又、ちひさくなる、ほそくなる、ほそる、ほそまる、へる。○〔馬令〕「水皆退‐」。
㊉陽曆にては、一ヶ月の日數の三十一日に滿たざることの稱、陰曆にては、一ヶ月の日數の三十日に滿たざることの稱。○〔後漢〕「月當二先‐一」。
〔大小〕(い)おほいなることちひさなること。(漢)「入レ山伐二材-木一‐‐八-萬-餘-枚。」(ろ)容量、面積、かさ、圍み。○〔左〕「明二鼎之‐‐輕-重一」。(は)すべての事、すべてのもの。○〔禮〕「婦將レ有レ事‐‐必請二於舅-姑一」。
〔褊小〕狹くしてちひさし。○〔左〕「衞-國‐‐」。
〔狹小〕前に同じ。○〔左〕「成周‐‐」。
〔窄小〕前に同じ。○〔唐〕「衿-袖‐‐」。
〔偏小〕前に同じ。○〔孔叢子〕「先-生不レ以二術之‐‐一」。
〔眇小〕身體の極めてちひさきこと。○〔南〕「數形-貌‐‐」。
〔短小〕前に同じ。○〔史〕「爲レ人‐‐」。
〔小小〕すくなし。○〔晉〕「其父-兄得-失、豈以二‐‐一計レ之」。「海二、而不レ遺二‐‐一」。
〔微小〕至極さゝいなること。○〔禮〕「天-子明-照二四-
〔輕小〕前に同じ。○〔隋〕「是歟之‐‐者」。
〔弱小〕よわくして大いならざること。○〔史〕「今燕雖二‐‐一、卽秦-王之少-壻也」。
〔少小〕年わかし。○〔班固〕「此大-將-軍‐‐時所レ[illegible]」。
〔凡小〕なみ〳〵の德なきもの。○〔晉〕「‐‐之人、猶尙如レ此」。「貲‐‐」。
〔陋小〕形のみにくゝしてちひさなること。○〔南〕「形-
〔孱小〕うすくしてちひさし。○〔魏〕「稍就二‐‐一」。
〔瘦小〕形狀のやせてちひさきをいふ。○〔北〕「形-貌‐‐」。「‐‐也」。
〔巨小〕大小といふに同じ。○〔莊〕「其才固有二‐-

【小丶】セツ、セチ。子列切　屑。
㊀すくなし、(少)。
㊁節に借り用ふ、すくなくす、へらす、つゞまやかにす、(約)。

【小心】シツ、シチ。子悉切　質。─或は、蚁に作る。
蜻のめす。

【少】セウ。書沼切　篠。─(說文)从レ小ノ聲。
㊀すくなし。
(い)多からず。○〔孟〕「鄰-國之民不レ加レ‐」。
(ろ)足らず、乏し。○〔史〕「羽兵食‐」。
㊁すこしく。
(い)僅かに、いさゝか。○〔左〕「輔レ之以レ晉、可二以‐安一」。
(ろ)程合ひのいさゝかのたがひを表はす字、やゝ。○〔儀〕「賓‐進」。
㊂不足す、不足せしむ、かく。○〔王維〕「遍挿二茱-黃一‐二一-人一」。
㊃減す、へる、へす。○〔後漢〕「牛多二疾-疫、墾-田減‐」。
㊄程を經て、間ありて、しばらく。○〔孟〕「‐則洋-々-焉」。「皆‐レ之」。
㊅非難す、訾る。○〔史〕「素習二知蘇-秦一、

〔多少〕數のおほきとすくなきと。○〔史〕「不レ知二其兵‐‐一」。
〔稀少〕うすくまれなること。○〔皇甫松〕「茅-茨‐‐」。「靜」。
〔減少〕前に同じ。○〔孔平仲〕「人-烟‐‐白-日‐‐」。
〔耗少〕物のへること。○〔後漢〕「戶-口‐‐」。
〔少少〕すくなし。○〔後漢〕「所レ亡‐‐、何足レ介レ意」。
〔單少〕前に同じ。○〔後漢〕「兵-衆‐‐」。
〔乏少〕前に同じ。○〔北〕「糧-食‐‐」。
〔輕少〕前に同じ。○〔北〕「部-曲‐‐」。
〔鮮少〕前に同じ。○〔韓愈〕「愈族-親‐‐」。

【少】セウ。式照切　嘯。
㊀年すくなし、わかし、をさなし。○〔吳〕「汝年尙‐、何爲自委二於軍-旅一」。○〔漢〕「於レ是爲置二三‐一、皆上-大-夫也」。
㊁そへ、つぎ、(副-貳)。
㊂年すくなきもの、わかき者、こども。○〔晉〕「王-氏諸‐竝佳」。
〔惡少〕あしきわかもの。○〔唐〕「豪宗‐‐」。
〔逸少〕すぐれてかしこきわか者。○〔梁武帝〕「覽二當-今之‐‐一」。
〔幼少〕をさなし、いとけなし、又、こども。○〔禮〕「養二‐‐一、存二諸-孤一」。
〔童少〕こども。○〔文心雕龍〕「‐‐覽淺而志盛」。

三畫

【尒】ジ、ニ。兒氏切　紙。─爾に通じ用ふ。
㊀なむぢ、(汝)。㊁助辭。㊂のみ、ばかり。

【尓】上に同じ。

三畫

【尖】セン。子廉切　鹽。─本、鑯に作る。
㊀末の切りそぎたる如くにするどく、ほそまる、さがる。○〔揮塵錄〕「子胥‐如レ此、誠奸-人也」。
㊁ちひさし、ほそし、(小)。○〔杜甫〕「細春猶細」。「萬-點蜀-山‐」。
㊂するどし、(銳)。○〔王萬鍾〕「風‐月」。
㊃とがりたること、とがりたる末、とがり、かど。○〔黃庭堅〕「我香猶能及二鼻‐一」。
〔玉尖〕指のこと。○〔楊維楨〕「‐‐擫レ管雜二香-雲一」。
〔十尖〕前に同じ。○〔楊維楨〕「‐‐盡換紅鴉觜」。
〔指尖〕指のさき。○〔摭言〕「[illegible]露二‐‐一」。
〔塔尖〕たふの上のとがり。○〔薩都刺〕「城-郭微-茫見二‐‐一」。「‐‐」。
〔峰尖〕山上のとがり。○〔韋莊〕「[illegible]雲高拔遠二‐‐一」。
〔尖尖〕とがり、又、ほそく、するどし。○〔楊萬里〕「小-荷纔-露‐‐角」。
〔翠尖〕翠色を帶ぶる山嶺。○〔周朴〕「遠-岳危-暉等二‐‐一」。
〔青尖〕前に同じ。○〔王安石〕「縹-緲浮‐‐」。
〔眉尖〕まゆのとがり。○〔秦松年〕「曲終新恨到二‐‐一」。
〔新尖〕あたらしくしてするどきこと。○〔蘇轍〕「更尋二詩-句-鬪二‐‐一」。
〔筆尖〕ふでのさき。○〔王惲〕「細寫二春-悰一入二‐‐一」。

【示】バ、マ。莫可切　哿。─本、麼に作る。
こまか、(細)、ちひさし、(小)。

【尗】菽、又は、叔に同じ、古字。

四畫

【[illegible]】サン、セン。壯咸切　咸。
するどし、(銳)。

【[illegible]】サ。思嗟切　麻。
些に同じ、すくなし、すこし、(小)。

【[illegible]】當に同じ。

五畫

【尙】シヤウ、ジヤウ。時亮切 漾 〔說文〕从レ八向聲。

㊀今を去ると遠し、むかしなり、ひさし(久)、ふるし(古)。〇〔史〕「五-帝三-代之記一矣」。
㊁希望す、のぞむ、ねがふ、こひねがふ、(庶幾)、ねがふ所、ねがひ、のぞみ。〇〔詩〕「不レ一レ息焉」。
㊂くはふ(加)、又、かざる(飾)。〇〔論〕「好レ仁者、無三以一ヒ之」。
㊃あがむ、たふとぶ(崇)、又、たふとからしむ、かみにす、たかくす。〇〔禮〕「夏-后-氏一レ黑」。
㊄つかさどる(主)。〇〔史〕「一二符-節一」。
㊅たふとし、たかし(尊)、又、けだかし。〇〔詩〕「維師一-父」。
㊆在來の物事のいまだ絕えざる意を表はす字、まだ、なほ。〇〔詩〕「雖レ無二老-成-人一、一有二典-形一」。
㊇公主を娶る、公主なるがゆゑにたふとぶの義。〇〔漢〕「娶二天-子女一、曰レ一二公-主一」。
㊈あふ。
(い)つれあひとなる(配)。〇〔漢〕「卓-王-孫自以使二女得レ一二司-馬長-卿一晚」。
(ろ)合同す。〇〔易〕「得レ一二乎中-行一」。
㊉うけたまはる、うく(承)。〇〔司馬相如〕「得レ一二君之玉-音一」。
㊉㊀ほこる、(矜伐)。〇〔禮〕「君-子不三自一二其功一」。
㊉㊁むかし、かみ、(上)。〇〔書、序〕「上-代以-來書、故曰二一-書一」。

(高尙) 俗に離れてけたかきこと。〇〔易〕「不レ事二王-侯一、一二一其志一」。
(修尙) 身ををさめてけたかくす。〇〔晉〕「淸-虛寡-欲、無レ所二一-一一」。
(敦尙) あつくたふとぶ。〇〔陶潛見聞志〕「一二-一文-雅一」。
(陵尙) 他をあなどりはてること。〇〔後漢〕「爭相一-一」。
(貴尙) たふとし。〇〔後漢〕「此道淸-虛一-一」。
(驕尙) おごりたかぶる。〇〔後漢〕「雖三才高二于世一、而無二一-一之情一」。
(詩尙) 前に同じ。〇〔晉〕「爭相一-一」。
(矜尙) 前に同じ。〇〔南〕「不二自一-一一」。
(格尙) けだかし。〇〔魏〕「風-節一-一」。
(淸尙) 前に同じ。〇〔晉〕「一-一自修」。
(操尙) 品行高し。〇〔晉〕「一-一淸-遠」。
(風尙) 前に同じ。〇〔晉〕「一-一淸-虛」。
(好尙) このみねがふこと、このみ。〇〔南〕「帝頗有二一-一」「一一」。
(趣尙) 前に同じ。〇〔梁昭〕「從二其一-一一」。
(志尙) こゝろざしけたかし。〇〔晉〕「雅有二智-局一、一-一不羈」。
(節尙) 氣節高し。〇〔晉〕「慷慨有二一-一一」。
(營尙) いとなみのぞむ。〇〔南〕「性疎-嬾無レ所二一-一一」。
(徵尙) 自己のねがひを稱するに用ふる語。〇〔孟浩然〕「從-來抱二一-一一」。
(欽尙) うらやみたふとぶ。〇〔南〕「其爲レ名-流所二一-一如レ此」。
(風尙) 風節の高きこと。〇〔北〕「頗有二一-一一」。
(祇尙) 行をはげまし心を高くすること。〇〔魏〕「于レ是多二一-一一」。
(奢尙) 綺羅を飾ること。〇〔北〕「入漸一-一」。
(槊尙) 氣節。〇〔北〕「一-一甚高」。
(氣尙) 前に同じ。〇〔北〕「以二一-一爲レ名」。
(推尙) おし貴ぶ。〇〔唐〕「二一時流-輩一-一」。
(新尙) あたらしき好み。〇〔韓愈〕「趣有レ獲二一-一一」。

【紗】サ。息邪切 麻
すくなし、すこし(少)。

六畫

【尛】古文の麼の字。

【紂】古文の叔の字。

七畫

【覍】ヘン、ベン。皮變切 霰
弁の本字、覍に同じ。

八畫

【𡭴】ゲキ、キヤク。起戟切 陌
壁際の孔、かべあな、ひま、すきま。

【𡭴】𡭴に同じ。

【𡮐】ドウ、ヌ。乃后切 有
㊀ちひさき貌にいふ字、ちひさし。
㊁ちのみご(乳子)。

【𡮒】ドウ、ヌ。奴鉤切 尤 ―䨲、或は𡮒に作り、又、𡮒に作る、今、謬りて兎に从ふ。
うさぎのこ(兎子)。

九畫

【𡮦】ヘイ、バイ。病謎切 霽
趣かに走る、はしる。〇〔楚辭〕「走-𡮦-一分作二東-西一」。

【尞】燎に同じ。

【𡮹】リヤウ。呂張切 陽 力讓切 漾 ―本、𡮹に作る、涼に通じ作る。
不善、よからず、惡し、又、うすし(薄)。

十畫

【尟】セン。蘇典切 銑 ―今、鮮の字に借り用ふ。
すくなし、すこし(少)。

【尠】俗の尟の字。

十一畫

【𡮫】チヨク、チキ。丁力切 職
やすし(康)、すこやか、(健)。

【𡮲】クワン。古還切 刪 ―本、丱に作る。
織絲を杼にさしとほす、へそまく。

【𡮳】ケン、コン。勤兼切 鹽
㊀すくなし、すこし(少)。㊁かく(缺)。

【𡮴】レン。歷店切 豔
ちひさし(小)。

十二畫

【𡮵】サウ、ザウ。才勞切 豪
物未だ精からず、あらし。

【𡮶】キン、ゴン。渠遴切 震 巨靳切 問
㊀僅に同じ、わづか、すくなし(少)。
㊁むかふ、ならぶ(對)。

十三畫

【𡮷】レキ、リヤク。郞狄切 錫
小しく劣る、おさる。

十六畫

【𡮸】ラン、ロン。力銜切 咸
すくなし(一尟)。

十八畫

【𡮺】サン、セン。初銜切 咸
すくなし(𡮸一)。

尢　部

【尢】ワウ。烏光切 陽 〔說文〕本作二尣一、从二大象一偏曲之形一。
一に、尫に作り、今文に尪に作る。
㊀曲がれる脛。㊁身の丈短少なり、ひくし。㊂くゞせ、せむし、(傴)。

【尣】尢の本字。

一畫

【尤】イウ、ウ。于求切 尤 〔說文〕从レ乙又聲。
㊀もッとも、もとも。
(い)第一に、勝ぐれて、はなはだ、(甚)。○〔史〕「民爲レ姦、京師一甚」。
(ろ)第一なるを、勝ぐれたるを、他に比べなきを。○〔莊〕「夫子物之一也」。
㊁つれにはづれたり、なみ〳〵ならず、けやけし、くすし。○〔司馬相如〕「未レ有下殊一絶迹、可レ考二於今一者上」。
㊂とがむ。
(い)あしと爲す、責む、非難す。○〔左〕「不レ一レ人」。「一而效レ之」。
(ろ)うらむ、(怨)。○〔論〕「不レ一レ天、」
㊃とがむるを、とがめ、非難。○〔楚辭〕「忍レ一而攘レ詬」。
㊄罪あるを、とくじるを、とが、あやまち。○〔潛夫論〕「聞レ惡則循-省而改レ一」。
(怨尤) うらむと。○〔何遜〕「貧賤豈一一」。
(殊尤) とりわけてすぐると。○〔白居易〕「此實一一」。
(愆尤) とが過ちのと。○〔李白〕「自古多二一一」。
(悛尤) とがめ。○〔梅堯臣〕「奉二奉君長一無二一一」。
(衆尤) 多人數にすぐれたると。○〔人物志〕「聖人者、一一之尤也」。
(出尤) 出群の者に同じ、衆人にすぐれたるをいふ。○〔人物志〕「一一之人能知二聖人之教一」。
(瑕尤) あやまち。○〔韓愈〕「考二之言行一而無二一一」。

二畫

【尦】リヨク、リキ。六直切 職
行くに脛の相交はる、ゆきなやむ、足よぢる。

三畫

【尥】レウ。力弔切 嘯 ハウ、ベウ。薄交切 肴
筋骨の弱くして行くに脛のすれ合ひて足のはこびの自在ならざるにいふ字、又、牛の行くに後の脛の相交はるにもいふ、足よぢる、ゆきなやむ。○〔揚雄〕「以レ足鉤レ之爲レ一」。

【尪】ウ、チ。憶俱切 虞 一に、尫に作る。
㊀股曲がる、又、體かゞまり曲がる、まがる。㊁まはる、めぐる、(盤旋)。

【尦】尥の本字。

【尥】テウ。都了切 篠
しかり、(然)。

四畫

【尨】バウ、モウ。莫江切 江 〔說文〕犬多レ毛者、从二犬彡一。
㊀犬の一種、毛の長く多く生ひて垂れてあるもの、むくいぬ。○〔詩〕「無レ使二一也吠一」。
㊁まじはる、まじる、(雜)。○〔左〕「一奇無レ常、又衣二之一服一、遠二其躬一也」。

【尨】ボウ、モウ。謨蓬切 東
みだるゝ貌にいふ字、みだる、(亂)。○〔左〕「狐裘一茸」。

【尲】アン。烏干切 寒
辛うじて行くも容易に進み得られざる貌にいふ字、あしなゆ。

【尳】キウ、ク。虚尤切 尤
不用となる、ずたる、(廢)。

【尩】ワウ。烏光切 陽 尢に同じ。
㊀曲がれる脛。㊁せむしの病の者、くゞせ。○〔左〕「夏大旱、公欲レ焚二巫一一」。㊂つかれて弱し、よわし。○〔韓愈〕「人固有二一羸而壽考一」。

【尫】尪の省字。

【尫】俗の尪の字。

【尬】カイ、ケ。古拜切 卦 〔說文〕从レ尢介聲。
歩み正しからず、又、其のもの、あしなへ。

【尬】カツ、ケチ。訖黠切 黠
歩みの進まざるにいふ字、又、あしなへ。

【尯】スヰ。主㮚切 紙
小さなる貌にいふ字。

【尯】ズヰ。汝水切 紙
上に同じ。

五畫

【尥】ハウ、ベウ。蒲交切 肴
脛のねぢれたるにいふ字。

【尰】サ。子賀切 箇 子我切 哿
歩みの正しからざるにいふ字、あしなへ、又、其のもの。

【尰】クワツ、グワチ。戶八切 黠 一に、尬の字の譌り。
足の病。

六畫

【尳】古文の跛の字。

【尰】タ、ダ。都唾切 箇
あしなへ、(蹇)。

【尳】クワツ、グワチ。戶括切 曷
行く貌にいふ字、ありく。

【尳】キ。丘僞切 寘
うむ、つかる、(倦)、一説に、あしなへ、(跛)。

【尳】𤴯の字の譌り。

【尳】クワイ、ケ。呼回切 灰
互に撃ち合ふ、うつ、一説に、俗の尳の字。

【尳】エウ。弋笑切 嘯 餘招切 蕭
歩みの正しからざるにいふ字、あしなへ、一説に、足腫る、又、はれもの。

【就】就に同じ。

【尳】𤴯に同じ。

七畫

【⿺尢妥】タイ、テ。吐猥切 賄 行きて病む、足なやむ、(委━)。

【⿺尢委】タイ、テ。吐内切 隊 病の名、人體の筋關節等につきて甚だしき痛みを發す、今のりうまちすの如き病、風疾。

【⿺尢坐】サ、ザ。在果切 哿 足の立たぬ不具、こしぬけ、ゐざり、(兀-坐)。

【⿺尢肖】セウ。思邀切 蕭 ⿺尢肖に同じ、頭痛む。

【⿺尢岂】兀に同じ。

【⿺尢皀】ベン、メン。民堅切 先 なゝめにゆく、(邪-行)。

八畫

【⿺尢戉】ケキ、ギヤク。巨逆切 陌 うむ、つかる。

【⿺尢奄】アン、オン。烏感切 感 烏含切 覃 あしなへ、(跛-蹇)。

【⿺尢咅】ハ、バ。歩臥切 箇 ホフ、ブ。蒲候切 宥 たふる、たふす、(仆)。

【⿺尢果】ラ。盧臥切 箇 歩み正しからず、あしなへ。

【⿺尢卓】タウ、テウ。丑孝切 效 シャク、サク。尺約切 藥 ━一に、踔に作る。 あしなへ、(跛-蹇)。

【⿺尢委】タイ、テ。吐内切 隊 キ。苦委切 紙 前の⿺尢委の解に同じ、風疾、又、風毒。

【⿺尢奇】キ。去綺切 紙 ㊀あしなへ、(蹇)。㊁片足滿足ならずして行くに正しからざるもの、ちんば、びつこ。

【⿺尢奇】キ。瘤義切 寘 うむ、あく、(倦)。

【⿺尢京】就に同じ。

【⿺尢音】寇に同じ。

九畫

【就】シウ、ジユ。才救切 宥 ━〔説文〕从レ京从レ尤。

㊀つく。(い)向く。〇〔詩〕「━二其深一矣、方レ之舟レ之」。(ろ)近づく。〇〔史〕「稍々近━レ之、奉以二車-馬金-錢一」。(は)なる、(成)。〇〔詩〕「日━月將」。(に)志たがふ、(從)。〇〔漢〕「遂自━レ禹」。(ほ)つかしむ、つかす。〇〔國〕「處レ工━二官-府一」。
㊁めぐり、(帀)。〇〔禮〕「大-路繁-纓一━」。
㊂よく、(能)。〇〔左〕「━用レ命焉」。
㊃をはる、をはり。〇〔郭璞〕「凡事-物成━━亦終也」。
㊄其の物事につきて、其れて、すなはち。〇〔晉〕「━加レ詔許レ之」。
㊅假りまうけて說くときに用ふる字、たとひ、たとへ、又、しよんば、(論旨の歩を進むる場合に用ふるを多し)。〇〔後漢〕「━値二其人一、非二德-選一」。

(去就) 一方に離れ一方につくと、又、官職をさると官職につくとの義に用ふる語。〇〔漢〕「知二━━之分一」。
(近就) ちかづく。〇〔史〕「稍々━二━之一」。
(雜就) 集せて成す。〇〔史〕「臣願頗采二古-禮與二秦-儀一━二━之一」。
(成就) できあがる。〇〔陳〕「每睦二陵早━━一」。
(從就) つきしたがふ。〇〔後漢〕「賓客━━、輒伏而不レ見」。
(牽就) こじつけて作る。〇〔元〕「不下以二私-意一━━上」。
(夙就) 夙成といふに同じ、早くおとなびたること。〇〔蔡邕〕「早-智━━」。
(晩就) 事業のおそく成ること、晩成といふに同じ。〇〔陸機〕「戚二琨-姿之━━一」。

【尰】ショウ、ジユ。豎勇切 腫 ━本、瘇に作り、一に、𤺋に作る。 足腫る、又、はれもの。〇〔詩〕「既微且━」。

【⿺尢畏】ワイ、エ。烏賄切 賄 ━一に、㾯に作る。 風疾を病む、又、風毒。

十畫

【⿺尢扁】ハツ、ハチ。北末切 曷 ㊀足大いなり、又、おほあし、(━-⿺尢差)。㊁行くを惡し、みにくし。

【尲】カン、ケン。古咸切 咸 ケン、コン。紀炎切 鹽 ありくを正しからず、(━-尬)。

【⿺尢差】サツ、サチ。子末切 曷 足大いなり、おほあし、(⿺尢扁-━)。

【⿺尢䍃】俗の⿺尢是の字。

【⿺尢奚】⿺尢是の字の譌り。

【尳】コツ、コチ。古忽切 月 ㊀膝の病。㊁骨ぐみの差ひたるにいふ字。

【⿰出尤】シユツ、シユチ。雪律切 質 足立たずして行く能はざるにいふ字、かたし。

十一畫

【⿺尢崔】ケイ、エ。戸圭切 齊 行く貌にいふ字、ありく。

【⿺尢婁】僂に通じ用ふ、くゞせ。

十二畫

【尵】タイ、デ。徒回切 灰 ━本、𤺋に作る、俗に、尵に作るはあし。 馬の病。

【⿰虛尤】⿺尢虛の字の譌り。

【⿺尢喬】⿰虛尤の字の譌り。

【⿺尢童】尰に同じ。

十三畫

【⿺尢是】テイ、タイ。都兮切 齊 足なへの歩むこと能はずして人に扶け引かるゝにいふ字、(━-⿺尢盧)。

【⿰高尤】⿺尢商に同じ。

十八畫

【⿺尢雚】クワン、グワン。跪頑切 刪 腰と膝との痛み、又、其の病。

【⿺尢藋】クワン、ゲン。千全切 先 歩行の正しからざるにいふ字。

十九畫

【⿺尢羸】ラ。力臥切 〔箇〕 ルヰ、力爲切 ライ。切 〔支〕
腰と膝との痛み、又、其の病。

廿二畫

【⿺尢巂】ケイ、エ 戸圭切 〔齊〕 〔說文〕从レ允从レ爪巂聲。
𡯽の字の解に同じ。

尸部

【尸】シ。申之切 〔支〕 〔說文〕象二臥之形一。
一 屍に通じ用ふ、命脈の絶えたるむくろ、しかばね、かばね、死骸。○〔左〕「贈レ死不レ及レ—」。
二 のぶ。
（い）骨節解けゆるぶ、うつぶしながまりてかばれのさまをなす。○〔論〕「寢不レ—」。
（ろ）床に臥す、からだをのばすの義。○〔公羊〕「吾將レ—」。
三 かたしろ、かみしろ。
（い）古昔、祖先を祭るときに假りに神の代りとしたる其の祭られたる者の血統者。○〔詩〕「皇—載起」。
（ろ）總べて、神の象にいふ字。○〔楚辭〕「載レ—集戰、何所レ急」。
四 つかさどる（主）。○〔詩〕「誰其—レ之」。
五 つらぬ（陳）。○〔詩〕「有二母之一—レ饔」。
六 局に當たりて其の職分を盡さゞること。○〔禮〕「事レ君近而不レ諫則是—利也」。
〔功尸〕いさをのある尸。○〔亢倉子〕「不レ爲二物府一、不レ爲二——一、是名曰レ道」。
〔獻尸〕さかづきをかたしろにすゝむること。○〔詩、箋〕「天子則有二子孫——之禮一」。

一畫

【尹】イン、エン。于準切 〔軫〕 〔說文〕从レ又ノ、握レ事者也。
一 たゞす（正）、又、つかさどる（主）。○〔書〕「簡畀二殷命一、—二爾多方一」。
二 公事をたゞしつかさどる者、つかさ、官吏、又、つかさの名、役名。○〔史〕「王之官—、有下如二宰予一者上乎」。
三 まこと（誠、信）。○〔禮〕「孚—旁達信也」。
〔庶尹〕もろ〳〵のつかさの長。○〔書〕「——允諧」。
〔師尹〕天子の宰相。○〔詩〕「赫々——」。
〔奄尹〕宦者のかしら。○〔禮〕「命二——一申二宮令一」。
〔令尹〕周の時代の楚國の卿相のこと。○〔論〕「——子文」。
〔關尹〕關門をあづかるつかさ。○〔左〕「敵國賓至、——以告」。
〔卿尹〕宰相のこと。○〔晉〕「純以二凡才一、備二位——一」。

【尺】セキ、シヤク。昌石切 〔陌〕 〔說文〕从レ尸从レ乙、乙所レ識也。
一 物の長さを度るに用ふる名、寸を十倍したるもの。○〔漢〕「十分爲レ寸、十寸爲レ—」。
二 物の長さ。○〔陳〕「布帛幅—」。
三 物の長さを度るに用ふる器、さし。○〔隋〕「置二銅斗鐵—一于レ肆」。
四 さしにて長さを度ること。○〔杜甫〕「寒衣處々催二刀—一」。
五 法に合ふこと、度あること。○〔金〕「元好問文有二繩—一、備二衆體一」。
〔三尺〕（い）一尺を三つあつめたる長さ、又、短き長さにいふ語。○〔史〕「提二——一之劍一取二天下一」。（ろ）法のこと、古昔は、法を三尺ある竹簡に書きたりしよりいふ。○〔史〕「——安出哉、前主所レ是著爲レ律、後主所レ是疏爲レ令」。
〔咫尺〕（い）八寸を咫といひ十寸を尺といふよりたけの短きをあらはすに用ふる語。○〔孔融〕「公誠能馳二一介之使一、加二——之書一、則孝章可レ致、友道可レ弘矣」。（ろ）距離の極めて近きこと。○〔李白〕「清都在二——一」。
〔一尺〕前條の（ろ）に同じ。○〔史〕「——布尚可レ縫、一斗粟尚可レ舂」。
〔徑尺〕さしわたし一尺あること。○〔尹文子〕「得二玉——一、不レ知二其寶一也」。
〔百尺〕（い）一尺を百倍したる長さ、又、時として高き義に借りいふ語。○〔魏〕「欲レ臥二——樓上一」。（ろ）舟の帆檣。○〔海賦〕「候二勁風一揭二——一」。
〔曲尺〕かねざし、工人の使用する矩形にまがりたるさし。○〔白居易〕「把レ酒循環飲、移レ牀——眠」。
〔畫尺〕さし、裁縫に用ふるもの。○〔梁簡文帝〕「——隨二衣前一」。

二畫

【尻】カウ、コウ。丘刀切 〔豪〕 〔說文〕从レ尸九聲。
或は、㞑に作り、又、𦙶に作る、尸に从ひ、九に从ふ、尻とは別なり。
しり。
（い）脊骨のつきたる處。○〔禮〕「兔去レ—」。
（ろ）物の地に託する處。○〔屈平〕「崑崙縣圃其—安在」。
〔頭尻〕あたまとしりと。○〔蘇軾〕「——軒昂腹脇低」。
〔黑尻〕〔動〕こふの鳥の異名、俗に、しりくろといふ。○〔詩、疏〕「鸛鶴雀也、一名負釜、一名——」。

【尼】ヂ、ニ。女夷切 〔支〕 〔說文〕从二後近一之、从レ尸匕聲。
女の僧、あま。○〔事物紀原〕「又聽洛陽婦女阿潘等出家、此盡中國—之始」。
〔牟尼〕珠玉の總名、たま、佛家の言。○〔元稹〕「已蒙二衣内繫二——一」。
〔陀羅尼〕（い）佛家の言、衆德を具包する名號。○〔佛頂心經〕「觀世音菩薩說二此———一」。（ろ）佛家の言、又、まじなひ、（呪）の義にもいふ語。○〔翻譯名義集〕「然則———此梵語、呪字即當二華言一」。
〔毗尼〕善く佛戒を分別するもの法師。○〔黃庭堅〕「心潔似二——一」。
〔惡邪尼〕火の神をいふ。○〔附字瀉審〕「———火神也」。

【尼】ヂツ、ニチ。女乙切 〔質〕
昵に通じ用ふ、ちかづく、むつぶ。○〔尸子〕「悅レ—而來レ遠」。

【尼】デイ、ナイ。乃禮切 〔薺〕
とゞむ（止）、又、さだむ（定）。○〔孟〕「止或—レ之」。

【𡰥】古文の夷の字、又、古文の仁の字。

【⿸尸又】ショク、セキ。茲力切 〔職〕 本、㞎に作る。
なさむ（理）。

三畫

【尽】俗の盡の字。

【⿸尸叉】デン、テン。尼展切 〔銑〕 〔說文〕从レ尸側身狀、从レ叉手用レ力也。
一 柔き皮、なめしがは。
二 柔かにして弱し、やはし、よわし。

四畫

【尾】ビ、ミ。無匪切 〔尾〕 〔說文〕从二倒毛在一尸後。
一 鳥獸のむくろのへさきにある長く出でたる毛、を、しりを。○〔易〕「狐濡二其—一」。
二 すゑ（末）、さき（稍）、しりへ（後）。○〔詩〕「瑣兮—兮」。
三 をはり（終）。○〔戰〕「王若能爲二此—一」。
四 そこ（底）。○〔爾〕「瀵大出二—下一」。
五 をさめ交接す、つるむ、まじはる。○〔書〕「鳥獸孳—」。
六 星の名、又、星のやどり。○〔禮、註〕「日月會二於鶉—一」。
〔赬尾〕をを赤くす、又、赤きを。○〔詩〕「魴魚——」。
〔瑣尾〕こまかきこと。○〔詩〕「—兮—兮、流離之子」。
〔龍尾〕龍のを、又、星の名。○〔國〕「——伏レ辰」。

(駿尾) 駿馬のをのこと、轉じてすぐれたる人のあとりへの義に用ふる語。○〔史〕「附二——一而行益顯」。
(鼠尾) (植)たむらそうとて黑色を染むる草、一名やまひら、又、めくらぐさともいふ。○〔爾、疏〕「可三以染二皁草一也、一名勁、一名二——一、有二白華者一、有二赤華者一、又一名二陵-翹一」。
(狼尾) (植)ちから草。○〔爾、疏〕「草似レ茅者、一名レ孟、一名二——一」。
(箕尾) 星の名。○〔宋〕「身騎二——一歸二天-上一」。
(修尾) 長き志りを。○〔鹽、會〕「裁二——一之翹々一」。
(踏虎尾) 危險に臨むことに借りいふ語。○〔書〕「若レ—二——一」。

【尿】デウ、テウ。奴弔切 嘯 今、溺に作る。
陰部より洩れ出づる膀胱內の水、ゆばり、小便。○〔莊〕「在二屎—一」。

【局】キョク。渠玉切 沃 説文 从レ口在二尺下一、復局レ之。
㊀狹小す、せばむ、つぼむ、又、區分す、わかつ、かぎる、志きる。○〔詩、箋〕「聯レ字分レ疆、所二以—一レ言也」。
㊁かぎり、志きり、わかち、ぶわけ、區劃、部分。○〔禮〕「左-右各有レ—、各司二其—一」。
㊂へや、つぼね。○〔王建〕「宮—幾來爲二喜-樂一」。
㊃官廳の事務室。○〔典、通〕「分二掌二十一—事一」。
㊄すごろく、將棊、圍碁などの戯れを行ふに用ふる板、ばん、其の面上に縱橫の條、卽ち、めをもり、つぼめかぎりたるよりいふ。○〔北〕「魏-子-建在レ洛、閑-暇頗爲二奕-棊一、時-人謂爲二躭-好一、及三一臨二邊-事一、凡經二五-年一、未三嘗對二—一」。
㊅すごろくなどの戯れを行ふ一段落。○〔南〕「自二食-時一至二日-暮一、——始竟」。
㊆技能、器量。○〔晉〕「忠-正有二幹—一」。
㊇事業、職務。○〔戴禮〕「德以監レ位、々以充レ—、—以觀レ功、々以養レ民」。
㊈偏りなづむ、かゝはる、(拘)。○〔人物志〕「節在二儉-固一、失在二拘—一」。
㊉身を曲ぐ、せぐゝまる、まがる、又、せまる、(促)。○〔史〕「今-日廷-論乃—趣、效二轅-下駒一」。
⑪皺み寄る、ちゞろ、ちゞむ、又、まく、(卷)。○〔江淹〕「鬓—將レ成レ葆」。
⑫はこ、(匣)。○〔唐文粹〕「有二負レ——生一」。
⑬大に笑ふ貌にいふ字。○〔莊〕「季-徹——然大笑」。
⑭せまし、(狹)。○〔北〕「園-疇褊—」。
(跼局) 身を曲ぐ。○〔屈平〕「——顧而不レ行」。
(曲局) まがること。○〔詩〕「予髮——」。
(博局) ごばん。○〔漢〕「皇-太子引二——一、提二吳-太子一殺レ之」。
(棊局) 前に同じ。○〔晉〕「地-方如二——一」。
(器局) 才略。○〔晉〕「充居二宰-相一有二——一」。
(對局) ごばんに向かひあふ、卽ち、勝負を爭ふこと。○〔北〕「未二嘗——一」。「—一」。
(職局) 事務室。○〔南〕「乃以二誣レ人之罪一收二縣——」。
(限局) 志きり。○〔後漢〕「不二——一以疑レ遠」。
(智局) 智謀あること。○〔晉〕「苞雅-曠有二——一」。
(識局) 前に同じ。○〔晉〕「——貞-隱」。
(當局) ごばん面に對し勝敗を爭ふ者、又、轉じて事にあたるをいふ語。○〔鹽鐵論〕「與二——一者異」。
(曹局) つぼね、事務室。○〔南〕「寢二寐——一」。
(帝局) 朝廷のこと。○〔北〕「雖レ縻二爵——一、焉得而榮レ之」。
(官局) 役場。○〔宋〕「恩不レ廉——不レ治」。

【屁】ヒ、ビ。匹寐切 寘 腹中にある氣の肛門より泄れ下るもの、へ。

五畫

【[illegible]】チフ、ヂフ。直立切 緝 前後相次ぐ、ならぶ、又、つらなる。

【[illegible]】ケフ、ゴフ。極曄切 葉 ㊀後より相躡む、つゞく、ふむ。㊁小さく歩む、あゆむ。

【[illegible]】シ。取私切 支 親に同じ、盜み視る、うかゞふ。

【屄】ヒ。布非切 微 女子の陰部、かくしどころ、べゞ。

【[illegible]】ホク、歩木切 ブク。 シュク、初六切 ソク。 屋 行く貌にいふ字、ゆく。

【[illegible]】キョク、ゴク。衢六切 屋 行くを迫促す、せまる、いそぐ。

【居】キョ、九魚切 コ。 魚 説文 尻處也、从レ尸得レ几而止也。
㊀をる、ゐる。
(い)安んず、住む。○〔書〕「奠二其攸レ—」。
(ろ)內にとゞまる。○〔莊〕「欲レ同二乎德一而心—」。
(は)占む。○〔禮〕「數各—二其上之三-分一」。
(に)すわる、坐す。○〔禮〕「—吾謂レ女」。
(ほ)官に就かず、無位にてあり。○〔禮〕「—士錦-帶」。
㊁其の儘にて、他事もなしに、又、ゐながら、むなしく、たゞ。○〔詩〕「—以凶-矜」。
㊂ゐる場所、ゐどころ、ところ、又、住宅、すまひ、いへ、又、座、墳墓などにもいふ字。○〔書〕「五-宅三—」。
㊃おく、ゐるを得しむ、をらしむ。○〔禮〕「度レ地以—レ民」。
㊄つむ、(積)、たくはふ、(蓄)。○〔書〕「遷二有-無一化レ—」。
㊅やむ、とゞまる、(止)。○〔禮〕「師興不レ—」。
(穴居) あなの中にすむ。○〔易〕「上古——而野處」。
(巢居) 木の上にすを作りてすむこと。○〔莊〕「民皆——以避レ之」。
(起居) たちゐ。○〔書〕「出-入——」。
(燕居) 閒暇無事の時をいふ。○〔禮〕「仲尼——」。
(閒居) 前に同じ。○〔禮〕「孔-子——」。
(蟄居) たいせいおれゐる。○〔論〕「——終-日」。
(索居) わびずまひ。○〔禮〕「子-夏曰、吾離レ羣而——、亦已久矣」。
(樓居) たかどのずまひ。○〔史〕「仙-人好二——一」。
(巖居) いはやずまひ。○〔韓、詩〕「——穴處、而王侯不レ能二與爭一レ名」。
(家居) 官に仕へずして家にゐること。○〔史〕「李-廣——數-歲」。
(鶉居) 居る處の定まらざるに用ふる語。○〔莊〕「聖人——而鷇-處」。
(帝居) 天子のすまひ、又、上帝のゐどころ。○〔唐〕「賀-知-章夢-遊二——一」。
(皇居) 前に同じ。○〔孔融〕「帝-室——、必畜二非-常之寶一」。
(天居) 前に同じ。○〔王維〕「雲-館接二——一」。
(尸居) かたしろの如くにをること。○〔莊〕「——而龍-見」。
(仙居) 仙人のすまひ。○〔李白〕「幽-賾清-寂若二——一」。
(爰居) (動)雜縣と名づくる海鳥。○〔國〕「海-鳥曰二——一、止二於魯東-門之外三-日一」。
(休居) やすらかにゐる。○〔史〕「我雖レ短也、幸——」。
(下居) すまひを占ひ定む。○〔謝士良〕「—二——西-山外一」。
(介居) たすけなくひとりゐること。○〔漢〕「將-軍——二河-北一」。
(亭居) とゞまり溜まること。○〔漢〕「其水——」。
(異居) 場處をたがふ、又、別のをり場處。○〔魏〕「寺-署可レ別二四-民——一」。
(雜居) まぜこぜにをる。○〔魏〕「分二別士-庶一、不レ令二——一」。
(禪居) 僧寺といふに同じ、てら。○〔朱熹〕「一-山雲-水擁二——一」。
(啓居) 膝をひらきてすわる。○〔詩〕「不レ遑二——一」。

（僑居）　かりずまひ、わびずまひ。○〔魏〕「何緣復━━二━趙·鄴一」。

（寄居）　人の家にたよりてをる、又、其のこと。○〔曹植〕「人·生如二寄·居一」。

【居】　キ。居之切　支

や。

（い）疑がひ問ふときに用ふる字。○〔禮〕「何━我未二之前·聞一也」。

（ろ）物事を呼び掛くるときに用ふる字。○〔詩〕「日━月諸」。

【屆】　カイ、ケイ。古拜切　卦　〔説文〕行不レ便也、从レ尸由聲。

俗に、届に作る、古文暨に作る、由に从ふはあし。

及ぶ、及ぼす、いたる、いたらす、（至）、きはむ、きはまる、（極）、さだく。○〔書〕「惟德動レ天、無二遠弗一レ━」。

【屇】　テン、デン。徒連切　先

あな、（穴）、一説に、屆の字の譌り。

【屈】　クツ、コチ。區勿切　物　〔説文〕無レ尾也、从レ尾出聲。

㊀かゞむ、（伸の反）。

（い）ねぢれ曲がる、まがる。○〔孟〕「無·名之指━而不レ伸」。

（ろ）折る。○〔左〕「曲而不レ━」。

（は）縮み寄る。○〔易〕「尺·蠖之━以求レ信」。

（に）むすぼる。○〔韓愈〕「鬱━━尙不レ平」。

（ほ）志撓む、くじく。○〔韓愈〕「男·兒爲二不·義一、不レ可レ━也」。

（へ）おしつまる。○〔吳〕「痈其令二張·公能辭━一、乃當レ飲レ之耳」。

（と）志成らず、下位に沈む、理ありて非とせらる。○〔晉〕「朝·野稱二多其━一」。

（ち）したがふ、へりくだる。○〔諸葛亮〕「自枉━━三二顧臣於草·盧之中一」。

（り）かゞましむ、まぐ、かゞます、（前各項參照）。○〔孟〕「威·武不レ能レ━」。

㊁詘、又は絀に通じ用ふ、つく、（竭、盡）。○〔漢〕「用レ之無レ度則民·力━」。

㊂もとる、（梗戾）。○〔漢〕「乃欲下以二新·造未·集之越一、━中彊於此上」。

（詰屈）　つまること。○〔栢梁〕「窘·迫━━·━幾窮哉」。

（盤屈）　まがる。○〔駱賓王〕「根·柢━━·━」。

（降屈）　心をまげてくだること。○〔後漢〕「終不二━━·━一」。

（強屈）　おりやりにまぐ。○〔魏〕「術不二━━·━一也」。

（謙屈）　へりくだる。○〔晉〕「官二深自━━·━以防二其變一」。

（沈屈）　しづみてのびざること。○〔魏〕「雖レ━━二━兵·伍一、而操·尙彌高」。

（淪屈）　前に同じ。○〔舊唐〕「━━者、所·司具以レ狀聞」。

（撓屈）　たわめかゞむ。○〔北〕「初不二━━·━一」。

（退屈）　しりぞくこと。○〔宋〕「敵至而先自━━·━」。

（蟠屈）　わだかまりのびざること。○〔宋〕「心·志━━·━不レ開」。

（媿屈）　はぢて氣をくだすこと。○〔宋〕「安·石爲レ之━━」。

【屈】　ケツ、クワチ。九月切　月

前條の㊀に同じ。○〔歐陽修〕「不レ學而剛、有レ摧必折、毅·々程·公、其剛不レ━」。

【屜】　テイ、タイ。他計切　霽

鞍の下にて馬の背に置くもの、したぐら、くらしき。

【屎】　シ。矧視切　紙　或は、屎に作る。

くそ、（糞）。

【𡰴】　トン、ドン。徒渾切　元　〔説文〕从レ尸从レ几。

或は、臀に作る、ゐさらひ、しり、そこ、ところ、（髀）。

【𡰯】　クワン、グワン。胡曼切　願

ふくろ、（袋）、一説に、譌りの字。

【𡱕】　カイ、ケイ。許介切　卦

いびき、れいき、（臥息）。

【屓】　キ。虛器切　寘

壯大の貌にいふ字、さかんなり、おほいなり。

【屋】　チク。烏谷切　屋　〔説文〕从レ尸、尸所レ主也、一曰、尸象二屋形一、从レ至、至所二至止一也。

㊀人の住居するための建物、いへ、や、へや、すまひ、すみか。○〔詩〕「此·々彼有レ━」。

㊁いへの上を覆ふ部、やね、むね。○〔詩〕「誰謂二雀無レ角、何以穿二我━一」。

㊂やねありていへの形をなすもの。○〔晉〕「張二幔━一於城·南一」。

㊃車の蓋、きぬがさ。○〔史〕「乘二黃━━車、傳二左·纛一」。

㊄かぶり物の上部、又、舟の覆ひなど。○〔陸游〕「落·葉拂二帽━一」。

㊅まないた、つくゑ、（俎）。○〔詩〕「於レ我乎、夏━渠·々」。

㊆棺を覆ふに用ふる小さき帳。○〔禮〕「諸·侯素·錦以爲レ━、士爲·葦以爲レ━」。

（豐屋）　ゆたかなる家。○〔晉〕「━━生レ災」。

（牆屋）　かきとやねとかこひの義。○〔詩〕「徹二我━━一」。

（夏屋）　大なる家。○〔禮〕「見下若二━━一者上矣」。

（華屋）　立派なる家。○〔史〕「置二之━━之下一」。

（黃屋）　天子の車は黃色の繒を蓋裏となすよりかりて天子を稱するに用ふることあり。○〔朱熹〕「━━勞二深·愛一」。

（白屋）　賤しき者のをる所を稱するに用ふる語。○〔國〕「外不レ驕二━━之士一」。

（草屋）　くさぶきのやね。○〔魏〕「━━·━蓬·戶」。

（蒲屋）　前に同じ。○〔唐〕「易二━━一、以絕二火·患一」。

（破屋）　やぶれや。○〔宋〕「歸レ息居二━━中一」。

（漏屋）　あまもりのする家。○〔范成大〕「━━·━謀·々漏」。

（神屋）　（い）かみのほこら。○〔水經、註〕「爲立二━━━于山側一」。

（ろ）綿の甲のこと。○〔南越〕「━━·━綿甲也」。

（祠屋）　前に同じ。○〔杜甫〕「武·侯━━·━常鄰·近」。

（廣屋）　廣き家。○〔淮〕「廣·廈━━·━」。

（矮屋）　たけ卑き家。○〔楊萬里〕「━━·━炎·天不レ可レ居」。

（毀屋）　こはれたるやね。○〔後漢〕「或、在二蝃·垣━━之下一」。

（椒屋）　皇后の室。○〔後漢〕「宜二謂━━一」。

（佛屋）　ほとけをまつれる室。○〔晉〕「太后方在二━━一」。

（舫屋）　舟の覆ひ。○〔晉〕「在二━━·━上一、遙謂レ之曰、卿才·器如レ此、乃復作レ劫耶」。

（蘆屋）　けむしろの家。○〔南〕「北國無二城·郭一、━━爲レ居、東向開レ戶」。

（場屋）　試驗場のこと。○〔宋〕「舉二淮·士一、在二━━間一、頗有二隽·名一」。

（廈屋）　大なる家。○〔白居易〕「我·藏爲二━━一」。

（巷屋）　まちの家。○〔王安石〕「━━·━頗卑·濕」。

（傑屋）　すぐれたる家。○〔王安石〕「雄·樓━━·━相望」。

（庖屋）　料理べや。○〔張耒〕「肥兎與二奔·雞一、日夕懸二━━一」。

（廬屋）　いへのこと。○〔賈誼〕「蒼·烟歷·々辨二━━一」。

（陋屋）　狹き家。○〔陸游〕「━━·━雨來初覺レ寒」。

【𡲧】　キ。詰利切　寘　ケイ、カイ。詰計切　霽　口奚切　齊

しり、（尻）、ゐさらひ、（臀）。

【𡳎】　クワ、ケ。胡瓦切　馬　或は、屩に作る。

くつ、（履）。

【屍】　シ。中之切　支　〔説文〕終主也、从二尸死一、會意。

命終はりたるむくろ、しかばね、かばね。○〔左〕「封二殽━一而還」。

（馬革裹屍）　遠征して死ぬることに借りいふ語。○〔後漢〕「男·兒要レ當下死二于邊·野一、以二━━·━一上━」。

〔夢屍〕 晉の殷浩の言より仕官するもの、前兆にいふ語。〇〔世說〕「官本臭腐、故將レ得官而一ー」。
〔積屍〕 星の名。〇〔晉〕「中央星爲二ーー一」。〇〔拾遺記〕「不レ學者雖レ存謂二之ーー走肉一耳」。
〔行屍〕 平凡の人をあざける語。
〔閃屍〕 暫時あらはる、貌にいふ語。〇〔海賦〕「焆・像暫曉而ーー」。

【屎】 シ。式視切 紙 ―本、菡に作る。
くそ、（糞）。〇〔莊〕「道在二ーー溺一」。

【屎】 キ。喜夷切 支
呻吟す、うめく、うなる。〇〔詩〕「民之方殿ーー」。

【屖】 シ。賞是切 紙
ひろし、（廣）。

【屍】 イ。以脂切 支 チ、ヂ。陳尾切 尾
一に、䟤に作る。地に踞る、うづくまる。

【屏】 俗の屛の字。

【屑】 ケン。圭懸切 先
ふり、（尻）。

【屎】 シ。七賜切 寘
ーー蹝は、足の前みたり卻きたりするにいふ語、ゆきもどりす。

七畫

【屖】 シ。牀史切 紙 ―一に、屎、又、㾀に作る。
俟に同じ、まつ、（待）。

【屛】 ショ、ジョ。徐呂切 語 ヨ。余去切 御
履屬、くつ。

【屐】 ケキ、ギヤク。奇逆切 陌 ―〔說文〕从二履省一、支聲。
足に著くるものゝ汎稱、くつ、げた、はきもの。〇〔宋〕「度二門-閫一乃納レー」。
〔躡屐〕 はきものを足に著け地をふむと、又、徒歩するとにもいふ語。〇〔潘陽記〕「東帶ーー而詣」。
〔草屐〕 ざうり、又、わらんぢ。〇〔裴炎銘〕「連二結ーー一」。
〔蓮屐〕 かろきはきもの。〇〔王維〕「宿-雨乘二ーー一」。
〔木屐〕 木にて作りたるはきもの、卽ち、あしだ。〇〔後漢〕「延-熹中京都長-者皆著二ーー一」。
〔履屐〕 はきもの。〇〔黃庭〕「履在二ーー下一」。
〔帛屐〕 きぬにて作りたるはきもの。〇〔釋名〕「ーー以レ帛作レ之、如レ履者」。

【屑】 セツ、セチ。先結切 屑 ―〔說文〕本、作レ屑、从レ尸、肖聲。
㊀せはしく動作す、たちはたらく、又、つとむ、（勞）、又、つゝしむ、（敬）、又、かへりみる、（顧）。〇〔後漢〕「往-來ーーー不レ憚レ煩」。
㊁こまやかにしておほやうならざる貌にいふ字、こせつく貌にいふ字。〇〔左二〕「晉-公ーー焉、習二禮-儀一」。
㊂汚らはしき事なしとす、いさぎよしとす。〇〔詩〕「不二我ー以一」。
㊃輕小とす、かろんず、あなどる。〇〔書〕「爾乃ー二播天-命一」。
㊄さゝやかなると、少し許りなると。〇〔鄭嵎〕「青-錢瑣ーー何足レ數」。
㊅碎末、くづ。〇〔魏〕「當下得二雲-表之露一以餐中玉ーー上」。
㊆打ち碎く、くづになす。〇〔禮〕「ーー二薑與レ桂」。
〔不屑〕 いさぎよしとせぬ、意を加へぬ、かろんぬ。〇〔孟〕「ー、ーレ去ーレ一就」。
〔猥屑〕 取るに足らざるさゝやかなると。〇〔唐〕「ーー相稽」。
〔纖屑〕 こまかくさゝやかなると。〇〔柳宗元〕「ーー促-密一」。
〔瑣屑〕 物事にくゝられてはたらく。〇〔權德輿〕「伏思ーー展-敬無レ容」。
〔芥屑〕 あくた、くづ。〇〔耶律楚材〕「ーー莖平類二桂-薑一」。
〔鋸屑〕 のこぎりくづ。〇〔蘇軾〕「高-論無レ窮如二ーー一」。
〔經屑〕 紙。〇〔泥古錄〕「蔡-倫有二ーー表-光一」。
〔寄屑〕 やどり木の名。〇〔本草〕「桑-上寄-生一名二ーー一」。
〔掩屑〕 風吹きそよぐ。〇〔謝靈運〕「聆二悲-颸之ーー一」。
〔騷屑〕 前に同じ。〇劉向〕「風ーーー以搖レ木」。
〔蕭屑〕 前に同じ。〇〔韋應物〕「ーー杉-松聲」。
〔嫈屑〕 衣服の婆娑する貌にいふ語。〇〔司馬相如〕「便-姍ーー」。
〔勃屑〕 足許のよろ〳〵する貌にいふ語。〇〔東方朔〕「嫫-毋ーー而日侍」。

【屎】 キウ、グ。渠尤切 尤
男子の陰、へのこ。

【屒】 チン。珍忍切 軫
㊀伏す貌にいふ字。㊁のき、（屋-宇）。

【屖】 シン、ジン。時仁切 眞
あつきくちびる、（重-脣）。

【屓】 キ。虛器切 寘
㊀力を作す。㊁いき、（臥-息）。

【展】 テン。知輦切 銑
㊀のぶ。
（い）意に適す、かなふ。〇〔應璩〕「意不二宣ーー一」。
（ろ）長む、長まる。〇〔五燈會元〕「已ー不レ縮」。
（は）廣がる、廣ぐ。〔金〕「增二ーー太-廟一爲二十-二室一」。
（に）敷く。〇〔北〕「敷二ー德-音一」。
（ほ）發達す、發達せさす。〇〔李陵〕「能不レ得レー」。
（へ）陳ず。〇〔左〕「敢ー二車-馬一」。
（と）演ず。〇〔周瑜〕「但恨二微-志未レーー」。
（ち）說く。〇〔左〕「ー二謝其不-恭一」。
（り）開く。〇〔白居易〕「讀-罷書仍ー」。
㊁轉ず、ころぶ、ころばす。〇〔楚辭〕「憂-心ー-轉」。
㊂閱し調ぶ、審かにす、さゝのふ、（整）、みる、（省）。〇〔周〕「大-祭-祀ー二犧-牲一」。
㊃ふろす、（錄）。〇〔周〕「ー二其功-緒一」。
㊄重ぬ、厚くす。〇〔書〕「分二寶-玉于叔-伯之國一、時庸ーレ親」。
㊅まことに、（誠）。〇〔詩〕「ー如レ之人兮」。
〔舒展〕 のぶると。〇〔元稹〕「寒-膚漸ーー」。
〔增展〕 ましひろぐ。〇〔金〕「逐ー二ーー太-廟一」。
〔申展〕 のぶ。〇〔阮籍〕「適ーーー而缺-寐兮」。
〔親展〕 みづからひらく、他見を禁ずる書狀などにいふ語。〇〔陸雲〕「無下因二ーー一書上以言レ心」。
〔舉展〕 さゝげのぶ。〇〔王羲之〕「ーーー乃其」。
〔施展〕 ほどこしのぶ。〇〔白居易〕「平-生官-心事、ーーー十未レ一一」。
〔披展〕 ひらきのぶ。〇〔魏徵〕「早拖二芳-猷一、未レ階ーーー一」。
〔傾展〕 心殘りなく說き盡くす。〇〔李鼎〕「冀即二ーー一」。
〔開展〕 ひらきのぶ。〇〔仲春龍〕「闍-奘復ーー」。

【屖】 セイ、サイ。先稽切 齊 ―〔說文〕从二尸辛一。
㊀遟に通じ作る、おそし、（遲）、又、ひさし、（久）、やすし、（安）。〇〔揚雄〕「靈遟-迟兮」。
㊁犀に通じ作る、かたし、（堅）。〇〔漢〕「器不二ー利一」。

【屘】 サイ、セ。祖回切 灰
赤子の陰、ふし。

【⿸尸疋】躧に同じ。

八畫

【⿸尸句】ク、コ。權俱切 虞 絇に同じ、履頭の飾り。

【屙】ア。烏何切 歌 厠に上る。

【⿸尸果】クワ。苦臥切 箇 髁に同じ、志りのほね、(髀骨)、一說に、骻股の間、またのあひだ、うちあはせ。

【屚】ロウ、ル。盧候切 宥 屋に孔あきて雨水下る、もる。―〔說文〕从二雨在二尸下一。

【⿸尸豕】トク、ツク。都木切 屋 俗の屁の字、ゐさらひ、志り、(臀)。

【⿸尸取】テフ、デフ。的協切 葉 くだる、(下)。―一に屈に作る

【屏】ヘイ、ビヤウ。薄經切 靑 ㊀門内に在る小さき墻、門外より門内を望むを遮ぎり寒ぐに設けたるもの、ついぢ、かき。○〔大戴記〕「負レ―而立」。㊁室内に置く一種の建具、蔽ひ遮ぎるに用ふるもの、びやうぶ、ついたて。○〔南〕「帷幕衾―」。㊂ついひぢの形をなすもの。○〔高適〕「苔-逕試二窺-踐一、石―可二攀-倚一」。㊃ほふ、(蔽)。○〔荀〕「周-公―二成-王一而及二武-王一」。㊄蔽ふと、蔽ふもの、おほひ。○〔書〕「乃命建レ侯樹レ―」。

〔藩屏〕まがき、おほひ。○〔易林〕「―・―自衛」、
〔畫屏〕刺繡をほどこせるついたて。○〔薛逢〕「人倚二―・―閑賞レ夜」。
〔翠屏〕(い)みどりいろのついたて、みどりのおほひ。○〔江淹〕「紫-帷鈴-匝―・―環合」。(ろ)草木の茂りたるかげ。○〔杜甫〕「江-猿吟二―・―一」。
〔帷屏〕たれたるまくの蔽ひ。○〔南〕「深設二―・―一」。
〔幃屏〕前に同じ。○〔潘岳〕「―・―無二髣髴一」。
〔睨屏〕屏翳ともいふ、雨の神。○〔張衡〕「聾-隆迎二―・―一」。
〔涵屏〕閨のおほひ。○〔張衡〕「樹二―・―之重-複一」。
〔簾屏〕すだれ。○〔沈約〕「―・―旣毀」。
〔香屏〕うつくしき屏風。○〔梁簡文帝〕「散-笑隱二「家―・―裏一」。
〔彩屏〕彩色を加へたる屏風。○〔李白〕「飛入二君-

【屛】ヘイ、ヒヤウ。府盈切 庚 傍偟す、たゝずむ、さまよふ、又、怔忪す、おづ、あわつ、おそれおごろく、(―營)○〔國〕「―二營傍二偟於山-林之中一」。

【屏】ヘイ、ヒヤウ。必郢切 梗 ㊀志りぞく。(い)除き去る。○〔書〕「我乃―二璧與レ圭」。(ろ)後へ引く。○〔禮〕「乃左-右―而待」。㊁邊邑、さかひ。○〔禮〕「其在二邊-邑一、東-―之臣某」。

【屜】テイ、タイ。他計切 霽 ―或は、屧に作る。履中に敷く薦くつしき、志きわら。

【⿸尸易】エキ、ヤク。羊益切 陌 かふ、かはる(変)。

【⿸尸巠】ケイ、キヤウ。苦永切 梗 あな(穴)。

【屝】ヒ、ビ。父沸切 未 ―〔說文〕从レ尸非聲。 藁、又は、麻などにてつくりたるはきもの、わらぐつ、わらぢ、ざうり、あさうらざうりなど。○〔左〕「共二其資-糧―屨一」。

【屦】チユ、ヂヨ。遲據切 御 除遇切 遇 くつ、はきもの(履)。

九畫

【⿸尸臿】シフ、ソフ。側入切 緝 前後相躡む、ふむ、一說に、小さく歩む、あゆむ。

【⿸尸臿】サフ、セフ。側洽切 洽 うすきくさび(薄-楔)。

【⿸尸⿱二⿰亻匕】屜に同じ。

【⿸尸囪】菌に同じ、くそ(糞)。

【⿸尸屈】クツ、ゴチ。渠勿切 物 ㊀短き尾のある犬。㊁俗の屈の字。

【⿸尸蜀】俗の屬の字。

【⿸尸桀】屧の本字。

【⿸尸夅】カウ、コウ。古巷切 絳 ㊀たがふ(差)。㊁くだる(降)。

【⿸尸旨】キ。居履切 紙

【屠】ト、ヅ。同徒切 虞 ―〔說文〕从レ尸者聲。 あかいろのくつ、あかぐつ(赤-舃)。㊀さく(裂)○〔周書〕「國孤國―」。㊁ころす(殺)。○〔唐〕「毎-戰得下攻二脊-城一者上手―レ之」。㊂ほふる。(い)牲體を刳く、肉を切り分く。○〔史〕「臣乃市-井之人、鼓レ刀以―」。○(ろ)多くの家をこぼち多くの人を殺す。○〔漢〕「今―レ沛」。

〔屠販〕きり殺す、はふる。○〔李華〕「馮-陵殺-氣、以相―・―」。
〔狗屠〕いぬをはふると、又、其の者。○〔史〕「家貧客-游、以爲二―・―一」。
〔燒屠〕みなごろしにす、はふる。○〔庾集句〕「隊以―・―」。
〔浮屠〕ほとけのこと、又、浮圖に作る。○〔釋老志〕「始聞レ有二―・―之教一」。

十畫

【⿸尸扁】ヘン、ベン。紕延切 先 ―本、扁に作る。㊀ひさり(特)。㊁小さき舟、こぶね。

【⿸尸屈】クツ、ゴチ。衢物切 物 短かき尾のある鳥。

【⿸尸⿰彳委】クワ、ワ。吁戈切 歌 靴に同じ、鞮の屬、かはぐつ、くつ。

十一畫

【屢】ル、ロ。龍遇切 遇 ㊀幾度さもなく操り返して、志きりに、たびたび、かされて、志ばしば。○〔書〕「―省二乃成一」。㊁煩はし、やまし。○〔梅堯臣〕「相過言厭―・―」。

【⿸尸啚】ヒ。博美切 紙 ㊀あな(穴)。㊁志り、ゐさらひ(臀)。

【𡳐】ケイ。去例切 霽
やすむ、いこふ(息)。○〔詩〕「民之攸レ|」。

【𡳏】ショ、ソ。此踞切 御
㊀伺ひ視る、うかゞふ、みる。
㊁行き前みて却く、志ざる、志りぞく。

【屣】シ。所綺切 紙 所寄切 寘 ―或は、蹝に作る。
㊀別に跟をつけざる履、卽ち、底の平面なるはきもの、くつ、卽ち、草履、草鞋など。○〔孟〕「猶レ棄ニ敝||一」
㊁くつを著けて跟を躡まず曳きずり行くを。○〔漢〕「|履迎レ門」。
(倒屣) 正しく履を著けずして引きづり行くと、あわていそぐ貌にいふ語。○〔魏〕「粲在レ門||迎レ之曰此王公孫也」。
(破屣) やぶれたるわらぐつ。○〔蘇軾〕「負ニ薪蹋ニ||」。

【𡳆】タイ、他回切 灰 クワ、戸瓦切 禡 ゲ。テ。切
くつ(履)、又、粗末なるくつ、わらぐつ。

十二畫

【層】ソウ、ゾウ。昨稜切 蒸
㊀家の上に家の重なりたるもの、たかどの、重屋。○〔劉存綽〕「珠殿連レ雲、金|輝レ景」。〔「|刊レ平堂」。〕
㊁かさぬ、かさなる、(重、累)。○〔西京賦〕
㊂かさなるを、かさなりたるもの、かされ、又、だん、志な。○〔潘岳〕「欲レ崇ニ其高一、必重ニ其|一」。
(層層) かさなる。○〔張籍〕「||勢更危」。
(石層) 石のかさなりしたん。○〔張籍〕「緣レ巖踏ニ||一」。
(高層) たかどの、又、たかくかさなると。○〔庾信〕「|・|出ニ九城一」。
(峻層) 山の如く重なりて高きと。○〔徐陵〕「千櫨赫奕、萬拱||」。
(崚層) 重なり高くなりたるさまのいかめしきにいふ語。○〔岑参〕「石壁青||」。「孤危」。
(峻層) かさなりてけはしきと。○〔白敏中〕「||
(碧層) 山のよ。○〔胡會〕「七里淸灘灘ニ||一」。

【履】リ。カ几切 紙 ―本、作レ履。
㊀足首に著けて歩行に用ふるもの、はきもの、くつ。○〔家〕「出ニ入于戸一、未ニ嘗越レ|」。
㊁ふむ。
(い)足の下にす、ふまふ。○〔易〕「|レ霜堅冰至」。
(ろ)歩む。○〔易〕「眇能視、跛能|」。
(は)經、又、遭ふ。○〔除陵〕「徹備|ニ艱難一」。
(に)行ふ、又、行ふを、おこなひ。○〔易〕「君子以非レ禮弗レ|」。
(ほ)跡に就き從ふ、つく。○〔詩〕「|レ我卽兮」。
㊂領地。○〔左〕「賜ニ我先君|一」。
㊃くつを足に著く、はく、はかす。○〔史〕「父曰、|レ我、良因長跪|レ之」。
㊄さきはひ、(祿)。○〔詩〕「福|綏レ之」。
㊅下位のものに借りいふ字。○〔南〕「冠|無レ爽、名實不レ違」。
(珠履) たまにて飾りたるくつ。○〔史〕「其上客皆躡ニ||一、以見ニ趙使一」。
(躡履) くつ、又、くつをはく。○〔漢〕「||起迎」。
(倒履) 前に同じ。○〔後漢〕「憲||迎レ門」。
(望履) 而會すると先方を敬するに用ふる語。○〔陸游〕「再拜求ニ||一」。
(雖履) かざりの附きたるくつ。○〔鶏蹠〕「履ニ||一」。
(幽履) 隱居のと。○〔南〕「全ニ身||一」。
(游履) 遊歩のと。○〔南〕「凡所ニ||一、皆圖ニ之于壁一」。
(芒履) わらぐつ。○〔五〕「布衣||而已」。
(織履) ぬひを加へたるくつ。○〔馬祖常〕「綵絲||踏ニ春陽一」。
(率履) 志たがひ就く。○〔詩〕「||不レ越」。
(踐履) ふむ、あゆむ。○〔詩〕「牛羊勿ニ||一」。
(跋履) あゆむ、游歷す。○〔左〕「|ニ|山川一、踰ニ越險阻一」。
(經履) 前に同じ、又、出會ふ。○〔後漢〕「凡所ニ||一、莫レ不ニ暗記一」。
(踏履) ふむ、就く、行ふ。○〔唐〕「|ニ|仁義一」。
(行履) おこなひ。○〔南〕「||總足素士」。
(操履) 前に同じ。○〔北〕「||貞諒」。
(簪履) かんざしをさしくつをはく、禮貌をと、のふるとに借りいふ語。○〔梁簡文帝〕「百司供列||相趨」。
(佩履) おびをつけくつをはく、又、前の下段に同じ。○〔馬祖常〕「||侍ニ殿陛一」。

【𡳐】履の本字。

【𡳋】テン。堂練切 霰

【𡳊】テイ、チヤウ。都挺切 迥
㊀治め具ふ、たくはふ、(儲)。
㊁まつ、(待)。

【𡳘】ショク、ソク。初六切 屋
かさぬ(重)、又、のぶ、(展)。
下に入る貌にいふ字。

十三畫

【屧】セフ。蘇叶切 葉 ―説文、本、作レ屟、从ニ尸枼聲一。
㊀履中の薦、くつしき、くつはら。
㊁くつ、(履)。○〔南〕「晝日研レ|、爲レ業、夜讀レ書、隨ニ月光一」。
(倒屧) 人を出迎ふと。○〔皮日休〕「願レ我能|」。「月殿開ニ||一」。
(絲屧) くつをうつす、歩むと。○〔陸龜蒙〕「無レ因

十四畫

【𡳟】チ。丑利切 紙
疆を分けて寛き處に移す、わかつ。

【屨】ク。九遇切 遇
くつ、(履)。○〔禮〕「侍ニ坐於長者一、|不レ上ニ於堂一」。「五兩」。
(葛屨) くづのつるにて作りたるくつ。○〔詩〕「||
(綦屨) いろ糸を以て飾りたるくつ。○〔禮〕「衿纓綦|、以適ニ父母舅姑之所一」。
(總屨) 喪服に用ふるくつ。○〔儀〕「不レ屨ニ||一」。
(繐屨) 淡紅色の糸にて作りたるくつ。○〔儀〕「爵弁||」。

十五畫

【屩】キヤク、カク。居勺切 藥 ―説文、从ニ履省一喬聲。
草履、草鞋の類、わらぐつ、又、くつ。○〔史〕「躡レ|擔レ簦」。
(草屩) わらぐつ。○〔漢〕「布衣||而牧レ羊」。
(芒屩) 前に同じ。○〔晉〕「家貧織ニ||一以爲レ養」。
(菅屩) 前に同じ。○〔淮〕「||跐踦」。
(雲屩) 山中をふみ分くるときのくつなどにいふ語。○〔陸龜蒙〕「臨ニ幽瀣ニ||一」。
(烟屩) 前に同じ。○〔陳深〕「欲下從ニ||一遊上」。

【屫】キク、コク。居六切 屋
くつの下に藉くもの、くつしき。○〔莊〕「|以藉ニ鞋下一也」。

十六畫

【𡳝】屩に同じ。○〔史〕「馮驩聞ニ孟嘗君好レ客、躡レ|而見レ之」。

【𡳭】リヨ、ロ。力諸切 魚
すまひ、ゐどころ(居所)、一説に、俗の廬の字。

十八畫

【屬】ショク、ソク。之欲切 沃 ―説文、从レ尾蜀聲。
㊀一つ處に寄る、あつまる、又、一つ處に寄す、あつむ、(會、聚)。○〔周〕「月吉則|ニ其州之民一、讀ニ邦法一」。
㊁つく。
(い)打ち任かす。○〔史〕「漢王之將獨韓信、可下|ニ大事一、當中一面上」。
(ろ)附著す、又、附著さす。○〔周〕「察レ車之道、欲ニ其樸|而微至一」。

(は)從ふ。○〔史〕「羽渡レ江騎、能—者百-餘-人耳」。
(に)其の方にのみ向く。○〔五〕「宰-相論二於廷一、英后於二扉-間一耳—レ之」。
(ほ)いたる、(至)、いたす、(致)、又、かよはす、かよふ、(通)、又、およぶ、およぼす、(及)、又、ちかづく、(近)。○〔書〕「淫—二滑-淌一」。
㊂むすぶ、(結)。○〔國〕「必—レ怨」。
㊃つなぎ轄む、つゞる、(綴)。○〔漢〕「善—レ文」。
㊄つぐ、つゞく、(續)、つらぬ、つらなる、(連)。○〔史〕「平-原-君使-者、冠-蓋相二—於魏一」。
㊅其の外を顧はず、たる、(足)。○〔左〕「願以二小-人之腹一爲二君-子心一、—-厭而已」。
㊆あはれむ、(恤)。○〔書〕「至二于敬レ寡至二于—レ婦」。
㊇敬みて專一なる貌にいふ字、うや〳〵し、(恭)。○〔禮〕「—-—乎其忠也」。
㊈支配せらるゝもの、從者、部下。○〔禮〕「千-里之外設二方-伯一、王-國以爲レ「—」」。
㊉やから。
(い)系統を同じくする者、肉緣のつゞく者、一門、親族、みより、みうち。○〔史〕「田-單齊疏—也」。
(ろ)同種類の者、等輩、連中、たぐひ、さもがら。○〔史〕「今陛-下起二布-衣一、以二此—一、取二天-下一」。
⑪官寮、志もづかさ、下役人。○〔書〕「各率二其—一、以倡二九-枚一」。
⑫甲札の數、よろひのさねのかず。○〔漢〕「魏-氏武-卒衣二三—之甲一」。
⑬言ひ傳ふ、ふくめ置く。○〔穀梁〕「退而—二其二三大-夫一」。
⑭たま〳〵、まさに、(適)。○〔左〕「不-幸—當二戎-行一」。
⑮日數も立たゝぬに、このほど、このごろ、ちかごろ。○〔漢〕「天-下—安-定」。

〔親屬〕みより。○〔禮〕「六-世—-—竭矣」。
〔外屬〕母及び妻のみより。○〔漢〕「樂-陵-侯史高以二—-—一爲二大司-馬車-騎將-軍一、領二尚-書事一」。
〔戚屬〕前に同じ。○〔晉〕「詔曰、宗-室—-—、國之枝-葉」。
〔婚屬〕前に同じ。○〔後漢〕「戚、子-婿—-—」。
〔五屬〕同族の五服をいふ。○〔漢〕「天序二五-行一、人親二—-—一」。
〔疏屬〕疎かに服すること。○〔史〕「日-月所レ照、莫レ不二—-—一」。
〔三屬〕(い)甲札の三枚なるをいふ。○〔漢〕「魏-氏步-卒衣二—-—之甲一」。(ろ)三族に同じ。○〔後漢〕「一-人犯レ罪、禁至二「—-—」一」。
〔九屬〕九族に同じ。○〔揚、註〕「玄-孫、曾-孫、孫、子、身、父、祖-父、曾-祖-父、高-祖-父、爲二—-—一」。
〔繫屬〕つなぎつく。○〔禮、疏〕「婦-人質弱、不レ能二自固一、必有二—-—一」。
〔連屬〕つゞく。○〔史〕「大治二宮-室一爲二複-道一、自二宮一「—-—」於平-臺一」。
〔卑屬〕從ふ、又、從者。○〔詩〕「君-子有二徽-猷一、小-人與—-—」。
〔私屬〕めしつかひの者、從者。○〔漢〕「奴-婢曰二—-—一」。
〔支屬〕わかれのみより、家、うち。○〔史〕「牽二其—-—一徙-居レ野」。
〔任屬〕他にまかすること。○〔漢〕「然不レ能二—-—一」。
〔徒屬〕ともがら。○〔漢〕「—-—皆曰、敬受レ命」。
〔服屬〕(い)つき從ふ。○〔漢〕「諸-侯兵皆—二—楚一」。(ろ)忌服のかゝるみより。○〔漢、注〕「安二于天-子一者、以二布散一以レ少散レ衆也」。—-—、爲二從-父叔-父一」。
〔隷屬〕前の(い)に同じ。○〔唐〕「七-州皆—-—」。
〔編屬〕編の如くにつゞく。○〔漢〕「—-—不レ絕」。
〔甄屬〕前に同じ。○〔後漢〕「霍-道—-—」。
〔寮屬〕官人どものこと。○〔吳〕「待二接—-—一」。
〔掾屬〕官長を助くる志た役人。○〔晉〕「使二—-—舍-人一」。
〔攸屬〕つき從ふ。○〔南〕「莫レ不二—-—一」。
〔傾屬〕心をよすること。○〔南〕「四-座—-—」。
〔綴屬〕つながりつく。○〔唐〕「惡爲二吐-辭—-—一」。○〔宋〕「期-親—-—」。
〔尊屬〕目上のみより、父、祖父など。
〔僚屬〕志た役人。○〔宋〕「將二佐—-—一」。
〔延屬〕のびつゞく。○〔左〕「長二于—-—一」。「—」。
〔眷屬〕やから、みより。○〔白居易〕「總レ身新—-—」。

【屬】シュ、ズ。朱戍切 遇
つぐ、そゝぐ、(注)。○〔儀〕「三—二於尊一」。

十九畫

【𡳾】レキ、リヤク。郎擊切 錫
くつのそこ、(履下)。

廿一畫

【屭】キ。許意切 寘
㊀贔に同じ、力を作す貌にいふ字。○〔張衡〕「巨-靈贔—、高-掌遠レ蹠」。
㊁本、屓に作る、壯大の貌にいふ字、さかんなり。
〔奰屭〕力を作す貌にいふ語。○〔韓愈〕「寒-氣—-—頑無レ風」。

屮部

【屮】テツ、テチ。敕列切 屑 〔說文〕艸木初生也、象二丨出形有一レ枝莖一也。
艸木の芽の生え初めたるにいふ字、めばえ、めだし、(發芽)。

【屮】サウ、ソウ。采早切 皓
古は、艸の字に通じ用ひたり、くさ。○〔漢〕「—-茅臣亡二識-知一」。

【屯】チュン、ヂュン。株倫切 眞 〔說文〕从二屮貫一レ一、一地也、尾曲。
㊀艸木の初めて芽生えするにいふ字、めぐむ。
㊁雜多の障りありて進み得ざるにいふ字、なやむ、なやみ、又、かたし、(難)。○〔莊〕「慰-暋沈—、利-害相摩」。
㊂易の卦の名、䷂震下坎上。○〔易〕「—、元亨利レ貞」。
㊃をしむ、(吝)。○〔易〕「—二其膏一」。
〔荒屯〕なやみ。○〔東都賦〕「紹二百王之—-—一」。
〔困屯〕前に同じ。○〔東晉〕「嬰二六-極之—-—一」。
〔艱屯〕困難なること。○〔懷舊賦〕「塗—-—其難レ進」。
〔險屯〕前に同じ。○〔高允〕「時値二—-—一、觸-離-塵-網一」。
〔蒙屯〕なやみにであふ。○〔李商隱〕「濩-陽忽—-—」。
〔舊屯〕ふるきなやみ。○〔范成大〕「陰消脫二—-—一」。

【屯】トン、ドン。徒渾切 元
㊀人の聚まる處、又、軍兵のあつまり守る處、たむろ。○〔何承天〕「若盛レ師聯—、廢レ農」。
㊁多くあつまる、あつまり守る、たむろす。○〔漢〕「步-兵九-校、吏-士萬-人、—-留—以爲二武-備一」。
㊂土を籠めたる苞、ごへう。○〔舊唐〕「爲二土—一、積以爲レ山」。
〔分屯〕わかれたむろす。○〔漢〕「—二—要-害處一」。
〔蜂屯〕はちの聚まるが如くに集まる。○〔韓愈〕「—-—蟻聚、不レ可二爬-搔一」。
〔兵屯〕つはもの、たむろ。○〔蘇轍〕「承-平郡-國減二—-—一」。
〔空屯〕人なきたむろ。○〔蘇轍〕「兵散有二—-—一」。
〔野屯〕のはらにたむろす。○〔張耒〕「列-次之士、—-—之師」。

【㞢】シ。支而切 支 〔說文〕出也、象二艸過レ屮、枝莖益大、有一レ所レ之也。
㊀古文の之の字。㊁人の姓。

【𡳿】サ。作可切 哿
ひだりの手、又、ひだり、(左)。又、ナに作る。

【𡳿】ケツ、クヮチ。居月切 月　動く貌にいふ字、又、うごく（｜-斗）。

三畫

【屰】ゲキ、ギヤク。宜戟切 陌 —从干下凵、逆之也。　㊀逆の本字、さかふ。㊁古の戟の字、雨の枝あるほこ。

【𡴀】ハク、ヒヤク。匹陌切 陌　魄に通じ用ふ、始めて現はれてより三日目なる月、みかづき。

【𡴁】古文の攀の字。○〔漢〕「仰—ﾚ橑而捫ﾚ天」。

四畫

【𡴂】フン、ホン。敷文切 フン、ブン。符分切 文　草初めて種子より發芽す、一說に、かうばし。

【𡴃】リク、ロク。力竹切 屋　田の中の肥料、卽ち、馬糞などの堆き所に叢がり生ずるきのこ、たけ（茸）、又、くさびら。

【㞷】クヮウ、ワウ。胡光切 陽 —說文从屮从王。　艸木の妄に生ずるにいふ字、又、はびこる。

【𡴈】ホウ、敷容切 冬 —本、敷に作る、又、峯、丰に作る。フ。切　丰の本字、艸の盛んなるにいふ字、又、はひ弘がる。

五畫

【每】バイ、マイ。母罪切 賄 —說文从屮母聲。　㊀每の本字、つねに、ごとに。㊁艸の盛んに這ひ弘がるにいふ字。○〔左〕「原-田——」。㊂のり、（矩）。㊃志ば〳〵、（屢）。

六畫

【𡴘】ゲツ、ゲチ。魚結切 屑 —說文从𠂤从屮。　一に、隉、臲に作る。　高くして危きにいふ字、あやふし。

八畫

【𡴚】トク、ドク。徒沃切 沃　毒の本字。

山部

【山】サン、セン。所間切 刪　やま。（い）地の高く起こりたるもの、卽ち、たか、みね、だけの總稱。○〔易〕「天-地定ﾚ位、——澤通ﾚ氣」。（ろ）やまの鎭護の神。○〔左〕「社-稷——川之祀」。

〔九山〕支那九州の名山をいふ、其の稱說二つあり、史記の索隱に曰く汧、壺口、砥柱、太行、西傾、熊耳、冢、內方、岐、是九山也と、又、淮南子には會稽、泰山、王屋、首山、太華、岐山、太行、羊腸、孟門を九山と謂ふとあり。○〔書〕「——刊ﾚ旅」。
〔名山〕名高きやま。○〔禮〕「——大-川不ﾆ以封ﾆ」。
〔華山〕五嶽の一なり、陝西省華陰の南に在り。○〔書〕「歸ﾆ馬于——之陽ﾆ」。
〔恒山〕五嶽の一なり、一に、常山に作る、山西省の東北にあり。○〔書〕「太-行——至ﾆ于碣-石ﾆ」。
〔衡山〕五嶽の一なり、湖南省の洞庭湖の南に在り。○〔書〕「岷-山之陽至ﾆ于——ﾆ」。
〔泰山〕五山の一なり、一に岱山に作る、山東省の青州の西方に在り。○〔詩〕「——巖-々、魯-邦所ﾚ詹」。
〔崧山〕五嶽の一なり、一に、嵩山に作る、河南省の開封の西に在り。○〔唐〕「將ﾚ封ﾆ——ﾆ、改ﾆ陽-城ﾆ曰ﾆ告-成ﾆ」。
〔南山〕終南山のこと、周の都なりし豐鎬の南にあり。○〔詩〕「如ﾆ——之壽ﾆ」。
〔梁山〕戰國時代の韓の國にて最も高大なるやまにて黃河のほとりに在り。○〔詩〕「奕-々——、維禹甸ﾚ之」。
〔連山〕やまのかさなりつゞきたること、又、伏羲の作りたる易の名。○〔周〕「掌ﾆ三-易之法ﾆ、一曰ﾆ——ﾆ、二曰ﾆ歸-藏ﾆ、三曰ﾆ周-易ﾆ」。
〔丘山〕をかとやまと。○〔史〕「積-粟如ﾆ——ﾆ」。
〔銅山〕あかがねを出だすやま。○〔漢〕「吳有ﾆ章-郡——ﾆ耳」。
〔氷山〕こほりのやま。○〔通鑑〕「吾以爲ﾆ——ﾆ」。
〔火山〕火、烟、又は、岩片などを噴き出すやま。○〔神異經〕「南荒外有ﾆ——ﾆ焉」。
〔蠔山〕牡蠣の殼の高く聚まりたるをか。○〔番禺雜編〕「水-底見ﾚ之如ﾆ山-岸ﾆ、呼爲ﾆ——ﾆ」。
〔故山〕ふるさと。○〔謝靈運〕「——日已遠」。
〔曉山〕あけがたのやま。○〔杜甫〕「星-河落ﾆ——ﾆ」。
〔陰山〕長城の外に在りて恒山の正北に當たる。○〔漢〕「有ﾆ——ﾆ東西千餘里」。
〔禿山〕はげやま。○〔淮〕「——不ﾚ游ﾆ麋-鹿ﾆ」。
〔峻山〕たかくけはしきやま。○〔江淹〕「前——以蔽ﾚ日」。
〔深山〕みやま。○〔司空圖〕「暑濕——雨」。

一畫

【屲】アツ、エチ。乙札切 黠　乢に通じ用ふ、やまのくま、くま（山-曲）。

二畫

【㞤】ギン、ゴン。魚音切 侵　たすく、たすけ（助）。

【屳】セン。相然切 先　山に居て長く生くる者、やまびと。

【𡴭】シン、ジン。鉏箴切 侵　深く山に入る、わけいる。

【屴】リョク、リキ。六直切 職　㊀山連なる、つらなる、つゞく、又、其のもの、山脈。○〔杜甫〕「超ﾆ崱——ﾆ」。㊁高く竦つ、たかし、そばだつ。○〔王延壽〕「崱——嶷-巃」。

【屼】キ。居履切 紙　女——は山の名。

【屵】ガツ、五割切 曷 ゲツ、魚列切 屑 ガチ。切 ゲチ。切　岸高し、たかし。

三畫

【屸】コウ、ク。胡公切 東　山の名。

【屹】ギツ、ゴチ。魚訖切 物　山の高き貌にいふ字、たかし、又、獨立して壯武なる貌にいふ字、さかんなり、たけし、又、そばだつ。○〔蘇舜欽〕「烽-臺——百-丈起」。

【𡵂】シ。卽李切 紙　やま（山）。

【屺】キ。虛里切 紙　草木なき山、はげやま。○〔詩〕「陟ﾆ彼——ﾆ兮、瞻ﾆ望母ﾆ兮」。

【岚】嵐に同じ。

【屻】ジン、ニン。而振切 震　山の高き貌にいふ字、たかし。

【⿱山口】ダウ、ナウ。奴刀切 豪
山上の平かなるにいふ字、たひら。

【屼】コツ、ゴチ。五忽切 月
山の貌にいふ字、たかし、又、はげ山の貌にいふ字。○〔元結〕「山——兮水淪漣」
〔嵬屼〕山のさかしく高き貌にいふ語。○〔呉都賦〕「蹇滻——」。
〔崒屼〕前に同じ。○〔張祜〕「兩峯高——」。

【屽】カン、ガン。侯旰切 ガン。魚旰切 翰
岸に同じ、山の名、一説に、岸の僞字。

【⿰山亡】バウ、マウ。謨郎切 陽
山の名。

四畫

【⿰山午】キヨ、コ。虛語切 語
山の名。

【⿰山尢】カウ、ゲウ。戸交切 肴
山の名。

【岄】ゲツ、グワチ。魚厥切 月
山の名。

【⿰山牛】ギウ、ゴ。牛仲切 送
山の名。

【⿱山仄】オン。烏很切 阮
やま（山）。

【岅】
坂、阪に同じ。

【⿰山斗】トウ、ツ。當口切 有
山の名。

【岆】エウ。伊鳥切 篠
山の名。

【岦】ショク、ジキ。實側切 職
崱に同じ、山の峻しき貌にいふ字、けはし。

【⿰山戸】コ、ゴ。侯古切 麌
小さき山の貌にいふ字、又、小さき山、こやま。

【岇】ガウ、ゴウ。五浪切 漾
山の名。

【⿱山卬】ガウ、ゴウ。魚剛切 陽
山の高き貌にいふ字、たかし。

【岈】カ、ケ。虛加切 麻
谷の中の大空なるにいふ字、うつろ、又、むなし。

【岉】ブツ、モチ。文拂切 物
高き貌にいふ字、たかし。○〔王延壽〕「隆崛二—乎青雲一」。

【岕】カイ、ケイ。居拜切 卦
山の名。

【岊】セツ、セチ。子結切 屑
山の隅の高き處、くま、すま、又、たかし。○〔左思〕「貴二緣山嶽之—一」。
〔危岊〕高き山のくま。○〔沈約〕「重崖架二——一」。

【⿰山父】フ、ブ。奉甫切 麌
山の名。

【岻】チ、ヂ。直尼切 支
山の名。

【岋】ガフ、ゴフ。鄂合切 合　一に、圾に作る。
動く貌にいふ字、又、うごく、ゆるぐ。○〔揚雄〕「天動地—」。

【岌】キフ、ゴフ。魚及切 緝
㊀高さまさる、すぐる。○〔爾雅〕「小山—二大山一相並」。
㊁あやふし（危）、又、たかし（高）。○〔屈平〕「高二余冠一——兮」。
〔岌々〕（い）危き貌にいふ語。○〔孟子〕「天下殆哉——乎」。（ろ）高き貌にいふ語。○〔後漢〕「高二吾冠之——一」
〔嶪岌〕高き貌にいふ語。○〔梁昭明太子〕「築レ峯形——」。
〔嵬岌〕前に同じ。○〔王粲〕「百仞登二——一」。
〔嶷岌〕前に同じ。○〔杜甫〕「洞宮儼以二——一」。

【⿱山文】タウ、トウ。他刀切 豪
なめらか（滑）。

【岎】フン、ブン。敷文切 文　亦、岔に作る。
山の貌にいふ字、さがし、たかし、又、山の岐かれたるにいふ字。○〔蜀都賦〕「——崯廻叢」。

【岏】クワン、グワン。五官切 寒
山の鋭がりたる貌にいふ字、さがし、けはし、又、さがりたる山、又、其のさがりたる處、頂上。○〔江淹〕「山巒—兮水環合」。「——以長企兮」。
〔巑岏〕山の鋭くとがりたる處。○〔劉向〕「登二——一」。
〔嶙岏〕山のけはしき處。○〔王維〕「陸嶙上二——一」。

【岐】キ、ギ。巨支切 支
㊀山の名、今の鳳翔府岐山縣にあり、又、古の州の名、即ち、今の鳳翔府。○〔詩〕「率二西水滸一至二于—下一」。
㊁たかし、けはし（峻）。○〔詩〕「克—克嶷」。
㊂岐に同じ、二たさほりになる、わかる、又、ふたまた、えだ、また、わかれ路。○〔列〕「大道以二多—一亡レ羊」。

【岑】シン、ジン。鋤針切 侵
㊀山の小さくして高き處、みね。○〔謝靈運〕「明上二天姥—一」。
㊁極めて峻し、けはし、さがし。○〔張衡〕「幽谷嶜—」。
〔嶔岑〕けはしきみね。○〔劉楨〕「不レ登二——一、不レ知二天之高一」。
〔嶔崟〕前に同じ、又、高きみね。○〔杜甫〕「——猛虎場」。
〔碧岑〕青きみね。○〔許渾〕「長溪抱二——一」。
〔遙岑〕遠方のみね。○〔陸游〕「但怪素月生二——一」。
〔危岑〕極めてけはしきみね。○〔朱熹〕「極二目——杳靄間一」。
〔巍岑〕たかきみね。○〔胡曾〕「峭壁——萬重」、
〔嶺岑〕みね。○〔蘇軾〕「小巣依二——一」。
〔尖岑〕頂上の鋭くとがりたるみね。○〔宋濂〕「銳首㠜兮——」。

【⿱山今】ギン、ゴン。牛錦切 寑
きし、がけ（崖、岸）。○〔莊〕「未三始離二於——一」。

【岒】ケン、ゲン。其淹切 鹽
山の名。

【岓】キ、ゲ。渠希切 微
山の旁にある石。

【⿰山攴】
岐に同じ。

【峚】峯に同じ。

【岔】タ。丑亞切 馮 汊に同じ、みつまたみち、(三-分路)。

五畫

【岝】サク、シャク。鋤陌切 陌 山の名。

【岞】岝に同じ。

【岟】ヤウ、アウ。倚朗切 養 ❶山の足、ふもと。❷山の貌にいふ字、たかし、さがし。❸ふかし、とほし、(深邃)。〇〔左思〕「山-林幽-|」。

【⿰山厄】アイ、エ。烏懈切 卦 けはし、(險)。

【岠】キヨ、コ。臼許切 語 ❶大いなる山、おほやま。❷いたる、(至)。〇〔漢〕「元-鼎-|丹長尺二寸」。❸さる、(去)。〇〔爾〕「|-齊-州-以-南」。

【岡】カウ、コウ。古郎切 陽 〔説文〕从网从山、阪上鋭下廣形。俗に、山を加へて崗に作るはあし。をか。(い)山の脊。〇〔詩〕「陟彼高|」。(ろ)山の脊の地に近づきて低くゝなりたる處、又、小さくして低き山。〇〔詩〕「如|如陵」。

〔崑岡〕崑崙山のこと。〇〔河圖括地象〕「|-|之山、横爲地軸」。
〔天岡〕八月の異名。〇〔夢溪筆談〕「八月枝-條堅-剛、故曰|-|」。
〔陰岡〕日かげのをか。〇〔朱熹〕「竹-柏翳|-|」。
〔夷岡〕平かなるをか。〇〔夏侯湛〕「登|-|以迴-眺」。
〔巒岡〕小山のこと。〇〔孫綽賦〕「穢|-|而四崇」。

【⿰山包】ハウ、ヘウ。班交切 肴 一本、包に作る。山の名。

【岥】ハ。滂禾切 歌 一本、阪に作る。さか、(坂)。

【岜】ハ。普火切 哿 或は、いふ、岥に同じ。山の貌にいふ字、たかし。

【⿱宓山】密に同じ。〔説文〕从山宓聲。

【⿰山史】シ。疎士切 紙 やま、(山)。

【岢】カ。枯我切 哿 |嵐は山の名、又、州の名。

【岣】コウ、ク。古厚切 有 居候切 |嶁は山の名。

【岴】ク。舉朱切 虞 无

【⿰山凡】ハン、ホン。孚梵切 陥 山の名。

【岤】ケツ、ケチ。呼決切 屑 山の穴、あな。〇〔楚辭〕「憭兮慄虎-豹|」。

【⿱山号】ガウ、ゴウ。下老切 晧 山の名、一説に、嶨の譌り。

【岥】ハ。甫禾切 歌 陂に同じ。平かならざる貌にいふ字、なゝめ、(斜)、又、地のなゝめなる處、さか、(阪)。〇〔潘岳〕「栽|-陀以隱嶙」。

【岮】陁に同じ。

【岦】リフ。力入切 緝 山の貌にいふ字、たかし、さがし。

【⿱丞山】ショウ、ジョウ。辰陵切 蒸 〔説文〕小篆作丞、从収从卩从山、山高奉承之意。丞に同じ、たすく、(翊)。

【⿰山匊】キク、コク。居六切 屋 ふかし、又、おく、(奥)、一説に、水厓の外、一説に、譌りの字。〇〔黄香〕「廓-|-|窐以閑-|」。

【⿰山戉】ケツ、クワチ。許月切 月 山の貌にいふ字、たかし、さがし、又、山。

【岻】ヒ、ビ。蒲靡切 紙 山の二つ重なりたるもの、一説に、岯の譌字。

【岧】テウ、デウ。田聊切 蕭 或は、岹に作る。山の高き貌にいふ字、又、たかし。〇〔張衡〕「狀亭-亭以|-|」。

【岨】ショ、ソ。七余切 魚 今、砠に作る。岩石にて成りたる山に土のかぶりたるもの。〇〔詩〕「陟彼|矣」。

【岨】ショ、ソ。壯所切 語 |峿は、山の貌をなすにいふ字。

【岩】俗の嵒の字、巖の字、俗に、省きて|に作る。

【⿰山未】ビ、ミ。無沸切 未 山の名。

【⿱山弗】フツ、ブチ。敷勿切 物 一に、岪に作る。❶山の脊にある道、やまみち。❷山の貌にいふ字、たかし、さがし。〇〔司馬相如〕「盤-紆|-鬱」。

【岫】シウ、シユ。似祐切 宥 イウ、ユ。夷周切 尤 ❶山にある穴、いはあな、あな、ほら。〇〔左思〕「窮-|泄雲、日-月恆翳」。❷山のてつぺん、いたゞき、みね。〇〔謝朓〕「窻-中列遠-|」。

〔窮岫〕山の大いなるうつろ。〇〔鮑照〕「|-|閟長-靈|」。
〔巖岫〕岩やまのはら。〇〔沈約〕「|-|杳無窮」。
〔層岫〕かさなりたる山のはら。〇〔謝莊〕「聆鵾-鶴干-|-|」。
〔幽岫〕深き山のはら。〇〔張協〕「|-|峭且深」。
〔窮岫〕前に同じ。〇〔魏都賦〕「|-|泄雲」。
〔嵩岫〕高き山のはら。〇〔抱朴子〕「蔡伊-川於|-|」。
〔崇岫〕前に同じ。〇〔謝莊〕「登|-|而傷遠」。
〔高岫〕前に同じ。〇〔許渾〕「|-|乍疑三峽近」、
〔岬岫〕山のかたはとり、又、いたゞき。〇〔吳都賦〕「傾藪-薄倒|-|」。
〔巒岫〕山のはら。〇〔孫綽〕「|-|結凝霄」。
〔海岫〕うみのほとりの山。〇〔江淹〕「覽|-|之青-雲」、「而峥-嵘」。
〔斷岫〕けはしき山のはら。〇〔皇甫松〕「歴|-|」。

【岬】カフ、ケフ。古狎切 洽 ❶山のかたはら、山のわき、山ののび

引きて絶えたる處、さき、みさき、又、兩山の間、はざま。〇〔淮〕「徘徊山-|之旁」。

㊁物のつゞく貌にいふ字、山の尾ののびつゞきたるさまの義。〇〔張協〕「車-駕|-嶱」。

【岭】レイ、リヤウ。郎丁切 青
山の深く入り込みたる貌にいふ字、ふかし、又、其の處、おくやま。

【岮】タ、ダ。唐何切 歌
平かならざる貌にいふ字、なゝめ、（斜）。〇〔潘岳〕「裁岥-|以隱-嶙」。

【岯】ヒ、ビ。符悲切 支　部鄙切 紙　ハイ、ヘ。鋪枚切 灰
㊀山の上に更に山の重なりたるもの。㊁山の名、（大|）。

【岰】イウ、ウ。於糾切 有　アウ、エウ。於教切 效
山の曲がりたる貌にいふ字、又、山のくま。

【岱】タイ、ダイ。徒耐切 隊
泰山のこと、（山の條の熟語參照）。〇〔白虎通〕「東-嶽爲|-宗」。
〔海岱〕舜の十二牧の一を置きたる地にて今の山東省の地方なり。〇〔書〕「|・|惟靑州」。
〔東岱〕泰山は五嶽の中にて東方にあるよりいふ。〇〔後漢〕「烏-鳳至于|-|」。
〔嵩岱〕嵩山と泰山と。〇〔後漢〕「猶塵-加|-|、露集淮-海」。
〔華岱〕華山と泰山と。〇〔魏〕「天-子之軍、重於|-|」。
〔齊岱〕泰山は周の時代の侯國なる齊の領地のうちに在るよりいふ。〇〔莊〕「|-|爲レ鍔」。

【岲】カウ。キヨウ。許放切 漾
山の名。

【岳】古文の嶽の字。〇〔書〕「五-月、南巡-守至于南|」。
〔豐岳〕豚の背。〇〔相牛經〕「|-|欲レ得レ大」。
〔淵岳〕ふちとたけと、物事のしづかにしてゆるぎなきことにいふ語。〇〔文心雕龍〕「|-|其心」。
〔川岳〕かはとたけと、各地方の義にいふ語。〇〔顏延之〕「|-|遍懷-柔」。
〔四岳〕古代の顯官。〇〔書〕「帝曰、咨|-|」。

【岖】嶇に同じ。

【岵】コ、ゴ。後五切 麌
草木のしげり生ふる山、しげやま。〇〔詩〕「陟彼|-|」。

【岈】カ、ガ。具牙切 麻
衆山のつらなりつゞける貌にいふ字、又、つらなる、つゞく。〇〔揚雄〕「嵎-|輵-嶭」。

【岶】ハク、ヒヤク。普伯切 陌
密なる貌にいふ字、ひそか、（嶼-|）。

【岷】ビン、ミン。武巾切 眞　〔說文、作𡸣、从山散聲〕
甘肅省と四川省との境にある山脈の總稱、又、後魏の時の州の名、即ち、岷山の地方一圓をいふ、後來因り襲ぎて其の名を呼ぶ。〇〔廣雅〕「蜀-山謂之|-山」。
〔巴岷〕びん山のある地方、即ち、巴州一帶の地にて古の巴蜀をいふ。〇〔孫楚〕「劉-備震-懾亦逃|・|」。
〔梁岷〕前に同じ、即ち、梁州一帶の地。〇〔皇甫謐〕「蜀包|・|之資」。
〔江岷〕前に同じ、即ち、江水の岷山より出づる故にいふ。〇〔綫〕「武-整揚于|・|」。
〔高岷〕びん山のこと、高きよりいふ。〇〔陸機〕「|・|長有レ雪」。

【㟏】カン、コン。沽三切 覃
山の名。

【岸】ガン。五旰切 翰
㊀きし。
（い）水ぎはに接したる地、又、みぎは、なぎさ、特に、其の地の高くして水の深きもの。〇〔詩〕「淇則有レ|」。
（ろ）切り殺ぎたる如くにそばだちたる處、がけ。〇〔呂覽〕「斬レ|-堙レ谿」。
（は）極處、又、かぎり。〇〔詩〕「誕先登于|」。
㊁きざはし、（階）。〇〔張衡〕「襄-|-夷-塗」。
㊂人の圭角あらはれてたくましきこと、がけぎしのかどかどしきにかたどりていふ。〇〔唐〕「仇-士-良以李-石稜-々有風-|、淮忌レ之」。
㊃額を露はすこと。〇〔後漢〕「帝|-幘而見レ援」。
㊄獄の名、ひとや、宿驛にあるもの。〇〔詩〕「宜レ|宜レ獄」。
〔魁岸〕秀で、たくまし。〇〔漢〕「充爲レ人|・|」。
〔瑰岸〕前に同じ。〇〔册府元龜〕「骨-相|・|」。
〔傲岸〕おごりて物に屈せぬ。〇〔李白〕「崔-生何|・|」。
〔彼岸〕（い）佛家の語にて煩惱の苦を脫して菩提の果を得ること。〇〔無量壽經〕「慧-眼見レ眞、能度|・|」。
（ろ）佛家にて春分と秋分との日を中日とし其の前後の三日を合はせて七日の間をいふ語。
〔崖岸〕（い）きはだちて他に異なりたること。〇〔唐〕「不レ爲|・|-嶄絕之行」。
（ろ）水の涯の高き處。〇〔南〕「能乘風-雨、決壞
〔偉岸〕立派にして逞し。〇〔宋〕「風-骨|・|、瞬-目如レ電」。
〔峻岸〕前に同じ。〇〔南〕「文-章風-采|・|」。
〔峭岸〕險しききし。〇〔淮〕「深-谿|・|、峻-木尋レ枝」。
〔壁岸〕前に同じ。〇〔水經、註〕「|・|無レ階」。
〔絕岸〕前に同じ。〇〔晉〕「天-子乃登洛-北|・|、延-眺良久」。
〔斷岸〕前に同じ。〇〔杜甫〕「狹レ梁當|・|」。
〔風岸〕風采かどありて逞しきこと。〇〔唐〕「稜-々有|・|」。
〔頹岸〕崩れ落ちたるきし。〇〔杜甫〕「帖レ石防|・|」「巖-樓」。
〔澄岸〕清き水の打ちぎは。〇〔隋煬帝〕「|・|澁
〔津岸〕わたし場のきし。〇〔魏、註〕「沉-滯|・|」。
〔洛岸〕水ぎは。〇〔蜀〕「婧-奈循|・|五-千-餘-里」。
〔對岸〕きしを向かひあはす、又、向かふぎし。〇〔書〕「與京-口|レ|」。
〔彌岸〕河ぎしにはびこりわたる。〇〔陳〕「流-屍至京-口、彌レ水|レ|」。
〔堤岸〕かはの堤。〇〔南〕「|・|-傍-灘、汎輕-舟、奏女-樂」「|-登」。
〔坎岸〕水涯の窪みたる處。〇〔唐〕「戊-夜踰淮|・|」。
〔負岸〕かはぎしを背におふ。〇〔唐〕「|レ|而陣」。
〔培岸〕かはぎしに土を築き上ぐ。〇〔唐〕「導レ流|・|」。
〔齧岸〕水ぎしに食ひ入る。〇〔金〕「嶮則奔-流旋-洄、齧レ|レ善崩」。
〔墜岸〕さがしききし。〇〔晉〕「|・|三-仞、人之所時、大難也」。
〔崇岸〕高ききし。〇〔水經、註〕「途覽|・|之崍」。
〔邃岸〕奧深くして靜かなるきしべ。〇〔水經、註〕「|・|凌レ空、疏-木交-植」。
〔坼岸〕割けくづれたるかはぎし。〇〔謝靈運〕「|・|屢崩-奔」。
〔列岸〕つらなりならべるきしべ、又、きしべにつらなる。〇〔東京記〕「|・|修-廊、連亙數里」。
〔涯岸〕限界あること。〇〔通典〕「汗レ海無|・|」。
〔沮岸〕險しききしべ。〇〔法書要錄〕「遠而望レ之、若|・|崩-崖」。
〔坡岸〕堤、どて。〇〔宣和畫譜〕「|・|高-下」。
〔傾岸〕けはしききしべ。〇〔謝眺〕「輪-囷軋|・|」。
〔畔岸〕あぜときしべと、又、わけへだての意に用ふる語。〇〔韓愈〕「無レ有|・|」。

〔倏岸〕長き川ぎし。○〔阮修〕「一・一遂逝」。
〔汀岸〕みぎは。○〔劉鑠〕「憑…翔汀岸…臨二一・一」。
〔缺岸〕かけくづれたるきしべ。○〔梁簡文帝〕「一・一新成浦」。
〔璞岸〕玉よりなれるきしべ。○〔江淹〕「石似二一・一」。
〔陰岸〕日かげのきしべ。○〔何遜〕「一・一生二駿蘚一」。
〔蘆岸〕あしの茂れるきしべ。○〔何遜〕「一・一晩倏倏」。
〔險岸〕けはしききしべ。○〔劉逖〕「駐二南遊一・一一」。
〔峻岸〕前に同じ。○〔杜甫〕「一・一復萬尋」。
〔濕岸〕水の濕ひたるきしべ。○〔張籍〕「紫蒲生二一・一」。
〔偏岸〕方々のきしべ。○〔韓愈〕「或倚二一・一漁」。
〔空岸〕あき地のきしべ。○賈島「竹密無二一・一」。
〔繡岸〕きしべ一面。○〔李遠〕「花似二紅錦一・一」愁」。
〔蘚岸〕苔のはえたるきしべ。○〔方干〕「一・一和二纖草一」。

【岺】嶺に同じ。

六畫

【峆】カフ、ゴフ。曷閤切 合
山の貌にいふ字、たかし、さかし、（一・嶍）。

【峇】カフ、コフ。渴合切 合
㊀山の形をなすにいふ字。
㊁山の窟、ほら、あな。
㊂峆に同じ。

【峈】ラク。歷各切 藥
山の貌にいふ字、たかし、さがし、（一・嶧）。

【峉】ガク、ギヤク。五陌切 陌
㊀山の高くして大いなる貌にいふ字。○〔楚辭〕「山・皇兮一・一」。
㊁山の齊しからざる貌にいふ字。○〔嵇康〕「崔・一嶇・嶮」。

【皇】フウ、ブ。扶缶切 有
阜に同じ、をか。○〔楚辭〕「山・一兮峉・々」。

【峕】ゲツ、ゲチ。魚列切 屑
たかし（高）、あやふし（危）。

【峋】ケイ、ギヤウ。呼經切 青
やま（山）。

【峋】シユン。相倫切 眞
㊀山厓の重なりて深くなりたる貌にいふ字、又、山のうね〳〵と起伏する貌にもいふ字。○〔揚雄〕「峆・嶆嶙一・洞無レ涯兮」。
㊁段々に節級（ふしきだ）ある貌にいふ字。○〔左思〕「階・隋嶙一」。

【峌】テツ、デチ。徒結切 屑
高き山の貌にいふ字、又、たかし。○〔木華海賦〕「一・峴孤・亭」。

【峍】ロツ、ロチ。勒沒切 月
㊀硉に同じ、やまぎし、がけ、（山・厓）。
㊁嵂に通ず、山の高くして峻しき貌にいふ字、たかし、けはし。○〔司馬相如〕「隆・崇一・崒」。

【峣】ガウ、ゴウ。五江切 江 ゴウ、グ。五公切 東
山の高く峻しき貌にいふ字、たかし、けはし。○〔張衡〕「其山則峌・一嶆・嵑」。

【峎】ゴン。魚懇切 阮
山の名。
一俗の很の一字に同じ。

【峏】ジ、ニ。人之切 支

山の名。

【峢】セイ、サイ。思計切 霽
山の名。

【峐】カイ。古哀切 灰
㊀草木なき山、はげやま。○〔爾〕「無二草・木一一」。
㊁地の名。

【峗】キ。口己切 紙
峞に同じ。

【峑】セン。逡緣切 先
山の巓、いたゞき、てッぺん。

【峒】トウ、ヅ。徒紅切 東
崆一一は、黃帝又は、漢の武帝などの登りたる山の名にして今の甘肅省に在り。○〔莊〕「聞三廣・成・子在二一・一之上一」。

【峒】トウ、ヅ。徒弄切 送
㊀山にある一つの穴、ほらあな。
㊁長く短く齊しからざる貌にいふ字、かたいがひ。

【峒】トウ、ヅ。杜孔切 董
洞に通じ作る、ほら、あな。

【峓】イ。以脂切 支
夷に通じ作る、嵎一一は山の名。

【峔】ボ、モ。莫補切 麌
慈一一は大平府にある山の名。

【峚】リン。良愼切 震
やま（山）。

【峈】タ、ダ。都果切 哿 都唾切 箇
山の貌にいふ字。

【峖】アン。於含切 覃 烏盰切 翰
山の名。

【峗】ギ。魚爲切 支 グワイ、ゲ。吾回切 灰
三一一は山の名。

【峞】クワイ、ゲ。五罪切 賄 クツ、コチ。魚屈切 物
山の貌にいふ字。

【峘】クワン、グワン。胡官切 寒 コウ、ゴウ。胡登切 蒸
高き山の上にある小さき山の他の大いなる山より高きもの、こやま。○〔爾〕「小・山岌二大・山一一」。

【峅】ケン。苦堅切 先
山の名、隴州の吳山縣の吳嶽山。○〔書〕「導二一及岐一」。

【峙】チ、ヂ。直里切 紙
㊀特に高く起こり立つ、たつ、そばだつ、そびゆ。○〔班固〕「通・天訬以竦一」。
㊁そばだちたる山、そびゆる丘、高地。○〔張衡〕「散似二驚・波一、聚似二京・一一」。
㊂そなふ（供）、又、つむ（積）。○〔詩〕「以一二其粻一」。
〔鼎峙〕かなへの足の如くに三方にそばだつこと。○〔吳〕「成二一・一之業一」。
〔鼎峙〕穀物などのそなへをいふ。○〔北〕「詔二淮・城鎮一、並益二一・一一、加二戍・卒一」。
〔磐峙〕そばだつこと。○〔魏〕「巍・然一・一」。
〔棊峙〕ごいしの如くにならび立つこと。○〔吳〕「方・今英雄一・一」。
〔錯峙〕まじはり立つ。○〔呂溫〕「五・色相宜、萬・邦「一・一」。

〔聳峙〕高くそばたつこと。○〔晉〕「崇臺——」。
〔竦峙〕前に同じ。○〔隋〕「今城鎭——」。
〔卓峙〕前に同じ。○〔曹植〕「殊峯——」。
〔羅峙〕ならび立つこと。○〔謝琨〕「百嶺——」。
〔列峙〕前に同じ。○〔魏都賦〕「三臺——而崢嶸」。
〔嶄峙〕高く立つ。○〔鍾會〕「或、舒翼——」。
〔特峙〕獨りそばたつこと。○〔文賦〕「塊孤立而——」。
〔竦峙〕そばたつこと。○〔符觀〕「神宇——」。
〔對峙〕むきあひて立つ。○〔楊炯〕「聲二波心一而——」。

【峚】ビツ、ミチ。莫必切 質
山の名。

【峛】リ。力紙切 紙
㊀山の高くして長く引きたる貌にいふ字、つらなる、つゞく。○〔揚雄〕「觀二東嶽一而知二衆山之——崺一」。
㊁上がり下がりの道、さかみち。○〔揚雄〕「登二降——施一」。

【峑】キ。古器切 寘
數をはかること、算數。○〔管〕「虙戲造二六——行一、以迎二陰陽一、作二九々之數一、以合二天道一」。

【峝】トウ、ヅ。徒弄切 送
苗の類、卽ち、えびすの名。

【峗】キ。苦軌切 紙
山の貌にいふ字。

七畫

【峚】サ。祖臥切 箇
山摧く、くづる。

【嵯】サ。祖禾切 歌

【峔】山の名。

【峸】ビ、ミ。武斐切 尾
山の名、一説に譌りの字。

【峨】ガ。五何切 歌 — 又、峩に作る。
㊀山高し、さがし、たかし、けはし。○〔司馬相如〕「南山——」。
㊁りつぱなり、たかし、さかんなり。○〔詩〕「奉レ璋——」。
㊂けはしき場處、又、みね。○〔謝靈運〕「輿陟レ——而善狂」。
㊃四川省嘉定州にある峨眉山の稱。○〔唐〕「登二衡廬一彷二徉峨——一」。
〔嵯峨〕高き貌にいふ語。○〔曹植〕「冠二北辰一兮——」。
〔峩峨〕前に同じ。○〔東方朔〕「俗——而嵾嵳」。
〔嵬峨〕前に同じ。○〔太平廣記〕「淩レ晨——」。
〔三峨〕眉山のこと、大峨、中峨、小峨の稱あるよりいふ。○〔蘇軾〕「——吾鄕里」。

【峪】ヨク。余玉切 沃
たに、（谷）。

【峷】シヤ。昌遮切 麻
山の名。

【峘】クワン、グワン。戶管切 旱
山の多き貌にいふ字。

【峞】峘に同じ。

【峴】クワン、ゲン。戶版切 潸
山の名。

【峢】ベツ、ベチ。皮列切 屑
大——は山の名。

【峫】ダ、ナ。囊何切 歌
山の名。

【峫】ヤ。余遮切 麻
山の名。

【峫】ジヤ。徐遮切 麻
山の貌にいふ字。

【峸】カン、ガン。下罕切 旱
山の名。

【峑】タイ、デ。徒回切 灰
山崩る、くづる、一說に、嶉の譌り。

【峇】ダフ、ナフ。女法切 洽
しづか、（靜）。

【峬】ホ、フ。奔謨切 虞
形の好き貌にいふ字、かたちよし、みめよし。

【峲】キウ、グ。渠尤切 尤
山の名。

【峭】セウ。七肖切 嘯
㊀けはし、さがし、（嶮）。○〔謝靈運〕「巖——嶺稠疊」。
㊁おごそかにして苛し、はげし、（厲）、きびし、（急）。○〔漢〕「錯爲レ人、——直刻深」。

【峮】キン、コン。去倫切 眞
山の相連なる貌にいふ字、つゞく、つらなる。○〔張衡〕「或——嶙而纚聯」。

【峐】キ。口已切 紙 居吏切 寘
山の高き貌にいふ字、たかし。

【峟】フウ、ブ。房尤切 尤
山の名。

【峛】ロウ、ル。盧貢切 送 — 一に、埇に作る。
あな、（穴）。

【峵】タイ、デ。徒外切 泰
山の貌にいふ字。○〔馬融〕「嶊——礐嶒」。

【峯】ホウ、フ。敷容切 冬 — 一に、峰に作る。
みね。
（い）山のてつぺん、山の端、山のさがりたる處れ。○〔荆州記〕「衡山一名二芙蓉一」。
（ろ）山の稱に用ふる字。○〔一統志〕「雷——在二錢唐一」。
〔奇峯〕めづらしき形のみね。○〔顧愷之〕「夏雲多二——一」。
〔絕峯〕けはしきみね。○〔海賦〕「——萬丈」。
〔斷峯〕前に同じ。○〔江淹〕「臨二江上之——一」。
〔危峯〕前に同じ。○〔庾肩吾〕「絕澗倒二——一」。
〔峻峯〕前に同じ。○〔湘〕「湘州城南臨レ水有二——一」。「遐眺」。
〔秀峯〕すぐれて高きみね。○〔張淵〕「陟二——一以」
〔孫峯〕前に同じ。○〔江淹〕「憶二丹山之——一」。
〔攢峯〕かさなれるみね。○〔李巨仁〕「——如レ積二漫一」。
〔攢峯〕前に同じ。○〔駱賓王〕「——銜二宿霧一」。

【峰】前に同じ。

【峫】キ、ゲ。巨希切 微
山の旁の石。

【猱】ダウ、ナウ。奴刀切 豪 ―又、巙に作る。
山の名。○〔詩〕「遭二我乎―之間一」。

【峲】リ。良以切 紙
逐ひ行く、おふ、一說に、峛の字の譌り。

【[illegible]】トウ、ツ。徒侯切 尤
山の峻しきにいふ字、けはし、さがし。○〔揚雄〕「―嵬嵲嵬」。

【峳】イウ、ユ。夷周切 尤
――は獸の名。○〔山海經〕「硜山有レ獸、狀如レ馬、羊目四角、牛尾名曰二――一、見則其國多二狡客一」。

【[illegible]】エン。於緣切 先
山の曲がれる貌にいふ字、まがる、又、やまのくま、（山阿）。

【[illegible]】バウ、マウ。武方切 陽
山の名。

【崀】ラウ、ロウ。魯當切 陽
峻――は山の名、冬至の節に日の入る處といふ。

【崀】ラウ、ロウ。盧黨切 養
山の空しき貌にいふ字、むなし、ほら。

【峴】ケン、ゲン。胡典切 銑
㊀山の名、襄陽に在り、古昔、晉の羊祜の登りたるゆゑに名あらはる。○〔晉〕「祜與二鄒潤甫一登二――山一、垂レ涕曰、自レ有二宇宙一、便有二此山一、因立レ碑、後人名二墮淚碑一」。
㊁山の小さくしてけはしき處、一說に、嶺の上の平かなる處。○〔謝靈運〕「迢遞陟二陘―一」。
〔羊峴〕峴山のこと、羊祜によりて名あらはれたるよりいふ。○〔張雨〕「重來二――一誰沾レ淚」。

【峵】カウ、コウ。乎萌切 庚 ―嶸と峵と同じ。
上の濶くして險しきにいふ字、けはし、（嶒―）。○〔王延壽〕「鬱坱圠以嶒―」。

【島】タウ、トウ。都皓切 皓 ―說文 从レ山鳥省聲。
㊀海中に起こりたる陸地、しま。○〔木華海賦〕「崇―巨鰲」。
㊁海の曲、はまべ。○〔書〕「―夷卉服」。
〔海島〕海中のしま。○〔魏〕「洗二兵――一」。
〔絕島〕往來のたえたるしま、はなれじま。○〔杜甫〕「――容二烟霧一」。
〔孤島〕はなれじま、又、海のなかにある一つのしま。○〔王維〕「主人――中」。
〔山島〕山よりなるしま。○〔後漢〕「依二――一爲レ居」。
〔洲島〕しま。○〔宋〕「羣二居――一」。
〔霜島〕しものおりたるしま。○〔杜荀鶴〕「――樹猬猿叫夜」。

【峷】シン。疏臻切 眞
神の名、其の狀は狗の如くにて身に五采の文ありといふ。○〔莊〕「丘有レ―」。

【峸】セイ、ジヤウ。時征切 庚
山の名。

【[illegible]】タイ、吐猥切 賄 タ。他果切 哿
山の高き貌にも山の長き貌にもいふ字、又、たかし、ながし。○〔揚雄〕「――嵬嵬乎其相嬰」。

【峹】嵞に同じ。

【峺】カウ、キヤウ。古杏切 梗
㊀さはる、さはり、（礙）。
㊁俗の硬の字。

【峻】シユン、スン。私閏切 震 ―本、陖に作る、或は、省きて陖に作る。
㊀たかし、（高）。○〔左〕「垂不レ―」。
㊁ながし、（長）。○〔屈平〕「冀二枝葉之―茂一」。
㊂おほいなり、（大）。○〔大〕「克明二―德一」。
㊃けはし、さがし、（險）。○〔漢〕「領水之山峭―」。
㊄おごそかにして急なり、きびし、たけし。○〔史〕「吏務爲二嚴―一」。
〔淸峻〕（い）すぐれたること。○〔杜甫〕「監牧攻レ駒閱二――一」。（ろ）きよらかにして高し。○〔擾篇〕「風裁仰二――一」。
〔刻峻〕きびしくしてけはしきこと。○〔後漢〕「畺氏之父、非二錯――一」。
〔方峻〕正しく高きこと。○〔唐〕「於陵器量――」。
〔整峻〕前に同じ。○〔北〕「風儀――」。
〔凝峻〕高きこと。○〔晉〕「風格――、弗レ墜二家聲一」。
〔高峻〕高くしてけはしきこと、又、單に、高きことにも用ふる語。○〔南〕「風格――」。
〔幽峻〕深く、且つ、けはしきこと。○〔南〕「毎レ有レ所レ遊、必求二其――一」。
〔險峻〕けはしきこと。○〔高唐賦〕「盤石――」。
〔阻峻〕けはしく高きこと。○〔沈約〕「北京――」。
〔標峻〕高きこと。○〔陶弘景碑〕「神挺――」。
〔絕峻〕いたくけはし。○〔虞世南〕「盤紆――」。

【[illegible]】カウ、古到切 號 コク。苦沃切 沃
山の貌にいふ字、一說に、山の名。

【峼】カウ、コウ。乎老切 皓
山の貌にいふ字。

【[illegible]】[illegible]に同じ。

【岒】俗の崟の字。

【嵅】カン、ゴン。呼含切 覃 ―本、谽に作る。
谷の中の大いに空しきにいふ字、むなし、ほら、又、おほいなるたに、（大谷）。

【峽】カフ、ゲフ。侯夾切 洽
㊀峭しき山と山とにはさまれたる處、はざま、たに、たにあひ。○〔淮〕「彷二徉於山――之旁一」。
㊁はざまを流るゝ水、又、山と山との間にある川。○〔杜甫〕「高江急―雷霆鬪」。
〔三峽〕楊子江の上流にある巫峽、西陵峽、歸峽を並べ稱していふ、又、輿地志には巫山峽、明月峽、廣溪峽と稱せり。○〔晉〕「北枕二大江一、西接二――一」。
〔巴峽〕楊子江の上流にて今の四川省のうちにあり。○〔南〕「屯二――一以拒レ之」。
〔歷峽〕はざま。○〔水經、註〕「――險遠」。
〔巖峽〕いはのたに。○〔艮嶽記〕「――洞穴」。

【峾】ギン、ゴン。魚巾切 眞
水の回旋する貌にいふ字、めぐる、まはる、うづまく、（淪―）。○〔郭璞〕「―淪潫濚乍浥乍堆」。

【峌】ケイ、ギヤウ。戶經切 靑
山の地の坎みたる處、たに、あな、ほら。

【峿】ゴ。五乎切 虞 ―嵨に通じ作る。
山の名、又、處の名。

【峿】ギヨ、ゴ。偶擧切 語
山の貌にいふ字、たかし、さがし、又、安からざる貌にもいふ字、あやふし、（岨―）。○〔陸機〕「或岨―而不レ安」。

【[illegible]】バウ、マウ。毋朗切 養 莫郎切 陽 山の貌にいふ字、たかし、さがし。〇[張衡]「其山則嵣－嵺刺」。莫浪切 漾

【崀】ラウ。力當切 陽 山の空しきにいふ字、むなし、又、ほら。

【[illegible]】礙に同じ。〇[汪端明]「松-穎－煙、楮-英鋪レ雪」。

【[illegible]】ホツ、ボチ。蒲沒切 月 やま(山)。

【[illegible]】サン、ゼン。士山切 刪 けはし、さがし(峻・嶮)。

八畫

【崆】コウ、ク。苦紅切 東 ㊀－峒は山の名。㊁山の高き貌にいふ字、たかし。

【[illegible]】カウ、コウ。枯江切 江 山の高く峻しき貌にいふ字、たかし、けはし。

【[illegible]】幽に同じ。

【[illegible]】テウ、デウ。田聊切 蕭 山の貌にいふ字、たかし、さがし。

【[illegible]】テキ、チヤク。他歷切 錫 山の名。

【[illegible]】碑に同じ。

【[illegible]】古文の羌の字、一說に、羌の字の篆文。

【崇】シユウ、ジユ。鉏弓切 東 —〔說文〕从山宗聲。
㊀たかし。(い)上へ長し。〇[揚雄]「－－圏-丘」。(ろ)すぐれたり。〇[吳澄]「才鉅志－」。(は)たふさし(貴)。〇[揚雄]「窮レ龍極レ－」。
㊁たかきを、たかき度合、たかさ。〇[周]「𢓭－三-尺有三-寸」。
㊂重んず、うやまふ、尊敬す、たふとぶ、あがむ。〇[禮]「－ニ事宗-廟社-禝ニ」。
㊃高くなす、たふとくなす、たかむ、又、厚くす、興こす、益す。〇[左]「今將レ－ニ諸-侯之地ニ」。
㊄積もりてたかくなる、たかまる、興る、又、あつまる(聚)。〇[詩]「福-祿來－」。
㊅をふ、をはる(終)。〇[詩]「誰謂ニ宋遠ニ、曾不レ－レ朝」。
㊆充實す、もる、みつ。〇[儀]「主-人再-拜－酒」。
㊇かざる(飾)。〇[國]「容-貌之－」。
㊈樂器のかざり、鐘磬を懸くる處、崇牙。〇[家]「設レ－殷也」。
(欽崇) たふとぶこと。〇[書]「－－天道ニ」。
(敦崇) 前に同じ。〇[晉]「－ニ－儒-學ニ」。
(蘊崇) 積みあつむ。〇[左]「芟ニ夷－－之ニ、絶ニ其本根ニ」。
(隆崇) 高きこと。〇[史]「－－律崒」。
(穹崇) 弓なりに高きこと。〇[長門賦]「鬱並起而－－」。
(登崇) のぼせてたかくす。〇[韓愈]「－ニ－俊良ニ」。
(信崇) 信仰す。〇[洛陽伽藍記]「－ニ－三寶ニ」。
(睦崇) むつまじくあつまる。〇[陸雲]「姻-族－－」。
(謙崇) へりくだり敬ふ。〇[薛瑩]「乖德－－」。
(豐崇) ゆたかに充つること。〇[柳貫]「地利豐－－」。

【[illegible]】タフ、ドフ。達合切 合 山のかさなりたる貌にいふ字。

【崊】リン。犁沈切 侵 嶙に同じ、山の石。

【[illegible]】キウ、ク。丘弓切 東 —本、穹に作る。山の形をなすにいふ字。

【[illegible]】サク、シヤク。實窄切 陌 —又、譜に作る。前の解に同じ。

【[illegible]】クワイ、ケ。苦猥切 賄 嵬に同じ、高くけはしき貌にいふ字。〇[王延壽]「巍-巍嶵－」。

【崋】クワ、ケ。戶花切 麻 —〔說文〕从山華省聲。華に通じ作る、西嶽の一、今の陝西省の西安の東にある山、大華山。〇[白虎通]「西嶽爲ニ－山ー者」。

【[illegible]】アツ、エチ。乙黠切 黠 衆くの山の森列する貌にいふ字、又、つらなる。〇[揚雄]「－－嶱嵑-岬」。

【[illegible]】シユ、ス。子于切 虞 —本、𡶡に作る。㊀高き厓、きし、がけ。㊁山の石の相向かひあふ貌にいふ字、「むく」。

【[illegible]】キン、コン。去倫切 眞 峮に同じ。

【[illegible]】サン、ゾン。才敢切 感 嵌に同じ、ひらき張りたる山の貌にいふ字。

【[illegible]】サン、セン。阻限切 潸 棧に同じ、又、嶘に作る。

【崌】キヨ、コ。斤於切 魚 山の名。

【崍】ライ。郎才切 灰 山の名。

【崎】キ。去奇切 支 ㊀山路の平かならざるにいふ字、けはし、さがし。〇[張衡]「下蒙-龍而－－嶇」。㊁陭、埼、隑、碕並に通じ用ふ。
(𡼏崎) 山のけはしき貌にいふ語。〇[上林賦]「摧-萎－－」。
(嶔崎) 前に同じ。〇[王延壽]「嵯-嶬嶔之－－」、

【崎】キ。去綺切 紙 山の貌にいふ字、たかし、さがし、一說に、安からざる貌にいふ字、あやふし。〇[王褒]「徒觀ニ其傍山-側ー兮、則嶇-嶔巋－」。

【崎】イ。於宜切 支 地の名。

【崎】キ、ゲ。渠希切 微 曲がれる岸、きし、さき。

【崏】岷に同じ。

【嵚】ギン、ゴン。魚音切 侵 嶔に同じ、兩山の相向かふもの、むかひやま。

【崐】コン、クン。古渾切 [元]
ー崘は、山の名（山の字の熟語參照）。

【崑】崐に同じ。

【崱】チョク、ヂキ。除力切 [職]
山の貌にいふ字。

【崒】シュツ、ジュチ。昨律切 [質]
ソツ、ゾチ。昨沒切 [月]
㊀危くして高し、たかし、けはし。○〔鮑照〕「ー若ニ斷岸一」。
㊁山の高き處、けはしきみね、いたゞきてッぺん。○〔詩〕「山冢ー崩」。
〔𡾰崒〕けはし、たかし。○〔漢〕「隆崇ーー」。
〔硊崒〕前に同じ。○〔江賦〕「虎牙㠁豎以ーー」。
〔崇崒〕前に同じ。○〔沈約〕「巍峩ーー」。
〔嶄崒〕前に同じ。○〔江淹〕「刻劃ーー兮」。
〔崒々〕前に同じ。○〔孟郊〕「暗中ーー拽ニ茅鞭一」。
〔隆崒〕たかし、又、いたゞき。○〔何遜〕「大牙傍ーー」。
〔雀崒〕けはし。○〔孔武仲〕「尾脊ーー當ニ弄舟一」。
〔嶇崒〕聳ゆる貌にいふ語。○〔歐陽修〕「山石ーー屍一」。
〔㠑崒〕けはしく高し。○〔羅隱〕「九華ーー倚ニ柴ー」。

【崪】スヰ、ズヰ。七醉切 [寘]
あつまる（集）。○〔司馬相如〕「珍怪鳥獸、萬端鱗ー」。

【崓】コ、ク。公悟切 [遇]
しま（島）。○〔宋〕「出ニ沒島ーー一」。

【崔】サイ、セ。昨回切 [灰]
高大なり、たかし、おほいなり。○〔何晏〕「高甍ー嵬」。
〔崔嵬〕高く大いなる貌にいふ語。○〔詩〕「南山ーー」。
〔錯崔〕かさなりて高し。○〔馬融〕「螺蛫ーー」。

【崕】キ、ギ。魚羈切 [支]
㊀崎ーは、石の危き貌にいふ語。
㊁崖に同じ。

【崖】ガイ、宜佳　ゲ。切 [佳]　キ、魚羈　ギ。切 [支]
㊀高き水堺、きし、がけ。○〔郭璞〕「觸ニ曲ーー以縈繞一」。
㊁物事のさかひ、かぎり、はて。○〔莊〕「其來無レ跡、其往無レー」。
㊂他と和合せざること。○〔宋〕「乖則違レ衆、ー則不レ和レ物」。
〔顚崖〕くづれたるきし。○〔劉因〕「百丈逢ニーー一」。
〔神崖〕太だ人にすぐれて和合せざること。○〔南〕「獨師ニ懷抱不レ見レ許ニ於俗人一、孤秀ーー、每遭ニ尙於在世一」。
〔洛崖〕なぎさときしと、川のほとり。○〔莊〕「兩涘ーー之間、不レ辨ニ牛馬一」。
〔端崖〕はて、かぎり。○〔莊〕「無ニーー一之辭」。
〔畛崖〕前に同じ。○〔淮〕「肆ニーー之遠一」。
〔傾崖〕かたぶきたるきし。○〔鄭貝士〕「仄徑ーー不レ可レ通」。
〔懸崖〕きりそぎてそばたてるがけ。○〔書斷〕「ーー墜レ石」。
〔絕崖〕前に同じ。○〔張載〕「緣ニ阻岑之ーー一」。
〔嵩崖〕たかききし。○〔何劭〕「ーー巖々」。

【嵁】カン、コン。苦感切 [感]
いはあな、あな。○〔馬融〕「ーー窋巖復」。

【崗】俗の岡の字。

【崘】ロン。盧昆切 [元]
ー崘は、山の貌にいふ語。

【崙】前に同じ。

【崚】リョウ。力承切 [蒸]
山の貌にいふ字。○〔沈約〕「ーー嶒起ニ靑嶂一」。

【崛】クツ、ゴチ。渠勿切 [物]
コツ、苦骨　クチ。切 [月]　崫、又は𡺶に作る。
㊀横にひろからずして上に高し、たかし、けはし。○〔張衡〕「隆ーー崔崒」。
㊁特起す、おこる、ぬきんづ、そばだつ。○〔揚雄〕「洪臺ー其獨出兮」。
〔詭崛〕ぬきいづ。○〔吳萊〕「爲レ士非ニーー一」。
〔奇崛〕くしくけはし、すぐれてたかし、又、すぐれてぬきんづ。○〔金〕「其詩ーー而絕ニ雕劇巧締一、而謝ニ綺麗一、爲ニ一代宗工一」。
〔鬱崛〕こんもりとして高し。○〔陸龜〕「ーー重レ軒」。
〔魁崛〕すぐれてたかし。○〔曾鞏〕「君才信ーー」。
〔嵬崛〕前に同じ。○〔郭璞〕「巫盧ーー而比レ嶠」。

【㟍】タ。都戈切 [歌]
小さき山の貌にいふ字。

【㟎】タ。都火切 [哿]
山の形をなすにいふ字。

【嵫】シ。莊持切 [支]
ー嶷は、齊しからざる貌にいふ語、かたゞがひ。○〔王延壽〕「岑崟ー嶷、駢巃嵸嶷」。

【崿】タイ、テ。都回切 [灰]　本、𠂤に作る。
堆に同じ。

【岴】カフ、ゴフ。口合切 [合]
峇に同じ、山の窟、あな、ほら。

【嵲】ゲツ、ゲチ。倪結切 [屑]　ーに、峴に作る。
たかし、（高）。○〔王延壽〕「漂嶢ー而枝柱」。

【峴】前條に同じ。

【崶】シヤウ、ザウ。慈良切 [陽]
山陵、をか。

【崹】培に同じ。

【崝】サウ、鋤耕　ジヤウ。切 [庚]　或は、𡾔さ崢さにも作る。
けはし、さかし、たかし。○〔揚雄〕「陟ニ西嶽之嶢ー一」。

【崞】クワク、カク。光鑊切 [藥]
山の名、又、縣の名。

【崦】エン、チン。於袁切 [元]
山の名。

【崟】ギン、ゴン。魚今切 [侵]　又、崯、岒に作る。
㊀けはし、（險）、たかし、（高）。○〔張衡〕「墓ニ歷阪之嶔ーー一」。
㊁山のたかくけはしき處、みね。○〔杜甫〕「挽レ葛上ニ崎ーー一」。
〔崟々〕高くけはしき貌にいふ語。○〔楚辭〕「叢林兮ーー」。
〔岑崟〕けはしきみね。○〔子虛賦〕「ーー參差」。
〔嶔崟〕前に同じ。○〔秦觀〕「ーー撲ニ空紫一」。
〔崎崟〕前に同じ。○〔杜甫〕「挽レ葛上ニーー一」。
〔磐崟〕たかし。○〔羽獵賦〕「玉石ーー」。

【崡】カン、ゲン。胡讒切 [咸]　本、函に作る。
函谷關のこと。

【嵲】ショク、ジキ。仕力切 職 山の峻しき貌にいふ字、さがし、けはし。

【崢】サウ、ジヤウ。鋤耕切 庚 たかし、けはし、又、たかき山。○〔韓愈〕「高言軋二霄――一」。〔崢嶸〕高き貌にいふ語。○〔張衡〕「踏二玉階之――一」。〔[illegible]〕山の高くけはしき貌にいふ語。○〔李嶠〕「深―處入二――一」。

【崣】ヰ。烏毀切 紙 高き貌にいふ字、たかし。○〔司馬相如〕「嶊―崛起」。

【崤】カウ、ゲウ。胡交切 肴 山の名、又、水の名。殽に通じ作る。

【崥】ヘイ、バイ。部迷切 齊 ヒ、ビ。頻彌切 微 山の貌にいふ字。

【崥】ヒ、ビ。并弭切 紙 山の足もと、ふもと。○〔揚雄〕「崔嵬不レ崩頼二彼峽――一」。

【崦】エン、オン。央炎切 鹽 於檢切 琰 ―嵫は、山の名、日の入る處といふ。○〔屈平〕「吾令二羲和弭一レ節兮、望二――一而勿レ迫」。

【崧】シユウ、スウ。息弓切 東 大いにして高き山の稱、だけ、又、たかし。○〔詩〕「―高維嶽」。

【崨】セフ。疾葉切 葉 ㊀―嶪は、山の連なり延びたる貌にいふ語。㊁山の高くして形の勝れたる貌にいふ字、たかし。○〔張衡〕「嵳峩―嶪」。

【崩】ホウ。北滕切 蒸 ㊀くづる。(い)山壞る、たかきものくだけこはる、こはれて上より下に墜つ、つぶる。○〔春秋〕「八月辛卯沙鹿―」。(ろ)亂る、衰ふ、破る、散り失なふ。○〔論〕「三年不レ爲レ樂、樂必―」。㊁天子君王の殂落し給ふにいふ字、かみさる、かんさる、かくる。○〔史〕「未レ授二使者一、始皇―」。〔土崩〕つちくづる、物事のくづれて手のつけやうなきことに借りいふ語。○〔史〕「天下之患在二于――一、不レ在二于瓦解一」。〔分崩〕わかれくづる、ちりぢりに亂る。○〔論〕「邦――離析而不レ能レ守」。〔阤崩〕ゆるみくづる。○〔國〕「堅不二――一、而物有レ所レ歸」。

【[illegible]】巷に同じ、みち、こみち、ちまた。○〔枚乘〕「―路委移」。

【[illegible]】キ。區位切 寘 筋のひきつる貌にいふ字、つる、ひく。○〔列〕「筋節―急」。

【[illegible]】シ、ジ。莊吏切 寘 刃を刺す、さす。

【崗】岡に同じ。

九畫

【崱】ショク、ジキ。士力切 職 ㊀山の高き貌にいふ字、たかし、又、山連なる、つゞく、つらなる。○〔杜甫〕「超二―岑一」。㊁齊しからざる貌にいふ字、かたゝがひ、たかひく、參差。○〔王延壽〕「―繒綾而龍鱗」。〔嶄崱〕山の如く高き貌にいふ語。○〔劉峻〕「閈レ軒望二――一」。〔嵂崱〕山のけはしく連なれる貌にいふ語。○〔劉峻〕「層巒――」。

【崲】クワウ、ワウ。胡光切 陽 地の名。

【崳】ユ、ヨ。容朱切 虞 山の名。

【崴】アイ、エイ。乙皆切 佳 ワイ、エ。烏買切 蟹 たかし、(高)、又、平かならず、けはし。○〔楚辭〕「軫石―嵬蹇二吾願一兮」。

【崵】ヤウ。與章切 陽 タウ、トウ。徒朗切 養 山の名。

【[illegible]】タ、ダ。徒何切 歌 形うすに似たる山、うすやま。

【[illegible]】[illegible]に同じ。

【峌】テツ、デチ。徒結切 屑 一本、嵽に作る。―嵲は、山の貌にいふ語。

【崶】ホウ、フ。府容切 冬 山の名、一に、龍門山と名づく。

【崷】シウ、ジユ。自秋切 尤 長くして高き貌にいふ字、たかし、ながし。○〔班固〕「巖峻―崒」。

【[illegible]】トン、ドン。杜本切 阮 山の名。

【崹】テイ、タイ。吐奚切 齊 山の貌にいふ字、又、山の形の漸く平かなるにいふ字。

【[illegible]】崦に同じ。

【崺】イ。移爾切 紙 山卑くして長き貌にいふ字、又、沙丘の貌にいふ字。○〔揚雄〕「觀二東嶽一、而知二衆山之峛――一也」。

【[illegible]】クワイ、エ。胡對切 隊 草木なき山、はげやま。

【[illegible]】バウ、メウ。謨交切 肴 山の名。

【峙】チ、ヂ。丈里切 紙 山の獨立せる貌にいふ字、そばだつ。

【崼】シ。上紙切 紙 やま(山)。

【崽】サイ、セイ。子改切 賄 こども、こ、(子)。○〔水經、註〕「孌童丱女、弱年―子」。

【崽】サイ、セイ。山皆切 佳 ㊀前條に同じ。○〔揚雄〕「―子也、江湘間凡言二是子一謂二之―一」。

㊁自ら高しとして人を侮る、たかぶる、あなどる。
㊂彼れを呼ぶの稱。

【⿰山要】エウ。以沼切 篠
山の名。

【⿱山綒】音義詳かならず、或は、譌りの龍の字といふ。

【崿】ガク。吾各切 藥
㊀きしがけ、（崖）。○〔張衡〕「抵－－嶙峋」。㊁たかし、さがし。○〔左思〕「嵁二－－于青霄一」。
（峻崿）けはしきがけ。○〔琴賦〕「援二瓊枝一、陟二－－一」。（崢崿）前に同じ。○〔孫綽〕「陟二－－之崢嶸一」。（飛崿）前に同じ。○〔盧貞臨川賦〕「挹二崇丘之－－一」。（丹崿）あかきがけ。○〔王勃〕「－－萬尋」。

【⿱山咢】前條に同じ。

【⿰山主】チユ、ヂユ。直主切 麌
天－－は、山の名。

【嵁】カン、コン。口含切 覃　カン、ケン。苦咸切 咸
㊀きし、（崖）。○〔柳宗元〕「爲レ抵爲レ嶼、爲レ－爲レ巖」。㊁平かならざる貌にいふ字、けはし、さがし。○〔莊〕「大山－－巖之下」。
（層嵁）かさなれるきし。○〔謝朓〕「鑿穴叫二－－一」。

【⿰山甚】ガン、ゴン。五感切 感　サン、ゼン。士減切 豏
山の貌にいふ字。○〔左思〕「恆碣－－二崿于青霄一」。

【嵂】リツ、リチ。劣戌切 質
高くして大いなる貌にも、又、高くして峻しき貌にもいふ字。○〔司馬相如〕「隆崇－崒」。

【嵃】ゲン。魚蹇切 阮　魚變切 霰
たかし、（高）、けはし、（峻）。○〔潘岳〕「峻－－峭以繩直」。
（㠑嵃）きしのけはしき貌にいふ語。○〔郭璞〕「厓隒爲レ之－－」。（巉嵃）山のけはしきさま。○〔劉基〕「結構依二－－一」。

【嵄】ビ、ミ。眉否切 紙
やま、（山）。

【⿰山胥】シヨ、ソ。寫與切 語
山の名。

【⿱山咸】カン、コン。姑南切 覃　古暗切 勘
嵐－－は、山の名。

【嵆】ケイ、ガイ。胡雞切 齊
山の名、又、人の姓。―木に从ふ、木は音ケイ、俗に禾に从ふは誤れり。

【嵇】前條に同じ。

【⿰山耑】タン。多官切 寒
山の名。

【⿰山爰】クワン、グワン。胡管切 旱
山の名。

【嵉】テイ、チヤウ。唐丁切 青
山の名。

【⿰山盆】ホン、ボン。步奔切 元
山の名。

形、甑に似たる山。

【嵊】シヨウ、ジヨウ。石證切 徑
山の名、又、縣の名。

【⿰山椉】シヨウ、ジヨウ。神陵切 蒸
亭の名。―本、嵊に作る。

【嵋】ビ、ミ。武悲切 支　バイ、メ。謨杯切 灰
峨－－は、山の名、四川省嘉定府にあり。○〔李白〕「峨－山月半輪秋」。

【嵌】カン、コン。呼監切 咸　サン、ザン。才敢切 感
㊀山の深く入りたる貌にいふ字、又、ふかし、又、ふかくなりたる處、たに、あな、ほら。○〔集韻〕「－巖深谷」。㊁山の開き張れる貌にいふ字。○〔揚雄〕「－巖々其龍鱗」。
（嶄嵌）山ふかし。○〔沈約〕「尋二計路－－一」。（嵚嵌）山のはら。○〔陶翰〕「因二曲岸一而構二－－一、忽升二絕頂一」。（空嵌）前に同じ。○〔范成大〕「或瘦露二－－一」。（巖嵌）岩穴。○〔高啓〕「阻二兩忌一影逃二－－一」。

【⿱山欿】カン、コン。苦濫切 感
岸の欹ちて峻しき貌にいふ字、さがし、けはし。

【嵎】グ。虞俱切 虞
㊀山の曲、くま。○〔孟〕「虎負レ－」。㊁山の重なりて高き貌にいふ字、たかし。○〔柳宗元〕「山－－以巖立兮」。
（陂嵎）山のくま。○〔王世貞〕「－－聲隴」。（荒嵎）人跡のたえたる山のくま。○〔王漸逵〕「香菜不レ供走二－－一」。

【⿰山侯】コウ、ク。胡溝切 尤
山の名。

【⿰山匽】エン、オン。隱憾切 阮
山の形。

【嵏】ソウ、ス。子紅切 東
峰のあつまれる山。○〔司馬相如〕「淩二三－之危一」。

【⿰山夅】カウ、コウ。胡江切 江
山の名。

【⿱山忩】ソウ、ス。麤叢切 東
山の貌にいふ字、一說に譌字。

【嵐】ラン、ロン。盧含切 覃
山の氣の蒸し潤へるもの、又、單に山氣にもいふ字。○〔謝靈運〕「夕曛－氣陰」。
（晴嵐）はれたる日のあらし。○〔鄭谷〕「－－染二近巖一」。（烟嵐）けぶりとあらしと。○〔賈島〕「－－沒二遠村一」。（翠嵐）みどりのあらし。○〔皮日休〕「桃枝竹覆－－溪」。（霜嵐）しもとあらしと。○〔謝朓〕「飈々－－」。（夕嵐）暮れがたのあらし。○〔裴迪〕「－－無二處所一」。（溪嵐）谷川のあらし。○〔白居易〕「－－漠々樹重々」。

【嵑】カツ、カチ。苦曷切 曷
㊀山の貌にいふ字。㊁山特立す、そばだつ、そびゆ。㊂碣に同じ、いしぶみ。○〔漢〕「封二神丘一兮建二隆－一」。

【嵔】ヰ。於鬼切 尾
山高くして下めぐりまがれる貌にいふ字、又、すそひろし。○〔司馬相如〕「崴磈－廆」。

【⿰山夏】カ、ゲ。胡駕切〔碼〕 山の名。

【峰】俗の巇の字。

【嵫】シ。子之切〔支〕 けはし、さがし、(峻-險)。○〔王延壽〕「嶄-岩ー-鰲」。

【嵬】クワイ、エ。烏回切〔灰〕 ㊀石山の上に土を戴くもの、いしやま、いはやま。○〔詩〕「陟二彼崔ーー一」。㊁高くして大いなり、高くして平かならず、たかし、おほいなり、けはし。○〔班固〕「增-盤崔-ー」。〔磊嵬〕大いにして高し、又、けはし。○〔韓愈〕「隆-樓傑-閣ーー-高」。〔嵬々〕前に同じ。○〔韓愈〕「負-雪ーーー揷-花裏」。

【嵔】グワイ、ゲ。五罪切〔賄〕 前條の㊁に同じ。○〔王延壽〕「嵯-峩嵔-ー」。

【嵬】嵬に同じ。

【嵮】テン。丁年切〔先〕 ー塡、又は、鎭に作る。 窴に同じ、ふさぐ、ふさがる、(塞)、くはふ、くはゝる(加)。○〔荀〕「ー-如也」。

【嵯】サ、ザ。倉何切〔歌〕 ー本、嵳に作る。 山石の起伏する貌にいふ字、さがし、けはし。○〔晉〕「山-岳ーー峨而連レ岡」。〔嵾嵯〕けはし。○〔劉向〕「石ーー以翳レ日」。〔嵯峨〕前に同じ。○〔衛恒〕「嶄-巖ーー」。

【嵰】ケン、コン。丘檢切〔琰〕 丘廉切〔鹽〕 山高く峻し、たかし、けはし。

【嵱】ヨウ、ユ。餘封切〔冬〕 山の名。

【嵱】ヨウ、ユ。尹竦切〔腫〕 ーー嵷は、山の峰の貌にも、又、上り下りの多き貌にもいふ語。○〔揚雄〕「陵二高-衍之ーー-嵷一」。

【嵲】ゲツ、ゲチ。五結切〔屑〕 山高し、たかし。○〔杜甫〕「御-牀在二嵽-ー一」。

【⿰山晉】シン。卽刃切〔震〕 山の名。

【嵳】嵯に同じ。

【嵴】セキ、シヤク。資昔切〔陌〕 山の脊、みね。

【⿱山陵】崚に同じ。

十一畫

【⿰山盍】カフ、コフ。苦盍切〔合〕 ー本、盍に从ふ。 だけ、やま(山-嶽)。

【⿱山郭】クワク。闊鑊切〔藥〕 嵺ーーは、谷の深き貌にいふ語。

【嵸】シヨウ、シユ。筍勇切〔腫〕 ソウ、ス。子紅切〔東〕 祖動切〔董〕 ー又、ーに作る。 たかし、又、けはし。○〔潘岳〕「大-乙巃-ーー」。〔巃嵸〕山の高き貌にいふ語。○〔獨孤及〕「縣-諸ーーー」。

【嵷】前條に同じ。

【嵹】キヤウ、ガウ。其亮切〔漾〕 やま(山)。

【嵺】レウ。落蕭切〔蕭〕 ー寮、嶛、嵾に同じ。 山の聳ゆる貌にいふ字、そびゆ、そばだつ、又、山の廣くして遠きにわたるにいふ字、ひろし、とほし。○〔杜甫〕「元-甲峰ーー以岳-峙」。

【嵻】カウ。丘剛切〔陽〕 ーー㟮は、山の名。

【⿱山康】カウ。苦朗切〔養〕 山のむなしき貌にいふ字、むなし。

【嵼】サン、セン。所簡切〔潸〕 屈曲する貌にいふ字、まがる、めぐる。○〔東方朔〕「望二高-山之嵯-ー一」。〔㠐嵼〕曲がる貌にいふ語。○〔魯靈光殿賦〕「崯-岡ーー」。

【⿰山卯】レウ。力幺切〔蕭〕 山の深くして空しき貌にも、(卽ち、大いなる谷間などにいふ)、又險峻なる貌にもいふ字、ふかし、むなし、又、けはし、さがし。○〔張協〕「嶙-谷ー-嶆張二其前一」。

【嵽】テツ、デチ。徒結切〔屑〕 ー塲、臺、垤に作る。 突兀なる貌にいふ字、たかし、けはし。○〔張衡〕「直-ー-峴以高居」。

【嵽】テイ、ダイ。大計切〔霽〕 山の形にいふ字。○〔王延壽〕「浮-柱岧-ー以星-懸」。

【⿰山窒】前條に同じ。

【巢】セウ、ゼウ。昨焦切〔蕭〕 サウ、ゼウ。鋤交切〔肴〕 山の高き貌にいふ字、たかし。

【⿰山畢】ヒツ、ヒチ。壁吉切〔質〕 其の邊のたかくして牆の如くになりたる道。

【⿰山莫】バク、ビヤク。莫白切〔陌〕 ー-岶は、密なる貌にいふ語、しげし。

【⿰山厥】シヨ、ソ。章恕切〔御〕 山の名。

【⿰山會】カン、ゴン。戶感切〔感〕 ガン、ゲン。五咸切〔咸〕 山の貌にいふ字。

【嵾】サン、シン。楚簪切〔侵〕 ー一に、嵾に作る。 齊しからざる貌にいふ字、かたゝがひ、參差。○〔揚雄〕「增-宮ー-嵯」。

【⿰山圄】ギヨ、ゴ。魚擧切〔語〕 山の名。

【⿱山貞】テイ、チヤウ。都挺切〔迥〕 山の名。

【⿰山移】イ。與支切 [支] 山の名。

【嶀】ト、ツ。他胡切 [虞] ——嵊は、山の名。

【⿱麻山】バ、マ。謨加切 [麻] 山の名。

【⿱敊山】キ。去智切 [寘] 山の名。

【嶁】ロウ、ル。郎斗切 [有] 郎豆切 [宥] 郎侯切 [尤] 山の巔、いたゞき、てッぺん。
(岣嶁) 衡山のみね、上に禹王の碑ありといふ。○〔十道山川攷〕「郭・璞曰、衡山別名二——一」。

【⿱婁山】前條に同じ。

【嶂】シヤウ。之亮切 [漾] 高くして險しき山、又、山のたかくしてけはしき處、みね、又、山の屛障を立てたる如くにのびつゞけるものゝ稱。○〔錢起〕「玉-巒登レ——遠」。
(巖嶂) 岩石のみね、又、けはし。○〔水經、註〕「——峻-嶮」。
(層嶂) かさなりならび立てる山。○〔地理通釋〕「重巖——」。
(山嶂) やまの屛障の如くに立てること。○〔沈約〕「——遠重疊」。
(連嶂) みねのつらなりたてること。○〔何遜〕「羇-々——陰」。
(列嶂) 前に同じ。○〔陳陶〕「鐵-天——假相待」。
(崩嶂) みね。○〔宋之問〕「——寄二攀越一」。
(峯嶂) 前に同じ。○〔李白〕「——亦冥-密」。
(複嶂) かさなれるみね。○〔王勃〕「——迷二晴-色一」。
(疊嶂) 前に同じ。○〔文同〕「前對二長江一隔二——一」。

【嶄】セン。七豔切 [豔] 塹に同じ、城を遶る水、ほり、又、あな、(坑)。

【嶃】サン、ゼン。士減切 [豏] 高くして峻しき貌にいふ字、たかし、さがし、けはし。○〔丘遲〕「——絕峰殊-狀」。

【嶃】サン、ゼン。鋤咸切 [咸] —又、嶄に作る。巉に同じ、山の尖りてするどき貌にいふ字、するどし、さがる。○〔司馬相如〕「——巖參-差」。

【⿰山靳】前條に同じ。

【嶅】ガウ、ゴウ。五勞切 [豪] ㊀小石の多き山、いしやま。○〔木華海賦〕「或、挂二睿於岑——之峰一」。㊁一に磝に作る、山の高き貌にいふ字、たかし。○〔韓愈〕「山磝-々而相軋」。㊂動搖の貌にいふ字、うごく、ゆるぐ。○〔揚雄〕「嘐-々、旭-々天-地稠——」。

【⿰山敖】前に同じ。

【⿰山票】ヘウ。方小切 [篠] 卑遙切 [蕭] 山の峯の出でたる貌にいふ字、そびゆ、そばだつ、一說に、そばだてるてッぺん、いたゞき、みね。○〔郭璞〕「梢-雲冠二其——一」。

【⿰山曼】バン、マン。莫半切 [翰] 山の名。

【⿱參山】嵾に同じ。

【⿰山臨】リン。黎針切 [侵] 山の名。

【⿰山族】ソク、ゾク。士六切 [屋] —一に、蔟に作る。聚まり齊しき貌にいふ字、あつまる、むらがる。

【嵱】ヨウ、ユ。余封切 [冬] 山の名。

【⿰山莽】バウ、マウ。母朗切 [養] 莫郎切 [陽] 嵣——は、山の貌にいふ語、一に、⿰山芒に作る。

【嶆】サウ、ゾウ。昨遭切 [豪] 山の深くして空しき貌にいふ字、(大いなる谿など)ふかし。○〔七命〕「嶰-谷嶆——張二其前一」。

【⿱累山】ルヰ。魯水切 [支] 礧に同じ。

【嶇】ク、コ。豈倶切 [虞] —本、⿰足區に作る。㊀山路の平かならざるにも、又、山の峻しきにもいふ字、さがし、けはし。○〔李羣玉〕「正穿詰-曲崎——路」。㊁安からず、なやめり、危し。○〔宋〕「天-祥崎二——嶺-海、兵敗見レ執、從-容伏レ鑕、可レ不レ謂二之仁一哉」。
(嶔嶇) けはし。○〔子華子〕「然嶔歷-陸——」。
(巘嶇) 前に同じ。○〔張耒〕「何用二——一守二寒-苑一」。

【⿰山爽】シヤウ、サウ。楚兩切 [養] —俗に、峽に作る。山の互に摩りよれる貌にいふ字、つゞく、よる。○〔杜甫〕「羣-山爲レ之相——」。

【嶈】シヤウ、サウ。七羊切 [陽] ㊀たかし、(高)。○〔班固〕「激二神-嶽之——一」。㊁おごそかにして正しき貌にいふ字、いかめし。○〔崔琰〕「倚二高-艫一以周-盼、觀二秦-門之——一」。

【嶉】スヰ。徂誄切 [紙] ㊀山の曲、くま。㊁山の貌にいふ字。㊂林木のあつまり積める貌にいふ字、うづだかし。○〔揚雄〕「雲譎波詭、摧-——而成レ觀」。

【嶊】サイ、セ。徂猥切 [賄] 前條の㊁と㊂とに同じ。

【⿱祭山】セイ、サイ。七計切 [霽] 山の名。

【㠀】島に同じ。

【嶋】島に同じ。○〔史〕「入居二海——一」。

【⿰山扈】コ。乎古切 [麌] 卑くして大いなる山、ひろきやま、又、山の廣き貌にもいふ字、ひろし。

【⿰山參】嵾に同じ。

【⿰山累】⿱累山に同じ。

十二畫

【⿰山復】フク、ホク。芳六切 屋 山覆ふ、おほふ。

【⿱山配】ハイ、ヘ。滂佩切 隊 崩るゝ聲、又、石の墜つる聲にいふ字。

【嶏】ヒ、ビ。皮鄙切 紙 フツ、ホチ。敷勿切 物 やぶる（圮）。

【⿰山單】タン。都寒切 寒 一に、嶦に作る。孤立して高き山。

【⿰山單】テイ、タイ。都黎切 齊 ――弧は、山の名。

【⿱山㝥】㝥に同じ。

【嶐】リウ、リユ。良中切 東 又、隆に作る。山の形にいふ字。〇〔張衡〕「――嶇崔‐嵬」。

【⿰山象】シヤウ、ザウ。似兩切 養 山の名。

【⿱山敧】崎に同じ。

【⿱山就】シウ、ジユ。疾僦切 宥 嶺の名。

【⿰山卷】ケン、ゴン。巨偃切 阮 又、⿰山虔に作る。山の貌にいふ字、又、山の屈曲せる貌にもいふ字。

【⿰山喜】イ。於巳切 紙 やま（山）。

【⿰山間】カン、ケン。居莧切 諫 澗に同じ、山に夾まれる水、たに。

【⿰山閏】ジユン、ニン。儒順切 震 白――は、地の名。

【⿰山童】トウ、ヅ。徒紅切 東 ㊀山の貌にいふ字 ㊁草木なき山、はげ山。

【嶒】シヨウ、ソウ。疾陵切 蒸 山の貌にいふ字。〇〔何遜〕「絕‐壁巃二峻――一」。

【⿰山曾】サウ、シヤウ。鋤耕切 庚 崝、又は、崢に同じ。

【⿰山虛】キヨ、コ。丘魚切 魚 ――或は、虛に作る。嶇に同じ、けはし。

【⿱山覃】シン、ソン。茲錦切 寑 山の名。

【⿰山番】ハ。博禾切 歌 補過切 箇 ――冢は、山の名。

【嶔】キン、祛音切 侵 ケン、コン。丘廉切 鹽 ㊀山の聳え立てる貌にいふ字、たかし、さがし、又、そびゆ、そばだつ。〇〔張衡〕「慕二歷‐阪之――崟一」。㊁開き張れる貌にいふ字、又、ひらく、はる。〇〔釋名〕「開二張其口一――然」。〔嶔々〕たかし、又、ひらく、又、そばだつ。〇〔楚辭〕「叢林――兮」。〔森欽〕けはしく立てる貌にいふ語。〇〔楚辭〕「崔‐巍――」。

【⿰山奠】テン、デン。堂練切 霰 山の名。〔盤嵮〕曲がり聳ゆること。〇〔岑參〕「[illegible]‐崖――」。

【⿰山頁】カウ、ゴウ。吾江切 江 崆――は、山の峻しき貌にいふ語、けはし、たかし。

【嶕】セウ、ゼウ。昨焦切 蕭 ㊀山の高き貌にいふ字、たかし。〇〔左思〕「別‐風――嶢」。㊁椒に同じ、山の頂、いたゞき、てっぺん。〇〔謝莊〕「散二芳於山‐椒一」。〔嶕嶢〕たかし。〇〔左思〕「陵‐絕――」。

【⿱山咢】崿、⿰山咢に同じ。

【嶋】峻嶐に同じ。

【⿱山欺】キ。丘其切 支 たかし（高）。〇〔玉樞經〕「九‐曜――」。

【⿱山敦】トン。都昆切 元 山の貌にいふ字。

【⿱山集】シフ。子入切 緝 山の名。

【⿱山葉】セフ。疾葉切 葉 山の貌にいふ字。〇〔司馬相如〕「嵯‐峨――嶫」。

【⿰山條】前條に同じ。

【⿰山龠】崦に同じ、或はいふ譌りの字。

【嶗】ラウ、ロウ。力刀切 豪 山の険しき貌にいふ字、けはし。

【嶘】サン、セン。士限切 潸 尤も高し、たかし。〇〔元結〕「大‐淵滋‐々兮、絕――岌‐々」。

【嶙】リン。力珍切 眞 ㊀山の崖の重なり重なれる貌にいふ字、ふかし、たかし。〇〔蘇舜欽〕「隱――天中‐央」。㊁山に節級（きざな）ある貌にいふ字。だん／＼。〇〔揚雄〕「岭‐巆――峋」。「漣」。〔岩嶙〕たかし、ふかし。〇〔南都賦〕「或、――而纏」。

【嶙】リン。力忍切 軫 山の峻しき貌にいふ字、さがし、けはし。〇〔潘岳〕「裁二陂‐陁一以隱‐嶙」。

【⿱山寮】レウ。鄰蕭切 蕭 けはし、たかし。〇〔左思〕「劍‐閣雖レ――、憑レ之者蹶」。

【⿰山寮】前條に同じ。

【⿰山皋】カウ、コウ。古勞切 豪 亭の名、又、山の名。

【嶜】シン、ジン。才淫切 侵 高くして鋭き貌、又、極めてたかき貌にもいふ字、たかし、さがし。〇〔張衡〕「幽‐谷――岑、夏含二霜‐雪一」。

【⿱山朁】シン、ジン。集荏切 寑 ――岑は、山の貌にいふ語。

【嶝】トウ。都鄧切 〔徑〕—本、隥に作り、又、磴に作る。
❶山に登り下りする道、さかみち、さか。○〔沈約〕「峰—互相拒」。
❷あふぐ、（仰）。
〔嶝嶝〕切り立ちたるが如きけはしきさか。○〔水經、註〕「—　—孤危」。
〔嶝巘〕曲がりたるさか。○〔王冷然〕「連ニ小山ニ而夾ニ—　—ニ」。
〔梯嶝〕山に登るみち。○〔蘇軾〕「上ニ山絕ニ—・—ニ」。

【嶞】タ、ダ。徒果切 〔哿〕
山の狹くして高きもの、又、さがる。○〔詩〕「—山喬嶽」。

【嶟】ソン。祖昆切 〔元〕シュン、將倫切 ソン、ズン。切
〔巵〕ソン、ゾン。徂本切 〔阮〕
峻しく秀でたる貌にいふ字、そばだつ、ひいづ、又、たかし、さがし。○〔揚雄〕「洪臺崛其獨出兮、擨ニ北極之—　—ニ」。

【嶠】ケウ、ゲウ。渠廟切 〔嘯〕
❶山の鋭くして高きもの、たかやま、一說に、水絕えたる陵。○〔王彪之〕「銘ニ跡峻—ニ」。
❷山の逕、やまみち。○〔顏延之〕「山祇蹕ニ—路ニ」。

【嶠】ケウ、ゲウ。巨嬌切 〔蕭〕
喬に通じ用ふ、たかし。

【嶡】ケイ、ケ。姑衞切 〔霽〕
山の崛起する貌にいふ字、そびゆ、そばだつ。

【嶡】ケツ、クヮチ。居月切 〔月〕
一種の俎、脚に横木のあるもの。○〔禮〕「夏后氏用レ—」。

【嶢】ケウ、ゲウ。古僚切 〔蕭〕
たかし、（高）。○〔漢〕「泰山之高嶕—」。
〔嶢々〕高き貌にいふ語。○〔後漢〕「—　—者易ニ缺」。
〔岧嶢〕前に同じ。○〔曹植〕「登ニ—　—之高岑ニ」。

【堋】ホウ。疋登切 〔蒸〕
くづる、（崩）。

十三畫

【巉】セン、ソン。之廉切 〔鹽〕
みね、（山峰）。

【嶦】セン、ソン・時豔切 〔豔〕
さか、（山阪）。

【嶧】エキ、ヤク。羊益切 〔陌〕
連なりつゞきたる山。○〔爾〕「屬者—」。

【嶨】カク、コク。苦角切 〔覺〕
大石の多き山、いしやま。○〔韓愈〕「吟ニ巴山犖—　—ニ」。

【嶔】イン、オン。於錦切 〔寢〕
山の岑の貌にいふ字、一說に、崟の字の譌。

【巎】ダウ、ナウ。奴刀切 〔豪〕
平—は、山の名。

【嶪】ゲフ、ゴフ。魚怯切 〔葉〕
たかし、（高）。○〔張衡〕「狀嵬峩以岌—」。

【嶫】前條に同じ。○〔何晏〕「峨々—　—」。

【嶒】クヮイ、エ。古外切 〔泰〕
山の貌にいふ字。○〔馬融〕「嶰嶨—　—蜺」。

【嶝】コツ、クチ。苦忽切 〔月〕
山の貌にいふ字、又、はげ山。

【嶬】ギ。宜崎切 〔支〕魚倚切 〔紙〕—一に、巇に作る。
けはし、さがし。○〔王延壽〕「上崎—　—而重注」。

【嶭】サイ、ゼ。徂賄切 〔賄〕〔說文〕本、作レ嶭、从レ山辥聲。
險峻にして齊しからざる貌にいふ字、かたいがひ、又、さがし、たかし、けはし。○〔沈炯〕「其世則嶔岑—嵬」。
〔嶭嶭〕けはし、又、けはしくしてかたゝがひなること。○〔張衡〕「上林岑以—　—」。
〔巢嶭〕けはしく齊しからざる貌にいふ語。○〔說苑〕「夫山龍蓯—　—」。

【嶛】ヘウ。甫遙切 〔蕭〕
山の峰の出づる貌にいふ字、ひいづ、そばだつ、一說に嶚に同じ。

【嶭】嶭に同じ。

【嶭】ガツ、ガチ。五割切 〔曷〕
たかし、（高）。○〔司馬相如〕「九嵕巀—」。
〔嶢嶭〕たかし。○〔左思〕「抗ニ旗亭之—　—ニ」。
〔嵳嶭〕前に同じ。○〔後漢〕「陟ニ九嵕ニ、而臨ニ—　—ニ兮」。

【嶬】コ、ク。姑戶切 〔麌〕古胡切 〔虞〕
山の名。

【嶮】ケン、虛檢切 〔琰〕ゲン、魚窆切 〔豔〕コン。切 ゴン。切
さがし、けはし、たかし。○〔郭璞〕「壯ニ天地之—介ニ」。

【嵷】ボウ、モ。莫紅切 〔東〕
山の名。

【嶭】ハイ、ヘ。方賣切 〔卦〕
山谷の泥、たに、たにあひ、又、たにあひの田。

【嶅】カウ、ゲウ。魚教切 〔效〕
山の高き貌にいふ字、たかし。

【嶾】ウン、ヲン。王問切 〔問〕
大—は、山の名。

【嶴】シ。之義切 〔寘〕
山の名。

【嶯】シフ、側立切 〔緝〕サフ、側洽切 〔洽〕ソフ。切 セフ。切
山の名。

【嶰】カイ、ゲ。胡買切 〔蟹〕居溢切 〔卦〕
❶山澗の間、たに、はざま、かひ。○〔左思〕「—　—澗閒岡」。
❷谷の名。○〔通鑑綱目〕「取ニ竹於—　—溪之谷ニ」。

【嵬】井。羽鬼切 〔尾〕
けはし、（險）、又、けはしき山。

【嵑】カツ、カチ。苦曷切 曷
山に石多くして高峻なる貌にいふ字、たかし、けはし、又、いしやま、たかやま。○〔張衡〕「其山則崆-峴-嵑-嵑」。
〔嵺嵑〕めぐりかゞまりてたかし。○〔杜甫〕「槃動殷二一-一ニ」。

【嶭】セイ。子計切 霽
山の名。

【嶲】スヰ。選委切 紙 ―本、巂に作る。
郡の名。

【嶒】サウ、シヤウ。充爭切 庚
衆くの山の奇怪なる形をなせるにいふ字。○〔揚雄〕「堪-一隱-倚」。

【嶵】
崒に同じ。

十四畫

【嶷】ギ。語其切 支
九一一は、湖南省にある山の名、舜を祀りたるゆゑに著し。○〔漢〕「祀二虞-舜於九-一一」。

【嶷】ギヨク、ゴキ。魚力切 職 ―本、嶬に作る。
㊀小兒知多し、さとし。○〔詩〕「克岐克一」。
㊁たかし、(高)。○〔史〕「其德一-一」。
〔明嶷〕さとし。○〔南〕「幼而一-一」。
〔英嶷〕すぐれてたかし。○〔南〕「氣調一-一」。
〔嶢嶷〕高し。○〔左思〕「一-一嶢-屼」。
〔嶫嶷〕たかし。○〔沈約〕「一-一山-峙」。
〔岌嶷〕前に同じ。○〔楊系〕「勢一-一以山峙」。
〔嶷嶷〕前に同じ。○〔徐彥伯〕「岱一-一兮清-嶂」。
〔端嶷〕正しく高し。○〔王僧孺〕「天-神一-一」。

【嚎】カウ、ゴウ。乎刀切 豪
山の名。

【巘】カン、ガン。俄寒切 寒 ―或は、巘に作る。
たかし、(高)。

【嶸】クワウ、ワウ。戸崩切 エイ、ヤウ。于兵切 庚
高峻なり、たかし、さがし。○〔班固〕「金-石崢-一」。

【嶠】カウ、コウ。呼高切 豪
山の名。

【䂵】サク、シヤク。士革切 陌
山の名。

【嶺】レイ、リヤウ。良郢切 梗
㊀延びつゞける山。○〔後漢〕「踰二越五一-一遠在二海-濵一」。
㊁山中の通行路、さか、やまみち。○〔沈約〕「置レ一白-雲間」。
㊂山のてッぺん、いたゞき、みね。○〔張文琮〕「飛-梁架二絕-一一」。
〔葱嶺〕新疆省の西北にある山脈。○〔漢〕「東則接二漢-阸一、以二王-門陽-關一爲レ界、限以二一-一一」。
〔秦嶺〕陝西省の鳳翔府の南にあるたけ。○〔韓愈〕「雲橫二一-一家何在」。
〔雪嶺〕四川省と西藏との境にある山脈。○〔蕭淨〕「沙-河一-一迷二朝-徑一」。
〔峻嶺〕けはしきたけ。○〔王羲之〕此地有二崇-山一-一茂-林修-竹一」。
〔複嶺〕かさなれるみね。○〔胡曾〕「重-岡一-一勢崔-嵬」。
〔叠嶺〕前に同じ。○〔杜甫〕「一-一宿二霾-雲一」。
〔晉嶺〕青空に聳えたる山。○〔陳子昂〕「不レ能下投二身一-一一、滅中景雲-林上」。
〔巖嶺〕岩石のみね。○〔韋表微〕「一-一秀則可ニ以韜二美-玉一」。
〔寥嶺〕洞穴あるみね。○〔李洞〕「一-一吟招レ隱」。
〔卑嶺〕たけ低きみね。○〔沈顏〕「後有二一-一一」。
〔缺嶺〕かけくぼめるみね。○〔晁補之〕「明-月出二于一-一一」。
〔危嶺〕けはしきみね。○〔戴冑〕「倂レ鞍憩二一-一一」。

【巔】ハ。普火切 哿
一一峩は、山坡の貌にいふ語。

【嶵】タイ、ヅイ。徒對切 隊 ―又、嶵に作る。
山の貌にいふ字。○〔左思〕「一-若二崇-山一崫-起而崔-嵬」。

【嶪】エフ。益涉切 葉
山谷の形にいふ字。

【嶼】シヨ、ソ。徐呂切 語
水中の小洲、こじま、しま。○〔郭璞〕「石-帆蒙-蘢以蓋レ一」。
〔洲嶼〕しま。○〔埤雅〕「行必依二一-一一」。
〔島嶼〕前に同じ。○〔江淹〕「望二一-一之遭-回一」。
〔雙嶼〕二つならべる小じま。○〔鮑照〕「要レ艷一-一裏」。
〔長嶼〕ながく橫たはれるしま。○〔王融〕「虛-檐對二一-一一」。
〔蔚嶼〕草木のしげれるしま。○〔吳筠〕「一-一非二一-狀一」。
〔連嶼〕いくつもならべるしま。○〔梅堯臣〕「一月陰-晴一-一間」。

【嶽】ガク、ゴク。五角切 覺
㊀高くして大いなる山、だけ。○〔禮〕「載二華-一一而不レ重」。
㊁立ちならべる貌にも、いかめしくかどくしき貌にもいふ字。○〔漢〕「五-鹿一-一、朱-雲折二其角一」。
〔五嶽〕周の時に至るまでは天下の山の宗となしたるは、華、嵩、恆、泰の四嶽なりしが、周に至りて此れに衡山を加へて五つとなす、嵩を中嶽といひ、泰を東嶽といひ、華を西嶽といひ恆を北嶽といひ、衡を南嶽といへり。○〔禮〕「一-一視二三-公一」。
〔喬嶽〕たかきたけ。○〔詩〕「涉二其高-山墮-山一-一一」。
〔河嶽〕かはとたけと、地上の有形の物にて最も高大なるもの、轉じて、地上の有形の物の總稱にも借りいふ語。○〔文天祥〕「下則爲二一-一一、上則爲二日-星一」。
〔槐嶽〕高位高官に借りいふ語。○〔後漢、註〕「童-蒙幼-子、巡登二一-一之位一」。
〔累嶽〕遠き處の義に借りいふ語。○〔宋〕「誠著二審-朝一、績宣二一-一一」。
〔蔚嶽〕あつまりならべる貌にいふ語。○〔鮑照〕「景-雲一-一、秀-星駢羅」。
〔畿嶽〕國内の義に借りいふ語。○〔王晙〕「一-一會-同」。
〔恩嶽〕恩を承くるの重きをたけに寄せいふ語。○〔黃滔〕「退愧單-寒終預レ此、敢將二一-一一意斯-須」。

【嶾】イン、オン。於謹切 吻
一-嶙は、山の峻しき貌にいふ語、たかし、けはし。○〔潘岳〕「裁二陂-陀一以一-嶙」。

【嶛】レウ。落蕭切 蕭
山谷の深くして廣き貌にいふ字、ひろし、ふかし。

【嶩】ダウ、ヂウ。女交切 肴
たかし、(崒)。

十五畫

【巀】サツ、サチ。才葛切 曷
山の短くして峻しき貌にいふ字、けはし。○〔揚雄〕「椓二一-嶭一而爲レ弋」。

【巀】セツ、ゼチ。昨結切 屑
山の高峻なる貌にいふ字、たかし、さがし、けはし。

【〓】リヨ、ロ。良倨切 御
山の名。

【〓】ガク、ギヤク。鄂格切 陌
山の高き貌にいふ字、たかし。○〔木華海賦〕「啓二龍門之岝ー一」。

【〓】クワウ、カウ。苦謗切 漾
山の名。

【〓】キウ、グ。渠弓切 東
山の形。

【〓】バ、マ。莫波切 歌
山の名。

【巁】レイ、ライ。力制切 霽　レツ、レチ。力蘖切 屑
たかし、(高)。

【〓】ライ、レ。落猥切 賄　一に、〓に作る。
山の貌にいふ字、高下ある貌にもいふ字。○〔左思〕「或嵬ー…而複陸」。
〔鬱〓〕高下ある貌にいふ語。○〔上林賦〕「隱轔鬱ーー」。
〔〓々〕前に同じ。○〔黄滔〕「路細石ーー」。

【〓】前條に同じ。

十六畫

【巃】ロウ、ル。盧紅切 東　魯孔切 董
㊀おこりふさがる貌にいふ字。○〔楚辭〕「嵐ー嵸兮石嵳峩」。
㊁山の峻しき貌にいふ字。○〔司馬相如〕「崇山矗々、ー嵸崔巍」。

【〓】ガク、ギヤク。逆各切 藥　本、崿に作る。
きし、(厓)。

【〓】ハウ、ヒヤウ。比孟切 敬
山峻し、たかし、けはし。

【巐】カク、コク。巨角切 覺　本、霍に作る。
山の名。

【〓】デウ、ヂウ。乃了切 篠
山の貌にいふ字。

【〓】クワイ、エ。戸乖切 佳　一に、〓に作る。
平かならざる貌にも、排べ積む貌にもいふ字。○〔左思〕「繚-碧素-玉、隱-賑歳ーー」。

【〓】前條に同じ。

十七畫

【巆】クワウ、カウ。呼宏切　クワウ、ワウ。呼萌切 庚
㊀山深し、おくふかし、又、山峻し、たかし、けはし。○〔揚雄〕「岭ー嶙峋」。
㊁石の相摩する聲にいふ字　○〔宋玉〕「礫磥-々而相摩兮、ー震レ天之礚-々」。

【巇】キ、ギ。許羈切 支　本、戲に作り、又、嚱に作る。
㊀山危險なり、あやふし、けはし。○〔張衡〕「嶮ー屹巇」。
㊁すきま、ひま、(罅-隙)。○〔揚雄〕「ー可レ抵乎」。
〔險巇〕けはしき貌にいふ語。○〔琴賦〕「丹崖ーー」。

【〓】セン。息淺切 銑
大山と連屬せざる小山。

【〓】嶾に同じ。

【〓】キク、コク。居六切 屋
山の高き貌にいふ字、たかし。

【巉】サン、ゼン。鉏咸切 咸　士檻切 豏
きりそぎたるやうに險絶なり、けはし、さがし、又、けはしき山。○〔宋玉〕「登二ー巖一而下望兮」。
〔巉巖〕山のけはしき貌にいふ語。○〔白居易〕「ーー蒼玉峰」。
〔巉巉〕前に同じ。○〔白居易〕「ーー崇山峭」。

【〓】ケン。九輦切 銑
屈曲す、かゞまる、まがる、又、結びて解けず、むすぼる。○〔東方朔〕「望二高山之ー嵯一」。

【〓】ビ、ミ。民卑切 支　一に、嵋に作る。
山の形。

【巊】エイ、ヤウ。於郢切 梗
山の貌にいふ字、又、山氣暗し、くらし。○〔左思〕「其山ー溟鬱-沸」。

【巋】キ。丘追切 支　苦軌切 紙
小さき山の衆くあつまりつらなれるもの、又、高大なる貌にいふ字、たかし、おほいなり。○〔王延壽〕「ー崒-崇」。獨立の貌にいふ字、ひとり、ひとりだつ。○〔莊〕「ー然有レ餘」。

【〓】キ。丘愧切 寘

【巕】嶭に同じ。

十八畫

【〓】ライ、レ。魯猥切 賄
壘に同じ。○〔司馬相如〕「隱崋鬱ー」。

【巀】サウ、ザウ。慈郎切 陽
岊ーは、山の高き貌にいふ語、たかし。

【巍】ギ。語韋切 微
高く大きなる貌にいふ字、たかし、おほいなり、又、獨立の貌にいふ字。○〔論〕「ーー乎唯天爲レ大」。
〔崔巍〕けはしく高し。○〔胡曾〕「軍聞復嶺勢ーー」。
〔嵬巍〕前に同じ。○〔王延壽〕「ーー嶇嶔」。
〔巖巍〕前に同じ。○〔荊居實〕「山ーー而造レ天兮」。

【〓】シヨウ、シユ。息勇切 腫
山峰のそびえ立てる貌にいふ字、そびゆ。○〔杜甫〕「風御冉以縱ーー」。

【巙】猱に同じ。

【巏】ケン。逵員切 先　クワン。古玩切 翰
山の名。

【〓】テウ。丑小切 篠
山の貌にいふ字。

【〓】ホウ、フ。敷馮切 東
山の名。

【⿱山繒】ソウ。資登切 蒸
山の高き貌にいふ字。

【⿱山鎰】イツ、イチ。以日切 質
山の高き貌にいふ字。

十九畫

【⿰山羅】ラ。良何切 歌 一に、⿱山羅に作る。
山の名。

【巑】サン、ザン。徂丸切 寒
山のさがしくそびえつらなれる貌にいふ字、又、鋭き山。○〔宋玉〕「盤-岸―-岏」。

【巒】ラン。落官切 寒
㊀さがれる小さき山、こやま、又、いたゞきの圓き處、みれ。○〔楚辭〕「登ニ石―ー以遠望兮」。
㊁山めぐり〳〵て引き連なる、めぐる。○〔徐悱〕「襟-帶盡巖―」。
〔重巒〕いくつもかさなりたる山。○〔成公綏〕「願因ニ行雲ー、超ニ――ー」。
〔層巒〕前に同じ。○〔楊涂〕「――枕ニ碧溪ー」。
〔岡巒〕をか、小山。○〔盧諶〕「――挺ニ茂樹ー」。
〔長巒〕長くつゞきたる山。○〔陸機〕「積-雪被ニ――ー」。
〔峯巒〕みね。○〔柳宗元〕「日-影下ニ――ー」。

【㠑】ル井。魯水切 紙
山の名。○〔山海經〕「―-山其上有レ玉」。

【⿰山難】ダ、ナ。囊何切 歌 一に、⿱難山に作る。
山の名。

【⿰山蠆】レイ、ライ。力制切 霽 一に、巁、⿰山萬に作る。
山のさがしく高き貌にいふ字。

【巓】テン。都年切 先
山の最も高き處、てッぺん、みれ、いたゞき。○〔謝惠連〕「縱レ轡萬-尋―」。
〔巖巓〕山のいたゞき。○〔李白〕「摧ニ勁-木于――ー」。
〔荒巓〕みたれ聳えたる山のいたゞき。○〔曾鞏〕「往-々環ニ――ー」。

【⿰山靡】ビ、ミ。莫彼切 紙
山の貌にいふ字。○〔王褒〕「倚-巇迤-―」。

二十畫

【巖】ガン、魚咸切 咸 ゲン、魚杴切 鹽
ゲン。切　ゴン。切
㊀大いなる石、いはほ、いは。○〔建安記〕「武-夷―-石悉紅-紫、望若ニ朝-霞ー」。
㊁きし、がけ（厓）。○〔後漢〕「壞レ崖破レ―之水、源自滑-々」。
㊂いはほにうがてる穴、ほらあな、いはあな、いはや（石-窟）。○〔長笛賦〕「蹈-―-寢」。
㊃いはほの積み重なりたる貌にいふ字、又、けはし、さがし（險）、又、たかし（高）。○〔左〕「制―-邑也」。
〔巖巖〕高くけはしき貌にいふ語。○〔詩〕「節彼南-山、維石――」。
〔嶄巖〕前に同じ。○〔杜甫〕「崑-崙月-窟東――」。
〔晃巖〕前に同じ。○〔李白〕「――汪-公棚」。
〔巉巖〕けはしき岩。○〔蘇軾〕「履ニ――ー、披ニ蒙-茸ー」。
〔嶔巖〕けはしきいはや。○〔公羊〕「殽之――、是文-王之所レ辟ニ風-雨ー者也」。
〔崇巖〕高き岩。○〔晉〕「其居依ニ――ー」。
〔窮巖〕深きいはや。○〔齊〕「其ニ字――ー」。
〔頽巖〕仆れたる岩。○〔隋〕「――寒レ川」。
〔岑巖〕高くけはしき岩。○〔管〕「山-陵――」。
〔叢巖〕むらがりてある岩。○〔范雲〕「――聳復垂」。
〔斷巖〕きりたちたる如き岩。○〔戴表元〕「――蒼-龍角」。

【巗】前條に同じ。

【巘】ケン、ゴン。語蹇切 阮
㊀甗の如き形をなす山、けはしきやま、一説に、山峰、みれ。○〔張衡〕「坂-坻巀-嶭而成レ―」。
㊁たかし（高）、けはし（險）。○〔韓愈〕「―-架ニ庫-廐ー」。
〔瓊巘〕玉の山。○〔七命〕「――嶒-峻」。
〔絶巘〕けはしきみね。○〔李嶠〕「桂-亭依ニ――ー」。
〔疊巘〕かさなりたる山。○〔王勃〕「規ニ――ー於盤-龍ー」。
〔層巘〕前に同じ。○〔黄庭堅〕「衝レ雪踏ニ――ー」。
〔巖巘〕けはしく高き貌にいふ語。○〔揮麈餘話〕「介-亭聳以――」。

【巙】キ、ギ。渠龜切 支
人の名。

廿一畫

【⿰山纍】⿰山累に同じ。

【巚】ケン、魚軒切 元 ゴン。牛偃切 阮
甗に似たる形の山。

【⿰山齧】ケツ、ゲチ。倪結切 屑
きりたつやうに高し、けはし、さがし。○〔張衡〕「⿰山歐巘屹―」。

廿二畫

【⿰山囊】ダウ、ナウ。乃浪切 漾
山の隈、くま。

廿四畫

【⿱山鱗】リン。離珍切 眞
山の名。

【⿱山靈】レイ、リヤウ。離呈切 庚
山の深き貌にいふ字。

廿九畫

【⿰山鬱】ウツ、ウチ。紆勿切 物
山に煙霧などのかゝりたる貌にいふ字。

巛部

【巛】川の本字。

【巛】古文の坤の字。

【⿱巛一】災の本字。

【𡿨】ケン。姑泫切 銑
㊀畎に同じ、うれ。
㊁小さき流れの水、こみぞ、廣さ一尺深さ一尺あるもの。

【巜】クワイ、ケ。古外切 泰
澮に同じ、廣さ二ひろにして深さ二ひろの溝、みぞ。

【巜】クワン。呼官切 寒
うろほふ、ぬる（濡）。

【川】セン。昌緣切 先
㊀かは。

(い)陸地のくぼみたる處を流るゝ長く大いなる水。○〔周〕「凡天下之地勢、兩山之間、必有レ川焉」。
(ろ)かはの神、水神。○〔禮〕「三王之祭レ川也」。
㊁あな、（竅、坑）。○〔山海經〕「倫山有レ獸、其川在二尾上一」。
㊂重々しく遲き貌にいふ字。○〔太元難〕「大車川川」。
〔三川〕今の河南郡にして河、洛、伊の三つのかはあるより其の名あり。○〔漢〕「斬二三川守李由一」。
〔四川〕今の十八省の一、岷、涇、白、黑の四つのかはあるより其の名あり。
〔口川〕下の例より人民の輿論の義に借りいふ語。○〔國〕「防二民之口一、甚二於防一レ川」。
〔名川〕名高きかは。○〔左〕「名山大川」。
〔支川〕本流より分かれたる水、えだがは。○〔宋〕「名山大川、貫穿周匝」。
〔大川〕流れ長くしてはばひろきかは。○〔書〕「隨レ山刊レ木奠二高山大川一」。
〔小川〕流れ短くしてはゞせまきかは。○〔論衡〕「大川相間、小川相屬」。
〔逝川〕ながれゆくかは。○〔李白〕「逝川與二流光一、飄忽不レ待レ時」。
〔晴川〕かはづらのはれわたりて遠くまで見ゆること。○〔崔顥〕「晴川歷々漢陽樹」。
〔勝川〕景色すぐれたるかは。○〔晉〕名山勝川」。
〔鑿川〕地を穿ちて川のながれより水を引くこと。○〔西京雜記〕「導レ水鑿レ川」。

三　畫

【巛】レツ、レチ。良薛切　屑
水の流るゝ貌にいふ字、ながる。

【𡿧】レツ、力蘗レチ。切　屑。ギツ、魚乙コチ。切　質。
前條に同じ。

【州】シウ、ス。職流切　尤

㊀水中の陸地、しま。○〔說文〕「昔堯遭二洪水一、民居二水中高土一、故曰二九州一」。
㊁土地、場處、ゐどころ。○〔謝朓〕「金陵帝王州」。
㊂くに、（國）。○〔左〕「白狄及レ君同レ州」。
㊃行政上の區劃、時代により異同あれども郡縣の上にあるもの。○〔後漢〕「刺史太守、專レ州典レ郡」。
㊄周時代にては、二千五百戸ある處の稱、轉じて、村落、邑里。○〔論〕「言不二忠信一、行不二篤敬一、雖二州里一行乎哉」。
㊅あつまる、（聚）。○〔國〕「羣萃而州處」。

【巟】クワウ、ワウ。呼光切　陽
㊀水廣し、ひろし。
㊁およぶ、（及）、いたる、（至）。

四　畫

【巠】ケイ、古靈キヤウ。切　迴
〔說文〕从二川在一一下一、一地也、壬省聲。
㊀みづすぢ、（水脈）。
㊁直に平たく流るゝ波。
㊂水冥し、ひろし、くらし。

【𡿺】イツ、于聿イチ。切　質。ケン、弧犬ゲン。切　銑
水流る。

【巡】シュン、ジュン。松倫切　眞
めぐる、まはる。
(い)視察循行す、みまはる。○〔書〕「五載一巡守」。
(ろ)あまねく徑歷す、ふる。○〔左〕「三巡數レ之」。
〔逡巡〕あとしざり。○〔漢〕「九國之師、逡巡遁逃、而不二敢進一」。
〔偏巡〕並び行く貌にいふ語。○〔後漢〕「偏巡歐新」。
〔徼巡〕視察して行く。○〔崔祐甫〕「誠二諸邏徼一、徼巡無レ失二」。
〔更巡〕いりかはりめぐる。○〔揚雄〕「陰陽更巡」。

八　畫

【巢】サウ、セウ。鋤交切　肴
㊀す。
(い)鳥のやどり棲む處、特に樹上のもの、（蟲類などにもいふとあり）。○〔詩〕「維鵲有レ巢、維鳩居レ之」。
(ろ)樹上のすみ家、又、枝、柴などを折りて構へたるすみ家。○〔禮〕「先王未レ有二宮室一、夏則居二營窟一、冬則居二橧巢一」。
(は)住處、部落。○〔北〕「傾レ巢盡レ落、屈レ膝稽顙」。
㊁すを構ふ、すくふ。○〔莊〕「鷦鷯巢レ林不レ過二一枝一」。
㊂つむ、（積）、又、たかし、（高）。○〔淮〕「譬若二周雲之龍蓯遼巢彭濞而爲一レ雨」。
㊃樂器の一、大なる笙、其の聲の高きよりいふ。○〔爾〕「大笙謂二之巢一」。
〔層巢〕たかき所にあるす。○〔路氏〕「居二層巢一以避レ難」。
〔故巢〕ふるす、もとのす。○〔晉〕「燕雀何徘徊、意欲レ還二故巢一」。
〔大巢〕實のらざる豌豆。〔小巢〕野豌豆の別名。○陸龜蒙詩序〕「大巢即豌豆不レ實者、小巢生二稻畦中一、一曰二野豌豆一」。
〔賊巢〕賊徒の居る根地。○〔唐〕「必覆二賊巢一」。
〔妖巢〕前に同じ。○〔薛能〕「妖巢已自焚」。

【巢】サウ、ゼウ。士稍切　效

だな、（棧閣）。

十二畫

【𢀖】ヨク、コク、獲北井キ。午逼切　ワク。切　職
水流る、ながる。

【巤】レフ。良涉切　葉
〔說文〕象二在一レ囟上、及毛髮巤巤之形一。
又、鬣にも作る。
㊀たてがみ。㊁鼠の毛。

工　部

【工】コウ、ク。古紅切　東
㊀たくみ。
(い)器物の製作を業とせるもの、諸匠。○〔禮〕「天子之六工、曰二土工金工石工木工獸工草工一」。
(ろ)器物製作の業、てわざ、巧藝。○〔史〕「天下已定法令出レ一、百姓當レ家力二農工一」。
(は)できばへの好きを、たえなるを、物事を善くするを、つたなからざること。○〔韓愈〕「瑟雖レ工如二王之不一レ好何」。
(に)事に任ること、功力、經營、はたらき、こと、いさなみ、さいく、わざ。○〔書〕「天工、人其代レ之」。
㊁公の職務を帶ぶる者、つかさ、官吏。○〔詩〕「嗟々臣工、敬二爾在一レ公」。
〔射工〕いさご蟲、人に毒氣を吹きかくるといふ。○〔博物志〕「射工蟲口中有二弩形一、氣射二人影一」。○
〔百工〕（い）百官といふに同じ、もろ〳〵のつかさ。○〔書〕「允釐二百工一」。
(ろ)もろ〳〵の材器を製作するたくみ。○〔周〕「國有二六職一、百工與居レ一焉」。

〔天工〕自然のたくみ。○〔趙孟頫〕「人-間巧-藝奪ニ—・—一」。
〔國工〕國中にて名あるたくみ。○〔周〕「輪人謂ニ之—・—一」。
〔良工〕善き職人。○〔孟〕「天-下之—・—也」。
〔賤工〕いやしき職人。○〔孟〕「天-下之—・—也」。
〔拙工〕つたなき職人。○〔孟〕「大匠不下爲ニ—・—一改-廢繩-墨上」。
〔妙工〕すぐれたるさいく　○〔李白〕「天人慚ニ—・—一」。
〔巧工〕上手なる職人。○〔西京雜記〕「長安—・—丁緩者、爲ニ常-滿-燈一」。
〔漆工〕うるしを用ふる職人。○〔後漢〕「傭爲ニ—・—一」。
〔染工〕そめものする職人。○〔北〕「—・—王神徽者、以レ路自進」。
〔錦工〕にしきを織る職人。○〔宋〕「多集ニ—・—一」。
〔線工〕裁縫のこと。○〔拾遺記〕「夜-來妙ニ手—・—一」。
〔篙工〕舟を使ふ者。○〔杜甫〕「—・—幸不レ溺」。

二畫

【左】サ。子我切　哿

㊀ひだり、（みぎの對）。
（い）人の南に向かひて東にあたる手の方。○〔詩〕「源-泉在レ—、淇-水在レ右」。
（ろ）低き地位、いやしきこと、ゑも、（支那にては時により右を尙ぶと左を尙ぶとの例あれども多くは右を尙びたるよりいふ）。○〔史〕「項-王王ニ諸-將於近-地一、而王獨遠居レ此、此—-遷」。
（は）ひだりのもの、ひだりの場所。○〔戰〕「我不レ能レ教ニ子支レ—屈レ右」。
㊁ゑもへ置く、下す、たふさばず。○〔史〕「—レ賢右レ戚」。
㊂理に戻りたること、宜しきに適はざること、よこしま。○〔禮〕「以ニ—-道一以亂レ政」。
㊃もとる、（戻）、又、たがふ、（差）。○〔朱松〕「未レ覺夙-心—」。
㊄助けず、疎んず。○〔左〕「天-子所レ右、寡-君亦右レ之、所レ—亦—レ之」。
㊅物事のたがひなきことを明かにする志るし、證據。○〔漢〕「—-驗明-白」。
㊆ひだりへ行く、ひだりす。○〔史〕「欲レ—-—」。

〔曠左〕長者に陪して車に乘るときの禮、車にてはひだりの方を尙ぶ。○〔禮〕「祥-車—レ—」。
〔尙左〕凶禮を除く以外に手を拱くにひだりの手を下にすること。○〔禮〕「孔-子與ニ門-人一拱-立而尙レ右、二-三-子亦尙レ右、孔-子曰、我則有ニ姊之喪一故也、二-三-子—レ—」。
〔章左〕上書などの文言を書き了はりたる餘白、別葉など。○〔後漢〕「分ニ別首-目一、道ニ置—・—一」。
〔表左〕前に同じ。○〔後漢〕「謹條下宜ニ施-行一七-事—・—上」。
〔如左〕上書、手簡などにて餘白別紙などに事を認めあることを前の文言にて知らするときに用ふる語。○〔後漢〕「謹并封奏—レ—」。
〔證左〕志るし、證據。○〔漢〕「召ニ會吏-民一、逮ニ捕—・—一」。
〔驗左〕前に同じ。○〔唐〕「—・—不レ存」。
〔道左〕ゆくみちのひだりばた。○〔晉〕「乃相率拜ニ于—・—一」。
〔閭左〕里門の左手に住める者。○〔漢〕「發ニ—・—之戍一」。
〔江左〕揚子江の上流に向かひて左の方卽ち江南のこと。○〔晉〕「奕-世多-才、興ニ於—・—一」。
〔遼左〕遼東のこと。○〔宋〕「日-邊鍾レ粹、—・—推レ雄」。

【左】サ。子賀切　箇

導く、たすく、（佐）。○〔書〕「周-公—ニ右先-王一」。

三畫

【巧】カウ、ケウ。苦絞切　巧　苦教切　效

たくみ。
（い）技術、わざ。○〔長笛賦〕「工-人—・—士」。
（ろ）堪能なること、はたらきあること、すばやきこと、手際すぐれたること、才智あること、さかしきこと、物をこしらへ事を作すに拙からざること。○〔老〕「大—若レ拙、大-辯若レ訥」。
（は）うはべのみを飾ること、眞ならざることを、いつはり、虛僞。○〔詩〕「—言如レ簧、顏之厚矣」。
（に）善きこと、好ましきこと。○〔詩〕「—笑倩兮」。

〔淫巧〕僞り飾りて法の如くせざること。○〔禮〕「毋ニ或作ニ爲—・—一、以蕩ニ上-心一」。
〔機巧〕機器のたくみ。○〔後漢〕「衒ニ善—・—一」。
〔文巧〕かざり僞る。○〔後漢〕「人尙ニ—・—一」。
〔捷巧〕すばやくたくみなること。○〔管〕「有ニ大-客一者、不レ可ニ責以ニ—・—一」。
〔天巧〕自然のたくみ。○〔王炎〕「玉-花萬-點出ニ—・—一」。
〔佞巧〕へつらひ上手。○〔漢〕「上ニ篤-厚一、下ニ—・—一」。
〔便巧〕前に同じ。○〔新語〕「—・—者近レ亡」。
〔諂巧〕前に同じ。○〔史〕「見レ謂ニ—・—一」。
〔傾巧〕前に同じ。○〔五〕「謙爲レ人、勤-敏而—・—」。
〔智巧〕わるたくみ。○〔嵇康〕「—・—滋繁」。
〔奇巧〕めづらしきたくみ。○〔劉瑜〕「窮ニ極—・—一」。
〔珍巧〕前に同じ。○〔晉〕「窮ニ盡—・—一」。
〔浮巧〕實用にならぬたくみ。○〔後漢〕「令下禁ニ奢-侈一、無上レ作ニ—・—之物一」。
〔邪巧〕よこしまなること。○〔後漢〕「絕ニ—・—之言一」。
〔憸巧〕前に同じ。○〔五〕「凝爲レ人—・—」。
〔伎巧〕たくみの技術。○〔後漢〕「—・—費ニ手毫-家一」。
〔飾巧〕かざり僞ること。○〔唐〕「貴-臣—・—以求レ媚」。
〔名巧〕上手。○〔魏〕「馬-先-生、天-下之—・—也」。
〔詐巧〕いつはりのゑわざ。○〔晉〕「且當ニ—・—一、不レ可ニ力-爭一也」。
〔辯巧〕辯說のたくみなること。○〔晉〕「—・—之文、可レ悅」。
〔雕巧〕はりかざること。○〔蘇舜欽〕「本不ニ自—・—一」。
〔淸巧〕俗氣を離れてたくみなること。○〔顏氏家訓〕「何-遜詩實爲ニ—・—一」。
〔堅巧〕堅固にてたくみなること。○〔甘澤〕「備極ニ—・—一」。
〔妍巧〕うつくしくたくみなること。○〔圖繪寶鑑〕「竹-樹點-綴、皆極ニ—・—一」。
〔繁巧〕たくみ多きこと。○〔何承天〕「—・—以興レ事」。
〔譏巧〕たくみに僞りつぐること。○〔曹植〕「—・—令ニ親疎一」。
〔精巧〕こまかくたくみなること。○〔梁元帝〕「雕-鏤—・—」。
〔纖巧〕ちひさきたくみ。○〔古樂府類編序〕「其末—・—而不レ振」。
〔偷巧〕いつはりかざること　○〔元稹〕「末-俗—・—」。

【巨】キョ、ゴ。其呂切　語

㊀おほいなり、（大）。○〔孟〕「爲ニ—-室一」。
㊁おほし、（多）。○〔史〕「京-師之錢、累ニ—-萬一」。
㊂詎に同じ、なんぞ、又、あに。○〔漢〕「公—能入乎」。

〔壯巨〕さかんにしておほいなり、立派なり。○〔晉〕「其物—・—」。
〔衆巨〕おほし。○〔道德指歸〕「物-類—・—」。

【巨】キョ、コ。求於切　魚

なかばならず（未-央）。

四畫

【巩】キョウ、キク。居悚切　腫

いだく、（攤）。

一に挙に作る。

【巫】ブ、ム。武夫切　虞

神を齋き祀り、樂、又、舞などして神おろしを行ふ者、又、單に、舞樂もて神に事ふるを業とする者、かんなぎ、特に、其の女子、をんなかんなぎ、みこ。○〔史〕「荊—祠ニ堂-下一」。

〔偭巫〕くせのみこ。○〔荀〕「—・—跛擊之事也」。
〔靈巫〕よきみこ。○〔易林〕「—・—拜-禱」。
〔覡巫〕男のみこと女のみこと。○〔國〕「在レ男曰レ—、在レ女曰レ—」。
〔淫巫〕みだりなるみこ。○〔唐〕「—・—㬥-祝、妄有ニ瞞-說一」。

七畫

【差】サ、シャ。初加切　麻

❶たがふ、ちがふ、又、たがふこと、たがひ、ちがふこと、ちがひ。
(い)合はず、かなはず。○〔漢〕「失二之毫-釐一、一以二千-里一」。
(ろ)たがはず、そむく。○〔司馬光〕「毋レ令二後-約一一」。
❷えらぶ、える、(擇)。○〔詩〕「既一二我馬一」。
❸瑳に通じ用ふ、あゝ、あ。
〔通差〕たがひて合はざること。○〔後漢〕「言-議一・一」。
〔偕差〕分限に越えたがふ。○〔漢〕「一・一無レ極」。
〔舛差〕たがひ。○〔蕭庭堅〕「失-參勘二一・一一」。
〔乖差〕もとりたがふ。○〔劉向〕「雖二蹇-々以中レ志兮、君一・一而屏レ之」。
〔銖稱差〕少しばかりのことをきりとして算すれば大いなる量にてはちがひあること。○〔枚乘〕「一・銖而一レ之、至レ石必一」。

【差】シ。叉宜切 支
❶彼此相齊等ならざるを、ふそろひ、かたゝがひ。○〔詩〕「燕-々于飛、一-池其羽」。
❷等級、區別、階段、わかち、しな。○〔史〕「長-少有レ一」。
❸次ぐ、ならぶ、つゞく。○〔元稹〕「鱗-一魚-戸舍」。
〔等差〕しな、わかち。○〔宋〕「詔定二輿・服一・一一」。
〔級差〕前に同じ。○〔揚雄〕「撩有二一・一一」。
〔隅差〕かどのたん。○〔淮〕「衣無二一・一之削一」。
〔參差〕(い)ひとしからざること。○〔詩〕「一・一荇菜、左右采レ之」。
(ろ)洞簫のこと。○〔楚辭〕「望二夫-君一兮未レ來、吹二一・一一兮誰思」。
〔差差〕ひとしからざる貌、又、ならぶ貌にもいふ語。○〔韓愈〕「劍鋒白一・一」。

【差】サイ、セ。初佳切 佳
❶送る、おくる、つかはす、又、つかはすこと、つかはすもの、つかひ。○〔唐宣宗詔〕「凡役-事委-令輪一・一」。
❷たがふ、ちがふ、ちがひ、たがひ。○〔周、註〕「同謂レ威二其不-協僭一一者一」。○
❸えらぶ、える、(擇)、又、とりしらぶ、けみす、(閱)。○〔詩〕「穀-旦于一」。
❹しな、わかち、區別、等級。○〔禮〕「其祿以レ是爲レ一」。
〔選差〕擇ぶ。○〔宋〕「委二中-書-門-下一一・一」。
〔擬差〕はかり擇ぶこと。○〔宋〕「乞レ送二轉-運-司一一・一」。
〔官差〕官のつかひ。○〔王建〕「一・一下射レ虎得レ虎「一遲」。
〔情差〕情をやる。○〔皮日休〕「五-更看レ月是一・一」。
〔勅差〕天子の命を帶びたるつかひ。○〔楊萬里〕「道-院一・一權-院-事」。
〔重差〕算數の法。○〔周、註〕「有二差-分一、今有二一・「一一」。

【差】サ。倉何切 歌
❶米をあらふ、(淅)、又、其れより取りたる白き水、しろみづ。○〔禮〕「御-者一二沐于堂-上一」。
❷爲したがふ、あやまつ、又、あやまつこと、あやまち、(過)。○〔楚辭〕「同論レ道莫レ一」。
❸蹉に通ず、つまづく。

【差】サイ、セ。楚懈切 卦
❶病除く、いゆ、(癒)。○〔魏〕「病小一」。
❷較べて少しくちがふ意を表はすに用ふる字、やゝ。○〔左〕「使レ不レ帆レ風一輕」。

【差】サ、セ。楚嫁切 禡
つれさちがひたること、異なること。○〔韓愈〕「掀レ鍛眞一-事」。

十二畫

【𢀩】古文の差の字。

己　部

【己】キ、コ。居擬切 紙
❶おのれ。
(い)他に對しての自稱、自家、自身、みづから、おの。○〔禮〕「貴レ人而賤レ一、先レ人而後レ一」。「禮」。
(ろ)私慾、わたくし。○〔論〕「克レ一復レ禮」。
❷をさむ、(紀)。○〔詩〕「式夷式一」。
❸十干の一、つちのと。○〔爾〕「太-歲在レ一曰二居-維一」。
〔知己〕おのれに心を寄せくるゝ人、おのれの器量を知る人。○〔史〕「士爲二一レ一者-死」。
〔正己〕おのれの心行をたゞしくす。○〔禮〕「一レ一而不レ求レ於レ人則無レ怨」。
〔直己〕前に同じ。○〔南〕「一レ一以行レ義」。
〔戊己〕十干のうち、つちのえつちのと。○〔禮〕「其日一・一」。「一」。
〔罪己〕自身を罪惡ありとて責む。○〔左〕「禹、湯一レ一」。○
〔潔己〕おのれを正しくして汚れたるをなくす。○〔晉〕「一レ一自守」。
〔枉己〕自身を正しくせず。○〔孟〕「未レ聞二一レ一而正レ人者一」。
〔寶己〕おのれをたます。○〔漢〕「爲二食-其一レ一、乃烹二食-其一」。
〔修己〕おのれの心行ををさむ。○〔左〕「一レ一而不レ責レ人、則免レ于レ難」。
〔謙己〕へりくだりて驕らず。○〔晉〕「一レ一以安二百-姓一」。
〔勵己〕おのれの心行をはげます。○〔晉〕「延二譽-言以一レ一」。
〔矜己〕おのれをほこる。○〔隋〕「恃レ才一レ一」。
〔去己〕私慾をすつ。○〔莊〕「棄レ知一レ一」。

【已】イ。養里切 紙 羊夷切 支
❶やむ。
(い)成して止む、なす、をはる。○〔易〕「一レ事遄往」。
(ろ)さる、(去)、すつ、(棄)、○〔論〕「三一レ之」。
(は)斷念の意を表はす字、やみなん、やんぬ。○〔屈平〕「一矣哉、國無レ人莫二我知一」。「輪一-祟」。
❷はなはだ、はなはだし、(甚)。○〔周〕
❸すでに。
(い)なしをはりし意をあらはすに用ふる字、とくに、もはや、はや。○〔史〕「一然-諾」。
(ろ)時を踰えて、程經て。○〔史〕「一而有レ娠」。
❹句の終はりに付加して用ふる斷定の意を表はす字、のみ。○〔漢〕「亦無レ及一」。
❺以に通じ用ふ、もッて、ゆゑ。○〔荀〕「人之所二以爲レ人者何一也」。
〔而已〕のみ。○〔論〕「夫-子之道、忠-恕一・一矣」。
〔不得已〕致し方なし、せんすべなし。○〔孟〕予豈好レ辯哉予一レ一レ一也」。
〔極已〕盡くること。○〔宋〕「不レ知二一・一一」。
〔休已〕やむ。○〔戰〕「日-夜行不二一・一一」。
〔業已〕すでに、とくに、はや。○〔史〕「士一・一屈レ首受レ書」。
〔旣已〕前に同じ。○〔史〕「一・一不レ可二奈-何一」。

【巳】シ、ジ。詳里切 紙
十二支の一、み、方位にては、東南方、昔時の時刻にては、晝の四つ、今の午前十時。○〔爾〕「太-歲在レ一曰二大-荒-落一」。
〔上巳〕時節の名。○〔後漢〕「是月一・一」。
〔初巳〕前に同じ。○〔陸機〕「元-吉隆二一・一一」。
〔元巳〕前に同じ。○〔南都賦〕「一・一之辰、方レ軌齊レ軫」。

一畫

【巴】ハ、ヘ。伯加切 麻

㊀古の郡の名、今の泗川省重慶の地方。○〔蜀〕「挾レ－跨レ蜀」。㊁物の其の中より巻き出でゝ盤る象、うづ巻き、ともゑ。○〔譙周〕「曲-折三-迴如二－字一」。㊂いやしき聲音。○〔李商隱〕「歌能莫レ雜レ－」。

二畫

【厄】グヮ。五果切 哿 牛戈切 麻

本、厄に作る。

【㠯】古文の以の字。

㊀きのふし、（木-節）。㊁肉なき骨。㊂つゝむ、（裹）、おほふ、（蓋）。

四畫

【巵】シ。章移切 支

㊀酒を盛る圓き器、さかづき、昔は容量四升の定めなりき。○〔史〕「奉二玉-－一、起爲二太-上-皇壽一」。㊁染料に用ふる草の名、べに、（烟-支）。○〔史〕「沃-野地饒レ－」。

（漏巵）水のもるさかづき。○〔鹽鐵論〕「－－不レ能レ滿」。

（瓊巵）玉のさかづき。○〔馬守眞〕「不レ共舉二－－一」。

（瑤巵）前に同じ。○〔王融〕「芳-萸絕二－－一」。

（流巵）水上に浮びながるゝさかづき。○〔高啓〕「沿レ洄引二－－一」。

五畫

【巹】キン、コン。居隱切 吻 又、卺に作る。

㊀身を敬みて承く、うく、又、のぶ、（舒）。㊁瓢を兩分したるさかづき、婚禮にて夫と婦と各其の一つを執りて酒を飮みてちぎりを結ぶ式に用ゆ。○〔儀〕「四-爵兩-－」。

（合巹）夫婦のちぎりのさかづきすること。○〔禮〕「－－而－」。

六畫

【巷】カウ、胡降切 絳 ゴウ。〔說文〕从レ邑从レ共、皆在二邑中一所レ共也。

㊀邑里の中にある往き來する路、曲かりたるまちすぢ、みち、ろじ、ちまた。○〔詩〕「－無二居-人一」。㊁邑里、むら、さと。○〔夢溪筆談〕「空レ－出遊」。㊂宮中の往き來するほそどの、廊下。○〔三輔黃圖〕「永-巷宮-中之長－」。

（塗巷）ちまた。○〔禮〕「宮-室－－」。

（陋巷）せまきちまた。○〔論〕「一-簞食一-瓢飮、在二－－一」。

（窮巷）前に同じ。○〔史〕「家乃負-郭－－」。

（隘巷）前に同じ。○〔史〕「棄二之－－一」。

（顏巷）前に同じ、顏回陋巷の故事あるよりいふ。○〔杜牧〕「一-瓢－－日空高」。

（永巷）（い）宮中の長きみち、ほそどの。○〔史〕「佯爲レ不レ知二－－一、而入二其中一」。（ろ）轉じて、後宮の義に借りいふ語。○〔後漢〕「掖-庭－－之職」。（は）罪ある宮女を幽閉する處。○〔列女傳〕「脫二簪-珥一待二罪－－一」。

（閭巷）邑里、又民間。○〔史〕「－－之人、欲二砥レ行立レ名者」。

（里巷）前に同じ。○〔元〕王佐教二授－－一、不二與レ時俯仰一。

（曲巷）まがりたる里のちまた。○〔溫庭筠〕「－－斜臨二一-水間一」。

（街巷）まち。○〔陸機〕「－－紛漠々」。

（委巷）まもぐ。○〔禮〕「此－－之禮也」。

（僻巷）かたよりたるまち。○〔張籍〕「長-安－－得二相隨一」。

（斜巷）遊女まち。○〔柳永〕「是處小-街－－」。

（大巷）人通り多きみち、又、幅ひろきみち。○〔北〕「立二榜－－一」。

（塡巷）ちまた一ぱいになる。○〔魏〕「車-騎－レ－」。○〔元稹〕「見-童－レ－傳」。

（滿巷）前に同じ、又、邑里到らぬくまなきこと。○

（空巷）ちまたに居るもののなき義にいふ語。○〔夢溪筆談〕「－レ－出遊」。

（衖巷）民間の義。○〔歐陽修〕「散二-髮林-丘一、幅二巾－－一」。

（黨巷）邑里。○〔周顗〕「－－閭-里之間」。

（村巷）むら、又、むらのみち。○〔王維〕「牛-羊自歸二－－一」。

（幽巷）しづかなるちまた。○〔韋應物〕「青-苔－－徧」。

（冷巷）さびしきみち。○〔白居易〕「－－閉レ門無二客到一」。

【巸】イ。與之切 キ。虛其切 支

㊀ひろし、（廣）。㊁ながし、（長）。㊂うつくし、（美）。㊃たのし、（樂）。

八畫

【巹】キ、ギ。奇已切 紙

長く踞る、うづくまる、ひざまづく、（跪）。

【𢀳】タク、竹角切 覺 トク。都木切 屋

星の名、龍尾。

【巷】キ。居之切 支

疾く走る、いかる。

九畫

【巽】ソン。蘇困切 願

㊀いる、（入）。○〔易〕「頻－吝」。㊁やはし、（柔）、又、ひくし、（卑）。○〔易、疏〕「能自卑－－者、亦無レ所レ不レ容」。㊂易の卦の名、☴巽下巽上。○〔易〕「－小亨」。㊃東と南との間、たつみ。○〔宅經〕「從レ乾向レ－」。㊄遜に同じ。○〔書〕「－二朕位一」。

（謙巽）へりくだること。○〔韓愈〕「－－滋甚」。

巾部

【巾】キン、コン。居銀切 眞

㊀おりもの、布帛、たんもの、きれ地。○〔北齊〕「故以二帛－一抹二其眼一、而使レ歷二-揆諸-人一」。㊁拭ふきれ地、てぬぐひ、ふきん。○〔禮〕「盥-卒授レ－」。㊂頭を包むかぶりもの、かしらづゝみ、づきん。○〔漢〕「泰嘗遇レ雨－一角墊、時-人乃故折二－一角一以爲二林-宗－一」其見レ慕如レ此」。㊃被らす、きす、（衣）、おほふ、（覆）。○〔禮〕「爲二天-子一削レ爪者副レ之－以レ絺」。㊄かざる、（飾）、一說に、ぬぐふ、（拭）。○〔孔叢子〕「－レ車命レ駕將レ適二唐-都一」。○

（幅巾）冠を著けざる者の冠の代りにいたゞくかしらづゝみ。○〔傅子〕「以二－－一爲レ雅」。

（幅巾之圖）

（角巾）處士のかぶるかしらづゝみ。○〔晉〕「旣定二邊-事一、當下－－東-路歸二故-里一」。

（緇巾）りんぞのきれにて作りたるかしらづゝみ。○〔陣興義〕「涼-氣入二－－一」。

（葛巾）くずぬのゝきれのかしらづゝみ。○〔語林〕「－－毛-扇、指二揮三-軍一」。

（禿巾）かしらづゝみしたるまゝにて冠を著けざること。○〔後漢〕「爲二九-列一不レ遵二朝-儀一、－－微行唐二突宮-掖一」。

（布巾）ぬの、きれ地。○〔周〕「祭-祀以レ疏－－冪二八-尊一」。

（解巾）かしらづゝみをとき去る、又、冠をとく、又、仕官する義にもいふ語。○〔後漢〕「詔-書切-逼不レ得レ已－レ－之レ郡」。

（飾巾）冠をきずして幅帛をもて首かざりとすること。○〔後漢〕「－－待レ終而已」。

（縞巾）練りたる白絹のかしらづゝみ。○〔晉〕「特-聽二－－－素-帶、居二師-友之位一」。

〔尖巾〕　さきのとがりたるづきん。　○〔五〕「又好₂裹—・—₁」。
〔綿巾〕　わたの織物。　○〔唐〕「紅・紫—・—」。
〔大巾〕　膝かけ。　○〔揚雄〕「蔽・膝、魏、宋、南・楚之間、謂₂之—・—₁」。
〔被巾〕　婦人の首にかくるきれ、ひれ。○〔揚雄〕「帍・襟謂₂之—・—₁」。
〔領巾〕　前に同じ。○〔雲笈七籤〕「崔・生妻擲₂—・—₁與₂謝・郎₁拭ₗ面」。
〔手巾〕　手拭。　○〔世説〕「取₂—・—₁」。
〔淨巾〕　僧侶のかうぶるづきん。　○〔陳陶〕「山・泉濯₂—・—₁」。
〔僧巾〕　前に同じ。○〔蘇軾〕「潔似₂—・—白₁」。
〔儒巾〕　學者のかうぶるづきん。　○〔林景熙〕「獨憐ₗ鏽肖—・—」。

（儒巾之圖）

二畫

【巿】
フツ、ホチ。　分勿切　物

帯に通じ作る、膝前を蔽ふきぬ、ひざかけ、まへだれ。○〔說文〕「韠也、上古衣蔽ₗ前而已、—・—以象ₗ之」。

【帀】
サフ、ソフ。　作答切　合

あまねし、（徧）、又、めぐる、めぐり、（周）。○〔徐鉉〕「日一日行一度、一歳往反而周—・—也」。

二畫

【市】
シ、ジ。　時止切　紙

㊀いち。
（い）數多人あつまりて物の賣り買ひをするを。○〔易〕「日中爲ₗ—、致₂天・下之民₁聚₂天・下之貨₁」。
（ろ）あつまりて物の賣り買ひをなす場處。○〔漢〕「庶・人謗₂于道₁、商・旅議₂于—₁」。
（は）人家あつまりてあきなひ賑はしき地、まち、都邑。　○〔後漢〕「未₃嘗入₂城—₁」。
㊁賣り買ひするを、利を圖るを、あきなひ、又、あきなひをなす、うる、かふ、あきなふ。　○〔論〕「沽₂酒—・脯₁」。
㊂彼れを取り此れを遣る、交換す、かふ（貿）。　○〔戰〕「不ₗ如下留ₗ之以—上ₗ地」。
㊃物の價、ねだん、さうば。　○〔周〕「以₂政・令₁禁₂物・靡₁而均ₗ—」。

〔互市〕　たがひに物をかふるを、交易。　○〔後漢〕「歲・時—・—」。
〔關市〕　せきしよといちと、即ち、貨物及び多人數の通ひ、又、あつまる處。　○〔孟〕「—・—譏而不ₗ征」。
〔朝市〕　（い）午前に立ついち。　○〔周〕「—・—朝・時而市、商・賈爲ₗ主」。
（ろ）官府と市場と。　○〔隋〕「雖ₗ龍₂絆—・—₁、且三・十・載ₗ、而獨・往之心、未₃始去₂懷・抱₁也」。
〔酒市〕　さけ賣るいち。　○〔韋莊〕「—・—多₂逋・客₁」。
〔燈市〕　燈籠を賣るいち。○〔葉適〕「—・—曉侵ₗ月」。
〔花市〕　はなのいち。　○〔陸游〕「人歸—・—路」。
〔蠶市〕　かひこのまゆをうりかひするいち。　○〔薛能〕「—・—歸・農醉」。
〔海市〕　海上の空に空氣の反射によりて陸上の人物家屋などの見ゆるもの、蜃氣樓。○〔隋唐遺事〕「此—・—蜃・樓比耳、豈長・久耶」。
〔夜市〕　よるたついち。○〔東京夢華錄〕「中・秋節—・—、駢・闐至₂于通・曉₁」。
〔都市〕　みやこ、まち。　○〔漢〕「日游₂—・—₁」。
〔交市〕　かへあふ。　○〔後漢〕「—・—於₂海・中₁」。
〔貿市〕　前に同じ。　○〔宋〕「歳增₂—・—₁」。
〔閭市〕　邑里のまちのと。　○〔歐陽修〕「天寒—・—閒」。
〔彊市〕　おしうり、又、非理の利を圖る。　○〔唐〕「呂・宗—・—罪當ₗ贖」。
〔坊市〕　まち。　○〔杜陽雜編〕「—・—豪・家」。

【帆】
キ、ギ。　渠伊切　支

伊—は、姓。

【帔】
ヒ。　卑履切　紙

裂け殘りたる帛、きぬぎれ。○〔荀〕「—・幓囊・橐不ₗ直ₗ錢」。

【布】
ホ、フ。　博故切　遇

㊀あさ、からむし、くずなどの纖維をもて織りたる物、ぬの。　○〔禮〕「毋ₗ暴ₗ—」。
㊁織り物。○〔魏〕「土・地肥・美曉₂蠶・桑₁作₂緜—・—₁」。
㊂しく。
（い）延ぶ。　○〔釋名〕「興ₗ物而作謂₂之興₁、敷₂—其義₁謂₂之賦₁」。
（ろ）ほどこす、（施）。　○〔後漢〕「未ₗ見下仁・德有ₗ所₂施・—₁、但聞₂罪・罰考・掠之聲₁」。
（は）陳列す、ならぶ、つらぬ、つらなる。○〔書〕「諸・侯入₂應・門₁右、皆—₂乘・黃・朱₁」。
（に）ちる、ちらす、（散）。　○〔左〕「皆自ₗ朝—・路而罷」。
㊃通用の貨幣、ぜに、かね、しき行はるゝ義よりいふ。
○〔周〕「掌₂邦・—之入・出₁」。

（戰國時代の一種の布）

㊄あまねく及ぼす書面、官府の命令、傳達書、ふれ。○〔唐〕「常・淸於₂幕・下₁、潛作₂捷—・—₁」。
㊅星を祭るを、ほしまつり。○〔爾〕「祭ₗ星曰ₗ—」。
㊆草の名。○〔爾〕「—似ₗ布、帛似ₗ帛、華・山有ₗ之」。

〔昆布〕　（植）こんぶ、一名綸布、海草の一。○〔本草集解〕「—・—亦名₂綸・布₁、生₂南・海₁、葉如₂手大₁、似₂薄・蒸・紫・赤色₁」。
〔金布〕　官府の金穀に關する命令をしるしたるもの。○〔漢〕「—・—令・甲」。
〔露布〕　（い）書狀の封をなさゞるもの。○〔後漢〕「乃—・—上書」。
（ろ）戰に勝ちたる報知、捷書、かちぶれ。○〔魏〕「獲₂賊二三騎・馬數疋₁、皆爲₂—・—₁臣實恥ₗ之」。
〔疏布〕　きめのあらきぬの。　○〔周〕「祭・祀以₂—・—巾₁冪₂八・尊₁」。
〔刀布〕　刀形の錢。　○〔唐〕「—・—爲₂下・幣₁」。
〔楊布〕　きめのあらくして厚き布の名、又、答布ともいふ。　○〔史〕「—・—皮・革千・石」。
〔泉布〕　錢を稱していふ。○〔陳造〕「行・客乞₂—・—₁」。
〔瀑布〕　たき、飛泉。　○〔庾信〕「長・虹雙—・—」。
〔流布〕　汎くしく。　○〔雲笈七籤〕「四・體皆—・—」。
〔陳布〕　しきならぶ。　○〔宋〕「—₂—・—將・士于衙左右₁」。
〔毛布〕　けおりもの。　○〔詩、註〕「褐—・—也」。
〔緇布〕　黑色のぬの。　○〔禮、義〕「始冠ₗ之、—・—之冠也」。
〔宣布〕　徧くのべしく。　○〔漢〕「祖₂述其書₁、遂—・—焉」。
〔征布〕　市場より取り立てたる稅布。○〔周〕「掌ₗ以₂市之—・—₁、斂₂市之不ₗ售貨之滯₁于民・用₁者ₗ」。
〔夫布〕　周の法にて職業のなき浮游の徒より取りたつる稅布。　○〔周〕「凡無ₗ職者出₂—・—₁」。
〔總布〕　周の法にて商店より取る稅布。　○〔周〕「掌下斂₂市—・—總・布質・布罰・布廛布₁、而入中于泉・府上」。
〔總布〕　斗斛權衡の稅布をいふ、例前に出づ。
〔質布〕　手形の法を犯したる者より取り立つる布、例前に出づ。
〔罰布〕　市場の規則を犯したるものより罰として取り立つる布、例前に出づ。
〔廛布〕　貨物邸舍より取り立つる稅布、例前に出づ。
〔展布〕　陳述するを。○〔左〕「使ₗ陪・臣敢—₂—之₁」。
〔分布〕　わかれしきならぶ。　○〔劉克莊〕「—・—如ₗ備ₗ塞」。
〔貨布〕　漢時代の錢の名、轉じて、通用の貨幣。　○〔漢〕「罷₂大・小錢₁、改作₂—・—₁」。
〔周布〕　めぐりならぶ。　○〔後漢〕「竹・木—・—」。
〔麻布〕　あさにて織りたるぬの。　○〔周書〕「其俗少₂桑・蠶₁、多₂—・—₁」。

(練布) ねりたるぬの。○(晉)「乃與ニ朝賢一、倶制ニ｜｜單衣一」。
(羅布) ならぶ。○(成公綏)「萬國｜｜」。
(聯布) 前に同じ。○(宋)「親姻｜｜」。
(遠布) 遠方にまでしく。○(宋)「其名聲｜｜如レ此」。
(遐布) 前に同じ。○(隋)「聲烈｜｜」。
(碁布) ご石の如くにならぶ。○(舊唐)「列俎｜｜」。
(傳布) つたはりしく。○(唐)「一時｜｜」。
(緇布) 薄黑のぬの。○(宋)「出而見レ客則以ニ｜｜一」。
(遍布) あまねくしく。○(宋)「眞風｜｜」。
(敷布) のべしく。○(釋名)「｜ニ｜其義一謂ニ之賦一」。
(綸布) (植)こんぶ。○(本草)「｜｜一名昆布」。
(散布) ちりぐになる。○(韓愈)「｜｜忽無レ垠」。
(昭布) 明かにしく。○(張庭珪)「聖德｜｜」。
(鱗布) うろこの如くならぶ。○(胡璉)「玄甲｜｜」。
(火浣布) 火の中に入るゝも燒けぬぬの、名。○(魏)「西域重譯獻ニ｜｜｜一」。

三畫

【帇】 ジン、ニン。而振切 眞 ジツ、ニチ。入質切 質 まくらかけ、(枕巾)、又、てぬぐひ、ふきん(巾)。

【帎】 テウ。都了切 篠 かしらづゝみ(繒頭)。

【⿰巾犬】 ハイ、ベ。步昧切 隊 おほぬの、ふとぬの(大布)。

【⿱亡巾】 クヮウ、ワウ。呼光切 バウ、マウ。謨郎切 陽 ㊀きれ、(巾)、㊁たび、(襪)、㊂とばり、(帳)。

【⿰巾干】 カン。居案切 翰 ぬのぶくろ(布袋)。

【⿰巾干】 ケン、コン。許偃切 阮 幰に同じ、くるまのとばり、(車幰)。

【帆】 ハン、ボン。符炎切 咸 扶泛切 陷
㊀船の上に樹てたる柱に揚げ張りて風を受くる幔、即ち、風の力によりて船の進行をたすくるもの、ほ。○(馬融)「張ニ雲｜一施ニ蜺幬一」。
㊁ほを揚げ張る、ほをかく、ほをあぐ。○(韓愈)「無レ因レ｜ニ江水一」。
(雲帆) 舟の速きより帆の雲間に見ゆるをいふ。○(沈佺期)「茫々理ニ｜｜一」。
(布帆) ぬのにて作りたる舟上のほ。○(皮日休)「｜｜晴照海邊霞」。
(挂帆) はをあぐ。○(戴表元)「｜｜安坐過ニ姑蘇一」。
(錦帆) にしきの織物にて作りたるほ。○(開河記)「｜｜過處、香聞ニ十里一」。
(風帆) 風を孕みたるほ。○(溫庭筠)「｜｜一片水連レ天」。
(蒲帆) がまぐさにて織りたるほ。○(李端)「｜｜輕似レ葉」。
(落帆) ほをまきさぐること。○(湛方生)「｜｜修ニ汎渚一」。
(解帆) ほをとく。○(杜甫)「｜｜歲云暮」。
(卷帆) ほをまく。○(黃庚)「孤舟｜｜泊ニ煙嶼一」。
(揚帆) 擧帆に同じ、帆をあぐること。○(劉潛)「｜｜乘ニ浪華一」。
(行帆) 遠方にゆく舟のほ。○(何遜)「蕭々｜｜擧」。
(征帆) 前に同じ。○(孟浩然)「日暮｜｜泊ニ何處一」。
(疾帆) とく走る舟のほ。○(何遜)「蕭條｜｜流」。
(晚帆) 日暮れて行く舟のほ。○(陰鏗)「天際｜｜孤」。
(暝帆) 前に同じ。○(孟浩然)「｜｜何處宿」。
(石帆) (植)いはひばの一名。○(左思)「｜｜水松」。

【⿰巾彡】 サン。蘇甘切 覃 衫の破れたる貌にいふ字。

【⿰巾聿】 デフ、ネフ。尼輒切 葉 手足の運び敏捷なり、はやし、すばやし。

四畫

【⿰巾及】 カフ、コフ。古沓切 合 蒲席もてしつらへ轂を藏むるもの、たはら、一說に、車に藉くもの、くるまじき。

【帉】 フン、ボン。撫文切 文 物を拭ふに用ふる巾、ふきん、てぬぐひ。

【⿱分巾】 前條に同じ。

【⿰巾比】 ヒ、ビ。房肥切 支 ぬの、(布)。

【⿰巾比】 ヒ、ピ。符鄙切 紙 一に帔に作る。 帛裂く、又、きぬぎれ。

【⿰巾欠】 テン。丑琰切 琰 下を護りて浴するときに用ふる巾、ゆまき。

【⿰巾夫】 フ、ブ。甫無切 虞 袪に同じ、衣の前襟、まへえり。

【帊】 ハ、ヘ。普駕切 禡 ㊀二はゞの帛。㊁頭をつゝむ巾、かしらづゝみ、はちまき。○(蘇軾)「絳｜蒙レ頭讀ニ道書一」。㊂衣類をつゝむ巾、ふろしき。㊃とばり、(帳)。○(西京雜記)「表以ニ牙籤一、覆以ニ錦｜一」。

【帊】 ハ、ヘ。披巴切 麻 きぬぎれ、(殘帛)。

【帋】 紙に同じ。

【⿰巾介】 カイ、ケ。居拜切 卦 かしらづゝみ、づきん、(幘)。

【⿰巾内】 ダイ、ナイ。奴對切 隊 旆の垂るゝ貌にいふ字。

【⿰巾夬】 ケツ、ケチ。古穴切 屑 てぬぐひ、(帨)。

【希】 キ、ケ。香衣切 微
㊀多からぬこと、まれ、すくなし、まれなり、あらく、あらし。○(老)「知レ我者｜則我貴」。
㊁やむ、(止)。○(論)「鼓レ瑟｜、鏗爾舍レ瑟而作」。
㊂求む、こひねがふ、のぞむ、(望)。○(後漢)「海內｜レ世之流」。
㊃聲なきこと、しづか。○(左)「無レ聲謂ニ之｜一」。
㊄やすり、(摩鋁)。○(揚雄)「燕、齊、摩鋁謂ニ之｜一」。
(幾希) なきに近し。○(孟)「其好惡與レ人相近也者｜｜」。
(鮮希) すくなし、まれなり。○(蔡邕)「察ニ其所レ履、世之｜｜」。

【帍】 コ、ク。侯古切 麌 婦人の首飾りに卷く巾、ひれ。○(揚雄)「｜陵謂ニ之被巾一」。

【⿰巾少】 サ、シャ。戻加切 麻 細き絲、ほそいと。

【⿰巾少】 ベウ、メウ。彌遙切 蕭

目の細き網。

【巾爪】サウ、セウ。側巧切 巧 かしらづゝみ。

【巾今】ケン、ゴン。巨淹切 鹽 きぬ（帛）。

【巾冘】タン、トン。丁紺切 勘 冠をつけて前に俯す、ふす。

【巾夭】アウ、オウ。烏浩切 晧 年貢に出だす織物、征巾。

五畫

【巾冬】トウ、ヅ。徒冬切 冬 ふきん。

【夗巾】エン、チン。於袁切 元 前條に同じ。

【巾甫】ホ、フ。普故切 遇 てぬぐひ、ふきん。

【巾宁】チョ。展呂切 語 ひつぎを覆ふきぬ、ひつぎかけ（棺-衣）。一に、褚、又は、幁に作る。

【帑】ド、ヌ。農都切 虞 孥に通じ用ふ、妻と子と、又單に、こども、こ、又、鳥の尾。○〔左〕「秦人送二其一一」。

【帑】タウ、トウ。他朗切 養 通用貨幣を納め置く處、かねぐら、くら。○〔唐〕「供二天-子私-一一」。

〔府帑〕かねぐら。○〔後漢〕「轉-運之費、空二竭一-一二」。
〔倉帑〕こめぐらとかねぐらと。○〔後漢〕「賞-賜過レ制、一-一爲レ虛」。
〔公帑〕官のかねぐら。○〔唐〕「有-中-使者一、帥-悉二一-一一市レ獻」。
〔禁帑〕宮中のかねぐら。○〔唐〕「請斥二一-一絹十-萬一、以濟二事-機一」。

【巾必】ヒツ、ビチ。薄必切 質 たれぬの、まく、とばり（幔）。

【巾召】テウ。癡宵切 蕭 細き絲、ほそいと。

【巾正】セイ、シヤウ。諸盈切 庚 まと（射-的）。一に、正に通じ作る。

【巾弗】フツ、ホチ。敷勿切 物 髮をつゝむに用ふる巾、かみづゝみ。

【帒】タイ、ダイ。徒耐切 隊 嚢の類、ふくろ。

【帓】バツ、マチ。莫撥切 曷 バツ、メチ。莫轄切 黠 ㊀づきん（巾）、又、はちまき（幧-頭）、一に、鞨に作る。㊁おび（帶）。㊂たび（足-衣）。

【此巾】シ。將支切 支 布の名、錫布の尤も精好なるもの。○〔急就篇〕「服-瑣緰-一與レ緡連」。

【此巾】シ。唯氏切 紙 てぬぐひ、ふきん。

【帔】ヒ。披義切 寘 敷羈切 支

㊀もすそ、すそ（）。○〔揚雄〕「帬、陳、魏之間、謂二之一一」。㊁兩袖なきはおり、そでなしばおり（褙-子）。○〔南〕「昉-子西-華冬-月著二葛-一練-裙一」。

【巾句】コウ、ク。恪侯切 尤 ゆがけ（指-沓、射-決）。

【巾句】ク、グ。權倶切 虞 くつさきのかざりいと、くつかざり（繶-繩-絇）。

【帕】バツ、メチ。莫轄切 黠 布もて頭のはちを卷くもの、はちまき（抹-額）。○〔韓愈〕「以レ錦纏レ股、以レ紅一レ首」。

【帕】ハ、普駕切 禡 ハク、ビヤク。莫白切 陌 人の腹に卷く帶、はらおび、はらまき（腹-卷）。

【帖】テフ、デフ。他協切 葉 ㊀帛に字を書きしるしたるもの、又、紙、きれ地などに字を書きしるしたるもの。○〔宋〕「筆-法遒-媚、書一之出、人多傳-倣」。㊁張り札、びら、付箋。○〔南〕「百-姓那得下家-々題二門-一一賣中宅上」。㊂牀の前に垂るゝとばり。○〔釋名〕「牀-前帷曰レ一」。㊃てがた、わりふ（劵）。○〔李存義〕「省-符郡-一一-朝下」。㊄進士に題を與へて試驗すること。○〔唐〕「一三-言、講-者二-千-餘-言」。㊅さだまる（定）。○〔稿簡贅筆〕「多採二方-言一、用レ之穩-一、不レ覺レ爲レ俗」。㊆つく（著）。○〔歐陽修〕「將レ凝二一乎萬-方一」。

〔帖帖〕（い）ゆったりとして定まる貌にいふ語。○〔杜牧〕「壞-宇寬一-一」。（ろ）つきつく貌にいふ語。○〔韓偓〕「風-襟寒一-一」。
〔試帖〕經書の試驗に用ふるふだ、又、其の試驗。○〔唐〕「明-經一-一」。
〔妥帖〕定まれること。○〔陸機〕「或、一-一而易レ施」。
〔堂帖〕唐の時代に宰相判事堂案ありて百事を處分することをいふ。○〔方回〕「聞早下二一-一一」。
〔醉帖〕醉中のかきもの。○〔陸游〕「一-一淋-漓寄二素-壁一」。
〔安帖〕やすらかなること。○〔金〕「表-裏相應遂獲二一-一一」。
〔法帖〕筆蹟の師法となすべき帖。○〔法帖譜系〕「此歷代一-一之祖」。
〔釘帖〕くぎにてつくること。○〔鐵圍山叢談〕「遂釘二陳-密所-布而一二一-一之一」。
〔臨帖〕習字本、てほん。○〔沈周〕「閑翻二酒-劵一供二一-一一」。

【帗】フツ、ホチ。敷勿切 物 五采の繒を析きてこしらへ、舞に用ふるもの。○〔周〕「凡舞有二一-舞一」。

【巾发】ハツ、ハチ。北末切 曷 一幅のきれ。

【帘】レン、ロン。離鹽切 鹽 酒屋のめじるしに立つる旗、さかばた。○〔鄭谷〕「青-一認二酒-家一」。

〔酒帘〕さかばた。○〔李中〕「閃-々一-一招二醉-客一」。

【帘】シン、ジン。鋤臻切 眞 エウ。一叫切 嘯 まく（幕）。

【帙】チツ、デヽ。直質切 質

㊀書卷を被ひつゝむもの、ふまき、ふみづゝみ（書衣）。○〔梁昭明太子〕「飛文染翰、則卷盈二乎緗——一」。
㊁ちひさきふくろ、こぶくろ（小囊）。
〔隱帙〕かくれたる書籍づゝみ、即ち、深く藏めたる書籍をいふ。○〔唐〕「隱試問二奥篇——一、了辯如レ響」。
〔書帙〕書籍づゝみ。○〔拾遺記〕「剝二樹皮一編以爲二——一」。
〔緹帙〕赤色の帙。○〔王僧孺〕「飾文——」。
〔縹帙〕はなだ色の帙。○〔唐太宗〕「——舒還卷」。
〔部帙〕類別したる帙。○〔北〕「——之間、仍有二殘缺一」。
〔積帙〕つみかさねたる帙。○〔皮日休〕「——及二梁栝一」。
〔梵帙〕佛書のこと。○〔呉師道〕「休レ吟散二——一」。

【㡀】ヘイ、バイ。毗祭切　ヘイ、ハイ。匹曳切　霽
㊀衣壞る、やぶる、又、やぶれ衣。㊁鄙しく小さし、いやし。

【帚】シウ、シュ。止酉切　有
㊀地上の塵穢をはらふに用ふる具、はゝき、はうき。○〔揚雄〕「或擁二——一彗而先驅」。
㊁掃ふ、はく。○〔南〕「令三二人交——二拂其坐處一」。
〔箕帚〕ちり取りとはゝきと、又、轉じて、掃除する義に用ふ。○〔杜甫〕「客位但——」。
〔掃帚〕はゝき。○〔書苑〕「取二——一沾二泥汁一書レ壁」。
〔敝帚〕やぶれはゝき。○〔袁桷〕「殘花擁二——一」。
〔王帚〕（植）はゝきゞ、一に落帚に作る。○〔爾、註〕「——也、似二藜其樹可一レ爲レ掃」。

【帛】ハク、ビヤク。薄陌切　陌
蠶の絲にて織りたる織物、きぬ、きぬぢ。○〔易〕「賁二于丘園一、束——戔々」。
〔執帛〕官の名。○〔漢〕「乃封レ参爲二執——一」。
〔幣帛〕賓客に贈答するきぬ、又、ぬさ。○〔禮〕「出二——一周二天下一」。
〔大帛〕厚ききぬ、又、其れにてこしらへたる冠の名。〔禮〕「——不レ緌」。
〔通帛〕はたのこと。○〔東京賦〕「——精旆」。
〔玉帛〕たまときぬとの幣物。○〔左〕「執二——一者萬國」。
〔竹帛〕書冊。○〔呉越春秋〕「名可レ留二於——一」。
〔采帛〕彩色あるきぬ。○〔曹植樂府〕「——若二烟雲一」。
〔澣帛〕洗濯したるきぬ。○〔禮〕「衣二其——一」。
〔裘帛〕かはごろもときぬと。○〔禮〕「可下以衣二——一舞中大夏上」。
〔綈帛〕ぬひのあるきぬ。○〔周、疏〕「故知幣貢中有二——一也」。
〔綾帛〕あやなききぬ。○〔管〕「令下諸侯以二——一鹿皮一報上」。
〔縉帛〕きめのこまかなるきぬ。○〔史〕「若貪二漢——一」。
〔璧帛〕ひらたき形のたまときぬと又、幣物。○〔高士傳〕「王使二人聘以一——一」。
〔粟帛〕もみときぬと。○〔後漢〕「賜二民爵及——一、各有レ差」。
〔　帛〕こまやかに織れるきぬ。○〔後漢〕「賜二金錢——一」。
〔豐帛〕ゆたかなるきぬ。○〔宋〕「——之温」。
〔琛帛〕うつくしき寶ときぬと。○〔李白〕「奉二珪璋一、獻二——一」。

【⿰巾乍】サク。疾各切　藥
あかきかみ（幘絃）。

【⿰巾幼】アウ、エウ。於教切　效
㊀くつのたび、（靴襪）。㊁たびのうへ、（襪上）。

【⿰巾付】フ、ブ。符遇切　遇
きぬ、（帛）。

六畫

【帝】テイ、タイ。都計切　霽
㊀あきらか（諦）。○〔書、疏〕「天蕩然無心、忘二于物我一、公平通遠、擧レ事審諦、故謂二之——一」。
㊁天地萬物をつかさどるもの、造化、天。○〔老〕「象二——之先一」。
㊂造化にかはりて天下を支配する人、天子、すめらみこと、みかど、きみ。○〔左〕「順二——之則一」。
〔上帝〕天上にある萬物主宰の神。○〔易〕「亨以享二——一」。「禁宮也」。
〔天帝〕前に同じ。○〔雲笈七籤〕「四司者——之」。
〔后帝〕天子といふに同じ。○〔詩〕「皇々——」。
〔皇帝〕前に同じ。○〔史〕「號曰二——一」。
〔五帝〕（い）少昊、顓頊、帝嚳、帝堯、帝舜を稱していふ。○〔史〕「昔者——地方千里」。（ろ）天上に在りて最貴の神を輔佐する五帝をいふ。○〔史〕「泰一佐曰二——一」。
〔雩帝〕雨ごひすること。○〔漢〕「祭レ天祈レ雨、曰二——一」。
〔望帝〕蜀王杜宇の死にてほとゝぎすの形に化したりといふ故事よりほとゝぎすを稱するに用ふ。○〔杜甫〕「古事杜宇稱二——一」。

【⿰巾夸】クワ、ケ。苦瓦切　馬　カイ、ケイ。枯買切　蟹
㊀膚につくる短き衣、はだぎ、ぢゆばん、襯衣、小衫。㊁衿袍、えり。

【帞】ハク、ミヤク。莫白切　陌
邪に頭に捲く巾、はちまき、かしらづゝみ。○〔揚雄〕「絡頭——頭也」。
〔横帞〕はちまき、かしらづゝみ。○〔釋名〕「其從レ後——而前也」。

【⿰巾劦】ケフ、ゲフ。胡頰切　葉
古昔、支那にて禮服に用ひたる帶、おほおび、束帶。

【⿰巾式】拭に同じ。

【⿰⿱𠂉巾刂】レイ、ライ。力制切　霽　一に、⿰巾列に作る。
殘餘の帛、きぬぎれ。○〔左思〕「秦餘徙——」。

【⿰巾夷】イ。羊脂切　支
衣服の貌にいふ字。

【帟】エキ、ヤク。羊益切　陌
横に張る帳、ひらさばり、まく。○〔周〕「掌二帷幕幄——綬之事一」。
〔帷帟〕まく、まくの裡、轉じて衆人會座ならざるとこ、秘密の計畫所。○〔後漢〕「定二策——一」。
〔幕帟〕まく。○〔彭汝礪〕「遠空低二——一」。
〔帳帟〕前に同じ。○〔唐〕「——什器」。
〔重帟〕二へのまく。○〔周〕「設二——一重案一」。
〔雲帟〕天子の用ふるもの、くものかたあるまく。○〔齊〕「垂二拱——一」。
〔黼帟〕白と黑との文あるまく、前に同じ。○〔舊唐〕「——周レ庭」。
〔赤帟〕あかきいろのまく。○〔汲冢〕「張二——一陰羽一」。
〔油帟〕雨濕を防ぐ爲めにあぶらを塗りたるまく。○〔程史〕「雖二風雨一亦張二——一」。

【⿰巾巟】クワウ、ワウ。呼光切　陽
㊀布帛絲などに色をほどこす職人、そめものや。○〔周〕「——氏湅レ絲」。㊁上を掩ふ巾、まく、とばり、おほひ。

【⿰巾旬】シュン。須倫切　眞
えりさき（領耑）。

【帠】ケイ、ガイ。研計切　霽
のり（法）。○〔莊〕「女又何——以治二天下一、感二予之心一爲」。

【帡】俗の帲の字。

【帢】カフ、ケフ。苦洽切　洽
帽の一種、ゑぼし、かしらづゝみ、魏の太祖の創始にかゝるといふ。○〔晉〕「夢二白頭公衣一レ——」。
〔白帢〕しろきいろの巾にてこしらへたるゑぼし。○〔晉〕「魏武帝裁二縑帛一爲二——一」。

〔錦帢〕にしきの巾にてこしらへたるゑぼし。○〔王粲〕「要戴傾——」。
〔顔帢〕前後を認め易からしむる爲めに前に縫ひの施しあるゑぼし。○〔無顔帢〕其の前後のしるしの縫ひのなきゑぼし。○〔晉〕「初魏造二白帢一、横二縫其前一、以別二後、名レ之曰二顔帢一、永嘉之間、稍去二其縫一、名レ之曰二無顔帢一」。

【帣】ケン。居倦切 霰 古轉切 銑 ケン、ゲン。逵員切 先
ふくろ、（囊）。○〔史〕「—韝鞠-膯」。

【⿰巾同】トウ、ツ。他東切 東
外國の衣服、えびすのきもの。

【⿰巾共】コウ、ク。胡公切 東
幟の類、はたぶるし、はた。

【帤】ヂョ、ニョ。女余切 魚
㊀ふきん、てぬぐひ、又、かしらづゝみ。○〔揚雄〕「—大巾也」。
㊁弓をゝつらふるたすけに用ふる材、そへ木。○〔周〕「弓人厚二其—一則木堅」。

【⿰巾危】セイ、サイ。此芮切 霽
ふきん、てぬぐひ。

【帥】シュツ、シュチ。所律切 質
㊀ひきゐる。
(い)從へ領ぶ、をさとなり統率す。○〔蜀〕「將-軍身—二益-州之衆一、以出二秦-川一」。
(ろ)先だちて行ふ。○〔論〕「子—以レ正、孰敢不レ正」。
(は)みちびく。○〔周〕「大-喪—二叙哭-者一、亦如レ之」。「—レ教者一以告」。
㊁したがふ、（循）。○〔禮〕「命レ鄕簡二不レ—レ教者一以告」。
㊂したがひ傚ふべきもの、模範。○〔漢〕「蕭-曹以二寛-厚淸-靜一爲二天-下—一」。
㊃あつまる、（聚）。○〔揚雄〕「—介陰-閉、雪-然陽-開」。
㊄腰にさぐるきれ、（佩-巾）。「此」。
〔牽帥〕ひきゐる。○〔左〕「—二—老夫一、以至二于此一」。
〔奉帥〕つかへしたがふ。○〔禮〕「—二—天-子一」。
〔統帥〕すべひきゐる。○〔唐〕「以二—・—功一、遷二司-徒一」。

【帥】スヰ。所類切 寘
一群のものをすべひきゐる人、をさ、かしら、將軍、隊長。○〔禮〕「十-國以爲レ連、々有レ—」。
〔元帥〕多くの將軍をすべひきゐる人。○〔國〕「公問二—・—於趙-衰一」。
〔渠帥〕をさ、かしら、特に、賊徒にいふ語。○〔史〕「斬二殺其—・—一」。
〔魁帥〕前に同じ。○〔晉〕「召二其—・—一」。
〔師帥〕師旅となり、又、かしらとなるもの、又、漢時代の邑里の組頭の名目。○〔漢〕「今之郡守縣-令、民之—・—」。
〔兵帥〕隊長。○〔晉〕「引二溫—・—一共飮」。
〔酋帥〕をさ、かしら、特に、蠻夷の長などにいふ。○〔北〕「世爲二—・—一」。「失二詮擇一」。
〔主帥〕おもなるをさ、又、將軍。○〔孔平仲〕「—・—

【⿰巾多】タ、ナ。奴可切 哿
ものおき、なんど（庪）。

【⿰巾全】セン。莊緣切 先
曲卷す、まがる。

七畫

【⿰巾耴】テフ。陟葉切 葉 テン。丁兼切 鹽

【⿰巾肙】セフ。卽涉切 葉
えりさき、（領耑）。
ころものえり、（衣-衿）。

【⿰巾丸】エン。縈絹切 霰
曲がり裁つ、たつ。

【⿰巾谷】ゲキ、ギヤク。乞逆切 陌
綌に同じ、あらきくづぬの、（麤-葛）。

【帨】ゼイ、セ。舒芮切 霽 エツ、エチ。欲雪切 屑
腰にさげ著くる巾、手を拭ふ用をなすもの、てぬぐひ。○〔儀〕「母施レ衿結レ—」。
〔練帨〕きぬのてぬぐひ。○〔韓愈〕「絺-綌—・—無二等-差一」。
〔絲帨〕色糸にて縫ひとりたるてぬぐひ。○〔瀛涯勝覽〕「下繫二—絲—・巾一」。
〔巾帨〕てぬぐひ。○〔劉迎〕「大-婦奉二—・—一」。
〔綵帨〕くづ絲のてぬぐひ。○〔方回〕「拭レ汗紕二—・—一」。

【⿰巾免】ブン、モン。文運切 問
㊀髮を括るに用ふる巾、かしらづゝみ。
㊁喪中に用ふる冠。

【⿰巾免】冕に同じ。

【⿰巾免】ボン、モン。謨奔切 元
帀ひのをりに著くる服。

【⿰巾毎】媒に同じ。

【⿰巾志】幟に同じ。

【⿰巾冏】ケイ、キヤウ。涓熒切 靑
てぬぐひ、きれ、（巾）。

【帩】セウ。七肖切 嘯
しばる、（縛）。

【帢】カフ、ケフ。古洽切 洽 カフ、コフ。古沓切 合
韐に同じ、ひざかけ、まへだれ。○〔說文〕「士無レ市有レ—」。

【⿰巾皃】バウ、メウ。莫教切 效 ベウ、メウ。眉召切 嘯
かみかけ、かみづゝみ、（幗）。

【帪】シン。側鄰切 眞 之刃切 震
ふくろ、（囊）、又、馬に飮ふに用ふるふくろ、（馬-兜）。○〔揚雄〕「—飮レ馬橐」。

【⿰糸巾】セン。蒼甸切 霰 サン。七旦切 翰 セン。蒼先切 先
はちまき、かしらづゝみ。○〔揚雄〕「自レ河以-北、趙魏之間曰二幧-頭一、或謂二之——一」。

【師】シ。霜夷切 支
㊀多數の人、もろ〳〵、ひさぐ〳〵。○〔左〕「—乎—乎何黨之乎」。
㊁古昔の軍制にて二千五百人の名、いくさ、轉じて、軍隊。○〔周〕「五-旅爲レ—」。
㊂人に教を垂るゝ人、他の模範となる者。○〔書〕「作二之—一」。
㊃模範となす、のっとる、（法）、ならふ、（效）。○〔書〕「百-僚—・—」。
㊄をさ、かしら、（長）。○〔書〕「州有二十二—一」。
㊅神の名にいふ字。○〔屈平〕「雷—告レ余以レ未レ具」。
㊆官吏。○〔左〕「黃-帝-氏以レ雲紀、故爲二雲—一」。

㊇獅に通じ用ふ。○〔漢〕「烏戈山出ニ—子ニ」。

〔班師〕 出征したる軍隊をあとへかへす。○〔書〕「—振旅」。

〔太師〕 三公の一、文官にて最も高等なるもの。○〔詩〕「—尹氏—、惟周之氏」。

〔少師〕 三孤の一、三公につぐ者。 「—」。

〔六師〕 古昔、天子の軍隊。○〔書〕「父師—」。

〔陳師〕 軍隊をならぶ。○〔詩〕「—レ—鞠レ旅」。

〔京師〕 天子の居處、みやこ、大いにしてもろ〳〵の住む場所の義。○〔書〕「張ニ皇—・—ニ」。

〔聲師〕 弟子を教ふるにおごそかなる人。○〔漢〕「自ニ—・—ニ始」。○〔禮〕「凡學之道、—・—爲レ難」。 「官ニ」。

〔工師〕 もろ〳〵の官吏。 ○〔禮〕「命ニ—・—ニ令ニ百—」。

〔醫師〕 疾を療治するに關することを司れる官吏、轉じて、療治を業とする者。○〔周〕「—・—掌ニ醫之政令ニ」。

〔雨師〕 あめをふらすかみ。 ○〔韓〕「—・—灑レ道」。

〔牧師〕 まきばをつかさどりたる官、又、人を教育するもの。 ○〔周〕「—・—司ニ牧地ニ」。

〔場師〕 庭園のことをつかさどる官、轉じて、にはづくり、植木屋。○〔孟〕「今有ニ—・—ニ、舍ニ其梧檟ニ、養ニ其樲棘ニ」。

〔老師〕 (い)長く使用してつかれしめたる軍隊。 ○〔左〕「—レ—費レ財」。 「—ニ」。○ (ろ)年寄りて教を埀る、者。○〔史〕「荀卿最爲ニ—」。

〔舟師〕 舟にのりて戰ふいくさ、ふないくさ。 ○〔左〕「徐承以ニ—・—ニ將ニ自レ海入ニ齊」。

〔暴師〕 軍隊を野宿さすること、又、いくさを長らく遠き地方へ出征せしめたること。 ○〔漢〕「—ニ—覇上ニ以待ニ大王ニ」。

〔露師〕 前に同じ。 ○〔漢〕「暴レ兵—レ—」。

〔宗師〕 もと、なしならふこと。 ○〔漢〕「憲ニ章文武ニ、—ニ—仲尼ニ」。 「爲ニ—・—ニ」。

〔國師〕 一國の模範、天子に教ふる人。 ○〔南〕「三世

〔王師〕 天子のいくさ。 ○〔詩〕「於鑠—・—」。

〔軍師〕 いくさの教を埀れ計を定むる者、參謀長。○〔後漢〕「以ニ韓歆ニ、爲ニ—・—ニ」。

〔百世師〕 何の時代にても人の模範たるべきもの。○〔孟〕「聖人—・—之—也」。

【⿰巾旨】 エイ。 以制切 霽

さく、(裂)。

【帬】 クン、グン。 渠云切 文

もすそ、すそ(下裳)。 ○〔荀、註〕「—下裳也、—一名帔、—一名被」。

〔中帬〕 下衣、はだぎ、おゆばん。○〔漢〕「取ニ親—・—厠牏ニ、身自浣滌」。

【⿰巾君】 帬に同じ。

【⿰巾巠】 ブ、ム。 武夫切 虞

嵌空の貌にいふ字、むなし。

〔⿰巾巠〕 けおりもの。 ○〔揚雄〕「雹也、荊揚江湖之間曰ニ揃鋪ニ、楚曰ニ—・—ニ」。

【席】 セキ、シヤク。 祥亦切 陌

㊀莞、蒲、竹などにて組み、又、織りて藉くに用ふるもの、むしろ、ござ。○〔詩〕「我心匪レ—、不レ可レ卷也」。

㊁座牀の上に藉くもの、しきもの、しきね。 ○〔禮〕「天子之—五重、諸侯之—三重」。

㊂すわり場處、座次。 ○〔後漢〕「時詔ニ公卿大會ニ群臣皆就レ—、憑獨立」。

㊃座をつらね設けたる場處、ざしき。○〔開天遺事〕「楊氏子弟取ニ大氷ニ、琢成レ山、周ニ圍宴—ニ、座客皆寒」。

㊄しきものを設く、しきものと爲す、又、しく、(藉)。○〔晏子〕「大夫皆—、寡人亦—」。

㊅さる、(資)、よる、(因)、又、やすんず、(安)。 ○〔書〕「—レ寵惟舊」。

㊆つらぬ、(陳)。 ○〔禮〕「儒有ニ—・—上之珍ニ、以待レ聘」。

〔篾席〕 桃と竹との枝にてあみたるしきもの。 ○〔書〕「敷ニ重—・—ニ」。

〔豐席〕 あつきしとね。 ○〔書〕「敷ニ重—・—ニ」。

〔筍席〕 たけのこの皮にてあみたるしとね。 ○〔書〕「敷ニ重—・—ニ」。

〔中席〕 しとねの眞中へすわること。 ○〔禮〕「坐不レ—」。

〔葦席〕 あしにてあみたるむしろ。 ○〔禮〕「—・—以爲レ屋」。 「而坐」。

〔側席〕 正しく坐わらざること。○〔禮〕「有レ憂者—レ—」。

〔衽席〕 (い)臥するに用ふるしとね。○〔周〕「王府掌ニ王之燕衣服—・—牀第ニ」。 (ろ)閨門、ねやにいふ語。 ○〔後漢〕「高祖韓彭不レ修、孝文—・—無レ辨」。 (は)安心、又、不用意の場處。 ○〔莊〕「人所ニ最畏ニ者、—・—之上、飲食之間」。

〔枕席〕 まくらと、しとねと。 ○〔高唐賦〕「願薦ニ—・—ニ」。

〔絕席〕 坐わり場處を他よりかけ離れさすること。 ○〔後漢〕「與ニ諸將ニ—レ—」。

〔硏席〕 學問するところ。○〔晉〕「又同年共ニ—・—ニ」。

〔茵席〕 しとね、しきもの。○〔南〕「墜ニ于—・—之上ニ」。

〔褥席〕 いぬるに用ふるしとね。○〔南〕「以ニ吾—・—與レ汝」。

〔割席〕 室を異にす、座を別にす。 ○〔六帖〕「寧—レ—曰、子非ニ吾友ニ也」。 「對」。

〔越席〕 しとねをこえ進むこと。 ○〔禮〕「子貢—レ席而對」。

〔正席〕 たゞしくすわること。 ○〔論〕「君賜レ食必—レ—先嘗レ之」。

〔下席〕 しとねよりおる。 ○〔家語〕「不レ—レ—而天下治」。

〔閫席〕 しきみと、しとねと、轉じて、男女の分、人倫の序の義に借りいふ語。 ○〔梁〕「明ニ章—・—ニ」。

〔酒席〕 さかもりの座敷。 ○〔白居易〕「遊絲翻—・—」。

〔末席〕 すゑの座。 ○〔姚康〕「自慙陪ニ—・—ニ」。

八畫

【⿰巾畀】 ヒ。 賓彌切 支 ヘキ、ビヤク。 毗亦切 陌

かんむり、(冕)。

【⿰巾或】 コク、ワク。 呼或切 職

巾風に吹かる。

【⿰巾宗】 ソウ、ス。 藏宗切 冬

南蠻人の賦稅に出だす布帛、えびすぬの、えびすぎぬ。

【⿰巾空】 コウ、ク。 苦紅切 東

【⿰巾昌】 シヤウ。 蚩良切 陽

㊀きれ、ふきん、(巾)。 ㊁たもと、(衣袂)。

【⿰巾卒】 サイ、セ。 子對切 隊 租外切 泰

衣を披て帶をなさず、ひろぐ。

【帡】 ヘイ、ヒヤウ。 必郢切 梗 悲明切 庚

五采の繒、いついろぎぬ。

ヘイ、ビヤウ。 旁經切 青

上に覆ふもの、おほひ、又、とばり。 ○〔揚雄〕「然後知ニ夏屋爲ニ—・—幪ニ」。

【帳】 チヤウ。 知亮切 漾

㊀床の上に張り下ぐる巾、たれぎぬ、とばり、かや。 ○〔長編〕「晝夜肄ニ業—・—中ニ、—項如ニ墨色ニ」。

㊁幕、とばりなど張り下ぐる巾の數を稱ふるにいふ字、はり。 ○〔韓琮〕「貔貅羲幕三千—」。

㊂計算の簿。 ○〔唐〕「籍—隱沒」。

〔幬帳〕 かや。 ○〔南〕「夏日無ニ—・—ニ、而夜臥未嘗有ニ蚊蚋ニ」。

〔計帳〕 帳簿。 ○〔唐〕「掌ニ戶籍—・—ニ」。

〔供帳〕 諸物を設備し幕などを張ること。 ○〔漢〕「—ニ—東都門外ニ」。

〔絳帳〕 赤色のとばり。 ○〔白居易〕「—・—及レ春開」。

〔斗帳〕 とばり。 ○〔梁簡文帝〕「嬙烟入ニ—・—ニ」。

〔繐帳〕 細ぬののとばり。 ○〔陸機〕「悼ニ—・—之冥漠ニ」。

〔蕙帳〕 かをりぐさのかたあるとばり。 「—・—晨飈動」。

〔祖帳〕 遠方に行く者を送る場處のまく。 ○〔許敬宗〕「—・—連ニ河闕ニ」。 ○〔杜審〕

〔幃帳〕 とばり。 ○〔荀悅〕「—・—無ニ文繡ニ」。

〔御帳〕 天子のとばり。 ○〔吳〕「爲起レ宅以ニ—・—ニ給レ之」。

〔厨帳〕 くりやのとばり、又、單に、くりやの義にもいふ語。 ○〔梁武帝〕「或供ニ—・—ニ、或供ニ廐庫ニ」。

〔葛帳〕くずおりのとばり。○〔南〕「設ニ葛・木・牀ー・ー土・瓦・器ニ」。
〔氈帳〕毛織のとばり。○〔北〕「帝入ニーーニ」。
〔毳帳〕前に同じ。○〔劉禹錫〕「ーーー羨・池見」。
〔籍帳〕戸口を記載したる帳簿。○〔唐〕「其二察ニ戸・口流・散、ーー隱・沒、賦・役不ニ均」。
〔綺帳〕絆のぬひのあるとばり。○〔司馬相如〕「ーー高張」。
〔營帳〕陣營の幕、又、單に、陣營の義に用ふ。○〔宋〕「襲ニ破其ーーニ」。
〔牙帳〕牙營のとばり。○〔趙嘏〕「ーー連・烽擁ニ萬・蹄ニ」。
〔錦帳〕にしきのとばり。○〔李白〕「ーーー郎官醉」。
〔綾帳〕あやぎぬのとばり。○〔謝朓〕「百・味芬ニーー・ーニ」。
〔綿帳〕前に同じ。○〔蘇軾〕「小・兒呷・啞語ニーー・ーニ」。
〔翠帳〕みどりのとばり。○〔謝朓〕「開ニーー之影・靄ニ」。
〔艶帳〕うつくしきとばり。○〔江淹〕「ーー充レ庭」。
〔綵帳〕いろぎぬのとばり。○〔沈佺〕「燕・姬ーー芙・蓉色」。
〔姬帳〕弓形に高く作りたる幕。○〔岑參〕「ーーー亦嬰・々」。
〔寢帳〕寢室のとばり。○〔李賀〕「涙・痕霑ニーー・ーニ」。

【幒】ショウ、シュ。諸容切〔冬〕
㊀ふたおび、ふんごし。㊁ふみづゝみ(帙)。

【幒】ショウ、シュ。且勇切〔腫〕
前條の㊀に同じ。

【巾玆】ケン。ゲン。胡田切〔先〕
布の名。

【帴】サツ、サチ。所八切〔黠〕　サン、ザン。財干切〔寒〕
セン。私箭切〔霰〕
㊀もすそ(帬)。㊁ひさはゞぎれ(帹)。㊂婦人の脅衣、むなかけ。

【帴】セン。將先切〔先〕
㊀小兒に藉かす巾、ちごのしきもの、しめし。
㊁纗に同じ、したぐら。○〔晉〕「軍・人爭割ニ流・蘇・武・帳一爲ニ馬ーー」。

【帴】セン。子淺切〔銑〕
㊀むつぎ(褓)。
㊁せまし(狹)。○〔周〕「以レ博爲レー」。

【帴】サン。思肝切〔翰〕
先の韻の㊀に同じ。

【帴】サイ、セ。所戒切〔卦〕
よぎ(被)。

【帴】セン、ソン。纖玷切〔琰〕
もすそ(帬)。

【幨】セン、ソン。處占切〔鹽〕
車のさばり。

【帢】カフ、ケフ。苦洽切〔洽〕
絹の幘、きぬのかぶりもの、かしらづゝみ。○〔晉〕「哀・帝改ニ川ニ素・白ーニ」。

【巾沓】タフ、トフ。他合切〔合〕
帳の上の覆ひ、さばりのおほひ。

【巾函】カン、ゴン。胡感切〔感〕
耳を壅ぐ巾、みゝふさぎ。

【帵】ワン。一丸切〔寒〕　エン、ヲン。於袁切〔元〕
裁ち餘りの巾、たちあまり、きれ。

【帶】タイ、タ。當蓋切〔泰〕
㊀おび。
(い)衣服を裝束するに腰の上部のまはりに卷くもの。○〔禮〕「凡ー有レ率無ニ箴・功ニ」。
(ろ)おびの如くに物のまはりをまけるもの。○〔五〕「赤・道者天之紘・ー也」。
㊁おぶ。
(い)おびを結ぶ、おびす。○〔世說〕「驚・遽而起、衣不レ及レー、屣・履出迎」。
(ろ)腰に下ぐ、おびに掛く、隨へ行くの義にもいふことあり。○〔漢〕「冠ニ太・冠一、ーニ長・劍ニ」。
(は)おびの如くにまはりに卷く、おびさなす、めぐらす。○〔丘遲〕「貫・郡控ニー山・海一、利兼ニ水・陸ニ」。
(に)含み有つ。○〔杜甫〕「顔ーニ憔・悴色ニ」。
㊂おびの如くにまはりを卷く、おびさなる、めぐる。○〔左思〕「虹・ー迴ニー雪・舘ニ」。
㊃蟲の名、へび。○〔莊〕「蝍・蛆甘レー」。
㊄帶に同じ、へたれ。○〔蘇軾〕「西・池秋・水尙涵レ空、舞・澗搖深吹ニ芳ーニ」。
㊅細く長く通りたるを、すぢ。○〔元稹〕「門臨溪一ー」。
〔鞶帶〕かはのおび。○〔易〕「或、錫ニ之ーーニ」。
〔緇帶〕黑き色のきぬおび。○〔儀〕「ーーー素・韠」。
〔冠帶〕(い)かうぶりとおびと。○〔禮〕「ーーー垢和レ灰請レ漱」。
(ろ)かんむりを着けおびを結ぶと、威儀をとゝのふること。○〔思衍〕「百蠻ーーー悉來・庭」。
(は)紳士社會。○〔夏侯湛〕「是以得下接ニーーー之末ニ、充中手士大・夫之列上」。
〔束帶〕前條の(ろ)に同じ。○〔論〕「赤也ーー立ニ於朝ニ可レ使下與ニ賓・客ニ言上」。
〔韋帶〕かはのおび、無位の士のおぶるもの。○〔漢〕「布・衣ーー之士」。
〔博帶〕はゞのひろきおび。○〔漢〕「褒衣ーー」。
〔緩帶〕おびをゆるくむすぶ、閑暇迫らざる形容にいふ語。○〔謝莊〕「ーー談・笑、鎭ニ撫聖世ニ」。
〔衿帶〕(い)えりとおびと。○〔晉〕「ーー之形、事異ニ曩・昔ニ」。
(ろ)山そびえてえりに譬ふべく川流れておびに譬ふべく自から要害をなすにいふ語。○〔潘岳〕「看ニ天・險之ーーニ」。
〔襟帶〕前に同じ。○〔唐〕「豐・州控レ河遏レ寇、號爲ニーーニ」。
〔紳帶〕おほおび、古昔官位あるもの、前にさげしもの。○〔後漢〕「搢ニ紳ーーニ」。
〔玉帶〕たまにてかざりあるおび。○〔唐〕「贈ニ二・人佩・刀ーーニ」。
〔跨帶〕またがりおぶ。○〔何承天〕「至ニ擁燕、趙一、ーニーー晉、魏ニ」。
〔解帶〕おびをとく、衣をぬぐ。○〔華陽國志〕「日・夜不レーー」。
〔繞帶〕めぐる、又、めぐらす。○〔潛夫論〕「或、斷ニ截衆・縷一、ーニーー手・腕ニ」。
〔淺帶〕緩帶に同じ。○〔莊〕「縫・衣ーーー」。
〔扈帶〕おぶ。○〔吳都賦〕「ーニー鮫・函ニ」。
〔映帶〕うつろひめぐる、又、うつろひふくむ。○〔王羲之〕「有ニ清・流激・湍一、ーニーー左・右ニ」。
〔流帶〕ながれめぐる。○〔郭璞〕「川・瀆交・錯、渙・瀾ーーー」。
〔亘帶〕わたりめぐる。○〔孫綽〕「彌ニ綸八・荒一、ーニー九・地ニ」。
〔横帶〕腰にさぐ、おぶ。○〔說苑〕「金・銀ーレー」。

【常】シヤウ、ジヤウ。市羊切〔陽〕
㊀つね。
(い)久しきに亙りてたがはざるを、定まりて變はらざるを、さこ。○〔易〕「後得レ主而有レー」。
(ろ)人生に不變なる理義、國民のそむくべからざる法、のり、みち、國法、人倫。○〔左〕「欲レ廢ニ國ーーニ」。
(は)變事なき時、日頃のありさま、ふだん、平生。○〔韓愈〕「就レ戮時顔・色不レ亂、陽・々如ニ平ーーニ」。
(に)なみ／＼なるを、普通なるを、なみ。○〔晉〕「處ニ守・平之世一、而欲レ建ニ殊ーー之勳ニ」。

㊁神の名。○〔荀〕「兒爲レ—、四-方之神也」。
㊂物に日と月との象あるもの、即ち、天子の用ふるもの。○〔詩〕「載ニ是—」。
㊃尋を倍にしたる長さ、一丈六尺。○〔史〕「布-帛尋—、庸-人不レ釋」。
㊄車上にて持つ戟、長さ一丈六尺あるよりいふ。○〔釋名〕「車-戟曰レ—」。
㊅木の名、こうめ、にはうめ。○〔詩〕「彼爾維何、維—之華」。
㊆裳に同じ、すそ、もすそ、下裙。
㊇何れの時にもふだんに、平生に、久しく、つねに、さこしへに、さこしなへに。○〔韓愈〕「千-里馬—有、而伯-樂不ニ—有ニ」。

〔典常〕常に法るべき教。○〔書〕「率ニ由—ニ、以蕃ニ王-室ニ」。
〔五常〕（い）父は義に、母は慈に、兄は友に、弟は恭に、子は孝の五つの法るべき敎のとにて五典ともいふ。○〔書〕「狎ニ侮—ニ」。
（ろ）仁、義、禮、智、信の五つをいふ。○〔白虎通〕「—者何、謂ニ仁、義、禮、智、信ニ也」。
〔天常〕天のきまりたる道。○〔左〕「帥ニ彼—ニ、有ニ此冀-方ニ」。
〔大常〕（い）日月を畫きたる天子の旗の名。○〔周〕「建ニ—ニ十-有-二斿ニ以祀」。
（ろ）宗廟の禮儀のとなどを掌る役所の名。○〔後漢〕「顯-宗嘗幸ニ—ニ」。
〔司常〕周の時代にて天子の旗を掌る役の名。○〔周〕「—掌ニ九-旗之物-名ニ」。
〔尋常〕（い）八尺と一丈六尺とのとにて僅かばかりのたけをいふ。○〔左〕「爭ニ—ニ、以盡ニ其民ニ」。
（ろ）常なみ。○〔張籍〕「地僻—來-客少」。

（大常之圖）

〔異常〕珍しきと。○〔玉海〕「其草-木雜-物有ニ—者、所-司具詳-錄焉」。
〔無常〕さだまりなきと。○〔漢〕「變-化—レ—」。
〔平常〕平生といふに同じ。○〔書、傳〕「守ニ—之教ニ、事ニ王-者ニ而已」。
〔達常〕傘などの柄。○〔周〕「爲レ蓋—圍三-寸」。
〔習常〕人のはたらきの長所を使ふと。○〔韓〕「因レ能而使レ之、是謂ニ—ニ」。
〔非常〕常なみならぬと。○〔指月錄〕「此兒骨相—」。
〔經常〕つね。○〔唐〕「必立ニ—簡-易之法ニ」。
〔違常〕普通に異なると。○〔蜀〕「皆以ニ語-言不レ節、擧-動—レ—也」。
〔殊常〕優れたると。○〔晉〕「而欲レ建ニ—之勳ニ」。
〔超常〕前に同じ。○〔晉〕「蒙ニ—レ—之遇ニ」。
〔綱常〕三綱五常の道をいふ。○〔宋〕「正ニ—ニ以勵レ所レ學」。
〔三常〕天と地との常の形象と人間の常の禮法とをいふ。○〔管〕「天有ニ常-象ニ、地有ニ常-形ニ、人有ニ常-禮ニ、一設而不レ更、此謂ニ—ニ」。
〔易常〕法を變ぜると、又、天の忽然として淸明の色を變ぜるにもいふ。○〔韓〕「不レ知治-者、必日ニ毋レ變レ古、毋ニ—レ—」。

【啓】ケン。輕甸切　㶋
欒に係くる巾、ほこぎぬ。

【幨】エフ、オフ。於劫切　葉
かしらづゝみ、はちまき、（幧-頭）。○〔揚雄〕「幧-頭趙魏之間、或謂ニ之—ニ」。

【㡋】アン、オン。烏含切　覃
ふくろ、（橐）。

【帵】クワン。沽丸切　寒
髪を絭くもの、かうぶり、かしらづゝみ。

【帷】井。有悲切　支
横に引き張りて圍みさなすたれぎぬ、まく、ひきまく、ひらさばり。○〔周〕「幕-人掌ニ—幕幄帟綬之事ニ」。

〔敝帷〕やぶれたる幕。○〔禮〕「—不レ棄、爲レ埋レ馬也」。
〔絺帷〕細き葛織りのたれぬの。○〔史〕「夫-人在ニ—中ニ拜」。
〔絳帷〕赤き色の幕。○〔楚辭〕「—翠-帳」。
〔翠帷〕みどり色の幕。○〔司馬相如〕「張ニ—ニ、建ニ羽-蓋ニ」。
〔薄帷〕うすき地の幕。○〔阮籍〕「—鑒ニ明-月ニ」。
〔縷帷〕細ぬの、幕。○〔謝眺〕「餘-光入ニ—ニ」。
〔羅帷〕あやぎぬの幕。○〔沈約〕「中-婦結ニ—ニ」。
〔黻帷〕斧のあやあるたれぬの、天子君王の召すもの。○〔李義府〕「金壇映ニ—ニ」。
〔帟帷〕前に同じ。○〔班固〕「祛ニ—ニ」。
〔垂帷〕すだれぬの。○〔祖詠〕「驚-起出ニ—ニ」。
〔幃帷〕たれぬの。○〔魏〕「坐則侍ニ—ニ」。
〔香帷〕にほひ高きたれぬの。○〔梅堯臣〕「翡翠—寂」。
〔講帷〕講筵といふに同じ。○〔賈師泰〕「儒-臣到ニ—ニ」。

【綦】キ、ギ。渠之切　支
きれ、ふきん、（巾）。

【帺】キ、ギ。渠記切　寘
つなぐ、（繫）。

【幓】サフ、セフ。色甲切　洽
面に施す衣、かほづゝみ、ほゝかぶり。

【幓】セフ、サフ。七接切　葉
はちまき、かしらづゝみ、（幧-頭）。

九畫

【帪】シュ、ス。山樞切　ユ。容朱切　虞
端の裂けたる繒、やれぎぬ。

【帪】トウ、ヅ。徒侯切　尤
褕に同じ。

【幙】シュ、ス。色句切　遇
㊀裁ち殘りの帛、又、繒の端、きれぎれ。
㊁繒の采色、きぬのいろどり。

【帽】バウ、モウ。莫報切　號
古昔支那にては、冠を著くる下地に用ひたるかしらづゝみより變じて、其の高さを高くし爵位ある者の燕居、又は、輿に乘る時に用ひ、庶民は、常に用ひたるかぶり物轉じて、すべてのかぶり物、かしらづゝみ、ゑぼし、づきん。○〔隋〕「—自ニ天-子ニ、下及ニ庶-人ニ、通冠レ之」。

〔脫帽〕帽子をぬぐ。○〔魏〕ニ單于以-下、—レ—稽-顙」。
〔皁帽〕黑色の帽子。○〔杜甫〕「當レ念レ著ニ—」。
〔練帽〕ぬひある帽子。○〔晉〕「魏明-帝著ニ—ニ」。
〔紗帽〕うす絹の帽子。○〔南〕「猶著ニ烏—ニ」。
〔側帽〕帽子をかたむくると。○〔北〕ニ咸慕レ信而—レ焉」。
〔氈帽〕毛織の帽子。○〔五〕ニ落ニ其—ニ」。
〔㡊帽〕辨の四隅なき帽子にて士たる身分の者のきるもの。○〔魏〕「時或冠ニ—ニ、以見ニ賓-客ニ」。
〔複帽〕寒さをふせぐ爲にきれぢをかさねて作りたる帽子。○〔晉〕「逐給ニ韋-袍—ニ」。
〔袾帽〕あたぎと帽子と。○〔南〕「止著ニ—ニ、如ニ家-人之謁ニ焉」。
〔錦帽〕にしき織の帽子。○〔崔德符〕「翠-裘—初相識」。
〔冠帽〕かむり。○〔南〕「髮落界盡、殆不レ立ニ—ニ」。
〔綾帽〕あや織の帽子。○〔北〕「賜ニ—及杖ニ」。
〔杉帽〕うす織の帽子。○〔宋〕「貫ニ珍-珠—ニ」。
〔烏帽〕黑き帽子。○〔李商隱〕「—逸-人尋」。
〔低帽〕たけひくき帽子。○〔白居易〕「短-靴—白蕉-輕」。

【幯】セン、ゼン。則前切　先
はた、（旙-旛）。

【幍】ト、ツ。當古切　麌

はた、(旛)又、はたに物を志るしたる處、はたおろし。○〔荀〕「幭―-絲-蓋-縷」。

【⿰巾面】 ベン、メン。彌兗切 銑 まく、(幕)。

【帩】 セウ。子了切 篠 かしらづゝみ、はちまき、(幧-頭)又、凶事ありたるさきのかしら飾。

【⿰巾癸】 キ。居誄切 紙 はかま、(衣-袴)。

【帿】 コウ、ク。胡溝切 尤 春の饗のさきに射るまと。

【幀】 タウ、チヤウ。猪孟切 敬 畫のある絹を張る、はろ。

【⿰巾是】 シ、ジ。承紙切 紙 きれ、ふきん(巾)。

【⿰巾頁】 シユ、ス。思于切 虞 かしらづゝみ。

【⿰巾盾】 チユン。陟倫切 シユン。測倫切 眞 トン。徒損切 阮 米をいるゝふくろ、布の巾にてしつらへたるもの。

【幎】 ベキ、ミヤク。莫狄切 錫 冪に同じ、おほふ、おほひ。○〔儀〕「尊綌―、賓至徹レ之」。
〔蓋冪〕 おほひ。○〔儀〕「冪有二―・―一」。
〔冪々〕 おほふ。○〔蘇軾〕「花霧輕―・―」。

〔女冪〕 周の時の宮人にて飲食物におほひを掛くることを司りたるもの。○〔周〕「―・―十人」。

【⿰巾某】 ボウ、モ。莫侯切 尤 女の衣をつゝむ巾。

【⿰巾各】 カク、ギヤク。五伯切 陌 一に、緯に作る。ぬふ、(紩)。

【⿰巾軍】 コン、クン。古渾切 元 一に、褌に作る。陰部腰下を蔽ふに用ふる巾、ふどし、ふんどし、こしまき、ゆもじ、(褻-衣)。○〔宋〕「暑-月露レ―上」。
〔復幝〕 うらつきのふどし、ゆもじ。○〔黃庭堅〕「婦無二―・―一且著レ襦」。

【⿰巾敄】 ボク、モク。莫卜切 屋 ブ、ム。亡遇切 遇 ボウ、モ。莫胡切 虞 迷浮切 尤 ㊀うろしぬの、(髼-布)。㊁かみかけ、(髮-巾)。㊂車の衡の上の衣、おほひ。㊃轅の上の絲。

【⿰巾谷】 ボウ、モ。莫候切 宥 キヨク、コク。吁玉切 沃 車を覆ふ染めたる布、一說に、車を覆ふ桼布、くるまかけ。

【⿰巾英】 エイ、ヤウ。於驚切 庚 鮮明なる貌にいふ字、あざやか。

【帊】 ハ、へ。博下切 禡 セウ。市昭切 蕭 手をかへしうつ、(攞-擊)。

【⿰巾重】 チヨウ、ヂユウ。柱勇切 腫 おほひ、(幪)。

【幃】 ヰ。雨非切 キ。許歸切 微 ㊀香を盛りいるゝ囊、にほひぶくろ、小さき囊、きんちやく。○〔屈平〕「蘇二糞-壤一以爲レ―兮、謂二申-椒其不一レ芳」。㊁ひさへ張りの帳、とばり、たれぎぬ。○〔南〕「日垂レ―痛-飲而已」。
〔羅幃〕 羅にてこしらへたるたれぎぬ。○〔風賦〕「躋二于―・―一、經二于―・―一」。
〔書幃〕 書を讀む處のたれぎぬ。○〔周邦彥〕「螢度二破-窗一、偸入二―・―一」。
〔屛幃〕 ついたてととばりと、轉じて、室內の義。○〔談賓錄〕「飲啄飛鳴、不レ離二―・―一」。
〔低幃〕 丈ひくきたれぎぬ。○〔晉〕「白-幗―・―」。
〔孤幃〕 ひとり居る閨のたれぎぬ。○〔曹植〕「對二―・―一而竊歎」。
〔朱幃〕 あかきいろのとばり。○〔陶潛〕「褰二―・―一而正坐」。
〔重幃〕 かさなりたるとばり。○〔孟浩然〕「就レ枕臥二―・―一」。
〔錦幃〕 にしきのとばり。○〔李商隱〕「―・―初卷衞・夫・人」。
〔風幃〕 かぜを受くるとばり。○〔揚愼〕「爽透―・―開」。

【幄】 アク、オク。於角切 覺 ㊀四方に引き廻はす帳、ひきまく、まく、とばり、たれぬの。○〔周〕「幕-人掌二帷幕―帟綬之事一」。㊁軍中專用の帳。○〔左〕「子-産以二―・―幕九-張一行」。
〔紫幄〕 神を享る時に用ふるたれぬの。○〔漢〕「照二―・―珠煩-靑」。「―于楮-圓一成」。
〔虎幄〕 虎の飾りのつきたる幕。○〔左〕「衞-侯爲二―・―一」。
〔帷幄〕 たれぬの、轉じて、作戰經畫處、秘密の會議場。○〔漢〕「運二籌―・―之中一、決二勝千里之外一」。
〔華幄〕 はでやかなるたれぬの。○〔張文恭〕「合レ情向二―・―一」。
〔褶幄〕 はたをつらねならべたる幕。○〔開天遺事〕「解レ褶四-圍、謂二之―・―一」。
〔帳幄〕 幕のこと。○〔王逢〕「彩-雲―・―冷-風寒」。
〔綵幄〕 いろどりあるうつくしき幕。○〔劇談錄〕「―・―衞-翠」。
〔經幄〕 經書を講ずる席を稱するに用ふ。○〔宋〕「侍二―・―一」。
〔藻幄〕 水ぐさの模樣あるたれぬの。○〔宋徽宗〕「―・―春深夜不レ寒」。
〔閟幄〕 宗廟のたれぬの。○〔殷談〕「奕・々―・―」。
〔宸幄〕 帝宮のたれぬの。○〔韋元旦〕「雲降四起迎二―・―一」。

【幅】 フク。方六切 屋 ㊀布帛などの廣狹、ひろさ、よこはゞ、はゞ。○〔詩〕「―・―隕既長」。㊁布帛、又、はゞあるもの、緣、へり、ふち。○〔左〕「富如二布-帛之有一レ―」。㊂布帛、又、きれ地。○〔孫樵〕「繡-文錦-―、雲-綃霧-穀」。
〔邊幅〕 もの、はしくれといふより細末なるみえの義に用ふ。○〔後漢〕「反修二飾―・―一」。
〔半幅〕 半分のはゞ、はんきれ。○〔唐〕「欲レ收二天下英雄之心一、惟有二詔書紙―・―一」。
〔環幅〕 はゞの廣さ均しきこと。○〔儀〕「布-巾―・―不レ鑿」。
〔橫幅〕 橫はゞのきれ。○〔南〕「男-女皆以二―・―一古-貝一、繞二腰以-下一」。
〔全幅〕 はゞ一ぱい、又、缺くることなきはゞ。○〔段成式〕「最宜―・―碧-鮫-綃」。
〔巾幅〕 はゞ。○〔韓維〕「新-詩溢二―・―一」。
〔素幅〕 きぬ地。○〔歷代名畫記〕「凡吾所レ遊二諸畫―・―一、皆廣二-尺三-寸」。
〔滿幅〕 きればゞ全體。○〔白居易〕「―・―風生秋-水文」。
〔帳幅〕 とばり。○〔陸游〕「―・―如二春-煙一」。

【幅】 ヒヨク、ヒキ。筆力切 職 腰に下げて袴の上に垂るゝ巾、むかばき、(行-縢)。○〔左〕「帶-裳―-舃」。
〔邪幅〕 邪めに足にまとふ巾、きやはん。○〔詩〕「―・―在レ下」。
〔縷幅〕 ひだのあるむかばき。○〔子華子〕「垂衣而

【⿰巾曷】 エイ。於例切 霽 直き衿、えり。

【⿰巾曷】 カイ。丘蓋切 泰 時ならずして葬る。

【剌】ラツ、ラチ。盧達切 曷
はらふ、ぬぐふ（剌）。

【⿰巾毒】トク、ドク。徒沃切 沃
羽葆幢、はたぼこ。

【⿰巾秋】シウ、シュ。側救切 宥
衣伸びず、ちゞむ、ちわむ、又、ちゞみ、ちわ。

十畫

【⿰巾鬼】クワイ、エ。姑囘切 灰 キ。矩偉切 尾
いろどり（綵）。

【⿰巾營】エイ、ヤウ。於營切 庚
㊀おほふ（覆）。㊁収め聲く、まさふ。

【⿰巾殺】サイ、セ。師駭切 蟹
⿰巾賴——は、衣破ろ、やろ、やぶろ、又、ぼろぎれ、つゞれ。

【⿰巾盍】カフ、ゴフ。胡閤切 合。アイ、エ。於蓋切 泰
火を吹くに用ふるもの、ひふき。

【⿰巾旁】ハウ、バウ。蒲浪切 漾
ふだ、かきもの（書-帖）。

【⿰巾虒】テイ、ダイ。杜奚切 テイ、タイ。天黎切 ケイ、カイ。呼雞切 齊 シ。相支切 支
㊀幱——は、赤き色の紙、あかがみ。㊁たれぎぬ（帷）。㊂なは（繩、索）。

【⿰巾廉】レン、ロン。力鹽切 鹽
戸外に施すたれぬの、のれん。○〔荀〕「承-塵戸——」。

【⿰巾兼】リン、ロン。犂針切 侵
羽毛の貌にいふ字。

【⿰巾貢】コウ、ク。古紅切 東
衣をつゝむ巾、ふろしき、ころもづゝみ。

【幋】ハン。薄官切 寒
㊀衣を覆ふに用ふる大いなる巾、おほぶろしき、ころもづゝみ。㊁はちまき（首-鞶）。㊂ふきん（巾）。

【幏】ボウ、モウ。莫紅切 東 莫弄切 送
ころもづゝみ（衣-巾）、又、おほひ（覆）、又、大巾、おほぶろしき。又、かぶりもの。

【幌】クワウ、ワウ。胡廣切 養
㊀さばり、たれぎぬ（帷-幔）。○〔梁簡文帝〕「卷レ——通二河-色一、開レ窗引二月-輝一」。㊁物の屋とする被巾、おほひ、ほろ。○〔陸龜蒙〕「小-爐低——還掩-遮」。㊂髪の上を覆ひて形貌の飾りとなすもの、かみかざり、かしらづゝみ。○〔釋名〕「幗恢也恢-郭覆二髪上一也、齊人謂レ——」。

〔書幌〕讀書室のたれぎぬ。○〔北戸錄〕「特設二——一、乍置二筆-牀一」。
〔珠幌〕たまのかざりあるたれぎぬ。○〔拾遺記〕「靚二妝——之内一」。
〔幃幌〕たれぎぬ。○〔方回〕「蠅-蚊開二——一」。
〔軒幌〕高く張りたるたれぎぬ。○〔傅亮〕「赴——一、集二明-燭一」。
〔文幌〕あやあるたれぎぬ。○〔袁宏〕「——曜二瓊-扇一」。
〔繡幌〕たれぎぬ、又、ほろ。○〔謝靈運〕「出二衣-禍一而箴坐、闢二——一以迴-臨」。
〔青幌〕あをいろのたれぎぬ。○〔王勃〕「拂二——一、搖二朱-綃一」。
〔蚊幌〕かをふせぐたれぎぬ、かや。○〔元稹〕「——雨來捲」。
〔寢幌〕ねやのたれぎぬ。○〔楊衡〕「——凝二曾-窓一」。
〔塵幌〕ちりのつもれるたれぎぬ。○〔高啓〕「浮-來闖二——一」。

【幍】タウ、トウ。他刀切 豪
㊀巾にてこしらへたる袟。㊁條に同じ、うちひも。

【幎】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
㊀さばり（幔）、又、すだれ（簾）。㊁おほふ（覆）。○〔儀〕「——レ日用レ緇」。㊂均しくいたす貌にいふ字。○〔周〕「望而眡二其輪一、欲二其——爾而下-迆一也」。

【幎】ベン、メン。民堅切 先
前條の㊂に同じ。

【幐】トウ、ヅ。徒登切 蒸
帶ぶる小き囊、きんちやく、又、にほひぶくろ。

【幏】カ、ケ。古訝切 禡
蠻國より貢する布、えびすぬの。○〔左思〕「賨——積-墆」。

【⿰巾皆】ヘイ、ハイ。邊迷切 齊 ヒ、ビ。頻脂切 支
㊀車のさばり。㊁さばり（帷）のれん（⿰巾廉）。

【⿰巾冓】コウ、ク。居侯切 尤
ひさへぎぬ、ひさへもの、ひさへ（單-衣）。

【⿰巾烏】チ、ウ。安古切 麌
てぬぐひ、てふき（手-巾）。

【⿰巾冋】絅に同じ。

十一畫

【⿰巾祭】セイ、サイ。所例切 霽
帛の殘餘、のこりぎれ、きぬぎれ。

【⿰巾祭】セツ、セチ。先列切 屑
㊀前條に同じ、又、裂けたる帛、やれぎぬ。○〔荀〕「帆——囊不レ直レ錢」。㊁繒を剪りて製したる花、つくりばな。

【⿰巾通】⿰巾同に同じ。

【⿰巾區】⿰巾句に同じ。

【幑】キ。許歸切 微
はた（旛）、しるし、のぼり、はたじるし、さしもの（幟）。

【⿰巾𠩺】リ。陵之切 支
斷ちたる繒、きぬぎれ。

【⿰巾悤】⿰巾松に同じ。

【⿰巾逢】ホウ、フ。扶用切 宋
㊀てぬぐひ、ふきん（巾）。㊁かでうがき（款-書）。

【⿱埶巾】セイ、ゼイ。輸芮切 霽 シ。指利切 寘
禮儀に用ふる巾、ふきん、てぬぐひ。

【⿰巾彗】セイ、ザイ。旋芮切 霽

ぬのぎれ、(布巾)、てぬぐひ、(盥布)。

【幓】 シン。疏簪切 【侵】 サン、所感切 【感】
移に同じ、衣裳、又は、毛羽の垂るゝ貌にいふ字。○[揚雄]「蠖-略-蕤-綏-灕-㨻—纚」。

【幓】 セン、ソン。師炎切 【鹽】
旌旗の正幅、其の日月、又は、龍蛇などの像を畫きある處、即ち、はたじるしのある部分、はたのみ。

【幓】 サン、セン。師銜切 【咸】
はたの身に付屬して垂れ下がりたるもの、はたあし、(斿)。○[司馬相如]「垂二旬-始一以爲レ—兮」。

【⿰巾斬】 サン、ソン。子感切 【感】
未だへりぬひせざる縉。

【幔】 バン、マン。莫半切 【翰】
連られ綴りて張る帳、ひきまく、まく、ひらとばり、又、覆ひ巾、おほひ。○[拾遺記]「周穆-王有二鸞-章-錦—-—一」。
(油幔) あぶらを塗りたる幕。○[唐]「守-者覆以二—-—一」。「宇」。
(綵幔) いろどりのあるまく。○[武夷記]「—-—二—屋-」。
(羅幔) うつくしき絹のまく。○[王適]「—-—曉長垂」。
(帷幔) たれぬのとまくと。○[後漢]「盛陳二—-—一」。
(帳幔) とばりとまくと。○[市肆記]「—-—茵褥」。
(緹幔) 赤き色のまく。○[梁元帝]「—-—卷二南榮一」。
(毳幔) 毛織のまく。○[唐]「下設二—-—一」。

【幕】 バク、マク。慕各切 【藥】
㊀外表に連られ絡ひて覆ひとなす帳、とばり、たれぬの。○[左]「楚-子登二巢-車一以望二晉軍一、伯-州-犂侍二于王後一、王曰、張レ—矣、曰、虔二卜于先-君一也、徹レ—矣、曰、將レ發レ命也」。
㊁物の覆ひに用ふる巾、おほひ、おほひぎれ。○[唐]「懿宗賜二公-主恣-—一」。
㊂兵具の一、臂又は脛にまとふもの、こてすねあて。○[史]「當レ敵則斬二堅-甲-鐵-—一」。
㊃おほふ、(覆)。○[易]「井收勿レ—」。
㊄まとふ、(絡)。○[爾]「絡二—草-上一」。
㊅將軍の政事を行ふ處、其の出でゝ征伐する時には將軍となり征伐果てぬれば其の職を已むるゆゑ別に其の廳舍を設けずにまくを張りて府署となしたるよりいふ。○[摭言]「同佐二鄭-少-師宣-州—一」。
㊆砂磧の廣野、すなばら、砂漠。○[漢]「衞-青將二六-將-軍一絕レ—」。
㊇くらし、(暮)。○[爾、註]「—-然暮-夜也」。
(六幕) 六合のことに借りいふ語、おほふの義より來たる。○[漢]「紛-紜—-—浮二大-海一」。
(留幕) こてすねあて。○[釋名]「—-—冀-州所レ名、大-魯至レ脛者也」。
(布幕) ぬの、まく、又、まくを張る。○[儀]「管-人—二—于寢-門外一」。
(帷幕) たれぬのとまくと。○[周、註]「在レ旁曰レ—、在レ上曰レ—」。
(鐵幕) くろがねの臂あてと脛あてと。○[史]「當レ敵則斬二堅-甲—-—一」。「平-原」。
(帟幕) 上を蔽ふまく。○[蜀都賦]「張二—-—一、會二
(軍幕) 軍營のまく。○[心書]「—-—未レ施」。
(雲幕) 空を蔽ふまく。○[西京雜記]「成-帝設二雲-帳雲-幄—-—于甘-泉紫-殿一」。
(簾幕) すだれ。○[杜牧]「深-秋—-—千-家雨」。
(幕幕) つらなりまとふ貌にいふ語。○[梁武帝]「—-—繡-戶絲」。「—-—雲起」。
(玄幕) 黑きが中に赤きを含む色のまく。○[潘岳]
(綺幕) うつくしき綺織のまく。○[梁簡文帝]「—-—芙-蓉-帳」。「—レ—風」。
(颺幕) 風のまくを吹きあぐること。○[白居易]「春多二

【幕】 バン、マン。莫半切 【翰】
錢の背の面平かにして文なき處、ぬめ、なめ。○[漢]「罽-賓-國、錢爲二騎-馬一、—爲二人-面一」。

【幖】 ヘウ。卑遙切 【蕭】
㊀頭上にたつる幟、又、小さき幟、こばた、又、はたじるし、しるし、又、木を立てゝ絲を其の上に繫ぎて物のしるしとなすもの。○[宋濂]「洞二五-精一、貫二八—-—一」。
㊁はたじるしの翻る貌にいふ字。○[杜牧]「旌-竿—-—旗-燿-々」。

【⿰巾婁】 ロウ、ル。郎侯切 【尤】
—-篼は、馬に飮ふに用ふる囊、うまかひかご、うまぶれ、ふくろ。

【⿰巾曹】 サウ、ソウ。作曹切 【豪】
小兒の積、しきもの、しめし。

【⿰巾鳥】 テウ。都了切 【篠】
きぬ、かざりぎぬ、(絹)。

【幗】 クワク、キヤク。古獲切 【陌】 クワイ、ケ。古對切 【隊】 古外切 【泰】
㊀婦人の髪の上を覆ふに用ふるもの、かみづゝみ、かみかけ、かみかざり、首飾。○[晉]「紺-—-繒-—」。
㊁婦人が喪の中に著くる冠。○[晉]「遺二帝巾-—婦-人之飾一」。「—」。
(簪幗) かみかざり、かみづゝみ。○[隋]「狀如二—-—一」。

【幘】 サク、シヤク。側革切 【陌】
㊀覆ひ結びて髪を整ふる巾、かしらづゝみ、古昔は、其の制、いと粗造にして卑賤者、又、元服せざる者のみ用ひたりしが貴顯の人も長大の人も用ふるに至りて其の製を飾るとなせり、かんむり、かしらづゝみ。○[揚雄]「覆-結謂二之—-巾一」。「—-丹」。
㊁雞のとさか。○[梅堯臣]「全如二雞-
(綠幘) みどり色の髪づゝみ、おもに賤しき者のつくるもの。○[李白]「—-—誰家子」。
(介幘) 耳の長きかしらづゝみ、主に文官の用ふるもの。○[晉]「朱-衣—-—」。「雞-唱」。
(絳幘) 赤き色のかしらづゝみ。○[漢]「著二—-—一傅二
(卷幘) 未だ元服せざる者のつくるかしらづゝみ。○[後、註]「今未二冠-笄一者、著二—-—一」。「服」。
(巾幘) かしらづゝみ。○[王隱]「去二—-—一脫二衣-
(低幘) たけひくきかんむり。○[宋]「白-帢—-—」。
(鹿幘) しかの皮にて作りたるかんむり。○[唐]「道 以二衣-服—-—一」。
(綬幘) 喪中につくるかしらづゝみ。○[世說]「常著二—-—上レ船」。「—-—一」。
(畫幘) ゑがきたるかんむり。○[梁庾雜錄]「皆著二
(半頭幘) 頂上のあけてあるかんむり。○[後漢、註]「—-—-—即空-頂-幘也、其上無レ屋」。
(空頂幘) 前に同じ。○[杜氏通典]「皇-帝著二—-—-—介—以出」。
(平上幘) 上のたひらかにして耳の短きかんむり、主に、武官の用ふるもの。○[晉]「著二武-冠—-—-—一」。

【⿰巾族】 ソク。千木切 【屋】
しぎぬ、(幏)。

【幙】
幕に同じ。○[漢郎中鄭固碑]「傳二宣孔業一、作二世—-式一」。

十二畫

【幜】 ケイ、キヤウ。居永切 【梗】
道を行く時、衣服の上に著けて塵を防ぐ帛衣、かづき、きぬうはぎ。○[隋]「後-齊納-后禮、皇-后服二大-嚴-繡-衣—

帶ニ綬-珮一加レ一入ニ昭-陽-殿一、前至ニ席-位一姆去レ一」。

【幠】クワ、ケ。苦瓦切 馬

きぬごろも、（帛-衣）。

【幧】修に同じ。

【幨】シヤウ、ザウ。西亮切 漾

未だ笄せざる婦人の首飾、かみかざり。

【幗】クワク。忽麥切 陌

帛を裂く聲にいふ字。

【幜】レウ。憐蕭切 蕭 ｜一に橑に通じ作る。

きぬがさのほね、（蓋-弓）。

【幝】セン、ゼン。齒善切 銑 稱延切 先

タン。他丹切 寒

車の弊れたる貌にいふ字。〇〔詩〕「檀-車一一」。

【幝】セン。足戰切 霰

くるまのおほひ、ほろ、（車-衣）。

【幰】サイ、セ。取外切 泰

一一項は、かしらづゝみ、古代に用ひしものさいへり。

【幢】幀に同じ。

【幡】ケウ。口妖切 蕭 カウ、丘袄切 コウ。切 皓

はかまのひも、（袴-紐）。

【幧】セウ。子小切 レウ。郥鳥切 篠

一に衣に从ひ、襍に作る。

ぬぐふ、（拭）。

【幞】ホク、ボク。房玉切 沃

㊀かしらづゝみ、づきん、かみづゝみ、はちまき、（帕）。〇〔畫史〕「必用ニ蒄-子一入レ一」。

㊁つゝむ、（裹）。〇〔廣韻〕「裁ニ幟-巾一、出ニ四-脚一、以一レ頭」。

【幞】ホク、ボク。博木切 屋 ｜或は、襆に作る。

裳の幅を削りたるもの。

【幟】シ。昌志切 寘

㊀旌旗の屬、はた、のぼり、其の徽號標識あるもの。〇〔史〕「旗一一皆赤」。

㊁めじるし、しるし、はたじるし、記號、目標。〇〔後漢〕「以ニ朱-縫一縫ニ其裾一爲レ一」。

（幡幟）はたじるし。〇〔漢〕「立ニ五-朵一一」。
（旌幟）前に同じ。〇〔後漢〕「賓從レ後悉拔ニ赤-眉一一」。
（徽幟）しるしをつけたるはた、又はたじるし。〇〔漢〕「殊ニ一一、異ニ器-制一」。
（標幟）めじるし。〇〔後漢〕「皆著ニ黄-巾一爲ニ一一」。
（疑幟）敵兵をまどはす爲めに立つる旗。〇〔宋〕「彥-仙依レ山植ニ一一」。
（虛幟）軍兵の在らざるに敵をたばかりて立つる旗。〇〔唐〕「即建ニ偶-人一、判ニ一一」。
（彩幟）いろどりを施したる旗。〇〔韋應物〕「銀-題一一邀ニ上客一」。

【幠】コ、ク。荒胡切 虞

㊀おほふ、（覆）。〇〔禮〕「一用ニ斂-衾一」。
㊁おほいなり、（大）。㊂あり、（有）。
㊃あなどる、（慢）。〇〔禮〕「毋レ一毋レ敖」。
㊄ながし、（長）。

【幟】サン。蘇旱切 旱 ｜一に、繖に作る、又、傘、繖にも作る。

きぬがさ、かさ、（蓋）。〇〔書〕「功-曹-吏一扇騎-從」。

【繻】シユ、ス。詞趨切 虞

ねがけのきぬぎれ、（縉-頭）。

（頭繻）結びたる髮の根に結ぶきれ、ねがけ。〇〔朱熹〕「布頭一用ニ略-細麻-布一、條長八-寸一、以束ニ髮-根一、而垂ニ其餘於後一」。

【幟】ジ、ニ。而至切 寘 ヂ、女利ニ。切

かざり、（飾）。

【幡】ハン、ホン。孚艱切 元

㊀字を書く觚を拭ふ布、ふだぶきん。〇〔徐鉉〕「觚八-稜木、於レ上學レ書、已以レ布拭レ之、今俗呼ニ一一布一」。

㊁はた、のぼり、（幟）。〇〔漢〕「博-士弟-子王-咸、擧ニ一大-學下一、曰、欲レ救ニ鮑-司-隷一者、會ニ此下一」。

㊂翻に通じ用ふ、ひるがへる、こぶ。〇〔孟〕「既而一-然改」。

（信幡）徽號のあるはた。〇〔崔豹〕「一一古之徽號也、所下以題ニ表官-號一以爲中符-信上」。
（三幡）色、色空、觀の三義のこと。〇〔孫綽〕「泯ニ色-空一以合レ跡、忽即レ有而得レ玄、釋ニ二-名之同-出一、消ニ一-無於一一」。
（幡々）（い）疾く飛ぶ貌にいふ語。〇〔詩〕「捷-々一一謀欲ニ譖-言一」。
（ろ）ひるがへる。〇〔詩〕「威-儀一一」。
（闘幡）前に同じ。〇〔司馬相如〕「一一互經」。
（絳幡）あかいろぎぬのはた。〇〔金〕「口銜ニ一一」。
（布幡）ぬのばた。〇〔三國、註〕「有ニ道人一、持ニ三尺一一」。
（迴幡）めぐるはた。〇〔隋煬帝〕「一一飛ニ曙-嶺一」。
（小幡）ちひさきはた。〇〔蘇軾〕「插レ鬢一一應ニ正-端一」。
（龍幡）龍の像をゑるしあるはた。〇〔雲笈七籤〕「前有ニ一一後虎-旗」。

【幢】タウ、ドウ。宅江切 江

㊀儀衞又は、指麾に用ふる旌旗の屬、はた、ばた、ぼこ。〇〔漢〕「建ニ一-棨一植ニ羽-葆一」。

㊁支ふるもの、つゝかひばしら。〇〔觀无量壽經〕「七-寶金一、擎ニ瑠-璃-地一」。

㊂たれぎぬ、さばり、（幕）。〇〔張仲素〕「燕-然-山-下碧-油一」。

㊃翳され蔽はれたる貌にいふ字。〇〔元稹〕「殘-燈無レ焰影一一」。

（幢之圖）

（牙幢）大將の立つるはたぼこ。〇〔三〕「遜乃益施ニ一一」。
（戟幢）はこばた。〇〔梅堯臣〕「應レ笑無ニ一一」。
（高幢）たけたかきはたぼこ。〇〔朱熹〕「鳴レ鐃建ニ一一」。
（鸞幢）鳳凰のかたちを畫きたるはたぼこ。〇〔顧況〕「龍-旂翠-蓋擁ニ一一」。

【幢】タウ、ドウ。直降切 絳

后妃の乘る車蓋に飾り下げたるたれぎぬ、ほろ。〇〔韓愈〕「靑-一紫-蓋立童-童」。

【幢】トウ、ヅ。徒東切 東

羽毛布帛などの垂れ下がれる貌にいふ字。〇〔張衡〕「樹レ羽一一」。

【幣】ヘイ、ハイ。毗祭切 霽

㊀神にさゝげ、君に貢ぎし、又、賓客に

おくるなどの帛、ぬさ、にぎて、みつぎもの、つかひもの、禮物。○〔莊〕「進二所レ持一而扶翼一」。
㊁價ある物、たから、財物。○〔横渠理窟〕「一者金玉齒革泉布之雜名」。
㊂通用の錢貨、ぜに、かね、さつ。○〔漢〕「改レ一以約レ之」。
〔納幣〕つかひもの、きぬ。○〔公羊〕「親二一一一非レ禮也」。
〔徵幣〕前に同じ。○〔後漢〕「宜下備二禮章一、時進中一一上」。
〔量幣〕宗廟を祭る禮にきぬを稱する語。○〔禮〕「玉曰二嘉玉一、幣曰二一一一」。
〔皮幣〕かはときぬと、又、皮にて作りたるさつにもいふ語。○〔孟〕「事レ之以二一一一、不レ得レ免焉」。
〔聘幣〕周の時代官の名にて官府都鄙の幣を收むることを掌る。○〔周〕「一一、上士二人、中士四人」。
〔正幣〕きまりたる幣物。○〔禮、疏〕「若土地無二一一、則時物皆可也」。
〔埋幣〕土中にうづむるにぎて。○〔儀、註〕「一一必盛以レ器」。
〔重幣〕手厚きつかひもの、又、おもき貨幣、即ち、鐵錢など。○〔國〕「民患レ輕、則爲レ之作二一一一以行レ之」。
〔造幣〕貨幣をつくること。○〔史〕「天子與二公卿一、議二更レ錢一レ一以贍レ用」。「一レ一」。
〔鑄幣〕貨幣をいて作る。○〔管〕「湯以二莊山之金一一一」。
〔貨幣〕世間に流通する金錢。○〔後漢〕「初王莽亂後一一一、雜二用布帛金粟一」。
〔珍幣〕めづらしき財物。○〔唐〕「武后出二一一一、建二佛廬一」。
〔錢幣〕ぜに。○〔唐〕「有レ詔改二一一一」。
〔泉幣〕前に同じ。○〔宋〕「今一一一所レ積、爲二五千萬一」。「人主」。
〔歲幣〕年毎に贈る定めの品物。○〔宋〕「一一一書錄二一一」。
〔楮幣〕紙にて作りたるさつ。○〔方回〕「朝廷易二一一一一」。
〔刀幣〕刀の形をなしたる錢。○〔管〕「黄金一一一」。

十三畫

【⿰巾敫】ケウ。古了切 篠 古弔切 嘯

脛に著くる行縢、きやはん、むかばき。

【幦】ベキ、ミヤク。莫狄切 ケキ、キヤク。詰歴切 錫
複に通じ用ふ、さばり、すだれ、おほひ、又、車のてすりがけ。○〔禮〕「君羔一虎犆」。

【幧】セウ。七遥切 蕭 サウ、ソウ。七刀切 豪
一に、綃、帩に作る。
髻を覆ふもの、頭に卷く巾、かしらづゝみ、はちまき。○〔揚雄〕「自レ河以北趙、魏之間、曰二一頭一、或謂二之帑一」。

【幨】セン、ソン。處占切 鹽
㊀蓋の四旁に垂れ下がれる巾、くるまのたれぎぬ。○〔歐陽修〕「擁レ蓋垂レ一、其榮可レ喜」。
㊁牀の前に用ふる帷、さばり、たれぬの。○〔東官舊事〕「有二綠石綺絹一裏二牀一一」。
㊂たつ、（絶）。○〔周〕「筋之所レ由一」。
〔彤幨〕車にかくる赤きたれぬの。○〔沈佺期〕「一一一向レ野披」。
〔車幨〕くるまにかくるたれぬの。○〔周、註〕「當レ爲二一一」。
〔絳幨〕車又舟などの中にかくる赤きたれぬの。○〔吳〕「青蓋一一一」。

【幨】セン、ソン。昌豔切 豔
えり、（襟）、又、はおり、（披衣）。○〔管〕「列二大夫豹一一」。

【⿰巾殺】サツ、セチ。山戛切 黠
二幅の巾、ふたのふくさ。

【⿰巾亶】タン。蕩旱切 旱
一に、袒に作る。

衣を束ねず、はだぬぐ、おびさく。

【⿰巾曼】俗の幔の字。

【⿱蔑巾】幭に同じ。

【⿱辟巾】幦に同じ、てすりかけ。○〔禮〕「鞮屨素一」。

【幩】フン、符分切 文 ヒ。彼義切 寘 ボン。切
古昔、馬の鑣に纏ひて飾さなし兼れて汗するを扇ぐに用ひし物。○〔詩〕「朱一鑣々」。

【幩】フン、ホン。父吻切 吻
穀物囊に滿つ、みつ。

【⿰巾遂】セイ。相銳切 霽
深き赤の色、こきあか。

十四畫

【⿰巾㥯】イン、オン。於靳切 問
㊀そろ、まがる、（拳）。㊁うら、（裏）。

【⿰巾疑】ギ。魚紀切 紙
きれ、ふきん、（巾）。

【幪】ボウ、モウ。莫紅切 東
おほふ、又、おほふもの、おほひ、（覆）。○〔揚雄〕「震レ風淩レ雨、然後知二夏屋之帡一一」。
〔帡幪〕覆ふこと。○〔馬汝驥〕「親曬獲二一一一」。
〔錦幪〕にしき織のおほひ。○〔杜甫〕「清坦散二一一一」。
〔覆幪〕おほひ。○〔徐陵〕「金鞍錦一一」。

【幪】ボウ、モウ。母總切 董

茂り盛りたる貌にいふ字。○〔詩〕「麻麥一一」。

【⿰巾監】ラン。魯甘切 覃
㊀緣なき衣。㊁けおりもの、（毳）。

【⿰巾賓】ヒン。紕民切 眞
亂るゝ貌、又、衣の敝るゝ貌にいふ字。

【幬】チウ、ヂユ。直由切 尤
㊀さばり、たれぬの、（帳）、又、車を覆ふさばり。○〔宋玉〕「蹇二余一一而請レ御、願盡二心之惓々一」。
㊁轂をおほふ革、こしきがは。○〔周〕「欲二其一之廉一也」。
〔素幬〕まろきとばり、又、まろきはろ。○〔史〕「大路之一一也」。
〔蚊幬〕かや。○〔高士傳〕「韓康作二一一一」。
〔羅幬〕うすぎぬのとばり。○〔庾肩吾〕「中婦卷二一一一」。
〔悅幬〕とばり。○〔馬融〕「張二帳帆一施二一一一」。
〔絳幬〕赤きとばり。○〔陸雲〕「寢無二一一一」。

【幬】タウ、ドウ。徒到切 號 徒刀切 豪
おほふ、（覆）。○〔禮〕「譬如下天地之無レ不二持載一無上レ不二覆一一」。

十五畫

【幭】ベツ、メチ。莫結切 屑 バツ、モチ。勿發切 月
覆ふもの、おほひ、きぬがさ、又、よぎ、又、かしらづゝみ、（帊幞）、又、車の覆式、てすりがけ。○〔詩〕「鞹鞃淺一」。

【⿰巾廚】チユ、ヂユ。重株切 虞
たれぬの、さばり、（帳）。○〔陸游〕「萬一竹一簟夜更涼」。
〔紗幮〕とばり。○〔陸游〕「醒々美睡付二一一一」。

（蚊幬）前に同じ。○〔陸游〕「黄葛一一眠欲レ成」。

【幯】セツ、セチ。子結切［屑］サツ、サチ。子末切［曷］ぬぐふ、(拭)。

【巾罷】ヒ。彼義切［寘］❶もすそ、すそ(裙)。❷帔に同じ。

【巾慼】ショク、ソク。子六切［屋］ふくろ、(幞囊)。

【巾慧】セイ、ゼイ。祥歲切［霽］ぬのぎれ、ぬの、てふき。

十六畫

【巾賴】ライ、レイ。洛駭切［駭］一懶は、衣の破るゝ貌にいふ語、やぶる。

【幨】セン、ゼン。徐廉切［鹽］❶おほふ(覆)。❷ぬのぎれ。

【巾奮】フン、ボン。方吻切［吻］符問切［問］フツ、ホチ。敷勿切［物］❶盛りたる穀のみち〳〵て囊裂く、さく、ほころぶ。❷弓の筋はじけ起こる、おこる、そる。

【巾閣】カク、キヤク。呼格切［陌］❶一巾虢は、赤き紙。❷一綌は、たれぬの、さばり。

【幰】ケン、コン。許偃切［阮］車の上に覆ふ幔、くろまのまく、ほろ、さばり。○〔倉頡篇〕「帛張二車上一爲レ一」。
（高幰）たけ高く張りたる車上のまく。○〔南〕「常乘二一一車一」。
（方幰）四角形の車のたれ幕。○〔王維〕「一一畫輪車」。
（湼幰）車に張る黒きたれ幕。○〔隋〕「侍女直乘二一一之車一」。

十七畫

【巾斂】レン。離鹽切［鹽］籢に同じ、かゞみばこ。

【幱】ラン。落干切［寒］すそ、もすそ(裳)。

【巾登】タウ、チヤウ。猪孟切［敬］開き張りたる畫繒、ゑぎぬ。

【巾韱】セン。七廉切［鹽］❶しるし、めじるし、(記標)。❷ぬぐふ(拭)。

【巾龠】ヤク。弋灼切［藥］幕を張りたる屋。

十八畫

【巾雙】サウ、ソウ。疎江切［江］艭に同じ、艂一は、張らざる帆。

【巾襄】ドン、ナン。乃昆切［元］ダイ、子。奴同切［灰］ダン、ナン。乃坦切［旱］奴案切［翰］巾にて墀を拭ふ、ぬぐふ、又、つく、(著)、ぬる、(塗)。

十九畫

【巾䜌】ラン。落官切［寒］おび、(帶)。

【巾羅】ラ。郎可切［哿］裂けたる絹、やぶれぎぬ、やれぎぬ。

干部

【干】カン。古寒切［寒］

❶をかす。
（い）戻りそむく、たがふ。○〔左〕「其敢一二大禮一、以自取レ戻」。
（ろ）觸れさはる、進みあたる。○〔書〕「以一二先王之誅一」。
（は）分をみだす。○〔國〕「趙孟使下人以二其乘車一一一行上」。
（に）不禮を行ふ。○〔穀梁〕「挾レ弓持レ矢而一二闔廬一」。
（ほ）志のぎ勝つ、せまりしへたぐ。○〔國〕「上下不レ一」。
❷もとむ、(求)。○〔論〕「子張學レ一レ祿」。
❸あづかる、(預)。○〔晉〕「一二預人事一」。
❹古昔、矢弩を防ぐ爲に身の蔽ひに用ひたる戰具、たて、(盾)。○〔禮〕「寢レ苦枕レ一」。
❺ふせぐ、(扞)。○〔詩〕「師一一之試」。
❻水の涯、ほとり。○〔詩〕「寘二之河之一一」。
❼たに、(澗)。○〔詩〕「秩々斯一」。
❽みやこのそと、國郊。○〔詩〕「出宿二于一一」。
❾若の字を上に附けて、「そこばく」と讀み、未定の數を示す。○〔漢〕「或、用二輕錢一、百加二若一一」。
❿木火土金水の五行のおの〳〵に陰陽ありとして十箇に分ちたる稱、曆に用ふるもの、十二支とを合はせて、えとゝいふ。○〔皇極經世〕「支一配二天地一之用也」。
⓫研に通じ用ふ。○〔集韻〕「研石也或省作レ一」。
⓬豻に通じ用ふ。○〔儀〕「量人量二侯道一一五十一」。
⓭乾に通じ用ふ。○〔初月帖〕「淡悶一嘔」。
⓮地勢下りて土色の黄なる處。○〔韓詩〕「考レ槃在レ一」。

（河干）黄河のほとり。○〔李商隱〕「車馬遙二一一」。
（朱干）赤く塗りたる盾。○〔禮〕「一一玉戚」。
（射干）（い）盾を射ること。○〔儀〕「士一レ一」。（ろ）木の名。○〔荀〕「西方有レ木焉、名曰二一一一」。（は）狐の如き獸にて能く木にのぼるといふ。○〔子虛賦〕「孔鸞騰遠二一一一」。（に）鳥のつばさ。○〔馮衍〕「攢二一一一、雜二蘼蕪一」「芳」。
（吳干）劍の名にて古の名工吳人干將の作りたるもの。○〔戰〕「一一之劍、肉試則斷二牛馬一」。
（闌干）（い）たてよこと。○〔曹植〕「踦レ帆飛レ樹、一一同レ量」。（ろ）てすり。○〔李白〕「沈香亭北倚二一一一」。（は）涙の流るゝ貌、又、まぶた。○〔韻會〕「眼眶亦謂二之一一一」。
（鏌干）鏌鋣と干將との名劍。○〔朱熹〕「奇兵吼二一一一」。
（野干）狐に似たる獸の名。○〔宗鏡錄〕「不レ作二頓悟一、猶如二一一隨二逐師子一」。

二畫

【芉】ジン、ニン。忍甚切［寢］❶さす、(揬)。❷やゝはなはだし、(稍甚)。

【平】ヘイ、ビヤウ。蒲兵切［庚］
❶たひらか。
（い）高低なきこと、凹凸なきこと。○〔管〕「水一而不レ流」。

(ろ)直く伸びひろがりたるを。○〔盧照鄰〕「闕·雲萬-里一」。

(は)面の滑かなるを。○〔丁廙〕「緻-理肌一一」。

(に)危からざるを、けはしからざるを。○〔柳貫〕「雲·梯忽斷山·嶼一」。

(ほ)同等なるを、均しきを、かたおちなきを、又、ひとし。○〔史〕「國-賦大一民富而府-庫實」。

(へ)眞直なるを、正しきを、よこしまならざるを。○〔禮〕「心一體正、持ニ弓-矢一審-固」。

(と)治まりて安きを、おだやかにして無事なるを、靜和なるを。○〔路史〕「陶-唐-氏不レ施ニ智-力一、而萬-國一」。

(ち)爲し難からざるを、むつかしからざるを、煩はしからざるを、又、易し。○〔史〕「一-易近レ民」。

(り)滿足するを、うれしく思ふを。○〔賈島〕「誰有ニ不レ一事一」。

㊁ひろくしてたひらかなる地、大なる野、廣原、たひら、ひら。○〔韓愈〕「沙-篆印ニ迴一一」。

㊂普通なるを、奇ならざるを、異ならざるを、つれ、なみ。○〔指月錄〕「如-何是道-泉、曰一-常心是道」。

㊃たひらぐ。

(い)騷亂治まる、寇賊滅ぶ、伏從す。○〔魏〕「歷-世逋-誅一-朝而一」。

(ろ)怨解けてよしみ結ばる、和睦成る。○〔左〕始一ニ于齊一也」。

(は)騷亂を鎭む、寇賊を除く、討ち從ふ。○〔淮〕「一ニ夷-狄之亂一」。

(に)怨を解きよしみを結ぶ、和睦す。○〔春秋〕「宋人及ニ楚人一一」。

㊄たひらかにす。

(い)たかひくをなほす、なだらかにす、ならす、なめらかにす。○〔周、註〕「壁一レ之」。

(ろ)均しくす、正す、調ふ、治む。○〔史〕「將ニ以教レ民一ニ好-惡一」。

㊅法を司る官、其の事を行ふにたひらかならざるべからざる義。○〔史〕「廷-尉天-下之一也」。

㊆穀類一年にふたゝび登るを。○〔漢〕「再登曰レ一」。

〔嘉平〕十二月の異名。○〔史〕「更ニ名-臘一曰ニ一-一」。

〔瑞平〕めでたき植木の名、世の治まる時に生ずるといふ。○〔張衡〕「植ニ一-一於春-圃一」。

〔和平〕やはらぎおだやかなり。○〔禮〕「血-氣一-一」。

〔正平〕たゞし。○〔唐〕「論-議一-一」。

〔雅平〕寡慾にして正し。○〔史〕「齊-中稱ニ其一-一」。

〔泰平〕一に、太平に作る、國家の極めて善く治まること。○〔後漢〕「致-隆ニ一-一」。

〔治平〕國家の治まりて無事なること。○〔漢〕「記ニ人之功一、忽ニ於小過一、以致ニ一-一」。

〔承平〕前に同じ。○〔漢〕「今累-世一-一」。

〔升平〕一に、昇平に作る、解前に同じ。○〔宋之問〕「相與樂ニ一-一」。

〔康平〕前に同じ。○〔漢〕「海-内一-一」。

〔詳平〕明らかに正し。○〔漢〕「號稱ニ一-一」。

〔平平〕平凡なること。○〔後漢〕「所レ言一-一爾」。

〔清平〕きよらかに治まる。○〔庾信〕「有下一ニ一天-下之心上」。

〔砥平〕といしの如く極めて平らかなること。○〔魏都賦〕「長-庭一-一」。

〔均平〕ひとしく正し。○〔徐寅〕「朝-昇夕-沒照一-一」。

〔四平〕四方高低なくたひらかなること。○〔職〕「地一-一」。

〔調平〕たゞしくとゝのふ。○〔南〕「故氣-韻一-一」。

〔揃平〕切りたひらぐ。○〔魏〕「卿欲下爲レ朕拓ニ定江表一、一-一甌-衍上」。

〔公平〕おほやけに正しく私曲なきこと。○〔唐〕「三日、一-一可レ稱」。

〔寛平〕ゆるやかに正し。○〔唐〕「治以ニ一-一」。

〔齊平〕ひとしきこと。○〔王羲之〕「前-後一-一」。

〔坦平〕高低なくたひらかなること。○〔劉兼〕「蜀-路新修盡一-一」。

【平】ヘン、ベン。蒲眠切 〔先〕

かたおちなく辨かち治むるを、又、ひさし、(均)、前條の㊄の(ほ)に同じ。○〔書〕「無レ黨無レ偏、王-道一-一」。

【平】ヘイ、ビヤウ。皮命切 〔敬〕

物の相場をひとしくするを、物價の標的。○〔揚雄〕「一-閧之市、必立ニ之一一」。

【年】デン、ヂン。奴顚切 〔先〕

(い)五穀熟するを、みのり。○〔左〕「大有レ一」。

(ろ)陽暦にては、地球の軌道を運行して太陽の周圍を一回する期間、陰暦にては、月の軌道を運行して地球の周圍を十二回する期間、其の間に五穀の一たびみのる義。○〔周〕「正ニ歲一一以序レ事」。

(は)人の斯の世に生息する期間、暦の改まるを一段となして數ふ、よはひ、(齡壽)。○〔左〕「五-叔無レ官、豈尙レ一哉」。

(に)時、時代。○〔司馬遷〕「當-一不レ能レ究ニ其禮一」。

〔有年〕五穀のよく熟せること。○〔春秋〕「桓-公三-年「一レ一」。

〔豐年〕前に同じ、又、其のとし。○〔范成大〕「一-一四-海皆溫-飽」。

〔萬年〕一萬歲のこと、永きよはひのこと、長壽を祝するにいふ語。○〔詩〕「天-子一-一」。

〔編年〕春秋の如く事蹟を年月により繫ぎ著はす歷史の體をいふ。○〔唐〕「龍-穎-士猶罪下子-長不レ爲ニ一-一而爲中列-傳上」。

〔少年〕年わかき者、又、其の時。○〔史〕「淮-陰屠-中一-一」。

〔迎年〕新にくるとしをまちむかふ。○〔陳師道〕「一レ一還得レ春」。

〔逢年〕豐年にであふこと。○〔史〕「諺曰、力-田不レ如レ一レ一」。

〔高年〕年老けたる者。○〔漢〕「郷-里先ニ耆-艾一、奉ニ一-一、古之道也」。

〔長年〕前に同じ。○〔山〕「木-葉落一-一悲」。

〔天年〕天然のよはひ。○〔漢〕「專ニ精-神一、以輔ニ一-一」。

〔生年〕此の世に生まれ出でたるとし。○〔後漢〕「術一-一以來、不レ聞ニ天-下有ニ劉-備一」。

〔經年〕幾年もへしこと。○〔晉〕「詔以ニ京-都有ニ一-一之儲一、權停ニ一-年之運一」。

〔暮年〕死期に近かづきたるとし。○〔宋〕「一-一事レ佛甚精」。

〔晩年〕前に同じ。○〔高適〕「一-一學ニ推-結一」。

〔忘年〕年をわするゝこと。○〔南〕「因結ニ一-一交一」。

〔盡年〕天然のよはひを終ふること。○〔莊〕「可ニ以全レ生、可ニ以一レ一」。

〔盛年〕さかりの年。○〔洛神賦〕「怨ニ一-一之莫レ當」。

〔丁年〕二十歲前後の年。○〔李陵〕「一-一奉レ使、皓-首而歸」。

〔衰年〕年老いたること。○〔杜甫〕「爲報各一-一」。

〔殘年〕あまりの年、又、其の壽命。○〔韓愈〕「肯將ニ衰-朽一、惜ニ一-一」。

〔歷年〕年を經ること。○〔南〕「一レ一長-久」。

〔季年〕すゑの年。○〔左〕「一-一乃三-百-乘」。

〔紀年〕世紀年月。○〔左〕「臣小人也、不レ知ニ一-一」。

〔當年〕其の年。○〔蘇軾〕「馬-行燈-火記ニ一-一」。

〔積年〕幾年月をかさねしこと。○〔後漢〕「所レ居之官、輒一-一不レ徙」。

〔累年〕前に同じ。○〔後漢〕「輔ニ弼先-帝一、出-內一-一」。

〔徂年〕去り行く年月。○〔後漢〕「一-一已流」。

〔流年〕前に同じ。○〔杜甫〕「鄰-々一-一度」。

〔旬年〕十年のこと。○〔魏〕「修レ之一-一、國富民安矣」。

〔曠年〕久しき年月。○〔後漢〕「皆一-一歷-歲、乃能克レ敵」。

〔耆年〕老年といふに同じ。○〔晉〕「可ニ以養ニ一-一」。

〔享年〕年をうくること。○〔隋〕「一レ一八-百」。

〔跨年〕年より年につゞく。○〔漢〕「沉-雨一レ一」。

〔弱年〕二十を弱冠といふよりいまだ壯年にならぬ時をいふ。○〔宋〕「一-一便有ニ卑世情一」。

〔周年〕まる一年。○〔陳〕「一-一成レ邑」。

〔妙年〕わかき年のことにて少年に同じ。○〔陳〕「或一-一異-等」。

〔世年〕年月のこと。○〔隋〕「多歷ニ一-一」。

〔笄年〕女子二十歲のこと。○〔宋〕「一-一守レ志」。

〔稚年〕 前に同じ。○〔參同契〕「――至二白首一」。
〔幼年〕 幼きこと。○〔庾信〕「――成レ德」。

【幵】 ケン。經天切 先

たひらか、(平)。

四畫

【尪】 アン。於寒切 寒

もゝ、(股)。

五畫

【幷】 ヘイ、ヒヤウ。府盈切 庚

㊀あふ。
(い)交はる。○〔素問〕「上下不レ―」。
(ろ)就く。○〔山海經〕「有二三青獸一、相―名曰二雙々一」。
(は)同じくある。○〔李白〕「千里失レ所レ依、復將二落葉―一」。
㊁あはす。
(い)合同せしむ。○〔周〕「凡居レ材大與レ小無レ―」。
(ろ)此れある上に彼れを有つ、かぬ、(兼)。○〔范成大〕「世間尤物美惡―」。
〔合幷〕 あふ、あはす。○〔李白〕「常恐不二――一」。
〔兼幷〕 人の物をまでもかねあはす。○〔漢〕「又禁二――之塗一」。
〔混幷〕 まじる、まじふ。○〔蜀都賦〕「冠帶――」。
〔交幷〕 前に同じ。○〔蘇軾〕「流汗――」。「―」。
〔駢幷〕 ならぶ。○〔王仲信〕「匠氏經營百藝―」。
〔肉薄骨幷〕 飛び道具を用ひず短兵にて城に攻めかゝること。○〔元〕「――――而拔レ之、則彼委二破壁孤城一而去」。

【幷】 ヘイ、ヒヤウ。卑正切 敬

㊀もつぱら、(專)。○〔禮〕「行二―植於晉國一」。
㊁倂に同じ。○〔賈誼〕「―二吞八荒一」。

【幷】 倂に通じ用ふ、すつ、のぞく。○〔莊〕「至貴國爵―焉」。

【幸】 カウ、ギヤウ。胡耿切 梗

㊀さいはひ。
(い)しあはせ、吉なること、さきはひ、福祿。○〔論〕「不―短命死矣」。
(ろ)得べき理なくて福祿を得ること、こぼれざいはひ。○〔荀〕「朝無二―位一、民無二―生一」。
(は)ねがふ意を表はすに用ふる字。○〔禮〕「―而至二於旦一」。
㊁さきはふ。
(い)さきはひを與ふ、さいはひす、又、親愛す、いつくしむ。○〔漢〕「願大王以―二天下一」。
(ろ)さきはひに遇ふ、又、親愛せらる。○〔漢〕「爲二黃門郎一、未二進―一」。
㊂こひねがふ、(冀)。○〔師古〕「幸可二慶―一也」。
㊃天子の出御、みゆき、天子出御あれば民に布帛を賜ひ田租を免しなどしてさいはひを與ふるの義。○〔漢〕「諸宮館希二御―一者」。「―」。
〔徼幸〕 さいはひを求む。○〔禮〕「小人行レ險以―レ―」。
〔近幸〕 ちかづけいつくしむ。○〔史〕「嬖子必―二―子一」。
〔天幸〕 自然にうけたるさいはひ。○〔王維〕「衞青不レ敗由二――一」。
〔胥幸〕 たふとくさきはふ。○〔北〕「明竊二――一者」。
〔佞幸〕 へつらひさきはふ者。○〔丁仙芝〕「今日應レ彈二――夫一」。
〔權幸〕 勢位ありさきはふ者。○〔宋〕「彈劾不レ避二――一」。
〔臨幸〕 天子の或る場處へ車駕をまげらるゝこと。○〔唐〕「數――觀二釋菜一」。
〔薄幸〕 ふしあはせ。○〔杜牧〕「贏得靑樓――名」。
〔妖幸〕 媚びへつらひてさきはふ者。○〔後漢〕「――毀政之符」。「――と」。
〔嬖幸〕 前に同じ。○〔蘇轍〕「使下昭帝居二深宮一近中
〔愛幸〕 さきはふ。○〔史〕「得二寵陶咸姫一――」。
〔顯幸〕 地位をたかめ愛せらるゝこと。○〔漢〕「貝嘗事レ我得二――一」。
〔遷幸〕 天子の他へうつり行かるゝこと。○〔晉〕「乘輿宜二――一」。
〔游幸〕 天子の游覽に行かるゝこと。○〔唐〕「妃每從二――一、乘レ馬則力士授二轡策一」。
〔巡幸〕 天子の地方をめぐらるゝこと。○〔唐〕「中書門下慮二――所レ過囚一」。
〔巧幸〕 便佞により愛せらるゝこと。○〔唐〕「新羅人金忠義工二――一」。
〔覬幸〕 こひねがふ。○〔元〕「―二―名爵一」。
〔希幸〕 前に同じ。○〔顏延之〕「謬二生――一」。

九畫

【[illegible]】 カツ、カチ。居曷切 曷

干を竪つる貌にいふ字。

十畫

【幹】 カン。古案切 翰

㊀任に堪ふ、事を能くす、よくす。○〔易〕「―二父之蠱一」。
㊁伎倆、才能、わざ、はたらき。○〔吳〕「有二文―一」。「也」。
㊂本據、主要、もと。○〔易〕「貞者事之―
㊃草木の根より正出したる部分、みき。○〔詩詁〕「木旁生者爲レ枝、正出者爲レ―」。
㊄體軀、からだ、むくろ。○〔南〕「非レ不レ偉二其體―一也然甚疑二其目一」。
㊅脊骨、せぼね。○〔左〕「所二以籍レ―」。
㊆わき、あばら、(脅)。○〔公羊〕「搚レ―而殺レ之」。
㊇器具の用材、しろ。○〔禮〕「羽箭―」。
㊈つよし、(强)。○〔十六國春秋〕「勇―策略與レ己伴者」。
㊉干の字の㊀に同じ。○〔廣雅〕「甲乙爲レ―、―者日之神也」。
〔强幹〕 (い)つよきみき、又、木を强固にす。○〔後漢〕「―レ―弱レ枝」。
(ろ)つよし。○〔杜甫〕「由來――地」。
〔枝幹〕 (い)十干十二支のこと。○〔後漢〕「作二甲乙一以名レ日、謂二之幹一、作二子丑一以明レ日、謂二之枝一」。
(ろ)えだとみきと。○〔世說〕「――扶疎」。
(は)手足と胴體と。○〔釋名〕「五行屬レ木、故其體狀有二――一也」。
〔峻幹〕 たけ高きみき。○〔嵇〕「山無二――一」。
〔驅幹〕 からだ。○〔杜甫〕「子雖二――小一、老氣橫二九州一」。
〔根幹〕 ねもと。○〔三輔黃圖〕「――盤峙」。
〔本幹〕 前に同じ。○〔史〕「彊二――一弱二枝葉一之勢也」。
〔棟幹〕 むなぎの用材、轉じて大いなる材能の義にかり用ふる語。○〔南〕「――之器」。
〔功幹〕 伎倆。○〔魏〕「深從弟恪有二――一」。
〔器幹〕 器量。○〔魏〕「有二文學――一」。
〔任幹〕 事を能くするにたふること、又、才能。○〔吳〕「――之事、足二委仗一者」。「―」。
〔貝幹〕 伎倆、才能あること。○〔吳〕「信一時之―」。
〔武幹〕 武勇のわざ。○〔晉〕「有二――一」。
〔吏幹〕 役人のはたらき。○〔宋〕「明敏有二――一」。
〔意幹〕 はたらきあること。○〔宋〕「謹實有二――一」。
〔治幹〕 政治を能くすること。○〔齊〕「應レ須二――一」。
〔形幹〕 からだ。○〔齊〕「虎――甚毅」。
〔枯幹〕 かれたるみき。○〔梁〕「――必摧」。
〔嚴幹〕 きびし。○〔金〕「以二――一稱」。
〔骨幹〕 はね。○〔淮〕「――屬碧」。
〔喬幹〕 高きみき。○〔沈約〕「――臨レ雲直」。
〔纖幹〕 ほそきみき。○〔元稹〕「――未レ盈レ把」。

【[illegible]】 カン。河干切 寒

ゐげた。
(い)井の上に構へたる欄。○〔莊〕「吾

跳二梁乎井—之上一。(ろ)前項の形をなせるもの。○[漢]「武帝立二井—樓一高五十丈」。

【幹】 管に同じ、あづかる、つかさどる。○[漢]「石顯—二尚書一」。

【栞】 ケン。古典切 銑 小さく束ぬ、つかぬ、又、つかねたるもの、たば、一說に、禾十把をいふ。○[氾勝之書]「藝レ麻之法、—欲レ小」。

【缾】 ヘイ、ビヤウ。旁經切 靑 蒲の席にてこしらへたるたはら、(帔)、又、ふご(畚)、又、たけにてこしらへたるうつは(竹器)。

幺 部

【幺】 エウ。於堯切 蕭
㊀ちひさし(小)。○[陸機]「猶二絃—而徽急一」。
㊁をさなし、いさけなし(幼)。○[班彪]「—麼尙不レ及二數子一」。
(微幺) ちひさきこと。○[郭璞]「蟲之——」。

一畫

【幻】 クワン、ゲン。胡慣切 ケン、ゲン。胡辨切 諫
㊀物の姿の假りにあらはれて間もなく化はり消ゆるを、まぼろし。○[蘇軾]「此生如レ—耳」。
㊁詐惑す、まどはす、いつはる、あざむくくらます。○[書]「胥譸張爲レ—」。
㊂人目をくらますあやしき術、てづまなど。○[法苑珠林]「呑刀嚼火、祕—奇伎」。「變——」。
㊃かはる(化)。○[王光蘊]「神二五色于——」。
(夢幻) ゆめまぼろし。○[孔武仲]「語罷恍然眞「爲二——」」。
(妖幻) 妖術にてまどはすこと。○[北]「沙門法慶旣挾二妖術一…」
(荒幻) 信ずべからざる妖術。○[西山題跋]「太一天尊應驗錄遂以爲二謗苑——、無レ所二究詰一」。
(浮幻) とりとめなきこと。○[梁昭明太子]「旣去二——、何得レ于二見寶之中一、見中此——上」。
(虛幻) いつはり。○[蘇軾]「而——無レ實」。
(誕幻) 前に同じ。○[元好問]「——若レ無レ實」。

二畫

【幼】 イウ、エウ。伊謬切 宥 イウ。切 乙六 屋 キク、チク。
㊀年齡少し、をさなし、いさけなし。○[宋]「召入レ宮而憐二其—一」。
㊁をさなき者、いさけなき人、こども。○[戰]「民扶レ老携レ—」。
㊂をさなき者を慈愛す。○[孟]「—二我幼一以及二人之幼一」。
㊃漢の王莽の時の錢の名。○[漢]「徑八寸重五銖、曰二—錢一、直二十一」。
(童幼) こども。○[宋]「携二——一、升二禁營一」。
(稚幼) 前に同じ。○[蘇軾]「百歲仍——」。
(愚幼) おろかにしていとけなし。○[漢]「雖レ有二——不肖之嗣一」。
(蒙幼) 前に同じ。○[晉]「惠二訓——一」。
(孩幼) ちのみご。○[陸龜蒙]「股掌弄二——一」。

【幼】 エウ。一笑切 嘯 くはしくしてこまやかなるを、(精微)。○[司馬相如]「聲—妙而復揚」。

【幼】 㓜に通じ用ふ。

【㓜】 幼に同じ。○[皇甫君碑]「—挺二雕龍之采一」。

三畫

【𢆶】 イウ、ユ。於虯切 尤 こまし、こまか(微)。○[元包經]「傚二幺——卒二飄颻一」。

四畫

【⿰幺少】 エウ。一笑切 嘯 於喬切 蕭 小さき貌にいふ字、こまし、ほそし。

【玅】 妙に通じ用ふ。

【⿷匚𢆶】 ハウ、ヒヤウ。悲萌切 庚 すみ縄をあてがひて物を直くす。

【紗】 エウ。於喬切 蕭 一笑切 嘯 急しく戻る、もどる。

【紗】 エウ。一兆切 篠 絲をより理めてかどりをこしらへざるうちにより急にもどる。

六畫

【幽】 イウ、ユ。於虯切 尤
㊀かくる(隱)、ひそむ(潛)。○[易]「—人貞吉」。
㊁くらし(闇)。○[書]「黜二陟—明一」。
㊂志かさ見聞のさどきかぬるを、かすか。○[史]「極レ—而不レ隱」。「—南山」。
㊃ふかし(深)、さほし(遠)。○[詩]「——明之占」。
㊄陰。○[史]「——明之占」。
㊅雌。○[史]「—明雌雄也」。
㊆夜。○[王延壽]「——星之纚連」。
㊇死後、又、未來。○[晉]「——明之間」。
㊈黑き色、くろ。○[詩]「其葉有レ—」。
㊉あらはれざる地、明かならざる場所。○[後漢]「光二照六——一」。
⑪さらふ、さらはる、(囚)。○[揚惲]「身—二北闕一」。「道—レ—」。
(闡幽) くらきを明らかにす。○[文心雕龍]「夫神明幽」くらきを明らかにす、又、明らかなると暗きとのとより轉じて此の世卽ちいきたる者の居る場處と死したる者の居る場處と。○[韓愈]「分知隔二——一」。
(淸幽) きよらかにして深く靜かなること。○[李白]「弄レ水窮二——一」。
(幽幽) (い)深き貌。○[柳宗元]「丘之——。可以處休一」。(ろ)くらきこと。○[宋之問]「靑松——吟二從風一」。
(僻幽) かたよりて遠き處。○[王昌齡]「——聞二虎豹一」。

【⿱丱𢆶】 クワン。古還切 刪 古患切 諫 絹を織るに糸を貫くに用ふるくだ。

【幾】 キ、ケ。居衣切 微
㊀物事のあらはれ出でんさするを、動きそむるを、きざし。○[書]「兢兢業業、一日二日萬—」。「其—矣」。
㊁あやふし(危)。○[詩]「天之降レ罔維—」。
㊂さき(期)。○[詩]「如レ—如レ式」。
㊃こひねがふ、ねがふ(冀)、のぞむ(望)。○[史]「毋レ—レ爲レ君」。
㊄みる(察)。○[周]「—二出入不物者一」。
㊅將に其の物事に及ばんさする意を表はす字、ちかし(返し讀むさきに)ほさんご。○[史]「—敗二乃公之事一」。
㊆器具の沂鄂、へり、ふち。○[禮]「丹漆雕——之美」。「雕——」。
㊇附く、纒ふ、ぬる、まく。○[禮]「車不二—」。
㊈主要、かなめ。○[揚雄]「爲レ政有レ—」。

【幾】 キ。居稀切 尾 いくばく。

(い)數の多少を問ふときに用ふる字、何ほど、どれほど。○〔史〕「上問車中—馬」。
(ろ)時を經ること、程立つこと。○〔晉〕「始爲二仲堪之客一、未レ—竟踐二其位一」。
(は)多少あること。○〔漢〕「不レ同二禽獸一者無レ—」。

【幾】キ、ケ。其既切 [未]・
未だ已まず。

【⿰幺曷】エイ。於罽切 [霽]
成し遂げずして急ぎ戻る、もどる。

十一畫

【⿰幺委】シ。斯氏切 [紙] セイ、千禮切 [薺] サイ。切
すこし、(小)。

【⿱𢆶皿】繼に同じ、つぐ。○〔莊〕「得レ水則爲レ—」。

【⿰𢆶𢆶】古文の絶の字、たつ。○〔路溫舒〕「—者不レ可二復屬一」。

十二畫

【⿹气幾】キツ、ゴチ。具迄切 [質]
㊀ちかし、(近)。㊁あやふし、(危)。
㊂せまる、(切)。

广部

【广】ゲン、ゴン。疑檢切 [琰]
㊀巖に依りて構へたる家、いはや。○〔黃濳〕「哉觀三崖—架二寥-泬一」。
㊁棟の頭、むなぎ。○〔韓愈〕「剖レ竹走二泉-源一、開レ廊架二崖—一」。
〔草广〕やねを草ぶきにしたるいはや。○〔袁桷〕「—如レ峙」。

二畫

【庀】ヒ。普弭切 [紙] ヘイ。普米切 [霽]
㊀そなふ、(具)。○〔左〕「官—二其司一」。
㊁をさむ、(治)。○〔左〕「楚子-木使レ—レ賦」。
㊂庇に通じ作る、おほふ。○〔周〕「—二其委-積一」。

【庁】テイ、チヤウ。他丁切 [青]
㊀たひらか、(平)。
㊁㕔に通じ用ふ。

【仄】ショク、シキ。阻力切 [職]
赤—は、漢の時の錢の名。○〔漢〕「令二京-師鑄一官一赤—一當レ五、其後二二歲、赤—錢賤、民不レ便又廢」。

三畫

【⿸广乇】古文の宅の字。

【⿸广毛】古文の度の字。

【⿸广下】サ、セ。所嫁切 [禡]
㊀母屋の側にはりいだしたる家、つのや、(旁屋)。
㊁いやし、(賤)。

【⿸广女】ゲン、ゴン。魚掩切 [琰]
齊—は、いやし、又、ひさし。

【⿸广弋】廣に同じ。

【⿸广于】籒文の宇の字。

【⿸广电】エイ、エ。弋勢切 [霽]
ひさし、又、のき、(貪-廡)。

【⿸广久】キウ、ク。居佑切 [宥]
やいと、(炙)。

【⿸广干】斥の字の譌り。

【⿸广亡】廡に同じ。

【庄】ハウ、ビヤウ。薄庚切 [庚]
たひらにす、又、たひらか、(平)。

【⿸广幺】底に同じ。

【⿸广口】カン、ゴン。戸感切 [感]
—嘾は、乳の汁の貌にいふ字、又、ちしろ。

四畫

【庇】ヒ。必至切 [寘]
㊀おほふ。
(い)助け護る、かばふ。○〔國〕「周恭-王能—二照-穆之闕一」。
(ろ)被らす、かくす。○〔令狐楚〕「綿-々葛-藟下—二其根一」。
㊁寄る、たよる。○〔呂氏春秋〕「則民知レ所レ—矣」。
㊂かげ。
(い)助け、たより。○〔中說〕「生-民有レ—」。
(ろ)覆ひ。○〔許敬宗〕「欣二託-巢之有一レ—」。
〔大庇〕いたくかばふ。○〔左〕「—二—民一乎」。
〔依庇〕たよる、かげ。○〔後漢〕「璟-憲有レ所二—一、死復何恨」。
〔曲庇〕道理に戻りてかばふ。○〔宋〕「納二厚-賂一—二之一」。
〔保庇〕かばふ。○〔宋〕「朕力爲二—一以及二於此一」。
〔陰庇〕他の保護によること、おかげ。○〔于邵〕「私賜以二—-—之地一、永爲二子-孫之狀一」。
〔影庇〕前に同じ。○〔冊府元龜〕「富-戶或投二名於勢-要一、以求二—-—一」。
〔天庇〕君上の加護。○〔齊映出官後自敘表〕「臣有二微-功一、實由二—-—一」。
〔援庇〕助け。○〔元稹〕「無二親-黨爲一レ臣—-—一」。
〔賴庇〕よる、たより。○〔歐陽修〕「—-—韓レ逃二于罪-戾一」。

【庈】キン、コン。巨今切 [侵]
人の名。

【庉】トン、ドン。杜本切 [阮]
㊀二階のかべ、(樓-牆)。
㊁屯聚する處、たむろ。
㊂室内の物を置く處、くら、なんど。

【庉】トン、ドン。徒孫切 [元]
㊀すまひ、すみか、(居)。
㊁火の盛んにおこる貌にいふ字、さかんなり。○〔爾〕「風與レ火爲レ—」。

【庉】トン、ドン。徒困切 [願]
いへ、(舍)。

【床】俗の牀の字。

【⿸广犬】奄に同じ。

【⿸广水】ス井。戸類切 [寘]
屋深し、ふかし、又、おくまりたるいへ。

【庋】キ。過委分 [紙]
—本、庋に作る。

㊀物を載せ置く棚、おきだな、ぜんだな、書籍だな。○[世說]「傾レ筐倒レ―」。㊁棚にのす、又、おく。○[唐]「前-後賜-予緘-―不二敢用一」。

【庌】ガ、ゲ。語下切 馬　五駕切 禡

㊀正しく大いなる家、いへ、又、まんごころ、([illegible])、又、ひさし、ひよけ、おほひ、(廡)。○[六書故]「廊-廡四-達之謂レ―」。㊁おほひを設く、おほひをなす、おほふ。○[周]「夏―レ馬」。

【庌】ガ、ゲ。牛加切 麻

庤―は、ひさしからざるにいふ語、かたゝがひ。

【庎】カイ、ケ。居拜切 卦

―一に、⿰木介に作る。ぜん棚の板、たないた。○[六書故]「―庋-版、令レ足三流レ水以受二滌-濯一、今-人設二之於廚一」。

【⿸广卒】スヰ、ズヰ。徐醉切 寘

灰を集めおく小屋、はひごや。

【⿸广壬】ジン、ニン。如林切 侵

しも、した、もと、(下)。

【庉】タン、ドン。徒含切 覃

かげ、(陰)。

【⿸广元】クワン、ゲン。胡關切 刪

㊀屋を葺くに下に据うる瓦、下のかはら、ひめがはら、牝瓦(上覆ひの牡瓦に對していふ)。㊁おほづな、(維-綱)。

【序】ジヨ、ゾ。象呂切 語

㊀堂の東西にある牆、かき、内外を區別する爲めに設けたるもの。○[爾]「東-西牆謂二之―一」。
㊁廂、ひさし。○[書]「西-―東嚮」。
㊂學問藝術を教へ學ばしむる處、まなびどころ、學校。○[禮]「家有レ塾、黨有レ庠、術有レ―」。
㊃上下の階段、前後の次第、ついで。○[孟]「長-幼有レ―」。
㊄ついづ。
(い)ついでを分け定む。○[禮]「官―二貴-賤一」。
(ろ)整ふ、列す。○[北]「禮備樂―」。
(は)後を承く、つぐ、かはる。○[屈平]「春與レ秋其代―」。
㊅はし、いとぐち、端緒。○[詩]「繼レ―思不レ忘」。
㊆支那にて文章の體裁を區別したるものゝ一、はし書き、敍に同じ、其の條を見るべし。○[韓愈]「遂各爲二歌-詩六-韻一退、愈爲二之―一云」。
㊇のぶ。
(い)ついでを追ひて陳述す。○[文心雕龍]「標二――盛-德一」。
(ろ)はし書きを書く。○[韓愈]「愈因推二其意一而―レ之」。

[嚮序] 學校。○[易略例序]「鼓二嚮――一」。
[東序] 大學、王宮の東に在るよりいふ。○[禮]「夏-后-氏養二國-老于――一」。
[次序] ついで。○[淮]「知二日-月之――一」。
[殷序] 殷の時の學校。○[孟]「―曰レ―」。
[天序] 自然のついで、又、帝王の後嗣にいふ語。○[漢]「可下以承二――一、纘中祭-祀上」。
[階序] たん、きざはし。○[漢]「不レ降二――一」。
[四序] 春夏秋冬のついで。○[劉允濟明堂]「槪二――一、而俟二炎-涼一」。
[順序] 次第。○[魏]「風雨――」。
[條序] 前に同じ。○[南]「干戈未レ息、尙無二――一」。
[倫序] 前に同じ。○[白居易]「朝-野分二――一」。
[秩序] 前に同じ。○[陸機]「謬二玄-黄之――一」。
[繼序] 後を承けつぐ、ついで。○[唐]「譜-系以紀二世-族――一」。
[右序] 助けついづ。○[詩]「實―二―有-周一」。
[禮序] 貴賤尊卑のついで、禮儀。○[後漢]「周-室東-遷、――凋-缺」。
[州序] 州立の學校。○[周]「以レ禮會レ民、而射二于――一」。
[庠序] 學校。○[孟]「謹二――之敎一、申レ之以二孝-弟之義一」。
[班序] かくしきの次第。○[唐]「凡文-武――、官同者先レ爵」。
[紀序] 政綱のついで。○[史]「天下有レ道則不レ失二――一」。
[乖序] ついでにそむきもとる。○[南]「以二氷-縉一爲レ患、屋-縉―レ―」。
[甄序] 分かちついづ。○[文心雕龍]「子-長繼レ志、―二―帝-勣一」。
[常序] 定まれる次第。○[易略例]「尊-卑有二――一」。
[冠序] はしがき。○[宋]「又請二――一、上許レ之」。
[彝序] つねのついで。○[江淹]「宜下總二二-官一以穆中――上」。
[節序] 時節のついで。○[杜甫]「看レ花隨二――一」。
[位序] 位地といふに同じ。○[王僧孺]「宜レ委二――之尊-卑一」。
[校序] 學校。○[邢部]「列二――于鄉-黨一」。

【⿸广氏】底に同じ。

【⿸广么】シ。照里切 紙

山の名。○[山海經]「鈐-山之西曰二―-陽之山一」。

五畫

【底】テイ、タイ。典禮切 薺

㊀そこ。
(い)物事の行きづまりたる處、極處、奥。○[晉]「且吾投レ老扣二囊-―一智、足二以剋レ之」。
(ろ)物の凹みの止まりしきられたる處。○[淮]「窺二井―一、雖二達-視一不レ能レ視二其睛一」。
(は)器具の臀。○[詩、箋]「無レ―曰レ橐、有レ―曰レ囊」。
(に)内部、うち。○[李羣玉]「眼-―桃-花酒半醺」。
(ほ)下方、しも。○[岑參]「千-家府-―看」。
㊁とゞこほる、(滯)、とゞまる、(止)。○[左]「勿レ使レ有レ所二壅-閉湫―一」。
㊂文書のしたがき、草稿。○[春明退朝錄]「公-家文-書稿、中-書謂二之草一、樞-密-院謂二之―一」。
㊃疑ひ問ふさきに用ふる字、なんぞ、なんの、(何)。○[韓愈]「有二―忙-時一不二肯來一」。
㊄底に通ず、いたる、(至)。○[詩]「靡レ所二―止一」。
㊅砥に通じ用ふ、といし。○[漢]「磨-礱―-厲」。

[徹底] そこまでとほる。○[耶壕記]「池-水――供-漱」。
[到底] 果ては、つひに、つまり。○[耶律楚材]「功-名――成二何事一」。
[不底] 滯らぬ。○[左]「處而―レ―」。
[小底] 役使に供する者、こもの。○[晉公談錄]「昌-城劉承規在二太-祖朝一爲二黃-門――一」。
[黃泉底] 地下の極まるところ。○[淮]「言二―・―之―一」。

【⿸广立】ラフ、ロフ　落合切 合

いへのおさ、やなり、(屋-聲)。

【⿸广令】レイ、リヤウ。郎丁切 青

物の懸かり通る貌にも、屋宇の通る貌にもいふ字。

【⿸广只】シ。之氏切 紙

㊀住處卑し、いやし、ひくし。㊁すまひ、すみか、(居-處)。㊂すむ、(住)。

【庖】 ハウ、べウ。 蒲交切 肴

㊀食物を料理する處、くりや、くり、だい處、炊事場。○〔詩〕「大-—不レ盈」。
㊁料理人。○〔史〕「伊-尹爲レ—」。
㊂料理物。○〔宋〕「專主二—-膳一」。
㊃伏義氏のこと、一に、庖犧といふ。○〔漢〕「河-圖命レ—」。
〔良庖〕 上手なる料理人。 ○〔莊〕「—-—歲更レ刀割」。
〔族庖〕 多くの料理人。 ○〔莊〕「—-—月更レ刀折也」。
〔寒庖〕 貧しき家のくりや。 ○〔蘇軾〕「—-—有二珍烹一」。
〔同庖〕 他と共に一つ品物を食らふこと。 ○〔禮〕「夫-人「與レ君—レ—」。
〔珍庖〕 めづらかなる料理。 ○〔晉〕「賜レ蓑充レ腹出二—-—一」。 「—、中-士一-人」。
〔典庖〕 くりやを掌る役の名。 ○〔唐〕「後-周有二—-—「—、中-士一-人」。
〔烹庖〕 養たる料理。○〔張九成〕「—-—入二盤-俎一」。
〔懸庖〕 くりやに釣り下ぐ。 ○〔庾信〕「翳-雉屢-—レ—」。
〔尉庖〕 料理。 ○〔長孫佐輔詩〕「客來羞二—-—一」。

【店】 テン。 都念切 豔

物品を並べ置きてひさぐ場處、あきなふ家、たな、みせ。○〔舊唐〕「鬻二新-—-—規レ利」。
〔野店〕 のなかの物賣る家。 ○〔杜甫〕「—-—引二山-泉一」。
〔小店〕 こみせ。 ○〔王安石〕「—-—無レ燈欲レ閉レ門」。
〔草店〕 くさぶきのはたごや。 ○〔吳鎭〕「—-—月「中—」。初冷」。
〔山店〕 やまの中なる物賣る家。 ○〔庾信〕「遙想—-—」。
〔孤店〕 ひとつやのみせ。 ○〔元稹〕「烟-火漸稀—-—都」。
〔旅店〕 やどや。 ○〔項斯〕「—-—開偏早」。
〔行店〕 はたごや。 ○〔韓愈〕「歷-々想二—-—一」。
〔坊店〕 たな。 ○〔陸游〕「近-村—-—賣二新-醅一」。
〔荒店〕 あれてさびしき物賣るみせ。 ○〔蘇軾〕「千-山不レ憚二—-—遠一」。 「—一」。
〔津店〕 渡し場にあるみせ。 ○〔高啓〕「商-鼓喚二—-—」。

【⿸广乍】 サ、シャ。 仕下切 馬

いへ、(家-屋)。

【⿸广乍】 サ、シャ。 鋤加切 麻

—庌は、ひさしからざるにいふ語、そろはず、かたゝがひ。

【⿸广皮】 ヒ、ビ。 扶宜切 支

しく、(鋪)。

【⿸广布】 ホ、フ。 普故切 遇

つらぬ、つらなる、(布-列)。

【⿸广囟】 ダフ、ネフ。 昵洽切 洽

庘—は、隘きにいふ語、せばし。

【庘】 アフ、エフ。 烏甲切 洽

㊀屋壞れんとす、やぶれかゝる。
㊁⿸广囟の字を見よ。
㊂ぶたごや、(家-屋)。

【庙】 俗の廟の字。

【废】 ハツ、バチ。 蒲撥切 曷

㊀くさや、わらや、(草-舍)。
㊁やごろ、(舍)。 ㊂ひくし、(下)。

【庚】 カウ、キヤウ。 古行切 庚

㊀えとの一つ、十干の七つ目、かのえ、方位にては西の方。○〔參同契〕「金-木甲-—相資爲レ用」。
㊁堅く強き貌にいふ字、かたし、こはし。○〔説文〕「秋-時象二萬-物——-—有レ實」。
㊂更に同じ。
(い)かはる、かふ。○〔易〕「先レ—三-日、後レ—三-日吉」。
(ろ)さらに。○〔列〕「從二口之所レ言—無二利-害一」。
㊃よはひ、とし、(年-齡)。○〔癸辛雜識〕「張-神-鑒聲而慧、毎レ談一命、則旁引二同-—者數-十一、皆歷-々可レ聽」。
㊄物の橫たはる貌にいふ字、よこたはる。○〔漢〕「大-橫—-—」。
㊅つくのふ、(償)。○〔禮〕「請—レ之」。
㊆みち、(道)。○〔左〕「塞二夷-—一」。
〔先庚〕〔後庚〕 命令をかふること、命令をかふるときは施行期日の三日前に發布して、又、刑罰を行ふには施行期日より三日後より始むるの義なり、引例の易經より出づ。 ○〔易〕「—レ—三-日、—レ—三-日吉」。 「—一」。
〔長庚〕 よひの明星。 ○〔詩〕「東有二啓-明一、西有二—-—」。
〔倉庚〕 (動)うぐひす。 ○〔詩〕「春-日載-陽、有二鳴—-—一」。
〔商庚〕 前に同じ。 ○〔陸璣〕「黃-鶯一-名—-—」。
〔夷庚〕 (い)吳と晉との往來に切要なる道。 ○〔左〕「—-—」。
(ろ)萬物の出りて生ずる常の道。 ○〔東晳〕「蕩-々「披二其地一、以基二—-—一」。
(は)車を藏め置く處。 ○〔王諡〕「—-—未レ入」。
〔和庚〕 音律の名。 ○〔隋〕「夷-則一-部二-十-七-律、一曰二—-—一」。 「見二—-—一則歲豐」。
〔當庚〕 (動)獸の名、其の形豚の如しとぞ。 ○〔叢譚〕

【⿸广且】 ショ、子余切 魚 シ。 七賜切 寘

人相依寄す、よる。

【⿸广旦】 タン。 得案切 翰

ちひさきいへ、こや、(小-舍)、一説に、小さき杯。

【⿸广世】 エイ。 以制切 霽

ぜんだな、(庋)。

【庛】 シ。 七賜切 寘 才支切 支

又、廲、廱に作る。

耒の下の前に曲がりて耜に接するところ、すきの柄の下にある岐木、またぎ。○〔周〕「車-人爲二耒-—一、長-尺-有一-寸」。

【府】 フ。 匪父切 麌

㊀あつまる、(聚)、又、あつまる處。○〔素問〕「脉者血之—也」。
㊁宮禁、官廷の文書、寶玉、財貨などをおさまる處、くら、ふみぐら、かねぐら。○〔禮〕「在レ—言レ—、在レ庫言レ庫」。
㊂財貨を司ごる官吏。○〔漢〕「太-公爲レ周立二九-—圜-法一」。
㊃文書を司ごる官吏。○〔周〕「—掌二官-契一以治レ藏」。
㊄官吏、役人、つかさ。○〔漢〕「明-—素著二威-名一」。
㊅官吏のあつまる處、官廳、役處。○〔蜀〕「開レ—治レ事」。
㊆人家多く物貨あつまる處、都邑、みやこ。○〔後漢〕「居二峴-山之南一、未三嘗入二城-—一」。
㊇古昔、都邑に郭を設けたるより、かぎり、へだての義にいふ字。○〔宋〕「遇レ人不レ設二城-—一」。
㊈行政上の區劃。○〔唐〕「州-—三-百-五-十-八」。
㊉腑に通じ用ふ、はらわた。○〔周、疏〕「六-—、胃小-腸大-腸膀-胱膽三-焦」。
⑪俯に通じ用ふ、かゞむ。○〔列〕「王—而視レ之」。

〔大府〕宮廷と政府との用に供すべき貨賄を藏め置く庫。○〔周〕「——掌二九貢九賦九功之入一」。
〔玉府〕王の使用する貢賓などを藏め置く庫。○〔周〕「——掌二王之金玉玩好兵器凡良貨賄之藏一」。
〔外府〕政府の使用する錢貨を藏め置く庫。○〔周〕「——掌二邦布入出一、以共二百物一、而待二邦之用一」。
〔膳府〕膳羞の用に供する物を掌る處。○〔韋莊〕「八珍羅二——一」。
〔泉府〕市の税を取り立つることを掌る役所。○〔周〕「——上士四人」。
〔天府〕（い）祖先の祭祀に供する物品を藏め置く庫。○〔周〕「——掌二祖廟之守藏一」。
（ろ）地味膏腴にして物產の豐富なる地にいふ語。○〔戰〕「此所レ謂——、天下之雄國也」。
（は）地の險要にして天然の堅めとなるにいふ語。○〔史〕「關中所レ謂金城千里、——之國也」。
〔官府〕政府の役所。○〔周〕「以治二——一、以紀二萬民一」。
〔內府〕諸侯の朝覲したるときに獻じたるもの、又は、諸侯に頒かち賜ふべき物品を藏め置く庫。○〔周〕「掌レ受二九貢九賦九功之貨賄一」。
〔怨府〕うらみのあつまる所となるにいふ語。○〔左〕「吾不レ爲二——一」。「其可レ得也」。
〔故府〕舊き庫。○〔國〕「若使レ有司求二諸——一」、
〔盟府〕誓約せるふみを藏め置く庫。○〔韋曜〕「名書二史籍一、勳在二——一」。
〔少府〕天子より私に人に賜ふべき物品を藏め置く庫。○〔史〕「皆宜レ屬二——一」。
〔幕府〕將軍の役所。○〔漢〕「不レ擊二刀斗一自衞、——省二文書一」。
〔記府〕記錄せる文書を藏め置く庫。○〔史〕「乃書而藏二之——一」。
〔御府〕天子の供御の物品を藏め置く庫。○〔史〕「出二——禁藏一以贈レ之」。
〔祕府〕ひめ置く物品を藏め置く庫。○〔晉〕「藏二於——一」。
〔相府〕宰相の役所。○〔通典〕「以二列侯主計一、居二——一」
〔水府〕（い）星の名。○〔晉〕「井西南四星曰二——一、主レ水之官也」。
（ろ）水神の居處。○〔姚合〕「探レ珠入二——一」。
〔學府〕學術社會の主腦、卽ち、其れに關係するすべてのもの、あつまる處。○〔南〕「世稱爲二——一」。

〔靈府〕精神、たましひ、心。○〔莊〕「不レ可レ入二於——一」。
〔心府〕前に同じ。○〔隋〕「罄二竭——一」。
〔林府〕物の多く集まるところ。○〔陸機〕「遊二文章之——一」。「一」。
〔禍府〕災難の集まるところ。○〔劉諷〕「逆者—之」
〔六府〕（い）水、火、金、木、土、穀の六つ。○〔書〕「地平天成、——三事允治」。
（ろ）星の名、文昌宮。○〔晉〕「文昌六星、在二北斗魁前一、天之——也」。
（は）六つの役所。○〔禮〕「天子之——、曰二司土、司木、司水、司草、司器、司貨一」。
〔庶府〕もろもろのつかさ。○〔隋〕「百司——」。
〔軍府〕軍中に設けある役所。○〔左〕「晉侯觀二於——一」。
〔公府〕おほやけの役所。○〔漢〕「並入二——一」。
〔長府〕（い）役所の名。○〔左〕「公居二于——一」。
（ろ）藏の名。○〔論〕「魯人爲二——一」。
〔私府〕諸侯又、人民の財貨を藏め置く所。○〔漢〕「還二濟陽——長一」。
〔宰府〕丞相の役所。○〔蔡邕〕「臣自レ在二——一」。
〔四府〕後漢の時代にて太傅、太尉、司徒、司空の役所。○〔後漢〕「宜レ令二——九卿、各辟二彼州數人一」。
〔胸府〕心。○〔晉〕「殊開二入——一」。
〔樞府〕樞密院。○〔蘇轍〕「位在二——一、才爲二文師一」。「韓琦同レ心輔レ政」。
〔政府〕おほやけの役所。○〔宋〕「其在二——一、與二」
〔藩府〕諸侯の役所、又、藩鎭の役所。○〔聞見前錄〕「歷遍二——一」。
〔署府〕役所。○〔虞玩之〕「——謝二雕麗之器一」。
〔藝府〕文藝の集まれるところ。○〔宋濂〕「生遊二——一」。

【廊】レウ。連條切　蕭
人の名。

【㾘】リウ、ル。力救切　宥
人の姓。

【㾓】トウ、ツ。徒冬切　冬
㊀おくまりたるいへ、（深屋）。

㊁扃に同じ、いへのひゞき。

【扃】古文の扃の字。

【庛】古文の鬼の字。○〔亢倉子〕「——神間禍」。

六畫

【㾕】シン。所近切　軫
屋斜になる、ゆがむ、かたむく。

【㾗】カフ、コフ。渇合切　合
㊀いち、（市）。
㊁おす、（壓）。

【㾘】アフ、オフ。乙洽切　洽
くだす、又、くだる、（低下）。

【庠】シヤウ、ジヤウ。徐羊切　陽
學問藝術を教へ授くる處、學校、又、古昔に長幼の序を明かにする爲め老者を饗養するに用ひし場處。○〔禮〕「黨有レ——」。
〔上庠〕身分ある者の就きて習ふ學校。○〔禮〕「有虞氏養二國老于——一」。
〔下庠〕いやしき者の就きて習ふ學校。○〔禮〕「養二庶老于——一」。
〔周庠〕古昔、周の時代に設けたる學校。○〔孟〕「——曰レ——」。
〔序庠〕鄉里に設けたる學校。○〔漢〕「——置二孝經師一人一」。
〔國庠〕國都に設けたる學校。○〔唐會要〕「豈有二——遂無二圖繪一」。

【㢈】エイ、以制切　霽
こめぐら、くら、（倉）。

【㢉】イ。羊至切　寘
堂をめぐる廊下、ほそどの。

【庢】テウ、デウ。直紹切　篠
言說卑し、いやし、ひくし

【㾵】カン、ゲン。下間切　刪
門戶のしきみ、しきみ、（閾）。

【㢊】トウ、ヅ。徒東切　東
いへのひゞき、（舍響）。

【㢋】屋に同じ。

【㢌】ケン。火犬切　銑
あな、（穴）。

【㢍】イ、エ。於豈切　尾　—に、扆に作る。
㊀たちもとほる、徘徊。
㊁かくす、をさむ、（藏）。

【㢎】セキ、シヤク。昌石切　陌

シヤ。充夜切　禡
㊀屋を卻く、志りぞく。㊁さす、（指）。㊂まれ、（稀）。㊃おほいなり、（大）。㊄うかゞふ、（候）。㊅さほざく、（疎遠）。㊆みつ、（充滿）。㊇用ひず、すつ。

【庢】チツ。陟栗切　質
㊀さゝふ、（礙）、さゞむ、（止）。○〔枚乘〕「發レ怒——沓」。
㊁水の岸に曲がり入りたる處、くま。○〔寰宇記〕「山曲曰レ盩、水曲曰レ——」。

【庣】テウ、デウ。田聊切　蕭
㊀滿たざる貌にいふ字、又かく、（欠）。○〔漢〕「旁有レ——焉」。
㊁すぐ、（過）。○〔漢註〕「鄭氏曰——過也」。

【庪】シ。七賜切 寘、

ひくきいへ、(下屋)、かたひさしのいへ、かたや、(偏―)。

【庤】チ、ヂ。直里切 紙 又、峙、畤に作る。

たくはふ、(儲)、そなふ、(具)。○〔詩〕「命二我衆人一、―二乃錢鎛一」。

【庥】キウ、ク。虛尤切 尤 又、休に作る。

おほふ、かむらす、(蔭)。○〔爾〕「―庇蔭也」。

【㢋】

㢋、又扅に同じ、はる。○〔唐〕「軍―レ翼掩レ之」。

【度】ト、ヅ。徒故切 遇

一 法則、道理、のり。○〔左〕「―不レ可レ改」。
二 程。○〔國〕「用レ物過レ―則妨レ財」。
三 長さをはかる具、ものさし、さし。○〔漢〕「―者分寸丈尺引也」。
四 刻。○〔禮〕「百―得レ數」。
五 ものさしを刻みたる段。○〔周〕「胥執二鞭―一」。
六 日月星辰の運行をはかる爲めに、假りに體の全周を三百六十五に分ちたるを又、其の分たれたるものの一つ。○〔素問〕「故天有二宿―一」。
七 器能、才略。○〔漢〕「常有二大―一」。
八 風采、やうす ○〔唐〕「風―能若二九齡一乎」。
九 年代。○〔屈平〕「皇覽二揆予於初―一」。
十 回數、たび。○〔北〕「前後六―銜レ命」。
十一 のりと爲す、のりに從ふ、のつとる。○〔左〕「進退可レ―、周旋可レ則」。
十二 制す、限る。○〔釋名〕「號令所二限―一」。
十三 渡に通じ用ふ。○〔漢〕「猶下―二江河一、亡中維楫上」。
十四 佛家にて生死の迷ひを海にたとへ煩惱に迷ふを此岸といひ、證果を得るを彼岸といふより、證果を得さするといふ。○〔金剛經註〕「凡聖一如、豈有二衆生可レ―一」。
十五 俗人を僧となすこと、官より僧となる者に牒を與ふること。○〔唐〕「―レ僧以資二福事一」。
十六 佛門に入り出家受戒すること、菩提心を發すること。○〔傳法正宗記〕「是爲レ得レ―比丘一」。

〔制度〕定められたるのり。○〔易〕「節以二―一、不レ傷レ財、不レ害レ民」。
〔法度〕のり。○〔論〕「謹二權量一、審二―一」。
〔百度〕すべてののり。○〔書〕「不レ役二耳目一、―惟貞」。
〔王度〕君の設けられたるのり。○〔左〕「思二我―一」。
〔大度〕大いなる器量。○〔史〕「常有二―一、不レ事二家人生產作業一」。
〔前度〕先時に設けたるおきて。○〔史〕「―未レ改」。
〔玄度〕老子莊周の虛無恬澹の道。○〔列仙傳〕「仰玩二―一」。
〔常度〕つねに渝はらざるのり。○〔史〕「―未レ替」。
〔濟度〕煩惱を脱せしめ證果を得さすること、人間の迷ひを救ふこと、佛家の語。○〔隋〕「―二群品一」。
〔權度〕はかりとさしと。○〔朱熹〕「任レ意爲―」。
〔禮度〕禮儀といふに同じ、ゐや。○〔晉〕「造次必以二―一」。
〔節度〕(い)のり、ほど。○〔左、疏〕「節是制二財用之―一也」。
(ろ)轉じて、指圖。○〔南〕「乘レ驛詣レ都而受二―一」。
〔體度〕身ののり、すがた。○〔左、疏〕「和者―寬簡、物無二乖事一也」。

〔軌度〕きそく、のり。○〔史〕「皆遵二―一、和安敦勉」。
〔正度〕(い)のりをたゞしくす。○〔史〕「立二毀和之官一、明レ時―レ―」。
(ろ)たゞしきのり。○〔嵇康〕「合二養生之―一」。
〔星度〕星の運行の度。○〔班固〕「推二考―一」。
〔憲度〕のり、きそく。○〔史〕「―著明、易レ則也」。
〔用度〕入りまへ。○〔後漢〕「頃者師旅未レ解、―不レ足」。
〔期度〕程。○〔漢〕「晝夜出二入長信宮殿中一、亡二―一」。
〔性度〕性質、さが。○〔晁〕「―恢廓」。
〔貞度〕正しきのり。○〔後漢〕「協二準纎―一兮」。
〔象度〕天文ののり。○〔後漢〕「晝研二精義一、夜占二―一」。
〔遠度〕凡人よりかけはなれたる器能。○〔李翰〕「雅有二―一、志二于興レ邦、篤二于好古一」。
〔局度〕度量に同じ。○〔後漢〕「紹外寬雅有二―一」。
〔器度〕前に同じ。○〔北〕「以二―一見レ稱」。
〔才度〕智惠器量。○〔北〕「容貌魁偉、有二當世―一」。
〔識度〕前に同じ。○〔南〕「弘雅有二―一、好レ學善屬レ文」。
〔志度〕こころざし。○〔北〕「帝少有二―一」。
〔雅度〕(い)正しきのり。○〔舊唐〕「若行レ之無レ常、終虧二―一」。
(ろ)度量の弘きこと。○〔孫綽〕「―恢廓」。
〔明度〕さとくあきらかなる才能。○〔晉〕「君之―、豈當レ介レ意耶」。
〔尺度〕さし。○〔宋〕「後漢至レ魏、―漸長二於古一」。
〔思度〕思慮分別。○〔吳〕「瑾有二容貌―一」。
〔衡度〕はかりとさしと。○〔隋〕「同二玆玉量與二―一」。
〔剃度〕頭をそりて佛道に入ること。○〔舊唐〕「苟避二徭役一、妄爲二―一」。
〔差度〕しな、けぢめ。○〔舊唐〕「雖二―不同一、各明二其意一」。
〔矩度〕のり。○〔宋〕「―有レ常、見者斂レ容」。
〔則度〕前に同じ。○〔宋〕「言動有二―一」。
〔繩度〕前に同じ。○〔薛勝拔河賦〕「突二―一而就レ强」。
〔襟度〕心の中。○〔宋〕「推レ誠待レ物、―豁如也」。
〔態度〕身ぶり、やうす。○〔荀〕「容貌―、進退趨行」。

〔滅度〕寂滅に同じ。〔李吉甫〕「如來自二―之後一」。
〔踰度〕分限に越ゆ。○〔荀悦〕「越レ職―レ―」。
〔曠度〕量の廣きこと。○〔夏侯湛〕「遠心―」。

【度】タク、ダク。徒落切 藥

一 はかる。
(い)考へ慮る。○〔國〕「謀―而行」。
(ろ)相談す。○〔詩〕「周爰咨―」。
(は)程をみつもる。○〔禮〕「―レ地居レ民」。
二 土を版に投ず、なぐ。○〔詩〕「―レ之薨薨」。

〔測度〕はかる。○〔禮〕「人藏二其心一、不レ可二―一也」。
〔忖度〕思ひはかる。○〔詩〕「他人有レ心、予―レ之」。
〔究度〕きはめはかる。○〔詩〕「爰―爰―」。
〔臆度〕推量す。○〔蘇軾〕「世事仍―」。
〔億度〕前に同じ。○〔唐〕「不レ宜二輕―一」。
〔擬度〕なぞらへはかる。○〔易、疏〕「必―二―之一而後言」。
〔審度〕細かにはかる。○〔翁命〕「承レ命以來、通審―」。
〔議度〕相談す。○〔書、傳〕「―二終始一」。
〔商度〕はかる。○〔書、傳〕「―二汝功一」。
〔揆度〕はかる。○〔書、傳〕「―二優劣一」。
〔量度〕はかる。○〔詩、疏〕「經理而―」。
〔計度〕かぞへはかる。○〔詩、疏〕「助レ之―」。
〔籌度〕前に同じ。○〔盧亙〕「論思寄二―一」。
〔準度〕はかる。○〔禮〕「―以二道德仁厚一也」。
〔察度〕詳にかんがへはかる。○〔史〕「―二功德一」。
〔預度〕あらかじめはかる。○〔晉〕「禍不レ可二以―一」。
〔品度〕しなさため。○〔宋〕「召募不レ須二―一」。
〔尋度〕たづねはかる。○〔參同契〕「―二其源流一」。
〔討度〕前に同じ。○〔柳宗元〕「爲レ賜甚大、俯用二―一」。
〔揣度〕推しはかる。○〔柳宗元〕「退自―、惕然汗流」。
〔原度〕たづねはかる。○〔人物志〕「本二于―一」。
〔稽度〕かんがへはかる。○〔柳宗元〕「―既備」。
〔校度〕前に同じ。○〔柳宗元〕「―二古今一」。

【㡾】ゲン、ゴン。五犯切〔豏〕
たかし、又、けはし、(峻)。

【𢈔】雁に同じ、かたぶく。

【庪】キ。居僞切〔寘〕
やぶる、そこなふ、こぼつ、(毁)。

七畫

【座】サ、ザ。徂臥切〔箇〕
㊀すわる場處、ゐどころ。○〔傅毅〕「陳二茵・席一而設レ---」。
㊁すわるに敷く具、しきもの。○〔許裴〕「蒲---夜・間猫占レ臥」。
㊂集會、又、其の場處。○〔晉〕「談・詠竟レ---」「---」。
㊃すゑ置く處。○〔元〕「立二砲---十・有・---」。
(法座)(い)正しきゐどころ。○〔漢〕「當二戸・牖之---」。
(ろ)敎ののりを說く處。○〔王襃〕「文・帝乃升二---」「---」。
(御座)君王のいましどころ。○〔後漢〕「客・星犯二---」。
(五座)五星のこと。○〔史、註〕「---光・明、則天・子得二天・地之心一」。
(天座)大角星のこと。○〔劉子翬〕「氣・蓋無レ光---」「---香」。
(滿座)(い)其の場處に列らなれるすべてのもの。○〔全唐詩話〕「忽發二狂・言一驚---」「---」。
(ろ)其の場處にあふれみつ。○〔鮑照〕「絲・竹徒---」。
(四座)席をこぞりての意にいふ語。○〔韓愈〕「---咸寂默」「能---」。
(傾座)席をこぞりて心を寄せしむ。○〔杜甫〕「一見---」。
(星座)ほしの宿り場。○〔史〕「---有二尊・卑一」。
(便座)安樂に心おきなくすわるしきもの。○〔漢〕「坐二---」「對レ案」。
(獨座)其の人の席のみありて其の人あらざること。○〔呉〕「常爲レ謝設二---」。
(冠座)其の席に列らなれるもの、中にて第一位にあること。○〔魏〕「音・聲殊・妙、當時---」。
(公座)おほやけの集會、多人數の場處。○〔宋〕「嘗于二---一醼レ濃」。

(齋座)ものいみの場處。○〔宋〕「昨于二---一見二其事一」「爲二---一」。
(神座)神體のいましどころ。○〔梁〕「安二施牀・幕一」。
(高座)高く設けある席。○〔杜陽雜編〕「上敬二天・竺敎一、置二---一」。
(寶座)いましどころの敬稱。○〔梁簡文帝〕「峩々---、郁・々名・香」。
(展座)天子のいましどころ。○〔徐陵〕「居稱二---一、行曰二乘・輿一」。
(朝座)朝廷の席。○宇文昶〕「東聚着二---一」。
(蓮座)はちす花の上のおしろ、即ち、佛體の蓮華の上に安たあるところ。○〔王勃〕「---神・容嚴」。
(花座)前に同じ。○〔皇甫湜〕「---五・雲扶」。
(槐座)三公の席。○〔韓愈〕「---方處レ位」。
(律座)佛敎の戒を修むる席。○〔白居易〕「前・後臨二戒・壇一者八、登二---一十・有・五」。
(草座)草を編みてつくりたるおしろ、即ち飾らざる席。○〔白居易〕「---留二山・月一」「雲・雷激」。
(猊座)佛又は、佛家のすわる席。○〔楊億〕「---」。
(末座)衆人の席末にあること。○〔蘇弼〕「小・儒---頻傾レ耳」「---」。
(衆座)衆多のもの、席。○〔蘇轍〕「口二占嘉句一驚二---」。
(賓座)まらうどの席。○〔于濆〕「歌・府凋---」。
(瓊座)たまのおしろ、即ち、華美なる席。○〔賀裳〕「助二---之芬・敷一」「---」。
(獅座)天子の御席。○〔袁楠〕「香擁二袞・龍一開二---」。
(首座)第一の席にあること、又佛家の尊位。○〔翻譯名義集〕「三・綱謂二---一、維・那、典・座一也」。
(獅子座)佛又は、佛家のすわる席。○〔北〕「勅レ彌升二---一、莫レ有二能屈一」。
(中台座)宰相のすわる席。○〔王維〕「久踐二---一、終登二上將壇一」。
(三台座)前に同じ。○〔宋〕「此---之---、豈可レ使二刑・餘居レ之」「---之---」。
(几杖座)老いたる者を優待する席。○〔後漢〕「設二---」。

【㡱】ケフ。古洽切〔葉〕
かべ、(𢊁)。

【㢈】カウ、ケウ。虛交切〔肴〕
㊀宮室の高き貌にいふ字、たかし。○〔柳宗元〕「反・宇臨二呀---」。
㊁深く空しき貌にいふ字、ふかし。○〔馬融〕「---窈巧・老」。

【㡯】リヨ、ロ。兩擧切〔語〕
㊀もろ〳〵、(衆)。㊁人の名。

【㢌】コン。苦悶切〔願〕
こめぐら、くら、(倉・廩)。

【㢃】ラウ。盧當切〔陽〕
㊀たかし、(高)。㊁うつは、(器)。

【㡰】ト、ヅ。同都切〔虞〕
㊀いへ、(庾)。㊁庸の字を見よ。

【𢈟】サウ。作郞切〔陽〕
壯に立つ貌にいふ字、たつ。

【㡱】キウ、ク。渠尤切〔尤〕
かたよりたるいへ、(偏・廈)。

【㡭】トウ、ヅ。徒候切〔宥〕
㊀器の名。㊁神佛を祭る所。㊂くりや、(厨・庖)。

【庋】キ。過委切〔紙〕
㊀庋の本字、ものおき。㊁---縣は、山の祭り。
一に、䟭に作る。

【庫】コ、ク。苦故切〔遇〕
くら。
(い)車馬兵甲を藏め置く處、ぶきぐら。○〔淮〕「七・月官レ---」。
(ろ)穀物、財寶、器具などを貯へ置く處。○〔舊唐〕「開二倉・---一以賑二窮・乏一」。

(天庫)星の名。○〔史〕「軫南衆・星曰二---一」。
(府庫)貨財器具を藏め置くくら。○〔禮〕「季・春開二---一、出二幣・帛一」。
(武庫)ぶきぐら。○〔史〕「維・陽有二---一」。
(書庫)ふみを藏め置くくら。○〔隋〕「謂・策甲・科時稱二---一」。
(四庫)ふみを甲乙丙丁の四部に分かちて藏めおくくら、即ち、あまたの書籍の意にいふ語。○〔王應麟〕「瀾レ目閱二---一」。
(五庫)五種の器具を藏めおくくら、即ち、車庫、兵庫、祭器庫、樂庫、宴器庫など。○〔禮〕「季・春之月、命二工・師一令二百・工審二---之量一」「時」。
(稟庫)穀物くら。○〔呉〕「貫二其---一、以待二天・下之變一」。
(齋庫)祭祀の料に供ふる物品を藏めおくくら。○〔南〕「---失・火燒二荊・州一」。
(內庫)宮室の物品を藏めおくくら。○〔司馬光〕「眞・宗欲下與二章・聖皇・后一游中---上」。
(廚庫)臺所の用に供ふる物品をしめおくくら。○〔北〕「---・米・糧」「掌二---一」。
(帑庫)貨財を藏めおくくら。○〔宋〕「選二富・家子・弟一」。
(寶庫)たからを藏めおくくら。○〔三輔黃圖〕「及定二天・下一、藏二于---一」。
(兵庫)ぶきぐら。○〔呉越春秋〕「設二守・備一、實二倉・廩一、治二---一」。

【庮】庮に同じ。

【㢊】峡に同じ。

【庬】ボウ、モウ。毋總切〔董〕
物事の混沌として未だ分かれざる時の貌にいふ字。○〔孝經援神契〕「天・度---濵・孳・萌」。

【庬】バウ、モウ。亡江切〔江〕
㊀ゆたか、(豐)、又、あつし、(厚)。○〔漢〕「湛・恩---洪」「---」。
㊁まじる、まざる、(雜)。○〔書〕「不レ和政---」。
(厖眉)まゆげの黑白相まじはれること。○〔王惲〕「---老・病餘」「---而---」。
(豐厖)ゆたかにしてあつし。○〔方岳〕「交有・氣・骨---」。

〔純庬〕もつぱらなるとまじはれると。○〔方岳〕「一ー等人耳無ニ一ー一ー。「俗ニ」。
〔紛庬〕まぎれまじはる。○〔范梈〕「一ー一ー異ニ方ー」

【庬】
バウ、モウ。亡項切［講］
おほいなり、(大)、又、すぐる。○〔詩〕「爲ニ下國駿ーー一」。
〔奇庬〕おほいなると。○〔孫子〕「將ニ必擇ニ其ーー一ー寡・厚者ニ」。

【㾉】
ソク、シク。趨玉切［沃］
一に、㡉に通じ用ふ。
いほり、又、いへ、(舍)。

【廋】
ス井、ズ井。作惟切［支］
すがた、(姿)。

【庿】
ロウ、ル。カロ切［宥］
わらや、くさや、(草-室)。

【庭】
テイ、チヤウ。唐丁切［靑］
㊀には。
(い)堂の階の前、又は、門屛内のあき地。○〔周〕「掌レ掃ニ門ーー」。
(ろ)大廣間、おもて座敷。○〔列〕「賓-客在レ一者」。
(は)人民を呼び出す處、人民に接して政を執る場。○〔魏〕「爭レ之不レ決、訟ニ於郡ー一長-年」。
(に)朝廷。○〔東京賦〕「龍-輅充レ一」。
(ほ)宮中。○〔列〕「妖-靡盈レ一、忠-良在レ朝」。
(へ)家內。○〔晉〕「一-訓益峻」。
(と)場處。○〔李嶠〕「宜下昇ニ著-作之一並踐中記-言之地上」。
㊁なほし。
(い)君王の政治に從服す。○〔書〕「四征ニ弗ーー」。
(ろ)すぐに生ず。○〔詩〕「播ニ厥百-穀ー、既ー且碩」。

〔山庭〕鼻高きと、又、はなばしら。○〔任昉〕「ーー一ー異表」。
〔天庭〕(い)星の名。○〔晉〕「大-微爲レ衛、又爲ーー一」。(ろ)額頭、ひたひ。○〔蘇軾〕「時看黃-色起ニーー一」。
〔來庭〕王の朝に從ひ來る。○〔詩〕「四方既平、徐方ー・ー」。
〔後庭〕後宮に同じ、奧でてん。○〔戰〕「鄭公孫-穆好レ色、ーー一數十」。
〔掖庭〕前に同じ。○〔梁〕「ーー一備ニ御-妾之數ニ」。
〔洞庭〕湖の名。○〔戰〕「秦與レ楚戰、大破レ之、取ニーーー五-渚ニ」。
〔宮庭〕君王の居處。○〔宋〕「詔ニ其妻ニ、至ニーー一ー」。
〔殊庭〕蓬萊中の仙人の居處。○〔沈約〕「ーー一不レ可レ及」。
〔園庭〕その、には。○〔北齊〕「ーー一之內、羅ニ種果-藥ニ」。
〔彤庭〕華麗に修飾したる宮殿。○〔齊〕「ーー一爛-景」。
〔玉庭〕前に同じ。○〔唐〕「ーー一浮ニ瑞-色ニ」。「星」。
〔北庭〕北方の夷の地。○〔宋〕「望ニーー一萬-五-千ー」
〔禁庭〕朝廷。○〔黃庭堅〕「却結ニ絲-絇ー侍ニーー一」。
〔帝庭〕前に同じ。○〔曹大家〕「集ニーー一而止-息」。
〔椒庭〕後宮に同じ。○〔鮑照〕「解レ玉飲ニーー一」。
〔幕庭〕將軍の役所、又、には。○〔左〕「三踊ニ於ーー一」。
〔紫庭〕前に同じ。○〔宋〕「鳳-凰翔ニ於ーー一」。
〔私庭〕己が屋敷。○〔晉〕「拜ニ謝ーー一」。
〔學庭〕學校に同じ。○〔晉〕「年盛志美、始涉ニーー一」。
〔閨庭〕己が家の內。○〔宋〕「孝立ニーー一、忠被ニ史-乘ニ」。
〔家庭〕前に同じ。○〔王僧孺〕「事顯ニーー一、聲著ニ「同-族ニ」。
〔府庭〕公けの役所、又、其のには。○〔岑參〕「甘-露降ニーー一」。
〔省庭〕前に同じ。○〔元〕「設ニ金-椅於ーー一」。
〔㢈庭〕胸のと。○〔相牛經〕「ーー一欲レ得レ廣」。
〔棘庭〕宰相の役所。○〔張衡〕「耀ニーー一之金-印ニ」。
〔遐庭〕遠方の地。○〔應瑒〕「烈-々征-師尋ニーー一」。
〔空庭〕人の尋ね來たらぬ家のには。○〔鮑照〕「ーー一聚ニ山-雀ニ」。

【庮】
イウ、ユ。以九切［有］ 夷周切［尤］
又、㢏に作る。

【㢑】
㊀久しく經たる屋の朽ちたる木、又、其のにほひあるにいふ字、くさし、(臭)。○〔周〕「牛夜-鳴則ー」。
㊁のきづけ、(簷-梍)。

【㢒】
ロウ、ル。盧貢切［送］
㊀ー-㢒はおほふ、おほひ。
㊁おほいなるいへ、(厦)。

【庯】
ホ、フ。博孤切［虞］
ー-㾫は屋の平かならざるにいふ字、たひらかならず、なゝめ。

【㢋】
㾫の本字、本、㾫に作る。

【㢎】
カフ、ゲフ。轄甲切［洽］
虎の搏つを習ふ貌にいふ字、うつ。

【㢐】
廛に同じ。

【㢓】
古文の親の字。

八畫

【㢗】
ヘイ、ヒヤウ。必郢切［梗］
又、㢊、屛に作る。
㊀かくす、(藏)、おほふ、(蔽)、又、かくし、おほひ。㊁うすし、(薄)。

【庰】
ヘイ、ビヤウ。毗正切［敬］ 蒲徑切［徑］
かくしごころ、みかくし、(隱-僻)、かはや、(廁)。

【㢛】
ソウ、ス。作董切［董］
屋の中の舍。

【㢜】
タイ、テ。都回切［灰］
一に、隤に作る、又、㢋、㢏にも作る。
屋上より下に傾く、かたぶく。

【庹】
タ、ダ。直加切［麻］ タク、チヤク。陟格切［陌］
或は、秅、秺に作る。
屋を開き張る、ひろぐ、はる、ひらく。

【㢝】
ケイ、キヤウ。居卿切［庚］
こめぐら、くら、(倉)。

【㢞】
アイ、エ。倚蟹切［蟹］ イ。隱倚切［紙］
或は、䑲に作る。
㊀ぜんだな、(庋)。
㊁坐して倚りかゝる貌にいふ字、よる。

【㢟】
チヨウ、丑拯切［迥］ リヨウ。力膺切［蒸］ 丑升切
亭の名、吳の孫權が虎を射し處。○〔吳〕「孫-權乘レ馬射ニ虎於ー-亭ニ」。

【㢠】
キヤウ、カウ。驅羊切［陽］
空しき谷の貌にいふ字、むなし。

【㢡】
ライ。郎才切［灰］
いへ、(舍)。

【㢢】
イ。酉字切［寘］
よこしま、(邪)、又、なゝめ、(斜)。

【㢣】
シ。思移切［支］
ー-祁は地の名。

【庳】
ヒ、ビ。便俾切［紙］
屋卑し、ひくし、又、ひくきいへ、(伏-舍)。○〔左〕「宮-室卑ー」。
〔汚庳〕ひくし。○〔國〕「陂-唐ーー一以鍾ニ其美ニ」。

〔高庳〕たかきとひくきと。○〔淮〕「警二丘隴之小大ー・ー一」。
〔低庳〕ひくし。○〔白居易〕「嫩・樹倂二ー・ー一」。

【庳】ヒ。賓彌切 支
㊀ひくし。
(い)下りてあり。○〔揚雄〕「ー則儀秦」。
(ろ)身の丈短し、みじかし。○〔周〕「其民豐・肉而ー」。
㊁鷯の牝の名。○〔爾〕「鷯鶉、其雄鶛牝ー」。
㊂毗に通じ用ふ、たすく。○〔荀〕「天子是ー」。

【(广+畀)】庳に同じ。

【(广+忩)】デフ、ヂフ。諾叶切 葉 おす、(壓)。

【(广+回)】古文の廩の字。

【(广+疌)】セフ。疾葉切 葉 人の名。

【(广+卒)】スヰ。綏醉切 寘 さかしま、かたぶく、(頽)。

【(广+戔)】サン、ゼン。仕諌切 諌 のきいた、(屋・笮)。

【(广+多)】シ。尺氏切 紙 或は、庈に作る。廣く大いなり、ひろし、又、分けて廣くす、ひろむ、一說に、旁より擊つ、うつ。○〔國〕「夾レ溝而ーレ我」。

【庵】アン、オン、烏含切 覃 一に、菴に作る。草木を結びて造れる粗末なる家、小さき草舍、又、圜き屋、いほり、いへ。○〔蘇軾〕「一ー間・臥洞・霄宮」。
〔結庵〕いほりをむすぶ。○〔齊〕「編レ草ーレー、不レ違二涼・暑一」。
〔草庵〕くさにてふつらへたるいほり。○〔朱熹〕「寒二棲ー・ー一」。
〔茅庵〕ちがやもてふつらへたるいほり。○〔胡曾清〕「便來●玆地結二ー・ー一」。
〔禪庵〕參禪のいほり。○〔温庭筠〕「ー・ー過二微・雪一」。
〔蓬庵〕よもぎのしげり生ふるいほり、いぶせきいへ。○〔盧綸〕「ー・ー既二一身一」。
〔廬庵〕いほりのと。○〔趙孟頫〕「相期結二ー・ー一」。

【庵】アフ、オフ。烏合切 合
㊀ひくし、(低)。㊁ぶたごや、(家・屋)。

【(广+取)】ソウ、ス。七侯切 尤 物の崩るゝ聲にいふ字。

【(广+雨)】漏に同じ。

【庶】ショ、ソ。商署切 御
㊀衆多、おほし、もろ〳〵。○〔詩〕「我事孔ー」。
㊁こゆ、(肥)。○〔詩〕「爲レ豆孔ー」。
㊂こひねがふ、こひねがはくは、(幾)。○〔詩〕「ー見二素・冠一兮」。
㊃殆ど及ばんとす、ちかし。○〔論〕「回也其ー乎」。
㊄妾腹の子、めかけばら。○〔左〕「其ー子爲二公・行一」。
㊅支族。○〔史〕「其澤流二枝ー・ー一」。
㊆衆民、たみぐさ、たみ。○〔後漢〕「青徐士ー避二黄・巾之難一」。
〔臣庶〕もろ〳〵のもの。○〔書〕「惟玆ー・ー」。
〔支庶〕えだはのちすぢ。○〔潘岳〕「ー・ー分・流」。
〔殆庶〕ほとんどちかし。○〔家語〕「顔氏之子、其ー・ー乎」。
〔黎庶〕もろ〳〵のたみぐさ。○〔韓詩〕「ー・ー歡・樂」。
〔廝庶〕ちすぢのいやしきもの。○〔沈約〕「姻・婭淪二雜、罔レ計二ー・ー一」。
〔衆庶〕もろ〳〵。○〔左〕「上下猶和、ー・ー猶睦」。
〔蒸庶〕あをひとぐさ、即ち、たみ。○〔漢〕「澄二齊海内一、汜二愛ー・ー一」。
〔人庶〕前に同じ。○〔後漢〕「風・俗彫・敝、ー・ー巧・僞」。
〔民庶〕前に同じ。○〔曹毗〕「ー・ー拊レ心而顚・蹙」。
〔匹庶〕たみぐさ、人民。○〔後漢〕「皇帝以二ー・ー一、受レ命中興」。
〔品庶〕前に同じ。○〔後漢〕「ー・ー以二陛下一爲レ父」。
〔黔庶〕前に同じ。○〔宋〕「濟二斯ー・ー一」。
〔卑庶〕前に同じ。○〔宋〕「自レ此以還、遂成二ー・ー一」。
〔貧庶〕財に乏しき民。○〔晉〕「勤・苦同二于ー・ー一」。
〔富庶〕財に裕かなるもろ〳〵。○〔韓愈〕「四・海日ー・ー」。
〔繁庶〕おほくしておほし。○〔宋〕「戸・口ー・ー之處」。
〔長庶〕妾腹の長子。○〔世說〕「桓石虔司・空・豁之ー・ー也」。
〔凡庶〕つねなみの民。○〔曹冏〕「權均二匹夫一、勢齊二ー・ー一」。
〔兆庶〕前に同じ。○〔沈炯〕「天下劬勞、ー・ー亭育」。
〔億庶〕前に同じ。○〔蘇頲〕「顒・々ー・ー」。

【庶】ショ、ソ。賞呂切 語 蠱毒を去る、のぞく、さる。○〔周〕「凡ーレ蠱之事」。

【庶】セキ、シャク。之石切 陌 ひろふ、(摭)。

【(广+朋)】ホウ。方登切 蒸 くづる、(崩)。

【康】カウ。苦岡切 陽
㊀たのしむ、(樂)。○〔詩〕「迄二用ー・年一」。
㊁やすし、やすんず、(安)。○〔書〕「庶・事ー哉」。
㊂やはらぐ、(和)。○〔史〕「而民ー・樂」。
㊃往來多く五方に達りたる大路、轉じて往來多き大路。○〔史〕「爲二列・第ー・莊之衢一」。
㊄ほむ、(褒・大)。○〔禮〕「ー二周・公一」。
㊅美名。○〔易〕「ー侯用錫二馬蕃・庶一」。
㊆漮に通じ用ふ、むなし。○〔詩〕「酌二彼ー爵一」。
㊇穅に通じ用ふ、ぬか。
〔平康〕たひらかにしてやすし。○〔書〕「ー・ー正直」。
〔永康〕ながくやすんず。○〔書〕「ー二ー兆民一」。
〔太康〕はなはだやすし、太平に同じ。○〔魏明帝樂府〕「百・姓謳・吟詠二ー・ー一」。
〔凱康〕和ぎたのしむ。○〔神女賦〕「心ー・ー以樂・歡」。
〔歡康〕よろこびたのしむ。○〔東京賦〕「君臣ー・ー、具醉熏・々」。
〔樂康〕たのしみやすんず。○〔魏文帝〕「和合同ー・ー」。
〔桃康〕神の名。○〔黄庭內景經〕「男・女佪九有二ー・ー一」。
〔惠康〕恩澤を施しやすんず。○〔書〕「ー二ー小民一」。
〔壽康〕命ながくしてやすし。○〔貢師泰〕「杯進二雙・龍一祝二ー・ー一」。
〔安康〕平かにしてやすんず。○〔吳〕「ー二ー社稷一」。
〔阜康〕大いにやすし。○〔宋樂章〕「元々ー・ー」。
〔乂康〕をさめやすんず。○〔歐陽修〕「ー二ー萬里一」。
〔悅康〕よろこびたのしむ。○〔魏文帝〕「六軍咸ー・ー」。
〔寧康〕やすし。○〔易林〕「王室ー・ー」。
〔治康〕をさまりてやすし。○〔歐陽修〕「博求二俊乂一、以躋二ー・ー一」。

【康】カウ。苦浪切 漾 あぐ、(亢)。○〔禮〕「崇レ坫ーレ圭」。

【庸】ヨウ、ユ。余封切 冬
㊀もちふ、(用)。○〔莊〕「爲レ是不レ用、而寓二諸ー一」。
㊁つね。
(い)變はらざるを、さきは。○〔書〕「自二我五禮一有レー哉」。
(ろ)勝れざるを、なみ。○〔漢〕「人謂二魏・勃勇一、妾ー・ー人耳、何能爲乎」。

(は)物事の正當のほどに適中するを、和。〇〔蔡邕〕「德務二中・一一」。
㊂いさを、いさをし、(功)。〇〔書〕「有三能奮レ一熙二帝之載一」。
㊃いたはる、(勞)。〇〔詩〕「我生之初、尙無レ一」。
㊄あに、(豈)。〇〔左〕「一非レ貳乎」。
㊅賦課の法、國中の丁年以上の男子を日數を期してえだちに使用するに、其のえだちに應ずる能はざるものは其の日數に應じて定めの長さの布帛を上納すること。〇〔唐〕「取レ之以二租一調之法一」。
㊆溝の水をとゞめ、又、流すの用に設けたる溝の門、ひ。〇〔禮〕「祭三坊與二水一一事一也」。
㊇墉に通じ用ふ、かき、こゝろ。〇〔詩〕「因二是謝・人一、以作二爾一一」。
㊈傭に通じ用ふ、やとふ、やとはれ、やとひ人。〇〔漢〕「窮・困賣二一於齊一」。
㊉鏞に通じ用ふ、大いなるつり鐘。〇〔詩〕「一・鼓有レ斁」。

〔登庸〕あげ用ひらる、又、あげ用ふ。〇〔揚雄〕「龍・興一・一」。
〔附庸〕屬國といふに同じ。〇〔孟〕「不レ能二五・十里一、附二於諸侯一、曰二一・一一」。
〔功庸〕てがら、いさを。〇〔晉〕「無二一・一一者、不レ敢居二高・位一」。
〔勳庸〕前に同じ。〇〔文心雕龍〕「一・一有レ聲」。
〔祗庸〕つゝしみ常あること。〇〔周〕「一・一孝・友」。
〔保庸〕功勞ある者を安んぜること。〇〔周〕「五日二一・一一」。
〔凡庸〕つねなみなること。〇〔史〕「才・能不レ過二一・一一」。
〔嘉庸〕いみじきてがら。〇〔任昉〕「功隆賞薄、一・一莫レ疇」。
〔徵庸〕召し用ひらる。〇〔書〕「舜生三十一・一」。
〔無庸〕功勞なきこと。〇〔李嶠〕「聯・寀愧レ一・一」。
〔輸庸〕人夫のみつぎを致す。〇〔文獻通考〕「百・姓年五・十者、一・一停・放」。
〔考庸〕功勳をかんがへ調ぶること。〇〔顏延之〕「一・一太・室一」。
〔報庸〕勞にむくゆ。〇〔何承天〕「以一二勳・一一」。
〔旌庸〕功勞をあらはし知らしむ。〇〔庾信〕「崇レ德一・一」。
〔笨庸〕笙の笛の一名。〇〔致虛閣雜俎〕「笙曰二一・一一」。

【庴】シヤ、セ。始野切 禡 いへのむれ、(屋-頭)。

【[illegible]】廞に同じ。

【庹】タ、ダ。徒何切 歌 人の姓。

【庈】キン、コン。巨禁切 沁 いしぢ、(石-地)。

【[illegible]】古文の松の字。

【[illegible]】音詳かならず。
米の熟せざるもの、志ひな。〇〔呂氏春秋〕「厚糠多二粃一・一、辟・米不レ得レ恃」。

【廧】牆に同じ。

九畫

【[illegible]】テイ。丁計切 霽 馬を防ぐ柵、こまよせ。

【[illegible]】ソウ、ス。倉紅切 東 祖動切 董 屋階の中會

【𢈢】ト、ヅ。同都切 虞 廜に同じ、わらや。

【𢈢】ト、ヅ。動五切 麌 いへ、(舍)。

【庽】寓に同じ。

【[illegible]】井。烏胃切 未 かくれたるところ、(隱-處)。

【[illegible]】ヘン、ベン。匹研切 先 かたひさしのいへ、(庳)。

【庾】ユ。勇主切 麌
㊀屋なきこめぐら、一說に、野外にあるこめぐら。〇〔史〕「發二倉・一一」。
㊁藪に通じ用ふ、量の名、實十六斗、又、其の入れ物、ます。〇〔左〕「粟五・千・一」。
㊂臾に通じ用ふ、弓の名。〇〔周〕「往・體多來・體寡、曰二夾・一之屬一」。
〔天庾〕星の名。〇〔晉〕「天・倉南四・星曰二一・一一」。
〔倉庾〕米穀をいれおく倉。〇〔史〕「發二一・一一以振二貧・民一」。
〔廩庾〕前に同じ。〇〔史〕「郗・鄙一・一皆滿」。
〔釜庾〕六斗四升の量と十六斗の量とのことにて僅かばかりの粟といふ意に用ふる語。〇〔南〕「與二諸・孤兄・子一、共二一・一之資一」。
〔帑庾〕金幣などをいれおく倉と米などをいれおく倉と。〇〔宋〕「盡竭二一・一之積一」。
〔積庾〕米穀などの倉。〇〔易林〕「野有二一・一一」。
〔鍾庾〕六斛四斗を容る、量と十六斗の量とのことにてさゝやかなる粟といふ意に用ふる語。〇〔任昉〕「一・一之秩、散二之故・舊一」。

【[illegible]】ヘイ、ビヤウ。蒲徑切 徑
㊀隱僻にして人無き處、かくれ。
㊁かはや、(廁-房)。

【庿】古文の廟の字。〇〔儀〕「筵二於一・門一」。

【[illegible]】籀文の宇の字。

【[illegible]】竢に同じ。

【[illegible]】コ、ウ。洪孤切 虞 たひらか、(平)。

【[illegible]】エイ、ヤウ。於境切 梗 於驚切 庚
㊀ほそどの、わたどの、(長廊)。
㊁ひさし、(廡)。

【廋】ソウ、ス。蘇后切 有
㊀くま、(隈)。〇〔劉向〕「步從二容於山・一一」。
㊁廋に通じ用ふ、かくす。〇〔孟〕「若レ是乎從・者之一也」。

【[illegible]】カ、ケ。古訝切 禡
㊀いへのすきま、ひあはひ、(屋-間)。
㊁いへをかまふ、くむ、(構-屋)。

【[illegible]】サフ、セフ。莊輒切 葉
㊀かくす、(藏)。
㊁屋の庳き貌にいふ字、ひくし。

【[illegible]】エツ、オチ。於歇切 月 アツ、アチ。烏曷切 曷 屋迫る、又、せばし、又、せばきいへ。

【廁】シ。初寺切 寘
㊀圊溷、べんじよ、かはや。〇〔史〕「沛公起如レ一」。
㊁邊側、かたはら。〇〔漢〕「衞・青侍・中、上常踞レ一視レ之」。
㊂水に沿ひたる處、ほとり。〇〔漢〕「北臨レ一」。
㊃ついづ、(次)。〇〔史〕「一二之賓・客之中一」。
㊄まじる、(雜)。〇〔曹冏〕「宗・室子・弟曾

無二一人間一一二。
〔上廁〕かはやに入る。○〔歸田錄〕「錢思公一レ一「一」。閱二小詞一」。
〔天廁〕星の名。○〔史〕「覆鱗南有二四星一、曰二一一」。
〔夾廁〕そたる。○〔史〕「夾鍾者、言二陰陽相一一一」。
〔雜廁〕前に同じ。○〔王充〕「善惡一一、何世無レ有」。「一一一二」。
〔間廁〕前に同じ。○〔曹囧〕「宗室子弟、曾無二一人一」。
〔同廁〕前に同じ。○〔孔叢子〕「一一而浴」。
〔溷廁〕かはや。○〔雲林遺事〕「元鎭一一、以二高樓一爲レ之」。「備足」。
〔閒廁〕前に同じ。○〔涅槃經〕「大小一一、無レ不二…」。
〔層廁〕かさねついづ。○〔葛洪〕「一二一碧花」。

【廁】ショク、シキ。察色切 職
そばだつ、（側）。○〔莊〕「一レ足而墊レ之」。

【廁】古文の逾の字。

【廁】トウ、ヅ。度侯切 尤 ユ。
容朱切 虞

【廥】㊀牏に通じ作る、かはや。
㊁きぶれ、（木槽）。

【廥】庾に通じ用ふ、くら。

【庫】クン、コン。舉藴切 吻
つむ、（積）。

【庴】古文の鑑の字。

【廥】古文の廉の字。

【廁】ラツ、ラチ。郎達切 曷　又、廉に作る。
いほり、（庵）、一説に、ひさや、（獄室）。

【廕】イン、オン。於今切 侵
地の名。

【廂】シヤウ、サウ。思將切 陽
正寢の東と西とにある序、ひさし、わたどの、ほそどの、（廊）。○〔史〕「呂后側二耳於東一一聽」。
〔兩廂〕堂の東西にあるわたどの。○〔儀、疏〕「分二一肆於一一一」。
〔三廂〕前に同じ。○〔宋、註〕「一一更作」。
〔四廂〕四方のわたどの。○〔宋〕「於レ是一一金石始備焉」。
〔瑤廂〕玉廂に同じ、玉をちりばめたるひさし。○〔阮籍〕「倚二一一而一顧兮」。

【廃】庇に同じ。

【廉】カン、ゴン。胡南切 覃
木の花、實の垂るゝ貌にいふ字。

【廛】彩に同じ。

【廖】タイ、デ。徒回切 灰
垂れさがれる貌にいふ字、かさなる。

十畫

【廝】ス井。息奨切 支
屋ゆがむ、又、ゆがむ。

【廅】アフ、オフ。乙盍切　カフ、ゴフ。轄臘切 合
山のわきにある穴、ほらあな、又、くら、（藏）。○〔揚雄〕「一其鉠」。

【廌】バ、メ。莫駕切 禡
いほり、（庵）。

【廆】クワイ、エ。胡罪切 賄
かき、（壁）。○〔上林賦〕「崴磈嵔一丘虛崛礨」。

【廆】クワイ、ゲ。姑回切 灰
山の名。○〔山海經〕「中山西有二一一山一其陰多二㻬琈之玉一」。

【廝】シ。思移切 支
地の名。

【廌】チ、ヂ。丈爾切 紙
のり、（灋）。
〔解廌〕獸の名。○〔漢〕「一一似レ鹿而一角、人君刑罰得レ中則生二於朝廷一」。

【廇】リウ、ル。力救切 宥　一に霤に作る。
いへの中央の房室、なかのま。○〔劉向〕「判二讒賊於中一一兮」。
〔解廇〕うつばり、又、大いなる梁。○〔爾〕「一一謂二之梁一」。

【廈】カ、ゲ。亥雅切 馬
㊀ひさし、（廡）。○〔西京賦〕「大一耽々」。
㊁いへ、（屋）、一説に、大いなるいへ。○〔唐〕「所レ欣成二大一一」。
〔廣廈〕おほいなる家屋。○〔後漢〕「一一成而茂木暢」。
〔崇廈〕たかく大いなる家屋。○〔劉楨〕「仰二一一而長息一」。
〔高廈〕前に同じ。○〔陸雲〕「峨々一一」。
〔豐廈〕前に同じ。○〔張協〕「一一詭譎」。

【廉】レン、ロン。力鹽切 鹽
㊀かど。
（い）とがり出でたる處。○〔詩、傳〕「棘稜一一也」。
（ろ）側邊、ほとり、又、側隅、すみ。○〔儀〕「設二席於堂一一東上一」。
（は）威嚴、節操。○〔禮〕「砥二礪一一隅一」。
㊁名利を貪らず、我慾少し、きよし、いさぎよし、（淸）。○〔大戴禮〕「潔一而切直」。
㊂少し、やすし。○〔韓愈〕「其責レ人也詳、其待レ己一」。
㊃さし、（利）。○〔禮〕「其器一而深」。
㊄あきらかにす、みる、（察）。○〔後漢〕「使二仁恕掾肥親往一レ之」。
〔立廉〕いさぎよき心をたつること、みさを、立つること。○〔淮〕「曾子一レ一、不レ飲二盜泉一」。
〔孝廉〕一縣の中にて賢者の聞こえ高きより朝廷に推擧せらる、者、即ち、漢時代の徵士の名號。○〔周、註〕「興二賢者一、謂レ若二今擧二一一一」。
〔傷廉〕いさぎよきを害すること。○〔孟〕「取一レ一」。
〔蜚廉〕一に龍雀と名づけ雀の頭鳥の全身なる神禽にして能く風氣を致すと稱するもの、又、風の神ともいふ。○〔史〕「推二一一一、幷二擲來一」。「歌レ風」。
〔淸廉〕いさぎよし。○〔史〕「正直一一、而諫者宜レ……」。
〔潔廉〕前に同じ。○〔舊唐〕「所レ至以二一一著稱」。
〔句廉〕曲がりかど。○〔漢〕「駿二平句人鮮、水北一一上一」。
〔大廉〕はなはだいさぎよきこと。○〔莊〕「一一不レ嗛」。
〔隴廉〕むかしの醜婦の名。○〔楚辭〕「一一與二孟陬一同レ宮」。
〔堂廉〕堂の側邊のこと。○〔王安石〕「羅列在二一一一」。
〔精廉〕心のこまやかにして且ついさぎよきこと。○〔說苑〕「一一無レ謗」。
〔持廉〕いさぎよき操をたもつ。○〔史〕「一レ一至レ死」。「鮮恥」。
〔寡廉〕いさぎよき心のすくなきこと。○〔史〕「一一剛直」。
〔刻廉〕きびしくいさぎよきこと。○〔史〕「一一一之士、未二必能經二濟世務一」。
〔貞廉〕たゞしくいさぎよきこと。○〔晉〕「夫一一之士、未二必能經二濟世務一」。
〔謙廉〕たかぶらずして心のいさぎよきこと。○〔北〕「一一不レ競」。
〔謹廉〕つゝしみ深く且ついさぎよきこと。○〔唐〕「世稱二一一一」。「一自持」。
〔方廉〕正直にしていさぎよきこと。○〔李處仲〕「一……

(質廨)　やすし。○(吳師道)「菁・菊開時酒・—・—」。

【廊】　ラウ。盧當切 陽
殿の母屋につゞきたるひさしの下、卽ち、行き通ひする處、ほそどの、わたどの、ひさし。○(揚雄)「—・—殿門・闥、限以ニ禁・界ニ」。
(殿廊)　(い)殿下に構へたる小さき屋。○(漢)「游ニ於—・—之上ニ、垂・拱無・爲、而天・下太・平」。(ろ)高く峻しくわたせるわたどの。○(唐)「今拱ニ己于—・—ニ」。
(長廊)　ながくわたせるわたどの。○(西京賦)「—・—廣・廡」。
(修廊)　前に同じ。○(西京雜記)「重・閣—・—、行レ之移レ晷」。
(宮廊)　殿中のわたどの。○(黃庭堅)「紫宸辭罷過ニ—・—ニ」。
(迴廊)　めぐらしわたせるわたどの。○(沈與求)「—・—迴々穿ニ危・嶠ニ」。
(高廊)　たかきわたどの。○(漢)「—・—四・注、重ニ坐曲・閣ニ」。
(重廊)　かさなりわたせるひさし。○(汲冢周書)「重・亢—・—」。
(步廊)　わたどの、えんがは。○(梁元帝)「鈴・盤出ニ—・—ニ」。
(四廊)　よもにめぐらしわたせるわたどの。○(杜牧)「竹・馬遶ニ—・—ニ」。
(斜廊)　なゝめなるわたどの。○(唐太宗)「—・—連ニ綺・閣ニ」。
(邃廊)　奧深きわたどの。○(李庾)「複道—・—」。
(廂廊)　ひさし。○(陶弘景)「—・—側室、可ニ以安レ身」。
(軒廊)　前に同じ。○(鄭巢)「—・—明ニ野色ニ」。
(畫廊)　ゑもてかざれるわたどの。○(溫庭筠)「縹・帙無レ塵滿ニ—・—ニ」。

【廋】　シウ、シユ。疎鳩切 尤
㊀かくす、かくろ(隱)。○(論)「人焉—哉」。
㊁もとむ、さがす、(索)、一說に、室內をさがす。○(漢)「—索私屠・沽」。
㊂くま(隈)。

【廋】　ソウ、ス。蘇后切 有
前條の㊀の解に同じ。○(國)「有ニ秦・客—ニ辭ニ於朝ニ」。

【廩】　廩に同じ。

【瘞】　瘞に同じ。

【廈】　キ。許規切 支
姿—は、すがた。

【廜】　ツヰ、ヅヰ。池僞切 寘
舍つぶろ、つぶろ。

【厤】　歷に同じ。

十一畫

【廎】　ケイ、キヤウ。窺營切 庚
いへのかたはら(屋側)。

【廎】　ケイ、キヤウ。犬穎切 梗 棄挺切 迥
ちひさきいへ(小堂)。

【廎】　ケイ、キヤウ。傾夐切 敬
うりごや(瓜屋)。

【廰】　廳の本字。

【廞】　シン、ソン。式禁切 沁
深く大いなる屋、又、屋の深奧なるにいふ字。

【𢉷】　サ、セ。鉏加切 麻
屋壞れんさする貌にいふ字、やぶれかゝる。○(淮)「—屋之下、不レ可レ坐也」。

【廏】　キウ、ク。居又切 宥
馬を畜ひ置く屋、うまや(馬舍)。○(詩)「乘馬在レ—」。
(外廄)　宮外のうまや。○(戰)「趙・代良・馬橐・駝必實ニ于外—ニ」。
(馬廄)　うまや。○(漢)「壞以爲ニ—・—ニ」。
(釁廄)　うまやに血を塗ること、蓋し之れを神聖にする爲めといふ。○(周)「春除レ蓐、釁レ—始牧」。
(延廄)　長くつゞきたるうまや。○(左)「春新作ニ—・—ニ」。
(宮廄)　王宮のうまや。○(白居易)「省ニ—・—之煩費ニ」。
(內廄)　宮內のうまや。○(公羊)「馬出ニ之—・—ニ、繫ニ之外・廄ニ爾」。
(中廄)　前に同じ。○(穀梁)「取ニ之—・—ニ、而置ニ之外廄ニ也」。
(龍廄)　天子のうまや。○(魏)「賜ニ淹—・—上馬一匹ニ」。
(御廄)　前に同じ。○(常袞)「選ニ龍・媒于—・—ニ」。
(典廄)　王のうまやを掌る役の名。○(隋)「改ニ龍・署曰ニ—・—ニ」。
(華廄)　立派なるうまや。○(顏延之)「文・駟列ニ乎—・—ニ」。

【廐】　俗の廏の字。

【廑】　キン、ゴン。渠斤切 文 奇靳切 問
㊀小さき屋、こや。
㊁あまり(餘)。
㊂ほど能く、わづかに(纔)。○(漢)「其次—得ニ舍・人ニ」。
㊃勤に通じ用ふ、つとむ。○(揚雄)「其—至矣」。

【𢋅】　バク、マク。末各切 藥
むなし(空)。

【廙】　イ。於其切 支
すみやかなり、又、いそぐ(急)。

【廒】　ガウ、ゴウ。五牢切 豪 —俗に、厫に作る。
倉—は、こめぐら、くら。

【廓】　クワク。苦郭切 藥
㊀おほいなり(大)。○(吳)「性・度恢—」。
㊁むなし(空)。○(漢)「魁・然無レ徒—・然獨・居」。
㊂大いならしむ、ひらく(開)。○(揚雄)「張レ小使レ大謂ニ之—ニ」。
㊃劒の削、さや。○(揚雄)「劒削自レ關而東、或謂ニ之—ニ」。
(橫廓)　よこぎりひらく。○(淮)「—ニ—六・合ニ」。
(寥廓)　はがらかにして大いなること、卽ち、おほぞらにいふ語。○(史)「上—・—而無レ天」。
(大廓)　おほきくむなし。○(淮)「處ニ—・—之字ニ」。
(閎廓)　ひろくむなし。○(史)「—・—深・遠」。
(恢廓)　ひらく、又、大なり。○(漢)「陛下—ニ—・—祖・業、功・德愈盛」。
(曠廓)　むなしく大いなり。○(白居易)「—・—了如レ空」。
(廓々)　空虛なる貌にいふ語。○(唐)「天下—・—無・事矣」。
(遼廓)　空しくひろきこと、卽ちおほぞらのことにいふ語。○(傅休奕)「彩・虹藏ニ于—・—ニ」。
(高廓)　たかくしておほいなり。○(拾遺記)「—・—洞・門、窮ニ夏・屋之盛ニ」。
(寬廓)　ひろくむなし。○(賈誼)「皆遇ニ英・達之主、—・—之盧ニ」。
(昭廓)　あきらかにしてむなし。○(潘濯)「拔レ之而萬古—・—」。
(宏廓)　ひろくおほいなり。○(符載)「神・機—・—」。
(情廓)　こゝろおほいなり。○(謝偃)「—・—志遠」。
(天宇廓)　そらひろし。○(彭秋宇)「縱レ目—・—」。

【廔】　ロウ、ル。郎侯切 尤 リユ、ル。龍珠切 虞
㊀日光を延かん爲めに屋又は壁に穿てる孔、あかりまど、まど(窗)。
㊁せすぢ、せ(脊)。
㊂種子を蒔くに用ふる具、たねまきだうぐ(穜)。

【廕】　イン、オン。於禁切 沁 —又、蔭に作る。
おほふ、おほひ、かげ。○(戰)「席ニ隴・畝ニ而—ニ庇桑・陰ニ」。

【廖】　レウ。憐蕭切 蕭 力弔切 嘯

チウ、チユ。丑鳩切　リウ、ル。力求切　尤
人の名、又姓。

【廖】リウ、ル。力救切　宥
國の名。

【廗】タイ。當蓋切　泰
屋ゆがむ。

【廘】ロク。盧谷切　屋
こめぐら、くら(倉)。

【𢊍】甃に同じ、すき。

【𢋁】廱に同じ。

【𢋄】シ。色倚切　紙
義闕けり。

【𢊿】サイ、セ。祖猥切　賄
物の垂るゝ貌にいふ字。

【𢋥】ヘイ、ビヤウ。蒲征切　庚
隱れかたよりて人無き處、かたかげ、又、かたはら(側)。

【𢊡】シヤク、サク。尸灼切　藥
病を治す、いやす。

【𢋓】懨に同じ。

十二畫

【𢋐】ハン。鋪官切　寒
㊀そばだてるいへ(峙屋)。
㊁たくはふ(儲)。

【𢋈】古文の秩の字。

【𢋋】ヨク、エキ。逸織切　職　又、[illegible]に作る。
持ちありくいへ、やたい(行屋)。

【廙】イ。羊吏切　寘
つゝしむ、うやまふ、うやくし(恭敬)。

【廚】チユ、ヂユ。重株切　虞　一に、厨に作る。
㊀食物の料理場、くりや、庖屋。○〔孟〕「是以君子遠二庖―一」。
㊁財をもて人を救ふ者、又、あるじ(主)。○〔後漢〕「度・尚張・邈王・考劉・儒胡・母・班秦・周蕃・嚮王・章爲二八―一」。
㊂たんす、ひつ、はこ(櫝)。○〔晉〕「愷之嘗以二一―畫一寄二桓・玄一」。
〔書廚〕ふばこ。○〔南〕「陸公―・―也」。
〔御廚〕帝王の料に供ふるみくりや。○〔杜甫〕「―・―絡・繹送二八・珍一」。
〔天廚〕星の名。○〔晉〕「紫・宮東・北維外六・星曰二―・―一、主二盛・饌一」。
〔內廚〕星の名。○〔晉〕「紫宮西・南角・外三・星曰二―・―一、主二六・宮之內飲・食一」。
〔外廚〕星の名。○〔晉〕「柳南六・星曰二―・―一」。
〔行廚〕辨當、わりご。○〔杜甫〕「竹・裏―・―洗二玉・盤一」。
〔釵廚〕かんざしばこ。○〔南齊〕「以二―・―子一賜レ釣、以爲二玩・弄一」。
〔坊廚〕まちのみせに設けあるくりや。○〔徐陵〕「願造二―・―一」。
〔軍廚〕陣中のくりや。○〔白居易〕「―・―酒似レ油」。
〔空廚〕食物の貯へなきくりや。○〔皮日休〕「兒饑僕病滿二―・―一」。
〔齋廚〕精進料理のくりや、寺院などのくりや。○〔蘇軾〕「但愛―・―法・鼓香」「蔡二」。
〔珍廚〕珍味の多きくりや。○〔黄裳〕「―・―拾二魚・
〔封廚〕かたく鎖ざしたるふばこ。○〔晁補之〕「他日―・―失二䂓・牘一」。

【𢋅】タイ、テ。徒回切　灰
下り重なる、おる。

【𢋎】井。王委切　紙
よし、うるはし(美)。

【𢋢】廠に同じ。

【廛】テン。澄延切　先　一に、鄽、壥、㢆、厘、などに作る。
㊀住居の區域、やしき、すみか、すまひ、住處。○〔周〕「夫一―、田百畮」。
㊁物をあきなふ處、みせ、店舖。○〔唐〕「晟用レ兵、市不レ易レ―」。
〔一廛〕一夫のすまひ。○〔孟〕「願受二一―一而爲レ氓」。
〔郊廛〕町はづれのやしき。○〔杜審言〕「詠・雞遊二―・―一」。
〔邑廛〕いなかや。○〔薛季宣〕「松根跳二―・―一」。
〔市廛〕まち、まちや。○〔文同〕「愛二此遠二―・―一」。
〔列廛〕ならべるみせ、又、みせをならぶ。○〔路史〕「―二―於國一」。
〔肆廛〕商店。○〔潘岳〕「―・―管庫」。

【𢋨】ト、ツ。同都切　虞　一に、㢊に作る。
㊀―麻は、わらや、いほり。
㊁屋の平なるにいふ字。

【𢋉】フン、ブン。符分切　文
くづろ(崩)。

【𢋘】シン、ソン。所錦切　寢
はらふ、のぞく(除)。

【廝】シ。相支切　支　又、厮、撕、澌に作る。
他に使はるゝ賤しき人、賤役者、めしつかひ、こもの。○〔揚雄〕「官・婢女・―謂二之嫉一」。

【𢋧】キン、コン。虛金切　侵
㊀つらぬ、ならぶ、のぶ(陳)。○〔周〕「―レ裘飾二皮・車一」。
㊁おこす(興)。○〔周〕「―二其樂・器一」。

【𢋳】ギン、ゴン。牛錦切　寢
㊀前條の解に同じ。
㊁怒る貌にいふ字。○〔揚雄〕「虎虓振―・―」。
㊂泥ふさがる。○〔唐〕「滄・州無・棣・渠久―・塞大・鼎浚・治」。

【𢋶】カン、ケン。丘銜切　咸
山險し、さがし。

【廟】ベウ、メウ。眉召切　嘯
㊀祖先の尊像、又、神主を安置せる殿堂、轉じて祖先の靈を祭りこめたる場處、たまや、みたまや。○〔詩〕「於穆清―、肅・雝顯・相」。
㊁鬼神、聖賢などを祭りこめたる堂舍、やしろ。○〔史〕「於レ是作二渭陽五・帝―一」。
㊂尊像、又、神主、かたしろ。○〔荀〕「負二三・王之―一、而辟二於陳・蔡之間一」。
㊃王宮の正殿、帝王百官の政事を行ふ處、朝廷、おもてごてん。○〔吳〕「不レ下二堂―一、而天・下治也」。
㊄東西に廂ある室、前堂、まんごころ。○〔禮〕「寢―必備」。
㊅かりもがりしたる場處、殯宮。○〔大戴記〕「從至二于―一」。
〔大廟〕君王の祖先のたまや。○〔論〕「子入二大―一、毎レ事問」。
〔祖廟〕先代のたまや。○〔禮〕「春・秋修二其―・―一」。
〔七廟〕天子のたまや、即ち三昭と三穆と太祖の廟とを合はせていふ。○〔獨斷〕「天・子―・―」。

〔五廟〕 諸侯のたまや、卽ち二昭と二穆と太祖の廟とを合はせていふ。○〔獨斷〕「諸侯――」。
〔三廟〕 大夫のたまや、一昭と一穆と太祖の廟とを合はせていふ。○〔三輔黃圖〕「九府――十二門九市」。
〔廊廟〕 おもてでてん。○〔史〕「賢人深謀二於――一、論二議朝廷一」。
〔家廟〕 己が家の祖先のたまや。○〔南〕「見者肅然、如レ在二――一」。
〔宮廟〕 たまや、やしろ。○〔儀〕「築二――一、歲時使二「之祀一焉」。
〔宗廟〕 祖先のたまや。○〔晉〕「君子將レ營二宮室一、――爲レ先」。
〔遠廟〕 血統のとほくなれる先代のたまや。○〔禮〕「二――爲レ祧」。
〔一廟〕 さぶらひのたまや。○〔禮〕「士――、庶人祭二於寢一」。
〔四廟〕 高祖と曾祖と祖と父とのたまや。○〔禮〕「以二其祖一配レ之、而立二――一」。
〔親廟〕 四廟に同じ。○〔漢〕「蓋聞明王制レ禮立二――四一」。「諸――一」。
〔禰廟〕 父のたまや。○〔儀〕「凡行事必用二昏昕一、受二諸――一」。
〔特廟〕 妾のたまや、夫婦は合はせ祭るを例とすれども、妾は之に配祀することを得ざる故に別に、たまやを設く。○〔公羊、註〕「妾母卑、雖レ爲二夫人一、猶――而祭レ之」。
〔天廟〕 星の名。○〔晉〕「張南十四星曰二――一」。
〔高廟〕 高祖のたまや。○〔史〕「高寢衣冠、月出二游――一」。
〔祧廟〕 遷主を藏むるたまや。○〔漢〕「建二郊宮一、定二「神一」。
〔靈廟〕 みたまや。○〔蔡邕〕「乃造二――一以休二厥神一」。
〔孤廟〕 人の祭るものなきやしろ。○〔王惲禹〕「野烟――枕二京城一」。「新レ之」。
〔故廟〕 ふるきやしろ。○〔韓愈〕「因二其――一、易而新レ之」。

【廠】 シヤウ。齒兩切 㕣 尺亮切 㴐

かこひなき舍、壁なき屋、あばらや、露舍。○〔韓偓〕「根雜茅――共二桑麻一」。
〔房廠〕 あらや。○〔周、註〕「放牧之處、皆有二――一」。

【廡】 ブ、ム。罔甫切 㥶

㊀堂下の周屋、廊廂、ほそどの、ひさし。○〔漢〕「陳二賜金廊――下一」。
㊁屋宇、やれ、のき。○〔南〕「有二白燕一雙一巢二前庭樹一、馴二狎檐――一時至二几案一」。
㊂屋舍、いへ。○〔史〕「田舍廬――之數」。
〔大廡〕 おほいなる家屋。○〔史〕「居二――之下一」。
〔堂廡〕 ざしき。○〔列〕「――之上、不レ絕二聲樂一」。
〔廬廡〕 民家。○〔史〕「田舍――之數」。
〔屋廡〕 やね、のき。○〔漢〕「覆以二――一」。
〔軒廡〕 前に同じ。○〔晉〕「照二映――一」。
〔覩廡〕 たかどの。○〔唐〕「崇二――一」。
〔廣廡〕 ひろやかなるひさし。○〔張衡〕「長廊――」。
〔長廡〕 ながきひさし。○〔拾遺記〕「郭況庭中起二高閣――一」。
〔修廡〕 前に同じ。○〔夏侯湛〕「尋二――之飛檐一」。
〔門廡〕 門のそばのひさし。○〔劉克莊〕「――無レ人殿未レ開」。

【蕪】 ブ、ム。微夫切 虞

草木の盛んなる貌にいふ字。○〔書〕「庶草蕃――」。

【廢】 ハイ、ヘ。方肺切 隊

㊀行はれず、用ひられず、弛みおさろふ、壞る、疲る、やすむ、すたる。○〔老〕「大道――有二仁義一」。
㊁行はず、用ひず、放置す、退かす、やむ、すつ。○〔周〕「――置以馭二其吏一」。
㊂おさす、おつ、（落）。○〔左〕「邾子自投二於牀一、――二於爐炭一」。
㊃癈に通じ用ふ、いえぬやまひ。○〔左〕「僞二――疾一」。
㊄おごる、（忲）。○〔詩〕「――爲二殘賊一」。
〔疏廢〕 うとんじすつ。○〔詩、箋〕「故其臣於二君事一、亦――也」。
〔荒廢〕 あれすたる。○〔禮〕「田無レ主則――」。
〔蕪廢〕 前に同じ。○〔遼〕「田園――者、則給二牛種一以助レ之」。
〔惰廢〕 おこたりすつ。○〔周、註〕「起二其勸レ善樂レ業之心一、不レ使二――一」。
〔耗廢〕 すたる。○〔史〕「官職――」。
〔毀廢〕 やぶる。○〔史〕「自齊王――二孟嘗君一」。「園林爲二牧之處一。諸客皆去」。
〔頹廢〕 くづれやぶる。○〔後漢〕「頃者――至レ爲二諸生一」。
〔衰廢〕 すたる。○〔陸游〕「性資冥頑、問學――」。
〔違廢〕 背きて行はず。○〔後漢〕「――二禁典一」。
〔堙廢〕 うづもれすたる。○〔後漢〕「傍多二良田一、而――莫レ修」。
〔頓廢〕 たふれすたる。○〔後漢〕「用二天性一、究二人理一、興二――一、屬二斷絕一」。
〔休廢〕 やみすたる。○〔魏〕「時風不レ至、而有二「――之氣一」。
〔偏廢〕 一方のみすつ、又、一方のみすたる。○〔陸機〕「一氣――、則亂物不レ得二獨成一」。
〔弛廢〕 ゆるびすたる。○〔晉〕「遂使二憲章――、名教頹毀一」。
〔排廢〕 推しおとす。○〔南〕「結レ黨欲二――一」。
〔屏廢〕 退く。○〔南〕「我兄無レ事而――」。
〔停廢〕 とゞまりすたる。○〔北〕「猶――數年」。
〔寢廢〕 すたる。○〔北〕「遂――」。
〔曠廢〕 前に同じ。○〔舊唐〕「遐事――」。
〔古廢〕 ふるびて物の用に立たず。○〔北〕「銅器又嫌二――一」。
〔久廢〕 永くすたる。○〔宋〕「先蠶之禮――」。
〔隳廢〕 やぶれすたる。○〔金〕「社稷神壇――者復レ之」。
〔幽廢〕 とぢ込めすつ。○〔洪範五行傳〕「稍二大臣一共誅二諸呂一、而立二文帝一、惠后――」。
〔棄廢〕 すて、用ひられず。○〔素書〕「自原而薄レ人者――」。「復――一」。
〔捐廢〕 前に同じ。○〔蔡琰〕「流離成二鄙賤一、常恐二――一」。
〔殘廢〕 精損耗して手足自由ならず。○〔急就篇〕「篤癃――迎二醫匠一」。
〔枯廢〕 物の用に立たず。○〔徐陵〕「風患彌留、半體――」。「――一」。
〔彫廢〕 おとろふ。○〔梁簡文帝〕「舊肆盈虛、或成二「情一」。
〔黜廢〕 おりぞけすつ。○〔晉翟〕「簡練之綱遂陳、――之法益怨矣」。
〔怠廢〕 おこたりすつ。〔晉翟〕「防二其――一雖レ久之」。
〔半塗廢〕 事業なかばにしてすたれやむ。○〔禮〕「君子遵レ道而行、――而――」。
〔中道廢〕 前に同じ。○〔論〕「力不レ足者、――而――」。

【癈】

撥に通じ用ふ。○〔周〕必――爾而怒」。

【廣】 クワウ。古晃切 養

㊀ひろし。
（い）面積多し、かぎり遠し。○〔詩〕「誰謂二河――一、一葦杭レ之」。
（ろ）行き亙れり、普し。○〔呂氏春秋〕「其人事則不レ――」。
（は）打ちくつろげり、安くしてさはりなし。○〔禮〕「心――體胖」。
（に）緩し。○〔禮〕「――則容レ姦」。
㊁ひろくなす、ひろむ、ひろぐ。○〔史〕「乃爲レ賦以自――」。
㊂ひろくなる、ひろがる。○〔後漢〕「齊民增闢土世――」。
〔平廣〕 たひらにひろし。○〔詩、疏〕「肩上――」。
〔高廣〕 たかさとひろさと。○〔稽神錄〕「其――與二寺樓一等」。
〔弘廣〕 ひろし。○〔劉表〕「仁君度數――」。
〔淹廣〕 前に同じ。○〔梁武帝〕「伐識度――」。
〔增廣〕 ひろぐ。○〔東晳〕「――二窮人之業一、以闢二西郊之田一」。

【廣】 クワウ。古曠切 漾

㊀よこ、（橫）。〔周〕「周知二九州之地域、――輪之數一」。
㊁戰に用ふる車の名、よこに陳ぬるもの。○〔周〕「――車之萃」。
㊂ゆたか、（泰）。○〔荀〕「人主胡不レ――」。
㊃曠に通じ用ふ、むなし。○〔漢〕「師出過レ時之謂レ――」。

【廥】 ケウ。丘召切 嘯

高き屋、たかどの。

【廦】

鼻に同じ、人の名。○〔戰〕「所レ用者樓――翟强也」。

十三畫

【𢋂】ショ、ソ。賞呂切　語
いへ（舍）。

【𢋈】タン。薫旱切　旱
かたひさしのいへ（偏舍）。

【廑】僅に同じ、わづかに。○〔禮〕「一一有ニ存者ニ」。

【廥】クワイ、ケ。古外切　泰
❶芻藁を積み置く處、くさや。○〔急就篇〕「壍壘一一廄庫東廂」。「浚レ渠」。
❷くら（倉）。○〔唐〕「頻發ニ官一一、庯レ民
（倉廥）くら。○〔史〕〔盧郡國一一、以賑ニ貧民ニ〕。
（芻廥）まぐさ倉。○〔韓〕「燒ニ一一而中山罪」。
（天廥）星の名。○〔晉〕「天廥四星在ニ昴南ニ、一曰ニ一一ニ」。
（糧廥）兵食をいれおく倉。○〔唐〕「悉燒ニ一一ニ」。
（祭廥）くら。○〔盧旭〕「一一皆溢」。
（儲廥）糧芻などをたくはへたく倉。○〔唐〕「且糅ニ軍資器械一一ニ」。
（崇廥）高大なる倉。○〔馬祖常〕「賦稅一一錯」。

【𢊤】ロ、ル。郎古切　麌
龍都切　虞
一に磨に作る。
❶ひさし（廡）。❷くら（府）。❸いほり、（庵）。

【𢊹】セン、ゼン。祀兗切　銑
大いなる室、おほいへ、ひろま。

【廦】ヘキ、ヒヤク。必歷切　錫
匹辟切　陌
❶いへ（室屋）。❷かき（牆）。

【廧】シヤウ、サウ。慈良切　陽
一に省きて、廥に作る
❶牆に同じ、かき。○〔戰〕「趙皆以ニ荻蒿苫楚ニ一レ之」。
❷嗇に通じ用ふ、こもの、小臣。○〔戰〕「一一夫空」。

【廨】カイ、ケ。居隘切　卦
公一は、役人の職務を執り行ふ所、やくしよ。

【𢊽】ユ、ヨ。羊朱切　虞
イウ、以周切　尤
或は、歈、又、揄に作る。
邪一一は、手を擧げて相弄ぶ、なぶる。

【㢛】ゲン、ゴン。魚欠切　豔
小さき貌にいふ字、又、すこし。

【廞】ケン、コン。丘凡切　咸
ひつ（櫃）。

【廞】キン、コン。火禁切　沁
意響ふ、はやる。

【𢋤】エウ。餘昭切　嘯
ゐごころ（座）。

【廩】リン。力錦切　寑
❶米を藏むる倉、こめぐら、くら。○〔詩〕「亦有ニ高一一、萬億及秭」。
❷俸祿、ふち、ちぎやう。○〔後漢〕「恐人稍受レ一、往來煩劇」。
❸懍に通じ用ふ、おやふし。○〔漢〕「可三以爲レ富安ニ天下、而直爲ニ此一一ニ」。
（倉廩）こめぐら。○〔禮〕「季春之月、命ニ有司、發ニ一一ニ」。
（米廩）（い）學校。○〔禮〕「一一有虞氏之庠也」。（ろ）こめぐら。
（御廩）祖先の祭祀に供せんとて君王の親ら耕して得たる穀物を藏めおくくら。○〔春秋〕「秋八月壬申、一一災」。
（振廩）人民に救助米を與ふ。○〔後漢〕「開レ倉一一三十餘郡ニ」。
（官廩）政府の所有する米ぐら。○〔宋〕「九月丁丑、發ニ一一、振ニ鳳州水災ニ」。
（月廩）月々にあてがふ扶持米。○〔元〕「詔ニ于沂郊ニ、命ニ宿衞受ニ一一ニ」。
（實廩）穀物米倉に滿つ。○〔後漢〕「分レ地以用ニ天道ニ、一レ一以崇ニ禮節ニ」。
（給廩）扶持米をあてがふ。○〔宋〕「開レ倉一レ一」。
（年廩）扶持米。○〔宋〕「稍不レ中レ程者、減ニ其一一從レ之」。
（糧廩）兵士に給與する米穀のくら。○〔隋〕「自是淮南軍防一一充足」。
（州廩）二千五百家を有する區域の邑里に設けたる米倉。○〔魏〕「年穀不レ登、一一虛罄」。
（司廩）唐の時代に米倉を掌る官の稱。○〔唐〕「一一司庫各一人、正九品」
（祭廩）布帛米穀を入るゝくら。○〔唐〕「所部一一、皆可レ支ニ數歲ニ」。
（義廩）救助米を藏めおくくら。○〔唐〕「鄉爲ニ一一ニ」。
（私廩）自己の所有せるくら。○〔宋〕「詔民有レ出ニ一一ニ賑ニ貧乏者ニ」。
（儲廩）米穀を貯へおくくら。○〔宋〕「漕ニ淮浙江湖、六路一一、以輸ニ中都ニ」。
（公廩）政府の設けたる米ぐら。○〔宋〕「發ニ一一以救ニ飢莩ニ」。
（困廩）米ぐら。○〔梅聖臣〕「一一見ニ餘積ニ」。
（庾廩）前に同じ。○〔金〕「一一無ニ兩月食ニ」。
（衣廩）きものと扶持する米穀と。○〔元〕「仍每歲豫給ニ其一一ニ」。
（俸廩）あて行はるゝ扶持米。○〔避暑錄話〕「一一非レ不レ足」。

十四畫

【廡】籀文の廡の字。

【廓】クワク、ワク。黃郭切　藥
廓一一は、空しく遠き貌にいふ字、むなし、さほし。

【㕓】廛の本字。

【𢋡】ケン、コン。丘廉切　鹽
衣服を納め置く櫝、ひつ。

十五畫

【廫】レウ。憐蕭切　蕭
むなし、うつぼ（空虛）。

【𢋲】ラウ、ロウ。力交切　肴
室の中の虛なる貌にいふ字。

【𢋽】イウ、ウ。於求切　尤
地の名。

十六畫

【廯】セン。先見切　霰
いへ（舍）。

【𢋼】ソ、ス。素姑切　虞
❶廜一一は、わらや、いほり。
❷廜一一は、酒の名、一に、屠蘇に作る

【廬】リヨ、ロ。凌如切　魚
❶寄寓する屋舍、假りずまひ。○〔詩〕「中田有レ一」。
❷粗末なる屋舍、あばらや、いほり。○〔易〕「小人剝レ一」。
❸はたごや、やどや（候舍）。○〔周〕「十里有レ一一有ニ飮食ニ」。
❹殿中官署にありてさまり番する所、

とのゐじよ、宿直舍。○〔漢〕「小疾臥レ一」。

〔野廬〕周時代の官の名、又、ゐなかや。○〔蘇軾〕「却思時到二一・人一二。

〔敝廬〕あばらや、又、自己の家を稱するに用ふる語。○〔左〕「杞梁之妻曰、有二先人之一一在二。

〔閭廬〕いはり。○〔左〕「吾儕小人、皆有二一・一二。

〔田廬〕ゐなかや。○〔漢〕「顧自有二舊一・一二。

〔精廬〕書齋。○〔後漢〕「後乃就二一・一求レ見レ徵」。

〔學廬〕學問を授くる所、卽ち學校。○〔後漢〕「及レ就二一・一、聚レ徒至二五百人二。

〔草廬〕草ぶきのいはり、又、自己の家を稱するに用ふる語。○〔劉克莊〕「春信夙明到二一・一二。

〔篷廬〕前に同じ。○〔劉向〕「潛坐二一・一之中、岩・石之下二。

〔蒿廬〕前に同じ。○〔陸賈〕「伏二隱於一・一之下二。

〔茅廬〕前に同じ。○〔張九齡〕「亂雲堆裏結二一・一二。

〔蝸廬〕せまき家、又、自己の家を稱するに用ふる語。○〔陸游〕「退藏只合レ臥二一・一二。

〔結廬〕いはりをつくる。○〔唐〕「一二一北渚一、凡三十年」。

〔屋廬〕家屋。○〔韓愈〕「以レ有二此一・一二。

〔青廬〕婚禮を行ふ爲めの家屋。○〔酉陽雜俎〕「北方昏禮、用二靑布幔一爲レ屋、謂二之一・一二。

〔佛廬〕佛寺のこと。○〔唐〕「一・一以レ死」。「一二。

〔𣵀廬〕前に同じ。○〔鄭文原〕「晩尋二樵徑一扣二一・一二。

〔飛廬〕舟の上のかさなりたるやね。○〔廣雅〕「舩上重屋曰二一・一二。「守二一・一二。

〔穷廬〕何物もなき家、あきいへ。○〔左思〕「抱レ影守二一・一二。

〔陋廬〕せまき家。○〔東晳〕「斂二形一・一二。

〔僑廬〕かりのやど。○〔張說〕「一・一對二南・峴二。

〔𤸱廬〕いはり。○〔范成大〕「一・來往少」。

【廬】 ロ、ル。龍都切 虞

矛戟の柄、一說に、やすり。○〔周〕「秦無レ一」。

【廬】 廬に同じ。

【[illegible]】 タク、ヂヤク。直角切 覺

すみやか、はやし、(速)。

【[illegible]】 フ。扶雨切 麌

㊀やぶる、(敗)、たゞる、くづる、(爛)、くへ、「朽」。㊁くさし、(臭)

十七畫

【廞】 ギン、ゴン。牛錦切 寑

大いなる屋、いへ。

【廙】 エキ、ヤク。夷益切 陌

屋通る、さほる、かよふ。

【廮】 エイ、ヤウ。幺郢切 梗

安んじ止ゞまる、とゞまる。

【廯】 セン。息淺切 銑 蘇然切 先

㊀こめぐら、(囷・倉)。㊁すくなし、(少・鮮)。

【[illegible]】 ギ。虛宜切 支

山の險しきにいふ字、さがし、けはし。

【廧】 古文の牆の字。

【[illegible]】 サイ。側皆切 佳

ちがやぶきのいへ、かやゝ、(茅・舍)。

十八畫

【[illegible]】 ク、ゴ。權拘切 虞

こめぐら、くら、(倉)。

【廱】 ヨウ、ユ。於容切 冬

㊀やはらぐ、(和)。○〔爾〕「一・一和也」。㊁壅に通じ用ふ。○〔漢〕「梁山崩一レ河、三日不レ流」。

〔辟廱〕學校。○〔詩〕「於樂二一・一二。

〔雝廱〕(植)はまびし、茨。○〔莊〕「一・一也家・䓱也」。

十九畫

【[illegible]】 リ。鄰知切 支

大なるいへ、(廈)。

【廲】 レイ、ライ、鄰提切 齊 リ。鄰支切 支

あやを施せるまど、あやまど、(綺・窗)。

二十畫

【[illegible]】 ケン。口兼切 鹽

つゝしむ、(謹)。

廿二畫

【廳】 テイ、チヤウ。湯丁切 靑

㊀屋室、いへ、ま。○〔洛陽名園記〕「涼樹錦一一其下可レ坐二數百人二。㊁政事を聽く所、役所、まんどころ。○〔韓愈〕「丞一舊有レ記」。

〔寒廳〕淋しき役所。○〔韓愈〕「勤來得二晤語一、勿レ憚宿二一・一二。

〔冰廳〕まつりのことにかゝはる事柄を掌る處。○〔歐陽修〕「獨有二一・一夢二帝關二。

〔簿廳〕役所。○〔宋〕「時々躬至二一・一二。

〔簽廳〕文書を掌る役所。○〔宋〕「供二一・一之職二。

〔鏁廳〕科擧に應ぜる者。○〔宋〕「凡命レ士應レ擧、謂二之一・一二。

〔驛廳〕うまやぢの役所。○〔國史補〕「與二中使一爭二一・一、爲二其所一辱」。「夜坐」。

〔便廳〕役所內の休息處。○〔談錄〕「移二于一・一」

〔植廳〕少年の折より官署に奉仕すること。○〔王鏖貞〕「一二手一者、知二官政之無一曲」。「中央二。

〔高廳〕宏大なる役所。○〔白居易〕「一・一大館居」

〔古廳〕ふるく荒れたる役所。〔韋碣〕「斜送二陰雲一入二一・一二。「煩レ暑」。

〔公廳〕おほやけの役所。○〔徐鉉〕「獨坐二一・一正

〔官廳〕前に同じ。○〔孔平仲〕「一・一己罷吏」。

〔郡廳〕こほりの事を掌る役所。○〔趙抃〕「落・澗通レ池遶二一・一二。

〔邑廳〕むらの役所。○〔周必大〕「循レ城而東有レ拱二翠樓亭一誅二一・一二。

〔閑廳〕ちづかにして事務少き役所。○〔楊基〕「綠陰幽・蘚遍二一・一二。

廿四畫

【[illegible]】 レイ、リヤウ。郎丁切 靑 一に、[illegible]に作る。

いはあな、(岩・穴)。

【[illegible]】 レン。閭員切 先

よづ、(攣)。

廴 部

【廴】 イン。以忍切 軫

ひく、(延)。

四畫

【㢟】 テン。丑連切 先 丑展切 銑

あゆむ、(歩)。

【[illegible]】 征に同じ、ゆく(行)。

【廷】 テイ、ヂヤウ。唐丁切 靑 徒徑切 徑

㊀人の集停せる場處。○〔釋名〕「一停也、人所二停・集一之處也」。㊁正しきこと、直きこと、平かなること。○〔漢〕「一・尉秦官〔註〕「一平也、治レ獄直レ平故以爲レ號」。「一二。㊂政を行ふ所。○〔後漢〕「給二事縣一中二。㊃特に、君王の國家の大政をしろしめす所。○〔楚辭〕「虎兕爭今於二一

〔朝廷〕まつりごとを布く政府。○〔禮〕「一・一之美」。

〔縣廷〕一縣中を支配する役所。○〔後漢〕「毋使レ給二事一・一二。

〔官廷〕役所。○〔後漢〕「居・家如二一・一二。

(外延)　外朝に同じ表むきの役所。○〔晉〕「令ニ臣野ニ次一ー一ニ」。

【延】エン。以然切 〔先〕

㊀ひく。
(い)長く引く。○〔左思〕「ーー閣允宇」。
(ろ)道く、進む。○〔儀〕「擯者ーレ之曰、升」。
(は)ふざる、(却)。○〔張衡〕「遷ー一邪ー「睨」。
(に)いる、(納)。○〔漢〕「以ーニ賢人」。「ー」。

㊁のぶ、のばす。
(い)長ず。○〔陸機〕「迎ニ朱夏ニ而自ー」。
(ろ)陳す。○〔國〕「ーニ君譽於四方ニ」。
(は)さゞこほろ、さゞこほらす、(淹)。○〔左〕「謂ニ之遷ーニ之役ニ」。「ー」。
(に)つゞく、(連)。○〔陶侃〕「尙可ニ小ー」。
(ほ)およぶ、およぼす、(及)。○〔書〕「賞ーニ于世ニ」。

㊂長し。○〔班周〕「歷ニ十二之ー祚ニ」。

㊃遠し。○〔史〕「ー一袤萬餘里」。

(宛延)　めぐりかゞまる貌にいふ語。○〔揚雄〕「聯ニ翠氣之ー一ニ」「後ーー」。
(遷延)　(い)とゞこほる貌、又、つゞく貌。○〔蔡邕〕「紛、淼ー一」。
　　(ろ)退却のこと。○〔左、註〕ーー却退也」。
(祝延)　いはひて長年せしめること。○〔漢〕「皆ーニー之ニ」。「ーー」。
(曼延)　ながくつゞく。○〔魯靈光殿賦〕「軒檻ー一」。
(蔓延)　はびこる。○〔謝靈運〕「松蔦歡ニーーニ」。
(袢延)　熱氣。○〔文同〕「前時大暑中、幾不レ禁ニーーニ」。
(招延)　まねき納る。○〔北〕「ーーニ俊彥ニ」。
(薦延)　すゝめ納る。○〔舊唐〕「ーー推擧、無ニ復淹滯ニ」。
(普延)　あまねくひき納る。○〔魏〕「ーーニ學士ニ」。
(綿延)　久しきにのびわたる。○〔管〕「故得レーーニ歲月ニ」。
(邀延)　迎ひ納る。○〔舊唐〕「悉令ニーーニ」。「客と」。
(接延)　應待す。○〔舊唐〕「請下於ニ私居ニーー賓」
(連延)　つらなりつゞく。○〔范雲〕「ーー不レ可レ窮」。
(聯延)　前に同じ。○〔高唐賦〕「ーー天々」。
(綿延)　前に同じ。○〔韋應物〕「ーー稼盈レ疇」。
(逶延)　遠くつらなる。○〔西京賦〕「重閨幽闥、轉相ーー」。
(垂延)　永きに及ぶ。○〔韓愈〕名聲ーー」。

【延】エン。以淺切 〔銑〕

冕の上部の覆ひ、おほひ。○〔禮〕「天子、玉藻十有二旒、前後邃ー」。

五畫

【㢟】チン、ヂン。丑忍切 〔軫〕

はしろ、(走)。

六畫

【建】ケン、コン。居萬切 〔願〕

㊀たつ。
(い)置く。○〔易〕「先王以ーニ萬國、親ニ諸侯ニ」。
(ろ)竪立す。○〔禮〕「杖而朝、見レ君ーレ杖」。

㊁木の名、弱水に生じて高さ百仞まで枝なきものをいふ。

㊂北斗星の北にある星の名。○〔禮〕「仲春之月、旦ー星中」。

(封建)　土地をたさり國をたつ。○〔左〕「故ーニー親戚、以藩ニ屛周ニ」。
(豫建)　あらかじめたつ。○〔漢〕「ーーニ太子ニ」。
(衆建)　かぞ多くたつ。○〔漢〕「莫レ若レーニーー諸侯ニ」。
(新建)　あたらしくたつ。○〔後漢〕「時許都ーー」。
(興建)　おこしたつ。○〔晉〕「ーーニ大業ニ」。
(肇建)　はじめおこす。○〔張華〕「ーーニ帝業ニ」。

【建】ケン、コン。紀偃切 〔阮〕

くつがへす、(覆)。○〔史〕「猶下居ニ高屋之上ニーー中瓴水上」。

【建】鍵に通じ用ふ。○〔禮〕「名レ之曰ニー橐ニ」。

【廻】回に同じ。○〔史〕「墨子ーレ車」。

八畫

【㢠】タウ、ヂヤウ。丈梗切 〔梗〕

つく、又、つくす、(盡)。

九畫

【𢌬】エン。尹甸切 〔霰〕

相顧み視て行く、ゆく。

廾部

【廾】キョウ、ク。居悚切 〔腫〕

竦みて手を交ふ、こまぬく。

【廿】ジフ、ニフ。人汁切 〔緝〕

十の二つならびたるもの、二十、はたち。○〔顏之推〕「中山何彩、有レ子百ー」。

二畫

【弁】ヘン、ベン。皮變切 〔霰〕

㊀かんむり、(冕)。○〔儀〕「周ー殷冔夏收」。
㊁いそぐ、(急)。○〔禮〕「ーー行剡々起レ屨」。
㊂懼れて身ぶるひす、をのゝく、(戰)。○〔漢〕「吏皆股ー」。
㊃やまし、(疾)。○〔漢〕「予甚ー」。
㊄手にて搏つ、たゝく、又、手を撫づ、さする。○〔漢〕「試レー爲ニ期門ニ」。
㊅卞に通じ用ふ。○〔漢〕「ーー嚴子爲ニ衛尉ニ」。

(雀弁)　周時代の冠の名にて一に爵弁ともいひ、又、他ともいふ、廣さ八寸、長さ一尺二寸ありて爵の形の如し。○〔書〕「二人ーー執レ惠、立ニ于畢門之內ニ」。
(綦弁)　冠の名。○〔書〕「四人ーー」。
(皮弁)　皮にて作りたる冠の名。○〔周〕「弁師掌ニ王之五冕王之ーーニ」。
(韋弁)　前に同じ。○〔周〕「凡兵事ーー服」。
(瓊弁)　玉にて飾りたる冠。○〔左〕「初子玉自爲ニーー玉纓ニ」。「瑰章ニ」。
(武弁)　武官のかぶる冠。○〔諸光甄〕「ーー朝ニ」
(我弁)　前に同じ。○〔袁悧〕「ーー生ニ縱恣ニ」。
(赤弁)　とんぼの異名。○〔古今、註〕「蜓、蛉亦名ニーー丈人ニ」。「烟ニ」。
(端弁)　玄端弁といふ冠。○〔盧綸〕「ーー入ー爐

【弁】般に同じ、たのしむ、(樂)。○〔詩〕「ー彼鸒斯」。

三畫

【异】イ。與之切 〔支〕　羊吏切 〔寘〕

やむ、(巳)、ふりぞく、(退)。○〔書〕「ー哉試可乃巳」

【昇】異に通ず。○〔列〕「何以ー哉」。

四畫

【弆】古文の棄の字。○〔左〕「是ーレ陳也」。

【弇】キ、ギ。渠追切 〔支〕

弩の持つところ、にぎり、(拊)。

【弄】ロウ、ル。盧貢切 〔送〕

㊀もてあそぶ。
(い)持ちて慰み物さなす。○〔漢〕「高祖持ニ御史大夫印ニーレ之」。

(ろ)好みて慰みとす。○〔梁簡文帝〕「方追二山-壑一永—二林-泉一」。
㊁たはむる、たはむれ、(戲)。○〔左〕「夷-吾弱不レ好レ—」。
㊂あなどる、あなどり、(侮)。○〔漢〕「皆敖——無レ所レ爲レ屈」。
㊃音樂の曲、しらべ、ふし。○〔嵆康〕「改レ韻易レ調奇—乃發」。
㊄音樂を奏す、しらぶ。○〔晉〕「爲作二三-調—一畢便上レ車去」。
㊅ちまた、(巷)。

〔愚弄〕もてあそぶ。○〔陳鴻〕「——二國-柄一」。
〔舞弄〕前に同じ。○〔隋〕「而——二文-墨一」。
〔戲弄〕たはむれもてあそぶ。○〔魏文帝〕「余于二他——之事一、少レ所レ喜」。
〔翫弄〕前に同じ。○〔徐渭〕「——狎二鬼-神一」。
〔撫弄〕前に同じ。○〔南〕「輒——以寄二其意一」。
〔曲弄〕音樂のふし。○〔唐〕「琴-操——、皆合二詩-歌一」。
〔吟弄〕うたひしらぶ。○〔李賀〕「纖-娘——滿二寒-空一」。
〔盜弄〕ぬすみてもてあそぶ。○〔漢〕「故使三陛-下赤-子——二陛-下之兵于潢-池中一耳」。
〔操弄〕蔑にして取りあつかふこと。○〔後漢〕「——二國-權一」。
〔傾弄〕前に同じ。○〔晉〕「——二朝-權一」。
〔狡弄〕前に同じ。○〔齊〕「——二聲-勢一」。
〔嬉弄〕もてあそぶ。○〔崔邕〕「——明-月光」。
〔淸弄〕さえたる音樂のふし。○〔異苑〕「——諧-密」。
〔調弄〕しらべ、又、しらぶ。○〔徐欽〕「——二琵-琶一卽爲レ拍」。
〔純弄〕純曲。○〔蔡邕〕「——乃開」。
〔奇弄〕めづらしきふし。○〔嵆康〕「——乃發」。
〔賞弄〕はめもてあそぶ。○〔李白〕「——終二日-夕一」。
〔簸弄〕ふるひもてあそぶ。○〔韓愈〕「——明-月-珠」。
〔攤弄〕ひらきもてあそぶ。○〔韓愈〕「——二春-風一只欲レ飛」。
〔騁弄〕ながめもてあそぶ。○〔獨狐及〕「衆君-子之不レ足、故秉レ燭進レ酒、以繼二落-日一」。
〔抱弄〕いだき戲る。○〔白居易〕「乳-母——二於書屛-下一」。
〔狎弄〕なれ戲る。○〔白居易〕「官-舍可二——一」。
〔閑弄〕靜にもてあそぶ。○〔鄭畋〕「——紫-薇花」。
〔嘲弄〕あざけりなぶる。○〔蘇軾〕「付二與騷-人一發二——一」。
〔浮弄〕うかび戲る。○〔黃庭堅〕「鴛-鴦——嬋-娟影」。
〔耍弄〕取りまきて戲る。○〔朱熹〕「諸-孫時——」。
〔把弄〕とりてなぶる。○〔陸游〕「日-月難二——一」。
〔掬弄〕すくひもてあそぶ。○〔陸游〕「——澗-底泉」。

五畫

【弅】 フン、ボン。符分切 文 房吻切 吻
丘の高く起これる貌にいふ字。○〔莊〕「登二隱-—之丘一」。

【𢍁】 イク、ヨク。余六切 キク、コク。居六切 屋
兩手に盛る、もる、又、兩手に捧ぐ、さゝぐ。

【弆】 キョ、コ。居許切 語
をさむ、かくす、(藏)。

【弇】 エン、オン。一儉切 琰
㊀おほふ、(蓋)。○〔爾〕「—レ日爲二蔽-雲一」。
㊁隘き道路、こみち、こうち。○〔左〕「行及二—中一」。
㊂器の口小さくして腹の張り出でて寬きもの。○〔周〕「—則聲鬱-勃不レ出也」。
㊃ふかし、(深)。○〔呂氏春秋〕「其器宏以—」。
㊄内に向く。○〔周〕「棧-車欲レ—」。
㊅おなじ、(同)。

【𢍏】 カン、コン。古南切 覃
前條の㊀に同じ。

【弈】 エキ、ヤク。羊益切 陌
㊀棋を圍むのたはむれ、ゐご。○〔左〕「—者擧レ棋不レ定不レ勝二其耦一」。
㊁つゞく、(續)。○〔沈氏〕「取二落-—之義一也」。「——」。
㊂美しき貌にいふ字。○〔詩〕「新-廟——」。
㊃さばり、たれぬの、(帳)。○〔汲冢周書〕「王會解」「𢹂-上張二赤-—陰-羽一」。
〔博弈〕ばくち。○〔論〕「不レ有二——者一乎」。
〔閑弈〕熱心に爭はざるゆるやかなる圍棋。○〔皮日休〕「——無レ爭レ劫」。
〔巧弈〕上手なる圍棋。○〔韓維〕「分-明四-座謝二——一」。

七畫

【弮】 ケン。古倦切 霰
飯を搏す、にぎる、又、にぎり飯。

九畫

【𢍰】 ヰ。于貴切 未
草木の生ひしげれる貌にいふ字、さかんなり。

【𢍴】 リ。陵之切 支
はぐ、(剝)。

【𢍭】 尊に同じ。

十畫

【𢍷】 キョク、コク。居玉切 沃
索の屬、なは。

十一畫

【𢍺】 奬に同じ。

【弊】 ヘイ、ハイ。毗祭切 霽
㊀つひゆ、つひやす。(い)つかる、つからす、(罷)、くるしむ、(困)。○〔後漢〕「軍-士疲-—」。(ろ)やる、やぶる、(敗)。○〔揚雄〕「禮-薄義-—」。(は)つく、つくす、(竭)、きはまる、きはむ、(極)。○〔管〕「澤不レ—而養足」。
㊁惡しきこと、害生ずること、つひえ。○〔漢〕「重以二周、秦之—一」。
㊂たふす、たふる、(仆)。○〔周〕「質明—レ旗」。
㊃心力をつからす貌にいふ字。○〔莊〕「——然以二天-下一爲レ事」。
㊄さだむ、(斷)。○〔周〕「—二邦-治一」。
〔補弊〕やぶれをつくろふ。○〔蜀、註〕「—レ—興レ衰」。
〔宿弊〕ふるき害惡。○〔國老談苑〕「釐二——一、大興二利-益一」。
〔踣弊〕たふるゝこと。○〔國〕「——不レ振」。
〔鈍弊〕にぶりやぶる。○〔國〕「使二吾甲-兵——一」。
〔抗弊〕つかれやぶる。○〔史〕「百-姓——而巧レ法」。
〔罷弊〕前に同じ。○〔漢〕「以爲——二中-國一、以奉二無-用之地一、願罷レ之」。
〔衰弊〕前に同じ。○〔李嶠〕「哀二末-法之——一」。
〔承弊〕やぶれのあとをうけつぐ。○〔道德指歸論〕「—レ—通レ變」。
〔受弊〕前に同じ。○〔魏〕「下—二其—一」。
〔待弊〕やぶれをまちうく。○〔魏〕「鄧艾等以レ不レ如下割レ險自保、觀レ釁—レ—、然後進-救上」。
〔流弊〕ふるくよりひきつゞき來れる弊害。○〔晉〕「庶能激二揚——一者也」。
〔困弊〕くるしみつかる。○〔唐〕「百-姓——」。
〔窮弊〕前に同じ。○〔吳〕「大散二財-貨一、標二賣田-地一、以賑二——一」。
〔窘弊〕前に同じ。○〔晉〕「——之餘、人懷二貪-競一」。
〔亂弊〕國家などのみだれ衰へたること。○〔魏、註〕「—之後、百-姓凋-盡」。
〔羸弊〕よわりつかる。○〔吳〕「——日久」。
〔玩弊〕前に同じ。○〔晉〕「臣以二——一述二于道-德一」。
〔饑弊〕うえつかる。○〔晉〕「百-姓——」。
〔濟弊〕おとろへたるものを救ふ。○〔晉〕「興レ微—レ—」。
〔拯弊〕前に同じ。○〔北〕「遂有二匡レ頽—レ—之志一」。
〔救弊〕前に同じ。○〔宋〕「安有二先-儒爲レ法、不レ思—二其—一耶」。
〔頑弊〕かたくなにして物の用にたゝざること。○〔晉〕「忘二臣——一」。
〔往弊〕いにし時の弊害。○〔晉〕「革二——一者、則政

不ㇾ癸」。
〔時弊〕常時の弊害。〇〔晉〕「省ニ非急之費ー、以救ニ「ー・ー」。
〔廢弊〕そこなつにして立ちやぶれたるもの。〇〔南〕「外服ニー・ー」。　「ー」。
〔故弊〕ふるくやぶれたるもの。〇〔南〕「衣被ニー・ー」。
〔陳弊〕前に同じ。〇〔書〕「又所取皆老弱ー・ー」。
〔窮弊〕やぶる。〇〔北〕「衣帽ー・ー」。　「之軍」。
〔羸弊〕やせ衰ふ。〇〔唐〕「卒ニー・ー之衆ー、與ニ數萬
〔垢弊〕あかつきてやぶる、又、其のもの。〇〔唐〕「復常衣ニー・ー」。
〔勞弊〕つかれおとろふ。〇〔五〕「遠近ー・ー」。
〔煩弊〕事のしげきに過ぎてあしきこと。〇〔五〕「蔵・餘三司益ー・ー」。
〔革弊〕あしき事をあらためかふ。〇〔新論〕「故立ニ禮教ニ以ー二非ー」。　「ー」。
〔積弊〕つみかさなれるあしき事。〇〔荀〕「彼日ー
〔凋弊〕そこねやぶる。〇〔韜〕「以ーニーー之」。
〔朽弊〕くさる。〇〔易林〕「山・石ー・ー」。
〔醜弊〕きたなくしてやぶれたるもの。〇〔揚雄〕「衣被ニー・ー」。
〔衰弊〕衰ふ。〇〔道德指歸論〕「百・姓ー・ー」。
〔遺弊〕むかしよりのこりたるあしき事。〇〔拾遺記〕「漢興繼ニ六・國之ー・ー」。
〔深弊〕あさからざる弊害。〇〔顏氏家訓〕「皆有ニーー」。　「最甚」。
〔奸弊〕よこしまなること。〇〔燕翼貽謀錄〕「ー・ー
〔壞弊〕みたれやぶる。〇〔王勃〕「衣・冠ー・ー」。
〔荒弊〕あれ衰ふ。〇〔常弼〕「ー・ー仍ニ湫底」。

【弊】ヘツ、ヘチ。筆別切 [屑]
雜揉す、まじふ、まじる。〇〔淮〕「不ニ與ㇾ物ー・搬」。

十三畫

【𢍸】擎に同じ。

【𢍻】エキ、ヤク。全益切 [陌]
㊀たしまへす、(給)。
㊁擇に同じ、えらぶ。

【𢍶】セン。且然切 [先]

高きに升る、あがる、のぼる。

十九畫

【𢍺】攣に同じ。

弋部

【弋】ヨク、エキ。與職切 [職]
㊀糸を矢に結びて射ること、いぐるみ。〇〔詩〕「ー二鳧與ㇾ鴈」。　「命」。
㊁とる、(取)。〇〔書〕「非三我小・國敢ー二殷
㊂くひ、(橛)。〇〔爾〕「雞棲ニ於ー一爲ㇾ檪」。
㊃黑色、くろ。〇〔漢〕「身衣ニーー綈」。
㊄妖に通じ用ふ。〇〔漢〕「孝・武鉤ーー趙・倢・伃」。
〔矰弋〕いぐるみ。〇〔莊〕「鳥高飛以避ニー・ー之害」。
〔玄弋〕北斗の第八星の形を丢がきたる旗の名。〇〔後漢〕「建ニー・ー樹ニ招搖」。　「ー・ー」。
〔馳弋〕馬をはせていぐるみにて射る。〇〔唐〕「復出
〔綈弋〕厚き絹の黑く染めたるもの。〇〔籍田賦〕「ー・ー不ㇾ加ニ于嬪・御」。

一畫

【弌】古文の一の字。

二畫

【弍】古文の二の字。

三畫

【弎】古文の三の字。

【式】ショク、シキ。賞職切 [職]
㊀のり。
(い)法制、おきて。〇〔漢〕「樞・機周・密、品・ー・備・具」。
(ろ)節度、ほど。〇〔周〕「以ニ九・ー・ー、均ニ節財・用」。　「ー」。
(は)模範、てほん。〇〔書〕「萬・邦爲ㇾ
(に)形樣、かた。〇〔北〕「議ニ權・衡度・量ー、須ニ于天・下ー、其不ㇾ依ニ新・ーー者悉追ニ停之」。
㊁のりと爲す、のっとる。〇〔詩〕「古・訓是ー」。
㊂もちふ(用)。〇〔詩〕「維此良・人、作・爲ーㇾ穀」。
㊃車の前にある横木、車上にありて敬禮するとき憑りかゝるもの。〇〔周〕「輿・人爲ㇾ車參ニ分其隧ー、一在ㇾ前、二在ㇾ後、以揉ニ其ー」。
㊄つゝしむ。
(い)車の前の横木によりかゝりて敬禮す。〇〔書〕「ーニ商・容閭」。
(ろ)恭しくなす。〇〔管〕「中・心必ー」。
㊅語を發するときに用ふる字、それ。〇〔詩〕「ー微ー微」。
㊆栻に通じ用ふ。〇〔史〕「旋ㇾー正ㇾ基」。
㊇拭に同じ。〇〔荀〕「濡ㇾ巾三ー止」。
〔儀式〕法度。〇〔詩〕「ー・ー刑ニ文・王之典」。
〔法式〕前に同じ。〇〔史〕「皆有ニー・ー」。　「ー」。
〔楷式〕前に同じ。〇〔蔡邕〕「言行擧・動、斯爲ニー
〔典式〕前に同じ。〇〔漢〕「爲ニ世ー・ー」。
〔矜式〕つゝしみのっとる。〇〔孟〕「使ニ諸大・夫國・人皆有ㇾ所ニー・ー」。
〔舊式〕ふるきのり。〇〔文心雕龍〕「獻ニ顯ー・ー」。
〔故式〕前に同じ。〇〔潘尼〕「弛ニ禁・禁ー反ニー・ー」。
〔表式〕のり。〇〔北〕「皆人・倫ー・ー」。
〔範式〕前に同じ。〇〔文心雕龍〕「後・人之ー・ー也」。
〔酒式〕飲酒ののり。〇〔周〕「以ニー・ー誅・賞」。
〔常式〕つねののり。〇〔魏〕「永爲ニー・ー」。「ー」。
〔恆式〕前に同じ。〇〔舊唐〕仍編入令ニ以爲ニー・
〔程式〕のり。〇〔漢〕「此爲ㇾ國者之ー・ー也」。
〔式式〕恭敬の貌にいふ語。〇〔管〕「ー・ー明ニ儀・形」。
〔貞式〕善良なるのり。〇〔詩〕「此先世之ー・ー也」。
〔遺式〕のこりたるのり。〇〔舊唐〕「舞用ㇾ巾以象ニ項伯衣・袖之ー・ー也」。
〔格式〕のり。〇〔舊唐〕「刪ニ消ー・ー」。
〔師式〕のり、又、のっとる。〇〔唐〕「帝勅ニ諸・公・主ー、視爲ニー・ー」。
〔道式〕のり。〇〔水經、註〕「宣ニ揚ー・ー」。

【忒】トク。惕德切 [職]
あし、(惡)。〇〔詩〕「勿ㇾ從ㇾー」。

【式】チョク、チキ。蓄力切 [職]
吉凶を占ひたる文、うらなひぶみ。〇〔康熙〕「古者大出ㇾ師、則太・師主抱ㇾー」。

四畫

【𢎌】サウ、ソウ。茲郎切 [陽]
船を繫ぐ大弋、ふなぐひ、くひ(杙)。

六畫

【𢎍】テツ、デチ。徒結切 [屑]
さし(利)。

【𢎑】トウ、ヅ。徒弄切 [送] 徒紅切 [東]
船の左右にたて纜を繫ぐ大木。

九畫

【弑】シ。式吏切 [寘]
臣として君を殺す、子として親を殺す、下として上を殺す、ころす、しいす。〇〔公羊〕「與ーㇾ公也」。

十畫

【𢎞】カ。古俄切 [歌]
船を繫ぐ杙、ふなぐひ。

弓部

【弓】キウ、ク。居戎切 [東]

❶細長き材の兩端に弦を繫けたるもの、多くは矢を放つに用ふる武器さす、ゆみ。○〔山海經〕「少皞生レ般、是始爲レ一」。「四枚」。❷車蓋の橑、かさぼね。○〔周〕「一鑿廣四枚」。❸六尺（射侯の距離にいふ）。○〔儀〕「侯道五十一」。❹八尺（土地の丈量にいふ）。○〔度地論〕「四肘爲二一一」。「濫來奔」。❺肱に通じ用ふ。○〔公羊〕「黑一一以レ百」。

〔步弓〕土地の測量に用ふるけんざを。○〔鄭世子樂書〕「雅步卽器物名卽今所レ謂一一也」。
〔雙弓〕舜臣、かゆ。○〔㝡墀錄〕「單公潔趾レ言貧、有ニ所親訪レ之留食、蹙、衞二正言、但云吸ニ少許一一一二」。「百」。
〔盧弓〕黑く塗りたるゆみ。○〔書〕「一一一、盧矢百」。
〔彤弓〕赤く塗りたるゆみ。○〔書〕「一一一、彤矢百」。
〔敦弓〕天子の用ふるゆみ。○〔詩〕「一一既堅」。
〔弧引〕前に同じ。○〔東方朔〕「一一弛而不レ張兮」。
〔勁弓〕張りのつよきゆみ。○〔漢〕「可レ賜ニ之堅甲及一一利矢二」。
〔弱弓〕よわきゆみ。○〔左〕「顏高奪ニ一一以射」。
〔戎弓〕戰ひに用ふるゆみ。○〔穀梁〕「大弓者、武王之一一」。「一鏃矢、不レ出ニ竟場一」。
〔騁弓〕騁聞するときに用ふるゆみ。○〔穀梁〕「一一」。
〔天弓〕虹の異名。○〔白虎通〕「一一虹也、亦名ニ帝弓一、亦名ニ挈貳一」。

【马】

カン。乎感切 感 胡南切 覃

草木の華ふくむ、又、つぼみ。

【弖】

ケン。胡先切 先

草木のつぼみ多し。

一畫

【弔】

テウ。多嘯切 嘯

❶とぶらふ、とぶらひ。
（い）喪中の人を訪ふて哀意を致す。受ニ一於賓位一。
（ろ）安否をたづぬ。○〔莊〕「孔子圍ニ於陳蔡之間一七日不ニ火食一、太公任往一レ之」。
❷いたむ（傷）。○〔詩〕「中心一兮」。
❸あはれむ（愍）。○〔詩〕「不レ一ニ昊天一」。
❹鰐魚の屬。○〔廣州記〕「一生ニ嶺南一、蛇頭鼈身」。

〔會弔〕あつまりてとぶらふ。○〔後漢〕「令下將ニ大夫以下一一一上」。「風一一」。
〔敬弔〕死者をうやまひとぶらふ。○〔李德裕〕「臨レ一」。
〔猶弔〕獨りにてとぶらふ。○〔禮〕「不ニ一一一」。
〔惠弔〕他人のとぶらひくれしを謝する敬辭、又、めぐむ。○〔國〕「一ニ一亡臣一」。
〔賵弔〕死者ある家に物品を贈りてとぶらふ。○〔唐〕「帝走ニ中人一一一」。「一ニ一之一」。
〔哀弔〕かなしみとぶらふ。○〔禮〕「有ニ禍災一則令ニ一一」。
〔形影相弔〕おのがかたちとかげとが互にあはれみあふ、卽ち、孤居の貌にいふ語。○〔李密〕「煢々獨立一一一一」。

【弔】

テキ、チヤク。丁歷切 錫

いたる（至）。○〔書〕「非レ廢ニ厥謀一、一レ由レ靈」。

【引】

イン。余忍切 軫

❶ひく。
（い）張る。○〔周〕「維體防レ之、一レ之中レ參」。
（ろ）延ぶ。○〔易〕「一一而伸レ之」。
（は）導く。○〔左〕「一ニ之表儀一」。
（に）致す。○〔張衡〕「既遷既一」。
（ほ）卻く。○〔禮〕「侍坐則必退レ席、不レ退則一而去ニ君之黨一」。
（へ）薦む。○〔史〕「兩人相爲一重」。
（と）拔く。○〔淮〕「一ニ插萬物一」。
（ち）受く。○〔魏〕「或拷不ニ承一一依レ證而科」。
（り）連續す。○〔史〕「諸生轉相告一」。
❷ながし（長）。○〔書〕「一養一恬」。
❸ものさし。○〔漢〕「其法用レ竹爲レ一高一分、廣六分、長十丈」。
❹長さ。○〔元〕「縱一橫一三丈」。
❺音樂にのせてうたふ詞曲。○〔初學記〕「古琴曲有ニ九一一」。
❻手形。○〔文獻通考〕「大觀元年改ニ四川交子一爲ニ錢一一」。
❼唐以後に始まりたる文章の一體、ほさんど序さ分かちなきもの。○〔文心雕龍〕「詮文則與ニ序一一共紀」。

〔牽引〕ひく。○〔李白〕「一一條上兒」。
〔導引〕大氣を體内にみちびき入るゝことにて古の養生、又、みちびき。○〔漢〕「卽一一不レ食レ穀」。
〔汲引〕他人をひき擧ぐること、又、水などをくみあぐるにもいふ。○〔宋〕「一一之塗多闕」。
〔推引〕人をひき立つ。○〔唐〕「以レ一ニ一後進一爲ニ己任一」。「一一藥作之事」。
〔挽引〕おもき物などをひく。○〔禮、疏〕「力政一一」。
〔膚引〕はぎ取りて演ぶ。○〔春秋、序〕「而更一ニ一公羊穀梁一、適足ニ自亂一」。「一强一者上」。
〔援引〕ひく。○〔後漢〕「其有下更相一一、希レ附ニ權」。
〔攜引〕身體を按摩する法。○〔史〕「一一案抗」。
〔面引〕まのあたり演ぶ。○〔漢〕「敢一一廷爭」。
〔證引〕證據をあぐ。○〔北〕「一一該洽」。
〔接引〕寄せひく。○〔齊〕「一ニ一賓客一」。
〔招引〕まねきひく。○〔宋〕「欲レ令レ一ニ一才望一」。
〔旌引〕あらはしあぐ。○〔宋〕「宜下加ニ一一以弘ニ止退一上」。
〔誣引〕罪なき者をありとしてひき出だすこと。○〔宋〕「妄自一一」。「州郡著姓」。
〔辟引〕召し出だし薦むること。○〔梁〕「所ニ一一皆」
〔徵引〕前に同じ。○〔魏〕「自別ニ一一」。
〔銓引〕よくはかりて薦む。○〔陳〕「隨レ才一一」。
〔迎引〕呼びみちびく。○〔魏〕「以レ禮一一」。
〔勸引〕すゝめひく。○〔魏〕「無ニ以一ニ一澆浮一」。
〔薦引〕引き擧ぐ。○〔北〕「終無ニ一一」。
〔鈔引〕手形。○〔金〕「復ニ一一法一」。
〔交引〕金銀とひきかふる手形。○〔宋〕「授以ニ要券一、謂ニ之一一」。
〔派引〕わかちのぶ。○〔金〕「支分一一」。
〔鹽引〕志ほの手形。○〔元〕「調ニ度一一」。
〔茶引〕茶の手形。○〔元〕「江南一毎一、徵三貫六百文」。
〔錫引〕すゞの手形。○〔元〕「印ニ造一一」。
〔鞚引〕銜をひくこと。○〔元〕「御馬必令ニ一一」。
〔蔓引〕つらなりひく。○〔元〕「枝蔓一一」。
〔曲引〕音樂のふし。○〔馬融〕「故聆ニ一一者觀ニ法於節奏一」。
〔唱引〕前に同じ。○〔成公綏〕「一一萬變」。
〔雅引〕正しきふし。○〔柳宗元〕「一一更和」。
〔恩引〕他人よりの招きを敬していふ語。○〔庾信〕「昨蒙ニ一一」。
〔旁引〕いろ〱に演ぶ。○〔杜牧〕「一一曲譬」。
〔呵引〕先ばらひ。○〔東京夢華錄〕「一一從人皆簪レ花」。
〔勝引〕ともだち、朋友。○〔殷仲文〕「邈㷀紆ニ一一」。

【引】

イン。羊晉切 震

牛をひく緷、はづな、又、柩車を引く索、ひつぎなは。○〔禮〕「弔ニ於葬者一必執レ一」。

二畫

【弗】

フツ、ホチ。分勿切 物

❶いつはる、（矯）。❷たがふ、（違）。
❸正しからず、よこしま、（邪）。
❹打ち消しの意を表はす字、不より意强し、ず、あらず。○〔書〕「績用一レ成」。
❺可さなさゞること、然りさせざること。○〔史〕「一乎一乎」。
❻さる、（去）、はらふ、（祓）。○〔詩〕「以一レ無レ子」。
❼おこりさかる貌にいふ字。○〔詩〕「飄風一一」。

〔滭弗〕盛なる貌にいふ語。○〔司馬相如〕「一一宓泊」。

【弘】

コウ。胡肱切 蒸

❶大いなり、ひろし。○〔易〕「含一光大」。

㊁大いにす、ひろむ、又、大いになる、ひろまる。〇〔論〕「人能―ㇾ道」。
〔恢弘〕ひろし、ひろおし、ひろまる。〇〔後漢〕「―ニ―聖緒ニ」。
〔廣弘〕前に同じ。〇〔實叉七譯〕「―ニ―天上ニ」。
〔寛弘〕前に同じ。〇〔隋〕「潛字―・―」。
〔宣弘〕布きひろぐ。〇〔易、註〕「―ニ―大化ニ」。
〔敦弘〕前に同じ。〇〔晉〕「―ニ―五教ニ」。
〔闡弘〕ひらきひろぐ。〇〔陸倕〕「―ニ―齊・鼎ニ」。
〔渾弘〕ゆたかにす。〇〔李尤〕「―ニ―誕師ニ」。
〔淹弘〕おほいなること。〇〔化吃〕「器體―・―」。

三畫

【弙】ヲ、ウ。哀都切　コ、ク。空胡切　虞
㊀はる、（張）。㊁さしまねく、（麾）　㊂もつ、（持）。

【弓干】カン。侯肝切　翰
弓にて拒ぐ、ふせぐ。

【弓丸】彈に同じ。

【弧】彈の本字。

【弓勺】テキ、チヤク。都狄切　錫
㊀いる、（射）。㊁まと、（的）。

【弚】タイ、デ。徒回切　灰
困しみ窮まる貌にいふ字、一説に、逐れ伏す貌にいふ字。〇〔莊〕「因以爲ニ―靡ニ、因以爲ニ波流ニ」。

【弛】シ。施是切　紙
㊀ゆるぶ。
（い）釋く、はづす、はづる。（特に、弓の弦にいふ字）。〇〔儀〕「不ㇾ勝者執ニ―弓」。
（ろ）舍く、息む。〇〔周〕「四曰、―ㇾ力」。〇〔唐〕「使ニ我力解勢―ニ」。
（は）緩くす、おさろへ易はる。
㊁やぶる、（壞）。〇〔史〕「延道―兮離ニ常流ニ」。
㊂法度に志たがはざること、ほしいまゝ。〇〔漢〕「泛駕之馬跅―之士」。
〔彫弛〕ゆるぶ。〇〔唐〕「紀綱―・―」。
〔彊弛〕前に同じ。〇〔唐〕「權綱―・―」。
〔偷弛〕前に同じ。〇〔唐〕「晉有ㇾ所ニ―・―ニ」。
〔縱弛〕はしいまゝ。〇〔傅毅〕「―・―淫・殘」。
〔澆弛〕衰ふ。〇〔王融〕「氓俗―・―」。
〔逋弛〕のがれはづす。〇〔梁武帝〕「勳成ニ―・―ニ」。
〔傾弛〕身を横たへ氣をゆるぶ。〇〔任昉〕「近侍莫ㇾ見ニ其―・―ニ」。
〔懈弛〕おこたりてゆるぶ。〇〔于邵〕「未ニ嘗有ニ―・―ニ」。
〔廢弛〕すたれゆるぶ。〇〔吳融〕「羣功皆―・―」。

【弛】チ。丑豸切　紙
おつ、おとす、（落）。〇〔淮〕「有ㇾ時而―」。〇

【弛】施に通じ用ふ、ほどこす。〇〔禮〕「―ニ其文・德ニ」。

【弜】キヤウ、ガウ。其兩切　養　渠良切　陽　キ。邪移切　支
弓の力彊き貌にいふ字、つよし。〇〔華陽國志〕「秦襄王時、白虎爲ㇾ害、於ㇾ是夷作ニ白竹弩ニ、射ニ殺白虎ニ、世號ニ白虎復夷ニ、一曰ニ板楯蠻ニ、今所ㇾ謂―頭虎子者也」。

【弓巾】キン、ギン。居銀切　眞
ゆみのはず、ゆはず、（弭）。

四畫

【弝】ハ、ヘ。必駕切　禡
弓を手に執る處、にぎり、ゆづか。〇〔王維〕「玉―角弓珠勒馬」。
〔劍弝〕つるぎのつか。〇〔李賀〕「―・―懸ニ蘭纓ニ」。

【弓夬】ケツ、ケチ。古穴切　屑
弓を張るときに手に繫けて弦を持つ具、ゆがけ。

【弞】イン。余忍切　シン。式忍切　軫
相好をくづさずして笑ふ、ゑむ、わらふ。〇〔宋〕「孫・叔未ㇾ進、優孟見―」。

【弟】テイ、ダイ。徒禮切　薺　テイ、ダイ。特計切　霽
㊀おとうと。
（い）はらからの中にて後に生まれたる男子。〇〔左〕「寡人有ㇾ―不ㇾ能ニ和協ニ」。
（ろ）劣位にあるもの。〇〔世說〕「季方難ㇾ爲ㇾ兄、元方難ㇾ爲ㇾ―」。
㊁次序、ついで。〇〔釋名〕「―第也、相次第而上也」。
㊂悌に同じ、兄長に順なること。〇〔禮〕「僚・友稱ニ其―ニ也」。
㊃やすし、（易）。〇〔詩〕「君子豈―」。
〔兄弟〕あにとおとうとと、同胞、はらから。〇〔書〕「惟孝友ニ于―・―ニ」。
〔昆弟〕前に同じ。〇〔漢〕「賈皆有ニ布・衣―・―之心ニ」。
〔子弟〕むすことおとうと、又、父兄に對して年若き者の義にいふ語。〇〔周〕「凡國之貴遊―・―學焉」。
〔外弟〕親の他家に嫁して生みたる己より年若き男子をいふ。〇〔左〕「聲伯以ニ其―・―ニ爲ニ大・夫ニ」。
〔寵弟〕いつくしみ愛するおとうと。〇〔左〕「況君之―・―乎」。
〔愛弟〕前に同じ。〇〔元稹〕「聞君別ニ―・―ニ」。
〔母弟〕同腹のおとうと。〇〔左〕「公―・―也」。
〔婚弟〕妻のおとうと。〇〔爾〕「婦之黨爲ニ―・兄・―ニ」。
〔姻弟〕むこのおとうと。〇〔爾〕「婿之黨爲ニ―・兄・―ニ」。
〔羣弟〕おほくのおとうと。〇〔史〕「管叔・蔡叔―・―」。
〔賢弟〕かしこきおとうと、又、他人の弟を敬ひ稱ふる語。〇〔史〕「終滅ニ―・―之名ニ」。
〔弱弟〕年わかきおとうと。〇〔蔡邕〕「下惡ニ―・―ニ」。
〔小弟〕前に同じ。〇〔楊維楨〕「―・―驕ニ父・兄ニ」。
〔帝弟〕天子のおとうと。〇〔庾信〕「承ㇾ家―・―」。
〔友弟〕兄弟のなかよきこと。〇〔北〕「以ニ―・―知ㇾ名」。
〔癡弟〕おろかなるおとうと。〇〔後山詩話〕「舉直有ニ―・―ニ」「―・―」。
〔令弟〕他人のおとうとの敬稱。〇〔應亨〕「濟・々四・
〔淑弟〕善徳なるおとうと。〇〔魏文帝〕「於性―・―」。
〔舍弟〕おとうと。〇〔杜甫〕「遙憐―・―存」。
〔俊弟〕すぐれたるおとうと。〇〔陸機〕「伊我―・―」。
〔遜弟〕さからはざること。〇〔權德輿〕「行惟―・―」。
〔家弟〕大弟のこと。〇〔庾信〕「天・子―・―」。
〔四海兄弟〕世人は互にしたしみむつまじくすれば同胞の情にかはらぬこと。〇〔論〕「―・―之內皆―・―也」。
〔香火兄弟〕うたひめ、あそびめなどの互に約束してはらからの義を結びたる者。〇〔教坊記〕「坊中諸女以ニ氣・類相似ニ、約爲ニ―・―・―・―ニ」。

【弓予】ヨ。以諸切　魚
ゆみ、（弓）。

五畫

【弓古】コ、ク。空胡切　虞
こゆみ、（小弓）。

【弓它】弛に同じ。

【弢】タウ、トウ。土刀切　豪
㊀弓をいれ置く衣、ゆみぶくろ。〇〔左〕「中ㇾ項伏ㇾ―」。
㊁旌をいれをさむる囊、はたぶくろ。〇〔左〕「內ニ旌於―中ニ」。

【弣】フ、ブ。芳武切　麌
弓の手もてにぎる處、ゆづか、にぎり。

○〔禮〕「左-手承レ―」。

【弤】テイ、タイ。都禮切 〔齊〕
漆を施し、又は、ほりものなどしてあるゆみ。○〔孟〕「琴朕―朕」。

【弴】トン、ドン。都昆切 〔元〕
弴に同じ。

【⿰弓民】ビン　ミン。彌鄰切 〔眞〕
はた、(旗)、又、はたのはりゆみ、(旗-弧)。

【弦】ゲン。戸田切 〔先〕
㊀弓に繋け張る綫、ゆみづる。○〔儀〕「左執レ弣右執レ―而授レ弓」。
㊁陰暦にて七八日の頃さ二十二三日の頃さの半圓形の月影、ゆみはりづき。○〔漢〕「晦-朔―-望」。
㊂脈うつ數の多きこと。○〔史〕「脈長而―」。
㊃絃に同じ。○〔禮〕「舜作二五―之琴一」。
㊄勾股に對する長き邊。○〔晉〕「以二勾-股一求レ―法一入レ之」。
〔上弦〕陰暦の七八日頃のゆみはりづき。○〔蘇軾〕「星-角月―-―」。
〔初弦〕前に同じ。〔庾肩吾〕「―-―値二早-秋一」。
〔下弦〕陰暦の二十二三日の頃のゆみはりづき。○〔王阮〕「今望六―-―」。
〔弓弦〕ゆみづる。○〔越絶書〕「種レ麻以爲二―-―一」。
〔放弦〕ゆみづるをひきはなつ。〔儀、誌〕「所三以韜レ指利二―-―一」。
〔鳴弦〕ゆみづるをひきならす。○〔魏〕「鳴レ柝―-―レし、弗レ離二旬-朔一」。
〔控弦〕矢を番へずして、唯、ゆみづるの音のみをなすこと。○〔陸游〕「自笑爲二農-行一沒レ世、尚知驚二鴈落一―-―一」。
〔佩弦〕性質の慢なるより自ら戒むるにいふ語。○〔韓〕「董-安-于心緩故―レ―自急」。

【⿰弓㠯】シン。之引切 〔軫〕
弓強し、つよし。

【⿰弓皮】ヒ、ビ。平義切 〔寘〕
弩を張る、はる、又、絲又は皮にて弓を飾る、かざる、一説に、まがりたる弓。

【弧】コ、ク。戸吳切 〔虞〕
㊀木の弓、ゆみ、きゆみ。○〔易〕「弦レ木爲レ―」。
㊁旗を張るに用ふる弓、はり。○〔禮〕「乘二大-輅一載二―韣-旂一」。
㊂星の名。○〔史〕「―狼-下四-星曰レ―」。
㊃うま、(馬)。○〔後漢〕「辰-韓-國名レ馬爲レ―」。
〔蝥弧〕旗の名。○〔左〕「潁-考-叔取二鄭-伯之旗―-―一以先-登」。
〔木弧〕きのゆみ。○〔易〕「弦レ―爲レ―」。
〔桑弧〕くはの木もてつくらへたるゆみ。○〔禮〕「射-人以二―-―蓬-矢六一、射二天-地四-方一」。
〔桃弧〕もゝの木もて作りたるゆみ、災を除ふに用ふるもの。○〔左〕「唯-是―-―棘-矢、以共二禦王-事一」。
〔短弧〕蟲の名、いさごむし。○〔漢〕「蜮在二水-傍一、能射レ人、南-方謂二之―-―一」。

【弙】ヲ、ウ。汪胡切 〔虞〕
まがる、(曲)。○〔周〕「凡揉レ輈欲三其遜而無二―-深一」。

【弨】セウ。尺招切 〔蕭〕 齒紹切 〔篠〕
弓の反り弛ぶ貌にいふ字、そる、ゆるぶ。○〔詩〕「彤-弓―」。

【弩】ド、ヌ。奴古切 〔麌〕
㊀機を設けたる弓、手にてひき張るものさ、脚にて蹶みて張るものさあり、又、石を遠きにやるにも用ふ、おほゆみ、いしゆみ。○〔史〕「萬―夾レ路而發」。
㊁いかる、(怒)。○〔揚雄〕「謂二之―一猶レ怒也」。
〔彊弩〕はりのつよきいしゆみ。○〔史〕「長-戟不レ刺、―-―不レ射」。
〔勁弩〕前に同じ。○〔史〕「良-將―-―、守二要-害之處一」。
〔水弩〕(動)蟲の名。○〔張祜〕「溪-行逢二―-―一」。
〔環弩〕貫連なる石もて飾れるゆみ、又、之を携ふるもの。○〔後漢〕「大-使車有二―-―十二-人一」。
〔神弩〕はやきゆみ。○〔晉〕「但以二―-―二十張一」。
〔援弩〕いしゆみをひく。○〔晉〕「―レ―自射也」。
〔巨弩〕おほきなるいしゆみ。○〔五〕「陳-州舊有二―-―數-百一」。
〔班弩〕くるまのとこに載せたるいしゆみ。○〔東京賦〕「―-―重-旃、朱-旄青-屋」。

六畫

【弫】シン。止忍切 〔軫〕
弓強し、つよし。

【弭】ビ、ミ。母婢切 〔紙〕
㊀兩頭を角骨にて飾りたる弓、つのゆみ。○〔爾雅註〕「無レ緣者謂二之―一、今之角-弓也」。
㊁弓末、ゆはず。○〔詩〕「象-―魚-服」。
㊂やむ、(息)。○〔左〕「自レ今以-往兵其少―矣」。
㊃とゞむ、(按)。○〔屈平〕「吾令二羲-和―レ節兮」。
㊄わする、(忘)。○〔詩〕「心之憂矣、不レ可二―-忘一」。
㊅やすんずやすし、(安)。○〔史〕「治二國-家一而―二人-民一者」。
㊆たる、(低)。○〔司馬相如〕「―レ節裴-回」。
〔消弭〕とゞむ。○〔後漢〕「―二―時-災一」。
〔淸弭〕やすらかなること。○〔張說〕「俄-爾―-―」。

【弮】ケン、クワン　丘圓切 〔先〕
いしゆみ、おほゆみ、(弩)。○〔漢〕「張二空-―一冒二白-刃一」。

【弮】ケン、クワン。古倦切 〔霰〕
㊀前條に同じ。
㊁卷に通じ用ふ、まき。
㊂桊に通じ用ふ、たすき、(攘-臂-繩)。
㊃弮に通じ用ふ、にぎりめし、(摶-飯)。

【⿰弓同】トウ、ヅ。徒紅切 〔東〕
象牙のゆはず、又弓の飾。

【⿰弓合】ケフ。迄葉切 〔葉〕
㊀弓強し、つよし。
㊁ゆがけ、(射-決)。

【⿰弓羊】ヤウ。余章切 〔陽〕
弓の曲がり。

七畫

【⿰弓夋】シュン。ジュン。私閏切 〔震〕
ゆはず。

【弰】サウ、セウ。所交切 〔肴〕
㊀弓に箭をあつ、つがふ。
㊁弓の末、ゆはず。

【弱】ジヤク、ニヤク。而勺切 〔藥〕
㊀よわし。
(い)强からず、堅からず、勢力少し。○〔書〕「六-極、六曰―」。
(ろ)さからひ戻ることなし。○〔老〕「―者道之用」。
(は)かごぐしきことなし、しなやか。○〔西京雜記〕「體輕腰―善二行-歩進-退一」。

㊁年齢未だ壯ならず、わかし、いさけなし。○〔左〕「有レ寵而—」。
㊂二十の年齢はたち、又、はたち前後。○〔禮〕「二十曰レ—冠」。
㊃年少き者、又、はたち前後の者。○〔孟〕「老—轉二乎溝壑一」。
㊄衰ふ、よわる。○〔左〕「姜族—矣、而嬀將二始昌一」。
㊅よわくす、よわむ。○〔戰〕「坐而割レ地自—以强レ秦」。
㊆やぶる、(敗)。○〔左〕「頡遇二王子一—焉」。「焉」。
㊇うしなふ、(喪)。○〔左〕「又—二一介一」。
〔繁弱〕大弓の名、—に番弱に作る。○〔左〕「封父之——」。
〔纖弱〕たなやか、ほツそりとしてみめよきこと。○〔司馬相如〕「嫵媚——」。「矣」。
〔柔弱〕よわし。○〔書、疏〕「地之德沈・深而——」。
〔荏弱〕前に同じ。○〔禮、疏〕「而心內——、爲レ佞」。
〔懦弱〕前に同じ。○〔左〕「水——、民狎而翫レ之」。
〔軟弱〕前に同じ。○〔史〕「妻・子——」。
〔羸弱〕前に同じ。○〔史〕「最比二北——者一」。
〔恇弱〕前に同じ。○〔漢〕「——不レ任レ職」。「後」。
〔細弱〕前に同じ。○〔呉〕「使二——在レ前、强・壯在。
〔脆弱〕前に同じ。○〔唐〕「入益——」。
〔尫弱〕前に同じ。○〔唐〕「而素——不レ能レ騎」。
〔綿弱〕前に同じ。○〔唐〕「惟南兵——」。
〔孱弱〕いやしくしてよわし。○〔唐〕「比年文章——」。「存二」。
〔衰弱〕よわる。○〔晉〕「呼・韓・邪遂——不レ能二自
〔寡弱〕すくなくしてよわし。○〔潘岳〕「率二——之衆一」。
〔幼弱〕いとけなし。○〔魏〕「桑至、年既——」。
〔穉弱〕前に同じ。○〔晉〕「遺・孤——」。
〔孤弱〕たすけなくよわし、又、おやなきこども。○〔呉〕「矜二哀——一」。
〔薄弱〕よわし。○〔王充〕「稟レ之——也」。
〔仁弱〕なさけぶかくして剛强ならざ。○〔史〕「孝惠爲レ人——」。
〔罷弱〕つかれよわる。○〔戰〕「而遞相——」。
〔貧弱〕まづしくよわし。○〔唐〕「時衞・兵——」。
〔危弱〕あやふくよわし。○〔史〕「——無レ輔」。

〔銷弱〕勢へり衰ふ。○〔韓愈〕「形・勢——」。
〔虛弱〕內むなしくしてよわし。○〔言〕「是時京師——」。
〔和弱〕やはらぎてよわし。○〔晉〕「渾貌雖二——、而內堅・明有二膽・決一」。
〔凡弱〕劣りてよわし。○〔南〕「以二義宣——易一可二傾・移一」。
〔庸弱〕前に同じ。○〔唐〕「歷代——」。
〔駑弱〕前に同じ。○〔唐〕「刺・史雖二——一」。
〔文弱〕おとなしくよわし。○〔世說〕「士・龍爲レ人、——可レ愛」。

【弲】ケン。許緣切 先
㊀つのゆみ、(角弓)。㊁ゆみづる、(弦)。

【弲】エン。烏懸切 先
弓の勢。

【弞】シン。矢忍切 軫
ながし、(長)。

【⿰弓角】ケン、グヮン。許元切 元
弓の曲がれる貌にいふ字。

【⿱夸弓】ヘン、ベン。扶弦切 元
うかぶ、(浮)。

八畫

【⿰弓𣶒】エン。烏宣切 先
弓のうねり曲がりたる處。

【⿰弓妾】ケン、ゲン。戸田切 先
ゆみ、(弓)。

【⿰弓虎】コ、グ。戸呉切 虞
ゆみ、(弓)。

【⿰弓爭】サウ、シヤウ。側迸切 敬
弓を開く、ひく。

【⿰弓委】ツヰ、ニ。女恚切　ズヰ。而睡切　ヰ。于僞切 寘
弓を張る、はる、弓曲がる、まがる、一說に、弩をはる。

【⿰弓并】ハウ、ヒヨウ。披耕切 庚
紘を張る、はる。

【弴】トン、ドン。都昆切 元　テウ、デウ。都聊切 蕭
ゑのかざりあるゆみ、(畫弓)。

【張】チヤウ。陟良切 陽
㊀はる。
(い)弦を施す。○〔儀〕「勝者執二——弓一」。
(ろ)弦を引く。○〔易〕「先—二之弧一」。
(は)延ぶ、延ばす、ひろぐ、ひろがる、開く。○〔老〕「將欲レ翕レ之必故—レ之」。
(に)ふとらす、ふとる。○〔詩〕「孔脩且—」。
(ほ)つよむ、さかんにす、つよし、さかんなり。○〔左〕「臣欲レ—二公・室一」。
(へ)施す。○〔史〕「—二羽・旗一設二供・具一以祀二神・君一」。
(と)設く。○〔戰〕「—レ樂設レ飮」。
(ち)わな、あみなどにて鳥獸を取る。○〔後漢〕「輒有二雙・鳧一飛來、擧レ羅—レ之、但得二一隻・舃一焉」。
㊁ゆみ、さばり、まくなど、すべてはり用ふるものゝ數にいふ字、はり。○〔左〕「子・產以二幄・幕九・—一行」。
㊂星宿の名。○〔史〕「西至二于—一」。
〔譸張〕たぶらかす、誑。○〔書〕「民無二或胥——爲一レ幻」。
〔弧張〕わな、あみ、鳥獸を取るにはるもの。○〔周〕「掌レ設二——一」。
〔乖張〕戾る。○〔司馬貞〕「遠・近——」。
〔雄張〕さかりおこる、威力を振ふ。○〔魏〕「六・姓——、遂以成レ俗」。
〔開張〕ひらく。○〔唐〕「——二形・勢一」。
〔蹶張〕脚にて弩を踏みてはること。○〔漢〕「以二材官——一、從二高・帝一擊二項・籍一」。
〔擘張〕手にて弩を張ること。○〔漢、註〕「以レ手張者曰二——一」。
〔主張〕おもにはる。○〔元稹〕「不レ有二——一」。
〔鋪張〕のべはる。○〔文心雕龍〕「須須二——揚厲一」。
〔舒張〕のばしひらく、のびはる。○〔詩、箋〕「謂二——北羽・翼一」。
〔肥張〕こえふとる。○〔詩、傳〕「腹・幹——也」。
〔周張〕めぐらしはる。○〔漢〕「械・繪——」。
〔增張〕ます。○〔後漢〕「或附・益——」。
〔奓張〕みの如くにひろがる。○〔北〕「——而進」。

【張】チヤウ。知亮切 漾
㊀はる。
(い)施す、設く。○〔漢〕「供—如レ法而辨」。
(ろ)自ら侈る、ほこる。○〔左〕「隨—必棄二小・國一」。
(は)脹に通じ用ふ、ふくろ、はらはる。○〔左〕「晉・侯將レ食、—如レ廁」。
㊁帳に通じ用ふ、さばり。○〔史〕「復留・止—・飮三・日」。

【弶】キヤウ、ガウ。其亮切 漾
罟を道に設く、はる、はりて鳥獸を捕らふ、鳥獸をわなにかく。

【⿰弓屈】キヨク、ゴク。渠玉切 沃
勇む貌にいふ字、いさまし。

【強】キヤウ、ガウ。巨良切 陽
㊀つよし。
(い)弓の力多し、弦はり易からず。○〔後漢〕「引レ—持レ滿」。
(ろ)撓まず、屈せず、息まず、ひるまず、

恐れず、勇まし、破れ易からず、剛し、堅し。○〔史〕「雖レ柔必ー」。
(は)筋肉の力多し。○〔詩〕「侯ー侯以」。
(に)勢盛んなり、力勝れり。○〔孟〕「天下固恐ニ齊之ー一」。
(ほ)亂暴なり、剛愎なり。○〔荀〕「ー足ニ以反レ是獨立一」。
㊁つよきもの。○〔史〕「課ニ鉏豪ー一」。
㊂四十の年齡、およそ、又、其の前後の稱、卽ち、精神體力共につよき時の義。○〔禮〕「四十日レー而仕」。
㊃つよくす、つよむ、又、つよくなる、つよる。○〔戰〕「欲レーレ兵者務富ニ其民一」。
㊄數の尙ほ殘餘あるを表はすに用ふる字。○〔木蘭詩〕「賞賜百千ー」。
㊅蜒の類。○〔爾〕「ー醜將」。
(盛强) さかんにしてつよし。○〔唐〕「回鶻ーーし、北邊空虛」。
(堅强) かたくしてつよし。○〔史〕「百體ーーし、手足便利」。
(木强) 質朴にして飾りのなきこと。○〔老〕「ーー則共」。
(禺强) 神の名。○〔列〕「乃命ニーー一」。
(伯强) 疫鬼。○柳宗元「ーー乃陽」。
(姦强) かたましくしてつよし。○〔蘇軾〕「聊借ニ舊史一誅ニーー一」「多ニ豪桀一」。
(剛强) 柔弱の對、こはくつよし。○〔漢〕「故俗ーーー」。
(肥强) こえてつよし。○〔詩、傳〕「駜馬ーー」。
(挫强) つよきものをくじく。○〔戰〕「伐不レ爲レ人ーレ」。
(仁强) めぐみありてつよし。○〔史〕「大王自料、勇悍ーーし、孰ニ與項王一」。
(貪强) 利慾の念深くしてつよし。○〔史〕「諸侯約レ從以抑ニーー一」。
(鷙强) わるづよし。○〔後漢〕「吳公ーー」。
(精强) よくして、且、つよし。○〔後漢〕「兵馬ーーし、倉庫有レ蓄」「也」。
(暴强) あらくし。○〔晉〕「主ニ法律一禁ニーー一」。
(柔强) やはらかくしてつよし。○〔唐〕「筋力ーー」「會長一」。
(驍强) たけくつよし。○〔唐〕「其人ーー、初無ニ

(雄强) つよし。○〔唐〕「惟回鶻與ニ薛延陀一、爲ニ最ーー一」。「任一」。
(至强) こよなくつよし。○〔荀〕「是ーー莫ニ之能」
(健强) すこやかなり、つよし。○〔蘇軾〕「二老風流總ーー」。
(康强) すこやかなり。○〔書〕「其身ーー」。

【強】キヤウ、ガウ。其兩切 養
㊀力を盡くして行ふ、つとむ(勉)。○〔中〕「或勉ーー而行レ之」。
㊁つとめ行はしむ、すゝむ(勸)。○〔周〕「止ニ其行一而ーニ之道藝一」。
㊂無理になす、矯めおさふ、こじ附く、しふ。○〔荀〕「率ニ群臣百吏一而相與ーレ君撟レ君」。
㊃繦に通じ用ふ、兒を負ふ衣、むつぎ。○〔史〕「成王少在ニーー葆之中一」。
(牽强) ひきつけおふ、こじつく。○〔蘇軾〕「烹煎崖蜜眞ーー」。

【強】キヤウ、ガウ。其亮切 漾
やはらぎ順はず、自ら是とす、もとる。○〔漢〕「乃欲下以ニ新造未レ集之越一屈中ーー於此上」。
(木强) やはらぎ順はざる貌にいふ語。○〔漢〕「周昌ーー人也」。

【弸】ハウ、ヒヤウ。父耕切 庚
ヒヨウ。悲陵切 蒸
㊀弓の強き貌にいふ字、轉じて、つよし。○〔庾信〕「弓如ニ明月一對ー」。
㊁みつ(滿)。○〔揚雄〕「ーレ中而彪レ外」。
㊂ー環は、さばりの起る貌にも、又、風のさばりを吹く聲にもいふ語、一說に、弓弦の聲、つるおと。○〔揚雄〕「惟ー環其拂泊兮」。
(絙弸) きはめて強き貌にいふ語。○〔揚雄〕「ーー破レ車終不レ偃」。

九畫

【强】強に同じ。

【弻】弼に同じ。

【弼】ヒツ、ビチ。房密切 質
㊀弓をなほすに用ふる器、ゆみだめ。○〔荀、註〕「ー所ニ以輔ニ正弓弩一者也」。
㊁輔佐す、たすく。○〔書〕「明ニ于五刑一以ーニ五教一」。「ー」。
㊂輔佐の人、たすけ。○〔國〕「憎レ輔遠レ」
㊃もとる(戾)。○〔漢〕「君臣故ー」。
㊄かさぬ、かさなる(重)。○〔爾、註〕「輔ー所ニ以爲ニ重疊一也」。
㊅たかし。○〔揚雄〕「ー高也」。
(良弼) よきたすけ。○〔書〕「夢帝賚ニ予ーー一」。
(篤弼) てあつくたすく。○〔書〕「惟命曰、汝受レ命ーー」。「休爲ニーー一」。
(右弼) たすく、又、たすけ。○〔吳〕「以レ恪爲ニ左輔一、ーー」。
(承弼) 前條に同じ。○〔徐陵〕「肅々卿士、翼々ーー」。「ー」。
(輔弼) 前に同じ。○〔後漢〕「柱石之臣、宜レ居ニーー一」。
(台弼) 宰相。○〔宋〕「延ニ事兩朝一、專升ニーー一」。
(家弼) 主なるたすけ。○〔蘇轍〕「孟侯之禮、雖レ歸ニーー一」「ー得失」。
(匡弼) たゞしたすく。○〔後漢〕「數犯ニ嚴顏一、ーニ」。
(保弼) 保護したすく、又、其の人。○〔南〕「出レ藩入レ輔、弘ニ茲ーー一」。
(規弼) たゞしたすく。○〔北〕「詔曰、念ニ其ーー一」。
(元弼) 大いなるたすけ。○〔唐〕「長孫無忌以ニーー、每レ宴不ニ肯先罷レ街」。
(上弼) 星の名。○〔宋〕「四星曰ニーー一」。
(四弼) 星の名。○〔宋〕「四輔四星又名ニーー一」。
(後弼) すぐれたるたすけ。○〔陸雲〕「朝有ニーー、野有ニ逸民一」。

【弓是】チ。渉吏切 寘
はじきゆみ、又、はじく(彈)。

【弓扁】ヘン。紕延切 先
弓反り張る、そる。

【弓彖】エン。以絹切 霰
弓の緣、いとまき。

【弳】ケン。規掾切 セン。諸延切 先
弓の骿、つのはず。

【弽】セフ。書陟切 ケフ。呼牒切 葉
ゆがけ(射決)。

十畫

【弓旁】ハウ、バウ。蒲光切 陽
弦急なり、つるきびし。

【弮】ケン、コン。紀偃切 阮
弓强し、つよし。

【寒弓】ケン。九件切 銑
なじる(難)。○〔揚雄〕「ー、相難也」。

【弓眞】チン。陟刃切 震
はじく(彈)。

【弓𤰇】ヒ、ビ。平秘切 寘
筋もて弓に貼す、又、絲もて弓を飾る。

【弓鬲】ガク、ギヤク。五革切 陌
弓弩を束ねおさむる衣、ゆみぶくろ、ゆみづゝみ。

【彀】コウ、ク。古候切 宥
㊀弓を引きしぼる、はる。○〔史〕「ーニ弓弩一持レ滿」。
㊁箭をつがひ弓をはり物に射中つべ

き程[に]、ねらひ、やごろ。○[孟]「羿之教二人射一必志二於一一」。

(彀發) からくりを施し弓を張ると、轉じて、人の智慮をめぐらして機に投ぜんとたくむことにいふ語。○[詩]「抱素一遍曲」…「一一綠」。

十一畫

【彃】 ヒツ、ヒチ。壁吉切 質

いる(射)、一說に、ゆみづる(弦)。○[楚辭]「羿焉一レ日」。

【弸】 ホウ。北滕切 蒸

ゆみ(弓)。

【彄】 コウ、ク。恪侯切 尤

㊀弓弩の端、ゆはず。○[蔡邕]「馬不レ帶レ甲、弓不レ援レ一」。㊁環の屬、わ、たまき。○[西京雜記]「戚夫人以二百鍊金一爲二一環一照二見指骨一」。

(引弦彄) ゆがけ。○[周]「抉謂二一一一也」。

十二畫

【彆】 ヘツ、ヘチ。方結切 屑

【𢐗】 ヘイ、ハイ。必袂切 霽

弓そりかへる、そる、もどる。○[詩、箋]「弼弓反末、一者以二豕骨一爲レ之」。

【彇】 キヨ、ゴ。巨魚切 魚

ゆはず、(弓-弰)。

【彇】 セウ。蘇刁切 蕭

ゆはず、(弓-弭)。

【彉】 サウ、シヤウ。鋤耕切 庚

弓弦の聲、つるおと。

【彉】 サン、ソン。徂感切 感　祖含切 覃

㊀弓強し。㊁ゆみづる、(弓-弦)。㊂弦を張る、はる。

【彇】 ケウ。去堯切 蕭

弓を引く、ひく。

【彈】 タン、ダン。杜晏切 翰

㊀丸をはじき行る器、はじきゆみ。○[李尤]「昔之造レ一、起二意弦木一」。㊁はじき弓にて行る丸、はじきだま。○[花果錄]「其實小如レ一」。

(鬼彈) 惡氣中のもの。○[水經、註]「其作有レ聲、中レ木則折、中レ人則害、名曰二一一一」。

(川彈) 龍眼肉の異名。○[本草]「龍眼一名二一一」。

(珠彈) たまにてかざりたるはじき弓。○[徐陵]「一・一落二雙鴻一」。

(飛彈) とびゆくはじきの丸。○[戴復古]「光陰等二一・一一」。

【彈】 タン、ダン。徒干切 寒

㊀はじく。(い)はじき弓にてはじき丸を放つ。○[左]「晉靈公從二臺上一一レ人」。(ろ)屈めてはね返へす。○[五燈會元]「郎一レ指應レ之」。(は)指をそらして打つ、つまはじきす。○[屈平]「新沐者必一レ冠」。㊁絃をかき鳴らす、ひく。○[史]「舜一二五絃之琴一」。㊂擊つ。○[史]「一二其劍一而歌」。㊃たゞす、(劾)。○[後漢]「不二敢一一糾一」。㊄ふるふ、(掉)。○[周]「欲レ無レ一」。

(譏彈) そしりたゞすこと。○[曹植]「僕嘗好三人一二其文一」。

(指彈) たゞす。○[宋]「使二門下一二一一之一」。

(糾彈) 前に同じ。○[唐]「第八許二方幅一一一」。

(奏彈) 上奏して罪過をたゞすこと。○[梁]「憲臺一一、皆之遂草焉」。

(和彈) 調子をあはせてひくこと。○[陸機]「紋弦高張思二一一一」。

(駛彈) はやくひく。○[唐太宗]「一一風響急」。

(快彈) おもしろげにひく。○[白居易]「遂命レ酒使二一二一數曲一」。

【彍】 クワク。虛郭切 藥

弩を引き滿つ、はる。○[孫子]「勢如二一弩一」。

十三畫

【彏】 ヘイ、ベ。蒲計切 霽

わな、(弶)。

【彊】 キヤウ、ガウ。巨良切 陽

㊀陽の韻の強に同じ。㊁疆に通じ用ふ。○[賈誼]「昔衛侯朝二於天子一、周行人問二其名一曰二辟一一、行人還レ之曰二啓一一」。㊂相隨ひ飛ぶ貌にいふ字。○[詩]「鶉之一一」。㊃たふる、(殭)。○[廣韻]「一一屍勁硬」。

(盛彊) 勢さかりにつよし。○[唐]「回鶻一一一、北邊空虛」。

(明彊) あきらにして、且、健かなり。[唐]「幹局一一」。

(公彊) 私ならずしてつよし。[南]「性一一、居二憲臺一甚稱レ職」。

(武彊) 猛くしてつよし。○[唐]「郡縣一一一」。

(雄彊) 前に同じ。○[唐]「薛延陀爲二最一一一」。

(撲彊) 飾らずしてつよし。[唐]「天性一一、業已効レ忠」。

【彊】 養の韻の強に同じ。

(自彊) 己れとはげみつとむ。○[史]「上雖レ苦、爲二妻子一一一」。

(力彊) ちからをもてしひつく、又、つとむ、すゝむ。○[魏]「不レ可二一一而致一」。

【彊】 漾の韻の強に同じ。

(屈彊) 柔和ならず。○[後漢]「下二江踏將、雖二一一少一謙、然素敬レ憲」。

【彏】 檠に同じ。

【彋】 カウ、戶盲切 庚　キヤウ。コ。洪孤切 虞

弸の字の㊂を見よ。

【彊】 キヤウ、ガウ。巨良切 陽

すぢさき、つるさき、(筋-頭)。

十四畫

【彌】 ビ、ミ。武移切 支

㊀あまねし、(遍)。○[周]「一祀二社稷一」。㊁をふ、をはる、(終)。○[詩]「誕一二厥月一」。㊂みつ、(滿)。○[漢]「馬畜一レ山」。㊃おほふ、(覆)。○[張衡]「跨レ谷一レ阜」。㊄わたる、(竟)。○[史]「曠レ日一レ久」。㊅のぶ、(延)。○[孫綽]「結レ根一二于華岱一」。㊆盡くす、極む。○[張衡]「橦末之技態不レ可レ一」。㊇補ひ合はす、つゞろ、つくろふ。○[左]「一二縫其闕一」。㊈さほし、(遠)。○[左]「以下肥之得上レ備二一甥一」。㊉ながし、(長)、ひさし、(久)。○[陶潛]「我來淹已一」。⑪其のうへに、なほさらに、ますます、いや、いよいよ。○[論]「仰レ之一高、鑽レ之一堅」。⑫少しづゝ、やゝ。○[漢]「一一一其失」。⑬白虹天にわたること、祲兆。○[周]「眡祲掌二十煇之法一、七曰一」。

〔須彌〕梵語にてすゆみス、すゆみる、そめいろともいふ、妙高と譯す、佛說に、山の極めて高きものにて大海の中にあり、日月も横に回り諸天之に依るといふ。○〔維摩經〕「以二ーー之高廣一、內二芥-子中一而不二迫-窄一」。
〔沙彌〕佛門に入り落髮せる者の稱。○〔善覺要覽〕「僧落-髮後稱二ーー一」。

【彌】ベイ、メイ。綿批切 齊
嫛ーーは、嬰兒、みどりご。

【彌】ビ、ミ。母婢切 紙
とどむ、やむ、（止）。○〔周〕「ー二災-兵一」。

十五畫

【彍】彉に同じ。

【⿰弓粥】ヘン、ホン。符袁切 元 ヰク、チク。余六切 屋
生を養ふ、やしなふ。

【鬻】シユク、ソク。之六切 屋
卑謙の貌にいふ字、へりくだる。

十七畫

【⿰弓襄】チヤウ、ヂヤウ。汝兩切 養
弓の曲がりたる處、そり。

十八畫

【⿰弓雚】ケン、コン。巨圓切 先
弓の曲がりたる處、そり。

【⿰弓舊】キユウ、ク。巨救切 宥
弓強し、つよし。

十九畫

【彎】ワン。烏還切 刪
❶矢を弓につがひて弦を引く、ひく、はる。○〔王褒〕「逢-門-子ー二烏-號一」。❷ひきたる弓の形をなす、まがる。○〔沈遼〕「强來爲レ吏腰少ー」。
〔月彎〕つきの形ゆみをひきはりたるが如くなること。○〔蘇軾〕「皎-々秋ーー」。
〔縈彎〕めぐり曲がる。○〔王安石〕「大-江秋正清、島-嶼相ーー」。
〔盧彎〕徒に弓をひきはる。○〔駱賓王〕「ーーー」。
〔交彎〕前に同じ。○〔白居易〕「安知レ不レ能二ーー一」。○〔劉孝威〕「ー-ー」。
〔高彎〕たかきに向かひて弓をひきはる。○〔劉孝威〕「ー-ー落二九-烏一」。

二十畫

【彏】クワク、キヤク。許縛切 藥
弓を引きしぼる、はる、ひく。○〔揚雄〕「ー二天-狼之威-弧一」。

彐部（彑）

【彐】ケイ、カイ。居例切 霽 本彑に作る。
はりねずみのかしら、（彙-頭）。

【彑】彐に同じ。一說に、豕の頭。

三畫

【归】ヨク、エキ。於棘切 職
おさふ、（按）。

四畫

【⿱彑又】カ、ゲ。何加切 麻
ゐのこ、ぶた、ゐ、（豕）。

五畫

【⿱彑巾】イ。羊至切 寘 テイ、デ。特計切 霽 テイ、ダイ。田黎切 齊
❶たぬきのこ、（狸-子）。❷ゐのこ、ゐ、ぶた、（豬）。

六畫

【彖】タン。通貫切 翰
❶豕走る、はしる。❷易經の一卦の義を統べ說きたる辭の稱。○〔史〕「序二ー、繫、象、說-卦、文-言一」。
〔爻彖〕易のうらかたのことば。○〔册府元龜〕「ー-ー以二精-微一爲レ神」。

【⿱彑豕】シ。賞氏切 紙
豕の屬。

【彔】ロク。盧谷切 屋
❶木を刻む。❷もと、（本）。

八畫

【彗】セイ、サイ。祥歲切 霽 スヰ。徐醉切 寘
❶あくたをはらふに用ふる具、はゝき、はうき。○〔禮〕「國-中以二策-ー一卹-勿、驅レ塵不レ出レ軌」。❷一種の星、はゝきぼし、其の星の尾に光氣ありて形のはゝきに似たるよりいふ、古は、此の星のあらはるゝは、災禍ある兆とて、一名を、わざはひぼしともいへり。○〔九歌〕「登二九-天一撫二ーー-星一」。
〔掃彗〕はゝき。○〔爾、註〕「其形孛々如二ーー一」。
〔蒼彗〕はゝき星の一種。○〔史、註〕「歲-星之精、散而爲二天-棓天-槍天-埴ー-ー一、皆以應二凶-災一也」。
〔妖彗〕はゝき星、わざはひぼし。○〔晉〕「ー星一日レー、二日レ孛」。
〔孛彗〕前に同じ。○〔唐〕「ー-ー飛-流」。「互奔」。
〔流彗〕飛びゆくはゝき星。○〔蔡洪〕「動若二ー-ー一之」。
〔叢彗〕はゝき草。○〔蘇軾〕「不レ如レ種二ー-ー一」。

【彗】エイ、エ。于劌切 セイ。相銳切 霽
日中に暴かに明かるくなること。○〔太公兵法〕「日-中不レー、是謂レ失レ時」。

【彗】慧に通じ用ふ、さとし。○〔史〕「ー有二口-辨一」。

九畫

【彘】テイ、ダイ。直例切 霽
❶ゐのこ、（豬）。○〔禮〕「孟-夏之月、天-子乃以レー嘗レ麥」。❷水にすむ一種の畜。○〔史〕「澤-中千-足ー」。
〔野彘〕ゐのしゝ。○〔史〕「賈-姬如レ廁、ー-ー卒入レ廁」。
〔薰燧而負彘〕節義ある者と自任して汚辱の境にあるなどのたとにいふ譬喩。○〔淮〕「以二潔-白一爲二汚辱一、猶三沐-浴而抒レ溷ー-ー而ー一レ」。

十畫

【⿱彑曷】コツ、コチ。呼骨切 月
豕の屬。

【⿱彑召】セウ。市昭切 蕭
うつ、（擊）。

【彙】ヰ。于貴切 未
❶一に、蝟に作る、はりねずみ。○〔爾〕「ー、毛-刺」。

㊀たぐひ、(類)。○〔易〕「拔レ茅茹、以二其—一」。
㊁彙に同じ。
(品彙) たぐひ。○〔韓愈〕「非二常鱗凡介之——匹儔一也」。
(條彙) ケ條の分類。○〔唐〕「專レ意撰綜、——粗立」。○〔宋〕「功濟二——一」。
(庶彙) もろもろのたぐひ、又、たみの義にいふ。
(部彙) たぐひ、分類。○〔唐〕「——聲比」。
(鱗彙) 魚類、うろくづ。○〔孫綽〕「——萬殊、甲[illegible]振レ[illegible]」。

十三畫

【[illegible]】シ。息利切 寘
㊀豕の屬。㊁ゐのこの聲。㊂鼠の名。

十五畫

【彝】イ。以脂切 支
㊀宗廟に平常供へ置く器、卽ち、鐘、鼎など。○〔左〕「取二其所レ得、以作二—器一」。
㊁さかだる、(酒尊)。○〔周〕「辨二六—之名物一」。○〔周〕「司尊—」。
㊂のり、(法)。
㊃つね、(常)。○〔書〕「—倫攸レ敍」。
(鼎彝) かなへ。○〔唐〕「圖二形雲閣一、書二功——一」。
(民彝) 人のとり守るべきちみ。○〔柳貫〕「下以開二——一」。
(國彝) くにののり。○〔唐〕「虔二守——一、貫二徹中人一、都無二引接一」。
(皇彝) きみののり。○〔汪藻〕「——有レ文」。
(朝彝) 前に同じ。○〔武后爲武泰御謝尙方監表〕「上不レ泊二於——一」。
(典彝) のり。○〔晉書〕「稽二參——一」。

廿三畫

【彠】ワク。憂縛切 藥 カク、ゴク。胡麥切 陌
のり、(度)。○〔馬融〕「挑二截本末一、規二摹—矩一」。
(榘彠) のり。○〔鄭俠〕「萬古同二——一」。
(程彠) 前に同じ。○〔鮑照〕「——周備」。
(規彠) 前に同じ。○〔馬祖常〕「周折準二——一」。

彡部

【彡】サン、所銜切 咸 セン。所廉切 鹽
㊀毛の飾、けかざり、かみかざり。
㊁毛長し、ながし。

二畫

【㐱】シン。之忍切 軫
鳥羽はえて始めて飛ぶ、さびそむ。

四畫

【形】ケイ、ギヤウ。乎經切 青
㊀かたち。
(い)かた、㊁に同じ。
(ろ)容姿。○〔書〕「俾三以レ—旁求二于天下一」。
(は)身體。○〔莊〕「無レ勞二汝—一、無レ搖二汝精一」。
(に)狀勢。○〔史〕「秦—勝之國」。
(ほ)あらはれたるもの。○〔禮〕「樂不レ耐レ無レ—」。
㊁かた。
(い)物の外面にあらはれたるありさま。○〔易〕「品物流レ—」。
(ろ)模樣。○〔爾註〕「黼文畫二斧—一」。
(は)かたどりたるもの。○〔遼〕「爲二人—一譬レ之」。
㊂あらはる。
(い)出現す。○〔大〕「此謂下誠二於中一—中於外上」。
(ろ)骨見はる。○〔禮〕「毀瘠不レ—」。
㊃出現せしむ、あらはす。○〔國〕「天地—レ之」。
㊄かたちを作る、かたちづくる。○〔列〕「有二—レ形者一」。
㊅かたを寫す、かたどなす、かたどる。○〔李純甫〕「千奇萬巧難二—容一」。
㊆うつは、(器)。○〔史〕「飯二土塯一、啜二土—一」。
(圖形) かたちを畫く、又、畫かれたるかたち。○〔宋〕「自二漢興一以來、小善小德、而—レ—於——立レ廟者多矣」。
(蓋形) からだを蔽ふ。○〔漢〕「女子紈綺、不レ足二——一」。
(隱形) かたちをかくす。○〔晉〕「又能—レ—匿レ影」。
(儀形) のりのさま。○〔北〕「——風德」。
(鍊形) 仙家の法にてからだをねり無病にならしむること。○〔宋〕「因授二—レ—養レ元之訣一」。
(勞形) からだをつからす。○〔淮〕「—レ—而不レ明」。
(忘形) からだあるをわする。○〔莊〕「故養レ志者—レ—」。
(遺形) 前に同じ。○〔淮〕「—レ—去レ智」。
(養形) からだをやしなふ。○〔文子〕「太上養レ神、其次—レ—」。
(象形) かたち、又、かたどる、又、字體の名。○〔史〕「如二景之—レ—、響之應レ聲」。
(地形) 土地のなり。○〔史〕「問二其——一與二其兵一」。
(苦形) からだをくるしむ。○〔呂子〕「天下之賢主、豈必—レ—愁レ慮哉」。
(神形) 心とからだと。○〔漢〕「——蚤衰」。
(心形) 前に同じ。○〔晉〕「不レ覺二慄然一、——俱肅」。
(裸形) はだか。○〔世說〕「或脫レ衣——在二屋中一」。
(衆形) もろもろのかたち。○〔晉〕「刻二雕——一、而不レ爲レ巧」。
(奇形) めづらしきかたち。○〔晉〕「——異狀」。
(詭形) 前に同じ。○〔宣和畫譜〕「——異狀」。
(細形) ちひさきからだ。○〔論衡〕「以二七尺之——一、感二皇天之大氣一」。
(常形) きまりたるふり。○〔宋〕「兵無二——一」。
(美形) うつくしき容貌。○〔世說〕「王敬豫有二——一」。
(物形) もの、かたち。○〔法書要錄〕「察二其——一」。
(製形) かたちを作る。○〔古畫品錄〕「賦レ彩—レ—」。
(貌形) すがた。○〔洞簫賦〕「闡二於白黑之——一」。
(纖形) かぼそきからだ。○〔王粲〕「弱骨——」。
(魁形) おほいなるからだ。○〔柳宗元〕「——巨首」。
(偶人形) でく、くゞつ。○〔後漢〕「修二飾渴幅一、如二———一」。
(視之無形) 推理の明あると、先見の明あると、又、推理すると、先見すると。○〔莊〕「————、聽二之無聲一」。
(視冥々謀無形) 前に同じ。○〔說苑〕「明者—二於——一、聽者聽二於無聲一、慮者戒二於未成一」。

【彣】ブン、モン。無分切 文
靑と赤とまじりたるも。

【彤】トウ、ヅ。徒冬切 冬
丹色の飾、朱塗、あか。○〔詩〕「貽二我—管一」。
(丹彤) あか。○〔王勃〕「飾以二——一」。
(朱彤) 前に同じ。○〔王禹偁〕「榱桷飾二——一」。

五畫

【[illegible]】サン、セン。所鑑切 陷
㊀物に接す、まじはる。㊁さし、(利)。

六畫

【彥】ゲン。魚變切 霰
美德ある者、すぐれたる士、又、男子の美稱、ひこ。○〔詩〕「邦之—兮」。
(俊彥) すぐれたる士。○〔晉〕「旁求二——一」。
(淵彥) 前に同じ。○〔晉〕「拔二——於無際一」。
(偉彥) 前に同じ。○〔魏〕「濟々——、元凱之倫也」。
(賢彥) 前に同じ。○〔晉〕「華池叢屋、辟延二——一」。
([illegible]彥) 前に同じ。○〔晉〕「——尋レ聲」。
(英彥) 前に同じ。○〔晉〕「衣冠[illegible]盛、——如レ林」。
(秀彥) 前に同じ。○〔晉〕「同列爲二一時——一」。
(美彥) 前に同じ。○〔北〕「良族——、不レ得レ尙焉」。
(才彥) 前に同じ。○〔韋應物〕「明世重二——一」。
(珍彥) 前に同じ。○〔華陽國志〕「實西士之——」。
(勝彥) 前に同じ。○〔姑蘇筆記〕「皆一時——」。
(哲彥) 前に同じ。○〔柔嵩〕「配二彼——一」。
(髦彥) 前に同じ。○〔陳後主舉賢詔〕「思レ所三以登二顯——一」。
(時彥) ときにすぐれたる士。○〔唐〕「廣引二——一」。
(往彥) 前代のすぐれたる士。○〔南〕「追二蹤于——一」。

〔昔彥〕前に同じ。○〔王融〕「端溪懸ニ一一一」。
〔前彥〕前に同じ。○〔徐陵〕「高視ニ一一」。
〔諸彥〕もろ〳〵のすぐれたる士。○〔南〕「二三一一、兄弟友生」。
〔後彥〕後進のすぐれたるさぶらひ。○〔魏〕「含光緒ニ一一」。「一一一」。
〔羣彥〕おほくのすぐれたるさぶらひ。○〔唐〕「博延ニ一一」。
〔伏彥〕野にかくれたるすぐれたるさぶらひ。○〔鮑照〕「野雉ニ一一」。

七畫

【彧】井ク、チク。於六切 屋
㊀文章、あや。㊁茂り盛んなる貌にいふ字。

【彡少】サ、ザ。七臥切 箇
㊀かろ、（芟）。㊁つみ、（刑）。

八畫

【彖】チヨク、チク。丑玉切 沃
家の足を絆されて行くにいふ字、ゆく、又、家の行く貌にいふ字。

【㣎】ボク、モク。莫卜切 屋 ビウ、ミウ。亡幽切 尤
こまかきあや、（細文）。

【彩】サイ、セイ。倉宰切 賄 一采に通じ作る。
㊀色澤、つや、いろ。○〔傅休奕〕「潛實內結、豐一外盈」。
㊁文章、あや、もやう。○〔鮑照〕「龜-文電-衣、龍-一雲-裳」。
㊂光。○〔沈約〕「日-華月-一」。
㊃風度、やうす。○〔吳〕「微見ニ風一一、粗陳ニ指-歸ニ」。
㊄修飾、かざる、かざり、采色、いろどろ、いろどり。○〔文心雕龍〕「鋪一摛レ文」。

〔鮮彩〕あざやかなるいろ。○〔王珣〕「折レ花競ニ一一一」。
〔神彩〕すぐれたるやうす。○〔晉〕「幼而穎-悟、一一秀徹」。
〔縟彩〕かざりあや。○〔晉〕「一一彫煥」。
〔詞彩〕文章詩歌のこと。○〔宋〕「俱以ニ一一一齊レ名」。
〔傳彩〕つやをつく、いろどる。○〔陳傅良〕「筆-力狂-怪、不ニ以レ一レ一爲レ工」。
〔瑤彩〕あざやかなるいろ。○〔曹植〕「一一有ニ光-榮ニ」。
〔器彩〕器量。○〔謝莊〕「一一明-敏」。
〔陽彩〕太陽のひかり。〔謝瞻〕「繁-林收ニ一一一ニ」。
〔奇彩〕めづらしきつや。○〔晉子夜〕「山-林多ニ一一一ニ」。「窈一一列」。
〔素彩〕しろきつや、しろきひかり。○〔柳宗元〕「蔽レ一一」。
〔光彩〕つや、ひかり。○〔北〕「便是國之一一」。
〔頹彩〕前に同じ。○〔江賦〕「或一一一輕-漣」。
〔彫彩〕ゑりいろどる。○〔沈約〕「物愛ニ一一一ニ」。
〔鏤彩〕ちりばめたるいろどり。○〔庾信〕「一一一織ニ雲-霞ニ」。
〔綸彩〕太陽のこと。○〔許渾〕「一一漸移ニ金-殿外ニ」。
〔瓊彩〕たまのつや。○〔裴度餘〕「霽-日彫ニ一一ニ」。
〔芒彩〕星などのさきのひかり。○〔楊繼盛〕「德-星一一一動ニ天-臺ニ」。

【彪】ヒウ、フ。補尤切 尤
㊀小さき虎。○〔庾信〕「熊一一顧-盼魚-龍起-伏」。
㊁あや、（文）。○〔揚雄〕「彌レ中而一レ外」。
㊂くさ〴〵のあやある貌にいふ字、まだら。○〔宋〕「一一玲々若ニ大-虛之舍ニ」。「入」。
〔餓彪〕食に乏しきとら。○〔南〕「一一能嚇レ」。
〔炳彪〕とら。○〔蘇軾〕「操レ戈畏ニ一一ニ」。

【彫】テウ。都僚切 蕭
㊀形象を刻む、鏤む、ゑろ、ほろ。○〔莊〕「覆ニ載天-地一、一ニ刻象-形一、而不レ爲レ巧」。
㊁かざる。
（い）文を畫く、ゑがく。○〔書〕「峻レ宇一レ牆」。
（ろ）修飾す。○〔魏〕「任レ性而行、不ニ自一-勵ニ」。
㊂そこなふ。
（い）傷ろ、瘁ろ、きづゝく。○〔魏〕「於レ時百-姓一一弊」。
（ろ）枯れ落つ、しぼむ。○〔論〕「歲寒然後知ニ松-柏之後レ一也」。
㊃一-胡の略、卽ち、菰米、まこものみ。○〔梁簡文帝〕「炊レ一留ニ上-客ニ」。

【彬】ヒン。府巾切 眞
文と質とふたつながら備はるをにいふ字。○〔論〕「文-質一一一」。

【彬】ハン。逋還切 刪
つや明か、あきらか。○〔西京賦〕「珊-瑚琳-碧瓀珉璘-一」。

九畫

【彰】ラン。郎旰切 翰
あや、（文）。

【彪】古文の變の字。○〔參同契〕「幽-潛淪-匿一ニ化於中ニ」。

【彭】ハウ、バウ。博旁切 陽
㊀多き貌にいふ字、おほし。○〔詩〕「行-人一一一」。「駟騵一一」。
㊁さかんなり、（盛）、つよし、（强）。○〔詩〕
㊂息むを得ず、又、ゆく、（行）。○〔詩〕「四-牡一一」。
㊃みち、（道）。
㊄衆くの車の聲にいふ字。○〔詩〕「有レ驪有レ黃、以レ車一一一」。
㊅近き處、かたはら、（旁）。○〔易〕「九-四匪ニ其一一ニ无レ咎」。「一一亨」。
㊆滿ち張る、ふくろ。○〔韓愈〕「苦-開腹

【彭】ハウ、ビヤウ。薄庚切 庚
㊀鼓の聲にいふ字。○〔張舜民〕「一一一魄-々」。
㊁前條の㊅に同じ。㊂人の名、處の名。

十畫

【㣑】ヨウ、ユ。尹竦切 腫
帶を垂れて飾れる貌にいふ字。

十一畫

【彯】ヘウ、ベウ。匹妙切 嘯
ゑがく、（畫）、かざる、（飾）。

【彯】ヘウ、ベウ。撫招切 嘯
㊀長く組みたる糸の貌にいふ字。
㊁嫖に通じ用ふ。○〔王融〕「一一搖武-猛扛レ鼎揭レ旗之士」。

【彰】シヤウ、サウ。諸良切 陽 一章に通じ作る。
㊀あや、（文）、かがり、（飾）。○〔詩〕「織-文鳥一一」。
㊁あきらか、（明）、いちじるし、（著）。○〔書〕「嘉-言孔一」。
㊂あきらかになる、いちじるしくなる、あらはろ、又、あきらかにす、いちじるしくなす、あらはす。○〔書〕「一厥有レ常」。
〔孔彰〕はなはだあきらかなり。○〔晉〕「嘉-言一一」。
〔表彰〕あらはしあきらかにす。○〔後漢〕「一ニ一德-信ニ」。
〔顯彰〕あきらか、いちじるし、あらはる、あらはす。○〔史〕「顯-功一一一」。
〔彰々〕あきらかなる貌にいふ語。○〔道德指歸論〕「顯的-々以一一一」。「其勳-業一一一」。
〔照彰〕ひかりあらはる、てらしあらはす。○〔集古錄〕
〔桑彰〕あらはる。○〔謝承表〕「五-色一一一」。
〔煥彰〕前に同じ。○〔張華〕「備-物一一」。

【彲】ヨウ、ユ。餘封切 冬
㊀重なる影、かげ。㊁かたち、(形)。

【徙】シ。所綺切 紙
毛の垂るゝ貌にいふ字、たる。

十二畫

【影】エイ、ヤウ。於景切 梗
かげ。
(い)光によりてうつり出でたる形。○〔莊〕「形ノ於レー、聲之於レ響」。
(ろ)實體の鏡、水などにうつり見ゆるもの。○〔後漢〕「引レ鏡窺レー何、施ニ眉-目ニ」。
(は)形容、すがた、かたち。○〔張協〕「絕ニー乎大-荒之遐-阻ニ」。
(に)ひかり、うつり。○〔杜甫〕「燈ーー照ニ無-寐ニ」。
(ほ)日晷、ひかげ。○〔潘岳〕「情有ニ遷-延、日無ニ餘ーニ」。
(へ)傺。○〔南〕「與ニ楚-王-廟神一交飲至ニ一-斛、每ニ酹-祀一盡レ歡極レ醉、神ー亦有ニ酒-色ニ」。
(と)蔽はるゝを、かばはるゝを。○〔冊府元龜〕「投ニ名於勢-要一以求ニーー庇ニ」。
(射影) 蜮の異名。○〔詩、疏〕「蜮一名ーー」。
(浮影) 水にうきたるかげ。○〔鮑照〕「ーー交横」。
(落影) 夕刻の日かげ。○〔庾闡〕「照ニーー而俱紅」。「晝ニ」。
(祥影) めでたき日かげ。○〔鮑照〕「ーー服ニ玉・
(泡影) あわとかげとのと、はかなきことに譬へいふ語。○〔金剛經〕「如ニ夢-幻ーーニ」。「ーニ」。
(淸影) きよらかなるかげ。○〔杜甫〕「月-林散ニーー」。
(燭影) ともしびのかげ。○〔杜甫〕「半-扉開ニーーニ」。「得ニーー者ト」。
(曲影) まがりたるかげ。○〔史〕「未レ有下樹ニ直-表ニ而ーー」。
(鏡影) かゞみにうつるかげ。○〔拾遺記〕「則ーー中ー臨レ照而笑」。
(始影) 星の名。○〔瑯環記〕「女-星旁一小-星名ニーーニ」。
(翳影) かげをつらぬ。○〔陶弘景〕「項-羽ーレー」。
(斜影) なゝめなるかげ。○〔王僧孺〕「翠-枝結ニーーニ」。
(翅影) 鳥のかげ。○〔陳後主〕「ーー雲-門連」。
(異影) めづらしきかげ。○〔張正見〕「白-雲多ニーー地」。
(曙影) あけぼのゝ日かげ。○〔王褒〕「ーー初分レ」。
(雙影) ふたつのかげ。○〔唐太宗〕「半-月無ニーーニ」。
(弦影) ゆみはりのかげ。○〔李嶠〕「望月驚ニーーニ」。
(眞影) まことのすがた。○〔呂溫〕「ーー來現」。
(兎影) 月のこと。○〔韋琮〕「ーー高輝」。
(娥影) 前に同じ。○〔鮑溶〕「擧ニ纖-機-邊ーー歸」。
(玉影) 前に同じ。○〔鮑溶〕「ーー耀ニ白-兎ニ」。
(嬌影) うつくしきすがた。○〔徐俊〕「晩-搖ニーーー」「未レ滿」。媚ニ淸-風ニ」。
(圓影) まるきかげ、又、月のこと。○〔曹植〕「ーー光」
(含沙射影) 小人の陰險なる手段もて害をなすといふ語。○〔白居易〕「ーレーーニ人ー、、疾レ病人不レ知」。
(係風捕影) 如何に勞するも其の効なきにいふ語。○〔漢〕「邊-々如ニーレーーヮー、終不レ可レ得」。
(杯中蛇影) 疑ひ惑ふことにいふ譬諭。○〔晉〕「嘗有ニ親-客一、久-濶不ニ復來一、廣問ニ其故一、答曰、前在レ坐蒙レ賜レ酒、方欲レ飲見ニ盃-中有ヒ蛇、意甚惡レ之、既飲而疾、於レ時河-南廳-事壁-間有レ角、漆-畫作レ蛇、廣意ーー即角ー也、復置ニ酒前-處一、謂レ客曰、酒-中復有レ所レ見不、答曰、所レ見如レ初、廣乃告ニ其所-以一、客豁-然意解、沈痾頓愈」。
(雁行避影) 長者に從ひ行くに敬を盡くすことにいふ語、其のさまのかり鳥の列をなす如く長者に先だゝむとして長者のかげを履まざるやう注意すると。○〔莊〕「士-成-綺ーーーーレー、履行遂進而問ニ修レ身若何ニ」。
(夸父追影) 己が力を量らずして及ばぬ事に勞するも其の効なきにいふ譬喩。○〔列〕「ーーー不レ量レ力、欲レーニ日-ーー、逐ニ之於隅-谷之際一、渴欲レ得レ飲、赴飲ニ河-渭一、河-渭不レ足、將ニ走北飮ニ大-澤一、未レ至道渴而死」。

【彳尋】尋に同じ。○〔韓愈〕「千ーー墮ニ幽-泉ニ」。

【曾彡】ソウ、ス。七曾切 蒸
ショウ、ソウ。七孕切 徑
毛おこりたつ、けぶかし。

十三畫

【粲彡】サン。倉案切 翰
文彩のさかんなる貌にいふ字、さかんなり。

十九畫

【彲】チ。抽知切 支
螭に同じ、みづち。○〔史〕「非レ龍非レー、非レ虎非レ熊」。

【麻彡】ヒン。府巾切 眞
文の盛なる貌にいふ字、あやあり。

彳部

【彳】テキ、チヤク。丑亦切 陌
小しく歩む、あゆむ、一説に、小しく留る、とゞまる、たゝずむ。○〔潘岳〕「ーー亍中輟」。

【彳】ホク、フク。市玉切 沃
足下齊し、ひさし、そろふ。

三畫

【彳卄】ケウ、ゲウ。巨小切 篠
行く貌にいふ字、ゆく。

【彳丁】テイ、チヤウ。當經切 靑
獨り行く貌にいふ字、ゆく。

【彳弋】ヨク、エキ。與職切 職
ゆく、(行)。

【彴】シヤク、サク。之若切 藥
テキ、チヤク。亭歷切 錫
木を横へて水を渡せる橋、まるきばし、(獨-梁)。○〔蘇軾〕「略ーー横ニ秋-水ニ」。
(橋彴) はし。○〔王禹偁〕「切-裂無ニーーニ」。
(孤彴) まる木ばし。○〔韋莊〕「澗-柳横ニーーニ」。
(小彴) さゝやかなるまる木ばし。○〔蔡襄〕「村-前ーー通」。「修」。
(横彴) まる木ばし。○〔柳貫〕「ーー綠通一-徑」。
(短彴) みじかきまる木ばし。○〔文同〕「ーー逕-迫渡」。
(溪彴) 谷川のまる木ばし。○〔陸游〕「林-雀無レ餘」「ーー斷」。

【彴】ハク、ホク。弼角切 覺
ーー約は、流星、よばひぼし。

四畫

【彵】タ。他可切 哿
安らかに行く、志づかにゆく。

【彶】キフ、コフ。訖立切 緝
急ぎ行く、いそぐ、又、いそがはし、あわたゞし、(遽)。

【彳开】ケイ、カイ。古禮切 薺
ゆく、(行)。

【彳元】グワン。五丸切 寒
彷ーーは、途を失ふ、ふみまよふ。

【彷】ハウ、ボウ。步光切 陽

㊀—徨は、さまよふ、うろつく。○〔莊〕「—徨乎無レ爲二其側一」。
㊁—徉は、めぐる、もとほる、たちもとほる。○〔史〕「—二徉天下一」。

【彷】ハウ。妃兩切 養
—彿は、はツきりと見分け難きこと、ほのか。○〔傅毅〕「—彿神動」。

【徇】シユン、ジユン。徐閏切 震
師を巡りて令を宣ぶ、行く〳〵示す、志めす、となふ。○〔司馬法〕「斬以—」。

【彸】シヨウ、シユ。職容切 冬
征—は、あわて行く貌にも、又、おそれあわつる貌にもいふ語、おそる、あわつ。○〔王褒〕「百姓征—、無レ所レ措二其手足一」。

【役】エキ、ヤク。營隻切 陌
㊀人民を强制して公用に使ふこと、えだち、ぶやく。○〔周〕「田—以馭二其衆一」。
㊁功作、戰鬪、戍兵など、卽ち、人民をえだつ事件の稱。○〔左〕「鄭人侵二衞牧一、以報二東門之—一」。
㊂職務、つとめ。○〔謝靈運〕「祇レ—出二皇邑一」。
㊃つかふ。
（い）使ふ。○〔淮〕「以服二—人心一」。
（ろ）事ふ。○〔左〕「—二王命一」。
（は）えだちに充つ、えだちに當たる、えだつ。○〔宋〕「毋三擅—二壯丁一」。
㊄爲す、營む。○〔禮〕「恭儉以求レ—レ仁」。
㊅求めて止まず、はたらく。○〔莊〕「終身——、而不レ見二其成功一」。
㊆人につかはるゝ者、下位の者。○〔公羊〕「厮—扈養」。
㊇つらなる、（列）。○〔詩〕「禾—穟々」。

〔于役〕ゆきてつかはる。○〔詩〕「君子—·—、不レ知二其期一」。
〔大役〕おほいなるえだち、卽ち、堤防城郭などを作るにいふ語。○〔周〕「—·—則帥二民徒一而至」。
〔野役〕出師、又、田獵のときなどの功作のえだち。○〔周〕「若起二—·—一、則各帥二其所レ治之民一而至」。
〔力役〕えだち。○〔家語〕「孔子曰、省二—·—一、薄二賦斂一則民富矣」。
〔人役〕人につかはるゝこと、又、えだち。○〔孟〕「不仁不智無禮無義—·—也」。
〔公役〕えだち。○〔荀〕「有二—·—一無二私使一」。
〔遠役〕とほき處にやらるゝえだち。○〔張協〕「君子從二—·—一」。
〔形役〕心を肉體の事にのみにかゝる卑しきことにのみつかはるゝこと。○〔杜甫〕「何事拘二—·—一」。
〔致役〕つかはる。○〔易〕「—二—乎坤一」。
〔戍役〕邊寨をまもるえだち。○〔詩、序〕「采薇遣二—·—一也」。
〔遜役〕前條に同じ。○〔後漢〕「—·—衆劇」。
〔聽役〕命令をうけてつかはる。○〔禮〕「—二—于司徒一」。
〔師役〕いくさを出だし、又、巡狩、田獵などにいふ語。○〔周〕「—·—則掌下共二其獻賜脯肉一之事上」。
〔政役〕軍兵を發しえだちをおこすこと。○〔周〕「二曰、聽二—·—一以比居」。
〔使役〕つかふ、又、つかはる。○〔周、疏〕「政謂二賦稅一、役謂二—·—一」。
〔征役〕租稅とえだちと。○〔周〕「凡—·—之施舍」。
〔徒役〕えだち、又、えだつ人、つかはれもの。○〔周〕「凡起二—·—一、毋レ過二家一人一」。
〔徵役〕めしてつかふ。○〔周〕「—二—于司隸一而役レ之」。
〔朞役〕一年の間使役す。○〔周〕「重罪旬有三日坐二—·—一」。
〔外役〕境域外のえだち。○〔盧諶〕「事與レ願違、當レ忝二—·—一」。
〔軍役〕いくさ。○〔戰〕「卽有二—·—一、未三嘗倍二泰山一」。
〔趨役〕えだちにゆく。○〔戰〕「諸侯可レ—レ—」。
〔苦役〕くるしみつかはる、又、くるしきえだち。○〔史〕「國人—·—」。
〔繇役〕えだち。○〔漢〕「周室既衰、—·—横作」。
〔調役〕布帛のみつぎとえだちと。○〔晉〕「平二均—·—一、百姓賴レ之」。
〔功役〕土木工事のえだち。○〔後漢〕「—·—繁興」。
〔勞役〕はねのをるゝえだち、又、はねをりはたらく。○〔魏〕「—·—未レ已」。
〔劇役〕はげしきえだち、又、はげしくつかはる。○〔晉〕「終身—·—」。
〔賦役〕えだち。○〔韓愈〕「齊民逃二—·—一」。
〔科役〕前に同じ。○〔唐〕「—·—多宜下蠲二優甘一令レ得二休息一」。
〔服役〕つかはるゝこと。○〔韓愈〕「——不レ辱言不レ一識」。
〔驅役〕かりつかふ。○〔潘岳〕「—·—宰二兩邑一」。
〔羈役〕束縛してえだちに就かしむること。○〔陶潛〕「遙々從二—·—一」。
〔丁役〕適齡のものをえだつこと。○〔張籍〕「郡縣發二—·—一」。
〔兵役〕いくさのえだち。○〔鄭谷〕「秣陵—·—後」。
〔苛役〕からきえだち。○〔周橹〕「知是當時苦二—·—一」。

【彺】ワウ。雨方切 陽
急ぎ行く貌にいふ字、いそぐ。

（五畫）

【彳冉】ゼン、チン。如占切 鹽
遲く行く貌にいふ字、おそし。

【彼】ヒ。補委切 紙
㊀か、あ、かれ、あれ。
（い）自家に對するものを指していふ稱。○〔孫武〕「凡戰知レ—知レ已、百戰百勝」。
（ろ）自家に對するもの、他のものを指していふ稱。○〔禮〕「爾之愛レ我也不レ如レ—」。
（は）すべて此れに對するものを指す稱、（方位にては）あち、あなた、（地位にては）あしこ、あそこ、かしこ。○〔兩都賦、序〕「稽二之上古一則如レ—、考二之漢室一又如レ此」。
（に）之を疎外する意にいふ字。○〔論〕「—哉—哉」。

【彳立】サウ、ソウ。蘇合切 合
行く貌にいふ字、ゆく。

【彽】チ、ヂ。直尼切 支　テイ、タイ。都黎切 齊　ダイ、デ。徒回切 灰
—徊は、徘徊に同じ、たちもとほる。

【彾】レイ、リヤウ。力郢切 梗
雨後の徑、あめふりあげくのみち。

【彾】レイ、リヤウ。郎丁切 青
竛に同じ、—竮は、行く貌にいふ語。

【彿】髴に同じ。

【彳由】テキ、ヂヤク。徒歷切 錫　トク、ドク。徒沃切 沃
ゆく、（行）。

【往】ワウ。于兩切 養
㊀ゆく。
（い）向かひ進む、すゝみ到る。○〔書〕「帝曰、兪汝—哉」。
（ろ）去る。○〔易〕「月—則日來」。
㊁すぎさりたること、現在の前、過去、むかし、いにしへ。○〔易〕「彰レ—而察レ來」。
㊃物を人に致す、おくる、いたす、つかはす。○〔王羲之〕「今—二絲布單衣財一端一」。
〔往往〕かず多くありしことを擧げ說くに用ふる語、をり〳〵、まゝ、（事には）ところ〴〵（場所には）。○〔史〕「長老皆各—·—稱二黃帝堯舜一」。
〔旣往〕すぎさりたる時、むかし、いにしへ。○〔論〕「—·—不レ咎」。

〔步往〕あゆみて行く。○〔史〕「乃開—•—、從二此兩人一游甚歡」。
〔遷往〕かはる〴〵さる。○〔後漢〕「乃—•—就レ室」。
〔孤往〕獨りにてゆく。○〔于石〕「—•—欲二何之一」。
〔獨往〕意の如くゆく能はざること。○〔列〕「意之所レ欲レ爲者、放逸而不レ得レ行、謂二之—•—一」。
〔古往〕むかし。○〔西征賦〕「—•—今來」。
〔集往〕あつまりゆく。○〔吳都賦〕「鱗甲之所二—•—一」。
〔追往〕過ぎ去りたることを思ふ。○〔顏延之〕「深心—レ—」。
〔雖千万人吾往〕如何に敵は多くありともわれ一人にてゆく。○〔孟〕「自反而縮、—二—•—•—一—•—矣」。
〔載星而往〕朝早く出で行くこと。○〔春令故事〕「早行曰二—•—•—•—一」。

【往】ワウ。於放切 漾
歸向す、むかふ。○〔史〕「雖レ不レ能レ至、然心鄉二—之一」。

【⿰彳丕】ヒ。貧悲切 支
走る貌にいふ字、はしる。

【⿰彳此】シ。七尒切 紙
行く貌にいふ字、ゆく。

【征】セイ、シヤウ。諸盈切 庚
㊀ゆく(行)。○〔詩〕「之子于—」。
㊁上より下を伐つ、罪ある者を攻む、うつ。○〔易〕「王用出—」。
㊂租稅、かゝり物。○〔周〕「二曰、薄レ—」。○〔禮〕「關譏而不レ—」。
㊃かゝり物を收む、とる(取)。
〔徂征〕行きて敵を伐つ、又、ゆく。○〔書〕「維時有苗弗レ率、汝—•—」。
〔流征〕水產物の稅。○〔周〕「掌二—•—一入二于王•府一」。
〔遠征〕遠方の人を伐つ。○〔左〕「不レ和不レ可二以—•—一」。
〔親征〕帝王の自ら征伐すること。○〔書、義〕「率レ衆—二—之一」。
〔出征〕いでゝ敵を伐つこと、又、いでゆく。○〔詩〕「王•—•—、以佐二天子一」。
〔地征〕土地の稅。○〔周〕「制二天下之—•—一」。
〔衰征〕土地の差等によりて稅を取りあぐること。○〔國〕「相レ地而—•—」。
〔飛征〕飛ぶもの走るもの、即ち、鳥獸をいふ。○〔後漢〕「緫二棄四野之—•—一」。
〔市征〕まちより取りあぐる稅。○〔宋〕「蒙遷二左補•闕一、掌二大名—•—一」。
〔關征〕關所にて取りあぐる稅。○〔遼〕「免二諸部歲輸羊及—•—一」。
〔鷙征〕たかの異名。○陸機「隼鵠也、齊人謂二之—•—一」。
〔晨征〕つとに出で行く。○〔趙至〕「鳴•雞戒レ旦、則飄•爾—•—」。
〔長征〕久しきにわたりたる征伐のこと。○〔郭元振〕「—•—馬不レ肥」。
〔輸征〕稅納のこと。○〔攘揄〕「纖•粟無二—•—一」。

【徂】ソ。昨故切 遇
ゆく。
(い)行く。○〔詩〕「我—二東山一」。
(ろ)去る。○〔陶潛〕「日—月流」。
(は)死ぬ、みまかる。○〔史〕「吁嗟—兮」。

六畫

【⿰彳同】トウ、ヅ。徒孔切 董
⿰彳龍—は、直に行く、ゆく。

【⿰彳各】カク、キヤク。古伯切 陌
㊀來たる。○〔揚雄〕「—來也、周、鄭之郊、齊、晉之閒、或謂レ—曰レ懷」。
㊁いたる(至)。○〔揚雄〕「假、—、至也、邠、唐、冀、兗之閒曰レ假、或曰レ—」。
㊂のぼる(登)。○〔揚雄〕「登也、梁、益之閒曰レ—」。

【待】タイ、デイ。徒在切 賄
まつ。
(い)物事の到來を迎へ受く。○〔易〕「君子藏二器於身一、—レ時而動」。
(ろ)備ふ。○〔國〕「其何以—レ之」。
(は)恃む。○〔呂氏春秋〕「不レ窮奚—」。
(に)須ふ。○〔史〕「不レ—レ告」。
(と)とりあつかふ、もてなす、あひしらふ。○〔論〕「以二季孟之間一—レ之」。
〔接待〕あしらふもてなす。○〔晉〕「侍二從左右一、甚見二—•—一」。
〔遇待〕前に同じ。○〔後漢〕「厚相—•—」。
〔見待〕前に同じ。○〔吳〕「—レ—甚隆」。
〔有待〕時節をまつことあるをいふ。○〔禮〕「愛二其死一以レ—レ—也」。
〔客待〕まれびととしてあひしらふ。○〔公羊、註〕「—•—之而不レ臣也」。
〔賓待〕前に同じ。○〔南〕「—•—甚厚」。
〔尊待〕貴びてあひしらふ。○〔公羊、註〕「湯•沐邑所下以—二—諸侯一、而共中其費上也」。
〔留待〕止まりてまち受くること。○〔史、註〕「韋•昭云、稽—•—也」。
〔善待〕よくあひしらふ。○〔史〕「齊—二—之一」。
〔優待〕前に同じ。○〔宋〕「頗見二—•—一」。
〔厚待〕前に同じ。○〔宋〕「故吾—二—之一」。
〔敬待〕前に同じ。○〔後漢〕「酒•家知二其賢一、厚—二—•—之一」。
〔禮待〕前に同じ。○〔高士傳〕「魏文•侯以レ客—二—之一」。
〔寵待〕めであひしらふ。○〔晉〕「甚見二—•—一」。
〔欣待〕よろこびてあひしらふ。○〔張說〕「拂レ館來—•—」。
〔款待〕前に同じ。○〔張誥〕「—•—禮無レ違」。
〔可翹足待〕あしをつまたてゝまつべし、或る事情の忽ちの閒にかならず到來することにいふ語。○〔史〕「君尙將食二兩•於之富一寵二秦國之教一畜二百•姓之怨一亡—二—レ—而—一」。
〔刮目待〕目をすりあざやかにしてまつ、注目して後の結果如何をまつ。○〔吳〕「蒙曰、士別三•日卽當二—レ—相—一」。

【⿰彳刑】カウ、ギヤウ。何庚切 庚
行く貌にいふ字、ゆく。

【⿰彳丞】シヨウ、ジヨウ。諸膺切 蒸
行くに正しからず。

【⿰彳州】シユウ、シユ。職救切 宥
行く、ありく。

【徆】セイ、サイ。息兮切 齊
行く。

【徇】シユン。松倫切 眞
㊀あまねし(徧)。○〔墨〕「身•體强•良、思•慮—通」。
㊁いさなむ(營)。○〔史〕「而—二其私一」。
㊂つかふ(使)。○〔莊〕「夫—二耳•目一內通而外二於心•知一」。

【徇】シユン、ジユン。須閏切 震
㊀とし(疾)。○〔史〕「幼而—•齊」。
㊁めぐる(繞)。○〔山海經〕「槐•江之山神招•英司レ之、—二于周•行一」。
㊂略取す、かすむ、とる。○〔漢〕「陳•勝使二周•市—二魏地一」。
㊃あまねく示す、となふ。○〔書〕「以二木•鐸一—二于路一」。
㊄自らほこり示す、てらふ。○〔宋〕「夸二—四•境一」。
㊅殉に同じ、志たがふ。○〔史〕「貪夫—レ財、烈•士—レ名」。
〔私徇〕私慾に打ちまかす。○〔鄭俠〕「寧復當二—•—一」。
〔顧徇〕ためらふ。○〔洪覺範〕「遲往排二—•—一」。
〔時徇〕時世にまかす。○〔唐〕「時不二我容一我不二—•—一」。

【⿰彳先】シン。所臻切 眞
侁に同じ、往來する貌にいふ字。

【很】コン、ゴン。胡懇切 阮
—俗に狠に作る。

㊀聽き從はず、もどる、たがふ、(違)。○〔國〕「今王將ーレ天而伐レ齊」。
㊁諍ひ訟ふ、いさかひす、せめぐ、あらそふ。○〔禮〕「ー毋レ求レ勝」。
〔疾很〕にくみもとる。○〔書〕「逸ニ厥心ーー」。
〔戢很〕おごり戾る。○〔管〕「ーー陵レ上」。
〔鬩很〕いさかひす。○〔孟〕「好レ勇ーー、以危ニ父・母一」。
〔羊很〕ひつじの如くもとる。○〔吳惟善〕「狠・貪ー・ー絕ニ前・聞一」。

【徉】ヤウ。余章切 陽

さまよふ、たちもとほる、すゝまず、一說に、ほしいまゝ、又、彷徉、徜徉の字の條を見よ。○〔楚辭〕「彷ーー無レ所レ倚、廣・大無レ所レ極」。
〔翔徉〕さまよふ、たちもとほる。○〔魏明帝〕「ーーニ於階際一」。

【徊】クワイ、エ。胡隈切 灰

さまよふ、たちもとほる、すゝまず。○〔史〕「徘ーー往・來」。
〔低徊〕さまよふ、たちもとほる。○〔白居易〕「遲・步徜ーー」。

【⿰彳夷】イ。延知切 支

平かにして行き易きを、たひらか。

【律】リツ、リチ。呂戌切 質

㊀吹きかなづる音樂の調子の總名、音調を陰と陽との二つに分ち更に之を一年の十二ヶ月に配し以て時氣の應を候ふものとせり、陽に屬するものは、黃鐘(十一月にあたる)、大簇(正月にあたる)、姑洗(三月にあたる)、蕤賓(五月にあたる)、夷則(七月にあたる)、無射(九月にあたる)、の六つにして、陰に屬するものは、大呂(十二月にあたる)、夾鐘(二月にあたる)、仲呂(四月にあたる)林鐘(六月にあたる)、南呂(八月にあたる)、應鐘(十月にあたる)、の六つなりとす。○〔漢〕「天・地之風・氣正十二ーー定」。
㊁特に、陽に屬する音調。○〔樂緯〕「陽爲レー、陰爲レ呂」。
㊂吹きかなづる樂器の管、調子ぶえ。○〔漢〕「黃・鐘之ー九・寸」。
㊃轉じて、音樂、音調。○〔後漢〕「好ニ音ー善鼓レ琴」。
㊄守りしたがふべき物事の方、常道、規則、法制、つね、のり。○〔管〕「ー者所ニ以定レ分止レ爭也」。
㊅特に、軍法、刑法。○〔易〕「師出以レー」。
㊆程度。○〔淮〕「以治ニ日・月之行ーー」。
㊇等級。○〔禮〕「加レ地進レー」。
㊈身と口と意との三業を修練して過非を制伏すると、修行ののり、(佛家の言)。○〔宋〕「善持レー」。
㊉のぶ、(述)。○〔禮〕「上ーニ天時一」。
⑪はかる、(詮)。○〔爾、註〕「易坎卦主レ法々ー皆所ニ以詮ニ量輕・重一」。
⑫のりと爲す、つれにしたがふ、のッとる、をさむ、たゞす。○〔荀〕「嗚・呼哀哉尼・父、無ニ自ー一」。
⑬髮を理む、くしけづる。○〔荀〕「不レ沐則濡レ櫛三ー而止」。
⑭漢詩にて、八句を以て成りたる中の第三句と第四句と對句を成し、第五句と第六句と對句を成す詩格をいふ。○〔唐〕「研ニ揣聲・音ー浮・切不レ差、而號ニ詩・ーー」。
⑮嵂に通ず。○〔詩〕「南・山ーー」。
〔師律〕軍法。○〔南〕「軍・旅不レ以レ禮、則致ニ亂於ーー一」。
〔六律〕陽聲に屬する六音をいふ。○〔禮〕「天・下大定、然後正ニーー・和ニ五・聲一」。
〔紀律〕おきて。○〔左〕「戒・懼而不ニ敢易ニーー一」。
〔法律〕國家の規定されたる法令刑律。○〔史〕「乃更爲ニーー一」。
〔鬱律〕深くけはしき貌にいふ語。○〔漢〕「徑入ニ雷・室之砰磷ーー兮」。
〔不律〕(い)筆の異名。○〔爾〕「ーー謂ニ之筆一」。(ろ)おきてを守らぬ。○〔元〕「斬ニ之以懲ニーー一」。
〔典律〕國家のおきて。○〔後漢〕「使下持レ節臨ニ大・學一奏中定ーー上」。
〔憲律〕前に同じ。○〔後漢〕「今ーー輕・薄」。
〔禮律〕禮樂と法律とのこと。○〔南〕「ーー兼修」。
〔科律〕刑法。○〔魏〕「五・刑之屬、著ニ在ーー一」。
〔新律〕あらたに作られたるおきて。○〔魏〕「作ニーー十八篇一」。
〔舊律〕もとのおきて、新律に對していふ。○〔晉〕「ーー繁・蕪」。
〔淸律〕たゞしきおきて。○〔晉〕「亦紼・紳之ーー」。
〔經律〕つねののり、又、佛家ののり。○〔南〕「不レ依ニーー一」。
〔戒律〕僧尼の守るべきおきて。○〔陳師道〕「ーー負ニ前身一」。
〔佛律〕前に同じ。○〔隋〕「沙・門多違ニーー一」。
〔禪律〕前に同じ。○〔李華〕「隨ニ其根・源一、乃起ニーー一」。
〔僧律〕前に同じ。○〔白居易〕「淸・淨依ニーー一」。
〔刑律〕刑法。○〔唐〕「張・彀以ニーー一分レ敎爲レ門」。
〔無律〕紀律なきこと。○〔唐〕「薛瑀劾ニ靖持レ軍ーー、縱レ士大掠、散ニ失奇・寶一」。

【後】コウ、グ。胡口切 有

のち。
(い)前と先との反、うしろ、あと、しりへ。○〔詩〕「不ニ自レ我先一、不ニ自レ我ーー」。
(ろ)將來。○〔史〕「僇・辱以懲レー」。
(は)承繼者、子孫、あとつぎ。○〔書〕「垂ニ憲乃ーー」。
〔牛後〕大いなる者に屬して使はるゝこと。○〔戰〕「鄙語曰、寧爲ニ雞口一、無レ爲ニーー一」。
〔爾後〕此のゝち。○〔詩〕「保ニ艾ーー一」。
〔酒後〕さけを飮みたるのち。○〔北〕「ーー淸言、聞者莫レ不レ傾耳」。
〔躡後〕あとを追ふ。○〔尉繚子〕「莫ニ敢ーニ其ー一」。
〔曙後〕夜あけてのゝち。○〔方干〕「ーー月・華猶冷・濕」。
〔昆後〕あとつぎ。○〔蔡邕〕「仰ニ瀿・古一擬ニーー一」。
〔短後〕うしろのみじかき服。○〔蘇軾〕「麻・鞋ーー隨ニ獵・夫一」。
〔向後〕このゝち。○〔皮日休〕「ーー須レ教ニ酒・頌來一」。
〔落人後〕他より劣ること。○〔李白〕「風・流豈肯ニーーー一」。

【後】コウ、グ。下遘切 宥

㊀のちになる、あとになる、おくる。○〔老〕「自ー者人先レ之」。
㊁おくらしむ、のちにす、あとになす、おくらす。○〔論〕「ーニ其食一」。
〔先後〕(い)さきだつとおくるゝこと。○〔詩〕「予曰有ニーー一」。(ろ)娣姒、あひよめ。○〔史〕「見ニ神於ーー宛・若一」。

【⿰彳圭】アイ、エ。於佳切 佳

なゝめに行く、正しからず。

【⿰彳夸】クワ、ケ。許花切 麻

行く。

【⿰彳兌】タツ、ダチ。徒活切 曷

前條に同じ。

【⿰彳吉】キツ、キチ。闐吉切 質

前條に同じ。

【徚】シユウ、シユ。息弓切 東

人の姓。

七畫

【徎】テイ、チヤウ。丑郢切 レイ、リヤウ。里郢切 梗

㊀徑を行く、ゆく。
㊁雨ふりて後のこみち。

【徑】テイ、チヤウ。他頂切 迥
こみち、(徑)。

【俟】竢に同じ。

【徉】佯に同じ。

【彳希】カイ、ケ。火皆切 佳
うッたふ、(訟)。

【徏】陟に同じ。

【徐】ジヨ。似魚切 魚
㊀安穩なること、やすらか、おもむろ、しづか。○[莊]「其臥ーー、其覺于于」。
㊁おそし、(遲)、ゆるし、(緩)。○[孟]「子謂ニ之姑ー・ー一云爾」。
(疾徐) はやきとゆるやかなると。○[周]「以教ニ坐・作進・退、ー・ー疏・數之節一」。
(安徐) おだやか。○[公羊、疏]「其氣寬・舒、眞・性「ー・ー」。
(舒徐) しづか。○[元稹]「小・中寫レ其要ニー・ーニ」。
(徵徐) かすかにしてしづかなること。○[靈樞經]「呼・吸ー・ー」。

【彳夋】逡に同じ、しりぞく。○[漢]「ーレ儉隆レ約」。

【彳肖】セウ。相焦切 蕭
行く貌にいふ字、ゆく。

【徲】テイ、ダイ。田黎切 齊
屖ーは、休息す、いこふ、やすむ。

【彳狂】キヤウ、ガウ。巨往切 養
扇ーは、あふぎおこす、あふぐ。

【彳妥】タ。湯果切 哿
行く貌にいふ字、ゆく。

【彳夾】セン、ソン。舒贍切 豔
徢ーは、行くくゆるがし曳く貌にいふ語、ひく。

【彳夆】ホウ、フ。敷容切 冬
つかふ、つかひ、(使)。又、縫に作る。

【徑】ケイ、キヤウ。吉定切 徑
㊀幅狹くして車をいるゝ能はずかちにて通ふ路、ほそみち、こみち。○[周]「夫間有レ遂、々上有レー」。
㊁みち。(い)道途。○[蕭子良]「善・惡分レー」。(ろ)方便。○[唐]「仕・宦之捷ー・ー」。
㊂よこみち。(い)大路より衺に分かれたる程近き小路、ちかみち、はやみち、わきみち。○[禮]「送レ喪不レ由レー」。(ろ)邪曲、よこしま。○[老]「民好レー」。
㊃此の邊より向ひの邊までの其の物の眞中を通じたる距離、さしわたし。○[隋]「ー三・分、長九・寸」。
㊄はやし、(疾)。○[荀]「莫レーレ由レ禮」。
㊅なほし、(直)。○[禮]「有下直・情而ーー行者上」。
㊆なほき波。○[爾]「直・波爲レー」。
㊇ゆく、(行)。○[左]「以ニ壺・飧一從レー」。
㊈ためらふことなしに、たゞちに、すぐに。○[漢]「ー往而卷ニ蜀漢一定ニ三秦一」。
(溪徑) 細小の狹路、こみち。○[禮]「謹ニ關・梁・塞ー・ーニ」。
(山徑) やまのこみち。○[孟]「ー・ー之蹊・間」。
(邪徑) すぐならぬこみち、又、よこしま。○[漢]「ー、敗ニ良・田ー、讒・口亂ニ善人ー」。
(石徑) いしのこみち。○[孔稚圭]「澗・戶摧・絕無ニ與歸一、ー・ー荒・涼徒延・佇」。
(蘿徑) つたのおひしげれるこみち。○[駱子良]「ー・ー轉連・綿」。
(荒徑) あれたるこみち。○[鮑照]「ー・ー馳ニ野・鼠ニ」。
(蕪徑) 前に同じ。○[南]「茅宇・邃・戶庭・草ー・ー」。
(狹徑) せまきこみち。○[徐陵]「ー・ー長無レ跡」。
(斜徑) なゝめなるこみち。○[郝經]「陳・蘚掩ニー・ーニ」。
(枉徑) まがりたるこみち、又、よこしま。○[後漢]「有ニーー而我非レ蹊」。
(步徑) かちみち。○[魏]「道險・狹ー・ー纔通」。
(要徑) かなめなるみちすぢ。○[吳]「道之ー・ー也」。
(險徑) けはしきこみち。○[晉]「遵ニ此ー・ーニ」。
(傍徑) わきみち。[晉]「通ニ其ー・ーニ」。
(樵徑) きこりのかよふこみち。○[李華]「捨レ事入ニー・ーニ」。「ー・ー長焰ニ」。
(圜徑) まはりとさしわたしと。○[隋]「璧有ニ高・下ー・ー」。
(周徑) 前に同じ。○[唐]「考ニー・ー之率ニ」。
(津徑) わたしばのみち。○[水經、註]「絕無ニ復ー・ーニ」。
(絕徑) けはしきこみち。○[水經、註]「過ニ隘・度之艱ニ」。
(阻徑) 前に同じ。○[水經、註]「危・蹊ー・ー、傾・岑ー・ー」。
(危徑) 前に同じ。○[王維]「ー・ー幾・萬・轉」。
(行徑) ゆきゝのみち。○[六帖]「惟開ニー・ーニ」。
(淫徑) 邪惡なるみち、即ち、惡道といふに同じ。○[曹植]「豈ー・ー之可レ遵」。
(修徑) ながきみち。○[王僧孺]「交・枝隱ニー・ーニ」。
(棧徑) 木をわたしてかけたるこみち。○[王褒]「ー・ー遂」。
(小徑) こみち。○[王勃]「ー・ー偏宜レ草」。
(鼷鼯徑) むさゝびの行きかふみち、山蹊間のこみち。○[莊]「藜・藿柱ニ乎ー・ー之ーニ」。
(行不由徑) 行狀の極めて方正なること。○[論]「ーレーレーー非ニ公・事ニ未ニ嘗至ニ於偃之室ニ」。

【徑】ケイ、キヤウ。堅靈切 靑
㊀行き過ぐ、わたる。○[史]「高・祖被レ酒、夜ーニ澤・中ニ」。「斗ー醉矣」。
㊁竟に同じ、つひに。○[史]「不レ過ニ一ー」。

【徒】ト、ヅ。同都切 虞
㊀車馬などを用ひずして行くこと、步むこと、かち、かちあるき。○[國]「ー遽來告」。
㊁步卒、あしがる。○[詩]「公ー三・萬」。
㊂從隸、ともべ。○[周]「胥十・有二人、ー百・有二十・人」。
㊃多數、おほし、もろく。○[書]「實繁有レー」。
㊄黨與、ともがら、なかま。○[孟]「聖人之ー也」。
㊅門人、弟子。○[論]「非ニ吾ー一也」。
㊆用意なしに、裝はずに、すから。○[史]「秦人捐レ甲ー裼以趨レ敵」。
㊇たゞ。(い)無益に、用なきに、むなしく、たゞに、いたづらに。○[韓]「因戴而往ー獻レ之」。(ろ)其れより外には何もなく。○[史]「家・居ー四・壁立」。
㊈刑罰の一、罪によりて役に供せらるゝこと、懲役、又、其の刑に處せられたる者、罪人。○[唐]「用レ刑有レ五其三曰レー」。
(司徒) 周時代の教育を掌り人民を治むる官の名。○[書]「帝曰、契汝作ニー・ーニ」。
(前徒) まへに在りたるいくさ人。○[書]「ー・ー倒レ戈」。
(烝徒) おほくのともがら。○[詩]「淠ニ彼涇・舟一、ー・ー楫レ之」。
(師徒) 軍隊といふに同じ、いくさ、もろく。○[蜀]「ー・ー動・、不レ遑ニ寧・居ニ」。
(博徒) かけごとをもてなりはひとするなかま、ばくちうち。○[晉]「恒・溫少・時、游ニ于ー・ーニ」。
(酒徒) さけをつかふなかま。○[史]「吾高陽ー・ー也」。
(厮徒) こもの、めしつかひ。○[史]「ー・ー負・養在ニ其中ニ矣」。
(鉏徒) つみびと。○[漢]「有ニー・ーニ」。
(白徒) 軍隊の素養なきもの。○[漢]「驅ニー・ー之衆ニ」。
(生徒) をしへご、まなび子。○[後漢]「修ニ鄉・校ニ教ニー・ーニ」。
(門徒) 前に同し。○[後漢]「融ー・ー四・百・餘・人」。
(學徒) 前に同じ。○[晉]「給ニ其宅・地一、備ニ其ー・ーニ」。

（歙徒）さけのみなかま。○〔唐〕「白猶與ニ—・—ニ醉ニ于市ニ」。
（釣徒）魚をあさるものども。○〔高啓〕「家世常作「本—・—」。
（掫徒）なかまをあつむ。○〔家語〕「—レ—成レ黨」。
（傭徒）ひようとり、やとはれびと。○〔荀〕「—・—鬻ニ賣之道也」。
（卒徒）諸從のもの。○〔莊〕「夫畏レ途者、必盛ニ—・—ニ而後敢出焉」。
（役徒）人足といふに同じ。○〔左〕「紋ニ人爭出ニ驅ニ楚—・—于山中ニ」。
（刑徒）つみびと、めしうど。○〔史〕「孫臏以ニ—・—、陰見說ニ齊使者ニ」。
（左徒）官の名。○〔史〕「爲ニ楚懷王—・—ニ」。
（黥徒）面部に入れ墨したるめしうど。○〔史〕「令ニ兩—・—夾而馬ニ食之ニ」。
（私徒）我が身に隨從せるもの。○〔史〕「躬率ニ其—・—、以關ニ于秦ニ」。
（女徒）をなごにして罪を犯せるもの。○〔漢〕「復ニ貞・婦ニ歸ニ—・—ニ」。
（朋徒）朋黨に同じ。○〔後漢〕「—・—相視怠散」。
（姎徒）我がともがら。○〔後漢〕「相呼爲ニ—・—ニ」。
（義徒）正理を固守するともがら。○〔南〕「集ニ—・—二十七人」。
（醜徒）惡事をはたらくともがら。○〔唐〕「—・—狼・屠、在ニ四方ニ者幾百萬」。
（緇徒）すみぞめの衣を著けたるともがら、即ち、佛家のこと。○〔孟浩然〕「—・—擁レ錫迎」。
（耕徒）たつくるもの。○〔晁沖之〕「春江餉ニ—・—ニ」。
（市井徒）まちの間にありて放蕩を事とするもの。○〔舊唐〕「獎ニ喻—・—・—ニ」。
（木石爲徒）世に求めん心なく僻地にわび住居すること。○〔柳宗元〕「用レ是更樂ニ瘖・默ニ與ニ—・—・—レ—、不ニ復致ニ意」。

八畫

【⿰彳秀】シユウ、シユ。息救切 宥
—⿰彳留は、行きて相待つ、まつ。

【⿰彳奄】エン、オン。於劔切 豔
かくす、かくる（匿）。

【徖】ソウ、ス。祚紅切 東
やすし（安）。

【得】トク。多則切 職
㊀う。
（い）手に入る、受く、取る。○〔史〕「酈公居ニ馬上ニ而—レ之、安事ニ詩書ニ」。
（ろ）成る、遂ぐ。○〔易〕「南狩之志乃「大—」。
（は）執らふ。○〔史〕「毋レ殺ニ廣・武君ニ有ニ能生—者ニ、購以ニ千金ニ」。
（に）貪る。○〔禮〕「臨レ財毋ニ苟—ニ」。
（ほ）滿足す。○〔禮〕「君子無ニ入而不ニ自—ニ」。
（へ）慢す。○〔史〕「意氣揚々甚自—」。
（と）會す、悟る。○〔南〕「開レ卷有レ—、便欣然忘レ食」。
（ち）合ふ。○〔周〕「牙—則無レ槷而固」。
（り）契る。○〔左〕「—ニ太子ニ適レ郢」。
（ぬ）當たる。○〔荀〕「百官—レ序」。
（る）能ふ。○〔五〕「天下百姓如何救「哉」—」。
㊁利益、便利。○〔呂氏春秋〕「予豈不レ—」。
（知得）獲ることを知る。○〔易〕「—レ—而不レ知レ喪」。○〔文子〕「聖人不レ—レ—」。
（得得）得意の貌にいふ語。○〔蘇軾〕「此行畏—・「—」。
（獲得）う。○〔易林〕「有レ所ニ—・—ニ」。
（逐得）あとをおひて捕ふ。○〔史〕「吏—・—欲レ法「之」。
（贏得）あましう。○〔韓偓〕「一生—・—是淒涼」。
（購得）金錢にてあがなひ手に入る。○〔陳〕「—ニ—之ニ」。
（眞得）誠にう。○〔關尹子〕「不レ知ニ—・—之中有ニ「眞失ニ」。
（智得）智惠によりてう。○〔列〕「汝之達非ニ—・—也」。
（利得）まうけ。○〔易林〕「動有ニ—・—ニ」。
（拾得）ひろふ。○〔錄異記〕「李眺—ニ—小石ニ」。
（料得）おしはかる。○〔杜甫〕「蒼天變化誰—・—」。
（覓得）求めう。○〔元稹〕「須臾—・—又違催」。
（認得）みとむ。○〔劉禹錫〕「—・—詩人在ニ此間ニ」。
（記得）おぼゆ。○〔劉商〕「山川路長誰—・—」。
（天得）うまれつき。○〔任昉〕「縣然天—不レ謀ニ成心ニ」。
（千慮一得）いろ〳〵に考ふれば當ることあるにいふ語、又、めくらあたり、まぐれあたり。○〔史〕「愚者—・—必有ニ—・—ニ」。
（一擧兩得）一ぺんなして二つのものをうること。○〔類書纂要〕「爲レ學看ニ文字ニ處レ心靜看即涵養究索之功—・—・—・—」。
（楚人亡楚人得）大概すれば彼れ此れ得失なきこと、家語の例より來たる。○〔家語〕「楚人亡ニ烏號之弓ニ左右請レ求レ之、王曰—・—・—レ之、—・—・—レ之、何求也」。

【⿰彳戔】セン、ゼン。佐演切 銑
あと（迹）。

【徘】俳に同じ。

【徙】シ。想氏切 紙
㊀うつる。
（い）改まる、かはる。○〔沈約〕「化レ民「而俗—」。
（ろ）處を轉ず。○〔史〕「范蠡三—、成ニ名於天下ニ」。
（は）過ぎ行く。○〔樂府古題〕「行樂無レ使ニ徂齡坐—ニ」。
（に）避く。○〔家語〕「魯有ニ愼潰氏者ニ、奢修踰レ法及ニ孔子爲レ政、越レ境「而—」。
㊁うつす。
（い）うつらしむ（㊀の條參照）。○〔史〕「—ニ富豪茂陵ニ」。
（ろ）ほうりぞけて遠地に遣る。○〔漢〕「免レ湯爲ニ庶人—レ邊」。
（は）取る。○〔國〕「—ニ其大舟ニ」。
㊂こゆ、（踰）。○〔禮〕「—レ月樂」。
（募徙）衆をつのりてうつす。○〔史〕「—ニ—廣饒之地ニ」。
（遷徙）うつる、うつす。○〔史〕「逐ニ水草ニ—・—」。
（轉徙）前に同じ。○〔唐〕「雖ニ—・—莫レ容ニ其姦ニ」。
（拔徙）衆中より引きぬきてうつす。○〔魏〕「—・—以賓ニ關中ニ」。
（落徙）ものびやかにうつる。○〔晉〕「金行—・—」。
（外徙）地方の官職に轉ずること。○〔唐〕「田レ是違—・—不レ得レ入」。

【徙】シ。相支切 支
抵—は、手に擬へて期すること、あてがふ。

【⿰彳東】トウ、ツ。德紅切 東
行く貌にいふ字、ゆく。

【⿰彳立】キフ、コフ。乞及切 緝
—集は、人の衆き貌にいふ語、おほし、又、あつまる。

【⿰彳匋】タウ、ドウ。徒刀切 豪
⿰彳函—は、行く貌にいふ語、ゆく。

【⿰彳函】カン、ゴン。胡男切 覃 胡感切 感
水船に入る、いる

【⿰彳巠】徑の本字。

【徛】キ。丘奇切 支
—一に、徛に作る。
跁を擧げつゝ水中を渡る、わたる。

【徛】キ。渠綺切 紙
たつ、（立）。

【徛】キ、ギ。居義切 寘
石を水中に排べ置きて其の上をかちわたりするものゝ稱、いしばし。○〔爾〕「石杠謂ニ之—ニ」。

【徜】シヤウ。市羊切 陽

―徉は、徘徊に同じ、さまよふ、たちもとほろ。○〔韓愈〕「終ニ吾生一以―徉」。

【御】チ、ヂ。直知切　支
ありく、ゆく、(行)。

【徝】チ、ヂ。竹志切　寘
ほどこす、(施)。

【徝】陟に同じ、のぼす。

【從】ショウ、ジュ。疾容切　冬
㊀したがふ、つく。
(い)可とす、聽き容る。○〔書〕「后―レ諫則聖」。
(ろ)隨す、傍ふ。○〔詩〕「遡洄―レ之」。
(は)逆らはず、反かず。○〔禮〕「婦人幼―レ父、嫁―レ夫、夫死―レ子」。
(に)己れにしたがはしむ、したがす、(前各項參照)。○〔鹽鐵論〕「―ニ八・極一而朝ニ海・内一」。
㊁出處又は來歷を表はすに用ふる字、より。○〔晉〕「不レ聞下人―ニ日・邊一來上」。
㊂南北の方向、たて。○〔史〕「―合則楚王、衡成秦帝」。
㊃蹤に通じ用ふ、あと。○〔史〕「重自刑以絶レ―」。
〔雲從〕くもの如くにつきしたがふ。○〔張説〕「文・物如ニ―・―一」。
〔面從〕まのあたりのみしたがふ、又へつらふことにいふ義。○〔書〕「汝無ニ―・―一」。
〔脅從〕おびやかししたがふ。○〔書〕「―・―罔レ治」。
〔三從〕婦人の他にしたがふべき道をいふ、解は例に詳かなり。○〔禮、註〕「婦・人幼從レ父、嫁從レ夫、夫死從レ子、是故有ニ―・―之義一」。
〔牽從〕したがふ。○〔參同〕「同・類―・―」。
〔適從〕前に同じ。○〔左〕「吾誰―・―」。
〔服從〕前に同じ。○〔禮〕「道合則―・―」。
〔賓從〕客となりてつきしたがふこと。○〔史〕「韓相―・―」。

〔景從〕影の形につくが如くにつきしたがふ。○〔賈誼〕「贏レ糧而―・―」。
〔協從〕かなひさかはぬ。○〔陸倕〕「鼎・筮―・―」。
〔牛從〕うしの後につくことにて牛尾といふに同じ、即ち他の大いなるものにつきしたがふにいふ語。○〔戰〕「寧爲ニ雞口一、不レ爲ニ―・―一」。
〔敬從〕うやまひしたがふ。○〔晏〕「大・小―・―」。

【從】ショウ、ジュ。慈用切　宋
㊀したがふ。
(い)つきて行く、つく。○〔論〕「―レ我者其由歟」。
(ろ)ひきて行く。○〔史〕「―而代レ齊」。
㊁したがひ居る人、とも、つきそひ、そばのもの、近侍、僕隸。○〔後漢〕「車・馬滿レ街、徒―無レ所レ止」。
㊂宗を同じくすること。○〔釋名〕「―・祖・父・母、言從ニ己親・祖一別而下也、亦言隨ニ從己祖一以爲レ名也」。
㊃縱に同じ、ほしいまゝ、はなつ。○〔禮〕「―レ之純・如也」。
〔扈從〕後につきしたがひ行く、又、其の者。○〔漢〕「―・―橫行」。
〔騶從〕はせてつきしたがひ行く、又、其の者。○〔蘇軾〕「―・―傳呼出ニ跨坊一」。
〔傔從〕從者のこと。○〔唐〕「―・―至ニ刺・史將・軍一者敢・丁人」。
〔導從〕さきともと從者とのこと。○〔齊〕「―・―鹵・簿、皆用ニ廟・小一」。
〔徒從〕かちたちにて從ひ行く、又、其の者。○〔後漢〕「―・―無レ所レ止」。
〔隨從〕したがひ行く。○〔魏〕「時太・祖適近・出、瑀―・―」。
〔騎從〕馬上にてしたがひ行く、又、其の者。○〔晉〕「敦導及諸名・勝皆―・―」。
〔陪從〕貴人にしたがひ行く。○〔齊〕「唯疑―・―」。
〔翼從〕まもりて從ひ行く。○〔舊唐〕「以爲ニ―・―一」。
〔衞從〕前に同じ。○〔陶弘景〕「龍・虎―・―」。
〔後從〕うしろにつき從ふ、又、其の者。○〔通典〕「以爲ニ―・―一」。
〔禁從〕天子につき從ふこと、又、其の者。○〔墨莊漫錄〕「任ニ―・―一、自ニ德・夫一始」。

【從】シウ、シュ。之由切　尤
―徉は、行く貌にいふ語。

【從】ソウ、ス。祖動切　董　サウ、ソウ。鏦江切　江
高く大いなる貌にいふ字、たかし。○〔禮〕「爾無ニ―・―爾一」。

【彳松】ショウ、シュ。息恭切　冬
行きて恐るゝ貌にいふ字、おそる。

【徠】來に同じ。○〔漢〕「天・馬―從ニ西・極一」。

【御】ギョ、ゴ。魚據切　御
㊀車をひく馬を或はイせ或は卸す、馬を使ふ。○〔史〕「繆・王使ニ造・父―一」。
㊁馬を使ふこと、馬術。○〔禮〕「講レ武習ニ射・―角・力一」。
㊂馬を使ふ者、べつたう、廏丁、馭者、馬丁。○〔詩〕「徒―不レ驚」。
㊃統ぶ、治む。○〔賈誼〕「振ニ長・策一以―ニ宇・内一」。
㊄制す、とゞむ。○〔蜀〕「終難ニ制―一」。
㊅つかさどる、(主)。○〔禮〕「長曰ニ能―一矣、幼曰レ未レ能レ―也」。
㊆つかさ、官吏。○〔左〕「天・子有ニ日・官一、諸・侯有ニ日―一」。
㊇勸進す、すゝむ。○〔禮〕「―ニ食于君一」。
㊈つかふ、(使)、もちふ、(用)。○〔楚辭〕「腥・臊並―」。
㊉はべる、(侍)。○〔書〕「―ニ其母一以從」。
⑪寢處にて幸す、(特に、君王にいふ)。○〔張衡〕「斥ニ西・施一而弗レ―兮」。
⑫衣服、飲食、車馬など、卽ち、すゝむる物、使用する物、(特に、天子にいふ)。○〔禮〕「千・里之内以爲レ―」。
⑬そばのもの、めしつかひ、近侍、宦豎。○〔國〕「奉ニ槃・匜一以隨ニ諸―一」。
⑭妃嬪、女官、又、妻妾にもいふ。○〔周〕「以ニ婦・職之法一教ニ九―一」。
⑮君王に關する物事の敬稱に用ふる字、おん。○〔左〕「命ニ周・人一出ニ―書一、俟ニ于宮一」。
⑯ふせぐ、(禦)。ふせぐ用意とす、あつ。○〔詩〕「我有ニ旨・蓄一、亦以―レ冬」。
⑰よる、(憑)。○〔曹植〕「臨レ牖―ニ欞・軒一」。
⑱ならし養ふ。○〔左〕「其後有ニ劉・累一、學ニ擾レ龍于豢・龍・氏一、以事ニ孔・甲一、能飲ニ食之一、夏・后嘉レ之、賜レ氏曰ニ―・龍一」。
〔侍御〕おそば。○〔書〕「正ニ于―・―之臣一」。
〔進御〕すゝむ。○〔周、註〕「御謂レ―ニ于王一也」。
〔緝御〕つゞきてはんべる者。○〔詩〕「授レ几有ニ―・―一」。
〔傅御〕王を輔佐する者。○〔詩〕「王命ニ―・―一、遷ニ其私・人一」。
〔能御〕馬を善く使ふ、又、其の者。○〔韓詩外傳〕「執レ轡如レ組、兩・驂如レ舞、―・―也」。
〔良御〕前に同じ。○〔詩〕「又―・―忌」。
〔善御〕前に同じ。○〔晉〕「―・―者必識ニ六・轡盈・縮之勢一」。
〔女御〕王にはべる婦官のこと。○〔隋〕「―・―及皇・太子」。
〔服御〕衣服車馬など。○〔戰〕「無レ非ニ大・王之―・―一」。
〔僕御〕ともべ、馭者。○〔史〕「乃爲ニ人―・―一」。
〔登御〕すゝみはべる、又、車にのりて馭すること、又、天位に卽き統治すること。○〔韓愈〕「賢・能日―・―」。
〔嬪御〕女官。○〔晉〕「―・―有レ序」。
〔妾御〕そばめ。○〔禮〕「妻不レ在、―・―莫ニ敢當一レ夕」。
〔媵御〕前に同じ。○〔後漢〕「淫・侈滋甚、―・―數百」。
〔嬖御〕寵愛のそばめなど。○〔宋〕「毋下以ニ―・―一疾ニ莊・士一上」。
〔訓御〕教へをさむ。○〔國〕「以―ニ―之一」。
〔臣御〕臣妾といふに同じ。○〔國〕「男・女服爲ニ―・―一」。
〔控御〕制馭す。○〔晉〕「短手―・―一」。

〔配御〕后妃となりはんべること。○〔漢〕「于レ禮不レ宜ト一ニ一至-尊ニ」。
〔僮御〕めしつかひ。○〔後漢〕「勑ニ制一一ニ」。
〔隷御〕前に同じ。○〔唐〕「一一之間」。
〔引御〕天子よりすゝめ近かづけらる。○〔後漢〕「常特被ニ一一ニ」。「不レ一」。
〔綏御〕やすんじ治む。○〔後漢〕「一一之方、其途
〔撫御〕前に同じ。○〔宋〕「充短ニ手一一ニ」。
〔將御〕ひきゐ統ぶ。○〔後漢〕「而無レ所ニ一一ニ」。
〔貢御〕みつぎもの。○〔後漢〕「一一稀簡」。
〔總御〕統べをさむ。○〔魏〕「終能一ニ一皇-機ニ」。
〔督御〕前に同じ。○〔魏〕「綱紀一一、不レ失ニ其〔理ニ」。
〔統御〕前に同じ。○〔唐〕「拙ニ手一一ニ」。
〔駕御〕馬を使ふ、又、人をあつかふ。○〔呉〕「一ニ一英-雄ニ」。
〔臨御〕天子の位に登ること、又、國民を治むるにもいふ。○〔徐陵〕「一ニ一八-荒ニ」。
〔譱御〕お膳。○〔晉〕「而一一豐-旋」。
〔鎭御〕しづめ治む。○〔晉〕「一一有レ方」。
〔供御〕天子にそふ。○〔宋〕「而以ニ次者一一」。
〔移御〕天子の他處へうつること。○〔宋〕「上趣〓ニ大-内ニ、將ニ一一ニ」。「後一一」。
〔入御〕天子の御身に近かづく。○〔尙書大傳〕「然
〔拙御〕わざのつたなき馭者。○〔抱朴子〕「良-駿敗ニ手一一」。「篇」。
〔奏御〕進め奏る。○〔班固〕「兹一一者、千-有-餘-
〔騶御〕馭者。○〔何遜〕「一一或西-東」。
〔膝御〕前に同じ。○〔王維〕「徵爲ニ一一臣ニ」。

【御】ギヨ、ゴ。偶擧切 語
禦に同じ、ふせぐ、とどむ ○〔左〕「季-孫不レ一」。

【御】ガ、ゲ。魚駕切 禡 一に、迓に作る。
むかふ、(迎)。○〔詩〕「百-兩一レ之」。

【待】チ、ヂ。直里切 紙
㊀まつ、(待)。㊁たくはふ、(儲)。㊂そなふ、(具)。㊃望む所ありて往く、ゆく。

【〓】セフ。悉協切 葉

趨り行く貌にいふ字、はしる。

【〓】ケン、コン。苦遠切 阮
徐かに行く、ゆく。

九畫

【徥】シ、ジ。是支切 支
行く貌にいふ字、ゆく。

【徥】シ、ジ。承紙切 紙 タイ、デ。徒駭切 蟹
行く貌にいふ字、ゆく、(朝鮮の語)。

【徥】チ、ヂ。丈尒切 紙
交はり行く、ゆく。

【徥】タイ、デ。度皆切 佳
㊀徃一は、行く貌にいふ語、ゆく。
㊁細かにして容姿の美しきこと、しなやか、たをやか。○〔楊雄〕「秦晉之間、凡細而有レ容謂ニ之魏一、或曰レ一」。

【〓】クワン、グワン。胡管切 旱
徽一は、しづかに行く、あゆむ。

【〓】シヨウ、シユ。主勇切 腫 又、踵に作る。
相迹む、ふむ。

【〓】古文の動の字。

【徦】カ、ゲ。擧下切 馬 居迓切 禡
カク、キヤク。各額切 陌
㊀いたる、(至)。○〔揚雄〕「一、佫、至也、邠、唐、冀、兖、之間曰レ一、或曰レ格」。
㊁假に同じ、かり。
㊂遐に同じ、とほし、はるか。

【徧】ヘン。卑見切 霰
㊀至らぬくまなし、殘るものなし、あまねし。○〔左〕「樂及ニ一一舞ニ」。
㊁あまねく及ぶ、あまねくす。○〔書〕「一ニ于羣-神ニ」。「五-嶽四-瀆ニ」。
㊂あまねく行く、めぐる。○〔漢〕「周ニ一一而不レ遍」。
〔均徧〕公平にゆきわたること。○〔韓詩外傳〕「一
〔壇徧〕みちあまねし。○〔水經、註〕、「一ニ一畿-甸ニ」。

【〓】ジウ、ニユ。忍九切 有
かへす、(復)。

【〓】ヂウ、ニユ。女久切 有
ならふ、(習)。

【〓】セキ、シヤク。七役切 陌
小しくありく貌にいふ字、ゆく。

【〓】カイ、ケ。口皆切 佳
たちもとほろ、又、たちかへる。

【徨】クワウ、ワウ。胡光切 陽
㊀をちこちを歩む、往きつもどりつす、たちもとほろ、さまよふ。○〔鹽鐵論〕「嫫-母飾-姿而矜-夸、西-子彷-一而無レ家」。
㊁いとま、ひま、(閑-暇)。○〔法言〕「忠-臣孝-子偟-乎不レ一」。
〔彷徨〕さまよふ。○〔梁武帝〕「夕獨-處而一一」。
〔徨々〕前に同じ。○〔甘泉賦〕「徒-徊-々以一一」。
〔偉徨〕あわてふためく貌にいふ語。○〔呉越春秋〕「戰不レ勝、走一一」。

【〓】ユ。羊朱切 虞
行く貌にいふ字、ゆく。

【〓】サフ、セフ。山洽切 洽
前條に同じ。

【〓】タウ、チヤウ。恥孟切 敬
馳す、走る。

【〓】シフ。七入切 緝
行く貌にいふ字、ゆく。

【復】フク、ホク。方六切 屋
㊀かへる、もどる。
(い)もとの處へ反る。○〔詩〕「言歸思レ一」。
(ろ)舊の如くになる。○〔漢〕「山崩川竭亡之徵也、美-惡周必一」。
㊁かへす、もどす。
(い)もとの處へ還る。○〔禮〕「君弔則一ニ殯-服ニ」。
(ろ)舊の如くになす。○〔諸葛亮〕「興ニ一漢-室一、還ニ於舊-都ニ」。
(は)重ねてなす、くりかへす。○〔論〕「南-容三ニ一白-圭ニ」。
(は)補ふ、償ふ。○〔漢〕「雖レ有ニ大-令一不レ能レ一」。
(に)酬ゆ。○〔漢〕「嘗有レ恩者皆報-一焉」。
㊂こたふ、こたへ、(答)。○〔書〕「說一ニ于王ニ」。
㊃命を受けたるを爲し了へて其の事情を上申すること。○〔周〕「諸-臣之一」。「而一レ之」。
㊄まをす、(白)。○〔大戴〕「承レ間觀レ色
㊅のぞく、(除)。○〔漢〕「七-大-夫-下、皆一ニ其身及戸一勿レ事」。
㊆亡魂を招くこと。○〔禮〕「招レ魂曰レ一盡ニ愛之道一也」。
㊇複に通じ用ふ、かさぬ、かさなる。○〔史〕「爲ニ一一道一、自ニ阿-房一渡レ渭屬ニ

之成陽ニ●

㊈覆に通じ用ふ、おほふ、おほひ。〇「詩」「陶ー陶穴」。

〔往復〕ゆきかへり。〇〔北〕「陰陽有ニー｜ニ」。
〔習復〕ならひかへす。〇〔國〕「夕而ー｜」。「年」。
〔賜復〕貢役を政府より免除す。〇〔北〕「ーㇾー七
〔給復〕前に同じ。〇〔北〕「ー｜十五年」。
〔興復〕おこしかへす。〇〔後漢〕「ーニー宗統ニ」。
〔匡復〕たゞして元にかへす。〇〔南〕「論ニー｜功ニ」。
〔反復〕くりかへす。〇〔蘇軾〕「人事幾ー｜」。
〔紹復〕繼ぎかさぬ。〇〔書〕「ーニー先王之大業ニ」。
〔回復〕かへる、かへす。〇〔僧德輿〕「成靈諒ー｜」。
〔脩復〕ためかへす。〇〔漢〕「ーニー古化ニ」。
〔平復〕病氣平癒す。〇〔洛陽加藍記〕「祭ニ祀能王ニ、然後ー｜」。「陵ニ」。
〔修復〕つくろふ。〇〔後漢〕「詔ーニー西京園
〔振復〕ふるひかへす。〇〔晉〕「懷ニー｜之志ニ」。
〔蠲復〕賦稅を除きゆるす。〇〔〃〕「ーニー子孫ニ」。
〔雪復〕恥辱をすゝぎかへす。〇〔北〕「志存ニー｜ニ」。
〔收復〕取りかへす。〇〔唐〕「以圖ニー｜ニ」。
〔酬復〕詩歌などの唱和往復をいふ。〇〔唐〕「ー｜頗多」。「地ニ」。
〔恢復〕ひろめかへす。〇〔五〕「苟不ㇾ能ㇾーニー內

【復】　フウ、ブ。浮富切　宥
重ねて、くりかへして、また、（又）、ふたゝび（再）。〇〔詩〕「文王有ニ明德、故夫ー命ニ武王ニ也」。

【𢔶】　ソウ、ス。祖叢切　東　一に逩に作る。
㊀ゆく（行）。㊁かず（數）。

【𢕄】　ウツ、ウチ。王勿切　物
ゆく（行）、又、あわて行く貌にいふ字、あわつ。

【徲】　徲に同じ。

【循】　シュン、ジュン。松倫切　眞
㊀したがふ。

（い）戻り逆らはず。〇〔禮〕「卿大夫以レーㇾ法爲ㇾ節」。
（ろ）よる（依）。〇〔史〕「ーㇾ牆而走」。
㊁善良、すなほ、よし。〇〔耶律楚材〕「長吏求ニ良ー｜ニ」。
㊂次序、ついで、ついでを追ふ、ついづ。〇〔論〕「夫子ー｜然善誘ㇾ人」。
㊃めぐる。
（い）往きてかへる。〇〔史〕「三王之道若ニー環、終而復始」。
（ろ）あまねく歷あるく。〇〔漢〕「遣ニ使者ー｜ニ行郡國ニ」。
㊄なづ。
（い）手にて摩す、さする。〇〔漢〕「數ー々自ー其刀環ニ」。「姓ニ」。
（ろ）慰め安んず。〇〔漢〕「拊ー勉ニ百姓ニ」。

〔徧循〕あまねくしたがふ。〇〔漢〕「是以其事不ㇾ可ニー｜ニ」。「勿ㇾ爭」。
〔蹲循〕あとしざりする貌にいふ語。〇〔莊〕「ー｜
〔緣循〕他にたよりて自立する能はざる貌にいふ語。〇〔莊〕「ー｜偃佒困畏」。

【𢓭】　ヘイ、ビヤウ。步定切　敬
かたはら（傍側）。

【從】　ショウ、シュ。七恭切　冬
步むを緩し、ゆるし、おそし。

【徖】　ショウ、シュ。符勇切　腫
疾き貌にいふ字、さし。

【徐】　ショ。專於切　魚　諸に通じ作る。
月ゆく、めぐる。

【𢕌】　井。雨鬼切　尾
行く貌にいふ字、ゆく。

■十畫■

【徻】　リュウ、ル。力救切　宥
行きて相待つ、まつ、とゞまる。

【𢕟】　サウ、ソウ。蘇遭切　豪
徜の字を見よ。

【𢖩】　セツ、セチ。先結切　屑
物のひらひらと飜る貌にいふ字、又、うごく、ゆるぐ（搖）。〇〔司馬相如〕「媥姺𢖩ー｜」。

【傍】　ハウ、バウ。蒲浪切　漾
㊀附きそひ行く、つく、又其の者、つきびと。〇〔周〕「凡會同軍旅行役共ニ其兵車之牛與ニ其牽ー｜以載ニ公任器ニ」。
㊁傍、又は、彷に通じ用ふ。

【徭】　エウ。余招切　蕭　繇、又、䌛、傜に作る。
公務に役す、えだつ、又、えだつを、えだち。〇〔後漢〕「倫爲ニ鄉嗇夫ニ平ニー賦ニ」。「無ㇾ已」。

〔戍徭〕まもりのえたち。〇〔史〕「賦歛愈重、ー｜
〔更徭〕かはるがはるえたちに就く。〇〔史〕「百萬之家、則二十萬而ー｜租賦出ニ其中ニ」。
〔省徭〕えたちをはぶきて寬大の取扱ひをなす。〇〔南〕「輕ㇾ賦ーㇾ｜」。
〔蠲徭〕えたちをのぞきて使ふことを止む。〇〔舊唐〕「下ニ寬貸之令ニ、ーニ蠲獨之ー｜ニ」。
〔寬徭〕えたちをゆるやかにす。〇〔江總〕「ーㇾー省ㇾ賦」。「ー｜ニ」。
〔雜徭〕くさぐさのえたち。〇〔元〕「詔免ニ儒戶ー｜免ニ其ー｜ニ」。
〔租徭〕年貢とえたちと。〇〔舊唐〕「有ニ材力ニ者、
〔賦徭〕年貢とえたちと。〇〔舊唐〕「輕ニ其ー｜ニ」。
〔丁徭〕えたち、人一人前になればえたちにつかはるゝよりいふ。〇〔宋〕「得ㇾ免ニー｜ニ」。「者」。
〔給徭〕えたちにつかはる。〇〔宋〕「凡ーニー于官
〔代徭〕本人にかはりてえたちにいづ。〇〔宋〕「强ㇾ民出ㇾ息輸ㇾ錢ー｜」。「ーㇾー」。

〔科徭〕えたちを割りあてゝ就かしむ。〇〔宋〕「仍免ニ
〔催徭〕えたちに出でよと促す。〇〔隋 都剌〕「打ㇾ門縣吏夜ーㇾー」。

【微】　ビ、ミ。無非切　微
㊀かすかに認めがたきこと、はつきりと見はれざること、かすか、ほのか。〇〔易〕「知ㇾー知ㇾ彰」。「可ㇾ謂ㇾー也」。
㊁精妙、たへ、いみじきこと。〇〔荀〕「未ㇾ
㊂隱密、ひそか、しのび、みそか。〇〔史〕「ー｜ニ行咸陽ニ」。
㊃ちひさし、ほそし、こまし、（小）。〇〔孟〕「具ㇾ體而ー」。
㊄太だ細小なり、こまかし。〇〔金剛經〕「三千大千世界所ㇾ有ー｜塵是爲ㇾ多不」。
㊅すくなし（少）。〇〔列〕「悲心更ー」。
㊆明かならず、くらし。〇〔左、註〕「近ㇾ日星ー」。
㊇いやし（賤）。〇〔書〕「虞舜側ー｜」。
㊈幽靜、しづか。〇〔張衡〕「淸廟肅以ー｜ー」。
㊉かく（虧）。〇〔詩〕「胡迭而ー」。
⑪おとろふ（衰）。〇〔詩〕「杞小ー｜」。
⑫そぐ（殺）。〇〔禮〕「有ニー｜ㇾ情者ニ」。
⑬うかゞふ（伺察）。〇〔漢〕「使ニ人ー｜ニ知賊處ニ」。
⑭かくる、かくす（匿）。〇〔左〕「白公奔ㇾ山而縊其徒ーㇾ之」。
⑮蔽ふもの、おほひ。〇〔國〕「設ㇾー而薄而觀ㇾ之」。
⑯あらず（非）。〇〔詩〕「ーニ我無ㇾ酒」。
⑰なし（無）。〇〔禮〕「曾子曰、ー歟」。
⑱脚脛の瘡、かさ。〇〔詩〕「既ー且尰」。

〔幾微〕きざしあり、かすかにして現はれざること。〇〔易〕「ー者動之ー」。
〔明微〕かすかなるをあきらかにす。〇〔禮〕「別ㇾ嫌

―レ―」。
〔隱微〕かくれてかすかなること。○〔高適〕「攢峰疊―・―」。
〔湮微〕おとろふること。○〔趙岐〕「堯舜湯文周孔、將遂―・―」。
〔翠微〕(い)山の頂より少しく下れる處の稱。○〔劉〕「山未レ及レ上曰―・―」。
(ろ)山氣、其のうすはなた色なるよりいふ。○〔林逋〕「人家濕―・―」。
〔纖微〕こまやかなること。○〔後漢〕遺脫―・―、指爲大尤。「之明」。
〔照微〕かすかなるを明かにす。○〔後漢〕「隆―・―座也」。
〔紫微〕星の名。○〔晉〕「―・―大帝之座、天子之常居也」。
〔太微〕星の名。○〔晉〕「―・―天子庭也、五帝之座也」。
〔少微〕星の名。○〔晉〕「―・―四星在太微西、士大夫之位也」。
〔扶微〕力少きものを引き立てやる。○〔劉歆〕「輔レ弱―レ―」。「―」。
〔寒微〕かすかなること。○〔陶潛〕「恨晨光之―・―」。
〔貧微〕まづし。○〔何遜〕「財産又―・―」。
〔輕微〕いさゝかなること。○〔駱賓王〕「終韓レ效―・―」。
〔細微〕かぼそし。○〔崔顥〕「雜道虜姬身―・―」。
〔萬微〕萬機といふに同じ、よろづの政治上の事柄。○〔元絳錫陳升之批答〕「輔成―・―」。
〔精微〕いみじきこと、たへなること。○〔禮〕「或者既失其―・―」。「―」。
〔表微〕かすかなるをあらはす。○〔禮〕「君子―レ―」。
〔顯微〕あらはれたると、かすかなると、又、かすかなるをあらはにす。○〔禮〕「有レ―有レ―」。
〔衰微〕おとろふ。○〔史〕「枝葉稍陵夷―・―也」。
〔密微〕こまか、又、ひそか、又、ちづか。○〔後漢〕「昔在帝堯、聰明―・―」。
〔愼微〕事の起こらざる場合に注意し油斷せざること。○〔後漢〕「明者―レ―」。
〔淵微〕深くかすかなること。○〔抱朴子〕「欲レ測―・―、而不レ役レ神」。
〔孤微〕助けなく賤し。○〔益部耆舊傳〕「張嶷出自―・―」。
〔寒微〕賤し。○〔晉〕「彥出レ白―・―」。
〔深微〕奥ふかくかすかなり。○〔南〕「至道―・―」。
〔至微〕極めてかすかなること。○〔淮〕「―・―神明弗レ能レ領也」。「―」。
〔賤微〕いやし。○〔閻朝隱〕「菲形陋質雖―・―」。

【徯】ケイ、ガイ。弦雞切 齊

㊀一に、蹊に作る、まつ、(待)。○〔書〕「―予后」。

㊁蹊に通じ用ふ、こみち。○〔漢〕「矰弋不レ施於―隧」。

〔鵁徯〕(動)鳥の名。○〔山海經〕「甂臺之山有レ鳥名曰―・―」。

【徯】ケイ、ガイ。胡禮切 薺

前條の㊀に同じ。

【徿】

遘に同じ。

十一畫

【𢕟】シュツ、シュチ。疏聿切 質

行く貌にいふ字、ゆく。

【復】

復の本字。

【徱】

慓に同じ、はやし。○〔王延壽〕「性―・儇以猛疾」。

【徲】テイ、ダイ。陳兮切 齊

㊀ひさし、(久)。

㊁往き來する貌にいふ字。

【𢔶】シュ、ス。尺主切 麌

ゆく、(行)。

【徸】シヤウ、サウ。諸良切 陽

―徨は、行くに正しからず、まがる。

【𢕒】シヤウ、サウ。之亮切 漾

―徨は、行くにあわつる貌にいふ語、あわつ、うろたへさわぐ。

【徥】シツ、シチ。思七切 質

―循は、ゆるぐ、うごく。

【𢖍】サン、ソン。桑感切 感

鎭―は、動く。

【𢕔】サン。蘇暫切 勘

行く貌にいふ字、ゆく。

【𢕪】セン。相然切 先

行く貌にいふ字、ゆく。

【𢕮】サク、シヤク。士革切 陌

容貌の尋常なる人、つれ、なみ。

【徴】

徵に同じ。

【𢖗】サイ、セ。倉回切 灰

行くに急ぐ貌にいふ字、いそぐ、せく。

【𢔵】バウ、マウ。迷省切 梗

人の名。

【𢕂】チヨク、チキ。丁力切 職

―滴は、水少なし。

【𢕯】チ。陟利切 寘

ほどこす、(施)。

十二畫

【徵】チヨウ。知陵切 蒸

㊀めす、(召)。○〔國〕「唯官是―」。

㊁なる、(成)。○〔淮〕「故聖人見レ化以觀其―」。「也」。

㊂あきらかにす、(明)。○〔左〕「且―レ過其來―也」。

㊃こふ、(問)。○〔左〕「寡人是―」。

㊄しるし。

(い)效驗、きゝめ。○〔中〕「久則―」。

(ろ)兆候、きざし。○〔漢〕「純百家之象、候善惡之―」。

(は)證據、あかし。○〔左〕「此其―也」。

㊅をさむ、(斂)。○〔周〕「以レ時―其賦」。

㊆もとむ、(求)。○〔史〕「物賤之―レ貴」。

㊇懲に通じ用ふ、こらす。○〔荀〕「且―其來―也」。

〔庶徵〕もろ〳〵のしるし。○〔漢〕「―・―序于下、日月理于上」。
〔休徵〕めでたきしるし。○〔漢〕「―・―之應見」。
〔瑞徵〕前に同じ。○〔司馬相如〕「厥塗靡レ蹤、天―之―」。
〔美徵〕前に同じ。○〔晉〕「大同之―・―」。
〔景徵〕前に同じ。○〔謝靈運〕「符瑞―・―」。
〔三徵〕みたび召さる、又、しば〳〵召さる。○〔後漢〕「前後―・―、皆以直諫不レ合」。「―・―也」。
〔壽徵〕命の長きしるし。○〔詩、箋〕「黃髮臺背皆壽―・―也」。
〔鼓徵〕たいこをもて示す合圖。○〔禮〕「大昕―・―、所以警衆也」。
〔納徵〕(い)婚姻の緣を結びたりといふしるしを入るゝこと、ゆひなふ。○〔儀〕「―・―玄纁束帛儷皮、如納吉禮」。
(ろ)取り立つること。○〔漢〕「所益―・―錢千萬」。
〔愛徵〕めでいつくしむしるし。○〔左〕「亡無―・―、可レ謂レ無レ德」。「群」。
〔惡徵〕あしきしるし。○〔左、疏〕「皆以―・―爲レ「至」。
〔官徵〕政府のめし、又、官府の取り立て。○〔舊唐〕「化誘倍急、切於―・―」。「也」。
〔貴徵〕たふときしるし。○〔史〕「高帝曰、此―・―」。
〔兵徵〕いくさのおこるしるし。○〔漢〕「吉商有―・―」。
〔速徵〕すきやかにめし出たす。○〔後漢〕「―・―不レ至」。
〔累徵〕前に同じ。○〔遼〕「―・―皆以疾辭」。
〔特徵〕他に異なりたるしるし。○〔後漢〕「漢宜蒙―・―以示四方」。
〔禮徵〕ゐやを盡くして召し出たす。○〔吳〕「孫權聞其名、備以―・―」。
〔効徵〕しるし。○〔南〕「四靈―・―」。
〔奇徵〕くすしきしるし。○〔北〕「宗曰、此―・―也」。

〔冥徵〕かくれたるしるし。○〔舊唐〕「——不レ爽」。
〔急徵〕いそぎて召し出だす。○〔方干〕「早晩ニ——一來ニ鳳-沼一」。
〔符徵〕しるし。○〔庾信〕「月-德——」。
〔橫徵〕はしいまゝに取り立つること。○〔元稹〕「——暴-賦、不レ奉ニ典-常一」。
〔暴徵〕前に同じ。○〔白居易〕「急-斂ト——ニ求ニ考-課一」。
〔重徵〕おもき租税の取り立て。○〔戴復古〕「逐レ利謗ニ——一」。

【徵】チ。陟里切　〔紙〕

㊀五音の一、心より出でゝ齒を合せ吻を開きて發する音。○〔禮〕「孟-夏之月其音——」。
㊁さいはひ（祉）。○〔風俗通〕「——者祉也、物盛-大而繁-祉也」。
〔宮徵〕宮、商、角、徵、羽の音を五音といひその中宮と徵との音を和合音と稱して互に相和ぎたる音とす。○〔杜甫〕「金-管迷ニ——一」。
〔變徵〕常に事かはりたる徵の聲。○〔史〕「荊-軻和而歌、爲ニ——之聲一」。
〔激徵〕雅曲の名。○〔舞賦〕「揚ニ——一、騁ニ清-商一」。
〔正徵〕たゞしき徵の音。○〔唐〕「因ニ變-徵一爲ニ——一」。

【徵】征に通じ用ふ。○〔史〕「非ニ教-士一不レ得レ從レ—」。

【僑】ケウ。巨天切　〔篠〕

行く貌にいふ字。

【徽】クヮン。苦管切　〔旱〕

徐かに行く、ゆく。

【徶】ヘツ、ベチ。蒲結切　〔屑〕

衣服のひらひらする貌にいふ字。

【德】トク。多則切　〔職〕

㊀道。○〔老〕「常-—不レ離、復ニ歸於嬰-兒一」。
㊁正義、善道。○〔論〕「中-庸之爲レ—、其至矣哉」。
㊂道義に適ふこと、正善の行。○〔荀〕「崇ニ人之—一、揚ニ人之美一」。
㊃正の極、至善、無上道、衆理の綱要。○〔莊〕「通ニ天-地一者—也」。
㊄得ること。○〔老〕「—者同ニ於—一、失者同ニ於失一」。
㊅心に得て行ひに見はるゝこと。○〔中〕「—爲ニ聖-人一」。
㊆行爲、おこなひ、節操、みさを。○〔論〕「大-—不レ踰レ閑、小-—出-入可也」。
㊇本性、天賦。○〔莊〕「修ニ于—一」。
㊈功用、勢力。○〔中〕「鬼-神之爲レ—、其盛矣乎」。
㊉名譽、威望。○〔孔融〕「聲-—發-聞」。
⑪教化。○〔禮〕「布レ—和レ令」。
⑫感化。○〔韓愈〕「薰ニ其—一善-良者數-千-人」。
⑬利得。○〔國〕「下非ニ地—一」。
⑭恩惠、めぐみ。○〔詩〕「既飽以レ—」。
⑮幸福、さいはひ。○〔禮〕「百-姓之—也」。
⑯恩に感ずること。○〔左〕「然則—レ我乎」。
⑰恩を施すこと。○〔孟〕「又從而振ニ—之一」。
⑱賢者、君子、正善なる人。○〔書〕「佑レ賢輔レ—」。
⑲四時の旺氣。○〔禮〕「某日立-春盛-—在レ木」。
⑳星の名、塡星。○〔漢〕「陛-下建ニ漢-家封-禪一、天其報ニ—星一」。
㉑のぼる（升）。○〔禮〕「—レ車結レ旌」。
〔天德〕（い）天道。○〔禮〕「聰-明聖-智達ニ——一者、其孰能知レ之」。（ろ）自然。○〔莊〕「古之君ニ天-下一無-爲也、——而已」。（は）天子の德。○〔陳後主〕「日-月光ニ——一」。
〔舊德〕（い）むかしより積みかされたる德。○〔左〕「復修ニ——一、以追ニ念前勳一」。（ろ）年老いたる正善人。○〔唐〕「稱ニ——一者必以レ寬爲レ首」。
〔文德〕武德の反。○〔左〕「兵之設久矣、所下以威ニ不-軌一而昭中——上也」。
〔儉德〕物事に放恣ならざる行ひ。○〔書〕「愼ニ爾——一、惟懷ニ永-圖一」。
〔不德〕德となさざること、又、德ならざること。○〔易〕「有レ功而—レ—」。
〔否德〕德にたがふこと。○〔書〕「——忝ニ帝-位一」。
〔玄德〕深遠なる道、又、淸き善美の行ひ。○〔書〕「——升聞、乃命以レ位」。
〔惇德〕あつき行ひ。○〔後漢〕「率ニ——一以厲ニ忠-孝一」。
〔醜德〕恥づかしき行ひ。○〔書〕「惟有ニ——一」。
〔耆德〕老成にして善美なる行ひある人。○〔書〕「遠ニ——一比ニ頑-童一」。
〔恩德〕惠み。○〔漢〕「施ニ——一賜ニ民-爵一」。
〔積德〕つみかさねたる德。○〔書〕「汝有ニ——一」。
〔爽德〕道に違へること。○〔書〕「故有ニ——一、自レ上其罰レ汝」。
〔惡德〕あしき德。○〔書〕「爵罔レ及ニ——一、惟其賢」。
〔穢德〕けがれたる德。○〔書〕「——彰聞」。
〔令德〕よき行ひ。○〔書〕「宜レ兄宜レ弟、——壽-豈」。
〔逸德〕すぐれたる德。○〔書〕「天吏——、烈ニ于猛-火一」。
〔失德〕（い）あしき行ひ。○〔詩〕「民之——」。（ろ）善美なる行ひをなくなす。○〔莊〕「—レ—而後仁」。
〔懿德〕おほいなる德。○〔詩〕「好ニ是——一」。
〔陰德〕人知れずなす善美の行ひ。○〔周〕「此天-下之——也」。
〔婦德〕婦人たるにかなひたる善美の行ひ。○〔北〕「公-主有ニ——一」。
〔薄德〕うすき德。○〔左〕「義-士猶曰ニ——一」。
〔涼德〕前に同じ。○〔左〕「號多ニ——一」。
〔悖德〕道にはづれたるあしき行ひ、又、道にもとる。○〔孝〕「不レ愛ニ其親一而愛ニ他-人一者、謂ニ之——一」。
〔武德〕文德の反、威武の德。○〔史〕「遂發ニ討-師一、奮ニ揚——一」。
〔遺德〕（い）至らぬ所あるめぐみ。○〔漢〕「上-下驩-欣、靡レ有ニ——一」。（ろ）以前よりのこしおかれたる德。○〔班彪〕「承ニ祖考之——一兮」。
〔宿德〕むかしよりの德、又、年老いたる正善人。○〔漢〕「皆名-儒——爲レ之」。
〔休德〕善美なる行ひ。○〔漢〕「可ニ以彰ニ先-帝之洪業——一」。
〔逆德〕道に從はざる行ひ。○〔漢〕「怒者——也」。
〔邁德〕すぐれたる德。○〔晉〕「三-皇——」。
〔俊德〕前に同じ。○〔書〕「克明ニ——一以親ニ九-族一」。
〔勳德〕いさをと善美なる行ひと、又、いさを。○〔晉〕「以ニ——一兼-茂一、封ニ宣-城-公一」。
〔成德〕成し遂げたる德、又、心正しく人道にかなひたることを遂げなす。○〔易〕「君-子以ニ——一爲レ行」。
〔厚德〕あつき行ひ、又、あつきめぐみ。○〔國〕「唯——者能受ニ多-福一」。
〔明德〕（い）あきらかにして人道にかなひたる行ひ。○〔書〕「丕顯ニ文-武一、克愼ニ——一」。（ろ）くもりなき本性。○〔大〕「在レ明ニ——一」。
〔至德〕こよなき正しき德。○〔禮〕「天-道至-教、聖-人——」。
〔道德〕人の行ふべき正善の道。○〔易〕「和ニ順于——一」。
〔孝德〕父母に事ふる道、又、父母によく事ふる行ひ。○〔漢〕「淸-明鬯矣、皇-帝——」。
〔累德〕（い）善美なる行ひの邪魔となる、又、惡しき行ひ。○〔莊〕「惡、欲、喜、怒、哀、樂六者——也」。（ろ）善美なる行ひを積みかさぬ。○〔史〕「西-伯積レ善——」。
〔達德〕（い）何れの場合に限らずあまねくたふとばるゝ德。○〔禮〕「知仁勇三者、天-下之——也」。（ろ）德あるものを滯らしめず上位に引き擧ぐ。○〔白虎通〕「尊レ賢——」。（は）其德に至る。○〔禮〕「—ニ神-明之——一」。
〔女德〕をなごたるに適へる行ひ。○〔左〕「——無レ極」。
〔聖德〕ひじりの德。○〔史〕「高-陽有ニ——一」。
〔頌德〕德をほめとなふ。○〔北〕「立レ碑——」。
〔謙德〕人にへりくだりて高ぶらざる善美の行ひ。○〔史、自序〕「景-公——、熒-惑退-行」。
〔五德〕木火土金水、卽ち、五行。○〔史〕「明ニ——之傳一」。
〔一飯德〕一たび飯を振舞ひくれたるめぐみ、わづかばかりのめぐみ。○〔史〕「——之—必償」。
〔無怨無德〕うらみを受けたることもなく、めぐみを受けたることもなし、卽ち、普通一般の交りにいふ語。○〔左〕「——、不レ知レ所レ報」。

【徸】ショウ、シュ。昌容切 [冬]
行く貌にいふ字。

【徹】テツ、デチ。直列切 [屑]
㊀周時代の井田の税法、田九百畝を井の字形に九等分して中央を公田とす、中二十畝を廬舍となし殘る八十畝を周圍の田を受けたる八家より十畝宛の耕作を分擔し、其の收穫を租税となすもの、故に私田の百畝に對して什分の一の賦課法といふ。〇〔孟〕「周人百畝而—」。
㊁とほる。
(い)うら表へ突き貫く。〇〔黃庭堅〕「如三快劍斫レ陣、强弩射二千里一、所レ當穿—」。
(ろ)達す。〇〔柳宗元〕「公化所レ—、土石蒙レ烈」。
㊂とほらす、とほす。〇〔左〕「養由基蹲レ甲而射レ之、—二七札一」。
㊃あきらか、(明)。〇〔關尹〕「胡然——爾」。
㊄はぐ、(剝)。〇〔詩〕「—二彼桑土一」。
㊅をさむ、(治)。〇〔詩〕「—レ田爲レ糧」。
㊆すつ、さる、(去)。〇〔左〕「軍衞不レ—レ警」。
㊇こぼつ、(毀)。〇〔詩〕「—二我牆屋一」。
㊈つらなる、(列)。〇〔蔡邕獨斷〕「羣臣異姓有二功封一者、稱曰二—侯一」。
〔目徹〕めのよく物事にとほること。〇〔莊〕「目—爲レ明」。
〔高徹〕たかくすぐれてあきらかなること。〇〔世說〕「太尉神姿——」。
〔疏徹〕すきとほること。〇〔嵆康〕「——開明」。
〔淸徹〕きよくあきらかなること。〇〔書、疏〕「故心——而審察也」。
〔感徹〕我が誠の他の物にとほること。〇〔後漢〕「爲レ民祈レ福、精誠感到、未レ有二——一」。
〔朗徹〕ほがらかにとほる、又、容貌のうつくしきにいふ語。〇〔淮方生〕「塵穢皆——」。
〔通徹〕とほる。〇〔魏〕「晝夜誦レ之、旬有五日、二皆——」。
〔貫徹〕とほる。〇〔金〕「幸不二——一、得レ不レ成レ禍」。
〔洞徹〕通じあきらかになる。〇〔金〕「自レ是——二其術一」。
〔聖徹〕透明にして知らざるなきこと。〇〔漢〕「——過レ人」。
〔映徹〕うつりとほる。〇〔世說〕「足三以——二九原一」。
〔瑩徹〕すきとほる。〇〔海錄碎事〕「胡中有レ鹽、——如二氷晶一」。
〔峻徹〕すぐれてあきらか。〇〔沈約〕「弱齡便神玉——」。
〔透徹〕すきとほる。〇〔杜甫〕「溪光初——」。

【[illegible]】サフ、ソフ。悉合切 [合]
シフ。先立切 [緝]
㊀行く貌にいふ字、又、もろもろの行く貌にもいふ字。㊁言聲の疾き貌にも、多き貌にもいふ字。〇〔嵆康〕「紛—譶以流漫」。

【[illegible]】カン。火陷切 [陷]
あやふし、(危)。

【[illegible]】タイ、テ。陟卦切 [卦]　タ。陟嫁切 [禡]
たちやすらふ、たゞずむ。

【[illegible]】テン、デン。徒念切 [豔]
[illegible]—は、行く貌にいふ語。

【[illegible]】古文の遵の字。

十三畫

【徻】ワイ、エ。烏外切 [泰]
屋宇高くして明かなること、ほがらか、あきらか。

【[illegible]】タツ、ダチ。他達切 [曷]
㊀のがる、(逃)。㊁行きて相遇はず。

【[illegible]】クワイ、ケ。呼外切 [泰]
室宇顯敞なり、ほがらか、あきらか。

【[illegible]】タン、テン。知山切 [刪]
㊀はしる、(走)。㊁かくる、(藏)。

【[illegible]】セン、ゼン。時豔切 [豔]
あるくとの速かなる貌にいふ字、はやし、はしる。

【[illegible]】還に同じ。

【徼】ケウ。吉弔切 [嘯]
㊀めぐる、(循)。〇〔漢〕「掌レ—二循京師一」。
㊁邊塞、くにざかひ。〇〔史〕「南至二牂牁一爲レ—」。
㊂微妙、たへ。〇〔老〕「常有レ欲三以觀二其—一」。
㊃小さき道、こみち。〇〔班固〕「—道綺錯」。
〔游徼〕みまはりする兵士。〇〔後漢〕「少爲二[illegible]亭長——一」。
〔行徼〕めぐる。〇〔史〕「—二—邯鄲中一」。
〔外徼〕くにざかひ。〇〔史〕「屬二遼東——一」。
〔塞徼〕邊塞のこと。〇〔漢〕「建二——一起二亭隧一」。
〔關徼〕關塞の關門。〇〔漢〕「——不レ閉」。
〔周徼〕めぐる。〇〔顏延之〕「別殿——」。
〔警 〕いましめめぐる。〇〔潘岳〕「鉤陳夜——」。

【徼】ケウ、ゲウ。古堯切 [蕭]
㊀もとむ、(要)。〇〔左〕「—二福於太公一」。㊁かすむ、(抄)。〇〔論〕「惡二—以爲レ知者一」。

【徼】エウ。伊消切 [蕭]
さへぎる、(遮)。〇〔司馬相如〕「—レ𧈅受レ詘」。

十四畫

【[illegible]】デイ、ニヤウ。乃定切 [徑]
行く貌にいふ字。

【徽】キ。許歸切 [微]
㊀むかばき、きやはん、(衺•幅)。
㊁よし、(善)、うつくし、(美)。〇〔詩〕「君子有二—猷一」。
㊂よくあらしむ、よくす。〇〔書〕「愼—二五典一」。
㊃琴の絃を支ふるもの、ことぢ、琴節。〇〔漢〕「高張急レ—」。
㊄琴を鼓す、ひく。〇〔淮〕「鄒忌一—而威王終夕悲感於憂」。
㊅三糾(みつより)の繩、又、おほなは、おほづな、(大索)。〇〔易〕「繫用二—纆一」。
㊆幑に通じ用ふ、はたじるし。〇〔揚雄〕「—車輕武」。
㊇褘に通じ用ふ、にほひぶくろ、(香纓)。〇〔張衡〕「揚二雜錯之褘—一」。
㊈—嫿は、奔馳する貌にいふ語。〇〔馬融〕「——嫿霍奕」。
〔淸徽〕きよらかに善きこと。〇〔晉〕「——雅量」。
〔纆徽〕おほなは。〇〔揚雄〕「牽二于——一」。
〔彈徽〕琴をたんず。〇〔楚辭〕「挾二秦箏一而——」。
〔高徽〕たかき琴のぢ。〇〔陸機〕「哀響逐二——一」。
〔徽徽〕うつくしき貌にいふ語。〇〔文賦〕「文——以溢レ目」。
〔綠徽〕みどり色のはた。〇〔閒居賦〕「玄幙——」。
〔黏徽〕大いなるなは。〇〔西征賦〕「解二顇鯉於——一」。
〔英徽〕すぐれてよし。〇〔齊太廟樂歌〕「——彌亮」。
〔鴻徽〕大いなる善。〇〔司馬光〕「萬古播二——一」。

【[illegible]】テウ、デウ。徒了切 [篠]
行く貌にいふ字。

【𢕱】古文の徹の字。

【𢕝】ヘイ、ビヤウ。傍丁切 [青] 一に、𢓭に作る。つかふ(使)。

十五畫

【𢖍】ショク、ゾク。松讀切 [沃] 行きてとゞまらず。

【𢖏】サン、ザン。昨丸切 [寒] ―伭は、途を失ふ貌にいふ語、踏みまよふ。

十六畫

【𢖺】リヨウ、リユ。良用切 [宋] 行くに正しからず、まがる。

【𢖻】ロウ、ル。盧孔切 [董] ―侗は、眞直に行く。

【𢖾】ケン、コン。許建切 [願] 蹇に同じ、はしる。○〔酉陽雜俎〕「――鑁々」。

十七畫

【𢗃】バウ、ヘウ。巴校切 [效] 一に、儤に作る。漢の制度に、新に官府に到りて宿直を重ぬるを、今俗に、課定の外に課作するを。

【𢗀】セン。先念切 [豔] ―僊は、行く貌にいふ語。

【𢖶】サン、ゼン。士咸切 [咸] 齊しからざるを、かたいがひ。

【𢖋】イユウ、イユ。以周切 [尤] 行――は、ありく、ゆく。

【𢗅】シヤウ、サウ。思將切 [陽] ―徉は、たちもとほろ、一說に、行く貌にいふ語。

十八畫

【忂】ク、ゴ。權俱切 [虞] 俱遇切 [遇] 行く貌にいふ字。

【𢗆】タイ、デ。度皆切 [佳] 頭の垂るゝ貌にいふ字。

十九畫

【𢗈】蹝に同じ、おそし。

二十畫

【𢗊】カク、キヤク。屈縛切 [藥] 行く貌にいふ字。○〔楊雄〕「其志――」。

廿二畫

【𢗏】ダウ、ナウ。乃浪切 [漾] 行く貌にいふ字。

心部（忄）

【心】シン。息林切 [侵]

㊀こゝろ。

(い)五臟の一、志んのざう。○〔素問〕「―者五臟之專精也」。

(ろ)意識感情の府。○〔荀〕「―者形之君也而神明之主也」。

(は)考へ、思ひ、所存、志望。○〔詩〕「他人有レ―、予忖二度之一」。

㊁むね(胸)。○〔莊〕「西施病レ―」。

㊂原因、根底。○〔易〕「復其見二天地之―一乎」。

㊃訓義、わけ。○〔呂氏春秋〕「以レ章則有二異――一」。

㊄中央、まなか。○〔古歌〕「日出當レ―」。

㊅まなかにある物。○〔南〕「菜不レ食レ―」。

㊆二十八宿の一、なかご。○〔史〕「熒惑守レ―」。

〔人心〕(い)人のこゝろ、たみのこゝろ。○〔孟〕「我亦欲レ正二――一」。(ろ)氣質、人慾、(儒家の說)。○〔書〕「――惟危」。

〔道心〕理性、良能、(儒家の說)、又、佛家にては、菩提心。○〔書〕「――惟微」。

〔點心〕定まりたる食事と食事との間に菓子などを食ふこと、間食、あひだぐひ、むねに點むるの義。○〔唐〕「吾未レ及レ餐、爾且――」。

〔天心〕(い)天帝のこゝろ。○〔書〕「克享二――一」。(ろ)天のまなか。○〔邵雍〕「月到二――一處」。

〔同心〕(い)おなじきこゝろ、又、こゝろをおなじくす、轉じて、契交、ちぎり。○〔易〕「二人―レ―」。(ろ)中にある物を同じくすること、もと一なること。○〔梁簡文帝〕「挂二―――之明燭一」。

〔多心〕こゝろ多く定まらざること。○〔漢〕「信者固―――乎」。

〔洗心〕こゝろをあらひきよむ。○〔易〕「聖人以レ此―レ―」。

〔洒心〕前に同じ。○〔莊〕「―レ―去レ欲」。

〔一心〕(い)他に向かはざる專らなるこゝろ、又、心をひとつにして離れしめざること。○〔書〕「永肩二――一」。(ろ)いろ〳〵の外物に對して、單にこゝろの稱。○〔莊〕「――定而萬物服」。

〔專心〕前の(い)に同じ。○〔孟〕「不二―レ―一致レ志則不レ得也」。

〔放心〕はなれ去りたるこゝろ、又、こゝろをはなれ去らす。○〔孟〕「求二其――一而已矣」。

〔腹心〕はらとむねとのこと、又、轉じて緊要なる輔佐のこと。○〔詩〕「赳々武夫、公侯――」。

〔善心〕善良なるこゝろ。○〔國〕「思則――生」。

〔褊心〕かたいぢのこゝろ。○〔國〕「維是――」。

〔格心〕たゞしきこゝろ。○〔禮〕「則民有二――一」。

〔留心〕とゞまるこゝろ、又、氣をとむ。○〔史〕「惟大夫――」。

〔遯心〕のがれ去るこゝろ。○〔禮〕「則民有二――一」。

〔鄙心〕いやしきこゝろ。○〔禮〕「而有二――一」。

〔哀心〕かなしきこゝろ。○〔禮〕「其――感者、其聲噍以殺」。

〔愛心〕いつくしみのこゝろ。○〔禮〕「其――感者、其聲和以柔」。

〔喜心〕よろこびの心。○〔禮〕「其――感者、其聲發以散」。

〔懽心〕前に同じ。○〔孝〕「故得二萬國之――一」。

〔喪心〕本心をうしなふ。○〔左〕「哀而樂、樂而哀、皆―レ―也」。

〔甘心〕心に滿足す。○〔左〕「請受而――焉」。

〔童心〕おさなごゝろ。○〔左〕「猶有二――一」。

〔悼心〕かなしみ痛むこゝろ、又、心をいたむ。○〔左〕「―レ―失レ圖」。

〔痛心〕前に同じ。○〔李陵〕「誰不レ爲レ之――哉」。

〔慾心〕欲望。○〔左〕「則民無二――一」。

〔二心〕ふたごゝろ、即ち、他方に心をよすること。○〔左〕「臣無二――一」。

〔兩心〕前に同じ。○〔漢〕「操二持――一」。

〔歸心〕心をよす、又、故郷にかへりたきこゝろ。○〔論〕「天下之民―レ―焉」。

〔快心〕よきこゝろもち、又、心もちをよくす、滿足す。○〔孟〕「然後―レ于レ―與」。

〔野心〕馴服し難きこゝろ、養へばやがて害をなすこゝろ、いやしき慾望。○〔左〕「狼子――」。

〔衆心〕多人數のこゝろ。○〔國〕「――成レ城」。

〔羣心〕前に同じ。○〔後漢〕「參任則――難レ變」。

〔寒心〕おそる、ぞツとする。○〔漢〕「天下――、仰レ上」。

〔盡心〕私のこゝろをなくす。○〔史〕「莫レ不二―レ―一而莫レ安二其處一」。

〔悉心〕こゝろをつくす、つとむ、ほねをる、親切に事を爲す。○〔史〕「予其―レ―」。

〔焦心〕氣をもむ、いらつ。○〔漢〕「―レ―合レ謀」。

〔疑心〕うたがふこゝろ、又、心をうたがふ。○〔呂氏春秋〕「文侯賞二其功一而―二其―一」。

〔赤心〕(い)いつはりなき心、まごゝろ。○〔後漢〕「蕭王推二――一置二人腹中一」。(ろ)あかいろのなかみ。○〔趙整〕「內實有二――一」。

〔丹心〕前に同じ。○〔阮籍〕「――失二恩澤一」。

〔機心〕はたらくこゝろ。○〔莊〕「有二機事一者、必有二――一」。

〔苦心〕こゝろをくるしむ、又、くるしきこゝろ。○〔淮〕「―レ―而無レ功」。

〔誠心〕まことのこゝろ、又、心をまことにす。○〔荀〕「―レ―守レ仁則形」。

(無心) 私慾なきこゝろ、又、何の考もなきこと。○〔淮〕「貸レ土者——而慧」。

(澄心) きよらかなるこゝろ、又、こゝろを濁さゞること。○〔淮〕「——清意以存レ之」。

(清心) 前に同じ。○〔晉〕「省レ事不レ如レ—レ—」。

(會心) こゝろにかなふこと。○〔世說〕「——處不ニ必在レ遠」。

(宿心) かねて思ひをれるこゝろ。○〔嵇康〕「內負ニ——」。

(故心) 前に同じ。○〔何遜〕「——不レ存レ此」。

(安心) 苦勞なきこゝろ、又、こゝろをやすんず。○〔張華〕「——恬淡ニ」。

(淑心) 善きこゝろ。○〔陸雲〕「——綢繆」。

(神心) こゝろ。○〔應貞〕「——所レ授」。

(羈心) 旅のこゝろ。○〔鮑照〕「——苦ニ獨宿ニ」。

(寸心) こゝろ。○〔何遜〕「直在ニ——中ニ」。

(客心) 旅のこゝろ。○〔杜甫〕「蕭然淨ニ——ニ」。

(錦心) にしきの如き美しきこゝろ、主に、文詞などを善くするといふ語。○〔柳宗元〕「——繡口」。

(佛心) ほとけのこゝろ。○〔司空圖〕「理到忘レ機近ニ——ニ」。

(鐵心) くろがねの如き堅固なるこゝろ。○〔皮日休〕「疑ニ其——石腸ニ」。

(協心) こゝろをあはす。○〔書〕「三后——レ—」。

(幷心) 前に同じ。○〔後漢〕「—レ—同レ力」。

(憂心) うれふるこゝろ。○〔詩〕「——悄々」。

(中心) こゝろのうち、又、まなか、又、なかみ。○〔詩〕「——藏レ之」。

(防心) ふせぎのこゝろ。○〔左〕「有ニ——ニ」。

(本心) 天よりうけしまゝのこゝろ、もとのこゝろ。○〔孟〕「此之謂レ失ニ其——ニ」。

(戒心) 不虞に備ふるこゝろ。○〔孟〕「予有ニ——ニ」。

(淫心) みだらなるこゝろ。○〔國〕「民無ニ——ニ」。

(堅心) かたきこゝろ。○〔孟郊〕「——如ニ鐵石ニ」。

(仁心) 仁德のこゝろ。○〔荀〕「以ニ——說」。

(變心) 心をかふ、又、かはりごゝろ。○〔史〕「—レ—易レ慮」。

(愚心) おろかなるこゝろ、又、己がこゝろの謙稱。○〔漢〕「不ニ敢不ニ盡ニ——ニ」。

(危心) あやぶみ懼るゝこゝろ。○〔後漢〕「——恭-德ニ」。

(端心) たゞしきこゝろ。○〔後漢〕「——向レ公」。

(傾心) こゝろをよす。○〔後漢〕「—レ—折レ節」。

(屈心) 前に同じ。○〔後漢〕「天-下——レ—」。

(夙心) もとのこゝろ。○〔高啓〕「重來論ニ——ニ」。

(簡心) こゝろの中にて選ぶ。○〔後漢〕「白-黑—レ—」。

(齊心) こゝろを均しくす、又、ひとしきこゝろ。○〔後漢〕「—レ—合レ衆」。

(貢心) まごゝろ。○〔後漢〕「欲下設ニ開-離之說ニ亂中——上」。

(單心) 助けなきこゝろ。○〔晉〕「豎ニ臣——ニ」。

(異心) かはりたるこゝろ、即ち、そむき去るこゝろ。○〔後漢〕「純恐ニ宗-家懷ニ——」。

(聖心) 天子のこゝろを稱するに用ふる語。○〔晉〕「不レ違ニ——ニ者」。

(負心) 心中の識にそむく。○〔晉〕「尙不レ—レ—」。

(銘心) 記して忘れざること。○〔吳〕「—レ—立レ報」。

(盲心) 事理を解せざること。○〔韓愈〕「——於ニ——ニ者皆是」。

(美心) うつくしきこゝろ。○〔揚雄〕「——爲レ窈」。

(凹心) 中のくぼみたること。○〔輟耕錄〕「晉人多用ニ——硯ニ者」。

(陋心) せまきこゝろ。○〔陸雲〕「在ニ吾儕之——」。「夯」。

(垢心) けがれたるこゝろ。○〔滄方生〕「——焉能歇」。

(波心) なみのなか。○〔道潛〕「角攏ニ明月ニ出ニ——」。

(閨心) 春情、いろけ。○〔王珽〕「二八三五——切」。

(炯心) あきらかなるこゝろ。○〔李白〕「——如ニ凝丹ニ」。

(老婆心) 年寄りたるばゞのこゝろ、ねんごろ過ぎるといふ語。○〔傳燈錄〕「開ニ學人根-思遲-迴乞、曲運ニ慈悲ニ開ニ一-線道ニ、師曰、這箇是——」。

(赤子心) あかごのこゝろ、未だ世の罪惡にけがれぬ自然のまゝなる清淨のこゝろ。○〔孟〕「大人不レ失ニ——ニ」。

(虎狼心) 患害をなすこゝろ、殘忍なるこゝろ。○〔史〕「少レ恩而——」。

(區區心) いさゝかのこゝろ、自家のこゝろの謙稱。○〔李陵〕「——之—竊慕レ之耳」。

(菩提心) 佛果を得んと願ふこゝろ。○〔隋煬帝〕「發ニ念——」。

(木人石心) 感情なき人。○〔晉〕「此吳兒是——」。

(以心傳心) 言語を用ひず文字を立てずして彼れの默示するを此れに默受すること、こゝろよりこゝろにつたふ。○〔傳燈錄〕「佛滅後付ニ法於迦葉ニ、——レ——レ」。

一畫

【必】 ヒツ、ヒチ。卑吉切 質。

一 かならず。
(い)然らざるべからずと定めたる意を表はす字、相違なく、たがひなく、きッと。○〔詩〕「取レ妻如何—告ニ父母ニ」。
(ろ)疑ひもなく、審かに。○〔後漢〕「所ニ與交友ニ—也同志」。
(は)爲すに果して、ためらふをなしに。○〔漢〕「孝宣之治信賞——罰」。
二 專一なること。○〔揚雄〕「節士之—專」。
三 堅く期すること。○〔論〕「毋レ意毋レ—」。

【必】 ヘツ、ヘチ。抃列切 屑 くみいさ、くみを(組)。○〔周〕「天子之圭中—」。

二畫

【忇】 ロク。盧則切 職
一 功大いなり。二 おもふ(思)。

【忈】 ジン、ニン。如鄰切 眞 したしむ(親)、いつくしむ(仁愛)。

【忍】 ギ、ゲ。魚既切 未 カイ、ゲ。魚刈切 隊 いかる(怒)。

【忩】 ガイ、ゲ。魚刈切 隊 こころ、こらす(懲)。○〔晉〕「始皇初幷ニ天下ニ、懲ニ—戰國ニ削ニ罷列侯ニ」。

【忉】 タウ、トウ。都勞切 豪 憂ふる心の貌にいふ字。○〔詩〕「心焉——」。

(慘忉) いたむ。○〔黃潛〕「仍聞恣ニ鞭-箠ニ、——僵ニ膚皮ニ」。

(遠忉) さきのさきまでをも憂ふること。○〔阮漢聞〕「尸-饔切ニ——ニ」。

【忄匕】 ヒ、ビ。符彼切 紙 おさる(劣)。

【忊】 テイ、チヤウ。徒徑切 徑 志を得ざる貌にいふ字、又、うらむ(恨)。

三畫

【忋】 カイ。公在切 賄 たのむ(恃)、あふぐ(仰)。

【忌】 キ、ギ。渠記切 寘
一 いむ、又、いみ。
(い)きらふ(嫌)。○〔周〕「詔ニ王之—諱ニ」。
(ろ)はゞかる(憚)。○〔左〕「民知レ有レ辟、則不レ—ニ于上ニ」。
(は)にくむ(嫉)、又、うらむ(怨)。○〔國〕「小人—而不レ思」。
二 うやまふ(敬)。○〔左〕「非レ羈何—」。
三 いましむ(戒)。○〔書〕「敬—罔レ有ニ擇言在レ身」。
四 死者の命終はりたる日。○〔禮〕「—日必哀」。

(猜忌) それみいむ。○〔魏〕「無レ謀而多ニ——ニ」。

(畏忌) おそれていむ。○〔詩〕「胡斯——」。

(還忌) かへりみはゞかる。○〔左〕「肆行非レ度、無レ所ニ——ニ」。

(顧忌) 前に同じ。○〔漢〕「連切諫不レ從、無レ所ニ——ニ」。

(回忌) 前に同じ。○〔唐〕「上言無ニ——ニ、公-麟浩-然歸レ重」。

(意忌) そねみきらふ。○〔漢〕「弘爲レ人——」。

(鉗忌) いむ。○〔後漢〕「性——能制ニ御群ニ」。

(罪忌) いむべきこと。○〔後漢〕「觸ニ冒——ニ」。

(龍忌) 火を焚くことを禁止する日。○〔後漢〕「舊俗以ニ介子推焚レ骸、有ニ——之禁ニ」。

(怨忌) うらむ。○〔晉〕「本無ニ——ニ」。

(辟忌) はゞかること。○〔後漢〕「而ニ折同刑ニ、言ニ其短長ニ、無レ所ニ——ニ」。「泥ニ于小數ニ」。

(禁忌) いみはゞかるべきこと。○〔後〕「牽ニ于——ニ」、○〔漢〕「人性有ニ

(妬忌) 男女の間のそねみ、りんき。

男-女之情、ーー之別ニ。

〔驕忌〕自家の事はたかぶり他人の事はいむ。○〔後漢〕「后惟驕ーー」。

〔彊忌〕强情にして他人をいむ。○〔後漢〕「后性ーー、後宮莫レ不ニ震慴一」。「之」。

〔深忌〕いたくいみはゞかる。○〔後漢〕「光・武ーー」。

〔譖忌〕いむ。○〔宋〕「當・時無レ所ニーー一」。

〔疾忌〕にくむ。○〔後漢〕「ーニ姦・惡一、數致ニ其罪一」。

〔躔忌〕陰陽術の上にて遠く行くべからざるものとせる日のと。○〔後漢〕「觸ニーー一則寄ニ宿鄕亭一」。

〔悍忌〕をゝしくねぢけて妬み心あり。○〔後漢〕「ーー不レ得レ畜ニ勝・妾一」。

〔嫌忌〕きらひはゞかる。○〔晉〕「擅レ權ーー」。

〔兵忌〕兵法家の勝利なしとていみ嫌ふ日。○〔荀〕「武・王以ニーー一、東・面而迎ニ太・歲一」。

〔患忌〕うれへはゞかる。○〔魏〕「紹ーニー之一」。

〔疑忌〕うたがひそねむ。○〔魏〕「表雖ニ外儒・雅一、而心多ニーー一」。

〔拘忌〕氣にかけはゞかる。○〔晉〕「服・飾・詭・異、無レ所ニーー一」。

〔小忌〕些細なるはゞかり。○〔荀悅〕「除ニーー一、去ニ淫・祠一」。

〔疏忌〕うとんじきらふ。○〔南〕「由レ是ニーー之一」。

〔惛忌〕にくみねたむ。○〔北齊〕「朝、貴・中有ニーー者一」。

〔媢忌〕前に同じ。○〔唐〕「任・公娼レ飾、不レ欲ニ物失一所、無ニーー一」。

〔褊忌〕心せばくして妬む。○〔書〕「除・賊ーー著ニ于心一」。

〔排忌〕おしのけきらふ。○〔五〕「內相ーー」。

〔語忌〕ことばの中にいふをいむべきこと。○〔滄浪詩話〕「有ニーー一、有ニ語・病一」。

【忍】ジン、ニン。而軫切 〔軫〕

㊀志のぶ。
(い)こらふ、㊁に同じ。
(ろ)矯め抑ふ。○〔荀〕「志ーレ私然後公」。
(は)不仁をなすを憚らず。○〔詩〕「維彼ーー心」。

㊁こらふ。
(い)堪ふ。○〔周武王書銘〕「ーレ之須臾、乃全ニ汝軀一」。
(ろ)容す。○〔漢〕「ーレ之、此不レ過レ汗ニ丞-相車茵-耳」。
(は)强む。○〔左〕「魯以ニ相ー一爲レ國」。

㊂自ら瞋恚せず又他を瞋恚せしめずして力勵受行すると、(佛家の言)。○〔六度集經〕「夫ー者萬・福之源也」。

〔不忍〕心に仁愛を存して不仁をなすにたへざる。○〔史〕「君・王爲レ人ーレー」。

〔剛忍〕こはくして不仁。○〔晉〕「處・仲心懷ニーー一、非レ令レ終也」。

〔堅忍〕前に同じ、又、かたくこらふ。○〔漢〕「其人ーー亢・直」。

〔猜忍〕そねみてむごき心を蓄ふ。○〔史〕「起之爲レ人也、ーー人也」。

〔隱忍〕こらへて表に見はさぬ。○〔後漢〕「雖レ有ニ重・戾一、必宜ニーー一」。

〔容忍〕ゆるす。○〔後漢〕「瓚文・武才力足レ恃、固宜ニーー一」。

〔含忍〕前に同じ。○〔晉〕「岡ーニー之一」。

〔忍忍〕こらふと能はぬ。○〔後漢〕「今見ニ君賢者一、情・懷ーー、可ニ亟自逃一」。

〔堪忍〕たへこらふ。○〔魏〕「洪之志・性慷・慨、多レ所ニーー一」。

〔殘忍〕きびしくしてむごし。○〔北〕「故素雖ニーー、士亦以レ此願レ從」。

〔甘忍〕あまんじてこらふると。○〔易林〕「ーニー利・害一」。

〔貪忍〕慾深くしてむごき心を蓄ふ。○〔法訓〕「ーーー者難レ爲レ惠」。

〔鷙忍〕心たけくしておごし。○〔淸異錄〕「天眞ーー、以ニ洪・剛一爲レ樂」。

〔慈忍〕なさけをかくると、諸の苦艱を嘗むると、即ち、佛者のまさに行ふべきところのもの。〔白敏中〕「乃禪・定乎、乃ーー乎」。

【忍】ジン、ニン。耐振切 〔震〕

やはらかにして折れ難し、(堅・柔)。

【㣼】忍に同じ。

【忏】セン。七典切 〔銑〕

いかる、(怒)。

【忏】セン。倉先切 〔先〕

よし、かほよし。○〔揚雄〕「自レ關而西秦晉之間、呼レ好爲レー」。

【忐】タン、トン。吐敢切 〔感〕 カウ、キヤウ。口梗切 〔梗〕

ー忐は、心虚しきと、うつけ。○〔道藏三元經〕「心・々ー・忐」。

【忑】トク、ドク。他德切 〔職〕 タウ、トウ。端討切 〔晧〕

前條を見よ。

【忒】トク、ドク。他得切 〔職〕

たがふ、又、たがひ。
(い)ちがふ(差)。○〔詩〕「昊-天不レー」。
(ろ)かはる(更)。○〔詩〕「鞠レ人忮-ー」。
(は)うたがふ(疑)。○〔詩〕「其儀不レー」。

〔差忒〕たがふ。○〔顏延之〕「衡・石日陳、猶恐ニーー一」。

〔凶忒〕あしくして道にたがふ。○〔陳琳〕「肆行ニーー一」。

〔僭忒〕身分を越えていつはりたがふ。○〔書〕「辟・民用ニーー一」。

〔爽忒〕たがふ。○〔爾〕「晏々旦・々悔ニーー一也」。

〔慝忒〕おこたりたがふ。○〔後漢〕「庶不ニーー一」。

〔縱忒〕恣に道にたがふ。○〔曹毗〕「奸・逆ーー」。

〔謬忒〕あやまりたがふ。○〔韓維〕「有レ詔講ニーー一」。

【忓】カン。古寒切 〔寒〕

きはむ、(極)、又、みだる、(擾)。○〔唐〕「無レーニ時-事一」。

【忓】カン。侯旰切 〔翰〕

よし、(善)、又、みめよし、かほよし、(好)。

【忬】ク。況于切 〔虞〕

㊀うれふ、(憂)。㊁いましむ、(戒)。

【忔】キツ、コチ。許訖切 〔物〕

よろこぶ、(喜)。○〔史〕「ー如ニ巨-人之志一」。

【忔】ギツ、ゴチ。魚乙切 〔質〕

欲せず、きらふ。○〔史〕「數ー食・飲」。

【忥】キツ、コチ。許訖切 〔物〕

癡なる貌にいふ字、おろか。

【忕】タイ、ダ。徒蓋切 〔泰〕

おごる、ほしいまゝ、(侈)。○〔晉〕「劉・毅劾ニ曾侈ーー無レ度」。

【忖】ソン。倉本切 〔阮〕

㊀はかる、(度)、おもふ(思)。○〔詩〕「他人有レ心、予ーニ度之一」。「ー也」。
㊁刌に通じ用ふ。○〔禮註〕「上・環頭ー」。

【恕】ジヨ、ニヨ。如倨切 〔御〕

はかる、(度)。

【忨】コウ、ク。沽紅切 〔東〕

心急なり、きびし、又、いそぐ、せはし。

【志】シ。職吏切 〔寘〕

㊀こゝろざし。
(い)心の之き向かふと、こゝろばせ。○〔論〕「匹・夫不レ可レ奪レー也」。
(ろ)目的、標準、めあて、めど、まと。○〔書〕「若ニ射之有ニー一」。
(は)本心、意中。○〔左〕「謂ニ之宋ー一」。
(に)私意。○〔禮〕「義・歟ー歟、義則可レ問、ー則否」。
(ほ)こゝろばせを表明すると。○

〔禮〕「孔子之喪、公西赤爲レ—」。

❷こゝろざす。

(い)こゝろ之き向かふ。○〔論〕「—二於道一」。

(ろ)めあてと爲す、期す。○〔孟〕「羿之教二人射一、必—二於彀一」。

❸記す、志るす。○〔後漢〕「博聞彊—」。

❹記錄、書誌。○〔周〕「—史掌二邦國之—一」。

❺節義あること、見識あること。○〔孟〕「—士不レ忘レ在二溝壑一」。

❻幟に通じ用ふ、はた。○〔史〕「沛公以二周昌一爲二職—一」。

❼骨にてこしらへたる鏃。○〔爾〕「骨鏃不レ翦レ羽謂二之—一」。

〔得志〕心ざしをとげかなへ、思ふ通りになる。○〔孟〕「—レ—與レ民由レ之」。

〔喪志〕心ざしを失ひて惡しき道に迷ひ入る。○〔書〕「玩レ人喪レ德、玩レ物—レ—」。

〔游志〕心ざしをはしいまゝにして樂しむ。○〔曹植〕「游二大道一以—レ—」。

〔內志〕內部に向ひてこゝろざしあること、即ち、君位を奪はんとする心ざしなど。○〔史〕「公子光有二—・—一、未レ可レ說以二外事一」。「—・—一」。

〔幼志〕をさなごゝろ。○〔儀〕「始加二元服一、棄二爾

〔他志〕あだし心、即ち、他方に通ぜんとする心あること。○〔左〕「令尹似レ君矣、將レ有二—・—一」。

〔同志〕こゝろざしを共にす、又其のもの。○〔國〕「同レ心則—レ—」。

〔養志〕(い)心ざしを理義によりて修錬す。○〔漢〕「閒居可二以—レ—」。「—」。

(ろ)心を樂しましむ。○〔孟〕「若二曾子一則可レ謂レ—

〔肆志〕心のまゝに振舞ふ。〔史〕「—二—於秦一」。

〔壯志〕をゝしく盛なる心ざし、又、心ざしを盛にす。○〔曹植〕「豈非二君子—・—一哉」。

〔雅志〕(い)平素の心ざし。○〔晉〕「—・—未レ就、遂遇二疾篤一」。

(ろ)みやびたる心ざし。○〔陶潛〕「負二—・—于高雲一」。「求」。

〔素志〕前條の(い)に同じ。○〔蘇軾〕「—・—庶可レ

〔弱志〕心ざしをよわくして強きものにさからはぬ、又よわきこゝろざし。○〔老〕「—二其—一」。

〔逸志〕高くすぐれ出でたるこゝろざし。○〔袁宏〕「公瑾卓爾—・—不羣」。

〔齎志〕心ざしを抱きたるまゝ行ふに遑あらざりしこと。○〔江淹〕「—レ—沒レ地、長懷無レ已」。

〔決志〕心ざしを定む、又、定めたる心ざし。○〔易〕「持レ疑猶豫、未二敢—レ—」。

〔果志〕心ざしを貫く、又、勇氣あるこゝろざし。○〔易、註〕「未二敢—二其—一也」。

〔承志〕(い)他人の心ざしをつぐ。○〔書〕「大統未レ集、予小子其—二厥—一」。

(ろ)他人の氣を迎へて逆はぬ。○〔書〕「先レ意—レ—、諭二父母于道一」。

〔二志〕ふたごゝろ。○〔詩、箋〕「事レ君無二—・—一」。

〔詠志〕心ざせる事柄を歌によむ。○〔魏武帝〕「歌以—レ—」。

〔立志〕心ざしをたつ、こゝろざす。○〔孟〕「懦夫有レ

〔情志〕感情とこゝろざしと、又、こゝろ。○〔尹文子〕「樂者所二以和一—・—一」。

〔有志〕こゝろざしあること、節義見識あること。○〔後漢〕「爲レ人—レ—、不レ修二細行一」。

〔散志〕心ざしを他に馳す。○〔禮〕「不二敢—二其—一」。「也」。

〔方志〕地方の事をしるせる書類、又、たゞしきこゝろざし。○〔皇甫謐〕「其鳥獸草木、則驗二之—・—一」。

〔善志〕(い)よき心ざし。○〔淮〕「決二其—・—一、防二其邪心一」。

(ろ)善き事柄を記載したるもの。○〔杜預〕「故傳曰二其—・—一」。

〔齊志〕心ざしを一にす。○〔西京賦〕「—レ—無レ忌」。

〔前志〕(い)先世の記錄。○〔左〕「—・—有レ之」。

(ろ)まへに立てたる心ざし。○〔李白〕「—・—庶不レ易」。「—・—一」。

〔異志〕(い)反逆のこゝろざし。○〔左〕「諸侯有二—・—一」。

(ろ)なみ〳〵ならぬこゝろざし。○〔書斷〕「少有二—・—一」。

(は)ことなる記錄。○〔書斷〕「又撰二—・—一」。

〔求志〕心がけを達せんことを願ひ望む。○〔論〕「隱居以—二其—一、行レ義以達二其道一」。

〔死志〕命を捨つるこゝろざし。○〔左〕「其臣莫レ有二—・—一」。

〔故志〕ふるき事を記せる書物、又、もとのこゝろざし。○〔國〕「教二之—・—一、使レ知二廢興一」。

〔恣志〕心ざしのまゝにす。○〔國〕「君若—レ—以用二重耳一」。「—二」。

〔遠志〕高大なる心ざし。○〔魏、注〕「鴻鵠固有二—・

〔快志〕心を思ひのまゝに樂しましむ、又、氣味よきこゝろざし。○〔史〕「終身不レ仕以—二吾—一焉」。

〔負志〕心に思ひ居たるところと違ふ。○〔史〕「臣竊—二其—一」。

〔銳志〕こゝろざしを鈍らしめぬ、即ち、萬事に油斷なきこと、又、するどきこゝろざし、才氣あること。○〔歐陽修〕「陛下專—レ—、必不二自怠一」。

〔厲志〕心ざしをおこして勉強す。○〔漢〕「是以天下布衣、各—レ—竭レ精以赴二闕廷一」。

〔奇志〕すぐれたる心がけ、又、心ざしをたへなりとす。○〔唐〕「幼有二—・—一」。「盛」。

〔猛志〕たけくはげしき心ざし。○〔後漢〕「—・—益

〔高志〕たかく世表にすぐれ出でたる心ざし、又、心ざしを高くす。○〔南〕「得レ遂二其—・—一」。「堅」。

〔宿志〕かねての心ざし。○〔蘇軾〕「少學不レ爲レ身、—・—固有レ在」。

〔雄志〕をゝしき心ざし。○〔陶潛〕「屈二—・—於戚

〔本志〕元來の心ざし。○〔韓愈〕「悼二—・—之變化一」。「—二—百氏一」。

〔潛志〕心ざしをひそめて硏究を爲す。○〔江淹〕

〔忠志〕誠を盡くす心ざし。○〔晉〕「抱之—・—、猶在レ可レ錄」。「申之傑」。

〔抱志〕すぐれたる心ざしを持つ。○〔晉〕「—レ—未レ

〔國志〕その國の歷史。○〔晉〕「常覽二—・—一、考二其君臣一」。

〔夙志〕早くより思ひ立ちたる心ざし。○〔南〕「永言二—・—一、能無二懸德一」。

〔乘志〕歷史。○〔宋〕「—・—顯二于營鄭一」。

〔確志〕かたくして動かざる心ざし。○〔隋〕「公乃乾二乘世之元勳、一心之—・—一」。

〔靈志〕くしびなる心ざし、主に、天子にいふ語。○〔隋〕「俯休二皇德一、仰綏二—・—一」。「—」。

〔騁志〕心をはす。○〔曹植〕「歌以詠レ言、文以—レ

〔刻志〕心ざしを苦しむ。○〔唐〕「乃—レ—從レ學」。

〔平志〕心を公平にす、又、公平なるこゝろざし。○〔六韜〕「虛レ心—レ—、待レ物以レ正」。

〔疑志〕うたがひまよふ心ざし、又、こゝろざしをうたがふ。○〔淮〕「—・—不レ可二以應一敵」。「睫」。

〔端志〕正しき心ざし。○〔劉禹錫〕「—・—見二眉

〔佻志〕輕薄なる心ざし。○〔賈誼〕「佳態—・—、從容爲レ說焉」。「好」。

〔私志〕公ならざる心ざし。○〔淮〕「吾所レ謂無レ爲者、—・—不レ得レ入二公道一」。

〔留志〕心ざしを注ぐ。○〔夏侯湛〕「不レ—レ—于華

〔愚志〕おろかなる心ざし、謙遜していふに用ふる語。○〔劉向〕「故使二使者陳二—・—一」。

〔孤志〕輔佐するもののなきこゝろざし。○〔道德指歸論〕「折二其強輔一、以—二其—一」。「作」。

〔僻志〕ひがみたる心。○〔中鑒〕「—・—萌則僻事

〔遐志〕遠大なる心ざし。○〔劉璟〕「人有二小察細計一者、知二其必無一—・—一」。

〔浪志〕みだりなる心ざし。○〔釋氏通鑑〕「木食澗飲、—・—無レ生」。

〔泉志〕錢の沿革を記せる書物。○〔吳萊〕「我觀二—・—一、頗識レ錢」。

〔聖志〕すぐれて明らかなる心ざし。○〔潘尼〕「祗誨二—・—一」。

〔明志〕心ざしを明かにす。○諸葛亮〕「非二澹泊一、無二以—レ—」。

〔初志〕はじめより企てたる心がけ。○〔曹植〕「修二吾往業一、守二吾—・—一」。

〔放志〕心を恣にす、はしいまゝなるこゝろざし。○〔陸雲〕「眇二區外一而—レ—兮」。

〔寸志〕わづかなる心ざし、己れの心ざしを謙遜していふ語。○〔梁簡文帝〕「懷々—・—」。

〔遺志〕前代の人ののこしおきたる心ざし。○〔高允〕「申二祖宗之—・—一」。

〔洪志〕大いなる心ざし。○〔唐太宗〕「補レ闕興二—・—一」。

〔邈志〕遠大なる心がけ。○〔唐〕「—・—逾殷」。

〔懇志〕親切なる心ざし。○〔賈至〕「宜下遂二其—・—一、退守中本官上」。

〔法志〕のりの書物。○〔權德輿〕「先王之—・—、官師之訓典」。「—・—一」。

〔微志〕僅少なる心ざし。○〔韓愈〕「孤稚羸弱抱二—・—一」。

〔專志〕もツぱらにして外物にはせざる心ざし、又、心ざしを一にして外物に馳することをせぬ。○〔徐照〕「—レ—事皆成」。

〔貞志〕正しく堅固なる心がけ。○〔袁桷〕「保二—・—以遂レ初兮」。

〔鵠志〕おほとりの心ざし、即ち、高遠の心ざし。○〔仇遠〕「衆雀豈能知二—・—一」。

〔墓志〕はかしるし。○〔文天祥〕「杜牧擬二—・—一」。

〔四方志〕(い)諸國の記錄。○〔周〕「令レ掌二—・—・—之—一」。

(ろ)功名を征戰に立つるこゝろざし、諸國を討伐するのこゝろざし。○〔魏〕「天下方有レ事、而劉表坐保二江漢之間一、其無二—・—・—之—一可レ知」。

〔箕山志〕むかし許由巢父の箕山に退隱したるより、退隱するこゝろざしにいふ語。○〔晉〕「文帝

問曰、聞有二—·—之—一、何以在レ此、秀曰、以爲巣許狷介之士、未レ達二堯心一。

(浮雲志) 論語に不義の富貴を浮雲にたとへたるより、不義の富貴を賤しみ高尚なるこゝろざしにいふ語。○〔班固〕「仲-尼抗二—·—之—一、孟-軻養二浩-然之氣一」。

(凌雲志) 人に屈服せざるこゝろざし。○〔晉〕「乖猶レ鷹也、飢則附レ人、飽便高颺、遇二風-雲之會一必有二—レ—·—一」。

(螻蟻得志) やくざ者どもが勢力を逞しくするにいふ語。○〔淮〕「大-魚蕩而失レ水、—·—皆—レ—焉」。

(燕雀安知鴻鵠之志) つばめ、すゞめなどの小鳥は大鳥のこゝろざしを知らざる義、卽ち、小人、鄙夫は英雄豪傑のこゝろざしを知らぬにいふ語。○〔史〕「涉少時與レ人傭耕、輟レ耕之二壟上一悵恨久レ之曰、苟富貴無二相忘一、傭者笑而應曰、若爲二傭耕一何富貴也、陳涉大息曰、—·—·—·—二—·—·—一」。

【⿰忄弓】キウ、ク。丘弓切 東

うれふ（憂）。

【忘】バウ、マウ。武方切 陽

㊀わする。

(い)心にとめず、識さず。○〔戰〕「人之有レ德二于我一不レ可レ—也」。

(ろ)忽にす。○〔詩〕「不レ愆不レ—」。

(は)雜念なくなる、思慮なくなる。○〔莊〕「其心—、其容寂」。

㊁善くわするゝ病、健忘症、記臆力衰弱。○〔列〕「中-年病レ—」。

(善忘) よくわする。○〔莊〕「下而不レ上、則使二人—「—一」。

(坐忘) 雜念なくなる。○〔莊〕「回—·—」。

(弭忘) 廢棄しわする。○〔詩〕「心之憂矣、不レ可二—·—一」。

(捐忘) 棄てわする。○〔阮籍〕「江-湖相—·—」。

(惑忘) 迷ひわする。○〔韓愈〕「以瞀以儚、俾レ不二—·—一」。

(廢忘) すてわする。○〔蘇舜欽〕「鈍-慵今—·—」。

【忘】バウ、マウ。無放切 漾

わする。

(い)心つかず、脫る、おとす。○〔周〕「三宥曰、遺—」。

(ろ)其の事に當りて他の事を思ふ。○〔左〕「與二鄭伯一盟、歃如レ—」。

(闕忘) 缺けぬかる。○〔宋〕「因レ筆而簡レ之、以備二—·—一耳」。

(昏忘) 智くらくして物事をわする。○〔南〕「老夫—·—不レ可レ受レ策」。

(盲忘) 前に同じ。○〔淮〕「有二—·—自失之患一」。

【忙】バウ、マウ。莫郎切 陽

いそがし、いそがはし。「—」。

(い)事多し。○〔白居易〕「蕭-曹到レ老」。

(ろ)急なり。○〔杜牧〕「屈レ指百-萬-世、過如二霹-靂—一」。

(は)心やるせなし。○〔王昌〕「鬢饑日晩妾心—」。「—」。

(怱忙) いそがはし。○〔陸游〕「三-農雖レ隙亦—·—」。

(忙々) いそがし。○〔楊萬里〕「公-子也—·—」。

(奔忙) せはし。○〔郝經〕「白-姚-谷—·—」。

【⿰忄叉】サ、セ。初訝切 禡

修めず、みだる。

【忚】ケイ、カイ。呼雞切 齊

あなどる（慢）。○〔揚雄〕「㥾—欺-慢也」。

【忇】ラ、レ。力者切 馮　ケイ、ガイ。顯計切 霽

欲せず、きらふ。

【⿰忄弋】ヨク、エキ。與職切 職

心動く、うごく。

【⿰忄勺】テウ。都了切 篠

㊀心を垂る、いつくしむ、あはれむ。

㊁うれふ（憂）。

【⿰忄勺】シャク、サク。之若切 藥　テキ、チヤク。丁歷切 錫

おどろく（驚）。

四畫

【忝】テン、デン。他點切 琰

㊀はづかしむ（辱）。○〔詩〕「無レ—二爾所-生一」。

㊁承けたるものをはづかしむ、かたじけなくす。○〔書〕「否-德—二帝-位一」。

(虛忝) 功勞なくして恩をうけ位にをる。○〔常袞〕「—·—二國-恩一」。

(僭忝) 前に同じ。○〔齊映〕「—·—實多」。

(榮忝) 高き官職などをうけ居ること。○〔杜牧〕「—·—既積」。

【⿱天⺗】忝の本字。

【忞】ビン、ミン。眉貧切 眞

㊀つとむ（彊）。○〔淮〕「穆—隱-閔、純-德獨存」。

㊁心了らざる所あり、くらし。○〔揚雄〕「傳二千-里之—·—一者莫レ如レ書」。

【忞】ブン、モン。武粉切 吻

みだる（亂）。

【忟】忞に同じ。

【⿰忄内】ドツ、ノチ。奴骨切 月

うれふ（憂）、もだゆ（悶）。

【忠】チユウ、チユ。陟弓切 東

㊀すなほにして敬しみ深し、まめやかにして詐欺なし、たゞし（正）、なほし（直）、あつし（厚）。○〔周〕「一曰、六-德、知、仁、聖、義、—、和」。

㊁君に事へて誠實を盡くすこと、上に對して二心なきこと、まこと。○〔書〕「爲レ下克レ—」。

(孤忠) ひとりたちて忠を竭くして他にたすけなきこと。○〔宋〕「如二琦—·—一、每蹈二神-道相助一、幸而有レ成」。「—」。

(敦忠) 志の篤くまことあること。○〔史〕「端-直—

(愚忠) おろかにしてたゞし、又、自家の忠を謙遜していふ語。○〔漢〕「狄-山曰、臣固—·—」。

(詐忠) うはべに忠義をよそほふこと。○〔漢〕「若二張湯一乃—·—」。

(朴忠) かざりなく忠なること。○〔唐〕「恭-勤—·—」。

(大姦似忠) 太だしきわるものは忠しく見ゆ。○〔呂誨〕「—·—·—レ—、大-詐似レ信」。

【忡】チユウ、チユ。敕中切　シユウ、シユ。昌中切 東

うれふ（憂）。○〔詩〕「憂-心—·—」。

【忤】ゴ、グ。五故切 遇

さかふ（逆）。○〔後漢〕「持レ正之—」。

(忤々) さかふ、又、よろこばざるをいふ語。○〔釋名〕「人-意不レ喜—·—然」。

(乖忤) さかふ。○〔漢〕「必生二—·—之患一」。

(違忤) 前に同じ。○〔後漢〕「不三敢衛二—·—勢家一」。

(反忤) 前に同じ。○〔管〕「國-家有二悖-逆—·—之行一」。

(舛忤) 前に同じ。○〔劉向〕「—·—膠-戾」。

(猜忤) そねみさかふ。○〔徐陵〕「誰云二—·—一」。

(犯忤) をかしさかふ。○〔陸雲〕「不レ慮二—·—一」。

(很忤) さかふ。○〔柳宗元〕「—二—·—貴-近一」。

【忣】急の本字。○〔淮〕「—三于不二已知一者不二自知一也」。

【忦】カイ、ケ。許介切　カイ、ゲ。下戒切 卦

ゆるがせ、(忽)。

【忥】キ、ケ。許旣切 [未]
㊀癡愚の貌にいふ字、おろか。
㊁しづか(靜)。㊂いこふ、やすむ、(息)。

【忥】キ。虛器切 [寘]
よろこぶ(喜)。

【忦】カイ、ゲ。牛戒切 クワイ、ケ。苦怪切 カイ、ケ。居拜切 [卦]
うれふ(憂)。

【忦】カイ、ケ。居太切 [泰] 居拜切 [卦]
うれへおそる(憂-懼)。

【忦】カツ、ケチ。古黠切 [黠] クカイ、ケ。苦怪切 [卦]
うらむ(恨)。

【忧】イウ、ユ。尤救切 [宥]
心動く、むなさわぎす。

【㤃】ハウ。敷方切 [陽]
㊀いむ(忌)。㊁そこなふ(害)。

【㤈】シユン、ジユン。常倫切 [眞]
ケイ、ギヤウ。渠營切 [庚]
うれふ(憂)。

【忨】グワン。五換切 [翰] 五丸切 [寒]
むさぼる(貪)、たのしむ(愛)。○[左]「—レ歲而愒レ日」。

【忪】シヨウ、シユ。職容切 [冬]
心動きて定まらざる貌にいふ字、おどろく、あわつ、まどふ、むなさわぎす。○[李賀]「銀 波鎭二心一—」。
(征忪)驚き懼るゝこと。○[四子講德論]「秦時百姓——」。

【㤆】ハ、ヘ。普駕切 [禡]
怕に同じ、おそる。

【忩】悤に同じ。○[吳]「無事——」。

【快】クワイ、ケ。苦夬切 [卦]
㊀こゝろよし。
(い)心に稱ひ氣に適ふにいふ字。○[漢]「取下上素所レ不レ—、群-臣所二共知一、最甚者一人上」。
(ろ)心地さわやかなり、喜ばし、おもしろし。○[三朝聖政錄]「乘レ—指-揮」。
(は)恙なし。○[後漢]「體有レ不レ—」。
㊁急疾、はやし。○[晉]「此馬雖レ—然力薄不レ堪二苦-行一」。
㊂縱逸、ほしいまゝ、きまゝ。○[戰]「恭二于教一而不レ—」。
(痛快)いたくこゝろよし。○[楊萬里]「一-杯——吸二湖山一」。
(慶快)こゝろよし。○[北]「公-私——」。
(奇快)はなはだおもしろし。○[酉陽雜俎]「笑曰二——一」。
(迅快)はやし。○[冷齋夜話]「太白詞-語——」。
(俊快)すぐれてさわやか。○[東軒筆錄]「草-書尤——」。
(雄快)すぐれてこゝろよし。○[韓愈]「呼レ博騁二——一」。
(淸快)きよらかにしてこゝろよし。○[蘇軾]「曲二折盧-堂-瀉二——一」。
(明快)あきらかにさわやかなること。○[蘇軾]「曉-容——夜堂深」。「差——」。
(曠快)ひろびろとしてこゝろよし。○[陸游]「耳目——」。
(沈著痛快)かろがろしからずして眞心もて之を行るの意氣壯快なること、主に、文氣筆意にいふ語。○[法苑]「吳-皇象善行二草-書一、世稱二————一」。

【㤄】ハイ、ハ。普太切 [泰] ハイ。匹代切 [隊] ハツ、ボチ。拂伐切 [月]
いかる(怒)。

【㤄】ハツ、バチ。北末切 [曷]
意悅ばず、よろこばず。

【忬】本預に作り、或は通じて豫に作る。

【忬】舒に同じ。

【忭】ヘン、ベン。皮變切 [霰]
よろこぶ(喜)、たのしむ(樂)。○[紫薇詩話]「寰-區大—」。

【忮】シ、ジ。支義切 キ。居企切 [寘] 遣尒切 [紙] シ。章移切 [支]
そこなふ(害)、一說に、もとる(很)。○[詩]「不レ—不レ求」。
(懻忮)つよくもとる。○[漢]「民-俗——」。
(強忮)前に同じ。○[宋]、安-石性——」。
(苛忮)きびしくしてそこなふこと。○[晉]「能寬-裕純-厚而不二——一」。
(陰忮)そこなひやぶる心を蓄ふこと。○[蘇軾]「項-王——不-仁」。
(忿忮)いかりもとること。○[劉克莊]「小-人——」。

【忮】キ、ギ。翹移切 [支]
つよし(彊)。

【㤆】ハン、ボン。方願切 [願]
㊀心惡し、あし。㊁性急なり。

㊁くゆ(悔)。

【忯】キ、ギ。巨支切 [支]
㊀つゝしむ(敬)。㊁いつくしむ(愛)。

【忯】シ、ジ。是支切 [支]
事を憂へず、うれへず。

【忯】イ。盈之切 [支]
和ぎ適ふ、かなふ。

【忯】シ、ジ。上紙切 [紙]
たのむ(恃)。

【忯】テイ、ダイ。待禮切 [薺]
いつくしむ(愛)。

【㤖】エキ、ヤク。營隻切 [陌]
心を用ふ、つとむ。

【㤇】アウ、オウ。烏浩切 [晧]
——怔は、あわつ、おそる。

【忰】俗の悴の字。

【忱】諶に同じ、まこと。○[詩]「天難レ—斯」。

【忲】忕に同じ。○[張衡]「有二憑-虛公-子者一、心奓-體—」。

【㤀】ハウ、ホウ。北項切 [腫]
——懈は、もとる。

【㤅】シン。七鴆切 [沁]
いたむ(惻)。

【忳】トン、ドン。徒孫切 [元] もだゆ、（悶）、みだる、（亂）、うれふ、（憂）。○〔屈平〕「ー鬱-邑余侘-傺兮」。

【忳】シュン、ジュン。殊倫切 [眞] 一本、諄に作る。人を誨へて倦まざるを、れむごころ。

【忳】トン、ドン。徒困切 [願] 樂しまず、うれふ。○〔老〕「我愚-人之心也哉ーーー兮」。

【忳】トン、ドン。杜本切、都困切 [阮] [願] おろか、（愚）。

【伶】ケン、ゴン。渠淹切 [鹽] 心急なり。

【伶】キン、ゴン。渠今切 [侵] ー-惧は、健了なる貌にいふ語、よくさとろ。

【念】デン、テン。奴店切 [豔] 俗に、念に作るは非なり。
❶おもふ、おもひ。
（い）心の物事に粘著して忘れざるにいふ字、常に思ふ。○〔書〕「惟聖罔レー作レ狂、惟狂克ー作レ聖」。
（ろ）物事に應じて心のはたらきを起こすにいふ字。○〔雲笈七籤〕「制レー以定レ志」。
❷稱ふ、誦す。○〔杜枚〕「口ー心禱而求「者」。
❸廿の字に用ふ、俗音の同じきより來たるさいふ。○〔程篁墩〕「ー-日」。
❹極めて短き時間、刹那を二十分したるものさいふ、（佛家の言）。○〔仁王經〕「一ー中有二九-十刹-那一」。
〔念念〕おもひおもふこと、又、時々刻々。○〔蘇軾〕「坐來ーー失二前人一」。
〔祈念〕誹りおもふ。○〔書〕汝分二ーー一以相從」。
〔貢念〕つゝしみおもふ。○〔書〕「ー二ー于祀一」。
〔欽念〕前に同じ。○〔書〕「ーー以忱」。
〔深念〕ふかく思ふ。○〔史〕「常燕-居ーー」。
〔幽念〕前に同じ、又、靜かなるおもひ。○〔韓愈〕「探レ蘭起二ーー一」。
〔憂念〕うれひ。○〔劉基〕「纒-綿積二ーー一」。
〔蓄念〕つもるおもひ。○〔柳宗元〕「奮-揚ーー一」。
〔精念〕前に同じ。○〔枚乘〕「ーー發二狂-癡一」。
〔鑒念〕かんがみおもふ。○〔後漢〕「ー二ー前-世一」。
〔默念〕口に出ださずにおもふ。○〔唐〕「ー二ー所レ記」。
〔鍾念〕いつくしみ思ふ。○〔唐〕「ー二ー幼-子一」。
〔慈念〕前に同じ。○〔後雅〕「鳩-聲ーー」。
〔志念〕こゝろざしおもふ。○〔王昭君〕「ーー抑-沈」。
〔滯念〕とゞこほりたるおもひ。○〔陸機〕「戚-々多二ーー一」。
〔結念〕むすぼれたる思ひ。○〔謝靈運〕「ーー屬二霄-漢一」。
〔衆念〕いろいろなる多くの思ひ。○〔陶潛〕「ーー徘-徊」。
〔佇念〕たゞずみ思ふ。○〔鮑照〕「望二天-涯一而ーー」。
〔征念〕旅のおもひ。○〔鮑照〕敷レ文勉二ーー一。
〔溫念〕親切なるおもひ。○〔鮑照〕「ーー終不レ渝」。
〔凝念〕おもひをこらす。○〔王侍當〕「當レ軒已レー」。
〔寂念〕さびしくしづかなる思ひ。○〔劉孝孫〕「ーー啓二玄-門一」。
〔宸念〕帝王のおもひ。○〔劉光之〕「德優ーー遠」。
〔惠念〕めぐみのこゝろ。○〔儲光義〕「ーー及二滄-浪一」。
〔塵念〕世の中のおもひ。○〔元稹〕「瞥-然ーー到二江-陰一」。
〔俗念〕前に同じ。○〔白居易〕「ーー隨レ緣息」。
〔世念〕前に同じ。○〔陸游〕「ーー堅-强似二火-牛一」。
〔道念〕道術のおもひ。○〔吳筠〕「矚-昔希二ーー一」。
〔禪念〕禪道のおもひ。○〔皎然〕「ーー破二離-憂一」。

【伝】コン、ゴン。胡昆切 [元]

ウン、モン。王問切 [問] もだゆ、（悶）。

【忷】恂に同じ。

【忬】カ、ケ。苦加切。ガ、ゲ。五加切 [麻] ふせるすがた、（伏-態）。

【忸】ヂク、ニク。女六切 [屋] はづ、はぢらふ、（慙）。○〔書〕「顏厚有二ーー怩一」。

【忸】ヂウ、ニユ。女九切 [宥] なる、ならす、（狃）。○〔荀〕「ーレ之以二慶-賞一」。

【忯】恤に同じ。

【忹】ワウ。紆往切 [養] よこしま、（邪-曲）。

【忺】ケン、ゴン。虚嚴切 [鹽] 意の欲するところ、このむ、ねがふ、のぞむ。○〔林逋〕「散レ帙揮レ毫總不レー」。

【忻】キン、コン。許斤切 [文] 心ひらく、よろこぶ、たのしむ。○〔史〕「見二巨-人跡一心ー-然」。

【忼】カウ。苦朗切、口浪切 [養] [漾] 意氣感激して平かならず、感じ傷む、なげく、又、倜儻なるをにも、誠を竭すをにもいふ字。○〔史〕「悲-歌ー-慨」。

【忼】カウ。丘岡切 [陽]
❶なげく、（歎）。
❷咉ーは、もさろ、（很-戾）。

【忟】カウ、ゲウ。何交切、後教切 [肴] [效] こゝろよし、（快）。

【忽】コツ、コチ。呼骨切 [月]
❶輕んずるを、慢るを、ゆるかせ、おろそか。○〔後漢〕「公愛二班-固一而ー二崔-駰一」。
❷注意せず、省ず、わする。○〔晉〕「宅不レ彌レ畝而忘二ー九-州一」。
❸喪心す、ほろ、うッとりす。○〔素問〕「ーーー眩-冒而顚-病」。
❹急速、突然、はやし、にはか、すみやか、たちまち。○〔左〕「不レ祀ー-諸」。
❺つく、（盡）、ほろぶ（滅）。○〔詩〕「是絕是ー」。
❻荒唐、空漠、むなし。○〔賈誼〕「寥-廓ー-荒兮、與レ道翔-翱」。
❼一蠶口絲、ひさすぢのきぬいさ、又、蜘蛛網、くものいさ、轉じて、極めて少き數度の稱。○〔白居易〕「刻レ漏者準レ之、無二秒ー之失一」。
〔荒忽〕（い）うッとりすること。○〔漢〕「安頗ーー」。（ろ）空漠なること。○〔唐〕「古稱二荒-服一、取二ーー之義一」。
〔倏忽〕すみやか、にはか、たちまち、はやし。○〔杜甫〕「ーー又莽-蒼」。
〔奄忽〕前に同じ。○〔長笛賦〕「ーー滅-沒」。
〔欻忽〕前に同じ。○〔東觀餘論〕「ーー若レ神」。
〔翕忽〕疾くすみやかなる貌にいふ語。○〔拾遺記〕「神-怪ーー」。
〔飄忽〕飛ぶと速かなる貌にいふ語。○〔曹植〕「ーー若レ神」。
〔怠忽〕おこたること。○〔怠〕「ーー荒レ政」。
〔輕忽〕ゆるかせ。○〔後漢〕「而欲二懈-怠以自ーー乎」。
〔簡忽〕前に同じ。○〔後漢〕「ーー所レ見」。
〔陵忽〕他をさのぎかろんぜること。○〔南〕「甚相ーー」。

【忔】キ。喜夷切 [支] 忔に同じ。喜ぶ貌にいふ字、よろこぶ。

【忿】フン、ホン。敷粉切。フン、ボン。父吻切

[吻] ホン、ボン。匹問切 [問] 憤に通ず。
恨み悁る、うらむ、いきどほる、いかる、いかり、いきどほり。○〔書〕「爾無三ー二疾于頑一」。
(小忿) わずかなるいかり。○〔左〕「兄・弟雖レ有二ー・ー一、不レ廢二懿・親一」。
(前忿) もとのいかり。○〔魏〕「豈懷二ー・ー一也」。
(發忿) いかる。○〔劉向〕「悲二故・鄉一而ーレー兮」。
(激忿) いたくいかる。○〔後漢〕「諸・羌ー・ー」。
(積忿) つもるいかり。○〔南〕「度ー・ー呵二責彥一曰、汝知二我諱明一、而恒呼二明何也」。
(恚忿) いかる。○〔魏〕「終・日怡々未三嘗ー・ー一」。
(嫌忿) 忌みいかる。○〔北〕「有レ所二ー・ー一」。
(狷忿) 局量大ならずしていかること。○〔舊唐〕「遂性ー・ー、不レ存二大・體一」。
(爭忿) あらそふこと。○〔舊唐〕「士卒與レ之ー・ー」。
(躁忿) 沈着ならずしていかること。○〔五〕「太祖ー・ー、急二於禪・代一」。
(愎忿) 聡ぢらむ。○〔宋〕「契・丹ー・ー、故有二此役一」。
(剛忿) 強くいかる。○〔宋〕「準ー・ー如レ昔」。
(褊忿) 心狹くしていかる。○〔陸游〕「時・々ー・ー獨何與」。

[忕] セツ、ゼチ。食列切 [屑] エイ。以制切 [霽] ならす、なる、(狃)。○〔史〕「諸・侯或驕・奓、ー二邪・臣計・謀一爲二淫・亂一」。
(狃忕) なる、ならふ。○〔後漢〕「ー・ー二小・利一」。

[怀] ヒウ、フ。敷救切 [宥] いかる、(怒)。

[⿰忄勿] 忽に同じ。

[⿰忄分] フン、ホン。非奔切 [吻] みだれたる貌にいふ字。○〔列〕「ー・ー然而封戎一」。

五畫

[⿰忄甘] カン、コン。姑三切 [覃] 心伏す、志たがふ。

[怽] バツ、マチ。莫撥切 [曷] わするる、(忘)。

[怇] キョ、コ。臼許切 [語] 驕矜の貌にいふ字、あなどる、おごる。

[怉] ハウ、ヘウ。博巧切 [巧] もとる、(悖)。

[怉] ハウ、ボウ。薄皓切 [皓] なづく、(懷)。

[怊] テウ、デウ。田聊切 [蕭] かなしむ、(悲)、いたむ、(悵)。○〔莊〕「ー・ー乎若三嬰・兒之失二其母一」。

[怊] セウ。蚩招切 [蕭] おごる、(奢)、一説に、意を失ふ。

[怋] ビン、ミン。彌鄰切 [眞] みだる、(亂)。

[怋] ボン、モン。莫奔切 [元] ㊀もだゆ、(悶)。㊁明かならず、くらし。

[怋] 惛に同じ。

[怋] ベン、メン。眠見切 [霰] 混合す、まじる。

[怌] ヒ。敷悲切 [支]
おそる、(恐)、又、あなどる、(慢)。○〔揚雄〕「柔則ー」。

[怍] サク、シャク。在各切 [藥] はづ。
(い)恥辱さす。○〔論〕「其言之不レー」。
(ろ)はづる思ひ氣はいにあらはる、はぢらふ。○〔論〕「容毋レー」。
(愧怍) はづること。○〔潛夫論〕「晉無二怵・惕ー・ー、哀・矜之意一」。
(悚怍) 前に同じ。○〔王融〕「ー・ー之情、夙・宵・兢・惕」。
(靦怍) はづ、はぢらふ。○〔上官儀〕「心・顏ー・ー」。
(羞怍) 前に同じ。○〔蘇軾〕「貫人一・見定ー・ー」。
(慍怍) いきどほりはづ。○〔權德輿〕「色無二ー・ー一」。

[怍] サ、ゼ。助駕切 [禡] ⿰忄牙ーは、よこしま多し。

[恔] カウ、ケウ。口交切 [肴] 口教切 [效] ー・⿰忄牙は、伏したる態。

[怐] コウ、ク。苦候切 [宥] ㊀ー・愗は、愚なる貌にいふ語。○〔楚辭〕「直ー・愗以自苦」。㊁佝に同じ、くぐせ。

[怐] コウ、ク。九遇切 [遇] おそる、(恐)。

[⿱加心] カ。居何切 [歌] ㊀のり、(法)。㊁志る、(知)。

[怑] ハン、バン。薄半切 [翰] ー・愌は、順はず、そむく。

[怏] ヤウ、アウ。於亮切 [漾] 於兩切 [養] 滿足せず、心平かならず、うらむ、あきたらず。○〔漢〕「塞二其ー・ー之心一」。
(悒怏) 志の不滿なる貌にいふ語。○〔袁宏〕「我獨・心ー・ー」。
(鬱怏) 心に不平ありてさわやかならず。○〔高適〕「長・歌增二ー・ー一」。
(恨怏) うらむ。○〔支遁〕「ー・ー濁・水際」。

[怏] ヤウ、アウ。於良切 [陽] 自ら大いなりとす、おごる、たかぶる。

[怒] ド、ヌ。乃故切 [遇] ㊀いかる、いかり。
(い)心激して氣あらあらしくなる、はら立つ、いきどほる。○〔史〕「上默・然ー變レ色而罷レ朝」。
(ろ)恨む。○〔國〕「何以逞レー」。
(は)責む、志かる。○〔晉〕「未三嘗被二呵ー一」。
(に)訟ふ、あらそふ。○〔周〕「凡有二鬪ー者一成レ之」。
(ほ)氣滿ち張る、勢盛る。○〔後漢〕「鮮・車ー・馬」。
(へ)おき立つ。○〔元稹〕「衝レ冠髮ー」。
(と)奮ふ。○〔莊〕「ー而飛」。
㊁威勢、いきほひ。○〔禮〕「急二繕其ー一」。
㊂東方の氣。○〔史〕「旬始狀如二雄・雞一、其ー青・黑」。
㊃いかりをおこさしむ、いからす。○〔呂氏春秋〕「非レー王則疾不レ可レ治」。
(震怒) さかんにいかる。○〔書〕「皇天ー・ー」。
(赫怒) 前に同じ。○〔王粲〕「運二玆威一以ー・ー」。
(盛怒) 前に同じ。○〔史〕「又ー・ー曰、臣口不レ能レ言」。
(譴怒) 責む。○〔詩〕「豈不レ懷レ歸、畏二此ー・ー一」。
(賁怒) 前に同じ。○〔魏〕「鄉・邑父・老、自相ー・ー」。
(衆怒) 多人數のいかり。○〔左〕「ー・ー難レ犯」。
(遷怒) 一方のいかりを他の方に及ぼすこと。○〔論〕「不レーレー、不レ貳レ過」。

〔鼓怒〕水なぞのなり響きて激するさ。○〔鮑照〕「一一之所二涯一蕩」。
〔恚怒〕いきどほる。○〔後漢〕「宗族皆一一」。
〔憤怒〕前に同じ。○〔漢〕「羣臣一一」。
〔威怒〕いきほひ。○〔晉〕「至二于一一一、則專二法中韓一」。「導」。
〔惡怒〕にくみいかる。○〔詩〕「君子如レ夷、一一是違」。
〔憚怒〕あつきいかり。○〔詩〕「逢二天一一一」。
〔怨怒〕うらみいかる。○〔史〕「栗姬日一一」。
〔深怒〕ふかくいかる。○〔史〕「一二一一于齊一」。
〔激怒〕事にふれ不平を懷きいかるさ。○〔後漢〕「于レ是軍士一一」。
〔湍怒〕水の流の急激にしてなみたつさ。○〔漢〕「而令二水益一一一」。
〔嗔怒〕いかる。○〔北〕「或妄一一」。
〔勃怒〕前に同じ。○〔長楊賦〕「聖武一一」。
〔瞋怒〕前に同じ。○〔柳宗元〕「一一譏レ己」。
〔悲怒〕かなしみいかるさ。○〔宋〕「帝一一疑二其爲二厭鎭一」。
〔勁怒〕强く勢あるさ。○〔歐陽雜俎〕「筆力一一」。
〔贔怒〕いかるさ、多くは、水勢のはげしきにいふ語。○〔水經、註〕「河神一一」。「難レ水」。
〔鬱怒〕むすぼるいかり。○〔都經〕「沈恨一一猶」
〔奮怒〕ふるひいかる。○〔陳琳〕「興レ兵一一」。
〔號怒〕さけびいかる。○〔劉孝儀〕「一一之聲、日酔二于雷池一」。
〔叫怒〕前に同じ。○〔杜甫〕「一一索レ飯啼二門東一」。
〔詬怒〕のゝしりいかる。○〔元稹〕「不レ勞生二一一」。
〔嬉怒〕きちひらおこ。○〔齊賦〕「致二茲一一一」。
〔跳怒〕はねあがる。○〔柳雲臣〕「一一髯鬣張」。
〔躁怒〕さわがしくいかる。○〔文同〕「其腹尙餒色一一」。

【怓】ダウ、ヂウ。女交切 〔肴〕
みだる、（亂）。○〔詩〕「惽々然一一然」。
〔惽怓〕くらくみだる。○〔詩〕「以謹二一一一」。

【㤇】古文の侮の字。

【㤇】ボ、モ。莫胡切 〔虞〕
うく、（受）。

【怮】シウ、シュ。徐由切 〔尤〕
おもんぱかる、（慮）。

【怔】セイ、シヤウ。諸盈切 〔庚〕
おそる、（懼）、あわつ、（遑）。○〔晉〕「惶怖一一營、無二地自厝一」。

【怕】ハ、ヘ。普駕切 〔禡〕
おそる、（懼）。○〔韓愈〕「鬼神一二嘲詠一」。
〔懼怕〕おそる。○〔續搜神記〕「人皆一一」。
〔怯怕〕前に同じ。○〔舒元輿〕「常一二一人一者也」。
〔畏怕〕前に同じ。○〔牛僧孺〕「與出悅忽、一一也」。
〔驚怕〕おどろきおそる。○〔杜甫〕「梁間燕雀休二一一一」。

【怕】ハク、ヒヤク。匹陌切 〔陌〕
無爲。

【怕】ハク、バク。白各切 〔藥〕
しづか、（靜）。

【㣽】トウ、ヅ。徒冬切 〔冬〕
㊀うれふ、（憂）。㊁おそる、（懼）。㊂あわつ、（遑遽）。

【怖】ホ、フ。普故切 〔遇〕
㊀おそる、おづ、おそれ、（惶）。○〔魏〕「董卓懷レ一」。
㊁おそれしむ、おどかす、おどす。○〔後漢〕「其巫祝有下依二託鬼神一詐中一愚民上」。
㊂おそれて肢體震ふ、をのゝく、わなゝく。○〔沈遘〕「欲レ蹐毛骨一」。
〔驚怖〕おどろきおそる、又、おどかす。○〔莊〕「吾一二一其言一」。
〔振怖〕ふるひおそる、又、をのゝく。○〔史〕「燕王誠一二一大王之威一」。
〔戰怖〕前に同じ。○〔魏〕「夙宵一一」。
〔懾怖〕前に同じ。○〔史〕「尉佗一一」。
〔讋怖〕前に同じ。○〔漢〕「跋扈一一」。
〔惶怖〕前に同じ。○〔世說〕「中外一一」。
〔恐怖〕前に同じ。○〔荀子哀〕「自無二一一一」。
〔憂怖〕うれへおそる。○〔後漢〕「皆一一失レ色」。
〔愁怖〕前に同じ。○〔鮑照〕「始得レ忘レ憂消二一一一」。
〔疑怖〕うたがひおそる。○〔魏〕「淵由レ是一一」。
〔危怖〕あやぶみおそる。○〔吳〕「而常抱二一一一」。
〔悲怖〕かなしみおそる。○〔晉〕「不レ勝二一一一」。

【怗】テフ、デフ。他協切 〔葉〕
㊀しづか、（靜）。○〔王逸〕「事不二安一一一」。
㊁したがふ、（服）。○〔公羊〕「卒一レ荊以レ此爲二王者之事一也」。
〔怗怗〕しづかなる貌にいふ語。○〔元稹〕「一生長一一一」。

【怗】セン。處占切 〔鹽〕
とゞこほる、（滯）。○〔禮〕「宮、商、角、徵、羽、五者不レ亂則無二一一滯之音一」。

【怙】コ、ク。侯古切 〔麌〕
たのむ、たのみ、（恃）、轉じて、父母、特に、父の稱。○〔詩〕「父母何一」。
〔依怙〕たよる、又、父母の稱。○〔宋〕「民所二一一一」。

【恒】恆に同じ。○〔朱熹〕「人心一日爲レ一」。

【恒】コウ、ゴウ。古鄧切 〔徑〕
わたす、わたる、（竟）。○〔周〕「弓人一レ角而短」。

【怚】ショ、ソ。將豫切 〔御〕 秦呂切 〔語〕

【怚】ソ、ス。聰徂切 〔虞〕
ほこる、おごる、（驕）。○〔晉〕「恃レ愛肆一一」。
心精しからず、あらし、又、はげし、（劇）。○〔史〕「秦王一而不レ信レ人」。

【怚】ショ、ソ。千余切 〔魚〕
ねたむ、（妒）。

【怛】タン。得安切 〔寒〕
いたむ。○〔漢〕「支體傷則心憯一一」。

【怛】ダツ、ダチ。當割切 〔曷〕
㊀かなしむ、（悲）、いたむ、（慘）。○〔詩〕「中心一兮」。
㊁おどろく、おどろかす、（驚）、おそる、おどす、（恐）。○〔莊〕「無レ一レ化」。
㊂つかる、つからす、（勞）。○〔詩〕「勞心一一一」。
〔惻怛〕いたみかなしむ。○〔禮〕「一一之心」。
〔慘怛〕前に同じ。○〔後漢〕「心一一兮傷悴」。
〔切怛〕前に同じ。○〔晉〕「懷二一一之至誠一」。
〔傷怛〕前に同じ。○〔顏氏家訓〕「精神一一」。
〔忡怛〕前に同じ。○〔沈約〕「一一在レ念」。
〔惶怛〕おそる。○〔晉〕「五情一一」。
〔悅怛〕おどろきかなしむ。○〔晉〕「公私一一」。
〔驚怛〕おどろきおそる。○〔圖繪寶鑑〕「一一殆仆」。
〔駭怛〕前に同じ。○〔何承天〕「凡人爲レ之一一」。
〔震怛〕ふるひおどろかす。○〔蘇洵〕「一二一下上一」。

【怜】レイ、リヤウ。郞丁切 〔靑〕 朗鼎切 〔迥〕
さとし、（慧）。

【怜】レン。靈年切 〔先〕
憐に同じ、あはれむ、めぐむ。○〔黃庭〕「物一捫レ竹一二粉汚一」。

【思】 シ。所茲切 支

㊀おもふ。
（い）考ふ、慮る。〇〔論〕「三─而後得」。
（ろ）願ふ。〇〔詩〕「─二皇多士一」。
（は）心物事に執著して忘れず。〇〔孟〕「─下與二郷人一立上」。「我二」。
（に）憐む、悲む、愛む。〇〔詩〕「予惠二─」。
（ほ）慕ふ。〇〔南〕「爲二後人所一レ─」。
㊁語の末尾に措く無意味の字。〇〔詩〕「不レ可レ泳─」。
㊂語頭に措く字、こゝに。〇〔詩〕「─齊太任」。「而─」。

〔近思〕てぢかくわが身に體しおもふ。〇〔論〕「切問」
〔少思〕私のかんがへをすくなくす。〇〔文中子〕「─之二。─寡レ慾二。
〔諦思〕あきらかにかんがふ。〇〔魏〕「令二歸─二─
〔追思〕後よりおもふ。〇〔魏〕「士民─」。
〔沈思〕深くかんがふ。〇〔呂安〕「─紆結」。
〔停思〕深くかんがへこむ。〇〔晉〕「不二復─」。
〔靜思〕しづかにかんがふ。〇〔說苑〕「寛以─レ─」。
〔熟思〕よくかんがふ。〇〔梁元帝〕「先當二─」。
〔頹思〕かんがへをくづす。〇〔長門賦〕「遂─レ─以就レ牀」。
〔鼠思〕うれふ。〇〔詩〕「─泣レ血」。
〔匪夷所思〕なみ〳〵の者のかんがへ及ぶ所にあらざとの義にいふ語。〇〔易〕「渙有レ丘─二─」。

【偲】 シ、相吏切 寘

㊀情緒、意志、おもふと、おもひ、（前條の㊀の條參照）。〇〔揚雄〕「儲レ精垂レ─」。
㊁道德の鈌くるなきと。〇〔書〕「欽明文─」。

〔愁思〕うれひおもひ案じわづらふ心。〇〔庾肩吾〕「多二─」。「寥中──人」。
〔春思〕男女間のおもひ、春情。〇〔曹唐〕「西妃少女─」。
〔客思〕旅のおもひ。〇〔蕭琮〕「──轉縱橫」。
〔旅思〕前に同じ。〇〔王勃〕「悠々──難」。
〔羈思〕前に同じ。〇〔謝靈運〕「念君客遊──盈」。
〔意思〕こゝろもち、おもひ。〇〔近思錄〕「與二自家─一般」。
〔塵思〕世俗のおもひ。〇〔蘇舜欽〕「──漠然收」。
〔爽思〕さわやかなる心。〇〔蘇舜欽〕「人有二──」。「皆沉埋」。
〔雅思〕正しきおもひ。〇〔歐陽修〕善政已成多二──」。「胸中二。
〔妙思〕すぐれたるおもひ。〇〔王充〕「──出二
〔焦思〕心をいたむ。〇〔史〕「禹乃勞レ身─レ─」。
〔俗思〕世の中のおもひ。〇〔莊〕「滑二欲于──、以求致二其明一。「憤二。
〔蓄思〕つもるおもひ。〇〔嘯賦〕「舒二──之悲
〔離思〕別れの心。〇〔潘岳〕「何以叙二──」。
〔一日三秋思〕下に引く語より出づ、わづか一日逢はねば三秋（九ヶ月）も逢はぬやうにおもふと、人をおもひしたふとのいと切なるにいふ語。〇〔詩〕「彼采レ蕭兮一日不レ見如二三秋一」。

【怞】 チウ、ヂユ。直由切 尤 直祐切 イウ、ユ。余救切 宥

㊀ほがらか（朗）。 ㊁うれふ（憂）。
㊂おそる（恐）。

【怮】 イウ、ユ。夷周切 尤

うれふる貌にいふ字、うれふ。〇〔王褒〕「永余思兮──」。

【怉】 カフ、ケフ。胡甲切 洽

たのしむ（樂）、よろこぶ（喜）。

【怑】 シン。失人切 眞

うれふ（憂）。

【怓】 カウ、コウ。古勞切 豪

㊀志る（知）。 ㊁かぎる（局）。

【怌】 ホン、ボン。部本切 阮

慧からず、おろか。

【怟】 テイ、タイ。丁計切 霽

もだゆ（悶）。

【怠】 タイ、ダイ。徒亥切 賄 他代切 隊 湯來切 灰 イ、盈之切 支

おこたる、おこたり。
（い）慢す、あなどる。〇〔六韜〕「敬勝レ─則吉」。
（ろ）神氣たゆむ、勉めず、はげまず、なまける。〇〔書〕「汝惟不レ─」。

〔豫怠〕おこたると。〇〔書〕「無二時──」。
〔懈怠〕前に同じ。〇〔漢〕「驕レ有二──」。
〔惰怠〕前に同じ。〇〔韓愈〕「飛御皆──」。
〔慢怠〕前に同じ。〇〔魏〕「所三以糾二──」。
〔昏怠〕前に同じ。〇〔五〕「擊二其──」。
〔淫怠〕みだりにしておこたる。〇〔周〕「去二其──與二其奇褒之民一」。
〔衰怠〕おとろへたゆむ。〇〔易、疏〕「萬物壯健皆有二──」。「大命二。
〔戲怠〕あそびおこたる。〇〔書〕「無二──、懋建二
〔荒怠〕すさみおこたる。〇〔書〕「──弗レ敬」。
〔逋怠〕のがれおこたる。〇〔孟、註〕「畏レ之不二──」。
〔疲怠〕つかれおこたる。〇〔晉〕「官私──」。
〔倦怠〕前に同じ。〇〔齊〕「不二懶惰而──」。
〔驕怠〕心たかぶりあなどる。〇〔五〕「勝而──」。
〔浸怠〕したい〳〵におこたる。〇〔宋〕「政理──」。
〔緩怠〕ゆるみおこたる。〇〔管〕「驕則──」。
〔積怠〕たん〳〵にかさなりたるおこたり。〇〔潛夫論〕「──之俗、雷不レ隆則善不レ勸」。

【怡】 イ。與之切 支

㊀よろこぶ（悅）、たのしむ（樂）。〇〔迺賢〕「戰士踴躍皆歡─」。
㊁やはらぐ（和）。〇〔論〕「下レ氣─レ色」。

〔怡怡〕よろこぶ貌にいふ語。〇〔論〕「兄弟──」。
〔嬉怡〕前に同じ。〇〔唐〕「與レ人言、──微笑」。
〔熙怡〕前に同じ。〇〔嵇康〕「莫レ不二──悅懌一」。
〔養怡〕やしなひやはらぐ。〇〔魏武帝〕「──之福」。
〔遨怡〕遊びたのしむ。〇〔孫楚〕「喜二──而終帶」。
〔安怡〕やはらぐと。〇〔鮑照〕「光景乏二──」。

【怢】 トツ、トチ。突骨切 月

わするる（忽忘）。〇〔王褒〕「凡人見レ之─焉」。

【怢】 怢に同じ。

【怢】 タイ、テ。吐內切 隊

㊀ゆるやか（緩）。 ㊁わするる（忘）。
㊂ほしいまゝ（肆）。

【怤】 フ、ブ。符遇切 遇

心附す、志たがふ、つく。

【怤】 フ、ブ。芳無切 虞

㊀おもふ（思）。 ㊁よろこぶ（悅）。

【怤】 フ、ホ。匪父切 麌

前條の㊀に同じ。

【怤】 フ、ブ。方遇切 遇

前々條の㊁に同じ。

【怦】 ハウ、ヒヤウ。普庚切 庚

㊀心急なり。 ㊁忠直なる貌にいふ字。〇〔楚辭〕「心──兮諒直」。

【怞】 チユツ、チユチ。竹律切 質

憂ふる心。

【怫】 ホツ、ボチ。普沒切 月

心の起こる貌にいふ字。

【怢】 トツ、ドチ。當沒切 月

おそる、(怖)。

【急】キフ、コフ。居立切 [緝]

㊀疾速なり、はやし、さし、はげし、あらし。〇[南]「西・南風―、或有二覆レ舟者一」。

㊁緩みなし、苛し、きびし。〇[漢]「君肅―則臣恐・懼」。

㊂褊小なり、せまし。〇[南]「豁・達大度、漢・祖之德、猜・忌褊―、魏・武之器」。

㊃せまる。
(い)近づく。〇[史]「其射見二敵―一、非レ在二數・十・步之内一、度不レ中不レ發、發々卽應レ弦而倒」。
(ろ)窮まる。〇[漢]「貧・者窮―愁・苦」。
(は)縮む。〇[齊民要術]「桃性皮―」。
(に)猶豫の間なくなる。〇[史]「樊噲在二外・營一、聞二事―一、迺持レ盾入立二帳・下一」。

㊄せく。
(い)あせる、いらつ、いそぐ。〇[漢]「漢・王―推二墮二・子一」。
(ろ)促す、いそがす。〇[史]「―二趣亟・相御・史一定レ功行レ封」。

㊅困難、危險、災厄、事變。〇[左]「使二下・臣告一レ―」。

㊆第一に行ふべきこと、先要。〇[中論]「禮也者人之―也」。

㊇休暇、やすみ。〇[晉令]「―・暇者一・月五―」。

〔猖急〕心せまし 〇[後漢]「以二―・―一不レ能レ從レ俗」。
〔緩急〕事變あること。〇[史]「有二―・―一非レ有レ益也」。
〔煩急〕わづらはしくきびしきこと。〇[詩、箋]「喩下平・王政・教―・―、而恩・澤之令、不上レ行二於下・民一」。
〔促急〕せまること、又、せくこと。〇[新語]「懷二―・―一
者、必有レ所レ斷」。「威・重一」。
〔躁急〕心せまし、いそぐ。〇[宋]「輕・率―・―無二
〔火急〕いそぐこと、せまること。〇[北]「取・求―・―」。
〔警急〕變事。〇[富士傳]「焦・先雖レ有二―・―一不二與レ人語一」。

〔刻急〕きびし。〇[漢]「聞二延・年用レ刑―・―一」。
〔悠急〕前に同じ。〇[漢]「吏益―・―」。
〔艱急〕困難。〇[宋]「轉・饋―・―」。
〔懷急〕氣性せまし。〇[漢]民俗―・―」。
〔厳急〕おごそかに過ぐ、からし。〇[北]「寵性―・―」。「以レ狀聞」。
〔遑急〕あわていそぐこと。〇[後漢]「諸・郡―・―、各
〔迫急〕せまる。〇[後漢]「歆―・―迎・降」。
〔剛急〕強くはげし。〇[晉]「以二交性―・―一、務レ功伐レ善」。
〔猛急〕前に同じ。〇[北]「榮性―・―」。
〔危急〕あやふくせまりたること。〇[蜀]「此誠―・―存・亡之秋也」。「―」。
〔峭急〕性質するどくきびし。〇[王粲]「天・性―・―」。
〔峻急〕はやし。〇[晉]「天性―・―」。
〔苛急〕きびしきこと。〇[宋]「爲レ政―・―」。
〔洶急〕水勢はげし。〇[元]「嘉・陵白・水交・會、勢―・―」。
〔浚急〕前に同じ。〇[洛陽伽藍記]「穀水―・―、注二于城・下一、多壞二民・家一」。
〔迅急〕はやし。〇[水經、註]「水・勢―・―」。
〔湍急〕水の深くして流のはやきこと。〇[水經、註]「飛・湍―・―也」。「風―・―」。
〔淒急〕風などのすごくしてはやきこと。〇[潘岳]「勁・
〔倒懸急〕最も事情のせまりたることにいふ語。〇[潘岳]「纍卵之危、―・―之―」。
〔朝夕急〕目前に危險のせまれるにいふ語。〇[左]「陳近二于楚一、民―・―能無レ往乎」。
〔邊烽急〕邊地に設けある合圖ののろしにて知らせたる警報、外寇あるにいふ語。〇[除悱]「聞有二―・―・―一」。
〔轍鮒急〕莊子の言より目前にせまりたる自活の困窮なるにいふ語。〇[莊]「周昨來有二中・道而呼者一、周顧・視車・轍中有二鮒・魚一焉、周問レ之曰、鮒・魚來子何爲者邪、對曰、我東・海之波・臣也、君豈有二斗・升之水一而活レ我哉、周曰、諾、我且下南游二吳越之王一激二西・江之水一迎上レ子可乎、鮒・魚忿・然作レ色曰、吾失二常・與一、我無レ所レ處、吾得二斗・升之水一然活耳、君乃言レ此曾不レ如三早索二我於枯・魚之肆一」。
〔縛虎不得不急〕制御し難きものを取り抑ふるにはきびしくすべきとの義。〇[魏]「布曰、縛太急小緩レ之、太祖曰、―レ―・―レ―・―レ―也」。

【性】セイ、シヤウ。息正切 [敬]

㊀天より萬物に付與したるもの、天賦自然。〇[中]「天命謂二之―一、從レ―謂二之道一」。

㊁生質、本來、さが、たち、もちまへ、なりたち。〇[孟]「此豈水之―哉」。

㊂心神の本體、(情慾、才能などに對しての稱)。〇[孟]「人―善也、猶二水之就一レ下也」。

㊃情慾、才能など、卽ち、心神の作用。〇[孟]「所三以動レ心忍レ―、曾二益其所一レ不レ能」。

㊄心神、こゝろ。〇[北]「利・慾誘二其―一、禍・難嬰二其身一」。

㊅體軀、姿容、からだ、すがた。〇[淮]「不レ待二脂・粉芳・澤一、而―可レ說者」。

㊆壽命、いのち。〇[左]「莫レ保二其―一」。

㊇萬有の原因、(佛家の言)。〇[大藏法數]「―以二不・變一爲レ義、上極二諸・佛一、下至二蠕・飛蠢・動一、雖二品・類萬・差一莫レ不レ本二乎一・―一」。

㊈生知安行するを、學問勉强の力によらずして天道に合する知行あるを。〇[孟]「堯舜―レ之也」。

〔天性〕天賦、生まれつき。〇[孝]「父・子之道―・―」「也」。
〔本性〕さが、たち。〇[詩、疏]「言二后・妃之―・―一」「眞」。
也」。
〔全性〕本性のまゝを保ち失はぬ。〇[淮]「―レ―保レ
〔理性〕性質を壞らぬ、又、理の本質、又、理義の心。〇[後漢]「是以聖・人導レ人―レ―」。
〔土性〕つちの質。〇[趙孟頫]「良・農知二―・―一」。
〔情性〕人情とさがと、又、こゝろ。〇[禮]「先・王本二之―・―一」。
〔志性〕こゝろ。〇[南]「察幼有二―・―一」。
〔禀性〕天よりうけたるさが、うまれつき。〇[宣和畫譜]「―・―通・雅」。
〔德性〕善き道の備はりたるさが。〇[禮]「君・子尊二―・―一」。
〔眞性〕天賦自然。〇[司空曙]「身閑何處無二―・

〔資性〕生まれつき。〇[漢]「其―・―端・正如レ此」。
〔淑性〕やはらかなる善き生まれつきのこと、おもに婦人にいふ語。〇[張衡]「―・―窈・窕」。
〔厚性〕人情の篤き生まれつき。〇[後漢]「―・―寬・中近レ於レ仁」。
〔篤性〕前に同じ。〇[異苑]「至孝―・―」。
〔雅性〕正しきさが。〇[魏]「―・―節・儉」。「―一」。
〔善性〕よきさが。〇[魏]「漸興二學・校一、以導二其―・
〔恬性〕靜かなるさが。〇[晉]「役二―・―一以充二勞・府一」。「―・―一」。
〔孝性〕親によく事ふるうまれつき。〇[南]「嚴幼有二―・―一」。
〔至性〕極めて善きうまれつき。〇[北]「帝幼有二―・」「―一」。
〔神性〕心。〇[北]「頤二養―・―一」。
〔心性〕前に同じ。〇[戴表元]「青山―・―白雲身一」。
〔質性〕生まれつき。〇[齊民要術]「―・―有二強・弱一」。
〔音性〕聲のたち。〇[班婕妤]「―・―閑良」。
〔慧性〕さとさ。〇[江淹]「欲二―・―及レ馴心一」。
〔快性〕心をさわやかにすること、又、さわやかなる生まれつき。〇[何遜]「爲レ宴得二―・―一」。
〔誕性〕生まれつき。〇[高允]「―・―英偉」。
〔猛性〕たけきうまれつき。〇[盧照鄰]「屈二―・―一以自馴」。「―・―一」。
〔柔性〕やはらかなるたち。〇[宋之問]「望レ水知二―・―一」。
〔偏性〕かたよりたるさが。〇[杜甫]「―・―合二幽・棲一」。「竹居」。
〔懶性〕怠惰なるたち。〇[杜甫]「―・―從・來水・
〔硬性〕堅き質。〇[宋无]「―・―辭二斤・鑿一」。
〔雲心月性〕淡泊氣なきこと、世に求むる心なきこと。〇[孟浩然]「野・客―・―爲レ―、高・僧―・―爲レ―」。

【性】セイ、シヤウ。新佞切 [徑]

おそる、(悸)。

【怨】エン、ヲン。於願切 [願]

㊀うらむ。
(い)咎む、恚る。〇[論]「曰、―乎」。「―」。
(ろ)悲しむ、愁ふ。〇[呂氏春秋]「必
㊁あだ、うらみ、(仇)。〇[書]「結二―於民一」。

〔構怨〕うらみを作る。〇[孟]「―二―於諸・侯一」。
〔樹怨〕前に同じ。〇[戰]「而―二―於齊秦一」。
〔宿怨〕(い)うらみの心を留む。〇[孟]「不レ―レ―焉」。

(ろ)ふるきうらみ。○〔唐〕「與二道-宗一有二ー・ー一。
(畜怨) うらみをたくはふ、又、たくはへたるうらみ。○〔國〕「ーレー滋厚」。
(市怨) うらみを買ひ求む、人にうらまるゝ仕方あること。○〔戰〕「所レ謂ーレー而買レ禍者也」。
(買怨) 前に同じ。○〔國〕「以レ寵ーレー」。
(嫁怨) にくみうらむ。○〔後漢〕「ー・ー轉積」。
(疾怨) 前に同じ。○〔禮〕「不二敢ー・ー一。
(解怨) うらみをはらす、又、あだとする心をとく。○〔魏〕「常以二報レ仇ーレー爲レ事」。
(釋怨) 前に同じ。○〔穀梁〕「公及齊人狩二于郜一刺レーレー也」。
(積怨) つもりかさなりたるうらみ、又うらみをつむ。○〔戰〕「我有二ー・ー深二怨於齊一」。
(罷怨) 疲れうらむ。○〔史〕「民-力ー・ー」。
(仇怨) うらむ、又、あだ、うらみ。○〔史〕「皆生-不レ所二ー・ー一。
(恫怨) いたみうらむ。○〔史〕「百-姓ー・ー」。
(愁怨) うれひうらむ。○〔後漢〕「百-姓ー・ー」。
(憤怨) いきどほる。○〔後漢〕「省側レ目ー・ー」。
(猜怨) そねみうらむ。○〔北〕「多レ所二ー・ー一。
(媢怨) 前に同じ。○〔唐〕「由レ是ー・ー益多」。
(訾怨) そしりうらむ。○〔宋〕「以レ故多致二ー・ー一。
(謗怨) 前に同じ。○〔韓〕「管-仲以レ公、而國-人ー・ー」。
(刺怨) 前に同じ。○〔中論〕「猶作レ詩ー・ー」。
(懟怨) うらむ。○〔劉勰〕「則不レ可二以レ情而ー・ー一也」。
(嗔怨) いかりうらむ。○〔獨異志〕「大-家ー・ー誰
(怒怨) 前に同じ。○〔古樂府〕「來-歸相ー・ー」。
(嘆怨) なげきうらむ。○〔魏武帝〕「心常ー・ー」。
(閨怨) 婦女のうらみ、戀のかこち。○〔則天皇后〕「是近-代ー・ー之宗旨」。
(紅怨) 浮世のまゝならぬをかこてる戀情のうらみ。○〔流紅記〕「曾聞葉-上題二ー・ー一葉-上題レ詩寄二阿-誰一。
(班姬怨) 戀しき男に見棄てられたるうらみ。○〔周弘正〕「宜レ並二ー・ー一。
(睚眦怨) にらめたるぐらゐのわづかばかりのうらみ。○〔史〕「ー・ー之ー必報」。
(粉黛含怨) 婦人のかこちうらむをいふ語。○〔丁鶴年〕「ー・ー・ー・ー不レ勝レ情」。

【怨】 蘊に同じ。○〔荀〕「富有二天-下一而無レー」。

【忒】 トク。惕德切 職 タイ、テイ。他代切 隊
常を失ふ、たがふ。

【怩】 ヂ、ニ。年支切 支 デイ、子イ。年題切 齊 ヂツ、ニチ。尼質切 質
はづ、はぢらふ、(慙)。○〔鮑照〕「恧ー・ー而已亦」。
(忸怩) はづ、はぢらふ。○〔書〕「顏厚有二ー・ー一。

【怪】 クワイ、ケ。古懷切 卦
㊀あやし。
(い)不可思議なり、奇なり、異れり。○〔書〕「鉛-松ー-石」。
(ろ)疑はし、いぶかし。○〔嵇康〕「疑-ー之論生偏-是之議興」。
(は)驚歎すべし。○〔後漢〕「彫-飾譎-ー」。
㊁あやしきこと、あやしきもの、又、變化、妖物、ばけもの、ものゝけ。○〔漢〕「盜心不レ樂家多レー」。
㊂あやしく思ふ、つねならずとなす、いぶかる、あやしむ。○〔後漢〕「劉-將-軍平-生見二小-敵一怯、今見二大-敵一勇甚可レー也」。
(神怪) ふしぎ、奇異、又、其のもの。○〔史〕「遣二方-士一求二ー・ー一。
(靈怪) 前に同じ。○〔拾遺錄〕「ー・ー莫レ測」。
(殊怪) 前に同じ。○〔拾遺錄〕「瑰-寶ー・ー之物」。
(瓌怪) 前に同じ。○〔韓愈〕「卓-犖ー・ー之士」。
(詭怪) 前に同じ。○〔後漢〕「論二詭-迹ー・ー一。
(奇怪) 前に同じ。○〔五〕「狀-貌ー・ー」。
(祕怪) 前に同じ。○〔王逵〕「靈-奇ー・ー不レ可レ說」。
(光怪) ひかりのふしぎ。○〔懷素〕「夜-々風-雷起二ー・ー一。
(醜怪) みにくきこと。○〔五〕「維-翰爲レ人ー・ー」。
(狂怪) くるひたること。○〔蘇軾〕「詩-酒淋-漓出二ー・ー一。
(山怪) 山に居るものゝけ。○〔宋之問〕「巨-石潛二ー・ー一。
(妖怪) ものゝけ、ばけもの。○〔趙抃〕「鬼-神縮二ー・ー一。
(變怪) 前に同じ。○〔蘇軾〕「百-種ー・ー旋消-亡」。

【怰】 クワウ、ワウ。胡盲切 ワウ、ヲウ。于萌切 庚
志を失ふ貌にいふ字。

【⿱弗心】 怫に同じ。

【⿱弗心】 髴に通じ用ふ。○〔漢〕「相放-ー」。

【怫】 ヒ、ビ。符沸切 未
心安からず、やすからず、又、いかる、(忿)。○〔莊〕「ー-然作レ色」。

【怫】 フツ、ボチ。符弗切 物
ふさぐ、こもる、(鬱)。○〔魏樂府〕「我心何ー-鬱」。
(怫々) こもる、ふさぐ。○〔參同契〕「ー・ー被レ容中」。
(鬱怫) 前に同じ。○〔劉向〕「志隱-々而ー・ー兮」。

【怫】 ホツ、ボチ。蒲沒切 月
もとる、(悖)。○〔史〕「五-家之言ー-異」。

【⿰忄⿸尸又】 ゼン、ナン。而兗切 銑
よわし、(弱)。

【怬】 キ。許異切 寘
呬に同じ、いこふ、やすむ。○〔張衡〕「ー二河-林之蓁-々一兮」。

【怭】 ヒツ、ヒチ。薄密切 質
あなどる、ほこる、(慢)。○〔詩〕「曰既醉止、威儀ー・ー」。

【怮】 イウ、イユ。於虯切 尤
㊀憂ふる貌にいふ字、うれふ。○〔博雅〕「ー・ー愁-々」。
㊁怒を含みて言はず、いきどほる、ふづくむ。

【怮】 エウ。於堯切 蕭 イウ、ユ。於糾切 有
うれふ、(憂)。

【怮】 アウ、エウ。於教切 效
心戻る、ねぢく、もとる。

【怯】 ケウ、ゴウ。去劫切 葉
㊀敵に畏縮す、おぢる、おそる、おそれ。○〔後漢〕「見二小-敵一ー」。
㊁おそれ易し、よわし。○〔史〕「若雖二長-大好帶レ劍中-情ー耳」。
(孱怯) 劣りて弱し。○〔後漢〕「孱性ー・ー」。
(庸怯) 前に同じ。○〔宋〕「性ー・ー寡二方-略一。
(弱怯) よわし。○〔史〕「示二趙ー且ー也」。
(懦怯) 前に同じ。○〔宋〕「以二炳ー・ー一、不レ能レ詣レ「守」之」。
(恇怯) よわし、又、おそる。○〔魏〕「牛-輔ー・ー失レ
(陳怯) こまやかならずして弱し。○〔袁淑〕「而將-術ー・ー」。

【怰】 ケン。戶絹切 霰
うる、(賣)。

【⿰忄宁】 チヨ、ト。展呂切 語
ものをしる、しる、(智)。

【怱】 悤に同じ。

【怲】 ヘイ、ヒヤウ。兵永切 梗 陂病切 敬
うれふ、(憂)。○〔詩〕「憂-心ー・ー」。

【怳】キヤウ、カウ。許方切 陽
狂ふ貌にいふ字、自失する貌にいふ字、くるふ、きぬけす、ほる。○〔楚辭〕「臨ㇾ風ー兮浩歌」。
〔惛怳〕おろかにして物くるはし。○〔梁〕「識慮ーー」。

【怳】クワウ、ワウ。虎晃切 養
恍に通じ用ふ。○〔老〕「道之爲ㇾ物、惟ー惟忽」。
〔象怳〕極めてひろきこと。○〔孫綽〕「棟宇ーー」。

【怳】ケイ、キヤウ。呼請切 梗
くるふ（狂）。

【怴】ケツ、ガチ。許月切 月
一 戇なる貌にいふ字、おろか。
二 怒る貌にいふ字、いかる。

【怵】チユツ、チユチ。敕律切 質
一 おそる（恐）。○〔書〕「ー惕惟厲」。
二 いたむ、かなしむ（惕・愴）。○〔禮〕「心ー而奉ㇾ之以ㇾ禮」。
〔怵々〕恐るゝ貌にいふ語。○枚乘二「ーー惕々」。
〔悼怵〕いたみかなしむ。○〔東方朔〕「心ーー而耄思」。
〔驚怵〕おどろき恐る。○〔歐陽修〕「樊・籠兔二ーー」。

【怷】シユツ、シユチ。辛律切 質
誅に通じ用ふ、利をもて誘ふ、いざなふ。○〔賈誼〕「ーー迫之徒或趨二西東一」。

【怬】キツ、キチ。休必切 質
怴に同じ、くるふ。

【怶】ヒ。敷羈切 支
一 いかる（怒）。 二 うれふ（憂）。

【怶】ヒ。彼義切 寘
ー憸は、ねぢく。

【怸】チユツ、チユチ。直律切 質
こまかなるつち（密土）。○〔管〕「中土曰二五ーー一」。

【㤉】ワイ、エ。烏快切 卦
あし（惡）。

六畫

【恀】シ。尺氏切 紙
たのむ（怙・恃）。

【⿰忄行】カウ、ガウ。寒剛切 陽
よろこぶ（悅）。

【⿱侖心】ロン。魯本切 阮
ラン。魯管切 旱
睡ーーは、行ひに廉隅なきこと、おこなひ正しからざること。

【恁】ジン、ニン。如甚切 寢　如鴆切 沁
一 心の靡ろこころ卑下なり、いやし。
二 此の如し、かくあり、かく。「力」。
三 思念す、おもふ。○〔班固〕「勤ーー旅ー」。

【恁】ジン、ニン。如林切 侵
一 おもふ（思）。 二 よわし（弱）。
三 まこと（信）。

【⿰忄任】前に同じ。

【恂】シユン。相倫切 眞
一 まこと（信）。○〔書〕「迪知忱ー」。
二 溫恭の貌にも、又、信實なる貌にもいふ字、まめやか、うやうやし。○〔論〕「孔子於二鄕黨一ーー如也」。
三 謹嚴なる貌にいふ字、おごそか。○〔大〕「瑟兮僩兮者ー慄也」。
四 おそる、をのゝく（慄）。○〔莊〕「惴慄ー懼」。
五 たのしむ（樂）。○〔詩〕「ー訏且樂」。

【恂】シユン、ジユン。輸閏切 震
にはか、あわつ（遽）。○〔莊〕「ーー然棄而走」。

【恃】シ、ジ。時止切 紙　時吏切 寘
依る、たのむ、たのみ、又、母の稱。○〔詩〕「無ㇾ母何ー」。
〔怙恃〕たのむ、たのみ、又、父と母と。○〔詩〕「無ㇾ父何ー、無ㇾ母何ー」。
〔矜恃〕たのみとする所ありてほこること。○〔吳〕「公室貴戚、各自ーー、不二相聽從一」。
〔憑恃〕たのむ。○〔金〕「ー二ー恩倖一」。
〔倚恃〕前に同じ。○〔孟郊〕「ーー主人仁」。
〔依恃〕前に同じ。○〔阮籍〕「何ーー以育養」。
〔負恃〕前に同じ。○〔韓愈〕「妒ㇾ寵而ーー」。

【恃】ヂ。丈里切 紙
心明かならず、くらし。

【⿰忄吉】キツ、キチ。許吉切 質
おそる（怖）。

【怴】キツ、コチ。許聿切 質
くるふ（狂）。○〔公羊〕「曷爲以二ー一日一卒ㇾ之、ー也」。

【怴】ケツ、ケチ。翾劣切 屑
いかる（怒）、一說に、愚なる貌にいふ字。

【恅】ラウ、ロウ。盧晧切 晧
愺ーは、心亂る、みだる。

【恆】コウ、ゴウ。胡登切 蒸
一 易の卦名 ☳☴ 震上巽下 ○〔易〕「ー亨无ㇾ咎」。
二 つね（常）。○〔易〕「ー二其德一貞」。
〔有恆〕きまりたるすぢめあり。○〔孟〕「政貫ㇾー」。
〔不恆〕（い）つねにせぬ。○〔易〕「ㇾーㇾ二其德一、或承二之羞一」。（ろ）なみならぬ。○〔莊〕「骨骼ーㇾー」。
〔和恆〕やはらぎて常あること。○〔易〕「牽二答天命一、ー二ー四方一」。
〔安恆〕やすくしてかはらざること。○〔潘岳〕「立ㇾ德之柄、莫ㇾ匪二ーー一」。

【恆】コウ、ゴウ。古鄧切 徑
一 ゆみはりづき（弦月）。○〔詩〕「如二月之ー一」。
二 あまねし（徧）。○〔詩〕「ー二之秬秠一」。

【恇】キヤウ、去王切 陽　カウ。丘往切 養
おそる、おづ（怯・恐）。○〔梁鴻〕「嗟ーー兮誰留」。

【恈】ボウ、ム。莫浮切 尤
むさぼる（貪）、をしむ（愛）。○〔荀〕「ーー然利唯之見」。

【⿰忄夅】カウ、コウ。古巷切 絳
うらむ（恨）。

【恉】シ。軫視切 紙　脂利切 寘
こゝろ、こゝろばせ（意）。

【恘】シウ、シユ。昌中切 東

心動く、うごく、又、むなさわぎ。

【悄】俗の悁の字。

【協】慴に同じ。

【悇】サツ、セチ。初轄切 黠

人を譎す、せむ。

【恋】俗の戀の字。

【恎】タク、ダク。徒落切 藥

㊀はかる、おもふ、(忖)。㊁くはだつ、(企)。

【恎】タク、ヂヤク。直格切 陌

なほし、(忠)、たゞし、(正)。

【恎】タ。抽加切 麻

未だ定まらず、きまらず。

【悇】ビ、ミ。綿批切 支

心惑ふ、まごふ、又、まよふ、(迷)。

【悇】ビ、ミ。母婢切 紙

やすし、(安)。

【恌】テウ。吐彫切 蕭

うすし、(偷)。○[詩]「視レ民不レー」。

【恌】エウ。餘昭切 蕭

うれふ、(憂)。

【恖】恐に同じ。

【恖】セン、ソン。思廉切 鹽

言衆し、こさばおほし、くちがまし、くちさがし、疾利口。

【烈】レツ、レチ。良孽切 屑

うれふ、(憂)。

【㤠】前に同じ。

【㤠】レイ。力制切 霽

おごろく、(驚)。

【恍】クワウ、ワウ。虎晃切 養

㊀ひろくして名狀し難し、有無たしかならず。○[老]「惚兮ー兮」。㊁自失す、きぬけす、ぼける、ほる。○[莊]「神-心惚-ー」。

【恍】クワウ、カウ。姑黃切 陽

たけし、(武)。

【𢙣】ヰク、チク。乙六切 屋

心動く、うごく、又、むねさわぐ、むなさわぎ。

【恎】テツ、デチ。徒結切 屑

【恎】シツ、シチ。職日切 質

㊀あしきさが、(惡-性)。㊁もとる、(很)。

【恎】シ、ジ。充至切 寘

㊀前條の㊀に同じ。㊁惶遽す、あわつ、おそる。

【恏】カウ、コウ。許皓切 皓

むさぼる、(慾)。

【恐】キヨウ、ク。丘勇切 腫

㊀おそる、おそれ。(い)驚きて勇氣失す、こは氣立つ、おづ。○[左]「脅-人ー乎、對曰、小-人ー矣、君-子則否」。(ろ)心安んぜず、危む。○[左]「何恃而不レー」。(は)いたく愼む。○[禮]「孝-子祭之日、顏-色必溫、行必ー、如レ懼レ不レ及レ愛然」。

㊁おそれしむ、おそれを懷かしむ、おびやかす、おどす。○[史]「脅二ー丞-相一、以下夫-人殺二侍-婢一事上」。

〔振恐〕ふるひおぢ、わなゝきおそる。○[史]「秦-武-陽色變ー-ー」。

〔迫恐〕せまりおどす、おびやかす。○[漢]「多-豯-舞-寨-掠立ー-ー」。

〔大恐〕いたくおそる。○[呂氏春秋]「大-憂ー-ー」。

〔惴恐〕おそる。○[史]「宗-室豪-傑、皆人-人ー-ー」。

〔惶恐〕前に同じ。○[史]「甚ー-ー」。「ー-ー」。

〔蕩恐〕大いにおそる、大いにおどす。○[史]「百-僚ー-ー」。

〔㤺恐〕おびやかしおどす。○[史]「使二人ー-ー一」。

〔憂恐〕うれひおそる。○[荀]「心ー-ー」。

〔驚恐〕おどろきおそる、おどろかしおどす。○[後漢]「皆ー-ー自救」。

〔畏恐〕おぢおそる。○[五]「國-中皆ー-ー」。

【恐】キヨウ、ク。區用切 宋

想像するに、おもふに、おもんぱかるに、疑ふらくは、おそらくは。○[史]「秦城ー不レ可レ得」。

【怈】エイ。余制切 テイ。丑制切 霽

㊀ならふ、(習)。㊁あきらか、(明)。

【恑】キ。古委切 紙

㊀かはる、(變)。㊁あやしむ、(異)。㊂くゆ、(悔)。

【恑】ギ。虞爲切 支

獨立の貌にいふ字、ひとりたつ。

【恒】俗の恆の字。

【恓】セイ、サイ。先齊切 齊

㊀煩らひ惱める貌にいふ字。○[韋應物]「ー-惶戎-旅下」。㊁棲に通じ用ふ、すむ。

【恔】ケウ。古了切 篠

あきらか、(憭)。

【恔】カウ、吉巧 ケウ。切 カウ、下巧 ゲウ。切 巧

さとし、(慧)、又、小才あり、こざかし、又、わるがしこし、(黠)。

【恔】カウ、胡孝 ゲウ。切 看 カウ、下交 ゲウ。切 肴

こゝろよし、(快)。○[孟]「於二人-心一獨無レー乎」。

【恕】ジヨ、ソ。商署切 御

㊀己れを推して他に及ぼす、仁を施し行ふ、あはれむ、おもひやる、あはれみ、おもひやり。○[論]「其ー乎、己所レ不レ欲勿レ施二於人一」。㊁寬假す、ゆるす、ゆるし。○[歐陽修]「原レ情以ー特出二深-仁一」。

〔情恕〕おもひやる、又、ゆるす。○[晉]「人有レ不レ及、可二以レー-ー一」。「ー-ー」。

〔平恕〕私なくしていつくしみあり。○[宋]「睟-直ー-ー」。

〔內恕〕心の中におもひやりを存す。○[禮]「ー-ー孔悲」。

〔明恕〕心あきらかにして人の身の上をおもひやる。○[左]「ー-ー而行、要レ之以レ禮」。

〔忠恕〕人に對して己れの眞ごゝろを盡くすと己れの心を推して人に及ぼすと。○[禮]「ー-ー違レ道不レ遠」。

〔寬恕〕ゆるやかにしておもひやりあると、又、ゆるすと。○[後漢]「以二簡-朴ー-ー一爲レ政」。

（降恕）罪を滅じゆるす。○〔後漢〕「自レ春迄レ冬、不レ蒙ニ──ー」。

（容恕）ゆるす。○〔後漢〕「相──」。「─」。

（仁恕）あはれむ、ゆるす。○〔後漢〕「寛・明而──」。

（公恕）私なくして仁なること。○〔宋〕「以ニ仁・義──、厚ニ斯民之生ー」。

（詳恕）つばらにして粗漏なく、且、おもひやりの心あること。○〔宋〕「讞・獄──、多レ所ニ全・活ー」。

（慈恕）あはれみ。○〔宋〕「──而剛斷」。

（寬恕）いさぎよくしておもひやりの心あること。○〔宋〕「比レ治レ郡、──有ニ循・吏風ー」。

（矜恕）あはれみゆるす。○〔宋〕「非レ有ニ大・故ー、所レ宜ニ──ー」。

（反恕）人の身をおもひやらむとして反りて己れの身をのみおもひやりて寛假すること。○〔賈誼〕「以レ己量レ人謂ニ之恕ー、──爲レ荒」。

（篤恕）着實にしておもひやりの心あり。○〔范式〕「明・允──」。

（宥恕）寛くしゆるす。○〔王珪〕「──ニ刑・獄ー」。

（謙恕）人にへりくだり、又、おもひやりの心あり。○〔孔文仲〕「天・資──」。

【恖】 古文の思の字。

【恗】 コ、ウ。荒烏切 [虞]
おそる、（怯）。

【𢘿】 クワ、ケ。枯瓜切 [麻]
ほこる、（誇大）。

【㤉】 クワ、ゲ。苦瓦切 [馬]
心恗ろ、もさろ。

【㤢】 キウ、ク。去秋切 [尤]
もさろ、（戾）。

【恙】 ヤウ。餘亮切 [漾]
疾病、又、憂愁などの稱、つゝが、古昔、草居の時代に、善く人を噬むつゝがさいふ蟲あり其の毒を被る者多きより勞問の辭に無レ─やさいひしより轉義すさいふ。○〔晉〕「布・帆無レ─」。

（疹恙）皮膚に生ずる病。○〔陳〕「哀・悼切・塵、──纏・綿」。

（疴恙）やまひ。○〔庾信〕「比・年──彌留」。

（疲恙）つかれやまひ。○〔王胄〕「遂此嬰ニ──ー」。

（疾恙）やまひ。○〔姚合〕「伊人同──」。

（微恙）わづかなるやまひ。○〔秦觀〕「──不レ足レ論」。

【恚】 イ。於避切 [寘]
恨み怒る、うらむ、いかる、うらみ、いかり。○〔後漢〕「欲ニ試レ寛令レ─」。

（恨恚）うらみいかる。○〔論衡〕「言ニ其──驅レ水爲レ濤者虛也」。

（怨恚）前に同じ。○〔漢〕「重──葬ニ」。

（怒恚）いかる。○〔漢〕「──不レ食」。

（忿恚）前に同じ。○〔後漢〕「──復作レ風」。

（嗔恚）前に同じ。○〔吳〕「輒──憤・激」。

（瞋恚）前に同じ。○〔淨住子〕「經云、不レ得ニ貪・欲──愚・癡・邪・見ー」。

（憂恚）うれへいかる。○〔蘇軾〕「──何足レ洗」。

（悲恚）かなしみいかる。○〔晉〕「嘗──叩レ刀欲ニ自・殺ー」。

（恥恚）はぢいかる。○〔晉〕「──愈甚」。

（慙恚）前に同じ。○〔周書〕「遂──因卒」。

（怫恚）理にもとりいかる。○〔唐〕「太后方──」。

（奮恚）いかる。○〔孔叢子〕「妻亦──、因援以レ臂」。

（蔚恚）さかんに怒る。○〔吳越春秋〕「餘・恨──瞋必來也」。

（愁恚）うれへいかる。○〔方言〕「──憤・々毒而不レ發」。

（懟恚）うらみ、いかり。○〔徐陵〕「反爲ニ──ー」。

（震恚）いたくいかる。○〔文同〕「皇・忽猖而──兮」。

（餘恚）いかりの心をあとまでも留とむること。○〔劉弇〕「沒有ニ──ー」。

【悚】 悚に同じ。

【恛】 クワイ、エ。戶恢切 [灰]
昏亂の貌にいふ字、みだる、くらし。○〔揚雄〕「疑──」。

【恜】 チョク、チキ。恥力切 [職]
おそる、（惕）。○〔顏氏家訓〕「卜得ニ惡・卦ー反令ニ──ー」。

【恝】 カイ、ケ。居拜切 [卦]　カツ、ケチ。訖黠切 [黠]
愁ひなき貌にいふ字、うれひなし。○〔孟〕「公・明・高以ニ孝・子之心ー爲レ不ニ若レ是──ー」。

【恞】 イ。以脂切 [支]
よろこぶ、（悅）、たのしむ、（樂）。

【恟】 キョウ、ク。許容切 [冬]　詾拱切 [腫]
或は、忷に作る。
おそる、おづ、（懼）。○〔韓愈〕「譎・夢意猶──」。

【恑】 恑に同じ。

【恢】 クワイ、ケ。苦回切 [灰]　キ。苦虺切 [尾]
㊀大いなり、ふさし、ひろし。○〔老〕「天・網──疎而不レ漏」。
㊁大きくなす、おほいにす。○〔揚雄〕「廓レ之──レ之」。

【恠】 俗の怪の字。

【㤥】 カイ、ガイ。戶代切 [隊]
愁ひ畏る、くるしむ、（苦）。

【恣】 シ。資四切 [寘]
思ひのまゝに行ふこと、忌み憚らざること、みだりにして禮儀なきこと、氣まゝ、ほしいまゝ。○〔後漢〕「寵・貴橫─」。

（放恣）氣まゝなること。○〔孟〕「諸・侯──」。

（縱恣）前に同じ。○〔韓〕「士・民──ニ于內ー」。

（擅恣）前に同じ。○〔淮〕「無ニ──之志、無ニ矜・伐之色ー」。

（驕恣）高ぶりて氣まゝなり。○〔漢〕「益──不レ用ニ漢法ー」。

（躁恣）さわがしくして氣まゝなり。○〔易、註〕「夫陰・質而──者羸家特甚」。

（輕恣）かろはづみにして氣まゝなり。○〔詩、箋〕「自──也」。「以ニ──ー」。

（專恣）ひとり氣まゝにす。○〔春秋、疏〕「教ニ強・臣ー」。

（僭恣）分を越えて氣まゝなり。○〔漢〕「丁・傅──、自求ニ凶・害ー」。

（夸恣）たのしみ荒みて氣まゝなり。○〔後漢〕「或連ニ繼日・夜ー、以騁ニ──ー」。

（凶恣）あしくはしいまゝなり。○〔後漢〕「董・卓自知ニ──ー」。

（奢恣）華麗を修飾して氣まゝにす。○〔後漢〕「以ニ鈔・掠ー爲レ資、──無レ厭」。

（忌恣）人を嫌惡し氣まゝなる振舞をなす。○〔後漢〕「皇后乘レ勢──」。

（競恣）爭ひて氣まゝにす。○〔後漢〕「──ニ奢・欲ー」。

（夸恣）高ぶりはこりて氣まゝなり。○〔晉〕「至ニ元・康中ー、──成レ俗」。

（狂恣）くるはしく氣まゝなり。○〔晉〕「此──不肅之咎也」。

（強恣）勢つよくして氣まゝなり。○〔晉〕「是時桓・溫──、權制ニ朝・廷ー」。

（豪恣）前に同じ。○〔宋〕「小・人專レ權──」。

（荒恣）すさみてはしいまゝなり。○〔晉〕「敦──ニ於色ー」。

（侵恣）他人の權までをもをかして氣まゝなる振舞をなすこと。○〔晉〕「豪・戚──、賄・賂公・行」。

（狠恣）心ねぢけて氣まゝなり。○〔唐〕「薛・懷・義──快・々」。

（貪恣）利をむさぼりて氣まゝなり。○〔宋〕「守・令或──悖昏」。

（阿恣）上にこびて氣まゝなる行ひをなす。○〔宋〕「其──無ニ忌・憚ー如レ此」。

（昏恣）心くらくして氣まゝなり。○〔元結〕「忍ニ行──、獨樂ニ其身ー」。

（暴恣）あらくしくして氣まゝなり。○〔蘇軾〕「古・人雖ニ──、作ニ事今・世驚ー」。

【咨】 シ。千咨切 [支]

——睢は、自得の貌にいふ語。

【怏】
リ。力志切 寘

うれふ、(憂)。

【恤】
ジュツ、ジュチ。辛聿切 質

㊀うれふ、うれひ(憂)。○〔詩〕「告二爾憂一——」。

㊁あはれむ、あはれみ。

(い)災厄相憂ふ。○〔周〕「以レ誓教レ——則不レ怠」。

(ろ)親愛す、いつくしむ。○〔周〕「六曰、不——之刑」。

(は)救ふ、賑はす、めぐむ。○〔周〕「孝友睦婣任——」。

(勤恤) つとめうれふ。○〔書〕「上下——」。
(國恤) 國家の大切なる心がゝり。○〔左〕「忘二其——一、而思二其麀牡一」。
(救恤) 助けあはれむ。○〔左〕「——レ菑——レ鄰」。
(欽恤) 事をつゝしみ人をあはれむ。○〔宋〕「專事二——一」。
(慈恤) いつくしみあはれむ。○〔人物志〕「仁出二——一」。
(憂恤) 憂へ事に心を痛めおぢけつく。○〔書〕「無レ——二于——一」。
(圖恤) 計畫し心をくばる。○〔左〕「不レ能レ——二——社稷一」。
(惠恤) めぐみあはれむ。○〔左〕「——二其民一」。
(保恤) やすんじあはれむ。○〔春秋胡傳〕「——二——寡小一」。
(收恤) 困難なるものを取り立てゝあはれむ。○〔史〕「——二——孤獨一」。
(存恤) 救ひあはれむ。○〔金〕「深加二——一」。
(埋恤) あはれみをかけて死したる者を葬りやる。○〔後漢〕「務加二——一」。
(矜恤) あはれむ。○〔後漢〕「——二——孤嬴一」。
(慰恤) なぐさめめぐむ。○〔魏〕「盡レ心——、効二力行陣一」。
(隱恤) いたみあはれむ。○〔魏〕「修親——二——之一」。
(拯恤) すくふ。○〔晉〕「宜三時——救二其彫困一」。
(撫恤) 安んじめぐむ。○〔北〕「善——」。
(恩恤) めぐみ。○〔元〕「——之厚如レ此」。
(軫恤) あはれむ。○〔宋〕「顧此疲羸、尤堪二——一」。
(慘恤) 心に痛み憂ふ。○〔宋〕「且以二——一不レ甚レ會」。
(賻恤) 物をおくりめぐむ。○〔宋〕「故——不レ及」。
(追恤) 逝きたる者をあとよりめぐみ遣はす。○〔宋〕「與二其——二于後一、固不レ若レ擧二行于今一」。
(顧恤) あはれむ、めぐむ。○〔元〕「不レ加二——一者按レ之」。
(憫恤) 前に同じ。○〔元〕「謹-愼修レ德、——二——生-民一」。
(優恤) あつくめぐむ。○〔南部新書〕「健-兒戍レ邊、寒-暑未レ有二——一」。
(吊恤) とぶらひあはれむ。○〔劉謐〕「——之恩」。

【恥】
チ。敕里切 紙

㊀已れの體面を汚すと思ふ、心にやましきをさ感ず、はづ。○〔孟〕「人不レ可二以無一レ——」。

㊁はぢを與ふ、はぢかゝす、はづかしむ。○〔左〕「——二匹-夫一不レ可二以無一レ備、況國乎」。

㊂はぢ。

(い)はづることを、はづべきこと。○〔史〕「惡二小——一者不レ能レ立二大-功一」。

(ろ)はづかしめられたることを、はづかしめ。○〔史〕「子其悉レ心雪レ——毋レ怠」。

(詬恥) はづ、かづかしむ、はぢ。○〔左〕「經二德・義一、除二——一」。
(愧恥) はづ、はぢ。○〔書〕「其心——、若レ撻二于市一」。
(宿恥) 久しき間の醜辱。○〔舊唐〕「雪二往代之——一」。
(廉恥) 清潔にして醜辱を知ること。○〔詩、序〕「白華廢則——缺矣」。
(刷恥) 醜辱をきよむ。○〔史〕「足二以——一于諸侯一」。
(報恥) 醜辱の返報をなす。○〔後漢〕「將-軍誅レ卓爲レ術——レ——功一也」。
(深恥) おほいなる醜辱、又、ふかくはづ。○〔南〕「不レ知二爲二——一」。
(厚恥) あつく醜辱を重ぬ。○〔隋〕「薄-德——二——于天-下一」。
(榮恥) 名譽と醜辱と。○〔說苑〕「立二——一而明二防・禁一」。
(悔恥) 道に反きたることを爲したるを惡しと心づきてはづ。○〔顏氏家訓〕「赧-然——、精而能散也」。
(淪恥) 醜辱の地位に沈み居る。○〔虞綽〕「嗟余獨——レ——」。
(包羞含恥) はぢを忍ぶこと。○〔左〕「若——レ——レ——而不レ能レ——二灑之一則不レ可レ有レ立」。

【恦】
シヤウ、サウ。式亮切 漾

おもふ、おもひ(念)。

【恧】
ヂク、ニク。女六切 屋

はづ(愧)。○〔漢〕「朕甚——焉」。

【恨】
コン、ゴン。胡艮切 願

うらむ、うらみ。

(い)惡みとがむ、いかりて仇とす、其の意怨より深し。○〔國〕「莫レ不二怨——一」。

(ろ)悔ゆ。○〔史〕「王-朔謂二李-廣一曰、將-軍自念豈嘗有レ所レ——乎、廣曰、羌降者八-百-餘-人、吾詐而盡殺レ之、至レ今大——」。

(は)思ひに沈む。○〔開-元天寶遺事〕「不二獨萱-草忘一レ憂、此花亦能銷レ——」。

(齎恨) うらむる心をいだく。○〔後漢〕「——レ——入レ冥」。
(遺恨) 怨みを留めのこす。○〔徐陵〕「昔李-廣——レ——、不レ館二漢初一」。
(萬恨) 多くのうらみ。○〔秦嘉〕「一-別懷二——一」。
(千恨) 前に同じ。○〔羅隱〕「無-端路結二-成——一」。
(幽恨) 人知れぬうらみ。○〔元稹〕「各自埋二——一」。
(怨恨) うらむ。○〔國〕「財亡民罷、莫レ不二——一」。
(悵恨) 痛みうらむ、いたみうらふ。○〔傅咸〕「情甚——」。
(春恨) 春日の光景に打たれて何となくうツとりして思ひに沈むこと。○〔王昌齡〕「欲レ捲二朱簾一——長」。
(感恨) 心を動かしうらむ。○〔漢〕「內無二——之隙一、外無二侵-侮之羞一」。
(悲恨) 哀しみうらむ、又、かなしみうらふ。○〔漢〕「父-子——、朕甚傷レ之」。
(忤恨) 逆らひうらむ。○〔漢〕「稱-譽者登-進、——者誅-傷」。
(忿恨) ふづくみ怨む。○〔阮瑀〕「既懼二患至一、兼懷二——一」。
(恚恨) 前に同じ。○〔漢〕「買——不二肯言一」。
(非恨) 誹りうらむ。○〔漢〕「居二公門下一相——」。
(愁恨) 憂へうらむ、うれふ、うれひ。○〔杜甫〕「舊-犬知二——一」。
(愴恨) 痛みうらむ。○〔梁竦〕「臨二涯-川一以——兮」。
(忌恨) 嫌ひうらむ。○〔蜀〕「宿-昔之所二——一也」。
(歎恨) なげきうらむ。○〔杜甫〕「勸レ君休二——一」。
(愧恨) はぢてうらむ。○〔南〕「終身——二——之一」。
(慚恨) 前に同じ。○〔晉〕「榮聞而——」。
(慨恨) 歎きうらむ。○〔晉〕「忽爲二荆-楚之珍一、所二以——一」。
(酸恨) 悲しみうらむ。○〔陳〕「絕レ絃投レ筆、恆以——」。
(痛恨) 前に同じ。○〔南〕「——慟-哭久レ之」。
(哽恨) むせび泣きしてうらむ。○〔南〕「帝尤——」。
(微恨) いさゝかなるうらみ。○〔周必大〕「一-時抱二——一」。
(嫌恨) 忌みうらむ。○〔北齊〕「亦不レ至二——一」。
(戀恨) 未練殘ること。○〔趙至〕「夫以二嘉-遁之舉一、猶懷二——一」。
(妒恨) ねたみうらむ。○〔隋〕「咸懷二——一」。
(娟恨) 前に同じ。○〔唐〕「見二讃毀擢-頗——一」。
(追恨) 後より心づきてうらむ。○〔唐〕「帝悟二其讒一、——二——之一」。
(餘恨) 後までも殘りあるうらみ。○〔傅休奕〕「涂-山有二——一」。
(悔恨) くゆ。○〔神仙傳〕「忽-焉不レ知二所-在一、帝甚——」。
(飲恨) うらみを表に出さずして心に忍びもつ。○〔郝經〕「——レ——復吞レ聲」。
(別恨) 離れ去ることの殘り惜しさ。○〔白居易〕「得レ意減二——一」。
(慘恨) いたみうらむ。○〔張祜〕「不レ堪レ揮二——一」。
(卒恨) うらみを果たし終ふ。○〔王粲〕「除二曹-操一以——二先-公之——一」。
(深恨) 心にいたく念ひ込みたるうらみ。○〔雍陶〕「就レ中——酒-錢無」。
(哀恨) 悲しみうらむ。○〔溫嶠〕「——自咎」。
(猜恨) そねみうらむ。○〔鮑照〕「——坐相仍」。
(累恨) 積み重なりたるうらみ。○〔鮑照〕「逾——之長嘆」。
(情恨) うらみ。○〔梁簡文帝〕「無レ由二——通一」。

〔百恨〕くさ〴〵のうらみ。〇〔梁元帝〕「怨·妾愁·心——生」。
〔憂恨〕うれへうらむ。〇〔沈約〕「——長獨多」。
〔羞恨〕耻ぢうらむ。〇〔王筠〕「——掩二衾·扉一」。
〔羈恨〕旅路に出で久しく家に歸らざるうらみ。〇〔孫萬壽〕「——雖レ多緒、俱是一傷情」。
〔愁恨〕さびしきうらみ。〇〔王勃〕「他·鄉易レ感、增二——一」。
〔含恨〕うらみを忍びて表にあらはさぬ。〇〔盧照鄰〕「離分厭分自レ古——無レ已」。
〔離恨〕相別かるゝうらみ。〇〔李白〕「——滿二蒼·波一」。
〔巨恨〕大いなるうらみ。〇〔張九齡〕「結二——於幽·明一」。
〔苦恨〕くるしみうらむ。〇〔蘇軾〕「——不レ知レ名」。
〔客恨〕羈旅の身となり居るうらみ。〇〔蘇拯〕「——猿·哀一相似」。
〔冤恨〕無實の汚名にかゝれるうらみ。〇〔杜甫〕「忠·貞負二——一」。
〔嗔恨〕怒りうらむ。〇〔李華〕「咄因二吾身一、生二彼——一」。
〔舊恨〕ふるきうらみ。〇〔盧綸〕「——尙塡レ膺」。
〔寸恨〕わづかばかりなるうらみ。〇〔楊萬里〕「寸·心無二——一」。
〔悒恨〕いたみうらむ。〇〔韓愈〕「遂自——形二於書一」。
〔仇恨〕うらみ。〇〔韓愈〕「一·笑釋二——一」。
〔殘恨〕のこるうらみ。〇〔孟郊〕「覺來——深」。
〔重恨〕積もれるうらみ。〇〔孟郊〕「遠·遊起二——一」。
〔暗恨〕人知れぬうらみ。〇〔白居易〕「別有二幽·情——生一」。
〔緘恨〕うらみのたけを書にものし封じて送るにいふ語。〇〔杜牧〕「——寄二遙·程一」。
〔惜恨〕をしくおもひうらむ。〇〔李商隱〕「有レ懷非二——一」。
〔酷恨〕いたくうらむ。〇〔李中〕「——西·園雨」。
〔忸恨〕はぢうらむ。〇〔韋莊和〕「——山思レ板」。
〔刻骨恨〕骨にきざめるうらみ、卽ち、永く忘るゝ能はざるうらみ。〇〔後漢〕「臣常抱二——之一」。

【恩】オン。烏痕切　元

❶めぐむ、(惠)、いつくしむ、(愛)。〇〔詩〕「——斯勤レ斯」。
❷惠德、仁愛、いつくしみ、めぐみ、あはれみ。〇〔史〕「慘·礉少レ—」。
〔蒙恩〕めぐみをうけかうぶる。〇〔後漢〕「平二定天·下一、海·內——」。
〔私恩〕おもてむきならぬ情愛。〇〔後漢〕「今·夕酣·觴文與二故·人一飲者——也」。
〔推恩〕愛情を人の身に及ぼす。〇〔漢〕「願陛下令下諸·侯得中——分二子·弟一以レ地侯上レ之」。
〔舊恩〕前時に蒙りたるめぐみ。〇〔漢〕「加以二——未レ報乎」。
〔謝恩〕めぐみを蒙りたるに對して禮を述ぶ。〇〔後漢〕「請レ謝——」。
〔樹恩〕めぐみを立て行ふ。〇〔後漢〕「——布レ德、易二以周·洽一」。
〔報恩〕めぐみに對しておくゆ。〇〔說苑〕「唯賢·者爲二能——一」。
〔懷恩〕めぐみになづく。〇〔後漢〕「吏—二其—一」。
〔國恩〕國家の我が身を庇護しくるゝめぐみ。〇〔郭璞〕「短·策猶期レ報二——一」。
〔主恩〕君上のめぐみ。〇〔說苑〕「股·肱不レ備、則——不レ流」。
〔源恩〕厚きめぐみ。〇〔西征賦〕「流二春·澤之——一」。
〔朝恩〕朝廷の御めぐみ。〇〔舊唐〕「吾荷二——一」。
〔市恩〕めぐみを人にきせて利するあらんとすると。〇〔宋〕「是—二私·—一也」。
〔實恩〕前に同じ。〇〔吳〕「豈敢——以協二原·康一邪」。
〔湛恩〕深きめぐみ。〇〔司馬相如〕「——汪·濊」。
〔孤恩〕めぐみに負く。〇〔李陵〕「陵雖二——一、漢亦負レ德」。
〔洪恩〕大いなるめぐみ。〇〔荀勗〕「——普暢廣及二群臣一」。
〔殊恩〕特別なるめぐみ。〇〔謝偃〕「承二置レ醴之——一」。
〔生恩〕生育のめぐみ。〇〔韓愈〕「——既及二於四·海一」。
〔仁恩〕あはれみ、めぐみ。〇〔徐陵〕「——可二以懷二猛·獸一」。
〔慈恩〕前に同じ。〇〔宋之問〕「——忝二翰·林一」。
〔感恩〕めぐみを有難く思ふ。〇〔韓愈〕「—レ—則有レ之矣」。
〔前恩〕いにし時のめぐみ。〇〔左、疏〕「稱二——一以誘レ之」。
〔厚恩〕あつきめぐみ　〇〔舊唐〕「實慚二尸·素一、有レ愧二——一」。
〔聖恩〕君上の御めぐみ。〇〔韓愈〕「——弘·大」。
〔至恩〕こよなきめぐみ。〇〔後漢〕「君·臣大·義、母·子——」。
〔遺恩〕のこれるめぐみ。〇〔蘇轍〕「處·々有二——一」。
〔天恩〕天の賦與のめぐみ、又天子のめぐみ。〇〔後漢〕「上至二——一、下完二性·命一」。
〔崇恩〕たかきめぐみ。〇〔後漢〕「旅·力已竭、仰二慕——一」。
〔垂恩〕めぐみをたれ行ふ、あはれむ。〇〔甘泉賦〕「儲レ精——、感二動天·地一」。
〔割恩〕情愛をさき去ると。〇〔後漢〕「父·子一·體、天·性自·然、以レ義——爲二天·下一也」。
〔狃恩〕めぐみに習れてさほど心に感ぜぬ。〇〔後漢〕「臣司——、莫二以爲レ負」。
〔拜恩〕めぐみをうく。〇〔北〕「受二謝天·朝一、—二—私·室一」。
〔重恩〕一方ならざるめぐみ。〇〔北〕「吾受二國——一」。
〔曲恩〕理を枉げてめぐむ。〇〔舊唐〕「酬二裴·寂一則——太過」。
〔覃恩〕めぐみを施す。〇〔舊唐〕「因二雷·雨一以——」。
〔緩恩〕あつきめぐみ。〇〔舊唐〕「援以二——一、結爲二兄·弟一」。
〔酬恩〕めぐみに對しておくゆ。〇〔舊唐〕「執レ法——」。
〔迴恩〕めぐみを他の方面に向く。〇〔舊唐〕「上·疏乞二——贈レ父一」。
〔繫恩〕めぐみあるを慕ひて心を寄す。〇〔舊唐〕「——一方切」。
〔殉恩〕めぐみに對し身命を抛ちて之に酬ゆ。〇〔唐〕「方以レ身——」。
〔異恩〕特殊なるめぐみ。〇〔金〕「乞降二——一、以勵二節·義之士一」。
〔鴻恩〕大いなるめぐみ。〇〔吳越春秋〕「蒙二大·王——一」。
〔積恩〕めぐみをかさぬ、かさなるめぐみ。〇〔淮〕「仁者——之見·證也」。
〔捨恩〕めぐみをやめて施さぬ、又、めぐみを受けたることをかへりみぬ。〇〔論衡〕「夫治レ人不レ能——」。
〔偷恩〕愛情なきをいつはりてあるが如くにす。〇〔謝靈運〕「借二兄·弟一以二——一」。
〔盧恩〕前に同じ。〇〔論衡〕「爲二——拊二循其民一」。
〔博恩〕廣きめぐみ。〇〔司馬相如〕「——廣施」。
〔濃恩〕厚きめぐみ。〇〔班固〕「弘二——一、降二溫·澤一」。
〔敦恩〕仲ちひよくめぐみあつきと。〇〔曹植〕「敘二骨·肉之——一」。
〔隆恩〕盛んなるめぐみ。〇〔徐陵〕「斯實不世之——」。
〔沐恩〕めぐみを蒙りうく。〇〔許敬宗〕「——宴改レ歲」。
〔淫恩〕めぐみをうけうるはふ。〇〔吳融〕「紫·殿久——」。
〔豐恩〕ゆたかなるめぐみ。〇〔上官儀〕「——傍洽」。
〔竊恩〕私にめぐみをうく。〇〔張九齡〕「預——於聖·后一」。
〔冒恩〕めぐみをけがす。〇〔宋璟〕「——懷二寵·錫一」。
〔皇恩〕おほいなるめぐみ、君王のめぐみ。〇〔岑文本〕「——被二九·區一」。
〔惠恩〕めぐみ。〇〔元結〕「——如レ可レ謝」。
〔愛恩〕いつくしみ。〇〔韓愈〕「君·臣相憐加二——一」。
〔普恩〕偏く行きわたれるめぐみ。〇〔薛逢〕「欽レ識二——無二遠·近一」。
〔茂恩〕盛んなる惠み。〇〔司馬光〕「辭屢二——一」。
〔貪恩〕惠みをむさぼりぬすむ。〇〔王安石〕「尙荷——」。
〔荷恩〕めぐみをうけ負ふ。〇〔蘇轍〕「譬如二木之在一レ山、生則——」。
〔特恩〕とりわけて下されたるめぐみ。〇〔蘇轍〕「朝·廷非·常——」。
〔曠恩〕廣大なるめぐみ。〇〔鄧潤甫〕「宜レ冒二——一」。
〔寶恩〕ひろきめぐみ。〇〔呂誨〕「識是——」。
〔一飯恩〕いさゝかなるめぐみ。〇〔唐〕「大·丈·夫勿レ顧二——一」。
〔皐陵恩〕大いなるめぐみ。〇〔梁元帝〕「思レ報二——」。
〔國士恩〕一國に又となきさぶらひとして待遇を受けたる惠み。〇〔魏徵〕「深懷二——一」。

【恪】カク、キヤク。苦各切　藥　一に、愙に作る。

つゝしむ、(敬)。〇〔詩〕「執レ事有レ—」。
〔儼恪〕おごそかにして敬む。〇〔禮〕「儼·威——、非レ所二以事一レ親也」。
〔嚴恪〕前に同じ。〇〔後漢〕「先見二——之色一」。
〔共恪〕つゝしむ。〇〔左〕「苟有レ位二于朝一、無レ有レ不二——一」。
〔忠恪〕つゝしみ深きと。〇〔蜀〕「陳·寔——、老而益篤」。
〔廉恪〕潔くして敬む。〇〔後漢〕「公方——、躬儉安レ貧」。
〔清恪〕前に同じ。〇〔魏、註〕「雅·亮公·正、在レ官——」。
〔勤恪〕つとめつゝしむ。〇〔晉〕「甚有二識·密一、加以在レ公——、甚得二朝·野稱·譽一」。
〔祗恪〕つゝしむと。〇〔南〕「——至レ顯」。
〔虔恪〕前に同じ。〇〔吳至節〕「恭·皆敬二——一」。
〔兢恪〕おそれつゝしむ。〇〔柳宗元〕「——危·懼」。

〔倹悋〕身をゝめつゝしむ。○〔蔣伸授張允仲充節度制〕「節度倹換、一一勸」。

【恫】トウ、他東切 東 ツ。吐孔切 董

❶いたむ（痛）。○〔詩〕「神罔時一」。❷吟に同じうめく、によふ。○〔顏師古正俗〕「關中謂呻吟為呻一」。

【恫】トウ、ヅ。徒弄切 送

志を得ず、心まごふ。○〔史〕「一一疑虛喝」。

〔駭恫〕おどろきまどふ。○〔後漢〕「疏越蘊蓄、一一底伏」。

〔惚恫〕事心に任せさること。○〔文心雕龍〕「孔璋一一以麤疎」。

【恬】テン、デン。徒兼切 鹽

やすし、やすらか（安）、又、しづか（靜）。○〔書〕「引養引一」。

〔文恬〕太平打ちつゞき世の中安靜にして文事の平穩無異なるをいふ語。○〔韓愈〕「相臣將臣、一一武嬉」。

〔清恬〕きよくして靜かなること。○〔南〕「諸子中最爲清一」。

〔虛恬〕思ふところなくして心靜かなること。○〔戾闔〕「寂坐挹虛一」。

〔安恬〕やすらか。○〔韓愈〕「五藏難安一」。

【恭】キョウ、ク。九容切 冬

❶つゝしむ。

（い）禮儀をみださず、擧止を正しくす。○〔禮〕「君子一敬撙節退讓以明禮」。

（ろ）和ぎ從ふ。○〔論〕「溫良一儉讓」。

（は）忠實に爲す。○〔國〕「夙夜一也」。

（ほ）驕慢ならず、おごらず、あなどらず。○〔書〕「接下思一」。

❷つゝしみてみだりなるをなし、うやうやし。○〔禮〕「手容一」。

❸うく、うけたまはる（奉）。○〔書〕「今予惟一行天之罰」。

〔致恭〕つゝしみを盡くしきはむ。○〔易〕「謙也者、致一以存其位者也」。

〔允恭〕信につゝしむ。○〔書〕「一一克讓」。

〔象恭〕容貌うやうやし。○〔書〕「一一滔天」。

〔溫恭〕おだやかにして敬む。○〔書〕「一一允塞」。

〔協恭〕和ぎかなひてつゝしむ。○〔書〕「同寅一一和衷哉」。

〔懿恭〕美しく敬しむ。○〔書〕「徽柔一一、懷保小民」。

〔足恭〕敬ひを過ごす、卽ち、阿り諂ふこと。○〔論〕「巧言令色一一」。

〔篤恭〕人情厚くしてつゝしむ。○〔中〕「君子一一而天下平」。

〔不恭〕つゝしまぬ、うやうやしからぬ。○〔孟〕「柳下惠一一」。

〔虔恭〕敬しむ。○〔陸雲〕「古皆受爵、循一一」。

〔齊恭〕同じきやうに敬む。○〔沈約〕「異列一一」。

〔嚴恭〕おごそかにしてつゝしむ。○〔書〕「中宗一一」。

〔敬恭〕つゝしむうやまふ。○〔詩〕「一一明神」。

【恭】恭の本字。

【恆】コウ、ク。戸鉤切 尤

和解する貌にいふ字、やはらぐ、さく。

【恟】キョウ、ク。居悚切 腫

おそる、をのゝく（戰慄）。

【悛】セン。此緣切 先

❶つゝしむ（謹）。❷うれふ（憂）。❸曲り惓く、まぐ、まく。

【息】ソク、セキ。相即切 職

❶氣を呼吸するを、いき。○〔論〕「氣似不一者」。

❷いきながらふるを、生存。○〔隋〕「栖一烟霞」。

❸止む。○〔禮〕「其人亡則其政一」。

❹やすむ。

（い）いこふ、❺の條を見よ。

（ろ）安んず。○〔左〕「臣必致死禮以一楚國」。

（は）燕居す、退隱す。○〔謝朓〕「動一無兼遂」。

❺いこふ。

（い）いきをつぐ、動作を中止す、やすらふ。○〔戰〕「先趨而後一」。

（ろ）寐ぬ。○〔禮註〕「侍夜勸一」。

（は）いこはす、いこはしむ。○〔周〕「以一老物」。

❻慰勞す、ねぎらふ。○〔儀〕「一司正」。

❼生育す、繁殖す、うむ、うまる、そだつ、ふゆ、ふやす。○〔孟〕「其日夜所一」。

❽生みそだてたる者、兒子。○〔戰〕「老臣賤一舒祺最少」。

❾資本より生ずる利得、利子、利息。○〔史〕「能與一者與爲期」。

〔鼻息〕（い）はないき。○〔宋〕「一一自如」。

（ろ）轉じて、意向、きげん。○〔後漢〕「孤客窮寓仰我一一」。

〔晏息〕やすんじいこふ。○〔白居易〕「歸來聊一一」。

〔安息〕前に同じ。○〔詩〕「嗟爾君子、無恒一一」。

〔消息〕（い）たより、おとづれ。○〔杜甫〕「因君問一一」。

（ろ）うすと生ずると、又、きえやむ。○〔易〕「君子尙一一」。

〔蘇息〕生きかへる。○〔書、傳〕「待我君來、其可一一」。

〔休息〕やすむ、いこふ。○〔詩〕「南有喬木、不可一一」。

〔偃息〕ふす。○〔李商隱〕「未當貪一一」。

〔喘息〕あへぐ、又、その病。○〔歐陽修〕「少壯一一人莫聽」。

〔姑息〕事を奮ひ爲さずしてひたすらたやすくしきにいふ語。○〔禮〕「細人之愛人也以一一」。

〔退息〕志りぞきていこふ。○朱熹「一一常端莊」。

〔遊息〕あそびやすらふ。○〔揚雄〕「貧還不去、與我一一」。

〔宿息〕やどる、又、やどり。○〔周〕「及野之道路、一一井樹」。

〔太息〕ためいき。○〔史〕「喟然一一」。

〔喙息〕鳥類。○〔史〕「跂行一一蠕動之類」。

〔絫息〕かさねていきをす。○〔漢〕「每猶絫而一一」。

〔栖息〕棲みいこふ、生存。○〔南〕「經始鍾嶺之南、以爲栖一一」。

〔瞬息〕またゝきをしいきをする間、卽ち、わづかなる時間にいふ語。○〔宋〕「一一徧百虫」。

〔脊息〕いきをころす、卽ちおそるゝことにいふ語。○〔唐〕「擧朝一一」。

〔屛息〕前に同じ。○〔五〕「魏人一一畏之」。

〔胎息〕腹の中に徹するやう深く呼吸すると、卽ち、心を靜にし生を養ふの一法、大呼吸。○〔雲笈〕「閉視聽以一一」。

〔踵息〕くびすに徹するやう深く呼吸すると、意前に同じ。○〔蘇軾〕「一一殆凝喉」。

〔調息〕いきを吐く度を整ふると、意前に同じ。○〔蘇軾〕「正坐瞑目調一」。

〔憩息〕やすみいこふ。○〔杜甫〕「勞力依一一」。

〔追息〕前に同じ。○〔詩〕「莫敢一一」。

〔歸息〕よりいこふ。○〔詩〕「于我一一」。

〔託息〕前に同じ。○〔詩、箋〕「靜安之處而一一焉」。

〔居息〕いこふ。○〔詩〕「或燕々一一」。

〔蕃息〕ましげりふゆ。○〔史〕「子本頻一一」。

〔寧息〕やすんじいこふ。○〔晉〕「以夜繼晝、無須臾一一」。

〔絕息〕やむ。○〔史〕「災害一一」。

〔肥息〕こえそだつ。○〔史〕「牧羊歲餘、羊一一」。

〔伏息〕かくれてなくなる。○〔漢〕「袄孽一一」。

〔掩息〕おはひやむ。○〔漢〕「設言虛亡、則厚德一一」。

〔衰息〕おとろへてやむ。○〔漢〕「百姓妻樸、獄訟一一」。

〔訖息〕やむ。○〔漢〕「災異一一」。

〔側息〕いきをそばだつ、卽ち、安からざる貌にいふ語。○〔吳〕「傾身一一」。

〔慨息〕なげきてためいきをなす。○〔晉〕「企景文而一一」。

〔歎息〕（い）前に同じ。○〔潘岳〕「撫衾裯而一一」。

（ろ）感心すると。○〔晉〕「三軍一一威震敵人」。

〔弭息〕止む。○〔宋〕「下所以一一萃謗」。

〔寢息〕前に同じ、又、いぬ。○〔魏〕「寇寢一一」。

(績息)　ちぢめやむ。○[宋]「ーーニ頻-競ニ」。
(減息)　へりやむ。○[宋]「未レ獲ーーー」。
(省息)　はぶく。○[蔡邕]「經-用ーー」。
(弱息)　年よわなる子供、卽ち謙遜していふ語。○[南]「ーー不レ爲ニ世-子ー、便爲ニ孝子ニ」。
(靜息)　あづまりやむ。○[南]「盜-賊ーー」。
(子息)　むすこ。○[北]「其ーー皆詣ニ大-學ニ」。
(兒息)　前に同じ。○[李密]「晩有ニーーニ」。
(寄息)　わびをまひをなす。○[北]「乃逐ニ寒-暑ー、ーーニ他-舍ニ」。
「而按ニ比之ニ」。
(生息)　生活に同じ。○[唐]「仲-冬條ニ其ーー」。
(娩息)　生まれふゆ。○[唐]「毛-仲カニ于牧-事ー、ーー不レ訾」。
(熟息)　充分に休む。○[五]「戒ニ士-卒ーー」。
(帖息)　安心す。○[宋]「民遂ーー」。
(長息)　ながきためいき。○[東方朔]「喟然ーー、仰而歎レ之」。
(攝息)　いきをさめて氣を靜かにす。○[易林]「屏-氣ーー、不レ得ニ鯉-子ニ」。
(噴息)　ためいきをつく。○[舞賦]「ーー激-昂」。
(寐息)　いねいこふ。○[蔡邕]「ーー屏-營」。
(痛息)　なげきてためいきす。○[魏武帝]「美-志不レ遂、良可ニーーニ」。
(餘息)　殘れるいき、卽ち、餘命といふに同じ。○[任昉]「ーー惟存」。
「在ニーーニ」。○
(殞息)　除きやむ。○[梁武帝]「金作ニ權-典ー、宜
(匭息)　前に同じ。○[鮑照]「蒼-生ーー」。
(停息)　やむ。○[梁武帝]「因ニ爾馳-驅ー、不レ獲ニーーニ」。
「止、ーー殊レ致」。
(動息)　動靜といふに同じ。○[盧思道]「與-行方
(歇息)　やむ。○[白居易]「農-牛冬ーー」。
(稅息)　やすむ。○[歐陽詹]「千-趣萬-態ーー者」。
(微息)　かすかにいきをなす。○[王安石]「螻-蟻ーー、尙竊有レ懷」。
(閉息)　とぢこもる。○[蘇軾]「ーー默自煖」。
(滋息)　ますりふゆ。○[秦觀]「水-上婉而ーー」。
(孳息)　うまれふゆること。○[劉子翬]「絕ニ其ーー源ニ」。
(鮮息)　はないき。○[朱熹]「歸-來ーー深」。
(殘息)　のこんのいのち、卽ち生き永らへたるいのちにいふ語。○[陸游]「數-匙淡-飯支ニーーニ」。
(長太息)　ためいき、卽ち、憂ひに沈み思ひつめたる時につくいき轉じて、憂ひなげく義にいふ語。○[賈誼]「臣竊惟事-勢可ニーーー者六ニ」。

(間不容息)　あひにいきもならぬと、卽ち、ひまの極めて短急速なるにいふ語。○[史]「將-軍勿レ失レ時、時ーーレーレー」。

【恰】　カフ、コフ。苦洽切　洽
㊀心を用ふること、つとむ、ねんごろ。○[韓愈]「聽-衆狎ー排ニ浮-萍ニ」。
㊁鳥の鳴く聲にいふ字。○[杜甫]「自-在嬌-鶯ーー啼」。
㊂適當して、ちやうど、あたかも。○[杜甫]「野-航ー受兩-三-人」。

【悆】　キフ、コフ。許及切　緝
カフ、ケフ。迄洽切　洽
あふ、あはす、(合)。○[揚雄]「陰-氣㤜而ーレ之」。

【悅】　俗の悦の字。

【[忄自]】　息に同じ。

【[各心]】　恪に同じ。

【[忄衣]】　イ。烏紀切　紙
かなしむ、(哀)。

【[品心]】　シン、ソン。七鴆切　沁
犬猫の吐くにいふ字、はく。

【[忄夅]】　カウ、コウ。居勞切　豪
かぎりてしる、(局-知)又、かゝはる。

【[忄并]】　ハウ、ピヤウ。撫庚切　庚
㊀みつ、(滿)。㊁なげく、(忼-慨)。

七畫

【[忄芒]】　バウ、マウ。莫郎切　陽

㊀おそろ、おづ、(怖)。○[列]「ーー然無ニ以應ニ」。
㊁忙に同じ。

【恿】　勇に同じ。

【悀】　ヨウ、ユウ。余隴切　腫
㊀いかる、いきどほる、(恚-怒)。
㊁心喜ぶ。
㊂器に盛り滿つ、もろ、みつ。

【悁】　エン。於緣切　先　一俗に悁に作る。
㊀いかろ、いかり(怒)。○[史]「棄ニ忿-ー之節ニ」。「ーー」。
㊁うれふ、うれひ(憂)。○[詩]「中-心ーー」。
(忿悁)　いかり。○[戰]「秦ーー合レ怒之日久矣」。
(狷悁)　わづらひうれふ、うれひ。○[傳毅]「可下以解ニーーー悒中心意上」。
(結悁)　むすぼれうれふ、ふさぐ。○[袁桷]「寸心獨「ーー」」。

【悁】　ケン。吉緣切　先
いらだつ、いそぐ、(躁-急)。

【[忄坒]】　ヒ。匹夷切　支
あやまり、あやまち、(錯-謬)。○[左思]「兼ニ重ーー以眦レ謬」。

【[忄坒]】　ヘイ、ベイ。邊迷切　齊
意併ふ、あふ。

【[忄坒]】　ヘイ、ベイ。普米切　薺
つゝしむ、(愼)。

【悃】　コン、ゴン。苦本切　阮
純一なる志、まごゝろ、まこと。○[後漢]「ーー愊無レ華」。
(悃々)　ねんごろなる貌にいふ字。○[屈平]「吾寧ーーー款々、朴以忠乎」。
(誠悃)　まこと。○[蔣防政]「ーー遐レ善者」。○[范成大]「ーー無レ華敢自欺」。
(愚悃)　おろかにしてまことなり。

【[狂心]】　キヤウ、居況切　ワウ。于放切　漾
カウ。切
㊀いつはる、(詐)。㊁あやまる、(誤)。

【[忄弄]】　ロウ、ル。盧貢切　送
おろか、(愚)。

【悄】　セウ。親小切　篠
うれふ、(憂)。○[詩]「憂-心ーー」。

【悄】　セウ。七肖切　嘯
はげし、きびし、(急)。

【悅】　エツ、エチ。戈雪切　屑
よろこぶ、よろこび。
(い)樂しく思ふ、たのしむ、たのしみ。○[詩]「我心則ー」。
(ろ)心服す、志たがふ。○[韓愈]「平-居里-巷相慕-ー」。
(容悅)　阿り諛ふとにいふ語。○[唐]「陛下不レ或ニ近-習ーー之辭ニ」。
「不ニーーニ」。
(夷悅)　よろこぶ。○[家]「四-海之舟-擧所レ及、莫ニーーニ」。
(愉悅)　よろこぶ。○[謝靈運]「ーー假ニ東-扉ニ」。
(禪悅)　禪理の樂しみ。○[徐陵]「非レ眼ニ名-香ー、但資ニーーニ」。
「而集-會」。
(和悅)　やはらぎたのしむ。○[書、傳]「民大ーー」。
(敦悅)　厚くよろこぶ。○[後漢]「ーーニ詩-書ニ」。
(耽悅)　厚く心を寄せたのしむ。○[吳、註]「折レ節好レ學、ーーニ書-傳ニ」。
(流悅)　度を過ぎて樂しみよろこぶ。○[後漢]「ーーニ音-伎ニ」。
(愛悅)　めでよろこぶ。○[晉]「見者皆ーーニ之ニ」。
(訣悅)　へつらふこと。○[逸]「以ニーーー相比-昵」。
(萬悅)　あまたのよろこび、○[易林]「千-歡ーー、擧レ事爲レ決」。
「ー」。
(充悅)　滿足しよろこぶ。○[朝野僉載]「顏-色ーー」。

〔取悅〕人よりよろこびすかるゝやうにす。○〔司馬相如〕「當世一レ一云爾哉」。「一一之情二」。
〔甘悅〕あまんじよろこぶ。○〔蔡邕〕「誠無二安寧」
〔親悅〕志たしむこと。○〔曹植〕「一一爲レ歡」。
〔招悅〕まねきよろこばすこと。○〔陳琳〕「食二結外援一、一二一英豪一」。「一二」。
〔抃悅〕よろこぶ。○〔鮑照〕「凡在二氓隷一、莫レ不二一一」。
〔怡悅〕よろこび樂しむ。○〔陶弘景〕「只可二自一一二」。「一二」。
〔慈悅〕いつくしむこと。○〔張君祖〕「兆類蒙二一一」。
〔感悅〕心を かしよろこぶ。○〔權德輿〕「得二北和一則愜然一一」。「足」。
〔悟悅〕さとりよろこぶ。○〔柳宗元〕「一一心自」
〔領悅〕心を寄すること。○〔岑安卿〕「對レ此每一一」。

【侶】リヨ、ロ。兩擧切　語
あなどる、おごたろ、（慢）。

【㤘】シヤウ、サウ。之爽切　養
悅ばず。

【悆】ヨ。羊洳切　御　ショ。商居切　魚
よろこぶ、（喜）。

【悇】ト、ツ。他胡切　虞
禍福未だ定まらず、又、懷ひ憂ふ、苦しみ憂ふ、おもふ、くろしむ、うれふ。○〔馮衍〕「終二一一慱一而洞レ疑」。

【悇】ヨ。羊諸切　魚
たのしむ、（樂）。

【悇】チヨ、ト。抽據切　御　ヨ。羊茹切　語
うれふ、（憂）。

【悈】カイ、ケ。古拜切　卦
さゝのふ、つゝしむ、（飭）。○〔司馬法〕「有-虞-氏一二於中-國一」。

【悈】キヨク、コキ。紀力切　職
きびし、はやし、すみやか、（急）。

【悈】コク。乞得切　職
駭きて自ら專にするにいふ字、ほしいまゝ。

【悉】シツ、シチ。息七切　質
㊀殘るくまなく及ぶ、具はる、つく。○〔漢〕「古之治二天-下一至二纖至一一也」。
㊁つくす。
（い）殘りなく致す、具ふ。○〔漢〕「陳-餘一一三-縣兵一、與レ齊併レ力」。
（ろ）詳に知る、究め請んず、ことごとく知る。○〔史〕「虎-圈嗇-夫從レ旁代レ尉對二上所レ問禽-獸簿一甚一」。
㊂殘りなく、つぶさに、詳かに、皆、ことごとく。○〔漢〕「一引レ兵渡レ河」。
〔詳悉〕つばらに盡くしきはむ。○〔北〕「四-方騈-遠、雜レ可二一一」。「矣」。
〔備悉〕つく、つくす。○〔魏〕「王援レ古喩レ義一一」
〔陳悉〕述べつくす。○〔吳〕「不二肯便有一所二一一」。
〔綜悉〕すべつくす。○〔晉〕「五-經-羣-史、多レ所二一一二」。
〔周悉〕あまねく行きわたる、又、殘りなくつくす。○〔南〕「加二賑-賜一必令二一一」。
〔明悉〕あきらかに知ること、又、あきらかにつくること。○〔南〕「極博-學一二一舊-章一」。
〔練悉〕熟し知る。○〔南〕「博-聞名-識、一二一朝-儀一」。
〔精悉〕くはしくつくし知る。○〔南〕「酌-據一一、一坐稱二服之一」。
〔識悉〕知りつくす。○〔南〕「邑人皆共一一」。
〔該悉〕兼ねつくす。○〔北〕「事難二一一」。
〔究悉〕きはめつくす、又、きはまりつく。○〔北〕「前-言往-行、多レ所二一一」。
〔諳悉〕そらんじ知ること。○〔楊衡〕「客-路誰一一」。
〔委悉〕くはしくつくすこと、又、くはしくつくること。○〔蕭子良〕「比見レ君別更一一也」。
〔酬悉〕詳かに應答すること。○〔唐〕「𨵦レ間一一、舌無二留-語一」。
〔審悉〕つばらにしつくす、又、つばらにつく。○〔純辛〕「一二一幽-隱一」。「令一一」。
〔嚴悉〕きびしくして且行きとゞく。○〔李尤〕「號-

【愛】アイ。於代切　隊
行く貌にいふ字。

【悊】古文の哲の字。○〔漢〕「聖-人既躬二明一一」。

【悃】ケイ、キヤウ。涓熒切　青
おもふ、はかる、（憶）。

【怎】作に同じ。○〔荀〕「無レ所二疑-一一」。

【悋】リン。良刃切　震
過度に欲す、むさぼる、與ふるを難んずたしむ、又、むさぼりたしむ念深し、いやし、志はし、やぶさか。○〔家語〕「商甚一二於財一」。
〔貪悋〕むさぼりをしむ。○〔南〕「庶-務一一、爲二時所二嗤-鄙一」。
〔纖悋〕こまかにしてをしむ、けち。○〔文中子〕「一一者義之蠹」。
〔愛悋〕をしむ。○〔梁昭明太子〕「徒深二一一情一」。
〔遺悋〕のこり惜しきこと。○〔徐陵〕「一見一弟、無レ所二一一一」。「一二」。
〔褊悋〕心せばくいやし。○〔楊希道〕「蕩二心袪一一」

【恡】俗の悋の字。

【悌】テイ、ダイ。大計切　霽
兄に順なること、年長者に逆らはざること、兄弟長幼の親厚きこと。○〔淮〕「不-孝不-一」。
〔仁悌〕なさけありて順なること。○〔唐〕「性一一、不下敢以二貴-權一自上處」。

〔長悌〕年志たなるものをいつくしみ年たけたるものに順なること、長幼の交厚きこと。○〔晉〕「不レ一二一于族-黨一」。
〔友悌〕弟をいつくしみ兄に志たがふこと、兄弟むつまじきこと。○〔唐〕「孝慈一一」。
〔和悌〕やはらぎ志たがふこと。○〔南〕「雍一一美-令」。「一一」。
〔謹悌〕つゝしみ志たがふこと。○〔唐〕「奉二長-姉一一一」。
〔反悌〕兄に志たがはざること。○〔賈誼〕「一レ一爲レ敖」。「一一」。
〔肅悌〕つゝしみ志たがふこと。○〔陳子昂〕「惟孝一一」。

【悌】テイ、ダイ。徒禮切　薺
やすし、又、和ぎよろこぶ。○〔南〕「和-一美-令」。

【悍】カン、ガン。侯旰切　翰
㊀勇氣多し、いさまし、たけし。○〔史〕「爲レ人短-小精一一」。「愿禁レ一」。
㊁凶暴なり、あらし、はげし。○〔荀〕「析レ
㊂性質急なり、きばやし、せまし。○〔漢〕「愚一一少レ慮」。
〔慓悍〕とくあらくし。○〔史〕「項-羽爲レ人、一一猾-賊」。
〔湍悍〕水の流れせはし。○〔柳宗元〕「岩險一一、人-類鳥-獸、古號レ難レ理」。「王二十二」。
〔獷悍〕あらくし。○〔漢〕「誅二一一、降二異-國之一一」。
〔靜悍〕性質おちつきてつよし。○〔漢〕「解爲レ人一一」。
〔驕悍〕おごりてあらし。○〔晉〕「楊-佺-期爲レ人一一、」
〔雄悍〕をゝしくたけし。○〔晉〕「奕-于一一、宜二小避之」。「不レ可二止-喩一」。
〔㦎悍〕僞りの心ありてあらし。○〔淮〕「一一遂レ過、不レ衰」。
〔㾿悍〕潔くしてつよし。○〔韓愈〕「俊-傑一一」。
〔堅悍〕かたく勇まし。○〔韓愈〕「年幾八十、一一
〔輕悍〕かろがろしくして氣はやし。○〔後漢〕「因二一一之衆一、雪二怨舊-郢一」。
〔勇悍〕いさまし。○〔史〕「以二一一一從レ軍」。
〔果悍〕決斷ありて勇まし。○〔漢〕「燕-士一一」。
〔銳悍〕するどくして勇まし。○〔漢〕「殺二折-蘭-王一、斬二盧-侯-王一、一一者誅」。
〔殉悍〕わるづよし、あらくし。○〔水經註〕「南-郡

人、性ー・ー、果ニ于職・闘一。

〔壯悍〕さかんにして勇ましし。○〔漢〕「統以ニ山・中人一、尚多ニー・ー一」。「策風一」。

〔驍悍〕すぐれてつよし。○〔吳〕「ー・ー果・烈、有ニ兒」。

〔勁悍〕つよし。○〔晉〕「吏・寮ー・ー、歷・世不レ實」。

〔彊悍〕前に同じ。○〔柳貫〕「弱肉鉋ニー・ー一」。

〔暴悍〕あらし、はやし。○〔顏氏家訓〕「素ー・ー者、欲ニ其覽ニ古人之小心、黜レ己尊レ賢容レ衆」。

〔趫悍〕たけくつよし。○〔唐〕「紹幼ー・ー有ニ武・力一、且ニ任・俠・闘一」。

〔剛悍〕前に同じ。○〔左思〕「ー・ー生ニ北方一」。

〔驁悍〕おごりてあらし。○〔唐〕「虜性習益ー・ー」。

〔驚悍〕つよくあらし。○〔宋〕「羌・人ー・ー」。

〔鵰悍〕前に同じ。○〔左思〕「料ニ其雄・勇一、則ー・ー狼・戾」。

〔忮悍〕ねたみ心ありてきばやし。○〔南唐近事〕「其妻張・氏ー・ー尤・甚」。

〔獷悍〕あらくたけし。○〔桂海虞志〕「其人・物ー・ー、風・俗荒・怪」。

〔頑悍〕かたくなにしてあらし。○〔友會叢談〕「人・性ー・ー、不レ循ニ禮・法一」。

〔粗悍〕あらくし。○〔東谷所見〕「五・代之文ー・ー、遂有ニ草・茅・崛・起之象一」。

〔沈悍〕おちつきて猛し。○〔王安石〕「爲レ人ー・ー篤・實、不ニ苟爲ニ笑・語一」。「ー・ー」。

〔猛悍〕たけくつよし。○〔段克己〕「東・山氣・象太

【悍】 カン、ガン。下罕切 旱

急なり、はやし。○〔淮〕「水激則ー」。

【怮】 フウ、フ。敷救切 尤

㊀小しく怒る、いかる。㊁ほしいまゝ、（恣）。

【恒】 トウ、ヅ。大透切 宥

㊀うかゞふ、（候）。㊁たぶらかす、（誑）。

【怶】 ヒ、フ。芳否切 紙

尤の韻の㊀の解に同じ。

【悎】 カウ、ゴウ。下老切 皓

㊀おそる、（懼）。㊁心動く、うごく、むなさわぎ。

【悎】 カウ、ケウ。居效切 效

おごろく、（驚）。

【悎】 コク、ゴク。枯沃切 沃

カク、コク。訖岳切 覺

おそる、（懼）。

【㥦】 古文の愛の字。○〔除鍇〕「向レ風而行、則氣ー吃也」。

【悏】 ケフ。苦叶切 葉

思ふ貌にいふ字、おもふ。

【恢】 悏に同じ。

【悐】 惕に同じ。○〔楚辭〕「悼ニ來者之ー・ー一」。

【恀】 シ。職吏切 寘

わする、（忘）。

【悒】 イフ、オフ。於汲切 緝

心安からず、うれふ。○〔楚辭〕「武・發殺レ殷何所レー」。

〔愁悒〕憂へて心安からず。○〔晉、疏〕「ー・ー不レ寐」。

〔憂悒〕前に同じ。○〔晉〕「累レ日ー・ー」。

〔悁悒〕いかりうれふ。○〔蔡邕〕「邑痛ー・ー」。

〔鬱悒〕心結ぼれて安からず。○〔司馬遷〕「是以獨ー・ー而誰與語」。

〔勞悒〕心をいたはり憂ふ。○〔徐陵〕「還告但以ニ「ー」一ー・ー一」。

〔怏悒〕心樂しまざること。○〔杜甫〕「風・景開ニー・

【悜】 ケイ、ギヤウ。胡頂切 迥 下梗切 梗

もさる、（很）。

【悓】 ケン、ゲン。輕甸切 銑

たさへ、たさふ、（譬・喩）。

【悔】 クワイ、ゲ。荒內切 隊 呼罪切 賄

㊀往事を追ひ恨む、前非をさとり改む、くゆ、くやむ。○〔齊〕「吾今ー無レ及」。

㊁くい、くやみ。

（い）くゆるを、くやむを。○〔陸機〕「竭レ情而多レー」。

（ろ）失敗、過失、あくじり、あやまち、さがめ。○〔詩〕「庶無ニ罪ー一以迄ニ于今一」

〔後悔〕事を爲しをはりたるあとにてくやむ。○〔梁〕「勉求ニ多・福一、無レ貽ニー・ー一」。

〔咎悔〕とがめあらたむ、又、くい。○〔唐〕「宜ニ痛自ー・ー一」。「ー・ー」。

〔懺悔〕くい改む。○〔梁武帝〕「今・日此衆、誠・心ー・ー」。

〔追悔〕あとよりくい改む。○〔史〕「ーニーー前過一」。

〔過悔〕あやまち。○〔春、傳〕「思レ所ニ以免ニ其ーー一」。

〔困悔〕苦しみくゆ。○〔周、註〕「庶其ー・ー」。

〔懊悔〕うらみくやむ、又、くやみ。○〔戰〕「義之所レ在、身雖レ死無ニー・ー一」。「深作ニ敎・害一」。

〔尤悔〕とがめ、又、くやむ。○〔漢〕「淺爲ニー・ー一、

〔傷悔〕いたみくやむ。○〔漢〕吏聞者自ー・ー。

〔悟悔〕心づきくやむ。○〔後漢〕「議ニ誤・貴之ー・ー兮」。

〔怨悔〕うらみくやむ、くやみ。○〔白居易〕「當・時美・人猶ー・ー」。

〔忽悔〕あやまち。○〔宋〕「令ニ一思ニー・ー一」。

〔千悔〕あまたゝびくやむ。○〔魏〕「萬・一差・跌、ー・ー何追」。

〔慼悔〕心を動かしくやむ。○〔唐〕「他・日入ニ鄕・校一ー・ー即痛修飾」。

〔餘悔〕のこりのくやみ。○〔唐〕「乘レ機決レ策、無ニー・ー一」。「爲レ怪」。

〔恨悔〕怨みくやむ。○〔易林〕「心多ニー・ー一、出レ言

〔佷悔〕前に同じ。○〔易林〕「姪・娣ー・ー」。

〔畏悔〕おそれくやむ。○〔易〕「妄怒失レ情、自令ニー・ー一」。

〔患悔〕憂へくやむ。○〔易林〕「日・月之塗、所レ行必到、無レ有ニー・ー一」。「ー」。

〔改悔〕くやむ。○〔論衡〕「瞑然起・坐、心覺ニー

〔亢悔〕高き位地にのぼり過ぎてくやみあること。○〔中略〕「ー則有レー」。

〔反悔〕我が身に立ちかへりみてくやむ。○〔顏延之〕「能ー・ー在レ我、無レ貴ニ于人一」。

〔憂悔〕うれへくやむ。〔陳子昂〕「ー・ー日侵・淫」。

〔去悔〕前非。○〔劉又〕「ー・ー何足レ追」。

〔前悔〕前に同じ。○〔孟郊〕「ー・ー不レ可レ追」。

〔往悔〕前に同じ。○〔戴表元〕「前・尤ー・ー俱勿レ論」。「ー」。

〔悲悔〕かなしみくやむ。○〔白居易〕「失レ之又ー

〔羞悔〕恥ぢくやむ。○〔王安石〕「暮・年ー・ー有ニ揭・雄一」。

【悕】 キ、ケ。香衣切 微

おもふ、（念）、ねがふ、（願）、又、かなしむ、（悲）。○〔公羊〕「在ニ招・丘一ー矣」。

【悎】 ハイ、ヘ。布亥切 ガイ、ゲ。五亥切 賄

たのむ、（恃）。

【悖】 ホツ、ボチ。蒲沒切 月

㊀理を亂る、道に逆ふ、みだる、さかふ、もさる。○〔國〕「是以行レ事而不レー」。

㊁盛んなる貌にいふ字。○〔左〕「其興也ー焉」。

〔淫悖〕みだりがはしくして道に逆ふ。○〔管〕「嫉ニ比・黨ー・ー行・徒之徒一」。

〔貪悖〕欲深くして道にさかふ。○〔人物志〕「ー之性、勝則彊・猛爲ニ禍・梯一」。

〔狂悖〕くるひさかふ。○〔國〕「有ニー・ー之言一」。

〔荒悖〕すさみて道にさかふ。○〔蜀〕「老・革ー・ー可ニ復道一耶」。

〔猜悖〕猜にもとりさかふ。○〔晉〕「使ー・ー若レ此」。

〔驕悖〕たかぶりてさかふ。○〔李尤〕「晉・齊ー・ー」。

〔慢悖〕おごりて理にさかふ。○〔石介〕「其詞ー・

「——」。〔凶悖〕あしくさかふ。○〔王十朋〕「前-日忠-孝變而——」。

【悖】ハイ、ベ。蒲昧切 [隊]
前條の㊀に同じ。○〔詩〕「覆俾二我—一」。
〔凶悖〕あしくして理にもとる。○〔韓愈〕「銷二其——之心一、貸以二生-全之幸一」。
〔暴悖〕前に同じ。○〔王融〕「—二—天-經一」。○〔漢〕「失在二——一」。
〔悍悖〕理にくらくしてもとる。○〔北〕「構二此——一」。
〔梟悖〕あしくたけぐしくして理にもとる。
〔狂悖〕理にくるひもとる。○〔諸葛亮〕「敏年老「性」——、生二此怨-言一」。
〔忍悖〕不仁にして理にもとる。○〔謝莊〕「——成」

【悖】ハイ、ヘ。必每切 [賄]
つよし、（强）。

【悗】バン、マン。謨官切 [寒]
まごふ、（惑）。

【悗】ボン、モン。母本切 [阮]
わする、（廢-忘）、一說に、匹なき貌にいふ字、ひとりみ。○〔莊〕「——乎忘二其言一」。

【⿰忄更】カウ、キヤウ。古杏切 [梗]
もとる、（很）。

【悘】イ。於其切 [支]
つまびらか、（審）。

【悘】エイ、アイ。壹計切 [霽]
㊀うやうやし、（恭）。㊁しづか、（靜）。

【怗】テフ。敕涉切 [葉]
㊀心動く、うごく、むなさわぎす。㊁やすむ、（休）。

㊂志輕し、かろし、かろがろし。

【怗】セフ。尺涉切 [葉]
㊀小人の貌にいふ字、いやし、又、狡黠なる貌にいふ字。㊁あやしむ、あやし、（怪）。

【⿰忄尨】バウ、モウ。莫江切 [江]
くらし、（惛）。

【⿰忄尨】バウ、モウ。尨巷切 [絳]
おろか、（戇-愚）。

【悙】カウ、キヤウ。虛庚切 ハウ、ヒヤウ。披庚切 [庚]
憉——は、自ら矜りて健しとする貌にいふ語、ほこりつよがると。

【悙】カウ、キヤウ。亨孟切 [敬]
悵——は、疎率なり、あらし、そゝかし。

【忴】キン、ゴン。巨禁切 [沁]
心堅固なり、かたし。

【悚】ショウ、ソウ。息拱切 [腫]
おそる、（懼）。○〔江淹〕「心憂-魄—」。
〔戰悚〕わなゝきおそる。○〔晉〕「夙-夜——、以-榮爲レ憂」。
〔震悚〕ふるひおそる。○〔晉〕「百-官——、莫レ不「失レ色」」。
〔慚悚〕耻ぢおそる。○〔鮑照〕「伏-追二——一」。
〔悚々〕おそるゝ貌にいふ語。○〔王延壽〕「魂——其驚」。
〔兢悚〕おそる。○〔潘岳〕「心戰-懼以——」。
〔惶悚〕前に同じ。○〔鮑照〕「伏-追二——一」。
〔危悚〕あやぶみおそる。○〔沈炯〕「轉-增二——一」。
〔歡悚〕よろこびの中におそるゝ心をもつ。○〔李嶠〕「銘-厚-渥而——」。

【⿰忄含】カン、ゴン。呼含切 [覃]

綿密ならずして取り締りなし、あらし、ゆるし、ほしいまゝ。

【悛】セン。此緣切 [先] シユン。七倫切 [眞]
㊀やむ、（止）、あらたむ、（改）。○〔周〕「其有レ——乎」。㊁つぐ、（次）。○〔左〕「外-內以—」。

【悛】恂に同じ。○〔史〕「——如二鄙-人一」。

【悜】テイ、チヤウ。丑郢切 [梗]
慏——は、意盡きず、のこる、一說に、うれふ、（憂）。

【⿰忄延】セン、ゼン。私箭切 [霰]
あはれむ、（憐）。

【⿰忄忌】キ。奇寄切 [寘]
つゝしむ、うやまふ、（敬）。

【悝】クワイ、ケ。苦回切 [灰]
詼に通じ用ふ、たはむる。○〔張衡〕「由-余以二西-戎孤-臣一、而—二秦穆-公於宮-室一」。

【悝】リ。良士切 [紙]
うれふ、（憂）、かなしむ、（悲）、やむ、（疾）。○〔劉基〕「痛-哭買-生狂、長-嘆漆-室—」。

【悞】ゴ、グ。五故切 [遇]
㊀あやまる、（謬）。㊁あざむく、（欺）。㊂まごふ、（惑）。㊃うたがふ、（疑）。

【悟】ゴ、グ。五故切 [遇]
㊀迷ひを解く、才智を啓く、理を會得す、さとる、さとり。○〔後漢〕「賢-者雖二獨—一所レ困在二群-愚一」。
㊁迷へるを覺らしむ、事理を會得せしむ、さとす。○〔崔駰〕「唐-雎華-顚以—レ秦」。
㊂才智多し、會得すると早し、さとし。○〔南〕「阿-連才—如レ此」。
〔覺悟〕さとる、又、さとす。○〔孫楚〕「粗論二事-勢一、以相——」。
〔穎悟〕ひいでゝさとし。○〔晉〕「幼而——」。
〔警悟〕いましめさとる、又、いましめさとす、又、さとし。○〔南〕「性甚——」。
〔曉悟〕さとる、さとす。○〔列〕「窮-年不二相——一」。
〔開悟〕發明しさとる、さとす。○〔史〕「其志不二——一矣」。
〔啓悟〕前に同じ。○〔後漢〕「——二耳目一」。
〔窮悟〕きはめさとる。○〔後漢〕「——而入レ術」。
〔識悟〕知りさとると。○〔蜀〕「——過レ人」。
〔明悟〕あきらめさとる、又、さとし。○〔晉〕「——善決-斷一」。
〔神悟〕たへなるさとり、さとし。○〔晉〕「——夙-成」。
〔辨悟〕わきまへさとる。○〔晉〕「——絕レ倫」。
〔機悟〕さとり。○〔晉〕「——敏-速」。
〔超悟〕すぐれてさとし、又、さとり。○〔晉〕「大-師聰-明——、天下無レ二」。
〔朗悟〕さとし。○〔宋〕「資-性——、博-學强-記」。
〔敏悟〕前に同じ。○〔南〕「幼——」。
〔會悟〕さとる。○〔南〕「——多-通」。
〔頓悟〕急にさとる。○〔南〕「及レ長有二異-解一、立二——義一」。
〔清悟〕きよらかにしてさとし。○〔北〕「愛二其——一」。
〔鑒悟〕さとし、さとる。○〔北〕「——明-敏、飾レ之以二溫恭一」。
〔解悟〕さとる。○〔北〕「——挽-疾、爲二同-業所一レ尚」。
〔爽悟〕さとし。○〔隋〕「神-情——、略涉二書-記一」。
〔聰悟〕さとし。○〔唐〕「——有二文-辭一」。
〔英悟〕秀いでてさとし。○〔舊唐〕「上仁愛——、得二之天-然一」。
〔省悟〕我にかへりみさとる。○〔舊唐〕「天亦漸——」。
〔通悟〕さとる、又、さとし。○〔唐〕「性——、博涉二書-史一」。

〔覺悟〕ものおぼえよし。○〔唐〕「以二其ーー一、勅給二事左右一」。「ト・ニーー之二」。
〔諷悟〕自から氣付かすやうに諭すこと。○〔唐〕「欲三以ーー之二」。
〔洗悟〕さとす、又、さとる。○〔十六國春秋〕「ーー二ー隊俗一」。
〔高悟〕すぐれたるさとり。○〔十六國春秋〕「待レ匠救世有二ーー之期一」。
〔晩悟〕時におそなはりてさとる。○〔蘇軾〕「黄犬悲二ーー一」。
〔譴悟〕責めさとす。○〔成公綏〕「ーーー焉事」。
〔玄悟〕深きさとり。○〔郭璞〕「ーー不三以曠二機」。
〔漸悟〕次第を追ひてさとる。○〔謝靈運〕「不レ應二ーー一」。
〔夙悟〕早くさとる、年わかくしてさとし。○〔謝靈運〕「愧二班生之ーーー一」。
〔播悟〕限りにさとる。○〔謝靈運〕「亦何貫二于ーー假知之論旨一」。
〔豁悟〕さとり。○〔沈約〕「ーー非レ無レ漸」。
〔失悟〕まちがひてさとる。○〔何遜〕「終ーー二于心機一」。「ー」。
〔精悟〕極めてよくさとる。○〔薛道衡〕「理識ー・」。
〔圓悟〕まどかにさとる、物の理を完全にさとる。○〔釋慧遠〕「唯有二能仁獨ーー一」。
〔醒悟〕さめさとる。○〔蕭穎士〕「中心ーー、了無二或焉一」。
〔禪悟〕禪家のさとり。○〔元稹〕「返如二ー頓ーー一」。
〔悔悟〕くやみさとる。○〔白居易〕「長年當二ーーー一」。
〔動悟〕感じさとす、感じさとる。○〔崔元翰〕「不レ能二鋪陳一、無二以ーーー一」。
〔徹悟〕奧深き底にまでもとほりさとる。○〔陸游〕「老人鵝行方ーー」。
〔眞悟〕眞正なるさとり。○〔宇文虚中〕「不レ令二先生ーー處一」。
〔本悟〕前に同じ。○〔楞嚴經〕「逐同二ー・ー一」。
〔了悟〕さとる、又、さとし。○〔吳澄〕「談遇ーー蟳蛝殼」。

【悠】イウ、ユ。以周切　尤

㊀うれふ、(憂)。○〔詩〕「ーーー我里」。
㊁おもふ、(思)。○〔詩〕「ー哉ー哉」。
㊂とほし、(遠)、はるか、(遙)。○〔詩〕「驅レ馬ーー」。
㊃行く貌にいふ字。○〔詩〕「ーーー南行」。
㊄限りなき貌にも、取りとどめなき貌にもいふ字。○〔詩〕「ーーー蒼天」。
㊅閒暇ある貌にも、ゆッくりとしたる貌にも、おほやうなる貌にもいふ字。○〔詩〕「ーーー旆旌」。

〔謬悠〕とりとめのなきこと。○〔莊〕「莊周以二ーーー之說、荒唐之言一」。
〔鬱悠〕心に結ぼれ思ふ。○〔揚雄〕「ーーー懷愁」。
〔幽悠〕おくぶかきこと。○〔阮籍〕「右ーーー而無レ方」。

【慅】サ、ザ。則臥切　箇

くじく、ひしぐ、(折・挫)。

【愬】ケキ、ギヤク。馨激切　錫

自ら安んぜず、やすからず。

【㤹】キウ、グ。渠尤切　尤

うらむ、(怨)、とがむ、(咎)。

【悢】リヤウ、ラウ。力仗切　漾

㊀かなしむ、(悲)、いたむ、(惆・悵)。○〔蘇武〕「ーーー不レ能レ辭」。
㊁いつくしむ、かへりみる、(眷)。○〔後漢〕「天之於レ漢、ーーー不レ已」。

【悢】ラウ、ロウ。里黨切　養

㤸ーーは、志を得ず。

【患】クワン、ゲン。胡慣切　諫

㊀うれふ。
(い)心を苦しめなやます、思ひわづらふ。○〔漢〕「聖主之所二常ー一也」。
(ろ)惡む。○〔後漢〕「上下忿ーー」。
㊁うれふべきこと、うれひ、わづらひ、災禍、わざはひ、疾病、やまひ、困難、くるしみ、なやみ、害毒、凶惡。○〔易〕「與レ民同レー」。

〔憂患〕うれふ、うれひ。○〔禮〕「有レ所二ーーー一、則不レ得二其正一」。
〔後患〕のちのうれひ。○〔詩〕「予其懲而毖二ーーー一」。
〔禍患〕わざはひ。○〔易疏〕「故ーー來至」。
〔疾患〕病みわづらひ。○〔禮〕「君子行レ禮、不下以二人之親ーーー一」。
〔外患〕とつくによりさるゝわづらひ。○〔唐〕「ーーー已成、內無二賢佐一」。
〔厭患〕嫌ひにくむ。○〔禮〕「雖レ有二疲勞之事一、不レ得下ー二ー其衣一、而袒中露其身體上」。
〔天患〕天より降せるわざはひ、即ち、水旱疫病などの類。○〔周〕「凡歲時有二ーー民病一」。
〔凶患〕わざはひ。○〔後漢〕「自戒則何陷二于ーーー乎」。
〔世患〕よの中のわづらひ。○〔吳〕「若於レ外、必作二ーーー一」。
〔水患〕洪水の禍。○〔後漢〕「多被二ーーー一」。
〔內患〕國內のみだれ。○〔後漢〕「ーーー漸積」。
〔巨患〕大いなるわづらひ。○〔後漢〕「貪吏割二其財一、此其ーーー也」。
〔咎患〕とがめわづらひ。○〔後漢〕「冗職富二ーーー一」。「ーヮー」。
〔滌患〕わざはひを洗ひさる。○〔後漢〕「高可三以ーーー一」。
〔寇患〕あたあること。○〔後漢〕「ーーー轉盛」。
〔疾患〕やみわづらひ。○〔隋〕「年七十以上、ーーー沈滯、不レ堪レ居レ職」。
〔毒患〕うれひ。○〔晉〕「軍中以爲二ーーー一」。
〔疆患〕わづらひ。○〔南〕「充成二ーーー一」。
〔痛患〕つかれわづらふ。○〔南〕「因レ此長抱二ーーー一」。
〔艱患〕わざはひ、うれひ。○〔南〕「ーーー未レ弭」。
〔過患〕うれひ。○〔顏氏家訓〕「有二盛名一而免二ーーー一」。「ー彌留」。
〔風患〕五體の自由を失へるやまひ。○〔除陵〕「ーーー」。
〔邊患〕國のはとりのわづらひ、即ち、外人の國邊を犯すこと。○〔北〕「由レ是數爲二ーーー一」。
〔老患〕年よりのわづらひ。○〔北〕「以二母ーーー一、輒在レ家定省」。
〔近患〕目のまへのわづらひ。○〔淮〕「備二遠難一而忘二ーーー一」。
〔時患〕當時の世の中のわづらひ。○〔元結〕「不レ能レ救二ーーー一」。
〔篤患〕大病といふに同じ。○〔申鑒〕「夫膏肓近レ心而處レ阨、鍼レ之不レ逮、藥レ之不レ中、攻レ之不レ可、二豎藏焉、是謂二ーーー一」。
〔金革患〕兵器を使用するうれひ、征伐戰爭など。○〔揚雄〕「永亡二邊城之災ーーー之ー一」。
〔木梗患〕下に擧ぐる寓言より、客死して還るを得ざるうれひにいふ語。○〔說苑〕「孟嘗君將二西入一レ秦、有二客入曰、臣之來也、過二于淄水之上一、見下一土偶人與二木梗人一語上、木梗謂二土偶人一曰、子先土也、持レ子以爲二偶人一、偶天大雨水潦並至、子必沮壞、應曰、我沮乃反二吾眞一耳、今子東園之桃也、刻レ子以爲レ梗、遇二天大雨水潦並至一、必浮レ子泛々乎不レ知レ所レ止、今秦四塞之國也、有二虎狼之心一、恐其有二ーーー之ー一、于レ是孟嘗君卒不レ敢西嚮レ秦」。
〔探卵患〕たまごをさぐらるゝうれひ、己が據所を覆はるゝことに借りいふ語。○〔北〕「燕鳥捨レ巢必有二ーレーー之ーー一」。
〔將嫡患〕かこひ內のうれひ、即ち、內亂、うちはもめ。○〔韓〕「不レ謹二ーーー之ー一、而固二金城於遠境一」。
〔養虎遺患〕仇敵に便利を與へて後日のうれひを留めのこすことにいふ語。○〔史〕「今釋不レ擊、此所レ謂ーーレー自ーレー也」。

【惣】フン、ホン。府刎切　吻

うごく、はたらく、(動)。

【悤】ソウ、ス。麤叢切　東

急遽なり、いそぐ、にはか、あわつ。○〔晉〕「無レ故ーーー、先自猖獗」。

【慅】ショ、ソ。將預切　御　本、怚に作る。

おごる、(驕)。

【悗】ベウ、メウ。眉俵切　蕭

たのむ、(恃)。

【悷】カ、ゲ。何加切　麻

うらむ、(怨)。

【悆】ヨ。以諸切　魚

うや〱しつゝしむ、(恭-敬)。

【悆】悠に同じ。

【退】ソ、ス。蘇故切 遇 きがは、(生-革)。

八畫

【悰】ソウ、ス。徂宗切 冬 たのしむ、たのしみ、(樂)。○〔謝朓〕「戚-々苦無レ—」。
〔歡悰〕たのしみ。○〔何遜〕「—-—苦未レ并」。

【悱】ヒ、ビ。敷尾切 尾 思ひたゝ心にたくはへ言はんとして未だ言ふ能はざること。○〔論〕「不レ—不レ發」。
〔憤悱〕思ひを心にたくはへ蓄つること、誠意の辭色に見はるゝこと。○〔蘇軾〕「言不レ待二—-—一而發」。
〔悱々〕言はんとして未だ能はぬ貌にいふ語。○〔李程〕「宏-辯者、憤-々—-—」。

【悲】ヒ。府眉切 支 ㊀心を痛ます、一說に、心に非なりとするにいふ、いたむ、かなしむ、かなしみ。○〔宋〕「不レ得レ見兮心—」。㊁なさけをかくること、恩をほどこすこと、あはれみ、(佛家の言)。○〔智度論〕「夫言レ—者意存二饒-益一善順二物-情一」。
〔慈悲〕あはれみ、なさけ、(佛家の言)。○〔大日經〕「佛-心大-—-—是」。
〔積悲〕つもりかさなるかなしみ。○〔潘岳〕「—-—滿レ懷」。
〔傷悲〕かなしむ、かなしみ。○〔詩〕「憂-心—-—」。

【惔】タン、他紺切 サン、蘇紺切 ドン、ソン。 勘 禍福未だ定まらぬ意、うれふ、(憂)、まごふ、(惑)、又一說に、あわつ、あわたゞし、(遑-遽)。

【⿰忄奄】エン、オン。一鹽切 鹽 ㊀——愔は、意氣多き貌にいふ語。㊁いつくしむ、めづ、(愛)。

【⿰忄奄】エン、オン。衣撿切 琰 前條の㊁に同じ。

【⿰忄奄】アン、オン。於贍切 豔 甘心す、あまんず。

【⿰忄直】ショク、ジキ。常職切 職 もツぱら、(專)。

【悳】古文の德の字。○〔漢〕「—至-渥也」。

【悴】スヰ。秦醉切 寘 憂ひ困しみて容貌衰ふ、瘦せつかる、やす、おとろふ、うれふ、やつる。○〔屈平〕「顏-色憔-—」。

【悵】チヤウ、タウ。丑亮切 漾 志の差ふを痛む、望み恨む、いたむ、うれふ、うらむ、なげく。○〔晉〕「惆-々—-—」。
〔惆悵〕いたむ。○〔後漢〕「情—-—以增レ傷」。
〔悵悵〕前に同じ。○〔宋玉〕「—-—自失」。
〔忡悵〕前に同じ。○〔吳〕「臣不レ勝二—-—之情一」。
〔憯悵〕前に同じ。○〔任昉〕「—-—久レ之」。
〔悲悵〕かなしみいたむ。○〔倪瓚〕「就-詩重二—-—一」。
〔悽悵〕うれひ。○〔蘇軾〕「萬-竅含二—-—一」。

【⿰忄㝵】トク、ドク。他德切 職 う、(得)。

【悶】ボン、モン。莫困切 願 思ひ煩ふ、憂ひむすぼる、もだゆ。○〔易〕「遯レ世無レ—」。
〔愁悶〕かなしみもだゆ。○〔姚合〕「—-—欲二何-如一」。
〔迷悶〕まよふ。○〔楞嚴經〕「汝自—-—」。
〔渴悶〕のどかわきてもだゆ。○〔北〕「禮—-—惡レ死」。
〔賁悶〕いきどほり。○〔歐陽修〕「時發二其—-—於詩-歌一」。
〔鬱悶〕心の中のむすぼれたること。○〔柳宗元〕「—-—結-澀」。
〔滯悶〕前に同じ。○〔蘇軾〕「—-—冰-釋」。

【悶】ボン、モン。莫奔切 元 くらし、(惛)。○〔老〕「俗-人察-々我獨—-—」。

【悷】レイ、力計切 ライ、リ。力至切 霽 寘 悲しむ貌にいふ字。○〔應瑒〕「意悽—-—而增レ悲」。
〔繚悷〕悲しみ結ぼる。○〔宋玉〕「心—-—而有レ哀」。
〔惻悷〕いたみかなしむ。○〔古辭窮刦曲〕「鄉-土悽-愴民—-—」。

【悹】クワン、古玩切 グワン。古丸切 翰 寒 うれふ、(憂)。

【悹】カン、ガン。古滿切 旱 依りどころなし。○〔梅堯臣〕「雞呼心—-—」。

【悺】悹に同じ。

【悸】キ、ギ。其季切 寘 ㊀心動く、むねさわぐ、恐れふるふ、わなゝく、おそる、むなさわぎ、おそれ、わなゝき。○〔漢〕「使二我至レ今病一—」。㊁帶の垂れ下がる貌にいふ字。○〔詩〕「垂レ帶—兮」。
〔動悸〕むなさわぎ。○〔後漢〕「心中—-—」。
〔惴悸〕おそれをのゝく。○〔後漢〕「征-營—-—」。
〔怖悸〕前に同じ。○〔後漢〕「臣征-營—-—」。
〔悚悸〕前に同じ。○〔吳錄〕「猶用—-—」。
〔惶悸〕前に同じ。○〔王逸〕「—-—兮失レ氣」。
〔恐悸〕前に同じ。○〔韓相〕「莫レ不二—-—一」。
〔戰悸〕ふるひ畏る。○〔晉〕「憂-懼—-—」。
〔兢悸〕前に同じ。○〔宋〕「顚レ己—-—」。
〔震悸〕前に同じ。○〔列〕「悚-然—-—矣」。
〔驚悸〕おどろきて胸さわぎすること。○〔北〕「羅而—-—」「色」。
〔憂悸〕うれひおそる。○〔陳政要疏〕「—-—失レ
〔悍悸〕心安らかならざる貌にいふ語。○〔杜甫〕
「外則—-—然、求レ賢如レ不レ及」。
〔慚悸〕はぢおそる。○〔蘇邁〕「周-章—-—」。

【⿱制心】恒に同じ。○〔漢〕「中-心—兮」。

【悻】カウ、ギヤウ。下耿切 梗 很り怒る、もとる、いかる。○〔孟〕「—-—然見二於其面一」。

【悻】婞に同じ。○〔屈平〕「—直以忘レ身」。

【悼】タウ、ドウ。徒到切 號 ㊀いたむ、(傷)。○〔詩〕「中-心是—」。㊁あはれむ、(憐)。○〔徐陵〕「晉-王寵-—」「—」。㊂おそる、(懼)。○〔揚雄〕「楚謂レ懼曰レ—」。㊃幼年者の稱。○〔禮〕「八-十九-十曰レ耄七-年曰レ—耄與レ—雖レ有レ罪不レ加レ刑焉」。
〔怛悼〕いたむ。○〔司馬遷〕「慘-愴—-—」。
〔嗟悼〕なげきいたむ。○〔潘岳〕「聖-王—-—」。
〔傷悼〕前に同じ。○〔史〕「以自—-—」。
〔歎悼〕前に同じ。○〔蔡邕〕「湣-涵—-—」。

（哀悼）かなしみいたむ。○〔蔡邕〕「永懷二ーー一」。
（悲悼）前に同じ。○〔蔡邕〕「民斯ーー」。
（痛悼）前に同じ。○〔梁簡文帝〕「想卿ーー之誠一」。
（軫悼）天子のなげきいたまるゝにいふ語。○〔宋〕「眞宗ーー」。
（震悼）前に同じ。○〔王儉〕「聖朝ーー于上一」。
（悽悼）かなしみいたむ。○〔沈約〕「永言ーー」。
（驚悼）おそろきいたむ。○〔徐陵〕「ーー之情、彌以傷惻」。
（惻悼）あはれむ。○〔元稹〕「天子深哀空ーー」。

【㤹】キウ、ク。巨鳩切 尤 其九切 有
仇とす、うらむ（怨）。

【忄厓】ガイ、ゲ。牛懈切 卦
うらむ（恨）。

【忄固】怙に同じ、たのむ。○〔揚雄〕「象二良之守一レ廉無レーー」。

【㥄】リヨウ。閭承切 蒸
㊀あはれむ（憐）。○〔揚雄〕「趙魏燕代間、謂レ哀曰レー」。
㊁おごろく（驚）。○〔張衡〕「百禽ーー遽」。
（㥄悸）おそれ驚くこと。○〔淮〕「諸侯莫レ不二ーー一ー退二處其處一」。

【悽】セイ、サイ。七西切 齊
いたむ、（痛）、かなしむ、（悲）。○〔後漢〕「曹操過二其墓一輒ーー愴致二祭奠一」。
（悽悽）かなしき貌にいふ語。○〔關尹子〕「人之善レ哀、有二悲心一則聲ーー然」。
（悽愴）いたむ、かなしむ。○〔顏延年〕「ーー感方委」。
（愁悽）前に同じ。○〔楚辭〕「心ーー而增レ悲」。
（憯悽）前に同じ。○〔楚辭〕「霜露ーー而交下兮」。

（惻悽）前に同じ。○〔傅咸〕「心ーー以情傷」。

【悽】セイ、サイ。七計切 霽
うらむ（恨）。

【悾】コウ、ク。苦紅切 東
㊀まこと（誠）。○〔任昉〕「實有二愚誠一不レ任二ーー款一」。
㊁無知なる貌にいふ字、おろか、くらし。○〔論〕「ーーー而不レ信」。

【悾】コウ、ク。苦動切 董 苦貢切 送
志を得ざる貌にいふ字。

【悿】テン、デン。他玷切 琰
よわし（弱）。

【悿】テン、デン。他典切 銑
心惑ふ、まごふ。

【忄隶】タイ、デ。他内切 隊
㊀ほしいまゝ（肆）。○〔揚雄〕「肆レ欲曰レー」。
㊁わする（忘）。

【忄隶】タイ、ダイ。待戴切 隊
トツ、トチ。他骨切 月
ゆるし（緩）。

【惀】ロン。盧昆切 元 リン。龍春切 眞 縷尹切 軫
知らんと欲する貌にいふ字。

【惀】ロン。魯本切 阮
おもふ（思）。

【惀】ロン。盧困切 願
もだゆ（懣）。

【惁】セキ、シヤク。先擊切 錫
㊀うれふ（憂）。㊁うやまふ、つゝしむ、（敬）。

【惂】カン、コン。苦感切 感
憂困す、うれふ、くるしむ。

【惃】コン、ゴン。古渾切 元 古本切 阮
みだる（亂）。

【弦心】ケン、ゲン。胡田切 先
きびし、いそがし（急）。

【惄】デキ、ニヤク。奴歷切 錫
ヂヨク、ドク。奴沃切 沃
おもふ（思）、うれふ（憂）。○〔詩〕「ー如二調飢一」。

【情】セイ、ジヤウ。慈盈切 庚
㊀感じて起こる心のうごき、儒家にては、性の用と說き、善惡邪正を一視していふ、佛家にては、之を昏動妄念と稱し、種々の罪業は此れより起こるものとなせり。○〔禮〕「何謂二人ーー、喜、怒、哀、懼、愛、惡、欲、七者弗レ學而能」。
㊁心に感ずる所、こゝろもち、こゝろ。○〔楚辭〕「恐二ー質之不一レ信兮」。
㊂欲望。○〔禮〕「無レ辭而行レー則民爭」。
㊃まこと。「盡也」。
（い）誠心、まごゝろ。○〔荀〕「ー貌之」。
（ろ）實事、○〔孟〕「聲聞過レー、君子恥レ之」。
㊄條理、ことわり。○〔孟〕「物之不レ齊物之ー也」。
㊅おもむき。
（い）狀態、ありさま。○〔戰〕「盡輸二西周之ー于東周一」。
（ろ）趣味、あぢはひ。○〔歷代名畫記〕「似二畫外有一レー」。

（性情）こゝろ。○〔易〕「利貞者ーー也」。
（六情）喜、怒、哀、樂、愛、惡の六つの稱。○〔漢〕「ーー更興廢」。
（七情）喜、怒、哀、懼、愛、惡、欲の七つの稱。○〔蘇軾〕「昏然不レ生二ーー一」。
（無情）こゝろなし、又、まことなし。○〔禮〕「ーレー者、不レ得レ盡二其辭一」。「ーー」。
（交情）まじはりのこゝろ。○〔漢〕「一死一生知二ーー」。
（同情）おなじこゝろ。○〔漢〕「ーー相求」。
（官情）役人たるこゝろ。○〔韓愈〕「初如レ遺二ーー」。
（油情）心。○〔世說〕「王夫人ーー散朗」。
（心情）前に同じ。○〔李中〕「寒松肌骨鶴ーー」。
（中情）心のうち、まこと。○〔揚雄〕「舒二ーー之煩或一兮」。
（歡情）よろこびのこゝろ。○〔宋玉〕「ーー未レ接」。
（春情）はるめきたる心、即ち、男女の間の欲望。○〔子夜歌〕「獨無レ懷二ーー一」。
（丹情）まごゝろ。○〔曹植〕「乃臣ーー之至願」。
（柔情）ゆとやかなる心。○〔洛神賦〕「ーー綽態」。
（客情）たびごゝろ。○〔張方生〕「忽忘羈ーー」。
（旅情）前に同じ。○〔楊愼〕「壊老ーー畧歡娛」。
（聖情）天子のこゝろ。○〔孔德紹〕「聖風悅ーー」。
（恩情）なさけ。○〔吳少微〕「長夜泣二ーー一」。
（鄉情）ふるさとのさま。○〔楊萬里〕「五更杜宇說二ーー一」。
（風情）おもむき。○〔白居易〕「一篇長恨有二ーー一」。
（宿情）もとのこゝろ。○〔禮、疏〕「故聽レ訟者、不二北ーー一」。
（素情）前に同じ。○〔魏、註〕「亡レ身殉レ節以申二ーー一」。
（撓情）こゝろをまぐ。○〔後漢〕「ーレー則違二禁典一」。
（忠情）まごゝろ。○〔蜀〕「ーー雞レ聽」。
（私情）慾望。○〔晉〕「受溺二ーー一」。
（胸情）こゝろ。○〔宋〕「盍府舉二ーー一」。

〔襟情〕前に同じ。○〔唐詩記事〕「雲散二一ー一」。
〔沈情〕こゝろをおしよづむ。○〔齊〕「ーレー味レ古」。
〔任情〕こゝろのまゝにす。○〔北〕「笑唾ーレー」。
〔娛情〕こゝろをよろこばす。○〔歸田賦〕「聊以ー」。
〔才情〕才能のこと。○〔世說〕「ー・ー過レ於所レ聞」。
〔勝情〕山水の景色を樂しむこゝろ。○〔世論〕「許非ニ徒有ニー・ー」。
〔陰情〕他にあらはされぬ貝からぬこゝろ。○〔史〕「或ー・ー醜行」。一乍不レ可レ拔」。
〔紐情〕はなれぬこゝろ。○〔淸異錄〕「纏愛ー・ー、
〔纏情〕こゝろに結びつく、又、或る物事にまとはるこゝろ。○〔續高僧傳〕不下以ニ醫術一ー上レー」。
〔抑情〕慾を制す。○〔養生論〕「ーレー忍レ欲」。
〔慾情〕よたふこゝろ。○〔王粲〕「誰能無ニー・ー」。
〔感情〕こゝろのうごき、又、こゝろを感動す。○〔劉伶〕「不レ覺ニ寒暑之切レ肌、利欲之ー上レー」。
〔遣情〕思ひを放つ。○〔文賦〕「歌者應レ絃ーレー」。
〔俗情〕風雅ならぬさま、又、いやしきこゝろ。○〔陶潛〕「園林無ニー・ー」。
〔高情〕高尙なるこゝろ、又、高尙なるおもむき。○〔白居易〕「碧嵩看レ雪助ニー・ー」。
〔崇情〕前に同じ。○〔王僧達〕「ー・ー符ニ遠迹」。
〔薄情〕人のこゝろうすきこと、愛少きこと。○〔雲齊廣錄〕「欲下憑ニ西去雁一寄中與ー・ー一看上」。
〔暮情〕ひぐれのさま。○〔李頎〕「送レ君多ニー・ー」。
〔矯情〕なまめきたるこゝろ。○〔梁簡文帝〕「ー・ー因レ曲動」。「見」。
〔庸情〕つねのこゝろ。○〔沈約〕「非ニー・ー之所レ」
〔鄙情〕いやしきこゝろ。○〔沈約〕「ー・ー贅行」。
〔聰情〕さときこゝろ。○〔江淹〕「慧志ー・ー」。
〔叙情〕天子のこゝろ。○〔源乾曜〕「崇恩與ニー・ー」。
〔怨情〕うらむこゝろ。○〔張九齡〕「繁絃起ニー・ー」。
〔多情〕こゝろおほし。○〔韓愈〕「ー・ー懷ニ酒伴一」。
〔番情〕夷狄のさま。○〔李約〕「降騎說ニー・ー」。
〔野情〕いなかびたるこゝろ。○〔白居易〕「幽棲遂ニー・ー」。
〔羣情〕衆心に同じく多き人のこゝろをいふ。○〔趙孟頫〕「厚澀敦ニー・ー」。
〔雁序情〕長上に順なるこゝろ。○〔杜陽雜編〕「至レ京經ニ三十餘日一始得ニ一見一毫無ニー・ー之ー」。
〔香火情〕誓約したるこゝろ。○〔唐〕「爾往與レ我盟ニ急難相助一、今無ニー・ー之ー乎」。
〔烏鳥私情〕からすの反哺のこゝろ、卽ち、已が親を孝養するのこゝろ。○〔李密〕「ー・ー・ー・ー願レ乞ニ終養一」。

【惆】チウ、丑鳩切 尤　チユ。丑救切 宥
失望して恨む。○〔荀〕「ー然不レ嗛」。
〔氐惆〕もたえなやむこと。○〔揚雄〕「終悲恨々毒而不レ發謂ニ之ー・ー一」。

【愁】シウ、ス。卽就切 宥
かなしむ、(悲)。

【惇】トン、ドン。都昆切 元
㊀輕薄ならず、あつし、(厚)。○〔禮〕「皆有ニー史一」。「彌ー」。
㊁つさむ、(勉)。○〔國〕「年五十矣、守レ學

【悖】シユン、ジユン。殊倫切 眞
㊀前條に同じ。㊁心實、まこと。

【惈】クワ。古火切 哿
顧慮せずに決行すること、(敢勇)。○〔左思〕「風俗以ニ韰ー一爲レ嫿、人物以ニ戕害一爲レ藝」。

【惓】サン、ザン。財干切 寒
そこなふ、むさぼる、(忮)。

【惉】セン、ソン。處占切 鹽
聲音のしぶり滯こほること。○〔史〕「五者不レ亂無ニ惉懘之音一」。

【惵】テフ、デフ。徒協切 葉
やすし、(安)。

【悀】ツ井、ニ。女恚切 寘

【悢】リヤウ、呂張切 陽　ラウ。力讓切 漾
おもふ、(思)。
かなしむ、(悲)。

【悟】フウ、フ。匹九切 有
小しく怒る、いかる。

【悜】ハウ、ビヤウ。薄萌切 庚
㊀好んで嗔る貌、又、怒る貌にもいふ字。
㊁なげく、いきどほる、(忼慨)。

【惋】ワン。烏貫切 翰
驚き恨む、駭き歎く、うらむ、なげく。○〔晉〕「悵ー」。
〔悵惋〕なげく。○〔晉〕「夜ー・ー不レ已」。
〔惆惋〕前に同じ。○〔宋〕「方大ー・ー」。
〔恨惋〕うらむ。○〔唐〕「帝ー・ー」。
〔歎惋〕なげく。○〔遼〕「聞者莫レ不ニー・ー一」。
〔嗟惋〕前に同じ。○〔元結騷體〕「重ニー・ー一兮何補」。
〔悲惋〕かなしむ。○〔儲光義〕「懷抱盈ニー・ー一」。
〔哀惋〕前に同じ。○〔宋〕「重增ニー・ー一」。
〔驚惋〕おどろきなげく。○〔陳師道〕「拭レ目互ー・ー」。
〔駭惋〕前に同じ。○〔唐〕「帝見ー・ー」。
〔慎惋〕もたえなげく。○〔張衡〕「何爲懷レ憂心ー・ー」。

【惌】エン、チン。於袁切 元
㊀まぐ、(枉)。㊁あだ、(讎)。
㊂いかる、(恚)。㊃小き孔の貌にいふ字。○〔周〕「凡祭レ革之道眡ニ其鑽空一欲ニ其ー一也」。

【惐】ウツ、ウチ。紆勿切 物
心鬱積す、ふさぐ、むすぼる。

【悘】イ、於希切 微　エ。隱豈切 尾
念ひ痛む聲にいふ字。

【惍】キン、コン。居吟切 侵
さし、(利)。

【惐】キク、コク。居六切 屋
つゝしむ、(謹愼)。

【惎】キ、ギ。渠記切 寘　一に、惎に作る。
㊀そこなふ、(毒)。○〔左〕「管蔡啓レ商惎ニ間王室一」。
㊁をしふ、(敎)。○〔左〕「晉人或以ニ廣隊一不レ能レ進、楚人惎レ之脫レ扃又惎レ之拔レ旆投レ衡」。
〔毀惎〕わるつげをして人を害ふこと。○〔唐〕「日肆ニー・ー一」。
〔啓惎〕をしふ。○〔陸倕〕「天人ー・ー」。

【惄】チ。陟里切 寘
こゝろよし、(快)。

【惝】ヘツ、ベチ。蒲結切 屑
あしきき、(醜氣)。

【愡】シヨウ、シユ。尺隴切 腫
おそる、(恐)。

【惏】ラン、ロン。盧含切 覃
むさぼる、(貪)。○〔戴記〕「飽而强、饑而ー」。

【惏】リン。犂針切 侵
さむし、(寒)。

【惏】ラン、ロン。盧感切 感

㊀謹まず、みだる
㊁卜して吉凶を詐り告ぐ、いつはる。

【悚】トウ、ヅ。都籠切　東

おろか、（愚）。

【惐】井ク、乙六切　屋　ヨク、越逼切　職　チク。井キ。

心を痛む、いたむ。

【惐】キョク、コキ。忽域切　職

心惑ふ、まごふ。

【惑】コク、ワク。戸國切　職

㊀心亂る、疑ふ、迷ふ、まごふ、まごひ。○〔禮〕「民乃不レ—」。
㊁まごはしむ、まよはす、まごはす。○〔國〕「亦不レ阿—｜」。

〔不惑〕まどはざること、又、年齢の四十歳の稱。○〔論〕「四十而不レ—」。
〔熒惑〕妖星の名。○〔左〕「—｜守レ心」。
〔惑惑〕疑ひまどふ貌にいふ語。○〔漢〕「衆人—｜」。
〔狂惑〕くるひまどふ。○〔荀〕「苟不レ—｜者」。
〔荒惑〕前に同じ。○〔司馬光〕「襄王之心自—｜」。
〔煩惑〕もたえまどふ。○〔後漢〕「獨於邑而—｜」。
〔眩惑〕まどふ。○〔淮〕「從俗之所レ—｜也」。
〔佞惑〕阿りまどはす。○〔後漢〕「今反欲レ用二—｜之言一、爲二族滅之計一乎」。
〔恐惑〕おそれまどふ。○〔史〕「民—｜」。
〔惶惑〕前に同じ。○〔後漢〕「—｜不レ知レ所レ之」。
〔愚惑〕おろかにしてまどふ。○〔史〕「夫—｜之人」。「暗昧—｜」。
〔蔽惑〕心外物におははれまどふ。○〔漢〕「上不明」
〔淫惑〕みだらなるまどひ。○〔漢〕「將レ生二—｜蠱秕之禍一」。「—天下一」。
〔亂惑〕まどふ、又、まどはす。○〔後漢〕「孫子—｜」。
〔紛惑〕まどふ。○〔宋〕「自擇二—｜一」。
〔誑惑〕まどはす。○〔後漢〕「轉相—｜」。
〔欺惑〕前に同じ。○〔五〕「豈其—｜愚衆一有レ以用レ之歟」。
〔詭惑〕前に同じ。○〔西征賦〕「疾二幽后之—｜」。
〔幻惑〕まどはす、又、まどふ。○〔吳〕「能—｜衆心一」。
〔傾惑〕前に同じ。○〔易林〕「佞幸—｜」。
〔誘惑〕前に同じ。○〔淮〕「無レ所二—｜一」。
〔妖惑〕まどはす。○〔曹洪〕「陳二彼—｜之罪一」。
〔鼓惑〕おだてまどはす。○〔宋〕「—｜民聽一」。
〔扇惑〕前に同じ。○〔郭璞〕「共相—｜」。「詞」。
〔疑惑〕うたがひ、まどひ。○〔元稹〕「內排二—｜之」
〔迷惑〕まどふ。○〔易林〕「使二心—｜一」。
〔驚惑〕おどろきまどふ、又、おどろかしまどはす。○〔易林〕「使二我—｜一」。
〔憂惑〕うれひまどふ。○〔易林〕「童蒙—｜」。
〔恨惑〕うらみまどふ。○〔易林〕「多レ所二—｜一」。
〔違惑〕道にたがひまどふ。○〔董仲舒〕「聖賢不レ能レ開二愚夫之—｜一」。「能刑」。
〔昏惑〕道理にくらくまどふ。○〔張衡〕「豈—｜而」
〔晦惑〕前に同じ。○〔宋書〕「藏二—｜之罪一」。
〔染惑〕ねみこみたるまどひ。○〔梁簡文帝〕「常恐虛蕉—｜」。
〔耽惑〕ふけりまどふ。○〔岑參〕「獻公恣—｜」。
〔狗惑〕まどふ。○〔白居易〕「—｜其一」。
〔狐惑〕うたがひまどふ。○〔元稹〕「—｜意顚倒」。
〔誤惑〕あやまりまどふ、あやまりまどはす。○〔司馬光〕「—｜後生一」。「—｜」。
〔迷惑〕こまかきまどひ。○〔晉翟〕「口付心隨斷」

【慚】テン、デン。他典切　銑

はづ、（慙）。○〔左思〕「—｜墨而謝」。
〔赧慚〕おそれはづ。○〔晉翟〕「倍深二—｜一」。

【悃】キン、コン。區鈞切　眞

クン、ゴン。巨運切　問

勞れ倦む、うむ、つかる。

【惷】カウ、ゴウ。赫惷切　經

志氣淩突す、ものぐ、おごる。

【惓】ケン。逵員切　先

れんごろ、（懇・至）、又、つゝしむ、（謹）。
○〔漢〕「—｜之義也」。

【惓】倦に通じ用ふ。

【惰】カウ、ゲウ。何交切　肴

おそる、（怯）。

【惔】タン、徒甘切　覃　ドン。切　徒監切　勘

エン、オン。余廉切　鹽

やく、（燔）。○〔詩〕「憂心如レ—」。
〔憂惔〕うれふる心の盛なること。○〔張衡〕「累二憚忌—｜一」。

【惕】テキ、ヂャク。他歷切　錫

㊀憂懼す、うれふ、おそる。○〔左〕「不下爲レ利諂二不レ爲レ威—一」。「—｜」。
㊁つゝしむ、（敬）。○〔石鼓文〕「朝夕敬—｜」。
㊂いつくしむ、（愛）。○〔詩〕「—｜愛也」。
㊃はやし、（疾）。○〔國〕「一日—｜」。

〔怵惕〕おそる、うれふ。○〔孟〕「皆有二—｜惻隱之心一」。
〔怛惕〕おそる。○〔史〕「爲レ之—｜不レ安」。
〔畏惕〕前に同じ。○〔唐〕「必稽顙請レ罪—｜」。
〔兢惕〕前に同じ。○〔柳宗元〕「此臣等所二以—｜失レ圖、恫惶無レ措」。
〔悚惕〕前に同じ。○〔北夢瑣言〕「襲益—｜」。
〔懼惕〕前に同じ。○〔常袞〕「—｜良深」。
〔惴惕〕前に同じ。○〔柳宗元〕「欷歔—｜」。
〔惶惕〕前に同じ。○〔柳宗元〕「猶增二—｜一」。
〔驚惕〕おどろきおそる。○〔李白〕「使二我自—｜一」。
〔憂惕〕うれふ。○〔孟郊〕「心無二詐—｜一」。
〔慘惕〕いたみうれふ。○〔魏〕「子弟無二—｜之容一」。
〔愁惕〕うれふ。○〔韋應物〕「將レ還復—｜」。
〔愧惕〕はぢおそる。○〔魏〕「中心—｜」。
〔惭惕〕前に同じ。○〔隋〕「寢食—｜」。
〔祇惕〕つゝしむ。○〔常袞〕「夙夜—｜」。

【㤅】古文の惕の字。

【㥏】コツ、コチ。呼骨切　月

あきらか、（明）。

【悰】サイ。此宰切　賄

㊀かしまし、（姦）。㊁うらむ、（恨）。
㊂きびし、（急）。

【悇】サイ。倉來切　灰

猜に同じ、そねむ、ねたむ。

【惗】デフ、ヂフ。諾叶切　葉

セン、ゼン。蘇佃切　先

㊀めづ、（愛）。㊁おもふ、（憶）。

【惐】キ。去奇切　支　㠘彼切　紙

惐—は、心安からず、あやぶむ。

【惘】ワウ。于放切　漾

みだり、（獪）。

【惘】バウ、マウ。文兩切　養

知覺を失ふ貌にも、遑遽なる貌にもいふ字、ぼける、ほろ、あわつ。○〔張衡〕「魂—｜而無レ疇」。
〔悽惘〕かなしみてうツとりすること。○〔世說〕「旣自—｜」。
〔惘々〕うツとりとしたる貌、又、あわたゞしき貌にいふ語。○〔韓愈〕「出レ門—｜有二離別可レ憐之色一」。
〔悵惘〕志をうしなふ貌にいふ語。○〔揚雄〕「吾終疑二其—｜一兮」。

【惙】テツ、テチ。陟劣切　屑

㊀うれふ、うれひ、（憂）、一說に、意定まら

す。○〔詩〕「憂心——」。
㊁つかる、（疲）。○〔唐〕「貌力癯——」。
〔憂悴〕うれひ。○〔蘇頌〕「坐閱苦二——一」。
〔患悴〕前に同じ。○〔魏〕「雖レ復——」、豈敢有レ辭」。
〔危悴〕いのちあやふく疲る、又、あやぶみうれふ。○〔隋〕「命二其子一捨二——之母一、爲二聚斂之行一」。
〔沖悴〕前に同じ。○〔應璩〕「憂心——」。
〔贏悴〕よわり疲る。○〔沈約〕「漸就二——一」。
〔羸悴〕前に同じ。○〔唐〕「號レ慕——」。

【悴】テイ、テ。丑芮切 霽
短氣なる貌にいふ字、きばやし、きびし。

【惚】コツ、ゴチ。呼骨切 月
㊀測られざるを、名狀すべからざるを、確と認め難きを、ほのか、くらし。○〔老〕「惟恍惟——」。
㊁知覺を失す、迷ひ忘る、うツヽとりす、ほる、ぼける。○〔揚雄〕「神心——恍」。
〔恍惚〕微妙にして測られざると、又、うツヽとりしたる貌にいふ語。○〔論衡〕「神者——無レ形」。
〔慌惚〕前に同じ。○〔蜀〕「琰失レ志——」。
〔怳惚〕前に同じ。○〔韓愈〕「——使二人愁一」。

【惛】コン、ゴン。呼昆切 元　ビン、ミン。弭盡切 軫
明了ならず、くらし。○〔莊〕「——然若レ亡而存」。
〔鈍惛〕おろか。○〔淮〕「狡猾——」。

【惛】コン、ゴン。虎本切 阮
忽ち疾む貌にいふ字、やむ。

【惛】ボン、モン。莫困切 願
悶に同じ、もだゆ。○〔荀〕「無二愁——之事一者無二赫々之功一」。

【惛】コン、ゴン。呼困切 願
迷ひ忘る、ぼける、ほる。○〔管〕「五漫々六——、孰知レ之哉」。

【惜】セキ、シヤク。思積切 陌
をしむ、又、をしみ。
（い）放棄し難く思ふ。○〔後漢〕「雞肋食レ之則無レ所レ得、棄レ之則可レ——」。
（ろ）貪る。○〔後漢〕「諸將貪二——貨財一」。
（は）大切にす。○〔陳〕「須宜二自——一」。
（に）痛む。○〔魏文帝〕「美志不レ遂良可二痛——一」。
（ほ）憐む。○〔本事詩〕「寵——逾レ等」。
〔愛惜〕をしむ。○〔杜甫〕「樹木猶爲レ人——」。
〔吝惜〕をしむ、又、むさぼる。○〔書、傳〕「無レ所二——一」。
〔貪惜〕前に同じ。○〔後漢〕「而諸將——二財貨一」。
〔嗟惜〕なげきをしむ。○〔宋〕「——久レ之」。
〔惋惜〕前に同じ。○〔世說〕「愷既——」。
〔寶惜〕大切にすると。○〔尙書故實〕「太宗酷好二法書一、——者獨蘭亭爲レ最」。
〔珍惜〕前に同じ。○〔宣和書譜〕「然亦頗自——」。
〔閔惜〕あはれむ。○〔宋玉九辯章句〕「——二其師忠而放逐一」。
〔憐惜〕前に同じ。○〔黄輝〕「霜草風沙無二——一」。
〔護惜〕まもりをしむ。○〔陸游〕「——欲レ殘レ梅」。
〔顧惜〕おもひをしむ。○〔陸游〕「無レ所二——一」。
〔疑人相惜〕おろかの者はおろかの者同志で互にあはれみあふ。○〔宋〕「上怒曰、江僧安疑人——自——」。

【惝】懺に同じ。○〔莊〕「客出而君——然、若レ有レ亡」。

【惄】デイ、ナイ。奴計切 霽
心柔密なり、やはらか、こまやか。

【惞】キン、コン。許斤切 文
よろこぶ、よろこび、（喜）。

【悙】ハイ、ベ。薄佳切 佳
自ら人を容る、いる。

【惟】井。以追切 支　ビ、ミ。無非切 微
㊀思ふ、謀る、おもんばかる、おもんみる。○〔書〕「視レ遠——明」。
㊁これ、（伊）。○〔書〕「濟河——兗州」。
㊂こればかり、ひとり、たゞ。○〔書〕「——王不レ邇二聲色一」。
〔謀惟〕はかる。○〔詩〕「載——載——」。
〔圖惟〕前に同じ。○〔書〕「——二厥終一」。
〔思惟〕おもふ。○〔漢〕「——二往古一」。
〔深惟〕ふかく思ふ。○〔非有先生論〕「俛而——」。

【惠】ケイ、エ。胡計切 霽
㊀めぐむ、めぐみ。
（い）德澤を施す、仁愛す、いつくしむ、あはれむ、いつくしみ、あはれみ、○〔書〕「惟——之懷」。
（ろ）おくり與ふ、下賜す、にぎはす、たまふ。○〔書〕「——二鮮鰥寡一」。
㊁したがふ、（順）。○〔書〕「亮レ采——レ疇」。
㊂かざる、（飾）。○〔山海經〕「祠用二圭璧之五一、五采——レ之」。
㊃三隅の矛、みつめぼこ。○〔書〕「二人雀弁執レ——」。
㊄慧に通じ用ふ、さとし。○〔後漢〕「將不二早——一乎」。
〔子惠〕おのれの子の如くにめぐむ。○〔書〕「先王——二困窮一」。
〔駿惠〕おほいなるめぐみ。○〔陸雲〕「——雨施」。
〔洪惠〕前に同じ。○〔晉〕「使二萬邦欣々、喜二戴——一」。
〔慈惠〕いつくしみめぐむ。○〔禮〕「但示二——一」。
〔德惠〕前に同じ。○〔漢〕「陛下垂二——一」。
〔仁惠〕前に同じ。○〔後漢〕「敷二——之政一」。
〔寵惠〕前に同じ。○〔燕翼〕「均沾二——一」。
〔恩惠〕前に同じ。○〔南〕「猶謹有二——一」。
〔風惠〕前に同じ。○〔晉〕「實播二——一」。
〔愛惠〕前に同じ。○〔徐陵〕「——以撫二孤貧一」。
〔口惠〕くちさきばかりの信切。○〔韓詩外傳〕「——之人鮮レ信」。
〔私惠〕わたくしのめぐみ。○〔禮〕「——不レ歸レ德」。
〔惇惠〕あつきめぐみ。○〔國〕「帑家——」。
〔溥惠〕前に同じ。○〔傅咸〕「蒙二生々之——一」。
〔厚惠〕前に同じ。○〔甘澤謠〕「酬二君——一」。
〔嘉惠〕よきめぐみ。○〔創業起居注〕「謬承——」。
〔佳惠〕前に同じ。○〔沈遼〕「——致二新君一」。
〔保惠〕やすんじめぐむ。○〔書〕「能——二于庶民一」。
〔柔惠〕柔順なること。○〔詩〕「——且直」。
〔貞惠〕すなはなること。○〔北〕「斐公——」。
〔寬惠〕ゆるやかにしてめぐみあること。○〔蜀〕「勝崇——」。
〔振惠〕すくひめぐむ。○〔晉〕「無レ所二——一」。
〔膩惠〕前に同じ。○〔唐〕「救レ之——」。
〔淫惠〕みたりなるめぐみ。○〔申鑒〕「——、曲意、私怨」。

【惡】ア、エ。衣駕切 禡
心鬱す、むすぼる、ふさぐ。

【惡】アク。烏各切 藥
㊀善の反、正義に缺けたるを、不道德なるを、よこしまなるを、良心に於て否定すべきを。○〔左〕「儉德之共也、侈——之大也」。
㊁極めて頑固なるを、我を信ずるに過ぎたるを。○〔後漢〕「爲レ人性——難レ得レ意」。
㊂あし、わろし。
（い）善ならず、正しからず、（㊀の項參照）。○〔荀〕「形相雖レ善而心術——無レ害レ爲二小人一也」。

(ろ)鄙し。○[宋]「事二多鄙‐―一」。
(は)醜し。○[史]「澹‐臺滅明狀‐貌甚―」。
(に)粗し。○[史]「以二―‐食一食二項‐王使‐者一」。
(ほ)凶し。○[論衡]「南‐北常―」。
(へ)快からず。○[陸雲]「頤覩レ之正使二人意―一」。
(と)穩かならず。○[唐]「時秋‐潦濤‐瀨總―」。
(ち)良好ならず。○[左]「渠‐丘城―衆潰」。
(り)すべて物事の宜しからず好ましからざるにいふ字。○[漢]「戯―民流」。
㊃あしき行爲、敗德の事業、罪過。○[左]「諱二國之―一禮也」。
㊄あしきおこなひある人、わる者。○[唐]「誅二其首‐―一」。
㊅缺瑕、きず。○[周]「敝盡而無レ―」。
㊆疾病、災難、毒害。○[周]「凡療二獸‐瘍一灌而劀レ之以發二其―一」。
㊇垢穢、あか、よごれ。○[管]「水淖‐弱以清、而好灑二人之―一」。
㊈くそ、(糞)。○[吳越春秋]「越‐王勾‐踐爲二吳‐王一嘗レ―」。

(小惡) ちひさき不善。○[易]「以二―‐―一爲レ无レ傷而弗レ去也」。
(邪惡) わるし、又、わるもの。○[易、疏]「防二閑―‐―一」。
(姦惡) 前に同じ。○[、傳]「不レ至二於―‐―一」。
(元惡) わる者のかしら。○[魏]「戮二其―‐―一而已」。
(本惡) 前に同じ。○[禮、疏]「而非二其―‐―一」。
(甚惡) 極めてわるし。○[左]「甚美必有二―‐―一」。
(極惡) 前に同じ。○[潛夫論]「下愚―‐―之人也」。
(積惡) あしきことをかさね、又、つみかさねたる不善。○[潛夫論]「―‐―不レ休」。
(醜惡) もろくわろし。○[唐]「兵‐仗―‐―」。
(溢惡) 十分にあしきこと。○[莊]「兩怒必多二―‐―之言一」。
(過惡) あしき行爲。○[荀]「直指二擧人之―‐―一」。

(悖惡) もとりてよからぬ。○[詩、箋]「有二―‐―之色一」。
(逆惡) 前に同じ。○[周]「以知二―‐―一」。
(痕惡) 前に同じ。○[史、註]「性―‐―」。
(醜惡) きたなし。○[史]「或―‐―而宜二大・官一」。
(瑕惡) きず。○[詩、疏]「無レ有―‐―之處也」。
(罪惡) つみ。○[蘇軾]「常長恐二―‐―一」。
(貪惡) 慾強くわろし。○[詩、箋]「爲之―‐―者也」。
(凶惡) あしきこと、わる者。○[易林]「―‐―不レ起」。
(美惡) よしあし、うつくしきとみにくきと。○[禮]「―‐―皆在二其心一」。
(嫩惡) 前に同じ。○[周]「而察二其―‐―一」。
(臊惡) あぶらくさくしてわろし。○[禮]「其肉―‐―」。
(麤惡) そまつ、あらし。○[周、疏]「沽謂二―‐―一者爲二下等一也」。
(疏惡) 前に同じ。○[漢]「而士―‐―」。
(獷惡) わる強し。○[唐]「―‐―而力」。
(桀惡) 前に同じ。○[晉]「本實匈‐奴―‐―之寇也」。
(移惡) あしきことを他にうつす。○[公羊、註]「―‐―二于魯一也」。
(衆惡) 多くのあしきこと、又、多數のわる者。○[令狐楚]「既摧二―‐―之鋒一」。
(恥惡) わるきことを爲すをはづ。○[穀梁]「―‐―不レ犯」。
(百惡) いろいろのあしきこと。○[傅休奕]「―‐―集二其身一」。
(衰惡) よわること。○[白居易]「憂‐傷早―‐―」。
(豪惡) すぐれてわるき者。○[史]「―‐―吏伏‐匿」。
(酷惡) からくしてよからぬ。○[世說]「情‐性―‐―」。
(便惡) よこしまなること、ねぢけ者。○[後漢]「―‐―消‐殄」。
(猾惡) わるがしこきこと、わるがしこきわる者。○[後漢]「而―‐―自禁」。
(狡惡) 前に同じ。○[潛夫論]「雖レ楷二―‐―一、爭稱二譽之一」。
(暴惡) あらくれてわろし、あらくれてわろき者。○[柳宗元]「偷二晴―‐―一者」。
(濫惡) 堅固ならずしてあしきもの。○[荀、註]「―‐―者謂二之楛一」。
(蚩惡) いやし。○[唐]「語‐言―‐―」。
(鄙惡) 前に同じ。○[宋]「或有下言二兩‐晉事一、多二―‐―一、不レ可二流‐行一者上」。
(弛惡) ゆるびてあし。○[唐]「弓‐矢皆―‐―」。
(敝惡) やぶれてきたなし。○[唐]「祭‐器―‐―」。
(萃惡) やつるゝこと。○[荀]「憂‐戚―‐―」。
(陰惡) うはべにあらはれざるわるきこと。○[雲笈七籤]「入爲二―‐―一、鬼‐神治レ之」。

【惡】ヲ、ウ。烏故切 [遇]
㊀にくむ(疾)。○[左]「周鄭交―」。
㊁いむ(忌)。○[禮]「奉二忌‐―一」。
㊂そしる(譏)。○[戰]「人―二之於燕‐王一」。
㊃はづ(恥)。○[孟]「羞‐―之心人皆有レ之」。
(仇惡) にくむ。○[唐]「天下―‐―」。
(衆惡) おほくの人のにくしみ。○[論]「―‐―レ之必察焉」。
(畏惡) おそれにくむ。○[漢]「信知三漢‐王―‐―二其能一」。
(怨惡) うらみにくむ。○[周]「除二其―‐―一」。
(疾惡) にくむ、そしる。○[漢]「勝等―レ陽―二之孝‐王一」。
(毀惡) そしる。○[北]「有下―‐―二之一者上」。

【惡】ヲ、ウ。哀都切 [虞]
㊀いづくんぞ、なんぞ、(何)。○[論]「―乎成レ名」。
㊁歎息の聲にいふ字、あ、あゝ。○[孟]「―是何言也」。
㊂滹に同じ。○[禮]「晉人將レ有レ事二于河、必先有レ事二于―‐池一」。

【惢】サ。蘇果切 [哿] ス。才捶切 [紙]
うたがふ(疑)。

【惢】蘂に同じ、しべ。

【惢】シ。姉宜切 [支]
よし(善)。

【惣】ソウ、ス。作弄切 [送]
くるしむ(倥‐偬)。

【[illegible]】シ。胥茲切 [支]
あつし(厚)。

【㥯】イン、オン。於謹切 [吻]
人の憂ひを疾む、いたむ、あはれむ。

【[illegible]】リ。力其切 [支]
うれふ(憂)。

九畫

【[illegible]】ユ。羊朱切 [虞]
うれふ(憂)。

【[illegible]】ユ。以主切 [麌] ギョ、ゴ。偶許切 [語]
おそる(懼)。

【[illegible]】キョク、コキ。紀力切 [職]
急性にして心と事と相背くと、一說に、はやし、(疾)、一說に、どもる、(吃)、又、一說に、謹みておもおもしき貌にいふ字。○[列]「譾‐―凌‐誶」。

【愅】カク、キャク。克革切 [陌]
㊀かざる(飾)。㊁めづ、をしむ(愛)。㊂つゝしむ(謹)。

【惰】タ、ダ。徒果切 [哿] 徒臥切 [箇]
おこたる、おこたり。
(い)恭敬せず、あなどる、かろんず。○[禮]「臨レ祭不レ―」。
(ろ)心氣解け緩む、ものうくなる、なまける。○[禮]「―‐游之士」。
(怠惰) おこたる。○[漢]「但敎二子‐孫―‐―一資」。
(懈惰) 前に同じ。○[禮]「民‐氣―‐―」。
(敖惰) おごりおこたる。○[禮]「之二其所一―‐―而辟焉」。
(懶惰) ものうくおこたる。○[高適]「爲レ性頗二―‐―一」。「吾」。
(燕惰) たのしみおこたる。○[陸游]「―‐―恐レ損

〔輕惰〕あなどること、又、かるはずみにしてなまけ易きこと。○〔商子〕「一一之民、不レ遊ニ軍市一、則農民不レ淫」。
〔淫惰〕前に同じ。○〔朱熹〕「輕儇一一」。
〔𢡠惰〕おろそかにしおこたる。○〔任昉〕ニ曰余本一一」。
〔弛惰〕なまける。○〔南〕「外內服ニ其神明一、莫ニ敢一一ニ」。
〔遊惰〕あそびなまける。○〔南〕「戮ニ罰一一ニ」。
〔習惰〕狎れあなどる。○〔宋〕「士卒一一」。
〔休惰〕やすらひおこたる。○〔北〕「軍人因レ宴一一」。「一一ニ」。
〔逋惰〕のがれおこたる。○〔北〕「刺史守宰率多ニ一一ニ」。
〔矜惰〕おごりおこたる。○〔北〕「未ニ嘗有ニ一一之容ニ」。
〔簡惰〕おろそかにすること。○〔舊唐〕「於ニ政事ニ一一」。
〔廢惰〕やめなまける。○〔宋〕「並受レ經學レ書、勿レ令ニ一一ニ」。
〔恬惰〕安んじおこたる。○〔宋〕「一一猥惰」。
〔昏惰〕心暗くおこたる。○〔宋〕「御史言庠一一」。
〔驕惰〕おごりおこたる。○〔宋〕「乘ニ賊一一ニ破レ之必矣」。
〔怯惰〕おそれおこたる。○〔宋〕「軍政久廢、士氣「一一」。
〔肆惰〕氣ほしいまゝにしおこたる。○〔元〕「設或一一、貝竊何益」。
〔翫惰〕なまける。○〔孔叢子〕「仲尼居處一一」。
〔疑惰〕うたがひあなどる。○〔商子〕「重ニ關市之賦一、則民有ニ一一之心ニ」。
〔闇惰〕心昏くしておこたる。○〔陶弘景〕「伏願宥以ニ一一、謹啓」。
〔頑惰〕かたくなにしておこたる。○〔何承天〕「臣授性一一」。「疎愚一一」。
〔放惰〕ほしいまゝにしておこたる。○〔杜牧〕「某
〔慵惰〕おこたる。○〔王禹偁〕「自得レ放ニ一一ニ」。
〔愚惰〕おろかにしておこたる。○〔歐陽修〕「誘ニ勸其一一ニ」。「雖レ堪レ笑」。
〔頹惰〕くづをれおこたる。○〔陸游〕「老人一一
〔退惰〕しりぞきおこたる。○〔陸游〕「道心一一如ニ風鶴ニ」。

【惰】タ、ダ。徒禾切 歌

訛言、なまり。○〔禮〕「言不レ一」。

【惱】ダウ、ノウ。奴皓切 皓

㊀心撓み亂る、恨みわづらふ、なやむ、なやみ。○〔梁簡文帝〕「臣比身心得レ無ニ障一一ニ」。
㊁なやましむ、なやます。○〔韓偓〕「春一ニ情懷一身覺レ瘦」。「曲ニ」。

〔懊惱〕怨みなやむ。○〔晉〕「隆安初、有ニ一一之「一一」。
〔熱惱〕甚たしきなやみ、くるしめなやます。○〔白居易〕「何以除ニ一一ニ」。
〔苦惱〕くるしみなやむ。○〔法華經〕「老死憂悲
〔痛惱〕いたみなやむ、いためなやます。○〔梁簡文帝〕「拔ニ六根之一一ニ」。「行ニ」。
〔拔惱〕なやみをさる。○〔淨住子〕「以レ一レ一爲ニ要
〔惑惱〕迷ひなやむ、まどはしなやます。○〔梁簡文帝〕「四纏一一去ニ善源ニ」。
〔煩惱〕佛教の語、光明貪愛の惑、卽ち、心神をわづらはしなやまして生死境に流轉して涅槃の道に違ふこと。○〔智度論〕「一一垢重」。
〔憂惱〕物事を案じなやむ。○〔白居易〕「仕亦無ニ一一ニ」
〔悲惱〕かなしみなやむ。○〔蘇軾〕「一一緣レ愛結」。
〔百惱〕あまたのなやみ。○〔薛季宣〕「一一愁成レ酎」。
〔嬈惱〕煩ひなやむ。○〔大法句經偈〕「無レ所ニ一一、是爲ニ梵行ニ」。

【惲】ウン、於粉 キン、巨隕 チン。切 ゴン。切 吻

㊀あつし（重厚）。㊁はかる、はかりごと（謀）。

【想】シヤウ、サウ。悉兩切 養

おもふ、又、おもひ。
（い）のぞみ願ふ、冀ふ。○〔後漢〕「夢一ニ賢士ニ」。
（ろ）すべて物事に著して心に思慮を起こすにいふ字。○〔列〕「晝一夜夢」。

〔夢想〕ゆめに思ひみる。○〔後漢〕「一ニ一賢士、共成ニ功業ニ」。「一一ニ」。
〔遠想〕高くすぐれたるおもひ。○〔劉基〕「惻愴懷ニ
〔懷想〕おもふ。○〔李陵〕「望レ風一レ一、能不ニ依依ニ」。「一一ニ」。
〔思想〕おもひ、かんがへ。○〔傳燈錄〕「能斷ニ百一一ニ」。
〔傾想〕心をかたぶけおもふ。○〔晉〕「一座一一」。
〔望想〕のぞみおもふ。○〔晉〕「一ニ一於渭濱ニ」。
〔積想〕つもるおもひ。○〔晉〕「不レ足レ寄ニ一一于三篇ニ」。
〔欣想〕喜び思ふ。○〔晉〕「一ニ一盛德ニ」。
〔感想〕心を動かしおもふ。○〔晉〕「大一一發ニ于寤寐ニ」。
〔瞻想〕顧みおもふ。○〔梁〕「一ニ一東都ニ」。
〔緬想〕おもふ。○〔南〕「一ニ一人外三十年矣」。
〔舊想〕むかしのおもひ。○〔周〕「舉レ目依然、益增ニ一一ニ」。
〔虔想〕恭敬のおもひ。○〔隋〕「盡ニ誠潔ニ致ニ一一ニ」。
〔睿想〕高遠なるおもひ。○〔隋〕「一一遐瀨」。
〔凝想〕心をこりかたまらせおもふ。○〔郭鈺〕心情一一金刀寒」。「業ニ」。
〔跂想〕のぞみおもふ。○〔宋〕「中外一ニ一其勳一芳流ニ」。
〔屬想〕おもひを寄す、又、おもひつき。○〔水經註〕
〔靜想〕おもひをしづかにす、又、しづかなるおもひ。○〔五色線〕「獨ニ處一室一、絕レ食一レ一」。
〔尋想〕たづねおもふ。○〔宋〕「一ニ一游靈ニ爲レ識レ所レ沮」。
〔悠想〕憂へおもふ。○〔陸機〕「玩ニ通川一以一一」。
〔煩想〕うるさき物おもひ。○〔韋應物〕「清風滌ニ一一ニ」。
〔悄想〕憂へおもふ。○〔陶潛〕「獨一一以空尋」。
〔眞想〕まことのおもひ。○〔陶潛〕「一一初在レ襟」。
〔逸想〕世をのがれ隱るゝおもひ。○朱熹〕「憑レ欄生ニ一一ニ」。
〔冥想〕ふかきおもひ。○〔支遁〕「道會貴ニ一一ニ」。
〔素想〕元より抱きもてるおもひ。○〔余靖〕「放レ情諧ニ一一ニ」。
〔佇想〕たゞずみ立ちておもふ。○〔傅亮〕「過ニ大梁ニ者、或一ニ一于夷門ニ」。
〔沖想〕深きおもひ。○〔王勃〕「一一自閑」。
〔倒想〕道にさかひたるかんがへ。○梁武帝〕「狂心迷惑、一一自欺」。
〔亂想〕理のみだれたるおもひ。○〔梁武帝〕「善思中勿レ起ニ一一ニ」。「一ニ」。
〔翹想〕思ふ、人を慕ひおもふ。○〔徐陵〕「想ニ其一一
〔遺想〕のこるおもひ。○〔徐陵〕「情無ニ一一ニ」。
〔𡨄想〕わたかまりなきおもひ、又、荒唐なるおもひ。○唐〕「跪拜ニ纓冠結ニ一一ニ」。
〔曆想〕さとくあきらかなる心。○〔宋之問〕「一一獨超レ禪」。
〔𡨄想〕いみじきかんがへ。○〔張說〕「神功發ニ于一一ニ」。
〔惕想〕懼るゝおもひ。○〔李白〕「一一結ニ宵夢ニ」。
〔粹想〕まじりなきかんがへ。○〔杜甫〕「一一經ニ緯乎六虛ニ」。
〔滯想〕とゞこほりて通せざるおもひ。○〔韋應物〕「泊懷遺ニ一一ニ」。
〔細想〕こまやかにして密なるかんがへ。○〔柳宗元〕「觀有遺ニ一一ニ」。「一ニ」。
〔超想〕秀でたるかんがへ。○〔史肅〕「浮宇懷ニ一一風敲早」。「處」。
〔聰想〕耳にきゝておもひ居る。○〔王安石〕「平生
〔預想〕かねておもふ。○〔秦觀〕「一一江天同首
〔塵想〕ちりの世のけがしきおもひ。○〔朱松〕「探ニ寒露井一銷ニ一一ニ」。「年」。
〔憶想〕おもふ、おもひ。○〔唐寅〕「一一平津只去
〔雜想〕くさぐさなる物おもひ。○〔朱熹〕「高齋絕ニ一一ニ」。
〔慨想〕なげきおもふ。○〔陳深〕「一一陸機才、
〔悵想〕前に同じ。○〔葛長庚〕「幾箇黃昏悵一一ニ」。「與ニ天機一通」。
〔妙想〕いみじきかんがへ。○〔蒲道源〕「一一乃
〔紛想〕もつれたるおもひ。○〔湯顯祖〕「坐ニ一一於游極ニ」。
〔奔想〕物に對して馳せ移るおもひ。○〔雲笈〕「一一飛馳、迅ニ于游鳥ニ」。
〔俗想〕やぶさかなるおもひ。○〔法苑珠林〕「非道求ニ道心一無ニ一一ニ」。
〔情想〕おもひ。○〔楞嚴經〕「一一均等」。
〔識想〕前に同じ。○〔法苑珠林〕「徒喪ニ一一ニ」。

【惴】スヰ、ズヰ。之瑞切 寘

うれふ（憂）、又、おそる（懼）。○〔詩〕「一一其慄」。

〔憂惴〕うれふ、おそる。○〔唐〕「心常一一」。
〔危惴〕あやぶみおそる。○〔唐〕「人心一一」。
〔沮惴〕はゞみおそる。○〔唐〕「胃怳然不ニ一一ニ」。
〔慴惴〕おそる。○〔杜牧〕「隄防常一一」。

【惴】クワイ、ケ。古賣切 卦
性質に碵礙(こゞこほり)多きと。

【⿰忄胃】井。于貴切 未
㊀心安からず、うれふ。㊁忼慨す、なげく。

【惵】テフ、デフ。徒協切 葉
思ひ懼る、危ぶみ懼る、おそる。〇〔後漢〕「宮・房ー・息」。
（惵々）思ひおそるゝ貌にいふ語。〇〔晉〕「ー・ー黎・遺、告・哀無ㇾ地」。
（愁惵）憂ひおそる。〇〔王安石〕「無ㇾ事終ー・ー」。
（悲惵）かなしみおそる。〇〔沈遼〕「風・物増ニー・ー」。
（煩惵）わづらひおそる。〇〔沈遼〕「亦足ㇾ暢ニー・ー」。

【惵】テフ。託協切 葉
志づか（靜）。

【惵】ケフ。虛涉切 葉
懼るゝ貌にいふ字。

【⿱枼心】セツ、セチ。私列切 屑
安からざる貌にいふ字。

【⿰忄咸】ケン。丘廉切 鹽 タン、テン。洪咸切 咸 カン、ケン。口減切 豏
ー・愔は、意安からず、うれふ。

【惶】クワウ、胡光 ワウ。雨方 切 陽
おそる（恐）。〇〔後漢〕「百・姓ー・擾」。
（憂惶）憂へおそる。〇〔北〕「ー・ー計無ㇾ所ㇾ出」。
（戰惶）わなゝきおそる。〇〔魏〕「ー・ー五・色無ㇾ主」。
（悲惶）哀しみおそる。〇〔晉〕「承ㇾ問ー・ー」。
（驚惶）おどろきおそる。〇〔晉〕「拜ㇾ命ー・ー、五・情戰・悸」。
（駭惶）前に同じ。〇〔馬融〕「敵・心ー・ー」。
（窘惶）たしなみおそる。〇〔王粲〕「心・情悶而ー・ー」。
（迷惶）まよひおそる。〇〔郭璞〕「孔甲ー・ー」。
（震惶）ふるひおそる。〇〔晉〕「憂・懼ー・ー」。
（惶々）おそるゝ貌にいふ語。〇〔世說〕「戰々ー・ー」。
（恐惶）おそる。〇〔吳越春秋〕「諸・侯怖・恩皆ー・ー」。
（悽惶）うれへおそる。〇〔梁武帝〕「踐ニ霜・露ニ而ー・ー途ニ」。
（兢惶）おそる。〇〔柳宗元〕「ー・ー無ㇾ措」。
（慙惶）耻ぢおそる。〇〔顏后述志賦〕「ー・ー而累・息」。
（蒼惶）あわておそる。〇〔杜甫〕「ー・ー已就ㇾ長・途ニ」。

【惷】シユン。尺尹切 軫
㊀みだる（亂）。〇〔左〕「王・室實ー・ー焉」。㊁おろか（痴）。〇〔後漢〕「臣實愚・ー不ㇾ及ニ大・體ニ」。
（拙惷）物事つたなくおろかなり。〇〔白居易〕「我性ー・且ー」。

【惸】ケイ、ギヤウ。渠營切 庚
㊀うれふ（憂）。〇〔詩〕「憂・心ー・ー」。㊁兄弟なきと、ひとり者。〇〔詩〕「哀此ー・獨」。

【惹】ジヤ、ニヤ。人者切 馬
㊀ひく（引）。〇〔羅鄴〕「微・香暗ー遊・人歩」。㊁かゝる（絓）。〇〔高啓〕「情隨ニ柳・絮ー猶縈ー・ー」。㊂いつはる（詭）。㊃そしる（譴）。㊄みだる（亂）。

【惹】ジヤク、ニヤク。而灼切 藥
㊀ひく（掣）。㊁綽ーーは、定まらざる貌にいふ語。

【⿰忄若】馬の韻の惹に同じ。

【⿰忄若】ダク、ナク。匿各切 藥
心に然りとせず、うけがふ。

【惺】セイ、シヤウ。桑經切 青
了慧、さとし、又、志づか（靜）。〇〔土禁語錄〕「敬是常ー・ー法」。

【惺】セイ、シヤウ。息井切 梗
さとる（悟）。

【悜】セイ、シヤウ。銑挺切 迥
㊀前條に同じ。㊁靜中昧からざると。

【惻】シヨク、シキ。察色切 職
痛愴す、いたむ。〇〔揚雄〕「翁ㇾ繳ー・ー」。
（惻々）いたむ。〇〔杜甫〕「生・別常ー・ー」。
（懇惻）ねんごろにあはれみいたむ。〇〔朱熹〕「間ㇾ俗貝ー・ー」。
（款惻）誠心からいたむ。〇〔魏、註〕「揚・情趣ニー・ー」。
（惛惻）いたむ。〇〔登樓賦〕「意切・怛而ー・ー」。
（悽惻）前に同じ。〇〔潘岳〕「情ー・ー兮常苦・辛」。
（傷惻）前に同じ。〇〔梁武帝〕「彌勞ー・ー」。
（悲惻）哀しみいたむ。〇〔梁武帝〕「倍用ー・ー」。
（仁惻）めぐみいたむ。〇〔蔡琰〕「阿・母常ー・ー」。
（憫惻）あはれみいたむ。〇〔顧雲〕「咨・嗟生・業、ー・羈・危ニ」。

【⿰忄省】セイ、シヤウ。息井切 梗
さとる（悟）。

【惼】ヘン。方典切 銑
性質狹急なり、せまし。〇〔莊〕「有ニ虛・船ー來觸ㇾ舟、雖下有ニー・心ニ之人上不ㇾ怒」。
（庸惼）才智なみにして狹量なると。〇〔謝靈運〕「顧ニ微・心之ー・ー、謝ニ精・靈之昭・晰ニ」。

【⿰忄度】タク。徒落切 藥
はかる（忖）。

【⿰忄卻】キヤク、ガク。極虐切 藥
つかる（勞）。

【⿰忄卻】ケキ、ギヤク。几劇切 陌
つかる（疲）、又、うむ（倦）。

【惛】コン、ゴン。呼昆切、ポン、モン。謨奔切 元
悟に同じ、憭かならず、くらし。〇〔孟〕「齊宣・王曰、吾ー」。

【惽】ベン、メン。暋見切 霰
混合す、まじる。

【惛】ボン、モン。莫困切 願
悶懣す、もだゆ、いきどほる。〇〔張說〕「不ㇾ見ㇾ是而不ㇾー」

【⿰忄某】ボ、莫補 ブ、文甫 モ。切 ム。切 麌 微夫 虞
なづ（撫）、めづ（愛）。

【惾】ソウ、祖叢切 東 ス。先奏切 宥
賊れて通ぜず、つまる、ふさがる。〇〔莊〕「五・臭熏ㇾ鼻困ー・ー中ㇾ顙」。

【愐】ビ、ミ。綿婢切 紙 ベン、メン。彌兗切 銑
ー一に愐に作る。
やむ（止）、一說に、はげむ（厲）。

【愲】 シフ、ソフ。七入切 緝
思ひ止まらざる貌にいふ字。○〔元結〕「心騷一一兮意惶懷」。

【惿】 テイ、ダイ。田黎切 齊
おそる（怯）。

【愢】 シ、ジ。上紙切 紙
あきらか、つばら（審）。

【愀】 セウ。親小切 篠 シウ、ジュ。在久切 有
㊀容色變ず、いろかはる、かはる。○〔禮〕「一一然作レ色」。
㊁つゝしむ（謹）。○〔揚雄〕「一一如也」。
〔愀愀〕言をかまびすしくし顏色を變へて穩かならざるさまをなすこと。○〔庾信〕「聖德一一」。

【愁】 セウ。子遙切 蕭 シウ、シュ。雌由切 尤
前條の㊁に同じ。

【愀】 シウ、シュ。七救切 宥
蕭條の貌にいふ字、ものさびし、さびし。○〔馬融〕「原野一一」。

【愁】 シウ、ジュ。士尤切 尤
うれふ、又、うれひ。
（い）憂慮す。○〔史〕「虞卿非レ窮一一亦不レ能レ著レ書以自見ニ於後世ニ」。
（ろ）思ひに沈む。○〔白居易〕「花時同醉破ニ春一ニ」。
（は）かなしむ（悲）。○〔列〕「曼聲哀哭、一里悲一垂レ涕」。
〔悲愁〕かなしむ。○〔李白〕「鷄鵾一一平隱鷓ニ」。
〔緘愁〕憂ひをとぢおくる（書簡に）。○〔江總〕「東西反ニ一一ニ」。
〔猿愁〕ましらの鳴き聲のうれひを催すこと。○〔陳子昂〕「坐聽ニ峽一一ニ」。
〔憂愁〕憂へもだゆること。○〔史〕「一一幽思而作ニ離騷ニ」。
〔愁々〕憂ふるが上にも憂ふること。○〔楚辭〕「心一一而思ニ舊邦ニ」。
〔寄愁〕悲しみの情を送りやる。○〔眞山民〕「鄉書莫レ一レ一」。
〔衆愁〕あまたのうれひ。○〔曹植〕「一一忽然不レ辭而去ニ」。
〔眉愁〕まゆもとに憂のさまをあらはす。○〔梁元帝〕「坐久嚬一一」。
〔積愁〕かさなれるうれひ。○〔吳均〕「一一落ニ芳瓊ニ」。
〔千愁〕ちゞの悲しみ。○〔何遜〕「馬上一一付ニ一林ニ」。
〔幽愁〕沈みうれふ。○〔趙東曦〕「志一一而誰語」。
〔昔愁〕過ぎ去りしうれひ。○〔賀知章〕「令ニ人起ニ一一ニ」。
〔鄉愁〕ふるさとを思ふ悲しみ。○〔岑參〕「寒梓擣ニ一一ニ」。
〔別愁〕わかれの悲しみ。○〔羅隱〕「誰能減ニ一一ニ」。
〔暮愁〕日くるゝ頃の寂しさに物のうれひを催すこと。○〔祖詠〕「懐然多ニ一一ニ」。
〔旅愁〕たびのうれひ。○〔杜甫〕「喧和散ニ一一ニ」。
〔深愁〕甚だしき物思ひ。○〔杜甫〕「花鳥莫ニ一一ニ」。
〔高愁〕前に同じ。○〔韓愈〕「一一撥斗魁ニ」。
〔沈愁〕深く思ひ入りたる物案じ。○〔白居易〕「莫レ遣ニ一一結成レ病」。
〔離愁〕わかれの悲しみ。○〔杜牧〕「寧復緩ニ一一ニ」。
〔淡愁〕わづかなる物思ひ。○〔杜牧〕「觴騷著ニ一一ニ」。
〔買愁〕物思ひを求め招く。○〔鄭谷〕「買レ花不レ得一レ一來」。
〔凝愁〕結ばれたる物思ひ。○〔馬臻〕「脈々如ニ一一ニ」。
〔啼愁〕なき悲しむ。○〔杜荀〕「一一雪嶽猿」。
〔結愁〕物思ひをこしらへなす、又、心むすぼること。○〔杜荀〕「嶽色江聲暗一レ一」。
〔亂愁〕もつれたる物思ひ。○〔韓琦〕「一一縈困蔵ニ春陣ニ」。
〔牽愁〕うれひむすぼること。○〔蘇軾〕「字々一一寫ニ斷腸ニ」。
〔遺愁〕かたはなれる物思ひ。○〔張耒〕「傾ニ揃一一鄭酒家ニ」。
〔潰愁〕わづらはしき物思ひ。○〔張耒〕「一一付ニ杯酒ニ」。
〔堆愁〕積もり重なれる物思ひ。○〔陳透〕「欲レ把ニ一一次杜ニ一一ニ」。○〔庾郎胸〕
〔鎖愁〕物思ひの心をとざして生ぜしめぬ。○〔陸游〕「空鎖長江ニ不レ一レ一」。
〔孤愁〕一人身の物思ひ。○〔陸游〕「一一還似客ニ天涯ニ」。
〔濃愁〕こまやかなる物思ひ。○〔許衡〕「一一已自醲」。
〔眞愁〕まことの物思ひ。○〔揭傒斯〕「誰知愁是一一」。
〔暗愁〕常に異なりたる物思ひ。○〔吳萊〕「一一本難レ驅」。
〔倚門愁〕村里の門によりて人待ち顏なる物思ひ、即ち人を慕ひまつにいふ語。○〔王維〕「獨念一レ一一」。

【愭】 セイ。尺制切 霽
小しく怒る、いかる。

【㥩】 スヰ。徐醉切 寘
ふかし（深）。

【㥟】 カイ、ケ。戸佳切 佳
うらむ（怨恨）。

【㥣】 ケイ、エ。黄圭切 齊
心平かならず。

【愃】 ケン、クワン。火遠切 阮
心中の寬間なる貌にいふ字、ゆたか、ひろし。○〔詩〕「赫兮一兮」。

【愃】 セン。須緣切 先 ケン、クワン。許元切 元
こゝろよし（快）。○〔通雅〕「快謂ニ之一ニ」。

【愄】 ワイ、エ。烏回切 灰
よし（善）。

【㤸】 コウ、ク。胡溝切 尤
一一愱は、怒る貌にいふ語。

【慅】 サウ、ソウ。先到切 號
快一一は、心にわだかまりなき性質こゝろよきたち。

【愵】 デキ、ニヤク。乃歷切 錫
うれふ（憂）。

【㥾】 ダウ、ナウ。奴刀切 豪
おさる（劣）。

【愅】 カク、キヤク。各核切 陌
かざる（飾）、一說に、つゝしむ（謹）、かはる（更）。○〔荀〕「一詭」。

【㥡】 カツ、カチ。古達切 曷
むくゆ（賽）。

【愆】 ケン。去乾切 先
㊀すぐ（過）。○〔書〕「今日之事不レ一ニ于六歩七歩ニ乃止齊焉」。
㊁たがふ（差）、又、あやまつ（失）。○〔易〕「歸妹一レ期」。
㊂罪過。○〔書〕「惟茲三風十一」。
㊃惡疾。○〔左〕「王一ニ于厥身ニ」。
〔罔愆〕あやまり違ふことなし。○〔書〕「帝德一レ一」。
〔念愆〕吾が過ちを發見せんと思ふ。○〔後漢〕「今方一レ一、庶消ニ厥咎ニ」。
〔請愆〕過失を罰せられんことを願ひ出づ。○〔後漢〕「姜氏一レ一」。
〔引愆〕罪を甘んじて身にひき受く。○〔後漢〕「克レ己一レ一」。
〔歸愆〕とがを負はすること。○〔後漢〕「削レ跡一レ一」。
〔塞愆〕あやまちをおぎなふ。○〔宋〕「當レ之者、足以一レ一」。
〔輕愆〕かろき過失。○〔宋〕「簽用ニ一一ニ」。
〔補愆〕過失のありてはなことを繕ひつくろふこと。○

〔東京賦〕「必三思以一レ一」。
〔省愆〕前に同じ。○〔張衡〕「夕惕若以一レ一兮」。
〔辭愆〕過失ありながらこれを避けて無きが如くにとりなす。○〔御正禮篇〕「不二一レ一以忌一レ細」。
〔偽愆〕あやまち。○〔劉基〕「謂止絕二一一」。

【愈】イユ、ユ。以主切 [麌]　キョ、ゴ。偶許切 [語]
❶すぐ、(過)、まさる、(勝)。○〔孟〕「丹之治レ水也一二於禹一」。
❷すゝむ、(進)、ます、(益)、○〔詩〕「憂心一一」。
❸疾病全快す、いゆ。○〔左〕「相從爲レ一」。
〔痊愈〕病氣いゆ。○〔易林〕「針頭刺レ手百病一一」。

【愈】イユ、ユ。容朱切 [虞]
❶一層すゝみて、あるが上に、ますます、いよいよ。○〔史〕「少-年聞レ之一益慕二解之行一」。
❷愉に通じ用ふ。○〔荀〕「心至一一而無レ所レ謂」。

【愉】イユ、ユ。羊朱切 [虞]
よろこぶ、又、よろこび。
(い)和ぎ樂しむ、悅服す。○〔詩〕「他-人是一」。
(ろ)よろこぶ意顏色に表はる。○〔禮〕「必有二一-色一」。
〔怡愉〕よろこぶ。○〔唐〕「海-內皆欣々一一」。
〔恬愉〕やすんじよろこぶ。○〔支遁〕「觸-思皆一-一」。
〔和愉〕やはらぎよろこぶ。○〔淮〕「一-一虛-無、所二以發一レ德」。
〔欣愉〕笑ひよろこぶ。○〔嵇康〕「康-樂者聞レ之、一-一歡釋」。
〔熙愉〕前に同じ。○〔李百藥〕「隨二流-睇一而一-一」。
〔歡愉〕よろこぶ。○〔韓愈〕「一-一之辭難レ工」。
〔寬愉〕くつろぎよろこぶ。○〔宋〕「以二恬-蕩一爲レ體、一-一爲レ器」。
〔舒愉〕伸びよろこぶ。○〔柳宗元〕「完-平一-一」。
〔現愉〕れたやかにしてよろこぶ。○〔韓愈〕「優-游一-一」。
〔平愉〕前に同じ。○〔劉〕「心一-一」。
〔婉愉〕おとやかにしてよろこぶ。○〔韓詩外傳〕「居則一-一」。
〔吳愉〕吳國の歌。○〔吳都賦〕「一-一越吟」。
〔欣愉〕よろこぶ。○〔李華〕「無レ不二一-一」。

【愉】トウ、ツ。他侯切 [尤]
かりそめ、(苟-且)。○〔周〕「以レ俗敎レ民、則民不レ一」。

【㥚】イユ、ユ。勇主切 [麌]
つかる、なまける。○〔郭璞〕「勞-苦者多二懶-一一也」。

【⿰忄再】ショウ。尺拯切 [迥]
一-悚は、愚なる貌にいふ字、おろか。

【悚】チョウ。丑拯切 [迥]
前條に同じ。

【愇】ヰ。于鬼切 [尾]
うらむ、(恨)。○〔班固〕「一二世-業之可一レ懷」。

【⿰忄胥】ショ、ソ。相居切 [魚]　息呂切 [語]
さとし、(智)。

【⿰忄癸】キ、ギ。渠追切 [支]　求癸切 [紙]　其季切 [寘]
おそる、(悸)。

【⿰忄果】チ。丑吏切 [寘]
心安からず。

【⿰忄酋】シウ、ジュ。字秋切 [尤]
❶あし、(惡)。❷おごる、(傲)。
❸おもんぱかる、(慮)。

【⿰忄家】カ、ケ。居迓切 [禡]
心安からず。

【⿰忄突】トツ、ドチ。度骨切 [月]
一-悖は、はづ。

【⿰忄訇】クワウ、コウ。呼宏切 [庚]
好みて瞋る貌にいふ字、いかる。

【⿱奎心】ケイ、エ。胡桂切 [霽]
あきらか、(明)。

【愊】ヒョク、ヘキ。芳逼切 [職]
❶誠志、まこと、まごゝろ。○〔漢〕「發-憤悃一-一」。
❷心鬱結す、むすぼる。○〔馮衍〕「心一-一憶而紛-紜」。

【愋】ケン、クワン。許元切 [元]
❶うらむ、(恨)。❷わする、(忘)。

【愋】エン、ヲン。于元切 [元]
さとし、さとる、(智)。

【愌】クワン、グワン。胡玩切 [翰]
順はず、そむく、さからふ、もとる。

【意】イ。於記切 [寘]
❶こゝろ。
(い)志情の發動、こゝろばせ、こゝろばへ、こゝろざし。○〔大〕「欲レ正二其心一先誠二其一一」。
(ろ)おもふを、おもひ、おもはく、のぞみ、かんがへ。○〔國〕「君行レ制臣行レ一」。
(は)主旨、理由。○〔類說詩〕「錬レ句不レ如レ錬レ一」。
(に)情勢、風趣、おもむき。○〔圖繪寶鑑〕「錢-一-幽-閒」。
❷私慾、私心。○〔論〕「子絕レ四毋レ一毋レ必毋レ固毋レ我」。
❸おもふ。
(い)思念す、考慮す。○〔孫〕「攻二其無一レ備出二其不一レ一」。
(ろ)度る。○〔莊〕「妄一室中之藏」。
(は)疑ふ。○〔漢〕「不-疑爲レ郎事二文-帝一、其同-舍有二告レ歸者一、誤持二其同-舍郎金一去、已而同-舍郎覺、妄一二不-疑一」。
❹おもふに。
(い)考ふるに、はかるに。○〔戰〕「一者臣愚而不レ闚二王心一耶」。
(ろ)上を翻し下を起こすさきに用ふる字、そもく。○〔大戴禮〕「武-王問黃-帝顓-頊之道存乎、一亦忽不レ可レ得レ見歟」。
〔精意〕心を盡くす。○〔書、傳〕「一レ一以享、謂二之禋一」。
〔天意〕上帝の御心。○〔漢〕「王-者承二天一-一以從一レ事」。
〔先意〕先方の人の心を迎ふること。○〔禮〕「孝者一レ一承レ志」。
〔善意〕よき心。○〔漢〕「因厚將二理-予一、答二其一-一」。
〔無意〕こゝろなし、おもはざる。○〔史〕「陵本一レ一從」。
〔壹意〕心を專らにしてあだし心を抱かぬ。○〔史〕「專レ心并レ力一-一」。
〔快意〕よろこぶこと。○〔史〕「一-一當レ前適レ觀而己」。
〔如意〕心に思ふとほりになること。○〔漢〕「陛下雖レ行二此道一、猶不レ得レ一-一」。
〔稱意〕氣に入ること。○〔漢〕「盡レ忠而一レ一」。
〔生意〕いきいきとしたるこゝろ。○〔晉〕「此樹婆-娑、無二復一-一」。
〔素意〕かねてより思ひ抱けるこゝろ。○〔晉〕「高-尚之事、乃卿從-來一-一」。
〔適意〕こゝろにかなふこと。○〔晉〕「人-生貴二一-

（目意）目もてはかる。○〔韓〕「巧匠——中レ繩」。
（琴意）琴うたのこゝろ。○〔歐陽修〕「能得二——一斯爲レ賢」。
（函意）しづかなるこゝろ。○〔江淹〕「必居レ閒而就レ寂、以二——之深傷一」。
（密意）人知れぬこゝろ。○〔蕭思道〕「深・情出二艷・語一、——滿二横・眸一」。
（盡意）思ひのたけを極む。○〔易〕「聖・人立レ象以—レ—」。
（求意）先方のこゝろをさとりて氣に入るやうにす。○〔史〕「—レ—觀レ色爲レ務」。
（本意）もとのこゝろ。○〔詩、序〕「作二是頌一、明二作者——一」。
（作意）つくりたるこゝろ。○〔漢〕「爲二之序一言二其—・—一」。
（厚意）信切、あつきこゝろ。○〔韋應物〕「百・金非レ所レ貴、—・—且難レ得」。
（文意）文章のこゝろ。○〔文心雕龍〕「——各異」。
（至意）極めて盡くせるこゝろ。○〔漢〕「原二罪・八之——、深思二天・地之戒一」。
（得意）心の思ふとほりになると、氣に入ると。○〔史〕「以明二——一」。
（神意）かみのこゝろ。○〔論衡〕「人・心——同二吉・凶一也」。
（留意）心を注ぎとゞむ。○〔史〕「願先・生—レ—也」。
（雨意）あめの降るべき摸樣。○〔晁補之〕「穴・藏知二——一」。
（深意）なみ／＼ならぬふかきこゝろ。○〔謝靈運〕「尋二肇・皓之——一」。
（志意）こゝろざし。○〔禮〕「齋之日、思二其笑・語一、思二其—・—一」。
（會意）（い）心わけをあはせあらはすと、又、六書の一。○〔小學紺珠〕「六・書有二—・—一」。（ろ）心に納得す、又、こゝろにあふ。○〔晉〕「毎レ有二—レ—、欣・然忘レ食」。
（恩意）めぐみのこゝろ。○〔唐〕「宣二布天・子——一、遠・近懽・服」。
（任意）心にまかせてなす。○〔仲長統〕「—レ—無レ非、適レ物無レ可」。
（合意）心をあはせ一つにす。○〔漢〕「同レ心—レ—」。
（帥意）心を主としてその命をきく。○〔漢〕「其—レ—毋レ怠」。
（竭意）心をつくして至らぬくまなし。○〔戰〕「—レ—不レ讓、忠也」。
（屬意）心を寄す。○〔史〕「天下—レ—焉」。
（注意）心をかたぶけそゝぐ。○〔史〕「孰能—レ—焉」。
（指意）旨趣といふに同じ。○〔史〕「因發・明序二其—・—一」。
（心意）こゝろ。○〔史〕「娛二——一、說二耳・目一」。

（主意）大君の御こゝろ。○〔史〕「專阿二——一」。
（書意）ふみのこゝろ。○〔竇泉〕「漢・主兼・年自得二——一」。
（過意）あやまりておもふ。○〔漢〕「陛下——微レ臣」。
（一意）心をもツぱらにすると。○〔管〕「——搏・心、耳・目不レ淫」。
（上意）かみの御こゝろ。○〔漢〕「甚稱二——一」。
（邪意）横しまなる心ばへ。○〔後漢〕「從二小・人之——一」。
（雅意）本來の心ざし。○〔應璩〕「——猶未レ康」。
（下意）心ざしをひきさげてまた手に出づ。○〔漢〕「未二嘗卑レ節—レ—、以求レ仕」。
（妄意）わけもなきおもひ。○〔蘇軾〕「——見二桃・源一」。
（專意）あたし心を懷かずそれにのみ心を注ぐ。○〔管〕「——一・心、守レ職而不レ勞」。
（私意）公けならぬ心ばへ。○〔漢〕「破二之—・—一」。
（靜意）こゝろをおちつかす。○〔後漢〕「王其安レ心—レ—」。
（懼意）おそれ氣づかふ心ばへ。○〔後漢〕「何嫌何疑而有二—・—一」。
（壯意）さかんなる心もち。○〔後漢〕「左右哀二其——一、莫レ不三爲レ之流涕一」。
（細意）心をくばること細やかなり。○〔後漢〕「——委・曲、條・例不レ經」。
（降意）（い）心をひき下げて下手に出づ。○〔南〕「—レ—按レ士」。（ろ）心をかたぶけそゝぐ。○〔後漢〕「肅・宗——二儒・術一」。
（介意）こゝろに挾みもつ、氣にかく。○〔後漢〕「所レ亡少・々、何足レ—レ—」。
（遺意）思ひ殘せるこゝろ。○〔後漢〕「稱二父——一」。
（聖意）（い）ひじりの心ばへ。○〔後漢〕「五・經久・遠、——難レ明」。（ろ）大君の御こゝろ。○〔劉歆〕「違二明詔一、失二——一」。
（微意）（い）奧深き心ばへ。○〔後漢〕「——未レ譯」。（ろ）さゝやかなる心ばへ。○〔魏武帝〕「今奉二雜・香五・斤一、以表二——一」。
（刻意）こゝろを苦しめ勞す。○〔莊〕「—レ—尙レ行」。
（造意）考へたくむと。○〔魏〕「遂即言我——、遂走詣レ獄」。
（智意）ちゑ。○〔魏〕「——所レ及、有レ若二成・人之智一」。
（牽意）こまやかならぬこゝろばえ。○〔晉〕「藉——獨繈」。
（守意）こゝろをかたくとりまもる。○〔晉〕「—レ—不レ移」。
（託意）こゝろを寄す。○〔陸機〕「寄レ情在二玉・階一、—レ—惟團・扇」。

（夙意）早くよりの心がけ。○〔宋〕「述知二景・仁——一請急」。
（閑意）物事をこゝろにおかぬ。○〔齊〕「恬・靜—レ—」。
（執意）心を固く守る。○〔魏〕「—レ—抗レ言」。
（愚意）おろかなる心、即ち自ら謙遜していふに用ふる語。○〔魏〕「——所レ及、不レ能二自已一」。
（候意）人の心をさぐりうかゞふ。○〔北齊〕「希レ言—レ—」。
（迎意）前に同じ。○〔唐〕「—レ—輒悟」。
（叔意）趣向をこしらへはじむると。○〔論衡〕「立レ義—レ—」。
（蠱意）くしびなるこゝろ。○〔宋〕「休二承——一、中・錫無レ彊」。
（法意）律文のこゝろ。○〔宋〕「被二此苦一、洪非二——一」。
（懾意）畏れはゞかるこゝろ。○〔管〕「身在二草・茅之中一而無二——一」。
（氣意）きぶん、心もち。○〔管〕「——得而天下服」。
（淫意）心をほしいまゝにす、みだりなるこゝろ。○〔管〕「先・王之治レ國也、不レ—二—於法之外一」。
（言意）（い）言葉とこゝろと。○〔關尹子〕「天下至理、竟非二——一」。（ろ）こゝろに思ふふしをいふ。○〔陸雲〕「區・々至・心、謹復—レ—」。
（妙意）いみじき心ばへ。○〔子夜歌〕「郎・歌——曲」。
（易意）（い）平夷なるこゝろ。○〔文子〕「——和・心、无二以レ道涖一」。（ろ）こゝろをかふ。○〔論衡〕「不下爲二古今一變上レ心—レ—」。
（希意）人のこゝろに合はんとを願ひ求む。○〔莊〕「—レ—道レ言謂二之諂一」。
（正意）たゞしきこゝろ。○〔說苑〕「守二其——一」。
（惡意）惡しき心。○〔列女傳〕「靡レ有二——一」。
（情意）こゝろ。○〔道德指論〕「陶二性・命一治二——一」。
（兩意）ふたごゝろ。○〔卓文君白頭吟〕「聞二君有二——一」。
（絕意）こゝろのはたらきを閉ぢ塞ぐ、又、其の方にこゝろを向けざると。○〔論衡〕「—レ—無レ冀」。
（用意）こゝろを注ぎもちふ。○〔論衡〕「賢・聖下レ筆造レ文、—レ—詳・審」。
（慈意）いつくしみのこゝろ。○〔淨住子〕「若以二——一視二衆・生一」。
（發意）こゝろをおこす。○〔淨住子〕「卓・然—レ—、忍レ苦受レ辱」。
（寓意）こゝろを託し寄す。○〔文心雕龍〕「比レ類—レ—、又覃及二細・物一矣」。
（措意）こゝろにとめおく。○〔韓愈〕「初不レ似レ——」。

（巧意）たくみなる工夫。○〔雍陶〕「——無レ遺」。
（寸意）わづかばかりのこゝろの謙稱。○〔齊諧記〕「丹・心——、愁二君未一レ知」。
（敎意）敎訓の心ばへ。○〔中說〕「安知二——一哉」。
（從意）心の思ふまゝにまたがひよる。○〔張懷瓘〕「—レ—適レ便」。
（凝意）心をよせそゝぐと。○〔江淹〕「—レ—方自驚」。
（命意）工夫。○〔畫繼〕「——不レ過二容具掩・靄慘・淡之狀一耳」。
（蹟意）筆のあとの心ばへ。○〔圖畫見聞志〕「兼長二龍・水——一」。
（秋意）あきの寂しき模樣。○〔韋應物〕「河・漢有二——一」。
（餘意）名殘りの心ばへ。○〔呂氏童蒙訓〕「深・遠而有二——一」。
（實意）誠の心。○〔樂府讀歌曲〕「誰能呈二——一」。
（眞意）（い）まことの心。○〔陶潛〕「此中有二——一、欲レ辨已忘レ言」。（ろ）まことのありさま。○〔蘇軾〕「飲レ泉鑒レ面得二——一」。
（瑰意）めづらかに優れたるこゝろ。○〔宋玉〕「聖・人——琦・行、超・然獨處」。
（著意）工夫。○〔歐陽修〕「誰知—レ—弄二新・音一」。
（道意）（い）ひじりの道を行はんとする心。○〔蘇軾〕「貞・心——非レ不レ嘉」。（ろ）心に思ふとをはなす。○〔王勃〕「仰二眞・覽一而—レ—」。
（兵意）軍法の心ばへ。○〔諸葛亮〕「深解二——一」。
（撥意）他の心にかなふやうにす。○〔曹植〕「承二顏・色一以—レ—」。
（散意）心を他の方面にちらしやる。○〔阮瑀〕「抱・懷數・年、未レ得—レ—」。
（怒意）腹立つこゝろ。○〔曾鞏〕「——彼・此何・如忝」。
（淵意）深きこゝろ。○〔鮑照〕「——爲レ誰涸」。
（空意）うつろにしてわだかまりなき心。○〔鮑照〕「抱二——一其如レ玉」。
（關意）こゝろにかく。○〔梁昭明太子〕「鳩・蕤龍旂、初不レ—レ—」。
（奇意）珍らしきこゝろ、めづらしきおもむき。○〔江淹〕「鬱二靑・靄之——一」。
（春意）はるの日ののどかなる心ばへ。○〔杜甫〕「碧・草遊二——一」。
（隨意）心の思ふまゝになる。○〔朱熹〕「一・春—レ—住二僧・房一」。
（尊意）たふとき心、即ち、崇めいふに用ふる語。○〔唐武后樂章〕「追・崇恐レ乖二——一」。
（古意）（い）年ふりし心ばへ。○〔蘇軾〕「幽・居有二——一」。（ろ）いにし年のことを思ひだすこゝろ。○〔李密〕「悵・然懷二——一」。
（草意）草書の筆法。○〔竇泉〕「成・帝則生知二——一」。

(貞意) 正しく固き心ばへ。○[陶翰]「自惟負ニーーニ」。
(佳意) うらゝかなる心。○[王維]「草色有ニーーニ」。
(寒意) 冬の日のさむくつめたきさま。○[張鼎]「江-天ーー少」。
(銘意) 固く心に思ひこむこと。○[李白]「ーー俱未レ伸」。
(故意) わざとするこゝろ。○[楊萬里]「六-學無ニーーーニ」。
(覺意) 佛教の悟りのこゝろ。○[元黄之]「ーーー頭-明ニ」。
(匠意) 工夫。○[許孟容撰公集序]「匠レ詞ーレー、必本ニ手道ニ」。
(懷意) こゝろを思ひのまゝにす。○[劉禹錫]「ーレー幾-徘-徊」。
(記意) こゝろにのこしとゞむ。○[趙員]「ーニー於舉-間之初ニ」。
(高意) たかくすぐれたるこゝろ。○[孟郊]「ーー還卓々」。
(敬意) うやまひのこゝろ。○[孫軫雲韶樂賦]「昭ニーーー於勝直ニ」。
(傳意) 思ふ所を知らせやる。○[温庭筠]「巫-抵ーレー託ニ悲-絲ニ」。
(塗意) けがらはしきこゝろ。○[杜牧]「奉-披ーー驚」。
(愁意) うれへなやめるさま。○[温庭筠]「平-明花木有ニーーニ」。
(猜意) 嫉みのこゝろ。○[李商隱]「ーー猜-繼-晉未レ休」。
(測意) 心を測ふ。○[李商隱]「始ーーー事レ佛」。
(野意) のちのありさま。○[蘇軾]「寂明ーーー新」。
(艶意) なまめきたる心ばへ。○[田錫]「生ニ于ーーニ」。
(移意) 心を他の方面にくばる。○[歐陽修]「服レ藥以-後當下ーニー萬-里ニ、知中鳥-獸言-語上」。
(鄙意) いやしき心、卽ち、人に對し謙遜していふに用ふる語。○[蘇軾]「ーーー亦深以爲レ然」。
(好意) 深切なる心。○[蘇軾]「ーーー莫レ違黃-髮叟」。
(繆意) 考へをあやまること。○[晁補之]「ーニー詩-書ニ可レ抵レ民」。
(懶意) ものうきこゝろ。○[許月卿]「半-生ーーー琴三疊」。
(運意) 工夫のつけかた。○[袁楠]「ーーー高簡」。
(故人意) 古なじみの心。○[史]「絲-絶-戀々有ニーー之ーニ」。

【意】 イ。於宜切 [支]
あゝ、あ。○[莊]「ー治レ人之道也」。

【慆】 トク、ドク。徒沃切 [沃]
おろか、(愚)。

【愐】 ベン、メン。彌兗切 [銑]
つとむ、(勉)。又、おもふ、(思)。○[劉基]「永川辭ニ洟ーーニ」。

【慇】 カ、ゲ。何加切 [麻]
慇ーは、語るを難んずること。

【⿰忄重】 チヨウ、直隴切 [腫] ヂユ。儲用切 [宋]
おそし、(遲)。

【⿰忄重】 慟に通じ用ふ。

【⿰忄者】 カク、キヤク。虎伯切 [陌]
心驚く、むねさわぐ、おどろく。

【⿰忄盅】 チウ、ヂユ。持中切 [東]
うれふ、(憂)。

【⿰忄奄】 タフ、トフ。德盍切 [合]
おそる、(恐)。

【⿱矜心】 俗の矜の字。

【愒】 ケイ、去例切 [霽] カイ。ケツ、丘謁切 [屑]
愒、憩、憇、愒、憩に作るは譌。
いこふ、やすむ、(息)。○[詩]「汔可ニ小ーニ」。

【愒】 カイ、苦蓋切 [泰] ケ。可亥切 [賄]
㊀むさぼる、(貪)。○[左]「忨レ歲而ーレ日」。
㊁いそぐ、にはか、(急)。○[公羊]「不レ及レ時而日ー葬也」。

【愒】 カツ、カチ。許葛切 [曷]
相恐怯す、おそる。

【⿱頁心】 イウ、ユ。於求切 [尤]
うれふ、(愁)。

【愓】 タウ、徒朗切 [養] ダウ。大浪切 [漾]
ほしいまゝ、(放)。○[荀]「ー悍憍暴」。

【愓】 ショウ。尸羊切 [陽]
直く疾き貌にいふ字、はやし。○[禮]「行容ーーー」。

【愓】 ヤウ。余章切 [陽]
たはぶる、あそぶ。○[揚雄]「姪ー游也」。

【愔】 イン、オン。挹淫切 [侵]
㊀安らかに和ぎたる貌にいふ字。○[左]「祈-招之ーー」。
㊁深くして靜かなる貌にいふ字。○[柳渾]「玉-壺夜ーー」。
(受愔) いつくしみやはらぐ。○[薛逢]「吾兄吾兄須ニーーニ」。

【愔】 アン、オン。烏含切 [覃]
言を發せず、だまる。○[唐]「朕不レ能ニーー度レ日」。

【愕】 ガク。五各切 [藥] ゴ、グ。五故切 [遇]
㊀驚遽す、あわつ、おどろく。○[戰]「群-臣驚ーー」。
㊁阻礙して依順せず、さゝふ、へだつ、そむく。○[吳]「談-說諫-諭、未ニ嘗切ーーニ」。
㊂直言正行の貌にいふ字。○[晉]「ーー者不下以ニ天-下一爲上レ憂」。
(駭愕) おどろく。○[南]「見者莫レ不ニーーニ」。
(錯愕) あわておどろく。○[後漢]「二-人ーー不レ能レ對」。
(卒愕) 前に同じ。○[公羊]「桓-公ーー不レ能レ應」。
(哀愕) 悲しみおどろく。○[魏、誌]「臨レ時ーー、莫レ不ニ傷-痛ニ」。
(愧愕) 耻ぢおどろく。○[晉]「充甚ーーー」。
(嗟愕) 歎きおどろく。○[宋]「行-路ーー」。
(怪愕) あやしみおどろく。○[朝野僉載]「ーーー良久」。
(感愕) 心を動かしおどろく。○[人物志]「ーーー以明」。

【愖】 シン、ジン。氏任切 [侵]
まこと、(誠-信)。
(斟愖) 決行せず、遲疑す、ためらふ、ひかふ、うたがふ。○[後漢]「志ーー而不レ濟」。

【愖】 タン、ドン。都含切 [覃]
媅に同じ、たのしむ、(樂)。

【愖】 チン、トン。知鴆切 [沁]
おろか、(癡)。

【愖】 キン。コン。火禁切 [侵]
心正しからざるを、よこしま。

【愍】 ビン、ミン。眉殞切 [軫]
いたむ、(痛)、うれふ、(憂)、かなしむ、(悲)、あはれむ、(憐)。○[左]「吾代ニ二子ーー矣」。
(弔愍) なぐさめあはれむ。○[詩、疏]「ーニー其民ニ」。
(憐愍) あはれみいたむ。○[漢]「甚ーー焉」。
(追愍) 過ぎにし人を後よりいたむ。○[後漢]「ーニー屈-原ニ」。
(深愍) いたくあはれむ。○[晉]「先帝ーーニ黎-元ニ」。
(慈愍) いつくしみいたむ。○[梁]「ーニー蒼-生ニ」。

（嗟愍） 歎きあはれむ。○〔魏〕「百姓嗷然、朕用｜・｜」。
（慰愍） なぐさめあはれむ。○〔風俗通〕「｜二｜契・濶一、爲二之先・後一。「所二｜・｜一」。
（惜愍） をしみかなしむ。○〔劉歆〕「此乃有識者之
（矜愍） あはれみかなしむ。○〔李密〕「｜二｜愚・誠一」。

【愍】 ビン、モン。忙覲切 〔震〕
つとむ、（強）。○〔鄭康成〕「民不二｜作一レ勞」。

【愍】 フン、ホン。敷文切 〔文〕
心亂る、みだる。

【愎】 ヒョク、ヒキ。蒲逼切 〔職〕
剛戻自ら用ふ、もとる。○〔左〕「｜レ諫違レト」。
（剛愎） 性質こはくしてもとる。○〔左〕「｜・｜不・仁」。
（貪愎） 慾深くしてもとりねぢく。○〔劉基〕「中自誅二｜・｜一。「用」。
（專愎） ほしいまゝにしてもとる。○〔金〕「｜・｜自
（頑愎） かたくなにしてもとる。○〔元包經傳〕「無下縱二｜・｜之謀一、以蔑中邦・人上」。
（狠愎） もとりねぢく。○〔文心雕龍〕「孫・楚｜・｜而訟レ府」。「｜」。
（矜愎） ほこりもとる。○〔潘岳〕「恆二庸・主之｜・

【㥌】 バウ、モウ。莫報切 〔號〕
むさぼる、（貪）。

【愗】 ボウ、モ。莫候切 〔宥〕 ―一に懋に作る
愪の字の條を見よ。

【愘】 カ、ケ。丘架切 〔禡〕
｜・悜は、人に知られぬはかりごと多し、伏計おほし。

【愘】 カ、ケ。丘加切 〔麻〕

｜・悜は、伏したる態にいふ語。

【悞】 グ、ゴ。元俱切 〔虞〕
よろこぶ、（懽）。

【愚】 グ、ゴ。麌俱切 〔虞〕
㊀才氣鈍きこと、事理に闇きこと、智力乏しきこと、おろか。○〔史〕「君・子盛・德容・貌若レ｜」。
㊁おろかなる者、ばかもの、あはう、たはけ。○〔列〕「聖・人以レ智籠二羣｜一」。
㊂自家に關することの謙稱。○〔蘇洵〕「｜不レ識二方・今夷・狄之憂爲一レ末」。
（護愚） おろか。○〔儀〕某之子｜・｜」。
（檸愚） 前に同じ。○〔戰〕「性｜・｜」。
（下愚） 前に同じ。○〔論〕上・智與二｜・｜一不レ移」。
（佯愚） たばかりておろかなるが如くにす。○〔詩、疏〕「賢・者｜・｜」。「抒二情・懷一」。
（撲愚） 飾らずしておろかなり。○〔漢〕「璽二蔽｜・｜」。
（陳愚） のぶることの謙稱。○〔漢〕敢不二盡｜レ｜而「身不レ盟」。
（效愚） 心力を盡すことの謙稱。○〔漢〕「今臣不二敢隱レ忠避レ死以｜レ｜」。
（専愚） ひたぶるにおろかなること。○〔後漢〕「其父常以爲二｜・｜一」。
（大愚） いみじきおろかもの。○〔莊〕「｜・｜者終レ
（丹愚） 自家のまごころの謙稱。○〔晉〕「獻二其｜・｜一」。
（幽愚） 人に知られざるおろかもの、卽ち、己れを謙遜していふ語。○〔南齊〕「詔逮二｜・｜一」。
（甚愚） こよなくおろかなり。○〔北齊〕「民｜・｜矣」。
（戇愚） おろか、ばか。○〔唐〕「狂妄｜・｜」。
（幼愚） いとけなうしておろかなり。○〔汲冢周書〕「允哉｜・｜」。
（陋愚） 卑しくしておろか。○〔說苑〕「民｜以｜」。
（砭愚） おろかなるをいましむることにいふ語。
（伊洛淵源錄）「北室之左曰二｜・｜一」。
（饑愚） 食乏しくしておろかなり。○〔杜甫〕「況我｜・｜人、焉能尙安レ宅」。
（疎愚） うとくおろかなり。○〔韓愈〕「是以忘二其｜・｜之罪一」。「｜・｜」。
（眞愚） 眞正におろかなり。○〔羊士諤〕「出レ谷是
（黔愚） 人民のこと、たみはもと無識なりとの意よりいふ語。○〔韋瓘〕「｜・｜皆若二于始作一」。
（汗愚） うとくおろかなり。○〔元稹〕「且異レ專」。
（屬愚） かよわくおろかなり。○〔賈島〕「｜・｜友二道書一」。「｜」。
（鄙愚） 卑しくおろかなり。○〔范樽〕「君云臣｜・
（欵々愚） 自家のまごゝろの謙稱。○〔漢〕「欲レ效二北｜・｜之｜一」。「及二｜・｜之｜一」。
（狗蒐愚） たみぐさの知識なきもの。○〔谷永〕「下

【愛】 アイ。烏代切 〔隊〕
㊀いつくしむ、又、いつくしみ。
（い）めづ、（寵）。○〔史〕「聞二其秀・才一、召置二門・下一幸｜」。
（ろ）めぐむ、（惠）。○〔戰〕「君有二區・々之薛一、不レ拊二｜乎其民一」。
（は）あはれむ、（憐）。○〔唐〕「譬若二飛・鳥依レ人、自加二憐・｜一」。
（に）したしむ、（親）。○〔論〕「汎｜レ衆而親レ仁」。
（ほ）したふ、（慕）。○〔鬻子〕「十・人｜レ之則十・人之吏也、百・人｜レ之百・人之吏也」。「之」。
㊁このむ、（好）、○〔洞冥記〕「衆・仙奇｜レ
㊂をしむ、又、をしみ。
（い）やぶさかなり。○〔國〕「人其以レ子爲レ｜」。
（ろ）隱す。○〔詩〕「｜而不レ見」。
（は）重んず。○〔晉〕「君・器相非レ常、必有二大・福一、宜二保・｜一」。
（可愛） めづべくあり、かはゆらし。○〔晉〕「｜レ｜非レ君」。「｜不・祥一」。
（嗇愛） むさぼりをしむ、極めてこのむ。○〔左〕「｜ニ
（遺愛） いつくしみを後の世までも殘す、又、のこしたるいつくしみ。○〔漢〕「沒レ世｜レ｜、民有二餘・思一」。
（仁愛） いつくしむ。○〔漢〕「以レ此見二天・心之｜・｜一」。
（友愛） 兄弟のいつくしみ。○〔吳〕「｜・｜甚篤」。
（過愛） いつくしみの度を超ゆ。○〔新書〕「｜レ｜不・義」。
（割愛） めづる心をさき去る。○〔徐堅〕「｜レ｜遠二和・親一」。
（忍愛） めづる心をこらへて思ふまゝならしめず。○〔江淹〕「割レ慈｜レ｜離レ邦去」。
（相愛） 互にいつくしむ。○〔體〕「敎二民｜・｜一」。
（畏愛） おそるゝが中にいつくしみの心をもつ。○〔禮〕「｜而｜レ之」。
（忠愛） 信實の心を盡くしいつくしむ。○〔管〕「待以二｜・｜一」。「蓄也」。
（慈愛） いつくしみ。○〔左〕「夫禮・樂｜・｜、戰所レ
（歡愛） よろこびこのむ。○〔禮〕「欣喜｜・｜、樂之官也」。「深也」。
（孝愛） 親に善く事へいつくしむ。○〔禮〕「｜・｜之
（深愛） いみじくいつくしむ。○〔禮〕「孝子之有二｜・｜一者、必有二和・氣一」。
（求愛） いつくしまれんことを願ひ求む。○〔左〕「其雖敢｜二｜於子一」。「也」。
（自愛） 我と我が身を大切にす。○〔左〕「非二敢｜・｜一
（兼愛） 我に疏遠なるものと親近なるものとの別ちなくすべて一樣にいつくしむ、墨翟が兼愛說とて支那の上代に行はれし一種の學派の主義。○〔孟〕「墨・氏｜・｜是無レ父也」。
（重愛） 厚くあしらひいつくしむ、又、おもんず。○〔史〕二由レ此上益｜・二｜之一」。
（幷愛） 彼れも此れもともにいつくしむ。○〔漢〕一、潤｜・｜」。之一」。
（倚愛） たのみいつくしむ。○〔後漢〕「終・始｜・二｜
（嘉愛） 喜びめづ。○〔後漢〕「帝深｜・｜焉」。
（恩愛） いつくしみ。○〔韓愈〕「以長二其｜・｜一」。
（親愛） いつくしみ。○〔後漢〕「吏・人｜・｜、而不レ忍レ欺レ之」。「無二｜・｜一」。
（私愛） 公平ならざるいつくしみ。○〔後漢〕「宮・房
（寶愛） 大切にす。○〔劉子翬〕「尤・物說爲二人｜・｜一」。
（敬愛） うやまひいつくしむ。○〔魏〕「所・在見二｜・｜一」。「之一」。
（器愛） 重寶なりとしいつくしむ。○〔吳〕「權｜・二｜
（博愛） 廣くいつくしむ。○〔韓愈〕「｜・｜之謂レ仁」。
（隆愛） 盛んなるいつくしみ。○〔張華〕「承レ歡注二｜・｜一」。
（秘愛） ひめいつくしむ。○〔晉〕「其妾｜二｜之一」。
（欽愛） 慕ふ。○〔晉〕「謝安甚｜二｜之一」。
（寵愛） めづ。○〔元稹〕「王・姫｜・｜親」。
（篤愛） いたくいつくしむ。○〔晉〕「賈澐二明・公｜

一ニ。
〔貫愛〕めづ。○〔南〕「北見ニ一・一如レ此」。
〔鍾愛〕いたくめづ。○〔南〕「特所ニ一・一ニ。
〔惠愛〕めぐむ。○〔杜甫〕「一・一南翁悦」。
〔憐愛〕ゐやをもしいつくしむ。○〔北〕「一ニ・一儒生ニ。
〔狎愛〕親しみめづ。○〔北〕「被ニ文襄一・一ニ。
〔雅愛〕常にめづ。○〔顔氏家訓〕「吾一一ニ北平・諸ニ。
〔信愛〕まことゝしめづ。○〔宋〕「希不ニ一・一也」。
〔往愛〕いたづらにめづ。○〔管〕「一一而不レ利」。
〔悦愛〕滿足に思ひめづ。○〔韓〕「王一・ニ一之ニ。
〔女愛〕をみなのいつくしみ。○〔鬼谷子〕「一・一不レ敝レ際」。
〔寡愛〕たしなみこのむ。○〔拾遺記〕「能去ニ滯・慾一「而離ニ一・一ニ。
〔俗愛〕世間普通のいつくしみ。○〔淨住子〕「已離ニ一・一ニ無ニ樊・縁ニ。
〔染愛〕心の深きいつくしみ。○〔白居易〕「一・一洛無レ際」。
〔御愛〕天子のめでさせ給ふと。○〔青瑣高議〕「有ニ「一・一菊ニ。
〔專愛〕只管にめづ。○〔曹植〕「一ニ・一一官」。
〔舊愛〕いにし時のいつくしみ。○〔曹植〕「人皆棄ニ一・一ニ。
〔協愛〕心をあはせていつくしむ。○〔陸雲〕「民・神「一・一」。
〔光愛〕いたくめづ。○〔陸雲〕「永・戀一・一」。
〔天愛〕生まれつきのいつくしみ。○〔陶潛〕「友自ニ一・一ニ。「一・一ニ。
〔昵愛〕親しみいつくしむ。○〔謝惠連〕「假ニ川阻ニ
〔傅愛〕かしづきいつくしむと。○〔顔延之〕「阿・保一・一」。
〔情愛〕こゝろのいつくしみ。○〔李義玉〕「倚爲ニ一・「一縛ニ。
〔婉愛〕やさしきいつくしみ、即ち婦人のいつくしみにいふ語。○〔梁武帝〕「一・一寥亮繞ニ虹梁ニ。
〔渇愛〕甚しくこのむ。○〔陸游〕「一・一滄・紫美」。
一ニ。「北文ニ。
〔昼愛〕日頃よりめづ。○〔梁昭明太子〕「余一一
〔密愛〕人知れずひそかなるいつくしみ。○〔梁簡文帝〕「一・一似ニ前・車ニ。「羅レ意」。
〔溺愛〕いつくしみの度を過ごすと。○〔江淹〕「一レ一
〔偏愛〕片おちのいつくしみ。○〔王褒〕「一ニ・一權・奇ニ。「已秋・風」。
〔婚愛〕なまめかしきいつくしみ。○〔崔湜〕「一・一
〔朋愛〕いつくしむ友。○〔張説〕「斗・酒貽ニ一・一ニ。
〔耽愛〕度を過ぎていつくしむ。○〔元結〕「一・一各有レ偏」。
〔玩愛〕弄びこのむと。○〔沈遼〕「一・一何可レ論」。
〔絶愛〕いたくめづ。○〔陸游〕「一一山横ニ淡靄中ニ。
〔酷愛〕前に同じ。○張養浩「年・來一一香・山老」。
〔珍愛〕めづらしとし好む。○〔陸游〕「一・一敵ニ豚・羔ニ。

【㥦】
愜に同じ。○〔漢〕「未レ有ニ一・一志ニ。

【愜】ケフ。苦叶切 〔葉〕
志滿足す、たる、あきたる、又、こゝろよし、(快)。○〔庾信〕「是所ニ甘一・一ニ。
〔不愜〕快く思はず。○〔宋〕「意殊一レ一」。
〔婉愜〕從順にして心に滿足す。○〔詩品〕「辭興ニ一・一ニ。
〔歡愜〕よろこびあきたる。○〔蘇軾〕「一・一更傷レ此」。「知」。
〔勝愜〕優れたるよき心ち。○〔岑參〕「一・一只自
〔游愜〕あそびたる。○〔段成式〕「一一訛・中朋」。
〔和愜〕やはらぎこゝろよし。○〔唐無名氏律呂相召賦〕「物・情一・一」。
〔忻愜〕よろこびあきたる。○〔宋祁〕「多・方一・一」。
〔快愜〕心よくあり。○〔蘇邁〕「一・一聊自娛」。

【愝】エン。隱憾切 〔阮〕 於殄切 〔銑〕
こゝろせまし、(性狹)。

【愞】ゼン、ネン。而兗切 〔銑〕 ジユン、ヌン。乳尹切 〔軫〕 ダン、ナン。奴亂切 〔翰〕
よわし、(弱)。

【愞】ダ、ナ。奴臥切 〔箇〕
おそる、よわし、(怯)。○〔漢〕「太守以ニ畏一・一棄・市」。
〔銷愞〕元氣衰へてよわし。○〔史〕「精・鋭一・一」。
〔選愞〕取り分けてかよわし。○〔金〕「江・淮之人、號稱ニ一・一ニ。
〔庸愞〕生まれつき常なみにして弱し。○〔隋〕「化及ニ一・一下オニ。
〔怯愞〕臆病。○〔北〕「蘇・威一・一」。
〔拘愞〕物事にかゝはりなづみて弱し。○〔人物志〕「心小志小者、一・一之人也」。
〔痩愞〕身體やせて弱し。○〔趙孟頫〕我生一・一之ニ駿・骨ニ。「一・一ニ。
〔昏愞〕慾深くしてよわし。○〔陳高〕「至レ今激ニ

【感】カン、コン。古禫切 〔感〕
㊀觸れうごく、こたへひゞく、(おもに、心情上にいふ)。○〔易〕「寂・然不・動一而遂通ニ天・下之故ニ。
㊁觸れ動かす、こたへひゞかす、(おもに心情上にいふ)。○〔史〕「使ニ人微一ニ張・儀ニ。
㊂物事に接しておこる心情のうごき、知覺、情緒。○〔陸機〕「以紓ニ慘・惻之一ニ。
㊃撼に通じ用ふ、うごく、うごかす。○〔詩〕「無レ一ニ我悅ニ。
〔誠感〕まごゝろをもて他の心を動かす。○〔南〕「効ニ兆一・一如レ此」。
〔孝感〕よく父母に事ふる徳をもて神人の心を動かす。○〔晉〕「鄕・里・聞・歎、以爲ニ一・一所ニ致」。
〔通感〕とほし動かす、とほりうごく。○〔易、疏〕「氷ニ相一・一ニ。
〔觀感〕(い)觸れ動く所に目をつけて見る。○〔易〕「一ニ其所ニ一、天・地之情可レ見矣」。(ろ)目に見心に動く。(〔宋〕「是皆因ニ性自・然一、發ニ乎一・一ニ。
〔相感〕互にこたへひゞく。○〔易〕「屈・信一一而利「生焉」。
〔應感〕つれてさはり動く。○〔陸機〕「一・一之會、通・塞之紀」。
〔微感〕ほのめかして心を動かす、ほのめきうごく。○〔史〕「乃使ニ人一・一ニ。
〔攡感〕氣をくじき動かす、氣くじけ心うごく。○〔吳〕「權益以一・一」。
〔化感〕政教をもて人の心をなほし動かすと。○〔傅休奕〕「一・ニ一海・外ニ。
〔痛感〕いみじく心動く、いたく人の心を動かす。○〔雲笈〕「一・一ニ人・神ニ。
〔冥感〕神明のこゝろを動かすと。○〔晉〕「劉・殷至・孝一・一、兼才・識超レ世」。
〔至感〕誠實の心他にこたへひゞくと。○〔南〕「一・一通レ神」。
〔情感〕情動くと、又、知覺。○〔唐〕「一一ニ宇内ニ。
〔悲感〕哀れに思ふと、かなしますと。○〔北〕「一・一ニ鄕・黨ニ。
〔興感〕面白みの浮ぶと。○〔北〕「對レ雪一・一、乃作ニ雪賦ニ。
〔追感〕前にありしともを後の日より思ふと。○〔北〕「以極ニ一・一之意ニ。
〔思感〕おもひ起こすと。○〔唐〕「萬一太・上・皇一・一、欲ニ見ニ陛下ニ、將何以遣レ之」。
〔玄感〕冥々の中にふれうごく。○〔傅亮〕「雲・風一・一」。
〔交感〕互に觸れ動く。○〔宋〕「二・氣一・一」。
〔精感〕まことの心もて動かすと。○〔李白〕「一・一石沒レ羽」。
〔振感〕心を動かすと。○〔論衡〕「二・子懷レ精、故雨・主一・一」。
〔嘉感〕めでたくふれ動く。○〔異苑〕「天・神一・一」。
〔仰感〕君恩の辱きを思ふにいふ語。○〔呉越春秋〕「一一俯愧」。
〔歡感〕喜ぶと、喜ばすと。○〔湘山野錄〕「一・ニ一閭・里ニ。
〔潛感〕人知れず心を動かし思ふと。○〔鄭宗哲〕「乃一・一ニ於深・浪ニ。
〔舊感〕いにし時の情緒。○〔甕椒錄〕「一・一來集」。
〔激感〕物事にふれていたく心を動かすと。○〔漢武帝〕「既一・一而心逐兮」。
〔洞感〕通じ動かす、通じ動く。○〔郭璞〕「一・ニ一天・神ニ。
〔觸感〕ふれひゞくと。○〔郭璞〕「氣之相應、一・一而作」。
〔萬感〕ちゞの情緒。○〔謝靈運〕「一・一盈ニ朝・昏ニ。
〔百感〕前に同じ。○〔江淹〕「一・一悽・惻」。
〔私感〕己が心の思ひ。○〔任昉〕「仰關ニ舊・恩一、俯增ニ一・一ニ。
〔拜感〕たふとき思ひ、即ち、人の心の思ひをあがめていふに用ふる語。○〔徐陵〕「一・一彌深」。
〔眞感〕まことの思ひ。○〔孔法生〕「一・一屬ニ神・慮ニ。
〔夢感〕ゆめの中に心動く、即ち、夢想といふに同じ。○〔李邕〕「蝶・樹々兮一・一」。

〔睿感〕昭かなる心のうごき、即ち帝王の心のうごきに敬ひいふ語。○〔李嶠〕「―・―潛通」。○〔張說〕「――應レ時通」。
〔靈感〕くしびなるひゞき。
〔欣感〕喜ぶこと、よろこばすこと。○〔韓愈〕「―・―之誠、實倍二常-品一」。
〔異感〕常にかはれる思ひ、又、思ひを別にす。○〔李軫〕「夢レ闕―レ―」。
〔歎感〕なげく、なげきうごかす。○〔王令〕「―・―退自旋」。
〔愁感〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「不レ出只―・―」。
〔坐感〕何となく心を動かすこと、何となく心動くこと。○〔梅堯臣〕「――昔-時樂」。
〔珍感〕めづらしと思ふこと。○〔蘇軾〕「家-園新-若、―・―之至」。
〔泣感〕涙にくれて心を動かすこと。○〔范仲淹〕「當二―・―一」。
〔吉感〕めでたき事のふれ動くこと。○〔雲笈〕「心中自以爲レ佳則―・―也」。
〔妙感〕くしびにたへなる事のふれうごくこと。○〔雲笈〕「眞會二―・―一」。

【感】カン、コン。胡紺切 勘
憾に通じ用ふ、うらむ（恨）。○〔左〕「唯蔡二於―一」。

【慍】ウン、ヲン。於問切 問
㊀怒氣を含む、いかる、いきどほる、いかり、いきどほり。○〔晉〕「未三嘗有二喜―之色一」。㊁うらむ（恨）。○〔詩〕「―二于群-小一」。
〔憤慍〕怒ること。○〔謝惠連〕「―・―結二心-胸一」。
〔情慍〕心憤る。○〔韋承慶〕「或――而顏怡」。
〔憂慍〕うれへ怒る。○〔杜牧〕「―・―不レ能レ持」。
〔輕慍〕かろぐしき怒り。○〔魏了翁〕「視二叔-夜之悻-直而―・―一、殆有レ間矣」。
〔煩慍〕わづらひ憤る。○〔劉[illegible]〕「夏無二―・―一不レ須レ琴」。

【慍】ウン、ヲン。委粉切 吻　ウツ、ウチ。紆勿切 物
思ひ積もりて解けず、むすぼる。

【慍】ヲン。烏本切 阮
心に煩ひ苦しむ、みだる。

【惇】俗の惇の字。

【愡】俗の惚の字。

【愢】サイ、セイ。蘇來切 灰
意合はず、たがふ。

【愢】シ。息茲切 支
相責む、せむ。

【愢】シ。想止切 紙
へりくだる（謙）。

【[illegible]】アウ、エウ。太孝切 效
うらむ（怨）。

【惿】スヰ、ズヰ。是捶切　ヰ。尹捶切 紙
悦ばず、又、いかる（怒）。

【惰】タ。東果切 哿
おこたる（嬾惰）。

【懁】ケン。古懸切 先
心急なり、いそがはし、せまし。

十畫

【愧】キ。倶位切 寘
はづ、はぢ（慙）。○〔詩〕「尙不レ―二于屋-漏一」。
〔慙愧〕はづること。○〔漢〕「日夜―・―而已」。
〔羞愧〕前に同じ。○〔後漢〕「―・―流レ汗」。
〔腼愧〕心きよらかにして私慾のふるまひをはづ。○〔漢〕「終不レ知レ反二―・―之節、仁-義之厚一」。
〔感愧〕他の德に感じて自己の及ばざるをはづ。○〔晉〕「鄉隣―・―」。
〔遜愧〕へりくだりはづ。○〔宋〕「而了不二―・―一」。
〔痛愧〕いたみはづ。○〔魏〕「―・―纏レ心」。
〔赧愧〕顏をあからむること。○〔世說〕「鬼―・―而退」。
〔醜愧〕前に同じ。○〔常袞〕「―・―二朝列一」。
〔憂愧〕なげきはづ。○〔陸機〕「―・―若レ厲」。

【慤】カク、コク。苦角切 覺
善良なること、謹むこと、誠實なること、すなほ、まこと、よし。○〔荀〕「有二―・―士者一」。
〔端慤〕正しく誠なること。○〔荀〕「―・―以愼行レ之」。
〔誠慤〕まこと。○〔禮〕「忠信―・―之心」。
〔謹慤〕つゝしみ深きこと。○〔爾、疏〕「―・―者人皆愛レ之」。
〔謙慤〕卑遜にしてつゝしむ。○〔後漢〕「務執二―・―一」。
〔質慤〕飾りなくしてすなほなること。○〔後漢〕「倫性―・―少レ文」。
〔切慤〕深切にしてまことなること。○〔後漢〕「論議―・―」。
〔愚慤〕おろかにしてすなほなること。○〔後漢〕「其人性―・―」。
〔愿慤〕すなほ。○〔荀〕「上端-誠則下―・―」。
〔嚴慤〕おごそかにして謹む。○〔唐〕「爲レ人―・―」。
〔眞慤〕前に同じ。○〔蘇舜欽〕「―・―之誠」。
〔信慤〕前に同じ。○〔荀〕「士―・―而後求二知-能一焉」。
〔純慤〕前に同じ。○〔晉〕「性行―・―」。

【愩】コウ、ク。古紅切 東
㊀心動く、むなさわぎ。㊁心亂る、みだる、（憒）。

【愩】コウ、ク。虎孔切 董
ほる、（恍-惚）。

【愩】コウ、ク。古送切 送
心動く、むなさわぎ、一說に、自ら高しとす、たかぶる。

【愪】ウン、ヲン。王分切 文　ヰン。于敏切 軫
㊀憂ふる貌にいふ字。㊁うごく、（動）。

【愫】ソ、ス。蘇故切 遇
實情、まこと。○〔漢〕「披二心-腹一見二情-―一」。

【愬】ソ、ス。桑故切 遇
訴に同じ、うツたふ、つぐ、うツたへ。○〔詩〕「薄言往―」。
〔膚受愬〕身に切せる訴。○〔論〕「―・―之―」。

【愬】サク、シャク。山責切 陌
―遡に通ト作る。驚懼す、おどろく、おそる。○〔易〕「履二虎-尾一―・―終吉」。

【愭】キ、ギ。渠伊切 支
㊀おそる、（畏）。㊁つゝしむ、（恭-敬）。

【愮】エウ。餘昭切 蕭
㊀憂へて告ぐる所なし。㊁よこしま（邪）。㊂むれさわぐ、（悸）。㊃みだる、（亂）。㊄まごふ、（惑）。

【愮】エウ。弋笑切 嘯
―療は、をさむ、（治）、一說に、うれふ、（憂）。

【[illegible]】キウ、ク。丘弓切 東
うれふ、（憂）。

【㥬】ハウ、バウ。蒲光切 陽

恐ろゝ貌にいふ字。

【㥆】タイ。他蓋切 [泰]
おごる、(奢)。

【愰】クワウ、ワウ。戸廣切 [漾]
㊀心明かなること、あきらか。㊁——愰は、心の定まらざるにいふ語。

【愒】カイ、ガイ。胡蓋切 [泰]
こゝろよし、(快)。

【慽】嫉に同じ。

【慅】サウ、セウ。楚絞切 [巧]
心迫る、せまし。

【慇】イン、オン。於斬切 [豏]
㊀つゝしむ、(謹)。㊁いたむ、(痛)。

【愲】コツ、クチ。古忽切 [月]
心亂る、みだる。○〔漢〕「心結——兮傷レ肝」。

【慅】サウ、ソウ。蘇遭切 [豪]
うれふ、(憂)。

【慸】テキ 他歷ケキ、苦擊 ヂヤク。切 ギヤク。切 [錫]
いましむ、たゞす、(敕)。

【愴】シヤウ、初亮 サウ。切 [漾] 齒良 切 [陽]
悲傷す、いたむ、かなしむ、いたみ、かなしみ。○〔禮〕「霜·露既降、君·子履レ之、必有二悽—之心一、非二其寒之謂一也」。
〔悽愴〕かなしみいたむこと。○〔王粲〕「——增レ歎」。
〔愴愴〕前に同じ。○〔後漢〕「悽愴甚——」。
〔惻愴〕前に同じ。○〔劉基〕「——淚流レ纓」。
〔怳愴〕前に同じ。○〔梁簡文帝〕「竝懷二——一」。
〔悄愴〕前に同じ。○〔江淹〕「——成レ憂」。
〔悲愴〕前に同じ。○〔白居易〕「追·思多二——一」。
〔惆愴〕前に同じ。○〔方干〕「薄·暮停レ車更——」。
〔愴々〕前に同じ。○〔王褒〕「心——兮自憐」。

【愴】シヤウ、サウ。楚兩切 [養]
——怳は、意を失ふ貌にいふ語、心まごひ。

【慉】リウ、ル。力求切 [尤]
懰に同じ、うらむ、(怨)。

【慁】慁に同じ、うれふ、一に愬に作る。○〔元結〕「久—兮恍—々」。

【慴】ケフ、コフ。虛業切 [葉]
威力をもて迫りおそれしむ、おどす、おびやかす。㊁おそる、(怯)。

【愭】クワク、コク。忽郭切 [藥]
恐懼の貌にいふ字、おそる。

【愷】カイ、ゲ。苦亥切 [賄]
㊀やすし、(康)、又、たのしむ、(樂)。○〔孝〕「——悌君子」。
㊁軍中にて勝利ありたる時にかなづる樂の名。○〔周〕「——樂獻二于社一」。
㊂南方より吹く風、みなみかぜ。○〔楚辭〕「順二——風一以從·遊」。
〔大愷〕周の時代に凱旋に用ひし一種の音樂。○〔蓮〕「天·子——」。
〔和愷〕やはらぎたのしむ。○〔王𤣲〕「內含二——一」。

【慗】俗の整の字。

【慏】テイ、デ。他計切 [霽]
心安し、やすし。

【憁】ヒ、ビ。匹夷切 [支]
惡しき性、あし。

【慀】慀慀に同じ。

【慅】サウ、ソウ。釆老切 [皓]
愺の字の條を見よ。

【愻】遜に通じ用ふ、したがふ。○〔古本尚書〕「五品不レ—」。

【愼】シン。時刃切 [震]
㊀つゝしむ、又つゝしみ。(い)かしこむ、戒しむ、恭しくす。○〔中〕「莫レ見二乎隱一、莫レ顯二乎微一、故君·子——二其獨一」。(ろ)重んず。○〔荀〕「爲二人上一者必將レ—二禮·義一」。(は)誠にす。○〔詩〕「——二爾言一也」。
㊁おもふ、(思)。○〔爾、疏〕「凡思之貌皆曰レ—」。
㊂まこと、まことに、(誠)。○〔詩〕「予—無レ罪」。
〔敬愼〕つゝしむ。○〔禮〕「——者仁之地也」。
〔恪愼〕前に同じ。○〔唐〕「性——」。
〔修愼〕前に同じ。○〔後漢〕「謙性——」。
〔勤愼〕前に同じ。○〔北〕「少小——」。
〔謹愼〕前に同じ。○〔蜀〕「先·帝知二君——一」。
〔祗愼〕前に同じ。○〔赭白馬賦〕「故——乎所二常忽一」。
〔淑愼〕前に同じ。○〔詩〕「——二其身一」。
〔貞愼〕正しくつゝしむ。○〔左〕「梁·枝——」。
〔方愼〕前に同じ。○〔北〕「孝伯性——忠·厚」。
〔明愼〕あきらかにしてつゝしむ。○〔後漢〕「所下以——二勝·納一、詳·求淑·哲上」。
〔審愼〕前に同じ。○〔漢〕「加二——之心一」。
〔畏愼〕おそれつゝしむ。○〔唐〕「贊本——」。
〔恐愼〕前に同じ。○〔晏〕「晏·子——」。
〔惴愼〕前に同じ。○〔李光〕「安·靖——」。
〔重愼〕輕率ならずしてつゝしむこと。○〔後漢〕「三·署服二其——一」。
〔周愼〕ゆきわたりてつゝしむこと。○〔後漢〕「霸々——」。
〔恭愼〕つゝしむ。○〔唐〕「性——」。
〔戒愼〕いましめつゝしむこと。○〔元固〕「蹈レ途——」。
〔篤愼〕つゝしみの深きこと。○〔吳〕「性謙·恭——」。
〔至愼〕前に同じ。○〔世說〕「晉文·王稱二阮·嗣·宗——一」。
〔清愼〕潔白なる心ありてつゝしみ深きこと。○〔皮日休〕「——各自持」。
〔潔愼〕前に同じ。○〔晉〕「以二——一不レ染二其流一」。
〔恤愼〕憐みつゝしむ。○〔魏公九故文〕「——二刑·獄一」。
〔矜愼〕前に同じ。○〔張籍遠〕「願將二——一意」。
〔樸愼〕かざらずしてつゝしみ深きこと。○〔孫楚〕「安二此——一」。
〔公愼〕私曲なくつゝしむ。○〔陳子昂〕「從レ官重二——一」。
〔謙愼〕へりくだりつゝしむ。○〔張九齡〕「必加二——一」。
〔廉愼〕私慾なくつゝしみ深きこと。○〔于邵〕「非二——一不レ足二以率一レ人」。
〔溫愼〕やはらかにしてつゝしみあること。○〔杜牧〕「飾以二——一」。

【愼】シン。丞眞切 [眞]
獸の生まれて五歲なるもの。○〔周〕「獸五·歲爲レ—」。

【愼】シン。稱人切 [眞]
いかる、(恚)。

【㥲】古文の愼の字。

【慁】カウ、キヤウ。古幸切 [梗]
うれふ、(憂)。

【愽】シユン 蹇尹切 [軫]
驚きたるときに發する辭。

【愾】キ、ケ。許既切 ㊟未
ためいき（大息）。○〔詩〕「ー我寤歎」。

【愾】カイ。丘蓋切 ㊟泰
みつ（滿）。○〔禮〕「出レ戸而聽、ーー然必有レ聞ニ乎其歎息之聲ニ」。

【愾】カイ、ガイ。口漑切 ㊟隊
恨怒す、いきどほる、いかる。○〔左〕「敵ニ主所レー」。
〔忼愾〕いきどほること。○〔阮籍〕「ーー者高レ之」。
〔憤愾〕いかる。○〔蘇〕「未ニ嘗不ニ臨レ文痛嘆ーーー交レ懷」。

【愾】キツ、コチ。許迄切 ㊟質
迄に同じ、いたる（至）。○〔禮〕「君行ニ此三者ニ則ーニ乎天下ニ」。

【愿】ゲン、グワン。魚怨切 ㊟願
愚袁切 ㊟元
謹しむこと、善良なること、つゝしむ、すなほ、又、よし。○〔書〕「ー而恭」、
〔郷愿〕世俗によしと稱せらるゝ者。○〔論〕「ーー德之賊也」。
〔謹愿〕つゝしむこと。○〔蔡邕〕「使レ爲ニーーニ」。
〔恭愿〕前に同じ。○〔晉〕「爲レ人ーー」。
〔愼愿〕前に同じ。○〔唐〕「性ーー長ニ計畫ニ」。
〔謹愿〕前に同じ。○韓愈「天子以爲ニーーニ」。
〔端愿〕前に同じ。○〔宣和書譜〕「高・克・明ーー謙・厚」。
〔誠愿〕前に同じ。○〔隋煬帝〕「天性ーー」。
〔敦愿〕人情あつくしてすなほなること、つゝしむこと。
〔謹愿〕へりくだりてつゝしむこと。○〔唐〕「晉ーー儉・簡」。○〔史〕「潁川ーー」。
〔遜愿〕前に同じ。○〔唐〕「損以ニ便柔ーー留八年」。
〔溫愿〕心おとなかにしてつゝしむこと。○〔唐〕「居官號ニーーニ」。
〔柔愿〕やはらかにしてつゝしむこと。○〔唐〕「少ーーカニ手田ニ」。
〔温愿〕前に同じ。○〔李勉〕「ーー者猶ニ和怒吐レ息ニ」。
〔飭愿〕いましめつゝしむ。○〔蔡襄〕「惟是ーー」。

【愿】ゲン、グワン。愚袁切 ㊟元
測量す、はかる。

【慀】セツ、セチ。先結切 ㊟屑
うれふ（憂）。

【恞】イ。移爾切 ㊟紙 シ。相支切 ㊟支
㤝ーは、事を憂へざるにいふ語。

【㥆】テイ、ダイ。田黎切 ㊟齊
㦗ーは、はづ（慙）、楚人の語。

【傒】カイ、ケ。戸佳切 ㊟佳
心平かならず。

【慀】ケイ。胡計切 ㊟霽
恨み走る貌にいふ字。

【慁】コン、ゴン。胡困切 ㊟願
㊀うれふ（患）。○〔左〕「主不レーレ賓」。
㊁はづかしむ（辱）。○〔禮〕「不レーニ君王ニ」。
㊂みだる（擾）。○〔史〕「天以ニ寡人ーニ先生ニ」。
〔慁々〕うれふる貌にいふ語。○〔翟楚賢〕「睍ニ之于表、則北容ーー」。

【愓】前條に同じ。

【㥶】ソク。蘇則切 ㊟職
ふさがる、みつ、一に、塞に作る。○〔書〕「剛而ー」。

【㥶】前條に同じ。

【慂】イヨウ、イユ。余隴切 ㊟腫
慫ーーは、誘ひ勸む。○〔揚雄〕「南楚之間、凡巳不レ欲ニ喜怒ニ而旁人說者謂ニ之慫ーーニ」。

【慃】アウ、オウ。鄔項切 ㊟講
もとる（很戾）。

【慄】リツ、リチ。力質切 ㊟質
㊀おそる（懼）。○〔莊〕「吾甚ーレ之」。
㊁寒心す、おそれ縮む、ぞッとす、をのゝく、わなゝく。○〔史〕「郡中不レ寒而ー」。
㊂悽愴す、かなしむ、いたむ。○〔楚辭〕「憭ーー兮若下在ニ遠行ニ登レ山臨レ水兮送中將レ歸上」。
㊃寒し。○〔宋玉〕「憯悽懍ーー」。
〔齊慄〕をのゝく。○〔韓愈〕「跪受傷ーー」。
〔振慄〕前に同じ。○〔史〕「三軍之士皆ーー」。
〔惴慄〕おそる。○〔莊〕「不處則ーー恂懼」。
〔悼慄〕いたみかなしむ。○〔漢〕「夙夜ーー」。
〔恂慄〕おそる。○〔禮〕「瑟兮僩兮者ーー也」。
〔戰慄〕をのゝく。○〔論〕「使ニ民ーーニ」。
〔股慄〕前に同じ。○〔漢〕「餘皆ーー」。
〔慄慄〕おそる、をのゝく、かなしむ、さむし。○〔書〕「ーー危懼」。
〔莊慄〕おそる。○〔書、傳〕「寬弘而能ーー」。
〔嚴慄〕前に同じ。○〔蔡邕〕「夙夜ーー」。
〔怖慄〕前に同じ。○〔漢〕「一郡ーー」。
〔畏慄〕前に同じ。○〔後漢〕「自レ是牧守ーー」。
〔悚慄〕前に同じ。○〔晉〕「敢不ニーーニ」。
〔恐慄〕前に同じ。○〔張衡〕「ーー若レ探レ湯」。
〔兢慄〕前に同じ。○〔西京雜記〕「見若莫レ不ニーーニ」。
〔悖慄〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「至險可ニーーニ」。
〔慘慄〕いためる貌にいふ語。○〔袁湯〕「遠行ーー慮」。
〔慘慄〕前に同じ。○〔褚少孫〕「感ニ予志ニ兮ーー」。
〔縮慄〕おそれちゞまる、をのゝく。○〔唐〕「馬皆ーー」。
〔懍慄〕さむし、をのゝく、おそる。「寒ーーニ」。○〔杜甫〕「救ニ汝寒慄」。
〔寒慄〕前に同じ。○〔唐〕「吏下ーー畏伏」。
〔祇慄〕つゝしみおそる。○〔後漢〕「悲愧ーー」。
〔駭慄〕おどろきおそる。○〔唐〕「人々ーー」。
〔危慄〕あやぶみおそる。○〔易林〕「ーー不レ安」。
〔愧慄〕心にはぢおそる。○〔韓愈〕「ーー雖レ爲レ情」。

【慅】サウ、ソウ。蘇遭切 ㊟豪
うごく（動）、一說に、おこる（起）。○〔隋〕「軍中ーー」。

【慅】サウ、ソウ。子皓切 ㊟皓
㊀つかる（勞）。○〔詩〕「舒ニ優受ニ兮勞レ心ー兮」。
㊁澡に同じ、あらふ。○〔荀〕「墨黥ーー嬰」。

【慅】セウ。先彫切 ㊟蕭
前條の㊁に同じ。

【慅】サウ、ソウ。七到切 ㊟號
うれふ（愁）。

【慆】タウ、トウ。土刀切 ㊟豪
㊀よろこぶ（喜）。○〔書〕「師乃ー」。
㊁ほしいまゝ（慢）。○〔書〕「無レ即ニーー淫ニ」。
㊂ひさし（久）。○〔詩〕「ーー不レ歸」。
㊃うたがふ（疑）。○〔左〕「王命不レー久矣」。
㊄かくす（藏）。○〔左〕「以レ樂ーレ憂」。

[慢慆] はしいまゝ。○[離騷]「椒專佞以一一兮」。
[淫慆] 前條に同じ。○[柳宗元]「困窮匪一一」。

【慇】 イン、オン。於巾切 眞
㊀いたむ、(痛)。○[詩]「憂心一一」。
㊁一勤は、ねもごろ。

【慠】 カウ、ゴウ。居号切 號
驕慠に通じ用ふ。

わづらふ、わづらはし、(煩)。

【慈】 シ、ジ。疾之切 支
㊀恩愛す、和げ服はす、いつくしむ。○[禮]「一以二甘-旨一」。
㊁いつくしむこと、柔和、やはらか、善良、よし、仁愛、なさけ、いつくしみ。○[漢]「溫一惠-和」。
㊂鐵を吸引する性ある石の名、俗に、磁に作るは非なり。○[精薀]「山産二鐵於其陽一者、一-石産二其陰一」。
㊃叢り生じて子母相依る竹の名、たけ、めだけ。○[竹譜]「竹之叢-生子-母相依曰二一-竹一」
[天慈] 天子の仁愛の心。○[柳宗元]「謹當下宣二布一一一、奉-揚聖-化上」。
[聖慈] 前に同じ。○[楊巨源]「陽和沃二一一一」。
[睿慈] 前に同じ。○[李商隱]「宣二布一一一」。
[宸慈] 前に同じ。○[歐陽修]「曲二軫一一一」。
[孝慈] 父母に善く事ふることと人の父母となりて子孫を愛すること。○[韓愈]「嗟哉董-生一且一」。
[惠慈] いつくしむこと。○[國]「而一二一二-紊一」。
[深慈] ふかきあはれみ。○[隋]「弘二一一一于不-殺一」。
[至慈] 深きいつくしみ。○[歐陽脩]「別二天-性之一一一」。

【慉】 キク、コク。許竹切 屋
㊀やしなふ、(養)、一説に、おごろ(驕)。○[詩]「不二我能一一、反以レ我爲レ讎」。
㊁あつむ、(聚)、つむ、(積)。○[馬融]「疏-越積-一」。

【慉】 チク、トク。敕六切 屋
うらむ、(恨)。○[馬融]「疏二越蘊-一一」。

【㥦】 ケフ。詰叶切 葉
かなふ、(協)。○[揚雄]「陰-氣一而念レ之」。

【瘱】 エイ、アイ。於計切 霽
かくす、(隱)、又、はづ、(慙)。○[揚雄]「冥-駭習二一中自一一」。

【慊】 ケン。古簟切 琰
㊀意に滿たず、あきたらず、又、うらむ、(恨)。○[孟]「吾何一乎哉」。
㊁滿足す、たろ、あきたろ、又、こゝろよし、(快)。○[大]「此之謂二自一一」。
㊂誠意、まごゝろ、まこゝ。○[白居易]「重陳二丹一一一」
[誠慊] まごゝろ。○[陶弘景]「昭二錄一一一」。
[慊々] こゝろに滿足せざること、又、憂ふる貌にいふ語。○[陸機]「一一恆苦レ穴」。

【慊】 ケフ。詰叶切 葉
前條の㊁に同じ。○[莊]「盡去而後一」。

【慊】 ケン、コン。賢兼切 鹽
嫌に同じ、きらひ、うたがひ。○[漢]「婾得レ避二一之便一」。

【㦓】 レン、ロン。離鹽切 鹽
さばり、(帷)。

【態】 タイ、ダイ。他代切 隊
すがた、かたち、さま。
(い)容色、貌姿、なり、ふり。○[白居易]「妍-蚩黑-白失二本一一、妝成盡是含二悲-啼一」。
(ろ)動作、仕わざ。○[越絕書]「飲レ之以レ酒、以觀二其一一」。
(は)形勢、形狀、ありさま、おもむき、やうす。○[名畫評]「千-變萬-一」。
[姿態] ましはりのさま。○[史]「一貧一富、乃知二一一一」。
[妖態] こぶるすがた。○[後漢]「壽色美而善爲二一一一」。
[故態] むかしのさま。○[後漢]「狂-奴一一一也」。
[舊態] 前に同じ。○[陸龜蒙]「斜倚二芳-叢一一一生」。
[緯態] ゆツたりしたるさま。○[楚辭]「滂心一一一」。
[逸態] すぐれたるありさま。○[張協]「一一超-越」。
[軼態] 前に同じ。○[傅毅]「一一一橫-出」。
[俗態] まことならぬさま。○[戰]「民多二一一一」。
[變態] いろ〳〵にうつりかはるさま。○[書斷]「一一一不レ窮」。
[異態] なみにはづれたるさま、又、形をちがへる。○[隋]「屈-申一レ一」。
[容態] かほかたち。○[蘇軾]「一一一溫-柔」。
[巧態] よきすがた。○[南]「麗-服一一一」。
[常態] つねなみのさま。○[後漢]「雖レ無二一一一」。
[奇態] めづらしきかたち。○[王融]「掩-抑有二一一一」。
[詭態] 前に同じ。○[北]「其一一若レ此」。
[情態] こゝろざま。○[諸子良]「一一一卽-異」。
[意態] 前に同じ。○[孔平仲]「一一一何煩-々」。
[蕩態] よこしまなるさま。○[桑悅]「公覺二其一一狀一」。
[姿態] すがた。○[阮籍]「一一一愁我腸一」。
[貌態] 前に同じ。○[李羣玉]「一一一祇應二天-上有一」。
[俗態] 風雅ならぬさま。○[神仙傳]「晚-學一一一未レ除」。
[形態] かたち。○[歷代名畫記]「盡二其一一一」。
[體態] 前に同じ、○[續詩話]「曲-盡二梅之一一一」。
[萬態] いろ〳〵のさま。○[盧思道]「千-嬌一一一不レ知レ窮」。
[勇態] いさましきさま。○[宣和書譜]「有レ類二仲-由之一一一」。
[妙態] たへなるすがた。○[傅毅]「姿-絕-倫之一一一」。
[儀態] のりあるさま。○[張衡]「一一一盈二萬-方一」。
[舞態] まひをどるすがた。○[羅鄴]「王-笛豈能留二一一一」。
[美態] うつくしきすがた。○[梁簡文帝]「一一一孤-生」。
[嬌態] うつくしくなまめける姿。○[宋之問]「河-伯憐二一一一」。
[婉態] なまめきたるさま。○[張泰]「一一一隨二歌-板一」。
[艷態] 前に同じ。○[楊衡]「芳-姿一一妖且妍」。
[冶態] 前に同じ。○[韓偓]「薰-香一一一猶無レ窮」。
[醉態] 酒によひたるさま。○[盧僎]「一一一坐二芳-洲一」。
[異態] まことのかたち。○[蘇軾]「含レ風偃-蹇得二一一一」。
[老態] としたけたるかたち。○[李綱]「一一一忽忘絲-滿-裏」。
[春態] いろけあるさま。○[白居易]「粉-黛凝二一一一」。
[風態] おもむきあるさま。○[白居易]「雅多二一一一」。
[盡態] うつくしきさまをつくす。○[杜牧]「一レ一極レ妍」。
[低態] うつむけるさま。○[溫庭筠]「一一一定思レ人」。
[柔態] やさしきかたち。○[李山甫]「強扶二一一一酒難-醒」。
[時態] そのころのさま。○[鄭谷]「一一一懶二隨レ人上-下一」。
[世態] よの中のさま。○[趙抃]「一一一心-情冷似レ水」。
[野態] ひなびたるさま。○[歐陽修]「頑姿一一一「頼二造-化一」。

【慴】 タフ、ドフ。他合切 合
意下る。

【㦗】カウ、コウ。虛講切 講
慃——は、もさる(很戾)。

【𢞏】シユク、ソク。式竹切 屋
さし、はやし、(疾)、又、たちまち。

【慌】クワウ、ワウ。虎晃切 養
くらし、(昏)。○「老」惟—惟惚」。

【慌】クワウ、ワウ　呼涙切 漾
ほる、(惚)。

【慌】クワウ、ワウ。呼光切 陽
わする、(忘)。

【慍】温の本字。

【惏】ラン、ロン。盧感切 感
悲愁の貌にいふ字、かなしむ、うれふ。

【㥦】フ、ボ。防無切 虞
心明かなり、さとし。

【㥫】シユン、ジユン。相倫切 眞
まこと、(恂)。

【㦭】セン。之緣切 先
憂ふる心、うれひ。

【㤐】リウ、ル。力救切 宥
うらむ、(怨)。

【𢞾】フン、ボン。甫本切 阮
うごく、うごめく、(動)。

【愶】サク、シヤク。山責切 陌
かなしむ、(悲)、うらむ、(恨)。

【㾤】嫉に同じ。

十一畫

【慒】ソウ、ス。藏宗切 冬　シウ、シユ。
徐由切 尤
おもんばかる、(慮)。

【慒】サウ、ソウ。藏曹切 豪
みだる、(亂)。

【慓】ヘウ、ベウ。紕招切 蕭　匹沼切 嘯　符少切 篠
はやし、(急)。○「喬潭」「空-中悍——不レ下將レ久」。

【慔】ボ、モ。莫故切 遇　バク、マク。末各切 藥
つとむ、(勉)。

【慕】ボ、モ。莫故切 遇
まなぶ。
(い)模範として習ふ。○「史」「—二藺-相-如之爲一レ人、更二名相-如一」。
(ろ)追ひ隨ふ。○「禮」「其往也如レ—」。
(は)愛著して忘るゝ能はず。○「孟」「大-孝終-身—二父-母一」。

(怨慕)　うらみ思ふ。○「劉長卿」「三-室含二——一」。
(欣慕)　よろこびしたふ。○「史」「雖レ爲二之執一レ鞭所レ——焉」。
(悅慕)　前に同じ。○「宋」「爾——二皇-化一」。
(歆慕)　前に同じ。○「王褒」「是以海-內——」。
(傾慕)　心をよせしたふ。○「北」「百-寮——」。
(思慕)　おもひて忘れず。○「南」「——不二自堪一」。
(懷慕)　前に同じ。○「潘岳」「—而—思」。
(戀慕)　前に同じ。○「王融」「闔-中咨——」。
(孾慕)　あかごのおやをしたふが如く思ふ。○「新序」「舜年五十猶二——兒一」。
(孺慕)　こどものおやをしたふが如く思ふ。○「駱賓王」「長懷二——之痛一」。
(稱慕)　ほめしたふ。○「漢」「士亦以レ此——二之一」。
(追慕)　あとより以前のさまをしたふ。○「後漢」「——無レ已」。
(愛慕)　いつくしみてしたふ。○「後漢」「而皆——欣々焉」。
(望慕)　のぞみてしたふ。○「劉楨」「——結不レ解」。
(毀慕)　自身のからだをいためるほどしたふ。○「唐」「公-締居レ喪——」。
(感慕)　心をうごかしたふ。○「南」「便有二——之色一」。
(敬慕)　うやまひしたふ。○「南」「學-徒——」。
(肅慕)　前に同じ。○「張嘉貞」「精-魄——」。
(景慕)　したふ。○「柳宗元」「凝-情容——」。
(哀慕)　かなしみしたふ。○「南」「——盡レ禮」。
(軫慕)　前に同じ。○「梁元帝」「人祇——」。
(孝慕)　おやを思ひしたふ。○「北」「——過レ人」。
(顧慕)　思ひしたふ。○「鮑照」「——廣-江濱」。
(瞻慕)　前に同じ。○「沈約」「天-人——」。
(悚慕)　つゝしみしたふこと。○「唐」「——不レ能-釋レ卷一」。
(攀慕)　したふ。○「宋」「——傷レ情」。
(羨慕)　うらやむこと。○「中論」「——脊竝驟而追レ之」。
(誘慕)　他に心をひかさる。○「淮」「使二耳-目精-明、而無一二——一」。
(仰慕)　たふとびしたふ。○「嵆康」「——同レ趣」。
(注慕)　氣をつけしたふ。○「呂温」「其爲二物-情所一二——如レ此」。

【𢡊】リ。呂支切　シ。思之切 支
㊀こゝろおほし、(多-端)。
㊁思ふことゝ切なり。

【慖】クワイ、ケ。古對切 隊
うらむ、(恨)。

【慖】クワク、キヤク。古獲切 陌
もさる、さかふ、(悖)。

【㥼】イン、オン。於靳切 吻
よる、(依)、とゞまる、(止)。

【㥼】エン。於虔切 先
おもふ、(憶)。

【慗】チヨク、チキ。恥力切 職
したがふ、(從)。

【慘】サン、ソン。七感切 感　シン、ソン。
楚錦切 寑
㊀いたむ、(痛)。○「詩」「憂-心——」。
㊁そこなふ、(毒)。○「史」「雖二——酷一斯稱二其位一」。

(深慘)　いたく心をいたむ。○「後漢」「黄-帝爲レ所——」。
(苛慘)　きびしくそこなふ。○「後漢」「細-政——」。
(酷慘)　前に同じ。○「後漢」「主-者寄-鷃——一」。
(酸慘)　前に同じ。○「晉」「徒有二——之聲一」。
(勞慘)　つかれいたむ。○「魏」「上下——」。
(憂慘)　うれへいたむ。○「蜀」「夙-夜——」。
(傷慘)　前に同じ。○「蘇若蘭」「——懷慕增二憂心一」。
(悲慘)　かなしみいたむ。○「魏明帝」「——傷二人情一」。
(悽慘)　前に同じ。○「武元衡」「——別-魂驚」。
(愀慘)　前に同じ。○「權德輿」「忽——以傾頽」。

【慙】サン、ゾン。昨甘切 覃
はづ、又、はぢ。
(い)耻辱とす。○「左」「——之不レ忍、而終-身—乎」。
(ろ)はづる氣色をあらはす、はぢらふ。○「衛」「面—曰レ離」。

(感慙)　心をうごかしはづ。○「後漢」「姑——呼-還」。

（愧慙）はづ。○韓詩外傳「田子――」。
（驚慙）おどろきはづ。○常袞「承レ命――」。
（震慙）身をふるはしはづ。○王僧儒「奉レ命――」。
（悚慙）おそれはづ。○崔行先「内―外―」。
（赧慙）前に同じ。○王安石「貿重ニ――之至ニ」。
（靦慙）はぢらふ。○宋眞宗「頁積ニ――ニ」。

【慚】 慙に同じ。

【憒】 サク、シャク。測革切 陌

【慛】 ㊀節操の堅きと、耿介。㊁せむ、（責）。

サイ、ゼ。昨回切 灰

うれふ、（憂）、いたむ、（傷）。

【慜】 ビン、ミン。眉殞切 軫

さとし、さとし、（聰）。

【慝】 トク、ドク。他德切 職

㊀あし、（惡）。○書「旌ニ別淑――ニ」。
㊁よこしま、（邪）。○詩「之レ死矢レ靡レ―ニ」。
㊂隱れたる惡事。○周「詰ニ姦――ニ」。
㊃けがる、けがれ、（穢）。○禮「世亂則禮―而樂淫」。
㊄災害、わざはひ。○國「宵靜ニ女德一以伏ニ蠱――ニ」。
㊅陰氣。○左「―未レ作」。
㊆訛言、なまり。○周「掌ニ道ニ方――ニ」。
㊇行惡者、わるもの。○管「民無レ―」。

（淫慝）わるつげなどしてよこしまなると。○左「閉ニ親――之口ニ」。
（隱慝）あらはれざる惡事。○左「于レ是展ニ氏有ニ――焉」。
（淫慝）みたらにしてよこしまなると。○左「以懲ニ――ニ」。
（職慝）けがれ。○後漢「掃ニ六合之――ニ」。
（咎慝）わざはひ。○漢「亦罹ニ――ニ」。
（凶慝）あしき事。○晉「陰構ニ――ニ」。
（怨慝）うらみてあしき事をなすと。○孫楚「民無ニ――ニ」。
（妖慝）わざはひ。○傅休奕「禦ニ百鬼之――ニ」。
（荒慝）暴惡の者、わるもの。○傅休奕「下無ニ――ニ」。
（氛慝）陰氣。○李華「盪ニ曜――ニ」。
（狡慝）わるかしこきと、又、其の者。○謝莊「昵ニ近――ニ」。

【慝】 ヂョク、ニキ。昵力切 職

情を隱す、非を飾る、いつはる、いつはり。○晉「毀ニ譽亂ニ于善惡之實ニ、情―奔ニ于貨慾之途ニ」。

【慞】 シヤウ、サウ。諸良切 陽

慞惶す、おそれあわつ。

【慝】 ヂョク、ニキ。女力切 職　ヂツ、ニチ。尼質切 質

はづ、（愧）。

【慟】 トウ、ヅ。徒弄切 送

過度に悲哀す、かなしむ、なげく、かなしみ、なげき。○論「子哭レ之―」。

（慼慟）なげく。○梁「每レ言輒――」。
（哀慟）前に同じ。○梁「晝夜――」。
（惛慟）前に同じ。○梁簡文帝「――結ニ于心ニ」。
（悔慟）前に同じ。○符朗「――交并」。

【慒】 ヤウ。弋亮切 漾

うらむ、うらみ、（恨）。

【慠】 ガウ、ゴウ。魚到切 號

おごる、おごり、（倨）。○後漢「生而貴者―」。

【慸】 前條に同じ。

【慸】 リ。力置切 寘　里支切 支

うれふ、うれひ、（憂）。

【慢】 バン、マン。謨晏切 諫

㊀ゆるむ、ゆるし、（緩）。○呂氏春秋「刑―則懼及ニ君子ニ」。
㊁おそし、おくる、（遲）。○詩「叔馬―忌」。
㊂おこたる、（怠）。○說苑「偷―懈怠多ニ暇日ニ」。
㊃あなどる、（易）。○左「我遠而―レ之」。
㊄おごる、（倨）。○史「王素―無レ禮」。
㊅放肆、ほしいまゝ。○史「兆――之行」。
㊆粗略、おろそか。○家語「大讓如レ―」。

（倨慢）おごる、又、ほしいまゝ。○後漢「嘉相季實――無レ禮」。
（傲慢）前に同じ。○南「驕狠――、禍之始也」。
（驕慢）前に同じ。○漢「奢淫――」。
（疏慢）おろそか。○北「應對――」。
（傾慢）おこたる。○白居易「――不ニ相訪ニ」。
（怠慢）前に同じ。○國「是皆有ニ驕侈――之心ニ」。
（懈慢）前に同じ。○後漢「鄧通――」。
（惰慢）前に同じ。○史「――邪僻之氣」。
（緩慢）のろきと。○書、疏「寬弘者、失ニ於――ニ」。
（舒慢）前に同じ。○北「不レ得ニ尋常――也」。
（簡慢）おろそか。○北「稟性――」。
（侮慢）あなどる。○書「――自賢」。
（易慢）前に同じ。○史「望ニ北容貌ニ、而民不レ生ニ――焉」。
（陵慢）前に同じ。○南「敢肆ニ――ニ」。
（輕慢）前に同じ。○顏氏家訓「――同ニ列ニ」。
（褻慢）なれてあなどる。○北「微有ニ――ニ」。
（瀆慢）前に同じ。○宋「則――之心生」。
（奢慢）おごりてほしいまゝなると。○禮、註「喩ニ―而―不レ如ニ儉而敬ニ」。
（廢慢）すたりゆるむ。○漢「今――懈弛」。
（僭慢）上を犯しあなどる。○後漢「有ニ――之心ニ」。
（延慢）まことならざる大言をなすと。○北「左右言ニ其――ニ」。
（貪慢）慾深くしてほしいまゝなると。○北「稟性――」。
（苦慢）わるくしておろそかなると。○淮「工事――、作ニ爲淫巧」。

【慢】 ベン、メン。瞑見切 霰

弛め縱つの意。

【慢】 バン、マン、謨官切 寒

まごふ、（惑）。

【慣】 クワン。古患切 諫

ならふ、ならはす、ならひ、ならはし、（習）。○左「譬如ニ畋獵射御ニ、―則能獲レ禽」。

【慤】 俗の愨の字。

【慥】 サウ、ソウ。七到切 號

篤實なる貌にいふ字、まことあると。○中「君子胡不ニ――爾ニ」。

【慦】 キウ、ク。居又切 宥

㊀よろこぶ、（悅）、㊁つゝしむ、（謹）

【慧】 ケイ、エ。胡桂切 霽

智のはたらき多し、了解するを敏し、さとし、さかし、かしこし。○北「艷且―兼善レ書」。

（智慧）さときと。○孟「雖レ有ニ――ニ、不レ如レ

乘レ辯」。
〔辯慧〕 辯口のさときこと。 ○〔晉〕「皆—、有二才藻一」。
〔小慧〕 こざかし。 ○〔論〕「好行二—一」。
〔瑱慧〕 前に同じ。 ○〔晉〕「—者以二淺-利一爲二鎗-々一」。
〔德慧〕 道德にさときこと。 ○〔孟〕「人之有二—術-智一者」。
〔聰慧〕 さとし。 ○〔後漢〕「質帝少而—」。
〔令慧〕 前に同じ。 ○〔晉〕「幼稱二—一」。
〔巧慧〕 たくみにしてさとし。 ○〔漢〕「鄭-寶持-論—」。
〔察慧〕 あきらかにさとし。 ○〔北〕「常謂秦-王不二甚—一」。
〔明慧〕 前に同じ。 ○〔晉〕「幼而—」。
〔爽慧〕 前に同じ。 ○〔晉〕「—有二口-辯一」。
〔了慧〕 前に同じ。 ○〔二十八治記〕「性甚—」。
〔佞慧〕 くちまへの上手なること。 ○〔蜀〕「便-僻—」。
〔婉慧〕 たとやかにしてさときこと。 ○〔晉〕「少而—」。
〔警慧〕 さとし。 ○〔全唐詩話〕「皆—善屬レ文」。
〔敏慧〕 前に同じ。 ○〔北〕「幼而—」。
〔秀慧〕 すぐれてさとし。 ○〔北〕「風-神—」。
〔穎慧〕 前に同じ。 ○〔陶弘景〕「或—若レ神」。
〔俊慧〕 前に同じ。 ○〔陳深〕「空拂二畫-圖一憐二—一」。
〔早慧〕 さとし。 ○〔北〕「景奇二其—一」。
〔黠慧〕 わるがしこし。 ○〔北〕「簡二選—者數-千人一」。 「然—」。
〔識慧〕 もりさとし。 ○〔三十六天內音〕「緣梵自-」

【懷】 コン、ゴン。古本切 阮
みだる、みだす、(愍-亂)。

【㦟】 ロ、ル。籠五切 麌
㦟—は、心惑ふ、まごふ、まよふ。

【㦝】 ボ、モ。滿補切 麌
前條に同じ。

【慒】 セイ、ザイ。祥歲切 霽
つゝしむ、(謹)。

【慨】 カイ、ガイ。口溉切 隊
なげく、又、なげき。
(い)意氣激昂す、いきどほる、はげむ。 ○〔後漢〕「定-遠慷—專二功西-遐一坦二步葱-雪一咫二尺龍-沙一」。
(ろ)壯志の成らざるを歎ず。 ○〔後漢〕「—然耻レ在二廝-役一」。
(は)心中に悲みを懷く、かなしむ、うれふ、(憂)、いたむ、(悼)。 ○〔禮〕「練而—然」。
〔忼慨〕 なげく。 ○〔史〕「于レ是項-王乃悲-歌—」。
〔歎慨〕 前に同じ。 ○〔史〕「永—兮」。
〔憤慨〕 前に同じ。 ○〔傅亮〕「—交集」。
〔忠慨〕 主君に盡くすとの爲のなげき。 ○〔晉〕「—亮到」。
〔恥慨〕 はぢなげく。 ○〔南〕「嘗懷二—一」。
〔懟慨〕 前に同じ。 ○〔北〕「琛大以—」。
〔愧慨〕 前に同じ。 ○〔北〕「有レ兼二—一」。
〔感慨〕 なげく。 ○〔劉楨〕「—以長歎」。
〔慨慨〕 なげく貌にいふ語。 ○〔劉楨〕「情—而長悸兮」。
〔憂慨〕 なげく。 ○〔元經傳〕「—發レ疾而卒」。
〔軫慨〕 前に同じ。 ○〔陶景弘〕「臨レ風—」。
〔悲慨〕 前に同じ。 ○〔王羲之〕「何能不レ痛レ心—也」。
〔深慨〕 いたくなげく。 ○〔謝靈運〕「遠-感—」。

【慢】 ホウ、フ。薄紅切 東
㊀よろこぶ、(悅)。 ㊁いつくしむ、めづ、(愛)。

【㦁】 レン。力延切 先
泣下る、なく。

【㦂】 テン。抽延切 先
泣く貌にいふ字、なく。

【慩】 漣に同じ。

【慪】 オウ。烏侯切 コウ。恪侯切 尤
つゝしむ、(恪)。

【慫】 ショウ、シュ。息拱切 腫
㊀おどろく、(驚)。 ㊁—慂は、すゝむ。

【慬】 キン、ゴン。巨斤切 文
㊀うれふ、かなしむ、うれひ、かなしみ、(憂-哀)。
㊁いさむ、いさみ、(勇)。 ○〔列〕「無三以立二—於天下一」。

【慬】 キン、コン。居隱切 吻
つゝしむ、(愨)。

【慬】 キン、ゴン。渠吝切 震
うれふ、(憂)。

【慬】 キン、ゴン。巨靳切 問
わづか、(僅)。

【慔】 ベイ、ミヤウ。亡井切 梗 母迥切 迥
意盡きず、こゝろのころ、一説に、うれふ、(憂)。

【慏】 ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
ひろし、(廣)。

【慮】 リヨ、ロ。良據切 御
㊀おもんぱかる。
(い)考へ思ふ。 ○〔書〕「弗レ—胡獲」。
(ろ)はかる、(謀)。 ○〔戰〕「子爲二寡人一—レ之」。
(は)物事を精詳に處置す。 ○〔大〕「安而后能—」。
(に)うれふ、(憂)、又、うたがふ、(疑)。 ○〔後漢〕「君臣疑—」。
㊁おもんばかり。
(い)かんがへ、おもひ。 ○〔孟〕「困二於心一衡二於—一」。
(ろ)處置、さりはからひ。 ○〔吳〕「觀二其規—一終可二大-任一」。
(は)謀策、はかりごと。 ○〔禮〕「出レ謀發レ—」。
(に)うれひ、うたがひ。 ○〔晉〕「決二狐疑之—一」。
㊂はかり、のり、(度)。 ○〔揚雄〕「立二督—一」。
㊃多くのもの、もろ〳〵、(衆)。 ○〔易〕「一-致而百—」。
〔遠慮〕 さきのかんがへ。 ○〔論〕「人無二—一、必有二近-憂一」。
〔長慮〕 前に同じ。 ○〔管〕「智者窮レ理而—」。
〔異慮〕 つねにかはりたるおもんばかり。 ○〔禮〕「必有二—一」。
〔無慮〕 總計、大凡、すべて、およそ。 ○〔唐〕「其寢-堂—費二錢二-十-萬-緡一」。
〔亡慮〕 前に同じ。 ○〔漢〕「—萬二千人」。
〔聖慮〕 帝王のおもんばかり。 ○〔晉〕「當レ勞二—一耳」。
〔宸慮〕 前に同じ。 ○〔宋〕「願留二—一以折二邪-謀一」。
〔謀慮〕 はかる、又、はかりごと。 ○〔詩、箋〕「故多二—一則威レ國」。
〔計慮〕 前に同じ。 ○〔漢〕「所二以—不レ成、而謀-議泄一者」。
〔策慮〕 前に同じ。 ○〔李德裕〕「—愊-臆」。
〔愼慮〕 つゝしみおもんばかる。 ○〔禮〕「—而從レ之」。
〔前慮〕 事の至らざるさきのおもんぱかり。 ○〔戰〕「—不レ定」。
〔預慮〕 前に同じ。 ○〔賈誼〕「天不レ可二—一兮」。

（哼慮）あさはかなるおもんぱかり。○〔史〕「｜｜淺謀」。
（愚慮）おろかなるかんがへのこと、おもに他人に對し自身のかんがへを稱する語。○〔漢〕「盡平生之｜｜」。
（深慮）充分によくはかること、又、ふかきかんがへ。○〔魏〕「君｜三｜國計」。
（精慮）こまかにおもんぱかる。○〔常袞〕「苦心｜｜」。
（發慮）よこしまなるかんがへ。○〔後漢〕「如懷三｜｜、明而察之」。
（短慮）せまきかんがへ、又、はかりごとにつたなきこと。○〔後漢〕「愚僕｜｜」。
（雅慮）正しきかんがへ。○〔呉註〕「自足斷三損｜｜」。
（沉慮）かんがへを靜にす。○〔唐〕「抱レ貞｜レ｜」。
（識慮）物を辨別すること。○〔宋〕「公・器｜｜深敏」。
（顧慮）うたがふ。○〔宋〕「有レ所｜｜」。
（嘉慮）よきかんがへ。○〔陸機〕「｜｜回廻」。
（密慮）おほやけならぬはかりごと。○〔沈約〕「深閟｜｜」。
（傷慮）おもひおそるゝこと。○〔孟郊〕「｜｜未レ能整」。
（淵慮）ふかきおもんぱかり。○〔韋應復〕「非三大君子｜｜宏謀、則茲優何從而興也」。
（寂慮）しづかなるおもんぱかり。○〔韓偓〕「｜｜延二清風一」。

【慮】リヨ、ロ。力居切 魚 兩擧切 語 おもんぱかる、おもんぱかり、（前條參照すべし）。

【慮】ロク。盧谷切 屋 錄す、しらぶ。○〔唐〕「凡繫囚五日一｜」。

【慯】シヤウ、サウ。式亮切 漾 うれふ、うれひ、（憂）。

【慯】シヤウ、サウ。式羊切 陽 いたむ、（痛）。

【慰】井。於胃切 未 心を安んず、情を愜くす、なぐさむ、なぐさみ。○〔後漢〕「所レ過竝使二勞｜一」。
（鎭慰）しづめなぐさむ。○〔後漢〕「｜三｜州郡二」。
（恩慰）なさけを加へてなぐさむ。○〔後漢〕「因數名見加｜｜二」。
（招慰）まねきやすんず。○〔後漢〕「今可三遣レ使｜｜與共合二力」。
（曉慰）さとしなぐさむ。○〔後漢〕「但使三吏卒往｜三｜之二」。
（娯慰）なぐさむ。○〔魏〕「時彈レ箏吹レ笛、以自｜｜」。
（弔慰）喪に居る者をとむらひて其のかなしみをなぐさむ。○〔梁〕「竝往｜｜」。
（褒慰）ほめなぐさむ。○〔唐〕「武后璽書｜｜」。
（賞慰）前に同じ。○〔盧照鄰〕「十年晩三｜｜二」。
（安慰）なでなぐさむ。○〔唐〕「綏緝｜｜」。
（綏慰）前に同じ。○〔唐〕「悉レ心｜｜」。
（撫慰）前に同じ。○〔呉越春秋〕「｜三｜百姓二」。
（訪慰）他人をたづねてなぐさむること。○〔張華〕「清・歲相｜｜」。
（閔慰）あはれみなぐさむ。○〔蘇舜欽〕「｜三｜罷該二」。

【慰】慰に同じ。

【[illegible]】コウ、ク。丘候切 宥 つとむ、（勤力）。

【慱】タン、ダン。徒官切 寒 セン、ゼン。從緣切 先 うれふ、（憂）。○〔詩〕「勞心｜｜兮」。

【慲】バン、マン。母官切 寒 わする、（忘）。

【慳】カン、ケン。丘閑切 刪 ㊀をしむ、やぶさか、（悋）。○〔韓愈〕「獨於二數子一懷二偏｜一」。

【㦃】サン、セン。所簡切 潸 鈌けざる德、（全德）。

【[illegible]】サン。初患切 諫 前條に同じ、一說に、おびたゞし、（夥）。

【[illegible]】バ、マ。莫霞切 麻 語り難し。

【慴】セフ、ソフ。之渉切 テウ、デウ。徒協切 葉 シフ。席入切 緝 ㊀ふす、（伏）、おそる、（懼）、おづ（怯）○〔史〕「一府中皆｜伏」。㊁おそれしむ、おどす、おびやかす。○〔曹植〕「威｜二萬乘一、華夏稱レ雄」。
（震慴）身をふるはしおそる、又、おどす。○〔史〕「未三見二天子一、故｜｜」。
（讋慴）前の上段に同じ。○〔晉〕「咸｜｜失レ色」。
（怖慴）おそる。○〔魏〕「衆皆｜｜不二敢動一」。

【慵】シヨウ、シユ。蜀容切 冬 おこたる、ものうし、（嬾）。○〔白居易〕「行｜擧レ足遲」。
（疎慵）おこたりてしたらなきこと。○〔孟郊〕「巣・止多｜｜」。
（幽慵）心のさえざること。○〔杜牧〕「睒・子本｜｜」。

【慶】ケイ、キヤウ。丘正切 敬 ㊀賀す、よろこぶ、いはふ。○〔史〕「再拜俯而｜」。㊁よろこび。（い）いはひ、ことほぎ。○〔周〕「賀｜之禮」。（ろ）善事、幸福、めでたきこと。○〔易〕「大有レ｜也」。㊂たまもの、めぐみ、（賜）。○〔詩〕「是以有レ｜矣」。㊃語句の發端に用ふる字、あゝ。○〔揚雄〕「｜天悴而喪レ榮」。
（祇慶）いはひ、よろこび。○〔詩、箋〕「謂二爲レ之｜｜也」。
（餘慶）あとにあまれるさいはひ。○〔易〕「積善之家必有二｜｜一」。
（榮慶）さいはひ。○〔晉〕「遂享二｜｜一」。
（賞慶）ほめてかづけものす。○〔後漢〕「｜｜刑威」。
（休慶）よろこび。○〔魏〕「咸致二｜｜一」。
（嘉慶）前に同じ。○〔魏〕「咸樂二｜｜一」。
（福慶）前に同じ。○〔後漢〕「安則共二其｜｜一」。
（吉慶）前に同じ。○〔北〕「不レ參二｜｜一」。
（祥慶）前に同じ。○〔宋〕「自レ是｜｜寒・暑皆兌」。
（祚慶）前に同じ。○〔揚雄〕「咸被二｜｜一」。
（光慶）前に同じ。○〔忠恕〕「先・後｜｜、皆君之德」。
（天慶）上帝のかづけもの。○〔成公綏〕「六・音贊二｜｜一」。
（[illegible]慶）神妙なるよろこびのことにておもに符識などをいふ。○〔後漢〕「｜｜既啓」。
（[illegible]慶）さいはひをうく。○〔晉〕「豈在手一人獨｜其｜一」。
（積慶）よろこびをかさぬ。○〔宋〕「皆相考及太后之｜｜也」。
（遐慶）ひさしきよろこび。○〔徐陵〕「同享二｜｜一」。

【慷】忼に同じ。○〔後漢〕「性剛毅｜慨」。
（慷々）いきどほる、なげく。○〔鄭震〕「時猶余弱超二｜｜一」。

【慸】テイ、ダイ。特計切 霽 たかし、（高）、一說に、きはまる、（極）、又、つかる、（困勞）。

【慸】セイ。尺制切 霽
敗れて和せず。

【慸】タイ、テ。丑邁切 卦
━芥は、さげ（刺-梗）。○〔司馬相如〕「曾不二━芥一」。

【懘】タイ、テ。丑邁切 卦　テツ、デチ。徒結切 屑

【慹】シフ、ソフ。之入切 緝
━恡は、心安からず。
おそる、（悑）。

【慹】セフ。之涉切 葉
㊀動かぬ貌にいふ字。○〔莊〕「━然似レ非レ人」
㊁氣を失ふ、きぬけす、又、志たがふ、（服）。○〔後漢〕「豪-强━服」。

【慹】デフ、テフ。奴協切 葉
おそる、（怖）。

【慹】ゼツ、テチ。如列切 屑
ありさま、（情-態）。

【懝】ガイ、ゲ。五介切 卦
たしむ、志はし、やぶさか、（吝）。

【㦉】コ、ウ。荒胡切 虞
ほこる、（夸-誕）。

【㦆】カ。虛加切 麻
━恡は、志無きこと。

【慒】トウ、ドウ。徒登切 蒸
迷亂す、まよふ、みだる。

【慺】ル。力朱切 虞　ロウ、ル。落侯切 尤
㊀よろこぶ、（悅）。
㊁恭謹の貌にいふ字、うやうやし。
㊂まこと、ねむごろ、（懃-懇）。○〔後漢〕「豈敢愛二惜垂-沒之年一、而不レ盡二其━━之心一哉」。

【慄】リツ、リチ。劣戌切 質
憂悶す、うれふ、もだゆ。

【㦗】タイ、デ。徒同切 灰
ゆるぶ、縱弛す。

【惓】ケン、クワン。居倦切 霰
回顧、かへりみる。

【慼】セキ、シャク。倉歷切 錫
うれふ、うれひ、（憂）。○〔書〕「率二籲衆-━一」。
〔憂慼〕うれひ。○〔左、註〕「示二━━一」。
〔愁慼〕前に同じ。○〔王逸〕「心━━兮不レ能」。

【慽】前條に同じ。○〔漢〕「居レ喪哀-━」。
〔慘慽〕いたみうれふ。○〔蘇武〕「憂-心常━━」。

【㥿】悽に同じ。

【㦗】ロク。盧谷切 屋
心閑かなること、志づか、一說に、心轉ず、こゝろかはる。

【慾】ヨク。余蜀切 沃
好み欲する情意。○〔淮〕「患生二於多-━一」。
〔情慾〕色情のこと。○〔禮、疏〕「十-五已-前、━━未レ發」。
〔嗜慾〕たしなみこのむこゝろ。○〔淮〕「神清者━-━弗レ能レ亂」。
〔貪慾〕物をほしがり好むこゝろ。○〔東京賦〕「滌二饕-餮之━━一」。

【憑】俗の憑の字。

【憀】レウ。落蕭切 蕭
㊀たよる、たのむ、（賴）。○〔淮〕「吏-民不二相━一」。
㊁たよる所なし、こゝろさびし。○〔陸龜蒙〕「雲晴山晚動-情━」。
㊂音聲の淸らかなる貌にいふ字。○〔嵇康〕「新-聲━-亮」。

【憀】リウ、ル。力求切 尤
悲恨す、かなしむ、うらむ。

【㥮】ソウ、作孔切 董　ス。千弄切 送
意を得ず。

【憂】イウ、ウ。於求切 尤
㊀うれふ。
（い）心思を苦しむ。○〔論〕「仁-者不レ━」。
（ろ）病む。○〔國〕「文-王在レ胎母不レ━」。
（は）頭垂れ下る。○〔禮〕「下二于帶一則━」。
（に）困しむ。○〔易〕「小-人道━也」。
㊁うれひ。
（い）心のなやみ、なげき。○〔論〕「樂以忘レ━」。
（ろ）疾病、やまひ。○〔禮〕「某有二采-薪之━一」。
（は）忌服。○〔書〕「王宅レ━」。
（に）困難。○〔左〕「弛二周-室之━一」。
〔隱憂〕他にあらはさゞるうれひ。○〔詩〕「如レ有二━━一」。
〔癙憂〕やみうれふ。○〔詩〕「哀我小心、━━以痒」。
〔分憂〕共にうれふ。○〔晉〕「非三以爲二榮乃━レ━耳」。
〔近憂〕目の前のうれひ。○〔論〕「人無二遠慮一、必有二━━一」。
〔離憂〕なげきにかゝる。○〔史〕「離-騷者猶二━━一也」。
〔除憂〕うれひをのぞくこと。○〔莊〕「━二君之━一」。
〔先憂〕世の人のなげきにさきだちてうれふること。○〔宋〕「然━レ━後樂之志」。「而樂」。
〔積憂〕つもるなげき。○〔史〕「夫━━者得レ酒散二━━一」。
〔內憂〕うちのうれひ。○〔左〕「外寧必有二━━一」。
〔幽憂〕ふかくかくれたるうれひ。○〔蘇軾〕「今日以告二━━一」。
〔孔憂〕おほいなるうれひ。○〔易林〕「作二此哀詩一、━━」。
〔軫憂〕うれふ。○〔楊維楨〕「富民━━」。
〔杞人憂〕とりこし苦勞することにいふ語。○〔列〕「━國有下━二天地崩-墜一者上」。

【惷】タウ、トウ。抽江切 江
生來に物事の區別意義を知るの才能なきこと、おろか。○〔周〕「三-赦曰━愚」。

【惷】ショウ、シュ。書容切 冬
物欲に蔽はれて才能明かならず、くらし、にぶし。○〔禮〕「寡-人━-愚冥-頑」。
〔狂惷〕前後のおもんぱかりもなきおろかなること。○〔後漢〕「是我幼-時━━之行也」。
〔騃惷〕おろか。○〔胡天游〕「陋-儒抱レ恨━且━」。

【惷】チョウ、チュ。丑用切 宋
戇に同じ。

【慣】クワン、ケン。父還切 刪
あなどる（慢）。

十二畫

【憈】キヨ、コ。丘於切 魚
志怯なり、よわし。

【⿰忄華】クワ、ゲ。胡瓜切 麻
心侈る、おごる。

【戁】ダン、ナン。乃版切 潸
慚ぢて面色赤くなる、はぢらふ。

【⿰忄畐】ヒウ、フ。敷救切 宥
いかる、いかり（怒）。

【憉】ハウ、ビヤウ。蒲庚切 庚
ー悙は、自ら強しとす、ほこる、つよがる。

【憊】ハイ、ベ。蒲拜切 卦
羸り困しむ、疲勞す、つかる、つかれ。○〔史〕「今天下已定何其ー也」。
〔疾憊〕やみつかる。○〔宋〕「臣ーー子弱」。
〔甚憊〕いたくつかる。○〔公羊〕「痛ー矣ー」。
〔頓憊〕くじけつかる。○〔唐〕「雖疾ーー」、猶力ニ「塲ニ斧命ニ」於進ニ」。
〔老憊〕年よりてつかる。○〔唐〕「多病ーー、不レ」。
〔昏憊〕極めてつかる。○〔列〕「夜則ーー而寐」。
〔羸憊〕心うれひつかる。○〔徐陵〕「更增ニーーニ」。
〔罷憊〕つかる。○〔柳宗元〕「呻吟則ーー」。
〔餘憊〕のこりのつかれ、又、のこりつかれたる者。○〔韓愈〕「爲レ之擇レ人以收ニーーニ」。
〔衰憊〕おとろへつかる。○〔王安石〕「晩扶ニーー寄ニ人閒ニ」。

【憊】ヘイ、バイ。蒲計切 霽
困しみ病む、やむ、やみ。○〔莊〕「貧也非レー也」。

【愊】ホク、ブク。鼻北切 職
くるしむ、くるしみ（困）。

【憋】ヘツ、ヘチ。普蔑切 屑
㊀急速なる貌にいふ字、はやし、すみやか。○〔列〕「嘽咺ー憋」。
㊁あし（惡）。○〔後漢〕「ー腸狗態」。

【惷】シユン、ジユン。殊倫切 眞
ケイ、ギヤウ。渠營切 庚
うれふ（憂）。

【⿰忄奢】タ、テ。陟加切 麻
ほこる（誕）。

【憍】驕に同じ、ほしいまゝ、おごる。○〔周武王觴豆銘〕「戒ニ之ーー、ー則逃」。

【憎】ソウ。作滕切 蒸
にくむ、にくみ（惡）。○〔詩〕「伊誰云ー」。
〔背憎〕そむきにくむ。○〔詩〕「噂沓ーー」。
〔愛憎〕いつくしむと惡むと。○〔史〕「甚哉ーー之時」。
〔赤憎〕あやにくといふに同じ。○〔杜甫〕「ーー輕薄遮レ入ニ懷珍ニ」。
〔積憎〕つもる惡しみ。○〔淮〕「以ニ積愛ニ擊ニーーニ」。
〔好憎〕すきこのむとにくみ嫌ふと。○〔漢〕「必生ニーー之心ニ」。
〔疎憎〕遠ざけ惡む。○〔吳〕「卿ーニー之ニ」。
〔私憎〕公平を缺きて惡みきらふ。○〔中論〕「未ニ必有ニーー也」。
〔怨憎〕恨み惡む。○〔江總〕「鄙致ニーーニ」。
〔偏憎〕ひとへににくむ。○〔張正見〕「ーーニ寒急ー夜縫レ衣」。
〔濫憎〕みだりに惡む。○〔柳宗元〕「無ニ懷レ詐ーーニ」。
〔忌憎〕にくむ。○〔王仓〕「好ニ于壯士ニ爲ニーーニ」。
〔嗔憎〕怒り惡む。○〔高啓〕「老衲喜レ客無ニーーニ」。

【⿱毳心】サン。千短切 旱
おろか（愚）。

【⿱毳心】コツ、コチ。呼骨切 月
寢熟す、ねいる。

【⿱毳心】カツ、カチ。呼八切 黠
ゲキ、ギヤク。呼役切 陌
ねざめ（臥覺）。

【⿰忄咢】愕の本字。○〔後漢〕「錯ーー不レ能レ對」。

【憏】テイ、タイ。丑例切 霽
佗ーは、未だ定まらざるを。

【憐】レン。落賢切 先　リン。離珍切 眞
あはれむ、あはれみ。
（い）かなしむ（哀）。○〔吳越春秋〕「同病相ー」。
（ろ）いつくしむ（愛）。○〔晉連子〕「心誠ー白髮元」。
〔哀憐〕あはれむ。○〔史〕「棄ニ所ーーー之交ニ」。
〔自憐〕己れと己れの身の上をあはれむ。○〔陸機〕「顧レ影悽ーー」。
〔乞憐〕あはれみを受けんとを願ひ求む。○〔韓愈〕「俛レ首帖レ耳搖レ尾而ーー者」。
〔取憐〕あはれみを受く。○〔韓愈〕「爭レ妍而ーレー」。
〔矜憐〕あはれむ。○〔晉〕「ーー撫ニ掩之ニ也」。
〔愛憐〕いつくしむ。○〔史〕「亦ーニー少子ニ乎」。
〔偏憐〕ひたぶるにいつくしむ。○〔遼〕「ーーー之子不レ保レ業」。
〔優憐〕厚くふびんを加ふ。○〔李嘉〕「瀕老荷ニーーニ」。
〔賜憐〕上よりあはれみを受くると。○〔孟郊〕「垂レ今感レーレー」。
〔天憐〕上帝のふびんと思し給ふところ。○〔白居易〕「貧羸强健是ーー」。
〔嬌憐〕なまめきたるいつくしみ。○〔白居易〕「東牀空後且ーー」。
〔深憐〕いたくめづ。○〔鄭谷〕「ーー開底松」。
〔慈憐〕あはれむ。○〔晉鞏〕「豈意ーー、更加ニ獎肯ニ」「ーー」。
〔鍾憐〕いたくいつくしむ。○〔范鎭〕「朕所ニーー」。

【憿】シヤウ、サウ。齒兩切 養
ー怳は、驚く貌にいふ語。

【憑】ヒヨウ。扶冰切 蒸（俗に、凴に作るはあやし。）
㊀よる
（い）頼む、たよる。○〔唐太宗〕「上ー神明之佑、下賴ニ英賢之輔ニ」。
（ろ）もたれ掛かる。○〔書〕「ー玉几ニ」。
（は）徒歩して渉る、かちわたりす。○〔詩〕「不ニ敢暴レ虎、不ニ敢ーレ河」。
（に）つく、のりうつる。○〔唐〕「此爲ニ魅所レー、吾以レ法攝レ之耳」。
（ほ）本となす、もとづく。○〔舊唐〕「所レ引經旨足レ可ニ依ーーニ」。
㊁よる所、よりどころ。○〔隋〕「大尺規矩皆有ニ准ーーニ」。
㊂おほいなり（大）。○〔列〕「帝ー怒」。
㊃みつ（滿）。○〔司馬相如〕「心ー噫而不レ舒」。
㊄さかんなり（盛）。○〔李白〕「雲ーー兮欲ニ吼怒ニ」。
〔神憑〕神明物にのりうつる。○〔庾信〕「ーーー絶ニ」。

〔[illegible]憑〕 ひたすらたよる。○〔舊唐〕「――二緯・文一、事匪二經・見一」。
〔歸憑〕 木づきよる。○〔顏子見〕「是故一切無レ不二――一」。
〔恃憑〕 たのみよる。○〔王仁裕〕「孫・劉亦――」。
〔襟憑〕 衣類のえりのあるが如くにしまりにしたのむ。○〔周邦彥〕「――二終・南太・華之固一」。
〔高憑〕 たかくよる、もたせかゝる。○〔王阮〕「――二隊・屏・翰一」。

【憓】 惠に同じ、志たがふ。○〔司馬相如〕「義征二不――一」。

【憔】 セウ。昨焦切 蕭 憂ひつかれて容色おとろふ、かじく、やつる、又、やす（瘦）。○〔國〕「民・人離・落而日以――悴」。

【憒】 クワイ、古對切 隊 ケ。戸賄切 賄 心思亂る、みだる。○〔蜀〕「事不レ當レ理則――矣」。
〔修憒〕 いたみみだる。○〔晉〕「意――而無・聊兮」。
〔亂憒〕 みだる。○〔易林〕「方始――」。
〔聾憒〕 物事不通にして心みだる。○〔易林〕「牛・馬――」。
〔憒憒〕 心昏くしてみだる。○〔潛夫論〕「――冒名也」。
〔耽憒〕 度を過ごし好みてみだる。○〔顏氏家訓〕「但令二人――一」。
〔愁憒〕 うれひみだる。○〔賈誼〕「鑿・生閱・滿而――」。
〔憂憒〕 前に同じ。○〔王羲之〕「疾久――」。
〔煩憒〕 もだえみだる。○〔王逸〕「心――兮霿無・聊」。

【憕】 チョウ、ドウ。直陵切 蒸 セイ、ジヤウ。時征切 庚 心平か、たひらか。

【憕】 タウ、ヂヤウ。直庚切 庚 ――悵は、志を失ふ貌にいふ語。

【憕】 チヤウ、トウ。澄應切 蒸 心靜か志づか。

【憕】 トウ。丁鄧切 徑 精神爽ならざると。

【憖】 ギン、ゴン。魚僅切 震 ㊀心に欲せざるも自ら彊めて、志ひて、なまじひに。○〔詩〕「不レ――遺二一老一」。㊁志ばらく（且）。○〔左〕「不三――遺二一老一」。㊂ねがふ（願）。○〔國〕「――庇二州・犂一」。㊃かく（缺）。○〔左〕「兩・君之士未レ――也」。㊄こひねがふ意を表はす歎息の聲にいふ字、あゝ。○〔左〕「――使下吾君聞二勝與レ臧之死一也以爲上レ快」。㊅とふ（問）。㊆つゝしむ（謹・敬）。㊇あまんず（甘）。㊈いたむ（傷）。㊉よろこぶ（說）。

【憖】 ギン、ゴン。語靳切 問 いたむ（傷）。

【憖】 キン、コン。香靳切 問 笑ふ貌にいふ字。

【憖】 ガツ、ゲチ。五轄切 黠 とふ（問）。

【憙】 キ。許既切 未 許己切 寘 よろこぶ、よろこび。（い）樂しむ。○〔史〕「莫レ不二欣――一」。（ろ）好む。○〔賈誼〕「遇レ之有レ禮故群・臣自―」。
〔說憙〕 よろこび。○〔漢〕「天・下――」。

【憙】 キ。虛其切 支 ㊀卒かに喜ぶ、よろこぶ。㊁歎息の聲にいふ字、あゝ。○〔後漢〕「試潛聽レ之曰、―」。

【憘】 憙に同じ。

【[illegible]】 クワク。呼麥切 陌 慧からざると、おろか、一說に、乖き戾ると、頑固、かたくな。○〔顏延之〕「乃陳二文・墨一、――無レ言者須レ言」。

【愩】 カウ、コウ。虎項切 講 多力の貌にいふ字、つよし。

【憚】 タン、ダン。徒案切 翰 ㊀はゞかる、又、はゞかり。（い）畏る。○〔晉〕「爲三百・姓所二信――一」。（ろ）忌みきらふ。○〔晉〕「帝疑二――之一」。（は）沮み難んず。○〔左〕「心則不レ競、何――二於病一」。㊁はゞからしむ、たわます。○〔書〕「彰レ善――レ惡」。
〔忌憚〕 はゞかり。○〔禮〕「小・人而無二――一也」。
〔尊憚〕 あがめ畏る。○〔漢〕「天・子甚――」。
〔敬憚〕 前に同じ。○〔史〕「素所二――一」。
〔畏憚〕 おそる。○〔後漢〕「――二遠・役一」。
〔懾憚〕 前に同じ。○〔宋〕「至レ是――尤甚」。
〔慴憚〕 前に同じ、又、たわます。○〔宋〕「――二宗・戚一」。
〔嚴憚〕 はゞかる。○〔九國志〕「――之」。
〔猜憚〕 そねみきらふ。○〔後漢〕「顧訪無二――之心一」。
〔傾憚〕 心を注ぎはゞかる。○〔魏〕「朝・廷――」。
〔跼憚〕 ちりごみしはゞかる。○〔北〕「諫・爭盡レ言、無レ所二――一」。
〔同憚〕 前に同じ。○〔書〕「無レ所二――一」。
〔讋憚〕 おそれはゞかる。○〔北〕「百・姓望レ風――」。
〔寵憚〕 いつくしみ畏る。○〔隋〕「甚――之」。
〔祗憚〕 つゝしみ畏る。○〔北〕「咸――之」。
〔嫌憚〕 きらふ。○〔北〕「收常――」。
〔忿憚〕 いかり忌む。○〔北〕「又彌――」。
〔謙憚〕 へりくだり畏る。○〔唐〕「畏二帝威・決一、皆――讋伏」。
〔驚憚〕 おどろき畏る、又、たわます。○〔司馬相如〕
〔憂憚〕 うれひ畏る。○〔應思道〕「――二刀・俎一」。

【憚】 タ、ダ。丁賀切 箇 勞れ病む、つかる、やむ。○〔詩〕「―二我不レ暇」。

【憚】 セン。尺戰切 霰 ㊀難んず、はゞかる。㊁あなどる（慢）。

【憚】 タン、ダン。蕩旱切 旱 ㊀つかる（勞）、なやむ（難）。○〔詩〕「哀我――人」。㊁つからす、なやます。○〔周〕「則雖レ有二疾・風一亦弗二之能一レ―」。

【憚】 タン、ダン。唐干切 寒 驚き怛る、おそる。○〔莊〕「以レ鉤注者――」。

【憚】 エン、オン。於權切 先 車の敝れたる貌にいふ字。

【憛】 タン、ドン。徒南切 覃 憂ふる意、うれひ。

【憛】 エン、オン。余廉切 鹽

【憛】タン、トン。他紺切 勘
㊀あわつ(惶遽)。㊁憂を懷く、うれふ。おもふ、(思、一說に、憂惑す、うれふ、まどふ、一說に、あわつ(遑遽)、又一說に禍福未だ定まらざる意。

【憜】惰に同じ。

【憝】タイ、デ。徒對切 隊
㊀うらむ(怨)。○〔書〕「凡民罔ㇾ弗ㇾー」。㊁にくむ(惡)。○〔書〕「啓弗ㇾ畏ㇾ死民罔ㇾ弗ㇾー」。㊂にくむべき者、わるもの。○〔晉〕「旗不ニ再麾一而元ー授ㇾ首」。
〔怨憝〕恨み惡む。○〔晉輩〕「切ー々如ーー」。

【憝】タイ、デ。杜罪切 賄
うらむ(恨)。

【憞】憝に同じ。○〔揚雄〕「楚ー二羣策一而自屈ニ其力ニ」。

【憞】トン、ドン。他昆切 元
心明かならず、くらし。

【憟】ショク、ゾク。相玉切 沃
上の顔色をうかゞひ其の意向を察して事をなす、又、詭り隨ふ。

【㦗】セイ、サイ。先齊切 齊
心怯る、おそる。

【㦗】シ、ジ。相支切 支
おそる、(憟)。

【㦢】シユン、ジユン。鐘尹切 軫
劣りて弱き貌にいふ字。

【㦢】セン。息變切 霰
よろこぶ(悅)。

【㦙】ケツ、グワチ。其月切 月
つよし(彊)。

【𢤱】ハツ、バチ。蒲撥切 曷
心起こる、おこる。

【憡】サク、シヤク。楚革切 陌
小しく痛む、いたむ。

【㦁】バイ、メ。莫佳切 佳
ー懐は、心平かならず

【憢】ケウ、ゲウ。許幺切 蕭
㊀おそる(懼)。㊁いつはる(僞)。

【憣】ハン、ベン。符山切 刪
心變動す、かはる、うごく。

【㦤】タウ、ダウ。徒朗切 養
ほしいまゝ(放)。

【憤】フン、ボン。房吻切 吻
㊀いきどほる、又、いきどほり。
(い)心氣おこり奮ふ。○〔論〕「發ㇾー忘ㇾ食」。
(ろ)心氣鬱積す、もだゆ。○〔劉向〕「處ㇾ婦ー而長ㇾ望」。
(は)怒る、恨む。○〔宋〕「以ㇾ法報ニ私ー一耳」。
㊂つむ(積)。○〔國〕「陽癉ー盈」。
〔激憤〕心をはげましいきどほる。○〔家語〕「唐知ニ其非一ー一厲ニ志於于是一乎」。
〔積憤〕いきどほりの心中に積もる貌にいふ語。○〔後漢〕「常ーー、懷下復ニ社稷一之慮上」。
〔恚憤〕いきどほる。○〔後漢〕「ーー而死」。
〔蘊憤〕こもたゆると。○〔王符〕「志意ーー」。
〔感憤〕心動き奮ふと。○〔後漢〕「雍丘之圍、臧洪之ーー壯矣」。
〔抗憤〕負けぬ心を出だして張り合ひいきどほる。○〔潘岳〕「哭ーー以ニ卮酒一」。
〔震憤〕身をふるはしていきどほる。○〔後漢〕「海內默々、人懷ニーーニ」。
〔怨憤〕うらみいかる。○〔後漢〕「以舒ニ其ーー一」。
〔義憤〕道のためにいきどほりを興こす。○〔後漢〕「士之蘊藉、ーー甚矣」。
〔悲憤〕かなしみいきどほる。○〔唐德宗〕「感ㇾ時ーー」。
〔傷憤〕痛みもたゆ。○〔吳〕「紘甚ーー」。
〔幽憤〕心氣鬱積すると。○〔晉〕「一旦縲紲、乃作ニーー詩一」。
〔愧憤〕耻ぢいきどほる。○〔晉〕「ーニー于門宗一」。
〔歎憤〕なげきいきどほる。○〔西涼錄〕「撫ㇾ劍ーー」。
〔忠憤〕君にまごころをさゝげんためのいきどほり。○〔韓應物〕「ーー不ㇾ可ㇾ吞」。
〔痛憤〕いたみいきどほる。○〔舊唐〕「越王貞父子、ーー義不ㇾ圖ㇾ全」。
〔冤憤〕無實の罪にかゝれるいきどほり。○〔李德裕〕「快雪ーー、豁開ニ心懷一」。
〔恨憤〕うらみ怒る。○〔唐〕「秀實失ㇾ兵必ーー」。
〔耻憤〕はぢいきどほる。○〔唐〕「行密ーー被ㇾ病」。
〔勇憤〕いさみいきどほる。○〔白居易〕「ーー氣咆哮」。
〔嗟憤〕なげきいきどほる。○〔梁武帝〕「行路ーー」。
〔私憤〕我が一身のためにいきどほる。○〔何中〕「此豈ーー時」。
〔公憤〕正義のためのいきどほり。○〔宋〕「天下之ーー也」。
〔躁憤〕さわぎいきどはる　○〔歐陽修〕「多ーー佯狂失ニ其常一」。
〔愧憤〕耻ぢいきどほる。○〔宋〕「ーー不ㇾ堪」。
〔振憤〕身をふるひいきどほる。○〔唐書〕「ー皆不ㇾ可ニ勝數一」。
〔鬱憤〕心結ぼると。○李商隱「精誠何幸ーー」。
〔餘憤〕殘りのいきどほり。○〔陸機〕「發ニ八紘一以ーー」。
〔悁憤〕いきどほる。○〔應瑒〕「ーニー不ㇾ遑」。
〔悱憤〕心氣むすぼれ滿つると。○〔梁武帝〕「殺迦葉之ーー」。
〔慰憤〕うれひいきどほる。○〔蘇舜欽〕「ーー徒壞ㇾ胷」。
〔憂憤〕前に同じ。○〔陸游〕「ーー張巡嚼齒空」。
〔盛憤〕盛なるいきどほり。○〔陸雲〕「以增ーー一」。
〔遺憤〕殘し置けるいきどほり。○〔傅亮〕「祖宗ーー雪ニ于一旦一」。
〔概憤〕なげきいきどほる。○〔傅亮〕「ーニー陵夷一」。
〔讐憤〕仇となしいきどほる。○〔江淹〕「泉血瀝氣、咸百ーー一」。
〔常憤〕日ごろのいきどほり。○〔江淹〕「悚懺交ㇾ心、實百ーー一」。
〔怒憤〕怒る。○〔王勃〕「甘ーー而忘ㇾ食」。
〔泄憤〕いきどほりの心を漏らし出だす。○〔徐彥伯〕「張ニ虎牙一以ーー」。
〔滯憤〕もたゆると。○〔李白〕「ーー積ㇾ悠」。
〔懷憤〕いきどほると。○〔常兗〕「ーニー邊戎一」。
〔慍憤〕ふづくみいきどほる。○〔柳宗元〕「獨ーー而增ㇾ傷」。
〔雄憤〕をゝしきいきどほり。○〔盧照〕「ーー無ㇾ所ㇾ泄」。
〔丹憤〕誠心より出でたるいきどほり。○〔袁高〕「ーー何由伸」。
〔沮憤〕思ひとまりいきどほる。○〔蘇舜欽〕「自爲ニーー一亦何益ニ于事一哉」。
〔狷憤〕心狹くしていきどほる。○〔歐陽修〕「臣既非ニーー以肆ニ一朝之忿一」。
〔舊憤〕久しく蓄へもてるいきどほり。○〔陸游〕「ーー開ニ孤劍一」。

【𢡖】ラウ、ロウ。魯刀切 豪
心力乏しくなる、くるしむ、つかる、又、やむ、(疾)。

【憥】ラウ、ロウ。郎到切 [號] 懊｜は、くゆ（悔）。

【憧】ショウ、シュ。尺容切 [冬] タウ、ドウ。直絳切 [絳] ㊀意定まらず。○〔易〕「｜｜往來」。㊁おろか（騃昏）。○〔史〕「愚｜不ㇾ逮ㇾ事」。

【憧】トウ、ヅ。徒弄切 [送] 前條の㊁に同じ。

【忄貳】ヂ、ニ。女利切 [寘] 快き性。

【憨】カン、ゴン。呼談切 [覃] 下瞰切 [勘] 鈍きと、おろか（愚）。○〔文心彫龍〕「正平狂｜以致ㇾ戮」。

【忄敢】カン、コン。計鑒切 [陷] いかる、いかり（怒）。

【憩】愒に同じ。○〔詩〕「召伯所ㇾ｜」。
(遊憩) あそびやすらふ。○〔水經、註〕「道路｜｜者、惟得二滄飯一而已」。
(招憩) 呼びよせ休息さす。○〔詩品〕「｜｜不ㇾ來」。
(留憩) とゞまりやすらふ、とゞめやすます。○〔異聞記〕「｜｜二瀟寺一」。
(假憩) かりそめのやすらひ。○〔埶虞〕「指二太昊一以｜｜兮」。
(休憩) やすらふ。○〔謝靈運〕「非二｜｜地一」。
(寓憩) やどりやすらふ。○〔陶弘景〕「閑風｜｜」。
(栖憩) すみやすらふ。○〔陶弘景〕「官私行止、並有二｜｜一」。
(偃憩) 臥しやすらふ。○〔李白〕「北宅聊｜｜」。
(旅憩) たび路にありてやすらふ。○〔李白〕「｜｜高堂眠」。
(倦憩) うみやすらふ。○〔陸游〕「｜｜石腰鼓」。

【憩】前條に同じ。

【忄爲】キ、ギ。居僞切 [寘] かなふ、やはらぐ（諧）。

【忄黑】コク。迄得切 [職] くらし（惛）。

【忄翕】キフ、コフ。迄及切 [緝] 心熱する貌にいふ字。

【憪】カン、ゲン。戸間切 [刪] 心靜かなると、志づか、又、たのしむ（愉）。○〔柳宗元〕「安悱祇自｜」。

【憪】カン、ゲン。下簡切 [潸] ㊀安からざる貌にいふ字。○〔史〕「｜｜然念二外人之有一ㇾ罪」。㊁勁く忿る貌にいふ字。○〔唐〕「｜｜然爲二天下無一ㇾ人」。㊂寛大なる貌にいふ字。

【憫】ビン、ミン。眉殞切 [軫] ㊀うれふ、うれひ（憂）。○〔孟〕「阨窮而不ㇾ｜」。㊁あはれむ、あはれみ（憐）。○〔宋〕「若情可ㇾ矜｜｜而法不ㇾ中ㇾ情者讞ㇾ之」。
(嘉憫) よみしあはれむ。○〔遼〕「世宗｜｜、因籍二其人一」。
(憂憫) うれふ。○〔參同契〕「｜｜二後生一」。
(惻憫) 痛みあはれむ、又、痛みうれふ。○〔環據〕「情｜｜而惆悵」。
(隱憫) 前に同じ。○〔顏延之〕「｜｜徒御悲」。
(惻憫) 前に同じ。○〔王筠〕「因ㇾ心留二｜｜一」。
(傷憫) 前に同じ。○〔崔融〕「兄弟之情、有ㇾ懐二｜｜一」。
(憫々) 憂ふる貌にいふ語。○〔梁簡文帝〕「｜｜愴二還途一」。
(悽憫) うれふ。○〔權德輿〕「咨嗟｜｜久」。
(慈憫) いつくしみあはれむ。○〔張東之〕「｜二｜元々一」。
(愛憫) 前に同じ。○〔蘇滌〕「｜｜生育」。
(仁憫) 前に同じ。○〔道教靈驗記〕「｜｜卜道息」。
(哀憫) あはれむ、うれふ。○〔柳宗元〕「伏乞二｜｜一」。

【湯心】タウ、ダウ。待朗切 [養] ｜潒は、うごく、うごかす（動）。

【忄詈】レイ、ライ。憐題切 [齊] リ。鄰知切 [支] ㊀ことばおほし（多言）。㊁欺謾す、あざむく、あなどる。

【忄詈】レイ、ライ。郎計切 [霽] 前條の㊁の解に同じ。

【忄然】ケン、ゲン。胡典切 デン、テン。乃見切 [霰] 意難んず、はゞむ。

【然心】ゼン、テン。忍善切 [銑] 意饒し、もろし、一説に、意急くして懼る、おそる、あわつ。

【憬】ケイ、ギヤウ。倶永切 [梗] ケイ、キヤウ。畎迥切 [迥] ㊀とほし（遠）。○〔賀知章〕「荒｜盡懷ㇾ忠」。㊁さほきに行く貌にいふ字。㊂覺寤す、さとる。

【意】億に同じ。

【憭】レウ。力小切 [篠] ㊀さとし（慧）。㊁あきらか（照察）。㊂こゝろよし（快）。

【憭】レウ。落蕭切 [蕭] ㊀空しき貌にいふ字。㊁目に見て心に傷むにいふ字、いたむ。○〔朱熹〕「｜｜慄起二寒襟一」。

【憮】ブ、ム。文甫切 [麌] ㊀めづ、いつくしむ（愛）。○〔陸雲〕「遲想歡｜」。㊁失意の貌にいふ字。○〔孟〕「夷子｜然」。㊂驚愕の貌にいふ字。○〔論〕「夫子｜然」。
(泰憮) はなはだいつくしむ。○〔詩〕「昊天｜｜」。

【憮】ク。況羽切 [麌] なまめく、こぶ（媚）。○〔漢〕「京兆眉｜」。

【憮】コ、ク。荒乎切 [虞] ㊀おほいなり（大）。○〔詩〕「亂如ㇾ此｜」。㊁おごる（傲）。○〔禮〕「毋ㇾ｜毋ㇾ傲」。

【憮】ブ、ム。微夫切 [虞] むなし（空）。

【憯】憯の本字。

【憯】憯の字の省文。○〔漢〕「支體傷則心｜怛」。

【憰】ケツ、ケチ。古穴切 [屑] いつはる、いつはり（權詐）。

【忄柴】ヘイ、ベイ。邊迷切 [齊]

すむ(栖)。

【憱】シウ、シュ。初救切 宥
いたむ(慼)。

【憪】憪に同じ。○〔戰〕「汗明―焉」。

【憲】ケン、コン。許建切 願 ――从心从目从害省。

❶あきれく表はし示されたる準則の稱にいふ、命令、法規、表式、模範、おきて、てほん、のり。○〔左〕「此君之―令」。
❷のりに從ふ、のりと爲す、のッとる。○〔書〕「惟聖時―」。
❸表示す、あらはす、しめす。○〔周〕「―禁于王宮」。
❹さし(敏)。○〔禮〕「發慮―」。
❺顯はれ盛なる貌にいふ字。○〔中〕「――令德」。
❻欣ぶ貌にいふ字。○〔詩〕「無然――」。

〔成憲〕完成せるおきて。○〔書〕「監于先王―」、「永無愆」。
〔夔憲〕おきて。○〔書〕「欽哉永弼乃后於――」。
〔常憲〕前に同じ。○〔書〕「克有――」。
〔垂憲〕おきてをたれ示す、又、さめすこと。○〔晉〕「哲王――」。
〔邦憲〕くにのおきて。○〔高適〕「待御執――」。
〔國憲〕前に同じ。○〔後漢〕「撰定――」。
〔天憲〕天子の命令、國家のおきて。○〔五代會要〕「總朝綱聯司――」。
〔火憲〕火の用心に關するおきて。○〔荀〕「修――」。
〔奉憲〕法に從ひ守る、又、のッとる。○〔史〕「百官――」。
〔法憲〕おきて。○〔後漢〕「永平中、――頗峻」。
〔風憲〕風紀を取締る掟。○〔後漢〕「――愈薄」。
〔禮憲〕禮儀といふに同じ。○〔後漢〕「朝廷――、宜時刊立」。

〔章憲〕おきて。○〔後漢〕「有乖――」。
〔公憲〕官府のおきて。○〔後漢〕「申――以報私恩」。
〔刑憲〕刑法といふに同じ、人を罪するのり。○〔晉〕「秦氏幷吞、遂專――」。
〔明憲〕ことわりあきらかなる法。○〔蔡邕〕「畏怖――」。
〔昭憲〕前に同じ。○〔晉〕「宛論――」。
〔典憲〕のり。○〔晉〕「――資其刊輯」。
〔軌憲〕前に同じ。○〔晉〕「盛性方嚴有――」。
〔恆憲〕前に同じ。○〔儲光羲〕「皇家有――」。
〔重憲〕法律を嚴しくす、又、おもきのり。○〔晉〕「嚴刑――」。
〔軍憲〕軍律といふに同じ、軍隊上のおきて。○〔宋〕「懼致――」。
〔嘉憲〕善良なるおきて。○〔宋〕「――啓策」。
〔加憲〕罪に處すること。○〔宋〕「不俟――、巧源自絕」。
〔被憲〕罪に處せらるゝこと。○〔齊〕「――者多結怨」。
〔文憲〕學問。○〔索靖〕「役心精微、耽此――」。
〔樞憲〕肝要なるのり。○〔梁〕「自當――、多所糾擧」。
〔朝憲〕朝廷ののり。○〔李嶠〕「白簡承――」。
〔往憲〕昔時ののり。○〔魏〕「率循――」。
〔簡憲〕寬大なるおきて。○〔隋〕「年垂――」。
〔臺憲〕御史の役所の掌るおきて。○〔金〕「――固在、分別邪正」。
〔賦憲〕天子より國を治むるの法を天下に布くこと、又、其ののり。○〔汲冢周書〕「旣――受臚於牧野」。
〔敎憲〕みことのり。○〔穆天子傳〕「乃命正公郊父受――」。
〔體憲〕本づきのッとる。○〔文心雕龍〕「――於三代」。
〔持憲〕法律を行ふ權をとりもつ。○〔大唐〕「辭以儒門不願――」。
〔模憲〕てほん。○〔蔡邕〕「誕鋪――」。
〔遺憲〕先代の人ののこし置きたるおきて。○〔陸機〕「廢修――」。
〔雅憲〕のり。○〔孫楚〕「―― 允休」。
〔韵憲〕法則をくみはかりて宜しきに協ふやうにす。○〔敬括〕「――於黃鐘之音」。
〔秋憲〕刑法といふに同じ、支那にては古昔人を罪するは秋より後を以てしたるよりいふ。○〔賈至〕「俾迴――之威」。

〔聿憲〕立派にはでやかなる儀式。○〔錢徽元史公碑〕「貫婚――」。
〔綱憲〕のり。○〔沈詢〕「爰委――」。
〔古憲〕昔時ののり。○〔曾鞏〕「順稽――」。
〔前憲〕前に同じ。○〔元〕「厥有――」。
〔手握王爵口含天憲〕專橫なる臣下の天子を左右して國政の執行を縱橫にし黜陟を隨意にするにいふ語。○〔後漢〕「――――――」。

【憺】コ、ク。攻乎切 虞
おそる、おづ(怯)。

【慼】セイ、ゼ。此芮切 霽
つゝしむ(謹)。

【憴】シフ、ソフ。色入切 緝
志はし、をしむ(慳)。

【憳】タン、トン。吐敢切 感
心樂からず、あやぶむ、うれふ。

【憦】リウ、リュ。力中切 東
こゝろばせ(意)。

【愲】カク、キヤク。古核切 陌
さとり、さとし(智)。

【憴】グ、ゴ。牛具切 遇
こゝろばせ(意)。

【憯】セイ、ザイ。在計切 霽
うれひいかる(愁怒)。

【慜】リヨク、リキ。郎翌切 職
つゝしむ(謹)。

【懥】セイ、セ。照世切 霽
いたる(至)。

十三畫

【憴】ジョウ、ジョウ。食陵切 蒸
いましむ(戒)、つゝしむ(愼)。○〔出雅〕「兢々――戒也」。

【憵】ヘキ、ヒヤク。普擊切 錫
にはか(猝)。

【懌】ソツ、ソチ。蘇骨切 月
悲づる貌にいふ字。

【憶】ヨク、オク。於力切 職
おもふ、又、おもひ。
(い)念頭を離さず、忘れず、記す。○〔晉〕「孫秀猶―疇昔」。
(ろ)考へに沈づむ、心むすぼる。○〔後漢〕「心幅―而紛紜」。

〔記憶〕おぼえしおぼゆ。○〔南〕「多所――」。
〔相憶〕互に念ふ。○〔梁武帝〕「知我心――」。
〔諳憶〕そらんずること。○〔南〕「――無遺漏者」。
〔遠憶〕はるかにおもふ。○〔李白〕「――平山陽」。
〔誦憶〕よみて記るす。○〔南〕「尤好東觀漢記略、皆――」。
〔追憶〕過ぎにし事を後よりおもひ出だす。○〔鮑照〕「――宿昔時」。
〔書憶〕すべて記す。○〔宋〕「老夫不能――」。
〔幽憶〕ふかきおもひ。○〔李尤〕「詩人――」。
〔想憶〕おもひ。○〔王獻之〕「即日如何深――」。
〔敬憶〕うやまひを忘れざること。○〔鮑照〕「助人爲恭猶加――」。
〔忍憶〕心の念ひをこらへて表にあらはさざること。○〔梁簡文帝〕「何爲―舍遊」。
〔慨憶〕なげきのおもひ。○〔梁簡文帝〕「分別已來、每增――」。
〔舊憶〕いにし時のおもひ。○〔梁簡文帝〕「聞脣生――」。
〔空憶〕あだにおもふ。○〔徐陵〕「――長城下」。

〔長憶〕とこしなへにおもふこと。○〔白居易〕「一一小樓風月夜」。
〔重憶〕かさねて念ふ。○〔韋應物〕「一一別秋」。
〔苦憶〕心をいためおもふ。○〔白居易〕「君是旅人猶一一」。
〔時憶〕をりに觸れておもひ出だす。〔岑參〕「請君一一關外客」。
〔醉憶〕酒に醉ひての上のおもひ。○〔劉兼〕「張翰鱸魚因一一」。
〔頻憶〕しきりに思ひ出だす。○〔劉滄〕「秋深一一故鄕事」。
〔縈憶〕心にまつはる。○〔李中〕「何事此時一一甚」。
〔深憶〕心の底にしみこみ思ふ。○〔羅隱〕「三年一一箇先生」。
〔同憶〕思ひを共にす。○〔伍喬〕「閑爐一一洞庭秋」。
〔思憶〕おもふ。○〔韓偓〕「每向指着長一一」。
〔細憶〕こまやかなるおもひ。○〔韓維〕「一一舊歡都人夢」。
〔過目皆憶〕目を通して見たものはみな記して忘れざること。○〔梁〕「讀書數行並下一一一一」。

【𢥠】シヨ、創擧切　[語]　ソ。創祖切　[暮]
うれふ、うれひ（憂）。

【憷】シヨ、ソ。創據切　[御]
心利し、さかし、かしこし。

【憸】セン、ソン。息廉切　[鹽]
ヒン、ザン。七漸切　ケン。虛檢切　[琰]
㊀心ねぢけて口さきの慧しきこと、へつらひおもねること、利欲にかたむきたること。○〔書〕「爾無昵于一人」。
㊁眞直ならざること、かたむきよりたること。○〔楊循吉〕「平溪藏險一一」。
〔姦憸〕心かたましくしてねぢけたること。○〔王安石〕「附麗無一一」。
〔凶憸〕あしくねぢけたること。○〔沈與求〕「柔順未必非一一」。

【𢤱】シウ、シユ。字秋切　[尤]
㊀あし（惡）。㊁おごる（傲）。

【𢢔】ケイ。去例切　[霽]
おそる（恐）。

【㦌】タク、ドク。直角切　[覺]
心安からず、あやぶむ、うれふ。

【憹】ドウ、ノウ。奴冬切　[冬]
よろこぶ（悅）。

【憹】ダウ、ノウ。奴江切　[江]
心亂る、みだる。

【憹】ダウ、ノウ。奴刀切　[豪]
痛み悔む、くやむ、なやむ。

【憹】ダウ、ノウ。乃老切　[晧]
うらむ（恨）。

【憺】タン、ドン。徒敢切　[感]　徒甘切　[覃]
やすし（安）、しづか（恬）。○〔楚辭〕「志欲憺而不レ一兮」。
〔恬憺〕やすし、しづかなり。○〔史〕「今上治二天下一、未能一一」。
〔玄憺〕深くしづかなり。○〔劉鑠〕「鬱金一一」。

【憺】タン、ドン　徒濫切　[勘]
うごく、うごかす（動）。○〔漢〕「威稜一二乎鄰國一」。
〔威憺〕おどしうごかす。○〔唐〕「一一二殊俗一」。
〔憺々〕動く貌にいふ語。○〔楚辭〕「心怛傷而一一」。
〔慘□〕心をいため動かす。○〔蘇軾〕「一一意猶存」。

【憻】タン、ダン。他旦切　[翰]

【㦨】タウ、ダウ。徒朗切　[養]
㊀ひろし、ゆるし（寬）。㊁あきらか（明）。㊂やすし（平安）。
ほしいまゝ（放蕩）。

【憼】ケイ、キヤウ。擧影切　[梗]
キヤウ、カウ。擧兩切　[漾]　居慶切　[敬]
つゝしむ、うやまふ（敬）。○〔荀〕「無レ私罪レ人一レ革二兵一」。

【憁】ソウ、ス。蘇公切　[東]
了慧、さとし。

【㦗】キン、コン。居吟切　[侵]　居禁切　[寢]
心堅固なり、かたし。

【憾】カン、コン。胡紺切　[勘]
うらむ、うらみ（恨）。○〔中〕「人猶有レ所レ一」。
〔宿憾〕古き恨み。○〔魏〕「求レ釋二一一一」。
〔私憾〕公正ならぬ己れ一個の恨み。○〔左〕「以二其一一一、敗レ國憂レ民」。
〔素憾〕日頃の恨み。○〔唐〕「與レ晏一一」。
〔遲憾〕恨みをむくいて思ふまゝにとゞかす。○〔唐〕「因レ是一レ一」。
〔悲憾〕哀しみ恨む。○〔江淹〕「一一如レ懟」。
〔小憾〕いさゝかなる恨み。○〔張濆〕「室怒一一反目私言」。
〔恚憾〕怒り恨む。○〔徐陵〕「反爲二一一一」。
〔睚眥憾〕目を逆だて睨む程わづかの恨み。○〔曹植〕「和二一一之宿一一」。

【憺】タン、ドン。徒感切　[感]
安からず。○〔楚辭〕「志欲一而不レ憺」。

【㦏】カイ、ケ。丘蓋切　[泰]
むさぼる（貪）。

【懃】ケキ、キヤク。古的切　[錫]
さし、はやし（疾）。

【懊】ケウ。古堯切　[蕭]
さきはひ（幸）。

【懊】ケウ。吉了切　[篠]
誠をもて告ぐ。

【懆】ケキ、キヤク。吉歷切　[錫]
さし、はやし（疾）。

【懀】ワイ、エ。烏會切　[泰]
㊀嫌ひ惡む、きらふ、にくむ。○〔陸雲〕「此君公私並一」。
㊁もだゆ（悶）。○〔岑參〕「衆人一一一、不二爲レ我言一」。

【懀】ワイ、烏快切　[卦]　ワツ、烏括
エ。切　ワチ。切　[曷]
にくむ（憎）。

【懞】ゲフ、ゴフ。魚怯切　[葉]
おそる（懼）、あやぶむ（危）。

【懁】ケン。古縣切　[先]
はやし、きびし（急）。

【懁】クワン、呼關切　[刪]
ゲン。
㊀きびし、きばやし（辨急）。○〔莊〕「順一而達」。
㊁性戾る、もとる。

【懂】トウ、ヅ。多動切　[董]
㊀心亂る、みだる。○〔西湖志餘〕「一一寺

懵-|」。
㊁明かならず、くらし。○〔書[illegible]〕「能描二懵-|山一」。

【懃】キン、ゴン。巨斤切 文
委曲なるを、鄭重なるを、こまやか、ねんごろ。○〔司馬遷〕「意-氣|-|懇-々」。

【懄】キン、ゴン。巨斤切 文
うれふ、(憂)。

【懅】キョ、ゴ。强魚切 魚
其據切 御 ― 俗に懅に作るはあし。

【懆】サウ、ソウ。釆老切 皓
おそる、(怯)、又、はづ、(慙)。○〔後漢〕「慚-|-而退」。

【懆】サウ、ソウ。釆老切 皓
愁ひて安からず。○〔詩〕「念レ子|-|」。

【懆】サン、ソン。七感切 感
慘に通じ用ふ、いたむ。

【懆】サウ、ソウ。先到切 號
㊀むさぼる、(貪)。㊁うごく、(動)。

【懆】サウ、ソウ　倉刀切 豪
うれふ、(愁)。

【懇】コン、ゴン。口很切 阮
㊀信實、まこと、まごころ。○〔吳〕「忠-|-内發」。「々|-|」。
㊁款悃、ねんごろ。○〔司馬遷〕「意-氣懃-|」。
〔懃懇〕まこと、ねんごろ。○〔柳宗元〕「懇-氣|-|」。
〔誠懇〕前に同じ。○〔北〕「或忠-壯|-|」。
〔精懇〕前に同じ。○〔南〕「事レ佛|-|」。
〔悃懇〕前に同じ。○〔吳澄〕「|-|間二安-眠一」。
〔瀆懇〕逝きし後までのまこと。○〔薛逢〕「出-師表上留二|-|一」。

【懈】カイ、ケ。居拜切 卦
おこたる、(怠)。○〔左〕「克レ亂在レ權、子無レ|矣」。
〔勞懈〕つかれおこたる。○〔晉〕「人-情|-|、守-備不レ謹」。
〔雖懈〕背き勉めざること。○〔宋〕「人-情|-|」。
〔淹懈〕とゞこほり怠る。○〔齊〕「更|-|」。
〔倦懈〕やめ怠る。○〔北夢瑣言〕「鮮レ不二|-|一」。
〔墮懈〕くづれ怠る。○〔說苑〕「桓-公身-體|-|」。

【應】イヨウ、オウ。於陵切 蒸
㊀うく、(受)。○〔國〕「其叔-父實|且憎」。
㊁あたる、(當)。○〔淮〕「百-事之變無レ不レ|」。
㊂推し度る意を表すにいふ字、まさに、(先づ讀みて)べし、(返して讀む)。○〔家語〕「罪|レ誅」。
〔算應〕かぞへて其の數に當たる。○〔林逋〕「|-|支-遁馬」。
〔相應〕あひ當たる。○〔史〕「一-言不二|-|一」。

【應】イヨウ、オウ。於證切 徑
㊀こたふ、又、こたへ。
(い)和して起こる、受けて始まる、隨ひて爲す、從ひ附く。○〔易〕「二-氣感-|以相與」。
(ろ)返辭す、いらふ。○〔孟〕「孟-子去レ齊、有下欲二爲レ王留一レ行上者坐而言、不レ|隱レ几而臥」。
㊁他の樂器の音につれてかなづる樂器の名。○〔周〕「擊二|-鼓一」。
㊂天子のまします宮城の正門の名。○〔詩〕「迺立二|-門一」。
〔應答〕こたへあふ。○〔王逢〕「父-老頓-足歔-|-|」。
〔因應〕もとづきこたふ。○〔史〕「虛-無|-|」。
〔嘆應〕さけびこたふ。○〔魏〕「妓二|-|一」。
〔內應〕內部にありて外部のものに附き從ふこと。○〔史〕臣爲二|-|一。
〔響應〕響の聲に從ふが如くに附き從ふ、響は嚮に通じ用ふ。○〔後漢〕「海-內豪-傑、翕-然|-|」。
〔酬應〕挨拶すること。○〔梁〕「|-|如流」。
〔巧應〕たくみにこたふ。○〔亢倉子〕「曲-心|-|、毀-方破-道之材至矣」。
〔呼應〕よびこたふ。○〔傳燈錄〕「低|低|」。
〔敵應〕相對してこたふ。○〔易〕「上-下|-|」。
〔敬應〕つゝしみてこたふ。○〔書〕「敢不二|-|一」。
〔瑞應〕人事につれてめでたきしるしあらはるゝこと。○〔春秋、疏〕「鳳-龍白-虎、並爲二|-|一」。
〔符應〕吉凶のしるしのこたへ。○〔南〕「陳二天-文|-|一」。
〔光應〕明かなるこたへ。○〔漢〕「皆有二|-|一」。
〔福應〕めでたきしるしのこたへあらはるゝこと。○〔蔣防〕「充二|-|一、叶二禎-祥一」。
〔靈應〕くしびなるこたへのあらはるゝこと。○〔後漢〕「地-祇|-|、而朱-草萌-生」。
〔占應〕うらかたの表にあらはれたること。○〔後漢〕「五-行傳-說、及其|-|」。
〔答應〕こたへ。○〔後漢〕「禱二請名-山一、求二獲|-|一」。
〔祥應〕めでたきしるしのこたへあらはるゝこと。○〔後漢〕「|-|時至」。
〔効應〕こたへ、きゝめ。○〔後漢〕「多有二|-|一、帝奇レ之」。
〔感應〕うごきしたがふ。○〔後漢〕「和-氣|-|」。
〔天應〕上帝のこたへ。○〔北〕「|-|人和」。
〔冥應〕佛の加護のしるしのこたへあらはるゝこと。○〔南〕「時人以北有二|-|一」。
〔吉應〕めでたきしるしのこたへあらはるゝこと。○〔北〕「此兒之|-|」。
〔善應〕よきしるしのこたへあらはるゝこと。○〔北〕「此字最爲二|-|一」。
〔昭應〕明かにこたふ。○〔顏淵之〕「晷-緯|-|」。
〔休應〕善良なるしるしのこたへあらはるゝこと。○〔唐〕「武-后以爲二|-|一」。
〔禍應〕災難從ひて起こること。○〔唐〕「言發而|-|」。
〔伺應〕うかゞひこたふ。○〔唐〕「皐-淸|-于|-|內」。
〔報應〕善惡のむくい來ること。○〔唐〕「啓陳二禍-業|-|一」。
〔遷應〕よりかなふ。○〔揚雄〕「有二|-|一、而倚缺焉」。
〔鳴應〕なりこたふ、ならしこたふ。○〔洛陽伽藍記〕「若者金-鈴|-|」。
〔合應〕あひこたふ。○〔班固〕「天-人|-|」。
〔圓應〕つぶらに缺けたる所なく運べて行きわたりてこたへあらはるゝこと。○〔沈約〕「天-德|-|」。
〔心手相應〕心の思ひどほりに手はたらきて兩者の間に少しのさゝはりなきこと。○〔南〕「筆-力勁-駿|-|-|-|」。
〔同聲相應〕おなじき聲は互にこたへあふこと、同時好同主義の者など互にこたへあふことにいふ語。○〔易〕「|-|-|-|、同-氣相求」。
〔山鳴谷應〕山に聲起きて谷のこたへて聲生ずること。○〔蘇軾〕「|-|-|-|、風起水涌」。

【慤】ケイ、カイ。苦計切 霽
㊀つかる、(憊)。㊁うれふ、(憂)。

【慤】キ。馨致切 寘
前條の㊀に同じ。

【慤】カイ、ゲ。口賣切 卦
難んず、はゞむ。

【慤】ケキ、キャク。苦席切 陌
おそる、(怖)。

【懊】アウ、オウ。烏皓切 皓
うらむ、(恨)、又、なやむ、(惱)。○〔韓愈〕「善レ善不二汲々一後レ時徒悔-|」。

【懊】アウ、オウ。烏到切 號
愛恨す、むさぼる、をしむ。○〔晉〕「羲-之嘗詣二門-生家一、見二棐-几滑-淨一、因書レ之、眞-草相半、後爲二其父誤刮一」

去之、門-生驚-―者纍レ日」。

【懋】ボウ、モ。莫候切 宥
㊀つとむ、(勉)。○〔書〕「惟時―哉」。
㊁盛大なり、さかんなり。○〔宋〕「禮-文惟―」。
〔時懋〕勉むること。○〔書〕「惟――哉」。
〔懋懋〕勉むる貌にいふ語。○〔猶〕「―――模-々」。
〔弘懋〕大いにさかんなり。○〔宋〕「德-猷――」。
〔昭懋〕明かにしてさかんなり。○〔宋〕「皐-儀――」。
〔明懋〕前に同じ。○〔顏延之〕「蓍-軫豈――」。
〔邦懋〕國家のさかんなること。○〔顏延之〕「德燭灼ニ――ニ」。
〔肅懋〕つゝしみ勉むる。○〔謝莊〕「――ニ―明-世ニ」。
〔美懋〕太たるはしくさかんなること。○〔江淹〕「――徘徊」。
〔勸懋〕つとむ。○〔獨孤及〕「或―或―」。
〔力懋〕前に同じ。○〔獨孤及〕「―ニ―于道ニ」。

【懌】エキ、ヤク。羊益切 陌
よろこぶ、よろこび、(悅)。○〔書〕「則予一人以―」。
〔和懌〕やはらぎよろこぶ。○〔杜甫〕「或温-々以――」。
〔娛懌〕樂しみよろこぶ。○〔書〕「―ニ―其心ニ」。
〔爽懌〕盛によろこぶ。○〔易林〕「欣喜――」。
〔悅懌〕よろこぶ。○〔詩〕「―ニ―女美ニ」。
〔怡懌〕前に同じ。○〔成公綏〕「心――而蹈躍兮」。
〔喜懌〕前に同じ。○〔雷順之〕「每ニ得ニ異-書ニ心――」。
〔悅懌〕前に同じ。○〔韋應物〕「保ニ宮寡ニ――ニ」。
〔流懌〕なめらかにして滯らざるさまのよろこぶべきこと。○〔法書要錄〕「筆-迹――」。
〔闓懌〕よろこぶ。○〔封禪文〕「昆-蟲――」。
〔欣懌〕前に同じ。○〔劉基〕「羣-臣莫レ不ニ――ニ」。

【懍】リン。力稔切 寢
おそる。
(い)おづ、(恐)。○〔陸機〕「心―――以懍レ霜」。
(ろ)つゝしむ、(敬)。○〔潘岳〕「孰不ニ祇――ニ」。
(は)あやぶむ、(危)。○〔漢〕「直爲ニ此―――ニ」。
〔危懍〕あやぶみ畏る。○〔劉克莊〕「客見輒――」。

【懍】ラン、ロン。盧感切 感
㊀いたむ、(痛)。○〔嵇康〕「懍レ戚者聞レ之莫レ不ニ懵―愀-愴傷レ心」。
㊁くるしむ、(困)。○〔揚雄〕「下陰-潛以慘――兮」。
㊂さむし、(寒-凉)。○〔熊鉌〕「使ニ我毛-髮―ニ」。

【懍】キン、ゴン。巨禁切 沁
おづ、(怯)。

【懥】懫の本字。

【懎】ショク、シキ。所力切 職
うらむ、(恨)。

【懏】シュン。祖峻切 震
さとし、(慧)。

【㦗】ゼウ、子ウ。人嬌切 篠
さほし、(遠)。

十四畫

【懢】タン、ダン。土緩切 旱
心惽し、くらし。

【懓】アイ、エ。於蓋切 泰
つゝしむ、(謹)。

【懫】ヒン。匹民切 眞
㊀つゝしむ、うやまふ、(敬)。㊁心伏す、志たがふ。

【懕】エン、オン。於鹽切 鹽
やすし、(安)。

【懕】エン、オン。於豔切 豔
たる、あく、(足)。

【懕】エフ、オフ。益渉切 葉
心に可さす、よみす、ゆるす。

【懖】カツ、カチ。古活切 曷
善く自家の意見の如くに處置す、善く自ら用ふ。

【辧】ヘン、ベン。方沔切 銑
㊀うれふ、(憂)。㊁いそぐ、(急)。

【㥮】コン、ゴン。戸昆切 元
もだゆ、(悶)。

【懗】カ、ケ。呼嫁切 禡
たぶらかす、あざむく、(誑)。

【懘】セイ、サイ。尺制切　テイ。丑例切　霽　シ。尺氏切 紙　尺里切 寘
音敗れて和せず。○〔禮〕「五者不レ亂、無ニ怗―之音ニ」。

【懙】ヨ。余呂切 語　羊諸切 魚
趨歩の安舒なる貌にいふ字、やすらか、又、うやうやし、つゝしむ、(恭-敬)。○〔韓愈〕「―――江-南-子」。

【懙】前條に同じ。○〔漢〕「長-倩―――」。

【㦜】クワク、ワク。黄郭切 藥
心動く、むなさわぎす、又、おどろく、(驚)、一説に、遽て視る、あわつ。○〔王禹偁〕「合-家屢驚―」。

【[illegible]】レフ。力協切 葉
輕薄の貌にいふ字、かろぐし。

【懚】イン、オン。於靳切 問
人に依る、よる、たよる。

【[illegible]】ベン、メン。民堅切 先
わする、(忘)。

【懛】タイ。丁來切 灰
―-獃は、失意の貌にいふ語。

【懜】ボウ、モウ。母亙切 徑
明かならず、くらし、一説に、もだゆ、(悶)。○〔吳師道〕「積-毒根ニ胃-腸、標-表發ニ昏―ニ」。

【懜】ボウ、モ。莫鳳切 送
くらし、(惛)。

【懵】ボウ、モ。母總切 董
くらし、(闇)、一説に、心亂る、みだる。

【懞】ボウ、モ。莫紅切 東
無知の貌にいふ字、おろか、一説に、は

づ、(悊)。

【懝】ガイ。牛代切 隊
おごろく、(駭)、一説に、あわつ、おそろ、(惶)。

【懝】キ、ギ。偶起切 紙
はかる、(度)。

【懝】ギヨク、ゲキ。鄂力切 職
小兒の知あるにいふ字、さとし。

【懞】ボウ、モ。謨逢切 東
愨厚の貌にいふ字、あつし。

【懟】ツヰ、チ。直類切 寘 タイ、ダイ。徒隊切 隊
うらむ、うらみ、(怨)。○〔左〕「以死誰―」。
(怨懟) うらむ。○〔漢〕「商私――」。
(怒懟) 怒りうらむ。○〔宋〕「褌――有ニ怨言ニ」。
(困懟) 苦しみうらむ。○〔淮〕「侏儒瞽師、人之――者也」。
(讐懟) うらむ。○〔史〕「儉而不ニ――ニ」。

【懠】セイ、サイ。前西切 齊
いかる、(怒)、一説に、うたがふ、(疑)。○〔詩〕「天之方―」。

【懠】シ、ジ。才資切 支
いかる、(怒)。

【懠】セイ、ザイ。才詣切 霽
いかる、(怒)、一説に、うれふ、(愁)、やむ、(疾)。

【懡】バ、マ。亡果切 哿
―㦬は、はづ、(慚)。

【〓】井。以醉切 寘
わする、(忘)。

【〓】エイ、ヤウ。烏定切 徑
忊――は、うらむ、(恨)。

【懢】ラン、ロン。魯甘切 覃
たしなむ、(嗜)。

【懢】カン、ゲン。戸黤切 豏
すこやか、(健)。

【懢】ラン、ロン。盧瞰切 勘
むさぼる、(貪)。

【〓】バク、マク。莫角切 覺
うろはし、よし、(美)。

【懣】ボン、モン。莫困切 願 模本切 阮 バン、マン。母伴切 旱
煩悶す、もだゆ、わづらふ、もだえ、わづらひ。○〔禮〕「志―氣盛」。
(憂懣) 物事を案じわづらふ。○〔漢〕「王――畱ニ酒萬·蔵宮ニ」。
(憤懣) わづらひ、もだえ。○〔司馬遷〕「不レ得レ舒ニ――ニ」。
(懼懣) 畏れわづらふ。○〔後漢〕「内懷ニ――ニ」。
(煩懣) もだゆ。○〔魏〕「胸中――」。
(悗懣) いたみもだゆ。○〔魏〕「肥染已陷、聞レ之――」「流涕」。
(悲懣) かなしみもだゆ。○〔唐〕「帝――、拊レ之」。
(〓懣) 煩悶の心をあまた超こすと。○論衡「草木之中、有ニ巴豆野葛ニ、食レ之――、頗多殺レ人」。
(喘懣) あへぎてもだゆ。○〔避暑錄話〕「――頃刻」。
(悶懣) もだゆ、わづらふ。○〔賈誼〕「羣生――而愁·傷」。
(〓懣) 心を動かしわづらふ。○〔王褒〕「是以刺史「――轉·披·讀」。
(勦懣) 物事を爲すに倦みわづらふ。○〔司馬光〕「―――思固淺」。
(懣々) 悶えわづらふ貌にいふ語。○〔陸游〕「胸次――」。
(怒懣) 怒へふ。○〔沈承樸〕「――辟·懺」。
(煩懣) 疲れわづらふ。○〔洪希文〕「桃笙寄ニ――ニ」。

【〓】デイ、ナイ。乃禮切 薺
心弱し、よわし。

【懤】チウ、ヂユ。直由切 尤 文九切 有 直祐切 宥
うれふ、(愁)、いたむ、(毒)。○〔王褒〕「決莽兮究レ志、懼ニ吾心ニ兮――」。

【懤】タウ、ドウ。都老切 皓
うれふ、(憂)。

【懥】チ。陟利切 シ。脂利切 寘
いかる、(怒)。○〔大〕「身有レ所ニ忿――ニ」。

【〓】バイ、マイ。莫皆切 佳
さとし、(慧)。

【懦】ジユ、ニユ。人朱切 虞 ゼン、子ン。乳兗切 銑 ダン、ナン。奴亂切 翰 ダ、ナ。奴臥切 箇
駑くして弱し、よわし。○〔漢〕「善屬レ文、然―ニ於武ニ」。
(畏懦) よわし。〔漢〕「以ニ――ニ棄市」。
(柔懦) 性やはらかにしてよわし。○〔國史補〕「多智――」「―」。
(孱懦) めゝしくよわし。○〔北齊〕「文宣性――」。
(幼懦) いはけなくよわし。○〔五〕「隆·演――、不レ能ニ自持ニ」。
(怯懦) よわし。○〔韓〕「――而不レ畫」。
(罷懦) 疲れてよわし。○〔宋〕「秉坐ニ――、降知ニ隨州ニ」。
(冗懦) むだ多くして且よわし。○〔金〕「兵將――」。
(偸懦) かりそめにしてよわし。○〔宋〕「發舌之事、則――轉脱」。
(軟弱) よわし。○〔劉融〕「柔者失ニ于――ニ」。
(衰懦) 窮乏しくよわし。○〔杜甫〕「夫何激ニ――ニ」。
(庸懦) 才智尋常にしてよわし。○〔韓愈〕「與ニ潤澁ニ――ニ」。
(退懦) ひかへめにしてよわし。○〔歐陽修〕「心志亦――」。
(老懦) 年多く重なりてよわし。○〔晉書〕「――者罷而去レ之」。
(淺懦) あさはかにしてよわし。○〔陸游〕「文辭簡ニ――ニ」。
(起懦) 弱き者の氣を引き立つ。○吳萊「聞レ風猶「―」―」。
(後懦) 人なみにおくれてよわし。○〔劉基〕「拒·捕斥ニ――ニ」。

【〓】慟に同じ。

【憯】サン、ソン。七感切 感
㊀いたむ、いたみ、(痛)。○〔詩〕「胡―莫レ懲」。㊁かつて、(曾)。○〔詩〕「―不レ畏レ明」。
(煩憯) わづらはしくいたむ。○〔漢〕「法令――」。
(刻憯) きびしくいたむ。○〔韓愈〕「雪霜―以―」。
(憯々) いたましくある貌にいふ語。○〔詩〕「――日瘁」。
(甚憯) いみじくいたましく思ふ。○〔漢〕「朕――焉」。
(毀憯) はげしくいたむ。○〔春秋繁露〕「因欲ニ大――ニ」。

【憯】セン。此忝切 琰
前條の㊁に同じ。

【〓】ボク。卜則切 職

倉を設く。

【懧】懦に同じ。○〔戰〕「懦二於憂一而性―愚」。

【腮】リウ、ル。頁秀切 宥 玩溫を重ぬ、復習す、たづぬ、さらふ。

【勰】勰に同じ

十五畫

【懩】ヤウ。以兩切 養 心の欲する所、ねがひ、のぞみ。○〔潘岳〕「徒心煩而技―」。

【懪】バク、ボク。蒲角切 覺 もだゆ、(悶)。○〔盧肇〕「固無二驚―一」。

【⿰忄閭】リヨ、ロ。凌如切 魚 うれふ、(憂)。

【⿰忄察】サツ、セチ。初戞切 黠 あきらか、(察)。

【懫】シ。脂利切 寘 いかりもとろ、(忿戾)。○〔書〕「有夏之民叨―日欽」。

【懥】ヂ。陟利切 寘 シツ、職日切 質 とゞまる、とゞむ、(止)。

【懅】チヨ、ト。楮御切 御 うれふ、(憂)。

【懬】カウ。苦謗切 漾 ㊀ひろし、(廣)、おほいなり、(大)。㊁むなし、(虛)。○〔漢〕「泬寥懬久―」。㊂懭に同じ、うらむ。

【懬】カウ。苦朗切 養 前條の㊀に同じ。

【懭】カウ。苦曠切 漾 苦晃切 養 うらむ、(恨)。

【懭】カウ、キヤウ。古猛切 梗 たけし、あらし、(悍)。

【懆】サウ、ソウ。先到切 號 おろそか、(性疏)。

【⿰忄樂】ラク。歷各切 藥 たのしむ、(娛)。

【懮】イウ、ウ。於九切 有 舒遲の貌にいふ字、ものづか、おそし。○〔詩〕「舒―受兮」。

【懮】イウ、ウ。於求切 尤 憂に通じ作る。○〔楚辭〕「傷二余心一之―」。

【⿱黎心】リ。郎尸切 支 レイ、憐題切 齊 うらむ、(恨)、一説に、おこたる、(怠)。

【懯】フ、ホ。芳無切 虞 懯―は、急速の貌にいふ字、すみやか。○〔列〕「嘽咺懯―」。

【⿰忄厲】ラツ、ラチ。郎達切 曷 あし、(惡)。

【⿰忄厲】レイ、ライ。力制切 霽 おどろく、(驚)。

【⿰忄罵】デイ、ナイ。奴計切 霽 ――摩は、なづする。

【懰】リウ、ル。力求切 尤 憂ふる貌にいふ字、一説に、うらむ、(怨)。

【懰】リウ、ル。力九切 有 かほよし、よし、(好)。

【懱】ベツ、メチ。莫結切 屑 かろんず、あなどる、(輕易)。

【懲】チヨウ、ヂヨウ。持陵切 蒸 ㊀悔みて自ら戒む、こる。○〔易〕「小―而大誡」。㊁自ら悔戒せしむ、こらす。○〔詩〕「荊舒是―」。
(勸懲) 善きものをすゝめ惡しきものをこらす。○〔晉書〕「―・―以勉二其追一」。
(罰懲) 罪しこらす。○〔書〕「―・―非レ死」。
(刑懲) 前に同じ。○〔晉〕「―・―二小人一」。
(加懲) 罪にあて行ふと、こらすと。○〔舊唐〕「陛下不レ忍レ―・―」。
(褒懲) 善良なる者を賞め邪惡なる者をこらす。○〔唐〕「明二枉直一、以顯二―・―一」。
(科懲) 罪をあてがひこらす。○〔韓愈〕「必重―・―」。

【⿰忄眞】キヨク、ケキ。許極切 職 瞋怒の貌にいふ字、いきどほる。

【⿰忄節】セツ、セチ。子列切 屑 心にて度す、はかる、一説に、さもしび のもえさし、(燭餘)。

【懕】エン。伊閻切 鹽 犬肉を甘しとし好む、又、心の足るなき貌にいふ字。

【⿱撮心】サツ、サチ。倉括切 曷 とる、(取)。

【⿱劉心】リウ、ル。力求切 尤 意を定む。

十六畫

【⿱衛心】エイ、エ。于劌切 霽 寢言の慧かならざるを、ねごと。

【⿱衛心】ゲイ、ガイ。魚祭切 霽 エイ、エ。于外切 泰 エツ、エチ。乙劣切 屑 睡中の言、ねごと。

【懂】トウ、ヅ。多動切 董 心亂る、みだる。○〔西湖志錄〕「一時懵―」。

【⿱貌心】バク、モク。莫角切 覺 ㊀懇の本字。㊁しのぐ、(陵)。

【⿰忄歷】レキ、リヤク。郎狄切 錫 心に營む、いとなむ。

【懿】イ。乙冀切 寘 專一にして美なり、うつくし、うるはし、よし。○〔詩〕「我求二―德一」。

【⿰忄舉】キヨ、ゴ。居許切 語

つゝしむ、(謹)。

【懵】 懜に同じ。

【懁】 ケン、クワン。許元切 元
さささろ、ささし。

【㦥】 ケン、コン。許偃切 阮
うらむ、(恨)。

【憪】 カク、キヤク。郝格切 陌
ー虩は、はづ、はぢ、(慙)。

【懶】 ラン、落旱切 旱
㊀勵み勉めず、氣力緩む、おこたる、氣力乏し、ものうし。○〔南〕「少ー二學問一」。
㊁ふす、(臥)。○〔柳貫〕「借二得小-窓一容二吾ー一、五-更高レ枕聽二春-雷一」。
〔殘懶〕事をやめ怠る。○〔春渚紀聞〕「近-者百-事ー・ー」。「ー・ー」。
〔困懶〕苦しみてものうし。○〔癸辛雜識〕「病レ酒而
〔酷懶〕甚だものうし。○〔江淹〕「ーーレ作レ書」。
〔老懶〕年よりてものうし。○〔韓愈〕「ー・ー無レ關レ心」。
〔放懶〕物事やりばなしにして怠る。○〔白居易〕「怕レ寒ー・ー日高-臥」。
〔力懶〕ちから衰へて事をなすに怠る。○〔歐陽修〕「心衰ーー難二勉-強一」。
〔嬉懶〕なまめき怠る。○〔胡天游〕「ー・ー却嫌二ー・ー一」。

【懶】 ライ。落蓋切 泰
にくむ、(嫌-惡)。

【懷】 クワイ、エ。戸乖切 佳
㊀念ひ思ふ、おもふ。○〔詩〕「有レ女ーレ春」。
㊁いたむ、(傷)。○〔詩〕「願言則ー」。
㊂なつく。
(い)親しみ歸す、おもむく。○〔書〕「黎-民ーレ之」。
(ろ)親しみ歸せしむ、なつかす。○〔論〕「少者ーレ之」。
㊃きたる、(來)。○〔詩〕「曷又ー止」。
㊄きたらしむ、きたす。○〔詩〕「ー二柔百-神一」。
㊅やすし、やすんず、(安)。○〔詩〕「ー哉ー哉」。
㊆いだく、だく
(い)かぬ、四邊を包む、つゝむ。○〔書〕「蕩-々ーレ山襄レ陵」。
(ろ)むねに持つ、ふところに持つ。○〔屈平〕「ーレ瑾握レ瑜」。
㊇かくす。
(い)衣中に入る。○〔禮〕「賜二果君-前一其有レ核者ー二其核一」。
(ろ)包み藏む。○〔論〕「ー二其寶一而迷二其邦一」。
㊈衣襟と胸との間、ふところ。○〔論〕「然後免二於父-母之ー一」。
㊉胸臆、こゝろ、おもひ、むね。○〔韓愈〕「豈無レ介二然於ー一乎」。
⑪わたくし、(私)。○〔詩〕「每ー靡レ及」。
⑫いたる。
(い)止まる。○〔詩〕「有レー二于衞一」。
(ろ)極まる。○〔詩〕「ー允不レ忘」。
⑬ねぢけたるを、よこしまなるを、佞 ○〔淮〕「不レ知而辨-慧-ー給」。
〔榮懷〕さかえてやすし。○〔書〕「邦之ー・ー、亦尙一-人之慶」。
〔常懷〕きまりたるこゝろ。○〔書〕「民罔二ー・ー一」。
〔孔懷〕甚だ思ふ。○〔詩〕「兄-弟ー・ー」。
〔善懷〕感情にさときこと。○〔詩〕「女-子ー・ー、亦各有レ行」。
〔威懷〕嚴しくして畏るべきこと惠みありてなつくべきこと。○〔左〕「非レー非レー、何以示レ德」。
〔胸懷〕むね、おもひ。○〔南〕「人-生不レ得レ行二ー・ー一」。
〔顧懷〕心を寄せ思ふ。○〔揚雄〕「覽二四-荒-而ー・ー兮」。
〔披懷〕胸襟を開く、誠心をあらはすこと。○〔辯亡論〕「ーレー虛レ己、納二謨-士之算一」。
〔幽懷〕心の底に深く蓄へもてる思ひ。○〔吳〕、曠-載暢二ー・ー一。
〔壯懷〕元氣のみちたる思ひ。○〔韓愈〕「風-雲入二ー・ー一」。
〔狂懷〕物くるはしく正しきを失なへる思ひ。○〔孟郊〕「勿レ使レ恣二ー・ー一」。
〔顧懷〕招き來たす。○〔書〕「ー二ー玆新-邑一」。
〔堅懷〕心を歸せ慕ふ。○〔左〕「小-國所三ー而ー一也」。
〔依懷〕賴みなつく。○〔國〕「民-神ー・ー」。
〔傷懷〕心の中に痛みかなしむ。○〔史〕「慷慨ーレー」。
〔歸懷〕從ひなつく。○〔後漢〕「海-內ー・ー」。
〔招懷〕呼びきたす。○〔後漢〕「ー・ー降-附、旬月皆平」。
〔包懷〕(い)つゝむ、かくす。○〔晉〕「ー二ー揚越一」。
(ろ)心の思ひをかくす。○〔李翺〕「ー二深-ー一而告レ誰」。
〔勞懷〕つかれたる思ひ。○〔南〕「甚慰二ー・ー一」。
〔酸懷〕思ひを痛ましむること。○〔南〕「爲レ之ーレー」。
〔推懷〕心の誠をおし及ぼす。○〔南〕「ーレー投レ款」。
〔關懷〕心にかく。○〔南〕「理レ人聽レ訟、不二復ーレー」。
〔介懷〕前に同じ。○〔南〕「皆盡不二以ー・ー一」。
〔款懷〕誠實の心。○〔南〕「忠-貞ー・ー待-物」。
〔綏懷〕安んず。○〔唐〕「ー二ー十-庶一」。
〔說懷〕喜びなつく、よろこびきたる。○〔司馬法〕「諸-侯ー・ー」。
〔遠懷〕遠に隔たりたる者慕ひなつく。○〔淮〕「ー者ー二其德一」。
〔懌懷〕心に悅ぶ。○〔文心雕龍〕「慢-老以ーレー」。
〔詠懷〕心の思ふ所を詩歌にあらはす。○〔鍾嶸〕「阮-籍ーレー」。
〔寓懷〕思ひを寄す。○〔伊洛淵源錄〕「ー二ー塵-埃之外一」。
〔寤懷〕目さめておもふ。○〔楚辭〕「惟極レ而兮ー・ー」。
〔獨懷〕ひとり心の中に戀ひおもふ。○〔九章〕「惟佳-人之ー・ー兮」。
〔憂懷〕物事を案じ思ふこゝろ。○〔王逸〕「ー・ー感-結重-歎-噫」。
〔深懷〕いたく思ふ。○〔張衡〕「私湛レ憂而ー・ー兮」。
〔殷懷〕盛んなる思ひ。○〔陳琳〕「ー・ー從レ中發」。
〔悲懷〕哀しみ思ふ。○〔劉楨〕「秋日多ー・ー」。
〔安懷〕やすんず、なつく。○〔陸機〕「弭レ節ーレー」。
〔空懷〕一物も蓄へ居らざるこゝろ。○〔文獻〕「故時撫二ー・ー一而自悅」。
〔肝懷〕心といふに同じ。○〔陸雲〕「痛切二ー・ー一」。
〔瓊懷〕玉の如く美しき心。○〔陸雲〕「ー・ー皎其如レ玉」。
〔煩懷〕うるさき思ひ。○〔支遁〕、冷-風解二ー・ー一。
〔負懷〕心の期する所にあてはまる。○〔陶潛〕「常恐レーレ所レー」。
〔好懷〕善良なる思ひ。○〔陶潛〕「田-父有二ー・ー一」。
〔奇懷〕くすしき思ひ。○〔范成大〕「獄-伯有二ー・ー一」。
〔慰懷〕心をやる。○〔陶潛〕「何以ー二吾ー一」。
〔中懷〕心といふに同じ。○〔陶潛〕、念レ之動二ー・ー一。
〔短懷〕氣のみじかきこと。○〔沈約〕「抱二局-促之ー・ー一」。
〔器懷〕心といふに同じ。○〔江淹〕「ー・ー明亮」。
〔素懷〕日頃の考へ。○〔蘇軾〕「訪レ君闊二ー・ー一」。
〔雅懷〕みやびなる思ひ、又、前條に同じ。○〔李白〕「不レ有二佳-作一、何申二ー・ー一」。
〔曠懷〕思ひをひろむ、又、ひろき思ひ。○〔杜甫〕「ーレー掃二氛-翳一」。
〔高懷〕けだかく優れたる心。○〔杜甫〕「ー・ー見二物-理一」。
〔虛懷〕公平にしてわだかまりの無き心。○〔杜甫〕「ー・ー只愛レ才」。
〔舊懷〕先時よりの思ひ。○〔杜甫〕「竊-迫撼二ー・ー一」。
〔卷懷〕退き藏めて技能をあらはさゞること。○〔李德裕〕「稱二ー・ー一而善遜」。
〔悶懷〕もだえ煩ふ思ひ。○〔韓愈〕「ー・ー空抑-噫」。
〔強懷〕つよく張りつめたる心。○〔韓愈〕「ー・ー張不レ滿」。
〔疑懷〕迷ひ思ふ心。○〔孟郊〕「ー・ー無レ所レ憑」。
〔孤懷〕たよる所なき心。○〔孟郊〕「聊用散二ー・ー一」。
〔苦懷〕つらき思ひ。○〔劉禹錫〕「相思之ー・ー、膠結贅-聚」。
〔晚懷〕年老いたる時の思ひ。○〔劉禹錫〕「ー・ー生二道-機一」。

（疎懷）世事にうときこゝろ。○〔韋應物〕「一一一脱二塵喧一」。
（泊懷）世事にあさくして煩はされざるこゝろ。○〔韋應物〕「一一遺二滯想一」。
（恩懷）惠みのこゝろあること。○〔歐陽詹〕「太守一一多」。
（耿懷）憂へのこゝろ。○〔鄭谷〕「一一吟得贈二君詩一」。
（潛懷）人知れず思ふ。○〔姚鵠〕「永歎一一似二轉蓬一」。
（鄙懷）卑しき思ひ、即ち我が心のことを謙遜していふ語。○〔蘇舜欽〕「一一實所レ望」。
（傾懷）心を寄せ思ふ。○〔蘇轍〕「相對一レ一」。
（坐懷）何となく思ふ。○〔陸游〕「一一江湖闊」。
（肺懷）まごゝろ。○〔惠洪〕「臨レ事見二一一一」。
（塵懷）穢れたるこゝろ。○〔宋光鈞〕「一一爲二蕭灑一」。

【懈】カイ、ゲ。下介切　卦
はかる、おもふ（忖度）。

【⿱解心】カイ、ゲ。下介切　卦
うらむ（恨）、一説に、心を傾く、又、斷行す、はたす、果敢。

【⿰忄龍】ロウ、ル。魯孔切　董　盧貢切　送　盧東切　東
もとる（戾）。

【⿱龍心】ロウ、ル。盧東切　東
遽惶の貌にいふ字、あわつ。

【懸】ケン、ゲン。胡涓切　先
かく、又、かゝる。
（い）繫ぎ下ぐ、又、繫がり下がる。○〔後漢〕「以二朽索一一二萬斤石于心上一」。
（ろ）つなぎ屬す、又、つながり著く。○〔荀〕「不レ足三以一二天下一」。
（は）抗げ掲ぐ、又、掲げらる。○〔後漢〕「鳳不レ藏レ羽、網羅高一」。
（に）遠きに行る、又、遠く隔たる。○〔張珪廷〕「罷二金甲之一軍一」。
（倒懸）からだをさかさまにつり上げられたること、又、さかさにかく、さかさにかゝる。○〔孟〕「民之悅レ之猶レ解二倒一一也」。
（孤懸）たゞひとりかゝること。○〔李程〕「清影一一」。
（天懸）そらよりたれさがること。○〔世說〕「絹縋一一」。
（餌懸）ゑさにつながること。○〔李賀〕「一一春蜥蜴」。
（憂懸）うれひ心につながる。○〔王獻之〕「深令二人一一一耶」。
（窮懸）土地のゆきつまりてがけなどのけはしきこと。○〔謝靈運〕「左右一一」。
（灼懸）あきらかに高くかゝる。○〔王融〕「匪レ日匪レ月、一以一」。
（縣懸）つらなりかゝる、つなぎかく。○〔李常〕「縣二河漢一兮一一」。
（下懸）かけさぐ、かゝりさがる。○〔揚弘貞〕「孤光一一」。
（巖懸）いはは垂れ下がる。○〔庾信〕「石險松橫植一一一」。
（危懸）あぶなげに垂れ下がる。○〔庾信〕「松桂一一一」。
（疎懸）まばらに垂れ下がる。○〔江總〕「對二水晉之一一一」。
（釣懸）釣り下がる。○〔包何〕「一一新月吐」。
（浮懸）基をすゑずに垂れ下がる。○〔梁簡文帝〕「四柱一二一九城靈架一」。

十七畫

【⿰忄鮮】セン、ゼン。息淺切　銑
はづ（慚）。

【懹】ジヤウ、ナウ。人樣切　漾
はゞかる（憚）。

【懺】サン、セン。楚鑑切　陷
悔いたる意中を陳ぶ、くゆ。○〔晉〕「愕然愧一」。

【懚】イン、オン。倚謹切　吻
憂ひ病む、やむ、又、かなしむ（哀）。

【懠】セイ、サイ。牋西切　齊
うたがふ（疑）。

【⿰忄營】エイ、ヤウ。余傾切　庚
まもる（衛）。

【懻】キ。几利切　寘
つよし（强）、又、もとる（戾）。○〔史〕「人民矜二一忮一、好レ氣任俠爲レ姦」。

【⿰忄暴】ヒ、ビ。鋪畏切　未
力を用ひて極まる、つかる。

十八畫

【懼】ク、ゴ。其遇切　遇　權俱切　虞
㊀おそる、又、おそれ。
（い）おじけ沮む。○〔漢〕「安世瘦一一、形二於顏色一」。
（ろ）危む。○〔唐〕「令下秦齊二一王教與二詔勅一雜行上、內外一一莫レ知レ所レ從」。
（は）戒む、敬む。○〔論〕「必也臨レ事而一、好レ謀而成者也」。
（に）をのゝく、わなゝく。○〔莊〕「木處則惴慄恂一」。
（ほ）憚かる。○〔唐〕「君側之人、衆所レ一、所謂鷹頭之蠅、廟垣之鼠也」。
㊁おそれしむ、おそらす、おどす。○〔後漢〕「逼二一帝卿貴戚一」。
（外懼）外國に對するおそれ。○〔左〕「盍三釋レ楚以爲二外一一乎」。
（恐懼）おそる。○〔禮〕「一二一乎其所レ不レ聞」。
（惕懼）前に同じ。○〔易、疏〕「怛惕一一」。
（悚懼）前に同じ。○〔晉、疏〕「蹙々然一一」。
（怖懼）前に同じ。○〔陳情表〕「臣不レ勝二犬馬一一之情一」。
（畏懼）前に同じ。○〔戰〕「富貴則親戚一一」。
（讋懼）前に同じ。○〔舊唐〕「僚吏皆望レ風一一」。
（怕懼）前に同じ。○〔薛能〕「婚養翠娥無二一一一」。
（疑懼）うたがひあやぶむこと。○〔易、註〕「進退一一」。
（猜懼）前に同じ。○〔周書〕「上下一一」。
（警懼）いましめおそる、いましむ。○〔易、註〕「錯然者一一之貌」。
（戒懼）前に同じ。○〔左〕「百官于是乎、一一而不三敢易二紀律一」。
（危懼）あやぶむ。○〔晉〕「慄々一一」。
（驚懼）おどろきおそる。○〔易、疏〕「莫レ不二一一一」。
（駭懼）前に同じ。○〔劉琨〕「城塢一一」。
（敬懼）つゝしむ。○〔禮、傳〕「不レ可レ不二一一一」。
（從懼）身をそばだておそる。○〔左〕「大夫聞レ之、無レ不二一一一」。
（悼懼）いたみおそる。○〔韓〕「而一一者良也」。
（震懼）ふるひおそる、をのゝく。○〔後漢〕「王莽素聞二其名一、大一一」。
（戰懼）前に同じ。○〔西征賦〕「心一一以競悚」。
（嗟懼）なげきおそる。○〔後漢〕「海內一一」。
（愧懼）心にはぢおそる。○〔舊唐〕「犯者一一」。
（懸懼）前に同じ。○〔錢珝〕「方懷二一一一」。
（覰懼）前に同じ。○〔上官儀〕「一一在レ躬」。
（恥懼）前に同じ。○〔柳宗元〕「其或少知二一一一」。

【⿰忄巂】ケイ、ケ。戶圭切　齊
二心有ること、ふたごゝろ。

【⿰忄爵】セウ。子肖切　嘯
性急なり、きびし、きばやし。

【⿰忄夒】ダウ、ノウ。奴刀切　豪
おそる（劣）。

【⿰忄蟲】悚に同じ。○〔楚辭〕「極二勞心一兮一一一」。

【懽】クワン。呼官切 寒

㊀歡に同じ。○〔孝經〕「得二萬國之懽心一」。
㊁憂へて告ぐる方なき貌にいふ字。

【懽】クワン。古玩切 翰

うれふ、（憂）。

【懾】セフ。之涉切 葉

㊀驚きて氣力を失す、心屈伏す、おづ、おそる。○〔荀〕「憂則挫而懾」。
㊁おそれしむ、おどす。○〔淮〕「威動二天地一、聲懾二海內一」。

（震懾）身をふるはしおそる、又おそらす。○〔後漢〕「後宮無レ不二震懾一」。
（沮懾）くじけおそる。○〔宋〕「無二一毫沮懾一」。
（挫懾）前に同じ。○〔荀〕「憂則挫而懾」。
（怯懾）おぢけおそる。○〔陸龜蒙〕「怯懾不レ敢前」。
（憂懾）なげきおそる。○〔呂氏春秋〕「貧無二衣食一、而不二憂懾一」。
（惕懾）おそる。○〔沈遼〕「守臣方惕懾」。

【㦗】シヨウ、ソウ。息拱切 腫

サウ、ソウ。所江切 江

悚に同じ、おそる、おどす。○〔漢〕「㦗之以行」。｜一に、聳に作る

【懿】懿に同じ。

十九畫

【攢】サツ、サチ。子末切 曷

おこたる、（慢-怠）。

【㦣】セフ。悉協切 葉

㦣｜は、志輕し、かろし、かろぐくし。

【戀】レン。力卷切 霰

慕ひ思ふて忘るゝ能はず、ぉたふ、おもふ、こふ、こひ。○〔後漢〕「兄弟相戀」。

（眷戀）おもふ。○〔晉〕「哀悲眷戀」。
（顧戀）前に同じ。○〔後漢〕「眷二戀其老小一」。
（睠戀）前に同じ。○〔薛存誠〕「睠戀不レ知レ廻」。
（思戀）前に同じ。○〔水經註〕「思二戀本國一」。
（仰戀）上にたつ者を慕ふ。○〔晉〕「仰二戀天恩一」。
（追戀）其の人の去りたる後又は死にしあとにておもひ志たふ。○〔北〕「爲二百姓所二追戀一」。
（悲戀）かなしみ志たふ。○〔沸佳子〕「復是增悲戀之心一」。
（棲戀）前に同じ。○〔沈炯〕「伏增二棲戀一」。
（悵戀）前に同じ。○〔宋祁〕「弭節不レ妨二饒悵戀一」。「能矣」。
（繫戀）こひするヽと。○〔易集解〕「小人繫戀必不レ能矣」。
（愛戀）前に同じ。○〔曹植〕「沈吟有二愛戀一」。
（情戀）こひ、○〔蔡琰〕「去々割二情戀一」。

【戁】ダン、乃版切 潸　ゼン、人善切 銑
ナン。切　子ン。切

つゝしむ、（敬）、おそる、（懼）。○〔詩〕「不レ戁不レ悚」。

【㦬】ラ。來可切 哿

㦬｜は、はづ、（慚）、又、もの少くさびしき貌にいふ字。○〔揚萬里〕「人烟㦬㦬不レ成レ村」。

【㦹】ビ、ミ　忙皮切 支

ちる、あらく、（散）。

【𢡟】バ、マ。眉波切 歌

心病む、わづらふ。

【愿】ゲン、グワン。魚怨切 願

いたゞき、（顚）。

二十畫

【戃】惝に同じ。

【𢢽】カク、キヤク。許縛切 藥

㊀おどろく、（驚）、一說に、遽て視る。
㊁諦かに視る。

【戄】アク。欝縛切 藥

あわつ、（遽）。○〔史〕「晏子戄然攝二衣冠一謝」。

廿一畫

【戇】俗の戇の字。

【𢥞】トン、ドン。他衮切 阮

｜懷は、明かならず、くらし。

廿四畫

【㦭】レイ、リヤウ。郎丁切 青

心の了黠なる貌にいふ字、さとし、こざかし、かしこし。

【戇】タウ、トウ。陟降切 江　コウ、グ。
チヨウ、チユ。丑用切 宋
胡貢切 送

カン、コン。呼紺切 勘

正直にして才智鈍きこと、おろか。○〔史〕「甚矣汲黯之戇也」。

【戅】コウ、ク。呼孔切 董

心神の恍惚なる貌にいふ字、ほる、きぬけす。

廿五畫

【𢦏】ベン、メン。免員切 先

おそる、（恐）。

戈部

【戈】クワ。古禾切 歌

㊀刺し擣き又は鉤け引くに用ふる一種の兵器、枝ある刃に長き柄をすげたるもの、ほこ。○〔書〕「執レ戈而上レ刃」。
㊁兵戰、いくさ、たゝかひ。○〔戰〕「欲二以解一レ戈」。

（倒戈）敵に向かはずして却りて味方に刃をむく。○〔書〕「前徒倒レ戈、攻二于後一以北」。
（干戈）（い）たてとほこと。○〔詩〕「載戢二干戈一」。（ろ）兵戰、いくさ。○〔史〕「爰及二干戈一」。
（止戈）ほこをとゞむるとにて戰爭をやむる義に用ふる語。○〔吳〕「將欲下止レ戈興二仁、爲二百姓一請上レ命」。
（麾戈）するどきほこ。○〔漢〕「麾戈一揮」。
（枕戈）ほこをまくらとして常に戒むること。○〔徐陵〕「枕レ戈嘗レ膽」。
（鈠戈）銳利なるほこ。○〔史〕「鈠戈在レ後」。
（銛戈）前に同じ。○〔曹植〕「建二干將之銛戈一」。
（利戈）前に同じ。○〔杜牧〕「或以二利戈一舂レ喉」。
（戢戈）戰ひをやむ。○〔後漢〕「偃レ文戢レ戈」。
（義戈）道義の爲めに揮ふほこ、義の爲に起こす戰。○〔後漢〕「義戈乘レ風」。
（雞戈）ほこをふるひまはす。○〔魏、註〕「揮レ戈長驅」。
（揮戈）前に同じ。○〔晉〕「揮レ戈與二秋月一競レ色」。
（兵戈）やいば、ほこ、又、兵戰。○〔盧從〕「兵戈示レ不レ忘」。
（總戈）ふさのつきたるほこ。○〔宋〕「總戈成レ林」、
（禾戈）ほこ。○〔宋〕「禾戈異レ適」。
（偃戈）ほこをふす、戰爭をやむ、又、太平なるにいふ語。○〔呂頌〕「九有偃レ戈」。
（橫戈）ほこをよこたへ持つこと。○〔舊唐〕「橫レ戈而出二入賊陣一者數四」。
（磨戈）ほこをとぎみがく、又、戰の用意をなすことにもいふ語。○〔舊唐〕「磨レ戈秣レ馬」。
（天戈）（い）星の名。○〔宋〕「天戈一星、在二招搖北一」。

（ろ）天子のほこ、天子の兵。○〔韓愈〕「――所レ麾、莫レ不二寧順一」。

〔臣戈〕星の名。○〔星經〕「玄戈一星、在二招搖北一、一名二――一」。

〔盾戈〕たてとほこと。○〔夏侯湛〕「――按二手脣莫一」。

〔鋒戈〕ほこのと。○〔蔡容垂〕「――屢交」。

〔星戈〕ほしの如くひかれるほこ。○〔楊炯〕「――耀レ日」。

〔入室操戈〕其の道を學びて却ツて其の道を攻撃すること。○〔後漢〕「任城何休好二公羊學一、著二公羊墨守、左氏膏肓、穀梁癈疾一。康成乃發二墨守一鍼二膏肓一起二癈疾一、休歎曰、康成―二吾―一―二吾―一以伐レ吾乎」。

一畫

【戉】エツ、ゲツ、チツ、グワツ。王伐切 魚厥切 月

一 儀仗に用ふる大なる斧、まさかり。○〔周〕「左執レ律右秉レ―」。

二 星の名。○〔漢〕「東井西曲星曰レ―」。

【戊】ボウ、モ。莫候切 宥

えとの名、十干の第五、つちのえ。○〔唐〕「仲春仲秋上―祭二于大社一」。

二畫

【戌】ジュツ、ジュチ。雪律切 質

一 いぬ。

（い）えとの名、十二支の一。○〔史〕「卜禁曰、子亥―不レ可二以卜一」。

（ろ）方角の名、西と北との間にあたる方。○〔水經、註〕「漢家厄二於―一、故以レ丹鑁レ之」。

（は）時刻の名、今の午後八時。○〔史〕「出以二辰―一、入以二丑未一」。

二 九月の辰の名。○〔爾〕「歲在レ―曰二閹茂一」。

〔屈戍〕くぎかくしのかなもの。○〔梁簡文帝〕「織成屛風金―――」。

【㦮】キウ、グ。渠尤切 尤

ほこのかざり、（矛飾）。

【戍】シュ、ジュ。春遇切 遇

一 邊地を守る、外寇を過ぎむるに備ふ、まもる。○〔左〕「勤―五年」。

二 まもると、まもれる兵士兵營、まもり。○〔左〕「乃歸二諸侯之―一」。

〔適戍〕行きてまもる、又、其のまもり。○〔史〕「―二―漁陽一」。

〔征戍〕前に同じ。○〔隋〕「免二其――一」。

〔行戍〕前に同じ。○〔漢〕「陳勝――爲二天下先倡一」。

〔屯戍〕一處にとゞまりてまもる、又、たむろ、まもり。○〔劉克莊〕「而今烽火列二――一」。

〔留戍〕前の半段に同じ。○〔南〕「―二―甕溝城一」。

〔廢戍〕すたれたる兵營のあと。○〔劉長卿〕「――山烟出」。

〔舍戍〕とゞまりまもる、又、まもり。○〔左〕「秦人竊與レ鄭盟而――焉」。

〔繇戍〕役丁をしてまもらしむること。○〔漢〕「復勿二――一」。

〔邊戍〕國境のまもり。○〔後漢〕「邪當二――一者」。

〔遠戍〕遠方のまもり。○〔蔡邕〕「勅二諸侯之――一兮」。

〔鎮戍〕しづめまもる、又、まもり。○〔吳〕「宜下選二名將一以二――一之上」。

〔重戍〕おもなるまもり。○〔晉〕「峻知二石頭有二――一」。

〔助戍〕たすけ守る。○〔南〕「―二―彭城一」。

〔城戍〕しろのまもり。○〔宋〕「大有二――一」。

〔烽戍〕のろしのまもり。○〔北〕「壘二置――一」。

〔番戍〕番にあたりてまもる。○〔宋〕「――之勞」。

〔守戍〕まもる、まもり。○〔宋〕「分二番――一」。

〔荒戍〕遠き所のまもり。○〔許渾〕「鷄鳴――曉」。

〔薄戍〕てうすきまもり。○〔張仲素〕「恃二茲――一」。

〔流戍〕守兵を遠方にやること。○〔江淹〕「―二―隴陰一」。

〔孤戍〕他のたすけなきまもり。○〔杜甫〕「日色隱二――一」。

【戎】ジウ、ニュ。而融切 東

一 兵器、つはもの、はもの。○〔禮〕「以習二五―一」。

二 兵車、いくさぐるま。○〔詩〕「小――俴收」。

三 戰爭、たゝかひ。○〔書〕「惟甲冑起レ―」。

四 軍備、又、兵士。○〔潘岳〕「實總二禁―一」。

五 おほいなり、（大）。○〔詩〕「念二茲――功一」。

六 古昔に支那の西方にありしえびすの名。○〔史〕「五羖相レ秦、八――來服」。

七 なんぢ、（汝）。○〔詩〕「―有二良翰一」。

八 たすく、たすけ、（相）。○〔詩〕「烝也無レ―」。

九 ぬく、（拔）。○〔楊雄〕「江淮南楚之間、謂レ拔曰レ―」。

十 稠く多き貌にいふ字。〔張衡〕「――繁霜」。

〔元戎〕おほいなる兵車。○〔詩〕「――十乘」。

〔大戎〕前に同じ。○〔詩、疏〕「先啓レ行之車、謂二之――一」。

〔蒙戎〕亂るゝ貌にいふ語。○〔詩〕「孤裘――」。

〔御戎〕兵士、從卒。○〔左〕「韓萬――」。

〔習戎〕練兵。○〔晉〕「惟以二――一爲レ務」。

〔佐戎〕大夫。○〔韓愈〕「初試二――一」。

〔阿戎〕汝といふに同じ、いつくしめる者に對して用ふる語。○〔杜甫〕「守レ歲――家」。

〔伏戎〕つはものをかくす。○〔易〕「―二―于莽一」。

〔致戎〕戰爭をまねくこと。○〔易〕「自レ我―レ―」。

三畫

【戕】サイ。將來切 灰

そこなふ、やぶる、（傷害）。

【成】セイ、ジャウ。時征切 庚

一 なる、又、なす。

（い）作らる、又、作る。○〔左〕「築二郎囿一、季平子欲二其速一―一」。

（ろ）遂ぐ。○〔老〕「功―而不レ居」。

（は）終はる、又、終ふ。○〔書〕「簫韶九―」。

（に）定まる、又、定む。○〔國〕「吳晉爭レ長未レ―」。

（ほ）整ふ。○〔詩〕「儀既―兮」。

（へ）生ず。○〔易〕「幾事不レ密則害―」。

（と）盛る、又、盛らす。○〔呂氏春秋〕「松柏―而塗之人已蔭矣」。

（ち）熟す。○〔呂氏春秋〕「五種不レ―」。

（り）併ぶ、又、併はす。○〔儀〕「俎二以―」。

（ぬ）善くなる、又、善くす。○〔禮〕「竹不レ―レ用」。

二 たひらぐ。

（い）均しくす、均しくなる。○〔周〕「―二奠貢一」。

（ろ）治む、治まる。○〔左〕「以―二宋亂一」。

（は）怨みを解き好しみを結ばしむ、怨を解き好しみを結ぶ、和解す。○〔周〕「以レ民―レ之」。

三 かならず、（必）。○〔國〕「勝未レ可レ―」。

四 かさぬ、かさなる、（重）。○〔爾〕「丘一―爲二敦丘一」。

五 品式、のり。○〔周〕「職有二官―一」。

六 總計算。○〔禮〕「司會以二歲之―一、質二于天子一」。

七 十の數に充つること。○〔司馬法〕「通十爲レ―」。

八 方十里の地。○〔左〕「有二田一―一」。

〔化成〕改めなす、あらたまりなる。○〔易〕「乃一二一天下二」。
〔曲成〕ひとつ〳〵になす、又、はなる。○〔易〕「一二一萬物一、而不レ遺」。
〔財成〕つくる、なす、又、のり、きりもり。○〔易〕「后以一一二一天地之道一」。
〔小成〕僅かになる。○〔禮〕「七年視論レ學取レ友、謂之一一一」。
〔天成〕自然に生ぜると、又、うまれつき。○〔宋〕「放言落レ紙、氣韻一一一」。
〔武成〕たけきいさを就り遂ぐ。○〔書〕「大告二一一」。
〔國成〕くにののり　○〔詩〕「誰秉二一一一、不二自爲一政」。
〔來成〕きたりなる、きたりなす。○〔詩〕「遹諫一一一」。
〔老成〕經驗を多く積みかさねたると、かるがるしくおろそかならざると。○〔詩〕「雖レ無二一一一人一、尙有二典刑一」。
〔落成〕家屋の出來上がりたると。○〔劉克莊〕「新巢甫一一一」。
〔歲成〕一年間の總計算。○〔路史〕「以報二其一之一一」。
〔結成〕出來あがる、できあがらす。○〔庾肩吾〕「兼二言事一一一」。
〔晩成〕おそく成り遂ぐ。○〔老〕「大器一一一」。○〔魏〕「援筆一一可レ觀」。
〔立成〕見る間になる、見る間になす。
〔早成〕とくなる、とくなす。○〔蜀〕「嫉二其一一一」。
〔混成〕入り交りてなる、又、まぜなす。○〔老〕「有レ物一一一」。
〔織成〕おりなす、おりあがる。○〔申論〕「至人蹈二機提レ杼、一二一天地之化一」。
〔削成〕殺ぎ取りたるやうになる、又、けづりなす。○〔西岳記〕「太華之山一一一」。
〔弼成〕助けて就し遂ぐ。○〔書〕「一二一五服一、至二于五千一」。
〔阜成〕盛んになす、盛になる。○〔書〕「一一二兆民一」。
〔和成〕やはらぎたひらぐ。○〔周、疏〕「媒二合異類一、使二一一一」。
〔褒成〕孔夫子のと、前漢の孝平帝の元治元年に孔子の後子均を褒成侯に封じ孔子を追祀して褒成宣尼公といへりしより始まれり。○〔揚炯〕「發二一一之厚級一」。
〔夙成〕はやくなす、はやくなる、又、年幼き頃より大人の氣象を備ふるにいふ語。○〔後漢〕「有二一一之德一」。
〔作成〕こしらへなす。○〔漢郊祀歌〕「一一二一四時一」。
〔纂成〕集めてこしらへあぐ。○〔曹植〕「軒轅一一」。
〔育成〕そだてあぐ。○〔高允〕「一一二一萬品一」。
〔玉成〕美德ある人となると、又、美德ある人となすと。○〔張子銘〕「貧賤憂戚庸一二汝於一一」。
〔不日成〕幾日も立たぬ間に出來上がる、一說には、一日も立たぬ間に就りあがるとあれどもあし。○〔詩〕「庶民攻レ之、一一一レ之」。
〔羽翼成〕雛鳥のつばさなる、卽ち、人の輔佐となるものありて已に孤立ならざるにいふ語。○〔史〕「彼四人輔レ之一一一已一」。
〔大器晩成〕おほいなるうつははおそくできる、轉じて、すぐれたる器量の人の才德のなるはおそきとにいふ語。○〔莊〕「一一一一大音希聲」。
〔因敗爲成〕始めはしくじりてもおはりには遂になしとぐると。○〔劉琨〕「昔、曹沫三北而收二功于柯盟一、馮異垂二翅而奮二翼于澠池一、皆能一レ一一」。

【我】

ガ。語可切　（哿）

㊀わ、われ。

（い）自家の稱。○〔詩〕「父兮生レ一、母兮鞠レ一」。

（ろ）父母の國の稱。○〔春秋〕「一入レ祊」。

（は）自家の方の稱。○〔漢〕「虜亦不レ得レ犯レ一」。

㊁私意、わたくし。○〔論〕「毋レ固毋レ一」。

〔知我〕己がことをよく辨ふ。○〔孟〕「一レ一者、其惟春秋乎」。
〔爲我〕己れの利益のみをはかりて人の爲めにすることをせむ。○〔孟〕「楊子取レ一レ一」。
〔濟我〕吾が心を濟らかにす。○〔詩〕「有レ酒一レ一」。
〔德我〕人われを有りがたしと思ふ。○〔戰〕「猶之厚一レ一也」。
〔由我〕己れの爲すがまゝによる。○〔白居易〕「苦樂心一レ一」。
〔私我〕人われに特別に心を傾むくると。○〔戰〕「我妻之美レ我者一レ一也」。
〔賣我〕人われを欺く。○〔史〕「今又一レ一」。
〔庇我〕人われに屈き從ふ。○〔史〕「諸侯必有二一レ一者一」。
〔彼我〕他人とわれと。○〔漢〕「人道不レ殊二一一一」。
〔忘我〕（い）人わが身の上を心にとめぜ。○〔後漢〕「陛下一レ一耶」。

（ろ）われとわが身の私を思はぜ。○〔晉〕「故在レ齊二而一一一」。
〔誤我〕人わが身を惡しき方に向かはしむ。○〔晉〕「頻流溯曰、人一レ一也」。
〔無我〕（い）私なし。○〔關尹子〕「枯龜一レ一、能見二大知一」。

（ろ）自家なる者なし。○〔南〕「江東一レ一」。
〔欺我〕人われに信を通ぜ。○〔宋〕「故以二甘言一一レ一」。
〔嚇我〕人われをおどす。○〔莊〕「今子欲下以二子之梁國一、而一上レ一邪」。
〔物我〕他とわれと。○〔徐鉉〕「本圖レ忘二一一一」。
〔啓我〕わが智識を開き導く。○〔傅毅〕「誰能昭二闡一二一蒙昧一」。
〔六經註我〕六經は自家の事を說明せると、即ち、天地の道理は人間個々に備はりあるものなれば六經に說明しある道理は人間個々を說明しあるものなりといふの義。○〔宋〕「一一一レ一、我註二六經一」。

【戒】

カイ、ケ。居拜切　（卦）

㊀いましむ。

（い）つゝしむ（愼）。○〔書〕「警二一無レ虞」。

（ろ）さとす（諭）。○〔書〕「一レ之用レ休」。

（は）つぐ（告）。○〔儀〕「主人一レ賓」。

（に）そなふ（備）。○〔易〕「一二不虞一」。

（ほ）まもる（守）。○〔周〕「夜三鼜以號一一」。

（へ）齋す、ものいみす。○〔禮〕「七日一一」。

㊁いましむると、いましむる事柄、つゝしみ、そなへ、まもり、つげ、さとし、いましめ。○〔書〕「先王克謹二天一一」。

㊂界に同じ。○〔唐〕「江河爲二南北兩一一」。

〔天戒〕上帝のさとし。○〔書〕「先王克謹二一一一」。
〔種戒〕穀物又は野菜のたねを擇び農具の用意をなす。○〔詩〕「既一既一」。
〔下戒〕いましむべき事柄を占ふ。○〔周〕「一二來歲之一一」。
〔敎戒〕をしへ、いましむ。○〔漢〕「萬年召レ咸、一二一於牀下一」。
〔法戒〕いましめ。○〔漢〕「言二得失一陳二一一一」。
〔古戒〕昔人の遺し置かれたるいましめ。○〔漢〕「陛下親二覽一一一、反覆參考」。
〔明戒〕ことわりあるいましめ。○〔韓愈〕「孫切奉二一一一」。
〔五戒〕佛敎にて設けたる五つのいましめ、卽ち、不殺生、不偸盜、不邪淫、不妄語、不飮酒食肉をいふ。○〔晉〕「佛者以二一一一爲レ教」。
〔十戒〕前の五戒に不說過、不自讚毀他、不慳、不瞋、不謗三寶の五戒を加へたるもの。○〔魏〕「初修二一一一曰二沙彌一」。
〔齋戒〕飮食擧動を愼しみ汚穢に觸るゝをいむと、身心のけがれを洗ひ淸め患を防ぐと、ものいみ。○〔易〕「聖人以レ此一一、以神二明其德一夫」。
〔儆戒〕いましむ、いましめ。○〔禮〕「先レ戠以一一一」。
〔懲戒〕勉めいましむ。○〔書〕「其爾衆士一一哉」。
〔勅戒〕警めさとす、いましめ。○〔韓愈〕「一一二一四方一、修則有レ咎」。
〔敬戒〕いましむ。○〔詩〕「既一既一」。
〔備戒〕用意をなすと。○〔禮〕「夫武之一一二一之已久何也」。
〔宿戒〕期日に先だちてものいみす。○〔周〕「掌二女宮之一一一」。
〔糾戒〕不正をたゞし警しむ。○〔周〕「一一二一之一」。
〔勸戒〕善を引き立て惡しきをいましむ。○〔左、序〕「以示二一一一」。
〔懿戒〕善美なるいましめ。○〔國〕「於レ是乎作二一一一自儆」。
〔鑑戒〕かんがみいましむ、いましめ。○〔後漢〕「置二於左右一、以自一一一」。
〔鏡戒〕前に同じ。○〔後漢〕「以二前人一爲二一一一」。
〔懲戒〕こりていましむ、こらしいましむ。○〔漢〕「漢興之初、一一二一亡秦孤立之敗一」。
〔前戒〕むかしのいましめ。○〔後漢〕「永覽二一一一、竦然兢懼」。
〔女戒〕をなごのいましめ。○〔漢〕「以二建始之初一、深陳二一一一」。

〔咎戒〕　とがめいましむべきこと。○〔後漢〕「自抑損以塞ニ——ニ」。
〔成戒〕　定まりて動かすべからざるいましめ。○〔魏〕「窮レ兵黷レ武、古有ニ——ニ」。
〔祇戒〕　つゝしみ。○〔晉〕「陛下——之誠、達ニ于天・人ニ」。
〔寶戒〕　いと珍重すべきいましめ。○〔宋〕「思レ盡ニ——之規ニ」。
〔戎戒〕　いくさの用意。○〔宋〕「——淹レ時」。
〔經戒〕　ほとけの御法のいましめ。○〔梁〕「遍持ニ——ニ」。
〔淨戒〕　前に同じ。○〔梁〕「常修ニ——ニ」。
〔持戒〕　佛の教のいましめを固く執り行ふ。○〔南〕「——甚精」。
〔微戒〕　現はに言はずしてほのめかし諭す。○〔五〕「太・祖嘗——ニ之ニ」。
〔遺戒〕　後世の爲に殘し置けるいましめ。○〔宋〕「手ニ錄唐李勣——ニ授ニ經・和ニ」。
〔面戒〕　まのあたり教へ諭す。○〔宋〕「上毎——レ之」。
〔晨戒〕　夙に起きて終日の心構へをなすこと。○〔晉〕「——ニ怨・怠ニ」。
〔受戒〕　(い)他人のいましめをうく。○〔中培〕「——ニ羣・臣之——ニ」。(ろ)佛教のいましめを授かりて佛道に歸依すること。○〔姚合〕「年・小未レ——レ—」。
〔愼戒〕　つゝしむ。○〔大戴禮〕「——必恭」。
〔檢戒〕　取り締まり齋む。○〔大唐新話〕「記ニ錄・惡ニ以爲ニ——ニ」。
〔先戒〕　事の起こらぬに先だちていましむ。○〔九辨〕「秋既——以ニ白・露ニ兮」。
〔畏戒〕　惡事を爲してはならぬとの警めをおちて之に違はざるやうにす。○〔張衡〕「勸レ德——レ—」。
〔誥戒〕　告げいましむ。○〔蔡邕〕「中讀ニ符策——之詔ニ」。
〔申戒〕　重ねて敎へいましむ。○〔馬融〕「——ニ——百・工ニ」。
〔爾戒〕　いましむ。○〔劉楨〕「——ニ——友朋ニ」。
〔昔戒〕　古の人の殘し置きたるいましめ。○〔何晏〕「想ニ周・公之——ニ」。
〔典戒〕　いましめ。○〔潘岳〕「爲ニ女・史之——ニ」。
〔殷戒〕　畏れいましむ。○〔温庭筠〕「有ニ以ニ單・外而斷ニ未・契者ニ、君・子之所ニ——ニ」。
〔銘戒〕　己れの爲してよきと爲して惡しきとをもとを物に刻みつけ日々に見ていましむること、又、心に深く志るしていましむること。○〔温庭筠〕「——在ニ盤・盂ニ」。
〔破戒〕　いましめを守るべき身にてありながら其の範圍の外に脫け出でて恣なる振舞をなす。○〔李後民〕「同傾——盃」。
〔住戒〕　佛の教への警めをよく守る。○〔佛遺教經〕「汝等比・丘己——」。
〔科戒〕　定め置けるいましめ。○〔雲笈〕「慈・善之法、不レ違ニ——ニ」。
〔酒戒〕　さけを飮みてはならぬとの禁め。○〔李純甫〕「——何曾破」。
〔履霜戒〕　易經の語の履レ霜堅氷至、即ち、霜ふればやがて氷はる時の到來すといふ義より來りて、物事の目前に迫らぬ先のいましめの義にいふ語。○〔左〕「昭・公味ニ于——レ—ニ」。
〔十善戒〕　十戒に同じ。○〔宇文逌〕「——之—四・極之訐」。
〔前車還後車戒〕　前に行ける車の還るを見てあとより行く車のまたかくあらんかと氣づかひて注意をすること、即ち、前人の仕損ひたる事柄に鑑みて後人は注意すべきことに借りいふ語。○〔漢〕「鄙・諺曰、————」。

四畫

【⿹戈瓦】　クワ、ゲ。戸瓦切　馬
踝(くるぶし)を擊つ、うつ。

【⿹戈十】　クワク、キヤク。古獲切　陌
耳を割く、みゝきる。

【⿱从戈】　セン、ソン。將廉切　鹽
㊀たつ、(絕)。㊁さす、(刺)。
㊂田を耕すに用ふる具、すきの屬。

【戔】　サン、ザン。財干切　寒
そこなふ、やぶる、(傷)。

【戔】　セン。將先切　先　シン。宗親切　眞
淺小の意、すこし、すくなし。○〔易〕「束・帛——」。

【戔】　サン、セン。楚限切　潸
つきやぶる(擣・傷)。

【戔】　セン。子淺切　銑
㊀すくなし、すこし、(少)。
㊁せまし、(狹)。㊂そこなふ、(賊)。

【戔】　ヘン、ベン。匹見切　霰
せまくちひさし、(狹・小)。

【⿹戈今】　カン、ゴン。枯含切　覃
ころす、(殺)。

【⿹戈今】　古文の堪の字、たふ。○〔漢〕「王心弗レ——」。

【戕】　シヤウ、ザウ。在良切　陽
サン、ザン。財干切　寒
そこなふ、(殘)、ころす、(殺)。○〔春秋〕「邾人——ニ鄭・子于鄫ニ」。
〔摧戕〕　そこなふ。○〔郝經〕「羽・毛皆——」。

【戕】　シヤウ、サウ。則郎切　陽
くひ、(杙)。

【戕】　セイ、ジヤウ。慈盈切　庚
ころす、(殺)。

【或】　ヨク、井キ。越逼切　職
域に通じ作る、くに、又、土地。

【或】　コク、ワク。穫北切　職
㊀あるひは、あるは。
(い)物事の定まらぬときに用ふる字、また、または。○〔易〕「——躍在レ淵」。
(ろ)想像の意を表はすときに用ふる字、ことによらば、もしや、おそらくは。○〔大戴禮〕「貧・賤吾恐ニ其——失ニ」。
(は)疑惑の意を表はすときに用ふる字。○〔史〕「——言二・百・餘・歲」。
㊁はツきりと指し定めざるものゝ稱、あるもの、あるひとなど。○〔論〕「——謂ニ孔・子ニ曰」。
㊂ある。
(い)有る。○〔書〕「罔レ——レ干ニ予正ニ」。
(ろ)物事を定め指さざる意を表はすときに用ふる字。○〔淮〕「——時相似」。
㊃惑に通じ用ふ、あやしむ、まどふ。○〔孟〕「無レ——ニ乎王之不・智ニ也」。

五畫

【戓】　カ。賈我切　哿　又何切　歌
舟を繫ぐ杙、くひ。

【⿰舟戈】　戓に同じ。

六畫

【⿹戈各】　カク、キヤク。各額切　陌　—に、斦—に作る。
たゝかふ(鬪)。

【⿰牛戈】　チユ、ヂユ。追輸切　虞
ころす、(殺)、一說に、戈の名。

【⿰同戈】　トウ、ヅ。徒弄切　送
㊀船の板木。㊁くひ、(橛)。

【⿱吅戈】　サン、ザン。賊安切　寒

おほし、(多)。

【[illegible]】ヨウ、コ。余隴切 [腫]

たけし、(猛)。

【戔】セン、ソン。宗沾切 [鹽]

㊀田を耕すに用ふる器。㊁つくす、(盡)。

【戚】セキ、シヤク。倉歷切 [錫]

㊀斧鉞の屬にして儀飾に用ふるもの、まさかり。○〔詩〕「干戈―揚」。
㊁したしむ、ちかし、(親)。○〔詩〕「――兄弟」。
㊂一家、親族、みうち、ちすぢ。○〔孟〕「有二貴―之卿一」。
㊃かなしむ、(哀)。○〔論〕「喪與二其易一也寧―」。
㊄うれふ、(憂)。○〔論〕「小人長――」。
㊅なやむ、なやます、(惱)。○〔書〕「未レ可三以―二我先王一」。
㊆いきどほる、(憤)。○〔禮〕「慍斯―」。

〔親戚〕みより、又、みうち。○〔禮〕「兄弟――、稱二其慈一也」。
〔貴戚〕たふときちすぢ。○〔後漢〕「――貴重」。
〔帝戚〕天子のみうち。○〔唐〕「世爲二――一、不二亦晉乎一」。
〔六戚〕むつのみうち、卽ち、父と母と兄と弟と妻と子とのみうち。○〔呂氏春秋〕「論レ人者、又必以二――一」。
〔末戚〕血緣遠きみうち。○〔杜甫〕「孤陋忝二――一」。
〔遠戚〕血緣のとほきみうち。○〔杜甫〕「斐郎非二――一」。
〔外戚〕母方のみうち。○〔史〕「蓋亦有二――之助一焉」。
〔近戚〕血緣のちかきみうち。○〔漢〕「――未レ內」。
〔密戚〕したしきと、又、極めてしたしきみうち。○〔宋〕「二州之重、威歸二――一」。
〔姻戚〕配耦よりなれるみうち。○〔後漢〕「宗門廣大、――不レ少」。

〔權戚〕勢力あるみうち。○〔後漢〕「以レ此忤二――一」。
〔內戚〕後宮に給仕する婦人の親しきもの。○〔後漢〕「帝延二入――一、會歡甚」。
〔盛戚〕さかんなるみうち。○〔後漢〕「竇氏憑二――之權一」。
〔重戚〕おもきみうち。○〔後漢〕「竇以二――一出二內詔一」。
〔豪戚〕他にすぐれたるみうち、權力つよきみうち。○〔南〕「以二――一自居、甚相陵忽」。
〔寵戚〕君上のおぼえめでたきみうち。○〔晉〕「凡所二糾劾一不レ避二――一」。
〔國戚〕君上のみうち。○〔宋〕「寶――勳臣」。
〔藩戚〕諸侯となりて王室の守りをなすみうち。○〔宋〕「歷樹二――一、敦睦以道」。
〔宗戚〕一家のみうち。○〔宋〕「權倖之徒、慴二憚――一」。
〔婚戚〕嫁娶の上より成れるみうち。○〔南〕「一叩二――一」。
〔右戚〕勢力あるみうち。○〔王僧孺〕「德貫二――一」。
〔舊戚〕ふるきみうち。○〔南〕「帝鄉――、恩由二聖旨一」。
〔貫戚〕德すぐれたるみうち。○〔北〕「分二命――一、布二于內外一」。
〔桂戚〕皇后のみうち。○〔蔡邕〕「有二椒房――之託一」。
〔枝戚〕わかれ、別家。○〔沈炯〕「皇家――」。
〔干戚〕楯と斧と、又、武器の總稱。○〔禮〕「鐘鼓――」。
〔玉戚〕たまにてかざれるをの。○〔禮〕「朱干――」。
〔白戚〕しろき色をもて飾りとなしたる斧、殷の時代に軍事に用ひしもの。○〔司馬法〕「夏執二玄戉一、殷執二――一」。
〔戈戚〕ほこと斧と。○〔酉陽雜俎〕「操二――一而舞不レ止」。
〔哀戚〕悲しみいたむ。○〔晉〕「不レ勝二――一」。
〔悲戚〕前に同じ。○〔後漢〕「不三敢顯二其――一」。
〔懷戚〕いたみかなしむ。○〔謝靈運〕「感レ物方――」。
〔憂戚〕うれへいたむ。○〔杜甫〕「城郭洗二――一」。

【戚】促に同じ。○〔周〕「不二微至一、無三以爲二―速一」。

【[illegible]】ジヨウ、ニユ。乳勇切 [腫]

戟の屬。

【[illegible]】カン。侯旰切 [翰]　古寒切 [寒]

たて、(盾)。

【戛】カツ、ケチ。訖黠切 [黠]

㊀ほこ、(戟)、一說に、刃の長き矛。○〔張衡〕「立レ―迺レ戟」。
㊁する、(轢)。○〔書〕「―二擊鳴球一」。
㊂くひちがふ、くひちがひ、(齟齬)。○〔韓愈〕「――乎其難哉」。
㊃常道、のり、つね。○〔書〕「不レ率二大――一」。
㊄秸、稭に通じ用ふ。○〔漢〕「三百里――服」。

〔大戛〕大法のこと。○〔蔣至〕「率二至人之――一」。
〔摩戛〕する。○〔杜甫〕「羽林相――」。
〔邪戛〕なゝめにくひちがふ。○〔韓愈〕「鬭鳴有二――一」。
〔嘐戛〕かまびすしくなく聲のこと。○〔蘇軾〕「野鳥――、――巖花春」。
〔痛戛〕いたくこする。○〔秦湝紀聞〕「取二梳齒一――」。
〔交戛〕すれあふ。○〔杜牧〕「風廊竹――」。
〔敲戛〕たゝきする。○〔徐寅〕「――有二金聲一」。

【戜】テツ、デチ。徒結切 [屑]

㊀とし、(利)。㊁さぐ、(別)。

八畫

【[illegible]】タク、トク。竹角切 [覺]　―に、㧻に作る。

うつ、(擊)。

【戞】戛の俗字。

【戟】ゲキ、ギヤク。訖逆切 [陌]

刃に上に向かへる兩枝ある一種の兵器、ほこ。○〔左〕「倒レ―而出レ之」。

〔矛戟〕ほこ、又、兵器の汎稱。○〔詩〕「修二我――一」。
〔劍戟〕つるぎとほこと、又、兵器の汎稱。○〔國〕「美命以鑄二――一」。
〔操戟〕ほこをうち揮ふ。○〔家語〕「子路怒――將レ與レ之戰」。
〔雙戟〕前に同じ。○〔異同雜語〕「太祖乃――二于庭前一」。
〔句戟〕はの曲がりたるほこ。○〔史〕「鉏耰棘矜、非レ錟二于――長鎩一」。
〔曲戟〕前に同じ。○〔後漢〕「疑以二――一」。
〔交戟〕ほこのさきを兩方よりあはすこと、又、ほこを以て戰ふこと。○〔史〕「――之衛士」。
〔雄戟〕おほいなるほこ。○〔史〕「雄二干將之――一」。
〔棨戟〕きれのおほひつきたるほこ、おもに前驅に用ふるもの。○〔漢〕「皆擁二四馬一就二――一」。
〔銛戟〕するどきほこ。○〔戰〕「――在レ後」。
〔兵戟〕やいばとほこと、又、兵器の汎稱。○〔史〕「持二――一而衛、侍者甚多」。
〔紆戟〕ながきほこ。○〔論衡〕「――採レ笑」。
〔電戟〕いかづちの如きひかりあるほこ。○〔朱瑋〕「――耀戈是罪端」。「――盈レ門」。
〔綵戟〕いろぎぬのつけてあるほこ。○〔韋貝嗣〕「――」。
〔幢戟〕はたのつけてあるほこ、はたぼこ。○〔司空曙〕「――滿二形庭一」。
〔旗戟〕前に同じ。○〔韓愈〕「――羽以森」。
〔楯戟〕ほこをよこたへもつ。○〔李商隱〕「―レ―定能當」。
〔句子戟〕はさきの曲がりたるほこ。○〔周、註〕「戈今―――也」。
〔雞鳴戟〕前に同じ。○〔晉〕「―――十張」。

九畫

【[illegible]】蠢に同じ。

【戠】シ。式吏切 [寘]

ねばつち、(黏土)。

【戡】カン、ゴン。枯含切 [覃]

㊀さす、(刺)。㊁ころす、(殺)。㊂かつ、(勝)。㊃さる、(取)。

【戡】 チン。張甚切 寢
㊀小しく斫る、きる、㊁さす、(刺)。

【戢】 シフ。阻立切 緝
をさむ、又、をさまる。
(い)藏す。○〔詩〕「載—二干戈一」。
(ろ)聚む、又、聚まる。○〔詩〕「鴛鴦在ㇾ梁、—二其左翼一」。
(は)止む、又、止まる。○〔左〕「弗ㇾ—將二自焚一」。
(に)戒しめ愼しむ。○〔宋〕「蠻始畏——」。
(ほ)隱す、又、隱る ○〔晉〕「龍潛鳳——」。
(戢戢) とゞまりあつまる貌にいふ語。○〔杜甫〕「半死半生猶——」。
(嚴戢) きびしく止む。○〔宋〕「仍——二吏弊一」。
(禁戢) 止むること、又、とゞめつゝしますること。○〔宋〕「督二察盜賊一、——二不肖弟子一」。

【⿰昜戈】 ヤウ。余章切 陽
㊀ほこ、(戈)、㊁まさかり、(戉)。

【⿸厂戈】 ヘツ、ボチ。房越切 月
たて、(盾)。

【戣】 キ、渠龜切 支 ギ。 キ。求位切 寘
戟の屬、ほこ。○〔書〕「一人冕執ㇾ—」。

【⿰癶戈】 キ。求位切 寘
はもの、(兵)。

十畫

【戧】 古文の創の字。

【⿸辰戈】 ジョク。儒欲切 沃
ほこ、(戟)。

【⿰可戈】 カ。居何切 歌 一本从ㇾ弋、或从ㇾ戈。
くひ、(杙)。

【戩】 セン。子淺切 銑 子賤切 霰
㊀つく、つくす、ことごとく、(盡)。○〔詩〕「俾二爾—穀一」。
㊁ほろぶ、ほろぼす、(滅)。○〔古本詩〕「實始—ㇾ商」。
(祓戩) さいはひ。○〔方言〕「福祿謂二之——一」。

【⿰壴戈】 チツ、ヂチ。直一切 質
おほいなり、(大)。

【截】 セツ、セチ。昨結切 屑
㊀切斷す、きる、たつ。○〔宋〕「所ㇾ過池苑、多令二衞士射ㇾ雕—ㇾ柳一」。
㊁巧に言說するに貌にいふ字。○〔書〕「惟——善諞言」。
(橫截) よこさまに斷つ。○〔晉〕「以二鐵鎖一—二—之一」。
(腰截) なかすとして切る。○〔晉〕「在二人——一」。
(割截) たちきる。○〔蘇軾〕「鞭韁遭二——一」。
(斷截) 前に同じ。○〔謝靈運〕「—二—蘭巷一」。
(茅截) 虫の名、ひぐらしぜみ。○〔爾、註〕「江東呼爲二——一、似ㇾ蟬而小青色」。
(遮截) よこぎる。○〔陸龜蒙〕「更値二雲——一」。
(鈔截) かすめたつ。○〔晉〕「廩糧有二——之患一」。
(徼截) 寨を作りておさへを設くること。○〔魏〕「——二險要一」。
(掃截) はき去る、又、きる。○〔晉〕「——不ㇾ得ㇾ生」。
(馘截) 首きること。○〔晉〕「謹當二躬自執佩—二—廚一」。
(斬截) うち切ること。○〔魏〕「——二長蛇一」。
(剪截) きりさいなむ。○〔魏〕「閹門嬰稚莫ㇾ不二——一」。
(遏截) とゞめたつ。○〔元〕「如下——二於江津渡一、邀二遮于大城關口上」。
(刖截) さきたつ。○〔魏〕「鉛刀——」。
(隔截) へたてたつ。○〔陸雲〕「——二曲隈一」。
(翦截) きりたつ。○〔白居易〕「——二五言一兼用ㇾ鉞」。

【⿰彧戈】 ヨク、ヰキ。越逼切 職
疾き貌にいふ字、はやし。

【⿰兼戈】 ケン。苦兼切 鹽
戈の屬、ほこ。

【⿸厂⿰兼戈】 ケン、ゲン。何點切 琰
つよし、すこやか、(健)。

【⿰束戈】 コク。古得切 職
—耨は、草生ふ。

十一畫

【⿰習戈】 古文の襲の字。

【⿰庸戈】 イヨウ、イユ。餘封切 冬
はもの、(兵器)。

【⿰敖戈】 ガウ、ゴウ。牛刀切 豪
戟の鋒、ほこさき。

【⿰寅戈】 エン。以淺切 テン、デン。柱兗切 銑 イン。以忍切 軫
長き槍。

【⿰寅戈】 イン。羊進切 震
矛の屬、ほこ。

【⿰⿱宀臾戈】 イウ、ユ 以久切 有
長き盾。

【⿱⿰敖戈舟】 サウ、ソウ。色絳切 絳
船をとゞむる木、くひ。

【⿰雀戈】 截の本字。

【戱】 呼に同じ。

【戮】 リク、ロク。力六切 屋 レウ。憐蕭切 蕭 リウ、ル。力救切 宥
㊀死罪に行ふ、つみなふ、ころす。○〔史〕「誅二—無道一」。
㊁尸を徇へ示す、さらす。○〔國〕「—二其死者一」。
㊂はづかしむ、(辱)。○〔左〕「夷之蒐、賈季—二臾駢一、臾駢之人欲下盡殺二賈氏一以報上焉」。
㊃勠に通じ用ふ、あはす。○〔書〕「與ㇾ之—ㇾ力」。
㊄雛に通じ用ふ、かり、野鵝。○〔揚雄〕「—鵝初乳」。
㊅刑罰、つみ。○〔書〕「不ㇾ廸有二顯—一」。
(孥戮) 妻子までも刑罰にあてゝ殺すこと。○〔書〕「予則—二—汝一」。
(刑戮) つみによりて刑罰にあつること、又、死刑。○〔論〕「邦無ㇾ道免二于——一」。
(大戮) 前に同じ。○〔史〕「卒受二——一」。
(殺戮) ころす。○〔高適〕「紬懷多二——一」。
(撻戮) うちたゝきてはづかしむること。○〔周〕「——而罰ㇾ之」。
(殃戮) 禍にかゝり殺さるゝこと。○〔漢〕「六親——」。
(殘戮) そこなひころす。○〔後漢〕「幷被二——一」。
(糾戮) 罪をたゞしころす。○〔後漢〕「—二—渠師一」。
(菹戮) ころす。○〔後漢〕「信越終見二——一」。
(夷戮) たひらげころす、○〔後漢〕「鮮ㇾ不二——一」。

〔枉戮〕法をまげてころす。〇〔後〕「豈可下虐二其託一已而ーー善人上哉」。
〔横戮〕其の罪にあらざるにみだりにころす。〇〔晉〕「無罪ーー」。
〔絞戮〕首をしめころす。〇〔晉〕「有二縛東而ーー者一矣」。
〔旋戮〕官をおとして刑にあつ。〇〔書〕「宜二ーー一」。
〔株戮〕悉くころすこと。〇〔唐〕「ーー二痾商一」。
〔寡戮〕刑にあてころすこと。〇〔潛夫論〕「怨毒之家、冀二其ーー一」。
〔坑戮〕土を掘りうづめころす。〇〔趙岐〕「ーー二ー備生一」。

【戰】セン。之膳切 〔霰〕

㊀たゝかふ、又、たゝかひ。
(い)互に撃ちあらそふ。〇〔家語〕「子路怒奮レ戟將二與レ之ー一」。
(ろ)軍隊と軍隊と互に攻め撃つ、いくさ。〇〔孫武〕「善ー者致レ人、而不レ致二于人一」。
(は)互に優劣をあらそふ。〇〔茅亭客話〕「酒ー猶能敵二百夫一」。
㊁たゝかひをなさしむ、たゝかはす。〇〔舊唐〕「張二空拳於ーレ文之場一」。
㊂おそる、〔懼〕。〇〔書〕「小大ーー」。
㊃をのゝく。
(い)怖ぢて身體わなゝゝ震ふ、わなゝく、ふるへる。〇〔史〕「周退立股ー」。
(ろ)ふり動く、ゆるぎ觸れて微音を發す、そよぐ。〇〔白易居〕「怯レ教二蕉葉ー一」。

〔習戰〕たゝかひの術を學ぶ。〇〔穀梁〕「出曰二治兵一、ーレー也」。
〔義戰〕名義正しきいくさ。〇〔孟〕「春秋無二ーー一」。
〔爭戰〕あらそひたゝかふ。〇〔韓愈〕「纔周八代ーーー罷」。
〔挑戰〕いくさをしかく。〇〔史〕「使二死士一ーレー」。
〔搦戰〕組み打ちしてたゝかふ。〇〔史〕「出二鋭卒一自ーー」。
〔心戰〕(い)心の中に恐れを抱くこと。〇〔史〕「ーーー未レ能二自決一」。
(ろ)智をたゝかはすこと。〇〔蜀、註〕「攻レ城爲レ下、ーーー爲レ上」。
〔野戰〕原野の間にてのいくさ。〇〔漢〕「有二ーー翠レ地之功一」。
〔百戰〕あまたゝびのたゝかひ。〇〔漢〕「有二ーー百勝之計一」。
〔陸戰〕くが地にてのいくさ。〇〔漢〕「不レ能二ーー一」。
〔手戰〕(い)己れ自身と手を下してたゝかふ。「ーー」。〇〔論衡〕「羣臣ーー」。
(ろ)兩の手わなゝきふるふ。〇〔陸游〕「題レ名驚ーー」。
〔酣戰〕兩軍入り亂れ戰ふこと。〇〔韓〕「楚晉ーー之時、子反渴而求レ飲」。
〔血戰〕身命を擲ちてのたゝかひ。〇〔五〕「大五父子與レ梁ーー三十年」。
〔功戰〕いさをしをたゝかひに立つること。〇〔韓詩外傳〕「貪レ勇者、不下以二備上而ーー一、而以中侵陵私鬪上」。
〔茗戰〕茶の湯の巧拙を爭ふこと。〇〔吳儆〕「ーーー都緣避レ作レ家」。
〔苦戰〕困難なるいくさ。〇〔李白〕「ーー覓不レ侯」。
〔征戰〕いくさ。〇〔李白〕「樓船習二ーー一」。
〔逐戰〕馳せ廻りたゝかふ。〇〔李昂〕「ーー會送雙輪下」。
〔校戰〕力をくらべたゝかふ。〇〔李昂〕「將軍ーー出二玉堂一」。
〔速戰〕ためらふことなく急ぎたゝかふ。〇〔左〕「隨侯曰、必ーー、不レ然將レ失二楚師一」。
〔祈戰〕いくさして勝たんことを神にいのる。〇〔左〕「秦伯伐レ晉以レ璧ーー于河一」。
〔卜戰〕いくさすることの吉凶をうらかたにたづぬ。〇〔左〕「ーレー不レ吉」。
〔郊戰〕都の近き野にありてたゝかふ。〇〔左〕「爲二ーー一、故公會二吳子一伐レ齊」。
〔疑戰〕詐りをもて敵を誘ひ撃ついくさ。〇〔穀梁〕「公敗二齊師于長勺一、不レ日ーー也」。
〔舟戰〕船いくさ。〇〔墨子〕「楚人與二越人一、ーー于江一」。
〔水戰〕前に同じ。〇〔漢〕「以習二ーー一」。
〔敵戰〕かたきとしてたゝかふ。〇〔國〕「夫吳之與レ越也、仇讎ーー之國也」。
〔決戰〕勝負を定めんとて戰ふ。〇〔晉〕「率二將士一ーー」。
〔縞戰〕敵に接したゝかふ。〇〔史〕「ーーー以死」。
〔窮戰〕くるしみたゝかふ。〇〔史〕「漢兵遠鬪ーー」。
〔疾戰〕勢とくたゝかふ。〇〔五〕「驅馳ーー」。
〔驅戰〕驅せたゝかふ。〇〔史〕「孟舒豈故ーー哉」。
〔會戰〕行き合ひてたゝかふ。〇〔漢〕「田榮亦將レ兵ーー」。
〔合戰〕たゝかひ、いくさ。〇〔漢〕「且日ーー」。
〔進戰〕すゝみ出でてたゝかふこと。〇〔後漢〕「賊利則ーー」。
〔力戰〕骨折りてたゝかふ。〇〔後漢〕「臨レ敵ーー」。
〔四戰〕四方何れを向きてもたゝかひを爲さではえすまぬこと。〇〔後漢〕「潁川ーー之地」。
〔連戰〕頻にたゝかふ。〇〔後漢〕「當ーー無レ功」。
〔步戰〕かちにていくさす。〇〔後漢〕「便持二矛ーー」。
〔距戰〕敵をふせぎたゝかふ。〇〔晉〕「ー二ー于棠狠一」。
〔出戰〕國境又は城の外にありきてたゝかふ。〇〔晉〕「ーー入耕」。
〔累戰〕しきりにたゝかふ。〇〔晉〕「ーー皆捷」。
〔勇戰〕元氣を出だしてたゝかふ。〇〔張正見〕「拂レ花聊ーー」。
〔挺戰〕身を拔き出だしていくさす。〇〔南〕「單身ーー」。
〔鏖戰〕全力を盡くして大にたゝかふ。〇〔唐〕「勇往決二ーー一」。
〔巷戰〕町中にてたゝかふ。〇〔五〕「先入猶ーー」。
〔敢戰〕心を決して劇しくたゝかふ。〇〔五〕「非ーー類レ我」。
〔禦戰〕敵を防ぎたゝかふ。〇〔尉繚子〕「退不二亭隙一以ーー非二善者一也」。
〔教戰〕いくさするの法を訓練す。〇〔蘇轍〕「且暮ーレー」。
〔守戰〕國又は城を堅固に保ちたゝかふ。〇〔荀子〕「四戰之國、貴二ーー一」。
〔寇戰〕あだとたゝかふ。〇〔荀子〕「勇二於ーー一」。
〔極戰〕必死のたゝかひ。〇〔荀〕「遠舉ーー則不可」。
〔悖戰〕さかりあらそふこと。〇〔莊〕「言行之情、ーー二ー于胸中一也」。
〔繁戰〕多くたゝかふこと。〇〔呂氏春秋〕「ーー之君、不レ足二于詐一」。
〔數戰〕たびゝゝたゝかふ。〇〔韓詩外傳〕「ーー則民疲」。
〔叢戰〕草野の間にてのたゝかひ。〇〔心書〕「ーー之道利在二劍楯一」。
〔林戰〕はやしの間に在りてのたゝかひ。〇〔心書〕「ーー之道、晝廣二旌旗一」。
〔悍戰〕甚だ勇ましく戰ふ。〇〔華陽國志〕「夷人ーー」。
〔格戰〕擊ち合ひたゝかふ。〇〔華陽國志〕「衣二總服一ーー」。
〔噤戰〕口をつぐみわなゝきふるふ。〇〔佛國記〕「人皆ーー」。
〔遞戰〕思ひゝゝにたゝかひて一致せず。〇〔劉勰〕「千八ーー、不レ如二十人俱至一」。
〔寒戰〕こゞえわなゝく。〇〔水經、註〕「厚衣狐裘ーー」。
〔棋戰〕棊を圍みて巧拙をたゝかはすこと。〇〔陸游〕「借招二ーー一」。
〔深戰〕手いたくたゝかふ。〇〔張衡〕「高出利二于ーー一」。
〔健戰〕けなげにたゝかふ。〇〔阮籍〕「ーー將レ升」。
〔挌戰〕敵に近寄りたゝかふ。〇〔張巡〕「ーー春來苦」。
〔驕戰〕たゝかひにほこりて戒めず。〇〔高適〕「ーー焉能久」。
〔鬪戰〕たゝかひ。〇〔韓愈〕「樂二其ーー之危一」。
〔聳戰〕身をそばだてゝわなゝく。〇〔蘇軾〕「臨レ起猶ーー」。
〔筆戰〕文筆の優劣の爭ひ。〇〔張舜民〕「眼昏ーー誰能畫」。
〔殊死戰〕死にもの狂ひのたゝかひ。〇〔史〕「軍皆ーーー、不レ可レ敗」。
〔背水戰〕川をせなに負ひ逃ぐることをせざる覺悟をなしてたゝかふ。〇〔後漢〕「乃更ーレー而ー」。

【戲】俗の戲の字。

【䧿戈】 猶に同じ、鳥の驚き飛ぶ貌にいふ字。

十三畫

【戫】 井ク、ヲク。乙六切 屋
文章あること、つや、あや。

【戭】 バン、モン。亡范切 豏
やいば、（刃）。

【戲】 キ、ギ。香義切 寘

㊀たはむる。
（い）もの言ひ興じて笑ふ。○〔禮〕「闈-門之內、–而不レ歎」。
（ろ）嘲り笑ふ、おどけを言ふ。○〔詩〕「善–謔兮」。
（は）あそぶ、（嬉）。○〔詩〕「無二敢–-豫一」。
（に）遊技を演ず。○〔家語〕「俳-優侏-儒–二于前一」。

㊁たはむれ。
（い）たはむるゝこと。○〔國〕「夷-吾之少也、不レ好二弄–-–一」。
（ろ）演劇、伎樂、角觝、賭博、おどけ、すべての遊技。○〔史〕「優-倡侏-儒爲レ–而前」。

㊂義に通じ用ふ。○〔荀〕「文-武之道同二虛–-–一」。

㊃麾に同じ、旗の屬。○〔史〕「諸-侯罷二–下一各就レ國」。

㊄かたむく、（傾-側）。○〔周〕「執レ披備二傾–-–一」。

〔博戲〕 すごろくの勝負により金錢をとりやりするあそび。○〔史〕「–-–惡-業也」。
〔兒戲〕 小供のたはむれ。○〔史〕「嚢者覇-上棘-門軍若二–-–一耳」。
〔嫚戲〕 みだらなるたはむれ。○〔漢〕「唱-二爲賦頌一好–-–」。
〔百戲〕 もろ〳〵のたはむれ。○〔唐〕「觀二–-–於宣-和-殿一」。
〔嘲戲〕 あざけりたはむる。○〔南〕「頗雜二–-–一」。
〔談戲〕 物語りをしてたはむる。○〔魏〕「善-能二–-–一」。
〔摴戲〕 ばくちのたはむれ。○〔宋〕「宋-慤共–-–」。
〔采戲〕 すごろくのたはむれ。○〔明皇雜錄〕「明-皇與二貴-妃一–-–」。
〔象戲〕 將棊のたはむれ。○〔藝文類聚〕「周武-帝造二–-–一」。
〔傲戲〕 おごりたはむる。○〔後漢〕「陛-下宜下納二慢-–之–一念中官-人之重上」。
〔淫戲〕 みだらなるたはむれ。○〔唐〕「惟王–-–用自絕」。
〔調戲〕 口辯にてたはむる。○〔魏〕「世-宗時–二–之一」。
〔言戲〕 前に同じ。○〔北〕「–-–穢-褻」。
〔遊戲〕 あそびたはむる。○〔史〕「其–-–好レ種-樹麻-菽一」。
〔嬉戲〕 前に同じ。○〔史〕「–-–常陳二俎-豆一」。
〔鞠戲〕 まりのたはむれ、卽ちけまりのあそび。○〔宋〕「王好二–-–一」。
〔奇戲〕 めづらしきたはむれ。○〔晉〕「恭-帝爲二琅-邪王一好二–-–一」。
〔武戲〕 力をくらべ爭ふたはむれ。○〔漢〕「時覽二下射–-–一」。
〔贏戲〕 はだかにてたはむる。○〔漢〕「倡-俳–二–坐-中一」。
〔歌戲〕 うたをうたひたはむる。○〔魏〕「相就–-–」。
〔讌戲〕 さかもりしてたのしむ。○〔晉〕「與二官-人一–-–」。
〔飲戲〕 前に同じ。○〔魏〕「–-–免レ官」。
〔昵戲〕 ちかづきたはむる。○〔宋〕「蔡尙-書常免二–-–一」。
〔雜戲〕 くさ〴〵のたはむれ。○〔陳子昂〕「魚-龍–-–來」。
〔賭戲〕 かけごと。○〔晉〕「依レ品–-–」。
〔幻戲〕 てじな。○〔唐〕「禁下人爲二–-–一者上」。
〔褻戲〕 けがらはしきみだらなるたはぶれ。○〔唐〕「爲二倡-優–-–一」。
〔諧戲〕 そしりたはむる。○〔五〕「多爲二諛語一相–-–」。
〔局戲〕 圍棊とすごろくとのこと。○〔急就篇〕「棊-–博-–相易-輕」。
〔雅戲〕 風流なるたはむれ。○〔顏氏家訓〕「頗爲二–-–一」。
〔戲戲〕 そばだつこと。○〔七發〕「險-々–-–」。

【戱】 キ、ギ。虛宜切 支
歎息の聲にいふ字、あ、あゝ。○〔書〕「於-–前-王不レ忘」。

【戲】 サ。桑何切 歌
翡翠にて飾れる一種の酒尊、さかだる。

十四畫

【戳】 タク、トク。敕角切 覺
やり、ほこ、（槍）。

【戴】 タイ。丁代切 隊

㊀いたゞく。
（い）頭の上に物を載す、のす。○〔孟〕「頒-白者不レ負二–道-路一」。
（ろ）上位に仰ぐ。○〔書〕「衆非二元-后一何–」。
（は）賜ものを受く。○〔柳宗元〕「捧二–皐-恩一不レ知二寢-食之適一」。

㊁あふ、あたる、（値）。○〔爾〕「–レ日爲二丹-穴一」。

〔奉戴〕 あがめいたゞく。○〔晉〕「咸有二–-–之誠一」。
〔訢戴〕 よろこびておしいたゞく。○〔史〕「庶-民不レ忍二–-–一」。
〔依戴〕 たよりいたゞく。○〔後漢〕「無レ所二–-–一」。
〔感戴〕 心をうごかしておしいたゞく。○〔吳〕「士-民–-–之一」。
〔翼戴〕 もりたつること。○〔晉〕「懷下–二–晉-王一之計上」。
〔宗戴〕 主としていたゞく。○〔北〕「萬-國–-–」。
〔銘戴〕 感じあふぐ。○〔北〕「況在二人-倫一而不二–-–一」。
〔愛戴〕 いつくしみいたゞく。○〔舊唐〕「洽二三軍–-–之情一」。
〔瞻戴〕 仰ぎ視ていたゞく。○〔舊唐〕「億兆八紘之所二–-–一」。
〔推戴〕 おしいたゞく。○〔宋〕「爲二衆–-–一」。
〔荷戴〕 うけいたゞく。○〔梁武帝〕「–-–奉-持」。

【戴】 サイ。作代切 隊
地の名。○〔春秋〕「宋人蔡人衞人伐レ–」。

十五畫

【戱】 キ。許羈切 支 一本、𢨐に作る。又、𢧐に作る。
相笑ふ貌にいふ字。

十六畫

【鹹】 キ、ケ。呼伊切 支
一種の兵器。

【䖈戈】 ガ。五哥切 歌
一種の蟲、ひる。

十八畫

【戵】 ク、ゴ。權俱切 虞
戟の屬、ほこ。○〔賀數〕「玉-砌分二離戟一、金-溝轉二鏤–一」。

戶 部

【戶】 コ、グ。後五切 麌

㊀と。
（い）家室の出入口。○〔易〕「不レ出二–庭一」。

(ろ)出入り口、又、穴。○〔禮〕、蟄蟲坏レ戶。
(は)單扉、いちまいど、とびら。○〔晉〕「將ニ排レ戶入一」。
㊁家屋、住居。○〔後漢〕、「案レ戶比レ民」。
㊂家屋を數ふるにいふ字。○〔史〕「爲ニ帝者師一封ニ萬戶一」。
㊃家族、居民。○〔唐〕「溫戶彊丁因避ニ賦役一」。
㊄とゞむ（止）、又、まもる、（護）。○〔左〕「屈蕩戶レ之」。
㊅酒を飮む量。○〔白居易〕「戶大嫌ニ甜酒一」。
㊆盰に通じ用ふ、あや、文采。○〔揚雄〕「戶豹能黃」。
㊇殷湯の制定せる樂の名、濩に同じ。○〔揚雄〕「戶音六成」。

〔門戶〕（い）出入りぐち。○〔易、註〕「天地者、易之門戶」。
（ろ）家族。○〔晉〕「貴權門戶」。
〔牖戶〕出入り口、穴、まどのあけたての口、又、其のとびら。○〔詩〕「徹ニ彼桑土一、綢ニ繆牖戶一」。
〔蓬戶〕よもぎの草もてあつらへたると、いぶせき家居。○〔史〕「蓬戶褐衣」。
〔三戶〕楚の地の名。○〔史〕「楚雖ニ三戶一、亡レ秦必楚也」。
〔編戶〕普通人民の家屋。〔史〕「況匹夫編戶之民乎」。
〔朱戶〕あけをもて塗り飾れると、古昔支那にて天子の諸侯を優待して賜はれる儀式の一。○〔漢〕「朱戶納陛」。
〔洞戶〕婦人の居る部屋の出入りぐち。○〔徐陵〕「洞戶朱帷垂」。
〔窗戶〕まどのとびら、又まど。○〔魏〕「以ニ衣被一蔽ニ窗戶一」。
〔玉戶〕たまもて飾れると。〔宋〕「金鋪玉戶」。
〔九戶〕明堂に備へつけたると、明堂には九つの室ありてその室ごとに一つのとあり故にいふ。○〔西京賦〕「大廈耽々、九戶開闢」。
〔庭戶〕にはの出入りぐち。○〔陳子昂〕「山陰藏ニ庭戶一」。

〔酒戶〕飮酒の量。○〔銚合〕「愛レ花高ニ酒戶一」。
〔墐戶〕出入り口をどろもて塞ぐ。○〔禮〕「蟄蟲墐戶」。○〔詩、疏〕「咸俯在レ內、皆墐ニ其戶一」。
〔室戶〕部屋の出入りぐち、又、其の扉。○〔儀〕「尊ニ在室戶之外一」。
〔房戶〕部屋の出入りぐち、又、其の扉。○〔儀〕「尊ニ於房戶之間一」。
〔女戶〕をなごぐらしの家居。○〔宋〕「單丁女戶、並免ニ差役一」。
〔邑戶〕むらの家數。○〔後漢〕「邑戶最大」。
〔人戶〕人民の家。○〔後漢〕「隣縣人戶歸附者、寇轉訓導譬解」。
〔鄉戶〕さとの家、土著の民。○〔宋〕「役レ人必用ニ鄉戶一」。
〔客戶〕他鄉より來たりて身を寄する家居。○〔宋〕「振レ之至ニ客戶一」。
〔遺戶〕殘れる居民、殘れる家居。○〔晉〕「到レ官之日、遺戶無レ幾」。
〔新戶〕あらたに世帶を持てる家、又、其の住民。○〔北〕「詔給ニ內縱新戶耕牛一」。
〔降戶〕歸服したる敵人の家、又、其の家族。〔唐〕「四夷降戶、附以ニ寬鄉一」。
〔亭戶〕唐の時、官より命じて鹽を人民に鬻がしめたる家。○〔唐〕「第五琦初變ニ鹽法一置ニ監院一、游民業レ鹽者爲ニ亭戶一、免ニ雜徭一」。
〔商戶〕あきなひびとの家、あきうど。○〔唐〕「不レ奪ニ商戶儀賓一」。
〔貧戶〕富まざる家、びんぼふ人。○〔唐〕「貧戶逃酤不レ在焉」。
〔見戶〕現在その地に住まへる家、又、其の家族。○〔唐〕「若流亡多加レ稅、見戶者殿」。
〔雁戶〕處を定めずうつり歩く家、流浪する居民即ち、かりの處定めず氣候につれて移りありくに似たるよりいふ。○〔劉禹錫〕「江村雁戶歸」。
〔佃戶〕小作人。○〔五〕「歲時衣ニ靑紺一、押ニ佃戶一送租ニ入レ城」。
〔下戶〕貧民。○〔李觀〕「下戶半督差ニ作役一」。
〔官戶〕政府より命ぜられて事を執る家。○〔宋〕「官戶勢家、與ニ編戶一同レ科」。
〔竈戶〕亭戶に同じ。○〔宋〕「凡鬻レ鹽之地曰ニ亭場一、民曰ニ亭戶一、或謂ニ之竈戶一」。
〔軒戶〕のき下の出入り口。○〔論衡〕「或基ニ殿堂一、或塗ニ軒戶一」。
〔扉戶〕とびら。○〔水經、註〕「扉戶梁壁椽互悉文石也」。

〔氣戶〕息の出入りする處、即ち、鼻の穴。○〔長沙耆舊傳〕「凡鼻爲ニ氣戶一」。
〔魚戶〕うをゝ取るものゝ住處、又、其の居民。○〔蠻譜〕「錢氏開置ニ魚戶蟹戶一」。
〔蜑戶〕あまの住處。○〔蘇軾〕「蜑戶レ舟龍岡窟」。
〔匿戶〕公に屆け出でをせずして租稅を納むることを怠る家。○〔却掃編〕「收ニ匿戶羨田一佐ニ用度一」。
〔戶戶〕かの家もこの家も。○〔東京夢華錄〕「戶戶神仙」。
〔潛戶〕隱れて表にあらはれぬ蟲の穴。○〔東京賦〕「啓ニ諸蟄於潛戶一」。
〔重戶〕幾へにもかさねある扉。○〔張衡〕「重戶結ニ金扃一」。
〔幽戶〕奥深き出入り口。○〔張載〕「便房啓ニ幽戶一」。
〔閭戶〕村の門のとびら。○〔鮑照〕「閭戶外拓」。
〔帷戶〕まくを垂れて扉の代用にしたるもの。○〔鮑照〕「徘徊帷戶中」。
〔邃戶〕幽戶に同じ。○〔謝朓〕「排ニ邃戶一以重深」。
〔澗戶〕谷あひにあつらへたる家。○〔盧照隣〕「澗戶無ニ人跡一」。
〔蒲戶〕むしろもてあつらへたるとびら。○〔梁昭明太子〕「蒲戶幽人」。
〔竹戶〕たけもてあつらへたると。○〔隋煬帝〕「輕片有レ時敵ニ竹戶一」。
〔荊戶〕いばらの木もてあつらへたると。○〔隋煬帝〕「披レ衣出ニ荊戶一」。
〔簷戶〕のき下の出入り口。○〔陳子昂〕「對ニ簷戶一」。
〔瓊戶〕玉もて飾りたると。○〔蘇軾〕「朱欄碧井開ニ瓊戶一」。
〔閨戶〕ねやのと。○〔孟浩然〕「閨戶□□深」。
〔疎戶〕粗末にあつらへすきまあるとびら。○〔梁簡文帝〕「秋風入ニ疎戶一」。
〔釣戶〕魚つるをもてなりはひとする人、又、其の住み處。○〔王建〕「釣戶竿頭乞ニ活魚一」。
〔瑣戶〕ふねのと。○〔賈島〕「瑣戶□□□」
〔綺戶〕うすぎぬもて飾れるとびら。○〔張□□〕「綺戶□ニ風色一」。
〔柴戶〕あばもてあつらへたると。○〔韓非熊〕「□跡入ニ柴戶一」。
〔樵戶〕木こりのすまふ家、又、木こり。○〔□□〕「樵戶入家隨レ處見」。

〔窳戶〕かりうどの家、又、かりうど。○〔黃庭堅〕「飯レ香獵戶分ニ熊白一」。
〔漁戶〕すなどりする人、又、其の家。○〔戴表元〕「漁戶悉閉牧ニ牛羊一」。
〔千門萬戶〕どの家もこの家も、みなすべての家。○〔易林〕「千門萬戶大福所レ處」。

二畫

【戹】ヤク。乙革切　陌

㊀小き門、くゞりもん。
㊁せまる（隘）、○〔賈岱宗〕「入ニ窮谷之峻戹一」。
㊂なやむ、なやます（艱）。〔周〕「賙ニ萬民之囏戹一」。
㊃くるしむ（困）。○〔史〕「兩賢豈相戹哉」。
㊄災難、なやみ、くるしみ、わざはひ。○〔洛陽伽藍記〕「今日有ニ水戹一」。

〔乏戹〕貧しきになやむと。○〔後漢〕「賑ニ濟乏戹一」。
〔困戹〕窮がりくるしむ。○〔後漢〕「窮困戹」。
〔饑戹〕食に乏しくてなやむ。○〔後漢〕「同饑戹而榮講誦不レ息」。
〔撓戹〕たわみくるしむ。○〔曹植〕「嬈々公侯、不レ撓戹一」。
〔閉戹〕ふさがりなやむ。○〔後漢〕「困窮閉戹」。
〔虎口戹〕虎の口に投ぜるが如きにめてあやふきなやみ。○〔潘岳〕「覓免ニ虎口之戹一」。

三畫

【戺】シ。鉏里切　紙

㊀楣を持つもの、さぼそもち。○〔爾〕「落時謂ニ之戺一」。
㊁堂の廉、すみ、かど。○〔書〕「四人綦弁執レ戈、夾ニ兩階戺一」。
㊂みぎり（砌）、あきみ、（閾）。○〔張衡〕「金戺玉階」。

【戹】

戺に同じ。

【戻】タイ、テ。他蓋切 泰
輜車の旁のひらき戸。

【戼】卯の本字。

四畫

【戻】古文の戸の字。

【戾】カン、ゲン。苦減切 鎌
小さき戸。

【戽】コ、後五切 麌 荒故切 遇
くむ、（抒）。〇〔廣韻〕「—斗舟中漉レ水器」。

【戾】レイ、ライ。郎計切 霽
㊀まがる、（曲）。〇〔荀〕「行而俯レ項非ニ擊—也」。
㊁そむく、（乖）、もとる、（佷）。〇〔列〕「自以行無レ—也」。
㊂理法にそむきもとること、暴惡なること。〇〔戰〕「虎者—蟲」。
㊃罪過、つみ、とが。〇〔左〕「其敢干ニ大禮一以自取レ—」。
㊄反轉す、かへる、かへす、もどる、もどす。〇〔淮〕「擧—事—ニ蒼天一」。
㊅勁疾の貌にいふ字。〇〔潘岳〕「勁風—而吹レ帷」。
㊆いたる、（至）。〇〔詩〕「鳶飛—レ天」。
㊇とゞまる、とゞむ、（止）。〇〔書〕「今惟民不レ靜未レ—ニ厥心一」。
㊈さだむ、さだまる、（定）。〇〔詩〕「民之未レ—、職盜爲レ寇」。
〔大戾〕いみじきつみとが。〇〔詩〕「昊天不レ惠、降ニ此—一」。
〔止戾〕とゞまる、とゞむ。〇〔詩〕「宗周既滅、靡レ所ニ—一」。
〔風戾〕かぜいたりて乾くこと。〇〔禮〕「——以食レ之」。
〔貪戾〕慾深くして暴惡なること。〇〔禮〕「一人——、一國作レ亂」。
〔狠戾〕狠褚といふに同じ、散亂して取り締りのなきこと。〇〔孟〕「樂歲糧米——」。
〔暴戾〕てあらくして理にそむくこと。〇〔史〕「——恣睢」。
〔拂戾〕もとる。〇〔禮〕「——ニ賢人所レ爲」。
〔詭戾〕常に從がはざること。〇〔馬融〕「嵬隆——」。
〔罪戾〕つみ、とが。〇〔左〕「免ニ于——一」。
〔錯戾〕交はりまがる、又、たがひもとる。〇〔爾、註〕「皮理——、好叢ニ生山中一」。
〔違戾〕そむく、もとる。〇〔魏〕「各——不レ和」。
〔惡戾〕心根善からず理にそむくこと。〇〔史〕「駟鉤——、虎而冠者也」。
〔姦戾〕無智にして理に背くこと。〇〔後漢〕「戒醜——」。
〔狠戾〕そむきもとる。〇〔魏〕「臨レ陣——」。
〔剛戾〕強情にして理に背くこと。〇〔魏〕「性——、與レ人多レ迕」。
〔咎戾〕とがめ。〇〔蜀〕「畏ニ彼——一」。
〔愆戾〕過失。〇〔蜀、註〕「臣黍レ質以來、——山積」。
〔凶戾〕暴惡なること。〇〔南〕「渾少——」。
〔重戾〕手おもき罪過。〇〔吳〕「畏レ威忌レ德以取ニ——一」。
〔差戾〕違ひそむく。〇〔晉〕「參星——王臣貳」。
〔狷戾〕心狹く理にさかふ。〇〔南〕「素業都懈、——日甚」。
〔悔戾〕とがめ。〇〔北〕「自貽ニ——一」。
〔很戾〕ねぢけもとる。〇〔北〕「其性——」。
〔悍戾〕暴惡なること。〇〔唐〕「——貪肆」。
〔獷戾〕荒々しくして理にそむくこと。〇〔唐〕「——貪肆」。
〔僻戾〕心ひがみもとる。〇〔唐〕「延齡——躁妄」。
〔怫戾〕理にもとりたがふ。〇〔唐〕「——者化」。
〔悖戾〕前に同じ。〇〔宋〕「相與——」。
〔乖戾〕そむく。〇〔五〕「遂至ニ——一」。
〔背戾〕前に同じ、〇〔宋〕自相——矣」。
〔怨戾〕恨みもとる。〇〔宋〕「乘ニ——之氣一」。
〔猛戾〕暴惡なること。〇〔明〕「勇胆——」。
〔鄙戾〕性質卑しくして理に背く。〇〔大戴禮〕「心氣——」。
〔謬戾〕誤りそむく。〇〔道德指歸論〕「陰陽——」。
〔爭戾〕あらそひもとる。〇〔易林〕「相與——」。
〔反戾〕そむく。〇〔潛夫論〕「下民——」。
〔否戾〕前に同じ。〇〔人物志〕「說ニ變通一則——而不レ入」。
〔驚戾〕荒々しくして理に背く。〇〔十道志〕「渤海風俗——」。
〔曲戾〕まがる。〇〔搨強新話〕「亦不ニ——一」。
〔廖戾〕風の強く吹くことにいふ語。〇〔王褒〕「虎嘯而風——」。
〔繚戾〕ねぢけそむくこと。〇〔劉向〕「龍印將圖——」。
〔湫戾〕集まり至る。〇〔劉向〕「雲吸々以——」。
〔旁戾〕あまねく至る。〇〔張衡〕「羣后——」。
〔饕戾〕貪りもとる。〇〔蔡邕〕「——是黜」。
〔否戾〕逆ひもとる。〇〔王粲〕「天姿餠——」。

【戾】リ。力至切 寘 レツ、レチ。練結切 屑
前條の㊄に同じ。

【戾】キフ、ゴフ。其立切 緝
戸の鍵、ぢやう。

【房】ハウ、バウ。符方切 陽
㊀堂の旁にある室、へや、つぼね。〇〔禮〕「夫人在ニ西—一」。
㊁居處、住宅、すまひ、いへ。〇〔國〕「乃能攝固保ニ其土—一」。
㊂巢窠、す。〇〔淮〕「蜂—不レ容ニ鵠卵一」。
㊃すべてものの閉ざされ藏まる所。〇〔呂氏春秋〕「是謂レ發ニ天地之—一」。
㊄花などの一莖に簇がれるものゝ稱、ふさ。〇〔陸雲〕「綠—合ニ靑實一」。
㊅箭を入るゝもの、やづゝ、やいれ。〇〔莊〕「納ニ諸廚子之—一」。
㊆脚に跗ある俎、まないた。〇〔詩〕「籩豆大—」。
㊇東南にある辰宿の名、天駟。〇〔禮〕「十月日在レ—」。
〔大房〕（い）籩豆の類を載するまないた、玉にて飾りたるもの。〇〔詩〕「籩豆——」。（ろ）都城内の盜の集合せる處。〔宋〕「都城羣盜所レ聚、謂ニ之——一」。
〔椒房〕后妃のゐます室の名、古昔は后妃の室は椒を室の壁に塗り込みある故に此の名あり。〇〔漢〕「抑ニ損——玉堂之盛一」。
〔芝房〕漢の孝武帝の時甘泉宮の内に靈芝を生じたるより之を瑞とし作らしめたる歌。〇〔兩都賦序〕「白麟赤鴈——寶鼎之歌、薦ニ于宗廟一」。
〔紫房〕大后の居ます室の名、漢の安陶太后の房に居ませしより起これり。〇〔後漢〕「惟女惟弟、來ニ儀——一」。
〔九房〕后妃のつぼね、古昔天子一たび后を娶れば后を合はして九人の女子の從ひ來たれる各部屋を別にして之を居らしめたるよりいふ。〇〔後漢〕「古者天子一娶九女嫡姪有レ序、河圖授レ嗣、正ニ位——一」。
〔專房〕婦人の事ふる所を同じくする他の婦人すぐれて事ふる所の男子の寵愛を一人占めにすることにいふ語。〇〔梁簡文帝〕「擅ニ—レ—燕私一」。
〔後房〕婦人の居るつぼね。〇〔張衡〕「得ニ充ニ君——一」。
〔空房〕一人寢のへや。〇〔宋〕「妾當レ守ニ——一」。
〔山房〕やま家。〇〔溫庭筠〕「——霜氣晴」。
〔矢房〕やづゝ。〇〔元〕「服ニ——甲胄之器一」。
〔禪房〕僧寺。〇〔李白〕「永言題ニ——一」。
〔僧房〕前に同じ。〇〔謝靈運〕「臨ニ浚流一列ニ——一」。
〔都房〕大いなる北のへや。〇〔楚辭〕「紛旋ニ施乎——一」。
〔洞房〕婦人の居るへや。〇〔梁元帝〕「花交ニ夯——」。〇〔陸[illegible]〕
〔曲房〕人目に觸れぬ處に設けたるへや。〇〔[illegible]〕「凉風繞ニ——一」。
〔翠房〕舞の名。〇〔孫逖〕「江妃舞ニ——一」。
〔絳房〕赤き花ぶさ。〇〔李商隱〕「紅苞雜ニ——一」。
〔堂房〕座敷とへやと、轉じて、家内。〇〔[illegible]〕「——無レ事」。
〔閨房〕ねや。〇〔漢〕「——之內、夫婦之私」。
〔文房〕學事を修むるへや。〇〔北〕「君職典ニ——一」。

〔私房〕己れの休息するへや。○〔北〕「所レ得俸祿、不レ入二ー・ー一」。
〔同房〕同居すること。○〔晋〕「文鴦與二義興公一ー」。
〔幽房〕奥深く靜かなるへや。○〔余靖〕「ー・ー寂寞時」。
〔尼房〕女僧の住まへるへや。○〔洛陽伽藍記〕「瑤光寺講堂、ー・ー五百餘間」。
〔蛤房〕はまぐりの殼。○〔夢溪筆談〕「諸ー之ー、爲海水礱礪光瑩」。
〔垂房〕たれさがりたる花ぶさ。○〔庾信〕「蓮井側二ー・ー一」。
〔虛房〕人なきへや。○〔僧支遁〕「吟詠歸二ー・ー一」。
〔御房〕帝王の住み給ふへや。○〔南都賦〕「ー・ー穆以華麗」。
〔溫房〕煖かきへや。○〔七啓〕「ー・ー則冬服絺綌」。
〔便房〕休息べや。○〔潘岳〕「憩二ー・ー一以偃息」。
〔霄房〕あをそら。○〔陸機〕「下二ー・ー之寥迥一」。
〔陰房〕物かげにあつらへしへや。○〔陸雲〕「步二ー・ー一而夏涼」。
〔帷房〕とばりの垂れたるへや。○〔趙至〕「弄二姿ー・ー之裏一」。
〔崇房〕高くおごそかにかまへたるへや。○〔盧貞安〕「大廈ー・ー」。
〔綠房〕美麗に飾れるへや。○〔顏延之〕「匝以二ー・ー一」。
〔密房〕人に目立たぬやうあつらへたるへや。○〔梁簡文帝〕「ー・ー寒日晩」。
〔蕙房〕かんばしき香を込めたるへや。○〔陳後主〕「ー・ー桂棟、咸使二維新一」。
〔故房〕ふるくより住まひしへや。○〔李白〕「新寵方妍好、掩レ淚出二ー・ー一」。
〔寒房〕物さびしきへや。○〔杜甫〕「ー・ー燭影微」。

【所】ショ、ソ。疏擧切　〔語〕

㊀ところ。
(い)地、場、位置。○〔左〕「其有レ憂乎、非二歎ー一也」。
(ろ)處在の位置、存在地。○〔左〕「武子去レー日、臣不レ堪也」。
(は)力を一事に致すこと。○〔書〕「王敬爲レー」。
(に)物事を指していふ字。○〔論〕「觀二其ーレ由」。
㊁他よりあむけしなあらはす字、る、ろ。○〔史〕「ーレ殺者白帝之子、殺者赤帝之子」。
㊂程を示すに用ふる字、ほど、ばかり。○〔漢〕「父去里ーー復還」。
〔年所〕としつき。○〔張衡〕「多歷二ー・ー一」。
〔公所〕君のゐましどころ、又、やくしよ。○〔詩〕「獻二于ー・ー一」。
〔處所〕ところ。○〔孟浩然〕「天邊迷二ー・ー一」。
〔帝所〕天子のゐましどころ、又、天帝のゐましどころ。○〔史〕「我之二ー・ー一甚樂」。
〔酒所〕さかもりの場處。○〔陳造〕「ー・ー揮二椽筆一」。
〔幾所〕いくばく。○〔漢〕「驗問二北家金餘、尚有二ー・ー一」。
〔本所〕もとのところ。○〔易、疏〕「過二其ー・ー一」。
〔我所〕おのれのところ。○〔詩〕「爰得二ー・ー一」。
〔宅所〕ほかのところ。○〔漢〕「風發二于ー・ー一」。
〔軍所〕戰場、又、兵營。○〔漢〕「恐詣二ー・ー一」。
〔屯所〕屯營のあるところ、たむろ。○〔漢〕「詣二ー・ー一、爲二將軍副一」。
〔營所〕前に同じ。○〔後漢〕「晨到二ー・ー一」。
〔會所〕あつまり場處。○〔漢〕「共待二ー・ー一」。
〔墓所〕はかば。○〔後漢〕「不レ離二ー・ー一」。
〔治所〕政廳のあるところ。○〔劉禹錫〕孟秋至二ー・ー一」。
〔齋所〕ものいみするところ。○〔舊唐〕「各從二ー・ー一」。
〔祠所〕まつり場處。○〔舊唐〕「五刻向二ー・ー一」。
〔寧所〕やすらかなるところ。○〔唐〕「天下晏々、莫レ知二ー・ー一」。
〔民所〕民間といふに同じ。○〔晉〕「普在二ー・ー一」。
〔樂所〕たのしき場處。○〔易林〕「長住二ー・ー一」。
〔飲所〕酒をのむ場處。○〔雲仙雜記〕「蘇晉作二曲室爲二ー・ー一」。
〔花所〕はなあるところ。○〔劇談錄〕「直造二ー・ー一」。
〔遠所〕とほきところ。○〔司馬相如〕「恐ー・ー鄰谷山澤之民」。
〔勝所〕景色のすぐれたるところ。○〔梁昭明太子〕「故邀遊兮玆ー・ー」。
〔舊所〕むかしのところ。○〔武少儀〕「不レ易二ー・ー一」。
〔棲所〕すまひ。○〔陸龜蒙〕「回レ頭問二ー・ー一」。
〔住所〕すみか、すまひ。○〔蘇舜欽〕「念君ー・ー近不レ遠」。
〔行在所〕天子のかりのみや。○〔史〕「武帝時、徵二北海太守一詣二ー・ー・ー一」。
〔矢石所〕矢石の飛ぶ戰場。○〔說苑〕「明日結レ髮徑立二ー・ー之ー一」。
〔一歲所〕一年ばかり。○〔史〕「率取レ婦ー・ー・ー者、輒棄去」。

【所】バウ、メウ。莫飽切　〔巧〕

戸を闢く、あく、ひらく。

五畫

【⿸戸去】カフ、ゴフ。葛合切　〔合〕
キヨ、ゴ。丘據切　〔御〕

戸を閉づ、さざす、さづ。

【扁】ヘン、ベン。補典切　〔銑〕

㊀門戸に文を署したるもの。○〔宋〕「夢至二一亭一、ー曰二待康一」。
㊁面平かにして隆起なし、ひらたし、ひらし。○〔後漢〕「兒生欲レ令二其頭ー一、皆押レ之以レ石」。
㊂ひくし、(卑)。○〔詩〕「有二ー斯石一、履レ之卑」。
〔倉扁〕支那古昔名醫の倉公と扁鵲とのこと、轉じて、名醫の稱に借りいふ語。○〔何夢桂〕「得レ醫爲二ー・ー一」。

【扁】ハン、ホン。孚袁切　〔元〕

數多し、かずあり。○〔莊〕「ー然而萬物」。

【扁】ヘン。卑眠切　〔先〕

㊀まどかなる貌にいふ字、まろし。
㊁こぶね(小舟)。○〔史〕「乘二ー舟一浮二於江湖一」。
〔鮮扁〕たゝかひ[illegible]たての貌にいふ語。○〔羽獵賦〕「ー・ー陸離」。

【⿸戸主】チユ。丑注切　〔遇〕

直に開く、ひらく、あく。

【扂】テン、デン。徒點切　〔琰〕
徒念切　〔豔〕

戸牡、ちやう、さざし。○〔韓愈〕「椳闑ー楔」。

【扃】ケイ、キヤウ。涓熒切　〔青〕

㊀門戸を閉づるに用ふるもの、さざし、ちやう、くわんのき。○〔禮〕「入レ戸奉レー」。
㊁門戸。○〔孔稚珪〕「雖三情投二于魏闕一、或假二步于山ー一」。
㊂閉づ、さざす。○〔顏延之〕「金柝夜擊、和門晝ー」。
㊃車上の横木、兵器を約するに用ふるもの。○〔左〕「楚人惎レ之脫レー」。
㊄鉉に同じ。○〔儀〕「右人左執レ匕抽レー」。
〔重扃〕門のとざしをかたくすること。○〔張衡〕「或ーレー而禦レ侮」。
〔松扃〕まつの木のある門戸。○〔王勃〕「坐二ー・ー一而嘯逸」。
〔柴扃〕しばの門戸。○〔高適〕「翻然憶二ー・ー一」。
〔關扃〕とぢ塞ぐ、又、とざし。○〔戰〕「秦下レ兵攻二衛陽晉一、必ー二ー天下之匈一」。
〔嚴扃〕いかめしき門戸、又、いかめしきとざし。○〔唐彥謙〕「禁垣丹地閉二ー・ー一」。
〔崇扃〕高きとざし、又は、門戸。○〔鮑照〕「[illegible]閣有二ー・ー一」。
〔紫扃〕王宮の門戸。○〔王勃〕「ー・ー[illegible]」。

(禁扃) 前に同じ。○(李白)「撝以二—·—一」。
(禪扃) 佛寺の門戸。○(獨孤及)「合·掌開二—·—一」。
(蓬扃) 貧者の門。○(皇甫松)「於レ是掩二—·—一閉二茅-屋一」。
(繡扃) ぬひとりもて飾れるとびら。○(徐寅)「飄·香入二—·—一」。

【扃】 ケイ、キヤウ。犬迥切 迥
明察、あきらか。

六畫

【扆】 カン、ゲン。下簡切 潸
しきみ、(國)。

【扅】 イ。余支切 支
とざし、(戸-扃)。○(百里奚妻琴歌)「烹二伏-雌一炊二扅—一」。

【扆】 イ、エ。隱豈切 尾　隱綺切 紙
絳を質となし斧を畫ける屏風、天子の諸侯に對するときに依りて立ち負ひて南面せるものといふ、ついたて、高さ八尺、東西の戸牖の間に置く。○(禮)「天子斧—南-鄕而立」。
(黼扆) 斧の模樣あるついたて。○(書)「秋設二—·綴-衣一」。
(丹扆) 天子の立てらるゝあかいろのついたて。○(梁元帝)「早蒙二—·—之訓一」。
(宸扆) 天子のゐまに立てらるゝついたてのとにて宮廷を指すに用ふる語。○(晉)「乃喧二讀—·—一」。

【扆】 イ、エ。於希切 微
戸牖の間の稱。

【扇】 セン。式戰切 霰
㊀とびら、(扉)。○(禮)「乃修二闔—一」。
㊁あふぐに用ふる具、あふぎ、うちは。○(晉)「擧レ—自蔽」。
㊂あふぐ、物を動かして風を起こす。○(爾)「蠅醜—」。
(團扇) うちは。○(晉)「珉好捉二白—·—一」。
(羽扇) 鳥のはねにて作りたるうちは。○(晉)「榮麾以二—·—一」。
(輪扇) 車のわのまはるが如くに作りたるうちは。○(西京雜記)「長-安巧-工丁-緩作二七—·—一」。
(秋扇) 涼しき秋の時節のあふぎ、すてゝ用ひられざるにいふ語。○(劉孝綽)「妾身似二—·—一」。
(絹扇) きぬにて張りたるうちは。○(晉)「禁二—·—及樗-蒲一」。
(毛扇) けにて作りたるうちは。○(南)「太-后嘗賜二帝玉-柄—·—一」。
(寶扇) 珠玉などにてかざりたるうちは。○(虞集)「翠-蓋重-々—·—斜」。
(涼扇) うちは。○(金)「上所レ御——忽墮二案-下一」。
(紈扇) 白きうすぎぬのうちは。○(江淹)「如二團-月一」。
(奇扇) めづらしきうちは。○(徐幹)「惟合-歡之—·—」。
(綵扇) いろどりのある絹にてはれるうちは。○(薩都刺)「—·—題レ詩染二綠-煙一」。
(華扇) うつくしきうちは。○(張說)「溫-席開二—·—一」。
(戸扇) とびら。○(庾信)「新開二—·—一」。
(薄扇) うすきうちは。○(謝偃)「離-々—·—詎障-塵」。
(鳳扇) 鳳鳥のゑがきあるうちは。○(陳造)「龍-旌—·—一相迎」。
(翠扇) みどりのうちは。○(李商隱)「荷翻二—·—水-堂虛一」。
(綾扇) あやぎぬにて張りたるうちは。○(李商隱)「—·—喚レ風閶-闔天」。
(敝扇) やぶれたるうちは。○(眞山民)「篋中—·—投レ閒久」。
(合歡扇) 二つあはせあるうちは。○(班婕妤)「裁爲二—·—·—一」。
(比翼扇) 前に同じ。○(楊方)「暑搖—·—·—」。
(雲母扇) きらゝをすりたるとびら。○(沈炯)「高-樓—·—·—」。

【屋】 ヲ、ウ。烏古切 麌
いへ、(屋-舍)。

七畫

【扈】 コ、グ。後五切 麌
㊀後に從ふ、したがふ。○(司馬相如)「—從橫-行」。
㊁したがふ人、とも、從者。○(公羊)「厮-役—-養」。
㊂かふむる、(被)、又、かぶりもの。○(屈平)「—二江-離與一辟-芷一兮」。
㊃ひろし、ひろがる、(廣)。○(禮)「爾毋二—·—爾一」。
㊄山の卑うして廣大なる者、ひらやま。○(爾)「山卑而大曰レ—」。
㊅とどむ、(止)。○(左)「—レ民無レ淫」。
(桑扈) (動)鳥の名、いかるが、まめまはし。○(詩)「交-々—·—、有レ鶯二其羽一」。
(當扈) (動)むさゝび。○(山海經郭璞贊)「鳥飛以レ髯、—·—以レ須」。
(跋扈) つよくはびこる。○(後漢)「此——將-軍也」。
(修扈) たけ高くふとりたるさ。(蔡邕)「四-牡—·—」。

八畫

【扉】 ヒ。方微切 微
室家の出入り口又は牖窗などをたて塞ぐに用ふる一枚扇、とびら。○(左)「子-尾抽レ桷擊レ—三」。
(荊扉) おどろの木のとびら。○(陶潛)「白-日掩二—·—一」。
(綺扉) あやぎぬにて張りたるとびら。○(梁元帝)「重-幕開二—·—一」。
(柴扉) しばのとびら。○(范雲)「有レ客款二—·—一」。
(重扉) かさなりたるとびら。○(溫子昇)「闢二閶-闔之—·—一」。
(巖扉) いはやのとびら。○(李白)「長嘯開二—·—一」。
(瑤扉) 玉のかざりあるとびら。○(黃庭堅)「幾-年鎖-鑰鎮二—·—一」。
(瓊扉) 前に同じ。○(周邦彥)「—·—塗レ丹」。
(扇扉) とびら。○(水經、註)「其戸-牖—·—悉石也」。
(丹扉) あかく塗りたるとびら。○(曹植)「閶-闔啓二—·—一」。
(畫扉) ゑがきたるとびら。○(王建)「—·—常鎖碧-雲中」。
(野扉) ゐなかのとびら。○(白居易)「欲下去二公門一返中—·—上」。
(舩扉) ふなまどのとびら。○(李洞)「玉-峯被-上入二—·—一」。
(款扉) とびらを叩きおとづる。○(陸龜蒙)「一-幅鸞-箋夜—レ—」。
(窓扉) まどのとびら。○(蘇軾)「終-夜搖二—·—一」。

【扊】 エン。以冉切 琰
——扅は、扇を閉づる具、とざし、ちやう。

【戾】 レイ、ライ。力計切 霽
正しからず、よこしま、かたむく。

【屁】 ヒ、ビ。補美切 紙　一に、省きて肥に作る。
やぶる、そこなる、(毀)。

九畫

【屆】 サフ、ソフ。所甲切 洽
うすし、(薄)。

十畫

【盍】 カフ、ゴフ。克盍切 合
戸をとづ、とざす。

十三畫

【展】 サン、セン。數還切 删
とざし、(門-關)。

十七畫

【㞟】タン、デン。丈陷切 陷

やのむね（屋上）。

手部（扌）

【手】シウ、シュ。書九切 有

㊀て。

（い）肩さきより指までの總稱、又、其の各部の汎稱。○〔禮〕「一容恭」。

（ろ）ての動作。○〔左〕「煩一淫聲」。

（は）ぇわざ、わざ。○〔抱朴〕「皆出二碩儒之思一、成二才士之一一」。

（に）人、者。○〔晉〕「便爲二敵一一」。

㊁てに持つ。○〔公羊〕「一レ劍而從レ之」。

㊂てを加ふ。○〔司馬相如〕「一二熊羆一」。

㊃己がてにて、自から、てづから。○〔陳一郎〕「一招レ譏」。

〔假手〕助けを得、又、助けを爲す。○〔書〕「一二一于我一」。

〔拱手〕（い）もろてをこまぬく。○〔禮〕「正立一レ一」。（ろ）何のわざをもなさゞること、力を勞せざること。○〔後漢〕「天水隴西一レ一自服」。

〔交手〕前條に同じ。○〔漢〕「諸侯一レ一、事レ之八年」。

〔負手〕てを背にあつ。○〔禮〕「一レ一曳レ杖」。

〔游手〕（い）てに油斷を爲す。○〔儀、註〕「受授不レ一レ一愼レ之也」。

（ろ）わざを營まざること。○〔後漢〕「務盡二地力一、勿レ令レ一レ一」。

〔十手〕衆人のて。○〔禮〕「一一所レ指」。

〔縮手〕もろてをちゞめ入る、轉じて、ぇわざを爲さゞることにいふ語。○〔韓愈〕「一二一袖間一」。

〔束手〕（い）てをしばる。○〔史〕「父子老弱、係レ脰一レ一」。

（ろ）歸服すること。○〔晉〕「所レ過城邑莫レ不レ一レ一」。

〔斂手〕てをさめて出ださぬ、ぇわざを止む、又、拱手に同じ。○〔史〕「韓必一レ一」。

〔放手〕縱ほしいまゝなるにいふ語。○〔後漢〕「殘吏一一」。

〔藉手〕てをかる、たよる。○〔左〕「敢不二一レ一以拜一」。

〔叉手〕交手に同じ。○〔晉〕「一レ一相向」。

〔唾手〕もろてにつばを吐きかくること、ぇわざにぇかゝることにも、又、一番の氣力を奮ふことにもいふ語。○〔後漢〕「我謂一レ一而決」。

〔凶手〕あしきぇわざ、わる者のぇわざ。○〔唐〕「父死二一一一」。

〔素手〕色しろきて。○〔古詩〕「纖纖出二一一一」。

〔玉手〕たまの如きうつくしきて。○〔曹攄〕「攜二一一同車一」。

〔分手〕相別ること。○〔謝朓〕「一レ一東城闉」。

〔二手〕もろて。○〔儀〕「一一祭レ酒」。

〔兩手〕前に同じ。○〔杜牧〕「虞士拱二一一一」。

〔戟手〕兩の手をほこの如くに張ること。○〔蘇軾〕「一一一而罵一」。

〔隨手〕ての動くにつる。○〔史〕「公亦一レ一亡矣」。

〔刎手〕鋭きてのはたらき。○〔史〕「一一以衞二仇胸一」。

〔空手〕からて。○〔漢〕「與二一一一同」。

〔高手〕上手といふに同じ。○〔續漢書〕「將二一一察二視レ病一」。

〔異手〕前に同じ。○〔南〕「有レ似二一一之作一」。

〔佳手〕前に同じ。○〔梁簡文帝〕「張士簡之賦、周升逸之辯、亦成二一一一」。

〔頁手〕前に同じ。○〔圖畫見聞志〕「並爲二一一一」。

〔著手〕てをおろす、爲し始む、わざにかゝる。○〔晉〕「無二復一レ一處一也」。

〔下手〕前に同じ。○〔揮麈三錄〕「誠不レ忍レ一レ一」。

〔精手〕鍛錬したるつはもの。○〔南〕「王蘊將二數百一一一、帶レ甲赴二柴城一」。

〔名手〕名人といふに同じ。○〔北〕「遂爲二一一一」、多レ所二全濟一」。

〔妙手〕前に同じ。○〔蔡洪〕「命二班倕之一一一」。

〔仙手〕前に同じ。○〔書苑〕「爲二書中一一一」。

〔合手〕掌をあはす。○〔宋〕「一レ一加レ額」。

〔拳手〕にぎりこぶし。○〔淮〕「五指之更彈、不レ若二一一之一挃一」。

〔國手〕くに中に勝れたる上手。○〔張說〕「一一有二輸時一」。

〔老手〕老練家。○〔蘇軾〕「一一王摩詰」。

〔仰手〕てをあぐ。○〔曹植〕「一レ一接二飛鳶一」。

〔纖手〕か細くやさしきて。○〔陸機〕「一一清且閑」。

〔弱手〕前に同じ。○〔嵇休奕〕「攜二一一一兮」。

〔敏手〕さとくはやきて。○〔顏延之〕「抱二趙夫之一一一」。

〔抃手〕てをうつ。○〔鮑照〕「一二一太平一」。

〔轉手〕てをかへす。○〔庾肩吾〕「一レ一齊裙亂」。

〔信手〕ての動くにまかす。○〔白居易〕「低眉一レ一續續彈」。

〔拙手〕へた。○〔古詞〕「一一所レ作」。

〔畫手〕ゑかき。○〔蘇軾〕「詩人與二一一一」。

〔翻手〕てをうらがへす。○〔杜甫〕「一レ一作レ雲」。

〔落手〕掌の中に入る、卽ち、吾所有となることにいふ語。○〔杜甫〕「扁舟一二吾一一」。

〔律手〕詩人。○〔白居易〕「詩家一一在二成都一」。

〔經手〕てにかく。○〔白居易〕「紫泥丹壁皆一レ一」。

〔失手〕てをはづす。○〔揚基〕「踏攀一レ一」。

〔親手〕ぇたしくてを下すこと。○〔范梈〕「蘇伯黃花一一一越」。

〔雙手〕兩のて。○〔楊億〕「祗叉二一一一揖二三公一」。

〔赤手〕すで。○〔蘇軾〕「一一一降二於菟一」。

〔先手〕さきて、又、てを第一番におろす。○〔宋元〕「射策應二一一一」。

〔水手〕篙師。○〔蘇軾〕「使令與レ官充二一一一」。

〔袖手〕てをそでの中に入る、又、何事をも爲さゞることにいふ語。○〔蘇軾〕「一レ一莫レ輕眞將種」。

〔急手〕てをいそがしく使ふ。○〔陳師道〕「一一疾口如レ翻レ盆」。

〔縮手〕てにあかぎれをきらす。○〔莊〕宋人有下善爲二不レ一レ一藥一者上。

〔左右手〕ひだりとみぎとのて、轉じて、輔佐の者の義。○〔北〕「宇文左丞吾一一一一、可レ廢」。

〔摸稜手〕事を明了に決せざること、又、其の人。○〔唐〕「決レ事不レ欲二明白一、悞則有レ悔、摸稜持二兩端一可也、故世號二一一一一一」。

〔造五鳳樓手〕長篇大作の詩文をつくる才、又、其の人あること。○〔談苑〕「韓洎韓浦能爲二古文一、洎常輕レ浦曰、吾兄爲レ文如レ繩二樞草舍一、聊蔽二風雨一而已、予之文是一二一一一一一」。

【才】サイ、セイ。昨哉切 灰

一通じて、材に作る。

㊀質性、たち、又、能力、はたらき。○〔孟〕「非二天之降レ一爾殊一」。

㊁其のたちのもの、其のはたらきある人。○〔說苑〕王將東面目指氣使以來レ臣則斷養之一至矣」。

㊂たち勝ぐれたるを、はたらき多きと。○〔左〕「臣不一一不レ勝二其任一」。

㊃賢人、智者、卽ち、たち勝ぐれたる人、はたらき多き者。○〔國〕「管子天下之一也」。

㊄纔に通じ用ふ、わづかに。○〔晉〕「一小富貴便豫二人家事一」。

㊅裁に通じ用ふ。○〔戰〕「惟王一レ之」。

〔三才〕三つのはたらき有るもの、卽ち、天と地と人と。○〔易〕「仁與レ義、兼二一一一一」。

〔賢才〕すぐれたるたち、すぐれたるはたらき、又、かしこき人。○〔書〕「任二官惟一一一」。

〔英才〕すぐれたるたち、すぐれたるはたらき、又、其の人。○〔孟〕「得二天下一一一一而教二育之一、三樂也」。

〔奇才〕前に同じ。○〔史〕「年雖レ少然一一一也」。

〔異才〕前に同じ。○〔漢〕「聞ヨ其有二一一一一召見」。

〔高才〕前に同じ。○〔後漢〕「奇偉一一一」。

〔逸才〕前に同じ。○〔晉〕宏有二一一一一」。

〔絕才〕前に同じ。○〔後漢〕「皆有二殊行一一一一」。

〔仙才〕前に同じ、（特に、詩文のわざにいふ）。○〔李白〕「自愧レ非二一一一一」。

〔上才〕前に同じ。○〔沈約〕西南游二一一一一」。

〔儁才〕前に同じ。○〔左〕「有二三一一一一」。

〔口才〕くちまへのはたらき。○〔家語〕「宰予有二一一一一」。

〔吏才〕役人としてのはたらき。○〔後漢〕「一一有レ餘」。

〔筆才〕文章をつくるはたらき。○〔王隱晉書〕「學優長二一一一一」。

〔大才〕いみじきはたらき、又、其のはたらきある人。○〔南〕「此人有二一一一一」。

〔天才〕うまれつき、又、うまれつきのはたらき。○〔唐〕乃曰、一一一也」。

〔駑才〕劣れるたち、鈍きはたらき、又、其の人。○〔北夢瑣言〕「常自目爲二一一一一」。

（秀才）(い)すぐれたるはたらき、すぐれたるたち、又、其の人。○(史)「聞二其——一、召二置門下一」。(ろ)古昔、支那にて人を採るに各地より學問才能の勝れたるものを撰び出ださしめ試驗して擧用するもの、稱。○(唐)「凡——試二方略策五道一、以二文理通一、粗爲二上々、上中、上下、中上一、凡四等爲二及第一」。
（試才）はたらきをためし見る。○(後漢)「限レ年——」。
（露才）はたらきを世の中にあらはし出だす。○(班固)「屈原—レ—揚レ己」。
（寶才）眞正のはたらき、又、たち。○(唐)「皆無二——一」。
（趫才）疾く走るもの。○(唐)「太宗選二——一」。
（美才）うるはしきたち、うるはしきはたらき、其の人。○(唐)「——護出」。
（叙才）すぐれたるはたらき。○(管輅別傳)「持二——一、遊二於雲漢之間一」。
（成才）はたらきを遂げなす、たちを遂げなす。○(管輅別傳)「弗レ能レ—レ—」。
（明才）くもりなきたち、事の理非を辨ふるはたらき。○(管輅別傳)「既有二——一」。
（無才）はたらきなし。○(王維)「——不三敢累二明時一」。
（庸才）なみのたち、平凡なるはたらき、又、其の人。○(十六國春秋)「豈非二——一邪」。
（良才）よきたち、よきはたらき、又、其の人。○(陶潛)「——不レ隱レ世」。
（好才）前に同じ。○(文心雕龍)「雖レ非二明哲一、可レ謂二——一」。
（富才）はたらき多きこと。○(文心雕龍)「酌レ理以—レ—」。
（用才）はたらきあるものを役に立たす。○(陶潛)「帝者愼レ—レ—」。
（偉才）すぐれたるたち、すぐれたるはたらき、又、其の人。○(謝朓)「——眷予以二國士一」。
（瓌才）前に同じ。○(駱賓王)「玉帳引二——一」。
（洪才）大才に同じ。○(鮑照)「——類二河瀉一」。
（通才）さときたち、さときはたらき、又、其の人。○(宋之問)「試劇仰二——一」。
（辯才）口まへのはたらき。○(李白)「粲然有二——一」。
（敝才）才乏しきこと、又、其の人。○(杜甫)「——謝レ所レ欽」。

（全才）缺けめなきはたらき。○(劉禹錫)「出レ文入レ武是——」。
（短才）はたらき乏しきこと、又、其の人。○(辨陶)「每愧二雲山養——一」。
（非才）はたらきなきこと、又、其のもの。○(羅隱)「侯門未三必用二——一」。
（詠雪才）婦人の怜悧なるをいふ語、下に引く故事より來る。○(金璧故事)「晉謝安嘗與二諸子姪一内集、俄而雪下、安曰、何所レ似、兄子朗曰、撒二鹽空中一差可レ擬、道蘊曰、未レ若二柳絮因レ風一」。
（不羈才）天品卓絕してなみ〳〵の定規にて束縛す可からざること、又、其の人。○(漢)「負二——之—一」。
（命世才）世に高くすぐれたる才。○(李陵)「信——之—、抱二將相之畧一」。
（王佐才）君を輔けて天下を平治する才。○(後漢)「王生一日千里、——也」。
（百里才）馬の一日に百里を行くに堪ふること、轉じて、すぐれたる器量あること、又、其の人に借りいふ語。○(蜀)「龐士元非二——一也」。
（濟時才）世の困難を救ひて平に治むる才。○(薛道衡)「須レ降二———一」。
（斗筲才）斗ますにてはかりはゝきにて掃く程天下に多人數あり取るに足らざる才。○(漢)「永——之—」。
（八斗才）最も特絕せる詩文に堪能なる才。○(南)「謝靈運云、天下才共二一石一、曹子建獨得二八斗一、我得二一斗一、自レ古及レ今共用二一斗一、奇才博識安足レ繼レ之」。
（七步才）魏の曹植が七步にて一詩を作りたる故事より、詩文に太だ長ぜる才の稱。○(駱賓王)「陳思——」。

一畫

【扎】サツ、サチ。側八切　黠
ぬく(拔)。

【扎】揠に同じ。

【旡】失の本字。

【扟】手に同じ、もつ(持)。

二畫

【扏】キウ、グ。巨鳩切　尤
ゆるやかに持つ、一說に、固からず、一說に扰の字の譌。

【扣】カン、コン。口犯切　豏　キウ、グ。渠糾切　尤
手にて物を持つ、もつ、一說に、取る。

【扐】ロク。歷德切　職
筮ふに蓍を指の間にはさむにいふ字。○(易)「歸二奇于—一以象レ閏、五歲再閏、故再—而後掛」。

【扐】リョク、リキ。六直切　職
しばる、くゝる(縛)、關中の語。

【扑】ボク、ホク。普木切　屋　—或は、撲に作る。
㊀打擊す、うつ、たゝく、一說に、小しくうつ。○(史)「擧レ筑—二秦皇帝一不レ中」。㊁罪ある者をたゝく杖、古は教に勸まぬものに加へしといふ、しもと、榎楚。○(書)「—作二教刑一」。
（鞭扑）むち、又、むちにてうつ。○(陸雲)「——不レ施、聲教風靡」。
（楚扑）いばらの木もて作れるしもと。○(傳)「——長如レ苛」。
（捶扑）うつ、又、むちうつ。○(後漢)「又加以二——一」。
（敲扑）前に同じ。○(賈誼)「執二——一、以鞭二笞天下一」。
（箠扑）前に同じ。○(柳宗元)「設二——於堂下一」。

【扑】操に同じ、又、搯に同じ。

【扑】ハウ、フ。匹候切　宥
たゝく(扣)。

【扒】ハイ、ヘ。布怪切　卦
ぬく(拔)。○(元包經)「拔レ戶—レ氏」。

【扒】ハツ、バチ。布拔切　黠　—一に、捌に作る。
㊀やぶる(破)。㊁うつ(打)。

【扒】ヘツ、ベチ。彼列切　屑
剖分す、さく。

【打】テイ、チヤウ。都挺切　迥
(說文)从レ手丁聲。
うつ、たゝく(擊)。○(宋)「與レ人相—」。
（極打）烈しくうつ。○(晉)「把二兩杖一——之一」。
（撲打）なぐりうつ。○(南)「手加二——一」。
（捶打）むちうつ。○(南)「——之無二期度一」。
（拳打）手もてうつ。○(南)「輒恐——」。
（鞭打）むちうつ。○(北)「馬蹶不レ前——」。
（風打）かぜ吹きあたる。○(杜甫)「—急—二舩頭一」。
（亂打）みだれたゝく。○(林寬)「旛竇——金吾鼓」。

【打】ダ、テ。都瓦切　馬
㊀前條に同じ。○(北)「以二瓦石一擊二—公門一」。㊁鞠を踢るにいふ字。○(蹴鞠譜)「每レ人兩踢名二——一」。㊂無意味の助字、—聽、—算、—睡など。○(宋)「并行—量庶三幾杜二絕僥冒之弊一」。

【扔】ジョウ、ニョウ。如蒸切　蒸　—或は、扨に作る。

㊀よる、因。㊁つく、(就)。㊂ひく、(引)。

【扔】ジョウ、ニョウ。如證切 [徑]
㊀強ひて牽引す、ひく ㊁くだく、(摧)。○[後漢]「竄-伏一-輪」。

三畫

【扗】ソン、ゾン。取本切 [阮]
刌に同じ、たつ、きる。

【扖】キン、コン。居𠍾切 [問] 居銀切 [眞]
巾をもて物を覆ひかぶす、おほふ。
居覲切 [震]

【扗】在の本字。

【托】タク、ダク。闥各切 [藥]
㊀拓に同じ、おす、ひらく。㊁飩に通じ用ふ。○[五]「一-日食レ粥、一-日食二不一-一二」。

【扣】バウ、モウ。武道切 [晧]
もつ、(持)。

【扙】チヤウ、ヂヤウ。雉兩切 [養]
やぶる、そこなふ、きづゝく、(傷)。

【扝】クツ、コチ。九勿切 [物]
杖をもて物を掘りだす、ほる。

【扚】テウ、デウ。都了切 [篠]
㊀疾く擊つ、うつ。㊁捹ひ取る、とる。

【扚】テキ、ヂヤク。都歷切 [錫]
ひく、(引)。

【扚】シヤク。職略切 [藥]
横合ひより擊つ、うつ。

【扚】ヤク、アク。乙却切 [藥]
手の指の節の文、あや。

【扚】レキ、リヤク。狼敵切 [錫]
おさふ、(按)。

【扛】カウ、コウ。古雙切 [江] カウ 居郎切 [陽]
兩手をさし向かひにして物を擧ぐ、人と人とさし向かひにて物を擧ぐ、かゝへあぐ、あぐ。○[史]「籍長八-尺-餘力能一レ鼎」。

【扛】摃に同じ、になふ。

【扜】ウ、チ。憶俱切 ク、コ。況于切 [虞]
㊀指麾す、さしまねく。㊁もつ、(持)。

【扝】コ、ク。空胡切 [虞]
あぐ、(揚)。

【扝】チ、ウ。汪胡切 [虞]
ひく、(引)。

【扞】カン、ガン。侯幹切 [翰]
㊀ふせぐ、ふせぎ、(拒)。○[漢]「手-足之一二頭-目一」。㊁まもる、まもり、(衛)。○[左]「親帥一レ之」。㊂もとる、(忮)、あたる、(抵)。○[禮]「發然後禁則一-格而不レ勝」。㊃韝に通じ用ふ、こて、臂衣。○[漢]「被二鎧一-一持二刀-兵一」。㊄銲に通じ用ふ、いしづき、矛鐏。○[戰]「豫-讓刃二其一一」。

(拒扞)　ふせぐ、ふせぎ。○[蜀]「牽二精-兵一、一二-一先十于潞一」。
(遮扞)　前に同じ。○[漢]「一-一匡-衛」。
(蕃扞)　ふせぎ、まもり。○[漢]「陛下所三以爲二一-一一」。
(屛扞)　前に同じ　○[北]「爲二國一-一一」。
(亢扞)　敵對してふせぐ、ふせぐ。○[漢]「莫三能一二-一國難一」。
(捍扞)　打ち勝ちふせぐ。○[後漢]「或志剛二金石一而一二-一強-禦一」。
(蔽扞)　掩ひふせぐ。○[通典]「身不二一-一一、手無二寸-刃一」。
(扶扞)　たすけまもる。○[吳]「陷レ闔一二-一樓-出」。
(障扞)　ふせぎ。○[晉]「爲二百-姓一-一一」。
(禦扞)　まつめ衛る。○[宋]「一二-一石頭」。
(限扞)　抑へ防ぐ。○[宋]「一二-一凶-寇一」。
(邊扞)　國のほとりのふせぎ。○[宋]「陳二力一-一一」。
(防扞)　ふせぐ、ふせぎ。○[齊]「使レ一二-一陝-西一」。
(嚴扞)　げはしきふせぎ。○[江淹]「淮-豫一-一」。
(救扞)　すくひまもる。○[册府元龜]「命二左-右一-一一獲レ免」。
(征扞)　討ち防ぐ。○[册府元龜]「一-一勍-敵」。
(射扞)　弓射るときのこて。○[通典]「捨今之一-一」。
(禦扞)　ふせぐ、ふせぎ。○[通典]「一二-一矢-石一」。
(要扞)　大切なるふせぎ。○[唐]「爲二西-南一-一一」。
(垣扞)　まもり。○[唐]「張太尉獻二一-一之勤一」。
(隄扞)　つゝみの稱。○[貝嶽記]「疊レ石爲二一-一一」。
(戎扞)　まもり。○[魏]「一-一所レ寄、實惟斯等」。

【扞】捹に同じ。

【扟】シン。疏臻切 [眞]
㊀上より物を擇み取る、とる、える。㊁へす、(減)、はぐ、(剝)。○[元包經]「損一日務」。

【扠】サ、セ。初加切 [麻]
㊀挾み取る、はさむ、刺して取る、さす。○[韓愈]「饞一飽二活鬻一」。
㊁魚を刺し捕る具、やす。○[周註]「以レ一刺二泥-中一搏二取之一」。

【扠】サイ、セ。初佳切 [佳]
うつ、(打)。

【扠】タイ、テ。丑佳切 [佳]
拳をもて物に當て加ふ、うつ、たゝく。

【扡】拕に同じ、ひく。○[詩]「伐レ木掎矣、析レ薪一矣」。

【扡】イ。移爾切 [紙]
㊀くはふ、(加)。㊁はなる、(離)。

【扡】摅に同じ。

【扡】タイ、デ。丈蟹切 [蟹]
さく、(折)。

【扡】イ。余支切 [支]
遷移す、うつる、うつす。

【扡】シ、ジ。是義切 [寘]
ひく、(牽)。

【扢】コツ、コチ。古忽切 [月]
摩す、する。○[漢]「一二-一嘉-壇一」。

【扢】キツ、キチ。居乙切 [質]
うつ、たゝく、(擊)。

【扢】キツ、コチ。許訖切 [物]
奮ひ舞ふ貌にいふ字、一說に、よろこぶ、(喜)。○[莊]「子-路一-一然執レ干而舞」。

【扔】ケツ、ケチ。九傑切 屑
抜き引く、ひく、ぬく。

【扣】コウ、ク。丘候切 宥
うつ、たゝく(擊)。○〔晉〕「ーレ之則鳴矣」。

【扤】ゴツ、ゴチ。五忽切　ゲツ、グワチ。魚厥切 月　グワツ、グワチ。五活切 曷 ━ 一に、䲸に作る。
㊀うごく、うごかす(動)。○〔詩〕「天之ーレ我、如レ不ニ我克一」。㊁安からず、あやふし。○〔揚雄〕「ーー不レ安也」。
(動扤) うごく、うごかす　○〔長笛賦〕「ーーニ其根一」。
(摧扤) くだけうごく、折き動かす。○〔劉孝威〕「ーーー不レ爲レ薪」。

【抓】シヤウ、サウ。止兩切 養
掌にて擊つ、うつ、たゝく(批)。

【扌才】ハウ、ボウ。歩項切 講
うつ(打)。

【扥】トン、ドン。都困切 願
うごく、うごかす(動)。

【扟】シン。思晉切 震
ふるふ(振)。

四畫

【扨】ソツ、ソチ。倉沒切 月　セツ、セチ。千結切 屑
する、なづ(摩)。

【扭】チウ、ニュ。女久切 有
㊁手にて轉ず、まろばす、ころばす。㊁おさふ(按)。㊂手にて束ぬ、つかぬ、たばぬ。

【扭】チウ、チュ。陟救切 宥
もむ(挼)。

【抙】俗の捽の字。

【扢】カイ。古代切 隊
する、みがく(磨)、又、とる(取)。○〔淮〕「禹燒不レ暇レ攢、濡不レ給レー」。

【扢】ゲツ、ゴチ。語訖切 月　ケツ、ケチ。吉屑切 屑
うつ(擊)。

【扮】フン、ホン。父吻切 吻
㊀にぎる(握)、一説に、うごかす(動)。㊁散らし掛く、まく。○〔史〕「以ニ椒薑一ーレ之」。

【扮】フン、ホン。方文切 文
㊀前條の㊀に同じ。㊁あはす(幷)。○〔戰〕「恐ニ其代レ秦之疑一也、又身自醜ニ於秦一ーレ之」。

【扮】ハン、ヘン。博幻切 諫
よそほふ(裝)。○〔中原雅音〕「今俗以ニ裝飾一爲ニ打ーー一」。

【扴】カイ、ケ。虎買切 蟹
みだる(亂)。

【扌巿】ハツ、ハチ。普活切 曷
㊀のごふ、撞、一説に、うつ、(擊)、おす、(推)。○〔淮〕「游者以レ足蹶、以レ手ー」。㊁搥ーは、自から任じて憚る所なきこと。

【抌】イウ、ユ。于救切 宥
さいはひ(福)。

【扱】サフ、セフ。測洽切 洽
㊀をさむ(收)、とる(取)、う(獲)。○〔周註〕「ー以授ニ舂人一」。㊁ひく(引)、又、あぐ(擧)。○〔徐穉〕「渡レ水衣須レー」。㊂禮拜して手の地に至るにいふ字、手つく、いたる。○〔儀〕「婦拜ーレ地」。㊃插に通じ用ふ、はさむ。○〔禮〕「雞斯徒跣ーニ上衽一」。

【扱】キフ、コフ。乞及切 緝
前條の㊁に同じ。○〔禮〕「以レ箕自鄕而ーレ之」。

【扱】シフ、ソフ。測入切 緝
㊀とる(取)。㊁ひく(引)。

【扱】セフ。七接切 葉
はさむ(插)。

【扲】ケン、コン。其淹切 鹽
㊀わざ(業)。㊁しるす(記)。
(番扲) わざに專心なること。

【扲】捦に同じ、もつ、とらふ。

【扳】ハン、ヘン。逋還切 刪
㊀ひく(引)。○〔公羊〕「諸大夫ーレ隱而立レ之」。㊁攀に同じ、よづ。○〔范椁〕「仙ー捷庶可レー」。
(牽扳) ひく、よづ。○〔晉書〕「欲レ罷更起相ーー」。

【扳】ハン、ヘン。普患切 諫
前條の㊁に同じ。

【扴】カツ、ケチ。訖黠切 黠
する(揩)、又、けづる(刮)。○〔韓愈〕「室晏絲曉ー」。

【扵】俗の於の字。

【扶】フ、ブ。逢夫切 虞
㊀たすく、又、たすけ。(い)支へ持つ。○〔史〕「蓬生ニ麻中一、不レー自直」。(ろ)救ふ。○〔戰〕「ーレ梁伐レ趙」。(は)護る。○〔後漢〕「翼ニーー王室一」。㊁よる(緣)。○〔國〕「侏儒ーレ盧」。㊂かたはら(旁)。○〔淮〕「去ニ高木一而巢ニー枝一」。㊃手の四指を並べたる長さ。○〔禮〕「籌室中五ー、堂上七ー、庭中九ー」。㊄芙に通じ用ふ。○〔爾〕「荷ー蕖」。㊅颫に通じ用ふ、大いなる風。○〔溫庭筠〕「鵬翼欲レ摶レー」。㊆幼小なる貌にいふ字。○〔揚雄〕「赤子ーー」。
(給扶) たしたすく。○〔南齊〕「又ーニーー二人一」。
(闍扶) 佛書にある樹の名。○〔酉陽雜俎〕「釋氏書言、須彌山南面有ニーー樹一」。
(杖扶) つゑつく、たすけ。○〔杜甫〕「形骸用ニーー」。
(對扶) 向きあひてたすく。○〔晉〕「與ニ散騎常侍ーーー」。

〔挾扶〕兩方よりたすく。○〔晉〕「二手是兩人一一以立」。
〔夾扶〕前に同じ。○〔書〕「各二人一一」。
〔逼扶〕近づきたすく。○〔晉〕「逐一一升レ車」。
〔親扶〕手づからたすく。○〔北齊〕「一一上レ馬」。
〔携扶〕たすく。○〔眞德秀〕「著レ力相一一」。
〔協扶〕力を合はせたすく。○〔宋〕「天人一一」。
〔天扶〕上帝のたすけ。○〔杜牧〕「一一業更昌」。
〔祕扶〕神明のくすしきたすけ。○〔令狐楚〕「一一直」。

【扶】ホ、ブ。蓬逋切 〔虞〕
匍に同じ、はらばふ。○〔禮〕「一一服救レ之」。

【扶】ケン。火犬切 〔銑〕
のぶ、(拱)。

【扷】アウ、オウ。烏到切 〔號〕
はかる、(量)。

【扸】俗の析の字、わく、わかる。○〔揚雄〕「常變錯、故百事一」。

【扸】折に同じ、をる。○〔元包經〕「輿之一」。

【牂】シヤウ、サウ。資良切 〔陽〕
たすく、(扶)。

【批】ヘイ、ベイ。篇迷切 〔齊〕
㊀手にて撃つ、うつ、たゝく。○〔左〕「宋萬遇二仇牧于門一、一而殺レ之」。㊁おす、(推)、又、まろばす、(轉)。○〔書、傳〕「則會二一之六沴一」。㊂しめす、(示)。○〔唐〕「制敕有二不レ便者一、黃紙後一レ之」。㊃書尾に署すること。○〔谷響集〕「一二之所上表奏レ尾一」。㊄删に通じ用ふ、そぐ。○〔杜甫〕「竹一雙耳峻」。

【批】ヒ、ビ。普弭切 〔紙〕
前條の㊀に同じ、うつ。

【批】ヒ、ビ。頻脂切 〔支〕
琵に通じ用ふ。○〔風俗通〕「一一把近世樂家所レ作、以レ手一把、因以爲レ名」。

【批】ヘツ、ベチ。蒲結切 〔屑〕
觸れ撃つ、排し撃つ、うつ。○〔史〕「一レ亢擣レ虛」。

【扺】シ。掌氏切 〔紙〕
手をそばだてゝ撃つ、撃ち毀る、うつ、やぶる。○〔揚雄〕「一二穰侯一而代レ之」。

【抵】キ、ギ。翹移切 〔支〕
手を擬して期剋すること。

【扻】シ。側吏切 〔寘〕　セッ、セチ。子結切 〔屑〕
髮を治めつくろふ、をさむ。○〔莊〕「簡レ髮而一、數レ米而炊」。

【扻】櫛に同じ。

【扻】カン、コン。苦感切 〔感〕
うつ、たゝく、(擊)。

【扼】アク、イヤク。乙革切 〔陌〕 一本、搤に作る。
㊀扼に同じ、さりひしぐ、おさふ。○〔漢〕「カ一レ虎射命中」。㊁軛に同じ、くびき。○〔莊〕「加レ之以二衡一一」。

【抩】タン、ドン。他含切 〔覃〕
并せ持つ、もつ。

【抩】ゼン、チン。如占切 〔鹽〕　ダン、ナン。那含切 〔覃〕
もつ、(持)。

【扽】トン、ドン。都困切 〔願〕
㊀うごかす、(撼)。㊁ひく、(引)。㊂する、(摩)。

【找】クワ、ゲ。胡瓜切 〔麻〕
竿にて船を撥き進む、さをさす、すゝむ。

【找】サウ、セウ。(俗音)。
不足を補ふ、たらはす、たす。

【承】ショウ、署陵切 〔蒸〕
㊀うく。
(い)迎へ取る。○〔禮〕「一二天之祜一」。
(ろ)さゝぐ。(〔詩〕「一レ筐是將」。
(は)うけたまはる。○〔左〕「一二寡君之命一以請」。
(に)次づ。○〔國〕「虢射爲レ右以一レ公」。
(ほ)繼ぐ。○〔易〕「開レ國一レ家」。
(へ)順ひ守る。○〔禮〕「弟子敢不レ一乎」。
(と)戴く。○〔易〕「萬物資生、乃順一レ天」。
(ち)事ふ。○〔左〕「將レ一二王宮一、何故役二諸侯一」。
(り)應ず。○〔左〕「郤至見レ客、免レ冑一レ命曰」。
㊁順次、ついで。○〔左〕「同盟二于平丘一、子産爭レ一」。
㊂うくること、うくるもの、うけ。○〔書、傳〕「庶人有二石一一」。
㊃丞に通じ用ふ、たすく、たすけ。○〔左〕「楚右司馬子國帥レ師而行、請レ一」。
㊄とゞむ、(止)。○〔詩〕「則莫二我敢一一」。

〔敬承〕畏しみてうく。○〔後漢〕「敢不二一一」。
〔祗承〕前に同じ。○〔晉〕「一一二于帝一」。
〔師承〕先生より教へをうくること。○〔黃庭堅〕「我學無二一一」。
〔統承〕次ぎ守る。○〔晉〕「一二一先王一、修二其禮物一」。
〔奉承〕うく。○〔左〕「一一以來、弗二敢失隕一」。
〔供承〕そなへさゝぐ。○〔舊唐〕「一二一糧料一、增二修學館一」。
〔夾承〕兩方より受けさゝぐ。○〔左〕「執レ紱者、一二之一」。
〔攝承〕兼務にてあとを繼ぐ。○〔黃庭堅〕「輒以二他吏一一一」。
〔恭承〕つゝしみてうく。○〔謝靈運〕「一一二古人意一」。
〔纂承〕集めうく。○〔後漢〕「一二一大業一」。
〔遵承〕順ひうく。○〔後漢〕「一二一舊典一」。
〔迎承〕むかへうく。○〔後漢〕上有二一一之敬一。
〔託承〕よりうく。○〔後漢〕「一二一先軌一」。
〔階承〕順序によりて受けつぐ。○〔吳〕「一二一統緒一」。
〔稟承〕指揮をうく。○〔南〕「一二一計畫一」。
〔曲承〕受くべからざるを特別にうく。○〔舊唐〕「一二一恩顧一」。
〔演承〕のべうく。○〔舊唐〕「一二一餘慶一」。
〔紹承〕うく。○〔宋〕「一二一丕緒一」。
〔風承〕靡き應ず。○〔帝王世紀〕「遠近一一」。
〔聽承〕うけたまはる。○〔高貴鄉公顏子論〕「一二一聖言一」。
〔陪承〕侍ること。○〔梁簡文帝〕「常願レ一二一甲館一」。

〔仰承〕あふぎうく。○〔沈約〕「ー二ー元首一」。
〔承々〕つぎ〳〵に傳へうく。○〔韓愈〕「聖子神孫、繼々ーー」。
〔媚承〕へつらひ應ぜ。○〔韓愈〕「衆皆ーー」。
〔虔承〕うく。○〔韋展〕「可三以ー二ー天意一」。
〔軌承〕のツとりうく。○〔罠誥〕「ー二ー訓誨一」。
〔尊承〕崇びうく。○〔雲笈〕「ー二ー大法一」。

【承】 拼に通じ用ふ、すくふ。○〔列〕「使下弟子並レ流衍ー上之」。

【技】 キ、ギ。巨綺切 紙

わざ、たくみ。
(い)巧機、さいく。○〔禮〕「作二奇技奇器一以疑レ衆」。
(ろ)藝術。○〔荀〕「故百ー所レ成、所三以養二一人一」。
(は)才能。○〔書〕「斷々兮無二他ー一」。
〔薄技〕拙きわざ。○〔史〕「始可レ盡二臣ーー一」。
〔長技〕たけたるわざ。○〔漢〕「匈奴之ーー三」。
〔殊技〕わざを異にす、又、ことにすぐれたるわざ。○〔後漢〕「與レ世ーレー」。
〔小技〕さゝやかなる藝。○〔杜甫〕「文章本ーー」。
〔絕技〕こよなく勝ぐれたるわざ。○〔揚雄〕「逢蒙ー二ー於弧矢一」。
〔末技〕物の用に立つと少きわざ。○〔張華〕「ーー之妙、動レ物應レ心」。
〔方技〕醫術などの類にいふ語。○〔晉〕「甚於二圖緯ーー之書一、莫レ不二詳悉一」。
〔手技〕手わざ。○〔漢〕「有二ーー一作レ事」。
〔音技〕糸竹管絃のわざ。○〔漢〕「有聲色ーー一」。
〔嚴技〕前に同じ。○〔金〕「未下嘗以二ーー一爲上レ心」。
〔鬻技〕藝を賣りて生活すると。○〔莊〕「一朝而ー二ー百金一」。
〔巧技〕たくみなるわざ、又、わざ。○〔晉〕「ーーー丰業、服飾奢麗」。
〔雜技〕くさ〴〵のわざ。○〔唐〕「觀二神衆諸軍ーー一」。
〔馬技〕曲馬などの類。○〔唐〕「有二弄䠥師子ーー細伎一」。
〔心技〕心のわざ。○〔劉向〕「益積二ーー之術一、以備二將レ衰之色一」。
〔騁技〕たくみの藝を心の思ふまゝになす。○〔東都賦〕「妙材ーレー」。
〔妙技〕たへなるわざ。○〔梁昭明太子〕「巴隴才僮、邯鄲ーー」。
〔才技〕わざ。○〔阮籍〕「多二ーー一其爲レ何」。
〔藝技〕わざ。○〔謝靈運〕「才緜二ーー一」。「末一」。
〔賤技〕下等のわざ。○〔江淹〕「豫二三五ーー之」。
〔篇技〕文學のわざ。○〔江淹〕「素謝二ーー一」。
〔屠龍技〕龍をはふるわざ、卽ち、無用のわざにいふ語。○〔莊〕「朱泙漫學二ーレー於支離益一、ー成而無レ所レ用二其巧一」。
〔婆猴技〕はやがはりのわざ。○〔拾遺記〕「有二扶婁國一其人善能二機巧變化一、異レ形改レ服神怪欻忽謂二之ーーー一」。
〔擲倒技〕さかさ立ちして舞ふわざ、〔高緪技〕つなわたりの類、〔舞輪技〕わまはしの類、〔透三技〕梯子をもて演ずるわざ。○〔通典〕「ーーーー、蓋今之倒行而舞者也、ーーーー、蓋今之戲繩者也、ーーーー、蓋今之戲車輪者也、ーーーー、蓋今之透二飛梯一者也」。
〔橦末技〕かるわざ。○〔張衡〕「ーーー之ー態不レ可レ彌」。

【技】 キ、ギ。翹移切 支　奇寄切 寘

端しからず。

【技】 扑に同じ。

【拌】 搒、又、捧に同じ。

【拌】 ハウ、ボウ。部項切 講

うつ、(打)。

【抗】 エン。以轉切 銑　イ。愈水切 紙　セン。粗兗切 銑

㊀はかる、(揣)。
㊁うごく、うごかす、(動)。

【抗】 エン。愈絹切 霰　エイ、エ。愈芮切 霽

うごく、うごかす、(動)。

【扛】 キヤウ、ガウ。渠王切 陽

ーー攘は、亂るゝ貌にいふ語。

【抃】 ヘン、ベン。皮變切 霰

兩手相拍つ、たゝく、うつ、てうつ。○〔魏〕「能言之倫、莫レ不二ーー舞一」。
〔笑抃〕ゑみて手をうつ。○〔柳宗元〕「ーー前」。
〔歌抃〕うたをうたひ拍子をとりて手をたゝく。○〔晉〕「普天率土、誰不二ーー一」。
〔舞抃〕踊り且手をうつ。○〔宋〕「粲然ーー」。
〔擊抃〕手をたゝく。○〔孔叢子〕「小人ーー」。
〔仰抃〕上を向きて手をうつ。○〔成公綏〕「喟ーー而抗レ首」。
〔虽抃〕村人の手を打ち歌ひはやすと。○〔沈約〕「滐歌ーー」。
〔慶抃〕よろこびて手をたゝく。○〔劉禹錫〕「ーー失レ圖」。
〔手抃〕てを打つ。○〔斐度〕「ーー目駭兮」。

【抃】 ヘン、ベン。方煩切 元

犿に同じ、しなやかに廻る、めぐる。

【托】 バウ、モウ。莫報切 號　ー本、芼に通じ作る。

えらぶ、(擇)。

【抄】 サウ、セウ。楚交切 肴　ー本、鈔に作る。

さる。
(い)匙にて取る、すくふ。○〔韓愈〕「匙ー二爛飯一穩送レ之」。
(ろ)掠略す、かすむ。○〔魏註〕「ー二ー略諸郡一」。
(は)謄寫す、書き拔く、うつす。○〔晉〕「手自ーー寫」。
〔手抄〕手づからうつす。○〔唐〕「嘗ー二ー六經一」。
〔剟抄〕分けてうつす、又、はぎかすむ。○〔南〕「又ー二ー條目一爲二十三卷一」。
〔集抄〕寄せあつめてとる。○〔南〕「東南譜ーーー千卷」。
〔詩抄〕詩を拔き書きしたるもの。○〔隋〕「梁有二雜ーーー卷一」。
〔圖抄〕ゑがきうつす。○〔宋〕「使二契丹ーーー上之」。
〔潛抄〕人知れずにとる。○〔宋〕「乃ーーー而默二誦之一」。
〔類抄〕似寄りたるものを寄せ集めて書きとる。○〔趙崇絢〕「久而成レ卷、以レーー聚」。
〔傳抄〕先より先へとつたへてとる。○〔陸游〕「十手ーー畏レ不レ供」。
〔僞抄〕たばかりてとる。○〔晉〕「時遣二游軍ーー一レ之」。
〔密抄〕ひそかに掠め取る。○〔晉〕「ーー二官軍一」。
〔侵抄〕犯しとる。○〔隋〕「ーー爲レ資」。

【抄】 サウ、セウ。楚絞切 巧　初教切 效

前條の(ろ)に同じ。

【抄】 サ。桑何切 歌

抄に同じ、もむ。

【挒】 シツ、シチ。子悉切 質　セツ、セチ。子列切 屑　或は、擳に作る。

つむ、(摘)。

【拘】 俗の拘の字。

【抆】 仿、髣に同じ。

【抆】 搒に同じ。

【抲】 クワ、ケ。許誇切 麻　タ、ダ。徒禾切 歌

さく、(撝)。

【抆】ブン、モン。武粉切 吻 文運切 問
のごふ、(拭)、又、ずる、(擊)。○〔唐〕「居レ官久未三嘗一二飾器・用車・服一。

【扫】コツ、ゴチ。胡骨切 月
㊀物を牽き轉す、うごかす、ころばす。○〔柳宗元〕「揚二一泥・淖一。
㊁搰に同じ、あばく、ほる、みだる、やぶる。○〔荀〕「一二人之墓一。

【扫】ケツ、グワチ。其月切 月
搰に同じ。○〔列〕「一二其谷一而得二其鈇一。

【抈】ゲツ、グワチ。魚厥切 月 グワツ、グワチ。五括切 曷
㊀をる、(折)。○〔揚雄〕「車・軸折其衡一」。
㊁うごく、うごかす、(動)。○〔國〕「其置レ本也固矣、故不レ可レ一」。

【抉】エツ、エチ。於悅切 ケツ、ケチ。娟悅切 屑
㊀剔き撓す、さく、みだす、くじる、ゑぐる。○〔左〕「以レ杙一二其傷一而死」。
㊁挑發す、あばく、かゝぐ。○〔柳宗元〕「構二一過・失一」。
〔剔抉〕くじる。○〔韓愈〕「爬羅一一」。
〔搜抉〕探しくじる。○〔蘇軾〕「一二一肝・腎一神慼」
〔探抉〕前に同じ。○〔柳宗元〕「一二一遐・隱一」。
〔披抉〕ひらき挑ぐ。○〔蘇軾〕「一二一泥・沙一收二細・碎一」。
〔挑抉〕かゝぐ。○〔韓愈〕「一・一視二九・州一」。
〔撑抉〕前に同じ。○〔司空圖〕「一二一於天・地之拶一」。
〔釣抉〕つりかゝぐ。○〔富弼〕「一二一六・籍一」。
〔排抉〕おしひらきかゝぐ。○〔劉基〕「一二一銀・河一通二積・石一」。

【抉】ケツ、ケチ。古穴切 屑
矢を挾み弦を持つに右手の巨指に著くるもの、ゆがけ、(縱-弦-彄)。○〔史〕「革一一吱芮無レ不二畢具一」。

【把】ハ、ベ。博下切 馬
㊀とる。
(い)握る。○〔說苑〕「指大二於臂一、難二以一一」。
(ろ)持つ。○〔史〕「湯自一レ鉞以伐二昆・吾一」。
(は)除く。○〔漢〕「皆一二其陰重・罪一、而縱使レ督二盜・賊一」。
㊁にぎり。
(い)にぎると、にぎる程の大さ。○〔國〕「烝嘗不レ過二一・握一」。
(ろ)手を掛くる所、にぎる所、卽ち、柄、つかなど。○〔潘岳〕「戾レ翳旋レ一縈隨レ所レ歷」。
㊂束ねたるもの、たば。○〔杜甫〕「淸晨送二桒一一一」。
〔拱把〕にぎり。○〔孟〕「十・圍之大、始二於一・一一」。
〔一把〕ひとにぎり、ひとたば。○〔韓詩外傳〕「發二一・一飛不レ爲レ加レ高」。「刈レ稻一レ一」。
〔聚把〕たばを寄せあつむ、又、あつめとる。○〔詩、疏〕
〔劍把〕つるぎの柄。○〔史〕「其一・一無二物可レ裝」。
〔刀把〕前に同じ。○〔班固〕「合レ賜二固一・一一」。
〔空把〕徒にもつ。○〔劉長卿〕「一・一相・如賦」。
〔擬把〕あてがひとる。○〔維隱〕「一二一金・錢一贈二嘉・禮一」。

【把】ハ、ベ。蒲巴切 麻
かく、
(い)爬に通じ用ふ。○〔漢〕「農・夫拌レ草一レ土」。
(ろ)かけたる手を引く。○〔風俗通〕「以レ手批一一」。
〔批把〕かきならす、又、琵琶。

【把】弝に通じ用ふ、ゆづか。○〔禮、疏〕「拊弓一一也」。

【扒】シン。七鴆切 沁
揌に同じ、さしはさむ。

【抌】チン。竹甚切 寢
深く擊つ、うつ。

【抌】シン、ジン。食荏切 寢
おす、(推)。○〔列〕「攩・抌挨一一亡レ所レ不レ爲」。

【抌】ユ。以主切 麌 タン、ドン。都感切 感
さす、(刺)。

【抙】ガ、ゲ。牛加切 麻
扠一一は、正しからず、ゆがむ。

【抙】砑、又、搙に同じ。

【抍】ショウ。之庱切 迥
㊀あぐ、(擧)、ぬく、(拔)。○〔揚雄〕「拔也出レ休爲レ一」。
㊁すくふ、(救)、たすく、(助)。○〔周、疏〕「以レ財與レ之謂二之一一」。

【抚】撫に同じ。

【抎】ウン、チン。羽粉切 吻
うしなふ、(失)。○〔戰〕「寡・人愚・陋守二齊・國一、惟恐二夫一レ之」。

【抎】ヰン。羽敏切 軫

【抏】隕に同じ、くだる、おつ。○〔史〕「不レ戰而一、利莫レ大焉」。

【抏】グワン。吾官切 寒
する、(鈋)、又、くじく、(挫)。○〔史〕「百・姓一一敝以巧レ法」。

【抏】グワン、五換切 翰
㊀前條に同じ。
㊁玩に同じ、もてあそぶ、たはむる。○〔荀〕「縣・樂奢・泰、游一一之脩」。
㊂按摩す、もむ。○〔史〕「鑱・石撟・引案・一毒・熨」。

【抐】ドツ、ノチ。內骨切 月 ドン、ノン。奴困切 願
物を水中に按ふ、つく、(沒)、そむ、(擩)。

【抐】ダフ、ノフ。諾荅切 合
搦に同じ。

【抐】ズヰ、ニ。而睡切 寘
いる、(內)。

【抐】ゼイ、ネイ。儒稅切 霽
つかむ、(捽)。

【抐】ヂフ、ニフ。昵立切 緝
挹一一は、中に制む、とゞむ。

【抑】イヨク、イキ。於力切 職
㊀おさふ。
(い)壓す。○〔淮〕「捧レ心一レ腹」。
(ろ)過む。○〔後漢〕「宜二一而不一レ省」。
(は)塞ぐ。○〔史〕「禹一二鴻・水一」。

(に)治む。〇〔孟〕「昔者禹|二洪-水一」。
(ほ)屈す。〇〔史〕「皆伏二|首一」。
(へ)貶す。〇〔國〕「聳レ善而|レ惡」。
(と)遏る。〇〔禮〕「强而弗レ|」。
(ち)損す。〇〔後漢〕「入自|-損以塞二咎-戒一」。
㊁遏まる、塞がる、かゞまる、自からしりぞく、せまりちゞまる、へる。（前項參照）。〇〔史〕「志鬱-|而不レ申」。
㊂愼密、つゝしみ。〇〔詩〕「威-儀|-|」。
㊃美なり、うつくし。〇〔詩〕「|-若レ揚兮」。
㊄そも〳〵。
(い)上をうちかへして下に轉ずるさきに用ふる字、然らずして、さはなくて。〇〔論〕「求レ之歟、|-與レ之與」。
(ろ)文面を改め換ふるさきに用ふる字。〇〔韓愈〕「三-子-者之鳴、信善鳴矣、|-不レ知、天將下和二其聲一而使中鳴二國-家之盛一邪」。
(は)發語の端に用ふる字、そも。〇〔詩〕「|-此皇-父」。

〔捽抑〕執りおさふ。〇〔漢〕「不レ使二|-|而刑レ之」。
〔沈抑〕おちつけふさぐ、ちゞみとゞまる。〇〔屈平〕「情|-|而不レ達兮」。
〔揖抑〕おさへて揚がらしめぬ、へる、かゞまる、しりぞく。〇〔宋〕「勸令二|-|一」。
〔裁抑〕おさふ。〇〔宋〕「念自|-|」。
〔冤抑〕罪なくして咎を得ること。〇〔東方朔〕「獨|-|而無レ極兮」。
〔摘抑〕おとしおさふ。〇〔唐〕「管筦二延-賞一|-|、內怨-望」。
〔遮抑〕さへぎりおさふ。〇〔唐〕「爲レ吏|-|」。
〔摧抑〕折れかゞまる、くじきおさふ。〇〔鮑照〕「|-|多嗟-患」。
〔崇抑〕前に同じ。〇〔韓愈〕「松-臺遭二|-|一」。
〔擁抑〕圍みふさぐ。〇〔謝靈運〕「諸-隄|-|以接レ遠」。
〔撩抑〕とりおさふ。〇〔王融〕「|-|有二奇-態一」。
〔排抑〕おさへとゞむ。〇〔溫子昇〕「便欲レ望レ風|-|一」。
〔沮抑〕とゞめさふ、とゞまる。〇〔張九齡〕「一皆|-|」。
〔按抑〕おさふ。〇〔蘇軾〕「至-不無二|-|一」。
〔屈抑〕かゞまる、かゞむ。〇〔傳燈錄〕「早是|-|也」。

【抒】ショ、ゾ。神與切　チョ、ド。丈呂切　語

㊀いだす。
(い)くむ、(挹)。〇〔詩、疏〕「|レ米以出レ臼也」。
(ろ)もらす、(泄)。〇〔漢〕「略陳レ愚而|二情素一」。
㊁のぞく、(除)。〇〔左〕「有二此四-德一者雖必|矣」。
㊂さく、(解)。〇〔謝偃〕「聞レ之者意悅而「情|」。

【抓】サウ、セウ。側絞切　巧　荘交切　肴　阻教切　效

かく、(搔)、叉、つまむ、(掐)。〇〔荘〕「有二一-狙一焉、委-蛇攫-|、見二巧于王一」。

【抔】ホウ、ブ。蒲侯切　尤　ハイ、へ。鋪枚切　灰

掌に載せ取る、すくふ、くむ。〇〔禮〕「汙-尊而|-飲」。

【投】トウ、ヅ。徒侯切　尤

㊀放ち遣る、はふり出す、なげうつ、なぐ。〇〔周〕「以二焚-石一|レ之」。
㊁落下す。〇〔呂氏春秋〕「自|二於蒼-領之淵一」。
㊂すつ、(棄)。〇〔左〕「|二諸四-裔一」。
㊃おくる、(贈)。〇〔詩〕「|レ我以二木-瓜一」。
㊄いる、(納)。〇〔禮〕「|二殷之後於宋一」。
㊅あふ、(合)。〇〔屈平〕「|二詩-賦一只」。
㊆ゆく、(適)。〇〔酈炎〕「賢-才抑不レ用、遠|二荆-南沙一」。
㊇よる、よす、(託)。〇〔後漢〕「望レ門|止」。
㊈おほふ、(掩)。〇〔詩〕「相二彼|レ兔」。
㊉振ふ、はらふ。〇〔左〕「|レ袂而起」。
⑪壺に矢をなげ入ること、古代の一種の遊戲。〇〔禮〕「待レ|則擁レ矢」。

〔珍投〕めづらしきものをおくること。〇〔蘇軾〕「反將二木-瓜一報二|-|一」。
〔依投〕よる。〇〔鄭谷〕「早-晚便|-|」。「|」。
〔相投〕(い)互につりあふ。〇〔穀梁、註〕「遲-疾|(ろ)互による。〇〔南〕「有二遠-來|-|者一」。
〔情投〕心を寄す。〇〔孔稚珪〕「|-|二於魏-闕一」。
〔暝投〕日暮れてやどる。〇〔李白〕「|-|淮-陰宿」。
〔夜投〕よるやどること。〇〔許渾〕「|-|蕭-寺碧-雲隨」。
〔傾投〕よす。〇〔蘇舜欽〕「佳-士來|-|」。
〔梭投〕はたのひをかよはす、卽ち物事の經過の急なるにかりていふ語。〇〔陳造〕「日-月急二|-|一」。

【投】トウ、ヅ。大透切　宥

㊀逗に同じ、とまる、とゞまる。〇〔杜甫〕「遠|二錦-江波一」。
㊁再釀の酒の稱。〇〔梁元帝樂府〕「宜-城|-、酒今行熟」。
㊂讀に通じ用ふ。〇〔馬融〕「察二度於句-|一」。

【抖】トウ、ツ。當口切　有

擻の條を見よ。

【抗】カウ。口浪切　漾

㊀ふせぐ、(扞)。〇〔儀〕「|-木橫三縮一」。
㊁あぐ、あがる、(擧)。〇〔淮〕「百-人|レ浮不レ若二一-人挈而趨一」。
㊂ふるふ、(振)。〇〔晉〕「皇-羅重|、天-暉再擧」。
㊃あたる。
(い)對等さす。〇〔漢〕「無レ不二分レ庭與レ之|-禮一」。
(ろ)爭ひて下らず。〇〔宋〕「年少乃與二丈-人一|乎」。

〔狠抗〕心亂れて人と忤ひあたる。〇〔世說〕「性|-|、亦不レ容二於世一」。
〔高抗〕たかくあがる、又、たかくあぐ。〇〔後漢〕「|-|終-身不レ仕」。
〔支抗〕さゝへふせぐ。〇〔晉〕「無二相|-|一」。
〔答抗〕あひしらふこと。〇〔南〕「辭-辯縱-橫、難二以|-|一」。
〔清抗〕心潔くして高尙なること。〇〔南〕「|-|不下與二俗-人一交上」。
〔賢抗〕德ありて物に屈せざること。〇〔韓〕「賢二|-|之行一」。

【折】セツ、セチ。之列切　屑

㊀をる。
(い)拗ぢ曲ぐ、まげて斷つ。〇〔詩〕「無レ|二我樹-杞一」。
(ろ)ねぢれ曲がる、まがりて斷ゆ。〇〔左〕「末大必|、尾大不レ掉」。
(は)屈曲す、まぐ、まがる、かゞむ。〇〔漢〕「|レ節下レ士」。
㊁くじく。
(い)をり毀る、をれ毀る。〇〔淮〕「天-柱|、地-維缺」。
(ろ)勢氣沮喪す。〇〔漢〕「|-|北不レ救」。
(は)抑過す、おさふ　〇〔史〕「|二辱秦吏-卒一」。
(に)直接に人の過失を指し言ふ。〇〔史〕「面|-廷-諍」。
㊂取捨す。〇〔漢〕「徵二孔-子之言一、亡レ所二|-中一」。

㊃斷定す、さだむ。○〔易〕「无ニ敢ー一レ獄」。
㊄年少にして死ぬるを、はやじに、一説に、未だ結婚する年ばへに至らずに死ぬるを。○〔書〕「一曰、凶、短、ー」。
㊅父より其の子の死ぬるにいふ字。○〔漢〕「兄喪レ弟曰レー、父喪レ子曰レー」。
㊆草木の枯れそこなふを。○〔漢〕「人曰レ凶、禽・獸曰レ短、草木曰レー」。
㊇地を封り上げたる祭場。○〔禮〕「瘞ニ埋于泰ーー」。
㊈木を方形に連ねて牀の如く作りたる葬具、壙に横たへ互して上に席を加ふるもの。○〔儀〕「ーー横覆レ之」。
〔方折〕四角にをれまがる。○〔尸子〕「水圓・折者有レ珠、ーー者有レ玉」。
〔圓折〕まどかにをれまがる。○〔顏延年〕「璿源載ーーー」。
〔磬折〕磬といふ樂器の形の如くにをれまがる。○〔禮〕「立則ーー而垂レ佩」。
〔周折〕身のとりなし。○〔馬祖常〕「ーー尋ニ規・矱ニ」。
〔曲折〕(い)をれまがり。○〔袁褒、袁桷聯句〕「蟻・封徒ーー」。(ろ)轉じて、くはしきとの義に借りいふ語。○〔史〕「吾益知ニ吳壁中ーーニ」。
〔九折〕多くまがりくねりたる處、つゞらをり。○〔張協〕「玉・陽矚ニーーニ」。
〔陵折〕しのぎおさふ。○〔史〕「驕・恣ーー、吏・民皆患ニ苦之ニ」。
〔剌折〕そこなひやぶる。○〔史〕「欲レーニ北・氣ニ」。
〔排折〕推し退けおさふ。○〔漢〕「ーニー弟・虜ニ」。
〔摧折〕くじく。○〔漢〕「無レ不ニーーニ」。
〔挫折〕前に同じ。○〔後漢〕「虜・兵ーー」。
〔非折〕そしりくじく。○〔後漢〕「更相ーー」。
〔判折〕わかちさだむ。○〔後漢〕「ーニー獄・訟ニ」。
〔險折〕けはしくしてをれまがる。○〔後漢〕「路無ニーーーニ」。
〔屈折〕かゞむ。○〔白居易〕「ーー孤・生竹」。

〔夭折〕わかじに。○〔吳〕「顏・回有ニ上・智之才ニ而ーーー」。
〔威折〕おそれしめおさふ。○〔吳越春秋〕「營ニ城周・雒ニ、ーニー萬・里ニ」。
〔委折〕まがりくねる。○〔水經、註〕「二・十・里中、ーー五・迴」。
〔逆折〕うづまきめぐる。○〔上林賦〕「橫・流ーー」。
〔紆折〕うねりまがる。○〔張衡〕「蟬・綿宜・嫿ニ天紹ーーーニ」。
〔百折〕あまたゝびをれかゞむ。○〔蔡邕〕「有ニーーー不レ撓」。
〔探折〕をりとる。○〔丁六娘〕「逢レ桑欲ニーーニ」。
〔縈折〕まつはりまがる。○〔岑參〕「千・崖信ーー」。
〔阻折〕へだゝりまがる。○〔李白〕「征・軒兮歷ニーーーニ」。
〔盤折〕めぐりまがる。○〔白居易〕「ーー通ニ巖・巔ニ」。
〔磨折〕すりをる。○〔白居易〕「被ニ天ーーー作ニ詩・人ニ」。
〔橫折〕うちやぶる。○〔杜牧〕「ーニー河・朔强・梁之衆ニ」。
〔垂折〕たれをる。○〔杜牧〕「頭・角長ーー」。
〔峻折〕けはしくしてうねりまがる。○〔余靖〕「山・嶺ーー」。
〔困折〕苦しみかゞむ、くるしみくじく。○〔蘇軾〕「ーニー於萬・里之外ニ」。
〔鈎折〕かがまりをる。○〔陳繹〕「房・星ー　ー」。
〔毀折〕くじく。○〔周〕「巾・車ーー」。
〔膠折〕秋氣至ればにかはをれたつをもて秋の節の至れるにかりいふ語。○〔虞世南〕「精・騎乘ニーーニ」。
〔撓折〕くじく、をる。○〔後漢〕「ーニー棟・梁ニ」。
〔齧折〕かみくじく。○〔後漢〕「ーーー棄レ之」。
〔脫折〕ぬけくじく。○〔易林〕「高・熟ーー」。
〔碎折〕くだけくじく、くだきくじく。○〔水經、註〕「羊・虎ーー」。
〔朽折〕腐れてをる。○〔白居易〕「叢・染ーーー紅・窓破」。
〔衰折〕おとろへくじく。○〔蕭子雲〕「漂ニ青・綸之ーーーニ」。
〔枯折〕かれはてゝくじく。○〔杜甫〕「菱・荷ーーー隨ニ風・濤ニ」。
〔破折〕やぶれくじく。○〔蘇洵〕「水之所レ漂、或ーーー或摧」。
〔敲折〕たゝきをる。○〔蘇軾〕「鏘然ーーー青・珊・瑚」。
〔拔折〕ぬきをる、ぬけをる。○〔蘇軾〕「滔・蒲ーーー藻・荇亂」。
〔缺折〕かけくじく。○〔方夔〕「百・用不ニーーーニ」。

【折】テイ、タイ。杜奚切　齊
安らかにしてのびのびしたる貌にいふ字。○〔禮〕「吉・事欲ニ其ーーー爾ニ」。

【[与+手]】ヨ。羊諸切　魚
舁に同じ、かく、あぐ。

【抒】抒に同じ。

【[扌+互]】抵に同じ。

【扫】キ。其記切　寘
いむ、(諱)。

五畫

【抦】ヘイ、ヒヤウ。補永切　梗
柄、又、棅に作る。秉に通じ用ふ、もつ、とる。

【抧】シ。掌氏切　紙　キ。遺爾切　紙
あく、ひらく、(開)。

【抧】サイ、セ。仄蟹切　蟹
うつ、たゝく、(擊)。

【抨】ハウ、ヒヤウ。披耕切　庚
㊀彈に同じ、はじく、たゞす。○〔唐〕「其意不レ樂レ彈ニーー事ニ」。㊁俾、使に同じ、しむ、せしむ。○〔揚雄〕「ーニ雄・鳩以作レ媒」。

【抨】ヘイ、ビヤウ。蒲兵切　庚
前條の㊁に同じ。

【抩】俗の拇の字。

【挻】揞に同じ。

【抪】ホ、フ。普胡切　虞　博故切　遇
㊀ひれり持つ、もつ。㊁うつ、(擊)。㊂しく、(敷)、のぶ、(舒)、ちらす、ちる、(散)。○〔漢〕「塵・埃ー覆」。

【抪】ホ、フ。博孤切　虞
のぶ、(舒)。

【披】ヒ。敷羈切　支
㊀ひらく。
(い)あく。○〔史〕「ーニ九・山ー通ニ九・澤ニ」。
(ろ)わかつ、わかる、(分)。○〔左〕「又ーニ其邑ニ」。
(は)ちる、ちらす、(散)。○〔屈平〕「髮ーーー以鬟・々」。
(に)さく、(裂)。○〔史〕「木・實繁者ーニ其枝ニ」。
(ほ)なびく、(靡)。○〔漢〕「羽大呼馳下、漢・軍皆ー靡」。
㊁きる、(被)。○〔朱熹〕「誰把ニ羊・裘ー與醉ー」。
〔離披〕はなれひらく、はなしひらく。○〔許渾〕「青・山舊・路菊ーー」。
〔分披〕前に同じ。○〔韓愈〕「左右驚ニーーニ」。
〔風披〕なびきしたがふ。○〔晉〕「必當ニ萬・里ーー、有レ征無レ戰」。
〔披披〕なびく貌にいふ語。○〔梁元帝〕「衣ーーー而屢舞」。

【披】ヒ、ビ。平義切　寘
㊀棺の左右にある紐、棺の傾かざる爲

め之れを持ち行くに設けたるもの、ひつぎなは。○〔禮〕「孔子裹設レ—」。

㊁總て物の兩側に設けおつらへたる手を掛くるもの。○〔周〕「使二六軍之士執一レ—」。

㊂ちる、ちらす。(散)。

【披】 ヒ、ビ。普弭切 紙
なびく。(靡)。

【抪】 ハ、ヘ。普駕切 禡
ひらく。(開)。

【抬】 笞に同じ、うつ。

【抭】 エウ。以沼切 篠 弋笑切 嘯 イウ、ユ。以周切 尤 ユ。容朱切 虞
臼より物を擧ぐ、あぐ。○〔詩〕「或舂或—」。

【抗】 挑に同じ、物を抒む器。

【抶】 ヰツ、ヰチ。于筆切 質
㊀うつ。(擊)。㊁なぐ。(投)。

【抉】 ケツ、ゲツ。胡決切 屑
前條の㊀に同じ。

【抇】 ウツ、チチ。王勿切 物
搰に同じ、なげうつ。

【抮】 シン。止忍切 軫
引き戻らす、もどす、持ち著く、つく。○〔淮〕「雖二天地覆育一、亦不レ與二之—抱一」。

【抮】 ケン、ゲン。呼典切 テン、デン。徒典切 銑
そむく。(盾)。

【担】 サ、セ。側加切 麻
掊み取る、くむ、さる。○〔揚雄〕「南楚之間、凡取二物溝泥中一謂二之—一、或謂二之揸一」。

【扭】 シヤ、セ。淺野切 馬
さる。(取)。

【抰】 アウ、ヤウ。倚兩切 養
車鞅(おもがい)もて擊つ、うつ。

【抰】 アウ、ヤウ。於郎切 陽
うつ。(打)。

【抓】 クワ、ケ。古華切 ワ、エ。烏瓜切 麻

㊀ひく。(引)。㊁うつ。(擊)。

【抱】 ハウ、ボウ。薄皓切 皓 ハウ、ボウ。蒲報切 號
㊀いだく、だく。
(い)兩手を以てかこみ持つ、かかふ。○〔後漢〕「互—二超馬脚一不レ得レ行」。
(ろ)挾む持つ。○〔戰〕「此—二空質一也」。
(は)守る、保つ。○〔荀〕「—關擊柝而不三以爲二寡一」。
(に)鳥の卵をあたたむるにいふ字。○〔陸龜蒙〕「譬如レ拳二雞鶩一、豈不レ容二乳—一」。
㊁かかふるを、かかふるほどの大さ、かかへ。○〔司馬相如〕「長千仞大連レ—」。
㊂胸懷、むね、こころ、ふところ。○〔儀〕「凡與二大人一言、始視レ面中見レ—」。
㊃雲氣の日に向かふにいふ字。○〔漢〕「暈、適背穴—珥蚩蜺」。

(襁抱) おひいたくこと、幼稚なること。○〔賈誼〕「昔者成王幼在二——之中一」。
(孩抱) こどものいたかるること、幼稚なること。○〔後漢〕「雖レ在二——一、奉レ之不レ異二長君一」。
(懷抱) ふところ、いだく。○〔後漢〕「三年乃免二于——一」。
(合抱) ひとかかへ。○〔老〕「——之木、生二於毫末一」。
(抮抱) いだく。○〔淮〕「雖二天地覆育一、亦不レ與二之——一」。
(縈抱) まとふこと。○〔閻隨侯〕「千巖萬壑相——」。
(遠抱) とほきかんがへ。○〔韓愈〕「——非二俗規一」。
(乳抱) ちちをふくませいたく。○〔蘇軾〕「雞狗相——」。
(丹抱) まごころ。○〔宋〕「區々——」。
(携抱) たづさへかかふ。○〔南〕「乳媼——匿二於廬山一」。
(擁抱) かかへいたく。○〔宋〕「太祖命二黃門——」。
(撫抱) なでいたく。○〔宋〕「必自起——」。
(襟抱) ふところ。○〔世說〕「中郎——未レ虛」。
(心抱) 前に同じ。○〔高允〕「銘二於——一」。
(中抱) 前に同じ。○〔曹鄴〕「殷勤說二——一」。
(宿抱) ふるきかんがへ。○〔梁武帝〕「惠然中二其——一耳」。
(煩抱) わづらはしきこころ。○〔韋應物〕「頗令二——舒一」。
(清抱) きよらかなる心。○〔孟郊〕「——多二遠侵一聞」。
(旅抱) たびのこころ。○〔李商隱〕「——有二猿聞一」。
(朗抱) くもりなきこころ。○〔李群玉〕「——雲開レ月」。
(高抱) けたかきこころ。○〔陸龜蒙〕「——相逢各絕レ塵」。
(塵抱) 浮き世のかんかへ。○〔陸遊〕「掃二窣——一養二天和一」。

【抱】 掊、捊に同じ。

【抛】 ハウ、ヘウ。披交切 肴
拋に通じ用ふ、なげうつ、すつ。○〔史〕「姜嫄生二后稷一—二之山中一」。

【抲】 カ。虎何切 歌
さく。(撝)。

【抲】 ダ、ナ。女加切 麻
さらふ。(搦)。

【抲】 カ、ケ。丘加切 麻
にぎる。(扼)。

【抲】 タ、ダ。待可切 哿
になふ。(擔)。

【抳】 ヂ、ニ。女履切 紙 デイ、ナイ。乃禮切 薺
さどむ、さどまる。(止)、一說に、手にて物を指す、ゆびさす。

【抳】 ヂツ、ニチ。尼質切 質
さどまる、さどむ。(止)。

【抳】 ヂ、ニ。女夷切 支
さぐ、みがく。(研)。

【抴】 エイ。以制切 霽 エツ、エチ。羊列切 屑
牽引す、ひく。○〔荀〕「接レ人則用レ—」。—或は、拽に作る。

【拙】 揲に同じ。

【抵】 テイ、タイ。典禮切 薺

㊀おす、（推）。○〔漢〕「多見ニ排ーー」。
㊁ふる、（觸）、さかふ、（忤）。○〔漢〕「習ー俗薄ー惡、民ー人ーー冒」。
㊂あつ、あたる、（當）。○〔史〕「傷レ人及盜ーレ罪」。
㊃いたる、（至）。○〔禮〕「草ー木零ー落、ーレ冬降レ霜」。
㊄いたす、（致）。○（漢）或ーニ其罪ー法ー。
㊅おくる、（歸）。○〔漢〕「ーニ櫟ー陽史司ー馬欣ー」。
㊆こばむ、（拒）。○〔漢〕「ーー讕置レ辭」。
㊇なげうつ、（擲）。○〔後漢〕「毀以ーレ地」。
〔大抵〕　おほよそ。○〔史〕「ーー盡詘以ニ不意ー」。
〔過抵〕　たちいたる。○〔漢〕「推ー迹盜賊所ニーーー」。
〔馳抵〕　はせいたる。○〔元〕「己而ーーニ淮上ー」。
〔徑抵〕　直ちに至る。○〔元〕「ーーニ其地ー」。

【抵】　タイ、テ。直皆切　〔佳〕
前條の㊇に同じ。

【抵】　シ。諸氏切　〔紙〕
抵に同じ、うつ、（擊）。○〔漢〕「奮レ髯ーレ几ー」。

【扶】　チツ、チ丶。敕栗切　〔質〕
むちうつ、（撻）。○〔左〕「ーニ其僕ー以徇」。

【抷】　ヒ、ビ。匹眉切　〔支〕
ひらく、（披）。

【挃】　サフ、ソフ。作荅切　〔合〕
挾に同じ、わきばさむ、たづさふ。

【抹】　バツ、マチ。莫曷切　〔曷〕
㊀する、なづ、（摩）。○〔李紳〕「轉レ腕攏レ絃促ニ揮ーー」。
㊁掃ひ滅す、けす、はらふ。○〔秦觀〕「山ーニ微ー雲ー」。
㊂なで附く、ぬる、なする。○〔歐陽修〕「酒入ニ香ー腮ー紅一ーー」。
〔塗抹〕　ぬる、なする。○〔瑯環記〕「信レ筆ーーー」。
〔電抹〕　いなづまのはらふが如く迅速の間にきゆるといふ語。○〔蘇軾〕「四ー十ー三ー年如ニーーー」。
〔一抹〕　ひとなで、ひとけし、ひとぬり。○〔王仁裕〕「ーーー朱絃四ー十ー條」。
〔濃抹〕　色こくぬる。○〔蘇軾〕「淡ー妝ーーー也相宜」。
〔撚抹〕　ひねりなづ。○〔白居易〕「挑ー攏ーーー緩復急」。

【抽】　チウ、チユ。丑鳩切　〔尤〕
㊀ひく、（引）。○〔莊〕「挈レ水若レーー」。
㊁ぬく、（拔）。○〔詩〕「楚ー々者茨、言レーーニ其棘ー」。
㊂をさむ、（收）。○〔揚雄〕「群ー倫ーーレ緒」。
〔纖抽〕　細くぬきいづ。○〔珊瑚詩話〕「象ニ針ー鋒ーーー之勢ー」。
〔斃抽〕　きそひぬきいづ。○〔鮑照〕「弱ー陰ーーー」。

【抾】　キヨ、コ。丘於切　〔魚〕
ーー摸は、持ち去る、さる、一說に、さゝぐ、（捧）。

【抾】　ケフ、ゴフ。乞業切　〔葉〕
㊀くむ、（挹）、又、もつ、（持）。○〔揚雄〕「ーーニ麗ー蠵ー」。
㊁おびやかす、（劫）。○〔後漢〕「ーーニ封ー豨ー」。

【抾】　キ。丘其切　〔支〕
兩手にて挹む、くむ。

【抵】
揩の字の省文。

【抵】
技に同じ、のごふ。○〔呂氏春秋〕「吳ー起ーレ泣」。

【拔】　クワイ、ケ。古壞切　〔卦〕
みだる、（擾）。

【抹】　バイ、マイ。莫貝切　〔隊〕
うつす、さぐる、（摸）。

【抻】　シン。試刃切　〔震〕
物を展べて長くなす、のぶ。

【抻】
伸に同じ。

【押】　アフ、エフ。烏甲切　〔洽〕
㊀文書の證として自己の名を一定の字形に自書せるもの、さうな、かきはん（初めは其の文字眞體を用ひしが後には草體を用ふるをとなれりといふ）。○〔宋〕「必先書ーー而後報ーー」。
㊁おす。
（い）壓に通じ用ふ。○〔晉〕「便以レ石ーニ其頭ー」。
（ろ）詩賦にて韻を用ふるにいふ字。○〔滄浪詩話〕「謂下平ー韻可ニ重ーー、若或平或仄則不ー可上、彼但以ニ八ー仙ー歌ニ言レ之耳、何見之陋耶」。
（は）おさふ、（按）。○〔左思〕「拉ーーー摧ー藏」。
㊂管拘す、かゝはる、あづかる。○〔唐〕「朝ー會監ー察ー御ー史ニー人ーー班」。
〔判押〕　かきはん。○〔宋〕「躬至ニ恕第ー請ニーーー」。
〔署押〕　名を署しかきはんす、又、そうな、かきはん。○〔審泉述書賦〕「叔寧劉然ーーー而已」。
〔花押〕　かきはん。○〔國史補〕「不ー次押レ名日ニーーー」。

【押】　カフ、ケフ。古狎切　〔洽〕
㊀撿束す、ふまる。○〔性理大全〕「使ニ之有ニ以檢ーー相率而趨ニ于善ー」。
㊁規律、のり。○〔揚雄〕「蠢廸ニ檢ーーー」。
㊂相因る、よる。○〔漢〕「羽ー檄重レ迹而ーー至」。

【拂】　フツ、ホチ。數勿切　〔物〕
㊀はらふ。
（い）拭ふ。○〔儀〕「以ニ右ー袂ー推ニーー几ニ三ー」。
（ろ）除く。○〔後漢〕「激ニー揚名ー聲ー、互相題ーーー」。
（は）絕つ。○〔國〕「無レーーニ吾慮ー」。
（に）擊つ。○〔戰〕「左縈而右ーレ之」。
（ほ）振ふ。○〔國〕「ーレ衣從レ之、人救レ之」。
（へ）摩す。○〔張衡〕「雲ー旗ーレ霓」。
㊁さかふ、（逆）、もとる、（戾）たがふ、（違）。○〔詩〕「四ー方以無レーー」。
㊂たむ、（矯）。○〔王柏〕「老ー師鎚ーー活潑ー々」。
㊃物をはらふ具、はらひ。○〔南〕「麈ー尾蠅ーー」。
〔拔拂〕　ひらきはらふ。○〔莊〕「孰居ニ無ー事ニ而ーーニーー是ー」。
〔摽拂〕　擊つ。○〔淮〕「攫ー援ーーー」。
〔棧拂〕　ゑゆろのけの塵はらひ。○〔杜甫〕「ーーー且ニ薄ー陋ー」。
〔摩拂〕　する。○〔詩疏賓要〕「頸相ーーー」。
〔排拂〕　おしひらくこと。○〔陳〕「必ーーニーー衆ー家ー」。
〔巾拂〕　ぬぐふ、又、其の具。○〔李頻〕「他ー時授ーーーー」。
〔擊拂〕　うつ。○〔宋〕「周ー旋ーーー」。
〔扇拂〕　あふぎとはらひと、又、あふぎはらふ。○〔爾雅〕「人採ニ非尾ー以飾ニーーーー」。
〔絲拂〕　いとにて作れるちりはらひ。○〔若學庵筆記〕「日ニーーー」。

〔拊拂〕うちはらふ。○〔郭璞〕「一ニ一瀑沫ニ」。
〔澣拂〕洗ひぬぐふ。○〔黄庭堅〕「待ニ余一一ニ一牀書」。
〔磨拂〕みがくこと。○〔劉禹錫〕「爲レ我一一一」。
〔拭拂〕ぬぐふ。○〔韓偓〕「一一ニ一朝簪ー待ニ眼明ニ」。
〔揮拂〕ふるひうつ。〔韓維〕「援レ斧一一一」。
〔除拂〕のぞく。○〔蘇軾〕「習氣要ニ一一ニ」。
〔麻縄拂〕あさなはにて作りたるちりはらひ。○〔南〕「壁上挂葛、蓉、籠一一一ニ」。

【拂】ヒツ、ビチ。薄密切 質。
㊀弼に同じ。○〔孟〕「入則無ニ法家一一士ニ」。
㊁風の動く貌にいふ字。○〔李賀〕「曉風何一一」。

【拂】ヒ。方未切 未。
㊀髴に同じ。○〔儀、註〕「爲有レ所ニ一一彷ニ」。
㊁攢に同じ、うつ。○〔道藏馮夫人詩〕「神英乃高一」。

【⿰扌卯】リウ、ル。力九切 有。
さろ（捫）。

【拃】サン、セン。側板切 潸。
さぐる（摸）。

【拃】俗の拶の字。○〔唐〕「太宗遣レ使取ニ熬レ糖法ニ詔ニ揚州ー上ニ諸蔗ー、一レ潘如ニ其劑ニ」。

【⿰扌目】シヤウ、サウ。思將切 陽。
およぶ（及）、一說に、捐、又、扫の字の譌。

【拄】シュ。腫庾切　チユ。知庾切　麌。
㊀さゝふ、さゝへ（支）。○〔禮、疏〕「一レ楣稍擧」。

㊁旁より指す、さす、又、そしろ（刺）、あたる（距）。○〔漢〕「五鹿充宗爲ニ梁丘易ー、雲入論難、連一ニ五鹿君ニ」。
〔撐拄〕さゝふ、さゝへ。○〔林景熙〕「天地綱常要ニ一一ニ」。

【担】タン。多旱切 旱。
はらふ（拂）。

【担】ケツ、ケチ。丘傑切 屑。
あぐ、あがろ（擧）。○〔楚辭〕「意恣睢以一撟」。

【扼】アク、ヤク。乙革切 陌。
㊀にぎる、とろ（把）。○〔漢〕「燕齊之間方士瞋レ目一レ擘」。
㊁おさふ（抑）。○〔揚雄〕「或閒レ持レ滿曰一レ欲」。

【拆】タク、チヤク。恥格切 陌。
さく（裂）、ひらく（開）、さく（解）、やぶろ（毀）。○〔易〕「雷雨作而百果草木皆甲一」。

【拆】セキ、シヤク。昌石切 陌。
うつ（擊）。

【拇】ボウ、モ。莫厚切 有。ボ、モ。莫補切 麌。
手足の指の最も太き者、おほゆび、おやゆび、將指。○〔莊〕「駢一一枝指出ニ乎性ー哉」。

【拈】デン、子ン。奴兼切 鹽。セン、ソン。職琰切 琰。
指にて物を持つ、つまむ、ひねる。○〔杜甫〕「舍西柔桑葉可レ一」。

【拉】ラフ、ロフ。落合切 合。
㊀摧く、折く、敗ろ、くじく、ひしぐ。○〔漢〕「范睢一ニ脅折ニ齒於魏ニ」。
㊁風の聲にいふ字、かざおと。○〔揚雄〕「猋一雷厲」。
㊂人を邀へて同行す、招く。○〔諸葛亮〕「相一總レ師」。
〔摧拉〕くだきひしぐ。○〔宋〕「如ニ一レ枯一レ朽耳」。
〔批拉〕うちひしぐ。○〔北齊〕「角カ一一、不レ服骨髓ニ」。
〔靡拉〕なびきくだく。○〔張衡〕「梗林爲レ之一一」。
〔摺拉〕とりひしぐ。○〔庾信〕「研谷一一」。
〔擺拉〕前に同じ。○〔李陽冰〕「得ニ一一一咀嚼之勢ニ」。
〔打拉〕うちひしぐ。○〔梅堯臣〕「偈惡姑牙須ニ一一ニ」。
〔敲拉〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「一一碎ニ圭璧ニ」。

【拊】フ、ホ。斐父切 麌。
㊀なづ（撫）。○〔詩〕「一レ我畜レ我」。
㊁輕く擊つ、少しく拍つ、うつ、たゝく。○〔書〕「戛ニ擊鳴球、搏ニ一琴瑟ニ」。
㊂鼓の形に似たる樂器の名、韋を表となし中に糠を入れたるもの。○〔周〕「大祭祀帥レ瞽登歌、令ニ奏擊レ一」。
㊃物の握りどころ、物の手のかけ所、つか、つまみ、にぎり、ユツて。○〔禮〕「弓則以ニ左手ー屈レ韣執レ一」。
〔彈拊〕うつ。○〔書〕「手一レ石一レ石」。
〔捶拊〕うつこと。○〔史〕「執ニ一一一以鞭ニ笞天下ニ」。
〔慰拊〕やすんじなづ。○〔宋〕「克明ニ一一ニ」。

【拊】フ、ホ。方遇切 遇。
手を物に著く、つく。

【拊】ホウ、フ。彼口切 有。
衣の上より扑つ、うつ。

【拊】フ。風無切 虞。
兪一は、黄帝の時の醫。

【抛】ハウ、匹交切 肴。ヘウ、披教切 效。
投棄す、すつ、なげうつ。○〔後漢〕「賣ニ田宅ー同一ニ財産ニ」。
〔浪抛〕みだりになげうつ。○〔元稹〕「蠶奢敵一一」。
〔勇抛〕ふるひてなげうつ。○〔梅堯臣〕「一一ニ榮祿ニ遂ニ天眞ニ」。
〔等閒抛〕なほざりになげうつ。○〔黄庭堅〕「不レ將ニ春色一一一一」。

【批】シ。阻氏切 紙。サイ、才支切 支。セイ、サイ。子禮切 薺。
拳を加ふ、うつ、又、つかむ（捽）。○〔張衡〕「一一獮猴ニ」。

【拌】ハン、普官切 寒。バン。部滿切 旱。
揮ひ棄つ、すつ、なげうつ。○〔揚雄〕「楚人凡揮ニ棄物ー謂ニ之一ニ」。

【拌】ハン。普半切 翰。
㊀前條に同じ。
㊁判に通じ用ふ、わかつ、わかる。○〔史〕「鑴レ石一レ蚌」。

【⿱此手】シ。疾智切　キ。奇寄切　寘。
㊀つむ（積）。
㊁肘を立てゝ頰を支へ持つ、つらつゑをつく。

【拍】ハク、ヒヤク。匹陌切 陌。

❶うつ、たゝく。
（い）手のひらにて其の上を搏つ。○〔宣和畫譜〕「所レ謂左ニ挹ニ浮丘袖一、右ー二洪厓肩一」。
（ろ）打つ。○〔莊〕「椎ー輐斷、與レ物宛轉」。
（は）うちて音聲を發す、うちならす。○〔唐〕「欽レー二單聲一」。
❷音樂の調子曲節に合はせてうつこと、ひやうし。○〔唐〕「此霓裳第三ー疊最初ー也」。
❸膊に同じ。○〔周〕「饋食之豆、其實豚ーー」。
〔撫拍〕またしみ狎るゝことにいふ語。○〔後漢〕「ーー二豪強一」。
〔拍拍〕たゝく貌にいふ語、ばたく。○〔韓愈〕「靑泥掩ニ兩翅一、ーーー不レ得レ離」。
〔舞拍〕まひのひやうし。○〔白居易〕「腰凝ーーー密」。
〔節拍〕歌舞音曲などのひやうし。○〔梅堯臣〕「高唱相隨無ニーーー一」。
〔揮拍〕うちたゝくこと。○〔張隨無絃琴賦〕「振ニ弄手一以ーー」。
〔彈拍〕はじきうつ、ひく。○〔梅堯臣〕「ーーー終脂燥速」。

【拎】レイ、リヤウ。郞丁切 靑
懸け捻る、ひれる、懸け持つ、もつ。

【拏】ダ、ナ。奴加切 麻
❶つかむ、（攫）。○〔揚雄〕「攫ーー者亡」。
❷ひく、（引）。○〔唐〕「兵ー仍歲不レ解」。
❸とらふ、（捕）。○〔康熙〕「拘ニ捕罪人一曰レー」。
〔紛拏〕みだれひく、もつる。○〔史〕「漢與ニ匈奴ー相ーーー」。
〔傾拏〕前條に同じ。○〔李華玉〕「禁扃開ニーーー一」。
〔交拏〕前に同じ。○〔朱熹〕「當ニ彼忠好ーーー之際一」。
〔盤拏〕わだかまりひく。○〔杜甫〕「白龍ーーー肉屈強」。
〔猛拏〕たけくつかむ。○〔韓愈〕「ーーー閑縮レ爪」。

【拏】ヂヨ、ニヨ。女居切 魚
❶前條の❷の解に同じ。○〔漢〕「禍ー而不レ解」。
❷する、（摩）、又、もむ、（揉）。○〔楚辭〕「稻粢穱麥ー二黃粱一」。

【拐】カイ、ゲ。求蟹切 蟹
物の分かれ出でたるもの、手、足、枝など。

【拐】カイ、ケ。古買切 蟹
ー騙は、たぶらかす、かたり。

【拑】ケン、ゴン。巨淹切 鹽
カン、ゴン。扱范切 豏
脅し持つ、緘ぢ束ぬ、はさむ、まむ。○〔漢〕「天下之士ーレ口、不ニ敢復言一矣」。

【拒】キヨ、ゴ。其呂切 語
❶ふせぐ、こばむ。
（い）さゝへて入らしめず、さへぎり阻む。○〔荀〕「內以固レ城、外以ーレ難」。
（ろ）たがふ、（違）。○〔詩〕「密人不恭、敢ー二大邦一」。
❷ふせぐを、ふせぐもの、ふせぎ。○〔漢〕「爲ニ貳師後ーー一」。
❸あたる、（抵）。○〔齊〕「高談鮮ニ能抗ーー一」。
❹脛の中の横に當たる節。○〔儀〕「長皆及ニ組ーー一」。
〔反拒〕そむきこばむ。○〔東京賦〕「閉レ門ーー」。
〔前拒〕前面のふせぎ。○〔史〕「攻ニ其ーー一」。
〔固拒〕てがたくふせぐ。○〔漢〕「深閉ーー而不ニ肯試一」。
〔扞拒〕ふせぐ、ふせぎ。○〔漢〕「吉ーニー大難一」。
〔防拒〕前に同じ。○〔魏〕「頗有ニーーー之効一」。
〔旅拒〕前に同じ。○〔後漢〕「黠羌欲ニーーー一」。
〔辭拒〕こばむ。○〔魏〕「天命不レ可ニ以ーーー一」。
〔折拒〕くじきこばむ。○〔唐〕「无忌厲レ色ーーー」。
〔障拒〕ふせぎ、ふせぐ。○〔說苑〕「外ーニー諸侯賓客一以蔽ニ其明一」。

【拒】ク、コ。果羽切 麌
❶方形。○〔淮〕「ー折之容」。
❷方陳、方形の隊列。○〔左〕「爲ニ左ーー一以當ニ蔡人衞人一」。

【拓】セキ、シヤク。之石切 陌
❶ひろふ、（拾）、（陳宋の語）、或は、摭に作る。
❷なる、（折）。○〔張衡〕「ー二若華一而躊躇」。

【拓】タク、ヂヤク。他各切 藥
❶手にて物を承く、うく、一說に、手にて物を推す、おす。○〔李山甫〕「一ー纖痕更不レ收」。
❷ひらく、（斥）。○〔揚雄〕「ーレ迹開レ統」。
❸廣し。○〔北〕「少落ー有ニ大志一」。
〔恢拓〕ひらく、ひろし。○〔後漢〕「ーニー境宇一」。
〔開拓〕前に同じ。○〔李嶠〕「欲下ーニー宅北一更起中新第上」。
〔修拓〕をさめひらく。○〔宅經〕「後更ーニー西方一名ニ抵路一」。

【拔】ハツ、バチ。蒲八切 黠
❶ぬく。
（い）引き出だす、引き取る。○〔易〕「ーレ茅茹以ニ其彙一、征吉」。
（ろ）放れ出づ。○〔史〕「乃悉持ニ龍ー髯ー龍髯ー」。
（は）攻めて盡く取る。○〔漢〕「攻レ碭三日ーレ之」。
（に）攻め取らる。○〔戰〕「城且レー矣」。
（ほ）除く。○〔周、註〕「赤友猶レ言ニ捇ーー一」。
（へ）ぬきんづ、❷に同じ。
❷ぬきんづ。
（い）擇び出す、えらぶ。○〔後漢〕「連見ニーー擢位在ニ上列一」。
（ろ）ひいで出づ、特立す。○〔南〕「神采英ーー」。
〔不拔〕ぬけとれざること。○〔宋〕「崇獎維持以成ニーーー之基一」。
〔識拔〕みわけてぬきんづ。○〔宋〕「ーニー英俊一」。
〔甞拔〕はめぬきんづ。○〔唐〕「旨獨串ニーーー一」。
〔簡拔〕えりぬく。○〔諸葛亮〕「是以先帝ーーー以遺ニ陛下一」。
〔挺拔〕ぬきいづ。○〔宋〕「幼ーーー不羣」。
〔抽拔〕ひきぬく。○〔吳〕「乞ニ普加ニ徵賦ーーー之恩一」。
〔進拔〕すゝめぬきんづ。○〔漢〕「ーニー幽陰一」。
〔薦拔〕前に同じ。○〔隋煬帝〕「ーニー幽滯一」。
〔獎拔〕前に同じ。○〔北〕「多レ所ニーーー一」。
〔與拔〕ぬきんづ。○〔曾鞏〕「ーニー寒素一」。
〔攻拔〕せめ取る。○〔後漢〕「下ニーーー之力一」。
〔擥拔〕前に同じ。○〔魏〕「又ーニー之一」。
〔徵拔〕めしぬきんづ。○〔後漢〕「ーニー英俊一以興ニ漢室一」。
〔顯拔〕あらはしぬきんづ、あらはれぬきんづ。○〔後漢〕「多レ所ニーーー一」。
〔卒拔〕にはかにぬきとる。○〔晉〕「未レ可ニーーー一」。
〔偃拔〕たふれぬく、たふしぬく。○〔晉〕「巨松ーーー」。
〔倒拔〕前に同じ。○〔梁武帝〕「鼓動則嵩華ーーー」。
〔掎拔〕とりぬく。○〔晉〕「ーーー而傾ニ山岳一」。
〔警拔〕すぐれたること。○〔南〕「風神ーーー」。
〔引拔〕ひきぬく。○〔南〕「皆見ニーーー一」。
〔淸拔〕きよらかにしてすぐる。○〔南〕「文體ー」。

〔英拔〕すぐる。〇〔南〕「爾神-采——」。
〔俊拔〕前に同じ。〇〔宋〕「少甚貧而性特——」。
〔漂拔〕水にてたゞよはしぬく、たゞよひぬく。〇〔南〕「—二—樹-石一」。
〔夷拔〕平らげ取る。〇〔魏〕「進不レ能レ—二—賊-城一」。
〔爽拔〕さわやかにすぐる。〇〔北〕「風-神——」。
〔穎拔〕すぐる。〇〔北〕「詞-氣——」。
〔登拔〕引きあげ用ふ。〇〔唐〕「—二—才-良一」。
〔危拔〕あやふきこと。〇〔唐〕「今城——」。
〔寵拔〕いつくしみ引きあぐ。〇〔元〕「自受三武宗——之恩一」。
〔超拔〕すぐれぬきんづ。〇〔蘇舜欽〕「欻-然自——」。
〔奇拔〕前に同じ。〇〔世說〕「才-藻——」。
〔巧拔〕たくみにしてすぐる。〇〔古畫品錄〕「風-趣——」。
〔峭拔〕高くぬきんづ。〇〔圖繪寶鑑〕「——而秀」。
〔頴拔〕あきらかにしてすぐる。〇〔陸機〕「器-識——」。
〔亮拔〕前に同じ。〇〔孫綽〕「茂-才——」。
〔剪拔〕きりのぞく。〇〔孔平仲〕「呼レ童盡——」。
〔鋤拔〕すきとる。〇〔王令〕「惡草——無レ容レ茨」。

【拔】ハツ、バチ、蒲撥切 曷
㊀前條に同じ、ぬく。〇〔書〕「大-木斯—」。
㊁めぐる、（回）。〇〔雲笈七籤〕「巑-峰廻-—」。
㊂さし、（疾）。〇〔禮〕「毋二—來一」
㊃矢の末、やはず。〇〔詩〕「舍レ—則獲」。
㊄茇に通じ用ふ、やどる。〇〔漢〕「—二蘭-堂一」。

【拔】ハイ、バイ。蒲蓋切 泰
柯（えだ）葉を生ず。〇〔詩〕「柞-棫—矣」。

【拔】ハイ、ベ。蒲昧切 隊
㊀前條に同じ。㊁拂ひ取る、とる。

【拔】ハツ、ボチ。房越切 月
一種の草、やぶからし。〇〔爾〕「—龍-葛」。

【拔】ヘツ、ベチ。筆別切 屑
地を平かにし物を除きはらふにいふ字。〇〔張華〕「栖-遲無レ悶、不レ營不レ—」。

【拕】タ。湯何切 歌　タ、ダ。徒可切 哿　吐臥切 箇
一に、拖、又、拸に作る。
ひく、（曳）。〇〔漢〕「—レ舟而入レ水」。
〔水拕〕ゐせき、堰、即ち、舟をひき行く處。

【拖】拕に同じ、ひく。〇〔論〕「加二朝-服一—レ紳」。

【拗】アウ、エウ。於絞切 巧
くじく、（拉）、をる、（折）。〇〔尉繚子〕「—レ矢折レ矛」。
〔摧拗〕くじく。〇〔王令〕「低-樹狂貌日——」。

【拗】アウ、エウ。於教切 效　於交切 肴
㊀拉きめぐらす、ゆがめ戻らす、ねづ、ねぢる。〇〔唐時升〕「風—二藤-花一脫レ樹」。
㊁戻り違ふ、曲がる、ねぢれる、ねぢく。〇〔朱熹〕「王-臨-川天-資亦有二—強處一」。

【拗】井ク、チク。乙六切 屋　イウ、ユ。於糾切 宥
おさふ、（抑）。〇〔班固〕「蹂二蹦其十-二-三一、乃—レ怒而少-息」。

【拘】ク、コ。擧朱切 虞
㊀去るを止む、とゞめ執る、とゞむ、さらふ。〇〔左〕「武-夫力而—二諸原一」。
㊁さゝはり止まる、曲礙す、かゝはる。〇〔史〕「弘二大-體一、不レ—二文-法一」。
㊂とらへらるゝこと、とらへられたる者、とらはれ。〇〔月令廣義〕「弛レ獄出レ—」。
〔執拘〕とらふ。〇〔書〕「盡——以歸二于周一」。
〔羈拘〕ひきかゝはる。〇〔淮〕「越二——之語一」。
〔牽拘〕前に前じ、又、ひきとゞむ。〇〔史〕「又——二于詩-書古-文一」。
〔拘拘〕かゝはる貌にいふ語。〇〔吳澄〕「俗-士——守二一-途一」。
〔絆拘〕かゝはる、とらふ、又、つなぎとゞむ。〇〔蕭穎士〕「越二——之常-禮一」。
〔攣拘〕前に同じ。〇〔韓愈〕「富貴自——」。
〔官拘〕官の務め向きにかゝはる。〇〔王安石〕「我方——不レ得レ往」。
〔井蛙拘〕見識の小さき者の物事にかゝはるとにいふ語。〇〔莊〕「——不レ可二以語一海者—二于虛一也」。

【拘】コウ、ク。居侯切 尤
㊀かゝふ、（擁）。〇〔禮〕「必加二帚於箕-上一、以レ袂—而退」。
㊁とる、（取）。〇〔禮〕「自レ下—レ之」。
㊂かゞむ、（曲）。〇〔荀〕「古之王-者有二務而—レ領者一」。
㊃ひきあつむ、（摟-聚）。〇〔素問〕「筋-肉——苛」。

【拘】キヨ、コ。求於切 魚
とゞむ、とゞまる、（止）。〇〔莊〕「吾處レ身也若二橛-株—一」。

【拘】ク。コ。倶遇切 遇
ひき付けて展びず、ひく、かゞまる。〇〔淮〕「指之—也、莫レ不レ事レ伸」。

【拘】搊に通じ用ふ。

【抋】ヘツ、ベチ。蒲結切 屑
㊀ねづ、（捩）。
㊁擊ち扑す、たふす。〇〔張衡〕「徒-搏之所二撞——一」。

【抋】ヒ、ビ。毗至切 寘
戲れ擊つ、うつ、又、批に通じ用ふ。

【抋】ヒツ、ヒチ。僻吉切 質
㊀さす、（剌）。
㊁擊つ。〇〔揚雄〕「南-楚凡相推-搏曰レ—、或曰レ揔」。

【拙】セツ、セチ。朱劣切 屑
つたなし。
（い）巧みならず。〇〔老〕「大-巧若レ—」。
（ろ）用を爲さず。〇〔史〕「鐵-劍利而倡-優—」。
〔樸拙〕かざりなくつたなし。〇〔宋〕「近-歲——之人愈少」。
〔古拙〕むかしふうにてつたなし。〇〔何承天〕「野-思——」。
〔猥拙〕みだらにしてつたなし。〇〔顏氏家訓〕「書-體——」。
〔養拙〕生まれつきのまゝのたくみなき德をやしなひたもつ。〇〔杜甫〕「—レ—更何鄉」。
〔守拙〕つたなきをたもつ。〇〔陶潛〕「—レ—歸二園-田一」。
〔弛拙〕心ゆるびはたらきのつたなし。〇〔袁淑〕「由三將有二——一」。
〔駑拙〕おろかなること。〇〔盧思道〕「才本——」。
〔嬾拙〕事をなすにものうくしてつたなし。〇〔杜甫〕「我衰更——」。
〔迂拙〕まはり遠くしてたくみならぬ。〇〔白居易〕「吾道本——」。

【拚】ヘン、ベン。皮變切 霰
抃の本字。

手を拍つ、うつ、たゝく。○〔宋〕「歌—就レ路」。

【拚】 フン、方問切 問 ホン。切 方文切 文

塵埃をはらひ除く、はらふ。○〔儀〕「不—膞先-君之祧、旣—以俟矣」。

【拚】 ヘン、ホン。孚袁切 元

翻に同じ、ひるがへる、ひるがへす。○〔詩〕「肇允二彼桃-蟲一、—飛維鳥」。

【招】 セウ 之遙切 蕭

㊀まねく。

(い)手をふりて人を呼ぶ、よぶ。○〔詩〕「左執レ簧、右—レ我由レ房」。

(ろ)呼びて來たらしむ、きたす、めす。○〔書〕「旁—二俊-艾一」。

(は)もとむ、(求)。○〔漢〕「辨-士曹-丘-生數—レ權、顧二金-錢一」。

㊁繫ぎて止む、ほだす、わなす。○〔孟〕「旣入二其苙一、又從而—レ之」。

㊂あづち、(埻)、又、まと、(的)。○〔呂氏春秋〕「共射二其一—一」。

㊃韶、磬に通じ用ふ。○〔史〕「禹乃興二九—之樂一」。

〔義招〕 道義をもて呼びきたす。○〔唐〕「難二以レ——一」。

〔嘉招〕 他人よりまねかるゝことに稱する語。○〔潘岳〕「弱-冠忝二——一」。

〔徵招〕 めす。○〔韓愈〕「勸レ君韜-養待二——一」。

〔類招〕 おなじともがらをもて呼びきたすこと。○〔韓愈〕「——臻二儔-詭一」。

【招】 ケウ、ゲウ。祁堯切 蕭

あぐ、(擧)、かゝぐ、(揭)。○〔國〕「好盡レ言以—二人過一」。

【拜】 ハイ、ヘ。博怪切 卦

㊀かゞむ。

(い)身を折りて敬禮す、おぎをなす、ゑしやくす、ぬかづく、をがむ。○〔荀〕「平-衡曰レ—」。

(ろ)屈す。○〔詩〕「蔽-芾甘-棠、勿レ翦勿レ—」。

㊁官を授く。○〔史〕「至レ—二大將一、乃信也」。

〔迎拜〕 いでむかへかゞむ。○〔禮〕「君若——、則還レ辟不二敢答拜一」。

〔奇拜〕 いちどをがむ、卽ち、禮の簡略なるもの。○〔周〕「七曰、——」。

〔襃拜〕 先方の人の拜に應じてかゞむ。○〔周〕「八曰——」。

〔重拜〕 たびくかゞむ。○〔左〕「敢不二——一」。

〔膜拜〕 兩手をあげ地に伏してをがむ。○〔梁〕「民——稽-首」。

〔羅拜〕 ならびて敬禮す。○〔唐〕「突-厥下レ馬——道-去」。

〔答拜〕 先方のぬかづきに應じて敬禮す。○〔禮〕「君於レ士不二——一也」。

〔環拜〕 まるくならびて敬禮す。○〔周〕「——以二鐘-鼓一爲レ節」。

〔跪拜〕 ひざまづき敬禮す。○〔王建〕「男-兒——謝二君-王一」。

〔趨拜〕 身分高き人の前にとく歩むとぬかづくと。○〔唐〕「不レ能二——一」。

〔起拜〕 身をおこしたちて敬禮す。○〔漢〕「單-于乃——」。

〔遷拜〕 官の昇ること。○〔後漢〕「日有二——一」。

〔伏拜〕 身をふせぬかづくこと。○〔後漢〕「單-于當二——受レ詔」。

〔册拜〕 かきつけを與へて官につく。○〔晉〕「前-代三公——、皆設二小-會一」。

〔遙拜〕 遠く離れたる所にてをがむ。○〔宋〕「——」。

〔旅拜〕 つらなりをがむ。○〔晉〕「見而——」。

〔頂拜〕 ぬかづく。○〔梁簡文帝〕「—二—金-山一」。

〔超拜〕 順序をおはぞしてとびこえて官につく。○〔宋〕「見者皆——」。

〔俯拜〕 ふしてをがむ。○〔張九齡〕「——乃登レ壇」。○〔姚合〕「——瑕-瑕-遲」。

【掬】 撓に同じ。

【掤】 チヤウ、タウ。知亮切 漾

整ひて亂れず、さゝのふ。

【拏】 撓に同じ。

六畫

【拪】 古文の遷の古字。

【拫】 コン、戸恩切 元 ゴン。切 下懇切 阮

胡艮切 願

㊀急しく引く、ひく。○〔漢〕「引二繩排三—不レ附レ己者一」。

㊁排擠す、おす、おりぞく。○〔唐〕「爲二姦-僉—抑一」。

〔批拫〕 推し退く。○〔史〕「引レ繩——」。

〔排拫〕 前に同じ。○〔漢〕「引レ繩——」。

【括】 クワツ、クワチ。古活切 曷

㊀くゝる、くゝり。

(い)束ね結ぶ。○〔易〕「—レ囊无レ咎无レ譽」。

(ろ)包みとざす、まとめ統ぶ。○〔賈誼〕「包二擧宇内一、囊二—四-海一」。

(は)檢束す、とりしまる。○〔唐〕「鑄レ錢—レ苗」。

(に)根刷す、たづねきはむ。○〔陶弘景〕「苞二綜諸-經一研—煩-省」。

㊁あふ、(會)。○〔詩〕「德-音來—」。

㊂いたる、(至)。○〔詩〕「日之夕矣、牛-羊下—」。

㊃筈に通じ用ふ、はず。○〔書〕「若二虞機張、往省一—于度一則釋上」。

㊄髻に通じ用ふ、もとゞり。○〔莊〕「向也—、而今也被-髮」。

〔肅括〕 ねごそかに取りあまる。○〔揚雄〕「其爲レ外也——」。

〔包括〕 かねくゝる。○〔西京雜記〕「賦-家之心、—二—宇-宙一」。

〔罷括〕 入れくゝる。○〔公羊、疏〕「—二—天-下一」。

〔隱括〕 度りくゝる。○〔任昉〕「—二—前-修一」。

〔總括〕 すべくゝる。○〔北〕「—二—古-今一」。

〔綜括〕 前に同じ。○〔雲笈〕「—二—衆-文」。

〔檢括〕 (い)取りおまる。〔世說〕「不二復自——一」。

(ろ)かすめとる。○〔輟耕錄〕「五-溪-蠻-抄-掠曰二——一」。

〔辨括〕 善惡をわきまへきはむ。○〔齊〕「—二—選-序一」。

〔搜括〕 さがしきはむ。○〔陸龜蒙〕「渦-才——妙無レ餘」。

〔拔括〕 開くとくゝると。○〔南〕「——須レ待レ夏」。

〔根括〕 もとの處よりおちべあぐ。○〔宋〕「—二—編-戸一」。

〔結括〕 くゝる。○〔參同契〕「—二—終-始一」。

〔銓括〕 はかりくゝる。○〔孫綽〕「—二—百-攏一」。

〔探括〕 さぐりあらたむ。○〔陶弘景〕「—二—冲-隱一」。

〔鈐括〕 結びくゝる。○〔崔鴻〕「乃—二—舊-書一、著二成太史一」。

【拭】 ショク、シキ。設職切 職 一或は、栻に作る。

ぬぐふ、

(い)摩り淸む、きよめ靚ろ、のごふ、ふく。○〔儀〕「賈-人北-面坐—レ圭以レ巾—二垢-濡一」。

(ろ)罪過をきよめ去る。○〔吳武陵〕「程-劉二-韓、皆已拔—、或處二大-州劇-職一」。

〔拂拭〕 穢れを去る。○〔南〕「景-仁便——二衣-冠一」。

〔掃拭〕 前に同じ。○〔李白〕「——靑-玉-簟」。

〔抆拭〕 ぬぐふ。○〔薦貢〕「——風-前寒-鼻-液」。

〔按拭〕 さすりぬぐふ。○〔漢〕「—二—于前一」。

〔剎拭〕 けづりぬぐふ。○〔唐〕「旣——」。

〔揩拭〕 ひろひぬぐふ。○〔李白〕「——欲レ贈レ之」。

〔洗拭〕 きよむ。○〔白居易〕「—二—金-杯-拂-玉-篹一」。

〔收拭〕 をさめぬぐふ。○〔温庭筠〕「—二—瑕-疵一」。

【拮】 ケツ、ケチ。吉屑切 屑

㊀手と口と共に作す、はたらく、又、捐持す、とる、もつ。○〔詩〕「予手—据」。㊁揭に同じ、かゝぐ、あぐ。

【拮】キツ、キチ、居質切 [質]
前條の㊀に同じ。

【括】カツ、ケチ。訖黠切 [黠]
する、(櫟)、せまる、(逼)。○〔戰〕「句踐終—而殺レ之」。

【拯】ショウ。之庱切 [蒸]
常證切 [徑] 一本、抍に作る。
㊀たすく、(援)、すくふ、(救)。○〔南〕、泰始開運、大—二時難一。㊁あぐ、(擧)。○〔易〕「艮二其腓一、不レ—二其隨一」。
〔拔拯〕助けすくふ。○〔魏〕、「曹公能—二—危亂一」。
〔援拯〕前に同じ。○〔舊唐〕「左右——」。
〔哀拯〕あはれみ救ふ。○〔吳〕「—二—其急一」。
〔匡拯〕惡しきを正し救ふ。○〔晉〕「實賴二有晉——之德一」。
〔存拯〕生かし救ふ。○〔北〕「以レ命歸レ之必二——一」。

【拰】ヂン、尼凜切 [寑] ジン、如甚切 ニン。ニン。
からむ、さらふ、(搦)。

【核】カイ、ゲイ。胡改切 [賄]
㊀うごく、(動、搖)。㊁へる、(減)。

【𢪃】キ、ケ。許既切 [未]
前の㊀の解に同じ。

【挔】カイ。戶代切 [隊] 井。于貴切 [未]
㊀前條の解に同じ。㊁になふ、(擔)。

【拱】キョウ、古勇切 [腫] —一に、共に作る。ク。
㊀手の容を斂めてうやうやしくす、左右の手の大指と大指とを相拄へさし他の互の四指を組み合はす、をさむ、こまぬく。○〔論〕「子路—而立」。㊁兩手を合せ持つ、もつ、とる。○〔國〕「攜レ鐸—レ稽」。㊂兩手にて合せ持つ程の大さ。○〔穀梁〕「子之冢木已—矣」。㊃珙に通じ用ふ、大いなる璧。○〔左〕「與二我其—璧一」。㊄環る。○〔宋〕「環—而居」。
〔垂拱〕(い)衣をたれこまぬくこと、敬禮。○〔禮〕「侍二於君一——」。(ろ)勞作せざること。○〔書〕「——而天下治」。
〔高拱〕たかき位地にありてこまぬく、又、前條の(ろ)に同じ。○〔史〕「今君——而兩有レ之」。
〔深拱〕奥まりたる處にありてこまぬく、又、前々條の(ろ)に同じ。○史「陛下——二禁中一」。
〔合拱〕兩の手をあはせ持つ、又其れほどの大さ。○〔韓〕「盈レ把之木、無二——之枝一」。
〔閑拱〕暇ありて兩手を斂む。○〔張說〕「終日成二——一」。
〔端拱〕正しくこまぬく。○〔晉〕「正歷二——一」。
〔肅拱〕嚴かに兩手を斂む。○張君祖「——望二妙覺一」。
〔潛拱〕心をおちつけ兩手を斂めて靜にす。○〔裴度〕「心——而玄·感」。
〔拜拱〕兩手をこまぬきて禮を爲す。○〔朱松〕「衰病脫二——一」。

【拱】キョウ、ク。居用切 [宋]
前條の㊀の解に同じ。

【挶】キク。渠竹切 [屋]
のり、又、のっとる、(法)。

【拲】キョウ、古勇切 [腫] キョク、コク。拘玉切 [沃] キク、居六切 [屋]
兩手を合はせ束ぬる械、てかせ、手錠。○〔周〕「上罪梏—而桎」。
〔桎拲〕あしかせとてかせと。○〔皮日休〕「——冠冕」。
〔梏拲〕束縛せらるゝこと。○〔釋修雅〕「始覺無二物爲二——一」。

【拳】ケン、ゴン。巨員切 [先]
㊀五指を掌中に屈む、にぎる。○〔漢〕「女兩手皆—」。㊁屈す、かゞむ。○〔莊〕「擎跽曲—人臣之禮」。㊂五指を掌中へ屈めたるもの、にぎりこぶし、こぶし。○〔宣和畫譜〕「張レ口茹レ—而不レ言」。㊃こぶしを加ふ、擊つ。○〔史〕「解二紛糾一者不二控——一」。㊄うれふ、(憂)、いつくしむ、(愛)、うやうやし、(恭)、ねんごろ、(勤、懇)。○〔漢〕「不レ勝二——一不二敢不レ盡二愚心一」。㊅奉げ持つ貌にいふ字。○〔中〕「得二一善一則——服膺而弗レ失レ之矣」。
〔老拳〕きたへたるこぶし。○〔晉〕「孤往日厭二卿——一」。
〔曲拳〕手をまげにぎる、又かゞむ。○〔皮日休〕「反顧唯——」。
〔連拳〕こぶしの如き節々の多くあること。○〔張瑟〕「根柢——」。
〔蕨拳〕わらびの芽、其の形こぶしの如くなるよりいふ。○〔朱松〕「——嬰兒手」。
〔空拳〕からこぶし、からて、手に何物をも持たざるにいふ語。○〔北齊〕「猶欲下奮二——一而爭上」。
〔握拳〕にぎりこぶし。○〔易林〕「空手——」。
〔擧拳〕かゞまりまがる。○〔蘇軾〕「如レ是而——脊·戀」。
〔揮拳〕こぶしをふりまはす。○〔蒼頡〕「力士之——」。
〔振拳〕前に同じ。○〔王延壽〕「揮レ手——」。
〔巨拳〕大いなるこぶし。○〔姚鵠〕「——豈爲二雞肋一揮」。
〔張拳〕こぶしをひろげはる。○〔歐陽修〕「猛·攫——」。
〔勤拳〕つとめ愼む。○〔李商隱〕「光陰荏苒、試抱二——一」。
〔强拳〕つよき手のにぎり。○〔蘇洵〕「白羽注二——一」。
〔爪拳〕つめあるこぶし。○〔黄庭堅〕「茶如二鷹——一」。
〔拘拳〕かゝはり屈まる。○〔張九成〕「胡爲レ此——」。
〔瘦拳〕やせたるこぶし。○〔釋惠洪〕「——捉二藜杖一」。

【𢸍】ケン、クワン。苦遠切 [阮]
㊀前條の㊅に同じ。㊁弮に同じ、ゆみ。○〔漢〕「士張二空—一冒二白刃一」。

【拲】ケン、クワン。己袁切 [元]
ちから、(力)。○〔詩〕「無レ—無レ勇」。

【拍】
拍の本字。

【拴】セン。逡緣切 [先] —一に、詮、銓に通じ作る。
えらぶ、える、(揀)。

【拵】ソン、ゾン。徂昆切 [元]
よる、(据)。

【拵】ソン、ゾン。徂悶切 [願]
さしはさむ、さす、(插)。

【挅】シウ、シュ。側九切 [有]
とる、(執)、もつ、(持)。

【拭】ジウ、ニュ。而中切 [東]
たすく、(助、相)。

【拭】ジョウ、ニュ。乳勇切 [腫]

㊀こばむ、ふせぐ、(拒)。㊁おす、(推)。

【扌戎】 ジョウ、ニョウ。如蒸切 蒸
扔に同じ、よる、(因)。

【摋】 サツ、子末切 曷　サチ。切
一本揝に作る。
せまる、(逼)。○〔韓愈〕「淵騰相排ーー、龍鳳交横飛」。
〔排摋〕 おしせまる。○〔葛長庚〕「其時士庶ーー」。
〔蹙摋〕 たゞなり逼る。○〔陸龜蒙〕「敵壓相ーー」。

【扌休】 カウ、コウ。呼高切 豪
田の草を抜き去る、のぞく、(除)。

【拷】 カウ、コウ。苦浩切 晧
㊀かすむ、(掠)。㊁うつ、(打)。

【捎】 俗の捐の字。

【拸】 チ。丑豸切　イ。演爾切 紙
㊀さる、(去)。○〔莊〕「介者ーレ畫外二非ー譽一也」。㊁さく、(拆)。㊂うつ、(拍)。㊃ひく、(拽)。

【拸】 チ、ヂ、陳知切 支
ひらく、(拆)。

【拸】 イ。余支切 支　タ、ダ。待可切 哿
くはふ、くはゝる(加)。

【拸】 シヤ、セ。歯者切 馬
哆に同じ、大いなる貌にいふ字。

【拹】 ケフ、迄業切 葉　コフ。切　ラフ、落合切 合　ロフ。切
くじく、(拉)、又、やぶる、(摺)。

【捒】 サク、シヤク。色責切 陌
㊀擇び取る、える、さる。㊁揀に同じ、たすく、(扶)。

【捒】 サク、ソク。測角切 覺
擉に同じ、刺し取る、さす、さる。

【扌灰】 クワイ、ケ。呼回切 灰
相撃つ、うつ、うちあふ。

【拽】 エツ、エチ。羊列切 屑
地を曳き行く、ひきずる、ひく。○〔禮、疏〕「曳ー也、不レ得レ擧レ足、但起レ前ーレ後、使下踵如二車輪一曳レ地而行上」。

【拽】 エイ。以制切 霽
ひく、(引)。○〔朱熹〕「康節凡事纔覺レ難、便ーレ身退」。

【拽】 セイ、ゼイ。時制切 霽
拖く、(山東の語)。

【拾】 シフ、ジフ。是執切 緝
㊀採り収む、さる、をさむ、ひろふ。○〔左〕「猶レーレ瀋」。㊁弓を射るに左臂に著くる具、ゆごて、射韝。○〔詩〕「決ー既佽」。㊂十に通じ用ふ。○〔康熙〕「今官文書借爲二數目之十字一」。
〔俛拾〕 うつむきてひろふ。○〔漢〕「其取二青紫一、如二ーー地芥一耳」。
〔取拾〕 取りをさむ。○〔後漢〕「家羸弱不レ能二ーー一」。
〔刪拾〕 惡しきを削り去ると美しきを收め上ぐると。○〔王安石〕「新文得二ーー一」。
〔捃拾〕 取り收む、ひろふ。○〔南〕「常以ーー自資」。
〔採拾〕 前に同じ。○〔後漢〕「嘗ーー以爲レ養」。
〔掇拾〕 前に同じ。○〔宋〕「一切ーー」。
〔提拾〕 ひき下げとる。○〔梁簡文帝〕「幸因二ーーー用」。

【拿】 俗の挐の字。

【扌因】 イン。伊眞切 眞
つく、(就)、よる、(仍)。

【扌𠂢】 ハク、ヒヤク。博厄切 陌
さく、(裂)。

【持】 チ、ヂ。直之切 支
もつ。
(い)手に執る、把握す、さる、にぎる。○〔禮〕「ー二弓矢一審固」。
(ろ)守る、保つ。○〔國〕「有レーレ盈」。
(は)制す、たゞす。○〔荀〕「引二繩墨一以ー二曲直一」。
〔罣持〕 水を汲む具、つるべ。○〔陸游〕「取レ水ーー」。
〔扶持〕 たすけもつ。○〔杜甫〕「軟弱强ーー」。
〔倒持〕 さかしまにもつ。○〔漢〕「ーー二泰阿一」。
〔支持〕 さゝへもつ。○〔杜甫〕「答效莫二ーー一」。
〔保持〕 たもつ。○〔嵇康〕「幸賴二大將軍一ー二ー之耳」。
〔携持〕 たづさへもつ。○〔阮籍〕「猗靡相ーー」。
〔挾持〕 さしはさみもつ。○〔史〕「ー二ー浮說一」。
〔相持〕 互にもちあふ。○〔史〕「楚漢久ーー」。
〔刼持〕 劫しもつ。○〔漢〕「ーー奉レ公」。
〔操持〕 とりもつ。○〔李商隱〕「李杜ーー事レ略レ齊」。
〔握持〕 にぎる。○〔後漢〕「雖レ遭二艱困一、ーー不レ離レ身」。
〔守持〕 まもりたもつ。○〔後漢〕「ー二ー一隅一」。
〔連持〕 つゞけもつ。○〔後漢〕「審二什伍一以相ーー」。
〔援持〕 たすけもつ。○〔魏〕「共ー二ー之一」。
〔自持〕 己れを飾ると。○〔晉〕「咸自ーー」。
〔護持〕 守りたもつ。○〔唐〕「應レ有二神物ーー一」。
〔匡持〕 たゞしたもつ。○〔資治通鑑〕「深自ーー」。
〔懷持〕 抱きもつ。○〔論衡〕「ーー之便也」。
〔負持〕 おはひもつ。○〔埤雅〕「ーー而去」。
〔住持〕 寺のあるじ。○〔老學菴筆記〕「小院ーー名二臨濟一」。
〔植持〕 たてゝもつ。○〔馬融〕「或乃ーー」。
〔寶持〕 大切にしもつ。○〔魏文帝〕「永世ーー」。

【挂】 クワイ、ケ。古賣切 卦
㊀かく。
(い)懸く。○〔戰〕「把レ銚ーレ耨」。
(ろ)畫り別く。○〔易〕「ーレ一以象レ三」。
㊁かゝる。
(い)縣かる。○〔漢〕「南ー二犴越一」。
(ろ)さゝはる、(礙)。○〔公羊〕「鞶ー則不レ得レ入レ門」。
〔蹶挂〕 足を懸けて角觝ふ。○〔西京雜記〕「有二ーー腹旋之名一」。
〔側挂〕 わきの處に懸け下ぐ。○〔李白〕「車旁ーー一壺酒」。
〔剛挂〕 鷙のやどりの名。○〔潘岳〕「層二ーー一以僭擬」。
〔鈎挂〕 つりかく。○〔論衡〕「枳棘ーー」。
〔冠挂〕 かうぶりを柱にかけおきてかうぶらぬ、即ち、官途を退くをいふ語。○〔白居易〕「七角綠纓ー已ー」。
〔擧挂〕 あげかく、あがりかゝる。○〔曹植〕「ー二ー輕翟一」。
〔遺挂〕 殘しかく、のこりかゝる。○〔潘岳〕「ーー猶在レ壁」。
〔羈挂〕 つながりかゝる、つなぎかく。○〔張說〕「簪中病二ーー一」。
〔高挂〕 たかくかく、たかくかゝる。○〔白居易〕「雲展レ帆ーー」。
〔東挂〕 つかねかく。○〔張衡〕「ー二仙經杖一ー枝」。
〔懸挂〕 かく、かゝる。○〔釋貫休〕「等閑不レ敢將二ーーー海中央一」。
〔萍挂〕 うき草の如くに懸かる。○〔蘇軾〕「一身ーー」。
〔聯挂〕 ならびかゝる、ならべかく。○〔馬臻〕「流蘇ーー玉梅枝」。

【挂】ケイ。涓畦切 齊
わかつ、(別)、一說に、鉤け取る、○〔莊〕「好經二大-事一、變-更易レ常、以—二功-名一」。

【扌聿】ロツ、ロチ。勒沒切 月
もつ、(捽)、又とる、(捋)。

【摋】サツ、サチ。麤括切 曷
攞—は、手もて打つ、うつ。

【扌肉】チク、ニク。女六切 屋
搐—は、伸びず、かゞまる。

【挃】チツ。陟栗切 質
㊀禾を穫る、かる、又、禾を刈る聲にいふ字。○〔詩〕「穫レ之—ー」。
㊁つく、(撞)。○〔淮〕「五-指之更彈、不レ若二捲-手之一—ー一」。
(撞挃)つく。○〔釋名〕「有レ所二—ーー一」。
(弟挃)勢をはげましてつく。○〔韓琦〕「體-裁入-々矜二—ーー一」。

【挃】テツ、デチ。徒結切 屑
なげうつ、(擿)。

【扌充】ジウ、ジユ。充仲切 送
をどる、(跳)。

【扌先】セン。蘇典切 銑
ひねる、(捻)。

【扌亟】
拖に同じ。

【挄】
擴に同じ。

【挅】タ、ダ。都果切 哿

【挆】タ、ダ。都唾切 箇
㊀揣に同じ、はかる。
㊁うごく、うごかす、(搖)。
㊀前條の㊀に同じ。
㊁帆を落さす、おろす。

【扌伏】ホク、ボク。蒲北切 職
うつ、(擊)。

【扌旬】ケン。許懸切 先　—或は、揗に作る。
うつ、(擊)。

【揈】クワウ、キヤウ。呼宏切 庚
ふるふ、(揮)。

【指】シ。軫視切 紙
㊀手足の端に枝の如く出でたるものの稱、ゆび。○〔漢〕「會大-寒、士-卒墮レ—者什二-三一」。
㊁さす
(い)示す。○〔禮〕「凡有レ—二畫於君-前一用レ笏」。
(ろ)指にて示す、ゆびさす。○〔禮〕「車-上不二妄—一」。
(は)さしづを爲す。○〔禮〕「六-十曰レ—-使」。
(に)直立す。○〔呂氏春秋〕「目裂鬢—」。
(ほ)向かふ。○〔淮〕「然而趨-舍—-湊」。
㊂さし示して人を使ふと、命令せると、さしづ。○〔劉向〕「承二聖—一倚二神-靈一」。
㊃むね。
(い)意向、こゝろばせ。○〔書〕「不レ匿二厥—一」。
(ろ)歸趣、おもむき。○〔孟〕「言近而—遠」。
㊄うつくし、(美)。○〔荀〕「雖レ—非レ禮也」。
(直指)(い)すぐなる。○〔周〕「竝須ニ—不二邪-曲一」。(ろ)すぐにさす。○〔荀〕「正-義—-—、擧二人之過一」。
(染指) ゆびを物の中に入る、即ち、其の物の味を試むるにいふ語。○〔左〕「—二于鼎一、嘗レ之而出」。
(食指) くすりゆび。○〔齊〕「方搖二—-—一半日乃息」。
(意指) こゝろばへ。○〔史〕「乃斬二一司馬一、論二—-—一」。
(頤指) おとがひを動かしてさしづす。○〔漢〕「—-—如レ意」。
(微指) ひそかにして人知れぬこゝろばへ。○〔漢〕「必知二—-—一」。
(事指) ことのむね。○〔漢〕「因二書文一諭二—-—一哉」。
(希指) 人の心に合はんとを願ひ求む。○〔漢〕「不二—レ—苟合一」。
(風指) むねをそれとなしに諭しきかす、又、おもむき。○〔漢〕「諭レ意—-—」。
(目指) めくばせにてさしづす。○〔漢〕「勢足二—-—氣-使一」。
(上指) 君のおぼしめし、君のさしづ。○〔漢〕「湯承二—-—一、請レ造二五-金一」。
(臂指) ひぢのゆびに於けるが如く使役の自由なるにいふ語、例次に出づ。
(使指) ゆびをつかふ、又、さしづ。○〔漢〕「如二身之使レ臂々之使一レ指」。
(脚指) 足のゆび。○〔宋〕「—-—于レ是從レ上」。
(顧指) 後をふりかへりゆびさす。○〔吳都賦〕「搴レ旍若二—-—一」。
(枝指) えだゆび、即ち六指あるの類。○〔莊〕「駢-拇—-—」。
(玉指) たまの如きうつくしきゆび。○〔梁武帝〕「—-—弄二嬌-絃一」。
(拇指) おやゆび。○〔南方草木狀〕「大如二—-—一」。
(巨指) 前に同じ。○〔儀〕「右—-—鉤レ弦」。
(擘指) 前に同じ。○〔爾〕「頭大如二人—-—一」。
(季指) こゆび。○〔儀〕「懸二于—-—一」。
(大指) おほぐゝりのむね。○〔史〕「其治貴二—-—一而已」。
(本指) 實際のむね。○〔史〕「具道二—-—一」。
(傳指) 師よりつたへられたる敎のむね。○〔史〕「口受二其—-—一」。
(明指) あきらかなるむね、明かなるさしづ。○〔漢〕「不レ足下以塞二厚望一應中—-—上」。
(要指) 大切なるむね。○〔漢〕「乃論二六家之—-—一」。
(字指) 文字のむね。○〔魏〕「博-學多通二古-今—-—一」。
(辭指) ことばのいみ。○〔魏〕「—-—款實」。
(密指) ひそかなるこゝろもち、ひそかなるさしづ。○〔蜀〕「亮平-生—-—、以二儀性狷-狹一、意任二蔣-琬一」。
(邪指) 正しからざる心ばへ。○〔隋〕「俗無二—-—一」。
(盛指) さかんなるむね。○〔晉〕「覽二其—-—一、俾二朕憮-然一」。
(標指) 主なるおもむき。○〔宋〕「以二大-學、語、孟、中-庸一爲二—-—一」。
(同指) むねを異にせぬ。○〔淮〕「殊レ事而—レ—」。
(纖指) かぼそきゆび。○〔相鶴經〕「高-頸鸛-跡洪-髀—-—相之備者」。
(粉指) おしろいのつきたるゆび。○〔粧樓記〕「往々—-—痕、印二于靑-編一」。
(遙指) 遠くの方をゆびもてさす。○〔李遠〕「衆-中—-—三-千-衆」。
(十手所指) 衆人の能く知る所の義にいふ語。○〔禮〕「十目所レ視、—-—-—レ—」。

【挈】ケツ、ケチ。苦結切 屑
㊀ひッさぐ、さぐ、(提)。○〔禮〕「班-白者不二提—一」。
㊁修整す、とゝのふ。○〔荀〕「君-子—二其辨一、而同レ焉者合矣」。
(攜挈) ひッさぐ。○〔薛能〕「—-—共過芳草渡」。
(扶挈) 助け持つ。○〔蘇軾〕「—二—老-幼一相遮攀」。
(左提右挈) 相扶持すると。○〔漢〕「以二兩賢-王一—-—-—-—」。

【挈】ケイ、カイ。ケ。詰計切 霽
㊀かく、(鈌)、又、たつ、(絕)。○〔司馬相如〕「—二三-神之歡一」。
㊁板に認めたる文書。○〔漢〕「上所レ

畀受而著讞-法、廷-尉━━令ニ。
㊂契に通じ用ふ、わりふ、てがた。〇〔漢〕「內-史稻-田租━━重」。
㊃燃やし灼く、やく。〇〔班固〕「旦算ニ祀於━-龜ニ」。

【挈】カツ、ケチ。訖黠切 黠
ひとり、（獨）。

【⿰扌佩】ハイ、ベ。蒲蓋切 泰
はらふ、（撥）。

【⿰扌佩】ハイ、ベ。蒲昧切 隊
もさらす、（捩）。

【按】アン。烏肝切 翰
㊀おさふ。
（い）壓し下す、おす。〇〔梁簡文帝〕「陸-離抑━、磊-落縱-橫」。
（ろ）檢制す、とりしむ。〇〔管〕「━レ彊助レ弱」。
（は）とゞむ、（止）。〇〔史〕「王━レ兵毋レ出」。
（に）ひかふ、（控）。〇〔史〕「天-子乃━レ轡徐-行」。
（ほ）安んず。〇〔史〕「趙軍ニ長-平一、以━ニ據上-黨之民ニ」。
（へ）守る。〇〔禮〕「陳ニ祭-器一━ニ度-程ニ」。
（と）撫づ。〇〔史〕「毛-遂━レ劍歷-階而上」。
㊁しらぶ。
（い）巡りて察る。〇〔畫墁錄〕「倅ニ有-司督━一ニ」。
（ろ）驗を考ふ。〇〔漢〕「━ニ之當-今之務ニ」。
（は）罪過を擧ぐ、糾問す、きはむ、たゞす。〇〔漢〕「公-府不レ━レ吏自レ吉始」。
（收按）引き捕へてしらぶ。〇〔漢〕「於レ是━-━致レ法」。
（擧按）取りあげてしらぶ。〇〔朝野雜記〕「凡監-司不-法許ニ━-━ニ」。
（召按）呼び出だしてしらぶ。〇〔史〕「幸相-國━ニ-━之ニ」。
（覆按）くりかへししらぶ。〇〔漢〕「━ニ-━梁事ニ」。
（考按）かんがへしらぶ。〇〔漢〕「還レ吏━-━」。
（捕按）とらへてしらぶ。〇〔漢〕「不レ避ニ貴-戚一以━-━」。
（糾按）しらぶ。〇〔後漢〕「輙━-━無レ所ニ回-避ニ」。
（奏按）上に申し上げて吟味す。〇〔漢〕「━ニ-━貪濁ニ」。
（推按）窮めしらぶ。〇〔南〕「上不レ加ニ━-━ニ」。
（窮按）前に同じ。〇〔後漢〕「乞爲ニ━-━ニ」。
（撿按）しらぶ。〇〔魏〕「馳レ驛━-━」。
（巡按）めぐりしらぶ。〇〔唐〕「詔親━ニ-━隴右ニ」。
（劾按）上に告發してたゞす。〇〔唐〕「請レ━ニ-━無狀ニ」。
（詢按）たづねしらぶ。〇〔唐〕「━ニ-━其弊ニ」。
（覈按）吟味す。〇〔唐〕「積レ薪自焚試━-━」。
（鞫按）しらぶ。〇〔遼〕「詔ニ屋-質━-━」。
（臨按）出ばり行きて吟味す。〇〔唐〕「遣ニ蔣-沇━-━」。
（察按）よく〳〵かんがへしらぶ。〇〔唐〕「今所ニ━-━準レ漢」。
（討按）尋ねしらぶ。〇〔唐〕「━ニ-━故-事一稱レ情」。
（抑按）おさふ。〇〔嵇康〕「擁-鬱━-━」。
（新按）あらたにかなでなづ。〇〔袁桷〕「龜臺━-━霓裳曲」。

【按】アツ、アチ。阿葛切 曷
とゞむ、（止）。〇〔詩〕「以━ニ徂旅ニ」。

【[illegible]】タク、チヤク。陟格切 陌
探に同じ、手にて物をはかる、はかる。

【拤】俗の弄の字。

【⿰扌危】キ。古委切 紙
やぶりすつ、（毀-撤）。

【⿰扌危】ギ。魚鬼切 尾
かく、かゝろ、（懸）。

【扲】キン、コン。丘甚切 寢
物をもつ、もつ。

【挋】シン。之刃切 震
㊀たす、（給）、一說に、つかぬ、（約）。
㊁のごふ、（拭）。〇〔禮〕「浴用ニ絺-巾一、━用ニ浴-衣ニ」。
㊂振に同じ、ふるふ。〇〔楚辭〕「新浴者必━レ衣」。

【挋】キン、コン。居焮切 問
攟に同じ、のごふ。

【⿰扌而】擩に同じ。

【⿰扌而】ゼン、ヂン。而宣切 先
さゝふ、（拄）。

【⿰扌而】ジ、ニ。日之切 支
ひく、（挐）。

【挌】カク、キヤク。各額切 陌
㊀うつ、（擊）、又たゝかふ、（鬪）。〇〔魏〕「手━ニ猛-獸ニ」。
㊁あぐ、（擧）。㊂とゞむ、（止）。

【挌】ラク、リヤク。盧各切 藥
うつ、（擊）。

【挌】カク、グワク。曷各切 藥
牽引す、ひく。

【⿱次手】シ。千咨切 支
ひく、（挐）。

【拲】キヨウ、ク。古勇切 腫
いだく、かゝふ、（擁）。

【挍】校に同じ、明の末、熹宗皇帝の諱を避けて校を省きて挍に作れりといふ。

【挎】コ、ク。空胡切 虞
もつ、（持）。〇〔儀〕「左荷レ瑟後レ首、━レ越內レ弦」。

【挎】摳に同じ。

【挏】トウ、ツ。杜孔切 董 徒紅切 東
擁き引く、ひく、又、うごかす、（動）。〇〔淮〕「撣-掞挺━世之風-俗」。
（撞挏）つき動かす。〇〔漢〕「━-━乃成也」。
（推挏）おし動かす。〇〔劉基〕「竝出助ニ━-━ニ」。
（衝挏）前に同じ。〇〔劉基〕「雞鶩者━-━」。

【⿰扌早】ソク、スク。租毒切 沃
早く熟せる禾を收むること。

【拏】挐に同じ。〇〔莊〕「丈━-━而引レ船」。
（煩拏）わづらはしく亂れひく。〇〔九辯〕「枝━-━而交橫」。
（紛拏）まぎらひ亂れひく。〇〔王逸〕「般-亂兮━-━」。
（渠拏）さらへ、じよれん。〇〔揚雄〕「杞宋魏之間、謂ニ之━-━ニ」。

【挑】テウ。吐彫切 蕭

❶拘へ擊つ、うつ。○〔國〕「卻-至—レ天」。
❷引き撥す、かゝぐ、あぐ。○〔白居易〕「輕攏慢撚抹復—」。
❸穿抉す、くじる、ほじくる。○〔異苑〕「陶-侃左-手有レ文、達二中-指上-横-節一便止。侃以レ針—令レ徹」。
❹宛轉す、めぐる、めぐらす。○〔莊〕「登レ天游レ霧、撓—無レ極」。
❺汁などを掲みあぐる匙。○〔儀〕「二-手執二—匕枋一」。
❻佻に通じ用ふ、うすし。○〔荀〕「其服不レ—」。
❼杖に下げて荷ふ、になふ。○〔陸游〕「擠—雙-草-屨」。
❽さる（取）。○〔康熙〕「今揀二擇人-物一亦謂二之—一」。

【挑】テウ、デウ。徒了切 篠

❶ひく（引）。○〔成公綏〕「輕拂徐振、緩案急—」。
❷もてあそぶ（弄）。○〔宋〕「輕—二兵-端一爲二國深-害一」。
❸他をうごかし撓る、いどむ。
（い）誘ふ。○〔史〕「若漢—レ戰、愼勿二與戰一」。
（ろ）戯る、たはむる。○〔漢〕「相-如以二琴-心—一レ之」。
❹掉に同じ、ふるふ。○〔宋〕「皆三—乃退」。
〔目挑〕めもていどみいざなふ。○〔史〕「——心招」。
〔輕挑〕無造作に弄ぶ。○〔宋〕「——二兵-端一」。

【挑】タウ、トウ。土刀切 豪

身輕に跳躍す、はれをどる、一説に、往き來すること。○〔詩〕「—兮達兮」。

【挒】レツ、レチ。良薛切 屑

かゝぐ（揲）、一説に、ねづ（捩）。

【扼】クワ、グワ。五果切 ダ、ナ。奴果切 哿

物を摘む、つむ（趙魏の間の語）。

【挙】キヨウ、グ。渠容切 冬

兩手をあげて取る、さる。

【挓】タ、テ。ㄓ加切 麻

—抄は、開く貌にいふ語。

【括】デフ、チフ。尼輒切 葉

さる（探）。

【搩】サウ、ソウ。蘇遭切 豪

攀ぢ援く、すがる。

【挔】旅に同じ。

【揖】テフ。丁叶切 葉

うつ（打）。

【拍】コツ、コチ。呼骨切 月

高き貌にいふ字、たかし。

【挖】ワツ、ワチ。烏括切 曷 烏八切 黠

みだる（挑）。

【揞】古文の指の字。

【搖】セン、ゼン。蘇前切 先

もつ（持）。

【挟】抉に同じ。

【扛】コウ、ク。匣隆切 東

蟲の飛ぶにいふ字、さぶ。

七畫

【挨】アイ。英皆切 佳 —本、捱に作る。

❶旁へ排す、ひらく、おす。○〔菊坡叢話〕「野-牛恃レ力狂—レ木」。
❷强ひて進む、すゝむ、相近づく、せまる。○〔王安石〕「對-壘每欲二相斸-—一」。
❸背を擊つ、うつ。○〔列〕「攩-拯—-抌」。

【挨】アイ、エ。於駭切 駭 倚亥切 賄

前條の❸に同じ。

【挩】タツ、タチ。他括切 屑

❶とく（解）。❷のぞく（除）。❸あやまる（誤）。❹のこす（遺）。

【挩】セイ、ゼ。輸芮切 霽

のごふ（拭）。○〔儀〕「坐—レ手遂祭レ酒」。

【挩】エイ、エ。兪芮切 霽

抗に同じ、うごく、うごかす（動）。

【挪】ダ、ナ。諾何切 歌

もむ（搓）。

【挫】サ、ザ。祖臥切 箇 （韻）

❶くじく。
（い）くだく（摧）。○〔周〕「凡揉レ牙外不レ廉而內不レ—」。
（ろ）勢氣へこみ弱る。○〔魏〕「勢—力屈」。
（は）勢氣を抑へ弱らしむ。○〔舊唐〕「太-宗按レ甲以—レ之」。
（に）毀辱す、はづかしむ。○〔孟〕「思下以二一-毫一—中於人上若レ撻二於市-朝一」。
❷さる、さらふ（搦、捉）。○〔楚辭〕「—レ糟凍-飮」。
〔頓挫〕くじく。○〔後漢〕「音-情——」。
〔抑挫〕前に同じ。○〔抱朴子〕「——獨-立一」。
〔詆挫〕そしる。○〔漢〕「而爲二文-吏所一——一」。
〔摧挫〕くだく。○〔後漢〕「冀-埀——二之一」。
〔折挫〕前に同じ。○〔後漢〕「外則——二羌-胡一」。
〔傷挫〕きづつく。○〔宋〕「脫有——一」。
〔衰挫〕よわりくじく。○〔魏〕「又不レ能三坐觀二——一」。
〔伐挫〕うちくじく。○〔大戴禮〕「更相——以廢レ地」。
〔戮挫〕つみなひくじく。○〔譎莊〕「必加二——一」。
〔頹挫〕くづはる。○〔韓愈〕「玆宇遂——」。
〔凌挫〕志のぎくじく。○〔蘇軾〕「生-意——難レ爲レ繁」。

【挫】サ、ザ。臧戈切 歌

おさふ（案）。○〔莊〕「—レ鍼治レ繲」。

【搡】サン、ソン。桑感切 感

うごかす、うごく（搖）。

【捊】ホツ、ボチ。蒲沒切 月

ぬく（拔）。

【挭】カウ、キヤウ。古杏切 梗 —本、揯に作る。

❶みだる（攪）。❷たわむ（撓）。

【挮】テイ、タイ。他禮切 薺

涙を去る。

【捛】テイ、タイ。他計切 霽

ぬぐふ（拭）。

【振】シン。之刃切　震

㊀すくふ、（救）。○〔禮〕「振二乏-絶一」。
㊁ふるふ。
（い）うごく、うごかす、ふるふ。○〔禮〕「蟄-蟲始振」。
（ろ）をのゝく、をのゝかす、おそる、おどす。○〔戰〕「燕-王振二怖大-王之威一」。
（は）あぐ、あがる、（擧）。○〔荀〕「明振二毫-末一」。
（に）おこる、おこす、（興）。○〔國〕「振二廢-淹一」。
（ほ）拂ふ。○〔禮〕「振二書端三書於君-前一」。
（へ）整ふ。○〔管〕「振二之刑-罰一」。
㊂ひらく、（發）。○〔左〕「振レ廩同レ食」。
㊃をさむ、（收）。○〔禮〕「振二河-海一而不レ洩」。
㊄やむ、（止）。○〔詩〕「振レ旅闐-々」。
㊅古昔、いにしへ。○〔詩〕「振-古如レ茲」。
㊆群り飛ぶ貌にいふ字。○〔詩〕「振-鷺于飛」。

〔分振〕物をあたへ救ふ。○〔左〕「分レ貧振レ窮」。
〔嚴振〕おごそかに整ふ。○〔史〕「顔-色嚴-振」。
〔宣振〕のべふるふ。○〔後漢〕「宣二振威-風一」。
〔廩振〕米倉を發きて人をすくふこと。○〔盧璘〕「縣-寡孤獨蒙二廩-振之實一」。
〔奮振〕勢へふるふこと。○〔玉海〕「奮-振虎-旅一」。
〔徭振〕ふるふ。○〔七發〕「侯-波奮-振」。
〔遐振〕遠方までふるふ。○〔孫綽〕「流-光遐-振」。
〔隆振〕さかんなること。○〔赭白馬賦〕「聲-價隆-振」。
〔昭振〕あきらかにふるふ。○〔江淹〕「所下以昭-振二才-端一、啓中發性-緒上」。
〔金聲玉振〕集めて大成すること、又、不偏にして完全なるとにいふ語。○〔孟〕「集大-成也者金-聲而玉-振レ之也」。

【振】シン。之人切　眞

㊀あつし、（厚）。○〔詩〕「振-振公-子」。
㊁盛なる貌にいふ字。○〔左〕「均-服振-振」。

【振】シン。止忍切　軫

袗に通じ用ふ、ひとへぎぬ。○〔禮〕「振-絺-綌不レ入二公-門一」。

【挹】イフ、オフ。乙及切　緝

㊀取り出す、分け取る、とる、くむ。○〔詩〕「不レ可三以挹二酒-漿一」。
㊁しりぞく、おさふ、（抑）。○〔荀〕「挹而損レ之」。
㊂揖に通じ用ふ、こまぬく、すゝむ、ゆづる。○〔荀〕「拱-挹-指-麾」。

〔損挹〕おさふ、しりぞく。○〔後漢〕「情存二損-挹一推而不レ居」。
〔沖挹〕度量廣くして高ぶらざること。○〔晉〕「雅-尙沖-挹」。
〔欽挹〕他をうやまひ自からへりくだること。○〔晉〕「相欽-挹歎曰、我不レ如也」。
〔推挹〕おしすゝむ。○〔南〕「深所二推-挹一」。
〔奬挹〕すゝむ。○〔唐〕「大加二奬-挹一以レ女妻レ之」。
〔敬挹〕うやまふこと。○〔南〕「惟見レ輒則敬-挹焉」。
〔謙挹〕へりくだる。○〔北〕「名-位雖レ重、愈存二謙-挹一」。
〔采挹〕くみとる。○〔水經、註〕「采-挹二河-流一醞二成芳-酎一」。
〔撝挹〕しりぞく。○〔王儉〕「固秉二撝-挹一」。

【捏】タウ、直庚切　テイ、馳貞切　庚
チヤウ。切　チヤウ。切

えらぶ、（擇）、あぐ、（擧）。

【挱】サ。桑何切　歌

挲に通じ、―に作る。

摩り揉む、もむ。○〔韓愈〕「誰復著レ手更摩-挱」。

【抄】サ。師加切　麻

挓挱は、開く貌にいふ語。

【挴】バイ、メ。莫罪切　賄

むさぼる、（貪）。○〔楚辭〕「穆-王巧挴、夫何周-流」。

【拼】

弄に同じ。

【捔】ガ。五可切　哿　牛河切　歌

もむ、（搓）。

【挶】キヨク、居玉切　沃　或は拘に作る。
コク。切

㊀手にてあげ持つ、拘へ持つ、かゝふ、もつ。
㊁土をになふに用ふる器、つちふご。○〔左〕「陳畚挶一具二綆-缶一」。

【挸】ケン。吉典切　銑

のごふ、（拭）。

【挺】テイ、ヂヤウ。徒鼎切　迥

㊀ぬく。
（い）ひき出だす。○〔國〕「挺レ鈹搢レ鐸」。
（ろ）脫す。○〔史〕「尉劍挺」。
（は）引く。○〔漢〕「挺レ身逃二亡其印-綬一」。
（に）ぬきんづ、㊁に同じ。
㊁ぬきんづ。
（い）特に擧ぐ。○〔漢〕「挺二力-田一」。
（ろ）秀で立つ。○〔左思〕「列二挺衡-山之陽一」。
（は）進み出づ、進め出だす。○〔蘇軾〕「挺レ身而鬪」。
㊂なほし、たゞし、（直）。○〔左〕「周-道挺-挺」。
㊃なほく持つ、もつ、とる。○〔宋〕「挺レ戈而前」。
㊄ゆるす、ゆるむ、（寬）。○〔禮〕「挺二囚-徒一益二其食一」。
㊅脡に通じ用ふ。○〔儀〕「薦二脯五-挺一」。
㊆梃に通じ用ふ。○〔韓愈〕「南-牆鉅-竹千-挺」。

〔森挺〕ぬきんでゝ立つ。○〔遊天台山賦〕「八桂森-挺以凌レ霜」。
〔奇挺〕めづらしくぬきいづ。○〔遊天台山賦〕「嗟台-嶽之所二奇-挺一」。
〔秀挺〕すぐれぬきいづ。○〔孔稚圭〕「爲-明秀-挺」。
〔英挺〕前に同じ。○〔任昉〕「伏惟聖-武英-挺」。
〔菝挺〕（植）香草の名、おほにら。○〔禮〕「仲-冬菝-挺出」。
〔特挺〕とくべつにぬきんづ。○〔徐陵〕「特-挺」之佐一」。
〔標挺〕めだちてぬきいづ。○〔吳均〕「偉二茲竹之標-挺一」。

【挺】タウ、ヂヤウ。丈梗切　梗

なほし、（直）。

【挻】セン。尸連切　先

㊀ながし、（長）、又、ひく、（引）。○〔唐〕「挻二亂江-南一」。
㊁逆に取る、とる。○〔揚雄〕「秦晉之間、凡取レ物而逆謂二之篡一楚或謂二之挻一」。
㊂のがる、（遁）。○〔賈誼〕「主-上有レ敗、則因而挻レ之矣」。
㊃掌にて擊つ、うつ、（批よりも重し）、又、もむ、（揉）、やはらぐ、（和）。○〔淮〕「譬猶二陶-人爲レ器也、揲二挻其土一而不二益厚一」。

【挻】テン。抽延切　先　銑

ながし、（長）。

【挻】エン。夷然切　先

㊀とる、（取）。㊁あまねし、（周）。

【挼】ダ、ナ。奴禾切 歌 按へ採む、もむ。○〔晉〕「東府聚二樗蒲一大擲劉裕一二五木一久レ之卽成レ盧矣」。

【挼】サイ、セ。蘇回切 ダイ、子。奴回切 灰 ㊀うつ、（擊）。㊁手にて摩す、する。

【挼】キ。翾規切 支 呼恚切 寘 神に供ふる黍稷の屬。○〔儀〕「祝命一一祭」。

【挼】スヰ。宣錐切 支 ㊀もむ、（挼）。㊁前條に同じ。

【挼】ラ。盧臥切 箇 捰に同じ、をさむ、（理）。

【挼】ダ、ナ。奴臥切 箇 おす、（推）。

【掛】抾に同じ。

【挽】ベン、モン。武遠切 阮 バン、マン。無販切 願 ベン、メン。美辦切 銑 古文は、輓に作る。前より引き進む、ひく、すゝむ。○〔禮、疏〕「力作一引之事」。

【抲】カ、ガ。下可切 哿 になふ、（擔）。

【捐】カウ、キヤウ。丘耕切 庚 ㊀琴の聲音にいふ字。㊁引き伸ぶ、のぶ、ひく。

【扌禿】トク。他谷切 屋 杖にて指す、さす。

【掫】テフ。輒協切 葉 ㊀ひねる、（拈）。㊁固く持つ、たもつ。

【搒】翻に同じ。

【掃】シン。子鴆切 沁 うつ、（擊）。

【挾】ケフ、ゲフ。胡頰切 葉 ㊀はさむ、さしはさむ。（い）入れ持つ。○〔五〕「以レ筋一レ之」。（ろ）わきばさむ、（掖）。○〔管〕「一二其槍刈耨鎛二」。（は）帶ぶ。○〔王粲〕「一二淸漳之通浦二」。（に）いだく、（懷）。○〔蜀〕「世一二殊議一人懷二異計二」。（ほ）をさむ、（藏）。○〔漢〕「除二一書律二」。（へ）自ら恃む。○〔孟〕「不レ一レ長、不レ一レ貴」。（と）たすく、持つ。○〔後漢〕「兩從者扶一一」。㊁あふ、（會）。○〔國〕「兆一以銜レ骨、齒牙爲レ猾」。（懷挾）いだきもつ。○〔國〕「亡人之所二一一二」。（詭挾）いつはりの心をいだく。○〔宋〕「一一者不レ能二以幸免二」。

【挾】セフ。尸牒切 葉 サフ、セフ。子洽切 洽 もつ、（持）。○〔左〕「三軍之士皆如レ一レ纊」。

【挾】セフ。卽協切 葉 ㊀浹に同じ、あまねし、さゞく。○〔詩〕「使レ不レ一二四方二」。㊁十干を日子に配當して甲より次ぎの甲に至るまでの日子の稱、卽ち、十日。○〔周〕「一一日而斂レ之」。㊂めぐる、（匝）。○〔荀〕「方皇周一」。

【挿】俗の插の字。

【捀】ホウ、フ。敷容切 冬 房用切 宋 ㊀さゝぐ、（奉）。㊁兩の手に分け數ふ、かぞふ。

【抐】ダン、ナン。奴紺切 勘 魚の食ふ貌にいふ字。

【捪】トン、ドン。他恨切 願 のぶ、（振）。

【捁】カウ、ケウ。古巧切 巧 攪に同じ、みだる。○〔馬融〕「散二毛族一一二羽羣二」。

【捁】コク。枯沃切 沃 うつ、（打）。

【捂】ゴ、グ。五故切 遇 ㊀抵觸す、支拄す、ふる、さはる、あたる、さかふ、さゝふ。○〔後漢〕「雖レ無レ所二嫌一一、然終不レ能レ改」。㊁對し向く、むかふ。○〔儀〕「若無レ器則一受レ之」。（抵捂）ふれさかふ。○〔漢〕「或有二一一二」。（枝捂）さゝふ。○〔史〕「無二敢一一二」。

【捃】クン、コン。居運切 問 擧蘊切 吻 攈、攟に同じ、とる、ひろふ。○〔史〕「往々一二摭春秋之文一、以著レ書」。（捃摭）かきあつめひろふ。○〔唐〕「欽レ一二一遺利二」。

【捄】ク。恭于切 虞 土を梩の中に盛る、つちもる、かきつむ、あつむ、とる。○〔詩〕「一レ之陾々」。

【捄】キウ、ク。居尤切 尤 ㊀前條に同じ。㊁物の長き貌にいふ字、ながし。○〔詩〕「有二一棘匕二」。

【捄】キウ、ク。居又切 宥 救に同じ、すくふ。○〔漢〕「將二以一レ溢扶レ衰」。

【捅】トウ、ツ。他孔切 董 ㊀すゝむ、（進）。㊁ひく、（引）。

【捅】ソウ、ス。損動切 董 ㊀前條に同じ。㊁敲に同じ、うつ、（擊）。

【捆】コン。苦本切 阮 苦悶切 願 ㊀叩きて堅密ならしむ、たゝく、うつ、逼まりて緻密ならしむ、せまる、ちぢむ。○〔孟〕「一レ屨織レ席」。㊁堅密となる、緻密となる、ちぢまる、かたまる。○〔詩、疏〕「一一逼而密緻」。

【捆】コン、ゴン。胡昆切 元 ㊀摑に同じ、手にて物を推す、おす。㊁とる、（取）。㊂くむ、（抒）。㊃くむ、（簒）。

【捆】トン、ドン。杜本切 阮 おす、（推）。

【捇】クワク。呼麥切 陌 さく、(裂)。

【捇】カク、キヤク。郝格切 陌 土を掘る、ほる。

【捇】セキ、シヤク。七迹切 陌 物を除撥す、のぞく、はらふ。○[周]「赤-芟猶レ言二一-拔一」。

【捈】ト、同都切 虞 ヤ。余遮切 麻 横さまに引く、ひく、又、とる、(抒)。○[揚雄]「一二中心之所レ欲、通二諸人之嚍々一者、莫レ如レ言」。

【捈】チヨ。抽居切 魚 攄に同じ、のぶ、とる。

【捈】タ、デ。直加切 麻 なげうつ、(擲)。

【捉】サク、ソク。側角切 覺 (い)にぎる、(握)。○[蜀註]「先-王一レ手而別」。(ろ)とらふ、(捕)。○[唐]「捕-一未レ獲」。とる。
(守捉) 唐の初めに當たり邊境をまもる小軍隊の稱。○[唐]「大曰レ軍、小曰二一-一一」。
(把捉) とる。○[僧齊巳]「老鱗枯節相一-一」。
(擒捉) 捕ふ。○[爾、疏]「可二一-一而取一レ之」。
(捕捉) 前に同じ。○[蘇軾]「不レ可二一-一一」。

【捊】ホウ、ブ。蒲侯切 フウ、フ。房尤切 尤 引き寄せて聚む、かきあつむ、あつむ、又、くむ、(掬)。○[禮註]「入所二一-治一也」。

【捬】フ。芳無切 虞 うつ、(擊)。

【捊】掊に同じ。

【捋】ラツ、ラチ。郎括切 曷 ㊀指先にて取る、とる、つまむ(取り易きの意)。○[詩]「薄言一レ之」。㊁なづ、する、(摩)。○[潘岳]「郁-一劫-捋」。
(采捋) 取る。○[劉基]「一-一一何頻」。
(摩捋) なづ。○[爾、疏]「好自一-一者」。
(操捋) 手にてなづる貌にいふ語。○[嵆康]「或攫-撚一-一」。

【捋】レツ、レチ。龍轂切 屑 前條の㊀の解に同じ。

【捌】ハツ、ハチ。布拔切 黠 ㊀扒に同じ、やぶる、さく、又、うつ、(擊)。○[淮]「解-捽者不レ在二於一-格一」。㊁數目の八の字に借りて用ふる字。○[康熙]「官文-書紀レ數借爲二八字一」。

【捌】ヘツ、ヘチ。必結切 屑 ㊀扒に同じ、もとる、(捩)。㊁さく、(剖)、わかつ、わかる、(分)。

【捌】ハツ、ヘチ。百轄切 黠 禾穀を推し引きて聚むる具、即ち齒なきえぶり、さらへ。○[急就篇]「一-杷」。

【⿰扌戒】カイ、ゲ。下介切 卦 もつ、(持)。

【捍】カン。侯幹切 翰 カン、ゲン。戸版切 潸 ㊀扞に同じ、ふせぐ、まもる。○[禮]「能一二大-患一則祀レ之」。㊁弓射るに臂に掛くる具(ゆごて)。○[禮]「右佩二玦-一一」。㊂猛烈なり、たけし、はげし。○[史]「民雕一而少レ慮」。㊃一-搓は、手を以て動かす、一説に、手を以て精しく擇ぶ、又、止む。

【⿰扌旋】俗の旋の字。

【⿰扌亨】ハウ、ヒヤウ。披庚切 庚 うつ、(打)。

【⿰扌牢】ラウ、ロウ。郎刀切 豪 とづ、(閉)。

【捎】サウ、セウ。師交切 肴 ㊀物の上を取る、選擇す、略取す、えらぶ、かすむ、とる。○[揚雄]「撟-一選也」。㊁かる、(芟)。○[史]「以レ夜一二兎-絲一去レ之」。㊂かする、(掠)、又、はらふ、(拂)。○[揚雄]「曳二一レ星之旃一」。
(蒲捎) 古昔の良馬の名。

【捎】サウ、セウ。山巧切 巧 所教切 效 うつ、(擊)。

【捎】セウ。思邀切 蕭 のぞく、(除)。○[周]「以二其圍之防一一二其藪一」。
(搖捎) 動く貌にいふ語。

【捏】デツ、ヂチ。乃結切 屑 ㊀おさふ、(捺)。㊁とらふ、(搦)。㊂捻り聚む。

【⿰扌豆】短に同じ。

【⿰扌豆】トウ、ヅ。大透切 宥 四掬、よすくひ。

【⿰扌畟】シヨク、ソク。實側切 職 うつ、(支)。

【捒】シヨウ、シユ。荀勇切 腫 ㊀竦に同じ、つゝしむ。㊁のぼる、のぼす、(上)。㊂うごく、うごかす、(動)。

【捒】シヨ、ソ。所據切 御 シユ、ス。色句切 遇 よそほふ、(裝)。

【捒】シヨク、ソク。輸玉切 沃 束に同じ、しばる、つかぬ。

【捒】ソウ、シユ。先侯切 尤 擻に同じ、とる、(取)。

【捐】エン。與專切 先 ㊀すつ、(弃)。○[漢]「自レ我得レ之、自レ我一レ之、無レ所レ恨」。㊁除去す、損す、のぞく、へす。○[史]「一二不-急之官一」。
(出捐) いたしすつ。○[史]「大-王誠能一二一-一數-萬-斤金一」。
(棄捐) すつ。○[劉向]「孟子荀卿儒術之士、一二一-一於世一」。
(脫捐) ぬきすつ、ぬかしのぞく。○[唐]「至二周隋事多二一-一一」。
(遺捐) おとし棄つ。○[王褒]「詩-書往-昔成二一-一一」。
(委捐) すつ。○[魏]「一二一所レ典兵-衆一」。

【挪】ヤ、エ。余遮切 麻

——揄は、手を擧げて弄す、もてあそぶ、あざける、からかふ。○〔白居易〕「時遺二人指-點一、數被二鬼——揄一」。

【挪】ヨ。羊諸切 魚
胥—は、のこり、殘餘。

【捔】カク、コク。古岳切 覺
つのとる、(角)。

【捔】サク、ソク。仕角切 覺
貫き刺す、さす。○〔張衡〕「叉-簇所二攙—一」。

【捕】ホ、ブ。薄故切 遇
さらふ。(い)捉りて去らしめず、急しく持つ、とりこになす、とる。○〔後漢〕「有者不レ得二漁—一」。(ろ)特に罪人などを討ち取るにいふ字。○〔漢〕「分レ部逐—」。

〔逮捕〕罪人をとらふ。○〔漢〕「竟—二—高·等一」。
〔跡捕〕あとを探しとらふ。○〔宋〕「擧——戮二三十餘人一」。
〔追捕〕前に同じ。○〔漢〕「吏無二——之苦一」。
〔購捕〕金錢を懸賞にしてとらふ。○〔魏〕「重見二——一」。
〔督捕〕たゞしとらふ。○〔北〕「令二其——一」。
〔掩捕〕盜賊などをうちとらふ。○〔北〕「——二反-者-聚盡」。
〔討捕〕前に同じ、又、たづねとらふ。○〔舊唐〕「照陟——」。
〔分捕〕手分けしてとらふ。○〔舊唐〕「遣レ使——而痊レ之」。
〔嚴捕〕きびしくとらふ。○〔宋〕「有レ詔——」。
〔察捕〕しらべとらふ。○〔宋〕「漸習二——一」。
〔捉捕〕とらふ。○〔元稹〕「——復——」。
〔窮捕〕いづこまでもとおしてとらふ。○〔陳子昂〕「莫レ不二——一」。

【捕】フ、ホ。方遇切 遇
搏に同じ。

【捖】クワン、グワン。胡官切 寒
けづる、(刮)、する、(摩)。

【捖】クワン、グワン。戸管切 旱
うつ、(擊)、又、する、(摩)。

【捖】クワツ、ケチ。古刹切 黠
刮に同じ。○〔周、註〕「——摩之工」。

【捗】ホ、ブ。蒲故切 遇
收斂す、をさむ。

【捗】ホ、ブ。蓬逋切 虞
芟に通じ用ふ、亂草を收む、をさむ。

【捗】チョク、チキ。竹力切 職
うつ、(打)。

【挿】サフ、セフ。初洽切 洽
さし、(利)。

【捘】ソン、スン。祖寸切 願 シュン。七倫切 眞 サイ、セ。祖回切 灰 スヰ。津垂切 支
おす、(推)、又、つかむ、(搯)。○〔左〕「涉佗—二衛-侯之手一及レ捥」。

【捘】サイ、スヰ。子對切 隊
おす、(推)。

【掓】抽に同じ。

【掓】シュク。式竹切 屋
ひく、(引)。

【掏】搯の本字。

【挈】挈に同じ。

【捚】サイ、セイ。莊皆切 佳
掌にて擊ぐ、さゝぐ。

【扌夅】カウ、ゴウ。下江切 江
雙の帆。

【捙】エイ。餘制切 霽
ひく、(牽·引)。

八畫

【扌㝵】トク。他德切 職
拳にて打つ、手のひらにて打つ、うつ。

【捥】ワン。烏貫切 翰
——一に、擊、挐に作る。腕、擊に同じ、うで、かひな。○〔史〕「海-上燕-齊之閒、莫レ不レ搤レ—而自言レ有二禁-方一能乙神-僊甲」。

【捥】ワン。烏丸切 寒 ウツ、ウチ。紆勿切 物
ねぢれる、ねづ、(拗·捩)。

【捥】ワン。烏管切 旱
とる、(取)。

【捦】キン、ゴン。渠金切 侵
—或は、搇、擒、拎に作る。衣の衿を急しく持つ、急しく持つ、もつ、とる、とらふ。

【扵】ヨ、オ。於許切 語 依據切 御
うつ、(擊)。

【扌沓】タフ、ドフ。達合切 合
㊀縫ひ物をなすときに指に貫き着けて針頭を抑ふるに用ふるもの、ゆびぬき、一說に、指韜、かはのゆびぶくろ。㊁おほふ、(冒)。㊂うつす、(摹)。

【扌豖】タク、トク。竹角切 覺
㊀うつ、(擊)。㊁なげうつ、(擿)。㊂おす、(推)。㊃木を刺す、さす

【扌豖】ソク、ゾク。作木切 屋
ゐる、(鐫)。

【扌豖】トク。都木切 屋
物を擊つ聲にいふ字。

【扌表】ヘウ。悲廟切 嘯
分かち與ふ、わかつ、ちらす。

【扌茲】ケン、ゲン。胡田切 先
縣の名、

【捧】ホウ、フ。敷奉切 腫
左右の手にて承く、うく、さゝぐ、すくふ。○〔禮〕「兩-手—二長-者之手一」。

〔承捧〕うけさゝぐ。○〔易、疏〕「——二蟲-筐一」。
〔執捧〕もちさゝぐ。○〔陳後主〕「侍臣乃——」。
〔對捧〕むかひてさゝぐ。○〔韋莊〕「——金爐侍二醮遲一」。
〔跪捧〕ひざまづきてさゝぐ。○〔蘇軾〕「——丹-々聞二天-香一」。
〔拜捧〕ぬかづきさゝぐ。○〔曾鞏〕「——二恩-書一」「喜-滿-顏」。
〔賫捧〕もたらしさゝぐ。○〔張元凱〕「中-官—二—御-題一來」。

【捧】奉に同じ。

【⿱利手】リ。良脂切 [支]
手にて物を持つ、もつ。

【捨】シャ、セ。書冶切 [馬]
すつ、(釋)。○〔文中〕「居レ家不三暫一二周-禮一」。
〔中捨〕、心のうちに欲望なきこと。○〔傳燈錄〕「行レ道布レ德無レ所二希-望一、是謂二一-一一」。
〔違捨〕たがひすつ。○〔宋〕「未二嘗一-一一」。

【捩】レイ、ライ。郎計切 [霽] 一或は、捩に作る。
琵琶の弦を彈き鳴らす撥、ばち。○〔梁簡文帝〕「插レ一舉二琵-琶一」。

【捩】レツ、レチ。力結切 [屑] 一戾に、通じ作る。
㊀ねぢく、ねづ、(拗)、もさろ、もさらす、(紾)。○〔韓愈〕「一レ手翻レ羹」。
㊁をる、(折)、さく、(撕)。○〔柳宗元〕「趫-趑桃-一-一」。

【搰】コツ、コチ。苦骨切 [月]
㊀相推し撃つ、うつ。
㊁塵を去る、はらふ。

【揀】カン、ケン。口減切 [豏]
安からず。

【捫】ボン、モン。謨昆切 [元] 一俗に、攀に作る。
㊀撫で持つ、もつ。○〔詩〕「莫レ一二朕舌一」。
㊁さぐる、(摸)。○〔史〕「漢-王傷レ胷乃一レ足」。

【捬】古の撫の字、なづ。○〔漢〕「二選二擇良-吏、一-一循和-輯」。

【捬】フ、ホ。匪父切 [麌]
ふせぐ、(捍)。

【捬】フ、ホ。方遇切 [遇]
手を物に著く、つく。

【⿰扌畀】ヒ。必至切 [寘]
畀に同じ、あたふ。

【捭】ハイ、ヘ。補買切 [蟹]
㊀兩手にて撃つ、うつ、一說に、なげうつ、(擲)。○〔左思〕「莫レ不二衂レ銳挫レ鋌、拉-一-摧-藏一」。
㊁擺に通じ用ふ、ひらく。○〔鬼谷子〕「蘇-秦學二一-闔揣-摩一」。

【捭】ヘイ、ハイ。普米切 [薺]
敗に同じ、やぶる、(毀)。

【捭】ハク、ヒヤク。博厄切 [陌] 一又、擗、擘に作る。
ひらく、(開)、又さく、(拆)。○〔禮〕「燔レ黍一レ豚」。

【⿰扌毐】バイ、べ。莫亥切 [賄]
むさぼる、(貪)。

【据】キョ、コ。斤於切 [魚]
口さ手さ共に作す、はたらく、又、手を舉げ持つ、もつ。○〔詩〕「予手拮-一」。

【据】キョ、コ。居御切 [御]
㊀手の病、てやみ。
㊁よる、(據)。○〔史〕「趙-禹一レ法守レ正」。
㊂すぐなるうなじ、(直-項)。○〔司馬相如〕「一以驕-驁」。

【捯】タウ、トウ。覩老切 [皓]
擣に同じ。

【捰】ワ。鄔果切 [哿]
つむ、(摘)。

【捱】ガイ、ゲ。宜佳切 [佳]
㊀ふせぐ、こばむ、(拒)。
㊁延び緩む、ゆるむ、のぶ。

【捲】ケン、ゴン。巨員切 [先]
㊉氣勢、いきほひ。○〔國〕「有二一-勇股-肱之力一」。
㊀こぶし、(拳)。○〔史〕「解二雜-亂紛-糾一者不二控-一一」。
㊁力を用ひて勞する貌にいふ字。○〔莊〕「一-一乎后之爲レ人」。

【捲】ケン、クワン。居轉切 [霰]
卷に通じ用ふ、まく、をさむ。○〔史〕「席二一常山之險一」。

【捲】ケン、クワン。苦遠切 [阮]
うつ、(摶)。

【⿰扌秉】柄に同じ。

【捔】カク、ゴク。五角切 [覺]
はじく、(抵)。

【捴】扮に同じ。

【⿰扌虒】セウ。千遙切 [蕭]
隋一一は、たかし、(高)。

【捵】テン。他典切 [銑] チン。丑忍切 [軫]
手にて物を伸ぶ、のぶ。

【捵】撚に同じ。

【捶】スヰ。主橤切 [紙] 一搥に通じ作る。
㊀杖をもて撃つ、むちうつ、うつ。○〔魏〕「加二其一-扑之罰一」。
㊁つく、(擣)。○〔禮〕「欲二乾-肉-則一而食レ之」。
〔輕捶〕うちたゝく。○〔晉〕「無二一-一之罰一」。
〔搒捶〕前に同じ。○〔南〕「輙加二一-一一」。
〔驅捶〕おひかけうつ。○〔南〕「輙被一-一一」。
〔鞭捶〕むちうつ。○〔高士傳〕「可二臨而一-一一」。

【捶】タ。都火切 [哿] 一一に、に作る。
はかる、(揣)。○〔莊〕「大-馬之一レ鉤者」。

【捷】セフ。疾葉切 [葉]
㊀戰に勝つ、かつ、かち。○〔詩〕「一月三一」。
㊁戰爭の獲物、ぶんどりもの。○〔春秋〕「齊人來獻二戎-一一」。
㊂かちの報知。○〔白居易〕「奉二明-詔之詞一元レ聞二月一一」。
㊃敏疾なり、はやし、さし、かろし、すみやか。○〔漢〕「一如二慶-忌一」。
㊄接續す、つゞく、つぐ。○〔王延壽〕「獵-一-鱗-集相和」。
㊅三十六銖。○〔小爾〕「二-十-四-銖曰レ兩、々-有-半曰レ一」。
〔敏捷〕すばやし。○〔蜀〕「幹-理一-一」。
〔克捷〕敵に勝つ。○〔晉〕「所-在一-一」。
〔妍捷〕うつくしくはやし。○〔唐〕「不レ擇-筆-墨-而一-一-者、余與二虞-世-南一耳」。
〔便捷〕みがるなること。○〔淮〕「虎-豹一-一」。
〔須捷〕衣服のおさく破れたるをきること。○〔方言〕

「南-楚凡人貧衣被-醜-敝一、謂ニ之ーー」。
〔拳捷〕こてさきのはやきこと。〇〔後漢〕「布ーー而得レ免」。
〔趫捷〕足のはやきこと。〇〔後漢〕「輕-勇ーー」。
〔才捷〕智惠のなはりはやきこと。〇〔魏、註〕「臨-淄-侯植以ニーー一愛-幸」。
〔辯捷〕口辯のさわやかなること。〇〔梁〕「明-悟ーー」。
〔戰捷〕たゝかひ勝つこと。〇〔蜀〕「所-在ーー」。
〔迅捷〕はやし。〇〔晉〕「弓-馬ーー」。
〔綺捷〕うるはしくはやし。〇〔齊〕「辭-致ーー」。
〔雄捷〕たけくすばやし。〇〔唐〕「未レ見下以レ少擊レ衆ーー如ニ馬將軍一者上」。
〔輕捷〕みがるにすばやきこと、又、てがるくはやきこと。〇〔宋〕「詔ニ沿-江漕-司一、造ニーー戰-舩千-艘一」。
〔諧捷〕とゝのひてはやきこと。〇〔世說〕「音-節ーー」。
〔蹺捷〕足をあぐることすばやし。〇〔金〕「皆所ニ以習ニーー一也」。
〔便捷〕つよくすばやし。〇〔金〕「ーー如レ此」。
〔剛捷〕前に同じ。〇〔應瑒〕「ーー逸ニ等-群一」。
〔奏捷〕勝利のしらせを奏聞す。〇〔金〕「使ニ人ーー上ーー」。
〔巧捷〕極めてみがるし。〇〔淮〕「非レ不ニーー一也」。
〔騰捷〕のぼりあがることはやし。〇〔心書〕「亦猶下束ニ猿-猱之手一、而責上レ之以中ーー上也」。
〔狡捷〕こざかしくすばやし。〇〔曹植〕「ーー過ニーー一」。
〔猛捷〕わるづよくすばやし。〇〔傅休〕「ーー者莫レ如レ虎」。
〔繼捷〕ひきつゞき勝つ。〇〔呂溫〕「表レ武則南-北ーー」。

【捷】サフ、セフ。測洽切 [洽] 插に同じ、さす、さしはさむ。〇〔曹植〕「ーニ忘-歸之矢一」。

【捸】トツ、トチ。他骨切 [月] なめらか、(滑-利)。

【捹】ホン、ボン。蒲悶切 [願] 手のさまの亂るゝ貌にいふ字、みだる

【捵】扎、又、搌に同じ。

【扌承】拯に同じ。

【捺】ダツ、ナチ。奴曷切 [曷] 乃八切 [黠] ❶手にて重く抑ふ、おす、おさふ。❷搦捎す、さらふ、さる。❸書法の一名稱、即ち、字體のやゝ微しく斜なるもの、大、人の字などの如し。｜俗に、捺に作る。

【捻】デフ、子フ。諾協切 [葉] 指の頭にて挾み捩づ、よぢる、ひねる。〇〔青瑣高議〕「辦有ニ指-印一名爲ニ一ー紅一」。

【捻】デツ、子チ。乃結切 [屑] おさふ、(按)。

【捼】ダ、ナ。奴禾切 [歌] くだく、(摧)、一說に、兩手にて切摩す、もむ。〇〔無名氏〕「碎ニーー花一打レ人」。｜一に挼に作る。

【捼】ワ。烏禾切 [歌] 手に縈ふ、まとふ、めぐらす。

【捼】ダイ、子。奴回切 [灰] ゼン、子ン。而宣切 [先] 手にて物を摩す、する。

【捼】ズヰ。儒錐切 [支] ❶もむ、(抄)。❷そむ、(擩)。

【捼】ヰ。於毀切 [紙] もつ、(把)。

【捼】ジヤ、ニヤ。儒邪切 [麻] 揉む(關中の語)。

【掏】カツ、ケチ。丘瞎切 [黠] しめつく、(拶-著)。

【捽】ソツ、ゾチ。昨沒切 [月] シユツ、シユチ。即律切 [質] ❶とる。(い)頭髮を持つ、手に持つ、つかむ、もつ、さらふ。〇〔淮〕「溺則ーニ其髮一而拯」。(ろ)拔き取る、ぬく。〇〔漢〕「農-夫父-子ーレ屮把レ土」。❷あたる。(い)互に對す、むかふ。〇〔國〕「戎-夏交ー」。(ろ)觸る、さはる。〇〔莊〕「齊人之井飲者相ー也」。
〔牽捽〕ひきつかむ。〇〔晉〕「協令ニ威儀ーー一」。
〔撞捽〕うちあたる。〇〔韓愈〕「雷-電助ニーー一」。
〔搶捽〕とらふ。〇〔梁通〕「然皆以ニ錢-穀刑-獄搏-擊ーー一爲レ職」。

【捽】ソツ、ゾチ。蘇骨切 [月] する、(摩)。

【捽】サイ、セ。祖對切 [隊] 捘に同じ、おす、(推)。

【捾】ワツ、ワチ。烏括切 [曷] ❶かゝぐ、(搯)。❷ひく、(援)。

【捾】ワツ、ワチ。烏八切 [黠] くじる、(抉)。

【捾】カツ、ゲチ。下瞎切 [黠] 搳に同じ、けづる。

【捾】ワン。烏版切 [潸] さる、(取)。

【捿】セイ、サイ。先齊切 [齊] 栖に同じ、すむ、すみか。〇〔謝靈運〕「恣ニ此永幽ー一」。

【扌穹】キウ、ク。去仲切 [送] おす、(捺)。

【扌虎】クワク、コク。古獲切 [陌] 擱に同じ、うつ、(打)。

【掀】ケン、ゴン。虛言切 [元] ❶手にて高く擧ぐ、擧げ出だす、あぐ、かゝぐ。〇〔左〕「乃ーレ公以出ニ于淖一」。❷高く聳ゆ、そびゆ、そばだつ。〇〔韓愈〕「蚍-虺首ーー」。

【掀】キン、コン。許斤切 [文] 丘近切 [問] キツ、コチ。許訖切 [物] 前條の❶に同じ。

【掀】コン、ゴン。胡恩切 [元] 掍に同じ、ひく、(引)。

【植】チ、ヂ。直吏切 [寘] なぐ、(投)。

【植】チ、ヂ。丈里切 [紙]

もつ（持）。

【植】ショク、ジキ。常職切 職
杖に拄へらる、つゑつく。

【揀】トウ、ツ。都動切 董
うつ（撃）。

【掁】タウ、ヂヤウ。除庚切 庚
ふる（觸）、又、つく（撞）。○〔謝惠連〕「以レ物ー二撥之一」。

【㨃】タイ、テ。都猥切 賄
おす（排）。

【揨】タウ、ヂヤウ。除耕切 庚　一に、撐に作る。
朾に同じ。

【掂】テン、トン。丁廉切 鹽
手にて物を量る、はかる。

【拼】ハウ、ヒヤウ。北萌切 庚
㊀抨に同じ、ふむ、せしむ。
㊁拚に通じ用ふ、はじく。

【拼】ヘイ、ヒヤウ。卑正切 敬
偋に同じ、のぞく（除）。

【掃】サウ、ソウ。蘇老切 皓　先到切 號
(い)汚穢を棄てのぞく、はく。○〔詩〕「洒二ー廷内一」。
(ろ)抹す、なづずる。○〔杜甫〕「淡ー二蛾眉一朝二至尊一」。
はらふ。
〔闇掃〕髯の名。○〔唐詩〕「還梳二ーー一學二宮妝一」。
〔等掃〕はへきにてはらふ。○〔呂温〕「過處若二ーー一」。

〔帶掃〕前に同じ。○〔皮日休〕「攫爛ーー臥來雲」。
〔淨掃〕きよめはらふ。○〔王昌齡〕「ー二ーー陰山一無二鳥投一」。
〔閉掃〕門戸をふさぎてはらひきよむ。○〔南〕「屛居ーー」。
〔颷掃〕はや風の如くはらひ去る。○〔李白〕「千騎ーーー」。
〔揮掃〕ふるひはらふ。○〔陸游〕「忽然ーーー不二自知一」。

【掄】ロン。盧昆切 元
㊀えらぶ（擇）。○〔唐〕「文部始ーレ才終授レ位」。
㊁つらぬく（貫）。
〔選掄〕えらぶ。○〔宋〕「七經ーーー得レ人多失」。

【掄】リン。龍春切 眞
前條の㊁に同じ。

【掅】セイ、シヤウ。千定切 徑　七正切 敬
もつ、さゝろ（持、捽）。

【掅】倩に同じ、やとふ。○〔六書統〕「假二人力一曰レー」。

【掆】カウ。居郎切 陽　古浪切 漾
扛に同じ、對擧す、さしにてあぐ、かく、あぐ。○〔唐〕「ー二鼓金鉦一」。

【掇】タツ、ダチ。都括切 曷
テツ、テチ。陟劣切 屑
さゝろ。
(い)拾取す、ひろふ。○〔淮〕「猶下采新者見二一芥一ー上之」。
(ろ)掠略す、かすむ。○〔史〕「秦得四燒二ー一焚三杆君之國一」。
〔采掇〕とり拾ふ。○〔杜甫〕「ーーー付二中廚一」。
〔取掇〕前に同じ。○〔李白〕「ーーー世上艶」。
〔抄掇〕うつしとる。○〔唐〕「有レ如二ーーー」。
〔裒掇〕あつめひろふ。○〔唐〕「雖二論著之人隨レ世ーーー」。
〔攈掇〕拾ひとる。○〔淮〕「覽取ーーー」。
〔擷掇〕つまみとる。○〔元稹〕「ーーー園蔬美」。
〔精掇〕えらびとる。○〔白居易〕「博搜ーーー」。
〔拾掇〕ひろふ。○〔王令〕「ー二ーー穀種一無二餘遺一」。

【掇】セツ、セチ。朱劣切 屑
みじかし（短）。

【授】シウ、ジユ。是酉切 有　承呪切 宥
㊀さづく。
(い)付與す、あたふ。○〔詩〕「還予授二子之粲一兮」。
(ろ)傳ふ。○〔史〕「子夏居二西河一、教ーー爲二魏文侯師一」。
㊁さづけらる、受く、さづかる。○〔周〕「再拜ーレ幣」。
㊂さづくるを、さづかるを、さづくる所、さづかる所、さづけ、さづかり。○〔魏〕「忝竊二重ーー」。
〔天授〕天のさづけ。○〔史〕「陛下所レ謂ーー非二人力一也」。
〔客授〕他鄉にありて業をさづかる。○〔後漢〕「ーー二東武一因家焉」。
〔口授〕くちづたへにさづく、くちうつし。○〔蜀〕「而ーーー作レ書、皆有二意理一」。
〔訓授〕をしへさづく。○〔魏〕「篤勤ーーー」。
〔講授〕ときつたふ。○〔漢〕「勝每二ーーー謂二諸生一」。
〔拜授〕官をさづけあたふ。○〔漢〕「即二軍中一ーーー」。
〔傳授〕つたへさづく。○〔後漢〕「榮世習相ーーー」。
〔指授〕をしふ。○〔晉〕「奇畫ーーー」。
〔寵授〕いつくしみてさづく。○〔宋〕「故特見二ーーー」。
〔擢授〕順序をこえてさづく。○〔晉〕「以レ能ー二ーー殿中侍御史一」。
〔超授〕前に同じ。○〔晉〕「宜レ論レ功ーーー」。
〔補授〕官位をさづくること。○〔晉〕「隨レ才ーーー」。
〔除授〕前に同じ。○〔宋〕「詔自レ今ーーー黜陟、及二恩數等事、必參二酌祖宗舊制一」。
〔辨授〕明かに人物を察してさづく。○〔晉〕「實宜ーーー」。
〔封授〕領地をさづくと官をさづくと。○〔晉〕「ーーー有レ差」。
〔移授〕うつしさづく。○〔宋〕「旬月ーーー」。
〔禪授〕帝位をゆづりさづく。○〔梁〕「古之ーーー多以レ德相傳」。
〔選授〕えらびてさづく。○〔陳〕「梁末以來ーーー失二其所一」。
〔銓授〕前に同じ。○〔北齊〕「實未レ聞レ如レ此ーーー」。
〔囑授〕告げさづく。○〔魏〕「阿難親承ーーー」。
〔褒授〕ほめてさづく。○〔魏〕「宜レ加二ーー一、以彰二先烈一」。
〔習授〕まなびうく。○〔元〕「帝輒就レ之ーーー」。
〔誨授〕をしふ。○〔蔡邕〕「以二獻座尚書京氏易一ーーー」。
〔濫授〕其の器にあらざる者に官をさづく。○〔曹植〕「君無二ーーー」。
〔拔授〕ひきあげてさづく。○〔曹植〕「願陛下之所二ーーー」。
〔割授〕わかちあたふ。○〔阮瑀〕「ーーー江南一」。
〔簡授〕えらびてさづく。○〔傅休奕〕「ー二ーー英賢一」。
〔神授〕かみのさづかり。○〔吳參〕「英雄若二ーー」。
〔跪授〕膝を地につけて物をうく。○〔庾信〕「ーーー無レ辭」。

【掉】テウ、デウ。徒弔切 嘯
㊀ふる、ふるふ。
(い)振作せしむ、動搖せしむ、ゆるがす、おこす、うごかす、ゆらめかす。○〔漢〕「伏レ軾ー二三寸舌一」。
(ろ)動搖す、振作す、ゆるぐ、うごく、おこる、ゆらめく。○〔因話錄〕「楊-

巨-源年老頭數一」。
㊁たゞす、(正)。〇〔左〕「御下兩レ馬一レ鞅而還」。
〔捎掉〕ふるふ。〇〔新書〕「臂不ニ一一ニ。
〔振掉〕ふるふ。〇〔蘇轍〕「海-水一一魚-龍驚」。
〔戰掉〕をのゝく、ふるふ。〇〔韓愈〕「莫レ不ニ一一悼慄眩惑而自失ニ。
〔搖掉〕うごく、うごかす。〇〔李賀〕「翠-羽更一一」。
〔揮掉〕ふるふ。〇〔文同〕「得レ此只一一」。
〔尾大不掉〕下のもの〻勢力盛にして上の威力行はれざるとにいふ語。〇〔左〕「末大必折、一一一一」。

【掉】テウ、デウ。徒了切 [篠]
前條の㊀に同じ。

【掉】ダウ、子ウ。女教切 [效]
ふるふ、(甄)。

【掉】ダク、ノク。女角切 [覺]
㊀前々條に同じ。㊁もつ、(持)。

【掊】ホウ、ブ。歩侯切 [尤]
㊀かく、(把)。〇〔史〕「一-視得レ鼎」。
㊁聚斂す、をさむ、あつむ。〇〔唐〕「峻-一函-斂、閭-里爲空」。
㊂裒に通じ用ふ、へす、へらす。〇〔易〕「一レ多益レ寡」。
㊃深刻なり、ふかし、きびし。〇〔郭璞〕「一克深能」。
〔矜掊〕かち氣にして深刻なると、我慢づよきと。〇〔詩、疏〕「一一好レ勝之人」。
〔鋤掊〕すきかく。〇〔齊民要術〕「亦有ニ一一而掩レ種者ニ。

【掊】ホウ、フ。普后切 [有]
㊀うつ、(擊)。〇〔莊〕「自一ニ擊於世-俗ニ。
㊁剖に同じ、さく。〇〔莊〕「一レ斗折レ衡」。
〔擊掊〕うつ。〇〔蘇軾〕「此鼓亦當レ遭ニ一一ニ。
〔攻掊〕せめうつ。〇〔宋濂〕「貝-劑急一一」。

【掊】ヒウ、フ。房尤切 [尤]
かく、(把)。

【掊】ハウ、ベウ。薄交切 [肴]
引き取る、ひく、さる。

【掊】フ、ホ。芳遇切 [遇]　ホク、鼻墨切 [職]
ボク。

【掊】ハイ、ベ。蒲枚切 [灰]
踣、仆に同じ、たふる、たふす。〇〔史〕「一レ兵罷去」。
かつ、(克)。

【䎧】ハウ、ボウ。部項切 [講]
耜の屬、すき。

【掋】
抵に同じ。

【掋】テイ、タイ。丁計切 [霽]
なげうつ、(擿)。

【摚】タウ、チヤウ。中莖切 [庚]
ひく、(引)。

【掌】シヤウ、サウ。止兩切 [養]
㊀てのうち。
(い)手の指の付きぎはより腕首に至るまでの裏面、てのひら、たなそこ、たなごころ、手中、手心。〇〔禮〕「其如レ示ニ諸一ニ。
(ろ)持る所、つかさごる所。〇〔漢〕「海-内之命斷ニ手一-握ニ。
㊁つかさごる、(主)。〇〔書〕「冢-宰一ニ邦-治ニ。
㊂捧ぐ、持る。〇〔謝宗可〕「多因ニ一-握提-攜晩ニ。
〔執掌〕いそがはしきと、荷ひ且つ持つの義。〇〔詩〕「或王-事一一」。
〔指掌〕てのひらを指にてさし示すと、いと明白なるとにいふ義。〇〔晉〕「取レ蜀如レ一レ一」。
〔抵掌〕てのひらをうつ。〇〔戰〕「一レ一而談」。
〔反掌〕てのひらをおけかへすと、いと易きとにいふ語。〇〔漢〕「易ニ於一レ一」。
〔覆掌〕前に同じ。〇〔唐〕「太-平可ニ一レ一而致ニ。
〔唾掌〕てのひらにつばはく、氣勢をつくると、着手すると。〇〔後漢、註〕「我謂一一而決」。
〔職掌〕やくめ、又、つかさごる。〇〔晉〕「一一山與レ川」。
〔攫掌〕左の手のひらにて右の手をおはひなづ。〇〔禮〕「君賜稽-首一一致ニ諸地ニ。
〔股掌〕もゝと手のひらと。〇〔後漢〕「宛ニ轉一一之上-矣」。
〔分掌〕事をわかちつかさごる。〇〔後漢〕「一ニ一乘-與服-物ニ。
〔典掌〕つかさごる。〇〔晉〕「逐一ニ一軍-事ニ。
〔撫掌〕てのひらをなづ。〇〔魏〕「一一笑曰、子-卿遠來、吾事濟矣」。
〔兼掌〕本務の外になほ他の事をつかさごる。〇〔晉〕「一ニ一宗-廟ニ。
〔參掌〕あづかりつかさごる。〇〔五〕「一ニ一庶-務ニ。
〔玉掌〕たまの如きうつくしきてのひら。〇〔晉〕「握ニ神-策于一一ニ。
〔合掌〕兩手のひらをあはす、又、一種の拜禮。〇〔南〕「一一便絕」。
〔銓掌〕はかりつかさごる。〇〔唐〕「初尙-書一ニ一七-品以-上選ニ。
〔至掌〕(動)ひるの異名。〇〔本草〕「水-蛭一名一一」。
〔搞掌〕てのひらをまぐ。〇〔汀、滝〕「一レ一望ニ烟-客ニ。
〔弄掌〕てのひらにてもてあそぶ。〇〔劉潛〕「一ニ神-姦於一裏ニ。
〔纖掌〕かぼそきてのひら。〇〔歐陽詹〕「朝自守-持一一透」。
〔舞掌〕まひをどりするてのはら。〇〔韓偓〕「瘦去誰憐一一輕」。
〔拍掌〕手のひらをうちならす。〇〔葛長庚〕「兒」欄一レ一呼」。
〔素掌〕しろきてのひら。〇〔揚愼〕「金-仙一一除ニ金-露ニ。
〔借指失掌〕小末の事ををしみて要大なる事をあやまるにいふ語、一文をしみの百ならぞ。〇〔侍兒小名錄〕「宋阿恢有レ妓曰ニ張-耀-華一、美而有レ寵、阮-佃-夫見悅レ之頻求ニ于恢一、不レ可レ得、佃-夫怒曰、一レ一一レ一、遂諷ニ有-司ニ以ニ公-事ニ彈レ恢坐免」。

【掍】コン。古本切 [阮]　戸衮切 [元]
㊀まじふ、(混)。〇〔班固〕「一ニ建-章ニ而連ニ外-屬ニ。
㊁あはす、(同)。〇〔王褒〕「帶以ニ象-牙ニ一ニ其會-合ニ。
㊂振起す、おこる、おこす。〇〔揚雄〕「蘊-唊-胦以一レ根」。

【掎】キ。擧綺切 [紙]　居宜切 [支]
ひく。
(い)かたくを引き持つ、後より引き持つ。〇〔國〕「一ニ止晏-萊ニ。
(ろ)かたくの足を引き持つ、あしさろ。〔漢〕「秦失ニ其鹿ニ、劉-季逐一レ之」。
(は)かたかはに引く、かたよす。〇〔詩〕「伐レ木一矣」。
(に)抜く。〇〔宋華〕「一ニ拔五-嶽ニ。
(ほ)弦を發く、ひらく、はる。〇〔班固〕「機不ニ虛一ニ。
〔角掎〕つのとりあしとる。〇〔左〕「晉人-一レ之、諸-戎一レ之」。
〔刧掎〕強く取りひく。〇〔琴賦〕「時一一以慷-愜」。

【掎】イ。隱綺切　紙
－匜は、正しからざるを。

【掏】タウ、ドウ。徒刀切　豪
㊀えらぶ、(擇)。㊁さる、(抒)。
㊁くじる、(搯)。

【掐】カフ、コフ。乞洽切　洽
爪にて刺す、爪もて按ふ、つかむ、ひねる、さす。○〔晉〕「－レ鼻灸ニ眉－頭一」。

【掑】キ、ギ。渠之切　支　又、㩧に作る。
拎－は、堅勇なり、つよし。

【排】ハイ、べ。蒲皆切　佳
㊀推擠す、擯却す、おしあく、おしのく、はらふ、ひらく、しりぞく、おす。○〔史〕「－レ闥直入」。
㊁おさる、蹙まる。○〔後漢〕「勢－迮不レ得ニ進－退一」。
㊂ならぶ。
(い)安置す、おく。○〔莊〕「安－而去レ化」。
(ろ)列をなす。○〔漢〕「相推－－陳ニ列中－庭一」。
〔彭排〕楯のこと。○〔南〕「設ニ－－于轂上一」。
〔牴排〕うちしりぞく。○〔韓愈〕「－ニ－異端一」。
〔擊排〕前に同じ。○〔韓〕「悟言無レ所ニ－－一」。
〔防排〕水みちをふせぐ、又、水はけ。○〔水經、註〕「修ニ－－以正ニ水路一」。
〔擠排〕おす。○〔漏子振〕「－ニ－煙霞一」。
〔探排〕さぐりひらく。○〔羽獵賦〕「－レ巖－レ嶠」。
〔肩排〕人のかたとかたとおしあふ。○〔何遜〕「－－喧不レ息」。
〔譏排〕そしる。○〔王安石〕「諂譽未レ足レ貿ニ－－一」。
〔謗排〕前に同じ。○〔陳師道〕「－レ禍－レ道不レ須レ同」。
〔嘲排〕あざける。○〔韓維〕「－－乘レ醉忽以發」。
〔強排〕いたくおしひらく。○〔楊萬里〕「－ニ－孤悶ニ到ニ東園一」。
〔衝排〕つきしりぞく。○〔雲笈七籤〕「－ニ－滓穢一」。

【排】ハイ、べ。步拜切　卦
㊀－－揹は、強く突く、つく。
㊁韛に通じ用ふ、鍛冶の火をおこすに用ふる韋囊、ふいご、ふいがう。○〔後漢〕「造ニ水－－鑄ニ農－器一」。

【捔】シユク、ソク。式竹切　チク、トク。張六切　屋
叔に同じ、ひろふ、(拾)。

【掆】テウ、デウ。直紹切　篠
さす、(刺)。

【掫】テウ、デウ。田聊切　蕭
挑に同じ、かゝぐ、めぐる、みだる。

【掔】カン、ケン。丘閑切　刪
㊀かたし、(固)。㊁あつし、(厚)。

【掔】ケン。苦堅切　先
㊀前條の解に同じ。
㊁牽に通じ用ふ、ひく。○〔史〕「鄭襄－公肉－袒－レ羊以迎」。
㊂もつ、(持)。㊃うつ、(擊)。

【掔】ケン。詰戰切　霰
前條の㊁に同じ。

【掕】リヨウ、里孕切　徑　閭承切　蒸
馬を止む、とゞむ。

【掕】ロウ。盧登切　蒸
止む。

【捍】
捏に同じ。

【掖】エキ、ヤク。羊益切　陌
㊀わきばさむ。
(い)手をもて人の左右の臂を持つ、挾み持つ、わきに挾む。○〔左〕「ニ－禮從ニ國－子一巡レ城－以赴レ外」。
(ろ)旁より扶持す、たすく。○〔曹操〕「遷錄ニ先－臣扶－－之節一」。
㊁腋に通じ用ふ、わき。○〔禮〕「衣ニ逢－－之衣一」。
㊂宮殿の旁、又、其の舍、垣、門、庭などの稱(宮殿を身體に比ぶれば其の腋の如きよりいふ)。○〔漢〕「武－帝更ニ名永－巷一爲ニ－－庭一」。
㊃轉じて、宮庭の稱。○〔宋〕「聲華ニ帝－－、軌秀ニ天－牘一」。
〔誘掖〕みちびきたすく。○〔詩、序〕「故作レ是以－ニ－其君一也」。
〔提掖〕前に同じ。○〔唐〕「好－ニ－士一」。
〔宮掖〕宮庭の稱。○〔後漢〕「憲恃ニ－－聲－勢一」。
〔仙掖〕前に同じ。○〔沈佺期〕「御柳垂ニ－－一」。
〔禁掖〕前に同じ。○〔李嘉祐〕「趨陪ニ－－一匪行謠」。
〔宸掖〕前に同じ　○〔宋〕「風光ニ－－一」。
〔闕掖〕前に同じ　○〔論衡〕「讀ニ于－－一」。
〔樞掖〕前に同じ　○〔宋之問〕「－－調－梅暇」。
〔蘭掖〕太子の宮庭の稱。○〔郭正一〕「－－早升レ弁」。
〔鳳掖〕前に同じ。○〔元萬頃〕「和－鼎ニ－－一」。
〔振掖〕すくひたすく。○〔宋〕「生則－ニ－之一」。

【掗】ア、エ。倚下切　馬　ア。倚可切　哿
㊀うごかす、(搖)。㊁とる、(取)。

【掗】ア、エ。衣駕切　禡
人に物を強ひて與ふ、あたふ。

【掘】クツ、ゴチ。渠勿切　物
㊀ほる。
(い)鑿ち掘る、うがつ、みだる。○〔孟〕「辟若レ－レ井」。
(ろ)突く。○〔詩〕「蜉－蝣－－閱」。
(は)みだれ凹む。○〔晉〕「山－陵毀－－」。
㊁崛に同じ、特り起つ貌にいふ字、ひとりたち。○〔揚雄〕「洪－臺－－其獨出兮」。
㊂つく、つくす、(盡)。○〔揚雄〕「－－レ變極レ物窮レ情」。
〔穿掘〕ほりうがつ。○〔後漢〕「或－ニ－萠芽一」。
〔發掘〕あばきほる。○〔漢〕「－ニ－傳太后丁太后冢一」。「赤皆－－」。
〔移掘〕場所をかへて地をほる。○〔南〕「大樹合抱－而－レ之」。
〔埋掘〕地にうづむとほりいだすと。○〔魏文帝〕

【掘】コツ、グチ。胡骨切　月
㊀ほる。
(い)穿ちて空しくす、穴をあく。○〔易〕「－レ地爲レ臼」。
(ろ)地を穿ちて埋れたる物を揚ぐ。○〔北〕「探ニ－北－芒及南－山隹－石一」。
㊁窟に通じ用ふ、あな。○〔戰〕「窮－巷－－門」。
〔開掘〕ほりひらく。○〔宋〕「俟ニ農－隙一－－」。
〔鑿掘〕のみにてほりいだす。○〔論衡〕「工－師－－」。

【掘】ケツ、グワチ。其月切　月
前條の㊀の(い)に同じ。

【掘】コツ、ゴチ。五忽切　月
兀に通じ用ふ。○〔莊〕「－若ニ槁－木一」。

【掙】サウ、シヤウ。初耕切　庚

さす、（刺）。

【掙】サウ、シヤウ。側迸切 敬

さりひしぐ、きろ、（剉）。

【捓】リヤウ。里養切 養 力讓切 漾

整へ飾る、かざる。○〔周、註〕「―レ馬」。

【掛】クワイ、ケ。古賣切 卦

挂に同じ、かく、かゝる。○〔易〕「再扐而後―」。

【掜】ゲイ。ガイ。吾禮切 薺

なぞらふ、（擬）、一説に、從はず、たがふ。○〔漢〕「作二太-玄五-千-文一有二首、衝、錯、測、攡、瑩、數、文、―、圖、告十-一-篇一」。

【掜】ケイ、ガイ。研計切 霽

手の筋急しく寄る、よる、ちゞまる、ちゞまりて指内に折れ捉る、にぎる、つかむ。○〔莊〕「兒-子終-日握而手不レ―」。

【掜】ダイ、デ。尼佳切 佳

さらふ、（搦）。

【捏】ゲツ、ゲチ。魚列切 屑

ひねりあつむ、（捻-聚）。

【掝】コク。獲北切 職

或、惑に通じ用ふ、まどふ。○〔荀〕「以二己之僬-々一、受二人之―-―一」。

【掝】クワク。呼麥切 陌 或は、摑に作る。

やぶる、さく、（裂）。

【掝】キヨク。忽域切 職

裂く聲にいふ字。

【掞】エン、以贍切 艶 或は、撿に作る。
オン。

㊀のぶ、（舒）。○〔左思〕「摛レ藻―二天-庭一」。

㊁燄に通じ用ふ、かゞやく。○〔漢〕「長-麗前―光-耀明」。

【掞】セン、ソン。舒贍切 艶

㊀前條の㊀に同じ。

㊁疾く動く、うごく。

【掞】エン。以冉切 琰

剡に同じ、けづる、とがらす。

【掚】ゼイ、デ。而稅切 霽

えらびとる、（抐）。

【掚】ヂ、ニ。女恚切 寘

いる、（内）。

【掟】タウ、チヤウ。陟猛切 梗

ふるひはる、（揮-張）。

【掠】リヤク。力灼切 藥

㊀かすむ。

（い）財物を劫し取る、奪ふ。○〔戰〕「―二於郊-野一以足二軍-食一」。

（ろ）拂ひ過ぐ、かする。○〔李頻〕「燕―二平-蕪一去」。

㊁書法の一名稱、長撇。○〔柳宗元〕「―左出而鋒欲レ輕」。

〔剽掠〕人の財物をおびやかしとる。○〔唐〕「山-賊―-―」。

〔劫掠〕前に同じ。○〔史〕「―二-―代-地一」。

〔虜掠〕人をいけどり財物を奪ふ。○〔唐〕「士多二―-―一」。

〔侵掠〕せめかすむ。○〔唐〕「四-向―-―」。

〔暴掠〕あらしかすむ。○〔史〕「懷-王約三入レ秦無二―-―一」。

〔殺掠〕人をころし財物を奪ふ。○〔史〕「所二―-―一數-千-人」。

〔收掠〕前に同じ。○〔晉〕「可下分二遣諸-將一―-―野-穀上」。

〔採掠〕前に同じ。○〔晉〕「―-―無レ所レ獲」。

〔毒掠〕いたくそこなひかすむ。○〔南〕「―二-―百-姓一」。

〔殘掠〕前に同じ。○〔唐〕「―二-―鄉-縣一」。

〔寇掠〕攻めかすむ。○〔魏〕「饑則―-―」。

〔肆掠〕ほしいまゝに人の財物を奪ふ。○〔唐〕「―-―以撼二人-心一」。

〔焚掠〕家をやき財物を奪ふ。○〔唐〕「所-在―-―」。

〔盜掠〕ぬすみとる。○〔唐〕「因興二―-―一」。

〔分掠〕てわけをしてかすむ。○〔唐〕「―二-―定-州一」。

〔驅掠〕人をおひかけて財物を奪ふ。○〔五〕「所レ過―二-―居-人一」。

【掠】リヤウ。力讓切 漾

㊀前條の㊀の（い）に同じ。○〔左〕「輸―其聚」。

㊁搒笞して罪を治む、むちうつ。○〔漢〕「下レ獄―-治」。

〔笞掠〕むちうつ。○〔王令〕「俗弊寧不レ煩二―-―一」。

【採】サイ、セイ。此宰切 賄

とる。

（い）摘み取る、つむ。○〔史〕「秋-冬則勸レ民山―」。

（ろ）擇ぶ。○〔後漢〕「屬-文著-辭有レ可二觀―-―一」。

〔收採〕とりあぐ。○〔後漢〕「輙劾爲二―-―一」。

〔博採〕てびろく取る。○〔南〕「―-―二英-異一」。

〔汎採〕前に同じ。○〔文心雕龍〕「淮-南―-―而文麗」。

〔捜採〕もとめとる。○〔梁〕「並皆―-―」。

〔捃採〕ひろひとる。○〔北〕「―二-―衆-書一」。

〔訪採〕とひてとる。○〔北〕「或宜二―-―一」。

〔抝採〕水中に沒して取る。○〔元〕「聽下民於二揚-村直-沽-口一―-―上」。

〔綜採〕すべとること。○〔文心雕龍〕「漸-々―-―矣」。

〔聽採〕きゝとる。○〔梁武帝〕「外-司明加二―-―一」。

〔摹採〕うつしとる。○〔陶弘景〕「可二就―-―一」。

〔競採〕きそひとる。○〔晉徽〕「―-―須レ盈レ手」。

【掤】リン、ロン。力錦切 寝

ラン、ロン。盧感切 感

㊀ころす、（殺）。○〔揚雄〕「―、殺也、晉魏河-內之北、謂レ―爲レ殘」。

㊁うつ、（打）。○〔郭璞〕「今關-西人呼レ打爲レ―」。

【探】タン、他含切 覃 他紺切 勘
トン。

さぐる、さがす。

（い）遠きより取る、求め取る。○〔書〕「則惟爾多-方―二天之威一」。

（ろ）伺ふ。○〔穀梁〕「己―二先-君之邪-志一」。

（は）試む。○〔論〕「見二不-善一如レ―レ湯」。

〔試探〕ためしさがす。○〔後漢〕「見二神-光照一社―二-―之一」。

〔窮探〕いづこまでもさぐる。○〔歐陽修〕「每專二思―-―一」。

〔幽探〕山水の景色などをおくふかき處にまでさぐる。○〔蘇軾〕「輕-棹極二―-―一」。

〔捜探〕さぐる、さがす。○〔韓稚〕「奄二有勝跡一窮二―-―一」。

〔縱探〕ほしいまゝにさぐる。○〔蘇軾〕「今茲得二―-

【揲】セン、ゼン。時占切 鹽

とる、（取）。

【掣】セイ。尺制切 霽

さゞめ隔てゝ自由ならしめず、ひく。○〔易〕「見二輿曳一其牛ー」。
〔牽掣〕ひく。○〔唐〕「ーー二首尾一」。

【掣】セツ、セチ。昌列切 屑
ひく。
(い)手をかけて寄す、かゝげ取る。○〔晉〕「從レ後ーー二其筆一不レ得」。
(ろ)延ぶ。○〔庾肩吾〕「或横牽竪ー」。
(は)急しく縮まる。○〔六書故〕「乍ー乍縱」。
〔驍掣〕ひく。○〔李白〕「大呼誰ーー」。
〔掣掣〕曳く貌にいふ語。○〔海賦〕「或ーーー洩々于裸人之國一」。
〔電掣〕いなづまの如くひく。○〔李白〕「紅旗ーーー卷二長空之飛雪一」。「靈」。
〔擺掣〕ひらきひく。○〔顧雲〕「波濤ーーー魚龍」。

【掤】ヒヨウ。悲陵切 蒸
箭箙の蓋、やづゝぶた。○〔詩〕「抑釋レー忌」。

【接】セフ。子葉切 葉
㊀交會す、あふ、まじはる。○〔禮〕「君子之ー如レ水」。
㊁交會せしむ、あはす、まじふ。○〔國〕「偃レ兵ーレ好」。
㊂承受す、うく。○〔禮〕「ーレ下承レ弼」。
㊃連續す、つゞく。○〔漢〕「民ーレ手飲」。
㊄ちかづく（近）。○〔儀〕「賓立ー二西塾一」。
㊅迎へ射る、迎へ搏つ。○〔曹植〕「仰レ手ー二飛猱一」。
㊆すみやか（速）。○〔禮〕「ー祭而已矣」。
㊇かつ（勝）。○〔禮〕「國君世子生ー以二太牢一」。
〔反接〕兩手をうしろ手にしばる。○〔漢〕「受レ詔ーー」。
〔容接〕いれちかづく。○〔後漢〕「有下被二其ーー一者上」。
〔收接〕前に同じ。○〔田錫〕「未レ便二ーー一」。
〔應接〕他人にあふこと。○〔晉〕「簡二于ーー一」。
〔禮接〕ねんごろに禮義もてまじはる。○〔晉〕「傾レ心ーー」。
〔交接〕まじはる、まじふ。○〔漢〕「不レーー二世俗一」。
〔茂接〕しげりつゞく。○〔漢〕「枝葉ーー」。
〔垂接〕身分いやしき者に會見す。○〔後漢〕「握レ髮ーー」。
〔親接〕ちかづく。○〔後漢〕「莫レ由二ーー一」。
〔連接〕つゞく。○〔吳〕「與レ宮ーー」。
〔隣接〕となりつゞき。○〔吳〕「夫荊楚與レ國ーー」。
〔待接〕もてなす。○〔吳〕「ーー二寮屬一」。
〔拯接〕救助すること。○〔晉〕「未レ蒙二ーー一」。
〔眷接〕いつくしみちかづく。○〔晉〕「又深加二ーー一」。
〔撫接〕前に同じ。○〔晉〕「厚加二ーー一」。
〔顧接〕前に同じ。○〔北〕「皆能ーー」。
〔引接〕ちかづく。○〔晉〕「ーー二疏遠一」。
〔延接〕前に同じ。○〔宋〕「必朝服ーー」。
〔扶接〕たすけちかづく。○〔宋〕「每二出入一ーー者常數人」。
〔覲接〕身分高き者にあふ、まみゆ。○〔宋〕「ーー莫レ由」。
〔欵接〕よろこびもてなす。○〔南〕「時與レ融ーー」。
〔賞接〕はめちかづく。○〔南〕「頗ーー之一」。
〔陪接〕貴人にはんべりちかづく。○〔宋〕「日夕ーー」。
〔候接〕前に同じ。○〔宋〕「ーー佐二御饌一」。
〔賓接〕客としてねんごろにまじはる。○〔宋〕「ーー官僚一」。
〔踵接〕人たえまなくつゞく。○〔宋〕「中原歸附者ーー」。
〔藂接〕木の葉などすきまなくつゞく。○〔夏侯湛〕「蔭ーー而相蘙」。
〔鱗接〕うろこの如くつらなる。○〔周邦彦〕「埤堄ーー」。
〔近接〕ちかづく。○〔林甫〕「ーー二西南境一」。
〔承接〕つゞく。○〔羅隱〕「雁影相ーー」。

【接】サフ、セフ。色甲切 洽
㊀翣に同じ。○〔周、註〕「故書翣作レー」。
㊁扱に同じ、さる。○〔周〕「共二其ー盛一」。

【接】ケフ。檄頰切 葉
挾に同じ、さしはさむ、はさむ。

【控】コウ、ク。苦貢切 送
㊀つぐ（告）。○〔詩〕「ー二于大邦一」。
㊁ひく（引）。○〔漢〕「ー弦四十萬騎」。
㊂引き止む、操り制す、さゞむ、ひかふ。○〔詩〕「抑磬ー忌」。
㊃なぐ（投）。○〔莊〕「時則不レ至而ー二於地一而已矣」。
〔提控〕ひき制す。○〔金〕「常加二ーー一」。
〔虛控〕むだにひく。○〔王粲〕「弦不二ーー一」。
〔矯控〕ためひく。○〔子部〕「聽レ無二ーー之能一」。
〔牽控〕前に同じ。○〔范梈〕「ーー寧知人汝媸」。

【控】コウ、ク。枯公切 東
ひく（引）。○〔班固〕「機不二虛掎一、弦不二再ー一」。

【控】カウ、コウ。苦江切 江 克講切 講
うつ（打）。○〔莊〕「以二金椎一ー二其頤一」。

【揚】テキ、チヤク。他歷切 錫
かゝぐ（挑）。

【推】タイ、テ。他回切 灰
おす。
(い)進め遣る、後より送り遣る、すゝむ。○〔左〕「或輓レ之或ーレ之」。
(ろ)おしおさす、おしひらく。○〔穀梁〕「不レー二人危一」。
(は)うつす（移）、又、しりぞく（卻）。○「詩」「旱既太甚則不レ可レー」。
(に)讓り與ふ、あたふ、又、ゆだぬ（諉）。○〔史〕「ーレ衣衣レ我、ーレ食食レ我」。
〔輓推〕ひきよすとおしたすと。○〔左〕「或ーレ之或ーレ之」。
〔排推〕おしひらく。○〔晉〕「ーーー而進」。

【推】スヰ。昌錐切 支
おす。
(い)撰び擧ぐ、すゝむ。○〔書〕「ーレ賢讓レ能、庶官乃和」。
(ろ)上さし仰ぐ。○〔梁〕「居二於鄉里一、專行二禮讓一、爲二衆所一レー」。
(は)究め尋ぬ、たづぬ。○〔漢〕「有レ意三其ー二本之一也」。
(に)窮め詰る、なじる。○〔史〕「天水駱璧ー滅」。
(ほ)遷る。○〔易〕「寒暑相ー而歲成」。
〔選推〕えらびすゝむ。○〔江淹〕「詳レ材ーー」。
〔細推〕こまかにえらぶ。○〔杜甫〕「ーー二物理一須二行樂一」。
〔究推〕たづぬ。○〔梅堯臣〕「此理難二ーー一」。

【掩】エン。衣撿切 琰
㊀おほふ。
(い)をさむ（斂）。○〔說文〕「斂也小上曰レー」。
(ろ)遮り隱す、さへぎる。○〔禮〕「君子齋戒處必ーレ身」。
(は)恤みかばふ、撫づ。○〔爾〕「矜憐撫二ーー之一也」。
(に)とづ（閉）。○〔南〕「席門常ー」。
(ほ)不備に乘じて襲ひ取る。○〔禮〕「大夫不レーレ羣」。
㊁止む。○〔女誡〕「室人和則謗ー」。
㊂おなじ（同）。○〔康熙〕「同也江淮南楚之閒曰レー」。
㊃賭博の屬、ぜにうち、意錢。○〔漢〕「掘レ冢博ー」。

(畢掩) 悉く不意におほふ。○〔詩、傳〕「乃――而羅レ之」。
(干掩) おかしかくす。○〔禮、註〕「不レ―二―人之私一也」。
(隱掩) かくしおほふ。○〔禮、疏〕「著二見於外一、無二――一」。
(究掩) たづねきはめて襲ふ。○〔後漢〕「―二―其窟穴一」。
(追掩) 敵の後をおほひおそふ。○〔北〕「乘レ勝――」。
(馳掩) いそぎはせて敵をおそふ。○〔唐〕「常之―二―其屯一破レ之」。
(討掩) 敵を撃ちおそふ。○〔徐陵〕「隨レ機――」。
(披掩) ひらくととづと。○〔元稹〕「憶得雙文獨――」。
(掃掩) はらひさへぎる。○〔梅堯臣〕「―二―衆說一猶除レ埃」。
(蔽掩) おほひさへぎること。○〔蘇洵〕「抑遏――」。
(圍掩) まはりをおほふ。○〔高啓〕「緋綃――佉二新凉一」。

【掩】アン、オン。烏感切 感
揜に同じ、おほふ。

【掩】エン。於贍切 豔
絲を繰るに手にて其の緒を振り出すにいふ字。

【掩】エフ。乙業切 葉
うつ、(打)。

【措】ソ、ス。倉故切 遇
㊀おく。
(い)施す、布く。○〔易〕「―二之天下之民一、謂二之事業一」。
(ろ)用ふ。○〔中〕「故時―レ之宜也」。
(は)置く。○〔禮〕「―二之于參保介之間一」。
(に)廢す、すつ。○〔中〕「學レ之弗レ能弗レ―也」。
㊁交雜す、まじふ、まじはる。○〔史〕「内―二齊晉一」。
㊂手のおきどころ、ふるまひ、擧作。○〔李嶠〕「周惶失レ―」。
(擧措) ふるまひ。○〔南〕「覬君――當下以二淸名一遺中子孫上耶」。
(刑措) 刑罰を其のまゝにさしおく。○〔史〕「――四十餘年不レ用」。
(注措) とゞめおく。○〔宋〕「施設――」。

【措】サク、シヤク。側格切 陌
㊀追捕す、さらふ。○〔漢〕「迫二―靑徐盜賊一」。
㊁笮に同じ、せまる、はさむ。○〔史〕「爭レ門―レ指」。

【措】セキ、シヤク。七迹切 陌
刺に通じ用ふ、さす。○〔淮〕「猨狖之捷來―」。

【掫】ソウ、ス。將侯切 尤 シウ、ス。側九切 有
柝を擊ちて夜を戒め守ると、よまはり、行夜。○〔左〕「賓將レ―、主人辭」。

【掫】ソウ、ス。此苟切 有
㊀うつ、(擊)。
㊁麻幹、あさがら、一說に、木材の薪。○〔漢〕「民驚走持二藁或―一枚一」。

【掫】シユ、ス。子于切 虞
前條の㊀に同じ。

【掫】シウ、シユ。初尤切 尤
手を以て物を取る、とる、又、もつ、(持)。

【掬】キク、コク。居六切 屋
㊀左右の掌。○〔禮〕「受二珠玉一者以レ―」。
㊁左右の掌に受け取る、さゝぐ、すくふ、むすぶ。○〔左〕「舟中之指可レ―也」。
㊂はなる、(離)。○〔揚雄〕「齊陳曰レ斯、燕之外郊朝鮮洌水之間曰レ―」。
㊃一升の量。○〔小爾〕「――一升也」。
㊄二三合の量、左右の掌に滿つるほど。○〔康熙〕「今俗謂二兩手所レ奉爲一――一、則數合也」。
(手掬) てのひら、又、すくふ。〔陸機〕「嗟不レ盈二於――一」。
(盈掬) 掌をかゞめたるところに滿つ。○〔羊士諤〕「石泉―レ―冷」。
(掐掬) くむ、又、すくふ。○〔蘇軾〕「盥濯自――」。

【擊】擊に同じ、はらふ。○〔潘岳〕「―レ場拄レ㲯」。

【掺】古の拳の字。○〔廣漢屬國侯夫人碑〕「勤養――」。

【提】シ。士支切 支
さゝふ、(支)。

【㨵】セン、ゼン。時釧切 霰
物の正を見定むる爲めに繩を懸くるを、みづなは、さげふり。

【抟】摶に同じ。

【㨮】棋に同じ。

【拏】ダ、ナ。女加切 麻

【㨖】サウ、ソウ。先到切 號 或は、搔に作る。
相牽引す、ひく、ひきあふ。
つかむ、(攫)。

【掔】カツ、ゲチ。胡瞎切 黠
牽に同じ、車軸の端の鍵、くさび。

【拴】アツ、アチ。伊喝切 曷
伐木の殘株、きりかぶ。

【擧】擊に同じ。

【挹】把に同じ。

【掿】搦に同じ。

九畫

【掽】ハウ、ビヤウ。蒲孟切 敬
つく、(撞)。

【掾】エン、以絹切 先
㊀よる、(緣)。
㊁屬官の通稱、そへづかさ、ぞうやく、こやくにん。○〔晉〕「辟二―屬百餘人一、時人謂二之百八―一」。
(獄掾) ひとやづかさ。○〔漢〕「秦時爲二――一」。
(丞掾) すたづかさ。○〔後漢〕「此――之任、何足二相煩一」。
(書掾) ふみづかさ、即ち書記役。○〔漢〕「出爲二督郵――一」。
(曹掾) 役所のすたづかさ。○〔賈臣〕「白頭仍作二――一」。
(縣掾) あがた役所のそへづかさ。○〔後漢〕「王莽末爲二――一」。
(計掾) 歲計を掌る役所のすたづかさ。○〔北齊〕「負レ才位終于――」。

【掿】ダク、ノク。昵角切 覺
手にて引く、ひく。

【揀】カン、ケン。古限切 潸

レン。郎甸切 [霰]
えらぶ。
(い)區別す、わく、わかつ。○[魏]「博-愛容レ衆、無レ所ニ--擇ニ。」
(ろ)拔き取る、よる。○[舊唐]「選ニ-召三-募官-健三-千-人ニ。」
[料揀] はかりえらぶ。○[韓愈]「嬬-婦恣--。」
[汰揀] よなぐ、えらぶ。○[張衡]「--寄詞-辨ニ。」

【揁】テイ、チヤウ。知盈切 [庚] ひく、(引)。

【揁】カウ、キヤウ。丘耕切 [庚] 古杏切 [梗] 琴の聲にいふ字。

【捪】ビン、ミン。眉貧切 [眞] 美隕切 [軫] なづ、(撫)、一說に、さぐる、(摹)。

【捪】ブン、モン。武粉切 [吻] 抆に同じ。

【揂】シウ、シュ。即由切 [尤] あつむ、あつまる、(聚)。

【揂】イウ、ユ。夷周切 [尤] おほふ、(掩)。

【揃】セン。即淺切 [銑] ㊀分割す、わかつ、又、きる、(剪)、たつ、(斷)。○[晉]「周-公自-ニ其蚤一、沈ニ之河ニ。」㊁整齊ならざるものを擇り去る、ぬく、そろふ。○[唐]「吾年五-十拭レ鏡-レ白。」

【揃】セン。子仙切 [先] ㊀前條の㊁に同じ。○[禮]「蚕-」。㊁菓に同じ。ゑるす、ゑるし、箋識。

【揃】セン、ソン。千廉切 [鹽] ㊀ゑるし、(驗)。㊁さし、(銳)。㊂つらぬく、(貫)。

【揄】ユ。羊朱切 [虞] ひく、(引)。○[史]「-ニ長-袂一、躡ニ利-屣一。」
[邪揄] 手を擧げて嘲弄す、あざける、からかふ。○[後漢]「市人皆大-笑、擧レ手--。」
[揠揄] 早く成熟する稼、わせ。○[揚雄]「秦晉凡樹-稼早成-熟謂ニ之旋一、燕齊之間謂ニ之--ニ。」
[排揄] かゝげひく。○[劉向]「--揚-拔濕-迅疾兮」。
[扶揄] 劍の名。○[吳都賦]「--屬-鏤」。
[選揄] えらびひく。○[蘇轍]「自蒙ニ--ニ。」

【揄】エウ。餘招切 [蕭] 褕に同じ。○[禮]「夫-人--狄」。

【揄】イウ、ユ。以周切 [尤] 臼より抒む、あぐ。○[詩]「或舂或-」。

【揄】トウ、ヅ。度侯切 [尤] ㊀ひく、(引)。○[班固]「-ニ文-竿一出ニ比-目ニ。」㊁たる、(垂)。○[莊]「被-髮-レ袂」。

【揄】トウ、ヅ。徒口切 [有] 前條の㊁に同じ。

【揄】チウ、チュ。丑鳩切 [尤] 手を垂れて行く。

【揄】シュ。春朱切 [虞]

【揤】ショク、シキ。阻力切 [職] 閃--は、傾く貌にいふ語。

【揥】埫に同じ。うつ、(打)。

【搫】タン、ダン。都玩切 [翰] むちうつ、うつ、(捶)。

【揯】挭の本字。

【揇】ダン、ナン。奴感切 [感] さらふ、(搦)。

【揆】キ。求癸切 [紙] ㊀はかる、(度)。○[詩]「-レ之以レ日」。㊁はかる所、はかりごと。○[孟]「先-聖後-聖其-一也」。㊂法度、のり。○[韓]「明-主之法--也」。㊃官吏、つかさ。○[魏]「百-均レ任四-民殊レ業」。㊄宰輔の官。○[晉]「桓-溫居レ-、政由レ己出」。
[道揆] みちをもて天意をはかる、又、のり。○[孟]「上無ニ---也」。
[一揆] 度同じきこと。○[後漢]「其旨--」。
[省揆] かへりみはかる。○[魏]「臣重自--」。
[納揆] 百事をはかり百官を總ぶるの地位におく。○[隋]「登-庸--之時」。
[測揆] はかりおしらぶ。○[隋]「-ニ-日-月ニ。」
[機揆] 肝要なるはかりごと。○[北]「內參ニ--ニ。」
[準揆] おしらべはかる。○[大戴禮]「-ニ-山-林ニ。」
[庶揆] もろくのつかさ。○[江淹]「包ニ括--ニ。」
[度揆] はかる、又、のり。○[蔡邕]「章ニ明--ニ。」

【揹】イ。以水切 [紙] すつ、(棄)。

【揹】イ。羊捶切 [紙] ㊀前條に同じ。㊁とる、(捫)。

【揹】タ、ダ。他果切 [哿] ㊀かぞふ、(揲)。㊁おつ、おとす、(落)。㊂ぬく、(脫)。㊃はかる、(探)。

【揈】クワウ。呼宏切 [庚] ㊀擊つ聲にいふ字。㊁ふるふ、(揮)。

【揈】ケン。翾縣切 [先] うつ、たゝく、(擊)。

【揈】揈の本字。

【撦】シヤ。昌者切 [馬] うつ、(擊)。

【搇】トウ。唐亙切 [徑] 負擔す、になふ。

【揉】ジウ、ニュ。爾由切 [尤] ㊀手もて延ぶ、擦り和らぐ、もむ。○[王氏談錄]「手自和--」。㊁順和ならしむ、やはらぐ。○[詩]「-ニ此萬-邦ニ。」㊂亂れ雜る。○[史]「百-家競-列事-跡錯--」。
[紛揉] もつれみだる。○[錢惟]「衰々而--」。

【揉】ジウ、ニュ。忍九切 [有] 直きを曲ぐ、曲がれるを直くす、たむ。○[易]「-レ木爲レ耒」。

【揉】ゼウ、ヂウ。爾紹切 [篠]

かゞむ、(屈)。

【搰】ウツ、コチ。王勿切 物
なげうつ、(擲)。

【揊】ヒヨク、ヒキ。芒逼切 職
撃つ聲にいふ字。

【揲】テツ、テチ。敕列切 屑
さる、すつ、(去)。

【揋】ワイ、エ。烏囘切 灰
ひく、(掎)。

【揌】サイ。桑才切 灰
㊀うごかす、(動)。㊁えらぶ、(擇)。

【揍】ソウ、ス。千候切 宥
㊀さしはさむ、(挿)。㊁なぐ、(投)。

【揎】セン。須緣切 先
㊀衣をあげ發く、袂を釣りあげて臂をあらはす、まくる、からぐ、かゝぐ。○〔蘇軾〕「玉-腕半ー雲-碧袖」。
㊁ちゞむ、(蹙)。○〔漢、註〕「宴-踧猶ーー蹙一」。

【描】ベウ、メウ。眉鑣切 蕭
形狀を摹し畫く、うつす、ゑがく。○〔圖繪寶鑑〕「白ー二荷-花一」。

【描】バウ、メウ。莫交切 肴
うつ、(打)。

【描】バウ、メウ。眉教切 效
なげうつ、(擲)。

【掱】ハウ。博旁切 陽
㊀ふせぐ、(捍)。㊁まもる、(衞)。㊂ならぶ、(並)。

【揰】リツ、リチ。劣戌切 質
滓汁を去る、こす、しぼる。

【提】テイ、ダイ。杜奚切 齊
㊀ひッさぐ。
(い)手に懸け持つ。○〔國〕「范-蠡乃左ーレ鼓」。
(ろ)持つ。○〔淮〕「ーレ名責レ實」。
(は)擧ぐ。○〔周〕「王ーレ馬而走」。
(に)扶く。○〔姚闔〕「實賴二奬ー一」。
(ほ)牽き行く。○〔禮〕「長-者與レ之ー攜、則兩-手奉二長-者之手一」。
㊁曲がりたる木に釣り下ぐる鼓、馬の鬉の上に立つるもの。○〔周〕「師-帥執レー」。
㊂媞に同じ。○〔詩〕「好-人ーー」。
(攝提) 大角星の兩傍に在りて斗星の柄の方にあたる三箇の星の名。○〔史〕「鼎-足句之曰二ーー一」。
(挾提) 箸の俗稱。○〔禮、註〕「今-人或謂レ箸爲二ーー一」。
(招提) 浮屠子の居所、即ち、寺院。本と拓提に作る後に誤りてーーと爲す。○〔杜甫〕「更宿二ーー境一」。
(菩提) (い)樹の名、畢鉢羅樹、釋迦牟尼佛の其の樹の下にて佛果を得たりしよりいふ。○〔西域記〕「佛坐二其下一成二正覺一、因謂二之ーー樹一焉、莖-幹黃-白、枝-葉靑-翠冬-夏不レ凋光-鮮無レ變」。
(ろ) 正覺正道、佛果、佛家の言。○〔无量壽經〕「ーー正覺佛-果異稱」。
(偏提) 瓶の如くにて小なるものゝ稱。○〔韓偓〕「鴫二酒-玉ーー一」。
(牽提) さゝげ持つ。○〔禮、集說〕「凡見二於ーー操-執、行-立屈-伸之末者一、其可レ忽哉」。
(嬰提) みどりご。○〔韓偓〕「稚-皇如二ーー一」。
(秤提) 目方にかけてはかること。○〔宋、戴植券源流〕「平-準ーー」。

【提】シ、ジ。市之切 支
鳥の群り聚まれる貌にいふ字。○〔詩〕「歸飛ーー」。

【提】テイ、ダイ。都禮切 薺
㊀たつ、(絕)。○〔禮〕「牛-羊之肺離而不レーレ心」。
㊁なげうつ、(擲)。○〔史〕「太-后以二冐-絮一ー二文-帝一」。

【插】サフ、セフ。測洽切 洽
㊀刺し入る、さす、さしはさむ。○〔漢、註〕「露-檄ーレ羽」。
㊁擔ふに用ふる棒、になひぼう。○〔荀、註〕「ー者擔也、兩-頭鐵-鋭、所下以ー二刺禾-束一而擔上レ之也」。
㊂鍤に同じ、すき。○〔戰〕「坐而織レ蕢、立則杖レー」。
㊃かぬ、(攝)。
(竪插) たてにはさむ。○〔晉〕「ー二ー兩-邊一」。
(斜插) なゝめにはさむ。○〔白居易〕「水-邊ーー一-漁-竿」。
(表插) さるしにはさむ。○〔北〕「往-々ーー而導焉」。
(戴插) 頭にのせはさむ。○〔開天遺事〕「ーー以二奇-花一、多者爲レ勝」。
(雜插) まじへはさむ。○〔上林賦〕「ー二ー北閒一」。
(搯插) つまみさしこむ。○〔宋石城樂〕「ーー環-鬢前」。
(反插) そらしはさむ。○〔徐陵〕「ー二ー金-鈿一」。
(懸插) 上よりかゝりはさむ。○〔江總〕「綠芰ーー」。
(亂插) 秩序によらずさしこむ。○〔揚萬里〕「新-秧ーー如二井-字一」。
(散插) ちらしさしこむ。○〔王建〕「ーー紅-翎玉-突枝」。
(秧插) いねの植ゑつけ。○〔李頻〕「繞レ郭看二ーー一」。
(栽插) 植ゑこむ。○〔蘇軾〕「爲レ我ーー萬-松岡」。
(齊插) 一樣にかざす。○〔梅堯臣〕「ーー宮-花拜二鳴-閑一」。
(種插) うゑつく。○〔孔平仲〕「ーー從二何-年一」。
(滿插) 一面にかざす。○〔晁補之〕「ーー不レ辭歸-帽重」。

【揷】扱に同じ。

【揓】シ。施智切 寘
さる、にぎる、(把)。

【揔】摠に同じ。

【揔】サウ、ス。蘇叢切 東
手にて物を進む、すゝむ。

【揔】に同じ、いそがはし。

【揕】チン。知鴆切 沁
撃たんと擬す、うたんさす、ねらふ。○〔史〕「左-手把二秦-王之袖一、右-手持二匕-首一ーレ之」。

【揕】チン。知林切 侵
さす、(刺)、一説に、木を斫る聲。

【揕】チン。陟甚切 寑
さす、(刺)。

【揖】イフ。一入切 緝
㊀拱きたる手を或は上下にし或は左右にし或は推し或は引きなどして行ふ敬禮の泛稱、ゑしやく、おぎ。○〔論〕「ー二巫-馬-期一而進レ之」。

㊁ゆづる、(讓)。　〇〔漢〕「一一二大福之恩一」。

㊂すゝむ、(進)。　〇〔儀〕「西南面一レ弓」。

〔三揖〕　卿、太夫、士の三をいふ。　〇〔左〕「一一在レ下」。

〔土揖〕　兩手を推して胸より小しく下ぐる敬禮。　〇〔周〕「見二諸侯一一一庶姓」。

〔時揖〕　兩手を胸と平かにする敬禮。　〇〔周〕「一一異姓」。

〔天揖〕　兩手を推して胸より小しくあぐる禮。　〇〔周〕「一一同姓」。

〔長揖〕　兩手を拱きて長くのぶること、即ち、禮の鄭重ならざるもの。　〇〔漢〕「不レ拜一一」。

〔高揖〕　(い)義を守りて讓る。　〇〔後漢〕「延陵一一」。(ろ)おそれるゑしやく。　〇〔孔叢子〕「先生厲レ聲一一、華夏仰レ風」。

〔拱揖〕　兩手をこまぬきてゑしやくすること。　〇〔宋〕「爾然一一」。

〔拜揖〕　兩手を上し下し、又、兩手を推して胸に著くるゐや。　〇〔唐〕「性簡放、不レ喜二一一一」。

〔端揖〕　正しく兩手をこまぬきてゐやをなす。　〇〔通典〕「遊逢二長官一一一而己」。

〔聳揖〕　身を高くし兩手をこまぬきてゐやをなす。　〇〔通典〕「但厲レ鞭一一而已」。

〔答揖〕　かへしおぎをなす。　〇〔金〕「舉レ手一一」。

【挹】　イフ、オフ。乙及切　緝

挹に同じ、くむ。　〇〔王禹偁〕「遠呑二山光一、平一二江瀨一」。

【揖】　シフ。側入切　緝

㊀あつまる、(聚)。　〇〔詩〕「螽斯羽一一」。

㊁輯に通ず、あはす、あつむ。　〇〔漢〕「一二五端一」。

㊂なる、なす、(成)。

【揖】　イ。乙冀切　寘

擅に同じ、ゑしやく。

【揗】　シュン、ジュン。食尹切　軫　辭閏切　震

なづ、(摩)。

【揗】　シュン、ジュン。詳遵切　眞

安んじ慰む、なづ。

【揘】　カウ、キヤウ。胡盲切　庚

うつ、(擊)、又、さす、(刺)。　〇〔張衡〕「竽殳之所二一一畜一」。

【揘】　エイ、イヤウ。永兵切　庚

ぬく、(拔)。

【揙】　ヘン、ベン。卑顛切　先　婢善切　銑

手にて擊つ、うつ。

【揚】　ヤウ。與章切　陽

㊀あがる。

(い)高くなる、上がる。　〇〔詩〕「以伐二遠一一」。

(ろ)飛ぶ、翻る。　〇〔周〕「中强則一」。

(は)發る。　〇〔列〕「矢鋒相觸而墜レ地、而塵不レ一」。

(に)顯はる。　〇〔楚辭〕「溺レ內而外一」。

(ほ)激す。　〇〔詩〕「一之水不レ流二束薪一」。

(へ)奮ふ。　〇〔後漢〕「聞二其言一者無レ不二激一一」。

(と)自ら足れりとす。　〇〔戰〕「志高而一」。

㊁あぐ。

(い)持ちて高くす。　〇〔屈平〕「一レ枹兮拊レ鼓」。

(ろ)上す。　〇〔易〕「一二于王庭一」。

(は)用ふ。　〇〔禮〕「或以レ言一」。

(に)顯はす。　〇〔漢〕「暴二一侚書事一」。

(ほ)發す。　〇〔禮〕「將レ上レ堂聲必一」。

(へ)飛ばす、翻す。　〇〔江淹〕「卷二一江海一」。

(と)扇ぐ。　〇〔漢〕「令二一人炊レ之、百人一レ之」。

(ち)披く。　〇〔屈平〕「一二雲霓之晻靄一」。

(り)激せしむ、奮はしむ。　〇〔晉〕「導二一厥蒙一」。

(ぬ)稱說す、ほめさく。　〇〔穀梁〕「不レ足二乎一一」。

㊂つぐ、(續)。　〇〔爾〕「賡一、續也」。

㊃眉、又眉の上下の美名。　〇〔詩〕「一且之晳也」。

㊄をの、まさかり、(鉞)。　〇〔詩〕「干戈戚一」。

〔對揚〕　こたへあぐ。　〇〔書〕「敢一二一天子之休命一」。

〔淸揚〕　きよき眉。　〇〔張華〕「素顏發二紅華一、美目流二一一一」。

〔鷹揚〕　たかの如くに飛び上がる、即ち勇ましき貌にいふ語。　〇〔詩〕「時維一一」。

〔簸揚〕　みもてあふりあげてひたす。　〇〔風俗通〕「歐レ爵一一、田農之事也」。

〔飛揚〕　とび上がる。　〇〔漢高祖〕「雲一一」。

〔發揚〕　おこりあがる、おこしあぐ。　〇〔禮〕「德一一詡二萬物一」。

〔揚揚〕　得意なる貌にいふ語。　〇〔史〕「意氣一一」。

〔游揚〕　方々にてほめあぐ。　〇〔史〕「僕一二一足下名于天下一」。

〔褒揚〕　賞めあぐ。　〇〔漢〕「一一之聲、盈二乎天地之間一」。

〔稱揚〕　前に同じ。　〇〔漢〕「下レ詔一一」。

〔抑揚〕　おさふること、擧ぐること。　〇〔漢〕「又隨レ時一一」。

〔搜揚〕　探し求めて擧げ用ふ。　〇〔後漢〕「一二一仄陋一」。

〔激揚〕　はげましあぐ、はげまされあがる。　〇〔後漢〕「一二一士吏一」。

〔揄揚〕　ほめとく。　〇〔兩都賦序〕「雍容一一、著二于後嗣一」。

〔飄揚〕　ひらくとあがる、又、ひるがへす。　〇〔魏武帝〕「隨レ風遠一一」。

〔搖揚〕　動かし上ぐ、うごきあがる。　〇〔張耀〕「泛二珪葉一以一一」。

〔顯揚〕　あらはし擧ぐ、あらはれあがる。　〇〔禮〕「一二先祖一」。

〔干揚〕　舞に用ふる武器の名。　〇〔禮〕「樂者非レ謂黃鍾、大呂、弦歌、一一也」。

〔舒揚〕　ゆるやかにのび擧がる。　〇〔淮〕「非レ聲一一」。

〔輕揚〕　かろぐしく飛びあがりておちつきたる所なし。　〇〔爾〕「厥性一一」。

〔奮揚〕　はげましあらはす、ふるひあらはる。　〇〔史〕「一二一武德一」。

〔布揚〕　廣くあらはす、廣くあがる。　〇〔史〕「孔子名、一二一於天下一」。

〔宣揚〕　前に同じ。　〇〔漢〕「一二一德音一」。

〔丕揚〕　大いにあらはす、大いにあがる。　〇〔柳宗元〕「一二一厥聲一」。

〔震揚〕　ふるひあぐ、ふるひあがる。　〇〔後漢〕「一二一威靈一」。

〔贊揚〕　助けてあらはす。　〇〔後漢〕「更相一一」。

〔休揚〕　善くあらはる、よくあらはす。　〇〔後漢〕「令聞一一」。

〔揮揚〕　ふるひあがる、ふるひあぐ。　〇〔晉〕「一二一仁風一」。

〔振揚〕　前條に同じ。　〇〔晉〕「一二一仁風一」。

〔導揚〕　道びきひらく。　〇〔晉〕「一二一厥蒙一」。

〔闡揚〕　ひらく。　〇〔晉〕「一二一道化一」。

〔吹揚〕　ふき擧ぐ。　〇〔埤雅〕「風輒一一」。

〔蛾揚〕　ひゞるの如き形よき眉。　〇〔神女賦〕「眉聯娟以一一兮」。

〔預揚〕　盛に擧ぐ、盛にあがる。　〇〔晏殊〕「一二一古風一」。

〔光揚〕　かゞやきあらはる、かゝやかしあらはす。　〇〔典引序〕「一二一大漢一」。

〔騰揚〕　のぼり擧がる、のぼしあぐ。　〇〔魏文帝〕「一一以相薄」。

〔播揚〕　布き擧ぐ、ちきあがる。　〇〔嘯賦〕「散二滯積一而一一」。

〔遐揚〕　遠く施す。　〇〔潘岳〕「仁風一一」。

〔悠揚〕　ゆるくと擧がる。　〇〔鶡子㽞〕日一一而少レ色」。

〔樹揚〕　養成すること。　〇〔徐陵〕「一二一名士一」。

(敷揚) 布きあらはす、ときあらはる。○〔柳宗元〕「—二—盛典一」。
(升揚) あぐ、あがる。○〔柳宗元〕「——非レ晉」。
(旌揚) あらはす。○〔王㒵〕「垂二——之期一」。
(華不再揚) 落ちしはなはふたゝび枝にあがらざると、過ぎ去りたる時日はふたゝびかへらざるといふ語。○〔陸機〕「時無二重至一、————一」。

【㨎】ゼン、ネン。而宣切 先
撋に同じ、手にて揉む、もむ。

【㨎】ゼツ、ネチ。如劣切 屑
ズ井。儒誰切 支
沒入す、浸す、そむ。○〔儀〕「—二於醢一」。

【搜】シウ、シユ。疏鳩切 尤
㊀數多なる意にいふ字、おほし、又、あつまる、(聚)。
㊁勁くして疾し、はげし、一說に、矢の行く聲にいふ字、やさけび。○〔詩〕「束-矢其—」。
㊂さがす。
(い)もとむ、(索)。○〔漢〕「發二三-輔騎-士一大—二上-林一」。
(ろ)たづぬ、(討)。○〔韓愈〕「獨旁—而遠紹」。
(冥搜) めくらさがし、又、心の中にてたづねさがす。○〔杜甫〕「力足レ可レ追——一」。

【換】クワン、グワン。胡玩切 翰
㊀かふ。
(い)交易す、とりかふ。○〔晉〕「以二金-貂—一レ酒」。
(ろ)あらため變ず。○〔宋〕「損二益修三—四-千-四-百-餘-事一」。
㊁かはる。
(い)あらたまり移る。○〔王勃〕「物—星移」。
(ろ)交替す、いりかはる。○〔通典〕「其虞-侯軍-職-掌下准二初-發一交——上」。
(绊換) はしりまはる。○〔漢〕「項-氏——」。
(叛換) (い)前條に同じ。○〔左思〕「雲散——」。
(ろ)そむく。○〔梁〕「侯-景小-豎、—二—本-國一」。
(暗換) 人の知らぬ間にうつりかはる、人の知らぬ間にかふ。○〔白居易〕「林-園——四-年春」。
(凋換) 衰へかはる。○〔李白〕「天-地無二——一」。
(悛換) 改めなほす。○〔魏〕「——非レ一」。
(易換) かふ、かはる。○〔金〕「絕-賞-納-粟——、上皆從レ之」。
(改換) 前に同じ。○〔魏收〕「—二—朝章一」。
(代換) 前に同じ。○〔顏氏家訓〕「皆須下得二其同-訓一以——之上」。
(更換) 前に同じ。○〔徐陵〕「侯-王——恨レ難レ勝」。
(移換) 前に同じ。○〔册府元龜〕「不レ得二輒議二——」。
(偸換) すかし取りかふ。○〔大唐新語〕「此乳珍-異、恐爲二——一」。
(變換) 前に同じ。○〔白居易〕「——舊-村-隣」。
(添換) 足しまへをなし改む。○〔賈氏談錄〕「翻二破舊-文一、一無二——一」。
(推換) 移りかはる。○〔謝靈運〕「踐二寒-暑一以——」。
(萬金不換) 如何程の金錢ともとりかへざると、即ち愛着の念太しきといふ語。○〔墨經〕「凡墨日-用レ之一-歲纔滅二半-寸一——レ—」。

【揜】エン。衣檢切 琰
㊀さがし取る、もとむ。○〔揚雄〕「—索-取也、關-東曰レ—、關-西曰レ索」。
㊁おほふ、(覆)。○〔禮〕「誠之不レ可レ—如レ此夫」。
㊂困迫す、くるしむ、せまる。○〔禮〕「篤以不レ—」。
㊃疾く歸る貌にいふ字、はやし。○〔司馬相如〕「—-乎反レ鄉」。
㊄ほろぶ、ほろぼす、(滅)。○〔揚雄〕「滅也、吳-揚曰レ—」。
(盍揜) おほふ。○〔韓琦〕「出-征次-第、不レ可二—一—」。

【揞】アン、オン。烏感切 感
掩に同じ、覆ひ取る、手にておほふ。

【揝】サン、ソン。子感切 感
揞に同じ、手動く。

【揞】アン、オン。烏紺切 勘
手にて覆ふ、おほふ。

【揞】カン、コン。古暗切 勘
おほふ、(掩)。

【揞】アン、エン。於陷切 陷
抛つ、なげうつ、すつ(吳人の語)。

【揞】アン、エン。於咸切 咸
ほろぶ、ほろぼす、(滅)。○〔揚雄〕「滅也荊-楚曰レ—」。

【揞】エフ。益涉切 葉
えらぶ、(撰)。

【揟】ショ、ソ。新余切 魚
(い)水の沮を取る。
(ろ)魚を捕ふ、すなどる。

【揠】アツ、エチ。乙黠切 黠
或は、省きて、扎に作る。
ぬく、(拔)、一說に、草の心をぬくにいふ字。○〔孟〕「宋人有下閔二其苗之不一レ長而—レ之者上」。

【掔】ワン。烏貫切 翰
㊀うで、かいな、(腕)、一說に、手の後の節、うでぶし。○〔儀〕「設レ決麗二于—一」。
㊁にぎる、(握)。○〔揚雄〕「—握也」。

【握】アク、オク。乙角切 覺
㊀にぎる。
(い)五指を掌の內へ屈む。○〔莊〕「終-日—而手不レ挩」。
(ろ)五指を掌の內へ屈めて物を持つ。○〔詩〕「—レ粟出卜」。
(は)持つ。○〔揚雄〕「旦—レ權則爲二卿-相一」。
㊁にぎり。
(い)にぎると、にぎる程の量。○〔禮〕「宗-廟之牛角——」。
(ろ)手をかくる所、にぎる所。○〔儀〕「箭-籌長尺有レ—」。
㊂拳、にぎりこぶし。○〔陸游〕「汗沾二兩——一」。
㊃手裡、てのうち。○〔李白〕「金-圓滿レ—」。
㊄幄に通じ用ふ、たれぬの、とばり。○〔周〕「翟-車具レ面、維總有レ—」。
㊅支那古昔の算法上の名目。○〔漢〕「算-法用二竹-徑一-分長六-寸二-百七-十-一-枚二而成二六-觚一、爲二一——一」。
(一握) ひとにぎり、又、わづかばかりなるといふ語。○〔淮〕「卷レ之不レ盈二——一」。
(把握) にぎる。○〔淮〕「微而不レ可レ得二——一也」。
(吐握) 口に含みたるものをはき出だし結びかけたるかみの毛をにぎると、即ち、周公旦が士に接するに暇あらざりし故事よりひきてすべて士に接するとのいそがはしく切なるにいふ語。○〔黃滔〕「——承二謙-德一」。
(掌握) 手の內。○〔漢〕「海-內之命、斷二于——一」。
(捲握) 前に同じ。○〔元〕「——之物、足レ富二十-世一」。
(搖握) 手にて動かしもつ。○〔南〕「終常——」。

(秉握) にぎる、にぎり、てのうち、又、僅かばかりなることにいふ語。○〔譚錄誌〕「譯不レ過二——一、不レ足二以言一レ活」。
(垂握) 手にたれにぎる。○〔劉孝威〕「白羽徒——」。
(拳握) にぎりこぶし。○〔徐陵〕「其外人所レ見者——」。
(提握) たづさへ持つ。○〔高適〕「——動二若響一」。

【握】チク。烏谷切 屋
㊀局られて小さき貌にいふ字。○〔漢〕「委瑣—-齪」。
㊁そなへ、そなふ、(具)。○〔爾〕「—具也」〔註〕「主-持辨レ具也」。

【握】オウ、ウ。於候切 宥 —或は、經に作る。
喪葬に死者の手を束ぬる綦。○〔儀〕「設レ—乃連レ擘」。

【揢】カク、キヤク。乞格切 陌
手に把る、にぎる、さる。

【揢】カ、ケ。丘加切 麻
こぎる、(扼)。

【揢】カ、ケ。丘駕切 禡
さる、もつ、(持)。

【挍】カウ、ケウ。古巧切 巧
㊀物に接す、まじふ、まじはる。㊁もさる、(戾)。

【揳】エツ、エチ。伊決切 屑
目を抉る、くじる、一說に、取の字の譌り。

【⿰扌炭】タン。他干切 寒 他案切 翰

擊—は、宛轉す、めぐる。

【揣】スヰ。楚委切 紙
㊀はかる。
(い)量度す。○〔左〕「計二丈-數一—二厚-薄一」
(ろ)察して定む、さだむ。○〔鬼谷〕「善用二天-下一者、必—二諸-侯之情一」。
(は)試み ためす。○〔蜀〕「楊-儀令三禕往—二延意-指一」。
㊁のぞく、(除)。
(鈎揣) 出しつりはかる。○〔唐〕「善——二人-主意一」。
(研揣) きはめはかる。○〔唐〕「——二聲-音一」。
(磨揣) 前に同じ。○〔白居易〕「世-務輕——」。
(究揣) 前に同じ。○〔蔡襄〕「蓄レ兵過レ制、孰二與——一」。

【揣】セン。樞絹切 霰
前條の㊀の(い)に同じ。

【揣】タ。丁果切 哿
うごかす、(搖)。

【揣】スヰ。朱惟切 支 主𣖾切 紙
むちうつ、(捶)。○〔老〕「—而銳レ之」。

【揣】タン、ダン。徒官切 寒
聚まる貌にいふ字。○〔馬融〕「冬雪—封二其枝一」。

【揤】ショク、シキ。節力切 職
つかむ、(捽)。

【揤】シツ、シチ。秦悉切 質
のごふ、(拭)。

【捰】ホウ、フ。方荷切 有 —或は、掊に作る。

衣服の上より擊ち叩く、うつ。

【⿰扌室】チツ。陟栗切 質 —挃に通じ作る。
つく、(擣)。

【⿰扌韋】ヰ。羽鬼切 尾
逆さまに追ふ、おふ。

【⿰扌韋】揮に同じ。

【搜】ソウ、ス。祖叢切 東
㊀手にて打つ、うつ。㊁かぞふ、(數)。

【⿰扌奎】ケイ、ケ。傾畦切 齊 —或は、剄に作る。
㊀鉤に中たる、かゝる、あたる。
㊁刲に同じ、さく。○〔儀、註〕「離猶レ—」。

【揥】テイ、タイ。丑例切 霽
㊀髮を摘なふるに用ふる物、かうがい。○〔詩〕「象之—也」。
㊁すつ、(捐)。○〔陸機〕「意徘-徊而不レ能レ—」。

【揥】テキ、チヤク。他歷切 錫
㊀たはむる、(戲)。㊁とる、(取)。

【揥】テイ、タイ。都黎切 齊
指さす、さす。

【揧】ラツ、ラチ。郎達切 曷
さぐ、みがく、(研)。

【揨】タウ、チヤウ。除耕切 庚
㊀ふる、(觸)。㊁つく、(撞)。

【揩】カイ、ケ。丘皆切 佳
摩拭す、のごふ、する。○〔張衡〕「—二枳-落一、突二棘-藩一」。
(磨揩) すりみがく。○〔孟郊〕「乞レ墨潛——」。
(淨揩) 清く拭ひ去る。○〔楊萬里〕「——白-髮拂二黃-塵一」。

【揩】カイ、ケ。苦戒切 卦
㊀排—は、強く突く、つく。
㊁揩に通じ用ふ、鼓の名。○〔唐〕「龜-茲-部有二羯-鼓—-鼓腰-鼓一」。

【揩】カツ、ケチ。訖黠切 黠
敔に同じ、樂を止ごむるときに用ふるすり鳴らす樂器。○〔禮〕「拊-搏玉-磬—-擊」。

【揪】揫に同じ。

【揫】シウ、シユ。將由切 尤
つかぬ、(束)、をさむ、(斂)、あつむ、(聚)、一說に、細く物をさむろにいふ。○〔馬融〕「—二斂九-藪之動-物一」。
(斂揫) をさむ。○〔王逢〕「斐-趙亦——」。

【⿰扌癹】撥に同じ。

【揬】トツ、ドチ。佗沒切 月
突き當たる、ふる、(觸)。

【揭】ケツ、ゲチ。渠列切 屑
㊀かゝぐ。
(い)高く擧ぐ、あげ挑ぐ。○〔元好問〕「幾-度春-風—二繡-簾一」。
(ろ)表し示す。○〔癸辛雜識〕「徧牒二諸-路一、昭—二通-衢一」。
(は)擧げて竪つ。○〔漢〕「—レ竿爲レ旗」。

(に)かゝげ起こす。〇[詩]「維北有レ斗、西柄之ー」。
㊁竪立す、たつ、そばだつ、又、其の貌にいふ字。〇[張衡]「豫-章珍-館ーー爲中峙」。
㊂あがり起こる、又、其の貌にいふ字。〇[戰]「辱ー者其齒寒」。
㊃になふ(擔)、おふ(負)。〇[戰]「馮-煖于レ是乘二其車一、ー二其劍一」。
㊄表標、志るし。〇[郭璞]「峨-嵋爲二泉-陽之ー一」。
㊅ながし(長)。〇[詩]「葭-菼ーー」。
㊆蹶く貌にも根を見はす貌にもいふ字。〇[詩]「顚-沛之ー」。
(擔揭) 荷なひ負ふ。〇[史]「ーーー而去」。
(負揭) 前に同じ。〇[梁簡文帝]「ー二ー光-景一」。
(表揭) 人目に觸れしめんとてあらはしかゝぐ、又、志るし。〇[宋]「ー二ー門-閭一」。
(旌揭) 前に同じ。〇[丁謂]「志二韓-門一而ーーー」。
(昭揭) あきらかにかゝぐ。〇[王緯]「ーーー如二日-星一」。
(邪揭) 旗竿の立てる貌にいふ語。〇[甘泉賦]「夫何旟-旐ーー之旖-旎也」。
(揚揭) あげあらはす あがり起こる。〇[劉禹錫]「ー二ー于道州一云」。
(標揭) 目志るしとしあぐ又、め志るし。〇[杜牧]「ーーー峙-脩」。
(掀揭) あぐ。〇[沐璘]「錦-幄風ーーー」。
(揭々) 物の拔けんとする貌にいふ語。〇[淮]「揠二其ーーー」。

【揭】ケツ、ゲチ。渠謁切 [月]
㊀前條の㊁の(い)(ろ)及び㊃㊄に同じ。
㊁偈に通じ用ふ、車の疾かなる貌にいふ字、はやし。〇[韓詩外傳]「匪二車之ー一兮」。

【揭】ケイ。去例切 [霽]
かゝぐ。
(い)前々條の㊀の(い)(ろ)に同じ。

(ろ)衣の裾を捲き上ぐ、からぐ。〇[詩]「淺則ー」。
(厲揭) 水を渉るに裳をかゝぐ。〇[劉秦美新]「俟-衛ーー」。
(小揭) 僅かばかり裳をかゝぐ。〇[蘇軾]「脫レ屣放ーー」。

【⿰扌革】カク、キヤク。各核切 [陌]
あらたむ(改)。〇[楊雄]「逢-遭並合ー二繫其名一」。

【揮】キ。吁韋切 [微]
㊀ふるふ。
(い)振る、動かす、はたらかす。〇[韓愈]「ーレ刀紛-紜、爭二刌-膾-脯一」。
(ろ)散らす。〇[戰]「ーレ汗成レ雨」。
(は)麾く、さしづ。〇[梁元帝]「抽レ戈而ー、皎-日爲レ之退-舍」。
(に)灑ぎ棄つ、そゝぐ。〇[禮]「執二玉-器一者弗レー」。
㊁さしづばた(麾)、志るしばた(幡)。〇[張衡]「戎-士介而揚レー」。
(指揮) さしづ。〇[宋]「三-朝政-錄ー二ー一-事一」。
(布揮) 敷き散らす。〇[莊]「ーー而不レ曳」。
(素揮) 白き地色の旗。〇[陳琳]「揚二ーー一而啓二降-路一」。
(初揮) はじめて動き出だす。〇[梁簡文帝]「蛺-蝶ーー」。
(毫揮) 筆もて書くこと。〇[李白]「ーー魯-邑訟」。
(錯揮) 交も振り動かす。〇[杜甫]「ーー鐵-如-意」。

【揮】クン。吁運切 [問]
ふるふ(奮)。

【揮】コン、ゴン。胡昆切 [元]
ー掄は、全うして破れざること。

【揯】コウ。居層切 [蒸] 古鄧切 [徑]
引く急し、きびし。〇[淮]「大-弦ー則小-弦絕」。

【⿰扌衍】エン。以淺切 [銑] イン。余忍切 [軫] 羊進切 [震]
舒布す、のべしく。

【⿰扌直】サ。千箇切 [箇]
のごふ(拭)。

【⿰扌冒】バウ、モウ。莫到切 [號]
㊀手にて扶く、たすく。㊁あたる(抵)。
ー或は、戢に作る。

【揰】ショウ、シュ。昌用切 [宋]
推擊す、おしうつ。

【揰】チョウ、ヂュ。都隴切 [腫]
㊀前に同じ。㊁すつ(棄)。

【揱】サク、ソク。色角切 [覺]
人の臂の細長く好き貌にいふ字。

【揱】セウ。相邀切 [蕭]
㊀前條に同じ。
㊁殺げて小き貌にいふ字。〇[周]「望二其輻一、欲二其ーー爾而纖一也」。

【揱】シャク。息約切 [藥]
削ぎて小くす、そぐ。

【揱】サウ、セウ。所教切 [效]
㊀前々條に同じ。㊁槊に同じ。

【揱】サン、ソン。師咸切 [咸]
摻に同じ。

【揲】セツ、ゼチ。食列切 [屑] エフ。與涉切 テフ、デフ。徒協切 [葉] タフ、デフ。直甲切 [洽]
㊀閱し持つ、かぞへもつ、もつ。〇[史]「ーレ荒爪レ幕」。
㊁度り數ふ、持ち數ふ、かぞふ。〇[易]「ーレ之以レ四、以象二四-時一」。

【揳】セツ、セチ。先結切 [屑]
㊀擑ーは、方正ならざること。㊁ひねる(撚)。㊂ふさぐ(塞)。㊃拭ひ滅す、のごふ。

【揳】ケツ、ケチ。奚結切 [屑]
絜に同じ、はかる。〇[荀]「不レ揣レ長、不レーレ大」。

【揳】カツ、ケチ。訖黠切 [黠]
ー戛に同じ。
擊ち持つ、もつ。〇[史]「趙-女鄭-姬設二形-容一ー二鳴-琴一」。

【揳】
擊に通じ用ふ、うつ、たゝく。〇[後漢]「尙-書近-臣至四乃捶二ー一牽三曳於前一」。

【揻】
撼の本字。

【援】エン、ヲン。于元切 [元]
㊀ひく。
(い)引き取る。〇[爾]「猱-蝯善ー」。
(ろ)拔く。〇[荀]「不-肖者敢ー而廢レ之」。
(は)扶く。〇[孟]「子欲三手ー二天-下一乎」。
(に)牽き持つ、とりつく、すがる、よづ。〇[禮]「在二下-位一不レーレ上」。

㊁刃の直くして上に向かへるを。○〔周〕「戈廣二寸、一四レ之」。
（攀援）（い）たのみにす。○〔漢〕「欲相一一一」。（ろ）よぢのぼる。○〔莊〕「烏鵲之巢、可ニ一一而闚一」。
（攫援）つかみ引く。○〔淮〕「一一摽拂」。
（蘇援）さがしひく。○〔淮〕「一ニ一世事一」。
（引援）ひく。○〔莊〕「一一而飛、迫脅而棲」。

【援】エン、チン。于眷切 霰
ひき持つを、とりつく所、親接するもの、たすけ、救助。○〔國〕「爲ニ四隣之一一結ニ諸侯之信一」。
（戚援）親類の引き合ひ。○〔南〕「旁無ニ一一一」。
（拜援）嫁娶のとより得たるたすけ。○〔左、註〕「鄭忽失ニ齊一一、以至ニ出奔一」。
（隣援）國又は家のとなりのたすけ。○〔陸贄〕「義則一一一」。
（託援）たより助け。○〔黨全〕「一一交情重」。
（貝援）よき助け。○〔孫魴〕「欄檻爲ニ一一一」。

【援】エン、チン。于願切 願
引き持つ、ひく、よづ、とりつく。○〔國〕「侏儒不レ可レ使レ一」。

【援】クワン、グワン。胡玩切 翰
怑一は、順はず、一説に、拔扈。

【搵】
擫に同じ。

【揵】ケン、ゲン。渠焉切 先
肩に物を擧ぐ、あぐ、になふ。○〔後漢〕「一ニ弓鞬九鞬一」。

【揵】ケン、ゴン。巨偃切 銑
㊀あぐ、あがる（擧）。○〔司馬相如〕「一レ鰭掉レ尾」。「芝兮」。
㊁たつ（竪）。○〔張衡〕「左ニ青瑚一以一レ

㊂とづ（閉）、ふさぐ（塞）。○〔莊〕「將ニ外一一」。
㊃門戶を閉づるに用ふるもの、とざし。○〔老〕「善閉無ニ關一一」。
㊄水の決する口を塞がん爲め其の處に竹をまじへ樹てゝ其の中に草を滿たし更に土をもて塡むるものゝ稱。○〔漢〕「塞ニ瓠子決河ニ、下ニ淇園之竹一以爲レ一」。
㊅封界を立つ、さかふ、一說に、まじふ（接）。○〔漢〕「梁起ニ於新鄴以北一、著ニ之河淮陽一、包ニ陳以南一一ニ之江一」。
㊆かたし（難）。

【揵】ケン、ゴン。丘言切 元
前條の㊀に同じ。○〔詩〕「蠆尾末一一然」。

【撴】チ。陟利切 寘
㊀さす（刺）、一說に刺してわづかにさゞく。
㊁財を劫す、かすむ、一說に、うつ（摶）。

【撴】チ。陟侈切 紙
㊀前條に同じ。
㊁いたる（至）。○〔揚雄〕「洪臺嶇其獨出兮、一ニ北極之嶟々一」。
㊂さす（指）。㊃つく（挃）。

【摕】テイ、ダイ。都計切 霽
兩手にて急しく人を持つ、もつ、とらふ。

【揬】アウ、エウ。於絞切 巧
㊀くじく（拉）。㊁ねづ（拗）。

【撰】
撰の本字。

【拊】フ、ブ。逢無切 虞
てのひら（手掌）。

【挨】アイ。乙諧切 佳
㊀おす（推）、又、うつ（擊）。
㊁背負ふ貌にいふ字、せおふ。

【挪】
挪に同じ。

【捼】ダ、ナ。泥多切 歌
木の茂りて、盛んなる貌にいふ字、さかんなり。

【捍】セン。荀緣切 先
ねづ（捩）。

【掠】アン。羊安切 寒
種を掠む、かすむ。

【拾】ラフ、ロフ。郎合切 合
摧折し拗づ、くじく、ねづ。

十畫

【揩】カイ、ゲ。戶佳切 佳
㊀はさむ（挾）。
㊁たすく（扶）。

【揳】ケイ、ガイ。胡計切 霽
換ふ（抗越の間の語）。

【揳】ケイ、ガイ。戶禮切 薺
かゝぐ（揭）。

【搆】コウ、ク。古候切 宥
搆の字の條を見よ。

【搆】コウ、ク。居侯切 尤
ひく（牽）。

【搇】キン、コン。丘禁切 沁
おさふ（按）。

【搈】ヨウ、ユ。尹竦切 腫
うごく（動）。

【搈】ヨウ、ユ。餘封切 冬
安からず、あやふし。

【搌】テン。丑善切 銑
うつ（擊）。

【搉】カク、コク。克角切 覺
㊀たゝく（敲）、うつ（擊）。○〔漢〕「高后支ニ斷戚夫人手足一、一ニ其眼一以爲ニ人彘一」。
㊁ひく（引）。○〔漢〕「揚ニ一古今一」。
㊂はかる（商）。○〔莊〕「可レ不レ謂レ有ニ大揚一一乎」。
㊃權に通じ用ふ、專有す、もっぱらにす、ほしいまゝにす。○〔唐〕「一レ利借レ商、進奉獻助」。
（商搉）善惡をはかり定む。○〔北〕「一ニ一古今一」。
（硏搉）究めはかる。○〔唐〕「極レ思一一」。「一一」。
（明搉）あきらかにはかる。○〔程琳子〕「無レ容ニ一

【搉】クワク。忽郭切 藥
搉に同じ、手を反覆す、ふるふ、かへす。

【揗】シュン。思尹切 軫
こばむ（拒）。

【揗】シュン。息倫切 眞

えらぶ、(擇)。

【搊】シウ、ス。初尤切 [尤]
㊀五指にて拘る、さらふ、さろ、つまむ。○〔熊朋來〕「立ーー臥-摘」。
㊁手にて彈ず、はじく、ひく、つめびき。○〔唐〕「樂-工裴-神-符初以レ手彈、後-人習爲レー二琵-琶一」。

【搊】シウ、側九切 [有]　ス。
或は、𢭃に作る。
㊀もつ、(持)。㊁扇の別名、あふぎ。

【搊】ス。莊俱切 [虞]
さく、(觪)。

【搧】セン。失冉切 [琰]
疾く動く貌にいふ字、さし、はやし。○〔潘岳〕「ー降レ丘以馳レ敵」。

【摙】ケン、ゴン。渠言切 [元]
㊀物を肩に擧ぐ、あぐ、になふ、かたぐ。
㊁互に訐告すあばく。
㊂相援く、たすく、ひく。

【摙】ケン、丘虔 [先]　カン、丘顏 [刪]
ゲン。切　ガン。切
ひく、(援)。

【搋】チ。丑豸切　イ。演爾切 [紙]
わかつ、(析)、又、ひく、(拽)。

【搋】摕に同じ。

【搋】タイ、テ。丑佳切 [佳]
拳を人に加ふ、うつ。

【搌】テン。知輦切 [銑]
㊀のぶ、(展)。㊁つかぬ、たばぬ、(束)。

【搌】テン。陟扇切 [霰]
㊀まく、(捲)。㊁のごふ、(拭)。

【損】ソン。鎖本切 [阮]
㊀へる、へす、(減)。○〔史〕「有下能增二ーー一字一者、上予二千-金一」。
㊁うす、うしなふ、(失)。○〔晉〕「不レ過レ費二ーー日-月之閒一」。
㊂おつ、おさす、(貶)。○〔晉〕「執レ政常自退ーー」。
㊃そこなふ、やぶる、(傷)。○〔吳〕「勞二ー聖-慮一」。
㊄易の卦、☶☱ 兌下艮上 ○〔易〕「ー有レ孚吉」。

(酌損) はかりて減らす。○〔易〕「ー二ーー之一」。
(減損) へる、へす。○〔易、疏〕「損者ーー之名」。
(虧損) かけへること。○〔趙抃〕「明月幸無二ーーー處一」。
(降損) おつ、おとす、へす、へる。○〔傅亮〕「ー二ーー盛-制一」。
(貶損) 前に同じ。○〔史〕「推二此類一、以繩二當-世ーー之義一」。
(耗損) そこなひ減る、そこなひへす、へる、へす。○〔左〕「人-民ーー」。
(加損) 增すとへらすと。○〔宋〕「千-金之物、所二ーー不レ過二銖-兩一而移焉」。
(增損) 前に同じ。○〔典畧〕「覓不レ能二ーーー一」。
(抑損) おさへて放恣なることをせぬ。○〔史〕「其後夫自ーーー」。
(挹損) 前に同じ。○〔魏〕「彌自ーーー」。
(傷損) やぶりそこなふ、やぶれそこなふ。○〔杜甫〕「大-魚ーーー皆垂レ頭」。
(謙損) 高ぶらざること。○〔晉〕「公遠踏ーーー」。
(沖損) 前に同じ。○〔顏氏家訓〕「謙-虛ーーー」。
(退損) 前に同じ。○〔晉〕「執-政常自ーーー」。
(約損) つゞまやかにし減らす。○〔晉〕「ーーー以示二單-儉一」。
(削損) けづりへらす、けづれへる。○〔晉〕「先自ーーー也」。
(衰損) おとろふること。○〔南〕「疾-患以-來、漸就二ーーー一」。
(銷損) そこなふ。○〔南〕「自ーーー、猶無レ益」。
(毀損) 前に同じ。○〔南〕「猶奇ーーー」。
(瘆損) なえそこなふ。○〔南〕「樹爲レ之ーーー」。
(裁損) たち減らす。○〔宋〕「宜二一-切ーーー一」。
(蠲損) 除き減らす。○〔宋〕「ー二ーー繒-錢一」。
(阻損) はゞみそこなふ。○〔宋〕「ー二ーー國-威一」。
(折損) くじき傷る。○〔易林〕「ー二ーー轅-軸一」。
(失損) うしなふ、そこなふ。○〔大戴禮〕「戰-々唯恐レー二ーー之一」。
(侵損) 犯しそこなふ。○〔釋名〕「ー二ーー事-功一也」。
(撲損) 打ちそこなふ。○〔桐譜〕「無二ーーー之患一矣」。
(遺損) わとしそこなふ。○〔王褒〕「江離兮ーーー」。
(瘦損) やせ衰ふること。○〔蘇軾〕「輕-寒ーーー一-分肌」。

【揁】サ。蘇果切 [哿]
㊀揣擊す、むちうつ、一說に、うごかす、(動)。

【揤】セツ、セチ。先結切 [屑]
物を挺き出だす、ぬく、一說に、かぞふ、(揲)。

【搩】サク、シャク。昔各切 [藥]
手にて物を摸す、さぐる。

【搩】サク、シャク。色窄切 [陌]
㊀えらぶ、(擇)。
㊁索に通じ用ふ、もさむ、さぐる。○〔揚雄〕「三以ーレ數」。

【摉】ソ、ス。桑故切 [遇]
暗に物を取る、さる。

【搎】ソン。蘇昆切 [元]
さぐる、(搽)。

【搕】カイ。柯開切 [灰]
ふる、(觸)。

【搏】ハク、ヒャク。伯各切 [藥]
㊀とる。
(い)捕らふ。○〔禮〕「孟-秋務ーー執」。
(ろ)攫み取る。○〔史〕「鑠-金百-鎰盜-跖不レー」。
㊁うつ。
(い)手のひらをひろげて擊つ、ひらでうち。○〔史〕「ーー二牛之蝱一」。
(ろ)たゝく。○〔魏〕「以レ履ーレ面」。
(は)うちて音聲を發す。○〔史〕「彈レ箏ーレ髀」。
(に)闘ふ、くみうち。○〔荀〕「是猶下烏-獲與二焦-僥一ー上也」。

(拊搏) 擊ちならす。○〔禮〕「ー二ーー玉-磬一」。
(攫搏) つかみとる、つかみうつ。○〔禮〕「鷙-蟲ーー、不レ程二勇-者一」。
(鑿搏) うつ、うちつかむ。○〔宣和畫譜〕「如レ畫二鷹-隼一、使二人見一レ之、則有二ーーー之意一」。
(手搏) 手もてうつ。○〔宋〕「ー二ーー猛-獸一」。
(徒搏) 手に器械を持たずしてうつ。○〔詩、傳〕「ーー一日二暴-虎一」。
(疾搏) 勢はやくうつ。○〔覇〕「ーーー者獲多」。
(捽搏) 頭を持ちて打ちたゝく、つかむ、つかみとらふ。○〔荀〕「詈-侮ーーー」。
(執搏) とらふ。○〔風俗通〕「能ーーー挫レ銳」。
(觸搏) 物と物とさはりうつ。○〔海賦〕「更相ーーー」。

【搏】フ、方遇　ホ、蒲故 [遇]
ホ。切　ブ。切
さらふ、(捕)。

【搷】ベン、メン。彌殄切 [銑]
封じぬる、ぬる、かさぬ。

【搘】セキ、シャク。秦昔切 [陌]
うつ、(擊)。

【搃】 ソウ、ス。損動切 [董]
おす、(推)。

【擿】 テキ、チヤク。他歷切 [錫]
㊀擿に同じ、かゝぐ。㊁きる、(伐)。

【搐】 チク、トク。敕六切 [屋]
牽制す、ひく、又動き痛む、いたむ。○[漢]「一-一二指―、身-慮亡レ聊」。

【搑】 ジヨウ、ニユ。乳隴切 [腫]
推し擣く、つく。

【搑】 ジヨウ、ニユ。如容切 [冬]
㊀前條に同じ。㊁をさむ、(收)。

【搑】 ダウ、ノウ。濃江切 [江]
㊀前條に同じ。㊁ふさぐ、(塞)。

【搑】
擃に同じ。

【搒】 ハウ、ヒヤウ。北孟切 [敬]
㊀舟を進む、こぐ、さす。○[廣韻]「――人船-人也」。㊁おほふ、(掩)。

【搒】 ハウ。補曠切 [漾]
㊀前條の解に同じ。㊁船を掉かして一たび歇む、とゞまる、やむ。

【搒】 ハウ、ヒヤウ。薄庚切 [庚]
㊀搒擊す、むちうつ、うつ。○[漢]「吏――笞數-千」。㊁相牽く、ひきあふ、ひく。
(械搒) かせを施し笞もて擊ちたゝく。○[陸龜蒙]「棘-束――」。
(敲搒) たゝきうつ。○[蘇軾]「漸恐煩二――一」。
(笞搒) むちうつ。○[吳寬]「更覺肩-背遭二――一」。

【搰】 コツ、クチ。胡骨切　コツ、クチ。苦骨切 [月]
手にて推す、おす。

【捆】 コン、ゴン。戸昆切 [元]　コン。古本切 [阮]
はさむ、(拑)。

【搓】 サ。七何切 [歌]
摩り挪む、もむ、よる。○[陸游]「柳細―難レ似」。
(挼搓) もむ。○[演繁露]「學者―二―之一」。

【搓】 サ。此我切 [哿]
邪めなる貌にいふ字、ゆがむ、かたぶく。

【搓】 サイ、セ。初皆切 [佳]
推し擊つ、うつ。

【搔】 サウ、ソウ。蘇曹切 [豪]
㊀爪にて摩す、爪にて刮く、なづ、こそぐ、かく。○[詩]「―レ首踟-躕」。㊁騷に通じ用ふ、さわぐ、さわがす。○[吳志]「所レ在―-擾、更爲二煩-苛一」。
(抑搔) おさへかく。○[禮]「敬―二―之一」。
(爬搔) かく。○[絶交書]「性復多レ蝨、――無レ已」。
(隔靴搔) くつを一重へたてゝ痒きところをかく、其の感ぜると薄く俗にいふはがゆき心地するより、物事の思ふがまゝならぬと、又、物足らぬとにもいふ語。○[詩話總龜]「詩不レ著レ題如二―レ――一レ痒」。
(麻姑搔) 麻姑てふ爪長き仙人の痒きところをかくと、其の痒きところによく手のとゞくより、思ひのまゝなるとにも、又、よく行きとゞくとにもいふ語。○[杜牧]「似レ倩二――一―癢處―」。

【搔】 サウ、セウ。側絞切 [巧]
蚤に同じ、つめ、つめきる。○[儀]「沐-浴櫛―翦」。

【搔】 サウ、ソウ。先到切 [號]
つかむ、(攫)。

【搕】 カフ、コフ。克盍切 [合]
㊀とる、(取)。㊁うつ、(擊)。

【搕】 アフ、オフ。烏合切 [合]
手にて覆ふ、おほふ。

【搖】 エウ。余招切 [蕭]
㊀うごく。
(い)附著する所なくして動く、ゆるぐ、ゆらめく、ゆる。○[荀]「水動而影―、人不三以定二美-惡一」。
(ろ)轉ず。○[漢]「天-星盡―」。
(は)騷ぐ。○[宋]「嶺-徼驚―」。
(に)おこる、(作)。○[漢]「將二―-擧一誰與期」。
㊁うごかしむ、ゆるがす、ゆらめかす、ゆる、うつす、さわがす、おこす、うごかす(㊀の條參照)。○[周]「夾而―レ之」。
㊂遙に通じ用ふ。○[禮]「負レ手曳レ杖消二―于門一」。
㊃步搖の略、かぶりもの、首飾。○[曹植]「戴二金―之熠-燿一」。
(搖々) ゆらゆら、憂ふる貌にも、亦危き貌にも、飛び移る貌にもいふ語。○[詩]「中-心――」。
(招搖) 星の名、北斗星の第七、一に搖光といふ。○[禮]「――在レ上」。
(扶搖) 暴風、はやて、あらし。○[爾]「――謂二之猋一」。
(步搖) 首飾、かぶりもの。○[釋名]「――上有二垂-珠一―則―」。
(漂搖) たゞよひ動く、たゞよはしうごかす。○[詩]「風-雨所二――一」。
(蕩搖) うごく、うごかす。○[左]「―二―我邊-疆一」。
(須搖) 須臾に同じ、しばらくの間。○[漢]「不レ留臨――」。
(鼓搖) 鳴らし動かす、うごかす。○[北]「―二―脣-舌一」。
(遷搖) うつし動かす、うごきうつる。○[舊唐]「妬-能忌レ功、―二―近-鎮一」。
(震搖) ふるひうごく、ふるひうごかす。○[唐]「羣-心――、衆-口籍-々」。
(扇搖) あふり動かす、あふりうごく。○[蘇軾]「或―二―機-事之重一」。
(傾搖) 勢をかたむけ動かす、かたむき動く。○[宋]「―二―大-臣一」。
(驚搖) おどろきうごく、又、おどろかし動かす。○[陳孚遠]「水-波忽――」。
(掣搖) ひきうごかす、ひきうごく。○[呂氏春秋]「從レ旁時―二―其肘一」。
(超搖) 安からざる貌にいふ語。○[述異記]「蹇――而無レ冀」。
(飄搖) 吹き揚がり動く、又、吹きうごかす。○[曹植]「――隨二長-風一」。
(摶搖) たゝき動く、又、うちうごかす。○[李白]「――直上九-萬-里」。
(亂搖) 順序なく動く、又、みたしうごかす。○[張詠]「汀-葦――寒-夜雨」。

【搗】 タウ、トウ。覩老切 [皓]
擣に同じ。

【搘】 シ。而支切 [支]
さゝふ、(捂)。○[唐]「初鳳-迦-異築二柘-東-城一、諸-葛-亮石-刻故在、文曰、碑即仆爲二漢奴一、夷畏レ警常以レ石―-捂」。

【搙】 ヂヨク、ノク。內沃切 [沃]
ひねる、(捻)。

【搙】 ダク、ノク。女角切 [覺]
おさふ、そむ、(搵)。

【搙】ドウ、ヌ。乃豆切 宥 さゝふ（拄）。

【搚】協に同じ。

【搚】拉に同じ、くじく、さりひしぐ。○〔公羊〕「――レ幹而殺レ人」。

【搚】ケン。虚欠切 豔 引き從ふ、したがふ。

【摙】レン、ロン。離鹽切 鹽 皺に同じ、鼓を打つ、つゞみうつ。

【搛】ケン、コン。堅嫌切 鹽 夾み持つ、もつ、はさむ。

【搋】ヘイ、篇迷切 齊 ベイ。ヘツ、ベチ。蒲結切 屑 ―或は、批に作る、通じて撆に作る。搋に作るは非なり。手を反らして撃つ、うつ。○〔嵆康〕「摟-―櫟-捋」。

【搋】ヒ。頻脂切 支 まろばす（轉）。

【搜】シウ、シュ。疎鳩切 尤 挍に同じ、もとむ、さぐる、さがす。○〔漢〕「閉二城-門一大―」。

〔冥搜〕心の中にてかんがへもとむ。○〔蒙齋筆談〕「卽伏二草-中一――」。
〔研搜〕みがきさがす。○〔江總〕「好事――」。
〔千搜〕くさぐにさぐりもとむ。○〔韓愈〕「――萬索何處有」。
〔徧搜〕ひろくもとむ。○〔李紳〕「遺-恭亦――」。
〔博搜〕前に同じ。○〔丁謂〕「――聖-書一」。
〔精搜〕くはしくこまやかにさぐる。○〔朱休〕「―二曲-謨一」。
〔窮搜〕いづこまでもさぐりもとむ。○〔范成大〕「――致二山-骨一」。

【搜】セウ。先彫切 蕭 サウ、ソウ。蘇曹切 豪 ソウ、シュ。蘇后切 有 動く貌にいふ字、うごく。

【搜】サウ、セウ。山巧切 巧 みだる（亂）。○〔韓愈〕「炎-風日――攪」。

【搽】ハ。蒲摩切 歌 聚斂す。

【搝】キウ、ク。去久切 有 手擧ぐ、かゝぐ、あぐ。

【搞】カウ、ケウ。丘交切 肴 敲に同じ、横に撾つ、うつ、たゝく。

【搞】カウ、コウ。口到切 號 相違ふ、たがふ。

【搟】ケン、コン。許偃切 阮 手を擧げて之に擬す、うちかゝる、うたんとす。○〔揚雄〕「麾レ城―レ邑」。

【搠】サク、ソク。色角切 覺 ぬる（塗）。

【𢹂】ヒ。攀糜切 支 皺に同じ、肉を剖く、さく、ほふる。

【搡】サウ。蘇朗切 養 うつ（搷）。

【搡】サウ。四浪切 漾 さゞむ（摐）。

【搢】シン。卽刃切 震 ㊀さしはさむ（插）。○〔禮〕「天-子―レ珽」。㊁ふるふ（振）。○〔國〕「挺レ鈸―レ鐸」。

【搢】セン、作甸切 霰 セイ、サイ。牋西切 齊 前條の㊀に同じ。

【搣】ベツ、メチ。亡列切 屑 ㊀手にて撃つ、うつ。㊁手にて拔く、ぬく。㊂する（摩）。㊃つかむ（捽）。

【搣】ケツ、ケチ。翾劣切 屑 齊整せざる者を去る、そろふ。○〔急就篇〕「沐-浴揃-―」。

【援】擕に同じ。

【搤】アク、ヤク。乙革切 陌 ㊀急しく持つ、しめ捉る、とる、もつ、とらふ。○〔史〕「―二天-下之肮一而拊二其背一」。㊁手に一ぱいに握る、にぎる。○〔史〕「莫レ不二―腕一」。

【搕】エツ、エチ。壹結切 屑 もつ（持）。

【搕】エイ、アイ。壹計切 霽 くじく（拉）。

【搕】アイ、エ。烏懈切 卦 にぎる（扼）。

【搥】タイ、デ。都回切 灰 あぐ（擿）、又、なげうつ（擲）。○〔揚雄〕「―二提仁-義一」。

【搥】ツヰ、ズヰ。直追切 支 たゝく、うつ（擊）。○〔唐〕「日未レ明四-刻―二―鼓一」。

【搦】ヂャク、ニャク。昵格切 陌 ヂョク、ニキ。女力切 職 ダク、ノク。女解切 覺 ㊀とる。（い）もつ（持）、にぎる（握）。○〔郭璞〕「舟-子於レ是―レ棹」。（ろ）とらふ（捕）。○〔錢俶〕「金-鳳欲レ飛遭二掣-―一」。㊁なづ（摩）、又、おさふ（按）。○〔班固〕「―レ朽磨レ鈍」。
〔捽搦〕とる。○〔唐〕「夬――者法也」。
〔掩搦〕かぶせとる。○〔唐〕「相鉤-逮―-―」。

【搈】擁に同じ。

【搧】セン。尸連切 先 式戰切 霰 うつ（批）。

【搨】タフ、トフ。德盍切 合 ㊀手にて打つ、うつ。㊁おほふ（冒）。㊂臨摹す、磨摹す、しきうつしす、する、うつす、又、其のうつせし帖、卽ち、いしずりの類。○〔宣和書譜〕「亦有二御-府――本一」。
〔摹搨〕文字をうつすこと、又、其の帖。○〔北〕「舒人多―二―之一」。
〔響搨〕字畫の輪郭をしきうつしして濃墨にて其の間を塡むること、又、其の帖。○〔何延之〕「故疑爲二――」。

駁辨」。
（傳搨）此れより彼れへとりたへする。○〔審泉〕世「所――」。
（寫搨）うつす。○〔審泉〕「鐫-刻――、丰傳-賞」。
（謄搨）前に同じ。○〔蘇軾〕「再留二――一矣」。
（硬搨）うつす。○〔翻訳〕紙浮二生色一供二――一。

【搩】ケツ、ゲチ。渠列切 屑
揭に同じ。

【搩】タク、チャク。陟格切 陌
手にて物を度る、はかる。

【搪】タウ、ダウ。徒郎切 陽
㊀はる、（張）。㊁突く、ふれつく。○〔王安石〕「千-里相――挨」。

【搫】ハン、バン。蒲官切 寒
㊀――擭は、正しからず。㊁のぞく、はらふ、（除）。

【搫】ハ、バ。蒲波切 歌
㊀前條の㊁の解に同じ、○〔潘岳〕「――レ場拄レ𦇧」。㊁拔き散ず、ちらす。㊂斂め聚む、をさむ。

【搬】
搫の字の重文、又、俗音般、うつす、ひろぐ。○〔夢溪筆談〕「――運之勞」。

【搭】タフ、トフ。德合切 合
㊀うつ、たゝく、（擊）。㊁つく、（附）、かく、（挂）。○〔韓偓〕「夜深斜――秋-千索」。㊂搨、搨に同じ、するうつす、○〔梅堯臣〕「韓-幹馬-本摸――時、神-駿都失存二毫-釐一」。
（肩搭）かたにかく。○〔林逋〕「――二道-衣一歸」。
（蹾搭）足もてかゝり附く。○〔孟郊〕「――猿相過」。

【搮】リツ、リチ。力質切 質
手にて物を理む、をさむ、わかつ。

【搯】タウ、トウ。他刀切 豪　｜搯と別なり。
㊀掐き抒だす、さりだす、さる、ぬく、かいぐ。○〔韓愈〕「鉤-章棘-句――二擢胃-腎一」。㊁たゝく、（叩）。○〔馬融〕「――レ膺擗-摽」。

【搰】コツ、クチ。胡骨切　コツ、コチ。古忽切 月　｜俗に、搰に作るは非なり。
㊀ほる、（掘）、あばく、（發）。○〔國〕「狐埋レ之、而狐――レ之」。㊁みだる、（亂）、又、にごす、（濁）。○〔呂氏春秋〕「水之性清、土者――レ之」。㊂力を用ふる貌にいふ字、はたらく。○〔莊〕「――-然用レ力甚多而見レ功寡」。

【掆】カウ、コウ。古雙切 江
扛に同じ、かく、あぐ。○〔晉〕「大-駕鹵-簿有二――鼓一」。

【掬】キク、コク。居六切 屋
つまむ、（撮）。

【搱】チ、ヂ。直利切 寘　｜雉に通じ作る。
樗蒲（ばくえき）の采。

【搲】ワ、エ。烏瓜切 麻
手にて物を捉る、さる。

【搲】ワ、エ。烏瓦切 馬
手にて物を爬く、かく、（吳の俗語）。

【搲】ワ、エ。烏化切 禡
牽挽す、ひく、（吳の俗語）。

【搳】カツ、ゲチ。胡秸切　カツ、ケチ。丘瞎切 黠
こそぐ、（搗）、かく、（搔）。

【搻】ダフ、ナフ。奴答切 合　｜或は、抐に作る。
うつ、（打）。

【搴】ケン。丘虔切　セン。巳仙切 先　ケン。九件切 銑
引き取る、拔き取る、さる、ぬく、ひく、かいぐ。○〔漢〕「身履レ軍――レ旗者數矣」。
（拔搴）ぬく。○〔七諫〕「搴二太阿一――」。

【搵】ヲン。烏困切 願
水に沒し入る、ひたす、ぬづむ、ぬづめて指頭にて按ふ、おさふ、そむ。○〔子虛賦、註〕「焠亦――染之義」。

【搵】ヲツ、ヲチ。烏沒切 月
手にて水中の物を撩る貌にいふ字、又、前條に同じ。

【搵】ウン、ヲン。於粉切 吻
さゝふ、（拄）。

【搵】ウン、ヲン。於云切 文
ぬづむ、（沒）。

【搵】ビツ、ミチ。覓畢切 質
のごふ、（拭）。

【肇】
俗の肇の字。

【𢷬】ホン、ボン。蒲本切 阮
くるまのおほひのほれ、（車-弓）。

【搶】シャウ、サウ。千羊切 陽
㊀つく、（突）、又、こばむ、（拒）。○〔戰〕「以レ頭――レ地耳」。㊁飛び掠む、かする、又、あつまる、（集）。○〔莊〕「決-起而飛二――楡-枋一」。

【搶】シャウ、サウ。此兩切 養
㊀つく、（突）。㊁つく、（著）。㊂爭ひ取る、さる。

【搶】サウ、シャウ。鋤庚切 庚
みだる、（亂）。○〔漢〕「國-制――攘」。

【搶】サウ、シャウ。楚耕切 庚
欃――は、彗星、はゝきぼし、わざはひぼし。○〔司馬相如〕「攙二欃――一以爲レ旌」。

【搶】シャウ、サウ。此亮切 漾
帆を風に上ぐ、ほあぐ。○〔庾闡〕「艇-子――レ風」。

【搷】テン、デン。徒年切 先
㊀なげうつ如き勢にて急に擊つ、うつ。○〔楚辭〕「竽-瑟狂-會――二鳴-鼓一」。㊁ひく、（引）。㊂あぐ、（揚）。

【搷】
伸に同じ。

【搸】シン。緇詵切 眞

㊀あつむ、あつまる（聚）。㊁琴瑟の聲にいふ字。

【搹】アク、ヤク。乙革切　カク、キヤク。古核切　陌　（或は、㧖、扼に作る。）にぎる、にぎり（把）。○〔儀〕「苴-絰大-一」。

【携】俗の攜の字。

【𢱢】俗の昇の字。

【㩉】搿に同じ。

【擛】エフ。弋涉切　葉　揲に同じ、箕舌。○〔管〕「執レ箕膺レ一、厥中有レ帚」。

【㨨】抽の字の籒文。

【㨘】シン。子鴆切　沁　深く堀る、ほる。

【搥】ツヰ、ヅヰ。直追切　支　うつ（打）。

【捧】拳に同じ。

【擮】セツ、ゼチ。情雪切　屑　たゆ、たつ（絕）。

【摁】エン、オン。於元切　元　かゞむ（屈）。

十一畫

【摋】サツ、サチ。桑葛切　曷　㊀手を側てゝ撃つ、うつ。○〔公羊〕「宋萬臂-一二仇-牧一」。㊁掃ひ滅す、けす、又、揮ひ散らす、はらふ。○〔韓愈〕「惟其大翫二於辭一、而與レ世抹-一」。

【摋】サツ、セチ。山戛切　黠　うつ（擊）。

【摋】サイ、セ。師駭切　蟹　擺-一は、はらひすつ（抖擻）。

【摋】セツ、セチ。私列切　屑　㊀うつ（擊）。㊁くさび（楔）。

【𢸑】ヰ。紆胃切　未　手をもて物を布く、しく。

【摌】サン、セン。所簡切　潸　捍-一は、手を以て物を動かす、うごかす、又、手にて物を精しく擇る、えらぶ、又、とゞむ（止）。

【摌】ソン、ゾン。所恨切　願　ふるふ（揮）。

【摍】シユク、ソク。所六切　屋　ひく（引）、ぬく（拔）。○〔詩、傳〕「放二乎且一而蒸-盡、一レ屋而繼レ之」。

【摎】キウ、ク。居尤切　尤　（或は、抖に作る。）㊀くゝる（絞）。○〔儀〕「殤之絰不レ一レ垂」。㊁もとむ（求）。○〔張衡〕「一二天-道一其焉如」。

【摎】リウ、ル。力求切　尤　㊀つかぬ（束）。㊁さる（捋）。

【摎】カウ、ケウ。古肴切　肴　つかぬ（束）、めぐる（繞）、まとふ（纏）、むすぶ（結）。○〔漢〕「天雨レ草而葉相一-結、大如二彈-丸一」。

【摎】ラウ、レウ。力交切　肴　相交はる、まじはる、まつはる。○〔管〕「朋-友不レ能二相合-一一」。

【摎】レウ。離昭切　蕭　おさふ（擣）。

【摎】カウ、ケウ。古巧切　巧　さがす、もとむ（搜-索）。

【摎】ダウ、ヂウ。女巧切　巧　みだる（擾）。○〔揚雄〕「死-生相一」。

【摏】シヨウ、シユ。書容切　冬　（又、舂に作る。）つく（衝）、たゝく（撞）、うつ（擣）。○〔左〕「一二其喉一以レ戈」。

【摐】サウ、ソウ。楚江切　江

【摐】シヨウ、シユ。七恭切　冬　㊀つく（撞）。○〔司馬相如〕「一二金-鼓一吹二鳴-籟一」。㊁みだる（撩）。○〔揚雄〕「喬-木維-一、飛-鳥過レ之或降」。〔捽摐〕さゝへ撞く。（〔韓維〕「短-鈎長-鋌相一-一」。）〔舂摐〕撞きみだる。（〔貢師泰〕「懸流晝夜相一-一」。）

【𢷬】サウ、ザウ。在到切　號　手にて攪す、かきみだる。

【掔】ケン、ゲン。五堅切　先　さぎやぶる（掔-破）、する（摩）。

【𢷾】コ、グ。後五切　麌　抲-一は、理に順はずして憚らざると。

【𢷾】コ、グ。呼誤切　遇　濩に通じ用ふ、敷き施す、しく。○〔路史〕「禮-用相權、獮-綸布-一」。

【𢹦】トウ、ツ。當侯切　尤　㊀うつ（批）。㊁さる（搵）。

【摣】シヤ、セ。七夜切　禡　めに捂ふ、さゝふ。

【摑】クワク。古獲切　カク、キヤク。古伯切　陌　㊀手のひらにて打つ、うつ。○〔避暑錄話〕「一二其口一」。㊁耳を掌にて打つ、みゝうつ。

【㩆】擴に同じ。

【𢷹】コン、ゴン。古困切　願　めぐらす、めぐる（轉）。

【摒】ヘイ、ヒヤウ。卑正切　敬　はらふ、のぞく（除）。

【摓】ホウ、ブ。符容切　冬　㊀縫に同じ、さす、ぬふ。○〔集韻〕「以レ鍼一レ衣」。㊁逢に同じ。○〔莊〕「一-衣淺-帶」。

㊂搒に通じ用ふ、さゝぐ。○〔史〕「—レ策定レ數灼レ龜觀レ兆」。

【摓】ホウ、フ。符中切 東 前條の㊂に同じ。

【摔】シュツ、シュチ。山律切 質 地に棄つ、すつ。

【摕】テイ、タイ。丁計切 霽 タイ。當蓋切 泰 撮み取る、つまむ。

【摕】テツ、デチ。徒結切 屑 捎め取る、かすむ。○〔張衡〕「超ニ殊-榛一—ニ飛-鼯一」。

【摕】トツ、ドチ。陀没切 月 うつ、（擊）。

【擦】セイ、サイ。七計切 霽 挑げ取る、さる。

【擦】サツ、セチ。初戞切 黠 おす、（推）。

【擲】ソウ、ス。速侯切 尤 —或は、捒に作る。さる、（取）。

【擻】ソウ、ス。損動切 董 —或は、駷に作る。馬の銜（くつわ）を搖かして走る、はしる。

【擙】アウ、エウ。於教切 效 㑃に同じ、もさる、（很-戾）。

【摘】テキ、チヤク。他歷切 錫 ㊀ひろふ、（拓）。○〔陶弘景〕「三—ニ靈-桃一」。㊁指さし示す、さす。○〔傅毅〕「—ニ齊行-列一」。㊂挑發す、あばく、かゝぐ。○〔漢〕「發レ姦—レ伏」。㊃うごかす、（動）。○〔元稹〕「兼去—レ船行」。
〔持摘〕もちうごかす。○〔釋名〕「手-戟手所ニ—-—一之戟也」。
〔搭摘〕集めひろふ。○〔文心雕龍〕「—ニ—千-里一、共僞一矣」。
〔刊摘〕版木に上せかゝぐ。○〔蔡邕〕「包ニ洞典-籍一、—ニ—沈-祕一」。
〔抉摘〕かゝぐ。○〔陸龜蒙〕「—ニ—微-旨一」。
〔討摘〕尋ねかゝぐ。○〔羅隱〕「—ニ—奥-寰一、不レ由ニ子-師一」。
〔搜摘〕探がしひろふ。○〔韓維〕「縛-訓詁ニ—-—一」。
〔譏摘〕非行を誹り發く。○〔蘇轍〕「吽-嚬叢ニ—-—一」。

【摘】タク、チヤク。竹厄切 陌 指先にて取る、つまむ、つむ。○〔唐〕「一—使ニ瓜好一、再—令ニ瓜稀一」。
〔招摘〕爪もてかきとる。○〔顏氏家訓〕「惟以ニ—-—供レ厨」。
〔採摘〕取りつまむ。○〔李益〕「—-—愧ニ芳-鮮一」。
〔掠摘〕手もて取りつまむ。○〔元稹〕「—-—芳-情遍」。

【搖】搖に同じ。

【摙】レン。力展切 霰 ㊀肩にかけて運ぶ、になふ、おふ、はこぶ。○〔南〕「以レ錢買ニ井-水一、不レ受レ錢者—レ水還レ之」。㊁おさふ、（按）。

【摷】摷に同じ。○〔班固〕「提ニ輔-—一」。

【摚】タウ、ダウ。徒郎切 陽 タウ、チヤウ。除庚切 庚 さゝむ、（距）。

【摛】チ。抽知切 支 のぶ、（舒）、しく、（布）、ひらく、（發）。○〔班固〕「—レ藻如ニ春-華一」。

【摛】リ。鄰知切 支 攡に同じ、はる、（張）。

【摗】ロ、ル。郎古切 麌 ㊀つよし、（强）。㊁うごく、ゆるぐ、（動）。

【摜】クワン、ケン。古患切 諫 ㊀慣に同じ、ならふ、なれ。㊁おぶ、（帶）。

【掎】キ、ギ。俱爲切 支 ㊀いたゞく、（戴）。㊁箸を以て物を取る、はさみさる。

【掎】キ、ギ。居義切 寘 前條の㊀に同じ。

【掎】キ。舉綺切 紙 庋に同じ、食物を藏め置く處、たな、戸棚。

【摝】ロク。盧谷切 屋 ロウ、ル。盧貢切 送

ふる、（振）、又、うごかす、（動）。○〔周〕「三-鼓—レ鐸」。

【摞】ラ。盧戈切 歌 管過切 箇 をさむ、（理）。○〔後漢〕「漢興續ニ其顏一、却—レ之、施レ巾連レ題、却覆レ之」。

【摟】ロウ、ル。郎侯切 尤 ひく。（い）曳き聚む、あつむ。○〔孟〕「五-伯者—ニ諸-侯一以伐ニ諸-侯一者也」。（ろ）牽き寄す。○〔孟〕「踰ニ東-家牆一而—ニ其處-子一」。
〔挽摟〕ひく。○〔蘇軾〕「登レ坂費ニ—-—一」。

【摟】ル、ロ。力朱切 虞 挽き申ばす、のぶ、ひく。

【摠】ソウ、ス。作孔切 董 總に同じ、すぶ、すべて。○〔禮〕「冕而—レ干」。

【摡】カイ。居代切 隊 あらふ、（濯）、そゝぐ、（滌）、のごふ、（拭）。○〔周〕「帥ニ女-宮一而濯—爲ニ齍-盛一」。

【摡】キ、ケ。許既切 未 ㊀さる、（取）。㊁のごふ、（拭）。

【擏】擏に同じ。

【攇】ケン、コン。紀偃切 阮 こぼす、（覆）。

【摢】コ、ウ。胡故切 遇 擁き障ふ、さゝふ。

【㨃】 摴に同じ。

【摣】 サ、ダ、莊加切 セ。女加切 ナ。麻 搏ち撮む、うつ、つかむ、とる、(取)。○〔張衡〕「——猓猻」。

【搋】 サイ、セ。莊蛙切 佳 うつ、(擊)。

【撈】 俗の揃の字。

【摤】 シヤウ、サウ。七兩切 養

【摕】 テツ、徒結切 デチ。切 テツ、丁結 テチ。切 屑 ㊀搶に同じ。㊁さぎあらふ、(磨滌)。なげうつ、(擿)。

【搗】 俗の擣の字。

【𢸶】 キン、居覲切 コン。切 問 居覲切 震 巨巾切 眞 几隱切 吻 ——或は、㨷に作る。

【㨷】 キン、コン。擧欣切 文 のごふ、(拭)。

【𢳭】 タウ。他浪切 漾 ㊀前條に同じ。㊁たゞし、(婧)。排す、おしひらく、ひらく、おす。

【摦】 クワ、胡化切 禡 ゲ。胡瓜切 麻 ひろし、(寬)。○〔左〕「小者不㆑窕、大者不㆑——、則和㆓於物㆒、今鐘——矣」。

【摧】 サイ、ゼ。昨回切 灰 ㊀くじく。(い)折り傷る、折れ傷る、なる、やぶる、くだく。○〔史〕「泰山壞乎、梁柱—乎」。(ろ)ひく、(挏)、又、おす、(擠)。○〔王逸〕「魁-槃擠—弓常困辱」。(は)はゞむ、(沮)、おさふ、(抑)、しりぞく、(退)。○〔史〕「能—㆑剛爲㆑柔」。(に)勢氣しりぞき沮む。○〔唐〕「何敵不㆑—」。(ほ)ほろぶ、ほろぼす、(滅)。○〔詩傳〕「先祖之祀、將㆓自㆑此而—㆒」。㊁いたる、(至)。○〔詩〕「先祖于—」。

(擊摧) うちくじく。○〔諸葛亮〕「—崩如㆑—」。
(悲摧) かなしみて心氣くじく。○〔焦仲卿〕「阿母大—·—」。
(低摧) ひく〳〵なり撓く。○〔袁桷〕「偪次棟宇徒—·—」。
(殘摧) やぶれくじく。○〔李中〕「殿宇半—·—」。

【摧】 サイ、ゼ。摧内切 隊 へる、へす、(滅)。

【摧】 サ、ザ。寸臥切 箇 莝に同じ、まぐさ、斬芻、又、まぐさを與ふ、くさかふ。○〔詩〕「乘馬在㆑廏、—㆑之秣㆑之」。

【摨】 ダイ、ナイ。尼皆切 佳 する、(摩)。○〔博雅〕「搓——、摩也」。

【𢴈】 ヘイ、ハイ。必計切 霽 うつ、(批)。

【𢷁】 チク、トク。張六切 屋 手を以て物を築く、つく、きつく。

【摩】 バ、マ。莫婆切 歌 する。(い)のごふ、(拭)。○〔禮〕「濯以㆑手、—㆑之去㆓其皺㆒」。(ろ)みがく、(研)。○〔周〕「刮——之工五」。(は)せまる、(迫)、ちかづく、(近)。○〔左〕「——㆑壘而還」。(に)けす、(滅)。○〔史〕「姦或盜—㆓錢裏㆒取㆑鎔」。(ほ)撫づ。○〔宋〕「一意撫—、恤㆑軍勞㆑民」。(へ)揣り合はす。○〔鬼谷〕「古之善—者」。

(鼓摩) 沸ひする。○〔周〕「和㆑弓——」。「——」。
(揣摩) 推しはかりたくらぶ。○〔戰〕「簡練以爲㆓——」。
(規摩) 過を正し切磋すること。○〔唐〕「朝夕侍㆓左右㆒、與相——」。
(維摩) 淸滑(佛家の言)。○〔蘇軾〕「可㆑憐狡獪——老」。
(刮摩) こすりみがく。○〔范成大〕「賜㆓臣刀圭㆒、——㆓膏盲㆒」。
(案摩) なでさする。○〔法苑珠林〕「恒於㆓彼苑㆒、——遊戲」。
(雕摩) えりみがく。○〔吳〕「——益光」。
(扶摩) 助けてみがく。○〔唐〕「漸劘——、多見㆓聽可㆒」。
(切摩) 硏磨して効益を圖る。○〔唐〕「——之益不㆑盡矣」。
(漸摩) 次第〳〵に硏磨す。○〔宋〕「設㆓學校㆒者、要以㆓仁義㆒——」。
(撼摩) 動かしせまる。○〔嚴下放言〕「—㆓—半空㆒」。
(凌摩) 犯しせまる。○〔韓維〕「勢欲㆓李杜相——㆒」。
(硏摩) みがく。○〔歐陽修〕「六經者——」。
(鑽摩) 前に同じ。○〔宋濂〕「辛勤——、爲㆑不㆑久」。
(編摩) 排述すること。○〔眞德秀〕「不㆑量㆓菲薄㆒、欲㆑效㆓——㆒」。
(戛摩) 音をなしすれあふ。○〔黃公度〕「傾㆑城車馬相——」。
(軋摩) きしりこする。○〔宋濂〕「六經之作、如㆓日行㆑天、不㆑可㆓以——㆒」。
(撮摩) つかみこする。○〔捫蝨經〕「如㆓以㆑手掌—中——虛空㆒」。
(摺摩) こする。○〔范成大〕「花生㆓銀海㆒費㆓——㆒」。
(轂擊肩摩) 車のこしきはうちあひ、人の肩はすれあふ、卽ち、行人の雜沓することにいふ語。○〔史〕「臨淄之塗車——、人——」。

【摩】 バ、マ。莫臥切 箇 前條の(ほ)に同じ。○〔孟註〕「折枝案—、折㆓手節㆒解㆓罷枝㆒」。

【摩】 ビ、ミ。忙皮切 支 施——は、神の名。

【摪】【摪】 シヤウ、サウ。七亮切 漾 將に同じ、たすく。さす、(刺)。

【𢸍】 ハイ、ベ。蒲罪切 賄 手にて物を起こして虛ならしむ、うつろにす。

【𢸨】 バツ、マチ。莫八切 黠 うつ、(打)。

【擨】 セイ、祖芮切 セ。切 エイ、于劌切 エ。切 霽 攜に同じ、さく、(裂)。

【擆】 セツ、セチ。蘇絕切 屑 掃ひ滅す、はらふ、けす。

【𢷌】 ヘツ、ベチ。匹蔑切 屑 ひく、(牽)。

【𢲼】 攜に同じ。

【摝】セン、ゼン。隨戀切 霰
㊀手にて物を挑ぐ、かゝぐ、あぐ。㊁長がくし引く、ひく。

【摝】セン、ゼン。丿宣切 先
ひく、(引)。

【摫】キ。均窺切 支
帛を裂きて衣を爲る、さく、たつ。○［左思］「鈲―兼呈」。

【摬】エイ、イヤウ。於慶切 敬 於境切 梗 アウ、ヤウ。倚雨切 キヤウ、カウ。巨兩切 養
うつ、(擊)。

【摭】セキ、シヤク。之石切 陌 シヤク。職略切 藥
拓に同じ、ひろふ、とる。○［漢］「采レ經―レ傳」。
(採摭) 拾ひ取る。○［文心雕龍］「―ニ―英・華ニ」。
(拾摭) 前に同じ。○［袁淑］「―ニ―遺・餘ニ」。
(收摭) 取りあげ拾ふ。○［中墨］「―ニ―散・滯ニ」。
(鉤摭) 前に同じ。○［權德輿］「―ニ―纖・微ニ」。
(掎摭) ひき拾ふ。○［詩品］「辨ニ彰清濁ニ、―ニ―英・華ニ」。「―所ﾆ惡」。
(窮摭) 何處までもとつきつめて取る。○［唐］「―ニ

【摮】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪 ガウ、ゲウ。牛交切 肴
うつ、(擊)。○［公羊］「膳宰熊蹯不レ熟公怒以レ斗―殺レ之」。

【摮】カウ、ケウ。丘交切 肴
横に撾つ、うつ。

【摮】ガウ、ゴウ。魚到切 號
うごかす、(動)。

【摉】サク、ソク。仕角切 覺
揷に同じ、さす、(刺)。

【㩼】ゾク。昨木切 屋
をさむ、(斂)。

【摳】拘に同じ。

【摱】ベン、メン。彌殄切 銑
かざる、(飾)。

【摯】シ。脂利切 寘
㊀いたる、又、いたす。
(い)及ぶ、又、及ぼす。○［書］「大命不レ―」。
(ろ)きはまる、きはむ、(極)。○［周］「甲鍛不レ―則不レ堅」。
(は)すゝむ、(進)。○［戰］「近習之人其―レ諂也固矣」。
㊁相見る時にすゝめいたす禮物、にへ。○［周］「以レ禽作ニ六―ニ」。
㊂傷折す、やぶる、をる、くだく。○［禮］「水潦爲レ敗、雪霜大―」。
㊃握り持つ、とる、又、うつ、(擊)。○［史］「鷹擊毛―」。
㊄勇猛なるを、あらくしきを。○［禮］「前有ニ―獸一、則載ニ貔貅ニ」「―ニ」。
(極摯) きはまりの塲處。○［漢］「馳ニ顏閔之―」。

【摰】チ、陟利切 寘
㊀さく、(解)。
㊁輊に通じ用ふ、ひくし、(低)。○［周］「大車之轅―」。

【摰】ゲツ、ゲチ。倪結切 屑
陧、𨺗に同じ、安からず、あやふし。○［周］「轂小而長則柞、大而短則―」。

【摯】擊に同じ。

【摮】摯の字の變體。

【摰】ゲイ。倪制切 霽
木相磨す、すれあふ。

【摱】バン、マン。模元切 元
ひく、(引)。

【𢷾】バン、マン。莫晏切 諫
うつ、(擊)。

【摲】サン、ゾン。昨甘切 覃
志ばらく、(暫)。

【摲】サン、セン。所斬切 豏
㊀ついづ、(次)。㊁截り取る、とる。

【摲】サン、ゾン。在敢切 感
うつ、(擊)。

【摲】サン、ゾン。狙紺切 勘
あぐ、(擧)。

【摲】セン、ゼン。疾染切 琰 サン、ゼン。士減切 豏 山鑑切 陷
とる、(取)。

【摲】摲の字の變體。

【摲】サン、セン。所鑑切 陷
㊀かる、(芟)。○［禮］「君子之於レ禮也、有ニ―而播ニ」。
㊁版を以て水を塞ぐ、ふさぐ。㊂なぐ、なげうつ、(投)。

【摲】サン、ソン。師咸切 咸 サン、セン。所斬切 豏
前條の㊀に同じ。

【摲】サン、ゼン。士減切 豏 セン、ゼン。疾染切 琰

【摳】コウ、ク。口侯切 尤
㊀前條に同じ。㊁のぞく、(除)。

【摳】㊀衣の裳を挈ぐ、かゝぐ。○［禮］「―レ衣趨レ堂」。
㊁さぐる、(探)。○［列］「以レ瓦―者巧、以レ鉤―者憚」。

【摳】ク。虧于切 虞
前條の㊀に同じ。

【摳】オウ、ウ。於口切 有
毆に同じ、うつ、たゝく。

【摴】チヨ、ト。抽居切 魚
のぶ、(舒)。

【摵】サク、シヤク。沙劃切 陌
㊀かすむ、(捎)。㊁はらふ、(拂・著)。
㊂木の葉などの落つる聲にいふ字。○［白居易］「風・葉狄・花秋―」。
(摵摵) 木などのおつる聲の何となくさびしく感ぜらるゝをにいふ語。○［杜甫］「―寒・藉聚」。

【摵】シユク、ソク。所六切 屋

いたる、(到)。

【搣】ベイ、メイ。綿批切 [齊]
批に同じ、手にて撃つ。

【摵】ソク。七則切 [職]
齒を摩る、みがく。

【摒】ヒ。幷弭切 [紙]
たすく、(扶・持)。

【摶】タン、ダン。徒官切 [寒]
㊀まろし、(圜)。○[周]「欲ニ生而ー一」。
㊁手中に聚めてまろき形となす、まろむ、にぎる。○[儀]「佐-食ーレ黍授レ祝」。
㊂あつむ、あつまる、(聚)。○[漢]「卒-氣ー」。
㊃うつ、(拍)。○[莊]「ー二扶-搖一而上者九-萬-里」。
㊄垂れ下がる貌にいふ字。○[文選]「志ー-ー以應レ懸兮」。
〔控摶〕引き留めまるむ。○[陸游]「世-事何由可二ー-ー一」。
〔扶摶〕おほぞらにのぼりてはゞたきす。○[薩都剌]「衆翼避二ー-ー一」。

【摶】セン。朱遄切 [先]
㊀幷合して制領す、握り領す、すぶ、又、擅いまゝに處置す、ほしいまゝにす。○[史]「ー二三-國之兵一」。
㊁古の專の字。○[史]「ーレ心壹レ志」。

【摶】テン、デン。持兗切 [銑] テン。柱戀切 [霰]
把束、たば。○[周]「百-羽爲レー」。

【摶】
繚に同じ。○[周]「卷而ーレ之」。

【摷】セウ。子小切 [篠]
拘へ撃つ、うつ。

【摷】レウ。落蕭切 [蕭]
㊀前條に同じ。
㊁はたらく、はたらき、動作。

【摷】サウ、セウ。側交切 [肴]
㊀前條の㊀に同じ。
㊁鈔、抄に同じ、とる。○[張衡]「ー二昆-聊一」。

【摷】ラウ、ロウ。郎刀切 [豪]
前條の㊁に同じ。

【摸】バク、マク。末各切 [藥]
㊀手にて索む、さがす、さぐる。○[後漢]「邕讀二曹-娥碑一、後能手二ー其文一讀レ之」。
㊁手に捉る、つかむ、とる。○[釋名]「在レ外爲三人所二摑ー一也」。
〔抾摸〕持ち去る。○[揚雄]「ー-ー去也」。
〔收摸〕とる。○[風俗通]「手自ー-ー」。
〔尋摸〕たづねさがす。○[諸阜記]「于二草-中一ー-ー、忽得二一-莖-莖一」。

【摸】ボ、モ。莫胡切 [虞]
摹に同じ、うつす、のッとる。○[君]「文-宗敕ー-詔-本還二賜彦-芳一」。
〔描摸〕畫がきうつす。○[周密]「丹-青自是難二ー-ー一」。

【摹】ボ、モ。莫胡切 [虞]
㊀規倣す、ならふ、のッとる。○[漢]「規-ー弘-遠」。
㊁ならひ書く、のッとり寫す、うつす。○[後漢]「其觀-視及ー寫者、車-乘千-餘-兩」。
〔臨摹〕書畫を見てうつす。○[柳貫]「伸レ紙ー-ー筆-鋒-走」。
〔傳摹〕つたへうつす。○[東觀餘論]「雖レ經二ー-ー、意-象高-古」。
〔似摹〕まねて寫し書く。○[梁武帝]「ー-ー微得二鍾-體一」。

【攁】ヤウ。弋亮切 [漾]
樣式、のり、かた。

【摺】セフ、ソフ。質渉切 [葉]
㊀やぶる、(敗)。○[淮]「ーレ脇傷レ幹」。
㊁たゝむ、たゝまる、(疊)。○[南]「衣-帶卷ー-ー」。
㊂たゝまりたる所、即ち、ひだなど。○[方鳳]「祛褱襞ー-ー」。
〔轉摺〕まろく疊む。○[墨莊漫錄]「都無二同-互ー-ー之勢一」。

【摺】ラフ、ロフ。盧合切 [合]
拉に同じ、ひしぐ、くじく。○[史]「折レ脇ーレ齒」。
〔折摺〕くじきひしぐ。○[揚雄]「范雎以二ー-ー一而危二穰侯一」。
〔挼摺〕兩手を縛りひしぎて自由を失はす。○[王安石]「謗-誄實天-械、功-名爲二ー-ー一」。
〔跧摺〕足もて蹈みくじく。○[劉允]「局-縮如二ー-ー一」。

【〓】リヤク。力灼切 [藥]
かすめとる、かすむ、(掠・取)、一説に、俗の掠の字。

【摻】サン、セン。師咸切 [咸] セン、ソン。思廉切 [鹽]
攕に同じ、女子の手のほそ／＼としてみめ好き貌にいふ字、しなやか。○[詩]「ー-ー女-子可二以縫一レ裳」。

【摻】サン、セン。所斬切 [豏]
㊀前條の解に同じ。
㊁とる、(執)。○[詩]「ー二執子之袪一」。
㊂ほそし、(細)。○[揚雄]「凡細貌謂二之笙一、斂レ物而細謂二之笙一、或曰レー」。

【摻】サン、ソン。倉含切 [覃]
とる、(摑)。

【摻】セウ。千遙切 [蕭]
持つ。

【摻】サン、ソン。七紺切 [勘]
鼓の曲の名、即ち、三たび鼓を撾つこと。○[蘇軾]「疊-鼓誰ー漁-陽撾」。

【摼】カウ、キヤウ。丘耕切 [庚] 苦杏切 [梗]
頭を撞く、つく。

【摼】ケン。輕煙切 [先]
古文の牽の字、ひく。○[揚雄]「ー二象-犀一」。

【摽】ヘウ。婢小切 [篠]
㊀うつ、(擊)、一説に、關牡を挈す、さゞす、おろす。
㊁おつ、(落)。○[詩]「ー有レ梅」。
㊂心(むね)を拊つ貌にいふ字(憂ひ苦しむ貌にいふ)、むねうつ。○[詩]「寤辟有レー」。
〔擗摽〕胸をうちて哀しむ。○[張協]「戰-慄爲レ之ー-ー」。

(寤摽) 目さめて胸を撫でゝ哀しむ。○[陸雲]「——唯哀」。

【摽】ヘウ。紕招切 [蕭]
㊀擊に同じ、うつ。○[左]「長-木之斃無レ不レ—」。
㊁さしまねく、(麾)。○[孟]「—二使-者一出二諸大-門之外一」。
㊂おく、すつ、(捐)。○[公羊]「曹-子—レ劍而去レ之」。
㊃高く擧がる貌にいふ字。○[管]「——然若二秋-雲之遠一」。
㊄刀末、きッさき。○[漢]「——末之功」。

【摽】ヘウ。匹妙切 [嘯]
㊀うつ、(擊)。㊁おつ、(落)。

【摽】ヘキ、ヒヤク。匹歴切 [錫]
うつ、(擊)。

【摽】ハウ、ヘウ。匹交切 [肴]
拋に同じ、なげうつ。

【捲】セン。親然切 [先] 俗に、扦に作る。
さしはさむ、(插)。

【摾】キヤウ、ガウ。其亮切 [漾]
弶に同じ、罟を道に施す、あみはる、一說に、弓をもて鳥獸を取る、いぐるみさる。

【掩】掩の本字。

【揊】ヒヨク、ヘキ。拍逼切 [職]
副、疈に通じ用ふ、さく、(割)。○[韓]「不レ—レ淫則寝益」。

【揞】イン、オン。於金切 [侵]
愔に同じ、やすくやはらぐ、ふかくしづかなり。○[淮]「推二其——一、擠二其揭-々一、此謂レ因レ勢」。

【㩴】ケン、ゴン。居言切 [元] 一に、楗に作る。
—子は、樗蒲(ばくえき)の采の名。

【㨾】ラウ。郎宕切 [漾]
うつ、たゝく、(擊)。

【摕】テイ、タイ。通帝切 [霽]
手にて取る。

十二畫

【撅】ケイ、ケ。姑衛切 [霽]
衣を揭ぐ、かゝぐ。○[禮]「不レ涉不レ—」。

【撅】ケツ、ケチ。紀劣切 [屑]
たゆ、(撥)。○[韓詩外傳]「草-木根-荄淺未二必—一、飄-風興-暴-雨墜則—必先矣」。

【撅】ケツ、グワチ。居月切 [月]
㊀手にて把る、つかむ、にぎる、一說に、うつ、(擊)、なぐ、(投)。○[唐]「—二高-昌一纓二突-厥一」。
㊁うがつ、ほる、(掘)。○[孫子、序]「—二其城-郭一」。

【撆】ヘツ、ヘチ。芳滅切 [屑]
ヘイ。必弊切 [霽]
㊀わかつ、(別)、一說に、うつ、(擊)、又、さる、(略)。○[韓]「韓小-國也、而以應二天-下四—一、主辱臣苦」。
㊁ひく、(引)、又、はらふ、(拂)、又、のごふ、(拭)。○[王褒]「聯-綿漂—生二微-風一兮」。
㊂書法の一名稱、其の運筆のひきはらふを要するもの。○[梁武帝]「復當下以二點畫波—一、論中極-諸-家之致上」。
(點撆) 文字の點をうち畫を引くこと。○[梁武帝]「——衰、則法離-斷」。

【撇】ヘツ、ヘチ。匹蔑切 [屑]
㊀擊に同じ。○[揚雄]「浮二蔑-蠓一而—レ天」。
㊁衣を揭ぐ、かゝぐ。

【撇】ヘイ。必弊切 [霽]
㊀前條に同じ。㊁うつ、(摽)。

【撈】ラウ、ロウ。郎刀切 [豪] 郎到切 [號]
水中に沒入して物を取る、さる。○[舒元輿]「山禿逾高採、水窮益深—」。

【撈】レウ。力弔切 [嘯] 憐蕭切 [蕭]
撩に同じ、鉤にかけて取る、さる。○[郭璞]「謂二鉤——一」。

【撉】トン、ドン。都昆切 [元]
うつ、(擊)。

【擳】チ、ヂ。直利切 [寘]
物を持ちて相當たらしむ、あつ。

【撊】カン、ゲン。下赧切 カン、ケン。賈限切 [潸]
㊀怒れる貌にいふ字、いかる。○[左]「今執-事—然授レ兵登レ陴」。
㊁つよし、たけし、(猛)。○[揚雄]「猛也晉魏之閒曰レ—」。

【撋】ゼン、ネン。而宣切 [先]
摩り挼く、くだく、もむ。○[阮孝緒]「煩—猶二挼-抄一」。

【撋】ジュン、ニュン。濡純切 [眞]
のごふ、(拭)。

【撋】ス井、ズ井。儒垂切 [支]
㊀そむ、(擩染)。㊁もむ、(挼)。

【撋】ダ、ナ。奴禾切 [歌]
前條の㊁に同じ。

【擧】古文の舉の字、又、俗の擧の字。

【撌】キ。丘愧切 [寘]
さる、(摡)。○[淮]「禹燒不レ暇レ—」。

【㩿】フン、ブン。符分切 [文]
のごふ、(拭)。

【撍】サン、ソン。子感切 [感] 或は、揝に作る。
手動く、うごく。

【撍】サン、ソン。作紺切 [勘]
㊀前條に同じ。㊁ひろふ、(掇)。

【撍】サン、ソン。作含切 [覃]
つく、つくす、(盡)。

【撍】シン、ソン。側吟切 [侵]
すみやかなり、はやし、さし、(疾)。○[京房]「明盡——」。

【擠】セン、ソン。慈鹽切 鹽
つむ、(摘)。

【攓】ケン。九件切 銑
抜き取る、ぬく。○〔楚辭〕「朝—二阰之木蘭一」。

【撎】エイ、於計切 霽 イ。於賜切 寘
アイ。
拱きたる手を上げ下げしてなす敬禮、ゑしやく。○〔周、註〕「但俯下レ手、今時—是也」。

【撏】シン、ジン。徐心切 侵 サン、ゾン。徂含切 覃 セン。視占切 鹽
とる、(取)。○〔揚雄〕「取也、衛、魯、揚、徐、荊、衡之郊曰レ—」。

【撍】セン、ゾン。徐廉切 鹽
つむ、(摘)。

【撡】操に同じ。

【撑】タウ、チヤウ。丑庚切 庚
㊀衺にさゝふる物、つッぱり、つッかひばしら、支柱。○〔晁補之〕「豫-章倚二孤—一」。
㊁さゝふ。
(い)なゝめにつッばる。○〔范成大〕「鬼-物相枝—」。「足二饑-膓—一」。
(ろ)堪へ保つ。○〔僧李譚〕「蝦-蟹不レ
㊂あばく、(撥)。○〔唐〕「骸—不レ掩」。
㊃舟をひらき行る、さをさす、さす。○〔朱熹〕「破レ月衝レ煙取-次—」。

【撐】俗の撑の字。

【揌】サイ、セ。山皆切 佳
散失す、ちる、うす。

【𢷾】ケイ、エ。胡桂切 霽
擕に同じ。

【撒】サツ、サチ。桑葛切 曷
放ち散らす、ちらす、まく。○〔吳〕「孫-權數射レ雉、濬諫レ之、出見二雉翳一、手自—壞」。

【撓】ダウ、ネウ。奴巧切 巧
㊀うごく、うごかす、(動)。○〔莊〕「復之—-—以遊二無-端一」。
㊁みだる。
(い)煩雜ならしむ、かきみだす。○〔左〕「—二亂我同-盟一」。
(ろ)煩はしく雜じる、かきみだる。○〔五〕「爲レ政不二苛—-—一」。○
〔驚撓〕愕きみだる、又、おどろかしみだす。○〔宋〕「人-情—-—」。
〔魔撓〕みいりてみだる。○〔關尹子〕「—二-—其人一」。
〔雜撓〕入りまじりみだる、入れまぜみだる。○〔釋名〕「物繁則相—-—也」。
〔煩撓〕うるさくしみだる、うるさくみだす。○〔荀勗〕「散-文—-—」。
〔攪撓〕かきみだす。○〔元稹〕「羣-動皆—-—」。
〔煩撓〕うるさくごたくすること。○〔李益〕「襟曠去二—-—一」。

【撓】ダウ、ネウ。女教切 效 尼交切 肴
㊀前條の㊁に同じ、みだる、又、搔抓す、かく。○〔淮〕「水濁者魚—レ之」。
㊁屈曲す、まぐ、まがる、かゞむ、かゞまる、たわむ。○〔孟〕「不二膚—一、不二目逃一」。
〔屈撓〕たわむ。○〔易、疏〕「不二—-—一而移改一」。
〔曲撓〕前に同じ。○〔禮〕「寧折終不二—-—一」。
〔折撓〕前に同じ。○〔爾雅〕「必陵二挫—三—之一」。
〔摧撓〕折りまぐ。○〔陳琳〕「—二—棟梁一」。
〔枉撓〕正理を曲げみだす。○〔禮〕「必當レ毋レ或二—-—一」。
〔同撓〕まぐ。○〔晉書〕「有-筆正-繩無レ所二—-—一」。
〔敗撓〕負けて勢かゞむ。○〔韓愈〕「孰强孰—-—」。
〔侵撓〕犯しかゞむ。○〔唐〕「不下爲二權-力一—-—上」。

【撓】カウ、コウ。呼毛切 豪
みだる。○〔漢〕「匈-奴之衆易二—-亂一」。
〔煩撓〕うるさくみだる。○〔淮〕「誣レ文者處二—-—一以爲レ慧」。
〔擾撓〕かきみだる。○〔唐〕「—二—政-機一」。
〔危撓〕あやふくなり亂る。○〔唐〕「乘二其—-—一」。
〔侵撓〕おかして亂る。○〔宋〕「—二—其役一」。
〔邪撓〕横しまにして正しきを失ふこと。○〔呂氏春秋〕「枉-僻—-—之人退矣一」。
〔振撓〕ふるひみだる。○〔韓愈〕「—二—其骨-筋一」。
〔恇撓〕恐れ亂る。○〔陸龜蒙〕「—-—脆怯」。
〔雜撓〕入りまじりてみだる、又、入れまぜみだす。○〔逸雅〕「物繁則相—-—也」。○

【撓】ゼウ、ネウ。爾紹切 篠
たわむ、(揉)。

【撓】ゼウ、ネウ。人要切 嘯
繞に同じ、めぐる。○〔史〕「苛-察繳—」。

【撓】ゲウ。馨幺切 蕭
—挑は、めぐる、めぐらす。

【擂】抽の本字。

【擂】リウ、ル。力救切 宥
手をもて物を平かになす、ならす。○〔詩、箋〕「掓謂レ—レ土也」。○

【撔】カウ、キヤウ。戸猛切 梗
よこたふ、よこたはる、(横)。

【擷】カウ、コウ。虎項切 講
になふ、かたぐ、(擔-荷)。
—或は、扛に作る。

【𢸆】シウ、シユ。即就切 宥
とる、(攬)。

【𢸆】シユク、ソク。就六切 屋
極めて擊つ、うつ。

【擭】クワク。忽麥切 陌
つんざく、(裂)。

【擭】サク、シヤク。簪摑切 陌
裂く聲にいふ字。

【攟】キン、クン。牛尹切 軫
つかぬ、(束)。

【撕】セイ、サイ。先齊切 齊
ひッさぐ、(提)。○〔韓愈〕「所レ職事無レ多、又不二自提—一」。

【撕】シ。相支切 支
斯に同じ、さく。

【𢷏】チ、ヂ。直利切 ジ、ニ。而至切 寘
あたる、(當)。

【擿】チ。陟利切 寘
すつ、(棄)。

【擿】擲に同じ。

【擿】摘に同じ。

【（扌＋筆）】ヒツ、ヒチ。逼密切 質
さす、(刺)。

【撖】カン、ゲン。苦減切 豏
かゝる、(挂)、一說に、あやふし、(危)。

【撖】カン、コン。口含切 覃
かゝる、かく、(挂)。

【撗】クヮウ、ワウ。古曠切 漾
みつ、(充)。

【撗】クヮウ、ワウ。胡光切 陽
──目は、草の名、又、結-縷といひ、俗に、鼓箏草と呼ぶ、かうらいしば。

【搭】搭に同じ。

【撙】ソン。祖本切 阮
㊀くじく、(挫)、又、おさふ、(抑)。○〔戰〕「伏レ軾──レ銜横二歴天-下一」。㊁おもむく、(趨)。○〔禮〕「君-子恭-敬──節」。㊂聚まる貌にいふ字、又、おほし、(衆)。○〔揚雄〕「齊總-々以──」。
(撙節) 制限をなしおさふ。○〔管〕「──二飲-食一、──二衣-服一」。
(撙撙) 踏みしきくじく。○〔荀〕「以相──、以相耻怍」。

【撚】デン、ネン。乃殄切 銑
㊀指にて撚す、とる、ひねる、よる。○〔白居易〕「輕攏慢──撥復挑」。㊁にじる、ふむ、(蹂)。○〔淮〕「前-後不二相──一左-右不二相干一」。㊂したがふ、(從)。○〔汲冢周書〕「後動──レ之」。㊃まだ續かず ○〔揚雄〕「──未レ續也」。
(撚撚) とる、ひねる。○〔李群玉〕「須二君玉-指輕──一」。
(折撚) てもてをりひねる。○〔高啓〕「好待二開-時同──一」。

【撛】リン。里忍切 軫
㊀たすく、(扶)。㊁ぬく、(挺)。

【撜】ショウ。常證切 徑 書蒸切 蒸
拼に同じ、たすく、すくふ。○〔淮〕「子-路──レ溺而受二牛謝一」。

【撜】タウ、チヤウ。除庚切 庚
振に同じ、ふる、(觸)。○〔韓愈〕「豈此狙-豆古不レ爲二手所一レ──」。

【撝】キ。吁爲切 支
㊀さく、(裂)。○〔馬融〕「──二介-鮮一」。㊁さす、(指-麾)、一說に、ふるふ、(揮)。○〔易〕「──レ謙」。
(指撝) さす。○〔淮〕「拱揖──」。
(奮撝) ふるふ。○〔典引〕「──之容」。

【撝】ヰ。于嬀切 支
たすく、(佐)、○〔揚雄〕「事貌用レ恭──レ肅」。

【撝】ヰ。羽委切 紙
さく、(裂)。

【撞】タウ、ドウ。傳江切 江 丈降切 絳
うつ、(擊)、つく、(突)。○〔禮〕「善待レ問者如レ──レ鐘」。
(筳撞) 築のたべをもてつき擊つ。○〔韓愈〕「有如二寸──二巨-鐘一」。
(横撞) よこさまに物をうつ。○〔西征賦〕「増遷レ怒而──」。
(擊撞) うつ。○〔黃庭堅〕「鐘-鼓羅──」。
(舂撞) つく。○〔韓愈〕「船-石相──」。
(撞々) 物をつき擊つ貌にいふ語。○〔李益〕「仙-鐘──迎海日」。
(突撞) つく、擊つ。○〔梅堯臣〕「未レ足レ禁二──一」。
(衝撞) 突き擊つ、つく。○〔薩都剌〕「白-頭巨-浪自──」。

【（扌＋款）】クヮン。苦緩切 旱
さらふ、(捉)。

【撟】ケウ。擧夭切 篠
㊀手足を伸べ引く、せのびす。○〔博雅〕「偃-蹇天──」。㊁あぐ、あがる、(擧)。○〔揚雄〕「仰──レ首以高-視」。㊂たむ。(い)詐はり稱ふ。○〔周〕「──二邦-令一」。(ろ)妄りに託す、かこつく。○〔漢〕「──レ制以令二天-下一」。(は)曲がれるを正す。○〔周〕「──レ幹欲下熟二于火一而無上レ贏」。(に)屈撓す、まぐ、かゞむ。○〔荀〕「强レ君──レ君」。㊃强き貌にいふ字、又、ほしいまゝ、(擅)。○〔荀〕「──然剛-折」。
(担撟) あぐ、あがる。○〔遠遊〕「意恣睢以──」。

【撟】ケウ。擧喬切 蕭
㊀前條の㊀㊁に同じ。㊁さる、(取)、えらぶ、(選)。○〔博雅〕「掄-──捎-擱選-擇也」。

【撟】ケウ、ゲウ。嬌廟切 嘯
㊀あぐ、あがる、(擧)。○〔史〕「舌──然而不レ下」。㊁捎の條を見よ、かすむ、さる。

【撠】ケキ、キヤク。訖逆切 陌
㊀うつ、(擊)。○〔史〕「救レ鬭者不二搏──一」。㊁もつ、(持)。○〔揚雄〕「──二膠-葛一騰二九-閎一」。

【（扌＋班）】ハン、ベン。博幻切 諫
㊀つなぐ、ほだす、(絆)。㊁引き擊つ、うつ。

【（扌＋燥）】俗の摻の字、とる。○〔戰〕「劍長──二其室一」。

【撢】タン、ドン。徒紺切 勘 タン、トン。他紺切 勘 他含切 覃 イン。夷針切 侵
さぐる、(探)。○〔周、疏〕「誦二王志一者若レ──二取王之志一」。

【撏】ジン。徐心切 侵
㊀をさむ、(修)。㊁くむ、(掬)。

【撢】タン、ドン。徒感切 感
おほふ、(揞)。

【撣】タン、ダン。徒旱切 旱
提げ持つ、さぐ、ひっさぐ、一說に、自から儆む、つゝしむ。○〔揚雄〕「何レ福滿レ肩提レ禍──」。

【撣】タン、ダン。徒干切 寒
㊀ふる、(觸)。㊁彈に通ず、ひく。㊂持つこと堅からず、ゆるし。

【撣】タン、ダン。徒案切 翰
ふる、(觸)。

【撣】セン、ゼン。市連切 先
ひく、(引)。

【撣】テン。澄延切 先
相纏ひて去らず、まつはる。

【撣】セン。旨善切 銑
急に排す、おしひらく。

【撤】テツ、デチ。直列切 屑
㊀除き去る、すつ、のぞく。○〔論〕「不レ—レ薑食」。
㊁ひらく、(發)、又、はぐ、(剝)、又、ぬく、(抽)。○〔吳〕「上二津-橋-板-丈-餘一」。
㊂廢す、すたる。○〔沈炯〕「悲二城-邑之毀-—一」。
〔廢撤〕すつ、すたる。○〔詩〕「—-—不レ遲」。
〔雍撤〕周の時代にては天子宗廟の祭祀の時供物を取り除くるには雍と名づくる詩篇を音律にあはせ歌はしめてその間に取り除くを例とす。○〔論〕「三-家者以レ—-—」。
〔減撤〕へらすこと。○〔後漢〕「躬自—-—以救二災-疪一」。
〔分撤〕數ある中よりわけて除く。○〔晉〕「兵止數-千、無下可二—-—一者上」。
〔壞撤〕こはれ毀る、こはしすつ。○〔揚雄〕「—-—而能全」。
〔拂撤〕除き去る ○〔南都賦〕「—二-—壇-腥一」。
〔捨撤〕すつ。○〔隋煬帝〕「—二-—浮-財一」。

【撥】ハツ、バチ。比末切 曷
㊀をさむ、(治)。○〔公羊〕「—二亂-世一反二諸正一」。
㊁はらふ、のぞく、(除)。○〔漢〕「—二-—去古-文一」。
㊂たゆ、(絕)。○〔詩〕「本實先—」。
㊃あぐ、(揚)。○〔禮〕「衣無レ—」。
㊄はなつ、ひらく、(發)。○〔史〕「—一—見二病之應一」。
㊅そる、(反)。○〔戰〕「弓—矢鉤」。
㊆めぐらす、(轉)。○〔禮、註〕「可三—二引輴-車一」。
㊇ばちにて彈ず、ひく、かきならす。○〔李羣玉〕「檀-槽一-曲黃-鐘羽、細—紫-雲金-鳳語」。
㊈絃をかきならすに用ふる具、ばち。○〔白居易〕「曲終收レ—當レ心畫」。
㊉棺を載せたる車を引くに設けある繩、ひつぎなは。○〔禮〕「廢レ輴而設レ—」。
〔桓撥〕武を以て治む。○〔陸機〕「豐-沛之士、忘二—-—之君一」。
〔捍撥〕絃をかきならす器具、ばち。○〔唐〕「楓-木爲レ面、象牙爲二—-—一」。
〔擺撥〕ひらく、はらふ。○〔世說〕「望二卿—-—一」。
〔破撥〕琵琶などをかきならす。○〔羊士諤〕「—-—聲繁已恨」。
〔運撥〕ばちを動かし使ふ。○〔司馬光〕「按レ絃—レ—驚二四-座一」。
〔指撥〕ゆびもて琵琶などをかきならす、つめびき。○〔陳孚〕「一-絲—-—春-風前」。「—-—一」。
〔挑撥〕かゝげあぐ。○〔後村詩話〕「未-人若也勤二
〔啓撥〕ひらく。○〔薛鳳翔〕「—-—看-視如二前-法一」。
〔振撥〕そる。○〔僧寒山〕「—-—無二瘠-筋一」。
〔翻撥〕さはり開く。○〔范成大〕「酒-杯—-—詩-情動」。
〔弄撥〕戲れに玩びかき鳴らす。○〔僧惠洪〕「紫-燕飛-翻初—-—」。

【撥】ヘツ、ヘチ。房越切 月 —瞂に作る。
大いなる楯、たて。○〔史〕「旍-旄羽-祓予-戟劔-—鼓-譟而至」。

【撦】シヤ、セ。齒者切 馬
裂け開く、裂き開く、ひらく、さく。○〔劉克莊〕「溫-李諸-人困二手摛—一」。

【[illegible]】絕に同じ。

【撿】歛さ、搚さ、拉さ、搨さに同じ。

【撏】搚に同じ、かゝぐ。○〔儀、註〕「如二今—レ衣」。

【撏】セイ、シヤウ。先命切 敬
肱をあらはす、うでまくり。

【擄】キヨ、ゴ。去魚切 魚
うつ、(擊)。

【擅】セン、ゼン。時戰切 霰 ケン。九件切 銑
展び極まる、のぶ。

【擅】セン。旨善切 銑
ひく、(引)。

【𢹂】キ、ケ。丘衣切 微
扱取す、をさむ、とる。

【撨】セウ。蘇彫切 蕭
㊀えらぶ、(擇)。㊁とる、(取)。㊂のごふ、(拭)。

【撨】ソウ、ス。先侯切 尤
㊀前條に同じ。㊁おす、(推)。

【撨】セウ、ゼウ。才笑切 嘯
のごふ、(拭)。

【攃】擦に同じ。

【𢷾】シク、ソク。息六切 屋 セウ。先彫切 蕭 先弔切 嘯 先鳥切 篠
うつ、(擊)。○〔張衡〕「飛-罕—-箾」。

【擷】タツ、ゲチ。胡結切 屑
つかぬ、(束)、たばる、(縛)。

【𢷗】ヒ。芳未切 未 フン、ホン。方問切 問
擊ち仆ふす、たふす。○〔晉〕「踐二封-狶一—二馮-豕一」。

【擌】フツ、ホチ。父沸切 物
擊ち執ふ、さらふ。

【撩】レウ。洛蕭切 蕭
㊀をさむ、(理)。○〔段玉裁〕「理レ亂謂二之—-理一」。
㊁掠め取る、かすむ、すくふ、さる。○〔埤雅〕「下—レ之如レ汕」。
㊂挑-弄す、いどむ。○〔魏〕「但持二長-矛一—-戰」。
㊃みだる、(縱)。○〔郭璞〕「上—之木鳥所レ不レ集」。

【撩】レウ。力弔切 嘯
前條の㊀に同じ。○〔詩〕「撩者今之—-詈也」。

【撩】レウ。朗鳥切 篠
㊀前條に同じ。㊁たすく、(扶)。

【撩】ラウ、ロウ。郎到切 號 魯皓切 皓
撈に同じ、さる。

【𢷏】搖に同じ。

【撫】ブ、フ。芳武切 麌
㊀なづ。
(い)循摩す、さする。○〔國〕「叔-向見二司-馬-侯之子一—而泣レ之曰」。

(ろ)慰め安んず、なぐさむ、いたはる、やすんず　○〔左〕「鎭二一撫社稷一」。
㊁したがふ、(循)。○〔書〕「一撫二于五辰一」。
㊂おさふ、(按)。○〔禮〕「君一撫二僕之手一」。
㊃おさへて據る、よる。○〔禮〕「國君一撫レ式」。
㊄たもつ、(有)、もつ、(持)。○〔禮〕「其終一撫レ諸」。
㊅うつ、(拍)。○〔儀〕「左右一撫レ矢乘レ之」。
㊆さし、(疾)。○〔揚雄〕「拊、一撫、疾也」。
〔摩撫〕なでさする。○〔蘇軾〕「欲下把二瘡痍手一撫一撫上之」。
〔存撫〕慰め安んず。○〔宋〕「長吏一撫二一撫之一」。
〔愛撫〕いつくしみなづ。○〔宋〕「一撫二撫一撫士卒一」。
〔案撫〕なづ、おさふ。○〔魏〕「一撫二一撫我國一」。
〔慰撫〕勞はりなづ。○〔北〕「兼加二一撫一撫一」。
〔接撫〕交はりしたがふ。○〔後漢〕「夙夜戰戰、一撫二一撫同列一」。
〔懷撫〕なつけなづ。○〔後漢〕「誠心一撫一撫」。
〔招撫〕來たり從はしむ。○〔後漢〕「屯二伊吾一以一撫二一撫之一」。
〔綏撫〕安んじなづ。○〔吳〕「虛心一撫一撫、得二其歡心一」。
〔振撫〕救ひいたはる。○〔晉〕「主二周急一撫一撫一」。
〔拯撫〕前に同じ。○〔晉〕「隨宜一撫一撫」。
〔恩撫〕めぐみ安んず。○〔晉〕二一撫一撫甚隆」。
〔慈撫〕前に同じ。○〔宋〕「惟日一撫一撫」。
〔厚撫〕てあつくいたはる。○〔宋〕「每一撫二一撫境外之人一」。
〔柔撫〕心和げ安んず。○〔宋〕「一撫二一撫四封一」。
〔厲撫〕はげまし慰む。○〔杜篤〕「一撫二一撫名將一」。
〔制撫〕抑ふ、又、おさふ。○〔錢珝〕二方資二一撫一撫之勤一」。

【撫】摹に同じ。

【撮】サツ、サチ。麤括切　曷

㊀とる、つまむ、つかむ。
(い)指先にて取る、聚め聚めて持つ。○〔莊〕二鴟鵂夜一撮レ蚤察二毫末一」。
(ろ)摠べ取る。○〔史〕「一撮二名法之要一」。

㊁つまみ。
(い)つまむを、つまむ程の量。○〔中〕「地一撮一撮土之多」。
(ろ)量の名、圭の四倍、卽ち、黍二百五十六粒。○〔漢〕「量二多少一者不レ失二圭撮一」。
㊂あつむ、(聚)。○〔家語〕「一撮レ徒成レ黨」。
㊃髻をつまみ持つ小さきかみづゝみ。○〔詩〕「臺笠緇撮」。
㊄ひく、(挽牽)。
〔攫撮〕つかむ。○〔卞彬〕二探撈一撮一撮、日不レ替レ手」。
〔簡撮〕撰みとる。○〔後漢〕「今一撮二一撮其書一、有レ益二政者一略二載之一」。
〔抄撮〕つまみとる、又、僅かばかりのとにいふ語。○〔劉勰新論〕「鈎石雖レ平、不レ能レ無二一撮一撮之較一」。
〔把撮〕かきあつむ。○〔應瑒〕二無三錢可二一撮一撮一」。
〔括撮〕つまむ、すべくゝる。○〔盧照鄰〕「支離一撮一撮」。
〔拉撮〕取りひしぎつまむ。○〔李陽氷〕「於二骨角齒牙一、得二一撮一撮吼噬之勢一」。
〔抱撮〕かゝへつかむ。○〔顧況〕「起坐可レ憐能一撮一撮」。
〔捉撮〕つまみとる。○〔梅堯臣〕「一撮一撮不二乖繆一」。
〔搏撮〕擊ちつかむ。○〔法苑珠林〕二金翅大鳥、入レ宮一撮一撮」。

【撮】サイ、セ。祖外切　泰
會撮は、もとゞり、うなじり。○〔莊〕「支離疏者會撮指レ天」。

【撰】サン、ザン。祖官切　寒
セツ、ゼチ。租悅切　屑
乘撰の器、のりもの。○〔尸子〕「行レ險以レ撰」。

【撮】サイ、セ。初買切　蟹
つまむ、又、さる。

【撳】撳の本字。○〔唐〕「隋帝素意レ伐レ遼、又、銜三瑪以レ謀一撳二其機一」。

【㩉】サク、シャク。測革切　陌
たすく、(扶)。

【摥】タウ。他郎切　陽
手を以て推し止む、さゞむ。

【撬】ケウ。牽幺切　蕭
あぐ、(擧)。

【播】ハ。補過切　箇
㊀しく。
(い)あまねく施す。○〔書〕「王播告之修」。
(ろ)たねまく、(種)。○〔詩〕「其始播二百穀一」。
(は)ちる、ちらす、(散)。○〔書〕「北播爲二北河一」。
(に)のぶ、(舒)。○〔禮〕「播二五行于四時一」。
(ほ)あぐ、あがる、(揚)。○〔揚〕「播二於諸侯一」。
㊁放棄す、はなつ、すつ。○〔書〕「播二棄黎老一」。
㊂のがる、(逋)、うつる、(遷)。○〔左〕「成公播蕩」。
〔傳播〕先より先へとつたへしく。○〔宋〕「所レ爲詞草、往々傳播在二人口一」。
〔流播〕傳はり布く。○〔中論〕「惠澤流播」。
〔遠播〕遙に傳はる。○〔孫綽〕「音徽遠播」。
〔揚播〕あぐ、あがる、ちる、ちらす。○〔呂氏春秋〕「舟中之人、揚播入二于河一」。
〔弘播〕汎く傳はりしく。○〔陸雲〕「惠音弘播」。
〔徙播〕うつる。○〔徐陵〕「昔隆周徙播、皆遷晉鄭之功一」。
〔振播〕ふるひしく。○〔梅堯臣〕「振播還有レ因」。
〔蒔播〕たねまき。○〔黃庭堅〕「布穀未レ應レ勤二蒔播一」。
〔掀播〕あがる、あぐ。○〔吳萊王濬南〕「滄海欲二掀播一」。

【播】ハ。補火切　哿
㊀前條の㊀に同じ。○〔書〕「播二時百穀一」。
㊁簸に同じ、うごかす、(搖)。○〔莊〕「鼓レ筴播レ精足三以食二十人一」。

【播】ハ、バ。逋禾切　歌
滎播は、澤の名。

【撰】サン、セン。雛莞切　潸
㊀そなふ、(具)。○〔論〕「異二三子之撰一」。
㊁述作す、のぶ、つくる。○〔穀梁〕「大聖修撰」。
㊂のり、(則)、又、こと、(事)。○〔易〕「以體二天地之撰一」。
〔探撰〕隱れたる事どもを求めさがして著作す。○〔後漢〕「探二撰前紀一」。
〔刪撰〕多きもの又は惡しきものを削り去りてつくる。○〔南〕「徐勉二刪撰一」。
〔密撰〕人知れず作る。○〔北齊〕「帝密二撰事條一」。
〔參撰〕其の事にたづさはりて作る。○〔北〕「參二撰國事一」。
〔新撰〕あらたに著作す。○〔舊唐〕「破侯新撰」。
〔改撰〕かへなほして著作す。○〔舊唐〕「故復請レ改二撰實錄一」。
〔論撰〕書をあげつらひ作る。○〔唐〕「以二論撰一勞、遷二秘書郎一」。
〔私撰〕公けの命を受けずして著作す。○〔宋〕「昭有二史材一、嘗私二撰同光實錄十二卷一」。
〔演撰〕述べ作る。○〔宋〕「撰二演撰之要一」。
〔製撰〕作る。○〔宋〕「又有二按協聲律、製撰文字、運譜等官一」。
〔著撰〕述作す。○〔宋〕「士大夫有レ所二著撰一」。
〔杜撰〕正確ならざる著作。○〔野客叢談〕「默爲レ詩多不レ合レ律、故言レ事不レ合レ格者爲二杜撰一」。

〔考撰〕是非同異をかんがへ作る。○〔束晳〕「一一二一同異一」。
〔約撰〕大要をつゞめて作る。○〔荀悅〕「竊惟比宜二謹一二一舊書一」。
〔詳撰〕審密に意を用ひ作る。○〔王植〕「盡レ思一一」。
〔纂撰〕集め作る。○〔元稹〕「一一者由レ詩而下十七」。

【撰】セン。仕免切 銑
㊀前條に同じ。
㊁さゝる、もつ（持）。○〔禮〕「君子欠伸一二杖屨一」。
㊂選に同じ、やる、えらぶ。○〔禮〕「栗曰レ一レ之」。

【撰】セン。雛戀切 霰
㊀前條の㊁㊂に同じ。
㊁集述す、あつむ、のぶ。○〔歐陽修〕「白首勤二著一一」。

【撰】サン。損管切 旱
算に同じ、かぞふ、はかる。○〔周〕「羣吏一二車徒一」。

【撱】タ、ダ。吐火切 哿
角されて狹く長きこと。○〔爾〕「蠕小而一」。

【撱】井。羊捶切 紙
㊀すつ（棄）。㊁もつ（捫）。

【撱】キ。𨗫規切 支
すつ（棄）。

【撲】ハク、ボク。弼角切 覺
㊀相挨つ、うちあふ。○〔韓〕「上下交一」。

㊁操に同じ、うつ。○〔後漢〕「遂摧二一一大寇一」。
㊂たふす、たふる（踣）。○〔韓〕「朽杭㥾二傾一一」。
〔勁撲〕甚くしうつ。○〔陳〕「乘レ勝長驅、一二一凶醜一」。
〔殲撲〕前に同じ。○〔徐陵〕「凡厥兇徒、誰不二一一」。
〔跳撲〕をどりはねうつ、をどりはねてたふる。○〔郭璞〕「好自一一」。
〔聲撲〕うちなぐる。○〔李東陽〕「以レ手摩挲防二一一」。
〔環撲〕ぐるぐるとまはりうつ。○〔許國〕「驚沙一一亂二白日一」。
〔相撲〕互に打ちあふ。○〔何遜〕「臘鹽亂而一一」。
〔翦撲〕甚くし擊つ。○〔南〕「一朝一一、無レ待二旬師一」。
〔剿撲〕前に同じ。○〔洗約〕「橫加二一一」。
〔鏖撲〕前に同じ。○〔段成式〕「忿怒一一」。

【撲】ホク、ボク。普木切 屋
㊀拂著す、うちつける、又、小しく擊つ、うつ。○〔白居易〕「白一柳飛レ絮」。
㊁扑に同じ、つゑ、うつ。○〔荀悅〕「桎梏鞭一以加二小人一」。
㊂未だ調へ習はさゞること。○〔荀〕「若レ馭二一馬一」。
㊃のごふ（拭）。
〔亂撲〕處さだめず打ちはたく。○〔李成用〕「癡蛾一一燈難レ滅」。
〔飜撲〕ひるがへり打ちはたく。○〔蘇軾〕「雪陣風一一」。
〔掃撲〕はらひ打つ、うちつける。○〔文同〕「不レ免二自一一」。

【擘】擨に同じ。

【擨】撤の本字。

【擾】シウ、シュ。所丘切 尤

【撼】風の吹く聲にいふ字。○〔楊愼〕「邊地多二悲風一樹木何一一」。

【擺】ハイ、ヘ。蒲拜切 卦
火を吹く。

【擲】掉に同じ。

十三畫

【撻】タツ、ダチ。他達切 曷
㊀むちうつ（抶）、うつ（打）。○〔儀〕「罰二不敬一一二其背一」。
㊁さし、すみやか（速疾）、一說に、さほろ（遂）。○〔詩〕「一彼殷武」。
㊂弼の側の矢をあてがふ處、韋にて作る。○〔儀〕「設二依一一焉」。
〔韇撻〕兕のつのにて作りたる罰杯。○〔周、註〕「一一者失禮之罰也」。
〔鞭撻〕むちうつ。○〔晉〕「一二一殊俗一」。
〔笞撻〕前に同じ。○〔書、傳〕「一二一不レ是者一」。
〔扑撻〕前に同じ。○〔儀、註〕「以一二一于中庭一而已」。
〔楚撻〕前に同じ。○〔後漢〕「一一既行」。
〔捶撻〕前に同じ。○〔晉〕「嫂一二一婢一過レ苦」。
〔杖撻〕前に同じ。○〔列〕「數罵一一」。
〔怒撻〕いかりてうつ。○〔後漢〕「丹一而一レ之」。
〔撾撻〕うつ。○〔魏〕「乃至二一一一」。
〔斫撻〕斬るとうつと。○〔列〕「一一無二傷痛一」。
〔戮撻〕殺すとうつと、又、刑罰の義にいふ。○〔嵇康〕「一一所レ施」。

【撼】カン、ゴン。戶感切 感
撼に同じ、うごかす、うごく。○〔韓愈〕「蚍蜉一二大樹一」「位一」。
〔搖撼〕うごかす。○〔宋〕「多起二邪說一以一二一在位一」。
〔擺撼〕前に同じ。○〔孔平仲〕「草木困二一一一」。
〔震撼〕ふるひうごかす。○〔宋〕「一二一海宇一」。
〔敲撼〕うちたゝきうごかす。○〔韓愈〕「一一擽握」。

【擊】ケキ、キャク。古歷切 錫
カウ、ケウ。口教切 效
擊に同じ、うつ。○〔莊〕「一以二馬捶一」。

【擻】ケウ。詰弔切 嘯　ケキ、キャク。詰歷切 錫
邀に同じ、さへぎる、むかふ。

【擎】一に、擻に作る。
旁より擊つ、うつ。○〔公羊、註〕「擎猶レ一」。

【擊】ケウ。吉了切 篠
もつ（持）。

【擿】タ、テ。張瓜切 麻
うつ。
（い）擊つ。○〔唐〕「無レ兄盜レ嫂娶二孤女一一二婦翁一」。
（ろ）鼓を擊つ、つゞみうつ。○〔後漢〕「衡方爲二漁陽參一一聲節悲壯」。
〔恣擿〕さまゝにうつ。○〔北〕「恃勢一一二所部里正一」。
〔操擿〕とりうつ。○〔宣和畫譜〕「一一之次、忽見二浮雲在一レ空」。
〔亂擿〕はげしくうちたゝく。○〔汪元量〕「鞞鼓一一裂二巖谷一」。
〔連擿〕つゞけさまにうちたゝく。○〔汪元量〕「鼙鼓一一月上レ樓」。

【撿】ケン。居奄切 琰
㊀つかぬ（束）、こゞむ（拘）、又、かぎる（局）。○〔漢〕「郡事皆以二義法令一一レ式」。
㊁摸型、かた、いかた。○〔爾、註〕「一範

摸也所レ出必同」。
㊂みる、(察)、さがす、(搜)、かんがふ、(按)、又、あぐ、(擧)。○〔晉〕「王-導料二ー-中-書故-事一見二觀表救一己」。

【撿】レン。　良冉切　琰
なさむ、こまぬく、(拱)。

【擀】カン、ガン。　古旱切　旱
手にて物を伸ぶ、のばす、のぶ。

【擁】ヨウ、ユ。　於隴切　腫
㊀いだく。
(い)かゝふ、だく、(抱)。○〔禮〕「肆-束及帶、勸者有レ事則收レ之走則ーレ之」。
(ろ)もつ、とる、(持)。○〔漢〕「太-公ーレ彗」。
(は)まもる、(衞)。○〔後漢〕「延常嬰二甲-冑一ー二衞親-族一扞二禦鈔-盜一」。
(に)羣がり從ふ、あつめ從ふ、したがふ。○〔唐〕「自ー二數-百-騎一」。
㊁曲隈、範圍、くま、かこひ。○〔司馬相如〕「批レ巖衝レー」。
(夾擁)　はさみまもる。○〔晉〕「攝-提爲レ楯以ー二ー帝-座一也」。
(坐擁)　ゐながらにかゝへもつ。○〔晉〕「ーー二大-兵一」。
(簇擁)　かまびすしく從ふ。○〔宋〕「ー二ーー輦-下一」。
(捧擁)　まもる。○〔杜甫〕「ーーー從西來」。
(屏擁)　かたみかゝふ、又、かこひ、くま。○〔蘇軾〕「三-山ーー僧舍小」。
(圍擁)　前に同じ。○〔劉克莊〕「浴罷六-宮鬩ーー」。
(扶擁)　たすけいだく。○〔蘇軾〕「老-稚相ーー」。
(密擁)　こまやかにかゝふ。○〔王逢〕「風-雲ーー將-軍樹」。

【擁】ヨウ、ユ。　於容切　冬
さへぎる、(遮)、さゝふ、(障)。○〔禮〕「女-子出レ門必ー二蔽其面一」。

【擂】ライ。　力堆切　灰
物を研す、みがく、する。

【擂】礧に同じ、石を高きより推し下す、おとす。

【㩒】捦に同じ。

【⿰扌罪】サイ、ゼ。　崇懷切　佳
倒し損す、そこなふ。

【⿰扌罪】サイ、ゼ。　仕壞切　卦　粗賄切　賄
くじく、(拉)。

【擃】ダウ、ノウ。　匿講切　講
㊀つく、(撞)。㊁さす、(刺)。

【擄】ロ、ル。　郎古切　麌　ー通じて、鹵に作る。
㊀かすむ、(掠)。㊁う、(獲)。

【⿰扌⿺走匪】揹に同じ。

【擅】セン、ゼン。　時戰切　霰
㊀己が心のまゝに處置すること、已れ獨り占有することを、ほしいまゝ。○〔禮〕「不三敢ー二重-事一」。
㊁据る、有つ、よる、しむ。○〔戰〕「五-年以ー二呼-沱一」。
(獨擅)　おのれのみにて思ひのまゝにすること。○〔戰〕「趙ーー之」。
(豪擅)　つよくほしいまゝなること。○〔魏〕「家世ーー」。
(雄擅)　前に同じ。○〔魏〕「蓋欲レ使下ーー之家不上レ獨二擅腴之美一」。
(收擅)　をさめしむ。○〔魏〕「ーー其利一」。
(專擅)　ほしいまゝなること。○〔抱朴子〕「專無二ーー一」。
(恣擅)　前に同じ。○〔華大國志〕「大將宦維惡二皓之ーー一」。
(奸擅)　よこしまにしてほしいまゝなること。○〔華陽國志〕「欲下誅二宦-官一、絕二其ーー一、盡中忠王-室上」。

【⿰扌煩】ヘン、ボン。　符袁切　元
煩悶す、もむ。

【⿱毀手】キ。　虎委切　紙　ー一に毀に作る。
傷け擊つ、やぶる、きづつく、うつ。

【⿰扌著】チャク。　陟略切　藥
㊀おく、(置)。㊁うつ、(擊)。

【擇】タク、ヂャク。　直格切　陌
タク、ダク。　達各切　藥
善きものを見分けて拔き取る、える、えらむ、えらぶ、すぐる。○〔中〕「ーレ善固執レ之」。
(財擇)　えらぶ。○〔漢〕「唯陛-下ーー」。
(選擇)　前に同じ。○〔孟〕「ーー而使レ子」。
(妙擇)　前に同じ。○〔唐〕「ー二ー能-者一委レ之」。
(銓擇)　前に同じ。○〔宋〕「蓋下委二館-職一ーー以成中一-代之書上」。
(簡擇)　前に同じ。○〔韓愈〕「相賀ーー精」。
(掄擇)　前に同じ。○〔歐陽詹〕「ーー期二精-專一」。
(熟擇)　くはしくえらぶ。○〔鹽鐵論〕「不レ可レ不二ーー一也」。
(練擇)　前に同じ。○〔文心雕龍〕「必須二ーー一」。
(精擇)　前に同じ。○〔蘇舜欽〕「倘思二ーー一」。
(愼擇)　つゝしみえらぶ。○〔白居易〕「兼資二ーー一」「ーー一」。
(收擇)　用ひえらぶ。○〔歐陽修〕「往々蒙レ見二ーー一」。

【擈】撲に同じ。

【⿰扌⿺辶茲】揲に同じ、かぞふ。○〔漢〕「ーレ之以二三-策一」。

【擉】サク、ソク。　測角切　覺
ショク、ソク。　殊玉切　沃
㊀魚鼈などを刺して取る、さす。○〔莊〕「冬則ー二鼈於江一」。
㊁刺し取るに用ふる具、やす。○〔韓愈〕「罔レ繩ーレ刃」。

【擊】ケキ、キャク。　古歷切　錫
㊀うつ。
(い)觸れ當つ、たゝく。○〔晉〕「以二鐵-如-意一ーレ之」。
(ろ)觸る、當たる。○〔莊〕「目ー而道存矣」。
(は)斬る、刺す、殺す。○〔國〕「封レ羊ーレ豕」。
(に)攻む、伐つ、襲ふ。○〔史〕「急ーレ之勿レ失」。
(ほ)排す、除く。○〔莊〕「掊二ー而知一」。
(へ)抑ふ、挫く。○〔漢〕「搏二ーー豪-彊一」。
(と)投ぐ。○〔林希佚〕「壤ー而歌」。
(ち)放射す。○〔隨手雜錄〕「以レ砲ーレ之中二佛-乳一」。
(り)鬪ふ。○〔莊〕「日-夜相二ー于前一」。
㊁鐵刃、やいば。○〔淮〕「槽-柔無レー」。
㊂覡に同じ、をのこのかんなぎ、男巫。○〔荀〕「傴-巫跛-ー」。
(戛擊)　音をさせうつ。○〔書〕「ー二ー鳴-球一」。
(狙擊)　ねらひうつ。○〔史〕「良與レ客ー二ー秦皇帝博浪沙中一」。
(轂擊)　車と車の軸のうちあたること。○〔史〕「車ーー、人肩摩」。
(排擊)　おしひらきうつ。○〔蘇軾〕「口吻ーー含二風-霜一」。
(遮擊)　さへぎり伐つ。○〔漢〕「又時々ー二ー之一」。
(霆擊)　いかづちの如く犯すべからざる勢をもてうつ。○〔漢〕「宜-縱二先至者一、令下臣等深入ーー上」。

【擣擊】つくとうつと。○〔論衡〕「—レ鐘—レ鼓」。
【擬擊】たゝく。○〔漢〕「其後民以二耰鉏箠梃一相——」。
【橫擊】よこてよりうつ。○〔南〕「自レ外——大破レ之」。
【要擊】さへぎりうつ。○〔左〕「吳人—而—レ之」。
【挾擊】両方よりはさみうつ。○〔戰〕「韓魏—而—レ之」。
【夾擊】前に同じ。○〔史〕「予レ是漢兵——大破レ之」。
【奮擊】いさみふるひてうつ。○〔晉〕「將士——莫レ不レ用レ命」。
【攻擊】せめうつ。○〔戰〕「終レ身無二相——一」。
【急擊】にはかにうつ。○〔史〕「項羽——秦軍一」。
【笞擊】むちもてうちたゝく、むちうつ。○〔史〕「——閭レ之」。
【搖擊】前に同じ。○〔晉〕「予自——之一」。
【杖擊】前に同じ。○〔晉〕「閽者以レ——レ之」。
【鞭擊】前に同じ。○〔貢奎〕「——非レ所レ先」。
【觸擊】ふれうつ。○〔史〕「相棊自——」。
【扼擊】おさへうつ。○〔漢〕「方士瞋目——」。
【格擊】うちあふ。○〔漢〕「貝等——」。
【提擊】あげうつ。○〔漢〕「拔レ劍四面——」。
【距擊】ふせぎうつ。○〔漢〕「——田都一」。
【追擊】おひかけうつ。○〔漢〕「——大破二吳王濞一」。
【捕擊】とらへうつ。○〔漢〕「——二豪俠一」。
【敲擊】うちたゝく。○〔後漢〕「——二吏卒一」。
【掩擊】敵の不意をうつ。○〔後漢〕「因——大破レ之」。
【襲擊】前に同じ。○〔魏〕「曹操遣二奇兵一——」。
【奔擊】いそぎ馳せてうつ。○〔後漢〕「彭——大破レ之」。
【舂擊】つきうつ。○〔方夔〕「淙々細浪夜——」。
【拳擊】にぎりこぶしにてうつ。○〔魏〕「以レ——琛」。
【迭擊】かはるがはるうつ。○〔北〕「東西——」。
【縱擊】(い)兵士をはなちてうつ。○〔唐〕「稜——而破レ之」。(ろ)きまゝにうちたゝく。○〔羯鼓錄〕「乃命二高力士取二羯鼓一臨レ軒——」。
【突擊】つきいでうつ。○〔唐〕「秦王以二精騎一——破レ之」。
【怒擊】はらをたてゝうちたゝく。○〔家語〕「鍾之音、—而—レ之則武」。
【伐擊】せむ。○〔道德指歸論〕「判剝——」。
【鬭擊】たゝかふ。○〔神仙傳〕「夫妻各咒二一株一使二相——一」。
【戰擊】前に同じ。○〔劉勰〕「而能——者、教習之功也」。
【摑擊】つゞみうつ。○〔演繁露〕「然非——不レ二正月一」。
【衝擊】つきうつ。○〔薩都剌〕「逆湍——若レ登天」。
【背擊】うしろよりうつ。○〔枚乘七發〕「——二北岸一」。
【振擊】はげしくふるひうつ。○〔蔡邕〕「揚波——」。
【疎擊】まばらにうちたゝく。○〔陸機〕「鼙鼓——」。
【打擊】うつ。○〔葛洪〕「若無レ故自墮落——煞レ人」。
【迅擊】すばやくうつ。○〔虞世南〕「若二秋鷹之——一」。
【揆擊】ならしうつ。○〔柳宗元〕「——吹鼓之音一」。
【盪擊】水などの激しくうつこと。○〔柳宗元〕「——益暴」。
【敲擊】たゝく。○〔李白〕「月明——水精盤一」。
【啄擊】鳥などのくちばしにてつゝくこと。○〔牛僧孺〕「彼——不レ能レ爲レ害」。
【尾擊】敵の後陣をうつ。○〔黃庭堅〕「——之而首應」。
【摧擊】くだきうつ。○〔陳與義〕「——覺自碎」。
【飄擊】風のふきて物をうつこと。○〔陳煮〕「迅雷疾風之所二——一」。
【椎擊】うつ。○〔法苑珠林〕「若是弟子舍利、——便破矣」。

【撅】ケツ、コチ。居謁切 [月]
揭に同じ。

【撰】ケイ、ギヤウ。渠營切 [庚]
博——子は、すごろくのさい。

【操】サウ、ソウ。倉刀切 [豪]
さろ。
(い)もつ(持)、にぎる(把)。○〔漢〕「秦始皇躬二—文墨一晝斷レ獄夜理レ書」。
(ろ)はたらかし使ふ、あやつる。○〔莊〕「津人—レ舟若レ神」。
【分操】わけてとる。○〔周禮疏〕「五兵各因レ所レ長以——」。

【操】サウ、ソウ。七到切 [號]
㊀守る所あること、志を持ちて變ぜざること、みさを。○〔後漢〕「喜少有二節—一」。
㊁風調、おもむき。○〔南〕「淸整有二風—一」。
㊂琴の曲。○〔後漢〕「歌詩曲—以俟二君子一」。
【貞操】かはらざるかたきみさを。○〔晉〕「覩二松竹一則思二——之貞一」。
【賢操】まさりたる心がけあること。○〔漢〕「雖二賈人一有二——一」。
【恒操】定まりたるつねのみさを。○〔漢〕「參好二禮儀一、終不レ改二其——一」。
【常操】前に同じ。○〔素書〕「上無二——一」。
【異操】すぐれたるみさを。○〔歷代名畫記〕「幼有二——一」。
【殊操】前に同じ。○〔晉〕「弱冠有二——一」。
【雅操】正しきみさを、又、正しき琴曲。○〔晉〕「厲二松筠之——一」。
【俗操】世間なみのみさを。○〔晉〕「不レ修二——一」。
【立操】みさををたて守ること。○〔晉〕「卓爾——」。
【淸操】潔白なるみさを。○〔晉〕「總角有二——一」。
【士操】さむらひたるべきみさを。○〔晉〕「國寶少無二——一」。
【高操】けたかきみさを。○〔南〕「又履二——一」。
【志操】心の守りあること。○〔南〕「好レ學有二——一」。
【稟操】生れつきのまゝなる心がらのこと。○〔魏〕「——貞亮」。
【烈操】はげしきみさを。○〔北〕「幼有二——一」。
【特操】他にたよらざる心のまもり。○〔莊〕「何其無二——一與」。
【濁操】潔白ならざる心がけ。○〔論衡〕「薄能——」。
【氷雪操】氷雪にくらべていさぎよきみさをにいふ語。○〔高適〕「如何——」。
【松柏操】松柏の四時其の色を變ぜざるにくらべて人の堅固なるみさをにいふ語。○〔南〕「與二——一比」。
【歲寒操】前に同じ、松柏の歲寒後凋にくらべいふ。○〔李咸用〕「少有二——一」。

【擎】ケイ、ギヤウ。渠京切 [庚] 渠映切 [敬]
持ちて高くす、擧げ持つ、さゝぐ、あぐ。○〔杜甫〕「書從二稚子—一」。
【擕擎】持ちあぐ。○〔韓愈〕「湖嶽費二——一」。
【提擎】前に同じ。○〔劉師服〕「狹中愧二——一」。
【駢擎】ならびさゝぐ。○〔曾鞏〕「朱碧萬寶相——」。

【擎】
檠に通ず、ゆみだめ、又、たむ。○〔荀〕「良弓不レ得二排——一則不レ能二自正一」。

【擏】
儆に同じ、いましむ(戒)。

【撽】
擊に同じ。

【擂】ハク、ヒヤク。匹麥切 [陌]
射て物に中つる聲にいふ字。○〔張衡〕「流鏑—擈」。

【攓】
搴の本字。

【擮】テツ、テチ。他結切 [屑]
ひく、(揃)。

【擨】
殿に同じ、むちうつ。

【擋】タウ。丁浪切 [漾]
摒——は、おほひかくす。

【擽】拜の本字。○〔周〕「辨二九ー一之儀一」。

【擤】カウ、キヤウ。呼梗切 梗 ⊖鼻の膿（しる）を手にて捻る、はなかむ。

【擥】ラン、ロン。魯敢切 感 ―攬、又、攬に作る。（い）指を聚めとる、撮み持つ、もつ、つまむ。○〔管〕「飯必捧ー一」。（ろ）總べ持つ、引き取る、聚め采る。○〔屈平〕「切ー一洲之宿‐莽一」。〔捻擥〕つまむ。○〔詩、傳〕「ー一祛‐袂一」。

【擸】擥に同じ。○〔漢〕「ー一仲‐舒ー別一向‐歆一」。

【擈】撲に同じ、うつ。○〔揚雄〕「不レ摩二其體一ー」。

【擈】ホク。普木切 屋 ⊖つく、ことごとく（盡）。○〔揚雄〕「南‐楚凡物盡生者曰二ー‐生一」。⊜あつまる（聚）。○〔揚雄〕「楚曰二之ー一或曰二之翕一」。

【擦】サツ、セチ。初戞切 黠 急しく摩る、なづ、さする。

【擧】擧の本字。

【擧】ヨ。以諸切 魚 舁に同じ、さしにてあぐ、かく。

【擿】チ。陟利切 寘 疐に同じ、障礙ありて行かれず、又、つまづく（跲）。

【擨】ヤ。以遮切 麻 揶に同じ。

【擨】イ。余支切 支 欹に同じ。

【擩】ジュ、ズ。擘主切 麌 そむ、（染）。○〔唐〕「ー‐嚌道‐眞」。

【擩】ズヰ。儒誰切 支 前條に同じ、又、ひたす（揾）。○〔儀〕「取二韮‐菹一以辨ー二于醢一」。

【擩】ゼン、チン。而宣切 先 ⊖前條に同じ。⊜撋に同じ、もむ。

【擩】ゼツ、チチ。如劣切 屑

【擩】ジュ、ニュ。而遇切 遇 手にて物を進む、すゝむ。

【擩】ヂュ、ニュ。尼主切 麌 さゝふ（拄）。

【擩】ドウ、ヌ。乃豆切 宥 搆ーは、事を解せず、くらし。

【擪】エフ。益渉切 テフ、託協切 デフ。切 葉 一指にて按ふ、おさふ。○〔元稹〕「李謩ーレ笛傍二宮牆一」。
〔藏擪〕をさめおさふ。○〔元稹〕「鼎‐々雜二ー‐ー一」。
〔雙擪〕手もて打ち指もておさふ。○〔白居易〕「ー‐ー弾‐吹聲邐‐迤」。
〔埋擪〕かくしおさふ。○〔沈遼〕「頭腦、深ー‐ー」。
〔偷擪〕平たくおさへつく。○〔沈遼〕「拙‐惡姚二ー‐ー一」。

【擪】アフ、オフ、乙甲切 洽 おさふ（按）。

【擪】エン。於琰切 琰 もつ（持）。

【擫】擪に同じ。○〔白居易〕「擊ー‐彈‐吹聲邐‐迤」。

【擬】ギ。偶起切 紙 ⊖揣度す、はかる。○〔易〕「ーレ之而後言」。⊜なぞらふ。（い）かたどる（像）、くらぶ（比）。○〔漢〕「修ー二於君一」。（ろ）ならぶ（比）、にる（似）。○〔後漢〕「乃與二五‐經一相ー」。
〔注擬〕調べはかる。○〔唐〕「請四‐時ー‐ー」。
〔準擬〕なぞらふ。○〔儲光羲〕「衣‐裳無二ー‐ー一」。
〔摸擬〕かたどりなぞらふ。○〔蘇軾〕「紛‐々ー‐ー低二堪ヘ笑」。
〔備擬〕敵にそなへ防ぐ。○〔舊唐〕「多屯二士‐卒一、嚴爲二ー‐ー一」。
〔倫擬〕ならべひとしくす。○〔唐〕「等‐級遼‐絕、勢不二ー‐ー一」。
〔進擬〕位階を昇せなぞらふ。○〔唐〕「夫ー‐ー者、必悉二其才‐行一」。
〔僭擬〕身分を超えて上なる人の眞似をなす。○〔唐〕「擅自尊‐大、怨二ー‐ー之嫌一」。
〔貲擬〕なぞらふ。○〔水經、註〕「十‐年之間、ー二ー王‐公一」。
〔配擬〕割りあて度る。○〔唐〕「一據二貲考ー‐ー一」。
〔銓擬〕善惡を度りあきらむ。○〔金〕「積レ久不レ勝二ー‐ー一」。
〔度擬〕はかりなぞらふ。○〔長笛賦〕「剬‐掞ー‐ー」。
〔猜擬〕他に知れざるやうかくれてなぞらふ。○〔射雉賦〕「屛二𠜂‐罺一以ー‐ー」。
〔儔擬〕たぐひしならぶ。○〔吳筠〕「無二等‐倫以ー‐

【擖】揭に同じ、になふ。

【擙】カウ、ゴウ。胡刀切 豪 多少を較ぶ、くらぶ。

【擨】赤に同じ。

【擨】イ。隱綺切 紙 ー‐ー匜は、正しからず、なゝめ。

【擵】バク、モク。墨角切 覺 うつ（打）。

【擭】ロク。屋虢切 陌 手に取る、とる、又、にぎる（握）。○〔張衡〕「抄二木‐末一ー二獑‐猢一」。

【擭】コ、グ。胡誤切 遇 分け解く、わく、さく。

【擭】クワ、ゲ。胡化切 禡 クワク、グワク。 コク、ゴク。胡谷切 屋 胡郭切 藥 おさし穴の中に設くる獸を捕ふる機、わな。○〔中〕「驅而納二諸罟‐ー陷‐阱之中一」。

【攈】タン。覩綏切 旱 まはす（轉）、一說に、籆（いさわく）をまはす。

【擫】シウ、ジュ。鉏救切 宥 うつ（擊）。

【攕】抄に同じ、つむ（摘）。

【攕】韱に同じ。

【擯】 ヒン。必仭切 震 卑民切 眞

㊀しりぞく(斥)、又、すつ(棄)。○〔崔寔〕「寡不レ勝レ衆遂見二擯棄一」。㊁儐に同じ、客を導く、みちびく。○〔周〕「凡四方之使者大客則擯」。

(擯斥) かくし斥く。○〔後漢〕「慷慨以爲宜見二擯斥一」。

(排擯) おし斥く。○〔李綱〕「排二擯宗室一」。

(嘲擯) 侮りて斥く。○〔葉適〕「誰能困二嘲擯一」。

【攓】 俗の搴の字。

【擽】 簭に同じ。

【擰】 ダウ、ニヤウ。泥耕切 庚

亂る。

十五畫

【擲】 テキ、ヂヤク。直隻切 陌

㊀ふるふ(振)。○〔酉陽雜俎〕「吼擲而前」。㊁なぐ、なげうつ(投)。○〔南〕「擲レ之百發百中」。

(試擲) ためしになげうつ。○〔晉〕「卿擲レ地、當レ作二金石聲一」。

(弃擲) なげすつ。○〔杜牧〕「擲擲迤邐」。

(揚擲) あげふるふ。○〔舊唐〕「開元初詔使二揚擲一而較二其虛實一」。

(荻擲) やきすつ。○〔宣和書譜〕「荻擲略盡」。

(奮擲) ふるふ。○〔仇遠稗史〕「跳踉奮擲」。

(拭擲) なげうつ。○〔左思〕「莽實驟拭擲」。

(投擲) 前に同じ。○〔韓愈〕「投擲傾二脯漿一」。

(拋擲) 前に同じ。○〔白居易〕「洛下田園久拋擲」。

(挑擲) かゝげふるふ。○〔梅堯臣〕「絲車必挑擲」。

(散擲) ちらしなげうつ。○〔蘇軾〕「石硏散擲如二風雨一」。

【擳】 シツ、シチ。阻瑟切 質

擳擳は、稻を刈る音にいふ語。

【擳】 櫛に同じ、のごふ(拭)。

【擴】 クワク。苦郭切 陌 古獲切 藥

張りて大ならしむ、ひろむ、ひろぐ。○〔孟〕「知二皆擴而充一レ之矣」。

【擴】 クワウ、ワウ。古曠切 漾

擴に同じ、みつ(充)。

【擂】 攂に同じ、うつ。

【擂】 リウ、ル。力求切 尤

㊀きる(斬)。㊁さす(刺)。㊂つかぬ(束)。㊃とる(捋)。

【攠】 俗の摩の字。

【擶】 セン。子賤切 霰

射の敧きたるを直くす、なほす、たゞす。

【擷】 ケツ、ケチ。奚結切 屑

㊀襭に同じ、衣の衽をかゝげ折りて帶にはさむ、其のはさめる中に物を置く、つまばさむ、はさむ。○〔蘇軾〕「是時靑霜女、採擷何匆匆」。㊁捋取す、とる。○〔蘇軾〕「雨中擷二園蔬一」。

(採擷) 取る。○〔宋之問〕「採擷都盡」。

(掇擷) 前に同じ。○〔吳澄〕「掇擷紛瑣碎」。

(玩擷) もてあそび取る。○〔拾遺記〕「玩二擷菱渠一」。

(探擷) さがし取る。○〔權德輿〕、「探擷當二五月一」。

(搴擷) ぬきとる。○〔釋無可〕「靈均嘗搴擷」。

【擫】 アウ、オウ。於刀切 豪

鏖に同じ、盡く人を殺す、みなごろす。

【擫】 古文の捊の字。

【摽】 ヘウ、ベウ。被表切 篠

折りて縛す、しばる、たばぬ。

【擸】 レフ、ロフ。良涉切 葉

理ち持つ、もつ。○〔儀〕「尙擸坐啐レ醴」。

【擸】 ラフ、ロフ。盧盍切 合

をる(折)、又物の破壞する聲にいふ字。○〔左思〕「拉擸雷硠」。

【攞】 ラ。朗可切 哿

掗攞は、動く、ゆるぐ。

【擿】 チ。展里切 紙

さす(刺)。

【擮】 ベツ、メチ。莫結切 屑

㊀うつ(擊)。㊁方正ならず、ゆがむ。

【擮】 ベイ、メ。莫計切 霽

㊀のごふ(拭·滅)。㊁たつ(裁)。

【擮】 バツ、マチ。莫八切 黠

のごふ(拭)。

【擹】 テン、デン。直善切 銑

手にて轉す、まろばす。

【攤】 攤に同じ。

【擇】 揮に同じ、ふるふ。○〔揚雄〕「擇而散レ之者人也」。

【擿】 トク、ドク。徒谷切 屋

ぬく(抽)。

【擺】 ハイ、ヘ。補買切 蟹

㊀ひらく(發)、おす(排)。○〔馬融〕「擺レ牲班レ禽」。㊁ふるふ(振)。○〔王令〕「搖二擺舌吻一」。

(搖擺) うごかしふるふ。○〔王令〕「搖二擺舌吻一歸二之仙一」。

【擻】 ソウ、ス。蘇后切 有

抖擻は、あぐ、一説に、よすてびと、僧侶。○〔王維〕「抖擻辭二貧里一」。

【擼】 ロ、ル。郎古切 麌

うごかす(動)。

【掾】 エン。余專切 先

にぎる、とる(把)。

【擙】 フ。芳無切 虞

㊀はる(張)。㊁あぐ(揚)。

【擽】 リヤク。離灼切 藥

うつ(擊)。○〔唐〕「取二鐵燈一擊一擽一二合其踣一」。

【擽】 ヤク。弋灼切 藥

つくす、つく(竭)。

【擽】 レキ、リヤク。郎敵切 錫

㊀うつ(擊)。㊁はらふ(拂)。

【擽】 ラク。歷各切 藥

挌に同じ、うつ。

【擾】ゼウ、ゼウ。而沼切 篠
㊀みだる。
(い)わづらはしく亂る。○〔漢〕「天-下樂ー」。
(ろ)わづらはしく亂れしむ、みだす。○〔書〕「俶ー二王-紀一」。
㊁わづらはし、(煩)。○〔莊〕「雜則多-々則ー」。
㊂順良なるを、すなほ。○〔書〕「ー而毅」。
㊃やすんず、(安)。○〔周〕「安二ー邦-國一」。
㊄なる、ならす、(馴)。○〔左〕「ー二畜龍一」。
㊅やしなひならす獸、即ち、家畜。○〔周〕「宜二六ーー」。
〔紛擾〕みたる。○〔漢〕「何ー然共ー也」。
〔雜擾〕秩序なくみたる。○〔史〕「民-神ーー」。
〔安擾〕やすんむ。○〔周〕「ー二ー邦-國一」。
〔教擾〕をしへならす。○〔周〕「掌下養二猛-獸一而ー上之」。
〔擾擾〕みたるゝ貌にいふ語。○〔國〕「唯有二諸-侯一故ーー焉」。
〔騷擾〕さわがしく亂る。○〔後漢〕「恐更ーー速成二其患一」。
〔煩擾〕わづらはし、みたる。○〔史〕「我軍雖二ーー、然靡亦不レ得レ犯レ我」。
〔躁擾〕せはしくわづらはし、さわぐ、さわがす。○〔漢〕「恭性ーー不レ能二無-爲一」。
〔驚擾〕おどろき亂る、おどろかしみたす。○〔漢〕「門-下ーー」。
〔侵擾〕かすめみたすと。○〔漢〕「ー二ー百-姓一」。
〔愁擾〕なげきみたる。○〔唐〕「人-心ーー」。
〔寇擾〕前に同じ。○〔宋〕「州-民輒ーー」。
〔迫擾〕せめきたりてみたすと。○〔後漢〕「ー二ー州郡一」。
〔怪擾〕おそれみたる。○〔宋〕「ーー莫レ知レ所レ爲」。
〔懼擾〕前に同じ。○〔程史〕「必致二ーー一」。
〔流擾〕くるしめみたす。○〔後漢〕「ー二ー百-姓一」。
〔馴擾〕なる、ならす。○〔後漢〕「ー二ー其室傍一」。
〔勞擾〕つからしみたす、わづらはし。○〔後漢〕「ー二ー無レ己」。
〔諠擾〕かまびすしくみたれさわぐ。○〔南〕「郡-中ーー」。
〔沮擾〕はゞみくじけてみたる。○〔晉〕「人情ーー」。
〔驅擾〕かけみたる。○〔晉〕「公-私ーー」。
〔荒擾〕あれみたる。○〔南〕「晉-末ーー之後」。
〔苛擾〕いらつきみたる、きびしくわづらはし。○〔鹽鐵論〕「上不二ーー一」。
〔揮擾〕ちりみたる。○〔易林〕「上-下ーー」。

【擾】ダウ、ノウ。乃老切 晧
前條の㊀に同じ、みだる。

【撼】摵に同じ。

【擙】毅に同じ、うつ(擊)。

【擿】テキ、ヂヤク。直隻切 陌
㊀かく、(搔)。○〔列〕「指ー無二痟-癢一」。
㊁なげうつ、(擲)。○〔史〕「引二七-首一以ー二秦-王一」。
㊂簪股、かんざしのあし、かみかき。○〔漢〕「以二瑇-瑁一爲レー」。

【擿】テキ、チヤク。他歷切 錫
㊀挑發す、あぐ、あばく、かゝぐ。○〔漢〕「發レ姦ーレ伏」。
㊁石を投ぐるを、いしなげ。
〔發擿〕あばきいたす。○〔漢〕「共ーレ姦ーレ伏如レ神」。
〔指擿〕さしためしてあばきいたす。○〔唐〕「凡ー一書中二共弊一」。
〔檢擿〕さらぶると。○〔唐〕「ー二ー耗欺一」。

【擿】タク、チヤク。陟革切 陌
摘に同じ、さる、つむ。○〔釋名〕「鏃ーー猶二諸摘一」。

【擕】攜の字の省文。

【攀】ハン、ヘン。披班切 刪　或は、扳・撲に作る。
ひく。
(い)引く。○〔國〕「ーレ輦郎レ利而舍」。
(ろ)下より上を援き持つ、さりつく、すがる、よづ。○〔崔駰〕「ー二台-階一闚二紫-闥一」。
〔追攀〕たすけあふと。○〔杜甫〕「親-友相ーー」。
〔躋攀〕高き場處にのぼりゆくと。○〔杜甫〕「緩歩有二ーー一」。
〔登攀〕前に同じ。○〔李白〕「夕-陽窮二ーー一」。
〔牽攀〕ひく。○〔魏武帝〕「長-恨相ーー」。
〔仰攀〕あふぎよづ。○〔謝〕「ーー二桂-樹柯一」。
〔連攀〕ひきつゞきてよづ。○〔元稹〕「展-轉相ーー」。
〔超攀〕登り追ふと。○〔徐陵〕「五-侯門-館怯二ーー一」。

【攁】ヤウ。以兩切 養
發動す、うごく、うごかす。

【擂】ライ、レ。盧對切 隊
㊀急しく鼓を撃つ、うつ、つゞみうつ。
㊁石を轉ずころばす。○〔唐〕「徹二民-屋一爲二ー-車一」。

【擂】ライ、レ。盧回切 灰
物を研ぐ、とぐ、みがく、する。

【㩧】ハク、ホク。弼角切 覺　ハウ、ボウ。普講切 講　ハク、ヒヤク。博陌切 陌
うつ、(擊)、又、其の聲にいふ字。

【攃】サツ、サチ。桑葛切 曷
㊀撒に同じ、ちる、ちらす、まく。○〔韓愈〕「星如レーレ沙出」。
㊁足にて草を動かす聲にいふ字。
㊂する、(摩)。○〔益州名畫錄〕「以二筆-端一搶ーー文-理縦-横」。

【攄】キョ、チョ。抽居切 魚　或は、捈・攎に作る。
㊀のぶ、(舒)。○〔班固〕「獨ー二意乎宇-宙之外一」。
㊁しく、(布)。○〔司馬相如〕「ーレ之無レ窮」。
㊂のぼる、のぼす、(騰)。○〔張衡〕「八-乘ー而超-驤」。
㊃ちる、ちらす、(散)。○〔揚雄〕「奮二六-經一以ーレ頌」。
㊄なぞらふ、(擬)。
〔超攄〕こえのぼる、こえのぼす。○〔劉〕「馬-龍騰以ーー」。

【攅】俗の攢の字。

【攆】セイ、ゼ。祖芮切 霽
㊀さく、(裂)。㊁かく、かゝる、(挂)。

【擷】ケイ、キヤウ。犬穎切 梗
ー挺は、わたる、(竟)。

【㩯】攀に同じ。

【攗】俗の摹の字。

【𢹂】擺に同じ。

十六畫

【攦】レイ、ライ。郎計切 霽
さく、(裂)。

【攇】ケン、コン。許偃切 阮
㊀なぞらふ、(擬)。
㊁手にて物を約す、むすぶ。

㊂ひく、(挐)。○[蜀]「時尋二楚-撻一以相震-|-」。

【擾】デウ、チウ。乃了切 篠 つむ、(摘)。

【攈】クン、コン。倶運切 問 擧薀切 吻 クン。九峻切 震 |或は、捃、攟に作る。ひろふ、(拾)。○[漢]「蕭-何|二摭秦-法一」。

【擽】懪に同じ、力を用ひ極む、つかる。

【攥】簒に同じ、奪ひ取る、うばふ、とる。

【攉】クワク。忽郭切 藥 手を反へす、かへす。

【㩁】カク、ゴク。訖岳切 覺 ㊀專有す、もッぱらにす、ほしいまゝにす。○[漢]「豪-吏猾-民辜而|レ之」。㊁はかる、(商)。○[淮]「豈可レ謂レ無二大-揚-|-一乎」。(商㩁) はかる。○[江賦]「|-|二-|涓澮一」。

【擿】井。愈水切 紙 揥に同じ、すつ、(棄)。

【攪】カウ、ゲウ。下巧切 巧 みだる、(擾)。○[王褒]「攪-搜-|-捎」。

【撆】セン、ゾン。徐廉切 鹽 物を摘む、とる、つむ。

【攊】擽に同じ、うつ、(擊)。

【㩝】搔に同じ。

【擵】ソ、ス。孫租切 虞 さぐる、(摸)。

【攋】ラツ、ラチ。郎達切 曷 手にて披く、ひらく、

【攋】ライ、レ。洛駭切 蟹 弃て去る、すつ。

【攋】ライ、レ。落蓋切 泰 毀れ裂く、さく。

【攋】ラン、魯旱切 旱 やぶる、(壞)。

【擐】カン、ゲン。合版切 ワン、エン。烏版切 潸 ませがき、かこひ、木柵。○[史]「拘レ士繫レ俗兮|如二囚-拘一」。

【攍】エイ、ヤウ。怡成切 庚 になふ、かたぐ、(儋)。○[揚雄]「儋也、齊、楚、陳、宋之間曰レ|」。

【擓】壞に同じ、やぶる。

【攎】ロ、ル。龍都切 虞 ㊀もつ、(持)。㊁はる、(張)。㊂ひく、(引)。㊃をさむ、(斂)。

【攎】ロ、ル。魯故切 遇 捗|は、收斂す、をさむ。

【攎】ラ。良何切 歌

えらぶ、(揀)。

【龏】ロウ、ル。盧東切 東 うつ、(擊)。

【攏】ロウ、ル。魯孔切 董 とる、(持)、一説に、かすむ、(掠)、又、つかぬ、(括)。○[郭璞]「|二萬-川乎巴-梁一」。(拗攏) 錢の稱、かぞ。○[應物異名、疏]「|-|壽也」。(輕攏) かろくとる。○[白居易]「|-|慢撚抹復挑」。(撈攏) 手に取り持つ。○[李賀]「|-|去不レ歸」。

【攏】ロウ、ル。盧東切 東 をさむ、(理)。

【攐】ケン。丘虔切 先 ケン、ゴン。丘言切 元 衣を掲ぐ、かゝぐ。

【攌】エン。以冉切 琰 折れたるを續ぐ、つぐ、(秦晉の語)。

十七畫

【攓】ケン。丘虔切 先 搴に同じ、とる、かゝぐ。○[蘇軾]「作二|-雲篇一」。

【攑】ケン。九件切 銑 揵に同じ、とる、かゝぐ。○[列子]「|レ蓬而指」。

【攔】ラン。力丹切 寒 さへぎる、(遮)、又、さへぎるを、さへぎるもの、しきり。○[聞見錄]「以レ足|レ之」。(排攔) 布帛などの緣。○[宋]「|-|以二黃紫赤三色一」。(拘攔) てすり。○[古今注]「悉爲二扶老|-|一」。

【㩗】キ。虛宜切 支 香義切 寘 許几切 紙 うつ、(擊)。

【攕】サン、セン。師咸切 咸 |或は、摻に作る。女子の手のほッそりとして好き貌にいふ字、しなやか。

【攕】セン、ソン。息廉切 鹽 ㊀前條に同じ。㊁白き貌にいふ字。㊂のごふ、(拭)。

【擧】ヨ。羊諸切 魚 さしにて擧ぐ、かたぐ。

【攐】ケン、ゴン。丘言切 先 あぐ、かゝぐ、(擧)。

【㩯】ハ、バ。蒲波切 歌 ㊀をさむ、あつむ、(聚・斂)。㊁はらふ、(除)。

【攝】セフ。悉協切 葉 とる、(取)。

【擰】ダウ、チヤウ。猪孟切 敬 畫繪を開き張る、はる。

【擰】タウ、チヤウ。中莖切 庚 幕を張る、はる。

【攖】エイ、イヤウ。伊盈切 庚

㊀せまる、(迫)ちかづく、(近)ふる、(觸)。○〔孟〕「莫二之敢一レ―」。
㊁繫かり著く、かゝる。○〔莊〕「―而後成者也」。
㊂みだる、(亂)、又、ひねる、(拈)。○〔莊〕「汝愼無レ―二人心一」。

【攠】ビ、ミ。旻悲切 支
ひし、(䈣)。

【攘】ジヤウ、ナウ。如陽切 陽
㊀おす、(推)。○〔楚辭〕「離レ謗而見レ―」。
㊁ぬすむ、(竊)。○〔書〕「奪―矯虔」。
㊂特に、物の自から來れるをぬすむにいふ字。○〔論〕「其父―レ羊」。
㊃しりぞく、(郤)。○〔禮〕「左右―辟」。
㊄はらふ、(除)。○〔詩〕「―レ之剔レ之」。
㊅かゝぐ、(揎)。○〔漢〕「―レ袂而正議」。
〔寇攘〕寇竊をなし物を竊む。○〔書〕「無二敢―二踰垣牆一」。
〔拔攘〕ひらきはらふ。○〔傅休奕〕「仇黨失レ守爲二―一」。
〔攘攘〕手をつかみ袂をかゝぐ、うでぐみす、うでまくりす、又、つかみぬすむ。○〔蘇軾〕「雖レ余亦得レ―二其傍一也」。
〔蕩攘〕廣く逐ひはらふ。○〔唐〕「汎掃―」。
〔猛攘〕たけくふるひはらふ、たけくうでまくりす。○〔歐陽修〕「―飲レ張レ臂」。
〔啟攘〕臂をはらひ撲つ、うでまくりしてうでをたゝく、又、うちはらふ。○〔陸游〕「―雖レ快レ心、少忽理則長」。

【攘】ジヤウ、ナウ。如兩切 養

【攘】ダウ、ニヤウ。泥庚切 庚
みだる、(擾)。○〔漢〕「傾二側擾三―楚魏之間一」。
〔恇攘〕あわてみたる。○〔楚辭〕「逢二此世之―一」。
〔狂攘〕くるひみたる。○〔馬融〕「―相救兮」。
〔擾攘〕さわぎみたる。○〔後漢〕「因二時―一」。
〔搶攘〕みたるゝ貌にいふ語。○〔范成大〕「―二壓土薄書叢一」。

【攘】ジヤウ、ナウ。人尙切 漾
讓に同じ、ゆづる。○〔漢〕「隆二雅頌之聲一盛二揖―之容一」。

【攘】シヤウ、サウ。式亮切 漾
饟に同じ、おくる。○〔詩〕「―二其左右一」。

【攅】フン、ホン。方問切 問
拚に同じ、はらふ、のぞく。○〔詩箋〕「粲然已灑―矣」。

【攙】サン、セン。初銜切 咸
㊀さす、(刺)、㊁するどし、(銳)。
㊂たすく、(扶)。

【攙】シン。初譖切 侵

【攙】サン、セン。仕懺切 陷
天―は、彗星。○〔史〕「三月生二天―一」。

【攖】クワク、古獲切 陌　キヤク。
㊀完うし補ふ、おぎなふ。
㊁旁より掣す、ひく。
―或は、摑に作る。
ひく、(挻)。

【擎】ケイ、キヤウ。擧影切 梗
のぞく、はらふ、(除)。

【攆】セン、ソン。斯兗切 𪓐
拈―は、手にて物を稱かる、はかる。

【攕】セウ。子小切 篠
攕に同じ。

【攬】ラン、ロン。力淡切 勘
米を再び舂くを、にごつき。

十八畫

【攜】擕の本字。○〔國〕「―レ鐸拱レ稽」。

【攝】シヤク。郎約切 藥
㊀えらぶ、(擇)。㊁あぐ、(搁)。

【攞】ル井。魯水切 紙
魁―は、喪家の樂、人形まはし。

【攟】古の拳の字。

【攛】サン。取亂切 翰　七丸切 寒
なげうつ、(擲)。

【攤】ショウ、シュ。息勇切 腫
㊀とる、(執)。㊁おす、(推)。
㊂ぬく、(挺)、又、そばだつ、(竦)。○〔杜甫〕「―レ身思二狡兔一」。

【攥】サウ、ソウ。雙講切 講
おす、(推)。

【攧】擐の本字。

【攫】キヨク、拘玉切 沃　コク。
―或は、攫に作る。
つかむ、(捽)。

【攫】ク、ゴ。權具切 遇
―疎は、枝葉の茂りて敷き布く貌にいふ語。

【攜】ケイ、ケ。懸圭切 齊
㊀たづさふ。
(い)手に下げ持つ、ひッさぐ。○〔詩〕「如レ取如レ―」。
(ろ)牽き行く、持ち行く。○〔禮〕「長者與レ之提―」。
㊁はなす、はなる、(離)。○〔國〕「固二大子一以―レ之」。
㊂つらなる、つらぬ、(連)。○〔漢〕「杓―二龍角一」。
〔扶攜〕たすけたづさふ。○〔孟郊〕「歸老相―」。
〔招攜〕まねきたづさふ。○〔左〕「―以禮」。
〔解攜〕わかちはなす、はなれわかる。○〔杜甫〕「何人借二―一」。
〔睽攜〕たがひてはなる。○〔謝靈運〕「即レ事怨二―一」。

【攝】セフ。書涉切 葉
㊀引き持つ、ひく、もつ、とる。○〔漢〕「―使レ受レ筈」。
㊁をさむ。
(い)整頓す、とゝのふ。○〔儀〕「再醮―レ酒」。
(ろ)佐けとゝのふ、たすく。○〔詩〕「―以二威儀一」。
(は)養ふ。○〔老〕「善―レ生者」。
(に)結ぶ。○〔莊〕「必―二緘縢一」。
(ほ)錄す、すぶ、しまる。○〔晉〕「總二―百揆一」。
㊂をさめらる、管束せらる、しまる、をさまる。○〔論〕「―二乎大國之間一」。
㊃おふ、(追)、又、とらふ、(捕)。○〔國〕「―二少司馬茲與二王士五人一」。
㊄かはる、(代)。○〔史〕「代二成王一―二行政事一」。
㊅かぬ、(兼)。○〔禮註〕「不三敢使二夫兼―一」。

❼かる、（假）。○〔禮〕「―二束‐帛乘‐馬一將レ之」。
❽代理、又、兼務。○〔漢〕「王‐莽居レ―攝二漢制一」。
❾讋服す、おそる、おどす。○〔漢〕「―‐讋者不レ取」。

〔權攝〕かりに他の者に代はること。○〔宋〕「罷二―‐―一」。
〔統攝〕すべをさむ。○〔宋〕「―二―億‐兆一之本也」。
〔懾攝〕おそる、おどす。○〔魏、註〕「威足下以―二―彊‐寇一、鎭中‐靜彌‐漫上」。
〔鎭攝〕しづめをさむ。○〔魏、註〕「不二相―‐―一」。
〔董攝〕たゞしをさむ。○〔晉〕「不レ能二―‐―一群‐帥一」。
〔督攝〕前に同じ。○〔吳、註〕「―二―伐‐木一」。
〔糾攝〕前に同じ。○〔晉〕「莫二相―‐―一」。
〔假攝〕かりに他の者に代はること。○〔晉〕「―二―此州一以全二性‐命一」。
〔綜攝〕すべとゝのふ。○〔梁〕「不二相―‐―一」。
〔噏攝〕吸ひこむ。○〔神異經〕「―‐―無レ極」。
〔善攝〕きはめてよく養生すること。○〔王安石〕「生‐理歸二―‐―一」。
〔綰攝〕綰へをさむ。○〔李絳〕「可三以―二―天‐下之柄一」。

【攝】デフ、子フ。奴協切　葉
靜謐なること、しづか、やすらか。○〔漢〕「天‐下―‐―然人安二其生一」。

【擑】攝に同じ。○〔國〕「屏―之位」。

【攟】擴に同じ、ひろふ。○〔淮〕「―二―逐萬‐物之祖一」。

十九畫

【攔】挸に同じ。

【擐】クワン。姑還切　刪
❶丱關り付く、かゝる、かゝはる。○〔揚雄〕「―二神‐明一而定レ摹」。

❷魚の子、たまご。○〔禮、註〕「卵讀爲レ鯤、々魚子或作レ―」。

【攞】ラ。郎可切　哿
さく、（裂）。

【攞】ラ。良何切　歌　或は、擄に作る。
えらぶ、（揀）。

【攟】クン、コン。擧蘊切　吻
とる、（取）。

【攟】クン、コン。居運切　問
攈に同じ、ひろふ、とる。○〔國〕「收―而烝納レ要也」。

【攠】ビ、ミ。忙皮切　支　バ、マ。莫臥切　箇
❶やぶる、（弊）。
❷鍾の擊を受くる處。○〔周〕「于上之―謂二之隧一」。

【擟】擘に同じ。

【攡】リ。鄰知切　支
はる、（張）。○〔楊雄〕「幽―萬‐類而不レ見レ形」。

【攡】摛に同じ。

【攕】セフ。七葉切　葉　一に、檖に作る。
飯をすくひとる具、めしさじ、（飯‐匙）。

【攢】サン、ザン。徂丸切　寒
❶むらがる、（簇）、あつまる、（聚）。○〔司馬相如〕「―‐―立叢‐倚」。
❷擇ぶ、えらぶ。○〔禮〕「祖梁曰レ―レ之」。
❸葬らずして其の柩を掩ふ、おほふ。

○〔康〕「不レ葬而掩二其柩一曰レ―」。
〔攢々〕あつまれる貌にいふ語。○〔漢喘喑歌〕「聚下何―‐―」。

【攢】サン、ザン。在玩切　翰
前條の❸に同じ。

【攢】サン、ザン。子罕切　旱
とる、（折）。

【𢸥】ラン。盧丸切　寒
❶あつまる、（聚）。❷えらぶ、（擇）。

【攣】レン。閭員切　先
拘はり牽く、連なり繫がる、つらなる、ひく、かゝる。○〔易〕「有レ孚―如」。
〔拘攣〕かゝはりひく。○〔黃庭堅〕「安得二此身脫一―‐―一」。
〔綿攣〕まつはりつらなる。○〔張衡〕「毋二―‐―一以涬中己分上」。
〔攀攣〕よぢ牽く。○〔易、疏〕「又―‐―而迎接」。
〔牽攣〕ひく。○〔韓愈〕「軒‐曨斷二―‐―一」。
〔縈攣〕つながりかゝる。○〔班嗣〕「既―二―于世‐教一矣」。

【攣】レン。龍眷切　霰
❶手足かゞまりまがる、又、手足のまがる病。○〔史〕「蹙‐齃膝―」。
❷戀に通ず、したふ、こふ。○〔漢〕「―‐―顧二念我一」。
〔拳攣〕戀ひ慕ふ貌にいふ語。○〔石介〕「胸‐中―‐―蟠二蛟‐螭一」。
〔胼攣〕ひゞきれがゝまる。○〔元稹〕「舒二北―‐―一」。

【攤】タン。他干切　寒
❶ひらく、（開）。○〔世說〕「滿‐牀―レ書」。
❷手にて布く、ちらす。○〔杜甫〕「白‐晝―レ錢高‐浪中」。
❸ゆるむ、ゆるし、（緩）。
〔分攤〕わかち開く。○〔劉基〕「―‐―算二戶口一」。

【攤】ダン、ナン。乃旦切　翰　乃坦切　旱

【攥】サッ、サチ。宗括切　曷
おさふ、（按）。

【攃】タツ、タチ。他達切　曷
手にて把る、とる、にぎる。

【攦】レイ、ライ。郎計切　霽
うつ、（擊）。

【攦】リ。輦尒切　紙　シ。所綺切
なる、（折）、さく、（撕）。○〔莊〕「―二工‐倕之指一而天‐下始人有二其巧一」。

【攦】レッ、レチ。力結切　屑
捩に同じ、ねぢる。

【攊】レキ、リヤク。郎敵切　錫
擽に同じ、うつ、（擊）。

【攦】サイ、セ。所賣切　卦
はらふ、（掃）。

【𢹿】麾の本字。

【𢹫】攤に同じ。

二十畫

【攩】タウ。底朗切　養
❶黨に通ず、むれ、朋群。❷うつ、（擊）。
❸過む。

【攩】クワウ、ワウ。戸廣切　シヤウ、サウ。止兩切 [養]

㊀うつ（擊）。㊁推し行る、おす。○〔揚雄〕「抌推也沆、漭、滉、幽之語或曰ㇾ—」。

【擴】クワウ、ワウ。胡曠切 [漾]　或は擴に作る。

搥打す、うつ。

【攪】カウ、ケウ。古巧切 [巧]

㊀かきみだる、みだる（撓）。○〔詩〕「祇—ニ我心ニ」。㊁手にて動かす、かく、かきまはす。○〔方岳〕「搜—平-生書五-車」。

〔縈攪〕めぐりみだす。○〔南〕「父-子兩-騎—ニ—數-萬-人ニ」。〔澄攪〕いりみだるゝ貌にいふ語。○〔韓愈〕「—-—爭附-託」。〔悲攪〕かなしみて心みだる。○〔韓愈〕「始-秋—又「—」。〔亂攪〕みだる。○〔僧皎然〕「狂-風—-—何飄-々」。

【攇】ガツ、ガチ。牙葛切　サツ、ザチ。才達切 [曷]

㊀うつ（擊）。㊁にぎる（把）。

【攫】クワク、カク。厥縛切 [藥]

㊀上より抱み取る、撲ち取る、爪、又は、指先にて取る、とる、つかむ。○〔禮〕「鷙-蟲—-搏」。㊁もつ、とる（持）。○〔戰〕「—ニ公-孫-子之腓ニ」。

〔拏攫〕つかむ。○〔法書要錄〕「有ニ張-梁—-—之形ニ」。〔觸攫〕ふれつかむ。○〔周、註〕「備ニ猷—-—ニ」。〔挐攫〕さきつかむ。○〔埤雅〕「羆遇ㇾ人則—而—ㇾ之」。

【攫】ワク。屋號切 [陌]

さる（取）。

【攫】キヨク、コク。拘玉切 [沃]

に同じ、つかむ。

【攝】デフ、チフ。諾叶切 [葉]

指にて捻る、ひねる。○〔潘岳〕「—ニ纖-翮一以震ニ幽-簧ニ」。

廿二畫

【攬】擥に同じ、つかむ、もつ、とる。

○〔六韜〕「主將之法在ニ務—ニ英-雄之心ニ」。

〔總攬〕すべくゝり持つ。○〔後漢〕「—ニ—權-綱ニ」。〔延攬〕引きとる。○〔後漢〕「莫ㇾ如下—ニ—英-雄一、務悦中民-心上」。〔招攬〕よびとる。○〔陸機〕「—ニ—遺老ニ」。〔收攬〕取り上げて持つ。○〔宋〕「—ニ—威-權ニ」。〔親攬〕自身にとる。○〔北〕「故君—-—其事ニ」。〔搜攬〕とる。○〔方岳〕「書-隱—-—十-年讀」。〔結攬〕ゆひ持つ。○〔元〕「—ニ—稅-石ニ者罪ㇾ之」。〔搴攬〕かゝげ取る。○〔王冷然〕「—-—而不ㇾ盈」。

【[illegible]】ハ、ヘ。必駕切 [禡]　一說に、手に从へるは非。

つか、にぎり（把）。

【[illegible]】ショク、ソク。株玉切 [沃]

さる（執）。

【[illegible]】攂に同じ。

【攭】ラ。魯果切 [哿]

毛羽の無き貌にいふ字、あかはだか。○〔荀〕「—-—今其狀屢化如ㇾ神」。

【攭】レイ、ライ。力霽切 [霽]

わかつ、わかる（分・判）。○〔荀〕「—兮其相逐而反也」。

【攙】サン、セン。初莧切 [諫]

さす（插）。

廿三畫

【[illegible]】テフ、デフ。達協切 [葉]

㊀かく（掛）。㊁おす（擠）。㊂なさむ（收）。

【[illegible]】タフ、トフ。敵盍切 [合]

おす（排）。

【攮】ダウ、ナウ。乃黨切 [養]

おす（推）。

廿四畫

【[illegible]】拎に同じ。

【[illegible]】レイ、リヤウ。郎定切 [徑]

空に插す、さしはさむ、さす。

廿九畫

【[illegible]】ウツ、ヲチ。紆勿切 [物]　或は扤に作る。

もさる、ねづ（拗・戾）。

支部

【支】シ。章移切 [支]　〔說文〕去ニ竹枝一也、从ニ手持一半竹一。

㊀えだ。

(い)枝に通じ用ふ、草木の幹よりわかれ出でたるもの。○〔詩〕「芄-蘭之—」。

(ろ)わかれ出でたる血統血屬、宗家に對しては分家、嫡出の昆弟に對しては庶出の昆弟、嗣子に對しては其の他の同胞の稱。○〔詩〕「本—百-世」。

(は)わかれ出でたるものゝ泛稱。○〔唐〕「佛-代國有ㇾ江—-流三-百-六-十」。

㊁わかつ、わかる（分）。○〔莊〕「況—ニ離其德一者乎」。

㊂さゝふ。

(い)持ち堪ふ、つゝかふ、たもつ。○〔戰〕「粟—ニ十-年ニ」。

(ろ)拒き止む。○〔戰〕「安能—ニ強-秦魏之兵ニ」。

㊃さゝへ、つッかひ、柱。○〔梁宣帝〕「漢-殿珊-瑚—」。

㊄わりふ（劵）。○〔魏〕「—-—付ニ勳-人一—-—付ニ行-臺ニ」。

㊅計算、はかる、かんぢやう。○〔晉〕「有ニ度—-—尙-書ニ」。

㊆陰曆にて年、月、日、時に用ふる稱、又、方角の稱にもいふ字、即ち、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥、の總稱、十干を併せて、えさといふ。○〔後漢〕「明-帝時以ニ反—之日一不ㇾ受ニ章-奏ニ」。

㊇梔に通じ用ふ。○〔司馬相如〕「鮮—黃-礫ニ」。

㊈肢に通じ用ふ、てあし。○〔易〕「美在ニ其中一而暢ニ四—ニ」。

㊉給與、てあて。○〔宋〕「邊-兵每-歲寒-食端-午冬-至有ニ時—ニ」。

⑪縱の脈節。○〔史〕「以ㇾ陽入ニ陰—蘭藏一者生」。

〔燕支〕—に焉支に作る、又、臙脂と通用す、紅色を取る草の名。○〔古今注〕「—-—西方土人以染ㇾ紅」。〔指支〕さゝふ。○〔唐〕「首-尾—-—」。〔收支〕金錢などをとりをさむるとわけちらすと。○〔宋〕「其五日ニ—-—」。

(特支) 特別の手當。○[宋]「邊兵每歲寒食端午冬至有二—・—一」。(約支) 儉約してさゝふ。○[宋]「所在—二—・—一二年之用一」。(十二支) 子より亥に至る十二のえとの稱。○[白虎通]「通作二十干・—・—一」。

二畫

【⿰匕支】キ。去智切 寘 頗く貌にいふ字、あふぐ、又、かたむく、(傾)。

五畫

【攱】キ、ギ。過委切 紙 ㊀のす、(載)。㊁よる、(倚)。㊂枕す。

【⿰去支】キ、ギ。居僞切 寘 物を擎げ起す、さゝぐ、おこす。

【⿰氐支】テイ、タイ。都禮切 薺 かくる、かくす、(隱)。

【⿰危支】キ、ギ。丘奇切 支 正しからず、ひづむ、ねぢく、かたむく。

【⿰皮支】キ、ギ。居僞切 寘 瘦極す、やせつかる。

【⿰厃支】キ。古委切 紙 かさなる、(重累)、一說に、よる、(依)。

【⿰朿支】シ、ジ。是吏切 寘 塩を配してねかしたる豆、五味を調ふるに用ふるもの、豆醬、味噌、なッとう。○[史]「鹽—千合」。

【⿰多支】シ。章移切 支 キ、ギ。支義切 寘 おほし、(多)。○[張衡]「炙魚夥、清酤—」。

七畫

【⿰束支】キ、ギ。渠羈切 支 横に生じたる枝、よこえだ、一說に、別れ生じたる木。

八畫

【⿰垂支】スヰ。株垂切 支 齊しからざるを、かたゝがひ。

【⿰垂支】キ、ギ。渠羈切 支 たる、(垂)。

【⿰奇支】キ、ギ。去奇切 支 ㊀持ち去る、さる。㊁平かならず、平かならざらしむ、そばだつ、かたむく。○[家語]「滿則覆、中則正、虛則—」。

(斜—) かたむく。○[杜甫]「舟楫任二—・—一」。(傾—) 前に同じ。○[禮、疏]「不レ當二—・—一」。(—々) そばだつ貌にいふ語。○[吳融]「—・—側々海門帆」。

十畫

【⿰豙支】キ、ギ。巨支切 支 つよし、(彊)。

十二畫

【⿰尋支】ジン。徐心切 侵 ながし、(長)。○[後漢]「踔二—枝一」。

十六畫

【⿰麗支】リ。力地切 寘 たゞし、(正)。

【⿰嚴支】キ、ギ。丘奇切 支 正しからず、かたむく。

攴部(夂)

【攴】ホク。普木切 屋 小しく擊つ、うつ。

【⿱卜又】ハク、ホク。匹角切 覺 つゑ、(楚)。

【攵】攴と同字。○[郭忠恕]「用レ—代レ支」。

二畫

【收】シウ、シュ。式周切 尤 ㊀をさむ。(い)とらふ、(捕)。○[詩]「女反—レ之」。(ろ)あつむ、(聚)。○[漢]「大—二篇籍一」。(は)とる、(取)。○[國]「—以奔レ褒」。(に)持つ。○[禮]「有レ事則—レ之、走則擁レ之」。(ほ)受く。○[左]「我其—レ之」。(へ)息む。○[戰]「秦可二以少割而—レ害」。(と)入る、いれる。○[類林]「取二盆水一傾レ地令レ—レ之」。(ち)整ふ。○[禮]「夏楚二物—二其威一也」。㊁あつまる、あつまり入る、やむ、はいる、とゝのふ、をさまる(㊀の條參照)。○[戰]「責畢—以何市而反」。㊂をさまりたる財物。○[禮]「藏二帝籍之—於二神倉一」。㊃車の後の横木、軫。○[詩]「小戎俴—」。㊄夏の時の冠。○[儀]「周弁、殷冔、夏—」。

(蓐收) 天上にありて刑罰をつかさどるといふ神の名。○[禮]「其神—・—」。(黃收) 黃色の冠冕の名。○[史]「—・—純衣」。(豐收) 農產物などの十分に取りいれあること。○[後漢]「今茲蠶麥—・—」。(含收) をさまりちゞまる、ふくみをさむ。○[國]「上氣—・—」。(秋收) あきの季節の取りいれ。○[荀]「—・—冬藏」。(掩收) とりをさむ。○[漢]「—二—嘉穀一」。(田收) 田の作物のとりいれ。○[北]「—・—甚薄」。(聚收) をさむ、をさまる。○[管]「秋—・—」。(藏收) 前に同じ。○[蘇軾]「片紙隻字皆—・—」。(厚收) すくなからざるとりいれ。○[陳造]「精農無二—・—一」。(薄收) すくなきとりいれ。○[范成大]「去年—・—飯不レ足」。(覆水不收) (い)周の呂尙の妻、離緣を求めて去り後に至りて再び夫婦とならんことを求めたりしに、尙、盆水を地に覆へして、其の水を盆にをさめしならば、再び夫婦とならんといひしといふ故事より、一旦離緣したる夫婦の辟合はせざることにいふ語。○[類林]「太公曰若言二離更合一覆水定難レ收」。(ろ)一旦爲せし事は救濟し難きことにいふ語。○[後漢]「國家之事亦何容易—・—・—・—、宜二深思一之」。

【收】シウ、シュ。舒救切 宥 前條に同じ、一說に、穫る多し。○[禮]「農事備—」。

【攷】古文の考の字。○[周]「—二乃灋一」。

三畫

【⿰也攴】シ。或支切 支 施に同じ、一說に、しく、(敷)。

【攸】　イウ、ユ。以周切　尤

㊀水中を行く、泳ぐ。○〔孟〕「――然而逝」。㊁ところ（所）。○〔詩〕「四方―レ同」。㊂遠き貌にいふ字。○〔漢〕「―――外レ寓」。

【攸】　イウ、ユ。以九切　有

懸かりて危き貌にいふ字。○〔左〕「湫乎―乎」。

【改】　カイ、ケ。古亥切　賄

㊀更ふ、あらたむ。○〔論〕「過則勿レ憚レ―」。㊁更はる、あらたまる。○〔北〕「容貌毀悴鬢鬚盡―」。

〔遷改〕うつりかはる、うつしかふ。○〔李白〕「容顏有二―・―一」。
〔修改〕をさめあらたむ。○〔書、傳〕「但隨レ時占候――、以與レ天合」。
〔揩改〕贋をなしあらたむ。○〔禮、疏〕「沿謂二因而――一也」。
〔燧改〕火うちにて火を出たしもとの火種をあらたむること。○〔元稹〕「――鮮妍火」。
〔省改〕おのれの身を顧みて行をあらたむ。○〔漢〕「各自――」。
〔刊改〕板をきざみあらたむ。○〔後漢〕「―二―漏失一」。
〔懲改〕心にこりて行事をあらたむ。○〔後漢〕「猶未二―・―一」。
〔刪改〕文章などの語句をけづりへらしてあらたむ。○〔晉〕「共―二―舊文一」。
〔回改〕かへあらたむ、かはりあらたまる。○〔南〕「執レ心終無二―・―一」。
〔釐改〕をさめあらたむ。○〔北〕「雖二以―・―一」。
〔悛改〕心をあらたむ。○〔北〕「而猶無二―・―一」。
〔變改〕かへあらたむ、かはりあらたまる。○〔宋〕「今所レ欲二―・―一不レ過二數端一」。
〔獣改〕辯論を用ひなしてあらたむ。○〔論衡〕「―二―政治一」。

【改】　イ。養里切　紙

敎――は、鬼魅を逐ふ大剛卯。

【⿰𠂇攴】　フ、ブ。芳武切　麌　微夫切　虞

なづ（撫）。

【⿰乞攴】　コツ、コチ。苦骨切　月

敼――は、穩かならず、又、滑かならず。

【⿰𠂉攴】　殼に同じ。

【攻】　コウ、ク。沽紅切　東

㊀せむ。
（い）うつ（伐）。○〔書〕「造―自二鳴條一」。
（ろ）おかす（侵）。○〔唐〕「一―心―レ之者衆」。
（は）過失をあばき尤む。○〔論〕「小子鳴レ鼓而―レ之可也」。
㊁をさむ。
（い）整へ正す。○〔書〕「左不レ―レ左汝不レ恭レ命」。
（ろ）習ふ。○〔論〕「―二乎異端一」。
（は）研く。○〔詩〕「他山之石可二以―一レ石」。
（に）作る。○〔詩〕「庶民―レ之、不レ日成レ之」。
㊂よし（善）、かたし（堅）。○〔詩〕「我車既―」。

〔火攻〕ひをかけて敵をせむ、ひぜめ、やきうち。○〔三〕「建二策―・―一」。「勝」。
〔環攻〕敵を圍みてうつ。○〔孟〕「―而―レ之而不レ勝」。
〔剽攻〕おびやかしおかす。○〔史〕「――不レ休」。
〔專攻〕ひとつのものををさむ。○〔韓愈〕「術業有二――一」。
〔造攻〕はじめて伐つ。○〔書〕「――自二鳴條一」。
〔夾攻〕兩がはより敵をはさみ伐つ、はさみうち。○〔左〕「背二巴師一而―二―之一」。
〔善攻〕たくみに敵をせむ。○〔戰〕「秦雖二――一、不レ能レ取二六城一」。
〔壘攻〕ねらがりせむ。○〔抱朴子〕「蚤蝨――」。
〔研攻〕みがきをさむ。○〔張羽〕「經史左右相――」。
〔遠交近攻〕とほき國と交りを結び近き國をうつ。○〔戰〕「不レ如下遠二食諸侯一――而――上」。

【攺】　セツ、セチ。子結切　屑

をさむ（治）。

【攼】　カン。居寒切　寒

㊀もとむ（求）。㊁う（得）。㊂すゝむ（進）。

【攼】　カン。候旰切　翰

戰に同じ。

【斈】　俗の學の字。

四畫

【攽】　ハン。布還切　删

頒に同じ、わく、わかつ。

【攽】　ヒン。悲巾切　眞

㊀前條に同じ。㊁へる、へす（減）。㊂気分る、わかる。

【⿰屯攴】　トン、ドン。都困切　願

ひく（引）、一說にする（摩）。

【⿰木攴】　ハイ。博蓋切　泰

褒めに舛ふ、たがふ。

【⿰今攴】　キン、ゴン。渠金切　侵

もつ（持）。

【⿰含攴】　カン、ゴン。口含切　覃　カン、コン。丘凡切　咸

齊しからざると。

【⿰今攴】　ケン。去劒切　豔

さしした（崖下）、又、はざま（厓間）。

【⿰今攴】　ケン、ゴン。丘嚴切　鹽

ひれる（拈）。

【⿱今攴】　ヘン、ベン。卑緜切　先

すみやか（速）。

【⿰巴攴】　ハ、ヘ。邦加切　麻

をさむ、をさまる（斂）。

【⿰皮攴】　キン。規倫切　眞

田を墾く、ひらく。

【放】　ハウ。甫妄切　漾

㊀はなつ。
（い）斥け遠ざく、逐ひはらふ。○〔屈平〕「屈原既―游二於江潭一」。
（ろ）一定の處に置きて他に適くを許さゞるの刑（るざい）に處す、又、國外に出して故國に歸るを許さゞるの刑（つゐはう）に處す。○〔書〕「―二驩兜于崇山一」。
（は）すつ（棄）、さる（去）。○〔禮〕「毋レ―レ飯」。
（に）解きはなす、縱し遣る。○〔書〕「―二牛於桃林之野一」。
（ほ）發す。○〔酉陽雜俎〕「日若レ―レ光也」。
（へ）開く。○〔李華〕「南北―レ門豈有二差別一」。
（と）置く。○〔晉〕「―二火燕蕪一」。

(ち)飛ばす、射る。○〔王績〕「但使二雛-卵全一無レ令二矰-繳ーー一」。
㊁おりぞく、遠ざかる、さる、すたる、あく、さぶ、逸す、はなる（㊀の條參照）。○〔孟〕「人有二鷄-犬ーー一則知レ求レ之」。
㊂不羈自由なると、縱肆、きまゝ、ほしいまゝ。○〔左〕「獄之ーー紛」。
〔奔放〕馳せ去る、又、はしいまゝ。○〔成公綏〕「ーー向レ路」。
〔曠放〕氣まゝ。○〔唐〕「甫ーー不二自檢一」。
〔閒放〕靜かにして氣まゝなると。○〔北〕「深信二因-果一心安ニーー一」。
〔流放〕るざいに處す。○〔書、傳〕「故ーニー之幽-州一」。
〔誅放〕罪に行ふと。○〔書、傳〕「桀縱レ惡自棄、故ーー」。
〔開放〕はなち遣はす、あけはなす、あきはなる。○〔書、傳〕「ーニー無-罪之人一」。
〔奢放〕をごりて恣なり。○〔詩、箋〕「惟恐ニーー一」。
〔荒放〕すさみて恣なり。○〔詩、箋〕「淫-亂者ーニー于妻-妾一」。
〔廢放〕すて去りて用ひぬ。○〔漢〕「古者ーー之人、屛二于遠-方一」。
〔怠放〕惰りて恣なり。○〔後漢〕「ーーー日甚」。
〔幽放〕おしこめて其の地を去ることを得せしめざると。○〔後漢〕「古之人-君、離ニーー一而反二國-祚一者多矣」。
〔淫放〕みだりにして恣なり。○〔後漢〕「卷ニーー之逸-心一」。
〔縱放〕自由自在なり、きまゝ、又、はなす、はなる。○〔金〕「箠-辨ーー」。
〔貪放〕慾深くして氣まゝなり。○〔後漢〕「負レ勢ーー」。
〔囚放〕おしこめおく。○〔後漢〕「怨-于ーー、訕二謗朝-廷一」。
〔釋放〕ゆるし遣はす、ときはなつ、とけはなる。○〔吳〕「餘皆ーー、復爲二平-民一」。
〔横放〕氣まゝ。○〔吳〕「子-弟ーー、百-姓患レ之」。
〔特放〕とりわけて氣まゝなり。○〔晉〕「天-縱ーー」。
〔宏放〕心廣くして氣まゝなり。○〔晉〕「志-氣ーー」。

〔黜放〕退け逐ふ。○〔晉〕「活雖レ被ニーー、口無二怨-言一」。
〔游放〕あそびてきまりなし。○〔南〕「在レ郡ーー不レ異二永-嘉一」。
〔遒放〕勢つよくして自在なり。○〔南〕「筆-勢ーー」。
〔豪放〕強くして氣まゝなると。○〔北〕「少而ーー」。
〔疎放〕緻密ならずして氣まゝなると。○〔北〕「其ーー多此類也」。
〔通放〕物事に滯ることなく氣まゝなり。○〔北〕「性ーー不レ拘二小-節一」。「ー之心一」。
〔邪放〕正しからずして恣なり。○〔北〕「塞二其ーー」。
〔湮放〕失せてなくなる。○〔唐〕「圖-書ーー」。
〔驁放〕おごりて恣なると。○〔唐〕「益ーー不二自修一」。
〔誕放〕大いに氣まゝなり。○〔唐〕「知章晩-節尤ーー」。
〔頽放〕世の禮法を廢て氣まゝなり。○〔宋〕「人議二其ーー一」。
〔舒放〕のびのびとして思ひのまゝなり。○〔嵇康〕「情ーー而遠-覽」。
〔超放〕凡俗にすぐれて自在なり。○〔秦觀〕「風-槩亦ーー」。
〔輕放〕かろがろしく恣なり。○〔參同契〕「尋-重而不二敢ーー一」。
〔任放〕男氣ありて恣なり。○〔世說〕「皆以ニーー爲レ達」。
〔混放〕まじへはなつ。○〔通典〕「鷄-犬ーー」。
〔剝放〕はぎとる、はげはなる。○〔隣幾雜志〕「以ニ落-韻一先ーー」。
〔蠲放〕除き去る。○〔湘山野錄〕「一-切ーー」。
〔擺放〕をゝしく恣なり。○〔蘇軾〕「道-子實ーー」。
〔歡放〕心よろこびて思ひのまゝなり。○〔嵇康〕「ーー而欲レ愜」。
〔娛放〕前に同じ。○〔韓維〕「不下因二詩-節一自ーー上」。
〔逭放〕逐ひはなす。○〔夏侯湛〕「審ーー而必獲」。
〔閑放〕ひまなると。○〔高道素〕「士-民ーー」。

【放】 ハウ。分兩切 養

㊀依り行ふ、まなぶ、ならふ。○〔禮〕「梁木其壞、哲-人其萎、則吾將二安ーー一」。
㊁いたる、いたす（至）。○〔孟〕「ー二乎四-海一」。

【放】 ハウ。分房切 陽

船を併す、あはす。○〔荀〕「不レーレ舟不レ避レ風則不レ可レ涉」。

【㪀】 ヒ。匹夷切 支

紕に同じ。

【㪀】 ヒ。普鄙切 紙

器の破れて離れざると、ひゞ、ひゞき。○〔揚雄〕「南-楚之間器破而未レ離謂二之ーー一」。

【政】 セイ、シヤウ。之盛切 敬

㊀まつりごと。
(い)國家人民ををさめ正すと。○〔書〕「蓄-疑敗レ謀、怠-忽荒レー」。
(ろ)法制、禁令。○〔論〕「道レ之以レー」。
(は)官職、やくめ。○〔國〕「棄レー而役」。
(に)公事、おほやけごと。○〔禮〕「五-十不レ從二力ーー一」。
㊁物事を整理すると、事務、又、其の規定。○〔說苑〕「魏文-侯與二大-夫一飲-酒使三公-乘不-仁爲二觴ーー一」。
㊂整理す、たゞす。○〔江淹〕「肅ニーー黎-心一齎二一民-志一」。
〔七政〕(い)日月五星。○〔書〕「在二璿-璣玉-衡一、以齊ニーー一」。
(ろ)北斗星。○〔星經〕「北-斗-星謂二之ーー一」。
〔邦政〕くにのまつりごと。○〔書〕「司-馬掌ニーー、統二六-師一、平二邦-國一」。
〔平政〕まつりごとを私なく布く。○〔孟〕「ーレー以齊レ下」。
〔苛政〕下をなひたげ苦しむるまつりごと。〔禮〕「苛-政猛二於虎一也」。
〔內政〕後宮のまつりごと。○〔周〕「以詔レ后治ニーー一」。

〔稼政〕田地、又は田地に關するみぞなどのまつりごと。○〔周〕「正-畝畛二稼-器一、修ニーー一」。
〔寬政〕ゆるやかなるまつりごと。○〔北〕「增二修ーー一」。
〔善政〕行きとゞきたるまつりごと。○〔孟〕「ーー不レ如二善-教之得一レ民也」。
〔執政〕まつりごとを行ふ、又、其の人。○〔史〕「唯二三ーー、猶二吾股-肱一也」。
〔聖政〕極めてよく行き屆けるまつりごと。○〔揮麈三錄〕「敷-陳讜-言、以補ニーー一」。
〔横政〕道にはづれたるまつりごと。○〔孟〕「ーー之所レ出、横-民之所レ止、不レ忍レ居也」。
〔闕政〕あしきまつりごと。○〔阮籍〕「朝無ニーー、民無二謗-言一」。
〔朝政〕廟堂のまつりごと。○〔北〕「出則統二攝ーー一」。
〔義政〕道に順へるまつりごと。○〔墨〕「順二天-意一者ーー也」。
〔佳政〕善きまつりごと。○〔曹植〕「又聞足-下在レ彼、自有二ーー一」。
〔美政〕前に同じ。〔齊〕「風-教修-理、稱爲ニーー一」。
〔舊政〕古より行はれ來たりしまつりごと。○〔非〕「君罔下以二辯-言一亂中ーー上」。
〔致政〕まつりごとをかへす。○〔周、註〕「周-公居レ攝而營二土-中一、七-年ーレー」。
〔施政〕まつりごとを布く。○〔書、傳〕「蹈二行先-王光-大之道一、ーニー于我童-子一」。
〔立政〕まつりごとをたて設く。○〔制度論〕「先-王ーレー、以レ制爲レ本」。
〔刑政〕人を罪に行ふまつりごと。○〔詩、序〕「哀ニーー之苛一」。
〔布政〕まつりごとを行ふ。○〔詩、疏〕「爲レ王ーレー」。
〔涖政〕まつりごとを聽く。○〔晉〕「齊-王ーレー」。
〔外政〕表向きのまつりごと。○〔詩、傳〕「婦-人不レ與ニーー一」。
〔德政〕惠みあるまつりごと。○〔朱德潤〕「皆人-君ーー之所レ致也」。
〔敏政〕まつりごとを滯らず行ふ。○〔禮〕「人-道ーー」。
〔會政〕まつりごとの結果を考へかぞふ。○〔周〕「皆ーレー致レ事」。
〔時政〕其の時のまつりごと。○〔後漢〕「仰レ占俯-視、以佐ニーー一」。

（臨政）まつりごとを執り行ふ。○〔左〕「夙興夜寐、朝夕一一」。
（聽政）まつりごとを裁斷す。○南ニ「日昃一レ一」。
（私政）己が身にかゝはる事務。○〔左〕「而後聽ニ其一一ヲ禮也」。
（軍政）兵陣のことにかゝはるまつりごと。○〔左〕「百官象物而動ニ一一ニ」。
（仁政）恵みあるまつりごと。○〔孟〕「王如施ニ一一於民ニ」。
（秉政）まつりごとを執り行ふ。○〔蜀〕「董卓一レ一」。
（制政）まつりごとを施く。○〔漢〕「一レ一不レ出ニ房闥一、而天下晏然」。
（擅政）心に權を決しかぬるまつりごと。○〔後漢〕「朝廷毎レ有ニ一一、輒驛使諮問」。
（惠政）なさけあるまつりごと。○〔後漢〕「以ニ一一得レ民」。
（勅政）まつりごとをいましむ。○〔後漢〕「一レ一責レ躬」。
（猛政）たけきまつりごと。○〔古雁門太守行〕「外行ニ一一、内懷ニ慈仁ニ」。
（峻政）きびしきまつりごと。○〔後漢〕「笩ニ切一一ニ」。
（文政）文事に關するまつりごと。○〔後漢〕「帝方厭ニ兵、間修ニ一一ニ未ニ之許一也」。
（秕政）弊政といふに同じ、惡しきまつりごと。○〔晉〕「朝無ニ一一、人無ニ謗言ニ」。
（陰政）後宮のまつりごと。○〔南〕「燮ニ理一一ニ」。
（戒政）いくさのまつりごと。○〔南〕「參ニ贊一一ニ」。
（明政）（い）あきらかによく行き屆けるまつりごと。○〔北〕「析ニ遂一一、今願レ奉レ之」。（ろ）まつりごとをあきらかにし行き屆かす。○〔南〕「拔レ致所ニ以一ト一」。
（達政）まつりごとの事に精しく行きわたる。○〔南〕「乃擧朝大議精才一一之士」。
（思政）よくまつりごとを布かんことを考ふ。○〔北〕「帝勵レ精一レ一」。
（機政）まつりごと。○〔唐〕「自力ニ一一ニ」。
（殘政）まつりごとを賊ひやぶる、又、下をそこなふまつりごと。○〔汲冢周書〕「君王滅レ道一レ一」。
（順政）まつりごとの旨に從ひて違ふことをせぬ。○〔汲冢周書〕「上下以一レ一」。
（曲政）道に戾れるまつりごと。○〔淮〕「販ニ末世之一一也」。
（良政）よきまつりごと。○〔陸雲〕「帝欽ニ一一ニ」。
（家政）一家内の事務。○〔釋無可〕「唯有レ傳ニ一一ニ」。
（戸祿害政）無爲無能にして俸祿を受け官位に備はりてまつりごとをそこなふ。○〔晉〕「閤有不レ得下以ニ一一一一一上レ一」。

〔政〕セイ、シヤウ。諸盈切 庚
征に同じ、みつぎ、賦稅。○〔周〕「掌レ均ニ地一一」。

〔炶〕タン、トン。多感切 感
㊀うつ、（擊）。㊁さす、（刺）。

五畫

〔敁〕カ、許我切 哿　口箇切 箇
うつ、（擊）。

〔敂〕フツ、ボチ。符勿切 物
㊀をさむ、（理）。㊁やぶる、（破）。

〔敉〕セイ。子泥切 齊
いる、（射）。

〔敀〕ハク、ヒヤク。博陌切 陌
㊀迫に同じ、せまる。㊁おこす、（迮）。㊂つよし、（强）。㊃つく、（附）。㊄大に打つ、うつ。

〔敁〕テン。丁兼切 鹽
一敠は、秤にて量る、一揬は、手にて稱る。

〔敂〕コウ、ク。擧厚切 有
うつ、たゝく、（擊）。○〔周〕「凡四方賓客一レ關則爲レ之告」。

〔敀〕ハウ、ベウ。皮教切 效
手にて擊つ、うつ、たゝく。

〔斐〕更に同じ、其の條を見よ。

〔敃〕ビン、ミン。美殞切 軫
つよし、（彊）。

〔敃〕ビン、ミン。眉貧切 眞
つとむ、（勉）。

〔敃〕フン、ホン。敷文切 文
みだる、（亂）。

〔敄〕ブ、ム。亡遇切 遇　ブ、ム。文甫切 麌
つとむ、（彊）。

〔敄〕ボウ、ム。迷浮切 尤
相勉努す、つとむ、すゝむ。

〔故〕コ、ク。古暮切 遇
㊀もと。
（い）疇昔、むかし、いにしへ。○〔莊〕「證ニ曏今一一ニ」。
（ろ）本來。○〔荀〕「非三一生ニ於人之性一也」。
㊁ふるし。
（い）年を經る久し。○〔孟〕「一一國者非下有ニ喬木ニ之謂上也」。
（ろ）むかしなり、いにしへなり。○〔呂氏春秋〕「嘗讀ニ一記ニ」。
（は）新しからず、ふるびたり、ふけたり。○〔管〕「發ニ一粟ニ」。
㊂ふるくなる、ふるめく、ふるぶ、ふく、ふる。○〔吳〕「皓怪ニ其書之垢一一ニ」。
㊃ふるき物事。○〔淮〕「呼而出レ一、吸而入レ新」。
㊄特に先例、古典の稱、しきたり、ならはし。○〔左〕「齊魯之一」。
㊅ふるきちなみ、もとよりの交誼。○〔史〕「有ニ一一人之意ニ」。
㊆知人、朋友。○〔魏〕「知一一勸ニ吏娶ニ」。
㊇事件、こと、ことがら。○〔易〕「知ニ幽明之一ニ」。
㊈常ならざる事件、卽ち、災難、凶喪などの稱。○〔周〕「國有レ一則令レ宿」。
㊉謀り構ふるを、たくみ。○〔書〕「刑レ一無レ小」。
⑪たくみを爲して、また心ありて、わざと、ことさらに。○〔史〕「嘉坐自如一不レ爲レ禮」。
⑫ゆゑ、わけ。
（い）指義、むね。○〔國〕「夫其有レ一」。
（ろ）然らしむる所以。○〔呂氏春秋〕「凡物之然也必有レ一也」。
（は）訓詁、ときあかし。○〔漢〕「魯一二十五卷」。
⑬上を承け下を起す場合に用ふる字（上のわけなるを以ての義）、ゆゑに。○〔孝〕「夫然一生則親安レ之」。

（多故）憂ふべき事柄れはし。○〔易〕「盟一一也」。
（舊故）古なじみの人。○〔戰〕「不レ欺ニ一一ニ」。
（大故）大いなる事柄。○〔禮〕「君子非レ有ニ一一、不レ宿ニ于外ニ」。
（物故）死ぬること。○〔柳宗元〕「馬牛羣斃、相枕一一」。
（掌故）（い）ふる事を覺えて取りあつかふ役。○〔漢〕「使下一一朝錯從ニ伏生ニ受中尙書上」。（ろ）ふるき事。○〔史〕「因ニ擧一一、未レ遑ニ講試ニ」。
（道故）昔がたりをなす。○〔史〕「愾然一レ一」。
（雅故）みやびなる事柄。○〔漢〕「函ニ一一、通ニ古今ニ」。
（變故）常ならぬ事。○〔漢〕「遭ニ識一一、橫被ニ口語ニ」。
（訓故）文字文書のわけ。○〔漢〕「學者傳ニ一一而已」。
（細故）小さき事柄。○〔漢〕「皆損ニ一一、俱蹈ニ大道ニ」。
（稽故）事務を滯らす、又、ふるきことをかんがふ。○〔漢〕「雖レ術一一、令レ不レ得レ戰」。

〔碁故〕一日中の交はり。○〔後漢〕「雖ㇾ無二─・─一、士窮相歸」。
〔刊故〕みよりのものと古なじみのものと、又、またしきふるなじみ。○〔王維〕「都門謝二─・─一」。
〔世故〕世の中の事柄。○〔方岳〕「─・─尙未ㇾ畢」。
〔詐故〕たくみ。○〔荀〕「不ㇾ循二舊法一、而好二─・─一」。
〔朋故〕友だち。○〔盧照鄰〕「對ㇾ酒懐二─・─一」。
〔法故〕古昔よりのおきたり。○〔禮〕「雖ㇾ緻文章、必以二─・─一」。
〔温故〕ふるき事を尋ね知る。○〔禮〕「─ㇾ─而知ㇾ新」。
〔深故〕ことさらに罪を犯したる者をなみより重く罪すること。○〔漢〕「緩二─・─之罪一」。
〔典故〕ふるごと。○〔後漢〕「事過二─・─一」。
〔智故〕才智といふに同じ。○〔蜀〕「─・─萠生」。
〔意故〕心いき、おもはく。○〔吳〕「推二間─・─一」。
〔義故〕ちぎりあひ、知友。○〔南〕「撫二娛─・─一」。
〔朴故〕粗造にして且ふるし。○〔齊〕「衣服─・─」。
〔姻故〕みよりとふるき知りびとと。○〔唐〕「公等得ㇾ無ㇾ有二─・─冗食者一」。
〔久故〕永きあひだの知りあひ。○〔韓愈〕「無二─・─之事一」。
〔他故〕ほかの事柄、ほかのわけ。○〔離騷〕「豈非ㇾ有二─・─兮」。
〔小故〕些細なる事柄。○〔蔡邕〕「拘二住─・─一」。
〔歡故〕親しみよろこぶ事柄。○〔劉禎國〕「未修二─・─一」。
〔革故〕ふるきを改めかふ。○〔楊炯〕「三靈─ㇾ─」。
〔代故〕前に同じ。○〔江淹〕「雖ㇾ新不ㇾ─ㇾ─」。
〔僚故〕同役のもの。○〔何遜〕「永言二─・─一」。
〔敦故〕古なじみの人に情あつし。○〔白居易〕「逐ㇾ人益─ㇾ─」。
〔傾蓋如故〕途中にて出會しきぬがさをかたむけ立談して交情はむかしよりの知りあひの如くになる、即ち、わづかのつきあひにても意氣相合ふて交情親密なるにいふ語。○〔漢〕「白頭如ㇾ新─・─・─」。

【𢼃】テイ、タイ。典禮切 [薺]
【攺】イ。余支切 [支] かくる、かくす、(隱)。

迻に同じ。

【敤】カ。口我切 [哿] 行くに難んず、なやむ。

【敀】キヤウ、カウ。溪光切 [陽] 圍の四方の圍ひ、かこひ。

六畫

【敋】カク、キヤク。古伯切 [陌] うつ、(擊打)。

【敆】カフ、コフ。葛合切 [合] カフ、ゲウ。轄夾切 [洽] 會合す、あふ、あはす。

【敇】サク、シヤク。測革切 [陌] 馬を擊つ、むちうつ、たゝく、うつ。

【㪇】セン、セン。先見切 [霰] ちる、(散)。○〔通雅〕「兩絃之閒遠則有ㇾ─」。

【敼】ケイ、ケ。涓惠切 [霽] ㊀ほしいまゝ、(放)。㊁をかす、(侵)。

【敳】ヲウ。紆往切 [養] 曲がり侵す、まがる、をかす。

【𢽿】殺に同じ。

【𢽫】セイ。所例切 [霽]

【𢼛】サイ、セ。所賣切 [卦] そこなふ、(害)。

【敌】カツ、カチ。恪八切 [黠] ㊀前條に同じ。㊁降す、そぐ。

【𢼄】クワツ、ケチ。乎刮切 [黠] うつ、たゝく、(擊)。つく、(盡)。

【𢻱】キ。去智切 [寘] 行きて喘息す、せく、あえぐ。

【效】カウ、ゲウ。胡教切 [效] ㊀象ごり學ぶ、かたどる、のッとる、まなぶ、まれぶ、ならふ。○〔易〕「─ㇾ法之謂ㇾ坤」。㊁いたす。(い)屆けわたす。○〔左〕「─二節府一人一而出」。(ろ)たてまつる、(獻)、そなふ、(具)。○〔戰〕「願─二之王一」。(は)あらはす、(見)。○〔史〕「雖ㇾ妙必─ㇾ情正ㇾ義」。(に)さづく、(授)。○〔左〕「宣王有ㇾ志而後─ㇾ官」。(ほ)つとむ、(力)。○〔漢〕「願─二愚忠一」。㊂功驗、きゝめ、しるし。○〔漢〕「儒者已試二之─一」。㊃功績、いさをし、てがら。○〔漢〕「追二思其功─一」。
〔則効〕のッとりならふ。○〔左〕「孟僖子可ㇾ謂二─・─已矣」。
〔胥效〕相互にならひあふ。○〔左〕「民─・─矣」。
〔報效〕かへしむくゆること。○〔創業起居注〕「期二于─・─一」。
〔放效〕かたどりならふ。○〔詩、箋〕「天下莫ㇾ不二─・─以爲一ㇾ法」。
〔師效〕師としならふ。○〔書、疏〕「師師言二相─・─一」。
〔勞效〕てがら。○〔溫子昇〕「論二其始圖一、非ㇾ無二─・─一」。
〔慕效〕したひてならふ。○〔漢〕「吏民─・─」。
〔立效〕功をあらはす。○〔晉〕「志存ㇾ─ㇾ─」。
〔視效〕ならふ。○〔漢〕「下民之所二─・─一」。
〔事效〕しるし。○〔漢〕「─・─見ㇾ前」。
〔實效〕まことのしるし。○〔李翺〕「可ㇾ以求二其─・─一、課中其成功上」。
〔施效〕はどこし致す。○〔漢〕「進任不ㇾ得二─・─一」。
〔符效〕しるし。○〔漢〕「以二不應一爲二─・─一」。
〔顯效〕あらはなるてがら、あらはなるしるし。○〔後漢〕「其─・─未ㇾ酬」。
〔奮效〕勇み〳〵てつとむ。○〔後漢〕「志自─・─」。
〔陳效〕力をのべあらはす。○〔後漢〕「競下立二微功一以自─・─上」。
〔不效〕しるしなし。○〔蜀〕「恐二付託─ㇾ─、以傷二先帝之明一」。
〔忠效〕誠實を盡くすこと。○〔晉〕「懸ㇾ賞開ㇾ封、以待二─・─一」。
〔考效〕てがらをかんがへあきらかにす。○〔晉〕「─ㇾ─則不ㇾ能二己彰一」。
〔勳效〕てがら。○〔潘岳〕「忌二敦─・─一」。
〔殊效〕特別なるてがら、特別なるきゝめ。○〔魏〕「可二特聽ㇾ所ㇾ請以彰二─・─一」。
〔績效〕てがら。○〔唐〕「懋昭二─・─一」。
〔驗效〕しるし。○〔風俗通〕「方不二─・─一」。
〔微效〕いささかなるしるし、いさゝかなるてがら。○〔仙傳拾遺〕「展二其─・─一」。
〔靈效〕くしびなるしるし。○〔集異記〕「烹二龍肉一、祛二妖僞一、─・─之事、具在二本傳一」。
〔神效〕かみのしるし。○〔宣室志〕「其他─・─、不ㇾ可二具述一」。
〔良效〕よきしるし。○〔神仙感遇傳〕「浚ㇾ井及ㇾ泉、必有二─・─一矣」。
〔徵效〕しるし。○〔應劭〕「靜無二─・─一」。
〔明效〕あきらかなるてがら、あきらかなるしるし、又、あらはす。○〔曹植〕「任ㇾ督使ㇾ能之─・─也」。
〔成效〕就し遂げたるしるし、なしとげたるてがら。○〔嵇康〕「明ㇾ之以二─・─一」。
〔愚效〕おろかなるてがら、自ら謙遜していふ語。○〔王融〕「展二悉─・─一」。
〔展效〕のべいたす。○〔庾信〕「宰公─・─之秋」。

（犬效）己れの忠義を致すことを謙遜していふ語。○〔孫沔〕「誓レ圖二—一、庶レ答二鴻休一」。
（遠效）幾年の後に至りて成就する大いなるてがら。○〔孔文仲〕「人之常情、薄二—一而貴二速成一」。

【效】ケウ。吉了切 篠
—娃は、あきらか（明）。

【效】カウ、ケウ。下巧切 巧
事露はる、あらはる。

【(壴攴)】コウ、ク。虎孔切 董
うつ、たゝく（擊）。

【(臣攴)】シン。之刃切 震
うごく、うごかす（動）。

【(危攴)】敧に同じ。

【敉】ビ、ミ。母婢切 紙
やすんず（安）、なづ（撫）、一説に、めづ（愛）。○〔書〕「民獻有二十夫一予翼以于—寧レ武圖レ功」。

【敊】チク、トク。丑六切 屋
病む貌にいふ字、やむ、又、痛至の貌にいふ字、いたむ。

【(秋攴)】シウ、シユ。舒救切 宥
かる（穫）。

【(并攴)】ハウ、ヒヤウ。披庚切 庚
板を打つ聲にいふ字、一説に、擊つ聲にいふ字。

七畫

【(君攴)】クン、ゴン。衢云切 文

朋友侵す、をかす。

【(旱攴)】カン。侯肝切 翰
やむ（止）。

【(可攴)】カ。許我切 哿
吙に同じ、うつ。

【敘】ジヨ、ヅ。徐呂切 語　—叙に作るは非なり。
㈠次第、ついで。○〔周〕「以二官府之六—一正二群吏一」。
㈡端緒、いとぐち。○〔書、傳〕「貌、言、視、聽、思者五事之—也」。
㈢書策辭章の綱要或は其れに關したる事を其の冠首又は尾末にのべ記せる文の稱、はしがき（人を送くるのはしがきは後に至り轉々してはしがきの體を離れ特別のものさなれり）、其の事をのべてついであるを絲のいさぐちの如き義なりさいふ。○〔詩、傳〕「首章總—以發レ端也」。
㈣ついづ。
(い)ついでを定む。○〔周〕「以—二其財一」。
(ろ)ついで定まる。○〔書〕「百揆時—」。
(は)列を作す、ならぶ。○〔蜀〕「劭爲二郡功曹一排二擯靖一不レ得二齒—一」。
(に)官位をあてがふ、官職を授く。○〔晉〕「直以二舊望一登—」。
㈤のぶ。
(い)ついでを追ひて陳述す。○〔晉〕「致二牋于簡文一具自申—」。
(ろ)はし書きを書く。○〔曾鞏〕「向—二此書一言」。
(は)抒り見はす。○〔王羲之〕「一觴一詠亦足三—二幽情一」。

（惇敘）てあつくついづ。○〔書〕「—二九族一」。
（丕敘）おほいについづ。○〔書〕「三苗—」。
（治敘）次第をつくること。○〔周〕「行二掌宜敘以—」。
（次敘）ついで。○〔周〕「司市以二—一分レ地而經レ市」。
（等敘）前に同じ。○〔孟、疏〕「序—也」。
（秩敘）祿位をついづること、又、祿位のついで。○〔周〕「行二其—一」。
（陳敘）つらねのぶ、又、ついづ。○〔司馬光〕「輒自—」。
（撰敘）はかりてついづ。○〔孟子題辭解〕「—二萬類一」。
（刪敘）むだなる言語を取り去りて記すべきことをのぶ。○〔後漢〕「耆—潤色」。
（述敘）のぶ。○〔後漢〕「—二漢德一」。
（展敘）前に同じ。○〔蜀〕「—二舊情一以達二聲問一」。
（輯敘）あつめてのぶ、あつめついづ。○〔魏〕「—二漢官儀及禮儀故事一」。
（分敘）分別してついづ、又次第をわかつ。○〔子華子〕「與二四時一—二其—一」。
（內敘）內官の位についづ。○〔晉〕「參佐皆—」。
（昇敘）官位をのぼせついづ。○〔元稹〕「則有二—一」。
（銓敘）才を選び官位についづ。○〔晉〕「宜レ蒙二—一」。
（甄敘）前に同じ。○〔宋〕「量宜二—一」。
（論敘）あげつらふ。○〔周〕「孤當レ代二其—一」。
（列敘）ならぶ。○〔宋〕「鸞旌—」。
（封敘）諸侯に取り立つることと官位をさづくることと。○〔宋〕「則所レ謂磨二勘—一、奏二薦常程之事一」。
（廕敘）父祖の官位あるわけより其の子を官位につかしむ。○〔元〕「選用不レ限二—一」。
（班敘）わかちついづ、又、ついで。○〔潘岳〕「—二海內一」。
（遷敘）うつしついづ、うつりついづ。○〔傅休奕〕「乃有二—一也」。
（旌敘）あらはしついづ。○〔孫綽〕「必見二—一矣」。
（具敘）つぶさにのぶ。○〔何遜〕「由來雖二—一」。
（節敘）季節の次第。○〔李嶠〕「悲二—之難レ留」。
（鋪敘）しきのぶ。○〔蕭穎士〕「則玄言—」。

【敨】トウ、ツ。他孔切 董
うつ、たゝく（擊）。

【(甬攴)】ソウ、ス。擾動切 董　—或は、捅に作る。
ひく（引）。

【(甫攴)】ホ、フ。滂模切 虞
屋壞れんさす、やぶれかゝる。

【(甫攴)】補に同じ。

【(折攴)】セツ、ビチ。似絕切 屑
ひれる（拈）。

【(朶攴)】タ。吐火切 哿
妥に同じ、やすし、やすんず（安）。

【敎】勃に同じ。○〔司馬相如〕「嫳—窣」。
（咆敎）たけりいかること。○〔蘇轍〕「則—潰亂」。

【敎】カウ、ケウ。古孝切 效
㈠をしふ。
(い)善に導く。○〔孟〕「古者易レ子而—」。
(ろ)習はしむ、識らしむ。○〔周〕「以—二國子弟一」。
(は)告ぐ。○〔呂氏春秋〕「願三仲父之—二寡人一」。
(に)令す。○〔韓〕「人主雖レ不二口—一」。
㈡をしへ。
(い)をしふるを、をしふる所、即ち、下の法り効ふべく上より施されしもの。○〔禮〕「溫柔敦厚詩—也」。
(ろ)訓導、德化（刑罰、法令に對して）。

○〔荀〕「刑一一竝用」。
(は)諸侯の命令の特稱。○〔史〕「皆高二賢-君之行一レ義、皆願レ奉レ一」。
(に)學派、又、宗旨。○〔唐〕「佛老異-方一耳」。
㊂おしむ、せしむ、(令)。○〔韓〕「進則一二民-作一レ姦」。
(聲教) をしへ。○〔書〕「一一訖二於四-海一」。
(邦教) くにのをしへ。○〔周〕「司-徒掌二一一一」。
(師教) をしへびとのをしへ。○〔詩、箋〕「尊二-重一一也」。
(修教) をしへの道に手を盡くし至きをはかる。○〔禮〕「一二其一一、不レ易二其俗一」。
(七教) 父子と兄弟と夫婦と君臣と長幼と朋友と賓客とにかゝるをしへ。○〔禮〕「明二一一一以興二民-德一」。
(名教) 道德のをしへ。○〔晉〕「一一內自有二樂-地一」。
(餘教) 殘してあるをしへ。○〔戰〕「此吳-起一一也」。
(宮教) 殿中のおつけ。○〔後漢〕「一一頗修」。
(玄教) 深奧なるをしへ、老莊のをしへ。○〔王安石〕「會聞一一在レ知レ常」。
(胎教) 子の未だ生まれざるときにあたりて胎の中にて教を施すと、即ち、孕婦の志行をつゝしみ正しくして自然に胎中の兒に感化を及ぼすと。○〔列女傳〕「太-任能一一」。
(典教) つねのをしへ。○〔韓愈〕「灑レ灰垂二一一一」。
(文教) ふみの學びのをしへ。○〔書〕「三-百-里揆二一一一」。
(撫教) なでをしふ。○〔史〕「一二一萬-民一而利二-誨之一」。
(立教) をしへをこしらへ設く。○〔尙書、序〕「足三以垂二世一一一」。
(告教) 言ひきかせをしふ。○〔書〕「乃敢一一一」。
(風教) ならはしによりてをしへの道を設けこしらふると、即ち、をしへ。○〔梁武帝〕「敦二茲一一一」。
(政教) まつりごととをしへと。○〔史〕「內修二一一一」。
(四教) よつのをしへ、即ち、詩、書、禮、樂のこと。○〔禮〕「樂-正崇二四-術一立二一一一」。
(禮教) 威儀の上に屬するをしへ。○〔禮〕「恭-敬莊-敬一一也」。
(善教) 佳良なるをしへ、又、上手にをしふると。○〔左〕「豫備二不レ虞一古一一也」。
(時教) ときをもて習ふ所のをしへ、又、其の時のをしへ。○〔禮〕「一一必有二正-業一」。
(至教) 此の上もなきよきをしへ。○〔禮〕「天-道一一、聖-人至-德」。
(形教) かたちの上のをしへ、即ち尊卑大小拜伏のこと。○〔禮、疏〕「一一謂二尊-卑大-小拜-伏一也」。
(本教) 人のもとゐとなる教へ。○〔禮〕「衆之一一曰レ孝」。
(陰教) をなごの教へ。○〔晉〕「一一洽二于宮-闈一」。
(收教) 取りあげてをしふ。○〔周〕「任レ之以レ事而一二一之一」。
(失教) をしふる道を間違ふ。○〔春秋〕「稱二鄭-伯譏二一一也」。
(德教) 道德のをしへ。○〔孟〕「故沛-然一一溢二乎四-海一」。
(庭教) 家內のをしへ。○〔戰〕「先-王不レ遠二千-里一、而一二一之一」。
(奉教) をしへを受く。○〔史〕「一二一於君-子一矣」。
(明教) 理にあかるきをしへ、をしへをあきらかにす。○〔史〕「未三常得二聞二一一一」。
(遵教) をしへのことわりに從ふ。○〔史〕「子-孫一レ一亦如レ之」。
(傳教) 人に入たる道を敎ふるをしへ、特に、周公孔子の說ける所のをしへ。○〔晉〕「存二-重一一一」。
(遺教) 先人の殘し置けるをしへ。○〔漢〕「有二先-王一一一」。
(諭教) さとしをしふ、又、をしへ。○〔漢〕「在二于早一一一」。
(條教) すぢを立てゝをしふると。○〔江總〕「廣弘二一一一」。
(世教) 社會のをしへ。○〔孫綽〕「纏二-束一一之內一」。
(勸教) すゝめをしふ。○〔盧環〕「明二一一之術一」。
(內教) 婦人のをしへ。○〔晉〕「后-妃之設、所二以弘二一一也」。
(先教) 敎への道を首とし行ふ。○〔晉〕「一レ一而後レ戰」。
(孔教) 孔子の仁義道德のをしへ。○〔齊〕「一一提衡」。
(黷教) 黷らはしきをしへ。○〔晉〕「廢二一一一以自褻」。
(正教) たゞしきをしへ。○〔晉〕「恐レ傷二一一一、奏二陳之一」。
(義教) 理にかなへるをしへ。○〔晉〕「見二一一一之殺一、而不レ親二其隆一」。
(威教) たけき威光となさけあるをしへと。○〔晉〕「未レ率二一一一」。
(樹教) をしへを設く。○〔晉〕「當二宜レ化一レ一」。
(婦教) 女子のをしへ。○〔梁〕「方論二一一一」。
(聖教) ひじりの說きたれけるをしへ。○〔盧士衡〕「且住二人-間一行二一一一」。
(勞教) 骨折る所のをしへ。○〔晉〕「一一一定而國富」。
(俗教) 習慣とをしへと、ならはせ。○〔晉〕「蘇-民傷二一一一」。
(敏教) さときをしへ。○〔易林〕「一一勁-疾」。
(虛教) おへたけ僞ふをしへ。○〔荀悅〕「未レ可二以備一、謂二之一一一」。
(刑教) 人を罪するおきてと仁義のをしへと。○〔荀悅〕「安-平之世、則一一竝用」。
(釋教) 佛のをしへ。○〔高僧傳〕「至二于一一一、則備極二幽-微一」。
(佛教) 前に同じ。○〔高僧傳〕「一一未レ行」。
(鴻教) 大いなるをしへ。○〔文心雕龍〕「不レ刊之一一也」。
(道教) 老莊のをしへ、又、をしへ。○〔宣室志〕「雅尙二一一一」。
(曉教) さとしをしふ。○〔埤雅〕「故鶴鳴一二、以一二一之一」。
(誘教) 導きをしふ。○〔集仙錄〕「每飮レ一二一後-進一」。
(昭教) をしへの道をあきらかにす、あきらかなるをしへ。○〔蔡邕〕「一二一於辟-雍一」。
(昌教) 盛なるをしへ。○〔魯褒〕「治-亂之原、豈無二一一一」。
(碎教) くだくだしく累はしきをしへ。○〔陸機〕「深-文一一一、伊何能存」。
(遠教) 行屆きたるをしへ。○〔陸雲〕「聞二先-黎之一一一」。
(弘教) 廣く行きわたれるをしへ。○〔梁簡文帝〕「明二-庶彼之一一一」。
(布教) をしへをまく。○〔手弘〕「弘レ風一レ一」。
(外教) 他のをしへ(佛家の言)。○〔梁武帝〕「又傷二一一一好レ生之德一」。
(受教) 人よりをしへらる。○〔任昉〕「一二一君-子一」。
(仁教) 道德のをしへ。○〔段承根〕「勉崇二一一一」。
(頹教) くづれすたれたるをしへ。○〔張嘉貞〕「正二百-王一一一」。
(淨教) 淸きをしへ、即ち、佛教。○〔皇甫曾〕「一一傳二一一一」。
(演教) をしへの道をのべおく。○〔柳宗元〕「一二一于中-土一」。「一レ一」。
(傳教) をしへをつたへおく。○〔皇甫冉〕「惹-力瑞レ」
(異教) 旨を別にしたるをしへ。○〔吳師道〕「恥レ受二一一一率一」。
(國教) くにぐにて定められけるをしへ。○〔孟郊〕「海-萍一一一異」。
(張教) をしへの道を盛にひろむ。○〔孫聽〕「故可三以一二其一一」。

【敝】 クワイ、ケ。口數切 〔卦〕
いこふ、(休-息)。

【敐】 シン。巫眞切 〔眞〕
㊀喜びて動く貌にいふ字。
㊁擊つ聲にいふ字。

【敐】 シン。章忍切 〔軫〕
よろこぶ、(喜-悅)。

【敏】 ビン、ミン。美殞切 〔軫〕
㊀さし。
(い)否滯なし、はしこし、すばやし、はやし。○〔書〕「黎-民一レ德」。
(ろ)識るをはやし、行ふをすみやかなり、才能多し、さとし、かしこし。○〔論〕「一而好レ學」。
㊁つゝしむ、(敬)、おごそか、(莊)。○〔唐〕「歷レ官皆以二淸-愼恪一一一得レ名」。
㊂足の拇指、おほゆび。○〔詩〕「履二帝武一一歆」。
(不敏) さとからぬ、即ち、愚なること。○〔蘇軾〕「羊-酒謝二一一一」。
(捷敏) さとし。○〔新序〕「聰-明一一、人之美-才也」。

〔機敏〕前に同じ。○〔唐〕「應-對――」。
〔警敏〕前に同じ。○〔唐〕「蒸幼――」。
〔克敏〕能くさとし。○〔詩〕「農-夫――」。
〔敬敏〕つゝしむ。○〔周〕「書二其――任-恤者一」。
〔鋭敏〕さとし。○〔陸機〕「穎-悟――」。「―」。
〔通敏〕物事にあかるくて滯らず。○〔宋〕「思-局―、
〔疏敏〕前に同じ。○〔續漢〕「――有レ識」。
〔開敏〕心ひらけてさとし。○〔梁〕「志-行――」。
〔精敏〕事にくはしくしてさとし。○〔韓愈〕「子-厚少――」。
〔內敏〕心さとし。○〔漢〕「明-察――」。
〔謹敏〕つゝしむ。○〔後漢〕「鄭-衆爲レ人、――有二心-識一」。
〔明敏〕智慧多くしてはしこし。○〔北齊〕「內雖二――一、外若レ不レ足」。
〔聰敏〕さとし。○〔晉〕「――過レ人」。
〔沉敏〕おちつきてさとし。○〔晉〕「瑋性――有二識-度一」。
〔清敏〕心深くしてさとし。○〔南〕「少――」。
〔秀敏〕衆人にすぐれてさとし。○〔宋〕「文-行――」。「――」。
〔華敏〕はなやかにしてはしこし。○〔齊〕「進-退――」。
〔悟敏〕さとし。○〔梁〕「思致二――一」。
〔爽敏〕勝れてさとし。○〔顏氏家訓〕「才-學――」。
〔閑敏〕嫻かにしてはやし。○〔杜甫〕「御-者――」。
〔便敏〕とし。○〔韓愈〕「强-記――」。
〔夙敏〕をさなくしてさとし。○〔南〕「此兒深-中――」。
〔幼敏〕前に同じ。○〔元〕「――足レ稱」。
〔修敏〕正しく敬む。○〔魏〕「經-行――」。
〔貞敏〕正しくさとし、たゞしくおごそか。○〔魏〕「尙-志――」。
〔深敏〕淺からずしてさとし。○〔魏〕「芳才-思――」。
〔勤敏〕つとめつゝしむ。○〔北齊〕「處レ事――、號爲レ稱レ職」。
〔恭敏〕うやうやしく敬む。○〔易林〕「重-耳――」。
〔詳敏〕くはしくしてさとし。○〔周〕「機弟弘、占-對――」。
〔該敏〕ひろく知りてとし。○〔唐〕「占-辭――如二霧-機一」。
〔贍敏〕足らぬ所なくしてとし。○〔唐〕「屬-辭――」。
〔强敏〕强くしてさとし。○〔五〕「――有二口-辨一」。

〔辯敏〕言葉のすぢよく立ちてはしこし。○〔遼〕「――善伺二顏-色一」。
〔嚴敏〕おごそか。○〔宋〕「――擧-斷無レ所レ貸」。
〔剛敏〕こはくしておごそか。○〔元〕「廉-直――」。
〔穎敏〕かしこし。○〔元〕「幼――」。
〔巧敏〕たくみにしてはしこし。○〔荀〕「――佞-說、取二寵乎上一」。「―」。
〔口敏〕辯舌達者なり。○〔張彥振〕「詞給而――」。
〔光敏〕明かにしてとし。○〔易林〕「明-德――」。
〔篤敏〕德厚くして才とし。○〔易林〕「信-允――」。
〔筆敏〕字を書き又は文を作るに達者なり。○〔論衡〕「――者其文沈」。「―之才」。
〔察敏〕理を知ることとし、さとし。○〔潛夫論〕「――
〔溫敏〕おとなしくしてさとし、又、おだやかにしてつゝしむ。○〔皇甫謐〕「性復――、不レ恥二下-問一」。
〔雋敏〕すぐれてとし。○〔六一詩話〕「文-詞――」。
〔博敏〕浹からずさとし。○〔蔡邕〕「允-恭――」。
〔駿敏〕はやし。○〔陸機〕「伊茲羽之――」。
〔叡敏〕深く物事に明かにしてはしこし。○〔陸機〕「無-知――」。
〔競敏〕はしこさを爭ふ。○〔王僧孺〕「爭レ高――」。
〔端敏〕正しくしてさとし、又、つゝしむ。○〔江淹〕「器-操――」。
〔訥敏〕空言をつゝしみて實行につとむること。○〔論〕「君-子欲下――於言一而――於行上」。

【敊】セン。失冉切 〔琰〕
敊――は、手を擧ぐる貌にいふ語。

【敜】ダフ、子フ。呢洽切 〔洽〕
つく、つくす（盡）。

【救】キウ、ク。居祐切 〔宥〕
㊀すくふ。
（い）たすく（助）、まもる（護）。○〔禮〕「扶-服―レ之」。
（ろ）をさむ（治）、とゞむ（止）。○〔孝〕「匡二―其惡一」。
㊁たすけ、まもり、すくひ。○〔戰〕「求二―于齊一」。

〔遠救〕遠く隔たりたる地にあるたすけ。○〔後漢〕「恃二――一而輕二近-敵一」。
〔恃救〕たすけあることをたよりとす。○〔魏〕「―二―一不二力-戰一」。
〔備救〕そなへたすく。○〔左〕「―二―凶-患一」。
〔振救〕にぎはす。○〔左〕「―二―乏-絕一」。
〔晩救〕ゆるゆるとすくふ。○〔國〕「早救之孰二與――之便一」。
〔借救〕助勢をかり受く。○〔戰〕「―二―于齊一」。
〔天救〕天のたすけ。○〔左〕「――レ之也」。
〔外救〕ほかよりのたすけ。○〔戰〕「――必至」。
〔後救〕あとよりつゞくたすけの兵。○〔漢〕「陵軍無二――一」。
〔療救〕療治をほどこす、やまひをなほす。○〔後漢〕「――僅免」。
〔表救〕書を上りて咎なき旨をいひたてゝすくふ。○〔後漢〕「宜下加二――一濟中王-公之艱-難上」。
〔防救〕ふせぎすくふ。○〔後漢〕「思レ任二――一」。
〔援救〕たすけ。○〔後漢〕「爲求二――一」。
〔矜救〕あはれみすくふ。○〔後漢〕「士大-夫多二――一之二不レ能レ得」。
〔奔救〕急ぎ行きて助く。○〔宋〕「號-哭――」。
〔赴救〕前に同じ。○〔南〕「隣-家競來――、乃得二俱至一」。
〔促救〕うながして助けに往かしむ。○〔魏〕「呵二責晁一――」。
〔營救〕すくふ。○〔吳〕「傾レ身――」。
〔彊救〕つよきたすけ。○〔魏〕「外有二――一」。
〔申救〕罪惡なき旨をまうしてすくふ。○〔唐〕「安-世獨――」。
〔濟救〕すくふ。○〔魏〕「―二―民命一、永無二濟-擧一」。
〔微救〕わづかなるたすけ。○〔宋〕「不レ有二――一」、
〔扶救〕たすく。○〔魏〕「是以晉-室衙二――之仁一」。
〔蠲救〕租稅をゆるして取り立てざること。○〔唐〕「荒-年二――之一」。
〔論救〕是非曲直をあげつらひて其の者の助けをなす。○〔唐〕「援二故-事一――」。
〔報救〕あはれみすくふ。○〔荀〕「故爲レ之出レ死斷レ亡以二――之一」。
〔貸救〕物を借しあたへてすくふ。○〔蔡邕〕「公開二倉-廩一以――」。
〔存救〕安んじすくふ。○〔稽田賦〕「固濟湯之用心、――之要-術也」。
〔垂救〕めぐみをかけて助く。○〔王獻之〕「惟賜――」。

【敒】チン、ヂン。直刃切 〔震〕
をさむ（理）。

【敒】シン。升人切 〔眞〕
㊀前條に同じ。
㊁引戻す、もどらす。
㊂のぶ（申）。

【敒】ショウ。辰陵切 〔蒸〕
前條の㊀㊁に同じ。

【敓】タツ、ダチ。徒活切 〔曷〕
彊ひ取る、おびやかす、とる。○〔書〕「――攘矯-虔」。

【敔】ギョ、ゴ。魚巨切 〔語〕
形は伏せる虎の如く、背上に二十七箇處のぎざぎざある一種の樂器、長さ一尺の木もて之を擽り鳴らすものにて、音樂のをはりに用ひしさいふ。○〔書〕「合止柷―」。

（敔之圖）

【敕】チョク、チキ。恥力切 〔職〕
㊀いましむ。
（い）かたむ（固）。○〔詩〕「既匡既―」。
（ろ）いたはる（勞）。○〔揚雄〕「分レ繭理レ絲、女-工是―」。
（は）とゝのふ（整）、たゞす（正）、をさ

む、(理)つゝしむ、(飭)。○〔韓〕「賢者―二其才一」。
(に)責讓す、せむ。○〔後漢〕「但譴二―之一不レ治二其罪一」。
(ほ)つぐ、(語)。○〔後漢〕「令二小黃門―レ蕃曰」。
(へ)いそぐ、(急)。○〔漢〕「婁―二公卿一日望レ有レ効」。
(と)命令す。○〔漢〕「公卿申二―百僚一」。
(ち)すゝむ、(勸)。○〔參同契〕「教二―子孫一」。
㊁いましむると、いましむる所、いましめ。○〔世說〕「不レ從二母―一」。
㊂天子の命令、おほせ、みことのり。○〔北〕「使二舍人溫子昇草レ―」。
㊃地を㽞す、さす、すく。○〔說文〕「㽞レ地曰レ―」。
〔墨敕〕すみにてあるされたる天子の命令。○〔司馬光〕「皆須レ有二―魚符一」。
〔戒敕〕いましむ、いましめ。○〔書、疏〕「乃總―二―之一」。
〔撿敕〕前に同じ。○〔書、疏〕「―二―其身一」。
〔警敕〕前に同じ。○〔詩、箋〕「戒―二―軍事一也」。
〔申敕〕前に同じ。○〔詩、箋〕「又用二天意一―二―之一」。
〔謹敕〕つゝしみ。○〔後漢〕「猶爲二――之士一」。
〔詔敕〕天子のおつげ。○〔北〕「須待二――一」。
〔手敕〕天子みづからかきたゝめられしみことのり。○〔宋〕「書皆是太祖――」。
〔密敕〕ひみつのみことのり。○〔梁〕「應之別有二――一」。
〔僞敕〕にせのみことのり。○〔北〕「――賜二庶人死一」。
〔制敕〕天子のみことのり。○〔唐〕「猶因二――一」。
〔教敕〕いましむ、いましめ。○〔參同契〕「―二―子孫一」。
〔敦敕〕ふかくいましむ。○〔水經、註〕「―二―工匠一」。
〔嚴敕〕きびしきみことのり。○〔蔡邕〕「公自奉二――一」。
〔修敕〕をさむ。○〔東京賦〕「亭候――」。

【敖】　ガウ、ゴウ。五勞切　豪

㊀あそぶ、(遊)、たはむる、(戲)。○〔詩〕「以―以遊」。
㊁長き貌にいふ字、ながし、一說に、欣ぶ貌にいふ字、よろこばし。○〔詩〕「碩人――」。
㊂おごる(傲)。○〔爾〕「仇之――」。
㊃君位に登るべき資格あるも君位に登らずして死し號諡なき人の稱。○〔左〕「葬二子干訾一實訾―」。
㊄熬に同じ、いる。○〔荀〕「天下――然若レ燒若レ焦」。
㊅螯に同じ、はさみ。○〔荀〕「蟹六跪而二―」。
㊆嗷に同じ、かまびすし、やかまし。○〔荀〕「百姓喧―」。
〔游敖〕あそびたはむる。○〔詩〕「齊子――」。
〔怠敖〕なまけあそぶ。○〔孟〕「及二是時一般樂――」。
〔遨敖〕あそぶ。○〔貢師泰〕「游敖戒二――一」。

【敖】　ガウ、ゴウ。魚到切　號

㊀傲に同じ、おごる、おごり。○〔禮〕「―不レ可レ長」。
㊁調弄す、たはむる、なぶる。○〔史〕「箕爲二―客一」。

【埌】　ラウ。魯當切　陽

はなはだし、はなはだ、(甚)。

【敱】　チ。展里切　紙

かつ、(尅)。

【敗】　ハイ、ベ。簿邁切　卦

㊀やぶる。
(い)こぼつ、こぼる、(毀)、くづる、くづす、(頹)、つひゆ、つぶす、(潰)、くつがへる、くつがへす、(覆)、そこなふ、(損)、折る、裂く、傷つく、碎く。○〔史〕「轉折車―」。
(ろ)敵を負かす、敵に負く。○〔史〕「秦軍佯―而走」。
(は)滅す、ほろぶ、ほろぼす。○〔呂氏春秋〕「爲亡―」。
(に)腐る。○〔論〕「魚餒而肉―」。
(ほ)すべて物事の樣の惡しくなるにも、又、物事の樣をして惡しくならしむるにもいふ字。○〔董仲舒〕「民好レ邪而俗―」。
㊁凶栽、害毒、わざはひ。○〔禮〕「四方有レ―」。
㊂やぶるゝこと、やれたる所、やぶれ。○〔穀梁〕「豐年補レ―」。
〔大敗〕いたくやぶる。○〔漢〕「是以兵――」。
〔豐敗〕前に同じ。○〔國〕「其亦必有二――一哉」。
〔司敗〕刑罰を掌る官の長、古昔、陳と楚との二國に限れる官名。○〔左〕「臣歸二死於――一也」。
〔摧敗〕打ちやぶる。○〔漢〕「其所二――一功、亦足三以暴二於天下一」。
〔朽敗〕腐れやぶる。○〔後漢〕「器物取二――一者一」。
〔頹敗〕くづれやぶる。○〔朱熹〕「風俗――」。
〔成敗〕(い)勝つと負くと。○〔史〕「苦戰數戰、――未レ可レ知」。
(ろ)事の出來上がるとやぶるゝと。○〔漢〕「稽二――一」。
〔撓敗〕折けやぶる。○〔左〕「恥二師徒之――一」。
〔諱敗〕やぶれを嫌ふ。○〔穀梁〕「爲レ尊者諱レ敵不レ―レ―」。
〔備敗〕やぶれを警めて準備をなす。○〔國〕「行レ善而―レ―」。
〔寡敗〕やぶれを招くこと多からぞ。○〔國〕「是以――」。
〔前敗〕先に招きたるやぶれ。○〔國〕「使レ復二其位一以無レ忘二――一」。
〔轉敗〕やぶれとなりしをかへて善なる方に向かはしむると。○〔史〕「―レ―而爲レ功」。
〔幸敗〕やぶるゝを希ひ求む。○〔史〕「徒―二吳之――一」。

〔佯敗〕ことさらに負けたるふりを裝ふ。○〔史〕「秦軍――而走」。
〔幾敗〕やぶれとなるに近し。○〔漢〕「――二乃公事一」。
〔腐敗〕くさる。○〔漢〕「――不レ可レ食」。
〔勝敗〕かちと負けと。○〔漢〕「無レ益二於――之數一」。
〔絕敗〕きれやぶる、きりやぶる。○〔後漢〕「棧閣――」。
〔羸敗〕疲れやぶる。○〔後漢〕「馬車――」。
〔興敗〕起こるとやぶると。○〔後漢〕「用舍之端――資焉」。
〔負敗〕まけやぶる。○〔隋〕「在レ軍持重、未三嘗――一」。
〔淪敗〕立身出世のできざると。○〔後漢〕「以二乖忤一――」。
〔截敗〕切りこぼつ。○〔晉〕「便――之一」。
〔決敗〕前に同じ。○〔晉〕「因――之一」。
〔妄敗〕恣に破る。○〔吳〕「不レ得二――一」。
〔蠹敗〕こはしやぶる、こはれやぶる。○〔晉〕「――風俗一」。
〔臭敗〕にはひつき腐る。○〔晉〕「停令二――一」。
〔穿敗〕穴あきやぶる、うがちやぶる。○〔晉〕「蟻垤而――」。
〔荒敗〕(い)あれはてやぶる。○〔晉〕「漢中――」。(ろ)心を奪はれやぶる。○〔北〕「終日昏飲、以示二――一」。
〔爛敗〕たゞれ腐る。○〔晉〕「帳下甘果――令レ棄レ之」。
〔傾敗〕勢力衰へやぶる、かたむけやぶる。○〔晉〕「任二愚臣一以速二――一」。
〔散敗〕ちりぢりになりやぶる、ちらしやぶる。○〔南〕「――而歸」。
〔退敗〕進むと能はずして負く、しりぞきやぶる。○〔南〕「軍至二渦陽一――」。
〔恤敗〕やぶれたるをあはれむ。○〔魏〕「存レ亡―レ―」。
〔故敗〕古びてやぶれ裂く。○〔魏〕「衣服――」。
〔損敗〕そこなひやぶる。○〔隋〕「毎年牧積勿レ使二――一」。
〔宿敗〕破れざる前より既に敗らるべき事情をそなへ居ると。○〔唐〕「兵甲鈍弊、車馬羸弱、疾驅以戰、是謂二――之師一」。
〔曠敗〕空しくしやぶる。○〔宋〕「陛下威靈、當

——」耳」。
〔苦敗〕苦しみやぶる。○〔金〕「書——」。
〔過敗〕あやまちやぶる。○〔賈誼〕「——鮮矣」。
〔棄敗〕やぶれとなるものを見捨てゝ顧みず、又、すてやぶる。○〔論衡〕「收レ成——」。
〔傷敗〕傷さてくづる。○〔獨異志〕「吾寧自——」。
〔壞敗〕やぶる。○〔賈誼〕「怨功久而——」。
〔蟲敗〕蟲食ひやぶる。○〔周櫟此山集〕「絹素——」。
〔發敗〕やぶれたるものを惡しざまにいふ、又、やぶる。○〔鄒正〕「譽成——扶レ高抑レ下」。
〔沮敗〕はゞみやぶる。○〔杜篤〕「一人奮戰、三軍——」。
〔破敗〕やぶる。○〔與彭寵書〕「招——之重災」。
〔潰敗〕やぶる。○〔韓愈〕「頽墮委靡、——不レ可レ收拾」。

【⿰廷攴】テイ、チヤウ。徒鼎切 迥
つく、つくす(盡)。

【⿰㢟攴】タフ、ドフ。大合切 合
前條に同じ。

【⿰宼攴】寇に同じ。

八畫

【⿰豕攴】タク、トク。竹角切 覺
うつ、たゝく(擊)、一說に、なげうつ(擿)。

【⿰豙攴】トク。丁木切 屋
たゝく聲にいふ字。

【⿰卑攴】ヘイ、補米切 薺 ハイ。切 蟹 必計
やぶる(毀)。

【⿸厂攴】ロツ、ロチ。勤沒切 月
攺の條を見よ。

【敜】デフ、子フ。奴協切 葉
ふさぐ、ふさがる(塞)。○〔書〕「——乃非」。

【⿰佥攴】デツ、子チ。乃結切 屑
㊀おさふ(按)。㊁とづ(閉)。

【敝】ヘイ、ハイ。毗祭切 霽
㊀一幅の巾、ひさはぎれ、きれ、又、敗衣、やれごろも、つゞれ。○〔急就篇〕「帊—囊—橐不レ直レ錢」。
㊁やぶる(敗)。○〔易〕「甕——漏」。
㊂つかる、つからす(罷)。○〔左〕「以——楚人」。
㊃すつ(棄)。○〔禮〕「冠而——之可也」。○〔周〕「薄二其——」。
㊄蔽に通じ用ふ、おほふ、おほひ。
〔勞敝〕つかる、つからす。○〔唐〕「人力——」。
〔罷敝〕前に同じ。○〔漢〕「百姓——」。
〔靡敝〕やぶる、つかる。○〔禮〕「國家——」。
〔抗敝〕すれやぶる、くじけつかる。○〔漢〕「海內——」。
〔凋敝〕前條に同じ。○〔唐〕「民力——」。
〔俗敝〕民のならはしやぶる。○〔禮〕「刑肅而——、則民弗レ歸也」。
〔衰敝〕おとろへやぶる、おとろへつかる。○〔左、疏〕「易二——之常一也」。
〔道敝〕道路の間につかれ苦しむ、又、道義やぶる。○〔左〕「諸侯——而無レ成、能無レ貳乎」。
〔兩敝〕雙方やぶれくるしむ。○〔五〕「期二——之欲一」。
〔承敝〕つかれやぶれし後を受けつぐ。○〔史〕「漢興——」。
〔彫敝〕志をれ疲る。○〔史〕「救二其——」。
〔勸敝〕事を爲すにあきつかる。○〔漢〕「足下擧二——之兵一」。
〔腐敝〕くされやぶる。○〔後漢〕「所レ好群書、率皆——」。
〔積敝〕烈しくやぶれ苦しむ。○〔後漢〕「——之後、易レ致二中興一」。
〔刻敝〕切りやぶる。○〔後漢〕「深文——、於レ此少衰」。
〔穿敝〕穴あきやぶる。○〔唐〕「蓋、補——」。
〔鈍敝〕にぶりやぶる。○〔唐〕「兵甲——」。
〔蠹敝〕蟲くひやぶる、即ち、腐敗といふに同じ。○〔五〕「三司——尤甚」。、「功二」。
〔疊敝〕前に同じ。○〔宋〕「以救——、以新二治功」。
〔毀敝〕こはしやぶる、こはれやぶる。○〔管〕「地重人載、——而養不レ足」。
〔破敝〕前に同じ。○〔易林〕「——復完」。
〔敗敝〕前に同じ。○〔貢父〕「衣服——」。
〔制敝〕衰へ疲れたるのを抑へとゞむ。○〔賈誼〕「秦有レ餘力而——其一」。

【敞】シヤウ。昌兩切 養
㊀高く又は平かにして遠望すべし、たかし、たひらか、ほがらか。○〔史〕「行營二高——地一」。
㊁高く露はる、あらはる、平かに開く、ひらく。○〔漢〕「處レ險不レ——」。
㊂寬大なる貌にいふ字、ひろし。○〔王褒〕「又足レ樂二乎其——閑一」。
〔寬敞〕ひろびやかなること、ひろし、ほがらか。○〔後漢〕「而府寺——」。
〔弘敞〕前に同じ。○〔晉〕「端、據敞二其——」。
〔廣敞〕前に同じ。○〔杜牧〕「明庭開——」。
〔平敞〕土地などの高低なくひろやかなること、たひらか。○〔後漢〕「三輔——」。
〔爽敞〕前に同じ。○〔水經、註〕「其地——」。
〔顯敞〕あらはる。○〔晉〕「高堂——」。
〔豐敞〕ゆたかにして寬大なり。○〔易林〕「農人——」。
〔博敞〕ひろし ○〔魏文帝〕「平原——」。
〔峻敞〕高くあらはる、たかくほがらかなること。○〔王勃〕「綵宮——」。
〔疏敞〕あらくひろし。○〔沈約〕「雲宮信——」。
〔淸敞〕きよらかにしてほがらかなること。○〔元稹〕「廳室復——」。
〔華敞〕うつくしくしてほがらかなること。○〔白居易〕「——緯有レ餘」。

【敟】テン。多殄切 銑
㊀つかさどる(主)。㊁つね(常)。

【⿰尿攴】ザツ、ザチ。自曷切 曷
ゆばり(尿)。

【⿰倠攴】サン、セン。士咸切 咸
鳥の物をうつにいふ字。

【敪】タツ、タチ。都活切 曷
㊀敁——は、輕重を知る、はかる。
㊁——數は、食ふに喚ばずして自ら來る、一說に、食ふに速からず、おそし。

【⿰叕攴】セツ、セチ。七絕切 屑
たつ(斷)。

【⿰僉攴】エフ、オフ。於業切 葉
㊀相著く、つく。
㊁相反す、そむく。

【⿰冐攴】バウ、モウ。莫報切 號
手にて扶く、たすく。

【⿱甘攴】カン、ケン。苦咸切 咸
鳥物を啄む、ついばむ。

【⿰皃攴】ゲイ、ガイ。五計切 霽
㊀擊つ聲にいふ字、たゝくこゑ。
㊁やぶる(毀)。

【⿰豈攴】ケイ、ガイ。研奚切 齊 吾禮切 薺
やぶる(毀)。

【⿰易攴】イ。以智切 寘
㊀あなどる(侮)。㊁あらたむ(改)。㊂よろこぶ(說)。㊃かろし(輕・簡)。

【敢】 カン、コン。古覽切〔感〕
㊀あへて。
(い)觸れ冒して妄りに。○〔書〕「誰—不レ讓」。
(ろ)決して、斷じて。○〔左〕「—忘二其死一」。
㊁あへて爲す、あへてす。○〔史〕「爾而忘三句-踐殺二汝父一乎、曰不レ—」。
㊂あへて爲さず、あへてせんや（反語にて）。○〔儀〕「對曰、非-禮也—」。
㊃進取するを、あへて爲すを、危難を犯して意となさゞるを、決斷あるを、果勇。○〔戰〕「深-井-里聶-政勇—士也」。
〔勇敢〕いさましく果斷なると。○〔禮〕「有レ義之謂二——一」。
〔果敢〕決斷のすみやかなると。○〔南〕「仙-琕少以二——一聞」。

【戟】 タイ、デ。丈乖切〔佳〕
㊀わざはひ（災）。㊁よこしま（邪）。

【械】 サン。蘇旱切〔旱〕
分離す、ちる、ちらす、一說に、はぐ（剝）。

【散】 サン。蘇旱切〔旱〕 蘇肝切〔翰〕
㊀ちる。
(い)分れ離る、ばら〳〵になる、わかる、はなる、ちらばる。○〔莊〕「緩-急相摩聚—以成」。
(ろ)亂る。○〔淮〕「不二與レ物—一」。
(は)布く。○〔南〕「雲布霧—」。
(に)失す。○〔唐〕「典-章淫—」。
(ほ)走る、亡ぐ、去る。○〔呂氏春秋〕「貍處レ堂而衆-鼠—」。
㊁ちらす。
(い)ちらしむ（㊀の(條)參照）。○〔易〕「風以—レ之」。
(ろ)分かち與ふ。○〔家語〕「循レ禮施—」。
㊂はなつ、はなる（放）。○〔公羊〕「—舍二諸宮-中一」。
㊃撿束なきを、ほしいまゝ。○〔荀〕「庸-衆駑—」。
㊄用を爲さゞるを、むだ。○〔莊〕「——人又惡知二—-木一」。
㊅閑暇、ひま。○〔韓愈〕「投レ閑置レ—乃分之宜」。
㊆漆ぬりの樽、一說に、飾りなき樽、又一說に、四角の酒壺。○〔儀〕「酌二—西-階上一」。
㊇藥石の屑、こぐすり、こ。○〔史〕「漆-葉青-黏—」。
㊈琴の曲の名。○〔晉〕「有二廣-陵—一」。
〔分散〕わかれちる、又、わかちちらす。○〔禮〕「——省、仁之施也」。
〔消散〕きえうす、けしちらす。○〔漢〕「—二—積-怒一」。
〔盡散〕悉く分けちらす、ことごとくちる。○〔史〕「范-蠡——二其財一」。
〔奔散〕走りてちりぢりになる。○〔漢〕「抱二其器一而——」。
〔離散〕はなれ〴〵になる、はなれ〴〵になす。○〔漢〕「急レ之則——」。
〔破散〕やぶれあらく、やぶりちらす。○〔漢〕「—二—陰-謀一、以固萬-世之基一」。
〔耗散〕減しうしなふ、へりうす。○〔唐〕「至レ是益——」。
〔乖散〕そむきてちりぢりになる。○〔後漢〕「故謀-臣猛-將、稍有二——一」。
〔流散〕流浪す、又、其のもの。○〔後漢〕「招二還——一」。
〔逃散〕遁れ亡ぐ。○〔唐〕「樂-土——」。
〔紓散〕紓びちる。○〔柳宗元〕「繚-帙各——」。
〔凋散〕衰へてわかれる。○〔周弘正〕「山僧盡——」。
〔班散〕分けて與ふ。○〔晉〕「曹-氏必—二—親-姻一」。
〔驚散〕おどろき騷ぎてちりぢりになる、おどろかしちらす。○〔梁武帝〕「——忽-差池」。
〔虛散〕からになる。○〔宋〕「天-府——」。
〔衰散〕勢なくなる。○〔宋〕「神-志——」。
〔飛散〕とびちる、とばしちらす。○〔宋〕「五-情——」。
〔披散〕わかれちる、ひらきちらす。○〔宋〕「賊十-餘-人皆——」。
〔敗散〕やぶれてわかれ〴〵になる、又、やぶりちらす。○〔宋〕「民敝——、自-然之理」。
〔徙散〕移りちる、うつしちらす。○〔宋〕「軍-民——」。
〔走散〕逃げてわかれ〴〵になる。○〔宋〕「彼求レ戰不レ得二自-然——一「兩存一」。
〔朽散〕腐れちる。○〔宋〕「都-水材官——十不二」。
〔寥散〕おちぶれてわかれ〴〵になる。○〔白居易〕「歌-伴酒-徒——盡」。
〔費散〕つかひちらす。○〔魏〕「有-司縱以二——之條一」。
〔殞散〕こまかになりちり失す。○〔劉〕「縈-迴兮——」。
〔潰散〕亂れちる。○〔劉向〕「名——」。
〔湮散〕失す、うしなふ。○〔鳳州歌〕「——橫-盡勢更危」。
〔聚散〕集まり寄るとちりなくなると。○〔莊〕「緩-急相摩、——以成」。
〔布散〕しきわたる、しきちらす。○〔釋名〕「昊-天其氣——皓-々也」。
〔泮散〕釋けちる。○〔易林〕「氷將二——一」。
〔發散〕あらはしちらす、あらはれちる。○〔參同契〕「—二—清-光一」。
〔移散〕うつしちらす、うつりちる。○〔釋名〕「搖使二——一也」。
〔降散〕ふりちる。○〔論衡〕「——則爲レ雨矣」。
〔吹散〕ふきちらす。○〔王維〕「香畏二風——一」。
〔追散〕おひちらす。○〔通典〕「三日、——亂-擊」。
〔揮散〕ふるひちらす。○〔十國春秋〕「自レ是稍-々——矣」。
〔迸散〕ほとばしりちる。○〔孔平仲〕「燿-光——」。
〔睟散〕そむきちらす、そむきちる。○〔仲長統〕「—二—五-經一」。
〔荒散〕すさびて專ならぬ。○〔蔡邕〕「思-念——」。
〔渙散〕釋けちる。○〔蔡邕〕「不三敢—二—其意一」。
〔迴散〕まはりてちる、まはしちらす。○〔謝莊〕「—二—縈-積之勢一」。
〔泄散〕もれ出でゝちり〴〵にわかる、もらしちらす。○〔梁簡文帝〕「——怪二風來一」。
〔褫散〕奪はる。○〔江淹〕「勢必——」。
〔飄散〕ひら〳〵ちる。○〔陳後主〕「庭-花——飛入レ帷」。
〔亡散〕逃げてはなれ〴〵になる、又、にぐ。○〔盧思道〕「收二合——一」。
〔沮散〕勢とゞまりちる、又、とゞめちらす。○〔柳宗元〕「——遠去」。
〔蕭散〕しづかにしてひまなると。○〔唐〕「野-服——」。
〔簡散〕ひま、又、きまゝ。○〔陸龜蒙〕「——濟-誕」。
〔冗散〕むだ。○〔晉〕「——無-事者」。
〔游散〕あそぶと。○〔世說〕「—二—名-山一」。
〔罷散〕つかれて用をなさゞると。○〔賈誼〕「率二——之卒一」。
〔傲散〕氣まゝ。○〔梅堯臣〕「——喜二端居一」。
〔放散〕きまゝ。○〔阮籍〕「其民——肴亂」。
〔閑散〕しづかにして無事なると。○〔韓愈〕「況是傜官飽二——一」。
〔疎散〕うとくなると。○〔李白〕「賓レ友日——」。
〔樗散〕用を爲さゞると。○〔杜甫〕「——尙恩慈」。
〔櫟散〕前に同じ。○〔戴逵〕「——之質」。

【散】 サン。相干切〔寒〕
跚に同じ。○〔史〕「槃—行汲」。

【⿰空支】 コウ、ク。枯公切〔東〕
うつ、たゝく（擊）。

【⿰區支】 シウ、シユ。ㇳ由切〔尤〕
ふせぐ（禦）。

【⿰忽支】 コツ、コチ。呼骨切〔月〕
うつ、たゝく（擊）。

【⿰胞支】 ハウ、ヒヤウ。普庚切〔庚〕
うつ、たゝく（擊）。

【敤】 クワ。苦果切〔哿〕 苦臥切〔箇〕

㊁前條に同じ。㊂研き治む、とぐ。

【𣪠】シン。　子鴆切　沁
前條の㊁に同じ。

【毀】クワイ、ケ。　古壞切　卦
こぼつ、(毀)。

【𣪘】エン。　以贍切　豔
手にて物を散らす、ちらす、まく。

【𣪗】セウ。　先了切　篠
うつ、(撲)。

【𣪂】シヤク。　尺約切　藥
物を奪ひ取る、とる、かすむ。

【㪖】ロク。　盧谷切　屋
㊀剝く聲にいふ字。㊁うつ、たゝく、(擊)。

【𣪊】リヨク、ロク。　力玉切　沃
擊つ聲にいふ字。

【敦】トン、ドン。　都昆切　元
㊀いかる、(怒)。㊁そしる、(詆)。㊂誰何す、とがむ。㊃恨みて心明かならず、くらし、みだる。㊄あつし、(厚)。○〔易〕「—臨吉」。㊅せまる、(迫)、一說に、なげうつ、(擲)。○〔詩〕「王-事—レ我」。㊆つとむ、(勉)。○〔漢〕「—二衆-神一使レ式レ道兮」。㊇さかんなり、(盛)、又、おほいなり、(大)。○〔爾〕「大-歳在レ午曰二—牂一」。㊈つらぬ、(陳)。○〔詩〕「鋪二—淮-濆一」。

〔陪敦〕ましあつくすること。○〔左〕「分二之土-田陪—一」。

【敦】タイ、テ。　都回切　灰
㊀獨處りて移らざる貌にいふ字。○〔詩〕「—彼獨宿」。㊁をさむ、(治)。○〔詩〕「—二商之旅一」。㊂さだむ、(斷)。○〔莊〕「今-日試使二士—レ劍一」。

【敦】タン、ダン。　度官切　寒
聚りむらがる貌にいふ字。○〔詩〕「—彼行-葦」。

【敦】テウ。　丁聊切　蕭
畫き飾る、ゑがく、又、ほる、(彫)。○〔詩〕「—二琢其旅一」。

【敦】タイ、タイ。　都內切　隊
黍稷を盛りて神前に供ふる器、槃の類。○〔禮〕「有虞-氏之兩—」。

【敦】タウ、ドウ。　大到切　號
杜皓切　皓　チウ、チユ。　陳留切　尤
おほひ、(覆)。○〔周〕「每—一-几」。

【敦】トン、ドン。　杜本切　阮
慧からず、開き通らず、くらし。○〔左〕「天-下之民謂二之渾—一」。

【敦】トン、トン。　都困切　願
㊀前條に同じ。○〔爾〕「太-歳在レ子曰二困—一」。㊁平地にある堆き處、をか。○〔爾〕「丘一成爲—-丘」。

㊂たつ、(豎)。○〔莊〕「—レ杖豎レ之」。

【𣪏】シユン。　主尹切　軫
幅廣はゞ。○〔周〕「出二其度-量—-制一」。

【敨】トウ、ツ。　他口切　有
のぶ、(展)。

【𢽸】キウ、ク。　居祐切　宥
強く擊つ、うつ。

【攲】キ。　居宜切　支
箸を以て物を取る、とる。

【攱】キ。　去倚切　紙
齊しからざる貌にいふ字、かたゝがひ。

九畫

【斁】ヤク。　以灼切　藥　ケウ。
吉了切　篠
光景經過す、ひかげすぐ。

【敫】ケウ。　古弔切　嘯
うたふ、(歌)。

【毃】ケウ。　堅堯切　蕭
うつ、(擊)。

【毄】ケキ、キヤク。　吉歷切　錫
つゝしむ、(敬)。

【𢾅】ト、ツ。　多古切　麌
ともなふ、とも、(伴)。

【𢿒】チン、　知林切　侵
うつ、たゝく、(擊)、又、石を擣つ、うつ。

【𢿔】チン、ヂン。　陟甚切　寢
深く擊つ、うつ、一說に、うつ、(搏)。

【𣪡】シ。　初委切　紙　セン。
昌兗切　銑
㊀はかる、(量)。㊁こゝろむ、(試)。

【𣫐】タ。　丁果切　哿
捶に同じ、はかる、はかり。

【𩎓】井。　雨非切　微
もとる、(戾)。

【𣪍】チ、ヂ。　丑二切　寘
蠶を折つ、わかつ。

【𢿫】サン、ザン。　賊干切　寒
のこる、そこなふ、(殘)。

【㪗】イユ。　容朱切　虞
なぐ、(投)。

【𢿌】ト、ツ。　徒古切　麌
ふさぐ、(塞)、とづ、(閉)。

【𢿍】
揩に同じ。

【𣪩】
揊に同じ。

【𣪧】タウ、ヂヤウ。　除埊切　庚
㊀つく、(撞)。㊁ふる、(觸)。

【𣦼】タン。　他案切　翰

文采なし、あやなし、いろどりなし。

【敬】ケイ、キヤウ。居慶切 [敬]
㊀みづから警めて廢慢せず、つゝしむ、つゝしみ。○[孝]「—者禮之本也」。㊁つゝしみて事ふ、うやまふ、うやまひ。○[漢]「見二高祖狀貌一因重—一」。㊂うやうやし、(恭)。○[禮]「心肅則容—」。

(送敬) 致謝、おれい。○[後漢]「遣レ生——」。
(畏敬) かしこみてゐやまふ。○[易]「人皆——」。
(尙敬) うやまふことを貴しとなす。○[詩、箋]「助二祭於廟一則——」。
(恭敬) つゝしむ、但し分ちていへば恭は身のつゝしみにいひ、敬は心のつゝしみにいふ。○[禮]「君子——撙節退讓以明レ禮」。
(廉敬) 節淸く正しく愼む。○[周]「三日、——」。
(隆敬) 一通りならぬゐやまふ。○[家]「二三大夫皆勸二寡人一、使二—一于高年一」。
(庸敬) 平素のゐやまひ。○[孟]「——在レ兄」。
(私敬) 公けならざるゐやまひ。○[隋]「獲レ展二——一」。
(貌敬) 外面のうやまひ。○[韓愈]「直置二心親無一——」。
(謹敬) つゝしみうやまふ、又、つゝしむ。○[新語]「行莫レ大二于——一」。
(祗敬) つゝしむ、うやうやし。○[書]「—二—一六德一」。
(嚴敬) おごそかにつゝしむ。○[漢]「愼二其齋戒一、致二其——一」。
(篤敬) 厚くつゝしむ。○[論]「言忠信、行——」。
(厚敬) 薄からずうやまふ。○[禮]「父子不レ同レ位以——」。
(孝敬) よく父母に事へて大切にすること。○[北]「帝幼而——」。
(竦敬) 謹愼に同じ。○[詩、傳]「僮々——」。
(莊敬) おごそかにしてつゝしむ、又、うやうやし。○[詩、箋]「常思二——一者大任也」。
(肅敬) 前に同じ。○[詩、傳]「秩々然——也」。
(忠敬) よく君に仕へうやまふ。○[詩、箋]「臣能夙夜在レ公、盡二其——一」。
(愛敬) いつくしみうやまふ。○[孝]「——盡二于事レ親、而德敎加二于百姓一」。
(不敬) 惰りてうやまひの道を盡くさぬ、即ち、禮を缺くこと。○[禮]「愼則——」。
(曲敬) こまやかなるうやまひ。○[禮、註]「不レ崇二——一」。
(和敬) 打ち解けうやまふ。○[禮]「樂在二宗廟之中一、君臣上下同聽レ之、則莫レ不二——一」。
(加敬) 益々うやまふ、ますますつゝしむ。○[北]「見者莫レ不二懍然——一」。
(謙敬) へりくだりつゝしむ。○[左]「存二——一序二殷勤一也」。
(久敬) 時を永く隔つれば隔つる程うやまふ、世の親しくなればなる程狎れ易き情態とは異なるにいふ語。○[論]「晏平仲與レ人交、—而—レ之」。
(重敬) 大切にしてうやまふ。○[漢]「因—二—一之」。
(崇敬) 尊びうやまふ。○[漢]「故制レ禮以——」。
(親敬) ちかづきうやまふ。○[後漢]「光武甚—二—一之」。
(親敬) うやまふ。○[後漢]「朝夕——」。
(尊敬) たふとびうやまふ。○[子貢]「——二師傅一」。
(深敬) いたくうやまふ、ふかくつゝしむ。○[南]「獨——焉」。
(誠敬) 信實にしてうやまふ。○[南]「盡二其——一」。
(器敬) 才ありとしてうやまふ。○[北]「垂二彌加——一」。
(傾敬) 心を寄せうやまふ。○[北]「擧座——」。
(友敬) いつくしみうやまふ。○[隋]「深加二——一」。
(雅敬) 仰ぎうやまふ。○[歷代名畫記]「未レ足二——一」。
(欽敬) つゝしみうやまふ、又、つゝしむ。○[陸雲]「洛邑之內、無レ不二——一」。
(歡敬) 心よく思ひうやまふ。○[傅咸]「竭二——一于膝下一」。

【敭】古の揚の字。○[宋]「明—二幽仄一」。

【⿰柬攴】レン、郞甸切 [霰]
㊀物を搥打す、うつ。㊁えらぶ、(擇)。

【敆】カフ、ケフ。呼洽切 [洽]
つく、つくす、(盡)。

【敌】キ、ギ。俱爲切 [寘]
すき、(臿)。

【⿰春攴】シュン。尺尹切 [軫]
㊀みだる、(亂)。㊁うごく、うごかす、(動)。

【⿰發攴】サウ、セウ。山巧切 [巧]
㊀うつ、(擊)。㊁とる、(攬)。㊂みだる、(攪)。

【⿰音攴】アン、エン。乙滅切 [鍵]
すつ、(棄)。

【⿰冒攴】バウ、モウ。莫報切 [號]
㊀いたる、(抵)。㊁手にて扶く、たすく。

【⿰宮攴】クワイ、ゲ。口外切 [泰]
錢。

【⿰䀗攴】エツ、エチ。於決切 [屑]
目の深き貌にいふ字。

十一畫

【⿰埀攴】キ、ギ。巨支切 [支]
弓硬し、つよし。

【⿰烝攴】ショウ、ジョウ。諸仍切 [蒸]
うつ、(擊)。

【⿰盍攴】カフ、コフ。克盍切 [合]
たゝく、(敲)。

【⿰⿱㕛米攴】キ、ギ。渠宜切 [支]
弓硬し、つよし、かたし。

【⿰兼攴】カン、ケン。口陷切 [陷]
㊀むさぼる、(貪)。㊁値り合ふ、あたる。

【⿰椷攴】カン、ケン。丘咸切 [咸]
敢に同じ。

【⿰蚩攴】チ。猪几切 [紙]
さす、(刺)。

【⿰厥攴】ロツ、ロチ。勒沒切 [月]
安からず、あやふし。

【敷】數に同じ。

【⿰宮攴】トウ、ヅ。徒冬切 [冬]
内の空しき物を擊つ聲にいふ字。

【⿰⿱山害攴】カイ。苦蓋切 [泰] カツ、カチ。丘葛切 [曷]

【⿰豈攴】ガイ。魚開切、クワイ、姑回切、ケ。 [灰]
㊀はづかしむ、(辱)。㊁うつ、(擊)。

【⿰豈攴】グワイ、ゲ。五亥切 [賄]
をさむ、(治)。

【⿰豈攴】ショク。朱欲切 [沃]
改め理む、をさむ。

【⿰辱攴】ジョク。儒欲切 [沃]
鼓を擊つ、うつ。

【⿰卑攴】ヒ。篇夷切 [支]
戟の子、かま。

屋壞れんとす、やぶれかゝる。

【𢿢】ダク、ノク。昵角切 覺 とる、(搦)。

【𢿿】タク、ニヤク。昵格切 陌 おさふ、(按)。

【𢿚】ハウ、ホウ。滂保切 皓 空虚なる物を擊つ聲にいふ字。

【敲】カウ、ケウ。口交切 肴 ㊀横より擿つ、旁より擊つ、うつ、たゝく。○〔左〕「奪二之杖一以レ—之」。㊁うつに用ふる短き杖、しもと、むち。○〔賈誼〕「執二—扑一以鞭二笞天下一」。㊂すつ、(棄)。○〔揚雄〕「楚凡棄レ物曰レ—」。

〔推敲〕下に引く例より辭句を練ることにいふ語。○〔隋唐嘉話〕「賈島初赴二京師一、一日于二馬上一得レ句云、鳥宿池中樹、僧敲月下門、初欲レ作二推字一練レ之未レ定、不レ覺衝二尹時韓吏部權京尹一、左右擁至レ前、島具告二所以一、韓立レ馬良久曰、作二敲字一佳矣」。

【𢼄】肇に同じ。

十一畫

【𢿱】ロク。盧谷切 屋 獸皮の文采ある貌にいふ字、つや、あや。

【𢿲】ヒツ、ヒチ。畀吉切 質 ㊀つく、(盡)。㊁火の貌にいふ字。

【𢿲】ヒ。必至切 寘 かぎる、ふかく、(畫)、一說に、沼して疾く行かす、うながす、ゆかす。

【𢿷】サン、セン。所斬切 豏 せまし、又、すぼむ、すぼる。

【𣀔】サ、セ。側加切 麻 ㊀指もて按ふ、おそふ、おす。㊁とる、(取)。

【敵】テキ、ヂヤク。徒歷切 錫 ㊀仇怨、あだ、かたき。○〔書〕「相爲二—讎一」。㊁翟匹、たぐひ、ともがら。○〔國〕「—國賓至」。㊂對當者、あひて。○〔史〕「劍一人—」。㊃拒抵者、あらそひのあひて。○〔戰〕「不二以輕レ—」。㊄たぐふ、むかふ、こばむ、あたる。○〔禮〕「雖貴賤不レ—」。

〔無敵〕あたるものなし。○〔孟〕「仁者—レ—」。
〔匹敵〕たぐひ。○〔漢〕「人情非レ有二——一」。
〔仇敵〕あたかたき。○〔左〕「晉吾——也」。
〔猛敵〕たけく强きかたき。○〔漢〕「今不レ識二——一」。
〔强敵〕前に同じ。○〔戰〕「秦之——也」。
〔雄敵〕前に同じ。○〔蔡洪〕「抗二巖趾一望二——一」。
〔小敵〕わづかなる人數のあた。○〔漢〕兵法「——之堅、大敵之禽也」。
〔對敵〕あたにむかふ、又、あたる。○〔南〕「確每レ臨レ陣—レ—」。
〔縱敵〕あたをゆるしてうたざること。○〔左〕「一日—レ—、數世之患也」。
〔誘敵〕かたきをおびきいだす。○〔左〕「毀二其軍一以—レ—」。
〔弱敵〕つよからざるかたき、又、かたきをよわむ。○〔文子〕「先—レ—而後戰」。
〔懷敵〕あだをなつく。○〔漢〕「—レ—附レ遠」。
〔臨敵〕あたの前にむかふこと。○〔魏〕「—レ—常與二士卒一同在二矢石之間一」。
〔隣敵〕近傍のあた。○〔漢〕「威震二——一」。
〔鈞敵〕ひとしきともがら、又、まさりおとりなくあたる。○〔易林〕「勇力——」。
〔獷敵〕わるくあらあらしきあた。○〔後漢〕「招二降——一」。
〔嚴敵〕きびしくさかんなるあた。○〔後漢〕「推二——於鄰都一」。
〔餌敵〕利をもてあたを誘ふこと。○〔魏〕「此所三以—レ—」。
〔踏敵〕かたきの土地にふみ入ること。○〔魏〕「今千里—レ—」。
〔堅敵〕破りがたきかたき。○〔晉〕「前無二——一」。
〔抗敵〕はりあひあたること。○〔近異錄〕則六臂齊舉、奮擊莫二能——一」。
〔吞敵〕かたきをみくだし畏れざること。○〔吳子〕「志在二——一者」。
〔暴敵〕あらくれたるかたき。○〔魏〕「——輕侵」。
〔資敵〕あたをたすくること。○〔宋〕「適足二以—レ—」。
〔陷敵〕あたをせめおとす。○〔宋〕「多二摧レ堅—レ—」。
〔嘗敵〕あたの强弱を試みん爲にすこしくたゝかふこと。○〔宋〕「能以レ兵—レ—」。
〔緊敵〕ものゝ優劣なく同じ力なる者を稱する語。○〔揚雄〕「自レ關以西凡物力同者、謂二之——一」。
〔躡敵〕かたきのうしろをつくこと。○〔握奇經〕「從レ後—レ—」。
〔酒敵〕さけのみあひて。○〔歸田錄〕「與二石曼卿一爲二——一」。
〔劇敵〕はげしきかたき。○〔元稹〕「——相軋」。
〔詩敵〕詩をつくるあひて。○〔白居易〕「別來少レ遇新——」。
〔取食于敵〕あたより分捕りたる食料又は敵地よりの収穫物によりて我が兵士を養ふこと、轉じて攻擊の材料を敵より得ることにいふ語。○〔史〕「—二—一—行殊遠而糧不レ絶」。

【敻】ケン。許縣切 先 營求す、もとむ。○〔古本書〕「高宗夢二傅說一使二百工—求一得レ之」。

【夐】ケイ、キヤウ。休正切 敬 ㊀とほし、(遠)、又、ながし、(長)。○〔班固〕「上哉—乎」。㊁みる、(視)。

【𢿃】イン。羊進切 震 うつ、つく、(擣)。

【敶】チン、ヂン。直刃切 震 つらぬ、ならぶ、(列)。○〔楚辭〕「—レ鐘按レ鼓」。

【敷】フ、ホ。芳無切 虞 ㊀しく。(い)施し及ぼす、施し及ぶ。○〔書〕「翕受—施」。(ろ)つらぬ、つらなる、(陳)。○〔書〕「—奏以レ言」。(は)分かつ、散る。○〔書〕「禹—レ土」。(に)延ぶ。○〔穆天子傳〕「—二筵席一」。㊁偏く、廣く。○〔詩〕「—求二先王一」。

〔敬敷〕つゝしみてのべしく。○〔書〕「—二—五教一在レ寬」。
〔祗敷〕前に同じ。○〔南齊〕「—二—鴻祉一」。
〔誕敷〕おほいにしきほどこす。○〔書〕「帝乃—二—文德一」。
〔弘敷〕廣くしく。○〔書〕「—二—五典一」。
〔光敷〕かゞやかししく、かゞやきしく。○〔干寶晉紀〕「—二—聖德一」。
〔紛敷〕みだれしく。○〔楚辭〕「桂樹列兮——」。
〔燠敷〕あたゝかき氣しく。○〔謝靈運〕「三春——」。
〔森敷〕しげりならぶ。○〔貢重〕「林木何——」。
〔敷々〕しきならぶ貌にいふ語。○〔韓愈〕「——花披レ萼」。

【𢿒】タ、ダ。大可切 哿 うつ、(擊)。

【㲉】ハウ、ヘウ。匹交切 肴

ヘウ。紕招切 蕭

うつ、(擊)。

【數】 シユ、ス。爽主切 麌

❶かぞふ。

(い)計算す、つもろ、はかる。○〔易〕「—レ往者順、知レ來者逆」。

(ろ)かずにつもり上ぐ。○〔史〕「勝相レ士多者千-人、寡者百—」。

(は)擧げ言ふ。○〔漢〕「餘-子碌-々莫レ足レ—」。

(に)閱す、志らぶ。○〔荀〕「不レ足レ—ニ於大-君-子之前一」。

❷せむ、(責)。○〔左〕「使ニ吏—一レ之」。

❸かぞふ可き程の、若干の、二三の、五六の。○〔孟〕「—-口之家可ニ以無一レ飢矣」。

〔悉數〕ことごくかぞへはかる。○〔禮〕「—-—レ之乃留、更レ僕未レ可レ終也」。

〔面數〕まのあたり責む。○〔禮〕「不レ可ニ—-—一也」。

〔熟數〕充分にはかる。○〔漢〕令下臣得上レ—ニ—-—之一。

〔目數〕めもてかぞへはかる。○隋「口-誦—-—」。

〔逆數〕さかさにかぞふ。○〔易〕「夫易—-—也」。

〔細數〕精密にかぞへはかる。○〔珊瑚詩話〕「—-—落-花因」。

〔比數〕くらべかぞふ。○〔蘇軾〕「衆裏笙-竿誰—-—」。

〔默數〕もたしかぞふ。○〔蘇軾〕「—-—長-短亭」。

〔暗數〕胸の中にてかぞへはかる。○〔方回〕「—-—ニ靑梅ニ立ニ樹-陰一」。

【數】 ス。色句切 遇

❶かず。

(い)物事の多少、量。○〔周〕「牖-燔之—-量」。

(ろ)量をつもるに用ふる記號、一、二、三など。○〔算經〕「黃-帝爲ニ法—-—一有ニ十-等一、謂ニ億、兆、京、垓、壤、秭、溝、澗、正、載一」。

(は)定まれる量。○〔禮〕「布-帛精-麤不レ中レ—」。

(に)差異、區別、志な、はぢめ。○〔易〕「制ニ—-度一議ニ德-行一」。

(ほ)運命、まはりあはせ。○〔書〕「天之曆—-在ニ汝身一」。

(へ)卜筮の變化。○〔史〕「試ニ之卜—-—一」。

❷條理、ことわり。○〔管〕「固其—也」。

❸情勢、ありさま。○〔呂氏春秋〕「知ニ先-後遠-近縱-舍之—一」。

❹技術、わざ。○〔孟〕「奕之爲レ—」。

❺謀略、はかりごと。○〔魏〕「精ニ練策—一」。

❻算術。○〔周〕「禮、樂、射、御、書、—」。

〔年數〕としのかず。○〔禮〕「不レ知ニ—-—之不レ足也」。

〔九數〕數學上の九ツの名稱、即ち、方田、粟米、差分、少廣、商功、均輸、方程、贏不足、旁要。○〔周〕「乃教ニ之六藝一、六曰、—-—」。

〔常數〕きまりたるかず。○〔儀〕「燕與レ舜無ニ—-—一」。

〔定數〕前に同じ。○〔劉峻〕「榮-悴有ニ—-—一」。

〔名數〕稱へとかずと、又、となへのかず、又、となへあるかず、又、かずの定まれるとなへ。○〔漢〕「不レ盡ニ—-—一」。

〔權數〕時と場合とを見てみはからひをなすはかりごと。○〔後漢〕「爲ニ驍-和一、有ニ—-—一、號曰ニ智-囊一」。

〔酒數〕さけの升量のかず。○〔李白〕「如詩不レ成、罰依ニ金-谷—-—一」。

〔成數〕計算の出來上がりたるかず。○〔易、序〕「擧ニ其—-—一言レ之」。

〔全數〕すべてのかず。○〔書序、疏〕「三-百者、亦擧ニ—-—計一」。

〔無數〕幾何といふかずを知られず。○〔管〕「桑-麻—-—」。

〔度數〕はかり定まりたるかず、志な、わかち。○〔鶡冠子〕「道有ニ—-—一」。

〔等數〕志な。○〔周〕「掌ニ四-方賓客之牢-禮、餼-獻、飮-食之—-—、與ニ其政-治一」。

〔官數〕官職のかず。○〔周〕ニ—-—雖レ無ニ明-說可ニ略而言一レ之矣」。

〔次數〕志な。○〔儀〕「爵行無ニ—-—一」。

〔異數〕常に超えたるかず。○〔錢珝〕「聖-慈忽被ニ—-—一」。

〔枚數〕かず。○〔左〕「謂ニ其—-—一」。

〔命數〕(い)上よりあふせつけられたるかず。○〔左〕「皆以ニ—-—一爲レ節」。

(ろ)運命、まはりあはせ。○〔李頻〕「—-—未レ終ニ奇一」。

〔術數〕はかりごと。○〔鶡冠子〕「可ニ以見ニ—-—之士一」。

〔小數〕些細なるわざ。○〔孟〕「今夫奕之爲レ數—-—也」。

〔逆數〕順序にさからひたるかず。○〔國〕「時無ニ—-—一」。

〔口數〕人數といふに同じ。○〔謝靈運〕「冀-州—-—百-萬-有-餘」。

〔分數〕わかれたるかず、單位以下のかず。○〔後漢〕「其—-—不レ明」。

〔算數〕數學。○〔後漢〕「—-—之事生矣」。

〔奇數〕(い)奇術といふに同じ。○〔後漢〕「好ニ—-—任-俠」。

(ろ)二にて除し盡されざるかず、はん、はんのかず。○〔朱熹〕「洛-書以ニ五—-—統ニ四-耦一」。

〔耦數〕二にて除し盡すべきかず、ちやう、ちやうのかず、側前條に出づ。

〔伎數〕てだくみあること。○〔後漢〕「今諸巧-慧小-才—-—之人」。

〔謠數〕いつはりのはかりごと。○〔後漢〕「又能以ニ—-—發ニ擿姦一」。

〔智數〕智識ありてはかりごとあること。○〔魏〕「启有ニ—-—一」。

〔才數〕前に同じ。○〔魏〕「及レ壯有ニ—-—一」。

〔意數〕前に同じ。○〔後漢〕「或明有ニ—-—一」。

〔道數〕道理といふに同じ。○〔吳〕「受性闇蔽、不レ達ニ—-—一」。

〔員數〕物のかず。○〔後漢〕「其—-—稍增」。

〔冥數〕人智もて知り得べからざる運命。○〔江淹〕「治-亂惟—-—」。

〔計數〕はかりごと。○〔北〕「有ニ勇-略-多ニ—-—一」。

〔往數〕過ぎ去れるかず。○〔隋〕「極ニ—-—一以知レ來」。

〔精數〕算術に熟達す。○〔舊唐〕「近-代—レ—者」。

〔運數〕めぐりあはせ。○〔白居易〕「人-命長-短繫ニ—-—一」。

〔詐數〕正しからぬはかりごと。○〔唐〕ニ世-充多ニ—-—一。

〔禮數〕儀式の等差。○〔韓愈〕「—-—不レ同樽-俎異」。

〔易數〕陰陽吉凶をわきまふる學びの術。○〔宋〕「通ニ于—-—一」。

〔氣數〕運氣といふに同じ、天地の氣象のめぐりあはせ。○〔宋〕「天-地兆-分、—-—爰定」。

〔虛數〕あれども其の實なきに類するかず、むだのかず。○〔金〕「何取ニ細-弱一、以增ニ—-—一」。

〔額數〕かず。○〔元〕增ニ其—-—一。

〔里數〕路のりのかず、我が邦にては三十六町を支那にては我か邦の六町弱を一里とす。○〔元〕「有ㇾ雖下以ニ—-—一限上者甲」。

〔寵數〕めでいつくしむこと。○〔錢珝〕「—-—不レ移」。

〔恩數〕前に同じ。○〔宋〕「並還ニ—-—一」。

〔機數〕はかりごと。○〔晉〕「明ニ于—-—一者用レ兵之勢也」。

〔差數〕けぢめ。○〔莊〕「—-—覩矣」。

〔變數〕時に應じ機に臨みて施す術。○〔中論〕「知-者不下以ニ—-—一疑中常-道上」。

〔無萬數〕かずかぎりのなきこと、極めて多きこと。○〔漢〕「有-靑-蠅—-—-—」。

【數】 サク、ソク。色角切 覺

❶度を重ねて、たびく、志ばく。○〔禮〕「祭不レ欲レ—、—則煩」。

❷ちかし、(近)。○〔家語〕「故夫不レ比ニ於—一而比ニ於疎一」。

❸はやし、すみやか、(疾)。○〔禮〕「其行趨-々以—」。

❹せまる、うながす、(促)。○〔大戴禮〕「行無レ求ニ—一有レ名、事無レ求ニ—一有レ成」。

❺せはし、わづらはし、(汲-々)。○〔莊〕「彼其於レ世未ニ—-—-然一也」。

〔疏數〕うときとちかきと。○〔禮〕「昏-姻—-—之交也」。

（煩數）まはぐなること。○〔後漢〕「徭役――、休而息レ之」。
（叫數）たびたび聲をあげてわめく。○〔南〕「――カ易レ竭」。
（給數）すばやし。○〔荘〕「――以敏」。
（急數）いそがはし。○〔識寶雜記〕「甚――」。
（頻數）あまたたびなり。○〔梅堯臣〕「從レ今宴會應ニ――一」。
（數々）（い）まはぐぐ。○〔白居易〕「乘レ閒――來相訪」。（ろ）いそがはし。○〔張安道〕「猶被ニ莊生――一」。
（事君數）主君に仕へてたびたび諫む。○〔論〕「――斯辱矣」。
（朋友數）友に對してあまたゝび忠告す。○〔論〕「――斯疏矣」。

【數】ソク。蘇谷切　屋　㊀せまる、（迫）。○〔禮〕「衛音趨――以煩」。㊁すみやか、はやし、（速）。○〔史〕「淹――之度兮」。

【數】ショク、ソク。趨玉切　沃　こまし、こまかし、（細密）。○〔孟〕「――罟不レ入ニ洿池ニ」。

【敹】レウ。憐蕭切　蕭　えらぶ、（簡）。○〔書〕「善――ニ乃甲冑ニ」。

【敺】古文の驅の字。○〔周〕「索レ室――レ疫」。

十二畫

【𢿢】レウ。力小切　篠　小くして長し、ながし。

【敼】イ。於巳切　紙　たはむる、（戲）。

【𢿌】キフ、コフ。迄及切　緝　うつ、たゝく、（擊）。

【𢿔】フン、ブン。符分切　文　おほつゞみ、（鼖）。

【𢿥】ラン、ロン。盧玩切　翰　㊀わづらふ、わづらはす、（煩）。㊁おこたる、あなどる、（惰）。㊂みだる、（亂）。

【𢿦】ケウ。居夭切　蕭　繫連す、つなぐ、つらぬ、つながる、つゞく、かく、かゝる。○〔書〕「――ニ乃干ニ」。

【𢿚】ケウ。苦幺切　蕭　カウ、ゴウ。牛交切　肴　ケキ、ギヤク。苦擊切　錫　うつ、（擊）。

【𢿊】トウ、チヨウ。唐互切　徑　うつ、たゝく、（擊）。

【𢿸】セン、ゼン。時戰切　霰　㊀をさむ、（治）。㊁おぎなふ、（補）。

【歗】シク、ソク。息六切　屋　摍に同じ、うつ、又、うつ聲にいふ字。

【𢿽】タウ、チヤウ。宅耕切　庚　つく、（撞）。

【散】サン、蘇旱切　旱　ザン。蘇旰切　翰　雜肉、まじりにく。

【整】セイ、之郢切　梗　シヤウ。切　――俗に、整に作る。　さゝのふ。（い）理め正す、齊しからしむ、亂れざらしむ、備はらしむ。○〔詩〕「爰――ニ其旅ニ」。（ろ）正しくなる、理まる、ひさしくなる、亂れず備はる。○〔左〕「戎輕而不レ――」。

（修整）とゝのふ。○〔後漢〕「必自――」。
（嚴整）おごそかにしてとゝのふ。○〔晉〕「性――以レ法御レ下」。
（峻整）前に同じ。○〔晉〕「風格――、動由ニ禮節ニ」。
（端整）前に同じ。○〔唐〕「風采――」。
（齊整）とゝのふ。○〔隋〕「馭レ我――」。
（秀整）すぐれてとゝのふ。○〔晉〕「風儀――」。
（威整）おそるべき所ありてとゝのふ。○〔北〕「憚ニ其――ニ」。
（精整）純一にしてとゝのふ。○〔唐〕「袍仗――」。
（閑整）物事に練熟してとゝのふ。○〔唐〕「隊伍――」。
（寬整）ひろくしてとゝのふ。○〔宋〕「――堅密」。
（端整）とゝのふ。○〔金〕「容貌――」。
（恪整）とゝのふ。○〔金〕「――乃心式ニ副朕意ニ」。
（勤整）つとめとゝのふ。○〔晉〕「陶侃―而―」。
（高整）けたかくして正しきこと。○〔冀州記〕「履行――」。
（平整）高低なくしてきまりよくあり。○〔佛國記〕「巷陌――」。
（整々）正しくきまりよき貌にいふ語。○〔梁元帝〕「舉ニ――之旗ニ」。
（遒整）固くしてとゝのふ。○〔輟耕錄〕「意匠經營格法――」。
（裁整）切りたちてとゝのふ。○〔沈約〕「實須ニ――ニ」。
（完整）缺けたる所なくとゝのふ、又、おぎなひとゝのふ。○〔盧思道〕「器械――」。

【𣀔】タク、トク。敕角切　覺　うつ、（擊）。

十三畫

【𣀈】操の字。

【𣀓】ケウ。火弔切　嘯　かなしむ、（悲）。

【𣀒】ライ、レ。盧回切　灰　くだく、（摧）。

【𣀕】セン。職琰切　琰　――攱は、手を擧ぐる貌にいふ字。

【𣀑】レイ、ライ。盧啓切　薺　かたき、（敵）。

【𢿨】レン、ロン。力鹽切　鹽　鼓を初て打つ、うつ、つゞみうつ、うちそめ。

【斀】タク、トク。竹角切　覺　トク、ドク、都木切　屋　陰埶を去る刑。

【斀】ショク、ソク。朱欲切　沃　うつ、（擊）。

【斁】エキ、ヤク。羊益切　陌　㊀倦み厭ふ、いさふ。○〔詩〕「服レ之無レ――」。㊁あきらか、（明）、又、さかんなり、（盛）。○〔詩〕「庸鼓有レ――」。

【斁】ト、ツ。當故切　遇　殬に同じ、やぶる。○〔書〕「彝倫攸レ――」。
（隳斁）やぶる。○〔漢〕「大職――」。

【斂】レン。良冉切 [琰]
㊀をさむ。
(い)引き聚む、あつめ取る。○[書]「斂二時五福一」。
(ろ)內に藏す。○[晉]「斂二𨿖-篋中物一」。
(は)引き縮む。○[史]「秦楚合爲レ一以臨レ韓必斂レ手」。
(に)管束す、おさまる。○[漢]「皆令三閉レ戸自斂一不レ得レ踰レ法」。
㊁聚まる、入る、ちゞむ、ひそむ、おさまる、をさまる(㊀の條參照)。○[禮]「秋斂冬藏」。

【𢿛】グン。渠云切 [文]
朋侵す、をかす。

十四畫

【𩢍】ソウ、ス。徂送切 [送]
𩢍—は、迎へざるに自ら來る、きたる。

【𢿭】タク、トク。敕角切 [覺]
㊀さづく(授)。㊁さす(刺)。㊂—祓は、いたむ(痛)。㊃うすつく(舂)。㊄きづく(築)。

【斃】ヘイ、ベイ。毗祭切 [霽]
㊀たふる。
(い)前にのめり死す、死して横さまになる。○[左]「斃二於車中一」。
(ろ)失敗す、滅亡す。○[左]「多行二不義一必自斃」。
㊁たふれしむ、たふす。○[禮]「射レ之斃二一人一」。
(雙斃) ふたつながらたふる。○[晉]「此韓盧東郭所三以—・—一」。
(匽斃) たふる、死す。○[魏]「——二麾下一」。
(頹斃) 前に同じ。○[魏]「顚沛——」。
(摧斃) うちたふす。○[魏、註]「——二姦凶一」。
(闘斃) たゝかひたふる。○[北]「因レ—而—」。
(射斃) いころす。○[宋]「毎レ—輒—」。
(疲斃) つかれてたふる。○[三輔黃圖]「鄴傳省——二于道一」。
(誅斃) つみある者を殺すこと。○[蔡邕]「——二貪暴一」。
(餒斃) うゑたふる。○[皮日休]「則途無二——之民一矣」。

【𢿲】シウ、シユ。時流切 [尤] 齒九切 [有]
すつ(棄)。

【𣀓】ハン、バン。芳万切 [願]
セイ、ゼ。充芮切 [霽]
小しく舂く、うすつく。

【𣀔】サイ、セ。楚快切 [卦]
殺の世を除く、のぞく、うつ。

十五畫

【𣀳】ハク、ホク。北角切 [覺]
うつ(擊)。

【𣀤】ライ、レ。盧對切 [隊]
おす(推)。

【𣀮】シヤク。式灼切 [藥]
敊—は、定らざる貌にいふ語。

【𣀻】リヨ、ロ。良據切 [御]
をかす(侵)。

十六畫

【𣁆】卻に同じ。

【𢾗】ロ。洛胡切 [虞]
㊀攱—は、あざむく(欺)。
㊁をさむ(斂)。

【𣁏】フツ、ボチ。符弗切 [物]
をさむ(理)。

【𣁋】クワイ、ケ。古壞切 [卦]
壞に同じ、こぼつ、やぶる。

【斆】カウ、ゲウ。胡教切 [效]
をしふ、をしへ(教)。○[書]「盤庚斆二于民一」。

【斅】學に同じ。○[高彪碑]「爲二斅者宗一」。
(斅斅) まねならふ。○[顏氏家訓]「還相——」。
(庠斅) 學校のこと。○[梁武帝]「宣三六啓二——一」。

【𣁚】レキ、リヤク。狼狄切 [錫]
みだる(亂)。

【𣁜】サン。先旱切 [旱]
繖を放つ、はなつ、一說に、飛散す、ちる。

十七畫

【𣁢】レイ、リヤウ。郎丁切 [靑]
うつ(打)。

【𣁫】サン。蘇甘切 [覃]
いさふ(厭)。

十八畫

【𢿶】フン、ホン。方問切 [問]
掃ひ除く、はらふ。

【𣁽】デフ、ヂフ。尼輒切 [葉]
敊—は、相及ぶ、相及ぼす。

十九畫

【𣀷】ヘン。祕戀切 [霰]
かる、かはる(更)。

【𣁾】レイ、ライ。里第切 [霽]
かず(數)。

【𣂀】リ・呂支切 [支]
麗に通ず。

【𣂁】レイ、ライ。郎計切 [霽]
しく(布)。

廿一畫

【𣂂】シヨク、ソク。殊玉切 [沃]
うつ(擊)。

文部

【文】ブン、モン。無分切 [文]
㊀あや。
(い)相雜はりて外表をうつくしく見するもの、外表をうつくしく見する爲めに施されたるもの、かざり。○[周]「供二其絲-纊組-文之物一」。
(ろ)光澤、采色、つや、いろ。○[張衡]「目—瞭也」。
(は)模樣、形象、かた。○[詩]「織文鳥章」。
(に)條理、脈絡、すぢ、みち。○[荀]「禮

義―理」。

(ほ)節奏、曲折、ふし、てうし。○〔禮〕「樂―同則上下和矣」。

(へ)外に見はれたると。○〔禮〕「忠信禮之本也、義理禮之―也」。

㊁字畫、字體、もじ。○〔國〕「―蟲皿爲レ蠱」。

㊂語句、ことば、卽ち、字をつゞりて成れるもの。○〔孟〕「不下以レ―害上レ辭」。

㊃篇章、卽ち、ことばを集めて成れるもの。○〔漢〕「以下能誦二詩書一屬上―稱二於郡中一」。

㊄特に、詩に對して語句の字數に制限なく句末に韻を押さゞる篇章の稱。○〔后山詩話〕「詩――各有レ體」。

㊅書册、典籍、手翰、すべての書類、記錄の泛稱、ふみ。○〔揚雄〕「古――盡發」。

㊆學藝の泛稱。○〔論〕「行有二餘力一以學レ―」。

㊇兵事以外の事務。○〔漢〕「齎二束帛一以賜二―官一」。

㊈法度、禮儀、のり、みち。○〔國〕「有二不―亨一則脩レ―」。

㊉仁德、慈惠。○〔書〕「乃武乃―」。

⑪學藝明かなると、ふみの道の長じたると。○〔左〕「吾不レ如二衰之―一也」。

⑫よし(善)、うつくし(美)。○〔禮〕「以反爲レ―」。

⑬鄙陋ならざるを、みやびやかなるを。○〔荀〕「―而類」。

⑭孔ある小錢。○〔洞天淸錄〕「不レ値二壹―一」。

(天文) 日月星辰などの天象。○〔易〕「觀二乎――一以察二時變一」。

(人文) 人間のあや。○〔文心雕龍〕「――之元」。

(禮文) のり、みち。○〔漢〕「――尤具」。

(言文) ことのはともじと、又、ことば、篇章。○〔史〕「吏之――刻深」。

(深文) 法令をきびしくすると。○〔漢〕「務在二――一」。

(峻文) 前に同じ。○〔後漢〕「――深憲」。

(飛文) 文章をもて廣くふれつたふ、又、またしぶみ。○〔漢〕「流言――」。

(綴文) 文章をつゞる。○〔漢〕「――之士衆矣」。

(綺文) あやぎぬのあや、うつくしきあや。○〔舊唐〕「無二金玉――之麗一」。

(舞文) 法吏の理由を强牽して判決すると、又、巧に議論を組み立てゝ篇章を成すと。○〔唐〕「納レ賄、―レ―」。

(守文) のりを守る。○〔唐〕「―レ―以持二天下之正一」。

(空文) 實なきふみ又は篇章又は法令の稱。○〔司馬遷〕「垂二――一以自見」。

(斯文) このみち、このふみ、又、みち、ふみ。○〔論〕「未レ喪二―之―一」。

(移文) まはしぶみ。○〔曹唐〕「欲下將二泉石一勤中――上」。

(允文) 文德の大なると。○〔詩〕「――允武」。

(藻文) かざり。○〔禮、疏〕「爲二――一也」。

(藝文) 學藝に同じ。○〔後漢〕「初涉二――一」。

(舊文) もとのふみ、もとののり。○〔晉〕「各以二――一增二損當世一」。

(微文) ふみ又はのりを證據にすると。○〔晉〕「主者惟當二――一據レ法、以レ事爲レ斷」。

(善文) 文章をよく作る。○〔柳宗元〕「好レ學而――」。

(浮文) 根據なきかろ〴〵しき文章。○〔文心雕龍〕「輕靡者――弱植」。

(片文) 全からざる文章。○〔宋〕「――隻字」。

(麗文) うつくしきあや。○〔梁〕「――無二以匹一」。

(鱗文) うろこのすぢめ。○〔南〕「――偏二北體一」。

(搆文) 文章を工夫すると。○〔北〕「道衡每レ――、必隱二坐空齋一」。

(修文) 文學の道をひろむ。○〔宋〕「偃レ武―レ―」。

(贊文) 功德などをはめとなへたる文章。○〔金〕「上親爲二――一」。

(蒼文) 青色のあや。○〔山海經〕「――而白首」。

(輪文) 車輪のもやう。○〔異苑〕「鐵者――」。

(秘文) 世にあらはれざる文章、又は書類。○〔西都賦〕「校二理――一」。

(鮮文) うつくしきあやもやう。○〔魏文帝〕「衣疊二――一」。

(闕文) かけおちたる文章、又は書類。○〔文賦〕「收二百世之――一」。

(逸文) すぐれたる文章。○〔郭璞〕「庶幾令下――不レ墜二於世一、奇言不上レ絕二於今一」。

(奇文) 前に同じ。○〔陶潛〕「――共欣賞」。

(漪文) さゞなみのもやう。○〔張融〕「――復動」。

(斐文) うつくしきあや。○〔王融〕「有二―斯―一」。

(勒文) 文章を石などにきざむと。○〔梁簡文帝〕「翠石―レ―」。

(赬文) 赤き色のあや。○〔張纘〕「葉二――一於翠幢一」。

(羅文) あみのもやう。○〔唐太宗〕「逐吹起二――一」。

(工文) 文章を作るにたくみなると。○〔張說〕「非レ―レ―莫之寫一」。

(好文) 文學の道をこのむと、又、文章をこのむと。○〔岑參〕「幸逢二時主之――一」。

(賁文) 文章をかみにたてまつると。○〔盧綸〕「――寧受レ寵」。

(懿文) 善美なる文章、善美なるのり、善美なる學藝、又太た學藝に明かなると、仁惠あつきと。○〔白居易〕「茂學――」。

(彩文) いろどり、あや。○〔李應三蒸雲詩〕「紅霓間二――一」。

(纈文) 文章をあむと、學藝を治むると。○〔韓愈〕「强レ學―レ―」。

(光文) ひかりとあや、又、あや。○〔皇甫威〕「――燭然」。

(雄文) すぐれたる文章、又、すぐれたる學藝。○〔蘇軾〕「王公元之以二――直道一獨立當世一」。

【文】 ブン、モン。文運切　問

あやを加ふ、かざる。

(い)外見をつくろふ。○〔論〕「小人之過也必―」。

(ろ)修めとゝのふ。○〔論〕「―レ之以二禮樂一」。

(は)畫く、彫ばむ、塗る、かざりを加ふ。○〔曹植〕「爾乃御二―軒一」。

(に)斑になす、もさろぐ。○〔左〕「祝レ髮―レ身」。

六畫

【𢼸】 ハン、ヘン。逋閑切　刪

色純一ならざるを、まだら。

【𢼸】 通じて微に作る。

【斊】 セイ、サイ。前西切　齊

㊀ひとし(等)。㊁なか(中)。㊂はやし(疾)。

七畫

【斌】 ヒン。府巾切　眞

文質雜はれり、あやあり、まじる、うるはし。○〔潘岳〕「士女頒―而咸戾」。

(斌々) うるはし。○〔蔡邕〕「――碩人」。

八畫

【斐】 ヒ。敷尾切　尾　逋悲切　支

文章あり、あやあり、うるはし。○〔大〕「有二―君子一」。

(斐々) 文飾ある貌にいふ語。○〔揚雄〕「――有レ光」。

(狂斐) 進取の氣象に富みて文飾あると。○〔梅堯臣〕「―言――頗及レ古」。

(萋斐) 文飾の相まじはれる貌にいふ語。○〔詩〕「―兮―兮、成二是貝錦一」。

【斑】 ハン、ヘン。布還切　刪

雜はり會ひて文あると、色のまじはると、まだら、ぶち。○〔禮〕「貍首之――然」。

(斑斑) まだら。○〔李白〕「挑レ燈淚――」。

(爛斑) 前に同じ。○〔蘇軾〕「曉得二異石一靑――」。

(一斑) 一部分のまだら。○〔蘇軾〕「覓レ句近窺詩――」。

(細斑) こまかきまだら。○〔酉陽雜俎〕「――膠短」。

九畫

【斒】ハン、ヘン。方閑切　[刪]
斕—は、純粹ならざる色、まだら。○[柳宗元]「被レ褐謝二斕—一」。

【㬇】クワン。呼玩切　[翰]
—斕は、文采、あや。

【㪔】タン。他旦切　[翰]　儻旱切　[旱]
—斆は、文采なき貌にいふ語。

十一畫

【斄】リ。里之切　[支]
微かに畫く、うすくゑがく、ゑがく。

【斆】パン、マン。莫半切　[翰]
㪔の條を見よ。

十五畫

【斔】斞に同じ、○[莊]「—斛不三敢入二於四境一」

十七畫

【斕】ラン、レン。力閑切　[刪]
文采、あや。○[拾遺記]「玉梁之側有二斑—一」。

斗部

【斗】トウ、ツ。當口切　[有]
㊀量目の名、卽ち、升の十倍轉じて、ます、め。○[漢]「—者聚レ升之量」。
㊁十升の量をはかり盛る量器、さます、轉じて、量器の總稱、ます。○[莊]「掊レ—折レ衡而民不レ爭」。
㊂酒尊に挹み取るに用ふる柄ある器、ひしやく。○[史]「目眙不レ禁讀可二八—一」。
㊃南北にある一群の星宿の稱。○[詩]「維北有レ—」。
㊄さますの隅の如くに廉立ちて曲がるを。○[史]「成-山—二入海一」。
㊅忽地、たちまち。○[韓愈]「—覺霜-毛一-半加」。
㊆陣中にて晝間は十升の飯を炊ぐに用ひ、夜間は之を叩きて警戒するに用ふる銅の鐎、どら。○[陸瓊]「焚レ烽望二別-烽一、擊レ—宿二危-樓一」。

〔北斗〕北方の星宿の名、其の形斗に類せるが故にかいふ。○[唐]「學-者仰レ之、如二泰-山—・—一」。
〔南斗〕南方の星宿の名、義前に同じ。○[韓愈]「月宿二—・—一」。
〔大斗〕おほきなるひしやく。○[詩]「酌以二—・—一、以祈二黃-耆一」。
〔科斗〕蟲の名、蝦蟆の子、おたまじやくし。○[國]「—・—活-東」。
〔玉斗〕たまもて作れるひしやく。○[史]「欲レ獻二項-王—・—一-雙一」。
〔刁斗〕どら。○[史]「擊二—・—一而自衛」。
〔星斗〕ほし。○[李洞]「汎-燈混二—・—一」。
〔熨斗〕火のし、器の名。○[淮]「炮烙始二于—・—一」。
〔維斗〕北斗星の別名。○[莊]「—・—得レ之、終-古不レ忒」。
〔筋斗〕もんどりを打つ、とんぼがへりす。○[張憲]「—翻レ脚蹁-蹮起二—・—一」。
〔金斗〕かねのひしやく。○[識]「乃令二工-人作二爲—・—一」。
〔火斗〕ひのし。○[通俗文]「—・—曰レ熨」。
〔衝斗〕北斗星に突きあたる、卽ち、勢氣のはげしく起れるを形容する語。○[駱賓王]「有レ氣常—レ—」。
〔筲斗〕僅ばかりの升目、卽ち些細なるとにいふ語。○[沈佺期]「—・—愧二相眙一」。
〔高斗〕たかく空にかゝりたる南北の斗星。〔高適〕「夜-璧衡二—・—一」。

【斗】シユ、ス。腫庾切　[麌]
ひしやく、(勺)。○[周]「大喪之大-湄設レ—」。

三畫

【㪿】斗の本字。

【𣁾】シヨウ。識蒸切　[蒸]
のぼる、のぼす、(登)。

四畫

【𣂑】カツ、ケチ。訖黠切　[黠]
はかる、(量)。

五畫

【料】ハン。博幔切　[翰]
一つの物を二つに量り分く、わく。

【𣂒】斟に同じ。

六畫

【𣂓】斛に同じ。○[晉]「屯二萬—一」。

【斡】ワツ、ワチ。烏括切　[曷]　烏八切　[黠]
搯に同じ、斗もて物を取る、とる。

【𣂖】クワツ、クワチ。呼括切　[曷]
くむ、(抒)。

【料】レウ。落蕭切　[蕭]　力弔切　[嘯]
㊀はかる。
(い)ますめを試む。○[史]「嘗爲二季-氏吏—・—量平」。
(ろ)數ふ。○[國]「—・—二民于太-原一」。
(は)考へ分く。○[史]「君-侯自—二孰-與蒙恬一」。
(に)理む、はからふ。○[晉]「當二相—・—理一」。
㊁はかると、はかる度合、はかり、はかりめ。○[避暑錄話]「藥-名與二分-兩劑—・—一」。
㊂小き戣、ふりつゞみ。○[爾雅]「大-戣謂二之麻一、小者謂二之—・—一」。
㊃とる、(捋)。○[莊]「—・—二虎-頭一、編二虎-須一」。
㊄もの、材質、たち、たろ。○[杜甫]「山-色供二詩—・—一」。
㊅給與物、あてがひ、卽ち、芻豆、秩祿など。○[唐]「立-仗-馬食二三-品—・—一」。

〔稟料〕扶持、あてがひ。○[唐]「供二筆-札—・—一」。
〔審料〕事細かにはかる。○[後漢]「項-王—・—成-敗一」。
〔計料〕かぞへはかる。○[陳子昂]「以レ臣—・—、恐未レ成レ割」。
〔食料〕くひものゝあてがひ。○[魏]「其中人-功—・—」。
〔公料〕官よりのあてがひ。○[隋]「不レ受二—・—一」。
〔給料〕あてがひ、又、あてがひのたろを賜はる。○[唐]「內-外官不レ—レ—」。
〔使料〕つかひ用ふるたろ。○[唐]「吏用二丁-直一爲二—・—一」。
〔雜料〕これと指し定めたる所なきくさぐ〳〵のたろ又はあてがひ。○[唐]「其公-廨—・—、獨取二五之四一」。
〔內料〕朝廷にての使ひ用ふるたろ又はあてがひ。○[唐]「奏-罷二—・—一」。
〔奉料〕御使用のたろ又はあてがひ。○[唐]「特賜二—月—・—一」。
〔材料〕工作のたろ。○[宋]「曰營-造、曰二—・—一」。
〔諳料〕審に度る。○[列]「王—二—・—之一」。
〔度料〕はかりみる。○[大戴禮]「決レ之以卒而—・—」。
〔逆料〕あらかじめはかりみる。○[諸葛亮]「難レ可二—・—一」。
〔評料〕はかる。○[王徽]「難レ—二—・—一」。
〔祿料〕扶持。○[白居易]「官優有二—・—一」。

【㪷】カフ、ケフ。苦洽切 〔洽〕
いる、(入)。

【料】トウ、ツ。當口切 〔有〕
斟酌に用ふる器、ひしやく、さかづき。

七畫

【斜】レツ、レチ。力輟切 〔屑〕
はかる、(量)。

【㪷】俗の斗の字。○〔漢〕「民捕ㇾ蝗詣ㇾ吏、以㆓石―㆒受ㇾ錢」。

【斛】コク。胡谷切 〔屋〕
㊀量目の名、斗の十倍、轉じて、ますめ。○〔儀〕「十斗曰ㇾ―」。
㊁十斗の量を盛る量器、こくます、轉じて、量器の總稱、ますめ。○〔晉〕「以㆓算-術㆒考ㇾ之古――之積」。
〔小斛〕さゝやかなるます。○〔魏〕「可ㇾ以㆓――㆒給ㇾ之」。
〔斗斛〕ますめ、ます。○〔管〕「衡石也――也」。
〔升斛〕前に同じ。○〔王褒〕「推ㇾ之以㆓――㆒」。
〔儲斛〕貯蓄せる穀のますめ。○〔唐〕「――流-竄」。

【斜】シヤ、セ。徐嗟切 〔麻〕
㊀なゝめ。(い)正しからざるを、傾きたるを。○〔南〕「夜讀-書隨㆓月-光㆒光―則握ㇾ卷升ㇾ屋」。
(ろ)はすかひ、横。○〔李商隱〕「十-三-絃柱鴈-行―」。
㊁ちる、(散)。㊂くむ、(抒)。
〔横斜〕なゝめ。○〔林逋〕「疎-影――水清-淺」。
〔狹斜〕花柳の巷、いろざと。○〔古樂府〕「長-安有㆓――㆒、道狹不ㇾ容ㇾ車」。
〔風斜〕かぜ横さまに吹く。○〔陸游〕「日淡――江上路」。
〔端斜〕正しきと正しからざると。○〔夢溪筆談〕「方-圓――定-形也」。
〔從斜〕たてと横と。○〔顏氏家訓〕「澗-狹――、常不㆓盈-縮㆒」。
〔傾斜〕なゝめ。○〔梁簡文帝〕「坤-軸――」。
〔迴斜〕めぐりて正しからず。○〔梁簡文帝〕「紫-水――」。
〔斜々〕正しからざる貌にいふ語。○〔杜牧〕「整-々復――」。
〔盤斜〕めぐりて正しからざると。○〔歐陽修〕「山-勢――隨㆓澗-谷㆒」。

【斜】ヤ、エ。余遮切 〔麻〕
谷の名。

八畫

【斝】カ、ケ。古雅切 〔馬〕 〔說文〕从ㇾ吅从㆓斗冂㆒。
玉の杯、一說に、其れに禾稼を畫きたるもの、或は、其の中に六升を受くさいふ。○〔禮〕「夏-后-氏以ㇾ琖殷以ㇾ―周以ㇾ爵」。

〔斝之圖〕

〔玉斝〕たまのさかづき。○〔上官昭容〕「金-罍―・―泛㆓蘭-英㆒」。
〔瓊斝〕前に同じ。○〔江淹〕「――既飾」。
〔彝斝〕酒樽と玉のさかづきと。○〔北齊〕「――陳ㇾ時」。
〔飾斝〕かざりを施せる玉のさかづき。○〔庾信〕「雕-禾――」。
〔翠斝〕みどりの色なせる玉のさかづき。○〔陳子昂〕「――時行」。
〔壽斝〕ことほぎいはふためにさゝぐるさかづき。○〔蘇軾〕「朝來――兒孫乖」。

九畫

【斟】シン。職深切 〔侵〕
㊀くむ。(い)分け取る、分け盛る、つぐ。○〔呂氏春秋〕「藜-羹不ㇾ―七-日不ㇾ嘗ㇾ粒」。
(ろ)酒を盛り觴を行る、さかもり。○〔蘇軾〕「且邀㆓明-月㆒伴㆓孤――㆒」。
(は)計る。○〔國〕「後-王――酌焉」。
㊁ます、(益)。○〔揚雄〕「南-楚凡相益而又少謂㆓不――㆒」。
〔淺斟〕小ざかもり。○〔事文類聚〕「――低唱」。
〔共斟〕ともぐにくむ。○〔江淹〕「玉-瀝乃――」。
〔滿斟〕溢るゝばかりにくむ。○〔劉克莊〕「野有㆓黃-花㆒且――」。
〔盈斟〕前に同じ。○〔揚衡〕「翠-物喜――」。
〔進斟〕さし出でてつぐ。○〔史〕「廚-人――」。
〔數斟〕たびくつぐ。○〔陶潛〕「――已復醉」。
〔獻斟〕杯をさし酒をくむ。○〔王僧達〕「春-蠶-時――」。
〔乏斟〕其の物充分ならざるため僅かばかりくむ。○〔陶潛〕「藜-羹常――」。
〔細斟〕ゆるやかにくむ。○〔李商隱〕「離-樽許㆓――㆒」。
〔同斟〕ともぐに酒くむ。○〔沈說〕「貰ㇾ酒婦――」。
〔小斟〕いさゝか酒くむ。○〔趙寛〕「村-醸――狂不ㇾ醉」。
〔酌斟〕くむ。○〔程嘉燧〕「脫ㇾ衣貰ㇾ酢君――」。
〔瀲灔斟〕なみくと一ぱいつぐ。○〔明宣宗〕「カ-飲何妨㆓――――㆒」。

【⿸广斗】テウ。吐彫切 〔蕭〕
古昔支那の量器の方形の中に圓形の量器を入れたる閒のくつろぎ。

十畫

【斠】カク、ゴク。古岳切 〔覺〕 カウ、ケウ。居效切 〔效〕
斗斛を平かにす、升目を正しくす、はかる、(量)。

【斡】ワツ、ワチ。烏括切 〔曷〕
㊀蠡柄、ひしやくのえ、一說に、車の輪。
㊁轉ず、めぐる、めぐらす。○〔賈誼〕「――流而遷」。
〔舛斡〕もどりめぐる。○〔宋〕「是非――」。
〔迴斡〕めぐる、めぐらす。○〔杜甫〕「――裂㆓地軸㆒」。
〔排斡〕おしめぐらす。○〔韓愈〕「カ雖ㇾ能――、雷-電怪㆓訶-詬㆒」。
〔運斡〕めぐらす、めぐる。○〔蘇舜欽〕「相-公―㆓―元-化㆒」。
〔旋斡〕前に同じ。○〔陸游〕「四-序-浩――」。
〔移斡〕うつりめぐる、うつしめぐらす。○〔方回〕「翕-張-執――」。

【⿰𠦝⿱亼斗】クワン。古緩切 〔旱〕 ―或は、斡に作る。
つかさどる、(主-領)。○〔漢〕「欲㆓擅―山-海貨㆒」。

十一畫

【斣】ロウ、ル。郞斗切 〔有〕
抖―は、兵器もて人を脅迫して物品を奪ふ、うばふ。

【⿰啇斗】テキ、チヤク。丁歷切 〔錫〕
はかる、(量)。

十二畫

【⿰⿸尸示斗】熨に同じ、ひのし。

十三畫

【斢】斠の條を見よ。

【斛】　ショク、ソク。昌六切　屋
物と物とを交易して互に相等しきと、たひらか、又、平分す、わく。

【斣】　トウ、ツ。丁豆切　宥　ショク、ソク。樞玉切　沃
競走して力を角ぶると、ためしりくらべ。

【斞】　ク、コ。舉朱切　虞
くむ（挹）。○〔儀、註〕「所三以一ヒ酒也」。

十九畫

【斔】　ヘン、バン。方願切　願
抒み滿たす、みたす、くむ。

【斔】　ハン、バン。芳萬切　願
はかる、（量）。

【斕】　ケン、グワン。居願切　願
斛より物をあぐ、あぐ。

斤部

【斤】　キン、コン。舉欣切　文
㊀木を斫る、きる、うつ。○〔南〕「謬傷二海-鳥一、横一二山-木一」。
㊁木をきるに用ふる柄の曲れるきれ物、をの、まさかり。○〔周二鄭之刃、宋之一」。
㊂重量の名目、十六兩の稱。○〔後漢〕「酒一-升脯一―」。
㊃重量をためす器、はかり。○〔竹坡詩話〕「兩-京爲二一-賣一」。
㊄あきらか（察）、一説に、いつくしみ、（仁）。○〔詩〕「―――其明」。
〔運斤〕をのをつかふと。○〔莊〕「―レ一成レ風」。
〔黄斤〕くその異名。○〔本草別錄〕「葛一-名――」。
〔斧斤〕まさかり、をの。○〔宋〕「救レ弊之――」。
〔一斤〕めかた十六兩をいふ。○〔後漢〕「慈乃沽二酒一-升脯――」、手自斟-酌」。
〔揮斤〕をのをふるひつかふと。○〔揚億〕「―レ一若レ成レ市」。
〔奮斤〕前に同じ。○〔琴賦〕「匠-石―レ―」。

一畫

【斥】　セキ、シャク。昌石切　陌
㊀しりぞく。
（い）おふ（逐）、とほざく（遠）。○〔史〕「秦女必貴而夫-人―」。
（は）はなる、とほざかる。○〔本事詩〕「爲二海-燕詩一以致レ意並終退―」。
㊁さす（指）。○〔穀梁〕「目二晉-侯一―レ殺」。
㊂あらはる（見）。○〔左〕「寇-盜充―」。
㊃ひろし（廣）。○〔左思〕「墳衍――」。
㊄ひらく（開）。○〔漢〕「視-作――土」。
㊅うかゞふ（候）、のぞむ（望）、はかる、（度）。○〔左〕「―二山-澤之險一」。
㊆敵状を視察すると、ものみ。○〔史〕「趙-士-卒犯二秦―-兵一」。
㊇地味の多く鹹を含める所、即ち、ひがたなど。○〔管〕「乾而不レ―」。
㊈小さき澤、又、きし（厓）。○〔張衡〕「絶レ阬踰レ―」。
〔廣斥〕ひろきひかた、ひろし。○〔書〕「海-濱――」。
〔沈斥〕ひかた。○〔漢〕「山-川――」。
〔簡斥〕擇びしりぞく。○〔後漢〕「―二―數-婦一」。
〔擯斥〕おかしりぞく。○〔後漢〕「―二―上-國一」。
〔推斥〕おししりぞく。○〔劉楨〕「四-節相――」。
〔揮斥〕はしいまゝ。○〔列〕「―二―八-極一」。
〔遷斥〕官職などをうつししりぞく。○〔杜甫〕「失-意見二――一」。
〔排斥〕おしのく。○〔後漢〕「而-意見二――一」。
〔擯斥〕前に同じ。○〔宋〕「故屢見二――一」。
〔攘斥〕前に同じ。○〔韓愈〕「―二―佛-老一」。
〔搆斥〕なぞらへさす。○〔後漢〕「―二―乘-輿一」。
〔疎斥〕うとんぜ。○〔五〕「皆見二――一」。
〔黜斥〕しりぞく。○〔論衡〕「仕數――」。
〔退斥〕前に同じ。○〔本事詩〕「亦終――」。
〔指斥〕さす。○〔蔡邕〕「不敢―二―天-子一」。
〔貶斥〕しりぞく。○〔柳宗元〕「吾之――」。

【斥】　タク、チャク。恥格切　陌
坼に同じ。

四畫

【所】　ギン、ゴン。語斤切　文
斧斤の臺、きりだい、きぬた。

【斧】　フ、ホ。方矩切　麌
㊀木をあら伐りするに用ふる斤、をの、まさかり。○〔詩〕「既破二我―一」。○〔古詩〕「―レ冰持作レ糜」。
㊁斧を加ふ、きる、たつ。
〔鉞斧〕まさかり。○〔晉、疏〕劉蓋今――」。
〔巨斧〕（い）おほいなるをの。○〔五〕「命二甲-士六-百一皆持二――一乘レ流而下」。（ろ）かまきりの異名。○〔輶軒絶代語〕兗-豫間、謂二螳-螂一爲二――一」。
〔愛斧〕をのをたいせつにす。○〔班固〕「臣聞公輸―二其―一」。「―一」。
〔勁斧〕するどきをの。○〔曹植〕「患二螳-螂之―一」。
〔樵斧〕きこりのをの。○〔溫庭筠〕「一-聲――驚飛起」。「巽」。
〔快斧〕よくきるゝをの。○〔王令〕「――如レ姿レ斷レ之」。
〔長柯斧〕ながき柄のをの。○〔宋〕「以二――――」。
〔伐性斧〕いのちをたちきるをの。○〔韓詩外傳〕「徹-幸者―レ―之―也一」。
〔螳螂斧〕かまきり蟲の手の稱、其の形をのに似たるよりいふ、又、古昔かまきりの手を擧げて隆車に向ひたりといふ故事より自己の力を量らずして勁敵に當ることに借りいふ語。○〔陳琳〕「欲下以二――一之―禦中隆-車之隧上」。
〔假仇人斧〕あだにをのを假す、即ち、己れの敵に己れを害する便利を與ふることにいふ語。○〔韓〕「彼求我與二―――一」。

【斨】　シヤウ、サウ。七羊切　陽
方形の銎ある斧、をの。○〔詩〕「取二彼斧――一」。

五畫

【斥】　タク、チャク。丑格切　陌
ひらく（開）、一説に拆の譌字。

【斪】　カ。虛我切　哿
㊀うつ（擊）。㊁ひく（掣）。

【斪】　ク、コ。其具切　虞
㊀きる（斫）。㊁くは（鋤）。

【斫】　シャク。之若切　藥
㊀刃物もて擊つ、うつ、うち斷つ、きる。○〔後漢〕「拔レ戟―レ机」。
㊁無知なると、おろか（人相侮りていふ）、又、頑にして正直なる貌にいふ字。○〔揚雄〕「揚-越之郊凡人相侮以爲二無-知一謂二之斫一或謂二之―一」。
〔礫斫〕解悟せざる貌にいふ語。○〔列〕「――便辟」。
〔刺斫〕さすと斬ると。○〔韓愈〕「武-士猛二――一」。
〔齒斫〕おほいなるすき。○〔揚雄〕「關-東多二大-鋤一曰二――一」。
〔斬斫〕きる。○〔晉〕「便皆――」。
〔邀斫〕敵のきたるを迎へて斬る。○〔晉〕「盜―二―之坊-門一」。

〔闇斫〕くらやみのうちにて斬る、やみうち。○〔世說〕「母自往―ニ―之一」。
〔袪斫〕手にてとり刀にて斬ること、又、よりとりてきる。○〔蘇軾〕「――黃-楊-子」。
〔芟斫〕かりきる。○〔元稹〕「王-人議ニ――一」。
〔劈斫〕さききる。○〔孟郊〕「石-劍相――」。

六畫

【〓】ラク、リヤク。歷各切 藥 ―或は、剢に作る。
けづる、(剢)。

【〓】カク、キヤク。各額切 陌 ―又、戠に作る。
❶さらふ(捕)。❷たゝかふ(鬪)。

七畫

【〓】ラ。朗可切 哿
相擊つ、うつ、たゝく。

【斬】サン、セン。莊陷切 陷
かる、(芟)。

【斬】サン、ゼン。側減切 豏
❶たつ。(い)截斷す、殺す、きる。○〔史〕「拔レ劍擊ニ―蛇一」。(ろ)絕ゆ、盡く。○〔孟〕「君-子之澤五-世而―」。❷裳を裁ちたるまゝにて縫はざる衣服、喪中に著るもの。○〔左〕「晏-嬰-麤-縗―」。
〔要斬〕腰のところをきりたつ。○〔周、註〕「斬以ニ鈇-鉞一、若ニ今――一也」。
〔擊斬〕うちきる。○〔史〕「乃前拔レ劍―ニ―蛇一」。
〔斷斬〕たちきる。○〔後漢〕「未レ有下不ニ――一以示ニ威武一者上也」。
〔擒斬〕いけどりにしたると斬り殺したると。○〔宋〕「――ニ―三-十-八-人一」。
〔俘斬〕前に同じ。○〔宋〕「――甚衆」。
〔屠斬〕きりころす。○〔梁書〕「――ニ―桀-黠一」。

八畫

【断】俗の斷の字。

【〓】斲に同じ。

【〓】ホウ。悲朋切 蒸
きる、(斷)。

【斮】サク、ソク。側角切 覺
❶きる。(い)刃物にて殺す。○〔史〕「後至則―」。(ろ)斷つ。○〔屈平〕「羌兩-足以畢―」。❷けづる、(削)。○〔爾〕「魚則―レ之」。
〔剉斮〕斬る。○〔唐〕「輒――以逞」。
〔腷斮〕きりさいなむ。○〔任昉〕「鄉-士懷ニ――之痛一」。

【斯】シ。息移切 支
❶さく、(析)。○〔詩〕「斧以―レ之」。❷いやし、(賤)。○〔後漢〕「郎-官部-吏職―祿薄」。❸此に同じ、この、これ、こゝ。○〔禮〕「歌ニ於―一哭ニ於―一」。❹上にあるものを受け指すに用ふる字、かやう、かく。○〔白居易〕「壽如レ―位如レ―」。❺無意味の助字。○〔詩〕「湛-々露―匪レ陽不レ晞」。❻句調を助くるに用ふる字、これ、こゝに。○〔書〕「大-木―拔」。❼しろし、(白)。○〔詩〕「有ニ兎―首一」。❽纚に通ず、かしらづゝみ。○〔禮〕「雞―」。
〔挾斯〕衣服器物などのよごれやぶれたるを稱する語。○〔揚雄〕「南-楚謂ニ人貧-衣-被-醜-弊一、日ニ――一」。

【〓】テウ。吐彫切 蕭
彫に同じ。

【〓】剖に同じ。

【〓】剗に同じ。

九畫

【新】シン。息鄰切 眞
❶木を取る、きる。○〔段玉裁〕「取レ木者―之本-義」。❷開墾してより二年めの田畝の稱。○〔爾〕「田一-歲曰レ菑二-歲曰レ―」。❸故からず、初なり、腐敗せず、あらたなり、あたらし。○〔書〕「咸與惟―」。❹あたらしくならしむ、あらたむ、あらたにす、又、あたらしくなる、あらたまる。○〔易〕「日―ニ其德一」。❺あたらしきもの。○〔莊〕「吐レ故納レ―」。❻あたらしき知因、又、其の人。○〔國〕「禮レ―親レ舊」。
〔日新〕ひゞに進歩すること。○〔張華〕「輝-光――」。
〔維新〕あらたなること。○〔詩〕「其命――」。
〔薦新〕あたらしきものをすゝめそなふ。○〔禮〕「――如ニ朔-奠一」。
〔斬新〕あたらしきこと。○〔杜甫〕「――花-蕊未レ應レ飛」。
〔珍新〕めづらしきもの。○〔南〕「四-時――」。
〔經新〕あたらしきときをすですこと。○〔世說〕「衣不レ――、何由而故」。
〔鮮新〕あざやかにしてあたらし。○〔杜甫〕「高-秋爽-氣多ニ――一」。
〔白頭如新〕幼少の時より白頭、卽ち、老人に至るまで交際しても意氣投合せずして互の間柄があたらしきちなみあるものと同じく親密ならざること。○〔漢〕「――――、傾-蓋如レ故」。
〔日日新又日新〕每日〱あらたにして限斷なきことにも、又、日を逐ふて斷えず進步することにもいふ語。○〔大〕「苟日新――――――」。

【〓】トウ、ツ。當侯切 尤
斸―は、偃鉏、すき、くは。

【〓】テイ、チヤウ。都挺切 青
かなへ、(鐺)。

【〓】斷に同じ。○〔隸釋〕「橋-梁―絕」。

十畫

【〓】俗の斷の字。

【斵】タク、トク。竹角切 覺
きる、(斫)、けづる、(削)。○〔孟〕「工-人―而小レ之」。
〔雕斵〕みがくときること、又、みがきもしきりもすること。○〔柳宗元〕「家不レ居ニ――之器一」。
〔彫斵〕はりけづること。○〔北〕「――之物」。
〔刻斵〕きざみけづる。○〔李東陽〕「銕-筆爲レ余觀ニ――一」。
〔巧斵〕上手にけづること。○〔劉勰〕「――慙ニ拙-匠一」。

十一畫

【〓】オウ、ウ。烏侯切 尤
斵の條を見よ。

【〓】コウ、ク。墟侯切 尤
剾に同じ、けづる。

【〓】ショ。章恕切 御
きる、(斫)。

【蘄】キン、ゴン。渠巾切〔眞〕
水中に生ゆる一種の草、せり、芹菜。

【蘄】キン、コン。几隱切〔吻〕
しなやかにして強し、つよし。

【斵】カク、クワク。胡伯切〔陌〕
きる、(斫)。

十二畫

【𣃁】リン。離珍切〔眞〕
石澗を流るゝ水の響聲にいふ字、一説に、粼に同じ。

十三畫

【斲】チヤク。張略切〔藥〕
㊀鐯に同じ、すき、(钁)。㊁やぶる、(破)。

【斲】俗の斵の字。

【斶】ショク、ソク。樞玉切〔沃〕
人の名。○〔呂氏春秋〕「齊有二顏——一」。

十四畫

【𣃔】セイ、此芮切〔霽〕セ。サツ、初轄切〔黠〕セチ。
きる、たつ、(斷)。

【斷】タン。都管切　タン、ダン。徒管切〔旱〕
㊀たつ。(い)分けて異段となす、截り割く、きる。○〔淮〕「水—二龍-舟一陸—二犀-角一」。(ろ)つゞかしめず、止む　○〔陸贄〕「因レ噎而—レ食」。㊁きれる、つゞかず、きる、たゆ。○〔李白〕「天長音信—」。㊂きれ分れたるもの、きれ、片段。○〔莊〕「比二犧-樽於溝-中之—一」。

〔節斷〕ふしぶしをきること。○〔公羊、註〕「支二解——之一」。
〔間斷〕あひだのときるゝこと、たえま、ひま。○〔韓愈〕「赤氣沖融無二——一」。
〔壟斷〕土のきりたちて高き處。○〔列〕「無二——一焉」。
〔截斷〕たちきる。○〔白居易〕「——碧雲根」。
〔斫斷〕前に同じ。○〔范梈〕「——千秋萬古愁」。
〔斬斷〕前に同じ。○〔詩、疏〕「於レ是——之一」。
〔擊斷〕うちきる。○〔史〕「——子路之纓一」。
〔伐斷〕前に同じ。○〔漢〕「吏——之一」。
〔橫斷〕よこにたちきる。○〔魏〕「——紹後一」。
〔擘斷〕ひききる。○〔張養浩〕「麒麟——黃金鎖」。
〔牽斷〕前に同じ。○〔薛能〕「——綠絲攀不レ及」。
〔脆斷〕もろくきる。○〔趙搏〕「七絃——蟲絲朽」。
〔隔斷〕あひだをへだたつ、へだたりたゆ。○〔司空圖〕「愁腸——珠簾外」。
〔遮斷〕前に同じ。○〔韋莊〕「紅塵——長安陌」。
〔撚斷〕ひねりきる。○〔盧延讓〕「——數莖鬚」。
〔朽斷〕くされてきる。○歐陽修〕「篇編多——」。
〔腸斷〕はらわたたゆ、極めて悲しきことにいふ語。○〔世說〕「其母緣レ岸哀號腹中—皆寸々—」。
〔目斷〕目力のとゞかぬこと。○〔李嶠〕「——二芳煙一」。
〔鉛刀一斷〕鉛のかたなにてきる、愚鈍のものにても役に立つことにいふ語。○〔班固〕「搦レ朽磨レ鈍、—一—皆能——」。

【斷】タン。丁貫切　タン、ダン。杜玩切〔翰〕
㊀前條に同じ、たつ、たゆ、きれ。○〔後漢〕「絃—矢激」。㊁決定す、きむ、さだむ。○〔易〕「以—二天-下之疑一」。㊂守りて變ぜざる貌にも、又、專一なる貌にもいふ字。○〔書〕「——猗無二他技一」。㊃さだめたること、きめ、さだめ。○〔通典〕「並禮之大—」。㊄決行、敢爲。○〔晉〕「懦而少レ—」。

〔果斷〕決行、敢爲、決斷のよきこと。○〔書〕「惟克——、乃罔二後艱一」。
〔敢斷〕前に同じ。○〔漢〕「臨レ敵——」。
〔雄斷〕前に同じ。○〔漢〕「趙々——」。
〔勇斷〕前に同じ。○〔五〕「高祖以爲——類レ己」。
〔剛斷〕前に同じ。○〔後漢〕「而性——」。
〔獨斷〕他人にはからずひとりにて事をきむ。○〔晉〕「決二——之聽一」。
〔武斷〕武力を以て事をさだむ。○〔晉翟〕「里令二——之豪一」。
〔明斷〕あきらかに事を定むること。○後漢〕「奮爲レ政——」。
〔決斷〕事をきむること。○〔史〕「成敗在レ乎——一」。
〔裁斷〕事をきりもりしてさだむ。○〔禮、疏〕「義者——合レ宜也」。
〔聽斷〕他よりの上申を取りきむること、さばき。○〔漢〕「南面而——」。
〔嚴斷〕きびしく取りさだむ。○〔左〕「——刑-罰一、以威二其淫一」。
〔專斷〕他にはからずきまゝにとりきむ。○〔順宗實錄〕「——外事一」。
〔威斷〕權勢を以て事をさだむ、又、敢爲なること。○〔後漢〕「而性慎弱無二——一」。
〔精斷〕こまやかに事をとりさだむ。○〔魏、註〕「其于——無レ衰」。
〔評斷〕あげつらひさだむ。○〔晉〕「——得失一」。
〔沈斷〕おちつきて事に當りてためらはざること。○〔晉〕「兇強毅——」。
〔處斷〕事をとりきめ定む。○〔晉〕「——明允」。
〔英斷〕すぐれて決斷のよきこと。○〔晉〕「忠武——」。
〔詳斷〕あきらかにとりきむ。○〔宋〕「當レ悉二——一」。
〔偏斷〕かたよりきむ。○〔宋〕「豈不レ知三選-鋒同レ體、義無二——一乎」。
〔速斷〕はやくとりきむ。○〔宋〕「臣謂、唯宜二——一」。
〔靈斷〕神妙に事をきむ、又、決行してためらはざること。○〔梁〕「英武——」。
〔臆斷〕おもはくにて事をきむること。○〔抱朴子〕「世-人信二其——一」。
〔判斷〕是非曲直をわかちさだむること。○〔南〕「觀二令——甚樂一」。
〔剖斷〕前に同じ。○〔北〕「果二于——一」。
〔宸斷〕天子のさばき。○〔金〕「在二陛下——一耳」。
〔勅斷〕前に同じ。○〔金〕「——亦依二已定程式一」。
〔寡斷〕決斷のすくなきこと。○〔列〕「而—于—」。
〔鞫斷〕罪をしらぶること。○〔通典〕「上令二——一」。
〔科斷〕とがをきむ　○〔冊府元龜〕「據レ狀——」。
〔擅斷〕きまゝに事をとりさばく。○〔陳琳〕「——二萬機一」。

十八畫

【𣃖】ク、ゴ。權俱切〔虞〕
斪に同じ、きる。

廿一畫

【斸】チョク、トク。陟玉切〔沃〕　サク、ソク。之角切〔覺〕
㊀钃に同じ。㊁きる、(斫)。

方部

【方】ハウ。分房切〔陽〕
㊀ならぶ。(い)船をあはす。○〔爾〕「大夫—舟、士特舟」。(ろ)合せそろふ。○〔儀〕「不レ—レ足」。㊁あはせたる舟。○〔詩〕「—レ之舟レ之」。㊂四角形、けた。○〔周〕「圜者中レ規、—者中レ矩」。㊃けたの四邊同じきこと。○〔孟〕「文王之囿—七十里」。㊄地球の稱、天は圓くして地は四角なりといへる支那古代の學說より起る。○〔淮〕「戴レ圓履レ—」。㊅四邊、四表。○〔國〕「—不レ順レ時」。

(七)國所。○[劉歆]「異—之所レ生」。
(八)側邊、ほとり、かたはら。○[禮]「左—右曰レ—」。
(九)かた。
(い)むき、(十)に同じ。
(ろ)定まりたること、きまり。○[禮]「左・右就・養無レ—」。
(は)法則、のり。○[易]「—以レ類聚」。
(に)手段、てだて。○[北]「乃指二避レ敵之—一」。
(ほ)等類、ともがら。○[淮]「以二萬・物一爲二—・—一」。
(十)むき。
(い)はう位、はう角、即ち、東西南北など。○[禮]「教三之數與二—名一」。
(ろ)向ふ所。○[詩]「萬・邦之—下・民之王」。
(十一)宜しきに協ふこと。○[左]「授レ—任レ能」。
(十二)正しきこと、邪ならざること。○[淮]「知欲レ圓而行欲レ—」。
(十三)道理、みち。○[禮]「樂レ行而民向レ—」。
(十四)文章、あや。○[禮]「變成レ—謂二之音一」。
(十五)事件、ことがら。○[易]「后不レ省レ—」。
(十六)神仙の術。○[史]「—・士欲三練以求二奇・藥一」。
(十七)醫療の術。○[漢]「深・澤・侯入主レ—」。
(十八)穀生じて未だ實らざること。○[詩]「既—既早」。
(十九)版籍、ふだ、いた。○[儀]「不レ及二百・名一書二於—一」。
(二十)縱橫、ほしいまゝ。○[國]「以—二行於天・下一」。
(二十一)向ふ。○[史]「日—レ南」。
(二十二)當る。○[蘇軾]「—下其破二荊・州一下二江・陵一順レ流而東上也」。
(二十三)おく(放)。○[書]「—レ命圮レ族」。
(二十四)たもつ(有)。○[詩]「維鵲有レ巢維鳩—レ之」。
(二十五)くらぶ(比)。○[論]「子・貢—レ人」。
(二十六)別く。○[國]「不レ可レ—レ物」。
(二十七)ひとし(齊・等)。○[周]「梓・人爲レ侯廣與レ崇—」。
(二十八)まさに。
(い)即今、いま。○[詩]「—何爲レ期」。
(ろ)恰も。○[禮]「公・輸・若—小」。
(は)今なさかりに。○[左]「水・潦—降、疾・瘧—起」。
(二十九)彷に同じ。○[漢]「—二皇於西・淸一」。

[直方] 曲りたる所なく正し。○[後漢]「抗二—・—一以臨二權・枉一」。
[德方] 身に備はり得たる所正し。○[易]「至・靜而—・—」。
[萬方] 多くのくに。○[宋]「朝二此—・—一」。
[同方] かたを一にす、又、みちを一にす。○[禮]「儒有二合レ志—レ—」。
[遠方] とほき所。○[杜甫]「迢・々滯二—・—一」。
[下方] しものかた。○[周朴]「人在二—・—一衝レ月上」。
[禁方] 人に知らさぬてだて、秘傳の法。○[史]「我有二—・—一年老欲レ傳二與公一」。
[孔方] 文錢のこと、外圓くして穴角なる故にいふ。○[魯褒]「親・愛如レ兄、字曰二—・—一」。
[尙方] (い)天子の供御の器物を作る所。○[後漢]「加二位—・—一」。
(ろ)藥の配劑を掌る役。○[漢]「爲二膠・東主—・—一」。
[殊方] かたを別異にす、又、別異なるかた。○[漢]「百・家—レ—、指・意不レ同」。
[公方] 私なくして正し。○[後漢]「忠・正—・—」。
[大方] (い)世の中のかしこき者。○[莊]「吾長見レ笑於—・—之家一」。
(ろ)おほかた、あらまし。○[陽愼]「識二人・情之—・—一」。
[刓方] 四角のものを削り去りて圓くす。○[楚辭]「—レ—以爲レ圓兮」。

[上方] うへのかた。○[郞士元]「月在二—・—一諸・品靜」。
[外方] 表面正しきこと。○[後漢]「—・—內圓」。
(い)はかのかた。
[多方] おほくのくにぐに。○[黃庭]「坐向二—・—一」。
(ろ)くさぐさのかた。○[左]「—・—以誤レ之」。
[諸方] はうぐ、又、くさぐさの國、いろくのかた。○[書]「誕受二—・—一」。○[蘇軾]「—・—人人把二雷・電一」。
[蠻方] えびすのくに。○[詩]「用過二—・—一」。
[正方] (い)かたをすぐにす。○[禮]「立必—レ—、不二傾・聽一」。
(ろ)正しきこと。○[晉]「宮・謬—・—」。
[庶方] 諸方に同じ。○[禮]「—・—小侯」。
[職方] 天下の地圖を管理して其の土地にかゝはる事務をとる役。○[周]「—・—氏掌二天・下之圖一以掌二天・下之地一」。
[奇方] めづらしきてだて。○[陸游]「省レ事是—・—」。
[小方] ちひさき國。○[後漢]「—・—六・七・千」。
[醫方] くすしのてだて。○[嚴武]「肘・後—・—靜・處看」。
[精方] 細かにくはしきてだて。○[史]「臣意欲三盡受二他—・—一」。
[故方] ふるきてだて、ふるきのり。○[史]「去二其—・—一」。
[矩方] 眞四角。○[漢]「—・—生レ繩」。
[藥方] くすりのはうたて。○[徐鉉]「近・日—・—多レ續・寫」。
[相方] はうがくの吉凶をみる。○[柳宗元]「考レ極—レ—」。
[越方] まじなひの術。○[後漢]「能爲二—・—一」。
[忠方] まことあつて正し。○[魏]「志・行—・—」。
[識方] 遠方に同じ。○[晉]「正・士—レ—」。
[神方] すぐれてふしぎなるてだて。○[方干]「世・人莫レ識二—・—字一」。
[端方] 正し。○[韓愈]「持レ議—・—」。
[海方] 海外のくに。○[隋]「聲被二—・—一」。
[藩方] 王室の衞りとなる諸侯の國。○[宋]「—・—者枝・葉也」。
[百方] (い)あまたなる國。○[道德指歸論]「—・—仰レ朝」。
(ろ)いろくのてだて。○[書苑]「—・—譬・脫」。
[開方] 算術の一課。○[周髀算經、註]「—・—除レ之卽弦也」。
[憲方] おきて。○[蔡邕]「示二之—・—一」。
[至方] 極めて正し。○[顏延之]「—・—則闕」。
[別方] 殊方に同じ。○[別賦]「是以—・—不レ定」。
[十方] すべてのむき、世界といふに同じ。○[唐太宗]「興二御—・—一」。
[他方] はかのかた。○[杜甫]「萬・里各—・—」。
[新方] ことあたらしきかた。○[耿湋]「朽・鑿誤二—・—一」。
[貞方] 正し。○[柳宗元]「孤・廉—・—」。
[良方] 善きてだて。○[柳宗元]「物得二—・—一」。

一畫

【扒】 エン。於幰切 阮
はたあし、舞ふ貌にいふ字。

二畫

【㫃】 テン、デン。丑善切 銑 チョウ。
タウ、ドウ。傳江切 江
陟陵切 蒸
旌旗の杠、はたざを。

四畫

【旂】 カイ、ゲ。下戒切 卦
(一)ひざかけ、まへだれ、韍膝。(二)むすぶ(結)。

【斻】 カウ、ガウ。胡剛切 陽
(一)方せ舟、又筏。○[文選]「譬臨レ河而無レ—」。
(二)わたる(度)。○[後漢]「造二舟於渭・北一—二涇・流一」。

【於】 ヲ、ウ。汪胡切 虞
歎息の聲にいふ字、あ、あゝ。○[書]「僉曰、—鯀哉」。

【於】 ヨ。衣虛切 魚
(一)より。

(い)物事を比ぶるに用ふる字。○[史]「枝大ニ一本一、脛大ニ一股一」。○
(ろ)㈠の(い)に同じ。○[漢]「起ニ一錢一」。
㈡に。
(い)もとづき來れる所を示すに用ふる字。○[國]「諸侯春秋受ニ職一王一」。
(ろ)相對するものを示すに用ふる字。○[論]「哀公問ニ社一宰我一」。
(は)目的を示すに用ふる字、を。○[論]「三年無レ改ニ一父之道一可レ謂レ孝」。
(に)位置を示すに用ふる字。○[史]「避レ仇隱ニ一屠者之間一」。
㈢こゝに、(此)。
㈣在りて、おきて、おいて、にて。○[左]「室一怒市一色」。○[孟]「一レ傳有レ之」。
㈤關係を有する、おける。○[史]「夫計之生熟成敗一レ人也深矣」。
㈥稱呼の上に冠らする字、お(人名の上に阿の字を冠らすが如し)。○[史]「一越入レ吳」。
㈦在りて爲す、にて行ふ、おいてす、にてす。○[論]「造次顚沛必一レ斯」。
㈧をる、(居)。○[韓愈]「冠昏之所レ一」。
㈨よる、(依)。○[曹植]「心相一」。
㈩難きと多き貌にいふ字。○[揚雄]「白舌一一」。
⑪かはる、(代)。⑫ゆく、(往)。
(依於) よる、たよる。○[元好問]「課誦相一一」。

五畫

【施】シ。式支切 支
㈠ほどこす。
(い)まうく、(設)。○[書]「彰ニ五色一」。
(ろ)はる、(張)。○[司馬相如]「微矰出、纖繳一」。
(は)わかつ、(賦)。○[周]「一ニ其功事一」。
(に)用ふ。○[漢]「知勇無レ所レ一」。
(ほ)行ふ。○[吳]「禁令未レ一」。
(へ)加ふ。○[三國]「仁一ニ四海一」。
(と)著く。○[禮]「一ニ于烝彝鼎一」。
㈡陳れて衆に示す、志めす、さらす。○[國]「秦人殺ニ冀芮一而一レ之」。
㈢進み難き貌にいふ字。○[詩]「將ニ其來一一一」。
㈣喜悅の貌にいふ字。○[孟]「一一自レ外來」。
(眩施) (い)面を上げて仰ぎ視る能はざると、おもぶせ、なれもはゆし。○[詩]「得ニ此一一」。(ろ)せむし、くゞせ。○[國]「一一不レ可レ使レ仰」。
(敎施) 布きほどこす。○[書]「翕受一一」。
(普施) あまねくほどこす。○[史]「純德一一」。
(雜施) 妄りに爲し行ふ。○[禮]「一一而不レ孫」。
(潛施) 人知れずほどこす。○[岑參]「禎瑞方一一」。
(難施) 行ふこと易からず。○[史]「文具一レ一」。
(狩施) 聽してためらふこと。○[後漢]「一一兩端」。
(陳施) 布き行ふ。○[揚雄]「一ニ一于意一」。
(綠施) 筍の異名、酉陽雜俎に見ゆ。
(四施) よもに加はる。○[甘泉賦]「配藜一一」。
(纍施) 重ねおく。○[魏都賦]「樂饎一一」。
(遺施) のこし加ふ。○[古樂府]「留待作ニ一一一」。
(寸施) いさゝかほどこす。○[鄭俠]「學術不ニ一一」。
(兼施) あはせ加ふ。○[朱熹]「王霸一一吾豈敵」。
(張施) ひろげ設く。○[劉建]「屛維組一一」。
(偏施) 片寄りて加ふ。○[唐]「不分而無ニ一一」。
(倒行逆施) 無理を押して行ふをいふ語。○[史]「日暮途遠故一一而一一」。

【施】シ。施智切 寘
㈡惠み與ふ、ほどこす、ほどこし。○[易]「德一普也」。
㈢功勞、てがら、いさをし。○[左]「一者未レ厭」。
(布施) ほどこし。○[浮佳子]「令レ行ニ一一」。
(振施) 前に同じ。○[漢]「一一貧窮」。
(報施) ほどこす。○[史]「天之一ニ一善人一」。
(功施) てがら。○[史]「一一到レ今」。

【施】イ。以豉切 寘
㈠うつる、(移)。○[詩]「葛之覃兮一ニ于中谷一」。
㈡のぶ、(延)。○[詩]「一ニ于孫子一」。
㈢旁及す、およぶ、およぼす。○[儀]「絕族無ニ一服一」。
(仁施) 惠み及ぶ。○[三]「一一ニ四海一」。
(博施) ひろく及ぶ。○[荀]「風雨一一」。
(重施) 及ぼしたる上にも及ぼす。○[抱朴子]「弘思一一矣」。
(名施) ほまれ及ぶ。○[戰]「一一於後世一」。

【施】シ。賞是切 紙
㈠すつ、(捨)。○[周]「治ニ其一舍一」。
㈡かふ、(易)。○[論]「不レ一ニ其親一」。
㈢ゆるむ、(弛)。○[後漢]「將ニ衆部一レ刑屯ニ北邊一」。

【施】イ。余支切 支
㈠うつす、(移)。○[史]「劍人之所ニ一易一」。
㈡なゝめ、(斜)。○[史]「庚子日一兮」。

【㫟】ヤウ。倚兩切 養
はた、(旗)。

【斿】イウ、ユ。以周切 尤
旗旌の垂末、たれ、ながれ、はたあし。○[傳雅]「天子十二一至レ地」。
(畫) 丞がき飾れる旗のながれ。○[顏延之]「邊風俗旌一一」。
(高斿) 旗のながれ。○[徐道]「殘月照ニ一一」。
(旗斿) 前に同じ。○[魏明帝]「一一蔽レ天」。
(縹斿) 色どりなせる旗のながれ。○[顏延之]「解聽被ニ一一」。
(華斿) はなやかなる旗あし。○[高誘]「登ニ夫翠華而建ニ一一」。
(颺斿) 風に吹かるゝ旗あし。○[宋降神曲]「爰熊飫饗以迂ニ一一」。

【斿】旒に同じ。○[周]「諸侯繅一九就」。

【㔦】房に同じ。○[漢隸]「有ニ唐公一一」。

六畫

【旁】ハウ、バウ。歩光切 陽
㈠側邊、四邊、そば、ほとり、かたはら。○[漢]「食ニ于道一一」。
㈡一方に偏せずして、廣く、大に、あまねく。○[書]「一求ニ俊彥一」。
㈢漢字の右方の稱、つくり。○[程俱]「文書暗ニ偏一一」。
(路旁) みちの側。○[古辭]「來觀首藏ニ一一」。
(劇旁) 三方にかよはるゝみち。○[爾]「三達謂ニ之一一」。
(游旁) うみのはた。○[木蘭詩]「蘿宿ニ青一一」。
(兩旁) 左右といふに同じ。○[詩疏]「在ニ身之一一」。
(四旁) 左右前後、又は、東西南北。○[黃滔]「青山環ニ一一」。

【旁】ハウ、ヒヤウ。晡橫切 庚
馳驅して息まざる貌にいふ字。○[詩]「駟介一一」。

【旁】ハウ、バウ。蒲浪切 漾
㈠一午は、交はり橫たはる、分れ布く、

一縱一橫。○〔漢〕「使者一午」。
㊁よる(依)。○〔莊〕「一日月」。

【旁】ハウ。鋪郞切 陽
一礴は、混同す、まじる。

【旂】キ、ゲ。渠希切 微
㊀幅に交龍を畫きて端に鈴を縣けたる旗、古昔兵卒を指揮するに用ひしもの、すゞあるはた。○〔禮〕「有虞氏之一」。
㊁旌旗の總稱、はた。○〔廣雅〕「凡旗之名雖異旌一爲之總稱」。
〔龍旂〕交龍の模樣ある鈴あるはた。○〔詩〕「一一十乘」。
〔旛旂〕はた。○〔蘇軾〕「天風吹一一」。
〔大旂〕おほいなるはた。○〔後漢〕「建一一十二斿畫日月」。
〔碧旂〕あをき色を帶びたる鈴あるはた。○〔隋〕「並建一一」。
〔丹旂〕あかき色を帶びたる鈴あるはた。○〔應瑒〕「建一一于表路」。
〔雲旂〕くもの形をゑがけるすゞある旗。○〔傅亮〕「企一一之西擧」。
〔珠旂〕たまの飾りあるすゞある旗。○〔沈約〕「轉八鳳之一一」。
〔絳旂〕すゞある赤き色のはた。○〔陳師道〕「一一丹轂朱冠宴」。
〔旆旂〕はた。○〔劉基〕「龍虎會一一」。
〔御旂〕みはた。○〔馬懷素〕「一一楷日消」。

【⿰方勿】フツ、モチ。文拂切 物
人民をうながし聚むる時に州里に建てしはた、白き帛をもて其の側邊を飾り且つはた身の半は色を異にせるもの。

【旃】セン。諸延切 先
一或は、旜に作る。
㊀練り帛を其の旒となせる曲柄のはた、三孤の官に在る者の建てしもの。○〔左〕「一以招大夫」。
㊁表す、あらはす。○〔說文〕「一表士衆」。
㊂これ(之)。○〔左〕「虞公求一」。
㊃毛にて織りたるもの、けおり。○〔史〕「被一裘」。
〔曲旃〕まがれる柄のつけるはた。○〔漢〕「前堂羅鐘鼓立一一」。
〔戎旃〕軍陣のはた。○〔舊唐〕「董茲一一」。
〔勉旃〕之をつとめよ、勸め告ぐる語。○〔楊惲〕「願一一毋多談」。「一一」。
〔行旃〕持ちあるくはた。○〔儲光羲〕「十月建一一」。
〔采旃〕あやあるはた。○〔梁元帝〕「長虹畫一一」。「而去」。
〔門旃〕門に建てたるはた。○〔金〕「持其一一」。
〔翠旃〕みどりの色なせるはた。○〔張正見〕「雜宮建一一」。「一一一一」。
〔畫旃〕物の象をゑがけるはた。○〔蘇軾〕「西風幾一一」。
〔華旃〕はなやかなるはた。○〔文同〕「一一蓋遊服」。

【旄】バウ、モウ。莫袍切 豪
㊀犛牛、又、其の尾。○〔爾〕「注一首曰旄」。
㊁犛牛の尾を竿頭に注けたる旗、又、折羽を注けたるものをもいふ、指麾に用ひしもの、はたぼこ、さしづばた。○〔書〕「右秉白一以麾」。

〔旄之圖〕

〔羽旄〕鳥のはのつけるはたぼこ。○〔禮〕「飾以一一」。
〔騂旄〕赤き色の牛。○〔左〕「賜之一一之盟」。
〔旌旄〕さしづ旗。○〔杜甫〕「漢苑出一一」。
〔翳旄〕くしびなるはた。○〔晉〕「張翠日之一一」。
〔將旄〕大將のさしづばた。○〔宋〕「起行伍秉一一」。「一一芬」。
〔采旄〕色どりあるはた。○〔屈平〕「建雄虹之一一」。
〔毳旄〕牛に似てくびに肉のかたまりある獸。○〔上林賦〕「其獸則一一」。
〔素旄〕白き色なせるさしづばた。○〔史岑〕「一一一麾、渾一區宇」。
〔旄節杖旄〕天子の命を受けて任に外にあること。○〔隋〕「一一任當連率」。

【旄】バウ、モウ。莫報切 號
㊀䯽の毛のふさふさとして長きにいふ字。
㊁耄に通ず、こしより、おいぼれ。○〔周〕「再赦曰老一」。

【㫃】エン。於广切 琰
かざし(翳)。

【旆】ハイ、バイ。蒲蓋切 泰 ハツ、バチ。蒲撥切 曷
㊀雜色の帛もて其の邊を綴れるはた足、末さけて燕尾をなすもの。○〔左〕「建而不一」。
㊁旗幟の總稱、はた。○〔左〕「設二一而退之」。
㊂垂れ下がる貌にも、飛び揚がる貌にもいふ字。○〔詩〕「胡不一一」。
㊃長き貌にいふ字。○〔詩〕「萑葭一一」。
〔反旆〕はたをかへしめぐらす、軍をかへすことにいふ語。○〔馬融〕「北轅一一」。
〔旋旆〕前に同じ。○〔顏延之〕「大軍一一」。
〔大旆〕おほきなるはた、日月と升り龍と降り龍との形をゑがけるもの、太常に同じ。○〔儀〕「天子乘龍載一一」。
〔抗旆〕はたをかゝげあぐ。○〔晉〕「麾南風以一一」。
〔擁旆〕はたをかゝへもつ。○〔晉〕「一一戎場」。
〔懸旆〕上より釣り下がれるはた、又、はたをかく。○〔杜牧〕「我心一一正搖搖」。
〔旗旆〕はた。○〔唐〕「衣畫甲、執一一」。
〔斿旆〕はたあし。○〔宋〕「一一羽紛」。
〔彤旆〕赤きはた。○〔陸雲〕「一一電逝」。
〔樹旆〕立て掲したるはたあし、又、はたをたつ。○〔陸雲〕「靈旗一一」。
〔揚旆〕旗をさし立つ。○〔沈約〕「一一九河陰」。
〔鑾旆〕鈴のつきたるはた。○〔王儉〕「澄金波而映一一」。
〔卷旆〕旗をまきて軍を收む。○〔蘇軾〕「靈旗一一」「一一抽行營」。
〔遲旆〕ゆりゆりと進み行くはた。○〔江淹〕「五旗一一拂南陸」。
〔羽旆〕竿頭に鳥のはのつきたるはた。○〔沈約〕「一一指秦京」。
〔飛旆〕はたを風に吹きなびかす。○〔宋璟〕「一一一」「張」。
〔遷旆〕引き上げのはた。○〔庾肩吾〕「轉旌一一」。
〔錦旆〕にしきのはた。○〔沈佺期〕「收宛一一」。
〔戎旆〕いくさのはた。○〔韓愈〕「未免漏一一」。
〔幡旆〕はた。○〔蘇軾〕「一一飛颺嗟」。
〔收旆〕はたを取りをさむ。○〔王逌〕「秦師一一亦西遷」。

【旅】リヨ、ロ。力擧切 語
㊀軍兵五百人の稱。○〔左〕「少康有田一成、有衆一一」。
㊁もろもろ。
(い)軍隊。○〔李華〕「分麾下之一付雌幄之賓」。
(ろ)衆多のもの。○〔儀〕「一占卒」。
㊂部下。○〔周〕「使其一帥有司而治之」。
㊃子弟。○〔詩〕「侯亞侯一」。
㊄ついづ(序)。○〔儀〕「司正升相一」。
㊅ならぶ(陳)。○〔詩〕「肴核惟一」。
㊆ともにす(俱)。○〔禮〕「進一退一」。
㊇ならびつゞくと、なみ。○〔禮〕「塞門而一樹」。
㊈故土を去りて他郷に在ること、さすら

ひ、たび、寄寓。○〔左〕「而—二于明年之次一」。
⑩寄寓する人、たびゞと。○〔詩〕「于レ時舍レ—」。
⑪一種の祭。○〔書〕「蔡蒙—レ平」。
⑫甲の札葉、こざね。○〔周〕「櫳三其上—一—興二下——一」。
⑬禾の種を播かずに生ふると、又、其の禾。○〔後漢〕「野穀—生」。
⑭易の卦の名、☶☲ 艮下離上 ○〔易〕「—小亨」。

（軽旅）軍のせいぞろへをなす。○〔高思元〕「敦レ陣—レ—」。
（逆旅）たびのやどり。○〔國〕「反過二遜舍於——一」。
（商旅）たびあきなひのもの。○〔易〕「——不レ行」。
（鞠旅）軍に告げきかす。○〔詩〕「陳レ師—レ—」。
（王旅）大君の軍隊。○〔詩〕「——嘽々」。
（徂旅）敵地を指して行く軍隊。○〔詩〕「以按——一」。
（進旅）すゝみ行く多勢のもの。○〔梁簡文帝〕「制二六師之——一」。
（軍旅）軍隊。○〔論〕「王孫賈治二——一」。
（五旅）五百人づゝの軍隊をいつゝあつめたるもの。○〔周〕「——爲レ師」。
（師旅）二千五百人の軍隊を師といひ五百人の軍隊を旅といふ、即ち、あはせて軍隊といふに同じ。○〔論〕「加レ之以二——一」。
（行旅）たびのもの。○〔孟〕「——皆欲レ出二於王之塗一」。
（賓旅）他國より來たれるまれびと。○〔國〕「事二耆老一禮二——一」。
（武旅）いくさびと。○〔儲光義〕「——趨二前旌一」。
（番旅）えびすのたびあきびと。○〔唐〕「——無「商」」。
（禁旅）近衛の軍隊。○〔蔡邕〕「乃撫二京邑一、綏二齊——一」。
（羣旅）多くの人々。○〔玉海〕「——爭レ先」。
（寡旅）くみあひ。○〔劉向〕「議夫——」。
（彊旅）強き軍勢。○〔諸葛亮〕「推二莽——四十餘萬一」。
（謀旅）軍隊の操練を爲す。○〔王粲〕「陳二苗狩一「而—レ—」」。
（征旅）討伐の軍勢。○〔曹植〕「肅二我——一」。
（帝旅）みかどの軍勢。○〔陸雲〕「——凱入」。
（僕旅）隨從のものども。○〔陸雲〕「朝整二——一」。
（義旅）忠義の軍勢、忠義の部下。○〔任昉〕「鞠——一以勤レ王」。
（訓旅）軍隊の教練。○〔王融〕「——見二周籍一」。
（愁旅）たびの物思ひ。○〔鮑照〕「何用慰二——一」。

七畫

【旅】リョ、ロ。陵如切 魚
つらぬ、（陳）。

【旇】ヒ。攀糜切 支
㊀旇旗靡く、なびく。㊁さしづばた、（麾）。㊂衣服の貌にいふ字。

【旇】ヒ。毋彼切 紙 平義切 眞
旇旗の貌にいふ字。

【旈】
旒に同じ。

【[illegible]】エン。衣檢切 琰
車を覆ふあみ、むそうあみ、覆車罔。

【[illegible]】エフ。益涉切 葉
てあみ、（手網）。

【旉】
古文の敷の字。○〔易、疏〕「——布而生」。

【旊】ハウ。妃罔切 養
摶埴するもの。○〔周〕「——人爲レ簋」。

【旋】セン、ゼン。似宣切 先
㊀めぐる、
（い）轉回す、まはる。○〔淮〕「鈞——轂轉」。
（ろ）もどる、かへる（反）。○〔易〕「其—元吉」。
（は）往きつもどりつす。○〔陸龜蒙〕「翩——軒レ處」。
㊁めぐらしむ、まはす、もどす、かへす、めぐらす。○〔韓愈〕「—レ乾轉レ坤」。
㊂まろし、（圓）。○〔莊〕「工——而蓋二規矩一」。
㊃鐘縣、りゆうづ、かねのさッて。○〔周〕「鐘縣謂二之—一」。
㊄小便、ゆばり。○〔左〕「夷射姑—焉」。
㊅璇に同じ。○〔漢〕「佐二助—璣一」。
㊆やゝ、（差）。○〔史〕「病—已」。
㊇くり返して、志きりに。○〔鄭衆〕「—爲二邊害一」。

（周旋）（い）取りまはし。○〔禮〕「進退——愼容」。（ろ）ぐるぐるめぐる。○〔戴復古〕「破屋燕——」。
（廻旋）めぐる、めぐらす。○〔舊唐〕「——輕捷如レ鶴」。
（轉旋）前に同じ。○〔杜篤〕「——而屈撓」。
（盤旋）前に同じ。○〔北〕「將相卿士慕者——」。
（凱旋）敵に打ち勝ちて歸り來たる。○〔玉海〕「舉凱——」。
（歸旋）かへる。○〔杜甫〕「歡罷念二——一」。
（班旋）歸り來たる。○〔五〕「便議二——一、眞同二戲劇一」。
（戾旋）逆さにめぐる、又、もどる、かへす。○〔易林〕「牽レ牛不レ前、與レ心——也」。
（便旋）さまよひめぐる。○〔博雅〕「徘徊——」。
（規旋）ぶんまはしの如くにまどかにめぐる。○〔文心雕龍〕「——以矩步」。
（環旋）めぐる、めぐらす。○〔柳毅〕「香凝——、入二于宮中一」。
（運旋）動きめぐる、又、めぐらす。○〔正蒙〕「——而不レ窮者也」。
（斡旋）振りまはす。○〔西清詩話〕「皆——其語一、使レ就二音律一」。
（渦旋）うずまきめぐる。○〔游宦紀聞〕「大海洋中有二——處一」。
（往旋）行き來をなす。○〔江淹〕「靑氣兮——」。
（漂旋）所定めずたゞよひめぐる。○〔李賀〕「——弄二天影一」。
（飄旋）所定めずめぐる。○〔白居易〕「——深潤陋」。

【旋】セン、ゼン。辭戀切 霰
まとふ、めぐる、（繞）。○〔曾川晦〕「東郊十里香塵—」。
（縈旋）まとひめぐる。○〔蘇軾〕「枕二湖水一相——」。

【旑】
旖の省字。

【旌】セイ、シャウ。子盈切 庚
㊀析羽を旄首に注けたるはた。○〔廣雅〕「天——高九仞」。

〔旌之圖〕

㊁はたの總稱。○〔廣雅〕「凡旗之名雖レ異——旌爲二之總稱一」。
㊂識別す、志るす。○〔書〕「—二別淑慝一」。
㊃表示す、あらはす。○〔周〕「故爲二車服一以—レ之」。

（旃旌）はた。○〔詩〕「悠々——」。
（獲旌）持つ所のはた。○〔周〕「凡射共二——一」。
（更旌）はたの舊きを去りて新しきものと取りかふること。○〔周〕「歲時共二——一」。
（懸旌）掛けあげたるはた、又、はたをかく。○〔崔日用〕「別緒隨二——一」。
（蜺旌）虹の如き形したるはた。○〔上林賦〕「施二——一靡二雲旗一」。
（司旌）射禮にははたを持ちて弓いる人の矢の的に中たれるとき持てるはたを立てゝ中たれることを告げ知らする役の名。○〔東京賦〕「設二三乏一匪二——一」。
（收旌）はたを取りをさむ。○〔七啓〕「——弛レ旆」。
（綏旌）垂れのびたるはた。○〔禮〕「武車——」。
（結旌）吹きながしをむすび着けたるはた。○〔禮〕「德車——」。
（樹旌）はたを立つ、又立てたるはた。○〔周、註〕「——以表レ門」。

（反旆）はたを舊來しみちにもどす。○〔魏〕「―レ―退レ師」
（廻旆）前に同じ。○〔陳〕「―二―於外境一」。
（駐旆）はたを一所にとめて動かさぬ。〔吳〕「少レ騎―レ―」。
（鼚旆）さしづばた。○〔隋〕「―・―復レ路」。
（雙旆）對せるはた。○〔唐〕「辭日明二―・―雙節一」。
（明旆）あらはす。○〔子華子〕「―二―善類一」。
（旗旆）はた。○〔宋之問〕「佳氣動二―・―一」。
（表旆）あらはす。○〔高士傳〕「不レ遭二明時一尚當二―・―一」。
（旐旆）十二の吹きながしのつきたるはた。○〔高唐賦〕「垂二―・―一」。
（旃旆）はた。○〔班固〕「建二日月之―・―一」。
（流旆）吹きたなびくはた。○〔何承天〕「―・―拂二飛霞一」。
（羽旆）羊頭に鳥のはをつけたるはた。○〔謝子顯〕「參差懸二―・―一」。
（搖旆）動きひらめくはた　○〔白居易〕「鄕思極二―・―一」。

【旍】旌に同じ。○〔後漢〕「故復援レ―擐レ甲」。

【旎】ヂ、ニ。女氏切　紙
旖―は。
（い）旌旗風に從ふ貌にいふ語、なびく、ひらめく。○〔揚雄〕「夫何旟旐郅偈之―・―」。
（ろ）たをやか、阿那　○〔史〕「―・―從レ風」。
（は）たなびき亘る貌にいふ字。○〔漢〕「乘二雲蜺之―・―一」。
（に）連なりつゞく貌にいふ字。○〔宋玉〕「紛―・―乎都房一」。

【族】ソク、昨木切。ゾク。屋　〔說文〕从レ㫃从レ矢、㫃所二以標一レ衆、矢之所レ集。
㊀矢鋒、やじり。○〔說文、註〕「今字用レ鏃、古字用レ―」。
㊁あつまる、（聚）、むらがる、（叢）。○〔爾〕「木―生爲レ灌」。
㊂物事のあつまり交はれる所。○〔莊〕「庖丁解レ牛毎レ至二於―一」。
㊃やから。
（い）祖先同じきもの、一系統のもの、うから、親屬。○〔詩〕「振々公―」。
（ろ）家系、門地、いへすぢ、いへがら。○〔後漢〕「家世衣冠―」。
（は）部團、同類、ともがら、たぐひ。○〔周〕「涖二誓百官一戒二于百―一」。
㊄うからの稱號、うぢ、姓氏。○〔左〕「羽父請二諡與レ―」。
㊅周の時代にて百家の稱。○〔周〕「四閭爲レ―」。
㊆一人罪あればうからに刑罰を加ふるを。○〔書〕「罪人以―」。
（類族）たぐひ、なかま。○〔易〕「君子以二―・―辨一レ物」。
（世族）代々傳はり來たりたるやから。○〔左〕「官有二―・―一」。
（名族）（い）なとうちと。○〔戰〕「賢人有下與二君子一同二―・―一者上」。「後」。
（ろ）譽れよきいへがら。○〔漢〕「王公大人―・―之」
（赤族）やからを滅ぼす。○〔杜甫〕「―レ―送レ羅レ殃」。
（水族）河海に居るもの、即ち、魚類。○〔杜甫〕「漆逾羅二―・―一」。
（萬族）すべてのやから。○〔陶潛〕「―・―各有レ託」。
（羽族）はねあるもの、即ち、鳥類。○〔左思〕「―・―以レ翁迎」。
（宗族）一家、親類。○〔禮〕「不下敢以二貴富一加中于父兄―・―上」。「―」。
（合族）やからをあはす。○〔禮〕「君子因レ睦以―」
（齒族）やからの順序を定むるに年齡を以てす。○〔禮〕「三命不レ―レ族」。
（絕族）血すぢの切れたるやから、又、やからをたつ。○〔禮〕「―・―無移服」。
（收族）やからを取りまとむ。○〔禮〕「敬宗故―」。
（異族）（い）やからのかはりたるもの。○〔周〕「帥二―・―一而佐」。
（ろ）外國もの。○〔化書〕「率而賓二―・―一」。
（同族）おなじきやから。○〔周〕「凡王之―・―有レ罪不レ即レ市」。
（非族）おなじきやからならぬもの。○〔左〕「民不レ祀二―・―一」。「―」。
（父族）ちゝ方のやから。○〔周〕「再命齒二于―・―」。
（官族）みやづかへせる家柄。〔晉〕「累世―・―」。
（他族）己れのやからならぬやから。○〔左〕「撫レ遊二―・―一」。
（分族）わかれ出でたるやから、又、やからをわかつ、○〔國〕「有レ―二―于周一」。
（彊族）勢ある家がら。○〔南〕「世爲二―・―一」。
（種族）なかま、やから。○〔范成大〕「諸欲殲二―・―一」。
（別族）やからを分かつ、又、ことなるやから。○〔漢〕「相嫁娶以―レ―禮レ親焉」。
（大族）勢力あるやから。○〔北〕「高門―・―」。
（姓族）やから。○〔北〕「―・―多所二條抑一」。
（姻族）みより。○〔劉禹錫〕「―・―相賀」。
（門族）家がら。○〔北〕「何以至二北―・―一」。
（枝族）分かれたるやから。○〔魏〕「必參二―・―一」。
（豪族）勢力強きいへがら。○〔晉〕「世爲二―・―一」。
（甲族）すぐれてよき家柄　○〔五〕「以二君―・―一、恥レ事二偽國一」。
（冠族）前に同じ。○〔晉〕「參軍郭璞、河閒―・―」。
（苗族）後裔といふに同じ。○〔蜀〕「大王劉氏―・―」。
（貴族）賤しき家すぢ。○〔晉〕「娶二―・―一」。
（貴族）身分高き家すぢ。○〔晉〕「連二姻―・―一」。
（士族）さぶらひの家すぢ。○〔晉〕「家世―・―」。
（盛族）勢力ある家すぢ。○〔晉〕「軒冕相尋、爲二郡―・―一」。「顯二于―・―一」。
（華族）身分貴き家すぢ。○〔梅宗元〕「公以二令望一―・―」。○〔沈約〕「奕々―・―、于斯爲レ盛」。「皆也」。
（皇族）天子の血統をひきたるやから。
（賤族）身分卑き家すぢ。○〔宋〕「上品無二―・―一」。
（素族）前に同じ。○〔南〕「皆家本―・―」。
（陋族）前に同じ。○〔魏〕「臣之―・―、出レ自二寒原一」。「屈二辱于―・―一」。
（勢族）いきはひの盛なる家すぢ。○〔趙壹〕「法禁」
（舊族）昔より傳へ來たりし家すぢ。○〔梁簡文帝〕「門世奕葉、中州―・―」。
（一族）うから。○〔北〕「夏殷不レ嫌二―・―之婚一」。
（庶族）平民の稱。○〔北〕「―・―子弟、年未二十五一、不レ聽二入仕一」。
（疏族）遠き親類。○〔北〕「泥魏之―・―也」。
（美族）立派なる家すぢ。○〔北〕「皆衣冠―・―」。
（右族）勢力ある家すぢ。○〔北〕「世爲二郡―・―一」。
（家族）已がみうちのもの。○〔唐〕「鄕達二族黨一、不レ顧二―・―一耶」。「―」。
（親族）身より、やから、親類。○〔五〕「雅睦―・―」。
（睦族）同じきやからのものと仲よくす、又、仲よきやから。○〔宋〕「率レ家―レ―」。
（系族）血すぢ。○〔鄒陽子〕「不レ問二北―・―一」。
（洪族）大いなる家すぢ。○〔顏延之〕「聞二此―・―一」。
（氏族）うぢ、やから。○〔孫綽〕「―・―所レ由」。
（綏族）同じきやからを安泰ならしむ。○〔張衡〕「糾レ宗―・―」。
（小族）身分いやしき家すぢ。○蔡邕「―・―陋宗」。「―」。
（殊族）我れと異なりたる類。○〔王粲〕「初交二―・―一」。
（聚族）一味のものを寄せつどふ、又、つどへるやから。○〔諸葛亮〕「―・―獻歲」。「―」。
（英族）すぐれたる家すぢ。○〔孫顯世〕「奕々―・―」。
（高族）前に同じ。○〔潘岳〕「爰奉二嬪于―・―一」。
（品族）なかま、家がら。○〔劉孝威〕「多遁二―・―一、」
（悴族）やつれ衰へたる家すぢ。○〔江敦〕「臣寒門―・―」。
（敝族）前に同じ。○〔秦觀〕「豈惟一―・―之榮」。
（鱗族）貝類。○〔張說〕「鱗宗―・―嬉爲レ府」。
（擧族）やからを悉くす。○〔元結〕「―・―來南奔」
（羣族）多くのなかま。○〔劉長卿〕「愁入二羣林一嘯二―・―一」。
（戚族）親類、みうち。○〔劉禹錫〕「與二家隸一―・―」。「―」。
（巨族）勢力のよきやから。○〔歐陽修〕「名臣―・―」。
（望族）人より心を寄せらるゝはなれある家すぢ。○〔秦觀〕「王謝二氏、最爲二―・―一」。
（遺族）あとに殘れるみより。○〔元好問〕「故鄕―・―見二衣冠一」。
（衣冠族）貴き家すぢ。○〔後漢〕「家世―・―」。
（軒冕族）前に同じ。○〔韓愈〕「諒非二―・―一」。

【族】ソウ、ス。千侯切　宥
㊀嗾に同じ。○〔漢〕「二曰、大―」。

㊁音樂の節奏、ふし。○〔漢〕「調二五-聲一使レ有二節-一一」。
㊂嗾に同じ、犬を使ふ聲にいふ字。

八畫

【旇】 ダ、ナ。乃可切 哿
旎に同じ。

【旕】 エン。於豔切 豔
物の長短を比ぶ、くらぶ。

【旐】 テウ、デウ。治小切 篠
㊀全幅の帛の長さ八尺あるはた。○〔禮〕「綢-練設レ一」。
㊁龜蛇を畫けるはた、吉兆禍福を知る爲めに建てしさいふ。○〔詩〕「設二此一一矣」。
〔旂旐〕龍の模樣つきたるはたと龜蛇の模樣つきたるはたと、又單に、はた。○〔詩〕「一・一央々」。
〔旟旐〕鳥の模樣のつきたるはたと龜蛇の卷きたる模樣あるはたと。○〔柳道倫〕「暈同二一・一之翩々」」、
〔旒旐〕吹きながしのつきて八尺あるはた。○〔庾公〕「白-馬塞二一・一」」。
〔飛旐〕風に吹き流さるゝ大はた。○〔潘岳〕「一・一翩以啓レ路」。
〔旃旐〕はたあしあるはた。（〔後漢〕「建二其一・一」」。
〔喪旐〕葬式のときに立つるはた。○〔晉〕「家迎二一・一」」。
〔旌旐〕はた。○〔晉〕「一・一翻々」。
〔旂旐〕前に同じ。○〔陸雲〕「一・一決々」。
〔白旐〕しろはた。○〔南〕「建二一・一無レ旒」。
〔玄武旐〕龜蛇の模樣をゑがけるはた。○〔隋〕「六曰、一・一之一」。

九畫

【㫄】 受に同じ。○〔東觀餘論〕「用二盛レ諸一一レ糕」。

【旞】 エン。衣險切 琰 エフ、オフ。於業切 葉
光りを掩ふ、おほふ、かくす。

【旒】 リウ、ル。力求切 尤
或は、斿、旈に作る。
(い)旗にたれ下がれるもの、はたあし。○〔禮〕「龍-旂九一」。
(ろ)絲などに貫きて冕の前後に垂れ下ぐる珠玉。○〔禮〕「天-子玉-藻十有-二一」。
〔冕旒〕かうぶりの玉のたれ。○〔世本〕「黃-帝作二一・一」」。
〔珠旒〕かうぶりの玉のたれ、又、貴き人のそばの義に借りいふ語。○〔歐陽修〕「晩登二玉-墀一侍二一・一」」。
〔旂旒〕はたのたれ。○〔周、疏〕「亦有二一・一」」。
〔贅旒〕つき下がれるたれ、むだなるたれ、即ち、下たる者に持ちあるかるゝ者の義にも、又、むだものの義にもいふ語。○〔公羊〕「君若二一・一然」。
〔凝旒〕冠のたれを正しくす、威儀を整ふるとにいふ語。○〔舊唐〕「一レ一以聽二其言一」。
〔端旒〕前に同じ。○〔忠經〕「一・一而自化」。
〔藻旒〕畫がきいろどりたるたれ。○〔張華〕「雲-霓垂二一・一」」。
〔綵旒〕いろどりせるたれ。○〔庾肩吾〕「高-軒映二一・一」」。
〔玉旒〕玉の冠のたれ、又、大君のみすがたに借りいふ語。○〔許渾〕「綵-扇繞分二拜一・一」」。
〔宸旒〕前に同じ。○〔江余踏樓東賦〕「陪二從一・一」」。

【旟】 イウ、ユ。以周切 尤 エウ。餘招切 蕭
はたあし、(旒)。

【旞】 エウ。伊鳥切 篠
旗の貌にいふ字。

【旓】 サウ、セウ。所交切 肴
旌旗の斿、はたあし、一說に、ふたまたのはたあし。○〔漢〕「建二光-耀之長-一」。

【旝】 カン。居万切 願
かつ、(揵)。

十畫

【旙】 ホン、ボン。部本切 阮
舟の蓬、さま。

【旛】 クワウ、ワウ。呼廣切 養
酒家の望子、さかやの目じるし。

【旖】 イ。於宜切 支 隱綺切 紙
於義切 寘
旎の條を見よ。

【旕】 エン。衣檢切 琰
旗の貌にいふ字。

【旗】 キ、ギ。渠宜切 支
㊀熊虎の猛威あるにあやかりて其の象を畫けるはた、軍隊に用ひて軍將の建てしもの、轉じて、はたの總稱。○〔周〕「師-都建レ一」。
㊁表識、しるし。○〔左〕「佩衷之一也」。
㊂一の星宿。○〔史〕「東-北-曲十-二一星曰レ一」。
㊃箕に同じ。○〔荀〕「安二於磐-石一壽二於一-翼一」。
〔翳旗〕日月、北斗星及び登り龍を畫がきたるはた。○〔揚雄〕「舉二洪-頤一樹二一・一」」。
〔纛旗〕竿頭にはたのつきたるはた。○〔庾信〕「一・一朝レ上」。
〔旌旗〕はた。○〔潘岳〕「一・一電-舒」。
〔鸞旗〕らん鳥のすがたをつけたるはた、天子の用ひられしもの。○〔漢〕「一・一在レ前」。
〔玄旗〕黑赤き色なせるはた。○〔淮〕「天-子服二蒼-玉一、建二一・一」」。
〔華旗〕はなやかなる飾せるはた。○〔司馬相如〕「建二一・一」、鳴二玉-鸞一」。
〔槍旗〕茶の芽の名稱。○〔歐陽修〕「一・一爭-時綠」。
〔降旗〕(い)はたを下におろす。○〔長楊賦〕「下レ將一・一」」。(ろ)服從の意を表するためにかゝぐるはた。○〔陳師道〕「嘗聞建二一・一」」。
〔珠旗〕玉のかざりあるはた。○〔沈約〕「轉二八-鳳之一・一」」。
〔揮旗〕はたをふりまはす。○〔蘇軾〕「一二一蒲-柳「疲レ日一市」。
〔靡旗〕風にひらめけるはた。○〔溫子昇〕「一・一」」。
〔天旗〕星の名。○〔史、正義〕「一日、一・一」。
〔兵旗〕いくさばた。○〔史、正義〕「天-子之一・一」。
〔羽旗〕竿頭に鳥のはねをつけたるはた。○〔漢〕「張二一・一設二共-具一」。
〔幡旗〕しるしばた。〔漢〕「南夾之氣、翔二舟-船一・一」「沒-罷二一・一」」。
〔連旗〕いくつとなくつゞけるはた。○〔王嶠〕「出二一・一」」。
〔坐旗〕星の名。○〔張衡〕「一・一肅-穆以昭レ禮」。
〔義旗〕道に順ふいくさのはた、即ち、義兵の義にいふ語。○〔駱賓王〕「爰舉二一・一」」。
〔綵旗〕いろどりせるはた。○〔東漢紀也〕「曲-蓋一・一」「紛」。
〔牙旗〕大將の樹つるはた。○〔東京賦〕「一・一繽-紛」。
〔素旗〕かざりなきはた。○〔曹植〕「表二之一・一」」。
〔戍旗〕まもりの兵のたつるはた。○〔王粲〕「翩-々飛二一・一」」。
〔回旗〕はたをかへしめぐらす、兵をかへす。○〔宿易〕「宣-遂一レ一東指以臨二吳-境一」。
〔旒旗〕たれのつきたるはた。○〔潘岳〕「敵訖二一・一」」。
〔修旗〕長きはた。○〔王沈〕「畏二招-搖之一・一」」。
〔雄旗〕勢いさましく見ゆるはた、勢いさましき兵隊のたつるはた。○〔陸雲〕「一・一電舉」。
〔旂旗〕はた。○〔梁簡文帝〕「風急一・一斷」。
〔懸旗〕り下げたるはた、又、はたをかく。○〔鮑照〕「飛-念如二一・一」」「隨レ影合」。
〔纏旗〕縫ひとりしたるはた。○〔湛挺茲〕「一・一」。
〔正々旗〕道に順ひてつゆばかりも曲がれることなきいくさのはた、即ち、正道によれるいくさの義にいふ語、又、紀律極めて正しきいくさのはた、即ち、紀律正しきいくさの義にいふ語。○〔孫〕「勿レ邀二一・一之一」。

(斬將搴旗) 敵の將をきり敵のはたをぬきとる、卽ち、敵陣をうち破ること。○〔李陵〕「――――追奔逐北」。
(卷甲韜旗) いくさを止めるときにいふ語。○〔晉〕「――――廢蠶桑之務」。

十畫

【⿰方⿱𠂉軍】キ、ギ。許歸切 微 ㊀しるし、幟。㊁うごく、うごかす(動)。

【⿰方⿱𠂉軍】コン。古本切 阮 旗の名。

【⿰方⿱𠂉要】エウ。以紹切 篠 ㊀旗の屬、はた。㊁旗の貌にいふ字。

十一畫

【⿰方⿱𠂉胥】ヨ、オ。於許切 語 肩の骨。

【⿰方⿱𠂉鬼】クワウ、ワウ。呼廣切 養 酒家の望子、さかやの目じるし。

十三畫

【⿰方⿱𠂉僉】ケン、ゲン。魚窆切 豔 しるし(證)。

【旚】ヘウ。匹招切 蕭 旌旗飄る、ひるがへる。

十四畫

【⿰方⿱𠂉戠】幟に同じ。

【旛】ヘン、ホン。孚袁切 元 ㊀幅の下垂せる旗、識號旗、はたじるし、志るしばた。○〔漢〕「立二五采之――幟一」。㊁旗の總稱、はた。○〔後漢〕「立二青――一」。㊂はたなどの飛揚する貌にいふ字。○〔石鼓文〕「左驂――」。

(圖之旛)

(春旛) 立春の日に士大夫の家にていろ絹をきりて作れるちひさきはた。○〔續漢書〕「立春日京都立二――一」。
(信旛) 志るしばた。○〔南〕「諸王侯二――一」。
(降旛) 敵にくだる時にたつる志るしばた。○〔劉禹錫〕「一片――出二石頭一」。
(鸞旛) おほいなるはた。○〔隋〕「第一團毎隊給二青隼――一」。
(勝旛) かちいくさのはた。○〔彌陀寺碑〕「――西振」。
(修旛) ながきはた。○〔王珪〕「――繞二於雲根一」。
(華旛) うつくしきはた。○〔王維〕「殿頂摘二――一」。「親王南海、――四」。
(告示旛) 進行をとめる時にあぐるはた。○〔唐〕
(傳教旛) 進行中命令を傳ふる時にたつるはた。○〔元〕「――制如二告示旛一」。

十五畫

【⿰方⿱𠂉猋】ヘウ。甫遙切 蕭 旗の飛び揚がる貌にいふ字、ひるがへる。

【旜】セン。諸延切 先 赤地の帛もて作れるはた、周の公卿の建てしもの。○〔周〕「孤卿建レ――」。

【旝】クワイ、エ。古外切 泰 ㊀赤地の帛もて作れる旗、大將の指麾に用ひしもの、さしづばた。○〔左〕「――動而鼓」。㊁石を高き處より發射する兵器、いしゆみ。○〔唐〕「飛レ――擊レ賊」。
(旂旝) いくさのはた。○〔宋〕「――首レ塗則八表響震」。
(雲旝) 高き所まで石をやるいしゆみ。○〔唐〕「造二――三具一」。
(翔旝) 高き所にまで飛ばし行るいしゆみ。○〔唐〕「――雲梯、唾手可レ取」。
(矢旝) いしといしゆみと、又、弓にて矢を打かけいしゆみにて石を發射すること。○〔唐〕「――交發」。
(大旝) おほきなるいしゆみ、大いなるはた。○〔唐〕「鳥二――連弩一」。
(旌旝) はた。○〔王安石〕「夾二砌陳――一」。
(旗旝) 前に同じ。○〔舒翬〕「――綵錯如二翔輦一」。

十六畫

【旞】スヰ、ズヰ。徐醉切 寘 羽のかざりある旗、はた。○〔周〕「斿車載レ―」。

【旟】ヨ。以諸切 魚 ㊀おほし(衆)。○〔說文〕「所三以進二士卒一――衆也」。㊁鳥の捷きにあやかりて急速に事に趨く意を寓し其の象を畫きたるはた、一說に、鳥の皮毛を竿頭につけたるはた、主に、軍吏の建てしもの。○〔周〕「州里建レ―」。㊂あがる(揚)。○〔詩〕「匪二伊卷一之髮則有レ―」。

(圖之旟)

十八畫

【⿰方⿱𠂉遺】スヰ、ズヰ。徐醉切 寘 旞に同じ。○〔柳宗元〕「旃旗旞―昔飾二于外一」。

【⿰方⿱𠂉遺】ヰ。以追切 支 はた(旌)。

【⿰方⿱𠂉斬】旂に同じ。○〔姜鼎銘〕「――綃綽眉壽一」。

十九畫

【⿰方⿱𠂉顏】キ。居起切 紙 容を失ふ、すがたみだる。

旡部

【无】ブ、ム。武夫切　ボ、モ。莫胡切 虞 なし(亡)。○〔易〕「厲―レ咎」。

【旡】キ。居豙切 寘 飲食の氣逆ひて息するを得ず、いきつまる。

三畫

【⿱旡口】シ。疾二切 寘 口の小き貌にいふ字。

六畫

【⿱旡圭】ケイ、カイ。古詣切 霽 たま(璧)。

【⿰危旡】クワイ、ケ。公回切 灰 一足を側つ、そばだつ。

七畫

【旣】キ、ケ。居氣切 [未]

㊀小しく食ふ、くらふ。○〔說文〕「論-語曰、不レ使レ勝二食-一」。
㊁つく。
（い）盡く、卒はる、失す。○〔淮〕「富贍二天-下一而不レ一」。
（ろ）日蝕月蝕の景殘らずおほはれかくるゝにいふ。○〔春秋〕「日有レ食レ之一」。
㊂つくるに至らしむ、つくす。○〔書〕「一レ月」。
㊃物事のつきをはれる意を表はすにいふ字、すでに、はや、もはや、又、返し讀みて、およぶ。○〔易〕「一雨一處」。
㊄餼に同じ。○〔中〕「一-廩稱レ事」。

〔肆旣〕つく。○〔國〕「歎-澤一-一」。
〔蝕旣〕日蝕月蝕の全くおほはれかくれたること。○〔劉禹錫〕「如二景昏而一-一」。
〔終旣〕をはる。○〔司馬光〕「涸-澤無二一-一」。

九畫

【既】俗の旣の字。

【京旡】リヤウ、ラウ。讓力切 [漾]　呂張切 [陽]

㊀かなしむ、（悲）。㊁醶楚す、いたむ。
㊂うすし、（薄）。

十畫

【咼旡】古文の禍の字　○〔漢〕「數二其一-禍一」。

【咼旡】クワ、グワ。胡果切 [哿]

㊀神の福を下さざること。
㊁惡にあひて驚く、おごろく。

日部

【日】ジツ、ニチ。人質切 [質]　〔說文〕實也太陽之精不レ虧。

㊀ひ。
（い）天上にかゝりて照りかゞやける大圓球、地球に光りと熱さを與ふるもの、にちりん、太陽。○〔易〕「與二一-月一合二其明一」。
（ろ）にちりんの光熱。○〔後漢〕「玄-甲耀レ一」。
（は）晷影、ひかげ、ひあし。○〔詩〕「春-一遲-々」。
（に）一晝夜。○〔書〕「協二時-月一正レ一」。
（ほ）晝間、ひる、ひるま。○〔詩〕「夏之一、冬之夜」。
（へ）一晝夜の數重なれること、ひかず。○〔漢〕「曠レ一經レ年」。
（と）ひ每、ひび。○〔大〕「又一新」。
（ち）時。○〔孟〕「壯者以二暇一一修二其孝-悌忠-信一」。
㊁曆數、こよみ。○〔左〕「天-子有二一-官一、諸-侯有二一-御一」。
㊂往日、さき。○〔左〕「一衞不レ睦」。
㊃來日、のち。○〔列〕「穆-王曰、一以俱來」。

〔晝日〕ひるま、又、太陽、又、其の光熱。○〔韓詩外傳〕「如二薄-氷之見二一-一」。「于女-祖一」。
〔上日〕正月一日の稱。○〔書〕「正-月一-一、受二終于女-祖一」。
〔元日〕前に同じ。○〔書〕「月-正一-一」。
〔翼日〕あす。○〔書〕「越一-一戊-午、乃社二于新-邑一」。
〔旭日〕あさひ。○〔詩〕「一-一始旦」。
〔旬日〕十日間。○〔周〕「凡除-者祭-祀無レ過二一-一」。
〔剛日〕十干のうち甲、丙、戊、庚、壬にあたる日の稱。○〔禮〕「外-事用二一-一」。
〔柔日〕十干のうち乙、丁、巳、辛、癸にあたる日の稱。○〔禮〕「內-事用二一-一」。

〔來日〕あとよりきたる日、のち。○〔韓愈〕「一-一苦レ無レ多」。
〔往日〕既にすぎさりたる月日、さき。○〔白居易〕「今-日心-情如二一-一」。
〔忌日〕おやのうせたる日。○〔禮〕「君-子有二終-身之憂一、一-一之謂也」。
〔幷日〕多く日數のかゝる仕事を少き日數にちゞめてなすこと。○〔南〕「一レ一而食」。
〔倍日〕前に同じ。○〔史〕「一レ一幷レ行逐レ之」。
〔浹日〕十日間。○〔國〕「遠不レ過二三-月一、近不レ過二一-一」。
〔向日〕太陽にむかひ對すること、又、さきの日。○〔唐〕「一-一論レ事、至-誠懇-切」。
〔移日〕一日のみならず他日にまでまたがること。○〔漢〕「與二高-祖一語、未二嘗不レ一レ一也」。
〔竟日〕一日の中に能ふだけなすこと。○〔孟〕「去則一二一之力一而後宿哉」。
〔旦日〕あした。○〔史〕「一-一饗二士-卒一」。
〔白日〕あきらかなる太陽、又、ひるま。○〔後漢〕「一-一公-行」。「奕-葉一レ一」。
〔棄日〕日をむなしくすごす。○〔北〕「探-積-歲頗以二一レ一而談-哉」。
〔並日〕（い）おなじ日。○〔後漢〕「豈得二同レ年而語、一-一而談一哉」。
（ろ）太陽と德を同じくすること。○〔潘岳〕「配レ天一レ一」。
〔烈日〕やくが如くてらすひ。○〔徐鉉〕「一-一不レ融-頭-上雪」。
〔消日〕日のひまをつぶすこと。○〔歐陽修〕「往々可下以一レ一上」。
〔落日〕夕かたの日、ゆふひ。○〔謝靈運〕「望二新-晴一-一」。
〔仄日〕前に同じ。○〔梁簡文帝〕「一-一暫留レ光」。
〔斜日〕前に同じ。○〔虞世南〕「綠-野明二一-一」。
〔夕日〕前に同じ。○〔韓愈〕「一-一在二其西一」。
〔殘日〕前に同じ、又、のこりのひかぜ。○〔汪元量〕「雲横二古-嶂一吞二一-一」。「々」。
〔終日〕まる一日、ひねもす。○〔易〕「君-子一-一乾-々」。
〔竟日〕前に同じ。○〔晉〕「歎-笑一レ一」。
〔至日〕陰氣のかへる冬至の日、又、陽氣のかへる夏至の日。○〔易〕「先-王以二一-一閉レ關」。
〔不日〕日數のはからざること。○〔詩〕「一レ一成レ之」。「有レ如二一-一」。
〔皦日〕あきらかなる太陽、又、其の光熱。○〔詩〕
〔社日〕春社と秋社とのこと、立春の後五つめの戊の日を春社といひ立秋の後五つめの戊の日を秋社といふ。○〔魏〕「毋以二一-一亡」。

〔嘗日〕秋の祭にて新穀を味ふ日。○〔周〕「一之一筮卜二來-歲之芟一」。
〔暇日〕ひまある時。○〔史〕「吾方多二一-一」。
〔即日〕其の日。○〔史〕「項-王一-一因留二沛-公一與飮」。
〔歷日〕としつき。○〔漢〕「一-一彌長」。
〔平日〕ふだん、ひごろ。○〔後漢〕「一-一尙無二惡-言一」。「食二藤花一」。
〔齋日〕ものいみする日。○〔皮日休〕「贈-翁一-一不レ去」。
〔臘日〕冬至より後の三度めの戊の日。○〔後漢〕「一-一晨-炊」。
〔累日〕日かずをかさねつゞく。○〔後漢〕「一-一」。
〔連日〕前に同じ。○〔韓愈〕「一-一或不レ語」。
〔積日〕前に同じ。○〔南〕「將-士一-一不レ得二寢-食一」。
〔彌日〕前に同じ。○〔南〕「一レ一互レ侍」。
〔逾日〕他日にまたがること。○〔魏〕「司-馬-法日、賞不レ一レ一者」。
〔醒日〕酒に醉はざる日。○〔晉〕「一-一既少」。
〔翳日〕日光を蔽ふこと。○〔晉〕「嗽レ水作レ霧一レ一」。
〔諸日〕前に同じ。○〔陸游〕「薄-雲一レ一不レ成レ晴」。
〔泰日〕やすくをさまれる時。○〔晉〕「一-一少、亂-日多」。
〔陽日〕にちりん。○〔漢〕「恩過二一-一」。
〔曩日〕すぎさりたるさきの日。○〔南〕「感二生-平於一-一」。
〔曇日〕前に同じ。○〔梁簡文帝〕「豈自高二于一-一」。
〔聖日〕神聖なる太陽、轉じて、聖德ある天子にたとへいふ語。○〔薛道衡〕「普-天逢二一-一」。
〔定日〕きめたる日、又、日をきめること。○〔唐〕「老レ時無レ功」。「一レ一」。
〔費日〕つき日をむだにすごすこと。○〔易林〕「一レ一一-一」。
〔曙日〕あけがたの日、あさひ。○〔王褒〕「平-湖開二一-一」。
〔曉日〕前に同じ。○〔韓愈〕「旗-穿一-一雲-霞雜」。
〔野日〕のはらを照らす太陽。○〔王褒〕「壓-昏一-一黃」。
〔異日〕他日といふに同じ。○〔韓愈〕「一-一期-對-舉一」。
〔浴佛日〕四月八日。○〔佛運統志〕「四-月初-八是一-一-一」。
〔竹醉日〕五月十三日。○〔陸機詩疏〕「五-月十-三日、謂二之一-一-一」。
〔重陽日〕九月九日。○〔杜甫〕「舊-日一-一-一、傳レ杯不レ離レ杯」。

(晴旭) よくはれわたりて曇れる所なき朝日。○〔宋仁宗〕「――烟々禁籞開」。

【⿱日丁】テイ、チヤウ。徒鼎切 迥
むなし(空)。

三畫

【旰】カン。古案切 翰
㊀くろ(晩)。○〔左〕「日―不レ召」。
㊁くるゝ時、ひぐれ、くれ。○〔孔武仲〕「兀々晨復―」。
㊂盛んなる貌にいふ字。○〔史〕「采色澔―」。
(爛旰) あざやかなり。○〔晉〕「雲屏――」。
(宵旰) あさはやく起きて衣服をつけ日くれて膳につくと、即ち勤勉なるにいふ語。○〔唐〕「無二――之憂一」。
(未旰) いまだ日暮れず。○〔柳貫〕「午籤至レ――」。

【⿱日干】カン。居寒切 寒
日行く、ゆく、めぐる。

【旱】カン。乎旰切 翰 カン、ガン。胡笴切 旱
久しく雨ふらざるを、ひでり。○〔詩〕「―既太甚」。
(水旱) 洪水とひでりと。○〔漢〕「堯有二九年之―一、湯有二七年之―一」。
(涉旱) 前に同じ。○〔淮〕「時有二――災・害之患一」。
(枯旱) はなはだしきひでり。○〔漢〕「郡中――」。
(炎旱) ひでり。○〔李白〕「俟時救二――一」。

【旲】タイ、ダイ。徒來切 灰
日光、ひかり。

【⿱日大】エイ、イヤウ。於丙切 梗
おほいなり(大)。

【昇】キヨウ、ク。居容切 冬
㊀手を竦しむ、こまぬく。
㊁たすく(扶)。

【⿰日亡】バウ、マウ。謨郎切 陽
旱の熱、あつさ。

【⿰日刃】ジン、ニン。而振切 震
眩瀗す、もだゆ、はらはる。

【旳】テキ、チヤク。都歷切 錫
あきらか(明)。○〔隷釋晉峻碑〕「暵奕――」。

【旴】ク、コ。匈于切 虞 ―或は、晇に作る。
㊀日始めて旦なるを、あさひ、あさ。○〔韓琦〕「日必昃―」。
㊁おほいなり(大)。○〔漢〕「廣―營表」。

【旵】タン、テン。丑減切 豏
日光照映す、てらす、てる。

【⿰日乞】ケイ、ケ。笴計切 霽
日の氣。

四畫

【旹】古文の時の字。○〔楚辭〕「聊假レ日以須レ―」。

【旺】ワウ。于放切 漾
㊀美しき光、ひかり、又、光美し、うつくし。○〔通書〕「土之氣盛二于中央一、寄二―于四時之戊己一」。
㊁日暈、ひかさ。

【旻】ビン、ミン。武巾切 眞
㊀秋天、あきぞら。○〔劉禹錫〕「法星懸二火―一」。「穹―」。
㊁天空、そら、あめ。○〔薛能〕「和・吹度二――一」。
(秋旻) あきのそら。○李白「浮星羅二――一」。
(蒼旻) 前に同じ、又、たかきそら。○〔韓愈〕「宿霧褰二――一」。
(九旻) 前に同じ。○〔劉禹錫〕「樹石――」。
(蒼旻) 青くはれたる秋のそら、又、きよきそら。○〔孟郊〕「淸流褰二――一」。
(淸旻) 前に同じ。○〔杜甫〕「鼓レ枻視二――一」。
(澄旻) 前に同じ。○〔柳貫〕「――際二秋廓一」。

【旼】ビン、ミン。眉貧切 眞
やはらぐ(和)。○〔史〕「――穆々君子之能」。

【旽】トン。他昆切 元
暾に同じ、あさひ。

【⿰日屯】シユン、ジユン。朱閏切 震
ねんごろ(懇誠)。

【⿰日内】ドツ、ノチ。奴骨切 月
日の入る色、ゆふやけ。

【旿】ゴ、グ。疑古切 麌 吾故切 遇
あきらか(明)、一說に、正午にあたり日光の盛んに明かなるを。

【昀】キン、ヰン。兪倫切 眞
日光、ひかり。

【昁】ハイ。博蓋切 泰
明かならず、くらし。

【昂】カウ、ガウ。五岡切 陽
㊀あがる (い)升る。○〔唐〕「物・價踊―」。(ろ)仰ぐ。○〔談藪〕「黍熟頭低、麥熟頭―」。(は)激す。○〔柳宗元〕「慷・慨激―」、
㊁高し。○〔禮註〕「左―右低」。
㊂あきらか(明)。○〔詩〕「顒々――、如レ圭如レ璋」。
㊃馬の行く貌にいふ字。○〔楚辭〕「寧――若二千里之駒一乎」。
(軒昂) あがる、又、たかし。○〔柳宗元〕「舟航――兮下上頒誠」。
(頫昂) たかし。○〔張謂〕「北道誠――」。

【⿸厂日】昃に同じ。

【昃】シヨク、シキ。札色切 職
㊀かたむく。(い)太陽正午を過ぎて西方に偏る。○〔易〕「日中則―」。(ろ)一方に偏る、かたよる。○〔揚雄〕「過則―」。
㊁午後、ひるすぎ、ひぐれ。○〔宋〕「日向レ―」。
(日昃) 日暮れ、ひるすぎ、又、日かたむくと。○〔後漢〕「――不レ暇レ食」。
(西昃) 前に同じ、又、にしにかたむく。○〔任昉〕「邪曳忽亞――」。
(虧昃) 月のかけと日のかたむくと。○〔劍築起居注〕「――匪二貞觚一」。

【昄】ハン、ヘン。布綰切 潸 補滿切 緩 ハン、ヘン。披班切 刪 ベン、ヘン、ベン。匹見切 霰
おほいなり(大)。○〔詩〕「爾土宇――章」。

【⿰日及】ケフ、ゴフ。巨業切 葉
かわく、かわかす(乾)。

【杳】　ビツ、ミチ。莫筆切　質

見えず、くらし。

【昆】　コン。　古渾切　元

㊀おなじさも（同）。○〔漢〕「嘷々─鳴」。
㊁のち、あさ。
（い）先ならざるを、初ならざるを。○〔書〕「─命元龜」。
（ろ）子孫、後世。○〔書〕「垂裕後─」。
㊂あに、このかみ、（兄）。○〔詩〕「謂他人─」。
㊃崑に通じ用ふ。○〔漢〕「─命析支渠叟」。
㊄蜫に同じ。○〔禮〕「─蟲之異」。
〔玉昆〕たまに譬ふべき徳ある兄。○〔南〕「可謂─金友」。
〔弟昆〕はらから。○〔杜甫〕「永結爲─」。
〔賢昆〕かしこき兄。○〔王維〕「康樂謝─」。
〔諸昆〕もろ〳〵のあに。○〔杜甫〕「謀拙愧─」。

【皆】

皆に同じ。

【昇】　ショウ、ジョウ。識蒸切　蒸

㊀のぼる、あがる。
（い）太陽天に上がる。○〔詩〕「如日之─」。
（ろ）上に進む。○〔郭璞〕「東─大人之堂」。
㊁のぼらしむ、のぼす、あぐ。○〔舊唐〕「擢─宰相」。
㊂たひらか、（平）。○〔隋〕「天下乃─平」。
〔擢昇〕抜きいたしのぼす。○〔舊唐〕「欲有─」。
〔提昇〕ひきあぐ。○〔李嶠〕「東皇─紫微座」。
〔緩昇〕すみやかにのぼる。○〔杜牧〕「如日月─」。

【昈】　コ、ク　侯古切　麌

㊀あきらか、（明）。○〔漢〕「─分殊事」。
㊁赤文、あかきあや。○〔張衡〕「赫─以弘敞」。

【昉】　ハウ。　分兩切　養

㊀あきらか、（明）。
㊁まさに、たま〳〵、（適）。○〔公羊〕「─於此乎」。

【[illegible]】　トツ、トチ。他骨切　月

水に入りて又出づる貌にいふ字。

【昊】　カウ、ゴウ。胡老切　皓

㊀元氣盛壯なる貌にいふ字、さかんなり。○〔李巡〕「萬物盛壯其氣─」。
㊁夏天、なつぞら。○〔周〕「以禋祀─天」。
㊂天空、そら、あめ。○〔蘇軾〕「忍飢未擬窮呼─」。
〔有─〕なつのそら、又、そら。○〔詩〕「投畀有─」。
〔蒼昊〕あをぞら。○〔李白〕「吾將問蒼─」。
〔晴昊〕前に同じ。○〔方岳〕「三峯倚晴─」。
〔穹昊〕そら。○〔杜甫〕「如何正穹─」。

【昌】　シヤウ、サウ。尺良切　陽

㊀さかんなり、（盛）。○〔書〕「邦乃其─」。
㊁うつくし、狡好。○〔詩〕「猗嗟─兮」。
㊂物、もの。○〔莊〕「百─皆生於土而反於土」。
㊃言論其の當を得たるを、美言。○〔書〕「禹拜─言」。
㊄菖蒲、あやめ。○〔儀〕「─本」。
〔文昌〕星宿の名。○〔史〕「斗魁戴匡六星曰文─宮」。　「世─」、「未若有周之盛」。
〔克昌〕極めてさかんなると。○〔魏〕「明公雖奕世克─」。
〔殷昌〕さかんなると。○〔東京賦〕「六合殷─」。
〔盛昌〕前に同じ。○〔禮〕「水泉盛─」。
〔壽昌〕前に同じ。○〔左〕「其必壽─」。
〔繁昌〕前に同じ。○〔侯斯〕「生殖繁─」。
〔豐昌〕ゆたかにみのると。○〔漢〕「五星不失行則年穀豐─」。
〔昌昌〕さかんなる貌。○〔李商隱〕「春物太昌─」。

【昍】　ケン、ガン。許元切　元

あきらか、（明）。

【明】　メイ、ミヤウ。武兵切　庚

㊀あきらか。
（い）照らすと、かゞやくと。○〔易〕「懸象著─」。
（ろ）昧からざると。○〔大〕「在明─德」。
（は）蔽はれざると。○〔禮〕「可以居高─」「可以遠望」。
（に）著はるゝと。○〔書〕「黜陟幽─」。
（ほ）尊きと。○〔呂氏春秋〕「可以居高─」。
（へ）審か。○〔戰〕「此不叛寡人─矣」。
（と）備はると。○〔詩〕「祀事太─」。
（ち）知曉すると、辨察すると。○〔書〕「視遠惟─」。
（り）賢能なると。○〔關尹〕「時愚時─」。
（ぬ）よく見分くるを、よく見え分かるを。○〔駱賓王〕「月練花─」。
㊁あきらかならしむ、あかす、あく、あらはす、あきらかにす。○〔易〕「大─終始」。
㊂あきらかになる、あかる、あく、あらはる。○〔詩〕「東方─矣」。
㊃照光、ひかり、あかり、かゞやき。○〔賈子〕「光輝謂之─」。
㊄陽。○〔史〕「幽─之占」。
㊅有形。○〔易〕「知幽─之故」。
㊆雄。○〔史〕「幽─雌雄也」。
㊇晝。○〔劉琨〕「昏─迭用」。
㊈早旦、あした。○〔詩〕「─發不寐」。
㊉現世。○〔晉〕「幽─之間負此良友」。
（十一）神靈。○〔禮〕「其曰─器」。
（十二）外。○〔史〕「─則有禮樂」。
（十三）目の精。○〔禮〕「子夏喪其子而喪其─」。
（十四）智能。○〔呂氏春秋〕「因智而─之」。
（十五）日月。○〔荀〕「天見其─」。
〔文明〕あやありてあきらかなると、人智進歩して禮節とゝのふと。○〔易〕「天下文─」。
〔光明〕ひかると　ひかり。○〔易〕「天道下濟而光─」。
〔龍明〕前に同じ。○〔楊炯〕「宇宙龍─」。
〔神明〕かみ。○〔書〕「感于神─」。
〔聰明〕さとくあきらかなると。○〔書〕「天聰明自我民」。
〔昭明〕あきらか。○〔書〕「百姓昭─」。
〔失明〕めしひになると。○〔史〕「左丘失─」。
〔朱明〕氣赤くしてひかりあるより夏のとをいふ。○〔爾〕「夏爲朱─」。
〔平明〕夜のあけはなれたる時、即ち、あさ。○〔李白〕「平─拂劍朝天去」。「─」。
〔通明〕ゆきわたりてあきらかなると。○〔漢〕「術學通─」。
〔聖明〕天子のとにかり用ふる語。○〔薩都剌〕「惟有丹心答聖─」。「任」。
〔彊明〕心つよくさときと。○〔唐〕「以彊明自任」。
〔啓明〕あけがたに東方にかゞやきあらはるゝ星の名、よあけのほし。○〔詩〕「東有啓─」。
〔清明〕きよらかにしてくもりなきと、又、季節の名。○〔禮〕「清─在躬」。
〔晦明〕夜とひるまとのと。○〔五色線〕「人有不識晦─者」。
〔賢明〕さとくかしこきと。○〔漢〕「河閒賢─」。
〔嚴明〕きびしくしてもりなきと。○〔後漢〕「政號嚴─」。
〔甄明〕あきらかに分別すると。○〔北〕「甄─」

(分明) 前に同じ。○〔杜甫〕「黑白太ーー」。
(鮮明) あざやかなること。○〔埤雅〕「其羽之ーー在レ夏」。
(儲明) 君のよつぎ、即ち太子をさしていふ語。○〔褚亮〕「簿宦奉ニーー一」。
(澄明) きよらかにすみてひかること。○〔梁元帝〕「流影ーー王堂內」。
(朧明) 月などのいでてあきらかなること。○〔元稹〕「野花撩亂月ーー」。
(僭明) くらくなり又あかるくなること。○〔項斯〕「鬼怪火ーー」。
(螢明) ほたるのひかり。○〔陸游〕「殘燈熠々露ニーー一」。

【昏】 コン。呼昆切 元

❶明かならず、くらし。○〔老〕「我獨若レー」。
❷日沒後、即ち、くらくなれる時、くれ、ひぐれ。○〔後漢〕「司レー守レ夜」。
❸夜。○〔劉琨〕「ー明涉川」。
❹妻を娶ること、よめとり、ひぐれに其の禮を行ふの期となししよりいふ。○〔詩〕「宴ニ爾新ーー一」。
❺妻の父。○〔左〕「ー、媾、姻、亞」。
❻つとむ、(彊)。○〔書〕「不ニー作ー勞」。
❼みだる、(亂)。○〔書〕「ーニ棄厥肆祀一」。
❽人生れて未だ命名せざるに死ぬること。○〔左〕「札瘥夭ー」。

(昭昏) あきらかなるとくらきこと。○〔柳貫〕「世豈混ニーー一」。
(黃昏) 日暮れ、たそがれ。○〔淮〕「是日ニーー一」。
(斂昏) 前に同じ。○〔蘇軾〕「山色空濛已ーー」。
(眊昏) 眼のくらきこと。○〔唐〕「臣ーー不レ能レ見」。
(昏昏) くらき貌にいふ語。○〔莊〕「ーー默々」。
(冥昏) あきらかならざること。○〔春秋繁露〕「不レ見不レ聞是謂ニーー一」。
(老昏) おいて心のくらきこと。○〔陸游〕「ーー不レ記」。
(幽昏) くらし。○〔楚辭〕「方ニ世俗之ーー一」。
(聾昏) 耳のきこえぬこと。○〔馬融〕「ーー不レ聞ニ雷霆之震一」。
(旦昏) 朝とひぐれと。○〔李嶠〕「ーー交謝」。

【昐】 フン、ホン。方文切 文

日光、ひかり。

【昳】 フ、ブ。附夫切 虞

ひ、(日)。

【昑】 キン。丘甚切 寢

あきらか、(明)

【昒】 コツ、呼骨切 月　フツ、文弗切 物　モチ、コチ。

夜あくるも尙ほ暗きこと、又、其の時、よあけ、あかつき。○〔漢〕「ーー爽」。

【昍】

前に同じ。○〔漢〕「ーー爽闇昧」。

【易】 エキ、イヤク。羊益切 陌 —〔說文〕日月爲レ易象ニ陰陽一也

❶天地間の事物の變化、即ち、陰陽の消長して變化を爲すの義。○〔易〕「生々謂ニ之ーー一」
❷蓍を揲へて卦を置き爻を變化して卜占すること。○〔周〕「掌ニ三ーー之法一」。
❸卦の象によりて事物の變化を說く一種の學。○〔論〕「五十以學レー」。
❹易經の略稱。○〔唐〕「雄準レー作レ經」。
❺かふ。
(い)改め變ず。○〔易〕「不レーニ乎世一」。
(ろ)此れを遣りて彼れを取る。○〔易〕「交ーー而退」。「而禮ーー」。
❻改まり變ず、かはる。○〔戰〕「事異」。
❼埸に同じ。○〔管〕「至ニ於壇ーー一」。

(辟易) あとぞさりをなす。○〔史〕「人馬俱驚、ーー數里」。
(改易) あらためかふ、なほりかはる。○〔孟郊〕「木性隨ーー」。
(變易) かふ、かはる。○〔後漢〕「更數ーー、下不レ安レ業」。

(周易) 周の時代に發明せし卜占の名。○〔白居易〕「ーー在ニ牀頭一」。
(反易) かへしなほす、かへりかはる。○〔潘岳〕「ーー天常一」。
(矯易) ためかふ。○〔後漢〕「使ーーニ去就一」。
(換易) とりかふ、又、かはる。○〔蘇軾〕「古今ーー如ニ秋草一」。
(市易) あきなひ取りかふ。○〔蘇軾〕「ーー滯ニ羣〔壑〕一」。
(移易) うつりあらたまる、うつしかふ。○〔幽通賦〕「雖ニーー而不レ忒」。
(遷易) 前に同じ。○〔陸機〕「天道有ニーー一」。
(流易) うつりかはる。○〔潘岳〕「寒暑忽ーー」。
(大易) 易經の稱。○〔魏都賦〕「覽ニーー與ニ春秋一」。

【易】 イ。以智切 寘

❶やすし、やすらか。
(い)難きをなしてかるし、たやすし。○〔易〕「辭有ニ險ーー一」。
(ろ)平かなり。○〔淮〕「ー則用レ車」。
(は)安らかなり。○〔中〕「君子居レー以使レ命」。
❷やすしと爲す、あなどろ、(慢)、かろんず、(輕)、又、おろそか、ゆるかせ。○〔史〕「能慮勿レー」。
❸をさむ、(治)。○〔禮〕「ーレ墓非レ古」。
❹はぶく、(省)。○〔公羊〕「是子之ー也」。

(平易) たひらかにしてやすし。○〔史〕「ーー近レ民、々必歸レ之」。「以爲ーー」。
(多易) 物事を輕々しく行ふこと。○〔史〕「ーー難ニ」。
(容易) たやすし。○〔漢〕「何事ーー」。
(三易) 文章を作る上につきてたやすくすべきしかた。○〔顏氏家訓〕「沈約曰、文章當レ從ニーーー、易レ見レ事、易レ識レ字、易ニ讀誦一」。
(闊易) 衣類の長大なるにいふ語。○〔上林賦〕「眇ーー以郵削」。
(假易) ゆるすこと。○〔左〕「告ニ諸天之不ニーー一」。
(後易) たやすきことをあとまはしにすること。○〔易〕「損先レ難而ーレー」。
(簡易) くだくだしからぬ。○〔史〕「廢於ニ諸子中一、最爲ニーー一矣」。

(難易) むつかしきとたやすきと。○〔老〕「ーー相成」。
(樂易) たのしげにしてやすし。○〔唐〕「紓性ーー」。「ー、異レ接ニ後進一」。
(怡易) 喜ばしくやすし。○〔詩、疏〕「情又喜樂而ーー也」。
(近易) てぢかくしておつかしからぬ。○詩〕「男女之際、ー而ー」。
(謾易) 侮る、ゆるかせ、〔史〕「高祖箕踞、詈甚ーー之一」。「ーー篤字」。
(和易) おだやかにして危險なる所なし。○〔逸〕「性ーー也」。
(易々) やすき貌にいふ語。○〔禮〕「知ニ王道之ーー也」。
(輕易) たやすし、あなどる。○〔劉勰新論〕「ーニーー北足一、雖ニ夷路一亦顚」。
(侵易) 犯しあなどる。○〔史〕「數爲ニ漢使所ニーー一」。「易レ遵也」。
(夷易) 平かなり、やすし。○〔漢〕「故軌迹ーー」。
(賤易) 卑しみあなどる。○〔漢〕「ーニーー上卿一」。
(率易) 體裁をつくろひ重々しくせぬ。○〔南〕「處レ己ーー」。「ーー故態レ之」。
(柔易) やさしくおだやかなり。○〔唐〕「初嘗以ニ休」
(循易) 前に同じ。○〔唐〕「居家亦ーー」。
(諧易) やはらぎかなひてやかましからぬ。○〔唐〕「長源好ニーー無ニ威儀一、而淸白自將」。
(寬易) くつろぎておだやかなり。○〔歐陽修〕「公爲レ人質重ーー」。
(脫易) おろそか。○〔宋〕「爲レ人ーー少ニ威儀一」。
(簡易) 手づかにしてやすし。○〔管〕「故其民ーー而好レ正」。「饒ーー」。
(廣易) 安くして平かなること。○〔道德指歸論〕「肥ー」
(艱易) むつかしきとむつかしからざると。○〔揚雄〕「或問ニ經之ーー一」。
(便易) たよりよく六かしからぬ。○〔急就篇〕「ーニーー於事一」。「調格ーー」。
(逸易) すぐれ出でておりなる所なし。○〔名畫記〕
(好易) 無造作なることをすく。○〔譚子化書〕「奢者好レ難、儉者ーレー」。「ーー」。
(驕易) 高ぶり侮る。○〔聞見前錄〕「不ニ敢生ーーー」。
(凱易) やすし。○〔班固〕「上將崇ニ至仁一行ニーー」。「ーー」。
(順易) 理にしたがひてやすし。○〔韓愈〕「風雨ーー」。「則誕」。
(至易) 此の上なくたやすし。○〔邢昺疏對〕「歸ニ乎ーーー」。
(傷易) たやすきに失なふ。○〔程子言箴〕「ーレーー」。
(忽易) ゆるかせ。○〔蘇軾〕「人所ニーー一」。

——」。
〔稀星〕まばらにあらはれたるほし。〇〔杜甫〕「——乍有無」。
〔辣星〕前に同じ。〇〔許渾〕「——遥抵ㇾ浪」。
〔太白星〕明星の稱、あしたに東方にあらはるゝを啓明となし、日暮れて西方にあらはるゝを太白といふ。〇〔徐九皐〕「眞占——」。
〔長庚星〕はゝきぼし。〇〔唐〕「白之生、拇夢ニ——、因以命ㇾ之」。
〔牽牛星〕ひこぼし、又、たなばたともいふ。〇〔爾、註〕「今荊楚人呼ニ——ㇾ爲ニ檐鼓ニ」。
〔織女星〕めたなばた。〇〔杜牧〕「臥看牽牛——」。

【映】エイ、イヤウ。於敬切 敬
㊀あきらか(明)。〇〔南〕「姿神清—」。
㊁かくろ、かくす(隱)。〇〔春秋、疏〕「日被月—而形魄不ㇾ見」。
㊂未の時、即ち、今の午後二時。〇〔梁元帝〕「日在ㇾ午日ㇾ亭在ㇾ未日ㇾ—」。
㊃明相照らす、てらす、てる、うつす、うつる、うつらふ。〇〔王羲之〕「—ニ帶左右ニ」。
〔博映〕廣く照らす。〇〔陸雲〕「澄響——」。
〔透映〕すきとほりうつる。〇〔宋〕「汎波——」。
〔俯映〕うつぶきうつす。〇〔高適〕「——汎水明」。
〔窺映〕うかゞひてらす。〇〔南〕「——不ㇾ測」。
〔照映〕てらす、てる。〇〔晉〕「——軒瀛ニ」。
〔美映〕うつくしくてらす、うつくしくうつる。〇〔晉〕「——椒房、甚有ㇾ寵」。「婢ニ」。
〔暉映〕てらす、うつる。〇〔傅亮〕「既—ニ—于丹
〔蔭映〕掩ひかくす。〇〔晉〕「—ニ—萬邦ニ」。
〔掩映〕前に同じ。〇〔梁簡文帝〕「帝圖——」。
〔遙映〕遠くてらす、とほくうつる。〇〔南〕「姿神——「後庭ニ」—」。
〔光映〕ひかりてらす、ひかりてる。〇〔南〕「—ニ—
〔榮映〕さかえてる。〇〔北〕「—ニ— —時ニ」。
〔炳映〕かゞやきてらす、かゞやきてる。〇〔拾遺記〕「丹輝——」。「也」。
〔耀映〕前に同じ。〇〔宣和書譜〕「——眞可ㇾ尚
〔鑑映〕澄みうつる。〇〔水經、註〕「其水——」。
〔寫映〕うつる、うつす。〇〔張衡〕「天井—ニ—于清流ニ」。

【映】アウ。烏朗切 養
——曭は、明かならず、くらし。

【昡】ケン、ゲン。熒絹切 霰
日光、ひかり。〇〔屈平〕「世幽昧以——曜兮」。

【昢】ホツ、ホチ。普沒切 月。ハイ、ヘ。普罪切 賄
日月あらはれ出でて光未だ盛んならざると。〇〔屈平〕「時——兮且日」。

【昢】ハイ、ヘ。滂佩切 隊
晴れに向ふ、はる。

【昣】シン。止忍切 軫
あきらか(明)。

【昤】レイ、リヤウ。老丁切 青
——朧は、日光。

【春】シュン。昌辰切 眞
はる。
(い)四時の始め、陽氣方に發する季節。〇〔公羊〕「—者何歲之始也」。
(ろ)男女間の戀愛。〇〔詩〕「有ㇾ女懷ㇾ—」。
〔莫春〕くれなんとするはる。〇陽休之「遲々——日」。
〔芳春〕はる。〇〔崔知賢〕「結ㇾ伴戲ニ——」。
〔靑春〕前に同じ。〇〔李白〕「容色如ニ——ニ」。
〔陽春〕前に同じ。〇〔李白〕「——召ㇾ我以ニ烟景ニ」。
〔三春〕前に同じ。〇〔琴賦〕「——之初」。
〔上春〕はるの初めの月。〇〔江淹〕「維與ㇾ綺兮嬌ニ——ニ」。
〔初春〕前に同じ。〇〔傅休奕〕「美德揚ニ——ニ」。
〔獻春〕前に同じ。〇〔王褒〕「朱顏戚ニ——ニ」。
〔孟春〕前に同じ。〇〔禮〕「——之月、日在ニ營室ニ」。
〔末春〕はるの終りの月。〇〔梁元帝〕「三月日ニ——晚春ニ」。
〔晚春〕前に同じ。〇〔錢起〕「孤花占ニ——ニ」。
〔殘春〕前に同じ。〇〔李嘉祐〕「山木暗ニ——ニ」。
〔季春〕前に同じ。〇〔禮〕「——之月、日在ㇾ胃」。
〔小春〕十月。〇〔初學記〕「十月天時和暖似ㇾ春、故曰ニ——之月ニ」。
〔仲春〕はるのなかの月。〇〔禮〕「——之月、日在ㇾ奎」。
〔立春〕冬の終りて初めて春になりたる季節。〇〔史〕「——四時之卒始也」。
〔酣春〕はるのさかり。〇〔李賀〕「勞々鶯燕怨ニ——ニ」。
〔晴春〕ひよりよきはる。〇鄭谷「還國少ニ——ニ」。
〔如春〕恩澤あるとにも、温和なるとにも、又、快樂あるとにも引き用ふる語。〇〔班固〕「養ㇾ之——」。

【春】シュン。尺尹切 軫
おこる、おこす、(作)、又、いづ、いだす、(出)。〇〔周〕「張ニ皮侯一而棲ㇾ鵠則——以ㇾ功」。

【昦】昊に同じ。

【昧】バイ、メ。莫佩切 隊。莫貝切 泰
㊀晦冥、やみ、よる。〇〔詩〕「士曰——旦」。
㊁明かならず、くらし。〇〔屈平〕「路幽—以險隘」。
㊂くらくならしむ、くらます、くらくなる、くらむ。〇〔荀〕「妒——之臣」。
㊃むさぼる、(貪)。〇〔左〕「楚王是故—ニ於一來ニ」。
㊄樂の名。〇〔禮〕「—東夷之樂也」。
〔草昧〕はじまりにして開けざると。〇〔易〕「天造——」。
〔寂昧〕くらし。〇〔蜀〕「——肇初」。
〔昧々〕くらき貌にいふ語。〇〔史〕「日——其將ㇾ暮」。
〔曖昧〕明かならぬ。〇〔周必大〕「狀物已——」。
〔幽昧〕くらし。〇〔張華〕「勿ㇾ謂ニ——ニ」。
〔晻昧〕前に同じ。〇〔參寥〕「綜ニ人事於——ニ」。
〔童昧〕年幼くして才識くらきと。〇〔元稹〕「伊子固——」。「祭之由」。
〔韎昧〕東方の國の音樂の名。〇〔左思〕「——任
〔蒙昧〕智識乏しく開けざると。〇〔張衡〕「豈——之私好」。
〔微昧〕見わけがたく知り易からぬ。〇〔張衡〕「諒ニ天結之——ニ」。
〔晦昧〕くらし、やみ。〇〔吳均〕「——晻曖色」。
〔冥昧〕前に同じ。〇〔李善甫〕「濛初——」。
〔疑昧〕判然と取り定むる能はざると。〇〔晉〕「何以辨ニ所ㇾ聞之——ニ」。
〔迷昧〕心まよひて明かならぬ、まよひくらむ。〇〔南〕「張淹——、弗ㇾ顧ニ本朝ニ」。
〔蕪昧〕荒れはてゝ明かならぬ。〇〔陳子昂〕「其城池霸業、迹已——矣」。
〔矯昧〕心昏くして理にあきらかならぬ。〇〔舊唐〕「曲學所ㇾ習、——所ㇾ守」。
〔頑昧〕かたくなにして理に明かならぬ。〇〔晁補之〕「笑自謝ニ——ニ」。
〔愚昧〕おろかなり。〇〔舊唐〕「臣雖ニ——、咸官
〔隱昧〕明かならぬ、くらます、くらむ。〇〔宋〕「百司綵費有ニ——ニ」。
〔謾昧〕侮りくらます。〇〔宋〕「—ニ—聲長ニ」。
〔昏昧〕くらし、くらむ、くらます。〇〔宋〕「山氣遇ㇾ夜轉——」。
〔杳昧〕はるかにして判然せぬ。〇〔拾遺記〕「悠哉——」。
〔深昧〕底ふかくして見わけがたし。〇劉安陵「地——而多ニ水險ニ」。
〔矇昧〕おほひかざしてくらし。〇〔馬融〕「列宿爲ㇾ之——」。
〔睽昧〕目見ゆるとなし、めくら。〇〔蔡邕〕「夫何——之瞽兮」。
〔聾昧〕耳聞こえぬ、つんぼ。〇〔元稹〕「工師盡取ニ——人ニ」。
〔幼昧〕いはけなくして才識開けぬ。〇〔阮籍〕「季陰——」「而是征」。
〔宵昧〕夜暗し、又、よる、やみ。〇〔傅咸〕「必——」。
〔茫昧〕ぼんやりとして明かならぬ。〇〔陸游〕「金丹既——」「霧」。
〔濛昧〕閉ぢこめてくらし。〇〔鮑照〕「——江上
〔造昧〕開けざるとき、はじめなり。〇〔傅亮〕「諒理本乎——」。
〔虛昧〕才學乏しくおろかなり。〇〔梁武帝〕「孤以ニ——、任ニ執國政ニ」。
〔窮昧〕遙かにしてくらし。〇〔江淹〕「信懷ニ天兮——ニ」。

〔荒昧〕すさみて明かならぬ。○〔江淹〕「臣ーー神・氣、爰月幼眠」。「ーニ。
〔寂昧〕しづかに奥深し。○〔陶弘景〕「霧思ー・
〔眇昧〕かすかにくらし。○〔陶弘景〕「繹像ーー」。
〔黯昧〕くらし。○〔韓愈〕「ーー就滅」。
〔拙昧〕心つたなくおろかなり。○〔暢當〕「ーー雖レ容レ世」。
〔蒙昧〕くらし。○〔陸機賛〕「屏孫識ーー」。
〔三昧〕其の物事に專一なること。○〔金剛經、註〕「道云二眞・一一、儒云二致・一一、釋云二ーー一」。
〔虛靈不昧〕これと其の實在を指すべきなきも其のはたらきくしくしてあきらかなること。○〔朱熹〕「明・德者人之所レ得二乎天一而ーーーー以具二衆理一而應二萬事一者也」。

【昨】サク、ザク。在各切〔藥〕 一宵を隔てたる前日、きのふ。○〔莊〕「ー來有下中・道而呼者上」。
〔一昨〕をとつひ。○〔常袞〕「ーー奏封奉二承聖旨一」。
〔曩昨〕きのふ。○〔庾祖宮〕「事乃繼二ーー一」。

【昨】酢に同じ。○〔周〕「ー席亦如レ之」。

【昧】バツ、マチ。莫撥切〔曷〕 ❶日中明ならず、くらし。❷星。

【昪】ヘン、ベン。皮變切〔霰〕 ❶喜び樂む貌にいふ字。❷日光、ひかり。❸あきらか、(明)。

【⿰日旦】タン。儻旱切〔旱〕 タン、ダン。徒案切〔翰〕 あきらか、(明)。

【昫】ク、コ。火于切〔虞〕 香句切〔遇〕 火羽切〔麌〕 煦に同じ、溫め恤む、あたゝむ。○〔淮〕「ー嫗覆育」。

【昫】キヨウ、ク。詡拱切〔腫〕 旦明に五たび鼓をうつこと。○〔司馬法〕「鼓旦・明五・通爲二發ー一」。

【昬】昏に同じ。

【⿰日氐】テイ、タイ。都黎切〔齊〕 日。

【昭】セウ。之遙切〔蕭〕
❶あきらか。
(い)光り輝くこと。○〔屈平〕「爛ーーー兮」。
(ろ)見はるゝこと、著しきこと。○〔書〕「百・姓ー・明」。
❷あきらかならしむ、あらはす、あきらかにす。○〔易〕「君・子以自ー二明・德一」。
❸あきらかになる、あらはる。○〔禮〕「蟄・蟲ー蘇」。
❹廟の坐次にて上位。○〔禮〕「三ー三・穆」。
〔布昭〕廣く志きあらはる。○〔書〕「ーー聖武一」。
〔宣昭〕前に同じ。○〔左〕「ーー令・名」。
〔昭昭〕あきらかなる貌にいふ字。○〔詩〕「其音ーー」。
〔光昭〕かゞやかしあらはす、かゞやきあらはる、又、あきらか。○〔左〕「ーー先・君之令・德」。
〔顯昭〕あらはす、あらはる、あきらか。○〔爾、註〕「哲」。「ーー明見也」。
〔聰昭〕すぐれて睿明なること。○〔張華〕「ーー秀・

【昭】照の省字。

【昜】ショウ、ジュ。才川切〔宋〕 功人、工人。

【⿰日叟】タウ、トウ。他刀切〔豪〕 日の色。

【⿰日幼】イウ、ウ。於九切〔有〕 かわく、(乾)。

【是】シ。承紙切〔紙〕 〔説文〕作レ是、直也、从レ日正。
❶直し、正し、よし。○〔禮〕「別二異・同一明二ー・非一」。
❷此に同じ、こゝ、これ、この、かく、こゝに。○〔易〕「ー故居二上・位一而不レ驕」。
〔自是〕おのれみづからよしとす。○〔老〕「自見者不レ明、ーー者不レ彰」。
〔因是〕よろしきによる、これによる。○〔莊〕「ーレー因レ非」。
〔國是〕國政の方針。○〔劉向〕「君・臣不レ合、ーー舞二適定一矣」。
〔如是〕この如く、かく、さやう、そのとほり。○〔智度論〕「信者言二是事ーー一」。
〔無是〕これなし、かゝる者なし。○〔史〕「ーー公者無二是人一也」。

【是】テイ、ダイ。田黎切〔齊〕 さかひ、(邊)。○〔公羊〕「ー月何、僅逮二ー月一」。

【⿰日㕣】エン。以專切〔先〕 日行く、めぐる。

【昱】イク、ヨク。余六切〔屋〕 日光ろこと、あきらか、ひかろ、ひかり、又、あきらかなる日。○〔揚雄〕「日ー二乎晝一」。
〔混昱〕かゞやき光ること。○〔淮〕「ーー錯眩」。
〔晃昱〕前に同じ。○〔拾遺記〕「ーー明・粲也」。
〔昱々〕かゞやく貌にいふ語。○〔何遜〕「ーー丹・旗振」。

【昳】テツ、デチ。徒結切〔屑〕 日昃く、かたむく、又、午後二時の稱。○〔漢〕「至二日ーー一皆會」。

【昴】バウ、メウ。莫飽切〔巧〕 謨交切〔肴〕 星の名、すばるぼし。○〔書〕「日短星ー」。
〔參昴〕二つの星の名。○〔詩〕「維ー與ー」。
〔畢昴〕前に同じ。○〔司馬相如〕「ーー出二於東方一」。

【昲】ヒ。芳未切〔未〕 芳微切〔微〕 フン、ホン。芳問切〔問〕 フツ、ホチ。敷勿切〔物〕 物を乾かす、さらす、かわかす。○〔列〕「酒未レ清肴未レー」。

【昲】ハツ、バチ。普活切〔曷〕 ひかり、ひかる、(光)。

【昵】ヂツ、ニチ。尼質切 ジツ、ニチ。入質切〔質〕
❶親近す、むつむ、志たしむ、ちかづく。○〔書〕「ー二比罪・人一」。
❷志たしみ近づける者、己れさむつましき人。○〔書〕「官不レ及二私ー一」。
〔親昵〕志たしむ、又、近づきの者。○〔北〕「有二犯・禁者一、雖レ至二ーー一、無レ所二容貸一」。
〔邇昵〕緣どほきものと近き者と。○〔尸子〕「不レ避二ーー一」。
〔狎昵〕志たしむ。○〔宣〕「惟ーー諂・邪」。
〔嫩昵〕たふとび志たしむ。○〔北〕「益ーー之」。
〔友昵〕ともだちとし親しむ、又、ともだち。○〔北〕「大相ーー」。
〔甚昵〕いたく親しむ。○〔北〕「煬・帝ーー之」。
〔嬖昵〕氣に入り親しむ、又、氣にいり。○〔北〕「煬・帝爲二太子一時、ーー之」。

【昵】デイ、ナイ。乃禮切〔薺〕 なき父、考。○〔書〕「典レ祀無レ豐二于ー一」。

【昃】ショク、シキ。質力切〔職〕

のり、(黏)、にべ、(膠)、○〔周〕「凡—之類不レ能レ方」。

【昶】シヤウ、サウ。丑兩切 [養]
❶日長し、明かなると久し、ながし、ひさし。
❷とほる、(通)。○〔嵇康〕「固以レ和—而足レ耽矣」。
❸のぶ、(舒)。○〔嵇康〕「淸-和條—」。

【昶】暢に同じ、のぶ。○〔嵇康〕「雅—二唐-堯一」。

【昷】チン。烏渾切 [元] 〔說文〕从二皿以一食レ囚。
いつくしむ、いつくしみ、(仁)。

【冏】ケイ、キヤウ。古熒切 [靑]
あきらか、(明)。

六畫

【日戉】キツ、コチ。況出切 [質]
早し、はやし、すみやか、(急-速)。

【晀】テウ。他了切 [篠]
あきらか、(明)。

【晁】古の朝の字、あさ。○〔司馬相如〕「—采琬-琰」。

【時】シ、ジ。辰之切 [支]
❶とき。
(い)春、夏、秋、冬。○〔禮〕「三-月則成レ—」。
(ろ)日月の經過する間。○〔禮〕「天生レ—而地生レ財」。
(は)一日間の區分(昔は十二に、今は二十四に)、辰。○〔周〕「掌二夜—一」。
(に)十干十二支錯行して其のなり〳〵に吉凶あると。○〔孟〕「天—不レ若二地利一」。
(ほ)刻限、かぎり。○〔禮〕「出不レ易レ方復不レ過レ—」。
(へ)世。○〔漢〕「朕獨不レ得下與二此人一同上レ—哉」。
(と)世の勢。○〔左〕「惟知レ—也」。
(ち)期節、をり、ころ。○〔楚辭〕「恨二其失一レ—而無レ當」。
(り)其のころ、其の世。○〔後漢〕「以佐二—政一」。
❷常あると、ときをたがへざると。○〔荀〕「政-令—」。
❸よし、(善)。○〔詩〕「爾殽既—」。
❹中。○〔周〕「—揖異-姓一」。
❺これ、この、(是)。○〔書〕「黎-民於變—雍」。
❻うかゞふ、(伺)。○〔論〕「孔-子—二其亡一也往拜レ之」。
❼塒に同じ、ねぐら。○〔詩〕「雞棲二于—一」。
❽梅の屬、はうめ。○〔爾〕「—英-梅」。

〔農時〕耕作にいそがはしきとき。○〔孟〕「不レ違二——一」。
〔趨時〕時世を逐ふ。○〔易〕「變通者—レ—者也」。
〔田時〕前に同じ。○〔司馬相如〕「方今——、重二煩百-姓一」。
〔守時〕ときにしたがふと。○〔荀〕「—レ—力レ民」。
〔倍時〕ときにそむきたがふと。○〔戰〕「智者不二—レ—一而棄レ利」。
〔背時〕前に同じ。○〔班固〕「功不レ得二—レ—一而特彰一」。
〔救時〕ときをすくふと。○〔唐〕「爲二——宰-相一」。
〔輔時〕ときをたすくると。○〔管〕「聖人能—レ—、不レ能レ違レ時」。
〔從時〕ときに應じてそむかざると。○〔說苑〕「三日、「—レ—」。
〔順時〕前に同じ。○〔晉〕「應レ天—レ—」。
〔俟時〕ときのきたるをまつ。○〔袁宏〕「—レ—而動」。
〔待時〕前に同じ。○〔後漢〕「遁レ丘—レ—」。
〔淸時〕泰平にしてよく治まれるとき。○〔李陵〕「榮二名——一」。
〔四時〕春夏秋冬の稱。○〔易〕「與二——一合二其序一」。
〔微時〕身分の顯はれざるとき。○〔漢〕「宣帝詔求二——故劍一」。
〔遲時〕常時に用ひらるゝと。○〔崔駰〕「羨二伊傅之—レ—」。
〔務時〕ときを失はずして勉强すると。○〔後漢〕「勤レ力—レ—」。
〔積時〕ときを多くかさぬると。○〔後漢〕「霖-雨—レ—」。
〔累時〕前に同じ。○〔王充〕「寒不レ—レ—、則霜不レ降」。
〔利時〕つがふよきとき、吉日。○〔淮〕「不レ侍二——一良日而後破レ之」。
〔過時〕すぎさりたるとき、むかし。○〔過秦論〕「非レ及二——之士一也」。
〔盛時〕さかんなるとき。○〔曹植〕「——不レ可レ再」。
〔恒時〕へいぜい、ふだん。○〔韓愈〕「頌-色異二——一」。

【晃】クワウ、ワウ。胡廣切 [養]
明暉、あきらか、ひかり、ひかる、てらす、かゞやく。○〔左思〕「炫——芬-馥」。
〔光晃〕ひかりかゞやく。○〔王逸〕「存-電兮——」。
〔炯晃〕前に同じ。○〔潘岳〕「金-根照耀以——兮」。
〔晃晃〕かゞやく貌にいふ語。○〔郭璞〕「光昕-々以——」。
〔皓晃〕あかくひかると。○〔杜顏〕「紫-沙兮——」。
〔晶晃〕あきらかなるひかり。○〔蔣防〕「——浮二輕-露一」。
〔眩晃〕まばゆきひかり。○〔蘇軾〕「——自難レ審」。

【晄】晃に同じ。

【晅】ケン、ガン。許元切 [元]
ケン、クワン。火遠切 [阮]
❶日の氣。❷かわかす、(乾)。

【日圭】クワイ、ケ。苦回切 [灰]
わかる、わく、(別)。

【晇】旴に同じ。

【晈】ケウ。古了切 [篠] 古弔切 [嘯]
皎に同じ。○〔楚辭〕「夜——兮既明」。

【晉】シン。卽刃切 [震] 〔說文〕作レ㬜、進也、日出萬物進也。
❶すゝむ、(進)。○〔易〕「故受レ之以—」。
❷さしはさむ、(插)。○〔周〕「王—二大圭一」。
❸おさふ、(抑)。○〔周〕「諸-侯—大-夫馳」。
❹長さ六尺六寸ある鼓の名。○〔周〕「以二—鼓一鼓二金-奏一」。
❺矛戟の銅鐏、いしづき。○〔周〕「凡爲レ殳去レ一以爲二—圍一」。
〔三晉〕戰國の時の魏と韓と趙とのと。○〔崔駰〕「雖レ有二——一、欽-然若レ盬」。
〔孟晉〕はげみ進む。○〔幽通賦〕「孟二——一以迨二群兮一」。
〔六晉〕韓氏、魏氏、趙氏、范氏、中行氏、智氏の六氏晉の卿たり、故に之を名づけて六晉といふ。○〔戰〕「——之時、智-氏最强」。

【㬜】セン。子賤切 [霰]
水の名。

【晊】シツ、シチ。之日切 [質]
❶おほいなり、(大)。❷あきらか、(明)。

【晋】俗の晉の字。

【晭】シウ、シユ。職救切 [宥]
ひかり、(光)。

【晌】シヤウ、サウ。始兩切 [養]
晝中、まひる。

【日名】ベイ、メヤウ。母迥切 [迥]

日暗しくらし。

【𣅠】ケン、ゴン。許驗切[豔]　許嚴切[鹽]　さまたぐ（妨）。

【㫬】クワウ、ワウ。呼晃切[養]　カウ、ガウ。呼浪切[漾]　バウ、マウ。謨郎切[陽]　旱熱、あつさ、あつし。

【晍】曈に同じ。

【㫍】タウ、トウ。他刀切[豪]　日の色。

【㫙】サフ。楚洽切[洽]　日照らす、てらす。

【𣅥】シ。色滓切[紙]　あきらか、（明）。

【旰】カン。各汗切[翰]　牛乾く、かわく。

【晎】コウ、ク。虎孔切[董]　日明かならんとす。

【晏】アン、エン。烏澗切[諫]　アン。於旰切[翰]
㊀天清む、雲散ず、はろ。○〔漢〕「山中—溫」。
㊁おそし、（晚）。○〔論〕「何其—也」。
㊂くろ、（暮）。○〔屈平〕「及二年歲之未一レ—」。
㊃やはらぐ、（和）。○〔詩〕「言笑——」。
㊄やすんず、やすし、（安）。○〔禮〕「百官靜レ事毋レ刑以定二—陰之所一レ成」。
㊅たかふ、（忒）。○〔文選〕「絲竹——衍之樂」。
㊆鮮かにして明かなる貌にいふ字。○〔詩〕「羔裘—兮」。
〔早晏〕はやきとおそきと。○〔元結〕「漫樂無二——一」。
〔天晏〕空澄みわたる。○〔漢〕「——亡雲」。
〔極晏〕いたく遲し。○〔後漢〕「待レ之——」。
〔寧晏〕やすし　○〔北〕「九服——」。
〔清晏〕深くやはらぐ。○〔成公綏〕「高談——」。
〔普晏〕行き屆きやはらぐ。○〔傅休奕〕「樂二仁化之——一兮」。
〔息晏〕やすみやすんず。○〔西都賦〕「惟所二——一」。
〔靜晏〕騷がしからずしてやすし。○〔徐陵〕「中流——」。
〔安晏〕やすし。○〔歐陽修〕「既歸化二——一」。

【晐】カイ。古哀切[灰]　㊀かぬ、（兼）。㊁みな、（咸）。㊂そなふ、（備）。

【㬉】ダン、ナン。奴管切[旱]　あたゝか、（溫）。

【晑】キヤウ、カウ。香兩切[養]　あきらか、（明）。

七畫

【𣆶】シン。千尋切[侵]　日光、ひかり。

【㬲】カウ、キヤウ。古杏切[梗]　㊀日光、ひかり。㊁日高し、たかし。

【晗】カン、ゴン。胡南切[覃]　明かならんとす、あけがゝる。

【晘】カン、ケン。戶版切[潸]

日出づる貌にいふ字。

【𣇔】セン。尸連切[先]　かはる、かふ、（更）。

【冒】ボク、モク。莫北切[職]　つきすゝむ、（突前）。

【𣅨】フ。附夫切[虞]　日光、ひかり。

【𣆫】朗に同じ。

【㫰】ラウ。郎宕切[漾]　日に暴す、さらす。

【晙】シユン。子峻切[震]　㊀あきらか、（明）。㊁はやし、（早）。

【晚】ベン、バン。無遠切[阮]
㊀おそし。
（い）後れたり。○〔後漢〕「賈父來何——」。
（ろ）急にせず。○〔戰〕「孰二與——救一レ之」。
（は）夜近し。○〔漢〕「伏見二蚤—一」。
㊁くろ。
（い）夜に近づく、日沒す。○〔謝靈運〕「景躍二東隅一、晼—二西薄一」。
（ろ）終り近くなる、末に迫まる。○〔司馬相如〕「志未レ沙、時欲レ—」。
㊂くろゝを、くろゝ時、くれ。○〔南〕「便息及二日—一」。
〔晼晚〕日かたぶきくる。○〔楚辭〕「白日——其將レ入兮」。
〔早晚〕はやしとおそしと、又、おそかれはやかれ、いつか。○〔晉〕「遲有二——一」。
〔昨晚〕きのふのくれ。○〔寶翅〕「——南行レ楚」。

【晛】ケン、ゲン。形甸切　テン、デン。奴甸切[霰]　日見はる、あらはる、ひいづ、又、日氣、日光、ひかり、ひかげ。○〔詩〕「見レ—曰消」。

【晛】ケン、ゲン。胡典切[銑]　㊀前條に同じ。㊁あきらか、（明）。

【晜】昆に同じ、あに。○〔爾〕「父之—弟」。

【𣅷】ダン、ナン。奴版切[潸]　溫く濕ふ、うるほふ。

【𣅷】ダン、ナン。乃諫切[諫]　赤し、一說に小しく、赤し。

【曡】テフ、デフ。徒叶切[葉]　疊に同じ、たゝむ。

【晝】チウ、チユ。陟救切[宥]　〔說文〕日之出入與レ夜爲レ界、从二畫省一从レ日。
朝より暮れまでの間、ひろ、ひろま、日中。○〔左〕「臣卜二其—一、未レ卜二其夜一」。
〔旦晝〕あさとまひると、又、ひるまの稱。○〔孟〕「——之所レ爲、有レ梏二亡之一」。
〔昏晝〕よるとひると。○〔杜甫〕「飮食錯二——一」。
〔晴晝〕空の澄みわたれるひるま。○〔蘇軾〕「雨露二——一」。
〔平晝〕まひるどき。○〔阮籍〕「——閒居、隱レ几而彈レ琴」。
〔繼晝〕ひるまにつゞくるに夜を以てすると。○〔韓〕「—以レ夜—」。
〔續晝〕前に同じ。○〔劉歆〕「以レ夜——」。
〔卻晝〕日のなかに用につ。○〔張華〕「守—二千——一」。

〔窮晝〕ひねもす爲し盡くす。○〔摯虞〕「願ーレー而窮レ夜」。
〔修晝〕永き日中。○〔李充〕「ーー興永念」。
〔山晝〕やまの中のひるま。○〔儲光羲〕「ーー猿狖靜」。
〔清晝〕空のよくすめる日の中。○〔王維〕「ーー猶未レ暄」。
〔白晝〕ひる、日中。○〔許棠〕「ーー常多レ事」。
〔正晝〕まひる。〔韓愈〕「ーー當レ谷眠」。
〔熏晝〕ひる中にふすべおはふこと。○〔韓愈〕「毒霧恒ーレー」。
〔嘉晝〕温和なるひるま。○〔孟郊〕「ーーー色更晶」。
〔勝晝〕ひるよりも明かなり。○〔聶夷中〕「金缸焰ーレー」。
〔殘晝〕くれのこれるひる、夕方。○〔張耒〕「古竇積雨昏ニーーニ」。
〔徹晝〕ひねもす、終日。○〔張耒〕「ーーー風何急」。
〔炎晝〕夏の日のあつきひるま。○〔周伯琦〕「夾レ路忘ニーーニ」。
〔靜晝〕温和なるひるま。○〔周伯琦〕「ーーー敲レ棋」。
〔永晝〕日足ながきひるま。○〔楊載〕「鳴レ琴消ニーーニ」。

【晞】キ、ケ。香衣切 〔微〕
㊀ひろ、かわく、(乾)。○〔詩〕「白露未レー」。
㊁あく、(明)。○〔詩〕「東方未レー」。
㊂かわかす、さらす、(暴)。○〔揚雄〕「ー暴也、東齊北燕之間謂ニ之ーニ」。

【晟】セイ、シャウ。承正切 〔敬〕
日光充ち盛る、さかんなり、あきらか。

【晟】セイ、シャウ。時征切 〔庚〕
㊀めしびつ、(飯匱)。㊁前條に同じ。

【晟】セイ、シャウ。咨盈切 〔庚〕
精光、あきらかなるひかり。

【晡】ホ、フ。奔模切 〔虞〕
㊀申の刻、即ち、今の午後四時。○〔漢〕「ー時復」。
㊁晩るゝ時、ゆふべ、ひぐれ。○〔北〕「朝ーー給ニ與御食ニ」。
〔日晡〕夕方、ひぐれ。○〔白居易〕「寧愁ー漸ー」。
〔朝晡〕あさと夕刻と。○〔白居易〕「ーー頒ニ餅餌」。

【晢】セツ、セチ。旨熱切 〔屑〕
昭了、あきらか。○〔書〕「明作レー」。
〔昭晢〕明らかなり。○〔揭傒斯〕「令聞益ーー」。

【晢】セイ。征制切 〔霽〕
星の光れる貌にいふ字。○〔詩〕「明星ーー」。

【晣】
晢に同じ。○〔詩〕「庭燎ーー」。

【晤】ゴ、グ。五故切 〔遇〕
㊀あきらか、(明)。○〔唐〕「素立少秀ー」。
㊁さく、(解)むかふ、(對)、あふ、(遇)。○〔詩〕「可ニ與ーー歌ニ」。
〔言晤〕はなしあふこと。○〔南〕「道中可レ得ニーーニ」。
〔神晤〕すぐれてさとくあきらかなること。○〔舊唐〕「公主夙成ーー」。
〔秀晤〕前に同じ。○〔唐〕「素立少ーー」。
〔英晤〕前に同じ。○〔宋〕「眞宗ーー之主」。
〔諧晤〕うちとけて交ること。○〔沈炯〕「友朋足ニーーニ」。
〔欵晤〕前に同じ。○〔蘇頌〕「首與レ余ーー」。

【晥】クワン、ゲン。合版切 〔潸〕
明なる貌にいふ字。

【⿰日孛】ハイ、蒲味切 〔隊〕 ホツ、ボチ。蒲沒切 〔月〕
くらし、(暗)。○〔左〕「旭日晻ーー」。

【晦】クワイ、ケ。呼對切 〔隊〕
㊀大陰暦にて月の最終末日、つごもり、みそか。○〔左〕「陳不レ違レー」
㊁くらし。(い)日月のかゞやきなし。○〔史〕「窈冥晝ー」。(ろ)夜近し。○〔易〕「君子以嚮レー入宴息」。(は)明顯ならず。○〔左〕「志而ー」。
㊂くらくなす、くらます、かくす、又、くらくなる、くらむ、かくる。○〔詩〕「遵養時ー」。
㊃夜。○〔左〕「六氣曰ニ陰、陽、風、雨、ー、明ニ」。
㊄きり、(霧)。○〔爾〕「霧謂ニ之ーニ」。
㊅幾ばくも亡く、しばらく。○〔班固〕「鮮ニ生民之ー在ニ」。
〔養晦〕徳をやしなひ迹をくらます。○〔宋〕「ーー以待レ用」。
〔明晦〕あきらかなるとくらきと。○〔梁武帝〕「ーー亦懸殊」。
〔朔晦〕月の一日と月の末日と。○〔魏〕「因更推ニ步弦望ーー、爲ニ太和暦ニ」。
〔冥晦〕くらし。○〔王逸〕「雲霧會兮日ーー」。
〔湮晦〕しびかくる。○〔晉〕「悼ニ大道之ーーニ」。
〔顯晦〕あきらかなるとあきらからざると。○〔晉〕「君子之行殊レ塗、ーー之謂也」。
〔韜晦〕包みかくす。○〔南〕「霖霞ーー」。
〔陰晦〕くもりてくらし。○〔金〕「天久ーー」。
〔貞晦〕固く正しくして技能を外面にあらはさぬ。○〔舊唐〕「從レ少以ニーー恭讓ニ自處」。
〔自晦〕己れよりおろかなるが如くよそほふ。○〔宋之問〕「妙年拙ニーーニ」。
〔晦々〕くらき貌にいふ語。○〔莊〕「媒々ーー」。
〔幽晦〕くらし。○〔韓愈〕「白日變ニーーニ」。
〔宵晦〕よるくらし、又、よる。○〔劉向〕「霧ーー以紛々」。
〔蔽晦〕おほひかくす、おほはれかくる。○〔東方朔〕「浮雲陳而ーー」。
〔潛晦〕ひそめかくす、ひそみかくる。○〔蔡邕〕「ーニ幽閒ニ、不レ答ニ州郡ニ」。
〔高晦〕けだかく構へて能をあらはさぬ。○〔謝靈運〕「ーニーー泗洛ニ」。
〔淪晦〕深くおちつきかくる。○〔鮑照〕「辰意事ニーーニ」。
〔月晦〕つごもり。○〔劉長卿〕「ーー逢ニ休澣ニ」。
〔隱晦〕かくる、かくす。○〔錢起〕「ーー詣ニ泥蟠ニ」。
〔霾晦〕空に土けぶり立ちてくらし。○〔儲光羲〕「鄗窮頃ーーー」。
〔濁晦〕濁まり、明かならぬ。○〔曾鞏〕「陰氣ーー化爲レ霧」。
〔昏晦〕くらし。○〔馬臻〕「遠色變ニーーニ」。

【晧】カウ、ゴウ。胡老切 〔晧〕
日出づるを、光あらはるゝを、あきらか。○〔曹植〕「戈殳ーー旰」。

【晨】シン。食鄰切 〔眞〕
㊀房星の一名、そひ、農事をつかさどるといふ。○〔周〕「農祥ー正」。
㊁夜の明くる時、ひきあけ、よあけ、あさ、あした、つと、早旦。○〔周〕「禦ニー行者ニ」。
㊂あしたの時を知らす、あしたす。○〔舞鶴賦〕「寒雞之早ー」。
㊃鷐に通じ用ふ。○〔詩〕「鴥彼ー風」。
〔嚮晨〕よあけにちかづく。○〔詩〕「其夜ーレー」。
〔淸晨〕きよらかなるあした。○〔張九齡〕「山川曆々在ニーーニ」。
〔靖晨〕しづかなるあした。○〔儲光羲〕「鶗鴃鳴ニーーニ」。
〔宵晨〕よるとあさと。○〔陶潛〕「淹留忘ニーーニ」。
〔詰晨〕よのひきあけ。○〔梁昭明太子〕「ーー届ニ鍾嶺ニ」。
〔霜晨〕しものおりたるあした。○〔范成大〕「秀出淸ニーーニ」。
〔牝雞晨〕めにはとりの時をしらすこと、轉じて后妃の國政に預かり妻妾の家政を專らにすることにいふ語。○〔書〕「ーーー之ー惟家之索」。

【⿱日射】ショク、シキ。札色切 〔職〕
あきらか、(明)。

八畫

【⿰日尚】ヘツ、ヘチ。必結切 〔屑〕

暴し乾かす、かわかす、さらす。

【㬇】テン。他典切 [銑]
あきらか、（明）。

【晫】タク、トク。竹角切 [覺]
明かに盛んなる貌にいふ字、あきらか。

【晬】サイ、セ。子對切 [隊]
一周年、まるひさゝせ、ひさまはり。○〔鮑照〕「柔顏載ㇾ—」。

【昢】ヒ。符非切 [微]
はなる、（離）。

【㬎】シウ、シユ。止酉切 [有]
あきらか、（明）。

【晭】前に同じ。

【普】ホ、フ。滂古切 [麌]
㊀日に光なし、くらし。○〔說文、註〕「日無ㇾ光則遠近皆同今隸作ㇾ—」。
㊁博大なり、偏するをなし、ひろし、おほいなり、あまねし。○〔孟〕「—天之下」。
〔洽普〕あまねし。○〔魏、註〕「仁恩—洽」。
〔周普〕前に同じ。○〔宋〕「德施二—周一」。
〔洋普〕前に同じ。○〔宋〕「恩澤—洋」。
〔弘普〕前に同じ。○〔傅休奕〕「然後知二禮敎之——一也」。
〔流普〕前に同じ。○〔潘岳〕「吉德——」。
〔優普〕あつくあまねし。○〔施予——〕。

【景】ケイ、キヤウ。居影切 [梗]
㊀さかひ、かぎり、（境）。○〔釋文〕「—境也、明所ㇾ照有二境限一也」。
㊁ひかり、（光）。○〔張衡〕「流二—曜之韡曄一」。
㊂あきらか、（明）。○〔詩〕「—行行止」。
㊃おほいなり、（大）。○〔詩〕「介二爾—福一」。
㊄うつくし、（韶）、又、しろし、（白）。○〔顏延之〕「既遂二美于天居一、亦儷二—于雲阿一」。
㊅風色、趣致、けしき、おもむき。○〔宋〕「芳時媚—」。
㊆あふぐ、（仰）、したふ、（慕）。○〔金〕「萬世—仰」。
㊇衣に塵のかゝるを禦ぐ爲めに著くる上衣。○〔儀〕「姆加ㇾ—」。
㊈星の名、慶ぶべき象あるものさいふ。○〔史〕「天晴而見二—星一」。
㊉南方より吹く風。○〔史〕「風居二南方一—者言二陽氣道竟一」。
〔風景〕けしき、おもむき。○〔晉〕「——不ㇾ殊」。
〔和景〕春のけしき。○〔鮑照〕「歎二息——一」。
〔韶景〕前に同じ。○〔梁元帝纂要〕「春景曰二——一」。
〔淑景〕前に同じ。○〔杜甫〕「花覆二千官——移」。
〔芳景〕前に同じ。○〔唐太宗〕「華林滿二——一」。
〔光景〕ひかり、又、けしき、おもむき。○〔南〕「——所ㇾ照」。
〔照景〕ひかり。○〔陸雲〕「——長違」。
〔美景〕うつくしきけしき、よきおもむき、うつくしきひかり。○〔陳〕「毎二良辰——一」。
〔晩景〕くれがたのけしき。○〔夢溪筆談〕「悉是——、遠峯之頂、宛然有二反照之色一」。
〔遠景〕とほくにみゆるけしき。○〔王揖之〕「——藹々」。
〔絕景〕すぐれたるけしき。○〔齊東野語〕「三高亭天下——也」。
〔好景〕前に同じ。○〔蘇軾〕「一年——君須ㇾ記」。
〔良景〕前に同じ。○〔沈烱〕「——共含ㇾ毫」。
〔勝景〕前に同じ。○〔元好問〕「毎恨——不ㇾ得ㇾ窮」。
〔佳景〕前に同じ。○〔蕭炭〕「北山——勝二南山一」。
〔野景〕のはらのけしき。○〔許棠〕「——似二山中一」。
〔搜景〕けしきのよき處をさぐる。○韓偓「——魂入二香宴一」。
〔幽景〕ふかく靜かなるけしき。○〔王禹偁〕「不ㇾ教二——落入朝一」。
〔觸景〕けしきにあふこと。○〔黃滔〕「—ㇾ—幽興多」。
〔殺風景〕極めて俗なるおもむき。○〔陸游〕「———處君知否」。

【𣇃】影に同じ、かげ。○〔詩〕「汎々其—」。
〔日景〕ひかげ。○〔周〕「正二——一以求二地中一」。
〔晷景〕前に同じ、又、ひかげばしらのかげをはかること。○〔何承天〕「參以二——一」。
〔倒景〕日の地平より下にあること、又、物にうつるさかさのかげ。○〔溫庭筠〕「人過二橋邊——來」。
〔搏景〕かげをまろむ。○〔漢〕「從ㇾ之如ㇾ—ㇾ—」。
〔直景〕曲がらざるかげ。○〔後漢〕「是由二曲表一而欲二——一」。「々對二——一」。
〔孤景〕他にともなきひとり身のかげ。○〔後漢〕「煢—」。○
〔反景〕太陽の西天に沈みて東天に反映すること。○〔周楷濟〕「夕陽——低二黃埃一」。
〔度景〕ひかげをはかる。○〔周、疏〕「穎川穎城、周公—ㇾ—處」。
〔測景〕前に同じ。○〔南〕「土圭—ㇾ—」。「—看」。
〔照景〕かげをうつす。○〔徐鉉〕「不ㇾ許佳人—」。
〔移景〕かげをうつす、ひまいりて時刻をうつす。○〔北〕「帝促ㇾ席—ㇾ—」。
〔藏景〕かげをかくしてあらはさぬ。○〔曹植〕「—ㇾ—蔽ㇾ形」。
〔馳景〕ひかげをはやむ、又、速に去れる年月。○〔張華〕「義和—ㇾ—逝不ㇾ停」。
〔惜景〕光陰の空しくすぐるををしむ。○〔王僧孺〕「輕ㇾ璧—ㇾ—」。
〔短景〕みぢかき日かげ。○〔杜甫〕「——雖二高臥一」。

【㬐】昒に同じ。

【晰】セキ、シヤク。先的切 [錫]
あきらか、（明）。

【晱】セン。失冉切 [琰] エウ。弋照切 [嘯]
いなびかり、いなづま、（電）。

【暮】キ。居其切 [支]
のち、（後）。

【晲】ゲイ、ガイ。吾禮切 [薺]
日映く、かたむく。○〔淮〕「有ㇾ符二曦—一」。

【睫】セフ。七接切 [葉]
日沒せんさす、くる、くれかゝる。

【晴】セイ、ジヤウ。疾盈切 [庚]
雨止む、雲散ず、はる、はれる。○〔史〕「天—而見二景星一」。
〔新晴〕あらたにはれたること。○〔間居賦〕「微雨新——」。
〔陰晴〕くもるとはるゝと。○〔徐積〕「此時秋色半——」。
〔快晴〕一點のくもりもなく心よくはれたること。○〔陳與義〕「孤松立二——一」。

【晹】シヤ、セ。之夜切 [禡]
日赫く、かゞやく。

【啓】ケイ、カイ。康禮切 [薺]
雨ふりて晝晴る、はる。

【晵】ケン。輕甸切 [霰]
はる、（霽）。

【晶】セイ、シヤウ。子盈切 [庚]
㊀精光あること、あきらか。○〔宋之問〕「八月涼風天氣—」。

㊁ひかり、ひかる、（光）。○〔歐陽詹〕「――盈々」。
㊂一種の鑛物、すゐしやう、石英。○〔三輔黄圖〕「以二玉―一―爲レ盤」。
〔光晶〕ひかる、あきらか。○〔白居易〕「花莖生二―――一」。
〔鮮晶〕あざやかにひかる、あざやかなるひかり。○〔梁洽〕「上下――」。

【⿱日所】ショ、ソ。所去切　御
㊀あきらか、（明）。㊁あたゝか、（暖）。

【⿰日果】ワ。鄔果切　哿
あきらか、（明）。

【⿰日穹】キウ、ク。去仲切　送
日物を乾かす、かわかす。

【⿱日取】テイ、チヤウ。知領切　梗
日の初めて出づる貌にいふ字。

【晷】キ。古委切　紙
㊀ひかげ。（い）日の經過を度るに樹つる表槷の影、はしらかげ。○〔漢〕「要以二―景一」。（ろ）日の光影。○〔韓愈〕「焚二膏油一以繼レ―」。
㊁光影、かげ。○〔謝莊〕「月――呈レ祥」。
〔日晷〕ひかげ。○〔隋〕「扶二測―――一」。
〔光晷〕前に同じ。○〔江淹〕「悼二――之難一レ借」。
〔短晷〕わづかなるひかげ。○〔沈約〕「以二寸陰之―――一馳二永劫之延路一」。
〔守晷〕前に同じ。○〔歐陽修〕「與レ日爭二―――一」。
〔迅晷〕すみやかに去るひかげ。○〔朱熹〕「―――諒難レ留」。
〔尺晷〕一尺ばかりの日かげ。○〔宋〕「以二―――一成二一賦一」。
〔窮晷〕ひるまをつくすこと。○〔拾遺記〕「―レ―係レ夜」。
〔步晷〕ひかげをはかること。○〔陸機〕「儀レ天―レ―而修短可レ量」。
〔暮晷〕ひぐれのひかげ。○〔白居易〕「―――迴焉」。
〔晨晷〕あさのひかげ。○〔謝莊〕「―――促二夕漏一」。

【晹】エキ、ヤク。羊益切　陌
日の雲に覆はれて暫らく見はるゝにいふ字、又、日に光なし、くらし。

【智】チ。知義切　寘
㊀物事を明かに知ること、さとり。○〔荀〕「知而有レ所レ合謂二之――一」。
㊁明かに知るを得る能、ちゑ。○〔孟〕「是非之心―之端也」。
㊂ちゑ多し、さとり敏し、さとし、さかしかしこし。○〔後漢〕「夙――早成」。
㊃才能ある者、かしこき人。○〔孔叢子〕「師レ賢而友レ―」。
㊄謀略、巧術、はかりごと、たくみ。○〔淮〕「――故消滅」。
〔多智〕ちゑおほし、たくみおほし、さとし。○〔史〕「滑稽――」。
〔任智〕ちゑ又はたくみにまかせて事を行ふ、又、かしこき人にまかす。○〔管〕「若任レ法而不レ―レ―」。
〔益智〕さとりを加へ増す。○〔中說〕「廣レ仁―レ―」。
〔藏智〕さときを匿してあらはさぬ。○〔文子〕「臣下―レ―而不レ用」。
〔戰智〕ちゑ又はたくみをあらはしたゝかはす。○〔中說〕「弱國―レ―」。
〔毒智〕ちゑをそこなふ。○〔說苑〕「―レ―莫レ甚二于酒一」。
〔深智〕淺はかならざるさとり、ふかきちゑ、又、ふかきたくみ。○〔韋應物〕「濟レ世有二――一」。
〔勇智〕たけき氣とちゑと。○〔書〕「天乃錫二王――一」。
〔才智〕心のはたらき。○〔吳、註〕「惠好レ學有二――一」。
〔仁智〕惠みあるとさとしと、なさけとちゑと。○〔東觀漢記〕「光武――明達多二權略一」。
〔術智〕はかりごと、たくみ。○〔虞集〕「――爲レ用二於外一」。
〔辯智〕（い）物事をわきまへ知ること。○〔道德指歸論〕「上レ義之君、――聰明」。（ろ）口まへの達者なること。○〔史〕「廼後申二其――一焉」。
〔獨智〕已れ一人かしこきこと。○〔荀悅〕「―――不レ容二于世一」。
〔竭智〕あくまでちゑをつかひ窮む。○〔屈平〕「―レ―盡レ忠」。
〔明智〕さとり、ちゑ。○〔崔駰〕「求二莫鄒於二――一」。
〔私智〕自分一個のちゑさとり。○〔史〕「奮二其――一而不レ師レ古」。
〔故智〕前人の嘗てはたらかしゝさとり、又、たくみ。○〔史〕「秦王祖二張儀之――一」。
〔賢智〕かしこきさとり、さときちゑ、又、かしこき人。○〔韓〕「――未レ足二以服一レ衆」。
〔盡智〕ちゑを窮めはたらかす。○〔史〕「竭レ忠―レ―」。
〔小智〕狹きさとり、ちひさきちゑ又はたくみ。○〔史〕「――自私兮」。
〔廉智〕正しきちゑ。○〔史〕「温良有二――一」。
〔舞智〕ちゑを巧みにはたらかす。○〔史〕「多レ詐、―レ―以御レ人」。
〔角智〕ちゑを爭ひたゝかはしむ。○〔後漢〕「―レ―者皆窮」。
〔膽智〕きも大くしてさときこと。○〔後漢〕「鄉邦稱二其――一」。
〔暴智〕さときことをあらはにてらふ。○〔後漢〕「―レ―耀レ世、因以干レ祿」。
〔內智〕深きちゑ。○〔列仙傳〕「呂尙生而――」。
〔靈智〕すぐれたるさとり。○〔晉〕「極二――之妙一」。
〔姦智〕よこしまなるちゑ又はたくみ。○〔管〕「民貪則――生」。
〔必智〕ちゑ。○〔南〕「―――薄劣」。
〔權智〕はかりごと。○〔宋〕「能以二――一御二臣下一」。
〔至智〕こよなきさとり、太だかしこし。○〔越絕書〕「有二――之明一者、必破二庶衆之議一」。
〔廣智〕大いなるさとり、大いなるちゑ。○〔文子〕「聰明――、守以レ愚」。
〔眞智〕まことのさとり。○〔文子〕「有二眞人一而後有二――一」。
〔達智〕さとりをとゞかす、又、ゆきとゞけるさとり。○〔文子〕「凡聽者將二以―レ―也」。
〔通智〕滯らざるさとり、又、さとし。○〔文子〕「――得而不レ勞」。
〔碎智〕くだ〳〵しきさとり、くだ〳〵しきたくみ。○〔鶡冠子〕「有二滑正之――一」。
〔巧智〕たくみ。〔張彪〕「商者多二――一」。
〔聰智〕かしこきこと。○〔中論〕「皆貞良――」。
〔天智〕明かなるさとり、生れつきのちゑ。○〔韓〕「託二于――一以思慮」。
〔萬智〕よろづに行きわたれるさとり。○〔韓〕「――翔酌焉」。
〔挾智〕かしこきをたのみにす。○〔韓〕「―レ―而問」。
〔奇智〕異常なるさとり、つねにかはりしちゑ。○〔賈誼〕「是必有二――一」。
〔餘智〕用ひ盡くさゞるはかりごと、又、ちゑ。○〔說苑〕「治二天下一有二――一」。
〔性智〕ちゑ。○〔論衡〕「――開敏」。
〔洪智〕大いなるさとり又はちゑ。○〔論衡〕「高才――」。
〔開智〕ちゑ。○〔前趙錄〕「容貌風儀機談――」。
〔開智〕さとりをあきらめひらく。○〔淨住子〕「―レ―生レ福」。
〔神智〕ちゑ、又、はなはだかしこし、又、すぐれたるちゑ、たくみ。○〔劉勰〕「鑒二其――一、識二其才能一」。
〔釋智〕ちゑをはたらかすことを停さむ。○〔賈誼〕「―レ―遺レ形兮」。
〔贍智〕足りあまれるちゑ。○〔夏侯湛〕「――宏材」。
〔殊智〕取り別けてすぐれたるちゑ又はたくみ。○〔劉長卿〕「丹青有二――一」。
〔偏智〕片よれるちゑ。○〔王康琚〕「――任二諸己一」。
〔敏智〕かしこし。○〔劉放〕「――通達」。
〔傑智〕すぐれてさとし。○〔沈亞之〕「――之才」。
〔冥智〕明かならざるちゑ。○〔鮑溶〕「窅機――難二思量一」。
〔烏鵲智〕かさゝぎのちゑ、卽ち、遠き患をおもんばかりて近き患を忘るゝことにいふ語。○〔淮〕「秦之設備也――之―也」。
〔老馬智〕としよりしうまのちゑ、卽ち、下に引く例よりやくざものにもとりえあることにいふ語。○〔韓〕「管仲從二桓公一伐二孤竹一失レ道、曰――之―可レ用也、乃放二老馬一而隨レ之遂得レ道」。
〔扣槃底智〕あらんかぎりのちゑをふるひはたらかすこと。○〔嘗〕「且吾投レ老―二――一―足以恕レ之」。

【⿰日侖】コン。古鈍切　願
日光、ひかり。

【⿰日制】晣に同じ、あきらか。○〔張衡〕「雖二司命一其不レ―」。

【晻】アン、オン。烏感切 感

障へてくらからしむ、おほふ、又、おほはれて明かならず、くらし。○〔漢〕「三光一一昧」。

【晻】エン。衣儉切 琰

アン、オン。烏紺切 勘

日に光なし、くらし。○〔楚辭〕「日一一而下」。

【暀】ワウ。于兩切 養

㊀光り美し、うるはし、うつくし。㊁めぐみ(德)。㊂よし(是)。

【暀】キヤウ、ガウ。具放切 漾

日光、ひかり。

【⿰日彔】リヨク、ロク。力玉切 沃

日に光無し、くらし。

【晼】エン、チン。於阮切 阮

景昳く、かたむく。○〔楚辭〕「白日一一其將レ入兮」。

〔晼々〕日のかたぶく貌にいふ語。○〔儲光羲〕「一一三伏時」。

【晽】リン。力尋切 侵

知るを欲する貌にいふ字。○〔淮〕「乃始昧一々一一」。

【晾】リヤウ。力讓切 漾

さらす(曬·暴)。

【⿰日昏】コン、ゴン。呼昆切 元

くらし(闇)。

【暁】曉の省字。

九畫

【暄】ケン、クワン。況袁切 元

日煖か、あたゝか、又、春晩、はるのすゑ。○〔劉峻〕「敘二溫·郁一則寒·谷成レ一」。

〔春暄〕はるのあたゝかきと。○〔詩、疏〕「入渦二一一則四·體舒·泰」。

〔晴暄〕くもりなくあたゝかなると。○〔吳萊〕「九日一一未レ隕レ霜」。

【晅】ケン、クワン。況晩切 阮

かわく、かわかす(乾)。○〔易〕「日以一レ之」。

【暅】コウ。居鄧切 徑

さらす(曝)。

【暆】イ。弋支切 支

移り行く、めぐる。○〔越絕書〕「日昭一々浸以一」。

【暇】カ、ゲ。胡駕切 禡

㊀いとま。

(い)燕晏、閒散、ひま。○〔書〕「不二敢自一自逸一」。

(ろ)休日、やすみ。○〔南〕「休一一之日」。

㊁壯大なるを愛し稱するにいふ字、さかんなり、おほいなり。○〔揚雄〕「凡物之壯·大者而愛偉レ之謂二之夏一周鄭之間謂二之一一」。

〔不暇〕いとまなし。○〔後漢〕「周文日·昃一レ一」。

〔閒暇〕いとま、ひま。○〔孟〕「國·家一一、及二是時一明二其政刑一」。

〔貫暇〕打ちくつろぎてひまなると。○〔後漢〕「富足「生平一一一」。

〔餘暇〕ひま、いとま。○〔盧琦〕「公事多一一一」。

〔歡暇〕よろこぶべきいとま。○〔陸倕〕「朝·府多二一一一」。

〔曉暇〕朝のいとまあるとき。○〔王勃〕「酌二丹·墀之一一」。

〔公暇〕おもてむきのやすみ、かみより賜はるいとま。〔韋應物〕「一一及二私·身一」。

「學」。

〔官暇〕前に同じ。○〔孔武仲〕「一一更將二桑·子一」。

〔逸暇〕やすらかにしてひまなると。○〔邵子洛陽懷古賦〕「或守二成一一一」。「一レ一」。

〔偸暇〕ひまをぬすむ。○〔歐陽修〕「官·事無·了須レ一」。

〔獨暇〕己れのみいとまあると。○〔晁補之〕「衆競方一一一」。「乘レ輿」。

〔小暇〕僅かばかりのいとま。○〔劉子翬〕「一一卽」。

【暈】ウン、チン。王問切 問

㊀かさ。

(い)日月の周旁をとり捲ける雲氣、ひがさ、つきがさ。○〔後漢〕「白·虹貫レ一」。

(ろ)火影の旁をとり捲ける氣。○〔韓愈〕「夢覺燈生レ一」。

㊁ひがさつきがさに似たる輪狀の痕跡、卽ち、斑紋など。○〔蘇軾〕「木有レ瘿石有レ一」。

㊂眩めく、くらむ、めまひ。○〔陸龜蒙〕「看レ花雖二眼一一」。

〔日暈〕ひがさ。○〔晉〕「一一五·重」。

〔月暈〕つきがさ。○〔淮〕「畫隨レ灰而一一闕」。

〔重暈〕ふたかさねのかさ。○〔晉〕「日有二一一一」。

〔白暈〕志ろきかさ。○〔晉〕「一一貫二月·北一」。

〔交暈〕入りまじれるかさ。○〔周書〕「日有二一一一」。

〔環暈〕まはりめぐれるかさ。○〔五〕「日有二冠·珥一一一」。

〔疊暈〕かさなれる輪狀の痕跡。○〔桂海虞衡志〕「斑·竹·中有二一一一」。

〔沁暈〕志みこみにじめる輪狀のあと。○〔古器評〕「一一一黯·漬」。

〔赬暈〕赤くにじめるわなりのあと。○〔古器評〕「或一一一爛·斑」。

〔油暈〕あぶらじみてかさの如きあとあると。○〔雲仙雜記〕「磨レ之有二一一一者一」。

〔薄暈〕うすきかさ。○〔張祜〕「霏々一一一縈」。

〔暗暈〕くらきかさ。○〔王安石〕「殘·燈生二一一一」。

〔酒暈〕さけのみてくらむと。○〔尤袤〕「森·醉方酣一一一深」。

〔醉暈〕酒にゑひて眼くらむと。○〔劉因〕「一一浮二「□·園一」。

【暉】キ。許歸切 微 ｜或は煇に作る。

光氣、ひかり、又、ひかりを發す、ひかる、てる、かゞやく。○〔易〕「君子之光其一吉也」。

〔淸暉〕きよきひかり。○〔謝靈運〕「山·水含二一一」。

〔斜暉〕ゆふ日のひかり。○〔徐陵〕「岸·水帶二一一」。

〔夕暉〕前に同じ。○〔王維〕「蒼·茫對二一一一」。

〔落暉〕前に同じ。○〔蘇軾〕「西·閣朱·簾捲二一一一」。

〔殘暉〕前に同じ。○〔譚用之〕「弄レ花何處醉二一一一」。

〔晩暉〕前に同じ。○〔王筠〕「霞·夭進二一一一」。

〔光暉〕ひかり。○〔易、疏〕「一一著·見」。

〔流暉〕ながれゆく日のひかり、かへらぬひかげ。○〔劉希夷〕「相歎惜二一一一」。

〔朝暉〕あさ日のひかり。○〔魏文帝〕「扶·桑生二一一一」。

〔晨暉〕前に同じ。○〔高閭〕「一一疊レ旦」。

〔炎暉〕あつききびしき日のひかり。○〔項斯〕「便覺少二一一一」。

〔耿暉〕あきらかなるひかり、あきらかにひかる。○〔陸雲〕「仰二勵·華之一一一」。

〔鮮暉〕前に同じ。○〔文向〕「一一散二淸·漪一」。

〔詭暉〕ふしぎなるひかり。○〔海賦〕「瑕·石一一一」。

〔暉暉〕かゞやきひかる貌にいふ語。○〔韓愈〕「一一一·日暖且鮮」。「岸」。

〔金暉〕(い)秋の日のひかり。○〔駱賓王〕「一一一照レ」。

(ろ)こがねのひかり。○〔戴表元〕「水·菊黄一一一」。

〔韶暉〕あきらがにかゞやく、あきらかなるひかり。○〔皮日休〕「半·甸飄·灑掩二一一一」。

〔奔暉〕速かにはせさるひかり、又、はせさるひかげ。○〔劉子翬〕「一一不二肯停一」。

【暊】フ。孚武切 麌

あきらか(明)。

【暋】ビン、ミン。眉殞切 軫

彌鄰切 眞

つよし、（强）。○〔書〕「—不レ畏レ死」。

【暋】ビン、ミン。眉貧切 眞 コン、ゴン。呼昆切 元

【㬰】ト、ツ。通都切 虞 悆に同じ、もだゆ、むすぼる。○〔莊〕「慰—沈—屯」。ひかげ（日陰）。

【暌】ケイ、ケ。去圭切 齊 たがふ（違）。

【[illegible]】タイ、ダイ。堂來切 灰 日出づ、いづ。

【暍】エツ、エチ。於歇切 月 暑氣に中たること、暑氣に苦しむこと、又、あつけの病。○〔漢〕「夏大旱民多—死」。
〔宛暍〕熱さにそこなはる。○〔荀〕「使三民夏不二—・—一」。
〔扇暍〕熱さにくるしむをあふりさます。○〔梁簡文帝〕「行二—・—之慈一」。
〔暑暍〕あつけにあたる。○〔論衡〕「—・—而死」。
〔熱暍〕嚴しきあつさにくるしむこと。○〔酉陽雜俎〕「—・—致レ損」。

【暍】アツ、アチ。阿葛切 曷 かゞやく（煥）。

【暍】カツ、カチ。許葛切 曷 あつし（熱）。

【暎】映に同じ、てらす、うつる、てる、うつす。○〔陸機〕「雙情交—」。

【暏】トッ。當古切 麌 あけぼの、よあけ、あかつき（旦明）。

【暏】曙に同じ。

【暒】晴に同じ。

【暐】ヰ。于鬼切 尾 光の盛んなる貌にいふ字、又、日光、ひかり。○〔曹植〕「亥素之—・—」。

【[illegible]】タン、テン。丑晏切 諫 赤き色、あか、あかし。

【[illegible]】タン、テン。丑赧切 潸 溫かく濕ほふ貌にいふ字。

【暑】ショ、ソ。舒呂切 語 ㊀あつし、あつさ（熱）。○〔漢〕「其性耐レ—」。㊁夏の季節。○〔漢〕「大—終二於張一十七度」。
〔溽暑〕むしあつし。○〔柳宗元〕「南州—・—醉如レ酒」。
〔蒸暑〕前に同じ。○〔北〕「夏月—・—」。
〔燠暑〕前に同じ。○〔洛陽名園記〕「窮夏—・—」。
〔蘊暑〕前に同じ。○〔劉克莊〕「逢二驕陽之—・—一」。
〔盛暑〕極めてあつさのきびしきこと。○〔宋〕「雖二—・—必公服坐二堂上一」。
〔隆暑〕前に同じ。○〔陸機〕「—・—固已慘」。
〔烈暑〕前に同じ。○〔唐〕「雖二祁寒—・—一無二懈容一」。
〔劇暑〕前に同じ。○〔宋〕「時方—・—」。
〔炎暑〕前に同じ。○〔儲光羲〕「六月無二—・—一」。
〔虐暑〕前に同じ。○〔陸機〕「—・—熏レ天不レ減二堅氷之[illegible]一」。
〔焦暑〕前に同じ。○〔王羲之〕「三伏—・—」。
〔濃暑〕前に同じ。○〔楊億〕「幾程郵驛經二—・—一」。
〔毒暑〕前に同じ。○〔白居易〕「驕陽連二—・—一」。
〔逐暑〕あつさをおひはらふ。○〔晉〕「秋風—レ—」。
〔療暑〕あつさをいやしけす。○〔中論〕「—レ—莫レ如レ親レ氷」。
〔銷暑〕前に同じ。○〔白居易〕「能就二江樓一—レ—否」。
〔隱暑〕あつさをさけかくる。○〔陸龜蒙〕「柳影好二—・—一」。
〔殘暑〕夏すぎてあつさののこれること。○〔白居易〕「—・—蟬催レ盡」。
〔餘暑〕前に同じ。○〔林景熙〕「風高—・—盡」。
〔薄暑〕すこしのあつさ。○〔陸游〕「—・—始知春已去」。
〔驟暑〕にはかのあつさ。○〔貫休〕「—・—消二雨餘一」。

【暓】ボウ、ム。莫候切 宥 亂れて明か。

【[illegible]】俗の曼の字。

【暕】カン、ケン。古限切 潸 陰れる且に日光あきらかなること。

【[illegible]】ラン。郎干切 寒 かげぼし（陰乾）。

【[illegible]】ヲン。烏昆切 元 日出でて溫かなること、あたゝか。

【[illegible]】暖に同じ。○〔陸游〕「烘—花無二徑レ日蓮一」。

【[illegible]】クワン。戶管切 旱 あきらか（明）。

【暖】ダン、ナン。乃管切 旱 ㊀寒熱度に適するにいふ字、あたゝか、あたゝかし。○〔禮〕「行二春令一則—・—風來至」。㊁あたゝかならしむ、あたゝむ。○〔元積〕「煦二—・—寒禽一」。㊂あたゝかくなる、あたゝまる。○〔白居易〕「鳶飽凌レ風飛、犬—向レ日眠」。
〔明暖〕あかるくあたゝかなること。○〔白居易〕「—・—嵐可レ愛」。
〔和暖〕のどかにあたゝかきこと。○〔杜甫〕「亭午頗—・—」。
〔暄暖〕あたゝか。○〔朱光〕「春寺尋二—・—一」。
〔醉暖〕酒に醉ひてあたゝかなること。○〔白居易〕「—・—脫二重裘一」。
〔飽暖〕あくまで食ひあたゝかにきること、衣食に不自由なきこと。○〔趙抃〕「人家—・—更何憂」。

【暖】ケン、ガン。許元切 元 ケン、クワン。火遠切 阮 柔和なる貌にいふ字、やはし。○〔莊〕「有二—・—姝者一」。
〔柔暖〕やはらかなること。○〔埤雅〕「鵝毛—・—而性冷」。

【暗】アン、オン。烏紺切 勘 鄔感切 感 ㊀明かならず、くらし。○〔晉〕「識—二鳴蛙一智昏二文蛤一」。㊁幽隱、ふかし。○〔揚雄〕「稍—・—而靚深」。㊂くらきこと、くらき所、くらがり、やみ。○〔符子〕「去レ—而赴レ燈」。㊃夜。○〔晉〕「車駕逼レ—乃還」。
〔黑暗〕（い）犀獸の名。○〔酉陽雜俎〕「海買以二象牙一爲二白暗一、以レ犀爲二—・—一」。（ろ）くらし。○〔淨住子〕「—・—所レ纏」。
〔短暗〕淺はかにしてくらし。○〔北〕「性理—・—」。
〔汨暗〕かくれて明かならぬ。○〔唐〕「皆—・—無レ所二撥拾一」。
〔迷暗〕心疑ひ惑ひて明かならぬ。○〔宋〕「昔之惑レ人也乘二北—・—一」。
〔閉暗〕塞がり明かならぬ。○〔論衡〕「—・—不レ覽二古今一」。
〔昏暗〕かけて明かならぬ。○〔荀爽〕「以二—・—一、何當二茲遊一」。
〔輕暗〕薄ぐらし。○〔梁元帝〕「細柳浮二—・—一」。

〔結晻〕むすぼれくらきこと。〇〔江總〕「——生ㇾ陰」。

【暘】ヤウ。與章切　陽
㈠日出、ひので。〇〔書〕「宅二嵎夷一曰二—谷一」。
㈡かわく、かわかす（乾）。〇〔書〕「曰雨、曰—」。
㈢あきらか（明）。〇〔論衡〕「天晏—者」。

【晬】カン。居案切　翰
旰に同じ、くろ、くれ。

十畫

【暚】エウ。餘招切　蕭
㈠日光、ひかり。㈡あきらか（明）。

【[日+隺]】クワク。忽郭切　藥
暫く明か、あきらか。

【暛】サ。想可切　哿
㈠日西に春く、くれかゝる。㈡あきらか（明—朗）。

【[日+翕]】キフ、コフ。乞及切　緝
さらす（曝）。

【[日+蚤]】サウ、ソウ。蘇遭切　豪
日の色。

【暷】ハク。伯各切　藥
さらす（曝）。

【[日+梟]】ケウ。吉了切　篠
あきらか（明）、一說に、淸く別るゝ貌にいふ字。

【[日+𥁕]】
𥁕の本字。

【暟】カイ、ケ。苦亥切　賄
㈠てらす（照）。〇〔揚雄〕「—臨-照也」。
㈡うつくし（美）。〇〔揚雄〕「——美-德也」。

【暠】カウ、コウ。古老切　晧
皓に同じ、しろし。〇〔漢〕「——然白-首」。

【[日+桑]】サウ。四浪切　漾
かわかす、ほす。

【[日+亙]】
晅に同じ。

【[日+盍]】アウ。於浪切　漾
—[日+能]は、日に光りなし、くらし。

【[日+能]】ダイ、ナイ。奴代切　隊　曩亥切　賄
乃帶切　泰
前條を見よ。

【暡】ヲウ、ウ。鄔孔切　董
日明かならず、天氣明かならず、くらしくもる。

【暢】チヤウ、タウ。丑亮切　漾
㈠のぶ。
（い）通達す、とほる、とほす、とゞく。〇〔易〕「美在二其中一而—二於四-支一」。
（ろ）みつ（充）。〇〔禮〕「命ㇾ之曰二———月一」。
（は）長ず。〇〔史〕「夸-條直—」。
（に）和ぐ。〇〔晉〕「雖二神-識恬——一而無二經-世大-略一」。
（ほ）說く。〇〔越絕書〕「沭二—往-事一」。
㈡琴の曲。〇〔風俗通〕「命二其曲一曰ㇾ—」。

〔敷暢〕布きのぶ。〇〔書、序〕「約ㇾ文申ㇾ義、—二——厥旨一」。
〔條暢〕のびて屈める所なきこと。〇〔禮〕「感二———之氣一」。
〔曲暢〕つぶさにのぶ。〇〔太學、序〕「深造——」。
〔四暢〕四方にのびとゞく。〇〔邢邵〕「神-功——」。
〔曉暢〕覺り知ること。〇〔蜀〕「——二軍-事一」。
〔酣暢〕酒興たけなはにして心のびのびす。〇〔劉禹錫〕「——浹二映-樾一」。「哉」。
〔舒暢〕のび通ぞ。〇〔柳宗元〕「豈復久爲二——」。
〔調暢〕和ぐ。〇〔陶弘景〕「氣-宇——」。
〔宣暢〕のべ通ぞ。〇〔後漢〕「——二恩-澤一」。
〔旁暢〕あまねくのぶ。〇〔史〕「武-威——」。
〔上暢〕昇りとゞく。〇〔史〕「——二九-垓一」。
〔究暢〕きはめのぶ。〇〔後漢〕「未二敢——一」。
〔通暢〕滯れる所なし、とほる、とほす。〇〔曹植〕「性——以二聽-惠一行」。
〔高暢〕氣たかくやはらぐ、又、たかくのぶ。〇〔魏〕「聲-姿——」。
〔邕暢〕和ぐ。〇〔吳〕「皇-風——」。
〔愓暢〕平かに伸ぶ。〇〔吳〕「德-音——」。
〔洽暢〕あまねくとゞく。〇〔晉〕「德-行——」。
〔朗暢〕はがらかにのぶ。〇〔嘯旨〕「風-雲——」。
〔和暢〕やはらぐ。〇〔晉〕「惠-風——」。
〔閑暢〕しづかにのぶ。〇〔晉〕「神-色甚——」。
〔懽暢〕よろこびやはらぐ。〇〔晉〕「皆人-人——」。
〔遠暢〕はるかのあなたまでもとゞく。〇〔馮衍〕「威-風——」。
〔流暢〕すらすらとして滯る所なし。〇〔南〕「音-辭「——」。
〔協暢〕和ぎ通ぞ。〇〔宋〕「八-音——」。
〔諧暢〕調ひやはらぐ。〇〔南〕「風-神——」。
〔雄暢〕をゝしくのびとゞく。〇〔北〕「音-氣——」。
〔鴻暢〕大にのぶ。〇〔宋〕「音-吐——」。「—」。
〔明暢〕あきらかにしてとほる。〇〔宋〕「音-吐—
〔敍暢〕事ひのぶ。〇〔淮〕「——二于宇宙之間一」。
〔休暢〕めでたくとゞく。〇〔李陵〕「榮-聞——」。
〔發暢〕發育す。〇〔急就篇、註〕「仁及二草-木一、皆———也」。
〔顯暢〕あらはれのぶ、あらはしのぶ。〇〔十六國春秋〕「慈-仁——」。
〔演暢〕のぶ。〇〔荀最〕「洪-恩——」。
〔播暢〕のぶ。〇〔樂府襄陽大守歌〕「文-武——」。
〔遐暢〕遠く行きわたる。〇〔薛道衡〕「帝-德——」。
〔布暢〕ちきのぶ。〇〔張協〕「和-風穆以——」。
〔博暢〕廣く行きわたる。〇〔獨孤及〕「洞-然而——」。「義-理——」。
〔融暢〕とけやはらぐ、ときやはらぐ。〇〔黃庭堅〕

【暣】キ、ケ。丘旣切　未
日の氣。

【暵】カン。居案切　翰
かわく、かわかす（乾）。

【[日+羊]】ヤウ、シヤウ、余章切　徐羊切　陽
サウ。
㈠こがす（焦）。㈡あきらか（明）。

【㬎】ケン。呼典切　銑　カフ、ゴフ。
キン、ゴン。渠飲切　寑　鄂合切　合
〔說文〕从二日中視一ㇾ絲。
㈠衆口の貌にいふ字。㈡まゆ（繭）。
㈢微妙、たへ。㈣衆多のもの ゝ明かなること。㈤いちじるし（著）。
㈥ひかる（光）。㈦頭の明飾。

【[日+鬲]】レキ、リヤク。狼狄切　錫
あきらか（明）。

【暤】カウ、ゴウ。胡老切　晧
きよし、あきらか、皓旰。

【[日+晏]】アン、エン。於諫切　諫
廣くして遠し、とほし、ひろし。

【[日+所]】ショ、ソ。所菹切　魚
さらす（晒）。

十一畫

【暩】ケイ、ケ。古惠切　霽
ひかり（光）。

【曥】俗の曫の字。

【暷】バウ、マウ。模朗切 養

日に光り無し、明かならず、くらし。

【暩】ヘウ。並妙切 嘯 紕招切 蕭

さらす、(曬)、ほす、かわかす、(乾)。

【暭】カウ、ゴウ。胡刀切 豪

もさる、(戾)。

【暪】ボン、モン。母本切 阮

くらし、(暗)。

【暫】ザン、ゾン。藏濫切 勘

時を經る久しからざるにいふ字、わづかの間、しばらく、しばし、にはか。○〔書〕「｜遇ニ姦宄ニ」。

【暬】セツ、セチ。私列切 屑 デフ、テフ。諸叶切 葉

㊀狎れて相慢る、なる。○〔詩〕「曾我｜御」。
㊁嫇晦、くらし、やみ。

【暤】カウ、ゴウ。胡老切 皓

きよし、あきらか、晧旰。○〔莊〕「｜｜天不レ宜」。

【暥】オウ、ウ。於候切 宥

あたゝか、あたゝむ、(暖)。

【暯】サウ、ソウ。財勞切 豪

日光。

【暮】ボ、ム。莫故切 遇

㊀くろ。
(い)日沒して暗くなる、ひくろ。○〔史〕「日｜途遠」。
(ろ)時末尾となる。○〔陸機〕「怨ニ彼河無レ梁、悲ニ此年歲｜ニ」。
(は)年老ゆ、さしよる。○〔南〕「不レ謂三疲｜復逢ニ於君ニ」。
㊁くるゝと、くるゝ時、ひぐれ、ゆふべ、くれ。○〔管〕「日有ニ朝｜ニ」。
㊂よる、(夜)。○〔楚辭〕「｜去レ次而敢止」。
㊃おそし、(晚)。○〔呂氏春秋〕「學レ德未レ｜」。
㊄くらし、(冥)。○〔枚乘〕「烟雲闇｜」。

(薄暮) 日のまさにくれなんとするとき。○〔潘方生〕「晨風悽々兮｜｜」。
(晨暮) 夜のあけと日の晚と、又、每日の義にいふ語。○〔杜甫〕「風浪無ニ｜｜ニ」。
(旦暮) 前に同じ。○〔莊〕「是｜｜遇レ之也」。
(長暮) 日おもむろにくる、又、ながきよる。○〔古詩〕「杳々即｜｜」。
(商暮) 秋の夕ぐれ。○〔晉〕「｜｜百工止」。
(晚暮) 日ぐれ。○〔隋〕「光陰｜｜」。「下」。
(暮々) 日のくれ。○〔宋玉〕「朝々｜｜陽臺之下」。
(夕暮) ゆふぐれ。○〔潘尼〕「｜｜無ニ停流ニ」。
(行暮) ゆくゆく日くる。○〔陸雲〕「感ニ年華之｜｜兮」。
(幽暮) しづかに日くる、しづかなるひぐれ。○〔木華海賦〕「惚怳｜｜」。
(冥暮) くらし。○〔顏延之〕「負ニ報｜｜ニ」。
(衰暮) 年とりおとろふ。○〔顏延之〕「｜｜反ニ輕年ニ」。
(末暮) くる。○〔顏延之〕「｜｜謝ニ幽貞ニ」。
(萎暮) しをれて末となる。○〔王融〕「同歲草以｜｜」。
(澆暮) 薄くなり衰ふると、時勢の末尾となれると。○〔鮑照〕「世道｜｜」。「｜｜ニ」。
(垂暮) おちぶれとしよる。○〔江淹〕「憐ニ佳人之｜｜ニ」。
(淪暮) 前に同じ。○〔沈約〕「收屛｜｜ニ」。
(閑暮) 靜かなる日のくれ。○〔沈約〕「以慰ニ｜｜ニ」。
(惜暮) 年のくれ果つるを殘りをしく思ふ。○〔謝冬曦三門賦〕「撫｜レ｜而悲吟」。
(垂暮) くれ果てなんとす。○〔張元幹〕「年華｜レ｜猶離索」。
(殘暮) くる。○〔白居易〕「｜｜瞑來散」。
(遲暮) としよる。○〔楚辭〕「恐ニ美人之｜｜ニ」。

【暯】バク、マク。末各切 藥

くらし、(冥)。

【暰】シヨウ、ジユ。七恭切 冬

いなびかり、(電光)。

【暱】クワウ、ワウ。虎晃切 養

旱熱、あつさ、あつし。

【暱】ヂツ、ニチ。尼質切 ジツ、ニチ。入質切 質

㊀ちかづく、(近)。○〔詩〕「無ニ自｜ニ」。
㊁したしむ、(親)。○〔左〕「不義不レ｜」。

【暲】シヤウ、サウ。諸良切 陽

㊀日上り進む、すゝむ。
㊁章に同じ、あきらか。

【暬】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪

日光、ひかり。

【暳】ケイ、ケ。呼惠切 霽

㊀衆くの星の貌にいふ字。
㊁小さき星。

【暴】バウ、モウ。薄報切 號

㊀殘害す、あらす、そこなふ、やぶる。○〔禮〕「田不レ以レ禮曰レ｜ニ天物ニ」。
㊁物事をそこなひやぶると、妄行することを、あらし、よこしま、又、其の者。○〔孟〕「凶歲子弟多レ｜」。
㊂いさ疾し、はげし、あらし、さし、はやし。○〔詩〕「終風且｜」。
㊃空手にて搏つ、てうつ。○〔詩〕「襢裼｜レ虎」。
㊄にはか、(猝)。○〔史〕「何與之｜也」。

(陵暴) 他をしのぎそこなふと。○〔易、疏〕「剛强者不ニ復｜｜ニ」。
(禁暴) みちにはづれてよこしまなる者をおさへ止むると。○〔禮〕刑｜レ｜」。
(止暴) 前に同じ。○〔陳後主〕「惟刑｜レ｜」。
(制暴) 前に同じ。○〔道德指歸論〕「誅レ驕｜レ｜」。
(多暴) よこしまなる者おほきと。○〔孟〕「凶歲子弟｜レ｜」。「｜｜者」。
(浮暴) あらくして靜かならざると。○〔國〕「驕躁」
(勝暴) あらくよこしまなる者を制すると。○〔漢〕「其威足ニ以｜レ｜」。
(剛暴) つよくあらくしきと、又、其の者。○〔五〕「雖ニ太祖｜｜、亦嘗畏レ之」。
(强暴) 前に同じ。○〔北〕「外討ニ｜｜ニ」。
(猛暴) 前に同じ。○〔北〕「虎狼｜｜」。
(桀暴) 道にあきらかならずして妄行すると、又、其の者。○〔書〕「殖ニ有禮覆ニ｜｜ニ」。
(酷暴) むごくして物事をそこなふと。○〔北〕「皆以ニ｜｜ニ爲レ名」。「嚴ニ」。
(刻暴) 前に同じ。○〔魏〕「行事以ニ｜｜ニ爲ニ公」。
(侵暴) おかしあらすと。○〔漢〕「非レ有レ所ニ｜｜ニ」。
(卒暴) にはかなると。○〔漢〕「興ニ｜｜之作ニ」。
(苛暴) きびしくあらきと。○〔漢〕「惟｜｜吏多ニ拘繫ニ」。
(橫暴) よこしま。○〔晉〕「寇賊｜｜」。「免レ官」。
(虐暴) しへたげそこなふ。○〔北〕「坐ニ｜｜殺レ人」。
(鈔暴) かすめあらす。○〔唐〕「無ニ城郭好ニ｜｜ニ」。「戍卒｜｜不法」。
(恣暴) おもひのまゝによこしまをなすと。○〔宋〕「｜｜」。
(驕暴) おごりてよこしまなると。○〔荀〕「非ニ｜｜也」。「與交ニ」。
(傲暴) 前に同じ。○〔管〕「驕倨｜｜之人、不レ可ニ」。
(慢暴) 前に同じ。○〔荀〕「大心則｜而｜」。
(剛暴) よこしまなる者を刑戮にあつ。○〔韓〕「賞レ賢｜レ｜」。
(威暴) よこしまなる者をおどかしとゞむ。○〔劉孝綽〕「剛毅足ニ以｜レ｜」。

（暴々）卒かに起る貌にいふ語。○〔管子〕「貨財一一如二水源一」。

【暴】ホク、ボク。蒲木切［屋］
㊀さらす、（曬）。○〔孟〕「一一日一レ之」。㊁かわく、（乾）。○〔荀〕「雖レ有二槁一一」。㊂あらはす、（顯）。○〔孟〕「一二之於民一而民受レ之」。㊃あらはる、（露）。○〔後漢〕「近事一一著」。
（涼暴）風にあてさらす。○〔蘇軾〕「一一困二餘卷一」。
（揚暴）たりあらはる、又、あらはす。○〔鄒陽〕「名姓粗一一」。
（秋陽暴）秋の日にて乾かす。○〔孟〕「一一以一」。

【暴】ハク、ホク。北角切［覺］
㊀枝葉稀疏にして均しからざるを、まばら。㊁乾撓す、かわきたわむ、かわかしたわむ。㊂墳起す、うごもつ、おこる。

【㬥】ハク、白各切［藥］ホク、蒲沃切［沃］バク。ボク。
前條の㊀に同じ。

【暵】カン、呼旱切［旱］呼肝切［翰］
㊀さらす、（曝）、かわかす、（乾）。○〔傳休奕〕「耕一一不レ熟」。㊁しぼむ、（萎）、かわく、（乾）。○〔詩〕「一其乾矣」。㊂あつし、あつさ、（熱）。○〔周〕「旱一一則舞レ雩」。
（炎暵）あつさ、ひでり。○〔劉菩〕「田畯訴二一一一」。
（暵々）日の物を燥かす貌にも、しぼむ貌にも、あつき貌にもいふ語。○〔鄒子〕「一一然如二日之正中一也」。
（乾暵）かわく、かわかす。○〔鄒侠〕「淫潦仍一一」。

【曠】セン、ゼン。旬宣切［銑］
㊀あきらか、（明）。㊁うるはし、（美）。

十二畫

【瞭】レウ、憐蕭切［蕭］
あきらか、（明）。

【㬗】
晛に同じ。

【暹】セン、ソン。息廉切［鹽］
日光升る、のぼる、又、日出、ひので。

【暺】タン、ダン。徒案切［銑］
咀に同じ、あきらか。

【曥】ソク。蘇谷切［屋］
㊀かわく、（燥）。㊁さらす、（暴）。

【暻】ケイ、キヤウ。倶永切［梗］
あきらか、（明）。

【㬙】井。于鬼切［尾］
暐に同じ、日光

【暼】ヘツ、ベチ。普蔑切［屑］
日の落つる勢にいふ字。

【㬚】テツ、テチ。敕列切［屑］
あきらか、（明）。

【㬛】キフ、コフ。迄及切［緝］
日の物を乾かすにいふ字。

【㬨】クツ、コチ。許勿切［物］
明かならず、くらし。

【暾】トン。他昆切［元］
旭日、あさひ、ひので。○〔楚辭〕「一将レ出二兮東方一」。
（朝暾）あさ日。○〔張九齡〕「衆妍在二一一一」。
（曉暾）前に同じ。○〔劉宰〕「要レ上二扶桑一看中一一」。
（晨暾）前に同じ。○〔朱熹〕「百嶂明二一一一」。
（海暾）うみの日ので。○〔周權〕「一一紅處訪二仙山一」。

【㬟】カン、コン。苦濫切［勘］
日の出づる貌にいふ字。

【曍】
熹に同じ。

【暿】キ、許己切［紙］
㊀盛んなる貌にいふ字。㊁あつし、（熱）。

【曀】エイ、アイ。壹計切［霽］イ。乙冀切［寘］エツ、エチ。一結切［屑］
㊀翳をなす、かざす、おほふ。○〔爾疏〕「雲風一二日光一」。㊁日光おほはる、くもる、くもりて風吹く、かぜふく。○〔詩〕「終風且一」。㊂明かならず、くらし。○〔小爾〕「幽一闇昧冥也」。
（曀々）空くもりて風ふく、又、くらし。○〔詩〕「一一其幽」。
（陰曀）前に同じ。○〔劉基〕「白日慘一一」。
（雲曀）風ふきて空くもる。○〔楚辭〕「然一一而莫レ達」。
（霾曀）土けぶり立ちくもる。○〔木華〕「一一潛銷、莫レ振莫レ竦」。
（煙曀）けぶりたちくもる。○〔鮑照〕「一一越レ嶂深」。「無二一一一」。
（塵曀）ちりたちくもる。○〔顧况〕「大法現レ前、了無二一一一」。
（昏曀）くもる、又、くらし。○〔陳子昂〕「一一無二晝夜一」。
（氛曀）くもる。○〔湛賁日五色賦〕「斂二天宇之一一」。
（晻曀）空くらくなりくもる、又、くらし、又、おほふ。○〔姚希孟〕「白二一一一而晏翔」。

【曁】キ、ケ。居氣切［未］
㊀日頗る見ゆ、あらはる。㊁與に同じ。
（い）くみす、あづかる。○〔書〕「朔南一一」。
（ろ）と、ともに。○〔書〕「汝羲一レ和」。
㊂果毅の貌にいふ字、おもひきりつよし、つよし。○〔禮〕「戎容一一一」。㊃いたる、（至）、およぶ、（及）。○〔國〕「上求レ不レ一」。

【暨】キツ、ゴチ。戟乙切［質］
たばる、（已）。

【曚】ソウ、シユ。蘇公切［東］
白き貌にいふ字、しろし。

【曠】クワウ、ワウ。胡曠切［漾］
一眼は、明かなる貌にいふ語。

【曃】タイ。他代切［隊］
㊀明かならず、くらし。○〔博雅〕「一一曖曃一杳也」。㊁翳ふ、かざす。○〔楚辭〕「曖一一其曭莽兮」。

【曄】エフ。筠輒切［葉］イフ。爲立切［緝］
㊀かゞやく、（光）、又、あきらか、（明）。○〔後漢〕「列缺一其照レ夜」。㊁盛んなる貌にいふ字、さかんなり。○〔漢〕「世祖一一一」。

〔曄曄〕ひかりかゞやく。○〔白居易〕「春華何ーー」。
〔鏘曄〕前に同じ、さかんなり。○〔鍾會〕「粉葩ーー」。
〔煒曄〕前に同じ。○〔王禹偁〕「齊名何ーー」。
〔韡曄〕前に同じ。○〔王令〕「行義不ニーー」。

【曆】レキ、リヤク。郎擊切 錫

㊀かたどる（象）。○〔書〕「ーニ象日月星辰ー」。
㊁かぞふ（算）。○〔莊〕「巧ーー不レ能レ得」。
㊂日月星辰の躔度運行。○〔素問〕「上應ニ天光星辰ー紀ー」。
㊃日月星辰の躔度運行をはかりかたどること。○〔大戴禮〕「羲和司レー」。
㊄日月星辰の躔度運行をはかりかたどる方術。○〔淮〕「星月之行可ニ以レー推得ー」。
㊅季節、月日、其の他一切の時令をしるせる記錄、こよみ。○〔太元〕「ー則編レ時」。
㊆運命、まはりあはせ。○〔陸機〕「ーー命應レ化而微」。
㊇計數、かず。○〔管〕「此其大ーー也」。
㊈日子、歲月、季節、ひかず、としつき、とき。○〔史〕「以レ是占レー」。
㊉年壽、よはひ。○〔劉禹錫〕「豈意遘ニ茲短ーー奄謝ニ昌辰ー」。
⑪年代、よ。○〔漢〕「周過ニ其ーー秦不レ及レ期」。
⑫日記。○〔志林〕「子宜下置ニ一卷ーー書之所レ爲夜必書上レ之」。

〔治曆〕こよみををさめたゞすこと。○〔易〕「君子以ーレー明レ時」。
〔律曆〕陰陽曆法のこと。○〔史〕「丞相張蒼好ニーーー」。
〔星曆〕曆法のこと。○〔史〕「黃帝考ニ成ーーー」。
〔班曆〕こよみを分つ。○〔隋〕「庚午ーニーー於突厥ー」。
〔改曆〕こよみを新にかふ。○〔史〕「漢ーレー以ニ正月爲ニ歲首ー」。
〔推曆〕こよみを計算す、天文をはかりかたどる。○〔王縉〕「ーレ正レ元」。
〔步曆〕天象をかたどりかぞふる術。○〔唐〕「善ーー屬文通ニーーー」。
〔按曆〕こよみをしらぶ。○〔後漢〕「ーレー而候レ之」。
〔校曆〕前に同じ。○〔王勃〕「容成ーレー」。
〔算曆〕算數と曆法と、又、かぞふ。○〔晉〕「妙ニ于陰陽ーーー」。「ーレー」。
〔纂曆〕こよみをあつめ作ること。○〔隋〕「高祖將レ期ーー以從ニ天道ー」。
〔誤曆〕まちがひのあるこよみ。○〔北〕「宜下改ニーー」「能及ー矣」。
〔籌曆〕かぞ、又、かぞふ。○〔唐〕「則非ニーー之所ニ言辭俯仰之間ー」。
〔簿曆〕帳面と計算と。○〔唐〕「皆在ニ書判ーーー」「ー」。
〔撰曆〕こよみをえらび作る。○〔劉歆〕「張蒼ーレ」。
〔三統曆〕漢の劉歆の作りしこよみ。○〔漢〕「向子歆究ニ其微眇ー作ニーーーー及譜ー」。
〔太初曆〕漢の射姓等のつくりしこよみ。○〔漢〕「各自增減以造ニ漢ーーーー」。
〔皇極曆〕隋の時代中になれるこよみ。○〔隋〕「名曰ニーーーー」。
〔大衍曆〕唐の開元中に僧の一行詔をうけて作りたるこよみ。○〔唐〕「及ニ一行作ニーーーー、詔ニ太史ニ測ニ天下之晷ー」。
〔景初曆〕魏の明帝の時につくられしこよみ。○〔魏〕「改ニ太和曆ー曰ニーーーー」。
〔欽天曆〕五代の時に王朴の作りしこよみ。○〔五〕「步ニ日月五星ー爲ニーーーー」。
〔萬年曆〕元の至元四年に西域の人の作りたるもの。○〔元〕「西域北馬魯丁撰ニ進ーーーー」。

【曇】タン、ドン。徒含切 覃

㊀雲布く、しく、くもる。○〔陸雲〕「雲ーーー而疊結兮」。
㊁布ける雲。○〔楊愼〕「月華揚ニ彩ーーー」。
㊂黑雲の貌にいふ字。○〔江淹〕「海外降兮氣ーーー」。
〔瞿曇〕釋迦世尊の稱。○〔蘇軾〕「坐令ニ瞿曇ー」。

【嘌】ヘウ。匹妙切 嘯

風日に當て乾かす、かわかす、ほす。

【曈】トウ、他紅切 東　ツ。他孔切 董

日明かならんとす、あけかゝろ、又、日出づ、あきらか。○〔李白〕「已見日ーーー」。

【曉】ケウ、ゲウ。呼晶切 篠

㊀曙明、あけがた、あけぼの、よあけ、あかつき。○〔晉〕「向レー辭去」。
㊁あきらか（明）。○〔淮〕「冥々之中獨見ニ其ーー」。
㊂明かに知る、さとる。○〔唐〕「孝通未レー」。
㊃さとらしむ、さとす。○〔史〕「指ニーー南越ー」。
㊄あかす、まうす（白）。○〔漢〕「未レーニ大將軍ー」。
㊅さとし（慧）。○〔南〕「少通ーー博涉ニ經史ー」。
㊆はやし（快）。○〔揚雄〕「ー快也、自レ關而東或曰レー」。
㊇すぐ（過）。㊈あまる（羸）。

〔昏曉〕ひぐれとあけがたと。○〔白居易〕「ーーー錯ニ星辰ー」。
〔五曉〕五更といふに同じ、今の午前四時ごろ。○〔李白〕「夜々達ニーーー」。
〔通曉〕わたり知ること。○〔北〕「邵博覽ニ墳籍ー無レ不ニーーー」。
〔洞曉〕前に同じ。○〔宋〕「無レ不ニーーー」。
〔明曉〕あきらかに知ること、又、あきらか。○〔南〕「ーニーー政事ー」。「ー令ニ自殺ー」。
〔風曉〕なぞらへてさとすこと。○〔漢〕「犯レ法者ーー」。
〔開曉〕さとる、さとす。○〔後漢〕「ーニー殊俗ー」。
〔諳曉〕そらんじ知る。○〔南〕「ーニーー故事ー」。
〔邃曉〕ふかくさとる。○〔唐〕「ーーニ音律ー」。
〔慰曉〕なぐさめさとす。○〔宋〕「帝使ニ同列ーニーー之ー」。「ーー音律ー」。
〔精曉〕くはしく知ること。○〔資治通鑑〕「明皇ーニー」。
〔該曉〕かねて知る。○〔宣和畫譜〕「無レ不ニーーー」。
〔淸曉〕天氣きよらかなるあした。○〔杜甫〕「力レ疾坐ニーーー」。
〔霧曉〕きりたつあけがた。○〔王昌齡〕「ーーー遲初拨」。
〔知曉〕（い）さとり知る。○〔韓愈〕「無レ所ニーーー」。（ろ）あけがたなるをしる。○〔邵雍〕「日近先ーーー」。

十三畫

【曎】エキ、ヤク。夷益切 陌

熚に同じ、ひかり。

【曏】キヤウ、許兩切　シヤウ、書兩切
カウ。　サウ。
キヤウ、許亮切 漾
カウ。

㊀さき（往）。○〔儀〕「立ニーー所レ酬」。
㊁あきらか（明）。○〔莊〕「證ニーー今古ー」。

【曑】シン、ソン。所今切 侵

商星。

【㬔】イク、オク。乙六切 屋

あつし（熱）。

【曒】ケウ。吉了切 篠　カウ、下老切　ゴウ。切 皓

皦に同じ、あきらか。

【曓】ハウ、ボウ。薄報切 號

㊀疾く趨く、いそぐ。㊁にはか（卒）。

【曔】ケイ、ギヤウ。渠敬切 敬

㊀あきらか（明）。㊁かわく（乾）。

【曋】タン、ダン。蕩旱切 旱

ぐろ、くれ（曛）。

【曕】エン。以瞻切 豔
さらす、(曬)。

【曑】曬に同じ。

【曖】アイ。烏代切 隊
㊀おほふ、かざす、(翳)。○[後漢]「甘二是堙ーー一」。
㊁おほはれて明かならず、くらし。○[屈平]「時ーー其將レ罷兮」。
〔暗曖〕くらし。○[張衡]「繽-連-翩兮紛ーー」。
〔晻曖〕かすかにしてくらし。○[隋]「寥廓ーー」。
〔曖曖〕おほふ。○[博雅]「ーー暗昏也」。
〔隱曖〕かくしおほふ。○[謝莊]「ーー松-霞被」。
〔映曖〕影うつりおほふ。○[江淹]「亦ー二ー一於川-岸一」。

【⿰日黽】ヨウ。以證切 徑
日暉く、かゞやく。

【⿰日義】曦の省字。

【⿱日邑】セウ。止遙切 蕭
蠥ーは、蟲の名。

【⿰日農】暴に同じ、さらす。

【署】著に同じ。

十四畫

【⿰日對】タイ、デ。徒對切 隊
しげる、(茂)。○[宋玉]「ー兮若二松榯一」。

【⿰日需】ジュ、ニュ。日朱切 虞
日の色。

【⿰日縣】キフ、コフ。去急切 緝
㊀さらす、(曝)。
㊁乾かんと欲す、かわきかゝる。

【⿰日蓋】アイ。於蓋切 泰
日の色。

【曙】ショ、ゾ。常恕切 御
㊀曉旦、よあけ、あした、あかつき、あけぼの。○[楚辭]「魂煢-々而至レー」。
㊁よあけとなる、あかるくなる、あく。○[淮南]「日入二于虞-淵之汜一ー二於蒙-谷之浦一」。
〔達曙〕あかつきにいたる、よあかす。○[陶潛]「ーレー酣且歌」。
〔徹曙〕前に同じ。○[魏]「叫-呼款-々ーレー」。
〔拂曙〕夜のひきあけ。○[儲光義]「ーー闕二行-宮一」。
〔開曙〕ひらけてあかるくなる。○[拾遺記]「雲-光ーーー月低レ河」。
〔昏曙〕暗くなるとあかるくなると、又、晩と朝と。○[楊浚]「水-涉無二ーーー一」。
〔殘曙〕夜の盡くあけやらぬと、あさぼらけ。○[溫庭筠]「ーー歟-星當レ戶沒」。
〔煙曙〕けむりのたなびけるあかつき。○[溫庭筠]「葵-葉萋々接二ーー一」。
〔初曙〕はじめて夜あく、又、よあけ。○[李商隱]「辭-起微-陽若二ーー一」。
〔侵曙〕あかつきをも憚らむ。○[項斯]「霞-光ーレー發」。
〔難曙〕夜あけんとして容易にあけやらぬ。○[李頻]「密-霧-空ーレー」。

【⿰日麼】バ、マ。亡果切 哿
ー曬は、日に光り無し、くらし。

【曚】ボウ、モ。謨蓬切 東 莫孔切 董
日の未だ明かならず、くらし。

【㬥】暴の本字。

【⿰日蒦】ワク。鬱縛切 藥
勇氣ある貌にいふ字、いさまし。○[東觀餘論]「ー哉是翁」。

【曛】クン、コン。許云切 文
㊀日沒す、たそがれ時となる、くろ。○[舊唐]「天-色正ー」。
㊁沒日の餘光、いりひかげ、いりひ。○[李羣玉]「水-木籠二微ー一」。
㊂黃昏、くれ、たそがれ。○[李白]「談-笑迷二朝ーー一」。
〔夕曛〕入り日かげ、又、たそがれ。○[杜甫]「登-弧照二ーー一」。

【曜】エウ。弋照切 嘯
㊀ひかり、かゞやき、(光)。○[詩]「日出有レー」。
㊁光りを發す、てる、かゞやく、ひかる。○[揚雄]「揚二光ーー之燎-爥一」。
㊂日、月、星の稱。○[穀梁]「七ーー爲レ之盈-縮」。
〔景曜〕かげと光りと、又、ひかり。○[晉]「挾二天-行一而序二ーー一」。
〔戢曜〕光りををさめかくす。○[習鑿齒補遺]「日-星ーー」「太陽ーレー」。
〔重曜〕光れるが上にも尙かさね光る。
〔雨曜〕日と月と。○[張協]「ーー齊-明」。○[古今注]
〔陽曜〕日。○[柳貫]「暉-々ーー燭二天-垠一」。
〔榮曜〕さかえかゞやく。○[邊讓]「ーーー春-華」。
〔震曜〕ふるひ光る。○[左、註]雷電ーー、天之威也」。
〔文曜〕日、月、五星の類。○[晉]「ーーー麗二乎天一」。
〔含曜〕ひかりをふくむ。○[齊]「信-星ーレー」。
〔明曜〕あきらかに光る、あきらかなる光り。○[晉]「ーーー參二日-月一」。
〔純曜〕まじりけなき光り。○[晉]「ーーー未レ渝」。
〔列曜〕並びかゞやく。○[宋]「長-極居レ中而ーーー」。
〔升曜〕昇りかゞやく。○[宋]「大-明ーーー」。
〔燮曜〕やはらぎてる。○[齊]「ー二ーー台-階一」。
〔交曜〕こもごも照る。○[宋]「ー二ーー畿-服一」。
〔昭曜〕あらはれかゞやく。○[魏]「黃-星ーー」。
〔貞曜〕正しくかゞやく。○[呂溫]「日-月ーー」。
〔靈曜〕日のこと。○[宋]「日-々ーー、倒-景射二旗-旒一」。
〔皜曜〕白くひかる、白きひかり。○[魯靈光殿賦]「皓-壁ーー以レ月照」。
〔皓曜〕前に同じ。○[陸機]「垂二ーー之奕-々一」。
〔晃曜〕輝き光る。○[曹植]「光-采ーー」。
〔清曜〕きよき光り。○[傅休奕]「湯-谷發二ーー一」。
〔暉曜〕ひかる、ひかり。○[皇甫謐]「忽二金-玉之ーー一」。
〔煥曜〕かゞやき光る。○[摯虞]「信ーー而重レ光」。
〔照曜〕てりかゞやく。○[謝靈運]「日落レ山ーー」。
〔雙曜〕日と月と。○[顏延之]「虛-計二ーー周一」。

十五畫

【⿰日巤】レウ。良涉切 葉
日入らんとする時、ひぐれ。

【曝】俗の暴の字、さらす、かわく。○[陶潛]「冬ー二其日一」。

【⿰日樂】ハク、ホク。北角切 覺
あきらか、(犖)。

【⿰日厲】レイ。力制切 霽
日の光盛なり。

【疊】疊の字に同じ。○[後漢]「祿-位重ー」。

【⿱日躬】キウ、ク。丘弓切 東
つゝしむ、(謹-敬)。

【曠】クワウ、ワウ。苦謗切 漾
㊀あきらか、(明)。○[後漢]「ー若レ發レ曚」。
㊁おほいなり、(大)、又、ひろし、(豁)。○

〔魏〕「爲ㇾ人弘━━」。

㊂むなし、(空)。○〔後漢〕「官寺空━━無ニ人案ㇾ事」。

㊃とほし、(遠)、又、ひさし、(久)。○〔晉〕「遙途喻━━未ㇾ知ニ達不ー」。

㊄すつ、すたる、(廢)。○〔公羊、註〕「有ㇾ所ニ捐━━ー」。

〔昭曠〕明かにして大いなり、又、あきらか。○〔謝靈運〕「山野━━」。

〔久曠〕永くすておきておろそかにす。○〔劉琨〕「萬機不ㇾ可ニ━━ー」。

〔淸曠〕きよくして妨げとなるものなきこと。○〔後漢〕「欲ㇾ居ニ━━ー、以樂ニ其志ー」。

〔放曠〕氣まゝにして心ひろし。○〔晉〕「性━━常弋ニ釣林澤ー」。

〔遼曠〕遙に遠きこと。○〔張協〕「水國何━━」。

〔怨曠〕不平の心を抱き樂しまざること。○〔詩〕「婦人無ニ━━之志ー」。

〔曠々〕大いなる貌にいふ語。〔史〕「天地━━」。

〔官曠〕政府の立つつかさびと其の責に任ぜざるものなし。○〔漢〕「━━民愁、盜賊公行」。

〔弘曠〕廣く大いなり。○〔魏〕「其爲ㇾ人━━不ㇾ足、矜貴有ㇾ餘」。

〔弘曠〕前に同じ。○〔晉〕「器宇━━」。

〔貧曠〕まづしくむなし。○〔魏〕「內有ニ━━之民ー」。

〔離曠〕はなしすつ、はなれすたる。○〔吳〕「內有ニ━━之怨ー、外有ニ耗損之費ー」。

〔夷曠〕平かにして大いなり。○〔沈約〕「德宇━━」。

〔恬曠〕しづかにして遠し、しづかにして大なり。○〔晉〕「戶詠ニ━━之辭ー」。

〔殷曠〕盛にして久し。○〔晉〕「事役━━」。

〔凝曠〕嚴整にして大いなり。○〔晉〕「坦之端宇━━」。「智局ー」。

〔雅曠〕みやびやかにしてひろし。○〔晉〕「━━有ニ韻━━、器度方雅」。

〔閒曠〕しづかにして煩しからぞ。○〔北〕「彥穆風━━」。

〔淵曠〕奧深く遠し。○〔南〕「託ㇾ心━━」。

〔遐曠〕遠し。○〔司空曙〕「誰言路━━」。

〔蕪曠〕荒れてひろし。○〔管〕「野━━則民乃菅」。

〔平曠〕險しき所なくひろし。○〔宋〕「騎兵利ニ━━ー」。「膺㒸ー」。

〔疎曠〕物事に拘はらざること。○〔宋〕「禮━━有ㇾ━ー」。

〔廢曠〕すつ、すたる。○〔白居易〕「━━將何怨」。

〔高曠〕遙に超え出づること。○〔韋應物〕「━━出ニ塵表ー」。

〔稀曠〕すくなし。○〔佛國記〕「人民亦━━」。

〔虛曠〕むなしくしてわだかまりなきこと。○〔避暑錄話〕「知ㇾ足而心━━」。

〔彌曠〕わたりすごす。○〔劉楨〕「自ㇾ夏涉ニ立冬ー、━ニ━十餘旬ー」。

〔玄曠〕深く虛し。○〔陸機〕「遊心━━」。

〔悠曠〕遠し、又、久し。○〔陸機〕「悲ニ桑梓之━━ー」。

〔遠曠〕遙に隔たること。○〔陸雲〕「感ニ彼━━ー」。

〔恢曠〕廣く大いなり。○〔劉晉〕「━━之詔、開ニ自新之路ー」。

〔開曠〕さゝはるものなくひろし。○〔謝靈運〕「江山共━━」。

〔超曠〕勝ること。○〔梅堯臣〕「立語已━━」。

〔深曠〕淺からずして遠し。○〔顏延之〕「練ㇾ形之家、必就ニ━━ー」。「容ㇾ之」。

〔豐曠〕大きく廣し。○〔張說〕「━━之野、乃能將ニ如何ー」。

〔浩曠〕前に同じ。○〔沈佺期〕「━━將ニ如何ー」。

〔冲曠〕むなし。○〔宋之問〕「物用益━━」。

〔崇曠〕高く大きし。○〔戴良〕「佛廬旣━━」。

〔幽曠〕靜かにしてむなし、おくふかし。○〔嚴維〕「━━無ニ煩暑ー」。

曡

曠に同じ。○〔淮〕「━━如ㇾ夏」。

𣊫

ダン、ナン。乃旦切 翰

曩に同じ、あたゝか。

十六畫

曮

エン。於甸切 霰

日出でて雲無し、はる。

曣

エン。於甸切 霰

㊀前に同じ。

㊁あたゝか、(煗)。○〔史〕「至ニ中山ー━━━嘔」。

曤

クワク。呼郭切 藥

あきらか、(明)。

𣊭

ロ。力魚切 魚

㊀日の色。㊁日照る、てる。

曦

キ、ギ。虛宜切 支

日光、日色、ひかげ、ひかり、かゞやき。○〔張正見〕「高閣映ニ奔━ー」。

〔赫曦〕かゞやき。○〔潘岳〕「除暑方━━」。

〔流曦〕前に同じ。○〔歐陽詹〕「晤言━━晚」。

〔晚曦〕ひぐれのひかげ。○〔弓嗣初〕「滯留惜ニ━━ー」。

〔寒曦〕冬のひかり。○〔韓愈〕〔狂𩙪卷ニ━━ー」。

〔丹曦〕あかきひかり。○〔梁昭明太子〕「匿ニ━━于西嶺ー」。「━━ー」。

〔朝曦〕あさひかげ。○〔趙彥昭〕「六龍齊ㇾ軫御ニ━━ー」。

〔曙曦〕前に同じ。○〔陳斤〕「天門開ニ━━ー」。

曧

イウ、ユ。以中切 東

日正し、たゞし。

曨

ロウ、ル。盧紅切 東 力董切 董

㊀明かならんとして未だ全く明かならざるにいふ字、日のかすかに見ゆるにいふ字、ほのぐらし、うすぐらし。○〔蘇軾〕「晚日蔥━、竹陰蕭然」。

㊁日あらはれ出づ、明かにあらはる、あきらか。○〔江淹〕「日通━━而上度」。

〔曈曨〕(い)日かすかに見ゆ、明かならんとす。○〔李商隱〕「雜樹曉━━」。(ろ)未だ悟らざること。○〔張衡〕「人用━━」。(は)日出づ、あきらか。○〔楊億〕「初日━━艶ニ屋梁ー」。

𣉖

ヨウ、ユ。於容切 冬

ほがらか、(朗)。

十七畫

曩

タウ、ナウ。奴朗切 養

既往、むかし、さき。○〔左〕「━者志ㇾ入而已」。

〔曩曩〕むかし。○〔唐太宗〕「還如ニ━━ー」。

曝

ハク。伯各切 藥

さらす、(暴)。

十八畫

曡

デフ、テフ。尼輒切 葉

𥊍に同じ。

十九畫

曪

ラ。郎可切 哿

日に光無し、くらし。

䜌

ラン。落官切 寒 バン、メン。謨還切 删 レン。郎甸切 霰

昏れんとする時、たそがれ、ひぐれ。

曬

シ。所寄切 紙 サイ、セ。所賣切 禡 サ、セ。所嫁切 卦

さらす、(暴)。○〔漢〕「臣聞白日━ㇾ光幽隱皆照」。

𣋀

チ。抽知切 支

のぶ、(舒)。

曩

ダン、ナン。奴案切 翰

あたゝか、(𥇼)。

【⿱日難】タン、尼鰥ナン。切 刪 ダツ、乃曷ナチ切 曷
喝――は、暖かき狀にいふ字。

【⿰日難】㬮に同じ。

二十畫

【曤】ワク。鬱縛切 藥
あきらか、（明）。

【曭】タウ。他朗切 養
日明かならず、くらし。〇〔楚辭〕「曖-曭其――莽兮」。

【曮】ガン、ゴン。五犯切 豏
日の躔度、日行、ひのめぐり。〇〔淮〕「所下以使中人不三妄沒二於勢-利一不セ誘二惑於事-態一有レ符二――晲一。」

廿一畫

【曯】ショク、ソク。朱欲切 沃
てる、てらす、（照）。〇〔洸亞之〕「戎-鏡包レ陽當レ日而―レ之則能延レ燧與レ火」。

【⿰日羸】レツ、レチ。力列切 屑
日落つ、くろ。

【⿰日歷】レキ、リヤク。郎擊切 錫
星の貌にいふ字。

【⿰日靈】レイ、リヤウ。郎丁切 青
昤に同じ。

曰部

【曰】エツ、ヲチ。王伐切 月
〔說〕「从ㇾ口乙聲、亦象二口气出一。」〔文〕

一 いふ、いはく、（敬語にて、のたまふ、のたまはく）。
(い)言語を發す。〇〔書〕「帝―、疇咨レ若レ時」。
(ろ)言語に發す。〇〔左〕「有レ文在二其手一、―爲二魯夫-人一」。
(は)稱す、となふ。〇〔書〕「分命二義-仲一宅二嵎-夷一―二暘-谷一」。
二 語の發端に用ふる字、こゝに。〇〔書〕「―-若稽二古帝-堯一」。

二畫

【曲】キヨク、ギヨク。丘玉切 沃
一 平直ならず、屈折す、かゞまる、ゆがむ、かたむく、なる、ひがむ、ねぢく、まがる。〇〔鹽鐵論〕「不レ待二自―之木一」
二 まがらしむ、まぐ。〇〔書、傳〕「木可二以揉―直一」。
三 邪辟、よこしま。〇〔戰〕「以レ―合二趙-王一」。
四 まがり入りたる處、隅角、すみ、くま。〇〔淮〕「見二隅-―之一指一」。
五 委細、つぶさ、つまびらか、こまわけ、いちぶしじふ。〇〔禮、釋文〕「―-禮委―説二禮之事一」。
六 部局、一偏、かたはし、こわけ。〇〔禮〕「其次致レ―」。
七 す、（簿）。〇〔漢〕「以レ織二簿-―一爲レ生一」。
八 音樂歌謠の調節又は段齣、ふし。〇〔周〕「士獻レ詩瞽獻レ―」。

〔心曲〕こゝろの中のいちぶしじふ。〇〔陸機〕「隆-思亂二――一」。「浹、――得二禮之序一」。
〔委曲〕つぶさ、いちぶしじふ。〇〔史、註〕「徘-徊周-―」。
〔屈曲〕まがる。〇〔李白〕「世-路有二――一」。
〔部曲〕こわけ。〔西京賦〕「結二――一整二行-伍一」。
〔一曲〕(い)一部分。〇〔淮〕「察二―・―一者、不レ可二與言レ化」。
(ろ)ひとふし。〔嵇康〕「彈レ琴―・―」。
〔鄉曲〕村里。〇〔南〕「域少沉-靜、有レ名二―・―一」。
〔款曲〕まこと、實心。〔元稹〕「―・―無レ不レ終」。
〔紆曲〕うねりまがる。〇〔七發〕「湟-池―・―」。
〔雅曲〕正しきうたのふし。〇〔吳〕「聽二―・―一于文-鉉一」。
〔隣曲〕となり近所。〇〔南〕「侵二暴―・―一」。
〔淸曲〕きよらかなるうたのふし。〇〔雲賦〕「酌二桂-酒一兮揚二―・―一」。
〔鉤曲〕まがること。〇〔杜甫〕「小-人似二―・―一」。
〔海曲〕うみのくま、即ち、島。〇〔陸機〕「系二婁-叟―・―一」。
〔陂曲〕かたよりまがる、よこしま。〇〔書、疏〕「無二偏-私一、無二―・―一」。
〔隈曲〕すみ、くま。〇〔司馬光〕「澌-澌隱二―・―一」。
〔邪曲〕ねぢけまがる、よこしま。〇〔荀〕「鄉二于―・―一而不レ遂」。「―」。
〔音曲〕ふし。〇〔魏〕「其形似レ筑、彈レ之亦有二―・」。
〔踐曲〕前に同じ。〇〔北〕「如三別其有二―・―一」。
〔歌曲〕うたのふし。〇〔薛正曜〕「―・―唱二流-風一」。
〔樂曲〕前に同じ。〇〔樂府古題〕「遂傳以爲二―・―一」。「五-材」。
〔密曲〕いちぶしじふ。〇〔周〕「―二・―面-執一、以飾二―」。
〔餘曲〕のこれるふし。〇〔史〕「咸-英―・―」。
〔新曲〕あらたに作りたる音樂のふし。〇〔魏文帝〕「絃-歌奏二―・―一」。
〔倖曲〕よこしま。〇〔後漢〕「內-外無二―・―之私一」。
〔私曲〕公ならずして正しからぬこと、よこしま。〇〔南〕「耿-介無二―・―一」。
〔遺曲〕古代より保存し來たれる音樂のふし。〇〔晉〕「考二三代禮-樂―・―一」。
〔舊曲〕古昔よりある音樂のふし。〇〔徐陵〕「江-陵有二―・―一」。
〔驪曲〕音樂のうるはしきふし。〇〔白居易〕「聲-々―・―敵二寒-玉一」。「陽」。
〔舞曲〕まひをそろふし。〇〔李德林〕「―・―冠二平-中一」。
〔瑞曲〕めでたきふし。〇〔宋〕「仍奏二―・―一」。
〔拳曲〕まがりくねる。〇〔莊〕「其小-枝―・―而不レ中二規-矩一」。
〔奏曲〕音樂のふしをかなづ、かなづるふし。〇〔莊〕「―・―未レ半」。
〔衆曲〕あまたのまがれるもの。〇〔越絕書〕「遂-平―・―矯レ直」。
〔撓曲〕たわめまぐ、たわみまがる。〇〔新語〕「鑿-仲乃―・―爲レ輪」。
〔旋曲〕めぐりまがる、まはしまぐ。〇〔淮〕「―・―中レ規」。
〔傾曲〕かたむきまがる、かたむけまぐ。〇〔水經、註〕「―・―而上」。
〔妙曲〕すぐれてたへなる音樂のふし。〇〔司馬彪〕「何由揚二―・―一」。
〔同工異曲〕たくみなる點は同じくして演ずる事のことなること。〇〔韓愈〕「子-雲相-如―・―・―・―」。

【臾】俗の曳の字。

【曳】エイ。以制切 霽
一 ひく。
(い)地をすり行く、ひきづる。〇〔詩〕「子有二衣-裳一弗レ―」。
(ろ)牽く、ひッぱる。〇〔賈誼〕「賢-聖逆―」。
(は)延ぶ。〇〔司馬相如〕「―二明-月之珠-旗一」。
(に)踰ゆ。〇〔洞簫賦〕「超-騰踰―」。
二 頓す、つまづく。〇〔後漢〕「年雖二疲-―一」。
〔搖曳〕動かし引く。〇〔李白〕「―・―滄-洲傍」。
〔掣曳〕引き妨ぐ。〇〔爾、疏〕「群-臣小-人、無二敢我―・―一」。「路」。
〔流曳〕さまよふ。〇〔吳〕「士-卒傷-病、―二―道一」。
〔馳曳〕足どくあゆみてひきづり行く。〔南〕「使二人―・―下レ殿」。
〔陵曳〕犯しひく。〇〔南〕「或見二―・―一」。
〔牽曳〕ひく。〔北〕「遂―・―取レ之」。
〔倒曳〕さかしまにひく。〇〔北〕「或解レ衣―・―于荊-棘-中一」。「可二以行一」。
〔跛曳〕ちんばをひく。〇〔易林〕「脛-足―・―、不レ」。
〔鉤曳〕かぎにかけてひく。〇〔程史〕「吏捕―・―」。
〔遙曳〕はるかに引く。〇〔黃滔〕「背-帘―・―杏-花中」。

三畫

【⿱白厶】香の本字。

【更】　カウ、キヤウ。古行切　庚

㊀かふ。
(い)變じ改む。○〔史〕「擧レ禮無レ所二變一レ」。
(ろ)交代せしむ。○〔禮〕「―レ僕未レ可レ終也」。
㊁かはる。
(い)あらたまり變ず。○〔莊〕「正平則與レ彼―生」。
(ろ)交代す。○〔宋〕「其―代人名」。
㊂つぐ、(續)。○〔國〕「姓利相―」。
㊃つくのふ、(償)。○〔淮〕「不レ足二以―一レ之」。
㊄ふ、(歷)。○〔史〕「必―二匈奴中一」。
㊅多年の經歷を積める致仕せし老人の稱。○〔禮〕「設二三老五―一」。
㊆卒戍の交代。○〔漢〕「三年以前逋二―賦一未レ入者勿レ收」。
㊇夜間の時刻のかはりめ、又、其のかはりめの夜まはり、古昔は今の午後七時に漏時計をかへ設け其れより午前五時に漏の盡くる迄を五分して時を定む、其の時毎に其の時の數に應じて守夜の者或は鼓を打ち或は柝を擊ちなどして巡行す。○〔張衡〕「衞以二嚴―之署一」。
㊈彼れと此れと、たがひに、かはるぐ。○〔張衡〕「祕舞―奏」。

〔紛更〕　みだしあらたむ。○〔史〕「奈何取二高皇帝約束一、―二―之一爲」。
〔踐更〕　自から進みて卒となり他の卒にあたる者の代りとなる者。○〔史〕「至二―一時脫レ之」。
〔卒更〕　卒となり一月に一たびかはる者。○〔史、註〕「古有二正卒一無二常人一、皆當二迭爲一レ之、一月一更是爲二―一也」。
〔過更〕　還を成るべき順番にあたりて行くべき者の行かずして其のかはりに錢を官にいだして行役の者に給すること。○〔史、註〕「更有二三品一、有二卒更一、有二踐更一、有二―一」。
〔四更〕　いまの午前二時頃。○〔伏知道〕「――星低」。「漢低」。
〔竊更〕　ひそかにかふ。○〔左〕「――之以レ鑿」。
〔三更〕　今の夜分の十二時頃。○〔陸游〕「北齊孤坐破二――一」。「―レ―」。
〔知更〕　夜の時刻をしる。○〔採蘭雜志〕「此魚能―レ―」。
〔一更〕　初更といふに同じ、今の午後八時頃。○〔伏知道〕「――刀斗鳴」。
〔二更〕　今の午後十時頃。○〔王建〕「內宴初收入二――一」。
〔曙更〕　夜あけの時のしらせ。○〔錢起〕「風來傳二――一」。
〔侵更〕　夜ふけをおかす。○〔韓愈〕「―レ―歷レ夜犯二濁厲一」。

【更】　カウ、キヤウ。古孟切　敬

あるが上にも、重ねて、またさらに。○〔史〕「―穿二一門一出」。

四畫

【曶】　忽に同じ。○〔漢〕「人皆―レ之」。

五畫

【㫺】　サク、シヤク。測革切　陌

つぐ、(告)。

【曷】　カツ、カチ。何葛切　曷

㊀いづくんぞ、なんぞ、(何)。○〔易〕「―之用」。
㊁とゞむ、(止)。
㊂おふ、(逐)。
㊃相恐怯す、おそろ、おどす。
㊄鶡に同じ。
㊅蝎に同じ。○〔史〕「先生―鼻巨肩」。

【曷】　アツ、アチ。阿葛切　曷

およぶ、(逮)。

【朐】　シユン。須倫切　眞

ひさし、(旬)。

六畫

【書】　シヨ、ソ。傷魚切　魚
〔說文〕「箸也、从レ聿者聲、隸省作レ―」。

㊀文字。○〔史〕「夜至二斫木下一、見二白―一、乃鑽レ火燭レ之、讀二其―一」。
㊁かく、しるす。
(い)文字を記す。○〔史〕「乃斫二大樹一、白而―レ之曰、龐涓死二于此樹下一」。
(ろ)文字にて記す。○〔周〕「―二其德行道藝一」。
㊂筆蹟、筆法。○〔史〕「學レ―不レ成、去學レ劍又不レ成」。
㊃ふみ、かきもの。
(い)經史、冊籍。○〔孟〕「盡信レ―不レ若レ無レ―」。
(ろ)手翰、てがみ。○〔左〕「叔向使二詒子產一―」。
(は)敕詔、戒命。○〔漢〕「亡二應レ―者一」。
(に)帖簿、其の他すべての記錄。○〔周、註〕「主二計會之簿―一」。

〔簡書〕　かきもの。○〔詩〕「畏二此――一」。
〔讀書〕　ふみをよむこと。○〔莊〕「齊桓公―二―于堂上一」。
〔銘書〕　いさをなどをあらはししるす。○〔周〕「凡有レ功者―二―于王之太常一」。
〔寓書〕　かきものを贈る、てがみをやる。○〔左〕「子產―二―于子西一以告二宣子一」。
〔六書〕　(い)漢字の成り立ちに關する六とほりの區別、卽ち、象形、(其の物の形をかたりどて字體なとせるもの、卽ち、馬の字などの如し)會意、(二箇以上の字を合して一字を成し、又、其の二箇以上の字の意を合して其の一字の意を成すもの、卽ち、人言を合して信の字を成し、止戈を合して武の字を成すが如し)、轉註、(異字互訓のもの、卽ち、老は考なり考は老なりと說くが如し)、指事、(其の字形直ちに其の意味の說明をなせるもの、卽ち、二の字などの如し)、假借、(其の字本來或る意を有せざるに他の同聲の字の或る意を假り來りて用ふるもの、卽ち、哥と歌と誠と頌との如し)、形聲、(半聲半義のもの、卽ち、江の字は、水流にして其の聲工の聲をなすより工に从ひ工に从ふなどの如し)。○〔周〕「五曰、――」。
(ろ)六體の文字、區別は引例の如し。○〔漢〕「六體者、古文、奇字、篆書、隸書、繆篆、蟲書」。
〔方書〕　(い)四方の文書。○〔漢〕「主二柱下――一」。
(ろ)方術の書物。○〔唐〕「聽好二――一」。
〔篆書〕　古代に通用せし字體の名にして小篆は秦の始皇の程邈に命じて作らしめしもの。○〔漢〕「――隸書」。
〔隸書〕　前と同じく亦始皇の程邈に命じ作らしめしものにして小篆の體を畧せるもの。○〔吳〕「張昭少好レ學、善二――一」。「―二―一」。
〔帛書〕　きぬにかきたる文字。○〔漢〕「足有レ係二―一」。
〔圖書〕　繪圖と書物と。○〔王維〕「――共二五車一」。
〔簿書〕　帳簿、ちやうめん。○〔方干〕「瀑布聲中閱二――一」。
〔兵書〕　兵學の書物。○〔漢〕「步兵校尉任宏校二――一」。
〔軍書〕　前に同じ、又、いくさのかきもの、戰爭記、又、軍事にかゝるてがみ。○〔漢〕「――交馳而輻輳」。
〔校書〕　(い)文書をかんがへたゞす。○〔蜀〕「手自―レ―」。
(ろ)下に引く元微之の故事より妓の異稱にいふ。○〔事文類聚〕「元微之元和中使レ蜀、籍妓薛陶者有二才色一、府公嚴司空知レ之遣レ陶往侍、後登二翰林一以レ詩寄、(中略)又嘗辟爲二――一」。
〔傭書〕　やとはれて寫字すること。○〔後漢〕「家貧常爲レ官――」。
〔道書〕　道教の意をしるせる書物。○〔魏〕「造二作――一以惑二百姓一」。
〔琹書〕　ことと書物と。○〔魏〕「以二――一自娛」。
〔草書〕　尤も略せる字體。○〔晉〕「以レ善二――一知レ名」。
〔竹書〕　たけにしるせるふみ。○〔晉〕「得二――數十車一」。
〔行書〕　後漢の劉德昇の作りたる書體にして、楷書をすこしく略せるもの、又鍾胡の二家の作りしものどもいふ。○〔晉〕「鍾胡二家爲二――法一」。
〔抄書〕　書物をかきぬく。○〔南〕「余少好二――一」。
〔楷書〕　隸書をやゝ畧せる書體。○〔書斷〕「八分本謂二之――一」。
〔蟲書〕　蟲入りのふみ。○〔穆天子傳〕「―二―于羽陵一」。

〔曝書〕書物の蟲ぼしのこと。○〔崔寔〕「七月七日—二經—一」。
〔璽書〕天子の印をおしたるかきもの。○〔高適〕「皇々降二——一」。
〔官書〕官府のかきもの。○〔周〕「史掌二——一以贊レ治」。
〔券書〕約定のかきつけ。○〔南〕「弘悉燒二——一」。
〔儒書〕儒學のふみ。○〔左〕「惟其——以爲二二國憂一」。
〔禱書〕新願のふみ。○〔史〕「見二周公——一」。
〔著書〕書物をつくりあらはす。○〔史〕「彊爲レ我—レ—」。
〔投書〕かきものをなげこむ。○〔史〕「過二湘水一—レ—以弔二屈原一」。
〔好書〕ねんごろなる手紙、又、ふみを愛す。○〔史〕「乃詳爲二——一、遺二平原君一」。
〔逸書〕世の中にあらはれざるふみ。○〔史〕「因以起二其家——一、得二十餘篇一」。
〔謗書〕わるくちをかきたるもの。○〔史〕「文侯示二之——一篋一」。
〔樂書〕音樂の事をかきたるふみ。○〔宋〕「陳暘——一二百卷」。
〔律書〕法律のふみ。○〔史〕「作二——一第三一」。
〔曆書〕こよみ。○〔史〕「作二——一第四一」。
〔藏書〕たくはへもつふみ、又、ふみをさめおく。○〔唐〕「——之盛、莫レ過二于開元一」。
〔史書〕歷史のふみ。○〔漢〕「多二材藝一、善二——一」。
〔文書〕かきもの。○〔魏〕「欲レ案二行——一耳」。
〔寫書〕ふみをうつしかく。○〔漢〕「置二——之官一」。
〔尙書〕古の紀言體の歷史の名、後世にて書經といふ。○〔漢〕「言爲二——一」。
〔單書〕ひとりの作りたるふみ。○〔漢〕「非二—一哲之—二不レ好也」。
〔諫書〕君をいさめたてまつるかきもの。○〔岑參〕「自覺——稀」。
〔叢書〕おほくのかきもの。○〔漢〕「博覽二——一」。
〔衆書〕前に同じ。○〔吳〕「陳化博二覽——一」。
〔羽書〕檄文に鳥の羽をつけたるものにして急事ある時に用ふ。○〔杜甫〕「征西車馬——遲」。
〔細書〕こまかき文字。○〔後漢〕「——成レ文」。
〔占書〕うらなひの事をしるせるふみ。○〔晉〕「太守陰澹從求二——一」。
〔篆書〕篆體の文字。○〔晉〕「世謂二之——一者也」。
〔賃書〕賃錢をとりて文字をうつすこと。○〔南〕「——以營レ事」。
〔擁書〕ふみを所持すること。○〔蔡邕〕「—レ—抱レ籍」。
〔勳書〕いさをしるせるかきもの。○〔北〕「爾闕二吏部——一」。
〔僞書〕にせのかきもの。○〔論衡〕「——放流」。
〔工書〕文字を上手にかく。○〔唐〕「好レ學—レ—」。
〔讖書〕將來の事をしるせしかきもの。○〔張衡〕「故智者貴焉、謂二之——一」。
〔法書〕法制のかきもの。○〔易林〕「典册——藏在二蘭臺一」。
〔奇書〕めづらしきかきもの。○〔陸游〕「歸當レ讀二——一」。
〔捷書〕かちいくさのしらせ。○〔蘇軾〕「——夜到甘泉宮」。
〔報書〕しらせのふみ。○〔杜甫〕「將軍有二——一」。
〔檢書〕書物をしらぶ。○〔杜甫〕「——燒レ燭短」。
〔緘書〕封じたるふみ。○〔范成大〕「口傳好語無二——一」。
〔註書〕ふみに解釋をほどこすこと。○〔秦系〕「—レ—不レ向時流說」。
〔鄕書〕ふるさとよりのてがみ。○〔張說〕「幽夢驚二——一」。
〔勘書〕書物をかんがへしらぶ。○〔劉克莊〕「青燈細—レ—」。「讀」。
〔嗜書〕書物を好むこと。○〔蘇軾〕「嗟我—レ—終日」。
〔星書〕天文のかきもの。○〔羅隱〕「短檠宵靜閱二——一」。
〔女校書〕藝妓のこと。○〔王建〕「萬里橋邊——」。
〔紫泥書〕天子の詔書。○〔李白〕「庭降二——一」。
〔屆首受書〕刻苦して讀書すること。○〔史〕「士業已

【曹】サウ、ゾウ。財勞切　〔豪〕
㊀獄事を治むるつかさ。○〔後漢〕「世祖分二六——一」。
㊁くみ、（偶）。○〔楚辭〕「分レ—並進」。
㊂むれ、（羣）。○〔詩〕「乃造二其—一」。
㊃ともがら、（輩）。○〔史〕「分レ—循二行郡國一」。
㊄もろ〳〵、おほし、（衆）。○〔國〕「民所二—好一」。
㊅局室、つぼね、やくしよ。○〔漢〕「坐レ—治レ事」。
〔朋曹〕ともがら。○〔元稹〕「客身寡二——一」。
〔爾曹〕汝がともがら、でへんたち。○〔杜甫〕「歷塊過レ都見二——一」。
〔若曹〕前に同じ。○〔楚國先賢傳〕「——敬聽二吾言一」。
〔汝曹〕前に同じ。○〔馬援〕「願——効レ之」。
〔吾曹〕わがともがら、われ〳〵。○〔杜甫〕「詩態憶二——一」。
〔我曹〕前に同じ。○〔徐積〕「——盡是浩歌客」。
〔卿曹〕公等といふに同じ。○〔後漢〕「——努力」。

七畫

【曼】バン、マン。無販切　〔願〕
㊀ひろし、（廣）、又、ながし、（長）。○〔詩〕「孔—且碩」。
㊁のぶ、（延）。○〔漢〕「遂至レ延二—連州一」。
㊂肌理細じ、きめこまかし、膚澤美し、つやよし。○〔淮〕「—頰皓齒」。
㊃かろし、（輕）。○〔鄒陽〕「衣裳則雜遝—燧」。
㊄うつくし、（美）。○〔漢〕「——辭以自解」。
㊅つく、（突）。○〔莊〕「闔扼鷙—」。
㊆なし、（無）。○〔揚雄〕「病—レ之也」。
〔秀曼〕すぐれて美し。○〔唐〕「——都雅」。
〔曨曼〕つや。○〔枚乘〕「膚色——」。
〔曼々〕ながき貌にいふ語。○〔韓愈〕「我志何——」。
〔柔曼〕はたへやはらかくうるはし。○〔漢〕「——之傾意非二獨女德一、蓋亦有二男色一焉」。
〔壇曼〕平かにしてひろし。○〔揚雄〕「平原唐其——兮」。
〔衍曼〕ひろがりはびこる。○〔司馬相如〕「——流爛」。
〔靡曼〕ものさびしくひろし。○〔何晏〕「——雲征」。
〔婉曼〕しなやかにしてうつくし。○〔左貴嬪〕「——其婉」。
〔流曼〕水のながれながし。○〔顏之推〕「風颯——」。
〔長曼〕ながし。○〔庾信〕「向レ人——臉」。
〔美曼〕うつくし、うるはし。○〔皮日休〕「——之色、媚二于君側一」。

【曼】バン、マン。謨官切　〔寒〕
前條の㊀に同じ。○〔屈平〕「路——其修遠兮」。

【曼】バン、マン。莫半切　〔翰〕
——衍は、極り無し、はてなし。○〔莊〕「因以二——衍一所三以窮レ年」。

【曼】バン、マン。毋伴切　〔旱〕
㊀——漶は、分別なし、くらし。○〔揚雄〕「爲二其泰——漶一」。
㊁蠻に通じ用ふ。○〔公羊〕「楚子誘二戎——子一殺レ之」。

八畫

【曾】ショウ、ゾウ。徂稜切　〔蒸〕
㊀ほど經し以前に、或る時に、かねて、まへかた、かつて。○〔史〕「—待レ客夜食」。
㊁すなはち、（乃）。○〔孟〕「爾何—比二予於是一」。
㊂祖の父、ひぢぢ、又、孫の子、ひまご。○〔書〕「惟有道—孫發」。
㊃尾末、する。○〔左〕「—臣彪將下率二諸侯一以討上」。
㊄あがる、あぐ、（擧）。○〔楚辭〕「翾飛兮翠—」。
㊅層に通ず、かさぬ、かさなる。○〔後漢〕「登閬風之—城兮」。
㊆增に同じ、ます。○〔孟〕「—二益其所一レ不レ能」。
㊇橧に通じ用ふ、つみしば。○〔禮〕「夏則居二—巢一」。
〔孫曾〕まごとひまごと。○〔黃庭堅〕「白頭受レ福以居二——一」。

【替】テイ、タイ。他計切　〔霽〕

❶廢止す、すつ、すたる、やむ。○〔詩〕「勿レ—引レ之」。
❷ほろぶ、ほろぼす、(滅)。○〔國〕「君之冢嗣其—乎」。
❸かはる、かふ、(代)。○〔蘇軾〕「以二山光水色一—二其玉肌花貌一」。
❹まつ、(待)。

〔陵替〕衰へすたる。○〔杜甫〕「高才日—·—」。
〔隆替〕盛なると衰ふると。○〔晉〕「足レ觀政之—·—」。
〔獻替〕善をすゝめ惡をやめると、即ち君上を補佐すると。○〔晉〕「有レ所二—·—一」。
〔淤替〕かふ、かはる。○〔高適〕「遇レ坎悲二—·—一」。
〔淪替〕はろぶ。○〔李白〕「風·義未二—·—一」。
〔堙替〕すつ、すたる。○〔王庭珪〕「田·廬勿二—·—一」。
〔興替〕盛になるとすたると。○〔晉〕「—·—所レ存」。
〔荒替〕すつ、すたる。○〔吳〕「思·慮失レ中、多レ所二—·—一」。
〔頽替〕やぶれすたる、やぶりすつ。○〔晉〕「六·義—·—」。
〔墮替〕前に同じ。○〔中論〕「百·度—·—」。
〔掩替〕おはれすたる、おはひすつ。○〔晉〕「功·行之實、不二相—·—一」。
〔釐替〕正しかふ。○〔南〕「孝嗣奉レ旨、無レ所二—·—一」。
〔殘替〕そこなはれはろぶ、又、そこなひはろぼす。○〔唐〕「禮·物—·—」。
〔凝替〕すつ、すたる。○〔潛夫論〕「鍾·離—·—」。
〔差替〕かふ、かはる。○〔燕翼詒謀錄〕「方許二—·—一」。
〔闕替〕缺けすたる、かきすつ。○〔陸雲〕「情·閒—·—」。

替
テツ、テチ。他結切 屑

ゆるむ、(弛)。○〔潘岳〕「隨レ政隆—·—」。

最
サイ、セ。祖外切 泰

❶とる、(取)又、あつむ、(聚)。○〔莊〕「物何爲—レ之哉」。
❷あつまる、むらがる、(叢)。○〔管〕「執·拘則—」。
❸主要、おもなると、かなめ。○〔書〕「乃拜稽首受レ—」。
❹第一、極点。○〔後漢〕「常爲二邊—一」。
❺すぐれたると、善きと。○〔漢〕「猶無レ益二於殿—一」。
❻おもに、きはめて、第一に、すぐれて、よく、もツとも、いさとも。○〔史〕「秦滅二六·國一楚—無レ罪」。
❼都凡、すぶ、すべて。○〔史〕「—從二高帝一」。
❽さゝのふ、(齊)。○〔唐〕「形·勢謀·略條—·明·審」。

〔治最〕政を爲す功績第一なると。○〔唐〕「以二—·—一擢二給·事·中一」。
〔速最〕いつもながら功績のすぐれたると。○〔漢〕「奏·課—·—」。
〔要最〕極めておもなると。○〔諸葛亮〕「糧·穀軍之—·—」。
〔尤最〕こよなく勝れたると。○〔晉〕「未·極—·—」。
〔善最〕すぐれてよきと。○〔唐〕「以二—·—一聞」。
〔淸最〕穢しきとなくして勝る。○〔唐〕「其政皆以二—·—一聞」。
〔甘最〕甘きと此の上もなし。○〔晉〕「秦之水—·—而稽」。
〔彊最〕強きものゝ中に就きてなは極めて強きと。○〔管〕「—·—一伐、而天·下共レ之」。
〔霸最〕極めてすぐる。○〔試茶錄〕「茶于二草·木一爲二—·—一矣」。
〔納最〕入れ聚む。○〔蔡邕〕「充二王·府一而—·—」。

朁
サン、ソン。七感切 感

かつて、すなはち、(曾)。○〔詩〕「—不レ畏レ明」。

朁
セン。子念切 豔

僭に同じ、かる。

九畫

會
クワイ、エ。黃外切 泰

❶あふ。
(い)集合す、よりあふ、あつまる。○〔書〕「澠沮—同」。
(ろ)接見す、みる、まみゆ。○〔周〕「朝·覲—·同」。
(は)邂逅す、でくはす、であふ。○〔素問〕「左·右周レ天餘而復—也」。
(に)一致す、ひとつになる。○〔陶弘景〕「筆與レ手—」。
❷あはしむ、あつむ、であはす、ひさつにす、あはす(❶の條參照)。○〔周〕「—二其什·伍一」。
❸あつまり、よりあひ、まみえ、であひ。○〔左〕「有二塗·山之—一」。
❹あつまりあへるもの、むれ、くみ。○〔晉〕「嵇阮竹·林之—」。
❺あつまりあへる所。○〔王勃〕「名·都廣—」。
❻あつめあはす所、あはせめ。○〔左、註〕「禬領—也」。
❼機期、をり、しほ。○〔晉〕「欲下因二隙—一騁中其縱·橫上」。
❽要所、かなめ。○〔何遜〕「雖レ有レ知二于理—一」。
❾理解す、しる、さとる。○〔隋煬帝〕「智·者融—」。
❿鑒識、さとり。○〔任昉〕「李重之識—」。
⓫弁の中の五采の縫ひ。○〔詩〕「—弁如レ星」。
⓬一歲の計算、そうかんぢやう、そうじめ、轉じて、計算、かんぢやう、しめ、又、其の帳簿。○〔周〕「聽二出·入一以二要—一」。
⓭繪に通ず、いろどり、さいしき。○〔書〕「日、月、星、辰、山、龍、華、蟲爲レ—」。
⓮決定の意を表すにいふ字、かならず。○〔顏延之〕「—當レ有レ業」。
⓯其のをりに、たまく。○〔柳宗元〕「—閣下辱臨二弦第一」。
⓰ふた、(蓋)。○〔儀〕「啓レ—」。

〔嘉會〕よきよりあひ。○〔晉〕「—·—置レ酒」。
〔大會〕あまた寄りつどふ、大なるよりあひ。○〔後漢〕「羣·臣—·—」。
〔時會〕時を定めて寄りつどふ。○〔周〕「—·—以發二四·方之禁一」。
〔高會〕盛なるよりあひ。○〔史〕「日置レ酒—·—」。
〔期會〕日時を定めて寄り集まる、又、をり、しほ。○〔史〕「—·—而擊レ楚」。
〔都會〕みやこ。○〔史〕「邯·鄲亦漳·河之閒一—·—也」。
〔傅會〕つけあはす。○〔史〕「袁·紹雖レ不レ好レ學、亦善—·—」。
〔揖會〕前に同じ。○〔後漢〕「共所二—·—一」。
〔參會〕まじはり集まる。○〔漢〕「凶·德—·—」。
〔宮會〕文詩を賞玩するための寄りあひ。○〔宋〕「以二文·義一—·—」。
〔事會〕凡ての事柄のであひ。○〔文天祥〕「宇·宙方來—·—長」。
〔畢會〕ことごとく來たりあふ。○〔謝莊〕「羣·后—·—」。
〔徵會〕召し出たして寄り集はしむ。○〔左〕「—·—討レ貳」。
〔朝會〕みかどの宮に參りて寄り集ふ、又、みかどへのまみえ。○〔晉〕「改·元不二—·—一」。
〔離會〕別かれたり合ひたりすると。○〔鮑照〕「—·—豈無レ因」。
〔新會〕あらたに一處におちあふ。○〔漢〕「將·吏—·—」。
〔聚會〕寄りあつまる、寄せあつむ、又、よりあひ。○〔唐〕「其戲時—·—」。
〔面會〕まのあたり相見ると。○〔梁昭明太子〕「應レ侯二—·—一」。
〔勝會〕盛んなる寄りあひ。○〔晉〕「其有二—·—一」。
〔臨會〕來りつどふ。○〔晉〕「百·僚—·—」。
〔據會〕もとゐとするかなめ。○〔晉〕「端二坐京·輦一、以失二—·—一」。
〔小會〕さゝやかなる寄りあひ。○〔傅休奕〕「定二—·—之常·儀一兮」。
〔法會〕佛事を營む、寄りあひ。○〔陳〕「預二重·雲·殿—·—一」。
〔慶會〕めでたき寄りあひ。○〔春渚紀聞〕「集二賓·親一爲二—·—一」。
〔感會〕(い)さとる、又、であふ。○〔後漢〕「—·—風·雲一」。
(ろ)をりよきと。○〔晉〕「非二惟—·—所一レ鍾」。

〔公會〕おもて向きの寄りあひ。○〔[illegible]〕「後圖二—、—見而奇レ之」。

〔文會〕ふみの學びにたづさはる寄りあひ。○〔南〕「—・—之盛、當時莫レ比」。

〔聖會〕聖代といふに同じ、治まれる御世。○〔北〕「吾幸逢二—・—一、位忝二台司一」。

〔合會〕あふ、あはす。○〔徐陵〕「天下瓦成二長—・—一」。

〔樂會〕たのしき寄りあひ。○〔陸機〕「—・—良自レ古」。「師二」。

〔哀會〕集め合はす。

〔婚會〕男女のなからひを結ぶための寄りあひ。○〔唐〕「—・—嚴亟以辨ニ濟〔唐〕二冊拜—・—則車有レ德」。

〔自會〕おのづとめぐりあふ。○〔列〕「窮然無レ際、天道—・—」。「—」。

〔服會〕てらしあはす。○〔宋〕「乞取索—・—」。

〔酒會〕さかもりの寄りあひ。○〔盧綸〕「幾年親—・—一」。

〔宴會〕前に同じ。○〔杜甫〕「淸秋多二—・—一」。

〔招會〕召び寄せ集む。○〔論衡〕「—二—四方一」。

〔寡會〕寄りつどふと多からぬ。○〔世說〕「離索—・—」。

〔密會〕ひそかにあふ。○〔崔融〕「心盡—・—」。

〔契會〕結びあふ。○〔司馬光〕「神精一—・—」。

〔邀會〕迎へてであふ。○〔張衡〕「妖治—・—」。

〔總會〕ことごとく寄りあふ、又、すべあつむ。○〔梁簡文帝〕「日中—・—」。

〔交會〕こもごもあふ。○〔李尤〕「四表—・—」。

〔運會〕めぐりあふ、めぐりあはせ。○〔羊祜〕「事遭二—・—一」。

〔歡會〕心打ち解けてたのしむ寄りあひ。○〔白居易〕「—・—不レ隔レ旬」。

〔酬會〕酒もりの寄りあひ。○〔宋璟〕「侍レ飲終二—・—一」。

〔宵會〕夜中の寄りあひ。○〔李端〕「石家杜—・—」。

〔詩會〕からうたを作るための寄りあひ。〔孟郊〕「昔遊—・—滿」。

〔浹會〕徧くよりつどふ。○〔述聖賦〕「踰二九譯一而臣」「未レ若二—・—樂一」。

〔朋會〕ともどちの寄りあひ、とものむれ。○〔梅堯臣〕

〔同會〕ともに寄りあふ、又、むれ。○〔釋德洪〕「湘浦習—・—」。

〔機會〕はづみ、をり。○〔蘇軾〕「東隣小兒識二—・—一」。

〔雅會〕文詩などを作るみやびなる寄りあひ。○〔劉子翬〕「—・—欣聞珠履集」。

〔盛會〕さかんなる寄りあひ。○〔周伯琦〕「良辰—・—「—如レ雲從」。

〔風雲會〕世に顯はるべきよききはにいふ語。○〔陸機〕「諾々—・—」。

〔萬方會〕よろづの國々のよりつどふ處。〔李嶠〕「何如—・—」。

〔盂蘭會〕陰曆の七月十五日に行ふ法會の名、佛及び死者の靈に種々の飮食物を供ふる佛事。○〔千金月令〕「七月十五日、營レ盆供レ寺、爲二—・—一」。

〔放生會〕畜ひ置ける鳥魚の類を放ちて慈仁を積む佛事の名。○〔乾淳佛時記〕「四月八日爲二佛誕日一諸寺各有二浴佛會一、是日西湖作二—・—一、小舟競二賣龜魚螺蚌放生一」。

〔千載會〕極めてあひ難きをりにあふこと。○〔宋〕「臣逢二—・—之—一」。

〔天人會〕天のまはりあはせと人の歸向と相あふこと。○〔晉〕「乘二奕世之德一有二—・—之—一」。

【會】カツ、カチ。戸活切 曷

—撮は、あたまのまげ、もとどり、項椎。○〔莊〕「—撮指レ天」。

【[illegible]】トウ、ツ。他東切 東

遠く聞こゆる鼓の聲にいふ字。

十畫

【朄】イン。羊進切 震

小さき鼓、こつゞみ。○〔周〕「合二奏鼓—一」。

【朅】ケツ、ケチ。丘傑切 屑

さる、（去）。○〔漢〕「回レ車—來兮」。

【朅】ケツ、ケチ。丘竭切 屑

武くして壯なる貌にいふ字。○〔詩〕「庶士有レ—」。

十一畫

【[illegible]】デイ、ニヤウ。囊丁切 靑　チ、女夷切 支

つぐ。（告）。

十二畫

【朁】替の字に同じ。

【[illegible]】テン、トン。他兼切 鹽

ます、（益）。

十五畫

【[illegible]】サウ、ソウ。則刀切 豪

日の東方に出づるにいふ字。

十六畫

【[illegible]】曹の本字。

十七畫

【朇】ヒ。婢支切 支

ます、（益）。

月　部

【月】ゲツ、グワチ。魚厥切 月 ——〔說文〕闕也、太陰之精。

つき。

（い）地球の衞星、太陽の光を受けて夜間に地球を照らす、太陰。○〔易〕「懸象著明莫レ大二乎日—一」。

（ろ）太陰の光影、つきかげ。○〔玉海〕「華礎生レ雲璇題耀レ—」。

（は）一年を十二期に分ちしもの、一、陰曆にてつきかげの朔より晦に至るまでの間。○〔禮〕「孟春之—」。

（に）一年を十二分したる一にあたる日數。○〔後漢〕「旬—之間並各拔擢」。

（ほ）つき每、つき〳〵。○〔宋〕「罷二左藏—進二錢千二百緡一」。

〔大月〕陰曆にては一日より晦まで三十日ある月のこと、陽曆にては一日より晦まで三十一日ある月のこと。○〔書、疏〕「月有レ從レ朔至レ晦—・—三十日」。

〔小月〕陰曆にては一日より晦まで二十九日ある月、陽曆にては一日より晦まで三十日ある月のこと、中に就き二月は平年にて二十八日閏年にて二十九日とす。○〔沈攸之〕「春外稀二—・—一」。

〔彌月〕此の月より彼の月へまたがる。○〔韋應物〕「—レ—曠不レ接」。「作」。

〔陽月〕十月の稱。○〔後漢〕「至二於—・—一、陰慝害」

〔暢月〕前に同じ。○〔淮〕「仲冬之月、命曰二—・—一」。

〔夕月〕（い）天子のつきを拜する禮。○〔禮〕「天子常以二秋分一、—二—于西郊一」。

（ろ）ゆふべにあらはれたる月、ゆふづき。○〔梅堯臣〕「—・—吐二燈明一」。

〔令月〕諸事惡しきことなき月、まはりあはせよきつき。○〔儀〕「—・—吉日、始加二元服一」。

〔吉月〕前に同じ。○〔儀〕「—・—令辰」。「—也」。

〔良月〕（い）前に同じ。○〔左〕「以二十月一入、曰二—」

（ろ）くもりなき月かげ。○〔陶潛〕「歔々覺二—・—一」。

〔暑月〕夏のあつき月。○〔左、註〕「—・—多レ衣、所二以示レ疾」。

〔偃月〕うつぶしたる月がけ、即ち、みかづきなどの如き未だ半月に至らざるもの。○〔費昶〕「娥眉—・—徒自妍」。

〔明月〕くもりなきつきかげ。○〔南〕「對二吾飮一者、唯當二—・—一」。

〔乘月〕つきかげの明かなるをまはとす。○〔謝靈運〕「—・—弄二潺湲一」。「—・—」。

〔朗月〕あきらかなる月かげ。○〔南〕「臨二淸風一對二朗—・—甚美」。

〔風月〕吹くかぜと照る月かげと。○〔南〕「秋涼夕、「憐二淸景一」。

〔步月〕月かげを賞みありく。○〔白居易〕「—・—

〔季月〕おしつまれる月、末はす。○〔李賀〕「風搖—・—寒」。「形如二—・—一」。

〔半月〕全形のなかばをあらはせる月かげ。○〔唐〕

〔佳月〕よき月かげ。○〔陸游〕「今夕—・—」。

〔弄月〕月かげを見て心を慰む。○〔宋〕「吟レ風—」。

〔喘月〕吳國の牛は月かげを見ても太陽の照りはたゝくが如くに熱きものかと思ひて息をせはしくなすより物事をいたく疑ひ畏るゝにいふ語。○〔元稹〕「—」「—伴二吳牛一」。

〔朧月〕おぼろづき。○〔范成大〕「紙・窗弄レ色如二―・―一」。
〔端月〕一年中のはじまりの月、即ち、一月のこと。○〔歲華紀麗〕「氣和二―・―一」。
〔殘月〕未だ消えやらぬなごりの月かげ、あかつき。○〔宋之問〕「―・―蚌中開」。
〔烟月〕かすみのたなびきたる中にあらはれたる月かげ。○〔劉長卿〕「―・―白氛氳」。
〔吐月〕空に月かげをあらはし出す。○〔李白〕「松・嶺已―レ―」。
〔初月〕三日目にあらはれたる月かげ、みかづき。○〔書譜〕「纖・々乎似二―・―之出二天・涯一」。
〔曉月〕夜のあけがたのつきかげ。○〔謝靈運〕「夕慮二―・―流一」。
〔皓月〕白き色なせるつきかげ。○〔何承天〕「―・―盈二素・手一」。
〔素月〕前に同じ。○〔古樂府〕「昭・々―・―明」。
〔斜月〕傾けるつきかげ。○〔子夜歌〕「―・―垂二光・照一」。
〔弦月〕弓はりづき。○〔宋孝武帝〕「―・―升二初・光一」。
〔宵月〕つきかげ。○〔江淹〕「―・―輝二西・極一」。
〔涼月〕秋のつきかげ。○〔顧況〕「―・―掛二層・峰一」。
〔兎月〕つきの稱。○〔江總〕「―・―半・輪明」。
〔桂月〕前に同じ。○〔張正見〕「長・河上二―・―一」。
〔醉月〕月かげをめでて酒にゑふ。○〔李白〕「飛二羽・觴一而―レ―」。
〔缺月〕かけたる月かげ。○〔杜甫〕「―・―未レ生レ天」。
〔閏月〕うるふづき。○〔書〕「以二―・―一定二四・時一成レ歲」。
〔歲月〕年とつきと。○〔史〕「未レ可下以二―・―一破上也」。
〔期月〕一ケ月。○〔論〕「苟有二用レ我者一、―・―而已可也」。
〔孟月〕春夏秋冬を各三月づゝに分かち其のはじめの月をいふ。○〔潘尼〕「―・―涉二初・旬一」。
〔蜡月〕十二月の稱。○〔周、疏〕「正二齒・位一禮在二―・―一」。
〔閒月〕繁忙ならざる月。○〔左、疏〕「擇二―・―一而爲レ之」。
〔忙月〕前の反、繁多なる月。○〔北〕「―・―二・百」。
〔達月〕月をかさぬ。○〔漢〕「舉レ之―・―不レ盡」。
〔盈月〕滿月といふに同じ、圓くみちたる月かげ。○〔魏〕「三・五―・―、淸・耀燭レ夜」。
〔滿月〕（い）もち月。○〔溫子昇〕「言如二―・―一」。（ろ）まる一月。○〔張籍〕「幼・子初生過レ―」。
〔要月〕大切なる月。○〔北〕「此三・時者、農之―・―也」。
〔生月〕身のうまれ出でたる月。○〔北〕「行・年―・―生・日」。
〔臘月〕十二月、しはす。○〔岑參〕「―・―見二春輝一」。
〔閱月〕月を過ぐ。○〔唐〕「―レ―拜二諫・議大・夫一」。
〔挾月〕月かげを抱きもつ。○〔宋〕「軫レ風―レ―」。
〔霽月〕晴れわたれる月かげ。○〔白居易〕「―・―當レ窗白」。
〔待月〕月の出づるをまつ。○〔錢起〕「落・帆唯―レ―」。
〔寒月〕冬の空にかゝれる月かげ。○〔陳子昂〕「狐・狖啼二―・―一」。
〔團月〕まどかなる月かげ。○〔歲華紀麗〕「扇搖二―・―一」。
〔吟月〕月に對して詩歌を口ずさむ。○〔方干〕「釣レ瀨―レ―便成レ翁」。
〔片月〕かたわれづき。○〔于武陵〕「涼・天生二―・―一」。
〔亮月〕あきらかなる月。○〔嵇康〕「皎・々―・―麗二於高・陽一」。
〔抱月〕つきかげを持つ。○〔源乾曜〕「虛懷同二於―ヒ―」。
〔皎月〕白き色せる月。○〔褚亮〕「層・軒登二―・―一」。
〔傾月〕西の空にかたぶき下がれる月かげ。○〔謝惠連〕「房・櫳引二―・―一」。
〔臨月〕子を生む月になること。○〔梁武帝〕「―・―尤入レ扉」。者、行二產・路側一、母不レ及レ抱」。
〔淸月〕きよく澄める月。○〔韓愈〕「―・―出レ嶺」。
〔三五月〕十五夜のつき、もちづき。○〔劉孝綽〕「明・々―・―・―」。
〔千里月〕何れの處も明かにてらすつきかげ。○〔李嶠〕「他・鄉―・―・―」。

二畫

【有】イウ、ウ。云久切 [有]

㊀あり、ある。
（い）無かるべきが、其の物事の常なるにあらはれ生ずるにいふ字。○〔春秋〕「―レ食レ之」。
（ろ）其の物事の實在せるにいふ字。○〔左〕「―レ文在二其手一」。
㊁現存、實在。○〔莊〕「視レ―者昔之君子」。
㊂物體、もの。○〔顏延之〕「萬―皆同春」。
㊃州國、くに。○〔詩〕「奄二有九―一」。
㊄取得す、たもつ、ところ。○〔孟〕「果若二固―レ之」。
㊅取得する所、取得せるもの。○〔曹植〕「尺・土非二復漢―一」。
㊆空乏ならざること、ゆたかなること。○〔易、註〕「居二豐―之世一」。
㊇物事に執著すること。○〔後漢〕「空―兼遺レ之」。
㊈煩惱より未來の業果を生ずること。○〔釋氏要覽〕「生滅故名レ―墮二苦集・諦中一是―也」。

〔大有〕易の卦の名☲☰離上乾下 ○〔易〕「―・―元亨」。
〔富有〕あつくたもてること、ゆたかなること。○〔蘇軾〕「天・公眞―・―」。
〔烏有〕あとかたのなきこと、なきこと。○〔袁桷〕「夢富好處成二―・―一」。
〔希有〕まれなること。○〔晉〕「世所二―・―一者、悉在二華所一」。
〔備有〕不足なくそなはれること。○〔董逌〕「諸・體―・―」。
〔奄有〕おほひたもつこと。○〔詩〕「―二―下・土一」。
〔撫有〕やすんじたもつ。○〔穀梁、註〕「臨―二―之一也」。
〔并有〕まとめてたもつ。○〔史〕「―二―天・下一」。
〔兼有〕前に同じ。○〔宣和畫譜〕「―・二―之一」。
〔固有〕もとよりあること、もとよりたもてること。○〔易〕「―・―レ之也」。
〔歲有〕みのりよきこと、豐年なること。○〔詩〕「自レ今以始―其―」。
〔專有〕ひとりおさめすること、もツぱらにすること。○〔後漢〕「可レ―二―之一耶」。
〔無何有〕虛無なること、むなしきこと。○〔莊〕「何不レ樹二之―・―・―之鄉廣・莫之野一」。

【有】イウ、ウ。于救切 [宥]
又に通じ用ふ、また。○〔詩〕「不レ日―曀」。

三畫

【肙】ワイ、エ。烏賄切 [賄]
はく（吐）。

【肌】期に同じ。

【丌月】期に同じ。

四畫

【朊】ゲン、グワン。虞遠切 [阮]
月の光の微かなること、かすか。

【朋】ホウ、ボウ。步崩切 [蒸]

㊀とも。
（い）黨與、なかま。○〔書〕「孺・子其―」。
（ろ）一羣、むれ。○〔山海經〕「羣・居而―・飛」。
（は）比類、たぐひ。○〔詩〕「碩大無レ―」。
（に）同門、學友。○〔易〕「―・友講・習」。
（ほ）或は性行或は事業或は志望などを同じくする者の稱。○〔易〕「西・南得レ―」。
㊁古昔、錢貨の單位の二百十六倍に直るふたつの貝。○〔詩〕「錫二我百―一」。
㊂兩尊、つゐのたる。○〔詩〕「―・酒斯饗」。

〔淫朋〕みだりなるとも。○〔書〕「凡厥庶・民、無レ有二―・―一」。
〔邦朋〕朋黨をなして國政を平らかならざらしむる者。○〔周〕「七曰、爲二―・―一」。
〔友朋〕ともどち。○〔左〕「畏二我―・―一」。
〔交朋〕前に同じ。○〔陶翰〕「―・―忽先・進」。
〔親朋〕ちかしきとも。○〔杜甫〕「―・―無二一・字一」。
〔舊朋〕ふるきとも。○〔孟浩然〕「文・章後二―・―一」。
〔黨朋〕徒黨、なかま。○〔韓愈〕「君・子忌二―・―一」。
〔結朋〕なかまをつくること。○〔天寶遺事〕「每二春・事一―レ―聯レ黨」。
〔賓朋〕まらうど。○〔舊唐〕「雖レ有二―・―一」。
〔高朋〕高尙なる友。○〔王勃〕「―・―滿レ座」。
〔佳朋〕良きとも。○〔韓愈〕「幸茲得二―・―一」。

〔眞朋〕善道をもて結びあふとも、まことのとも。○〔歐陽修〕「當下退二小人之僞朋一、而進中君子之――上」。〔狎朋〕なれしたしめるとも。○〔高啓〕「――晝接、流二聽詠一」。〔酔朋〕酒のみなかま。○〔法苑珠林〕「棄二――一、近二法友一」。

【朒】ヂク、ノク。女六切 屋

縮――は、ついたちに月の東方に見はるゝこと。

【肸】ゴ。阮古切 麌

あきらか、（明）。

【朌】頒に同じ、わかつ。○〔儀〕「―レ肉及二廋車一」。

【朓】テン、ドン。直遶切 阮

月の沒せる後にも尙ほ其の光明の殘れること。

【服】フク、ボク。房六切 屋

一 車を牽く馬の轅を夾めるものゝ稱。○〔詩〕「兩――上襄」。
二 人身に着用する衣の總稱、きもの、ころも。○〔書〕「車――以レ庸」。
三 使用の品物。○〔山海經〕「是司二帝之百――一」。
四 著る。○〔禮〕「祭二先王一――二褘衣一」。
五 佩ぶ、攜ふ、執る。○〔禮〕「衣二朱衣一――二赤玉一」。
六 もちふ、（用）。○〔易〕「―レ牛乘レ馬」。
七 したがふ、（從）。○〔書〕「四罪而天下成―」。
八 罪に伏す、罪に伏せしむ。○〔書〕「五―罰不レ―」。
九 おこなふ、（行）。○〔管〕「身―以先レ之」。
十 おもふ、（思）。○〔莊〕「吾―レ女也甚忘」。
十一 をさむ、（治）。○〔詩〕「―レ之無レ斁」。
十二 ならふ、（習）。○〔漢〕「―二其水土一」。
十三 つかさ、（職）。○〔書〕「無レ替二厥―一」。
十四 こと、（事）。○〔詩〕「昭哉嗣レ―」。
十五 殺戮せずして刑を肢體に加ふること。○〔周〕「以施二上――下――之刑一」。
十六 周時代の王畿の外の區域の稱、五百里を一區域となす。○〔書〕「弼二成五――一」。
十七 矢を盛る器、えびら、やづつ。○〔詩〕「象弭魚――」。
十八 鵩の別名、ふくろふ。○〔史〕「楚人命レ鴞曰レ―」。

〔牽服〕ひきゐ從ふ。○〔書〕「蠻夷――」。
〔舊服〕著ふるしたるころも。○〔梅堯臣〕「――變二褒博一」。
〔卑服〕衣類を飾ることをせぬ。○〔書〕「文王――」。
〔命服〕公けより定められたる禮服。○〔詩〕「服二其――一、朱芾斯皇」。
〔草服〕野夫の著くるそまつのもの。○〔顏延之〕「――薦二同槱一」。
〔朝服〕公に著て出づるきもの。○〔禮〕「必――而命レ之」。
〔素服〕飾りを施さゞるきもの。○〔禮〕「日食則天子――、而修二六宮之職一」。
〔異服〕常にかはりたるあやしげなるきもの。○〔禮〕「禁二――一、識二異言一」。
〔賓服〕來り從ふ。○〔禮〕「諸侯――」。
〔備服〕學者の著るきもの。○〔禮〕「夫子之服、其――歟」。
〔盛服〕立派なるきもの。○〔禮〕「齊明――以承二祭祀一」。
〔司服〕王、又は后のきものゝことを掌る官の名。○〔禮〕「乃命二――一、具二飭衣裳一」。
〔奇服〕あやしげなるきもの。○〔周〕「――怪民不レ入レ宮」。
〔九服〕侯服、甸服、男服、采服、衞服、蠻服、夷服、鎭服、藩服のこと、畿外の九區域。○〔成公綏〕「王圻――、列國一同」。
〔元服〕男子二十歲をもて成年となし冠を著くるの禮を擧ぐること。○〔儀〕「令月吉日、始加二――一」。
〔嘉服〕よろこびの時に著くるきもの。○〔左〕「以二――一見、則喪禮未レ畢」。

〔袒服〕はだにきるきもの。○〔左〕「皆衷二其――一以戲二于朝一」。
〔褻服〕公けならぬときにきるきもの、又、はだぎ、したおび。○〔論〕「紅紫不三以爲二――一」。
〔春服〕はるにつくるきもの、袷のこと。○〔論〕「暮春者――既成」。
〔法服〕制定せるきもの。○〔孝〕「非二先王之――一不二敢服一」。
〔心服〕眞實心より慕ひ從ふ。○〔梁簡文帝〕「師曠――」。
〔誠服〕眞實に從ふ。○〔漢〕「以レ德服レ人者、中心悅而――也」。
〔臣服〕けらいとしてつき從ふ。○〔漢〕「不レ能二亟來二――一」。
〔微服〕人に目たたぬきものをつくること、いやしき者のころもをきる。○〔孟〕「――而過レ宋」。
〔禮服〕儀式の席に出づるにつくるきもの。○〔漢〕「立二明堂一、制二――一、以興二太平一」。
〔詭服〕心にもなく詭り從ふ。○〔漢〕「外爲二――一、以釣二虛譽一者殊レ科」。
〔屈服〕かゞみ從ふ。○〔五〕「見者無レ不二――一」。
〔麗服〕みごとなるきもの。○〔唐〕「――靚粧」。
〔縞服〕薄ぎぬのきもの。○〔張九齡〕「――紛相送」。
〔冕服〕貴人の著くる禮服。○〔書〕「伊尹以二――一、奉二嗣王一歸二于亳一」。
〔悅服〕よろこび從ふ。○〔書〕「萬姓――」。
〔祇服〕つゝしみ從ふ。○〔書〕「子弗二――厥父一」。
〔思服〕思ひて忘るゝ能はざること。○〔詩〕「求レ之不レ得、寤寐――」。
〔常服〕ふだんにつくるきもの。○〔詩〕「四牡騤々、載二是――一」。
〔魚服〕矢を盛る器、えびら。○〔詩〕「象弭――」。
〔衣服〕きもの。○〔詩〕「西人之子、粲々――」。
〔祭服〕まつりの時に用ふるきもの。○〔禮〕「有二田祿一者先爲二――一」。
〔時服〕四季のをりをりにふさはしききもの。○〔禮〕「其斂以二――一」。
〔輕服〕よききもの。○〔左〕「一壁――」。
〔野服〕官位なきものゝきるきもの。○〔南〕「服二其――一、不レ改二常度一」。
〔從服〕したがふ。○〔張協〕「――二九國一、橫二制八戎一」。
〔羞服〕飲食衣裳のこと。○〔周〕「四日、――之式」。
〔膳服〕前に同じ。○〔周〕「關市之賦以待二王之――一」。

〔均服〕軍服のこと。○〔左〕「――振々」。
〔懾服〕畏れしたがふ。○〔戰〕「趙楚――」。
〔變服〕常の衣をとりかふ。○〔戰〕「―レ―折レ節」。
〔馴服〕なじみ從ふ、ならしたがふ。○〔史〕「鳥獸多――」。
〔威服〕おどし從はしむ。○〔史〕「―二―海內一」。
〔章服〕あやあるうつくしき衣物。○〔朱慶餘〕「水邊花氣襲二――一」。
〔讞服〕其の實なきに伏罪す。○〔史〕「不レ勝二痛自――一」。
〔集服〕寄りあつまり從ふ。○〔史〕「十萬之衆、咸懷二――一」。
〔被服〕きるもの。○〔史〕「謠俗――、飲食、奉レ生送レ死之具」。
〔榜服〕むちうちて伏罪せしむ。○〔漢〕「強二――一之」。
〔畏服〕おそれて從ふ。○〔漢〕「豪彊――」。
〔慙服〕恥かしく思ひて從ふ。○〔漢〕「自レ是後羣――」。
〔殊服〕（い）他の國のこと。○〔張衡〕「――來同」。（ろ）きるものを異別にす、又、ことなるきもの。○〔漢〕「戶異レ政、人―レ―」。
〔懷服〕慕ひ從ふ。○〔北〕「百姓――」。
〔御服〕貴人のきるもの、又使用物。○〔荀悅〕「車馬――、無レ所二增益一」。
〔寒服〕さむさをしのぐきもの。○〔謝朓〕「風至授二――一」。
〔肅服〕つゝしみ從ふ。○〔後漢〕「遠近――」。
〔欣服〕喜び從ふ。○〔後漢〕「――二帝義一」。
〔歡服〕前に同じ。○〔後漢〕「百姓――」。
〔厭服〕おさへられ從ふ。○〔後漢〕「莫レ不二――一焉」。
〔勸服〕心よりすゝみ從ふ。○〔後漢〕「百姓觀者莫レ不二――一」。
〔甯服〕そまつなるきもの。○〔後漢〕「――開行」。
〔制服〕規則をもて定めたるきもの、又、規則もてきものを一定す。○〔晉〕「度レ衡而―レ―」。
〔順服〕從ひて負くことをせぬ。○〔後漢〕「皆來――」。
〔歸服〕身を寄せ從ふ。○〔江淹〕「戎夏――」。
〔嗟服〕感服に同じ。○〔後漢〕「一見――」。
〔歎服〕前に同じ。○〔楊誠〕「一見――」。
〔憚服〕おそれ從ふ。○〔唐〕「士心――」。
〔儀服〕禮式のをりに用ふるきもの。○〔晉〕「――同二太后一」。
〔著服〕きものを著る、又、きるきもの。○〔晉〕「爲レ之――」。
〔優服〕いやしく正しからざる衣。○〔晉〕「未下嘗以二――一臨上レ朝」。
〔美服〕よき衣。○〔張衡〕「嘉二殷巫之――一」。
〔讋服〕畏れて從ふ。○〔南〕「罪不二――一」。

〔揖服〕貫び從ふ。○〔南〕「爲㆓當-時─・─㆒」。
〔公服〕朝廷より定められたる衣。○〔北〕「始制㆓五-等─・─㆒」。
〔欵服〕誠心より從ふ。○〔北〕「周-鄭─・─」。
〔讋服〕おそろき從ふ。○〔宋〕「人-人─・─」。
〔信服〕誠としつき從ふ。○〔北〕「爲㆓鄕-閭─・─㆒」。
〔披服〕きものを衣る。○〔北〕「露㆑髻─㆑─」。
〔愧服〕はづかしく思ひて從ふ。○〔宋〕「使-者─・─」。
〔敬服〕うやまひて從ふ。○〔搜神記〕「百-姓─・─」。
〔潔服〕淸ききもの、又、きものを淸くす。○〔宋〕「至則─㆑─焚㆑香對㆑之」。
〔震服〕おそれて從ふ。○〔遼〕「宋聞㆑風─・─」。
〔駭服〕驚きて從ふ。○〔金〕「諸-匠無㆑不㆓─・─㆒」。
〔緇服〕墨ぞめのころも、即ち、僧侶のころも。○〔水經、註〕「─・─思㆑玄之士」。
〔端服〕きものを正しく衣る、又、たゞしききもの。○〔顏延之〕「─㆑─整㆑弁」。
〔感服〕心を動かし從ふ。○〔秦觀〕「王-者所㆓以─㆑─天-下㆒者、惠與㆑威也」。
〔鮮服〕あざやかなる良ききぬ。○〔劉基〕「─・─明㆓春-閨㆒」。
〔欽服〕つゝしみ從ふ。○〔廷賢徐伯敬詩〕「朋-類素─・─」。

【服】箙に同じ。○〔禮〕「扶─救㆑之」。

【服】ハク、ホク。蒲角切 覺
嗁き呼ぶ、さけぶ。

五畫

【朎】レイ、リヤウ。郎丁切 靑
月光の明かなるにいふ字、あきらか。

【朏】ヒ。妃尾切 尾　ハイ、滂佩切 隊　ホツ、普沒切 月　ボチ。普罪切 賄
朔より第三日目に出づる月影、みかづき。○〔書〕「惟丙-午─」。

【朐】ク、ゴ。其俱切 虞
車の軶、くびき。○〔左〕「絲㆑─汰㆑輈」。

六畫

【䏑】コウ、ク。虎孔切 董
月の明かならざるを、うすづきよ、くらし。

【朒】ヂク、ニク。女六切 屋
㊀朔に東方に見はるゝ月、ついたちづき。○〔五〕「審㆓朓─㆒以定㆑朔」。
㊁寬く伸びず、ちゞまる。○〔漢〕「王-侯縮─不㆑任㆑事」。

【朓】テウ。吐了切 篠
㊀晦に西方に見はるゝ月、つごもりづき。○〔五〕「審㆓─朒㆒以定㆑朔」。
㊁月側く、かたむく。

【朓】テウ。他凋切 蕭　仙弔切 嘯
前條の㊀に同じ。

【朔】サク、ソク。色角切 覺
㊀陰暦にて其の月の第一の日、つきたち、ついたち。○〔左〕「閏-月不㆑告㆑─」。
㊁はじめ（始）。○〔儀〕「─・─鼙」。
㊂北の方、きた。○〔書〕「宅㆓─方㆒曰㆓幽-都㆒」。
㊃古昔に、天子季冬に來歲十二ヶ月の暦を諸侯に頒ち併せて施行すべき諸政を命令するを、諸侯は之を祖廟に藏め月のついたち毎に特羊を供へて廟に告げ受けて施行するを、○〔禮〕「爲㆓來-歲受─日㆒」。
〔從朔〕初めにしたがひよる。○〔禮〕「事㆓鬼-神上-帝㆒、皆─㆓其─㆒」。
〔受朔〕天子より來歲の暦及び政令をうけとりて人民に布くと、稟じて、天子の命令に服從するといふ語。○〔晉〕「承㆑正─㆑─」。
〔告朔〕諸侯の天子より朔暦及び政令を受けて之を祖廟に藏めたるをついたち毎に祖廟に告げ受けて人民に施行すると、又、其の朔暦及び政令。○〔周〕「頒㆓─・─于邦-國㆒」。
〔正朔〕（い）正月つきたち、又其の日に朔暦政令を施すと。○〔史〕「改㆓─・─易㆓服-色㆒」。（ろ）天子の朔暦政令。○〔後漢〕「─・─所㆑未㆑加」。
〔元朔〕前に同じ。○〔晉〕「獻-歲視㆓─・─㆒」。
〔北朔〕きたの方えみしの土地。○〔成公綏〕「廻㆓巢-風乎─・─㆒」。
〔幽朔〕北の方えみしの地。○〔隋煬帝〕「省㆑俗觀㆑風、爰屆㆓─・─㆒」。
〔月朔〕つきの始め。○〔書〕「季-秋─・─、辰-弗㆑集㆓于房㆒」。
〔幕朔〕支那の北方砂漠の地のと、即ち、北方のえみし。〔漢〕「龍荒─・─、莫㆑不㆓來庭㆒」。
〔晦朔〕みそかとつきたちと。○〔莊〕「朝-菌不㆑知㆓─・─㆒」。
〔五朔〕五たびのついたち、即ち、五ヶ月のと。○〔齊〕「經㆓涉─・─㆒、踰㆓歷四-海㆒」。
〔仰朔〕天子の朔暦政令を奉ずると。○〔隋〕「六-戎─㆑─、八-蠻請㆑吏」。
〔奉朔〕前に同じ。○〔蘇頲〕「日-月所㆑臨而─㆑─」。
〔邊朔〕かたよりたる北方の土地。○〔謝靈運〕「季-秋─・─苦」。
〔積朔〕ついたちの數をつむ、即ち、永き年月をふると。○〔西王母傳〕「以㆓朝-菌之脆㆒、求㆓─・─之期㆒」。
〔涉朔〕月をまたぐ。○〔謝靈運〕「經㆑旬─㆑─」。
〔陰朔〕北方のえみしの地。○〔王粲〕「漢-兵出㆓─・─㆒」。

【朕】チン、ヂン。直稔切 寢
㊀われ（我）。○〔屈平〕「─皇-考曰㆓伯-庸㆒」。
㊁古は上下の別なく用ひたりしが秦の始皇の二十六年以來特に天子の自稱となせり。○〔史〕「─爲㆓始-皇-帝㆒」。
㊂きざし（兆）。○〔淮〕「欲㆓與㆑物接㆒而未㆑成㆓兆─㆒」。

【朕】チン、ヂン。丈忍切 軫
革の制、こしらへ。○〔周〕「眡㆓其─㆒欲㆓其直㆒也」。

【胶】カウ、ケウ。古肴切 肴
日の軌道と月の軌道とのきり交はる處。

七畫

【朖】朗の本字。

【朗】ラウ。里黨切 養
高明なると、淸徹なると、ほがらか、あきらか。○〔王羲之〕「天─氣淸」。
〔高朗〕たかくあきらかなると。○〔王逸〕「元氣秀─・─」。
〔潤朗〕つやありてほがらかなると。○〔北〕「盧-郎─・─」。
〔疏朗〕すきとほりてあきらかなると。○〔晉〕「眉-目─・─」。
〔通朗〕前に同じ。○〔晉〕「務性─・─」。
〔融朗〕前に同じ。○〔舊唐〕「景-氣─・─」。
〔潔朗〕きよらかなると。○〔李程石〕「澄㆓素-輝之─・─㆒」。
〔淸朗〕前に同じ。○〔晉〕「六-合─・─」。
〔雋朗〕すぐれて智識のあきらかなると。○〔晉〕「琨少得㆓─・─之目㆒」。
〔聰朗〕前に同じ。○〔晉〕「─・─多㆓大-略㆒」。
〔英朗〕前に同じ。○〔梁〕「視㆑色見㆓其─・─㆒」。
〔開朗〕あきらかなると。○〔晉〕「雅性─・─」。
〔炎朗〕前に同じ。○〔冀州記〕「─・─有㆓遠-意㆒」。
〔明朗〕前に同じ。○〔拾遺記〕「泉-石─・─」。
〔韶朗〕前に同じ。○〔陳〕「寒-物─・─」。
〔皎朗〕前に同じ。○〔王逸〕「其-義─而─」。
〔昭朗〕前に同じ。○〔唐高宗〕「風-鑾─・─」。
〔曠朗〕ひろぐとほがらかなると。○〔晉〕「野─・─而無㆑塵」。
〔玄朗〕妙理ふかくあきらかなると。○〔晉〕「挺㆓璣皇─・─之德㆒」。

〔澔朗〕聲などのおほきくほがらかなること。○〔論衡〕「號-啼之聲、―・―高暢」。
〔晴朗〕そらのはれたること。○〔世説〕「天甚―・―」。
〔明朗〕ほがらかなる貌にいふ語。○〔韓愈〕「―・―聞ニ街-鼓ニ」。
〔炯朗〕あきらかなること。○〔張華〕「何衆-文之―・―」。
〔精朗〕前に同じ。○〔郭璞〕「朝-日何―・―」。
〔爍朗〕前に同じ。○〔潘岳〕「奇姿―・―」。
〔昌朗〕前に同じ。○〔李程〕「倶熠-々以―・―」。
〔昺朗〕前に同じ。○〔吳筠〕「―・―天-光徹」。

【朘】センヽ。子全切 先
ちゞまる、ちゞむ（縮）。○〔漢〕「民日削月―」。

【朙】明の古字。

【朚】クワウ、ワウ。呼光切 陽
あす、翌。

【望】バウ、マウ。無放切 漾
㊀のぞむ。
(い)みやる、みまもる、ながむ。○〔戰〕「吾倚レ門而―」。
(ろ)うかゞふ（覗）。○〔吳〕「張-遼覘-―知レ之」。
(は)怨む、責む。○〔史〕「―レ臣深」。
(に)仰ぐ、慕ふ。○〔孟〕「良-人者所ニ仰-―而終レ身」。
(ほ)志す、願ふ。○〔後漢〕「非ニ海-内企-―之意ニ」。
(へ)對す。○〔地理通釋〕「兩-山相―如レ門」。
㊁のぞみ。
(い)ながむると、ながめ。○〔漢〕「窮レ目極レ―不レ見レ所レ識」。
(ろ)うらみ、にくみ。○〔後漢〕「大-臣不レ服レ罪懷ニ恚-―ニ」。
(は)あふぎ志たふ所、又、名聲、ほまれ。○〔詩〕「令-聞令-―」。
(に)こゝろざし、ねがひ、めあて、おもひ。○〔漢〕「布大喜過レ―」。
㊂外貌、なりふり、やうす。○〔北〕「風-―閑-雅」。
㊃失意の貌にいふ字、きぬけ。○〔禮〕「―・―焉如レ有ニ從而弗レ及」。
㊄慙愧の貌にいふ字、はづかし、はぢらふ、一説に、去りて顧ざる貌にいふ字。○〔孟〕「―・―然去レ之」。
㊅遙かに山川を祭ること。○〔書〕「―ニ于山-川ニ」。
㊆又其の祭るべきもの。○〔周〕「以祀ニ四-―ニ」。
㊇陰暦にて十五日の夜、其の夜は日さ月さ相對せる義よりいふ、もち、もちづき。○〔易〕「月度レ―」。

〔柴望〕志ば草をたける祭りの名。○〔書〕「―・―秩ニ于山-川ニ」。
〔既望〕十五日、もち。○〔書〕「惟二-月―・―」。
〔瞻望〕遙にのぞむ。○〔詩〕「―・―弗レ及、泣涕如レ雨」。
〔令望〕よきほまれ。○〔詩〕「令-聞―・―」。
〔眺望〕ながめみる、ながめ。○〔蔡文姫〕「登レ高遠―・―」。
〔顧望〕ふりかへりみる、ふりかへりうかゞふ。○〔唐〕「按-兵―・―」。
〔民望〕(い)たみのねがひ。○〔漢〕「從ニ―・―也」。
(ろ)人々の歸依。○〔曹植〕「―・―如レ草、我澤如レ春」。
〔群望〕近郊にてあまたの神を祭ること。○〔左〕「乃大有レ事ニ于―・―ニ」。
〔方望〕近野にて四方の神々を祭ること。○〔公羊〕「天-子有ニ―・―之事ニ」。
〔觖望〕怨む。○〔後漢〕「令ニ天-下―・―ニ」。
〔怨望〕前に同じ。○〔史〕「由レ此―・―」。
〔覘望〕様子によりて去就を定めんとうかゞふ。○〔漢〕「依ニ託周-公之義ニ、且以―・―」。
〔騁望〕縦にながめみる。○〔李白〕「―ニ―瑯-琊臺ニ」。

〔人望〕人々の願ふ所、人々の志たふ所。○〔後漢〕「以從ニ―・―ニ」。
〔時望〕當時の人の願ふ所、ほまれ、その時の人のねがひ。○〔王儉〕「久闕ニ―・―ニ」。
〔曠望〕ひろきながめ。○〔柳宗元〕「―・―少ニ行-人ニ」。
〔秀望〕すぐれたるほまれ。○〔記室新書〕「陸-機陸-雲以ニ南-土―・―ニ選ニ太-子舍-人ニ」。
〔悵望〕いたみながむ。○〔韓偓〕「西-樓―・―芳-菲節」。
〔闚望〕うかゞひ見る。○〔書、傳〕「以―ニ―・―城-內ニ」。
〔思望〕志たひのぞむ、おもひねがふ。○〔詩、疏〕「周-人―ニ―・―仲-山-甫ニ也」。
〔候望〕うかゞひ見る。○〔詩、箋〕「以ニ―・―ニ爲レ樂」。
〔遙望〕遠きあなたを見る。○〔嵇康〕「―・―山-上松」。
〔遠望〕前に同じ。○〔淮〕「明-月之光可ニ以―・―ニ」。
〔守望〕寇賊の來たらぬやうに用意をなしものみを置くこと。○〔孟〕「―・―相助」。
〔仰望〕高き方をあを向き見る。○〔岑參〕「―・―浮與レ沉」。
〔高望〕(い)願ひ求むる所をけだかくす。○〔史〕「―レ―而遠レ志焉」。
(ろ)たかき所よりながめ見る。○〔傅汝舟〕「秋日同―・―」。
〔責望〕怨みてせむ。○〔史〕「兄-弟相―・―」。
〔絶望〕願ひ求むることならざと思ひあきらむ。○〔蔡邕〕「―レ―已久」。
〔失望〕心に願ひしことの違ふこと。○〔漢〕「秦-民―レ―」、
〔登望〕高き所にあがりてながめみる。○王昌齡「難レ堪―・―雲-烟裏」。
〔冀望〕ねがひ。○〔後漢〕「―・―成-就」。
〔意望〕前に同じ。○〔後漢〕「―・―甚高」。
〔彌望〕見わたすかぎり。○〔後漢〕「―・―數-十-里」。
〔聲望〕ほまれ。○〔後漢〕「―・―日重」。
〔伺望〕うかゞふ。○〔後漢〕「密令ニ太-史―ニ―之ニ」。
〔想望〕思ひ慕ふ、おもひねがふ。○〔後漢〕「―ニ―樂-殺ニ」。
〔企望〕希ひ求む。○〔後漢〕「非ニ海-內―・―之意ニ」。
〔鶴望〕首を長うして願ひ待つ。○〔蜀〕「延レ頸―・―」。
〔鵠望〕前に同じ。○〔成公綏〕「延レ頸―・―」。
〔覘望〕うかゞひ見る。○〔吳〕「―・―知レ之」。
〔衆望〕あまたの人ののぞみ。○〔金〕「甚協ニ―・―ニ」。
〔器望〕人物の秀でたるほまれ。○〔北〕「小有ニ―・―ニ」。
〔勳望〕てがらありて人の歸依を受くること。○〔晉〕「宗-室―・―」。
〔才望〕はたらきあるほまれ。○〔晉〕「負ニ其―・―、志匡ニ世-難ニ」。
〔名望〕ほまれ高く人の歸依を受くること。○〔晉〕「道-德―・―、抗不レ及レ喜」。
〔位望〕官職たふとくほまれあること。○〔李中獻〕「重」。「―・―雖ニ能並ニ」。
〔德望〕行たかくほまれあること。○〔北〕「―・―日
〔資望〕人を歸依せしむるに足るべき威德をそなへたるほまれ。○〔赤觀〕「臣聞用レ人之要術、惟―・―而已」。
〔姿望〕容子、すがた。○〔晉〕「劭雅有ニ―・―ニ」。
〔儁望〕すぐれたるほまれ。○〔晉〕「卿風-流―・―、眞後-來之秀」。
〔胄望〕身分たかきほまれ。○〔晉〕「州-縣―・―、累-葉重レ光」。
〔非望〕分を踰えたる願ひ。○〔北〕「巨-猾息ニ其―・―ニ」。
〔素望〕日頃のねがひ。○〔柳宗元〕「知下其不レ盈ニ―・―ニ久上矣」。
〔鄕望〕村里の間にすぐれたるほまれあること。○〔南〕「―・―、宜ニ善敬ニ之」。
〔族望〕やからのほまれ、いへがらよきこと。○〔南〕「倚ニ敷―・―ニ」。

【朚】バウ。莫郎切 陽
にはか（遽）。

八畫

【䏆】浩に同じ。

【朜】トン。他昆切 元
月の光。

【朝】テウ。陟遙切 蕭
㊀早旦よりはじめての食時までの間、つさ、あした、あさ。○〔詩〕「崇―其雨」。
㊁あしたに出仕すること、君王に謁すること。○〔周〕「春見曰レ―」。
㊂臣下に會見すること、庶政を聽くこと。○〔呂氏春秋〕「朞-年不レ聽レ―」。

㊃召す。○〔屈平〕「－二四-靈於九-濱一」。
㊄訪ふ、おとづる。○〔史〕「日往－二相-如一」。
㊅あつむ、あつまる、(會)。○〔禮〕「耆-老皆－二于庠一」。
㊆小水の大水に流れ注ぐこと。○〔書〕「江-漢－二宗于海一」。
㊇君王に謁見する處、君王の政事をしろしめす處、宮廷、廟堂。○〔禮〕「班レ－治レ軍、涖レ官行レ法非二威-嚴一不レ行」。
㊈官廳、やくしよ。○〔後漢〕「山-谷鄙-生未三嘗識二郡-－一」。
㊉我が君王の治下、父母の國。○〔舊唐〕「舉-族歸レ－」。
(十一)一系の君王統御の間の稱。○〔舊唐〕「漢-－之刑以弊」。
(十二)一人の君王在位の間の稱。○〔唐〕「歷-－佐-命」。
(十三)人のあつまりつどふ所。○〔史〕「日-莫之後過二市-－一者掉レ臂而不レ顧」。

〔終朝〕あしたより食時に至るまでのあひだ、卽ち、ひとあさ。○〔易〕「－－三褫レ之」。
〔詰朝〕あした。○〔左〕「－－相見」。
〔三朝〕歲首のあした。○〔漢〕「歲之朝日二－－一」。
〔歲朝〕前に同じ。○〔范成大〕「－－爆竹傳レ自レ昔」。
〔元朝〕前に同じ。○〔僧惠洪〕「－－喜レ見レ雪」。
〔花朝〕はなざかりのあさ、又、二月十五日のこと。○〔提要錄〕「二月十五爲二－－一」。
〔明朝〕あけのあさ。○〔吳均〕「－－江-水邊」。
〔芳朝〕はるのあした。○〔李白樂〕「何以盡二－－一」。
〔晨朝〕よのひきあけ。○〔夏侯湛〕「冒二－－一入二大-谷一」。
〔旦朝〕前に同じ。○〔蘇軾〕「－－丁-丁誰款レ我」。
〔霽朝〕はれたるあした。○〔孫逖〕「登-樂及二－－一」。
〔連朝〕いくあさもつゞけること。○〔杜甫〕「醉-酒或－－」。
〔四朝〕(い)帝王の巡守の時に四面の諸侯の方岳の下に朝見すること、一說に、四季に京師に出でて朝見すること。○〔書〕「羣-后－－」。
(ろ)天子の皐門の內にある外朝と路門の外にある中朝と、路寢の朝、又は燕朝ともいふ內朝と雉門の外にある詢事の朝とをいふ。○〔通典〕「周制天-子有二－－一」。
(は)四世の朝廷。○〔舊唐〕「柱二石－－一、藩二翰萬-里一」。
〔杖朝〕宮廷の上にてつゑを用ふること。○〔禮〕「八-十－二於－一」。
〔本朝〕廟堂、中央政府、又、我が國、我が朝廷。○〔漢〕「望之雅意在二－－一」。
〔擅朝〕朝廷にありて政權を專斷すること。○〔漢〕「外-氏－レ－」。
〔專朝〕前に同じ。○〔陸機〕「卒有二强-臣－レ－」。
〔皇朝〕當代の朝廷を稱するに用ふる語。○〔舊唐〕「－－得二五-品官一者」。
〔淸朝〕前に同じ。○〔方干〕「－－作二獻-臣一」。
〔當朝〕前に同じ。○〔後漢〕「有レ名二－－一」。
〔昌朝〕前に同じ。○〔鮑照〕「夙當二－－一」。
〔天朝〕前に同じ。○〔宋〕「上奉二－－一」。
〔聖朝〕前に同じ。○〔舊唐〕「－－垂レ則」。
〔國朝〕前に同じ。○〔曹植〕「無レ益二－－一」。
〔盛朝〕前に同じ。○〔舊唐〕「濟-々－－」。
〔顯朝〕前に同じ。○〔曹植〕「－－惟淸」。
〔帝朝〕前に同じ。○〔曹植〕「獻二之－－一」。
〔登朝〕朝廷にいづること。○〔漢〕「弱冠－レ－」。
〔參朝〕前に同じ。○〔舊唐〕「－－之日」。
〔嚴朝〕おきてきびしき朝廷。○〔後漢〕「欽レ使二－－必加二濫罰一」。
〔肅朝〕朝廷をたゞしとゝのふること、又、たゞしき朝廷。○〔阮籍〕「忠-信足二以－レ－」。
〔匡朝〕前半段に同じ。○〔袁映〕「－レ－闡レ化」。
〔廟朝〕政事堂。○〔韓愈〕「坐二於－－一」。
〔入朝〕來りて君王に謁見すること、宮廷に出づること、○〔史〕「嬰-齊－－」。
〔來朝〕前に同じ、又、きたりおとづる、又、他國の人の我が君王の治下に來ること。○〔詩〕「君-子－－」。
〔南朝〕晉の南に遷都して東晉と號せしより東晉及び東晉の後を受けし宋、齊、梁、陳の四朝との稱、江北に國を建てしものを北朝といふ、乃ち、我が紀元九百七十七年より千二百四十七年に至る。○〔杜牧〕「自レ古－－多二曠-達一」。
〔六朝〕(い)前の五朝に三國時代の吳を加へたるの稱、皆な建業、卽ち今の南京に都せしもの。○〔韓偓〕「－－宮-樣窖衣-裳」。
(ろ)六世の朝廷。○〔舊唐〕「歷二侯-伯一者－－」。

【朞】キ。居之切 支
一匝りして始めの時に復へること、ひさまはり。○〔蘇軾〕「－－月之間」。

【期】キ、ギ。渠之切 支
㊀あふ、(會)。○〔國〕「－二於司-里一」。
㊁かならずさす、(必)、もとむ、(要)。○〔漢〕「刻レ木爲レ吏－レ不レ對」。
㊂をはる、(卒)。○〔莊〕「志二乎－－費一」。
㊃かぎる、(限)。○〔詩〕「萬-壽無レ－」。
㊄さだむ、(決)。○〔周〕「萬-民之－二于市一」。
㊅まつ、(待)。○〔莊〕「以－二年-耆一者是非レ先也」。
㊆あつ、(當)。○〔書〕「－二予于治一」。
㊇ちぎる、(約)。○〔史〕「與二老-人一－後何也」。
㊈とき、(時)。○〔月賦〕「佳-－可二以還一」。
㊉さだめかぎれる時。○〔左〕「梁-嬴孕過レ－」。
(十一)時機、しほ、をり。○〔南〕「非二天-人啓レ－豈得二若レ斯之速一乎」。
(十二)口吃す、どもる。○〔史〕「臣－－知二其不-可一」。
(十三)朞に同じ、一まはり。○〔左〕「叔-孫旦而立、－焉」。

〔愆期〕をりを失ふこと。○〔易〕「歸-妹－－」。
〔耄期〕年齡の八九十になりおいぼれたる時のこと。○〔書〕「－－倦二于勤一」。
〔崇期〕道路の多くあつまりあふをいふ。○〔爾〕「路八-達曰二－－一」。
〔花期〕はなさくとき。○〔鄭谷〕「烟開氷-國－－近」。
〔弛期〕さだまりたる時をのばすこと。○〔韓詩外傳〕「羣-臣請レ－レ－」。
〔頒期〕時日をえらびさだむること。○〔陳琳〕「萬-里－レ－」。
〔深期〕十分にさだむること。○〔杜甫〕「後-會且二－－一」。
〔歸期〕かへるとき。○〔李白〕「何日是－－」。
〔心期〕心中にてちぎる、心中にさだむ。○〔楊公筆錄〕「我與二士-遜一－－久矣」。

【朡】ソウ、ス。倉紅切 東
赤き色、あか。

【[月花]】テウ。他凋切 蕭
祭の名。

【[月坒]】ハイ、ヘ。普乃切 賄
月の未だ盛明ならざること。

九畫

【[月亟]】カウ、キヤウ。居鄧切 徑
月出づ、つきので。

【[月英]】エイ、ヤウ。於京切 庚
月色、つきかげ。

【[月曷]】クワン。呼官切 寒
－兜は、四凶の名、古文尙書に見ゆ。

【膄】ソウ、ス。祖叢切 東
㊀船の物に著きて行かざるにいふ字、
㊁いたる、(至)。すわる。

十畫

【朝】カウ。虎晃切 養
月の明ならざるを、うすづきよ、おぼろ。

【朢】
通じて望に作る、もちづき。

十一畫

【[月旋]】セン、ゼン。徐兗切 銑　徐緣切 先
㊀みじかし、(短)。㊁ほそし、(小)。

【覎】　デン、チン。奴見切　霰
月出づ、いづ、又、つきので。

十二畫

【朜】　トン。他昆切　元
月の光、ひかり。

【⿰月黑】　コツ、ゴチ。胡骨切　月
にごる、(濁)、又、あかつく、(垢)。

【朣】　トウ、ツ。徒東切　東
月の明らかならんさ欲するをにいふ字、つきの出、月のでしほ、つきしろ。○〔潘岳〕「——朧以含レ光兮」。

【⿰月矞】　キツ、キチ。厥聿切　質
月の乙(東北の方)に在るを。

十三畫

【⿰月敫】
皎に同じ。

十四畫

【⿱厭月】　エフ。於葉切　葉
月動く、うごく。

【朦】　ボウ、ム。莫紅切　東
㊀月の将に入らんさするを、ほのか、おぼろ、つきのいり。○〔李嶠〕「——朧烟霧曉」。
㊁大いなる貌にいふ字、おほいなり。○〔揚雄〕「自レ關而西秦晉之間凡大貌謂二之——一」。

十六畫

【朧】　ロウ、ル。盧東切　東
月の明らかならんさ欲するを、月の将に入らんさするを、つきのでしほ、つきしろ、つきのいり、おぼろ、朣さ朦さの條を見よ。○〔潘岳〕「朗-月何——」。

二十畫

【⿰月黨】　タウ。他曩切　漾
月明かならざるを。

木部

【木】　ボク、莫卜切　モク。　屋　（說文）从レ屮下象二其根一

㊀き。
(い)幹枝長大なる一種の植物、郎ち、松、梅、などの如きもの、たちき。○「易」「百-穀草——麗二于土一」。
(ろ)材。○〔論〕「朽——不レ可レ離」。
(は)材の製作物。○〔司馬遷〕「〓二三——一」。
(に)五行の一、其の首位にありて生育の德あるもの、方位にては東、四季にては春にあたる。○〔易〕「巽爲レ—」。
(ほ)八音の一、「きにてこしらへたる樂器。○〔周〕「金、石、土、革、絲——、匏、竹」。
㊁虛飾なきを、すなほ、質樸。○〔論〕「剛-毅——訥近レ仁」。
㊂柔和ならざるを。○〔史〕「——彊敦-厚」。

〔顛木〕　たふれたる木。○〔書〕「若二——之有一由-〓一」。
〔灌木〕　たけ高からざるたちき、即ち桜、山吹などの類。○〔詩〕「集二于——一」。
〔樛木〕　曲がりかゞまれるき。○〔詩〕「南有二——一」。
〔喬木〕　丈高きき。○〔詩〕「遷二于——一」。

〔槀木〕　かれたる木、かれき。○〔禮〕「止二——一」。
〔陽木〕　春夏の候にさかゆる木、即ち梧桐などの類。○〔周〕「仲-冬斬二——一」。
〔陰木〕　冬夏の候に葉の落ちざる木、即ち、松柏の類。〔杜甫〕「十-里斬二——一」。
〔就木〕　死ぬるを。○〔左〕「如レ是而嫁則——レ焉請「待レ子」。
〔宰木〕　墓所の上に植ゑたるき。○〔公羊〕「——上之—拱矣」。
〔緣木〕　木の上によぢのぼる。○〔孟〕「猶二——レ而求「魚也」。
〔蟠木〕　わたかまりはびこれるき。○〔漢〕「——根-柢、輪-囷離-奇」。
〔枯木〕　生氣の無くなれるき。○〔漢〕「——朽-株、樹レ功不レ忘」。
〔曲木〕　まがれるき。○〔漢〕「揉二——一者不レ累レ圓」。
〔圍木〕　兩手をもてかゝふる程の大いなるき。○〔張協〕「——數-千-尋」。
〔腐木〕　くさされて性を失へるき。○〔漢〕「——不レ可二以爲一レ柱」。
〔尺木〕　ちひさきき。○〔沈約〕「——乃機-杳」。
〔樹木〕　きのを。○〔杜甫〕「田-家——低」。
〔嘉木〕　常に稀なるよききき。○〔西京賦〕「——樹レ庭」。
〔甘木〕　絕えて枯るゝことなきき。○〔班固〕「芳-草「——」。
〔林木〕　はやしに生ふるき。○〔庾信〕「霜-天——「相摸」。
〔窾木〕　うつろなるき。○〔王安石〕「臥聽——鳴燥」。
〔梓木〕　あづさのき。○〔搜神記〕「使有二大——」生二-家之端一」。
〔啄木〕　鳥の名、きつゝき。○〔傅休奕〕「——高翔鳴——」。
〔仙木〕　蠶木といふに同じ。○〔埤雅〕「故能厭二伏邪-氣一、服二其華一、令三人好二顏色一、謂二——一也」。「林」。
〔獨木〕　單特に生ひ立てるき。○〔吳均〕「——不レ成レ林」。
〔古木〕　年ふりたるき。○〔王維〕「——無二人-逕一」。
〔柔木〕　質の弱き木、わかきき。○〔詩〕「荏-染——」。
〔伐木〕　木を切る。○〔詩〕「——丁-々」。
〔卉木〕　花さく草ときと。○〔詩〕「——萋-々」。
〔壞木〕　枯れ腐りたるき。○〔詩〕「譬二彼——一」。
〔棘木〕　とげのある木、いばら。○〔水經、註〕「不レ生二——刺-草一」。
〔梁木〕　うつばりのき。○〔禮〕「——其壞乎」。
〔行木〕　木の生ひたる所を巡り視る。○〔禮〕「入レ山——」。

〔丘木〕　墓上に生ひたるき。○〔禮〕「爲二宮-室一不レ斬二于——一」。「所レ——」。
〔宜木〕　木をうゝるに適當す。○〔周〕「各以二其野之——一、「也」。
〔墓木〕　はか所に植ゑたるき。○〔晉〕「視二其——一、可二三-十-歲一」。
〔長木〕　丈高きき。○〔左〕「——之斃、無レ不レ標」。
〔竹木〕　たけと木と。○〔潘岳〕「——蓊-藹」。
〔叢木〕　むらがり生せるき。○〔曹啓〕「——成レ林」。
〔寓木〕　やどりぎ、他のきにたよりて生ふるき。○〔爾〕「——宛-童」。
〔材木〕　用に供するき、あらく人工を加へしき。○〔孟〕「——不レ可二勝用一也」。
〔薪木〕　たきぎ。○〔孟〕「毀二傷其——一」。
〔表木〕　志るしのために立つるき。○〔史〕「行レ山——」。
〔栞木〕　きの枝を折りて路志るべとす。○〔史〕「行レ山「——」。
〔野木〕　のはらに生ふるき。○〔漢〕「——生レ朝而暴長」。「——、不レ恥二盜-賊一」。
〔質木〕　飾りなくありのまゝなるを。○〔漢〕「民-俗如くになるを。
〔兵木〕　武器の手入れを爲さゞるため刄にぶりてきの如くになるを。○〔漢〕「——無レ刃」。
〔槃木〕　わたかまりはびこれるき。○〔山海經〕「又有二——千-里一」。
〔美木〕　よききき。○〔後漢〕「異-香——之屬」。
〔百木〕　多くのき。○〔後漢〕「養二-生——一」。
〔土木〕　(い)つちときと。○〔後漢〕「——二形-體一、不二自藻-飾一」。
(ろ)建築。○〔淮〕「築レ——搆一」。「于其上一」。
〔雜木〕　くさぐのき。○〔魏〕「樹二松-竹——一普-草」。
〔斧木〕　おのを加へしばかりにて飾りなききき。○〔南〕「所レ居茅-齊——而已」。
〔佳木〕　良きき。○〔唐〕「別-墅有二——流-泉一」。
〔横木〕　きをよこさまにかけわたす。○〔趙嘏〕「石-橋——レ持-禪-衣一」。
〔聯木〕　きをたてならぶ。○〔唐〕「——爲二柵-落一」。
〔香木〕　善きにはひのするき。○〔五〕「以二——一爲レ函」。「——レ—」。
〔接木〕　きをつぎあはす、又、つぎき。○〔金〕「栽レ花「——」。
〔怪木〕　見慣れぬき。○〔山海經〕「其中多二怪-蛇、多二——一」。
〔鑽木〕　きときとをすり合はせて火を取るを。○〔關尹子〕「形之所二自生一者如二——一」。「行」。
〔果木〕　このみのなるき。○〔謝靈運〕「——有二舊

〔羣木〕あまたのき。○〔晉〕「――安遂」。「斤ニ」。
〔散木〕役に立たぬき。○〔温庭筠〕「――無ニ斧・
〔直木〕ますぐなるき。○〔莊〕「――先伐」。
〔器木〕きをうつはに作る。○〔荀〕「――豈工人之性也哉」。「是以雜也」。
〔枉木〕曲がれるき。○〔荀〕「隱括之側多ニ――」、
〔壽木〕いのち長きき。○〔呂氏春秋〕「――之華」。
〔峻木〕高きき。○〔淮〕「――尋枝、猿狖之所レ樂也」。
〔修木〕丈の長きき。○〔淮〕「園中無ニ――一小也」。
〔植木〕うゑたるき、うゑき。○〔淮〕「兵如ニ――」。
〔墻木〕かきに生ひたるき。○〔韓詩外傳〕「不レ傷ニ――」。
〔茂木〕よく生ひしげれるき。○〔說苑〕「――豐草有レ時而落」。「――」。
〔勁木〕折れ易からざるき。○〔白居易〕「風雪折ニ――」。
〔珍木〕たぐひ稀れなるき。○〔劉楨〕「――鬱蒼々」。「――、植ニ於檻中ニ」。
〔異木〕前に同じ。○〔開元天寶遺事〕「求ニ名花――」。
〔名木〕前に同じ。○〔元結〕「――夾レ戸」。
〔發木〕こぶのつきたるき。○〔九經〕「――爲レ丸、乃堅乃久」。
〔浮木〕水上にうかべるき、又、きをうかぶ。○〔埤雅〕「古者觀ニ――一而知レ爲レ舟」。
〔巨木〕大いなるき。○〔司馬相如〕「深林――」。
〔僵木〕仆れたるき。○〔蘇舜欽〕「――無ニ靜枝ニ」。

【朩】ヒン、ビン。匹刃切　震

麻の莖の皮を分く、又、其の片、あさぎれ。

【朩】

朩に同じ、ひこばえ。

【朩】ガイ、ゲ。牛代切　隊

木の頭を曲げて生ひ出でざること。

【朩】ハツ、ハチ。普活切　曷　ハイ、ヘ。補味切　隊　普卦切　卦

草の木盛んなるにいふ字。

【未】ビ、ミ。無沸切　未

一 十二支の一にして其の第八位にあるもの、方位にては西南、時にては今の午後二時、ひつじ。○〔爾〕「大歲在レ―曰ニ協洽ニ」。

二 くらし、(昧)。○〔釋名〕「―昧也、日中則昃向ニ幽昧一也」。

三 其の期に到らず、いまだし、まだし、又、其の期に到らずして、いまだ、まだ。○〔國〕「人事至矣、天應―矣」。

四 あらず、ず、(不)。○〔史〕「人固―レ易レ知」。

五 いまだ、まだ(先づ讀みて)、さ、あらず、ず(返し讀みて)、この兩樣の意を表すにいふ字。○〔左〕「―レ能レ恤ニ諸侯ニ」。

六 いな、(否)。○〔後漢〕「可ニ以言一―」。

七 將來。○〔荀〕「且徵ニ其―ニ」。

【末】バツ、マチ。莫撥切　曷

〔說文〕从ニ木一在ニ其上一。

一 すゑ。

(い)木梢、こずゑ。○〔禮〕「獻レ杖者執レ―」。

(ろ)いたゞき、(顚)。○〔宋玉〕「起ニ于青蘋之―ニ」。

(は)はし、(端)。○〔史〕「若ニ錐之處ニ囊中一其―立見」。

(に)下位、下方、しも。○〔漢〕「編ニ於百圭之―、厠ニ於秦項之列ニ」。

(ほ)遠きこと。○〔屈平〕「退ニ伏於――庭ニ」。

(へ)小なること、微なること。○〔呂氏春秋〕「淺智之所レ爭則―矣」。

(と)急要ならざること。○〔戰〕「舍レ本而問レ―邪」。

(ち)衰へ弱ること。○〔漢〕「彊弩之――力不レ能レ入ニ魯縞ニ」。

(り)盡くること、をはり、しまひ。○〔周、疏〕「乃至ニ卑賤執レ事之人一祭――並得レ飮レ之」。

(ぬ)老ゆること。○〔禮〕「武王―受レ命」。

(る)時運傾きて上下亂るゝこと。○〔後漢〕「叔―澆訛王道陵缺」。

(を)子孫、後世、あと、のち、又、支族、わかれ。○〔書、疏〕「垂ニ及後世裔――ニ」。

(わ)臣下、人民。○〔易〕「本――弱」。

(か)商賈、あきなひ、古昔は、農を以て國本となし商賣を賤しみたるよりいふ。○〔左〕「上レ農除レ―」。

(よ)四肢、てあし。○〔左〕「風淫―疾」。

二 うすし、(薄)、あさし、(淺)。○〔左〕「不ニ爲――滅ニ」。

三 ひくし、(低)、いやし、(賤)。○〔南〕「位―名卑」。

四 こまかく碎けたるもの、くづ、こな。○〔晉〕羅什以ニ五色絲一作レ繩結レ之燒爲ニ灰――ニ。

五 なし、(無)。○〔論〕「雖レ欲レ從レ之―レ由也已」。

六 なかれ、(勿)。○〔禮〕「―レ有レ原」。

七 つひに、(終)。○〔書〕「我則―惟ニ成德之彥ニ」。

〔豐末〕すゑ大いなり。○〔周〕「角欲ニ青白而――ニ」。
〔毫末〕毛のさき、即ち、僅かばかりなることにいふ語。○〔李白〕「此身乃――」。
〔元末〕卑下なること。○〔南〕「人品――」。
〔天末〕空のはし。○〔謝莊〕「雲斂ニ――ニ」。「覽ニ」。
〔淺末〕あさし。○〔曹植〕「詞旨――、不レ足ニ采――ニ」。
〔本末〕もととすゑと。○〔禮〕「物有ニ――ニ」。
〔髮末〕かみのさき。○〔詩、箋〕「婦人――皆上」。
〔席末〕賓客の列なれるむしろのすゑ。○〔儀〕「――坐啐レ酒」。
〔淫末〕みだらにして急にすべからざるもの、即ち風俗を害し民のため惡しきものゝこと。○〔漢〕「廢ニ去――ニ」。「承鴻烈ニ」。
〔眇末〕ちひさきこと。○〔後漢〕「朕以ニ――一、奉ニ――ニ」。
〔季末〕衰へたる世の中。○〔後漢〕「及ニ其――一、聖人不レ得ニ其位ニ」。「係ニ之――ニ」。
〔篇末〕書篇のしまひ。○〔後漢〕「故依ニ其本第一、――」。
〔隙末〕始めは交りこまやかにしてをはりは仲あし。○〔廣絕交論〕「翟朱所ニ以――一」。
〔端末〕物事のはじまりとをはりと、顚末といふに同じ。○〔韓〕「莫レ見ニ其――ニ」。
〔衰末〕すさみ衰ふること。○〔後漢〕、其承ニ三季之――ニ。「徹ニ」。
〔卑末〕いやし。○〔陳〕「擢レ自ニ――一、入ニ參禁――」。
〔疎末〕疏遠なること。○〔後漢〕「服闋――」。
〔始末〕事のはじめとをはりと、いちぶしじふ。○〔晉〕「陳ニ其――ニ」。
〔叢末〕世の季。○〔陳〕「屬當ニ――ニ」。「――ニ」。
〔醜末〕あまたのたみ。○〔南〕「天恩所レ覃曁及ニ――」。
〔飾末〕はしをかざる。○〔唐〕「赤質金――」。
〔鍼末〕針のさき。○〔淮〕「離朱之明、察ニ――於百歩之外ニ」。
〔兩末〕兩方の端。○〔古今注〕「黃金塗ニ――ニ」。
〔座末〕席末といふに同じ。○〔鄭谷〕「垂白郎官居ニ――ニ」。「――」。
〔顚末〕いちぶしじふ。○〔戴復古〕「題レ詩記ニ――」。
〔細末〕こな。○〔貫雲〕「手撚ニ爲ニ――皆――」。
〔樹末〕きのさき。○〔李頻〕「破ニ――收ニ――ニ」。

【本】ホン、ボン。布忖切　阮

〔說文〕从ニ木一在ニ其下一。

一 もと。

(い)根柢、ね。○〔山海經〕「其―如ニ桔梗ニ」。

(ろ)幹體、みき。○〔後漢〕「扣ニ樹――一百枝皆動」。

(は)すゑに反する方。○〔晉〕「每レ食ニ甘蔗一自レ尾至レ―」。

(に)原始、おこり、はじまり。○〔禮〕「祭者教之―也」。

(ほ)急要、かなめ。○〔後漢〕「三代導レ人教學爲レ一」。
(へ)宗主、ほんもと。○〔詩〕、一一支百世」。
(と)舊きを。○〔禮〕「反レ一修レ古」。
(ち)元金、もとで、もとがれ。○〔韓愈〕「子一相伴則沒爲二奴婢一」。
(り)生國、ふるさと。○〔晉〕「遂西流人悉有二戀レ一之心一」。
(ぬ)祖先、考妣、父母。○〔禮〕「所下以報レ一反レ始也」。
(る)性質、うまれつき。○〔呂氏春秋〕「必反二其一一」。
(を)元氣。○〔素問〕「風行二於上一所レ謂一也」。
(わ)君主。○〔易〕、一末弱也。
(か)位置、くらゐ、ゐどころ。○〔國〕「寛所三以報レ一也」。
(よ)稼穡、農桑。○〔荀〕「彊レ一而節レ用」。
(た)素地、したぢ。○〔左、註〕「豫爲二後地一曰レ張レ一」。
(れ)由來。○〔漢〕「且除二肉刑一一欲二以全レ民」。
㊁もとゝなす、もとづく。○〔張融〕「風何一而自生」。
㊂他に對して其の事物を指すにいふ字。○〔王維〕「珠官拜二一州一」。
㊃草木の枚をかぞふるにいふ字。○〔蘇軾〕「稚杉戢々三千一」。
㊄文字、圖畫、形貌の模範、てほん。○〔書斷〕「搨二兩一一進」。
㊅畫帖、文書。○〔西溪叢語〕「一一人持レ一、一一人對讀」。

〔邦本〕國家の根本。○〔書〕「民惟一一」。
〔反本〕もとにたちかへる。○〔孟〕「王欲レ行レ之、則盍レ一其一一」。「一也」。
〔教本〕をしへみちびくはじめ。○〔禮〕「祭者一之

〔政本〕まつりごとのはじめ。○〔禮〕「禮其一之興」。「一一一」。
〔張本〕はじめ。○〔左、註〕「傳具二其事一、爲二後晉事一一一」。
〔根本〕もと。○〔史〕「六律爲二萬事一一一焉」。
〔原本〕前に同じ。○〔漢〕、今長安天子之都、此教化之一一」。
〔眞本〕まことの書物。○〔南〕「三輔舊書相傳以爲二班固一一一」。
〔立本〕もとをたつると、又、きのみきをたつると。○〔夏侯湛〕「結二爛根一以一レ一兮」。
〔拔本〕もとをぬきさる。○〔左〕一レ一塞レ源」。
〔宗本〕もと。○〔孝、疏〕「此章開二張一經之一一」。
〔基本〕前に同じ。○〔漢〕「是以明王愛二養一一不二敢窮極一」。
〔元本〕前に同じ。○〔晉〕「尚書百官之一一」。
〔追本〕はじめをたづねもとおると。○〔魏〕「一レ一敬始」。
〔副本〕正本のひかへ。○〔唐〕「使三先驗二一一一」。
〔善本〕よき書物。○宋「藏二書數萬卷一、手自讎正、世稱二一一一」。
〔粉本〕ゑのしたがき。○〔畫斷〕臣無二一一一」。
〔搨本〕碑帖などをすりうつせし帖。○〔徐浩古跡記〕「而一一大行二於世一」。
〔摹本〕うつせし書物。○〔皇朝類苑〕「今傳二樂毅論一者一一也」。
〔謄本〕寫本。○〔山谷題跋〕「未二一一一輒爲二役夫田淸盜去一」。
〔僞本〕にせのふみ。○〔圖畫見聞誌〕「今所レ存者、多是一一」。
〔梵本〕梵字にてあらされたる書物。○〔嬾眞子〕「翻二譯西天所レ得一一經論一」。
〔傳本〕世の中につたはれる書物。○〔東觀餘論〕「今世一一一是也」。「一一一流傳」。
〔槧本〕板にほりたるをすりし書物。○〔東觀餘論〕
〔院本〕演劇に仕組むべくあるせし書物。○〔輟耕錄〕「金有二一一一雜劇一」。

【札】 サツ、サチ。側八切 黠

㊀薄く小さき木簡、ふだ、古昔は、文字を記ろすの用となせり。○〔漢〕「上使三尚書給二筆一一一」。
㊁文書、かきもの、かきつけ、ふみ。○〔晉〕「翰一簡傲」。
㊂甲葉、され、こざね。○〔左〕「射レ之徹二七一一焉」。
㊃天死、わかじに。○〔左〕「民不二夭一一」。
㊄疫癘、はやりやみ。○〔周〕「國凶一則無二關門之征一」。
㊅やぶる(敗)。○〔淮〕「羊裘解一」。
㊆かい(櫂)。○〔釋名〕「撥レ水之櫂曰レ一」。
㊇物の聲にいふ字。○〔爾〕「其鳴無レ韻但一一然」。

〔簡札〕ふた、又、ふみ。○〔後漢〕「豈以汗二一一一哉」。
〔書札〕前に同じ。○〔李白〕「空傳一一一」。
〔玉札〕人のてがみの敬稱。○〔皮日休〕「數行一一存心久」。
〔瑤札〕前に同じ。○〔宇文融〕「飛文一一降」。
〔府札〕賢明なる人より下されたる書きつけ。○〔席捧〕「朝榮承二一一一」。
〔大札〕いみじきはやり病。○〔周〕「一一則不レ擧」。
〔甲札〕鎧のされ。○〔戰〕「身自削二一一」。
〔文札〕文字をふだに書きつくると、文筆を執るといふ語。○〔後漢〕「故事二一一一强辨」。「傲」。
〔翰札〕手紙、ふみ。○〔晉〕「性既輕レ物、一一一簡傲」。
〔紙札〕かみとふだと、又、文字を書き記せしもの、かきつけ。○〔南〕「張家無二一一一」。
〔片札〕きれふだ、切れはしのふみ。○〔南〕「寄二一一以招二六枝一」。「用二一一一」。
〔御札〕君主のおんかきつけ。○宋「布二大號一令レ一」。
〔手札〕てづから書きたるかきつけ、てがみ。○〔白居易〕「一一八行詩一篇」。
〔細札〕小きふだ、小さきかきつけ。○〔朱熹〕「一朝頒二一一一」。「一也」。
〔木札〕きのふだ。○〔酉陽雜俎〕「韋視レ之乃一一」。
〔緘札〕封を爲せし書きつけ。○〔李商隱〕「玉璫一一何由達」。「一」。
〔重札〕かさなれるされ。○〔夢溪筆談〕「能洞二一一」。
〔惡札〕みにくきかきつけ。○〔益公題跋〕「以上一一一皆予筆也」。
〔芳札〕他人の手紙を尊びていふ語。○〔韋應物〕「傳レ離在二一一一」。
〔弊札〕己れの手紙を卑下していふ語。○〔梁昭明太子〕「聊申二一一一、以レ勞代レ人」。
〔寸札〕一寸したるかきつけ、又、小さふだ。○〔王僧孺〕以二塤箎時存二一一一」。「露」。
〔恩札〕忝きかきつけ。○〔張說〕「降二一一一于雲」。
〔聖札〕みかどの御かきつけ、みことのりぶみ。○〔張說〕「來承二一一一歸」。
〔宸札〕前に同じ。○〔宇文〕「肆レ寵飛二一一一」。
〔飛札〕書きつけを急ぎやる。○〔劉太眞〕「一レ一謝二三守一」。「一」。
〔牘札〕ふたに字をかきあるす。○〔孫樵〕「牌署一レ一」。
〔佳札〕よき書きつけ。○〔張洙〕「書狂屢遣供二一一一」。

【朮】 シュツ、ジュツ。食律切 質

もちあは、(黏粟)。

【朮】 チュツ、ヂュツ。直律切 質

山中に自生する一種の藥草、やまあざみ、をけら、うけら、山薊。○〔本草陶弘景別錄〕、一有二兩種一白一一甜而少レ膏、赤一一苦而多レ膏」。

〔蒼朮〕をけら。○〔范成大〕地爐火軟一一香」。
〔白朮〕色しろきをけら。○〔爾、疏〕朮有兩種、一一一葉大有レ毛、甜而少レ膏」。
〔靈朮〕くしびなる効驗あるをけら。○〔陸機〕「一一進二朝飡一」。

二畫

【朱】 シュ、ス。鍾輸切 虞

㊀松柏の屬、赤心木。○〔山海經〕「蓋山之國有レ樹、赤皮名二一木一」。
㊁深き赤色、あか。○〔詩〕「我一孔陽」。
㊂あか色の塗料、べになど。○〔顏氏家訓〕「傳レ粉施レ一」。
㊃あかいろの物。○〔夏侯湛〕「被レ一佩レ紫」。

㊄侏に通じ用ふ。○〔左〕「—儒—儒使三我敗二於邾一」。
〔筆朱〕あかき色の本色を失なはしむ、卽ち、他の惡しきものに化せられて正しきを失なふにいふ語。○〔論〕「惡二紫之—一也」。
〔亂朱〕あかき色の正色をかきみだして正しきを失なはしむ、語意前に同じ。○〔孟〕「惡二紫恐二其—一也」。
〔紆朱〕あかき色の印のひもを身に帶ぶ。○〔後漢〕「高冠長劍、—レ懷金紫、布二滿宮闈一」。
〔朱々〕雞の別名。○〔風俗通〕「雞本朱氏翁所レ化、故呼レ雞曰二——一」。
〔口朱〕くちべに。○〔古樂府〕「——脫去盡」。
〔霜朱〕しもにかゝりて赤くなる。○〔范雲〕「閑實變二——一」。
〔黃朱〕（い）きばみを帶びたるあかいろ。○〔詩、箋〕「諸侯——」。「與レ—」。
（ろ）きいろとあかき色と。○〔陸游〕「行間顚倒——」。
〔純朱〕まじりなきあかいろ。○〔詩、箋〕「天子——」。
〔彤朱〕赤き色。○〔漢〕「其庭中——」。「—」。
〔纁朱〕黑き色を帶びたる赤色。○〔舊唐〕「其綬—・—」。
〔輕朱〕うすあかべに。○羅虬〕「薄粉——取次施」。「—李」。
〔沉朱〕濃き赤色。○西京雜記〕「上林苑有二——」。
〔濃朱〕前に同じ。○〔左思〕「——衍二丹脣一」。
〔殘朱〕消えのこれる赤き色。○〔梁簡文帝〕「——染二歌扇一」。

【朲】ジン、ニン。而鄰切 [眞] 屋の間の木、又、屋の上の間。

【朾】レウ。盧皎切 [篠] ついで、（次第）。

【朳】ハツ、ハチ。博拔切 [黠] ベツ、ベチ。必列切 [屑] 齒の無き杷、さらへ、土をならす道具。

【朴】ハク、ホク。匹角切 [覺] ハク、ホク。匹各切 [藥] ホウ、フ。匹候切 [宥]

㊀木の皮、かは。○〔崔駰〕「膚如二桑—一」。
㊁樸に同じ。○〔史〕「示二敦——爲二天下先一」。「——牛」。
㊂おほいなり、（大）。○〔屈平〕「焉得二夫——」。
㊃にはか、（猝）。
㊄はなる、（離）。
㊅未だ腊さならざる鼠肉。○〔戰〕「周人謂二鼠未レ腊者—一」。
〔厚朴〕（い）人情厚くして飾りなし。○〔紀異錄〕「既飾二——之才一」。「赤朴」。
（ろ）藥用とせる一種の木。○〔本草〕「——」一名
〔素朴〕僞り飾らざること。○〔漢〕「百姓——」。
〔醇朴〕專一にして僞り飾らざること。○〔朱熹〕「風俗醇——」。
〔愿朴〕すなほ。○〔後漢〕「山氏——」。
〔鄙朴〕心がけ卑しくして飾りなし。○〔李白〕「小人以二——難レ理」。
〔質朴〕ありのまゝにして僞り飾るところなきこと。○〔後漢〕「休爲レ人、——訥レ口」。
〔簡朴〕煩瑣ならずしてありのまゝなること。○〔後漢〕「以二——簡恕一爲レ政」。
〔頑朴〕容易く屈せずしてすなほなること。○〔魏〕「忠以二——一見レ親」。「未二嘗嫺一人臣禮一」。
〔魯朴〕おろかにして飾らず。○〔林陽雜編〕「——不レ假二修飾一任二其——一」。
〔醜朴〕見にくゝありのまゝなること。○〔詩式〕「詩」
〔飾朴〕華やかにかざりを施すと質素にして飾りを施さざること。○〔謝靈運〕「——雨逝」。
〔疎朴〕粗略にして飾りを施さず。○〔董逌〕「但緻繹——、未レ爲二密緻一耳」。
〔忠朴〕まめやかにして僞り飾らざること。○〔綦毋〕「獨是丹誠抱二——一」。
〔愚朴〕おろかにして飾りなし、ばか正直。○〔盧仝〕「予小子——必不レ能レ濟」。
〔儉朴〕よく取りしまりて僞り飾らず。○〔白居易〕「欲レ使二人情——一」。「謝二鑴鏤一」。
〔頑朴〕かたくなにして飾りなし。○〔蘇軾〕「——

【朴】ボク、ホク。普木切 [屋] もと、（本）。

【朴】ヒウ、フ。披尤切 [尤] 人の姓。

【朵】タ、ダ。都果切 [哿] 本、朶に作る。
㊀樹木の垂るゝ貌にいふ字。○〔說文〕「樹木垂——」。
㊁うごかす、（動）。○〔易〕「觀レ我—レ頤」。
㊂えだ。
（い）花の枝。○〔杜甫〕「白花檐外—」。
（ろ）分れ出でたるもの。○〔宋〕「殿東西曰二—殿一」。
（は）垂れ下がれるもの。○〔東京夢華錄〕「冠—鋪レ席」。
㊃ひく、（引）、とらふ、（捉）。○〔雞肋編〕「以レ手提レ物曰レ—、以レ手引二小兒一曰レ—」。

【朶】朵に同じ。○〔白居易〕「粉片粧二梅——一」。
〔花朶〕花のつきてある枝。○〔李郢〕「好與二檀郎一寄二——一」。
〔一朶〕ひとたれ。○〔元稹〕「須臾日上二朋脂頰一、——紅酥旋欲レ融」。
〔釵朶〕かんざしのえだ。○〔庾信〕「——多而訝二重髻一」。
〔鈿朶〕前に同じ。○〔元稹〕「玉梳——香膠解」。
〔簪朶〕前に同じ。○〔薛能〕「暖梳二——一事レ登レ樓」。「開」。
〔雙朶〕二つのえだ。○〔楊萬里〕「一梢——忽齊開」。
〔月朶〕菊の異名。○〔陸龜蒙〕「——暮開無二絕艷一」。「開」。
〔瑤朶〕前に同じ。○〔陸龜蒙〕「即將二——一冒霜開」。
〔繁朶〕しげき花の枝。○〔方干〕「——壓レ枝卑」。
〔朶々〕しなだるゝ貌にいふ語、又、數多のえだ、いづれのえだも。○〔趙師使〕「樂語花枝嬌——」。
〔髻朶〕かみの毛のたば。○〔王彥回〕「——初鑴玉葉成」。
〔耳朶〕みゝのたぶ。○〔五燈會元〕「風吹二——一」。
〔露朶〕つゆのかゝれるえだ。○〔釋齊已〕「花爛——乾」。

【扔】ジョウ、ニョウ。如蒸切 [蒸] 一種の木。

【扔】ジョウ、ニョウ。而證切 [徑] ㊀車に上る、のる。㊁車を止むる木。

【扔】ジ、ニ。人之切 [支] 一種の木。

【朷】タウ、ドウ。都勞切 [豪] 木の心。

【朷】テウ、デウ。田聊切 [蕭] 枝落つ、垂る。

【杒】ボク、モク。莫卜切 [屋] 桑を切る、又其の刀。

【朸】リョク、リキ。林直切 [職] ㊀木理、もくめ、もく。㊁いへのすみ、（屋隅）。

【朸】キョク、コキ。渠力切 [職] キン。渠巾切 [眞] 漢の侯國の名。

【朹】古の簋の字。

【朹】キウ、グ。渠尤切 [尤] ㊀さんざし、（鼠梅）。○〔爾、註〕「——樹狀似レ梅子大如二指頭一色赤似二小柰一可レ食」。㊁あだ、かたき。○〔揚雄〕「——仇也謂二「怨——」也」。

【机】キ。居履切 [紙]

㊀狀は楡の如き一種の木、燒きて田の肥料に用ふ、さるなし。○〔山海經〕「單狐之山多二ー木一」。
㊁几に同じ、つくゑ。○〔易〕「渙奔二其ー一」。

【机】ゲイ、ガイ。牛吠切 隊
くはのみ（椹）。

【朻】キウ、ク。渠尤切 尤　吉酉切 有
㊀木の下り曲がれるにいふ字。

【朼】ヒ。補履切 紙
さじ（匕）。○〔儀〕「乃ー載」。

【朽】キウ、ク。許久切 有
㊀くつ。
(い)腐れやぶる、くさる。○〔素書〕「根枯枝ー」。
(ろ)衰ふ、頽る、用をなさず。○〔晉〕「年ー髮落」。
㊁溴に同じ、くさし。○〔列〕「鼻將レ塞者先覺二焦ーー一」。

〔拉朽〕くさりたるものをくだくとにて物事のたやすきにかり用ふる語。○〔晉〕「將軍之舉二武昌一若二摧レ枯ーレー、何所二顧慮一乎」。
〔摧朽〕前に同じ。○〔北〕「六軍雷發、有レ若二ーレー一」。
〔腐朽〕くさりたる木にあるとにて物事の用をなさざるとにいふ語。○〔北〕「鏤レ氷ーレー、迮用無レ成」。
〔衰朽〕よわること。○〔杜甫〕「辛苦救二ー・ー一」。
〔老朽〕としよりて用をなさざること。○〔韓愈〕「役二ー・ー之筋骸一」。
〔頽朽〕くづれたること。○〔杜甫〕「襲レ此今ー・ー」。
〔腐朽〕くさる。○〔甄鸞〕「ー・ー同二草木一」。
〔枯朽〕かれくさる。○〔後漢〕「寶喝二ー・ー一」。
〔愚朽〕おろかにしてやくにたゝざること。○〔後漢〕「妾陋得レ以二ー・ー身一當二盛明一」「藩二」。
〔瑕朽〕前に同じ。○〔晉〕「臣雖二ー・ー一忝二國威一」
〔缺朽〕かけくさる。○〔釋名〕「齲齧レ之、齒ー・ー也」。「ー一」。
〔敗朽〕やぶれくさる。○〔參同契〕「金性不二ー・
〔不朽〕くちざること、即ち、永く世に傳はること。○〔左〕「死而ーー何謂也」。
〔草木俱朽〕くさきとともにくつること、即ち、無聞無能にして世に傳はらざること。○〔後漢〕「彼與二ー・ー・ー・ー、此與二金石一相傾」。

【朾】タウ、チヤウ。除耕切 庚　テイ、チヤウ。唐丁切 青　タウ、チヤウ。除更切 敬
㊀うつ（撞）。㊁ほこだて（楔）。

【朾】テイ、チヤウ。唐丁切 青　癡貞切 庚
虛ーーは、地名。○〔左〕「會二於虛ーー一」。

【朾】サウ、シヤウ。中莖切 庚
木を伐る聲にいふ字。

【朾】テイ、チヤウ。都冷切 梗
うつ（擊）。

【朾】テイ、チヤウ。都挺切 迴
からざを（棓）。

【朿】シ。七賜切 寘
草木の芒、はり、のぎ。

三畫

【杄】セン。親然切 先
柿の類、ぶだうがき。

【杅】ウ、チ。羽俱切 虞　王遇切 遇
㊀湯漿の飲器、ゆのみ、みづのみ。○〔荀〕「槃圓而水圓、ー方而水方」。
㊁ゆあみだらひ（浴器）。○〔禮〕「浴時入レー、浴竟出レー」。
㊂自ら足れりさせる貌にいふ字。○〔荀〕「ーーー富人豈不二貧而富一哉」。
㊃ひく（牽）。○〔史〕「燒二投焚三ー君之國一」。

【杆】カン。居案切 翰
㊀せんだん（檀）。㊁やまぐは（柘）。

【杆】カン。居寒切 寒
㊀偃れたる木。
㊁木梃、てこ、ぼう、又、たて（盾）。○〔漢〕「被二鎧ーー一」。

【杇】チ、ウ。汪胡切 虞　コ、ク。烏故切 遇
こて（泥鏝）。○〔爾〕「鏝謂二之ー一」。

【杈】サ、セ。初加切 麻
㊀岐枝、えだ、また、またぶり。○〔杜甫〕「突二ー枒一而皆折」。
㊁魚を捕ふる具、尖頭またをなすもの、やす。○〔周註〕「謂下以レー刺二泥中一搏中取之上」。

【杈】サイ、セ。初佳切 佳　楚懈切 卦
一種の農器、さらへ。㊁えだ（枝）。

【杈】サ、セ。楚嫁切 禡
㊀木枝の衜、また、えだ、やらい。○〔東京夢華錄〕「御廊立二朱黍ー子一路心立二黑黍ー子一」。
㊁草を收むるに用ふる具、あじか。

【杉】サン、セン。所銜切 咸
樕に同じ、すぎ。○〔蘇軾〕「稚ー戢々三千本」。

〔絲杉〕柏の如き葉と松の如きみきのすぎ。○〔[illegible]〕「共愛ー・ー翠絲亂」。
〔野杉〕かやの木の異名。○〔本草〕「榧生二深山中一、人呼爲二ー・ー一」。
〔老杉〕あをくふけりたるすぎ。○〔僧惠洪〕「千本ー・ー倶合抱」。

【杪】セウ。子了切 篠
木の相高きにいふ字、きたかし。

【杊】シユン。松倫切 眞
鉏の柄と爲す可き一種の木。

【机】ヘン、ホン。扶嚴切 鹽　ハン、ホン。甫凡切 咸
一種の木、俗に此の木皮を水桴木と呼べり。

【杌】ゴツ、ゴチ。五忽切 月
㊀枝無きこと。
㊁木の短かく出づる貌にいふ字。
㊂安からざる貌にいふ字、あやふし。○〔書〕「邦之ー隉」。

【杌】クツ、ゴチ。魚屈切 物　ゲツ、ゲチ。魚厥切 月
伐木の殘餘、きりかぶ。

【杍】古文の李の字。

【李】リ。良士切 紙
㊀桃に似たる一種の果樹、其の品は桃の上にありといふ、すもゝ。○〔埤雅〕「ー性難レ老雖二枝枯一子亦不レ細」。
㊁理の字に通じ用ふ。○〔管〕「皐陶爲レー」。
〔行李〕(い)使者、つかひ。○〔左〕「ーー之往來」。(ろ)旅の荷物。○〔泊宅編〕「李、理、義同、人將レ有レ行必先治レ裝」。
〔桃李〕(い)もゝとすもゝと。○〔詩〕「華如二ー・ー一」。

（ろ）職めたる人士、もゝとすもゝとを樹うれば夏は其の蔭に休息するを得、秋は其の實を收むるを得、恰も薦めたる人士の己が賞與となり己が利益をなす為に似たるより假りいふ語。○〔唐〕「天下ーー盡在㆓公門㆒」。

〔穠李〕花のさかんなるすもゝ。○〔沈佺期〕「ーー光如㆑練」。

〔苦李〕みのにがきすもゝ。○〔晉〕「樹在㆓道邊㆒而多㆑子必ーー也」。

〔紫李〕實のむらさき色に熟するすもゝ。○〔蘇軾〕「ーー黄瓜村路香」。

〔夏李〕實の尤も大いなるすもゝ。○〔述異記〕「李大者謂㆓之ーー㆒」。

〔鼠李〕實の尤も小さなるすもゝ。○〔述異記〕「尤小者呼爲㆓ーー㆒」。

〔郁李〕にはうめ。○〔本草〕「ーー木高五六尺」。

〔雀李〕かをりぐさ。○〔本草〕「鬱一名ーー」。

〔奥李〕しでざくら。○〔陸機詩疏〕「唐棣ーー也」。

【杊】シン。測人切 眞

一種の木。

【杏】カウ、キヤウ。柯梗切 梗

其の實は梅の如くなれども梅より甘くして香ばしき一種の果樹、あんず。○〔神仙傳〕「廬山有㆓ーー林㆒董奉故里」。

〔銀杏〕いてふの木、ぎんなん。○〔劉基〕「ーー子成邊雁到」。

〔肉杏〕あんずの一種。○〔農書〕「北方ーー甚佳、赤大而扁、謂㆓之金剛拳㆒」。

〔艷杏〕うつくしき花のあんず。○〔陳造〕「天桃ーーー雖㆓已過㆒」。

〔治杏〕前に同じ。○〔汪元量〕「ーー天桃紅勝㆑錦」。

【呆】某に同じ。俗に癡獃の獃となすは非。

【材】サイ、ザイ。昨哉切 灰

㊀木梃、ぼう、まるた。○〔楚辭〕「ーー朴委積」。

㊁果實のみのる樹。○〔周〕「掌㆑斂㆓疏ーー㆒」。

㊂使用に堪ふる木。○〔孟〕「ーー木不㆑可㆓勝用㆒」。

㊃使用に堪ふる物、有用の器具、たから、だうぐ、品物。○〔管〕「有㆓天下之精ーー㆒」。

㊄原料、もと、しろ。○〔周〕「以㆓式法㆒授㆓酒ーー㆒」。

㊅性質、うまれつき、もちまへ、又、其の性質のもの。○〔中〕「必因㆓其ーー㆒而篤焉」。

㊆才能、はたらき、ちゑ、又、其の才能あるもの。○〔書〕「任㆑官惟賢ーー」。

㊇ちゑもちまへの勝れたると、又、其の人。○〔荀〕「ーー伎之士」。

㊈裁に同じ、はかる。○〔荀〕「治㆓萬變㆒ー㆓萬物㆒」。

〔梁材〕はりに用ふる木。○〔爾雅、註〕「今太廟ーー用㆓此木㆒」。

〔散材〕やくにたゝざる木、やくにたゝざるもの。○〔陸游〕「社櫟終然幸㆓ーー㆒」。

〔詩材〕詩歌につくるべきしろ。○〔詩話總龜〕「預收㆓拾ーー㆒以備㆑用」。

〔季材〕わか木。○〔周〕「凡服㆑耜、斬㆓ーー㆒以㆑時入㆑之」。

〔藥材〕くすりにすべきしろ。○〔高啓〕「地有㆓芝茶㆒盡ーー」。

〔官材〕才能ある者を官吏とす、又、官職と才能と。○〔杜佑〕「設㆓職官㆒在㆓乎審㆒ーー㆒」。

〔廬材〕才能をおもひはかる。○〔左〕「小人ー㆑ー而言」。

〔雅材〕みやびやかなるうまれつき、風雅なる才能。○〔漢〕「河間獻王有㆓ーー㆒」。

〔茂材〕才能のすぐれたると、又、其の者。○〔漢〕「詔令㆓州郡察㆒吏民有㆓ーー異等㆒可㆘爲㆓將相㆒及使㆗絕國㆖者㆒」。

〔薄材〕才能の多からざると、又、其の者。○〔陸游〕「ーー施㆓畝畝㆒」。

〔爵材〕才智ある者に官爵を與ふ。○〔管〕「ー㆑ー祿㆑能」。

〔俊材〕すぐれたる性質才能、又、其の人。○〔漢〕「聞㆓褒有㆓ーー㆒」。

〔負材〕才智を特む。○〔漢〕「彼自ー㆓其ー㆒」。

〔雄材〕すぐれておほいなる才能、又、其の人。○〔漢〕「如㆓武帝之ーー大略㆒」。

〔宏材〕前に同じ。○〔晉〕「夙振㆓ーー㆒」。

〔瑣材〕器量小なると、又、其の者。○〔魏〕「錯之ーー」。

【村】ソン。倉尊切 元

都城を離れたる聚落、ゐなか、むら。○〔陶潛〕「曖々遠㆓人ーー㆒」。

〔花村〕はなのさけるむら。○〔韋應物〕「琴興在㆓ーー㆒」。

〔江村〕河流にそへるむら。○〔杜甫〕「ーー八九家」。

〔孤村〕人里をはなれたるむら。○〔陸游〕「荻花楓葉泊㆓ーー㆒」。

〔列村〕つゞきならべるむら。○〔王褒〕「皐亭望㆓ーー㆒」。

〔遙村〕遠方のむら。○〔李中〕「ーー處々吹㆓横笛㆒」。

【杒】ジン、ニン。而振切 震 ―一に、梕に作る。

一種の木。

【杒】ジ、ニ。人之切 支

小車の簝、ながえまき。

【杓】ヘウ。卑遙切 蕭

㊀斗の柄、え。○〔説文、註〕「勺謂㆓之料㆒、勺柄謂㆓之ー㆒」。

㊁北斗星の柄にあたる星。○〔史〕「攝提者直㆓斗ー㆒」。

㊂ひく、（引）。○〔淮〕「强ー㆓國門之關㆒」。

㊃つなぐ、（繫）。○〔淮〕「爲㆓人ー㆒者死」。

【杓】テキ、チヤク。丁歷切 錫

テウ。多嘯切 嘯

標的、まと。○〔莊〕「我其ー之人耶」。

【杓】シヤク、ジヤク。市若切 藥

酒漿を挹む器、ひしやく、さかづきの類。○〔史〕「沛公不㆑堪㆓桮ー㆒」。

〔桮杓〕さかづき。○〔史〕「沛公不㆑勝㆓ーー㆒」。

〔樿杓〕つげの木のさかづき。○〔禮〕「犧尊疏布冪ーー、此以㆑素爲㆑貴也」。

〔杅杓〕水又は酒を飲むに用ふる器。○〔南〕「太子妃、上㆓孝武帝金鏤七筋及ーー㆒」。

〔酒杓〕さかづき。○〔唐〕「貢㆓葛絲布ーー㆒」。

〔壺杓〕飲み物を入るゝ器。○〔韓詩〕「操㆓ーー㆒、就㆓江海㆒而飲㆑之」。

〔缾杓〕水を入るゝかめと水をくむ器と。○〔拾遺記〕「琥珀爲㆓ーー㆒」。

〔玉杓〕玉のさかづき。○〔拾遺記〕「有㆓青雀㆒御㆓ーー㆒以授㆓子晉㆒」。

〔犧杓〕瓢の異名。○〔茶經〕「瓢一日㆓ーー㆒」。

〔巨杓〕大いなるひしやく。○〔鄒侯外傳〕「令㆑人登㆑屋以㆓ーー㆒颭㆓濃蒜㆒潑㆑之」。

〔盞杓〕さかづき。○〔白居易〕「綠餳粘㆓ーー㆒」。

〔樽杓〕酒たるとさかづきと。○〔白居易〕「塵埃滿㆓ーー㆒」。

〔犀杓〕犀獸の角もて製したるさかづき。○〔張耒〕「金鐺ーー與㆑之俱」。

【杓】テウ。丁了切 篠

ひく、（引）。○〔史〕「ー雲如㆑繩」。

【杓】シヤク。職略切 藥

木を横へたる橋、まるきばし。

【杔】タク。闥各切 藥

ー櫨は、一種の木、うつぎ。

【杔】タク、チヤク。陟格切 陌

ー櫨は、酒を漉す具、一説に、柱の上の枅、さがた。

【杕】テイ、ダイ。大計切 霽

木獨生す、又、木盛れり。○〔詩〕「有㆓ーー之杜㆒」。

【杕】タ、ダ。唐左切 哿
船尾の小木、かぢ。○〔淮〕「心所レ說毀レ舟爲レ―」。

【杖】チヤウ、ヂヤウ。直兩切 養
㊀つゑ。
(い)手に持ち體を支へて行步を扶くるに用ふる細長き材。○〔禮〕「必賜ニ之几―一」。
(ろ)木梃、てこ、ぼう。○〔家語〕「大―則逃走」。
㊁つゑによりて行步す、つゑと爲して持つ、つゑつく。○〔禮〕「五十―ニ於家一」。
㊂つゑを加ふ、うつ、たゝく。○〔晉〕「乃于ニ父墓前一自―三十」。
㊃戈戟の柄。○〔呂氏春秋〕「操レ―以戰」。
〔齒杖〕王の老者に賜はるつゑ、年七十なれば之を賜はるといふ。○〔周〕「伊耆氏共ニ王之――一」。
〔扶杖〕つゑにたすけらるゝこと。○〔史〕「―レ―乃能行」。
〔須杖〕前に同じ。○〔論衡〕「人有レ病―レ―行」。
〔鳩杖〕はとのかたちをにぎりのところへつけたるつゑ。○〔李羣玉〕「――倚レ床偏」。
〔任杖〕つゑをつかふこと。○〔雲陽子〕「履レ危者―レ―不レ可ニ以不一レ固」。
〔藜杖〕あかざのつゑ。○〔王維〕「悠然策ニ――一」。
〔錫杖〕頭にかねの環あるつゑ、僧侶又は修驗者の携ふるもの。○〔王維〕「上人飛ニ――一」。
〔曳杖〕つゑをひく。又、行步するとにいふ語。○〔南「率然―レ―徙行城邑ニ」。「也」。
〔苴杖〕たけにてつくりたるつゑ。○〔禮〕「――竹
〔削杖〕きりにて作りたるつゑ。○〔禮〕「――桐也」。
〔策杖〕つゑをつくこと。○〔聞見前錄〕「路險―レ―以行」。「―ニ。
〔曲杖〕まがれるつゑ。○〔韓〕「周王下レ令素ニ―・―一」。
〔麵杖〕麵類をうつ時に用ふる棒のこと。○〔江行雜錄〕「引ニ――一逐ニ太祖一、璽レ之曰、大丈夫臨ニ大事一當レ決ニ胸中一」。

【杖】チヤウ、ヂヤウ。直亮切 漾
㊀さゝ、もつ(持)。○〔書〕「左―ニ黃鉞一」。
㊁よる(憑)。○〔左〕「―レ信以待レ晉」。

【宋】バウ、マウ。無方切 陽
むなぎ(棟)、うつばり(梁)。○〔韓愈〕「大木爲レ―」。

【杀】殺に同じ。

【杘】チ。丑利切 寘 抽遲切 支
籰の柄、絲を收むる具。
〔墨杘〕詐り多きこと。○〔皮日休〕「上睽味而下――」。

【杙】ヨク、イキ。逸職切 職
㊀くひ(橛)。○〔左〕「臧堅以レ―抉ニ其傷一而死」。
㊁獸を格めつなぐくひ。○〔莊〕「求ニ狙猴之―一」。
㊂門橛、さしきみ。○〔爾、註〕「閾長―即門橛」。
〔椓杙〕くひをうつ。○〔詩、傳〕丁丁――聲也」。○〔爾〕「劉――」。
〔劉杙〕一種の果、其の實は梨の如し味酢甜なり。
〔椿杙〕くひ。○〔劉永之〕「緊レ纜安ニ――一」。
〔猿杙〕ましらをとゞめつなぐくひ。○〔彭汝礪〕「高占鳥巢攀ニ――一」。
〔繫杙〕くひ。○〔貢師泰〕「或卓若ニ――一」。

【杚】コツ、コチ。古忽切 月
㊀たひらかなり(平)。㊁する(摩)。

【杚】槪に同じ。

【杜】ト、ヅ。動五切 麌
㊀甘棠、やまなし。○〔詩〕「有ニ杕之―一」。
㊁ふさぐ(塞)。○〔書〕「―ニ乃擭一」。
㊂草木の根。○〔揚雄〕「東齊謂レ根爲レ―」。
㊃しぶる(澀)。○〔揚雄〕「澀也趙曰レ―」。
〔要杜〕さへぎりふさぐ。○〔漢〕「幸能―ニ――張掖酒泉一以絕ニ西域一」。
〔守杜〕かためふさぐ。○〔漢〕「―ニ――四望一」。

【杝】チ。池爾切 紙 陳知切 支
シ。尺里切 紙
㊀おつ(落)。㊁薪を析く、さく。

【杝】リ。鄰知切 支
離に同じ。

【杝】イ。弋之切 支
白楊に似たる一種の木、白椵。○〔孝、註〕「――棺四寸」。

【杝】タ。吐邏切 箇
一種の車。

【杞】キ。墟里切 紙
㊀一種の木、くこ、ぬみぐすり、別名は、天精子、拘―葉、却老枝、地骨皮。○〔詩〕「言采ニ其―一」。
㊁白楊の屬。○〔詩〕「無レ折ニ我樹―一」。
㊂山に生ずる一種の喬木。○〔詩〕「南山有レ―」。
〔苞杞〕くこ。○〔詩〕「集ニ于――一」。

【杫】シ。象齒切 紙
梠に同じ、すき、一說に、土を運搬する器。

【杞】カイ、ガイ。下楷切 蟹
すき、(臿)。

【束】ショク、ソク。書玉切 沃
㊀しめ縛す、聚めほだす、斂め結ぶ、たばぬ、くゝる、つかぬ。○〔詩〕「墻有レ茨不レ可レ―也」。
㊁しばる(縛)。○〔後漢〕「拘持縛―不レ與ニ兵刄一」。
㊂つなぐ(絆)。○〔左〕「釋レ甲―レ馬」。
㊃迫る、縮まる。○〔謝疊山〕「筆端不ニ窘―一」。
㊄結ぼる、聚まる、斂まる。○〔漢〕「―ニ於帛一」。
㊅つゝしみ戒む。○〔小學〕「自檢―則日就ニ規矩一」。
㊆ちぎる、ちぎり(約)。○〔法書要錄〕「文書相約―皆曰レ契」。
㊇つかねたるもの、たば。○〔詩〕「生芻一―、其人如レ玉」。
㊈布帛五疋。○〔禮〕「納レ幣一―」。
㊉脯十脡。○〔穀梁〕「―脩之肉」。
⑪矢五十本、一說に、百本。○〔詩〕「――矢其搜」。
〔約束〕つかぬること、又、たがひにちかふ。○〔史〕「其――輕易行也」。
〔拘束〕とめつかぬ、とらへしばる、とゞめつなぐ、又、せまりちゞまる。○〔北〕「上知ニ其不レ願ニ――一、以禮發遣」。
〔羈束〕つかぬ、しばる、つなぐ。○〔後漢、註〕「不羈謂下超ニ絕等倫一不上レ可ニ――一也」。
〔裝束〕衣裳を身につくること。○〔北〕「命皆――」。
〔結束〕むすびつかぬ、又、前に同じ、又、むすぼる。○〔韓愈〕「行々事ニ――一」。
〔純束〕つゝみつかぬること。○〔詩〕「白茅――」。
〔裹束〕前に同じ。○〔詩、箋〕「欲レ令ニ人以ニ白茅―一―」。
〔巾束〕つかね。○〔詩、傳〕「帶所ニ以――ニ衣一」。
〔纏束〕前に同じ、又、まつはりむすぼる。○〔詩、疏〕「又取ニ白茅一――之一兮」。

〔絡束〕前に同じ、又、ゐばる。〇〔漢〕「支體——」。
〔縛束〕ゐばる、つかぬ。〇〔後漢〕「拘持——」。
〔緊束〕前に同じ、又、つなぐ。〇〔世說〕「參佐無レ不レ被二——一」。「泉」「或——而相抱」。
〔斂束〕をさめつかぬ、又、をさまりあつまる。〇〔楊

【束】シユ、ス。春遇切 遇
前條の九に同じ。〇〔史〕「定二要——一」。

【杠】カウ、コウ。古雙切 江 カウ。居郎切 陽
㊀牀の前の橫木。〇〔荀〕「枕、牀、—」。
㊁はたざを、(旗竿)。〇〔爾雅〕「素錦綢—」。
㊂小さき橋、こばし。〇〔孟〕「徒——成」。
㊃星の名。〇〔晉〕「大帝上九星曰二華蓋一、下九星曰レ—」。

【杠】コウ、ク。沽紅切 東
—里は、地名。〇〔漢〕「攻二—里一」。

【耒】根に同じ。

四畫

【杪】ベウ、メウ。彌沼切 篠 サウ、セウ。楚教切 效
㊀すゑ。
(い)木の細き枝、こずゑ。〇〔張籍〕「空巢在二松——一」。
(ろ)端末、はし、さき、いたゞき。〇〔南〕「閣二於樹——一」。
(は)終はらんとする時、ゑまひ、をはり。〇〔禮〕「冢宰制二國用一、必于二歲之——一」。
㊁細小なる貌にいふ字。〇〔涼武昭王〕「——余躬」。
〔木杪〕木のすゑ。〇〔夢溪筆談〕「飲二于——一、謂二之集飲一」。
〔秋杪〕あきのすゑ。〇〔孟浩然〕「再來値二——一」。
〔草杪〕さをのさき。〇〔漢〕「懸二頭——一」。
〔枝杪〕えだとこえたと。〇〔羅鄴〕「——靜二氛氳一」。
〔定杪〕すこし。〇〔方言〕「——小也」。「越」。
〔分杪〕前に同じ。〇〔研北雜志〕「——不レ得レ踰」。
〔劍杪〕つるぎのさき。〇〔吳均〕「——照二蓮花一」。
〔竹杪〕たけのさき。〇〔王寂〕「高臺平二——一」。
〔髮杪〕かみのけのさき。〇〔王規〕「——可二以翺翔一」。
〔花杪〕はなのさきたるこずゑ。〇〔高道素〕「——星稀」。

【杫】シ。斯義切 寘
㊀まないた、(肉机)。〇〔揚雄〕「組几蜀漢之間曰レ—」。

【杫】シ。渚市切 紙
㊀樅に同じ。
㊁礎上柱下に施す板、ゐきいた。

【𣏌】古の困の字。

【𣏌】コン。苦本切 阮
門の橛、ゐきみ。

【杬】ゲン、グワン。遇袁切 元
㊀一種の喬木、皮厚くして汁赤し、其の汁の煎じたるものに果を藏むれば敗壞せずといふ。〇〔左思〕「綿—柂櫨」。
㊁一種の草、其の汁を煎じたるものを水中に投ずれば魚死して浮び出づといふ、さつまふじ、ふぢもどき、芫華、魚毒。〇〔爾〕「—魚毒」。

【杬】グワン、ゲン。五患切 諫
身體を按摩して調和せしむ、もむ。〇〔史〕「鑱石橋引案—毒熨」。

【杬】ゲン、グワン。虞怨切 願 グワン。五官切 寒
くはのみ、(椹)。

【杭】カウ、ガウ。胡剛切 陽
㊀航に同じ。〇〔詩〕「誰謂二河廣一、一葦—レ之」。
㊁舁りに用ふる器。〇〔禮、註〕「—木」「在レ上茵在レ下」。
〔天杭〕天の川。〇〔揚雄〕「漢水群飛激二於——一」。

【杮】ハイ。芳廢切 隊 ビ、ミ。無未切 未 ハイ、ベ。滂會切 泰
㊀木札、きふだ。〇〔說文〕「陳楚謂レ櫝爲レ—」。
㊁削り下す木片、こけら、こッぱ。〇〔後漢〕「風吹二削—一」。

【杮】ハイ。普蓋切 泰
木の枝葉の盛に生ずる貌にいふ字。

【柿】柹に同じ。

【杯】ハイ、ヘ。晡枚切 灰
㊀酒を盛りて飲むに用ふる器、さかづき。〇〔世說〕「右手持二酒——一」。
㊁羹を盛るに用ふる器、ほさぎ。〇〔史〕「一——羹」。
〔玉杯〕たまにてつくりたるさかづき。〇〔漢〕「十六年秋九月得二——一」。
〔流杯〕曲水の宴にながすさかづき。〇〔杜牧〕「且環二流水一醉二——一」。
〔擧杯〕さかづきを手にとりあぐ。〇〔李白〕「—レ—邀二明月一」。
〔傾杯〕さかづきをかたむく、酒をのむこと。〇〔蘇軾〕「—レ—不二敢餘一」。
〔觴杯〕さかづき。〇〔阮瑀〕「旨酒盈二——一」。

【杰】ケツ、ケチ。渠列切 屑
人の名(俗に豪傑の傑の字に借り用ふ)。

【東】トウ、ツ。買籠切 東
〔說文〕動也、陽氣動也。
㊀春。〇〔書〕「平二秩——作一」。
㊁日の昇る方、ひんがし、ひがし。〇〔史〕「日起二於東一」。
㊂ひがしへ行く、ひがしす。〇〔漢〕「吾亦欲レ—」。
〔欸東〕草の名、ふき。〇〔急就篇、註〕「——卽欸冬也」。
〔籠東〕摧け敗る、貌にいふ語。〇〔晉〕「——軍士」。
〔皐東〕岡のひんがし。〇〔易林〕「日出二——一」。
〔而東〕ひんがしの方に向かふ。〇〔關子〕「—レ—而射レ之」。
〔京東〕みやこのひんがし。〇〔蘇軾〕「九仙今已厭二——一」。
〔活東〕おたまじゃくし、かへる。〇〔爾〕「科斗——蝦蟇」。
〔丁東〕玉などの觸れあふ聲にいふ語。〇〔李商隱〕「佩玉——」。

【杲】カウ、コウ。古老切 皓
㊀日光明か、あきらか。〇〔詩〕「——出日」。
㊁たかし、(高)。〇〔管〕「——乎如レ登二乎天一」。

【杳】エウ。伊鳥切 篠
㊀くらし、(冥)。〇〔潘岳〕「日——而西匿」。
㊁深し、廣し、遠し。〇〔管〕「——乎如レ入二於淵一」。
〔窈杳〕おなしくとほし。〇〔蘇軾〕「淸景凝二——一」。
〔杳々〕ふかし、とほし、ひろし。〇〔班彪〕「飛二雲霧之——一」。
〔靄杳〕さぎり立ちこめて四方見分けがたし。〇〔郭璞〕「氣滃渤而——」。
〔思杳〕打ち案ずると深し。〇〔韓愈〕「綏二我歸一——」。
〔靑杳〕あをくしてくらし。〇〔王漸逵〕「依二——一之修途一」。

（深杳）奥ふかし。○[方回]「根-芽盤ー-ー」。

【杴】ケン、コン。虚嚴切 鹽

㊀鍬の屬、すき。○[溪蠻叢笑]「骨-浪猺-獠有ニ舞-ー一以ニ長-柄木-ー一跳-舞亦有ニ音-節こ。
㊁意の好む所、このみ。○[揚雄]「青齊呼ニ意所レ好曰レー」。
㊂水を泄す器。

【杵】ショ、ソ。昌與切 語

㊀臼に入れある物を擣く具、きね。○[易]「斷レ木爲レー」。
㊁つち、(槌)。○[班婕妤]「投ニ香-ー一叩ニ玫-砧こ。
（天杵）はゝきぼし。○[漢]「彗-星曰ニー-ーこ。
（漂杵）きねを浮かすと。○[書]「血流ーレー」。
（砧杵）きぬたのつち。○[何遜]「ー-ー鳴ニ四-鄰こ。
（臼杵）うすときねと。○[易]「ー-ー之利、萬-民以濟」。
（槌杵）つち。○[于志寧]「ー-ー在ニ其手こ。
（鄰杵）となりにてつくきね。○[賈島]「ー-ー一夕終-夜愁」。
（緊杵）嚴ℓげくつくきね。○[劉禹錫]「ー-ー含ニ淸風こ。
（促杵）前に同じ。○[徐鉉]「ー-ー恐ニ霜飛こ。
（急杵）前に同じ。○[陸游]「秋近不レ堪レ聞ニー-ーこ。

【杶】チユン。敕倫切 眞

うるしに似たる一種の木、古昔多く琴の材となせしといふ。○[書]「ー幹栝-柏」。

【杷】ハ、ベ。蒲巴切 麻

一種の農具、土地を搔きさらひ又は穀類を搔き收むるなどに用ふるもの、さらひ。○[戰]「商-人無ニー-銚柱-耨之勢こ。

（枇杷）（い）びは、一種の果樹、枇に似て葉長く其の實は杏の如し熟すれば赤黄色となる。○[司馬相如]「ー-ー撚柿」。（ろ）一種の樂器、琵琶に同じ。○[釋名]「ー-ー馬-上所レ鼓」。

【杷】ハイ、ヘ。傍卦切 卦

㊀田器。
㊁欄に同じ、え。○[晉]「犀-ー-塵-尾」。

【杬】エン。愈絹切 霰

一種の木。

【枍】エイ、エ。愈芮切 霽

うごく、(動)。

【殳】シユ、ス。市朱切 虞

軍士の執る殳、ほこ。○[司馬法]「執レ羽從レー」。

【杸】タイ、デ。都外切 泰

一種の木。

【抉】ケツ、古穴切 屑。ケチ。切 ヘン。扁縣切 霰

わん、(椀)、又、小盂。

【枇】クヮ、ケ。火跨切 禡

一種の木。○[本草綱目]「木-芙-蓉一名ー-木、皮可レ爲レ索」。

【杺】シン。息林切 侵

㊀心黄色なる一種の木。
㊁車鉤の心木。

【杻】シウ、シユ。敕九切 有

手械、てかせ。○[唐]「死-罪校而加レー」。
（鉗杻）罪人の頭にはむるかねのわと手にはむるてかせとのこと、又、刑罰の義に借りいふ語。○[後漢]「抱ニー-ー徙ニ幽-裔こ。
（鞭杻）罪人をうつむちとてかせとのこと、又、刑罰の義に借りいふ語。○[蘇軾]「投ニ棄俎-豆ニ遑ニー-ーこ。
（械杻）かせ。○[蘇軾]「巖石爲ニー-ーこ。

【杻】チウ、ニユ。女久切 有

もちのき、(檍)。○[詩]「隰有レー」。

【杼】チヨ、ト。直呂切 語

㊀織機に付屬する具、緯絲を巻ける筆を入れ行るもの、ひ。○[詩]「ー-柚其空」。
㊁うすし、(薄)。○[周]「凡爲レ輪行レ澤欲レー」。
㊂そぐ、(㓟)。○[周]「大-圭長三-尺ーレ上」。
㊃ながし、(長)。○[揚雄]「豐-人ー-首」。
㊄栗の屬どんぐり。○[莊]「食ニー-栗こ。
（投杼）はたを織るひをなげすつ、又、曾參の母の故事よりさかしら言を信ずることにいふ語。○[史]「茂曰、昔曾人有ト與ニ曾-參ニ同ニ姓-名ニ者ト、殺レ人、人告ニ其母ニ曰、曾-參殺レ人、其母自-若也、頃レ之一人又告レ之、其母尚織自若也、頃又一人告レ之、其母ー-レー下レ機踰レ墻而走、夫以ニ曾-參之賢與ニ其母信ニ之也、三-人疑レ之其母懼焉、今疑ニ臣者非ニ特三-人ニ、臣恐ニ大-王之ー-ーー也」。
（機杼）（い）はたのひ。○[後漢]「出レ自ニー-ーこ。（ろ）工夫、組織。○[魏]「文-章須下自出ニー-ー成中一-家上」。
（弄杼）ひをあつかふ。○[張衡]「搖レ機ーレー」。
（梭杼）はたのひ。○[江淹]「寧聞ー-ー音」。

【杼】シヨ、ソ。常恕切 御

水を汲み出す槽、又、汲み出す、くむ。○[管]「鑽レ燧易レ火ーレ井易レ水」。

【杼】シヨ、ソ。神與切 語

つるばみ、(栩)。○[山海經]「景-山其木多ニー-檀こ。

【柔】

杼に同じ。

【杽】

杻に同じ、てかせ。

【松】シヨウ、ジユ。息中切 冬

一種の喬木、木皮鱗甲の狀を爲し葉は針の如くにして常に深綠を帶ぶ、まつ。○[詩]「如ニ松-茂こ。
（橋松）かれたるまつ、又一説に、そびえて枝なきまつ。○[潘岳]「若ニー-ー之依ニ山-巓ニ也」。
（茂松）志げれるまつ。○[詩]「山有ニー-ーこ。「以誓レ心」。
（青松）あをくしげれるまつ。○[劉峻]「援ニー-ー」
（蒼松）前に同じ。○[張說]「ー-ー虎-逕深」。
（孤松）一本まつ。○[陶潛]「撫ニー-ー而盤-桓」。
（枯松）かれたるまつ。○[皇甫曾]「山-路倒ニー-ーこ。「株こ」
（旅松）おほいなるまつ。○[南]「忽生ニー-ー百-許」。
（樓松）枝葉の笠の如く拡れるまつ。○[抱朴]「ー-ー偃-蓋-松也」。
（勁松）霜雪にも凋落せざるつよきまつ。○[潘岳]「ー-ー彰ニ於歳-寒こ。「ー」。
（水松）みると稱する藥草の名。○[江賦]「隈-鬱ー-ー」「無ニ樀-枝こ。
（架松）よこさまにふしたるまつ。○[王十朋]「ー-ー却ニ煩-暑こ。
（瘦松）みきの細くやせたるまつ。○[陸游]「ー-ー服レ之長-生」。
（五粒松）ごえふのまつ、五鬣松ともいふ。○[名山記]「ー-ー-ーこ。
（馬鬣松）馬のたてがみの如く葉のたちたるまつ。○[名山記]「廬-山西-嶺有ニー-ー-ーこ。

【板】ハン、ヘン。布綰切 潸

㊀判籍、ふだ。○[莊]「金-ー六-弢」。
㊁片木、いたはんぎ、ばんぎ。○[詩]「在ニ其ー-屋こ。
㊂詔書、みことのり。○[後漢]「使レ作ニ詔-ーこ。

四辭令書。○〔宋〕「府ー則爲ニ行參軍ニ」。
五書牘、ふみ。○〔南〕「發レ兵自防、露ー上言」。
六反側す、うらがへる、そむく。○〔詩〕「上帝ーー」。

〔假板〕官品の卑しき者、下役の人。
〔坐板〕箕の類。○〔晉〕「ーー排レ之以レ棄遁レ巳」。
〔負板〕悲哀の貌にいふ語。○〔儀、註〕「孝子前有レ哀後有ニーー」。
〔手板〕笏。○〔晉〕「因僞醉以ニーー」擊ニ鳳情一墜」。
〔響板〕たゝきならすいた、ばんぎ。○〔談叢〕「公每扣ニーー」。「ー」。
〔玉板〕たまにて作れるふた。○〔史、自序〕「金匱ーー」。
〔棧板〕かけはしのいた。○〔宋〕「蔡河斗門ーー、須ニ依レ時啓閉ニ」。「布ニ」。
〔鏤板〕いたに刻りつく。○〔宋〕「宰臣請ニーレー宣」。
〔拍板〕拍子をとるために打ち鳴らすいた。○〔元〕「ーー制以レ木」。
〔封板〕他をはゞかりて緘ぢたるふみ。○〔文心雕龍〕「皂囊ーー」。「ーニ」。
〔廊板〕わたどのゝいた。○〔郭璞〕「雄戟列ニ于ー」。
〔漏板〕時を志らすするために打ち鳴らすばんぎ。○〔李賀〕「七星挂レ城聞ニーーニ」。
〔急板〕せはしく打ち鳴らすばん木。○〔黄庭堅〕「飲少先愁ーー催」。
〔簷板〕ひさしのいた。○〔蘇軾〕「堆壓ーー墮」。

【枩】 松に同じ。

【极】 ケフ、ゴフ。極葉切 葉
一馬の背に跨がらす木牀、にぐら、くら。二すき、（臿）。

【苿】 クワ、ゲ。胡瓜切 麻
鏵の本字、すき。

【杌】 クワツ、グワチ。五活切 曷
一樹の皮を去る、はぎさる、むく。
二柱頭の木。

【枂】 ゲツ、グワチ。魚厥切 月

むながはら、（鞍瓦）。

【枃】 シン。郎刃切 震　ウン。羽粉切 吻　イン。羊進切 軫　ヰン。錡均切 眞　ウン。王問切 問
なさ、（筬）。○〔埤蒼〕「以レー梳レ絲使レ不レ亂」。

【构】 コウ、ク。古侯切 尤
一構に同じ、かうぞ。
二まがる（曲）。○〔荀〕「隱栝之生爲ニ一木一也」。

【枆】 バウ、モウ。莫袍切 豪
冬熟する桃、ふゆもゝ。

【枇】 ヒ。頻脂切 支
杷の條を見よ。

【朼】 朼に同じ、さじ。○〔孔穎達〕「從レ鼎以レー載ニ之於俎ニ」。

【枈】 ヒ。呲至切 寘
一細かき櫛、くし。
二細かに比ぶ、ならぶ、又、つぐ、（次）。

【梐】 ヘイ。駢迷切 齊
櫛木。

【枈】 枇に同じ。

【枉】 ワウ。嫗往切 養
一まがる。
（い）歪む、かゞまる。○〔淮〕「木熙者擧ニ梧一櫝一據ニ句ーーニ」。
（ろ）正しからず、理にたがふ。○〔論〕「能使ニー者直ニ」。
（は）虐げらる、抑へらる。○〔夏侯湛〕「士失レ據而身ー」。
二まぐ。
（い）歪ましむ、かゞまらしむ。○〔楚辭〕「ーニ玉一衡於炎一火ニ」。
（ろ）抑ふ。○〔後漢〕「懷レ憤激一揚折一讓摧ー、又何壯也」。
（は）虐ぐ。○〔後漢〕「侵ニー小一民ニ」。
（に）矯む。○〔後漢二十八將傳論〕「存ニ矯ーー之志ニ」。
三冤罪、志へたげ、又、志へたげにあへる者。○〔唐〕「軍一中皆呼レー」。
四邪曲、よこしま、又、よこしまなる人。○〔禮〕「毋レ循レー」。

〔群枉〕多くのよこしまなる者。○〔劉向〕「ーー盛則正一士消」。
〔衆枉〕前に同じ。○〔淮〕「故處ニーー之中ニ、不レ失ニ其直ニ」。
〔邪枉〕よこしま。○〔漢〕「行ニーー之道ニ」。
〔幽枉〕世に知られざる志へたげに逢ひる者。○〔後漢〕「ーーー必達」。
〔阿枉〕よこしま。○〔後漢〕「市無ニーーニ」。
〔姦枉〕よこしま、又、其の者。○〔曹植〕「受ニーー之虛一辭ニ」。「ーレー」。
〔申枉〕冤屈の者の志を通ぜること。○〔後漢〕「宥レ過直方一以臨ニーーニ」。
〔權枉〕勢力ありてよこしまなる者。○〔後漢〕「抗ニ」。「ー」。
〔繩枉〕正しからざるとを糾すと。○〔魏〕「彈レ邪ー」
〔疑枉〕罪のうたがはしき者と志のかゞまりて通せざる者と。○〔魏〕「諫ニーー于冤一獄ニ兮」。
〔誣枉〕罪ありと志ひなぐ。○〔荀悦〕「無レ過猶見ニーーニ」。「ーーー兮寃一比」。
〔貪枉〕慾深く志のまがれると、又、其の者。○〔九思〕
〔怨枉〕うらみと志へたげと。○〔荀悦〕「ーー繁多ニ」。
〔寃枉〕無實の罪にかゝれると。○〔李白〕「皇穹雪ニーーニ」。

【枊】 ガウ。魚浪切 漾　魚剛切 陽

一馬を繫ぐ柱、こまつなぎ、さつなぎ。○〔蜀〕「先一主解レ綬繫ニ督一郵一著ニ馬ーニ」。
二かたし、（堅）。

【枋】 ハウ、バウ。分房切 陽
一車の材に適せる一種の木。○〔管〕「其杷其ー」。
二木を並べて水を偃き魚を止むるもの、ふしづけ。○〔揚雄〕「蜀人以レ木偃レ魚曰レー」。

〔蘇枋〕暖地に產する一種の木、其の木汁を煎じて赤き色を染むべし。○〔南方草木狀〕「ーー出ニ九眞ニ、南人以染レ絳」。

【枋】 ハウ。甫妄切 漾
ふなのり、（舟一師）。

【枋】 ヘイ、ヒヤウ。陂病切 敬
柄に同じ。○〔儀〕「受レ醴面レー」。

【柢】 シ、ジ。是支切 支
碓衡、からうずのさを。

【枌】 フン、ブン。符分切 文
一にれ、（楡）。○〔詩〕「東一門之ー婆ニ娑其下ニ」。
二棼に通ず。○〔左思〕「ー一橑複一結」。

【枍】 エイ、アイ。壹計切 霽
ー一指は、長楊に似たる一種の木。○〔關中記〕「建一章一宮有ニー一指一殿ニ」。

【枎】 フ。馮無切 虞
一ー一疎は、枝葉の四邊に布くにいふ語。○〔韓〕「木一枝ー一疎將レ塞ニ公一闔ニ」。

㊁一種の木。○〔管〕「五-沃之土、桐柞-櫄」。

㊂枏に同じ、はなぶさ、(華-萼)。

【枏】ダン、ナン。那含切 覃 ゼン、子ン。如鹽切 鹽 而琰切 琰

交讓木、ゆづりは、一說に、梅の屬、うめ、又一說に、橡章に似たる一種の木。○〔史〕「江-南出二-梓一」。

【析】セキ、シャク。先擊切 錫

㊀さく。

(い)破る、折る、わる。○〔詩〕「-レ薪如レ之何、非レ斧不レ克」。

(ろ)わかつ、わかる、(分)。○〔書〕「厥民-」。

(は)解く。○〔淮〕「-二才-士之脛一」。

㊁-支は、國の名。○〔書〕「-支渠-搜」。

〔蕩析〕やぶれさく。○〔杜甫〕「-・-川無レ梁」。

〔開析〕ひらけさく、ひらきさく。○〔詩、傳〕「維斧可三以-二-之」。

〔離析〕わかる、わかつ。○〔論〕「邦分崩-・-而不レ能レ守也」。

〔剖析〕さく。○〔晉〕「厭命レ羅鴻-二-之一」。

〔乖析〕そむきはなれてまとまらざること。○〔漢〕「是以五-經-・-」。「-・-」。

〔分析〕わかちさく、わかれさく。○〔漢〕諸-侯稍自-

〔辨析〕あきらかにわかつこと。○〔後漢〕「-二-・-疑-異一」。

〔解析〕とく。○〔南〕「及レ-二-・-經-理一、甚有二精-致一」。

〔通析〕すぢみちをつけわかつ、すぢみちとけわかる。○〔南〕「元-規引-諮-・-無三復疑-滯一」。

〔條析〕前に同じ。○〔唐〕「嘉-貞-・-理-分、莫レ不二洗-然一」。

〔判析〕わかつ、わかる。○〔唐〕「-酒-銘-・-有レ條」。

〔縡析〕すべわかつこと。○〔蔡邕〕「-・-無レ形」。

【析】シ。相支切 支

㊀脾-は、牛の百葉、ゐぶくろ。○〔周〕「饋-食之豆脾-」。

㊁一種の草。○〔張揖〕「-似二燕-麥一」。

【枑】コ、ゴ。胡故切 遇

㊀木を交互して設けたる遮闌、かき、やらい。○〔徐陵〕「貞-・-紀二于賴-鄉一」。

㊁馬の奔逸を防ぐに設くろやらい、こまよせ、うまごめ、(行馬)。○〔周〕「設二梐-・-再-重」。

【枒】ガ、ゲ。牛加切 麻 吾駕切 禡

㊀椰に同じ、やし。○〔蜀都賦〕「櫻-・-」。

㊁車輞、おほわ。○〔康熙〕「車-輪外輞謂二之-・-一」。

〔迦枒〕木の相拒むにいふ語。

【枒】ヤ。余遮切 麻

一種の木。

【枓】シュ、ス。三戾切 虞

ひしやく、(杓)。○〔禮〕「沃レ水用レ-」。

【枓】トウ、ツ。當口切 有

柱の上の方木、ますがた、さがた。

【柄】

棉に同じ。

【枔】シン、ジン。徐心切 侵

このは、(木-葉)。

【枕】シン。章荏切 寢 之賃切 沁

㊀臥すに頭首をさゝへ持つ具、まくら。○〔詩〕「角-・-粲兮」。

㊁頭首をさゝえ持たす、まくらさなす、まくらす。○〔論〕「曲レ肱而-レ之」。○〔蘇軾〕「板-閣獨-眠驚二旅-・-一」。

㊂轉じて、臥すると、寐ぬると。

㊃車後の横木。○〔小爾〕「軫謂二之-・-一」。

㊄魚の腦中の骨。○〔爾〕「魚-・-謂二之丁一」。

㊅臨む。○〔蘇軾〕「廟-二淸-淮一」。

〔伏枕〕まくらの上にうつぶくこと、又、いぬることにいふ語。○〔詩〕「輾-轉-レ-」。

〔高枕〕まくらをたかくす、卽ち、やすくと眠ることにて安心の意にいふ語。○〔漢〕「足-下-レ-而王二千里一」。

〔安枕〕前に同じ。○〔漢〕「陛-下-・-而臥矣」。

〔扇枕〕まくらもとをあふぐ。○〔東觀漢記〕「暑-月則-レ-」。

〔就枕〕まくらにつくこと、ねころぶこと。○〔漢〕「-ロ-矣」。○〔漢〕「不二復

〔羈枕〕たびねのこと。○〔陸游〕「-・-不レ成レ寐」。

〔同枕〕共に用ひてまくらとす、又、ならびてふすこと。○〔拾遺記〕「是帝-幸之枕、與二妲-己一-・-レ之、是殷時遺-寶也」。

〔交枕〕まじはり臨む。○〔水經、註〕「-二-潭-際一」。

〔貟枕〕たゞちに臨む。○〔庾信〕「長-林-・-レ河」。

〔愁枕〕物を打ちあんじてまくらに就く。○〔宋之問〕「-・-臥雲眠」。

〔欹枕〕寐もやらず枕をたてよりかゝること。○〔元稹〕「誰-憐獨-レ-」。「-レ-」。

〔薦枕〕ね床にはんべること。○〔王勃〕「若向二陽-臺-

【枕】チン、ヂン。直深切 侵

㊀牛を繋ぐ杙、くひ。

㊁烏樟の一名、くろたぶ。○〔本草綱目〕「-・-木卽釣樟」。

【杌】

俗の枕の字。

【朹】イウ、ウ。于求切 尤

樟の屬、一說に柞に同じ。

【枖】エウ。於喬切 蕭

木の稚くして盛なる貌にいふ字。

【枖】エウ。於兆切 篠

木の華さき茂るにいふ字。

【杮】ハイ、ヘ。普卦切 卦

㊀葩の總名、はな。㊁あさ、(麻-紵)。

【林】リン。犂針切 侵

㊀はやし。

(い)平地に竹木の叢がり生ぜる處。○〔詩〕「依彼平-・-」。

(ろ)すべて、竹木の叢がり生ぜる處の稱。○〔詩〕「于二-之下一」。

㊁樹木。○〔梁元帝〕「春-木日二華-樹一亦曰二芳-・-一」。

㊂物事の叢がりあつまれる場、又、其の叢がりあつまれるもの。○〔淮〕「衆-議成レ-、無レ翼而飛」。

㊃野外。○〔詩〕「施二于中-・-一」。

㊄盛んなる貌にいふ字、又、衆多なり、おほし。○〔詩〕「有レ壬有レ-」。

〔羽林〕星の名、又、漢唐の時代にて天子の宿衛の名。○〔漢〕「又期-門-・-皆屬焉」。

〔儒林〕仁義道德を說く學者のなかま。○〔任昉〕「蔡公-・-之弖」。「-夾以二-・-叢-竹一」。

〔深林〕樹木のしげれるおくふかきはやし。○〔漢〕

〔幽林〕前に同じ。○〔王建〕「移レ石入二-・-一」。

〔書林〕書物の多く聚まれる處、又、ほんや。○〔後漢〕覽二-・-一、閱二篇籍一。

〔高林〕たかき木のはやし、○〔列〕「遊二吾園一者、不レ思二-・-曠澤一」。「-・-矣」。

〔喬林〕前に同じ。○〔玉海〕「今池-邊之木、已成二-泉-石」。

〔茂林〕しげれるはやし。○〔宣和畫譜〕「夏則-・-一」。

〔衰林〕秋の木。○〔梁元帝〕「秋-草日二衰-草一、木日二-・-一」。

〔林林〕おほくあつまる貌にいふ語。○〔柳宗元〕「-・-而羣」。

〔寒林〕ふゆ枯れのはやし。○〔陸機〕「步二-・-一以悽-惻」。「-」。

〔如林〕ものゝたはきことにいふ語。○〔詩〕「其會-」

〔藝林〕學藝社會。○〔魏〕「翳-薈——」。
〔凋林〕しぼかれのはやし。○〔程鉅夫〕「繁霜—一雪積野」。
〔瑤林〕たまのはやし。○〔世說〕「如二——瓊-樹一」。
〔蔭林〕樹木のしげりたるはやし。○〔宣和畫譜〕「訪二名-園——一」。
〔蕭林〕さびしきはやし。○〔劉伶〕「枯-葉散二——一」。
〔枯林〕かれはのはやし。○〔杜甫〕「歳久爲二——一」。
〔花林〕はなさけるはやし。○〔梁武帝〕「朝-日照二——一」。
〔遙林〕遠きところのはやし。○〔張喬〕「去-鳥倦二——一」。
〔淨林〕きよらかなるはやし。○〔王灣〕「——新「靄入」。
〔荒林〕あれはてたるはやし。○〔杜甫〕「鞍-馬到二——一祠一」。
〔剪林〕はやしの木をきる。○〔韓愈〕「—レ—遷二神-—一」。
〔嬪林〕宮女のなかま。○〔李涉〕「窈窕——」。
〔瘴林〕毒氣あるはやし。○〔張嬪〕「何人在二——一」。
〔雞林〕古昔の韓國の新羅州の名、轉じて、韓國の稱。○〔唐〕「詔二劉-仁-軌一爲二——道大-總-管一」。
〔綠林〕荊州にある山の名、王莽の時に張霸王匡等の匪徒の其の山中に據りしより匪徒の異稱にいふ語。○〔李涉〕「——豪客夜知聞」。
〔杏林〕あんずのはやし、又、董奉の故事より醫師なかまの義にいふ語。○〔神仙傳〕「董-奉居レ山不レ種二田日爲レ人治レ病、亦不レ取レ錢、重-病愈者使レ栽二—五-株一、輕者一-株、如レ此數-年計得二數-萬-餘-株一鬱-然成レ—」。
〔穿林〕はやしの中を過ぐること。○〔陸游〕「好-鳥—レ—去復還」。
〔樵林〕はやしにきこりすること。○〔郭武〕「—レ—者誰子」。

【枘】ゼイ、子。儒稅切 霽
鑿に入るゝ端を刻める木、ほぞ、え、はしらなど。○〔莊〕「鑿不レ圜レ—」。

【枘】ドン、ノン。奴困切 願

【枙】グワ、グワ。吾禾切 歌　アク、イヤク。
草の始めて生ずる貌にいふ字。

於革切 陌
きのふし、（木-節）。

【枚】バイ、マイ。莫杯切 灰
㊀みき、もと、（幹）。○〔詩〕「施二于條-—一」。
㊁かぞふ、かず、（數）。○〔左〕「知二其—一數一」。
㊂物を數ふるにいふ字。○〔史〕「尙有下徑-寸之珠照二車前-後一各十-二乘者十—上」。
㊃一一、ひとつゝ。○〔書〕「—二卜功-臣一」。
㊄きめて指さずに、ひろく。○〔左〕「—筮レ之」。
㊅卜占、うらなひ。○〔晉〕「洞二曉龜-—一」。
㊆馬箠、むち。○〔左〕「以レ—數レ闔」。
㊇口に横に銜み纏にて項に結び、聲を發するを防ぐもの、其の狀は箸に似たり。○〔周〕「銜レ—而進」。
㊈鐘の表面の乳。○〔林希逸〕「鐘有二兩-面一每-面三-十-六-乳、々曰レ—、可二枚-數一也」。
㊉礱りて密かなると、こまやか。○〔詩〕「閟-宮有レ侐、實-々——」。

【枛】サウ、セウ。阻教切 效
木の刺、はり、とげ。

【[木片]】析に同じ、さく。○〔論衡〕「—レ木爲レ板」。

【果】クワ。古火切 哿 〔說文〕象二果形一在二木上一。
㊀木實、このみ、くだもの。○〔周〕「共二野——之屬一」。
㊁このみを結ぶ樹木、梨、栗など。○〔王羲之〕「吾篤喜レ種レ—」。
㊂物事の應報歸極、むくい、はてでき、はえ、をはり。○〔舊唐〕「必以二業——爲レ證」。
㊃決し行ふ、成し遂ぐ、はたす。○〔禮〕「將レ爲レ善思レ貽二父-母令-名一必—」。
㊄をはりには、はては、つひに。○〔呂氏春秋〕「—伏レ劍而死」。
㊅はたして。
㊆物事をはたす勇あると、決斷よきと、たけし、つよし、いさみ、勇敢。○〔論〕「由也—」。
（い）豫め期して驗あるにいふ字。○〔史〕「龐-涓—至二斫-木下一」。
（ろ）克く。○〔中〕「—能二此道一」。
㊇かつ、（勝）。○〔左〕「殺レ敵爲レ—」。
㊈祼に通じ用ふ。○〔宋國史補〕「揚-州取二——然一、數-十——然可レ得」。
㊉蜾に通じ用ふ。○〔爾〕「——贏-蒲-盧」。
⑪飽く貌にいふ字。○〔莊〕「腹猶——然」。

〔碩果〕おほいなるこのみ。○〔易〕「——不レ食」。
〔珍果〕めづらかなるこのみ。○〔後漢〕「遣二謁-者一賜二貂-裘及大-官食-物——一」。
〔奇果〕前に同じ。○〔後漢〕「詔賜二——一」。
〔茶果〕ちやとこのみと。○〔晉〕「所レ設惟——而已」。
〔者果〕前に同じ。○〔汪藻〕「——話二疇-昔一」。
〔驍果〕つよくいさまし。○〔晉〕「——多二權-略一」。
〔瓜果〕うりとくだものと。○〔唐〕「有下獻二——一者上」。
〔蔬果〕野菜とくだものと。○〔南〕「宗-廟薦-蔬始用二——一」。
〔因果〕物事のもとゝ結局とのこと、たとへば善き行を爲せば善き果報のきたり惡しきを爲せば惡しき果報の至るが如きをいふ。○〔南〕「君不レ信二——一」。
〔輕果〕心のうきていさみたること。○〔晉〕「寶少——無二志-操一」。
〔剛果〕强し。○〔後漢〕「其——任レ情、皆如レ此也」。
〔勁果〕前に同じ。○〔後漢〕「北兵雖レ衆、而——不レ及二南-軍一」。
〔勇果〕前に同じ。○〔白居易〕「負二——之雄-才一」。
〔雄果〕前に同じ。○〔晉〕「荷-洪——」。
〔忠果〕（い）忠義の心あつくして强きこと。○〔後漢〕「嘉二其——一、召拜二郎-中一」。
（ろ）かんらんの異名、靑果又は諫果。○〔本草〕「橄-欖一名二——一」。
〔明果〕智識ありて決斷のよきこと。○〔蜀〕「張-嶷識-略——」。
〔甘果〕あまきこのみ。○〔李尤〕「——成レ叢」。
〔英果〕すぐれてたけし。○〔晉〕「性——有二雄-略一」。
〔名果〕なたゝるこのみ。○〔北〕「京-師——皆出二其園一」。
〔沉果〕おちつきて且たけきこと。○〔唐〕「光-弼嚴-毅——有二大-略一」。
〔嘉果〕よきこのみ。○〔山海經〕「不-周之山、爰有二——一」。
〔赤果〕かやのみ。○〔本草〕「榧-實一名二——一」。
〔快果〕梨の別名。○〔本草〕「梨一名二——一」。
〔香果〕をんなぐさの異名。○〔本草〕「芎-藭一名二——一」。
〔勝果〕すぐれたる果報。○〔沈約〕「招二——于玆地一」。
〔識果〕果報の理をさとり知る。○〔徐陵〕「識レ因—レ—」。○〔帝〕「上求二——一」。
〔佛果〕ほとけのよきむくい、成佛すること。○〔隋煬帝〕「——」。
〔庭果〕にはにうゑたるこのみ。○〔李頻〕「——摘二官稀一」。
〔纍果〕さはにつきあるこのみ。○〔盧綸〕「一-枝——」。○「——偃二山中一」。
〔晚果〕おくれてみのりたるこのみ。○〔李建勳〕「——經レ秋赤」。
〔殘果〕とりのこされたるこのみ。○〔劉商〕「鳥喧——落」。
〔墜果〕おちたるこのみ。○〔張籍〕「衔-從多二——一」。
〔墮果〕前に同じ。○〔許棠〕「沿レ溪收二——一」。
〔敗果〕くづれたるこのみ。○〔韓偓〕「僻-路淺-泉浮二——一」。「遲-落一」。
〔蠹果〕蟲づきたるこのみ。○〔楊萬里〕「——無二」。

【果】ワ。烏果切 哿
婐に同じ、女の侍るにいふ字、はんべる、はべる。○〔孟〕「二-女—」。

【果】ラ。魯火切 哿
㊀祼に通じ用ふ、あかはだか、赤體。
㊁甲の前の長く被れる龜。○〔周〕「東-龜曰二—屬一」。

【果】クワン、グワン。古玩切 翰

祼に通じ用ふ、酒をそゝぐの享禮、又、飲酒行爵、さかもり。○〔周〕「攝而、祼レ一」。

【枝】シ。章移切 支

㊀えだ。
(い)幹莖より別かれ生じたる條。○〔左〕「一布葉分」。
(ろ)本より別かれ出でたるもの丶泛稱。○〔禮〕「身也者親之一也」。
(は)根本の反、すゑ。○〔晉〕「爲得三登レ一而捐二其本一」。
㊁體肢、てあし、又、てあしの關節、ふし。○〔孟〕「爲二長者一折レ一」。
㊂わかる、(分)、ちる、(散)。○〔易〕「中心疑者其辭一」。
㊃さゝふ、(支)。○〔左〕「蔡衛不レ一固將二先奔一」。
㊄さゝふる柱、つッかひばしら。○〔王延壽〕「漂嶢峴而一柱張」。
㊅十二支。○〔博雅〕「寅卯爲レ一」。
(槁枝) 枯れたるえだ。○〔莊〕「右攀二一一」。
(尋枝) 八尺程もある長きえだ。○〔淮〕「峻木一一」。
(素枝) 白きえだ。○〔楚辭〕「綠葉兮一一」。
(弱枝) たわゝなるえだ。○〔西京雜記〕「上林苑有二一一棗一」。
(喬枝) たかきえだ。○〔梁昭明太子〕「好鳥鳴二一一」。
(舊枝) ふるきえだ。○〔梁簡文帝〕「新枝雜二一一」。
(疎枝) まばらなるえだ。○〔駱賓王〕「驚レ月繞二一一」。
(寒枝) 霜にうたれて葉の枯れおちたるえだ。○〔李白〕「猿影挂二一一」。
(冷枝) 前に同じ。○〔杜甫〕「爾々挂二一一」。
(深枝) ふかくたちこもれるえだ。○〔杜甫〕「宿鳥擇二一一」。
(壓枝) えだをおさへつく。○〔杜甫〕「千朶萬朶一レ一低」。
(戚枝) 身うちのもの。○〔梁〕「一一或被二仵遇一」。
(皇枝) 大君の血統。○〔梁簡文帝〕「克隆二帝祉一、永茂二一一」。
(宗枝) 宗家のわかれ、又、もとえだと。○〔唐〕「王地在二一一」。
(竦枝) そばだちたる木のえだ。○〔山海經、贊〕「一一千里上干二雪天一」。
(暢枝) 長く伸びたるえだ。○〔道德經指歸論〕「茂林一一」。
(散枝) ちり廣がりたるえだ。○〔神異記〕「一一一一里餘」。
(垂枝) 志だれたるえだ、又、えだをたる。○〔太平御覽〕「鶩鳥不レ立二一一一」。
(旁枝) わきにつきたるえだ。○〔酉陽雜俎〕「一一皆下垂」。
(傳枝) えだの上をつたはり行く。○〔埤雅〕「野鵲一一」。
(鈎枝) かぎの如くにまがりたるえだ。○〔劉孝綽〕「一一一廻節」。
(生枝) なまなるえだ。○〔畫斷〕「一爲二一一一、一爲二枯枝一」。
(芳枝) かぐはしき花のさけるえだ。○〔楚辭〕「折二一一與華瓊一」。
(扇枝) えだをあふり動かす。○〔蔡邕〕「涼風一二其一一」。
(卑枝) ひきくたれたる枝。○〔魏文帝〕「一一拂二羽蓋一」。
(連枝) つゞくえだ、又、血つゞき。○〔庾信〕「細果上二一一」。
(樛枝) まがれるえだ。○〔謝朓〕「一一晉復低」。
(叢枝) むらがりはえたるえだ。○〔梁元帝〕「一一臨二北朗一」。
(嫩枝) わかきえだ。○〔薛昉〕「一一猶二露鳥一」。
(蠹枝) 蟲のはみたるえだ。○〔戴表元〕「堅松任二一一」。
(死枝) 葉のおちてなくなりたるえだ。○〔張籍〕「老竹葉稀多二一一」。
(連理枝) 根を別にして枝を一にしたるえだ。○〔張正見〕「同心綺袖一一一」。
(寄生枝) やどりぎのえだ。○〔李白〕「水拂二一一一」。
(風不鳴枝) 世の太平なるときに用ふる語。○〔論衡〕「太平之世、五日一風、十日一雨、一一レ一レ一雨不レ破レ塊」。
(桂林一枝) 才子なかまの一人、文士なかまの一人の義にいふ語。○〔晉〕「臣舉二賢良一對レ策爲二天下第一一、猶二一一一一崑山之片玉一」。
(釋根灌枝) 物事の本を修めずして末に力を用ふること。○〔淮〕「忠一其一而一其一也」。
(鷦鷯一枝) いぶせきすみ家の義に借りいふ語。○〔莊〕「一一巣二於深林一、不レ過二一一一」。
(越鳥巣南枝) 故郷を思ふときにいふ語。○〔古詩〕「胡馬依二北風一、一一一一一」。

【枝】キ。翹移切 支

一指は、通常の指の數より多きこと。○〔莊〕「騈拇、一指」。

【𣏓】ハウ、ボウ。部項切 講

木の杖、つゑ。

【桙】ボウ、ム。迷浮切 尤

一種の器。

【栙】カウ、ケウ。何交切 肴

たるき、(桷)。

【杙】ショク、ソク。子息切 職

たちばな、(橘)。

五畫

【枮】セン、ソン。思廉切 鹽

一種の木。

【枮】チン。知林切 侵

椹に同じ、だい、あて。

【枯】コ、ク。空胡切 虞

㊀かる。
(い)草木の生氣絶ゆ。○〔禮〕「草木蚤一」。
(ろ)乾く。○〔荀〕「淵生レ珠而崖不レ一」。
(は)衰ふ、病む、疲る。○〔屈平〕「形容一槁」。
㊁かれしむ、からす、かわかす、さらす。○〔荀〕「斬、斷、一、磔」。
㊂かれたる木、かれき。○〔國〕「已獨集二于一一」。
(摧枯) かれきをくだきをる。○〔後漢〕「如二一レ一折レ腐耳」。
(折枯) 前に同じ。○〔後漢〕「摧レ强易二于一一」。
(拉枯) 前に同じ。○〔晉〕「鼓行而前、猶レ一レ一耳」。
(凋枯) 志ぼみかる。○〔李白〕「萬物無二一一」。
(榮枯) さかえ志げるとかるゝとと。○〔王維〕「浚度遭二一一」。
(傷枯) いたみかる。○〔後漢〕「城傍竹柏之葉、有二一一者一」。
(纖枯) かぼそきかれ木。○〔曹攄〕「高風振二一一」。
(豚枯) うつろになりてかる。○〔太玄經〕「一一之木」。
(雙枯) 二本のかれ木。○〔孫楚〕「足若二一一」。

【枰】ヘイ、ビヤウ。蒲兵切 庚 皮命切 敬

㊀板をもて其の體をなせる面の平かなるもの丶稱。○〔逸雅釋牀〕「一平也、以レ板作、其體平正也」。
㊁博局、ごばん、すごろくばん。○〔韋曜博奕論〕「所レ志不レ過二一一之上一」。
㊂栟に同じ。○〔司馬相如〕「華楓一一、櫨」。
(石枰) 石のごばん。○〔柳宗元〕「得二一一于上一」。
(棊枰) ごばん。○〔黄庭堅〕「夜闌飛雹落二一一」。
(空枰) 現に使用せざるごばん。○〔陸游〕「閑棊客散但一一」。

【枱】イ。盈之切 支 シ。象齒切 紙

耒の柄、え。

【枲】シ。胥里切 紙

あさ。
(い)實のらざる麻、をあさ。○〔書〕「岱畎絲一」。
(ろ)あさの皮。○〔傅休奕〕「纏以二素一」

【枳】シ。諸氏切 キ。居紙切 紙

㊀橘に似たる一種の木、刺甚だ多し、籬落をなすに適す、からたち、きこく。○〔周〕「橘踰レ淮而化爲レ一」。
㊁また、(股)。
㊂そこなふ、(害)。○〔孔叢子〕「幸過以二

小-罪一、謂二之ーー一。
（蘘枳）むらがりしげりたるからたちの木。○〔蘇軾〕「出レ籬ーー十餘-丈一。」

【枳】シ。章移切 キ。翹移切 支
ーー首-蛇は、二つの頭ある蛇。

【枴】カイ、ケ。古買切 タイ、デ。直駭切 蟹 クワ、ケ。古瓦切 馬
つゑ、（杖）。○〔五一〕「奉二表-契-丹耶-律一賜二一-木ーー一。」

【枵】ケウ。虛嬌切 蕭
㊀むなし、（虛）。○〔林下偶談〕「虎-頭鼠-尾外肥内ー」。
㊁饑ゑ耗る、へる、すく。○〔唐〕「糧-盡衆「ー」。

【架】カ、ケ。居訝切 禡
㊀くひ、（杙）。○〔種樹書〕「竹種時斬二去梢一、仍爲レー扶レ之不レ使二根搖一」。
㊁棧閣、だい、たな。○〔娜嬛記〕「陳-書滿レー」。
㊂衣服をかけ置く具、ころもかけ、いかう。○〔禮〕「男-女不二雜所一、不レ同二椸ーー一」。
㊃物をかけ置く器具の稱。○〔致虛雜俎〕「義-之有二巧-石筆ーー一」。
㊄屋宇、のき、やね。○〔儀、註〕「大-夫士廟、皆兩-下五ーー」。
㊅構へ互す、かく。○〔詩〕「至レ冬ーレ之、至レ春乃成」。
㊆凌ぎ乘る。○〔鐘嶸〕「専相凌ーー」。
㊇組み立つ。○〔人物志〕「思能造レ端、謂二之構ーー之材一」。
㊈鳥の聲にいふ字。○〔荊物歲時記〕「有レ鳥如レ烏、先レ雞而鳴、ーーー格-々」。
（禁架）まじなひの術。○〔後漢〕「但行二ーー一」。
（符架）前に同じ。○〔唐〕陰-陽占-繇ーー之術、能壓二劾怪-物一」。
（戟架）ほこをかくる具。○〔唐〕「庭-樹ーー皆滿」。
（衣架）きものを懸けおく具。○〔沈佺期〕「朝-霞致-彩羞二ーー一」。
（結架）屋をしつらふ、むすびくむ。○〔魏〕「ーニーー巖-林一、甚得二栖遊之適一」。
（締架）前に同じ。○〔終南十志〕「資二人-力之ーー後加二茅-茨一」。
（屋架）家のこと。○〔唐〕「稅二民ーー一」。
（石架）石にてこしらへたるたい。○〔神仙傳〕「室-中有二ーー一」。
（層架）二重にこしらへたるたな。○〔搜神記〕「房-中有二ーー一」。
（滿架）棚に充ち塞がる。○〔高駢〕「ーー薔-薇一-院香」。
（盈架）前に同じ。○〔崔融〕「道-書ーレー」。
（修架）長きたな。○〔韓愈〕「曉-色曜二ーー一」。
（雲架）高く聳えたるたな。○〔王覲〕「ーー重-樓出二郡-城一」。
（攲架）傾きたるたな。○〔范成大〕「ーー微-條半綠-陰」。

【枷】カ、ケ。居牙切 麻
㊀杖を柄の頭につけたる一種の農具、穗をうちて其の穀を出だすに用ふるもの、からざを、一に、連ーー。○〔范成大〕「一-夜連ーー響到レ明」。
㊁項械、くびかせ。○〔北〕「獄-吏欲二爲脫レー」。

【枷】架に通じ用ふ。○〔禮〕「男-女不レ同二椸ーー一」。

【枸】ク、ゴ。倶羽切 麌 ク、コ。忌遇切 遇
白楊に似たる一種の喬木、其の子の長さ數寸味甘美なりといふ。○〔詩〕「南-山有レー」。

【枸】コウ、ク。古后切 有
ーー櫞は、ぬみぐすり、くこ、又、ーー杞。

【枸】コウ、ク。居侯切 尤
からたち、きこく。○〔宋玉〕「枳ーー來巢」。

【枸】ク。擧朱切 虞
㊀ーー簍は、車のおほひのほね。
㊁盤錯す、わだかまる、めぐる。○〔山海經〕「下有二九ーー一」。
㊂斷木、きりかぶ。○〔莊〕「承レ蜩者承レ身若二橛株ーー一」。

【枹】フ。芳無切 虞 フウ、ブ。房尤切 尤
鼓を擊つ杖。○〔左〕「右援レー而鼓」。

【枹】ハウ、ヘウ。班交切 肴
叢がり生ずる木。○〔爾〕「樸ー者」。

【枺】バツ、マチ。莫葛切 曷
㊀たうはぜ、（楷）。
㊁欐ーは、はしら、（柱）。○〔淮〕「欐ーー欂-櫨以相支持」。

【枻】エイ。以制切 霽
かい、かぢ、（楫）。○〔楚辭〕「鼓レー而去」。
（叩枻）舟のかぢを打ちならす。○〔陶潛〕「ーレー新-秋月」。
（蘭枻）木蘭の木をもてこしらへたるかぢ。○〔九歌〕「桂-櫂兮ーー」。
（犀枻）もくせいの木をもてこしらへたるかぢ。○〔劉孝威〕「舟傾沒二ーー一」。
（艫枻）舟のともにそなへつけたるかぢ。○〔孟浩然〕「行-々任二ーー一」。
（桅枻）舟のかぢ。○〔拾遺記〕「以二紫-文-桂一爲二ーー一」。
（戢枻）かぢを用ふることをせず、舟を出ださず。○〔陶潛〕「ーレー守二窮-湖一」。
（停枻）かぢをとゞめて舟を泊めず。○〔謝靈運〕「迮二泝-上一而ーレー」。
（搖枻）かぢをいそがせて舟を進む。○〔謝朓〕「ーーー把二瓊-方一」。
（揚枻）かぢを擧げて舟をやる。○〔江淹〕「ーレー泛二春-蘭一」。

【枻】セツ、セチ。細列切 屑
弓弩をため直す具、ゆだめ。○〔荀〕「檠-ー正二弓-弩一之器」。

【枼】エフ。弋涉切 葉 サフ、ソフ。蘇合切 合
㊀けたのき、（楄）、㊁うすし、（薄）。

【枼】楪に同じ、まご。

【柹】シ、ジ。鉏里切 紙 [illegible]吏切 寘
一種の木、葉肥大にして光澤あり、花は初夏に開き實は季秋に至りて熟す、かき。○〔禮〕「棗栗榛ー」。
（椑柹）しぶかき、漆柹、綠柹などの異名あり。○〔本草〕「ーー色青可二生啖一」。
（酸柹）味のすきかき。○〔述異記〕「ーー甜-梅」。
（霜柹）しものかゝりたるかき。○〔擷蕊小牘〕「不レ滅二樹-頭ーー一」。
（烘柹）つゝみがき。○〔歸田錄〕「今唐鄧間、多二大柹一、其初生澀堅實如レ石、凡百十顆、以二一榠-樝一置二其中一、則紅熟爛如レ泥而可レ食、土-人謂二之ーー者一、非レ用レ火、乃用二此耳一」。

【柿】俗の柹の字。○〔七契〕「湖-畔之ー江-陰之橘」。

【枿】ケツ、ゲチ。魚列切 屑 カツ、ガチ。五葛切 曷
㊀伐木の殘幹、きりかぶ。○〔山海經、註〕「猶有二陳-根餘ーー一」。
㊁きりかぶより復び生ぜしもの、ひこばえ。○〔張衡〕「山無二槎ーー一」。
㊂遺殘せるもの、絕えて復び起これるもの。○〔石介〕「躬攬二賢-英一、手鋤二姦ーー一」。

〔巨枿〕大いなる伐りかぶ。○〔宋〕「寄ニ院栿仆ニ一一一刊守」。「一一」。
〔枯枿〕かれたるきりかぶ。○〔陳晁〕「野鶴立ニ一一」。
〔老枿〕年ふりたるきりかぶ。○〔歐陽修〕「一一亂發爭ニ春妍ニ」。
〔株枿〕きりかぶ。○〔孟郊〕「困衡ニ一一一盲」。
〔朽枿〕くちたるきりかぶ。○〔韋應物〕「養レ條刋ニ一一ニ」。
〔蘚枿〕たふれたるきりかぶ。○〔元稹〕「橋橫ニ老一一ニ」。
〔燼枿〕火に燒けたるきりかぶ。○〔顧非熊〕「一一帶ニ畬餘ニ」。
〔殘枿〕きりかぶ。○〔張耒〕「一一寒餘燒」。
〔曲枿〕まがりくねりたるきりかぶ。○〔李咸用〕「去除一一一隔ニ寒蕪ニ」。
〔繁枿〕茂りたるひこばえ。○〔梅堯臣〕「一一」
〔舊枿〕ふるききりかぶ。○〔劉基〕「新荑與ニ一一、好醜各自媚」。

【柁】タ、ダ。徒可切　哿
舵に同じ、かぢ。○〔晉〕「操レ一正レ櫨」。
〔司柁〕かぢをあつかふこと、又、ふなびと。○〔輟耕錄〕「海舶中以ニ一一一日ニ太翁ニ」。「一レ一春江流」。
〔起柁〕かぢをとりて船をいだす。○〔杜甫〕「君今
〔挂柁〕かぢをつゞく、即ち、舟と舟のならぶこと。○〔張耒〕「連檣一一古岸傍」。
〔轉柁〕かぢをまはす、即ち、舟のすゝむ方向をかふること。○〔王炎〕「一レ一涉ニ荐湍ニ」。

【柁】タ、ダ。待可切　哿
木の堅き貌にいふ字、かたし。

【柁】タ、ダ。唐何切　歌
木葉落つ、おつ。

【柂】イ。余知切　支
はだつきのひつぎ、(椑)。○〔禮〕「一一棺」。

【柂】リ。鄰知切　支
柯一一は、酒の名。

【柂】柁に同じ、かぢ。○〔郭璞〕「凌レ波縱レ一」。

【柃】レイ、リヤウ。郎丁切　青　里郢切　梗
榛一一は、其の葉染料となる一種の木、ひさかき。○〔松漠紀聞〕「有ニ榛一一癭盂ニ椀之ニ、有ニ文理可レ愛者ニ」。

【柄】ヘイ、ヒヤウ。陂病切　敬　ヒヤウ、ハウ。必漾切　漾
㊀器具の手に把り持つ處、とつて、え。○〔禮〕「夫人執レ一」。㊁もと、(本)。○〔易〕「坤爲レ地爲レ一」。㊂權力、いきほひ、ちから。○〔韓〕「二一刑德也」。
〔大柄〕大いなる權力。○〔禮〕「禮者君之一一也」。
〔義柄〕事の宜しきにかなふ本。○〔禮〕「聖主修ニ一之一、禮之序ニ、以治ニ人情ニ」。
〔政柄〕まつりごとを施す權力。○〔左〕「三世執ニ其一一ニ」。
〔權柄〕いきほひ。○〔漢〕「六臣操ニ一一ニ持ニ國政ニ」。
〔操柄〕權を執り操る、又、執り用ひて治むる權。○〔淮〕「明攝ニ權一レ一、以制ニ羣下ニ」。
〔魁柄〕人のかしらとなりて權力をとること。○〔漢〕「授以ニ一一ニ」。
〔兵柄〕いくさの權力。○〔宋〕「史弘肇據ニ一一ニ」。
〔朝柄〕朝廷の權。○〔漢〕「世執ニ一一ニ」。
〔長柄〕ながきえ。○〔世說〕「唯聞東呉有ニ一一壺ニ」。
〔談柄〕話のたね。○〔韓信〕「玉匣摧ニ一一ニ」。
〔文柄〕文學上の勢力。○〔姚合〕「相府執ニ一一ニ」。
〔國柄〕くにの政を施す力。○〔後漢〕「王莽專操ニ一一以偸ニ天下ニ」。
〔威柄〕いきほひ。○〔呉〕「一一不レ專」。
〔刑柄〕人を罪する權力、政をなすのいきほひ。○〔呉〕「把ニ持一一ニ」。
〔宰柄〕丞相の權力。○〔宋〕「付以ニ一一ニ」。
〔擅柄〕政を心のまゝに執り行ふこと。○〔道德指歸論〕「專レ權一レ一、人之所レ畏也」。
〔綱柄〕大もと。○〔十洲記〕「萬度之一一」。

【梮】梮に同じ。

【梮】キヨク、コク。拘玉切　沃
梮に同じ。

【梮】キク、コク。居六切　屋
一種の木。

【柅】ヂ、ニ。女履切　紙
㊀其の實は梨の如き一種の木。㊁車を止ざむる木。○〔易〕「繫ニ于金一ニ」。㊂茂りて盛なる貌にいふ字。○〔左思〕「總萃一一一」。㊃絡絲の柎、いとまきのあし。㊄みる、(察)。○〔唐〕「楗ニ一一姦冐ニ」。

【柅】ヂツ、ニチ。尼質切　質
とゞむ、(止)。

【柅】ヂ、ニ。女夷切　支
一種の木。

【柅】チ。丑利切　寘
いさわくのえ、(鑊柄)。

【柆】ラフ、ロフ。落合切　合
拉に同じ。

【柇】クワ、グワ。胡戈切　歌
ひつぎのくち、(棺頭)。

【柈】ハン、バン。薄官切　寒
槃に同じ、たらひ。○〔墨子〕「書ニ竹帛一、琢ニ飛杆一一ニ」。

【柈】ハン、バン。普半切　翰
一種の木。

【柉】ハン、ヘン。符咸切　咸　ヘン、ボン。蒲瞻切　鹽
其の皮は索につくるべき一種の木。

【柊】シウ、シユ。之戎切　東
㊀一種の木、ひゝらぎ。㊁一一楑は、こづち、(椎)。

【柭】エツ、ヲチ。王伐切　ゲツ、ゲチ。魚厥切　月
一種の木。

【柋】タイ、デ。待戴切　隊
蠶槌、かひこのすのはしら。

【柌】シ。詳茲切　支
㊀鎌の柄、かまづか。㊁枱に同じ。

【柾】梳に同じ。

【柍】エイ、イヤウ。於驚切　庚
㊀うめ、(梅)。㊁あんず、(杏)。㊂江南に產する橦の材の堅實なる者。

【柍】ヤウ。於良切　陽
屋宇の端、一說に、中央。○〔揚雄〕「日月纔經ニ于一一桭ニ」。

【柍】アウ。於兩切　養
㊀前條に同じ。㊁一種の木。○〔張衡〕「一、柘、櫄、檀」。

【柍】アウ。於浪切　漾
㊀物の鬱積して競ひ出づる貌にいふ

字。○〔馬融〕「嗔-菌㟴-|-|」。
㊁殺を打つに用ふる具、からざを、又、つゑ、(杖)。

【柎】フ。　風無切　虞
㊀うつはのあし、(闌-足)。
㊁木を方べて水に浮かばすもの、いかだ。○〔管〕「方レ舟投レ|」。
㊂花萼、はなぶさ、うてな。○〔山海經〕「崇-丘之山有レ木圓葉而白|」。

【柎】フ、ホ。　斐父切　麌
拊に同じ、韋もて作りたる樂器。○〔禮、註〕「相郎|也、裝レ之以レ糠、形如レ鼓」。

【柎】フ、ブ。　符遇切　遇
㊀楡-|は、一種の木。
㊁つく、(注)。○〔儀〕「素-積白-屨以レ魁|レ之」。
㊂弓弝、ゆづか。○〔周〕「有レ|焉故剽」。
㊃刀弝、つか。○〔禮〕「削授レ|」。
㊄よる、(倚)。○〔管〕「父-老|レ枝而論」。
㊅方木を編みたるもの。○〔左〕「編-|所二以藉一レ幹」。

【柏】ハク、ヒヤク。　傳陌切　陌
㊀陰木の一種、葉つねに靑し、かへ、このでがしは。○〔春秋緯〕「諸-侯墓樹レ|-|」。
㊁伯に通ず、大いなり。○〔爾〕「|-|車大-車也」。
㊂迫に通ず、せまる。○〔漢武瓠子歌〕「魚弗レ鬱兮|二冬-日一」。
〔香柏〕　にほひ高きかへのき。○〔史、註〕「用二|-|一爲二殿-梁一」。
〔陵柏〕　をかの上にうゑあるかへ。○〔中允〕「松|-|、|有二朽-時一」。
〔稚柏〕　ちひさきかへのき。○〔水經、註〕「多生二|-|一」。
〔汁柏〕　かへの異名。○〔廣雅〕「一名二|-|一」。
〔叢柏〕　むらがりしげりたるかへ。○〔盧綸〕「廻-風卷二|-|一」。

【某】古文の梅の字。

【某】ボウ、ム。　莫後切　有　─俗に、某に作るは非。
それ、それがし。
(い)姓名を明かに指さゞるときに用ふる稱、ある人。○〔儀〕「命レ|爲レ賓」。
(ろ)自己の稱(君上に對して自己の姓名を明言するを憚りていふ)。○〔左〕「|-|氏之守-臣|」。
(は)かく〳〵の事、しか〴〵の物、さる方。○〔禮〕「問二品-味一子食二于|一乎、問二道-藝一、子習二于|一乎子善二于|一乎」。

【柑】カン、コン。　沽三切　覃
橘の屬、其の實熟すれば味ひ甚だ甘美なり、みかん。○〔橘錄〕「|-別-種有レ八」。
〔黄柑〕　かうじみかん。○〔南〕「又求二|-|一」。
〔乳柑〕　くねんぼ。○〔唐〕「台-州臨-海郡土貢二|-|一」。
〔巒柑〕　種類のかはりたるみかん。○〔北戸錄〕「新-州出二|-|一」。
〔湰柑〕　みかんの一種。○〔橘錄〕「凡圃之近二塗-泥一者、實大而紫、味尤珍、耐レ久不レ損、名曰二|-|一」。
〔甜柑〕　みかんの一種にして味ひのあまきもの。○〔橘錄〕「|-|類二洞-庭一高大過レ之、每-顆必八-瓣、不レ待レ霜而黃、比二之他-柑一加レ甜」。
〔熏　〕　たちばなの火にあぶりたるもの。○〔橘錄〕「橘微損則去レ皮、以二肉-瓣一安二竈-間一、用レ火熏レ之、曰二|-|一」。

【柑】鉗に同じ。○〔公羊〕「|レ馬而秣レ之」。

【桼】シツ、シチ。　親吉切　質
㊀俗の漆の字。○〔山海經〕「剛-山多二|-木一」。
㊁七に借り用ふる字、なゝつ。○〔康熙〕「又俗爲二數-目字一」。

【染】ゼン、ネン。　而琰切　琰　而豔切　豔
㊀そむ。
(い)液にひたして色をつく。○〔周〕「染-人掌レ|二絲-帛一」。
(ろ)色をつく。○〔夏文彥〕「筆-墨超レ凡、傳-|得レ宜、意-趣有レ餘」。
(は)しむ、ひたす、(漬)。○〔嵇康〕「蒸レ牲|レ身」。
(に)けがす、(汚)。○〔後漢〕「不三敢多汚二|人一」。
(ほ)しむ、けがる、ひたる、そまる。○〔晉〕「疫-癘不二相|一也」。
㊁そむるを、そむる所、そめ、しみ、けがれ。○〔崔融〕「出レ塵離レ|」。
㊂柔和、やはらぐ、やはらか。○〔詩〕「荏-|柔-木」。
〔舊染〕　ふるくそまりたるけがれ。○〔書〕「|-|汙-俗」。
〔漸染〕　しだいにそまる。○〔後漢〕「|-|二明-事一」。
〔濡染〕　うるほひそむ、うるほしそむ。○〔韓愈〕「目-|耳-|」。
〔沾染〕　前に同じ。○〔晉〕「沮|-|未レ足耳」。
〔浸染〕　前に同じ。○〔杜牧〕「君生二|-|仁-父之化一」。
〔練染〕　ねりそむ。○〔後漢〕「掌下知二物-貫一主二|-|作中柔-色上」。
〔遷染〕　心などのかはりて外物にそまること。○〔後漢〕「隨レ惡之本同、而|-|之塗異」。
〔誣染〕　いつはりけがす。○〔後漢〕「轉相|-|」。
〔牽染〕　ひきよせけがすこと。○〔後漢〕「其所二|-|一將-相大-臣、百-有-餘-人」。
〔流染〕　すゝぐとそむと。○〔唐〕「身所レ御衣必|-|至二再-三一」。
〔點染〕　そめつく。○〔顏氏家訓〕「隨レ宜|-|」。
〔薰染〕　かをりのうつりそまること。○〔梁昭明太子〕「|-|等二蘭-菊一」。
〔變染〕　本質をかへ他物にそむ。○〔鄭經〕「潔-容無二|-|一」。
〔揮染〕　書畫をかくこと。○〔唐〕「稱二芭-蕉一供二|-|一」。
〔世染〕　うきよのけがれ。○〔孫員〕「境捐二|-|一」。
〔膩染〕　あぶらじむ。○〔丁復寶鴨曲〕「指痕|-|羅-紋細」。

【柔】ジウ、ニユ。　耳由切　尤　─〔說文〕从レ木矛聲。
㊀やはらか、やはし。
(い)木の曲がれるものは直くすべく直きものは曲ぐべく自由に矯め得ること。○〔詩〕「荏-染|-木」。
(ろ)剛からず、急しからず、よわし、しなやか、ゆるやか、おだやか、やさし。○〔易〕「曰二|與一レ剛」。
(は)碎け易し、脆し。○〔國〕「亦無レ擇二其|-嘉一」。
㊁やはらぐ。
(い)やはらかならしむ、やはす。○〔詩〕「輯二|爾顏一」。
(ろ)やはらかになる。○〔蘇軾〕「手-足漸和-|」。
㊂やすんず、(安)。○〔書〕「|レ遠能レ邇」。
㊃したがふ、(服)。○〔左〕「我且|レ之矣」。
㊄草木の新に生じたると、めばえ、わかめ。○〔詩〕「薇亦|止」。
〔懷柔〕　なつけやすんず。○〔左〕「其|-|二天-下一也、猶レ懼レ有二外-侮一」。
〔撫柔〕　前に同じ。○〔柳宗元〕「|-|二萬-人一」。
〔和柔〕　やはらか、やはらぐ。○〔書、傳〕「|-|而能立レ事」。
〔溫柔〕　おとなしくやはらかなること。○〔禮〕「寬-裕|-|」。
〔善柔〕　やさしきを宗とし誠實の心なき人の稱。○〔論〕「友二|-|一」。
〔太柔〕　いたくやはらかなること。○〔漢〕「|-|則廢」。
〔優柔〕　やさしくやはらかなること。○〔文心雕龍〕「|-|以懌レ懷」。
〔直柔〕　正直にしてやはらかなること、すなほ。○〔後漢〕「惟|-|爾」。
〔華柔〕　はなやかにしてやさしきこと。○〔列〕「詞-氣|-|」。
〔輕柔〕　かるくやはらかなること。○〔元好問〕「纖-絲弄二|-|一」。

〔新柔〕草木などの芽のあらたにいでたること。○〔張耐〕「柳色含ニ一一ニ」。「一」。
〔至柔〕極めてやはらかなること。○〔老〕「天下之一一」。
〔執柔〕やはらかなる徳をもつこと。○〔唐、傳〕「君亦當ニ一レ一以納レ臣」。「一一」。
〔謙柔〕心たかぶらずしてやさしきこと。○〔唐〕「后性
〔仁柔〕性質なさけありてやはらかきこと。○〔宋〕「性一一寡レ殺」。「一而驕ニ」。
〔擾柔〕ならしなつく。○〔韓〕「龍之爲レ蟲也、可ニ一一
〔背柔〕やはらかなる徳をおもんず。○〔呂氏春秋〕「老聃一レ一」。「一」。
〔弱柔〕かよわきこと。○〔南方草木狀〕「枝條一一
〔纖柔〕前に同じ。○〔張來〕「世方尙ニ一一ニ」。
〔嬌柔〕なまめかしくやはらかなること。○〔元好問〕「嬰兒調古弄ニ一一ニ」。
〔猫柔〕陰險なることを猫に比していふ語。○〔劉克莊〕「害レ物比ニ一一ニ」。

【柖】 セウ、ゼウ。時饒切 [蕭]
㊀樹木の搖く貌にいふ字。㊁まと、(射的)。

【柖】 セウ、ゼウ。市沼切 [篠]
ゆあみのゆか、(浴牀)。

【柗】 松に同じ。○〔漢〕「有ニ蒼一一縣ニ」。

【柘】 シヤ、セ。之夜切 [禡] ソ、ゾ。之怒切 [遇]
㊀くは。
(い)桑の屬、其の葉は蠶を養ふに使用す、やまぐは、のぐは。○〔周〕「取レ幹之道、一爲レ上」。
(ろ)黃き赤きの間色、やまぐはの皮にてそめたるいろ、くはいろ。○〔本草〕「其木染ニ黃・赤・色一、謂ニ之一一黃ニ」。
㊁甘蔗、さたうきび。○〔楚辭〕「胹レ鼈炮レ羔有ニ一一漿一些」。

〔桑柘〕くは。○〔禮〕「命ニ野・虞一毋レ伐ニ一一ニ」。
〔奴柘〕いぬぐは。○〔本草〕「一一生ニ江・南山・野ニ」。
〔勁柘〕つよくして容易く折れかゞまぬくは。○〔庾信〕「疎・條一一、促・節貞・筠」。

【柙】 カフ、ケフ。轄甲切 アフ、エフ。烏匣切 [洽]
㊀をり、(檻)。○〔穆天子傳〕「命爲レ一、養ニ之東・虞ニ」。
㊁はこ、(匣)。○〔莊〕「有ニ干・將之劍一者、一一而藏レ之」。
㊂強制す、こゞむ、おさふ。○〔儀、傳〕「常以ニ正・道一檢ニ一一之ニ」。「章」。
㊃一種の香木。○〔左思〕「木則楓一豫一
〔猿柙〕さるをいれおく檻。○〔韓〕「惠子曰、置ニ一於一一中ニ、即與レ豚同」。
〔龍柙〕鳥をいれたるかごと獸をいれたるをりと。○〔蔡襄〕「令ニ吾郡・邑決ニ一一ニ」。

【柚】 イウ、ユ。余救切 [宥] 庚周切 [尤]
其の實橙の如く味酢き一種の果、ゆず。○〔書〕「厥包橘一」。
〔鐳柚〕ゆかう。○〔本草〕「最大者謂ニ之香・欒ニ、爾雅謂ニ之一一ニ」。
〔臭柚〕前に同じ。○〔本草〕「廣・南一一大如レ瓜、「可レ食」。
〔綠柚〕色のあをきゆず。○〔元稹〕「一一勸・々斁」。

【柚】 チク、トク。仲六切 [屋]
機の具經を受け持つもの、たてまき。

【柛】 シン。升人切 [眞]
木自ら斃る、たふる。

【柜】 キョ、コ。句許切 [語] ク、コ。果羽切 [麌]
一に、欅に作る。
㊀一-柳は、一種の喬木、けやき。
㊁溜水を受くる器、あまだりうけ。

【相】 シ。詳里切 [紙]
㊀すき、(臿)。㊁土を運ぶ輦、てぐるま。

【相】 イ。盈之切 [支]
船中の漏水を汲み取る器、ゆさり、おかさり。○〔博雅〕「淨-斗謂ニ之一ニ」。

【柝】 タク、チヤク。闥各切 [藥]
㊀相擊ちて響を發する二箇の材、古昔は其の材を門に夾み機を設けて相擊たしめしさいふ、後世にては、多く短くし手に持ちて相擊つをさなれり、夜を警むるに用ふ、ひやうしぎ。○〔左〕「晉擊レ一聞ニ於邾ニ」。
㊁ひやうしぎを擊ちて警備するを、轉じて警備。○〔沈約〕「爽・荒內・附、邊一城解レ一」。
〔鼓柝〕ひやうしぎを打ち鳴らす。○〔山海經〕「其音如レ一レ一」。「一一衞レ之」。
〔金柝〕かねの鳴り物、即ち、どら。○〔唐〕「戒ニ候・卒一
〔關柝〕門戶の開閉を爲すに用ふるかんぬきと警戒するひやうしぎと、即ち非常を警むるに設けたる具。○〔易林〕「一一開・啓」。
〔弛柝〕警備を緩うす。○〔張衡〕「聊・城一レ一」。
〔嚴柝〕ひやうしぎをさめて警備を爲さぞ。○〔鮑照〕「農・商野・廬邊・城一レ一」。
〔烽柝〕のろしを打ち擧げひやうしぎをうち鳴らして非常を警戒すること。○〔庾信〕「一一是警」。
〔夜柝〕よる非常をいましむるために打ちならすひやうしぎ。○〔駱賓王〕「邊・城一一聞」。「一ニ」。
〔宵柝〕前に同じ。○〔李商隱〕「空聞虎・旅傳ニ一一
〔警柝〕非常に備ふるために打ち鳴らすひやうしぎ。○〔蘇邁〕「曉・幾中ニ一一ニ」。「況」「一一沈レ聲」。
〔寒柝〕冬のさむき夜に打ち鳴らすひやうしぎ。○〔顧

【栟】 ヘン、ベン。毗面切 [霰]
ますかた、(欂-櫨)。

【桴】 ロ、ル。龍都切 [虞] ト、ツ。通都切 [虞] コ、ゴ。籠五切 [麌]
黃一一は、染料に用ふる一種の木。

【柞】 サク、シヤク。疾各切 [藥]
其の材質堅くして韌かなる一種の木、はゝそ。○〔詩〕「維一之枝」。

【柞】 サク、シヤク。側格切 [陌]
㊀木を伐り除く、かる、きる。○〔詩〕「載芟載一」。「則一」。
㊁せまし、(窄-陿)。
㊂音響大にして調子の合はざること。○〔周〕「鐘侈則一」。「𩋾小而長
㊃かむ、(齧)。

【柞】 サ、セ。仕下切 [馬]
槎に同じ、衰めに斫る、きる。○〔西京賦〕「一レ木翦レ草」。

【枏】 ダン、ナン。那含切 [覃] セン、ナン。而琰切 [琰]
柟に同じ。

【柠】 楮に同じ。

【栐】 エイ、ヤウ。於憬切 [梗]
笏の材となす一種の木。

【柢】 テイ、タイ。都禮切 [薺] 都計切 [霽] 都黎切 [齊]
㊀ね、もと、(根)。○〔老〕「深レ根固レ一」。
㊁ね生ず、ねざす、もとづく。○〔左思〕「蔚ニ一一疇・昔ニ」。
〔根柢〕もと、又、ねざす、もとづく。○〔吳都賦〕「覇王之所ニ一一ニ」。「同ニ」。
〔巨柢〕大いなるねもと。○〔李華〕「柝ニ一一於昭

【柣】 チツ、ヂチ。直質切 [質] セツ、セチ。千結切 [屑]

しきみ、(閾)、又、みぎり、(砌)。

【柣】テツ、デチ。徒結切 屑
❶桔ーーは、門の名。○〔左〕「入二手桔ー之門一」。
❷ーー箇は、山の名。○〔山海經〕「支‐離山之東有二ー‐箇山一」。

【柤】サ、セ。莊加切 麻
❶てすり、(木‐闌)。❷ゐせき、(隁)。
❸ふせぐ、(距)。
❹樝に同じ、こぼけ。○〔山海經〕「洞‐庭之山多レー」。

【柤】ショ、ソ。臻於切 魚
前條の❶に同じ。

【柤】ショ、ソ。壯所切 語
俎に同じ。

【査】サ、セ。莊加切 麻
❶槎に同じ、水中の浮木、いかだ、うき。○〔拾遺記〕「巨ー浮二西‐海上一」。
❷考察す、みる、かんがふ、しらぶ。
❸麻の韻の柤に同じ。

【柦】タン、ダン。徒旱切 旱
檄に似て足なき器。

【柧】コ、グ。古胡切 虞
觚に同じ、かど。○〔史〕「漢興破レー爲レ圜」。

【栓】ケツ、グワチ。其月切 月
橛に同じ、くひ。

【木瓦】グワ、ゲ。五寡切 馬

つゞみのどう、(鼓‐[illegible])。

【柿】ホ、フ。滂模切 虞 博故切 遇
蔽ーーは、其の汁食すべき一種の木。

【柩】キウ、グ。巨救切 宥 巨九切 有
人の屍を入れたる匣、ひつぎ。○〔禮〕「ー不二早出一不二暮宿一」。
〔告柩〕ひつぎに向ひつげ知らす。○〔東晳〕「作二弔文一‐篇一、以ー二其ー一」。
〔虛柩〕死人の入りをらざるひつぎ。○〔陶弘景〕「窆二ーー于縣西一」。
〔梆柩〕ひつぎ。○〔韓愈〕「塡‐墓包二ーー一」。
〔函柩〕ひつぎの稱。○〔陸機〕「ーー偪‐寄」。

【柪】アウ、エウ。於交切 肴 於教切 效
曲がれる木、まがりき。

【木去】キヨ、コ。去魚切 魚
にぐら、くら、(极)。

【木尓】
檷に同じ。

【柫】フツ、ホチ。敷勿切 物 ヒツ、ビチ。薄宓切 質
からざを、(連‐枷)。

【柬】カン、ケン。賈限切 潸
分別して簡ぶ、えりわく、えらぶ。○〔荀〕「安‐燕而血‐氣不レ惰、ーレ理也」。

【柭】ハツ、バチ。北末切 曷 フツ、ボチ。敷勿切 物
禾を擊つ連枷、からざを。

【柭】ハツ、バチ。蒲撥切 曷
矢の末、やじり。

【枝】ハイ、ベ。蒲昧切 隊 蒲蓋切 泰

木の柯葉を生ずるにいふ字。

【柭】ヘツ、ヘチ。必列切 屑
あをぎり、(梧)。

【柮】トツ、ナチ。女滑切 月 ヂユツ、ニユチ。女律切 質
たつ、(斷)。

【柮】トツ、トチ。當沒切 月
榾ーーは、ほだ、きりかぶ、木頭。

【柮】サツ、ザチ。藏活切 曷
柱の端の木。

【柮】ゴツ、ゴチ。五忽切 月
樹の枝なきにいふ字。

【柯】カ。居何切 歌
❶斧の柄、え。○〔周〕「ー長三‐尺」。
❷えだ、(枝)。○〔謝靈運〕「傾レー引二弱‐枝一」。
❸くき、(莖)。○〔張衡〕「濯二靈‐芝一以二朱‐ー一」。
❹三尺の長さの稱。○〔周〕「一‐欘有‐半謂二之ー一」。
❺わん、(盂)。○〔揚雄〕「盂謂二之ー一」。
〔斧柯〕をの、柄。○〔說苑〕「將レ尋二ーー一」。
〔霜柯〕あきの木。○〔梁元帝〕「秋‐木日二ーー一」。
〔寒柯〕ふゆの木。○〔梁元帝〕「冬‐木日二ーー一」。
〔空柯〕葉のなきえだ。○〔張耒〕「桑‐蟲食レ葉留二ーー一」。
〔繁柯〕葉のしげりたるえだ。○〔應瑒〕「承二翠‐碧之ーー一」。
〔庭柯〕にはにはえたる木のえだ。○〔陶潛〕「息二我ーー一」。
〔喬柯〕たかきえだ。○〔陶潛〕「ーー何可レ倚」。
〔崇柯〕前に同じ。○〔吳筠〕「ーー振而烟‐靄生」。
〔高柯〕前に同じ。○〔水經、註〕「ーー負レ日」。
〔枝柯〕えだ。○〔晉〕「ーー扶‐疎、世所二罕比一」。
〔條柯〕前に同じ。○〔劉楨〕「ーー不レ盈レ尋」。
〔柔柯〕よわくやはらかき枝。○〔蘇軾〕「ーー已不レ堪」。
〔脩柯〕長き枝、又、長きくき。○〔潘岳〕「ーー婀‐娜」。
〔翠柯〕みどりのえだ、又、みどりのくき。○〔傅休奕〕「素‐株ーー」。
〔橫柯〕よこにひろがりたる枝又はくき。○〔吳筠〕「ーー上蔽」。
〔直柯〕まがらざる枝又はくき。○〔孟郊〕「野‐桑無二ーー一」。

【柰】ダイ、ナイ。乃代切 隊 乃帶切 泰
❶林檎の屬、べにりんご、からなし。○〔潘岳〕「二ーー曜二丹‐白之色一」。
❷那に同じ、なに、なんぞ、いかん。○〔書〕「其ーー何弗レ敬」。
〔何柰〕いかん。○〔韓愈〕「已矣知ーー」。
〔丹柰〕赤き色のからなし。○〔晉〕「有二ーー結レ實」。
〔素柰〕白唐梨。○〔左思〕「ーー夏成」。
〔白柰〕前に同じ。○〔韓偓〕「素‐姿淩二ーー一」。
〔綠柰〕青唐梨。○〔西京雜記〕「ーー攀二宮‐牆一」。
〔碧柰〕前に同じ。○〔王勃〕「栽二ーー一而何日」。
〔熟柰〕よく實のりたるから梨。○〔杜甫〕「輕‐寵ーー香」。
〔美柰〕よきから梨。○〔法苑珠林〕「如レ此ーー何爲不レ送」。

【柱】チユ、ヂユ。直主切 麌
はしら。
(い)物を支へ持つ材。○〔漢〕「腐‐木不レ可二以爲一レー」。
(ろ)琴の絃をさゝへもたぐるに用ふるもの、ことぢ。○〔史〕「若二膠レー而鼓一レ瑟」。
〔倚柱〕はしらにもたれよると。○〔戰〕「ーレー彈二其劍一」。
〔搘柱〕はしらをかゝふ。○〔史〕「公ーレー而歌」。
〔天柱〕星の名。○〔晉〕「三‐台六‐星、一日二ーー一、三‐公之位也」。
〔銅柱〕あかゞねにて作りたるはしら。○〔後漢〕「援到二交‐趾一、立二ーー一爲二漢之極‐界一」。

〔鐵柱〕くろがねのはしら。○〔易林〕「金梁—…」。
〔擎柱〕山などのやうあるものにて天をささへたるはしら。○〔南花〕「…—…」。
〔題柱〕はしらに文字をしるす。○〔成都記〕「—曰、不レ乘二高車駟馬一、不レ過二此橋一」。
〔礎柱〕いしずゑとはしらと。○〔易、疏〕「同氣相求、若二天欲レ雨而—…潤一是也」。
〔楹柱〕はしら。○〔詩、疏〕「其宮寢之—…也」。
〔飾柱〕はしらをかざる。○〔唐〕「龍能興二雲雨一、故以—…」。
〔纏柱〕はしらにめぐりなどはす、はしらをめぐる。○〔五〕「以二八龍一—…」。
〔舔柱〕ことぢ。○〔淮〕「譬猶三師曠之施二—…一也」。
〔寒柱〕前に同じ。○〔江淹〕「—…急兮江上寒」。
〔雕柱〕ゑりきざみたるはしら。○〔梁元帝〕「—…錦・塘」。

〔柷〕
シュ、ス。株遇切　遇

㊀さす、（刺）。○〔漢〕「連—二五鹿君一」。
㊁さゝふ。
（い）支持す、たもつ。○〔韓愈〕「鼎也不レ可二以—一レ車」。
（ろ）塞ぐ。○〔莊〕「褻藿—二乎鼪鼬之逕一」。
（は）たがふ、（距）。○〔漢〕「淫失枝—」。
㊂したがふ、（隨）。○〔郭璞〕「根、—、使二相隨一」。

〔柲〕
ヒ。兵媚切　寘

㊀兵器の柄、え。○〔左〕「君王命剝レ圭以爲二鏚—一」。
㊁ゆだめ、（檠）。○〔周〕「弓檠曰レ—」。

〔柲〕
ヒツ、ピチ。溥必切　質

㊀前條に同じ。㊁たぐひ、（偶）。

〔柲〕
ヘツ、ベチ。蒲結切　屑

え、（柄）。

〔柳〕
リウ、リュ。力九切　有

㊀楊の一種にして枝の垂下する性あるもの、しだれやなぎ、やなぎ。○〔詩〕「折レ—樊レ圃」。
㊁星宿の一、ぬりこ。○〔爾〕「咮謂二之—一」。
㊂一種の車。○〔康熙〕「服虔曰、東郡謂二廣轍車一爲レ—、鄧展曰、喪車爲レ—」。
㊃五音の一。○〔爾〕「羽謂二之—一」。

〔蒲柳〕（い）かはやなぎのこと。○〔爾〕「楊—…」。（ろ）人のからだのかよわきことにもかりいふ語。○〔晉〕「—…常質、望レ秋先零」。
〔河柳〕ぎよりう。○〔爾〕「檉—…」。
〔檉柳〕前に同じ。○〔唐〕「夾レ河多二—…一」。
〔杉柳〕しでやなぎ。○〔古今注〕「杉楊亦曰二—…一、亦曰二蒲杉一」。
〔杞柳〕葉のなばらにして水邊に生ずるやなぎ、こぶやなぎ。○〔孟〕「性猶二—…一也」。
〔柜柳〕（い）前に同じ。○〔孟、註〕「杞柳—…也」。（ろ）けやき。○〔爾〕「欅謂二之—…一」。
〔瑞柳〕めでたきやなぎ。○〔唐〕「人以爲二—…一」。
〔堤柳〕つゝみにはえたるやなぎ。○〔沈佺期〕「岸花提騎遶二—…一」。「—…」。
〔衰柳〕おちばの時のやなぎ。○〔杜牧〕「斜日挂二—…一」。
〔岸柳〕みぎはにあるやなぎ。○〔梁簡文帝〕「—…垂二長葉一」。「楊」。
〔垂柳〕しだれやなぎ。○〔梁元帝〕「—…復垂レ枝」。
〔楊柳〕やなぎ。○〔詩〕「昔我往矣—…依々」。
〔臥柳〕たふれたるやなぎ。○〔杜甫〕「—…自生レ枝」。
〔門柳〕かどぐちに植えたるやなぎ。○〔高適〕「—…潮々噪二暮鴉一」。「不レ知」。
〔敗柳〕衰へたるやなぎ。○〔韓偓〕「—…凋花松」。

〔柴〕
シ。才貲切　支　蔣氏切　紙

無—木は、楡の別名。

〔柴〕
サイ、セ。鉏佳切　佳

㊀小木、散材、しば。○〔左〕「欒枝使二輿曳レ—」。
㊁しばを燔きて天を祭ること。○〔書〕「至二于岱宗一—」。
㊂ふさぐ、（塞）。○〔莊〕「趣舍聲色以—二其內一」。
㊃まもる、（護）。○〔淮〕「—二箕子之門一」。
㊄區落、藩離、しきり、まがき。○〔曹植〕「燕雀戲二藩—一」。

〔茅柴〕にごり酒。○〔韓駒〕「飲二慣—…一諳二苦硬一」。
〔燔柴〕しばをたく、又天を祭るときに行ふ禮。○〔禮〕「—…於泰壇一祭レ天也」。
〔薪柴〕たきゞ。○〔史〕「以レ故—…少」。
〔郊柴〕野にてしばを燒きて天を祭る。○〔秦觀〕「—…初告帝心虔」。

〔柴〕
サ、セ。鋤加切　麻

前條の㊂に同じ。

〔柴〕
シ。杈宜切　支

—虒は、參差に同じ、齊しからざること、かたゝがひ。○〔張揖〕「作二—虒一」。

〔柴〕
シ。子智切　寘

㊀獵して捕り獲たる物を積む、又其の物。○〔詩〕「助レ我舉レ—」。
㊁頰の旁をうつ、うつ、はらふ。

〔柴〕
サイ、セ。仕懈切　卦

まがき、（藩落）。

〔柵〕
サク、シャク。測革切　陌

㊀竹木を編み樹てたるもの、やらい、ませがき。○〔魏〕「連レ營樹レ—」。
㊁水中に樹てたるませがき、しがらみ。○〔宋〕「賊乘二小艦一、入レ淮拔レ—」。
㊂とりで、（砦）。○〔晉〕「季龍堅レ—守」。
㊃棧架、卽ち、木をあみわたせるもの。○〔陳〕「跨レ淮立二橋—一引二渡兵馬一」。

〔城柵〕しろとませがきと、又、とりで。○〔陳〕「立二—…以拒二官軍一」。「標—」。
〔重柵〕ふたへにかさなりたるませがき。○〔宋〕「曆—」。
〔水柵〕みづの中にたてたるませがき、しがらみ。○〔張籍〕「娼優兩岸臨二—…一」。
〔連柵〕ながくつゞきたるませがき又はたな。○〔五〕「散達爲二長城—…一雲梯飛礮以攻レ之」。
〔竹柵〕たけやらい。○〔宋〕「衛以二—…一」。
〔壁柵〕とりで。○〔元〕「方二舟數百一、結爲二—…一」。
〔荒柵〕あれそんじたるませがき。○〔審常〕「月影臨二—…一」。
〔籬柵〕まがき。○〔盧綸〕「雞犬傍二—…一」。

〔柵〕
セキ、シャク。測戟切　陌

郁のやらい。

〔柵〕
サン、所晏切　諫　セン、數脊切　霰　セン。切

籬落、ませがき、やらい。

〔柶〕
シ。息利切　寘

さじ、（匕）。○〔周〕「飲レ醴用レ—者糟也」。
〔木柶〕木もて作れるさじ。○〔儀〕「角觶—…」。

〔柷〕
シュク、ソク。昌六切　屋

一種の樂器、方二尺四寸深さ一尺八寸ある桶の中に椎柄を設け之を搊き左右を擊ちて音を發せしむるもの、樂の始めに用ひしさいふ。○〔書〕「合レ止—敔」。

（柷之圖）

〔杯〕
ハイ、ヘ。抛裴切　灰

—治は、得ざるを恨む。○〔淮〕「止レ駕—治」。

六畫

【栒】シュン。筍允切 [軫]
鍾磬を懸くる横木。○〔爾、疏〕「縣二鍾磬一之木直立者爲レ虡、横牽者爲レ—」。

【栒】シュン。須倫切 [眞]
一種の木。○〔山海經〕「蛇山其木多レ—」。

【栓】セン。所員切 [先]
㊀物の穴に差し入るゝ木の釘。㊁わん、（盂）。

【栓】サン、セン。數還切 [删]
前條の㊀に同じ。

【栓】セン。所眷切 [霰]
さかき、ますかき、（槩）。

【⿰木合】カフ、ケフ。胡甲切 [洽] ゲフ、ゴフ。訖業切 [葉]
劒を納れ置く匣、かたなばこ。

【⿰木合】カフ、コフ。曷閤切 [合]
—榙は、一種の木、ねむ。

【栔】ケイ、カイ。去計切 [霽]
きざむ、（刻）。

【栔】ケツ、ケチ。詰結切 [屑]
㊁たつ、（絶）。○〔左〕「陽貨借二邑人之車一—二其軸一」。㊁かく、（鈌）。㊂うれふ、（憂）。

【栕】振に同じ。

【栖】セイ、サイ。先齊切 [齊]
㊀すむ。
（い）巣さして居る、すみかさして止まる。○〔莊〕「宜レ—二之深林一」。
（ろ）止まり居る。○〔嵇康〕「愛憎不レ—二於情一」。
㊁すむ所、す、すみか。○〔韓〕「—一雨—」 「雄」。
㊂止息す、やすむ、やすらふ、いこふ。○〔魏〕「—レ心浩然」。
㊃忙しき貌にいふ字。○〔論〕「何爲是———者與」。

【栖】セイ、サイ。思計切 [霽]
雞の止まる所、とや、ねぐら。

【⿰木匜】イ。與之切 [支]
飲水斗、あかくみ。

【栗】リツ、リチ。力質切 [質]
㊀櫟に似たる一種の木、材質甚だ堅く其の實は毛刺の中に包まれ味ひ甚だ好し、くり。○〔公羊〕「練主用レ—」。
㊁かたし、（堅）。○〔禮〕「愼密以レ—」。
㊂つゝしむ、うやうやし、（謹敬）。○〔書〕「寬而—」。
㊃威嚴あること、おごそか。○〔司馬法〕「政欲レ—」。「—自正」。
㊄おそる、をのゝく、（戰）。○〔禮、註〕「戰—」。
㊅さむし、（寒）。○〔詩〕「二之日—烈」。
㊆等を超ゆ、階を躐む。○〔儀〕「—レ階不レ過二一等一」。
㊇穀實の實入りよきを。○〔詩〕「實穎實—」。
㊈くしけづる。○〔揚雄〕「秦俗以レ批レ髮爲レ—」。
㊉おほし、（衆）。○〔詩〕「積レ之——」。

〔行栗〕道を表する樹、なみき。○〔左〕「魏絳斬二——一」。
〔觱栗〕一種の樂器、ひちりき、一に、悲栗。○〔明皇雜錄〕「——本龜茲國樂、亦悲栗」。
〔水栗〕菱芰、ひし。○〔武陵記〕「兩角曰レ菱、三角四角曰レ芰、通謂二之——一」。
〔繭栗〕小さき物の形容にいふ語。○〔禮〕「祭二天地之牛角——」。
〔嘉栗〕よきくり。○〔晉〕「旨酒——」。
〔蒸栗〕（い）ゆでたるくりの如く黄色を帶びたる色。○〔魏〕「黄侔二——一」。（ろ）ゆでたるくり。○〔杜甫〕「山家——煖」。
〔拳栗〕手のこぶしの如き大いなるくり。○〔孔平仲〕「——自二東越一」。
〔栭栗〕しばぐり、さゝぐり。○〔爾〕「栵一名栭、江東人呼爲二——一」。
〔茅栗〕前に同じ。○〔莊〕「先生居二山林一、食二——一」。
〔巨栗〕大いなるくり。○〔北〕「人皆山居、有二——一」。
〔貞栗〕正しく堅し。○〔揚子〕「—二—其鱗一」。
〔䅽栗〕前に同じ。○〔皮日休〕「——烏皮几」。
〔猴栗〕さゝぐり。○〔沈炯〕「——雜二芳果一」。
〔撲栗〕くりをたゝき落とし取る。○〔謝靈運〕「八月——」。「新味」。
〔墜栗〕木より落ちたるくり。○〔秦系〕「——添二—」。
〔榛栗〕くりの形圓く小さくして橡の實の如きもの。○〔詩〕「樹二之——一」。
〔罅栗〕ゑみわれたるくり。○〔包佶〕「鳥窺二新——一」。
〔爆栗〕くりの火中にありてわるゝこと。○〔歐陽修〕「夜火—二山—一」。
〔山栗〕くりの形稍小さきもの。○〔蘇轍〕「——滿レ籃兼二白黑一」。
〔煨栗〕くりを火中に入れてやく。○〔張登〕「火爐—レ—話二親情一」。

【栗】レツ、レチ。力蘖切 [屑]
破裂す、わる、さく。○〔周〕「居レ幹之道、菑—不レ迆、則弓不レ發」。

【栘】イ。余之切 [支] 演爾切 [紙]
ケイ。玄圭切 [齊]
棠棣、ゐで、にはうめ。○〔爾〕「棠棣—也」。
〔榣移〕一種の木。○〔林邑記〕「———樹柯葉覆二根下一、處二中森羅、望レ之似二懸髮一」。

【栙】カウ、コウ。胡江切 [江]
㊀船の帆。㊁帆未だ張らず、ほあげず。

【栚】チン。直荏切 [寢]
㊀蠶簿の横木、かひこだなのよこぎ。㊁葉を灰に燒きて染料に供する一種の木、さちしば。

【⿰木寺】タク、チヤク。陟革切 [陌]
蠶簿の横木、かひこだなのよこぎ。○〔揚雄〕「自レ關而西謂二之槌一、其横謂二之⿱朕木一、齊謂二之—一」。

【栛】レイ、ライ。郎計切 [霽]
其の果枇杷に似たる一種の木。○〔郭璞〕「—樋森レ嶺而羅レ峯」。

【⿰木衣】リヨ、ロ。兩擧切 [語]
㊀箭笴（やがら）に用ふる一種の木。㊁—松は、松の一種。○〔南〕「虞沙彌母亡、晝夜號二痛墓一、忽生二—松一百餘株」。

【⿰木氏】ハイ、ヘ。匹卦切 [卦]
藤の屬、其の緯にて布を織るべし。

【⿰木氏】ハ、ヘ。必駕切 [禡]
ちぎり、（縢）。

【棟】セキ、シャク。色責切 陌 霜狄切 錫 ソク。蘇谷切 屋
されぶさなつめ(棟)。○[爾、註]「赤ー、皮-理錯-戾、叢二生山-中一、中二車-輞一。白ー、爲二大-木一」。

【棟】シ。七賜切 寘
楣の屬。

【栝】テン。他念切 豔 他點切 琰
㮇に同じ、竈に炊く木、一說に、火杖、ひかきつゑ。○[尹延高]「束ー營レ炊道-傍屋」。

【栝】クワツ、古活切 曷 クワチ。
㊀檜に同じ、びやくしん。○[書]「杶幹ー柏」。
㊁邪曲を正す器、ためぎ、又、ためぎにあて正す、たむ。○[荀]「必待二隱-ー一」。
(白栝) 葉のしろきびやくしんの木。○[梅堯臣]「ーー聖-君憐」。
(茂栝) おひしげりたるびやくしん。○[盧瑒]「ーー芬-櫺」。「ー東南美」。
(翠栝) 綠の色なせるびやくしんの木。○[蘇軾]「ー・
(疎栝) まばらにはえたるびやくしん。○[程嘉燧]「ーー深-房響二石-渠一」。

【栝】クワイ、ケ。古外切 泰
前條の㊀に同じ。

【栞】カン。丘寒切 寒 ケン。稽延切 先
林中を行くに隨處の木の枝を或は斫り或は折りて道路の表識となす、しをる、しをり。○[書]「隨レ山ーレ木」。

【枅】ケイ、堅奚切 齊 ケン。經天切 先 カイ。
柱上の方木、ますがた、ますがた、けた、屋櫨。○[爾、註]「柱-上欂亦名レー」。
(曲枅) 柱の上に横たはるますがた。○[庾津既]「凌レ雲舍二ーー一」。
(栱枅) 前に同じ。○[蘇軾]「跨レ空飛二ーー一」。

【栟】俗の栟の字。

【栔】栔に通じ用ふ。

【校】カウ、ケウ。古孝切 效
㊀木囚、かし、かせ。○[易]「屨レー滅レ趾」。
㊁むくゆ(報)。○[史]「足三以ー二於秦一」。
㊂かんがふ(考)。○[禮]「比-年入レ學、中-年考ーー」。
㊃しらぶ(檢)。○[漢]「郎二部-吏一案-ー」。「ーー」。
㊄かぞふ(計)。○[荀]「憂-患不レ可二勝ー一」。
㊅くらぶ、たくらぶ。
(い)角す、きそふ。○[王粲]「爭二ー得-失一」。
(ろ)比べてかんがふ、ならぶ。○[周]「ー二官-府之具一」。
㊆書中の誤りを訂す、たゞす。○[漢]「詔レ向ー二中五-經祕-書一」。
㊇木にて禽獸を遮り闌む、さゞむ。○[漢]「大ー-獵」。「ー」。
㊈合戰す、たゝかふ。○[小爾]「戰交曰レー」。
㊉子弟を教授する場處、まなびどころ。○[漢]「郡-國曰レ學、侯-國曰レー」。
⑪欄格、てすり、しきり。○[周]「六-廄成レー」。
⑫軍中に特別に設けたるしきり、卽ち、將たる者の居りて號令する所、轉じて、軍隊を指揮すると、又、將たる者の稱。○[漢]「皆諸ー力-戰之功也」。

(鈎校) さがししらぶ。○[唐]「有司ーー苛-切」。
(課校) かぞふ。○[漢]「ーー二人畜計一」。
(讎校) 調べたゞす。○[後漢]「ーー二祕-書一」。
(通校) 彼れ此れをとほして考ふ、とほしてしらぶ、とほしかぞふ、とほしくらぶ。○[晉]「混二三-家一以ーー、爲二三-晉之亞-匹一」。
(銓校) はかりかんがふ、又、はかりしらぶ、はかりかぞふ、はかりくらぶ。○[魏]「先由レ後ーー、然後圖-錄」。
(料校) 前に同じ。○[唐]「輔二天-子一而ーー」。
(量校) 前に同じ。○[元稹]「未三甚ー二ー於左-右一也」。
(参校) くさぐさのものをまじへ考ふ、てらしあはせてしらぶ。○[柳宗元]「得二太-尉實-跡一、ーー備-具」。○[集異記]「ーー二詳-實一」。
(辨校) わきまへ考ふ、わかちくらぶ。
(勘校) たゞす。○[雨京記]「掌二ーー一而已」。
(檢校) しらぶ。○[隋]「明加二ーー一」。
(刊校) 版に上せて誤りを正す。○[歐陽]「傳レ加二ーー一」。
(推校) おしかんがふ。○[柳宗元]「ーー二千古一」。
(覆校) 繰りかへししらぶ、くりかへしてたゞす、くりかへしてかぞふ。○[荀勗]「ーー二錯-誤十-萬-餘-卷一」。
(闡校) あきらかにしたゞす。○[謝靈運]「ーー「修レ經」。
(搜校) 分明ならざるものをさがししらぶ。○[梁昭明太子]「故加二ーー一」。
(研校) 窮め考ふ。○[牛弘樂定奏]「ーー二是非一」。
(窺校) うかゞひ考ふ。○[皇甫湜]「不レ可二ーー一」。
(鈔校) 寫したゞす。○[宋本滋溪書記]「手自ーー」。
(鄉校) 大きなる村に設けたるまなびどころ。○[左]「鄭人游二于ーー一、以論レ執レ政」。「之」。
(學校) 學びどころ。○[孟]「設二爲庠-序ーー一以教レ之」。
(黌校) 前に同じ。○[晉]「鄉有二庠-序ーー之儀一」。
(部校) 一部のしきり、ひとしきり、又、軍隊の一部を率ゐる將士。○[宋祈]「ーー什長鳴各有レ差」。
(列校) 前の末段に同じ。○[梁]「位不レ過二ーー一」。
(將校) 軍隊を率ゐる官人。○[魏]「班二賞大臣ーー各有レ差」。
(戎校) 將帥の任。○[後漢]「擢授二ーー一」。
(軍校) 前に同じ。○[晉]「ーー多選二朝-廷清-望之士一居レ之」。
(麾校) 軍旗を置きて軍のてわけを定めある所。○[魏]「私離二軍ーー一者、以二軍-法一行レ戮」。
(藩校) 地方官の下に屬する將士。○[唐]「天-子不レ士而ーー辱レ之」。「ーー」。
(稗校) 下役の將士。○[唐]「隸二忠-武軍一爲二ーー一」。
(別校) 本隊に附屬せざる將士。○[唐]「以二ーー一征二遼-東一有レ功」。「ーー」。
(小校) 小隊長といふ程のもの。○[黃庭堅]「古名ーー」。
(兵校) 軍隊の事。○[魏]「入司二ーー一、出總二符任一」。「博延二胄-子一」。
(庠校) まなびどころ。○[梁武帝]「大啓二ーー一、ーー之貧虛者一」。
(羣校) あまたの將士。○[尹洙]「爲レ將者、必察二ーー一」。
(庶校) 前に同じ。○[尹洙]「帝謀二公-卿列侯ーー一」。「ーー」。
(老校) 年とりたる將士。○[柳宗元]「竊好問二ーー一」。

【校】カウ、ケウ。古巧切 巧
㊀さし、すみやか(疾)。○[爾]「釋レ之則不レー」。
㊁俎几の下に横たへたる木、卽ち、几足、あし。○[儀]「拂レ几授レー」。

【栲】カウ、ケウ。何交切 肴
㊀前條の㊁に同じ。
㊁え(枋)。○[禮]「薦レ豆執レー」。

【栢】俗の柏の字。

【栤】ヒヨウ。蒲應切 徑
木を析く聲にいふ字。

【栥】シ。津之切 支
さがた(欂櫨)。

【栧】栧に同じ。○[司馬相如]「浮二文-鷁一揚二旌-ー一」。

【栨】ジウ、ジユ。而融切 東

【栨】セツ、セチ。子結切 [屑]
櫰の屬。
よこだろ、(横-檣)。

【栨】シ、ジ。七賜切 [寘]
はり、のき、(楣)。

【栩】ク、コ。虚羽切 [麌]
㊀柞櫟、くぬぎ、くのぎ、其の實は、つるばみ又はどんぐりと稱す。○〔詩〕「集二于苞一ー」。
㊁喜ぶ貌にいふ字。○〔莊〕「夢爲二蝴-蝶一、ーー然蝴-蝶也」。

【栩】ウ。王矩切 [麌]
ーー陽は、地の名。

【株】チュ。陟輸切 シュ。鐘輸切 [虞]
㊀かぶ。
(い)根の土の上にあらはれたる部分、即ち、みきの最下底。○〔易〕「困二于ー木一」。
(ろ)幹根、みき、もと、ね。○〔抱朴〕「丹-花綠-葉、不レ拘二曲-瘁之ー一」。
(は)伐斷したる殘木、きりかぶ、くひぜ。○〔莊〕「承レ蜩者處レ身若二橛ー枸一」。
(に)草木を數ふるにいふ字。○〔蜀〕「成-都有二桑八-百-ー一」。
㊁誅に通ず。○〔釋名〕「誅ー也、如レー二木-根一枝-葉盡落也」。
㊂駐に同じ。○〔釋名〕「駐ー也、如二ー木不レ動也」。
〔根株〕ねもと。○〔唐〕「德-行文-學爲二ー・ー一」。
〔守株〕いつまでももとのわざをたもちまもると、變通を知らずして舊體を固守すると(下に引く例より出づ)。○〔韓〕「宋人有二耕レ田者一、田-中有レ株、兎走觸レ之、折レ頸而死、因釋二其耒一而ーレー」。
〔枯株〕かれ木のかぶ。○〔事文類聚〕「風-雷昨-夜破二ー・ー一」。
〔朽株〕くされたるかぶ。○〔司馬相如〕「枯-木ー・ー」。
〔舊株〕ふるきかぶ。○〔林景熙〕「梅開上二ー・ー一」。
〔雜株〕にはとりのかしら。○〔莊〕「羊-溝之ー、三-歲爲レー」。
〔孤株〕一本のねかぶ。○〔沈約〕「ー・ー復危-絶」。
〔老株〕としふりたる樹木のかぶ。○〔白居易〕「莫レ道ー・ー芳意少」。

【栫】ソン。徂悶切 [願]
柴木を以て塞ぐ、ふさぐ。

【栫】セン。才殿切 [霰] ソン。徂門切 [元]
㊀柴木を立てふさぎて魚を捕ふるもの、たてしば、ふしづけ。○〔郭璞〕「ーレ澱爲レ涔」。
㊁まがき、(籬)、又、かこひ、(圍)。○〔左〕「囚二諸樓-臺一、ーレ之以レ棘」。

【⿱林九】キウ、ク。渠尤切 [尤]
荊楚の亭の名。

【⿱林尢】オウ、ウ。烏侯切 [尤]
㊀地の名。㊁おごろ、(荊)。

【栬】セイ、ゼ。祖芮切 [霽]
小さき杙、くひ。

【栭】ジ、ニ。人之切 [支]
㊀科栱、ますがた、又、ますがたの上の標、うだち。○〔張衡〕「繡ーー雲-楣」。
㊁栗の屬、其の子小し、さゝぐり、しばぐり。○〔郭璞〕「子如二細-栗一、江-東呼二ー-栗一」。
㊂芝の屬、きのこ、くさびら。○〔禮〕「芝ーー菱-椇」。
〔雲栭〕高きはしらの上のくみもの。○〔梅堯臣〕「ー・ー霧-棟生二塵-埃一」。

【栮】ジ、ニ。忍止切 [紙]
枯木に生じて人の耳の形をなす栭、きくらげ。

【栯】井ク、チク。乙六切 [屋]
其の子小にしてゆすらうめに似たる一種の木、にはうめ。○〔唐本草〕「ー・李一名雀-李」。

【栯】イウ、ユ。云九切 [有] 尤救切 [宥]
一種の木。○〔山海經〕「太-室之山有レ木、狀如レ梨而赤-理、名曰レー、服レ之不レ妒」。

【⿰木劣】レツ、レチ。力輟切 [屑]
下劣にして物の用にたゝぬ木、惡木。

【栰】ヘツ、ベチ。房越切 [月]
筏に同じ、いかだ。○〔魏〕「有二火-ー一」。

【栱】キヨウ、ク。古勇切 [腫]
㊀大いなる杙、くひ。○〔爾〕「杙大者爲レー、長者爲レ閣」。
㊁柱上の枅櫨、ますがた、さがた。○〔南〕「梁-ー間有二紫-氣一」。
〔斗栱〕柱の上のますがた。○〔爾、疏〕「栭一名レ楶、即欂也、皆謂二ー・ー一也」。「堂-宇ー・ー」。
〔綺栱〕うつくしき柱上のますがた。○〔水經、註〕
〔楶栱〕柱の上のますがた。○〔大業雜記〕「ー・ー千-構」。「交-結」。
〔欒栱〕前に同じ。○〔景福殿賦〕「ー・ー夭-蟜而」
〔積栱〕つみかさなりたるますがた。○〔王景卿〕「ー・ー成二離-栭一」。
〔疊栱〕えがきたるますがた。○〔盧思道〕「ー・ー疊相承」。

【⿱共木】キヨウ、古勇切 [腫] キク、コク。居六切 [屋]
兩手を一つに束ぬる械、てかせ、てかし。○〔周〕「上-罪梏-ー而桎」。

【桊】ケン。古倦切 [霰]
さらふ、(拘)。

【栲】カウ、コウ。苦浩切 [晧] 丘刀切 [豪]
樗に似たる一種の木。○〔郭璞〕「樵、樗、ー、漆、相似如レ一」。

【栳】ラウ、ロウ。魯晧切 [晧]
栲ーは、柳を曲げて作りたる物を盛る器。○〔元〕「玉-輅用二栲-ー輪一」。

【⿰木冉】セン。諸延切 [先]
檀の字の條を見よ。
或は、栴に作る。

【⿰木先】セン。蘇典切 [銑]
一種の木、其の子は赤く大いさ大豆の如し、俗に、雷鳴子といふ。

【栵】レツ、レチ。力薛切 [屑]
㊀びやくしん、(栝)。㊁さゝぐり、(茅-栗)。
㊂うだち、ますがた、(栭)。

【栵】レイ、ライ。力霽切 [霽]
木の連なり生ずるもゝの稱。○〔詩〕「其灌其ー」。

【⿰木囟】セイ、サイ。思計切 [霽]
ーー陽は、山の名。

【⿰木囟】シン。息晉切 [震]

なさ、(筵)。

【样】ヤウ。餘章切 シヤウ、徐羊切 サウ。茲郎切 陽

蠶簿を懸くる柱、かひこのすばしら。○[揚雄]「自レ關而東謂二之槌一、齊謂二之—一」。

【核】カク、ギヤク。下革切 陌 コク、ゴク。胡德切 職

㊀果實の肉の中にありて仁を含む物、さね。○[爾]「桃李醜—」。
㊁籩の實、もりもの、くだもの。○[詩]「殽—已旅」。
㊂深刻、きびし。○[莊]「剋—太甚、則必有二不肖之心一應レ之」。
㊃實情、まこと、又、まことを曲げず、ただし。○[漢]「其文直而其事—」。
㊄まことを驗す、たゞす、きはむ。○[唐]「有二登延之路一、無二練—之方一」。○
㊅すぶ、かぬ、(綜)。○[漢]「綜二—名實一」。
〔實核〕さね。○[論衡]「草木生二於—·—一」。
〔脆核〕やはらかなるさね。○[葛長庚]「—·—盧中未レ有レ仁」。

【核】コツ、ゴチ。胡骨切 月

前條の㊀に同じ。

【核】カイ、古哀切 灰 ケイ。居諧切 佳

木皮にてつくりたる篋、其の狀斂尊の如しといふ。

【核】カイ、ケイ。口溉切 隊

のき、(櫅)。

【栞】カン、ゴン。戸感切 感

木の華實を垂るゝにいふ字、しだる。

【根】コン。古痕切 元

㊀もと、ね。
(い)植物の莖幹の最下部、殊に、其の土中に在りて養料を吸收する部分。○[列]「其民食二草—木實一」。
(ろ)物事の生じ起こる所、もと、ね、おこり、はじめ、原始。○[老]「重爲二輕—一」。
(は)下部、下底。○[桂海虞衡志]「山—石門砑然」。
(に)性情、氣力。○[傳燈錄]「勸二上—上智人一」。
㊁ねを生ず、ねざす。○[淮]「木樹二—於土一」。
㊂ねを盡くす、ねをたやす。○[後漢]「攻レ之不レ—」。
〔歸根〕もとにかへる。○[陸游]「葉落莫二—·—一」。
〔本根〕ね、もと。○[左]「能庇二其—·—一」。
〔天根〕氐星。○[國]「—·—見而水涸」。
〔金根〕天子の乘る車の名。○[韋兆]「鳳引二—·—一」
〔盤根〕わだかまれる木のね。○[後漢]「不レ遇二—·—錯節一、何以別二利器一乎」。
〔深根〕ふかく地にいりたるね、又、ねもとをかたむ。○[莊]「—レ—固レ蒂」。
〔六根〕眼、耳、鼻、舌、心、意の六つをいふ。○[首楞嚴經]「—·—成二解脫一」。
〔藕根〕はすのね。○[楊萬里]「藕影寬レ池到二—·—一」。
〔蔓根〕横にはびこりたるね。○[韓]「樹木有二—·—一有二直根一」。
〔義根〕わけのもと、意味の由來。○[晉]「富レ味二—·—一」。
〔善根〕よき報いあると、佛果を得る所業。○[柳宗元]「—·—宿植」。
〔無根〕ねなし、もとなし。○[蘇軾]「游談—·—」。
〔性根〕うまれつき、たやうね。○[李鄴]「隨二其—·—一」。
〔山根〕やまのふもと。○[庾信]「雲出二—·—一」。
〔修根〕長きね。○[晉傅咸]「結二—·—于重壤一」。
〔巖根〕岩のねもと。○[沈約]「或結二榛于—·—一」。
〔籬根〕まがきのもと。○[盧仝]「流水到二—·—一」。
〔髻根〕髻の結びたるねもと。○[韓偓]「—·—鬆慢玉釵垂」。
〔培根〕ねもとをつちかひ養ふ。○[趙孟頫]「—·—利二秋實一」。

【梘】カン、ゲン。下閒切 刪

しきみ、(閾)。

【栺】ケイ、研計切 霽 カイ。 シ。軫視切 紙

一種の木。

【栺】シ。旨夷切 支

—楠は、一種の木、一說に、はしら、(柱)。

【栻】ショク、シキ。設職切 職 チヨク、チキ。蓄力切

陰陽を推し吉凶を占ふに用ふる楓子棗の心木にて作りたる具。○[漢]「天文郎按二—于前一」。

【格】カク、キヤク。古柏切 陌

㊀木の長き貌にいふ字、又、樹高くして枝長きもの、ながえだ。○[史]「有二枝—一如レ角」。
㊁いたる。
(い)及ぶ。○[書]「—二于上下一」。
(ろ)來たる。○[禮]「暴風來—」。
(は)登る。○[書]「庶有二—命一」。
(に)感通す、こたへひゞく、さほる。○[書]「—二于皇天一」。
(ほ)窮め得、きはむ。○[大]「物—而後知」。
㊂いたらしむ、いたす(㊁の條參照)。○[大]「致レ知在レ—レ物」。
㊃變化す、あらたまる、あらたむ、かふ、かはる。○[書]「—則承レ之庸レ之」。
㊄たゞし、たゞす、(正)。○[書]「—二其非心一」。
㊅さからふ、さかふ。
(い)相拒む、相入れず。○[韋昭]「二—水—」。
(ろ)頑梗にして服せず。○[荀]「服者不レ禽、—者不レ赦」。
㊆ころす、(殺)。○[詩、箋]「馘謂二所レ—者之左耳一」。
㊇あたる、(敵)。○[史]「驅二羣羊一攻二猛虎一、不レ—明矣」。
㊈うつ。
(い)鬪ふ。○[周書]「窮寇不レ—」。
(ろ)打つ、たゝく。○[後漢]「斷レ獄者急二於篣—酷烈之痛一」。
㊉さらふ、(捕)。○[史]「捕二—謀反者一」。
⑪あぐ、(擧)。○[易林]「以レ腹不レ能二擧—一」。
⑫はかる、(度)。○[宋]「詮—煩密」。
⑬法式、のり。○[禮]「言有レ物而行有レ—也」。
⑭標準、かため、めあて。○[淮]「—的不レ中」。
⑮典例、さだめ、おきて。○[唐]「乃爲二循資—一」。
⑯階段、しな。○[南]「登レ—者二百七十八人」。
⑰庋架、たな、ものかけ。○[周、註]「挂レ肉—」。
⑱鳥の聲にいふ字。○[荊楚歲時記]「有レ鳥如レ烏、先レ雞而鳴、架—々—」。
〔不格〕事なくおだやかに生きのぶること。○[晉]「天壽—·—」。
〔手格〕手うちにす。○[史]「乃使二專諸之倫、—·—此獸一」。
〔書格〕書物を載するたな。○[南]「聯以二庇倚—·—一」。
〔筆格〕ふでかけ。○[鐵圍山錄]「錢思公有二一珊瑚—·—一」。
〔標格〕のり。○[杜甫]「早年見二—·—一」。
〔歸格〕至る。○[書]「—二—于藝祖一用レ特」。
〔來格〕來る。○[詩]「四海—·—」。
〔降格〕下りて來たり至る。○[書]「惟帝—·—」。

(咸格) 皆來たり至る。○〔逸周書〕「九州之侯、ーー于周」。
(形格) 表面にあらはれたるすがたさからて順を失ふこと。○〔史〕「批亢擣虛、ーー勢禁」。
(縛格) しばりうつ。○〔後漢〕「收郎ーー之」。
(風格) 風采といふに同じ、なりふりのさまあること。○〔晉〕「少有ーー」。　「ー」。
(志格) 心のけたかきこと。○〔晉〕「少剛厲有ーー
(勞格) あまねく窮め知る。○〔南〕「ーー幽明」。
(定格) きまり。○〔南〕「明立ーー」。
(拒格) こばみて順ふことをせぬ。○〔易林〕「任劣力濡、孱驚恐怯、如見龍、不敢ーー」。
(恒格) きなりたるのり。○〔陳〕「般ー周文、固無ーー」。　「ー」。
(科格) 定められたるれきて。○〔陳〕「安動ーー
(官格) 褒美のさため。○〔南〕「重立ーー」。
(別格) とりわけて定められたるおきて、又、とりわけ異なるさな。○〔陳〕「官如ーー」。
(募格) 召し集ふるさため。○〔北〕「班ーー收集忠勇」。
(檢格) きまりて正しきこと。○〔北〕「張生名高而義無ーー」。　「ーー」。
(令格) 規則、又、法律などいふに同じ。○〔魏〕「著之
(文格) 文章のさため。○〔于頔〕「深論窮ーー」。
(新格) 新に定めたるおきて。○〔唐〕「武德二年、頒ーー十二條」。
(詩格) からうたのさため又はがら。○〔捫蝨新話〕「然後ーー極于高古」。
(天格) 自然のさな又はのり。○〔姚合〕「爲文乏ーー」。　「親ー、ー褒黜」。
(挾格) 規則を執る、即ち、規則に基づくこと。○〔唐〕
(趾格) 惡しきことを爲せば辱となるとの意を悟り知ること。○〔張九齡〕「人斯ーー、庭少爭訟」。
(繇格) おきて、のり。○〔宋〕「酌以時宜、刪成ーー」。
(體格) すがた、からだ、又、體裁といふに同じ。○〔硏北雜志〕「李邕得其氣而失于ーー」。
(賦格) 詩のさな又はかた。○〔王禹偁〕「ーー輕鶡鷄」。
(詞格) 詩歌などのがら又はのり。○〔宋〕「顧ーー之淸新」。　「言」。
(訓格) 人を教へ正すこと。○〔家語〕「不吐ーー之
(合格) 定めたるおきてにあてはまる。○〔易林〕「ー

ー有獲、獻公飲酒」。
(品格) さながら、ねうち。○〔桂海香志〕「橄欖香ーー、在黃連楓香之上」。　「ー」。
(超格) きまりよりも上に出づ。○〔曹嘉〕「廉勤ー」
(變格) 常と樣子のかはれるかた。○〔李嗣眞〕「以ーー難書」。　「存焉」。
(字格) 文字のさため。○〔寶泉字格〕「別有ーー
(考格) 功勞の有無をかんがへ定むるおきて。○〔通典〕「孝文太和中、作ーー以之黜陟」。
(俗格) 世間なみのきまり。○〔蘇舜欽〕「區々走ーー」。
(氣格) きぐらゐ。○〔釋皎然〕「ーー自高」。
(應格) さなにあたる。○〔貽謀錄〕「一部ーー者數人」。　「進」。
(畫格) 繪のかた。○〔夢溪筆談〕「自此ーー日
(正格) 規則正しきおきて。○〔夢溪筆談〕「詩第二字側入謂之ーー」。
(偏格) 正格に對して變體のさため。○〔夢溪筆談〕「第二字平入謂之ーー」。
(窗格) まどのこま。○〔夢溪筆談〕「王堂東承旨閤子ーー上有火燃處」。
(姿格) すがた。○〔厚德錄〕「有女將十歲、美ーー」。　「能躐其ーー」。
(老格) 充分に練熟したること。○〔圖畫見聞誌〕「不
(絕格) 極めてすぐれたるさながら。○〔圖畫見聞誌〕「臺閣世推ーー」。
(妙格) 前に同じ。○〔圖畫見聞誌〕「夙擅家聲、皆躋ーー」。
(能格) 巧みに出來せるさながら。○〔名畫錄〕「形象生動者、目之曰ーー」。
(逸格) すぐれたるさながら。○〔名畫錄〕「畫之ーー最難其儔」。
(規格) 法則規律といふに同じ、又、定まれるかた。○〔李白〕「鄙顯固之ーー」。
(凡格) 一とほりのさながら、つねのかた。○〔一統志〕「有ーー也」。　「弱不振」。
(常格) 前に同じ。○〔歐陽修〕「拘牽ーー、卑
(秀格) すぐれたるがら。○〔許渾〕「賦々ーー」。
(舊格) 古昔よりさきたれるかた。○〔江淹〕「咸依ーー以莊戎磨」。　「常」。
(才格) はたらきあること。○〔杜甫〕「ーー出尋
(饒格) 棚を取りまく。○〔李吉甫〕「ー、ー古藤垂」。
(古格) いにしへのすぐれたるかた。○〔盧仝〕「忽々造ーー」。

(骨格) ほねぐみ。○〔吳融〕「ーー凌秋鷹」。
(調格) 詩歌などの言ひまはしのかた。○〔姚合〕「ーー江山峻」。
(性格) もちまへ、又、きぐらゐ。○〔李中獻〕「ーー孤高世所稀」。
(句格) 詩文などの語句の法則。○〔蘇軾〕「改更ーー各蹇吃」。

【格】 カク、キャク。古落切　藥

㊀前條の㊀に同じ、えだ。○〔司馬相如〕「天嬌枝ー」。
㊁やむ、(廢)。○〔漢〕「太后議ー」。
㊂はゞむ、さゞむ、(阻)。○〔史〕「廢ーー事」。
㊃杙にて獸をさゞむ、又、獸をさゞむる杙、やらい、虎落。○〔左思〕「削ーー周施」。
㊄相角す、すまふ、くらぶ。○〔漢〕「以善ー五召待詔」。
(扞格) 拒ぎはゞむ。○〔禮〕「發然後禁、則ーー而不勝」。　「之」。
(沮格) 拒みとゞむ。○〔唐〕「說畏其擾、數ーー
(柞格) 獸をとゞむるやらいの中に機械を設くること。○〔國、註〕「ーー所以誤獸也」。

【格】 ラク、リャク。歷各切　藥

柵籬、やらい。○〔莊〕「削ー羅落」。

【栽】 サイ、ザイ。祖才切　灰

㊀草木を植ゑ樹つ、うゝ。○〔中〕「ー者培之」。
㊁穉き芽、ひこばえ、わかめ。○〔班固〕「尋木起於蘗ー」。
㊂長き杙、くひ。
(移栽) 草木をほかへうゑかふ。○〔徐寅〕「ーー未有因」。　「ーー此最多」。
(分栽) 草木を兩方にわけてうゝ。○〔羅鄴〕「兩畔

【栽】 サイ、ザイ。昨代切　隊

牆を築くに用ふる長き板。○〔左〕「水昏正而ー」。

【栾】 欒の俗字。

【栿】 フク、ボク。房六切　屋

小木を以て大木の上に附け加ふること、一說に、うつばり、(梁)。

【桀】 ケツ、ケチ。巨列切　屑

㊀凶暴なること、殘害すること、あらし、又、其の者、わるもの。○〔史〕「多暴ー子弟」。　「投人」。
㊁になふ、(擔)。○〔左〕「齊高國ー石以投人」。
㊂ひいづ、(秀)。○〔詩〕「維莠ーー」。
㊃すぐれたる人。○〔辨名記〕「千人曰英、萬人曰ー」。
㊄雞の棲む處、ねぐら、とぐら、とや。○〔詩〕「雞棲于ー」。
(桔桀) 形貌あること、かたち。○〔張衡〕「蠢𥨉ーー」。
(助桀) 夏の暴君桀王に力を添ふるとの義にて、即ち、惡人に力を添ふるにいふ語。○〔史〕「此所謂ーー爲虐」。　「ー之士、因勢輔時」。
(雄桀) すぐれひいづること、又、其の人。○〔漢〕「ー
(堯桀) 聖君陶堯と暴君夏の桀王と、即ち、善人と惡人とに譬へていふ語。○〔漢〕「ーー之分、在於義利而已」。　「ー」。
(凶桀) てあらく善からざること。○〔後漢〕「胃頓ー
(姦桀) 前に同じ。○〔後漢〕「實會ーー」。
(荒桀) 未開にしてあらきこと。○〔魏〕「遠夷ーー」。
(彊桀) 勢強くして人を害ひやぶること。○〔崔伯易〕「ーー相師」。

【桁】 カウ、キャウ。何庚切　庚

㊀けた。
(い)柱の上に架けわたせる横木。○〔劉勰〕「夫樫柏之斷也、大者爲之棟梁、小者爲之椽ー」。
(ろ)架け亘せる横木。○〔高啓〕「井-

一鳥鳴破二曙煙一。
㊁葬式に用ふる具、苞筲甕甒などの口を蓋ひ塞ぐもの、せん、ふた。○〔儀〕「皆木一久レ之」。
〔樓桁〕たるきとけたと。○〔法苑珠林〕「乃至二一藻井、無レ非二寶花間列一」。

【桁】カウ、ガウ。胡郎切 陽

㊀大いなる械、かせ、かし。○〔莊〕「一一楊相推、刑戮相望」。
㊁航に通じ用ふ、ふなばし。○〔晉〕「嶠討二王敦一、燒二朱雀一一以挫二其鋒一」。

【桁】カウ、ガウ。合浪切 漾

衣架、ころもかけ、いかう。○〔古樂府〕「還二視一一上一無二懸衣一」。
〔衣桁〕きものかけ。○〔岑参〕「由蟬上二一一一」。

【桂】ケイ、ケ。古惠切 霽

其の皮はにくけいと稱する藥種となす一種の木、香氣多し、にくけい、かつら。○〔禮〕「草木之滋薑一之謂也」。
〔炊桂〕肉桂樹をもやして米をかしぐ、即ち、奢侈なることにいふ語。○〔戰〕「食玉一レ一」。
〔菌桂〕肉桂の一種、葉は柿の葉の如くにて其の花黃なると白きとあり、我が邦に產する肉桂樹といふものは此の種のものなりといふ。○〔離騷〕「雜ヨ申椒與二一一一」。
〔丹桂〕肉けいの一種。○〔吳都賦〕「洪桃屈盤、一一「一灌叢」。
〔折桂〕科第に登ることにいふ語。○〔溫庭筠〕二猶喜故人先一レ一」。
〔巖桂〕木犀の一種、葉は卮子の葉に似たり、巖嶺にむらがり生ぞ。○〔唐高宗〕「一一發二徐香一」。
〔芳桂〕かぐはしき香のある肉けいの木。○〔江總〕「漬風佇二一一一」。
〔叢桂〕むらがり生じたる肉けいの木。○〔庾信〕「小山則一一留レ人」。
〔貞桂〕霜雪にあひて色をかへぬ肉けいの木。○〔王褒〕「一一挺生、便體二冬華之秀一」。
〔屑桂〕細かく刻みたる肉けい。○〔謝〕「一一與レ薑以灑二諸上一而鹽レ之」。「薑諸物二」。
〔牡桂〕肉けいに同じ。○〔十洲記〕「賜以二一一一乾」。
〔版桂〕桂の皮厚く硬くして味の薄きもの。○〔爾雅翼〕「桂生二桂陽一、是牛桂、多レ脂者所レ謂一一也」。
〔月桂〕(い)科第に登ることにいふ語。○〔遊著錄〕「世以二登科一爲二折桂一、其後以二月中有一レ桂、故又謂二之一一一」。
(ろ)一種のかつら、又、月の中には桂樹ありとの傳說より月影にいふ語。○〔唐太宗〕「媚簡宵一一」。
〔香桂〕かぐはしきにほひのするかつらの木。○〔元氏掖庭記〕「一一一爲レ柱」。
〔森桂〕茂りたるかつらの木。○〔江淹〕「出レ風舞二」

【栵】ケイ、ギヤウ。虛刑切 青

つくゑ(机)。

【桃】タウ、ドウ。徒刀切 豪

一種の果樹、花は春咲き實は夏秋の閒に熟す、もゝ、古昔は、仙木と稱し邪氣不祥をはらふに用ひたり。○〔禮〕「仲春一始華」。
〔含桃〕ゆすらうめ、一に櫻桃又は鶯桃ともいふ。○〔禮〕「羞以二一一一」。「一名二英桃一」。
〔牛桃〕前に同じ。○〔博物志〕「櫻桃一名二一一一、一名二一一一」。
〔胡桃〕くるみ、一に羌桃又は核桃ともいふ。○〔博物志〕「張騫使二西域一還得二一一一」。
〔越桃〕くちなし。○〔本草〕「梔子別錄謂二之一一一」。
〔楮桃〕かうぞの實。○〔本草〕楮實亦名二一一一」。
〔李桃〕もばいもゝ。○〔本草〕「山嬰桃俗名二一一、又名二柰桃一」。

【桃】テウ。他彫切 蕭

ながえ(長枋)。

【桃】ショ、ソ。上與切 語

物を抒む器。

【桃】テウ、デウ。直紹切 篠

跳に同じ、いた。

【桄】クワウ、ワウ。古曠切 漾

㊀みつ(充)。㊁織機の横木。

【桄】クワウ、ワウ。姑黃切 陽

㊀一根は、一種の木、くろつげ。
㊁舟の前木。

【桅】キ。過委切 紙

㊀黃色の染料に用ふる一種の木。
㊁短き矛、ほこ。

【桅】クワイ、ゲ。魚回切 灰

小船の檣、ほばしら。

【框】キヤウ、カウ。曲王切 陽

棺門、棺頭、かまち。

【案】アン。烏旰切 翰

㊀つくゑ。
(い)几の屬、體をもたせかくるもの、おしまづき。○〔周〕「張レ幕設レ一」。
(ろ)食を載せそなふる器、ぜん。○〔史〕「持レ一進レ食甚恭」。
(は)脚ありて上に物を載するものの泛稱、だい。○〔吳〕「拔レ刀斫二前奏一一」。「之青玉一」。
㊁わん、こばち(盂)。○〔張衡〕「何以報レ」。
㊂氣を候ふに用ふる一種の器械。○〔漢〕「爲レ室三重、密布二緹縵室中一以レ木爲レ一」。
㊃境界、さかひ。○〔國〕「參レ國起レ一」。
㊄次第、ついで。○〔史〕「一一堵如レ故」。
㊅かんがふ(考)。○〔漢〕「一レ之當今之務」。
㊆おさふ(按)。○〔史〕「一レ劔以前」。
㊇さゞむ(頓)。○〔史〕「一レ節未レ舒」。
㊈みる(視)。○〔淮〕「一二程度一」。
㊉よる(據)。○〔荀〕「非二一レ亂而治レ之之謂一也」。
⑪己に論定を經たる文書、更に論定をなすべきもの、したらべがき、したがき。○〔晉〕「文一盈レ几」。
〔氈案〕毛布を敷きつめたるつくゑ。○〔周〕「張二一一設二皇邸一」。「一一一」。
〔重案〕二段にかさなれるつくゑ。○〔周〕「設二重帟一」。
〔玉案〕たまにて飾りたる臺。○〔漢楚春秋〕「漢王賜二臣一一之食一」。
〔几案〕つくゑ。○〔南〕「常陳二之一一一」。
〔積案〕つくゑの上に高くかさなる。○〔隋〕「一レ一盈箱」。
〔香案〕香を載せたるつくゑ。○〔唐〕「熏爐一一」。
〔口案〕口づからなるしらべがき。○〔開元天寶遺事〕「咸伏二其罪一、時號二張公一一一」。
〔欹案〕斜面にしつらへたるつくゑ。○〔酉陽雜志〕「曹公作二一一一、臥視レ書」。
〔公案〕おほやけなるかんがへ、官府のしらべがき、又、禪家の示して推究せしむる問題。○〔范成大〕「布二鋪中一一一己甘レ老」。
〔赭案〕赤き色のつくゑ。○〔杜牧〕「一一一橫二陳路一」。
〔大案〕おほいなるつくゑ。○〔蘇舜欽〕「一一一羅二綵綢一」。
〔盤案〕食物を載する臺。○〔後漢〕「皆設二一一一於一、三杯僅存」。
〔圓案〕食物を載するまろき臺。○〔梁〕「方丈一一」。
〔同案〕食物の臺を共にす。○〔顏氏家訓〕「食則一レ一」。
〔徹案〕つくゑを取りのぞく。○〔唐〕「一レ一又行レ酒」。
〔楪案〕かきつけのたぐひ。○〔唐〕「一一一塡委」。
〔獄案〕裁判の調べがき。○〔因話錄〕「兵武穆一一、今在二甯陽一」。

【桉】アン。烏肝切 翰

前條の㊁に同じ。○〔曾鞏〕「孟-光舉レ――齊レ眉」。

【桊】ケン。古倦切 〔霰〕
牛の鼻づらにつくる木環、はなぎ。

【桊】ケン。驅圓切 〔先〕
木を曲げて作りたる盂、小ばち、わん。

【桋】イ。延知切 〔支〕
木理赤き木、其の質堅靱なり、されぶさなつめ。○〔詩〕「隰有二杞-―一」。

【栜】テイ、ダイ。田黎切 〔齊〕
樹小さくして條長き桑、めぐは。○〔爾〕「――桑女-桑」。

【桌】卓に同じ、つくゑ。

【桍】コ、グ。空胡切 〔虞〕
一種の木、一說に、むなし、（空）。

【桎】シツ、シチ。職日切 〔質〕
㊀足に加ふる械、あしかせ、あしかし。○〔周〕二「――梏而坐二諸嘉-石一」。
㊁かすがひ、くさび、（楔）。○〔詩、箋〕「言爲二周之――鎋一」。
㊂ふさぐ、（窒）、又、さす、（刺）。○〔莊〕「其靈-臺一而不レ―」。
㊃急束して自由を得しめず。○〔東皙〕「儒-學自―」。
〔窮桎〕苦しめらるゝこと、○〔莊〕「―――不レ行」。
〔梏桎〕手かしと足かしと。○〔漢〕「中-罪―――」。
〔四桎〕牢獄におしこめらるゝこと。○〔沈佺期〕「相次供―――」。

【桎】チ。展几切 〔紙〕

さはり、（礙）。

【桏】キヨウ、ク。渠容切 〔冬〕
けやき、（柜-柳）。○〔管〕「高-陵土-山其木乃―」。

【桐】トウ、ヅ。徒東切 〔東〕
㊀材質柔くして輕き一種の木、きり、傳說に、立秋の日の至れる期に一葉先づ墜つといふ。○〔禮〕「仲-春之月、―始華」。
㊁輕く脫する貌にいふ字、のがる。○〔漢〕「無二―好レ逸」。
㊂草木の通達して生ずるにいふ字。○〔漢〕二「――生茂-豫」。
〔頳桐〕あかき花のさくきりの木。○〔爾〕「―――夏始花、紅似レ火」。
〔刺桐〕きりの一種にして葉よりさきに花のさくもの。○〔爾、翼〕「―――出二泉-州一」。「蚰」。
〔華桐〕花のさきたるきりの木。○〔王融〕「―――發レ」

【桐】トウ、ヅ。杜孔切 〔董〕
水の名。○〔莊〕「自投二――水一」。

【桑】サウ。蘇郎切 〔陽〕
㊀其の葉を蠶の常食となす一種の木、くは。○〔史〕「齊魯千-畝――麻」。
㊁くはの葉を採る、くはとる。○〔禮〕「東-鄕躬―」。
㊂くはを培養すると、蠶を養ふこと。○〔漢〕「耕-―者益衆」。
〔柔桑〕くはの葉を摘む。○〔蜀〕「―二―樹-上一」。
〔柔桑〕わか葉のくは。○〔詩〕「爰求二―――一」。
〔穉桑〕前に同じ。○〔杜牧〕「三-樹―――春未レ割」。
〔扶桑〕東方日出の處にありといふ一の神木、轉じて、東方日出の處の稱。○〔十洲記〕「―――在二碧-海之中一、地多二林木一、葉皆如レ桑、又、有二椹-樹一、長者數-千-丈、大二-千餘-圍、樹兩-々同レ根偶-生、更相依倚、是以名爲二―――一」。
〔■桑〕木の名。○〔嶺表錄異記〕「―――似二朱槿花一、莖葉如レ桑、故名二―――一」。
〔檿桑〕やまぐはの木。○〔周〕「―――次レ之」。
〔穀桑〕かうぞの木。○〔詩、疏〕「幽-州人謂二之――一」。
〔農桑〕耕作と養蠶と。○〔漢〕「務二民於―――一」。
〔田桑〕前に同じ。○〔吳〕「―――已至、不レ可レ後レ時」。
〔蠶桑〕蠶を養ひ桑を栽培すること。○〔宋〕「河-北東路民富二―――一」。
〔濃桑〕こまやかにしげれるくは。○〔溫庭筠〕「―――遶レ舍麥如レ尾」。

たうはぜ、（柿）。

【桒】俗の桑の字。

【桓】クワン、グワン。胡官切 〔寒〕
㊀亭郵の表木、しゆくのしるし。○〔漢〕「葬二寺-門―東一」。
㊁棺の外圍の四隅に植つる木。○〔禮〕「三-家視二――楹一」。
㊂武勇なる貌にいふ字、いさまし、たけし。○〔詩〕「―――于征」。
㊃進み難き貌にいふ字、たちもとほる。○〔易〕「盤――利レ居レ貞」。
㊄葉は柳に似て子は楝に似たる一種の木。○〔山海經〕「袟-周之山、木多レ―」。

【桕】キウ、ク。巨九切 〔宥〕
烏――は、一種の木、葉は皁色を染め子は壓して油を製すべし、其の油を頭に塗れば白髮をして黑に變ぜしめ燈油となせば点火明かなりといふ、たうはぜ、一名は、鴟舅。○〔陸龜蒙〕「行-歇每依二鴟-舅影一」。

【桗】タ、ダ。都唾切 〔箇〕
㊀一種の木。㊁はかる、（量）。

【桗】タ。都和切 〔歌〕

【桼】榛に同じ。

【桽】シン。阻引切 〔軫〕
草木の衆くして齊しき貌にいふ字。

【桔】ケツ、ケチ。吉屑切 〔屑〕
㊀――梗は、一種の藥草、きゝやう。○〔戰〕「求二柴-胡――梗于沮-澤一」。
㊁――槔は、柱の上に橫木を架し其の一方を重くし其の重みにて他の一方を撥ねあがらしむべく設けたるもの、即ち、はねつるべなど。○〔莊〕「――槔者引レ之則俯舍レ之則仰」。

【栯】槌に同じ。

【栘】イ、エ。於希切 〔微〕
欅――は、一種の木、

【桛】杇に同じ。

【梀】ジウ、シユ。充中切 〔送〕
木檣。

【桍】コ、グ。荒故切 〔遇〕
栗の茦の拆くるにいふ字、さく、わる、ゑむ。

【桬】タ、テ。竹瓦切 〔馬〕
手に物を把る、とる、にぎる。

七畫

【桫】サ。桑何切 〔歌〕
――羅は、桄榔に似たる一種の木、麪を

出だすといふ。

【桬】サ、セ。師加切 麻
——棠は、崑崙山より出づる一種の木、花は赤く實の味ひ李の如くにして核無し、之を食らへば人をして弱からしめ水の害を防ぐを得といふ。

【梙】シン。之人切 眞
兩楹の間、一説に、屋の端。

【桭】シン。之刃切 震
とゝのふ（整）。

【桮】ハイ、ヘ。傅同切 灰
杯に同じ、さかづき。○〔漢〕「案-上不レ過二三——一」。

【桯】テイ、チヤウ。他丁切 青
㊀つくゑ（几）。○〔博雅〕「—、胗、俎、几也」。
㊁はしら（柱）、又、さを（杠）。○〔周〕「—圍倍レ之」。
㊂牀の横木。○〔儀、註〕「桯狀如二長-牀一、穿二—前-後一而關レ軸焉」。
〔碓桯〕からうすのさを。○〔李建勳〕「碓飛上二——一」。

【桯】ケイ、キヤウ。戸經切 青
前條の㊁に同じ。

【桯】エイ、イヤウ。怡成切 庚
楹に同じ、はしら。

【梛】ヤ。余遮切 麻
㊀熱地の産にして棕櫚に似たる一種の木、直立して長さ五六丈に達し葉其の末に在りて膚裏に甘漿あり、やし。○〔殷葬封〕「—-花好爲レ酒」。
㊁車輞の會、おほわのあはせめ。

【桰】クワツ、クワチ。古活切 曷
栝に同じ、弓箭を矯むる器、ゆだめ、一説に、弓の弦をかくる所、はず。

【桱】ケイ、キヤウ。居慶切 敬 古定切 徑
㊀杉に似て材の堅硬なる一種の木。
㊁絲を整ふる具、いとまき。

【桱】ケイ、キヤウ。堅靈切 青
つくゑ（桯）。

【桲】ホツ、ボチ。薄沒切 月
㊀からざを（連-枷）。㊁つゑ（杖）。
㊂榅——は、櫨に似たる一種の果、まるめろ。○〔洛陽花木記〕「梨之別-種二十-七、榅——其一也」。

【木厶本】ホン、ボン。部本切 阮
㊀舟の篷、とま。㊁くるまのおほひのほろ（車-弓）。

【桴】フウ、フ。房尤切 尤
㊀むれ、むなぎ（棟）。○〔班固〕「荷二棟-—一而高-驤」。
㊁枹に同じ、ばち、つゑ。○〔禮〕「蕢—而土-鼓」。
㊂土をかき聚むるに用ふる器。○〔詩、箋〕「築レ牆者—聚二壤-土一」。
㊃—思は、へい（屏）。○〔禮、註〕「屏謂二之樹一、今—-思也」。
㊄水中に投じて浮ぶ炭、けしずみ。○〔白居易〕「日暮半-爐—-炭火」。
〔重桴〕かさなりたるむなぎ。○〔何晏〕「—-—乃飾」。
〔鼓桴〕つゞみのばち。○〔元稹〕「豈復援二—-—一」。

【桴】フ。芳無切 虞
竹木を編みて舟に代へ水に浮ぶるもの、いかだ。○〔論〕「乘レ—浮二于海一」。
〔編桴〕いかだをあみてつくる。○〔呂周任泗州記〕「維レ舟—レ以載レ之」。

【桴】フ。符遇切 遇
木皮、きのかは。

【木寽】レツ、レチ。龍綴切 屑　ラツ、ラチ。郎括切 曷
㊀綰を染むる料となす一種の木。
㊁舟の檣、ほばしら。

【桵】スヰ。如追切 支
白——は、とりとまらず。

【桶】トウ、ヅ。杜孔切 董
六升を入るゝ方形の器、をけ、一説に、方形の斛、ます、又、一説に、桼を受くる器、うるしをけ。○〔癸辛雜識〕「市-中有二一-物一如二小—一而無レ底」。
〔漆桶〕うるしをけ。○〔周、註〕「雅-狀如二—-—一」。

【桶】ヨウ、ユ。尹竦切 腫
ます（斛）。○〔史〕「平二斗—一」。
〔斗桶〕ます。○〔史〕「平二—-—權-衡丈-尺一」。

【桶】フ。芳無切 虞
木欑まる、あつまる。

【桷】カク、ゴク。訖岳切 覺
㊀方形の椽、たるき。○〔春秋〕「刻二桓-宮—一」。
㊁平かにのびたる柯、えだ。○〔易〕「鴻漸二于木一、或得二其—一」。
㊂蠶の簿を掛くる柱、すばしら。
㊃くらぶ、たくらぶ（角）。○〔左、疏〕「—二考功-德一」。
〔刻桷〕彫り飾れるたるき。○〔抱朴〕「采-椽珍-午-—-—一」。
〔鏤桷〕前に同じ。○〔水經、註〕「雕-楹—-—」。
〔繡桷〕飾りをなしたるたるき。○〔景福殿賦〕「于是列二髹-彤之—-—一」。
〔華桷〕前に同じ。○〔廟子艮〕「綺-井擐而重-葩—-—煥而相距」。
〔綵桷〕前に同じ。○〔李白〕「—-—攢-榮而仰レ天」。
〔槙桷〕たるき。○〔史晨〕「仰二暖—-—一」。
〔椽桷〕前に同じ。○〔三輔黄圖〕「—-—皆化爲二龍鳳一」。
〔龍桷〕龍の模樣を附したるたるき。○〔魯靈光殿賦〕「—-—雕-鏤」。
〔朱桷〕赤く塗りたるたるき。○〔魏都賦〕「—-—森-布而支離」。
〔梁桷〕うつばりとたるきと。○〔韓愈〕「棟-樑—-—」。
〔巨桷〕大いなるたるき。○〔韓愈〕「高-藥—-—歴二山-原一」。
〔抽桷〕たるきを抜き取る。○〔左〕「—レ—擧レ屍」。
〔樸桷〕あらきのたるき。○〔淮〕「—-—不レ斲」。
〔栭桷〕うだちとたるきと。○〔拾遺記〕「小-枝爲二—-—一」。
〔螭桷〕みづちの形を刻みたるたるき。○〔梁元帝〕「—-—丹-雘」。
〔長桷〕ながきたるき。○〔李嶠〕「朽-木之質、不レ足三以施二—-—一」。
〔圮桷〕破れたるたるき。○〔韓愈〕「—-—廚-瓦」。
〔勁桷〕つよきたるき。○〔沈亞之〕「文梁—-—」。
〔翠桷〕青く塗りたるたるき。○〔葛長庚〕「—-—疑レ烟」。

【桸】キ。虚宜切 支
㊀くつ（朽）。㊁ひしやく（勺）。

【桸】キ、ケ。香衣切 微
一種の木、其の汁を飲料とす。

【桹】ラウ。盧當切 陽
㊀桄——は、其の材甚だ堅き一種の木、

皮に毛あり栟櫚の如し、皮の中に麥麪の如き粉末あり、材質太だ堅くして鐵の如く紫黑色にして文理あり、くろつげ。○〔後漢〕「胖-柯-句-町-縣有二桄-―木一可レ爲レ麪」。
㊁桄―は、一種の木、其の用栟櫚に同じ。○〔左思〕「栟-櫚桄-―」。
㊂丈長き梃。〔文選、註〕「鳴二長―于後一」。
㊃魚を敺るに長き梃を以て舷を打ち鳴らし魚を驚かすこと。○〔潘岳〕「鳴-―厲響」。
㊄材をうちたゝく聲にいふ字。○〔元結〕「桹―・―兮可レ屈」。
〔桑桹〕とんぼうの異名。○〔爾〕「―・―即蜻-蛉也」。

【栁】柳の本字。

【桻】ホウ、フ。敷容切 冬
こずゑ、(木末)。

【桼】シツ、シチ。戚悉切 質
漆に同じ。

【桽】サ、ザ。徂何切 歌
―接は、わせすもゝ、さもゝ。

【桽】サン、ザン。徂丸切 寒
木を積めて殯することを、かりもがり。

【桾】クン。枸雲切 文 居運切 問
―櫏は、柹の屬、さるがき。○〔左思〕「平-仲―-櫏」。

【椓】チヨ、ト。張如切 魚
木の地上に立ちたるまゝにて枯るゝこと、たちがれ。

【桿】俗の杆の字。

【梀】ソク。千木切 屋
㊀短き椽、たるき。㊁赤―は、されぶさなつめ。

【梀】ショク、ソク。丑六切 屋 趨玉切 沃
前條の㊁に同じ。

【棟】チヨク、トク。丑玉切 沃
前々條の㊁に同じ。

【栜】サク、シヤク。山責切 陌
木の枝の上がり生ずること。

【棟】イン、オン。於靳切 問
つかぬ、(束)。

【梁】リヤウ、ラウ。呂張切 陽
㊀はし。(い)水上に架したる往來の道。○〔詩〕「造レ舟爲レ―」。(ろ)架けわたせる往來の道。○〔唐〕「治二攻具一造二雲―一」。
㊁石の水を絕ちたる所。○〔詩〕「在二彼淇―一」。
㊂水流を堰きとめて一條の路を通じ其の所に筒を設けて魚を捕ふるもの、やな。○〔詩〕「胡逝二我―一」。
㊃隄防、つゝみ。○〔國〕「川不レ―」。
㊄棟を負ひて屋宇を支ふる材、うつばり、はり。○〔爾〕「楣謂二之―一」。
㊅はりの形をなすもの。○〔詩〕「五-楘―-輈」。
㊆冠上の横脊。○〔漢〕「冠兩―」。
〔都梁〕一種の香草、ふぢばかま、澤蘭。○〔荊州記〕「―・―山下生二香-草一、因以爲レ名」。
〔舟梁〕(い)ふねをはしとすること、ふなばし。○〔詩〕「造レ―爲レ―」。(ろ)ふねとはしと。○〔莊〕「澤無二―・―一」。
〔彊梁〕つよきこと、又、鬼を食らふといふ神の名。○〔詩、疏〕「荊-舒―・―而難レ服」。
〔澤梁〕さはのやな。○〔孟〕「―・―無レ禁」。
〔大梁〕すばる星の異名。○〔漢〕「後五-年在二―・―一」。
〔津梁〕川などにわたせるはし。○〔唐〕「凡―・―道-路、治以二九-月一」。
〔陸梁〕みだれ走る貌にてわるくはびこることにいふ語。○〔西京賦〕「怪-獸―・―」。
〔跳梁〕とび走ること。○〔莊〕「東-西―・―、不レ避二高-下一」。
〔棟梁〕むなぎとうつばりと、轉じて、國家の重臣のことにかりいふ語。○〔後漢〕「公爲二國―・―一」。
〔魚梁〕魚を捕ふるやな。○〔晉〕「嘗監二―・―一」。
〔曲梁〕前に同じ。○〔方輿〕「魚退殘-星過二―・―一」。
〔杠梁〕はしらとはりと。○〔淮〕「大者以爲二舟-航―・―一」。
〔濠梁〕はりのつゝみ。○〔莊〕「遊二於―・―之上一」。
〔石梁〕石の水を絕つ所。○〔一統志〕「有二―・―一瀠二石通レ流」。
〔懸梁〕ちりばめたるはり。○〔江總〕「芙-蓉作レ帳照二―・―一」。
〔幘梁〕くろき布の頭髮をつゝむもの。○〔儀、註〕「今之―・―也」。
〔浮梁〕うきはし。○〔宋〕「爲二―・―一以濟」。
〔虛梁〕星の名。○〔星經〕「―・―四-星在二危南一」。
〔華梁〕立派なるうつばり。○〔七啓〕「文-榱―・―」。
〔簷梁〕のきのはり。○〔梁宣帝〕「朝-日照二於―・―一」。
〔橋梁〕はしとはしと。○〔元結〕「非二―・―一以通レ險」。
〔罾梁〕魚を捕らふるあみとやなと。○〔李華〕「蹊-介絕而漁-者壞二―・―一」。

【梂】キウ、グ。渠尤切 尤 キヨク、ゴク。拘玉切 沃 キク、コク。居六切 屋
㊀柞櫟の實などの如き房彙に裹まれたる木實の稱、又、其の實を裹める房彙、いが。○〔爾〕「櫟其實―」。
㊁果實の聚まり生じて房をなすこと、轉じて、多く物の聚まれることにいふ字。○〔詩、箋〕「―・―之實、蕃-衍滿レ升」。
㊂のみのさき、(鑿-首)。㊃あし、(柎)。

【梃】テイ、チヤウ。待頂切 迥
㊀條直の幹莖、すぐなるまるた、木枚、○〔段玉裁〕「條直者曰レ―」。
㊁直立の貌にいふ字。○〔徐鉉〕「―-然勁-直貌」。
㊂杖棓、てこ、ぼう、つゑ。○〔漢〕「奮二其白―一」。
㊃幹莖を數ふるにいふ字。○〔魏〕「武-陵-王駿獻二酒二-器甘-蔗百―一」。
〔制梃〕杖をつくること。○〔孟〕「可レ使三制レ―以撻二秦-楚之堅-甲利-兵一矣」。
〔筳梃〕馬のむちと杖と。○〔漢〕「其後民以二筳-―・―一相-撾-擊」。

【榳】テイ、チヤウ。唐丁切 青
縣の名。

【栖】棲に同じ。

【梅】バイ、マイ。謀杯切 灰
㊀一種の木、春花を開く其の香甚だ高く其の實は甚だ酸し、うめ。○〔詩〕「山有二嘉-卉一、侯栗侯―」。
㊁うめの實の黃熟する期節の霖雨、さみだれ、つゆ、又、其の期節の稱。○〔四時纂要〕「閩-人以二立-夏後一逢レ庚入レ―、芒-種後逢レ壬出レ―」。
㊂裏に居る時の容にいふ字。○〔禮〕「視-容瞿-々―・―」。
〔鹽梅〕食物の味を加減すること、轉じて、物事を料理すること。○〔書〕「爾惟―・―」。
〔黃梅〕一に蠟梅となづく俗にいふからうめのことにて花は黃蠟の色をおび梅とおなじき頃にひらき其の香の似たるよりなづけたりといふ。○〔辭道衛〕「

雨庭二一・一こ。「彈・丸こ。
（楊梅）やまもゝ。○〔格物總論〕「一・一北子如二
（迎梅）三月にふる雨。○〔風土記〕「江南三月雨
謂二一・一こ。「一こ。
（送梅）五月にふる雨。○〔風土記〕「五月雨謂二一・一
（臥梅）みきの地上をはふ如きさまのうめ。○〔後村
詩話〕「近二成・都一有二一・一こ。
（野梅）野原などにある自然ばえのうめ。○〔圖繪寶
鑑〕「臣所レ見者、江路一・一耳」。
（早梅）はやさきのうめ。○〔陸龜蒙〕「飛・栴參・差
拂二一・一こ。「是一・一」。
（寒梅）さむさにさけるうめ。○〔李紳〕「數・株臨レ水
（月梅）月かげにてらさるゝうめ。○〔陳與義〕「一・
一疎・影夜・香聞」。
（烏梅）うめのみの半ば熟せるを采りて烟にて黑くい
ぶしたるもの。○〔神異經〕「以二一・一二七、沸レ之
卽熟」。
（白梅）志ろき花のうめ、又、青梅の實を鹽につけ日
光にさらしたるもの。○〔本草〕「青者鹽・淹曝・乾
爲二一・一こ。「一朝始發」。
（窗梅）まどの下にうゑたるうめ。○〔庾肩吾〕「一・
（殘梅）おくれざきのうめ。○〔張籍〕「羨君東去見二
一・一こ。「溪・橋共一レ一」。
（探梅）うめの花をさがしめづること。○〔陸游〕「借約

【梆】ハウ、ホウ。皐江切 江
古昔、官衙にて人を召す合圖に擊ち鳴らしゝ器、木を斲りて其の背に孔を穿ちしもの、或は、竹を以て筒を作り兩頭の節を塞ぎ留め旁に小き孔を穿ちたるもの。

【梇】ロウ、ル。盧貢切 送
一・棟は、地の名。

【桲】ハウ、ヒヤウ。披庚切 庚
木の名、おほゆみ。

【梉】シヤウ、サウ。側羊切 陽
豫章に似たる一種の木、其の小きもの

は桃に似たりといふ。

【梊】テイ、タイ。都計切 霽
㊀撮み取る、つまむ。
㊁兩手にて急しく人を持つ。

【梊】テツ、デチ。徒結切 屑
前條の㊀に同じ。

【梋】ケン。火圓切 先
盂の屬、わん。

【梋】セン。詞緣切 先
㊀はかる（圖）。㊁すつ（棄）。

【梋】ケイ。玄圭切 齊
柃一は、麥を燒く具。

【梋】エン、余專切 先　セン。隨戀切 霰
車に附く環。

【梌】ト、ツ。同都切 虞
㊀ひさぎ（楸）。㊁するどし（銳）。

【梌】タ、デ。直加切 麻　ユ。容朱切 虞
刺ある木。○〔揚雄〕「吳人謂二刺・木一曰レ一」。

【梍】サウ、ソウ。在早切 皓
㊀さいかち（莢・實）。㊁櫟の實。

【梎】アウ、オウ。於交切 肴
㊀一・椥は、鐮の柄。
㊁木の柯、えだ。

【梄】イウ、ユ。余救切 宥

一種の木。

【梏】キヨク、コク。姑沃切 沃
㊀手に加ふる械、てかせ、てかし。○〔易〕「用說二桎・梏一こ。
㊁てかしを加ふること、急束して自由を得しめざること、いましめ。○〔莊〕「不レ知三至・人之以レ是爲二已桎・梏一邪」。
㊂頸を貫く、つらぬく。○〔左〕「子・蕩以レ弓一二華・氏于朝こ。
㊃みだる（亂）。○〔孟〕「一二亡之一矣」。
（桎梏）足に用ふるかしと手に用ふるかしと、共に罪人を拘束するに用ふるもの。○〔禮〕「省二囹圄一去二一・一こ。
（明梏）罪人の姓名及び罪狀を書きつけたるかし。○〔周〕「士加二一・一一以適レ市而刑二殺之こ。
（羈梏）身を束縛することにいふ語。〔蘇軾〕「脩・然脫二一・一こ。
（杖梏）むちうち且かしを加ふ。○〔新書〕「一而一レ之」。「一こ。
（重梏）ておもきてかし。○〔潛夫論〕「且脫二一・
（旋梏）かしを加ふ。○〔易志〕「一二一于足こ。

【梏】カク、コク。吉岳切 覺
なほし（直）。○〔禮〕「有二一德・行こ。

【梐】ヘイ、バイ。部禮切 薺　邊兮切 齊
㊀こまよせ（柜）。○〔周〕「設二一・柜一再・重」。
㊁ひとや（牢・獄）。○〔家語〕「周一」。

【梒】カン、ガン。胡南切 覃
一・桃は、一種の果、ゆすらうめ、櫻桃。

【梓】シ。祖士切 紙
㊀山野に生じ楸に似たる一種の喬木、芽の色甚だ赤し、あづさ、あかめがしは。○〔埤雅〕「一爲二百・木長一故呼レ

一爲二木王こ。
㊁木製の器を治むること。○〔周〕「攻レ木之工七、輪、輿、弓、廬、匠、車、一」。
㊂文書を板に彫刻すること。○〔康熙〕「俗謂下鋟二文・書於板一曰上レ一」。
㊃杯盂、わん。○〔禮、疏〕「杯・盂之屬亦謂レ一」。
（桑梓）くはとあづさと、又、ふるさとのこと。○〔唐〕「保二一・一者、鄉・里舉焉」。
（文梓）あやあるあづさ。○〔史〕「一・一爲レ榔」。
（鼠梓）ねずみもちの木。○〔爾〕「楰一・一」。

【梔】シ。章移切 支
㊀一種の木、葉は李に似て硬し、春白き花を開き秋實を結ぶ、其の實は黃色の染料とす、くちなし。○〔博雅〕「一」。「一・子梔・桃也」。
㊁桑實、くはのみ。○〔爾〕「桑辨有レ葚

【棯】ジン、ニン。而振切 震
一種の木。

【梖】ハイ、バイ。博蓋切 泰
印度地方に生ずる一種の木、高さ二三丈に達す、實は椰子の如し、葉は冬經るも凋まず採りて文字を書するの用とすべし、ばいたら。○〔酉陽雜俎〕「一多・木出二摩・伽・陀國こ。

【梗】カウ、キヤウ。古杏切 梗
㊀刺ある一種の散木、やまにれ、山枌楡。○〔禮、疏〕「草・莕・科木榛一一之屬也」。
㊁人を刺し傷くる草木の稱、卽ち、さげあるもの。○〔張衡〕「一・林爲レ之靡・拉」。
㊂刺芒、さげ、のぎ。○〔圖繪寶鑑〕「筆・

力於二枝一一極二適一健一。
四やまし、やまひ、（病）。○〔詩〕「至レ今爲レ一」。「一一」。
五災を禦ぐ、ふせぐ。○〔晉〕「謹禱二幣一」。
六亂れて通ぜず、ふさがる。○〔北〕「以二道一一共投二元一忠一」。
七正直なり、たゞし、なほし。○〔孔叢子〕「一一亮直」。
八たけし、（猛）、つよし、（強）。○〔韓愈〕「鋤二其強一一」。
九人の形になぞらへて作りたるもの、でく。○〔戰〕「桃一一土偶」。
十大略、おほよそ、あらまし、おほむね、ほど。○〔吳都賦〕「略擧二其一一概一」。
〔土梗〕（い）つちもて作りたるでく。○〔戰〕「夜半一一與二木梗一鬪」。「一一耳」。
（ろ）眞物にあらざることにいふ語。○〔莊〕「吾所レ學一一」。
〔桔梗〕きゝやうといふ草の名。○〔戰〕「求二柴胡一一于沮澤一」。
〔強梗〕性質のこはきこと、又、柔順ならざる者。○〔淮〕「鋤二其一一一」。
〔剛梗〕前に同じ。○〔北〕「宣武嘉二其一一一」。
〔招梗〕めでたきを迎へあしきを禦ぐこと。○〔周〕「掌下以レ時一一禬禳之事上、以除二疾殃一」。
〔蕪梗〕あれはてゝ亂れふさがること。○〔宋〕「中原一一」。
〔荒梗〕前に同じ。○〔晉〕「永嘉之亂、荊州一一」。
〔紛梗〕みだるゝこと。○〔魏〕「邊豎構レ逆以成二一一」。
〔生梗〕かたくしてなごやかならざること。○〔夢溪筆談〕「美色而擧止一一」。
〔悍梗〕たけし。○〔宋〕「利用性一一」。
〔骨梗〕すぢばりてこはきこと。○〔古畫品錄〕「用レ筆一一」。

【梻】ハツ、ハチ。布拔切 黠
一ちりとり（坌具）。二ほこのえ、（柲）。

【梸】ハイ、へ。兵廢切 隊
わりふ、（券契）。

【櫻】サツ、サチ。子末切 曷
ゑむ、（笮）。

【梫】サン、ソン。子感切 感
櫻の字の譌、指の刑、ゆびひしぎ。

【椄】テフ。陟葉切 葉
一小さき葉。二たけむしろ、（𥮾簞）。

【梘】ケン。經電切 霰
一せん、（栓）。二ゑらぶ、（檢）。

【梘】ケン。古典切 銑
かけひ、（通水器）。

【梘】ケン。居覓切 諫
ひつぎかけ、（棺衣）。

【梛】ダ、ナ。囊何切 歌
拘一一は、花葉共に楊柳に似たる一種の木、夏時淡紅色の花を開く。

【梜】ケフ。古協切 葉
一はこ、（檢柙）。二筴に同じ、はし。○〔禮〕「羹之有レ菜者用レ一、其無レ菜者不レ用レ一」。

【梜】カフ、ケフ。古狎切 洽
木理の亂るゝにいふ字。

【棨】シュ、遵誅切 虞　シ。祖委切 紙
ス。
一ゑろす、（識）。二をさむ、（藏）。
三くち、（口）、くちばし、（喙）。

【柴】シ。遵爲切 支

【條】テウ、デウ。徒聊切 蕭
いしばり、（石鍼）。
一えだ、（枝）。○〔詩〕「伐二其一枚一」。
二ながし、（長）。○〔書〕「厥木惟一」。
三とほし、（遠）。○〔太元〕「一暢二乎四方一」。
四さほろ、（達）。○〔漢〕「聲氣遠一」。
五のぶ、（暢）。○〔漢〕「靡レ不二一鬯該成一」。
六すぢ、みち。
（い）細長く貫きとほりたるもの。○〔書〕「若二網在レ綱有レ一而不レ紊」。
（ろ）義理、脈絡。○〔漢〕「帝王之道豈不二同レ一共レ貫」。
七なは、（繩）。○〔禮〕「喪冠一屬」。
八教化、をしへ。○〔史〕「以興二化一一」。
九法令、おきて。○〔戰〕「科一既備、民多二僞態一」。「奏無レ所レ諱」。
十逐一に疏かち擧ぐること。○〔漢〕「一一
十一逐一に疏かちあげたるものを數ふるにいふ字。○〔舊唐〕「約レ法爲二一十一一」。
十二細長きものを數ふるにいふ字。○〔王仁裕〕「一抹朱絃四十一」。
十三橘の屬、其の實は橙に似て橘より大いなり、ゆず。○〔詩〕「有レ一有レ梅」。
十四嘯く貌にいふ字。○〔詩〕「中谷有レ蓷、一其歗矣」。
十五東北の方より吹く風の稱。○〔山海經〕「一一風自レ是出」。
十六枝を切り落とす、えだきる。○〔詩〕「蠶月一レ桑」。
十七みだる、（擾）。○〔博雅〕「一一擾亂也」。
〔蕭條〕さびし。○〔淮〕「一一者形之君」。
〔玉條〕たまの如きうつくしき枝、又、緊要なる規則。○〔劇秦美新〕「金科一一」。「一一」。
〔寒條〕葉をふるひたる枝。○〔陶潛〕「戢二羽一一」。
〔枯條〕かれ枝。○〔陶潛〕「寒風拂二一一」。
〔柔條〕たわめる枝。○〔潘岳〕「峻巖敷二一一」。
〔繁條〕前に同じ。○〔趙彥昭〕「一一偏是智レ花遲」。
〔柯條〕木の枝。○〔詩疏〕「松木雖レ生二高山一、而一一枯槁」。「藕」。
〔條條〕みだるゝ貌にいふ語。○〔孟郊〕「一一脆如レ
〔垂條〕たれたる枝。○〔高啓〕「一一香破折一」。
〔詔條〕勅令。○〔舊唐〕「奉二非一一一」。
〔新條〕あらたに制定せられたる法令、又、あたらしき枝。○〔舊唐〕「一依二舊法一、不レ用二一一一」。
〔綱條〕政令法規など。○〔舊唐〕「雖レ不レ能レ擧二振一一、然以二謹重一知レ名」。
〔政條〕前に同じ。○〔元〕「敷二布一一一」。
〔寬條〕ゆるやかなる規則。○〔元〕「誕二布一一一」。
〔設條〕規則をつくり定む。○〔元〕「一レ一定レ罪」。
〔朽條〕くさりたる繩。○〔易林〕「一一腐索、不レ堪二施用一」。
〔𧑓條〕すくも蟲の異名。○〔本草〕「蠐螬一名二一一」。「綠」。
〔纖條〕はそき枝、はそきすぢ。○〔張華〕「一一被レ一」。
〔修條〕長き枝。○〔魏文帝〕「一一摩二蒼天一」。
〔鴻條〕おほいなる枝。○〔應瑒〕「振二一一一而遠壽」。
〔盈條〕枝に滿つ。○〔謝惠連〕「泫々露一レ一」。
〔嫩條〕めだしの枝。○〔韓琮〕「偸二將春光一入二一一」。
〔衰條〕霜枯れの枝。○〔陸龜蒙〕「零落一一傍二曉江一」。
〔艷條〕うつくしき枝。○〔梅堯臣〕「只恐一一稀」。

【滌】テキ、ヂヤク。徒歷切 錫
滌に通じ用ふ。

【梞】キ。渠記切 寘
一うてな、（㭬）。二一趺は、綆紐（むすび）を定むる物。

【梟】ケフ、ゲフ。堅堯切 蕭
一みゝづくに似たる一種の鳥、晝は伏し夜は出でて小鳥を捕り食らふ、ふくろ、ふくろふ、古昔は、其の子成長

して母を食らふといひしより不孝の鳥となせり。○〔詩〕「爲レー爲レ鴟」。㊂古の極刑、斬罪に處したる者の首を木に懸けてさらすを、ごくもん。○〔漢〕「ー二故塞王欣頭櫟陽市一」。㊂たけし（健）。○〔漢〕「北貉燕人來致二ー騎一助レ漢」。㊃山の巓、いたゞき。○〔管〕「其山之ー多二桔符榆一」。㊄雄傑、すぐれたるもの。○〔淮〕「爲二天下之ー一」。㊅樗蒲の采の名。○〔楚辭〕「成レー而牟呼二五白一」。

〔土梟〕ふくろふといふ鳥。○〔阿含經〕「聲形俱醜ーー是也」。

〔鴟梟〕前に同じ。○〔史〕「子獨不レ見下ーー之與二鳳凰一翔上乎」。「ー逆レ天」。

〔馴梟〕人になれたるふくろふのこと。○〔舊唐〕「ーー」。

〔桃梟〕もゝの實の冬になりても枝につきたるもの、もゝのきまもり。○〔本草〕「桃實已乾著二木上一、經レ冬不レ落者、名二ーー一」。

【梠】リヨ、ロ。兩擧切 語

屋桷の端に連なり出でたる材、屋の端末、のき、ひさし。○〔博雅〕「楣、櫋、櫺皆謂二之ー一」。

〔屋梠〕やねのひさし。○〔爾、疏〕「屋檐一名二ーー一」。

〔桃梠〕前に同じ。○〔爾、疏〕「桷屋椽也、一名二ーー一」。

〔雀梠〕前に同じ。○〔方言、註〕「ーー即屋檐也」。

【柳】テン、デン。徒念切 豔

門柙、一說に誤り字。

【椴】カク、ギヤク。胡革切 陌　ケキ、キヤク。刑狄切 錫　エキ、ヤク。營隻切

㊀種子を蒔く道具、たねまき（檡-樓）。㊁枍ーーは麥を燒く具。

【梡】クワン。苦緩切 旱

㊀虞舜の時に用ひし俎、まないた、其の四足に橫木なきもの。○〔禮、疏〕「虞俎名レーー、ー形四足如レ案」。㊁斷りたる木、一說に、薪蒸の束、たきぎたばのたば。

【梡】クワン、グワン。胡官切 寒

其の子食らふべき一種の木。

【梡】クワン、グワン。胡慣切 諫

からなしに似たる一種の木。

【梡】コン、ゴン。胡昆切 元　ダン、ナン。奴玩切 翰

えだ（枝）。

【梡】コン、ゴン。胡本切 阮　ーー或は、梱に作る。

㊀梱の薪、まるきのたきゞ。㊁木の未だ破らざるもの、まるき。

【梢】サウ、セウ。師交切 肴

㊀こずゑ。(い)細長くして柯なきえだ。○〔聞見錄〕「特結二竹ーー蔓草一爲レ之」。(ろ)木末、林頭。○〔畫史〕「山骨隱顯林ーー出沒」。㊁樂者の執る竿。○〔漢〕「飾二玉ーー一以舞歌」。㊂小さき柴、こしば。○〔淮〕「曳レーー肆レ柴」。㊃撃ち去る、はらふ。○〔揚雄〕「ー二蘷魖一而抶二獝狂一」。㊄船の柁尾、かぢ。○〔康熙〕「今人謂二篙師一爲二ー子一」。㊅少小、すこし、わづか。○〔博雅〕「區々ーー小也」。㊆からすきの後の方に柄の如く出でて高くなりたるものの稱、おひたて。○〔陸龜蒙〕「前如レ桯而樛者曰レ轅、後如レ柄而喬者曰レー」。㊇こずゑの風にそよぐ聲にいふ字。○〔鮑照〕「風ーーー而過レ樹」。㊈旗の旒、はたあし。○〔揚雄〕「被二雲ーー一」。

〔蕭梢〕さびしくえだなき木。○〔江淹〕「木ーーー而可レ哀」。

〔枝梢〕えだとこえだと。○〔宣和畫譜〕「而ーーー不レ稱二其本一」。

〔茂梢〕葉のしげりたるえだ。○〔宣和書譜〕「其ーーー勁節」。

〔蠑梢〕おほばちのしり。○〔爾、翼〕「醫家謂二蠭尾一爲二ーー一」。

〔抽梢〕たかくぬきいでたるこずゑ。○〔杜甫〕「ーー合レ過レ牆」。

【梢】セウ。思邀切 蕭

水の激ぎ醫みたる溝、あぜみぞ。○〔周〕「ーー溝三十里而廣倍」。

【梢】サウ、セウ。山巧切 巧

木の長き貌にいふ字。

【梢】サウ、セウ。所教切 效

木を削り上を殺ぐ。

【梢】サク、ソク。色角切 覺

こずゑ。

【梣】シン。咨林切 侵

檀に似たる一種の木、葉細かく皮は青色を帶び其の皮をおんぴと稱して藥用とす、これりこ、青皮木。○〔淮〕「ーー木色青翳、此治レ目之藥也」。㊁ふしづけ（椿）。

【梤】フン、ボン。符分切 文

一種の香木。

【梦】俗の夢の字。

【梧】ゴ、グ。五乎切 虞

㊀桐の一種、皮は青綠なり、あをぎり。○〔詩〕「ーー桐生矣」。㊁さゝふ（支）。○〔漢〕「莫二敢枝ーー一」。

〔槁梧〕琴のこと。○〔莊〕「據二ーー一而瞑」。

〔碧梧〕あをぎり。○〔范成大〕「雲樓二朱閣一ーー寒」。

〔翠梧〕前に同じ。○〔杜甫〕「棲レ枝把二ーー一」。

【梧】ギヨ、ゴ。偶擧切 語

敔に同じ。

【梧】ゴ、グ。五故切 遇

魁ーーは、壯大なる意にいふ語。○〔史〕「魁ーー奇偉」。

【梨】リ。力脂切 支

棃に同じ。

【梩】リ。鄰之切 支

㊀一種の農具、土を徙すに用ふる畚、つちぐるま、一說に、籠臿の類、かご、ふご。○〔司馬法〕「周輜輦載レー」。㊁すき、くは。○〔周、疏〕「ー或曰レ插、或曰レ鍬」。

〔蔂梩〕土をはこぶもッこ。○〔孟〕「蓋歸反二ーー一而掩レ之」。

【梩】シ。象齒切 紙　サイ。莊皆切 佳

すき（臿）。

【梩】タイ。都皆切 佳

一種の木。

【梩】キ、コ。口己切 紙

杝に同じ。

【桓】トウ、ヅ。大透切 宥
㊀菹醢を盛る木豆、たかつき。
㊁はかりのめの名、四升の量の稱。○〔博雅〕「合十曰ㇾ升、升四曰ㇾ―」。
㊂獨―は、一種の木。○〔酉陽雜俎〕「獨―樹頓丘南應足山有ㇾ之、高十餘丈、皮靑滑似ニ流碧一、枝幹上聳、子如ニ五綵囊一、葉如ニ亡子鏡一」。

【梫】シン。初簪切 侵 子鴆切 沁 七稔切 寑
かつら、(桂)。

【梬】エイ、于丙切 テイ、丑郢切 梗 ヤウ。チヤウ。
柹の屬、さるがき。○〔司馬相如〕「櫨梨―栗」。

【梭】シュン・須閏切 震
木繁茂す、しげる。

【梭】サ。桑何切 歌
織機の附屬具、筟を入れ緯糸を行るに用ふるもの、ひ。○〔晉〕「侃少漁ニ雷澤一網得ニ一―一」。
〔玉梭〕たまにて作りたる機のひ。○〔江總〕「當ㇾ見新秋停ニ――一」。「還斂ㇾ色」。
〔停梭〕ひをうごかすとをやむ。○〔梁元帝〕「―ㇾ―秋葉時」。
〔鳴梭〕ひをならしてはたを織る。○〔李頎〕「―ㇾ―鳴夜―ㇾ―」。
〔擲梭〕ひをはこぶとにて機を織ると。○〔陸游〕「機」
〔機梭〕はたのひ。○〔白居易〕「――聲札々」。
〔杼梭〕をさとひと、又、はたをおるとにいふ語。○〔梅堯臣〕「生計非ニ――一」。
〔鶯梭〕うぐひすの機のひの如くあちこちに飛びかふと。○〔張養浩〕「柳岸――巧織ㇾ藍」。

【梭】セン。丑泉切 先 シユン。松倫切 眞
一種の木。

【梮】キヨク、コク。拘玉切 沃
食を輿ふ器。

【梮】キク、コク。掬六切 屋
㊀錐頭の如き鐵の長さ半寸許のものを裏に施したる履、山に登る時に蹉跌せざるために著くるもの、かんじき。○〔漢〕「禹山行則―」。
㊁栻に同じ、卜占に用ふる器具。○〔博雅〕「―有ニ天地一所下以推ニ陰陽一占中吉凶上以ニ楓子棗心木一爲ㇾ之」。

【栚】チン、ヂン。直刃切 震
其の汁酒とすべき一種の木。○〔南〕「入飩ニ防―酒ニ」。

【梯】テイ、タイ。天黎切 齊
㊀きだはし。(い)よりて高きに上るべく階段の設けある具、はしご、だんばしご、木階。○〔虎韜〕「視ニ城中一則有ニ雲―飛樓一」。(ろ)物事の次第にのぼり行く徑路。○〔國〕「毋下曠ニ其衆一以爲中亂―上」。
㊁よる、(凭)。○〔山海經〕「西王母―ㇾ几戴ㇾ勝」。
㊂木稚し、わかし、又、わかき木、わかき。
〔突梯〕圭角なきこと。○〔楚辭〕「――滑稽如ㇾ脂如ㇾ韋」。
〔雲梯〕きだはし、はしご。○〔戰〕「墨子曰、聞公爲ニ――一、將ニ以攻一ㇾ宋」。「蝦杦屋ニ」。
〔懸梯〕前に同じ。○〔南〕「成ニ設飛樓――、木
〔飛梯〕前に同じ。○〔高僧〕「作ニ――一以上ニ北城ニ」。「―ニ」。
〔禍梯〕わざはひのきだはし。○〔史〕「毋ㇾ爲ニ――一」。
〔罪梯〕つみをかすきだはし。○〔鹽鐵論〕「爲ニ民――也」。「己――ニ」。
〔階梯〕たかきにのぼるきだはし。○〔韓愈〕「以爲ニ

【械】カイ、ゲ。胡介切 卦
㊀人の支肢に加へて其の自由を束縛する具、多くは罪囚に加ふるもの、かし、かせ。○〔司馬遷〕「淮陰王也、受ニ―於陳一」。
㊁かしを加ふると、急束して自由を得しめざると、いましめ。○〔孔穎達〕「―戒也、戒ニ止人一不ㇾ得ニ遊行一也」。
㊂兵器、武具。○〔周〕「知ニ民器―之數一」。
㊃器具の泛稱、うつはもの、うつは、だうぐ。○〔禮〕「器―異ㇾ制」。
㊄巧術、たくみ。○〔孟〕「機―變詐之巧」。
㊅たくみを施せる裝置、からくり、しかけ。○〔晉〕「開ニ諸船底一以ㇾ木掩ㇾ之名爲ニ船―一」。
〔機械〕からくり、たうぐ、たくみ。○〔莊〕「有ニ――者必有ニ機事一」。
〔利械〕兵器をするどくす、するどき武具。○〔管〕「飾ㇾ謀章ㇾ禮、選ㇾ士―ㇾ―則覊」。
〔天械〕上帝のいましめ。○〔蘇軾〕「白髮靑山―所ㇾ―」。「繕ニ――一」。
〔兵械〕いくさのときに用ふる器。○〔南〕「至ニ襄陽
〔甲械〕前に同じ。○〔唐〕「隱ㇾ武行ㇾ文、束ニ――一」。
〔著械〕かしを施す。○〔魏〕「不ニ即―ㇾ―」。
〔木械〕木もて製したるかし。○〔晉〕「易以ニ――一
〔刻械〕かしをきざみへらす。○〔齊〕「以ㇾ刀―ㇾ―」。「乏ㇾ鐵故也」。
〔戎械〕いくさたうぐ。○〔唐〕「獻ニ馬牛――萬計」。「暗記ニ」。
〔儲械〕蓄へたる武器。○〔唐〕「士馬――、無ㇾ不
〔輜械〕いくさの荷物とうつはと。○〔唐〕「――ㇾ藏
野ニ。
〔糧械〕いくさのかてとうつはと。○〔唐〕「凡――飛輸、軍佐行留、悉裁ニ總之一」。
〔釋械〕かしを解きすつ。○〔唐〕「悉―ㇾ―歸ㇾ之」。

【梱】コン。苦本切 阮
㊀しきみ。(い)門の內外のしきり。○〔禮〕「外言不ㇾ入ニ于―一」。(ろ)內外の界。○〔周〕「―外之事、將軍裁ㇾ之」。
㊁なる、(就)。○〔方言、註〕「――成就也」。
㊂うつ、(扣)。○〔淮〕「―纂組」。

【梱】コン。苦悶切 願
㊀うちしめて齊等ならしむ、しまりて齊等となる、そろふ。○〔儀〕「既拾ニ取矢一―ㇾ之」。
㊁矢の侯に至りて著せざると。○〔儀〕「―一復」。

【梏】カク、コク。苦角切 覺
枳―は、其の實の柚の如き一種の木、きこく。

【梲】セツ、セチ。朱劣切 屑
うつばりの上の短き柱、梁上の楹、うだち。○〔禮〕「管仲山ㇾ節藻ㇾ―」。

【梲】タツ、タチ。他括切 曷
㊀大いなる杖、ぼう、つゑ。○〔淮〕「執ㇾ彈而招ㇾ鳥、揮ㇾ―而呼ㇾ狗」。
㊁脫に通じ用ふ。○〔荀〕「凡禮始ニ乎―一成ニ乎文一」。

【梲】トツ、トチ。他骨切 月 セイ、ゼ。職芮切 エイ、エ。于芮切 霽

前條の㈡に同じ。

【梳】ショ、山於切 魚　ソ。山徂切 虞　シク。設竹切 屋

㈠けづる。
（い）櫛を加へて毛髮を導き理む、くしけづる。○〔揚雄〕「頭蓬不レ暇レ——」。
（ろ）理め導く。○〔韓愈〕「蜂-屯蟻-雜不レ可ニ爬——ニ」。

㈡くし（櫛）。○〔唐〕「朝有ニ諷-諫一猶ニ髪之有レ—」。

〔櫛梳〕くしけづる、又、くし。○〔後漢〕ニ吾常晞-爽——」。
〔妝梳〕かみかたちをとゝのふること。○〔黄庭堅〕「小-鬟雖-醜巧ニ——ニ」。
〔釵梳〕あたまのかざしとくしと。○〔王建〕「私縫ニ菁-皈-筓ニ——ニ」。
〔髮梳〕もとゞりをくしけづる。○〔陳後主〕「春-樓——髻」。「作レ粧」。
〔紅梳〕あか色のくし。○〔王建〕「空揷ニ——ニ不レ
〔瓊梳〕たまのくし。○〔蘇軾〕「綠-髮照ニ——ニ」。

【梴】テン。丑延切　セン。尸連切　レン。陵延切 先　テン。丑展切 銑

㈠木の長き貌にいふ字、ながし。○〔詩〕「松-桷有レ—」。

㈡からうすのからくり（碓-機）。○〔揚雄〕「碓機也自レ關而東謂ニ之—ニ」。

【梵】ハン、ボン。扶泛切 陷

㈠もろ〳〵の邪欲を離るゝこと、淸淨にしてけがれなきこと。○〔法華經〕「淨修ニ—-行ニ」。

㈡波羅門、卽ち、印度の貴族、又、其の貴族の奉ずる宗教、卽ち、波羅門教。○〔法華經〕「我本著ニ邪-見ニ爲ニ——士師ニ」。

㈢波羅門教にて信仰する神、卽ち、ぼん天王。○〔華嚴〕「爲レ護ニ——衆ニ」。

㈣轉じて、佛家の物事にいふ字。○〔朱慶餘〕「閒雲入ニ——宮ニ」。

㈤調曲節奏をさゝのへて或は偈頌を唱へ或は經文を誦すること、ぼんばい、しやうみやう、つとめ。○〔王僧孺〕「高——宛-轉寧-止、震レ木遏レ雲」。

㈥印度國。○〔沈約〕「華—不レ同」。

㈦印度國の古代の語。○〔周〕「伯-琦床-上貝-書多譯レ—」。

〔淸梵〕淸淨無垢なること、又、きよきしやうみやう。○〔庾信〕「——兩-邊來」。
〔釋梵〕ほとけ。○〔劉滔〕「——寄ニ其身-光ニ」。
〔夜梵〕よるのつとめ。○〔江總〕「——聞ニ三-界ニ」。
〔幽梵〕奥ゆかしきつとめの聲。○〔儲光羲〕「——鄣-花臺」。
〔唄梵〕讀經しそねること。○〔李紳〕ニ磬疎聞ニ——聲ニ」。
〔曉梵〕朝のつとめの聲。○〔陸龜蒙〕「——陽烏當ニ石-磬ニ」。
〔晨梵〕前に同じ。○〔妙聲〕「香飄——合」。
〔午梵〕正午のつとめの聲。○〔王安石〕「——隔レ雲知レ有レ寺」。

【梵】フウ、房戎切 東　フ。房尤切 尤

㈠木の風を受け得る貌にいふ字。○

㈡芃の字に借り用ふ、さかんなり。〔漢都鄉正衞彈碑〕「——黍-稷」。

【梶】ビ、ミ。武斐切 尾

こずゑ（木-杪）。

【梼】トク。他谷切 屋

杖にて指す、さす。

【八畫】

【梨】リ。良脂切 支　レイ、鄰溪切 齊　ライ。切

㈠其の實は水氣多く味ひ甘美なる一種の木、なし。○〔孔融家傳〕「與ニ諸-兄ニ共食レ—」。

㈡老年者の稱、其の面にある浮垢の凍りたるなしの色に似たるよりいふ。○〔揚雄〕「眉—耋鮐老也、東-齊曰レ眉燕-代之北-鄙曰レ—」。

㈢剺に通じ用ふ、かばゝぐ、さく。○〔淮〕「剖ニ——之ニ」。

㈣一種の草、葉の狀荻の如くにて赤し、花は疽を癒すべしといふ。○〔山海經〕ニ大-山有レ草名レ—」。

〔蛤梨〕蟲の名、あまをぶね。○〔淮〕「蘆敖倦ニ龜殼而食ニ——ニ」。
〔胡梨〕とんぼうの一種、きえんま。○〔古今注〕ニ蜻-蛉之小而黄者曰ニ——ニ」。
〔山梨〕やまなし、一に鹿梨又は鼠梨ともいふ。○〔杜甫〕「——結ニ小-紅ニ」。
〔狐梨〕とんぼうの異名。○〔爾、疏〕ニ蜻-蛉一名ニ虰-蛵ニ、一名-負-勞ニ、江-東呼ニ——ニ」。

【棄】キ。去冀切 寘

㈠すつ。
（い）放ち置く。○〔左〕「生ニ女-子ニ、赤而毛、—ニ諸堤-下ニ」。
（ろ）投げ去る。○〔後漢〕「雞-肋食レ之則無レ所レ得、—レ之則如レ可レ惜」。
（は）廢す、やむ。○〔國〕「—レ稷弗レ務」。
（に）用ひず。○〔素問〕「其—レ衣而走者ニ」。
（ほ）顧みず。○〔莊〕「—レ妹不-仁也」。
（へ）忘る。○〔書〕「無レ荒ニ—朕命ニ」。
（と）退けて遠地に遣る。○〔荀〕「不レ安レ職則—」。

㈡すてらる、すたる（㈠の條參照）。○〔左〕「水-官—矣」。

〔播棄〕すつ。○〔書〕「—ニ—犂-老ニ」。
〔自棄〕已れとあきらめて役に立たぬとすること、卽ち、奮發の勇氣なきにいふ語。○〔孟〕「——者、不レ可ニ與有レ爲也」。「超然自-得」。
〔遺棄〕忘れて打ち捨つ。○〔蘇轍〕「——ニ尋-患ニ、」。
〔怠棄〕其の責を盡くさずして打ちやりおく。○〔晉〕「非所ニ——者多矣」。
〔遐棄〕遠ざけて打ちやりおく。○〔詩〕「旣見ニ君子ニ、不ニ我——ニ」。
〔屏棄〕退けすつ。○〔書〕「—ニ—典刑ニ」。
〔侮棄〕理に明かならずして打ちすておく。○〔書〕「—ニ—厥肆祀ニ」。
〔泯棄〕亡びすたる。○〔詩商頌譜〕「旣以——、唯有ニ商-頌ニ而巳」。
〔放棄〕（い）逐しで出だしやる。○〔春秋、疏〕「寬ニ其罪ニ而—ニ—之ニ也」。「忠-直之言ニ」。（ろ）打ちすてゝおく。○〔吳越春秋〕「大王—ニ—」。
〔慢棄〕あなどりて用ひぬ。○〔左〕「—ニ—刑法ニ」。
〔惰棄〕力を盡くさずして打ちやりおく。○〔左〕今成-子—ニ—其命ニ矣」。
〔斮棄〕きりすつ。○〔左〕「毋ニ是——ニ」。
〔皆棄〕違ひて從はぬ。○〔左〕「君又不-祥、—ニ—盟-誓ニ」。「法」。
〔捐棄〕打ちすつ。○〔名畫記〕「遂—ニ—餘-學ニ專」。
〔餘棄〕あましてうちやる。○〔史〕「—ニ—粱-肉ニ、而士有ニ饑者ニ」。「道」。
〔擯棄〕拂ひて打ちやる。○〔杜甫〕「——不レ擬レ
〔委棄〕すつ。○〔漢〕「陛-下——不レ納」。
〔割棄〕さきすつ。○〔魏〕「乃預有レ所ニ——ニ」。
〔禍棄〕わざはひ。○〔後漢〕「自求ニ——ニ」。
〔擯棄〕斥けすつ。○〔宋〕「正-人端-士、——不レ用」。○〔晉〕
〔耗棄〕減らして役に立てぬ、へりすたる。○〔晉〕「——於割-截之用ニ」。
〔絕棄〕捨て去りて心に留めぬ。○〔晉〕ニ—ニ—人-事ニ」。「之ニ」。
〔離棄〕見放して交らぬ。○〔南〕ニ親-故皆—ニ—之ニ」。
〔湮棄〕うづもる。○〔南〕「臣父—ニ—絕-域ニ」。
〔焚棄〕火にかけて燒く。○〔魏〕「宜ニ一-切—ニ—」。「其業ニ」。
〔爭棄〕先を競ひて打ちやる。○〔魏〕「百-工—ニ—」。
〔餒棄〕飢ゑて身を投ぐること。○〔隋〕「—ニ—於溝-壑ニ」。
〔紊棄〕亂れすたる、みだしすつ。○〔隋〕「周-德旣衰、舊-經——」。
〔黜棄〕退りぞけて見放す。○〔宋〕「中晁素純善

―・―大矣」。
（眡棄）輕しめ見放す。○〔易林〕「人所二―・―一」。
（流棄）定まれる家なくさすらふ。○〔劉向〕「―・―莫レ執」。
（疎棄）おろそかにし見放す。○〔神仙傳〕「嬰二此惡-疾一、已見二―・―一」。
（排棄）推しのけ打ちやる。○〔張華〕「火-粒願―・―」。
（毀棄）打ちこはし捨つ、こはれすたる。○〔屈平〕「黄-鐘―・―、瓦-釜雷-鳴」。
（捐棄）前に同じ。○〔王褒〕「―二―太-阿一」。
（燒棄）火中に投じてやきすつ。○〔宋祁筆記〕「每見二舊所レ作文一憎レ之、欲二―・―一」。
（淪棄）世に顯はれざること。○〔六一詩話〕「北詩―・―亦可レ惜」。
（投棄）なげすつ。○〔沈佺期〕「予―二南-畜一、承レ恩北-歸」。
（乍棄）忽ち打ちやる。○〔洞簫賦〕「漂―・―而爲レ他」。
（却棄）斥け去る。○〔杜甫〕「衆-魚常-才盡―・―」。
（斥棄）前に同じ。○〔韓愈〕「―二―與-馬一背二厥孫一」。
（滅棄）なくなし捨つ、なくなりすたる。○〔仲長統〕「叛二散五-經一、―二―風-雅一」。

【棿】ト、ヅ。同都切 虞 ㊀梌に同じ。㊁木枝四に布く。

【棅】ヘイ、ヒヤウ。陂病切 敬 柄に同じ。○〔莊〕「天-下奮レ―而不二與レ之偕一」。

【棆】チユン。株倫切 リン。理均切 眞 ㊀旁地に條を生ずる木。㊁梗の屬、杶に同じ。

【楤】ソウ、ス。倉紅切 東 千弄切 送 頭の尖れる擔ひ棒。

【楤】ソウ、ス。損動切 董 一種の木、たら。

【棈】セン。倉見切 霰 セイ、シヤウ。親盈切 庚 一種の木、もち。

【棉】ベン、メン。莫堅切 先 一種の植物、春種を下し秋實を結ぶ、實熟すれば其の皮四裂し中に白くして柔かなるものあり、其れを緝ぎて絲となし綿布を織る、きわた、もめん。別名は、吉貝、また、一種の木あり其の實は吉貝と同じく絲に緝ぎ布を織るべし。○〔李琮〕「衣裁木-上―」。

【棊】キ、ギ。渠之切 支 ㊀賭博の子、こま。○〔楚辭〕「菎-蔽象-―有二六-簿一些」。㊁局面の線により白黑の石をならべて勝負を争ふ一種の遊技、ご、其の黑白の石、ごいし。○〔博物志〕「堯造二圍-―一、丹-朱善レ之」。
（圍棊）ごをうつ。○〔韓愈〕「―・―鬪二白-黑一」。
（奕棊）前に同じ。○〔南〕「徐羨之頗工二―・―一」。
（布棊）ごいしをおきならぶ。○〔吳〕「教レ士如レ―・―」。
（陳棊）前に同じ。○〔蔡邕〕「夫張レ局―レ―」。
（置棊）前に同じ。○〔柳宗元〕「錯若二―・―一」。
（高棊）ごをうつことの上手なること。○〔劉基〕「死中求レ活是―・―」。

【棋】キ、ギ。居之切 支 ㊀棊に同じ。㊁ね、もと、（根-柢）。○〔史〕「萬-物根―・―」。

【棌】サイ。此宰切 賄 千代切 隊 かしは、（槲）。○〔史〕「―椽不レ刮」。

【棍】コン、ゴン。胡本切 阮 ㊀木を束ね、たばね。○〔揚雄〕「―三中-椒與二菌-桂一」。㊁自然。○〔揚雄〕「紛蒙-龍以―・―成」。

【棎】セン、ゾン。時占切 鹽 其の實柰に似たる一種の木。○〔左思〕「―・―榴禦レ霜」。

【棐】ヒ。敷尾切 尾 ㊀ゆみだめ、（弓-枝）。㊁たすく、（輔）。○〔書〕「大―二忱-辭一」。㊂榧に同じ、かや。○〔晉〕「見二門-生―几滑-淨作一レ書」。㊃篚に同じ、はこ。一説に、橢圓形のはこ。○〔漢〕「歲入二貢-―一」。
（篤棐）てあつくたすく。○〔書〕「―・―二時二-人一」。

【棑】ハイ、ベ。蒲皆切 佳 ㊀いかだ、（筏）。㊁たて、（盾）。

【棑】ハイ、ベ。步拜切 卦 ㊀一種の木。㊁舟の後の木。

【棑】ハイ、バイ。蒲蓋切 泰 蒲味切 隊 舟の前の木。

【棒】ハウ、ボウ。步項切 講 ハウ、バウ。蒲浪切 漾 ㊀杖梃、つゑ。○〔魏〕「入-馬逼戰、刀不レ如レ―」。㊁つゑを加ふ、うつ、たゝく。○〔北〕「赤-棒―レ之」。
（杖棒）つゑ。○〔周〕「矢盡以二―・―一-打レ之」。

【棓】ハウ、ボウ。步項切 講 ハウ、バウ。蒲浪切 漾 ㊀つゑ、（杖）。○〔周〕「持二一白-―一大-呼出」。㊁連枷、からざを。○〔揚雄〕「僉自レ關而西謂二之―一」。㊂うつ、（擊）。○〔揚雄〕「近レ之―」。㊃高下の絶處に設けたるふみ板、ふみいた、ふみつぎ。○〔公羊〕「踊二于―一而闚レ客」。㊄天―は、星の名。○〔史〕「紫-宮右三-星曰二天-―一」。
（巨棓）おほいなるつゑ。○〔唐〕「以二―・―一-咨-頭」。

【棓】ホウ、プ。蒲侯切 尤 ㊀前條の㊃に同じ。㊁枝を生ずると網の如き一種の寄生木。

【棓】ハイ、ベ。蒲回切 灰 いた、（板）。

【棔】コン。呼昆切 元 合―は、合歡の一名、ねぶのき。

【棕】ソウ、ス。子紅切 東 椶に同じ。

【枘】ダイ、ナイ。奴對切 隊 草木の實の垂るゝ貌にいふ字。

【棖】タウ、ヂヤウ。除耕切 庚 ㊀門の兩旁の長閑、はうだて、ほこだち。○〔儀〕「大-夫中二―與レ闑之間一」。㊁つゑ、（杖）、又、つゑを加ふ、ふる、あつ。○〔謝靈運〕「以レ物―二撥之一應レ手灰-滅」。㊂まだがふ、（隨）。○〔方言、註〕「―柱、令二相隨一也」。㊃一種の果、くれんぼ、橙。○〔金城記〕「欲下以二―子一臣中櫻-桃上但恨不レ同レ時耳」。
（天棖）天の門。○〔孟郊韓愈聯句〕「幸得レ履二中-氣一、忝從レ拂二―・―一」。

【棖】チヤウ、ヂヤウ。直良切 陽

前條の㊁に同じ、又、人の名。

【棗】サウ、ソウ　子皓切　皓

一種の果樹、葉互生し花其の間に開く、實橢圓形なり、なつめ。○〔儀〕「婦摯舅用二—・栗一」。

〔剥棗〕なつめの實をとる。○〔詩〕「八月—レ—」。
〔酸棗〕なつめの一種、さねぶとなつめ。○〔本草〕「釋名—・—、一名レ樲、一名二山棗一」。
〔乾棗〕ほしたるなつめのみ。○〔世説〕「見二漆箱盛二—・—一」。
〔苦棗〕味ひのにがきなつめ。○〔爾〕「邀、洩—・—」。
〔内棗〕ぐみの異名。○〔本草〕「山茱萸一名二蜀酸棗、一名二—・—一」。
〔絳棗〕あかきなつめ。○〔庾肩吾〕「参差—・—浮」。

【棘】キョク、コキ。紀力切　職

㊀小き棗に似たる一種の木、叢生す、刺多く材堅くして赤し、多く藩籬を作るに用ふ、うばら、いばら。○〔詩〕「吹二彼—・心一」。
㊁刺ある草木の稱、いばら。○〔揚雄〕「凡草木刺レ人、江・湘之閒謂二之—一」。
㊂すみやか、せまる、（急）。○〔詩〕「—・人欒々」。
㊃やす、つかる、（羸）。○〔呂氏春秋〕「—者欲レ肥、々者欲レ—」。
㊄周の時代に、外朝廷の左右に各九株の「うばら」を植ゑ、左の「うばら」の下に、孤、卿、大夫、位し、右の「うばら」の下に、公、侯、伯、子、男、位するの定めなりしより、外朝、又、外朝の位階にいふ字。○〔禮〕「大司寇聽二之—・木之下一」。
㊅戟に通じ用ふ、ほこ。○〔禮〕「越—大弓」。
㊆囚を執へ繋ぐ所、かこひ。○〔左〕「棒レ之以レ—」。

〔天棘〕天門冬の別名、すべるぐさ。
〔叢棘〕むらがりおひたるいばら。○〔易〕「置二于—・—一、三歳不レ得」。
〔苞棘〕おひ茂りたるいばら。○〔詩〕「集二于—・—一」。
〔荊棘〕いばらの木、又、困難なる場合紛擾せる事柄にいふ語。○〔後漢〕「清潔之士、自苦二于—・—之間一」。
〔荊棘〕前に同じ。○〔左〕「蒙二—・—一以來、歸二我先君一」。「葛生二—・—一」。
〔蒙棘〕掩ひかぶせる程におひたるいばら。○〔詩〕
〔九棘〕外朝の閒に植ゑある九木のいばらの木、又、九卿の稱。○〔後漢〕「使二三槐—・—議二臣罪戾一」。
〔枳棘〕からたちの木。○〔漢〕「—・—之榛々兮」。
〔列棘〕列卿に同じ。○〔南〕「數年遂登二—・—一」。
〔杞棘〕くことといばらと。○〔詩〕「湛々露斯、有二彼—・—一」。
〔孔棘〕甚だつかれおとろふ。○〔詩〕「—・—且殆」。
〔越棘〕天子の戎器にて越の國に産するほこのと。○〔呉都賦〕「呉鉤—・—」。「纛」。○
〔槐棘〕（い）ゑんじゆといばらと。○〔爾〕、「—・—醜（ろ）三公九卿。○〔任昉〕「將レ登二—・—一宏振綱上」。
〔慘棘〕おできいましめ。○〔唐〕「楚掠—・—、鍛二成其罪一」。
〔楚棘〕いばら。○〔管〕「北草宜二—・—一」。
〔空棘〕建築物などすべてなくなりていばらのみ生ひ茂ること。○〔越〕「邦爲二—・—一」。
〔蘖棘〕あかざといばらと、即ち、賤しき草木にいふ語。○〔劉向〕「—・—樹二于中庭一」。
〔險棘〕かしましきこと。○〔蔡邕〕「入情—・—」。
〔戈棘〕ほこ。○〔謝靈運〕「—・—彈二呉子之精靈一」。「時—・—一」。
〔艱棘〕なやむこと、困難といふに同じ。○〔方岳〕「遭二

【棙】レイ、ライ。郎計切　霽

㊀琵琶の撥、ばち。○〔韻會〕「琵琶撥也、或作レ—」。
㊁機關、からくり、ぜんまい、ゐかけ。○〔廣記〕「雕レ木爲二鸞鶴一、置二機—于腹中一、發レ之則飛」。

【棙】レツ、レチ。力結切　屑

もさらす、ねぢる、（紾）、又、さる、（捩）。○〔韓愈〕「—レ手覆レ羮」。

【㮚】カン、ケン。苦減切　豏

安からざる貌にいふ字。

【棚】ハウ、ビヤウ。蒲庚切　庚
ホウ、ボウ。蒲登切　蒸

㊀たな。
（い）材を架して物を載するに設けたるもの、たな。○〔韓愈〕「幽蠹落二書—・—一」。
（ろ）架棧、即ち、木を編みわたせるはし。○〔唐〕「大治二戰—・—雲橋一」。
㊁やなぐひ、やづつ、（矢藏）。○〔宋〕「射二死中一皆有二射—・—畫暈的一」。

〔涼棚〕すゞみたな。○〔開天遺事〕「植二畫柱一以二錦綺一結爲二—・—一」。
〔書棚〕書物たな。○〔皮日休〕「鼯鼠落二—・—一」。
〔綵棚〕うつくしくいろどれるたな。○〔宋〕「爲設二—・—于左右廡一」。
〔戰棚〕いくさに用ふるたな。○〔墨客揮犀〕「溳城守具中有二—・—一」。
〔乞巧棚〕七夕を祭るにまつらふるたな。○〔東京歲時記〕「七夕家々錦綵結爲二—・—・—一」。

【棅】イン。夷針切　侵

水を通ずる管、さひ、ひ。

【棨】ケイ、カイ。苦計切　霽

きざむ、（刻）。

【棫】イク、オク。余六切　屋

車欄（てすり）を覆ふもの、てすりかけ。

【棜】ヨ、オ。依據切　御

几の屬にして、樽を承くる器、さかだろだい。○〔禮〕「大夫側尊用レ—」。

【棝】コ、古暮切　遇
ク。
コ、果五切　麌
ゴ。

—・斗は、鼠を落さし入れて捕る具、ねずみおとし。

【棞】棞に同じ。

【梱】キン、巨隕切　軫
グン。
コン、胡昆切　元
ゴン。

一種の木。

【㮖】リヤウ、ラウ。力掌切　養

松の樹の脂、まつやに。

【棟】トウ、ツ。多貢切　送

㊀むね。
（い）屋宇の最高の所に亙す長き材、むなぎ。○〔易〕「大過—隆吉」。
（ろ）屋宇の最高の所。○〔易〕「上—下宇以待二風雨一」。
（は）首要なる人の稱。○〔國〕「太子國之—也」。
（に）㮚の四すみ。○〔左、註〕「四角設レ—」。
㊁星の名。○〔博雅〕「大角謂二之—星一」。

〔屋棟〕おなぎ。○〔宋〕「生時有レ芝、產二—・—一」。
〔梁棟〕うつばりとおなぎと、最も要となるものにたとへていふ語。○〔梁武帝〕「入仕作二—・—一」。
〔厚棟〕あつく大いなるおなぎ。○〔魏收〕「—・—不レ撓、游レ刃恭然」。
〔累棟〕幾層もかさなりたる屋根。○〔張載〕「—・—出二雲表一」。
〔孤棟〕一つのおなぎ。○〔宋〕「今用レ賢如レ倚二—・—一」。
〔生棟〕材なまにて狂ひを生じ易きおなぎ。○〔管〕「—・—覆レ屋」。
〔雲棟〕高く秀でたる屋のむね。○〔張正見〕「—・—疑二飛雨一」。
〔文棟〕文章をかくものゝかしら株となること。○〔鍾嶸〕「平原兄弟、鬱爲二—・—一」。
〔綺棟〕色どりを施したるおなぎ。○〔大業雜記〕

「雕-梁──、一日之內、巍-然峙-立」。

〔紅棟〕赤く飾りをなせるむなぎ。○〔柳毅傳〕「飾二琥-珀於──一」。

〔甍棟〕いらかとむなぎと、卽ち屋根のこと。○〔劉孝綽〕「胡-猿-擧二──一」。

〔連棟〕むなぎをならべ陳ぬること、又、ならびつらなるむね。○〔仲長統〕「──數-百」。

〔崇棟〕高き屋のむね。○〔張衡〕「──廣-宇」。

〔梁棟〕たるきとむなぎと最も要となるものにたとへていふ語。○〔蔡邕〕「輔-佐重-臣、國之──」。

〔飛棟〕高き屋のむね。○〔曹植〕「春-鳩鳴二──一」。

〔比棟〕前に同じ。○〔陶弘景〕「連-檐──、各謂二知-道一」。

〔接棟〕つゞける屋のむね、又、むねをつゞく。○〔李華〕「──臨二雙-闕一」。

〔高棟〕空に聳えたる屋のむね。○〔蘇軾〕「華-湍縹-緲浮二──一」。

〔茅棟〕かやぶきのむね。○〔盧照鄰〕「──淋-々」。

〔折棟〕くじけたる屋のむね。○〔任昉〕「──崩-榱、壓-焉自-及」。

〔刻棟〕きざみて飾りを施したるむなぎ。○〔魏收〕「霞-暉染二──一」。

〔藻棟〕畫がきたるむなぎ。○〔王珪〕「──臨レ流啓」。

〔隆棟〕高きむなぎ。○〔許敬宗〕「──象二端-衡一」。

〔複棟〕重なりたる屋のむね。○〔駱賓王〕「──雜二侵二黃-道一」。

〔欹棟〕傾きたるむなぎ。○〔盧綸〕「──止二羣-翟-史一」。

〔充棟〕むなぎにまでもとゞく。○〔陸游〕「──貯二──一」。

〔宏棟〕大いなるむなぎ。○〔李德裕〕「亭古思二──一」。

〔巨棟〕前に同じ。○〔韓琦〕「──既不レ撓」。

〔邦棟〕國の肝要なる人。○〔梅堯臣〕「伯-仲供──」。

〔修棟〕長きむなぎ。○〔曾鞏〕「皎-々上二──一」。

〔層棟〕前に同じ。○〔朱熹〕「誰將二──一厭二嶢-屼一」。

【棲】サフ、セフ。色甲切 洽

木理の起こる貌にいふ字、きめだつ。

【椄】セフ、ソフ。疾葉切 葉

つぐ、まじはる、（接）。

【椬】エン。衣檢切 琰

──蘸は、べにりんご、（柰）。

【椬】エン、於瞻 オン。切 豔 アン、烏含 オン。切 覃

──檢は、一種の木。

【棠】タウ、ダウ。徒郎切 陽

㊀甘──、卽ち、野生の棃、枝に刺多く實は大いなる棗の如し、味ひ澁く酸し、材は弓に作るべし、こりんご、やまなし。○〔詩、箋〕「止二舍小──之下一而聽-斷」。

㊁車の兩旁の横木。○〔釋名〕「──蹤也、在二車兩-旁一」。

〔沙棠〕木の名、其の實は李の如くにして核なく極めてうまきもの。○〔呂氏春秋〕「果之美者、──之實」。

〔海棠〕かいだうの木。○〔本草〕「──花不レ香」。

【樘】タウ、ダウ。徒郎切 陽

棠に同じ。

【棡】カウ。居郎切 陽

㊀牆の横木。

㊁たけ高き一種の木。○〔宋〕「資-州獻二梅青──二-木合成二連-理一」。

【棢】バウ。方紡切 養

輞に同じ、車のおほわ。

【棣】テイ、タイ。大計切 霽

㊀其の實は櫻桃の如くにて食すべき一種の木。○〔爾〕「常-棣──」。

㊁さほる、（通）。○〔漢〕「正-月乾之九-三、萬-物──通」。

〔唐棣〕すもゝの一種にて其實の極めてちひさきもの。○〔詩〕「何彼襛矣、──之華」。

【棣】チ、ヂ。徒二切 寘

前條の㊀に同じ。

【棣】タイ、ダイ。待戴切 隊

閑習する貌にいふ字、なろ、ならふ。○〔詩〕「威-儀──不レ可レ選也」。

【棤】セキ、シャク。思積切 陌

木の皮の粗なるものゝ稱。

シャク、サク。七約切 藥

【棥】ヘン、ボン。符袁切 元

樊に同じ、まがき、かき、おほひ。

【棦】サウ、シャウ。初耕切 庚

木の束ねたるもの、たばぎ、たば。

【椛】ヒ。頻脂切 支

一種の木、車の轂（こしき）と爲すべし。

【棧】サン、ゼン。祖限切 潸

㊀架けわたしたる往來の路、たな、かけはし。○〔史〕「燒二絕所レ過──道一」。

㊁竹木の材のまゝにて飾りを施さゞる車、卽ち、革にてつゝまず桼にてぬらざるもの。○〔周〕「士乘二──車一」。

㊂柩を載する車、ひつぎぐるま。○〔儀〕「賓奠二幣于──一」。

㊃音樂に用ふる小き鐘。○〔爾〕「小-鐘謂二之──一」。

㊄車の行く貌にいふ字。○〔詩〕「有二──之車一、行二彼周-道一」。

〔危棧〕けはしきかけはし。○〔元稹〕「每レ逢二──處一、須レ作二貫魚行一」。

〔雲棧〕たかきかけはし。○〔王建〕「轉レ江──細」。

〔飛棧〕前に同じ。○〔陸游〕「──連レ雲是坦途」。

〔山棧〕まがりたるかけはし。○〔文同〕「──繞二斜-谷一」。

〔朽棧〕くさりたるかけはし。○〔韓愈〕「──一」。

〔霜棧〕しもの ふりかゝりたるかけはし。○〔陸游〕「悅若」乘二瘦-馬行二──一」。

〔緣棧〕かけはしによりそふ。○〔蘇舜欽〕「──更險-絕」。

〔梁棧〕かけはし。○〔虞集〕「復著二──一橫二淸-湍一」。

〔接棧〕長くつゞきたるかけはし。○〔虞集〕「──迴二山閣一」。

〔虹棧〕にじの如くにかゝりたるはし。○〔薩都剌〕「──懸-崖──危」。

【棧】サン、ゼン。士諫切 諫

㊀たな。

（い）前條の㊀に同じ、かけはし。○〔漢〕「燒二絕──道一」。

（ろ）木を編み架したるもの。○〔公羊〕「奄二其上一而──二其下一」。

（は）床の下に架したる横木、ねだ。○〔管〕「傳二馬──一最難」。

㊁高峻なる貌にいふ字、たかし。○〔張衡〕「──巉-嶮」。

㊂欞木、かしのき。○〔爾〕「──木、干-木」。

〔石棧〕いしにて作れるかけはし。○〔李白〕「天-梯──相勾-連」。

〔劍棧〕蜀の劍閣にわたせるかけはし。○〔王勃〕「前邁二──一玉-壘千-尋」。

〔磴棧〕石のかけはし。○〔韓愈〕「氷-寒滑二──一」。

〔棚棧〕かけわたせるたな。○〔沈遼〕「牛-羊閉二──一」。

〔細棧〕ほそくかけわたせるかけはし。○〔陸游〕「山-驛──移」。

〔橫棧〕かけはしの上にたなびきよこたはる。○〔陸游〕「冷-雲黯-々朝──」。

〔斷棧〕中途より切れて落ちたるかけはし。○〔陸游〕「馬經二──一危無レ路」。

〔馬棧〕木をあみて作りたる馬やのねた。○〔職〕「章-父敎レ之、而埋二──之下一」。

〔阜棧〕前に同じ。○〔莊〕「編レ之以二──一」。

〔羊棧〕ひつじをつなぎおくねた。○〔劉禹〕「──雜-蝴接」。

〔欹傾棧〕かたぶきて危険なるかけはし。○〔范成大〕「——路繞レ山明」。

【棽】 シン、ジン。鋤臻切 眞
もの丶衆く盛んなる貌にいふ字。○〔漢〕「叢‧蘼——」。

【棔】 カウ、コウ。公道切 皓
一種の木。

【椌】 カウ、コウ。居勞切 豪
棹に同じ、はねつるべ。

【椈】 キウ、ク。巨九切 有
柏に同じ。

【椈】 キク、コク。居六切 屋
椈に同じ。

【棨】 ケイ、カイ。遣禮切 薺
㊀其の柄戟の如くにて繒ある傳信、はたぼこ、一說に、木を刻める合符、わりふ。○〔後漢〕「取ニ——信一閉ニ諸禁門一」。
㊁さやをかけたる殳、前驅の備へに用ふるもの、たてやり。○〔漢〕「有レ衣之戟曰レ—」。

【棩】 エン。縈員切 先 烏縣切 霰
まがれる木。

【棪】 エン。以冉切 琰
一種の木、實は紅林檎に似て赤く味ひ甘し。○〔山海經〕「堂庭之山多ニ——木一」。

【棪】 セン、習琰切 琰 エン、余廉ゾン。切 オン。切 鹽
其の膠は香に和するに用ふる一種の木。

【棫】 ヨク、影逼井キ。切 職 井ク、乙六ヲク。切 屋
叢がり生ずる一種の木、枝に刺あり實は耳の如くにて紫赤色を帶ぶ、たらのき、さりさまらず、白‧桜、一說に、はゝそ、(柞)。○〔詩〕「柞——拔矣」。
〔芃棫〕盛におひ茂れるたらの木。○〔王海〕「薪有ニ——一」。

【棬】 ケン。驅員切 先
木をまげて作れる圓き器、わげもの、まげもの、(盂)。○〔孟〕「順ニ杞‧柳之性一而以爲ニ桮——一」。

【棬】 ケン、クワン。居媛切 元
桊に同じ、牛の鼻木。○〔呂覽〕「五‧尺童子引ニ其—一而牛知レ所ニ以順一レ之」。

【楷】 タフ、ドフ。徒合切 合
柱の上の栱、ますがた。○〔爾註〕「柱‧上欂亦名レ析又曰レ—」。

【森】 シン、所今ソン。切 侵 所禁切 沁
㊀木の衆き貌にいふ字。○〔潘岳〕「蕭——繁‧茂」。「——槮柞‧樸」。
㊁木の長き貌にいふ字。○〔長笛賦〕
㊂盛んなる貌にいふ字。○〔潘岳〕「—奉レ璋以階‧列」。
㊃物の衰へ垂るゝ貌にいふ字、たる、たる。○〔文選〕「蜛‧蝫——衰以垂レ翹」。
㊄繁蔚す、しげる、あつまる。○〔雲笈七籤〕「盛以ニ雲‧錦之囊一、秘ニ鬱——之笈一」。「星燦‧然——」。
㊅駢立す、たつ、ならぶ。○〔梅堯臣〕「衆‧
㊆寒心、(ぞッと)する貌にいふ字。○〔溫庭筠〕「畫‧壁陰——九‧子堂」。
〔森森〕竹木などのしげれる貌にいふ語。○〔世說〕「——如ニ千‧丈松一」。「——」。
〔蕭森〕さびしき貌にいふ語。○〔張九齡〕「秋‧樹亦之音一、則背脅——」。
〔悚森〕からだのぞッとすること。○〔化書〕「解ニ領‧蛇
〔聳森〕たかくしげれる貌にいふ語。○〔陳後主〕「高‧枝自ト——」。
〔林森〕さかんにおほき貌にいふ語。○〔李子卿〕「戈‧矛——」。「質寒」。
〔踈森〕まばらにしげる。○〔玉叡〕「庭‧竹——玉‧
〔淸森〕竹木などのきよらかにしげること。○〔陸希聲〕「一‧逕——五‧月寒」。
〔嚴森〕きびしくおごそかなること。○〔宋濂〕「——五‧刑布レ秋‧肅」。

【禁】 キン、コン。居蔭切 沁
樽を承くる桉、つくゑ。

【梣】 ジン、ニン。忍甚切 寑
—‧棗は、一種の果。

【梣】 シン、ソン。式荏切 寑
櫓に同じ。

【棰】 スヰ。主蘂切 紙
㊀杖をもて擊つ、うつ、たゝく、むちうつ。○〔周〕「薄‧腊曰レ脯、—レ之而施ニ薑‧桂一」。
㊁罪囚をうつ杖、しもと、つゑ。○〔漢〕「—‧楚之下、何求不レ得」。

【棰】 タ。都果切 哿
木の叢り生ずる貌にいふ字。

【棱】 ロウ。盧登切 蒸
㊀かど。
(い)外部の尖り出でたる所、すみ、廉隅。○〔丹鉛錄〕「古‧人殿‧閣簷—閒有ニ風‧琴風‧箏一」。
(ろ)威嚴あること、自ら守るに堅きこと、きはだちて見はるゝこと。○〔後漢〕「剛——疾レ惡」。
㊁勢威、いきほひ。○〔唐〕「聳‧轂之下、風——甚擧」。
㊂かど立つ貌にも、いきほひ強き貌にもいふ字。○〔唐〕「立レ朝——有ニ風‧望一」。
〔威棱〕威光のこと。○〔漢〕「——憺‧乎鄰‧國一」。
〔剛棱〕强くかどたちたること。○〔後漢〕「允性——疾‧惡」。
〔摸棱〕明白ならざること。○〔唐〕「決レ事不レ欲‧明白、——持‧兩‧端可也」。
〔觚棱〕堂殿の最も高くかどたちたる所。○〔杜牧〕「——拂ニ斗‧極一」。
〔風棱〕風采の威嚴あること。○〔韓愈〕「四‧海欽ニ——一」。「敀」。
〔衣棱〕衣服のひだ。○〔蘇轍〕「曉レ知流‧滋——
〔廉棱〕物體のかどのこと。○〔白居易〕「有ト——銳劇レ如ニ劍‧戟一」。「—」。
〔抗棱〕威光をあぐること。○〔後漢〕「賊ニ四‧夷一而—レ」。
〔雄棱〕すぐれたる威光。○〔舊唐〕「將‧帥——」。
〔嚴棱〕きびしきこと。○〔唐〕「玲瓏レ治——」。
〔眉棱〕まゆげのかど。○〔李賀〕「梵宮眞‧相——聳」。
〔枕棱〕まくらのかど。○〔韓偓〕「玉‧釵垂ニ——一」。
〔兵棱〕兵力のつよき威光。○〔曾鞏〕「四‧方懾——」。「倂ニ半‧空一」。
〔嶒棱〕けはしき山のかど。○〔孫觀〕「雪‧脊——

【棲】 セイ、サイ。千西切 齊
㊀栖に同じ、すむ、すみか。○〔詩〕「衡‧門之下、可ニ以—‧遲一」。
㊁車馬をえらび閱する貌にいふ字。○〔詩〕「六‧月——戎‧車既飭」。
㊂—‧屑は、往來する貌にいふ字、ゆききす。○〔後魏〕「京‧師遼‧遠、實憚ニ——屑一」。

〔幽棲〕俗地をはなれてかくれすむ。○〔杜甫〕「一ー地僻綣過少」。
〔高棲〕前に同じ。○〔謝靈運〕「蹔ニーー之意得ニ」。
〔山棲〕やまのなかのすまゐ。○〔何氏語林〕ニ鳳凰不レ悟ニーー」。
〔故棲〕もとのすみか。○〔孟郊〕「羈禽思ニーー」。
〔羈棲〕たびのすみか。○〔杜甫〕「ーー負ニ幽意ニ」。
〔特棲〕ひとりにてすむ。○〔王粲〕「上有ニーー鳥ニ」。

【棳】セツ、セチ。職悅切 [屑]
梲に同じ。

【棴】フク、ボク。房六切 [屋]
崑崙山より出づる一種の木。

【椒】ソク。蘇谷切 [屋]
ー常は、一種の木。

【棵】クワン、グワン。戶管切 [旱]
㊀斲ち切りたる木、きぐれ。㊁薪蒸の束、たきゞのたば。

【棵】クワ。苦果切 [哿]
一種の木。

【棄】井。于貴切 [未]
㊀草木の盛んなる貌にいふ字。㊁たぐひ（類）。

【棧】サン、セン。所鑒切 [陷]
屋翼の柱の外の欂、のき、ひさし。

【棶】ライ。落哀切 [灰]
即ーーは、其の葉栜に似たる一種の木、實は細く圓くしてくろうめもどきの實の如く生なるは靑く熟せるは黑し、材は車輞に適すといふ、ちし やのき。

【椗】テイ、タイ。典禮切 [薺]
のき、（樀）。

【椉】ベイ、マイ。彌計切 [霽]
檵ーーは、一種の木、一說に、枸杞の別名。

【棷】シウ、シユ。菑尤切 [尤]

【棷】ソウ、ス。子侯切 [尤]
㊀たきゞ（木薪）、しば、（柴）。㊁ー欅は、つげ。

【棷】シウ、シユ。又荷切 [有]
たて、（戢）。

【棷】
㊀はたぼこ、（棨）。㊁ひやうしぎ、（柝）。㊂聚まれる草。㊃しば（柴）。
サイ、祖外切 [泰] スヰ。將遂切 [寘]
ゼ。

前條の㊂に同じ。

【棸】シウ、側鳩切 チウ、陳留切 [尤]
ス。 ヂユ。
人の姓。○〔詩〕「ー子內史」。

【棸】チウ、ヂユ。除柳切 [有]
一種の木。

【棹】タウ、デウ。直教切 [效]
櫂に同じ、かい、かぢ、さを。○〔謝靈運〕「鶩レー逐ニ驚流ニ」。

【棹】タク、ドク。直角切 [覺]
㊀いす（倚卓）。㊁幹葉共に椿に似たる一種の木。

【棺】クワン。沽歡切 [寒]
直接に屍を藏むる匣、ひつぎ、うちくわん、はだつきのひつぎ。○〔禮〕「有虞氏瓦ーー、夏后氏堲周、殷人ーー椁」。
〔輿棺〕ひつぎをになふ。○〔魏〕「意欲下ーレー詣レ闕、論ニ雍罪惡一自殺切諫上」。
〔蓋棺〕ひつぎのふたをす、又、人の死して世と絕つをいふ語。○〔韓愈〕「ーレー事乃了」。

【棺】クワン。古玩 [翰] 古患 [諫]
切 切
死骸をひつぎに斂む、をさむ。○〔左〕「曹人兇懼、爲ニ其所レ得者ーー而出レ之ニ」。

【棻】フン、ボン。府文切 [文]
一種の香木。

【棼】フン、ブン。符分切 [文]
㊀木多し、おほし。○〔說文〕「林木ーー錯」。㊁複なれる屋宇の棟、むなぎ。○〔班固〕「列ニーー橑一以布レ翼」。㊂麻布、あさぬの。○〔周〕「素車ーー蔽」。㊃みだる、（亂）。○〔書〕「泯々ーー」。

【棽】チン。丑林切 [侵]
枝條花穗の垂るゝ貌にも又物の繁り蔚んなる貌にもいふ字。○〔班固〕「鳳蔚ーー麗」。

【棽】シン。疏簪 リン。犂沉 [侵]
切 切
木の枝の扶疎なる貌にいふ字、まばら。

【棜】オウ、烏侯 [尤]
ウ。 切

トウ、他候 [宥] シウ、市由
ツ。 切 シユ。切

【梘】ゲイ、ガイ。五兮切 [齊]
地の名。
輗に同じ、くびき。

【梘】ゲツ、ゲチ。倪結切 [屑]
安からず、あやふし、一說に、あし、（凶）、又一說に、のり、（法度）。○〔揚雄〕「圜方杌ーー其內窾換」。

【椀】ワン。於卵切 [旱]
盌に同じ、小さき盂、こばち。○〔世說〕「晉王導擧ニ琉璃ーー一曰此ー腹空」。

【椐】クツ、ゴチ。渠勿切 [物]
斷木、かぶ。

【椁】クワク。光鑊切 [藥]
㊀棺の外郭、即ち、棺を納るゝひつぎ、うはひつぎ。○〔左〕「范獻子去ニ其柏ーー」。㊁はかる、（度）。○〔周〕「參ニ分其牙圍一而漆ニ其二、ーー其漆內一而中ニ詘之一以爲ニ之轂長ニ」。

【椆】コツ、コチ。呼骨切 [月]
高き貌にいふ字、たかし。

【椆】カウ、ガウ。五剛切 [陽]
屋宇の斜角、やれのかど。

【椄】セフ、ソフ。即涉切 [葉]
㊀木を續ぐ、つぐ。㊁雨の物を離れざらしむるために施す材、かすがひ、くさび。○〔淮〕「大

者爲ニ舟-航柱-梁一小者爲ニ一-一-楮」。

【椅】イ。於宜切　支　於義切　寘
梓の屬、梓と同實質にして皮は桐に同じ、あづさ。○〔詩〕「一-桐-梓-漆」。
（高椅）たけたかきあづさの木。○〔潘岳〕「通-衢列ニ一-一ニ。
（雲椅）前に同じ。○〔陸游〕「丹-崖被ニ一-一ニ。

【椅】イ。隱綺切　紙
㊀後に倚りかゝりのある坐発、こしかけ、いす。㊁梔の條を見よ。

【棅】ヘイ、ヒヤウ。卑盈切　庚
一-棡は、たゆろ。

【椆】チウ、ヂユ。陳留切　尤
寒氣に遇ふも凋まざる一種の木。○〔山海經〕「虎-首之山多ニ一-椐ニ。

【椆】シウ、シユ。職救切　宥
木一一は、船の篙木、さを。

【椆】キウ、ク。己幼切　宥
一種の木。

【椇】グ、俱禹切　麌　キヨ、俱許切　語　ゴ。　コ。
㊀枳一は、一種の喬木、實の形珊瑚の如し、けんぽなし、白石李。○〔禮〕「婦-人之贄、一、榛、脯、脩、棗、栗」。
㊁殷の代に用ひし俎。○〔禮〕「殷俎以レ一」。
㊂曲撓す、まぐ、まがる、たわむ。○〔禮、註〕「一之爲レ言枳-一也、謂レ曲ニ撓之一也」。

【椈】キク、コク。居六切　屋

幹高く聳ゆる木、性堅く緻かにして脂ありて香し、ひのき。○〔禮〕「暢-臼以レ一」。

【椼】カウ、ゲウ。何交切　肴
くちなし、（梔-子）。

【椈】キヨク、コク。居玉切　沃
㊀食を擧ぐるもの、ぜん。㊁こし、（輿）。

【椊】ソツ、ゾチ。昨沒切　月
一-杌は、柄を内るゝ孔、ほぞ、一說に、杜の上のほぞ。

【椊】サツ、サチ。攢活切　曷
一-杌は、木の短く出づる貌にいふ字。

【椊】ス井。秦醉切　寘
木朽つ、くさる、くつ。

【椊】不に同じ、ひこばえ。

【椋】リヤウ、ラウ。呂張切　陽
一種の木、其の葉は柹に似たり、實は細く圓くしてくろうめもどきの如く其生なるの靑く熟するもの黑し、其材質は堅く重くして車輞に作るに適すといふ、ちしやのき。○〔爾〕「一即-棶」。

【椌】カウ、コウ。枯江切　江
キヤウ、カウ。驅羊切　陽
祝樂の稱。○〔禮〕「鞉-鼓一-楬」。

【椌】コウ、ク。枯公切　東

㊀器物の朴、きぢ。㊁むなし、（虛）。

【棲】桜に同じ。

【棲】井。於爲切　支
田器、くは、すきなど。

【植】シヨク、ジキ。常職切　職
㊀木をたてゝ戶の鏁（とざし）を維持するもの、たてくわんのき。○〔淮〕「縣聯房一」。
㊁根生の屬の總稱、うゑもの。○〔周〕「其一-物宜ニ叢-物ニ。
㊂たつ、（立）。○〔周〕「一ニ虞-旗于中ニ」。
㊃おく、（置）。○〔書〕「一レ璧秉レ珪」。
㊄そばだつ、（竦）。○〔淮〕「諸-侯必一レ耳」。
㊅うゝ、（種）。○〔班固〕「一ニ華-平於春-圃ニ。
㊆はしら、（柱）。○〔班固〕「一-鍛縣蔵」。
㊇鐘簿を懸くる柱、かひこのすばしら。○〔禮〕「季-春具ニ曲-一ニ。
㊈こゝろざし、（志）。○〔屈平〕「弱-顏固-一」。
㊉材木。○〔周〕「屬ニ其一ニ。
⑪部下の作事を監督すること。○〔左〕「爲レ一巡レ功」。
⑫よる、よす、（倚）。○〔論〕「一ニ其杖ニ而芸」。
⑬根本、根據、もと、ね。○〔淮〕「凡此四者兵之幹-一也」。
⑭行列、なみ。○〔莊〕「列-士壞レ一」。
（播植）蒔きつけうゝること。○〔南〕「性好ニ一-一ニ。
（種植）前に同じ。○〔宋〕「其地平坦宜ニ一-一ニ。
（灌植）田畝に水をそゝぎ物をうゝ、即ち、耕作にいふ語。○〔南〕「三-時營ニ一-一ニ。
（耕植）前に同じ。○〔唐〕「余家貧一-一、不レ足ニ以自給ニ。
（蒔植）前に同じ。○〔唐〕「一ニ-一蔬-果ニ。

（刱植）生きたる物と草木と。○〔薛道衡〕「仁霑一一」。一-一ニ。
（浮植）淸くうわりてあり。○〔周敦頤〕「亭々一一」。
（弱植）よわくたてあること。○〔左〕「其君一-一、公子侈-大」。
（豪植）勢力をつよくすゑつく。○〔漢〕「一-一而太强」。
（富植）とみさかえて根據のすわること。○〔後漢〕「高氏蔡氏、並皆一-一」。
（移植）他へ移しやりてうゑつく。○〔劉琨〕「桂-林一-一ニ。
（列植）並べてうゝ、ならびたつ、又、なみ。○〔陸游〕「陝堪ニ一-一ニ。「一-一園林多」。
（墾植）土地を開拓して物をうゑつく。○〔晉〕「晉-
（操植）節操といふに同じ、みさを。○〔晉〕「淡少有ニ一-一ニ。
（封植）土地の境に土を盛りあげて諸侯の國境を標榜するを封といふ、即ち、諸侯となすことにいふ語。○〔晉同〕「淡監ニ秦之失ニ、一ニ-一子-弟ニ。
（培植）つかひうゝ。○〔金〕「專以ニ一-一獎-勵」。
（藝植）うゑつく。○〔王維〕「一-一老-丘園」。
（補植）足らざる所にたしてうゑつく。○〔金〕「命一ニ-一之ニ。
（黨植）黨類を立て設く。○〔金〕「朋-聚一-一、無レ所レ不レ至」。「一ニ。
（固植）堅固に立てかまふること。○〔管〕「上無ニ一-
（蕃植）おひたけること。○〔淮〕「五-穀一-一」。
（樹植）立つ。○〔揚雄〕「凡言ニ置-立者ニ、謂ニ之一-一ニ。
（雙植）ならびうゝ。○〔楊於陵〕「一-一分ニ庭-隅ニ。
（交植）入りまじりたつ。○〔七啓〕「麗-草一-一」。
（茂植）前に同じ。○〔陸雲〕「靈根一-一」。
（嘉植）よくうゑつく。○〔孟郊〕「一-一鮮ニ危-柯ニ。
（遷植）他へ移してうゝ。○〔沈約〕「不レ一ニ-一于淇水ニ。
（從植）前に同じ。○〔沈約〕「張ニ高-衙ニ而一-一」。
（對植）互に向かひあひて立つ。○〔姚合〕「四-松相一-一」。
（孤植）ひとり立つ。○〔高啓〕「一-一轉成レ憐」。
（偃植）伏すと立つと。○〔范成大〕「一-一雖レ不レ同臭-味乃相得」。

【植】シ、ジ。時吏切　寘　チ、ヂ。直意切　寘　チヨク、ヂキ。逐力切　職

前條の㊂㊃㊄㊅に同じ、たつ、おく、そばだつ、うゝ。○〔賈誼〕「方-正倒-—」。
〔幷植〕ならべたつ。○〔禮〕「—ニ—於晉-國ニ」。
〔天植〕天道にまたがひてうゑたつると。○〔管〕「正ニ彼—-—、風雨無レ違」。
〔易植〕植うるとたやすし。○〔管〕「桑-麻—レ—也」。

【椎】ツヰ。傳追切 支
㊀うつ（擊）。○〔戰〕「引レ椎—ニ破之ニ」。
㊁物をうつ具、つち。○〔戰〕「后引レ—椎ニ破之ニ」。
㊂曲橈せざると。○〔漢〕「樸-—而少レ文」。
㊃すき（耒）。○〔釋名〕「耒亦—也」。

【椎】スヰ。朱惟切 支
栗に似たる一種の木、しひ。○〔方輿勝覽〕「巖-面生ニ石-—ニ」。

【椏】ア、エ。於加切 麻
一の本より分かれ出でたるもの、又、分かれ出でたる處、また。○〔揚雄〕「江-東謂ニ樹岐ニ曰ニ杈—ニ」。
〔二椏〕ひとつのきのまた。○〔本草〕「小者—-—兩-葉」。
〔樹椏〕木のまた。○〔皮日休〕「瓶-䔰挂ニ—-—ニ」。

【椏】ア。倚可切 哿 阿个切 箇
橠—は、樹の斜めなる貌にいふ語。

【椐】キヨ、コ。九魚切 魚
㊀腫れたる節ありて杖又は鞭に作くるに適する一種の木。○〔爾〕「—、樻」〔註〕「腫-節可ニ以爲レ杖」。
㊁疎籬、まがき。○〔釋名〕「疎-籬靑-徐曰レ—」。
㊂波濤の高大なる貌にいふ字。○〔七發〕「—-—彊-々」。

【椐】キヨ、コ。居御切 御
前條の㊀に同じ。○〔詩〕「啓レ之辟レ之、其檉其—」。

【椑】ヘイ、ベイ。駢迷切 齊
㊀圜き榼、たる。○〔急就篇〕「橢-榼-—-榹」。
㊁斧の柯、え。○〔玉篇〕「齊人謂ニ斧-柯ニ爲レ—」。
㊂橢圓形、こばんがた。○〔周〕「句-兵—」。
㊃水漿を飮むに用ふる器、さかづき。○〔漢〕「美-酒一-—」。

【椑】ヒ。逋眉切 支
柹の屬、しぶがき。○〔荊州記〕「宜-都出ニ大-—ニ」。
〔烏椑〕しぶがき。○〔漢〕「梁-侯園有ニ八-稜—-—ニ」。

【椑】ヘキ、ビヤク。房益切 陌 蒲歷切 錫
身に接近する所の棺、はだつきのひつぎ、うちくわん。○〔禮〕「君卽レ位爲レ—歲一漆レ之藏焉」。

【椑】ハイ。部皆切 佳
ふだ（籍）。

【椑】榜に同じ。

【椒】セウ。卽消切 蕭
㊀茱萸（かはじかみ）に似たる一種の木、枝幹に刺多く葉は堅くして滑かなり、其の實は莍䓈（いが）の中に裹まれ聚まり生じて房をなす、其の皮、材、葉、實、莍䓈ともに香氣高し、さんせう、はじかみ、いたはじかみ。○〔詩〕「—-聊之實、蕃-衍盈レ升」。
㊁丘の四側くづれ墮ち易きもの、稱。○〔屈平〕「馳ニ—-丘ニ且焉止-息」。
㊂山頂、いただき、みね。○〔謝莊〕「菊散ニ芳于山-—ニ」。
㊃かぐはし（芬-香）。○〔詩〕「有ニ—其馨ニ」。
㊄さんせう其の他の藥種を加味して浸せる酒、さそ。○〔荊楚歲時記〕「過レ臘一-日謂ニ之小-歲ニ拜ニ賀君-親ニ進ニ—-酒ニ」。
〔胡椒〕こせう。○〔唐〕「—-—至ニ八-百石ニ」。
〔芳椒〕かぐはしきはじかみ。○〔楚辭〕「折ニ—-—以自處。「—ニ」。
〔巖椒〕岩やまのいただき。○〔江總〕「宿-昔陟ニ—-—」。
〔蜀椒〕さるはじかみ、一に巴椒ともいふ。○〔范士〕「—-—出ニ武-郡ニ」。
〔越椒〕ぐみの木。○〔本草〕「食-茱-萸一名ニ—-—ニ」。
〔擣椒〕はじかみをつきつぶす。○〔張枚〕「—レ—泥ニ四-壁ニ」。

【[木+尗]】俗の椒の字。

【椓】タク、トク。竹角切 覺
㊀うつ（擊）。○〔詩〕「—レ之丁-丁」。
㊁土をうち留ごむ、こごむ、たゝく。○〔詩〕「—レ之丁-々」。
㊂陰部を去る刑。○〔書〕「劓刵—黥」。
㊃陰刑を受けし者、奄人。○〔詩〕「昏-—靡レ共」。

【[木+隹]】スヰ。職追切 支
桂に似たる一種の木。

【[木+分+木]】ヒン、ホン。卑巾切 眞
木分かる、さく。

【栔】槊に同じ。

九畫

【[木+叟]】サウ、ソウ。蘇遭切 豪
船の總名、ふね。○〔漢〕「發ニ河-南以-東漕-船五-百-—ニ、從レ民避レ水」。

【[木+叟]】シウ、シユ。疎鳩切 尤
白楊に似たる一種の木。

【[木+迥]】ケイ、キヤウ。戶茗切 迥
ゆか（枰-牀）。

【椯】タ。都果切 哿 シ。楚委切 紙
㊀むち（箠）。㊁はかる（揣-度）。
㊂けづる（剟）。

【椯】セン。市緣切 先
一種の木。

【椯】タン、ダン。徒官切 寒
圓榼、まろきたる。○〔急就篇〕「—-榼椑-榹」。

【椰】ヤ、エ。以遮切 麻
梛に同じ、やし。○〔左思〕「—葉無レ陰」。

【椱】フウ、フ。扶富切 宥
機の縚を持つ具、はたあし。

【椱】フク、ボク。房六切 屋
㊀前條に同じ。
㊁くつ（舃）。○〔揚雄〕「履-中有レ木者謂ニ之—ニ」。

【椲】井。羽鬼切 尾 イ。於悲切 支 屈げて椀に爲るべき一種の木、其の皮は滑にして柔きこと韋の如しといふ。

【楎】楎に同じ。

【椔】シ。莊持切 支 側吏切 寘

【椳】ワイ、エ。烏回切 灰 烏賄切 賄 立ち枯れの木、たちがれ。

【椯】くるゝ(円-樞)。

【椊】タク、チヤク。他各切 藥 柝に同じ、ひやうしぎ。○〔漢、註〕「周レ廬擊レ―」。

【椴】タン、ダン。徒玩切 翰 ㊀白楊に似たる一種の木。○〔爾、疏〕「―一名栕、樹似二白-楊一、其材能溼」。㊁むくげ(木-槿)。㊂くひ(杙)。○〔揚雄〕「燕之東-北朝-鮮洌-水之閒謂二之―一」。

【椵】カ、ケ。何加切 麻 かせ、かし(囚-械)。

【椵】カ、ケ。擧下切 馬 柚の屬、子の大いさ盂の如く皮の厚さ二三寸あり、味ひ少し、材は牀几に作るべし。

【椵】カ、ケ。居迓切 禡 くひ(杙)。

【椵】カ、ケ。居牙切 麻 かし、かせ(囚-械)。

【椶】ソウ、ス。祖叢切 東 高さ一二丈に及ぶ一種の木、枝葉は木杪に萃まる、其の枝の下に皮あり重疊して之を裹む、皮の一匝せる每に一節を爲す、花は黃白色にして實は房を爲して魚子の如し、しゆろ、びらう。○〔山海經〕「石-脃之上、其木多レ―」。
（雀椶）一種の木。○〔蘇頌圖草〕「狀似レ椶、有レ葉無レ花杀、根治二勞-傷-效」。

【椷】カン、ケン。居咸切 咸 ㊀はこ(篋)。㊁さかづき(杯)。○〔揚雄〕「桮、趙魏之閒曰レ―」。

【椷】カン、ガン。胡南切 覃 いろ(容)。○〔漢〕「辰-星過二太-白一間可レ―レ劍」。

【椸】イ。延知切 支 以豉切 寘 ㊀ころもかけ(衣-架)。○〔禮〕「男-女不レ同二―-架一」。㊁榻前におく几。○〔揚雄〕「榻-前几趙魏之閒謂二之―一」。
（樿椸）衣裳をかくるもの。○〔禮〕「不二敢縣二于夫之―-―一」。
（箷椸）さを。○〔爾〕「竿謂二之―-―一」。

【椹】チン。知林切 侵 木を斫るだい、あて木。○〔周〕「戮レ人用二―-質一」。

【椹】シン、ジン。食荏切 寑 ㊀桑の實。○〔魏略〕「楊-沛爲二新-鄭長一、積二乾―一以禦レ饑」。

㊁斷木に生ずる菌、きのこ。○〔張華〕「江-南諸-山大-樹斷-倒者經二春-夏一生レ菌謂二之―一」。
（戴椹）苛蓍の別名、めどぎぐさ。

【楁】ケキ、ギヤク。戸狄切 錫 カウ、ゴウ。胡老切 皓

【椾】棉に同じ。

【椽】テン、デン。直攣切 先 杜戀切 霰 ㊀鐘―は、つりがねかけ。㊁木を積みて水を障ふるもの、せき。
棟より檐に架する材、一說に、特に其の圓形なるものゝ稱、たるき。○〔漢〕「茅-屋采―」。
（脩椽）ながきたるき。○〔杜甫〕「大-屋尙二―-―一」。
（榱椽）たるき。○〔晉〕「―-―之材」。
（翠椽）みどり色のたるき。○〔謝靈運〕「附二碧-雲一以二―-―一」。
（簷椽）のきにつけあるたるき。○〔張師錫〕「晒二艾陽二―-―一」。

【椾】古の牋の字。

【椾】棧に同じ、たな。

【楳】楠に同じ。

【椿】チユ、チユン。丑倫切 シユン。樞倫切 眞 一種の木、其の長生を保つよりあやかりて年壽の義に借りいふ字。○〔賈島〕「朧-敷等二松―一」。
（靈椿）ながきいのちを保つといふ神妙なる木、ちゆんの木。○〔宋〕「―-―株老」。
（仙椿）前に同じ。○〔宋〕「壽比二―-―一」。
（老椿）前に同じ。○〔張耒〕「夾レ道―-―鵝哺レ子」。
（莊椿）莊子の書に上古に大椿といふものありて八千歲を春となし八千歲を秋となすと記したるより極めて長壽なる義にかりいふ語。○〔蕭郁判〕「惟期二母壽―-―一踰」。

【榕】カク、キヤク。轄格切 陌 ㊀くらかけ(鞍-架)。㊁ころもかけ(枷-架)。

【楹】杯に同じ。

【楂】サ、セ。鋤加切 麻 ㊀査に同じ、いかだ、うきゝ。○〔何遜〕「逈―急礙レ浪」。㊁鵲の聲にいふ字。○〔韓愈〕「鵲鳴―-―」。㊂柤に同じ、こぼけ。○〔劉禹錫〕「伧父饋二酸―一」。
（盤楂）とゞまれるうきゝ。○〔何遜〕「徐度有二―-―一」。

【梟】タク、チヤク。他各切 藥 簿に同じ、たけのかは。

【梟】サン、セン。士衫切 咸 攙に同じ。

【楃】アク、オク。乙角切 覺 さばり、たれぬの(幬-幕)。○〔蘇舜欽〕「旁―從レ爲レ用」。

【楄】ヘン、ベン。房連切 先 ㊀方形の木。○〔晉〕「舊爲レ屐者、齒皆達二―-上一」。㊁棺の中の笭牀、ゆか。○〔左〕「―-柎所二以藉レ幹」。
（禁楄）短き椈、たるき。○〔何晏〕「爰有二―-―勁分翼張」。

〔天欄〕甚方にして棻に似たる木といふ。○〔山海經〕「堵木有レ木名焉曰ニ一一」。

【㮈】俗の柰の字。

【㮈】デイ、ナイ。乃計切 霽
木立ちのまゝ枯るゝこと、たちがれ。

【㮈】ダツ、ナチ。乃曷切 曷
ひこばえの生ずる貌にいふ字。

【梵】ハン、ボン。符凡切 咸
舤に同じ、ふなばた。

【㮐】セイ、シヤウ。切 息井 梗 カ、ケ。切 居迓 禡
㊀三本の木を交へて炊簞(ざる)をさゝへ置くもの。㊁まないた(肉-几)。

【㮐】シ。斯義切 寘
前條の㊁に同じ。

【㮐】柹に同じ。

【楢】イン。以荏切 寑
濟水の北に在る鄕の名。

【㮑】シフ、ソフ。測入切 緝
一樬は、林の木の貌にいふ語。

【㮑】サフ、セフ。測洽切 洽
木の折るゝ聲にいふ字。

【𣘗】コウ、グ。胡溝切 尤
㊀一桃は、一種の果。㊁一榆は、小杉木。㊂一櫟は、一種の木。

【楅】ヒョク、ヒキ。筆力切 職
㊀牛の人に觸るゝを防ぐために兩の角端に橫たへ束ねたる木、つのよけ。○〔詩〕「夏而一衡」。㊁逼り束ぬ。○〔周、疏〕「一レ土爲レ室」。

【楅】フク、ホク。方六切 屋
㊀前條に同じ。㊁矢を承くる器、やづつ。○〔儀〕「設ニ一于中-庭南ニ」。

【楣】バウ、モウ。切 莫報 號 ボク、モク。切 謨沃 沃
門楣の橫梁、さぼそのはり。

【楆】エウ。伊消切 蕭 一本、要に作る。
邊一一棗は、くゝりなつめ、一名は、鹿盧棗、實は腰細し。

【楇】クワ、グワ。胡臥切 箇
車の輪に塗る膏を盛る器、あぶらづつ。

【楇】クワ。古禾切 歌
輠に同じ、紡車の絲を卷き收むる具。

【楇】クワ、ケ。苦瓦切 馬
橫に打つ杖、むち、つゑ。

【楈】ショ、ソ。新於切 魚
㊀一梀は、やし。○〔張衡〕「一一梓似ニ栟-櫚ニ」。㊁からすき(犂)。

【楈】サン、セン。切 師銜 咸 ショ、ソ。切 私呂 語
一種の木。

【楈】ショ、ソ。息據切 御
からすきの柄に適する一種の木。

【楉】ジヤク、ニヤク。切 日灼 藥 一に若に作る。
㊀一榴は、一に、若榴に作る、べにりんご、一說に、ざくろ。㊁大木の奇靈なるものゝ稱。

【楊】ヤウ。移章切 陽
水邊に生ずる一種の木、縱橫顚倒して植うるもよく生ず、柳と類を同じくすれども柳に比すれば、枝硬くして起き上がれるを異なりとす、春白き花を開く、かはやなぎ、やなぎ。○〔詩〕「隰有レ一」。

〔枯楊〕かれたるやなぎ。○〔易〕「一一生レ稊」。
〔白楊〕はこやなぎ。○〔爾、註〕「楓似ニ一一ニ」。
〔靑楊〕葉の長きやなぎ。○〔韓翃〕「春衣曉入一一巷」。
〔垂楊〕したれやなぎ。○〔梁元帝〕「垂-柳復一一」。
〔蒲楊〕水ぎはに生ずるやなぎ。○〔古今注〕「蒲-柳生ニ水邊ニ、葉似ニ靑-楊ニ、曰ニ一一ニ」。「勢」。
〔朱楊〕あかきくきのやなぎ。○〔梁元帝〕「一一白「一一赤曰ニ杉-柳ニ」。
〔移楊〕葉のまるきやなぎ、ちでやなぎ。○〔古今注〕
〔水楊〕かはやなぎ。○〔古今注〕「一一蒲楊也」。
〔脩楊〕たけたかきやなぎ。○〔鮑照〕「一一夾ニ靑津ニ」。

【桱】コウ。居鄧切 徑
わたる(竟)。

【𣙷】ガン、ゲン。牛姦切 删
橦に似たる一種の木。

【㮧】トツ、ドチ。陀沒切 月
たてのくわんぬき(楗)。

【㮧】㮧に同じ、

【楎】コン、ゴン。切 胡昆 元 コン。切 古本 阮
㊀六叉の犂、むつまたからすき、一說に、犂の上の曲がれる木、からすきのさりくび。

【楎】キ。切 吁韋 微 クン。切 居云 文
㊀くひ(橛)。○〔爾〕「杙在レ牆者謂ニ之一ニ」。㊁衣を掛くる具、いかう。○〔禮〕「不ニ敢懸ニ于夫之一椸ニ」。

【楏】ケイ、ケ。苦圭切 齊
㊀かしの木(橿)。㊁鋤柄、すきのえ。

【楐】カイ、ケイ。居拜切 卦
食器を置く棚、ぜんだな。

【楑】キ、ギ。渠惟切 支
柊一は、つち(椎)。

【楑】キ。求癸切 紙
揆に同じ、はかる。

【𣙟】キ。其季切 寘
木の垂れ下がる貌にいふ字。

【楒】シ。新玆切 支
相一一木は、たうあづき、大樹にして材質堅くして材理文あり器を作るべし、其の實珊瑚の如くにて年を歷るも變ぜずといふ、一に、相思に作る。○〔左思〕「楠榴之木、相思之樹」。

【楓】フウ、フ。切 方戎 東 ヘン、ホン。切 悲廉 鹽 ハン、ベン。切 符咸 咸

其の葉霜を經て丹色となる一種の木、かへで。○〔景福殿賦〕「槐ー被レ宸」。
〔靈楓〕神妙なるかへでの木。○〔述異記〕「老楓爲ニ人形一、化爲ニーー一」。
〔江楓〕かはのほとりにあるかへでの木。○〔張繼〕「ーー漁火對ニ愁眠一」。
〔霜楓〕ものかゝりて葉の色のあかくなりたるかへで。○〔謝靈運〕「曉ーーー葉丹」。
〔丹楓〕前に同じ。○〔杜甫〕「門巷落ニーーー」。
〔錦楓〕前に同じ。○〔馬汝驥〕「祠堂列ニーーー」。
〔赤楓〕前に同じ。○〔杜甫〕「ー葉ー林百舌呼」。
〔蘇楓〕ながきのもとにあるかへで。○〔歐陽修〕「ーー葉如レ火」。

【楓】ハン、ホン。甫凡切 〔咸〕
杋に同じ。

【楆】ジ、ニ。如之切 〔支〕
栭に同じ、くさびら。

【楆】ゼン、ナン。而兗切 〔銑〕
㊀べにばな（紅藍）。㊁さるがき（梬棗）。

【樺】カツ、ケチ。訖詰切 〔黠〕
ーー鼓は、つゞみ。

【稌】キン、ゴン。渠巾切 〔眞〕
㊀矛の柄。㊁くは（鉏耰）。

【楔】セツ、セチ。先詰切 ケツ、ケチ。吉屑切 〔屑〕
㊀くさび（檝）。○〔淮〕「小者以爲ニ楫ー「ー」。
㊁ほこたち（棖）。○〔韓愈〕「椳-闑-扂-ー」。
㊂さゝふ（柱）。○〔禮〕「小臣ーレ齒用ニ角-柶一」。
㊃ゆすらうめ（櫻桃）、○〔爾〕「ー荊-桃」。
㊄松に似て刺ある一種の木、○〔左思〕「楩楠ー樅」。
〔枷楔〕かせとくさびと、又、自由を殺ぐとにいふ語。○〔唐〕「泥レ耳聾レ肯、ーー兼暴」。

【楔】カツ、ケチ。訖黠切 〔黠〕
前條の㊁に同じ。

【椷】カン、ゲン。胡讖切 〔陷〕
はこ、ひつ（櫃）。

【楕】タ。他果切 〔哿〕
㊀木の器。㊁橢の省字。

【楖】シツ、シチ。子悉切 〔質〕
ーー栗は、杖の材に適せる一種の木。○〔范成大〕「病憐ーー栗隨レ身慣」。

【楖】櫛に同じ。○〔周〕「刮-磨之工五、玉-人ー-人雕-人磬-氏矢-人」。

【楗】ケン、ゴン。巨偃切 〔阮〕 巨展切 〔願〕
門戸を閉ぢ固むる横木、くわんのき、くわんぬき。○〔淮〕「家無ニ筦-籥之信關-ー之固一」。

【楗】ケン、コン。其獻切 〔願〕
水の決する口を塞ぐに竹をならべ立てゝ草を其の裏に充て更に土を塡つるもの、せき。○〔史〕「下ニ淇-園之竹一以爲レー」。

【楗】ケン、ゲン。渠巻切 〔霰〕 ケン。九輦切 〔銑〕
馬の歩みの利からざるを、おそし、あしなへ。○〔周〕「終-日馳-騁左不レー」。

【檕】エイ、アイ。煙奚切 ゲイ、ガイ。五稽切 〔齊〕
ーー斷は、弩の楔木。

【楘】ボク、モク。莫卜切 〔屋〕
車の轅に卷き束ねたる章、轅の折るゝを防ぎ且其の飾りとなすもの、ながえまき。○〔詩〕「五ニーー梁-輈一」。

【楙】ボウ、ム。莫候切 〔宥〕 バウ、モウ。莫袍切 〔豪〕
ふゆもゝ（冬桃）。

【楚】ショ、ソ。創擧切 〔語〕
㊀叢生する散木、うばら、いばら、しば、雜薪。○〔詩〕「揚之水不レ流ニ束-ーー一」。
㊁荊の屬、にんじんぼく、雜薪の中にて最も高きもの。○〔詩〕「言刈ニ其ーー一」。
㊂禮を犯す者を撻つに用ひし杖、つゑ、しもと、にんじんぼくにてこしらへしをいふ。○〔禮〕「夏ーーニ物收ニ其威一也」。
㊃つゑを加ふ、うつ、たゝく。○〔漢〕「民無ニ箠ーー之憂一」。
㊄うばらなどの叢がり生ふる貌にいふ字。○〔詩〕「ーーー者茨」。
㊅列ぶ貌にいふ字。○〔詩〕「籩-豆有レー」。
㊆鮮かなる貌にいふ字。○〔詩〕「衣-裳ーーー」。
㊇辛痛す、いたむ、かなしむ。○〔陸機〕「悽-慨含ニ辛ーーー」。
㊈周の熊繹の始めて封ぜられたる國の名（今の荊州府）、其の後春秋戰國の强國となれり。○〔左〕「始懼レーーー」。
㊉支那の南の地方の稱。○〔史-岑〕「朔-風變レーー」。
〔萇楚〕いらゝぐさのことにて羊桃又は鬼桃ともいふ。○〔詩〕「隰有ニーーー」。
〔棰楚〕つゑ、又、むちうつ。○〔漢〕「ーーー之下、何求而不レ得」。
〔榜楚〕前に同じ。○〔司馬光〕「ーー鎮-警-々ニ」。
〔淒楚〕かなしみいたむ。○〔文同〕「蕭-條太ーー」。
〔惻楚〕前に同じ。○〔韓愈〕「助ニ我ーー一」。
〔酸楚〕前に同じ。○〔李白〕「客-心自ーー」。
〔翹楚〕おもなるもの。○〔春秋、序〕「實爲ニーー一」。
〔含楚〕かなしみをおぶ。○〔陸雲〕「玉-容ーレー」。
〔歡楚〕よろこびとかなしみと。○〔周興嗣〕「ーー亦殊レ音」。
〔華楚〕はなやかなること。○〔令狐楚〕「衣-裳ーー」。

【楚】ショ、ソ。瘡據切 〔御〕
利し。

【楙】ボウ、ム。莫候切 〔宥〕
㊀しげる（茂）。○〔漢〕「使ニ長-大ーー盛一」。㊁ぼけ、木瓜。○〔埤雅〕「ーー百益一損」。

【橙】トウ。唐亙切 〔徑〕
になふ、かたぐ（擔）。

【楀】グ、ゴ。牛具切 〔遇〕 魚據切 〔御〕
物の形を寄せあはしてつくりたるもの、でく、ひとがたの類。

【楛】コ、ゴ。後五切 〔麌〕
㊀矢幹に中つる一種の木。○〔國〕「肅-愼-氏貢ニーー矢-石-砮一」。
㊁狀はにんじんぼくに似て蓍の如き赤き莖ある一種の木。○〔詩〕「榛-ーー濟-々」。
㊂器物の濫惡なるにいふ字、あし。○〔荀〕「問ーー者勿レ告」。

【枹】ハウ、ベウ。防教切 〔效〕
物の四十斤の重みの俗稱。

【楜】コ、ク。洪孤切 〔虞〕

胡椒の胡の俗字。

【楝】 レン。郎電切 霰

高さ丈餘に達し葉は槐の如くにして其の端尖れる一種の木、春紅紫色の花を開く、實の形は小さき鈴の如く秋熟して黃さなる、あふち。○〔淮〕「七月官庫其樹レ一」。

〔苦楝〕あふちの木。○〔何夢桂〕「風吹二一一一結二經寒一」。

【楞】 棱に同じ、一嚴は、有名なる佛書の名。

【楟】 テイ、ヂヤウ。徒丁切 靑

㊀やまなし、（山梨）。○〔左思〕「橙柿楟一」。㊁はり、さげ、（刺）。

【楠】 本、枏に作る。○〔司馬相如〕「楩一豫章」。

【楡】 ユ。容朱切 虞

莢を著けし後に葉を生ずる皮白き一種の木、十種類ありて其の葉は皆相似たれども其の木理は各異なり、內皮の汁は物を滑利ならしむる爲めに塗料に用ふ、にれ。○〔嵇康〕「一令二人暝一」。

〔桑楡〕くれがたの日影、晩景。○〔後漢〕「失二之東隅一收二之一一一」。

〔地楡〕一種の草、われもかう、えびすね、菹蔠。○〔古詞〕「寧得二一把一一一」。「一二月生レ莢」。○

〔大楡〕にれの一種、はるにれ。○〔本草集解〕「一一

〔枌楡〕（い）にれ。○〔禮〕「菫荁一一」。（ろ）鄕の名。○〔漢〕「高祖禱二一一社一」。

〔零楡〕にれの木の異名。○〔本草〕「楡一名二一一一」。

〔白楡〕星の名。○〔古樂府〕「天上何所レ有、歷々種二一一一」。

【楢】 シウ、シユ。雌由切 イウ、ユ。夷周切 尤 與久切 有

㊀おもに薪炭となし燎料に用ふる一種の木、なら。○〔周註〕「冬取二柞一之火一」。㊁溪の名。○〔孫綽〕「濟二一溪一而直進」。㊂火を積みて燎く、つむ、たく。

【楢】 セウ。尺沼切 篠

一種の赤き木。

【楣】 ビ、ミ。旻悲切 支

はり、（梁）、のき、（檐）。○〔禮〕「賓升主人阼階上當レ一北面再拜」。

〔雲楣〕たかきうつばり、くものかゝれるのき。○〔庾信〕「一一承二武帳一」。「於一一一」。

〔棼楣〕むなぎとはりと。○〔西都賦〕「虹霓回二帶

〔赬楣〕あかくぬりたるはり。○〔謝靈運〕「因二丹霄以二一一一」。

〔繡楣〕ゑがきたるはり又はのき。○〔梁冊翰〕「一一焜燿」。

〔藻楣〕あやあるはり又はのき。○〔張憲〕「繡棟一一盤二紫雲一」。

【楞】 ガク、カク。逆各切 藥

おさしあな、（穽）。

【楥】 ケン、クワン。呼願切 願

履模、くつがた、又、すべての物の模形、かた。

〔楦麟楥〕仕官の人を嘲けりいふ語。○〔朝野僉載〕「呼二朝士一爲二一一一一日、今弄二假麒麟者必修二飾其形一覆二之驢背一、及レ去レ皮還是驢」。

【楥】 エン。於眷切 霰 エン、チン。于元切 元

一種の木。

【楥】 エン、チン。于權切 先

絲を卷きからぐる籰、いさくりわく。

【梨】 サウ、セウ。所教切 效

㊀木の上の小さき所、こずゑ。㊁木をけづりて上を殺ぐ、けづる、そぐ。

【楨】 テイ、チヤウ。知盈切 庚

㊀其の葉冬にも凋まざる一種の木、ねずみもち、ひめつばき。○〔山海經〕「太山之上多二一木一」。㊁築牆の兩端に立つるはしら。○〔書〕「峙二乃一幹一」。

〔基楨〕物の根本。○〔漢〕「使下群臣得レ望二盛德休光一以立上一一一」。

〔女楨〕ひめつばき、一に、冬靑又は貞木といふ。○〔廣韻〕「一一不凋木也」。

【椇】 ク、ゴ。俱羽切 麌

枸に同じ。

【楩】 ヘン、ベン。毗連切 先 符善切 銑 毗面切 霰

くすのきに似たる一種の大木。○〔司馬相如〕「一楠豫章」。

【㮚】 古文の栗の字。○〔周〕「一段桃」。

【楪】 エフ。弋涉切 葉

まど、（牖）。

【楪】 テフ、デフ。達協切 葉

牀の簀、すのこ、ゆか。

【楪】 ケフ。悉協切 葉

㮚一は、小さき楔、くさび。

【楫】 セフ。卽涉切 葉

㊀水を搔き舟を行るに用ふる舩具、かい、かぢ。○〔易〕「舟一之利、以濟レ不レ通」。㊁林木の貌にいふ字。○〔呂氏春秋〕「氣若二山之一一」。

〔維楫〕舟のつなとかいと。○〔漢〕「是猶下渡二江河一亡中一一一、中流而遇上レ風」。

〔瑤楫〕たまのかい。○〔抱朴〕「瓊波一一一無レ涉 「者也」。川之用一。

〔操楫〕かいをつかふ。○〔後漢〕「將宋兄弟一レ一

〔鼓楫〕かいをはやむ。○〔陳子昂〕「一レ一漾二輕舟一」。

〔艤楫〕舟をいたす仕度すること。○〔庾信〕「烏江一一、無二路可一レ歸」。

〔緩楫〕かいをゆるめて舟の進みをおそくす。○〔儲光羲〕「一レ一揮レ觥飲レ賦レ詩」。

【楫】 シフ。秦入切 緝

㊀前條に同じ。㊁輯に通じ用ふ、やはらぐ、あつむ。○〔漢〕「躬發二聖德一統二一羣元一」。

【楬】 ケツ、ケチ。其謁切 月 ケツ、ゲチ。渠列切 屑

㊀其の物事に關する事柄を記して表識さしたる木札、つけふだ、たてふだ、かんばん。○〔周〕「一而璽レ之」。㊁表識す、しるす、あらはす。○〔周〕「書二一之一」。

【椳】 カツ、ケチ。丘瞎切 黠

㊀わん、（木豆）。○〔禮〕「夏后氏以二一一豆一」。㊁敔に同じ。○〔禮〕「鞉鼓椌一壎篪」。

〔宛榪〕かぶろ、はげ。○〔韻、註〕「齊人謂レ無レ髮爲二——一」。

【榪】カフ、ケフ。乞洽切　洽

——戾は、山の名。

【業】ゲフ、ゴフ。逆怯切　葉

㊀鐘磬をかくる横に亙せる大版、鋸齒の如くぎざ〳〵の刻みあるもの。○〔詩〕「虡—維樅」。

㊁わざ。

(い)作すこと、行ふこと、しわざ、しごと。○〔易〕「暢二於四支一發二於事——一」。

(ろ)學問、藝術。○〔禮〕「所レ習必有レ—」。

(は)活計、よすぎ、なりはひ。○〔史〕「家貧落魄、無三以爲二衣食——一」。

(に)職務、つとめ。○〔左〕「—二其官一」。

(ほ)手段、てだて。○〔國〕「民從レ事有レ—」。

(へ)基礎、もとゐ。○〔孟〕「創レ—垂レ統」。

(と)功績、いさを。○〔易〕「富有之謂二大——一」。

(ち)治むる所。○〔史〕「賣レ漿賤——也、而張氏千萬」。

㊂因緣、ちなみ。○〔般舟讚〕「爲滅二无明果、—因一」。

㊃未だ成らざるを、つくりかけ、しかけ。○〔孟〕「有二—履於牖上一」。

㊄成し了へたるを表すに用ふる字、はや、もはや、すでに。○〔史〕「良—爲取レ履」。

㊅あやふし(危)。○〔書〕「兢々——」。

㊆さかんなり(壯)。○〔詩〕「四牡——」。

㊇たかし(高)。○〔張衡〕「反宇——」。

〔修業〕わざををさめ學ぶこと。○〔易〕「君子進レ德—レ—」。

〔大業〕おほいなるわざ。○〔盧諶〕「多士成二——一」。

〔洪業〕前に同じ。○〔漢〕「纂二修——一」。

〔丕業〕前に同じ。○〔史〕「王者之——」。

〔樂業〕心よくくらすこと。○〔史〕「人民—レ—」。

〔祖業〕先代のわざ。○〔漢〕「潤二色——一」。

〔守業〕わざをとりまもること。○〔淮〕「臣—二其—一以効二其功一」。

〔受業〕藝術などの教をうけならふ。○〔國〕「士朝而—レ—」。

〔本業〕農業のこと。○〔後漢〕「修二神農之——一」。

〔餘業〕むかしよりのこされたるわざ。○〔漢〕「幸賴二先人——一、得レ備二宿衞一」。

〔興業〕わざをたてゝおこす。○〔史〕「弟子—レ—」。

〔作業〕しごと。○〔漢〕「不レ事二家人生產——一」。

〔非業〕よろしからぬわざ。○〔漢〕「勞二手——之作一」。

〔遺業〕先代のものゝ子孫にのこしおきたるわざ。○〔漢〕「今天子新撥二先帝之——一」。

〔學業〕まなびのわざ。○〔晉〕「華——優博」。

〔隋業〕わざをおとろへさす。○〔韓〕「倫賞則功隍—二其—一」。「隳」。

〔德業〕道德と事業と。○〔後漢〕「太尉——相」

〔功業〕いさを。○〔易〕「——見二乎變一」。

〔勤業〕前に同じ。○〔宋〕「中外跂二想其——一」。

〔成業〕學術のわざをなしとぐること、又、家業をおこすこと。○〔史〕「而邯鄲郭縱以二鐵治一—レ—」。

〔舍業〕家の產業をうちすておく。○〔史〕「—レ—厚遇レ之」。

〔宿業〕ふるきしわざ。○〔蘇軾〕「多生——盡」。

〔敗業〕しくじりたるわざ、又、わざをやぶる。○〔戰〕「是故事無二——一」。

〔職業〕職分業務のこと。○〔宋〕「士子居レ朝、咸有二——一」。

〔先業〕先代のわざ。○〔國〕「亦能纂二修其身一、以受二——一」。

〔官業〕政府のしごと。○〔荀勗〕「——有レ常」。

〔緒業〕しかけたるわざ。○〔史〕「修二文王——一」。

〔開業〕わざをはじめひらく。○〔司馬光〕「祖宗——之艱難」。

〔末業〕農業のほかのわざ。「肴、什二于農夫一」。

〔雜業〕何ときまりたることなき家業のこと。○〔後漢〕「資二——一」。○〔史〕「作——不レ中二什二一則非二吾財一也」。

〔勸業〕わざをすゝめはげますこと。○〔高允〕「敦レ從以—二其—一」。

〔產業〕すぎはひ。○〔史〕「治二——一力二工商一」。

〔卒業〕わざをなしとぐ。○〔史〕「恐レ不レ能—レ—」。

〔統業〕帝王の事業。○〔史〕「接二三代——一」。

〔聖業〕聖德ある帝王の事業のこと。○〔漢〕「奉二承——一」。

〔農業〕農桑のわざ。○〔漢〕「使三歸二就——一」。

〔傳業〕學藝などのわざをならひうく。○〔後漢〕「弟子—レ—者數百人」。

〔習業〕學藝などのわざをならふこと。○〔漢〕「朝夕—レ—以敎二國子一」。

〔授業〕學藝などのわざを敎ふること、又、產業を與ふること。○〔漢〕「弟子傳以二久次一相——」。

〔垂業〕もとゐを後世にのこすこと。○陸機「四王所二以—レ—也」。

〔家業〕家の財產、又、すぎはひのこと。○〔漢〕「——千金」。

〔帝業〕帝王の事業。○〔班彪〕「此高祖之大略所三以成二——一也」。

〔賤業〕いやしきわざ。○〔漢〕「以爲卜筮者——、而可三以惠二衆人一」。

〔婦業〕女子のなすしごと。○〔後漢〕「晝修二——一、作下儀公侯上」。

〔閭業〕前に同じ。○〔晉〕「可下以光二熙——一、八」

〔基業〕もとゐ。○〔後漢〕「——已定」。

〔就業〕わざに從事す。○〔後漢〕「乃潛レ精研レ思、欲レ—二其—一」。

〔淫業〕たゞしからざるわざ。○〔後漢〕「除二工商之——一」。

〔廢業〕しごとをすておく。○〔後漢〕「其輕黠游蕩、—レ—爲レ患者」。

〔棄業〕前に同じ。○〔韋曜〕「廢レ事—レ—」。

〔高業〕すぐれてわざに達したること。○〔後漢〕「乃使二——弟子傳授一」。

〔輟業〕しごとをやむ。○〔後漢〕「嘗—レ—投レ筆」。

〔行業〕おこなひとわざと。○〔魏〕「任俠放蕩、不レ拘二——一」。

〔性業〕性質と學業と。○〔蜀〕「孫才不レ及レ兄、而——過レ之」。

〔生業〕すぎはひ。○〔晉〕「暗廢——」。

〔復業〕もとの如くしごとにつく。○〔晉〕「居人皆安レ堵—レ—」。

〔儒業〕儒業の學問。○〔南〕「承獨好二——一」。

〔課業〕わりあてたるわざ。○〔宋〕「嚴二其——一、而以弘二風尙一」。

〔操業〕心がけとわざと。○〔晉〕「猶當下崇二其——一出」。

〔良業〕よき資產。○〔晉〕「皆成二——一」。

〔霸業〕諸侯のはたがしらたるわざ。○〔袁宏〕「——已基」。

〔私業〕おほやけならぬ自己のわざ。○〔晉〕「從レ我之外、足レ營二——一」。

〔桑業〕蠶を養ふわざ。○〔晉〕「齊國有二田桑一不—レ—」。鬪——不レ修者一」。

〔寧業〕安心して家業に從事すること。○〔晉〕「百姓—二——一多二德能一」。

〔文業〕文學のわざ。○〔宋〕「—二——一多二德能一」。

〔別業〕本宅のほかにかまへたる邸宅にして別邸又は別墅ともいふ。○〔南〕「修二營——一」。

〔門業〕家に傳はれるわざ。○〔南〕「殊有二——一」。

〔勤業〕わざをはげみ勉む。○〔北〕「不レ暇—レ—」。

〔專業〕一つのものををさむるわざ。○〔唐〕「律學生以二律令一爲二——一」。

〔器業〕はたらきあること、わざに達したること。○〔唐〕「德裕以二——一自負」。

〔才業〕前に同じ。○〔蘇頲〕「——可レ稱」。

〔常業〕さだまりたるしごと。○〔宋〕「民有二——一」。

〔詞業〕詩文などのわざ。○〔宋〕「兄弟仰二偕舍肆一作以二——一」。

〔相業〕天子を輔佐する宰相のしごと。○〔宋〕「時要—レ—」。

〔藝業〕學術などのわざ。○〔顏延之〕「輔以二——一」。

〔營業〕すぎはひ、又、家業をいとなむ。○〔金〕「皆營レ—」。

〔敦業〕わざを大切にす。○〔管〕「下—二其—一」。

〔變業〕しごとをとりかふ。○〔韓〕「工人數—レ—則失二其功一」。

〔荒業〕すたれたるしごと。○〔申鑒〕「野無二——一」。

〔苦業〕くるしく骨のをるゝわざ。○〔淨住〕「造二諸——一」。

〔練業〕わざをねりみがく。○〔劉勰〕「如欲レ—レ—、必先生レ心」。

〔烈業〕いさを。○〔王逸〕「建二——一兮勳レ垂」。

〔承業〕さきのものゝしごとをつぐ。○〔荀悅〕「後世—レ—」。

〔茂業〕さかんなるわざ。○陸雲「崇德——」。

〔雅業〕正しきわざ。○〔郭璞〕「——逐盛」。

〔所業〕しわざ。○〔陶潛〕「——在二田桑一」。

〔法業〕佛ののりのわざ。○〔謝靈運〕「——日茂」。

〔植業〕わざを立つ。○〔李翺〕「——於儒一」。

〔啓業〕もとゐをおこしひらく。○〔沈約〕「故能—レ—垂レ統」。

〔秀業〕すぐれたるわざ。○〔沈約〕「幼二——一」。

（識業）見識と學業と。○〔任昉〕「――深通」。
（譽業）善きわざ。○〔魏道衡〕「――遠大」。
（盛業）さかんにすぐれたるわざ。○〔杜甫〕「――今如ㇾ此」。
（徙業）これまでのしごとを他のものにとりかふ。○〔韓愈〕「夫外·慕ㇾ―者」。
（天業）帝王の事業のことにて皇業といふに同じ。○〔杜牧〕「――一張」「得」。
（名業）ほまれとわざと。○〔李羣玉〕「――兩未」。
（薄業）てうすき家產。○〔劉克莊〕「粗有ニ先人之――」。
（箕裘業）父祖の家業のこと。○〔耶律楚材〕「能繼ニ――」。
（萬世業）萬代までもかはらざる事業。○〔賈誼〕「子孫帝王――之―也」。

【楆】シ、ジ。常支切 支
さじ（匙）。

【楮】チヨ。ト、丑呂切 語
㊀叢生する一種の木、其の木皮は績ぎて布を爲り、又、擣きて紙に製すべし、かみのき、かぞ、かうぞ、穀桑。○〔列〕「宋人以ㇾ玉爲ニ――葉ㇾ」。
㊁紙。○〔周必大〕「不ㇾ知何人目爲ニ――幣ㇾ」。
㊂文書圖畫などのかきある紙。○〔眞德秀〕「敗――遺墨人爭寶」。
㊃紙幣、さつ。○〔宋〕「不ㇾ能ㇾ行ㇾ―」。
（寄楮）ふでとかみと。○〔蘇軾〕「春·色入ニ――ㇾ」。
（練楮）ぬめとかみと。○〔陳與義〕「却寄ニ青·林汗ニ――ㇾ」。
（尺楮）書簡のこと。○〔王邁〕「敬成ニ――ㇾ」。
（州楮）小かの紙。○〔方岳〕「――臚·陳」。
（剝楮）かうぞの皮をはぐこと。○〔陸游〕「―ㇾ―治爲ㇾ冠」。
（片楮）きれはしの紙。○〔張翥〕「入藏ニ――ㇾ無ニ遺者ㇾ」。

【楯】シユン、ジユン。乳允切 軫
㊀欄の木勾欄、おばしま、てすり。○〔阿彌陀經〕「七·重欄―」。
㊁盾に通じ用ふ、たて。○〔左〕「樂·祁獻ニ楊――六·十于節·氏ㇾ」。
㊂ぬく（拔）。○〔淮〕「引ニ――萬·物ㇾ羣·美萌·生ㇾ」。
㊃喪に用ふる車、ひつぎぐるま。○〔儀註〕「―有ニ四·周ㇾ」。
（甲楯）よろひとたてと。○〔左〕「越·子以ニ――五·千ㇾ保ニ於會·稽ㇾ」。
（短楯）たけひくきたて。○〔宋〕「善ニ於用ニ――ㇾ」。
（鐵楯）くろがねのたて。○〔梁〕「犀函――」。
（御楯）天子の用ふるたて。○〔隋〕「置ニ御·刀――之屬ㇾ」。
（堅楯）堅固なるたて。○〔獨孤及〕「强·弩――」。

【楯】シユン、ジユン。食閏切 震
前條の㊁に同じ。

【楯】チユン、ヂユン。敕準切 軫
つくゑ（案）。

【楯】シユン。樞論切 眞　チユン。丑論切 眞
車の約軜、こしきおばり。

【楯】シユン、ジユン。詳遵切 眞
てすり、おばしま（閑檻）。

【楰】ユ、ヨ。容朱切 虞　勇主切 麌　キヨ、ゴ。偶許切 語
木葉木理共に楸に似たる一種の木、濕ふ時は脆く燥く時は堅し、ねずみもち。○〔詩〕「北·山有ㇾ―」。

【楱】ソウ、シユ。千候切 宥
橘の屬。○〔司馬相如〕「黃·甘橙―」。
（鎒楱）鍬の齒の杷、さらへ、かなくまで。

【㮇】テン。他念切 豔

栝に同じ。

【楲】ヰ。於非切 微
㊀褻器、おかは、おまる。○〔賈逵〕「――虎·子也」。
㊁瀆水を通ぜしむる竇、さひ、ひ、みぞあな。

【楳】バイ、メ。莫杯切 灰
梅に同じ。

【楴】テイ、タイ。他計切　テイ、ダイ。大計切 霽
㊀筓の屬、髪を摘み整ふるもの、かんざし、かうがい。○〔詩〕「象之―也」。
㊁れ（根）。

【楴】チ、ヂ。徒二切 寘
前條の㊀に同じ。

【楴】シ。式志切 寘
一種の木。

【⿰木𠥾】サウ。子郎切 陽
物を盛る木版、へぎ。

【極】キヨク、ゴク。渠力切 職
㊀屋棟、むなぎ、むね。○〔莊〕「夫·妻臣·妾登ㇾ―」。
㊁至りて高し、至りて遠し、たかし、とほし。○〔屈平〕「望ニ涔·陽兮―浦ㇾ」。
㊂はなはだし（甚）。○〔荀〕「出·入甚―」。
㊃きはまる。
（い）はなはだしき高度に達す。○〔史〕「人·臣之位無下居ニ臣上一者上可ㇾ謂ニ富·貴――ㇾ」。
（ろ）つく（盡）。○〔淮〕「濬·然無ㇾ―」。
（は）をはる（終）。○〔呂氏春秋〕「焉知ニ其―ㇾ」。
（に）やむ（已）。○〔詩〕「曷其有ㇾ―」。
（ほ）くるしむ（困）、せまる（急）。○〔淮〕「安ㇾ之而不ㇾ―」。
（へ）いたる（至）、とどまる（止）。○〔詩〕「駿―ニ于天ㇾ」。
㊄きはむ。
（い）きはまらしむ、はなはだしき高度に達せしむ、つくす、をふ、やむ、くるしむ、せまる、いたるべき点にまでとどかす、とどまるべき所にまでおよぼす（㊃の條參照）。○〔易〕「―ニ其數ㇾ遂定ニ天·下之象ㇾ」。
（ろ）たづね捜す、問ひただす。○〔禮〕「流·言不ㇾ―」。
㊅きはむると、きはむる所、きはめ。○〔禮〕「君·子無ㇾ所ㇾ不ㇾ用ニ其―ㇾ」。
㊆きはまると、きはまる所、きはまり、きはみ。○〔司馬遷〕「立ㇾ名者行之―也」。
㊇天。○〔曹植〕「注ニ心皇―ㇾ」。
㊈天位、無上のくらゐ。○〔唐〕「體ㇾ元御ㇾ―」。
㊉中央、まなか。○〔王蕃〕「正當ニ天之中―ㇾ」。
⑪無上道、大中至正のみち。○〔書〕「建ニ其有―ㇾ」。
⑫眞善。○〔書〕「嚮ニ于五―ㇾ」。
⑬至凶。○〔書〕「威用ニ六―ㇾ」。
⑭境界、さかひ。○〔爾〕「東至ニ于泰·遠ㇾ西至ニ于邠·國ㇾ南至ニ于濮·鈆ㇾ北至ニ於祝·栗ㇾ謂ニ之四―ㇾ」。
⑮主要、根本、もと。○〔荀〕「辭足ニ以見ㇾ―」。
⑯方位、むき。○〔莊〕「天有ニ六―ㇾ」。

⑰方位のはて、つめの境界。○〔淮〕「紀二綱八―一、經二緯六合一」。

⑱北辰星と老人星との稱。○〔晉〕「兩―相去一百八十二度半彊」。

⑲月の癸に在るを。○〔爾〕「月在レ癸曰レ―」。

⑳弓をひくに用ふる韋の指韜、ゆびづつみ、ゆがけ。○〔儀〕「贊設レ決朱―三」。

㉑つかる、つからす、（疲）。○〔世說〕「顏、和謂二王導一、導小―、對レ之疲―瞭」。

㉒此の上もなく、最も、甚だ、きはめて。○〔史〕「廣軍―簡易」。

（太極）天地の陰陽の分かれざる以前、條理萬物の大根元、即ち、名狀すべからざるとの義。○〔易〕「易有二―・―一」。

（三極）天地人の三才。○〔易〕「六・爻之動、―・―之道也」。

（皇極）偏倚せざる眞誠の理、即ち、大中のみち。○〔書〕「皇建二其有一レ―」。○〔詩〕「應下受二上天之命一、協中―・―之中上」。

（民極）人民をして各其の所を失はざらしむる道。「周」「設レ官分レ職、以爲二―・―一」。

（無極）つくるとなし。○〔左〕「女德―レ―」。

（四極）四方のはて。○〔漢〕「―・―爰驤」。

（北極）北のはて、又、北辰星。○〔爾〕「―・―謂二之北辰一」。

（天極）天の中央。○〔史〕「敬二―・―一」。

（終極）をはり、はて。○〔國〕「莫レ知二其所一―・―一」。

（底極）前に同じ。○〔後漢〕「無レ所二―・―一」。

（南極）みなみのはて、又、老人星の一名。○〔漢〕「老人星曰二―・―一」。

（宸極）帝王の居るところ。○〔杜甫〕「聞二徹―・―一」。

（定極）つきゝはまる。○〔書〕「罔レ有二―・―一」。

（竭極）前に同じ。○〔詩、箋〕「非レ有二―・―之時一」。

（峻極）たかく正しきと。○〔唐〕「志行―・―」。

（臻極）はてにまでいたる、又、いたる。○〔韓愈〕「文―工叢妙―レ―」。

（究極）きはむ、きはまる。○〔淮〕「所下以―二・―中和一、爲中萬物主上也」。

（窮極）前に同じ。○〔漢〕「―二・―其變一」。

（坤極）皇后の位。○〔後漢〕「宜下配二天祚一、正中位―・―上」。

（宗極）おほもと。○〔沈約〕「兼二其―・―一」。

（淵極）ふかき根源。○〔斐松之〕「道統―・―」。

（踐極）天子の位に登りたまふと。○〔鮑照〕「皇上天飛―レ―」。

（臨極）前に同じ。○〔王融〕「握レ樞―レ―」。

（登極）前に同じ。○〔綏起〕「梁皇、未レ―レ―」。

（否極）衰へのはて。○〔梁宣帝〕「望二―・―而返レ泰一」。

（總極）中正の道をすぶ。○〔王融〕「―レ―居レ中」。

【極】ケキ、キヤク。訖逆切 陌

亟に同じ。○〔荀〕「反覆甚―」。

【楶】セツ、セチ。子結切 屑

科栱、ますがた、こがた、又、うだち、○〔爾〕「栭謂二之―一」。

【榍】セツ、セチ。先結切 屑

―に、櫨―に作る。

㊀しきみ、（門限）。

㊁くりのしやくし、（栗屑）。○〔本草〕「陳士良云、栗三顆一毬、其中者栗―也」。

【楷】カイ、ケイ。苦駭切 蟹　居諧切 佳

㊀一種の木。○〔淮〕「―・―木生二孔子家上一、其榦枝疎而不レ屈以二質得一二其直一也」。

㊁のり、てほん、（法式）。○〔禮〕「今世行レ之後世以爲レ―」。

㊂なほし、たゞし、（直）。○〔人物志〕「强―堅勁」。

㊃文字の一體、隸書より轉化せしもの、眞書。○〔晉〕「上谷王次仲始作二―法一」。

（模楷）てほん。○〔後漢〕「天下―・―李元禮」。

（妙楷）上手にかきたる楷書。○〔東觀餘論跋漢劉文饒碑後〕「玩二中郎之―・―一」。

（女楷）婦女のてほん。○〔梁簡文帝〕「行爲二―・―一」。

【楸】シウ、シユ。雌由切 尤

㊀梓の屬、一說に、槐の屬、ひさぎ、きささぎ、きさゝげ。○〔埤雅〕「―、槫、早脫、故―謂二之秋一」。

㊁棊局、ごばん。○〔沈彬〕「非―里交連側二局―・―一」。

（長楸）たけ高くのびたるひさぎ。○〔楚辭〕「望二―・―而太息兮」。

（苦楸）ねぞみもちといふ木。○〔詩、疏〕「今人謂二之―・―一是也」。

（栾楸）棊盤。○〔段成式〕「臨レ對二―・―一傾二一壺一」。

【楋】カク、キヤク。何格切 陌

㊀角械、かせ。

㊁つくゑのあし、（案足）。

【楹】エイ、イヤウ。以成切 庚

はしら、（柱）。○〔詩〕「有二覺其―一」。

（梁楹）滑かにして澤よきと。○〔屈平〕「將突梯滑稽如レ脂如レ韋以―・―乎」。

（丹楹）あかきはしら、又、はしらをあかく塗る。○〔漢〕「諸侯刻レ桷―レ―」。

（梁楹）はりとはしらと、又、國家の重任にあたる人のとにもかりいふ語。○〔唐〕「皆爲二國―・―一」。

（雕楹）花鳥のもやうなど刻みたるはしら。○〔崔駰〕「丹柱―・―」。

（瑤楹）うつくしきはしら。○〔徐幹〕「笑歌倚二―・―一」。

（旋楹）ればいなるはしら。○〔詩〕「―・―有レ閑」。

（單楹）一本のはしら。○〔水經、註〕「遠望亭々、狀若二―・―插レ霄」。

（瑤楹）玉のはしら。○〔酉陽雜俎〕「―・―金鳳」。

（鳳楹）鳳凰のきざみあるはしら。○〔鮑照〕「窮究「鬱―・―前」。

（彩楹）いろどりを加へたるはしら。○〔湯惠休〕「瓊―・―」。

【㰡】コウ、ク。居侯切 尤

【楺】ジウ、ニユ。人九切 有

曲がれる枝、まがりぎ、まがりしえだ。

揉に通じ用ふ、たわむ。○〔易〕「―レ木爲レ耒」。

【楾】ケン。虛檢切 琰

おほふ、かげ、（蔭）。

【槀】テン。陟兗切 銑

兕―は、すごろく、（博）。

【楻】クワウ、ギヤウ。胡萌切 庚

―舝は、はたのえ、（樺柲）。

【㪍】古の樹の字。○〔石鼓文〕「嘉―鼎里」。

十畫

【㮨】榍に同じ。

【榎】カ、ケ。古雅切 馬

檟に同じ。

【榏】艗に同じ。

【榐】テン。知輦切 銑

㊀さかづき、（盞）。

㊁檣―は、樹の長き貌にいふ語。

㊂物を櫟るに用ふる器。

【榐】デン、テン。女箭切 霰

前條の㊀に同じ。

【榐】チン、ヂン。直忍切 軫

其の汁を酒に作るべき一種の木、一

說に、染料に用ふる一種の木。

【榑】フ。防無切 虞
日の出づる所に在りといふ神木。○[山海經]「東望二—木一」。

【楱】キョ、ゴ。求於切 魚
—欅は、さらへ（杷）。

【榓】ビツ、ミチ。彌畢切 質
槐に似たる一種の香木。

【榔】ラウ。魯當切 陽
㊀檳——は、熱帶地方に生ずる一種の木、高さ五六丈にして枝なし、葉は芭蕉に似て木の巓に生じ、皮は青桐に似て節は桂枝の如し、實は房をなし葉の中より出づ、一房に數百個ありて、其の形恰も雞子の如し、又其の實尖長にして紫の文あるものを檳といひ、圓くして矮きものを—といふ。○[南]「食畢求二檳——」。
㊁桄——は、皮に毛ありて棕櫚に似たる一種の木、材質甚だ剛し、皮中に麪の如き屑末ありて食らふべしといふ、くろつげ、一に、桄根に作る。○[左思]「麪有二桄——一」。

【榕】ヨウ、ユ。餘封切 冬
あこう木の一種、枝葉共に柔脆にして少しく物に著すれば卽ちまとひ繫かる、幹枝を生じ枝また垂下して根を生じ恰も數多の樹木叢生するが如し、其の多きは數百條に至り、幹枝相依り柯葉繁茂し其の蔭廣きに及ぶ。○[榕城隨筆]「閩中多二—樹一」。

【榖】コク。古祿切 屋 コウ、居候切 宥
かうぞ、かぞ、（楮）。○[書咸乂序]「亳有レ祥、桑—共生二于朝一」。

【榖】コク。古祿切 屋
穀に同じ。

【𣫌】カク、コク。克角切 覺
たけのつえ（苴-杖）。

【榗】セン。子賤切 霰 セン。將先切 先
一種の木。

【榗】シン。即刃切 震
鼓の名。

【橛】ケツ、グワチ。其月切 月
—株は、山の名。

【榘】矩に同じ。○[屈平]「求二—矱之所一レ同」。

【椿】ホン、ボン。部本切 ヘン、ホン。父遠切 阮
舟のさま、又、車のほろ。

【榙】タフ、ドフ。託閤切 カフ、ゴフ。侯閤切 合
—樑は、李に似たる一種の果。

【樫】チフ、ヂフ。直立切 緝
林木の貌にいふ字。

【榚】エウ。以沼切 篠
木の長き貌にいふ字。

【㮤】アウ。於浪切 漾
—椿は、一種の木。

【榛】シン。側詵切 臻 セン。將先切 先
㊀其の實はしば栗に似たる一種の木、はしばみ。○[詩]「山有レ—」。
㊁草木亂生す。○[揚雄]「枳棘之——兮」。
㊂木聚まる。○[淮]「木處二——巢一」。
〔披榛〕樹木のいたくしげりふさがりたるをおしひらくこと。○[晉]「—レ—採レ蘭」。
〔荒榛〕樹木のきたなくしげりたること。○[遊天台山賦]「披二——之蒙-蘢一」。

【榜】ハウ、ヒヤウ。北孟切 敬 ハウ。補曠切 漾
㊀船を漕ぐ具、かい、かぢ。○[楚辭]「齊二吳——一以擊レ汰」。
㊁かいを把りて舟を進む、こぐ。○[張協]「—人奏二采菱之歌一」。
㊂むち、むちうつ、（笞）。○[史]「——笞數-千、身無レ可レ擊」。
〔歌榜〕歌をうたひながらかいをつかふ。○[張說]「綠-渚轉二——一」。
〔歸榜〕吾が家を指して漕ぎ行く船のかい。○[蘇軾]「吾當レ理二——一」。

【榜】ハウ、ビヤウ。薄庚切 庚
弓弩を輔くるもの、ゆだめ、ゆみだめ。

【榜】ハウ、バウ。補朗切 養
㊀文字を記して表識となす木板、つけふだ、たてふだ、かけふだ、かんばん、ふだ。○[杜甫]「天-門日射黃-金—」。
㊁士を取り官に選ぶの次第。〔唐〕「裴-延-齡爲二吏-部一、作二長-名——詮-註-法一」。
㊂表識す、標揚す、しるす、あらはす、あぐ。○[後漢]「共相標—指二天-下名-士一爲二之稱-號一」。
〔黃榜〕きいろなるふだ。○[神異經]「——碧-鏤、題曰二天-地少-男之官一」。
〔夾榜〕門關の左右にかゝぐるふだ。○[神異經]「西-南銅-關——題曰二入-來-門一」。
〔觀榜〕標示のふだをみる。○[遯齋閒覽]「—レ—更無二朋-輩在一」。
〔挂榜〕懸けたるふだ。○[李元陽]「東-岡壁-立如二——一」。
〔懸榜〕前に同じ。○[趙彥昭]「——學二蓬-萊一」。
〔板榜〕いたのふだ。○[張祜]「重-廊標二——一」。
〔高榜〕たかくかゝげたるふだ。○[蘇軾]「——勸二遊-人一」。
〔酒榜〕さかみせのかんばん。○[僧皎然]「長安——許-後-春」。

【榝】サツ、サチ。所八切 黠
其の實はかはじかみに似たる一種の木、卽ち、椒の屬、はぶてこぶら。○[爾]「椒——醜萊」。

【榍】セツ、セチ。私列切 屑
㊀くさび、（楔）。㊁山桃。
㊂側擊す、うつ。

【榞】ゲン、グワン。遇袁切 元
其の實甘蔗に似たる一種の植物。

【榟】梓に同じ。

【榠】ベイ、ミヤウ。莫經切 青
—樝は、木葉花實共にはなはだ木瓜に似たる一種の木、たゞ蔕の間に重なれる蔕の乳の如きものなきが木瓜と異なり、くわりん、蠻樝、木李、木梨。○[蘇頌]「——樝木-葉花-實酷類二木-瓜一」。

【榠】ベイ、ミヤウ。母迥切 迥
晩く取りたる茶。

【槭】セキ、シヤク。所戟切 陌
白--は、一種の木。

【槭】セキ、シヤク。霜狄切 錫
㊀棟に通じ用ふ。○〔爾〕「赤-棟或作二赤--一」。
㊁もさむ、（索）。○〔揚雄〕「參-珍眸-精三以一レ數」。
㊂上がり生じたる木の枝。
㊃車の輞に中つる一種の木。
㊄--柃は、ひさがき。

【槭】サク、シヤク。昔各切 藥
こずゑ、（木-梢）。

【槝】ヲ、ウ。汪胡切 虞
㊀箭笴に中つる一種の木。
㊁--榑は、青棶ぶかき。

【榲】ヲツ、ヲチ。烏沒切 月
--桲は、まるめろ、或は、榲桲に作る。

【榡】ソ、ス。蘇故切 遇
素に通じ作る、未だ飾りを施さゞるを。

【樶】サイ、セ。祖回切 灰
木の節、ふし。

【榣】エウ。餘招切 蕭
㊀樹動く、うごく。
㊁其の上に更に若木を生ずさいふ一種の木。○〔山海經〕「槐-江之山、其陰多二--木一」。

【㮨】ショク、シキ。子力切 職
理細く刺ある一種の木。○〔山海經〕「底-陽之山、其木多二--柟-豫-章一」。

【榤】ケツ、ゲチ。渠列切 屑
鳥のさまる杙、とぐら。○〔爾雅〕「雞棲二于杙一爲レ--」。

【榥】クワウ、ワウ。胡廣切 養
㊀書を讀む牀、ふみづくゑ、ふづくゑ。
㊁帷屏の屬、ついたて、一說に、まど、（牕）、又、門牕の廡、ひさし、又、一說に、牕を明かにする爲めに帛を施せるもの。○〔張協七命〕「交-綺對レ--」。
〔鏤榥〕彫刻を加へたる牕又は牕のひさし。○〔晉〕「玄-榥--」。
〔欄榥〕てすりとまどと、家の出入口をいふ。○〔呉少徵〕「漸出二---外一」。「鞏」。
〔軒榥〕のきとひさしと。○〔江淹〕憑二---一而永レ

【榦】カン。古案切 翰
㊀築牆の端木、はしら、つッかひ。○〔書〕「峙二其楨--一」。
㊁體幹、みき、もと。○〔淮〕「枝不レ得レ大二於--一」。
㊂やまぐは、（柘）。○〔書〕「栝-杶柏」。
㊃たゞす、（正）。○〔詩〕「--二不-庭方一、以佐二戎-辟一」。
㊄え、（柄）。
㊅木を井字形に編みたるものゝ稱、ゐげた。○〔莊〕「埳-井之鼃、跳二-梁井--之上一」。
〔板榦〕築ぢをきづく木。○〔柳宗元〕「斬二---一聾二杜襪一」。「板-レ-」。
〔栽榦〕ついぢをきづく木をうゑ立つ。○〔揚穀〕「馆レ

【榦】カン、ガン。胡安切 寒
前條の㊅に同じ。

【榧】ヒ、ビ。府尾切 尾
粘に似たる一種の木、其の材は文彩ありて柏の如く其の實は食らふべし、かや。○〔本草〕「-有二一-種之粗--一」。

【榨】サ、セ。側嫁切 禡　サイ、セ。側賣切 卦
㊀油を打つ具、あぶらしぼり。
㊁酒盞、さけこし。

【榩】ケン、ゲン。渠焉切 先　ケン、ゴン。渠言切 元
㊀こめぐら、（廩）。
㊁木を斫る臺、あて。

【榪】バ、メ。莫賀切 禡
牀頭の橫木、又、すべて橫にさざして器物の搖がざる爲めに用ひたる橫木の稱。○〔禮疏〕「機以レ木爲レ之如レ牀先用二一-繩一繫二兩-頭之--一」。

【㮋】キョウ、ク。渠容切 冬
㊀小さき舟、こぶれ。○〔揚雄〕「南-楚江-湘、凡船之小而深者謂二之--一」。
㊁--松は、憎むべき貌にいふ語。

【㮫】カツ、ガチ。胡葛切 曷
木のそるを輔くるもの。

【㮫】カツ、ゲチ。下瞎切 黠
㊀弓だめ、ゆだめ。㊁榻に同じ、さゝら。

【榫】シユン。之允切 軫
刻りたる木を入る竅、ほぞ、ほぞあな。○〔程顥〕「--卯方則方」。

【榬】エン、雨元切 元　ヰン。于嬀切 支
㊀絲を絡く具、わく。○〔揚雄〕「䈴--也、所三以絡レ絲也」。
㊁鐘磬を懸くる具。○〔管〕「懸二鐘--磬之--、陳二歌-舞竽-瑟之樂一」。

【㮬】ヲウ、ウ。烏紅切 東
水--子は、一種の果。

【榁】サ、ザ。徂禾切 歌
わせすもゝ、さもゝ、（樝李）。

【樍】セキ、シヤク。資昔切 陌
屋の㮃-木、むなぎ。

【榸】テイ、ダイ。杜奚切 齊
米を研く槌、きれ。

【榭】シヤ、セ。詞夜切 禡
㊀屋宇ある臺、うてな。○〔書〕「宮-室臺--」。
㊁器を藏むる所。○〔漢〕「--所三以藏二樂-器一」。
㊂武技を講ずる屋。○〔左〕「三-郤將レ謀二於--一」。
㊃內室なき堂屋。○〔王延壽〕「陽--外望」。
〔水榭〕水濱にかまへたるうてな。○〔杜甫〕「杖レ藜登二---一」。
〔享榭〕高きうてな。○〔墨子〕「高-臺--」。
〔累榭〕重なれるうてな。○〔謝朓〕「辭-雲陟二---一」。
〔層榭〕前に同じ。○〔淮〕「高-臺--、人之所レ樂」。
〔曲榭〕折りまがれるうてな。○〔張衡〕「洞-門--」。

（月榭）月を眺むるために設けたるうてな。○〔顏延之〕「――迎ニ秋光ニ」。
（舞榭）歌舞をなすために設けたる屋。○〔劉禹錫〕「――旌盛々遲」。
（觀榭）四方を見はらすうてな。○〔曹植〕「營ニ――于城隅ニ」。
（園榭）そのとうてなと。○〔宋〕「中官勢族築ニ――ニ」。
（廣榭）ひろき殿堂。○〔水經、註〕「連廡――」。
（樓榭）うてな。○〔德宗實錄〕「京師――之踰レ制者皆毀」。
（亭榭）前に同じ。○〔劉諫錄〕「――淸敞」。
（高榭）たかく構へたるうてな。○〔阮籍〕「――隔ニ微塵ニ」。
（深榭）奧ふかき內室なき屋。○〔江淹〕「蟋蟀吟ニ――ニ」。
（瑤榭）たまのうてな、美麗に飾りたるうてなにいふ語。○〔劉義恭〕「――陳ニ玉牀ニ」。
（危榭）高くそつらへたるうてな。○〔江總〕「――引ニ淸風ニ」。
（雲榭）高く聳えたるうてな。○〔許敬宗〕「中天表ニ――ニ」。
（疊榭）二階三階にかさねて造れるうてな。○〔王勃〕「――層楹相對起」。
（虛榭）人なきうてな。○〔韓休〕「流塵滿ニ――暗」。
（香榭）かぐはしきにはひのこもりたるうてな。○〔錢起〕「林端陟ニ――ニ」。
（荒榭）あれはてゝ修むるものもなきうてな。○〔賈島〕「――苔蘚砌」「已迷」。
（故榭）ふるきうてな。○〔溫庭筠〕「――荒涼路」。
（傾榭）倒れかゝりたるうてな。○〔方回〕「歌樓――最愁レ人」。

【榮】エイ、ヤウ。永兵切 庚

㊀あをぎり、きり、（桐）。○〔爾〕「―桐木也」。
㊁屋梠の兩頭の起こりあがりたる所、のきづま、やねづま。○〔禮〕「升レ自ニ東―ニ、降レ自ニ西北―ニ」。
㊂はな、（華）。○〔爾〕「草謂ニ之―ニ」。
㊃はな開く、はなさく。○〔爾〕「―而不レ實者謂ニ之英ニ」。
㊄さかゆ。
（い）さかんなり、（盛）。○〔荀〕「宮室―歟」。
（ろ）あらはる、（顯）。○〔呂氏春秋〕「其名莫レ不レ―」。
（は）志げる、（滋）。○〔素問〕「其化生―」。
㊅名譽あること、勢さかゆること、さかえ。○〔呂氏春秋〕「修誹者以爲レ―」。
㊆色華、つや、いろ。○〔素問〕「此五臟所レ生之外―也」。
㊇光明、あきらか、ひかり。○〔傅休奕〕「天地合レ德、日月合レ―」。
㊈血液。○〔內經〕「―衞不レ行、五臟不レ通」。

（東榮）家屋の東の方にあるのき。○〔禮〕「洗當ニ――ニ」。
（尊榮）身分のたふとくさかんなること。○〔孟〕「其君用レ之則安富――」。
（嘉榮）草の名。○〔山海經〕「宗葉赤華、華生ニ穗閒ニ、名曰ニ――ニ」。
（義榮）自身よりいづるさかえ。○〔荀〕「志意修、德行厚、知慮明、是榮由レ中出者也、夫是之謂ニ――ニ」。
（勢榮）外よりきたるさかえ。○〔荀〕「爵列尊、貢祿厚、形勢勝、是榮從レ外至者也、夫是之謂ニ――ニ」。
（驕榮）おごる。○〔韓〕「齊遣ニ定公女樂ニ、以――其志ニ」。
（增榮）さかえをます。○〔易林〕「上レ―益譽」。
（采榮）ほまれをとり得。○〔揚雄〕「四皓采ニ―於南山ニ」。
（滋榮）志げりさかゆ。○〔曹植〕「惠レ之則――」。
（枯榮）かれ衰ふるとさかえ盛んなると。○〔李白〕「各自有ニ――ニ」。
（恩榮）なさけをうけてさかふ。○〔李白〕「歡娛樂ニ――ニ」。
（顯榮）名のあらはれ身のさかゆること。○〔戰〕「富貴――」。
（長榮）永久にさかんなること。○〔史〕「子孫――」。
（歡榮）よろこびとさかえと。○〔韋應物〕「賢愚共ニ――ニ」。
（過榮）身分にすぎたるさかえ。○〔南〕「仰竊ニ――ニ」。
（探榮）身の出世をさぐり求む。○〔宋〕「谷谷絕ニ――之轍ニ」。
（美榮）うつくしくさかゆ。○〔易林〕「萬物――」。
（華榮）はなさく。○〔易林〕「萬物――」。
（辭榮）身のさかえをことわる。○〔淨住子〕「割レ愛――」。
（淸榮）きよらかにさかゆ。○〔水經、註〕「――峻茂、良多ニ趣味ニ」。
（偸榮）さかえをみだりにす。○〔陳琳〕「―レ―求レ利」。
（繁榮）さかんにしげる。○〔陶潛〕「卉木――」。
（衰榮）おとろふるとさかゆると。○〔陶潛〕「――無ニ定在ニ」。
（浮榮）かたく定まらざる世俗のさかえ。○〔王融〕「――未レ能レ捨」。
（光榮）よきほまれ。○〔李白〕「竹帛以ニ――ニ」。
（舒榮）草木なとののびのびとさかゆること。○〔韋應物〕「草木漸――」。
（家榮）家のほまれ。○〔韓愈〕「以爲ニ――ニ」。
（虛榮）まことならざるさかえ。○〔柳宗元〕「居レ寵眞――」。
（榮榮）勢さかゆる貌にいふ語。○〔元稹〕「仕レ官方――」。

【榯】シ。市之切 支

樹木の直立するにいふ字、たつ、そばだつ。○〔宋玉〕「其始出也、䎳兮若ニ松―ニ」。
（落榯）とぼそを持つ具、とざし、くわんのき。

【榰】シ。章移切 支

㊀柱の下根、いしずゑ、ごだい。
㊁さゝふ、（柱）。

【榱】スヰ。所追切 支

屋椽、たろき。○〔張衡〕「飾ニ華―與ニ璧璫ニ」。
（桷榱）たるき。○〔王安石〕「以レ次構ニ架―與レ―」。
（櫩榱）のきとたるきと。○〔淮〕「修者以爲ニ――ニ」。
（文榱）あやあるたるき。○〔七啓〕「――華梁」。

【榲】ヲツ、ヲチ。烏沒切 月

―桲は、こぼけに似たる一種の果、まろめろ。○〔花木記〕「―桲梨一種」。

【榲】ウン、ヲン。於問切 問

【榲】ヲン。烏昆切 元

㊀やまなし、（杜）。㊁はしら、（柱）。

【榲】ウン。禿隕切 軫

㊀すぎ、（杉）。㊁ね、（根）。
木の盛んなる貌にいふ字。

【⿰木函】カン、ケン。居咸切 咸

椷に同じ。

【⿰木函】カン、ガン。胡南切 覃

水を通はす具、とひ、ひ。

【榳】テイ、チヤウ。唐丁切 青

櫺―は、長き木の貌にいふ語。

【⿰木茸】ジョウ、ジュ。而容切 冬

檀に似たる一種の木。

【橊】俗の榴の字。

【榶】タウ、ダウ。徒郎切 陽

㊀志で、（栘）。
㊁椀。○〔荀〕「晉人以レ―」。

【榷】カク、ゴク。古岳切 覺　カウ、ケウ。居教切 效

㊀一株の樹を横たへ渡せる橋、いつぽんばし、まろきばし、水彴橋。○〔顏師古〕「設レ木爲レ―」。
㊁税を賦課すると、利益を獨占すると。○〔漢〕「初―ニ酒酤ニ」。
（酒榷）酒を專賣して利を占むると、酒よりみつぎをとりたつると。○〔後漢〕「興ニ鹽鐵――之利ニ」。
（辜榷）己れのみ其の賣買の利を占むると、又、みつぎを收斂すると。○〔後漢〕「豪右――、馬一匹至ニ二百萬ニ」。

〔茶榷〕茶を專賣して其の利を占むること、茶よりみつぎをとりたつること。○〔王安石〕「朝-廷弛ニ－・－ー」。
〔禁榷〕他の賣買することをとゞめて政府に專賣權を握ること。○〔宋〕「奮請ニ－・－ー以收ニ遺-利ー」。
〔官榷〕前に同じ。○〔程史〕「以ニ財豪ニ鄕-里ー、爲ニ－・－坊-酤-頁-捕-私-醸ー」。
〔稅榷〕官よりみつぎを徴收して利を占むること。○〔宋〕「蒲卣之議、－・－皆有ニ可ニ稱-道ー」。
〔利榷〕獨占する利益。○〔沈亞之〕「－・－大登」。
〔征榷〕みつぎを取り立つること。○〔蔡襄〕「溢ニ於－・－之局ー」。
〔酤榷〕酒を專賣して利をとること。○〔蘇軾〕「對レ酒不ニ嘗憐ニ－・－ー」。
〔鹽榷〕鹽を專賣して利をとること、又、其の署。○〔揚維楨〕「亭-丁焦-頭爛ニ－・－ー」。

【榷】カク、コク。克角切 覺
きこく（枳）。

【欅】ケツ、ケチ。吉屑切 屑
桔に同じ。

【𣝔】ヂョ、ニョ。女居切 魚
淚－は、さらへ、ぶよれん、みぞざらへ。

【棞】コン、ゴン。胡昆切 元
未だ析かざる木、まろき、まろた。

【棞】コン、ゴン。胡本切 阮
梡に同じ。

【榸】タイ。卓皆切 佳
㊀枯れ木の根。㊁くひ（椿）。

【榹】シ。息移切 支
㊀山桃。㊁たらひ（槃）。

【榌】ヒ、ビ。房脂切 支　ヘイ、ベイ。避迷切 齊
椽の端にありて檐に連なれる木、の

き。○〔張衡〕「褸-檻文-－」。

【榺】ショウ。詩證切 徑
機の經糸を持つ具、たていさまき。

【𣘸】ショウ。色矜切 蒸
草木の盛んなる貌にいふ字。

【𣘸】
俗の森の字。

【榻】タフ、トフ。土盍切 合
㊀狹くして長き牀、こしかけ、ねだい、ゆか。○〔後漢〕「蕃在レ郡不レ接ニ賓-客ー、惟徐-穉來設ニ一－ー」。
㊁志らぬの（白-疊）。○〔史〕「－-布皮-革千-石」。
〔懸榻〕釣り下げたる腰掛。○〔庾信〕「倒レ屣迎ニ－・－ー」。
〔木榻〕木もて作れる臺。○〔周祗〕「－・－留ニ燈-語ニ夜-分ー」。
〔御榻〕天子の倚るこしかけ。○〔唐〕「引ニ李-綱ー升ニ－・－ー」。
〔石榻〕石もて作れるゆか。○〔翁卷〕「－・－一爐-香」。
〔臥榻〕寢臺のこと。○〔長編〕「但－・－之側、豈容ニ他-人鼾-睡ー乎」。
〔塵榻〕ごみのかゝりあるこしかけ。○〔陸游〕「－・－圍レ爐豆-秸暖」。
〔移榻〕腰掛を他處に持ち行く。○〔劉瓊〕「－レ－坐ニ庭-陰ー」。
〔禪榻〕佛の法を修むるために用ふる腰掛。○〔杜牧〕「今-日鬢-絲－・－畔」。
〔獨榻〕一人掛けのこしかけ。○〔宋〕「常升ニ－・－ー延レ之」。
〔方榻〕四角なるゆか。○〔宋〕「自レ非ニ三-署ー、不レ得ニ上ニ－・－ー」。
〔講榻〕講演のために用ふる腰掛。○〔唐〕「－・－北向」。
〔據榻〕腰掛に身をもたせかく。○〔唐〕「－レ－召見」。
〔牀榻〕こしかけ、ゆか。○〔五〕「乃使ニ人題ニ其所レ服器-皿－・－ー」。
〔磚榻〕やきものもて作りたる牀。○宋「衣ニ紙-衣ー臥ニ－・－ー卒」。
〔　榻〕飾りを施したるゆか。○〔子夜歌〕「與レ郎對ニ－・－ー」。

〔矮榻〕たけの短くちひさなる牀。○〔陸游〕「－・－水-紋-簟」。
〔淨榻〕淨きゆか。○〔謝翱〕「－・－投レ涼臥」。

【𣛵】シウ、ス。初尤切 尤　シユ、ス。窗愈切 虞
㊀牛の鼻に繩を繫ぐ具、はなぎ。㊁正しからざる板木。

【榼】カフ、コフ。苦盍切 合
㊀器の口を覆ふもの、おほひ、ふた。○〔左〕「行-人執レ－承レ飮、造ニ于子-重ー」。
㊁水漿を貯ふる器、かめ、たる。○〔淮〕「甕-水足ニ以溢ニ壺-－ー、而江-河不レ能レ實ニ漏-巵ー」。
㊂あけびに似たる一種の藤、もだま。○〔本草拾遺〕「－-藤如ニ通-草ー、其實三-年方熟」。
〔瓶榼〕飲料を入るゝかめ。○〔傳信記〕「化爲ニ－・－ー」。
〔酒榼〕さかたる。○〔白居易〕「牀-頭殘ニ－・－ー」。
〔小榼〕さゝやかなるさかたる。○〔白居易〕「行攜ニ－・－ー出滌レ花」。
〔金榼〕こがねにて作りたるたる。○〔司馬光〕「和-氣盈ニ－・－ー」。
〔樽榼〕さかたる。○〔王安石〕「行不レ廢ニ－・－ー」。
〔芳榼〕かぐはしき香のこもれるさかたる。○〔陸游〕「重攜ニ－・－ー卜ニ幽-期ー」。
〔巨榼〕大いなるかめ。○〔陸游〕「長-餅－・－羅ニ盃-盖ー」。
〔殘榼〕飲みあましのさかたる。○〔陸游〕「卯-酒倒ニ－・－ー」。
〔傾榼〕さかたるをかたぶけあく。○〔劉基〕「傾レ盎－レ－混ニ醯-醬ー」。
〔盦榼〕行厨とさかたると。○〔何景明〕「－・－携レ所レ需」。

【榽】ケイ、ガイ。胡雞切 齊
－-橀は、幹細くして其の葉檀に似たる一種の木。○〔爾註〕「上レ山斫レ檀－-橀先彈」。

【榽】ケイ、ガイ。胡計切 霽
つかぬ（束）。

【榽】カイ、ケ。戸佳切 佳
かご（棱）。

【榾】コツ、コチ。古忽切 月
㊀榾－は、一名、狗骨木、其の材白くして箭笴又は合器を作るに中つ、ひひらぎ。
㊁木頭、きりかぶ、ほだ。○〔元稹〕「古-墓深-林盡株-－」。

【榿】キ。丘奇切 支　カイ、ケ。苦駭切 蟹　如　カイ、ガイ。五來切 灰
生長甚だ速かにして三年を經れば大木となるといふ一種の木。○〔杜甫〕「飽聞－-樹三-年大」。

【槀】カウ、コウ。苦浩切 皓
㊀かる、からす（枯）。○〔孟〕「七-八-月之閒旱則苗－矣」。
㊁かれたる木、かれき。○〔荀〕「若レ振レ－然」。
㊂つむ（積）。○〔左〕「富-父-槐去ニ表之－ー道-還ニ公-宮ー」。
㊃稾に通じ用ふ。○〔荀〕「蘭-茝－-本」。
㊄藁に通じ用ふ。○〔馬融〕「特箭－-而莖-立」。

【槀】カウ、コウ。口到切 號
前條の㊀㊁に同じ。

【槁】
槀に同じ、かる、からす、かれき。○〔莊〕「形固可レ使レ如ニ－-木ー」。
〔凋槁〕しぼみかる。○〔曾鞏〕「將-帥色－・－」。
〔焦槁〕草木などのひでりにてかるゝこと。○〔宋〕「田-

設－－」。
〔搉搉〕かれきをくたくとにて事のたやすきにかりいふ語。○〔徐積〕「一戰而北若レ－レ－」。
〔袞槁〕おとろふ。○〔陸游〕「養レ氣無レ功日－－」。

【槂】ソン。蘇昆切 元
公－－は、一種の木。

【槃】ハン、バン。蒲官切 寒
㊀手に承け持つ盤、たらひ。○〔禮〕「適ニ父-母舅-姑之所一、少-者奉レ－、長-者奉レ水請ニ沃-盥一」。
㊁たのしむ（樂）。○〔詩〕「考レ－在レ澗」。
㊂進まず、とゞこほる、とゞまる。○〔宋〕「西-雑既殄、便應ニ還レ朝而解一故－－停、托云捍レ蜀」。

【榼】カイ、ケ。許亥切 蟹
木にて作れる酒器、さかだる、さかづき。

【槄】タウ、トウ。土刀切 豪 他皓切 皓
㊀やまひさぎ（山-楸）。㊁ゆず（條）。

【槅】カク、キヤク。古覈切 陌
㊀軛に通じ用ふ、くびき。○〔張衡〕「商-旅連レ－」。
㊁されくだもの（核）。○〔左思〕「肴－四-陳」。

【槆】シユン。松倫切 眞
鉏の柄の材に用ふる一種の大木。

【橁】シユン。相倫切 眞
杶木の別名。

【槙】テン、デン。多年切 先

㊀木杪、こずゑ。㊁顚へりたる木。

【槇】シン。止忍切 軫
木密なり、ಮげる。

【槇】シン。之人切 眞 テン、デン。堂練切 霰
木の根迫迮す、せまる。

【椑】ヒ、ビ。平祕切 寘
一種の木、吐く穗のさま鹽の如く其の味ひ酸美なり、ぬるで。○〔山海經〕「槖-山多ニ－-木一」。

【槈】ドウ、ヌ。奴豆切 宥
地を刺して草を除く具、くさかりだうぐ、其の柄の長さ三尺にして刃の廣さ二寸なるがさだめなりといふ。○〔管〕「挾ニ其槍刈－鎛一」。

【榯】トク。敵得切 職
くひ（杙）。

【榛】シツ、シチ。秦悉切 質
柱上の欂、ますがた。○〔爾〕「闕謂ニ之－一」。

【槊】サク、ソク。所角切 覺
㊀一に矟に作る、ほこ（矛）、特に、其の長さ一丈八尺あるものゝ稱。○〔魏〕「不レ畏ニ利－－堅-城一、惟畏ニ楊-公鐵-星一」。
㊁博簺、すごろくのさい、一說に、博局、すごろくばん。○〔韓愈〕「酒-食罷無-事、棊－以自娛」。
〔握槊〕すごろくのさい。○〔康熙〕「－－博-簺也」。
〔刀槊〕かたなとほこと。○〔晉〕「性耐ニ－－一」。
〔横槊〕矛をよこさまに持つ。○〔晉〕「－レ－賦-詩」。
〔氷槊〕こほりの如くに光る矛。○〔韓愈〕「爭レ前耀ニ－－一」。
〔牟槊〕矛のこと。○〔北〕「或執ニ持－－一」。「－一」。
〔矛槊〕前に同じ。○〔歐陽修〕「巨-箪人々把ニ－」。
〔戟槊〕前に同じ。○〔韓愈〕「衛-門羅ニ－－一」。
〔善槊〕ほこを巧みに使用す。○〔五〕「郭-延魯以レ－レ－爲レ將」。
〔棗槊〕なつめの木もて作れる矛。○〔宋〕「揮ニ鐵-鞭「－－一」。
〔毒槊〕毒を塗りたる矛。○〔酉陽雜俎〕「南-蠻有ニ－－一」。
〔運槊〕ほこをつかふ。○〔元〕「－レ－生レ風」。
〔挟槊〕ほこを横たへ持つ。○〔丹渾〕「－レ－彎レ弧馬-上飛」。

【構】コウ、ク。古候切 宥
㊀かまふ。
（い）屋宇を架す、かく。○〔書〕「厥子乃弗ニ肯堂、矧肯－」。
（ろ）作す、つくる、くみたつ。○〔晉〕「文-章宏-富、善－ニ新-調一」。
（は）謀る。○〔進〕「文-王與ニ諸-侯一－レ之」。
（に）附會す、つけあはす。○〔左〕「宣-姜與ニ公-子朔一－ニ急-子一」。
（ほ）結ぶ、連ぬ。○〔國〕「逐レ之恐－ニ諸-侯一」。
（へ）合はす。○〔易〕「男-女－レ精、萬-物化-生」。
㊁成る、合ふ。○〔漢〕「事已－矣」。
㊂結ぼる、連なる。○〔戰〕「秦楚之兵－而不レ離」。
㊃かまふると、かまふる所、つくり、かまへ。○〔蔡邕〕「克不ニ堂－一」。
㊄屋宇、やれ、又、桷榱、たるき。○〔陸雲〕「華-堂傾－、廣-宅頽-墉」。
㊅楮木の別名、かぞ、かうぞ。○〔物類相感志〕「－-膠可ニ以塗ニ丹-砂一」。

〔解構〕人と人との中間にありて惡しざまにはからふこと。○〔後漢〕「勿ニ用ニ入－－之言一」。
〔宿構〕前以て成し置けること。○〔魏〕「時人常以爲ニ－－一」。
〔天構〕自然にこしらへつくられたること。○〔任昉〕「－－匠者何工」。
〔玉構〕大いなる事業。○〔唐玄宗〕「顧循ニ永－－一」。
〔造構〕作りこしらふ。○〔後漢〕「－ニ－文-辭一」。
〔雕構〕刻みこしらふ。○〔魏〕「以ニ大-木一－－」。
〔締構〕結ぶ、結ぼる。○〔晉〕「水-德－－」。
〔修構〕手を入れかまふ。○〔晉〕「－ニ－三-臺一」。
〔從構〕彼れより此れへと移しまつらふ。○〔魏〕「自ニ皇-基－－、光ニ宅中-區一」。
〔剏構〕始めかまふ。○〔晉〕「－ニ－鴻-基一」。
〔先構〕前の時になし置ける事業。○〔晉〕「永懷ニ－－一」。
〔成構〕なる、なす。○〔宋〕「衆材－－」。
〔重構〕二重にこしらふ。○〔曹植〕「雲-屋－－」。○
〔粗構〕あらましをこしらへ作る、あらましなる。（齊）「－－ニ綵-券一」。
〔改構〕模樣をかへてつくる。○〔陳〕「－ニ－亭宇一」。
〔經構〕營みこしらふ。○〔魏〕「今－－既有ニ次第一」。
〔功構〕普請をなすこと。○〔魏〕「－－初成」。
〔別構〕異なりたるかまへ。○〔庾肩吾〕「－－ニ一體一」。「－之苦一」。
〔築構〕きづきかまふ。○〔唐〕「因レ山藉レ水、無ニ－－一」。
〔素構〕日頃こしらへ置く。○〔唐〕「占-辭該-敏如ニ－－一」。「集ニ良-材一」。
〔宏構〕大きなるかまへ。○〔殷文圭〕「明-堂－－」「又－－ニ形-似之言一」。
〔巧構〕上手にこしらふ、たくみにできる。○〔鍾嶸〕
〔層構〕二重にこしらふ。○〔校乘〕「臺城－－」。
〔靈構〕妙なるつくり。○〔陶弘景〕「－－不レ待レ匠」。
〔奇構〕くしびなるつくり。○〔陸機〕「－－磊落」。
〔華構〕はなやかなるつくり。○〔陸雲〕「觸ニ－－之丘-院一」。
〔讒構〕さかしらごとをもて人を陷る。○〔李康〕「－－不レ能レ離ニ其交一」。
〔鱗構〕魚のうろこの如くに行列をなしたること。○〔庾闡〕「石-室－－」。
〔結構〕作りこしらふ。○〔左思〕「巖穴無ニ－－一」。

〔高構〕たかくこしらふ。○〔袁宏〕「—｜千尋」。
〔貝構〕二重にこしらふ。○〔沈約〕「重搆—｜—」。
〔カ構〕骨折りてこしらふ。○〔趙子留〕「不レ以二—｜—」。
〔搢構〕集めて作る。○〔徐彦伯〕「周廬—｜以戢レ昏」。
〔巨構〕大いなるつくり。○〔袁楠〕「—｜—千礎承」。

【槌】ツヰ。傳追切 支
㊀うつ、（擊）。○〔古詩〕「—レ牀便大怒」。
㊁物を擊ちたゝく具、つち、ぼう、つゐ。
○〔魏〕「雙—｜亂擊」。

【槌】ツヰ。馳僞切 寘
蠶簿を架けわたせる木、かひこのすばしら。○〔徐鉉〕「江淮謂二之—一、此則架二蠶簿一之木」。

【槌】タイ、テ。都回切 灰
なげうつ、（擲）。〔揚雄〕「—二提仁義一」。

【槍】シヤウ、サウ。七羊切 陽
㊀やり。
（い）竹木の端を銳く剡りて物を拒ぎ若しくは突き傷つくる用をなすもの。○〔揚雄〕「木雍—｜—纍以爲二儲胥一」。
（ろ）一種の兵器、戈矟の屬、ほこ。○〔宋〕「一將以レ—進、珪挾二其—一、以レ瓶擊二殺之一」。
㊁地を刺し草を刈る器、くさかりだうぐ。○〔管〕「挾二其—刈耨鎛一」。
㊂いたる、（抵）。○〔漢〕「見二獄吏一則頭—レ地」。
〔挺槍〕やりをつき出す。○〔唐〕「躍レ馬—レ—、刺二於萬衆中一」。

【槍】サウ、シヤウ。楚耕切 庚

欃—｜は、はゝきぼし、彗星。○〔爾〕「彗星爲二欃—｜一」。

【槎】サ、ゼ。仕下切 馬
なゝめに斫る、きる。○〔春秋〕「山木不レ—｜」。

【槎】サ、セ。仕加切 麻
うきき、いかだ、（査）。○〔博物志〕「有二浮—｜去來一」。
〔流槎〕ながるゝいかた。○〔庾信〕「—｜—一去上二天池一」。
〔泛槎〕前に同じ。○〔李嶠〕「池似二—｜—流一」。
〔乘槎〕いかだにのる。○〔北〕「—レ—下二釣磯一」。
〔淺槎〕あさせにあるいかだ。○〔庾信〕「—｜—全不レ動」。
〔海槎〕うみの上に漂ふうきき。○〔宋之問〕「秋來「見二—｜—一」。
〔孤槎〕一つのいかだ。○〔杜甫〕「—｜—自二客星一」。
〔斷槎〕きれ〴〵になりたるうきき。○〔陸游〕「低昂泛二—｜—一」。

【槏】カン、ケン。苦洽切 豏
牖の傍にある柱。

【槤】レン、ロン。力鹽切 鹽
㊀まご（欞）。㊂かたふく、（仄）。
㊂自ら檢す、さりしまる。㊃廉に同じ。

【槏】ケン、コン。賢兼切 鹽
稻の一種。

【槏】カン、ゲン。胡犯切 豏
わん、（盂）。

【槒】梅に同じ。

【槐】クワイ、戸乖切 佳 ケ。胡隈切 灰
㊀材質堅くして木理細かなる一種の喬木、ゑんじゆ。○〔晉〕「大司馬府有二老—樹一」。
㊁古昔周の時代に朝廷に植ゑたるゑんじゆの木に面して三公の座位せしより、轉じて、三公の位階にいふ字。○〔周〕「面二三—一三公位焉」。
〔塀槐〕街道の一里塚にうゑたるゑんじゆ。○〔北〕「當二一處一植二—｜樹一」。
〔台槐〕三公の位置。○〔晉〕「或以二雜望一處二—｜—一」。

【槊】サク、ソク。色角切 覺
一種の木、一說に、柵。

【槜】チ。陟利切 寘
はり、（刺）。

【槜】チ。陟里切 紙
かうぞ、かぞ、（柠）。

【槆】トン、ドン。同閼切 願
田器。

【槌】ツヰ。直類切 寘
木を斷り軸となして物を巾ぶること。

【尌】古文の樹の字。

十一畫

【槢】シフ。似入切 緝
㊀材質堅き一種の木。○〔元結〕「—欃々兮未レ堅」。
㊁くさび、（楔）。○〔何晏〕「楯類二騰蛇一、—似二瓊英一」。

【槣】キ。居宜切 支
㊀箸をもて物を取る、さる。
㊁械す。

【槤】レン。里典切 銑
黍稷を盛る一種の器。○〔說〕「瑚—也」。

【槤】レン。力延切 先
㊀堂又は樓閣の邊にある小屋、こや。○〔爾〕「—謂二之簃一」。
㊁横の關木、くわんのき。○〔類篇〕「門持レ關謂二之—｜一」。
㊂其の實は、枇杷に似たる一種の木。○〔郭璞〕「楙—森レ嶺而羅レ峯」。

【槥】セイ、セ。祥歲切 霽
ひつぎ、（棺櫝）。○〔漢〕「令下從軍死者爲レ—歸中其縣上」。
〔棺槥〕死人を入るゝ器、ひつぎ。○〔南〕「遭レ水死者給二—｜—一」。

【槦】ヨウ、ユ。餘封切 冬
㊀槦—｜は、箭笴に中つる一種の木。
㊁兵器をかけ置く架、きれものかけ。

【槫】トウ、ツ。吐孔切 董
鴻—｜は、矢に中つる一種の木。

【槧】セン、慈染切 琰 サン、左敢切 感 ゼン。
セン、七豔切 豔 七廉切 鹽 ソン。
㊀鉛槧の牘、あらけざるふだ、一說に、あらけ削りたる板、或は曰ふ、長さ三尺の板、卽ち、文字を書するに用ひしふだ。
㊁轉じて、文書。○〔論衡〕「斷レ木爲レ—」。○〔王令〕「時作二寄レ我—一」。
㊂又轉じて、文字を書すること、讀書すること、記誦の學をなすこと。○〔揚雄〕「叔孫通—｜人也」。

〔堤槧〕ふたをたづさふ、文書をたづさふ。○〔西京雜記〕「常懷ㇾ鉛――ㇾ―」。
〔鉛槧〕ふでとふだとのこと、又、文筆に從事すること。○〔茅亭客話〕「簡冊――未ㇾ嘗ㇾ離ㇾ手」。
〔簡槧〕ものをかきとむるふだ。○〔癸辛雜識〕「――古無ㇾ有也」。

【槨】槨に同じ。

【槩】カイ、ガイ。古代切 隊

㊀斗斛の容量を正しくする爲めに斗斛に盛れるものを其の緣と平行に戞摩するに用ふる木、とかき、ますかき。○〔禮〕「正ニ權―ㇾ」。
㊁平かに量る、はかる。○〔周〕「―而不ㇾ稅」。
㊂平均せしむ、たひらかにす、ならす。○〔管〕「釜‐鼓滿則人―ㇾ之人滿則天―ㇾ之」。
㊃大率、おほむね、あらまし、ほど。○〔莊〕「――乎皆常有ㇾ聞者也」。
㊄感觸す、ふる。○〔史〕「臣愚不ㇾ―ニ王心ニ」。
㊅節操、識量、みさを、きりやう。○〔左思〕「俗有ニ節――之風ニ」。
㊆風度、趣致、やうす、おもむき。○〔晉〕「豪‐爽有ニ風――ニ」。
㊇慨に同じ、なげく。○〔史〕「婢‐妾賤‐人感――而自‐殺、非ニ能勇ニ也」。

〔退槩〕幽深にして明かならぬ、おくふかし、くらし、はのか。○〔何晏〕「孱‐露――」。「―也」。
〔量槩〕とかき。○〔徐幹〕「桁墨ニ摩之ニ也、斗斛―」。
〔少槩〕あらまし。○〔史〕「其文辭不ニ――見ニ」。
〔梗槩〕おほむね。○〔張衡〕「粗爲ㇾ寶言、其―」。「拔‐用ニ、
如ㇾ此」。
〔節槩〕みさをあること。○〔後漢〕「好ニ――、有ㇾ所ニ
〔氣槩〕氣象すぐれてみさをあること。○〔宋〕「貫俊‐邁能ㇾ文、尚ニ――ニ」。
〔義槩〕義に勇むみさを。○〔後漢〕「尼ㇾ以動ニ―」「―ニ而企ㇾ雄‐心ヒ」。

〔至槩〕すぐれたるきりやう。○〔魏〕「蓋有ニ君ㇾ人之――ニ焉」。「―ニ」。
〔忠槩〕誠實なるみさを。○〔南〕「因相勗以ニ―、
〔忘槩〕心がけ堅く動かすべからざる氣象。○〔北〕「少而聰‐敏嚴‐正有ニ――ニ」。「―ニ」。
〔勝槩〕すぐれたる景色。○〔舊唐〕「極ニ都‐城之―、
〔敦槩〕黍稷を盛る器とかきと、即ち、升量のことにいふ。○〔荀〕「斗‐斛――者」。
〔方槩〕正しきみさを。○〔元稹傳〕「器‐局――有ニ萬夫之望ニ」。
〔漂槩〕せまりふる。○〔杜篤〕「―ニ――朱崖ニ」。
〔一槩〕すべて同じといふ意に用ふる語。○〔杜甫〕「萬‐方聲――」。
〔達槩〕すぐれたるみさを。○〔謝莊〕「下官凡‐人非ㇾ有ニ――異‐識俗‐外之志ニ」。
〔純槩〕誠實なるみさを。○〔謝莊〕「近忘ニ太‐尉之――ニ」。
〔端槩〕正しきみさを。○〔鮑照〕「操之ニ――ニ」。
〔貞槩〕正しく堅固なるみさを。○〔梁簡文帝〕「志‐厲――」。
〔褊槩〕狹少なるきりやう。○〔江淹〕「弱‐識――」。
〔淺槩〕あさはかなるきりやう。○〔江淹〕「局‐志久戰、――已傾」。「―」。
〔高槩〕すぐれたるみさを。○〔徐陵〕「而貫之――

【槩】キ、ケ。許旣切 未

前條の㊀に同じ。

【槩】コツ、コチ。古忽切 月

哀しみ亂るゝ貌にいふ字。○〔莊〕「我獨何能無ニ―‐然ニ」。

【概】カイ、ガイ。古代切 隊

㊀槩に同じ。○〔班固〕「推而高ㇾ之仲‐尼―也」。
㊁朱色の帶を施したる黍塗りの尊。○〔周〕「祼‐事用ㇾ―」。
㊂漑に通じ用ふ、そゝぐ、あらふ。〔文選〕「於ㇾ是澡ニ―胷中ニ」。
〔素概〕質樸なるみさを。〔南〕「蘊ニ其――ニ」。
〔英概〕他にすぐれたるきりやう。○〔舊唐〕「――輔ㇾ時」。「――ニ」。
〔淸概〕にごりなきみさを。○〔王粲〕「守ニ聖人之――ニ」。
〔鄙概〕いやしききりやうのことにて人に對しておのれのきりやうを謙り稱するに用ふる語。○〔江淹〕「况臣――早盈、陋‐才久湮」。

【概】ケツ、ゲチ。巨列切 屑

くひ、（杙）。

【槵】ケン、居言ケン。切 經天コン。切 元

槵藩（ばくえき）の采の名。

【槫】タン、ダン。徒官切 寒

まろし、まどか、（圓）。○〔楚辭〕「曾‐枝剡‐棘圓‐果―兮」。

【槫】セン、腎兖切 阮 ゼン。切 淳緣切 先

柩車。

【槎】タ、テ。宅加切 麻

晩く采取せし茶。

【樣】ト、ヅ。同都切 虞

㊀楸の木の別名、又、葭―。㊁苦茶。

【㭉】クワ、ゲ。胡化切 禡

鐘淺くして大なり、又、鐘の音滑かならず、ふぶる。○〔左〕「今鐘―」。

【槭】シユク、ソク。子六切 屋

㊀楓の屬。○〔蕭穎士〕「相ニ彼――ニ矣、亦類ニ其楓ニ」。
㊁至る。○〔揚雄〕「―到也」。

【槭】サク、セキ。色責切 陌

㊀枯れ凋む、ふぼむ、かじく、又、葉落つ、おつ。○〔潘岳〕「庭‐樹―以灑‐落」。
㊁葉おちて枝空しき貌にいふ字。○〔潘岳〕「陳‐柯―改ㇾ舊」。
〔槭々〕草の枯れ凋む貌にいふ語。○〔夏侯湛〕「――以疏‐葉」。「―」。
〔凋槭〕萎み落つ。○〔梁昭明太子〕「彈‐枝―」。

【槮】シン、所今切 侵 ソン。切 サン、桑感ソン。切 感

㊀木の長き貌にいふ字。○〔張衡〕「橚‐槮―」。
㊁葉落ちて莖枝獨立す。○〔宋玉〕「蕭‐橚―之可ㇾ哀兮」。
㊂柴を束ねて水中に漬け魚を圍み捕らふるもの、ふしづけ。○〔爾〕「―謂ニ之涔ニ」。

【槮】サウ、蘇遭切 豪 ソウ。サン、師銜切 咸 セン。

木長し。○〔馬融〕「森―柞樸」。

【槮】シン、ソン。疏簪切 侵

木の實の名。

【槮】サン、セン。所斬切 豏

さる、（取、執）。

【樶】サイ、セ。昨回切 灰

杖を作るに中つる一種の木。

【樶】サイ、セ。狙猥切 賄

木蘊積す、あつまる、つむ。

【㮏】ヂツ、ニチ。尼質切 質

粗榢――は、大荒の中に生えて、三千歳に花を開き九千歳に實のりて其の高さ百丈となるといふ一種の木。

【樥】ホウ、ブ。菩貢切 送

草木の盛んなる貌にいふ字。

【槱】イウ、與久切 有　ユ。余救切 宥　夷周切 尤
火を積みて燎く、やく。○〔詩〕「薪レ之—レ之」。〔柴槱〕たばねを燒く。○〔韓愈〕「或燻若ニ—ー—ニ」。

【槲】コク、ゴク。胡谷切 屋
櫟に類し「どんぐり」ある一種の木、葉は長大にして粗き鋸齒あり、かしは。○〔許渾〕「古-木高-生—」。

【〓】セン、ゼン。隨戀切 霰
椗に同じ。

【〓】シン。所臻切 眞
㊀牀の前の横木、かまち。㊁簀版、ゆかいた。㊂やまなし（杜）。㊃榛に通じ用ふ、はしばみ。

【槳】シヤウ、サウ。即兩切 養
㊀楫の屬、ふなばたに在るもの、一説に、櫂の小なるもの、又一説に、特に船を前進せしむるに用ふるもの、かい、かぢ。○〔劉孝綽〕「急—渡ニ江-湍ニ」。㊁櫂をおく所、ろぐひ。○〔揚雄〕「所ニ以隱ヒ櫂謂ニ之—ニ」。
〔蘭槳〕あららぎのかぢ。○〔蘇軾〕「桂棹兮—ー—」。
〔飛槳〕舟をはやむ。○〔陸游〕「渺々煙波—レ—去」。
〔搖槳〕かぢをうごかす。○〔溫庭筠〕「軋々—レ—聲」。
〔畫槳〕うつくしくかざりたるかぢ。○〔朱熹〕「綵-舟停ニ—ー—ニ」。

【槳】シヤウ、サウ。資良切 陽
㊀前條に同じ。㊁えだ（柯）。

【槴】コ、グ。後五切 麌
書籍を入れをさむる器、ふばこ、ふみばこ、一説に、魚を取る具。

【槵】クワン、グワン。胡慣切 諫
一種の木、其の果核は黑く圓かにして念珠に作るべし、果皮は能く垢を去るをもて物を澣ふ料とす、むく、むくろじ、一名は、無患、噤婁。○〔通雅〕「—子實可レ去レ垢核黑如レ槃」。

【槶】クワイ、ケ。古誨切 隊
かたみのそこ（筐-當）。

【槶】クワイ、ケ。姑回切 灰
はこ（筐）。

【槷】ゲツ、ゲチ。倪結切 屑
㊀危くして堅からず、よわし。○〔周〕「轂小而長則柞、大而短則—」。㊁うつ（椴）。○〔周〕「直以指レ牙、牙得則無レ—而固」。㊂はしら（柱）。○〔周〕「建レ國水レ地置レ—以縣」。㊃門の中央の礙橜、なかじきり。○〔穀梁〕「置レ旃以爲ニ轅-門一以レ葛覆レ質以爲レ—」。㊄侯の正中、まとのくろぼし。○〔小爾〕「射張レ布謂ニ之侯一々中者謂ニ之鵠一々中者謂ニ之正一々中者謂ニ之—ニ」。

【槷】デツ、子チ。乃結切 屑
くさび（楔）。

【槸】槷に同じ。○〔詩傳〕「褐纏レ旃以爲レ門、裘纏レ質以爲レ—」。

【槸】ゲイ、ガイ。魚祭切 霽
樹枝相切磨す、すれあふ。○〔爾〕「木相磨—」。

【槔】カウ、コウ。古勞切 豪
はねつるべ（汲-水-機）。○〔莊〕「鑿レ木爲レ機後重前輕、挈レ水若レ抽數如ニ泆-湯一其名爲レ—」。

【〓】ハウ、部項切　ボウ。 講
木の杖、つゑ。—本、棓に作る。

【槺】カウ。苦岡切 陽
むなし（虛）。○〔司馬相如〕「委參-差以—梁」。

【槻】キ。均窺切 支
弓の材に適せる一種の木、一説に、欅—は、これなり、其の木皮を水に漬けて墨に和すれば色脫せずといふ。

【槼】キ。居支切 支
規に同じ。

【〓】タイ。當蓋切 泰
かひこだなのはしら（槌）。○〔揚雄〕「槌宋、魏、陳、楚、江-淮之閒謂ニ之—ニ」。

【槽】サウ、ゾウ。昨勞切 豪
㊀畜獸の食器、かひをけ。○〔晉〕「三-馬同食ニ一—ニ」。㊁柔かなる木の稱。○〔淮〕「—矛無レ撃、修-戟無レ刺」。㊂紘器の中空にして兩面に革を張りたる所、どう。○〔開元遺事〕「賀-懷-智善ニ琵-琶一以レ石爲レ—」。㊃酒をたゝへ貯ふる器、さかぶね、さかだる。○〔劉伯倫〕「捧レ罌承レ—」。㊄すべて液體を入れたゝふる器の稱、をけ、ふね、ため。○〔王安石〕「雲湧ニ浴-—一朝日暖」。㊅溝渠引泉の底下に板などを敷きて滲漏を防ぐものゝ稱、又、其の水流をたゝへあつむる所。○〔宋〕「安-流復ニ其故-道一謂ニ之復-—水ニ」。㊆うす（碓）。○〔宋ニ〕「茶-—藥-臼杵-聲中」。㊇華と實と相半なると。
〔檀槽〕紫檀にて作りたる琵琶の胴。○〔李商隱〕「—ー—一抹廣陵春」。
〔觽槽〕水ぶね。○〔廬山記〕「又有ニ故—ー—」、崇山峻嶺非ニ舟楫所ニ遊」。
〔霤槽〕雨だれのをけ。○〔老學菴筆記〕「匿ニ于人-家—ー—中ニ」。
〔官槽〕政府の廐に備へ付けたるかひをけ。○〔白居易〕「—ー—秣ニ紫-騮ニ」。
〔金槽〕かねにて作りたる琵琶の胴。○〔李賀〕「—ー—琵琶夜棖々」「塞馬」。
〔飼槽〕かひ桶を爪もてこする。○〔周朴〕「—ー—柳-

【槾】バン、マン。母官切 寒
㊀こて（杇）。㊁むさぼる（貪）。㊂のき（梠）。

【槾】ハン、マン。莫半切 翰
㊀前條に同じ。㊁にんじんぼく（荊）。○〔張衡〕「其木則—柏杻橿」。

【槾】バン、マン。模元切 元
樠に同じ。

【槾】 バン、マン。無販切 〔願〕

━ 荊は、はまばひ。

【槿】 キン、コン。居隱切 〔吻〕

一種の木、むくげ、其の花朝に開きて夕に萎む。○〔吳城賦〕「春・荷夏━」。

〔木槿〕 むくげ。○〔禮〕「仲夏之月━━榮」。

〔桑槿〕 むくげの一種にて桑に似たる木。○〔酉陽雜俎〕「重臺朱槿似レ桑、南中呼爲二━━一」。

〔芳槿〕 にほひ高きむくげ。○〔謝朓〕「雜插二━━一」。

〔暮槿〕 おくげの花は朝にひらきて夕におつるものにて即ち落ちかゝれる夕暮れのむくげの花のことをいふ。○〔江總〕「人隨二━━一落」。

〔晒槿〕 前に同じ。○〔白居易〕「━━無レ風落」。

【槿】 キン、渠巾 〔眞〕 キン。居忍切 〔軫〕

ゴン。切

つか、え、(柄)。

【樀】 テキ、チヤク。都歷切 〔錫〕

㊀のき、(檐)。

㊁いさまき、(絲・槾)。

【樀】 タク、チヤク。陟格切 〔陌〕

槌に同じ、かひこだなのよこばしら。

【樼】 シツ、シチ。親吉切 〔質〕

桼に同じ。

【椿】 タウ、トウ。都江切 〔江〕

くひ、(橛)。○〔韓愈〕「斬二拔枅興一レ━」。

【椿】 シヨウ、シユ。書容切 〔冬〕

つく、(撞)。○〔晉〕「枙二其喉一而━二其心一」。

【樂】 ガク、ゴク。五角切 〔覺〕

五音八聲の總稱、即ち、或る器具を用ひて調子ある音聲を發し人の心をたのしましむるもの、おんぎよく、おんがく。○〔書〕「命レ女典レ━」。

〔禮樂〕 人倫の交際に必要なる禮と人心に快樂を與ふる歌舞鳴物と。○〔禮〕「━━不レ可二斯須去一レ身」。

〔古樂〕 いにしへの正しきおんがく。○〔禮〕「吾端冕而聽二━━一」。

〔奏樂〕 おんがくをかなづ。○〔蘇軾〕「識二軒・轅━一」。

〔備樂〕 よく揃ひたるおんがく。○〔左〕「重レ之以二━━一」。「━二」。

〔女樂〕 うたひめ。○〔論〕「齊人歸二━━一」。

〔鼓樂〕 おんがくに同じ。○〔孟〕「今王━二━于此一」。「━━也」。

〔雅樂〕 正しきおんがく。○〔孟〕「惡二鄭聲二恐三其亂二━━一」。

〔作樂〕 おんがくを創制す。○〔文子〕「可二以━一」。

〔盛樂〕 さかんなる式を備へてなすおんがく。○〔禮〕「帝用━━」。

〔備樂〕 音樂の道をこまやかに取りしらぶ。「━レ━以知レ政」。○〔禮〕

〔燕樂〕 前に同じ。○〔周〕「凡祭・祀饗・食奏二━━一」。

〔夬樂〕 おんがくを退けて用ひぬ。○〔周〕「諸・侯霧令レ━レ━」。

〔縵樂〕 雅樂に對して是れときまらざるくさぐの音樂。○〔周〕「教二━━燕・樂之鍾磬一」。

〔和樂〕 調のよくとゝのひて相戾らざるおんがく。○〔周〕「以二━━一防レ之」。

〔散樂〕 野人のなすおんがく中の善きもの、即ち、さるがくのこと。○〔周〕「掌レ教レ舞二━━一」。

〔磬樂〕 おんがくといふに同じ。○〔晉〕「海・外來賓、獻二其━━一」。

〔嘉樂〕 正しき律に協へるおんがく。○〔左〕「━━不二野合一」。

〔文樂〕 武道にたづさはらざる音樂。「奏二━━一」。

〔武樂〕 ものゝふの道にたづさはれるおんがく。○〔公羊〕「獨〔公羊〕「聚二王眥一之以爲二━━一」。○

〔僭樂〕 己れの分限を打ち忘れて上たる人の眞似をなし行ふおんがく。○〔穀梁〕「初獻二六羽一、始━━也」。

〔依樂〕 うたひめの爲すおんぎよく。○〔劉憲〕「開レ筵━━陳」。「野二」。

〔張樂〕 おんがくを設く。○〔許敬宗〕「━レ━臨二堯」。

〔亂樂〕 眞正なるおんがくの趣旨を紛らはず、又正しからざるおんぎよく。○〔漢〕「鄭・聲淫而━レ━」。

〔伎樂〕 わざをぎの爲すおんぎよく。○〔後漢〕「譚性嗜二━━一」。

〔軍樂〕 軍事のさはに用ふるおんがく。「伐レ鼓━━陳」。○〔韋應物〕

〔音樂〕 鳴りものを用ひて五聲を發し人心を愉快ならしむるもの。○〔吳〕「精二意━━一」。

〔展樂〕 おんがくを陳べかなづること。○〔陳〕「━レ━賦レ「詩」。

〔至樂〕 此の上なく善美を盡くせるおんがく。○〔韓詩外傳〕「韶用二干戚一非二━━一也」。

〔色樂〕 婦人とおんがくと。○〔李斯〕「是所レ重者在二乎━━一」。

〔祕樂〕 ひめて容易くはえ知るべからざるおんがく。○〔王濟〕「━━通レ玄」。

〔梵樂〕 天竺のおんがく。○〔宋之問〕「天・歌將二━━一」。「英調二━━一」。

〔正樂〕 ことわり直なるおんがく。○〔崔日用〕「咸・

〔金石樂〕 鐘磬などの樂器を用ふるおんがく、即ち中國のおんがくにいふ語。○〔左〕「行レ之以二━━一之━一」。

〔房中樂〕 へやのなかにて奏するおんがくのこと。○〔詩、考〕「后・妃━━之━」。

〔金奏樂〕 鐘などを打鳴らすおんがく。○〔周〕「凡祭・祀鼓二其━━之━一」。

〔侏儒樂〕 身の丈極て小さく人の玩娛に供する者のなす歌舞音曲。○〔公羊〕「齊・侯作二━━之一」。

〔絲竹樂〕 琴又は笛を用ひて奏するおんがく。○〔陳〕「設二━━之━一、大會二文武一」。

【樂】 ラク 歷各切 〔藥〕 ロク。盧谷切 〔屋〕

レウ。力照切 〔嘯〕 ガウ、ゲウ。魚教切 〔效〕

たのしむ、たのしみ。

(い) 心情と物事と適合して相逆はず。○〔易〕「所二━而玩一」。

(ろ) 好む。○〔國〕「今吳・王淫二於━一而忘二其百・姓一」。

(は) 喜ぶ。○〔論〕「有レ朋自二遠・方一來不二亦━一乎」。

(に) 憂へず、懼れず、安んず。○〔易〕「━レ天知レ命」。「從」。

〔耽樂〕 たのしみに心を奪はる。○〔書〕「惟━━之從」。

〔豈樂〕 喜びたのしむ。○〔詩〕「━━飲レ酒」。

〔愷樂〕 よくたのしむ。○〔詩〕「━━君・子」。

〔偕樂〕 人と倶々に喜びたのしむ。○〔孟〕「古之人與レ人樂、故能━也」。

〔獨樂〕 人にかゝはらず己れのみたのしむ。○〔蘇軾〕「有二━━一者二」。

〔饒樂〕 たのしみ多し。○〔司馬相如〕「楚亦有二平・原・澤游・獵之地、━レ━若レ此者一乎」。

〔行樂〕 喜びたのしむことをなす。○〔楊惲〕「人・生━━耳」。

〔宴樂〕 酒を酌みかはしたのしむ。○〔易〕「飲・食━━」。「時」。

〔囂樂〕 心を安んじたのしむ。○〔易〕「此是━━之━」。

〔愛樂〕 いつくしみ喜ぶ。○〔易、註〕「交相━━」。

〔歡樂〕 心打解けたのしむ。○〔唐〕「士・民━━」。

〔淫樂〕 度に過ぎたるたのしみをなす、みだらなるたのしみをなす。○〔史〕「日飲爲二━━一、不レ聽レ政」。

〔過樂〕 度に超えて喜びたのしむ。○〔晉、傳〕「游・逸━━」。「━」。

〔安樂〕 心おちつきたのしむ。○〔書〕「惟耽・喜━━」。

〔酣樂〕 興じたのしむ。○〔書〕「━二━其身一」。

〔逸樂〕 安んじたのしむ。○〔史〕「終・身━━」。

〔和樂〕 打解けたのしむ。○〔詩〕「━━且湛」。

〔喜樂〕 心うれしく喜びたのしむ。○〔詩〕「且以━━」。

〔好樂〕 たのしみを爲すことを心に欲す、又、このみたのしむ。○〔禮〕「貧而━レ━」。

〔燕樂〕 打ち寄りたのしむ。○〔詩〕「我有二旨酒一、以━二嘉・賓之心一」。

〔孔樂〕 いみじくたのしむ。○〔詩〕「━━韓・土一」。

〔說樂〕 喜びたのしむ。○〔漢〕「━二━其俗一」。

〔愉樂〕 前に同じ。○〔詩、傳〕「始而━━」。

〔娛樂〕 前に同じ。○〔詩、序〕「以レ禮自━━也」。

〔友樂〕 仲よく交はること。○〔詩、傳〕「宜下以二琴・瑟一━中━━之上」。

〔戲樂〕 ふざけたのしむ。○〔詩、疏〕「翱・翔━━」。

〔甚樂〕 心に思ひ喜ぶ。○〔詩、疏〕「小人則━二━之一」。

〔美樂〕 褒め喜ぶ。○〔詩、疏〕「蓋天・下所二━━一」。

〔勸樂〕 心勵み喜ぶ。○〔爾夫論〕「君・子聞レ善、則━━而進」。

〔康樂〕 安堵したのしむ。○〔周〕「其━━和・親」。

〔忻樂〕 喜びたのしむ。○〔左、疏〕「弘簡━━」。

〔笑樂〕打解けて咲ひたのしむ。○〔元好問〕「相從－－」。
〔遊樂〕行きあそびて愉快をなす。○〔爾〕「俗謂二－－之處一爲二桑中一」。　「常安」。
〔居樂〕たのしき場合に身を置く。○〔易林〕「－レ－
〔節樂〕喜びたのしむとを制限して度に超えざるやうにす。○〔史〕「凡作レ樂者、所二以－レ－」。
〔翠樂〕ゑめ、か　喜びたのしむ。○〔段克己〕「－－翠二其顏一。　「－」。
〔苦樂〕辛苦と喜ばしきと。○〔史〕「與二百姓一同二－－
〔懐樂〕樂ひ喜ぶ。○〔史〕「天下－－敬愛而樂二藥之一。
〔窮樂〕喜ばしきとのきはみに至る。○〔史〕「能－二－之極一矣」。　「矣」。
〔寵樂〕愛でたのしむ。○〔史〕「高レ枕肆レ志－－
〔不樂〕無事にして喜びたのしむ。○〔史〕「老者安二其處一、世々－－」。
〔昌樂〕榮えたのしむ。○〔史〕「世々－－」。
〔敦樂〕厚くこのむ。○〔後漢〕「－－藝文一」。
〔極樂〕喜びを此の上なく盡くす。○〔王績〕「俯仰－レ－」。
〔親樂〕近づき喜ぶ。○〔晉〕「見者皆－二－之一」。
〔欽樂〕恭ひて喜び好む。○〔晉〕「朋友－而－レ之」。
〔華樂〕はなやかにして喜ぶべくあり。○〔南〕「雖レ識二其－－一、而無レ欲レ往之心一」。　「受レ福」。
〔恣樂〕思ふまゝに喜びたのしむ。○〔易林〕「－－
〔佚樂〕心打ちくつろぎて喜ぶ。○〔汲冢周書〕「－・－令二終日哂一。　「佚二－－遊畋一」。
〔飲樂〕酒をのみて愉快をなす。○〔魏〕「與二才士豪－
〔觀樂〕心目を喜ばすべきものを見物して嬉しく感ずると。○〔國〕「其於二－－玩好一也、必令二之有一所レ出」。
〔愉樂〕悦りたのしむ。○〔說苑〕「驕貴之君、無二－－之臣一」。　「此」。
〔至樂〕極めてたのしきと。○〔戴良〕「－－固如レ
〔甘樂〕旨しとし喜ぶ。○〔易林〕「－二－麵餅一」。
〔悲樂〕心に哀れを感ずるとと、喜ばしきを感ずるとと。○〔淮〕「－－者德之邪也」。
〔壽樂〕永く生きのびて悲しみなし。○〔說苑〕「智欲二其－－一」。
〔快樂〕心持よく喜ばしくあると。○〔易林〕「富餘盈衍、－－無レ已」。　「室比二於堯人一」。
〔醉樂〕酒に醉ひて心の憂を散ぜ。○〔常袞〕「－－

〔憂樂〕心を煩はすと喜ばしくあると。○〔申鑒〕「爲二世－－者一、君子之志也」。　「－之道」。
〔嬉樂〕遊びたのしむ。○〔星經〕「天子遊レ宮、－
〔鍾鼓樂〕音曲をなすとのたのしみ。○〔賈誼〕「之二－－之－勿レ爲可也」。
〔名教樂〕道德の上のたのしみ。○〔任昉〕「彥輔－－之－」。　「〔史〕「－－之－轂矣」。
〔荒肆樂〕放蕩に身を持ちくづしてのたのしみ。○
〔馳騁樂〕車をはせて遊獵をなすのたのしみ。○〔史〕「弘二游燕之圃一極二－－之－一自若也」。

【樂】　ラウ、ロウ。　𪜈刀切　豪

伯－－は、古昔の善く馬を相する人、轉じて、馬を相する者の稱、一に、博勞に作る。○〔韓愈〕「伯－－一過二冀北之野一、馬羣遂空」。

【棚】　俗の根の字。

【梲】　トウ、ツ。　當侯切　尤

㊀一種の木。　「稱」。
㊁木の根地に入りて枝椏無きもの、

【楮】　チ。　丑之切　支

笞に同じ。

【樔】　チン。　池鄰切　眞

－－樔は、經營馳逐するにいふ語、いさなみはせおふ。○〔王延壽〕「扶二欽－崟一以－－樔」。

【樅】　ショウ、シュ。　七恭切　冬　ソウ、ス。
ショウ、シュ。　子用切　宋
倉紅切　東

㊀葉は松の如く身は柏の如き一種の木、もみ。○〔漢〕「－木外、藏椁十五－具」。
㊁犬牙曲折したる貌にいふ字、ぎざぎざ。○〔詩〕「虡業維－」。

㊂うつ、(撞)。○〔漢〕「－二金鼓一」。

【樆】　リ。　呂支切　支

やまなし、(山梨)

【樆】　チ。　抽知切　支

一種の木。

【樇】　シウ、シユ。　息流切　尤

㊀一種の木。　㊁木長し。

【橄】　カン、ゴン。　胡南切　覃

㊀橐を治むる幹、ふいがうのえ。
㊁餅に似て耳あるもの、もたひ。

【檠】　ケイ、ギヤウ。　渠京切　庚

鑿の柄。

【樥】　シ。　章移切　支

木の盛んなるにいふ字。

【樔】　シヤウ。　サウ、　疏兩切　養

木の茂れる貌にいふ字、志げる。

【樊】　ヘン、ボン。切　元　附袁　ハン、ペン。切　删　符艱

㊀かこひ、(圍)、又、かご、(籠)。○〔莊〕「澤雉十歩一啄、百歩一飮、不レ期レ畜二乎－中一」。　「于－」。
㊁楙に通じ用ふ、まがき。
㊂園む、かこふ。○〔左思〕「－以二薙圃一」。○〔詩〕「止二于－一」。
㊃紛雜なる貌にいふ字、みだる。○〔莊〕「－－然殽亂」。
㊄鞶に通じ用ふ、馬の大帶、はらおび。○〔周〕「巾車掌二王之五路一、一曰玉路、錫－纓」。

【樊】　ハン、バン。　扶萬切　願

－－桐は、昆崙山中の一山。○〔淮〕「－－桐在二昆崙閶闔之中一」。

【樋】　トウ、ツ。　拖東切　東

一種の木。

【樌】　クワン、グワン。　古玩切　翰

木の叢まり生ずると。

【樧】　サ。　蘇禾切　歌

一種の木。

【椑】　ヒ、ビ。　符羈切　支

－－椑は、木の下がれる枝。

【樆】　ヘイ、ハイ。　邊兮切　齊

－－椑は、小さき樹。

【槊】　ガウ、ゴウ。　五勞切　豪

船頭の其の兩側の材の出で合ふ所なつぎ合はする材の稱。

【樍】　セキ、シヤク。　則歷切　錫

シヤク、サク。　側革切　陌

檉の別名。

【樎】　シユク、ソク。　所六切　屋

㊀かひをけ、(櫪)。○〔揚雄〕「櫪梁、宋、齊、楚、北燕之間謂二之－一」。　「作レ－」。
㊁縮に同じ、ぬく。○〔家語、註〕「縮又

【樼】　サン、セン。　色盞切　潸

一種の木、其の實はかたち桃の實に似て長さ寸餘あり、色黃にして味酸し。

【樝】サン、セン。所晏切 諫
牀の蓐、ふとん。

【檫】サツ、サチ。初八切 黠
一種の木。

【櫒】サツ、サチ。桑葛切 曷
草木の動搖する聲にいふ字、そよぐ。

【樏】ルヰ。力委切 紙
盤に似て中に隔てある器。

【樏】ラ。魯果切 哿
一種の木。

【樏】ルヰ。倫追切 支
欙に同じ。

【樐】櫓に同じ。

【樑】リヤウ、ラウ。呂張切 陽
はり（梁）。○〔淮〕「以爲二舟-航杜-—一」。

【樒】ビツ、ミツ。美畢切 質
香氣ある一種の木、ぢんかう、蜜香樹。

【樓】ロウ、ル。落侯切 尤
㊀屋宇の上に重ね作りたる屋宇、たかどの、重屋。○〔杜枚〕「五-歩一—、十-歩一-閣」。
㊁やぐら。
(い)高く構へて敵を偵ひ又は遠きを望むの用をなす建物、ものみ。○〔左〕「解-揚登二諸—車一、使下呼二宋人一而告上之」。
(ろ)城上に建てたるたかどの、即ち、敵を偵ひ敵を距ぐ用をなすに設くるもの、譙門。○〔後漢〕「光-武舍二城-—上一、披二輿-地-圖一」。
㊂朗明、ほがらか。○〔釋名〕「牖-戶之間有二射-孔一、——然」。

〔離樓〕衆木の聚まり加はる貌にいふ字。○〔司馬相如〕「羅二丰茸之游-樹一、離—梧而相撐」。
〔飛樓〕(い)やぐらを設けたる車、戰時に用ふるもの、やぐらぐるま。○〔六韜〕「視二城-中一有二——一」。
(ろ)いとたかきたかどの、又、たかきやぐら。○〔杜甫〕「獨立縹-緲之——」。
〔譙樓〕城上のやぐら。○〔康熙〕「——、城-樓也」。
〔戍樓〕前に同じ。○〔儲光羲〕「寒-雲隱二——一」。
〔栝樓〕からすうり。○〔爾〕「果-蓏之實——」。
〔玉樓〕(い)雨の肩。○〔蘇軾〕「凍合——寒起レ粟」。
(ろ)仙人の住まひ。○〔沈彬〕「王-母朝-廻宴二——一」。
(は)たまにてかざれるたかどの。○〔楊巨源〕「楊-柳——晴」。
〔岑樓〕たかきたかどの、又、たかきやぐら。○〔孟〕「方-寸之木、可レ使レ高二於——一」。
〔雲樓〕前に同じ。○〔辛德源〕「戲-笑上二——一」。
〔危樓〕前に同じ。○〔張九齡〕「——入レ水倒」。
〔峻樓〕前に同じ。○〔李尤〕「——臨レ門」。
〔崇樓〕前に同じ。○〔李嶠〕「建二——于闕-下一」。
〔綵樓〕前に同じ。○〔梁簡文帝〕「——拂レ樹出」。
〔蜃樓〕大氣の作用によりて海上などに樓屋人物などの空中に現はるると、古昔蜃氣のあらはす所と稱す。○〔錢起〕「虹-蜒過二——一」。
〔門樓〕門のたかどの、門のやぐら。○〔佛國記〕「——何小哉」。
〔朱樓〕あかくぬりたるたかどの。○〔後漢〕「伏二——一而四望兮」。
〔重樓〕いくたんにもかさなりたるたかどの。○〔後漢〕「下偃二——一」。
〔登樓〕たかどのにあがる。○〔晉〕「琨乃乘レ月——」。
〔靑樓〕あをく塗りたるたかどの、又、遊女屋などをいふ。○〔杜牧〕「贏得——薄倖名」。
〔翠樓〕みどりに塗りかざりたるたかどの。○〔王昌齡〕「春-日凝レ粧上二——一」。
〔碧樓〕前に同じ。○〔鮑照〕「——含二夜-月一」。
〔畫樓〕うつくしく畫がかれたるたかどの。○〔李嶠〕「連-霏遠二——一」。
〔海樓〕うみべのたかどの。○〔王昌齡〕「南-越歸-人夢二——一」。

〔歌樓〕妓樓。○〔王禹偁〕「——夜宴停二銀燭一」。
〔庫樓〕武器をいれたる倉のたかどの、又、星の名。○〔晉〕「——十-星、六大-星爲レ—、南四-星爲レ—」。
〔船樓〕ふねの上にかまへたるやぐら。○〔晉〕「宴二飲於——上一」。
〔舫樓〕前に同じ。○〔晉〕「——長-嘯」。
〔弩樓〕いしびやをのせて敵をいかくるやぐら。○〔北〕「爲二——車-箱獸-圈一」。
〔丹樓〕あかくぬりたるたかどの。○〔世說〕「——如レ霞」。
〔峰樓〕やまの上にあるたかどの又はやぐら。○〔庾肩吾〕「——霞早發」。
〔珠樓〕たまをちりばめたる美くしきたかどの。○〔李白〕「天-樂下二——一」。
〔倡樓〕遊女のをるたかどの。○〔駱賓王〕「——紛-色紅」。
〔禁樓〕禁中のたかどの。○〔姚合〕「天-樂和レ聲下二——一」。
〔雙樓〕ふたつならびたるたかどの。○〔儲光羲〕「——夾二一殿一」。
〔水樓〕みぎはにあるたかどの。○〔孟浩然〕「——一登眺」。
〔荒樓〕あれはてたるたかどの。○〔岑參〕「——荒-井閑二空-山一」。
〔柁樓〕船のかぢある場所にかまへたるやぐら。○〔劉子〕「山入二——一靑」。
〔空樓〕人のあらざるたかどの。○〔盧綸〕「雨滿二——一白晝閑」。
〔凭樓〕たかどのにもたれゐる。○〔韋莊〕「有レ客微-吟獨凭レ—」。
〔鐘樓〕つりがねのかゝりたるやぐら。○〔戴復古〕「老僧相對倚二——一」。

【[殹+木]】エイ。煙奚切 齊
其の葉樱櫚に似たる一種の木、材質輕くして堅緻色黑くして文あり、こくたん、烏木。

【樔】サウ、ゼウ。鉏交切 肴
㊀澤中に設けある草葺のやぐら、即ち、澤を守る番人の居所。○〔曹大家〕「諒不レ登レ—而椓レ蠡」。
㊁擦罟、すくひあみ、又、すくひあみにて魚を捕らふ、すくふ。○〔詩〕「烝-然汕-々」〔傳〕「—也」。

【樔】セウ。子了切 篠
たゆ、たつ（絕）。○〔漢武帝〕「命—絕而不レ長」。

【樕】ソク。桑谷切 屋
叢生する小木。○〔詩〕「林有二樸-—一」。

【樗】クワ、ゲ。胡化切 禡　チョ、ト。丑居切 魚　ト、ツ。通都切 虞
一種の惡木、其の樹其の皮漆に似て靑色なり、葉に臭氣あり、こんずゐ。○〔詩〕「采レ茶薪レ—」。
〔山樗〕あふち。○〔爾、疏〕「栲名二——一」。

【[木+虖]】樗に同じ。

【樘】タウ、チヤウ。丑庚切 庚
橕に同じ。

【樘】タウ、ダウ。達郎切 陽
いたる（距）。

【[木+褭]】ヲ。烏可切 哿
—[木+褭]は、木の盛んなる貌にいふ語。

【[木+褭]】ヲ。於何切 歌
—[木+褭]は、樹の枝の長くして弱き貌にいふ語。

【標】ヘウ。甫遙切 蕭　方小切 篠
㊀木末、端末、はし、すゑ、こずゑ。○〔管〕「大本而小—」。
㊁高き枝。○〔莊〕「上如二—枝一、民如二野-鹿一」。
㊂たかし（高）。○〔杜牧〕「——七-尺强」。

㊃表識、めじるし、志るし。○〔晉〕「立二兩|一別二新・舊一。
㊄準的、まと、めあて。○〔晉〕「立レ|爾・試」。
㊅柱桀、はしら。○〔舊唐〕「但立二直・|一、終無二曲・影一」。
㊆旌旗、はた。○〔清異錄〕「梁祖建二火・龍||一」。
㊇品格、器度、きりやう、志な。○〔北〕「器|棟・幹、一・時推・重」。
㊈表出せるもの。○〔世說〕「亡・叔一・時之|、公是千・載之英」。
㊉志るす。
(い)書す。○〔孫綽〕「名|二於奇・紀一」。
(ろ)志るしを設く。○〔郭璞〕「|レ之以二翠・翳一」。
(十一)表出す、あらはす、あらはる。○〔任昉〕「早|聰・察」。
(十二)位置をなす。○〔唐〕「高自|樹」。
(十三)あぐ、(擧)。○〔後漢〕「相|榜」。
〔孤標〕ひとつのたかきえだ、すぐれたるきりやう。○〔李山甫〕「||百尺雪中見」。
〔風標〕きりやう、志な。○〔畫斷〕「王右丞||特出」。
〔建標〕めじるしをたつ。○〔唐〕「兩京市肆皆|」「|第レ上爲レ候」。
〔植標〕前に同じ。○〔金〕「陰|レ|以識レ之」。
〔世標〕世の中のめじるし。○〔江淹〕「行爲二||一」。

【樚】ロク。盧谷切 屋
㊀|櫨は、井の上に構へたる汲水の用機、ろくろ、くるまぎ。○〔庾信〕「道險臥二|・櫨一」。
㊁節の多き一種の木。

【樚】トク、ドク。徒谷切 屋
櫝に同じ。

【榹】シ。斯義切 寘
杫に同じ。

【樛】キウ、ク。居尤切 尤
㊀木の枝下がり曲がる、まがる、くねる。○〔詩〕「南有二||木一」。
㊁くゝる、(絞)。○〔儀〕「不レ|レ垂」。
㊂繆に通じ用ふ、まさふ、むすぼる。○〔漢〕「天雨二草・葉一相||・結、大如二彈・丸一」。
㊃めぐらす、めぐる、(周)。○〔揚雄〕「望二崑・崙一以||流」。

【樛】ビウ、ミウ。亡幽切 尤　レウ。憐蕭切 蕭
一種の木。

【樝】サ、セ。莊加切 麻
其の實の味は酸くして形は梨に似たる一種の木、こぼけ。○〔莊〕「禮・義法・度其猶二||梨橘柚一耶」。

【樞】シユ、ス。昌朱切 虞
㊀ひらき戶を維持し開閉する要機、とぼそ、くるゝ。○〔鬼谷〕「門之運者謂二之持||一」。
㊁轉じて、門戶。○〔賈誼〕「陳・涉甕・牖繩||之子」。
㊂動を制する主、運轉をつかさどるもの。○〔管〕「其|在レ水」。
㊃機械、からくり、しかけ。○〔吳越春秋〕「施レ機設レ|」。
㊄機會、しほ、をり。○〔劉備〕「同・盟無レ故自相攻・伐、借二|於操一、使三敵乘二其隙一非二長・計一也」。
㊅中央、まなか。○〔史〕「韓魏中・國之處、而天・下之|也」。
㊆根原、ねもと。○〔淮〕「經二營四・隅一、還二反於|一」。
㊇主要、かなめ。○〔荀〕「人・君者管レ分之||要也」。
㊈天位。○〔陳子昂〕「握レ紀登レ|」。
㊉大政、大權。○〔王融〕「握レ|臨レ極」。
(十一)天子を輔弼すると、大政に參與すると。○〔魏〕「近レ|克二惟レ允之寄一、居レ槐體二論レ道之明一」。
(十二)北斗星の第一位にある星の稱。○〔常袞〕「色映二流・渚之虹・影一、影雖レ繞レ|之電一」。
(十三)其の刺は栢に似たる一種の木、葉は楡に似て瀹でて食らふべし、やまにれ。○〔詩〕「山有レ|」。
〔天樞〕北斗の第一星。○〔隋〕「北紐星|之|也」。
〔樞柄〕前に同じ、又、まなか、かなめ、もと。○〔隋〕「抱二||一四・星曰二四輔一」。
〔金樞〕月。○〔楊炯〕「||地軸東」。
〔道樞〕道のかなめ、理のもと。○〔莊〕「彼是莫レ得二其偶一、謂二之||一」。
〔門樞〕もんのくるゝ、又、かどぐち。○〔曹植〕「白虎來二||一」。
〔機樞〕もと、かなめ、まんなか、政權、顯要の地位、又、からくり、しかけ。○〔薛瑩獻〕「遂升二||一」。
〔要樞〕前條に同じ。○〔柳宗元〕「斯乃軍・府之||矣」。
〔萬樞〕まつりごと。○〔白居易〕「一則||之要畢」。
〔政樞〕前に同じ。○〔唐〕「勤秉二||一」。
〔宸樞〕帝王の威權。○〔謝朓〕「獻二納||一」。
〔戶樞〕とのくるゝ、又、戶口のと。○〔錢起〕「新・泉列二||一」。
〔輪樞〕車のわのからくり。○〔梁適〕「陰陽五・運流・轉、有二||之象一」。

【樟】シヤウ、サウ。諸良切 陽
一種の大木、其の實より蠟を取り其の木身より志やうなうを製す、くす、くすのき。○〔晉〕「臣郡有二枯||一更生」。
〔釣樟〕くすの木の一種。○〔本草〕「||赤樟之類」。
〔烏樟〕釣樟の別名。○〔本草〕「釣・樟根似二烏・藥・香一、又名二||一」。
〔矮樟〕烏藥といふ草。○〔本草〕「烏・藥南・人呼爲二||一」。

【樠】ボン、モン。莫昆切 元　バン、マン。母官切 寒
㊀松心木、まつのしんぎ。○〔漢〕「烏・孫國山多二松||一」。
㊁木脂、やに、又、やに出づ、しみいづ。○〔莊〕「以爲二門・戶一則液|」。

【樠】ラウ。里蘽切 薺
楡の屬、あきにれ。○〔左〕「楚・王卒二于|・|木之下一」。

【模】ボ、モ。莫胡切 虞
㊀かた。
(い)法式、のり。○〔張衡〕「陳二三・皇之軌||一」。
(ろ)師範、てほん。○〔晉〕「國之碩・老、邦之宗|」。
(は)文象、もやう。○〔書傳〕「繢二乎其猶二||繩一」。
(に)設計、考案。○〔左思〕「受二全||於梓・匠一」。
(ほ)樣型、いがた。○〔洞天淸錄〕「鑄レ器必先用レ蠟爲レ|」。
㊁のりと爲す、のッとる、かたが取る、かたどる。○〔武帝內傳〕「書二之金・簡一、以レ身|レ之」。
㊂なづ、(撫)。○〔名勝志〕「印||履・蹤」。
〔規模〕かた、のり。○〔唐〕「||宏・遠」。
〔師模〕てはん。○〔三、誌〕「識與・者之||也」。
〔楷模〕前に同じ。○〔後漢〕「士之||、國之楨・幹也」。
〔世模〕よの中ののり。○〔柳宗元〕「卒爲二||一」。
〔洪模〕おほいなるのり。○〔常景永橋銘〕「流二美||一」。
〔楷模〕前に同じ。○〔李華〕「||廊度」。
〔遺模〕のこしおかれたるのり。○〔王勃〕「採二舍・衛之||一」。

【木焉】コン。戶恩切 元
さかき、ますかき（平・量・木）。

【樢】
蔦に同じ。

【樢】ボク、モク。莫卜切 〔屋〕
一種の鳥。

【樣】シヤウ、ザウ。似兩切 〔養〕
橡に同じ、くぬぎ。

【樣】ヤウ。弋亮切 〔漾〕
かた、さま。
(い)法式、模形、のり、てほん、いかた。○〔長編〕「所レ謂依レ—畫二葫蘆一」。
(ろ)狀態、形貌、かたち、ありさま。○〔東京夢華錄〕「外有二一人一捧二月-—兀-子-錦一」。
(は)いろ〳〵の文象、もやう。○〔王建〕「猶戀機-中錦-—-新」。
〔官樣〕公けの役所の體裁。○〔歸田錄〕「文-章須二是—-—一」。
〔圖樣〕繪圖のかた。○〔北〕「爲二明-堂—-—一奏レ之」。
〔字樣〕文字のかた。○〔歐陽修〕「—-—模-本」。
〔花樣〕はなの形。○〔白居易〕「連-枝—-—繡-羅-襦一」。
〔形樣〕さま、かた。○〔老學菴筆記〕「作二贅-字一曰二惡—-—一」。
〔一樣〕ひとつかた。○〔王建宮詞〕「新-衫—-—殿-頭黃」。
〔新樣〕めあたらしきかた。○〔張萠〕「—-—花-紋配二蜀-羅一」。
〔舊樣〕ふるきかた。○〔李商隱〕「淳-宮—-—博-山鑪」。
〔今樣〕いまどきの嗜好に適したるかた。○〔王安石〕「波-工鋪-手眡二—-—一」。
〔歌樣〕うたのさま。○〔葛立方〕「小-薛低-處傳二—-—一」。
〔式樣〕かた。○〔錢氏寄夫衣詩〕「長-短只依二元「—-—一」。

【(敎/木)】リ。陵之切 〔支〕
其の條は大索に作るべき一種の木。

【(木頃)】ケイ、キヤウ。畎迥切 〔迥〕
足ある几、一說に、はこ(匧)。

【穎】ケイ、キヤウ。舉影切 〔梗〕
㊀めざましまくら、(警枕)。㊁錐の柄。㊂刀の鐶。

【樤】デウ。田聊切 〔蕭〕
㊀條に同じ、ゆず。
㊁小さき枝、こえだ、さえだ。

【樥】ホウ、ブ。蒲蒙切 〔東〕
梁上の檽。

【樦】チユ、ヂユ、重主切 〔麌〕
絃を彈じて調子を合はすを。

【(木敝)】ヘイ。匹曳切 〔霽〕
こずゑ、(標)。

【槖】クワウ、ワウ。姑橫切 〔庚〕
綱滿つ。

【榟】シン。所臻切 〔眞〕
おほし、(多)。

【樬】音詳ならず、檖の條を見よ。

【槃】搬に同じ。

十二畫

【樲】ジ、ニ。而至切 〔寘〕
されぶさなつめ、(酸棗)。○〔孟〕「養二其—-棘一」。

【樲】チ、ヂ。直利切 〔寘〕
輪を拒ぐ木、くるまどめ、はどめ。

【樳】ジン。徐林切 〔侵〕
槐に似たる一種の木、炭となして生鐵を鍊るに適すといふ。○〔左思〕「猶二三疎-林螢-耀、而與二夫—-木龍-燭一」。

【樴】ショク、シキ。之翼切
イヨク、イキ。逸織切 〔職〕
トク。敵得切
牛を繫ぐ杙、くひ。○〔爾〕「—謂二之杙一」。

【樵】セウ。昨焦切 〔蕭〕
㊀雜木、散材、ざふき、たきゞ。○〔左〕「無レ扞二采レ—者一以誘レ之」。
㊁たきゞを采る、きこる。○〔詩〕「—二彼桑-薪一」。
㊂きこるを、きこる者、きこり。○〔王安石〕「問レ—樵不レ知」。
㊃やぐ、たく、(焚)。○〔公羊〕「焚レ之者何、—レ之也」。
㊄譙に同じ、ものみ、やぐら。○〔漢〕「作二壍-壘木—-—一」。
〔新樵〕たき木。○〔漢〕「必持二—-—一」。
〔漁樵〕すなどりときこりと。○〔劉孝威〕「散-步懷二—-—一」。
〔負樵〕たきぎをせおふと。○〔杜甫〕「夷-歌—-—客」。
〔販樵〕たき木を賣る。○〔史〕「百-里不二—-—一」。
〔芻樵〕草かりと木こりと。○〔釋道潛〕「同レ我十-載滄二—-—一」。

【(木菆)】シウ、シユ。蓄尤切 〔尤〕
草木の實の叢生するを。

【樷】古の叢の字、あつむ、あつまる、むらがる。○〔漢〕「—二珍-怪一」。

【樸】ハク、ボク。匹角切 〔覺〕
㊀材木の質のまゝにして未だ彫飾を加へざるを、其の已に彫飾を加ふるも未だ器を成さゞるを、きぢ。○〔莊〕「殘レ—以爲レ器工-匠之罪也」。
㊁未だ彫飾を加へず未だ器を成さゞる材木、あらき。○〔書〕「既勤—-斲」。
㊂すべて物事の未だ彫飾を加へず未だ器を成さゞるをの稱。○〔史〕「破レ觚而爲レ圜、斲レ雕爲レ—」。
㊃天眞、本來。○〔老〕「帝-德乃足レ復二歸於—一」。
㊄僞巧なきを、誠實なるを。○〔淮〕「工「龐商—」」。
㊅虚飾せざるを、質素なるを。○〔禮〕「素-車之乘尊二其—一也」。
〔散樸〕天眞を失せしむるを、いつはりかざらざる風をちらけ失はしむ。○〔漢〕「澆レ淳—レ—」。
〔純樸〕(い)きぢ、あらき。○〔莊〕「—-—不レ殘」。(ろ)誠一にして僞巧なきを、まじりなき本來。○〔淮〕「—-—未レ散」。
〔玄樸〕奥ゆかしく飾らざるを、おくふかき天眞。○〔晉〕「宜レ祟二—-—一」。
〔拙樸〕つたなくして飾りなきを。○〔南〕「性—-—「無二風-采一」。
〔還樸〕昔より殘れる飾りいつはりなき風俗のと。○〔北〕「古-風—-—、未レ遑二釐-改一」。
〔粗樸〕粗末にして飾らぬ。○〔唐〕「—-—陋-陋」。
〔謹樸〕愼み深くしていつはり飾るとなし。○〔唐〕「以二—-—一稱」。
〔愚樸〕おろかにしていつはり飾るとなし。○〔張籍〕「況我—-—姿」。
〔雄樸〕強くして飾らぬ。○〔螢雪叢說〕「筆-力—-—」。
〔守樸〕ありのまゝの方針を固く執る。○〔嵇康〕「志「在二—レ—一養レ性」。
〔宗樸〕ありのまゝを主とし守る。○〔嵇康〕「志在レ—レ—」。
〔桑樸〕くはのきぢ。○〔崔駰〕「膚如二—-—一、足如二「熊-蹄一」。

【樸】ホク、ボク。博木切 〔屋〕
㊀前條に同じ。○〔張衡〕「遵二節-儉一守二素—-—一」。
㊁むらがる、(叢)、又、木密なり、しげる、しげし。○〔詩箋〕「相—-—屬而生者」。
㊂むらがり生ふる木、しげく生ふる小木。○〔詩〕「芃-々棫-—」。

㊃密著す、つく。○〔周〕「欲二其ー屬而微玉一」。
〔抱樸〕小さき木に取りつく。○〔王褒〕「秋蜩不レ食、ーレー而長吟兮」。
〔陰樸〕人目に立たぬ所にある叢生したる小木。○〔傅休奕〕「採二陰山之ーー一」。

【樹】ジュ。常句切 遇
㊀生植物の總名、草木。○〔淮〕「萍ーー根于水一、木ーー根于土一」。
㊁幹枝堅くして草に比すれば生存長き植物の特稱、き、木。○〔史〕「斫二大ー一白而書レ之曰、龐涓死二此ーー下一」。
㊂屏障、かき、へい、おほひ。○〔論〕「邦君ー塞レ門」。
㊃ゆか(牀)。○〔揚雄〕「牀謂二之杠一、北燕朝鮮之間謂二之ー一」。
〔封樹〕土を高く盛りたる所。○〔禮、註〕「士以上乃皆ーー」。
〔壤樹〕前に同じ。○〔禮〕「反ー二ー之一哉」。
〔嘉樹〕善良なる木。○〔隋〕「茂草ーー」。
〔茂樹〕生ひ繁りたる木。○〔盧諶〕「閣轡挺二ーー一」。
〔孩樹〕小兒を抱く。○〔史〕「ーー而馳」。
〔枯樹〕かれたる木。○〔晉〕「勢疎瘦如二隆冬之ーー一」。
〔玉樹〕玉もて成れる木、又、才情風姿のすぐれたる人の容體にたとへいふ語。○〔晉〕「埋二ーー於土中一」。
〔風樹〕風に吹かるゝ木、又、下に引く語より亡き親を追ひ思ふことにいふ語。○〔家語〕「樹欲レ靜風不レ止、子欲レ養親不レ在」。
〔碧樹〕綠の色なせる木。○〔韓愈〕「珊瑚ーー交二枝柯一」。
〔社樹〕神の社のめぐりに植ゑたる木。○〔嚴維〕「烟村ーー暨湖秋」。
〔華樹〕花の咲く木。○〔梁元纂要〕「春木曰二ーー一ー芳樹一」。
〔芳樹〕かぐはしき花の咲く木。○〔東京夢華錄〕「鶯啼二ーー一」。
〔獨樹〕一本の木。○〔古樂府〕「ーー不レ成レ林」。
〔繞樹〕木の周圍をめぐる。○〔魏武帝〕「ーレーー三匝一」。
〔紅樹〕紅葉せる木。○〔朱熹〕「秋山有二ーー一」。
〔綠樹〕みどりの葉ある木。○〔任昉〕「ーー懸二宿根一」。
〔烟樹〕かすみのかゝれる木。○〔孟浩然〕「罷門月照開二ーー一」。
〔雲樹〕くものかゝれる木。○〔許渾〕「巢鶴去時ーー老」。
〔伐樹〕木をきりとる。○〔北〕「入二齊境一禁レーー」。
〔斷樹〕木をきる、又、きりたる木、きるた、かぶ。○〔禮〕「ー二ーー一、殺二ー獸一」。
〔列樹〕木を幷べ植う、又、ならべうゑたるなみき。○〔國〕「ーレー以表レ道」。
〔巨樹〕大いなる木。○〔漢〕「其北則有二陰林ーー一」。
〔喬樹〕高き木。○〔北〕「必懸二于ーー之枝一、沒二于深泉之底一」。
〔佳樹〕善良なる木。○〔李白〕「梧桐識二ーー一」。
〔塋樹〕墓地に植ゑたる木。○〔唐〕「忍レ犯二吾ーー一」。
〔藥樹〕くすりの料となる木。○〔方干〕「仙鳥宿棲二ーー枝一」。
〔朱樹〕赤まつのき。○〔山海經〕「崑崙山上有二ーー一」。
〔徙樹〕木を移し植う。○〔淮〕「今夫ーレー者、失二其陰陽之性一、則莫レ不二枯槁一」。
〔異樹〕珍らかなる木。○〔三輔黃圖〕「奇果ーー、珍禽怪獸」。
〔孤樹〕一もとの木。○〔高啓〕「沙村ーー晚依微」。
〔香樹〕よきにほひのする木。○〔列仙傳〕「有二五色蛾一、止二其ーー一」。
〔墳樹〕墓地にうゑてある木。○〔杜牧〕「故人ーー五秋風」。
〔空樹〕葉落ち枝稀なるき。○〔高啓〕「ーー鶴巢稀」。
〔綵樹〕種々の色をもてこしらへたる花の木、つくりばな。○〔李商隱〕「ーー轉レ燈珠錯落」。
〔蒼樹〕生ひ茂りたるき。○〔洛陽伽藍記〕「有二ーー數株一、枝條繁茂」。
〔朽樹〕腐れたるき。○〔陳與義〕「空中ーー抱二孤條一」。
〔雜樹〕しば、たきぎ。○〔杜甫〕「花嬌迎二ーー一」。
〔深樹〕奧ふかく立ちこみたる木。○〔杜甫〕「翩翻移二ーー一」。
〔隴樹〕岡の上におひたる木。○〔孔稚珪〕「ーー烏無レ色」。
〔幽樹〕深くおひ茂りたるき。○〔錢起〕「暮鳥棲二ーー一」。
〔聳樹〕高くそびえ立てる木。○〔鮑照〕「ーー隱二天翠一」。
〔遠樹〕遙かの方に隔たりたるき。○〔謝朓〕「ーー曖二芊々一」。
〔郊樹〕野におひたるき。○〔王融〕「端レ儀假二ーー一」。
〔黛樹〕遙かの方に青くたなびける木。○〔謝莊〕「ーー兮如レ畫」。
〔綺樹〕美しく色どりたる木。○〔江淹〕「憶二上國之ーー一」。
〔密樹〕立ちこみたる木。○〔梁簡文帝〕「ーー臨二寒水一」。
〔嶺樹〕峯の上におひたる木。○〔孟貫〕「ーー帶二猿聲一」。
〔麗樹〕うるはしき木。○〔梁簡文帝〕「若二ーー之爭一レ榮」。
〔祇樹〕社の周圍をめぐれる木。○〔高啓〕「夕陽在二ーー一」。
〔艷樹〕うつくしき木。○〔江淹〕「美木ーー、誰望誰待」。
〔間樹〕あひだをおきてまばらなる木。○〔庾肩吾〕「ーー出二離宮一」。
〔苑樹〕にはの木。○〔庾肩吾〕「旗門臨二ーー一」。
〔接樹〕(い)木に近よりまじはる。○〔庾肩吾〕「新枝漸ーレー」。(ろ)つぎ木。○〔葉適〕「ーー移花今復古」。
〔扶樹〕兩手の指をもて圍む程の大さのき。○〔陶弘景〕「ーー霜摧」。
〔孔樹〕大いなる木。○〔任昉〕「參差ーー」。
〔踞樹〕またがりはびこりたる木。○〔張率〕「ーー似二鵾飛一」。
〔樹樹〕何れの木も何れの木もとの意にて木の一二ならぬいふ語。○〔王績〕「ーー皆秋色」。
〔修樹〕たけ長く大いなる木。○〔孟浩然〕「北林積二ーー一」。
〔翠樹〕綠の色をなせる木。○〔蘇軾〕「ーー紛歷々」。
〔嵌樹〕山と山との間に生じたる木。○〔范成大〕「ーー多二曲枝一」。
〔圍樹〕はたけの間に生じたる木。○〔朱熹〕「ーー寒留レ月」。
〔茗樹〕茶の木。○〔李咸用〕「匡山ーー朝陽偏」。
〔宛樹〕から坊ずになりたる木。○〔楊萬里〕「曉昔稱桑今ーー」。

【樹】シュ。臣庾切 麌
㊀うゝ(植)。○〔詩〕「荏染柔木、君子ーレ之」。
㊁たつ(立)。○〔書〕「ーレ德務レ滋」。
〔寵樹〕いつくしみたすくること。○〔眞寄〕「凡預二宗枝一皆蒙二ーー一」。
〔崇樹〕たかく立つ。○〔唐〕「未レ聞下ーー二梵宮一離二珠金玉一之爲レ孝者上」。
〔興樹〕おこしたつ、おこりたつ。○〔宋〕「ー二ーー讒隙一」。
〔廣樹〕ひろく立つ。○〔陳〕「ーー二番屏一」。
〔營樹〕家產のことなどをいとなみたつること。○〔陳〕「悴清簡無レ所二ーー一」。
〔標樹〕あらはれ立つ、あらはしたつ。○〔唐〕「高自ーー」。
〔勉樹〕たてあらはさんことをはげむ。○〔余闕〕「ーー千載名」。
〔扶樹〕たすくること。○〔宋濂〕「宜二ーー一而振二發之一」。

【樺】クワ、胡化切 禡 ケイ、ゲ。戶花切 麻 ゲ。胡桂切 卦
其の皮にて物を卷き又は松明を作りなどする一種の木、かば、かばざくら。○〔麻九疇〕「煙霞爲レー綿二千載一」。

【樺】カツ、ケチ。訖黠切 黠
つゞみうつ(鼓)。

【樻】キ、ギ。求位切 寘
椐に同じ。

【樼】榛に同じ。

【樽】ソン。祖昆切 元
㊀酒を入るゝ器、さかだる。○〔易〕「ーー酒簋貳用レ缶」。
㊁やむ、とゞむ(止)。○〔淮〕「ー二流遁之觀一」。
〔金樽〕かねにて作りし酒だる。○〔謝靈運〕「ーー盈二清醑一」。
〔窪樽〕石をくぼめて作りし酒をいるゝ處。○〔[illegible]錄話〕「今硯山有二滴之ーー一」。
〔芳樽〕かぐはしき酒を入れしたる。○〔晉〕「劉樂鄰ーー、ーー之友」。
〔[illegible]樽〕さかたる。○〔書、疏〕「畫二山龍華蟲于宗ーー一」。
〔衢樽〕諸人の飲むに便りするために衢の間に設けおくさかたる。○〔張說〕「待レ酌二ーー一」。

〔瓦樽〕かはらにて作れる酒だる。○〔李公昂〕「——滿酒頻々注」。
〔禋樽〕祭に供ふるさかだる。○〔舊唐〕「——晉燭純犧滌汰」。
〔盃樽〕さかだる。○〔論衡〕「擣壁——、皆畫二龍象」。
〔促樽〕酒だるを客の前に出だすことをうながす。○〔曹植〕「——合坐行レ觴」。
〔引樽〕酒だるを側にひき寄す。○〔傅休奕〕「——促レ席臨レ軒」。
〔羅樽〕酒だるを陳ねならぶ。○〔張協〕「——列レ爵、周以二長筵一」。
〔雙樽〕つゐの酒だる。○〔古雞鳴曲〕「上有二——一酒一」。
〔空樽〕酒の入りてあらざるたる。○〔陸游〕「薄酒誑二——一」。
〔殘樽〕未だ盡きやらでのこれる酒あるさかだる。○〔杜甫〕「——席更移」。
〔開樽〕酒だるの口をあく。○〔杜甫〕「——獨酌遲」。
〔飄樽〕ひさごの酒だる。○〔蘇轍〕「——空挂レ壁」。
〔晚樽〕晚酌に用ふる酒たる。○〔陸〕「菹芹薦二——一」。
〔臨樽〕酒たるに向かひ酌みて飲む。○〔陸游〕「只有二——一醉似レ泥」。

【檜】樽に同じ。

【樾】エツ、ヲチ。王伐切 [月]
㊀木の蔭を交ふる下、こかげ。○〔淮〕「武王蔭二暍人于——下一」。
㊁街樹、なみき。○〔唐〕「設レ燎相屬、道—爲枯」。
〔林樾〕はやしのこかげ。○〔王勃〕「遂披二——一、逍陟二毀城一」。
〔脩樾〕長くつゞけるなみき。○〔鮑照〕「飛潮隱二——一」。
〔榛樾〕茂りたる木のかげ。○〔宋之問〕「浩歌步二——一」。
〔深樾〕奥ふかく立てこめたる木のかげ。○〔韓愈〕「守縣坐二——一」。
〔楢樾〕ひのきのかげ。○〔皮日休〕「般躋——坐」。
〔淸樾〕きよらかなる木のかげ。○〔蘇軾〕「人影亂二——一」。
〔翠樾〕あをくとしたる木のかげ。○〔范成大〕「蒼巖——、下浸二天淵一」。
〔靑樾〕前に同じ。○〔劉迎〕「縹緲危欄蔭二——一」。
〔茂樾〕おひしげりたる木のかげ。○〔馮子振〕「儼如レ對二于——一」。

【樿】セン、ゼン。旨善切 [銑] 上演切 [霰]
㊀木理白き一種の木、つげ。○〔禮〕「櫛用二——櫛一」。
㊁棺の全一邊、まるぶち。○〔莊〕「七圍八圍、貴人富商之家、求二——傍一者斬レ之」。

【榼】ケイ、カイ。呼雞切 [齊] カイ、ケイ。呼改切 [賄]
榽の字の條を見よ。

【橂】テン、デン。堂練切 [霰]
木理の堅くして密かなるを。

【橃】ベツ、ハツ。房越切 [月] ハツ、バチ。北末切 [曷]
海中に泛ぶ大船、おほぶね。

【橃】ハイ、ヘ。方吠切 [隊]
㊀柚に似たる一種の木。
㊁屋の棟の頭。

【樻】ヒ。芳味切 [未]
林に同じ。

【欈】シ。將支切 [支]
——欈は、其の實食すべき一種の木。

【橄】カン、コン。古覽切 [感] カン、ケン。口減切 [豏]
——欖は、熱帶地方に產する一種の果、かんらん、一に、靑果又は諫果といふ。○〔三輔黄圖〕「漢武帝破二南越一、得二——欖百餘本一」。

【橆】ブ、ム。文甫切 [麌]
ゆたか、(豐)、しげる、(繁)、さかんなり、(盛)。○〔書〕「庶草蕃——」。

【檹】イ。於離切 [支] 隱綺切 [紙]
㊀——檹は、木のたわやかなる貌にいふ語。
㊁椅木、きり。

【[毳木]】セイ、ゼ。此芮切 [霽]
㊀垂れて擣つ、うつ。㊁謝す。

【橇】ケウ、カウ。丘妖切 [蕭] カウ、ゴウ。起囂切 [豪] セツ、セチ。子劣切 [屑] セイ、ゼ。充芮切 [霽]
雪又は泥などの上を踏みすべらして行く箕の如き乘り物、そり。○〔史〕「泥行乘レ——」。

【[木斯]】セイ、サイ。先齊切 [齊]
椑及び櫪の字の條を見るべし。

【[斯木]】シ。相支切 [支]
木柴、しば、そだ。

【橈】ダウ、子ウ。女教切 [效] 尼交切 [肴]
㊀たわむ。
(い)屈曲す、かゞむ、まぐ、まがる。○〔周〕「其覆レ車也必易、此無レ故惟轅直且無レ—也」。
(ろ)よわる、よわむ、(弱)。○〔易〕「棟——凶」。
(は)違ふ、撓む。○〔呂氏春秋〕「無二或枉——一」。
(に)亂る。○〔詩、箋〕「師徒——敗」。
(ほ)抑ふ、虐ぐ、抑へらる、虐げらる。○〔禮〕「毋二或枉——一」。
(へ)摧折す、くだく。○〔左〕「畏二君之震一、師徒——敗」。
㊁散す。○〔易〕「——二萬物一者莫レ疾二乎風一」。
㊂たわみ易し、やはし、よわし。○〔司馬相如〕「柔——嫚々」。
㊃曲がりたる木。○〔列〕「竿木——」。
〔屋橈〕屋宇のかざり。○〔淮〕「天矯——」。
〔孅橈〕小さきこと。○〔揚雄〕「自レ關而西、凡物小謂二之——一」。
〔不橈〕まがらぬ、まげぬ。○〔袁宏〕「烈々王生、知レ死——」。
〔屈橈〕かゞみ曲がる、かゞめまぐ。○〔易、疏〕「必當レ遂二其志一、不中——而改移上」。
〔敝橈〕古びてやぶれ曲がる。○〔周〕「已—則—」。
〔鼓橈〕うちちらす、又、音をさせ曲げたわむ。○〔周易雜例〕「風能——二萬物一」。
〔纖橈〕かぼそくしてまがる、又、かぼそくしてよわし。○〔何承天〕「姚二維醉之——一」。
〔橈々〕曲がりたわむ貌にいふ語。○〔元結〕「楮——兮未レ堅」。

【橈】ダウ、子ウ。女巧切 [巧]
みだる、(亂)。

【橈】デウ、子ウ。爾紹切 [篠]
木を曲ぐ、まぐ、たわむ。

【橈】ゼウ、子ウ。如招切 [蕭]
かぢ、かい、(楫)。○〔博雅〕「楫謂二之——一」。
〔蘭橈〕あらゝぎのかぢ。○〔梁簡文帝〕「桂楫——、浮二碧水一」。
〔廻橈〕かぢをめぐらし舟の方向をかふ。○〔謝靈運〕「——遲二近嶺一」。
〔停橈〕かぢのはたらきをやめ舟をとゞむること。○〔陳子昂〕「——問二土風一」。
〔駐橈〕前に同じ。○〔李頎〕「悽然亦——」。
〔連橈〕かぢをつらね舟をつゞく。○〔盧照鄰〕「——度二急瀨一」。

【橉】リン。良刃切 [震]
㊀一種の木、其の燒灰の淋汁は酒を釀すの用に適し、心腹の病を治するにも用ひ又は色を染むるの用さすべしといふ。○〔郭璞〕「——杞稹二薄於潯涘一」。
㊁木の皮。

【橉】 リン。良忍切 【軫】
門限、階砌、しきみ、みぎり、又、車のかまち。 ○〔淮〕「披二戸‐一而臥者鬼‐神蹠二其首一」。

【橊】 リウ、ル。力求切 【尤】
一種の木、其の實は外皮に包まれ粒子並び重なりて其の色赤し、ざくろ。
○〔文同〕「墻邊紫‐一破」。
〔若橊〕 ざくろの木。 ○〔廣雅〕「‐‐石橊也」。
〔石橊〕 前に同じ。 ○〔北戸錄〕「‐‐花堪レ作二臙‐脂一」。
〔酸橊〕 味ひのすきざくろ。 ○〔畫史〕「徐‐熙‐‐‐「‐」。
〔甘橊〕 味ひのあまきざくろ。 ○〔齊民要術〕「有二‐石‐一也」。

【橋】 ケウ。丘妖切 【蕭】
㊀たかし、（高）。 ○〔大戴記〕「其‐大‐人也」。
㊁はし。
（い）河の上に架け亙したる往來の道。 ○〔史〕「初作二河‐一」。
（ろ）兩の物の閒に架け亙したるもの。 ○〔舊唐〕「造二雲‐一成、濶數‐十丈」。
㊂横梁ありて物を架けおくに用ふるもの。 ○〔儀〕「笄加二于‐一」。
㊃桔槹の上の衡木、よこぎ。 ○〔淮〕「‐直植‐立而不レ動俯‐仰取レ制焉」。
㊄もとる、（戾）。 ○〔呂氏春秋〕「聽レ言而意不レ可レ知其與二‐言一無レ擇」。
㊅あなどる、（嫚）。 ○〔荀〕「‐‐泄者人之殃也」。
㊆檋に同じ。 ○〔史〕「山‐行乘レ‐」。
㊇一種の木。 ○〔書〕「‐‐木高而仰梓‐木晉而俯以喩二父‐子一」。
〔糸橋〕 縄のはし。 ○〔水經、註〕「關肩之境、‐‐相引」。
〔浮橋〕 水上にうかべたるはし。 ○〔蜀〕「先作二‐‐「‐」。
〔道橋〕 往來のみちとはしと。 ○〔史〕「皆豫治二‐‐一」。
〔斷橋〕 はしをたちきる、又、たちきれたるはし。 ○〔杜甫〕「‐‐無二復‐板一」。
〔飛橋〕 たかくかけたるはし。 ○〔蘇軾〕「彎‐々‐‐出」。 ○〔北〕「栗磾乃編二大‐船一、‐‐于野‐坂一」。
〔構橋〕 はしをつくる。
〔欹橋〕 かたむけるはし。 ○〔庾信〕「‐‐久半斷」。
〔架橋〕 はしをかく。 ○〔陸游〕二「‐レ‐築道村‐翁事」。

【橋】 カウ、コウ。居勞切 【豪】
勁起の貌にいふ字、つよし、はやし、はげし。 ○〔莊〕「欲‐惡去‐就於レ是‐‐起」。
〔屈橋〕 壯健なる貌にいふ語。 ○〔揚雄〕二「千‐乘霆‐亂「萬‐騎‐‐」。

【橋】 ケウ。古廟切 【嘯】
はかり、 ○〔禮〕「奉レ席如二‐衡一」。

【橋】 ケウ。居夭切 【篠】
矯に同じ、たむ。 ○〔荀〕「‐‐二飾其情‐性一」。

【橌】 カン、ゲン。下赧切 【潸】
おほいなる木

【橎】 ヘン、ボン。方煩切 【元】
材堅く花さかずして實のるさいふ一種の木。

【橏】 セン、ゼン。旨善切 【銑】
木の瘤、こぶ。

【橏】 ケン。九件切 【銑】
㊀摞字の條を見るべし。
㊁べにりんご、（榛）。

【櫜】 タク、チャク。他各切 【藥】
㊀底なき嚢、小さき嚢、ふくろ。 ○〔詩〕「于レ‐于レ嚢」。
㊁鑄冶に用ふる火をおこす具、中に火を鼓ぐ籥を裝置したるもの、ふいがう、ふいがうばこ。 ○〔淮〕「鼓レ‐吹レ埵以消二銅‐鐵一」。
㊂土を盛る器、ふご。 ○〔莊〕「禹親自操二‐耜一「‐」。
㊃杵の聲にいふ字。 ○〔詩〕「椓レ之‐‐」。
〔囊櫜〕 ふくろ。 ○〔詩〕「乃裹二糇‐食于‐‐之中一」。
〔盛櫜〕 袋の中に入る。 ○〔後〕「故士或自‐以レ‐」。
〔張櫜〕 ふくろを擴ぐ、又、威福を恣にするとにも我慾を張るとにもいふ語。 ○〔南〕「胡‐毋大‐レ‐」。
〔垂櫜〕 物を入るゝふくろの中を空にし下ぐ、卽ち、無一物にてあるにいふ語。 ○〔左〕「‐レ‐而入」。
〔發櫜〕 ふくろの口を開く。 ○〔史〕「‐レ‐出二陽‐生一曰、此齊‐君矣」。
〔裝櫜〕 旅に持ち行くふくろによそほひを爲す。 「‐一。 ○〔唐〕「還レ國‐レ‐係レ道」。
〔行櫜〕 旅に持ち行くふくろ。 ○〔五〕「悉取二其‐」。
〔鑪櫜〕 ふいがう。 ○〔淮〕「‐‐‐唾坊設非、巧冶不レ能二以冶レ金」。
〔巨櫜〕 大いなるふいがう。 ○〔魏文帝〕「五‐色駭‐颾、‐‐‐白鼓」。 「‐‐以喧‐颾」。
〔炎櫜〕 はのほを起こすふいがう。 ○〔周渭〕「韵二‐‐一」。
〔革櫜〕 皮の袋。 〔林寛〕「‐‐‐饑僮倚穿‐行」。
〔褚櫜〕 ふくろ。 ○〔歐陽修〕「豈與二先‐生一私二‐‐一」。 「‐一。
〔壞櫜〕 破れたるふくろ。 ○〔文同〕「塲‐稿倚二‐‐」。
〔空櫜〕 物の入りてなきふくろ。 ○〔唐寅〕「愕‐然如二‐‐‐一」。
〔倒櫜〕 ふくろを傾く、卽ち、中にある物をことごとく出だすこと。 ○〔陸游〕「‐レ‐猶堪レ買二釣舟一」。
〔布櫜〕 ぬのにて製したるふくろ。 ○〔聞見錄〕「喜レ遊負二‐‐‐一」。

【橑】 ラウ、ロウ。魯皓切 【皓】
㊀たるき、（椽）。 ○〔楚辭〕「桂‐棟兮蘭‐‐」。
㊁轑に通じ用ふ、きぬがさのほね。 ○〔淮〕「蓋非レ‐不レ能レ蔽レ日、輪非レ輻不レ能レ追レ疾」。
㊂木段、きぎれ。 ○〔管〕「雕レ卵然後瀹レ之、雕レ‐然後爨レ之」。
〔覆橑〕 家の天井。 ○〔夢溪筆談〕「屋‐上‐‐古‐人謂二之綺井、亦曰二藻‐井一」。

【橑】 レウ。憐蕭切 【蕭】
前條の㊀に同じ。

【櫜】 ハウ、ホウ。巨到切 【號】
張りて大いなる貌にいふ字。

【橪】 ダン、ナン。奴玩切 【翰】
梡に同じ。

【橪】
杵の聲の齊ふにいふ字。

【橒】 ウン、チン。王分切 【文】
一種の木、一說に木のあや、もくめ。

【橇】 テツ、デチ。直列切 【屑】
なつめ（棗）。

【橓】 シュン、ジュン。舒閏切 【震】
むくげ、（木‐菫）。

【橔】 タイ、デ。徒回切 【灰】
棺覆、ひつぎ、おほひ。

【橔】 トン。都昆切 【元】
かる、（枯）。

【橕】 タウ、チャウ。丑庚切 【庚】
斜なる柱、つッかひばしら、又、つッかひ持つ、さゝふ。 ○〔杜甫〕「始出二枝‐‐幽一」。

【橖】タウ、チヤウ。恥孟切 敬
さゝふ、（柱）。

【樝】コ、グ。戸吳切 虞
棗の實の大にして上鋭がりたるもの、つぼなつめ。

【橇】ス井。秦醉切 寘
朽ちたる木、くちき。

【橗】ハウ、ミヤウ。謨耕切 庚
木の心、一說に、一種の木。

【橘】キツ、キチ。居聿切 質
柚柑の屬、たちばな、みかん、枝に刺多く葉は冬にも凋まず、實は圓く種類甚だ多し、柚の實より小なり。○〔爾雅〕「江南種レ—、江北爲レ枳」。
〔甘橘〕みかん。○〔唐〕「送二江南—一」。
〔朱橘〕形は小さく色の赤きこと火の如きたちばな。○〔何遜〕「湘南——」。
〔金橘〕色あかきたちばな。○〔歸田錄〕「——産二江西一」。
〔丹橘〕前に同じ。○〔吳都賦〕「其果則——餘甘「荔枝之林」。
〔盧橘〕きんかん。○〔上林賦〕「——夏熟」。
〔晩橘〕おそく熟するたちばな。○〔梁簡文帝〕「——隱二重屏一」。
〔香橘〕かぐはしきにほひをもてるみかん。○〔韓翃〕「一把レ手開歌——下」。
〔叢橘〕むらがりはえたるたちばな。○〔歐陽修〕「——長二春條一」。
〔嫩橘〕熟しきらぬたちばな。○〔李郢〕「——摘二千包一」。
〔包橘〕たちばな。○〔黃庭堅〕「南貢備二——一」。
〔昔橘〕形平たく小さく之を剖けば香ありて烟の如きもの立つみかん、最も上品に位すといふ。○〔蘇軾〕「楚山——彈丸小」。
〔綠橘〕其の色紺碧にして愛すべく霜降るを待たずして其の色と味ひと共に佳にして食ふべしといふ一種のたちばな。○〔蘇軾〕「黃柑——邊常加」。
〔荔枝橘〕きめ皺みてこまかにして其の狀荔枝の如くなる密柑。○〔橘錄〕「——多出二於横陽一」。

【橙】タウ、チヤウ。宅耕切 庚
チヨウ、ヂヨウ。持陵切 蒸
橘の屬、其の實は橘より大なり、皮甘くして食ふべし、くれんぼ。○〔司馬相如〕「黃甘—榛」。
〔黃橙〕きいろに熟したるくねんぼ。○〔白居易〕「紅鱠——香稻飯」。
〔霜橙〕熟したるくねんぼ。○〔杜甫〕「——壓二香橘一」。

【橙】トウ。都鄧切 逕
几の屬、つくゑ。○〔晉〕「魏時、凌雲殿榜未レ題、匠人誤釘、不レ可レ下、使二韋仲將縣レ—書レ之、比レ訖鬚髮盡白」。
〔木橙〕木もて作れるつくゑ。○〔冷齋夜話〕「指西二——自坐二其上一」。
〔香橙〕香を焚くつくゑ。○〔法苑珠林〕「以二杖筒—「置二——一」。

【樀】樀に同じ。

【樍】シ。式至切 寘
一種の木。

【檍】ヨク、イキ。於力切 職
梓の屬、大いなるものは棺槨に小なるものは弓の材とすべしといふ。

【橚】シユク、ソク。息逐切 屋　セウ。
サウ、セウ。山巧切 巧
蘇彫切 蕭
㊀木の長くして直き貌にいふ字。○〔左思〕「—矗森萃」。
㊁草木の盛んなる貌にいふ字。○〔張衡〕「—爽櫹槮」。

【橚】楸に同じ、ひさぎ。○〔山海經〕「華陽之山其陰多二苦辛一、其狀如レ—其實如レ瓜、食レ之已レ瘧」。

【橛】ケツ、グワチ。居月切 月
㊀くひ、（杙）。○〔宋〕「薪石楗—、茭竹之數」。
㊁門梱、さかきみ。○〔杜枚〕「楝梁」。
㊂斷木、かぶ。○〔列〕「若二—株駒一」。
㊃馬銜、くつわ。○〔莊〕「前有二—飾之患一」。
㊄車鉤の心木、ふんぎ。
㊅立ちて搖がざる貌にいふ字。○〔素書〕「——梗々所二以立一レ功」。
㊆鼓を擊つ槌、つち、つちを加ふ、うつ。○〔山海經〕「有レ獸名レ夔、以二其皮一爲レ鼓、—以二雷獸之骨一、聲聞二五百里一」。
〔大橛〕おほいなる木のくひ。○〔隋〕「刻レ木爲二—」「—一」。
〔株橛〕くひ、かぶ。○〔列〕「吾處若二——株拘一」。
〔長橛〕丈の長きくひ。○〔爾〕「旁樹二——一」。

【橛】ケイ、ケ。姑衞切 霽
キ。居胃切 未
肉を盛る几、其の足に橫木あるもの。

【橜】橛に同じ。○〔唐〕「駒驢拔レ—」。

【橝】タン、ドン。徒含切 覃
チン、ヂン。直稔切 寢
テン、デン。徒點切 琰
㊀屋梠、のき。
㊁蠶槌、かひこのすばしら。「—枝ニ夯」。
㊂橝木の別名。○〔巖忌〕「擊二瑤木之—」。

【橝】シン、ジン。徐心切 侵
盾の上の竿。

【樏】ル井。力追切 支

【機】キ、ケ。居依切 微
木の實、このみ。
㊀技巧、たくみ。○〔莊〕「有二—事一者、必有二—心一」。
㊁たくみの裝置、からくり、しかけ。○〔書〕「若下虞—張、往省二括于度一、則釋上」。
㊂發動の由る所、氣運の主。○〔大〕「其—如レ此」。
㊃物事の變化、異動。○〔莊〕「意者有二—緘一而不レ得レ已耶」。
㊄兆候、きざし。○〔莊〕「是殆見二吾衡氣—一也」。
㊅端緒、はし。○〔後漢〕「啓二—于身-後一」。
㊆際會、わけめ。○〔後漢〕「成敗之—在二此一擧一」。
㊇適當の時期、はずみ、しほ、をり。○〔魏〕「遲重少レ決失在レ後レ—」。
㊈主要、かなめ。○〔淮〕「此皆達二於治亂之—一」。
㊉道理、みち。○〔傳燈錄〕「人百歲未レ善二諸佛—一」。
⑪原始、もと。○〔列〕「出二于—一」。
⑫眞性、自然。○〔莊〕「嗜慾深者天—淺」。
⑬心の活動。○〔法華經〕「小乘之人心既同レ惑、大乘—發」。
⑭權柄、政事。○〔後漢〕「後齋握レ—」。
⑮詐僞、いつはり。○〔淮〕「故—械之心藏二於胸中一」。
⑯からくりに依りて運轉するもの。だうぐ。○〔書〕「璇—玉衡」。
⑰布帛類を織る器械、特に、其の柚を轉ずるもの、はた。○〔史〕「其母投レ杼下レ—踰レ墻而走」。
⑱北斗星の第三位にあるもの。○〔博雅〕「斗星三爲レ—」。
⑲あやふし、（危）。○〔淮〕「處レ高而不レ

(樞機) かなめ、又、大政、大權。○(易)「言行君子之——」。
(禍機) わざはひのきざし。○(北)「微侈——之——」。
(眞機) 自然のまゝ。○(杜牧)「衛レ俗變ニ——」。
(危機) やすからざるきざし、又、あやふし。○(蘇軾)「早知富貴有ニ——」。
(大機) 天下の政事。○(唐)「李絳參ニ贊——」。
(戎機) いくさのまつりごと。○(杜甫)「雖復總ニ——」。
(軍機) 前に同じ。○(南)「決斷ニ——」。
(杼機) はたおりだうぐ。○(郭泰)「不レ得レ乘ニ——」。
(玄機) 高妙なるはたらき。○(張說)「玉牒啓ニ——」。
(弦機) ゆみぎるのしかけ。○(戰)「堅箭利金不レ得ニ——之利ニ」。
(時機) はずみ、わけめ。○(魏徵)「應ニ——以鼓レ之」。
(事機) 前に同じ。○(晉)「無レ後ニ——」。
(靈機) はたらきをしりぬく。○(晉)「——識レ變」。
(乘機) はずみにつけいる。○(南)「——奮」。
(衝機) 城壁などをつき破る道具。○(六韜)「無ニ——而攻」。
(碓機) うすつくきね。○(方言、註)「——碓梢也」。
(遇機) はずみにいであふ。○(因話錄)「——即發」。
(愼機) 事をおろそかにせざること。○(崔琦)「禍有レ——」。
(綜機) あやぎぬを織るはた。○(何遜)「——晨求レ織」。
(忘機) 世の中の事を思はざること。○(李白)「陶然共——」。
(藏機) はたらきをあらはさぬ。○(李紳)「——匿レ聖」。
(世機) 世の中の物事。○(柳宗元)「惟——之——」。

【橠】ダ、ナ。奴可切　ラ。郎可切　哿
橠——は、木の盛んなる貌にいふ語。

【橠】ダ、ナ。囊何切　歌
枝の長くして弱き貌にいふ語。

【㮴】ク。矩于切　虞
茱萸、もろはのすき。

【橡】シヤウ、サウ。徐兩切　養
栗の屬、さち、つるばみ、其の實をどんぐりといふ、其の殼梂は染料に用ふ。○(晉)「與ニ邑人一入レ山拾レ——」。
(拾橡) とちのみをひろふ。○(晉)「——ニ——實一而食レ之」。
(采橡) とちのみをとる。○(晉)「乃使下令長率ニ丁壯一、隨ニ山澤一——レ——補レ乏、以濟中老弱上」。

【橢】タ。他果切　哿
❶幅狹くして長き形。○(爾)「蜻小而——」。
❷長圓形、こばんがた。○(漢)「小——レ之」。
❸木の枝なきこと。○(揚雄)「土不レ和木科——」。
(銳橢) するどく細長し。○(淮)「其方圓——」。
(矮橢) ちひさくして細長し。○(文同)「狀——而——」。

【楕】タ、ダ。徒禾切　クワ、グワ。吾禾切　歌
塩鼓、つちくれのつゞみ。

【檽】ジユ、ニユ。汝朱切　虞
梁の上の短き木。

【橤】ズ井。如壘切　紙
❶たる(垂)。○(易林)「佩玉橤——、無ニ以繫レ之」。
❷蘂に同じ、しべ。
(橤々) 物の垂れ下がる貌にいふ語。○(虞諶)「——芬華落」。

【㯝】ロ、ル。魯故切　遇
きり(桐)。

【𣘙】ハ、ベ。蒲巴切　麻
やまなし(棠)。

【𣟶】ケン。吉掾切　霰

皮葉共に衣に作るべしといふ一種の木。

【𣝪】セキ、シヤク。思積切　陌
木履、きぐつ。

【𣞤】古文の麓の字。

【橦】トウ、ヅ。徒紅切　東
其の花柔脆にして績ぎて布に製すべしといふ一種の木。○(左思)「布有ニ——華ニ」。

【橦】シヨウ、シユ。職容切　冬
❶前條に同じ。
❷木の一截、きぐれ。○(康熙)「唐式柴方三尺五寸曰ニ——ニ」。
❸敵陣をつきやぶるに用ふる車。○(晉)「楯櫓鉤——發ニ矢石一雨下」。

【橦】タウ、トウ。宅江切　江
❶帳極、てんまくのてッぺん。
❷百尺、ほばしら。○(木華)「決レ帆摧レ——」。
❸さを(竿)。○(張衡)「都盧尋レ——」。
(脩橦) ながきさを。○(後漢)「夏掲鳴鳶之——」。

【橦】シヤウ、サウ。助莊切　陽
❶さを(竿)。❷さす(刺)。

【𣟴】エフ。於葉切　葉
葉の動く貌にいふ字、そよぐ。

【椦】権に同じ、

【𣾰】キ。宜寄切　イ。以智切　寘
白——は、周の穆王の八駿馬の一。○(列)「右驂ニ赤驥一而左白——」。

【櫼】セン。則前切　先
小栗、しばぐり。

【櫼】セン。子賤切　霰
やま梅。

【櫔】欐に同じ。

【橧】ソウ。子登切　蒸
❶薪柴を聚めてしつらへたる住居。○(禮)「先王未レ有ニ宮室一、夏則居ニ——巢ニ」。
❷屋宇なき高樓、たかどの。○(張衡)「——桴重棼」。
❸家の寢所、又、をり(圈)。○(揚雄)「猪——檻及蓐曰レ——」。

【橨】フン、ポン。符分切　文
枎仲木の別名、いてふの木。

【橨】ヒ、ピ。桴鬼切　尾
船の邊の木、ふなばた。

【橨】フン、ホン。父吻切　吻
あし(　)。

【橩】ケイ、キヤウ。葵營切　庚
樗蒲の骰子、さい。○(太平御覽)「操レ棊弄レ——」。

【橪】ゼン、ヂン。人善切　銑
❶形小にして味の酸き棗、こなつめ。○(司馬相如)「枇杷——柿」。

❶そむ(染)。

【橪】 エン。烏前切 先

——支は、一種の香草。〇[劉向]「采二——支于中州一」。

【檧】 樬に同じ。

【棖】 ワ。烏果切 哿

枝垂る、しだる。

【横】 クワウ、ワウ。胡盲切 庚

❶しきりに設けたる木。〇[段玉裁]「凡以レ木闌レ之謂二之——一也」。❷よこ(よこの方、よこさま)。(い)東西又は左右の方。〇[劉勰]「鏡縦則面長、鏡——則面短」。(ろ)傍側、よこあひ、よこがは、よこて。〇[左]「以二中軍公族一——撃レ之」。(は)よこに通ずるもの、ぬき。〇[屈平]「不レ知二——之與一レ縦」。❸よこたはる。(い)よこに爲る、よこに引く、よこに偃す。〇[韓愈]「雲——二秦嶺一家何在」。(ろ)充ち塞がる、分かれ布く。〇[禮]「以——二於天下一」。❹よこたふ。(い)よこに爲す、よこに倒す、よこに置く。〇[儀]「坐——レ弓」。(ろ)よこに佩ぶ。〇[鮑照]「——レ劍別二妻子一」。❺よこさまに斷つ、よこさまに過ぐ、よこぎる。〇[蘇軾]「適有二孤鶴一、——レ江東來」。❻支那戰國の時張儀が策せし、關東の六國を連られて關西の秦國に服從せしむること、即ち、東西を一となすの義、一說に、威力を以て脅し迫るの義。〇[呂氏春秋]「有三以レ——說二魏王一」。❼ほしいまゝ。(い)敵なきこと、自由なること。〇[戰]「不レ足二以——一レ世」。(ろ)勢氣盛れること。〇[王褒]「時——潰以陽遂」。❽黌に通じ用ふ、學舍。〇[後漢]「修二起——舍一」。

〔天横〕 星の名。〇[漢]「王梁之旁有二八星一絕レ漢、曰二——一」。
〔連横〕 戰國の時に秦を首として東西に列する國々を連合一致せしめし說のこと。〇[戰]「蘇秦始將二——一」。
〔從横〕 (い)たてとよこと。〇[揚雄]「一——一——」。(ろ)みちしく。〇[温庭均]「碧桃花發水——」。(は)ほしいまゝ。〇[南]「才智——」。(に)戰國の時に秦を除き南北に列する國々の一致することと東西に列せる國々の連合することとをいふ。〇[漢]「——家者流、蓋出二于行人之官一」。

【横】 カウ、キヤウ。古孟切 敬

理に順はざること、亂暴なること、ほしいまゝ、よこしま。〇[孟]「待レ我以二——逆一」。

〔豪横〕 勢強くしてよこしまなること。〇[左]「——者懲二隣邦邑一」。
〔强横〕 前に同じ。〇[宋]「諸侯——」。
〔暴横〕 手あらくしてよこしまなること。〇[後漢]「今諸將皆壯士、崛起多——」。
〔陵横〕 犯し侮りてよこしまなること。〇[後漢]「——二邦邑一」。
〔驕横〕 高ぶりて恣なる行ひをなす。〇[南]「貪淫——」。
〔殘横〕 人を害なひて非理の行をなす。〇[南]「部曲——」。
〔貪横〕 利慾の念深くして非理のふるまひあること。〇宋「以二專悍——一聞」。
〔猾横〕 惡がしこくして非理なること。〇[宋]「——不法」。「無二——之家一」。
〔權横〕 勢力ありて非理なること。〇[宋]「今后妃
〔貴横〕 身分たかくして非理なること。〇[宋]「允恭素——」。

【横】 クワウ、ワウ。古曠切 漾

盛氣充滿す、みつ。〇[禮]「號以立レ——」。

【橬】 梣に同じ。

【[木歰]】 シフ。色入切 緝

木の茂れる貌にいふ字。

【[木黹]】 チ。展几切 紙

木の枝。

【橭】 コ、ク。古胡切 虞

❶牡——は、山楡の類、ひきざくら。〇[周]「壺・涿・氏掌レ除二水・蟲一、若欲レ殺二其神一則以二牡——一貫二象・齒一而焚レ之」。❷木四方に布く。

【橭】 コ、ク。侯古切 麌

一種の木。

【[桼包]】 ハウ、ヘウ。匹貌切 效

——垸は、桼にて垸り已はりたるを再びぬること。

【[桼包]】 ハウ、ベウ。薄交切 肴

赤黑き色の漆。

【[桼完]】 クワン、グワン。胡玩切 翰

桼を灰に和して髹る、ぬる。

【樌】 柳に同じ。

【栚】 チン、ドン。直稔切 寢

槌の横木、かひこのすのよこぎ。

【棑】 ヘイ、ハイ。邊迷切 齊

すむ(棲)。

【橯】 ラウ、ロウ。郎到切 號

田を摩る一種の農器。

【椇】 耕に同じ。〇[呂氏春秋]「——爲二煩・辱一不二敢休一矣」。

【[木菜]】 菜に同じ。

【棶】 リヨク、リキ。林直切 職

野生の酸棗、されぶさなつめ。

【楝】 サウ、ソウ。則刀切 豪

天を一周す、めぐる。

【[卓桼]】 チ。丑寄切 寘

蠶を分かつ、わく。

【橔】 トン、ドン。同悶切 願

木垂る、しだる。

十三畫

【橽】 タツ、タチ。他達切 曷

水を洩らすもの、みづもらし。

【檽】 櫺に同じ。

【[木豦]】 キヨ、ゴ。强魚切 魚

まがき(藩・落)。

【橾】 シユ、ス。山芻切 虞 ソウ、ス。蘇后切 有

車の轂の中の空しき所、おな

【橾】セウ。千遙切 [蕭] すき（鍫）。

【橾】サウ、ソウ。蘇曹切 [豪] 摻に同じ。

【橿】キヤウ、カウ。居良切 [陽] ㊀え（杤）、一說に、鋤の柄。　「｜」。㊁萬年木、もちのき。○〔周、註〕「牙以レ ㊂枯れて未だ朽ちざる木の稱。㊃彊く盛んなるにいふ字。○〔揚雄〕「左-右｜-｜」。

【檀】タン、ダン。徒干切 [寒] 材質强靭なる一種の木、皮は青色にして滑澤なり、古昔はおもに車輻の材にあてしといふ。○〔詩〕「爰有ニ樹-｜｜ニ」。

（栴檀）せんだんといふ香氣ある木、一に檀香ともいふ、赤檀、白檀、紫檀等の種類あり。○〔王維〕「林是｜-｜」。

【檀】セン、ゼン。時戰切 [霰] 人の名。

【檩】リン、ロン。力錦切 [寑] 屋上の横木、はり。

【檃】イン、オン。於謹切 [吻] 於靳切 [問] 物の曲がりたるを正す具、ためぎ、又、ためぎにあて正す、たむ。○〔荀〕「枸-木必待ニ｜-栝烝-矯ー然後直」。

【櫶】カン、コン。虎感切 [感] 木の裂けたる文。

【檝】シヤク、セキ。七約切 [藥] 措に同じ、皮木のざらくするを。

【檄】ゲキ、ギヤク。胡狄切 [錫] ㊀徵召の文書、めしぶみ、古昔は、尺二寸の木簡を用ひしといふ。○〔漢〕「爲レ｜召レ通」 ㊁敵の惡を擧げ己れの德を述べて衆人に諭告する文書、さとしのふれぶみ、さとしのまはしぶみ。○〔史〕「傳レ｜而千-里定」。㊂廻狀、露布、ふれぶみ、まはしぶみ。○〔史〕「尉-陀移レ｜」。㊃枝のなき木。○〔爾〕「無レ枝爲レ｜」

（傳檄）ふれ狀をおくる。○〔史〕「三-秦可ニ｜-而定-也」。

（羽檄）檄の上に鷄のはねを插みたるものにて事の急なるとき用ふるものといふ。○〔漢〕「｜-｜重-跡而押至」。「而入」

（捽檄）召し狀をさへぎもつと。○〔後漢〕「義-｜-｜」

（馳檄）急使もて檄書をおくると。○〔後漢〕「｜-｜レ｜爲レ救」。

（飛檄）前に同じ。○〔杜甫〕「處-々喧ニ｜-｜ニ」。

（奉檄）朝廷より命令の書をうくると。○〔後漢〕「遣レ子｜-｜降レ禹」。「於謨ニ」。

（承檄）前に同じ。○〔晉〕「繇以ニ｜レ｜獲ニ義、指ニ功」

（賤檄）召し狀、ふれぶみ、またはしぶみ。○〔陸機〕「蒙ニ｜-｜奏-報」。

（露檄）封をなさざるふれ狀。○〔晉〕「｜ニ｜遠-近ニ」。

（文檄）前に同じ。○〔晉〕「專-掌ニ｜-｜ニ」。

（軍檄）いくさのふれぶみ。○〔馬定國〕「｜-｜忽馳」。

【趚】レン。良冉切 [琰] 功勤、いさを。

【檅】セイ。須銳切 [霽] 小棺、こひつぎ。

【檆】杉の本字。

【檇】スヰ。遵綏切 [支] 木もて擣く、うつ、つく。

【樐】艪に同じ。

【欘】シヨク、ゾク。市玉切 [沃] 柳に似たる一種の木、葉大にして赤し。

【檈】セン、ゼン。似宣切 [先] シユン。須倫切 [眞] 食を承くる案、又圓狀の案。

【檈】セン、ゼン。隨戀切 [霰] ㊀繩もて軸を轉ずると。㊁木を裁ちて器をつくると。

【𣘦】コウ、ク。古送切 [送] ㊀長き木。㊁小さき杯。

【櫕】タン、トン。都感切 [感] 篋の類、かたみ、はこ。

【𣚧】ク、ゴ。郡羽切 [麌] ｜-簍は、負ひ戴く一種の器。

【檉】テイ、チヤウ。癡貞切 [庚] 其の葉は細くして絲の如くたをやかなる一種の木、ぎよりう、河柳、三春柳。○〔酉陽雜俎〕「涼-州有ニ赤-白｜ニ」。

【檊】カン。居案切 [翰] やまぐは（柘）、又、一說に、だん（檀）。

【檋】キヨク、コク。拘玉切 [沃] 直き轅の車、一說に、梮に同じ。

【檌】ザイ、ゼ。徂賄切 [賄] 倒れ損なふ。

【檍】オク、イキ。於力切 イ。于記切 [寘] 其の葉は棣に似て細き一種の木、もちのき、萬年木。○〔周〕「工-人取レ幹之道、柘爲レ上、｜次レ之」。

【檎】キン、ゴン。巨今切 [侵] 林｜は柰に似たる一種の木、りんご、其の實は柰に比すればやゝ圓し。○〔左思〕「其園則有ニ林-｜枇-杷ニ」。

【檏】ハク、ボク。匹角切 [覺] 樸に同じ。

【檐】エン、オン。余廉切 [鹽] ㊀梠櫋、ひさし、のき。○〔禮〕「復-廟重-｜」。㊁帽笠などの張り出でたる邊。○〔雲仙雜記〕「壓ニ損帽-｜ニ」。

（重檐）かさなりたるのき。○〔隋〕「｜-｜丹-陛」。

（層檐）前に同じ。○〔歐陽修〕「曲-檻高-柳拂ニ｜-｜ニ」。

（屋檐）のき。○〔陸游〕「乾-鵲下ニ｜-｜ニ」。

（飛檐）高くそびえたるのき。○〔洛陽伽藍記〕「｜-｜峻宇」。

（茆檐）かやにてふきたるのき。○〔陶潛〕「燕-棲｜-｜下」。

（廣檐）ひろやかなるのき。○〔劉孝標〕「｜-｜含ニ夜-陰ニ」。

（綺檐）うつくしくいろどりたるのき。○〔柳惲〕「｜-｜清-露溥」。

〔深檐〕ふかくおほひたるのき。○〔僧惠洪〕「――雨雪時」。
〔裝檐〕うつくしくかざりたるのき。○〔王建公主〕「――紙-瑣隨レ風落。「漏處二。
〔破檐〕くづれたるのき。○〔元稹〕「忽向二――一殘-
〔頹檐〕前に同じ。○〔白居易〕「落-然――下」。
〔笠檐〕かぶりがさのひさし。○〔陸龜蒙〕「――蓑-袂有二殘-聲一」。
〔滴檐〕のきの雨だれのしたゝること。○〔范成大〕「疎-々密-々――聲」。
〔欹檐〕そばだちかたむけるのき。○〔張耒〕「――積雨苔生レ瓦」。
〔霜檐〕しものふりかゝりたるのき。○〔鄭俠〕「――「懸二凍-溜一」。
〔短檐〕おどのひさし。○〔李存〕「南-風滿二――一」。

【檐】タン、トン。都濫切 勘
擔に同じ、かつぐ、になふ。○〔管〕「不レ明二手則一而欲レ出二號-令一猶下――レ竿而欲上レ定二其末一」。

【櫑】ライ、レ。盧回切 灰
罍に同じ。

【[illegible]】スヰ。楚委切 紙
㊀むち（箠）。㊁けづる（剟）。

【檒】フウ、フ。方戎切 東
古文の風の字、一說に、木上を行く風。

【檓】キ。許委切 紙
椒の屬、叢生して實大なり、おほさんせう。○〔爾〕「――大-椒」。

【[illegible]】シツ、シチ。親吉切 質
杖となすべき一種の木。

【檔】タウ。都郎切 陽
木の牀。

【檔】タウ。登浪切 漾
かまち（框）。

【檕】ケイ、カイ。古詣切 霽 牽奚切 齊
㊀汲水索の耑につきたる木、はねつるべの上の横木。
㊁絲を糾むに用ふる小さき椎、糾ふ糸の耑に繫ぎて機を轉ず。

【檖】スヰ。徐醉切 寘
㊀梨の屬、其の實は梨より小さくして酸し、やまなし。○〔詩〕「隰有二樹-――一」。
㊁またがふ（順）。○〔淮〕「披-斷撥-――」。

【櫜】ヘウ、ベウ。符霄切 蕭 ハウ、ホウ。普袍切 豪 回到切 號
囊の張りたる貌にいふ字、又、囊に入る、つゝむ。○〔石鼓文〕「其魚維何、維鱮與レ鯉、何以――レ之、維楊與レ柳」。

【檗】ハク、ビヤク。博陌切 陌
其の皮を染料となす一種の木、きはだ。○〔司馬相如〕「――離-朱-楊」。
〔小檗〕ひめぎ。○〔本草〕「――樹小似二石-榴一皮黃而苦」。
〔苦檗〕きはだ。○〔李賀〕「――已染レ衣」。
〔含檗〕きはだのにがきを口にふくむとて苦しみをふくむにいふ語。○〔施肩吾〕「難-情――レ復含レ辛」。

【檗】ヘキ、ビヤク。蒲歷切 錫
たらひ（槃）。

【檘】檗、又、枰に同じ。

【檙】テイ、チヤウ。都挺切 迥
つゑ（棓）。

【楪】テフ、デフ。達協切 葉
屋の笮板、やれいた。

【㯳】キン、コン。居蔭切 沁
やらい、かこひ（格）、一說に、其の門を扞ぐに用ふるもの、くわんのき。

【檚】ソ。創祖切 麌
ひさぎ（檟）、一說に、俗の楚の字。

【檛】タ、テ。除瓜切 麻
㊀むち（箠）。○〔五〕「手舞二鐵――一出二入陣-中一」。
㊁くだ（管）。○〔潘岳〕「修――內辟」。
〔鐵檛〕くろがねのむち。○〔宋〕「元稿奮二――一擊二契-丹一」。
〔炭檛〕すみをあつかふひばし。○〔茶經〕「――以二鐵六-稜一制レ之」。

【檜】クワイ、ケ。古會切 泰
㊀寒中にも葉の色の變ぜざる一種の木、樹大にして材は美しく其の用甚だ多し、ひのき、びやくしん。○〔詩〕「――楫松-舟」。
㊁棺の上の飾り。○〔左〕「棺有二翰-――一」。
㊂旝に通じ用ふ。○〔音釋〕「又作レ――、建二大-木一置二石其上一、發レ機以磓レ敵者也」。
〔枯檜〕かれたるひのき。○〔裴說〕「嶽-麓擊――「垂」。
〔朽檜〕前に同じ。○〔李建勳〕「――枝斜綠-蔓」。
〔雙檜〕二本ならび立てるひのき。○〔蘇軾〕「當-年――是雙-童」。「寒」。
〔貞檜〕寒さにめげぬひのき。○〔梁簡帝〕「――凌」。
〔蒼檜〕綠の葉をなせるひのき。○〔蘇軾〕「歲晚餘――」。「――、白-晝陰-森」。
〔壽檜〕年ふりたるひのき。○〔葛長庚〕「㭐-松――」。
〔疎檜〕まばらにはえたるひのき。○〔僧齊己〕「雁-塔影分――月」。
〔崇檜〕高くそびえたるひのき。○〔蔡京〕「高-竹――、森-然蓊-鬱」。

【檝】セフ。卽葉切 葉
楫に同じ。○〔管〕「歷二水-谷一不レ須二舟――一」。
〔飛檝〕かいをはやめて舟をいそぐ。○〔吳融〕「――渡二江-來一」。
〔迅檝〕前に同じ。○〔梁武帝〕「互-艦――」。
〔竝檝〕かいをならべて舟をつらぬ。○〔盧綸〕「――湖-上遊」。

【檞】カイ、ケ。佳買切 蟹
まつやに（松樠）。

【檟】カ、ケ。古雅切 馬
㊀ひさぎ（楸）。○〔左〕「伍-員曰樹二吾墓――一」。
㊁茶の木。○〔爾〕「――苦-茶」。

【檠】ケイ、ギヤウ。渠京切 庚 ケイ、キヤウ。居影切 梗
㊀燈火の架、ともしびだい、又、燈火、ともしび。○〔韓愈〕「長――八-尺空自長」。
㊁ためぎ（榜）、又、ためぎにあて正す、ためむ。○〔淮〕「弓必待レ――」。
〔排檠〕弓を矯めたゞす器。○〔荀〕「然而不レ得二――一則不レ能二自正一也」。
〔榜檠〕前に同じ。○〔韓〕「――者、所二以矯二不直一也」。
〔燈檠〕ともしびをのするだい。○〔酉陽雜俎〕「有二靑-玉――一」。
〔寒檠〕さびしき燈火。○〔劉克莊〕「一開茅-屋對二――一」。

【檠】ケイ、ギヤウ。渠敬切 [敬]
もりものをのする脚ある木器、たかつき、こしたか、隔子。○[漢、註]「以レ竹曰レ籩、以レ木曰レ豆、今之—也」。

【檄】檠に同じ。○[漢]「能—二弓-弩一」。

【檡】タク、ヂヤク。場伯切 [陌] 達各切　エキ、イヤク。夷益切 [藥]
木理堅くして材質しなやかなる一種の木、古昔は、射決(ゆがけ)に作りしといふ。○[周]「決用レ正、王-棘若—-棘」。

【檡】セキ、シヤク。施隻切 [陌]
㊀さるがき(梬-棗)。㊁前條に同じ。

【檡】ト、ヅ。同都切 [虞]
於—は、虎の子。

【檢】ケン。居奄切 [琰]
㊀古昔に、書函の中にあるものゝ秘密を保ちて餘人の妄披を豫防する爲めに其の蓋に三箇所の刻みをつけ縄を以て其の刻みの箇所〳〵を緘ぢ更に泥を塡めて其の上に題書して印せしを、轉じて、書函書簡などに一の標を著けて餘人の妄披の防ぎをなすを、ふう、いんぷう。○[漢]「金-泥玉—」。
㊁書函、簽、ふばこ、ふみばこ。○[後漢]「皁-囊施レ—」。
㊂たゞす。
(い)節制す、とゞむ、とりしむ、しめくくる。○[孟]「狗-彘食二人食一不レ知レ—」。
(ろ)案驗す、とりしらぶ、たづねきはむ。○[北]「遣レ使巡二—河-北一」。
㊃法式、のり。○[淮]「人-主立レ法、先自爲二—式儀-表一」。
㊄行儀、おこなひ。○[蜀]「不レ治二素-—一」。
㊅隱栝、ためぎ。○[揚雄]「蠢迪二—-押一」。
㊆草案、したがき。○[韻會]「俗謂二文-書藁一曰二—-子一」。

(拘檢) しめくゝり、又、おこなひ。○[後漢]「—-—者離レ毀」。
(操檢) 前に同じ。○[南]「幼持二—-—一」。
(羈檢) 前に同じ。○[宋]「少不レ事二—-—一」。
(繩檢) 前に同じ。○[唐]「儁爽-邁少二—-—一」。
(行檢) 前に同じ。○[魏]「初陳-羣非二嘉不レ治二—-—一」。
(格檢) 前に同じ。○[魏、註]「休-伯-都無二—-—一」。
(考檢) かんがへしらぶ。○[北]「請依二舊-例一—-—能-否一」。
(參檢) まじへかんがふ。○[漢]「以相—-—」。
(臨檢) のぞみしらぶ。○[後漢]「自如二—-—一」。
(收檢) とりまとむること。○[後漢]「—二—遺-書一」。
(禁檢) いましめとゞむ。○[魏]「—二—士衆一」。
(名檢) 道德のおこなひ。○[晉]「而賤二—-—一」。
(儀檢) 行儀、作法。○[晉]「不レ修二—-—一」。
(搜檢) さぐりしらぶ。○[南]「—二—姦-慝一」。
(案檢) しらぶ。○[隋]「遣レ使—-—」。「莽二」。
(勾檢) 前に同じ。○[白居易]「—二—簿-書一多二闕-
(覆檢) 前に同じ。○[宋]「白レ州遣レ官—-—」。
(追檢) 事のすみたるあとよりしらぶ。○[北]「詔二有-司一不レ聽二—-—一」。
(訊檢) たづねしらぶ。○[北]「乃精加二—-—一」。
(披檢) 書物などをひらきしらぶ。○[北]「—二—書-史一」。
(方檢) 正しきおこなひ。○[北]「—-—有二禮-度一」。
(點檢) 一々よくしらぶ。○[杜甫]「晴-窗—-—白-雲篇」。「—之二」。
(督檢) たゞす。○[唐]「皆爲二郡-府長-史州-佐一—二
(蹈檢) のりにしたがはざること。○[唐]「而豪-猾—レ—」。
(細檢) こまかきおこなひ。○[唐]「延-老不レ飭二—-—一」。
(禮檢) 禮儀。○[唐]「跳-蕩無二—-—一」。
(量檢) はかりしらぶ。○[唐]「—-—强レ年、則加-減均-同」。
(聖檢) ひじりののり。○[鍾會記]「多二違—-—一」。
(印檢) いんぷう。○[何晏]「縱-橫—-—開」。
(玳檢) たいまいをもて封章とす。○[王勃]「—-—銀-繩」。

【檣】シヤウ、ザウ。在良切 [陽]
船の帆をかくる柱、ほばしら。○[王粲]「捎レ衿倚二舟-—一」。
(連檣) 帆ばしらをつゞく。○[郭璞]「萬-里—-—」。
(危檣) たかきほばしら。○[盧綸]「落日映二—-—一」。
(舩檣) ほばしら。○[唐]「—-—阻-隘」。

【檥】ギ。魚倚切 [紙]　ガ。牛何切 [歌]
載する用意して船を岸に著くること。○[史]「烏-江亭長—レ舟待二項-羽一」。

【檥】ギ。魚羈切　イ。延知切 [支]
物の表に立つる木。

【檦】ヘウ。方小切 [篠]
㊀しるし(表)。○[北]「爲二方-陳一、函-簿—列二步-騎一、内-外四-重、列レ—建レ旗」。
㊁柱の類。○[淮]「—-—林-檮-櫨以相支-持」。

【[illegible]】シ。式支切 [支]
椸木。

【檧】ソウ、ス。蘇公切 [東]　先孔切 [董]
栭—は、小さき籠、こかご、又、箸筩、はしづつ。

【[illegible]】サフ、ソフ。私盍切 [合]
かるゝ(枯)。

【樍】セキ、シヤク。子敵切 [錫]
ぎよりゆう(檉)。

十四畫

【檘】ハイ、ベ。蒲街切 [佳]
いかだ。○[揚雄]「—謂二之筏一」。

【檘】ヒ。布眉切 [支]
楝に似たる一種の木。

【檫】サツ、セチ。初戛切 [黠]
梓の屬。
(樝檫) 一種の果、實は椎栗の如くにして肉は甘味の内に微しくしぶ味あり。

【檬】ボウ、ム。莫紅切 [東]
葉は黃にして槐に似たる一種の木。

【檭】ギン、ゴン。語巾切 [眞]
木の白色。

【檮】タウ、ドウ。徒刀切 [豪]
㊀斷木、きりかぶ。
㊁無知の貌にいふ字、おろか。○[郭璞]「不レ揆二—-昧一」。

【檮】チウ、ヂユ。直由切 [尤]
一種の剛木。

【檮】タウ、トウ。覩老切 [晧]
さす(刺)。

【檮】タウ、ドウ。大到切 [號]

ひつぎ、(棺)。

【槷】 碳に同じ。

【槊】 サク、ソク。色角切 覺
縣の名。

【槏】 レン、ロン。離鹽切 鹽
草木のまばらなる貌にいふ字。

【𣝕】 タイ、テ。都隊切 隊
榙に同じ、車の横のてすり。

【檰】 ベン、メン。彌連切 先
栗に似たる子を結ぶ一種の木、はまゆみ。○[本草]「杜-仲葉類レ柘、其皮折レ之白-絲相連、江-南謂ニ之ーー」。

【𣚛】 タフ、ドフ。徒合切 合
榙ーは、一種の木。

【樸】 ボク、モク。博木切 屋
㊀なつめ、(棗)。㊁かたし、(堅)。
㊂苞叢す、むらがる。

【㯷】 樸に同じ、小木。

【𣟶】 キン、コン。頸忍切 軫
木理緻密なると、きめこま。

【𣝑】 ジン。即忍切 軫 資辛切 眞
わん、(盌)。

【槫】 ヘキ、ヒヤク。彌戟切 陌
樽に同じ。

【檲】 タン、ダン。徒官切 寒

大いなる木。

【棪】 エン。以冉切 琰
簷ーは、たかむしろ、あんぺら。

【檳】 ヒン。必鄰切 眞
梆の字を見よ。

【檴】 クワ、ゲ。胡化切 禡
樺に同じ。

【檴】 クワク、グワク。胡郭切 藥
楡の屬、あきにれ。○[詩]「無レ浸ニーー薪ニ」。

【櫜】 ヘウ。皮招切 蕭
ゆみぶくろ、(櫜)。

【檵】 ケイ、カイ。古詣切 霽
杞に同じ。

【檻】 ケン、コン。丘廉切 鹽
㊀水を泄らす器、みづもらし。
㊁鏡匳、かゞみばこ。

【欅】 ヨ。羊茹切 御
食を舁ふもの。

【櫸】 ヨ。羊諸切 魚
竹にて作りたる篼輿。

【樜】 シヤ、ゼ。常者切 馬
宜ーーは、善き夢の神。

【檷】 ヂ、ニ。乃倚切 ビ、ミ。毋婢切 紙
絡絲(いとまき)の柄。

【檸】 ダウ、ニヤウ。挐梗切 梗 尼庚切 庚
㊀酒に浸し用ひて風邪を治すといふ一種の木皮。
㊁ーー頭は、木のほぞ。

【檹】 イ。於離切 支
ーー椸は、長き貌にも靡く貌にも正しからざる貌にもいふ語。

【檥】 イ。隱綺切 紙
あぢさ、(椅木)。

【檻】 カン、ゲン。胡黯切 豏
㊀欄干、てすり、おばしま。○[漢]「攀ニ殿ーー一折」。
㊁櫳櫺、れんじ。○[班固]「舍ニ櫺ーーニ而却-倚」。
㊂罪人又は猛獸などを繫ぎ置く圍ひ、をり。○[淮]「養ニ虎豹犀象一者爲ニ之圏ーーニ」。
㊃をりに幽すると、繫ぎて自由を奪ふと。○[晉]「被ニ囚ーー之困ニ」。
㊄車の行く聲にいふ字。○[詩]「大-車ーーー」。
㊅正しく出づる泉。○[詩]「ーー沸ーー泉」。
㊆濫に通じ用ふ、ゆあみだらひ、浴器。○[莊]「同レー而浴」。
(橫檻) よこにながきてすり。○[杜牧]「直-欄ーー」。
(機檻) からくりのしかけあるをり、即ち、野獸などを捕らふるに用ふるもの。○[劉若]「虎豹落ニーーニ」。
(獸檻) けものをいるゝをり。○[董京]「魚懸ニーーニ」。
(籠檻) たけにてあみたるをり。○[甯]「今羽-翮未レ備、不レ得レ不レ就ニーーニ」。
(鏤檻) ゑりきざみたるてすり。○[張衡]「ーー文-樅」。
(桎檻) あしかせを施してをりにいるゝと。○[抱朴]「夷-吾ーー而建ニ匡-合之績ニ」。
(虛檻) 人のをらざるてすり。○[陸雲]「憑ニーー而遠想兮」。
(撫檻) てすりをなづ。○[王褒]「ーレー兮遠望」。
(江檻) かはに臨みたるてすり。○[杜甫]「ーー俯ニ鴛-鴦ニ」。
(朱檻) あかく塗りたるてすり。○[杜甫]「浮-沱ーー湖」。
(彩檻) うつくしくいろどりたるてすり。○[許渾]「ーー浮-雲廻」。

【㯺】 カン、呼覽切 感 カン、ゴン。戸黯切 豏
土地堅し、かたし。○[周]「凡糞ニ種彊ーー用レ蕡」。

【㯺】 カン、ゲン。胡讒切 陷
大なる檻。

【檼】 イン、オン。於靳切 問 イン。衣刃切 震
檃に同じ、むなぎ、むね、(棟)。

【檽】 ドウ、ヌ。乃豆切 宥 乃后切 有 ヂユ、ニユ。尼主切 麌
其の皮は紫の染料となる一種の木。○[後漢]「江-南ーー梓以爲ニ棺-椁ニ」。

【檽】 橘に同じ。

【檾】 ケイ、キヤウ。去潁切 梗 口迴切 迥
麻の屬、一名、いちび、苘麻、白麻。○[爾翼]「ー高四-五-尺或六-七-尺、葉似レ苧而薄、實如ニ大-麻-子一、今-人績爲レ布」。

【檿】 エン。於琰切 琰
點文のある山桑、やまぐは。○[國]「ーー弧箕-服」。

【𣟴】 檿に同じ。

【檫】 榇に同じ。ひやうしぎ。○〔周〕以序二聚一ー一二。

【櫁】 櫁に同じ。

【櫼】 セン。則前切 先 一種の香木。

【櫂】 タウ、デウ。直教切 效 船の傍側につけ水を撥きて船を進ましむる具、かい、かぢ。○〔楚辭〕「桂ーー兮蘭枻」。
〔弭櫂〕 舟のかいを動かすことを止どむ。○〔儲光羲〕「ーー臨沙嶼一」。
〔縱櫂〕 舟のかいを用ひをして舟の行くまゝにす。○〔張協〕「ー二ー隨レ風一」。
〔反櫂〕 かひのむきを轉じてもと來し途に就く。○〔孟浩然〕「一レー歸二山阿一」。
〔征櫂〕 遠き方に行くためにこぐ船のかい。○〔李嶠〕「迎二ーー一ー三春暮一」。
〔孤櫂〕 つれだつものゝなき船のこと。○〔李頎〕「青島ー二ーー一」。
〔檝櫂〕 かぢとかいと。○〔潘岳〕「同二楚ーー一」。
〔迅櫂〕 漕ぐこと早きかい。○〔夏侯湛〕「輕帆ーーー横二絹江流一」。
〔搖櫂〕 かいをゆり動かし船を行る。○〔常建夢〕「春風又ーーー」。
〔迴櫂〕 かいをかへしめぐらす。○〔揚衡〕「所レ遊ーレー晩」。「如レ飛」。
〔戦櫂〕 軍ぶねのかい。○〔范成大〕「戈船ーーー疾」。
〔輕櫂〕 かろくこしらへたる舩のこと。○〔梁昭明太子〕「縱二ーー一兮泛二龍舟一」。

【櫂】 タク、ドク。直角切 覺　タク、チヤク。 直格切 陌　テキ、チヤク。 亭歷切 錫 樹の枝の直に上がれる貌にいふ字、又、其の枝、こずゑ（梢）。○〔爾〕「梢梢ーー」。

【櫃】 キ。求位切 寘 匱に同じ、ひつ、はこ。○〔東方朔〕「玉與レ石而同レー」。
〔錙櫃〕 黑き色のひつ。○〔陸機〕「皎若二明珠之積二ーー一」。
〔鈴櫃〕 ぢやうのあるはこ、又、兵書の入れあるひつ。○〔唐授鄭涯義武軍節度使制〕「通二ーー之奇書一」。
〔朱櫃〕 朱塗りのひつ。○〔雲笈七籤〕「致二元天之ーー一」。

【櫄】 杶に同じ。

【櫅】 セイ、サイ。相稽切 齊 ㊀轂の材となす一種の木。㊁白き棗、ちろなつめ。

【櫅】 セイ、ザイ。才詣切 霽 斷木、きりかぶ。

【櫜】 コン。戶袞切 阮　ケン。古倦切 霰 つかぬ、（東）。

【樥】 ホウ、ブ。菩貢切 送 草木の盛んなる貌にいふ字。

【櫆】 クワイ。ケ。苦回切 灰 ーー師は、北斗星の別名。

【櫐】 レフ、ロフ。力協切 葉 木の疎なる貌にいふ字。

【櫖】 慮に同じ。○〔後漢〕「ーー文畫ー輈羽蓋華蚤」。

【櫋】 ヘン、ベン。婢免切 銑 緶に同じ、あさのくつそこ。

【櫜】 ソク。心促切 沃

【櫇】 ハ、バ。平波切 歌 櫇ーーは、一種の果。

【轂】 轂ーーは、動く物の稱。

【櫟】 セウ。郎消切 蕭 にんにくのたば、（蒜束）。

【櫖】 シヤ、セ。悉姐切 馬 つくゑ、（案）。○〔揚雄〕「案陳楚宋魏之閒謂二之ーー一」。

【櫋】 ベン、メン。武延切 先 のきつけ（梍）。○〔楚辭〕「擗レ蕙ー兮既張」。

【櫌】 イウ、ウ。於求切 尤 鉏の柄、又、一說に、塊を打つ槌。○〔史〕「鉏ーー白梃」。

【櫍】 シツ、シチ。之日切 質 ㊀あし、（跗）。㊁あて、（椹）。

【櫍】 テツ、テチ。丁結切 屑 木を斫る具。

【櫎】 クワウ、ワウ。戶廣切 養 ㊀榥に同じ、ついたて、ひさし、まど、まごおほひ　○〔左思〕「房櫳對レーー」。㊁やりたて、（兵欄）。

【櫎】 クワウ、ワウ。古曠切 漾　クワク、ワク。光鑊切 藥 狙の跗の横木。

【櫎】 横に同し。

【櫕】 サウ、ソウ。作蒿切 豪 槽に同じ。

【櫢】 フ。芳無切 虞 ーー櫨は、其の葉椿に似て其の實の上に霜の如く鹽ある一種の木。

【櫨】 ロク。盧谷切 屋 ーー心は、一種の柿、ふでかき。

【櫐】 ルヰ。力軌切 紙　ライ、レ。魯猥切 賄 かづら、（葛）、ふぢ、（藤）。○〔爾〕「諸慮山ーー」。
〔虎櫐〕 ふぢまめ、はツしようまめ。○〔爾〕「欇ーー」。

【櫑】 ライ、レ。魯回切 灰 雲雷の象を刻みたる酒尊、さかだる。

【櫑】 ライ、レ。落猥切 賄　盧對切 隊 長劍の首に玉を嵌めて鹿盧の飾りを施し其の上に木を刻みて山の形を作りたるもの。○〔漢〕「帶二ーー具劍一」。

【櫓】 ロ、ル。郎古切 麌 ㊀大いなる盾、おほたて。○〔禮〕「禮儀以爲二干ーー一」。㊁或は遠きを望み或は敵を禦ぐに設けたる覆屋なき高樓、ものみやぐら。○〔後漢〕「樓ーー千里」。㊂船の旁側につけ水を排して船を進ましむる具。○〔通鑑〕「呂蒙取二荊州一使二白衣搖レー」。
〔楯櫓〕 盾のこと。○〔晉〕「植笠以當二ーー一」。

（樓櫓）やぐら。○〔後漢〕「初帝造二戯車一、可レ駕二數牛一、上作二——一」。「車上——」。
（望櫓）遠方をみるためのやぐら。○〔左、註〕「樓車」。
（衙櫓）城をせむる時に用ふる車の上につけたるやぐら。○〔戰〕「——不レ施而遐城降」。
（干櫓）はことたてとのこと。○〔晉〕「善用二弓楯——一」。
（修櫓）ながきやぐら。○〔魏〕「起二土山——一」。
（搖櫓）船をやるためにろをこぐこと。○〔徐鉉〕「——レ過二江遲一」。

【欐】レイ。力制切 霽
其の實は栗の如き一種の木。

【欑】欑に同じ。

【⿰木巤】レフ、ロフ。力葉切 葉
㊀栖の端の木。㊁ふぢまめ（虎豆）。

【⿰木巤】エフ。與涉切 葉
前條の㊁に同じ。

【⿰木巤】ラフ、ロフ。落答切 合
幹より蠟を採る一種の木、其の煎汁は油と爲る。
（水⿰木巤）蠟を採る一種の木、いぼた、ねづみもちに似たりと云ふ。

【櫖】リヨ、ロ。凌如切 チヨ、ト。抽居切 魚
葛に似たる一種の木、やまふぢ。

【櫖】リヨ、ロ。良據切 魚
㊀前條に同じ ㊁林——は、山林。

【櫗】ベツ、メチ。莫結切 屑
木にて作りたる索、なは。

【櫗】ヘイ、ベ。彌蔽切 霽

——楔は、細く小さき貌にいふ語。

【蓮】レン。良冉切 琰
善美なること、よし、うるはし。

【欏】ラ。來可切 哿 郎佐切 箇
——椏は、木の斜なる貌にいふ語。

【櫙】オウ、ウ。烏侯切 尤
㊀あきにれ（刺楡）。㊁からなし（榛）。

【檰】ベン、メン。彌連切 先
櫋に同じ。

【櫋】ベン、メン。眠見切 霰
屋簷、やれのたけず

【⿰木劉】リウ、ル。力求切 尤
其の實は梨の如く味は酢甜にして核の堅き一種の果。

【櫚】リヨ、ロ。力居切 魚
㊀栟——は、志ゆろ、栟の條を見よ。㊁熱帶地方に生ずる一種の木、材質堅く紫紅色にして花文あり、くわりん。○〔本草拾遺〕「——木出二安南一」。

【櫛】シツ、シチ。阻瑟切 質 シ。阻四切 寘
㊀毛髮を疏理する具、くし。○〔禮〕「男女不レ同二巾——一」。㊁けづる。（い）毛髮を疏理す、くしけづる。○〔禮〕「父母有レ疾冠者不レ—」。（ろ）剔き除く。○〔韓愈〕「——レ垢爬レ痒民獲二蘇醒一」。㊂くしの齒の密く比べるより、物の密く比べるにいふ字。○〔長笛賦〕「密——鼻重」。
（盥櫛）顔を洗ひ髮をくしけづる。○〔南〕「不二——一者累レ旬」。
（象櫛）ぞうの牙をもて製したるくし。○〔禮〕「髮晞用二——一」。
（樿櫛）つげのくし。○〔禮〕「櫛用二——一」。
（滑櫛）すべりよくくしけづる。○〔禮、疏〕「——以通レ之也」。
（冠櫛）かんむりを著け髮にくしをあつ。○〔白居易〕「——心多懶」。
（沐櫛）髮を洗ひきよめくしをあつ。○〔唐〕「乃——束レ髮」。
（梳櫛）くしけづる。○〔隋〕「盥訖詣二太子前一——」。
（風櫛）野宿などしてくしけづることを待たず頭髮を風の吹くにまかすこと、外に在りて軍に從ひ艱難を嘗むるにいふ語。○〔元〕「——雨沐」。
（爬櫛）かきけづる。○〔周必大〕「草莽手——」。
（侍執巾櫛）妻の夫に事ふることにいふ語。〔左〕「寡君使二婢子——一」。

【櫜】カウ、コウ。古勞切 豪
㊀弓を藏むる衣、ゆみぶくろ、ゆみづつみ、弓衣。○〔左〕「請二垂レ—而入一」。㊁甲を藏むる衣、よろひぶくろ、よろひづつみ、甲衣。○〔禮〕「祖レ—奉レ胄」。㊂箭を受くる器、やづつ。○〔左〕「右屬二—鞬一」。㊃車上の囊。○〔楊愼〕「覦レ金而解レ—」。㊄兵器武具をつゝむもの、泛稱、つゝみ。○〔禮、註〕「兵甲之衣曰レ—」。㊅つゝみに藏む、ふくろに入る、つゝむ。○〔詩〕「載—二弓矢一」。
（臥櫜）弓袋にをさまる。○〔王世貞〕「綠弓——」。
（建櫜）武器をふくろにをさめて用ひぬ。○〔禮〕「名之曰二——一」。

【⿱喿木】サウ。蘇朗切 養
鼓の匡木、ごう、又、ごうに用ふる材木。

【櫝】トク、ドク。徒谷切 屋
㊀ひつ（匱）、はこ（函）。○〔禮〕「劒則啓レ—」。㊁案の屬、四脚ありて脚に横木あるもの。○〔國老談苑〕「漢文帝命二大官一毎具二兩擔—一」。㊂ひつぎ（棺）。○〔漢〕「其爲三水所二流壓一死、令下郡國給二槥—一葬埋上」。
（玉櫝）たまもてしつらへたる函。○〔左〕「賂以二瑤罋——一」。
（韞櫝）函に藏め置く。○〔論〕「—レ—而藏諸」。
（啓櫝）函を開く。○〔韓偓〕「——挹二荊璞一」。
（棺櫝）ひつぎ。○〔北〕「給二衣衾——一葬レ之」。
（金櫝）金屬を用ひて作りたる函。○〔魯〕「求レ得之——」。
（閟櫝）函のふたを閉す。○〔晉〕「—レ—辭レ價」。
（羅櫝）ひとへにして外槨なき棺。○〔北〕「時服二——一尼レ巾二孝心一」。
（密櫝）竹又は木もて作れる函。○〔金〕「自今——床榻之飾、毋レ以二金玉一」。
（密櫝）函の中に大切に藏め置く。○〔獨孤郁〕「有二照乘之珍一而——之」。
（壞櫝）破れたる函。○〔皮日休〕「拂レ狀安二——一」。
（匱櫝）ひつ、はこ。○〔梅堯臣〕「心煩收拾乏二——一」。
（緘櫝）函のふたをなす。○〔蘇軾〕「捧玩且—レ—」。
（故櫝）ふるき函。○〔蘇軾〕「詩歸視二——一」。
（筆櫝）ふでを入るゝはこ。○〔吳萊〕「——到二琳瑯一」。

【櫞】エン。與專切 先
枸——は、橘に似たる一種の果、其の實は大にして香し、まるぶしゆかん。○〔南方草木狀〕「枸——子肉甚厚白如二蘆服一」。

【櫟】レキ、リヤク。郎狄切 錫
㊀槲の屬にて其の葉は栗に似たる一種の木、其の實は房生して毬をなす

(どんぐり)といふ、ばゝそ、とち。〇〔詩〕「山有二苞ーー一」。
㊁木蓼、またゝび。〇〔陸機〕「河・南人謂二木・蓼一爲レーー椒・檄之屬也」。
㊂不川の木、散材。〇〔莊〕「匠・石見二ーー社樹一、其大蔽レ牛、觀者如レ市、匠・石不レ顧」。
㊃一種の鳥。〇〔山海經〕「天・帝之山有レ鳥、黑・文而赤・翁名曰レーー」。
㊄採に通じ用ふ、はらふ、するゝ、かきならす。〇〔詩、疏〕「有二ーー十七鉏・鋙刻一以二木長尺一ーレ之」。
㊅欄干、てすり、おばしま。〇〔史〕「建・宮後・閣、重ーー中有レ物出」。
〔壽櫟〕久しき年を經たるとちの木。〇〔范成大〕「ーー常前咲一笑」。「駉前有二ーーー」。
〔長櫟〕丈の高きとちの木。〇〔水經、註〕「中・山夫・人
〔枰櫟〕はゝそ。〇〔陸機、疏〕「栩今ーーー也」。
〔栲櫟〕あふちの木。〇〔陸機〕「或謂二之ー・木一」。
〔社櫟〕土地を守護する神の廟のある處に植ゑたるとちの木。〇〔黄庭堅〕「ーー官道傍」。

【櫟】ラウ、ロウ。魯刀切 豪
前條の㊄に同じ。

【樀】テキ、チヤク。都歴切 錫
樀に同じ。

【櫡】チヤク。張略切 藥
㊀なの、(斫)。㊁くは、(钁)。

【櫧】チヨ、ド。直慮切 御
箸に同じ、はし。〇〔史〕「景・帝召二亞・夫一、食不レ置レーー」。

【橃】ハイ、ヘ。放吠切 隊
柚の屬、實の大いさ盂の如し。〇〔爾〕「ー椵」。

【檧】ソウ、ス。子紅切 東
椶に同じ。〇〔石鼓文〕「其拔二ーー栝一」。

【𣞙】サウ。㮹光切 陽
ほる、(掘)。

【櫢】ソウ、ス。蘇偶切 有
ーー橚は、木の茂り盛んなるにいふ語。〇〔黄香〕「郎蹴・縮以ーー橚」。

【檏】朴に同じ。〇〔石鼓文〕「避驅二其ーー一」。

【鎭】シン。昌眞切 眞
た、(縒)。

十六畫

【櫧】ショ、ソ。章魚切 魚
皮と樹と共に栗に似たる一種の木、實は小さく椽の如く其の材は極めて堅し、かし。〇〔司馬相如〕「沙・棠櫟ーー」。

【櫨】ロ、ル。龍都切 虞
㊀柱上の枅、とがた、ますがた。〇〔淮〕「短者以爲二朱・儒枅ーー一」。
㊁漆樹の屬、はじ、はぜ。〇〔張衡〕「楓、柙、ーー、櫪」。
㊂びは、(枇・杷)。〇〔呂氏春秋〕「果之美者、箕・山之東、青・鳥之所有二廿ーー一焉」。
〔欂櫨〕うつぎ。〇〔本草拾遺〕「ーーー生二商・洛山・谷四・川界一」。
〔黄櫨〕はせ、はじ。〇〔本草拾遺〕「ーーー生二商・洛山・谷四・川界一」。
〔薄櫨〕ますがた。〇〔柏梁臺詩〕「柱・枅ーーー相支・持」。

【櫩】エン。移廉切 鹽
㊀みぎり、(砌)。〇〔楚辭〕「曲・屋步ーー」。
㊁ほそどの、(廊)。〇〔司馬相如〕「步ーー周・流」。「羽」。
㊂のき、(檐)。〇〔何晏〕「飛ーー翼以軒者
㊃折れたる木を續ぐ。〇〔揚雄〕「秦晉續二折・木一謂二之ーー一」。

【櫪】レキ、リヤク。郎狄切 錫
㊀廏棧、ねだ、又、馬槽、かひをけ。〇〔史〕「第・舍馬ーー」。
㊁櫟に同じ、くぬぎ、とち。〇〔張衡〕「楓柙櫨ーー」。
㊂ー栧は、十指をならべて縛する刑具、ゆびひしぎ。
㊃かひこのす、(蠶・簿)。
〔馬櫪〕うまやのねだ、又、うまのかひをけ。〇〔史〕「寄二宿・氏第・舍ーーー開一」。
〔皁櫪〕前に同じ。〇〔許鎮成〕「誰能守二ーーー一」。
〔故櫪〕もとのうまやの義。〇〔杜甫〕「馬嘶思二ーーー」「弟降二ーーー一」。
〔廏櫪〕あれすたれたるうまやのねだ。〇〔王建〕「爾ーーー一」。
〔老驥伏櫪〕有爲の人物の晩年尚は不遇なるとに借りいふ語。〇〔世說〕「王・敦每醉・後以二鐵・如意一敲二唾・壺一歌曰、ーーーーレ志在二千里一、烈・士暮・年壯・心未レ已」。

【櫫】チヨ、ト。張如切 魚
しるし、(楬)、くひ、(杙)。

【檖】レウ。連條切 蕭
ひのき、(柏)、一說に、俗の橑の字。

【櫬】シン。初覲切 震
㊀其の身に親近する棺、はだつきのひつぎ。〇〔左〕「穆・姜爲レーー」。
㊁むくげ、(王・蒸)、一說に、あをぎり、(梧・桐)、又、一說に、たきぎ、(樵・薪)。〇〔爾〕「釋レー者三、ーー木・槿、ーー梧、ーー采・薪」。
〔輿櫬〕こしに乘せたるひつぎ。〇〔徐陵〕「常輓二ーー一以增レ悲」。
〔靈櫬〕みたまを安んずるひつぎ。〇〔潘岳〕「撫二ーーー」。
〔幽櫬〕ひつぎ。〇〔潘岳〕「窮二形ーーー」。
〔重櫬〕ふたへに重ねたるひつぎ。〇〔陸機〕「歎二ーーー側」。

【欟】クワン。古玩切 翰
汲み上ぐる器。

【櫬】シン。雌人切 眞
むくげ、(木・槿)。

【𣞞】カウ、ゲウ。下巧切 巧
濫に同じ。

【橜】ケツ、ケチ。巨列切 屑 ケイ。其例切 霽
木製の釘、くぎ。

【櫭】キ。巨至切 寘 カウ、コウ。巨到切 號
前條に同じ、一說に、車の木の鍇、くさび。

【櫮】カク、ガク。逆各切 藥
華の盛んなる貌にいふ字。

【櫼】セン、ゾン。徐鹽切 鹽
細かなる葉。

【櫘】クワイ、ケ。火怪切 卦
一種の木、其の皮は船を牽くに用ふ可しといふ。

【櫰】デウ、ヂウ。乃了切 篠

木の長くして弱き貌にいふ字、たをやか。

【橚】ソ、ス。孫租切 麌

【櫇】ヒン、ビン。毗賓切 眞
—枋は、緋色の染料となす一種の木。びんらう樹。

【槐】クワイ、エ。乎乖切 佳 戸賄切 賄
ゑんじゆの一種、いぬゑんじゆ。○〔爾〕「—大葉而黑也」。

【櫰】クワイ、ケ。姑回切 灰
一種の木。○〔山海經〕「中-曲-山有レ木、如レ棠而圓-葉赤-實實大如ニ木-瓜一、名曰レ—、食レ之多レ力」。

【櫱】ゲツ、ゲチ。魚列切 屑 カツ、ガチ。五葛切 曷
㊀伐りたる木の根より生ずる芽、ひこばえ。○〔後漢〕「其陵-樹枝—皆諳ニ其數一」。
㊁轉じて、絶えて復び生ずる物事に借りいふ字。○〔鄭解〕「一剗ニ其根—一而郡エ-縣之一」。

【櫲】ヨ。羊洳切 御
くすのき、(樟)。

【櫔】レイ、ライ。郎計切 霽
籆(わく)の柄。

【櫟】リ。力智切 寘
一種の木。

【櫂】カク、コク。苦角切 覺

からたち、きこく、(枳-木)。

【櫳】ロウ、ル。盧東切 東
㊀獸を養ふ所、をり、(檻)。
㊁房室の大疏、おほまど、まど。○〔張協〕「雕-堂綺—」。

【蘢】ロウ、ル。盧紅切 東
前條の㊁に同じ、まど。○〔班婕妤〕「房—虛兮風冷-々」。

【櫹】カウ、コウ。居勞切 豪 居號切 號
舟を刺して進むるもの、ふなざを、さを。○〔揚雄〕「所ニ以刺ヒ船謂ニ之—一」。

【橢】タ、ダ。徒禾切 歌
橢に同じ、盂の屬、わん。○〔呂氏春秋〕「—杅槃案」。

【櫕】サン、セン。所駿切 刪
このみ、(木-實)。

【櫜】ハウ、ホウ。普毛切 豪
長大なり。

十七畫

【櫸】キョ、コ。句許切 語
其の葉は櫟の如く、其の皮は檀に似たる一種の木、材は固くして用多し、けやき、一名は柜柳。○〔本草別錄〕「—樹山-中處-々有レ之」。

【櫹】セウ。先雕切 蕭
㊀草木の盛んなる貌にも又木の長き貌にもいふ字。○〔張衡〕「櫹-爽—槮」。

㊁草木に葉の落ちし貌にいふ字。○〔宋玉〕「蕭—槮之可レ哀兮」。

【櫹】シウ、シュ。疎鳩切 尤 サウ、セウ。山巧切 巧
木の長き貌にいふ字。

【櫼】セン、ゼン。旬宣切 先 ケン、エン。縈絹切 霰
果の短味なると。○〔爾〕「—味棯棗」。

【櫺】レイ、リヤウ。郎丁切 青
㊁れんじ、かうし。
(い)楯閒の棧。○〔何晏〕「—檻邳張」。
(ろ)窓の棧。○〔蘇軾〕「明月入ニ牕—一」。
㊀のき、(梠)。○〔孫綽〕「彤-雲斐-亹以翼レ—」。
〔疎櫺〕めのあらきれんじ。○〔老學菴筆記〕「餘作ニ—・—一」。
〔檻櫺〕てすりのれんじ。○〔徐陵〕「周-人—・—」。

【櫻】アウ、ヤウ。烏莖切 庚
其の果は果類の中にて最も先づ熟する一種の木、ゆすらうめ、含桃、鸎桃。○〔白居易〕「南-館西-軒兩-樹—」。
〔朱櫻〕ゆすらうめのあかきもの。○〔唐本草〕「熟時深-紅者、謂ニ之—・—一、紫-色皮-裏有ニ細-黃-點一者、謂ニ之紫-櫻一、味最珍重、又有ニ正-黃-明者一、謂ニ之蠟-櫻一」。
〔山櫻〕やまのさくら。○〔沈約〕「—・—發欲レ然」。
〔麥櫻〕にはざくらの異名にて朱桃又は李桃とも名づく。○〔本草〕「山-櫻-桃一名ニ—・—一」。

【櫬】セン。子廉切 鹽 シン。沓林切 侵

【櫼】サン、セン。所咸切 咸
くさび、(楔)。

檝に同じ。

【欆】セフ。悉協切 葉
椛—は、たかむしろ、(簟)。

【欃】サン、セン。數還切 刪
閉門の機、くわんのき。

【隱】イン、オン。於謹切 吻
隱に同じ。

【櫾】イウ、ユ。以周切 尤
ゆず、(柚)。○〔列〕「吳楚之國有ニ大-木一焉、其名爲ニ—一樹一碧而冬-生實丹而味酸」。

【櫶】キ。虛宜切 支
ひしやく、(杓)、ひさご、(蠡)。○〔揚雄〕「陳楚宋魏之間或謂ニ之簞一或謂ニ之—一」。

【蘖】
樵に同じ。○〔南〕「朱-百-年伐レ—採レ若爲レ業」。

【欀】シャウ。思將切 陽 寫兩切 養
木皮の內より麪に似たる黃白色の粉を出だす一種の木、其の粉は餅に作るべしといふ。○〔左思〕「文—楨橿」。

【櫰】ジヤウ、ニヤウ。人樣切 漾
一種の木、ゆづりは。

【櫗】ビ、ミ。旻悲切 支
水中の芰、ひし。○〔爾〕「蔆蕨—」。

【欂】ハク。伯各切 藥 博陌切 陌
㊀壁の柱、一說に、たるき、(椽)。

㊁柱上の斗栱、とがた、ますがた。○[王僧孺]「玲-瓏綺--」。

【欂】ヘキ、ハク。彌戟切 陌
戸の上なる木。

【欃】サン、ゼン。士咸切 咸
㊀檀木、一說に、もくれん(木蘭)。○[司馬相如]「--檀木-蘭」。
㊁するどし(銳)。
(天欃)はうきぼし、彗星。○[史]「--長四丈」。

【欃】サン、セン。士懺切 陷
さひ(水門)。

【欄】ラン。郎干切 寒
㊀てすり。
(い)階橋などの際に木を横に架したるしきり、おばしま、らんかん。○[段國沙洲記]「於二河-上一作レ橋、句--甚嚴-飾」。
(ろ)木を横に架したるかこひ。○[王令]「門無二藩--一」。
㊁をり(圈)。○[漢]「與二牛-馬一同レ--」。○
(寶欄)球玉などのたからにて飾りたるてすり。○[陳旅]「綠-樹垂-々護二--一」。
(凭欄)らんかんにもたれよること。○[李中]「月在二高-樓一獨--レ--」。
(憑欄)前に同じ。○[韓偓]「紫-泥封後獨--レ--」。
(倚欄)前に同じ。○[蘇軾]「客向二東-風一倚二--一」。
(殿欄)ごてんのてすり。○[唐]「凭二--一誦二其賦一」。
(勾欄)らんかん。○[通雅]「----甚嚴」。
(危欄)あやふきてすり。○[李商隱]「輕レ命倚二--一」。

【欗】レン。郎甸切 先
染料に供する一種の木。○[周]「湅レ帛以レ--爲レ灰」。

【欖】俗の欖の字。

【檶】レン。力驗切 豔
棯--は、其の葉飲用と爲すべき一種の木。

【鐎】セウ。七遥切 蕭
きあさ(生-麻)。

【鐒】ラウ、ロウ。郎到切 號
あさ(麻)。

十八畫

【櫏】シュク、ソク。子六切 屋
車の轅の木、一說に俗の槭の字。

【橊】リウ、ル。力求切 尤
扶--は、一種の藤。

【襍】サフ、ザフ。昨合切 合
まじはる、まじふ(雜)。○[元包經]「水-火既納、陰-陽不レ--」。

【櫂】タウ、デウ。直教切 效
燔餘の木、もえのこり、もえさり。

【欆】サウ、ソウ。疎江切 江
棹船羽、ふれのほ。
(梓欆)未だ張らざる帆。

【檷】ヂ。豬几切 紙
木の枝、えだ。

【欇】セフ。失渉切 葉
㊀はッしようまめ、ふぢまめ(虎-欇)。
㊁つゑ(杖)。
(欇々)かへでの別名。○[爾、疏]「楓木厚-葉弱-枝善搖一名二----一」。

【𣡽】セフ。失渉切 葉
葉木の風に動く貌にいふ字、そよぐ。

【樳】シン。才淫切 侵
梣に同じ、とねりこ(青-皮-木)。

【欈】井。悦吹切 支
檇--は、其の實を食らふべき一種の木。

【欉】ソウ、ス。粗送切 送
草木叢生す、しげる、むらがる。

【權】ケン、ゴン。巨員切 先
㊀はかりの錘、おもり。○[禮]「正二--槩一。「謹二--量一」。
㊁物の重量をはかる器、はかり。○[漢]
㊂物事の輕重大小を分別する標準。○[荀]「取-舍之--」。
㊃謀略、はかりごと。○[左]「中--後勁」。
㊄はかる。
(い)はかりにかけて重量を試む。○[周]「不レ耗然後--レ之」。
(ろ)物事の輕重大小を分別す。○[荀]「不レ--二輕-重一」。
(は)謀略をたつ。○[准]「任擧者易レ--」。
㊅手段は經に反して効果の道に合すること。○[易]「巽以行レ--」。
㊆物事を隨意に處置する威力、いきほひ、ちから。○[莊]「親レ--者不レ能レ與二人柄一」。
㊇かり。「博-士一」。
(い)假設。○[鼠璞]「韓-愈--知二國-士
(ろ)苟且、かりそめ。○[左思]「--假日以餘-榮」。
㊈機智多きこと、手段の變化あること。○[荀]「--險之平」。
㊉爟に通じ用ふ、のろし、烽火。○[漢]「見レ通二--火一」。
⑪顴に通じ用ふ、ほゝぼね、輔骨。○[曹植]「靨-輔承レ--」。
⑫一種の木。○[爾]「--黃-華木」。
(利權)とき權力。○[白居易]「待二君衆二---一」。
(爭權)權力をきそふ。○[史]「--二天-下一」。
(兵權)いくさの權力。○[魏]「攻-取者先二---一」。
(銜權)はかりのさをとはかりのおもりと。○[靈書考聚]「度-量---皆本二於曆一」。
(執權)政事の權柄をとる。○[崔寔]「聖-人--、遭レ時定レ制」。
(握權)前に同じ。○[辯嘲]「旦--レ--則爲二卿-相一」。
(分權)權力を他にわかちあたふ。○[李觀]「將無レ--レ--則成レ功」。
(重權)かろからざる權力、又、權力をおもくす。○[史]「而外--二其--一」。
(國權)國政の權力。○[漢]「皆執二---一」。
(威權)權力。○[後漢]「以二其衆二---一故也」。
(擅權)權力をひとりおめにすること。○[漢]「擅レ政「--」。
(詭權)いつはりのはかりごと。○[蜀]「戰-國之--」。
(朝權)朝廷のちから。○[晉]「不レ與二---一」。
(立權)威權をおこすこと。○[晉]「亦戒レ衆以--レ--」。
(天權)天子の權柄。○[梁簡文帝]「運二---一於宇內一」。
(勢權)ちから、いきほひ。○[曹植]「不レ干二---一」。
(厚權)うすからざる權柄。○[賈至]「才大者必委二之---一」。

【欟】クワン。古玩切 翰
叢生する木。

【櫑】ライ、レ。魯猥切 賄

魁ーーは、あやつり人形、一に、傀儡に作る。

【欋】ク、ゴ。權倶切 虞
㊀四つ齒の杷、さらへ、くまで。㊁木根盤錯す、わだかまる。○〔淮〕「木大則根ー」。
㊂つく(附)。○〔揚雄〕「進以二ー疏一、或杖之扶」。

【欆】チュ。椿倶切 虞
すき(耜)。

十九畫

【欏】ラ。良何切 歌 郎佐切 箇
㊀やまなし(檖-木)。
㊁まがき(籬)。
〔杪欏〕 椶櫚に似たる一種の木、熱帯地の植物。

【欏】ラ。來可切 哿
さく(裂)。

【欗】ケン。吉典切 銑
たな、かけはし(棧)。

【櫼】セン。所員切 先
木の杙、くひ。

【𣠽】クワン。姑還切 刪
相關付す、かゝる、かゝはる。○〔揚雄〕「ー二神-明一而定レ摹」。

【欜】サツ、ザチ。徂活切 曷
木の錐、きり。(㬜)

【𣡽】ダ、ナ。奴可切 哿
檂に同じ。

【欇】セフ。七接切 葉
めしじやくし、いひがひ(飯-臬)。

【樆】リ。鄰知切 支
㊀かき(藩)。
㊁はる(張)。○〔揚雄〕「幽-ー二萬-類一」。

【欐】レイ、ライ。里弟切 薺
こぶね(小-船)。○〔曹植〕「呼-吸呑二船-ーー一」。

【欐】レイ、ライ。郎計切 霽 リ。蠡介切 紙
㊀うつばり(梁)。○〔列〕「雍-門鬻レ歌、餘-音遶二梁-ーー一」。
㊁むね(棟)。○〔列〕「汝居則連レー、出則結レ駟」。

【欐】シ。所宜切 リ。鄰知切 支
㊀屋の棟、むね。
㊁ーー侂は、さゝへばしら(支-柱)、一説に、かさなる(重-累)。

【欑】サン、ザン。徂官切 寒
㊀たけをあはせたるつゑ(積-竹-杖)。
㊁あつむ、あつまる(積)。○〔禮〕「君殯用レ輴、ー至二于上一、畢塗レ屋」。
㊂矛戟の柄、え。

【欑】サン、ザン。祖算切 翰
前條の㊁に同じ。

【欑】サン、ザン。在坦切 旱
營ーーは、草木をあつめて表となし山川を祭るを。

【櫊】
欄の譌り字。

【欚】ラ。盧臥切 箇
一種の木。

【欚】ラ。盧戈切 歌
箭笴と爲すべき一種の木。

【欒】ラン。盧官切 寒
㊀あふち(楝)。○〔周、疏〕「大-夫墳高八-尺、樹以レー」。
㊁瘠せたる貌にいふ字、やす。○〔詩〕「棘-人ーー-ー兮」。
㊂鍾の口の兩の角。○〔周〕「鳧-氏爲レ鍾兩ーー謂二之銑一」。
㊃曲枅、ひぢぎ。○〔左思〕「ーー櫨-欂-施」。
㊄圓形をなすを、まどか。○〔陸羽〕披レ書寓直月團ーー」。
〔檀欒〕 竹の貌にいふ語。○〔枚乘〕「修-竹ーー-ー」。
〔團欒〕 (い)まとゐ、くるま座。○〔陸游〕「却嫌兒-女話二ーー-ー一」。
(ろ)團子、だんご。○〔范成大〕「撚レ粉ーー-ー意」。

二十畫

【欓】タウ。底朗切 養
㊀茱萸の類、おほだら(越-茱)。○〔爾、翼〕「三-香椒-ー薑也」。
㊁木にて作りたる桶、をけ。

【檷】ヂ、ニ。乃里切 紙
いさまきのあし(絡-柎)。

【欔】キヤク、カク。厥縛切 藥
钁の類、すき。

【欕】シン、ソン。士金切 侵
ある(䒶)。

廿一畫

【欖】ラン、ロン。魯敢切 感
橄の字の註を見よ。
〔烏欖〕 かんらんの一種。○〔桂海虞衡志〕「ーー如二橄欖一、青黑色肉爛而甘」。

【櫩】
檐、又、欄に同じ。

【欗】ラン。郎干切 寒
木蘭、もくれん。

【欜】テフ、デフ。達協切 葉
實は繭の如く中に綿ありて布につくるべき一種の木、一説に、木の類にあらず草なりと。

【欘】チョク、トク。株玉切 沃
㊀すき(鎡-錤)。
㊁をのゝえ(斤-柄)。○〔管〕「匠-人有三以感二斤ーー一」。
㊂枝上り曲がる一種の木。○〔山海經〕「神-民之丘、建-木百-仞、無レ枝有二九-ーー一下有二九-枸一」。
㊃長さ二尺の稱。○〔周〕「一ーー有半謂二之柯一」。

【欘】タク、ドク。直角切 覺
すき(鋤)。

【欙】ル井。倫追切 支
かんじき(梮)。○〔書、註〕「山乘レー」。

【欙】ラ。魯果切 哿
樏に同じ、木の名。

【欚】レイ、ライ。里弟切 薺
㊀こぶね(小舟)、一説に、江中に浮ぶ大船、おほぶね。○〔揚雄〕「小-舸謂二之艜-一、東-南丹-陽會-稽閒謂二之ー一」。

㊁禽獸を捕らふる檻、わな。○〔博雅〕「兎罝其罥謂二之—一」。

【欛】ハ、ハ。必駕切 〔禡〕
刀劍の柄、つか。○〔丹鉛錄〕「得二此—柄一」。

【櫋】ベン、メン。彌延切 〔先〕
木の密き貌にいふ字、志げし。

廿二畫

【欒】ワン、エン。烏關切 〔刪〕
曲がれる木、まがりぎ。

【欜】ダウ、ナウ。奴當切 〔陽〕
物を盛る器。

【欝】俗の鬱の字。

廿四畫

【欕】エン、余廉切 〔鹽〕
其の膠を香につくるべき一種の木。

【欞】レイ、リヤウ。郎丁切 〔青〕
櫺に同じ。

欠部

【欠】ケン。去劔切 〔豔〕
㊀氣倦みて自ら口張り氣出づるを、あくび、又、あくびを爲す、あくぶ。○〔禮〕「君子—伸」。
㊁かく。
(い)不足す。○〔韓愈〕「所レ懷一無レ—」。
(ろ)不足せしむ。○〔蘇軾〕「拖二—兩稅一」。

〔噫欠〕あくびす。○〔韓愈〕「——爲二飄風一」。
〔懸欠〕不足すると。○〔舊唐〕「無二——量一」。
〔積欠〕あまたつもれる貢租の不足。○〔五〕「取二三司——二百餘萬一、請レ放レ之」。
〔逋欠〕貢租を怠りて出ださゞると。○〔宋〕「已獨二——者一、令三奏課督察一」。
〔違欠〕法に順はずして不足す。○〔燕翼貽謀錄〕「課額一定、無三敢——一」。
〔舊欠〕いにし時より貢租を怠れると。○〔唐宣宗〕「貞元以來、——逃移」。「—」。
〔遺欠〕脫落して不足す。○〔歐陽修〕「事迹多二——」。
〔虧欠〕不足す。○〔蘇軾〕「以至二——一」。「作」。
〔伸欠〕身を伸ばしあくびす。○〔秦觀〕「——乃

二畫

【次】シ。七四切 〔寘〕
㊀つぐ。
(い)後を承く。○〔周〕「畫繢之事、靑與レ白相—也、赤與レ黑相—也」。
(ろ)接續す、つゞく。○〔法苑珠林〕「續—而出」。
㊁つぐと、つぐもの、其の二、其のあとへ、つぎ。○〔晉〕「貸爲二食—一」。
㊂ついで。
(い)位置、ならび、順序、くらゐ。○〔書〕「畔レ官離レ—以二功—一定二朝位一」。
(ろ)便宜。○〔史〕姬待レ王從容語—擧二赫長者一」。
㊃ついづ。
(い)ついでを分け定む。○〔漢〕「今欲下差二—列侯功一定中朝位上」。
(ろ)くらゐを授く。○〔宋〕「待レ—之吏」。
(は)ついで分かれ定まる。○〔隋〕「玉帛齊レ軌、屛攝咸—」。「鱗—」。
(に)比ぶ。○〔潘岳〕「緣柏參差、文鬫—」。
㊄やどる、とまる。
(い)止どまる。○〔班固〕「寢寐—二於聖心一」。
(ろ)至る。○〔史〕「內深—レ骨」。
(は)宿す。○〔屈平〕「鳥—二兮屋上一」。
(に)特に、三日以上宿するにいふ字。○〔書〕「王—二于河朔一」。
(ほ)天體の躔度を移すにいふ字。○〔張衡〕「熒惑—二於他辰一」。
㊅とまり、やどり。
(い)やどると、とまる處。○〔史〕「民莫レ安二其處—一」。
(ろ)やどる營舍。○〔左〕「師陳焚レ—」。
(は)旅宿、やどや、はたごや。○〔易〕「旅即レ—」。
(に)宿直處、とのゐば。○〔周〕「比二宮中之官府—舍之衆寡一」。
(ほ)待つ所、たまり。○〔周〕「朝レ日祀二五帝一、則張二大—小—一」。
(へ)賓客の衣帶を整ふる所。○〔儀〕「賓就レ—」。
(と)喪中の寢所、もや、倚廬。○〔左〕「里克殺二奚齊於—一」。
(ち)天體の辰宿。○〔禮〕「日窮二于—一」。
(り)亭驛、あゆくば、又、堠樓、ものみ。○〔周〕「上二旌于思—一」。
㊆うち、(中)。○〔莊〕「喜怒哀樂不レ入二於胸—一」。
㊇あひだ、(閒)。○〔孔稚圭〕「眉軒二席—」。「衲」。
㊈かもじ、(髮)。○〔儀〕「女—純衣纁袡」。

〔旅次〕たびのやどり。○〔杜甫〕「——兼二百憂一」。
〔掌次〕王の居る處に幄を張るを司どる官の名。○〔劉禹錫〕「戒二——一而具飭」。
〔八次〕四方のすみと四方の中央とのこと。○〔周〕「掌二王宮之士庶子一、授二——八舍之職事一」。
〔信次〕三日以上のとまり。○〔何遜〕「違レ鄕已——」。
〔造次〕あわたゞしき場合。○〔論〕「——必于是」。「違レ雄」。
〔趨次〕順序にかゝはらぬのりこえ。○〔漢〕「——」。
〔鱗次〕魚のうろこの如くにつらいづ。○〔晉〕「統——、未レ獲二滅息一」。
〔入次〕常の人と同じき席順。○〔晉〕「朝廷待二何理齒臣于——一、臣亦何顏自次二于人理一」。
〔秩次〕順序といふに同じ。○〔禮、註〕「爵謂レ正二其——一」。
〔位次〕くらゐ、ついで。○〔史〕「——第一」。
〔道次〕道路の間。○〔後漢〕「各騎二竹馬一、——迎拜」。
〔比次〕ついづ、ついで。○〔宋〕「——條理也」。
〔差次〕あな、けじめ。○〔梁〕「各隨二遠近一以爲二——一」。「——其事」。
〔編次〕述作しついづ、又、述作のついで。○〔史〕
〔外次〕門のそとの衣をきかふる處。○〔禮〕「改二服於——一」。
〔內次〕門のうちの衣を着更ふる處。○〔禮〕「改二服於——一」。「女入之
〔校次〕はかり序づ。○〔周、註〕「比——其人之在否一」。「則不二偏匱一」。
〔常次〕きまりたる順序。○〔周、註〕「事有二——一」。
〔草次〕いそがはしくして暇なきこと。○〔春秋、註〕「過者——之期」。
〔選次〕すぐれたるものをえり拔きいづ。○〔儀、註〕「比—二—其才相近者一也」。
〔班次〕ついで。○〔春秋〕「會之——、以二國大小一爲レ序」。
〔亂次〕順序を取りみだす、又、あだらなし。○〔左〕「——以濟」。
〔遷次〕官職を進む。○〔樂昌公主〕「今日何——」。
〔序次〕ついで、ついづ。○〔國〕「陰陽——」。
〔易次〕移りかはる。○〔越絕書〕「四時——、寒暑失レ常」。
〔更次〕かはるぐ居る。○〔國〕「今命レ臣—二於外一」。「耆」。
〔論次〕あげつらひついづ。○〔史〕「于レ是—二—其詩一」。
〔不次〕順序ならぬ。○〔齊〕「待以二——一」。
〔表次〕書きあるして順序を立つ。○〔史〕「太史—、析有二條理一」。
〔處次〕をり場處。○〔史〕「莫レ安二其——一」。
〔驛次〕あがたの設けたる宿泊の處。○〔衞〕「——績食」。

（列次）ついで、ついづ。○〔漢〕「故踰ニ―・―一」。
（年次）年の長短の順序。○〔論衡〕「老少ト―・―自相承也」。
（非次）順序によらぬ。○〔後漢〕「署用―レ―」。
（露次）野宿をなす。○〔後漢〕「―ニ―道南一」。
（野次）前に同じ。○〔晉〕「公宜ニ露ニ營―・―一」。
（撰次）書きしるし順序を立つ。○〔後漢〕「―ヨ―天子至ニ于庶人一」。
（亭次）たゆくば。○〔後漢〕「送至ニ―・―一」。
（朝次）朝廷の席に列ぬること。○〔後漢〕「修レ身行レ義、應レ在ニ―・―一」。
（巷次）まちの間。○〔後漢〕「皆起ニ舍―・―一」。
（言次）話のついで。○〔魏、誌〕「因從容―・―、微ニ激之一」。
（路次）みちの間。○〔梁、撰〕「―・―限ニ關梁一」。
（階次）階級に同じ。○〔晉〕「唯才所レ任、不レ限ニ―・―一者甚數矣」。
（銓次）良否をはかりて順序を爲すこと。○〔晉〕「不レ盡ニ―・―之理一」。
（職次）官職の秩序。○〔通典〕「判ニ定―・―、著爲ニ令格一」。
（條次）すぢみちあること。○〔韓愈〕「有ニ―・―一」。
（行次）行列に同じ、ならびつらなること。○〔韋應物〕「草木無ニ―・―一」。
（鱗次）なづらひついづ。○〔北〕「―・―而授」。
（齒次）同様のものとしならぶ。○〔北〕「與相―・―」。
（賓次）まれうどを請ぜる席。○〔唐〕「冠前一日、徧尉設ニ―・―于重明門外一」。
（星次）星のやどり。○〔唐〕「考ニ正―・―一、爲ニ一代之制一」。○〔唐〕「之命一」。
（超次）順序を越えて拔きいづ。○〔唐〕「遂蒙ニ―レ―」。
（世次）年代の前後の順序。○〔宋〕「益加ニ封爵一、以ニ―・―先後一」。
（裒次）集めて順序を立てゝかき記す。○〔唐〕「―下―經史百氏、帝王所ニ以興衰一者上レ之」。
（緒次）秩序を立てゝ書きしるす。○〔唐〕「其後許敬宗復加ニ―・―一」。
（紬次）ぬき出だし序づ。○〔唐〕「精加ニ―・―一」。
（客次）まれびとの居り場處。○〔五〕「臨ニ溺于―・―一」。「―一」。
（帷次）とばりを張れる處。○〔宋〕「內侍至ニ―・―一」。
（幕次）前に同じ。○〔宋〕「並詣ニ―・―致レ賀」。
（刪次）けづりて順序を立つ。○〔宋〕「―ニ―梁陳以後名臣述作一」。
（類次）部類によりて順序を立てならす。○〔宋〕「闕ニ親其可レ行者一、―・―以聞」。
（順次）すぢにしたがひ序づること。○〔人物志〕「是以署拔多レ誤、不レ如ニ―・―一」。
（案次）順序を調べて立て設く。○〔傅毅〕「―レ―而俟」。
（俟次）順序の來たるを待ち受く。○〔傅休奕〕「―レ―而入」。
（纂次）編輯すること。○〔朱熹〕「―・―讐ニ正之一」。

【次】　シ。津私切　寘
前まんとして前まず、ならざる。○〔易〕「其行―・―且」。
（逡次）たちもとほりて跳することをせぬ。○〔屈平〕「遷―・―而勿レ驅兮」。

二畫

【欥】　キ。許脂切　支
叩に同じ、うめく。

【屄】
欥に同じ。

【欧】　イ。余耳切　紙
ためぶき、（欸）。

【㰦】　カン、コン。呼甘切　覃
おろか、（愚）。

【欯】　キ。几利切　寘　居豕切　未
㊀こひねがふ、（希）。㊁ごもる、（吃）。

【吹】　シ。尺之切　支
嗤に同じ、わらふ。○〔陸機〕「或受ニ―於拙目一」。

【欸】　カイ。呼來切　灰
笑ひて破顔せず、ゑみを含む、ほゝゑむ、ゑむ。

四畫

【歧】　キ、ケ。居氣切　未
㊀こひねがふ、（希）。
㊁氣に逆ひて息するを得ず、むせぶ。

【欫】　キツ、コチ。居乞切　物
㊀吃に同じ、ごもる。
㊁乞に通じ用ふ、こふ。

【欨】　グワ、ゲ。五瓜切　麻
歐―は、弱き貌にいふ語。

【欻】　クツ、コチ。許勿切　物　キ。虛記切　寘
急しく怒る聲にいふ字。

【欪】　ヒ。篇夷切　支
氣の出づる聲にいふ字。

【欣】　キン、コン。許斤切　文
㊀喜樂す、よろこぶ。○〔禮〕「慶賜遂行無レ不ニ―說一」。
㊁喜ぶ貌にいふ字、よろこばし。○〔楚辭〕「君―・―兮樂康」。
㊂獸の力あること。○〔埤雅〕「兎絕有レ力―、牛絕有レ力―狼」。「也」。
（懽欣）喜ぶ。○〔晉〕「飾ニ其―・―、止ニ於哀思一者」。
（含欣）喜びの心を持つ。○〔宋〕「萬國―レ―」。
（深欣）いたく喜ぶ。○〔南子齊晉安王子懋傳〕「足レ爲ニ―・―一」。
（悅欣）滿足し喜ぶ。○〔應貞〕「人胥―・―」。
（樂欣）たのしみ喜ぶ。○〔張協〕「悅ニ羣生之―・―一」。「―一」。
（幽欣）しづかなる喜び。○〔蘇軾〕「果熟多ニ―・―一」。

【弞】
叩に同じ。

【欪】　ケイ、カイ。馨奚切　齊

【歆】　キ。虛其切　支
痛みて發する聲にいふ字。

【欱】　ヒン。卑民切　眞
うめく、（呻・吟）。

【欣】　カウ。呼郎切　陽
氣分かる、わかる。

【欦】　キン、コン。去斤切　文
畝―は、貪る貌にいふ語。

【欣】　カウ、キヤウ。丘耕切　庚
はなひる、くさめす、（嚏）。

【欥】　イツ、イチ。餘律切　質
ためぶき、（欸）。

【歑】
よる、（由）、一說に、のぶ、（述）、又一說に、よろこぶ、（喜）。○〔班固〕「―ニ中和一爲ニ庶幾一」。

【歎】　キ。許其切　支　許意切　寘
嘻に同じ。

【欸】　カイ。呼來切　灰
改に同じ、又、前條に同じ。

【欦】　ケン、コン。丘嚴切　鹽
㊀むさぼる、（欲）。
㊁笑ひを含む、ほゝゑむ。
㊂智慧多し、さとし。

【欦】　カン、コン。呼含切　覃
前條の㊀に同じ。

【欿】　ケン、コン。丘广切　琰　カン、ケン。火斬切　豏

がけ、(欠崖)、又、がけした、(崖下)。

【欨】ユ。羊朱切 [虞]
犬を呼ぶ聲にいふ字。

【㰢】カウ、キヤウ。口莖切 [庚]
(一)しはぶき(欬)。(二)むさぼる(貪)。

【欯】ケイ、カイ。許計切 [霽]
氣の越ゆる貌にいふ字。

五畫

【歃】カフ、ケフ。呼甲切 [洽]
はないき(鼻息)。

【軟】呻に同じ、うめく。

【歀】シ。疾智切 [寘]
はく(歐)。

【歀】シ。將支切 [支]
(一)むせぶ(嚘)。(二)前條に同じ。

【欨】ク、コ。况于切 [虞] 呪羽切 [麌]
ふく(吹)、わらふ(笑)、あくぶ(欠)、すべて口を張り氣を出だすにいふ字。○〔嵇康〕「其康-樂有レ聞レ之則--愉歡-釋、抃-舞踊-溢」。

【欨】ク、コ。呼句切 [遇]
(一)呴に同じ、氣を吹きかけて温む、あたゝむ。「欣-々」。(二)よろこぶ(悅)。○〔元包經〕「瓜牲-々」。

【歌】カ。虛我切 [哿] 呼个切 [箇]
わらふ(笑)。○〔博雅〕「唏-々--笑也」。

【㰤】カ。虎何切 [歌]
呵に同じ、いきいづ。

【歌】カ、ケ。枯架切 [禡]
(一)いき(息)。(二)大笑す、わらふ。(三)口を張り息をなす、いきす。(四)權臥、かりね。(五)歌--は、不意。(喧歌) かまびすしく笑ふと。○〔元稹〕「滿-堂會-客齊--」。

【欭】ヤク、エキ。乙革切 [陌]
--歔は、笑ひ語る、さゞめく。

【歏】ケイ、カイ。呼計切 [霽]
(一)氣の出づる聲にいふ字。(二)わらふ(笑)。

【欫】キヨ、コ。近倨切 [御] カ。去伽切 [歌]
あくび(欠)。○〔通俗文〕「張レ口運レ氣、謂二之欠-一」。

【欻】イウ、ユ。於糾切 [有] ヰク、チク。於六切 [屋]
愁ふる貌にいふ字。

【欻】イウ、ユ。於虯切 [尤]
呦に同じ。

【欸】カイ。呼來切 [灰]
のむ(飮)。

【欩】テウ。敕宵切 [蕭]
(一)氣上り蒸す、むす、うむす。(二)健かなる貌にいふ字、たけし。

【欱】ケイ、キヤウ。許令切 [敬]
笑を含む貌にいふ字、ほゝゑむ。

【欪】チユツ、チチ。丑律切 [質] クツ、コチ。許勿切 [物]
咄--は、慙づるをなし、一說に、賜無き義。

【欯】キツ、キチ。許吉切 [質] カツ、カチ。呼八切 [黠]
(一)しかる(訶)。(二)よろこぶ(說)。

【欪】チツ、チチ。敕栗切 [質]
わらふ(笑)。

【㰾】ヂ、ニ。年支切 [支]
和悅す、やはらぐ、よろこぶ。

【欪】キ。呼飢切 [支] カイ、ケ。火佳切 [佳]
氣逆ふ、さかふ。

【歁】カン、コン。戶甘切 [覃]
濫に同じ、あるひは、あるは。

【㳴】ヒツ、ビチ。毗必切 [質]
ふく(吹)。

【歍】ケツ、グワチ。古月切 [月] セイ、シヤウ。詩爭切 [庚]
ひらく(撥)。

六畫

【欪】ユ。羊朱切 [虞]
炊の字を見よ。

【欪】カイ。呼來切 [灰]
笑ふ聲にいふ字。

【欪】ケキ、キヤク。輕歷切 [錫]
吹く聲。

【㰫】キ。居委切 [紙]
つかる(疲-極)。

【欪】ワウ。紆往切 [養]
へつらふ(佞)。

【欪】ハン、ホン。匹凡切 [咸]
智慧多し、さとし、かしこし。

【欪】アイ。於佳切 [佳] ケイ、カイ。古攜切 [齊]
(一)歎く聲にいふ字。(二)邪なる貌にいふ字。

【欬】カイ、ガイ。苦漑切 [隊] キ。去冀切 [寘]
(一)せき。(い)氣の急ぎ出づるを、しはぶき。○〔禮〕「不二嚏-欬一」。(ろ)氣せきいづる病。○〔禮〕「穀-實鮮-落多二風-欬一」。(は)故意にせきを爲し聲を出だすと、せきばらひ、こわづくろひ。○〔禮〕「車-上不二弘-欬一」。
(謦欬) (い)しはぶき、せきばらひ。○〔北〕「--爲二咲-謔一」。(ろ)言笑すると。○〔列〕「--疾-言」。
(鼽欬) かぜひきてはなのつまりせきのいづると。○〔論衡〕「猶下和二神-仙之藥一、以治中--上」。

【欸】アイ、エイ。乙界切 [卦]

噫に同じ、おくび。

【欭】イ。去霽切〔霽〕 イン。伊眞切〔眞〕
㊀むせぶ（噎）。㊁歎く。
㊂語未だ定まらざる貌にいふ字。

【欿】タン、トン。恥南切〔覃〕
㊀よろこぶ（欣）。㊁むさぼる（貪）。

【欮】ケツ、クヮチ。居月切〔月〕
㊀瘚に同じ、むせぶ病。○〔列〕「食二其皮-汁一已二憤-一之疾一」。
㊁ほる（掘）、一に、あばく（發）、又、うがつ（穿）。

【⿰朿欠】シュク、ソク。才六切〔屋〕
㊀安からざる貌にいふ字。
㊁欲ち悲しむ貌にいふ字。

【⿰旬欠】シュン。相倫切〔眞〕
㊀まこと（信）。
㊁―欯は、喜樂の貌にいふ字。
㊂氣逆ふと、せき。

【欯】キツ、キチ。許吉切〔質〕
㊀よろこぶ（喜）。
㊁わらふ（笑）。

【欬】カイ、ケ。口戒切〔隊〕
こゑ（聲）。

【⿰夸欠】ク、コ。況于切〔虞〕
欨の條を見よ。

【欰】シュツ、シュチ。辛律切〔質〕
なく（鳴）、一説に、蟲鳴く。

【[illegible]】カ、ケ。虛加切〔麻〕
いき（息）。

【欱】カフ、コフ。呼合切〔合〕
㊀すゝる（歠）、すふ（翕）。○〔張衡〕「―レ澧吐レ鎬」。
㊁をさむ（斂）、うく（受）。○〔張衡〕「總-括趨―、箭馳風疾」。
㊂あふ（合）。○〔揚雄〕「上―下―、出二入九虛一」。
〔吐欱〕はきだすこととすひこむこと。○〔陳後主〕「岫雲時―・―」。

【[illegible]】カフ、ケフ。呼洽切〔洽〕
なむ（嘗）。

【欦】ケン、丘凡切〔琰〕
智慧多し、さとし、かしこし。

【[illegible]】チョウ。丁孕切〔徑〕
餘りの聲。

【[illegible]】カウ、キヤウ。丘庚切〔庚〕
しはぶき（咳）。

七畫

【[illegible]】シン、ジン。時忍切〔軫〕 時刃切〔震〕
指さして笑ふ。

【⿰含欠】カン、ゴン。火含切〔覃〕
㊀笑を含む、ほゝゑむ。
㊁むさぼる（貪-欲）。

【欲】ヨク。余蜀切〔沃〕
㊀貪りをしむと、願ひ求むること、又、其の情念。○〔禮〕「―不レ可レ從」。
㊁物事に感觸して性情の發動すること、又其の發動する性情。○〔禮〕「人生而靜天之性也、感二于物一而動性之―也」。
㊂ほッす、ほりす。
(い)むさぼる（貪）、をしむ、めづ（愛）。○〔禮〕「不レ問二其所一レ―」。
(ろ)期す、願ふ。○〔大〕「―レ明二明-德於天-下一」。
(は)將に然らんとす。○〔古銘〕「―レ墮不レ墮」。
㊃婉順なる貌にいふ字、すなほ、しさやか。○〔禮〕「其蔦レ之也敬以―」。
〔防欲〕むさぼりをしむ心をふせぐ。○〔禮〕「命以―レ―」。
〔窒欲〕前に同じ。○〔易〕「君子以懲レ忿―レ―」。
〔耆欲〕たしなみむさぼること。○〔禮〕「節二―・―一、定二心氣一」。
〔縱欲〕むさぼりの心を制せずしてきまゝにまかす。○〔左〕「我實―レ―而不レ能二自克一也」。
〔恣欲〕前に同じ。〔後漢〕「觸レ情―レ―」。
〔色欲〕(い)顏いろにはしくおもふこと。○〔新序〕「徐君觀レ劍、不レ言而―レ―之」。(ろ)形質ある物にかゝる情念。○〔大藏法數〕「戀令三衆生樂二著光一獻故名二―・―一」。(は)特に男女間の戀愛のおもひ。○〔佛祖三經〕「愛-欲莫レ甚二於色一―之爲レ―其大無-外」。
〔情欲〕前條の(は)に同じ、又、物事をほッする念、又、こゝろのうごき。○〔論衡〕「人多二―・―一、壽至二于百一」。
〔寡欲〕むさぼりねがふ心すくなし。○〔孟〕「養レ心莫レ善二於―レ―」。
〔私欲〕おのれをのみ利せんとするおもひ。〔左〕「―・―不レ違」。
〔多欲〕ねがひむさぼりのおほきこと。○〔韓詩外傳〕「禍生二于無レ爲、而患生二于―・―一」。
〔極欲〕おのれのおもふ心を十分につくしきはむ。○〔史〕「―レ―十日而更」。
〔奔欲〕おのれのおもひを他にはす。〔漢〕「騁レ嗜―レ―」。
〔枉欲〕むさぼりの心をたむ。○〔後漢〕「入能―レ―從レ禮者、則福歸レ之」。
〔奢欲〕おごりのこゝろ。○〔後漢〕「競恣二―・―一」。
〔穢欲〕きたなきむさぼりの心。○〔魏〕「賢者無二―・―之累一」。
〔濁欲〕前に同じ。○〔太清神仙衆經要畧〕「年茂而―・―愈甚」。
〔財欲〕たからをむさぼるこゝろ。○〔魏〕「歆淡二于―・―一」。
〔利欲〕おのれをのみ利益せんとおもふこゝろ。○〔晉〕「不レ覺二寒-暑之切一レ肌、―・―之感一レ情」。
〔節欲〕むさぼりの心をおもひのまゝにはせず。○〔春秋繁露〕「―レ―順レ行則倫得」。
〔割欲〕むさぼりの心をへらしけづる。○〔論衡〕「禁レ情―レ―之心」。
〔羨欲〕うらやみむさぼること。○〔先天記〕「無二―・―一」。
〔內欲〕內心のむさぼり。○〔嵇康〕「或累二于―・―一」。

【⿰言欠】音に同じ。

【⿰豆欠】コウ、ク。呼漏切〔宥〕
數―は、小兒の兇惡なること。

【欳】クヮイ、ケ。苦怪切〔卦〕
㊀ためいき（大息）。㊁たつ（斷）。

【⿰食欠】ショク、シキ。秦力切〔職〕
喉に錯はる、つかふ。

【⿰良欠】ラウ。魯當切〔陽〕
―欣は、貪る貌にいふ語。

【欵】俗の款の字。

【欶】サク、ソク。所角切〔覺〕 シュク、ソク。所六切〔屋〕
㊀すふ（吸）。○〔韓愈〕「酒醪傾共―」。
㊁つく（著）。○〔淮〕「淬二霜露一―レ蹻訣」。

【[illegible]】嗽に同じ。

【欱】カフ、コフ。呼合切 合　カフ、ケフ。呼洽切 洽
㊀いき、(息)。㊁氣逆ふ、せく。㊂—吹は、うめく、(呻)。

【欶】ケフ。呼帖切 葉
㊀あへぐ、(喘-息)。㊁ほしがる、(羨-欲)。

【欷】キ、ケ。香衣切 微　許既切 未
㊀なく。
(い)悲しみ泣き氣咽びて息を抽くにいふ字、むせぶ、むせびなく。○[淮]「孟-嘗-君爲レ之增レ—歔-唈流-涕、狼-戾不レ可レ止」。
(ろ)泣きたる餘聲絕えざるにいふ字、すゝる、すゝりなく。○[宋玉]「淸-涼增レ—」。
(は)哀しみ止まざるにいふ字、なげく。○[韓愈]「獨子之節可ニ嗟—ニ」。
㊁懼るゝ貌にいふ字。○[屈平]「曾歔-—余鬱-邑」。
(歔欷) すゝりなく、むせびなく、なげく。○[馮衍]「顧ニ鴻-門ニ而——兮」。
(悽欷) かなしみなく。○[張衡]「坐-者——」。
(長欷) いたくなげくこと。○[蘇軾]「歲-月一逝-空——」。「——」。
(涕欷) なみだをたれてなく。○[劉基]「感-慨空」

【欸】アイ。烏開切 灰
㊀しかり、(然)。○[揚雄]「南-楚凡言レ然者、或曰レ—、或曰レ譽」。
㊁驚歎の聲にいふ字、あ、あゝ。○[陳芳]「今-人暴見ニ事之不レ然者ニ必出レ聲曰レ—」。
㊂なげく、(歎)。○[楚辭]「—ニ秋-冬之緒-風ニ」。

【欸】イ。於其切 支　アイ、エ。於改切 賄
相然りさして應ふる聲にいふ字。○[柳宗元]「——效ニ忠-信ニ」。

【欬】カイ、ケ。許介切　アイ、エ。乙界切 卦
怒りて聲立つ、いかる、又、其の聲にいふ字。○[揚雄]「始-皇方獵ニ大-國一而翦牙——」。

八畫

【⿰或欠】イク、オク。於六切 屋　シヨク、ソク。之欲切 沃　クワク、コク。火麥切 陌
氣を吹く。

【⿰或欠】キヨク、ケキ。況逼切 職
吹く貌にいふ字。

【欹】猗に通じ作る。

【⿰弓欠】ア、エ。於嫁切 禡　於雅切 馬
驢鳴く、いなゝく。

【⿰弓欠】ア、エ。於加切 麻
氣逆ふ、せく。

【⿰念欠】テン。丁練切 霰　都念切 豔
うめく、(呻)。

【⿰咅欠】ホウ、フ。普口切 有　匹候切 宥
語りて受けず、こばむ。

【欺】キ。去其切 支
㊀信實ならざるを、虛妄なるを、うそ、いつはり。○[新書]「反レ任爲レ—」。
㊁あざむく。
(い)うそいつはりを以て他を惑はす、うそつく、いつはる、だます。○[韓]「智-者不レ得ニ詐—ニ」。
(ろ)自己の心を味ます。○[大]「毋ニ自—ニ」。
㊂むさぼる、(惏)。○[揚雄]「晉魏河-內之北謂レ惏曰レ殘、楚謂ニ之貪、南-楚江-湘之閒謂ニ之—ニ」。
㊃あなどる、(謾)、又、しのぐ、(陵)。○[李頎]「見レ陵ニ於人一爲ニ——負ニ」。
(責欺) いつはりの不德をせめたゞす。○[戰]「王今已絕レ齊、而—ニ于秦、是吾合ニ齊秦之交ニ也」。
(誕欺) いつはり。○[漢]「耶以爲レ務、則——怪-迂之文、彌以益多」。
(詆欺) 前に同じ。○[唐]「黠-吏——」。
(調欺) あざけりあざむく。○[後漢]「習ニ——ニ」。
(誣欺) いつはり、又、あざむく。○[荀]「妄-人者、門-庭之間、猶可ニ——ニ」。
(信欺) まことゝいつはりと。○[潛夫論]「——在レ性、不レ在ニ親-疏ニ」。

【⿰兒欠】ケキ、キヤク。許狄切 錫
涕を去る、ぬぐふ。

【欻】クツ、コチ。許物切 物
㊀吹き起こる、おこる。○[柳宗元]「靈-氣翕—」。「——」。
㊁うごく、(動)。○[元包經]「廖佗-々趯」
㊂たちまち、(忽)。○[張衡]「神-山崔-巍—從レ背見」。
㊃はやし、こし、(疾)。○[江淹]「——吸鵾-雞鳴」。「變悅——」。
㊄恍昧、くらし、ほのか。○[韓愈]「指-畫——」。
(奄欻) 去來の定かならざること。○[左思]「恍-悶——」。
(淘欻) 波浪の貌にいふ語。○[劉說]「軒-窗怒-濤解」
(颯欻) うごきて定まらざる貌にいふ語。○[王行]「霞-彩互——飄」。
(歇欻) しづか、おくふかし。○[王延壽]「——幽-

【⿰卒欠】シュツ、シュチ。子聿切 質
すふ、(吮)。

【⿰此欠】シ。將支切 支
廉無し。

【⿰夌欠】リヨウ。力膺切 蒸
しのぐ、(陵)。

【⿰叕欠】シ。初紀切 紙
かむ、(齧)。

【⿰叕欠】サイ、セ。楚快切 卦
前條に同じ、一說に、一擧して臠を食ひ盡くす。

【欽】キン、コン。去金切 侵
㊀つゝしむ、うやまふ、(敬)。○[書]「—ニ厥止ニ」。
㊁天子に關する物事に冠用する字、うやまふ義より來たる。○[正字通]「今御-音曰ニ—-敕一、御-使曰ニ—-命ニ」。
㊂思望す、のぞむ。○[詩]「憂-心——」。
㊃鐘の聲の節あるにいふ字。○[詩]「鼓レ鐘——」。
㊄口を張り氣を出だす貌にいふ字、又、其の聲にいふ字、あ、あゝ。○[通雅]「鄖—何辜」。
(丕欽) いたくつゝしむ。○[書]「王用——」。
(仰欽) うやまふ。○[陸雲]「—ニ—德-類ニ」。
(虛欽) 心にもなきうやまひ。○[孟郊]「俗-士多ニ——ニ」。

【欽】キン、コン。巨禁切 沁
おさふ、(按)。○[射經]「—レ身微曲、注レ目視レ的」。

【欽】ギン、ゴン。魚音切 侵

唫に同じ、うめく。○〔山海經〕「其音如レ―」。

【欲】イウ、ユ。於糾切 有　キウ、グ。巨九切 有
鼻を蹴む、ちゞむ、しわむ。

【欲】オウ、ウ。於口切 有　於候切 宥　ヘウ、ベウ。平表切 篠　ケウ、ゲウ。巨天切 蕭
嘔に同じ、はく。

【⿰歹欠】シ。資四切 寘
㊀死にて再生す、よみがへる。㊁やむ、（病）。

【款】クワン。苦管切 旱
㊀欲す、愛す。○〔謝靈運〕「語往實―然」。
㊁歡ぶ、樂しむ。○〔北〕「接レ膝談―、「有レ若二平生一」。
㊂志純一なること、まこと、忠誠。○〔後漢〕「卓魯――情慤德滿」。
㊃門關を叩きて通ぜんことを求む、たゝく。○〔晏子〕「前驅―レ門」。
㊄いたる、（至）。○〔張衡〕「繞二黃山一而―二牛首一」。
㊅とゞまる、（留）。○〔謝靈運〕「斷絶雖レ殊レ念、俱爲二歸慮―一」。
㊆委細、こまか。○〔後漢〕「諸母相與語曰、文叔少時謹レ言、與レ人不二―曲一、惟直柔耳」。
㊇一つ〳〵に箇條を立てゝしるすこと、ひとつがき、かぜうがき、又、其の箇條、かご、かぜう。○〔宋〕「命具レ―」。
㊈文字を刻みしるすこと、凹入の文字にて記すること。○〔史〕「汾陽得レ鼎、大異二於衆鼎一、文鏤無二―識一」。
㊉凹入の文字、陰字。○〔輟耕錄〕「金脱則爲二陰―一」。
㊉㊀むなし、うつろ、（空）。○〔漢〕「―言不レ聽、姦迺不レ生」。
㊉㊁ゆるし、（緩）。○〔杜甫〕「點レ水蜻蜓――飛」。

（忠款）しんせつなること、まことなること。○〔江淹〕「――昭著」。
（悃款）志の專一にしてまことあること。○〔楚辭〕「吾寧――々々」。「愚」。
（款款）まこと。○〔司馬遷〕「誠欲レ効二其――之愚一」。
（結款）いつくしみしたしむこと。○〔公羊、註〕「外未レ能レ―二諸侯一」。「――」。
（愿款）謹直にしてまことあること。○〔後漢〕「辭氣―」。
（誠款）いつはりかざることなくまことあること。○〔蜀〕「君之――乃當レ爾耶」。
（丹款）いつはりなきこと。○〔晉〕「歸二陳――一」。
（哀款）前に同じ。○〔除陵〕「敬開二――一」。
（游款）まじはりいつくしむ。○〔晉〕「詠之早與二劉裕一――」。
（交款）前に同じ。○〔晉〕「一面――、便若二平生一」。
（披款）まことを陳ぶ。○〔晉〕「故重二―レ―」。
（陳款）前に同じ。○〔魏〕「亦推レ懷―レ―」。
（附款）つきしたしむ。○〔晉〕「符洪―二―江東一」。
（舊款）ふるきしたしみ。○〔北齊〕「尙書邢邵與二聿修―一」。
（通款）したしみの心を他にはこぶこと。○〔北〕「舉二三荊之地一―二梁國一」。「―」。
（送款）前に同じ。○〔駱賓王〕「許斐多情偏―レ―」。
（篆款）てん書の字體もて刻みたること。○〔仇池筆記〕「――甚精」。
（寄款）まことの心をよせいたす。○〔陸機〕「指南雲以―レ―」。
（淸款）潔白なるしたしみ。○〔劉子翬〕「邂逅成二―一」。
（懇款）ねんごろなること。○〔許衡〕「作レ詩敍二――一」。

【歆】イク、オク。余六切 屋
驚く辭、あ、あゝ。

【⿰昏欠】コン。呼昆切 元
知るべからざるを、くらし。

【欿】タン、トン。他含切　カン、コン。枯含切 覃
むさぼる、（貪惏）。

【欿】カン、コン。苦感切 感
㊀前條に同じ。
㊁滿足せず、あきたらず。○〔孟〕「如二其視―然一」。
㊂愁ふる貌にいふ字。○〔楚辭〕「―愁悴而委惰」。「之」。
㊃あな、（坑）。○〔左〕「―用レ牲加レ書徵レ之」。

【⿰数欠】シ。心子切 紙
香美し、よし。

【⿰㒳欠】カン、コン。口感切 感
動く貌にいふ字。○〔揚雄〕「雷椎――、電與物旁震」。

九畫

【⿰咸欠】カン、ケン。許咸切 咸　カン、コン。呼南切 覃
笑を含む、ほゝゑむ。

【⿰咸欠】カン、コン。虎感切 感
氣の盛んなるにいふ字。

【⿰咸欠】カン、ケン。許鑒切 陷
さけぶ、（叫）。

【⿰咸欠】ケン、コン。火占切 鹽
むさぼる、（貪欲）。

【⿰軍欠】コン、ゴン。五困切 願
むさぼる、（貪欲）。

【⿰谷欠】カ、ケ。客加切 麻
氣逆ふ、せく。

【⿰臤欠】カ、ケ。何加切 麻
氣を出だす、いきふく。

【⿰臤欠】カ、ゲ。亥駕切 禡
欱――は、咽の病、一説に、氣の出づる貌にいふ語。

【歁】カン、コン。苦感切 感
のむ、（飲）。

【歁】カン、コン。枯含切 覃　カン、ケン。丘咸切 咸　ケン、コン。丘檢切 琰
食の滿たざること、食ひ足らぬこと。

【⿰甚欠】カフ、コフ。口答切 合
意に滿足せざること。
―歁は、癡なる貌にいふ語。

【歂】セン、ゼン。市緣切 先　市兖切 銑
㊀口氣引く、すふ。㊁あへぐ、（喘）。

【⿰壴欠】キ。許其切 支
卒に喜ぶ、よろこぶ。

【欹】イ。於几切 紙
―歋は、驢の鳴くにいふ語、いなゝく。

【⿰侯欠】コウ、グ。胡溝切 尤
歐の字の條を見よ。

【歃】サフ、セフ。山洽切 洽　セフ、ソフ。山輒切 葉
すゝる、（歠）、古昔盟約のしるしに血をすゝるは口の旁に血を塗るものをいふ。○〔史〕「王當二―レ血而定一レ從」。

〔盟歃〕ちかひをなすに血をすゝること。○〔陳武帝〕「何用ニ－－一」。

【歃】カフ、ケフ。迄洽切　洽

歃に同じ、なむ、(嘗)。

【歃】セフ。山輒切　葉

ほッす、(欲)、又、むさぼる、(貪)。

【歋】ケフ。苦協切　葉

氣を吹く。

【欹】イ。弋支切　支

わらふ、(笑)。

【歄】クワ、ケ。古蛙切　麻

㊀なよやか、(婉)。㊁よわし、(弱)。

【歅】テン。丁練切　霰

うめく、(呻)。

【歇】エン、於建切　願　エン・於殄切　銑
オン。切

㊀大に呼びて力を用ふること。
㊁腹を怒らす、ふくらす。

【歈】ケウ。公弔切　嘯

壎篪の屬、よぶこ。

【歆】キン、コン。許今切　侵

㊀うく。
(い)神其の供物の氣を食らふ、卽ち、祭事の神意に協ひて神其の供物を受納するの義。○〔詩〕「上帝居－－」。
(ろ)饗應を受く。○〔國〕「王－－ニ大牢一、班嘗レ之」。

㊁うごく、(動)。○〔詩〕「履ニ帝武敏一－」。
㊂うらやむ、(羨)、むさぼる、(貪)。○〔詩〕「無ニ然－羨一」。

【歇】歇に同じ。

【歇】ケツ、コチ。許竭切　月

㊃やむ、(息)。○〔左〕「末レ獲レ所レ歸難未レ－」。
㊄つく、(竭)。○〔老〕「神無ニ以靈一將恐レ－、谷無ニ以盈一將恐レ－」。

〔衰歇〕おとろふること。○〔李白〕「瑤草恐－－」。
〔耗歇〕前に同じ。○〔顏延之〕「－－難レ支」。
〔消歇〕きえつく。○〔庾信〕「壯情已－－」。
〔休歇〕やむ。○〔蔡琰〕「無ニ－－時一」。「－」。
〔憩歇〕やすむこと。○〔搜神記〕「於ニ路旁樹陰一－－」。
〔零歇〕おとろふること。○〔鮑照〕「終從レ歲而－－」。
〔凋歇〕草木などかれつくること。○〔李白〕「寧知有ニ－－一」。

【歇】カツ、カチ。許曷切　曷

短喙の犬。○〔詩〕「載ニ獫－驕一」。

【歇】カイ、ケ。虛乂切　隊

やむ、(息)。

【歈】ユ。羊朱切　虞　トウ、ヅ。
徒候切　宥

吳の歌。○〔楚辭〕「吳－蔡謳奏ニ大呂一些」。

〔巴歈〕漢の高祖の樂府をして習はしめたる猿人の舞。
〔歇歈〕手を擧げて相弄笑すること。

【歇】カ、ケ。虛加切　麻

歇に同じ、いき、(息)。

【歜】ケツ、ケチ。顯結切　屑

の貌にいふ字。

十畫

【歊】ケフ、コフ。虛業切　葉

氣を翕ふ、すふ。

【歍】エウ。餘饒切　蕭　以紹切　篠

氣出づる貌にいふ字。

【歜】タウ、ドフ。達合切　合

歜－は聲。

【歔】ケイ。呼兮切　齊

歔息す、なげく。

【歕】カイ、ケ。許介切　卦

急しき氣の貌にいふ字。

【歡】シ。尺脂切　支

嗤に同じ、わらふ。○〔陸機〕「雖ニ濬發ニ於巧心一或受ニ－於拙目一」。

【歉】ケン。苦簟切　琰

あきたらず。
(い)食滿たず。○〔舊唐〕「內有ニ饑－一功在ニ慰安一」。
(ろ)不足す、すくなし、かく。○〔顏延之〕「欲－則爭」。

〔饑歉〕饑饉といふに同じ、人の食物の足らざること。○〔徐陵〕「粗支ニ菽粟防ニ－－一」。

【歉】カン、ケン。口減切　豏

㊀前條に同じ。
㊁むさぼる、(貪)。㊂ついばむ、(啄)。

【歔】イウ、ユ。與久切　宥

いふ、かたる、(言)。

【歊】ケウ。許嬌切　蕭

㊀氣出で上る、のぼる。○〔班固〕「吐ニ金景一兮－ニ浮雲一」。
㊁氣の盛んなる貌にいふ字。○〔漢〕「由陽－－亦朱ニ其堂一」。「烝二」。
㊂熱き氣。○〔漢〕「浡ニ滃雲一而散ニ－－」。

〔蘊歊〕毒氣蒸發す。○〔唐〕「多ニ－－地一」。
〔熇歊〕火の氣盛に立ち上る。○〔韓愈〕「蒸塽－－」。「－正炎赫」。
〔煩歊〕わづらはしき熱氣。○〔歐陽修〕「況此－－」。
〔炎歊〕盛なる熱氣。○〔歐陽修〕「－－鬱然蒸」。

【歒】コク。呼酷切　沃　カク。黑各切　藥

㊀前條に同じ。㊁かまびすし、(囂)。

【歚】カフ、コフ。呼合切　合

㊀ふはぶき、(瘶)。㊁大に啜る。

【歙】シ。初紀切　紙

歙に同じ、かむ。

【歗】スヰ。思萃切　寘

さふ、(問)。

【歛】サ、セ。所嫁切　禡

嗄に同じ、聲變はる、かはる、ふやかる。

【歋】イ。以支切　支　ヤ。以遮切　麻

－瘉は、手をあげ戲れ笑ふ。

【歌】カ。古我切　歌

㊀うたふ。
(い)聲に曲節をつけて唱ふ。○〔易〕「或泣或－」。「－且謠」。
(ろ)音樂にあはせて唱ふ。○〔詩〕「我

(は)うたに述ぶ、うたを撰る。○〔漢〕「論二─文武之德一」。

㊁うたふと、うたふ曲節、うたふ詞章、うた。○〔書〕「詩言レ志─永レ言」。

〔賡歌〕續けうたふ。○〔沈佺期〕「─樂歲豐」。
〔醻歌〕酒宴に興じてうたふ。○〔書〕「─二于室一」。
〔嘯歌〕口ずさみうたふ。○〔詩〕「─傷レ懷、念二彼碩人一」。
〔晤歌〕むきあひてうたふ。○〔詩〕「彼美淑姬、可二與─一」。
〔對歌〕前に同じ。○〔詩箋〕「宜二與─相切化一也」。
〔善歌〕たくみにうたふ。○〔孟〕「齊右─」。
〔巷歌〕ちまたの間にてうたふ、又、むらさとのひなうた。○〔禮〕「里有レ殯不二─一」。
〔弦歌〕琴瑟を彈じてうたふ。○〔禮〕「─二詩頌一」。
〔愷歌〕戰にかち聲をそろへてうたふ。○〔梁元帝〕「振旅而歌曰二─一」。
〔行歌〕歩みつゝうたふ。○〔漢〕「買臣獨─二道中一」。
〔謳歌〕聲をあはせてひとしくうたふ。○〔孟〕「─者不レ─二堯之子一」。
〔悲歌〕心に平かならざる所ありてかなしみうたふ。○〔漢〕「─忼慨」。
〔淸歌〕聲きよらかにうたふ。○〔世說〕「桓子野毎レ聞二─一、輒喚二奈何一」。
〔新歌〕あらたに作曲したるうた。○〔晉〕「故依二前曲一作二─一」。
〔挽歌〕柩を送るときに用ふるうた。○〔晉〕「─出二于漢武帝一」。
〔鐃歌〕かねをうち鳴らしうたふ。○〔李白〕「─列レ騎吹」。
〔櫂歌〕舟のかいを引きよせてうたふ、又、ふなうた。○〔漢武帝〕「簫鼓唱兮發二─一」。
〔高歌〕聲たからかにうたふ。○〔舊唐〕「─縱レ酒、不レ屑二外慮一」。
〔踏歌〕足をふみならしてうたふ。○〔舊唐〕「連レ袂─」。
〔浩歌〕聲大くうたふ。○〔劉峻〕「臨二淸風一而─」。
〔嬌歌〕なまめかしきうた。○〔梁簡文帝〕「─逐二軟聲一」。
〔好歌〕善良なるうた。○〔詩〕「作二此─一、以極二反側一」。
〔盤歌〕うた。○〔周〕「掌二四夷之樂、與二其─一」。
〔工歌〕巧みにうたふ。○〔梁簡文帝〕「─巧舞入二人意一」。

〔樂歌〕音樂にあてはめうたふうた。○〔儀、註〕「講レ道修レ政之─也」。
〔詠歌〕うたうたふ。○〔晉〕「情之所レ適、發二乎─一」。
〔徒歌〕音律にあはせずにうたふ。○〔晉〕「子夜諸曲始皆─」。
〔謠歌〕うたうたふ。○〔史、註〕「始皇聞二─一而問二其故一」。
〔稱歌〕たゝへうたふ。○〔後漢〕「父老─」。
〔興歌〕興を催しうたふ。○〔梁昭明太子〕「靑衿─」。
〔夷歌〕えみし人のうた。○〔杜甫〕「─捧二玉盤一」。
〔心歌〕言葉の上にあらはさず心の中にてうたふ。○〔吳〕「─腹詠」。
〔舊歌〕ふるく行はれしうた。○〔于武陵〕「臨レ風歌二─一」。
〔緩歌〕氣ながにうたふ。○〔晉〕「因二醒醉一─レ之」。
〔舞歌〕まひをまひうたふ。○〔韓愈〕「吹レ笙彈レ箏、飲レ酒─」。
〔塗歌〕道路の間にてうたをうたふと、又、其のうた。○〔宋〕「里頌─、室家相慶」。
〔和歌〕調子をあはせてうたふ。○〔魏〕「亦─」。
〔宴歌〕酒もりの筵を開きうたふ。○〔北齊〕「朝─夕─」。
〔郊歌〕野人のうたふうた。○〔呂溫〕「豐年屢薦二于─一」。
〔醉歌〕酒にゑひてうたふ。○〔王維〕「─田舍酒」。
〔頌歌〕はめてうたふ。○〔謝靈運〕「士─二于政敎一」。
〔漁歌〕漁夫のうたふうた。○〔陸龜蒙〕「江客─衝二白苹一」。
〔唱歌〕うたうたふ。○〔白居易〕「愛レ君簾下─人」。
〔哀歌〕心にかなしみてうたふ。○〔莊〕「子非下天獨弦─、以賣二名聲於天下一者上乎」。
〔揚歌〕はやし立てゝうたふ。○〔曹植〕「搏拊─」。
〔吟歌〕口ずさみうたふ。○〔譚用之〕「─魚鳥歸二樵谷一」。
〔按歌〕調子をとりてうたふ。○〔拾遺記〕「撫レ節─」。
〔優歌〕ゆツたりとしてうたふ。○〔文心雕龍〕「暇豫─、遠見二春秋一」。
〔艷歌〕なまめかしきうた。○〔梁武帝〕「朱口發二─一」。
〔短歌〕みじかうた、歌の文句の少きもの長歌に對して歌の一體とす。○〔摭言〕「趙牧效二李長吉一爲二─一」。
〔奏歌〕かなでうたふ。○〔鄭谷〕「─三酒備」。
〔放歌〕聲をはなちてうたふ。○〔杜甫〕「─頗愁絕」。

〔發歌〕うたをうたひ出だす。○〔蔡偉魏夫人傳〕「─合レ節而─」。
〔安歌〕聲ゆるやかにうたふ。○〔謝朓〕「─繞二鳳梁一」。
〔微歌〕聲音かすかにうたふ。○〔嵆康〕「─發二皓齒一」。
〔榜歌〕舟人のうたふうた。○〔蕭穎士〕「─天際聞」。
〔名歌〕聞こえ高きうた。○〔張華〕「大陵奏二─一」。
〔俗歌〕世間に行はるゝ高尚ならぬうた。○〔陸機〕「─揆レ日」。
〔妍歌〕あでやかなるうた。○〔顏延之〕「─妙舞之容」。
〔戎歌〕いくさうた。○〔唐〕「─陳舞」。
〔宸歌〕大君のうた。○〔李嶠〕「─掩二舜絃一」。
〔豪歌〕盛んなるうた。○〔張說〕「─急鼓送レ寒來」。
〔情歌〕情にかゝはることの意味を籠めたるうた。○〔王琚〕「─始發詞怨咽」。
〔狂歌〕常の道をもて繩すことのならざる狂氣すみたるうた。○〔張九齡〕「接輿─而諷激」。
〔鬧歌〕騷がしくうたふ。○〔李頎〕「─聊敲レ楫」。
〔牧歌〕牛羊などをかふことをなりはひとするものゝうた。○〔元結〕「爾爲二─一」。
〔樵歌〕木こりのうたふうた。○〔杜甫〕「─稍出レ村」。
〔蠻歌〕えびす人のうた。○〔皇甫松〕「─豈讓二北人愁一」。
〔妖歌〕なまめかしきうた。○〔韓愈〕「─慢舞爛不レ休」。
〔逸歌〕すぐれたるうた。○〔皇甫湜〕「─長句駿發踔厲」。
〔孤歌〕對手なくしてうたふ。○〔杜牧〕「─倚二桂巖一」。
〔鄕歌〕村人のうたふうた。○〔李咸用〕「─寂々荒丘月」。
〔童歌〕わらはべのうたふうた。○〔宋之問〕「─渭北垂」。
〔俚歌〕下等の社會に行はるゝうた。○〔蘇軾〕「不レ惜二陽春和一─一」。

【歍】チ、ウ。哀都切 虞

㊀逆吐す、はく、もどす、へどつく、又、其の聲。○〔山海經〕「共工臣名曰二相繇一、九首蛇身、自環、食二於九土一、其所レ─所レ尼卽爲二源澤一」。

㊁歎く聲、あゝ。○〔通雅〕「─欽何辜」。

〔歐歍〕はく、もどす、へどつく。○〔揚雄〕「─之疾至」。

【歍】アウ。於頁切 漾

泣きて聲を失ふと、むせびなき、志やくりなき。○〔淮〕「雍門子撫レ心發レ聲、孟嘗君爲レ之增レ欷─唈」。

【歁】カン、コン。戶感切 感

欿に同じ、得んと欲す、むさぼる。

【歖】タイ、ダイ。徒來切 灰

よろこぶ(喜)。

【歜】ショク、ソク。朱欲切 沃

氣を吹く、ふく。

十一畫

【歚】サク、シャク。士革切 陌

欸─は、笑ひ語る。

【𣤶】ラフ、ロフ。盧合切 合

─歛は、滿たざる貌にいふ語。

【𣤧】カウ。苦岡切 陽

㊀穀實らざると。

㊁歉に通じ用ふ、むなし。

【歎】タン。他旦切 翰 他干切 寒

㊀なげく。

(い)呻吟す、うめく、ためいきつく。○〔禮〕「戚斯─」。

(ろ)慷慨す、いきどほる。○〔史〕「子胥仰レ天─曰、讒臣諂爲レ亂」。

(は)哀戚す、いたむ。○〔後漢〕「永懷二悼─一」。

㊁稱美す、ほむ。○〔禮〕「孔子屢─レ之」。
㊂歌ふ末尾に聲を曳きて助く、讃け和す、たすけうたふ。○〔禮〕「一倡而三─」。

（嗟歎）感心しはむ、又、たすけうたふ、又、なげく。○〔禮〕「長言之不レ足、故──之」。
（竊歎）人知れず憂ひなげく。○〔史〕「西伯聞レ之──」。
（悲歎）かなしみなげく。○〔曹植〕「──有二餘哀一」。
（永歎）久しきが間ためいきをつきかなしむ。○〔晉〕「將淼──、若レ墜二深谷一」
（詠歎）うたひてはむ、又、たすけうたふ。○〔禮〕「──之、洋二液之一何也」。
（哀歎）心にかなしみいたむ。〔後漢〕「孝子入二舊室一而──」。
（憂歎）物事を案じわづらひいたむ。○〔後漢〕「每懷二──一」。
（褒歎）はめ稱ふ。○〔後漢〕「肅宗──、賜以二冢地一」。
（仰歎）あをむきてためいきをつく。○〔後漢〕「未二嘗不レ投レ書──一」。
（歌歎）うたに作りてはめたゝふ、又、和してうたふ。○〔蜀〕「故北州──」。
（欣歎）喜びてはめたゝふ。○〔吳〕「遐邇──」。
（憤歎）不平を懷きいきどほる。○〔吳〕「士民──二于下一」。
（稱歎）はめたゝふ。○〔吳〕「屢──焉」。
（絕歎）極めてはむ。○〔劉毅〕「輒──以爲レ不レ可レ能」。
（長歎）ながきためいきをつく。○〔晉〕「或──涕泣」。
（敬歎）貴びあがめたゝふ。○〔隋手雜錄〕「僚吏皆──」。
（怨歎）恨みなげく。○〔晉〕「然亦刑獄充濫、──之氣所レ致」。
（驚歎）思ひの外なる事に思ひてはめたゝふ。○〔晉〕「鄕里──、以爲二孝感所一レ致焉」。
（嘉歎）よき事なりとして稱美す。○〔晉〕「仍策書──」。
（悽歎）すさまじく思ひてためいきをつく。○〔宋〕「使二人聽一之──」。
（慨歎）惱みてためいきをつく。○〔南〕「──彌日」。
（哭歎）聲をあげて泣きなげく。○〔魏〕「此亦賈誼──、谷永切諫之時」。
（賞歎）はむ。○〔舊唐〕「合朝──」。

（慕歎）羨みしたひてはむ。○〔書〕「此股廢レ寢忘レ食所二──一也」。
（感歎）心に感じて稱美す。○〔唐〕「擧座──」。
（咨歎）なげく。○〔唐〕「帝──不レ已」。
（獎歎）勵まし褒む。○〔南唐近事〕「烈祖聞レ之、大加二──一」。
（吟歎）うめく。○〔蘇舜欽〕「聊々──隨二蟪蛄一」。
（泣歎）涕涙をながしいたむ。○〔酉陽雜俎〕「──如何」。
（惋歎）なげく。○〔金華〕「──不レ已」。
（沉歎）憂ひの心に打ちしづむ。○〔李白〕「──終二永夕一」。
（悶歎）心の中にもだえいたむ。○〔楚辭〕「遂──而無レ名」。
（嘯歎）口をすぼめて息をつく。○〔張華〕「拊レ枕獨──」。
（妄歎）あとさき見ずに褒めたゝふ。○〔曹植〕「吾亦不レ能二──一者、畏二後世之嗤一レ余也」。
（愁歎）憂ひいたむ。○〔方言〕「悲夢答二──一」。
（同歎）ためいきを一齊につく、おなじくなげく。○〔劉禹錫〕「異レ音──」。
（綿歎）つながりて絕えざるなげき。○〔孟郊〕「──容蹄躋」。
（緘歎）閉ぢてれもてにあらはれざるなげき。○〔鮑照〕「──沒二珠淵一」。
（讃歎）褒めたゝふ。○〔隋煬帝〕「──惟唱二希有一」。
（傷歎）心に痛みなげく。○〔隋煬帝〕「僧衆無レ依、實可二──一」。
（深歎）いたく憂ひわづらふ。○〔崔駰〕「──子雲疲」。
（浩歎）大いになげく。○〔張九齡〕「──楊朱子」。
（歡歎）よろこびとなげきと。○〔鮑溶〕「臣靈──不レ可レ放」。
（面歎）其の人の目の前にてたゝふ。○〔韓愈〕「愈──曰、公於レ是乎賢遠二於人一」。
（嘯歎）うそぶきなげく。○〔蘇舜欽〕「──星斗罷」。
（瞻歎）目に見てわづらふ。○〔僧惠洪〕「──香火滅」。
（擧歎）褒めたゝふ。○〔安王石〕「以二文學一爲二一時賢士大夫──一」。

【⿰堇欠】キン、コン。渠吝切 震
去斬切 問 クン。丘云切 文
かく（欠）。

【歐】オウ、ウ。於口切 有
㊀はく。
（い）口より出だす。○〔山海經〕「跪據レ樹─レ絲」。
（ろ）食下らずして逆吐す、もどす、へどつく。○〔漢〕「─泄霍亂之病相隨屬」。
㊁吐く聲。○〔山海經〕「溥魚一日其音如レ─」。
㊂毆に同じ、うつ。○〔史〕「良愕然欲レ─レ之」。

【歐】オウ、ウ。烏侯切 尤
㊀謳に同じ、うたふ。
㊁聲にいふ字。○〔魏〕「雞鳴──、明燈晢々」。
㊂人を刑するに用ふる刀、くびきりがたな。○〔後漢〕「寧伏二──刀一示二遠近一」。

【歑】コ、ク。虎胡切 虞
氣息を出だす、ふく、いきつく。

【⿰婁欠】ロウ、ル。盧侯切 宥
─⿰豆欠は、小兒の凶惡なるを。

【⿰叕欠】サイ、又快セ。切 卦 シ。測紀切 紙
⿰叕欠に同じ。

【⿰叕欠】セツ、セチ。姝悅切 屑
歠に同じ。

【歒】テキ、チヤク。他歷切 錫
─欷は、小人の喜び笑ふ貌にいふ語。

【⿺辶欠】イウ、ウ。與糾切 有
言ふ、かたる。

【歈】古文の歈の字。

【歈】トウ、ヅ。徒樓切 尤
動─は、うた（歌）。

十二畫

【歔】キョ、コ。朽居切 魚
㊀懼るゝ貌にいふ字。○〔屈平〕「曾──欷余鬱邑兮」。
㊁すゝりなく、むせびなく、なげく（欷）。○〔東方朔〕「泣──欷而霑レ衿」。
㊂鼻より氣を出だすを、はないき。○〔老〕「或─或吹」。
（欷歔）むせびなく、すゝりなく、なげく。○〔韓詩外傳〕「孟嘗──就レ之」。
（歔歔）はないきのさかんにいづると。○〔韓愈〕「神靈日──」。

【⿰黑欠】コク。呼勒切 職
しはぶき（咳）、一說に、唾する聲にいふ字。

【⿰黑欠】ボク、モク。密北切 職
嘿に同じ、しづか（靜）。

【歕】ホン。普魂切 元 普悶切 願
氣を盛んにして疾く吹く、吹き出だし散らす、ふく。○〔班固〕「歕レ野─レ山」。

【歖】古文の喜の字。

【歖】キ。虛其切 支
卒かに喜ぶ、よろこぶ。

【⿰壴欠】イ。隱几切 紙
─歔は、驢鳴く、いなゝく。

【歗】セウ。蘇弔切 嘯
嘯に同じ、うそぶく。○〔詩〕「條其ー矣」。

【歘】欻の本字。○〔六書故〕「氣翕ー如レ炎」。

【斯欠】シ。山宜切 支
嘶く聲。

【歙】キフ、許及コフ。切 緝 セフ。書涉切 葉
㊀鼻口を縮む、ちゞむ。○〔論衡〕「動ニ搖其舌一、張ニー其舌一」。
㊁氣を體內にをさめ入る、をさめ入るゝ氣に連れて物をさめ入る、すふ。○〔風俗通〕「舉レ觥彊ー」。
㊂翕に同じ。○〔漢〕「郡中ー然」。
㊃脅に通じ用ふ、そびやかす。○〔張衡〕「我不レ忍ニ以ーレ肩」。
〔翕歙〕林木の鼓り動く聲にいふ語。○〔司馬相如〕「蘭苙ーー」。「ー、各有ニ經紀一」。
〔張歙〕いきをはくと吸ひこむと。○〔淮〕「開閉ー」

【歙】ケフ。虛涉切 葉
懼るゝ貌にいふ字。

【歗】セウ。子肖切 嘯
醻に同じ。

十二畫

【歛】カン、呼濫コン。切 勘 呼甘切 覃 丘凡切 咸
戯れて物を乞ふ、こふ、むさぼる。

【歔】キ、ギ。虛宜切 支
相笑ふ、わらふ。

【歲欠】エツ、エチ。於月切 月
欸に同じ。

【嗇欠】ショク、シキ。所力切 職
悲しむ意、一說に、小しく怖る、おづ。

【歒】ケキ、キヤク。許壁切 錫 テイ、タイ。他計切 霽 天黎切 齊

【歜】ショク、ソク。尺玉切 沃
㊀唾する聲にいふ字。
㊁小しく笑ふ、わらふ。
氣を盛んにして怒る、いかる。

【歜】サン、ソン。徂感切 感
昌蒲の菹。○〔左〕「王使ニ周公閱來聘一、享有ニ昌ーー」。

十四畫

【㬎欠】ガフ、ゴフ。鄂合切 合
㬎ーは、癡かなる貌にいふ語。

【蒦欠】クワク、胡陌ギヤク。切 ワク。於伯切 陌
吐く聲にいふ字。

【翟欠】テキ、チヤク。丑歷切 錫 チヨク、チキ。竹力切 職
いたむ（痛）。

【歟】ヨ。以諸切 魚 余呂切 御
㊀氣緩くして安し。○〔漢〕「澹容ー歟ニ嘉鴨一」。
㊁語氣を緩くするに用ふる助字。○〔班固〕「猗ー緝・熙允懷ニ多福一」。
㊂か（語氣急迫ならざる場合に用ふ）。
（い）疑問の意を表すに用ふる字、や。○〔史〕「子非ニ三閭大夫一ー何故而至レ此」。
（ろ）推測の意を表すに用ふる字。○〔史〕「其達者ー」。
（は）斷定しがたき意を表すに用ふる字。○〔李華〕「秦ー漢ー將近代ー」。

十五畫

【歠】セツ、セチ。昌悅切 屑
㊀吸引して咽下す、大に飲む、のむ、すする。○〔禮〕「毋レー レ醢」。「ーニー」。
㊁すゝる物、のみもの。○〔戰〕「進ニ熱ー」。○〔禮〕「毋ニーー、毋ニ咤食一」。
〔流歠〕ながしこむが如くにすゝる。○〔禮〕「毋ニー」
〔大歠〕前に同じ。○〔七發〕「小飲ーー」。
〔餔歠〕くひのみ、又、其の物。○〔漢〕「涸ニ漁父之ーー一兮」。
〔淺歠〕前に同じ。○〔白居易〕「饑來恣ニーー一」。
〔飲歠〕前に同じ。○〔南唐〕「ーー之外」。
〔甘歠〕うましとし飲む、又、うまきのみもの。○〔虞集〕「大會具ニ土具一ーー」。

十六畫

【憂欠】イウ、ウ。於牛切 尤
なげく（慨）、一說に、むせぶ（咽）。○〔老〕「終日號而不レー」。

【蒜欠】ヤク、エキ。乙革切 陌
諡に同じ、氣の逆ふ聲。

【毚欠】サン、ゼン。士咸切 咸
わらふ（笑）。

十七畫

【䖒欠】キ。許羈切 支
㊀口に聲をなすこと。
㊁わらふ（笑）。

【嬰欠】エイ、ヤウ。於郢切 梗
怒れる氣。

【龍欠】シユク、子六ソク。切 屋 ー俗に歗に作る。
㊀歀ーは、口さ口さつきあふ、くちつく、一說に、氣を取る貌にいふ語。
㊁ー歀は、こゑ（聲）。

【龍欠】サフ、ソフ。子答切 合

【東欠】サフ、ソフ。作答切 合
前條の㊁に同じ。
なく（鳴）。

十八畫

【歡】クワン。呼官切 寒 ー又懽、驩に作る。
喜樂の心聲氣に動き見はる、よろこぶ、たのしむ。○〔禮〕「欣喜ー愛」。
〔合歡〕（い）一種の木、梧桐に似たり枝葉繁たり互に相結ぶ、ねぶのき。○〔班固〕「後宮則有ニーー增成一」。
（ろ）一種の竹。○〔僧贊寧〕「雙梢竹出ニ九疑山一筍長獨莖、及レ生枝葉即分爲ニ両梢一、謂ニ之ーー竹一」。
（は）橘の一種。○〔廣〕「荊州江陵有ニーー橘一」。
（に）よろこびを共にすること。○〔禮〕「酒食者所ニ以ーーー也」。
〔結歡〕たがひによろこびあふこと。○〔任昉〕「ーー」。「三十載」。
〔極歡〕心のまゝにたのしむ。○〔史〕「日樂飲ーレー」。
〔竭歡〕前に同じ。○〔宋〕「率宇ーレー」。
〔割歡〕たのしみをへらす。○〔辨亡論〕「賢諸葛之言一、而ーニ情欲之ー一」。「增ニ新悲一」。
〔舊歡〕むかしのたのしみ。○〔潘岳〕「憶ニーーー兮」

〔承歡〕よろこばるゝこと。○〔白居易〕「二―侍宴一無二閑暇一」。
〔洽歡〕あまねくよろこぶこと。○〔史〕「皆―・―」。
〔樂歡〕たのしむ。○〔晉〕「恒恐兒輩覺二其―・―之趣一」。
〔侑歡〕よろこびの心をたすく。○〔唐〕「賜二金帛一「―レ―」。
〔齊歡〕等しくよろこぶ、又、よろこびの情を同じうすること。○〔陸機〕「曠世―レ―」。
〔强歡〕心中よろこばしからざるにしひてよろこぶふりすること。○〔新論〕「―・―者、雖レ笑不レ樂」。
〔至歡〕この上なきよろこび。○〔景福殿賦〕「集二華夏之―・―一」。
〔寓歡〕たのしみの情を他物によす。「―二―林・淑一」。○〔鶡子員〕
〔悲歡〕かなしみとよろこびと。○〔范成大〕「異鄉風物雜二―・―一」。
〔寂水歡〕貧しきくらしの中にありてたのしむ。○〔禮〕「啜レ―飮レ―盡レ―」。

【歠】　セウ。子肖切　嘯
釂醮に同じ、酒を盡くす、つくす。

【䫻】　エフ、オフ。於業切　葉
ところ、（取）。

【歙】　セフ、ソフ。尺涉切　葉
氣の動く貌にいふ字。

十九畫

【欒】　ラン、洛官切　寒　ケン。古倦切　霰
㊀あくびする貌にいふ字。
㊁心惑ひて悟らざる貌にいふ字。

止　部

【止】　シ・　諸市切　紙　〔說文〕象二艸木出有一レ址。
㊀下基、根幹、ね、もと、轉じて、あし、足趾。○〔儀〕「皆有レ枕北レ―」。
㊁とゞまる、とまる。
（い）をる、（處）。○〔詩〕「惟民所レ―」。○〔大〕「在レ―二於至善一」。
（ろ）をりて移らず。
（は）動かず。○〔莊〕「鑒二於―水一」。
（に）行かず、進まず、去らず。○〔左〕「我・馬還レ濘而―」。
（ほ）たちどまる、たゞずむ。○〔老〕「樂與レ餌過・客―」。
（へ）足る。○〔老〕「知レ―不レ殆」。
（と）宿す、やどる。○〔後漢〕「望レ門投―」。
（ち）至る。○〔詩〕「魯・侯戾―」。
（り）集まる。○〔詩〕「載飛載―」。
（ぬ）立ちて俟つ。○〔禮〕「雖レ―不レ意」。「壞一―焉」。
（る）敵に獲らる。○〔左〕「戰二於狐・
㊂とゞむ、とむ。
（い）とゞまらしむ、とまらしむ。○〔論〕「―二子・路一宿」。
（ろ）捕獲す、とらふ。○〔左〕「軨二秦・伯一將レ―レ之」。
（は）禁ず、制す。○〔呂氏春秋〕「靖・郭君不レ能レ―」。
㊃やむ。
（い）爲さず、行はず。○〔論〕「―吾―也」。
（ろ）畢はる、盡く。○〔史〕「寇・盜不レ爲二衰―一」。
（は）去る、廢たる。○〔呂氏春秋〕「疾乃―」。
（に）爲さしめず、行はしめず、畢ふ、盡くす、去る、廢つ。○〔陶潛〕「平・生不レ―レ酒」。
㊄容儀、擧動、かたちづくり、ふるまひ。○〔詩〕「人而無レ―」。
㊅禮儀、典則、のり。○〔班固〕「本二支乎三―・―一」。
㊆柷を鼓つ椎。○〔書〕「合レ―柷・敔」。
㊇助字。○〔詩〕「百・室盈―、婦・子寧―」。
㊈たゞ、たゞに、（啻）。○〔莊〕「―可二以一・宿一」。
〔終止〕をはり息む。○〔鮑照〕「談・調何―・―」。
〔泣止〕來たり臨む。○〔詩〕「方・叔―・―」。「旂二。
〔戾止〕前に同じ。○〔詩〕「魯侯―・―、言觀二其旂一」。
〔仰止〕あをのき見る。○〔詩〕「高・山―・―」。
〔行止〕あゆむととゞまると、即ち、ふるまひにいふ語。○〔班彪〕「―・―屈・伸與レ時息兮」。
〔勤止〕事にいそしむ。○〔詩〕「文・王既―・―」。
〔敬止〕つゝしみてとゞまるべき所に安んじて妄に求めぬ。○〔詩〕「於緝・熙―・―」。
〔勞止〕骨折れつかる。○〔詩〕「民亦―・―」。
〔容止〕かたちづくり、ふるまひ。○〔孝〕「―・―可レ觀」。
〔禁止〕（い）いましむれば惡しきことをなすものなし。○〔魏〕「令・行―・―」。（ろ）いましめて爲さゞらしむ。○〔唐〕「仁・傑一二―・―」。
〔擧止〕ふるまひ。○〔後漢〕「觀二其言・語―・―一非二庸・人一也」。
〔衰止〕勢なくなる。○〔世說〕「言・論自レ此―・―」。
〔定止〕きまり。○〔李白〕「翻・覆無二―・―一」。
〔歸止〕（い）とゞまる所に歸着す。○〔易、疏〕「行而反・復則―レ―」。（ろ）かへり至る。○〔高士傳〕「客・作將レ終、固迎二―・―一」。
〔畜止〕とゞまる。○〔易、疏〕「唯能―・―」。
〔懲止〕抑へやむ。○〔易、疏〕「―二―忿・怒一」。
〔鎭止〕推ししづむ。○〔易、疏〕「直置二一・山一、已能―・―」。「―・―之義」。
〔節止〕制限をなす。○〔易、疏〕「節者制・度之名、節・止之義」。
〔動止〕うごくととゞまると、即ちふるまひにいふ語。○〔南〕「凡―・―施・爲、及書・翰儀禮後・人皆依二放之一」。
〔攸止〕生ひしげる。○〔詩〕「桼・稷―・―」。
〔寧止〕おちつく。○〔蔡邕〕「猶且踟・踏、無二心―・―一」。
〔至止〕來たり臨む。○〔詩〕「君・子―・―」。
〔草止〕野宿す。○〔周、註〕「軍有二―・―之法一」。
〔次止〕やどりをなすこと。○〔易林〕「―・―結・盟、以成二霸・功一」。
〔依止〕たのみとしとゞまる。○〔周、註〕「山・川蓋軍之所二―・―一」。
〔休止〕休息といふに同じ。○〔易林〕「兵・革―・―」。
〔憩止〕前に同じ。○〔晉〕「每所二―・―一、新・來之事、不レ累二主人一、皆自贍・給」。
〔呵止〕叱りとゞむ。○〔史〕「霸・陵尉醉―二―廣一」。
〔進止〕ふるまひ。○〔後〕「―・―雍・容、甚可レ觀也」。
〔居止〕定まりてをること。○〔南〕「未レ有二―・―一」。
〔息止〕やみて起こらぬ。○〔北〕「奸・劫―・―」。
〔遮止〕中を隔てゝくひとむ。○〔隋〕「上遊レ之而出、威又―・―」。
〔儀止〕行儀。○〔唐〕「嘉・貞―・―秀・偉、奏・對偘・偘」。
〔萃止〕集まり來たる。○〔宋〕「嘉・祥―・―」。
〔諧止〕調子よくあふ。○〔金〕「樂亦―・―」。
〔臨止〕來たり至る。○〔元〕「上・帝―・―」。
〔和止〕やはらぎて戾らぬ。○〔李尤〕「條・暢―・―、樂而不レ淫」。
〔中止〕半途にしてやむ。○〔鮑照〕「將レ興―・―」。
〔制止〕おさへとゞむ。○〔釋〕「西方義・氣有レ所二―・―一也」。
〔諫止〕いさめとゞむ。○〔諸葛亮〕「數有二―・―一」。
〔旋止〕歸り來たる。○〔曹植〕「今我―・―」。
〔退止〕あとじさりしとゞまる。○〔陸機〕「若レ知レ險而―・―」。
〔閑止〕物しづかにす。○〔陶潛〕「逍・遙自―・―」。
〔歆止〕人よりの供へ物を享く。○〔謝莊〕「神其―・―」。
〔住止〕すまひす。○〔陶弘景〕「隱・居―・―」。
〔棲止〕すまひをる。○〔李頻〕「昔同―・―地」。

【少】　タツ、ダチ。他達切　曷
ふむ、（蹈）。

一畫

【正】　セイ、之盛切　シヤウ。切　敬　〔說文〕从レ止、一以止。
㊀たゞし。
（い）偏倚なし。○〔公羊〕「君・子大居レ―」。
（ろ）備はれり、不足なし。○〔書〕「咸以―罔レ鈌」。
（は）亂れず。○〔詩、疏〕「朝・廷自・然嚴・―」。

(に)平かなり。○〔屈平〕「指二九-天一以爲レ一」。
(ほ)直し。○〔周〕「上三一」。
(へ)邪ならず。○〔史〕「堅-直廉-一」。
(と)眞なり、まさし。○〔北〕「眞-一者少」。
㊁たゞしき事、たゞしき道。○〔孟〕「以レ順爲レ一妾-婦之道也」。
㊂標準、のり。○〔書〕「所レ取レ一」。
㊃方形、志かく、ましかく、かく、けた。○〔屈平〕「不レ量レ鑿而一レ枘兮」。
㊄中極、まなか、なか。○〔詩、箋〕「乃四-方之中-一也」。
㊅たゞす。
(い)たゞしからしむ、たゞしくす。○〔易〕「各一二性-命一」。
(ろ)決定す、きむ、さだむ。○〔詩〕「維龜一レ之」。
(は)罪を治む。○〔周〕「賊二殺其親一則一レ之」。
(に)是非を問ふ。○〔論〕「就二有-道一而一」。
(ほ)蠲め辨ふ。○〔論〕「必也一レ名乎」。
㊆物に託したる訓戒、又、單に訓戒。○〔儀〕「父戒レ女必有レ一」。
㊇たゞしき人、賢者。○〔書〕「昔先一-一保-衡」。
㊈令長、かしら、をさ。○〔左〕「翼二九-宗五一-一」。
㊉嫡長、そうりやう。○〔穀梁〕「諸-侯與レ一而不レ與レ賢也」。
⑪主任、つかさ。○〔左〕「木一-一曰二句-芒一、火一-一曰二祝-融一」。
⑫つれ。
(い)あたりまへのたゞしきこと。○〔張-符經〕「用レ兵之術百-數、其要在二奇-一權-謀一」。
(ろ)平凡、なみ。○〔書〕「凡厥一-人」。
⑬朼もて載す、のす。○〔周〕「大-祭-祀一二六-牲之體一」。

⑭預め期す。○〔孟〕「必有レ事而勿レ一」。
⑮政に通じ用ふ。○〔禮〕「仲-春班二馬-一一」。
⑯天子に朝して政教を受くること。○〔左〕「昔諸-侯朝二一於王一」。
⑰たゞしく、まさしく、まさに。○〔史〕「一中二其心一」。

〔中正〕偏倚せざること、なかなること、方直にして曲がらざること。○〔禮〕「言必先信、行必一-一」。
〔夏正〕夏の時代に用ひたりし暦のこと。○〔書〕「爰革二一-一一」。
〔釐正〕たゞしをさめて道にかなはしむ。○〔後漢〕「慨然有レ一二一天-下一之志一」。
〔反正〕もとのたゞしきに立ちかへる、又、もとのたゞしきにかへす。○〔詩、序〕「美レ一レ一刺二淫-佚一也」。
〔勁正〕硬直にして曲がりたる所なし。○〔禮〕「廉直一-一莊-誠之音作、而民肅-敬」。
〔酒正〕酒にかゝはる事務を掌る官の名。○〔周〕「一-一掌二酒之政-令一、以二式-法一授二酒-材一」。
〔農正〕稼穡にかゝはる事務を掌る官の名。○〔左〕「九-扈爲二農-正一」。
〔經正〕常の道たゞしくあり、又、つねの道。○〔孟〕「一-一則庶-民興」。
〔方正〕方直にして曲がりたる所なし。○〔史〕「招二一-一賢-良文-學之士一」。
〔端正〕前に同じ。○〔漢〕「其資-性一-一如レ此」。
〔是正〕たゞし、たゞす。○〔後漢〕「詔二五-經博-士一二一-一文-字一」。
〔糾正〕たゞす。○〔晉〕「多レ所二一-一、朝-廷憚レ之」。
〔彊正〕勉め勵みて邪ならず、又、つとめたゞす。○〔晉〕「衛少立二操-行一、一-一方-嚴」。
〔持正〕たゞしき道を執り守る。○〔晉〕「三-人齊レ位、足レ相二一-一一」。
〔矯正〕邪曲なるものをたゞしなほす。○〔南〕「隨レ方一-一」。
〔鯁正〕剛直にして邪ならず。○〔北〕「一-一有二器-局一」。
〔嚴正〕嚴厲にして邪ならず。○〔唐〕「疾二一-一一弗レ甚用一」。
〔幹正〕甘の事を能くして道に協はしむ。○〔易、疏〕「何以一二一-一於物一」。
〔守正〕邪曲ならざることを固く執り持つ。○〔易、註〕「修レ仁一レ一、久必悔消」。
〔貞正〕堅固にたゞしくあり。○〔後漢〕「志-操淸-白一-一愛二士大夫一」。

〔繩正〕曲がれるものをたゞして道に歸せしむ。○〔後漢〕「一二一部-郡一、風-威大行」。
〔釐正〕秩序を立て、惡しき所なからしむ。○〔詩、正義序〕「先君宣-父、一二一遺-文一」。
〔齊正〕とゝのへたゞす。○〔詩、疏〕「一二一萬-方一」。
〔忠正〕誠實にして邪曲ならず。○〔詩、箋〕「朝無二一-一之臣一」。
〔切正〕互に研究して惡しき所をなほす。○〔詩、箋〕「猶以二道-德一相一-一也」。
〔規正〕たゞしなほす。○〔詩、箋〕「猶以二眞-德一相一-一」。
〔平正〕たゞし。○〔漢〕「立レ法若レ此可レ謂二一-一之吏一矣」。
〔諫正〕忠告して惡しきことをなほす。○〔漢〕「唐-林數上-疏一-一、有二忠直節一」。
〔庶正〕もろもろの官人のかしら。○〔詩〕「鞫哉一-一、疚哉冢-宰」。
〔順正〕すなほにして邪曲ならず。○〔禮〕「皆由二一-一以行二其義一」。
〔改正〕更めなほす。○〔南〕「徐令二一-一一」。
〔詳正〕(い)精密にして邪曲ならず。○〔禮、序〕「章-句一-一、微-稍繁-廣」。
(ろ)細密に調べたゞす。○〔唐〕「性明-恕、一-一二大-獄一、活二無-罪者數-百-人一」。
〔飭正〕謹みて邪曲ならず、又、とゝのへたゞす。○〔禮、疏〕「當二敬而又敬、必使二一-一一」。
〔公正〕私なくして邪曲ならず。○〔後漢〕「迹因二一-一、恩固二主-心一」。
〔考正〕調べて惡しきところをなほす。○〔南〕「一二一同-異一爲二一-家之書一」。
〔準正〕一定のかたにあて、調べたゞす、又、のり。○〔晉〕「一二一三-辰一、則懸-象無レ所レ容二其謬一」。
〔修正〕をさめてたゞし。○〔漢〕「行-義一-一」。
〔化正〕こしらへなほす。○〔漢〕「一二一天-下一」。
〔繕正〕本を尋ねてたゞす。○〔漢〕「一二一律-曆一」。
〔雅正〕誤謬あらず。○〔後漢〕「參二稽六-經一、近二于一-一一」。
〔胥正〕たゞす。○〔後漢〕「一二一大-義一」。
〔軍正〕いくさにかゝはる事を掌る官の名。○〔列〕「王悅レ之以爲二一-一一」。
〔沈正〕着實にして邪枉ならず。○〔後漢〕「以二一-一見レ重二于世一」。
〔引正〕たゞしき道理を證據としひく。○〔後漢〕「愷-論-議一レ一、辭-氣高-雅」。

〔判正〕裁決すること。○〔後漢〕「其有二爭-訟一、輒求二一-一一」。
〔寒正〕直言して邪曲ならず。○〔北〕「外似二一-一一、內實諂諛」。
〔駁正〕是非を判別して惡しきところをなほす。○〔後漢〕「論二解經傳一、多レ所二一-一一」。
〔辨正〕判決してたゞしきに歸す。○〔後漢〕「數與二尙-書一、一二一疑-獄一」。
〔淸正〕廉潔にして邪曲ならず。○〔魏〕「其所二擧-用一皆一-一之士」。
〔革正〕改めなほす。○〔魏〕「不レ一二一法-度一」。
〔良正〕善にして邪曲ならず。○〔魏〕「性-質之士、服二其和-平一-一一」。
〔讜正〕直言して邪曲ならざるもの。○〔晉〕「容二納一-一一」。
〔執正〕邪曲ならざる道を固く守る。○〔南〕「一レ一不レ撓」。
〔飾正〕邪曲ならざるふりをつくろひかざる。○〔晉〕「莫レ不レ一二一於外一」。
〔斷正〕裁決して是非をあきらむ。○〔晉〕「凡一二一臧-否一、宜レ先二稽之禮-律一」。
〔澄正〕淸くして邪曲ならず。○〔晉〕「風-俗一-一」。
〔檢正〕身にしまりありて邪曲ならず、又、とりしめたゞす。○〔晉〕「與雖レ無二一-一一而有二力-致一」。
〔過正〕たゞしき度に超ゆ。○〔晉〕「但矯レ枉一レ一」。
〔肅正〕嚴にして邪曲ならず。○〔南〕「端-右一-一」。
〔剛正〕强くして邪曲なし。○〔南〕「神-念性一-一」。
〔梗正〕前に同じ。○〔南〕「風-骨一-一」。
〔縝正〕詳密にして邪曲ならず。○〔北〕「風-度一-一而早卒」。
〔謹正〕愼み深くして邪曲ならず。○〔北〕「性一-一粗涉二書-史一」。
〔裨正〕たすけて惡しき所をなほす。○〔唐〕「多レ所二一-一一」。
〔讐正〕彼れと此れとを相對して善し惡しを見くらべてたゞしなほす。○〔唐〕「一-一至二萬-卷一」。
〔芟正〕あしきをかりとりてたゞしきに歸せしむ。○〔宋〕「載加二一-一一」。
〔鞫正〕曲直をしらべて裁決す。○〔宋〕「親往一-一」。

【正】セイ、シヤウ。之盈切 庚

㊀歲の第一の月。○〔春秋〕「春王一-一月」。

㊁室の明かなる方に向かふ處。○〔詩〕「噲々其ー」。
㊂射侯の中、ほし。○〔周〕「三侯五ー」。
㊃征に通じ用ふ、みつぎ。○〔周〕「司馬不レー」。

【此】ゲン、魚幻切　諫　カイ、古太切　泰

行く貌にいふ字、ありく、あゆむ。

二畫

【此】シ。雌氏切　紙

㊀最も近き物事を指すにいふ字、これ、この。○〔老〕「去レ彼取レー」。
㊁最も近き場所を指すにいふ字、ここ。○〔孟〕「於レー有レ入焉入則孝出則悌」。

〔彼此〕二者相對比していふ時に用ふる語。○〔舊唐〕「一ニーー于胸臆一」。
〔如此〕かく、かやうに。○〔晉〕「木猶ーレー」。

三畫

【⿰止凡】シン。思晉切　震

まつ（待）。

【歩】ホ、ブ。薄故切　遇

㊀あゆむ。
（い）徒行す、かちにてゆく、あるく。ありく、ゆく。○〔書〕「王朝ーレ自レ周」。
（ろ）輦に乘りて行く、てごしにてゆく。○〔韻會〕「世稱二輦車一曰二ー輦一、謂人荷而行不レ駕レ馬」。
（は）徐かに行く、おもむろにあるく、（はしるに對して）。○〔説苑〕「走者之速、ー者之遲」。
（に）跨がり濶く行く、おほあしにありく（こまたにありくに對して）。○〔莊〕「ー亦ー、趨亦趨」。
（ほ）進み行く。○〔傳燈錄〕「百尺竿頭須レ進ーー」。
㊁あゆます。
（い）あゆましむ、牽き行く。○〔禮〕「ー二路馬一必中道」。
（ろ）あしどりを調はす。○〔左〕「左師見二夫人ーレ馬」。
㊂あるくこと、あゆみ、あし。○〔南〕「ーー生二蓮華一也」。
㊃行爲、事業。○〔蜀〕「易レ跡更レー、古人不レ難レ追」。
㊄土地丈量の尺度の名目、或は六尺の長さ或は六尺四寸の長さ時代によりて不同なり、人の左右の足をあげてあゆみたる程の長さの義。○〔周〕「以二貍ー一張二三侯一」。
㊅爵を行る、さかづきをめぐらす。○〔禮〕「未レーレ爵未レ嘗レ羞」。
㊆師を行る。○〔左〕「寡君聞三吾子將レ師出二于敝邑一」。
㊇曆數を推測す、はかる。○〔後漢〕「受二河洛書及天文推ー之術一」。
㊈世に處す、事を爲す。○〔晉〕「匪三惟高二ー當年一、故以騰二華終古一」。
㊉水際、みぎは。○〔任昉〕「上虞縣有二石馳ー一、吳中有二瓜ーー一」。
⑪舟を繫ぎて陸に上下する處、はとば。○〔韓愈〕「蕃船至二泊ーー一、有二下碇之稅一」。
⑫曲調なく徒らに鼓を擊つこと。○〔爾〕「徒擊レ鼓謂二之ーー一」。
⑬栽害を爲す神。○〔周、疏〕「玄冥之ー、人鬼之ー」。
⑭機運、めぐり、まはりあはせ。○〔詩〕「國ーー蔑レ資」。
⑮踐祚、卽位。○〔國〕「改レ玉改レー」。
⑯かちあるきの兵卒。○〔梁〕「各領二騎ー一」。

〔徒歩〕（い）かちにてあるく。○〔戰〕「匹夫ーーー而處二農畝一」。（ろ）匹夫はかちにてあくることより轉じて匹夫のことゝろにいふ。○〔漢〕「超二ーー一數年至二宰相一」。
〔推歩〕順に數へ行く、推算といふに同じ。○〔書、疏〕「命二義和一、以二其算術ーー一」。
〔天歩〕天のめぐりあはせ。○〔詩〕「ーーー艱難」。
〔國歩〕國家の氣運。○〔隋〕「ーーー維寧」。
〔安歩〕しづかにあゆむ。○〔宋〕「騏驥之蹋躅、不レ如二駑馬之ーーー一」。
〔獨歩〕（い）連れだつ者なくしてあゆむ。○〔漢〕「便衣ーーー出レ營」。（ろ）人才の勝れ出でて他にならぶものなきにいふ語。○〔梁〕「今日可レ謂二近世ーーー一」。
〔跬歩〕半足のあゆみ。○〔漢〕「進不二ーーー一、退失二「伺匐而返」。
北狹一」。
〔故歩〕もとのあるき方。○〔後漢〕「失二其ーーー一、「ーレー非レ工」。
〔學歩〕あゆむことを習ふ、人眞似をなす。○〔李邵〕
〔虎歩〕（い）あゆみ方のたけくあること、すゝむさまの堂々たること。○〔陸機〕「ーニー原濕一」。（ろ）強き勢力を持して一方に雄視すること。○〔魏〕「ーニー關右一」。
〔微歩〕ひそかにあるく。○〔南〕「晏ーーー詣レ謝議」。
〔緩歩〕ゆるやかにあゆむ。○〔宋〕「玉趾ーーー」。
〔進歩〕足をすゝめ行く、又、すゝむ。○〔宋〕「舞者ーーー、自レ南而北」。「ーーー也」。
〔咫歩〕僅かばかりのあゆみ。○〔列〕「猶二人之行二ーー一」。
〔窘歩〕あゆみに苦しむ。○〔顏延之〕「ーー悵二先迷一」。「ー逐二芳風一」。
〔輕歩〕足のはこびをかろくしあゆむ。○〔鮑照〕「ーー一登二金闕一」。
〔飛歩〕足をはやめてあゆむ。○〔郭璞〕「ーー一登二金闕一」。「習一」。
〔濶歩〕大あしにあゆむ。○〔虞世基〕「ーーー入二紫闥一」。
〔桀歩〕蟹の別名。○〔備要〕「蟹名二ーーー一」。
〔躧歩〕舞の足のはこび。○〔魏都賦〕「邯鄲ーーー、趙之鳴瑟」。
〔閒歩〕しづかにあゆむ。○〔孫綽〕「ーニー于林野一、則寥落之言興」。
〔玉歩〕婦人のあゆみにいふ語。○〔李遠〕「ーーー重々上二荷梯一」。「逐二風吹一」。
〔弱歩〕なよやかなるあゆみ。○〔梁簡文帝〕「ーーー」。
〔蹋歩〕せぐくまりあゆむ。○〔王昌齡〕「元子仍ーー」。「屈一」。
〔蹇歩〕あしなへのあゆみ。○〔王維〕「ーーー守二窮一」。
〔留歩〕足をとゞめてあゆむことをせぬ。○〔陸華〕「ーーー」、「ー背二餘影一」。
〔遠歩〕遙かなる處にまで行く。○〔杜甫〕「恐レ霊同行ー」。
〔行歩〕あるく。○〔晉〕「ーーー則有二環珮之聲一」。
〔馬歩〕馬に災害を加ふる神。○〔周〕「冬祭二ーーー一」。
〔疾歩〕はやくあゆむ。○〔史〕「ー　ー致環」。
〔坦歩〕平かにあゆむ。○〔陳後主〕「ーーー今有レ儀」。
〔促歩〕せまりあゆむ、こまたにあゆむ。○〔齊民要術〕「令三ーーー以レ足踏二壠底一」。「不レ容二」。
〔捷歩〕はやくあゆむ。○〔後漢〕「ーニー深林一、尚」。
〔單歩〕舟車の力をからずかちにてありく。○〔後漢、註〕「休暇常ーーー荷擔上下」。
〔健歩〕すこやかにあゆむ。○〔韓偓〕「一點心隨二ーーー歸一」。「表一」。
〔游歩〕あそびあるく。○〔孫綽〕「ーニー三界之」。
〔水歩〕水軍と歩兵と。○〔吳〕「ーーー八十萬」。
〔舩歩〕前に同じ。○〔吳〕「ーーー兵數十萬」。
〔超歩〕飛びこゆ。○〔雲笈七籤〕「ーーー登二香門一」。
〔顧歩〕左右をふりかへりみながらあゆむ。○〔陸機〕「ーーー咸可レ觀」。
〔乘歩〕あたりまへなれば多くの時を要するをいそぎあるきて少き時の間にて行く。○〔晉書載記〕「ーレー而來」。
〔武歩〕僅かばかりのあゆみ。○〔北〕「但一日千里必基二ーーー一」。「ー」。
〔失歩〕あゆみをたがはす。○〔隋〕「入二邯鄲一而ーレ」。
〔識歩〕未來を知る術。○〔唐〕「定二ーーー秘策一」。
〔遐歩〕いそぎてあゆむ。○〔唐〕「師德蹇躄、碩不レ能二ーーー一」。「ーニー門外一」。
〔散歩〕さまよひあるく、ぶらぶらあるき。○〔金〕
〔馳歩〕走り行く。○〔徐陵〕「負レ鼎ーーー」。
〔治歩〕しなやかなるあゆみ。○〔馬融〕「從容ーーー」。
〔騁歩〕馳せ行く。○〔蔡邕〕「體趨迅以ーーー」。
〔靜歩〕しづかにあゆみゆく。○〔七啓〕「遺二芳烈一而ーーー」。「珠」。
〔趨歩〕小足にはしり行く。○〔王儉〕「ーーー明月

(考歩)　調べて數へくる。○(挚虞)「一ニ一兩儀一、則天地無レ所レ隱ニ其情一」。
(仙歩)　やまびとのあゆみ。○(李嶠)「密雨迎ニ一一」。
(却歩)　あとしざりあるく。○(張載)「此猶ニ一一而登ニ山」。「廷二」。
(俯歩)　うつぶきて行く。○(庾闡)「一一朝ニ廣一。
(駐歩)　足を留どむ。○(晉)「逢人一レ一看」。
(止歩)　前に同じ。○(沈約)「一レ一凝レ思」。
(舒歩)　足ゆるやかに行く。○(鮑照)「値レ夷一一」。
(妍歩)　婦人のうつくしきあゆみ。○(齊後舞階歩歌)「一一恂々」。
(巧歩)　上手にあゆむ。○(梁簡文帝)「疾趨一一」。
(移歩)　足をはこぶ。○(唐)「一レ一出ニ詞林一」。
(登歩)　升り行く。○(王勃)「一ニ一大階一列ニ千門一而有レ閲」。「江頭」。
(寸歩)　(い)すこしづつあゆむ。○(杜甫)「一一曲、(ろ)すこしのあゆみ。○(韓愈)「一一不レ能ニ自致一」。「爭看」。
(放歩)　氣まゝにあるく。○(朱熹)「出レ門一一人
(縱歩)　前に同じ。○(柳宗元)「指ニ渟-茫一以一一」。
(蹇歩)　ゐざりあるく。○(柳宗元)「蹇レ躬一一」。
(蓮歩)　婦人のあゆみのたをやかなるにいふ語。○(孔平仲)「一一隨レ歌轉」。
(邯鄲學歩)　學ぶと、眞似すると、又、學び眞似て成らざるとにいふ語。○(漢)「壽陵餘子有ニ學ニ歩于邯鄲一者上、未レ得ニ其髣髴一失ニ其故步一匍匐而返」。
(龍行虎步)　行止に天子の相ありて威儀堂々たるとにいふ語。○(南)「一一一一視瞻不レ凡」。

【𣥐】　バウ、マウ。武放切　漾
京にある谷。

【𣥋】　フ。方武切　麌
にる(煑)。

四畫

【歬】　セン、ゼン。昨先切　先
行歩せずして進む。

【武】　ブ、ム。文甫切　麌
㊀たけし、つよし。
(い)剛毅なり、果斷なり、怯懦ならず、勇氣多し、威力多し。○[書]「允文允一」。
(ろ)筋肉の力多し、兵器を使ふに長ぜり。○[魏]「乃舞ニ手-戟于庭一踰レ垣而出、材一過レ人莫ニ能害一」。
(は)軍事に關する伎能多し、敵を敗るに巧みなり。○[史]「以ニ高-帝賢-一、然尙困ニ於平-城一」。
㊁威力、威德、いきほひ。○[淮]「爲レ墮レ一也」。
㊂兵威、軍勢。○[左]「非ニ敢耀レ一也」。
㊃兵事に關する方術、戰鬪にかゝる準備。○[禮]「乃命ニ將-帥一、講レ一習ニ射-御一」。
㊄軍用、兵事。○[史]「維-陽有ニ一-庫敖-倉一」。
㊅軍人、戰士、勇者、猛卒、ものゝふ、ますらを、つはもの。○[淮]「爲ニ天-下顯一一」。
㊆周の舞樂の一、周王發の殷に克ちたりし時に作りたるもの。○[晉]「列ニ四-懸一奏ニ韶-一一」。
㊇金屬の樂器、卽ち、鐘など干戈殺伐の象ありさなすもの。○[禮]「始奏以レ文、復亂以レ一」。
㊈他に服從せざるを、人を陵ぎ侵すと。○[老]「善爲レ士者不レ一」。
㊉あと。
(い)足跡、あしあと。○[禮]「堂-上接レ一」。
(ろ)遺業。○[詩]「繩ニ其祖一一」。
⑪つぐ(繼)。○[詩]「下-一惟周」。
⑫冠に卷き附くるもの。○[禮]「居-冠屬レ一」。
⑬半步の長さ。○[國]「不レ過ニ步一尺-寸之間一」。
⑭珷に同じ、玉に似たる一種の石。○[史]「瑞石一夫」。
(神武)　はなはだすぐれてたけきと。○(漢)「聰-明一一」。
(靈武)　前に同じ。○(宋)「奮ニ其一一」。
(聖武)　完全なる德を備へすぐれてたけきと。○(書)「布ニ昭一一」。「文」。
(偃武)　軍事をやすめて用ひぬ。○(書)「乃一レ一修レ文」。
(威武)　たけきと、いきほひ。○(後漢)「王-莽驅ニ猛-獸虎豹犀象之屬一以助ニ一一」。
(校武)　武藝をくらべまなぶ。○(揚雄)「一レ一票レ禽」。「力」。
(剛武)　たけきと。○(漢)「故其俗一一上ニ氣-力」。
(勇武)　前に同じ。○(易林)「一一敵敵」。
(壯武)　前に同じ。○(魏)「韋旣一一」。
(驍武)　前に同じ。○(晉)「一一善ニ騎-射一」。
(雄武)　前に同じ。○(晉)「一一之量不レ足」。
(健武)　前に同じ。○(宋)「挾ニ其一一」。
(毅武)　前に同じ。○(枚乘七發)「一一孔猛」。
(尙武)　たけき德をたふとぶ。○(杜甫)「此邦今一レ一乎」。
(經武)　兵備ををさむ。○(左)「子姑整レ軍而一レ一」。
(覿武)　たけき德を他にしめすと。○(國)「一レ一無レ烈」。「一于外一」。
(振武)　たけき力をふるひあらはす。○(國)「而後一ニ一」。○(史)「尹-齊者張-湯數稱以爲ニ一一」。
(厲武)　慾すくなく正直にしてたけし。○(史)「尹-齊…」
(黷武)　たけき德をくちきけがすと。○(後漢)「慮患ニ其一レ一」。
(閱武)　軍隊をして戰鬪の狀などをせしめ用ふべきかいなをえらぶ。○(晉)「時彌-場一レ一」。
(英武)　いたくすぐれてたけし。○(唐)「聰-明一一」。
(雋武)　前に同じ。○(陸雲)「烈-文一一」。
(烈武)　はげしき武勇。○(陸雲)「我有ニ一一」。
(肆武)　武術を習ふ。○(宋)「上方銳志一レ一」。
(抑武)　たけき德の隆盛にすぎざるやうにおさへとどむ。○(李尤)「一レ一揚レ文」。
(整武)　いくさの備へををさめとゝのふ。○(楊雄)「一レ一齊レ文」。「一一」。
(豪武)　いたく強し。○(殷賈)「傾レ城來看誇ニ一一」。

【歧】　キ、ギ。巨支切　支
㊀跂に同じ、足の指多し。「一一」。
㊁二達、ふたまた。○[後漢]「麥-穗兩-一」。
㊂二達の路、ふたまたみち、えだみち、○[鮑明遠]「臨レ一矩-步」。○[潘岳]「翩-々一一」。
㊃飛び行く貌にいふ字。
(他歧)　はかのえたみち。○(韓愈)「通塗無ニ一一」。「于一一」。
(險歧)　けはしきえだみち。○(蜀都賦)「蠶-祖假ニ道一一」。
(岐歧)　ゐなかのえだみち。○(李白)「逝-將出ニ一一」。
(橫歧)　よこのえだみち。○(王褒)「一一數路分」。

【𣥠】　キ、ギ。具支切　支
えだみち(岐路)。

【歨】
少に同じ、ふむ(蹈)。

【𣥖】　カウ。古康切　陽
怏一一は、賴みなし。

五畫

【歪】　ワイ、エ。烏乖切　佳
正しからず、ゆがむ。

【距】　キョ、コ。其呂切　語
㊀とゞむ(止)。㊁つく(搶)。
㊂たがふ(違)。㊃もどる(戾)。
㊄距に同じ、至る。○[揚雄]「騰ニ空-虛一ニ連-卷一」。
(超距)　雨にて地を搶き撞つ。

【𣦸】　ヒ。被義切　寘
おほふ(被)。

六畫

【跟】　コン。古痕切　元
跟に同じ、足の踵、くびす、きびす。

【峙】チ、ヂ、直离切 支 一通じて跱、踟に作る。
たちもとほる、ためらふ、(躇)。

【跱】チ、ヂ。直里切 紙
峙に同じ、そなふ。

【跂】シ。津私切 支
形狀の乖き劣れること。○〔王延壽〕「䀹瞷而跂ー」。

七畫

【𣥭】ト、ヅ。同都切 虞
とゞまる、(止)。

八畫

【踧】シユク、ソク。昌六切 屋
いたる、(至)。

【歸】籀文の歸の字。

【踤】スヰ。疾醉切 寘
㊀まつ、(待)。㊁とゞまる、(止)。

【䟫】タウ、チヤウ。丑庚切 庚
いたる、(距)。

【歨】シヤウ。齒兩切 養
ふむ、(蹋)。

【𣦃】シヤウ。式亮切 漾
たゞす、(正)。○〔周〕「維角ーレ之」。

【𣦄】チヨウ。丑拯切 迥
踜に同じ、とゞまる、(止)。

【齒】チヨ、ト。陟慮切 御
物を器に盛る。

【踏】タフ、ドフ。達合切 合
足あとの重なること。

【𣦏】セン。子善切 銑
齊しく斷つ、きる、たつ、そろふ。

九畫

【歰】シフ。色入切 緝
㊀しぶる。
(い)滑かならず、轉ずるに難む。○〔六書故〕「水涸行艱謂二之ー一」。
(ろ)どもる、(吃)。○〔揚雄〕「謰極吃也、楚語也、或謂二之軋一、或謂二之ー一」。
㊁食ふに舌しぶりて味苦し、しぶし。○〔六書故〕「味苦ー亦謂二之ー一」。

【踵】シヨウ、シユ。之隴切 腫
きびす、くびす、(跟)。

【歲】セイ、サイ。相銳切 霽
㊀とし。
(い)地球の太陽を一周する間、古昔支那にては、木星の軌道を十二次に分ち其の一次を行く間となせり。○〔易〕「寒暑相推而ー成」。
(ろ)穀成熟すること、みのり。○〔左〕「國人望レ君如レ望レー」。
(は)年齡、よはひ。○〔晉〕「同郡又同ー」。「以卒レー」。
(に)日月の經過、又、生涯。○〔詩〕何
(ほ)年限。○〔漢〕「滿レー稱レ職」。
(へ)とし每に、としごと。○〔後漢〕「必使二諸侯ー貢一」。
㊁十二年にして其の軌道を一周する星の名、もくせい。○〔史〕「ー星一曰二攝提一、曰二重華一」。

〔初歲〕臘日の翌日。○〔史〕「臘之明日爲二ー・ー一」。
〔獻歲〕正月元日の稱。○〔屈平〕「ー・ー發レ春」。
〔守歲〕除夜に眠らずして旦に達すること。○〔東京夢華錄〕「除夕夜士庶之家、圍レ爐團坐、達レ旦不レ寐、謂二之ー・ー一」。
〔分歲〕除夜に事を竣へて一家の私宴を開くこと。○〔風土記〕「除夜祭レ先、竣レ事、長幼聚飮、祝頌而散、謂二之ー・ー一」。
〔饋歲〕としの末に物を遺ること、〔別歲〕としの最末日に客を招きて宴を張ること。○〔蘇軾〕「蜀中値二歲晚一、相遺、謂二之ー・ー一、酒食相邀爲二ー・ー一」。
〔萬歲〕人の命運の長久ならんことをことほぐにいふ語。○〔漢〕「呼二ー・ー一者三」。
〔往歲〕いにし年。○〔王惲〕「兼毒逾二ー・ー一」。
〔樂歲〕五穀のよくみのりたる年。○〔孟〕「ー・ー終身飽」。
〔富歲〕前に同じ。○〔孟〕「ー・ー子弟多レ賴」。
〔凶歲〕饑饉水旱など災のありし年。○〔孟〕「ー・ー子弟多レ暴」。
〔太歲〕もくせい。○〔爾〕「ー・ー在レ甲日二閼逢一」。
〔寧歲〕平安なる年。○〔國〕「自二子之行一、晉無二ー・ー一」。「ー」。
〔累歲〕幾年もとしをかさぬ。○〔後漢〕「ー・ー大稔」。
〔弱歲〕年のわかきこと。○〔晉〕「景國ー・ー英奇」。
〔歷歲〕年を過ぎ去る、過ぎ來れる年。○〔宋〕「ーレー忽謝去」。「郊」。
〔迎歲〕來る年を待ち受く。○〔淮〕「以ー二ー於東郊一」。
〔宿歲〕暮れ行く年。○〔荊楚歲時記〕「謂二ー・ー之位一、以迎二新年一、相聚酣飮」。
〔首歲〕年の始め。○〔梁元帝〕「孟春曰二ー・ー一」。
〔開歲〕前に同じ。○〔謝靈運〕「ー・ー發レ春兮」。
〔發歲〕前に同じ。○〔楚辭〕「開春ーレー兮」。
〔芳歲〕春の候。○〔鮑照〕「ー・ー猶自可」。
〔游歲〕頻に饑饉する年。○〔王融〕「中産闕二ーー之資一」。
〔間歲〕一年づつ間をおく。○〔禮、註〕「ー・ー則考二學者之德行道藝一」。
〔來歲〕來年といふに同じ。○〔禮〕「以待二ー・ー之宜一」。
〔終歲〕一生涯。○〔白居易〕「ー・ー守二窮餓一、而無二嗟嘆聲一」。
〔職歲〕一年間の計算の事務を掌る官の名。○〔周〕「ー・ー上士四人、中士八人」。
〔朞歲〕一年間のこと。○〔宋〕「恐未レ能二ー・ー一」。
〔上歲〕よき年のこと。○〔漢〕「東北爲二ー・ー一」。
〔中歲〕吉凶の中間にある年。○〔漢〕「北方爲二ー・ー一」。「數有二軍旅一、ー」。
〔熟歲〕みのり、又、みのりよき年。○〔漢〕「亡二ー・ー一、」
〔穰歲〕前に同じ。○〔晉〕「國寶散二於ー・ー一」。
〔同歲〕よはひおなじくあり。○〔晉〕「倪與レ敏同郡又ー・ー」。
〔忌歲〕事を爲すに嫌ひ避くべき年。○〔晉〕「若有二忌月一當レ有二ー・ー一」。
〔年歲〕としのこと、周の世には年の字を用ひ夏の世には載の字を用ひたれども其の意は同じ。○〔晉〕「恐非二ー・ー可一レ除」。
〔淹歲〕永久なる年月。○〔晉〕「亡レ不二ー・ー一」。
〔千歲〕幾久しき年月のこと。○〔晉〕「ー・ー一時、爲レ得レ辭也」。
〔髫歲〕幼少の時。○〔北〕「ー・ー便有二成人之量一」。
〔晚歲〕老いたるよはひ。〔北〕「苟有二負田一、何憂二ー・ー一」。
〔閱歲〕一年を經過す。〔唐〕「ーレー遣二工部尙書一」。
〔近歲〕近年といふに同じ、今日を去ると遠からざる年。○〔歐陽修〕「客言ー・ー花特異」。
〔早歲〕若きよはひ。○〔蘇軾〕「ー・ー便懷二齊物志一」。
〔歉歲〕凶荒にあへる年、きゝんどし。○〔宋〕「豈使二民遇二豐年一而思二ー・ー一」。
〔善歲〕風雨順序を得、五穀豐熟したる年。○〔管〕「牧レ民者厚收二ー・ー一、以充二倉廩一」。
〔義歲〕前に同じ。○〔春秋繁露〕「故治世與二ー・ー一同レ數、亂世與二惡歲一同レ數」。
〔小歲〕臘の祭の翌日。○〔荊楚歲時記〕「過レ臘一日謂二之ー・ー一」。
〔儉歲〕五穀のみのらぬ年のこと。○〔水經、註〕「境無二ー・ー一」。
〔周歲〕全一年のこと。○〔全唐詩話〕「未二ー・ー一而易二好人所一レ殺」。
〔借歲〕年の過ぎ去るを殘りをしく思ふ。○〔全唐詩話〕「ーレー歲今宵」。
〔殘歲〕過ぎにし年。○〔括異志〕「ー・ー漁二書於湖中一獲二一鐵鏡一」。「校」。
〔比歲〕每年といふに同じ。○〔何承天〕「ー・ー考」

〔末歲〕 年のくれ。○〔阮籍〕「任ニ茲年之——ニ」。
〔暮歲〕 前に同じ。○〔白居易〕「——風動レ地」。
〔時歲〕 ときと年と。○〔潘岳〕「——忽其遒盡」。○
〔登歲〕 五穀のみのりたる年、又、よくみのること。
「陶潛〕「——之功、既不レ可レ希」。
〔曠歲〕 年月を空しくすごす。○〔陶潛〕「亦苦レ心而
——」。
〔嘉歲〕 よはりあはせよき年。○〔顏延之〕「息-徼報ニ
——ニ」。「經ニ
〔徂歲〕 過ぎ行く年。○〔謝靈運〕「眺ニ——之驟
〔齠歲〕 幼少なるとし。○〔權德輿〕「且喩——
秀-穎、好レ學不レ遷」。「——ニ。
〔遠歲〕 隔たりたる年月のこと。○〔江淹〕「風-流馨ニ於
〔歲歲〕 毎年といふに同じ、年ごと。○〔盧照鄰〕「年
々——一牀書」。
〔故歲〕 過ぎにし年。○〔秦知之〕「——雖-梁燕」。
〔去歲〕 去年といふに同じ、いにし年。○〔韋應物〕
「——出ニ京師ニ」。
〔豐歲〕 豐年といふに同じ、五穀のよくみのりたる年。
○〔白居易〕「——閱田閭ニ」。
〔荒歲〕 饑饉水旱の災のありし年。○〔鹽論〕「可レ憐
——青山下」。「戈-矛ニ。
〔連歲〕 何年も打ちつゞく。○〔王禹偁〕「——事ニ

【𡱝】 ヒヨク、ビキ。符逼切 職
さゞまろ、ざまろ、（止）。

【耆】 カフ、ケフ。古洽切 洽
さゞまろ、さまろ、（止）。

十畫

【𡴞】 キウ、ク。香幽切 尤
いこふ、やすらふ、（息）。

十一畫

【𡵄】 サク、ツヤク。助革切 陌
㊀さゝのふ、（齊）。㊁よし、（好）。
㊂たゞし、（正）。

十二畫

【歷】 レキ、リヤク。郎擊切 錫
㊀ふ。
（い）過ぐ。○〔書〕「多——ニ年-所ニ」。
（ろ）行く。○〔戰〕「橫ニ——天-下ニ」。
㊁こゆ、（踰）。○〔孟〕「不ニ——レ位而相與
言ニ」。「於庶-民ニ」。
㊂ついづ、（次）。○〔禮〕「——ニ卿大夫ニ至ニ
㊃つくす、（盡）。○〔漢〕「——ニ周-唐之所ヒ
進以爲レ法」。
㊄偏く、ことごとく。○〔書〕「——告ニ爾
百-姓于朕志ニ」。
㊅まじふ（錯）。○〔莊〕「交レ臂——レ指」。
㊆みだる、（亂）。○〔鮑照〕「黃-絲——亂
不レ可レ治」。
㊇まばら、（疎）。（〔宋玉〕「齞-脣——齒」。
㊈行列する貌にいふ字。○〔古樂府〕
「——種ニ白-楡ニ」。
㊉分明なる貌にいふ字。○〔搜神記〕
「前-世之事——可レ聞」。
㊉㊀釜鬲かま。○〔史〕「銅——爲レ棺」。
㊉㊁曆に同じ、こよみ。○〔漢〕「黃-帝造レ
——」。
㊉㊂靂に同じ。○〔漢〕「辟——夜明」。
㊉㊃櫪に同じ、れだ、又かひたけ。○
〔漢〕「伏レ——千-駟」。
〔寂歷〕 さびし。○〔李白〕「秋-氣方——」。
〔經歷〕 すぎたつ。○〔漢〕「——數-千-歲」。
〔更歷〕 其れよりそれへとかはりて事をすぐ。○〔漢〕
「——ニ五-郡ニ」。「三-臺ニ。
〔周歷〕 あまりすぐ、あまねくふ。○〔後漢〕「——
〔履歷〕 おこなひ來りたるあと。○〔封氏聞見記〕
「蒞-欲下諸ニ前政——、而發中將-來健羨上焉。
〔踐歷〕 前に同じ。○〔杜牧〕「——淸-顯」。
〔游歷〕 處々をあそびありくこと。○〔世說〕「凡所ニ——、
——、皆圖ニ之于室ニ」。
〔仕歷〕 官につかへて役々をふ。○〔晉〕「——ニ秦-王
文-學-太-子-洗-馬尙-書-郞ニ」。
〔涉歷〕 わたる。○〔鍾會〕「——ニ衆-書ニ」。
〔徧歷〕 あまねくわたる。○〔南〕「——三-墳ニ」。
〔踰歷〕 こゆ。○〔南〕「——ニ三-紀ニ」。
〔晉歷〕 人物の資格と經歷とのこと。○〔張九齡〕「——
淺者、更-府-員-能ニ」。
〔綿歷〕 ながくひきつゞくこと。○〔北〕「——七-百-
里」。「——淸-要ニ」。
〔累歷〕 其れよりそれとかさねすぐ。○〔舊唐〕「——ニ
〔閱歷〕 すぐ。○〔舊唐〕「——三-旬ニ」。
〔來歷〕 これまでにすぎきたりたるあと。○〔滄浪詩
話〕「用-事不ニ必拘ニ——ニ」。
〔蹟歷〕 みちのたひらかならざること。○〔司馬相如〕
「下ニ——之坻ニ」。
〔典歷〕 つかさどること。○〔陳琳〕「——ニ二-司ニ」。
〔覓歷〕 さがし求めてすぐ。○〔夏侯湛〕「——ニ——岡-
阜ニ」。
〔探歷〕 前に同じ。○〔駱賓王〕「林-泉恣ニ——ニ」。
〔淸歷〕 きれいにならぶ。○〔左思〕「口-齒自——」。
〔勤歷〕 つとめつゞく。○〔元稹〕「——ニ——歲-時ニ
〔覽歷〕 ながめすぐ。○〔李羣玉〕「吳-蜀縱ニ——ニ」。
〔行歷〕 ゆきこゆ。○〔陸游〕「——ニ茶-岡ニ到ニ藥-園ニ」。

【𡹙】 嶠に同じ。

【𡹬】 蹲に同じ。

十三畫

【𡻕】 躇に同じ。

【𡾓】 躄に同じ、あしなへ。

十四畫

【歸】 キ。居韋切 微
㊀かへる。
（い）もと出で來たりし所へ戻る。○
〔詩〕「薄言施——」。
（ろ）もと出で來たりし方へ去る。○
〔禮〕「使-者——則必拜送ニ于門-外ニ」。○
㊁かへす。「山之陽ニ」。
（い）かへらしむ。○〔書〕「——ニ馬于華-
（ろ）もと有せし人へもどす。○〔春
秋〕「齊人來——ニ鄆、讙、龜-陰田ニ」。
㊂物を他に與へやる、おくる。○〔論〕
「——ニ孔-子豚ニ」。「向」。
㊃おもむく、（趨）。○〔劇談錄〕「翕-然——
㊄よる、（依）。○〔詩〕「于レ我——處」。
㊅從附す、つく。○〔詩〕「豈-弟君-子民
之攸レ——」。
㊆さつぐ、（嫁）。○〔詩〕「之子于——」。
㊇己れをすてゝ他の所爲にまかす、ま
かす、ゆだぬ。○〔左〕「請——ニ死于司-
寇ニ」。
㊈くみす、（與）、ゆるす、（許）。○〔論〕「天-
下——レ仁焉」。
㊉あふ、（合）。○〔禮〕「私-惠不レ——レ德」。
㊉㊀をはる、（終）。○〔左〕「以レ貪——レ之」。
㊉㊁をさまる、（藏）。○〔易、傳〕「萬-物所レ
——也」。
㊉㊂趨指、むれ　おもむき。○〔易〕「殊レ
途而同レ——」。
〔姊歸〕 杜鵑の異名、はとゝぎす。
〔當歸〕 一種の藥草、やまぜり、一名、乾歸。○〔傳燈
錄〕「新-羅附-子蜀-地——」。
〔旋歸〕 かへる。○〔古詩〕「不レ如ニ早——ニ」。
〔懷歸〕 かへりたき心をいだく。○〔詩〕「豈不レ——
——」。「——ニ。
〔三歸〕 （い）三姓の女のとつげること。○〔論〕「管-氏有ニ
（ろ）佛法僧の三寶に依ること。○〔魏〕「其始修レ心則
依ニ佛法僧ニ、謂ニ之——ニ」。
〔凱歸〕 いくさにかちてかへる。○〔梁元帝〕「班レ師
——」。
〔逃歸〕 にげもどる。○〔左〕「爲レ質ニ於秦ニ將ニ——ニ」。
〔脫歸〕 前に同じ。○〔左ニ「畏ニ其衆ニ也乃——」。
〔遁歸〕 前に同じ。○〔後漢〕「乃輕-服——」。
〔望歸〕 かへることをねがふ。〔漢〕「日-夜企而——」。
〔空歸〕 得る所なくしてかへる。○〔後漢〕「白-首——
——」。
〔一歸〕 ひとたびかへる、又、歸着する所をおなじうす
ること。○〔演連珠〕「理之所レ極、卑高——」。

【𣦆】 キ。居胃切 未
きづつく、やぶる、（傷）。

十八畫

【歷】レキ、リヤク。郎狄切 〔錫〕
つむ（積）。

歹 部

【歺】歹に同じ。

【歹】タイ。多改切 〔賄〕
㊀さかしま、もとる、あし。○[集要]「悖レ德逆レ行曰レ歹」。
㊁なんぢ（女）、又、われ（我）。○[田汝成]「火徹紀聞」「南蠻稱レ人曰レ―、自稱亦曰レ―」。

一畫

【𣦵】ガツ、ガチ。牙葛切 〔曷〕
肉を剔り取りたるあとの殘骨、のこりのほね。

【𣦶】サツ、ザチ。才達切 〔曷〕

【𣦷】キヨウ。居陵切 〔蒸〕
肉殘れて殘れる骨、されぼれ。

【𣦸】𣦵に同じ。

二畫

【歽】キウ、ク。虛柳切 〔有〕
朽に同じ、くつ、くさる。○[列子]「楚南有二炎人之國一其親戚死―二其肉一而棄」。

【死】シ。息姊切 〔紙〕
㊀生命竭く、氣息絕ゆ、しぬ。○[五]「豹―留レ皮、人―留レ名」。
㊁特に天年を全うせずして壽命竭くること。○[左]「觸レ槐而―」。
㊂又特に、庶人の壽命竭くること。○[禮]「君子曰レ終、小人曰レ―」。
㊃生氣絕ゆること。○[莊]「心固可レ使レ如二―灰一乎」。
㊄感覺を失ふこと。○[杜甫]「手脚凍皴皮肉―」。
㊅枯るゝこと。○[漢]「桑穀―」。
㊆亡ぶること。○[孟]「―二於安樂一」。
㊇盡くること、絕ゆること。○[荀]「惡言―」。
㊈生命を奪ふ、殺す。○[國]「―生因二天地之刑一」。
〔緩死〕ころすべき者をゆるべて刑をかろくす。○[易]「中孚君子以議獄―レ―」。
〔佯死〕しにたるふりをなす。○[史]「臏――」。
〔輕死〕いのちをかろんじてしぬることを難しとせざること。○[後漢]「――重レ氣」。
〔重死〕みだりにいのちをすてぬ。○[荀]「――持レ義而不レ撓」。

【𣦹】死に同じ。

【𣦺】死に同じ。

【𣦻】ケツ、グワチ。居月切 〔月〕
みじかし（短）。

【𣦼】テン、デン。徒典切 〔銑〕
古文の殄の字。―稻は、おろかおひ、ひつぢ。○[齊民要術]「稅――稻今年死來年自生」。

【𣦽】サン、ザン。財干切 〔寒〕
殘ひ穿つ、ゑぐる。

三畫

【㱙】キウ、ク。許救切 〔宥〕
くさし（臭）。

【𣦾】テイ、タイ。他計切 〔霽〕
㊀つかる（極）。㊁あへぐ（喘）。

【𣦿】キツ、ゴチ。逆乙切 〔質〕
水の流るゝ貌にいふ字、ながる。

【𣧀】ケツ、ケチ。許劣切 〔屑〕
殘に同じ、つく。

四畫

【𣧒】セツ、セチ。之列切 〔屑〕
わかじに（夭死）。

【歾】ボツ、モチ。莫勃切 〔月〕
壽を終へて死ぬ、をはる。○[左]「楚王其不レ―乎」。

【𣧑】コツ、コチ。呼骨切 〔月〕
つく、つくす（盡）。○[揚雄]「誥二其節一執二其術一共所レ―」。

【𣧞】ブン、モン。武粉切 〔吻〕
刎に同じ。

【殁】古文の沒の字、しぬ。○[班固]「隕二―于齊一」。
〔殟殁〕舒緩なる貌にいふ語、ゆるやか。○[傅毅舞賦]「超趫鳥集、縱弛――」。
〔戰殁〕うちじにす。○[後漢]「會赤眉攻關城、況――」。

【𣧉】ヂウ、ニユ。女九切 〔有〕
勠―は、死なんと欲する貌にいふ語。

【𣧔】シ。資四切 〔寘〕
死にて復た生く、よみがへる。

【殀】エウ。於兆切 〔篠〕
㊀わかじに、短折。○[孟]「―壽不レ貳」。
㊁斷り殺す、きる、ころす。○[禮]「不レ殺レ胎、不レ―レ夭」。

【𣧘】サン。昨安切 〔寒〕
賤に同じ、禽獸の食したる殘餘、くひあまり。

【𣧗】ドツ、ナチ。奴骨切 〔月〕
―殟―は、心亂る、みだる。○[梵書]「比丘聽二施經一殟―」。

【𣧖】ケイ、ケ。古惠切 〔霽〕
㊀きはまる、つかる、くるしむ（極）。㊁死する貌にいふ字。

【𣧙】カウ、コウ。苦浩切 〔晧〕
㊀うつ（打）。㊁くらぶ（校）。

【𣧚】サツ、サチ。側八切 〔黠〕
えやみ（癘）。

【𣧪】古文の凶の字。○[漢]「天文家星事―悍、非二湛密者一弗レ能レ由」。

【𣧓】セン。昌兗切 〔銑〕
㊀のこる（殘）。㊁つく（盡）。㊂對臥す、向きあひふす。

【𣧢】サツ、サチ。側八切 〔黠〕

㊀えやみ、(癘-疾)。㊁わかじに、(夭-死)。

五畫

【殂】ソ、ズ。叢租切 [虞]
死ぬ、命數盡きて徂き去るの義。○〔書〕「帝乃一-落」。

【⿰歹囚】シウ、ジユ。徐由切 [尤]
のこる、(殘)。

【殃】ヤウ、アウ。於良切 [陽]
天より罸するを、神の咎むるを、さが、さがめ、まがごと、わざはひ、災禍。○〔書〕「作二不-善一降二之百一-一」。
〔餘殃〕後々までも殘れる禍。○〔易〕「積二不-善一之家、必有二一-一一」。
〔天殃〕上帝より下せるとがめ。○〔孟〕「不レ取必有二一-一一」。
〔貽殃〕災難を後々に殘す。○〔晉〕「尸-祿一レ一」。
〔加殃〕災難を其の上に及ぼす。○〔管〕「天不-幸降レ禍一二一于齊一」。
〔苛殃〕いちらしき災難。○〔亢倉子〕「凶-氣不レ入レ身無二一-一一」。
〔引殃〕災難を招く。○〔道德指歸論〕「無レ德無レ威、謂二之一ッ一」。
〔致殃〕前に同じ。○〔論衡〕「辨-口一レ一」。
〔咎殃〕災難。○〔京房〕「萬-民喜-樂無二一-一一」。
〔逐殃〕災難を掃ひ去る。○〔易林〕「風-伯一レ一」。
〔被殃〕災難を身にかうむる。○〔楚辭〕「中-生孝而一レ一」。

【殅】チ。丑二切 [寘]
こだま、(鬼-魅)。

【殅】チツ。敕栗切 [質]
魅に同じ、えやみのかみ。

【⿰歹民】ベン、メン。彌兗切 [銑]
あはれむ、(矜)。

【⿰歹民】コン。呼昆切 ボン、モン。謨奔切 [元]

くらし。○〔莊〕「以二黃-金一注者一」。

【殄】テン、デン。徒典切 [銑]
㊀たつ、たゆ、(絕)、つくす、つく、(盡)。○〔書〕「商俗靡-々、餘-風未レ一」。
㊁やます、やむ、(病)。○〔周〕「凡稼レ澤、夏以レ水一レ草而芟二夷之一」。
㊂腆に同じ、よし、(善)。○〔詩〕「籧-篨不レ一」。
〔暴殄〕あらし絕つ。○〔書〕「一二一天-物一」。
〔消殄〕無くなり絕ゆ、けしつくす。○〔後漢〕「佞-惡一-一、則乾-寀可-除」。
〔戡殄〕敵を亡ぼすこと。○〔晉〕「乃是一-一之要」。
〔討殄〕前に同じ。○〔晉〕「一二-一强-楚一者也」。
〔論殄〕滅びたゆ。○〔南〕「辭料一-一一」。
〔誅殄〕罪をせめてうちつくす。○〔隋〕「使可二出レ師授レ律、應レ機一-一一」。
〔禽殄〕捕らへてうち亡ぼす。○〔隋〕「二-戰一-一、俘-馘萬計也」。
〔摧殄〕折き亡ぼす、くぢけつく。○〔隋〕「一二一-侯-景一、克二復河-南一也」。
〔不殄〕うちたひらぐ、たひらぎつく。○〔金〕「一-一後將レ有レ悔」。
〔湮殄〕失せはつ。○〔舊唐〕「殲-結一-一」。
〔撲殄〕うち亡ぼす。○〔唐〕「當二乘レ機一-一一」。
〔蠹殄〕蟲ばみて絕つ。○〔抱朴〕「桑-木見レ齧而一-一而已」。
〔凌殄〕犯しつくす。○〔西京雜記〕「一二-一毒-害-」。
〔破殄〕やぶれたゆ、やぶりつくす。○〔孔融〕「殘-凶一-一」。「鄙-楚一」。
〔勦殄〕敵を盡くし亡ぼすこと。○〔柳宗元〕「一二-一」。

【⿰歹尔】殄に同じ。

【⿰歹戉】ケツ、ケチ。許劣切 [屑]
つく、(盡)。

【⿰歹立】ギフ、ゴフ。逆及切 [緝]
あやふし、(危)。

【⿰歹丘】ラフ、ロフ。落合切 [合]
朽ち折る、くじく。

【⿰歹末】バツ、マチ。莫葛切 [曷]
くちたるもの、あまり、(朽-餘)。

【⿰歹可】カ。居何切 [歌]
死ぬる貌にいふ字。

【⿰歹生】サウ、シヤウ。師庚切 [庚]
死にて更に生く、よみがへる。

【⿰歹幼】イウ、ウ。於九切 [有]
殂の字を見よ。

【⿰歹布】ケウ。吉了切 [篠]
わかじに、(夭)。

【⿰歹犮】ハツ、バチ。蒲撥切 [曷]
腐敗したる氣、くさりたるき。

【⿰歹冬】古文の終の字。

【⿰歹皮】ヒ。匹靡切 [紙]
㊀をる、(折)。㊁肉を剖く、さく。

【⿰歹皮】ヒ、ビ。敷羈切 [支]
前條の㊁に同じ。

【⿰歹古】コ、グ。空胡切 [虞]
㊀かる、(枯)。㊁わざはひ、(禍)。

【⿰歹古】辜に同じ。

【⿰歹出】クツ、ゴチ。巨勿切 [物]
たふる、たふす、(殭)。

【⿰歹乍】古文の殂の字。

【殆】タイ、デ。徒亥切 [賄]
㊀危害近し、あやふし。○〔國〕「太-子一-哉」。
㊁危害を加ふ、そこなふ。○〔淮〕「身見レ一」。
㊂危害を受く、やぶる。○〔荀〕「兵一二於垂-沙一」。
㊃安んぜず、あやぶむ。○〔家語〕「吾一レ之」。
㊄おこたる、(怠)。○〔老〕「周-行而不レ一」。
㊅つかる、(疲)。○〔莊〕「以レ有レ涯隨レ無レ涯一-已」。
㊆ちかづく、(近)。○〔詩〕「無二小-人一一」。
㊇將に及ばんとす、ちかし、ほとんど。○〔易〕「顏-氏之子其一庶-幾乎」。
㊈はじめ、(始)。○〔詩〕「一及二公-子一同歸」。
㊉志操の誠實ならざること。○〔賈誼〕「志-操精-果謂二之誠一、反レ誠爲レ一」。
〔闕殆〕確と心に取りとめざ不安に覺ゆるものはそのまゝにさしおく。○〔論〕「多見一レ一」。
〔幾殆〕すんでのことに危くあり、又、ほとんど。○〔漢〕「沛-公一-一」。
〔疲殆〕勞れおこたる。○〔論、註〕「徒使二人精-神一-一一」。
〔淫殆〕みだりにしておこたる。○〔韓〕「退二一-一一、止二詐-僞一」。
〔辱殆〕恥をかきて危き地位におちいること。○〔張華〕「哀-疾近二一-一一」。
〔困殆〕くるしみつかる。○〔蕭子良〕「日有二一-一一」。
〔欺殆〕人を詐りて危險なる行ひあること。○〔王筠〕「推レ心屏二一-一一」。
〔怵殆〕心中に懼れて安からざ思ふ。○〔吳薬〕「中-心既一-一」。
〔虧殆〕完からずしてあやふきこと。○〔法苑珠林〕「奉レ法衆-生、行雜二一-一一、倘當二得-度一」。

【⿰歹句】キウ、ク。許久切 [有] コウ、ク。居侯切 [尤] 古厚切 [有]
かる、(枯)。

【殆】古に同じ。

六畫

【䊢】ベイ、マイ。毋禮切　薺
半壞る、やぶる。

【落】ラク。力各切　藥
㊀おつ、(落)　㊁死ぬ、をはる。

【殈】ケキ、キヤク。泥璧切　陌　馨激切　錫
卵裂けて孵化せず、さく。○〔禮〕「卵-生者不レ━」。

【殧】セツ、セチ、相絶切　屑　ケツ、ケチ。翾劣切　屑　シユツ、シユチ。雪律切　質
つく、(盡)。

【殍】浮に同じ。

【殕】ホウ、プ。蒲候切　宥
浮に同じ、おつ、(落)。

【殜】タ、ダ。都唾切　箇
おちぶる、(貧-殰)。

【殑】シヨウ。色矜切　蒸　色拯切　徑
殑━は、死なんと欲す、たにかゝる。

【歙】シ。資四切　寘
㊀死にて復た生く、よみがへる。
㊁やむ、(病)。

【殍】ジ、ニ。仍吏切　寘
春祭を行ひて病を除くこと。

【殝】サン、セン。所姦切　刪　所晏切　諫
單于の名。

【殉】ジユン。辭閏切　震　シユン。松倫切　眞　エン。余絹切　霰
㊀死者を葬送するに生者の從死すること。○〔禮〕「以レ━葬非レ禮也」。
㊁いとなむ、(營)。○〔班固〕「豈余身足レ━兮違ニ世-業之可レ懷」。
㊂もとむ、(求)。○〔書〕「━ニ于貨-色ニ」。
㊃したがふ、(從)。○〔莊〕「彼所レ━仁-義也、則俗謂ニ之君-子ニ、所レ━貨-財也、則俗謂ニ之小-人ニ」。
〔慕殉〕死者の德をおもひしたふよりいのちをすてゝ死にしたがふこと。○〔漢〕「旅-人━-━」。
〔外殉〕おのれの身を以て外物にしたがふ。○〔白居易〕「━-━戒ニ予安進ニ」。

【殗】ダウ、ノウ。奴到切　號
うらむ、(恨)。

【殒】ベン、メン。彌兗切　銑
あはれむ、(矜)。

【殊】シユ、ス。市朱切　虞
㊀ころす、(誅)。○〔漢〕「赦ニ━-死以-下ニ」。
㊁さだむ、(決)。○〔漢〕「皆━-死戰」。
㊂たつ、(絶)。○〔左〕「斷ニ其後之木ニ而弗レ━」。
㊃傷つきて未だ死せず。○〔史〕「使ニ八刺ニ蘇-秦ニ、━而走」。
㊄別異なり、ことなり、又、別異にす、ことにす。○〔易〕「同レ歸而━レ塗」。
㊅すぐ、(過)。○〔後漢〕「年━ニ七-十ニ」。
㊆ことなりて、たえて、ことに。○〔詩〕「━異ニ乎公-路ニ」。
〔殺殊〕くさぐさに異なり。○〔禮〕「萬-物━-━、而禮-制行焉」。
〔萬殊〕いろいろに異なり。○〔王羲之〕「趣-舍━-━」。
〔魁殊〕すぐれてことなること。○〔魏都賦〕「物-產之━-━」。
〔舛殊〕たがひてあはざること。○〔後漢〕「事-勢━-━」。
〔詭殊〕めづらしく異なり。○〔唐〕「制-治━-━」。
〔優殊〕すぐれてことなり。○〔歐陽修〕「寵-命━-━」。
〔卓殊〕前に同じ。○〔韓愈〕「功-緒━-━」。

【殀】レイ。力制切　霽
やむ、(病)。

【殈】ラン、力換切　翰
死に臨む時に迷離沒亂する貌にいふ字、とりみだす、みだる。

七畫

【殏】ライ、レ。昝會切　泰
やむ、(病)。

【殞】バウ、メウ。眉教切　效
餓に同じ、あきもだゆ、

【殌】ケツ、クワチ。居月切　月
ケイ、ギヤウ。渠京切　庚
しぬ、(死)。

【殍】バウ、メウ。眉教切　效
殘りたる骨。

【殍】ヘウ、ベウ。平表切　篠　フ、ブ。芳無切　虞
餓ゑて死ぬるを、うゑじに、又、うゑじにしたる者。○〔遼〕「燕地饑-疫民多ニ流-━ニ」。
〔餓殍〕食を得るによしなくて死ぬるを、又、そのもの、うゑじに。○〔伍瑞隆〕「西-山之━-━」。

【殍】ヒ、ビ。部鄙切　紙
㊀前條に同じ。
㊁草木枯れ落つ、おつ、かゝる。

【殍】カウ、キヤウ。虛庚切　庚
殍━は、はろ、ふくろ。

【殏】タク、チヤク。耻格切　陌
さく、(裂)。

【殍】ラウ。昝堂切　陽
死物。

【殎】カフ、ケフ。乞洽切　洽
殏━は、はりつけ。

【殏】キウ、グ。渠尤切　尤
をはる、(終)。

【殉】コク。古祿切　トク、ドク。徒谷切　屋　カク。𥼶覺切　覺
㊀されぼれ(歹)。
㊁死に臨みて畏怯す、おそる。

【殍】タイ、テ。吐猥切　賄
殍の字と殍の字との條を見よ。

【殐】ソク。桑谷切　屋　サク、ソク。色角切　覺
殉の字の條を見よ。

【殑】キヨウ。巨升切　蒸　其孕切　徑
㊀殑の字の條を見よ。

㊁⿰歹夌—は、鬼出づ、一說に病む貌にいふ語。

八畫

【殈】セキ、シヤク。先的切〔錫〕
㊀きはまる、(極)。㊁死なんと欲する貌にいふ字。

【⿰歹芺】エウ。於喬切〔蕭〕
物を害す、そこなふ。

【⿰歹委】井。於爲切〔支〕
㊀やむ、(病)。㊁枯死す、しぼむ。
—一に、痿に作る。

【⿰歹桼】殜に同じ。

【殔】イ。羊至切〔寘〕
柩を埋む、うづむ、一說に、道に假葬す。

【⿰歹卒】シュツ、シュチ。即聿切〔質〕
終はる、しぬ、特に、大夫の死ぬるにいふ字。

【⿰歹卒】ソツ、ソチ。蒼沒切〔月〕
暴かに終はる、しぬ。

【⿰歹夜】バ、メ。名夜切〔禡〕
なし、(無)。

【⿰歹於】オ。歇許切〔語〕
かる、(殆)。

【⿰歹奉】ホウ、フ。播勇切〔腫〕
しぬ、(死)。

【⿰歹易】イ。以豉切〔寘〕

草木を殳り爽ぐ、きりひらく。

【⿰歹芯】シン。七鴆切〔沁〕
草木萎死す、かる、しぼむ。

【⿰歹岳】ガク、ゴク。五角切〔覺〕
卒かに死ぬ、しぬ。

【⿰歹屈】クツ、ゴチ。渠勿切〔物〕
死にて朽ちず。

【殕】フウ、フ。方九切〔有〕
㊀やぶる、(敗)。㊁くさる、(腐)。

【殕】フ。芳武切〔麌〕
物の腐敗して白かびの生ずるにいふ字、かぶ。

【殕】ホク、ボク。步北切〔職〕
踣に同じ、たふる、たふす。○〔杜光庭〕「倒ニ—於地一」。

【⿰歹京】キヤウ、カウ。其亮切〔漾〕
殭に通じ用ふ、しかばね、(屍)。

【⿰歹或】キョク、ケキ。忽域切〔職〕
殘ひ裂く、そこなふ、さく。

【⿰歹夌】リョウ。力膺切〔蒸〕
—殑は、鬼出づ、一說に、病む貌にいふ語。

【⿰歹夌】ロウ。郎鄧切〔徑〕
—⿰歹登は、困み病む貌にいふ語。

【殖】ショク、ジキ。常職切〔職〕

㊀うゝ、(種)。○〔書〕「農ニ—嘉穀一」。
㊁たつ、(立)。○〔國〕「以—ニ義方一」。
㊂おふ、(生)。○〔左〕「絕ニ其本根一勿レ使ニ能—一」。
㊃そだつ、(長)。○〔書〕「—ニ有禮一」。
㊄ふゆ、(息)。○〔國〕「同姓不レ婚惡レ不レ—也」。
㊅しげる、(蕃)。○〔韓〕「六畜遂五穀「—」。
㊆多からしむ、ふやす。○〔書〕「不レ—ニ貨利一」。
㊇利倍を圖る。○〔列〕「子貢—ニ于衞一」。
㊈平かにして正し。○〔詩〕「—・—其庭」。
「—焉」。
〔貨殖〕貨財をふやすこと。○〔論〕「賜不レ受レ命而—・—」。
〔學殖〕學問の素養。○〔錢訥〕「—・—素深」。
〔封殖〕草木などをつちかひうゑ。○〔左〕「敢不レ—ニ此樹一、以無レ忘ニ角弓一」。
〔蕃殖〕しげる、ふゆ。○〔國〕「財用—・—」。
〔繁殖〕前に同じ。○〔孟〕「禽獸—・—」。
〔滋殖〕前に同じ。○〔漢〕「是以衣食—・—」。
〔生殖〕そだつ。○〔左〕「以效ニ天之—・—長育一」。
〔豐殖〕ゆたかにしげる。○〔後漢〕「穀之所ニ以—・—者、以レ有ニ民功一也」。
〔播殖〕穀物などの種をまきうゑつけなどすること。○〔後漢〕「假レ田—・—、以娛ニ朝夕一」。
〔耕殖〕田をたがやし穀をうゑ。○〔魏文帝〕「充國務ニ—・—一」。
〔田殖〕前に同じ。○〔水經、註〕「能治ニ—・—一」。
〔富殖〕とみさかえて財物ふゆ。○後漢「宴然—・—」。「—・—之勤一」。
〔墾殖〕田地をひらきて穀物などをうゑ。○〔吳〕「勉ニ

【⿰歹奇】キ。去奇切〔支〕舉綺切〔紙〕
㊀すつ、(棄)。㊁大—は、死ぬること。

【殗】エフ、オフ。於劫切〔葉〕
㊀殜の字の條を見よ。「葉」
㊁かさなる、(重)。○〔左思〕「重葩—・

【殗】エン、オン。於廉切〔鹽〕

㊀前條に同じ。㊁しぬ、(歿)。

【殗】エン。於贍切〔豔〕
⿰魚奄に同じ、けがれふる。

【殘】サン、ザン。財干切〔寒〕
㊀そこなふ、(賊)。○〔書〕「—ニ害于爾萬姓一」。
㊁やぶる、(毀)。○〔莊〕「殫ニ—天下之聖法一」。
㊂ころす、(殺)。○〔周〕「放ニ弑其君一則—レ之」。
㊃多く殺傷す。○〔史〕「—ニ東垣一」。
㊄滅す。○〔戰〕「魏文侯欲レ—ニ中山一」。
㊅虐ぐ。○〔後漢〕「—吏放レ手」。
㊆かく、(缺)。○〔劉歆〕「專レ己守レ—」。
㊇あまる、のこる、あます、のこす、(餘)。○〔呂氏春秋〕「帥ニ其—卒一」。
㊈暴にして恩少し、むごし、あらし。○〔漢〕「嚴而不レ—」。
㊉凶惡。○〔史〕「爲ニ天下一除レ—」。
㊀㊀害毒。〔呂氏春秋〕「大利之—也」。
㊀㊁肉を煮ること、又、煮たる肉。○〔崔駰〕「爇ニ臛羊—一」。
〔殘殘〕はりきり落ちて傅會すること。○〔論衡〕「—・—滿レ車不レ成ニ爲道一」。
〔五殘〕辰星に似たる一種の星。○〔史〕「—・—星出ニ正東一」。「—・—魚」。
〔膾殘〕しらうをの異名。○〔皮日休〕「分明數得—・—」。
〔彫殘〕そこねやぶる。○〔杜甫〕「豈敢借ニ—・—一」。
〔殫殘〕ほろぶ、ほろぼす。○〔莊〕「—ニ—天下之聖法一、而民始可ニ與論議一」。
〔摧殘〕くだく。○〔吳均〕「弱蘚可ニ—・—一」。
〔衰殘〕よわりてやぶる。○〔林逋〕「蕭々蘆葦半—・—」。
〔荒殘〕あれそこなはる。○〔晉〕「按ニ撫—・—一」。
〔侵殘〕おかしやぶる。○〔陳〕「或皆剪伐莫レ不ニ—・—一」。
〔零殘〕おちのこる、又、おちやぶる。○〔夏侯湛〕「覽ニ林果之—・—一」。

【殙】コン。呼昆切 [元]
㊀惛に同じ、くらし。○〔莊〕「以黃金注者―」。
㊁あはれむ（矜）。㊂やむ（病）。
㊃まだ名を立てずして死ぬ。

【殙】ボン、モン。莫困切 [願]
氣絶ゆ。

【殗】エン、ヲン。委遠切 [阮]
人の死ぬる貌にいふ字。

【殜】ワツ、ワチ。烏括切 [曷]
臭き氣、くさし。

【殮】レン、ロン。力驗切 [豔]
殮に同じ、かりもがり。○〔路史〕「喪三日而―」。

九畫

【殙】殙の本字。

【殨】ラン。郎肝切 [翰]
やぶる（敗）。

【殦】クワ、グワ。胡果切 [哿]
禍に同じ。

【殛】キヨク、コキ。訖力切 [職]
刑罰に處す、つみす、又、刑罰。○〔書〕「―鯀于羽山」。
（放殛）放逐す。○〔書〕「鯀則―死不赦」。
（罰殛）刑罪に處す。○〔史〕「予大―罰之」。
（流殛）流罪に處す。○〔後漢〕「五帝有流―竄之誅」。
（誅殛）刑罪のこと。○〔梁〕「並旋受誅―」。
（受殛）罪を身に被る。○〔李華〕「子雲投閣、方回―」。
（明殛）嚴明なる罰。○〔孫樵〕「俾不得―」。
（罪殛）放逐の刑。○〔劉基〕「終覺辭―」。

【殬】ト、ツ。徒故切 [遇]
やぶる（敗）。

【殨】ワイ、ヱ。烏賄切 [賄]
―㱡は、人を知らざること、一説に、よわし（弱）。

【殽】カウ、ゴウ。胡降切 [絳]
死にて腐敗す、くさる。

【殜】テフ、直渉切。デフ。エフ。與渉切 [葉]
殗―は、病むこと、一説に、かすか（微）、又、一説に、病みて半ば臥し半ば起くること、微恙なること。

【殦】クワイ、ケ。許穢切 [隊]
つかる（極）。○〔揚雄〕「―、僦、倦也」。

【殧】レイ。力制切 [霽]
痢に同じ、えやみ（疾疫）。○〔公羊〕「大瘠者何―也」。

【殩】瘖に同じ。

【殨】カウ、コウ。口到切 [號]
薧に同じ、かる（枯）。

十畫

【殪】ガイ。魚開切 [灰]
はらごもり（牒胎）。

【殝】シン。緇詵切 [眞]

【殞】ヰン。羽敏切 [軫] ウン、羽粉切 [吻] チン。切
つく、つくす（盡）。
㊀しぬ（歿）。○〔五〕「賀拔元功夙―」。
㊁おつ（落）。○〔潘岳〕「稿葉夕―」。
（凋殞）しぼみかる。○〔魏〕「―遠易」。
（殞殞）身をころす。○〔魏〕「―匪報」。

【殟】ヲツ、ヲチ。烏沒切 [月]
㊀胎敗る、はらごもりやぶる。
㊁心悶ゆ、もだゆ。

【殟】ヲン。烏渾切 [元]
㊀殙―は、病む。㊁つかる（極）。

【殠】サイ、セ。子亥切 [賄]
ほろぶ、ほろぼす（滅）。

【殦】カウ、コウ。苦浩切 [皓]
胐―は、さらす（曝）。

【殨】クワイ、ヱ。戸賄切 [賄]
―㱡は、平かならざること、又一説に、知らざる貌にいふ語。

【殠】シウ、シユ。尺救切 キウ、ク。許救切 [宥] 許久切 [有]
㊀物の腐敗して發するにほひ、惡しき氣、くさりたるいき。○〔漢〕「其穿下不亂泉上不泄―」。
㊁にほひ惡し、くさし。○〔漢〕「單于得漢美食好物以爲―惡」。

【殈】イ。於賜切 [寘]
㊀凋死す、しぼむ、かる。㊁脚手の小病。

【殯】俗の冥の字。

【殯】腐に同じ。

【殦】瘥に同じ。

十一畫

【殢】俗の戮の字。

【殢】テイ、他計 ケイ、呼計 タイ。切 カイ。切 [霽]
つかれくるしむ（極困）。

【殣】キン、ギン。具吝切 [震]
㊀餓死、うゑじに、又、其の者。○〔左〕「道―相望」。
㊁路のほとりの冢、一説に、うづむ（埋）。○〔古文、詩〕「尙或―之」。
㊂覲に通じ用ふ、まみゆ。○〔漢〕「神裹回若留放―」。
（行殣）路傍にてうゑじにしたる者、行きたふれ。○〔顏延之〕「覲―于水隅」。
（浮殣）うゑ死にしたるもの。○〔張延珪〕「或至―」。

【殦】バク、マク。末各切 [陌]
宋―は、死にてしづかなること。

【殦】墓に同じ。

【殦】ロク。盧谷切 [屋]
矮の字の條を見よ。

【殦】縮に同じ。

【殦】サイ、セ。攡内切 [隊]
そこなひやぶる（殘敗）。

【殤】シヤウ、サウ。尸羊切 [陽]

未だ二十歳ならずして死ぬるを、わかじに、夭死。○〔禮〕「周人以二殷人之棺槨一葬二長——一」。
〔國殤〕國事のために一命を拋ちし者。○〔屈原九歌、註〕「死郊有下弔二——一詩上」。
〔彭殤〕長命すると若死すると。○〔沈炯〕「——無二異葬一」。
〔夭殤〕若死す。○〔韓愈〕「百口無二——一」。
〔嫁殤〕また嫁入りせずして若死すること。○〔周〕「禁三遷葬者與二——一者一」。
〔長殤〕年十六より十九までの間に死ぬること。○〔禮〕「年十六至二十九一死爲二——一」。
〔中殤〕年十二より十五までの間に死ぬること。○〔禮〕「年十二至二十五一死爲二——一」。
〔下殤〕年八ツより十一に至るまでの間に死ぬること。○〔禮〕「八歲至二十一歲一死爲二——一」。
〔無服殤〕死せしもの、ために忌服をなさゞること。○〔禮〕「七歲以下爲二——一之——」。

【⿰歹曹】サウ、ソウ。子牢切 [豪]
傮に同じ、をはる。

【⿰歹巢】俗の剿の字。

【⿰歹貫】クワン。古患切 [諫]
つく、つくす、(殫)。

【⿰歹責】シ。疾賜切 [寘]
㊀やむ、(病)。㊁獸の死ぬるにいふ字、けものしぬ。㊂人又は鳥獸の死して腕肉したる殘骨、されぼれ。

【⿰歹魚】ソ、ス。素姑切 [虞]
たゞる、(爛)。

【殥】イン。翼眞切 [眞]
さほし、(遠)。○〔淮〕「九州之外、乃有二八——一八——之外而有二八紘一」。

十二畫

【殧】シユク、ソク。子六切 [屋] サフ、ソフ。作答切 [合]
をはる、をふ、(終)。

【殧】シウ、ジユ。疾僦切 [宥]
たつ、たゆ、(殄)。

【⿰歹閑】癇に同じ、やむ、(病)。

【殨】クワイ、ゲ。胡對切 [隊]
たゞる、(爛)。

【殨】クワイ、エ。戸賄切 [賄] コツ、ゴチ。胡骨切 [月]
腫れて決く、はれさく。

【⿰歹賁】フン、ホン。方問切 [問]
㊀されぼれ、(歹)。㊁たゞる、(爛)。

【⿰歹登】トウ。唐亙切 [徑]
殑の字の條を見よ。

【⿰歹斯】シ。斯義切 [寘]
㊀しぬ、(死)。㊁つく、(盡)。

【⿰歹最】サイ、セ。先外切 [泰]
痩する病。

【⿰歹尞】レウ。力弔切 [嘯]
やぶる、(敗)。

【殩】サン。七亂切 [翰]
——孝は、喪家に食をおくるを、かれひ。

【殪】エイ、アイ。壹計切 [霽]
㊀たゆ、たつ、(絶)。○〔書〕「天乃大命二文王一——二戎殷一」。㊁つく、つくす、(盡)。○〔左〕「使レ疾二其民一以盈二其貫一將可レ——也」。㊂仆れ死す、たふる、しぬ。○〔後漢〕「走者相騰踐奔——二百餘里閒一」。㊃仆れ死せしむ、ころす、たふす。○〔左〕「前後擊レ之盡——」。㊄特に一矢にて射ころすにも又は射ころさるゝにもいふ字。○〔詩〕「——二此大兕一」。
〔射殪〕いころす。○〔詩、疏〕「發レ矢——レ之即——」。
〔殞殪〕しにたふる。○〔劉楨〕「毛羣——」。

【⿰歹彭】ハウ、ビヤウ。蒲行切 [庚]
死人の胖るゝにいふ字、はる、ふくる。

【殫】タン。多寒切 [寒]
殛盡す、つく、つくす。○〔班固〕「百獸駭——」。
〔塗殫〕みちのつきはつること。○〔上林賦〕「道盡——」。
〔飄殫〕風に吹き飛ばされてつくること。○〔夏侯湛〕「——戀二枯葉一之——」。
〔疲殫〕つかれはつ。○〔董京〕「自使二——一」。

十三畫

【殬】ト、ツ。多故切 [遇]
やぶる、(敗)。○〔書〕「彝倫攸レ——」。

【⿰歹辟】ヘキ、ヒヤク。必歷切 [陌]
㊀されぼれ、(歹)。㊁きはまる、(極)。㊂死なんと欲する貌にいふ字。

【⿰歹歲】アイ、エ。烏廢切 [隊]
殘——は、死にたる物。

【殭】キヤウ、カウ。居良切 [陽] 居亮切 [漾]

【⿰歹業】エフ、オフ。余業切 [葉]
㊀死にて朽ちざるを。㊁しかばね、(屍)。㊂死にたる蠶、しろこ。㊃たふる、(殪)。

【⿰歹斂】レン、ロン。力驗切 [豔]
やむ、(病)。
衣服にて死屍を覆ふを。○〔張說〕「美——姑藏レ寵」。「衾——」。
〔裝殮〕死にたる人に衣物を著す。○〔女論語〕「女——」。

【⿰歹賣】シ。疾賜切 [寘]
殰に同じ、やむ、(病)。

【⿰歹敄】ボツ、モチ。莫突切 [月]
死に臨む時、しにぎは。

十四畫

【⿰歹爲】殗に同じ。

【⿰歹翟】テウ、デウ。徒弔切 [嘯]
牛羊の死ぬるにいふ字、しぬ。

【⿰歹盍】アイ。於蓋切 [泰]
しぬ、(死)。

【⿰歹盍】カフ、コフ。克盍切 [合]
よる、(依)。

【殯】ヒン。必刃切 [震]
㊀人死にて未だ葬らず假に棺に藏め置くを、かりもがり、之を賓として遇するの義。○〔禮〕「——二於五父之衢一」。㊁埋沒すること。○〔孔稚圭〕「道帙長——」。
〔虞殯〕葬を送る時の歌曲。○〔左〕「公孫夏命二其徒一歌二——一」。

〔雉殰〕とばりのうちにかりもがりす。○〔禮〕「——非古也、自敬姜之哭穆伯始也」。
〔哭殰〕かりもがりを吊ひなく。○〔禮〕「大夫士——」「服—レ—」。
〔隴殰〕かりもがりの處にいたる。○〔呉〕「孫權改レ—則板」。

【殭】キヤウ、ガウ。巨兩切 養
たふる、たふす、(仆)。

十五畫

【殰】トク、ドク。徒谷切 屋
未だ生まるゝ期に滿たずして胎の敗るゝこと、流產。○〔禮〕「胎生者不レ—」。
〔墮殰〕胎の中より死にて生まるゝこと。○〔漢〕「何奴孕重——」。

【⿰歹蕉】ソ、ス。孫租切 虞
たどる(爛)。

十六畫

【⿰歹歷】レキ、リヤク。狼狄切 錫
㊀つく、(殫)。
㊁死なんと欲する貌にいふ字。

【⿰歹盧】リヨ、ロ。凌如切 魚
はだへ、(臚)。

【⿱𦥑死】イク、ヨク。余六切 屋
屈みて短き貌にいふ字。

十七畫

【殲】セン、ソン。思廉切 鹽
㊀衆人悉く死ぬ、つく、ほろぶ。○〔春秋〕「齊人—二于遂一」。
㊁殘りなく殺す、ほろぼす、つくす。○〔左〕「其將二聚而—一レ旃」。
〔殄殲〕滅ぶ、滅ぼす。○〔舊書〕「——元惡一」。

〔尅殲〕勝ち亡ぼす。○〔梁武帝〕「——大憝一」。
〔盡殲〕つく、つくす。○〔韓愈〕「生類恐二——一」。

十九畫

【⿰歹羸】ラ。魯果切 哿　魯過切 歌　盧臥切 箇　ライ、力外切 泰
㊀やむ、(病)。㊁畜類の疫病、えやみ。

【⿰歹顛】テン。丁天切 先
おつ、(殞)。

殳　部

【殳】シユ、ス。市朱切 虞
㊀ほこ。
(い)長さ一丈二尺の梃、兵車の上より人を殊離するに用ひしもの。○〔詩〕「伯也執レ—」。
(ろ)戈の如き一種の兵器。○〔李白〕「口呑二—鋋一」。
㊁竿梃、さを。○〔佩觿集〕「彖二舟之後—以進一レ之」。
㊂ほこのえ、(戟-柄)。○〔揚雄〕「三-刃枝、南-楚宛郢謂二之匽-戟、其柄自レ關而西謂二之柲、或謂二之—一」。
㊃書法の八體の一。○〔歐陽詢書法〕「——書者伯-氏所レ職、文記レ笏武記レ—、因而制レ之」。
〔欇殳〕連枷、からざを。○〔揚雄〕衆宋衞之間謂二之——一。
〔殺殳〕ほこ。○〔後漢〕「——狂罵」。
〔戈殳〕前に同じ。○〔劉基〕「五載橫二——一」。

三畫

【⿰己殳】カイ。呼來切 灰 エ。アイ、倚亥切 賄
毅——は、剛卯の別名、卽ち正月卯日にこしらへたる長さ三寸廣さ一寸四方ありて其の中央に孔をなし綵絲にて茸び文を刻み之を佩着して邪氣を掃ふに用ひたりといふ。○〔急就篇註〕「射-魃謂二大-剛-卯一也、以二金-玉及桃一刻而爲レ之一名二毅——一」。

四畫

【⿰冘殳】チン。陟甚切 寑　知鴆切 沁
下より上を擊つ、又一說に、深く擊つ、うつ。

【⿰今殳】キン、巨金切 侵 コン。タン、都感切 感 トン。
㊀をさむ、(治)。㊁とゞむ、(禁)。

【般】ハン、ベン。補姦切 刪
㊀盤桓す、めぐる。○〔賈誼〕「—紛々其離二此郵一兮」。
㊁まだら、(斑)。○〔司馬相如〕「——之獸」。

五畫

【段】タン、ダン。徒玩切 翰
㊀分割す、たつ。○〔釋名〕「斷—也、分爲二異-段一也」。
㊁區分、わかち、しきり。○〔五〕「自レ古諸-歷失二分—一」。
㊂斷片、きれ、かたはし。○〔晉〕「揮レ劍截レ蛟數—而去」。
㊃種類、しな、たぐひ。○〔舊唐〕「因賜レ物百——」。
㊄部分、こわけ、ぶわけ。○〔譜系維說〕「第——卷尾——字-行高-低正與二淳-化-帖一同」。
㊅腶に通じ用ふ、卵の成らざるを。○〔管〕「羽-卵者不レ—」。
㊆鍛に同じ、きたふ、一說に、小しく治ろ、いる。○〔周〕「—氏爲二鑄器一」。
㊇腶に通じ用ふ、ほじし。○〔禮〕「婦執二笲棗栗—脩一以見」。
〔欵段〕馬のおそきもの。○〔舊唐〕「常乘二——馬一」。
〔數段〕いくつにもきれぐになる。○〔晉〕「——而去」。
〔區段〕かぎりのつきたること。○〔南〕「講說有二——次第一」。
〔兩段〕ふたつにたゝれたること、又、其のもの。○〔續搜神記〕「已而取二——一合持レ之」。
〔片段〕きれ。○〔杜牧〕「洞雲生二——一」。
〔手段〕てだて。○〔吳萊〕「茶僧——使二茶品一」。

六畫

【⿰多殳】カイ。苦哀切 灰
—⿰口殳は、笑ふ聲にいふ語、又、多し。

【⿰亥殳】カイ。柯開切 灰
⿰口殳の字を見よ。

【殼】カク、コク。克角切 覺
㊀上より下を擊つ、うつ。㊁もと、(素)。
㊂から。
(い)物の皮のみありて其の內部の空しきを。○〔列〕「木葉幹—」。
(ろ)卵甲。○〔仲長統〕「飛-鳥遺レ—」蹟、蟬-蛻亡レ—」。
㊃嗀に同じ、はく。

【㱿】コク。空谷切 屋 キヤク、乞約切 藥 カク。
前條の㊀㊁㊂に同じ。

【殷】イン。於身切 文
㊀さかんなり、(盛)。○〔書〕「三-后成レ功惟—二于民一」。
㊁なか、(中)。○〔書〕「九-江孔—」。

㊂おほし、もろ／＼（衆）。〇〔詩〕「ーー其盈矣」。
㊃おほいなり（大）。〇〔禮〕「服除而後ーー祭」。
㊄あたる（當）。〇〔史〕「衡ー二中州河濟之閒一」。
㊅憂ふる貌にいふ字。〇〔詩〕「憂心ーー」。
㊆慇に通じ用ふ。〇〔史〕「通二ーー勤一」。
㊇我が紀元千百二十四年より同六百六十二年まで支那を治めたりし王朝の名、又、其の都治たりし河南省歸德府の地。〇〔史〕「盤庚遷二都ー墟一改レ號曰レー」。
〔彌殷〕いやましに盛なり。〇〔晉〕「自レ斯厥後、禮樂ーー」。
〔力殷〕力を勞すること多し。〇〔宋〕「ーー收寡」。
〔情殷〕心盛んにあつくあり。〇〔舊唐〕「ーー撫レ鐵」。
〔純殷〕大中といふに同じ、偏倚せざること。〇〔魯靈光殿賦〕「承二蒼天之ーー一」。
〔寧殷〕安く盛んなり。〇〔荀勗〕「民用ーー」。
〔豐殷〕ゆたかに盛んなり。〇〔張華〕「必有二ーー一」。

【殷】アン、エン。烏閑切 刪
赤黑き色、あかぐろ。〇〔左〕「左輪朱ー」。

【殷】イン、オン。倚謹切 吻
㊀雷の發する聲にいふ字。〇〔詩〕「ー其雷」。
㊁音の盛んなる貌にいふ字。〇〔戰〕「輷々ーー」。

【殷】イン、オン。於斬切 問
あたる（中）。〇〔莊〕「其不レー非二天之罪一」。

【殺】サツ、セチ。所八切 黠
㊀生命を絶つ、死なしむ、ころす。〇〔周〕「斬二ー賊諜一」。
㊁う（獲）。〇〔禮〕「天子ー則下二大綏一」。
㊂わする（忘）。〇〔莊〕「ーレ生者不レ死」。
㊃草を薙ぐ、かる。〇〔禮〕「利二以ー一レ草」。
㊄からす（枯）。〇春秋「隕霜不レーレ草」。
㊅あぶる（炙）。〇〔後漢〕「欲下ー二青簡一以寫中經書上」。
㊆一種の矢、中てられたる人は直ちに死ぬるの義。〇〔周〕「ー矢鍭矢」。
㊇犧牲、いけにへ。〇〔孟〕「牲ー器皿」。
㊈する、のごふ（刷）。〇〔釋名〕「摩ー娑猶二抹ーー一」。
〔肅殺〕秋氣の物をそこなひからすこと。〇〔陳子昂〕「金天方ーー」。
〔格殺〕うちころす。〇〔後漢〕「因ー二ー之一」。
〔撲殺〕前に同じ。〇〔唐〕「何不レー二ー此獠一」。
〔躍殺〕前に同じ。〇〔魏〕「郎ー二ー他等一」。
〔撾殺〕前に同じ。〇〔吳〕「ー二ー主簿一」。
〔刑殺〕罪にあてゝころす。〇〔史〕「上欒下以二ーー一爲レ威」。
〔搤殺〕にぎりころす。〇〔詩小序、箋〕「而ー二ー之一」。
〔反殺〕すでに一人をころし復その子弟などをころす、かへりうちにあはす。〇〔周〕「凡殺レ人有二ーー者一、使二邦國交讎一レ之」。
〔誘殺〕おびきいだしてころす。〇〔左〕「曲沃伯ー二晉小子侯ーレ之」。
〔批殺〕手にてうちころす。〇〔左〕「ー而ーレ之」。
〔搏殺〕前に同じ。〇〔左〕「ー而ーレ之」。
〔專殺〕ほしいまゝにころす。〇〔孟〕「無レーー二大夫一」。
〔擅殺〕前に同じ。〇〔宋〕「奏裁毋二ーー一」。
〔縊殺〕咽喉をしめてころす。〇〔公羊〕「搤公召而ー二ー之一」。
〔遠殺〕へだたりの近からざる處にある者をころす。〇〔戰〕「堅箭利金不レ得二弦機之利一、則不レ能二ーー一」。
〔誅殺〕ころす。〇〔史〕「ー二ー無道一」。
〔追殺〕にげゆく者をおひゆきてころす。〇〔史〕「使二騎將灌嬰ー二ー項羽東城一」。
〔抗殺〕あなにうづめてころす。〇〔史〕「武安君挾レ詐而盡ー二ー之一」。
〔射殺〕いころす。〇〔史〕「廣ー二ー之一」。
〔妄殺〕無法にころす。〇〔說苑〕「勇者不二ーー一」。
〔矯殺〕上の命なりと詐りてころす。〇〔漢〕「羽ー二ー卿子冠軍一」。
〔彊殺〕しひてころす。〇〔漢〕「ー二ー秦降王子嬰一」。
〔陰殺〕ひそかにころす、又、陰氣のものをいためころすこと。〇〔漢〕「使三人ーー二義帝一」。
〔笞殺〕むちにてうちころす。〇〔漢〕「ー二ー呂須一」。
〔流殺〕ながしころす。〇〔漢〕「ー二ー人民一」。
〔鴆殺〕ちんといふ毒藥をのませてころす。〇〔漢〕「徵レ王到二長安一ー二ー之一」。
〔齧殺〕かみころす。〇〔漢〕「或縱レ狼令レー二ー之一」。
〔壓殺〕おしつぶしころす。〇〔漢〕「峯崩ーー」。
〔幽殺〕一室におしこめてころす。〇〔後漢〕「ー二ー太后一」。
〔餓殺〕食らふに物なくなりて死なしむ。〇〔魏〕「立可二ーー一」。
〔按殺〕罪をしらべてころすこと。〇〔吳〕「ー二ー之一」。
〔鞭殺〕むちにてうちころす。〇〔晉〕「ー二ー一吏一」。
〔枉殺〕まげそこぬ。〇〔王安石〕「當時ーー毛延壽」。
〔構殺〕罪をつくりてころす。〇〔北〕「ー二ー之一」。
〔捶殺〕つゑなどにてうちころす。〇〔北〕「轢覆二面于地一、而ー二ー之一」。
〔炙殺〕やきころす。〇〔北〕「火ー二ー之一」。
〔杖殺〕つゑをもてうちころす。〇〔唐〕「后怒ー二ー之一」。
〔襲殺〕敵の不意をうちてころす。〇〔唐〕「建德ー二ー其軍數千人一」。
〔殘殺〕むごくころす。〇〔孟雲卿〕「ーー非レ不レ痛」。
〔誣殺〕罪あるやうにつけてころす。〇〔唐〕「ー二ー參軍衛方厚一」。
〔讐殺〕あだかたきとしてころす。〇〔唐〕「傳相ーー遂無二已時一」。
〔俘殺〕捕らへてころす。〇〔五〕「ー二ー五十餘人一」。
〔族殺〕三族をあはせころす。〇〔五〕「莊宗ー二ー之一」。
〔鮮殺〕なまなましきいけにへ。〇〔宋〕「取二ーー一而祭二廟俎一」。
〔屠殺〕獸畜をころす。〇〔宋〕「宋制是日禁二ーー一」。
〔剮殺〕こまかくきりてころす。〇〔宋〕「先斷二其兩臂一、而後ー二ー之一」。
〔鎚殺〕かねのつちにてうちころす。〇〔金〕「吾能以レーーレ之」。
〔戕殺〕ころす。〇〔金〕「ー二ー無辜一」。
〔擲殺〕うちつけてころす。〇〔金〕「怒ー二ー之一」。
〔掩殺〕敵の不意にいでおはひてころす。〇〔金〕「乘レ夜ー二ー閩子山一」。
〔濫殺〕みだりにころす。〇〔元〕「劾二其ーー一」。
〔誤殺〕あやまりてころす。〇〔元〕「ーー二牧者一」。
〔拘殺〕捕らへてころす。〇〔元〕「ー二ー使者一」。
〔輕殺〕かろ／＼しくころす。〇〔元〕「ーー二一人一、則害二大計一」。
〔生殺〕いかすところすと。〇〔莊〕「相ー相ー」。
〔踏殺〕ふみころす。〇〔傳燈錄〕「ー二ー天下人一」。

【殺】サツ、サチ。桑葛切 曷
㊀ちる（散）。〇〔史〕「望レ之ー然黃」。
㊁掃滅す、はらふ。〇〔漢〕「未レー二災異一」。
〔礧殺〕下り垂るゝ貌にいふ語。〇〔張衡〕「飛二流蕤之ーー一」。

【殺】セツ、セチ。私列切 屑
躠に同じ。

【殺】サイ、セ。所界切 卦
㊀減削す、等を降す、へらす、くだす、けづる、そぐ。〇〔周〕「國新ーレ禮」。
㊁毛羽敝る、やぶる。〇〔詩、傳〕「譙々ー也」。
㊂くさる、くさらす（腐）。〇〔周〕「剤ー之剤」。
㊃音調の隆んならざること。〇〔禮〕「其哀心感者、其聲譙ー」。
㊄剪りて縫ふ、たつ。〇〔論〕「非二帷裳一必ーレ之」。
㊅屍の下部を韜むもの。〇〔儀〕「絰ー掩レ足」。
㊆さし、はやし（疾）。〇〔白居易〕「西日憑二輕照一、東風莫二ー吹一」。
㊇はなはだ、はなはだし（太）。〇〔容齋隨筆〕「ー有二好處一」。
〔愁殺〕なげきかなしましむ。〇〔古詩〕「蕭々ー二ー人一」。
〔醉殺〕酒にゑひたふれしむ。〇〔賈至〕「ーー長安輕薄兒」。
〔妬殺〕ねたましむ。〇〔萬楚〕「紅裙ーー石榴花」。
〔笑殺〕わらはしむ。〇〔李白〕「武陵桃花ー二ー人一」。
〔惱殺〕なやます。〇〔李白〕「一面紅妝ー二ー人一」。

〔吟殺〕詩歌などをうたはしむ。○〔黎莊〕「夕陽——倚レ樓人」。
〔閑殺〕志ごとなくなる。○〔宋書〕「江南——老-傖-罔」。

【殺】セイ。所例切 霽
前條の㊀に同じ。

【殺】シ。式吏切 寘
弑に同じ。○〔前〕「漢項-羽放二—其主一」。

七畫

【殸】トウ、ヅ。徒候切 尤 大透切 宥
遙かに撃つ、なげうつ。

【殹】タイ、テ。都外切 泰
殺に同じ、ほこ。

【殷】シン、之人切 眞
㊀うつ、（撃）、㊁動きて喜ぶ貌にいふ字。

【殸】カウ、キヤウ。口耕切 庚
あひて、ひとし、（敵）。

【殸】古の聲の字。

【殹】エイ。壹計切 霽
㊀撃ち中たる聲にいふ字。㊁助語。○〔石鼓文〕「汧—沔々」。

【殹】エイ。煙奚切 齊
㊀前條に同じ。㊁おほひ、てんまく、（幕）。

【散】敢の古文字。○〔秦詛楚文〕「秦嗣-王—用二吉-玉宣-璧一」。

八畫

【殼】コウ、ク。枯公切 東
うつ（撃）。

【殼】シウ、ス。之戎切 東
盡く殺す、みなごろしにす、つくす。

【敞】タウ、チヤウ。除耕切 庚
㊀おす、（推）。㊁つく、（揬）。

【殸】キウ、ク。居又切 宥 去秋切 チウ、ニユ。尼猷切 尤
㊀揉め屈む、かゞむ。㊁小しく謹む、つゝしむ。㊂屈服す、志たがふ。㊃強く撃つ、うつ。

【殼】カク、コク。苦角切 覺
殼に同じ。

【殽】カウ、ケウ。何交切 肴 カウ、ゴウ。胡刀切 豪
㊀まじはる、まじふ、（雜）。○〔漢〕「鑄二作錢-布一、皆用レ銅、—以二連-錫一」。㊁みだる、（亂）。○〔漢〕「賢不-肖混—」。㊂俎豆の實、もりもの、さかな。○〔詩〕「——核維旅」。㊃肉の骨を帶ぶるもの、ほねつきのにく。○〔禮〕「左レ—右レ胾」。
〔嘉殽〕よきさかな。○〔詩〕「彼有二旨-酒一、又有二—-—一」。
〔牲殽〕骨を帶びたる肉つきのにく。○〔詩、疏〕「雖レ有二——一、尚有二葅-醢一」。
〔肉殽〕前に同じ。○〔詩、疏〕「對二——一、故云二菜-殽一」。
〔菜殽〕野さいのさかな。○〔詩、疏〕「蔌——也」。
〔進殽〕さかなを客の前に出たす。○〔禮〕「—レ—之序、徧祭レ之」。
〔辨殽〕さかなをあまねく行きわたらせてくらふ。○〔禮〕「主人延レ客、食レ胾、然後—レ—」。

【殽】カウ、ゲウ。後教切 效
效に同じ、ならふ。○〔禮〕「禮必本二於天一—二於地一」。

九畫

【殽】シユン。息峻切 震
きづく、つく、（築）。

【殿】テン、デン。堂練切 霰
㊀高大にして莊嚴なる堂の稱、その、古昔は泛き稱さなしゝが、後に、天子の寢居、貴人の住屋、神佛の祠堂などの專稱となれり。○〔漢〕「有下擧二孝-子一者上先上レ—」。㊁軍後、おさへ。○〔左〕「寘二諸戎-車之—一」。㊂敗軍のおさへ、志んがり。○〔左〕「晉隨-季—二其卒一而退」。㊃功績の下等なると。○〔漢〕「丞-相御-史課二—-最之閒一」。㊄志づむ、（鎭）、さだむ、（定）。○〔詩〕「—二天-子之邦一」。㊅呻吟の聲にいふ字。○〔詩〕「民之方—-屎」。㊆撃つ聲にいふ字。
〔便殿〕休息のためにまつらへたるとの。○〔唐〕「常與二六-學-士一對二——一」。
〔佛殿〕はとけのいれあるとの。○〔厚德錄〕「——未二甚壞一」。
〔前殿〕正殿の前面にたてられたるとの。○〔史〕「先作二——阿-房一」。
〔正殿〕儀式ある時に用ふるとの。○〔漢〕「數臨二——一、延二見羣-臣一」。
〔寢殿〕前に同じ。○〔唐〕「砦黏二——之壁一」。
〔御殿〕皇帝のすまはせらるゝとの。○〔後漢〕「——後槐-樹、自拔倒豎」。
〔內殿〕奧向きのとの。○〔後漢〕「南宮——、罘罳自壞」。
〔宮殿〕たふとき人のとの。○〔後漢〕「掌二宿-衞——門-戸一」。
〔重殿〕いくつもつゞきたるとの。○〔晉〕「——疊起」。
〔上殿〕とのにあがると。○〔漢〕「賜二劍-履—-—、入-朝不趨一」。
〔升殿〕前に同じ。○〔五〕「拔而—レ—」。
〔涼殿〕すゞしきとの。○〔謝朓〕「啡燭集二——一」。
〔玉殿〕たまをもてちりばめたるうつくしきとの。○〔張憲〕「——珠-樓連二翠-閣一」。
〔珠殿〕前に同じ。○〔王融〕「——秋-風廻」。
〔瑤殿〕前に同じ。○駱賓王「——規-宸-㯃一」。
〔瓊殿〕前に同じ。○〔黃滔〕「影浸二山河——冷一」。
〔禁殿〕天子のとの。○〔唐〕「大集二諸儒一內二——一」。
〔廣殿〕ひろびやかなるとの。○〔王融〕「置-酒登二——一」。
〔明殿〕墓のかたはらにたてたるとの。○〔五〕「其國君死-葬、則于二其墓-側一起レ屋、謂二之——一」。
〔幄殿〕まくもて覆ひたるとの。○〔宋〕「遂宴二——一」。
〔帷殿〕前に同じ。○〔謝朓〕「惠-風湛二——一」。
〔帳殿〕前に同じ。○〔庾肩吾〕「別-筵開二——一」。
〔宴殿〕酒もりをひらく時に用ふるとの。○〔宋〕「又次西有二集-英-殿一、——也」。
〔華殿〕うつくしくかざりたるとの。○〔陸機〕「豐-居——」。
〔清殿〕きよらかなるとの、又、とのをきよむ。○〔新書〕「友至則—レ—而侍」。
〔浴殿〕湯をつかふためにまつらへたるとの。○〔白居易〕「——西-頭鐘-漏深」。
〔路殿〕正殿といふに同じ。○〔劉楨〕「——鬱二其崇一」。
〔崇殿〕たかくそびえたるとの。○〔盧璟〕「——鬱二其嵯-峨一」。
〔高殿〕前に同じ。○〔梁昭明太子〕「置-酒臨二——一」。
〔寶殿〕珠玉金銀などにてかざりたるとの。○〔蕭子良〕「金-簡-銘二——一」。
〔朱殿〕あかくぬりたるとの。○〔梅堯臣〕「石-樓——藏二林中一」。
〔林殿〕はやしの中にたてたるとの。○〔庾肩吾〕「——日先照」。
〔金殿〕こがねにてかざりたるとの。○〔江總〕「流-泉灑二——一」。
〔綺殿〕あやぎぬもてかざりたるうつくしきとの。○〔唐太宗〕「——千-尋起」。
〔錦殿〕にしきもてかざりたるうつくしきとの。○〔王勃〕「璧-房——相玲-瓏」。
〔水殿〕みぎはにたちたるとの。○〔王昌齡〕「——風來珠-翠香」。

（虛殿）すむ人のなきとの。○〔杜甫〕「當二——日塵埃一」。
（翠殿）みどりに內りたるとの。○〔司空曙〕「暴旋「深」。
（妝殿）化粧をするためにおかれたるとの。○〔王建〕「更深二歌-舞一記二——一」。
（梵殿）佛寺のと。○〔何曾明〕「葉暗秋燈——
（飛行殿）輦の別名。○〔拾遺記〕「漢成帝好二夕出遊一造二——一」。

【轂】ケキ、ギヤク。苦擊切　錫
擊に同じ。

【轂】繫に同じ。○〔漢〕「郡-國或磽-陿無レ所二農-桑——-畜一」。

【毀】キ。虎委切　紙
㊀やぶる。
(い)破壞す、こぼつ、こはる。○〔詩〕「無レ——二我室一」。「也」。
(ろ)かく、(缺)。○〔左〕「盈必—天之道也」。
(は)すつ、(去)。○〔禮〕「——レ方而瓦-合」。
(に)くじく、(折)。○〔戰〕「王不レ搆レ趙、趙不二以レ—搆一」。
(ほ)小兒の齒を去るにいふ字。○〔白虎通〕「男八-歲—レ齒」。
㊁そしる、(訾)。○〔論〕「誰—誰譽」。
㊂祈りて殃を禳ふ、はらふ。○〔周〕「凡外-祭——-事用レ尨」。「不レ形」。
㊃やす、(瘠)。○〔禮〕「居レ喪之禮、——-瘠」。
（積毀）おほくのそしり。○〔漢〕「——銷レ骨也」。
（柴毀）やせて頰肉おつ。○〔晉〕「——骨-立、杖而能起」。
（根毀）そしる。○〔唐〕「各立レ黨相——」。
（訾毀）前に同じ。○〔漢〕好——多巧僞」。
（詆毀）前に同じ。○〔宋〕「——二朝士一」。
（謗毀）前に同じ。○〔文天祥〕「——二平-生一無レ不レ有」。
（延毀）朝廷にてそしる。○〔史〕「今見——二我一」。
（讒毀）わるつげす。○〔漢〕「以二——一故-嘗不レ行」。
（譖毀）前に同じ。○〔唐〕二比多二——一」。
（憎毀）にくみきらひてそしる。○〔晉〕「互相——」。
（背毀）かげにてわるくちをいふ。○〔宋〕「暮行二——一」。
（棄毀）やぶりすつ。○〔南〕「隨即——」。
（除毀）とりのく。○〔隋〕「悉命——」。
（排毀）おしのけてそしる。○〔隋〕「多二——之一」。
（觸毀）ふれさはりてこぼつ。○〔北〕二——金翼一」。
（頹毀）やぶる。○〔北〕「經レ雨——」。
（圮毀）前に同じ。○〔王禹偁〕「雉-堞——」。
（銷毀）かねにて作りたるものをとかしつぶす。○〔遼〕「不レ得二——金-銀器一」。
（荒毀）あれやぶる。○〔舊唐〕二州-城——」。
（瘦毀）やせ衰ふ。○〔唐〕「代-宗見二其——一許レ之」。
（破毀）やぶる。○〔晉〕「三者得二一焉、則可二——一也」。「葬二其——一」。
（殘毀）そこねやぶる、そこなひやぶる。○〔郭璞〕「臨二帝-闕一」、
（侵毀）他の物ををかしやぶる。○〔梁武帝〕「勿レ令二細-民妄相——一」。
（猜毀）そねみそしる。○〔皮日休〕「——之言、如」

十畫

【毅】毅に同じ。

【毅】サイ、セ。子亥切　隊
ころす、(殺)。

【毃】トウ、徒冬切　冬　キウ、火宮切　東
ヅ。　ク。
空を擊つ聲にいふ字。

【毃】カク、コク。克角切　覺　カウ、ケウ。口交切　肴　口教切　效
頭を擊つ、一說に、橫に打つ、うつ。○〔左〕「奪二之杖一以—レ之」。

【毄】ケイ、カイ。古詣切　霽
㊀そこなふ、(戕)。㊁つなぐ、かく、(係)。
㊂つくす、(盡)。

【毄】カイ。丘蓋切　泰

毃に同じ、はづかしむ、(辱)、又一說に、うつ、(擊)。

【毄】ケキ、キヤク。吉歷切　錫
㊀擊ち中たる、擊ち中つ、うつ。○〔周〕「弓-人和レ弓—レ摩」。
㊁はらふ、(拂)。○〔周〕、疏〕「可三以—二打人一」。「つさむ。
㊂勤め苦しみて力を用ふるにいふ字、

【㱿】カク、コク。許角切　覺
㱿に同じ、はく。

十一畫

【毶】サン、セン。所斬切　豏
うつ、(擊)。

【毅】ギ、ケ。疑旣切　未　〔說文〕从レ殳豪聲
㊀優柔なるをなし、意志剛し、決斷多し、おもひきりよし、こはし、つよし、豕の怒りて毛を豎つる意。○〔書〕「擾而—」。
㊁鶡の別名。○〔張華〕「鶡稱二——鳥一、謂三其性敢二於鬪一也」。
㊂棋に敗を取りて局を結ぶと。○〔徐鉉〕「棋死結レ局曰レ—」。
（果毅）意氣はげしくつよし。○〔抱朴〕二奮二——之壯-烈一」。
（敢毅）前に同じ。○〔唐〕「——善戰」。
（剛毅）氣風かたくつよし。○〔論〕「——木-訥近レ仁」。
（鯁毅）前に同じ。○〔唐〕「——無レ所レ回」。
（弘毅）氣量ひろく意志つよし。○〔論〕「士不レ可三以不二——一」。
（强毅）つよし。○〔周〕「莅レ政——」。
（悍毅）わるづよきと。○〔晉〕「——之人淫-暴」。
（沈毅）おちつきありてつよし。○〔魏〕「——好レ斷」。
（雄毅）すぐれてつよし。○〔晉〕「——有二犓-畧一」。
（英毅）前に同じ。○〔唐〕二——有二才-略一」。
（豪毅）前に同じ。○〔李賀〕長-金積-玉誇二——一」。
（忠毅）忠義の心厚くしてつよし。○〔唐〕「嗣業——憂レ國」。
（明毅）智識あきらかにしてつよし。○〔唐〕「性——、用レ兵有二節-制一」。
（淸毅）潔白寡欲にしてつよし。○〔舊唐〕「政——、吏-下無二敢犯者一」。
（廉毅）前に同じ。○〔柳宗元〕二——信-讓」。
（驍毅）たけくつよし。○〔唐〕「——有二謀-畧一」。
（勇毅）前に同じ。○〔符載〕「——之師無二與對一」。
（嚴毅）おごそかにしてつよし。○〔唐〕二光-弼——沈-果有二大-略一」。「—」。
（整毅）正しくととのひてつよし。○〔唐〕「治レ軍——」。
（優毅）やさしきうちにつよき所あり。○〔馬融〕「溫直——孔-孟之方也」。
（炎毅）氣質さわやかにしてつよし。○〔蔡襄〕「精神——」。「—」。
（魁毅）からだおほきくつよし。○〔蔡襄〕二姿-醫——

【毆】オウ、ウ。於口切　有
捶轂す、うつ、たゝく。○〔隋〕「所二——擊一無レ不二顚-踣一」。

【毆】コウ、ク。墟侯切　尤
——蛇は、地の名。

【毇】古文の毀の字。

十二畫

【㲅】ソク。將毒切　屋
うがつ、(穿)。

【毇】キ。虛委切　紙　サク、シヤク。卽各切　藥
米を舂き精ぐると、一斛の玄米を舂きて八斗の精米となすと。○〔淮〕「粢-食不レ—」。

【㲉】タウ、チヤウ。除耕切　庚
朾に同じ、つく、(撞)。

【毈】タン、徒玩切 翰　ダン。タ、杜果切 哿　ダ。卵の孚化せざること、すもり。○〔淮〕「獸胎不レ殰、鳥卵不レ毈」。

【㲈】ケウ。居小切 篠　㲈に同じ、そこなふ。

【磬】レイ、リヤウ。離呈切 庚　多き聲。

【䃘】セウ。市昭切 蕭　韶に同じ、舜の樂。○〔周〕「咸大—」。

【鞀】タウ、ドウ。徒刀切 豪　鞀に同じ、鼓の名。

【㲉】タウ、ヂヤウ。除庚切 庚　つく、（揬）、ふる、（觸）。

十三畫

【㲉】カク、コク。克角切 覺　孚卵、たまご、一說に、孚甲、から。○〔東晳〕「貫二雛—于歲首一」。

【㲉】コク。空谷切 屋　已に孚化したる卵。

十四畫

【𣪠】シウ、時流切 チウ、陳留切 尤　ジユ。チユ。物を懸けて擊つ、うつ。

【㲋】サン。初萬切 願　㲋に同じ、小しく舂く、つく。

【磬】カウ、キヤウ。丘耕切 庚

【㲉】ケイ、キヤウ。丘丁切 青　近づくべからず。

【㲉】コク。空谷切 屋　未だ練り治めざる繐、あさ。

【㲉】叡の字の譌り。

十五畫

【毉】イ。於其切 支　醫に同じ。○〔揚雄〕「爲レ—爲二巫・祝一」。

【毉】エイ。烟奚切 齊　黳に同じ、くろこはく。

【毉】エイ。於計切 霽　鷖に同じ、こくたん。○〔古今注〕「鷖或作レ—、鷖木出二交州一、亦謂二之烏文木一」。

【㲉】エイ。乙例切 霽　うつくし、よし、（美）。

【㲉】毅の本字。

十七畫

【鼜】カン、苦紺切 勘　コン。苦監切 咸　鼛に同じ、鼓を打つ、つゞみうつ。

十九畫

【㲉】レン、ロン。離鹽切 鹽　かどみばこ。

【㲉】ケウ。許嬌切 蕭　樂器、大いなる聲。

【㲉】リウ、リユ。力東切 東　こゑ、（聲）。

【鼞】トウ。他骨切 蒸　鼞に同じ、鼓の聲。

二十畫

【㲉】レキ、リヤク。狼狄切 錫　わかつ、（別）。

毋部

【毋】ブ、ム。微夫切 虞

㊀行爲を禁止するに用ふる字、なかれ。○〔禮〕「—レ不レ敬」。

㊁なし、（無）。○〔左〕「—レ絕二其愛一」。

〔將毋〕上を反して問ひを發するに用ふる語、さうはせざらんか。○〔韓詩外傳〕「客有下見二周公一者上、曰、入乎、—」、公曰請入」。

【毋】ボウ、ム。迷浮切 尤　—追は、夏后氏の緇布冠の名。○〔禮〕「—追夏后氏之道也」。

【毌】クワン。古丸切 寒　橫に穿ち持つ、一說に、貫に同じ。

一畫

【母】ボウ、莫後切 有　モ。〔說文〕从レ女、象二懷レ子形一、一曰、象レ乳子也。

㊀はゝ。

(い)己れを生みたる女の稱、めおや、をんなおや、たらちね。○〔詩〕「—兮鞠レ我」。

(ろ)其の人のめおや。〔漢〕「項籍取二陵—一置二諸軍中一」。

(は)めおやに代はりて其の兒に乳を與へ育つる女、めのと、うば。○〔國〕「生三三人一公與二之—一」。

(に)生じたるものに對して其の生ぜしめたるものゝ稱。○〔陸游〕「過レ—龍孫已放レ梢」。

(ほ)根原、もと。○〔老〕「有名萬物之—」。

㊂年長じたる女の稱、ばゞ。○〔史〕「信釣二城下一諸—漂」。

㊃禽獸の牝、め。○〔孟〕「五—雞二—」。

㊄大小相連なれる物の大いなるものの稱。○〔詩傳〕「重環子—環也」。

〔父母〕(い)おとこおやとをんなおやと、おや。○〔詩〕「豈弟君子、民之—」。

(ろ)人を尊び親みていふ稱。○〔詩〕「娶レ妻如之何、必告二—一」。

(は)もと。○〔書〕「天地萬物—」。

(に)天地の假稱、一に大父母ともいふ、其の萬物のもとなる義。○〔易〕「乾天也、故稱二乎—一、坤地也、故稱二乎—一」。

〔日母〕太陽、日。○〔枚乘〕「流攬無窮歸神—」。

〔十母〕十干の異稱。○〔康〕「—謂二甲乙之屬一」。

〔鬼母〕神の名。○〔述異記〕「南海小虞山有二—、能產二天地鬼一、朝產レ之、夜食レ之、今蒼梧有二鬼姑神一是也」。

〔雲母〕(い)一種の鑛物、きらら。○〔西京雜記〕「昭陽殿有二—屛風一」。

(ろ)一種の竹。○〔贊寧筍譜〕「有二—筍一」。

〔蠱母〕一種の鳥、かすひ。○〔爾〕「鳸—」。

〔水母〕海中に生息する一種の蟲、くらげ。○〔郭璞〕「—目蝦」。

〔貝母〕一種の藥草、はゝぐり。○〔爾〕「苘—」。

〔鴾母〕一種のうづら。○〔爾、註〕「鴽也、靑州呼二—一」。

〔知母〕一種の藥草、めはじき。○〔本草〕「—生二河南府川谷一」。

〔益母〕一種の藥草、はゝぐい。○〔爾〕「今茺蔚也、又名二—一」。

〔麻母〕めあさ。○〔爾〕「莩—也」。

〔蟗母〕一種の蜘蛛、さがりぐも。○〔爾、註〕「小蜘蛛長脚者俗呼爲二蟗子一、蒔河內人謂二之—一」。

〔養母〕はゝをはぐくむ。○〔南〕「家貧傭賃以—レ—」。
〔慈母〕（い）めのと。○〔禮〕「喪二—一如二母禮一」。（ろ）いつくしみあるはゝ。○孟序〕「幼被二——三遷之敎一」。
〔保母〕もり役の婦人。○禮〕「非次爲二——一」。
〔世母〕父の兄の妻、をば。○〔儀〕「——叔母」。
〔叔母〕父の弟の妻のこと。○〔南〕「——劉撫養」。
〔老母〕年よりたるはゝ。○〔史〕「知我有二——一也」。
〔酩母〕さけのかす。○〔爾、疏〕「酒滓謂二之——一」。
〔漂母〕水をもて絮を擊ち洒らすことを生業とする老女。○〔史〕「信釣國、召下所二從食一——上賜二千金一」。
〔大母〕祖母、ばゞ。○〔漢〕「李太后親二平王之——一」。
〔假母〕繼母のこと、まゝはゝ。○〔漢〕「有下賊二傷后——一行上」。
〔寄母〕はゝの許に送りこす。○〔吳、註〕「作レ詐——「—」。
〔妳母〕乳母に同じ、うば。○〔南〕「常呼爲二——一」。
〔風母〕猿に似たる一種の獸。○〔交州記〕「——出二九德縣一」。
〔颶母〕春夏の交あらはるゝ虹の如き暈、此のものあらはるゝときは必ず颶風起こる。○〔白居易〕「天黃生二——一」。
〔嫫母〕古昔黃帝の子に嫫母といふ醜婦のありしより後世醜婦のことに借りいふ語。○〔稽康〕「譬者過レ宋、則西施與二——一同レ情」。
〔王母〕父方の祖母のこと。○〔易〕「受二茲介福、于二其——一」。「所レ生」。
〔賢母〕德すぐれたるはゝ。○〔詩、疏〕「由二其——一」。
〔同母〕母を一つにす、卽ち、一人の婦人の胎より共に生まれたるものにいふ。○〔晉〕「弟約與レ陶——」。
〔庶母〕父の妾。○〔禮〕「爲二慈母後一者爲二——一可也」。
〔親母〕眞正のはゝ。○〔禮、疏〕「——尙不レ服」。
〔出母〕父の離緣したるはゝ。○〔避暑錄〕「乃請奉二其——一而歸、與二其後母一並處」。
〔從母〕はゝの姉妹のこと、をば。○〔陳琴〕「升レ堂再拜謁二——一」。
〔異母〕はゝを別にして父を同じくするもの。○〔史〕「長男肥淳惠兄也——」。
〔阿母〕乳母。○〔史〕「故濟北王——自言」。
〔主母〕本妻のこと。○〔史〕「恐二其逐一——也」。
〔乳母〕うば。○〔史〕「食レ乳女子爲二——一」。

〔後母〕父の後妻、まゝはゝ。○詩〕「小弁尹伯奇、爲二——一所レ譖而出」。「放二畜之一」、
〔民母〕嫡母といふに同じ。○〔漢〕「——之子、皆
〔媵母〕母の嫁ぐときつきそひて來たれる婦へのこと、○〔後漢〕「匹夫——尙能致レ命」。
〔祖母〕父のはゝ、ばゞ。○〔後漢〕「翊早孤孝養——」。
〔失母〕母に死にわかる。○〔後漢〕「—レ—思慕」。
〔伯母〕をば。○〔晉〕「事——以レ孝聞」。
〔嫡母〕父の正妻。○〔南〕「傾レ産贖二——一及景煥一」。「氏疾」。
〔生母〕己れをうみくれたるはゝ。○〔南〕「——郭氏疾」。
〔進母〕はゝに物を供ふ。○〔唐〕「還以—レ—」。
〔禍母〕わざはひの起こる本。○〔易林〕「杜レ口結レ舌、言爲二——一」。
〔家母〕はゝといふに同じ。○〔顏氏家訓〕「母日二——一」。「且慈」。
〔哲母〕賢明なるはゝ。○〔陸機〕「依々——既明」。

三畫

〔每〕

バイ、メ。母罪切　賄

㊀草盛に生ひ出づ。○〔說文〕「作レ每草盛上出也」。
㊁一に定めず泛く指すにいふ字、いづれの時にても、いづれの處にても、いづれの物事にても、つれに、すべて、おのおの。○〔詩〕「—懷靡レ及」。
㊂其の時のつれに、其の處のすべてに、其の物事のおのおのに、ごとに（返讀みて）。○〔漢〕「—朝二會四夷一」。「朋一」。
㊃いへども、（雖）。○〔詩〕「—レ有二良朋一」。
㊄むさぼる、（貪）。○〔漢〕「衆庶—レ生」。

〔毎〕

バイ、莫佩切　隊
メ。　謀杯切　灰

かず、（數）、一說に、田の美なるにいふ字。○〔左〕「原田——」。

〔毋〕

俗の每の字。

〔毐〕

アイ、倚亥切　賄　アイ。於開切　灰
エ。

人らしき行ひ無きこと。
〔嫪毐〕秦人にして婬亂のゆゑに誅せられたる人、轉じて婬亂の人の稱にいふ語。

四畫

〔毑〕

姐の古字。

〔毑〕

サ。子我切　哿

—婢は、はゝ、（母）。

〔毒〕

トク、ドク。徒沃切　沃

㊀あし、（惡）。○〔書〕「惟汝生レ—」。
㊁そこなふ、（害）。○〔禮〕「惟君子能好二其正一、小人—二其正一」。
㊂いたむ、（痛）、くるしむ、（苦）。○〔後漢〕「分レ骸斷レ首、以—二生民一」。
㊃害惡、あしきこと、あしきもの。○〔書〕「流二—下國一」。
㊄健康又は生命をそこなふ性分を有すること、又、其の物。○〔周〕「凡療レ瘍以二五—一攻レ之」。
㊅健康又は生命をそこなふ性分の物を使用す。○〔左〕「—二涇上流一」。
㊆うらむ、（恨）。○〔後漢〕「令二人憤—一」。
㊇つかふ、（役）、をさむ、（治）。○〔易〕「以レ之—二天下一而民從レ之」。
㊈そだつ、（育）。○〔老〕「亭レ之—レ之」。

〔亭毒〕其の形質を品成すること、そだつ。○〔易、序〕「—二—羣品一」。
〔厲毒〕味の害を含むこと。○〔潘尼〕「厚味——」。
〔荼毒〕苦痛のこと。○〔書〕「弗レ忍二——一」。
〔我毒〕大いなる害。○〔書〕「乃不レ畏二——一于遠邇一」。
〔酖毒〕鴆といふ鳥の羽の毒を酒中に入れて飮ましむるときは人を害すといふより害となることに轉じていふ語。○〔左〕「晏安——、不レ可レ懷也」。
〔中毒〕あしきものにあてらる。○〔吳〕「—レ—殞レ命」。

〔蠶毒〕さして害をのこす。○〔淮〕「非二特蛘螫之——一」。
〔雜毒〕一種の毒藥、烏頭。○〔淮〕「天下之物、莫レ凶二于——一」。
〔天毒〕上帝の害を下だすこと。○〔書〕「——降レ災」。
〔流毒〕害を泛く布く。○〔書〕「——下國一」。
〔苦毒〕くるしみとなること。○詩、箋〕「君子于二己之——一又甚二于茶一」。
〔辛毒〕前に同じ。○詩、疏「才瀞莫二之潘援一、則自得二——一」。「厚、石屑生」我二、謂二之——一」。「胥一」。
〔疢毒〕疾みて身の害となること。○〔後漢〕「——滋
〔彝毒〕害をなすこと。○〔左、疏〕「令二人不二自知一者、
〔厚毒〕甚しき毒のあること。○〔元稹〕「——破レ心、
〔禍毒〕わざはひ。○〔爾、〕「旟々嘒々輝二——一也」。
〔怨毒〕人をうらむ。○〔史〕「——之於レ人甚矣哉」。
〔遺毒〕前の時よりのこしおける害となるもの。○〔漢〕「其——餘烈、至レ今未レ滅」。
〔慘毒〕むごくし苦しむ。○〔漢〕鄧支單于——二於民一」。
〔煩毒〕わづらひ苦しむ、わづらはしくるしむ。○〔漢〕「以二爽脆之玉體一、犯二勤勞之——一」。
〔磋毒〕歎き恨む。○〔後漢〕「朝野——」。
〔酸毒〕痛み恨む。○〔後漢〕「吏人——」。
〔瘴毒〕惡しき氣。○〔後漢〕「南方暑濕、——方生」。
〔愁毒〕憂へ痛む。○〔後漢〕「四方——」。
〔恨毒〕怨み痛む。○〔後漢〕「——在レ心」。
〔楚毒〕苦痛といふに同じ、くるしみ。○〔後漢〕「當レ爲二——一所レ迫」。
〔創毒〕傷つけ害ふ。○〔後漢〕「敵爲二羌所二——一」。
〔醜毒〕物をそこなふ。○〔晉〕「遂肆二——一」。
〔斬毒〕きりそこなふ。○〔宋〕「揮レ斥——」。
〔姦毒〕害惡といふに同じ。○〔南〕「共逞二——一」。
〔患毒〕憂へ痛む。○〔南〕「莫レ不レ—二—之一」。
〔炎毒〕劇しき暑さ。○〔杜甫〕「淸涼破二——一」。
〔凶毒〕害惡なること。○〔淮〕「天雄烏喙、藥之——也」。
〔烈毒〕甚しき害ひ。〔論衡〕「鬼爲二——一」。
〔至毒〕こよなき害となること。○〔參同契〕「野葛巴豆、草藥中之——者」。
〔三毒〕佛敎の語にて貪慾、瞋恚、愚癡のこと。○〔宗觀經〕「六欲不レ生、——消滅」。
〔艱毒〕くるしみ。○〔潘岳〕「備嘗二——一」。

(痛毒) 前に同じ。○〔潘岳〕「懷ニ寃——ニ」。
(仰毒) 毒藥を飲むこと。○〔謝靈運〕「達ニ非任城ニ而桑甚ニ于——ニ」。
(忍毒) むごき害ひ。○〔陳鴻〕「復加ニ——ニ」。
(烏毒) 烏頭といふ藥の害。○〔白居易〕「豆苗鹿嚼解ニ——ニ」。
(餘毒) 後々までのこりたるあしき事。○〔李翺〕「——被ニ陳汝ニ」。「黎庶ニ」。
(侵毒) 犯しそこなふ。○〔謝聖兪君傳〕「——ニ—

【毒】トク。都毒切 〔屋〕
天——は、一に、身——、今の印度。○〔山海經〕「東海之內北海之隅名ニ天——ニ」。

【毒】瑇に同じ。○〔漢〕「犀象——冒」。

【毗】シ。蔣氏切 〔紙〕
は〻(毋)。

九畫

【毓】イク、オク。余六切 〔屋〕
育に同じ、そだつ。○〔班固〕「豐ニ圃草ニ以——レ獸」。
(都毓) 盛んに多き貌にいふ語。○〔左思〕「密房——被ニ其阜ニ」。
(匡毓) たすけ育つ。○〔漢〕「受ニ道武臬ニ、——ニ孝昭ニ」。
(利毓) 便りを與へ養ふ。○〔宋〕「——惟均」。
(匯毓) 生育といふに同じ、養ひそだつ。○〔嵇康〕「詳觀ニ其區土之所ニ——ニ宜」。
(畜毓) 養ひそだつ。○〔獨孤及〕「雄威——時乃——ニ」。
(養毓) 前に同じ。〔梅堯臣〕「有志在ニ——ニ」。

比部

【比】ヒ、ビ。卑履切 〔紙〕
㊀くらぶ、ならぶ。
(い)列を同じくして見ろ、類を一にして察す。○〔周〕「——ニ官府之具ニ」。
(ろ)物と物とを照合す、てらしあはす、ひきあはす。○〔鬼谷〕「——ニ其辭ニ」。
(は)列を同じくす、類を一にす。○〔禮〕「——レ物醜レ類」。
㊁同列、一類、たぐひ、ともがら。○〔韓愈〕「朴厚端力少レ見ニ倫——ニ」。
㊂支那の詩の一體、其の或る物にくらべて情を抒すること。○〔鄭玄〕「——之與レ興同附ニ託外物ニ——顯而興隱」。
㊃故事、典例、ためし、のり、かた。○〔禮〕「察ニ小大之——ニ以成レ之」。
㊄書史を綴輯す、つゞろ、あつむ。○〔漢〕「——ニ輯其義ニ」。
㊅善を擇びて從ふ、したがふ。○〔詩〕「克順克——」。
㊆庀に同じ、おさむ、そなふ。○〔周〕「——ニ樂官ニ」。
(庀比) 他の事を證としてたくらぶ。○〔漢〕「奇請——、日以益滋」。
(羞比) たくらぶることを恥かしく思ふ。○〔漢〕「五尺童子、——レ晏嬰與ニ夷吾ニ」。
(自比) 己れと己れをくらぶ。○〔蜀〕「毎——ニ於管仲樂毅ニ」。
(徵比) 召しよせて考へたくらぶ。○〔周〕「各掌ニ其縣之政令——ニ」。
(九比) 周の時に九賦とて九つの賦斂を出だすの法あり、即ち、九賦を出だすものゝことにいふ語。○〔周〕「稽ニ國中及四郊都鄙之夫家——之數」。
(校比) かんがへたくらぶ。○〔周〕「以ニ歲時ニ涖——」。
(邦比) 國家の常法によりてかんがへたくらぶ。○〔周〕「以ニ——之法ニ帥ニ四閭之吏ニ」。
(案比) 善惡をかんがへたくらぶ。○〔後漢〕「毎レ至ニ歲時縣當ニ——ニ」。「——上」。
(竪比) ととのへ並ぶ。○〔唐〕「使下與ニ諸元帥ニ——」
(彙比) かたどりたくらぶ。○〔鬼谷〕「其有ニ——以觀ニ其次ニ」。
(絕比) たえてたぐひあることなし。○〔杜陽雜編〕「其精功華麗——」。
(僕比) のりを取りたくらぶ。○〔宋玉〕「無ニ物猶之——ニ」。
(高比) 勝れたるものにたくらぶ。○〔龔遂〕「昔日取急欲ニ——ニ」。

【比】ヒ、ビ。毗至切 〔寘〕
㊀易の卦名 ☷☵ 坎上坤下 ○〔易〕「——吉原筮」。
㊁たすく(輔)。○〔國〕「足三以——ニ大事ニ」。
㊂したしむ(親)、ちかづく(近)。○〔周〕「使下小國事ニ大國ニ、大國——中小國上」。
㊃やはらぐ(和)。○〔管〕「——順以敬」。
㊄偏り黨す、おもねり附く、くみす。○〔論〕「君子周而不レ——」。
㊅したがふ(從)。○〔論〕「義之與——」。
㊆まじふ、まじはろ(雜)。○〔禮〕「——レ物以飭レ節」。
㊇あふ、あはす(合)。○〔禮〕「其容體——ニ于禮ニ」。
㊈さきだつ(先)。○〔禮〕「——レ時具レ物」。
㊉かんがふ(考)、くらぶ(校)。○〔周〕「乃頒ニ——法於六卿大夫ニ」。
⑪ならぶ(並)。○〔書〕「——ニ爾干ニ」。
⑫ひとし(齊等)。○〔詩〕「——レ物四驪」。
⑬いたる(至)、およぶ(及)。○〔詩〕「——ニ于文王、其德靡レ悔」。
⑭きびし(密)。○〔詩〕「其——如レ櫛」。
⑮ころ。
(い)料り定めたる時の程にいふ字、ころほひ。○〔漢〕「自度——レ至皆亡レ之」。
(ろ)頃に同じ、このごろ。○〔世說〕「——侍否」。
⑯一同に止まらず、たびたび、しきりに、しばしば。○〔禮〕「——年一小聘」。
⑰周時代の五家の組合、又、となり、近隣。○〔周〕「五——爲レ閭」。
⑱齒のきびしき櫛。○〔顏師古〕「櫛小而細所ニ以去ニ蟣蝨ニ者謂ニ之——ニ言ニ其齒密比也」。
⑲矢括、やはず。○〔周〕「挾ニ其——以設ニ其羽ニ」。
(睨比) 親しみ近づく。○〔晉〕「——ニ罪八ニ」。
(雜比) くさぐさなるものを寄せ集む。○〔晉、註〕「——爲レ音」。
(地比) 其の次第により近きより遠きに及ぼせること。○〔漢〕「各以ニ——ニ給」。「——」。
(接比) 近づく、寄りつく。○〔漢〕「吳卑與楚——」
(上比) け高きものに近づく。○〔莊〕「成而——者與レ古爲レ徒」。「者——」。
(相比) 互に相去ること遠からず。○〔周易略傳〕「年
(親比) したしきこと。○〔宋〕「百姓——」。
(洽比) 博く親しむ。○〔詩〕「——ニ其鄰ニ」。
(和比) やはらぐ。○〔周、註〕「與レ民——」。
(協比) 前に同じ。○〔詩〕「——ニ其鄰ニ」。
(諧比) 前に同じ。○〔唐〕「方直寡ニ——ニ」。
(叶比) 前に同じ。○〔吳通微焦希望神道碑〕「——ニ衆志ニ」。
(附比) 近よる、かたよりつく、したがふ、あふ、あはす。○〔左、序〕「分ニ經之年ニ相——」。
(等比) ひとし。○〔漢〕「——者免」。
(朋比) かたよりくみす。○〔唐〕「兄弟——」。
(偏比) 注意して親しむ。○〔伯〕「——而不レ邪」。
(鄰比) 近鄰といふに同じ。○〔嵇康〕「知舊——」。
(恩比) めぐみ親しむ。○〔柳宗元〕「周德——」。
(屋比) 近鄰。○〔史〕「家人失火、——延燒不レ足レ憂也」。
(無比) くらべものとなるものなし。○〔逸周書〕「均卒力貌而——」。
(連比) ならびつらなる。○〔鹽鐵論〕「呉弟書園、員田——」。「各異ニ王ニ」。
(疏比) 疏なると細きと。○〔急就篇〕「鏞簽——」
(駢比) ならぶ。○〔水經、註〕「民居——」。
(排比) 前に同じ。○〔花蘂夫人宮詞〕「——椒房、窈窕無」。
(櫛比) くしの齒の如くにつらなりならぶ。○〔洛陽伽藍記序〕「招提——寶塔駢」。
(鱗比) 魚のうろこの如くにならぶ。○〔何景福〕「綺錯——」。「義ニ」。
(次比) 順序のこと。○〔歐陽修〕「其——莫レ詳ニ其

【比】ヒ、ビ。房脂切 [支]
ならぶ、（竝）、又、となり、（鄰）。○〔杜甫〕「不レ教三鵝鴨惱二―鄰一」。
〔皐比〕（い）虎皮、とらのかは。○〔左〕「蒙二―・―一而先犯レ之」。（ろ）後世に虎皮を講席となしゝより講席のことに借りいふ語。○〔朱熹〕「勇撤二―・―一」。
〔犀比〕革の帶の鉤、ためがね。○〔戰〕服二黃金―・―一。
㊂つく（附）。○〔詩〕「無レ爲二夸―・―一」。
㊃革帶の鉤、ためがね。○〔史〕「匈奴黃金胥―・―」。
㊄もだゆ、（懣）。
〔荼毗〕梵語にて火葬の義にいふ。○〔翻譯名義集〕「屠維郎―・―焚燒也」。
〔永毗〕久しく輔佐す。○〔梁武帝〕「―・―二庶政一」。
〔兼毗〕他の事とかね合はせて輔け執る。○〔常袞〕「―・―二戎政一」。

五畫

【比】ヒツ、ビチ。毗必切 [質]
ならぶ（竝）。○〔張九齡〕「皮龍鱗而駢―・―」。

【毖】ヒ、ビ。兵媚切 [支]
㊀つゝしむ、（愼）。○〔書〕「汝劼二―毖獻臣一」。
㊁いたはる、（勞）。○〔書〕無レ―二于恤一。
㊂泉の流るゝ貌にいふ字、又、ながるる泉。○〔詩〕「―彼泉水」。
〔閟毖〕案がりなやむ。○〔書〕「天―・―我成功所」。
〔懲毖〕こりつゝしむ。○朱熹〕「懲―・―」。
〔深毖〕底ふかき泉の流れ。○〔謝靈運〕「派二―・―於近瀆一」。
〔淸毖〕きよき泉の流れ。○〔韓休〕「遶二龍宮之―・―一」。
〔敦毖〕重きつゝしみ。○〔蘇軾〕「益務二―・―一」。

【毘】毗に同じ。

六畫

【毞】毗の本字。

【毚】昆に同じ。

十畫

【毚】ケツ、ケチ。古穴切 [屑]
狌々に似たる獸、一說に、貍に似たる獸。

【㲋】チヤク。敕略切 [藥]
靑色にして兔に似て大いなる獸、一說に、㲋に同じ。

【毗】ヒ、ビ。頻脂切 [支]
㊀輔弼して明かならしめ又は厚からしむ、たすく。○〔詩〕「天子是―」。
㊁益す、加ふ、併す。○〔莊〕「大喜邪―二於陽一」。

十一畫

【毚】シ。疏吏切 [寘]
むじな、（貉）。

十三畫

【毚】サン、ゼン。士咸切 [咸]
狡兔、するどきうさぎ。○〔詩〕「躍々―兔、遇レ犬獲レ之」。
〔秋毚〕秋の候になり元氣を恢復して太く肥えたるはしこき兔。○〔陸龜蒙〕「豎健想二―・―一」。

廿三畫

【毚】ハク、ヒヤク。匹陌切 [陌]
疾き貌にいふ字、はやし。

毛部

【毛】バウ、モウ。謨袍切 [豪]
㊀け。
（い）人の皮膚に生ずる細條。○〔詩〕「不レ屬二于―一」。
（ろ）他の動物の皮に生ずる細條。○〔書〕「其貢羽―齒革」。
（は）すべて物の表皮にある細條。○〔禮、疏〕「桃多レ―、拭治去レ―」。
（に）髮。○〔國〕「手拇―脈」。
（ほ）けのつきたる皮、けがは。○〔後漢〕「衣レ―而冒レ皮」。
㊁頭髮の黑白、卽ち、齡年の長幼。○〔周〕「王之燕諸侯―」。
㊂獸類、けもの。○〔禮〕「―者孕鬻」。
㊃けの色のまじりけなきこと。○〔史〕「羣公不レ―」。
㊄けを去ること。○〔詩〕「―炰胾羹」。
㊅桑麻、五穀、草木、すべて生育したる植物の稱。○〔左〕「食二土之―一」。
㊆桑麻などの生育すること。○〔公羊〕「錫二之不―之地一」。
㊇一種の竹。○〔顧愷之〕「南嶺有二―竹一」。
〔柔毛〕（い）羊の一名。○〔禮〕「凡祭祀之禮、羊曰二―・―一」。（ろ）やはらかきけ。○〔列〕「二―胡虞以二―・―一綈幕一」。
〔燕毛〕老者を燕するに年齡の老若により席次を定むること。○〔禮〕「―・―所三以序二齒也」。
〔皮毛〕かはとけと。○〔周〕「―・―筋角」。
〔二毛〕黑き毛と白き毛と打ちまじりたること、卽ち老人の頭髮、又、老人の稱。○〔左〕「不レ禽二―・―一」。
〔顚毛〕頭のいたゞきのけ。○〔柳宗元〕「蒼白瀞泊盈二―・―一」。
〔鴻毛〕おほとりのけ、物の極めて輕きにいふ語。○〔史〕「衝風之末力、不レ能レ漂二―・―一」。
〔旃毛〕毳衣の毛。○〔漢〕「武齧レ雪與二―・―一」。
〔吹毛〕けの間をふき分けて疵のあるかなきかをさがす、卽ち、隱れたることまでも捜し出だすにいふ語。○〔張說〕「吏苛レ―・―、人安措レ足」。
〔燎毛〕けを火にかけて焚く、卽ち、極めて無造作なることにいふ語。○〔柳砒〕「覆墜之易如レ―・―」。
〔蝟毛〕はり鼠のけのこと、毛の針の如くつき立ちて叢り生ふるにいふ。○〔晉〕「蝟作二―・―一」。
〔豎毛〕れぞけを立つ。○〔唐〕「天下爲寒心レ―レ―」。
〔鷙毛〕鷙鳥の毛。○〔白居易〕「灑―・―之蓊」。
〔穎毛〕筆のこと。○〔梅堯臣〕二―・―臨レ笑映二簪華一。
〔淺毛〕けぶかくなきこと。○〔管、註〕「―・―之獸、虎豹之屬」。
〔踐毛〕逆に射てとりたる獸のこと。○〔詩、疏〕「―・―不レ獻」。「毳氈」。
〔冷毛〕さきの紛れ結べる毛。○〔禮〕「羊―・―而」。
〔純毛〕雜りなきけ。○〔禮〕「犧―・―也」。
〔縟毛〕細きけ。○〔禮〕「毛物貂狐貒貉之屬―・―者也」。
〔毫毛〕ほそげ、又、細小の義にいふ語。○〔漢〕「有レ益二―・―一」。
〔同毛〕つむじけ。○〔爾〕「―・―在レ背」。
〔旋毛〕前に同じ。○〔埤雅〕「―・―欲レ深」。
〔翰毛〕鳥のはね。○〔陳琳〕「譬猶二鷇卵始生二―・―一」。
〔采毛〕色どりあるけ。○〔射雉賦〕「率―・―之英。「晱二兮」、」
〔希毛〕けすくなし。○〔漢〕「鳥獸―・―」。
〔諸毛〕筆の一名。○〔韓愈〕「又論―・―功」。
〔翠毛〕あをきけ。○〔鍾會〕「戢二―・―一以表レ弁」。
〔鮮毛〕あざやかなるけ。○〔晉〕「―・―之衣」。
〔聚毛〕叢り生ひたるけ。○〔魏〕「角上生二―・―一、長寸許」。
〔綴毛〕けをとぢつく。○隋「―・―垂レ爲レ飾」。
〔寒毛〕おぞけをふるふ。○〔唐〕「皆―・―惕伏」。
〔鱗毛〕魚類と獸類と。○〔宋〕「多雜二―・―一」。
〔髮毛〕かみ。○〔說苑〕「鶉鵲巢二于甍宮一、翠二之―・―一」。
〔恆毛〕尋常の獸類。○論衡〕「鳳皇麒麟、以仁聖之德一、隱二于―・―羽一」。「―・―一」。
〔美毛〕うるはしきけ。○博雜志〕「山雞有二―・―一」。
〔弱毛〕やはらかきけ。○〔潘岳〕庖二―・―之狩一。
〔輕毛〕目方のすくなきけ。○〔曹植〕「翳落―・―散」。

(素毛) 白きけ　○〔傅休奕〕「一一纓而揚レ精」。
(斑毛) またらなるけ。○〔摯虞〕「一一赭・爾」。
(秀毛) ながくひいでたるけ。○〔左晉嬪〕「載二緑・碧之一一一」。
(霜毛) 白きけ。○〔[illegible]賦〕「鬢二一・一一而弄レ影」。
(雪毛) 前に同じ。○〔楊維楨〕「扶上仙山一・一毘」。
(紡毛) けをつむぐ。○〔呉均〕「一・一織二野服一」。
(鬘毛) びん。○〔岑參〕「一・一颯已蒼」。
(凡毛) 通常にしてすぐれたる所なきけ、又、なみのけたもの。○〔杜甫〕「鳳雛無二一・一一」。

【毛】バウ、モウ。莫報切 號
芼に通じ用ふ、えらぶ、(擇)。

【毛】ボ、モ。蒙晡切 虞
無に通じ用ふ、なし。○〔後漢〕「饑者一レ食」。

【毶】サン、ソン。蘇甘切 覃
毿の轉聲。

三畫

【㲃】ヂョウ、ニョウ。尼證切 徑
毽一一は、犬の毛。

四畫

【毜】フン、ホン。敷文切 文
毛落つ。

【毝】シ。章移切 支
㊀けおり、(罽)。
㊁輕き毛の貌にいふ字。

【毞】ヒ、ビ。頻脂切 支
けおりもの、(罽)。

【𣬵】ハイ。博蓋切 泰　ハイ、ベ。瀰邁切 卦
一一毲は、毛の多き貌にいふ語。

【㲉】カイ、ケ。居拜切 卦
獸の細き毛、ほそげ。

【㲝】サフ、ソフ。悉合切 合
眼睫の長き貌にいふ字。

【𣬸】髦に同じ。

【𣭀】ハウ、ホウ。普刀切 豪
㊀毛の起つ貌にいふ字、けだつ。
㊁かろし、(輕)。

五畫

【𣭙】テウ、デウ。田聊切 蕭
一一毲は、鳥の尾の翹がれる羽。

【𣭙】テウ。丁聊切 蕭
一一毲は、羽の惡しき貌にいふ語。

【𣭘】レイ、リヤウ。郎丁切 青
レン。靈年切 先
毛の結ぼれて理まらざるにいふ字、むすぼる。

【𣬶】サウ、シヤウ。師庚切 庚
毛の起つ貌にいふ字、けだつ。

【𣭈】シン。阻引切 軫
毛髮の齊しき貌にいふ字、けそろふ。

【毠】カ、ケ。居牙切 麻
一一裟は、けさ、けごろも。

【𣭊】ヒ。攀糜切 支
け、(毛)。

【𣭢】ボウ、ム。莫候切 宥
毛密なり、おほし、こけし。

【𣭚】ハウ、ボウ。蒲號切 號
菢に同じ、鳥卵を伏く、いだく、かいこあたゝむ。

【𣭛】毦に同じ。

【毸】紕に同じ、毛毯の類、けおり。
○〔後漢〕「冉駹夷其人能作二旄氈・斑罽・青頓・毞・羖羊・羧之屬一」。

【𣭜】タク、チヤク。中格切 陌
初めて生ずる毛、うぶげ。

【毡】俗の氈の字。

【毱】ク、ゴ。其俱切 虞
けむしろ、(毛毯)。

【𣭝】ジュ、ニュ。人朱切 虞
け、(毛)。

【氀】ル。力主切 麌
けおり、(罽)。

六畫

【毢】サイ。蘇來切 灰
毶一一は、鳥の羽の張り怒る貌にいふ語。

【𣭞】ボク、モク。莫卜切 屋　バク、モク。莫角切 覺
㊀よしうつくし、(好)。○〔揚雄〕「純一好也」。
㊁憂ふる貌にいふ字、又、謹愿の貌にいふ字。○〔漢〕「願賜二數刻之閒一、極二竭一一一之思一」。
㊂風の貌にいふ字。○〔柳宗元〕「台・入既辭去舟同如レ飛、但覺風一一一而過」。

【毷】バウ、モウ。莫報切 號
眊に同じ、くらし。

【毢】カフ、コフ。葛合切 合
睫毛の長き貌にいふ字。

【毤】タ。湯臥切 箇　エツ、エチ。欲雪切 屑
羽毛解脫す、ぬけかはる。○〔管〕「文一皮一一服以爲レ幣」。

【毥】シュン、ジュン。思巡切 眞
毛の初めて生ずる貌にいふ字。

【毥】シュン、ジュン。俊閏切 震
利き毛羽、さかりげ。

【毦】ジ、ニ。仍吏切 寘
㊀羽毛の飾、けかざり。○〔魏略〕「劉備性好二結一一一」。
㊁一種の香草。「紫茸」。
㊂細條の下垂せるものゝ稱。○〔郭璞〕「揚二皓一一一擢二」。○〔通俗文〕「綵羽、革、草之下垂者、竝可二以レ一名一」。
㊃一種の藤。○〔齊民要術〕「一一藤大小如二莘・蕎一蔓衍生」。

〔氈毦〕　けおりもの、或は曰ふ、其の曲がれる文あるもの〻稱と、一說に、冠の上の飾とも又は兜の上の飾ともいふ、又一說に、羽を績ぎて衣に爲るもの。
〔纓毦〕　かざりげ。○〔庾肩吾〕「郎今馬及弓-槊上——也」。「薄少」。
〔白毦〕　しろきけかざり。○〔諸葛亮〕「所ㇾ送——」
〔幡毦〕　毛のかざりのつきたる旗。○〔西京雜記〕「每ニ好-風-日ー——光-影、照ニ耀一-殿ニ」。
〔翠毦〕　みどりの色をなせる羽毛のかざり。○〔梁簡文帝〕「——與ニ紅-塵ー俱動」。
〔華毦〕　うつくしき羽毛のかざり。○〔何承天〕「虎-騎躍ニ——ニ」。「懸」。
〔旌毦〕　旗のけかざり。○〔梁簡文帝〕「飄-々——」
〔采毦〕　いろどりのあるけかざり。○〔劉孝威〕「周-旗交ニ——ニ」。
〔兜羅毦〕　錦の名。○〔內典翻譯名義集〕「兜羅-錦亦翻ニ揚-華ー或稱ニ———ニ」。

【毧】　ジウ、ジュ。而中切　東
ほそきけ（細-毛）。

【毨】　セン。蘇典切　銑
毛羽生えかはりて齊ひ理まる、さ〻のふ。○〔書〕「鳥-獸毛——」。
〔毨毨〕　毛多くおひと〻のふ。○〔晁補之〕「——同和ニ于天-地ニ」。

【毠】　ヂョ、ニョ。女余切　魚
犬の毛の多き貌にいふ字。

【毤】　セツ、セチ。私列切　屑
毨に同じ、なさまる。

【毩】　セン。章延切　先
けのしきもの（毛-席）。

【毬】　ジュ。傷遇切　遇
け（毛）。

七畫

【毫】　カウ、ゴウ。胡刀切　豪
㊀長くして端のさがりたる細毛、ほそげ。○〔論衡〕「兔舐ニ雄——而孕」。
㊁物事の細微なるにいふ字、ほそし、すくなし、すこし、いさ〻か。〔漢〕「有ㇾ益ニ——毛ニ」。
㊂尺秤の名目、一釐の十分の一。○〔謝察微〕「十-絲曰ㇾ—、十—曰ㇾ釐」。
㊃ふで（筆）。○〔陸機〕「或含ㇾ—而渺-然」。
㊄書すること、畫くこと、ふでを使ふこと。○〔隋〕「筆不ㇾ停ㇾ—」。
〔修毫〕　狗の名。○〔西京雜記〕「李亨好馳ニ駿-狗ー、有ニ——釐-睫白-望青-曹之名ニ」。
〔秋毫〕　（い）あきの細毛、はそげは秋に至りて益纖細となるといふ。○〔莊〕「——爲ㇾ小待ㇾ之爲ㇾ體」。（ろ）轉じて、物事の纖細なるにいふ語、すくなし、ほそし、すこし、いさ〻か。○〔漢〕「——無ㇾ犯」。
〔纖毫〕　細微なること。○〔魏〕「中ニ——之惡ニ、矓ㇾ不ニ抑-退ニ」。「—ニ」。
〔兔毫〕　（い）うさぎの毛。○〔蘇軾〕「浮-雪花ニ於——」（ろ）筆。○〔羅隱〕「幽-恣染ニ——ニ」。
〔白毫〕　しろき毛。○〔拾遺記〕「眉有ニ——ニ」。
〔抽毫〕　筆を拔きとりて記す。○〔李白〕「——頌ニ清-風ニ」。
〔涓毫〕　さ〻いなること。○〔虞茂〕「何以効ニ——ニ」。
〔壽毫〕　いのち長きしるしとなる毛。○〔王禹偁〕「始放堯-眉出ニ——ニ」。
〔振毫〕　筆を揮ひてものかく。○〔宋〕「整ㇾ笏—ㇾ—」。
〔筆毫〕　ふでの尖の毛。○〔南〕「——盡、每削用ㇾ之」。
〔微毫〕　毛はそきけ、又、細小。○〔淮〕「髮-毛——、「可ニ得而察ニ」。
〔柔毫〕　やはらかき毛。○〔洞冥記〕「因名ニ——襸ニ」。
〔宣毫〕　筆のこと。○〔摭言〕「越-管——始稱ㇾ情」。
〔引毫〕　筆を引き寄せてとる。○〔全唐詩話〕「於ㇾ是—ㇾ—立成」。「—ニ」。
〔鋒毫〕　筆のさき。○〔墨池瑣錄〕「太濃則滯ニ—」
〔勁毫〕　こはき毛。○〔虞世南〕「——柔-毳ニ」。
〔分毫〕　わづかの數のこと。○〔傅毅〕「——之判、纖如ニ髮-芒ニ」。
〔霜毫〕　白き毛。○〔虞世南〕「——臨ㇾ圖」。
〔援毫〕　ふでを執りてかきしるす。○〔李白〕「—ㇾ—投ニ此詞ニ」。
〔長毫〕　長き毛。○〔岑参〕「兩-耳生ニ——ニ」。
〔揣毫〕　ながき記す。○〔賈島〕「貌堪ニ良-匠——ニ」。
〔逸毫〕　腕前のすぐれたる筆づかひ。○〔劉皋〕「——亘-麗」。
〔粉毫〕　繪をかく筆。○〔杜牧〕「——惟畫ㇾ月」。
〔彩毫〕　前に同じ。○〔溫庭筠〕「——一-畫費何榮」。「逸」。
〔小毫〕　ちひさき筆。○〔鄭谷〕「聞說——能縱ㇾ」
〔健毫〕　すこやかなる毛、又、すこやかなるふでづかひ。○〔羅隱〕「——驚ニ綵-鳳ニ」。
〔棲毫〕　筆をとゞめてものかゝざること。○〔孫僅〕「——思確解」。「覓無ㇾ奇」。
〔秃毫〕　尖のとれたる筆。○〔范成大〕「——冰-硯斷世-來ニ、不ㇾ漏ニ——ニ」。
〔絲毫〕　わづかばかりなること。○〔圓通語錄〕把ニ

【毨】　セン。思連切　先　シン。疏臻切　眞
㊀けおり（罽）。㊁—翅は、細き葛。

【毲】　ライ、レ。力外切　泰
毛の色の斑なること、まだら、ぶち。

【毟】　レツ、レチ。力蘖切　屑
前條に同じ、一說に、馬の毛のまだらなること。

【毷】　セウ。蘇彫切　蕭　シウ、シュ。思留切　尤
㊀毨の字の條を見よ。
㊁毰—は、まうせん（氍-毹）。

【毬】　キウ、グ。渠鳩切　尤
㊀まり。
（い）或は蹴り或は打ちなどする圓き戲具、鞠丸、其の遊戲は、黃帝の兵勢に本づきて造れりといひ、又、戰國の時に武士に試み其の材力の程を知る爲めにはじまれりともいふ、鞠丸は、最初は毛を糾結してつくれり、後に至りて、外を皮にて作り內に胞を入れて此れに氣を吹き入れて閉ぢて用ひ、又、韋にてつくり內に柔き物を實たし或は氣を實たしなどして用ふることなれり。○〔荊楚歲時記〕「寒-食爲ニ打——鞦-韆藏-鉤之戲ニ」。
（ろ）鞠丸の如き團形をなせるものの稱、たま。○〔傳燈錄〕「雪-峯-和-尙趯ニ三-箇木——ニ」。
㊁まりの如き團形をなせる燈。○〔范成大〕「玻-璃——燈每ニ一-隙ー映ニ成一-花ー亦妙ニ天-下ニ」。
㊂一種の魚。○〔范正敏〕「朱-崖之傍有ㇾ物如ㇾ鞠大-小質-狀無ㇾ異亦有ㇾ紋如ㇾ線、味極肥-美土-人呼爲ニ——魚ニ」。
〔花毬〕　鳥の毛のけおりもの。○〔外國誌〕「哈-烈古大宛地、有ニ瑣伏——ニ」。
〔打毬〕　てまりを打ち投げて優劣を競ふ技。○〔王建〕「寒食宮人步——」。
〔擊毬〕　前に同じ。○〔唐〕「——鬪-雞爲ㇾ樂」。
〔綵毬〕　（い）紅き絹の布をもて製したるまりに紅の錦にてしつらへたるなはを繫ぎ地上に擲下し騎馬したる者數人にて走せ射る遊戲。○〔李謹言〕「笑-倩傍-人認ニ——ニ」。（ろ）てまり花、又、菊の一種。
〔綵毬〕　美しき絲にて飾りたるまり。○〔李白〕「天-人弄ニ——ニ」。「擲ニ馬-上ニ」。
〔畫毬〕　色どりたるまり。○〔五〕「笑自抱ニ——」
〔氍毬〕　織りたる毛のしきもの。○〔唐〕「鋪——」。「超」。
〔蹴毬〕　けまりをなすこと。○〔白居易〕「——塵不」

〔拋毬〕まりを投げて遊ぶ。○〔夢溪筆談〕抛ニ宮女ーー」。
〔捎毬〕まりを受けとる。○〔張祜〕「ーレー紫袖梢」。輕」。
〔輕毬〕かろきまり。○〔溫庭筠〕「ーーー落處花箏」。
〔飛毬〕とびあるく燈、又、とびあがれるまり。○〔蘇軾〕「ーー互明滅」。
〔氈毬〕毛おりの布。○〔蘇軾〕「提レ戈入市裏ニーー」。
〔撲毬〕まりをうちたゝく。○〔張憲〕「杖ー二ー蹴手胸擊」。
〔步毬〕けまり。○〔楊子器〕「換ニ著春衣ー打ニーー」。

【⿰孚毛】フ。芳無切 虞
㊀鳥の毛解く、けおつ、けぬく。㊁けおり（罽）。

【⿰束毛】シュ、ス。霜俱切 虞
まうせん（氍・毹）。

【⿰孛毛】ホツ、ボチ。蒲沒切 月
⿰孛毛の字の條を見よ。

【毭】トウ、ヅ。田候切 宥
毾ーは、けおり（罽）。

【⿰若毛】タク、ナク。匿各切 藥
毛氈の屬、地質極めて細くして雨を禦ぐべし。

【⿰孝毛】カウ、コウ。呼高切 豪
㊀みだる（攪）。㊁もむ（揉）。

【⿱沙毛】サ、セ。師加切 麻
㊀裟に同じ。㊁毛の長き貌にいふ字。

【⿰臣毛】タウ、ネウ。女巧切 巧
ー毿は、毛氈の毛の深くして亂るゝもの。

【⿰匽毛】エン。夷然切 先
越ーは、錦の類。

八畫

【⿱卓毛】チ。展里切 紙
獸の毛の多きにいふ字、けぶかし。

【毯】タン、トン。他感切 感
毛にて織りたる席、けむしろ。○〔五〕「悉取ニ軍中氈ーー」。
〔罽毯〕けおしろ。○〔宋〕「用ニ蒲墩加ニーー」。
〔氈毯〕前に同じ。○〔酒經〕「多用ニーー緜レ之」。
〔茵毯〕毛皮などにて作りたるしきもの。○〔國史補〕「悉藉ニーー」。

【⿰米毛】リ。里之切 支　ライ。郎才切 灰
㊀彊き毛。㊁毛起つ、たつ。

【⿰导毛】トク。多則切 職　チョク、テキ。丁刀切
毛少し、すくなし。

【毰】ハイ、ベ。蒲枚切 灰
ー毸は、羽を張る貌にいふ語、一說に、鳳の舞ふ貌にいふ語。○〔韓愈〕「與レ酒ーー」。

【毱】キク、ゴク。巨六切 屋
鞠に同じ、けまり。

【⿰隹毛】
銉に同じ。

【⿰隹毛】バウ、モウ。莫袍切 豪
毛に同じ。○〔周〕「中秋鳥獸ーー毨」。

【⿰隹毛】バウ、モウ。莫報切 號
毛の盛んなるにいふ字、一說に、輕き毛。

【⿰卒毛】ソツ、ソチ。蘇骨切 月
㊀⿰孛毛ーは、毛の貌にいふ語。㊁毛の生ずる貌にいふ字。

【⿺走毛】セフ、ソフ。即涉切 葉
睫に同じ。

【⿰妾毛】
睫に同じ。

【毲】タツ、タチ。都括切 曷
蠻夷の產出なりし一種の罽、けおりもの。○〔後漢〕「哀牢夷知ニ染ー采文ー繡罽ーー」。

【⿰昆毛】コン。古本切 阮
毛轉ず、めぐる。

【毳】セイ、セ。此芮切 霽
㊀細くやはらかにして美しき獸毛。○〔周〕「共ニ其ーー毛ニ」。㊁細くやはらかにして美しき獸毛を織りたる物、けおりもの。○〔王褒〕「荷レ旃被レー」。㊂鳥の腹にある毛。○〔說苑〕「背上之毛、腹下之ー」。㊃周代の一種の冕、男子の爵位の者の著用せしもの。○〔周〕「四望山川則ー冕」。㊄周代の一種の服、天子の大夫の著用せしもの。○〔詩〕「ー衣如レ菼」。㊅一種の僧服。○〔法苑珠林〕「衣中有ニ四者ニ、一糞掃衣、二ー衣、三衲衣、四三衣」。㊆細くやはらかにして斷ち易きこと。○〔荀〕「事小敵ー則偸可レ用也」。㊇やはらかにして美なること。○〔史〕「日夕得ニ甘ーー以養レ親」。
〔火毳〕火浣布のこと。○〔後漢〕「賓僚ーー駁舍封獸之賦」。
〔毛毳〕禽獸のはそきけ。○〔魏〕「以ニーー爲レ衣」。
〔細毳〕はそき毛。○〔禮、疏〕「虎雌淺毛ーー」。
〔纖毳〕前に同じ。○〔梁簡〕「則不レ能レ動ニーー」。
〔柔毳〕やはらかなるはそげ、又、やはらかなること。○〔謝莊〕「曜毫ーー」。
〔軟毳〕前に同じ。○〔元稹〕「毛衣ーー心性柔」。
〔罽毳〕はそき毛にておりたるけむしろ。○〔拾遺記〕「溫柔如ニーー焉」。
〔氍毳〕前に同じ。○〔隋煬帝〕「藥ニ彼ーーー」。
〔霜毳〕しもの如き白きはそげ。○〔孟簡〕「ーーー潔明」。
〔墮毳〕はそきけをおとす、又、ぬけおちたるはそげ。○〔陸游〕「ーー拾爲レ裘」。
〔雪毳〕しろきはそげ。○〔田嬀衡〕「ーーー含レ麹」。

【毳】セツ、セチ。租悅切 屑
橇に同じ、そり。○〔漢〕「泥行乘レー」。

【⿰戔毛】セン。將先切 先
毴の屬。

【⿰果毛】ク、コ。其俱切 虞
けおりのしきね（毯・褥）。

九畫

【⿰韭毛】ハウ。補朗切 養
けおり（罽）、一說に、其の方形の文あるもの、又一說に、其のなゝめなる文あるもの。

【⿰禺毛】テフ、ドフ。徒葉切 葉
西國の毛布。

【⿰英毛】エイ、ヤウ。於丙切 梗
毛布。

【毧】ジウ、ニュ。如終切 東
細き毛、一說に、俗の毴の字。

【毷】バウ、モウ。莫報切 號
毛解く、さく。

【毠】カ、ケ。古牙切 麻
——毼は、毛の衣。

【耗】ダイ、ナイ。乃帶切 泰
耗——は、多き毛、一說に、密き毛。

【毯】シウ、ソウ、シュ。ス。疎鳩切 素侯切 尤
ショ、ソ。山於切 魚
文彩のある毛おりもの、

【毸】サイ、セ。蘇回切 灰
毢の字の條を見よ。

【毹】ユ。羊朱切 シユ。山芻切 虞
毛を織りたる褥、まうせん、けむしろ。○〔南史〕「獻ニ蒲桃・良馬・氍——等物ニ」。

【毺】毹に同じ。○〔三輔黃圖〕「溫室規ン地以ニ罽賓——ニ」。

【毻】ダ、ナ。吐臥切 箇　タ。他果切 哿
タイ、テ。他外切 泰
鳥獸の毛羽の解脫するにいふ字、ぬけかはる。○〔郭璞〕「產ニ——積ニ羽往ニ來勃碣ニ」。

【毼】カツ、ガチ。何葛切 曷
㊀けおりもの。○〔陳琳〕「罽——皮服」。㊁鶡に同じ、雉に似て雉より大きく羽毛青色なり、能く角鬭して敵を殺さざれば止まずとぞ。○〔後漢〕「冉駹夷有ニ五角羊麝香輕毛——雞牲牲ニ」。
〔毾毼〕けおりもの。○〔後漢〕「織ニ——ニ」。〔毛毼〕前に同じ。○〔宋〕「熙州貢ニ——・麝香ニ」。〔㲪毼〕はそき毛にて織りたるけおりもの。○〔唐〕「齎ニ——邀ニ利者」。

【㲅】カツ、カチ。丘葛切 曷
楬に同じ、たかつき。○〔儀禮〕「——豆兩」。

【毾】タフ、トフ。得合切 合
毾——は、性分の他より劣れる者の稱。○〔李翊俗呼小錄〕「今俗謂ニ性劣者ー爲ニ毾——ニ」。

【㲢】ヘン、ベン。婢典切 銑
——毾は、毛のむすぼれて理まらざること。

【毱】鞠に同じ、まり。

【毽】ケン。經電切 霰
抛足の戲具、けまり。○〔帝京景物略〕「諺云、楊柳兒青放ニ空鐘ー、楊柳兒死踢ニ——子ニ」。

十畫

【㲜】罽に同じ。

【毢】スヰ。雙佳切 支
毢——は、毛の長き貌にいふ語、一說に、狐の貌にいふ語。

【𣰅】キ、ギ。渠伊切 支
毛の文の會ふと。

【𣰈】カツ、ガチ。胡葛切 曷
けおり、(毛布)。

【毾】タフ、トフ。託盍切 合
地質の細密なる毛席、けおりの志きもの。○〔班固〕「月支——大小相雜、但細好而已」。

【𣯬】毾に同じ。○〔古樂府〕「——㲪五木香」。

【𣯶】タウ、ダウ。徒郎切 陽
毦の字を見よ。

【㲦】カン。侯旰切 翰
㊀けものゝけ、(獸毫)。㊁長き毛。

【氉】サウ、ソウ。先到切 號
毛の貌にいふ字。

【𣰁】ジョウ、ニュ。如容切 冬　ジュ。而用切 宋
毦——は、けおり、(罽)、一說に、みどりのかざり、(翠飾)。

【氄】ジョウ、ニュ。乳勇切 腫
毴——は、草の亂るゝ貌にいふ語。

【𣯊】ジョク、ニク。而蜀切 沃
毛織りの敷物。

【毮】サ。桑何切 歌
毛羽の婆娑(ひらひら)せる貌にいふ字。

【氄】ジョウ、ニュ。乳勇切 腫
毛の盛んなるにいふ字。

【𣰉】ジュン、ニン。乳尹切 軫
前條に同じ、一說に、毛聚まる。

【㲡】チツ、ヂチ。烏沒切 月
——毲は、毛の貌にいふ語。

【𣯿】ジウ、ニウ。而中切 東
細き毛。

十一畫

【𣰈】リ。隣知切 支
接——は、志ろきばうし、(白帽子)。

【毿】サン、ソン。先含切 覃
㊀毛の長き貌にいふ字、けながし。○〔詩疏〕「頭上有ニ毛十數枚ー、長尺餘、———然與ニ衆毛ー異」。㊁物の細長き貌にいふ字。○〔孟浩然〕「綠岸——楊柳垂」。
〔毿毿〕毛の長き貌にいふ語、又、物の長き貌にいふ語。○〔朱彝尊〕「巖花垂露碧——」。

【𣰕】サイ、セ。蘇回切 灰
毸に同じ。

【𣰘】サイ、セ。取猥切 賄
毳に同じ。

【氃】ショウ、シュ。將容切 冬
けおり、(罽)。

【𣰸】ボン、モン。謨奔切 元

毳毛をもて製したる毛布の色の禾の赤き苗に似たるもの、ほそげのけおり。

【⿰毛徙】シ。想里切 紙
毛の垂るゝ貌にいふ字。

【氀】リュ、ル。龍珠切 虞
けおり、（廣）。○〔後漢〕「婦人能刺レ韋作二文繡織一—毹二」

【毹】シユ。雙雛切 虞
毺に同じ。

【毭】トウ、ツ。當侯切 尤
合の韻の毾の字を見よ。

【⿰莫毛】ボ、モ。莫胡切 虞
一種の毛段、けおりもの。○〔輟耕錄〕「凡調二合服飾顏色一、—子用二粉土黃檀子一」。

【氂】リ。陵之切 支
㊀旄牛の屬、からうし、又がらうしの尾。○〔山海經〕「荊山其中多二——牛一」。
㊁馬の尾。○〔淮〕「馬—截レ玉」。
㊂強くして曲がれる毛、こはげ ○〔漢〕「以レ—裝レ衣」。
㊃雜り毛、又、長き毛。○〔後漢〕「狗吠不レ驚、足下生レ—」
㊄けおり、（廣）。○〔華陽國志〕「錦繡罽——」。
㊅細き物の稱。○〔列〕「以レ—懸二蝨於牖一」。
㊆釐に通じ用ふ。○〔漢〕「不レ失二毫——一」。

【氂】バウ、モウ。莫袍切 豪　ライ。郎才切 灰
前條の㊀に同じ。

【⿰毛婁】
氀に同じ。

【⿰莽毛】バウ、マウ。母朋切 養
毲—は、けおりもの、（毛布）、

【⿰毛態】ダイ、子。女介切 卦
毛髮の衆き貌にいふ字、けおほし。

十二畫

【⿰喬毛】ケウ、ゲウ。渠嬌切 蕭
—毹は、まうせん。

【氃】トウ、ヅ。徒東切 東
氃—は、散る毛の貌にいふ語。○〔世說〕「有二鶴善舞一、嘗向レ客稱レ之客試使二驅來一、氃—而不二肯舞一」。

【㲪】トウ。都騰切 蒸
ぢしつの細密なる毾㲪、けおりもの。○〔後漢〕「天竺國有二細布好毾——一」。

【⿰毛登】
㲪に同じ。○〔古樂府〕「㲪——五木香」。

【⿰業毛】ボク、モク。歩木切 屋
翮—は、毛の理まらざるを、けむすぼる。

【⿰糸毛】
俗の毵の字。

【⿰賁毛】フン、ホン。方文切 文　ヒ。彼義切 寘
ハン、ヘン。逋還切 刪
けおり、（廣）。○〔揚雄〕「有二毲——一」。

【氄】ジョウ、ニュ。乳勇切 腫　ゼン、チン。而允切 銑
㊀毛盛んなり、さかんなり、一說に、毛の溫柔なる貌にいふ字、やはらか、やはし。○〔書〕「鳥獸—毛」。
㊁けばだち生じたるやはらかなる細毛、ふくげ、わたげ、にこげ。○〔陸游〕「色如二鵞—一滑如レ酥」。
（子氄）一種のけおりもの、けとんす。○〔席上腐談〕「北方毛段細者曰二——一」。
（落氄）脫け落つるけ。○〔梅堯臣〕「已振籟二——一」「輕二——一」。
（飽氄）多くある細き羽毛。○〔梅堯臣〕「反レ翅歸飛——一」。
（毛氄）細く柔き毛羽。○〔孫覿〕「凍雨落二——一」。

【⿰粟毛】ショク、ソク。相玉切 沃
毧の字を見よ、

【⿰魚毛】セウ。茲消切 蕭
兜鍪の上の毛の飾、かぶとのけかざり、一說に、羽のやぶるゝにいふ字。

【氅】シヤウ。齒兩切 養
㊀鳥羽、とりのはね、とりげ。○〔梁元帝〕「蓮舟夾二羽——一」。
㊁羽にて爲りたる裘衣、けごろも。○〔世說〕「王恭著二鶴——一」。○
（赤氅）唐時代の兵士の區別。○〔唐〕「帝磨仗左右廂各十二部十二行、第一行長戟六色氅、領二軍衞——、威衞青氅、黑氅、武衞鶖氅、驍衞白氅、左右衞黃氅、黃地、雲花襖冒一」。
（繡氅）美しきけごろも。○〔元〕「戴二龍王面一、具二——執レ圭」。「——」。
（雪氅）白き毛ごろも。○〔劉禹錫〕「仙人披二——一」。
（素氅）前に同じ。○〔李綱〕「不レ數二王恭披二——一」。「——挂二吟身一」。
（仙氅）山びとの著くるけごろも。○〔鄭谷〕「雲霞」
（圍氅）羽うちはのと。○〔袁哀〕「鬖レ縫披二——一」。
（玄氅）黑きけごろも。○〔宋濂〕「山分二秋色一侵二——一」。

【氆】ハウ。布廣切 養
氆の字を見よ。

【⿰炎毛】タン、トン。吐敢切 感
毯に同じ。○〔前涼錄〕「獻二馬五百匹、——市三萬疋一」

十三畫

【⿰農毛】
鬞に通じ用ふ。○〔埤蒼〕「——鬤髮亂」。

【⿰葛毛】カツ、カチ。何葛切 曷
褐に同じ、一種の水草、蕨に似て啖らふべし。

【⿰巤毛】レウ、ロウ。力涉切 葉
風塵を禦ぐに設けたる車のかざし、かざきり、ちりはらひ。○〔周註〕「故書レ鬣爲レ毾、亦或爲レ—」。

【氈】セン。諸延切 先
毛を蹂みかためてつくりたる毡、けおりのしきもの、けむしろ、まうせん、其の志まりて薄く且つ面なれたるものを上とす。○〔周〕「其共二毳毛一爲レ—」。
（花氈）うつくしきけむしろ。○〔梁簡文帝〕「雲母窓中合二——一」。
（好氈）よきけむしろ。○〔南〕「出二——一」。
（佳氈）前に同じ。○〔魏氏春秋〕「幷州有二——一」。
（臥氈）ねる時に用ふるけむしろ。○〔周〕「寬乃

裁ニ──、夜縫而出」。「弊席」。

〔敗氈〕やぶれそこねたるけむしろ。○〔五〕「──」。

〔蒙氈〕けむしろをうちかぶる。○〔宋〕「有終令ニ卒──秉燭以入ニ」。「──裹レ身」。

〔濕氈〕水にしめりたるけむしろ。○〔宋〕「皆以ニ──」。

〔裘氈〕皮ごろもとけむしろと。○〔元〕「張ニ──立雪中ニ」。「─臥君」。

〔布氈〕けむしろをひろげしく。○〔酉陽雜俎〕「─」。

〔麤氈〕あらきけむしろ。○〔陸游〕「──布被早霜天」。「錦──」。

〔戎氈〕西域より製出するけむしろ。○〔劉基〕「蜀─」。

【氉】サウ、ソウ。蘇到切 號

け（毛）、一說に、毛健し。

〔打眊氉〕學子の及第せざるため亂醉して悶を拂ふ者の稱。○〔唐國史補〕「舉子不レ捷而醉飽謂ニ之──ニ」。

【⿰毛需】シユ、ス。霜俱切 虞

まうせん（氍·毹）。

【⿰裘毛】キウ、ク。巨留切 尤

裘に同じ。

十四畫

【⿰算毛】セイ、セ。七芮切 霽

たつ、きる（斷）。

【氋】ボウ、モウ。謨蓬切 東

──氃は、毛の貌にいふ語。

【⿰蓋毛】アイ。於蓋切 泰　エツ、オチ。於歇切 月

毛多し、けぶかし。

【⿰毛憑】ヒヨウ。皮孕切 徑

──毞は、犬の毛。

【⿰監毛】ゼン、子ン。汝占切 鹽　ラン、ロン。力甘切 覃

氈に同じ。○〔朱熹〕「巖花垂レ露碧──毵」。

【⿰寧毛】ダウ、ニヤウ。尼庚切 庚

毛の多き犬。

【⿰毛翟】セフ、ソフ。即涉切 葉

睫に同じ、まつげ。

【⿰爽毛】

氍に同じ。

【⿱㗊毛】キヨ、コ。其居切 魚

細き毛。

十五畫

【⿰巤毛】レフ、ロフ。力涉切 葉

鬣に同じ。

【氌】ラ。郎何切 歌　ロ、ル。郎古切 麌

氆──は、西蕃の罽毛の織物、けおり。○〔字彙〕「吐-蕃貢ニ霞-毲一、即今紅氆──」。

十七畫

【⿰襄毛】ジヤウ、ナウ。如羊切 陽

鬤に同じ、毛髮の亂るゝにいふ字。

【⿰毛韱】セン、ソン。思廉切 鹽

け（毛）。

十八畫

【⿰毛聶】ゼフ、子フ。日涉切 葉

毛のやはらかなる貌にいふ字。

【氍】ク、コ。巨俱切 虞

──毹は、氈毯の屬、まうせん、けおりのよきもの。

十九畫

【⿰麗毛】シユ、ス。雙雛切 虞

毛の磔起する貌にいふ字、けだつ。○〔集韻〕「八-荒中有ニ毛-人一、如レ猴、毛長毦──」。

廿二畫

【⿱疊毛】テフ、デフ。達協切 葉

㊀堅厚細密にして紬に類せる細毛の織物。○〔唐〕「隴-右-道厥賦有ニ毛-氎白──ニ」。

㊁裁縫を用ひず織りて成したる衣。○〔賢愚經〕「一-競金-色之──奉ニ上如-來ニ」。

㊂巾。○〔王昌齡〕「手-巾花──淨」。

氏部

【氏】シ、ジ。上紙切 紙

㊀うぢ。

（い）姓の中の一支族の稱。○〔左〕「因レ生以賜レ姓、胙ニ之土ニ而命ニ之──ニ」。

（ろ）後世に至りては姓の義と彼れ此れ混同して用ふるに至れり。○〔趙彦衛〕「姓──後-世不ニ復別一、但曰ニ姓某──一、雖ニ史-筆一亦然」。

（は）婦人の姓にいふ稱。○〔儀〕「某──來-歸」。

㊁種族。○〔大戴記〕「闗──之根、櫰──之苞」。

㊂隤ちかゝれる山岸。○〔揚雄〕「響如ニ──崩ニ」。

㊃人の稱呼にいふ字。○〔詩〕「伯──吹レ壎、仲──吹レ篪」。

〔舅氏〕をぢと。○〔詩〕「我送ニ──ニ」。

〔仲氏〕二人目の兄。○〔詩〕「──任只」。

〔受氏〕うぢをさづかる。○〔國〕「命レ姓──」。

〔師氏〕女師のこと、又、周時代の官名。○〔詩〕「言告ニ──ニ」。

〔母氏〕はゝ。○〔詩〕「──劬勞」。

〔釋氏〕佛のこと。○〔晉〕「崇ニ信──ニ」。

【氏】シ。章移切 支

月──は、一に、月支に作る、漢時代に葱嶺の西に建國せし種族の名。○〔史〕「有ニ大-月──小-月──ニ」。

一畫

【氐】テイ、タイ。丁禮切 薺

㊀いたる（至）。○〔史〕「──者言ニ萬-物皆至ニ」。「─」。

㊁根本、もと、ねもと。○〔詩〕「維周之──」。

㊂大凡、おほよそ、ほど。○〔漢〕「大──皆遇レ告」。

【氐】チ。丁尼切 紙

──池は、縣の名。

【氐】テイ、タイ。都黎切 齊

㊀古昔に巴蜀附近に部落せし種族の名。○〔詩〕「自ニ彼──羌一莫ニ敢不ニ來-享ニ」。

㊁二十八宿の一、とも。○〔禮〕「旦──中」。

㊂ふす、たる（低）。○〔漢〕「──レ首仰レ給」。

㊃賤し、ひくし。○〔漢〕「其價──賤」。

【民】ビン、ミン。彌鄰切 眞

たみ。

（い）生を斯の世に受けたる衆人の

稱。〇〔詩〕「天生二蒸━一」。
(ろ)統御の下にある衆人の稱(君王又は政府に對していふ)。〇〔書〕「━國之本」。
(は)官位なき衆人の稱(官位あるものに對していふ)。〇〔詩〕「宜レ━宜レ人」。
(に)自己以外の衆人の稱。〇〔詩〕「━莫レ不レ穀、我獨干罹」。

〔得民〕人民の歸依をうる。〇〔易〕「以レ貴下レ賤大得レ━也」。
〔容民〕たみを治むるに寛大を以てす。〇〔易〕「君子以━レ━畜レ衆」。
〔黎民〕もろ〳〵のたみ、あをひとぐさ。〇〔書〕「━・━於變時雍」。
〔四民〕士と農と工と商と。〇〔書〕「司空掌二邦土一、居二━・━一、時二地利一」。
〔俊民〕衆に勝れたる人。〇〔抱朴〕「蒲輪玉帛、以抽二丘園之━・━一」。
〔烝民〕衆民といふに同じ、もろ〳〵の民ぐさ。〇〔書〕「━・━乃粒」。
〔庶民〕前に同じ。〇〔詩〕「━・━子來」。
〔新民〕日に改進する教を民に施して面目をあらためしむ。〇〔書〕「作レ━━」。
〔齊民〕(い)人々を等一にあしらひて私なきこと。〇〔孟〕「━レ━而王」。〇〔書〕「天━于━」。(ろ)不民といふに同じ、一般人民のこと。〇〔漢〕「亂二━・━一」。
〔游民〕職業なく惰りをるたみ。〇〔禮〕「無二曠土一無二━・━一」。
〔小民〕身分なきたみ。〇〔禮〕「夏日暑雨、━・━惟日怨」。
〔司民〕(い)星の名。〇〔周〕「孟冬祀二━・━一」。(ろ)人民の數を數へ調ぶる官の名。〇〔周〕「━・━中士六人」。
〔重民〕農業を務めとするたみ。〇〔管〕「輕民處而━・━散」。
〔移民〕人民の少き處に民を遷しやりて食に就かしむ。〇〔周〕「━レ━通レ財」。
〔罷民〕衰汚したる人民。〇〔周〕「以二嘉石一平二━・━一」。
〔疲民〕(い)人民を困憊せしむ。〇〔左〕「━レ━以逞」。(ろ)つかれはてたる人民。〇〔白居易〕「且頓活二━・━一」。
〔圖民〕たみを統治せんことを計畫す。〇〔國〕「夫苟中心━レ━、智雖レ不レ及、必將レ至焉」。

〔字民〕民を養ひ治む。〇〔逸周書〕「━レ━之道、禮樂所レ生」。
〔逸民〕世をのがれかくれたるたみ、又、節行の超越したるたみともいふ。〇〔論〕「擧二━・━一」。
〔域民〕人民の居るところの區域を定む、又、一區域のたみ。〇〔孟〕「━レ━不レ以二封疆之界一」。
〔罔民〕人民をしへたぐ。〇〔孟〕「━レ━而可レ爲也」。
〔衆民〕あまたのたみぐさ。〇〔孟〕「廣土━・━、君子欲レ之」。
〔丘民〕あまたのたみ。〇〔孟〕「得二乎━・━一而爲二天子一」。
〔流民〕一定の居處なく四方をさすらへありくたみ。〇〔漢〕「昭帝時━・━稍還」。
〔細民〕小民といふに同じ、下賤のたみ。〇〔漢〕「通二姦猾一、侵二━・━一」。
〔漸民〕人民を感染せしむ。〇〔漢〕「━レ━以レ仁」。
〔摩民〕人民を浸染せしむ。〇〔漢〕「━レ━以レ義」。
〔富民〕たみを財貨に豐かならしむ、又、とめるたみ。〇〔淮〕「王主レ━レ━」。
〔子民〕たみを子の如くに愛しみめぐむ。〇〔漢〕「多欲不レ宜二君レ國━レ━」。
〔懷民〕たみを歸服せしむ。〇〔漢〕「保レ此━レ━」。
〔蠢民〕道にしたがはざるたみ。〇〔管〕「逐二━・━一」。
〔裸民〕はだかにして衣裳を著けざるたみ。〇〔呂氏春秋〕「羽人━・━之處、不死之鄕」。
〔愛民〕たみをいつくしみ惠む。〇〔潛夫〕「治レ國必━レ━」。
〔放民〕氣まゝにしてしまりなきたみ。〇〔謝翶〕「狂歌作二━・━一」。
〔勞民〕たみをいたはり使ふ。〇〔易〕「君子以━レ━勸相」。
〔安民〕たみをしづかにす。〇〔書〕「━レ━則惠」。
〔兆民〕あまたのたみ。〇〔書〕「━・━允懷」。
〔下民〕人民といふに同じ。〇〔書〕「━・━相二協厥居一」。
〔濟民〕たみの困苦を救ふ。〇〔許衡〕「身在二朝廷一思レ━レ━」。
〔獻民〕賢人といふに同じ。〇〔書〕「其大惇二典殷━・━一」。
〔頑民〕德義にのつとらざるたみ。〇〔書〕「毖二殷━・━一」。
〔先民〕前代の人。〇〔詩〕「━・━有レ言、詢二於芻蕘一」。
〔鰥民〕夫なきもの、妻なきもの。〇〔詩、序〕「國無二━・━一也」。
〔生民〕(い)人を生む、又、祖先。〇〔詩〕「厥初━・━、時維姜嫄」。(ろ)ひと、たみ。〇〔孟〕「自レ有二━・━一以來未レ有二孔子一也」。

〔閒民〕職業なきたみ。〇〔周〕「━・━無二常職一、轉移執レ事」。
〔怪民〕狂氣じみたる人。〇〔周〕「奇服━・━不レ入レ宮」。
〔致民〕たみを召し集む。〇〔周〕「凡國之大事━レ━」。
〔賈民〕商ひをする人。〇〔周〕「以二━・━一禁レ僞而除レ詐」。
〔野民〕野にありて農事を事とする人。〇〔周〕「軍旅田獵平二━・━一」。
〔利民〕たみに益を與ふ。〇〔左〕「上思レ━レ━忠也」。
〔豎民〕たみを齊一にして道にかなふやうにす。〇〔左〕「夫禮所二以━レ━一也」。
〔幸民〕僥倖を得る人。〇〔左〕「善人在レ上、則國無二━・━一」。
〔息民〕人民を安堵せしむ。〇〔左〕「晉侯歸謀レ所二以━レ━一」。
〔隱民〕逃亡して潛み匿るゝたみ。〇〔左〕「━・━多取レ食焉」。
〔處民〕人を住ましむ。〇〔漢〕「先王制レ土━レ━、富而刑レ之」。
〔天民〕天の法則に從ふ人。〇〔孟〕「有二━・━一者、達可レ行二於天下一、而後行レ之者也」。
〔牧民〕たみを養ひをさむ。〇〔管〕「凡有レ地━レ━者、務在二四時一」。
〔全民〕たみを害はず。〇〔漢〕「除二肉刑一者、本所二以━レ━一也」。
〔敖民〕逸遊せるたみ。〇〔漢〕「朝無二廢官一、邑無二━・━一」。
〔奇民〕常の業に從事せざるたみ。〇〔漢〕「浮食━・━」。
〔豪民〕富裕にして勢力あるたみ。〇〔漢〕「或耕二━・━之田一」。
〔徙民〕人家をして故地を去りて他に行かしむ。〇〔漢〕「━レ━避レ水居二丘陵一」。
〔末民〕商工を業とする民。〇〔漢〕「官富實而━・━困」。
〔範民〕たみを法則にあてはまらしむ。〇〔漢〕「非下所二以━レ━之道上也」。
〔士民〕あまたの人々。〇〔管〕「勸二━・━一勉二稼穡一」。
〔鄕民〕さとびと。〇〔後漢〕「乃載二━・━一船二夜遁去」。
〔邊民〕國境の地に住むたみ。〇〔後漢〕「━・━歸者三千餘口」。
〔荒民〕饑饉にあひて困窮せるたみ。〇〔後漢〕「━・━獲レ全」。
〔勸民〕たみを奬勵す。〇〔商〕「凡人主所二以━レ━者官爵也」。
〔善民〕善良なる人。〇〔淮〕「猛獸食二━・━一」。
〔惰民〕怠惰なるたみ。〇〔新書〕「夫淮南━・━貧鄕也」。
〔市民〕市中に住へるたみ。〇〔中說〕「山民樸、━・━玩處也」。

〔嵯民〕をゝしき人。〇〔裴子野〕「義士━・━、星擁霧集」。
〔憂民〕人民の上をあんじわづらふ。〇〔張隨〕「聖主正━レ━」。
〔耆民〕年老いて物事に經驗あるたみ。〇〔楊侃〕「間二中年之━・━一」。

四畫

【氓】バウ、ミヤウ。武庚切 [庚]
たみ(民)。〇〔詩〕「━之蚩々、抱レ布貿レ絲」。
〔殘氓〕いきのこりをるたみ。〇〔晉〕「北地━・━」。
〔遐氓〕遠隔の地にあるたみ。〇〔長楊賦〕「━・━爲レ之不レ安」。
〔遠氓〕前に同じ。〇丘濬「當レ字二念━・━一」。
〔綏氓〕人民をやすらかにをさむ。〇〔張嘉貞〕「無レ職且レ━レ━」。
〔庶氓〕もろ〳〵の民。〇〔韋應物〕「東作興二━・━一」。
〔蒼氓〕前に同じ。〇〔羅隱〕「與二妥━・━一」。
〔耕氓〕農民。〇〔柳宗元〕「貿二土一農爲二━・━一」。
〔野氓〕前に同じ。〇〔戴良〕「蹤歎沸二━・━一」。

五畫

【眂】シ。市之切 [支]
うかゞふ、(伺)。

【昬】ビン、ミン。蒙貧切 [眞]
たひらか、(平)。

六畫

【⿰氏失】テツ、デチ。徒結切 [屑]
ふる、(觸)。

【⿰氏失】チツ。陟栗切 [質]
手もて物を拔く、ぬく。

十畫

【⿰氏垔】イン。於進切 [震]

ふす、(臥)。

【𣰰】チ。陟利切　㊀眞

おもむく、(赴)。

【𣰳】エイ。煙奚切　㊀齊

たふる、たふす、(仆)。

十四畫

【𣱆】カウ、ゲウ。胡教切　㊀效

あやまる、(誤)。

气　部

【气】キ、ケ。去既切　㊀未

㊀氣に同じ。○〔康熙〕「天-地人-物之氣雖レ別而—氣字-義實同」。

㊁—に乞に作る、あたふ、(與)。○〔晉〕「以レ墅—レ汝」。

【气】キツ、コチ。去乙切　㊀質

乞に同じ。

四畫

【氛】フン、ブン。符分切　㊀文

㊀氣。○〔左〕「楚—甚惡」。

㊁妖氣あしきき。○〔國〕「翟-祖之—」。

㊂凶事、わざはひ。○〔漢〕「—-邪歲增」。

㊃氣盛んなる貌にいふ字。○〔李白〕「煙-光草-色共氤—」。

〔埃氛〕塵の立つと。○〔宋〕「—-—擧レ空」。

〔霞氛〕東方の赤き雲氣。○〔沈右來鶴詩〕「却期ニ鶴-鶴出ニ—-—ニ」。

〔紫氛〕むらさきの色をなせる氣。○〔王逢〕「一-白星-昭下ニ—-—ニ」。「—ニ」。

〔翠氛〕青き色をなせる雲氣。○〔江淹〕「悠哉凌ニ—-

—ニ」。

〔妖氛〕あしき氣、又、わざはひ。○〔李白〕「一-戰淨ニ—-—ニ」。

〔塵氛〕けがれたる氣。○〔劉因〕「坤靈終亦化ニ—-—ニ」。

〔銷氛〕わざはひを消滅す。○〔晉〕「踰レ劍—レ—」。

〔溽氛〕世の中の騒がしきと。○〔晉〕「卷ニ跡—-—之表ニ」。

〔埽氛〕わざはひを除き去る。○〔晉〕「—ニ—燕趙ニ」。

〔重氛〕積もれるわざはひ。○〔晉〕「—-—載廓」。

〔郁氛〕かぐはしき氣。○〔宋〕「非レ烟—-—」。

〔俗氛〕卑野なる氣。○〔冷齋夜話〕「恨爲ニ—-—所レ蔽ニ」。

〔夕氛〕いぶぐれの氣。○〔宋〕「—-—晦ニ山-隅ニ」。

〔垢氛〕穢れたる氣。○〔薛據〕「及レ此離ニ—-—ニ」

〔凉氛〕清冷なる氣。○〔王翰〕「凝ニ—-—ニ」。

〔絳氛〕赤き氣即ち虹のと。○〔江淹〕「—-—下レ漢」。

〔淸氛〕すゞやかなる氣。○〔江淹〕「重-陽集ニ—-—ニ」。

〔寒氛〕さぶさの氣候。○〔庾信〕「御-宿斂ニ—-—ニ」。

〔祥氛〕めでたき緣ある雲氣。○〔張景源〕「—-—與ニ佳-色ニ、相伴雜ニ爐烟ニ」。

〔野氛〕原野のけしき。○〔張九齡〕「無レ涯淨ニ—-—ニ」。

〔霽氛〕晴れわたりたるけしき。○〔孫逖〕「簾-櫳引ニ「—-—ニ」。

〔暝氛〕晦き氣。○〔馬祖常〕「簫-影落ニ—-—ニ」。

六畫

【氣】キ、ケ。去既切　㊀未

㊀萬物生成の根原。○〔易〕「精-—爲レ物遊-魂爲レ變」。

㊁風雨寒暑陰晴などの如き天地間の現象。○〔莊〕「六-—不レ調四-時不レ節」。

㊂陰曆にて一年を二十四分したる期間の稱、即ち、十五日間。○〔內經〕「五-日謂ニ之候ニ、三-候謂ニ之—ニ」。

㊃時期、季節、せつ、さき、きこう、きせつ。○〔後漢〕「其敕ニ有-司ニ務順ニ時-—ニ無レ使ニ煩-擾ニ」。

㊄五官の感觸によりて其の存在を知るべきも其の形體の捕捉すべからざるもの、即ち、かをり、ひかり、熱などの如し。

㊅大地を包みて動けば風を起こすもの、吾人之を呼吸して生活す、くうき、ふんゐき。○〔禮〕「貴ニ—-臭-也」。○〔列〕「天積-—耳」。

㊆湯げ、もや、きり、煙などの如き立ちのぼりて見ゆるもの。○〔漢〕「季所レ居上常有ニ雲-—ニ」。

㊇意志を決行する心の勢力。○〔孟〕「我善養ニ吾浩-然之—ニ」。

㊈呼吸する息、いき。○〔論〕「屏レ—似ニ不レ息者ニ」。

㊉生命を保存する身體の勢力。○〔素問〕「—有レ餘則寫ニ其徑-隧ニ」。

⑪勢力、いきほひ、ちから。○〔史〕「銳-—挫ニ險-塞ニ糧-食竭ニ于內-府ニ」。

⑫質性、もちまへ、うまれつき。○〔列〕「志彊而—弱」。

⑬意志、感情、こゝろ、こゝろもち。○〔史〕「諸-侯無ニ異-心ニ、百-姓無ニ怨-—ニ」。

⑭趣致、情勢、おもむき、やうす、ありさま、けはひ、けしき。○〔世說〕「有ニ林-下風-—ニ」。

⑮鼻を物に接して其の香を嗅ぐと。○〔禮〕「執ニ食-飲ニ者勿レ—」。

⑯餼に通じ用ふ、おくる、(饋)。○〔春秋傳〕「齊人來—ニ諸-侯ニ」。

〔食氣〕空中のいきをのむ。○〔淮〕「—レ—者、神-明而壽」。

〔和氣〕やはらかなるこゝろ。○〔禮〕「必有ニ—-—ニ」。

〔順氣〕たゞしく柔かなる德。○〔禮〕「正-聲感レ人、而—-—應レ之」。

〔下氣〕はやりぎをおさへて驕らざると。○〔禮〕「—レ—怡レ色」。

〔秀氣〕すぐれたる精氣のと。○〔禮〕「五-行之—-—也」。

〔心氣〕こゝろ。○〔禮〕「定ニ—-—ニ」。

〔寒氣〕さむさ、又、其のせつ。○〔禮〕「命ニ有-司ニ出ニ土-牛ニ以送ニ—-—ニ」。

〔生氣〕物のそだついきほひ。○〔禮〕「—-—方盛」。

〔五氣〕五行、又、五行の精より生ずる寒、熱、風、燥、濕の氣をいふ、又、喜、怒、欲、懼、憂の意思にもいふ。○〔周〕「以ニ—-—五-聲五-色ニ、眡ニ其死-生ニ」。

〔客氣〕本心よりいでざる一時のいさみ。○〔宋〕「—-—虛-張」。

〔夜氣〕(い)よるのしづかにおちつきたる心。○〔孟〕「—-—不レ足ニ以存ニ」。(ろ)よるの氣。○〔劉孝儀〕「—-—淸ニ簫-管ニ」。

〔神氣〕(い)萬物をかたちづくる根原。○〔禮〕「地載ニ—-—ニ」。(ろ)不思ぎなる雲氣。○〔史〕「長-安東-北有ニ—-—ニ」。(は)こゝろ、又、身體の勢力。○〔嵇康〕「導-養—-—ニ」。

〔望氣〕空中の氣をながめて妖祥を說くと。○〔史〕「趙人新-垣-平以ニ—-—見」。

〔才氣〕すぐれたるはたらき。○〔史〕「—-—過レ人」。

〔海氣〕うみの氣。○〔韓愈〕「—-—昏々水拍レ天」。

〔六氣〕陰、陽、風、雨、晦、明。○〔漢〕「天有ニ—-—ニ」。

〔白氣〕しろきくもの如き祥氣。○〔漢〕「—-—起ニ東-方ニ」。

〔佳氣〕よきくもの如き氣。○〔全唐詩話〕「鬱-々葱-々—-—浮」。「—」。

〔累氣〕いきをころしておそる。○〔後漢〕「州郡—-—」。

〔爽氣〕さわやかなる秋の氣、又、淸らかなる心氣をいふ。○〔晉〕「西-山朝-來致レ有ニ—-—耳」。

〔膽氣〕きもたまのすわりてたけきと。○〔五〕「父景-珂倜-儻有ニ—-—ニ」。

〔紫氣〕むらさき色の雲の如き祥氣。○〔晉〕「斗-牛之間、常有ニ—-—ニ」。

〔慴氣〕おそる。○〔南〕「諸-儒—-—」。

〔王氣〕帝王たるべき德を備へたる者ある時は其の所在の空中にあらはるゝ氣といへり。○〔五〕「望ニ斗-牛間ニ有ニ—-—ニ」。

〔噫氣〕はきいたすいき。○〔莊〕「大-塊—-—」。

〔暖氣〕あたゝかきと。○〔張華〕「重-衾無ニ—-—ニ」。

〔暑氣〕あつさ。○〔陶潛〕「—-—爲レ之無」。

〔嵐氣〕山氣のむされて濕ひたると。○〔蘇軾〕「—-—雨-餘侵ニ近-郊ニ」。

〔正氣〕至公至大なる萬物の根原。○〔文天祥〕「天-地有ニ—-—ニ」。

〔喪氣〕いきはひなくなる、きぬけす、うツとりす。○〔世說補〕「—レ—而退」。

〔失氣〕前に同じ。○〔晉〕「吳人──」。
〔顥氣〕天上の淸らかなる氣。○〔李商隱〕「綵鸞餐ニ──ニ。」
〔淑氣〕めでたくすめる氣、春の氣を稱するに用ふる語。○〔杜審言〕「──催ニ黃鳥ニ」。
〔馨氣〕にほひ。○〔晉、傅〕「芬芳──」。
〔活氣〕いき〳〵したる生氣。○〔詩、疏〕皆含ニ此當生之──ニ。
〔血氣〕(い)身體生存のちから。○〔論〕「少之時──未ㇾ定」(ろ)血脈。○〔管〕「一者地之──」。
〔志氣〕こゝろざし。○〔禮〕「──塞ニ乎天地ニ」。
〔剛氣〕強き氣。○〔禮〕「──不ㇾ怒」。
〔義氣〕忠義のこゝろ。○〔江淹〕「刺史張敬──雲讋」。
〔養氣〕生氣をやしなひたもつ。○〔五〕「王宗壽以ニ煉丹──自娛」。
〔聲氣〕いきごみ、やうす。○〔左〕「金鼓以ニ──ニ。」
〔勇氣〕たけくいさみたるこゝろ。○〔韓愈〕「公心有ニ──ニ。」
〔作氣〕元氣をふるひおこす。○〔高適〕「──ㇾ一擊ニ山動」。
〔盛氣〕氣色をはげしくしていかりをふくむ。○〔史〕「太后──」。
〔使氣〕うはべにはするいきごみ。○〔陸游〕「可ㇾ憐──ㇾ尙未ㇾ滅」。
〔仗氣〕前に同じ。○〔韓愈〕「使ㇾ酒──ㇾ」。
〔驕氣〕おごりたかぶるこゝろ。○〔史〕「去ニ子之──與ニ多欲、態色與ニ淫志ニ」。
〔意氣〕こゝろもち、いきごみ。○〔史〕「──揚々甚自得也」。
〔元氣〕萬物の根本の大氣。○〔漢〕「大極中央──」。
〔怙氣〕おのれの勇氣あるをたのむ。○〔漢〕「負ㇾ力──ㇾ」。
〔時氣〕時候といふに同じ。○〔後漢〕「務順ニ──ニ。」
〔褫氣〕こゝろをうばはれおそる。○〔後漢〕「擧中ニ于理、則強梁──」。
〔奪氣〕前に同じ。○〔梁〕「魏人望之──ㇾ」。
〔倍氣〕勇氣をまし加ふ。○〔後漢〕「人──ニ北──ニ。」
〔俠氣〕おとこだてのいきごみ。○〔後漢〕「少以ニ──聞」。
〔豪氣〕すぐれたるいきごみ。○〔魏〕「──不ㇾ除」。
〔高氣〕高尙なるこゝろ。○〔吳〕「翻少好ㇾ學有ニ──ニ。」
〔遊氣〕空中にたなびく所の雲の如く烟の如き一種の氣。○〔晉〕「凡──繫ㇾ天」。
〔芳氣〕かうばしきにほひ。○〔晉〕「蘭風發ニ──ニ。」
〔奮氣〕こゝろを振ひおこす。○〔晉〕「不ニ攝ㇾ袂──ㇾ發ㇾ謀出ㇾ奇」。
〔逸氣〕すぐれたるこゝろ。○〔晉〕「正足ㇾ舒ニ其──耳」。
〔古氣〕むかしのけはひ。○〔梁〕「均文體淸拔有ニ──ニ。」
〔伉氣〕たけき意氣ごみ。○〔顏光祿〕「──如ニ熊羆ニ。」
〔重氣〕氣節をたふとぶ。○〔舊唐〕「──ㇾ任ㇾ俠」。
〔倨氣〕たかぶるこゝろ。○〔唐〕「無ニ──矜色ニ。」
〔英氣〕すぐれたる氣性。○〔唐〕「羅紹威少有ニ──ニ。」
〔負氣〕おのれのいさましきをたのむ。○〔五〕「爲ㇾ人──ㇾ好ㇾ使ㇾ酒」。
〔恃氣〕前に同じ。○〔莊〕「方虛憍而──ㇾ」。
〔鍊氣〕道家にて行へる呼吸をとゝのふること。○〔五〕「服ニ丹砂──ㇾ」。
〔靈氣〕神妙なる氣。○〔管〕「──在ㇾ心」。
〔寬氣〕意氣をゆるべのばす。○〔管〕「──ㇾ而廣」。
〔逆氣〕さからひの心。○〔管〕「人不足則──生」。
〔邪氣〕正しからざる氣。○〔管〕「──入ㇾ內」。
〔滯氣〕ためり氣。○〔物類相感志〕「麥得ニ──則爲ㇾ蛾」。
〔冲氣〕かたよらざる中和の氣。○〔老〕「──以爲ㇾ和」。
〔吸氣〕いきをすひこむこと。○〔關尹〕「──ㇾ以養ㇾ精」。
〔純氣〕まじりけなき純粹の氣。○〔正易心法〕「陰陽之──也」。
〔定氣〕きをおちつく。○〔宋玉〕「撫ㇾ心──ㇾ」。
〔平氣〕心をたひらかにしおちつく。○〔莊〕「欲ㇾ靜則──ㇾ」。
〔怒氣〕はらだたしきいきごみ。○〔吳越春秋〕「見ㇾ敵而有ニ──ニ。」
〔蒸氣〕むしのぼる氣。○〔淮〕「草木之發若ニ──ニ。」
〔激氣〕ふれあたる氣。○〔論衡〕「雷者太陽之──也」。
〔妬氣〕りんき。○〔梅妃傳〕「──沖々」。
〔村氣〕ゐなかものゝけぶり。○〔隋唐嘉話〕「薛聯馬有ニ──ニ。」
〔煤氣〕すゝの立ちのぼること。○〔南部烟花記〕「夜炷ㇾ火則煤──ニ。」
〔浮氣〕春ののどかなる日に空中にたちあがりて見ゆる氣。○〔夢溪筆談〕「野馬則田野間──耳」。
〔工氣〕人のたくみもて作りたるさま。○〔圖繪寶鑑〕「、物未ㇾ脫ニ──ニ。」
〔氛氣〕雲の如く烟の如くに見ゆる空中の氣。○〔九懷〕「揚ニ──芬爲ㇾ旌」。
〔炎氣〕暑熱。○〔謝惠連〕「朱明振ニ──ニ。」
〔喘氣〕呼吸をせはしくす。○〔劉楨〕「歔──ニ于玄景ニ。」
〔易氣〕氣のふるきを吐きあたらしきを吸ひかふ。○〔鹽鐵〕「練ㇾ骸──ㇾ」。
〔理氣〕呼吸をとゝのふ。○〔潘岳〕「先ニ唱嘆ニ而──ㇾ」。
〔商氣〕秋の氣。○〔張載〕「秋風吐ニ──ニ。」
〔喧氣〕あたゝかきこと。○〔七命〕「──初收」。
〔馥氣〕かうばしきにほひ。○〔夏侯湛〕「散ニ風衣之──ニ。」
〔勁氣〕はげしく強き氣。○〔蘇轍〕「──霸ニ羣驕ニ。」
〔勝氣〕すぐれたる性質。○〔梁昭明太子〕「陸生高情──」。
〔美氣〕うつくしき雲の如き氣。○〔虞世南〕「番旗──浮」。
〔蕙氣〕かをりぐさのいき。○〔沈佺期〕「憑ㇾ崖飲ニ──ニ。」
〔絳氣〕あかきかすみの如きもの。○〔江淹〕「──下縈薄」。
〔魂氣〕精神のこと。○〔徐陵〕「錫有ニ──ニ。」
〔沴氣〕わざはひの象ありといふ雲氣。○〔庾信〕「──朝浮」。
〔恠氣〕前に同じ。○〔王勃〕「消ニ──于沅澧ニ。」
〔蟣氣〕氣空中にたちのぼる。○〔王勃〕「──ㇾ則虹霓掩ㇾ彩」。
〔朔氣〕北方の氣。○〔李建勳〕「南國春寒──廻」。
〔霧氣〕きり。○〔梅堯臣〕「──橫ㇾ江白」。
〔韶氣〕はるの氣。○〔宋之問〕「澤國──早」。
〔老氣〕としふりたる者の氣魂。○〔杜甫〕「──橫ニ九州ニ。」
〔道氣〕道家者流のけぶり。○〔杜甫〕「鄙人寡ニ──ニ。」
〔荷氣〕はすのにほひ。○〔韋應物〕「微風送ニ──ニ。」
〔脚氣〕あしの力を失ふ病。○〔柳宗元〕「增ニ──病ニ。」
〔噓氣〕いきをはきいだす。○〔韓愈〕「龍──ㇾ成ㇾ雲」。
〔狂氣〕みだりに進取の氣質に富み、又、こゝろくるひ亂るゝこと。○〔韓愈〕「雲夫吾兄有ニ──ニ。」
〔躁氣〕靜かならぬ性質。○〔孟郊〕「──阿頗」。
〔凜氣〕さむけなること。○〔楊萬里〕「──忽如ㇾ霜」。
〔淳氣〕まじりけなき氣のこと。○〔韓維〕「酌ㇾ酒見ニ──ニ。」
〔呵氣〕いきをかけてぬくむること。○〔唐〕「──ㇾ爲ㇾ溫」。
〔梵氣〕ほとけのけぶり。○〔范成大〕「──彌ニ綸融ニ萬象ニ。」
〔奇氣〕めづらしき氣。○〔王粲〕「金精發ニ──ニ。」
〔二氣〕陰と陽との稱。○〔文中子〕「天有ニ──ニ。」
〔鬼氣〕こはいけぶり、ものすごきやうす。○〔睽車志〕「多ニ殺機──ニ。」
〔魂氣〕たましひ。○〔徐陵〕「緣有ニ──ニ。」
〔食牛氣〕幼時より已に人にすぐれたる器量あるをいふ語。○〔尸子〕「虎豹之駒未ㇾ成ㇾ文有ニ──之──ニ。」

【氤】イン。於眞切 眞

絪に同じ、氣の合ひて盛んなる貌にいふ字。○〔杜甫〕「惟南將ㇾ獻ㇾ壽、佳氣日──氳」。

【⿹气旬】シュン。相倫切 眞

氣逆ふ、むせぶ。

七畫

【⿹气胥】胥に同じ。

十畫

【氳】ウン、オン。於云切 文

氣の盛んなる貌にいふ字。○〔謝惠連〕「氛──蕭索」。
〔氤氳〕氣のさかんなる貌にいふ語。○〔舊唐〕「和氣──」。
〔氳々〕前に同じ。○〔韋執中〕「氳々──、或聚或散」。

水部（氵）。

【水】スヰ。式軌切 紙

〔說文〕衆水並流中有ニ微陽之氣ニ。

㊀みづ。
(い)河、泉、湖、海などが形成する流動物、熱にあひて湯となり、寒にあ

ひて氷となる。○〔易〕「—流レ濕」。
(ろ)河、泉、湖、海。○〔書〕「若レ渉二大—」。
—其無二涯津一」。
(は)みづの氾濫するを、おほみづ。○〔漢〕「堯禹有二九年之—一」。
(に)支那の古代の學説にて萬物を組成する原素となせる五行の一、其のうちに陽の氣あるも由來陰の性に屬するものにて其の體最も微なるものと說けり。○〔書〕「五行一曰レ—」。
㈠北の方位。○〔白虎通〕「—位在二北方一、北方者陰氣在二黃泉之下一任二養萬物一」。
㈡たひらか。（平）。○〔釋名〕「—準也、平二準物一也」。
㈣みづ汲み、みづ仕事。○〔陶潛〕「助二汝薪—之勞一」。
〔洪水〕おほみづ。○〔書〕「湯々—方割」。
〔大水〕(い)前條に同じ。○〔春秋〕「秋—」。
(ろ)おほいなる河、海、湖など。○〔書〕「若レ渉二—、其無二津涯一」。
〔泉水〕いづみより流れ出づるみづ、いづみ。○〔詩〕「毖彼—」。
〔流水〕動き逝くみづ。○〔詩〕「沔彼—」。
〔均水〕みづを平等に配る。○〔漢〕「作二—約束一、以防二分爭一」。
〔豚水〕(い)かはの名。○〔書〕「—既西」。
(ろ)仙への住める地にありと傳へしかはの名、北の水よわくして鴻毛さへも沈むといふ。○〔易林〕「—之西有二西王母一」。「—」。
〔明水〕神明に供する水。○〔禮〕「—兵盾在二—」。
〔畜水〕水を貯ふ。○〔晉〕「—レ—濯レ舟」。
〔止水〕とゞまりて流れざるみづ。○〔舊唐〕「必就二于—一」。「注而不レ渇」。
〔篤水〕みづをそゝぎかく。○〔晉〕「如二懸河—レ—」。
〔杯水〕盃の中にみちたるみづ、即ち、僅少なるみづにいふ語。○〔孟〕「猶下以二—一救中一車薪之火上也」。「也」。
〔湍水〕はかせ、めぐるみづ。○〔孟〕「性猶二—一」。
〔瓴水〕かめの中に貯へたるみづ。○〔漢〕「譬猶下居二高屋之上一、建中—上也」。

〔清水〕澄明なるみづ。○〔漢〕「—明鏡、不レ可二以レ形逃一」。
〔背水〕川を後にす。○〔漢〕「乃使二萬人先行出一—レ陳」。
〔魚水〕うをのみづを待つが如く極めて相待つとの密なるにいふ語。○〔晉〕「託二—之深期一」。
〔秋水〕(い)あきの節に出づるみづ。○〔莊〕「——時至」。
(ろ)あきの節に淸くすめるみづ。○〔杜甫〕「——纔深四五尺」。
〔曲水〕(い)かはの屈折せる所。○〔蘇軾〕「——浪低蕉葉穩」。「如何」。
(ろ)流水に觴を泛ぶると。○〔晉〕「三日——其義」。
〔聖水〕くしき效能あるみづ。○〔唐〕「浮圖詭言、水可レ愈レ疾、號曰二——一」。「如レ蜜」。
〔溪水〕谷川のみづ。○〔洞冥記〕「有二甜——一、味」。
〔潑水〕みづをこぼす。○水經、註〕「芙蓉—レ—」。
〔墨水〕すみを磨して得たるみづ。○〔蘇軾〕「——眞可レ飲」。「也」。
〔鏡水〕淸く澄めるみづ。○國史補〕「——之故——」。
〔塞水〕冷えわたれるみづ。○〔蔡邕〕「但用二麥飯——」。
〔江水〕楊子江の流れ、又、かはのみづ。○〔楚辭〕「使二——兮安流一」。
〔碧水〕靑き色のみづ。○〔梁昭明太子〕「桂檝蘭橈浮二——一」。「黃牛——喧」。
〔峽水〕山のはざまより流れ出づるみづ。○〔杜甫〕
〔尺水〕僅かのみづ。○〔李白〕「龍隱二——一」。
〔雲水〕(い)くもとみづと。○〔杜甫〕稻穫空二——一」。
(ろ)行脚の僧。○〔虛堂錄〕「尋常——家」。
〔烟水〕けむりのかすめる水。○〔溫庭均〕「五湖——獨忘レ機」。
〔萍水〕流浪する人の他鄕にて交會するにいふ語。○〔王勃〕「——相逢盡他鄕之客」。
〔○水〕洪水といふに同じ。○〔書〕「——儆レ予」。
〔淵水〕深き川。○〔書〕「予惟小子若レ渉二——一」。
〔豬水〕一處に渟まりて動かざるみづ。○〔書、疏〕「今得二——一爲レ宅」。
〔春水〕はるの期節となり氷のとけてながるゝみづ。○〔陸機〕「——上方生」。
〔漾水〕漂へるみづ。○〔王建〕「渉濟——圖新粉」。
〔渉水〕川を打ち渡る。○〔詩、傳〕「以レ衣—レ—爲レ厲」。

〔行水〕みづの上を往來す。○〔周〕「作レ舟以—レ—」。
〔匯水〕沃盥の中にあるみづ。○〔儀〕「——錯二于槃中一」。
〔釁水〕酒樽の中に入れあるみづ。○〔儀〕「司宮設二——于洗東一有レ科」。「達レ夕」。
〔　水〕汲み立てのみづ。○〔夏侯湛〕「茯二——一以」。
〔居水〕河海をもて住居とす。○〔國〕「水人—レ—」。
〔防水〕川の水をせき止む。○〔史〕「防二民之口一甚二于——一」。
〔引水〕みづを他よりこなたへ寄せ來たす。○〔史〕「王主—レ—灌二廢丘一」。「薄レ公」。
〔習水〕みづを泳ぐとに熟練す。○〔史〕「蔡姬—レ—」。
〔渟水〕塞がりて流れざるみづ。○〔史〕「茯二——一致二之海一」。「將レ歸」。
〔臨水〕みづを見下す。○〔楚辭〕「登レ山—レ—兮送」。
〔脂水〕あぶらを洗ひ去りたるみづ。○〔杜牧〕「渭流漲レ膩棄二——一也」。
〔理水〕提防を修めて水害なからしむ。○〔後漢〕「時有下薦二景能—レ—者上」。
〔墮水〕みづの中に落ち入る。○〔張籍〕「寶鏡昏—レ—」。「多」。
〔漏水〕水時計のみづ。○〔李白〕「銀箭金壺——」。
〔落水〕みづの中に陷る。○〔晉〕「四大笑—レ—」。
〔酌水〕酒の代りとしてみづを酌みかはせ飲む。○〔隋〕「——餞離淸矣」。
〔逼水〕川の邊につめよる。○〔晉〕「置レ陣—レ—」。
〔山水〕やまとみづと。○〔南〕「邵有二名——一」。
〔追水〕みづをせきとむ。○〔南〕「皆—レ—爲レ堰」。
〔緩水〕干飯を浸すみづ。○〔隋〕「獨設二——一而已」。
〔便水〕みづになれたる者。○〔隋〕「令下栄督二—レ—者一、引中取其後上」。
〔溫水〕あたゝまりたるみづ、即ち、湯。○〔北〕「三軍皆飲二——一」。
〔惡水〕人畜を害するみづ。○〔北〕「天雨二——一」。
〔毒水〕前に同じ。○〔庾信〕「酗疑承二——一」。
〔傾水〕みづを覆す。○〔北〕「—レ—灑レ山」。
〔盛水〕みづを灑ぎ入る。○〔北〕「—レ—養レ魚而自給」。
〔激水〕みづの流れをせきて逆騰せしむ。○〔舊唐〕「—レ—成二比目魚一」。
〔滾水〕溜りみづ。○〔遼〕「以二通州——害レ稼、遣レ使振レ之」。「—始進」。
〔俟水〕みづの出づる時を待ち受く。○〔舊唐〕「—レ—」。
〔潮水〕うしほ。○〔隋煬帝〕「——帶レ星來」。

〔緣水〕みづに沿ひよる。○〔唐〕「據レ山—レ—、睇レ木作レ郭」。「後唐」。
〔遏水〕みづをせき止む。○〔唐〕「載二土囊一—レ—而」。
〔禦水〕洪水の難を防ぎ止む。○〔山海經〕「可三以—レ—」。「—」。
〔備水〕水害の難に用意す。○〔易林〕「方レ船—レ—」。
〔猛水〕烈しき流れのみづ。○〔論衡〕「——之轉刓二—」。「而生」。
〔處水〕みづの中に居る。○〔潛夫論〕「夫魚—レ—」。
〔治水〕水害を防ぐと。○〔水經、註〕「善能二——一」。
〔臨水〕みづに臨む。○〔劉詵〕「柝枝—レ—忽垂」。
〔面水〕前に同じ。○〔梁元帝〕「—レ—帶レ山」。
〔沸水〕みづを火にかけてわかす。○〔拾遺記〕「—レ—一飲者千歲」。「—爲レ雲」。
〔噴水〕みづを吹き出だす。○〔拾遺記〕「此類—レ—」。
〔靜水〕流動せざるみづ。○〔新論〕「鑑二于——一者、以レ靜能淸也」。「——」。
〔香水〕かをりよきみづ。○〔述異記〕「吳故宮有二——一」。
〔澄水〕淸きみづ。○〔潘尼〕「——不レ能レ喩二其淸一」。
〔攪水〕みづをかきまはす。○〔東京夢華錄〕「鬧レ盆以二釵子一—レ—」。
〔濡水〕うづまけるみづ。○〔魏文帝〕「經二東園一遵二——一」。
〔揆水〕みづの淺深を測量す。○〔陸機〕「臨レ淵—レ—、而淺深難レ察」。
〔凝水〕澄みわたりて動かざるみづ。○〔陸雲〕「淸如二——一」。
〔步水〕みづをわたる。○〔潘尼〕「—レ—褰二裨衣一」。
〔映水〕影みづにうつろふ。○〔謝靈運〕「華—レ—而增レ光」。
〔涸水〕みづなき川。○〔梁簡文帝〕「阻二玆——一」。
〔渠水〕掘り割りのみづ。○〔梁元帝〕「貫二達——一」。
〔光水〕みづに照りうつる。○〔江淹〕「紫蒲兮—レ—」。
〔迸水〕ほとばしるみづ。○〔劉孝綽〕「晨征凌二——一」。
〔急水〕强く流るゝみづ。○〔何遜〕「游魚上二——一」。
〔溝水〕みぞのみづ。○〔王褒〕「東西御——」。
〔照水〕みづをてらす。○〔庾信〕「—レ—燃二犀角一」。
〔逝水〕流るゝみづ。○〔孟郊〕「四時如二——一」。
〔衆水〕あまたの川。○〔張悉〕「——背流急」。
〔藍水〕あをき色をなしたるみづ。○〔杜甫〕「——遠從二千澗一落」。

〔怒水〕激したるみづ。○〔韓愈〕「—ー忽中裂」。
〔滴水〕みづを垂らし落す、又、したゝるみづ。○〔李賀〕「玉露—レ—、雞入唱レ露」。「堵花氣」。
〔掬水〕手もてみづをすくひとる。○〔方干〕「—・—「分」。○〔李商隱〕「月澄新—レ—」。
〔濺水〕みづを濺れさす、又、みなぎるみづ。
〔掠水〕みづのうへをかする。○〔杜牧〕「驚鴻—レ—
〔印水〕みづにうつる。○〔李遠〕「斜橋—レ—紅」。
〔隔水〕川ひとへへたつ。○〔姚鵠〕「鐘聲—レ—微」。
〔瀉水〕清きみづ。○〔韓琮〕「—・—容澄レ鑑」。
〔菽水〕豆の葉とみづと、即ち、食物の質素なるにいふ語。○〔蘇軾〕「—・—賢二五鼎一」。
〔筧水〕かけ樋のみづ。○〔黄庭堅〕「—ー烟際鳴」。
〔腥水〕なまぐさきみづ。○〔范成大〕「—・—留二灌末利一」。「危樓」。
〔避水〕みづの難をよく。○〔陸游〕「人家—レ—半
〔桃花水〕春の水。○〔張正見〕「溜折—・—・—」。
〔心如水〕こゝろの淡泊なるをいふ語。○〔漢〕「臣門如レ市臣—・—・—」。
〔一衣帶水〕わづかばかりの水の流れ。○〔南〕「豈可下限二—・—・—・—一不上レ拯之乎」。
〔渴不飮盜泉之水〕のんどかわきても盜泉と名のつく泉の水は飮まぬ、即ち如何に困迫するも不義を爲さゞるをいふ語。○〔陸機〕「—・—レ—・—・—・—、熱不レ息二惡木之蔭一」。

一畫

【氶】ショウ。之陵切　迥
拼に同じ。

【氶】ショウ。辰陵切　蒸
承に同じ。

【氷】俗の冰の字。

【永】エイ、ヤウ。于憬切　梗
ながし。
（い）みちすぢ短からず。○〔詩〕「江之—矣」。
（ろ）久し。○〔左〕「其寧惟—」。
（は）遠し、遐かなり。○〔張衡〕「齊秦悠—」。
〔日永〕朝より夕に至るまでの間短からぬ。○〔薩都剌〕「消二此間—・—一」。
〔路永〕道遙に遠し。○〔陸雲〕「身乖—・—」。
〔漏永〕水時計の過ぎ行く時刻久しき心地す。○〔韋莊〕「夜寒宮—・—」。
〔思永〕考慮深遠なり。○〔趙蕃〕「皇猷—・—」。
〔永々〕極めてながきこと。○〔漢〕「祖宗之功德、施二於萬世一、—・—無レ窮」。
〔遐永〕深遠なり。○〔沈約〕「靈算—・—」。
〔清永〕きよらかにして深長なり。○〔高允〕「綴之以二—・—一」。「—・—」。
〔隆永〕殷盛にして長久なり。○〔薛道衡〕「洪基

二畫

【氿】キ。荷起切　紙
水涸る、かる。

【汇】キフ、コフ。許泣切　緝
水の涯、ほとり。

【氿】キ。荷起切　紙
水の涯、ほとり。

【汸】ロク。歷德切　職
泉水の聲にいふ字。

【汢】シツ、シチ。資悉切　質
㊀水出づ、いづ。㊁そゝぐ、（灑）。

【汱】古の溺の字。○〔元包經〕「大—過舟—二于水一」。

【氽】ン、ドン。土懇切　阮
水物を推す、うかぶ。

【氾】ハン、ホン。孚梵切　陷
㊀水漫延す、ひろがる、はびこる。○〔漢〕「河水決二濮陽一、—二郡十六一」。○
㊁あまねし、（普）、ひろし、（博）。○〔禮〕「—埽曰レ埽」。
㊂定まらず、搖く、ゆるぐ、うく。○〔漢〕「—乎若二不レ繫之舟一」。
㊃くぼみ、（洿）。○〔揚雄〕「—洿也、自レ關而東或曰レ洼、或曰レ—」。
〔淸氾〕すがすがしく浮きたること。○〔陸機〕「同二朱絃之—・—一」。「物也」。
〔博氾〕廣くあまねし。○〔釋名〕「其氣—・—而動」

【氿】キ。居洧切　紙
㊀水盡きて土に濕氣なくなりたる涯、きは、きし。○〔段玉裁〕「水涯枯土曰レ—」。○
㊁側の穴より出づる水、いづみ。〔詩〕「有二冽—泉一」。

【氿】キウ、グ。渠尤切　尤
水厓、みづぎは。

【汀】テイ、チヤウ。他丁切　青
㊀水際の平地、みぎは、きし。○〔謝靈運〕「—曲舟已隱」。
㊁水中の小洲、す、しま。○〔楚辭〕「搴二—州兮杜若一」。
〔廻汀〕ぐるぐるとめぐれるみぎは。○〔李商隱〕「瀟々傍二—・—一」。
〔雲汀〕かすみのかゝれるみぎは。○〔范梈〕「遠波廻壁實二—・—一」。「里瀉二—・—一」。
〔長汀〕ながく打ち續けるなぎさ。○〔謝靈運〕「萬
〔沙汀〕すなをもて成れるみぎは又はことな。○
〔畫鑑〕「好作二—・—遠岸、含蓄不レ盡之意一」。
〔連汀〕打ちつゞけるみぎは。○〔謝朓〕「—・—見二紆直一」。
〔洲汀〕水中の土沙のあらはれ出でたることな。○
〔塢烟〕「竹樹在二—・—之外一」。「渡」。
〔江汀〕川のみぎは。○〔高啓〕「—・—每恨無二舟渡一」。
〔緑汀〕あをく澄める水のきは、草などのあをくとしげれることな。○〔趙思秀〕「薰風滿二—・—一」。
〔廣汀〕ひろきみづぎは。○〔趙昂〕「乍連延兮—・—」。
〔遙汀〕遠く隔たりたるみぎは又はことな。○〔周緯〕「傍二—・—依二極浦一」。
〔遠汀〕前に同じ。○〔顧非熊〕「鳥薦下二—・—一」。
〔烟汀〕かすみこめたるみぎは又はことな。○〔張猷〕「老松瘦竹臨二—・—一」。
〔蘆汀〕あしの生ひたるみぎは。○〔周橄〕「斷雲和レ雁落二—・—一」。

【汀】テイ、チヤウ。他定切　徑
濙の條を見よ。

【汀】テイ、チヤウ。他鼎切　迥
—濘は、ごろ、泥濘。

【汁】シフ、ジフ。之十切　緝
㊀しる。
（い）物よりしみ出づる流動物。○〔禮〕「—獻涚二於醆酒一」。
（ろ）物を混和したる流動物。○〔拾遺記〕「出二金壺中墨—一」。
（は）羹漿、つゆ、すひもの。○〔後漢〕「烹レ雞多レ—則淡不レ可レ食、少レ—則熬而不レ可レ熟」。
（に）餘蔭によりて生ずる功勳利益。○〔史〕「彼勸二太子戰攻一欲レ啜レ—者衆」。
㊁雨雪雜り下ること、みぞれ。○〔禮〕「天時雨レ—」。
〔肉汁〕鳥獸のにくを煮て作りたるしる。○〔班固〕「如二靑蠅之赴二—・—一也」。
〔米汁〕（い）こめを洗ひて得たるしる。○〔左、註〕「潘—・—、可二以浴レ頭」。
（ろ）こめを蒸て得たるしる。○〔甘澤謠〕「好飮二—・—一」。「—・—」。
〔啜汁〕しるをすゝり飮む。○〔陸龜蒙〕「幽々待レ復有二—・—一時上」。
〔乳汁〕ちぶさより出づるしる。○〔南〕「我年老、非二帝車一」。
〔漿汁〕しほのしる。○〔晉〕「以二—・—一灑レ地而引二

(濁汁) 濁りたるしる。〇(北)「濯二其髮一以二——一沃二其頭一令二臭出一」。
(茗汁) 茶を煮て得たる湯。〇(洛陽伽藍記)「菂飲二——一」。
(漆汁) うるしの木より取りたる液。〇(蘇軾)「歲-々溡二——一」。
(蜜汁) みつ、蜂の醸したるものより得たる甘きしる。〇(蘇軾)「甜-酒如二——一」。
(糞汁) くそのしる。〇(魏)「絞二——一飲レ之、乃解」。
(灰汁) はいより取りたる水、あくみづ。〇(水經、註)「黄-耆如二——一」。
(丹汁) 赤き液。〇(洞冥記)「色如二——一」。
(殘汁) のこし餘れるしる。〇(蘇軾)「閉レ口護二——一」。
(目汁) 目より出づるしる、即ち、なみだのこと。〇(徐積)「鼻-涕——沾二衣-襟一」。
(膽汁) きもより出づる青く黄なる水。〇(孔平仲)「——」。
(腥汁) なまぐさきしる。〇(范成大)「手拍嫌二——一」「嘔-噦皆——」。

【汁】ケフ、ゲフ。檄頰切 [葉]
協に同じ。〇(張衡)「五-緯相——」。

【求】キウ、グ。巨鳩切 [尤]
㊀もとむ。
(い)さがす。〇(禮)「瞿-々如レ有二——一而弗レ得」。
(ろ)たづぬ。〇(孟)「不レ得二於言一、勿レ——二於心一」。
(は)得んと願ふ。〇(詩)「寤-寐——レ之」。
(に)貪る。〇(論)「不レ忮不レ——」。
(ほ)責む。〇(公羊)「——二乎陰一之道也」。
(へ)務む。〇(禮)「君-子行レ禮不レ——レ變レ俗」。
(と)乞ふ。〇(易)「童-蒙——レ我」。
(ち)招き來たす。〇(禮)「——二善-良一」。
㊁ひさし(等)。〇(書)「用康二乂民一作レ——」。
㊂球に通じ用ふ。〇(柳宗元)「由二流-——嘉-陵一」。
㊃裘の字の古文。
(相求) 互に捜しもとむ。〇(易)「同-氣——」。
(徵求) 廣くもとむ。〇(書)「——二哲-人一」。
(旁求) 前に同じ。〇(書)「俾三以レ形——二于天-下一」。
(營求) 度り索む。〇(書、序)「使二百-工——二諸-野一」。
(來求) 他より尋ねきたりてもとむ。〇(詩)「萬-福——」。
(反求) 省みて吾が身にある所如何と捜しもとむ。〇(禮)「勝レ己者——二諸己一而已矣」。
(誅求) はたりて所望す。〇(左)「——無レ時、是以不二敢寧-居一」。
(諮求) 調べさがす。〇(宋)「以レ——二民-間利-弊一爲レ急」。
(索求) もとむ。〇(魏)「國-家——之府」。
(冀求) 願ひ望む。〇(楚辭)「夫何——」。
(眷求) 顧みて心を寄せもとむ。〇(書)「——二一-德一」。
(購求) 金錢などをもて懸賞とし捜し索む。〇(漢)「高-祖——二布千-金一」。
(陰求) 秘密に捜す。〇(漢)「——二其短一」。
(横求) 道に悖りてむさぼる。〇(漢)「縁レ私——」。
(廣求) 前に同じ。〇(漢)「猶二博取而——一」。
(追求) 後を逐ひかけて捜す。〇(漢)「旁郡——」。
(逐求) とほきあなたまで捜し索む。〇(後漢)「——博選」。
(簡求) 擇び捜す。〇(後漢)「——二忠-賢一」。
(請求) 願ひもとむ。〇(朱德潤)「走謁二高-賢一多二——一」。
(聘求) 召し寄す。〇(後漢)「——二耆-德一」。
(勗求) 力を盡くし捜す。〇(後漢)「——二君-子之道一、研-鑽勿レ替」。
(詭求) いつはりてもとむ。〇(後漢)「責-主日至、——無レ已」。
(假求) 借り受くること。〇(後漢)「——不レ稱、常恨レ之」。
(研求) 奥秘をあきらめ捜す。〇(晉)「瞑讀レ書不二甚——一」。
(諏求) 尋ね問ひ願ひ望む。〇(晉)「——二讜-言一」。
(參求) 彼れと此れとを考へ合はせ捜しもとむ。〇(唐)「——二累-代一、必有レ差矣」。
(訪求) 尋ね捜す。〇(宋)「常——二士大夫一」。
(妄求) 道理を辨へず恣に願ひもとむ。〇(徐勉)「潤-屋豐-家莫二——一」。
(彊求) 索むべからざるをいはれなく索む。〇(呂氏春秋)「名-號大顯、不レ可二——一」。
(探求) 捜しもとむ。〇(孫甯)「且於二——一爲レ廣」。
(搜求) 前に同じ。〇(韓愈)「——智-網恢」。
(要求) 願ひ索む。〇(楚辭)「上——於仙-兮」。
(搾求) つばらに捜しもとむ。〇(蔡邕)「——厯-象一」。
(周求) 行きわたらざる所なく捜す。〇(應璩)「宣レ命——」。
(諮求) 問ひ尋ぬ。〇(何承天)「——二雅-旨一」。
(躁求) あわたゞしく捜し索む。〇(徐陵)「知レ命知レ時肯——」。
(默求) 言葉の上に發せずしてもとむ。〇(張養浩)「——二詩-句一爲二相容一」。

【求】ク。恭于切 [虞]
蛷に同じ。

【汃】ハツ、ハチ。普八切 [黠]
波の相激する聲にも水のながるゝ貌にもいふ字。〇(張衡)「砏——輣-軋」。
(汃々) 水の流るゝ貌にいふ語。〇(杜牧)「小-溪光——」。
(彭汃) 波の激する聲にいふ語。〇(孟郊)「獠江息二

三畫

【汊】サ、セ。楚嫁切 [禡]
水わかれ流る、わかる、又、わかれ流るる水、みなまた、えだがは。〇(韓愈)「行趾二——川一」。

【汋】サク、ソク。仕角切 [覺]
㊀或る時は水充ち或る時は水枯るゝこと。〇(玄中記)「貴-州有二漏-——一、一日百盈百竭」。
㊁激する水の聲にいふ字。〇(釋名)「汋有レ水、聲——也」。

【汋】
酌に通じ用ふ。〇(周)「士-師之職掌二士之八-成一、一曰、邦——」。
(金汋) かねにて製りたる飲料を挹む器。〇(雲笈七籤)「以二——一和二黄-土一」。
(清汋) きよらにし挹み取る。〇(唐無名氏水鏡賦)「——二其味一」。
(黄龍汋) ろくしやうの一名。〇(石藥爾雅)「銅-青一-名——」。

【氵彡】セン。師炎切 [鹽]
——は、波立つ貌にいふ語。

【汍】クワン、グワン。胡官切 [寒]
——瀾は、涙の流るゝ貌にいふ語。〇(馮衍)「涙——瀾而雨集」。

【汎】ハン、ホン。孚梵切 [陷]
㊀風波のまゝに流れうかぶ、たゞよふ。〇(詩)「亦——其流」。
㊁うかぶ(浮)。〇(國)「是故——二舟於河一」。
㊂かろし(輕)。〇(左)「——剽之單-慧」。
㊃ひろし。
(い)遠し、かすか。〇(沈約)「夫眇——滄-流則不レ識二涯-埃一」。
(ろ)あまねし(普)。〇(魏)「內-外百-寮普——加二一-級一」。
㊄そゝぐ(灑)。〇(班固)「雨-師——灑」。
㊅ながるゝ貌にいふ字。〇(詩)「——其景」。
(泛汎) 彼れと此れとあはせそゝぐ。〇(梁)「滔-滙——」。
(瀰汎) 充ちあまねくあり。〇(張衡)「以二其——一故、故時人不レ務レ此」。
(長汎) 丈ながく浮びてあり。〇(杜甫)「蹉-跌——鷗」。
(大汎) いたく廣し。〇(沈約)「臨二此——庭一」。
(數汎) あまたゝびうかぶ。〇(謝濟)「——二明-月沼一」。
(遠汎) 遙かのあなたに浮びてあり。〇(杜甫)「寵-行舟——」。

【汎】ヒウ、フ。房戎切 [東]
うかぶ(浮)。〇(司馬相如)「——淫泛-濫」。

【汎】ハフ、ボフ。批法切 [洽]

涶の條を見よ、

【汏】タイ、ダイ。度奈切 [泰]
㊀よなぐ、(淅)。㊁あらふ、(洗)。
㊂水激して過ぐ、みなぎる。
㊃巨大なる波濤、おほなみ。○〔楚辭〕「齊二吳-榜一而擊レ|」。
〔江汏〕かはの波。○〔孟郊〕「醒-臑臥二|・|一」。
〔晩汏〕夜の波。○〔林逋〕「吳-榜自能凌二|・|一」。

【汏】タツ、ダチ。他達切 [曷]
すぐ、(過)。

【汏】タ。代何切 [歌]
よなぐ、(淅)。

【汐】セキ、シヤク。祥亦切 [陌]
海水の夕に或は滿ち或は退くを、ゆふしほ、一說に、海水の退くを、ひきしほ。○〔東海漁翁〕「滄-海之水入二於江一謂二之潮一、江-潮之水歸二之滄-海一謂二之|一」。
〔控汐〕ゆふしほを引きよす。○〔張績〕「靑-溢赤-岸、|レ|引レ潮」。
〔海汐〕夕しほ。○〔吳子孝〕「|・|魚-龍夜」。
〔夜汐〕よるのしほ。○〔葛長庚〕「晝-潮|・|大-江東」。
〔歸汐〕引きしほ。○〔馬祖常〕「驟レ石通二|・|一」。
〔暮汐〕ゆふぐれ時のしほ。○〔王逢簡〕「|・|螺開レ甲」。

【汑】タク、チヤク。闥各切 [藥]
なめらか、(滑)。

【汒】バウ、謨郎切 [陽]　マウ。母朗切 [養]
恩遽の貌にいふ字、あわたゞし。○〔莊〕「|-|二若於夫-子之所一レ言」。

【汒】バウ、マウ。莫浪切 [漾]
滂に同じ。○〔春秋繁露〕「混-々|・|」。

【汓】シウ、ジユ。似由切 [尤]
水上に浮び行く、およぐ。

【汓】イウ、ユ。夷周切 [尤]
旌旗の旒、はたあし。

【汔】キツ、コチ。許訖切 [物]
㊀水涸る、かる。
㊁泣下る、くだる。
㊂ほとんど、ちかし、(幾)。○〔詩〕「|可二小-康一」。

【汖】ハイ、普拜切 [卦]　へ。　チ。澄知切 [支]
枲の皮を分かつ。

【汕】サン、セン。所晏切 [諫]
㊀魚の水を游ぐ貌にいふ字。
㊁簿もて魚を取る、すなどる、すくふ。○〔詩〕「烝-然|・|」。
㊂撩罟、すくひあみ。○〔柳貫〕「白-魚在レ|」。
〔罩汕〕さで網をもてすくひ取る、又、すくひあみ。○〔韓愈〕「魴-鱮可二|・|一」。

【汗】カン。侯旰切 [翰]
㊀皮膚の內より浸み出づる液、あせ。○〔戰〕「揮レ|成レ雨」。
㊁あせを生ず、あせかく、あせす。○〔北〕「使-人裹レ甲馬|」。
㊂水の廣き貌にも波の長き貌にもいふ字。○〔郭璞〕「|・|沺-々」。
㊃しみの出づること、○〔畫墁錄〕「縣-印漫|・|」。
㊄言一たび出でてまた反らざること。○〔易〕「渙|二其大-號一」。
〔泮汗〕水の廣大にして津涯なき貌にいふ語。○〔左思〕「瀆-溟|・|」。
〔質汗〕一種の藥。
〔澔汗〕光彩のうつりかゞやく貌にいふ語。○〔司馬相如〕「采-色|・|」。
〔瀾汗〕波の長き貌にいふ語。○〔木華海賦〕「洪-濤|・|」。「|交流」。
〔白汗〕珠なすあせ。○〔淮〕「挈二一-石之尊一、則|・|」
〔反汗〕一たび出でたるあせを又もとにかへす、即ち、一たび命令したることを又舊にもどし廢するにいふ語。○〔歐陽修〕「明-命已行、固無レ容二于|・|一」。
〔流汗〕あせを出だしながす。○〔漢〕「未レ嘗不二|・|而慙-愧一也」。
〔浩汗〕廣く涯りなし。○〔晉〕「|・|無レ涯」。
〔面汗〕顏にあせをかく。○〔孫覿〕「內愧|・|」。
〔香汗〕よきにほひのつけるあせ。○〔梁簡文帝〕「|・|浸二紅-紗一」。「染二龍-花一」。
〔血汗〕血のにじみたるあせ。○〔張正見〕「|・|
〔粉汗〕白く細く固まりて散鹽の如くになりたるあせ。○〔盧思道〕「林消|・|滋」。
〔露汗〕あせにじむ。○〔漢〕「介-胄被二|・|一」。
〔發汗〕あせを出だす。○〔魏〕「當二|・|一」。
〔淚汗〕なみだとあせと。○〔魏〕「|・|交-横」。
〔驚汗〕おどろきてあせをかく。○〔北〕「駭而|・|」。
〔震汗〕わなゝきふるへてあせをかく。○〔唐〕「得レ詔|・|東-西步不レ能二引-決一」。
〔恚汗〕いかりてあせをかく。○〔唐〕「|・|不二自-處一」。
〔羞汗〕恥かしく思ひてあせをかく。○〔唐〕「或面霧-結、無レ不二|・|一」。
〔愧汗〕前に同じ。○〔避亂錄〕「受但|・|而已」。
〔沐汗〕垢を洗ひたるが如くにあせをかく。○〔劉憑〕「馬未二馳而|・|」。「之」。
〔惶汗〕恐れてあせをかく。○〔唐異志〕「|・|久」
〔悚汗〕前に同じ。○〔冊府元龜〕「追二用|・|一」。
〔膏汗〕あぶらあせ。○〔異苑〕「|・|流-溢」。
〔冷汗〕殘る所なくあせをかく。○〔酉陽雜俎〕「|・|爲レ經」。
〔腋汗〕身の兩わきにあせをかく。○〔東觀餘論〕「使二觀者|・|毛竪一」。
〔戰汗〕わなゝきふるへてあせばむ。〔李商隱〕「露-衣沾二|・|一」。
〔膚汗〕はだへにあせかく。○〔王褒〕「胥瑞|・|」。
〔珠汗〕たまの如きあせ。○〔傅休奕〕「|・|洽二玉-體一」。
〔澗汗〕水の貌にいふ語。○〔郭璞〕「|二|六州之域一」。「迎」。
〔輕汗〕わづかなるあせ。○〔謝惠連〕「|・|染-雙-
〔絳汗〕血の色をなしたるあせ。○〔梁昭明太子〕「靡流二|・|一」。
〔朱汗〕前に同じ。○〔杜甫〕「馬驕|・|落」。
〔赭汗〕前に同じ。○〔梁簡文帝〕「靑驪沉二|・|一」。
〔薄汗〕いさゝかなるあせ。○〔李德林〕「|・|染二紅-粧一」。
〔微汗〕前に同じ。○〔陳後主〕「|・|雜レ粧垂」。
〔靦汗〕恥ぢてあせかく。○〔沈約〕「|・|亡レ厝」。
〔芳汗〕かぐはしき香のするあせ。○〔王僧孺〕「|・|似レ蘭湯一」。「|抱レ樹立一」。
〔喘汗〕あへぎてあせを流す。○〔蘇舜欽〕「人皆|
〔頳汗〕ひたひのあせ。○〔文同〕「|・|常沺々」。
〔細汗〕こまかなるあせ。○〔歐陽詹〕「|・|凝レ衣集」。

【汙】ヲ、ウ。屋孤切 [虞]
㊀窊下す、くぼむ。○〔禮〕「|二其宮一而豬焉」。
㊁くだる、(降)、又、そぐ、(殺)。○〔孟〕「|不レ至レ阿二其所一レ好」。
㊂くぼみくだれる處、くぼみ、又、くぼみに渟まりたる濁水、たまりみづ、みづたまり。○〔左〕「潢|行-潦之水」。
㊃くだれる地位、下等。○〔荀〕「終-身不レ免二埤-|傭-俗一」。
㊄勞役。○〔左〕「處不レ辟レ|」。
㊅けがれ。
(い)垢染、よごれ。○〔詩、疏〕「煩二潄公-服一則無二垢-|一」。
(ろ)恥辱。○〔漢〕「無二穢-|之名一」。
(は)不正。○〔書〕「舊-染|-俗」。
㊆けがれを加ふ、よごす、けがす。○

[史]「以自―」。○

㊇けがれを受く、よごろ、けがる。○[史]「懷二餘肉一持去衣盡―」。

[埤汙] 卑しく下る。○[柳宗元]「處二――一以閲レ世兮」。

[沾汙] 濡れてよごる、ぬらしよごす。○[高僧傳]「未二嘗――一」。

[誣汙] いつはりてけがす。○[史]「願少卿無二相――一也」。

[困汙] 窮乏にして低き位置にあること。○[史]「殿仲子祭二擧吾弟――之中一」。

[職汙] 罪となる品物を取りてきたなき行あり。○[北]「尋以二――一、爲二有司所一劾」。

[前汙] 以前の時にありたるけがしき事柄。○[唐]「渝二洗――一、此反掌之功耳」。

[墨汙] すみもてよごす。○[唐]「乃灑レ筆日、――國」。

[黯汙] 損ひけがす、そこねけがる。○[唐]「――二邦與二」。

[玷汙] 前に同じ。○[唐]「一至二――一」。

[脇汙] おびやかしけがす。○[唐]「所二以――一者輕二重以一情」。

[横汙] 我が儘にしてけがしき行あり。○[唐]「近臣――」。

[愚汙] おろかにして下れること。○[韓]「――之吏處レ官矣」。

[混汙] けがる、けがす。○[韓詩外傳]「容二入之――一」。

[臭汙] 惡しきに臭ひを發しけがる。○[潛夫論]「――腐爛」。

[涅汙] 黒く染む。○[王逸]「椒英兮――」。

[豬汙] 一家を誅滅し濺す。○[沈約]「不レ待二――之構一、而姦凛必翦」。

[塵汙] けがれたること。○[李商隱]「――中レ旨」。

[久汙] 永きが間其の地位にあるべき身にあらざるを厚顏にも居ること。○[司馬光]「――二侍從之班一」。

[濁汙] 清廉ならざること。○[蘇軾]「余方區々欲レ磨二洗――一」。

[點汙] 批點をうちてけがす。○[朱熹]「不レ能レ有下以二毫髮一――上也」。

[舊汙] ふるきけがれ。○[郝經]「乾坤洗二――一」。

[坳汙] たまりみづ。○[吳萊]「――與レ海絶」。

[姦汙] 惡しくきたなきもの。○[王渾]「亦已防二――一」。

【汙】 ヲ、ウ。烏故切 遇

㊀けがれを揉み去る、あらふ。○[詩]「薄―二我私一」。

㊁まぐ（曲）。○[左]「春秋之文盡而不レ―」。

【汙】 ワ、ヱ。烏瓜切 麻

地を鑿つ、ほる、くぼむ。○[禮]「―尊而杯飮」。

【汚】 汙に同じ。○[孟]「合二―乎世一」。

【汛】 シン。思晉切 震

そゝぐ（灑）。○[司馬相如]「―二掃前聖數千載功業一」。

【汛】 サイ、セ。所賣切 卦　セン。蘇佃切 先　先見切 霰

前條に同じ、一説に、水の貌にいふ字。

【汎】 灑に同じ。

【汜】 シ。詳里切　イ。養里切 寘

㊀さゞまる（止）。○[釋名]「―止也、如二出有レ所レ爲、畢已復還而入也」。

㊁一たび本流より岐かれて再び本流に合する水。○[詩]「江有レ―」。

㊂通路なき水、窮瀆。○[木華]「渤蕩成レ―」。

㊃厓涯、きし、ほとり、かぎり。○[淮]「猶有二汰沃之―一」。

[西汜] 西の方の日の入る處。○[謝朓]「扶光迫二――一、歡餘宴有レ窮」。

[朱汜] 南方の水の行きどまりたる處。○[七發]「臨二――一遠遊」。

[東汜] 東のかぎり。○[陸雲]「翳播二――一」。

[淸汜] きよらかなる川の涯。○[庾信]「蔡泰濯二――一」。

[澗汜] 谷川のほとり。○[顏延之]「相鳴去二――一」。

【汈】 デン、チン。乃見切 霰　シャウ。式羊切 陽

水の名。

【汈】 ジン、ニン。爾軫切 軫

濕ひて相著く、つく。

【汝】 ジョ、ニョ。人渚切 語

㊀淮水の一支流。○[詩]「遵二彼―墳一」。

㊁なんぢ（女）。○[書]「予欲レ左二右有民一―翼」。

【汞】 コウ、グ。胡孔切 董　胡貢切 送

水銀、みづがね。○[參同契]「眞―產二于離一」。

[流汞] 水銀のこと。○[蘇軾]「寒光溌レ眼如二――一」。

[泥汞] 前に同じ。○[參同契、註]「燒二豫章――一相煉治」。

[硃汞] 水銀の原料となるもの。○[參同契、註]「燒二蝸――一、竟無レ所レ得」。

[濛汞] 不分明なる貌にいふ語。○[路史]「―二―其說一」。

[融汞] 釋けて流るゝ水銀。○[宋敏求]「水面如二――一」。

【江】 カウ、コウ。古雙切 江

㊀西藏の北部の山中に源を發して支那本土を貫流し東の方黄海に注げる一大河、楊子江。○[書]「岷山導レ―」。

㊁河水の汎稱、かは。○[左]「漏―伏流潰二其阿一」。

㊂星の名。○[史]「―星動人涉レ水」。

【池】 チ、ヂ。陳知切 支

㊀いけ。

(い)水のたゝへさゞまりたる處。○[括地志]「蛟龍之山有レ―方七百里、羣龍居レ之」。

(ろ)城の外圍に地を掘りて水をたたへたる處、ほり、城塹。○[左]「漢水以爲レ―」。

(は)水の陂に通ふ路、みぞ、みづみち、水道。○[周]「溝瀆澮―之禁」。

㊁柩を埋むる坎、あな。○[小爾]「殎坎謂二之―一」。

㊂琴瑟の上面。○[爾、疏]「琴上日レ―、言二其平一」。

㊃棺の飾、竹を織り爲る、形は籠の如く衣するに靑布を以てし上に鼈甲を承くるといふ。○[禮]「―視二重霤一」。

[洿池] 水の流れざるいけ。○[孟]「數罟不レ入二――一」。

[酒池] さけを水のかはりとして池をたつらふ。○[史]「――肉林」。

[鹽池] 鹽を製するために設けたるいけ、鹽田などの類。○[漢]「勃海――、可二且勿一禁以救二民急一」。

[天池] (い)海。○[莊]「窮髮之北、有二溟海一者――也」。
(ろ)九坎の閒にある十星。○[晉]「九坎閒十星日二――一」。

[三池] (い)星の名。○[晉]「九坎閒十星日二天池一、一日二――一」。
(ろ)膽、口、小腹。○[黄庭經、註]「膽爲二中池一、口爲二華池一、小腹爲二玉池一、故有二――之名一」。

[深池] いけを深く掘る、又、ふかきいけ。○[韓詩外傳]「高レ城――、不レ足レ爲レ固」。

[淸池] 水の澄みわたれるいけ。○[李頎]「――皓月照二禪心一」。

[差池] 燕などの飛ぶ貌にいふ語。○[詩]「――其羽」。

[陂池] つゝみ。○[禮]「毋レ漉二――一」。

[銅池] 承霤、あまどひ。○[漢]「金芝九莖生二函德殿――之中一」。

[玉池] (い)卷軸の裝潢の綾綸を附せる所の稱。○[楊愼]「裝二褫卷軸一引首後以レ綾貼者日レ贉、唐人謂二之――一」。
(ろ)腎臓の中の局所。○[黄庭經]「――淸水」。

〔臨池〕いけのほとりにのぞむ、張芝が故事より文字を書くことを學ぶにいふ語。○〔王羲之〕「張-芝——學レ書、池水盡黑」。
〔野池〕野中にあるいけ。○杜甫「——蓮欲レ紅」。
〔辟池〕中に島あるいけ、其の形恰も璧の如くにあればいふ。○〔史、註〕「天子——、即周天子辟雍之地」。
〔園池〕菜蔬をうゝるはたけと魚を畜ふいけと。○〔陸游〕「山家隨レ分有二——一」。
〔上池〕露又は竹木の上の水。○〔史〕「飲以二——之水一」。
〔湯池〕湯をたぎらして注ぎたるいけ、即ち、城池の堅固なるにいふ語。○〔漢〕「石-城十仞、——百步」。
〔潢池〕水のたまりたるいけ。○〔漢〕「故盜弄二陛下之兵于——中一耳」。
〔穿池〕いけを掘り作る。○〔莊〕「—レ—而養給」。
〔宮池〕宮殿のそのに設けたるいけ。○〔淮〕「——涔則溢、旱則涸」。
〔湖池〕みづうみといけと。○〔論衡〕「——非レ一、其廣狹同也」。
〔稻池〕禾を植ゑてあるいけ。○〔易林〕「雙-鳬俱飛、欲レ歸二——一」。
〔淋池〕水の注ぎくるいけ。○〔拾遺記〕「漢武帝穿二——一」。
〔沼池〕いけ。○〔韓詩外傳〕「——不レ如二川澤所レ見博一也」。
〔傑池〕ところ定めず浮きてあるそと。○〔上林賦〕「——茈虒」。
〔宏池〕廣やかなるいけ。○〔馬融〕「休二息乎高光之榭一、以臨二乎——一」。
〔濬池〕幽に深き海のこと。○〔吳都賦〕「帝二朝-夕之——一」。
〔硯池〕すゞりの水の溜れる處。○〔史肅〕「雨添二溶-下——滿」。
〔城池〕まろの周圍を廻らしたるほり。○〔蕃滔〕「流-水下二——一」。
〔通池〕前に同じ。○〔蕪城賦〕「——既已夷」。
〔淪池〕いけの中に沈み入る。○〔月賦〕「—レ—滅レ波」。
〔故池〕年ふりたるいけ。○〔謝靈運〕「——不二更穿一」。
〔溝池〕みぞ、いけ。○〔禮〕「城郭——」。
〔周池〕ほり。○〔班固〕「呀二——一而成レ淵」。
〔古池〕ふるいけ。○〔李白〕「荷-花落二——一」。
〔荒池〕手入れせざればてたるいけ。○〔謝朓〕「——秋-草徧」。
〔昆池〕海。○〔江總〕「玉-軸——波」。

〔溟池〕北方の海。○〔庾信〕「——九-萬-里」。
〔空池〕水のたゝへてなきいけ。○〔李洞〕「白-沙羅雨濺二——一」。
〔枯池〕前に同じ。○〔李白〕「窮-魚守二——一」。
〔蒼池〕水のあを〳〵とたゝへたる廣きいけ。○〔杜甫〕「——萬頃浸二坤-軸一」。
〔灌池〕いけに水を注ぎ入る。○〔韓愈〕「—レ—纔盈二五-六-尺一」。
〔杯池〕さゝやかなるいけ。○〔李賀〕「——白-魚小」。
〔朝夕池〕海。○〔枚乘〕「游二曲-臺一臨二上-路一不レ如二——之—一」。

【𣲙】スヰ。初委切 紙
れの方、北。

【汑】沲に同じ。

四畫

【汥】シ。章移切 支
㊀水の都まるを、ふち。㊁水分流す、わかる、又、えだがは。

【汥】キ、ギ。渠基切 ヒ。平義切 寘
㊀前條に同じ。㊁水戻る、もどる。

【泜】チ、ヂ。陳尼切 支 シ。掌氏切 紙
つく、(著)とゞまる、(止)、又、齊へる貌にいふ字。○〔蔡邕〕「——庶-類」。

【汨】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
楚の屈平の投身せし淵の上流。○〔一統志〕「一南-流曰二—-水一」。

【汩】コツ、コチ。古忽切 月
㊀をさむ、(治)。○〔孔安國〕「別レ生分レ類作二——作一」。
㊁通ず。○〔周〕「決二—九-川一」。
㊂みだる、(亂)。○〔書〕「—二陳其五-行一」。
㊃しづむ、(沒)。○〔杜甫〕「——沒一-朝伸」。
㊄波浪の聲にいふ字。○〔木華〕「泫-々——」。
㊅涌く波。○〔莊〕「與レ—偕出」。
〔淩汩〕犯しみだる。○〔晉〕「—二—五常一」。
〔私汩〕恣にし亂る。○〔西山題跋〕「正六之情、不二以——一」。
〔泉汩〕いづみ涌き出づ。○〔崔湜〕「——飄颻」。
〔滂汩〕大いなる波涌く。○杜甫「遭二鯨鯢之——一」。
〔墮汩〕落ち沈む。○〔符載〕「—二—沙泥中一」。
〔淟汩〕沈む。○〔洪遵泉志〕「遂致二——一不レ賜耳」。
〔紛汩〕みだる。○〔王勃〕「渺昏曉之——」。
〔滑汩〕みだる。○〔柳宗元〕「旋-眩——」。

【汩】イツ、イチ。于筆切 質
㊀水流る、ながる。○〔楚辭〕「浩-々沅-湘分分-流—」。
㊁さし、はやし、(疾)。○〔司馬相如〕「澤-沸宓—」。
㊂きよし、(淨)。○〔王延壽〕「—磑-々以璀-璨」。
〔沸汩〕鼓動する貌にいふ語。○〔揚雄〕「惟潮-灑其——兮」。
〔瀄汩〕前に同じ。○〔嵇康〕「——澎湃」。
〔漂汩〕前に同じ。○〔謝朓〕「——瀉二長淀一」。
〔淢汩〕流れ去る貌にいふ語。○〔張衡〕「淚——」。
〔弁汩〕はやき意にいふ語。○〔漢〕「——膿-析翁-遺」。
〔洄汩〕水の流るゝ貌にいふ語。○〔唐〕「邊——乎淪-漣」。

【汪】ワウ。烏光切 陽
㊀深くして廣し。○〔淮〕「——然平-靜、寂-然清-澄」。
㊁大いなり。○〔晉〕「—是土」。
㊂濁水の池。○〔左〕「尸二諸周-氏之——一」。
㊃海。○〔楊萬里〕「誕二寘之祝-融之——一」。

【汪】ワウ。紆往切 養
—陶は、縣の名。

【汪】ワウ。烏浪切 漾
渟まり水の臭ひ。

【汪】ワウ。烏宏切 庚
泓に同じ。

【汫】ケイ、キヤウ。棄挺切 迥
—涏は、小さき水の貌にいふ語。

【汫】セイ、ジヤウ。沮醒切 霽 疾止切 靜
—濙は、水の貌にいふ語。

【汭】ゼイ、ゼ。而銳切 霽
㊀水互に入り合ふ、いる、一說に、小さき水の大いなる水に流れ入るにいふ字。
㊁水のめぐり流るゝ內面、うち。○〔書〕「釐二降二女于嬀—一」。
㊂水の北、きた。○〔五子之歌〕「徯二于洛之—一」。
㊃水の隈曲、くま。○〔木華〕「雲-錦散二文於沙—之際一」。

【汭】ゼツ、ネチ。如劣切 屑
前條の㊂に同じ。

【汭】トン。他昆切 元
渚に通じ用ふ。

【汯】クワウ、キヤウ。乎萌切 庚
㊀水迅く流るゝを、はやせ、又、波湧き起つ、なみたつ。○〔郭璞〕「泓——洄-」。「たり」。
㊁舟によらずして水を渉ることを、かちわ

【汰】タイ。他蓋切 [泰]

㊀にごる、(滑)。○[賈誼]「厚-志隱-行謂二之潔一、反レ潔爲レ—」。
㊁すぐ、(過)。○[左]「伯-棼射レ王—レ輈」。
㊂擇り去つ、よなぐ。○[晉]「沙レ之—レ之、瓦-礫在レ後」。
㊃洗濯す、あらふ。○[漢]「洮二—學者之累-惑一」。
㊄浸潤す、うるほす。○[齊民要術]「作レ醬法、熱-湯浸二豆-黃一、良久淘-—、而漉蒸レ之」。
㊅自ら矜大にす、おごる、ほこる。○[左]「—-虐已甚」。

〔洗汰〕あらふ。○[唐]「磨-治——、非俗一變」。
〔洮汰〕前に同じ。○[後漢]「—二—學-者之累-惑一」。
〔滌汰〕前に同じ。○[舊唐]「純-犧——」。
〔淘汰〕前に同じ。○[鮑照]「—二—秋-水一」。
〔簡汰〕擇びよなぐると。○[宋]「方-明——精-當」。
〔銓汰〕善惡をはかりてよなげ去る。○[唐]「領-選——、文武稱レ職」。
〔冷汰〕ひやしあらふ。○[劉弇]「——客-襟塵」。
〔蕩汰〕よなげ去る。○[抱朴]「—二—積-埃一」。
〔簸汰〕あふりよなぐ。○[清異錄]「舂-揭——」。
〔鐫汰〕えりとり去る。○[揮塵後錄]「官-曹混-亂宜レ從二——一」。
〔盪汰〕洗ひ潤す。○[鮑照]「浩-瀁——、臣亦興」。
〔澄汰〕清めあらふ。○[蘇軾]「未レ能レ—二—流-品一」。「——一」。
〔精汰〕よくよくよなげ去る。○[劉克莊]「冗卒要二——一」。

【汰】テイ、タイ。他計切 [霽]

水波、なみ。

【汏】タツ、タチ。他達切 [曷]

なめらか、(滑)。○[蘇軾]「聳-踊滑-—如二鳧-鷺一」。

【汧】ケン。姑泫切 [銑]

【汲】キフ。居立切 [緝]

㊀水落つ、おつ。㊁かくれみづ、伏水。
㊀ひく、(引)。○[周]「匠-人大-—二其版一」。
㊁水を低き處より引き抒る、くむ。○[莊]「綆短者不レ可二以—レ深」。
㊂休息せず、いそがし。○[漢]「不レ—二—於富-貴一」。
㊃虛詐の貌にいふ字、いつはろ。

〔井汲〕ゐどの水をくみあぐ。○[陶弘景]「隴-耕——」。
〔外汲〕家のそとにまで行きて水をくみあぐ。○[南]「朝-夕不二——一」。
〔沉汲〕そゝぎくむ。○[子華]「故無レ井而出——」。
〔空汲〕させるあてどもなくくむ。○[庾丹]「——銀-牀井」。「廻」。
〔滿汲〕溢るゝばかりにくむ。○[曹松]「——石-瓶」。
〔引汲〕ひく。○[歐陽修]「一落誰——」。
〔寄汲〕他人の水を乞ひてくみとる。○[淮]「—レ—不レ若レ鑿レ井」。

【汳】ヘン、ベン。皮變切 [霰] ハン、バン。芳萬切 [願]

泗水の一支流。

【汴】前に同じ。

【汵】カン、コン。古暗切 [勘] 古南切 [覃]

水の舟中に入ると、あか。

【汵】シン。鉏簪切 [侵]

いけ、(池)。

【汶】ブン、モン。文運切 [問] 武粉切 [吻]

山東省にある水の名。○[書]「浮二于—、達二于濟一」。

【汶】フン、モン。無分切 [文]

黏りたる唾、つばき。

【汶】ビン、ミン。武巾切 [眞]

岷に通じ用ふ。○[輿地廣記]「—山在二茂-州—山-縣西-北一」。

【汶】ボン、モン。謨奔切 [元]

玷辱、はぢ、はづかしめ。○[屈平]「安能以二身之察-察一受二物之——一者乎」。

【汥】イウ、ユ。以周切 [尤]

ゆくみづ、行水。

【汸】ハウ。分旁切 [陽]

㊀二つ船をつなぎ竝ぶ、あはす、又、あはせたる船。
㊁滂に同じ。○[荀]「——如二河-海一」。

【汹】洶に同じ。

【汣】ショク、シキ。阻力切 [職]

水の勢にいふ字、一說に、水の流るゝ貌にいふ字。○[貢師泰]「縣-溜竟漏-—」。

【決】ケツ、ケチ。古穴切 [屑]

㊀水を導き流す、隄防をきりて水を流す。○[管]「—レ之則行」。
㊁水流れ出づ、隄防きれて水流る。○[史]「河—不レ可二復壅一」。
㊂齒にて斷つ、さく。○[周]「銳-喙—吻」。
㊃きむ。
(い)判斷す、わかつ ○[禮]「定二親-疏一—二嫌-疑一」。
(ろ)確定す、さだむ。○[戰]「豈掩二于衆-人之言一而以二冥-冥一—レ事哉」。
㊄わかる、さだまる、きまる。○[禮]「非レ禮不レ—」。
㊅きむると、きむる所、きまると、きまる所、きめ、きまり。○[司馬遷]「恥-辱勇之—也」。
㊆開析す、ひらく、さく。○[揚雄]「天-闔—兮地-垠開」。
㊇訣別す、わかる。○[漢]「李-陵與二蘇-武一—去」。
㊈弓射るに右の擘指に著くるもの、ゆがけ、古昔は、象牙にて作りしといふ。○[詩]「—-拾已佽」。
㊉おちやうの堅固なると、勇敢、果斷。○[唐]「勇-—權-略一-世之雄也」。
⑪斷定の意を表すに用ふる字、かならず、けッして。○[戰]「—不二相關一矣」。

〔斷決〕きむ。○[後漢]「時以二私-心一——」。
〔判決〕前に同じ。○[宋]「醒-時——」。
〔引決〕覺悟を定む、ちちやうをつく。○[漢]「臧-獲婢-妾猶能——」。「—一」。
〔報決〕志らせやりて判定すると。○[韓]「使二臣——」。
〔剖決〕是非曲直をわかつ。○[隋]「——如レ流」。
〔面決〕眼の前にてきむ。○[會稽記]「皆——當時之事一」。
〔奏決〕天子に申し上げて判定す。○[長編]「天-下獄悉欲二——一」。「——一」。
〔堅決〕ちちやうを定めて動かさぬ。○[史]「未レ能レ得二——一」。
〔剬決〕きむ。○[史]「使レ不レ能二——一」。
〔關決〕參與し裁斷す。○[史]「事不レ—二—於丞-相一」。「皆共所二——一」。
〔臨決〕實地にあたりて裁斷す。○[元]「軍-國之事、」
〔潰決〕あふれ出でてきれやぶる。○[漢]「多——」。
〔議決〕相談せる事柄をきまる、又、相談してきむ。○[漢]「即日——」。
〔白決〕上に言上して裁斷す。○[漢]「事無二小-大一、因レ顯——」。
〔壞決〕さく。○[馬融]「—二—垣-牆一」。
〔氣決〕氣性すぐれて裁斷力に富む。○[後漢]「早孤有二——一」。
〔留決〕斷定せずして遷延すると。○[後漢]「勇-者不レ—レ—」。
〔疎決〕通じさく。○[後漢]「—二—要-衝一」。

〔句決〕婦人の頭髮に著くる具。○〔後漢〕「乃養レ髮分爲レ著二――一」。
〔速決〕疾くきむ、疾くきまる。○〔晉〕「事不二――一」。
〔勝決〕勇ありて果斷に富む。○〔晉〕「明有二――一」。
〔輕決〕前後をよく考へずに定む。○〔晉〕「但恐二此計――一」。
〔量決〕是非曲直を積もりきむ。○〔魏〕「以二經義――一」。
〔籌決〕前に同じ。○〔魏〕「每事――」。
〔參決〕其の事柄に關係してきむ。○〔魏〕「帝――二可否一」。
〔諮決〕調べきむ。○〔魏〕「――二百揆一」。
〔鞫決〕訊問して裁斷す。○〔魏〕「隨二速――一」。
〔省決〕心を用ひて裁斷す。○〔魏〕「――二萬機一」。
〔制決〕取りきむ。○〔魏〕「敕レ丞――」。
〔典決〕制定す。○〔魏〕「――二京師獄訟一」。
〔諮決〕謀り定む。○〔魏〕「――二大政一」。
〔猛決〕たけく裁斷力のあること。○〔唐〕「――少レ恩」。
〔剛決〕前に同じ。○〔唐〕「――犯レ上」。
〔評決〕論じ定む。○〔魏〕「――二獄訟一」。
〔専決〕他に心をおかず一すぢにきむ。○〔魏〕「――二朝事一」。「者――」。
〔莅決〕其の席に出でてきむ。○〔唐〕「五品以上論」
〔按決〕吟味してきむ。○〔唐〕「佑有レ所二――一」。
〔臆決〕推量して定む。○〔書〕「憑レ私――」。
〔處決〕取りさばく。○〔唐〕「聽二老奴――一」。
〔湍決〕水疾くして隄を壞る。○〔金〕「故致二――一」。
〔理決〕吟味して裁定すること。○〔元〕「――不レ平」。
〔贊決〕助けて取りきむ。○〔元〕「――二機務一」。
〔聽決〕曲直をきゝわけて裁定す。○〔元〕「――如レ期」。「――一」。
〔披決〕ひらく、さく。○〔急就篇〕「刃端可二以――一」。
〔斬決〕絕ちやぶる。○〔揚雄〕「――二天紀一」。
〔漏決〕水泄れ出でて潰えやぶる。○〔班固〕「障壅――」。
〔條決〕すぢめを立てゝわけ定む。○〔馬融〕「――二穰紛一、中韓之察也」。
〔摧決〕折き絕つ。○〔陳琳〕「當レ鋒――」。
〔果決〕裁斷力のあること。○〔潘岳〕「逮二子嬰之――一、敢討レ賊以紓レ禍」。
〔敢決〕前に同じ。○〔杜甫〕「壯夫思二――一」。
〔裏決〕謀り定む、又、はかりごときまる。○〔宋之問〕「――間二蘇君一」。
〔潰決〕壞れきる。○〔蘇軾〕「江河――」。

汻 コ、ク。呼古切 [麌]
滸に同じ、みぎは、ほとり、水厓。

汻 カウ。許朗切 [養]
姓。

汔 キツ、キチ。許訖切 [物] カイ。居代切 [隊]
汔に同じ、ほとんど、ちかし。

汔 イツ、イチ。億姞切 [質]
水涸る、かる。

汽 キ、ケ。丘既切 [未]
水气、みづけ。

汾 フン、ブン。符分切 [文]
㊀山西省にある黃河に注ぐ水。○〔周〕「冀州其浸――潞」。
㊁紛に同じ。○〔揚雄〕「――沄沸渭」。
〔溫汾〕水流の轉じめぐる貌にいふ語。○〔枚乘〕「所二揚汩一者、所二――一者」。

沿 俗の沿の字。

浮 ショ、ゾ。象呂切 [語]
みぞ、(溝)。

沁 シン。七鴆切 [沁]
黃河の一支流。○〔水經〕「――水出二上黨沮縣謁戾山一」。

沁 シン、ソン。所錦切 [寢]
㊀物をもて水中を探る、さぐる。○〔韓愈〕「盜索不レ敢――」。「羅网――」
㊁染漬す、ふむ、そむ。○〔趙聞禮〕「穠」

沂 ギ、ゲ。魚衣 [微]
山東省にある水の名。○〔周〕「青州其浸――沭」。

沂 ギン。魚巾切 [眞]
㊀器の釿、ふち。㊁ふえ、(大篪)。

沃 ヨク。烏酷切 [沃]
㊀そゝぐ、(漑)。○〔書〕「啓二乃心一――二朕心一」。
㊁さかんなり、(盛)。○〔詩〕「其葉――若」。
㊂壯にして姣し、かほよし、うつくし。○〔詩〕「天之――」。
㊃やはらか、やはし、(柔)。○〔詩〕「其葉有レ――」。
㊄土味の肥えたると、又、其の土地。○〔左〕「井二衍――一」。
㊅沐雨、ながあめ。○〔鄭瑗〕「閩南人謂二雨沐一曰レ――」。
〔膏沃〕あぶらけありて肥えたること。○〔周光鎬〕「司土重二――之業一」。
〔良沃〕土地の善美にして肥えたると、又、其の土地。○〔水經、註〕「咸爲二――一」。
〔饒沃〕豐かにして肥えたること。○〔晉〕「襄陽准南――地」。
〔稱沃〕肥美なりと呼びたゝへらる。○〔唐〕「關中號二――野一」。
〔肥沃〕土地こえて作物よく發生す。○〔論衡〕「――境埆、土地之本性也」。
〔汎沃〕水をそゝぐ。○〔水經、註〕「以レ水――」。
〔灌沃〕前に同じ。○〔曹植〕「時雨――」。
〔漑沃〕前に同じ。○〔李綱〕「妙論資二――一」。

沄 ウン、オン。王分切 [文] コン。戶昆切 [元] 戶袞切 [阮]
㊀轉流す、めぐる、ながる。○〔杜甫〕「――逆二素浪一」。
㊁ひろし、(沆)。○〔宋〕「――天墟、洞蕩洪濛」。

㊂沸き上がる貌にいふ字。○〔揚雄〕「冀棗沸、㳌――如レ湯」。
㊃衆くして盛んなる貌にいふ字。○〔揚雄〕「汾――沸渭」。
〔瀄沄〕水の流るゝ貌にいふ語。○〔蔡邕〕「夕飲二瀄沄之――一」。

沅 ゲン、グワン。愚袁切 [元] 五遠切 [阮]
湖南省にある水の名。○〔楚辭〕「――有レ芷」。

沆 カウ。胡朗切 [養]
㊀渟まりて流れざる水。○〔博物志〕「停水、東方曰レ都、一名――」。
㊁水澤の廣大なる貌にいふ字、ひろし、おほいなり。○〔爾雅註〕「水流漭――」。

沆 カウ。胡郎切 [陽]
㊀水の流るゝ貌にいふ字。
㊁わたる、(渡)。

沆 カウ。口浪切 [漾]
白氣。○〔漢〕「西顥――碭」。
〔朝沆〕あさの間にたなびく白き氣。○〔徐陵〕「非レ服流霞、卽餐二――一」。

沇 エン。以轉切 [銑] イン。庾準切 [軫]
㊀河東にある水の名。○〔書〕「導二――水一東流爲レ濟」。
㊁流れ行く貌にいふ字。○〔漢〕「――四塞」。「州」。
㊂兗に通じ用ふ。○〔漢〕「角、亢、氐――州」。

沇 非。兪水切 [紙]
――溶は、水の淵谷の中に流るゝこと。○〔司馬相如〕「――溶淫鬻」。

【沈】 チン、ヂン。直深切 [侵]

㊀陵上の滈水、あまみづ、又、濁り水の黗をいふ。○〔莊〕「一有レ履」。
㊁ひろくして際涯なき平地、又、澤に水なくして土に鹽分多き地。○〔漢〕「山-川一-斥」。
㊂湖水、みづうみ。○〔郭緣生〕「有レ鳥當レ一」。
㊃しづむ。
(い)水中に入る。○〔詩〕「載一載浮」。
(ろ)くだる、くだす、(下)。○〔素問〕「太-陰之至其脉一」。
(は)滯る、伏す。○〔國〕「以揚ニ一-伏ニ」。
㊄隱匿す、かくる、かくす。○〔史〕「作ニ一-命法ニ」。「者」。
㊅陷溺す、おぼる。○〔揚雄〕「一而樂隱-々」。
㊆ふかし、(深)。○〔司馬相如〕「一一一天ニ」。
㊇九天の一。○〔揚雄〕「九-天八爲ニ一一一」。

〔實沈〕 星の次。○〔左〕「參爲ニ晉-星ニ一-一參-神也」。
〔綠沈〕 畫の具の名、色のいと濃くてふかきもの。○〔野客叢書〕「物-色之深者爲ニ一-一ニ」。
〔浮沈〕 (い)川を祭ること。○〔爾〕「祭レ川曰ニ一-一ニ」。(ろ)顯れ又かくる、うかび又しづむ。○〔蘇軾〕「黿-魚一-一」。(は)世の遷りかはるさまにつれて行くにいふ語。○〔史〕「與レ世一-一而取ニ榮-名ニ哉」。
〔陸沈〕 世をのがるゝ能はずして心ならずも世にあるにいふ語。○〔莊〕「俱是一-一者也」。
〔深沈〕 奧底にまで沒す、又、ふかし。○〔李白〕「一-一百-丈洞ニ海-底ニ」。
〔銷沈〕 消え失す。○〔陸游〕「人-事一-一渺-莽中」。
〔勇沈〕 いさましくしておちつきあること。○〔黃庭堅〕「一-一鼎可レ扛」。
〔投沈〕 しづむ。○〔漢〕「躬率ニ吏-民ニ、一ニ一白-馬ニ」。
〔抑沈〕 伸び張る能はざること。○〔曹植〕「我情遂一-一」。
〔稽沈〕 停滯したること。○〔鮑照〕「我君遏-戍獨一-一」。
〔湮沈〕 うづもれかくる。○〔劉得仁〕「自レ古易ニ一-一」。
〔韜沈〕 しづむ。○〔包融〕「咫-尺能一-一」。
〔寖沈〕 しみ入る。○〔楊維楨〕「水-光山-色、一ニ一胸-次ニ」。

【沁】 シン。式荏切 [沁]

古の國名、又、姓、又、縣。

【沈】 シン。昌枕切 [寑]

瀋に同じ、しる、(汁)。○〔禮〕「爲ニ榆一-一故設レ撥」。

【沈】 タン、ドン。徒南切 [覃]

ふかし、(深)。○〔史〕「夥-頤涉之爲レ王一-一者」。
〔幽沈〕 ふかし。○〔柳宗元〕「一-一謝ニ世-事ニ」。

【沉】 沈に同じ。〔鮑照〕「銅-谿晝森-一」。

【沊】 タン、トン。丁紺切 [勘]

水の聲にいふ字。

【沋】 イウ、ウ。于求切 [尤]

魚鼈の顚倒する貌にいふ字。○〔枚乘〕「魚-鼈失レ勢、顚-倒偃-側一-一、湲-々蒲-伏連-延」。

【沌】 トン、ドン。杜本切 [阮]

㊀元氣未だ判かれず、くらし。○〔揚雄〕「混-一無レ端」。
㊁開通せず、ふさがる。○〔莊〕「中-央之旁爲ニ渾-一ニ」。
〔沴沌〕 濁り亂れてふさがる。○〔洞簫賦〕「泥-一-一兮」。

【沌】 トン、ドン。徒渾切 [元]

㊀水波の勢にいふ字 ○〔枚乘〕「一-一混-々狀如ニ奔-馬ニ」。
㊁めぐる、(轉)。○〔孫〕「渾-々一-一形圓而不レ可レ敗」。

【沌】 シュン、ジュン。殊倫切 [眞]

純に同じ。

【沌】 トン。都困切 [願]

忳に同じ、おろか、(愚)。

【沌】 テン。柱兗切 [銑]

湖北省にある水の名。○〔水經、註〕「有ニ一-陽-縣-處ニ一-水陽-故名」。

【沍】 コ、グ。胡故切 [遇]

閉塞す、とづ、ふさぐ、ふさがる。○〔左〕「固-陰一-塞」。

【沍】 カク。曷各切 [藥]

涸に同じ、かる、つく、からす、つくす。

【沍】 カク、キヤク。轄格切 [陌]

堅凍、こほり、又、こほりを結ぶ、こほる。○〔列〕「霜-雪交下、川-池暴一」。

【沍】 コ、ク。洪孤切 [虞]

漫一は、水の貌にいふ語。

【泫】 コ、グ。胡故切 [遇]

水漫す、はびこる。

【沏】 セツ、セチ。千結切 [屑] シツ、シチ。測乙切 [質]

㊀水の聲にいふ字、一說に、水の流れの疾き貌にいふ字。○〔木華〕「鬱一-一迭而隆-頹」。
㊁する、(摩)。○〔木華〕「相一-一」。○〔木華〕「飛-滂相礚、激-勢

【泐】 リヨク、リキ。林直切 [職]

水の凝り合ふ貌にいふ字、こゝろ。

【沐】 ボク、モク。莫卜切 [屋]

㊀髮を濯ふ、首のよごれを洗ふ、かみあらふ、かしらあらふ。○〔周〕「宮-人共ニ王之一-浴ニ」。
㊁休暇、やすみ、ひま。○〔沈約〕「晩一-臥ニ郊-園ニ」。
㊂潤澤す、うろほふ。○〔後漢〕「冬無ニ宿-雪ニ、春不ニ燠-一ニ」。「櫟」。
㊃をさむ、(治)。○〔禮〕「夫-子助レ之一-一」。
〔溟沐〕 細密なる雨、こさめ。○〔揚雄〕「密-雨一-一」。
〔歸沐〕 我がやどにかへりて髮の毛を濯ふ、即ち、公暇を得て休息するにいふ語。○〔劉禹錫〕「五-日思ニ一-一ニ」。
〔休沐〕 前に同じ。○〔漢〕「光時一-一出」。
〔潘沐〕 米の汁をもて髮の毛を洗ふ。○〔左〕「遺ニ一-一備ニ酒-肉ニ焉」。
〔洗沐〕 前に同じ。○〔史〕「五-日一-一」。
〔新沐〕 あらたに髮あらふ。○韓詩外傳〕「一-一者必彈レ冠」。
〔薰沐〕 香をふすべ髮をあらふ。○〔鄭俠〕「譬如ニ方汚-垢ニ、對レ之獨一-一」。
〔辮沐〕 かみあらふ。○〔南〕「一-一失レ時」。
〔澡沐〕 前に同じ。○〔唐〕「三-年不ニ一-一ニ」。
〔握沐〕 あらひ髮を結ぶ間なくして手ににぎり持つ、周公旦が士を見るに急なりし故事より出でたる語。○〔世語〕「昔周-公猶一レ一吐レ食、以接ニ白-屋之下ニ」。
〔揮沐〕 前に同じ。○〔後漢〕「一レ一吐レ餐」。
〔梳沐〕 くしけづり髮あらふ。○〔南〕「自レ此不ニ復對ニ穆-之一-一ニ」。
〔櫛沐〕 前に同じ。○〔南〕「頭不ニ一-一ニ」。
〔雨沐〕 あめにうたれて頭髮ぬるゝこと、外にあって奔走勤勞することにいふ語。○〔劉宰〕「一-一風餐人自老」。

【沑】 ジウ、ニユ。忍九切 [有]

㊀水利し、はやし。㊁あたゝか、(溫)。
㊂うるほふ、(濕)。

【沑】 ヂク、ノク。女六切 [屋]

水文の甃みあつまる貌にいふ字。〇[木華]「葩-華蹴—」。

【次】 涎の本字。

【沒】 ボツ、モチ。莫勃切 月

㊀しづむ、(沈)。〇[莊]「若乃夫—人」。
㊁おぼる、(溺)。〇[魏]「遂至覆—」。
㊂かくる、かくす、(隱)。〇[北]「乍—乍出」。
㊃入る。〇[國]「昌—輕-傀」。
㊄つく、つくす、(盡)。〇[詩]「曷其—矣」。
㊅ほろぶ、ほろぼす、(滅)。〇[左]「何——也」。
㊆をふ、をはる、(竟)。〇[禮]「未レ—レ喪」。
㊇死ぬ。〇[國]「壽-寵得レ—」。
㊈すぐ、(過)。〇[禮]「君子不三以レ美—二レ禮」。
㊉むさぼる、(貪)。〇[國]「不レ—レ爲レ後」。
⑪水。〇[雞林類事]「高-麗方-言謂レ水爲レ—、井曰二烏—一」。

(出沒) 顯れ又隱る。〇[五]「至于氣祲之—-—、銷-散不レ常」。
(蕪沒) 荒れはてゝうづもる。〇[沈約]「園-庭漸—-「—」。
(滅沒) 消え失す、ほろぶ。〇[馬融]「奄-忽—-—」。
(冒沒) 犯し貪る。〇[柳宗元]「相排-墜—-—」。
(漂沒) たゞよひしづむ。〇[史]「水來—-—」。
(抑沒) 勢を失ひ隱る。〇[後漢]「隈-隱—-—」。
(沈沒) しづむ、かくる、おぼる。〇[魏]「鄴無三深-淺一、皆—-—取レ之」。
(湮沒) しづむ、ほろぶ。〇[後漢]「舊-章—-—」。
(敗沒) 失敗を取る。〇[魏]「以レ傾レ邪—-—」。
(籍沒) 官に其の財産をことごとく取り上ぐること。〇[魏]「太-祖破レ鄴、—二—審-配等家財-貨-物一以レ萬數」。
(泯沒) しづむ、ほろぶ。〇[五]「—-—而無三聞者一」。
(蕩沒) やぶれ沈む。〇[晉]「稻-稼—-—」。
(浮沒) 顯れ又隱る。〇[孟郊]「魚-口星—-—」。
(埋沒) うづもる。〇[李白]「—-—萬-里塋」。
(乾沒) 他人より利潤を貪り取ること、又、利を得ると利を失ふとのこと、又、うはべに表へども内にては合はざること。〇[漢]「始爲二小-吏—-—一」。
(陷沒) 攻め落とさる、おちゐる。〇[晉]「洛-陽—-—」。
(隱沒) あらはれず。〇[唐]「戸-口流-散、籍-帳—-—多」。
(貪沒) 妄に物をほしがる。〇[北]「廉-愼少而——-—」。
(盜沒) ぬすみ貪る。〇[北]「—二—寶-貨一」。
(淪沒) 沈滯してあらはれず。〇[江淹]「惜三袁宗之—-—一」。
(汨沒) 前に同じ。〇[元]「乃—-—爲二刀-筆吏一」。
(善沒) 上手に水底にくゞり入ること。〇[列]「吳之—-—者能取レ之」。
(游沒) 泳ぐともぐること。〇[淮]「—-—者不レ求二沐-浴一」。
(顯沒) あらはれ又隱る。〇[列仙傳]「—-—不レ窮」。
(溺沒) おぼる。〇[搜神記]「—-—不レ返」。
(掩沒) おほはれ隱る、おほひかくす。〇[廣川書跋]「覆-壓—-—」。
(神出鬼沒) たちまちあらはれたちまちかくるゝこと、出沒のすばやきこと。

【沒】 バイ、メ。莫佩切 隊

前條の㊀に同じ。

【沒】 バ、マ。母果切 哿

拾—は、知らずして問ふ、とふ。

【汖】 古文の流の字。〇[荀]「其—長矣」。

【沓】 タフ、ドフ。達合切 合

㊀水のよどまず流るゝ貌にいふ字。〇[說文]「語多——-—若二水之流一」。
㊁水沸き溢る、あふる。〇[康熙]「今河-朔方-言謂二沸-溢一爲レ—」。
㊂かさなる、(重)。〇[詩]「噂—背憎」。
㊃あふ、(合)。〇[揚雄]「天與レ地—」。
㊄をかす、(冒)、又、むさぼる、(貪)。〇[唐]「—二—酉-領-墨」。
㊅弛緩す、ゆるむ。〇[孟]「泄-々猶二—-—」。
㊆行く〳〵鼓を擊つ、つゞみうつ。〇[周、註]「倡-蹋鼓—」。

(合沓) あひ重なる。〇[謝朓]「—-—與レ雲齊」。
(雜沓) 混雜す。〇[蜀都賦]「輿-輦—-—」。
(紛沓) 前に同じ。〇[唐]「書-檄奏-請日—-—」。
(颯沓) 前に同じ。〇[梁簡文帝]「雲-霞紛—-—」。
(駁沓) 行きわたる。〇[李白]「仁-聲—二—乎洪-彊」。
(頹沓) 崩れ重なる。〇[李白]「龍-蔥—-—」。
(重沓) かさなる、合ふ。〇[沈約]「惟見二山—-—一」。
(猥沓) 夥多なること。〇[舊唐]「錫-賚—-—」。
(暴沓) 荒々しくして貪ること。〇[唐]「豕以二—-—「—不-法」。
(貪沓) 慾深くして妄に物をほしがること。〇[唐]「—-—嗜レ色」。
(婪沓) 前に同じ。〇[唐]「—-—冒-免」。
(饕沓) 前に同じ。〇[唐]「敬-宗—-—」。
(叨沓) 前に同じ。〇[唐]「以二—-—一開二邊-隙一」。
(怠沓) なまけゆるむ。〇[唐]「驕-惰—-—」。
(驕沓) 傲慢にして貪慾なること。〇[唐]「超文-瀾——」。
(積沓) つみ重なる。〇[江淹]「峭-峰分—-—」。

【沔】 ベン、メン。彌兗切 銑

㊀漢水の上流。〇[書]「浮二于潛一逾二于—一」。
㊁水滿ち流る、ながる。〇[詩]「—彼流-水、朝二-宗于海一」。
㊂湎に通じ用ふ。〇[史]「流-—沈-佚」。

【沔】 ビ、ミ。毋婢切 紙

瀰に同じ。

【沕】 ブツ、モチ。文拂切 物

深くして微かなる貌にいふ字、かすか。〇[賈誼]「—-穆無レ窮」。

(軋沕) 荒忽として分明ならざる貌にいふ語。〇[漢]「西望二崑-崙之—-—一」。
(沉沕) 深くかくるゝこと。〇[繆熙恭]「三-秋翳—-—」。

【沕】 ビツ、ミチ。美筆切 質。バイ、メ。莫佩切 隊

潛藏す、ひそむ、かくる、一說に、けがる、にごる。〇[賈誼]「—深-潛以自珍」。

【沗】 添の字、忝の字と別なり。

【沖】 チウ、ヂユ。直弓切 東

㊀涌き搖く、わく、うごく。
㊁むなし、(虛)。〇[老]「大盈若レ—」。
㊂やはらぐ、(和)。〇[晉]「神-氣—-夷」。
㊃ふかし、(深)。〇[潘尼]「泳レ之彌廣、挹レ之彌—」。
㊄飛びて高きに至る、とぶ、ひゝる。〇[史]「一-飛—レ天」。
㊅幼少、をさなし、いとけなし。〇[書]「肆予——人」。
㊆垂れ飾れる貌にいふ字。〇[詩]「革—-—」。
㊇聲にいふ字。〇[詩]「鑿レ冰—-—」。

(幼沖) いとけなし。〇[書]「惟我——人」。
(謙沖) 人にへりくだり和ぐ。〇[晉]「循順二守—-—、未レ居二崇-極一」。
(盈沖) 充實すると空虛なると。〇[阮籍]「天-時有二否-泰一、人-事多二—-—一」。
(太沖) 空しきこと。〇[莊]「示以二—-—一」。
(淵沖) 和ぎて深遠なること。〇[嵇懿]「無レ累在二—-—一」。
(虛沖) 虛しくしてわだかまりなきこと。〇[張華]「安能守二—-—一」。
(寬沖) 心くつろぎて和ぐること。〇[晉]「—-—以誘二俊-乂之謀一」。
(夷沖) 平かにして和ぐ。〇[晉]「神-氣—-—」。
(深沖) 奧深し。〇[晉]「挹レ之—-—」。
(淸沖) きよらかにしてわだかまりなし。〇[陸機]「—-—履レ道」。
(飛沖) 上位に昇りゆくこと。〇[黃滔]「賴レ君身事漸—-—」。
(和沖) 和ぎ諧ひて爭ふ心なし。〇[劉基]「默-々至—-—」。

【沖】 トウ、ヅ。杜孔切 董

わく、(涌)。

【沘】 ヒ、ビ。補履切 紙。房脂切 支

水の名。

沙 サ、セ。所加切 麻

㊀すな、まさご、いさご。(い)石の極めて細小なるもの。○[史]「乃作二懷—之賦一」。(ろ)疏き土。○[易]「需二于—一」。○[舊唐]「風—晦暝」。㊁すな起こる、すなたつ。㊂水旁の地、はま、みぎは。○[詩]「鳧鷖在レ—」。㊃すな地の廣原、すなはら。○[漢]「少二草木一多二大——一」。㊄支那の北方にある大なるすなはら。○[後漢]「坦二步葱雪一、咫二尺龍—一」。㊅なゝめに迤りつゞきたる丘の名。○[爾]「邐迤曰二——丘一」。㊆よなぐ(汰)。○[晉]「—レ之汰レ之瓦礫在レ後」。㊇する(摩)。○[禮、註]「必摩——者也」。㊈極めて細微なる量の稱。○[謝察微算經]「十塵爲レ—、十—爲レ纖」。㊉豆の稱にいふ字。○[崔豹]「貍豆、一名貍—、一名獵—、虎豆、一名虎—馬豆、一名馬—」。⑪物の小さくして味うまきものの泛稱。○[康熙]「邦人稱二物之小而甘美者一必曰レ—、如二—瓜—密—糖之類一」。⑫杉の屬。○[范成大]「—木與レ杉同レ類尤高大、葉尖成レ叢、穗少與レ杉異」。⑬紗に通じ用ふ。○[周]「素—」。

〔長沙〕(い)地の名。○[廣輿記]「今湖廣——府有二——縣一」。(ろ)星の名。○[史]「——在二軫旁一主二壽命一」。
〔吹沙〕すなふき、鯊の別名。○[爾]「鯊」[註]「今——也」。
〔揚沙〕すなを吹きあぐ。○[春秋緯]「月離二于箕一、則風—レ—」。
〔囊沙〕すなを袋に盛る。○[孫觀]「—レ—壅二市門一」。
〔平沙〕たひらかなるすなはら。○[何遜]「遠岸——合二連山一」。
〔泥沙〕ひぢ。○[劉溉]「沈溺陷二於——一」。
〔汰沙〕よなぐること。○[庾信]「停レ簁不二——一」。
〔盛沙〕すなをもりあぐ。○[吳]「欲三以—レ—塞二江」。
〔堆沙〕すなをうづたかくもる。○[孔平仲]「土井——」。「雨—レ—」。
〔濕沙〕しめりを帶びたるすな。○[五]「掘レ地得二——一」。
〔銀沙〕白きすな。○[宋]「藥陽産二——一」。
〔淘沙〕すなをよなぐ、又、よなぐ。○[黃滔]「——鐵氣腥」。
〔焦沙〕すなをやく、即ち、極めて熱きことにいふ語。○[淮]「或熱—レ—」。
〔土沙〕すな。○[揚雄]「匪二惟幼稚嬉二戲——一」。
〔流沙〕西方極遠の地、又、大なるすなはら。○[書]「西被二于——一」。
〔磧沙〕沙利のこと。○[謝靈運]「逆二急流一兮苦二——一」「出」。
〔湲沙〕水のほとりのすな。○[何遜]「潮去——」。
〔汀沙〕みぎはのすな。○[劉孺]「日照二——素一」。
〔捲沙〕すなをまきあぐ。○[李白]「颯々風—レ—」。
〔素沙〕白き色のすな。○[杜甫]「白石——亦相蕩」。
〔瑤沙〕たまの如きうるはしきすな。○[賈島]「飲餘猜露濕二——一」。

沙 サ、セ。桑何切 歌

㊀地の名。○[春秋]「齊侯衞侯盟二于—一」「也」。㊁犧に通じ用ふ。○[詩、傳]「有二—飾一」。㊂一種の濁酒。○[儀、註]「——酒濁」。

沙 シ。山宜切 支

水の傍、ほとり。

沙 サ、セ。所稼切 禡

聲嘶る、しはがる、しやがる。○[周]「鳥皫色而—鳴貍」。

沚 シ。諸市切 紙 職吏切 寘

㊀とゞまる(止)。○[釋名]「—止也、小可三以止二息其上一」。㊁汀渚、す、なぎさ。○[詩]「于レ沼于レ—」。

〔中沚〕水中にある小さき洲。○[詩]「菁々者莪、在二彼——一」。
〔碧沚〕草のあをく茂りたるなぎさ又はす。○[隋]「踐二莽沙一步二——一」。
〔川沚〕なぎさ。○[陸機]「既放二遊於——一」。
〔清沚〕水の澄めるみぎは。○[謝靈運]「鵲首戲二——一」。
〔洲沚〕す。○[鮑照]「孤雁集二——一」。
〔幽沚〕しづかなるなぎさ。○[司馬札]「——生二蘭荃一」。
〔瀨沚〕たに川のなぎさ。○[姚察]「——濯二潺湲一」。

沜 ハン。普半切 翰

㊀水流ろ、ながる。㊁水厓、きし。㊂泮に同じ、つゝみ。○[唐]「輞川有二芙蓉—一」。

沝 スヰ。之壘切 紙

ふたつの水、又單に水。

沛 ハイ。普蓋切 泰 、

㊀水中に草の生ひしげりたる所、草棘のおひ茂りたる所、さは、くさはら。○[公羊]「陷二于—澤之中一」。㊁行く貌にいふ字。○[楚辭]「—吾乘二桂舟一」。㊂流るゝ貌にいふ字。○[郭璞]「灌二二江一而湖—」。㊃餘裕ある貌にいふ字。○[公羊]「—若レ有レ餘」。㊄多き貌にいふ字。○[王褒]「—焉競溢」。㊅大いなる貌にいふ字。○[漢]「—然自大」。㊆雨のふる貌にいふ字。○[張衡]「凍雨—其灑レ塗」。㊇旆に同じ、はた。○[易]「豐二其—一」。㊈水を蓄へて田地に灌ぐこと。○[三餘贅筆]「浙中少レ水人家多二于山上一置レ閘蓄レ水遇二旱歲一開以灌レ田名レ之曰レ—」。㊉一種の竹。○[神異經]「南方荒中有二—竹一」。⑪すみやか、はやし(疾)。○[漢]「靈之來神哉—」。⑫遽かに根本を離る、たふる、ぬく。○[詩]「顚——之揭」。

〔霈沛〕奔りあがれる貌にいふ語。○[司馬相如]「奔揚——」。
〔汎沛〕盛んなる貌にいふ語。○[揚雄]「滂——以豐隆」。
〔大沛〕廣き草原。○[崔駰]「猶下逆二禽之赴二深林一、藪蛸之趣中——上」。

沞 サフ、ソフ。子荅切 合

纔かに濕ふ、うろほふ、一說に、沸く貌にいふ字。

泃 コウ、ク。古侯切 尤

水の聲にいふ字。

沊 タン、トン。他甘切 覃

水岸を壞ろ、やぶろ、くづす。

五畫

沫 バツ、マチ。莫葛切 曷

㊀あわ、あぶく。(い)水上に浮び生ずる圓くふくれたるもの。○[莊]「相煦以レ濕相濡以レ—」。(ろ)口邊に噴き出だす涎汁、よだれ、つばき。○[莊]「乾餘骨之—爲二斯彌一」。(は)水又は液などのくだけ散るもの、さばしり、みづだま。○[木華]「更相觸搏、飛レ—起レ濤」。

(に)湯華、ゆばな。○[陸羽]「凡酌置二諸盌一、令二━餑均一一、━餑湯之華也。華之薄者曰レ━」。
㊁あわ起こる、あわだつ。○[夏侯諶]「冰-井騰━」。
㊂流汗、あせ。○[漢]「霑二赤-汗一━流レ赭」。
㊃やむ、(已)。○[屈平]「身服レ義而未レ━」。
(流沫)水のあわたちてながるゝと。○[淮]「人莫レ鑑二於━━一」。
(跳沫)あわをたつ。○[劉般]「白-波━━」。
(噴沫)前に同じ。○[西京雜記]「━━躍レ波」。
(素沫)白きあわ。○[梁武帝]「金-波揚━━」。
(血沫)ちのあわ。○[山海經]「口-中常灑二━━一」。
(蜜沫)はちみつのちる。○[拾遺記]「蒸以二━━一」。
(沸沫)わきたつあわ。○[拾遺記]「則━━流二於數-十-里一」。
(聚沫)あつまりたるうすきゆのはな。○[茶經]「則重-華━━」。
(浮沫)うきたるあわ。○[埤雅]「其上必有二━━一」。
(沉沫)前に同じ。○[虞世南]「━━縈二沙-嶼一」。
(遊沫)前に同じ。○[謝燮]「━━聚二飛-梁一」。
(濺沫)とびちる水たま。○[名山記]「激爲二飛-雨━━一」。
(紅沫)丹砂をねりて黄金となし筆につけて石にかきつけたるもの。○[珊瑚鉤詩話]「丹-砂煉爲二黄-金一、碎以染レ筆、入レ石不レ去、名曰二━━一」。
(漂沫)あわをながす。○[庾闡]「━二━於扶-桑之外一」。
(走沫)あわをながす。○[陶景弘]「躍-湍━━」。
(泡沫)あわ。○[徐陵]「同二諸━━一」。
(旋沫)ぐるぐるとまはるあわ。○[李涉]「━━翻成二碧-玉池一」。
(迸沫)ほとばしる水たま。○[冷朝陽]「━━祇如レ烟」。「旋-頁」。
(湧沫)わきたちたるあわ。○[陸龜蒙]「━━飛白」。
(溢沫)いかたにふれおこるあわ。○[梅堯臣]「━━夜浮レ光」。
(喘沫)あへぎてはくあわ。○[晉輦]「病-驂━━」。
(幻沫)まぼろしとあわとのと。○[葛長庚雪容聯句]「死-生猶二━━一」。「━━」。
(電沫)いなびかりとあわと。○[葛長庚]「世-事如二

(瓊沫)たまの如きうつくしき水たま。○[僧守仁]「━━香浮沼-面花」。
(珠沫)前に同じ。○[喬宇]「━━大湧」。
(怒沫)はげしくちる水たま。○[文徵明]「━━灑レ空經レ雨急」。

【沬】バイ、メ。莫佩切 隊
㊀邑の名。○[詩]「━之鄉矣」。
㊁微しく昧し、ほのぐらし、一說に、斗の輔星。○[易]「日-中見レ━」。

【沬】クワイ、エ。呼對切 隊
面を灑ふ、かほあらふ。

【沭】ジュツ、ジュチ。食聿切　イツ、イチ。允律切 質
泗水の一支流。○[周]「其浸沂━」。

【沮】ショ、ソ。子余切 魚
水の名、所の名、又、人の姓。

【沮】ショ、ソ。慈呂切 語
㊀やむ、(止)。○[詩]「何日斯━」。
㊁やぶる、(敗)。○[國]「衆孰━レ之」。
㊂はゞむ。(い)拒ぎて爲さしめず、勢氣を摧く、さゞむ。○[禮]「━レ之以レ兵」。(ろ)勢氣摧く、爲すを得ず、とゞまる。○[謝惠連]「傳二長-沙一而志━」。
㊃泄漏す、もろ、もらす。○[禮]「地-氣━-泄」。
(愧沮)きはづかしく思ひてはゞむ。○[唐]「縮-々━━」。
(慚沮)前に同じ。○[宋]「宗-旦━━」。
(氣沮)きおくれす。○[梅堯臣]「━━心衰計欲レ睡」。
(破沮)やぶる。○[後漢]「布衆━━」。
(毀沮)前に同じ。○[淮]「醜レ不二━━一」。
(謗沮)そしると。○[唐]「宦-侍━━不レ已」。
(憤沮)いかりはばむ。○[五]「圖益━━」。

(排沮)さまたげやぶると。○[薛蕙]「嘗-格名二━━一」。「芬」。
(離沮)みだれやぶる。○[楚辭]「思二國-家之━━一」。
(紛沮)前に同じ。○[陸機]「挾二流-俗之━━一」。
(怨沮)うらみて氣くじく。○[嵇康]「或━━而躊躇」。
(阻沮)おちおそる。○[元稹]「咸懷━━」。

【沮】ショ、ソ。將預切 御
㊀地低くして濕氣多き地、水びたしの處。○[禮]「山-川-━-澤」。
㊁水浸す、ひたす。○[唐]「河益湍━」。

【沮】セン。將先切 先
小さき流れ、みぞ、たにがは。

【沰】タク、チャク。他各切 藥
㊀おとす、(落)。㊁いしなぐ、(礧)。㊂あかし、(赭)。㊃したゝる、(滴)。

【沱】タ、ダ。徒何切 歌
㊀楊子江の一支流。○[書]「岷-山導レ江、東別爲レ━」。
㊁涕の垂るゝ貌にいふ字。○[易]「出レ涕━-若」。
㊂大雨の貌にいふ字。○[詩]「俾二滂-━一矣」。

【沱】タ。待可切 哿
灘、又、沲に同じ。

【沱】チ、ヂ。陳知切 支
池に同じ。

【沲】タ。待可切 哿
波に隨ふ貌にいふ字、又水の往來する貌にいふ字。○[郭璞]「隨レ風猗-萎、與レ波潭━」。

【河】カ、ガ。平哥切 歌
㊀水源を青海の東北の山中に發し支那本土の北部の高地を流れて渤海灣に注ぐ水流、卽ち、黄河。○[爾]「江、━、淮、濟、爲二四-瀆一」。
㊁地の下きに隨ひて通り流るゝ水、かは。○[莊]「偃-鼠飮レ━不レ過二滿-腹一」。
㊂天漢、あまのがは。○[詩、箋]「━水-光之精-氣也」。
(極河)星の名。○[甘氏星經]「━━三-星在二太角帝-座北一」。
(銀河)(い)あまのがは。○[白帖]「天-河謂二之銀-漢一、亦、曰二━━一」。(ろ)酒を入るゝ器、一斗の量を受く。○[乾䭾子]「裴-鈞大-宴有二━━一受二一-斗一」。(は)目、道家の言。○[趙崇絢雜說]「道-家以レ目爲二━━一」。
(天河)前條の(い)に同じ。○[詩、箋]「雲-漢謂二━━一也」。
(星河)前に同じ。○[河圖括地象]「川-德布レ精、上爲二━━一」。
(三河)河南、河北、河東。○[後漢]「━━未レ澄」。
(兩河)河南河北。○[爾]「━━間曰二冀-州一」。
(馮河)かはをかちわたりすると、卽ち、專ら勇に任せて謀なきとにいふ語。○[詩]「不二敢━━一」。
(涉河)黄河をかちわたりすると。○[左]「無二能━━一」。
(江河)楊子江と黄河と、又、かは。○[史]「━━以流」。
(懸河)(い)河水をそゝぎかく。○[梁]「━レ━注レ火」。(ろ)底の勾配の太だ急なるかは。○[水經、註]「瀑-布垂レ巖━━注レ壑」。
(明河)あまのがは。○[歐陽修]「━━在レ天」。

【沴】レイ、ライ。郞計切 霽
㊀やぶる、そこなふ、(害)。○[漢]「惟金━レ木」。
㊁妖氣。○[漢]「六━之作」。
㊂水利ならず、よどむ、又、水を礙へてよごましむる所、卽ち、河岸の抵、みぎは。○[揚雄]「秦-神下讐、跖レ魂負レ━」。

〔災沴〕わざはひ。○〔唐〕「振二除——一」。
〔陰沴〕いん氣のわざはひ。○〔唐〕「刑-殺太-甚、則致二——一」。
〔礙沴〕わるき氣。○〔唐〕「策二問陰-陽——一」。
〔傷沴〕やぶる、そこなふ。○〔夢溪筆談〕「無レ使二——一」「也」。
〔妖沴〕わざはひの氣。○〔茅亭客話〕「——之兆」
〔逆沴〕前に同じ。○〔江淹〕「——電熾」。
〔虹沴〕前に同じ。○〔江淹〕「——阻二于上京一」。
〔氛沴〕前に同じ。○〔唐太宗〕「一掃二——一靜」。

【沴】テン、徒典切　〔銑〕　デツ、結　デン。切　子チ。切　〔屑〕
陵亂す、みだる。○〔莊〕「陰-陽之氣有レ——」。

【沍】ハ。　普火切　〔哿〕
水の貌にいふ字。

【汥】ハツ、ホチ。　府伐切　〔月〕
㊀さむし、（寒）。
㊁流れを通ず、さほす、さらふ。
㊂そゝぐ、（灌）。○〔木華〕「決二陂-潢一而相——」。

【沸】ヒ。　方味切　〔未〕
㊀わく。
（い）湧き出づ。○〔詩〕「百-川-——騰」。
（ろ）熱騰す、にえたつ。○〔詩〕「如レ——如レ羹」。
（は）盛んにおこりたつ。○〔南〕「市-里喧-——」。
㊁わくやうにさす、わかす。○〔述異記〕「以レ水——レ之便如二煎——一」。
㊂わき出づる貌にいふ字。○〔山海經〕「丹-水是有二玉-膏一、其源——湯-湯」。
〔鼎沸〕かなへの湯のわくとにて擾の意にかりいふ語。○〔漢〕「羣-下——」。
〔騷沸〕みだれさわぐ。○〔淮〕「百-姓——」。
〔𣸣沸〕前に同じ。○〔潘伯修〕「陰-雲——夜漫山」。「—」。
〔沫沸〕あわわきたつ。○〔禮、疏〕「田中水熱而——」。
〔炎沸〕さかんにおこりたつ。○〔魏、註〕「當二—衰——侵-侮之際一」。「—」。
〔譁沸〕かまびすしく騷ぎ立つ。○〔唐〕「士-藏——」。
〔騰沸〕わきたつと。○〔盛時泰〕「海-波逐——」。
〔涫沸〕前に同じ。○〔楚辭〕「氣——其若レ波」。

【沸】フツ、ホチ。　敷勿切　〔物〕
㊀そゝぐ、（灑）。○〔周、註〕「以二桃-茢一——レ之」。
㊁流れ出づ、わく。○〔詩〕「觱-——檻-泉」。
〔湲沸〕水のながれ出づると。○〔名山記〕「泉益——」。
〔流沸〕前に同じ。○〔蔡邕〕「火-熾——」。
〔滑沸〕なのびやかに流るゝと。○〔夏侯湛〕「寒-泉——」。
〔瀵沸〕うかびながるゝと。○〔揚烱〕「——縈-紆」。

【㳌】ハイ、ヘ。　滂佩切　〔隊〕
㊀波涌く、わく、なみたつ。○〔司馬相如〕「水-蟲駭レ波鴻——」。
㊁怒れる貌にいふ字。○〔司馬相如〕「——乎暴怒」。

【沬】沸に同じ。

【沺】テン、デン。　徒年切　〔先〕
水勢の廣大なる貌にいふ字、ひろし、おほいなり。○〔郭璞〕「溟-涬渺-沔汗-々——」。

【油】イウ、ユ。　于求切　〔尤〕
㊀可燃の質を有する液、あぶら。○〔博物志〕「積-——萬-石自生レ火」。
㊁除かに流るゝ貌にいふ字。○〔楚辭〕「——湘-江長-流汩兮」。
㊂和ぎて謹める貌にいふ字、おだやか、うやうやし。○〔禮〕「三-爵而——以退」。
㊃新に生ひて好美なる貌にいふ字、うるはし。○〔箕子〕「禾-黍——」。
㊄從容迫らざる貌にいふ字。○〔孟〕「——然與レ之偕」。
㊅進まざる貌にいふ字。○〔家語〕「——然若レ將二可レ越而終不一レ可レ及」。
㊆雲の興こる貌にも雲の行く貌にもいふ字。○〔孟〕「——然作レ雲」。
〔緹油〕車の軾の前にかくる泥よけ。○〔後漢、註〕「赤-屛-泥謂下以二——一屛中泥於軾-前上」。
〔膏油〕あぶら。○〔宋〕「家貧無二——一」。
〔麻油〕あさのあぶら。○〔魏〕「灌以二——一」。
〔香油〕にほひたかきあぶら。○〔北〕「以二——一塗レ身」。
〔石油〕石腦油のとにて、一に、石炭油ともいふ。○〔夢溪筆談〕「鄜-延有二——一」。

【油】釉に同じ、つや。○〔蔡襄茶錄〕「珍-膏——二其面一」。

【泙】アフ、エフ。　乙甲切　〔洽〕
——湉は、下く濕ふ、うろほふ。

【沼】セウ。　之少切　〔篠〕
いけ、（池）、一說に、曲がりたる形のいけ。○〔詩〕「于レ——于レ沚」。
〔湉沼〕水きよらかなるいけ。○〔李賀〕「斜-竹垂二——一」。
〔淨沼〕前に同じ。○〔劉兼〕「蓮拔二——一羣-香散」。
〔臺沼〕うてなといけと。○張說二〔夢二上京之——一〕。
〔淵沼〕水のふかきいけ。○〔魏、註〕「——之魚樂二其濕-濡一」。
〔苑沼〕そのといけと。○〔晉〕「遊-豫不レ以二——一」。
〔巨沼〕おほいなるいけ。○〔水經、註〕「吐二納川-流一以成二——一」。
〔圓沼〕まるき形のいけ。○〔柳藏經〕「寒-水停二——一」。

【沽】コ、ク。　古胡切　〔虞〕
㊀うる、（賣）。○〔論〕「求二善-賈一而——レ諸」。
㊁かふ、（買）。○〔杜甫〕「密——二斗-酒一諧二終レ宴一」。

【沽】コ、公五切　〔麌〕　ク。切　古慕切　〔遇〕
㊀酒をうる者、さかうり、又、うりかひする者、あきうど。○〔尸子〕「——者亦知二酒之多-少一」。
㊁おろそか、（略）。○〔禮〕「宮-中無レ相以爲レ——」。
㊂麤惡、あらし、あし。○〔周〕「謂二功-——上-下一」。

【治】チ、ヂ。　直之切　〔支〕
泗水の一支流。○〔漢〕「泰-山-郡南武-陽冠-石-山——水所レ出」。

【治】タイ。　湯來切　〔灰〕
㊀水の名。○〔漢〕「雁-門-郡陰-館累-頭-山——水所レ出」。
㊁をさむ。○〔周〕「化二——絲-枲一」。

【治】チ、ヂ。　直利切　〔寘〕
㊀をさむ。
（い）飭ふ。○〔呂氏春秋〕「——レ物者」。
（ろ）正す。○〔禮〕「上——二祖-禰一」。
（は）平かならしむ、亂れざらしむ。○〔禮〕「以——二人-情一」。
（に）作す。○〔淮〕「能多者莫レ不レ——」。
（ほ）簡習す、ならふ。○〔周〕「——二其大-體一」。
（へ）監督す、とりしまる。○〔周〕「——之」。
（と）案驗す、とりしらぶ。○〔周〕「遂二鞠二——之一」。○〔史〕「令レ——」。
（ち）政を布く、統御す。○〔戰〕「穰侯之——レ秦」。

㊁さゝのふ、正しくなる、平か、亂れず、をさまる。○〔易〕「垂ニ衣裳一而天下―」。
㊂政事、まつりごと。○〔周〕「以贊レ―」。
㊃功績、いさを。○〔周〕「以レ敍進ニ其―一」。
㊄道義、みち。○〔太元〕「人之大倫曰レ―」。
㊅政事廳の所在。○〔漢〕「更王ニ膠東一―ニ卽墨一」。
㊆才能多きこと。○〔左〕「管夷吾―ニ於高溪一」。
㊇くらぶ、(校)。○〔戰〕「皆無ニ敢與レ趙―一」。
㊈もさむ、(乞)。○〔周〕「凡新甿之―皆聽レ之」。
㊉道家にて靜室の稱。○〔六朝詩話〕「送ニ靈運於杜――一」。
〔自治〕おのれ自身ををさむ。○〔禮〕「百姓則レ君以――也」。
〔統治〕すべをさむ。○〔書、傳〕「以相――」。
〔代治〕他の者のかはりとなりて事ををさむ。○〔書、疏〕「――洪水ニ」。
〔政治〕まつりごとのとゝのひをさまること、又、まつりごと。○〔書〕「道洽――」。
〔邦治〕國家のまつりごと。○〔書〕「家宰掌ニ――一」。
〔至治〕極めて善くをさまりて泰平なること。○〔書〕「――馨香感ニ于神明一」。
〔致治〕よくをさまる。○〔史〕「信ニ賞罰一以―レ―」。
〔立治〕まつりごとをおこしたつ。○〔禮、疏〕「明ニ人君――之本一」。
〔內治〕內朝のまつりごと。○〔禮〕「以聽ニ天下之――一」。
〔外治〕外朝のまつりごと。○〔禮〕「以聽ニ天下之――一」。
〔文治〕文道をもてをさむ。○〔杜牧〕「朝廷用ニ――一」。
〔官治〕役所のまつりごと。○〔周〕「三日ニ官聯一以會ニ――一」。
〔聽治〕まつりごとをきく。○〔周〕「則贊―レ―」。
〔小治〕こまかきまつりごと。○〔周〕「凡邦之――、則冢宰聽レ之」。
〔敎治〕をしへみちびくまつりごと。○〔周〕「平ニ――、正ニ政事一」。
〔乘治〕のり[illegible]ふ。○〔周〕「掌ニ養疾馬一而――之」。
〔平治〕をさむ、をさまる。○〔孟〕「如欲レ―ニ―天下一」。
〔敷治〕まつりごとをしく。○〔孟〕「擧レ舜而―レ―焉」。
〔從治〕主治者の役所をうつしかふ。○〔史〕「於レ是―ニ―大梁一」。
〔吏治〕役人のあつかふまつりごと。○〔史〕「――刻深」。
〔民治〕人民をとゝのふる政。○〔史〕「如レ此則――行矣」。
〔鞠治〕罪をたゞしをらぶ。○〔史〕「鞠下レ高令レ―ニ―之一」。
〔繩治〕前に同じ。○〔唐〕「必助ニ帝怒一請ニ――一」。
〔輔治〕まつりごとをたすけ行ふ。○〔論衡〕「伯益―レ―」。
〔養治〕そだてをさむ。○〔漢〕「以―ニ―之一」。
〔驗治〕しらぶ。○〔漢〕「吏――」。
〔捕治〕いけどりて其の者をしらぶ。○〔漢〕「廣漢使ニ吏――一」。
〔宰治〕君の輔相となりてまつりごとをなす。○〔漢〕「公又有ニ――之效一」。
〔推治〕訟の事實を吟味す。○〔周〕「――獲レ實」。
〔按治〕前に同じ。○〔唐〕「事下ニ御史――一」。
〔贊治〕をさまりのたすけとなす。○〔唐〕「亂或―レ―」。
〔根治〕いづこまでもしらべたゞす。○〔宋〕「手詔提ニ刑司――一」。
〔理治〕をさむ、をさまる。○〔文子〕「居レ家――」。
〔聖治〕ひじりのまつりごと。○〔莊〕「願聞ニ――一」。
〔姦治〕ねじけびとのまつりごと。○〔荀〕「是――者也」。
〔煩治〕わづらはしきまつりごと。○〔淮〕「官無ニ――一」。
〔靜治〕しづかにしてをさまる。○〔歐陽修〕「臻ニ乎――一」。

【沾】テン、トン。他兼切 〔鹽〕
㊀添に同じ、ます、そふ。
㊁淇水の一支流。

【沾】セン、之廉　ソン。切　テン、張廉　トン。切 〔鹽〕
㊀うるほふ、ぬる、(濡)。○〔史〕「陛楯者皆―寒」。
㊁うるほす、ひたす、(漬)。○〔大暑賦〕「珠汗―ニ乎絺葛一」。
㊂覘に同じ、みる、うかゞふ。○〔禮〕「我喪也斯―」。

【沾】テン。都念切 〔豔〕
水の名、又、縣の名。

【沾】テフ。的協切 〔葉〕
自ら整ふる貌にいふ字、さゝのふ、一說に、輕薄、かろし、うすし。○〔史〕「――自喜」。

【沿】エン。與專切 〔先〕
そふ。
(い)水の流れにつきて下る。○〔書〕「―ニ于江海一」。
(ろ)したがふ、(循)、よる、(因)。○〔禮〕「故明王以相―也」。
〔襲沿〕さきにありたる事のあとをつぐ。○〔宋〕「不ニ相――一」。
〔泝沿〕流にさかのぼると流にしたがひてくだること。○〔伏挺〕「行舟迷ニ――一」。
〔尋沿〕たづねよる。○〔黄庭堅〕「學海頗――」。

【況】キヤウ、カウ。許訪切 〔漾〕
㊀たとふ、(譬)。○〔莊〕「每レ下愈―」。
㊁ます、(滋)。○〔詩〕「亂―斯削」。
㊂あるが上にまして、いよ〳〵、ます〳〵。○〔國〕「衆―ニ厚之一」。
㊃上を承けて更にすゝみ說くときに用ふる字、其の上、まして、いはんや、(多くは其の句末に乎哉などの字を添へて「をや」と讀ませて上の意に反照せしむるを例とす)。○〔孟〕「―以ニ不賢人之招一招ニ賢人一乎」。
㊄たまふ、(賜)。○〔漢〕「逢ニ天地之―施一」。
㊅こゝに、(茲)。○〔詩〕「―也永歎」。
㊆狀趣、ありさま、おもむき。○〔許衡〕「老――青燈外」。
〔來況〕臨訪す、たづねきたる。○〔司馬相如〕「―ニ―獰國一」。

【泂】ケイ、ギヤウ。戸茗切 〔迥〕
㊀とゞむ、(禁)。㊁さむし、(滄)。
㊂とほし、(遠)。○〔詩〕「―酌ニ彼行潦一」。
㊃深くして廣し。○〔郭璞〕「趣レ漲截レ―」。
㊄潁に通じ用ふ。○〔高士傳〕「卜隨投ニ――水一」。

【泄】エイ。以制切 〔霽〕
㊀ちる、ちらす、(散)。○〔詩〕「俾ニ民憂―一」。
㊁おほし、(衆)。○〔詩〕「桑者――兮」。
㊂舒徐なる貌にいふ字、のびやか、ゆるやか。○〔詩〕「――其羽」。
㊃緩かにして悅び從ふ貌にいふ字。○〔詩〕「天之方蹶無ニ然――一」。
〔融泄〕とけちる。○〔景福殿賦〕「隨レ雲――」。

【泄】セツ、セチ。私列切 〔屑〕
㊀もる、もらす、(漏)。○〔管〕「微謀外―之謂也」。
㊁除去す、さる。○〔漢、註〕「決分―也」。
㊂やむ、(歇)。○〔揚雄〕「歇也、楚揚謂ニ之―一」。
㊃發越す、あぐ、あがる、おごる、おこす。○〔禮〕「陽氣發―」。
㊄まじふ、まじる、(雜)。○〔後漢〕「頗―ニ用之一」。
㊅あなどる、(嫚)。○〔荀〕「懦―者人之殃也」。
〔漏泄〕もる、もらす。○〔易、疏〕「若其不レ密而――」。
〔歐泄〕口よりものをはきいだす。○〔漢〕「――霍亂之柄」。
〔謀泄〕はかりごとの他にもれあらはるゝこと。○〔韓〕「――者事無レ功」。
〔語泄〕はなしの他にもれあらはるゝこと。○〔史〕「說難曰、夫事以レ密成、―以レ―敗」。

〔慢泄〕おごりあなどる。○〔唐〕「｜・｜相矜」。
〔滲泄〕もる。○〔元〕「甘・淡｜・｜」。
〔決泄〕みづみちをつけもらす、又、みづみちつきてもれいづ。○〔陸雲〕「｜・｜任レ意」。
〔通泄〕前に同じ。○〔東皙〕「｜・｜之功、不レ足レ爲レ難」。
〔導泄〕ひきみちびきもらす。○〔梁昭明太子〕「｜二｜震・澤一」。
〔防泄〕もるゝことをふせぎとゞむ。「斷夜塞」。
〔流泄〕ながれもる。○〔韓愈〕「｜レ｜」。
〔下泄〕腹くだること。○〔陳師道〕「｜・｜不レ時」。○〔高啓〕「舟中感レ痢得二｜・｜一」。

【泅】ヂフ、ニフ。尼立切　緝
水に漬かる、うるほふ。

【泅】シウ、ジュ。似由切　尤
水上に浮び行く、うかぶ、およぐ。○〔列〕「習二於水一勇二於｜一」。○〔五〕「昔有二越人一｜」。
〔善泅〕たくみにおよぐ。

【泆】イツ、イチ。夷質切　質
㊀水うごきて超え出づ、こす、こぼる、あふる。○〔書〕「入二于河一｜爲レ滎」。
㊁放恣にして學藝なきこと、ほしいまゝ、みだら。○〔左〕「驕・奢淫｜」。
〔泆泆〕きれあふる。○〔論衡〕「溝・洫｜・｜」。
〔奔泆〕水勢のはげしくあふるゝこと。○〔水經、註〕「甘・潦｜・｜」。

【洪】テツ、デチ。徒結切　屑
前條の㊁に同じ。

【泉】セン、疾緣切　ゼン。疾眷切　先　霰
㊀水流の原、沸き出づる水、いづみ。○〔孟〕「原｜混・々」。
㊁貨錢、ぜに。○〔周〕「布｜也、其藏曰レ｜、其行曰レ布」。

〔肥泉〕原を同じくして注ぐ處を異にするいづみ。○〔詩〕「我思二｜・｜一」。
〔醴泉〕甘き味あるいづみ。○〔禮〕「天降二甘露一、地出二｜・｜一」。
〔榮泉〕水に光華多きいづみ。○〔漢〕「食二甘露一、食二｜・｜一」。
〔立泉〕瀑布、たき。○〔班固〕「｜・｜落・々」。
〔天泉〕星の名。○〔甘氏星經〕「｜・｜十星在二鼈東一」。
〔寒泉〕ひやゝかなるいづみ。○〔詩〕「爰有二｜・｜一」。
〔冽泉〕前に同じ。○〔謝莊〕「｜・｜承レ夜滋」。
〔涼泉〕前に同じ。○〔宋之問〕「徒把二｜・｜掬一」。
〔氿泉〕よこに湧きいづる水。○〔詩〕「有レ冽二｜・｜一」。
〔檻泉〕檻は一に濫に作る、たてに湧きいづる水。○〔詩〕「觱沸｜・｜」。
〔淵泉〕ふかきいづみ。○〔列〕「心如二｜・｜一」。
〔深泉〕前に同じ。○〔晉〕「投二魚｜・｜一、放二飛鳥一」。
〔井泉〕ゐどのわきみづ。○〔張籍〕「收レ氷當二｜・｜一」。
〔黃泉〕ふかき土中のいづみ。「上爲二黃雲一」。
〔飛泉〕たきのこと、又、ふきいづるいづみ。○〔淮〕「｜・｜之埃」。○〔後漢〕「｜・｜湧出」。
〔涌泉〕わきいづるいづみ。○〔後漢〕「謀如二｜・｜一」。
〔沸泉〕前に同じ。○〔齊〕「即掘二深三尺一得二｜・｜一」。
〔溫泉〕いでゆ。○〔晉〕「今有二｜・｜一、而無二寒火一」。
〔湯泉〕前に同じ。○〔抱朴〕「水主二純冷一、而有二溫谷之｜・｜一」。
〔清泉〕きよらかなるいづみ。○〔舊唐〕「所レ須松・樹｜・｜」。
〔汲泉〕わきみづをくみとる。○〔蘇軾〕「｜・｜何愛一夫忙」。
〔直泉〕たてにふきいづるみづ。○〔公羊〕「濆・泉者何、｜・｜也」。
〔鹹泉〕鹹をふくめるいづみ。○〔宋〕「近・歲｜・｜滅・耗」。
〔鹽泉〕前に同じ。○〔廣志〕「湖・縣有二｜・｜一」。
〔美泉〕きよらかなるよきみづ。○〔王縉〕「正・朝汲二｜・｜一」。
〔旋泉〕うづをまきて湧きいづるみづ。○〔水經、註〕「昭・山下有二｜・｜一」。
〔谷泉〕たにあひより流れいづる水。○〔李白〕「巖花覆二｜・｜一」。
〔潤泉〕前に同じ。○〔溫庭筠〕「兩・瓶攜二｜・｜一」。
〔淺泉〕前に同じ。○〔王建〕「決・々｜・｜到處開」。
〔窨泉〕地をふかくほること。○〔梁簡文帝〕「｜レ｜掩・背」。
〔巖泉〕いはの間より湧きいづる水。「｜咽不レ流」。
〔鳴泉〕水聲のひゞくいづみ。○〔篋鈞〕「｜・｜」。○〔朱熹〕「把レ酒聽二｜・｜一」。
〔荅泉〕こけのむしたるいづみ。○〔宋之問〕「朝揖二｜・｜一」。「弄二｜・｜一」。
〔澄泉〕きよらかにすめるいづみ。○〔陳子昂〕「乘レ月弄二｜・｜一」。
〔虹泉〕たきのこと。○〔張説〕「｜・｜電・射」。
〔遙泉〕遠く隔たりたるいづみ。○〔王維〕「清・夜聞二｜・｜一」。
〔野泉〕のはらに湧くみづ。○〔王李友〕「如レ蚝如レ渠飮二｜・｜一」。「茶亦｜レ｜」。
〔掬泉〕手のひらにていづみをすくふ。○〔徐照〕「思レ｜」。
〔迸泉〕ほとばしりいづるみづ。○〔姚合〕「｜・｜清勝レ雨」。「誇」。
〔養泉〕いづみの水をにる。○〔梅堯臣〕「｜レ｜相與」。
〔鑿泉〕井戸をほる。○〔蘇軾〕「｜レ｜東・垣隈」。
〔聞泉〕いづみのながるゝ聲をきく。○〔陸都剌〕「青・松盡・日只｜レ｜」。
〔纖泉〕流れのほそきいづみ。○〔劉基〕「｜・｜之微、積而至レ海」。

【泊】ハク、ヒヤク。白各切　藥
㊀とまる。
(い)止どまる。○〔楚辭〕「忽翔・々其高｜」。「｜也」。
(ろ)舟岸に附く。○〔晉〕「風利不レ得レ｜」。
(は)寓す、やどる。○〔吹笛記〕「夜｜二靈・壁・驛一」。
㊁とゞまらしむ、とゞむ、とむ。○〔韓愈〕「中・流兮風｜レ之」。
㊂とゞまる所、やどり、舟つけ場。○〔東皙〕「淩レ波赴レ｜」。
㊃水の貌にいふ字。○〔漢〕「｜・｜如二四海之池一」。
㊄靜默、無爲、しづか。○〔老〕「｜・｜乎其未レ兆」。
㊅衆多なる貌にいふ字。○〔張衡〕「霍・澤紛｜・｜」。
㊆薄に同じ。○〔王充〕「氣有二厚｜一」。
〔澹泊〕私慾なくしづかに無爲なる貌にいふ語。○〔長楊賦〕「人・君以二玄・默一爲レ神、｜・｜爲レ德」。
〔澹泊〕前に同じ。○〔柳宗元〕「然其｜・｜寥闊」。
〔寂泊〕前に同じ。○〔晉〕「守二｜・｜一以鎭レ德」。
〔恬泊〕前に同じ。○〔晉〕「少而｜・｜」。
〔玄泊〕前に同じ。○〔風俗通〕「三・皇道・德｜・｜」。
〔栖泊〕やどる。○〔高適〕「漁・樵屢｜・｜」。
〔流泊〕流寓といふに同じ、あちこちとさまよふ。○〔陸游〕「｜・｜祁・連・山」。
〔飄泊〕前に同じ、飄は一に漂に作る。○〔北〕「雖二羈・旅｜・｜一、而清・貧守レ度」。
〔萍泊〕前に同じ。○〔前定錄〕「沈・氏尋亦｜・｜」。
〔落泊〕おちぶる。○〔南〕「稜少｜・｜」。
〔憩泊〕やすむ。○〔李白〕「幽・客時｜・｜」。
〔旅泊〕たびとまり、やどりす。○〔博異志〕「欣二此｜・｜一」。
〔羈泊〕前に同じ。○〔盧思道〕「｜二｜・｜水鄉一」。
〔止泊〕とまる、とむ。○〔陶潛〕「未レ知二｜・｜處一」。
〔駐泊〕前に同じ、又、船舶をとむ。○〔志怪錄〕「偶｜二｜・｜門首一」。「頃」。
〔翻泊〕とびまはる。○〔沈約〕「其林・鳥則｜・｜頡頏」。
〔淹泊〕ひと場處にとゞこほりとまる。○〔陸游〕「晚・途｜・｜服愈寒」。
〔漂泊〕たゞよふ。○〔柳宗元〕「大・海｜・｜兮」。
〔繫泊〕ふねをつなぎとむ。○〔元稹〕「共將レ舩｜・｜」。
〔停泊〕とゞまる、とゞむ。○〔白居易〕「遇レ勝時｜・｜」。

【泊】ハク、ヒヤク。匹陌切　陌
㊀漠｜は、密に生ひたる貌にいふ語。○〔王〕「漠｜以獺・豫」。
㊁小波、さゞなみ。○〔木華〕「洞｜栢以池颼」。

【沛】ホ、フ。博故切　遇
地の名。

【泙】ヘン。皮變切　霰
水を導く、みちびく。

【泋】キ。許貴切　未
㊀水波の紋、あや、なみ。

㊂灌——は、水の流るゝ貌にいふ語、一說に、衆波の聲にいふ語。○〔木華〕「灌——濩滑蕩レ雲沃レ日」。

【汻】キ。許鬼切　尾
滸に同じ。

【泌】ヒ、ビ。兵媚切　寘
俠流、はやきながれ、一說に、泉流るゝ、ながる。○〔詩〕「——之洋々可二以樂一レ飢」。
〔淸泌〕きよらかにながる。○〔鮑照〕「泉流信——」。
〔洋泌〕水多くながる。○〔許敬宗〕「通二三徑之——」。

【泌】ヒツ、ビチ。毗必切　ヒツ、ヒチ。鄙密切　質
㊀俠流、はやきながれ。㊁水波相擊つ、うつ。○〔司馬相如〕「偪側——瀄」。

【沐】ホン、ボン。逋昆切　元
水急なり、はやし、すみやか。

【泍】ホン、ボン。部本切　阮
泉の涌く貌にいふ字。

【泎】サク、ジャク。鋤陌切　陌
澩——は、水の地に落つる聲にいふ語。

【泏】チュツ、チュチ。竹律切　質
水の流るゝ貌にいふ字、一說に、水出づる貌にいふ字。○〔文子〕「原流——沖而不レ盈」。

【泏】コツ、コチ。苦骨切　月
㊀水定まること、しづか。㊁漚す池、いけ。

【泐】リヨク、リキ。盧則切　職
㊀石脈理に因りて解裂するにいふ字、さく、さく。○〔周〕「石有レ時而—」。㊁凝合す、こる、あつまる。
〔凝泐〕石質のかけとくること。○〔釋德洪〕「信無三——以墮二其初一」。

【泑】イウ、ユ。於糾切　有
黑色なる水、くろみづ。

【泑】イウ、ユ。於虬切　尤
㊀前條に同じ。㊁窑器に光澤を傳ふるもの、ちやわんぐすり。

【泑】アウ、エウ。於交切　肴
長沙にある水の名。

【泆】シ。疏吏切　寘
河南にある水の名。

【泒】コ、ク。古胡切　虞
水の名。——派の字と異なり。

【泓】ワウ。烏宏切　庚
㊀水の下く深き貌にいふ字、ふかし、ひくし。○〔郭璞〕「極二——量一而海運」。㊁水の淸き貌にいふ字、きよし。○〔范成大〕「淸泉——」。㊂水の下く深き所、ふち。○〔韋應物〕「歸レ—又同注」。
〔陶泓〕硯の異名。○〔蘇軾〕「——不レ稱管城沐」。
〔淵泓〕ふかきこと。○〔易林〕「德義——」。
〔寶泓〕すゞり。○〔黃庭堅〕「撫二摩——一置二道書一」。
〔寒泓〕前に同じ。○〔文同〕「風前試二——一」。
〔坳泓〕くぼめるふち。○〔韓愈〕「如レ蛙守二——一」。

【泔】カン、コン。古三切　覃
㊀米の汁、しろみづ、こめかしみづ。○〔說文〕「周謂二潘曰一レ—」。㊁烹和す、にる。○〔荀〕「曾子食レ魚有レ餘曰レ—レ之」。

【泔】カン、ゴン。戶感切　感
みつ、〔滿〕。○〔揚雄〕「秬鬯——淡」。

【法】ハフ、ホフ。方乏切　洽
㊀のり。
(い)常經、つね。○〔新序〕「賞所三以勸二善一也、辭レ賞亦非二常——一也」。
(ろ)道理、みち。○〔韓愈〕「其大經大—皆滅亡而不レ救」。
(は)制限、かぎり。○〔禮〕「守レ典奉レ—」。
(に)制度、おきて。○〔禮〕「謹二修其——一而審二行之一」。
(ほ)禮儀、ゐや。○〔孝〕「非二先王之—服一不二敢服一」。
(へ)模範、てほん。○〔禮〕「行而世爲二天下—一」。
(と)刑罰、制裁。○〔管〕「殺戮禁誅謂二之——一」。
(ち)典例、さだめ。○〔禮〕「有二祭——篇一」。
(り)等差、しな。○〔周〕「皆有二—以行一レ之」。
(ぬ)數、量、尺度。○〔禮〕「工依二於——一」。
(る)方術、てだて。○〔晉〕「教二之戰——一」。
(を)定まれる形象、かたち。○〔文心彫龍〕「—象也、兵謀無レ方奇正有レ象」。
(わ)從ひ守るべきもの又は效ひ行ふべきことの泛稱。○〔淨住子〕「佛爲二衆生一說レ—」。
㊁のりを守ること、正しきこと。○〔荀〕「愚則端慤而—」。
㊂のりと爲し從ふ、のつとる、ならふ。○〔易〕「崇效レ天、卑—レ地」。
〔常法〕つねのへり。○〔國〕「棄二——一以從二其私一」。
〔典法〕前に同じ。○〔晉〕「宜下肅二明——一、使中淸濁顯分上」。
〔師法〕のつとる、又、てはん。○〔漢〕「相明二易經一有二——一」。
〔禮法〕れいしき、さはふ。○〔書、疏〕「使レ有二——一」。
〔軍法〕いくさのおきて。○〔禮〕「以二——一治レ之」。
〔作法〕おきてを定めつくる。○〔史〕「智者——」。
〔立法〕前に同じ。○〔漢〕「——設レ刑」。
〔制法〕前に同じ。○〔唐〕「王者觀レ變而——」。
〔枉法〕おきてをまけて用ふ。○〔南〕「未嘗——申レ恩」。
〔明法〕のりをあきらかにす、又、あきらかなるのり。○〔莊〕「四時有二——一而不レ議」。
〔兵法〕いくさのしかた。○〔史〕「于レ是項梁教二籍——一」。
〔苛法〕きびしきおきて。○〔史〕「父老苦二秦——一久矣」。
〔亂法〕おきてをやぶりみだす。○〔史〕「儒者用レ文——」。
〔文法〕法律規則、又文章を組み立つるのり。○〔史〕「弘大體不レ拘二——一」。
〔弄法〕法律をたくみに利用す。○〔史〕「吏士舞レ文——」。
〔算法〕算術といふに同じ。○〔北〕「尤明二——一」。
〔佛法〕ほとけののり。○〔晉〕「帝初奉二——一、立二精舍於殿內一」。
〔峭法〕おきてをきびしくす、又、きびしきおきて。○〔淮〕「夫——刻レ誅者、非二霸王之業一也」。
〔峻法〕前に同じ。○〔公羊、註〕「梁君隆レ刑——」。
〔嚴法〕前に同じ。○〔史〕「——刻深」。
〔懾法〕おきてをおそる。○〔荀〕「非レ——也」。
〔舊法〕もとのおきて。○〔國〕「管子曰、修二——一、擇二其善者一」。
〔故法〕前に同じ。○〔史〕「如二——一便」。
〔遺法〕故人ののこしおきたるのり。○〔宋〕「得二其——一也」。

〔聖法〕ひじりの定めたるのり。〇〔莊〕「殫二殘天下之一・一」。
〔儀法〕儀式法則のこと。〇〔史〕「高帝悉去二秦苛・一・一爲二簡易一」。
〔辨法〕おきてを裁斷す。〇〔周〕「凡一レ一者改焉」。
〔施法〕おきてをときおこなふ。〇〔周〕「乃一二一於官府一」。
〔國法〕くにのおきて。〇〔周〕「以二一・一行レ之」。
〔守法〕おきてを堅くとりまもる。〇〔史〕「以二此兩者居レ官、一レ一可也」。
〔書法〕文章のかきぶり、又、文字のかきかた。〇〔左〕「一・一不レ隱」。
〔刑法〕刑罰のおきて。〇〔陸機〕「威二陸公之規一、而除二一・一之煩一」。「一也」。
〔古法〕むかしののり。〇〔國〕「委レ贄而策レ名、一之のり。〇〔國〕「宣善罰姦、國之一・一也」。
〔憲法〕のり。〇〔國〕「宣善罰姦、國之一・一也」。
〔犯法〕法律をおかす。〇〔史〕「人々自愛、而重レ一レ一」。
〔繁法〕おきてをしげくす、又、しげきおきて。〇〔史〕「一レ一嚴レ刑」。
〔加法〕刑罰をあつ。〇〔史〕「有司一レ一焉」。
〔致法〕前に同じ。〇〔史〕「王不レ忍レ一レ一」。
〔獄法〕罪人をとりあつかふおきて。〇〔史〕「秦王聞二趙高彊力通一於一・一一」。
〔坐法〕罪にかかる。〇〔史〕「及レ壯一レ一」。
〔王法〕帝王のちみ。〇〔漢〕「謹案二一・一、必本二于禮一」。
〔遵法〕のりにしたがふ。〇〔漢〕「一二古聖之一一」。
〔垂法〕のりを後世に遺す。〇〔漢〕「作レ憲一レ一」。
〔異法〕おきてをちがはす、又、ちがふのり。〇〔蜀〕「不レ宜下偏私使二內外一上レ一也」。
〔相法〕人の骨相をみる規則。〇〔唐〕「公在二一・一「一」。貴人也」。
〔舞法〕法律をきまゝに利用す。〇〔北〕「曲レ理一レ」。
〔酷法〕きびしきおきて。〇〔五〕「務以二一・一、厚二斂蜀人一」。
〔刻法〕前に同じ。〇〔陸贄〕「深刑一・一」、
〔陣法〕ぢんだての法式。〇〔李靖〕「卿所レ制六花一・一出二何術一」。
〔筆法〕もじのかきぶり。〇〔唐〕「得二張旭一・一」。
〔護法〕のりを守る。〇〔皇甫曾〕「一・一譚身惟振錫」。「今一」。
〔妙法〕たへなるのり。〇〔司馬子〕「一・一傳二之於
〔釋法〕おきてを守らず。〇〔韓〕「人主一レ一用レ私」。
〔棄法〕前に同じ。〇〔劉勰〕「未レ有二一レ一而成レ治也」。「一・一」。
〔心法〕こゝろをねるみち。〇〔白居易〕「自二我學一一・一」。
〔眞法〕まことののり。〇〔皇甫曾〕「一・一常傳心不レ住」。

【泖】　バウ、メウ。莫飽切　巧
水の渟滀して湍からざること。

【泖】　リウ、ル。力九切　宥
水の貌にいふ字。

【泗】　シ。息利切　寘
㊀山東省にある水の名、其の末流は淮水に入る。〇〔周〕「其川淮一」。
㊁涙につれて鼻よりおつる液、はなしる。〇〔詩〕「涕一滂沱」。
〔洙泗〕魯の國の二水の名にて孔子の其閒に住みて門弟を教へたるより孔門のことにかり用ふることあり。〇〔梁武帝〕「丘明傳二一・一之風一」。
〔隕泗〕なみだをこぼす。〇〔梁〕「啼二泊羅一以一一」。

【浮】　コ、ク。荒胡切　虞
嘑に同じ。

【泙】　ハウ、ヒヤウ。披庚切　庚
水の聲にいふ字。〇〔柳宗元〕「淵一洞滀者彌二數千里一」。

【泚】　セイ、サイ。之禮切　薺
㊀水淸し、きよし。〇〔宋〕「寒流淸一・一」。
㊁鮮明、あざやか。〇〔詩〕「新臺有レ一」。
㊂汗の出づる貌にいふ字。〇〔孟〕「其顙有レ一」。

【泚】　シ。蔣氏切　紙
水の名。

【泛】　ハン、ホン。孚梵切　陷
汎に同じ、うかぶ、ひろし。〇〔漢〕「一・一滇々」。
〔游泛〕舟を浮べあそぶ。〇〔新安記〕「鼓レ枻一・一」。
〔沿泛〕川の流にしたがひて舟をうかぶ。〇〔高適〕「一・一多レ所レ宜」。
〔萍泛〕草のところ定めずうかびながるゝこと、又、人のさすらふことに借りいふ語。〇〔杜甫〕「一・一無二休日一」。
〔飄泛〕ひらひらとかろくうかぶ、又、さすらひありく。〇〔李中〕「一・一經二彭澤一」。

【泛】　ホウ、フ。方勇切　腫
くつがへす、（覆）。〇〔漢〕「一レ駕之馬」。

【泛】　ハフ、ホフ。扶法切　洽
一・一漣は、聲の微小なる貌にいふ語、ほそし、ちひさし。

【泜】　テイ、タイ。丁計切　霽　シ。旨夷切
直隸省にある水の名。〇〔一統志〕「一・一水在二臨城縣西北一」。

【泜】　チ、ヂ。直尼切　紙　支

【泜】　チ、ヂ。直几切　紙
漦に同じ。〇〔左〕「夾レ一而軍」。

【泝】　ソ、ス。蘇故切　遇
㊀流に逆ひて上る、さかのぼる。〇〔左〕「沿レ漢一レ江」。「背レ河」。
㊁むく、むかふ、（向）。〇〔張衡〕「一レ洛

【泞】　チヨ、ド。丈呂切　語
すむ、（澄）、又、あはし、（澹）。〇〔木華〕「泱漭・一、騰レ波赴レ勢」。

【沭】　サツ、セチ。様鎋切　黠
水の流るゝ貌にも、又、水の聲にもいふ字。

【泟】　テイ、チヤウ。救貞切　庚
あかし、（赤）、一說に、棠又は棗の汁。

【泠】　レイ、リヤウ。郎丁切　靑
㊀きよし、（淸）。〇〔淮〕「精神曉一・一」。
㊁水の聲にいふ字。〇〔古樂府〕「山溜何一・一」。「一・一然善也」。
㊂風の聲にいふ字。〇〔莊〕「御レ風而行」
㊃音聲のさかんに溢るゝにいふ字。〇〔陸機〕「音一・一而盈レ耳」。
㊄風和ぐ、やはらぐ。〇〔呂氏春秋〕「師爲二一・一風一」。「一一」。
㊅江水。〇〔康熙〕「三江之水曰二三一江水一」。
㊆伶に通じ用ふ。〇〔左〕「晉侯見二鍾儀一、問二其族一、曰一一人也」。
〔淸泠〕きよらかなること。〇〔王褒〕「朝露一・一而隕二其側一兮」。

【泠】　レイ、リヤウ。朗鼎切　迥
水の貌にいふ字。

【泠】　レン。靈年切　先
毛長くして總結す、むすぶ、むすぼる。〇〔周〕「羊一毛而毳羶」。

【泡】　ハウ、ヘウ。匹交切　肴
㊀水の流るゝ貌にも又は水の噴き涌く聲にもいふ字。〇〔山海經〕「其源渾々一・一」。「幻一景一」。
㊁水上の浮漚、あわ。〇〔梵書〕「如二夢一一」。
㊂さかんなり、（盛）。〇〔揚雄〕「一盛也、江淮之閒曰レ一」。

〔水泡〕みづの上にうかぶあわ。○〔大乘經〕「又如ニ━━一」。
〔幻泡〕まぼろしとあわと。○〔孫覿〕「━━水上漚」。
〔泡泡〕水の流るゝ貌にいふ語。○〔山海經〕「其源渾々━━」。

【泡】 ハウ、ヘウ。皮教切 效

㊀水泉、いづみ。
㊁一種の魚。○〔張師正〕「南海有ニ━━魚一、大如レ斗」。

【波】 ハ。博禾切 歌

㊀なみ。
(い)水動きて其の面の起こりあがるもの。○〔爾〕「大━━之神曰ニ陽侯一」。
(ろ)水流。○〔漢〕「叔度汪々若ニ千頃之━一、澄レ之不レ清、撓レ之不レ濁」。
㊁なみ起こる、なみたつ。○〔楚辭〕「洞庭━兮木葉下」。
㊂うるほふ（潤）。○〔左〕「其━ニ及晉國一者、君之餘也」。
㊃動搖す、うごく。○〔莊〕「其孰能不レ━」。
㊄目の光。○〔曹植〕「託ニ微━一以通レ辭」。
㊅年長けたる者の敬稱。○〔范成大〕「蜀中稱ニ尊者一爲レ━、祖及外祖皆曰レ━」。
㊆足にて跑く、かく。○〔李翊〕「跑謂ニ之━一、立謂ニ之站一」。
㊇たへしのぶ聲にいふ字。○〔岑參〕「終日獨━━」。
〔金波〕月の光。○〔漢〕「月穆々以━━」。
〔沸波〕一種の鳥、みさご。○〔禽經〕「王雎魚鷹也、詩謂ニ之雎鳩一、淮南子謂ニ之━━一」。
〔餘波〕あまりのなみ、なごり。○〔書〕「━━入ニ於流沙一」。
〔平波〕さゞなみ。○〔爾〕「━━曰レ漣」。
〔微波〕前に同じ。○〔晉〕「淳瀾發ニ━━一」。
〔風波〕かぜ強くなみたつ。○〔宋〕「卿昔在ニ海中一遭ニ━━一」。
〔陵波〕なみをしのぎをかす。○〔魏〕「━レ━而前」。
〔揚波〕なみをたかくおこすこと。○〔晉〕「秋水━レ━」。
〔濤波〕おほいなるなみ。○〔水經、註〕「湍洊━━」。
〔洪波〕前に同じ。○〔魏畧〕「消流之水、無ニ━━之勢一」。
〔潮波〕前に同じ。○〔謝朓〕「江海合ニ━━一」。
〔奔波〕ながれはしることのはやきなみ。○〔楞嚴經〕「騰逸━━」。
〔烟波〕みづの上のもやとなみと。○〔唐太宗〕「━━澄ニ舊碧一」。
〔素波〕しろきなみ。○〔水經、註〕「━━自激」。
〔恩波〕恩澤といふに同じ。○〔阮咸〕「屢浹ニ於━━一」。
〔澄波〕きよらかにすみたるなみ。○〔鮑照〕「━━萬頃」。
〔鷺波〕あらきなみ。○〔謝靈運〕「湯々━━」。
〔朧波〕前に同じ。○〔宋玉〕「━━如レ山」。
〔激波〕前に同じ、又、なみをおこす。○〔唐〕「━ニ━其下一」。
〔連波〕つらなりつゞくなみ。○〔西京雜記〕「━━盤渦」。
〔修波〕長波といふに同じ、おほいなるなみ。○〔拾遺記〕「橫ニ━━之上一」。
〔隆波〕たかきなみ。○〔劉向〕「乘ニ━━一以南渡兮」。
〔細波〕こまかきなみ。○〔徐陵〕「乍逐ニ━━一移」。
〔碧波〕青き色のなみ。○〔李白〕「浮ニ三湘之━━一」。
〔翠波〕前に同じ。○〔皮日休〕「其中生ニ━━一」。
〔月波〕つきかげのうつりたるなみ。○〔盧綸〕「瀲々━━流」。
〔眼波〕眼づかひ。○〔杜牧〕「爲報━━須穩當」。
〔銀波〕しろかねの如きひかりあるなみ。○〔徐積〕「蒼天萬里生ニ━━一」。

【波】 ヒ。逋眉切 支

陂に同じ、つゝみ。○〔漢〕「後遊ニ雷━一天大風」。

【波】 ヒ。彼義切 寘

水の流に循ひ行く、そふ、したがふ。○〔漢〕「傍ニ南山一北━レ河」。

【泣】 キフ、コフ。去急切 緝

㊀情迫まりてなみだを垂れ聲を發す、細聲にて哭す、なく。○〔禮〕「━━血三年」。
㊁眼の內部より出づる液、なみだ。○〔魏〕「民垂レ━而去」。
〔號泣〕聲をたてゝさけびなく。○〔禮〕「三踊而不レ聽、則━━而隨レ之」。
〔哭泣〕前に同じ。○〔禮〕「不レ得レ與ニ于━━之哀一」。
〔啼泣〕前に同じ。○〔魏、註〕「或以━━」。
〔涕泣〕なく。○〔漢〕「━━分ニ食飲一」。
〔飲泣〕聲を立てずになく。○〔漢〕「━━巷哭」。
〔啜泣〕前に同じ。○〔詩〕「有レ女仳離、━ニ其━一矣」。
〔掩泣〕顏をかくしなく。○〔宋〕「左右皆━━」。
〔傷泣〕かなしみなく。○〔史〕「自━━」。
〔悲泣〕前に同じ。○〔後漢〕「恥ニ━━一」。
〔哀泣〕前に同じ。○〔後漢〕「若ニ━━之容一」。
〔下泣〕なみだをながす。○〔漢〕「或歎息爲レ之━レ━」。
〔灑泣〕前に同じ。○〔何遜〕「賓散皆━レ━」。
〔慟泣〕いたくなげきなく。○〔南〕「輒執レ書━━」。
〔戀泣〕したひなく。○〔北〕「益州人追隨━━者、數百里」。
〔感泣〕心を他にふれうごかしてなく。○〔揮塵後錄〕「左右皆爲レ之━━」。
〔巷泣〕まちのうちにてなく。○〔陸雲〕「聞者━━」。
〔歔泣〕すゝりなき。○〔江淹〕「━━方留連」。
〔須泣〕なみだをおとす。○〔徐彥伯〕「望ニ天積一以━━」。

【泣】 リフ。力入切 緝

猋━は疾き貌にいふ語。

【泣】 シフ。色立切 緝

澀に通じ用ふ、血凝りて消えず、こる。○〔素問〕「血脈━」。

【泚】 シ。詳里切 紙

洍に同じ。

【泥】 デイ、ナイ。奴低切 齊

㊀水に和したる土、ひぢりこ、どろ。○〔書〕「厥土惟塗━」。
㊁けがす、けがる（汚）。○〔易〕「井━不レ食」。
㊂どろの爲めに步に艱む、ぬかる、又ぬかる所、ぬかりみ。○〔孟浩然〕「猶逢ニ蜀坂━一」。
㊃一種の蟲、東海に生じて水を得れば活き水を失へばどろの如くになるといふ。○〔杜甫〕「先拚一飲醉如レ━」。
㊄よわし（弱）。○〔爾〕「威夷長脊而━」。
㊅あまみづの止まる丘。○〔爾〕「水潦所レ止曰ニ━丘一」。
㊆糊つけて張る。○〔花蘂夫人宮詞〕「紅錦━レ窻遶ニ四廊一」。
〔紫泥〕璽書を封ずるに用ふるもの。○〔西京雜記〕「中書以ニ武都━━一爲ニ璽室一加ニ綠綈其上一」。
〔佛泥〕一に渤泥に作る、廣州の東南にある前印度の一國、ぼるねを。○〔諸蕃風俗〕「━━國在ニ廣州東南一」。
〔付泥〕和語の骨、はね、〔金楷泥〕仝黃金、こがね、〔失祿楷泥〕仝銀、しろかね、〔浮泥〕仝ふね。○〔辭俊日本寄語〕「骨曰ニ━━一、金曰ニ━━━━一、銀曰ニ━━━━一、船曰ニ━━一」。
〔雲泥〕そらとつちと上下の隔り多きことにいふ語。○〔南齊〕「━━已殊レ路」。
〔淤泥〕どろ、ぬかりみ。○〔維摩經〕「卑濕━━」。
〔塵泥〕あくたとどろと。○〔孟郊〕「棄置如ニ━━一」。
〔深泥〕どろぶか。○〔周〕「則雖レ有ニ━━一、亦弗ニ之涂一也」。
〔濁泥〕水のにごりたるきたなきどろ。○〔李商隱〕「━━猶得レ葬ニ西施一」。
〔汚泥〕前に同じ。○〔詩含神霧〕「土地━━」。
〔累泥〕どろをつみかさぬ。○〔夏侯湛〕「終━レ━而成レ屋」。
〔弱泥〕やはらかきどろづち。○〔元稹〕「沉玉在ニ━━一」。
〔藕泥〕はすのはへたるどろ。○〔趙秉文〕「湖船撥ニ━━一」。

【泥】 デイ、ナイ。奴計切 霽

澀滯す、とゞこほる、なづむ。○[論]「致レ遠恐レ—」。

(拘泥) なづむ。○[程史]「苟-々—-—」。

【泥】デイ、ナイ。奴禮切 薺

❶露の濃かなる貌にいふ字、こまやか。○[詩]「零-露—-—」。❷柔くして澤ある貌にいふ字。○[詩]「維葉—-—」。

【泥】テツ、デチ。徒結切 屑

涅に同じ、くろむ。○[史]「皭-然—而不レ滓」。

【泦】キク、コク。居六切 屋

❶水の文、あや。❷水厓の外、きしそゝ。

【氿】キ。矩鮪切 紙

仄より出づる泉。

【泧】エツ、ヲチ。王伐切　ケツ、ゲワチ。許月切 月

大水の貌にいふ字、又、水勢相激して涌く貌にいふ字。○[郭璞]「濆-濩—-潷」。

【泧】クワツ、クワチ。呼括切　サツ、サチ。桑葛切 曷

❶けす(濊)。❷ながす(流)。

【泩】サウ、シヤウ。師庚切 庚

❶水漲る、みなぎる。❷水深くして廣き貌にいふ字。

【泪】涙に同じ。

【注】シュ、ス。之戍切 遇

❶そゝぐ。(い)流れ射る、流れ入る。○[詩]「豐-水東—」。(ろ)傾け流す、流し入る。○[漢]「雨下如レ—」。(は)水を引く、ひく。○[漢]「—二塡-淤之水一」。(に)抒み移す、つぐ。○[荀]「挹レ水而—レ之」。(ほ)むく(向)。○[管]「君レ人者上—」。❷そゝぎながるゝ水、ながれ。○[水經、註]「微-派消—」。❸あつむ、あつまる(聚)。○[周]「令三禽—二于虞-中一」。❹うつ(擊)。○[莊]「以二黃-金一—者殙」。❺つく。(い)附著す。○[爾]「—二旄-首一曰レ旌」。(ろ)矢を弦にあてがふ、つがふ。○[左]「不レ中又—」。❻志るす(記)。○[通俗文]「記レ物曰レ—」。❼本文に解釋をつくること。○[南]「禮-儀—一-百一-十-二-卷」。

(仄注) 冠の名。○[漢、註]「言形側立而下注」。
(日注) 茶の名。○[歐陽修]「兩浙之品—-—爲二第一一」。
(跗注) 赤色の皮もてつくりたる袴の如きものにていくさの服なりといふ。○[左]「有二韎-韋之—-—一」。
(側注) 冠の名にて一に高山冠ともいふ。○[史]「衣二儒-衣冠二—-—一」。
(儀注) 歷史の一體にて吉凶行事をしるせるもの。○[舊唐]「史類十三、八曰二—-—一」。
(孤注) 財を盡くし博を賭すること。○[長編]「寇-準以二陛下一爲二—-—一」。
(奔注) 水勢はやくながれそゝぐ。○[杜甫]「溪-行水—-—」。
(流注) そゝぐ。○[蘇轍]「淋-漓汗—-—」。
(灌注) 前に同じ。○[後漢]「陂-渠—-—」。
(洄注) 前に同じ。○[後漢]「令二更相—-—一」。
(傾注) 前に同じ。○[郝經]「—-—百-千-瓮」。
(雨注) あめの如くにそゝぎかゝる。○[吳]「弓-矢—-—」。
(標注) 文字の解釋をなす。○[宋]「三-劉漢-書—-—六卷」。
(眷注) いつくしみてめをかく。○[宋]「上—-—甚篤」。
(委注) 心をよす。○[宋]「蓋不レ敢負二陛下—-—之意一」。
(渹注) みづ音はげしくながれそゝぐ。○[水經、註]「頹-波—-—」。
(瀑注) みづあさくながる。○[水經、註]「洄流—-—而已」。
(散注) ちりみだれながる。○[水經、註]「縣-水—-—」。
(懸注) たきの如く高き場所よりおちながる。○[水經、註]「石-泉—-—」。
(飛注) きはめてはげしくとぶが如く流るゝこと。○[水經、註]「瀨-勢—-—」。
(轉注) めぐりそゝぐ。○[夏竦]「金-龍—-—」。
(豐注) 水みちてながる。○[陸機]「—-—溢二修-溜一」。

【注】チュ。株遇切 遇

註に同じ、前條の❼に同じ。○[世說]「遂竊以爲二己—一」。

【注】チウ、チュ。陟救切 宥

蟲の喙、くちばし。○[周]「以レ—鳴者」。

【泫】ケン、ゲン。戸畎切 銑

❶湝流す、ながる。○[張衡]「水—-浤而涌-濤」。❷露光る、ひかる。○[謝靈運]「花-上露猶—」。❸露の垂るゝ貌にいふ字。○[謝惠連]「—-—露盈レ條」。❹涕を流す貌にいふ字。○[禮]「孔-子—-然流レ涕」。

(潸泫) なみだをながすこと。○[隋]「執レ筆—-—」。
(淚泫) 前に同じ。○[李商隱]「抔行而—-—」。
(涕泫) 前に同じ。○[蘇軾]「—-—聲輙放」。
(悲泫) かなしみてなみだをながす。○[蘇軾]「哭-語雜二—-—一」。

【泫】ケン、ゲン。胡涓切 先

水の廣き貌にいふ字。○[郭璞]「瀇-滉困-—」。

【泫】ケン、ゲン。胡絹切 霰

混合す、まじる。

【泬】ケツ、ケチ。呼穴切 屑

❶水孔穴より疾く出づ、ほとばしる。❷遹に同じ、よこしま。○[潘岳]「事回-—-而好レ還」。❸空しき貌にいふ字。○[楚辭]「—-寥兮天高而氣淸」。

【泭】フ。芳無切 虞

❶水を渡るに用ふる木を編みたるもの、一說に小さき木の栰、いかだ。○[釋水]「庶-人乘レ—」。❷水上の浮漚、あわ。

【沉】ジョウ、ニュ。乳勇切 腫

水の貌にいふ字。

【泮】ハン。普半切 翰

❶諸侯の饗射に設けられたる宮の名、東西の門より以南に水を通じ以北に墻をなせる制なりしといふ、なかば水の義。○[詩]「思樂二—水一」。❷散ず、さく。○[詩]「迨二冰未レ—」。❸判に同じ、わかる、わかつ。○[史]「天-地剖-—」。❹畔に通じ川ふつゝみ。○[詩]「濕則有レ—」。

【泯】ビン、ミン。武盡切 軫　彌鄰切 眞

❶水の貌にいふ字。○[杜甫]「春-流—-—淸」。❷盡く、ほろぶ。○[書]「民-彝大—-亂」。❸茫々、ひろし、くらし。○[書]「—-—棼-々」。

(夷泯) つきほろぶ。○[陸機]「姸-姿永—-—」。

【泯】ベン、メン。暝見切 霰

混合す、まじろ、一説に、日安からざる貌にいふ字。

【泰】タイ。他蓋切 泰

㊀易の卦名、☷☰坤上乾下 〇[易]「ー小往」。㊁さほろ(通)。〇[易]「天・地交ー」。㊂おほいなり(大)。〇[漢]「横二ー河一」。㊃はなはだし(甚)。〇[詩]「昊天ー憮」。㊄ひろし(寛)、やすし(安)。〇[論]「君子ー而不レ驕」。「於國一」。㊅おごる(侈)。〇[晉]「恃二富・寵一以ー」。㊆ゆたか(豐)。〇[應璩]「猶尙優ーー」。㊇尊くして大なるものゝ稱。〇[荀]「請占二之五ーー一」。㊈丘の名。〇[爾]「右陵ー丘」。㊉西の風。〇[爾]「西風謂二之ー風一」。㊉㊀有虞氏の時に用ひたる尊、たる。〇[禮]「ー有虞氏之尊也」。㊉㊁山東省泰安府の北にある山、東嶽、岱宗。〇[劉基]「訪二鶴凌二岱ーー一」。

〔開泰〕ひらきとほる。〇[傅亮]「天衢ーー」。
〔安泰〕やすらか。〇[易林]「歷國ーー」。
〔寧泰〕前に同じ。〇[荀]「而後ーー」。
〔否泰〕ふさがるととほると。〇[潘岳]「信人・事之ーー」。
〔驕泰〕たかぶりおごる。〇[禮]「ーー以失レ之」。
〔矜泰〕前に同じ。〇[潘尼]「顯不二ーー一」。
〔清泰〕事のおこらずして安きこと。〇[晉]「自レ茲以降、九野ーー」。「ーー」。
〔閑泰〕おづかにやすらかなり。〇[晉]「鄉恒無二ーー一」。
〔靜泰〕前に同じ。〇[嵇康]「清虛ーー」。
〔恬泰〕前に同じ。〇[白居易]「身心轉ーー」。
〔歡泰〕よろこびてやすらかなり。〇[李羣玉]「率土ーー」。「稍」。
〔稔泰〕穀物みのりてゆたかなり。〇[宋]「ーー日」。
〔豐泰〕ゆたかなり。〇[南]「所レ繼ーー」。
〔侈泰〕おごる。〇[管]「儉二財用一、禁二ーー一」。
〔奢泰〕前に同じ。〇[張衡]「故ーー肆レ情」。

【泱】アウ。於良切 陽

㊀雲氣起こる貌にいふ字。〇[射雉賦]「ーー」。「天ーー以垂レ雲」。㊁深くして廣し、ひろし。〇[詩]「維水ーー」。㊂宏大なり、おほいなり。〇[韓]「美哉ーーー乎堂々乎」。

【泱】アウ。於朗切 養

廣大なる貌にいふ字。〇[馮衍]「覽二河・華之ーー漭一」。
〔泬泱〕水の疾く流るゝ貌にいふ語。〇[郭璞]「潏湟ーー」。

【泱】エイ、イヤウ。於驚切 庚

雲の貌にいふ字。

【泱】アウ。於浪切 漾

流るゝ貌にいふ字。〇[杜牧]「蘭・溪春盡碧ーー」。

【泲】セイ、サイ。子禮切 薺

㊀沇水の別名。〇[說文]「ー沇也東流二於海一」。㊁釃みし酒、すめるさけ。〇[周註]「ー謂二醴之清者一」。

【泳】エイ、ヰヤウ。爲命切 敬

水中を潜行す、くゞる、もぐる、およぐ。〇[詩]「ーレ之游レ之」。

【洶】ダウ、チウ。尼交切 肴

ー沙は、一種の藥石。

【浫】シフ。質入切 緝

脣の聲にいふ字。

【盥】クワン。居玩切 翰

㊀きよむ(淨)。㊁そゝぐ(灑)。㊂手操ふ、あらふ。

六畫

【洼】シツ、シチ。子悉切 質

ごろ濺ぐ、そゝぐ。

【泿】ギン、ゴン。語巾切 眞 語斬切 問 トン、ドン。吐根切 元

水涯、きし。

【洀】シウ、シユ。之由切 尤

水の文、あや、さゞなみ。

【洀】盤に同じ。〇[管]「ー桓迎レ日」。

【洃】クワイ、エ。呼恢切 灰

麪粉を湊す、これる。

【洄】クワイ、エ。戸恢切 灰

㊀水流に逆ひて上る、さかのぼる。〇[詩]「溯ー從レ之」。㊁水の流るゝ貌にいふ字。〇[後漢]「立二水門一、令二更相ー注一」。㊂にぶし、くらし(惛)。〇[爾]「ーー惛也」。
〔洄洄〕水はびこり流る。〇[江淹]「江・海經ーー」。「ーー」。
〔瀠洄〕川の隈に水流れめぐる。〇[黄庭堅]「孤蒲鷗鳥樂二ーー一」。
〔潺洄〕きよらかなる水流る。〇[孟郊]「碧流率二ーー一」。「ーー」。
〔漩洄〕水めぐり流る。〇[朱熹]「鼓櫂激下水ーー」。

【洄】クワイ、エ。胡對切 隊

ー湜は、水清し、きよし。

【洅】サイ、セ。作代切 隊 子罪切 賄

雷の震ふにいふ字。

【沱】ト、ヅ。徒故切 遇

渡に同じ。

【洆】ショウ、ジョウ。辰陵切 蒸

しづむ(沒)。

【洇】イン。於眞切 眞

湮に同じ。

【洇】エツ、エチ。一結切 屑

水の流るゝ貌にいふ字。

【洉】コウ、グ。下遘切 宥

沽濡す、うるほす、うるほふ。

【洊】セン、ゼン。才甸切 霰

幾度も、たびたび、しきりに。〇[易]「水ー至習坎」。

【洊】ソン、ゾン。祖昆切 元

ー鄢は、縣の名。

【洊】ソン、ゾン。祖悶切 願 粗本切 阮

水再び至る、いたる。〇[鮑照]「流ー浰奔注」。

【洋】シヤウ。徐羊切 陽

水の名、又、州の名。

【洋】ヤウ。與章切 陽

㊀おほし(多)。〇[詩]「萬舞ーー」。㊁おほいなり(大)、ひろし(廣)。〇[詩]「牧野ーー」。㊂廣大なる、ひろがる、はびこる。〇

〔中〕「—二溢乎中國一」。

㊃さかんなり、（盛）。○〔史〕「——美德乎」。

㊄善美なり、よし。○〔書〕「聖謨——」。

㊅大いなる波、おほなみ。○〔莊〕「望レ—向レ若而歎」。

㊆廣大なる海、おほうみ。○〔徐兢〕「——中有二白水——一」。

㊇歸する所なし、さまよふ。○〔楚辭〕「焉——而爲レ客」。

〔洸洋〕ほのかにして廣し。○〔史〕「其言——自恣以適レ己」。

〔茫洋〕前に同じ。○〔柳宗元〕「其言本二儒術一、則汗漫——、而不レ知二其適一」。

〔滂洋〕ゆたかに廣し。○〔漢〕「福——」。

〔汪洋〕廣く大いなり。○〔陸機〕「肆レ志——」。

〔浩洋〕廣大なり。○〔淮〕「水——而不レ息」。

〔潢洋〕深廣なり。○〔道德指歸論〕「冥々晉々、——堂々」。

〔瀇洋〕前に同じ。○〔論衡〕「——無レ涯」。

〔絕洋〕大海を航渡す。○〔宋〕「自二定海一—レ—而東」。

〔大洋〕大海のこと。○〔耶律楚材〕「西隣二——一」。

【洌】レツ、レチ。頁薛切 屑

㊀水淸し、きよし、いさぎよし。○〔易〕「井—寒泉食」。

㊁酒のきよきにもいふ。○〔歐陽修〕「泉香而酒—」。

㊂寒し、ひやゝか。○〔宋玉〕「——風過而增二悲哀一」。

〔冷洌〕ひやゝかにして淸し、又、ひやゝか。○〔韓愈〕「酒味旣——」。

〔淸洌〕きよし、又、きよくつめたし。○〔柳宗元〕「下見二小潭一、水尤——」。

〔凝洌〕極めてひやゝかなること。○〔晏殊中園賦〕「坎井之——、「牛乳二」。

〔甘洌〕あまくしてつめたし。○〔袁桷〕「——過」

【洌】レイ、ライ。力剃切 霽

澈——は、水相撤つ、うつ。○〔司馬相如〕「轉騰澈——」。

【洓】サイ、セ。楚解切 卦

水涯、うら。

【洍】シ。象齒切 紙 イ。盈之切 支

汜に同じ。

【洀】シウ、ジュ。昌終切 東

㊀山下の泉、いづみ。

㊁水の聲にいふ字。

【洎】キ。其冀切 寘

㊀そゝぐ、（灌）。○〔周〕「及二王盥一——二鑊水一」。

㊁うるほふ、（潤）。○〔管〕「越之水重濁「而——」。

㊂およぶ、（及）。○〔張衡〕「於レ斯胥——」。

㊃肉の汁、あつもの。○〔左〕「去二其肉一而以二其—一饋」。

【洏】ジ、ニ。人之切 支

㊀煖き水、ゆ。㊁煮熟す、にる。

㊂涕流るゝ貌にいふ字。○〔陶潛〕「擧レ目淸二悽——一」。

〔漣洏〕なみだの流るゝ貌にいふ語。○〔王粲〕「涕流——」。

【洐】カウ、ギヤウ。戶庚切 庚

溝水の行くにいふ字、ながる。

【洧】俗の滑の字。

【洑】フク、ボク。房六切 屋

㊀迴流す、めぐりながる、一說に、伏して流る、かくれながる。○〔杜甫〕「——流何處入」。

㊂舟を泊する所、みなと。○〔范成大〕「右二晉家——長風——一」。

〔洄洑〕めぐり流る。○〔元好問〕「——各有レ態」。

〔湍洑〕瀨はやくして水めぐり流る。○〔水經、註〕「盤川多二——一」。

〔倒洑〕逆にめぐり流る。○〔錢起〕「石潭——蓮花水」。「——」。

〔沿洑〕流に順ひてめぐり流る。○〔張祜〕「緣岸派旋者謂二之腦岸一」。

〔淹洑〕波に隨ひてめぐり流る。○〔王周〕「——而生二萬渦一」。

〔怒洑〕水激してめぐり流る。○〔梅堯臣〕「——」

【洒】サイ、所買切 蟹 サ、沙下切 馬 セ。切 セ。切

そゝぐ、（滌）。○〔詩〕「弗レ—弗レ掃」。

【洒】セン。蘇典切 銑

㊀肅恭の貌にいふ字、うやうやし。○〔禮〕「君子之飮レ酒受二一爵一而色——如也」。

㊁水深し、ふかし。○〔爾〕「望レ厓—而高岸」。

【洒】セン。先見切 霰

散らす、まく。○〔禮〕「屑二桂與一レ薑以—二諸上一」。

【洒】ソン。蘇很切 阮

㊀驚く貌にいふ字。○〔莊〕「——然異レ之」。

㊁寒慄する貌にいふ字、をのゝく、わななく。○〔素問〕「令三人——二時寒一」。

【洒】セイ、サイ。先禮切 薺

㊀あらふ、（洗）。○〔左〕「—二濯其心一」。

㊁すゝぐ、（雪）。○〔孟〕「願爲二死者一一—レ之」。

〔滌洒〕すゝぐ、あらふ。○〔漢〕「身自——」。

【洒】サイ、セ。取猥切 賄

鮮明なる貌にいふ字、あざやか、あきらか、一說に、高峻の貌にいふ字、たかし、けはし。○〔詩〕「新臺有レ—」。

【洒】シン。思晉切 震

汎に同じ。

【涑】サク、シヤク。所責切 陌

小雨の零つる貌にいふ字、そぼふる、こさめふる。

【洔】シ。諸市切 紙

水あつばらくの閒溢したゝへて未だ減ぜざるを、にはかみづにはたづみ、一說に、沚に同じ、小き渚。○〔穆天子傳〕「天子飮二枝—之中一」。

【洔】チ、ヂ。直里切 寘

水中の高土。

【淢】キツ、キチ。休必切 質

水の流るゝ貌にいふ字。

【滑】イン。羊進切 震

小水、すこしのみづ、一說に、小水の文、あや、さゞなみ。

【洗】セン。蘇典切 銑

㊀足を洒ぐ、あしあらふ、あらふ。○〔漢〕「使二兩女子—一」。

㊁きよし、いさぎよし、（潔）。○〔書〕「自—腆致レ用レ酒」。

〔盥洗〕てあらひあしあらふ。○〔禮〕「——揚レ觶」。

〔昭洗〕明らかに淸し。○〔杜甫〕「漢官威儀重——」。

〔淨洗〕淸し。○〔周邦彥〕「露寢輕綴疑二——一」。

〔沃洗〕足をすゝぎあらふ。○〔儀〕「——者西北面」。

【洗】セイ、サイ。先禮切 薺

㊀汚穢を除き去りて淨からしむ、すゝぐ、きよむ、あらふ。○〔易〕「聖人以レ此－レ心、退藏ニ于密ニ」。㊁水を承くる器、たらひの類。○〔禮〕「設ニ－于東-榮ニ」。

〔沐洗〕ゆあみすること。○〔史〕「或不ニ－・－ニ十餘年ニ」。

〔湔洗〕すゝぐ、あらふ。○〔後漢〕「蕩-滌－・－、除ニ去疾-瘵ニ」。

〔滌洗〕前に同じ。○〔北〕「應レ從ニ－・－ニ」。

〔澡洗〕前に同じ。○〔北〕「每-旦－・－」。

〔濯洗〕前に同じ。○〔史甫道〕「－・－烟-雨後」。

〔梳洗〕櫛けづり濯ふ。○〔崔湜〕「－・－慵無レ情」。

〔磨洗〕みがき淸む。○〔杜牧〕「自將ニ－・－ニ認ニ前-朝ニ」。

〔懺洗〕過惡を悔い改む。○〔符載〕「因ニ于－・－、嘗與ニ－ニ善-友ニ、跳レ身此來」。

〔刷洗〕拭ひ淸む。○〔蔡襄〕「垢-瑕－・－」。

〔剛洗〕削りきよむ。○〔孔平仲〕「時-々又－・－」。

【洘】カウ、コウ。苦浩切 皓

水乾く、かわく。

【洙】シュ、ス。市朱切 虞

泗水に會する水の名。○〔漢〕「－・水出ニ泰-山-郡蓋-縣臨-樂-于-山ニ西-北入レ泗」。

【洚】カウ、コウ。古巷切 絳

水の量增加しつれの道によらずして流るゝこと、水勢大にして逆流すること、おほみづ。○〔孟〕「－・－水警レ我」。

【洚】コウ、ク。戶公切 東

洪に同じ。

【洛】ラク。盧各切 藥

㊀河南省にある黃河の支流。○〔書〕「伊-－-瀍-澗」。㊁河南省の河南府、卽ち、古の洛陽の稱。○〔書、傳〕「告ニ以居レ－之義ニ」。㊂水溜まり下る、したゝる。○〔山海經〕「爰有ニ淫-水ニ、其淸－・－」。㊃絡に同じ。○〔莊〕「－・誦之孫、聞ニ之瞻-明ニ」。

【洝】アン。烏旰切 翰

溫き水、ゆ。

【洝】アツ、アチ。阿葛切 曷

窪－は、卑く曲がりて平かならず、一說に、濕潤す、うるほふ。○〔馬融〕「運-裛窪－・－」。

【洞】トウ、ヅ。徒弄切 送　徒東切 東　徒孔切 董

㊀水流疾し、はやし。○〔班固〕「潰-渭－・河」。㊀ふかし（深）。○〔陸倕〕「思－希-微」。㊁むなし、うつろ、うろ（空）。○〔素問〕「神-氣內－」。㊃ほがらか（明）。○〔顏延之〕「識密鑒亦－」。㊄つらぬく。(い)通達す、さほる。○〔淮〕「遂兮－胸」。(ろ)貫徹す、さほす。○〔史〕「括蔽－レ兮」。(は)連なる、連ぬ。○〔後漢〕「連-房－・－戶」。㊅おくふかき坑穴、たに、あな、ほら、幽壑。○〔宋〕「傍爲ニ土－ニ以レ木爲レ門」。㊆質愨の貌にいふ字、つゝしむ、うやうやし。○〔禮〕「－・－乎屬-々乎」。

〔空洞〕うつろ。○〔世說〕「此中－・－無レ物」。

〔洚洞〕みづみちに從はずして疾く流る。○〔孟、註〕「水之逆行－・－無レ涯、故曰ニ洚水ニ也」。

〔澒洞〕相連なる貌にいふ語。○〔洞簫賦〕「風－・－而不レ絕兮」。

〔浩洞〕廣くして空し。○〔漢武內傳〕「九-天－・－」。

〔淵洞〕ふかし、又、深きはら穴。○〔拾遺記〕「瀛-州東有ニ－・－ニ」。

〔虹洞〕貫き通ず。○〔馬融〕「天-地－・－、固無ニ端-涯ニ」。

〔港洞〕相通ず。○〔長笛賦〕「－ニ－ニ－典-籍ニ」。

〔包洞〕兼ね通ず。○〔蔡邕〕「－ニ－・－抗-谷ニ」。

〔決洞〕はぎれよくして滯らず。○〔魏武帝令〕「材-智－・－」。

〔迢洞〕遙に通じ貫く。○〔陸機〕「舒-飄-颻以－・－」。

〔淡洞〕こまかに通ず。○〔郭璞〕「－ニ－・－深-玄ニ」。

〔滐洞〕小さき川の水の大川におち入りて疾く流るゝこと。○〔鮑照〕「－・－所レ積、溪-谿所レ射」。

〔靈洞〕くすしくとほる。○〔梁武帝〕「聞-見皆－・－」。

〔幽洞〕とづかなるはら。○〔陳子昂〕「－・－無レ留レ行」。

〔盧洞〕むなし、又、うつろ。○〔趙冬曦〕「吹-笙－・－答」。

〔遠洞〕とほくとほる、又、とほく隔たりたる所に設けあるはら穴。○〔鄭谷〕「－・－時聞レ磬」。

【洟】イ。延知切 支

鼻液、はなしろ。○〔禮〕「待ニ于廟ニ垂ニ涕－・－ニ」。

〔鼻洟〕はなより出づる液、はなしろ。○〔北〕「會下道-北垂ニ－・－者上」。

【洟】涕に同じ、なみだ。○〔禮〕「不ニ敢唾－・－ニ」。

【洣】ボウ、ム。迷浮切 尤

きし（崖）。

【洡】ライ、レ。魯猥切 賄

－陽は、縣の名。

【洡】ライ、レ。盧對切 隊

相互に漬染す、ひたす、そむ。

【洢】イ。於夷切 支

河南にある水、卽ち、伊水。

【汸】シ。卽夷切 支

具－は、山の名。

【津】シン、ジン。資辛切 眞

㊀渡處、わたし、わたしば。○〔論〕「使ニ子-路問ニ－ニ」。㊁きし（崖）。○〔呂氏春秋〕「日出ニ九-－ニ」。㊂夤緣、つて。○〔晉〕「逵曰、卿欲レ仕レ郡乎、侃曰、欲レ之困レ無レ－耳」。㊃徑路、みち。○〔庾肩吾〕「分レ流合ニ智-－ニ」。㊄他をして智を進め蒙を啓かしむること。○〔新論〕「道-象之妙非レ言不レ－」。㊅うるほふ（潤）。○〔周〕「其民黑而－」。㊆液汁、しる。○〔爾〕「今-人望レ梅生レ－」。㊇溢れこぼるゝ貌にいふ字。○〔莊〕「其中－・－乎猶有レ惡」。

〔臨津〕渡し場に至る。○〔孔叢子〕「－レ－不レ濟」。

〔玄津〕佛の敎。○〔頭陀寺碑〕「－・－重-枻」。

〔芳津〕かんばしきしる。○〔韓偓〕「梅-實引ニ－・－ニ」。

〔迷津〕渡し場の在る處を踏みまよふ、又、方向に迷ふことにいふ語。○〔孟浩然〕「游-子正－レ－」。

〔靑津〕あをきしる。○〔酉陽雜俎〕「仙-藥有ニ－・－ニ」。

〔飴津〕甘きしる。○〔益部方物畧柑贊〕「香-液－・－」。

〔餘津〕殘りしる。○〔懸遠傳〕「漱レ流者味ニ其－・－ニ」。

〔梁津〕渡し場。○〔楚辭〕「麾ニ蛟-龍ニ以ニ－・－ニ兮」。

〔洪津〕川の大いなる渡し場。○〔魏文帝〕「臨ニ－・－ニ而懷レ德」。

〔異津〕趣く所を殊別にす。○〔傅休奕〕「邪-正各－レ－」。

〔微津〕いさゝかなるうるほひ。○〔魏都賦〕「雨無ニ－・－ニ」。

〔脊津〕あぶらじみてあり。○〔郭璞〕「玉-潤－・－雪「白凌」霜」。

〔星津〕星のやどり。○〔陳後主〕「—…雖可望、詎得似人情」。

【洦】ハク、ヒャク。莫白切 陌
㊀淺水、あさきみづ。㊁古の魄の字。

【洧】ヰ。羽軌切 紙
淮水の名。

【洨】カウ、何交切 肴 ゲウ。後教切 效
水の一支流。

【汧】ケン。苦堅切 先 輕甸切 霰
ケイ、キャウ。詰定切 徑
水のながれ出づる澤、又、其の水流れ出で止まりてなれる汙池、たまりみづ、さは。○〔爾〕「—出不流〔註〕又水決之澤爲—」。

【汧】ケン。倪堅切 先
きよし、（淨）。

【洩】エイ。餘制切 霽
㊀舒び散す、ちる、のぶ。○〔左〕「其樂也—…」。
㊁飛び翔る貌にいふ字。○〔木華〕「翔霧連軒、洩々—…」。
㊂風に順ふ貌にいふ字。○〔木華〕「或掣—々—…孑裸入之國」。

【洩】セツ、セチ。私列切 屑
㊀やむ、（歇）。○〔左思〕「士怒未—」。
㊁もる、もらす、（漏）。○〔中〕「振河海而不—」。
㊂へる、へす、（減）。○〔左〕「濟其不足以—其過」。

【洪】コウ、ク。戸公切 東
㊀おほいに、おほいなり、（大）。○〔書〕「—惟我幼沖人」。
㊁水流增加して氾濫するを、おほみづ。○〔司馬相如〕「乃堙—塞源」。
㊂水中に石ありて流を阻み水と石と相迫り相擊つを、又、其の所。○〔蘇軾〕「俯聽—雙之號怒」。
㊃脈の浮き上がりて力あるを。○〔韗耕餘錄〕「脈以浮而有力爲—」。
〔庬洪〕大いなるを。○〔漢〕「湛恩—…易豐也」。
〔長洪〕おほみづ。○〔蘇軾〕「—…斗落生跳波」。
〔分洪〕水の石にせかれて激してわかれ流るゝを。○〔柳貫〕「河盤觸險聽—…」。
〔奔洪〕水の石に激してはやく流るゝ所、急に流るゝ大水。○〔揭傒斯〕「雷雨瀉—…」。

【洫】キョク、ケキ。況逼切 職
㊀田畝の閒の水道、みぞ。○〔周〕「緣邊一里治—」。
㊁城郭の周圍にある池、ほり、いけ。○〔詩〕「築城伊—」。
㊂水道の門。○〔漢〕「作方梁石—」。
㊃むなし、（虛）。○〔管〕「滿者—之」。
㊄みだる、（濫）、又、やぶる、（敗）。○〔莊〕「所行之備而不—」。
〔溝洫〕田畝の閒に設けたるみぞ。○〔周〕「匠人爲—…」。
〔封洫〕土を高く盛りあぐると溝を掘りめぐらすと。○〔左〕「田有—…」。
〔老洫〕深き堀のこと、即ち、物の深入りして救ふべからざるに至れるにいふ語。○〔莊〕「其厭也如緘、以言其—…也」。
〔田洫〕田畝の閒に設けたる溝。○〔左〕「子駟造—…」。
〔白洫〕水のなき田地の溝。○〔方太古〕「平田—…流新雨」。

【洫】イツ、イチ。弋質切 質
深き貌にいふ字、ふかし。

【洬】ソク。先篤切 沃
雨のふる貌にいふ字。

【洬】サク、ソク。色角切 覺
大風雨の貌にいふ字。

【洩】ユ。羊朱切 虞
けがる、（汙）。

【洩】イウ、ユ。以周切 尤
くろし、（皁）、一說に、帛を治む。

【洮】タウ、ドウ。土刀切 豪
㊀黄河の一支流。○〔說文〕「水出隴西臨洮東北入河」。
㊁地の名。○〔左〕「盟于—」。
㊂あらふ。
（い）洮濯す、きよむ、すゝぐ。○〔後漢〕「—汰學者之累惑」。
（ろ）髮をあらふ、手をあらふ、顏をあらふ。○〔書〕「王乃—頮水」。

【洮】エウ。餘招切 蕭
湖の名。○〔風土記〕「陽羨縣西有—湖」。

【洮】タウ、ドウ。杜皓切 皓
テウ、デウ。直沼切 篠
水の名。○〔史〕「擊布—水南北」。

【洯】ケツ、ケチ。詰結切 屑
潔に同じ。

【洫】ケキ、キョク。戸式切 職
露光、つゆのひかり。

【㳜】キウ、ク。虛尤切 尤
水の去る貌にいふ字、一說に、水の貌にいふ字。

【洰】キョ、コ。臼許切 語
水中の物夥し、おびたゞし、おほし。

【洲】シウ、ス。職流切 尤
水中に現はれ出でたる高土、す、しま。○〔詩〕「在河之—」。
〔滄洲〕水の靑々としたるすはま。○〔南〕「飛竿釣渚、濯足—…」。
〔汀洲〕水中の淺くして土砂のあらはれたる處。○〔柳惲〕「—…採白蘋」。
〔中洲〕川の眞中に土砂のあらはれたる處。○〔李白〕「願爲雙燕浮—…」。
〔芳洲〕かぐはしき花の開けるす。○〔楚辭〕「采—…兮杜若」。
〔沙洲〕すなもて成り立てるすはま。○〔薛道衡〕「浅沫擁—…」。
〔溟洲〕大海のしま。○〔顏延之〕「揄放櫂—…」。
〔霜洲〕しもの下りて寒げなるす。○〔何遜〕「—…渡旅雁」。
〔蒲洲〕がま草の生ひ茂りたるす。○〔梁元帝〕「—…涵水色」。
〔孤洲〕ひとり離れてあるす。○〔江淹〕「水鳥立於—…」。
〔荻洲〕をぎの生ひ茂りてあるす。○〔王臺卿〕「蘭橈避—…」。
〔礫洲〕小石をもてなれるす。○〔唐太宗〕「鴻鷺起—…」。「夾—…」。
〔雙洲〕二つ相ならびてあるす。○〔陳子昂〕「露島嶼」。
〔神洲〕神の住まへるしま。○〔楊維楨〕「—…移綠珠」。
〔白洲〕白き砂土もて成れるす。○〔蘇軾〕「—…生」。

【洳】ジョ、ニョ。人諸切 魚
水の名。

【洳】ジョ、ニョ。人恕切 御

水にひたり濕ふこと、又、其の地。○〔詩〕「彼汾沮ー」。

【洴】泙の本字、又、俗の洴の字。

【洵】シュン。相倫切 眞
㊀旋回する水、うづまくみづ。○〔爾〕「過爲ㇾー」。
㊁まこと、(信)。○〔詩〕「ー美且都」。
㊂とほし、(遠)。○〔詩〕「吁嗟ー兮」。

【洵】シュン、ジュン。詳遵切 眞
旬に同じ、ひとし。○〔詩〕「其下侯ー」。

【洵】ケン。翾縣切 先
とほし、(遠)。

【洶】キョウ、ク。許拱切　ショウ、シュ。符勇切 腫
㊀わく、(涌)、一說に、わき上がる水の聲にいふ字。○〔吳〕「波-濤ー-ー涌」。
㊁鼓動す、なりうごく、又、鼓動する聲にいふ字。○〔揚雄〕「ーーー旭-々」。

【洶】キョウ、ク。許容切 冬
前條に同じ、一說に、水の勢にいふ字。○〔左思〕「濞焉ーー」。

【洷】チツ、ヂチ。直失切 質
水。

【洷】チ。陟利切 寘
うるほふ、(濕)。

【洸】クヮウ。古黃切 陽
㊀水の涌光、わくひかり。
㊁水の別名。○〔水經〕「ー-水從ニ北-西ー來流注ㇾ之」。
㊂果毅の貌にいふ字、おもひきりつよし、たけし。○〔詩〕「武-夫ーー」。
㊃怒りあらだちたる貌にいふ字、あらくし。○〔詩〕「有ㇾー有ㇾ潰」。

【洸】ワウ。烏光切 陽
汪に同じ、ひろし。○〔郭璞〕「澄-瀅汪-ー」。

【洸】クヮウ、ワウ。戶廣切 漾
㊀滉に同じ、水深くして廣し。
㊁怳に通じ用ふ。○〔司馬相如〕「西望ニ崐-崙之軋-沕ー-忽ー」。

【洹】エン、ヱン。于元切 元
水の名、又、縣の名。

【洹】クヮン、グヮン。胡官切 寒
㊀前條に同じ。㊁流るゝ貌にいふ字。
〔祇洹〕寺のこと。○〔水經、註〕「建ニーー於東-園ー」。
〔盤泥洹〕泥槃のこと。○〔世說〕「與俱至ニ寺-中ー見ニ佛ーーー像ー」。

【洺】ベイ、ミヤウ。眉兵切 庚
水の名、又、州の名。

【活】クヮツ、クヮチ。戶括切 曷
㊀いく
(い)生育す、おふ。○〔詩〕「實函斯ー」。
(ろ)生存す、ながらふ。○〔孟〕「民非ニ水-火ー不ニ生-ーー」。
(は)死なざるを得、いのちたすかる。○〔史〕「母-子竟ー」。
(に)蘇生す、よみがへる。○〔晉〕「將-軍趙-固所ㇾ乘-馬死、璞曰、吾能活ㇾ馬、得ニ健-夫三-十-人ー、皆持ニ長-竿ー東-行三-十-里、當ㇾ得ニ一-物ー、宜ニ急持-歸ー、得ㇾ此馬ー矣」。
(ほ)生氣を有す、動作を爲す。○〔朱熹〕「人-心ー則周-流無ニ偏-係ー」。
㊁いくるを得しむ、死より救ふ、いかす。○〔莊〕「君豈有ニ斗-升之水ー而ーㇾ我哉」。
㊂ゆみ、(弓)。○〔孫穆〕「高-麗方-言謂ㇾ弓曰ㇾー」。
㊃水の流るゝ聲にいふ字。○〔詩〕「北-流ーー」。
〔汩活〕水の流れの疾かなる貌にいふ語。○〔馬融〕「ーー澎-濞」。
〔全活〕いかすこと。○〔漢〕「幸以ㇾ此ーニー小-臣ー」。
〔存活〕命助かること、ながらふること。○〔後漢〕「ー-ー者千-餘-人」。
〔苟活〕假初めに生きながらへてあること。○〔司馬遷〕「故每攘ㇾ臂忍ㇾ辱、聊復ー-ー」。
〔藏活〕かくまひて生かしやる。○〔史〕「所ニー-ー豪-士以ㇾ百數」。
〔濟活〕救ひ生かす。○〔後漢〕「多被ニー-ーー」。
〔長活〕ながらへ生かしやる、又、ながらへいきる。○〔後漢〕「ーニー群-盜之人ー、以ㇾ此伏ㇾ罪、含ㇾ笑入ㇾ地矣」。
〔養活〕育ひて生かしやる。○〔晉〕「今ーニー之ー」。
〔復活〕生きかへる、よみがへる。○〔晉〕「今當ニー-ー」。
〔蘇活〕前に同じ。○〔搜神記〕「至ㇾ家哭ㇾ之女卽ーー」。
〔原活〕罪を赦宥し生かしやる。○〔唐〕「ーニーー其餘ー」。
〔快活〕心地よくいきいきしてある。○〔五〕「自此我曹ーー矣」。
〔雪活〕寃をすゝぎて生かしやる。○〔宋〕「ー-ー黎-民ー以ㇾ百數」。
〔愛活〕惠みて生かしやる。○〔顏氏家訓〕「ーニー」。
〔圓活〕まどかにして精生氣采あること。○〔寶章待訪錄〕「唐人臨-寫秀-潤ー-ー」。
〔芽活〕目ぐみてあり。○〔菌譜〕「春-秋欲ㇾ動、士-鬆ー-ー」。
〔救活〕助け生かす。○〔白居易〕「燭-蛾誰ー-ー」。
〔斗升活〕わづかばかりのめぐみの義にいふ語。○〔莊〕「我東-海之波-臣也、君豈有ニー-ー之水ー而ーㇾ我哉」。
〔門中活〕濶の字のなぞ。○〔世說〕「楊-德-祖爲ニ魏-武-王主-簿ー時作ニ相-國-門ー、始構ニ榱-桷ー、魏-武自出看使ニ人題ㇾ門作ニ活字ー便去、楊見令ㇾ壞ㇾ之、旣竟曰、ーーーー濶字、王正嫌ニ門大ー也」。
〔汲々求活〕ぐづぐづと日をくらすこと。○〔南〕「丈夫寧當ニ玉-碎ー安可ニー-ーーーー哉」。
〔草間求活〕無位無官にしていきながらふること。○〔晉〕「吾備ニ位大-臣ー豈可ニ復ーーーーー哉」。
〔死中求活〕窮境におちいりても挽回の策をめぐらすことにいふ語、失敗してもたてなほすことにいふ語。○〔後漢〕「男-子當ニーーーー可ニ坐窮ー乎」。

【浖】ヘウ、ベウ。被表切 篠
水の貌にいふ字。

【洼】アイ、エ。一佳切 佳
溛ーは、水の名。

【洼】ワ、エ。烏瓜切 麻　ヰ。烏雖切 支
㊀窪に同じ、くぼみ、くぼし。○〔揚雄〕「ー洿也、自ㇾ關而東、或曰ㇾー或曰ㇾ汜」。
㊁まがる、(曲)、又、ふかし、(深)。○〔莊〕「似ㇾー者、似ㇾ汙者」。

【洼】ケイ、ケ。古攜切 齊
人の姓。

【洼】ワイ、エ。烏乖切 佳
まがる、(曲)。

【洽】カフ、ケフ。侯夾切 洽
㊀和合す、やはらぐ、かなふ。○〔詩〕「ーニ比其鄰ー」。
㊁うるほふ、うるほす、(霑)。○〔書〕「好ㇾ生之德、ーニ于民-心ー」。
㊂あまねし、(遍)。○〔後漢〕「京-師士大-夫咸推ニ其博-ーー」。
〔浹洽〕あまねし。○〔史〕「休-烈ーー」。
〔周洽〕前に同じ。○〔後漢〕「樹ㇾ恩布ㇾ德、易ㇾ以ーー」。

〔雍洽〕よろこび和ぐ　○〔漢〕二遠-近｜・｜一。
〔淵洽〕奥深くしてあまねし。○〔魏〕二尊業該通、文-史｜・｜一。
〔渥洽〕うるほす。○〔宋玉〕「常被二君之｜・｜一」。
〔匝洽〕あまねく和ぐ。○〔揚雄〕「甸-內｜・｜」。
〔下洽〕下々に及ぼし行きわたる。○〔晉、疏〕「德乃｜・｜」。
〔化洽〕德教を以て導きうるほす。○〔晉〕「豈徒｜・｜當-年一」。
〔普洽〕あまねし。○〔吳〕「大-化｜・｜」。
〔溥洽〕前に同じ。○〔漢〕「六-化神-明、鴻-恩｜・｜」。
〔和洽〕睦み協ふ。○〔詩、傳〕「天-下｜・｜」。
〔大洽〕いたく和合す。○〔儀、集傳〕「天-下｜・｜」。
〔流洽〕うるほふ、うるほす、又、あまねし。○〔漢〕「王-德｜・｜禮-樂成焉」。
〔浹洽〕うるほす、うるほふ。○〔漢〕「休-烈｜・｜」。
〔沾洽〕前に同じ。○〔後漢〕「賞-賜殊-特、莫レ不二｜・｜一」。
〔隆洽〕盛んに行きわたる。○〔漢〕「芬盛-譽｜・｜、傾二其諸-父一」。
〔宣洽〕泛く布きわたる。○〔張華〕「六-和｜・｜、通二于幽-冥一」。
〔通洽〕滯ることなくして徧く行きわたる。○〔晉〕「才-識｜・｜」。
〔優洽〕ゆたかにあまねし。○〔易林〕「仁-德｜・｜、恩及二異-域一」。
〔該洽〕兼ね博くあり。○〔晉〕「｜・｜二典-墳一」。
〔光洽〕ひかりうるほふ。○〔晉〕「威-恩｜・｜」。
〔遠洽〕あまねし。○〔南〕「聲-教｜・｜」。
〔精洽〕緻密によく行きわたる。○〔北〕「經-學｜・｜」。

【洽】カフ、コフ。葛合切　合

水の名。○〔詩〕「在二｜之陽一」。

【派】ハイ、ヘ。匹卦切　卦

㊀わかる。
（い）本流より分かれ流る。○〔左〕「百-川｜-別歸レ海而會」。「瀆一」。
（ろ）分かれ出づ。○〔北〕「疏二｜天-
㊁えだ、わかれ。
（い）わかれ流るゝ水、えだがは、みづまたながれ。○〔郭璞〕「流二九-｜平-溥-陽一」。
（ろ）支系。○〔北戶錄〕「呂-居-仁江-西詩｜・｜」。
〔淸派〕きよきえだ流れ。○〔盧貞〕「眷二縣-流之｜・｜一」。「｜羅二源-津一」。
〔支派〕えだ、わかれ。○〔杜甫〕「聖-賢池二史-籍一、｜・
〔別派〕えだを殊にす、又、わかる。○〔北〕「與二阿-翁一同レ源｜レ｜」。
〔末派〕下の流れ。○〔羅隱〕二正-憂｜・｜論-滄-海一。
〔萬派〕あまたに分かれたる流れ。○〔宋〕「譬二之｜・｜歸一レ海」。
〔宗派〕流義。○〔北夢瑣言〕「｜・｜不レ同」。
〔分流〕えだを分かつ、又、わかる。○〔李商隱〕「溢-浦二｜・｜、荊-江有二會-源一」。
〔雙派〕兩股に分かれたる水の流れ。○〔鄭谷〕「飲レ澗鹿喧｜・｜水」。
〔流派〕流れ分かる、又、えだわかれ。○〔張文宗〕「｜・｜表二靈長一」。
〔巨派〕大いなるえだがは。○〔韋莊〕「莫レ窮二其｜・｜、洪-瀾任レ歸二東-海一」。

【派】バク、ミヤク。莫獲切　陌

泉水潛み通ず、かよふ。

【洿】ヲ、ウ。哀都切　虞

㊀くぼめる處、くぼみ、又、くぼみにたまりたる濁水、たまりみづ、くぼたまり。○〔孟〕「數-罟不レ入二｜-池一」。
㊁窊下す、くぼむ。○〔禮〕「｜二其宮一而豬焉」。
㊂くぼみに水停どまる、たまる。○〔張衡〕「貯-火淳-｜」。「皆｜・｜一」。
〔燃洿〕燒けおちてくぼくなる。○〔柳宗元〕「臺-觀

【洿】コ、ク。侯古切　麌

㊀水深し、ふかし。○〔康熙〕「水深謂二之｜一」。「垣一」。
㊁そむ、（染）。○〔漢〕「以レ墨｜二色其周-｜一」。
㊂はびこる、（漫）。○〔成公綏〕「大而不レ｜」。
㊃汙穢、けがれ。○〔左〕「趙-盾爲レ政治二舊｜一」。

【洿】コ、ク。荒故切　遇

水を抒む、くむ。

【流】リウ、ル。力求切　尤

㊀ながる。
（い）水行く。○〔詩〕「如二川之｜一」。
（ろ）水に從ひ行く、うかぶ。○〔詩〕「譬二彼舟｜一」。
（は）行く。○〔杜甫〕「鬱-々｜-年度」。
（に）布く、ぶ。○〔易〕「地-道變レ盈而｜レ謙」。
（ほ）周轉す、めぐる。○〔禮〕「周-｜無レ不レ徧」。
（へ）下る。○〔詩〕「七-月｜-火」。
（と）變ず、移る。○〔周〕「寒莫レ體則張不レ｜」。
（ち）節制なくなる、志まりなくなる、みだらになる。○〔禮〕「樂勝則｜」。
（り）過ぐ、偏す。○〔家語〕「說者｜二於辯一」。「觀一」。
（ぬ）散ず、離る。○〔淮〕「擠二｜-遁之」。
（る）飛ぶ。○〔司馬相如〕「觸二白-刃一冐二｜-矢一」。
（を）根なくして起こる。○〔荀〕「｜-言｜-說」。
（わ）所定めず處る、さまよふ。○〔蘇軾〕「漂-｜二十-年」。
（か）なゝめに視る。○〔左〕「鄭-伯視-｜而行速」。
㊁ながす。
（い）灌ぐ。○〔戰〕「以-｜二魏-氏一」。
（ろ）浮ぶ。○〔荊楚歲時記〕「出二水-渚一爲二｜-觴曲-水之飲一」。
（は）行る、志き施す、下す、移す、めぐらす。○〔史〕「動二盪血-脈一而通二｜-精-神一」。
（に）放つ。○〔國〕「乃｜二王於彘一」。
㊂ながるゝもの、ながるゝ水、ながれ。○〔晉〕「以二吾之衆-旅一投二鞭於江一足レ斷二其｜一」。「人耳」。
㊃品位、志な。○〔世說〕「是第二一｜中「｜」。
㊄脈路、すぢ。○〔文心彫龍〕「經-子異レ｜」。
㊅比類、たぐひ。○〔孟〕「與二天-地一同レ｜」。
㊆擇び求む、さる。○〔詩〕「左-右｜レ之」。
㊇はしる、（走）。○〔戰〕「｜二淹于城-陽一」。
㊈王都より隔たりたる地方の稱。○〔禮〕「千-里之外曰レ采曰レ｜」。
㊉匜の水を吐く口。○〔儀〕「匜-水錯二于槃-中一南レ｜」。
⑪漢時代の銀八兩の重さの稱。○〔漢〕「他銀一-｜直千」。
〔長流〕宮の名。○〔顏氏家訓〕「名二治-獄參-軍一爲二｜・｜一」。
〔莤流〕酒の名。
〔源流〕水のながれ出づるみなもと。○〔詩譜序〕「欲レ知二｜・｜清-濁之所一レ處、則循二其上-下一而省レ之」。
〔下流〕（い）水の流れの志もつ方。○〔韓愈〕「若下河決二｜・｜一而東注上」。（ろ）臣下の位置。○〔論〕「君-子惡レ居二｜・｜一」。
〔上流〕（い）ながれのかみつ方。○〔史〕「逐二水｜・｜一」。「最｜・｜」。（ろ）優等の位置。○〔羅隱〕「顧我論二佳-句一、推レ君｜・｜一」。
〔中流〕水のながれの眞中。○〔史〕「武-王渡レ河、｜-白-魚躍入二王舟中一」。
〔放流〕放逐す。○〔史〕「屈-平雖二｜・｜一、顧二楚-國一、繫二心懷-王一」。
〔名流〕（い）聲譽世に布く。○〔漢〕「｜・｜二於世一」。（ろ）聲譽高き品流。○〔世說〕「孫-綽許-漢、皆一-時｜・｜」。
〔分流〕わかれながる、又、えだながれ。○〔漢〕「河-水｜・｜繞二城-下一」。
〔急流〕迅きながれ。○〔薛道衡〕「揚レ船泝二｜・｜一」。
〔風流〕風雅品流みやびたること、すき。○〔晉〕「高-邁不-羈、｜・｜爲二一-時之冠一」。
〔涓流〕さゝやかなる水のながれ。○〔後漢〕「｜・｜雖レ寡、浸-成二江-河一」。

〔倒流〕水逆に行く。○〔海賦〕「百川－－」。
〔淸流〕（い）澄める水のながれ。○〔晉〕「西州入士、得レ沐ニ浴于－－一」。（ろ）潔白なる品流。○〔魏〕「動伏ニ名義一、有ニ－－雅望一」。
〔濁流〕淸まざる水のながれ。○〔劉克莊〕「盡投ニ唐－－一」。
〔係流〕すぢみち。○〔南〕「粗立ニ－－一、書貫不レ就」。
〔勝流〕優れたる品流。○〔南〕「州里－－、特相敬重」。
〔支流〕えだながれ、本流より分かれて流るゝこと。○〔唐〕「－－三百六十」。
〔細流〕さゝやかなるながれ。○〔管〕「江海不レ逆ニ－－一、故爲ニ百川長一」。
〔小流〕前に同じ。〔荀〕「不レ積ニ－－一、無ニ以成ニ江河一」。
〔湍流〕急なるながれ。○〔九章〕「長瀨－－泝ニ江潭一兮」。
〔洪流〕大いなる水のながれ。○〔傅毅〕「被ニ崑崙之－－一」。
〔碧流〕あをあをとせる水のながれ。○〔孫知之〕「下有ニ－－水一」。
〔安流〕徐かなる水のながれ。○〔孟浩然〕「日夕常－－」。
〔寒流〕冷かなる水のながれ。○〔謝朓〕「－－自淸泚」。
〔凡流〕通常なる品流。○〔任昉〕「臣素門－－、輪翮無レ坂」。
〔周流〕徧く布く。○〔易〕「－ニ流六虛一」。
〔合流〕一つになりながれ行く。○〔晉、傳〕「四水－－」。
〔橫流〕順序によらぬながる。○〔上林賦〕「－－逆折」。
〔順流〕逆ふ所なくながれ行く。○〔新語〕「百川－－」。
〔逆流〕前條の反、順序によらぬながれ行く。○〔呂氏春秋〕「大溢－－」。
〔通流〕かよひて滯り塞がる所なし。○〔南〕「水陸－－」。
〔迅流〕急なる水のながれ。○〔晉〕「橫ニ截－－一」。
〔溯流〕游泳に逆したること。○〔史〕「勾踐發ニ－－二千一」。
〔混流〕入り雜りてながる。○〔晉〕「涇渭－－」。
〔輩流〕同僚のこと、なかま、ともだち。○〔韓愈〕「同時－－多ニ士道一」。
〔儕流〕前に同じ。○〔蕭子良〕「常順ニ－－一入ニ正道一」。
〔學流〕學派といふに同じ、學問上に於ける意見の異なりたるより生ぜる派別。○〔北〕「唯取ニ－－先相依附者一」。

〔湓流〕溢り出でてながる。○〔唐〕「井水－－」。
〔平流〕（い）通常なる品流。○〔唐〕「寒族－－以ニ替業一去」。（ろ）穩かなる水のながれ。○〔白居易〕「緋紗燭下水－－」。
〔幹流〕轉じ行く。○〔鷗冠子〕「－－遷移、固無ニ休息一」。
〔伏流〕水の地の下をながるゝこと。○〔錢起〕「鑿井通ニ－－一」。
〔瀉流〕そゝぎながる。○〔水經註〕「衆川－－、合成ニ一川一」。
〔激流〕水勢烈しくながる。○〔謝靈運〕「－－遂聚レ沫」。
〔弱流〕水勢緩くながる。○〔西王母傳〕「濟ニ－－之津一」。
〔奔流〕勢はやくながる。○〔唐太宗〕「－－洒ニ絡縵一」。
〔錙流〕僧侶の仲間。○〔盧綸〕「泯跡在ニ－－一」。
〔俗流〕普通社會の仲間のこと。○〔韓愈〕「－－知者誰」。

【沿】治に同じ。○〔靈臺碑〕「復ニ－－黄屋一」。

【泍】ホン。補門切 元
水急なり、はやし。

【洇】ケン。古偃切 阮
あな（竇）。○〔王盤〕「必置ニ－竇一以便ニ通泄一」。

【泆】イツ、イチ。余日切 質
きし（涯）。

【淜】ヒヨウ、ビヨウ。皮氷切 蒸
舟なくて河を渡ること、かちわたり。

七畫

【浖】レツ、レチ。力輟切 屑
㊀きし（厓）。㊁山上にある水。

【浘】ビ、ミ。無匪切 尾
㊀海水の洩るゝ所、一説に、泉の底。㊁水の流るゝ貌にいふ字。○〔韓詩外傳〕「河水－－」。

【浙】セツ、セチ。旨熱切 屑 セイ。征例切 霽
㊀浙江省にある水の名。○〔史〕「至ニ錢塘一臨ニ－江一」。㊁米を洗ふ、こめさぐ、一説に、よなぐ、（汰）。

【湓】ホン、ボン。蒲悶切 願
水の出づる貌にいふ字、わく。

【浚】シュン。私閏切 震
㊀くむ（抒）。○〔左〕「－レ我以生」。㊁水底を深くす、さらふ。○〔春秋〕「冬－レ洙」。㊂ふかし（深）。○〔北〕「黄河急－」。㊃つゝしむ（敬）。○〔揚雄〕「稟－－敬也、秦晉之閒曰レ稟、齊曰レ－」。㊄まつ（須）。○〔書〕「夙夜－レ明有レ家」。
〔函浚〕奥ふかし。○〔郭有道碑〕「祟壯－－」。
〔宏浚〕水ひろくふかし。○〔顧凱之〕「赤崇隱而－－」。

【浚】踆に通じ用ふ、ふしいだく。○〔劉歆〕「鳥脇ニ翼之－－一」。

【浛】カン、ゴン。胡紺切 勘
水の泥に和したること。

【浛】カン、ゴン。胡南切 覃
しづむ（沈）。○〔王子年〕「－－天蕩々望蒼々」。

【浜】ハウ、ヒヤウ。布耕切 庚
船を安んずる溝、一説に、船を納るゝ溝。○〔李翊〕「絶レ橫斷レ港謂ニ之－一」。

【浜】ハウ、ヒヤウ。布梗切 梗
浦の名。

【浞】サク、ソク。士角切 覺
ぬる、ぬらす（濡）、ひたす、ひたる（漬）。

【浟】イウ、ユ。以周切 尤
水の流るゝ貌にいふ字。○〔木華〕「－－淡瀲灧」。
〔浟々〕水のながるゝ貌にいふ語。○〔柳宗元〕「瀰水之－－兮」。

【滌】テキ、チヤク。亭歷切 錫
すみやか、はやし（速）、一説に、利を欲する貌にいふ字。○〔易〕「其欲－－」。

【浡】ホツ、ボチ。蒲沒切 月
㊀おこる（作）。○〔孟〕「苗－－然興レ之矣」。㊁さかんなり（盛）。○〔左思〕「歊霧漨－－」。㊂わく（涌）。○〔淮〕「原流泉－」。㊃憤りむすぼる貌にいふ字。○〔馮衍〕「氣滂－而雲披」。㊄にごる（渾）。
〔渹浡〕水のわく貌にいふ語。○〔劇秦美新〕「－－沕潏」。

【浢】トウ、ヅ。田候切 宥
水の名。

【浝】バウ、メウ。眉教切 效
大水の貌にいふ字。

【浣】クワン、胡玩切 翰 グワン。戸管切 旱
あらふ、すゝぐ（滌）。○〔史〕「身自－－滌」。

【浣】クワン、ゲン。戸版切 [潸]
水の名。

【浤】クワウ、キヤウ。乎萌切 [庚]
水の湧き上がる貌にいふ字。〇〔木華〕「――汨々」。

【浥】イフ、オフ。乙及切 [緝]
うるほふ（潤）、ひたる（漬）。〇〔詩〕「厭―行―露」。
〔潤浥〕うるほふ。〇〔王襃〕「衣裳――蘭蕙淸」。

【浥】エフ、オフ。乙俠切 [葉]
㈠前條に同じ。
㈡くぼむ、くぼみ（窊陷）。〇〔漢〕「踰波趨―」。

【浥】アフ、エフ。乙甲切 [洽]
水流れ下だる、ながる、そゝぐ。〇〔郭璞〕「乍―乍堆」。

【浦】ホ、フ。滂古切 [麌]
㈠水に瀕したる土地、うら。〇〔詩〕「率二彼淮―一」。
㈡枝流の江海に注ぐ口。〇〔風土記〕「大水有二小口一、別通曰レ―」。

【涅】エイ、イヤウ。以整切 [梗]

【涅】テイ、チヤウ。丈井切 [梗]
ごろ、なり、（泥滓）。

湼に同じ、通流す、ながろ、さほろ。〇〔管〕「聖人之動靜開闔詘信、―濡取與之必因二于時一」。

【浧】エイ、イヤウ。於政切 [敬]
水の名、一説に、よどむ（瀠）。

【浧】古文の澄の字。

【浨】ラン、ロン。盧感切 [感]
梨の汁を藏む、をさむ。

【活】クワツ、クワチ。古活切 [曷]
水の流るゝ聲にいふ字。

【浩】カウ、ゴウ。胡老切 [晧]
㈠大水の貌にいふ字、ひろし、おほいなり。〇〔書〕「――滔レ天」。
㈡ゆたか（饒）。〇〔禮〕「用有レ餘曰レ―」。

【浩】カフ、コフ。古沓切 [合]
㈢水をそゝぎて酒をたらす、ゐたむ。

【浥】ヒツ、ヒチ。遏密切 [質]
―亹は、縣の名、又、水の名。
滓を去ろ、こす（漉）。

【浪】ラウ。魯堂切 [陽]
流るゝ貌にいふ字。〇〔屈平〕「霑二余襟一之――」。
〔聊浪〕放蕩の貌にいふ語、ほしいまゝ。〇〔揚雄〕「――乎宇内一」。
〔滓浪〕驚きみだるゝ貌にいふ語。〇〔張衡〕「檸㝹――」。
〔淋浪〕みだるゝ貌にいふ語。〇〔韓愈〕「――身上衣」。
〔蒼浪〕前に同じ。〇〔白居易〕「鬢髮――牙齒踈」。
〔汪浪〕さかんにながるゝ貌にいふ語。〇〔柳宗元〕「涙――隕レ軾」。

【浪】ラウ。來宕切 [漾]
㈠なみ（波）。〇〔南〕「願乘二長風一破二萬里―一」。
㈡なみ起こる、なみたつ。〇〔康熙〕「水激レ石遏レ風則―」。
㈢うごく、うごかす（鼓）。〇〔孔稚圭〕「―二棹上京一」。
〔譃浪〕たはむる。〇〔詩〕「――笑敖」。
〔破浪〕なみのなかをつきすゝむ。〇〔杜甫〕「風期終―レ―」。
〔驚浪〕さかんにわきたつなみ。〇〔南〕「值風――、不二暫停止一」。
〔駭浪〕前に同じ。〇〔郭璞〕「――暴灑」。
〔怒浪〕前に同じ　〇〔圖畫見聞錄〕「尊爲驚濤――」。
〔飛浪〕前に同じ。〇〔孔稚圭〕「――突雲」。
〔巨浪〕おほなみ。〇〔水經、註〕「――長湍」。
〔長浪〕前に同じ。〇〔鮑照〕「勞舟賦二――一」。
〔高浪〕前に同じ。〇〔杜甫〕「長風駕二――一」。
〔銀浪〕しろかねの如き光りあるなみ。〇〔梁武帝〕「――翻緑苹」。
〔猛浪〕つよきなみ。〇〔吳〕「浮二于――之中一」。
〔波浪〕なみ。〇〔元稹〕「――沒過螢」。
〔走浪〕水勢のはやきなみ。〇〔江淹〕「馳湍――」。
〔舂浪〕前に同じ。〇〔駱賓王〕「下瀨――迅波所二爭射一」。
〔濯浪〕なみにのる。〇〔杜甫〕「黃牛平――」。
〔浮浪〕さまよふと、又、あぶれもの。〇〔梅堯臣〕「――審生亦貪レ利」。

【浪】ラウ。里黨切 [養]
孟―は、精要ならざると、おろそか。〇〔莊〕「夫子以爲二孟―之言一」。

【浮】カン。許旱切 [旱]
―安は、水のためり潤ふ貌にいふ語。

【浬】リ。陵之切 [支]
呢―は、「ぺるしや」の酋長の名。

【浮】フウ、ブ。房尤切 [尤]
㈠うかぶ、うく。
（い）水の上に在り。〇〔韓〕「若二水之流一若二舟之―一」。
（ろ）水流に順ひて行く。〇〔書〕「―二於濟漯一」。
（は）底より上へあがる。〇〔張載〕「芳餌沉而鱏鯉―」。
（に）漂ふ、著止せず。〇〔後漢〕「泮二―南北一、復二歸邦卿一」。
（ほ）跳ろ、揚がる。〇〔淮〕「―二揚乎無畛崖之際一」。
（へ）著所なくして生ず。〇〔列〕「景風翔慶雲―」。
（と）うかばしむ、うかす。〇〔文子〕「―二舟江海一」。
㈡水を濟るに溺れざる爲めに體につくる具、昔は瓠を腰につけて其の用をなしたりといふ、うき。〇〔淮〕「百人抗レ―」。
㈢あふろ（溢）。〇〔應瑒〕「披二山麓一而溢―」。
㈣すぐ（過）。〇〔禮〕「恥三名之―二于行一」。
㈤時より先んず、さきんず、かつ。〇〔書〕「鮮下以不レ―二于天時一」。
㈥蒸す。〇〔詩〕「烝レ之―レ之」。
㈦かろし（輕）。〇〔國〕「疏二其穢一而鎭二其―一」。
㈧雨雪盛んにふる貌にいふ字。〇〔詩〕「雨雪――」。
㈨衆くして彊き貌にいふ字、おほし、つよし。〇〔詩〕「江漢――」。
㈩罰として飮ましむる杯酒。〇〔禮〕「若レ是者―」。
⑪一種の竹。〇〔祓凱之〕「―竹亞節虛軟厚肉」。
⑫一種の石、輕くして水にうくもの。〇〔左思〕「―石若レ桴」。
〔天浮〕星の名。〇〔甘氏星經〕「――四星在二左旗南北一、列主二漏刻一」。
〔沈浮〕水の中にしづむとうきあがるとのことにて、又、定なりなきの意にいふ語。〇〔漢〕「英華――」。

〔輕浮〕かろし。○〔易、疏〕「[illegible]──」。
〔澆浮〕輕薄なること。○〔易、疏〕「中-古之時事漸──」。

【浯】ゴ。五乎切 〔虞〕
水の名、又、溪、又、江の名。

【浰】レン。郎甸切 〔霰〕 り。力至切 〔寘〕 レイ、ライ。郎計切 〔霽〕
疾く流る、すみやか、ながる。○〔司馬相如〕「倏-胂倩-─」。

【氵壯】サウ。側亮切 〔漾〕
米を甑に入れて炊ぐ、むす、かしぐ。

【浲】漨、又、洚に同じ。

【淯】ヨク、エキ。逸織切 〔職〕
肥えて澤あり。

【氵耴】セフ。叱涉切 〔葉〕
涏─は、纔に水あること、一說に、水の出づること。

【氵耴】ゼフ、日涉切 テフ、敕涉切 〔葉〕 子フ。
水の貌にいふ字。

【浴】ヨク。俞玉切 〔沃〕
㊀あぶ。
(い)體に湯水を灑ぐ、そゝぎて體を洗ふ、ゆをつかふ、あらふ。○〔史〕「新─者必振レ衣」。
(ろ)潔め治む。○〔禮〕「儒有二澡レ身而─レ德」。
(は)そゝがれ受く。○〔班固〕「沐二─元-德一」。
㊁他の體に湯水を灑ぐ、あぶす、あらふ。○〔韓愈〕「坐二足-下三-二─而三三-薰之一」。
〔溫浴〕ゆあみのへやにて湯をつかふ。○〔禮〕「男-女不二共──一」。
〔澡浴〕はだか身にてゆあみす。○〔左〕「欲レ觀二其─一」。
〔盥浴〕てをあらふとゆあみすと。○〔後漢〕「不レ好二──一」。
〔乾浴〕夜いぬる時に兩手にてからだをこすることをいふ。○〔雲笈七籤〕「夜臥時、常以二兩-手一、揩二-摩身-體一、名曰二──一」。
〔澡浴〕からだを洗ふ。○〔晉〕「──自潔」。
〔洗浴〕前に同じ。○〔佛國記〕「──出レ池」。
〔入浴〕湯水のなかへいりてからだをあらふ。○〔山海經〕「西-海有二黃-池一、婦-人──」。

【涾】サツ、サチ。姊末切 〔曷〕
水を灑ぐ、そゝぐ。

【氵丹】タン、トン。他甘切 〔覃〕
消──は、蛟き波の貌にいふ語。

【浵】トウ、徒冬切 〔冬〕 ヅ。徒紅切 〔東〕
汪──は、水の深き貌にいふ語。

【浶】ラウ、ロウ。郎刀切 〔豪〕
─浪は、浪の字の熟語を見よ。

【海】カイ。呼改切 〔賄〕
うみ。
(い)地球上の陸地にあらざる部分にて鹹水のたゝへ溜まりたる所。○〔書〕「江-漢朝二宗于─一」。
(ろ)うみの水、卽ち、鹹水。○〔漢〕「煮レ─爲レ鹽」。
(は)物事の聚まりたゝへたる所。○〔抱朴〕「許-下人-物之─也」。
〔四海〕世の中、天下、全國內。○〔書〕「文-命敷二──一」。
〔河海〕黃河とうみと。○〔禮〕「皆先レ─而後レ─」。
〔浮海〕舟筏などにてうみにのりいだすこと。○〔論〕「乘レ桴─二于─一」。
〔汎海〕前に同じ。○〔晉〕「安嘗與二孫-綽等一─レ─」。
〔瀛海〕うみ。○〔張協〕「人生二──內一」。
〔巨海〕大海といふに同じ。○〔史〕「齊東有二──一」。
〔滄海〕前に同じ。○〔李商隱〕「──月明珠有レ淚」。
〔陸海〕くがとうみとのこと、又、大いに土地の膏沃なる稱。○〔後漢〕「三-輔平-敞、四-面險-固、土-地肥-美、號爲二──一」。
〔艇海〕大船のこと。○〔藝文類聚〕「──大-船也」。
〔渡海〕うみをのりこゆ。○〔九國志〕「猶二鐵-船─一」。
〔銀海〕しろかねの如き光りあるうみ、又、道家にては眼の異名として用ふ。○〔蘇軾〕「光搖二──一眩レ生レ花」。
〔苦海〕世の中の光も厭ふべきくるしき場處などにいふ語。○〔邢部〕「負二沈-石于──一」。
〔酒海〕さけのいれあるもの。○〔白居易〕「就二花-枝一移二──一」。「無レ涯─」。
〔愁海〕うれひのたはくあること。○〔孟郊〕「──浩」。
〔薄海〕うみにつくこと。○〔書〕「外─二四─一」。
〔踏海〕うみを渡る、又、うみに入る。○〔史〕「則連有下─二東─一而死上耳」。
〔並海〕うみによりそふこと。○〔漢〕「─レ─所レ過、禮二-祠其名-山大-川一」。
〔乘海〕うみを船にてわたる。○〔後漢〕「自レ此南─レ─」。
〔航海〕前に同じ。○〔宋〕「─レ─歸レ周」。
〔帶海〕うみをひかふ。○〔晉〕「依レ山─レ─」。
〔絕海〕うみをよこぎること、又、極めて遠くはなれたるうみ。○〔梅堯臣〕「資-遠─レ─至」。
〔淳海〕ふかきうみ。○〔劉秦美新〕「崇-岳──」。
〔浪海〕なみたかきうみ。○〔梁武帝〕「振二沈-溺于──一」。
〔佛海〕ほとけのみち。○〔梁武帝〕「同二歸──一」。
〔法海〕前に同じ。○〔王勃〕「六-塵淸二──一」。
〔環海〕うみをもて陸地をめぐらす。○〔黃滔〕「─レ─象二瀛-洲一」。
〔桑海〕桑田も海にかはるあるより世のうつりかはるさまをいふ語。○〔李商隱〕「人-間──朝-夕變」。
〔曠海〕ひろやかなるうみ。○〔薛能〕「唯思──無二休-處一」。

【浸】シン。子鴆切 〔沁〕
㊀ひたす、又、ひたる。
(い)水につけぬらす、又、水につかりぬる。○〔詩〕「─二彼苞-稂一」。
(ろ)沒む。○〔史〕「城不レ─者三-版」。
㊁うるほす、うるほふ、(潤)。○〔詩〕「─二彼稻-田一」。
㊂水のたゝへ聚まりたる所の總稱、さは、みづたまり。○〔周〕「揚-州其─「五-湖」。
㊃漸に同じ。
(い)度まし加はる、すゝむ。○〔易〕「剛─而長」。
(ろ)やうやく、やゝ、ますます。○〔揚雄〕「─以光-大」。
〔浸浸〕水はびこりひたす。○〔書、疏〕「滔者──之名」。
〔積浸〕おほいにしみうるほす。○〔禮、註〕「養者─二─成長之一」。
〔稽浸〕水のさかんにひたすこと、卽ち世の中のさかんならざる時などにいふ語。○〔晉〕「時遂二──一」。
〔潦浸〕雨水ひたす、又、みづたまり。○〔宋〕「東-土──」。
〔漬浸〕ひたしうるほす、又、ひたりうるほふ。○〔南〕「當二蒸──一」。
〔涵浸〕ひたすこと。○〔唐〕「蒸-釀──」。
〔濤浸〕あらき瀾。○〔子華子〕「如レ涉二──一」。
〔漂浸〕たゞよはしひたす、たゞよひひたる。○〔星經〕「─二─宮-館一」。
〔泛浸〕前に同じ。○〔水經、註〕「─二─瓠-子一」。
〔淳浸〕ふかくたまりたるさわの水のこと。○〔煎茶水記〕「蒸二──而育二泉-源一」。
〔巨浸〕おほいなるさは。○〔春渚紀聞〕「三-湖皆浸-水──」。
〔洑浸〕水をそゝぎかけうるほす。○〔孔叢〕「──以レ時」。
〔灣浸〕ゆたかなるさはみづ。○〔傅亮〕「遍二───干中-國一」。

【浸】シン。七林切 〔侵〕
ひたす、(淫)。○〔王褒〕「─淫-叔-子遠二其類一」。

【浹】セフ。子協切 葉
㊀とほる、(徹)。○[淮]「不レ—二於骨髓一」。
㊁あまねし、(徧)。○[漢]「教-化—洽」。
㊂めぐる、(周)。○[荀]「以旁二皇周三—于天-下一」。
㊃うるほふ、(霑)。○[阮咸]「慶—二於恩-波一」。
(洽浹) あまねし。○[漢]「不レ能二——一如二劉-向父-子及揚-雄一也」。
(普浹) 前に同じ。○[狄仁傑]「此由二恩不二——一」。
(均浹) 前に同じ。○[後漢]「多不二——一」。
(欣浹) みたしむ。○[宋]「情-好——」。
(霑浹) うるほふ。○[程史]「尊二重閣一而—二于慶-施一」。
(流浹) あまねくうるほふ。○[崔駰]「積澤——」。

【沖】チウ、チユ。敕中切 東
瀜の條を見よ。

【洭】キヤウ、ガウ。渠王切 陽
水の貌にいふ字。

【浻】ワウ。烏猛切 ケイ、ギヤウ。俱永切 梗
滉の條を見よ。

【浼】バイ、メ。武罪切 賄 バン、マン。謨官切 寒 母伴切 旱 莫半切 翰
けがす、けがる、(涴)。○[孟]「爾焉能—レ我哉」。
(墮浼) けがれ。○[劉兗]「自可レ墮二——一」。

【浼】ベン、メン。美辨切 銑
水の貌にいふ字、一説に、水の平かに流るゝ貌にいふ字。○[詩]「河-水——」。

【浽】スヰ。息遺切 支
—微は、小雨、こさめ。

【浽】ダイ、ヌ。奴罪切 賄
にごる、(濁)。

【涁】テイ、チヤウ。敕貞切 庚 シン。資辛切 真 サ、セ。側加切 麻
棠と棗との汁。

【浿】ハイ。普蓋切 泰 ハイ、ヘ。普拜切 卦
水の名。○[山海經]「—水出二遼-東塞-外一」。

【涀】ケン、ゲン。形甸切 霰
水の名。○[山海經]「醴-水東-流注二于—水一」。

【涀】ケン。吉典切 銑
小さき溝、こみぞ。

【涀】ケイ、ガイ。胡禮切 薺
高陵に在る水の名。

【渗】シン、ソン。所禁切 沁
滲に同じ、もる。

【涂】ト、ヅ。同都切 虞
㊀みち。
(い)溝に沿ひたる塗、みぞみち。○[周]「洫上有レ—」。
(ろ)道路。○[周]「設二國之五-溝十-—一」。
(は)堂中の磚を布きたる往來の道。○[周]「堂—十有二-分」。
㊁露の厚き貌にいふ字。
㊂一種の石。○[山海經]「箕-尾之山多二—石一」。
㊃十二月の異名。○[爾]「十-二-月曰二—月一」。

【涂】チヨ、ヂヨ。陳如切 魚
滁に同じ、水の名。

【涂】タ、デ。直加切 麻
沮洳、みづびたし、一説に、かざり、(飾)。

【涂】ヤ、エ。余遮切 麻
涿—は、山の名。

【涂】余に同じ、—吾は、水の名。

【涄】ヘイ、ヒヤウ。滂丁切 青
水の貌にいふ字。

【涅】デツ、ネチ。如結切 屑
㊀水中にある黑色の土、くろつち、どぶどろ。○[淮]「以レ—染レ緇則黑二於—一」。
㊁かはる、かふ、(化)。○[揚雄]「—化也、燕、朝-鮮洌-水之閒曰レ—、或曰レ譁、伏レ卵而未レ孚始化之時謂二之—一」。
㊂汚染す、くろむ、そむ。○[拾遺記]「雖二滯-汚漬——一」。
(刻涅) いれづみ。○[晉、傳]「—二其額一而—レ之曰レ墨」。
(緇涅) くろくそむ。○[劉鑠]「伊、余久——」。

【涆】カン。侯旰切 翰
㊀かわく、(乾)。
㊁水の迅く流るゝ貌にいふ字、はやし。○[左思]「滮-々——」。

【洟】ヒ、ビ。毗意切 寘
なみだ、はなしる、(涕)。

【涇】ケイ、キヤウ。古靈切 青
とほる、(通)。○[莊]「—流之大」。

【涇】ケイ、キヤウ。棄挺切 迥
いづみ、(泉)。

【涇】ケイ、キヤウ。古定切 徑
直なる流。

【消】セウ。相幺切 蕭
㊀きゆ。
(い)滅盡す、つく、ほろぶ、うす。○[易]「小-人道—」。
(ろ)ちる、(散)、とく、(釋)。○[莊]「正レ容以悟レ之使二人之意也—一」。
(は)へる、(耗)。○[後漢、註]「水應レ時自—」。
㊁きえしむ、つくす、ほろぼす、ちらす、とく、へらす、けす。○[張衡]「—二雰-埃於中-宸一」。
㊂痟に通じ用ふ、せうかち病。○[後漢]「素有二—-疾一」。
㊃逍に通じ用ふ。○[禮]「—二遙于門一」。
(掃消) へる。○[阮籍]「精-神自——」。
(削消) 前に同じ。○[易林]「日以——」。
(芒消) 消石のこと。○[本草]「消石一名二——一、一名二焰-消一、一名二火消一、一名二生-消一」。

【涉】セフ、ゼフ。時攝切 葉
㊀わたる。
(い)徒行して水を越ゆ、かちわたりす。○[易]「利レ—二大-川一」。
(ろ)ふ、(經)。○[枚乘]「背レ秋—レ冬」。
(は)一事にのみ專精ならずして彼れ此れに通ず。○[後漢]「少好レ學

博二一書記一。

㊁わたる所、わたし。○〔郭璞〕「九流之津一一」。

〔跋涉〕草のなか水のなかなどを行くこと、みちによらずして山河をこゆること。○〔詩〕「大夫一一」。

〔濟涉〕水をわたること。○〔後漢〕「錐二于一一一」。

〔遊涉〕あそびあるくこと。○〔晉〕「一一至夜還」。

〔徒涉〕かちわたり。○〔白居易〕「大宙一一水如湯」。

「一一」。

〔僭涉〕たのびやかにわたる。○〔左〕「越子以二三軍一」。

〔步涉〕陸をあゆむと水をわたると。○〔後漢〕「舟車足以代二一一之艱一」。

〔通涉〕前に同じ。○〔晉〕「一二一經史一」。

〔關涉〕あづかりわたること。○〔沈約〕「觸レ事一一」。

〔干涉〕前に同じ。○〔金〕「固不二敢一一一」。

〔浮涉〕わたること。○〔蜀〕「一二一江海一」。

〔汎涉〕前に同じ。○〔晉〕「一一一百家一」。

〔經涉〕へわたること。○〔晉〕「一二一累朝一」。

〔歷涉〕前に同じ。○〔蔣伸〕「一二一清途一」。

〔登涉〕山にのぼり水をわたる。○〔晉〕「一二一山水一」。

〔冒涉〕風波などをたのぎわたる。○〔宋〕「一二一風濤一」。「一一一一」。

〔該涉〕いづれにもかねわたる。○〔玉海〕「無レ不二一一一」。

〔精涉〕くはしく通ずること。○〔陶弘景〕「自レ非下闘二練經書一、一二一道數上者」。

〔沿涉〕水の流れにしたがひわたる。○〔裴廸〕「一一白南津」。

【涉】テフ。的協切 葉
喋に同じ、血の流るゝ貌にいふ字。

【淀】セン、ゼン。似沿切 先 辭戀切 霰
同る泉、いづみ。

【涊】デン、ヂン。乃殄切 銑
汗の出づる貌にいふ字。○〔枚乘〕「一一然汗出」。
〔澳涊〕（い）垢つき濁る。○〔陸機〕「故一一而不レ鮮」。（ろ）弱しく醜き貌にいふ語。

【涊】ジン、ニン。而軫切 軫
水の名。

【涹】トツ、トチ。他骨切 月
なめらか（滑）。

【涌】ヨウ、ユ。余隴切 腫
わく。（い）水濆き出づ、水おこり騰がる。○〔後漢〕「飛泉一一出」。（ろ）盛んに起こる。○〔吳、註〕「令二人氣一如レ山」。
〔洶涌〕波わきたつこと。○〔吳、註〕「見二波濤一一一」。
〔鋆涌〕さかんにわくこと。○〔蘇軾〕「北勢不レ至于激怒一一一」。
〔波涌〕なみおこる。○〔後漢〕「風驟一一」。
〔掀涌〕たかくあがりわく。○〔惠洪〕「潮歸自一一」。

【涎】セン。夕連切 先
㊀口中より自から出づるねばき津液、慕欲の念おこりたるときに出づるを多し、よだれ。○〔賈誼〕「垂レ一相告」。
㊁粘液ねばきしろ。○〔炮炙論〕「煎レ之有レ一」。
〔蝸涎〕かたつぶりのねばきしろ。○〔蘇軾〕「一一上二綵壁一」。

【涎】エン。延面切 霰
水の流るゝ貌にいふ字。○〔木華〕「迺二一一八裔一」

【涏】テイ、ヂヤウ。徒鼎切 迥
㊀涇寒し、ひやゝか。
㊁波の直ぐなること。○〔爾〕「直波爲レ徑」〔註〕「言二徑一一一」。

【涏】テン、デン。堂練切 霰
㊀美好なる貌にいふ字、うつくし、よし。
㊁光澤ある貌にいふ字、つや／＼し。

【涐】ガ。五何切 歌 語可切 哿
江水の一支流。

【涑】ソウ、ス。速侯切 尤
あらふ、すゝぐ（澣）、又、手にてあらふ、又、一說に、生練を濯ふにいふ字。

【涑】シウ、シユ。所救切 宥
㊀口を盪す、くちすゝぐ。
㊁水敗る、やぶる。

【涑】ソク。蘇谷切 屋 ショク、ソク。須玉切 沃
水の名。○〔左〕「伐二我一川一」。

【涒】トン。他敦切 元
食しおはりたるものを復た吐く、はく。

【涒】井ン。紆綸切 キン。倶倫切 眞 ウン、ヲン。于云切 文
一濄は、水の流れて曲折する貌にいふ語。○〔郭璞〕「一一濄淵濴」。

【涓】ケン。古懸切 先
㊀小さき水、こみづ、ちよろ／＼水。○〔水經、註〕「有二微一一細水流入二井中一」。
㊁小さき水の流るゝ貌にいふ字、ちよろ／＼。○〔潘岳〕「泉一一而吐レ溜」。
㊂細小の義に借りいふ字。○〔盧懷愼〕「報レ德空思奉二細一一」。
㊃えらぶ（擇）。○〔左思〕「一二吉日一陟二中壇一」。
㊄のぞく（除）。○〔漢〕「一一選休成」。
㊅きよし、いさぎよし（潔）。○〔國〕「乃見二其一一人一」。
〔涓涓〕めぐりながるゝ小流。○〔鮑照〕「一一流二玉堂一」。
〔塵涓〕ちりとほそき流れとのとにて極めて微々たるとにかりいふ語。○〔宇文融〕「樹與效二一一一」。
〔瘦涓〕ちよろ／＼水。○〔宋光〕「磷々淌二一一一」。

【涓】
泣に通じ用ふ。○〔列〕「乃一一然而泣」。

【涔】シン。鉏簪切 侵
㊀ひたす（漬）。○〔徐彥伯〕「碧淀紅一嶸嶂閉」。
㊁潦水、にはたづみ、たまりみづ。○〔淮〕「牛蹄之一」。
㊂柴を積み圍ひて魚を養ふ所、ふしづけ。○〔爾〕「槮謂二之一一」。
㊃魚を放ち養ふ池、いけ。○〔馬融〕「渟一障潰」。
㊄雨多き貌にいふ字。○〔杜甫〕「一一寒雨繁」。
㊅涙の下る貌にいふ字。○〔江淹〕「一一淚猶在レ目」。
〔洪涔〕おほいにいでたるあまみづ。○〔郭璞〕「一一沃而不レ長」。

【涔】セン、ソン。慈鹽切 鹽
㊀前條の㊂に同じ。㊁潛に同じ。

【涔】サン、ソン。仕濫切 勘

くぼし、くぼみ、(窪)。

【涔】 サン、ゼン。仕戩切 〔陷〕
水の涯、ほとり。

【涕】 テイ、タイ。他禮切 〔霽〕
㊀目より出づる汁、なみだ。○〔詩〕「泣一如レ雨」。
㊁なみだを出だし泣く、なく。○〔曹植〕「紓二予袂一長一一」。
㊂一種の竹。○〔東方朔〕「南方荒中有二一一竹一」。
(抱涕) 聲を出ださずして泣く。○(國)「無二一一一」。
(流涕) ながれおつるなみだ、又、なみだをながす。○(漢)「未二嘗不二一一一也」。
(垂涕) なみだをながすこと。○(戰)「馮亭一一而免日」。「也」。
(失涕) 前に同じ。○(陳琳)「未二嘗不二慨然一一一」。
(隕涕) 前に同じ。○(漢)「莫レ不レ一一」。
(雪涕) なみだをそゝぐ。○(晉)「帝一レ一與レ之別」。
(揮涕) 前に同じ。○(晉)「莫レ不二北望一一一」。
(掩涕) なき顔をおほひかくす、顔をおほひてなく。○(揚雄)「臨二江瀕一而一レ一兮」。
(破涕) なき顔をやぶる、卽ち、なきを止むること。○(劉琨)「一レ一爲レ笑」。
(感涕) 心情うごきてなく。○(宋)「左右皆一一一」。
(歎涕) なげきなく。○(九歎)「望二高丘一而一一一」。
(傷涕) いたみなく。○(張衡)「爲レ之一一一」。
(迸涕) ながれれつるなみだ。○(潘岳)「一一交揮」。

【涖】 レイ、ライ。郞計切 〔霽〕 リ。力至切 〔寘〕
㊀瀨を下る水の聲にいふ字。○〔司馬相如〕「一一一一下レ瀨」。
㊁のぞむ、(臨)。○〔詩〕「方叔一止」。
㊂みる、(視)。○〔周〕「一二玉鬯一」。

【涗】 セイ、セ。輸芮切 〔霽〕
㊀わづかに溫き水、ぬるまゆ、一說に、灰を沸みたる水、あく。○〔周〕「以二一水一漚二其絲一」。
㊁したむ、(泲)、又、すます、(清)。○〔周〕「盎齊一酌」。

【涚】 セツ、ゼチ。相絕切 〔屑〕
勺を拭ひて酒を酌む、くむ。

【涘】 シ、ジ。牀史切 〔紙〕
水の厓、ほとり、きし。○〔詩〕「在二河之一一」。

【沙】 サ、セ。所加切 〔麻〕
挓一は、口を開き語ること、くちびらき。

【洄】 クワイ、エ。呼內切 〔隊〕
靑黑の色、あをぐろ。

【泥】 シフ。色入切 〔緝〕
澀に同じ。

【浿】 クワン。何管切 〔旱〕
澣に同じ、あらふ。

八畫

【涪】 フウ、ブ。房尤切 〔尤〕 フ、ブ。濕無切 〔虞〕
水の名、又、縣の名。

【涪】 ホウ、ブ。蒲侯切 〔尤〕
水の泡、あわ、うたかた。

【涫】 クワン。古玩切 〔翰〕
熱沸す、わく、わかす。○〔荀〕「一一紛々」。
(沸涫) 水わきあがる。○(漢)「如二湯之一一」。

【涫】 クワン。古丸切 〔寒〕
樂一は、縣の名、又、滦一は、水の名。

【涬】 ケイ、ギヤウ。下頂切 〔迥〕
㊀大いなる水の貌にいふ字、ひろし、一說に、混茫の貌にいふ字、くらし。
㊁ひく、(引)。○〔張衡〕「無二縣攣以一レ己」。
(鴻涬) 大きく廣き貌にいふ語。○(雲笈七籤)「大道一一」。
(溟涬) くらし、又、自然の氣。○(莊)「大同二乎一一」。

【浸】 シウ、ジュ。是酉切 〔有〕
水の貌にいふ字。

【涮】 サン、セン。生患切 〔諫〕 セン、サン。數眷切 〔霰〕
あらふ、(洗)。

【氵邯】 カン、ゴン。胡甘切 〔覃〕 カン、ゴン。侯旰切 〔翰〕
あるは、あるひは、(或)。○〔揚雄〕「沅灃之閒、凡言二或如レ此者曰二一若レ是」。

【涯】 ガイ、ゲ。宜佳切 〔佳〕 ギ。魚羈切 〔支〕
㊀水の際、みづぎは、みぎは、きし、ほとり。○〔書〕「若下渉二大水一其無中津一上」。
㊁窮盡すること、窮盡する所、かぎり、きは、はて。○〔莊〕「吾生也有レ一而知也無レ一」。
(生涯) 人の生きてある間。○(庾信)「非常之錫、乃滋二一一一」。
(地涯) 土地のあるかぎり。○(鄭錫日中有王字賦)「一一闢天宇空」。
(通涯) 人のかよひ路のあるかぎり。○(琴賦)「路二一一一而遠遊」。
(溟涯) 水のはとり。○(曹植)「蚌蛤被二一一一」。
(窮涯) 極まり盡くるかぎり。○(楊素)「一一北海濱。「一」。
(際涯) かぎり。○(范仲淹)「浩々湯々、橫無二一一」。
(邊涯) 前に同じ。○(元好問)「紅綠無二一一」。

【涰】 テツ、テチ。株劣切 〔屑〕
なく、(泣)。

【液】 エキ、ヤク。羊益切 〔陌〕
㊀物の內より出づる流動物、しる、津汁。○〔唐〕「宮人以二蠟一一濡レ紙緘レ之」。
㊁掖に通じ用ふ。○〔漢〕「一一庭媵未レ充」。
(淫液) 遠なり延ぶ。○(禮)「咏二歎之一一一之一」。
(便液) 大便のしる。○(唐)「弘霸視二一一一卽染レ指、嘗驗二疾輕重一」。
(滋液) しる。○(封禪文)「一一滲漉、何生不レ育」。
(瀝液) したゝれる汁。○(張衡)「漱二飛泉之一一兮」。
(靈液) くしき效のあるしる。○(蓬賦)「浸潤一一之滋」。
(素液) 白き汁。○(魏都賦)「玄滋一一」。
(津液) しる。○(李白)「銷鑠凝二一一」。
(湯液) 煮出したるしる。○(史)「病不レ以二一一」。
(脂液) やにしる。○(癸辛雜識)「使二一一滲二入於內一」。
(微液) 僅かなるしる。○(屈平)「吸二飛泉之一一」。
(膏液) あぶら。○(論巴蜀檄)「一一潤二野草一而不レ辭也」。
(芳液) よき香のあるしる。○(景覽)「脆綠甘紅薦二一一」。
(甘液) あまきしる。○(王逸)「口含二一一」。
(肌液) 皮膚より出づるしる、卽ち、あせ。○(嵇康)「一一肉汁」。
(赬液) 赤き色のしる。○(郭璞)「流二一一其如レ血」。
(精液) 物體の中より分泌する純粹のしる。○(湛方生七歎)「此五穀之一一」。
(粹液) 前に同じ。○(李至遠)「漱二蒲原之一一」。
(寒液) 冷かなるあせ。○(柳宗元)「自出二一一」。
(粘液) ねばりのあるしる。○(楊萬里)「冰彈濺二一一」。

【液】セキ、シャク。施隻切 陌

㊀ひたす、（漬）。○〔周〕「冬折レ幹而春—レ角」。

㊁うるほふ、（潤）。○〔西京雜記〕「滑—「如レ新」。

㊂解散す、とく、ちる。○〔文子〕「渙乎其若二水之—一」。

〔融液〕釋く。○〔晉〕「遇二鑠·燒之—·—斷·絕一」。

〔蒸液〕むしひたす。○〔江賦〕「雲·霧之所二—·—一」。

〔浸液〕ひたしうるほふ。○〔潘尼〕「滋·味—·—」。

〔散液〕ちる、とく。○〔齊民要術〕「塊既—·—」。

〔消液〕前に同じ。○〔北〕「逐至二—·—一」。

【涅】テイ、ヂヤウ。丈井切 梗

さほろ、（通）。

【滵】ピツ、ミチ。覓畢切 質

泥淖、ごろ、ぬかりみ。

【淙】コウ、苦紅切 東　カウ、口江切

ク。コウ。

ダウ、女江切 江　コウ、苦貢切 送

ノウ。ク。

【淹】タ、ダ。待可切 哿

㊀直なる波。㊁細雨、こさめ。

㊀水波の打ち寄せたゝむ貌にいふ字。○〔木華〕「長·波渚—」。

㊁水に隨ひて往來する貌にいふ字。○〔郭璞〕「碧·沙潰—而往·來」。

【沱】前條に同じ。

【涴】エン、チン。委遠切 阮

水迴り曲がる貌にいふ字。○〔郭璞〕「洪·瀾—·演而雲迴」。

【淹】エン、紆願切 願　エン、於袁切 元

チン。切　オン。切

水の名。○〔山海經〕「英·鞮之山—·水出焉」。

【涴】ア。烏臥切 箇

汙染す、けがる、よごろ、又、其の汙染けがれ、よごれ。○〔韓愈〕「勿レ使二泥·塵—一」。

【涵】カン、ゴン。胡南切 覃

㊀水の浸澤多きにいふ字、うるほす、うるほふ、ひたす、ひたる。○〔王僧孺〕「海—春育」。

㊁ふづむ、（沈）。○〔吳都賦〕「—二泳乎其中一」。

㊂いろ、（容）。○〔詩〕「僭始既—」。

〔包涵〕合はせうるほす。○〔舊唐〕「—二—動植一兮順二榮·枯一」。

〔涵涵〕（い）ふづむ。（ろ）うるほふ、うるほす。○〔揚雄〕「—·—沈也」。○〔晁沖之〕「秀·潤—·—頁·太清」。

〔韜涵〕包みかくす。○〔柳宗元〕「—二—太·虛一」。

〔渾涵〕前に同じ。○〔宋〕「—二—光·芒一」。

〔淸涵〕きよくうるほふ。○〔虞集〕「氷·鹽復—·—」。

〔渟涵〕とゞまり沈むこと。○〔柳貫〕「—·—就二深·廣一」。

〔海涵〕物を容るゝこと極めて廣きにいふ語。○〔王僧孺〕「壁·下—·—」。

〔孤涵〕わき出でひたる。○〔韓愈〕「—·—演·迤」。

【涵】カン、ゴン。胡感切 感

㊀前條の㊁に同じ。

㊁水の船に入ること、あか。

【淹】タ、ダ。土禾切 歌

水の名。

【涶】タ。湯臥切 箇

唾に同じ、つばき、口液。

【濡】ジユ、ニユ。嬰主切 麌

醽に同じ、酒厚し、あつし。

【淕】ヨク、オク。烏酷切 沃

沃に同じ、そゝぐ。

【涷】トウ、徳紅切 東　多貢切 送

ツ。切　切

暴雨、にはかあめ、ゆふだち。○〔爾、註〕「江·東呼二夏·月暴·雨一爲二—·雨一」。

〔瀧涷〕露の貌にいふ語、一說に、沾はす貌にいふ語。

〔穎涷〕款冬の異名、ふき。

【涸】カク、ガク。下各切 藥

コ、グ。胡故切 遇

㊀水竭く、うるほひ絕ゆ、つく、かる。○〔禮〕「仲·秋之月水始—」。

㊁かれしむ、つくす、からす。○〔淮〕「不レ—レ澤而漁」。

〔竭涸〕つく、つくす。○〔崔瑗〕「更二百·壺之—·—一」。

〔乾涸〕からす、かる。○〔晉〕「冬·月沔·漢—·—」。

〔燥涸〕前に同じ。○〔晉〕「水多—·—」。

〔凝涸〕結ぼれてうるほひなきこと。○〔唐〕「—·—之氣消」。

〔秏涸〕減りなくなる。○〔博異志〕「水不二曾—·—一」。

〔枯涸〕かる。○〔謝靈運〕「渴·汲水—·—」。

〔焦涸〕旱にあひて枯る。○〔陶弘景〕「苗·稼—·—」。

〔蹇涸〕惱み苦しむ。○〔張說〕「不レ逢二君—·—一」。

〔窮涸〕水にはなれて苦しむ。○〔李嶠〕「—·—之鱗、在レ轍而能躍」。

〔滲涸〕水漏りて竭く。○〔柳宗元〕「四·海—·—兮」。

〔濡涸〕枯れたる者をうるほしやる、卽ち、困苦せる者を惠みやるにいふ語。○〔吳筠〕「繁レ枯—レ—」。

〔匱涸〕乏しく竭くること、卽ち、困苦するにいふ語。○〔晉書〕「久已罹二—·—一」。

【淒】ヮ。烏禾切 歌

㊀にごろ、（濁）。㊁けがろ、（汙）。

㊂ひたす、（漚）。○〔周、註〕「楚人曰レ漚齊人曰レ—」。

【淒】ダイ、チ。奴罪切 賄

浽に同じ、にごろ。

【淒】ヰ。於僞切 寘

㊀水聚まろ所、いけ、ぬま、ふち。

㊁うろほす、（漚）。

【淴】コツ、コチ。呼骨切 月

㊀青くして黑し、あをぐろし。

㊁大に淸し、きよし、いさぎよし。

㊂あふ、かなふ、（合）。○〔楞嚴經〕「心·綿愛—」。

【渂】ブン、モン。武粉切 吻

水の絕えたる貌にいふ字。

【涺】タイ、テ。吐內切 隊

漬して色を去ろ、さろ。

【涼】リヤウ、ラウ。龍張切 陽

㊀うすし、（薄）。○〔左〕「虢多二—·德一」。

㊁微しく寒し、すゞし。○〔列〕「日初出滄·々—·—」。

㊂秋風。○〔禮〕「孟·秋之月—·風至」。

㊃悲しむ。○〔江淹〕「撫二錦·幙一而虛—」。

㊄風にあたらしむろこと、○〔唐〕「暴二—之一」。

㊅醇に同じ。○〔周〕「漿·人掌レ共二王之六·飮、水、漿、醴、—、醫、酏一」。

〔淸涼〕さわ〳〵として冷かなること。○〔周、註〕「—·—宜二文·繡一」。

〔秋涼〕秋の冷かなること、又、其の風。○〔周、註〕「—·—旅不レ用」。

〔涼々〕輕薄の貌にいふ語。○〔孟〕「行何爲踽·々—·—」。

〔炎涼〕暑さと冷かなること。○〔李白〕「榮·枯異二—·—一」。

（歡涼）すこしく冷かなり。○〔王勃〕「麥-雨——」。（悲涼）哀れ氣なり、又かなしむ　○〔張華〕「——貫二年-節一」。（納涼）すゞみを爲すこと。○〔徐陵〕「——高-樹-下」。（初涼）始めてのすゞしさ。○〔劉孝綽〕「秋-風-發二——一」。（荒涼）あれはてゝ寂しげなること。○〔北山移文〕「石-逕——徒-延-佇」。（早涼）常の時候よりもはやくすゞしくあること。○〔韋應物〕「南-宮-生二——一」。（淒涼）すごくさびしげなること。又、悲しむ。○〔李白〕「覽二古-情——一」。（新涼）始めてすゞしくなれり。○〔韓愈〕「——入二郊-墟一」。（招涼）冷氣を引く。○〔拾遺記〕「號二消-暑——之珠一」。（覺涼）すゞしき心地をなす。○〔名畫記〕「又畫二北-風-圖一、見レ之——」。

【涼】　リヤウ、ラウ。力仗切　漾
㊀たすく、(佐)。○〔詩〕「—二彼-武-王一」。㊁まこと、(信)。○〔詩〕「—曰二不-可一」。

【涽】　コン。呼昆切　元
未だ定まらざる貌にいふ字。○〔荀〕「——淑々」。

【涽】　コン。呼困切　願
濁水、にごりみづ。

【涾】　タフ、ドフ。徒合切　合
沸き溢る、わく、あふる。○〔鮑照〕「華-鼎——」。

【涿】　タク、トク。竹角切　覺　トク、ドク。徒谷切　屋
㊀流れて滴下す、したゝる。○〔揚雄〕「瀧——謂二之霤-濆一」。㊁うつ、(擊)。○〔周、註〕「壺-瓦-鼓、—擊レ之也」。（泄涿）さらし。○〔石藥爾雅〕雲-母一-名雲-膽-黑、一-名——」。

【淀】　テン、デン。堂練切　霰
水のよどみて淺き所、よど。○〔左思〕「掘-鯉之—」。（長淀）ながくつゞけるよど川。○〔謝朓〕「瑟-汨-瀉二——一」。（漕淀）水のよどみて流れざる處、即ち、池沼のこと。○〔盧思道〕「且爽二心于——一」。（碧淀）水色青みて流れざる處。○〔徐彥伯〕「——紅-滲-灣-嶂-開」。（淤淀）水のをり澱りて流れざること。○〔李華〕「百-年——爲二繆-滯一」。

【淁】　シフ。卽入切　緝
濈に同じ、わく、あがる、一說に、水微しく轉り細く通る貌にいふ字。

【淂】　トク。都則切　職
水の貌にいふ字。

【淃】　ケン、ガン。逵眷切　霰
水の迴旋する貌にいふ字、うづまく。

【淄】　シ。莊持切　支
黑き色、くろ。○〔後漢〕「恩-隆好-合、遂忘二—蠹一」。

【淅】　セキ、シヤク。先擊切　錫
米を汰す、よなぐ。○〔孟〕「接レ—而行」。

【淆】　カウ、ゲウ。何交切　肴
㊀にごる。(い)淸からず。○〔爾〕「衆-水溷—」。(ろ)入り雜る、みだる。○〔漢〕「溷——無レ別」。㊁にごらしむ、みだす、にごす。○〔後漢〕「——レ之不レ濁」。（混淆）雜り亂る。○〔抱朴〕「眞-僞顛-倒、玉-石——」。（紛淆）前に同じ。○〔歐陽修〕「簿-領朱-墨何——」。

【淇】　キ、ギ。渠之切　支
水の名。

【洴】　ヘイ、ビヤウ。旁經切　青
絮を漂す、わたをさらす、又、わたをさらす聲にいふ字。○〔莊〕「世-々以二洴-澼-絖一爲レ事」。

【洴】　ハウ、ヒヤウ。披庚切　庚
水の聲にいふ字。

【淈】　コツ、コチ。古忽切　月
㊀にごる、にごす、(濁)、○〔屈平〕「—二其泥一而揚二其波一」。㊁みだる、(亂)。○〔張衡〕「渉レ冬則—レ泥而潛-蟠避レ害」。㊂つく、つくす、(盡)。○〔荀〕「其洸-々乎不二—盡一似レ道」。㊃汨に同じ。○〔爾、註〕「—書-序作レ汨」。㊄決し流る、ながる。○〔司馬相如〕「滂-々——」。㊅水の通ふ貌にいふ字。○〔郭璞〕「潛-演之所二汨——一」。

【淉】　クワン。古玩切　翰
祼に同じ。

【淊】　カン、ゴン。胡感切　感
㊀濁り水の貌にいふ字。に用ふる湯、いさくりゆ。㊁絲を繰る

【淊】　エン。以冉切　琰
水滿つ、みつ。

【淊】　アン、オン。于陷切　陷
㊀淖水、ぬま。㊁しづむ、(沒)。

【淊】　カン、ゴン。胡南切　覃
洽に同じ、しづむ。

【⿰氵花】　クワ、ケ。呼瓜切　麻
水。

【淋】　リン。力尋切　侵
㊀そゝぐ、(沃)。○〔易林〕「陰-氣不レ—」。㊁だら〳〵と滴る貌にいふ字。○〔七發〕「洪——焉若二白-鷺之下-翔一」。㊂霖に同じ、ながあめ。○〔皮日休〕「滋——既浹レ旬」。（積淋）長く降り續く雨。○〔釋淸塞〕「辭-歸値二——一」。

【淋】　リン。力鴆切　沁
前條の㊀に同じ

【⿰氵往】　ワウ。羽兩切　養　于放切　漾
ゆく、(往)。○〔揚雄〕「因二江-潭一而—記兮」。

【⿰氵狂】　ワウ。鄔晃切　養
大いなる水。

【⿰氵枉】　ワウ。于放切　養
㊀前條に同じ。㊁水の貌にいふ字。㊂停水臭し、くさし。

【淌】　シヤウ。尺亮切　漾
大なる波、又、水の貌にいふ字。○〔淮〕「——游-瀷-淢」。

【凋】シウ、シユ。之由切 尤 めぐる、(匝)。

【漛】ホウ、撫孔切 董 ブ。撫勇切 腫 水。

【淏】カウ、ゴウ。下老切 皓 淸き貌にいふ字。

【淐】シヤウ。尺羊切 陽 水。

【淑】シユク、ジユク。朱六切 屋
㊀善良なり、よし。○〔詩〕「――人君子」。
㊁よしとなす、よみす、又、よくあらしむ、よくす。○〔陸機〕「識ニ前修所レ―」。
㊂淸湛なり、ふかし、きよし。○〔韓愈〕「中州淸―之氣ニ」。
㊃俶に通じ用ふ、はじめ。○〔儀〕「―獻無ニ常數ニ」。
〔嘉淑〕善良なること。○〔左〕「――而有ニ加貨ニ」。
〔貞淑〕正しく堅固にして奥ゆかし。○〔漢〕「能致ニ其――ニ、不レ貳ニ其操ニ」。
〔純淑〕專一にして善し。○〔漢〕「德行――、道術通明」。
〔淵淑〕ふかし、又、ふかくしてきよし。○〔魏〕「忠貞――」。
〔堅淑〕通明にして淸深なり。○〔晉〕「陛下以ニ――臨レ朝」。
〔明淑〕暗からずして淸深なり。○〔馮衍〕「以ニ――之德ニ、乘ニ大使之權ニ」。
〔英淑〕秀でて善し。○〔漢雜事秘辛〕「爰求ニ――ニ」。
〔令淑〕善良なり、よし。○〔世說〕「生レ女――」。
〔婉淑〕やさし。○〔宋〕「資生ニ――ニ」。
〔柔淑〕前に同じ。○〔化書〕「有ニ――之態ニ、則荆妾可ニ以行ニ婦道ニ」。
〔閑淑〕靜かにして奥ゆかし。○〔遼〕「――有ニ儀則ニ」。
〔諧淑〕かなひ和ぎて善し。○〔宋臨川〕「暄景轉――」。
〔嘗淑〕かーとくして善し。○〔白居易〕「裴長嫋――」。

【淒】セイ、サイ。七稽切 齊
㊀雲雨起こる貌にいふ字。○〔詩〕「有レ渰――」。
㊁寒涼、さむし、すゞし。○〔詩〕「―其以風」。
〔晩淒〕夕暮の寒涼なること。○〔孟郊〕「寒竹含ニ――」。
〔寒淒〕さむく涼しげなること。○〔林環〕「疎星寥落曉――」。

【淒】シ。千咨切 支 セイ、此禮切 薺 サイ。切 前條の㊁に同じ。

【淒】セン。倉甸切 霰 ―洌は、疾き貌にいふ語。○〔司馬相如〕「儵胂―洌」。

【淕】リク、ロク。力竹切 屋 凝雨の澤、みぞれのうるほひ。

【淖】ダウ、ネウ。奴教切 效
㊀どろ、(泥)。○〔史〕「濯ニ―汙泥之中ニ」。
㊁泥にて行くに難む、ぬかる。○〔淮〕「甚―而滑」。
㊂泥深き處、ぬま、ぬかりみ。○〔左〕「有レ―ニ於前ニ」。
㊃甚しく濡ふ、うるほふ。○〔管〕「―乎如レ在レ海」。
㊄やはらぐ、(和)。○〔儀〕「喜薦普―」。
㊅溺る。○〔楚辭〕「世沈―而難レ論兮」。
〔霖淖〕ながく雨降りてぬかる。○〔唐〕「――則客詰而屐」。
〔哥淖〕どろ、ぬかりみ。○〔淮〕「道之浸洽――、纖微無レ所レ不レ在」。
〔溝淖〕みぞ。○〔唐〕「阻ニ――ニ莫ニ能前ニ」。
〔漬淖〕浸みうるほふ。○〔荀〕「行而供レ冀、非ニ――也」。
〔渟淖〕一處にとゞまりて流れざるどろ。○〔程晏〕「豎子欲ニ之――之汙ニ」。
〔滓淖〕ぬかるみ。○〔韓愈〕「蕙不レ渫ニ――ニ」。
〔泥淖〕前に同じ。○〔蘇舜欽〕「――沒ニ馬鼻ニ」。

【淖】シヤク。尺約切 藥 志なやか、(綽)。○〔莊〕「――約如ニ處子ニ」。

【淖】テウ、デウ。直遙切 蕭 潮に同じ。

【淗】キク、コク。居六切 屋 水の文、あや。

【淘】タウ、ドウ。徒刀切 豪
㊀ながる、ながす、(流)。○〔宋〕「開ニ―舊河ニ」。
㊁米を淅ふ、こめさぐ。○〔齊民要術〕「冷水淨―」。
㊂そゝぎ淨む、あらふ。○〔劉禹錫〕「千―萬漉雖ニ辛苦ニ」。
㊃沙汰す、よなぐ。○〔殷文圭〕「沙恨レ無レ金盡日―」。

【淙】ソウ、ス。藏宗切 冬 サウ、ソウ。士江切 江
㊀水の流るゝ貌にも水の聲にもいふ字。○〔高適〕「石泉――若ニ風雨ニ」。
㊁そゝぐ、(注)。○〔郭璞〕「―ニ大壑與ニ沃焦ニ」。
〔懸淙〕高き所よりかゝり音をなして流るゝ水、即ち瀧のこと。○〔沈約〕「百丈注ニ――ニ」。
〔飛淙〕前に同じ。○〔劉克莊〕「或踞ニ怪石臨ニ――ニ」。
〔潺淙〕水の音をなし流る。○〔厲九疇〕「樂ニ彼――ニ」。

【淙】サウ、ソウ。色降切 絳 水の出づる貌にいふ字。

【淚】ルヰ。力遂切 寘 リツ、劣戌切 質 リチ。切
㊀目より出づる液、なみだ。○〔譚子〕「悲則雨レ―」。
㊁なみだを垂れ泣く、なく。○〔後漢〕「泣―想望」。
〔墮淚〕なみだを流す。○〔晉〕「杜預因名爲ニ――碑ニ」。
〔垂淚〕前に同じ。○〔庾信〕「拔レ本―レ―」。
〔涕淚〕鼻と目とより出づるなみだ。○〔李嶠〕「――交流」。
〔含淚〕なみだを目にもつ。○〔盧江〕「阿女―レ―答」。
〔揮淚〕前に同じ。○〔鮑照〕「―レ―出ニ郭門ニ」。
〔血淚〕ちのなみだ、極めて悲哀を感ずるときに出づるなみだ。○〔陸機〕「――彷徨」。
〔紅淚〕前に同じ。○〔徐彦伯〕「玉箸――滴」。
〔苦淚〕思ひせまりて出づるなみだ。○〔庾炎〕「――應レ言垂」。
〔流淚〕なみだをながす、なく。○〔陶〕「投レ筆―レ―」。
〔落淚〕前に同じ。○〔世說〕「路人爲レ之―レ―」。
〔飲淚〕聲を立てずにしのびなきすること。○〔陸雲〕「長歎息而―レ―」。
〔隕淚〕なみだを流す。○〔繆衡〕「見レ之者――」。
〔零淚〕前に同じ。○〔陸機〕「掩ニ――而薦レ觴」。
〔悲淚〕哀れを感じてなみだをながす。○〔陶潛〕「――盈ニ心察ニ」。
〔醉淚〕別れ去るときのなみだ。○〔樂府華山畿曲〕「――溢ニ河漢ニ」。
〔別淚〕前に同じ。○〔庾信〕「灑ニ――ニ千尺波」。
〔愁淚〕憂に沈みてなみだを流す。○〔袁運〕「錦字沾ニ――ニ」。
〔滓淚〕とめどなく出づるなみだ。○〔韓愈〕「――何滿々」。
〔巾淚〕手拭ひにふきとりたるなみだ。○〔白居易〕「――濕成レ冰」。
〔慈淚〕仁愛の情より出づるなみだ。○〔白居易〕「――隨レ身迸」。
〔幽淚〕人知れず流すなみだ。○〔李商隱〕「――飲ニ乾暖ニ」。
〔暗淚〕前に同じ。○〔賈島〕「――兩行分」。
〔睫淚〕まぶたに出づるなみだ。○〔薫懷英〕「――先已盈」。

【淚】レイ、力霽切 霽 ライ。切 レツ、力結切 屑 レチ。切 疾く流るゝ貌にいふ字。○〔張衡〕「漻―淢汨」。
〔淒淚〕寒涼の貌にいふ字。○〔漢武帝〕「秋氣慘――」。

【淛】セイ。征例切 霽
江の名。○〔山海經〕「禹治レ水以至ニ－－河ニ」。

【淛】セツ、セチ。之列切 屑
浙に同じ。

【淜】ヒヨウ。披冰切 蒸
－滂は、水の聲にも風の擊つ聲にもいふ語。○〔宋玉〕「飄－忽－滂」。

【淝】ヒ、ピ。符非切 微
㊀淮水の一支流。○〔水經〕「－水出ニ九江成德縣廣陽鄕ニ」。
㊁出づる所同じくしてそゝぐ所異なる泉。○〔詩〕「我思ニ－泉ニ」。

【淓】キウ、ク。去仲切 送
水の急なる貌にいふ字、はやし。

【淞】シヨウ、ス。息恭切 冬
江蘇省にある江の名。

【㳺】
俗の游の字。

【淟】テン。他典切 銑
㊀垢濁、よごれ、けがれ。○〔楚辭〕「切ニ－涊之流俗ニ」。
㊁汩沒す、しづむ。○〔唐〕「－ニ汩於隋ニ」。

【淠】ヒ。匹備切 寘
㊀淮水の一支流。○〔水經〕「淮水又南北－水注」。
㊁水の聲にいふ字。

【淠】ヘイ、ハイ。匹計切 霽
㊀前條の㊁に同じ。
㊁しげし（茂）、おほし（衆）。○〔詩〕「萑葦－－」。
㊂舟の行く貌にいふ字。○〔詩〕「－彼涇舟」。

【淠】ハイ。普蓋切 泰
うごく（動）。○〔詩〕「其旂－－」。

【⿰氵罔】ハウ、バウ。符朗切 養
漭に同じ、水の大いなる貌にいふ字、ひろし。

【⿰氵昔】サク、シヤク。側伯切 陌　ソ、ス。所故切 遇
水を攤むること、ゐせき（堰）。○〔漢律〕「及ニ其門首ニ洒－－」。

【⿰氵戽】コ、グ。火五切 麌
舟の中にて水を渫ふ器、あかくみ。

【洦】バク、ミヤク。莫白切 陌
淺き水。

【淡】タン、ドン。徒敢切 感
㊀あはし。
（い）濃厚ならず、しつこくなし。○〔禮〕「君子－以成」。○〔韓〕「酸甘鹹－」。
（ろ）味薄し、うすし。
（は）趣少し、色淺し。○〔宣和畫譜〕「往々以ニ色暈－ニ而成」。
（に）執著せず。○〔晉〕「淸虛沖－」。
㊁味のあはき食物、粗食。○〔蘇軾〕「杜レ門食レ－」。
㊂水の滿つる貌にいふ字。○〔揚雄〕「秬鬯泔－」。
（曠淡）廣遠にして澹泊なり　○〔晉〕「但－－散不レ及耳」。
（沖淡）虛しくして澹泊なり。○〔晉〕「杜夷淸虛－－、與レ俗異レ軌」。
（平淡）あはし。○〔晉〕「遣韻－－、體識沖粹」。
（簡淡）與はしき所なくあはし。○〔晉〕「沖素－－」。「求ニ始忤ニ物」。
（雅淡）みやびやかにしてあはし。○〔唐〕「性－－」「猶淡」。
（粗淡）麤末にして味あはし、又、粗食。○〔唐〕「孝宗與ニ世下同ニ－－ニ」。
（湛淡）水の滿つる貌にいふ語。○〔吳均〕「－－春」
（枯淡）濃厚ならざること。○〔黃庭堅〕「－－顏與ニ山人ニ同」。
（慘淡）物すごきこと、うすぐらきこと。○〔歐陽修〕「其色－－、烟霏雲斂」。
（黯淡）うすぐらきこと。○〔荆蕭〕「凍雲－－」。
（冷淡）濃厚ならざること。○〔白居易〕「白花－－」。
（疎淡）まばらにしてあツさりせること。○〔蘇軾〕「－－含ニ精句ニ」。

【淡】エン。以冉切 琰
㊀水の播蕩する貌にいふ字。○〔枚乘〕「湍流遡波又－－之ニ」。
㊁風波に隨ふ貌にいふ字。○〔司馬相如〕「隨レ風－－」。
㊂安らかに流れ平かに滿つる貌にいふ字。○〔宋玉〕「潰－－而並入」。

【淡】タン、ドン。徒甘切 覃
㊀水の流るゝ貌にいふ字。○〔淮〕「川谷不レ－」「－嘔」。
㊁痰に通じ用ふ。○〔王羲之〕「－悶千－」

【淡】タン、ドン。徒濫切 勘
味うすし。○〔中〕「－而不レ厭」。

【淡】エン。以贍切 豔
水の貌にいふ字。○〔列〕「－－－爲若ニ有レ物存ニ」。

【滭】ヒツ、ヒチ。壁吉切 質
泉沸く、わく。

【淢】イヨク、井キ。于逼切 職
疾く流る、ながる。○〔張衡〕「漻淚－－汨」。
（浸淢）水波の相次ぎつゞく貌にいふ語。○〔郭璞〕「－－濇淢」。
（潩淢）水波のあやをなしつゞくこと。○〔推〕「洄波滃渀－－」。

【淢】イツ、イチ。越筆切 質
汩に同じ。

【淢】キヨク、ケキ。忽域切 職
㊀洫に同じ、みぞ。○〔詩〕「築レ城伊－」。
㊁悲しみ傷む貌にいふ字。○〔潘岳〕「湫愴惻－」。
（溝淢）田畝の間に穿ちあるみぞ。○〔史〕「卑ニ宮室ニ致ニ費于－－ニ」。「永逝兮」。
（汩淢）疾くある貌にいふ語。○〔史〕「－－嘻習以

【涿】シヤ、セ。之夜切 禡
膗の屬、あつもの。

【淣】ケイ、ガイ。研奚切 齊　ガイ、ゲ。宜佳切 佳　ケイ、ガイ。研計切 霽
水際、みづぎは、みぎは、又、極際、きは。

【淤】ヨ、オ。依據切 御　央居切 魚
㊀瀲滓、濁泥、おり、どろ。○〔杜篤〕「吠潰潤－－」。
㊁小嶼、こじま、す。○〔揚雄〕「水中可レ居者爲レ洲、三輔謂ニ之－－ニ」。
㊂飫に通じ用ふ、あく。○〔馬融〕「擺レ牲班レ禽、－賜犒レ功」。
（泥淤）濁りたるどろ。○〔宋〕「使ニ－－弗レ得レ入レ河」。

【淥】ロク。盧谷切 屋　リヨク、ロク。力玉切 沃
㊀漉に同じ、こす。○〔晉〕「初薦二醽－淥於太廟一」。
㊁こしたる水、こしたる酒。○〔王禹偁〕「更盡二杯中－一」。
㊂水清し、きよし。○〔張衡〕「－－水濬－々」。
〔深淥〕ふかくして清し。○〔陰鏗〕「夾ㇾ篠澄二－－一」。

【淦】カン、コン。古暗切 勘
㊀船の中に入りたる水、あか。
㊁どろ（泥）。

【淦】カン、コン。古南切　カン、ゴン。胡南切 覃
㊀もつとも（最）。㊁しづむ（沈）。
㊂くむ（汲）。

【淧】ビツ、ミチ。彌畢切 質
濫に同じ。

【淨】セイ、ジヤウ。才性切 敬
㊀垢穢なし、邪濁なし、きよし、いさぎよし。○〔史〕「大-道貫二清－一而人自正」。
㊁きよからしむ、きよくす、きよむ。○〔鮑照〕「鶴豈浴－－」。
〔潔淨〕清くして穢れなし。○〔禮、疏〕「沐-浴－－」。
〔鮮淨〕あざやかにして清し。○〔書、疏〕「以二其新殺－－一、故名爲ㇾ鮮」。
〔明淨〕濁りなくして清らかなり。○〔晉〕「火-珠皎-然－－」。
〔鏡淨〕前に同じ。○〔水經、註〕「北水澄-停－－而不ㇾ流」。
〔淸淨〕すべ〳〵として清らかなり。○〔蘇軾〕「－－容二乘-兒一」。
〔光淨〕つやありて清らかなり。○〔拾遺記〕「目-然－－、仙-者惡ㇾ之」。
〔瑩淨〕前に同じ。○〔梁簡文帝〕「戒-珠－－」。
〔英淨〕すぐれて且淨くあること。○〔鍾嶸〕「詞美－－」。

【淩】リヨウ。力膺切 蒸
㊀のる（乘）はす（馳）、一說に、ふ（歷）。○〔木華〕「汎ㇾ海－ㇾ山」。
㊁おそる、をのゝく。○〔爾〕「－－慄戰－慄」。

【㳽】瀰に同じ、俗省の字。

【氵狀】ジヤウ、ザウ。助亮切 漾
水の漾瀁する貌にいふ字、うきしづみ。

【洦】ハク、ヒヤク。匹陌切 陌
帕に同じ。

【淪】リン。力迍切 眞　縷尹切 軫　ロン。盧困切 願
㊀微風水面を拂ひてたつ波文、さゞなみ。○〔詩〕「河-水清且－－猗」。
㊁ひきゐる（率）。○〔詩〕「－－胥以鋪」。
㊂しづむ（沒）。○〔書〕「今殷其－－喪」。
〔鱗淪〕水波相次ぐ貌にいふ語。○〔馬融〕「波-瀾－－」。
〔涳淪〕うづまく、めぐる。○〔郭璞〕「－－溛-瀤」。
〔濆淪〕水勢相糾る貌にいふ語。○〔木華〕「濆－－而滀-潔」。
〔混淪〕未だ分離せざる貌にいふ語、又、水の流轉する貌にいふ語。○〔列〕「氣形質具而未二相離一、故曰二－－一」。
〔隱淪〕かくれ沈みてあらはれぬ。○〔杜甫〕「行歌非二－－一」。
〔沈淪〕しづむ。○〔杜甫〕「容-易失二－－一」。
〔燋淪〕火に燃え水に沈む。○〔抱朴〕「生-民－二－－于淵-火一」。
〔頹淪〕崩れ沈む。○〔抱朴〕「雖ㇾ高則峻-極－－」。
〔泥淪〕けがれ沈みてあり。○〔抱朴〕「不ㇾ能ㇾ料二明-珠于－－之肆一」。
〔湮淪〕沈みてあらはれぬ。○〔鄭谷〕「雅-正甚－－」。

【氵羌】キヤウ、カウ。墟羊切 陽
水。

【淁】セフ、ソフ。卽葉切 葉
㊀－河は、水の纔かばかり有る貌にいふ字、一說に、水の出づる貌にいふ字。
㊁汎－は、水の微なる貌にいふ字、一說に、波の急なる貌にいふ字。○〔王褒〕「泡-溲汎－」。

【淫】イン。余箴切 侵
㊀浸漬す、ひたる、ひたす。○〔周〕「水－ㇾ之」。
㊁うるほふ、うるほす（潤）。○〔楚辭〕「施二玉-色一外－」。
㊂ほしいまゝ（放）。○〔禮〕「－ㇾ德不ㇾ倦」。
㊃むさぼる（貪）。○〔禮〕「示ㇾ不ㇾ－」。
㊄すぐ（過）。○〔書〕「罔ㇾ－二于樂一」。
㊅はなはだし（甚）。○〔列〕「朕之過－矣」。
㊆おほいなり（大）。○〔詩〕「既有二－－威一」。
㊇ひさし（久）。○〔國〕「底-著滯－」。
㊈あふる（溢）。○〔淮〕「積二蘆-灰一以止二－水一」。
㊉ながる（流）。○〔楚辭〕「河-水－－」。
㊉㊀みだる。
（い）ながし目に視る。○〔禮〕「毋二－視一」。
（ろ）心を擾亂す。○〔孟〕「富-貴不ㇾ能ㇾ－」。
（は）上を僭す。○〔國〕「以二－名一聞二於天子一」。
（に）禮を失す。○〔國〕「－－佚之事」。
（ほ）邪なり。○〔國〕「端而不ㇾ－」。
（へ）色情におぼれて禮を失ふ。○〔易〕「冶-容誨ㇾ－」。
（と）序次を失ふ。○〔左〕「歲在二星-紀一而－二于元-枵一」。
㊉㊁進む貌にいふ字。○〔管〕「－－乎與ㇾ我俱生」。
㊉㊂去るを遠き貌にいふ字。○〔劉向〕「波－－而周-流」。
㊉㊃往來する貌にいふ字。○〔揚雄〕「－－與-々」。
㊉㊄一種の魚の名、長さ丈餘、身と頭と長さ相同じく鱗なきものなりとぞ。○〔淮〕「－-魚出聽」。
〔惛淫〕慢に貪る。○〔書〕「無二郎－－一」。
〔書淫〕讀書することの度に過ぎたるにいふ語、晉の皇甫謐の故事より起こる。○〔晉〕「謐耽二玩典-籍一、忘二寢與ㇾ食、時-人謂二之－－一」。
〔汎淫〕自ら縱にする貌にいふ語。○〔上林賦〕「－－泛-濫」。
〔夸淫〕驕りてみだらなり。○〔呂溫〕「時-情正－－」。
〔浮淫〕浮浪といふに同じ、流浪して亂暴をなすもののこと。○〔史〕「游二－－一幷-兼之徒二」。
〔流淫〕度に過ぎて放縱なること。○〔荀〕「士大-夫無二－－之行一」。
〔荒淫〕前に同じ。○〔上林賦〕「－－相越」。
〔久淫〕ひさしきこと。○〔楚辭〕「歸-來々々、不ㇾ可ㇾ－－些」。
〔誣淫〕詐りてみだらなること。○〔柳宗元〕「其說－－、不ㇾ槩二于聖一」。
〔滲淫〕僅かなる水の漬み入ること。○〔海賦〕「滲-遙－－」。

【湼】涅に同じ、そむ。○〔周〕「－ㇾ之以ㇾ蜃」。

【滛】瑤に同じ。○〔山海經〕「爰有二－水一、其清洛-々」。

【淬】サイ、セ。七内切 隊

㊀火を入れて滅す器、ひけしつぼ。㊁火と水と相激す、燒きたるものを水に入る、にらぐ。○〔漢〕「火與レ水合爲レ―」。「割輪―」。㊂そむ、(染)、又、をかす、(犯)。○〔史〕「將」井二江-水一。㊃さむし、(寒)。○〔劉詵〕「鳳-江冷――」。
〔磨淬〕　みがきにらぐ。○〔蘇轍〕「鍛-華自―・―」。
〔礪淬〕　前に同じ。○〔吳澄〕「光-垢勇二―・―一」。

【淬】　シュツ、シュチ。郎聿切　[質]
水の流るゝ貌にいふ字、ながる。○〔杜甫〕「渺-溟淬―」。

【淭】　キョ、ゴ。求於切　[魚]
―拏は、さらへ、ざよれん。○〔揚雄〕「把宋魏之閒謂二之―拏一」。

【渫】　セツ、セチ。私列切　[屑]
除き去る、のぞく、一説に、もる、(漏)。○〔班固〕「士怒未レ―」。

【渫】　エイ。以制切　[霽]
蒸したる葱、ねぎ。○〔禮〕「葱―處レ末」。

【淮】　クワイ、エ。戶乖切　[佳]
源を河南省の東北の山中に發して安徽省を通過し江蘇省に至りて海に注ぐ水　○〔周〕「靑-州其川―泗」。

【淯】　イク、ヨク。余六切　[屋]
漢水の一支流。○〔山海經〕「攻-離之山―水出」。

【泖】　ハウ、ヘウ。披教切　[效]
㊀ひたす、(漬)。㊁きよし、(淸)。

【淰】　デン、テン。乃忝切　[琰]
㊀にごる、(濁)。㊁水の流るゝ貌にいふ字。

【淰】　ダン、テン。女減切　[豏]
㊀風波なきこと。○〔杜甫〕「山-雲―・―寒」。㊁水底の淤泥を取るに用ふる具。

【淰】　シン。式荏切　[寢]
㊀魚驚く、おごろく。○〔禮〕「魚-鮪不レ―」。㊁水動く、なみたつ。○〔郝經〕「巴-蜀動二餘―・―一」。

【淰】　セン。失冉切　[琰]
踊り逸す、はしる。

【淰】　アン、オン。鄔感切　ダン、ナン。乃感切　[感]　尼戚切　[戚]
にごる、(濁)。

【𣳚】　古文の濟の字。

【深】　シン。式針切　[侵]
㊀ふかし。
(い)底より表へ長し。○〔詩〕「就二其―一矣、方レ之舟レ之」。
(ろ)內より外へ遠し、おくふかし。○〔史〕「山―而獸往レ之」。
(は)精微なり、こまやか。○〔易〕「惟―也、故能通二天-下之志一」。
(に)かくれたり。○〔易〕「鉤レ―致レ遠」。
(ほ)甚し。○〔孟〕「面―-墨」。
(へ)重し。○〔呂氏春秋〕「害莫レ―レ焉」。
(と)篤し。○〔禮〕「情―而文明」。
(ち)あさはかならず、かろぐしからず。○〔史〕「意含―矣」。
(り)殘刻なり、きびし、むごし。○〔漢〕「外寬而內―」。
(ぬ)闌なり。○〔南〕「――夜徹レ燭」。
㊁ふかくす。
(い)かくす、(藏)。○〔周〕「中―二其爪一」。
(ろ)ふかゝらしむ。○〔春秋、註〕「浚二―之一」。
㊂一種の衣。○〔禮、疏〕「衣-裳相連被二體深-邃故謂二之―一」。
〔幽深〕　おづかにして奥ふかし。○〔水經、註〕「宕-谷―・―」。
〔情深〕　こゝろ淺からず。○〔許惲〕「貧-別覺二―・―一」。
〔刻深〕　慘刻なること、むごし。○〔史〕「慘-急―・―」。
〔淵深〕　淺からざること。○〔魏〕「明-慮―・―」。
〔潛深〕　表にあらはれずして淺はかならず、又、かくれたり。○〔韓詩外傳〕「智-慮―・―」。
〔阻深〕　山險しくして川淺からず、又、へだたりておくぶかし。○〔漢〕「山川―・―」。
〔優深〕　秀でて淺はかならず。○〔後漢〕「才-學―・―」。
〔隆深〕　盛んにしてふかし。○〔後漢〕「恩-愛―・―」。
〔通深〕　とほりてふかし。○〔後漢〕「義-據二―・―一」。
〔沈深〕　おちつきて思慮淺からざること。○〔後漢〕「禹―・―有二大-度一」。
〔純深〕　專一にして淺はかならず。○〔晉〕「柱-魔―・―、譬流二―・―一」。
〔精深〕　くはしくこまやかなること。○〔唐〕「律-切―・―、至二千-言二不二少-衰一」。
〔高深〕　たかきとふかきと。○〔陸樹聲〕「曲終山-水契二―・―一」。
〔深々〕　ふかき貌にいふ語。○〔莊〕「其息―・―」。
〔層深〕　重なり疊みて奥ふかし。○〔水經、註〕「山-岫―・―」。
〔遂深〕　遠くしてふかし。○〔文心雕龍〕「阮旨―・―」。
〔槃深〕　わだかまりありてふかし。○〔文心雕龍〕「根-柢―・―」。
〔渾深〕　淸濁雜りてふかし。○〔埤雅〕「洛以二―・―」「宜レ鯉」。
〔密深〕　こまやか。○〔四子講德論〕「夫樂者感レ人―・―、而風移俗易」。
〔弘深〕　廣くしてふかし。○〔蔡邕〕「器-量―・―」。
〔湍深〕　水の流れ早くして淺からず。○〔傅休奕〕「―激-堪-隅二」。
〔澄深〕　淸くして淺からず。○〔湛方生〕「幽-洞―・―」。
〔淳深〕　純粹にして淺からず。○〔王儉〕「孝-敬―・―」。
〔崇深〕　高深といふに同じ。○〔陸卯〕「―・―畢綜」。
〔潭深〕　ふかし。○〔張正見〕「綸-懸覺二―・―一」。
〔霜深〕　霜も甚しくおく。○〔丘爲鞠〕「―・―高-殿寒」。
〔仁深〕　恵愛の心淺からず。○〔牛弘〕「―・―德厚」。
〔淸深〕　深くしてふかし。○〔李白〕「萷-蘿窮二―・―一」。
〔興深〕　面白みふかし。○〔杜甫〕「―・―終不レ違」。
〔交深〕　まじはり淺からず。○〔韋應物〕「漆以固二―・―一」。
〔秋深〕　秋たけなはなり。○〔陸游〕「井-梧飄レ葉覺二―・―一」。
〔邃深〕　奥ふかし。○〔劉克莊〕「穴-室窮二―・―一」。
〔窈深〕　前に同じ。○〔吳景奎〕「鐃レ澗穿レ雲入二―・―一」。

【深】　シン、ソン。式禁切　[沁]
ふかきこと、ふかき度合、ふかさ、ふかみ。○〔周〕「以二土-圭一測二土―一」。

【淲】　フウ、フ。皮虬切　[尤]
水の流るゝ貌にいふ字。

【淲】　コ、ク。荒胡切　[虞]
滹に同じ。

【淳】　ジュン。常倫切　[眞]
㊀純樸、すなほ、きち。○〔漢〕「澆レ―散レ樸」。㊁淸淨、きよし、いさぎよし。○〔張衡〕「何道眞之―粹」。㊂そゝぐ、(沃)。○〔周〕「王乃―濯二饗レ醴」。㊃おほいなり、(大)。○〔班固〕「黎―二耀於高-辛一芬」。

㊄兵車の一對、そろひ。○〔左〕「鄭人賂二晉-侯一廣-車軘-車—十五-乘」。
㊅まほゆし、まほ、（皺）。○〔左〕「表二——一。」
—函二。
㊆流轉す、めぐる、ながる。○〔莊〕「禍-福——」。
〔化淳〕敎化きよし。○〔隋〕「政論——」。
〔忠淳〕すなほ。○〔五朝會要〕「——直通二世務一」。
〔深淳〕淺からずしてきよし。○〔後村詩話〕「王君玉詩刻-琢——」。
〔淸淳〕潔し。○〔何遜〕「所在號二——一」。
〔眞淳〕すなほ。○〔路史〕「玉-券十-華、人-風——」。
〔樸淳〕質朴なること。○〔周伯琦〕「民-俗亦——」。

【淳】ジュン。主尹切　軫
布帛の廣幅、ひろさ、はゞ。○〔周〕「壹二其—制一」。

【淴】コツ、呼骨切　チツ、烏沒切　コチ。チチ。　月
水の出づる聲にも又水の流るゝ貌にもいふ字。○〔郭璞〕「潏-湟—泱」。

【淵】溜に同じ。

【淵】エン。營圓切　先
㊀ふち。
（い）水の深くたゝへたる處。○〔山海經〕「恒遊二于睢-漳之—一」。
（ろ）物のあつまりたる處。○〔後漢〕「不レ如レ保二殖五-穀之—一」。
㊁沼池、いけ、ぬま。○〔國〕「汾河涑澮以爲レ—」。
㊂ふかし、（深）。○〔詩〕「秉レ心塞—」。
㊃しづか、（靜）。○〔曾鞏〕「廣-博靜—」。
㊄鼓を伐つ聲にいふ字。○〔詩〕「伐レ鼓——」。
〔廣淵〕弘大にしてふかし。○〔書〕「克齊-聖——」。
〔洪淵〕前に同じ。○〔大戴禮〕「——而有レ謀」。
〔深淵〕ふかし、又、ふち。○〔詩〕「如レ臨二——一」。
〔靈淵〕心のこと。○〔太玄經〕「去二此——一、舍二彼枯園一」。
〔重淵〕極めて深きふち。○〔莊〕「測二深乎——一」。
〔九淵〕前に同じ。○〔賈誼〕「襲二——之神龍一兮」。
〔泂淵〕水の涌き上がりて深き處。○〔韓〕「塡二其——一」。
〔虞淵〕日の入る處。○〔淮〕「日至二於——一、是爲二黃昏一」。
〔淳淵〕ふち。○〔馬融〕「淪二滅——一」。
〔澄淵〕淸くして深し、又、きよきふち。○〔謝靈運〕「泓-々——」。
〔逢淵〕水の深き處。○〔李白〕「委-蛇下沉二——一」。
〔揭斧入淵〕物を用ふるに其の所を得ざることにいふ語。○〔淮〕「以二其所一レ修而游二不-用之鄕一、猶下揭二斧入一レ淵、操レ釣上上レ山上レ」。

【淶】ライ。洛哀切　灰
黃河の一支流。○〔周〕「幷-州其浸——易」。

【混】コン。胡本切　阮
㊀豐かに流る、雜はり流る、ながる。○〔孟〕「源-泉——」。
㊁おほいなり、（大）。○〔淮〕「猶在二——冥之中一」。
㊂あはす、あふ、（合）。○〔老〕「故—而爲レ一」。
㊃まじる、まじふ、（雜）。○〔揚雄〕「善-惡—」。
㊄にごる、にごす、（濁）。○〔楚辭〕「——兮澆レ饋」。
㊅分別なき貌にいふ字。○〔荀〕「使下天-下—然不レ知二是-非治-亂之所一レ存」。
㊆波浪の聲にいふ字。○〔枚乘〕「——庉-々」。
〔元混〕元氣の未だ分かれざること。○〔與引〕「五德初-始、——之中」。
〔太混〕前に同じ。○〔雲笈〕「合-神——一」。
〔環混〕めぐり雜はる。○〔韓愈〕「——無二歸-向一」。

【混】コン。公渾切　元
㊀西夷の名。○〔詩〕「—夷駾矣」。
㊁崑に同じ。○〔周、註〕「——淪卽崑-崙」。

【淸】セイ、七情切　シヤウ。　庚
〔釋名〕淸靑也、去二濁穢一色如レ靑也。
㊀きよし。
（い）濁りなし、汚れなし、いさぎよし。○〔詩〕「瀏其—矣」。
（ろ）明かなり。○〔荀〕「中-心不レ定則外-物不レ—」。
（は）靜かなり、平なり。○〔呂氏春秋〕「古之—世」。
（に）涼し。○〔素問〕「其候——切」。
㊁きよくなる、すむ。○〔詩〕「泉-流既—」。
㊂きよからしむ、きよむ、すます。○〔周〕「—二其灰一」。
㊃目の下。○〔詩〕「子之—揚」。
㊄沸める醴、すみざけ。○〔周〕「辨二四-飮之物一、一曰—」。
㊅飮料物の泛稱。○〔周〕「凡王之饋、飮用二六——一」。
㊆溷圊、かはや。○〔釋名〕「至-穢之處、宜三常修-治使二潔-淸一」。
〔明淸〕あきらかなり、又、あきらかにしてきよし。○〔書〕「—二于單-辭一」。
〔澄淸〕すむ、又、きよむ。○〔後漢〕「慨-然有下——天-下一之志上」。
〔氷淸〕すきとほりてきよし。○〔華陽國志〕「——玉-潔」。
〔眞淸〕つゆ程も濁りたるとなし。○〔淮〕「水之性——而土汨レ之」。
〔輕淸〕重からずしてすむ、又、かろくしてきよし。○〔宋〕「——者爲レ氣」。
〔徐淸〕しづかに澄む。○〔淮〕「濁而——」。
〔直淸〕曲がり濁る所なし。○〔周必大〕「資二直—之譽一」。
〔寅淸〕つゝしみて濁りたる所なし。○〔楊萬里〕「見二寅-猶解-憶二——一」。
〔永淸〕長久の間靜にし治む。○〔書〕「——二四-海一」。
〔廉淸〕廉潔といふに同じ、潔きこと。○〔史〕「咸化二——一」。
〔穆淸〕和ぎてきよし。○〔曹植〕「天-下——」。
〔肅淸〕つゝしみて濁りなし。○〔長沙耆舊傳〕「萬-里——」。
〔忠淸〕君に仕へ誠實にして穢れたる所なし。○〔後漢〕「——直亮」。
〔潔淸〕いさぎよし。○〔神女賦〕「懷二貞亮之——一兮」。
〔遂淸〕奧深くして穢れなし。○〔宋〕「歸-燕——」。
〔寒淸〕冷かにして澄む。○〔山海經〕「甚—而—」。
〔鏡淸〕かゞみの如くに澄む。○〔蘇軾〕「道-人胸-中水——」。
〔至淸〕こよなく澄む。○〔淮〕「立二——之中一」。
〔淑淸〕きよし。○〔四子講德論〕「朝-廷——」。
〔晏淸〕平安にして亂れず。○〔雲仙雜記〕「天-下——」。
〔昭淸〕明きらかなり。○〔安世房中歌〕「休-德——」。
〔顯淸〕前に同じ。○〔漢武德舞歌〕「肅-雍——」。
〔淸々〕きよらかなる貌にいふ語。○〔風賦〕「——冷-々愈レ病析レ酲」。
〔厲淸〕はげしく澄みわたる。○〔曹植〕「孟-冬十-月、陰-氣——」。
〔冽淸〕つめたくして澄む。○〔東京賦〕「玄-泉——」。
〔寧淸〕靜か。○〔東京賦〕「京-室——」。
〔閑淸〕前に同じ。○〔王融〕「禪-遂——」。
〔韻淸〕ひゞき濁りなし。○〔七啓〕「——繞レ梁」。
〔淒淸〕つめたし。○〔秋興詩〕「露——以凝レ冷」。
〔乂淸〕治まりて亂れず。○〔鍾會〕「今邊-境——」。
〔含淸〕穢れなき聲を持つ。○〔琴賦〕「音要-妙而——」。
〔掃淸〕散じきよむ。○〔李白〕「——胸-中憂」。
〔俟河淸〕太だにごれる黃河のすめるをまつ、卽ち、極めて稀に到來する物事をまつことにいふ語。○〔左〕「—二——一人-壽幾-何」。

【淸】セイ、ジヤウ。疾郢切　梗
いさぎよし。

【淸】セイ、ジヤウ。疾正切　敬
瀞、又、淸に同じ。

【淹】エン、オン。英廉切　鹽
㊀ひたす、（漬）。○〔禮〕「——之以二好-

樂二。
㊁とゞまる、（留）。○〔左〕「—二久於敝-邑二。」
㊂ひさし、（久）。○〔郊祀歌〕「神—留」。
㊃やぶる、（敗）。○〔揚雄〕「水敝爲レ—」。
〔滯淹〕留どまりて通せざること。○〔蘇軾〕「客使三人-々歎二—一」。
〔廢淹〕前に同じ。○〔國〕「逮二鰥-寡一、振二—一」。
〔涵淹〕清けひたす。○〔王安石〕「氷霜尙——」。
〔稽淹〕停滯せること。○〔晉〕「—二—王-室一」。
〔浸淹〕水のために濕ひ敗る。○〔方岳〕「——鬖鬖半青-黃」。
〔遲淹〕速かならず滯る。○〔蔡邕〕「狐-疑—、—」。
〔寂淹〕ひっそりとすること。○〔鮑照〕「邇來——無二分-音一」。
〔久淹〕永く留どまる、又、ひさし。○〔孟浩然〕「山中「勿二——一」。

【淹】エン。　衣檢切　琰
㊀水の涯、きし、みぎは、なぎさ。
㊁絲を繰りて緒を出だすこと、いささる。○〔禮〕「夫-人繅三盆レ手、〔註〕三盆レ手者三—也」。

【淹】エン。　於劒切　豔
ひたす、（漬）。

【淹】エフ、オフ。　憶笈切　緝
しづむ、（沒）。

【淺】セン。　此演切　銑
㊀深からず、あさし、（深の字の條參照）。○〔詩〕「就二其—一矣」。
㊁虎の皮の毛のあさきものゝ稱。○〔詩〕「鞹-鞃—幭」。
㊂すべて獸の皮の毛のあさきものゝ稱。○〔周〕「巾-車鹿—幭」。
〔褊淺〕狹くして深からず。○〔阮籍〕「性——而干-進兮」。
〔交淺〕交際すること深からず。○〔淮〕「——而言深「是忠也」。

〔淸淺〕濁りなくして深からず。○〔梁元帝〕「翻-流——」。
〔短淺〕深長ならざること。○〔漢〕「智-謀——」。
〔浮淺〕深沈ならざること。○〔漢〕「——行二乎衆-庶一」。「——」。
〔散淺〕些細にしてあさはかなり。○〔漢〕「其事至——、不レ足レ置二博-士一」。
〔膚淺〕あさはかなること。○〔晉〕「穀-梁——、不レ足二相-繼一」。
〔鄙淺〕下品にしてあさはかなり。○〔隋〕「然多—」。
〔俚淺〕前に同じ。○〔宋〕「詞-旨——」。
〔陋淺〕卑劣にして深き所なし。○〔唐〕「博-士——」。
〔平淺〕なみ〳〵にして奧深き所なし。○〔鮑當〕「右-丞畫-筆多——」。
〔澳淺〕廣々として深からず。○〔宋〕「其間——「洄-洑」。
〔瀁淺〕滿くして且深からず。○〔淮〕「領-絡——」。
〔偏淺〕片寄りて且深からず。○〔水經、註〕「汚-水又東——、冬-月可二涉-渡一」。
〔空淺〕空しくして深からず。○〔蔡邕〕「糠-粃小-生、學術——」。
〔愚淺〕賢からざること。○〔蔡邕〕「臣——小才」。
〔危淺〕あやふきこと。○〔李密〕「人-命——、朝不レ慮レ夕」。「——」。
〔憂淺〕案じ煩ふこと少し。○〔顏延之〕「見通則—」。
〔精淺〕精通せずしておろそかなること。○〔王融〕「經-術——」。
〔庸淺〕平凡なること。○〔梁昭明太子〕「意-見——」。
〔凡淺〕前に同じ。○〔邵說〕「臣智-術——」。
〔近淺〕卑しくして奧深き所なし。○〔李嶠〕「臣行-能——」。「——二」。
〔荒淺〕すさびて深遠ならず。○〔李德裕〕「臣學-慚二——一」。
〔蕪淺〕前に同じ。○〔盧照鄰〕「學-涉——」。
〔闇淺〕明かならずしてあさはかなり。○〔張詠〕「修-辭——、未レ涉二作-者之流一」。「—」。
〔疏淺〕遠かにして深からず。○〔蘇軾〕「又何—」。
〔卑淺〕前に同じ。○〔曾鞏〕「末-世之——」。

【淺】セン。　痔先切　先
水の疾く流るゝ貌にいふ字、はやし。
○〔楚辭〕「石-瀨兮——」。

【淺】セン、ゼン。　在演切　銑
濺に同じ、おくろ。○〔古文尙書〕「寅—二納-日一」。

【淺】サン。　則肝切　翰
濽に同じ、汗し灑ぐ、そゝぐ、けがす。

【淺】セン、ゼン。　子賤切　霰
濺に同じ、水激す、そゝぐ。○〔儀〕「槃以盛二棄-水一、爲レ—二一人一也」。

【淼】ベウ、メウ。　亡沼切　篠
水大いなり、おほいなり、ひろし、又、おほいなる水。○〔郭璞〕「狀滔レ天以——茫」。
〔淼々〕大水の貌にいふ語。○〔隋煬帝〕「平-淮既「湘之——」。
〔浩淼〕廣々としたる水のこと。○〔陳山毓〕「浮二三—」。

【渽】ハン、ホン。　匹凡切　咸
ふかし、（深）。

【添】テン。　他兼切　鹽
加益す、ますす、そふ。○〔白居易〕「雨—山氣-色」。
〔加添〕ます、そふ。○〔白居易〕「——老-氣味改-變」。
〔多添〕前に同じ。○〔楊萬里〕「嬌-香未レ盡又——」。「—」。
〔漸添〕次第にます。○〔陸游〕「風-力——帆-力健」。

【添】テン。　他念切　豔
味を加へますもの、そへもの。○〔李翊〕「呼二卜-酒-具一爲レ—」。

【洴】エキ、ヤク。　伊昔切　陌
㊀そふ、（添）。
㊁口中の津液、つばき、つばき。㊂長へに滿つ、みつ。

【溼】音未詳

【涺】遲久なり、ひさし、おそし。○〔呂氏春秋〕「得レ之同則遫爲レ上、勝レ之同則—爲レ下」。

【涑】ソク。　蘇木切　屋
雨の聲にいふ字。

【渀】奔に同じ、はしる。○〔水經、註〕「傾-瀾—盪」。

【沮】ショ、ソ。　子御切　御
うるほす、うるほふ、（溼）。

【湍】タン、トン。　他酣切　覃
湍—は、峻き波、たかなみ。○〔木華〕「湍—傑而爲レ魁」。

【淚】俗の淚の字。

【淼】淵に同じ。

【溹】シツ、シチ。　親吉切　質
〔朝鮮國誌〕「慶-尙-道有二—原-郡一」。

【浸】古文の汲の字。

【淜】アウ、ワウ。　烏猛切　梗
—瀑は、水の回旋する貌にいふ語、めぐる、うづまく。

【渃】ジヤク、ニヤク。　日灼切　藥
濩—は、大なる水の貌にいふ語、ひろし。

【淵】サン、セン。　倉宴切　諫
水の淸き貌にいふ字、きよし。

【淸】浸に同じ。

【淓】淓に同じ。

【湠】タン、ダン。徒官切 寒
靉多し、おほし。

【湂】ギン、ゴン。魚靳切 問
をり、かす、(滓)。

【湱】カク、キヤク。火麥切 陌
水の聲にいふ字。

【淠】ヒ。風微切 微
水の一支流。○[羅含湘中記]「營-水——水皆注レ湘」。

【涸】タク、チヤク。透各切 藥
雨ふる貌にいふ字。○[田家占候]「上-火不レ落下-火滴——」。

九畫

【渙】クワン。呼貫切 翰 クワイ、タ。呼外切 泰
❶易の卦の名、☴☵ 巽上坎下。○[易]「——亨、王假レ有レ廟、利レ涉二大-川一」。
❷ちる、(散)、さく、(釋)。○[詩]「繼猶判——」。
❸水の盛んなる貌にいふ字。○[詩]「溱與レ洧方——兮」。
❹文章ある貌にいふ字、あやあり、つややくし。○[後漢]「——爛兮其溢レ目」。
[氷渙] こほりのとけちること。○[閭丘沖]「——川盈」。
[飯渙] それきてちり去ること、又、其の者。○[陳]「交-趾——」。

【湭】シウ、ジュ。才周切 尤
水源、みなもと。○[黃香]「坎娫-援以——煬」。

【渚】ショ、ソ。章與切 語
❶小さき洲、こじます。○[詩]「江有レ——」。
❷水の涯、みぎは、なぎさ。○[莊]「兩-埃——涯之閒」。
[鳧渚] かもといふ鳥のをるみぎは。○[三輔黃圖]「池閒有二鶴-洲——一」。
[洲渚] 水中にある丘のやうなる處。○[沈約]「結レ根布二——一」。
[寒渚] さびしきみぎは。○[謝朓]「——夜蒼-々」。
[攸渚] ながくつゞきたるみぎは。○[謝惠連]「——曠二清-容一」。
[涸渚] 水のかれてあらはれたるす。○[庾信]「——縈」。
[淺渚] 水のあさきみぎは。○[儲光羲]「——荇-花通二沙-路一」。
[煙渚] けむりのたなびくみぎは。○[白居易]「——雲-帆處-々通」。

【減】カン、ゲン。古斬切 豏
❶少くなる、輕くなる、薄くなる、へる。○[晉]「及レ居二台-輔一聲-望日——」。
❷少なくす、輕くす、薄くす、へす、へらす。○[後]「實——二無-事之物一」。
❸少なし、輕し、薄し。○[左]「不レ爲二末——一」。
[瘦減] やす。○[盧祖皐]「不レ以二梅-枝一——」。
[損減] おとしへらす。○[史]「以二——一爲レ樂」。
[省減] はぶきへらす。○[漢]「繇-役——」。
[節減] 前に同じ。○[舊唐]「竝從二——一」。
[輕減] かろむ。○[漢]「其議下律-令可二蠲除——一」。
[衰減] おとろふること。○[後漢]「烈于レ是襲-聲——者」。
[耗減] へる、へす。○[魏]「河-東最先定少二——一」。
[縮減] ちゞめへらす、ちゞみへる。○[五]「盈二-加——之一」。
[加減] ましくはふるとひきへらすとのこと、又、物事を調理すること。○[晉]「其二北——一」。
[增減] ふやすとへらすと、又、ますとへると。○[唐]「不二復——一」。
[輕減] 常法よりかろむ。○[唐]「皆擬レ法——」。
[蠲減] とりのぞきへらす。○[舊子貝]「應レ加二——」。
[削減] けづりへらす。○[漢中士女志]「建-議——」。

【渜】ダン、ナン。乃管切 旱
ゆ、(湯)。

【湺】ゼン、ナン。乳兗切 銑
あらふ、(濯)。

【渜】ダン、奴亂切 翰 ドン、奴昆切 元
ナン。切　ノン。切
浴の餘汁、のこりゆ。○[儀]「——濯棄二于坎一」。

【渝】ユ。羊朱切 虞
❶變ず、かはる、かふ。○[穀]「不レ日其盟——」。
❷さく、(解)。○[太元格]「裳-格鞶-鉤——」。
❸あふる、(溢)。○[木華]「沸-潰——溢」。

【渟】テイ、チヤウ。特丁切 青
❶水止どまる、とゞまる、たゝふ。○[史]「決二——水一致二之海一」。
❷停に同じ、とゞむ、とゞまる。○[後漢]「——レ車呼與共載」。
❸汀に同じ、水際の平地、みぎは。
❹流れたゝふる貌にいふ字。○[白居易]「吾愛二其泉——風冷-々一」。
[澄渟] きよくたまる。○[水經、註]「其水——」。
[淸渟] 前に同じ。○[王彪之]「澄-淵恬以——」。
[泓渟] たまりて深きこと。○[宋濂]「——窈-深」。

【渠】キヨ、ゴ。彊魚切 魚
❶引く水の通路、みぞ。○[禮]「溝——必歩」。
❷深くして廣し。○[詩]「夏-屋——」。
❸大いなり。○[史]「誅二其——帥一」。
❹ひたす、(漸)。○[淮]「——レ蟾以守」。
❺車の轁、おほわ。○[山海經]「韓-流麟身——股」。
❻よろひ、(甲)、又、たて、(楯)。○[國]「文-犀之——十-行」。
❼他人を指す稱、かれ。○[康熙]「俗謂二他-人一爲二——儂一」。
❽樂章の名。○[國]「金二奏肆-夏、樊遏、——」。
[雖渠] せきれいといふ鳥の異名。○[詩、註]「脊令——也」。
[僧渠] 舟などの通ぜるみぞ。○[唐]「鈴庭開二——」。
[通渠] みぞをとほす、又、とほりたるみぞ。○[史]「西-方則二——漢-水雲-夢之野一」。
[軒渠] 笑ふ貌にいふ語。○[後漢]「兒識二父-母一、——笑-悅」。
[車渠] 玉の類。○[蘇子]「——瑪-瑙出二于荒-外一」。
[芋渠] かしらいものこと。○[馬融]「其土-毛則蕁-荷——」。
[汙渠] 濁りけがれたるみぞ。○[韓愈]「淸-瀞映二——一」。
[荒渠] あれはてたるみぞ。○[盧綸]「荊-花梨-葉滿二——一」。
[廢渠] やぶれすたれたるみぞ。○[王建]「深-沙塡二——」。
[暗渠] みえざる所にあるみぞ。○[梅堯臣]「野-泉鳴二——一」。

【渠】キヨ、其據切 御 ゴ。臼許切 語
詎に同じ、なんぞ、なんすれぞ、いづくんぞ。○[漢]「——有二其人一乎」。
[寧渠] いづくんぞ。○[史]「蘇-君在、儀——能乎」。
[何渠] 前に同じ。○[史]「——不レ若レ漢」。

【渡】ト、ツ。徒故切 遇
❶水を超え行く、ながれを通り過ぐ、わたる。○[後漢]「虎皆負レ子北——レ河」。
❷わたらしむ、わたす。○[宋]「江-淮禁二私——北-人一」。

㊂わたる場處、わたり、わたし。○〔王維〕「荒城臨二古ーー一」。
〔飛渡〕水をとびこえわたる。○〔晉〕「北來諸軍乃ー二ー江一也」。
〔競渡〕さきをきそひて水をわたる。○〔隋〕「爲二ーー之戲一」。「遲」。
〔過渡〕わたる、又、わたしば。○〔蘇軾〕「官舩ーー」
〔越渡〕わたる。○〔魏〕「ー二ー大海一」。
〔急渡〕いそぎわたる。○〔史〕「願大王ーー」。
〔津渡〕川などのわたし場。○〔孟浩然〕「湖平ーー濶」。
〔超渡〕とびこえわたる。○〔吳、誌〕「遂得二ーー一」。
〔潸渡〕みそかにわたる。○〔宋〕「必遣二人馬先自二上流一ーー」。

【渢】フウ、ブ。扶風切 東
㊀水の聲にいふ字。㊁弘くして大いなる聲にいふ字。

【渢】ハン、ボン。符咸切 咸 ハン、ホン。孚梵切 陷
中庸の聲にいふ字、一說に、浮きたる貌にいふ字。○〔左〕「美哉ーー乎」。

【渣】サ、セ。側加切 麻 サ、ゼ。助駕切 禡
水の名。

【湰】ワウ。鄔晃切 養
流れざる池水、たまりいけ。

【渤】ホツ、ボチ。蒲沒切 月
㊀氣の出づる貌にも水の聲にもいふ字。○〔郭璞〕「氣滃ーー以霧杳」。
㊁直隸省の東にありて山東省と奉天省との岬角によりて海口をなせる海、即ち、海の旁出せるものゝ義。○〔梁元帝〕「不レ臨二溟ー一安知二地ー載之厚一」。
〔滂渤〕水のさかんなる貌にいふ語。○〔七發〕「觀二其兩旁一、則ーー怫鬱」。
〔淯渤〕前に同じ。○〔江賦〕「鼓二唇窟一以ーー」。
〔滃渤〕霧などのいづる貌にいふ語。○〔柳宗元〕「氛霧ーー」。

【渥】アク、オク。於角切 覺
㊀あつく霑ふ、うるほふ、ひたる。○〔史〕「周澤未レー也」。
㊁あつく漬す、ひたす、うるほす。○〔周〕「ー二淳其帛一」。
㊂あつし、(厚)。○〔易〕「其刑ー」。
㊃光澤あり、つやつやし、うつくし。○〔楚辭〕「芳鬱ー而純美」。
〔優渥〕充分のうるはひ、又、てあつきこと。○〔陳〕「恩寵ーー」。
〔惠渥〕めぐみ。○〔潘岳〕「荷二君子之ーー一」。
〔殊渥〕すぐれてあつし。○〔杜甫〕「文彩承二ーー一」。
〔隆渥〕前に同じ。○〔唐〕「親遇ーー」。
〔深渥〕ふかくあまねきこと。○〔後漢〕「蒙レ恩ーー」。
〔霑渥〕うるほふ。○〔楊萬里〕「衣袖已ーー」。
〔普渥〕おほくあまねきこと。○〔唐〕「賜與ーー」。
〔親渥〕したしみあつし。○〔唐〕「恩顧ーー」。
〔寵渥〕前に同じ。○〔宋光〕「固宜レ膺二ーー一」。
〔周渥〕あまねく厚し。○〔顏延之〕「恩隱ーー」。

【渦】クワ。古禾切 歌 クワ、ケ。姑華切 麻
過に同じ、水の名。

【渦】ワ。烏禾切 歌
水旋り流る、うづまく、又、うづまく水、うづ。○〔杜牧〕「蜂房水ーー」。
〔盤渦〕水うづまく。○〔江賦〕「ーー谷轉」。
〔旋渦〕前に同じ。○〔袁桷〕「撫レ谷水ーレー」。
〔翻渦〕はねかへるうづまきの水。○〔王維〕「ーー跳沫兮蒼苔濕」。
〔潭渦〕水の深くうづまきたること。○〔歐陽〕「險石俯二ーー一」。

【渧】テイ、タイ。丁計切 霽
漉して滴る水、しづく。○〔地藏經〕「一毛一ーー」。

【渧】テイ、ダイ。田黎切 齊
啼に同じ、なく。

【渨】ワイ、エ。烏回切 灰
㊀しづむ、(沒)。㊁水の澳曲、くま。

【渨】井。羽鬼切 尾
水波涌き起こる貌にいふ字。○〔郭璞〕「ー濡濆瀑」。

【渨】ワイ、エ。烏賄切 賄
猥に同じ。

【溫】ヲン。烏魂切 元
㊀湯泉、いでゆ。○〔潘岳〕「湯井ーー谷」。
㊁柔和、やはらか、おだやか。○〔詩〕「ーー恭人」。
㊂純粹、すなほ。○〔詩〕「ー其如レ玉」。
㊃ぬくし、あたゝか、(煖)。○〔王褒〕「襲二狐貉之ー一者」。
㊄あたゝかならしむ、あたゝむ、又、あたゝかになる、あたゝまる。○〔禮〕「冬ー而夏凊」。
㊅習熟す、たづぬ、ならふ。○〔中〕「ーレ故而知レ新」。
㊆夏の季に吹く風。○〔禮〕「季夏ー風始至」。
〔寒溫〕さむきとあたゝかなること。○〔管〕「衣服足三以適二ーー一」。
〔凉溫〕すゞしきとあたゝかなること。○〔陸歐〕「朝夕異二ーー一」。
〔微溫〕すこしくあたゝかなること。○〔陸游〕「金鴨ーー香縹緲」。
〔清溫〕きよらかにしてやはらかきこと。○〔朱熹〕「德容自ーー」。

【溫】ウン、チン。紆問切 問
蘊に同じ、つゝむ。○〔詩〕「飲レ酒ー克」。

【湎】ベン、メン。莫甸切 霰
大いなる水の貌にいふ字。○〔左思〕「濵ー水漫」。

【湎】ベン、メン。彌殄切 銑
水の貌にいふ字。

【泝】ソ、ス。桑故切 遇
流に逆ひて上る、さかのぼる。

【渫】セツ、セチ。私列切 屑
㊀水中の滓泥を除き去る、きよくす、さらふ。○〔易〕「井ー不レ食」。
㊁ちる、ちらす、(散)。○〔漢〕「農民有レ錢粟有レ所レー」。
㊂やむ、(歇)。○〔曹植〕「爲レ歡未レー」。
㊃洩に同じ、もる、もらす。○〔莊〕「尾閭ーレ之而不レ虛」。
㊄けがる、けがす、(汙)。○〔王褒〕「去二卑辱奥ーー而升二本朝一」。
㊅あなどる、(慢)、なる、(狎)。○〔詩、傳〕「醉而不レ出是ーレ宗也」。
〔浚渫〕さらふ。○〔水經、註〕「不二嘗ーー一」。
〔開渫〕前に同じ。○〔范雲〕「一朝見二ーー一」。
〔清渫〕きよめはらふ。○〔朱熹〕「露井盆ーー」。

【渫】テフ、デフ。達協切 葉
㊀波の連なる貌にいふ字。○〔郭璞〕「長波浹ーー」。
㊁徹通す、とほす、とほる。○〔漢〕「慣眊不レー」。

【渫】セフ、ゼフ。實協切 葉

水の名。

【渫】タフ、デフ。直甲切 [洽]
水の貌にいふ字。

【渫】エイ。以制切 [霽]
烝したる戀むしれぎ。

【濅】シン。子鴆切 [沁]
浸に同じ。○〔史〕「有レ餘則用濅-—」。

【渭】ヰ。于貴切 [未]
陝西省にある黃河の一支流。○〔周〕「雍-州其浸—洛」。
〔濩渭〕衆くの波の聲にいふ語。○〔木華〕「灑-洏——-—」。
〔沸渭〕安からざる貌にいふ語。○〔王褒〕「佚-豫以——」。

【渮】カ。居河切 [歌]　賈我切 [哿]
—-澤は、水の名。

【渰】エン。衣檢切 [琰]
雲雨の貌にいふ字。○〔詩〕「有レ—凄-々」。

【渱】コウ、ク。戶公切 [東]
水沸く、わく、又、水の聲にいふ字。○〔左思〕「濆-—泮-汗」。

【渱】コウ、ク。古送切 [送]
水の貌にいふ字。

【渲】セン。息絹切 [先]
㊀小さき水、こみづ。
㊁畫法にてうす墨を再三そゝぐこと。○〔郭熙〕「擦以二水-墨一再-三而淋レ之謂二之——一」。

【測】ショク、ソク。初側切 [職]
㊀はかる。
(い)深淺をためす、度合をためす。○〔周〕「以二土-圭之法一—二土深一」。
(ろ)考へ慮る。○〔漢〕「人-心難レ—也」。
㊁きよし、(淸)。○〔周〕「漆欲レ—」。
㊂刃利し、さし、するどし。○〔詩、傳〕「旻-々猶二——一」。
〔億測〕あきらかにたしかめずしてはかること。○〔後漢〕「沉乃—二—徽-際一」。
〔檢測〕志らべはかる。○〔宋〕「澄大濯—二—之一」。
〔討測〕たづねはかる。○〔宋〕「—二—文-典一」。
〔原測〕前に同じ。○〔淮〕「—二—淑-淸之道一」。
〔窺測〕うかゞひはかる。○〔史辯〕「豈在二管-蠡所二能——一」。
〔揆測〕はかる。○〔曆志〕「三-代之興、皆—二—天-行一」。
〔窮測〕いづこまでもとほしはかる。○〔孫綽〕「必見二——一」。
〔精測〕くはしくはかる。○〔周朗〕「淵-檢——」。
〔推測〕おしはかる。○〔李商隱〕「驗二——一」。
〔探測〕さぐりはかる。○〔高啓〕「——費二修-綆一」。
〔蠡測〕ひさごを以て海水をはかる、卽ち、劣れる才識にて物事をはかるといふ語。○〔漢〕「以レ——レ海」。

【港】カウ、コウ。古項切 [講]
分かれ流るゝ水、水中の舟を行る道、みなまた、ふなみち、みなと。○〔韓愈〕「猶下航二斷-—絕-潢一以望中至二於海一」。

【港】コウ、ク。胡貢切 [送]
相通ずる貌にいふ字。○〔馬融〕「—二—洞-坑-谷一」。

【港】カウ、ゴウ。胡降切 [絳]
水の貌にいふ字。

【渳】ビ、ミ。綿婢切 [紙]　ビン、ミン。美隕切　ベン、メン。彌兗切 [軫]
㊀のむ、(歠)。㊁水の貌にいふ字。㊂尸に浴す、あらふ、ゆあみす。○〔周〕「大肆以二秬-鬯一—」。

【渴】カツ、カチ。苦葛切 [曷]
㊀甚だ飲を欲す、かわく。○〔詩〕「載飢載—」。
㊁水の反流すること。○〔柳宗元〕「楚、越方-言謂二水反-流者一爲レ—」。
㊂いそぐ、(急)。○〔公羊〕「不レ及レ時而日—レ葬也」。
〔止渴〕のどのかわきをとゞむ。○〔庾信〕「梅-林能—レ—」。
〔忍渴〕のどのかわくをこらふ。○〔後漢〕「孔-子—二—于盜-泉之水一」。
〔解渴〕のどのかわきをなほす。○〔世說〕「可二以——」。
〔療渴〕前に同じ。○〔國史補〕「滌レ煩—レ—」。
〔窮渴〕のみ水のなきにくるしむ。○〔晉〕「彼既—-—」。
〔焦渴〕水なくしてかわく。○〔玉堂閑話〕「城-內—-—」。
〔酒渴〕さけにゑひてのどかわくこと、又、酒ののみたきこと。○〔白居易〕「況是春深—-—人」。
〔醉渴〕前に同じ。○〔徐鉉〕「錦-里只聞消二—-—一」。

【渴】ケツ、ゲチ。巨列切 [屑]
水竭く、かる。○〔周〕「—-澤用レ鹿」。

【渵】バウ、メウ。莫交切 [肴]
大いなる水の貌にいふ字。

【渷】エン。以轉切 [銑]
水の名。

【游】イウ、ユ。以周切 [尤]
㊀うかぶ。
(い)水流にまかせて行く、うく。○〔詩〕「溯—從レ之」。
(ろ)泳ぐ。○〔詩〕「就二其淺一矣、泳レ之—レ之」。
(は)根據なくして存す。○〔禮〕「不レ倡二—言一」。
㊁あそぶ。
(い)樂しむ、物を玩びて情に適ふ。○〔禮〕「依二于德一—二於藝一」。
(ろ)放縱、ほしいまゝ。○〔詩〕「隰有二—-龍一」。
(は)職業に勤めず、官位に就かず。○〔荀〕「臣下職莫二—-食一」。
㊂あそび場所、離宮、別墅。○〔周〕「關-人王-宮每レ門四-人、囿—亦如レ之」。
㊃自適してある貌にいふ字。○〔詩〕「愼二爾優-—一」。
㊄水流。○〔漢〕「必居二上-—一」。
〔遡游〕流れに順ひくだる。○〔詩〕「—-—從レ之」。
〔浮游〕うかぶ。○〔史〕「蟬二蛻於濁-穢一、以—二—塵-埃之外一」。
〔惰游〕なまけ者のこと。○〔禮〕「垂-緌五-寸—-—之士也」。
〔並游〕たがひに交はりあそぶ。○〔漢〕「與二英-俊一—-—」。
〔淸游〕塵俗をはなれてあそぶ。○〔蘇軾〕「南-郭—-—繼二顏-謝一」。
〔汎游〕うかぶ。○〔顧光羲〕「相與期二—-—一」。

【斿】リウ、ル。力求切 [尤]
旌旗の旒、あし、はたあし。○〔左〕「鞶-厲-—纓」。
〔九斿〕星の名。○〔史〕「—-—九-星」。

【渹】クワウ、キヤウ。呼宏切 [庚]
水浪のとゞろく聲にも水と石と相激する聲にもいふ字。
〔何乃渹〕那の行ぞ。○〔世說〕「劉-眞長見二王-導一、導以レ腹熨二彈-棊-局一曰—-—、劉出曰、未レ見二他異一、惟聞二吳-語一」。

【凊】セイ、シヤウ。楚慶切 [敬]
㊀ひやゝか（冷）。
㊁厭くを極まる、あく。

【消】セイ、シヤウ。息幷切 [庚] 所景切 [梗]
㊀減少す、はぶく。㊁水門。

【渺】ベウ、メウ。亡沼切 [篠]
水長し、涯遠し、ながし、ひろし、はるか。○[管]「——乎如レ窮無レ極」。
〔浩渺〕水のひろくとはるかなる貌にいふ語。○〔宋之問〕「——浸二雲根一」。
〔杳渺〕前に同じ、又、はるかにはてのなき貌にいふ語。○〔白居易〕「尺波烟——」。
〔縹渺〕前に同じ。○〔黄山谷〕「蹊二晴雲之——一」。
〔窈渺〕前に同じ。○〔元好問〕「——朱絃寂寞心」。

【渼】ビ、ミ。無鄙切 [紙]
水波文をなすこと。

【湙】エキ、ヤク。羊益切 [陌]
水の流れ行く貌にいふ字。○[木華]「㶁——瀲灩」。

【湚】キ。古委切 [紙]
㊀水の貌にいふ字。㊁水醮く、つく。

【渾】コン。戸昆切 [元]
混に同じ。○[枚乘]「沌沌——」。
〔門渾〕肥え滿つる貌にいふ語。
〔渾渾〕水の濁る貌にも流るゝ貌にもいふ語。○〔舊唐〕「勿二——而濁一」。
〔胚渾〕かたちのできざるまへのこと。○〔江賦〕「類二——之未一レ凝」。
〔奔渾〕水のはやきながれ。○〔蘇轍〕「扁舟一去浮二——一」。
〔全渾〕全體といふに同じ。○〔蘇軾〕「頽然醉裏得二——一」。
〔雄渾〕つよくしてかぎりなくまッたきこと。○〔陸游〕「先生詩律擅二——一」。

【渾】コン。古本切 [阮]
滾に同じ。○[荀]「財貨——如二泉源一」。

【𣸣】サイ、セ。山佳切 [佳]
米を漉す、こす。

【渿】ダイ、ナイ。奴帶切 [泰]
水をかけあぶす、そゝぐ。

【湀】キ、ケイ、ケ。求癸切 [紙] 頎畦切 [齊] ケツ、ケチ。苦穴切 [屑]
泉出づ、わく、又、流通す、ながる。○[爾]「——闢流川」。

【湁】チフ。丑入切 [緝]
水微しく轉りて細かく涌く、わく、めぐる。○[司馬相如]「滭——鼎沸」。

【淲】キ。詡鬼切 [尾]
水の流るゝ貌にいふ字、ながる。

【湃】ハイ、ヘ。普拜切 [卦]
水波相戻る、なみもごろ、なみうつ、又、水の勢のつよき貌にも又は水の聲にもいふ字。○[司馬相如]「洶涌澎——」。
〔砰湃〕水勢のさかんなる貌、又、波のあひうつにもいふ語。○〔胡天游〕「——動二滄瀛一」。
〔滂湃〕前に同じ。○〔李頎〕「洞庭洪濤深闊二——一」。
〔泙湃〕前に同じ。○〔袁桷〕「寒湍瀉二——一」。
〔洴湃〕前に同じ、又、波の聲。○〔蘇轍〕「窓聽餘瀾鳴——」。

【湄】ビ、ミ。武悲切 [支]
水際の岸、みぎは、はま、いそ、ほとり、特に其の草の生ひたる地の水に臨みたる處。○[詩]「在二水之——一」。
〔曲湄〕まがりたるみぎは。○〔陸機〕「沿二黄河之——一」。

【渜】ダン、ナン。乃管切 [旱]
渜に同じ、ゆ。

【湅】レン。郎甸切 [霰]
絲帛を熟煮してをさむ、ねる。○[周]「㡛氏——絲」。

【湆】キフ、コフ。去急切 [緝]
幽かに濕ふ、ゑめる、うるほふ。○[徐鉉]「今人言二湆——一也」。

【湇】キフ、コフ。去急切 [緝]
羹汁、あつもの、ゑる。○[博雅]「羹謂二之湇一或作レ——」。

【湈】バイ、メ。謨杯切 [灰]
やぶる（壞）。

【㴔】キフ、コフ。迄及切 イフ、オフ。域及切 [緝]
水の疾き聲にいふ字。○[司馬相如]「汩——漂疾」。

【㳰】シユツ、シユチ。辛律切 [質]
水の流るゝ貌にいふ字、ながる。

【湒】シフ。子入切 [緝]
濈に同じ。○[石鼓文]「迄涌盈——」。

【潜】サン、ソン。子感切 [感]
地濕ふ、うるほふ、ゑめる。

【𣶒】クワツ、クワチ。古活切 [曷]
水の流るゝ聲にいふ字。

【湉】テン、ドン。徒兼切 [鹽]
安らかに流るゝ貌にいふ字。○[左思]「澶——漠而無レ涯」。
〔湉湉〕水のやすらかに流るゝ貌にいふ語。○〔杜牧〕「數灘風定翠——」。

【湋】井。羽非切 [微]
めぐる（回）。

【湌】サン、七安切 [寒]
餐に同じ。

【湍】タン。他端切 [寒]
㊀水流急なり、はやし、さし、急波同る、めぐる。○[孟]「往猶二——水一」。
㊁急流、激瀨、はやせ。○[陸機]「浮景映二淸——一」。
〔激湍〕はげしきはやせ。○〔徐璣〕「平沙少二——一」。
〔驚湍〕前に同じ。○〔歐陽修〕「下有二——之潄激一」。
〔峻湍〕けはしきはやせ。○〔江賦〕「——崔嵬」。
〔淸湍〕きよきはやせ。○〔陸機〕「浮景映二——一」。
〔急湍〕はやせ。○〔杜甫〕「片々輕鷗下二——一」。
〔飛湍〕前に同じ。○〔江南野錄〕「——千里」。
〔馳湍〕前に同じ。○〔江淹〕「——走浪」。
〔奔湍〕前に同じ。○〔杜甫〕「洶々開二——一」。
〔崩湍〕なみたてるはやせ。○〔柳宗元〕「東二洶湧之——一」。
〔瀨湍〕瀧のこと。○〔水經註〕「——廻注」。
〔碧湍〕水のみどりをなしたるはやせ。○〔王逢〕「百尺飛樓俯二——一」。

【湊】ソウ、シユ。倉奏切 [宥]
㊀水上の人のより會ふ所、みなと。○

〔汲冢周書〕「以爲二天下之大一一」。
㊁あつまる（聚）。○〔後漢〕「害除福一」。
㊂競ひ進む、すゝむ　おもむく。○〔戰〕「士爭一レ燕」。
㊃勝に通じ用ふ、はだのきめ。○〔文心雕龍〕「一理無レ滯」。

〔題湊〕棺の外に木を累ぬること。○〔史〕「梗楓豫樟爲二一一」。
〔輻湊〕車のやの中心にあつまる如くあつまること。○〔漢〕「一一」。〔職〕「條達一一」。
〔奔湊〕はせあつまる、はせおもむく。○〔晉〕「朝野一一」。
〔塡湊〕あまたあつまる。○〔魏〕「遠近一一」。
〔交湊〕まじりあつまる。○〔宋〕「饑寒一一」。
〔繁湊〕ゑげくあつまる。○〔宋〕「萬機一一」。
〔殷湊〕前に同じ。○〔魏〕「衆務一一」。
〔叢湊〕むらがりあつまる。○〔宋〕「廣州寶貨一一」。
〔流湊〕ながれあつまる。○〔白虎通〕「恩愛相一一一也」。

【湎】ベン、メン。彌兗切 銑
㊀ゑづむ、ふける、おぼる。
（い）飲酒にすさむ。○〔詩〕「天不三一レ爾以二酒」。
（ろ）物事に心志を奪はれて反省せず。○〔禮〕「流一而忘レ本」。
㊁流移す、かはる。○〔漢〕「風流民化一一紛々」。

〔沈湎〕ふくる、ゑづむ。○〔晉〕「一一冒レ色」。
〔淫湎〕前に同じ。○〔左〕「一一毀常」。
〔荒湎〕前に同じ。○〔晉〕「其一一如此」。
〔耽湎〕前に同じ。○〔舊唐〕「一二一於酒二」。

【湏】クワイ、エ。虎猥切 賄
潤に同じ、水の貌にいふ字。

【湐】ハク、ヒヤク。博陌切 陌
淺き水の貌にいふ字、あさし。

【湑】シヨ、ソ。私呂切 語

㊀漉して糟を去る、ゑたむ、一説に、さらふ（浚）。○〔詩〕「有レ酒一レ我」。
㊁露の物に著く貌にいふ字。○〔詩〕「零露一兮」。
㊂さかんなり（盛）。○〔詩〕「其葉一兮」。

【湙】シ。將此切 支
水の名。

【湒】シフ。子入切 緝
㊀雨下る、ふる。㊁沸涌の貌にいふ字。
㊂溓に同じ。㊃やはらぐ（和）。

【湓】ボン。蒲奔切 元
水涌く、わく。○〔漢〕「河水一溢」。

【湗】ホン。普悶切 願　フン、ホン。芳問切 問
㊀水の聲にいふ字。○〔郭璞〕「一流雷呴而電激」。
㊁滿ち起こる、わく。㊂ひたす（漬）。

【湔】セン。子仙切 先　子賤切 霰
傍より沾す、うるほす、又、手を滌ふ、あらふ、又そゝぐ（灑）。○〔戰〕「君獨無レ意レ一二祓僕一也」。

【湕】サン。則旰切 翰
濽に同じ、そゝぐ、あらふ。

【湎】ベン。眄面切 霰
小便、ゆばり。

【湕】ケン、コン。居偃切 阮
水の名。

【湖】コ。戸吳切 虞

陸地もて圍まれたる大水のたゞよひたる處、みづうみ、大陂。○〔周〕「揚州其浸五一」。

〔江湖〕かはとみづうみ、又、世間のこと。○〔史〕「浮二于一一二」。
〔湊湖〕ふかきみづうみ、又、みづうみをふかくさらふ。○〔南〕「鑿山一レ一」。
〔澄湖〕きよらかなるみづうみ。○〔李白〕「一一練明」。
〔清湖〕前に同じ。○〔杜甫〕「障見一一陰」。

【湗】ホウ、フ。芳用切 宋
深き泥、どろ。

【湴】濼に同じ。

【湫】シウ、シユ。疏有切 有
㊀ひたす（浸）。㊁そゝぐ（洗）。
㊂麪粉をひたし練る、こねる。

【湵】シウ、シユ。所鳩切 尤
小便、ゆばり。○〔國〕「少二一於豕牢一」。

【湭】イウ、ユ。於虯切 尤
ふかし（深）。

【湠】タツ、ダチ。陀葛切 曷
水の出づる貌にいふ字。

【湘】シヤウ、サウ。思將切 陽
㊀湖南省にありて洞庭湖に注ぐ水の名。○〔楚辭〕「屈子兮沉レ一」。
㊁にる（烹）。○〔詩〕「于以一レ之、維錡維釜」。

【湙】俗の涖の字。

【減】ケン。古泫切 銑

湛に耕す、たがへす。

【湛】タン、テン。宅減切 豏
㊀ゑづむ（沒）。○〔漢〕「浮一隨行」。
㊁露の盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「一一露斯」。
㊂重厚の貌にいふ字、おもし、あつし。○〔楚辭〕「忠一一而願レ進兮」。
㊃深き貌にいふ字、ふかし。○〔楚辭〕「一一江水兮」。
㊄すむ（澄）、又、あはし（澹）。○〔謝混〕「水木一淸華」。
㊅やすし。○〔揚雄〕「一安也」。
㊆たゝふ。「而酒一溢」。
（い）止ごまり滿つ。○〔淮〕「東風至而酒一溢」。
（ろ）止ごめ滿たす。○〔李劉〕「胸一二冰霜一」。「上穎」。
㊇河南省にある水。○〔周〕「荊州其浸一一」。

〔淵湛〕水のふかきこと。○〔魏〕「洞庭一一」。
〔凝湛〕みづのたまりて深きこと。○〔范成大〕「淵渟一一」。「收湖一一」。
〔黯湛〕うすぐらくして深きこと。○〔元稹〕「怪族潛流一一」。
〔清湛〕きよきこと。○〔王勃〕「以二一一凝鎮流靖レ俗」。

【湛】タン、デン。大陷切 陷
人の姓。

【湛】タン、トン。都含切 覃
耽に同じ、たのしむ、ふける。○〔詩〕「子孫其一」。

【湛】チン。持林切 侵
沈に同じ、ゑづむ。○〔史〕「一恩汪濊」。

〔浮湛〕うきゑづみ。○〔漢〕「與二閭里一一一」。
〔輔湛〕北斗の第四星のかたはらにある一の小星の名。○〔漢〕「一一沒、火守苦」。
〔深湛〕おちつきたること。○〔漢〕「默而好二一一之思二」。

【湛】イン。夷針切 侵
霪に同じ、ながあめ、久しき雨。○〔論衡〕「變復之家以二久-雨一爲レー」。

【湛】シン。子鴆切 沁 セン、將廉切 鹽 ソン。切
ひたす、（浸）。○〔禮〕「ー二諸美-酒一」。

【湛】チン。丑甚切 覃
ーー潭は、水の貌にいふ語。

【湛】イン。以荏切 寢
水動く、うごく。

【湛】チン、ドン。直禁切 沁
しづむ、（沒）。

【湜】ショク、ジキ。常職切 職
水淸くして底見ゆるにいふ字、すむ、きよし、一說に、正を持する貌にいふ字。○〔詩〕「涇以レ渭濁、ーー其沚」。
〔淸湜〕水のすみたること。○〔僧觀通〕「停-々映二ーー一」。

【湝】カイ、ケイ。古諧切 佳
㊀水の衆く流るゝ貌にいふ字。○〔詩〕「淮-水ーー」。
㊁さむし、（寒）、一說に、雨風止まず。

【湞】テイ、チヤウ。知盈切 庚
廣東省にある河、西江の一支流。

【湞】タウ、ヂヤウ。抽庚切 庚
㊀前條に同じ。㊁水の貌にいふ字。

【湟】クワウ、ワウ。胡光切 陽
陷溺す、おぼる。○〔揚雄〕「ー休也」。

〔滈湟〕水のながれはやき貌にいふ語。○〔司馬相如〕「前陸而後ーー」。
〔汩湟〕水のながるゝ貌にも又、音聲のすれあふ貌にもいふ語。○〔馬融〕「紋-槩ーー」。

【湟】キヤウ、カウ。許放切 漾
況に同じ、寒き水、ひやみづ。

【湠】タン。他旦切 翰
水の廣き貌にいふ字、ひろし、又、ひろき水、大水。○〔木華〕「渺-瀰ー-漫」。

【湢】ヒョク、ヒキ。彼測切 職
㊀水の驚き起つ貌にいふ字、わく、なみたつ。○〔貢師泰〕「縣溜音ー-泓」。
㊁浴室、ゆどの。○〔禮〕「外内不レ共二ー-浴一」。
㊂整肅の貌にいふ字、さゝのふ。○〔賈誼〕「三軍旅之容、ー-然肅-然、固以猛」。

【湣】ビン、ミン。美隕切 軫 眉貧切 眞
人の諡。

【湣】ベン、メン。眠見切 霰
混合す、まじる。○〔司馬相如〕「杳-眇以元ーー」。

【湣】コン。呼昆切 元
未だ定まらざること。○〔莊〕「置二其滑-ー一以レ隸相尊」。

【湤】シ。商之切 支
水往來す、ながる。○〔王周〕「淹-洑而ー謂二之腦一」。

【湥】トツ、トチ。他骨切 月
ながる、（流）。

【渮】カ。口个切 箇
船沙に著きて行く能はず、すわる、ゐる。

【溌】ハツ、ハチ。普活切 曷
潑に同じ。

【湄】バウ、モウ。莫報切 號
水漲る、みなぎる。

【湧】
涌に同じ。

【湨】ケキ、キヤク。古闃切 錫
水の名。○〔春秋〕「會二于ー-梁一」。

【湩】トウ、ツ。多貢切 送 チョウ、チュ。竹用切 宋
㊀乳の汁、ちゝ、ちしろ。○〔穆天子傳〕「巨-蒐之人具二牛-馬之ー一以洗二天-子之足一」。
㊁鼓の聲にいふ字。○〔管〕「ー-然擊レ鼓士忿-怒」。
〔乳湩〕ちゝのしる。○〔唐〕「德-秀自ーレ之、數-日ー流」。
〔酪湩〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「ーーー調レ羹克二漢-使一」。

【湩】タウ、トウ。多鵖切 江
水濁る、にごる。

【湩】トウ、ヅ。徒東切 東
幢に同じ。

【㴙】サフ、ソフ。測合切 合 セフ。莊輒切 葉
㊀下り濕す、うるほす。
㊁下り滴る、たる、したゝる。

【㴙】サフ、セフ。實洽切 洽
煠に同じ。

【湫】シウ、シュ。即由切 尤
㊀水池、いけ。○〔杜甫〕「南有レ龍兮在二山ーー一」。
㊁憂愁の貌にいふ字、うれふ、かなしむ。○〔春秋繁露〕「ーーー者悲-愁之狀也」。
㊂涼しき貌にいふ字、すゞし。○〔宋玉〕「ー兮如二秋-風一」。
〔龍湫〕たき。○〔釋道潛〕「ーーー亘二三-峽一」。
〔潭湫〕水の深きいけ。○〔蘇軾〕「需-雨卷二ーーー」。
〔深湫〕前に同じ。○〔陳陶〕「老-龍鎖二ーーー」。
〔澗湫〕たにがはの水たまり。○〔釋惠洪〕「雌-霓飮二ーーー」。

【湫】セウ。子了切 篠
㊀滯留して散ぜず、つどふ、とゞこほる。○〔左〕「壅-閉ー-底」。
㊁ひくし、（下）、又、せまし、（隘）。○〔左〕「ー-隘囂-塵」。
〔隘湫〕せばきこと。○〔韓駒〕「賃レ屋ー而ー」。

【湫】シウ、ス。在九切 有
水を洩らす瀆、みづはけみち、みぞ。

【湫】セウ。玆消切 蕭
夫ーーは、地の名。

【湫】ソ、ス。宗蘇切 虞
人の名。

【湬】
浴の湫の字。

【湭】シウ、ジュ。才周切 尤
㊀泅に同じ、水上に浮び行く、およぐ。㊁もる、(液)。○〔博雅〕「—、酒‑液也」。

【湪】スヰ。除醉切 寘
田の門の小さき溝、こみぞ。

【[illegible]】クワイ、エ。火怪切 卦
水の相激する聲にいふ字、○〔郭璞〕「潩‑濊‑—」。

【湮】イン。於眞切 眞
おつ、(落)、しづむ、(沈)。○〔汴都賦〕「尙或展翳而沈——」。
〔堙湮〕うづもるゝこと。○〔孔武仲〕「正爲利欲相——」。

【湮】エン。烏前切 先　エツ、エチ。一結切 屑
ふさがる、ふさぐ、(塞)。○〔左〕「鬱—不育」。

【湯】タウ。土郎切 陽
㊀熱したる水、ゆ。○〔楚辭〕「浴蘭——而沐芳華」。
㊁あしきものをはらひ除くこと。○〔書、疏〕「除殘去虐曰—」。
㊂德澤あまねく及ぶこと。○〔書、疏〕「雲行雨施曰—」。
㊃はらふ、(攘)、又、さかんなり、(昌)。○〔風俗通〕「—者攘也昌也、言其攘除不軌天下熾盛」。
〔金湯〕城池の堅固なること。○〔漢〕「皆爲—城——池」。
〔沸湯〕わきたちたるゆ。○〔[illegible]〕「猶以小雪投——」。
〔熱湯〕前に同じ。○〔禮、疏〕「切—、——漬之也」。
〔溫湯〕溫泉のこと。○〔唐〕「甲寅至自——」。

【湯】シヤウ、サウ。式羊切 陽
波動く貌にいふ字、一說に、流るゝ貌にいふ字。○〔詩〕「江‑漢——」。

【湯】タウ。他浪切 漾
㊀熱水を沃ぐ、ゆをかく、そゝぐ。○〔禮〕「如以熱——」。㊁蕩に通じ用ふ、ほしいまゝ。○〔詩〕「子之—兮」。㊂盪に通じ用ふ。○〔漢〕「四‑星若合是謂大——」。

【湯】ヤウ。余章切 陽
暘に同じ。○〔淮〕「日出于—谷」。

【湰】リウ、ル。良中切 東
高きより下る水。

【湱】クワク。霍虢切 陌
波の相激する聲にいふ字。○〔郭璞〕「溯—㶁‑瀨」。
〔㶁湱〕波のうちあふ音にいふ語。○〔謝杰〕「流響——」。
〔渹湱〕前に同じ。○〔周光鎬〕「——滂‑湃」。

【湲】エン、オン。于權切 先　クワン、ゲン。于元切 元　侯頑切 刪
水の流るゝ貌にも又は水の流るゝ聲にもいふ字。○〔楚辭〕「觀流‑水之潺——」。

【湳】ダン、ナン。乃感切 感
水の名。

【湴】ハン、ヘン。蒲鑒切 陷
深き泥、どろ。

【湴】ハン、ヘン。皮咸切 咸
淖中を行く。

【[illegible]】ダ、ヂ。女加切 麻
うるほふ、うるほす、(沾‑濕)、一說に、溿の譌字。

【[illegible]】サツ、サチ。子末切 曷
水石に激する貌にいふ字、うつ。

【[illegible]】チ。滯利切 寘
うるほふ、うるほす、(漬)。

【渧】テイ、ダイ。田黎切 齊
米瀾、こめしろ、しろみづ。

【[illegible]】澄に同じ。○〔楚辭〕「—楊‑舟于會‑稽」。

【[illegible]】キヨ、コ。其居切 魚
みぞ、(溝)。

【[illegible]】スヰ。式軌切 紙
水に同じ。

【渽】滓に同じ。

【[illegible]】イ。余支切 支
水の文、あや、さゞなみ。

【湶】セン、ゼン。疾緣切 先
泉に同じ。○〔孫君碑〕「波‑障——瀨」。

【[illegible]】タン、トン。吅甘切 覃
水。

【[illegible]】偏に同じ。○〔漢張公碑〕「聲洞—兮」。

【[illegible]】サク、ソク。色角切 覺
濯潘、あらひしろ。

【[illegible]】フン、ホン。敷文切 文
飛ぶ。

【[illegible]】カウ、ギヤウ。何盈切 庚
水を沃ぐ、そゝぐ、ながす。

【湷】ツヰ。直追切 支
水の深き聲にいふ字。

【湵】イウ、ウ。於糺切 有
大いなる澤、さは。

【黎】レイ、ライ。鄰溪切 齊
もろ〳〵、(衆)。

十畫

【溎】エン。於甸切 霰
大いなる水の貌にいふ字、ひろし。

【溑】セウ。七宵切 蕭
峻き波、たかなみ。

【溏】タウ、ダウ。徒郎切 陽
ぬま、(淖)、いけ、(池)。○〔郭璞〕「頹——委‑蛇」。

【源】ゲン、グワン。愚袁切 元
㊀みなもと、もと。

(い)水泉の流れ出づる本、みなかみ。○〔禮〕「祈₂祀山-川百-|-|₁」。
(ろ)物事の根本。○〔晉〕「易者義之|」。
㊁たえまなく流るゝ貌にいふ字。○〔孟〕「欲₂常-々而見₁レ之、故|-|而來」。
〔泉源〕水の流れ出づるもとの處。○〔詩〕「|-|在レ左」。
〔淵源〕水の流れ出づるもとの深き處、卽ち、物事の本原にいふ語。○〔魏〕「測₂其|-|₁、覽₂其清-濁₁」。
〔洪源〕おほもとの處。○〔隋〕「昭哉上-德、波₂彼|-|₁」。
〔清源〕澄みわたれる水のもと。○〔吳均〕「濟-水有₂|-|₁」。
〔仙源〕やまびとの居る處。○〔宋之問〕「未レ窮₂|-|極₁」。
〔桃源〕地の名、晉の太元中武陵の人某此の地に至りしといへる淘潛の桃花源の記より仙境の義に用ふる語。○〔蒙齋筆談〕「鎭-江茅-山世以比₂|-|₁」。
〔定源〕さまりたるもとの處。○〔陸機〕「沈-姿無₂|-|₁」。
〔根源〕もと。○〔唐〕「子-弟國之|-|」。
〔𪞶源〕前に同じ。○〔後漢〕「川河領-障之|-|」。
〔生源〕物事の生じ來たるもと。○〔史〕「太-伯之與、遂₂|-|₁也」。
〔醇源〕純粹なるもと。○〔晉〕「|-|浸竭」。
〔靈源〕幽妙なるもとの處。○〔陸雲〕「洞₂志|-|₁」。
〔濬源〕水の深きもとの處、卽ち、物事の深源となるをいふ語。○〔舊唐〕「肅-々藝-祖、滔-々|-|」。
〔邪源〕惡きとのもと。○〔舊唐〕「聖-旨所レ及、實辨₂|-|₁」。
〔化源〕風化のもと。○〔舊唐〕「堅₂于|-|₁」。
〔本源〕もと。○〔舊唐〕「窮₂法-度之|-|₁」。
〔靈源〕物事のおこりを窮め知る。○〔易乾鑿度〕「顧₂物以|レ|」。
〔竭源〕極まり盡くるもとの處。○〔隋〕「詞無₂|-|₁」。
〔遐源〕遠く隔たりたるもとの處。○〔應瑒靈河賦〕「咨₂靈-川之|-|₁兮于崑崙之神-丘」。
〔討源〕もとの處を尋ねさがす。○〔文賦〕「或沿レ波而|レ|」。
〔玄源〕奮遠なるもと。○〔楊泉〕「乃天-地之|-|」。
〔殊源〕物事の出處を各別にす。○〔徐陵〕「機有₂|-|₁」。
〔奧源〕深きもとの處。○〔錢起〕「探-端-氣之|-|₁」。

【溒】エン、ヲン。雨元切 元
水の流るゝ貌にいふ字。

【溓】レン、ロン。勒兼切 鹽
中絶えたる小さき水。

【溓】デン、チン。泥占切 鹽
黏著す、ねばりつく。○〔周〕「雖レ有₂深-泥₁亦弗₂之|₁」。

【溓】レン。良冉切 琰
㊀ひたす、ひたる、（漬）、一說に、薄冰、うすきこほり、又一說に、小さき水。○〔潘岳〕「水|-|以微凝」。
㊁恬靜の貌にいふ字、志づか。

【溓】カン、ゲン。乎監切 陷
水を漬きて物を沾す、うるほす、そゝぐ。

【溓】カン、ケン。乎韽切 陷
物を水中に沈めて冷かならしむ、志づむ、ひやす。

【溓】ラン、レン。兩減切 豏
味薄し、うすし、まづし。

【溓】リン。梨針切 侵
濂に同じ。

【溔】エウ。以沼切 篠
㊀水の際涯なきを、ひろし。○〔司馬相如〕「灝|-|潢-瀁」。
㊁深き水の色にいふ字。○〔郭璞〕「沆-瀁皛|-|」。

【潚】セウ。七肖切 嘯
峻き波、たかなみ。○〔木華〕「|-|潚潔而爲レ魁」。

【溕】ボウ、ム。蒙弄切 送
微雨、こさめ。

【湪】チョウ、チュ。展勇切 腫
水を偃めたるを、ゐせき。

【準】シユン、ジユン。之允切 軫
㊀物の平かなるを測るの正さし用ふるもの、みづもり、「水平」。○〔漢〕「繩直生レ|、|者所₂以揆レ平取₁レ正」。
㊁模法、かた、のり。○〔淮〕「故謹₂權-衡|-|繩₁」。「海₁而|」。
㊂たひらか、（平）。○〔禮〕「推而放₂之東-|₁」。
㊃ひとし、（均）。○〔禮〕「先定₂|-|直₁」。○〔周〕
㊄平均ならしむ、ひとしくす。「|レ之然後量レ之」。
㊅正す。○〔書〕「|-人」。
㊆のっとる、（則）、ならふ、（倣）。○〔易〕「易與₂天-地|₁」。
〔平準〕物の均一をはかりて公平を保つこと。○〔鹽鐵論〕「|-|則不レ失レ職」。
〔標準〕かた、のり、めあて、まと。○〔杜甫〕「詩-家|-|」。
〔定準〕さまりたるのり。○〔李白〕「風-水無₂|-|₁」。
〔依準〕たよりなぞらふ。○〔左、疏〕「雖レ|₂|-舊-條₁、而斷有₂出-入₁」。
〔常準〕一定してかはらざるのり。○〔後漢〕「著爲₂|-|₁」。
〔佪準〕前に同じ。○〔南〕「守-宰祿-奉、蓋有₂|-|₁」。
〔直準〕すぐなるのり。○〔晉〕「任₂徽-文之|-|₁」。
〔前準〕先時ののり。○〔南〕「車-旗服-色一依₂|-|₁」。
〔令準〕善良なる模範。○〔宋〕「代之|-|」。
〔識準〕識度といふに同じ。○〔南〕「|-|弘正」。
〔彝準〕前に同じ。○〔魏〕「著₂之于令₁、永爲₂|-|₁」。
〔盛準〕立派なるのり。○〔南〕「先-事之|-|、亦後-王之彝-憲」。
〔通準〕いづこ如何なる時といへども用ひらるゝのり。○〔魏〕「背₂衛下一同₂常-例₁、以爲₂中|-|上₁」。
〔水準〕みづもり。○〔元〕「平-衍設₂|-|₁」。
〔繩準〕法則とすること。○〔錢琊〕「立爲₂|-|₁」。
〔規準〕前に同じ。○〔陳章〕「輻-輳必循₂乎|-|₁」。
〔高準〕たかき鼻。○〔蘇軾〕「|-|濃-眉散₂荊-棘₁」。
〔龍準〕龍の如きいかれる鼻のこと。○〔梁簡文帝〕「蛇-軀|-|」。

【準】セツ、セチ。職悅切 屑
頄權（はゝぼね）たひらかなるを、一說に、鼻梁、はなばしら、はなすぢ。○〔史〕「隆|而龍-顏」。

【準】スヰ。數軌切 紙
㊀平か。
㊁車轅の脊の水の停ごまらざる所。

【溗】ショウ、ジョウ。神陵切 蒸
㊀波前後相淩ぐ、志のぐ。
㊁水流れず、とゞまる。

【溘】カフ、コフ。口答切 合
㊀奄忽、たちまち。○〔江淹〕「朝-露|-至」。
㊁よる、（依）。○〔鮑照〕「穹|崩聚」。
㊂いたる、（至）。○〔師貞〕「未レ逢₂朝|₁」。
〔溘々〕忽ち至る貌にいふ語。○〔李賀〕「塘-水聲|-|」。

【溘】カイ。苦盖切 泰
船沙に著く、つく、すわる。

【溙】タイ。他蓋切 〔泰〕
水の貌にいふ字。

【湏】コウ、ク。古送切 〔送〕
水の名。

【涫】キウ、ク。居戎切 〔東〕
縣の名。

【溚】タフ、トフ。德合切 〔合〕 タフ、テフ。竹洽切 〔洽〕
うるほふ、うるほす、(溼)。

【溛】ワ、エ。烏瓜切 〔麻〕
汙下す、くぼむ。○〔郭璞〕「迤-渝——」。

【溜】リウ、ル。力救切 〔宥〕
㊀流れ下る、流れ落つ、ながる。○〔潘岳〕「泉涓-々而吐—」。
㊁水垂れ下がる、したゝる。○〔酉陽雜俎〕「每雨所レ—處輙生黃菌」。
㊂流れ下る水、ながれ。○〔宋〕「大河正——」。
㊃したゝり下る水、したゝり、しづく。○〔謝朓〕「玉—膺下垂」。
㊄ひらく、(發)。○〔管〕「滅——大成」。
㊅霤に同じ、あまだり。○〔左〕「三進及レ—」。
(懸溜) 高き所より落つる水。○〔陶潛〕「淙-々——」。
(飛溜) 前に同じ。○〔蘇軾〕「——洒浮磬」。
(碧溜) 青き水のしたゝり。○〔武平一〕「闢泉——溫」。
(簷溜) 簷より落つる水のしたゝり。○〔後漢〕「前當——、北面跪」。
(階溜) 前に同じ。○〔王褒〕「——倚危松」。
(決溜) 水道のきれ流ること。○〔世說〕「眼如懸河決——」。
(滴溜) 水のしたゝり落つること。○〔高僧傳〕「其水——成レ音可レ愛」。
(叢溜) 水あつまりて滴り落つ。○〔潘岳〕「——奔激」。
(氷溜) つらゝのこと。○〔庾肩吾〕「——落レ溪深」。
(瀉溜) 上より注ぎ落つる水のしたゝり。○〔魏收〕「——高齋磬」。
(瀑溜) 瀧のこと。○〔王勃〕「飛泉——、瀑澄峯崖」。
(迸溜) ほとばしり流るゝ雨だり。○〔姚合〕「——竹修々」。
(微溜) 少量なる水のしたゝり。○〔陸龜蒙〕「溝塍隨——」。

【溜】リウ、ル。力求切 〔尤〕
㊀前條に同じ。
㊁留に同じ。○〔戰〕「成皋石—之地」。
㊂流に通じ用ふ。○〔靈樞經〕「所レ—爲レ滎」。

【溝】コウ、ク。居侯切 〔尤〕
㊀みぞ。
(い)田間の水瀆。○〔周〕「十夫有レ—」。
(ろ)谷に注ぐ水。○〔爾〕「水注レ谷曰レ—」。
(は)城の塹、ほり。○〔史〕「深レ—高レ壘」。
(に)水を受け流す所。○〔朱灣〕「點々無レ聲落瓦—」。
㊁みぞを設く、みぞをほる。○〔周〕「城而封—之」。
(推溝) 民をあはれみ救ふこと。○〔梁簡文帝〕「——之念、有レ如レ不レ足」。
(深溝) 渠をふかく掘り下ぐ。○〔史〕「足下深レ—高レ壘勿與戰」。
(羊溝) 雞を闘はする處。○〔莊〕「——之雞、三歲爲レ株」。
(泥溝) 汙濁のみぞ。○〔韓愈〕「陷身——間」。
(梢溝) 開墾せざる地のみぞ。○〔周〕「——三十里而廣倍」。
(城溝) しろの周圍に掘りめぐらしたるみぞ。○〔史〕「梁伯好土功治——」。
(通溝) みぞの水をよく流れしむ。○〔史〕「決レ瀆——」。
(防溝) 敵を禦ぐために設けたるみぞ。○〔管〕「關深——」。
(隄溝) 防と渠と。○〔管〕「導水潦利——」。
(禁溝) 皇居の周圍に穿ちあるみぞ。○〔韓愈〕「瑤下森渠入——」。
(澮溝) 田間に通ずるみぞ。○〔柳宗元〕「決——導伏流」。
(漕溝) 物を運ぶために穿ちたるみぞ。○〔王濟〕「灑環護——」。

【溞】サウ、ソウ。蘇遭切 〔豪〕 シウ、ス。疎鳩切 〔尤〕
米を淘ふ聲にいふ字。○〔詩〕「淅レ米——」。

【渚】チ、ヂ。陳尼切 〔支〕
坻に同じ。

【溟】ベイ、ミヤウ。莫經切 〔青〕
㊀くらし。
(い)小雨ふりしきりて空晦き貌にいふ字。○〔揚雄〕「密雨——沐」。
(ろ)水はなはだ杳かなる貌にいふ字。○〔木華〕「經途瀴—」。
(は)山氣深くして山色の明かならざる貌にいふ字。○〔左思〕「瀴—鬱崃」。
㊁水の色黑き海、又單に、海の稱。○〔莊〕「北—有レ魚」。
㊂水激しうごく貌にいふ字。○〔郭璞〕「雷注杳——」。
(滄溟) 青海原。○〔齊〕「南威越——」。
(四溟) 四海といふに同じ。○〔張協〕「雨足散——」。
(窮溟) 海のはつる處。○〔海賦〕「翔天池瞰——」。
(重溟) 奧深き海。○〔天台山賦〕「或倒景於——」。
(嵩溟) 高山と大海と。○〔梁〕「跨躡——」。
(清溟) 澄みわたれる海。○〔阮籍〕「聊逍遙于——」。
(遊溟) 海に浮ぶ。○〔孫綽〕「怪——之量」。
(鴻溟) 大海のこと。○〔盧諶〕「固可以乘——而自安」。
(巨溟) 前に同じ。○〔皮日休〕「至與臨——」。
(溟々) 暗き貌にいふ語。○〔荊居實〕「秋風颯颯兮雲——」。

【溟】ベイ、ミヤウ。莫迥切 〔迥〕
瀴に同じ。

【溟】ベキ、ミヤク。莫狄切 〔錫〕
小雨、こさめ。

【溡】シ、市之切 〔支〕
水の名。

【溢】イツ、イチ。夷質切 〔質〕
㊀みつ。
(い)內容つまりふさがる、一ぱいになる。○〔史〕「充—而露積於外」。
(ろ)足る。○〔淮〕「衣食饒—、姦邪不レ生」。
(は)はびこり布く。○〔中〕「洋—乎中國」。
㊁あふる。
(い)みち過ぎて流れ出づ、こぼる。○〔史〕「河—通レ泗」。
(ろ)出づ。○〔史〕「銀自レ山—」。
㊂奢る。○〔荀〕「以驕—人」。
㊃過ぐ。○〔莊〕「多—美之言」。
㊄洪水、おほみづ。○〔禮〕「凶旱水—」。
㊅いましむ、つゝしむ、(愼)、又、しづか、しづむ、(靜)。○〔詩〕「假以—レ我」。
㊆二十四兩の量、又、一手に盛りたる量。○〔儀〕「朝一—米」。
㊇鎰に同じ。○〔荀〕「藏千—之寶」。
㊈佾に同じ。○〔漢〕「千童羅舞爲八—」。

〔富溢〕金錢の滿ち足ること。○〔晉〕「生而—·—」。
〔羨溢〕餘り盈つ。○〔漢〕「富-者奢-侈—·—」。
〔溢溢〕湧きあがりあふる。○〔漢〕「河-水—·—」。
〔潰溢〕やぶれてあふれ出づ。○〔漢〕「—·—橫-流」。
〔泛溢〕滿ちあふる。○〔北〕「超二長-隄一以防二—·—一」。
〔饒溢〕前に同じ。○〔淮〕「衣·食—·—」。
〔溶溢〕流るゝ貌にいふ語。○〔南都賦〕「玉-膏—·—流二其隅一」。
〔奔溢〕おごること。○〔史〕「—·—僭-差者、謂二之顯-榮一」。
〔衍溢〕前に同じ。○〔史〕「河-菑—·—、害二中-國一也尤甚」。
〔驕溢〕たかぶりて分に過ぎたることを爲す。○〔史〕「網疏而民富、役レ財—·—」。
〔滿溢〕みつ、あふる、おごる。○〔漢〕「江-河—·—」。
〔放溢〕恣にして分に越ゆ。○〔魏〕「精·誠不レ制、則—·—無レ極」。
〔盈溢〕前に同じ。〔漢〕「旬-日不レ露必—·—」。
〔逆溢〕さかさに流れたち出づ。○〔漢〕「百-川—·—」。
〔淫溢〕妄りにして常道に遵はざること。○〔漢〕「窮斯—·—」。
〔盛溢〕さかんにみつ。○〔漢〕「河-水—·—」。
〔涌溢〕わきあがり滿つ。○〔後漢〕河水—·—」。
〔溢濫〕分に越ゆること。○〔後漢〕「賞不二—·—一」。
〔暴溢〕前に同し。○〔魏〕「漢-水—·—」。
〔漲溢〕みなぎり、みつ。○〔金〕「毎二秋-潦一—·—」。
〔縱溢〕恣にして分に越えたること。○〔晉〕「于レ時—·—者、必以レ凶終」。
〔豐溢〕ゆたかにしてありあまること。○〔唐〕「帑-藏—·—」。
〔冗溢〕餘分なるものゝありあまること。○〔唐〕「兵與內·外官—·—」。
〔耗溢〕減ぞると餘ること。○〔唐〕「未レ始—·—一」。
〔增溢〕加はり滿つること。○〔宋〕「槩-量—·—」。

【熄】ショク、ソク。相卽切 職

水の貌にいふ字、ながる。

【溤】ジョ、ニョ。人庶切 御

洳に同じ。

【淪】ロン。盧困切 願

水中に船を曳く、ひく。

【溥】ホ、フ。滂古切 麌

㊀おほいなり(大)。○〔詩〕「我受レ命—將」。
㊁あまねし(普)。○〔詩〕「—天之下」。
〔周溥〕偏きこと。○〔宋〕「厥福—·—」。
〔宏溥〕廣く偏し。○〔韓愈〕「周-市—·—」。
〔率溥〕土の濱にまたがひ天の下をあまねくすること、卽ち天地の間至る處にの意にいふ語。○〔宋〕「—·—歡-聲雷動」。
〔隆溥〕盛んに偏くあること。○〔曹植〕「何恩施之—·—」。

【溥】フ。芳無切 虞

しく(布)。○〔禮〕「—レ之而橫二乎四-海一」。

【溥】ホ、ブ。伴姥切 麌

ぬる(塗)。

【溥】ハク。匹各切 藥

水の貌にいふ字。

【溗】チン。直稔切 寢

水の流るゝ貌にいふ字、ながる。

【溦】ビ、ミ。無非切 微

㊀小雨、こさめ。㊁みぞ(瀆)。

【溧】リツ、リチ。力質切 質

水、又、洲の名。

【湶】セン。倉甸切 霰

—渕は、疾き貌にいふ語。

【澭】ヨウ、ユ。於容切 冬

灉に同じ。

【溤】チ、ウ。安古切 麌

【溪】ケイ、カイ。牽奚切 齊

水の貌にいふ字、ながる。

谿に同じ、たに。○〔蜀〕「的-盧走墮二襄-陽-城西檀—·—水中一」。
〔綠溪〕水のあを／＼とせる谷がは。○〔岑參〕「瓜-田傍二—·—一」。
〔碧溪〕前に同じ。○〔杜甫〕「—·—搖レ艇濶」。
〔翠溪〕前に同じ。○〔郭元超〕「—·—鼎以淪·漣」。
〔邪溪〕斜にしてすぐならざる谷川のこと。○〔陳叔達〕「夕-霧上二—·—一」。
〔烟溪〕かすみこめたる谷川。○〔錢起〕「種-麥傍二—·—一」。

【溫】溫の本字。

【溭】ショク、シキ。士力切 職

波の勢にいふ字。○〔郭璞〕「—減-潚-涓、龍-鱗結-絡」。

【溮】シ。霜夷切 支

水の名。

【溹】サク、シヤク。疾各切 藥

水。

【溠】サ、セ。側駕切 禡

うるほふ、うるほす(溼)。

【溹】シヤ、ゼ。辭夜切 禡

水の名。

【溯】ソ、ス。素故切 遇

流れに逆ひて上る、さかのぼる。

【溯】泝、又、潮に同じ。

【溰】溰に同じ。

【溱】シン。側詵切 眞

㊀河南省にある水、洧水の一支流。○〔詩〕「—與レ洧方渙-々兮」。
㊁おほし(衆)。○〔詩〕「室-家—·—」。
㊂さかんなり(盛)。○〔班固〕「百-穀—·—」。
㊃のぶ(舒)。○〔揚雄〕「物出而—·—」。
㊄臻に同じ、いたる。○〔漢〕「萬-祥畢—」。
㊅蓁に通じ用ふ。○〔詩攷〕「其葉—·—」。

【溲】シウ、シュ。疏有切 宥

水を沃ぎて粉麪を浸し調ふ、これる、つく、そゝぐ、ひたす。○〔禮〕「—二稻-粉一糔二—之一以爲レ酏」。

【溲】シウ、シュ。疏鳩切 尤

㊀そゝぐ(沃)、ひたす(浸)。○〔儀〕「明-齊—レ酒」。
㊁小便、ゆばり。○〔後漢〕「遺二失—-便一」。
㊂盛んに多き貌にいふ字。○〔王褒〕「泡—汎-淒」。
㊃米を淅ぐ聲にいふ字。
〔牛溲〕牛の溺。○〔宋〕「使二臣誰得レ效二—·—馬-勃之助一」。
〔偃溲〕かはや。○〔柳宗元〕「而又穴爲二—·—、溺爲二墉·垣一」。

【溲】サウ、ソウ。蘇遭切 豪

いばり(便)。

【溳】ウン、ヲン。王分切 文

水、又、州の名。

【溳】ヰン、ウン。于敏切 軫

濜の字を見るべし。○〔郭璞〕「溭-減-濜-—」。

【溴】 シウ、シユ。尺又切 宥
水の氣。

【溵】 イン、オン。於斤切 文
濦、濦に同じ。

【溶】 ヨウ、ユ。餘封切 冬 余隴切 腫
㊀水の盛んなる貌にいふ字、さかんなり、一說に、安らかに流るゝ貌にいふ字。○〔揚雄〕「━方二皇于西-清一」。
㊁閑暇あり、ひまなり、安らか、一說に、盛んなる貌にいふ字。○〔楚辭〕「心━━其不レ可レ量兮」。
〔溶瀉〕湧きあがる貌にいふ語。○〔司馬相如〕「紛━━而上-厲」。
〔動溶〕うごき流る。○〔淮〕「━二━無-形之域一」。
〔頂溶〕水の深く廣き貌にいふ語。○〔江淹〕「潺-湲━━兮」。
〔洶溶〕湧きあがる。○〔韓愈〕「時-論方━━」。
〔洪溶〕水の大きく深きこと。○〔元結〕「海-浩-淼兮汩━━」。
〔搖溶〕前に同じ。○〔李商隱〕「黃-河━━天上來」。

【滊】 ケフ、コフ。虛業切 葉
水の流るゝ貌にいふ字。

【溍】 エウ。伊鳥切 篠
深くして測られず、ふかし。

【溷】 コン、ゴン。胡困切 願 戸袞切 阮 クワン、ゲン。胡慣切 諫
㊀みだる、(亂)、にごる、にごす、(濁)。○〔屈平〕「世━濁而不レ分」。
㊁けがる、けがす、(穢)。○〔禮〕「君-子不レ食二━餘一」。
㊂かはや、(厠)。○〔晉〕「門-庭藩━皆著二紙-筆一」。
㊃犬豕の厠の圏、いぬごや、ぶたごや。○〔論衡〕「捐二于猪━一」。
〔糞溷〕かはや　○〔南〕「落二━━一者下官是也」。
〔厠溷〕前に同じ。○〔歸田錄〕「雖二━━間一、痴涙成レ堆」。
〔圊溷〕前に同じ。○〔蜀、註〕「營-壘井-竈━━」。
〔抒溷〕厠の穢物を挹む。○〔淮〕「猶二沐-浴而━一レ━」。
〔溷溷〕亂れ濁る。○〔漢〕「邪-穢━━之氣」。
〔濺溷〕前に同じ。○〔隨隱漫錄〕「如二落二━━一汗梁中一」。
〔登溷〕かはやに入る。○〔輟耕錄〕「吾━━偶得二一聯一」。「竈」。
〔墜溷〕とぶ溷とかはやと。○〔文同〕「━━及井-

【㴔】 コン、ゴン。胡昆切 元
煩はしく濁る貌にいふ字、又、むすぼれ熱き貌にいふ字。○〔宋玉〕「懷━━鬱-邑」。

【漆】 サク、シヤク。昔各切 藥
水の名。

【溹】 サク、シヤク。山責切 陌
雨の下る貌にいふ字。

【溺】 デキ、ニヤク。奴歷切 錫 ダク、ノク。昵角切 覺
㊀おぼる。
(い)陷いり沈む。○〔孟〕「嫂━援レ之以レ手者權也」。
(ろ)沈みて死ぬ。○〔詩〕「載胥及━」。
(は)物事に心志を奪はる、耽りて反省せず。○〔禮〕、姦-聲以濫━━而不レ止」。
(に)苦しみ難む。○〔孟〕「天-下之━援レ之以レ道」。「━━其心一」。
㊁おぼれしむ、おぼらす。○〔孟〕「陷二━
〔淪溺〕沈み沒す。○〔宋〕「三-巴━━」。
〔沈溺〕前に同じ、〔左〕「于レ是有二━━重-腿之疾一」。
〔墊溺〕水に沒すること。○〔晉、傳〕「天-下昏-墊━━者困二水-災一」。
〔沒溺〕前に同じ。○〔說苑〕「何以知二━━之患一」。
〔燒溺〕火に焚かれ水に沒す。○〔吳〕「人-馬━━」。
〔危溺〕困しみ艱めること。○〔唐〕「拯二其━━一」。
〔躭溺〕心を傾けれぼるゝこと。○〔唐〕「人-情所二━━一」。
〔圮溺〕崩り沒す。○〔宋〕「秋-潦暴-集漸二━一人一」。
〔淫溺〕度にすぎて耽ること。○〔中說〕「吾文-章可レ謂二━━矣」。
〔顚溺〕顚倒し沒す。○〔傳信記〕「又無二━━掩-滯之患一」。
〔滓溺〕泥にして陷れること。○〔蔡邕〕「滓━━而難レ遊」。
〔浮溺〕うくと沒すと。○〔吳均〕「━━逐二波-影一」。
〔焚溺〕火に燒かれ水に沒す、卽ち人の困難の地に陷りあるにいふ語。○〔石介〕「王-師極二━━一」。
〔焦溺〕前に同じ。○〔曾鞏〕「終期レ援二━━一」。
〔饑溺〕食に乏しく水に沒す、意前條に同じ。○〔揭載〕「豈有二━━憂二民憂一」。

【㴸】 ジヤク、ニヤク。而灼切 藥
水の名。

【溺】 デウ、ヂウ。奴弔切 嘯
小便、ゆばり。○〔史〕「賓-客飲者醉便━レ睢」。
〔更溺〕代はるゞ尿を爲す。○〔史〕「賓-客醉━「━」。
〔溲溺〕尿することを爲す。○〔史〕「━二━其中一」。
〔遺溺〕尿を漏らす。○〔史〕「病見二寒-氣一則━━」。
〔淋溺〕尿を注ぎかく。○〔鶴林玉露〕「乃━レ━以救レ之」。

【溻】 タフ、トフ。託合切 合
うるほふ、うるほす、(溼)。

【溼】 シフ。失入切 緝
㊀水分を含む、水に浸る、ぬる、しめる、うるほふ、しさろ。○〔孟〕「猶二惡レ━而居レ下」。
㊁水分を含ましむ、水に浸す、ぬらす、しめす、うるほす。○〔詩、箋〕「春抒二出之一、斂レ之、又、潤二━之一」。
㊂うるほひ多き地、下り低き場處。○〔易〕「水流レ━火就レ燥」。
㊃水又は光などの開合する貌にいふ字。○〔木華〕「瀼-々━━」。
㊄失意して沮む、うれふ。○〔揚雄〕「凡志而不レ得欲而不レ獲、高門有レ墜得而中亡謂二之━一」。
〔東溼〕事を治むるに甚だ急なるとにいふ語、うるはへるものは束ね易きよりいふ。○〔漢〕「急如━」。
〔暑溼〕炎熱にしてしめりけあること。○〔韻〕「於二━━之時一始治レ病」。
〔嗢溼〕暖氣にてしめりけを含めること。○〔後漢〕「軍-士多━━、疾-病死者大-半」。

【㴕】 セツ、セチ。先結切 屑
澀に同じ。

【湝】 シ。旨夷切 支
水の貌にいふ字。

【溽】 ジヨク、ニク。儒欲切 沃
㊀溼氣多くして暑し、むしあつし。○〔禮〕「土潤━暑」。○〔郭璞〕「林無レ不レ━」。「不レ━」。
㊁うるほす、うるほふ、(溼)。
㊂濃厚なり、あつし。○〔禮〕「其飲-食」。
〔潤溽〕しめりて蒸しあつきこと。○〔禮、疏〕「土━━則土之膏-澤易レ行」。
〔暑溽〕蒸しあつし　○〔徐陵〕「━━稍闌」。
〔蒸溽〕前に同じ。○〔蘇軾〕「我-年困二━━一」。
〔煩溽〕わづらはしき蒸しあつさ。○〔袁桷〕「氣-桂消二━━一」。

〔蓐溽〕土地の低くして蒸しあつきと。〇〔歐陽修〕「地氣尤——」。
〔午溽〕まひるどきの蒸しあつきと。〇〔張栻〕「—暑持扇」。

【溽】 ジョ、ニョ。人余切 魚

濡に同じ。

【溾】 アイ、乙皆切 佳 ワイ、烏同切 灰 クワイ、戸賄切 賄

㊀にごる、にごり、（濁）。㊁ふづむ、（沒）。
㊂波回る淵、うづ。

【㴔】 ハン。普半切 翰

水の涯、ほとり、きし。

【滀】 チク、トク。敕六切 屋

㊀水聚まる、あつまる。〇〔木華〕「㴋瀆—淪而—潔」。
㊁顏の色憤り起こる貌にいふ字、むッとして。〇〔莊〕「—乎進二我色一也」。
㊂急なり、はやし。〇〔後漢〕「—水陵高」。

【滁】 チョ、ヂョ。直魚切 魚

水の名、又、州の名。

【滂】 ハウ。普郎切 陽 普浪切 漾

㊀盛んに流るゝ貌にいふ字。〇〔詩〕「俾二——沱一」。「——洋」。
㊁ゆたか、（饒）、ひろし、（廣）。〇〔漢〕「福—」。
㊂風の物を撃つ聲にいふ字。〇〔宋玉〕「飄—忽洌——」。
㊃水の流るゝ聲にいふ字。〇〔司馬相如〕「——澕沆—溉」。

【滂】 ハウ、ヒヤウ。披庚切 庚

水の聲にいふ字。〇〔史〕「洶—涌——濞」。

【滃】 ヲウ、ヲ。烏孔切 董

㊀雲氣の起こり出づる貌にいふ字、又大水の貌にもいふ字。〇〔郭璞〕「氣—渤以霧杳」。
㊁盛んなる貌にいふ字。〇〔馬融〕「黃—塵滓——」。

〔滃々〕雲氣の起こる貌にも又は大水の貌にも又は盛んなる貌にもいふ語。〇〔賈誼〕「——滃々而妄止」。
〔鬱滃〕前に同じ。〇〔朱松〕「雲物方——」。

【滚】 古文の深の字。

【滄】 サウ。七剛切 陽

さむし、（寒）。〇〔逸周書〕「天地之道有二——熱一」。「々」。
〔滄々〕寒き貌にいふ語。〇〔列〕「日初出——涼」。

【滄】 サウ。楚亮切 漾

滄に同じ。

【滅】 ベツ、メチ。莫列切 屑

㊀絶盡す、ほろぶ、ほろぼす。〇〔周〕「鳥獸行則—レ之」。
㊁ふづむ、（沒）。〇〔易〕「過涉—レ頂」。
㊂きゆ、けす、（熄）。〇〔史〕「火三月不レ——」。

〔撲滅〕打ちけす、うちほろぼす。〇〔書〕「其猶可二——之一」。
〔殄滅〕ほろぶ、ほろぼす。〇〔書〕「我乃劓二——一」。
〔翦滅〕前に同じ。〇〔左〕「余姑—二—此一而後朝食」。
〔堙滅〕失せほろぶ。〇〔史〕「若此類名——而「不レ稱」。
〔浸滅〕亂れ消ゆ。〇〔李商隱〕「刺字從二——一」。
〔電滅〕忽ちの間に消えなくなると。〇〔傅毅〕「遷駭——」。「無レ聞」。
〔寂滅〕消え失すると。〇〔牛弘〕「憲章禮樂、——」。
〔朽滅〕くちほろぶ。〇〔李白〕「天地同——」。
〔明滅〕あかるくなると暗くなると。〇〔杜甫〕「旌旆晚——」。
〔超滅〕出づるときゆると。〇〔皇甫曾〕「孤雲——」。「——開」。
〔絕滅〕たえてなくなると。〇〔水經、註〕「今池林——」。
〔殲滅〕討ち亡ぼす。〇〔史〕「故擧レ兵——之」。
〔殘滅〕害ひ亡ぼす、そこなひほろぶ。〇〔史〕「所レ過無レ不二——一」。
〔禽滅〕捕へ亡ぼす。〇〔史〕「北爲二秦所一——」。
〔盪滅〕動かし亡ぼす。〇〔漢〕「——古法」。
〔燔滅〕燒きて無くなす。〇〔漢〕「——文章以愚二黔首一」。
〔焚滅〕前に同じ。〇〔漢〕「——詩書」。
〔沃滅〕水をそゝぎかけて消す。〇〔漢〕「吏卒以レ水——」。
〔吞滅〕併呑し亡ぼす。〇〔漢〕「四夷不レ足二——一」。
〔破滅〕打ちやぶり亡ぼす、又、やぶれほろぶ。〇〔後漢〕「北狄——」。
〔毀滅〕前に同じ、又、やせ衰へて命をなくなす。〇〔後漢〕「及二母歿一哀至、幾二于——一」。
〔掃滅〕はらひ亡ぼす。〇〔蘇軾〕「——而無レ蹤」。
〔夷滅〕たひらぎほろぶ、又、たひらげほろぼす。〇〔水經、註〕「城隍——、略存二故跡一」。
〔隳滅〕やぶりほろぼす、やぶれほろぶ。〇〔賈山至言〕「無下不二——一者上」。「——兮」。
〔殲滅〕はろぶ、ほろぼす。〇〔東方朔〕「清冷々而——」。
〔淪滅〕沈みうすると。〇〔馬融〕「——二潭淵一」。
〔泯滅〕はろぶ、ほろぼす。〇〔鐘繇〕「生民之命、幾二于——一」。「哉」。
〔消滅〕きゆ、けす。〇〔陳琳〕「有下何不二——一者上」。
〔除滅〕のぞき去る。〇〔陳琳〕「——二忠正一」。
〔壞滅〕こはれ失す、又、こはしほろぼす。〇〔高啓〕「色相終——」。
〔微滅〕衰へ失す。〇〔張九齡〕「斯理日——」。
〔熄滅〕きゆ、けす。〇〔韓愈〕「風炎——」。

【滇】 テン、デン。都年切 先

㊀漢の代の西南の夷の一部落。〇〔史〕「靡莫之屬以レ什數、—最大」。
㊁盛んなる貌にも大いなる水の貌にもいふ字。〇〔漢〕「泛々——」。

【滇】 テン。他甸切 霰

水の潤くして涯なき貌にいふ字、ひろし。〇〔左思〕「——森漫」。

【滇】 シン。之人切 眞

縣の名。

【滮】 シ。息移切 支

水の厓、ほとり。

【㳷】 ボウ、ム。毋總切 東

㊀ごろ、（涂）。㊁無知、おろか。

【滈】 カウ、ゴウ。胡老切 晧

㊀水の貌にいふ字。〇〔郭璞〕「——二汗六州之域一」。
㊁水に白光ある貌にいふ字。〇〔司馬相如〕「翯乎——」。
㊂久しくふりつゞく雨、ながあめ。

【滈】 カク、コク。許角切 覺

水の沸涌する貌にいふ字、わく。

【滈】 コク。呼酷切 沃 カク、キヤク。黑各切 藥

久雨、ながあめ。

【溽】 シユン。須閏切 震

水の名。

【滉】 クワウ、ワウ。胡廣切 養

水の深くして廣き貌にいふ字。○〔郭璞〕「濆ー-ー困-泫」。

【瀱】キ、ケ。許氣切 未
水の名。

【瀱】ケツ、ケチ。許竭切 月
鹽水の池、いけ、一説に、甘水をしほ水に和して鹽となすこと。

【滋】シ。子之切 支
❶ます、(益)。○〔書〕「樹レ德務レー」。
❷そだつ、(長)。○〔呂氏春秋〕「草-木庳-小不レー」。
❸まく、(蒔)。○〔屈平〕「余既ー二蘭之九-畹一兮」。「ー」。
❹ふゆ、ふやす、(殖)。○〔班固〕「鳥-獸阜-」。
❺しげる、(蕃)。○〔嵇康〕「樂二百-卉之榮ーー一」。
❻多し、しげし。
❼あるが上にまして、ますます。○〔史〕「干-戈日ー」。○〔左〕「其虐ー甚」。
❽しる、(液)。○〔禮〕「必有二草-木之ーー一」。
❾にごる、にごす(濁)。○〔左〕「何故使二我水ーー一」。
❿味よし、美なり、よし、うまし。○〔禮〕「薄二ー-味一」。「ー」。
⓫うまき食物。○〔後漢〕「含レ甘吮レー」。
〔蕃滋〕しげる、益す、又、ふやす。○〔漢〕「支-葉ーー」。
〔榮滋〕さかえしげる。○〔嵇康〕「樂二百-卉之ーー一」。
〔華滋〕花のこと。○〔詩〕「綠-葉發二ーー一」。
〔繁滋〕茂り殖ゆること。○〔張華〕「ーニーー族-類一」。
〔甜滋〕旨きといふ旨きものを盡くにきはむること。○〔陸機〕「奇-膳玉-食、ーレー致レ豐」。「梨」。
〔清滋〕穢れなき液のこと。○〔張協〕「ーーー津二于紫-
〔綠滋〕青きしる。○〔張協〕「秋-草含二ーー一」。
〔玄滋〕黑あかき液のこと。○〔左〕「ーー君-液」。
〔殊滋〕わけて旨し。○〔傅休奕〕「嘉-味ーー」。
〔碧滋〕前に同じ。○〔江淹〕「閨-草含二ーー一」。
〔騰滋〕高く溢れること。○〔李嶠〕「宿-麥ーー」。
〔含滋〕うるほひを持つ。○〔韋應物〕「浦-樹遠ーー」。
〔叢滋〕むらをなし茂る。○〔王定〕「ーー彰-大」。

【潝】ケフ。迄協切 葉
はやし、(湍)。

【滵】ビツ、ミチ。覓畢切 質
水の貌にいふ字。

【滌】テキ、ヂヤク。徒歷切 錫
❶あらふ、すゝぐ。
(い)水を以て垢穢を去り淨む。○〔揚雄〕「江-河以ーレ之」。
(ろ)垢穢汙惡を去り清む。○〔晉〕「平二ーー九-區一」。
❷はらふ、(掃)。○〔詩〕「十-月ーレ場」。
❸はらひ去られて物の存在せざること。○〔詩〕「ーニーー山-川一」。
❹旱氣、あつさ。○〔大戴記〕「寒-日ーー」。
❺煩熅、あたゝか。○〔歲華紀麗〕「風惟ーーー木漸欣-々」。
❻したみざけ、浩酒。○〔周、註〕「今齊-人名二浩-酒一曰レー」。
❼牲を養ふ室。○〔禮〕「帝-牛必在レー」「三-月」。
〔清滌〕水の稱。○〔禮〕「水曰二ーー一」。
〔蕩滌〕洗ひ去る。○〔史〕「萬-民咸ーニー邪-穢一」。
〔浣滌〕洗ひ清む。○〔史〕「親自ーー」。
〔洗滌〕前に同じ。○〔後漢〕「復見二ーー一」。
〔漱滌〕すゝぎ洗ふ。○〔史〕「ーニー五-藏一」。
〔雪滌〕前に同じ。○〔宋〕「ーニー素-懷一」。
〔蠲滌〕除き清む。○〔後漢〕「ーニー貪-穢一」。
〔湔滌〕前に同じ。○〔鮑-翔〕「稍以自ーー」。
〔刷滌〕勢をそぎ清む。○〔唐〕「陛下欲レーニーー煩-媼一」。
〔掃滌〕はらひ清む。○〔南〕「一-朝ーー」。
〔滌滌〕器をあらひ清む。○〔宋〕「執二ーー之事一」。
〔疏滌〕すぢみちをつけて穢れを去ること。○〔杜氏通典〕「ーニー三-川一」。

【滌】テウ、デウ。徒弔切 嘯
前條の⓬に同じ。

【潅】カク、コク。口角切 覺
❶そゝぐ、(灌)。❷ひたす、(漬)。

【潅】クワク、キヤク。光鑊切 藥
前條の❶に同じ。

【潅】キヨク、ゴク。胡沃切 沃
水の聲にいふ字。

【滍】チ、ヂ。直几切 紙
汝水の一支流。

【滎】ケイ、キヤウ。戸扃切 青
❶きはめて小さき水。
❷河南省にある水の名。○〔書〕「ーー波既豬」。

【滎】ケイ、キヤウ。娟營切 庚
波浪の涌きあがる貌にいふ字。○〔郭璞〕「㶑-濃ー-濙」。

【滎】エイ、ヤウ。烏迥切 迥　縈定切 徑
阱ーーは、小さき水の貌にいふ語。

【滏】フ、ホ。扶雨切 麌
水の名。○〔山海經〕「神-囷之山ーー水出焉」。

【湛】タン、トン。都含切 覃
うるほふ、うるほす、(溼)、ひたる、ひたす(涹)。

【洯】ケツ、ゲチ。渠列切 屑
水激して廻旋す、めぐる、うづまく。○〔木華〕「㴸-沸ー而爲レ魁」。

【浖】テイ、ダイ。杜奚切 齊
米を研ぐ槌、きね。

【潣】セン。失冉切 琰
水の動く貌にも水の流るゝ漂疾の貌にもいふ字、ながる、はやし。○〔木華〕「ー泊-柏而迆颺」。
〔瀰潣〕水の波たつこと。○〔江賦〕「ーー瀰-瀹」。

【滒】カ。古俄切 歌
水の多き泥濘、ごろ、又、ごろに水多し、ゆるし、ふかし。○〔淮〕「甚淖而ー」。

【滑】クワツ、ゲチ。戸八切 黠
❶通じ利きこと、なめらか。○〔周〕「調以二ー甘一」。
❷なめらかにして止まらず、すべる。○〔書、疏〕「紂爲二銅-柱一、以レ膏塗レ之加二炭-火之上一、使二有レ罪者緣一レ之足ー跌墜二火-中一」。
❸一種の珠の名。○〔沈懷遠〕「走-珠之次爲二ーー珠一」。
〔潤滑〕滋ひてとほりよきこと。○〔淮〕「以三其淖二ーーー也」。「ーーー如レ脂」。
〔柔滑〕やはくなめらかなり。○〔西京雜記〕「肌-膚
〔軟滑〕前に同じ。○〔齊民要術〕「津-汁ーー、無二物能比一」。「ー」。
〔美滑〕旨くとほりよきこと。○〔爾、疏〕「淪爲レ瀝ーー」。
〔細滑〕前に同じ。○〔爾、疏〕「今江東喚レ之ーーー」。
〔膩滑〕あぶらけありてぬるくせること。○〔北〕「北穴ーーー」。

〔峻滑〕險しくしてすべること。○〔穀〕「山-阪——」。
〔險滑〕前に同じ。○〔韓愈〕「石級皆——」。
〔凍滑〕こほりてすべること。○〔北〕乃還至ニ陘-嶺ー——」。
〔温滑〕あたゝかにしてすべくすること。○〔錄異記〕「——可レ翫」。
〔清滑〕穢れなくしてすべくすること。○〔蘇軾〕「——如ニ流-脂ー」。
〔濡滑〕つやありてすべること。○〔本草〕「性——服レ之而多ニ陰-毒ー」。
〔泥滑〕ぬかりてすべること。○〔杜甫〕「——不ニ敢騎ー朝レ天」。
〔危滑〕あやふくしてすべること。○〔方干〕「此中——擲レ身難」。
〔圓滑〕まどかにして滯らざること。○〔蘇軾〕鴟梟「讒ニ——ー」。

【滑】コツ、コチ。古忽切 月
❶みだる（亂）。○〔國〕「置ニ不-仁ー以—ニ其中ー」。
❷をさむ、をさまる（治）。○〔莊〕「—ニ欲於俗-思ー、以求レ致ニ其明ー」。
❸にごる、にごす（混）。○〔楚辭〕「—ニ其泥ー而揚ニ其波ー」。
❹水の流るゝ貌にいふ字。○〔易林〕「涌-泉——」。

【滓】シ。阻史切 紙
❶沈澱物、をり。○〔李陵〕「動增ニ泥-—ー」。
❷かす。
（い）滋分を去りたる殘物。○〔周註〕「汁——相將」。
（ろ）不要の物事。○〔宋之問〕「兀-坐去ニ冗——ー」。
❸垢汗、けがれ。○〔馬融〕「澡ニ-雪垢-—ー」。
❹けがれに染む、くろむ、けがる、けがす。○〔史〕「泥而不レ—」。
〔塵滓〕ほこりとをりと。○〔許彦周〕「無ニ一-點——ー」。
〔秕滓〕しひなとかすと。○〔唐〕「汰ニ去——ー」。
〔沈滓〕をり。○〔隋〕「蕩ニ山-藪——ー」。
〔麹滓〕かうぢかすのこと。○〔魏武帝〕「漉ニ去——ー」。
〔査滓〕前に同じ。○〔張憲〕「無レ因レ淨ニ——ー」。
〔汁滓〕しるかす。○〔杜甫〕「——宛相俱」。

【滔】タウ、ドウ。土刀切 豪
❶はびこる（漫）。○〔書〕「浩々—レ天」。
❷廣大なる貌にいふ字、ひろし、おほいなり。○〔淮〕「——乎莫レ知レ所ニ止-息ー」。
❸流れ行く貌にいふ字。○〔詩〕「汶-水——」。
❹動搖す、うごく、うごかす。○〔淮〕「振ニ——洪-水ー」。
❺おこたる（慢）。○〔左〕「士不レ濫官不レ—」。
❻あつまる、あつむ（聚）。○〔莊〕「—ニ乎前ー而不レ知ニ其所ニ以然ー」。
❼東方より吹く風、こち。○〔呂氏春秋〕「東-方曰ニ—風ー」。

【滕】トウ、ドウ。徒登切 蒸
❶水沸涌す、わく。❷むなし。
❸口を張り辭を發す、あぐ。○〔易〕「—ニ口-說ー也」。

【[illegible]】ダフ、ノフ。女法切 洽
水の貌にいふ字。

【[illegible]】サ、セ。初瓦切 馬
ごろ（泥）。

【[illegible]】涹に同じ。

【[illegible]】[illegible]に同じ。

【[illegible]】ボ、ブ。罔古切 麌
きよし（潔）。

【滅】ケツ、ゲチ。何月切 月
滅す、ほろぶ、ほろぼす。

【潷】ヒツ、ヒチ。逼密切 質
こす（漉）。

【浧】テイ、デヤウ。丈井切 梗
通流す、とほる、ながる。

十一畫

【滫】シウ、シュ。息有切 有 息流切 尤 息救切 宥
❶滫米の汁、こめしろ、しろみづ。○〔禮〕「—瀡以滑レ之」。
❷いばり（溲）。○〔荀〕「蘭-根與ニ白-芷ー漸ニ之—中ー」。

【滬】コ、ク。候古切 麌
海べなどに竹を列ねて作り魚を捕ふるもの、えり。

【滭】ヒツ、ヒチ。壁吉切 質
❶觱に同じ、わく。
❷盛んなる貌にいふ字。○〔司馬相如〕「—弗宓汨」。

【滮】ヒウ、フ。皮虬切 尤
水の流るゝ貌にいふ字。○〔詩〕「—池北流」。

【滯】テイ、タイ。直例切 霽
❶とゞこほる。
（い）止まる、つかふ、とまる。○〔淮〕「流而不レ—」。
（ろ）こる（凝）。○〔左〕「血-氣集—」。
（は）つもる（積）。○〔國〕「氣不ニ沈——ー」。
（に）久しきに及ぶ。○〔國〕「敢告ニ——積-紓ニ執-事ー」。
（ほ）漏れ殘る。○〔詩〕「此有ニ——穗ー」。
（へ）しぶり泥む。○〔後漢〕「應-對無レ—」。
（と）通ぜず。○〔後漢〕「條ニ左-氏疑——數-十-事ー」。
（ち）廢たる。○〔左〕「悼-公命ニ百-官ー振ニ廢—ー」。
❷灑ぎ散る貌にいふ字。○〔司馬相如〕「奔-揚—沛」。
〔淹滯〕とゞこほる。○〔左〕「擧ニ——ー」。
〔留滯〕前に同じ。○〔史〕「——無レ所レ食」。
〔階滯〕前に同じ。○〔北〕「由レ是事頗——」。
〔停滯〕前に同じ。○〔晉〕「所在——」。
〔凝滯〕前に同じ。○〔史〕「上下無レ所ニ——ー」。
〔壅滯〕前に同じ。○〔詩疏〕「無レ所ニ——ー」。
〔澁滯〕前に同じ。○〔王惲〕「——方可レ度」。
〔淤滯〕どろみづのたまること。○〔魏〕「——不レ通」。
〔曠滯〕事のそのまゝとなりすたれたること。○〔唐〕「非ニ惟救ニ——之弊ー」。
〔流滯〕ながれ去るとつかへとまること。○〔郭璞〕「任レ波——」。
〔頑滯〕おろかなること。○〔元稹〕「自顧——牧」。
〔羈滯〕旅にいでとゞまる。○〔權德輿〕「旅-寓—ニ于江-南ー者衆」。

【[illegible]】セイ。尺制切 霽
音の敗れて和せざること。

【滰】キヤウ、カウ。其兩切 養
漬したる米を淩ひ乾かす、こめをさらす、又、黏を乾かす、ほす。

【[illegible]】ケイ、ギヤウ。渠映切 敬
こす（漉）。

【滱】コウ、ク。苦候切 宥
黄河の一支流。○〔山海經〕「高-是之山──水出焉」。

【滜】ケウ。古堯切 蕭
澆に同じ、そゝぐ、うすし。

【㵣】サ、側加切 麻　ショ、七余切 魚　セ。切　ソ。切
洛水の支流。

【滲】シン、ソン。所禁切 沁
㊀うるほひ入る、しむ。○〔南〕「以₂生-者血₁瀝₂死-者骨₁──卽爲₂父-子₁」。
㊁漏下す、しだる、もろ、したむ、こす。○〔宋〕「財無₂──漏₁不ㇾ可₂勝用₁」。
㊂しだり流る。○〔揚雄〕「澤──離而下-降」。
〔淋滲〕鳥などの羽毛のはえかへりたる貌にいふ語。○〔木華〕「鶴-子──」。

【滲】シン。千尋切 侵
浸に同じ、ひたす、ひたる。○〔木華〕「瀝-滴──淫」。

【㵤】サツ、セチ。所八切 黠
さむし（寒）。

【漡】シヤウ、サウ。尸羊切 陽
水の名。

【滴】
滂に通じ用ふ。○〔列〕「鬱-々芊-々若-何───」。

【滴】テキ、チヤク。都歷切 錫
㊀水點下す、したゝる。○〔拾遺記〕「香-露──瀝」。
㊁したゝるを、したゝる水、したゝり、しづく。○〔雪賦〕「流──垂ㇾ冰」。
〔瀝滴〕しづく、又、したゝる。○〔海賦〕「───滲-淫」。
〔溜滴〕しづく。○〔李鏡遠〕「映-簷───垂」。
〔涓滴〕前に同じ、又、わづかなる物事にいふ語。○〔杜甫〕「重-露成₂───₁」。
〔滴々〕水のしたゝる貌にいふ語。○〔江總〕「虬-水───瀉₂玉-壺₁」。
〔簷滴〕のきばにおつるしづく。○〔潘岳〕「晨-霤承₂───₁」。
〔殘滴〕のこりのしづく。○〔虞世南〕「───偏懸」。
〔餘滴〕前に同じ。○〔蘇軾〕「空-堦有₂───₁」。
〔點滴〕ぽたりぽたりとおつるしづく。○〔杜牧〕「───侵₂寒-夢₁」。

【滵】ビツ、ミチ。美必切 質
水の流るゝ貌にいふ字。○〔張衡〕「玉-膏──溢₂流其隅₁」。

【潚】シユク、ソク。思六切 屋
うるほふ、うるほす（溼）。

【滶】ガウ、ゴウ。五勞切 豪
水の名。

【滷】ロ、籠五切 麌　セキ、昌石切 シヤク。陌　テキ、ヂヤク。徒歷切 錫
鹽分を含む土地、しほつち、にがつち。○〔爾、疏〕「──苦-地也、謂₂斥-鹵可ㇾ煮ㇾ鹽者₁」。

【滸】コ、ク。許古切 麌
水を去る稍遠き岸の上の平地、みぎは、ほとり、みづぎし。○〔詩〕「在₂河之──₁」。

【㴿】セイ、シヤウ。子盈切 庚
水の名。

【滹】コ、ク。荒胡切 虞
──沱は、直隷省にある水の名。○〔後漢〕「蕪-蔞亭豆-粥───河麥-飯」。

【滹】
滸に同じ。

【滺】イウ、ユ。以周切 尤
水の流るゝ貌にいふ字。○〔詩〕「淇-水───」。

【㴽】セツ、セチ。先結切 屑
水の流るゝ貌にいふ字。

【滻】サン、セン。所簡切 潸
㊀おほし（衆）。㊁涕を出だす貌にいふ字。

【㴸】ハン、ボン。符諫切 諫
浮ぶ貌にいふ語。

【滽】ヨウ、ユ。餘封切 冬
水の名。

【滾】コン。古本切 阮　古困切 願
混に同じ。

【漀】ケイ、キヤウ。棄挺切 迥
㊀側より出づる泉。
㊁器を傾けて水漿を出だす。

【滿】バン、マン。莫旱切 旱
みつ。
（い）つまり塞がる、一ぱいになる。○〔莊〕「戸-外之屨──矣」。「──者」。
（ろ）十分に足る。○〔戰〕「羽-毛不₂豐-滿₁」。
（は）極度に張る。○〔史〕「日中必移、月──必虧」。
（に）期限に達す。○〔南〕「官未₂曾至₁「秩──₁」。
（ほ）驕る。○〔國〕「笑₂吾-子之太──₁」。
（へ）みたしむ、みたす。○〔書〕「不₂自──假₁」。
〔持滿〕（い）十分なる地位をたもつこと。○〔韓詩外傳〕「子-路曰、敢問──有ㇾ道乎」。
（ろ）弓を十分にひきしぼること。○〔漢〕「彀₂弓-弩₁「──」。
〔引滿〕なみなみと酒をつぐ、又、弓を十分にひきしぼる。○〔漢〕「皆──舉ㇾ白」。
〔驕滿〕おごる。○〔後漢〕「咎集₂───₁」。
〔矜滿〕前に同じ。○〔晉〕「無₂───之色₁」。
〔盈滿〕みつ。○〔魏文帝〕「恨-然懷₂───之戒₁」。
〔淸滿〕きよらかにみつ。○〔水經、註〕「湛-然────」。
〔殷滿〕さかんにみつ。○〔黄瓊、疏〕「───其室₁」。
〔處滿〕十分なる地位にをる。○〔孫綽〕「───思ㇾ沖」。「入牌」。
〔貯滿〕十分にたくはふ。○〔王惲〕「淸-氣───詩-」。

【滿】
懣に同じ。○〔漢〕「憂──不ㇾ食」。

【漁】ギヨ、ゴ。語居切 魚
㊀ころ。
（い）魚を捕らふ、すなどる、いさる。○〔易〕「以佃以──」。
（ろ）擇ばずして侵し取る。○〔禮〕「諸-侯不₂下──ₑ色」。
㊁すなどるを、すなどり、いさり、又、すなどりを業となす者。○〔孔魚〕「闕-澤伴₂樵──₁」。「──」。
〔侵漁〕他のものををかし取る。○〔史〕「姦-吏並──」。
〔耕漁〕たがへすとすなどりと。○〔後漢〕「非ₑ其所ₑ───不ㇾ食」。

【漃】セキ、ジヤク。前歷切 錫

人の聲なきを、しづか、一說に、水淨し、きよし、いさぎよし。○〔枚乘〕「━━漻蕭蓼」。

【漄】 涯に同じ。

【氵麻】 バ、マ。眉波切〔歌〕 水。

【潐】 セウ。子小切〔篠〕 サウ、セウ。鍬交切〔肴〕 湖の名。○〔後漢〕「━━湖出二黃金一」。

【漅】 サ。損果切〔哿〕 水。

【漂】 ヘウ。匹消切〔蕭〕 ㊀たゞよふ。(い)風波のまゝに浮び流る。○〔史〕「隋平レ陳之歲、戰船━至二海東躭牟羅國一」。(ろ)著處なくして流轉す。○〔陸機〕「辭浮━━而不レ歸」。(は)定住なくして流浪す、さまよふ。○〔皇甫松〕「萍二━━上國一」。㊁たゞよはしむ、たゞよはす、うかぶ。○〔書〕「血流━レ杵」。㊂ひるがへす、ひるがへる、(飄)。○〔詩〕「風其━レ女」。㊃うごく、うごかす、(動)。○〔漢〕「衆煦━レ山」。㊄高く飛ぶ貌にいふ字。○〔賈誼〕「鳳━━而其高逝」。㊅輕き貌にいふ字。○〔王延壽〕「━嶢峴而枝柱」。㊆摩近す、する。○〔杜篤〕「━二槃朱崖一」。㊇凌駕す、しのぐ。○〔馬融〕「━二凌絲簧一」。㊈瘭に同じ、疽病。

〔流漂〕 たゞよふ、たゞよはす。○〔晉〕「幼而羇賤━━」。
〔萍漂〕 前に同じ。○〔杜甫〕「━━忍流涕一」。
〔浮漂〕 前に同じ。○〔曹操〕「流澌━━」。
〔溜漂〕 涼しき貌にいふ語。○〔長笛賦〕「正━━以風冽」。

【漂】 ヘウ。匹妙切〔嘯〕 ㊀水中にて絮を擊つ、わたうつ。○〔史〕「竟レ━數十日」。㊁少しく騰がりたるを。○〔王褒〕「吟氣遺響聯縣━撇」。

【漆】 シツ、シチ。戚悉切〔質〕 ㊀うるし。(い)葉は「ぬるで」に似たる一種の木、夏は梢に黃白の小花を開き秋は紅葉す、其の實を煮て蠟を得、うるしのき。○〔詩〕「椅、桐、梓、━」。(ろ)うるしの樹より出づる脂を製したるもの、物を髹るに用ふ。○〔書〕「厥貢━絲」。㊁黑色、くろ。○〔周〕「━車藩蔽」。

〔丹漆〕 あかきうるし。○〔後漢〕「欲下以二━━一雩上レ之」。
〔膠漆〕 にかはとうるしと。○〔史〕「親二於━━一」。
〔點漆〕 うるしをつく。○〔晉〕「眼如二━━一」。
〔墨漆〕 くろきうるし。○〔論衡〕「若レ瀉二━━一」。
〔絲漆〕 いろうるし。○〔晉〕「以二━━一畫二輪車一」。
〔皂漆〕 くろきうるし。○〔晉〕「但━二━輪轂一」。
〔光漆〕 つやあるうるし。○〔元〕「以二━━一題二錦謚于背上一」。
〔玄漆〕 くろき中にすこしく赤色をふくみたるうるし。○〔元〕「匱趺並用二━━一」。

【漆】 セツ、セチ。七結切〔屑〕 專一に事を爲す容にいふ字。○〔禮〕「濟々━━」。

【漆】 シ。七四切〔寘〕 うるしを塗る、ぬる。○〔禮〕「歲一━レ之」。

〔髹漆〕 あかぐろきうるしぬり。○〔漢〕「殿上━━」。

【澆】 ドウ、ヌ。奴候切〔宥〕 水の漚、あわ。

【漇】 シ。所綺切〔紙〕 流るゝ貌にいふ字、一說に、うるほふ、(潤)。○〔楚辭〕「淒々兮━━」。

【漈】 セイ。節例切〔霽〕 水涯、みぎは、きし。

〔落漈〕 彭湖島の海上の難所。○〔吾學編〕「琉球國西有二彭湖島一海水漸低謂二之━━一舟行誤入者百無二一反一」。

【漉】 ロク。盧谷切〔屋〕 ㊀したゝる、もる、したむ、こす、(滲)。○〔戰〕「━レ汁灑レ地」。㊁つく、つくす、(竭)。○〔禮〕「仲春毋レ━二陂池一」。

〔滲漉〕 したゝると。○〔史〕「滋液━━」。
〔淋漉〕 前に同じ、又、したむ。○〔北〕「流血━━」。
〔流漉〕 したゝる、又、ながしたむ。○〔釋名〕「水━━而去也」。
〔淘漉〕 ゆりこすと。○〔輟耕錄〕「將二石子一━━玩弄」。
〔滂漉〕 ひたしこすと。○〔傳燈錄〕「再三━━始應レ知」。

【漊】 ル、ロ。力主切〔麌〕 ㊀小雨絕えずふる貌にいふ字。㊁酒を飲み習ひて醉はざると。

【漊】 ロウ、ル。郎口切〔有〕 水を通ずる溝、みぞ。

【漊】 ロウ、ル。郎侯切〔尤〕 水の名。○〔山海經〕「虖沱水東流注二━水一」。

【漌】 キン、コン。几隱切〔吻〕 ㊀きよし、(淸)。㊁ひたす、(漬)。

【濎】 デイ、チヤウ。都挺切〔迥〕 濘に同じ。○〔木華〕「━━濘濼濇」。

【氵移】 イ。余支切〔支〕 移に同じ、ひむろ、冰室。

【漎】 ソウ、ズ。徂聰切〔東〕 サウ、ゾウ。鉏江切〔江〕 色講切〔講〕 水會合す、あつまる。○〔杜甫〕「中━━以同復」。

【漎】 ソウ、ス。所蓊切〔董〕 疾き貌にいふ字、さし、はやし。○〔揚雄〕「風━━而扶レ轄兮」。

【漏】 ロウ、ル。盧候切〔宥〕 ㊀もる。(い)水すき間より出づ、こぼる、したゝる。○〔易〕「甕敝━」。(ろ)すき間より出づ。○〔韓愈〕「陰雲解レ駁日光穿━」。(は)すき間生ず、毀れあなあく。○〔淮〕「千里之隄以二螻蟻之穴一━」。(に)秘密他に知らる。○〔魏〕「密有二殺レ繡之計一、計━、繡掩二襲太祖一軍敗」。

(ほ)遺脫す、ぬかる、わする、のこる。○〔齊〕「所ㇾ遺一數百千條」。○〔漢〕「天下一一「多魚」。
(へ)德澤下り及ぶ。○〔漢〕「天下一一泉」。
㈡もれしむ、もらす。○〔左〕「一ニ師于」
㈢水のもる度合によりて時をはかる機器、みづどけい。○〔周〕「挈壺氏掌ニ一刻之官」。「三一一」。
㈣隙穴、あな、すきま。○〔白虎通〕「禹耳三一」。
㈤屋の西北隅、卽ち、屋の隱所、かくれ。○〔詩〕「尙不ㇾ愧ニ于屋一一」。
〔罅漏〕さけめ。○〔趙秉文〕「後儒補ニ一一」。
〔玷漏〕かけたるかど。○〔後漢〕「行虧ニ一一」。
〔潰漏〕やぶる。○〔後漢〕「無ニ復有ニ一一之患」。
〔遺漏〕のこしわする、又、のこりぬかる。○〔晉〕「罔ㇾ有ニ一一」。
〔隱漏〕かくれもる、又、かくしもらす。○〔管〕「精ニ溜一一」。
〔穿漏〕あなのあきたること。○〔齊〕「延之消…、…于一一」。
〔疎漏〕おろそかにしておちのあること。○〔齊〕「晏無以ニ一一被ニ上呵責」。
〔洩漏〕もる、もらす。○〔陳〕「未ニ嘗一一」。
〔缺漏〕かけやぶる。○〔魏〕「今朝殿一一」。
〔殘漏〕前に同じ。○〔梁武〕「宅舍空荒轉一一」。
〔闕漏〕ぬけおちたること、又、ぬかしおとすこと。○〔宋〕「補ニ其一一」。
〔滲漏〕もる、もらす。○〔耶律楚材〕「破船無ニ一一」。
〔謬漏〕あやまりとおちど。○〔郭璞〕「摘ニ其一一」。
〔脫漏〕ぬけもるゝこと。○〔杜甫〕「小魚一一不ㇾ可ㇾ紀」。

【漏】ロウ、ル。盧侯切　尤
螻に通ず。○〔禮〕「馬黑脊而般臂一」。

【溹】サク、ソク。色角切　覺
水の聲にいふ字。

【漐】チフ、ヂフ。直立切　緝

㈠汗出づる貌にいふ字。㈡小雨ふりて霢ます。

【漑】カイ、ガイ。古代切　隊
そゝぐ。
(い)灌注す、ながる、ながす。○〔史〕「引ニ漳水一ㇾ鄴」。
(ろ)滌ふ、すゝぐ。○〔詩〕「一ニ之釜鬵」。
〔沆漑〕徐かに流る。○〔司馬相如〕「滂濞一一」。
〔滌漑〕あらひすゝぐこと。○〔宋〕「一一蠲潔」。
〔溉漑〕前に同じ。○〔周〕「世婦率ニ宮女ニ而一一」。
〔澡漑〕前に同じ。○〔枚乘七發〕「一ニ一胸中」。
〔灌漑〕ながしそゝぐこと。○〔漢〕「毋ニ復一一」。
〔澆漑〕前に同じ。○〔魏〕「可ニ以引ㇾ水一一」。
〔墾漑〕地をはり水をそゝぐ。○〔魏〕「盡ニ一一之利」。

【漑】キ、ケ。居氣切　未
㈠前條に同じ。
㈡旣に通じ用ふ。○〔史〕「一執ㇾ中而徧ニ天下」。

【漑】瀣に同じ。

【漒】キヤウ、ガウ。渠良切　陽
洮水の別名。

【[illegible]】リン。犁針切　侵
瀶に同じ、一說に、さむし、(寒)。

【[illegible]】ジユツ、ジユチ。食律切　質
沭に同じ。

【湷】タウ、トウ。都江切　江
深き水に立ちたる杭、くひ。

【漓】リ。呂支切　支

㈡うるほひ入る、移り染む、ふむ。○〔沈約〕「風一化改」。
㈢瀝下す、したゝる。○〔韓愈〕「因拔ニ所ㇾ佩刀一斷ニ一指一血淋一一」。
㈣雨の聲にいふ字。○〔張養浩〕「兩崖紅雨春淋一一」。
㈤輕薄なり、うすし、かろし。○〔司馬光〕「棄ㇾ一而歸ㇾ厚」。
〔淺漓〕またゝる、又、うすし。○〔皮日休〕「玉液是一一」。

【演】エン。以淺切　銑
㈠のぶ。
(い)長く流る、ながる。○〔木華〕「東一ニ析木」。
(ろ)潤ふ、通ず。○〔國〕「水土一而民用」。
(は)布く、ひろむ、ひろまる。○〔漢〕「推ニ一聖德」。
(に)引く。○〔班固〕「留侯一一成」。
(ほ)述說す、とく。○〔應劭〕「述一一豈敢比ニ隆于斯人一哉」。
(へ)拔く。○〔常袞〕「搖ニ一青萍」。
(と)行ふ。○〔宋〕「別一ニ一法」。
㈡水中を潛り行く、およぐ。○〔左思〕「一以ニ潛沫」。
㈢水の廻曲する貌にいふ字、めぐる。○〔郭璞〕「洪瀾涴一而雲迴」。
〔推演〕おしひろむ。○〔漢〕「又不ㇾ知下一ニ一聖德一述中先帝之志上」。
〔光演〕かゞやかしひろむ、かゞやきひろまる。○〔後漢〕「先主一ニ一大業」。
〔敷演〕しく。○〔成公綏賦序〕「一一無ㇾ方」。
〔布演〕前に同じ。○〔阮籍〕「庖犧氏一ニ一六十四卦之變」。
〔通演〕ひろくとほること。○〔水經注〕「水土一一」。
〔紓演〕のぶ。○〔蔡邕〕「一ニ一奧秘」。
〔披演〕前に同じ。○〔蔡邕〕「一ニ一所ㇾ懷」。
〔宣演〕前に同じ。○〔何承天〕「一ニ一道心」。
〔廣演〕ひろむ、ひろまる。○〔謝靈運〕「一ニ一慈悲」。

【演】エン。延面切　霰
淺流、あさきながれ。

【漕】サウ、ゾウ。在到切　號　ソウ、阻候切　宥
㈠水路によりて物を運ぶ、はこぶ。○〔史〕「轉一給ㇾ軍」。
㈡水上に舟を行る、こぐ。○〔唐〕「一ㇾ舟至ニ河口」。
㈢舟の通ふこと、ふねのかよひ。○〔後漢〕「欲ㇾ令ㇾ通ㇾ一」。
〔運漕〕はこぶこと。○〔唐〕「陳ニ一一之利害」。

【漕】サウ、ゾウ。昨勞切　豪
邑の名。

【漖】カウ、ケウ。居效切　效
水。

【漗】サウ、ソウ。倉江切　江
くむ、(汲)。

【漘】シユン、ジユン。食倫切　眞
上の坦らかにして下の深き水厓、きし、みぎは。○〔詩〕「在ニ河之一」。

【漙】タン、ダン。度官切　寒　セン、ゼン。豎兗切　銑
露の多き貌にいふ字。○〔詩〕「零露一兮」。

【漙】セン。朱遄切　先
湍に同じ。

【溡】シ。士止切　紙
詩に同じ。

【漵】 ソク、ゾク。昨木切 屋
水の貌にいふ字。

【漚】 オウ、ウ。烏候切 宥
㊀水に漬して柔かならしむ、やはらぐ、つく、ひたす。〇〔詩〕「東門之池、可₂以漚₁レ麻」。
㊁氣の盛んなる貌にいふ字。〇〔司馬相如〕「芬々漚鬱」。

【漚】 オウ、ウ。烏侯切 尤
㊀水上の浮泡、あわ。〇〔楞嚴經〕「空生₂大覺中₁、如₂海一漚一₁」。
㊁鷗に通じ用ふ、かもめ。〇〔列〕「海上有下如₂漚一鳥₁者上」。
〔霜漚〕 しろきあわ。〇〔蘇軾〕「石鼎浮₂霜漚₁」。
〔浮漚〕 うかべるあわ。〇〔姚合〕「飢鳥啄₂浮漚₁」。
〔圓漚〕 まるきかたちのあわ。〇〔韓琦〕「溶₂波下₁起₂圓漚₁」。

【滕】 トウ、ドウ。徒登切 蒸
なみ、波浪。

【滉】 クワウ、ワウ。呼光切 陽
水廣し、ひろし。

【漜】 ヤ、エ。以者切 馬
泥濘、ごろ、ぬかりみ。

【漝】 シフ。席入切 緝
㊀かげ（影）。㊁水の貌にいふ字。

【漞】 ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
㊀汨に同じ。
㊁硯の材となす一種の石。〇〔米芾硯史〕「通遠軍漞石硯」。

【溏】 タウ、ダウ。徒郎切 陽
たに（谿）。

【漠】 バク、マク。慕各切 藥
㊀蒙古にある廣莫なる砂土の原野。〇〔後漢〕「北出₂塞漠₁」。
㊁廣莫なる砂土の原野、すなはら。〇〔唐〕「磧漠廣莽」。
㊂廣莫なり、ひろし。〇〔程大昌〕「望レ之漠漠然」。
㊃寞に同じ、さびし。〇〔楚辭〕「野寂漠其無レ人」。
㊄明かならず、くらし。〇〔楚辭〕「塵漠漠兮未レ晞」。
㊅きよし（淸）。〇〔支遁〕「反鑒歸₂澄漠₁」。
㊆しづか。
（い）安らかなること。〇〔淮〕「恬漠無事」。
（ろ）聲なきこと。〇〔荀〕「聽₂漠漠₁而以爲₂哅哅₁」。
㊇しげる（茂）。〇〔楊炯〕「藤蘿漠漠」。
㊈しく（布）。〇〔陸機〕「街巷紛漠漠」。
㊉はかる、はかりごと（謀）。〇〔詩〕「聖人莫レ之」。
〔恬漠〕 しづか。〇〔淮〕「恬漠無事」。
〔冲漠〕 無心にしてしづかなること。〇〔法書要錄〕「考₂冲漠₁以立レ形」。
〔玄漠〕 高妙にして深く靜かなること。〇〔盧諶〕「恬然存₂玄漠₁」。
〔大漠〕 廣き沙はら。〇〔唐〕「北横₂大漠₁」。
〔窈漠〕 くらきこと。〇〔蔡邕〕「潜₂幽窈之窈漠₁」。
〔幽漠〕 しづか。〇〔孫綽〕「凝₂心幽漠₁」。
〔空漠〕 （い）虛無にして靜かなること、又、むなしくひろきこと。〇〔三天君別紀〕「凝₂神空漠₁」。
（ろ）ひろきすなはら。〇〔蔡襄〕「胡塵畏₂空漠₁」。
〔索漠〕 さびしきこと。〇〔李白〕「祇應₂自索漠₁」。
〔落漠〕 前に同じ。〇〔韓愈〕「不₂落漠₁否」。
〔澹漠〕 しづか。〇〔史〕「眞人澹漠兮」。
〔濛漠〕 くらし。〇〔李〕「濛漠江樓上」。
〔閉漠〕 前に同じ。〇〔晁補之〕「榛林閉漠猿狖寒」。

【漠】 バク、ミヤク。莫白切 陌
嗼に同じ。

【漡】 シヤウ、サウ。尸羊切 陽
水の流るゝ貌にいふ字。

【漮】 ラウ。來宕切 漾
漮湯は、渠の名。

【漭】 ラウ。盧當切 陽
漭毒は、一種の藥草、やまぐさ。

【漢】 カン。呼旰切 翰
㊀楊子江の一支流。〇〔書〕「嶓冢導レ漾、東流爲レ漢」。
㊁支那の古代の有名なる王朝の號、我が紀元四百五十五年劉季帝位に就きしより始まり六百六十八年に孺子嬰の廢せらるゝに終はる、又、劉季の末裔劉秀が紀元六百八十五年に帝位に就きしより紀元八百八十年魏に亡ぼされたるまでの間、前を前漢又は西漢と呼び、後者を後漢又は東漢と呼べり。〇〔陶潛〕「乃不レ知レ有レ漢無レ論₂魏晉₁」。
㊂天空に見ゆる河の如き無數の星の一帶、あまのがは、天河。〇〔詩〕「天有レ漢」。
㊃男子の稱、（賤しむ意を含む）なのこ。〇〔舊唐〕「朕要₂一好漢任使₁有乎」。
〔雲漢〕 あまのがは。〇〔詩〕「倬彼雲漢」。
〔星漢〕 前に同じ。〇〔魏武帝〕「星漢燦爛」。
〔銀漢〕 前に同じ。〇〔鮑照〕「銀漢傾レ露落」。
〔霄漢〕 前に同じ。〇〔後漢〕「如レ是則可下以陵₂霄漢₁、出中宇宙之外上矣」。
〔羅漢〕 阿羅漢の略稱にて佛の稱號。〇〔蘇軾〕「蜀金水張氏以レ畫₂羅漢₁有レ名」。
〔癡漢〕 おろかなる男。〇〔事類合璧〕「老癡漢忽斷₂杯中物₁耶」。
〔醉漢〕 酒にゑひたる者。〇〔開天遺事〕「李林甫請レ事如₂醉漢一囈語₁也」。
〔半漢〕 いさめる貌にいふ語。〇〔張衡〕「天馬半漢」。
〔風漢〕 きちがひのおのこ。〇〔王泉子〕「此風漢及第耶」。
〔空頭漢〕 ばかもの。〇〔北〕「空頭漢合レ殺不レ加レ罪」。
〔癖外漢〕 其の局に當たらざるもの丶稱。〇〔梁樂府〕「當レ狂₂殺癖外漢₁」。

【漢】 タン。他干切 寒
漢納は、太歲の中にあること。

【灠】 ラン、ロン。盧感切 感
㊀鹽漬の果、しほづけのくだもの。
㊁しる（汁）。
㊂占ふに龜の甲を燒きて見はれたる兆の名。〇〔龜經〕「灠如₂水滴下₁」。

【漣】 レン。力延切 先
㊀微風起こりて立つ波文、さゞなみ、又、さゞなみ起ころ、なみたつ。〇〔詩〕「河水淸且漣猗」。
㊁涕を垂るゝ貌にいふ字。〇〔詩〕「泣涕漣漣」。
〔淸漣〕 きよらかなるさゞなみ。〇〔謝靈運〕「綠篠媚₂淸漣₁」。
〔漪漣〕 さゞなみ。〇〔鮑泉〕「濤々逐₂漪漣₁」。
〔微漣〕 前に同じ。〇〔杜牧〕「微漣風定翠湉々」。
〔流漣〕 なみだおつ。〇〔陸瑜〕「引調奏而涕流漣」。

【漥】 ワ、エ。烏瓜切 麻
㊀淸き水、しみづ。
㊁牛の跡の跡にたまりたる水。

㈢くぼし、くぼみ、(窪)。○[老]「一則盈」。

【漥】アイ、於佳切 佳 エ。切 エイ、以井切 梗 ヤウ。切

底の深き池、いけ。

【⿰氵通】トウ、ツ。禿聾切 東

水の聲にいふ字。

【漦】シ、ジ。俟菑切 支

㈠順ひ流る、ながる。㈡こす、(盝)。
㈢口より吐き出だす沫、あわ。

【⿱⿰來攵水】ライ。郎來切 灰

地の名。

【⿱⿰歺又水】サン、ゼン。棧山切 删

魚などの身濡ひて滑らかなること。

【漨】ホウ、ブ。符容切 冬

水の名。

【漨】ホウ、ブ。蒲蒙切 東

煩鬱す、むすぼる。○[左思]「歊-霧一-一浡」。

【漨】ホウ、ブ。蒲蠓切 董

水の瀵まる貌にいふ字。

【漩】セン、ゼン。似宣切 先

波浪轉回す、めぐる。○[郭璞]「一-一濴-瀯」。

〔同漩〕水めぐる。○[葉適]「而一-一起-洑」。

【漪】イ。於宜切 支

水の波文、さゞなみ、又、さゞなみ起こる、なみたつ ○[左思]「刷-盪一-瀾」。

〔漣漪〕さゞなみ。○[下維]「靑-翠漾ニ一-一ニ」。

〔淪漪〕前に同じ。○[柳宗元]「寒-藻舞ニ一-一ニ」。

〔緑漪〕みどり色のさゞなみ。○[貫休]「春洲揚ニ一-一ニ」。

〔碧漪〕前に同じ。○[李賀]「金塘閒-水搖ニ一-一ニ」。

〔淸漪〕きよらかなるさゞなみ。○[江總]「浮-藻漾ニ一-一ニ」。

〔澄漪〕前に同じ。○[徐寅]「左-右一-一小-檻前」。

【漫】バン、マン。莫半切 翰

㈠水浸して物を敗る、やぶる。○[揚雄]ニ「淫-敝爲レ一」。

㈡長遠なる貌にいふ字、とほし。○[左思]「廓ニ廣-庭之一-一ニ」。

㈢際涯なき貌にいふ字、ひろし。○[揚雄]「指ニ東-西之一-一ニ」。

㈣雲の色の貌にいふ字。○[江淹]「雲一-一而奇-色」。

㈤放縦、ほしいまゝ。○[莊]「澶-一爲レ樂」。

㈥虛誕、いつはり。○[荀]「行不レ免ニ汗-「一-一ニ」。

㈦分かれ散ず、ちる。○[王延壽]「流-一「數-百-里ニ」。

離爛一-一」。

㈧溢れ布く、はびこる。○[吳]「彌ニ一-一ニ」。

㈨あまねし、(徧)。○[公羊]ニ「郊-牛死不レ言ニ其所レ食一也」。

㈩たひらか、(平)。○[泉志]「背-支夷一-面-肉坦-平」。

⑪ほしいまゝに、みだりに。○[漢]「一-一羨而無レ所レ歸レ心」。

⑫もだゆ、(懣)。○[揚雄]「朝-鮮洌-水之閒煩-懣謂ニ之漢一-一ニ」。

⑬墁に同じ、ぬる。○[莊]「郢-人堊ニ一-其鼻-端ニ」。

〔滋漫〕はびこる。○[杜甫]「江-光夕一-一」。

〔流漫〕ながれはびこること、又、みだりなること。○[說苑]「一-一以忘レ本」。「陷-潰ニ」。

〔漫漫〕前に同じ。○[金]「以ニ其河-水一-一、堤岸」

〔散漫〕ちらばる。○[唐]「一-一千-餘-里ニ」。

〔瀰漫〕前に同じ。○[張協]「一-一狼-藉」。

〔爛漫〕前に同じ。○[莊]「大-德不レ同、而性-命一-一矣」。

〔淼漫〕水のはてしもなくはびこる貌にいふ語。○[李白]「一-一煙波濶」。

〔沈漫〕おぼるゝこと。○[魏]「一-一女-德ニ」。

〔泯漫〕みだるゝこと。○[抱朴]「朱-紫一-一」。

〔潤漫〕はてしもなく廣きこと。○[南徐州記]「一-一三-十-里」。

〔蕪漫〕けがれあるゝこと。○[杜牧]「數-里城-池已一-一」。

〔漭漫〕水の廣き貌にいふ語。○[木華]「渺-瀰一-一」。

〔緊漫〕たけくみたるゝこと。○[韓愈]「然而禮-文一-一」。

【漫】バン、マン。謨官切 寒

廣し、遠し、平か。○[屈平]「路一-一其修遠兮」。

〔渺漫〕水のひろき貌にいふ語。○[宋]「長-江一-一」。

【漬】シ。前知切 支 疾智切 寘

㈠ひたる。
（い）水に入る、うるほひさほる、つかる、ぬらす、うるほふ。○[吳越春秋]「洪-水滔-々天-下沈一」。
（ろ）漸入す、すゝむ。○[史]「漸ニ一於失-教ニ」。

㈡ひたらしむ、うるほす、ひたす、つく。○[左]「大-災者何大一也」。

㈢そむ、(染)。○[周]「染レ羽淳而一レ之」。

㈣病む。○[呂氏春秋]「一-甚」。

㈤獸汗かきて死す。○[禮]ニ「四-足曰レ一」。

〔霑漬〕ぬる、ぬらす。○[唐]「遇レ雨一-一」。

〔浸漬〕ひたる、ひたす。○[孔融]「一-一解ニ膠-漆ニ」。

【漭】バウ、マウ。模朗切 養

㈠廣くして遠し、平かにして廣し、はるかなり、ひろし。○[宋玉]「渉ニ一-一驰ニ萃-々ニ」。

㈡曉色明かならず、くらし。○[謝朓]「晨-光復泱一-一」。

〔瀁漭〕ひろし、はるかなり。○[郭璞]「注ニ五-湖ニ以一-一」。

〔蕩漭〕前に同じ。○[儲光羲]「森-源既一-一」。

〔渺漭〕前に同じ。○[方回]「暝乎初一-一」。

【漮】カウ。苦岡切 陽

水虛し、むなし。○[詩]「酌ニ彼一-爵ニ」。

【漯】タフ、トフ。他合切 合

水の攢聚する貌にいふ字。○[木華]「溯-濆-淪而滀一-一」。

【漯】ル井。魚水切 紙

水の名。

【漰】ホウ。披朋切 蒸 ハウ、ヒヤウ。披耕切 庚

㈠水の撃つ聲にいふ字。○[郭璞]「鼓ニ呑-窟一以一-渤」。

㈡堋に同じ、ゐぜき。○[寰宇記]「一作レ堋蜀人謂レ堰爲レ一」。

【漱】シウ、シユ。所救切 宥 ソウ、ス。先奏切 宥 先侯切 尤

あらふ。
（い）口中を洗ふ、くちすゝぐ、うがひす。○[禮]「鷄初鳴咸盥一」。
（ろ）すゝぐ、(澣)。○[禮]「冠-帶垢和レ灰請レ一」。
（は）水打ち寄す。○[馬融]「秋-潦一ニ其下-趾ニ」。

〔澡漱〕あらふ。○[魏]「日三一-一」。

〔淸漱〕前に同じ。○[北史]「雖-絕一-一、午-後輒不ニ肯食ニ」。

〔滌漱〕前に同じ。○[孟郊]「一-一一-掬弄」。

〔噴漱〕口より水を吐きちがひす。○〔西京雜記〕「――爲二雨霧一」。

【漲】チヤウ、タウ。知亮切〔漾〕 展兩切〔養〕 陟良切〔陽〕
みなぎる。
(い)水大にして勢さかる。○〔易林〕「水―無レ船」。
(ろ)滿ち溢る、みつ。○〔南〕「烟-塵―レ天」。
〔漲漲〕南方のうみをいふ。○〔李羣玉〕「――道-途遠」。
〔暴漲〕にはかに水のあふるゝこと。○〔宋〕「毎二汾-水――、州-民輙憂-擾」。
〔泛漲〕水のみなぎること。○〔王羲之帖〕「陂-湖――」。
〔積漲〕水かさのましてあふるゝこと。○〔劉禹錫〕「――在二三秋一」。
〔怒漲〕水勢のさかんにみなぎること。○〔葉適〕「――爭二茅-竹一」。

【漳】シヤウ、サウ。諸良切〔陽〕
水の名、又、州の名。

【漴】シウ、シユ。鉏中切〔東〕
水の聲にいふ字。

【漴】サウ、ゾウ。鉏江切〔江〕 サウ。仕莊切〔陽〕
雨の急なること、にはかあめ。

【漴】サウ、ソウ。士絳切〔絳〕
水衝く、つく。

【漴】シヤウ、ザウ。助亮切〔漾〕
雨疾く下る、きびしくふる。

【潊】ジヨ、ゾ。徐呂切〔語〕
水浦、うら。○〔杜甫〕「舟-子漁-子入二浦-―一」。
〔沙潊〕すなはま。○〔王融〕「日-霽――明」。
〔島潊〕しまのうら。○〔沈遵〕「――徒-縈-曲」。
〔洲潊〕水のほとり。○〔高啓〕「綿-々――平」。

【漶】クワン、グワン。胡玩切〔翰〕 戸管切〔旱〕
知る可からず、分別なし。○〔漢〕「爲二其泰曼――一」。

【漷】クワク。忽郭切〔藥〕
水勢の相激する貌にいふ字、うちあふ。○〔郭璞〕「潰-濩泧――」。

【漸】セン、ゼン。慈冉切〔琰〕
㊀易の卦の名、䷴ 艮下巽上 ○〔易〕「―女歸吉」。
㊁端緒、兆候、きざし、いとぐち。○〔易、疏〕「防レ―慮レ微」。
㊂度次第に加はる、すゝむ。○〔上官儀〕「位非二德―一榮以二恩滋一」。
㊃徐々とすゝむこと、行動の急激ならざること。○〔史〕「以下諸-侯大盛而錯爲レ之不レ以レ―也」。
㊄徐々と度をすゝめて、次第〱に、ます〱、やゝ、やう〱に、やうやく。○〔史〕「―有レ所レ起」。
〔漸漸〕しづかにはこびて速かならざる貌にいふ語。○〔杜牧〕「四-五-年-來――疎」。
〔浸漸〕次第にすゝみ入る。○〔論衡〕「暴-起者有二――一」。
〔端漸〕いとぐち、きざし。○〔抱朴〕「防二杜傾-邪之――一、可レ謂レ至矣」。
〔萠漸〕前に同じ。○〔元稹〕「據二逸安一而易二――一」。

【漸】サン、ゼン。鋤銜切〔咸〕
㊀巉に通じ用ふ、たかし。○〔詩〕「――之石維其高矣」。
㊁流るゝ貌にいふ字。○〔楚辭〕「涕――兮」。
㊂ぬげり秀でたる貌にいふ字。○〔史〕「參秀――兮」。

【漸】セン、ソン。子廉切〔鹽〕
㊀流れ入る、そゝぐ。○〔書〕「東―二于海一」。
㊁ひたす、ひたる。
(い)うるほす、うるほふ(溼)。○〔詩〕「―二車帷裳一」。
(ろ)浸染す。○〔漢〕「――レ民以レ仁」。
㊂潛に通じ用ふ。○〔史〕「沈-―剛-克」。
〔沾漸〕うるほふ、又、うるほす。○〔後漢〕「文-約之所二――一」。

【漸】セン。子艷切〔豔〕
溼ふ貌にいふ字。

【漸】セツ、セチ。之列切〔屑〕
浙に同じ。

【漹】エン。乙虔切〔先〕 於閑切〔刪〕
西河にある水の名。

【漹】エン。於建切〔願〕
襄陽に在る水の名。

【漺】サウ。楚兩切〔養〕
㊀きよし(淨)。㊁ひやゝか(冷)。㊂まじる(錯)。㊃うかぶ(浮)。

【漻】レウ。洛蕭切〔蕭〕
㊀淸くして深し、ふかし。○〔淮〕「湫―寂-寞」。
㊁高くして遠し、とほし。○〔漢〕「寂――上-天知二厥時一」。

【漻】リウ、ル。力求切〔尤〕
劉、又、溜に同じ。

【漻】カウ、ゲウ。下巧切〔巧〕
㊀きよし(淸)。㊁水中ごろに絶ゆ。
㊂こほる(凍)。

【漻】レキ、リヤク。郎狄切〔錫〕
變化する貌にいふ字。○〔莊〕「油-然――然」。

【漼】サイ、セ。七罪切〔賄〕
㊀ふかし(深)。○〔詩〕「有レ―者淵」。
㊁鮮明、あざやか。○〔詩〕「新-臺有レ―」。
㊂涕の垂るゝ貌にいふ字。○〔陸機〕「指二季-豹一而―焉」。
㊃壞るゝ貌にいふ字。○〔崔駰〕「王-綱―以陵-遲」。
㊄折るゝ貌にいふ字。○〔傅毅〕「―以摧-折」。

【漼】サイ、ゼ。徂回切〔灰〕
雪霜の積もり聚まる貌にいふ字。

【漾】ヤウ。餘亮切〔漾〕
㊀漢江の上流。○〔書〕「嶓冢導レ―」。
㊁たゞよふ。
(い)水波搖動す、うごく。○〔謝惠連〕「漣-漪繁-波―」。
(ろ)漂流す、ながる。○〔幻影傳〕「一-葉――避二舊-路一復至二青-龍-寺一」。
㊂ながし(長)。○〔王粲〕「川既―而濟深」。
〔蕩漾〕たゞよふ。○〔孫逖〕「綠-水-容――」。
〔浩漾〕たゞよふ。○〔阮籍〕「漫――而未レ暇」。
〔演漾〕前に同じ。○〔阮籍〕「――惟所レ望」。
〔漾漾〕たゞよふ貌にいふ語。○〔宋之問〕「――潭-際-月」。
〔泛漾〕たゞよふ。○〔梁武帝〕「――天-淵池」。
〔搖漾〕水のうごく貌にいふ語。○〔梁簡文帝〕「江

---而生レ風」。

【漿】シヤウ、サウ。即良切 [陽]
㊀酢截、す、こんず、一說に、米汁、志ろみづ。○〔周〕「辨二四-飲之物一、三曰、-」。
㊁飲料とする液、のみもの、志る。○〔漢〕「肉爲レ食酪爲レ-」。
〔酒漿〕さけと志ると。○〔詩〕「不レ可二以挹一--」。
〔壺漿〕つぼにいれたるのみもの。○〔孟〕「簞食--以迎二王師一」。
〔寒漿〕かたばみの異名にして、又、酸漿草ともいふ。○〔爾〕「葴--」。
〔酪漿〕ちゝの志る。○〔李陵〕「羶肉--」。
〔含漿〕はまぐりのたぐひにて形のやゝながきもの。○〔爾〕「蚌--」。
〔蜜漿〕はちみつの志る。○〔十洲記〕「元洲玄澗水如二--一」。「酒」。
〔椰漿〕やしのみの志る。○〔北〕「亦以二---一爲レ」
〔飴漿〕あめの志る。○〔唐〕「帝毎レ出或獻二---一」。
〔飲漿〕のみもの。○〔宋〕「給二---一」。
〔醴漿〕あまさけ。○〔列〕「--之氣、逆二于人鼻一」。

【潁】エイ、ヤウ。余頃切 [梗]
水の名。○〔周〕「荊-州其浸-湛」。

【滮】タク、チヤク。直格切 [陌]
水土を得、にごる。

【潚】シユク、ソク。時六切 [屋]
清淳、きよし、すむ。

【淜】ヒヨウ。皮冰切 [蒸]
舟なくして河を渡ること、かちわたり。

【潫】サン。青散切 [翰]
淸き貌にいふ字。

【泏】グワツ、ゲチ。五刮切 [黠]

かゞむ（屈）。

【潧】シユン、ジユン。詳遵切 [眞]
汗晞く、かわく。○〔史〕「病得二之流-汗出--一」。

【瀴】エイ、ヤウ。余頃切 [梗]
水の名。

十二畫

【瀎】ヘイ、ヘ。匹蔽切 [霽]
㊀水中にて絮を擊つ、わたうつ。
㊁きよし（淸）。
㊂水に遊ぶ貌にいふ字。○〔潘岳〕「翫二游-鯈之--一」。

【瀎】ヘウ。匹妙切 [嘯]
波浪の貌にいふ字。

【瀎】ヘツ、ヘチ。匹滅切 [屑]
--洌は、水波相撇つ貌にいふ語。○〔司馬相如〕「轉-騰--洌」。

【潎】ヒ。補履切 [紙]
水をもて物を激す、うつ。

【潏】ケツ、ケチ。古穴切 [屑]　シユツ、ジユチ。食聿切 [質]
㊀涌出す、わく。○〔木華〕「天-綱浡--」。
㊁水中の坻、す。○〔爾〕「水-中可レ居曰レ洲、人所レ爲爲レ-」。
㊂水の名。○〔司馬相如〕「酆鎬潦-」。
〔潏々〕涌き出づ。○〔史〕「---潏-々」。
〔瀄潏〕前に同じ。○〔張耒〕「金-山--、--浪-花裂」。
〔涌潏〕前に同じ。○〔朱熹〕「---知-幾-折」。

【潏】イツ、イチ。以律切 [質]
水の流るゝ貌にいふ字。○〔張衡〕「汲-滑濊--」。
〔泐潏〕水の流るゝ貌にいふ語。○〔史〕「---漫-「衍」。

【潐】セウ。子肖切 [嘯]
つく（盡）。

【潐】セウ。子小切 [篠]
灑に同じ。

【潑】ハツ、ハチ。普活切 [曷]
㊀そゝぐ。
（い）水を散らし注ぐ、ちらしかく。○〔畫斷〕「以レ墨-レ絹」。
（は）水散り注ぐ、ちりかゝる。○〔孔武仲〕「巨-浪倒-東-南天」。
㊁水漏る、水溌ころ、志たゝる、わく。○〔蘇轍〕「居-然受二噴--一」。
㊂雨ふりの一志きり。○〔李翊〕「雨一-番一-起爲二一--一」。
〔潑潑〕そゝぐ。○〔黄庭堅〕「何用相--」。
〔活潑〕いきくとして勢のよきさまにいふ語。○〔殷遷〕「隱-外蔦-魚--」。

【潒】タウ、ダウ。徒朗切 [養]
大水の貌にいふ字、ひろし。○〔張衡〕「瀰-望廣--」。
〔滉潒〕水の深く廣き貌にいふ語。○〔張衡〕「莽-沆猾二--一」。

【潒】シヤウ、サウ。徐兩切 [養]
水勢の急なる貌にいふ字、はやし、さし。

【潒】ヤウ。以兩切 [養]

瀁に同じ。

【㵫】ダフ、ナフ。女狎切 [洽]
影動く、うごく、ゆるぐ、一說に、水動く、なみたつ。

【澓】ケイ、エ。胡桂切 [霽]
淮水の一支流。

【澊】バイ、メ。莫蟹切 [蟹]
湘水の一支流。

【漞】ベキ、ミヤク。莫狄切 [錫]
汨に同じ。

【濊】クワツ、クワチ。戸括切 [曷]
水の流るゝ聲にいふ字。

【潕】ブ、ム。文甫切 [麌]
水の名。

【潡】シユン、ジユン。松倫切 [眞]
流るゝ貌にいふ字。

【潔】ケツ、ケチ。古屑切 [屑]
㊀垢穢なし、汙濁なし、きよし、いさぎよし。○〔左〕「卞急而好レ-」。
㊁いさぎよからしむ、いさぎよくす。○〔晉〕「尙二儉-素一自修--」。
〔不潔〕穢れたること。○〔孟〕「西-子蒙二---一、則人皆掩レ鼻而過レ之」。
〔玉潔〕美しきこと。○〔拾遺記〕「皆方-面色---」。
〔皎潔〕白く淸らかなること。○〔謝惠連〕「臨-汗---之儀」。
〔豐潔〕ゆたかにして且淸らかなり。○〔左〕「吾享-祀---」。「禧」。
〔水潔〕極めて淸らかなること。○〔孔融〕「----淵-

〔精潔〕專一にして淸らかなること。○〔國〕「小心一一服」。
〔禋潔〕つゝしみて淸らかなること。○〔國〕「一一之風」、東州稱レ仁」。
〔淳潔〕前に同じ。○〔後漢〕「有二一一之風一、東州稱レ仁」。
〔公潔〕私なくして淸白なること。○〔漢〕「爲レ相一一道二。
〔涓潔〕きよらかなること。○〔元〕「殊非二一一之道二」。
〔淸潔〕前に同じ。○〔漢〕「一一自守」。
〔方潔〕廉正なること。○〔後漢〕「丹資性一一」。
〔脩潔〕煩はしからずして淸らかなること。○〔南〕「立レ身一一」。
〔矯潔〕ことさらに僞りて廉淸なるふりをなすこと。○〔魏〕「子華在レ官、不レ爲二一一之行二」。
〔齋潔〕敬みて淸らかなること。○〔魏〕「時事二一一二」。
〔莊潔〕おごそかにして淸らかなること。○〔魏〕「形貌一一」。
〔嚴潔〕前に同じ。○〔王儉〕「寧在二一一二」。
〔峻潔〕前に同じ。○〔元〕「故其文典雅一一」。
〔完潔〕缺くる所なく淸らかなること。○〔唐〕「行レ己一一」。
〔華潔〕はでやかにして淸らかなること。○〔稽神錄〕「一一衣冠一一」。
〔雅潔〕みやびて淸らかなること。○〔元〕「其文淸深一一」。
〔肥潔〕物の太りて淸らかなること。○〔春秋繁露〕「性貴二一一、而不レ貪二其大一也」。
〔鮮潔〕あざやかなること。○〔曹植〕「衣裳一一」。
〔脆潔〕もろくして淸らかなること。○〔杜陽雜編〕「其一一如レ氷」。
〔至潔〕極めて淸らかなること。○〔顧瑛〕「絕二文理二」。
〔秀潔〕すぐれて淸らかなること。○〔牟巘相東坡詩〕「一一峡々此物抱二一一二」。

【潗】シフ。子入切 緝
泉出づ、水涌く、わく、いづ、又、わきいづる聲にいふ字。○〔木華〕「濆瀯一一潘」。
〔湁潗〕水微しく轉り細く通る貌にいふ語。○〔司馬相如〕「一一鼎沸」。
〔潗々〕沸きあがる聲にいふ語。○〔文同〕「一一聲頗急」。
〔瀵潗〕波の沸きあがる貌にいふ語。○〔葛遭〕「涆一「彈一一」。

【潘】ハン。普官切 寒
㊀淅米の汁、しろみづ、こめしろ。○〔禮〕「面垢燂レ一請レ靧」。
㊁水のあつまりめぐるを、うづまき。○〔列〕「鯢旋之一爲レ淵」。
〔米潘〕しろみづ。○〔唐〕「飲以二一一二」。

【潘】ヘン、ホン。孚袁切 元
前條の㊀に同じ。

【潘】ハ。逋禾切 歌
一旍は、縣の名。

【潚】チク、トク。佇六切 屋
汚水に入る水の名。

【潙】キ。居爲切 支
水の名。

【潚】シユク。子六切 屋
㊀深くして淸し、きよし、ふかし。
㊁はやし、すみやか（疾）。○〔張衡〕「迅一颷一其媵レ我兮」。

【潚】
瀟、又、潇に同じ。

【潝】キフ、コフ。迄及切 緝
㊀水の流るゝ貌にも水の疾き聲にもいふ字。○〔司馬相如〕「汩一一漂疾」。
㊁職に勤めず、一說に、附和す、つけあはず、又一說に、善からず。○〔詩〕「一一訿々」。

【潝】アフ、エフ。乙洽切 洽
浥に同じ、くぼむ。

【潨】ソウ、ス。徂聰切 東
潨に同じ、水會す、あつまる。

【潞】ロ。洛故切 遇
水の名、江の名、又、州、又、邑の名。

【潓】シユ、ジユ。汝朱切 虞
うるほふ、うるほす（溼）。○〔莊〕「相一以レ沫」。

【潟】セキ、シヤク。思積切 陌 七約切 藥
潮汐の進退によりて或は浸され或は乾く鹹地、かた、ひかた。○〔周〕「凡糞レ種鹹一用レ貆」。

【澉】カン、コン。苦感切 感
にごる（濁）。

【潦】ラウ、ロウ。魯皓切 皓
㊀雨ふりて水勢大いに漲ること、おほみづ。○〔莊〕「十年九一」。
㊁降りつゞく雨、ながあめ。○〔晉〕「霖一大水」。
㊂路上の流れ水、にはたづみ、たまりみづ。○〔詩〕「酌二彼行一一二」。
〔塗潦〕路上の水たまり。○〔禮〕「送葬不レ避二一一二」。
〔下潦〕降る雨みづ。○〔後漢〕「一一上霧、毒氣熏蒸」。
〔潢潦〕水たまり。○〔韓愈〕「一一無二根源二」。
〔黑潦〕濁りたるにはたづみ。○〔馬子才〕「一一一滿道」。
〔黃潦〕前に同じ。○〔晉〕「朝隮而一一臻」。
〔霖潦〕ながあめ。○〔唐〕「關中一一餘道絕」。
〔泥潦〕雨水にてぬかりたる道。○〔五〕「兵行二一一中二」。
〔積潦〕雨水の大いに出づること、おほみづ、又、ながあめ。○〔宋〕「沂畿一一」。
〔淫潦〕前に同じ。○〔宋〕「夏秋患二一一二」。
〔雨潦〕雨水のこと。○〔宋〕「一一所レ鍾」。
〔洪潦〕雨の降りて大水の出づること、おほみづ。○〔郭璞〕「水皆一一」。

【潦】ラウ、ロウ。郎到切 號
㊀ひたす、ひたる（淹）。
㊁たまりみづ、積水。

【潦】ラウ、ロウ。郎刀切 豪
鄠縣にある水の名。

【潦】レウ。憐蕭切 蕭
衞皐の東にある水の名。

【濞】キ。其冀切 寘

水

【潨】ソウ、ズ。徂紅切 東 シヨウ、シユ。藏宗切 切將容 冬
小水の大水に入るにいふ字、そゝぐ、又、水相會す、あふ、あつまる、又、其のそゝぎあふ所、みづあひ、一說に、きし（厓）。○〔詩〕「鳧鷖在レ一」。
〔驚潨〕音しさわぎて落ち入ること。○〔孟郊〕「楚水有二一一二」。
〔奔潨〕瀧のこと。○〔李白〕「龍龜下二一一二」。
〔飛潨〕前に同じ。○〔李中〕「直下流一一」。

【潨】サウ、ソウ。仕巷切 絳
淙に同じ。○〔鮑照〕「一一秋水積」。

【澤】タク、ヂヤク。直格切 陌
澤に同じ、つや。○〔史〕「其色大圜黃一」。

【澤】カウ、ゴウ。胡刀切 豪

㊀前條に同じ ㊁噑に同じ、なく。○[史]「秭-鳩先—」。

【潩】ヨク、眞職切 イキ。シヨク、叱力切 シキ。職 イ。羊吏切 寘

水の名。

【潪】テキ、ヂヤク。直炙切 陌

土の水を得て沮ふにいふ字、うるほふ。

【濴】ワン、エン。烏關切 刪

深くして廣き貌にいふ字、ひろし、又、迴り復る、かへる。○[左思]「泓-澄濴—」。

【潫】エン。縈娟切 先

㊀前條に同じ。㊁大いなる水。

【潏】ケツ、ゲチ。去月切 月

水の名、又、國の名。

【潬】タン、ダン。徒旱切 旱

水中の沙渚、すなのす。○[爾]「—沙出」。

【潬】セン、ゼン。上演切 銑

水相薄る、せまる、うつ、又、水展轉す、めぐる。○[文心雕龍]「——嗚-々」。

【潬】タン、ダン。徒干切 寒

㊀前條に同じ。「淺句隔」。㊁灘に通じ用ふ。○[金石文]「深淘—」

【潭】タン、ドン。徒含切 覃

㊀武陵にある水の名、又、州の名。

㊁ふかし(深)。○[漢]「—二思渾-天一」。

【潯】シン、ジン。徐心切 侵

水厓の深き所、ふち。○[揚雄]「或横二江—一而漁」。

〔寒潭〕水の冷かなるふち。○[謝靈運]「皎々—潔」。

〔綠潭〕水の青く深き處。○[梁簡文帝]「——倒二雲氣一」。

〔碧潭〕前に同じ。○[宋之問]「——可レ遺レ老」。

〔池潭〕いけの深きところ。○[水經、註]「俯二仰——一」。

〔沸潭〕水のわきあがる深きふち。○[陸龜蒙]「——一結二流澌一」。

〔澄潭〕清くすみわたれる水の深き處。○[沈佺期]「碧-水——映二遠-空一」。「漆江-沔一」。

〔洪潭〕大いなるふち。○[水經、註]「——巨-浪縈二」。

〔滌潭〕深きふち。○[謝靈運]「隨二山-疏——一傍一」。

〔幽潭〕物靜かなる水の深き處。○[林景熙]「——一帶-風-雨一」。

【潭】イン。夷針切 侵

淫に同じ。○[司馬相如]「浸——促レ節」。

【濻】セツ、セチ。私列切 屑

そゝぐ(注)。

【澬】ヒ。方味切 未

沸に同じ。

【濆】ハイ、ヘ。滂佩切 隊

——潰は、水の溢るゝ貌にいふ語。

【潛】セン、昨鹽切 鹽 ゾン。切 セン、慈豔切 豔 ゼン。切

㊀くゞる、もぐる。

(い)水を渉る、水を游ぐ、わたる、およぐ。○[進]「隨行水—」。

(ろ)かくれ流る、ひそみ通ず。○[山海經]「河-水所レ—也」。

㊁ひそむ。

(い)藏匿す、かくる、ふのぶ。○[易]「陽-氣—-藏」。

(ろ)陰密にす、かくす、ふのばす。○[梁簡文帝]「彗日—レ影」。

㊂ふづむ(沈)。○[書]「沉——剛-克」。

㊃ふかし(深)。○[詩]「—雖レ伏矣」。

㊄魚の息ふ所、卽ち、ふしづけ。○[詩]「—有二多-魚一」。

〔潤潛〕深くひそむ。○[揚雄]「懿-神-龍之——一」。

〔幽潛〕前に同じ。○[九懷]「鯨-波兮——」。

〔深潛〕前に同じ、又、ふかし。〔元稹〕「波-駭——一」。

〔壽潛〕靈芝の一名。○[瑯環記]「靈-芝一-名——一」。

〔陰潛〕ひそみかくる、又、ひそめかくす。○[甘泉賦]「下——以悽-懍兮」。

〔遯潛〕にげかくる。○[裴度]「昔—二——於阻-艱一」。

〔韜潛〕つゝみかくす、又、かくれひそむ。○[張仲甫]「或-滅-沒-而——一」。

〔隱潛〕ひそむ。○[韓琦]「仙-府-天-成-以——一」、

〔退潛〕退きぞきかくれて世に表はれ出づるを望まざること。○[韓琦]「吾-方-事二——一」。

【潜】俗の潛の字。

【潠】ソン。蘇困切 願

含みたる水を噴き出だす、はく。○[後漢]「含レ酒三—」。

〔噴潠〕口に含みて吹きだす。○[輟耕錄]「唯-取二冷水——一」。

【潠】セン。須絹切 霰

㊀はく(噴)。㊁あらふ(洗)。

【潡】トン、ドン。杜本切 阮

㊀大いなる水。㊁敦に同じ。

【潢】クワウ、ワウ。胡光切 陽

㊀積水池、みづたまり、いけ。○[木華]「決二陂——而相湲」。

㊁洸に同じ、水に光り涌く、ひかりわく。

〔銀潢〕星の名、あまのがは。○[晏殊]「——之影横レ秋」。

〔星潢〕前に同じ。○[晏殊]「眞秀二——一」。

〔流潢〕水のながるゝ池のこと。○[陸機]「——餘、洋溢而レ之」。

〔池潢〕前に同じ。○[張九齡]「——不レ敢過一」。

〔絕潢〕水路の通じをらざる池。○[韓愈]「是猶下航二斷港——一、以望上レ至二於海一」。

【潢】クワウ、ワウ。戸廣切 養

滉に同じ、水の深くして廣き貌にいふ字。○[司馬相如]「灝-溔——漾」。

【潢】クワウ、ワウ。胡曠切 漾

紙を染むること。○[齊民要術]「有二裝——紙法一」。

〔裝潢〕紙又はきれなどを糊にて貼りて細工すること。○[唐六典]「——匠六-人」。

【潣】ボン、モン。亡本切 阮

水の盈つる貌にいふ字。

【澗】カン、居莧切 諫 ケン。切 カン、居閑切 刪 ケン。切

山と山とに夾まれたる水、たにみづ、たにがは。○[詩]「于二——之中一」。

〔絕澗〕かけはなれてけはしき谷がは。○[後漢]「深-林——、有二青-自-然一」。「—一」。

〔幽澗〕奥深く物靜かなる谷がは。○[晉]「開-生二——一」。

〔遂澗〕前に同じ。○[沈約]「——千-廻」。

〔清澗〕水の清らかなる谷あひのかは。○[儲光羲]「——日-濯レ足」。

〔深澗〕谷川のこと。○[選]「出二-入——一」。

〔薄澗〕小さき水のこと。○[晉]「形-骸-捐二于——一」。

〔阻澗〕險しき谷あひの川。○[陳與義]「——晩-來-聲」。「陰。

〔寒澗〕水の冷かなる谷川。○[鮑照]「刈レ萃——」

〔冷澗〕前に同じ。○[庾信]「香-泉-酌——」。

【潣】ビン、ミン。美殞切 [軫]
水のながれの浼々たる貌にいふ字、たひらか。

【潤】バイ、武罪切 [賄] ベン、美辨切 [銑]
浼に同じ。

【潰】クワイ、ケ、虎賄切 [賄]
水の貌にいふ字。

【潤】ジュン、ニュン。如順切 [震]
㊀うるほふ。
(い)ひたる、しめる、ぬる、しめる。○[淮]「山-雲蒸而柱-礎―」。
(ろ)漸染す、そむ、しむ。○[左思]「林-木爲レ之―-黷」。「―」。
(は)利徳を受く。○[李嶠]「羣-朋皆―」。
(に)榮ゆ。○[蜀]「朝含二榮―一、夕爲二枯-槁一」。
㊁うるほす。
(い)ひたす、ぬらす、しめらす、しみこます。○[孟]「雨-露之所レ―」。
(ろ)利徳を施す。○[漢]「功―二諸-侯一」。
(は)まし加ふ。○[宋]「樂-章累-朝多二「刪―一」。
㊂うるほひ。
(い)うるほふを、雨ふるを、しめり。○[後漢]「比-日密-雲遂無二大―一」。
(ろ)水氣、水分。○[曹植]「吹レ雲吐レ「―」。
(は)恩徳、めぐみ。○[北]「祿―已「―」。
(に)利益、まうけ。○[北]「皆求二利-優一」。
㊃溫和、おだやか、やはらか。○[後漢]「每乏二溫―之色一」。
㊄光澤、つや。○[新語]「無二膏-澤一而光―生」。
㊅つやあり、麗し。○[蔡邕]「三-耀―」。
㊆修飾す、かざる。○[論]「子-産―二色之一」。

〔浸潤〕うるほふ、うるほす。○[論]「―-―之譖」。
〔芳潤〕かんばしくしてつやあること。○[文賦]「藝之―-―」。
〔膏潤〕うるほひ。○[王僧孺]「―-―相屬」。
〔深潤〕いたくうるほふ、又、いたくうるほす、又、かろぐしからずしておだやかなること。○[後]「溫-純―-―」。
〔飾潤〕かざる。○[後漢]「―二-―辭-意一」。
〔弘潤〕寛大にして嚴急ならざること。○[沈約]「長而「端一」。
〔諧潤〕さかしら言をなす。○[魏]「寨二―-―之―-―」。
〔慈潤〕仁愛。○[郭璞]「寔望二―-―一」。
〔恩潤〕前に同じ。○[北]「並無二―-―一」。
〔存潤〕存問してめぐみをかくること。○[北]「略無二「香―-―」。
〔霑潤〕深くうるほひの及ぶこと。○[溫庭筠]「宿-雨―-―一」。
〔紅潤〕赤きつやあること。○[酉陽雜俎]「―-―可レ愛」。
〔濕潤〕しめりうるほふ、しめしうるほす。○[酉陽雜俎]「竊無レ故自―-―」。
〔滋潤〕うるほふ、うるほす。○[賈島]「雨餘―-―「在」。
〔豐潤〕富裕なること。○[李白]「邑-居―-―」。
〔滌潤〕前に同じ。○[傅休奕]「洪-澤所二―-―一」。
〔濡潤〕前に同じ。○[鮑照]「霜-露迭―-―」。
〔露潤〕前に同じ。○[陸機]「配二―-―于雲-雨一」。
〔秀潤〕すぐれてつやのあること。○[圖繪寶鑑]「―-―可レ喜」。「―無二與比一」。
〔瑩潤〕あきらかなるつやのあること。○[沈遼]「―-―」。
〔揺潤〕生長し益す。○[潘岳]「新-茎―-―」。
〔旁潤〕徧くうるほひの及ぶこと。○[潘尼]「惠-澤―-―」。

【潮】テウ、デウ。直遥切 [蕭]
㊀しほ、うしほ。
(い)太陽と太陰との引力の關係によりて海水の進退すること。○[論衡]「水者地之血-脈、隨レ氣進-退而爲レ―」。
(ろ)特に海水の朝に進退するを、あさしほ。○[皇極經世]「隨レ月消-長、早曰レ―、晩曰レ汐」。
(は)又特に、海水の進み來るを、さしほ。○[海潮論]「滄-海之水入レ江謂二之―一」。「噴二海-―一」。
(に)海水、うみみづ。○[蘇頲]「鯨疑レ
㊁さす。
(い)しほ進む。○[七發]「海-水上―」。
(ろ)映ろひあらはる。○[蘇軾]「玉-顏醉-裏紅―」。

〔江潮〕揚子江にさしひきするうしほ。○[劉長卿]「―-―通二解舍一」。
〔晉潮〕朝しほと夕しほとの水の相合ふこと。○[劉禹錫]「滄-波不レ歸成二―-―一」。
〔晨潮〕朝しほ。○[韓翃]「蹋-水迎二―-―一」。
〔晩潮〕夕しほ。○[戴叔倫]「天-涯過二―-―一」。
〔雜潮〕雜の名。○[沈約]「每二潮至一則鳴、故呼爲二―-―一」。
〔候潮〕うしほのさし來る時をうかゞひ待つ。○[李嘉祐]「建-業―レ―歸」。
〔迎潮〕うしほのさし來るをむかへ待つ。○[項斯]「沙鳥戯―レ―」。
〔落潮〕ひき行くうしほ。○[劉長卿]「―-―迴二野-艇一」。
〔早潮〕とく流るゝうしほのこと。○[孟郊]「西-門生二「―-―一」。
〔翻潮〕捲き立つうしほ。○[謝朓]「―-―尙知レ恨」。
〔怒潮〕激しく打ち寄するうしほ。○[鄭文原]「風高―-―響」。
〔順潮〕うしほの流に從ひて逆はざること。○[元]「李恆等―レ―而退」。「―一」。
〔返潮〕退き去るうしほ。○[沈約]「碣-石送二―-―一」。
〔風潮〕かぜのゆきかひとうしほのさしひきと。○[孟浩然]「舳-艫爭二利-涉一、來-往接二―-―一」。
〔旦潮〕あさしほ。○[鮑照]「澄-淫―-―廣」。
〔奔潮〕急に流るゝうしほ。○[柳惲]「―-―溢二南-浦一」。
〔暮潮〕夕しほ。○[何遜]「―-―還入レ浦」。

【潯】ジン。徐林切 [侵]
水厓の深き處、ふち、一說に、水厓、きし、ほとり、みぎは。○[淮]「江-―海-裔」。

〔淸潯〕水のきよらかなる深きみぎは。○[梁簡文帝]「伊-洛有二―-―一」。
〔碧潯〕水の綠なる深きみぎは。○[錫師道]「聯-翩度二―-―一」。「―-―一」。
〔烟潯〕霞こめたるみぎは。○[謝莊]「遙-迹濟二―-―一」。
〔浪潯〕波の打ちよするみぎは。○[徐牧]「朱-輪破二―-―一」。
〔寒潯〕水のつめたきみぎは。○[朱德潤]「拍-々枕二―-―一」。
〔荒潯〕荒涼たるみぎは。○[黄溍]「獨-追-燈-火二下―-―一」。
〔濱潯〕池のみぎは。○[湯顯祖]「委-積-磨-於―-―」。

【潯】イン。夷針切 [侵] タン、徒南切 [覃] ドン。切
淫に同じ。

【澺】エツ、エチ。一結切 [屑]
泅に同じ。○[易林]「黄落―-鬱」。

【澿】オウ、ウ。於侯切 [宥]
冬月に草を水中に積み置きて魚の潜めるを捕らふるもの、ふしづけ。

【潲】サウ、所教切 [效] セウ。山巧切 [巧]
㊀水激す、うつ。㊁しろみづ（潃）。
㊂潘を汎ぎて豕を食ふ、やしなふ。

【潳】ト、ヅ。同都切 [虞]
山の名。○[後漢]「南-郡―-山」。

【潳】タ、テ。陟加切 [麻]
沾溼す、ぬる、ぬらす。

【潴】チヨ、ト。陟魚切 [魚]
瀦に同じ。

【澘】サン。先盱切 [鹽]

水散ず、ちる。

【潳】シヤ、セ。薔者切 〔馮〕 絮からず、にごる、けがらはし。

【潷】ヒツ、ヒチ。鄙密切 〔質〕 こす、（濾）一說に、汁を去る。

【潸】サン、セン。所姦切 〔刪〕 數版切 〔潸〕 所晏切 〔諫〕 涙又は雨などの流るゝ貌にいふ字。○〔詩〕「――焉出レ涕」。
〔長潸〕つゞきて涙の流れ下ること。○〔史〕「流・涕――、忽々承レ睫」。
〔潸々〕落ち流るゝ貌にいふ語。○〔貫査〕「疎・林口暮雨――」。

【潺】サン、セン。士山切 〔刪〕 ㊀水の流るゝ貌にも水の流るゝ聲にもいふ字。○〔魏文帝〕「谷・水――」。㊁潺の流るゝ貌にいふ字。○〔楚辭〕「橫流涕兮――湲」。
〔幽潺〕ひそかに水の流るゝ貌にいふ語。○〔柳宗元〕「志・適忘二――一」。
〔潺潺〕水の流るゝ聲にいふ語。○〔蘇軾〕「揭二森・潺之――一」。
〔深潺〕前に同じ。○〔王筠〕「石・瀨正――」。

【潼】トウ、ヅ。徒紅切 〔東〕 ㊀水の名、又、海の名。㊁高き貌にいふ字。○〔宋玉〕「沬――而高厲」。

【潼】シヨウ、シユ。尺容切 〔冬〕 ㊀前條に同じ。㊁水道路を壞る、やぶる。㊂灑ふ貌にいふ字。

【潪】シヨク、シキ。賞力切 〔職〕 ねばる、ねばり、（粘）。

【涾】タフ、テフ。竹洽切 〔洽〕 うるほふ、うるほす、（濈）。

【[illegible]】シヤ、ゼ。辭夜切 〔禡〕 セキ、ジヤク。食亦切 〔陌〕 水の名。

【潾】リン。力珍切 〔眞〕 ㊀水の名、又、地の名。㊁水の淸き貌にいふ字。

【潾】ラン、レン。力閑切 〔刪〕 水の貌にいふ字。

【潾】リン。良刃切 〔震〕 山石の閒より出づる水、いはしみづ。

【渢】コウ、ク。虎孔切 〔董〕 水風、かはかぜ。

【潿】ヰ。羽非切 〔微〕 流れずして濁る、にごる。

【澀】シフ。色入切 〔緝〕 ㊀滑利ならず、平爽ならず、さびこほる、しぶわむ、ふさがる、なやむ、しぶる。○〔風俗通〕「冷――比二于寒・蜓一」。㊁味しぶりて苦し、しぶし。○〔杜甫〕「酸――如二棠・梨一」。「――如二砂・紙一」。㊂一種の竹。○〔范成大〕「――竹膚皺・
〔險澀〕けはしくあること。○〔晉〕「蟠固――」。
〔艱澀〕なやむこと。○〔魏〕「道・路――」。
〔彊澀〕勢つよくして滑かならざること。○〔唐 陸贄〕「文稍――」。
〔奇澀〕常に殊別にして滑かならざること。○〔宋〕「士子尙爲險・怪――之文一」。
〔結澀〕むすぼれてしぶること。○〔柳宗元〕「攀・閣――」。「有二行毛――一」。
〔粗澀〕ざらくしてしぶること。○〔謝、䟽〕「集・上
〔梗澀〕塞がること。○〔晉〕「道・路――」。
〔朴澀〕質樸にして滑かならざること。○〔南〕「既爲レ人――」。「――無レ才」。
〔謇澀〕愼み深くして滑かならぬこと。○〔南、休範〕――
〔訥澀〕口ごもること。○〔南〕「性――少レ言」。
〔頑澀〕かたくなにして圓滑ならぬこと。○〔圖繪寶鑑〕「故昔之評レ畫、譏二其――一」。
〔皺澀〕しわよること。○〔畫史〕「――不レ凡」。
〔蘚澀〕さびの生じてざらくすること ○〔李綱〕「蟣花――苔・蘚痕」。
〔蹇澀〕なやみて思ひの儘にならざること。○〔白居易〕「書行雖二――一」。

【澁】前に同じ。

【澂】チヨウ、ヂヨウ。持陵切 〔蒸〕 きよし、すむ、（淸）。○〔後漢〕「淵・源誰――」。

【澋】ケイ、キヤウ。居詠切 〔敬〕 きよし、すむ、（淸）。

【澄】チヨウ、ヂヨウ。持陵切 〔蒸〕 タウ、ヂヤウ。除庚切 〔庚〕 直拯切 〔迥〕 ㊀物事の靜かにして淸きにいふ字、きよし、すむ。○〔謝靈運〕「秋・水共――鮮」。㊁きよらかならしむ、きよむ、すます。○〔吳〕「淸二――江・滸一」。㊂酒の名。○〔禮〕「――酒在レ下」。
〔泓澄〕深くして淸きこと。○〔吳都賦〕「――奫潫」。
〔渟澄〕流れずして淸くあること。○〔孟郊〕「呀・豁滔――」。
〔淵澄〕深くすみわたる。○〔朱熹〕「何幸且――」。
〔凝澄〕てりわたりて曇なし。○〔梁簡文帝〕「秋色――」「澄」、
〔平澄〕たひらかにして淸し。○〔符載〕「――無」
〔肅澄〕靜かにして淸し。○〔宋祭酒〕「萬・宇――」。
〔虛澄〕空しく淸し。○〔蘇軾〕「稍覺二霄・際一自――」。
〔研澄〕磨き淸む。○〔眞誥〕「――二虛・鏡一」。
〔高澄〕けだかく淸し。○〔雲笈七籤〕「氣淸――」。
〔澄々〕淸き貌にいふ語。○〔阮修〕「――綠水、澹々其波」。

【澄】トウ。唐亙切 〔徑〕 淸濁分かる、すむ。

【澅】クワイ、エ。胡卦切 〔卦〕 沛水の一支流。○〔水經、註〕「臨・淄惟有二――水一西・北入レ沛」。

【澆】ケウ。堅堯切 〔蕭〕 ㊀そゝぐ、（沃）。○〔世說〕「胸・壘・塊故須二酒――一レ之」。「――俗敝」。㊁輕薄なり、かろし、うすし。○〔隋〕「風――」。
〔淳澆〕純一なると輕薄なると。○〔劉子〕「俗有二――一」。
〔歔澆〕吹きそゝぐこと。○〔張說〕「散似二珠・泉之――一」。

【澆】ラウ、レウ。力交切 〔肴〕 水の迴り流るゝ波。○〔郭璞〕「迅・澓增レ――」。

【澆】ゲウ。倪弔切 〔嘯〕 ガウ、ゴウ。魚到切 〔號〕 人の名。

【澇】ラウ、ロウ。魯刀切 〔豪〕 郎皓切 〔皓〕 ㊀水の名、又、灘の名。㊁大なる波、おほなみ。○〔木華〕「飛・――相磢」。

【澇】ラウ、ロウ。郎到切 號
㊀前條に同じ。
㊁ひたす、(淹)。

【潰】クワイ、胡對切 隊 エ。胡猥切 灰
㊀つひゆ。「—出」。
(い)旁より決す、さく。○〔漢〕「大水
(ろ)壞頽す、くづろ、つぶる。○〔荀〕「當レ之者—」。
(は)みだろ、(亂)。○〔詩〕「—-—同-遹」。
(に)逃げ散す、ちろ。○〔左〕「民逃二其上一曰レ—」。
(ほ)たゞろ、(爛)。○〔周〕「腫-瘍—-瘍金-瘍折-瘍」。
㊁つひえしむ、さく、つぶす、やぶろ、みだす、ちらす、たゞらす。○〔戰〕「足-下撃—而決二天-下一」。
㊂さぐ、(遂)。○〔詩〕「是用不レ—二于成一」。
㊃いかる、(怒)、又、善からざる貌にいふ字、あし。○〔詩〕「有レ洸有レ—」。
㊄水相交はり過ぐ、まじる。○〔宋玉〕「—淡-々而並入」。
㊅水勢相激する貌にいふ字、うちあふ。○〔郭璞〕「—-濩泧-瀄」。
(魚潰)うを亂れ散る。○〔術〕「鳥-散—-—」。
(沸潰)波を起こして隄のきるゝこと。○〔木華〕「—-—滃-洑」。
(驚潰)おどろきて逃げ散る。○〔後漢〕「衆遂—-—」。
(隕潰)やぶる。○〔魏〕「術以—-—」。
(破潰)やぶる。○〔魏〕「遂大—-—」。
(奔潰)盡きやぶる、又、つくしやぶる。○〔晉〕「大-敵—-—」。
(粉潰)細く散り亂る。○〔馬融〕「應レ聲—-—」。
(奔潰)逃げ散る、又、おひちらす。○〔宋〕「望レ風—-—」。
(洞潰)穴あきてきれ出づること。○〔宋〕「弩發中蹶—-—」。
(亂潰)みだる。○〔易林〕「宋人—-—」。
(禍潰)わざはひに遭ひてやぶる。○〔易林〕「雖レ遭二—-—、獨不レ遇レ災」。
(洪潰)大水のこと。○〔盧肇〕「—-—既洞、開二闔其虚一」。
(決潰)きれやぶる、又、きりさく。○〔歐陽修〕「—-—終當レ涸」。

【潰】コツ、ゴチ。胡骨切 月
さく、(決)。

【澈】テツ、デチ。直列切 屑
㊀きよし、すむ、(澄)。○〔關尹〕「論レ道者或曰二澄—一」。
㊁水盡く、つく。○〔易坤鑿度〕「地-道距二水—一」。

【潔】ヂョ、ニョ。尼據切 御
うろほす、うろほふ、(溼)。

【澉】カン、古覽切 感 コン。切 タン、吐濫切 勘 トン。切
㊀味無し、あぢなし。㊁味淡し、うすし。
(澹澉)洗滌す、あらふ。○〔枚乘〕「—-—手-足」。

【潟】舃に同じ。

【⿰氵款】クワン。苦緩切 旱
流るゝ貌にいふ字。

【澋】カウ、戸猛切 梗 キヤウ。呼營切 庚
水回り旋ろ貌にいふ字、めぐろ。

【⿰氵馮】ヒヨウ。皮冰切 蒸
水の聲にも又水勢相激する貌にもいふ字。

【澌】シ。相支切 支 斯義切 寘
つく、(盡)、ちろ、(散)。○〔王建〕「玉-階金-尾雪—-—」。
(離澌)はなれ散ること。○〔陶隱居眞誥〕「學長則法—-—」。
(微澌)僅かに落ち散ること。○〔曹松砌下泉詩〕「靜-韓吐二—-—一」。

【澌】セイ、サイ。先齊切 齊
嘶に同じ、しはがる、しやがる、又、いななく。

【澍】シユ、ジユ。常句切 遇
㊀そゝぐ、(注)。○〔王褒〕「聲礚-々而—レ淵」。
㊁澍潤して滋植す、うろほす、うろほふ。○〔司馬相如〕「羣-生—-濡」。
(嘉澍)よき時雨の萬物を沾すこと。○〔余靖〕「沛-然得二—-—一」。
(甘澍)前に同じ。○〔後漢〕「臣動レ兵、涉レ夏連獲二—-—一」。「—レ—」。
(時澍)時雨といふに同じ。○〔後漢〕「雨-露—-—、辯-應將レ至」。
(祈澍)時雨の降ることを神に請ひ求む。○〔隋〕「旱而
(霖澍)長雨の降ること。○〔舊唐〕「是歳自二四-月一—-—至二九-月一」。
(連澍)日をかさねて雨の降ること。○〔舊唐〕「郎雨果—-—」。
(豐澍)ゆたゝかに雨降りて萬物を沾すこと。○〔水經註〕「雨-澤—-—、則通入二文-水一」。

【⿰氵博】ハク。補各切 陌
水の貌にいふ字。

【澎】ハウ、ビヤウ。披庚切 庚
水の貌にも水の聲にもいふ字、又水波相撃つ聲にいふ字。○〔司馬相如〕「洶-湧—-湃」。

【澐】ウン、ヲン。王分切 文
江水の大波、おほなみ、又、おほなみ起ころ、なみたつ。○〔于邵〕「漲-濤湧—」。
(澐々)江水の波立つにいふ語。○〔獨孤及〕「大-江—-—、下絶二地-垠一」。

【澑】溜に同じ。

【澒】コウ、虎孔切 董 グ。切 カウ、戸講切 講 ゴウ。切
㊀水銀、みづかれ。○〔漢〕「臣能凝レ—成二白-銀一、飛二丹-砂一成二黃-金一」。
㊁未だ分別せざる貌にいふ字、くらし。○〔論衡〕「溟-涬濛—」。
㊂水深くして廣き貌にいふ字、ひろし、ふかし。○〔左思〕「—-溶沆-瀁」。
㊃相つらなる貌にいふ字、つゞく、つらなる。○〔杜甫〕「—洞不レ可レ掇」。
(厖澒)元氣の未だ分かれざる貌にいふ語。○〔後漢〕「踰二—-—一于宕-冥一兮」。
(黃澒)きいろなる水銀のこと。○〔淮〕「黃-埃五-百-歲生二—-—一」。
(水澒)水銀のこと。○〔列仙傳〕「能作二—-—一」。

【澒】コウ、グ。胡貢切 送
前條の㊀に同じ。

【澓】フク、ボク。房六切 職
水洄り流る、ながる。○〔郭璞〕「迅—增レ澆」。
(湧澓)水わきあがりめぐる。○〔鮑照〕「—-—之所二宕-滌一」。

【澔】浩に同じ。○〔司馬相如〕「采-色—-旰」。

【⿰氵桼】サク、シヤク。色責切 陌
小雨の零つる貌にいふ字、そぼふる。

【⿰氵顔】カン、ガン。魚旰切 翰

水の貌にいふ字。

【寖】シン。子鴆切［沁］
うろほふ、うるほす、（浸）ひたす、ひたる（漸）。

【滕】トウ、ドウ。徒能切［蒸］
水。

【澕】クワ、ゲ。胡戈切［麻］
水の深き貌にいふ字、ふかし。

【潨】ソウ、ス。先公切［東］
水の聲にいふ字。

【澗】カン、ケン。何山切［刪］
垠りなくして虛しき貌にいふ字、ひろし、むなし。○〔淮〕「廿二溟澗――之域ニ」。

【澯】寒に同じ。○〔呂氏春秋〕「凝―以形」。

【濎】バウ、ミヤウ。名郢切［徑］
――津は、河。

【㵪】イン。余針切［侵］
久雨、ながあめ。

【潫】ゼン、テン。而宣切［先］
志たがふ（從）。

【澗】井。于貴切［未］
みだるゝ貌にいふ字。○〔木華〕「――濆淪而滀―」。

【蘯】トウ、ヅ。覩動切［董］
物の水に墮つる聲にいふ字。

【潕】フ。防無切［虞］
水の名。

【澿】シン。式荏切［寢］
水の動く貌にいふ字。

【澞】グ、ゴ。遇俱切［虞］
陵と陵とに夾まれたる水、たに、たにがは。○〔爾〕「山夾レ水澗、陵夾レ水―」。

【澨】エイ。餘制切［霽］
水のうねり動く貌にいふ字。○〔宋玉〕「洪波淫々之澨―」。

【澟】リン、ロン。力錦切［寢］
さむし、すゞし（淒清）。

【澠】ショウ、ジョウ。食陵切［蒸］
臨淄縣に在る水、又、蜀にある水。

【澠】ビン、ミン。武盡切［軫］　ベン、メン。彌兗切［銑］
――池は、水の名、又、縣の名。

【澤】ソツ、ソチ。桑沒切［月］
志づむ（沒）。

【澡】サウ、ソウ。子皓切［皓］
㊀あらふ。
（い）洗滌す、すゝぐ。○〔東觀漢記〕「以レ手飲レ水―レ類」。「德」。
（ろ）修め潔くす。○〔禮〕「―レ身而浴レ德」。
㊁璪に同じ、一種の玉。

〔沐澡〕あらふこと。○〔李百藥〕「――期ニ終吉ニ」。
〔澡滌〕前に同じ。○〔法苑珠林〕「――爲ニ澄潔之原ニ」。

【澡】サウ、ソウ。倉刀切［豪］
沸かんさする貌にいふ字、わきかへる。

【澣】クワン。戶管切［旱］
㊀垢を濯ひ去る、おとす、あらふ、すゝぐ、特に足をつかひてあらふにいふ字。○〔詩〕「薄―我衣ニ」。
㊁十日間の稱、旬と同義、唐の時代に官吏に十日每に休沐を許しゝよりいふ。○〔康熙〕「俗上―中―下―爲ニ上旬、中旬、下旬ニ」。

〔澣濯〕すゝぎあらふこと。○〔禮〕「諸―」。
〔澣滌〕あらふ。○〔韓愈〕「側耳酸腸難ニ――ニ」。
〔澣滌〕みがきあらふ。○〔陶安〕「積雨爲ニ――ニ」。

【澣】カン。侯旰切［翰］
澣に同じ。

【澥】カイ、ゲ。胖買切［蟹］
斷えたる水。○〔司馬相如〕「浮ニ渤―ニ」。

【㵒】シウ、ジュ。士尤切［尤］
〔㵒濁〕小さき水。○〔張衡〕「摘ニ――ニ」。

　セウ。子小切［篠］
㊀腹中にある水氣。
㊁憂ふる貌にいふ字。○〔賈誼〕「繆然――然憂以湫」。

【澦】ヨ。羊洳切［御］
灩―は、水の名。

【湝】ケイ、カイ。研計切［霽］
松樹を燒きて取りたる汁、まつやに、ちやん。

【澧】レイ、ライ。盧啓切［薺］
㊀河南省にある水の名。○〔山海經〕「雉山――水出焉」。「――州ニ」。
㊁湖南省にある地名。○〔韻會〕「隋置ニ

【濊】ビ、ミ。武悲切［支］
湄に同じ。

【㶉】ビ、ミ。無非切［微］
…に同じ、こさめ、小雨。

【澨】ゼイ。時制切　エイ。以制切［霰］
增し築きたる水邊の土、つきぢ、つゐぢ、みぎは、きし。○〔楚辭〕「夕濟ニ兮西―ニ」。

【潄】レン。郞甸切［霰］
鐵を鍊る、ねる、きたふ。

【澮】コツ、クチ。苦骨切［月］
水の深き貌にいふ字、ふかし。○〔論衡〕「無ニ濟――而泉出ニ」。

【澩】カク、ガク。胡角切　サク、ソク。仕角切［覺］
　コク。呼酷切［沃］
時ありて涸るゝ泉。○〔爾〕「夏有レ水冬無レ水曰レ―」。

【澩】カウ、ゲウ。下巧切［巧］
水の聲にいふ字。○〔郭璞〕「瀨滞――濟」。

【澩】ハク、ホク。弼角切 覺
水激す、うつ。

【濄】カツ、カチ。何葛切 曷
水の貌にいふ字。

【澫】バン、マン。莫半切 翰
漫に同じ。〇〔石鼓文〕「——又鯊」。

【澬】シ。津私切 支
久雨のふる貌にいふ字。

【澬】シ、疾資切 寘
水の名。

【澭】ヨウ、ユ。於容切 冬
水の名。〇〔呂氏春秋〕「使三人先表二——水一」。

【澭】ヨウ、ユ。於用切 宋
灉に同じ。

【㵣】カツ、カチ。苦葛切 曷
㊀渴に同じ。㊁おそし、(遲)。〇〔國〕「今玩レ日——レ歲」。

【澮】クワイ、ヱ。古外切 泰
㊀汾水に入る水の名。〇〔水經、註〕「——水出二詳-高-山一」。㊁小さき流水、こみづ。〇〔郭璞〕「商二摧涓——一」。㊂溝に注ぎ入る水、みぞ。〇〔周〕「千夫有レ——」。
〔畎澮〕みぞのこと。〇〔書〕「濬二——一距レ川」。
〔溝澮〕前に同じ。〇〔孟〕「——皆盈」。

【澮】アイ、ヱ。烏外切 泰
深く廣し、ふかし、ひろし。

【澮】クワツ、クワチ。戶八切 黠
兩水合ふ、あふ、又、あふ處、みづあひ。

【澯】サン。七肝切 翰
㊀きよし、(淸)。㊁水の貌にいふ字。

【澀】サフ、セフ。矢甲切 洽
あふる、(溢)。

【滵】ビツ、ミチ。覓畢切 質
溢るゝ水の貌にいふ字。

【澰】レン。力冉切 琰
瀲に同じ。

【澰】レン。力驗切 豔
きよし、(淸)。

【澰】ラン、ロン。盧感切 感
㊀前條に同じ。㊁ひたる、ひたす、(漬)。

【澱】テン、デン。堂練切 霰
㊀泥滓、ごろ、をり。〇〔蟹譜〕「自伏二淤——不レ可レ得」。㊁よごむ。(い)止ごまり沈む。〇〔夢溪筆記〕「歲-々埋——」。(ろ)水止ごまりて波瀁ふ、たゝよふ。〇〔楊維楨〕「瑤-池春-暖波如レ——」。㊂よど、(淀)。〇〔宋〕「諸-河淺——」。㊃陂水、つゝみ。〇〔水經、註〕「西-南入二茂-都——一」。㊄澱、卽ち、馬藍、おほあゐ。〇〔月令廣義〕「採レ葛刈レ——」。
〔澱々〕なみのたゞよふ貌にいふ語。〇〔韓偓〕「山-光澱——」。

【澲】ゲフ、ゴフ。魚怯切 洽
水に横たへたる大阪、みづふせぎ。

【澳】イク、オク。乙六切 屋
曲がり入りたる水に近き處、みぎは、くま、隈厓。〇〔荀悅〕「若三亂之墜二於——一」。
〔港澳〕ふなどまりのみぎは、卽ち、みなと。〇〔宋〕「舞三——以容二舟楫一」。
〔隈澳〕みぎは。〇〔孟浩然〕「石-浩傍二——一」。

【澳】アウ、オウ。烏到切 號
ふかし、(深)。

【澴】クワン、ケン。戶關切 刪
ケン。瞏緣切 先
水濆き起こる、わく、ふく、又、水轉流す、めぐる、うづまく。〇〔郭璞〕「瀠——縈營」。

【澴】エン、ケン。於絹切 ケン。縈絹切 霰
翾縣切 先
聚まり流る、あつまる。

【澤】タク、チヤク。直格切 陌
㊀さは。(い)水のたゝへ鍾まりたる處。〇〔易〕「天-地定レ位、山——通レ氣」。(ろ)水ひたし草生ひたる處。〇〔公羊〕「大陷二于沛——之中一」。㊁うろほふ、又、うるほす。(い)乾燥ならず、しめる、しとる、又、乾燥ならざらしむ、しめす、ぬらす。〔風俗通〕「潤二——萬-物一」。〇(ろ)恩德を受く、又、恩德を施す。〇〔書〕「——二潤萬-民一」。㊂うろほひ。(い)しめり。〇〔易〕「——上二于天一」。(ろ)恩德、めぐみ。〇〔孟〕「施二——于民一」。(は)遺風、餘韻。〇〔孟〕「君-子之——五-世而斬」。㊃光華、つや。〇〔屈平〕「芳與レ——其雜-糅」。㊄色麗はし、つやあり。〇〔左〕「車甚——」。㊅飾修す、つやをつく。〇〔禮〕「——二劍-首一」。㊆洗濯す、あらふ、又、挼莎す、もむ。〇〔禮〕「共レ飯不レ——レ手」。㊇香よき膏油、あぶら。〇〔梁簡文帝〕「八-月香-油好二煎——一」。㊈衣の下に著る袴、したもゝひき、褻衣。〇〔詩〕「與レ子同レ——」。㊉弓を射る宮の稱。〇〔禮〕「必先習二射于——一」。
〔藪澤〕さは。〇〔禮〕「山-林——」。
〔膏澤〕うるほひ、又、あぶら。〇〔孟〕「——下二於民一」。
〔脂澤〕前に同じ、又、あぶらぎりてつやあること。〇〔列〕「膚-色——」。
〔婉澤〕つやあること。〇〔荀〕「悅-豫——」。
〔色澤〕いろつや。〇〔淮〕「三-日三-夜而——不レ變」。
〔仁澤〕めぐみ。〇〔晉〕「甘-露者——也」。
〔恩澤〕前に同じ。〇〔韓愈〕「臣蒙二被——一」。
〔德澤〕前に同じ。〇〔四子講德論〕「——洪-茂」。
〔皇澤〕天子の德澤。〇〔張衡〕「——宣-洽」。
〔淵澤〕深きさはのこと。〇〔禮〕「所三祀二四-海大-川名-源——井-泉一」。
〔美澤〕うつくしきつや、又、うるはし。〇〔蕭子範〕「驅二——之車一」。
〔潤澤〕うるほす、うるほふ、うるほひ。〇〔孟〕「若夫——之一、則在二君與一子矣」。
〔威澤〕威嚴と恩澤と。〇〔後漢〕「——日損」。
〔靈澤〕神妙なるうるほひ。〇〔張駿〕「旱-天降二——一」。

〔畢澤〕ひとりのめぐみのとにて天子のめぐみを稱するにいふ語。○〔曹植〕「沐二浴｜｜一」。
〔豐澤〕ゆたかなるめぐみ。○〔顏延年〕「｜｜振二沉泥一」。
〔渥澤〕てあつきうるほひ。○〔王僧孺〕「多逢二｜｜一」。
〔厚澤〕前に同じ。○〔虞世南〕「｜｜潤二涸枯一」。
〔潤澤〕つやをぬること。○〔唐〕「善自｜｜」。
〔嘉澤〕よきめぐみのこと。○〔李華〕「天降二｜｜一」。

【澤】セキ、シャク。施隻切［陌］
釋に同じ、とく。○〔詩〕「其耕｜｜」。

【澤】タク。達各切［藥］
鸐｜は、星の名。

【澤】エキ、ヤク。夷益切［陌］
醳に同じ。○〔禮〕「舊｜之酒」。

【澶】セン。市連切［先］
｜淵は、水の名、又、地の名。

【澶】テン。張連切［先］
水の靜かなる貌にいふ字。

【澶】タン、ダン。徒案切［翰］
㊀みだる、(漫)、ほしいまゝ、(縱)。○〔莊〕「｜漫爲レ樂」。
㊁さほし、(遠)。○〔司馬相如〕「案衍｜漫」。

【㵘】漫に同じ。

【[氵盝]】ロク。盧谷切［屋］
盝に同じ、こす。

【澸】タン、トン。都感切［感］
水の窪みたる所、くぼみ。

【澹】タン、ドン。杜覽切［感］
㊀風波に隨ふ貌にいふ字。○〔司馬相如〕「隨レ風｜淡」。
㊁恬靜、しづか、やすらか。○〔老〕「｜兮其若レ海」。
㊂平淡、たひらか、あはし。○〔韓愈〕「往々造二平｜一」。
㊃うごく、うごかす、(動)。○〔漢〕「震二｜心一」。
〔閑澹〕しづかなること。○〔魏〕「｜｜寡欲」。
〔恬澹〕前に同じ。○〔唐〕「性｜｜不レ喜爲二細密一」。
〔淸澹〕こゝろきよく靜かなること。○〔列仙傳〕「倩頗｜｜」。
〔澄澹〕前に同じ。○〔謝頌〕「｜｜靜默」。
〔渟澹〕前に同じ。○〔宋〕「｜｜好レ古」。
〔沈澹〕こゝろおちつきありて靜かなること。○〔唐〕「性｜｜」。
〔澹澹〕水の貌にいふ語。○〔宋玉〕「水｜｜而盤紆兮」。

【澹】タン、ドン。徒濫切［勘］
㊀水の動搖する貌にいふ字。○〔宋玉〕「水｜｜而盤紆」。
㊁やすらか、(安)。○〔漢〕「｜容與獻二壽觴一」。

【澹】タン、ドン。徒甘切［覃］
㊀水の貌にいふ字。㊁｜臺は、姓。
㊂｜林は、胡族の名。○〔史〕「破二東胡一滅二｜林一」。

【澹】セン、ゼン。時豔切［豔］
贍に同じ、たる、たす。○〔漢〕「猶不レ足三以｜二其欲一」。

【澺】ヨク、イキ。乙劃切［職］
水の名。○〔水經註〕「汝水東南左會二｜水一」。

【瀢】スヰ。思累切［寘］
なめらか、(滑)。

【[氵賊]】サイ。昨代切［隊］ ソク、ゾク。昨則切［職］
はかる、(測)。

【澻】スヰ。徐醉切［寘］
田の閒の小さき溝、こみぞ。

【[氵葛]】カツ、カチ。古達切［曷］
水の深くして廣き貌にいふ字、又、波の貌にいふ字。○〔木華〕「[illegible]｜浩汗」。
〔[氵葛]々〕水のふかき貌にいふ語。○〔劉威〕「[illegible]々｜｜」。

【澫】エイ。乙例切［霽］ アイ。於蓋切［泰］
㊀きよし、(淸)。㊁おほふ、(蓋)。

【澼】ヘキ、ヒヤク。普擊切 ケキ、キヤク。詰歷切［錫］
あらふ、(漂)。○〔莊〕「世々以レ洴二｜絖一爲レ業」。

【[辟木]】ヘキ、ヒヤク。匹辟切［陌］
腸の閒の水。

【[辟水]】ヒ。匹賜切［寘］
水中の洲、しま、こじま。

【[氵辠]】サイ、セ。取猥切［賄］
㊀あたらし、(新)。㊁あたらしき水。

【[氵罪]】サイ、セ。七悔切［賄］
㊀前條に同じ。㊁きよし、(淸)。

【澽】キヨ、コ。居御切［御］ 求於切［魚］
かわかす、かわく、(乾)。

【澽】キヨ、コ。白許切［語］
さらす。

【澾】タツ、タチ。他達切［曷］
なめらか、すべる、(滑)。○〔韓愈〕「磴蘚｜拳跼」。

【[氵葉]】エイ。餘制切［霽］
烝したる葱、むしねぎ。

【[氵羨]】セン、ゼン。徐連切［先］
口の液、よだれ、つばき。

【[氵羨]】エン。延面切［霰］
水の溢るゝ貌にいふ字。

【濂】レン、ロン。勒兼切［鹽］
㊀溓に同じ。㊁うすし、(薄)。

【濂】セン。燮玷切［琰］
輕薄の貌にいふ字、かろし、うすし。

【濃】ヂヨウ、ドウ。女容切 ドウ、ノウ。奴冬切［冬］
㊀淡の反、こまやか、あつし、おほし、こし。○〔李邕〕「條煙｜而曳レ地」。
㊁露の多き貌にいふ字、しげし。○〔詩〕「零露｜｜」。

【濄】クワ。古禾切 ワ。烏禾切［歌］
水回る、めぐる、うづまく。

【濅】シン。子鴆切［沁］
㊀大いなる豬水、みづたまり。○〔漢〕「｜曰二五湖一」。
㊁浸に同じ、ひたす、ひたる、しむ。
㊂やうやく、(漸)、ますます、(益)。○〔漢〕「｜以成レ俗」。

【濅】シン。子朕切 寑
——丘は、縣の名。

【濆】フン、ボン。符分切 文
一 水厓、きし、ほとり。○〔詩〕「鋪二敦淮——一」。
二 大水の溢れてなれる小水。○〔水經、註〕「汝-水逕二奇-雒城西-北一——水出」。
〔汸濆〕みぎは。○〔陳子昂〕「栖-泊巽二——一」。
〔清濆〕水きよきみぎは。○〔蘇軾〕「游-魚在二——一」。

【濆】ホン。普魂切 元
水を噴く、ふく、はく。

【濆】フン、ボン。扶刎切 吻
わく（涌）。○〔公羊〕「——泉者何直-泉也、直-泉者何涌-泉也」。

【激】ケキ、キヤク。吉歷切 錫 詑逆切 陌
一 なゝめに水勢を礙ふ、礙へて水勢を怒らす、さゝふ、さへぎる。○〔漢〕「爲二石-堤一——使二東注一」。
二 衝突す、つきあたる、つく、うつ、つきあたりて怒る、おこる。○〔淮〕「水——則波」。
三 注流す、そゝぐ ○〔陸機〕「智-伯灌——之害」。
四 急疾なり、強烈なり、はげし、はやし、たけし。○〔晉〕「風-力迅——」。
五 感じて奮起す、はげむ、又、感じて奮起せしむ、はげます。○〔史〕「不二困-尼一惡能——乎」。
六 發揚す、あぐ、あがる ○〔後漢〕「固之序レ事不二——詭一」。
七 言論の直きに過ぐること。○〔後漢〕「言レ事者必多二——切一」。
八 ことさらに世俗にたがふこと。○〔後漢〕「達レ時絕レ爲二——詭之行一」。
九 聲清らかなること。○〔楚辭〕「發二——楚一些」。
十 色明かなること。○〔莊〕「脣如二——丹一」。
十一 水をさゝふる所、水のつきあたる所、ゐせき、みづあて。○〔水經、註〕「沔-水北-岸數-里有二大-石一、名二五-女——一」。
〔電激〕いなびかりの如くはげしくつきくること。○〔漢〕「風-颺——」。
〔霆激〕前に同じ。○〔張懷瓘書斷序〕「雷怒——」。
〔感激〕心の事にふれてうごくこと、又、他をして心うごかしむ。○〔隋〕「於是——、閉レ戸讀レ書」。
〔詭激〕常にはづれたること。○〔南〕「文-辭——」。
〔矯激〕前に同じ。○〔國史補〕「詩-章則學二——于孟郊一」。
〔切激〕直にすぐること。○〔後漢〕「語甚——」。
〔憤激〕事にふれていきどほること。○〔後漢〕「——思レ奮」。
〔奔激〕はげしくはやし。○〔魏〕「洪-波——」。
〔偏激〕性質かたよりてはげしきこと。○〔南〕「延-之性既——」。
〔奮激〕ふるひたつ、又、ふるひたゝしむ。○〔北〕「莫レ不二——競赴二敵-場一」。
〔悲激〕かなしむこと、又聲のかなしげにはりあがること。○〔異苑〕「聲-響——」。
〔哀激〕前に同じ。○〔應璩〕「義渠——」。
〔淒激〕前に同じ。○鄭薫移顏魯公詩記「詞-韻——」。
〔噴激〕水などのふきあがりなみたつこと。○〔終南十志〕「飛-流——」。
〔蹻激〕つよくはげしきこと。○〔宣和書譜〕「筆-力——」。
〔衝激〕つきあふこと。○〔庾信〕「波-瀾——」。
〔湍激〕水勢のはやく波たつこと。○〔蘇軾〕「——不レ受レ審」。
〔觸激〕水などのものにふれあたること。○〔柳宗元〕「——之音」。

【激】ケウ。古弔切 嘯
湍く流るゝ貌にいふ字、又、風の聲にいふ字。○〔韓愈〕「水-聲——、風吹レ衣」。

【激】ケウ。堅堯切 蕭
徼に同じ。

【濁】タク、ドク。直角切 覺
一 にごる、（にごらしむ、にごす）。
（い）水汚る、すまず。○〔詩〕「涇以レ渭——」。
（ろ）鮮明ならず。○〔山海經〕「——澤而有レ光」。
（は）慁亂す、みだる。○〔戰〕「書-策稠——」。
二 汗穢、けがれ、よごれ、にごり。○〔白虎通〕「水者受二垢——一」。
〔清濁〕きよきときよからざると。○〔左〕「——大小」。
〔渾濁〕にごる。○〔老〕「—兮其若レ—」。
〔溷濁〕前に同じ。○〔人物志〕「失在二——一」。
〔穢濁〕よごれにごる。○〔蜀〕「沙二汰——一」。
〔紛濁〕世俗などのみだれにごること。○〔王粲〕「遭二——一而遷逝兮」。
〔貪濁〕慾深くして正しからざること。○〔世說〕「——狼-藉」。
〔重濁〕おもくして清からざること。○〔淮〕「——者凝-滯而爲レ地」。
〔凝濁〕かたまりにごること。○〔雲笈七籤〕「——爲レ地」。

【濇】シフ。所立切 緝
シヨク、シキ。殺側切 職
色澤よからざること。○〔列〕「澀——肌-膚」。

【漝】ヂフ、ニフ。昵立切 緝
水に文ある貌にいふ字、一說に、沸く聲にいふ字。○〔木華〕「瀕-濘濼——」。

【濉】睢に同じ。

【濈】シフ。阻立切 緝
一 やはらぐ（和）。○〔詩〕「其角——」。
二 水行き出づ、いづ、又、いづる水。○〔張衡〕「流レ湍投レ——」。
三 疾し、はやし、すみやか。○〔曹植〕「——然晁沒」。

【濈】サフ、セフ。實洽切 洽
湍く流る、又、はやせ。

【湯】タウ、ダウ。待郎切 陽
水の名。

【濊】クワイ、ヱ。呼會切 泰
水の多き貌にいふ字。

【濊】ワイ、ヱ。烏外切 泰
一 深くして廣し、ふかし、ひろし。○〔漢〕「澤汪——、輯二萬-國一」。
二 穢に通じ用ふ。○〔漢〕「盪二滌濁——一」。
〔汪濊〕深くひろき貌にいふ語。○〔司馬相如〕「湛-恩——」。
〔汙濊〕けがれのこと。○〔馬融〕「溉-盥——一」。

【濊】クワツ、クワチ。呼括切 曷
流を礙ふ、さゝふ、せく、又、罟の水に入る聲にいふ字。○〔詩〕「施レ罟——」。

【濋】シヨ、ソ。創楚切 語 ソ。創祖切 暮
大水の分れ出でてなりたる小水。○〔爾〕「濟爲レ——」。

【濍】ソウ、ス。先公切 東
水の聲にいふ字。

【涾】タフ、トフ。他合切 合
一 沓に通じ用ふ。

㊁賢愚の辨ちなし、くらし、又、一說に、くろし、(黑)。○〔晉〕「任-逵放-縱、州-里稱レ曼爲ニ一伯ニ」。

【濎】テイ、チヤウ。都挺切 迥　他定切 徑　水の貌にいふ字、又、小さき水の貌にいふ字。○〔揚雄〕「梁ニ弱-水之ー-濴ニ」。

【⿰氵𧶠】漬の本字。○〔揚雄〕「瀧-涿謂ニ之霂-ーニ」。

【濋】ショ、ソ。之暑切 語　㊀みぎは、(沚)。㊁さへぎる、(遮)。

【湗】フウ、ホ。芳送切 送　ごろ、(泥)。

【⿰氵裏】リ。力几切 紙　──濂は、驛の名。

十四畫

【⿰氵盈】カウ、ゲウ。下巧切 巧　まじろ、まじふ、(混)。

【濔】デイ、ナイ。奴禮切 薺　ビ、ミ。母婢切 紙　㊀瀰に同じ、水滿つ、みつ。㊁おほし、(衆)。○〔詩〕「垂レ轡──」。㊂相連らなりて漸く平かなる貌にいふ字。○〔鮑照〕「──ニ迤平-原ニ」。

【⿰氵署】ショ、ゾ。常預切 御　㊀みぞ、(溝)。㊁みなぎる、(漲)。○〔水經、註〕「ー方數-里」。

【⿰氵幕】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫　水の淺き貌にいふ字、あさし。○〔水經、註〕「──注而已」。

【渢】フウ、ブ、符風切 東　水の聲にいふ字。

【濕】タフ、トフ。他合切 合　武陽に在る水の名。

【濕】シフ。失入切 緝　㊀溼に同じ、ぬる、しめる、うるほふ、しめす、ぬらす、うるほす。○〔禮〕「寒-煖燥-──」。㊁牛物を同むに耳を動かす貌にいふ字。○〔詩〕「其耳──」。

〔潤濕〕ぬる、ぬらす。○〔詩、箋〕「又──之ニ」。
〔沾濕〕前に同じ。○〔書、疏〕「漸-是──」。
〔濡濕〕前に同じ。○〔神仙傳〕「出レ身不ニ──ニ」。
〔卑濕〕地の下くしめりあること。○〔後漢〕「俗與ニ月-氏ニ同而──暑-熱」。
〔下濕〕前に同じ。○〔漢〕「──病レ痹」。
〔平濕〕平地にしてしめりけあること。○〔周、疏〕「──曰レ濕」。
〔雨濕〕あめ降りしめる。○〔魏〕「無ニ──之虞ニ」。
〔泥濕〕塗のぬかりしめること。○〔古今注〕「乾-將不レ畏ニ──ニ也」。
〔蒸濕〕むし暑くしてしめりけを含む。○〔南方草木狀〕「可レ禦ニ──之氣ニ」。
〔愁濕〕憂ふること。○〔神經〕「樹密蔭──」。

【濕】ガフ、ゴフ。鄂合切 合　──陰は、漢の侯國の名。

【濘】デイ、ニヤウ。乃定切 徑　㊀泥土にて步行に艱む、ぬかる、ぬかる所、ぬかりみ。○〔左〕「晉戎-馬還レ──而止」。㊁きよし、(淸)。㊂小さき水、こみづ、みぞ。○〔張協〕「何異ニ促-鱗之游ニ汀──ニ」。

〔濘濘〕ぬかる、ぬかりみ。○〔抱朴〕「捐ニ懸-黎于──ニ」。
〔泥濘〕前に同じ。○〔抱朴〕「夜光起ニ乎──ニ」。
〔淖濘〕前に同じ。○〔樹穀〕「長-林方──」。
〔深濘〕ふかくぬかる。○〔曾鞏〕「顧値ニ──阻ニ」。
〔凍濘〕こほりぬかる。○〔何中〕「──漸深綫ニ雙-戸ニ」。

【濘】デイ、ニヤウ。囊丁切 靑　小さき水、こみづ。

【濘】デイ、ナイ。乃計切 霽　ひたす、(涵)。

【濴】エイ、ヤウ。烏迴切 迥　ケイ、キヤウ。支扃切 靑　エイ、ヤウ。于平切 庚　㊀小さき水の貌にいふ字。○〔揚雄〕「梁ニ弱-水之濎──ニ」。㊁水の回旋する貌にいふ字、めぐる。○〔杜甫〕「洪-波左──」。

【⿰氵冡】濛に同じ。

【濛】ボウ、モ。莫紅切 東　㊀微雨、こさめ。○〔詩〕「零-雨其──」。㊁こさめ霧などの貌にいふ字。○〔方岳〕「新-月隔レ溪煙-霧──」。㊂物事の分明ならざる貌にいふ字、くらし。○〔春秋命曆序〕「──鴻萠レ兆」。

〔鴻濛〕元氣の未だ分かれざる貌にいふ語。○〔淮〕「東開ニ──之先ニ」。
〔空濛〕こさめの降る貌にいふ語。○〔張衡〕「朝-雨──如ニ薄-霧ニ」。
〔微濛〕かすかにして見わけのつかざること。○〔古辭〕「白-日漸──」。
〔冥濛〕くらくして確と見わけのつかざること。○〔沈約〕「下-睇亦──」。
〔濛々〕こさめの降る貌にいふ語。○〔王昌齡〕「玉-淸壇-上雨──」。
〔鴻濛〕元氣のこと。○〔楚辭〕「貫ニ──ニ以東-竭」。

【濛】ボウ、モ。莫孔切 董　大いなる水、又、一說に、小さき溝。

【濜】シン、ジン。慈忍切 軫　──湞は、水流急なり、はやし、さし、一說に、水波の高低に相連なる貌にいふ語。○〔郭璞〕「㴸-減──湞」。

【濜】シン。將鄰切 眞　氣のあつまり滴ること、したゝる。

【濝】キ、ギ。渠之切 支　水の名。○〔山海經〕「沮-洳之山──水出」。

【⿰氵援】クワン。火管切 旱　水を弄ぶ、もてあそぶ。

【⿰氵尉】ヘウ。匹沼切 篠　水の貌にいふ字。

【濞】ヒ、ビ。匹備切 寘　ヘイ、ハイ。匹計切 霽　㊀水暴かに至る聲にいふ字。○〔左思〕「──焉洶-々」。㊁水の聲にいふ字。○〔司馬相如〕「滂-──渤-潏」。

〔彭濞〕盛なり積む貌にいふ語、つもる、むすぼる。○〔淮〕「譬若ニ周-雲之蘢-蓯遼-巢──而爲ニ雨」。
〔谿濞〕深遠の貌にいふ語、ふかし、かすか。○〔王延壽〕「屑-鬩-㵾以──」。
〔濞濞〕水の聲をなすにいふ語。○〔晉〕「生-女墮レ地、──有-聲」。
〔滂濞〕水の聲をなしてにはかにひたし至る貌にいふ語。○〔張景陽〕「洪-瀆──」。

〔滄滆〕水の疾く流れ至る聲にいふ語。○〔周光鎬〕「灙-滆一-一」。
〔滃滆〕水の寄せ還つ聲にいふ語。○〔汪克寬〕「鷺-湍噂-滃而一-一」。
〔溼滆〕水の聲をなして湧き至るにいふ語。○〔李夢陽〕「濄一-一而接-遝」。

【濟】セイ、子禮 薺 セイ、前西 切 ザイ。切 齊
❶山東省にある水、卽ち、沇水の下流。○〔書〕「導二沇-水一東流爲レ一」。
❷莊敬なる貌にいふ字、おごそか、うやうやし。○〔禮〕「朝-廷一-一翔-々」。
❸威儀の多き貌にいふ字。○〔詩〕「一-一蹌-々」。
❹多くして盛んなる貌にいふ字。○〔書〕「一-一有-衆」。

【濟】セイ。サイ、子計切 霽
❶わたる、わたす、(渡)。○〔史〕「一レ河而西」。「深-涉二」。
❷渡處、わたり、わたし。○〔詩〕「一有二深-涉一」。
❸とゞむ、とゞまる、(止)。○〔詩〕「不レ能二旋一一」。「鮮レ一」。
❹なる、なす、(成)。○〔左〕「以レ人從レ欲鮮レ一」。
❺利用す、もちふ。○〔易〕「臼-杵之利萬-民以一」。
❻ます、(益)。○〔左〕「盍レ請二一レ師于王一」。
❼たすく。
(い)賙救す、にぎはす、すくふ。○〔易〕「知周二乎萬-物一、而道一二天-下一」。
(ろ)助けて成就せしむ。○〔易〕「天-道下一而光明」。
❽通ず。○〔淮〕「强一二天-下一」。
❾うれふ、(憂)。○〔揚雄〕「一憂也、陳、楚或曰レ溼、或曰レ一」。
❿雨止む、はる。○〔爾〕「一謂二之霽一」。
⓫おす、(擠)。○〔國〕「二一-帝用レ師以相一」。

〔旣濟〕易の卦の名。○〔易〕「水在二火上一一-一、君-子以思レ患而豫防レ之」。
〔未濟〕易の卦の名。○〔易〕「一-一亨」。
〔康濟〕安堵せしめたすく。○〔書〕「一二一小-民一」。
〔寧濟〕前に同じ。○〔魏〕「一二一六-合一」。
〔極濟〕たすく。○〔宋〕「力一二一之一」。
〔兼濟〕すべてを倂せ救ふ。○〔易、註〕「一二一萬-物一、其業廣也」。
「功一」。
〔弘濟〕廣く賑し救ふ。○〔穀梁〕「實有二一-一之歎一」。
〔成濟〕成就す。○〔魏〕「韓可二一-一一」。
〔關濟〕啓發成就せしむること。○〔晉〕「一二一大-才-彥一-一」。
〔開濟〕頑ならず滯らざること、又、前に同じ。○〔魏〕
〔全濟〕少しも缺損する所なく救助す。○〔魏〕「多レ所二一-一一」。
「夏一」。
〔匡濟〕惡しきを正し救ふ。○〔魏〕「必能一二一華-
〔博濟〕廣く賑し救ふ。○〔魏〕「咸以一-一」。
〔廣濟〕前に同じ。○〔唐太宗〕「洪-恩一-一」。
〔光濟〕耀き成就す。○〔魏〕「大-猷一-一」。
〔亮濟〕明かにして滯らず。○〔魏〕「爲レ人一-一」。
〔振濟〕救ひ惠む。○〔魏〕「一二一貧-乏一」。
〔贍濟〕前に同じ。○〔唐〕「分レ資一-一」。
〔養濟〕惠み賑す。○〔蜀〕「一二一百-姓一」。
〔周濟〕前に同じ。○〔蜀、註〕「一二一世-務一」。
〔救濟〕前に同じ。○〔吳〕「一二一黎-庶一」。
〔給濟〕あてがひめぐむ。○〔吳〕「傾レ家一-一」。
〔輔濟〕たすく。○〔晉〕「一二一大-業一」。
〔勳濟〕功業成就す。○〔晉〕「一-一甚大」。
〔經濟〕財貨を通じて萬民の利用をはかること。○〔宋〕「尤以二道-德一-一一爲二己任一」。
〔渡濟〕渡船場をわたる、又、わたす、わたる、わたし。○〔易林〕「乘レ船一レ一」。
〔巨濟〕大いなる渡し場。○〔鮑照〕「長河一-一、異-源同-淸」。
〔掃濟〕除き滅ぼすこと。○〔傅亮〕「百-年榛-穢、一-朝一-一」。

【濞】サツ、先活 曷 サフ、衫洽 切 サチ。切 セフ。切
洽 セン。須絹 霰 切
のむ、(飮)、すゝる、(歃)、すふ、(吮)。

【濞】サン、セン。所晏切 諫
馬を洗ふ。

【濞】セイ、セ。此芮切 霽
のむ、(飮)、なむ、(嘗)。

【濠】カウ、ゴウ。胡刀切 豪
壕に同じ、ほり、城下の池。○〔宋〕「縱レ之涉レ一」。「一一」。
〔城濠〕城下のほり。○〔吳萊〕「寒-山蒼-翠類二一-一
〔空濠〕水のたゝへてあらざる城下の池。○〔許渾〕「鴈迷二寒-雨下二一-一一」。
〔外濠〕城下の外がはに設けたる池。○〔五〕「乃出レ兵收二一-一一」。「一-一一」。
〔故濠〕ふるき城の下の池。○〔柳宗元〕「阿-城速二

【濞】ブ、ム。無斧切 麌
水の名。

【濡】ジュ、ニュ。人朱切 虞
❶うるほふ。
(い)ひたす、ぬめらす、ぬらす。○〔詩〕「濟盈不レ一レ軌」。「黔-黎一」。
(ろ)恩德を施す。○〔柳宗元〕「懷二一
❷うるほふ。
(い)つかる、ひたる、ぬめる、ぬる。○〔禮〕「一-肉齒-決」。「德一」。○
(ろ)恩德を被る。○〔元結〕「涵二一天-
❸うるほひ、ぬめり、めぐみ。○〔管〕「更有レ所レ仰レ一」。
❹溫和、おだやか、やはらか。○〔晉〕「我心虛-靜我志需-一」。
❺含忍、たへしのぶこと。○〔史〕「無二一-忍之心一」。「轡如レ一」。
❻鮮かにしてつやあること。○〔詩〕「六-
❼とゞむ、とゞこほる、(滯)。○〔孟〕「是何一-滯也」。
❽ゆばり、(溺)。○〔史〕「不二亟治一病必入二一-胥一」。「類一」。
〔滋濡〕うるほす、うるほふ。○〔水經、註〕「一二一萬-類一」。
〔澍濡〕前に同じ。○〔史〕「羣-生一-一」。「一」
〔澤濡〕前に同じ、又、めぐみ、つや。○〔唐〕「恩-洽一-一」。○
〔漂濡〕水害に遇ひてたゞよひうるほさるゝこと。○〔管〕「鄕-人雖レ遇二一-一一、而莫二之怨一也」。
〔洽濡〕あまねくうるほふ。○〔吳越春秋〕「莫レ不二一-一一」。
〔柔濡〕剛强ならざること。○〔劉禹錫〕「別二去剛正一納二之一-一一」。「一-一一」。
〔染濡〕色のそまること。○〔蘇軾〕「惟將二翰墨一留二

【濡】ジ、ニ。人之切 支
❶易水の支流。
❷胹に通じ用ふ、にる　○〔禮〕「一レ豚」。「一レ雞」。

【濡】ジョ、ニョ。人余切 魚
やすし、(安)。○〔莊〕「有二一-需者一」。

【濡】ジウ、ニュ。而由切 尤
柔忍、やはらか、やはし。

【濡】ゼン、ナン。乳兗切 銑
耎に同じ。

【濡】ジュ、ニュ。儒遇切 遇
うろほふ、うるほす、(一)。

【濡】ダン、ナン。奴亂切 翰
沐浴したる餘潘、あまりのしろみづ。

【濡】ダ、ナ。奴臥切 箇
水の貌にいふ字。

【濢】スヰ。遵誄 紙 切 七醉 寘 切
❶小溼す、うるほふ、うるほす。
❷汁漬す、ひたす、ひたる。

【濼】アツ、アチ。烏活切 曷
水を取る、くむ。

【濤】タウ、徒刀切 豪 ドウ。チウ、陳留切 尤 チユ。
㊀大波、おほなみ、なみ。○〔郭璞〕「乃鼓-怒而作レ—」。
㊁なみ起こる、なみたつ。○〔杜甫〕「春-江已風—」。
〔波濤〕大波のこと。○〔高適〕「忠-信渉二——一」。
〔翠濤〕青き色なせる大波。○〔孔武仲〕「昂レ頭突二出——中一」。
〔洪濤〕前に同じ。○〔杜甫〕「——鬱-飛-翻」。
〔驚濤〕激しくうちあがる大波、又、水うごきなみたつこと。○〔夏侯湛〕「——兮拂レ石」。「際」。
〔洪濤〕大波のこと。○〔海賦〕「——瀾-汗、萬-里無レ
〔瀾濤〕波のこと。○〔孫綽〕「游-鱗戲二——一」。
〔玄濤〕黑き色をなせる大波。○〔郭璞〕「黑-水鼓二
——一」。「—一」。
〔奔濤〕早き流れの大波。○〔虞茂〕「連-島類二——
〔素濤〕白き大波。○〔范仲淹〕「碧-玉-波-中——
起」。「開」。
〔銀濤〕前に同じ。○〔楊萬里〕「萬-頃——半-空
〔環濤〕卷き廻る大波。○〔水經、註〕「——毅-轉」。
〔濺濤〕澄る丶大波のこと。○〔陳子昂〕「絡-繹——
飛」。「沃二我躬一」。
〔翻濤〕ひるがへりあがる大波。○〔王維〕「——
〔驅濤〕早く走り流る丶大波。○〔柳宗元〕「江-漢之
水、疾-風——」。「尙盛」。
〔憤濤〕激しく立ちあがる大波。○〔韓愈〕「——氣
〔怒濤〕前に同じ。○〔孟貫〕「江-上秋-風捲二——一」。
〔傾濤〕翻る大波。○〔孟郊〕「——敗二藏-蓋一」。
〔狂濤〕前に同じ。○〔僧齋己〕「——頓-浪高-漫-
々」。「—一」。
〔疊濤〕重なりうつ大波。○〔曹松〕「臨レ湘見二——
〔層濤〕前に同じ。○〔謝宗司海盤詩〕「——擁レ
沫綴二蝦行一」。「聽二——一」。
〔松濤〕松かぜのおと。○〔歐陽原功〕「下レ簾危-坐

【濤】シウ、ジユ。是酉切 有
鄯に同じ、蜀にある水の名。

【濤】タウ、ドウ。大到切 號
燾に同じ、溥く覆ひ照らす、てらす。

【濥】イン。羊忍切 軫 羊晉切 震
地中を行く水脈、一説に、水門。

【濦】イン、オン。於謹切 吻 於斤切 文 於靳切 問
水の聲にいふ字。○〔司馬相如〕「汨——漂-疾」。

【濧】タイ、デ。徒對切 隊
㊀ひたす、ひたる、(漬)、又、うるほふ、うるほす、(濡)。○〔張頁器〕「洪-漣——滜」。
㊁動搖す、うごく、うごかす。○〔杜甫〕「倒-影垂-濟——」。

【漻】レウ。落蕭切 蕭
水清し、きよし、すむ。

【氵臧】サウ、ザウ。慈郎切 陽
志づむ、(沒)。

【濨】シ、ジ。疾之切 支
潤水の名。

【氵聚】シウ、ジユ。鉏救切 宥
水流るゝを疾し、はやし、又、はやき水流れ、はやせ。

【氵聚】ショ、ゾ。慈與切 語
水の聲にいふ字。

【濩】クワク、グワク。胡郭切 藥
㊀雨の流れて志たゝり下る貌にいふ字。
㊁にる、(煮)。○〔詩〕「是刈是—」。
㊂水勢の相激する貌にいふ字。○〔郭璞〕「潰——淢-瀑」。「——之中」。
㊃おく邃き貌にいふ字。○〔揚雄〕「蠖-
㊄采色きらめきて定まらぬ貌にいふ字。○〔王延壽〕「濯——燐-亂」。
〔渾濩〕水勢の相激する貌にいふ語。○〔張華〕「溟-海——涌二其後一」。

【濩】ワク。屋郭切 藥 カク、ガク。胡陌切 陌
——澤は、縣の名。

【濩】コ、グ。胡故切 遇
㊀流散す、志く、ちる、ちらす。○〔張衡〕「聲-教布——」。
㊁救護す、すくふ、まもる。○〔周、註〕「——郎救-護也、救-護使二天-下得一レ所也」。
〔普濩〕流れ布く。○〔崔融〕「德-敎——」。

【瀞】俗の靜の字。

【濫】ラン、ロン。盧瞰切 勘
㊀延漫す、はびこる。○〔孟〕「水逆-行氾二——于中國一」。
㊁うかぶ、(泛)。○〔家語〕「其源可二以—一レ觴」。
㊂あふる、(溢)。○〔水經、註〕「陽-焊不レ耗、陰-霖不レ—」。
㊃ひたす、(漬)。○〔國〕「宣-公—二于泗-淵一」。
㊄むさぼる、(貪)。○〔呂氏春秋〕「虞-公—二於寶與一レ馬」。
㊅みだる。
(い)度に過ぎたがふ。○〔詩〕「不レ僭不レ—」。
(ろ)盗竊す、ぬすむ。○〔禮〕「君-子以爲レ—」。
(は)非曲を行ふ。○〔論〕「小-人窮斯—」。
(に)實を失す。○〔左〕「民聽—也」。
㊆浮華の辭、うきたることば。○〔陸機〕「除レ煩而去レ—」。
㊇音の速疾にして淫佚なること、みだりがましきね。○〔禮〕「鄭-音好レ—淫レ志」。
〔氾濫〕水の漫延すること。○〔揚雄〕「正——以弘-愉兮」。
〔枉濫〕刑罰をみだりにすること。○〔晉〕「——者、亂-敗之原也」。
〔僭濫〕分をこえ禮にそむく。○〔周、疏〕「諸-侯——無-道」。
〔越濫〕前に同じ。○〔禮、疏〕「次-序不レ有二——一也」。
〔淫濫〕常の度に越えてみだらなること。○〔後漢〕「刑不二——一」。
〔放濫〕恣にして常の度に從はぬ。○〔後漢〕「宥-家——」。
〔怨濫〕罪を失なひて恨に思ふこと。○〔後漢〕「獄無二——一矣」。
〔暴濫〕てあらくしてみだりなること。○〔後漢〕「政-刑——」。
〔酷濫〕苛くして道を失なふこと。○〔後漢〕「懲二此——一」。
〔苛濫〕前に同じ ○〔文心雕龍〕「——不レ作矣」。
〔邪濫〕道にそむく。○〔後漢〕「其爲二——一、胡可レ勝言一」。
〔冒濫〕前に同じ。○〔宋〕「爵-賞——者、聽二自陳一除二其罪一」。
〔寃濫〕罪なき者を罪におとすこと。○〔晉〕「刑-獄得レ無二——一」。「無二——一矣」。
〔冗濫〕むだにして道にそむく。○〔宋〕「任レ子之法
〔倖濫〕僥倖して常法によらぬ。○〔宋〕「裁二削——一」。「—」。
〔謬濫〕誤りて實を失なふ。○〔冥通記〕「何以——
〔舛濫〕前に同じ。○〔文心雕龍〕「摘二史-班之——一」。「—愈甚」。
〔詭濫〕いつはりて實を失なふ。○〔文心雕龍〕「——一」。
〔姦濫〕惡しくして道を失なへること。○〔通典〕「大革二——一」。
〔橫濫〕水のはびこり流るゝこと。○〔孔武仲〕「長-川——聲-浩-々」。

【濫】カン、ゴン。胡暫切 勘
㊀形は甄の如くにして大いなる口ある陶器、冰を盛るに用ふる者。○〔呂

氏春秋」「鍾、鼎、壺、ー」。
㊁浴器、たらひ。○〔莊〕「同レー而浴」。

【濫】タン、ドン。杜覽切 感
㊀擥聚す、こりあつむ。○〔張衡〕「澤-虞是ー」。
㊁竹の律の音。○〔禮〕「竹-聲ー」。

【濫】ラン、ロン。魯敢切 感
漬けて乾したる果物。○〔禮〕「醷ー」。

【濫】カン、ゲン。胡黯切 豏
底の正面より涌く泉。○〔爾〕「ー-泉正出」。

【濫】ラン、ロン。盧甘切 覃
邑の名。○〔春秋〕「黑-肱以レー來奔」。

【瀆】トウ、ヅ。田候切 宥
瀆に同じ。

【⿱監水】カン、ゲン。胡懺切 陷
物を水中に沈め冷す、ひやす、ひたづむ。

【瀕】ハ。滂禾切 歌
水の貌にいふ字。

【濬】シュン。私閏切 震
㊀水底を深くし通ず、さらふ。○〔書〕「封二十-有-二-山一ーレ川」。
㊁ふかし(深)。○〔詩〕「ーー哲-惟商」。
〔急濬〕疾くして深くあり。○〔水經、註〕「水-流ーーー」。

【濭】アイ。於蓋切 泰
鬱がり陰る、くもる、一說に、雲氣の貌にいふ字。○〔漢〕「露夜零晝晻ー」。

【濭】カイ。丘蓋切 泰
船沙に著く、つく、すわる、ゐる。

【濮】ホク、ボク。博木切 屋
㊀山東省にある水の名。○〔水經〕「東-北過二廩-丘-縣一爲二ー-水一」。
㊁州の名。○〔廣輿記〕「漢鄄-城隋ーー州」。
㊂一種の竹。○〔漢〕「其竹-節相去一-尺名二ー-竹一」。
㊃つゞみ(鼓)。○〔孫穆〕「高-麗方-言謂レ鼓曰レー」。

【濯】タク、ドク。直角切 覺
㊀あらふ、すゝぐ。
(い)水にて垢汗を去り清む。○〔詩〕「可三以ーレ罍」。
(ろ)穢惡を去り清む。○〔左〕「洒二ー其心一」。
㊁おほいなり(大)。○〔詩〕「王-公伊ー」。
㊂光り明かなるを、ひかる、かゞやく。○〔詩〕「鉤-膺ーー」。
㊃娛しみ遊ぶ貌にいふ字。○〔詩〕「麀-鹿ーー」。
㊄肥えてつや〳〵しき貌にいふ字。○〔晉〕「ーー如二春-月柳一」。
㊅山に草木なき貌にいふ字。○〔孟〕「是以若レ彼ーー也」。
㊆のむ(飲)。○〔禮、疏〕「將レ飲レ之而跪レ之曰賜レー」。
〔滌濯〕すゝぎ清む。○〔周〕「從二太-宰一眡二ーー一」。
〔洒濯〕前に同じ。○〔左〕「在二上-位一者、ー二ー其心一」。
〔淳濯〕前に同じ。○〔國〕「王乃ーー饗レ醴」。
〔洗濯〕前に同じ。○〔晉鑿〕「塵-霧如二ーー一」。
〔澣濯〕前に同じ。○〔北〕「常服二ーー之衣一」。
〔渫濯〕前に同じ。○〔唐〕「將二ーー一用レ之」。
〔祓濯〕はらひ清む。○〔北〕「輙ーー東-帶危-坐」。
〔沐濯〕あびあらふ。○〔洞冥記〕「設二甜-水之氷一以備二ーー一」。
〔湔濯〕前に同じ。○〔徐陵〕「曲賜二ーー一」。
〔漱濯〕前に同じ。○〔李華〕「ー二ー淸-江一」。
〔盥濯〕前に同じ。○〔韓愈〕「ー二ー陶-瓦一」。
〔沃濯〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「舊-萊思二ーー一」。

【⿲辛氵辛】ヘン、ベン。婢典切 銑
㊀旋流す、めぐる、うづまく。
㊁急流、はやせ。

【⿰氵辡】ヘン。方免切 銑
水の貌にいふ字。

【濰】井。以追切 紙
山東省にある水の名。○〔書〕「ー-淄其道」。

【[illegible]】ギヨ、ゴ。語居切 魚
漁に同じ、すなどる。○〔石鼓文〕「君-子ーレ之」。

【濱】ヒン。卑民切 眞
㊀水に接したる處、きし、ほとり、はま、際涯。○〔書〕「海-ー廣-斥」。
㊁地の水に近きを。○〔史〕「鄒-魯ー二洙-泗一」。
〔水濱〕川のほとり。○〔左〕「君其問二諸ーー一」。
〔陰濱〕川の南の方のほとり。○〔江賦〕「浮-磬肆二乎ーー一」。
〔江濱〕揚子江の水涯。○〔杜甫〕「稠-花亂-蘂裹二ーー一」。
〔河濱〕黃河のほとり。○〔史〕「舜陶二ーー一」。
〔天濱〕大空の端のと。○〔任泰〕「鳳-管颺二ーー一」。

【瀔】コク。古祿切 屋
河南にある水の名。○〔顏延之〕「伊ー絕二津-濟一」。

【濴】エイ、ヤウ。余傾切 庚
水泉の貌にいふ字、一說に、波勢の回ろ貌にいふ字。

【⿰氵⿸虍莫】バク、マク。莫白切 陌
なみ(波)、一說に、嗼に同じ。

【⿲辛氵辛】ヘン、ベン。皮戀切 霰
水波、なみ。

【⿰氵豦】ケウ。古堯切 蕭
澆に同じ、うすし。

【⿰氵閒】エン。烏絹切 霰
ふかし(深)。

十五畫

【⿰氵畾】ライ、レ。落猥切 賄
水の名。

【⿰氵畾】ル井。魯水切 紙
水波の涌き起ころ貌にいふ字。○〔郭璞〕「瀺-ー濆-瀑」。

【濺】セン。則旋切 先
水の疾く流るゝ貌にいふ字、はやし、さし。○〔沈約〕「出レ浦水ーー」。

【濺】セン。子賤切 霰
注射す、そゝぐ。○〔史〕「相-如請得下以二頸-血一ー中大-王上」。

【濺】サン。則旰切 翰
灒に同じ、けがしそゝぐ。

【潭】タン、ドン。徒紺切 勘 しづむ、（沒）。

【⿰氵靚】セイ、シヤウ。七定切 徑 楚慶切 敬 サウ、シヤウ。差梗切 梗 冷寒、ひやゝか。○〔康熙〕「楚人謂レ冷曰レ—」。

【⿰氵截】サツ、サチ。子末切 曷 ㊀水湍くして頭起す、わく、うづまく。㊁みつ、（滿）。

【⿰氵截】セツ、セチ。子結切 屑 ㊀小水出づ、いづ。㊁そゝぐ、（灑）。

【⿰氵截】セキ、シヤク。子昔切 陌 小さき水。

【⿰氵皛】ケウ、ゲウ。胡了切 篠 ㊀水遠し、さほし、はるか。㊁水の深くして白き貌にいふ字。

【濼】ホク、ボク。普木切 屋 ロク。盧各切 盧督切 沃 ラク。歷各切 藥 水の名。

【濼】ハク、ヒヤク。匹各切 藥 陂池、いけ。

【濼】レキ、リヤク。郎狄切 錫 ヤク。弋灼切 シヤク、サク。式灼切 藥 一種の藥草、やまそてつ。○〔爾〕「—貫—衆」。

【濽】俗の灒の字。

【濾】リヨ、ロ。良據切 御 輕紗、粗葛などをさほして、水を滴らし滓を上に留め清きものを下にしたたらしむ、こす、一説に、あらふ（洗）、すます（澄）。○〔白行簡〕「——水羅賦」。

【⿰氵輦】レン。力展切 銑 水。

【濿】レイ。力制切 霽 砅に同じ、石を履み水を渉る、かちわたり。

【⿰氵顑】カン、ゲン。胡減切 豏 懸水の貌にいふ字。

【瀀】イウ、ウ。于求切 尤 ㊀うるほひ多し。㊁あつし、（渥）。㊂ゆるし、（寬）。㊃ひたる、ひたす、（漬）。

【瀒】シフ。色入切 緝 摩-俱——思は、唐時代の渤達國の王。

【瀁】古文の漾の字。○〔史〕「嶓-冢導レ—」。

【瀁】ヤウ。余兩切 養 際涯なし、廣大なり、ひろし。○〔左思〕「澒-溶沆——」。
〔瀇瀁〕水のひろき貌にいふ語。○〔陳琳〕「河——而無レ梁」。
〔滉瀁〕前に同じ。○〔潘岳〕「——彌-漫」。
〔浩瀁〕前に同じ。○〔傅亮〕「淵-流——」。

【瀂】滷に同じ。

【溲】キウ、ク。許由切 尤 面に汗出づ、あせかく。

【⿰氵賜】シ。斯義切 寘 ㊀水を泄らす門、ひのくち。㊁停水、たまりみづ。㊂水を障ふ、せく。

【⿰氵頡】クワツ、ケチ。呼刮切 黠 ㊀淨からず、にごる。㊁言了かならず。

【瀬】タツ、テチ。丑刮切 黠 前條の㊀に同じ。

【濍】ソウ、ス。先公切 東 水の聲にいふ字。

【滭】ヒツ、ヒチ。壁吉切 質 水沸く、わく。

【⿰氵蓋】オウ、ウ。於侯切 宥 水を飲む、のむ。

【瀄】シツ、シチ。側瑟切 質 ㊀水の聲にも水の流るゝ貌にもいふ字。○〔嵆康〕「——汩澎-湃」。㊁水相うつ、うつ。○〔司馬相如〕「偪-側泌——」。

【⿰氵巤】レフ。力涉切 葉 水の聲にいふ字。○〔庾闡〕「山-水渉——而鱗-布」。

【[illegible]】テキ、チヤク。竹益切 陌 亭歷切 錫 土の水に沮ふ所。

【⿰氵膠】カウ、ケウ。古肴切 肴 水の貌にいふ字。○〔木華〕「—滈浩-汗」。

【瀅】エイ、ヤウ。烏定切 徑 汀—は、小さき水、一説に、水澄む、すむ。○〔韓愈〕「曲-江汀——水平レ盃」。
〔瀯瀅〕みづすむ貌にいふ語。○〔陸龜蒙〕「——寒-泉深百-尺」。

【瀅】エイ、ヤウ。烏迥切 迥 濙に同じ。

【瀅】ケイ、キヤウ。絹熒切 迥 水の名。

【瀅】ケイ、キヤウ。吉成切 靑 小さき水、こみづ。

【㶁】カク、キヤク。古伯切 陌 ㊀水裂け去る、わかる。㊁激する水。㊂水の聲にいふ字。○〔韓愈〕「水———循レ除鳴」。

【澈】テツ、デチ。直列切 屑 水澄む、すむ。

【瀆】トク、ドク。徒谷切 屋 ㊀田畝、又は、邑里などの中の通水路、みぞ、こみぞ。○〔楚辭〕「漸二藁-本於湊——一」。㊁大いなる水流の稱、其の國中のけが

れにごりを流すの義。○〔禮〕「五-嶽視三-公一、四-瀆視二諸-侯一」。
㊂汚濁す、けがる、けがす、にごる、にごす、みだる、みだす。○〔易〕「再-三瀆、瀆則不レ告」。
㊃垢濁、汙穢、にごり、けがれよごれ。○〔白虎通〕「瀆者濁也」。
㊄あなどる。
（い）狎れみだる。○〔易〕「上交不レ諂、下-交不レ瀆」。
（ろ）輕んず、易しとす。○〔左〕「有二外-援一不レ可レ瀆」。
㊅重複す、かさぬ、かさなる。○〔公羊〕「丞則瀆」。
〔溝瀆〕みぞのこと。○〔易〕「坎爲レ水爲二溝-瀆一」。
〔汚瀆〕水の濁りたるみぞ。○〔莊〕「我寧遊二-戲於汚-瀆之中一」。

【瀆】トウ、ヅ。大透切 〔宥〕
㊀句-瀆は、地名。○〔左〕「盟二于句-瀆之丘一」。
㊁竇に同じ、あな。○〔左〕「伯-有自二墓-門之瀆一入」。

【澹】タフ、デフ。丈甲切 〔洽〕
水の名。

【瀇】ワウ。烏晃切 〔養〕
水の深くして廣き貌にいふ字。○〔淮〕「瀇-瀁極レ望」。

【瀇】クワウ。戸曠切 〔漾〕
停水の臭、たまりみづのにほひ、一説に、水の貌にいふ字。

【瀈】キ。吁韋切 〔微〕
水を振ひ去る、一説に、つくす、（竭）。

【瀉】シヤ、セ。息姐切 〔馬〕
㊀そゝぐ。
（い）流し入る、傾け流す。○〔周〕「以レ澮瀉レ水」。
（ろ）傾き流る、流れ入る。○〔謝靈運〕「石-磴瀉二紅-泉一」。
㊁鑑の形。
〔傾瀉〕かたむく。○〔蘇軾〕「傾-瀉五-石尊」。
〔注瀉〕水そゝぐ。○〔論衡〕「孔-竅以注-瀉」。

【瀉】シヤ、セ。司夜切 〔禡〕
㊀地味の鹽分を含みたる所、しほつち、にがつち。○〔論衡〕「地無レ毛則爲二瀉-土一」。
㊁はく、（吐）。○〔淮〕「盡瀉二其食一」。
㊂肛門より泄下す、くだす、くだる。○〔白虎通〕「腎主レ瀉」。
㊃下痢病、はらくだし。○〔揚雄〕「泄-瀉爲二注-下之症一」。
〔及瀉〕おもだかといふ草の異名。○〔本草〕「澤-瀉一名二水瀉一、一名二及-瀉一」。

【瀊】ハン、バン。蒲官切 〔寒〕
水廻り流る、めぐる、うづまく。

【瀘】リヨ、ロ。力居切 〔魚〕
尾-閭は、海水を外へ泄らす所。

【瀰】瀰に同じ。

【瀋】シン。昌枕切 〔沁〕
㊀しる、（汁）。○〔元結〕「煮レ鱺爲作レ瀋」。
㊁水を器の中に置く、たゝふ。

【瀌】ヘウ。甫嬌切 〔蕭〕 卑妙切 〔嘯〕
ヒウ、ヒヤウ。皮休切 〔庚〕

雨雪のふる貌にいふ字。○〔詩〕「雨-雪瀌-瀌」。

【瀍】テン、デン。直延切 〔先〕
水の名。○〔書〕「伊-洛瀍-澗」。

【瀆】テキ、チヤク。都歷切 〔錫〕
水注ぐ、そゝぐ。

【瀏】レウ。朗鳥切 〔篠〕
㊀水清し、きよし。㊁小水、こみづ。

【瀖】クワク、カク。忽麥切 〔陌〕
ながる、（流）。

【瀎】バツ、マチ。莫葛切 〔曷〕
㊀のごふ、（拭）、又、ぬる、（塗）。○〔揚雄〕「淨-巾謂二之瀎-布一」。
㊁流るゝ疾し、はやし。○〔張衡〕「汲-滑瀎-潏」。

【瀏】リウ、ル。力求切 〔尤〕 力九切 〔有〕
㊀水深し、ふかし、又、水清し、きよし。○〔詩〕「瀏其清矣」。
㊁風疾し、さし、はやし。○〔楚辭〕「秋-風瀏以蕭-々」。
㊂林木の鼓動する聲にいふ字。○〔司馬相如〕「瀏-莅芔-吸」。
㊃清くして亮かなること、あきらか。○〔陸機〕「體レ物而瀏-亮」。
〔飀瀏〕風の聲にいふ語。○〔左思〕「瀏-瀏颼-々」。
〔瀏々〕風のとき貌にいふ語。○〔謝惠連〕「瀏-瀏出レ谷飇」。

【瀑】ハウ、ボウ。薄報切 〔號〕
㊀疾雨、にはかあめ。
㊁あわ、（沫）。○〔郭璞〕「拊二拂瀑-沫一」。

【瀑】ホク、ボク。步木切 〔屋〕
飛下する泉、懸かれる水、たき。○〔孫綽〕「瀑-布飛-流以界レ道」。
〔飛瀑〕たき。○〔朱熹〕「開レ徑玩二飛-瀑一」。
〔懸瀑〕前に同じ。○〔陳傳良〕「怒-號懸-瀑從レ天下」。
〔落瀑〕前に同じ。○〔僧惠洪〕「忽驚落-瀑從レ空墮」。

【瀑】ハク、ホク。彌角切 〔覺〕
㊀水の沸く聲にいふ字。○〔左思〕「龍-池瀑-瀑」。
㊁波浪のわき起こる貌にいふ字。○〔郭璞〕「㶁-溜瀑-瀑」。

【瀇】アウ、ヤウ。烏猛切 〔梗〕
水淨し、きよし。

【瀨】ライ、レ。郎外切 〔泰〕 ラツ、ラチ。力活切 〔曷〕

【瀓】チヨウ、ヂヨウ。直陵切 〔蒸〕
㊀饌を供へて祭る。
㊁地に酒をそゝぎて祭る。

澂に同じ、きよし、すむ。○〔張衡〕「集二重-陽之清瀓一」。

【瀡】井。羊水切 〔紙〕
水の貌にいふ字。

【瀵】ヒツ、ヒチ。兵匹切 〔質〕
行きて止まらず。

【瀾】テキ、ヂヤク。問滌切 〔陌〕
うごく、うごかす、（蕩）。

【瀉】ヘイ。疋閉切 〔霽〕
水潰散す、つひゆ、あらく、ちる。

【⿰氵尌】セイ、ジヨウ。才性切 〔敬〕
淨に同じ、きよし。○〔石鼓文〕「遊-水既-ー」。

十六畫

【瀐】セン。息面切 〔霰〕 セイ、セ。此芮切 〔霽〕
㊀のむ（飲）。㊁すゝる（歠）。㊂すふ（吮）。

【瀕】ヒン。卑民切 〔眞〕
㊀みぎは、ほとり。（い）水に接したる厓、きし。○〔張衡〕「處二彼湘-ー一」。「遠」。（ろ）濱に同じ、はま。○〔漢〕「海-ー邉-」。㊁水に迫る、水に近づく、そふ。○〔漢〕「ーレ河之郡」。

【⿰氵滕】トウ、ドウ。徒登切 〔蒸〕
水超涌す、わく。

【瀖】クワク、カク。虚郭切 〔藥〕
㊀衆波の聲にいふ字。○〔木華〕「ー-汸濩-渭」。㊁采色きらめきて定まらぬ貌にいふ字。○〔王延壽〕「ー-濩燐-亂」。

【⿰氵閼】アツ、アチ。阿葛切 〔曷〕
金ーは、水の名。

【⿰氵閻】エン、オン。余廉切 セン、ゾン。徐廉切 〔鹽〕 エン。以冉切 〔琰〕
㊀みづたまり、（洿）。㊁水進む、すゝむ。

【⿰氵蕈】イン。以荏切 〔寢〕
水動く、ゆるぐ、なみたつ。

【瀘】ロ。洛乎切 〔虞〕
四川省の南部を流るゝ水。○〔諸葛亮〕「五-月渡レー」。

【瀙】シン。七吝切 〔震〕 雌人切 〔眞〕
潁水に入る水の名。

【瀇】クワウ、ワウ。戸孟切 〔敬〕 胡盲切 〔庚〕
㊀小津、ちひさきわたしば。㊁いかだ（筏）。㊂船にて渡る、わたる。

【瀚】カン。侯旰切 〔翰〕
㊀北海の名。○〔史〕「登二臨ー海一」。㊁水の貌にいふ字。○〔郭璞〕「混ー-瀰-渙」。㊂廣大なり、ひろし。○〔淮〕「浩-々ー-ー」。

【瀛】エイ、ヤウ。以成切 〔庚〕
㊀大いなる海、おほうみ。○〔荀〕「有二大ー-海一環二其外一」。㊁澤の中。○〔楚辭〕「倚-沼畦-ー兮」。㊂海中にありて仙人の捿息する所なりと傳ふる三神山の一。○〔拾遺記〕「歷二蓬-ー一而超二碧-海一」。㊃水の貌にいふ字。○〔柳宗元〕「抵二値隄-防一、漻-ー沛-濊」。
〔滄瀛〕うみのこと。○〔李郢〕「片-帆只欲レ歸二ー・ー一」。
〔四瀛〕四海といふに同じ。○〔王融〕「ー・ー且在レ目」。
〔東瀛〕東海といふに同じ。○〔王融〕「汚彼流-水趨二ー・ー一」。

【瀜】イウ、ユ。以戎切 〔東〕
深くして廣き貌にいふ字、ひろし。○〔木華〕「沖-ー沆-瀁」。

【瀝】レキ、リヤク。郎擊切 〔錫〕
㊀滴下す、したゝる、しだる、したむ。○〔王延壽〕「動滴-ー以成レ響」。㊁流注す、ながる、ながす、そゝぐ。○〔晉〕「皆決二ーー之一」。㊂したゝり、しづく。（い）したゝる水。○〔佛國記〕「水-ー滴レ地」。（ろ）餘りたる液。○〔方回〕「空-樽已絕レー」。㊃微しき水流。○〔張衡〕「漱二飛-泉之ー-液一」。㊄雨雪の聲にいふ字。○〔謝惠連〕「霰-淅-ー而先集」。㊅風の聲にいふ字。○〔逸士傳〕「風ーー有レ聲」。㊆水の聲にいふ字。○〔于武陵〕「入レ戶風-泉聲ー-ー」。㊇したみたる酒、淸酒。○〔楚辭〕「和二楚ー-ー一只」。
〔餘瀝〕あまれるしづく。○〔史〕「時賜二ー・ー一」。
〔淋瀝〕しづくのしたゝること。○〔盧思道〕「雨-師止二其ー・ー一」。
〔霖瀝〕ながあめのふること。○〔張協〕「ー・ー過二二旬一」。

【瀞】セイ、ジヤウ。疾正切 〔敬〕
淨に通じ用ふ、きよし。

【瀟】セウ。相邀切 〔蕭〕
㊀風雨の暴疾なる貌にいふ字、はやし、はげし。○〔詩〕「風-雨ー-ー」。㊁深くして淸し、ふかし、きよし。○〔水經、註〕「ー者水清-深也」。

【瀠】エイ、ヤウ。烏迥切 〔迥〕
濙に同じ。

【⿰氵選】セン。息絹切 〔霰〕
水を含みて噴く、ふく。

【⿰氵隸】レイ、ライ。郞計切 〔霽〕
㊀こす（漉）。㊁したゝる（滴）。

【瀡】スヰ、ズヰ。思累切 〔寘〕 息委切 〔紙〕
なめらか（滑）。○〔禮〕「滫-ー以滑レ之」。

【瀢】ヰ。以水切 〔紙〕
㊀魚の相隨ひ行く貌にいふ字。㊁魚盛んなり、おほし。㊂水の流るゝ貌にいふ字。㊃膏液、あぶら。

【瀩】タイ、デ。徒對切 〔隊〕 杜外切 〔泰〕
沙石の水に隨ふ貌にいふ字。○〔郭璞〕「碧-沙ー-瀢而往-來」。

【瀣】カイ、ゲ。胡介切 〔卦〕
沆ーは、海の氣、一說に、露の氣、一說に、北方の夜半の氣。○〔東方朔〕「含二沆-ー一以長-生」。

【⿰氵韰】クワイ、エ。胡對切 〔隊〕
㊀前條に同じ。㊁水の貌にいふ字。

【瀤】アイ、エ。烏乖切 〔佳〕
水の平かならざる貌にいふ字。○〔郭璞〕「㴔-淪ー-ー」。

【瀧】ロウ、ル。盧紅切 〔東〕 リウ、リユ。力鍾切 〔冬〕
㊀雨のふりしたゝる貌にいふ字。㊁沾漬す、ひたる、ひたす。

【瀧】 サウ、ソウ。所江切 江
水の名、又、州の名。

【瀧】 ラウ、ロウ。呂江切 江
奔湍、はやせ。〇[康熙]「名レ湍曰レ一」。
(湍瀧) はやせのこと。〇[范純仁]「畎-澮豈敢迫二一-一ニ。
(奔瀧) 前に同じ。〇[范成大]「鼓旗西征上二一-一。
(急瀧) 前に同じ。〇[馬祖常]「舺航下二一-一ニ。
(驚瀧) 前に同じ。〇[丁鶴年]「危峯屹立壓二一-一ニ。

【瀧】 ロウ、ル。盧貢切 送
うるほふ、うるほす、(溼)。

【瀨】 ライ、レ。洛帶切 隊
せ。
(い)沙上を走り流るゝ水。〇[楚辭]「石-一兮淺-々」。
(ろ)奔流、はやきながれ。〇[淮]「抑-減怒-一以揚二激-波一ニ。
(湍瀨) 水の流れはやく淺きところ。〇[淮]「朞年而漁者爭處二一-一ニ。
(淺瀨) 前に同じ。〇[儲光羲]「一-一寒-魚少」。
(濤瀨) なみたつはやせ。〇[蘇軾]「屈-折作二一-一ニ。
(懸瀨) 高きところより落ちきたるはやせ。〇[劉禊]「一-一碧-潭」。「一-一ニ。
(淸瀨) 水きよきはやせ。〇[蘇轍]「明-月照二一-一。
(奔瀨) 前に同じ。〇[張籍]「一-一烟霞古」。
(迅瀨) 極めてはやきせ。〇[薛逢]「一-一從レ天急」。
(急瀨) 前に同じ。〇[許渾]「一-一鳴二車-軸一ニ。
(炎瀨) たにがはのはやせ。〇[陸游]「風-聲雜二一-一ニ。

【瀨】 タイ、デ。杜潰切 隊
水の沙を帶びて往來する貌にいふ字、たゞよふ。〇[夏侯湛]「水-漘-一ニ手井-幹ニ。

【瀫】 コク。胡谷切 屋
水の聲、みづおと。

【瀋】 シン、ジン。徐心切 侵
潯に同じ。

【瀵】 ヘン、ホン。孚袁切 元
大いなる波、おほなみ。

十七畫

【瀯】 エイ、ヤウ。維傾切 庚
㊀小さき水、こみづ。〇[後漢]「洛-邑之渟-一」。
㊁水の廻旋する貌にいふ字。〇[柳宗元]「一-一之聲與レ耳謀」。
(瀯々) 水の音にいふ語。〇[郭璞]「漩-濴一-一」。
(滏瀯) 前に同じ。〇[柳宗元]「㵿二泉-源之一-一ニ。

【瀶】 ラン、ロン。郎紺切 勘
浮ぶ貌にいふ字。

【灜】 レイ、リヤウ。郎丁切 靑
水の曲くま。

【瀰】 ビ、ミ。民卑切 支
水曠くして遠き貌にいふ字、ひろし、はるか。〇[木華]「渺-一-漭-漫」。
(漫瀰) はるか。〇[元稹]「發レ樓思二一-一ニ。

【瀰】 ビ、ミ。母婢切 紙 デイ、ナイ。奴禮切 薺 ベイ、マイ。母禮切 薺
㊀水の流るゝ貌にいふ字。〇[詩]「河-水一-一」。
㊁水滿つ、みつ。〇[詩]「有二一濟盈一ニ。

【瀱】 ケイ。居例切 霽
㊀井の水。㊁泉の出づる貌にいふ字。

【瀲】 レン。力冉切 琰 力驗切 豔
㊀ひたす、(漬)。〇[木華]「南一二朱-崖一、北灑二天-鑪一ニ。
㊁水の溢るゝ貌にいふ字。〇[木華]「瀲-灩一-灩」。
㊂波際、みぎは。〇[潘岳]「靑-蔚平翠-一」。
㊃うかぶ、(泛)。〇[郭璞]「或泛二一-一于潮-波一ニ。
(瀲々) あふるゝ貌にいふ語。〇[楊夔]「春-江一-一淸且急」。

【瀳】 セン、ゼン。才甸切 霰 ソン、ゾン。祖昆切 元 セン、ゼン。才先切 先
水至る、いたる。〇[易]「水-一-至」。

【瀳】 ソン、ゾン。徂悶切 願
水の出づる貌にいふ字。

【瀴】 エイ、ヤウ。烟頂切 迥
大いなる水の貌にいふ字。〇[柳宗元]「一-一瀛-沛」。

【瀴】 エイ、ヤウ。伊盈切 庚 ベイ、ミヤウ。莫迥切 迥
水の絕めて遠き貌にいふ字、さほし、はるか。〇[木華]「經-途一-一溟」。

【瀴】 アウ、ヤウ。於孟切 敬
ひやゝか、(冷)。

【濆】 フン、ホン。方問切 問
㊀灑散す、そゝぐ、ちる、ちらす。〇[爾]「一-一水出二尾-下一ニ。「翹レ莖一レ藥」。

【濆】 ホン。普悶切 願
㊀水浸す、ひたす、ひたる。〇[郭璞]
前條の㊀に同じ。

【瀞】 セン。思剪切 銑
水。

【灐】 クワウ。呼弘切 蒸
水の相激する聲にいふ字。〇[郭璞]「潨-瀑一-漱」。

【瀶】 リン。力尋切 侵
㊀たに、(谷)。㊁さむし、(寒)。
㊂雨降る、ふる。

【灑】 セウ。子小切 篠
㊀酒を釃む、こたむ。㊁こす、(遾)。
㊂さらふ、(浚)。㊃つくす、(盡)。

【瀷】 ヨク、イキ。逸職切 職 ショク、シキ。昌力切 職
湊漏(おちあひ)の水流。〇[郭璞]「㶖レ之以二瀿一-一ニ。

【瀷】 チョク、チキ。蓄力切 職
水の貌にいふ字。〇[淮]「淌-游一-一實」。

【灂】 カク、ガク。下各切 藥
涸に同じ。

【瀿】 クワン、ゲン。胡關切 刪
水の貌にも水の潰き起こる貌にもいふ字。

【瀸】セン、ゾン。子廉切 [鹽]
㊀ある時には滿ちある時には乾ろゝ泉水。○〔爾〕「泉一見一否爲レ―」。
㊁ひたす、ひたる、(漬)、うるほふ、うるほす、(洽)。○〔淮〕「―ニ濇肌-膚ニ」。
㊂ほろぶ、ほろぼす、(滅)。○〔公羊〕「齊人―ニ于遂ニ」。
㊃纔かに水ある貌にいふ字。○〔嫏嬛記〕「誰謂長-河-水、化爲ニ―-―流ニ」。
㊄漸に通じ用ふ。○〔史〕「―-臺-星近ニ天-漢ニ」。

【瀹】ヤク。以灼切 [藥]
㊀湯に漬す、ゆびく。○〔儀〕「菅筲三其實皆―」。
㊁にる、ゆでる、(煮)。○〔齊民要術〕「有下―ニ雞-子ニ之法上」。
㊂あらふ、(滌)。○〔莊〕「疏ニ―而心、澡ニ雪而精-神ニ」。
㊃をさむ、(治)。○〔孟〕「疏ニ九-河ニ―ニ濟-漯ニ」。
㊄水波の動搖する貌にいふ字。○〔木華〕「潭-―渤-蕩爲レ沺」。
㊅水流の漂疾なる貌にいふ字、さし、はやし。○〔郭璞〕「瀹-潤瀾-―」。

【瀥】エウ。弋笑切 [嘯]
水淸し、きよし。

【瀰】ビ、ミ。武悲切 [支]
湄に同じ。

【漐】チフ、ヂフ。直立切 [緝]
小雨のそぼふる貌にいふ字。

【濊】クワツ、クワチ。呼括切 [曷] エツ、エチ。於月切 [月]
水流を礙ふ、さそふ。

【濊】アイ、エ。烏廢切 [隊]
にごろ、にごす、(濁)。

【瀺】サン、ゼン。士減切 [豏] セン、ゼン。士冉切 [琰]
㊀水の聲にいふ字。○〔司馬相如〕「―-灂賈-墜」。
㊁浮き沈みする貌にいふ字。○〔潘岳〕「游-鱗―-灂」。

【瀺】サン、ゼン。鋤咸切 [咸]
㊀水の落つる貌にいふ字、又、水そゝぐ聲にいふ字。○〔馬融〕「確投―レ穴」。
㊁手足の液、志る。○〔史〕「出及ニ―-水ニ」。

【瀻】タイ、ダイ。丁代切 [隊]
洒淸まず、にごろ。

【瀼】ジヤウ、ナウ。汝羊切 タウ、ナウ。奴當切 [陽]
露の濃き貌にいふ字。○〔詩〕「零-露―-―」。

【瀼】ジヤウ、ナウ。汝兩切 [養]
ごろ、(淤)。○〔漢〕「有ニ塡淤反―之害ニ」。

【瀼】ダウ、ナウ。乃朗切 [漾]
㊀水の流るゝ貌にいふ字。○〔木華〕「涓-流泱-―」。
㊁水と光との開き合ふ貌にいふ字。○〔木華〕「―-―溼-々」。

【濦】イン、オン。於謹切 [吻] 於斤切 [文] 於靳切 [問]
潁水に入る水の名。

【瀽】ケン。吉典切 [銑]
水。

【瀑】ハウ、ボウ。平報切 [號]
瀑に同じ、水の沸く聲にいふ字。

【澄】トウ。他登切 [蒸] 台鄧切 [徑]
小さき水の相添ひ益す貌にいふ字。

【瀶】アン、オン。乙感切 [感] 烏紺切 [勘] イン、オン。於錦切 [寢]
水大いに至る、いたる。

【瀾】ラン。洛干切 [寒]
㊀なみ、(波)。○〔孟〕「觀レ水有レ術、必觀ニ其―ニ」。
㊁なみ起ころ、なみたつ。○〔宋玉〕「若ニ流-波之將ヒ―」。

〔微瀾〕こまかきなみ。○〔陸機〕「玉泉涌ニ―-―ニ」。
〔輕瀾〕前に同じ。○〔庾闡〕「―-―渺如レ帶」。
〔洪瀾〕おほいなるなみ。○〔韋莊〕「莫レ窮ニ其巨派―-―ニ」。
〔波瀾〕なみ。○〔崔珏〕「學-海―-―一-夜乾」。
〔濤瀾〕前に同じ。○〔蘇過〕「鼓ニ千尺之―-―ニ」。
〔狂瀾〕勢はげしきなみ。○〔丁復〕「誰此障ニ―-―ニ」。
〔驚瀾〕前に同じ。○〔宋武帝〕「―-―翻ニ魚-藻ニ」。
〔漪瀾〕さゞなみとおほなみと。○〔成公綏〕「―-―成レ文」。
〔淸瀾〕きよらかなるなみ。○〔鮑照〕「―-―千-里」。
〔澄瀾〕前に同じ。○〔虞世基〕「―-―浮ニ曉色ニ」。
〔碧瀾〕みどりの色の波。○〔李群玉〕「日泛ニ仙-舟-醉ニ―-―ニ」。

【瀾】ラン。郎旰切 [翰]
㊀前條に同じ。
㊁淋漓たり、志たゝる、一說に、分散す、ちる、あらく。○〔王褒〕「悼-恅―-漫」。
㊂米の汁、志ろみづ。○〔周、註〕「潘―戔-餘不レ可レ褻也」。
〔汍瀾〕なみだの流るゝ貌にいふ語。○〔李白〕「曲終涕―-―」。
〔瀾瀾〕前に同じ。○〔元稹〕「烏啼啄-々淚―-―」。

【瀿】ヘン、ハン。附袁切 [元]
水暴かに溢る、あふる。○〔淮〕「樹-木者灌以ニ―-水ニ」。

【灀】サウ。色壯切 [漾]
物を殺す、からす。

【灁】エン。烏涓切 [先]
ふかし、(深)。

十八畫

【灂】サク、ゾク。仕角切 [覺]
㊀水の聲にいふ字。○〔司馬相如〕「瀺-―賈-墜」。
㊁石の水中に出沒する貌にいふ字。○〔宋玉〕「巨-石溺-々之瀺-―」。
㊂魚の出沒して遊ぶ貌にいふ字。○〔潘岳〕「游-鱗瀺-―」。
㊃波の相激する聲にいふ字。○〔郭璞〕「瀾-渚灂-―」。
〔渉灂〕魚のうきしづみする貌にいふ語。○〔曹植〕「見ニ遊-魚之―-―ニ」。
〔漰灂〕波の相うつ聲にいふ語。○〔郭璞〕「磬-雷駭而―-―」。
〔淙灂〕水の音にいふ語。○〔張說〕「噴-險―-―」。

【灂】サク、ジヤク。實窄切 [陌]

作に同じ、水の落つる貌にいふ字。○〔僧貫休〕「霰雨―・―」。

【灂】セウ。子肖切〔嘯〕
㊀車の轅(ながえ)を漆にて塗りたるを、うるしぬり。○〔周〕「頁-輈環―」。
㊁釂に通じ用ふ、ぬすみめ。○〔山海經〕「鴣-鵲食レ之不レ―」。

【灁】ケキ、許激切〔錫〕 キヤク。郝格切〔陌〕
心自ら安んぜず、あやぶむ、あわつ。

【⿰氵闖】シン。式稔切〔寢〕
水の疾く流るゝ貌にいふ字、さし、はやし。○〔郭璞〕「瀸-潤―-瀹」。

【⿰氵闖】タン、トン。他紺切〔勘〕
水の浮き上がる貌にいふ字。

【⿰氵闖】サン、ソン。賞敢切〔感〕
㊀前々條に同じ。
㊁水の貌にいふ字。
㊂果勇の貌にいふ字、つよし、たけし。

【⿰氵闖】セン。失冉切〔琰〕
潤に同じ、流るゝ貌にいふ字。

【⿰氵鯀】コウ、ク。戸公切〔東〕
大いなる波、おほなみ。

【灃】ホウ、フ。敷空切〔東〕
陝西省にある水。○〔書〕「―水攸レ同」。

【灄】セフ。書涉切〔葉〕
湖北省にある江水に入る水。○〔水經〕「江-水左爲二湖-口一水通二大-湖一又東合二―-口一」。

【灄】ザフ、ニフ。昵立切〔緝〕
㊀雨露のふる貌にいふ字。
㊁浮桟の類、いかだ。○〔春秋繁露〕「舟-輿浮-―」。

【灅】ルヰ。魯水切〔紙〕 ライ、魯猥切〔賄〕
水の名。

【⿰氵藏】サウ、ザウ。徂郎切〔陽〕
しづむ(沒)。

【灆】ラン、ロン。力甘切〔覃〕
水清し、きよし、すむ。

【灠】ラン、力敢切〔感〕 ロン。切 カン、呼濫切〔勘〕 コン。切
瓜菹、うりのつけもの。

【灇】
潨に同じ。○〔謝靈運〕「仰聆二大-壑―一」。

【灈】ク。其俱切〔虞〕
水の名。○〔水經〕「―-水出二汝-南吳-房-縣西-北輿-山一」。

【⿰氵徽】ハン、ホン。孚萬切〔願〕
睢陽にある水の名。

【⿰氵睪】ハイ、ベ。蒲拜切〔卦〕
水波、なみ。○〔郭璞〕「潎-―-濞-淠」。

【灉】ヨウ、於容切〔冬〕 ユ。於用切〔宋〕
河より流れ出でてまた河に流れ入る水。○〔書〕「―-沮會-同」。

【灊】セン、ゾン。昨鹽切〔鹽〕
水の名、又、縣の名。

【⿰氵簡】カン、ケン。古限切〔潸〕
あらふ(浙)。

【⿰氵蔡】ソウ、ズ。徂紅切〔東〕
水の聲にいふ字。

【灟】シユク、式竹切〔屋〕 ソク。
水波、なみ。○〔郭璞〕「―-淵-瀾-淪」。

【⿰氵截】サツ、ザチ。才達切〔曷〕
雨の聲にいふ字。

【瀿】ハン、バン。符萬切〔願〕
泉水、いづみ。

【⿰氵雜】サフ、ソフ。七盍切〔合〕
㊀沸く貌にいふ字。
㊁絶えたる貌にいふ字。

【灋】
古文の法の字。○〔周〕「以二八-―一治二官-府一」。

【灌】クワン。古玩切〔翰〕
㊀そゝぐ。
(い)流れ入る。○〔莊〕「秋-水時至、百-川―レ河」。
(ろ)流し行る。○〔戰〕「決二晉-水一以―レ之」。
(は)漬す、溼す。○〔漢〕「多買レ田至二于四-百-頃一、皆涇-渭―-漑極膏-腴」。
(に)つぎ入る。○〔吳〕「膏-油―二其中一」。
(ほ)すゝぐ、あらふ。○〔南〕「澡二―一-口一、有レ銘云、元-封二一-年龜-茲-國獻」。
(へ)酌む。○〔禮〕「―用二玉-瓚大-圭一」。
㊁あつまる、むらがる(聚)。○〔朱熹〕「深-林久叢-―」。
㊂木のあつまり生ふるものゝ稱。○〔詩〕「黃-鳥于飛、集二于―-木一」。
㊃のむ(飲)。○〔禮〕「奉レ觴曰レ賜―」。
㊄誠實を盡くすこと。○〔詩〕「老-夫―-―」。
㊅酒を酌み地にそゝぎて神を祭ること。○〔禮〕「―用二鬱-鬯一」。
㊆水流の盛んなる貌にいふ字。○〔宋〕「水從レ西來河―-―」。
〔澆灌〕水そゝぐこと。○〔水經、註〕「皆得二―-―一」。
〔溉灌〕前に同じ。○〔詩、疏〕「流-泉所二以―-―一」。
〔浸灌〕前に同じ。○〔莊〕「而猶二―-―一其於澤也」。

【灌】クワン。古緩切〔旱〕
盥に同じ、手を澡ふ、てあらふ。

【灗】テン、デン。徒玷切〔琰〕
水滿つ、みつ。

【⿰氵雝】タイ、デ。徒對切〔隊〕
砂の水に隨ふ貌にいふ字。

【⿰氵潘】ヘン、ハン。孚袁切〔元〕
米の汁、しろみづ。

十九畫

【灑】サイ、セ。所蟹切〔蟹〕
㊀そゝぐ。
(い)水をまき散らす、水をふらし下す。○〔詩〕「―二掃庭-内一」。
(ろ)水散りかゝる、したゝり下る。○〔梁〕「涕-淚所レ―松-草變レ色」。
(は)垢塵を洗滌す、あらふ、すゝぐ。○〔孫綽〕「淸二―一蕭-京一」。
㊁分散す、ちる、ちらす、わかつ、わかる。

○〔張衡〕「開レ竇ーレ流」。㊂風物を汎ぶ、うかぶ、ふく。○〔陸機〕「時・風夕ー」。㊃なぐ、〔投〕。○〔潘岳〕「ーレ釣投レ網」。㊄驚く貌にいふ字。○〔莊〕「吾ー・然異レ之」。㊅絶えざる貌にいふ字。○〔貫耳集〕「先・後次・序數・白言ーー可レ聽」。㊆垢塵なき貌にいふ字。○〔南〕「神・韻蕭ーー」。㊇魚を捕る鈎、かぎ。○〔郭璞〕「箭ー連レ鋒」。㊈大いなる瑟。○〔爾〕「大・瑟謂二之ー一」。

〔瀰灑〕あらふ。○〔說苑〕「汙・麻雜二ーー一」。

〔淋灑〕そゝぐ、又、絶えざる貌にいふ語。○〔王褒〕「ーーー其靡・麗」。

〔掃灑〕はきすゝぎのこと。○〔李白〕「爲レ余ーー石・上月」。

〔霑灑〕うるほしすゝぐ、又、うるほひそゝぐ。○〔北〕「駛・雨ーー」。

〔播灑〕まきそゝぐ、又、まきちること、まきちらすこと。○〔管〕「堂上則ーー」。

〔脫灑〕俗をはなれて清きこと。○〔王晃〕「上・人ーー無二滯・宿一」。

〔揮灑〕筆をふるひすゝぎて書畫をかくこと。○〔晁沖之〕「ーー毎被レ酒」。

〔颯灑〕風の物をふきうごかすこと。○〔隋煬帝〕「ーー・林・花落」。

〔飛灑〕とびちる。○〔謝惠連〕「聯・翩ーー」。

〔垂灑〕たれおつ。○〔李蒙〕「ーー如レ淚」。

〔高灑〕俗にはなれて洒落なること。○〔蘇舜欽〕「余心本ーー」。

【灑】サ、セ。沙下切 馬　シ。所綺切 紙　所寄切 寘　サイ、セ。所賣切 卦　前條の㊀に同じ。

【灑】洗に通じ用ふ。○〔謝朓〕「輕レ生諒昭ーー」。

【灒】サン。則旰切 翰　汗し灑ぐ、そゝぐ。

【灒】サン、ザン。徂丸切 寒　水の集まる貌にいふ字。

【灒】セン、ゼン。財仙切 先　そゝぐ、〔汎〕。

【灒】サツ、サチ。子末切 曷　滲に同じ、そゝぐ。

【灓】ラン。洛官切 寒　漏れ流る、ながる、一說に、ひたす、〔漬〕。○〔戰〕「ーー水齧二其墓一」。

【灓】ラン。盧玩切 翰　レン。力眷切 霰　沙丘の水流を絶り横ぎるにいふ字、わたる、よこぎる、又、正しく流れを絶り横ぎるにもいふ字。

【灔】俗の灩の字。

【濼】ヤク。以灼切 藥　㊀波の或は前み或は卻く貌にいふ字。㊁熱き貌にいふ字。○〔張衡〕「心勺ーー其若レ湯」。

【濼】シヤク、サク。式灼切 藥　濼に同じ、藥草の名。

【灕】リ。呂支切 支　㊀流るゝ貌にいふ字。○〔揚雄〕「ー乎滲・灕」。㊁滲入す、しむ、もる。○〔揚雄〕「澤滲ー而下降」。

【氵羅】ラ。魯河切 歌

【灖】ビ、ミ。母被切 紙　水の流るゝ貌にいふ字。○〔淮〕「雪・霜灖ー」。

【瀕】音切詳かならず按ずるに、瀕に同じ、はま。○〔揚雄〕「池竭ー乾」。

【灘】タン。他干切 寒　或は水中に石多く或は急流にして舟行の危險なる所、せ、なだ。○〔一統志〕「七・里ーー在二釣・臺之西一」。

〔急灘〕はやせ。○〔黃損〕「ーー鶯・斷綠・楊風」。

〔峻灘〕けはしきはやせ。○〔宋之問〕「合・流環二ーー一」。

〔惡灘〕前に同じ。○〔楊萬里〕「ーー洶・々雷州吼」。

【灘】ダン、ナン。奴案切 翰　水の奔り流るゝ貌にいふ字。

【灘】タン、トン。他含切 覃　タン。他案切 翰　涒ーは、太歲の中に在ること。

【灘】カン。呼旱切 旱　水濡ひて乾く、かわく。

【氵靈】レイ、ライ。郎計切 霽　みつ、〔滿〕、ふさぐ、ふさがる、〔塞〕。○〔莊〕「陰・陽之氣有レー」。

二十畫

【灙】タウ。底朗切 養　水の貌にいふ字。

【氵旟】ヨ。以諸切 魚　水の搖蕩する貌にいふ字、たゞよふ。

【灚】カウ、ケウ。吉巧切 巧　水を攪する聲にいふ字。

【灛】セン、ゼン。昌善切 銑　大水の溢れ出でてなりたる小さき水。○〔爾〕「汝爲レー」。

【氵獻】ゲツ、ゲチ。魚列切 屑　罪を議す、はかる、しらぶ、たゞす。

【瀆】トウ、ヅ。大透切 宥　水。

【瀨】バン、マン。莫半切 翰　水の貌にいふ字。

【瀼】ジヤウ、ナウ。汝羊切 陽　瀼に同じ、ごろ。

【氵霖】サン。淸贊切 勘　息絶ゆ、たゆ。○〔乾坤鑿度〕「天・地之道不レー」。

廿一畫

【灢】ダウ、ナウ。奴朗切 蕩　瀼に同じ、水の流るゝ貌にいふ字。

【灝】カウ、ゴウ。下老切 皓　おほいなり、〔大〕。

【氵籥】ヤク。以灼切 藥　瀹に同じ。○〔酉陽雜俎〕「有二ーレ鮎法一」。

【灝】カウ、ゴウ。下老切 皓　カン、コン。古禫切 感　㊀際涯なし、ひろし、おほいなり。○〔揚雄〕「商・書ーー爾」。○

㊀豆の汁。○〔長箋〕「釋氏以レ—浴レ身、故四月八日用レ豆浴レ佛」。「——」。
〔灞々〕ひろき貌にいふ語。○〔皮日休〕「亦能制二

【灞】ハ、へ。必駕切 禡
水の名。

【灟】ショク、ソク。朱欲切 沃
㊀形無し、むなし。○〔淮〕「洞々——」。㊁目の汁、なみだ。㊂うや〳〵し、(恭)。

【灠】ラン、ロン。盧瞰切 勘
㊀湧く泉、いづみ、ゐみづ。㊁濫に同じ。

【灠】ラン、ロン。魯敢切 感
㊀漬けたる果。㊁そむ、(染)。

【氵亹】ボン、モン。莫奔切 元
山の水を絶つにいふ字、よこぎる。

【灡】ラン。洛干切 寒 魯旱切 旱 郞肝切 翰
潘汁、こめしろ、ゐろみづ。○〔周、註〕「潘—淺餘」。

廿二畫

【灢】ダウ、ナウ。奴朗切 養 乃浪切 漾
水濁る、にごる。

【灣】ワン、エン。烏還切 刪
水の曲がり入りたる處、いりえ。○〔沈佺期〕「舟險萬重—」。
〔銀灣〕あまのがは。○〔李賀〕「——曉轉流二天東一」。
〔澄灣〕水のきよきいりえ。○〔王勃〕「新月照二——
〔深灣〕水ふかきいりえ。○〔杜牧〕「復引二舟於——」。「—」。
〔溥灣〕なみたかきいりえ。○〔蘇軾〕「古佛臨二——」。
〔綠灣〕みどりのみづのいりえ。○〔宋本〕「百尺吳舩漾二——」。

【灘】カン。呼旰切 翰
水濡ひて乾く、かわく。

廿三畫

【氵蠱】コ、ク。果五切 麌
一種の水蟲、みづむし。

【氵驛】エキ、イヤク。羊隻切 陌
水の流るゝ貌にいふ字。

【灩】エン。以贍切 豔 以冉切 琰
水波動搖す、うごく、ゆるぐ、たゞよふ。○〔明河賦〕「吐二霄光一而瀲—」。

【氵篤】サン、セン。所患切 諫
馬を洗ふ、あらふ。

【灓】ラン。落官切 寒
漏れ流る、もる、ながる。

【灥】シュン、セン。松倫切 眞 昌緣切 先
三の泉、又、衆くの流れ。

【灥】セン、ゼン。從緣切 先
泉に同じ。

【灦】ケン。呼典切 銑 馨甸切 霰
水の深く淸くして徹り明かなること。○〔郭璞〕「混瀚—渙」。

廿四畫

【氵鹽】灩に同じ。

【氵鹽】エン。以贍切 豔
鹽に醃く、つく、ゐほづけ。

【氵贔】ヒ、ビ。平秘切 寘
水の貌にいふ字。

【灨】カン、コン。古禫切 感 古暗切 勘 コウ、ク。古送切 送
江西省にありて江水に注ぐ水の名、

廿八畫

【灩】灔の本字。

廿九畫

【灪】ウツ、チチ。紆物切 物
大水の貌にいふ字、ひろし、おほいなり、又、高峻の貌にいふ字、たかし。○〔木華〕「澎濞—瀼」。

三十畫

【氵驫】ヒウ、フ。甫休切 尤
水の聲にいふ字。

火部（灬）

【火】クワ。呼果切 哿
㊀ひ。
(い)燃えて熱さ光さを有する一種の氣體。○〔戰〕「抱二水於河一、而取二—於燧一」。
(ろ)ひを使用すること。○〔禮〕「有下不—食者上」。
(は)燃ゆるもの、熱して赤くなりたるもの。○〔南〕「乃令下多擲レ—爲二—城一以斷中其路上」。
(に)ひかりあるもの、あかりを發せるもの。○〔晉〕「練囊盛二數十螢—一以照レ書」。
(ほ)燒失の災。○〔左〕「陳不レ救レ—」。○〔詩〕「秉畀二炎—一」。
(へ)陽氣の最も盛んなること。
(と)物に激して心氣逆上すること。○〔元稹〕「心——自生還自滅」。
(ち)五行の一。○〔書〕「五行、一日水、二日—」。
㊁やく。
(い)ひをたく、もやす。○〔禮〕「不二以—田一」。
(ろ)ひにかゝる、もゆ。○〔春秋〕「成周宣榭—」。
㊂星の名。○〔書〕「日永星—」。
㊃兵隊の一部分、くみ、又、同一の仲閒の義にもいふ。○〔唐〕「府兵十人爲レ—、—有レ長」。
〔星火〕大火の心星のこと。○〔李密〕「州司臨レ門急二於——一」。
〔大火〕前に同じ。○〔詩、傳〕「火——也」。
〔流火〕大火の心星七月の昏に至りくだりて西流するをいふ。○〔詩〕「七月——」。
〔明火〕太陽より取りたるひ、又、あかるきひのこと。○〔周〕「凡卜以二——一爇燋」。
〔人火〕家屋などの人のあやまちよりやくること。○〔左〕「凡火——日レ火」。
〔野火〕のはらにもゆる火。○〔史〕「——不レ及」。
〔烽火〕のろし。○〔後漢〕「築二亭候一修二——一」。
〔湯火〕ゆとひと。○〔漢〕「故能使下其衆蒙二矢石一赴中——上」。
〔禁火〕ひをたくことをとゞむ。○〔後漢〕「不レ——民安作」。
〔水火〕みづとひと、轉じて、交情の惡しきことにいふ語。○〔蜀〕「延以爲二至忿有レ如二——一」。

〔香火〕仙佛に供する香のひ、又、仙佛に事ふるとにいふ語。○〔晉〕「一一死、器猶存」。
〔舉火〕火をたくと、又、轉じて生計をたつるにいふ。○〔北〕「並待而一レ一」。
〔爓火〕ともしび。○〔莊〕「一一不レ息」。「北螢赤ニ」。
〔靺火〕螢の異名。○〔事文類聚〕「螢名ニ一一ニ、以ニ
〔烟火〕けむりとひと、けむりたちひもゆると、又、たくと、かしぐと。○〔史〕「一一萬里」。
〔石火〕石をうちていでたる火。○〔劉歆〕「人之短生、猶如ニ一一一燗然以過ニ」。
〔猛火〕勢のはげしき火。○〔書〕「烈ニ于一一一ニ」。
〔烈火〕前に同じ。○〔謝靈運〕「一一縱ニ炎烟ニ」。
〔失火〕あやまちより火をいだして家屋などをやくと。○〔穀梁〕「伯姫之舍一レ一」。
〔放火〕火をつけてやく。○〔易林〕「從レ風一レ一」。
〔縱火〕前に同じ。○〔史〕「從レ下一レ一焚レ廩」。
〔炬火〕たいまつの火。○〔儀、註〕「使レ從役持ニ一一ニ」。
〔篝火〕かゞりび。○〔高啓〕「一一樹間照」。
〔燎火〕前に同じ。○〔李孝〕「一一如ニ奔電ニ」。
〔燈火〕ともしび。○〔漢〕「奔官御ニ一一ニ至レ明」。
〔發火〕火をつけおこすと。○〔呉〕「同時一レ一」。
〔把火〕あかしをもつと。○〔白居易〕「中宵一レ一」。
〔吹火〕いきもて火をふくと。○〔淮〕「或一レ一而然」。
〔鬼火〕燐の氣より發する青色の火。○〔王逸〕「一一兮熒々」。
〔燐火〕前に同じ。○〔庾信〕「一一宵飛」。
〔漁火〕すなどりする者のたきたる火。○〔張繼〕「江楓一一對ニ愁眠ニ」。
〔抱薪救火〕すくうて益なきのみならず却てますく其の勢を增すとにいふ語。○〔史〕「以レ地事レ秦譬猶ニ一一一一ニ」。

【巛】火に同じ。

一畫

【灮】光の本字。○〔波羅密多經〕「譬如ニ影一一雖レ可ニ顯說ニ無ニ實法ニ」。

【灯】テイ、チヤウ。當經切 [青] 燈の字と同じとなすは非なり、烈火、はげしきひ。

【灸】灸の省字。

【⿵冂火】クワ。呼果切 [哿] 火色を發す、おこる。

【灰】クワイ、ケ。呼恢切 [灰] ㊀燃ゆべき性分のもの盡きて殘りたる餘燼、はひ。○〔禮〕「毋レ燒レ一」。㊁燒盡すると、滅絕すると。○〔後漢〕「燔ニ康居ニ一ニ珍奇ニ」。
〔死灰〕火氣なきはひのと。○〔莊〕「而心固可レ使レ如ニ一一一乎」。
〔心灰〕こゝろのひやゝかなると。○〔白居易〕「一一不レ似ニ爐中火ニ」。
〔蛤灰〕はまぐりのからを燒きてはひとなしたるもの。○〔漢制考疏〕「故以ニ一一ニ爲ニ叉灰ニ」。
〔蜃灰〕前に同じ。○〔周、註〕「宗廟館橫之器、皆一一飾レ之」。
〔寒灰〕ひやゝかなるはひ。○〔魏〕「一一一滅更燃」。

【灱】カウ、ケウ。虛交切 [肴] ㊀あつし(熱)。㊁かわく(乾)。㊂さらす(暴)。

【⿰火刃】タウ、テウ。丑交切 [肴] やく(熱)。

【灲】灼に同じ。

三畫

【灴】コウ、ク。胡公切 [東] ㊀火盛んなり。㊁かゞりび(燎)。

【灵】レイ、リヤウ。郎丁切 [青] ㊀小しく熱する貌にいふ字。㊁俗の靈の字。

【⿱天火】テン、ドン。直廉切 [鹽] 小しく熱す、やく。

【⿱天火】タン、ドン。徒甘切 [覃] ㊀前條に同じ。㊁かゞりび(燎)。

【⿱廾火】セン。士戀切 [霰] 火きて種まく、たれまく。

【灸】キウ、ク。己有切 [有] 體に火を點じて灼くと、療病の一方として用ふ、やいと。○〔史〕「闕ニ一鑱石ニ」。
〔無病自灸〕徒に辛苦するとにいふ語。○〔莊〕「丘所レ謂一レ一而一一也」。

【⿱久火】キウ、ク。居又切 [宥] ㊀前條に同じ。㊁さゝふ(柱)。○〔周〕「一ニ諸牆ニ」。

【⿰火乇】タ、デ。陟駕切 [禡] ㊀火燄るさかる、さかんなり。㊁火の聲にいふ字。

【灺】ジヤ、ゼ。徐野切 [馬] タ、ダ。待可切 [哿] 燭火の燼、もえかす、もえさしり。○〔李商隱〕「香一燈光奈レ爾何」。

【灻】赤の本字。

【灼】シヤク、サク。之若切 [藥] ㊀やく(燒)。○〔國〕「一ニ其中一必文ニ於其外ニ」。㊁あつし(熱)。○〔常袞〕「何堪ニ鬱一一ニ」。㊂あきらか(明)。○〔書〕「我其克一知ニ厥若ニ」。㊃盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「一一其華」。㊄おごろく(驚)。○〔後漢〕「寔懍川悼一一」。
〔熏灼〕ふすぶりやくると、又、勢のさかんなると。○〔唐〕「勢焰一一」。
〔照灼〕かゞやきあきらかなると。○〔陸〕「光彩一一」。
〔爍灼〕火にやく。○〔論衡〕「其身體若ニ一一之狀ニ」。
〔焚灼〕前に同じ。○〔王粲〕「患ニ祗熾之一一ニ」。
〔焦灼〕前に同じ。○〔神仙傳〕「衣物悉不ニ一一ニ」。
〔燒灼〕前に同じ。○〔梁武帝〕「救ニ一一于火宅ニ」。
〔熾灼〕火のさかんなる意より轉じて他のものゝさかんなるにもいふ語。○〔唐〕「威寵一一」。
〔炎灼〕火のもゆると。○〔魏武帝〕「心如ニ一一ニ」。

【灼】セウ。之邵切 [嘯] 炤に同じ。

【災】サイ。祖才切 [灰] わざはひ。(い)家屋物貨の燒失すると、火難に罹ると。○〔春秋〕「御廩一」。(ろ)禍害、さいなん。○〔書〕「眚一肆赦」。
〔禦災〕わざはひを防ぎとゞむ。○〔禮〕「能一ニ大災一則祀レ之」。
〔救災〕禍害にかゝりたるをたすく。○〔左〕「一レ一恤レ鄰道也」。
〔三災〕火と水と風との三つの患害のと。○〔庾信〕「忽度ニ一一ニ」「千一一ニ」。
〔禳災〕禍害を祓ひ去る。○〔韓愈〕「一一善自足」。
〔避災〕禍害に遠ざかりてかゝらぬやうにす。○〔國〕「一ロ一」「一ニ北一也」。
〔致災〕わざはひを招き呼ぶ。○〔北〕「未レ聞ニ由レ聖以

【灾】災に同じ。

【⿰火亏】ア。烏臥切 [箇] あたゝか(煖)。

【炪】シュ、ス。芻句切 遇
やけつち（火-土）。

【炋】チ。陟利切 寘
たひらか（平）。

四畫

【炁】氣に同じ。○〔關尹〕「以二一-—生二萬-物一」。

【炂】ショウ、シュ。職容切 冬
㊀熱に化す、かはる。㊁熱に中たりて仆る、たふる。㊂汁を熱せしむ、にる。

【炃】フン、ボン。符分切 文
焚に同じ。

【炃】ホン、ボン。蒲悶切 願
火おこる。

【烬】シン、ジン。詳刃切 震
燼の殘餘、もえさしり、もえのこり。

【炄】チウ、ニユ。女久切 有
乾かんとす、かわきかゝる、一説に、半ば乾く、かわきかけ。

【炅】ケイ、キヤウ。古迥切 迥
㊀あらはる（見）。㊁ひかる（光）。

【㶳】エイ、ヤウ。於警切 梗
烟の出づる貌にいふ字、けぶる。

【炆】ブン、モン。無分切 文
あたゝか（溫）。

【炇】ハク、ホク。匹角切 覺　ホク、ボク。普木切 屋
火烈し、はげし。

【炈】エキ、ヤク。營隻切 陌
㊀陶器を製する竈の窓、かまどまど。㊁喪家（つぶれいへ）の塊竈、つちかまど。

【炉】俗の爐の字。

【炢】クツ、コチ。許勿切 物
火氣の盛んなる貌にいふ字。

【炊】スヰ。昌垂切 支
㊀かしぐ（爨）。○〔公羊〕「易レ子而食レ之、折レ骸而—レ之」。㊁吹に同じ、ふく。○〔荀〕「可二—而傹一也」。
（蒸炊）おしかしぐ。○〔韓愈〕「如下坐二深-甑一遭中——上」。
（春炊）うすつくとかしぐと。○〔高啓〕「新-婦——見夜泣」。
（旅炊）たびにてかしぐと。○〔陸游〕「——雜二沙-上一」。

【炊】スヰ。尺僞切 寘
—累は、動き升る貌にいふ語。○〔莊〕「從-容無-爲而萬-物——累焉」。

【㶧】ドン、ノン。奴困切 願
あつし（熱）。

【炳】ドン、ノン。弩本切 阮
あたゝか（煖）。

【炋】ヒ。敷悲切 支
火。

【𤆍】前條に同じ。

【炌】カイ、ケ。口介切 卦
明かなる火。

【炍】ハン、バン。普半切 翰
そむく（偭）。

【炏】カイ、ケ。苦戒切 卦
熾火の盛んなるにいふ字、さかる、おこる、さかんなり。

【炐】ハウ、ホウ。匹降切 絳
㊀火の聲にいふ字。㊁物の火に遇ひて張り起こるにいふ字、ふくる。

【炑】ボク、モク。莫木切 屋
火熾んなり、さかる、おこる。

【炒】サウ、セウ。初爪切 巧
いる（熬）。○〔舒頓〕「生-稻—二晨-鑊一」。

【炓】レウ。落蕭切 嘯
火の光の貌にいふ字。

【炔】ケイ、ケ。古惠切 霽
炅に同じ。

【炔】ケツ、ケチ。翾劣切 屑
㊀煙の貌にいふ字。㊁火初めて燃ゆ、もえかゝる、もえそむ、もゆ。

【炔】ケツ、クワチ　古穴切 月
前條の㊀に同じ。

【炎】エン、オン。于廉切 鹽
㊀やく（焚）。○〔書〕「火—二崑-岡一、玉-石倶焚」。㊁もゆ（燃）。○〔書〕「火曰二—-上一」。㊂あつし（熱）。○〔詩〕「赫-々——」。㊃さかる、おこる（熾）。○〔屈平〕「南有二—火千-里一」。㊄もえ上がる火光の端末、ひさき、ほのほ、ほさき。○〔後漢〕「光——燭二天-地一」。㊅進みおこる貌にいふ字。○〔國〕「日長——」。㊆燃え光る貌にいふ字。○〔漢〕「——燎-火」。㊇盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「秉畀二—-火一」。㊈南方の天、又、東北の風。○〔呂氏春秋〕「南-方曰二—天一、東-北曰二——風一」。

【炎】タン、ドン。徒甘切 覃
美しく盛んなる貌にいふ字。○〔莊〕「大-言——」。

【炎】エン。以贍切 豔
焰に通じ用ふ。○〔漢〕「其氣——取レ之」。

【炕】カウ。苦浪切 漾
㊀火の上に加へ置く、かわかす、あぶる。○〔詩〕「—レ火曰レ炙」。㊁極めて乾枯す、かわく、かる。○〔漢〕「——陽暴-虐」。㊂皇張す、はる、たかぶる。○〔唐〕「驕——以導二盛-陽一」。㊃たつ、たゆ（絕）。○〔揚雄〕「——二其氣一」。㊄煥めたる牀、支那の北方の人の用ふるもの。○〔馬祖常〕「土-房通レ火爲二長——一」。

㊅抗に同じ、あぐ、あがる。○〔揚雄〕「―二浮柱之飛榱一」。
㊆亢に通じ用ふ。○〔漢〕「―龍絕レ氣」。

【炕】カウ。呼郎切 陽
㊀はる、(張)。○〔爾〕「葉蕢聶脣―」。
㊁やく、(灼)。

【炖】トン。他昆切 元
㊀風の加はりて火光の盛んなる貌にいふ字、又、火光のさかりおこりてかがやく貌にもいふ字。
㊁赤き色、あか。

【炖】トン、徒渾切 元　ドン。切 杜本 阮
火の盛んなる貌にいふ字。

【炘】キン、コン。許斤切 文
焮に同じ。○〔揚雄〕「垂二景炎之――一」。

【炌】キン、コン。許謹切 吻
あつし、(熱)。

【炙】セキ、シャク。之石切 陌
㊀火の上に加ふ、やく、あぶる。○〔書〕「焚二―忠良一」。
㊁いかる、(赫)。○〔詩、疏〕「乃又來赫二―我一」。
㊂親しみ近づく、ちかづく、ちかづきてあぶらるゝさの義。○〔孟〕「況於レ親二―之一乎」。
〔燔炙〕やきあぶること。○〔詩〕「或―或―」。
〔膾炙〕前に同じ。○〔詩、疏〕「今人―二―歟レ之」。

【炚】クヮウ。居匡切 陽
明かに照らす、てらす、かゞやく。

【災】籒文の災の字。

【炱】シ。息茲切 支
熻くを熄む、やむ。

五畫

【炟】タツ、タチ。當割切 曷
㊀火起こる、おこる。
㊁やく、たく、(爆)。

【炠】カフ、ゲフ。胡甲切 洽
㊀火の貌にいふ字。
㊁火もて乾かす、かわかす。

【炡】セイ、シャウ。諸盈切 庚
熻く、かゞやく。

【炢】ヂユツ、ヂユチ。直律切 質
㊀あたゝか、(煖)。㊁煙出づ。

【炧】チョ、ト。中呂切 語
ふすぶ、(燻)。

【炣】カ。口我切 哿
ひ、(火)。

【炤】セウ。之少切 篠
照に同じ、てる、てらす。○〔荀〕「――兮其用レ知之明也」。
〔即炤〕螢の一名、ほたる。○〔爾〕「熒火――」。

【炤】セウ。之遙切 蕭
昭に同じ、あきらか。○〔淮〕「釋二其――一而道二其冥々一也」。

【炤】灼に同じ。

【炥】フツ、符勿 ボチ。切 物　ハツ、普活 ハチ。切 曷
火の貌にいふ字。

【炥】ヒ。方未切 未
㊀前條に同じ。㊁氣熱す、あつし。

【炦】ハツ、バチ。蒲撥切 曷
火氣、ほのほ。

【炦】ベツ、ベチ。步結切 屑
氣上る、のぼる。

【炢】バツ、マチ。莫撥切 曷
火の色。

【炨】タ、ダ。待可切 哿
炧に同じ。

【炨】前條に同じ。

【炩】レイ、リヤウ。力正切 敬
ひ、(火)。

【炪】セツ、セチ。職悅切 屑
火光、ひかり。

【炪】チユツ、チユチ。丑律切 質
㊀むすぼる、(鬱)。㊁煙の貌にいふ字。
㊂火の聲にいふ字。

【炫】ケン、ゲン。熒絹切 霰
光明を揚ぐ、ひかる、かゞやく、てらす、あきらか、又、火光、ひかり、かゞやき。○〔戰〕「―二熿于道一」。
〔熿炫〕かゞやくこと。○〔馮衍〕「顯二玆燈之――一」。

【炫】ケン。胡畎切 銑

【炬】イ。延知切 支
かゞやく、(燿)。

【炬】火の貌にいふ字。

【炪】イウ、於九 ウ。切 有　於糾 切 尤
乾かんと欲す、かわきかゝる。

【炬】キヨ、コ。其呂切 語
葦などを束ねて火を燃やし暗を照らすに用ふるもの、即ちかゞりび、またたいまつ。○〔史〕「牛-尾―火」。
〔猛炬〕火のさかんなるたいまつ。○〔梅堯臣〕「――方烈」。
〔松炬〕たいまつ。○〔蘇軾〕「更然二――一照二幽深一」。
〔火炬〕前に同じ。○〔晉〕「乃作二――一」。
〔燎炬〕かゞりび。○〔隋〕「――照レ地」。

【炭】タン。他安切 寒　他旦切 翰
㊀すみ。
(い)燒けたる木の黑くなりて殘りたるもの、火氣を傳へて火さなすに用ふべし。○〔禮〕「草-木黃-落、乃伐レ薪爲レ―」。
(ろ)又、其の火氣の傳はりて火となりたるもの。○〔韓〕「犯二白-刃一蹈二鑪―一」。
㊁灰。○〔周〕「以二蜃―一攻レ之」。
〔石炭〕燃料となす鑛物の名、前世界の木の化石したるものといふ、いしずみ、一に、煤炭ともいふ。○〔徐陵〕「――擬二輕紈一」。
〔燄炭〕けしずみ、薪の燃え盛さんとするものを消したるもの、一に、燃炭。○〔白居易〕「日-暮半-爐――火」。
〔懸炭〕古昔の時氣をうかゞふ法、炭を衡に掛けて衡を平かならしむ、冬至後には陽氣の盛に炭の輕くなりて揚がり、夏至後には陰氣盛に炭重くなりて下がる。○〔魏〕「潛-影淸-耀――之期或爽」。

〔塗炭〕　泥と火と、又、困難なることにいふ語。○〔孟〕「坐ニ於一ー一ー」。
〔氷炭〕　こほりと火と、はなはだ相違せる物事にいふ語。○〔後漢〕「亦猶ニーー不レ可レ同レ器」。
〔燒炭〕　すみをやきてつくる。○〔魏〕「當ニ若ーーニー於山ー」。

【炮】　ハウ、ベウ。蒲交切　㊂肴
㊀全體のまゝ物を裹みて火に燒く、まるやきにす、つゝみやきにす、あぶる、やく。○〔詩〕「ーレ之燔レ之」。
㊁柴を燔きて祭ること。○〔周〕「九祭三曰、ーー祭」。
㊂庖に通じ用ふ。○〔漢〕「ーー犧氏之王ニ天下ー」。
〔毛炮〕　豚などをけぐるみ燒く。○〔詩〕「ーー胾羹」。
〔烹炮〕　にるとやくと。○〔楊惲〕「ー羊ーレ羔」。
〔燔炮〕　前に同じ。○〔韓愈〕「ーー煨燼孰飛奔」。
〔蒸炮〕　むしやきにす。○〔齊民要術〕「ーー美ニ於常魚ー」。

【炰】　ハウ、ベウ。披教切　㊂效
やく、（灼）。○〔齊民要術〕「蒸魚法有ニ胡ー肉ー」。

【炯】　ケイ、キヤウ。戸茗切　㊂迥
耿に同じ、あきらか、ひかり。○〔李羣玉〕「金沙發ニ光ーー」。
〔炯炯〕　あきらかなる貌にいふ語。○〔蘇軾〕「ーーー時ー出」。

【炰】　ハウ、ベウ。薄交切　㊂肴
㊀炮に同じ、やく。○〔詩〕「ーレ鼈膾レ鯉」。
㊁自ら矜りて氣の健き貌にいふ字、ほこる、たけし。○〔詩〕「女ーーニ烋于中國ー」。

【炰】　ヒウ、フ。俯九切　㊂有
炰に同じ。

【炱】　タイ、徒來切　ダイ。　タイ。湯來切　㊂灰
すゝ、（煤）。

【炲】　前條に同じ。

【炳】　ヘイ、ヒヤウ。兵永切　㊂梗
著明、あきらか、いちじるし。○〔易〕「大人虎變、其文ー也」。
〔炳炳〕　あきらかなること。○〔唐〕「ーーー如レ丹」。
〔發炳〕　前に同じ。○〔後漢〕「文章ーーー」。
〔彪炳〕　前に同じ。○〔鍾嶸詩品〕「ーーー可レ翫」。

【炴】　アウ。於兩切　㊂養　エイ、ヤウ。於郢切　㊂梗
火光、ひかり。

【炵】　トウ、ヅ。他冬切　㊂冬
㊀火の色。㊁火のおこる貌にいふ字。

【炶】　カン、胡甘切　㊂覃　ゴン。切　セン、舒贍切　ゼン。切　㊂豔
火光の亙り行く貌にいふ字、ひらめく。

【烅】　リウ、ル。力救切　㊂宥
ひ、（火）。

【炷】　シユ、ス。之戍切　㊂遇
燈中の火を點ずるもの、とうしん、燈心。○〔讀曲歌〕「然レ燈不レ下レ炷、有レ油那得レ明」。
〔燈炷〕　とうしみ。○〔南〕「或作ニーー一用レ之不レ知レ盡」。
〔光炷〕　はさきのこと。○〔淨住子〕「ーー非レ久」。

六畫

【烄】　カウ、ケウ。古巧切　㊂巧
木を交へて燃やす、もやす、たく。

【烅】　キヨク、ケキ。忽域切　㊂職
火光、ひかり。

【烆】　カウ、ギヤウ。戸康切　㊂庚
たいまつ、（火炬）。

【烎】　オン。烏痕切　㊂元
微火にて肉を溫む、あたゝむ。

【烈】　レツ、レチ。力蘖切　㊂屑
㊀はげし。
（い）火はなはだ熱し。○〔左〕「火ー民望而畏レ之」。
（ろ）たけし、（猛）。○〔書〕「天吏逸德、ーニ于猛火ー」。
（は）あらし、（暴）。○〔史〕「皆以ニ酷ーー爲レ聲」。
（に）節操はなはだ正し。○〔史〕「ーー士徇レ名」。
（ほ）はなはだ難し。○〔詩〕「南山ーーー」。
（へ）威武の盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「ーーー征師」。
㊁うつくし、（美）。○〔詩〕「烝ニ衎ーー祖ー」。
㊂ひかる、（光）。○〔詩〕「休有ニー光ー」。
㊃事業、わざ。○〔書〕「ーー祖之成德」。
㊄殘餘、のこり。○〔詩序〕「宣王承ニ厲王之ーー」。
㊅害毒、そこなひ。○〔漢〕「若ニ湯之旱ー則桀之餘ー」。
㊆憂ふる貌にいふ字。○〔詩〕「憂心ーーー」。
㊇列に同じ、つらなる。○〔詩〕「火ー具擧」。
㊈裂に同じ、さく。○〔漢〕「軍人乃分ニー葬身支節ー」。
㊉兵隊の一小部分。○〔通典〕「五人爲レー、ー有ニ頭目ー」。
〔武烈〕　猛く威あること。○〔後漢〕「其二日、褒ニーーー」「也」。
〔禍烈〕　害毒のこと。○〔漢〕「天下明知ニーーー及ニ己ー」。
〔剛烈〕　こはく猛きこと。○〔後漢〕「夫ーーー表レ性、鮮ニ能優寬ー」。
〔風烈〕　おもむきのおもかげ。○〔漢〕「號令溫雅、有ニ古之ーーー」「百世ー」。
〔芳烈〕　かぐはしきいさを。○〔晉〕「併ニーーー奮ニ乎」
〔芬烈〕　前に同じ。○〔司馬相如〕「芬香ーーー」。
〔忠烈〕　信實の心のはげしくあること。○〔唐〕「黃裳ーーーー」「ーー」、堯然不レ可レ撓也」。
〔猛烈〕　たけくはげしきこと。○〔蘇軾〕「斬レ蛟聞ニーーー」。
〔前烈〕　先時の餘光。○〔書〕「公劉克篤ニーーー」。
〔成烈〕　成し遂げたる事業。○〔書〕「篤ニ前人ーーー答ニ其師ー」。
〔光烈〕　昭明なるいさを。○〔易林〕「ーーー無レ窮」。
〔大烈〕　おほいなる光耀。○〔書〕「以揚ニ武王之ーーー」。
〔先烈〕　前時の餘業。○〔書〕「俾ニ克紹ニーーー」。
〔遺烈〕　前に同じ。○〔唐〕「且言ニ五王ーーー」。
〔寒烈〕　寒氣のはげしくあること。○〔後漢〕「時天ーーー」。
〔功烈〕　いさを。○〔左〕「銘ニ其ーーー」。
〔勳烈〕　前に同じ。○〔後漢〕「ーーー獨昭」。
〔威烈〕　いきほひはげしくあること。○〔漢〕「畏ニ尚ーーー」「ーー」。
〔休烈〕　善美なる光輝。○〔後漢〕「薦レ功以揚ニーーーー、而章ニ緝熙ー」。
〔鴻烈〕　大いなるいさを。○〔揚雄〕「不レ足ニ以揚ニーー
〔孝烈〕　父母に事ふる心のはげしくあること。○〔後漢〕「以ニ剛強ーーー著レ名」。
〔勁烈〕　強く威あること。○〔後漢〕「二蘇ーーー」。
〔霜烈〕　はげしくあること。○〔後漢〕「風行ーーー」。
〔嚴烈〕　前に同じ。○〔魏〕「性ーーー能摧ニ挫豪強ー」。
〔驍烈〕　武勇あること。○〔魏〕「ーーー有ニ父風ー」。

〔誠烈〕信實の心のあること。○〔禮〕「皆是古之｜｜」。
〔雄烈〕をゝしくあること。○〔魏〕「｜｜知ㇾ名」。
〔壯烈〕前に同じ。○〔魏〕「執ㇾ心｜｜、不ㇾ畏ニ强禦ー」。
〔剛烈〕剛强なること。○〔魏〕「性｜｜敢直言」。
〔慘烈〕きびしくあること。○〔西京賦〕「冰霜｜｜」。

【烈】レイ。力制切　[霽]
㊀前條の㊀に同じ、はげし。○〔詩〕「二之日栗｜」。
㊁あぶる（炕）。○〔詩〕「載熊載｜」。
㊂厲に通じ用ふ。○〔詩〕「｜假不ㇾ瑕」。

【烇】セン。七選切　[霰]
火の貌にいふ字。

【炦】ベツ、ボチ。房越切　[月]
ひ（火）。

【烉】クワン。呼貫切　[翰]
火光の明かなること。

【烊】ヤウ。余章切　[陽]
あぶる（炙）。

【烋】カウ、ケウ。虛交切　[肴]
自ら矜りて氣の健かなる貌にいふ字。○〔詩〕「女炰ニ｜于中國ー」。

【烋】キウ、ク。香幽切　[尤]
㊀うつくし（美）。㊁よし（善）。㊂やはらぐ（和）。㊃ふすぶ（熏）。㊄かすか、すこし（微）。㊅さいはひ（福・祿）。㊆よろこび（慶・善）。

【烌】キウ、ク。虛尤切　[尤]
はひ（灰）、吳の俗言。

【烍】セン。蘇典切　[銑]
のび（燹）。

【㶳】ジン。徐刃切　[震]
燼に同じ。

【烏】チ、ウ。哀都切　[虞]
㊀一種の鳥、からす、色黑くして聲喧し。○〔詩〕「莫ニ黑匪ㇾ｜」。
㊁黑色、くろし。○〔史〕「北方盡｜驪馬」。
㊂歎息の聲。○〔埤雅〕「｜又爲ニ歎詞ー者」。
㊃なんぞ、いづくんぞ（何）。○〔史〕「｜有ニ此事ー哉」。
〔渴烏〕曲筒をなし空氣をもて水を引きあぐる器の名。○〔後漢〕「作ニ翻車｜｜ー」。
〔陽烏〕鴻雁の屬。○〔本草〕「｜｜出ニ建州ー」。
〔雅烏〕楚の地に產するからす。○〔小爾〕「小而腹下白非ニ反哺者ー、謂ニ之｜｜ー」。
〔踆烏〕三足のある烏のこと、古來日の中に在りといへるもの。○〔淮〕「日中有ニ｜｜ー」。
〔曙烏〕夜のあけがたのからす。○〔梁簡文帝〕「朝芳拂ニ｜｜ー」。
〔棲烏〕塒につくからす。○〔王勃〕「｜｜城上返」。
〔馴烏〕畜ひならしたるからす。○〔沈炯〕「｜｜逐ニ飯聲ー」。
〔素烏〕白き羽いろのからす。○〔班固〕「獲ニ白雉ー兮效ニ｜｜ー」「以ニ舉首ー」。
〔神烏〕神靈なるからす。○〔傅休奕〕「懷ニ｜｜ー」。
〔靈烏〕（い）前に同じ。○〔傅休奕〕「表以ニ｜｜ー、物ニ象其類ー」。（ろ）太陽のこと。○〔庾信〕「陽燮則｜｜獨明」。
〔孝烏〕反哺の孝をなすからす。○〔成公綏〕「有ニ｜｜ー集ニ余之廬ー」。
〔寒烏〕冬の日のからす。○〔沈約〕「｜｜兮驟飛」。
〔霜烏〕前に同じ。○〔白居易〕「｜｜聚ニ古城ー」。
〔晨烏〕夜のあけがたに塒を離るゝからす。○〔張融〕「｜｜宿ニ東隅ー」。
〔曉烏〕前に同じ。○〔顧況〕「禁柳烟中聞ニ｜｜ー」。
〔群烏〕むれゐるからす。○〔韓愈〕「｜｜集ニ庭樹ー」。
〔晚烏〕夕ぐれに塒にやどるからす。○〔歐陽修〕「｜｜藏ㇾ柳傍ニ晚照ー」。
〔野烏〕野の間にすむからす。○〔高啓〕「荒烟落日｜｜啼」。

【烐】シウ、シユ。之由切　[尤]
火光行く、ひらめく。

【烑】エウ。餘昭切　[蕭]
ひかる、ひかり（光）。○〔淮〕「挾ニ日月ー而不ㇾ｜、潤ニ萬物ー而不ㇾ耗」。

【烒】ショク、シキ。賞職切　[職]
火の貌にいふ字。

【𤇍】ジン、ニン。忍甚切　[寢]
飪に同じ。

【烓】エイ、アイ。淵畦切　[齊]　ケイ、キヤウ。犬穎切　[梗]
㊀擕へ行くべき小さき竈、古昔は、其の上にて火を燃やし物を照らすの用をなせしこそ、おきかまど。○〔詩傳〕「｜竈也」。
㊁あきらか（明）。○〔揚雄〕「｜明也」。
〔效烓〕明かなること。○〔揚雄〕「｜｜明也」。
〔照｜〕前に同じ。○〔虞溥熙〕「行尉火｜｜」。

【烓】ケイ、口定切　[徑]　キヤウ。口迥切　[迥]　キ。丘癸切　[紙]　イ。於避切　[寘]
前條の㊀に同じ。

【烓】ケイ、古惠切　[霽]　ケ。エツ、於決切　[屑]　エチ。
前々條の㊀に同じ。

【烔】トウ、ヅ。徒紅切　[東]
㊀あつし（熱）。㊁やく（爇）。

【烔】トウ、ヅ。徒弄切　[送]
火の貌にいふ字。

【㶴】シ。昌氏切　[紙]
㊀盛んなる火。㊁盛んなり。

【烕】ケツ、ケチ。許劣切　[屑]
ほろぶ、ほろぼす（滅）。○〔詩〕「褒姒｜ㇾ之」。

【烕】ベツ、メチ。莫列切　[屑]
火滅す、きゆ。

【烖】災の本字、わざはひ。○〔禮〕「｜及ニ其身ー」。

【烼】キツ、キチ。休必切　[質]
㊀くるふ（狂）。㊁いかる（怒）。

【烗】カイ、ケ。苦戒切　[卦]　口哀切　[灰]
さかる、さかんなり（熾）。

【熈】イ。弋支切　[支]　キ。居之切　[支]
もやす、もゆ（然）。

【烘】コウ、呼公切　[東]　ク。キョウ、居容切　[冬]　ク。
㊀かゞりび（燎）。○〔爾疏〕「烓者無ㇾ釜之竈、其上燃ㇾ火謂ニ之｜ー」。
㊁火を加ふ、たく、やく。○〔詩〕「卬｜ニ于煁ー」。
㊂火發す、もゆ。○〔余靖〕「山櫻火似ㇾ｜」。

㈣あきらか、(明)、てらす、(照)。○〔楊萬里〕「日暖翠始―」。

【烘】コウ、ク。呼貢切　送
火物を乾かす、火にあて乾かす、かわかす、あぶる。○〔劉禹錫〕「爔ㇾ炭以―ㇾ之」。

【烙】ラク。盧各切　カク。古洛切　藥
㈠やく、(灼)。○〔莊〕「燒ㇾ之―ㇾ之」。
㈡火鍼、やきばり。○〔文同〕「鍼―熨―褰成二瘢痂一」。

【焙】カフ、ケフ。轄夾切　洽
火の貌にいふ字。

【烛】チウ、ヂユ。持中切　東
旱氣にて灼く、やく。

【烜】ケン、クワン。况晚切　阮
㈠かわく、かわかす、(乾)。○〔易〕「日以―ㇾ之」。
㈡光明盛んなる貌にいふ字、さかんなり、又、光明なると、あきらか。○〔蒲道源〕「渥丹始赫―」。

【烜】キ。許委切　紙
ひ、(火)。

【烝】ショウ、ジョウ。煑仍切　蒸
㈠むす。
(い)火氣上り達る、火氣を上り達らしむ。○〔詩〕「―ㇾ之浮々」。
(ろ)熱す、熱せしむ。○〔淮〕「山氣―柱礎潤」。
㈡すゝむ、(進)。○〔詩〕「―二畀祖妣一」。
㈢おこる、おこす、(作)。○〔史〕「雲―泉涌」。
㈣のぼる、のぼす、(升)。○〔書〕「不二鬫―一」。
㈤おほし、もろ〳〵、(衆)。○〔書〕「―民乃粒」。
㈥あつし、(厚)。○〔詩〕「―々皇々」。
㈦こゝに、(寘)。○〔詩〕「―在二桑野一」。
㈧ひさし、(久)。○〔詩〕「―然罩々」。
㈨君上、きみ。○〔詩〕「文王―哉」。
㈩性殺を俎上にのぼすと、のぼせて神明又は長上賓客にすゝむると。○〔禮〕「大飲―」。
⑪冬日の祭。○〔書〕「―祭ㇾ歲」。
⑫長上に婬す、みだる。○〔左〕「衛宣公―二于夷姜一」。
⑬熱氣鬱して散ぜざるにいふ字、あつし、むしあつし。○〔應璩〕「處二涼台一而有二鬱―之煩一」。

〔燜烝〕むしふかすと。○〔盧氏雜說〕「―去ㇾ毛莫ㇾ拗二折項一」。
〔炎烝〕むす。○〔庾信〕「五月―氣」。
〔煎烝〕煑むす。○〔孟郊〕「胃明爲二―一」。
〔褒烝〕物に包みてむす。○〔南〕「大官進二御食一有二―一」。
〔艾烝〕やきむす。○〔舊唐〕「正午向ㇾ日以―二―之一、即火熬」。
〔蘓烝〕あかざと名づくる草の葉をむして食料とすると、即ち粗なる食物にいふ語。○〔墨〕「孔子窮二于陳、蔡之一、―不ㇾ糝」。
〔萊烝〕前に同じ。○〔齊民要術〕「今兗州人烝以爲ㇾ茹、謂二之―一」。
〔上烝〕むすと。○〔西京雜記〕「人得二其暖一、而―成ㇾ雪矣」。
〔浮烝〕うかびあがる。○〔荊州記〕「遙望二白氣一、―如ㇾ烟」。
〔歊烝〕氣のぼり出づ。○〔張籍〕「暑雨―隔」。
〔結烝〕むすぼれのぼり出づ。○〔潘尼〕「氣鬱ㇾ石而―兮」。
〔殞烝〕うるさくむしあつきと。○〔李德林〕「夏景多二―一」。
〔炊烝〕かしぎむす。○〔梅堯臣〕「屋室如二―一」。

【烝】ショウ。支庱切　迥
氣上りて遠き貌にいふ字。

【烞】ハク、ホク。匹角切　覺
竹の火に燃ゆる聲にいふ字。

【烟】エン。烏前切　先
煙に同じ。○〔荀〕「鼂雁如二―海一」。

【烟】イン。於眞切　眞
㈠鬱せる煙、烝す氣、一説に、天地の氣。○〔班固〕「降二―熅一調二元氣一」。
㈡煙又は氣の貌にいふ字。○〔班固〕「―熅々」。

【烠】クワイ、エ。戶恢切　灰
㈠火の色。㈡火。

【烠】タイ、テ。都囘切　灰
前條の㈠に同じ。

【烠】アイ、エ。倚亥切　賄
たゞる、(爛)。

【烓】クワウ、ワウ。古黃切　陽
てる、てらす、(照)。

【烢】タク、ヂヤク。直伯切　陌
さく、(裂)。

七畫

【烺】テキ、チヤク。都歷切　錫
火の見ゆる貌にいふ字。

【烯】キ、ケ。香依切　微
㈠火の色。㈡晞に同じ。

【焊】キ。許偉切　尾
燬に同じ。

【烰】ヒウ、フ。房尤切　尤
㈠むす、(烝)。○〔爾〕「―烝也」。
㈡くりや、(庖)。○〔呂氏春秋〕「令二―人養一ㇾ之」。
㈢火の氣。
〔蒸烰〕むすと。○〔李綱〕「疑下在二爐冶一遭中―上」。

【烱】ケイ、キヤウ。倶永切　梗
炎烝す、のぼる。

【焎】ケツ、ケチ。許列切　屑
火氣。

【焎】テツ、テチ。敕列切　屑
火然ゆ、もゆ。

【焒】ホ、フ。頗五切　麌
㈠火を把りて行く、ゆく。
㈡火の行く貌にいふ字、ひらめく。

【烴】ケイ、キヤウ。古挺切　迥
㈠あたゝか、(溫)。㈡焦げて臭し、こげくさし。㈢焦ぐる貌にいふ字。

【烴】ゲイ、ゲヤウ。五勁切　梗
前條の㈡に同じ。

【焫】シヤク、サク。職略切　藥
草木の花の色の盛んなる貌にいふ字。

【烶】テイ、ヂヤウ。待鼎切　迥
火の貌にいふ字。

【烸】カイ、ケ。許亥切 賄
かわく、かわかす、（燥）。

【烹】ハウ、ヒヤウ。披庚切 庚
㊀俗の亨の字、にる、にゆ。○〔左〕「以二—魚-肉一」。
㊁神に供ふる牲肉、膳に供ふる羞殺、さかな。○〔周〕「納レ—亦如レ之」。
〔割烹〕食物の調理を爲すこと。○〔孟〕「伊-尹以二—・—一要レ湯」。
〔珍烹〕めづらしき料理。○〔蘇軾〕「寒-庖有二—・—一」。
〔熟烹〕よくにること、よくにゆること。○〔禮〕「—・—而祀、非二達-禮一也」。
〔鬺烹〕性を煮て神を祭る。○〔史〕「皆嘗—二—上帝鬼-神一」。
〔鑊烹〕釜鍋中に投じて煮ること。○〔漢〕「秦用二商-鞅一大-辟二、有二鑿-顚-抽-脅—・—之刑一」。
〔飪烹〕煮て食とす。○〔曹植〕「芝-桂雖レ芳、難二以—・—一」。
〔煎烹〕煮ること。○〔蘇軾〕「我有二至-味一非二—・—一」。
〔蒸烹〕むし煮る。○〔張耒〕「—・—氣-味元不レ改」。
〔狡兔死走狗烹〕すばしこき兎死にたゆればうさぎ猟に用ひし走狗はにらるとの義、轉じて、役に立ちし人物も事の濟み果つれば捨てられて用ひられざるとにいふ語。○〔史〕「飛-鳥盡良-弓藏、—・—・—・—・—」。

【[illegible]】コウ、グ。戸孔切 董
火の貌にいふ字。

【炈】カク、ギヤク。下革切 職
麥を燒く、やく。

【[illegible]】サフ、セフ。楚洽切 洽
火にて乾かす、かわかす。

【烺】朗に通じ用ふ。

【焐】テン。他念切 豔　カン、ゴン。胡甘切 覃
火光、ひかり。

【烻】セン。尸連切 先
ひかり、（光）。

【烻】エン。延面切 霰
光熾る、さかる、おこる。○〔王延壽〕「丹-桂欻-絕而電—」。

【烼】クツ、コチ。許勿切 物
㊀あたゝか、（煴）。㊁さらす、（曝）。㊂やく、（煨）。

【[illegible]】サ、セ。側下切 禡
㊀さらす、（曝）。㊁炭を束ぬ、つかぬ。

【烽】ホウ、フ。敷容切 冬　コウ、グ。戸東切 東
㊀寇敵の來たりたるを知らするために設けたる擧げ火、特に、晝閒に於てするもの、古昔は、高櫓の上に桔槹を設け其の端に著けたる薪を燃やし擧げしとぞ、さぶひ、あげび、のろし。○〔史〕「—擧燧燔」。
㊁轉じて、寇敵の防備の義にいふ字。○〔庾信〕「遐-鄙收レ—」。
㊂馬の首に冠らするを。○〔漢〕「走二馬上-林一、下レ—馳-逐」。
〔嚴烽〕のろしの事をおごそかにすること、又、防備をおごそかにすること。○〔晉〕「常—レ—、候レ明購-賞」。
〔滅烽〕のろしを打ち消して用ひざ、又、防備をとくといふ語。○〔桑彤傳論〕「—二—于幽-障一」。
〔放烽〕のろしを打ちあぐ。○〔唐〕「其—レ—有二一-炬二-炬三-炬四-炬一」。
〔僞烽〕敵を惑はしむるために設けたるのろし。○〔西征賦〕「擧二—・—一以阻-衆」。

【[illegible]】烽に同じ。○〔揚雄〕「擧レ—烈レ火」。

【烿】イウ、ユ。余中切 東
㊀火氣。㊁火色赤し、あかし。

【[illegible]】アイ。烏開切 灰
㊀かゞやく、かゞやかす、（炫）。㊁あつし、（熱）。㊂やく、（熱）。

【焀】コク。胡谷切 屋
火の貌にいふ字。

【尉】ヰ。於胃切 未
火氣のあたゝまりにて衣巾を按ふ、のす、又、のすに用ふる火氣を貯ふる器、ひのし。

【[illegible]】キ。香支切 支　キ、ケ。香依切 微
—欲は食を欲する貌にいふ字。

【焂】シユク。式竹切 屋
光の動く貌にいふ字、ひらめく。

【焃】カク、キヤク。呼麥切 陌
㊀あかし、（赤）。㊁あきらか、（明）。㊂かゞやく、かゞやかす、（赫）。

【焃】ケキ、キヤク。馨激切 錫
前條の㊀と㊂とに同じ。

【焄】クン、コン。許云切 文
㊀熏炙す、ふすぶ、あぶる。○〔史〕「舞レ文巧-詆二下-戶之猾一以—二大-豪一」。
㊁香臭の氣あり、かうばし、にほふ。○〔禮〕「—・—蒿-悽-愴」。

【焅】コク。苦沃切 沃　カウ、コウ。口到切 號
旱氣、又、熱氣。

【[illegible]】ホツ、ボチ。蒲沒切 月
㊀煙の起こる貌にいふ字。㊁烝して熱し、あつし、むしあつし。

【焆】エツ、エチ。於決切 屑　ケツ、ケチ。古穴切 屑
㊀煙の起こる貌にいふ字。㊁煙氣、けむり。㊂火光、ひかり。㊃火始めて燃ゆ、もゆ、もえそむ。

【焆】ケン。古懸切 先
あきらか、（明）。

【焆】エン。縈懸切 先
火の貌にいふ字。

【焇】セウ。相邀切 蕭
㊀かわく、かわかす、（乾）。㊁とらかす、さらく、（爍）。㊂さらす、（曝）。

【焉】エン。因肩切 先
㊀雜色なる一種の鳥、一說に、黃色なる一種の鳥。○〔禽經〕「黃-鳳謂二之—一」。
㊁いづくんぞ、いづくにか。
（い）疑ひ問ふさきに用ふる字、いかがして、どうして。○〔詩〕「—得二諼-草一、言樹二之背一」。
（ろ）反語をなすさきに用ふる字。○〔孟〕「—可二人-々而濟一レ之」。
㊂物事の形容にいふ字の下に附けて語調を飾るに用ふる字。○〔韓愈〕「忽—不レ加二喜-戚於其心一」。
㊃無意味の助字。○〔詩〕「已—哉」。
㊄物事を指すにいふ字、これ。○〔史〕「罪莫レ大レ—」。

❻語句の末尾に「これ」の意味を要する場合に置く助字。○[易]「爲三其嫌二于無一レ陽也故稱レ龍―」。❼こゝに(於)。○[淮]「天-子―始乘レ舟」。

【焊】カン。呼旱切 旱
火にて乾かす、かわかす。

【焋】シヤウ、サウ。側亮切 漾
❶米を甑の中に實つ。❷火の貌にいふ字。❸熏烝す、むす。○[康熙]「今炊二粉-餈一謂二之―-糕一」。

【焌】シユン。子峻切 震　ソン、子寸 スン。切 阮　ソン、徂悶 ゾン。切 願　サン。祖管切 旱
卜占の龜甲を灼く、火を燃やす、もやす、もやす、やく、又、其のもやす火。○[周]「凡卜以二明-火一爇-燋、遂歙二其―一以授二卜-師一」。

【焌】シユツ、倉聿 シユチ。切 質
❶火にて燒く、やく。❷火滅す、きゆ。

【焍】テイ、ダイ。大計切 霽
卜占の龜甲を灼くに燃やす木。○[史]「持レ龜以レ卵周二環之一、祝曰、今-日吉謹以二梁-卵―-黄一祓二去玉-靈之不-祥一」。

【焴】イク、オク。於六切 屋
燠に同じ。

【庻】古文の庶の字。○[石鼓文]「弓-矢孔―」。

八畫

【焙】ハイ、ベ。蒲昧切 隊
あぶる(烘)。○[傳燈錄]「火―レ之」。

【焚】フン、ボン。符分切 文
❶やく(燒)。○[禮]「仲-春勿レ―二山-林一」。❷原野山林を燒きて獵りするを。○[春秋]「―二咸-丘一」。
[燔焚] 前に同じ。○[柳宗元]「嘉-穀坐――」。
[燒焚] やく。○[李白]「玉-石俱――」。
[玉石俱焚] たまもいしもともぐにやく、轉じて、よき物もあしき物も一つに打ちほろぼすにいふ語。○[書]「火炎二崐-岡一――――」。

【焚】フン、ホン。方問切 問
たふす、たふる(僵)。○[左]「象有レ齒以―二其身一」。

【焛】リン、ロン。良刃切 震
火の貌にいふ字。

【焜】コン。胡本切 阮　コン。胡昆切 元
❶かゞやく、かゞやかす(煌)、ひかる、ひからす(光)、あきらか(晠)。○[左]「―二燿寡-人之望一」。❷昆に通じ用ふ。○[揚雄]「樵-烝―上配-藜四施」。

【焝】コン。呼困切 願
❶ひ(火)。❷水の貌にいふ字。

【[illegible]】ツヰ。丑水切 紙
燃ゆるを久し、ひさし。

【焞】トン、ドン。徒渾切 元
❶光燿なし、くらし。○[左]「天-策――」。❷龜甲を灼くに用ふる火。

【焞】タイ、テ。通回切 灰
盛んなる貌にいふ字。○[詩]「嘽-々――」。

【焞】サン。祖管切 旱　ソン、徂悶 ゾン。切 願　ソン、祖寸 スン。切 阮
焌に同じ、やく、又、其の火。○[儀]「楚-―置二于燋一、在二龜東一」。

【焞】シユン。松倫切 眞
❶あきらか(明)。❷火の光。

【焟】セキ、シヤク。思積切 陌
かわかす(乾)、又、さらす(曝)。

【爲】古文の爲の字。

【焠】サイ、セ。七內切 隊
❶燒きたる刃を水に漬け堅む、にらぐ。○[史]「使二工以レ藥―レ之」。❷やく(燒)。○[荀]「有-子臥而―レ掌」。

【[illegible]】クワイ、ヱ。呼罪切 賄　クワン。古玩切 翰
火。

【無】ブ、ム。武扶切 虞
❶なし。
(い)有の反。○[書]「簡而―レ傲」。
(ろ)ず(不)。○[禮]「―レ易之道也」。
❷空虛なるを、現實ならざるを。○[老]「萬-物生二于有一、有生二于―一」。
❸禁止するにいふ字、なかれ。○[左]「―レ使二滋-蔓一」。
[有無] あるとなきと。○[禮]「天-子不レ言二――一」。
[虛無] 道家の語にして空漠無爲の意。○[史]「其術以二――一爲レ本」。
[空無] 前に同じ。○[裴頠]「盛稱二――之美一」。
[絕無] たえてなきを。○[蘇軾]「秦、漢以-來之所二――一而僅有一」。

【焢】コウ、ク。呼公切 東
火氣の貌にいふ字。

【焣】サウ、楚絞 セウ。切 巧　サフ、楚洽 セフ。切 洽
❶火にて物を乾かす、かわかす。❷雨中にて物を焙く、やく。

【[illegible]】サ、セ。初瓜切 麻
炒に同じ。

【[illegible]】ホ、フ。奉甫切 麌
腐に同じ。

【焥】ワツ、烏括 ワチ。切 曷　エツ、於月 オチ。切 月
烟起こる、おこる、けぶる。

【焦】セウ。卽消切 蕭
❶こがる。
(い)燒けて黑くなる、やく。○[左]「卜レ戰龜―」。
(ろ)傷む、なやむ。○[阮籍]「誰知二我心―一」。
(は)うるほひ全く竭く。○[杜甫]「脣―口燥呼不レ得」。
(に)志をれて色黑む。○[眞誥]「心悲則面―」。
❷こがれしむ、やく、こがす。○[史]「苦レ身―レ思」。

㊂こげて臭氣あり、こげくさし。○[禮]「其味苦其臭一」。㊃腹中の飲食物又は呼吸氣の通ふ處。○[史]「別下三一一膀胱一」。㊄憔に通じ用ふ。○[班固]「朝爲二榮華一而夕一一悴」。

〔燕焦〕いたみうれふ。○[孟郊]「哀哀多二一一一」。〔枯焦〕かるゝこと。○[捜神記]「萬物一一」。

【熘】災に同じ。○[嶧山碑]「一一害咸除」。

【焊】ヒウ、フ。房久切 [有] おこる、さかる、(熾)。

【熜】ソウ、ス。倉紅切 [東] 熅き氣、ほさる、あたゝまる。

【焨】フウ、フ。孚諷切 [送] 火の氣。

【烼】ヘツ、ベチ。必結切 [屑] 物を灼きて焦がす、こがす。

【焩】ヒョウ。皮冰切 [蒸] 火の貌にいふ字。

【㶸】キウ、ク。姜酉切 [宥] 罪ある者を出だす、ゆるす。

【㶲】クワイ、ケ。枯回切 [灰] ㊀おほいなり、(大)。㊁おほし、(多)。

【焪】キウ、ク。去中切 [東] ㊀つく、つくす、(盡)。㊁かわく、かわかす、(乾)。㊂さらす、(曝)。㊃もえのこり、(燼)。

【焥】アフ、オフ。遏合切 [合] 藏めたる火、うづみび。

【焫】ゼツ、ネチ。如劣切 [屑] 爇に同じ、やく。○[禮]「既奠然後一レ蕭合二羶薌一」。

【焬】セキ、シャク。先的切 [錫] かわく、かわかす、(乾)。

【煬】烗に同じ。

【㶿】ワ。烏禾切 [歌] あたゝか、(煖)。

【焭】ケイ、ギヤウ。渠營切 [庚] ㊀煢に同じ。㊁うれふ、(憂)。○[楚辭]「恵識二路之一一」。㊂賂博の投子、さい。○[顏氏家訓]「小博則二一一」。

【尉】古文の尉の字。

【敥】カウ、ケウ。古巧切 [巧] 木を交へて灼く、たく、やく、もやす。

【焮】キン、コン。香靳切 [問] ㊀やく、(爇)。○[左]「行二火所レ一一」。㊁てらす、かゞやく。○[杜甫]「光彌一二宇宙一」。

【炥】フツ、ホチ。敷勿切 [物] ㊀火の盛んなる貌にいふ字。「にび」。㊁火の不時に然え出でて滅ゆるを、お

【焯】シャク、サク。之若切 [藥] あきらか、(明)、かゞやく、(爍)、又、火氣。○[揚雄]「一二爍其陂一」。

【焞】タク、トク。竹角切 [覺] 小しく熱す、やく、あつし。

【烈】烈の本字。

【焰】エン。以贍切 [豔] ほのほ、(炎)。○[班固]「吐レ一生レ風」。

【焱】エン。以冉切 [琰] 以贍切 [豔] 火華、ひばな、火焰、ほのほ、又、火のおこり盛る貌にいふ字。○[班]「炎々一一揚レ光飛レ文」。

【焱】ケキ、キヤク。呼役切 エキ、ヤク。夷益切 [陌] ケキ、キヤク。馨徼切 [錫] 前條の前半段に同じ。

【焲】エキ、ヤク。羊益切 [陌] 火光、ひかり。

【烕】カイ、ケ。苦戒切 [卦] 火の盛んなる貌にいふ字。

【焵】カウ。古浪切 [漾] 刃を燒きて材を堅くす、やく、又、やきたる刃材、やきば、やいば。

【然】ゼン、ネン。如延切 [先] ㊀火熾ころ、ほのほ立つ、もゆ。○[孟]「若二火ノ始一一」。㊁もえしむ、もやす、もす、たく、やく。○[揚雄]「一一二除仲尼之篇籍一」。㊂ゆるす、(許)。○[史]「相一一信以レ死」。㊃志かり。(い)此くの如し、志か。○[淮]「治レ國則不レ一」。(ろ)他の言をうけがふ意を表するに用ふる字、さやう。○[韓愈二與孟尚書一]「孟尚書曰、子與レ賀且レ得レ罪、愈曰、一」。㊄上を承け下に接するさきに用ふる字、此くして、さうして、志かして、志かうして。○[史]「功用既興、一後授レ政」。㊅上を翻して下をおこすさきに用ふる字、此の如くなれども、志かあれども、志かれども、志かるに。○[史]「吾嘗將二百萬軍一、一安知二獄吏之貴一乎」。㊆物事を形容する字の下に加へて語調を助くるに用ふる字。○[左]「執事擱一一授レ兵登レ陴將二以レ誰罪一」。㊇句の末尾のこれの義を要する所に置く助字、焉と同じ。○[禮]「歲旱、穆公召二縣子一而問一」。㊈燃に通じ用ふ、をながざる。○[周]「一一複髮飾」。

〔粲然〕笑ふ貌にもあきらかなる貌にもいふ語。○[漢]「天人之道一一著矣」。〔僾然〕彷彿の貌にいふ語。○[禮]「祭之日入レ室、一一必有レ見二乎其位一」。〔儼然〕おごそかに正しき貌にいふ語。○[南]「便一一整レ容」。「曰」。〔蹴然〕つゝしみの貌にいふ語。○[孟]「曾西一一」。〔浩然〕至大なる貌にいふ語。○[孟]「我善養二吾一一之氣一」。〔穆然〕深遠の貌にいふ語。○[史]「有レ所二一一深思一焉」。〔怡然〕樂む貌にもやはらぐ貌にもいふ語。○[杜預]「一一理順」。〔黯然〕くろき貌にいふ語。○[史]「一一而黑」。〔果然〕そのとほりの意、又、飽く貌にいふ語、又、獸の名。○[莊]「腹猶一一」。

（魁然）形のおほきい貌にいふ語。○〔史〕「始以₌薛公爲₌──₋也」。
（晏然）やすらかなる貌にいふ語。○〔漢〕「天下──」。
（卒然）にはかなる貌にいふ語。○〔漢〕「──高擧」。
（卒然）前に同じ。○〔史〕「──相視」。
（惆然）やすからざる貌にいふ語。○〔漢〕「故──念₌外人之有₋非」。
（憮然）心のさえざる貌にいふ語。○〔漢〕「諸將皆──、陽應曰、諾」。
（褎然）あつまる貌にいふ語。○〔漢〕「──爲₌擧首₋」。
（天然）天よりさづかりたるまゝのこと。○〔後漢〕「章帝躬₌──之德₋」。
（自然）前に同じ。○〔老〕「道法₌──₋」。
（苶然）すこしくゑおと。○〔晉〕「而吳──坐乘₌其弊₋」。
（泠然）きよらかなる貌にもひやゝかなる貌にもいふ語。○〔晉〕「──若₌琴瑟₋」。
（依然）もとのまゝの意。○〔杜甫〕「沙道尙──」。
（跫然）人のあしおとにいふ語。○〔莊〕「聞₌人足音──而喜₋」。
（辴然）笑ふ貌にいふ語。○〔莊〕「齊桓公──而笑」。
（淒然）すゞしき貌にも物さびしき貌にもいふ語。○〔莊〕「──似₋秋」。
（豁然）ひろ〳〵とした貌にいふ語。○〔陶潛〕「──開朗」。
（頹然）しづかなる貌にいふ語。○〔白居易〕「心體低──」。
（悵然）かなしむ貌にいふ語。○〔傅亮〕「──有₋懷」。
（蒼然）あを〳〵したる貌にいふ語。○〔李白〕「雲物何──」。
（寂然）しづかなる貌にいふ語。○〔易〕「──不₋動」。
（脫然）ぬけさりたる貌にいふ語。○〔公羊〕「復加₌一飯₋則──愈」。
（仡然）たけき貌にいふ語。○〔莊〕「子路──執₋戈而舞」。
（愀然）かなしみうれふる貌にいふ語。○〔禮〕「孔子──作₋色而對曰」。
（欣然）よろこぶ貌にいふ語。○〔史〕「黥布──而笑」。
（蔚然）草木などのこんもりとしげる貌にいふ語、又、さかんなる貌にいふ語。○〔歐陽修〕「望₋之──而深秀者」。
（燦然）あきらかなる貌にいふ語。○〔史〕「文辭──」。
（昭然）前に同じ。○〔漢〕「至德──」。
（炳然）前に同じ。○〔漢〕「是非──可₋知」。
（愕然）おどろく貌にいふ語。○〔史〕「貝──欲₋獻₋之」。

（洒然）おどろく貌にいふ語。○〔史〕「羣臣無₋不₌──變₋色易₋容者₋」。
（翕然）やはらぐ貌にいふ語。○〔史〕「天下──」。
（飄然）はねおくる貌にいふ語。○〔莊〕「廣成子──而起」。
（卓然）すぐれたる貌にいふ語。○〔漢〕「──罷黜百家」。
（超然）前に同じ。○〔漢〕「固──異₌于羣生₋」。
（傑然）前に同じ。○〔李漢〕「尤所₋謂──者也」。
（皓然）しろき貌にいふ語　○〔後漢〕「五月霜雪──」。
（皤然）前に同じ。○〔南〕「鬢白──」。
（偶然）おもひがけなきこと。○〔後漢〕「──耳」。
（慨然）なげく貌にいふ語。○〔後漢〕「──有₌澄₌淸天下之志₋」。
（亮然）きよらかなること。○〔晉〕「聲調──」。
（頎然）はがらかなること。○〔南〕「莫₋不₌──₋」。
（幽然）ふかくはるかなる貌にいふ語。○〔晉〕「──深遠」。
（窈然）前に同じ。○〔列〕「──無₋際」。
（挺然）すぐれてぬきいでたる貌にいふ語。○〔晉〕「──不₋羣」。
（嶷然）前に同じ。○〔北〕「神彩──」。
（亭然）獨りたちの貌にいふ語。○〔南〕「僧祐──獨立」。
（闃然）さびしき貌にいふ語。○〔范成大〕「窮巷開門本──」。
（恢然）こゝろひろき貌にいふ語。○〔北〕「志度──自樂」。
（陶然）こゝろよく醉ふ貌にいふ語。○〔陶潛〕「──」。
（漠然）むなしき貌にいふ語。○〔韓愈〕「──不₋加₌眞戚于其心₋」。
（齳然）齒のおちたる貌にいふ語。○〔韓詩〕「──而齒墮矣」。
（颯然）風の吹く貌にいふ語。○〔風賦〕「有₋風──而至」。
（嫣然）たをやかに笑ふ貌にいふ語。○〔登徒子〕「──一笑惑」。
（渙然）とけちる貌にいふ語。○〔杜預〕「──氷釋」。

【燎】俗の燎の字。

【焷】ヒ、ビ。符支切〔支〕　ヘキ、ビヤク。眦亦切〔陌〕
火にて熟せしむ、にる。

【煛】コ。公戶切〔麌〕
人の名。

九畫

【煛】ケイ、キヤウ。火迥切〔迥〕
火光、ひかり。

【⿰火𡿺】ダウ、ナウ。乃老切〔皓〕
あつし、（熱）。

【煁】ジン、ニン。時任切〔侵〕
おきかまど、（烓）。○〔詩〕「樵₌彼桑薪₋、卬烘₌于──₋」。

【焟】カク、キヤク。郝格切〔陌〕
やく、（燒）。

【煃】キ。犬蘂切〔支〕
火の貌にいふ字。

【煄】シヨウ、シユ。之隴切〔腫〕
火燒き起こる、もゆ。

【煆】カ、ケ。虛訝切〔禡〕
㊀あつし、（熱）。㊁やく、（爇）。㊂かわく、かわかす、（乾）。㊃かゞやく、かゞやかす、（赫）。

【煇】キ。況韋切〔微〕　ケン、クワン。許元切〔元〕
㊀光明、ひかり、かゞやき、ひかり。○〔禮〕「德─動₌于內₋」。㊁かゞやく、かゞやかす、（燿）。○〔神仙傳〕「有₌赤光─起一丈₋」。
（餘煇）殘れるひかり。○〔琴賦〕「仰₌箕山之──₋」。
（淸煇）きよらかなるひかり。○〔杜甫〕「萬里共₌──₋」。

【煇】クン、コン。許云切〔文〕
㊀前條に同じ。○〔張衡〕「彤庭──」。㊁やく、（灼）。○〔史〕「去₋眼─₋耳」。

【煇】コン。胡本切〔阮〕　ウン、チン。王問切〔問〕
前條の㊀に同じ。○〔漢〕「煥炳─煌」。

【煇】コン。戶昆切〔元〕
赤き色、あか。

【煇】ケン、クワン。呼願切〔願〕
鼓の韗に皮革を礫る事を掌る官。○〔禮〕「夫祭有₋畀₌─胞翟閽₋者惠₋下之道也」。

【煇】暈に通じ用ふ、ひがさ。

【⿰火風】ホウ、フ。非鳳切〔送〕
やく、たく、（焚）。

【⿰火曷】エツ、オチ。於歇切〔月〕
中熱す、あつし。

【⿱癶火】ヨウ、ユ。委勇切〔腫〕
人の名。

【煉】レン。郎甸切〔霰〕
鑠かし治む、ねる。○〔論衡〕「銷₌─五色石₋」。

【煉】ラン。郎旰切〔翰〕
爛に同じ。

【煊】ケン、クワン。許元切〔元〕
あたゝか、（煖）。

【煋】セイ、シヤウ。桑經切〔靑〕
㊀火熱す、あつし。

㊀火烈なり、はげし。

【煌】クワウ、胡光切 陽 ワウ。胡曠切 漾
かゞやく、かゞやかす、（煇）。○〔詩〕「明星――」。

〔炫煌〕光の明かなると。○〔淮〕青葱苓蘢雀爥――」。
〔混煌〕光りかゞやくと。○〔急就篇〕「色――」。
〔煇煌〕前に同じ。○〔封禪文〕「煥炳――」。
〔熒煌〕前に同じ。○〔薛逢〕「燈火――醉客豪」。
〔燁煌〕前に同じ。○〔韓愈〕「章句何――」。

【煌】クワウ、ワウ。胡盲切 庚
火光、ひかり。

【煌】クワウ、ワウ。戸廣切 養
あきらか、（明）。

【煍】セウ。子了切 篠 シウ、慈糾切 尤 ジユ。切
色を變ず、かふ、かはる。○〔禮〕「――然作レ色」。

【煯】クワク。霍虢切 陌
火光、ひかり。

【煎】セン。子仙切 先
㊀火にかけて汁を去る、火にかゝりて汁乾く、いる。○〔儀〕「凡糗不レ――」。
㊁熟煮す、にゆ、にる。○〔周〕「敀ニ――金錫ニ」。
㊂つく、つくす、（盡）。○〔蕭士良〕「貧――無ニ物賑給ニ」。

〔合煎〕一つにし煮る。○〔十洲記〕「――作レ香」。
〔熬煎〕乾かしいる。○〔路史〕「膠朋――ニ之ニ」。
〔重煎〕煮たるが上に又煮る。○〔晁氏墨經〕「常下以ニ――背ニ腐上レ真」。
〔烹煎〕煮ると。○〔劉禹錫〕「有レ獺同――」。
〔濃煎〕薄からざるやうに煮る。○〔白居易〕「――白酱茶」。
〔炮煎〕あぶりいる。○〔王安石〕「罹腊豕腊加ニ――ニ」。

【煎】セン。子賤切 霰
へる、へらす、（滅）。

〔甲煎〕香料の名。○〔貞觀紀聞〕「以ニ――ニ沃レ之」。

【煏】ヒヨク、ヒキ。弼力切 職
火にて乾かす、かわかす。

【煐】エイ、ヤウ。於驚切 庚
人の名。

【煑】シヨ、ソ。章與切 語
にる、にゆ、（亨）。○〔周〕「亨人、職ニ外內之爨亨――ニ」。

〔熏煑〕ふすべ烹る。○〔蘇軾〕「草木同――」。
〔亨煑〕にる、にゆ。○梅堯臣〕「――費ニ新蒸ニ」。
〔燥煑〕前に同じ。○〔宋〕「較鞦敗鼓皆――」。
〔官煑〕政府にて鹽をにると。○〔北〕「亦既――、須レ斷ニ人鑑ニ」。
〔私煑〕民業にて鹽をにると。○〔金〕「惟绤販――則捕レ之」。
〔炮煑〕あぶりにると。○〔李白〕「――宜ニ霜天ニ」。
〔羹煑〕あつものとしにる。○〔杜甫〕「――秋蓴滑」。
〔灰煑〕あくにてにる。○〔顧況〕「――蠟指光燿然」。
〔炊煑〕かしぎにる。○〔蘇軾〕「――尚不レ辭」。

【煒】井。于鬼切 尾
あきらか、（明）、あかし、（赤）、又、盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「彤管有レ――」。

〔煒々〕盛んなる貌にもあきらかなる貌にもいふ語。○〔蔡邕〕「丹華――、綠葉參差」。
〔韡煒〕盛んなると。○〔張華〕「――衆親盛」。
〔炎煒〕熱くかゞやく。○〔魏文帝〕「――樂ニ穹昊ニ」。

【煒】キ。吁韋切 微
煇に同じ。○〔漢〕「青――登平」。

【煔】タン。他端切 寒
火熾る、おこる、又、かゞやく貌にいふ字。○〔洞冥記〕「邀レ臣入ニ雲――之幕ニ」。

【煔】テン。他念切 豔
㊀火光、ひかり。㊁光行く、ひらめく。

【煔】カン、ゴン。胡甘切 覃
火の上り行く貌にいふ字。

【煔】セン、ゼン。慈鹽切 鹽
㊀やく、（爚）。○〔楚辭〕「炙鴰烝鳧――鶉陳只」。
㊁一種の喬木、すぎ。○〔爾註〕「――似レ松生ニ江南ニ、可ニ以爲レ船作ヒ杜埋レ之不レ腐」。

【熙】キ。許其切 支
㊀光明、ひかり、又、光明を發す、ひかる、かゞやく、ひからす、かゞやかす。○〔詩〕「緝――敬止」。
㊁ひろし、ひろむ、ひろまる、（廣）、又、さかんなり、おこる、おこす、（興）。○〔書〕「庶績咸――」。
㊂かわく、かわかす、（燥）。○〔張說〕「太陽昇レ天晞――」。
㊃やはらぐ、（和）。○〔老〕「衆人――」。○〔漢〕「――備成」。
㊄禧に同じ、さきはひ、よろこび。
㊅嬉に通じ用ふ、たのしむ、たはむる。○〔宋玉〕「出ニ咸陽――ニ邯鄲ニ」。

〔木熙〕高き竿を走り繩に緣るなどの技、かるわざ。○〔淮〕「――者非ニ眇勁ニ」。
〔雍熙〕和きたのしむ。○〔東京賦〕「上下共其――」。
〔滋熙〕うるほひ和ぐ。○〔王褒〕「吸ニ至精之――ニ」。
〔光熙〕かゞやく、かゞやかす。○〔魏〕「德教――」。
〔紹熙〕前時に繼ぎてかゞやかす。○〔廐謳〕「――ニ有晉ニ」。
〔洪熙〕旗の名。○〔甘泉賦〕「舉ニ――、揚ニ靈旗ニ、」
〔崇熙〕高き光り。○〔李尤〕「序以ニ――ニ」。
〔榮熙〕さかえ興こる。○〔支遁〕「品物緝――」。
〔阜熙〕盛んに興こる。○〔鮑照〕「含生――」。
〔輔熙〕助け興こす。○〔白居易〕「――ニ庶績」。
〔恬熙〕泰平無事にてあり。○〔王逢〕「――帰ニ聖朝ニ」。

【熙】イ。盈之切 支
壯大なり、さかんなり、おほいなり、又、ながし、（長）。

【熤】シツ、シチ。子悉切 質
やく、（烺）。

【煉】ラツ、ラチ。郎達切 曷
火の貌にいふ字。

【焙】ハイ、ベ。蒲昧切 隊
焙に同じ、あぶる。

【煘】テン、ドン。直廉切 鹽
かなひばし、（鉗）。

【煖】ダン、ナン。乃管切 旱
㊀熱氣あるを、寒冷ならざるを、あたたか。○〔禮〕「必因ニ天地寒――燥濕ニ」。
㊁あたゝかならしむ、あたゝむ、又、あたゝかくなる、あたゝまる。○〔禮〕「――レ之以ニ日月ニ」。

〔寒煖〕さぶきとあたゝかなると。○〔禮〕「因ニ天地――燥濕ニ」。「○〔孟〕「――不レ足ニ於體與」。
〔輕煖〕衣服の量のかろくして體に適し暖かなると。

(甘煖)　食物の口にうまくして衣服の體にあたゝかなること。○〔孝子傳〕「竭レ力庸賃以致二——一」。
(燠煖)　温暖なること。○〔穀梁、疏〕「無二冰書一時——也」。
(呴煖)　口にて息をふきかけ暖む。○〔淮〕「燕雌——翼伏、累日積久」。
(趁煖)　温暖なる方に趣き向かふ。○〔中山詩話〕「頑蒼——レ—」「玉壺——レ—」。
(貯煖)　温氣を去らざるやうにとゞめおく。○〔詞旨〕「——貪二春睡一」。

【煖】　ケン、クワン。許元切　元
㊀暄に同じ。㊁人の名。

【煗】　ダン、ナン。乃管切　旱
煖に同じ。○〔晉國〕「海多二大風一冬——」。

【焞】　ホツ、ポチ。蒲沒切　月
焞に同じ。

【煙】　エン。烏前切　先　イン。於眞切　眞
㊀けぶり、けむり。
(い)火の然ゆるに連れて立ちのぼる氣。○〔韓〕「百尺之室、以二突隙之——一焚」。
(ろ)水、塵、雲、霧などの飛び散りて立ちのぼる氣。○〔梁〕「毎レ入レ室常覺レ有二雲——之氣一」。
㊁けぶり立つ、けぶろ、けむろ、又、けぶりを立たしむ、けぶらす、けむらす。○〔後漢〕「寒食莫二敢——爨一」。
㊂すゝ(煤)。○〔洞天清錄〕「乃丸二漆——松——煤——夾——和爲レ之」。
(禁煙)　皇宮內に立つけぶり。○〔李遠〕「漠々——一籠二遠樹一」。
(輕煙)　薄きけぶり。○〔梁元帝〕「乍若二——散一」。
(翠煙)　青き色のけぶり。○〔本草〕「——浮レ空」。
(狼煙)　のろしのこと、敵の襲來を味方に知らするために打ちあぐるもの。○〔玉海〕「先レ是虜至必舉二———一」。
(松煙)　煤のこと。○〔曹松〕「墨出青——」。
(浮煙)　けぶりをたゝせあぐ。○〔司空曙〕「濕竹暗——レ—」。
(長煙)　ながくたなびくけぶり。○〔郭璞〕「升降隨二——一」。
(陰煙)　晴れざる雲。○〔劉長卿〕「泱漭成二——一」。
(晨煙)　あしたのかすみ。○〔顏延之〕「——暮靄春煦秋陰」。
(寒煙)　さぶげなるかすみ。○〔謝朓〕「桑柘起二——一」。
(空煙)　大ぞらにたなびくけぶり。○〔鮑照〕「——視二昇滅一」。
(水煙)　水中より立ちのぼるけぶり。○〔梁簡文帝〕「——浮レ岸起」。
(晩煙)　夕ぐれ時に立つけぶり。○〔唐太宗〕「——含二樹色一」。
(起煙)　けぶりを立たしむ。○〔魏〕「——於寒灰之上一」。
(慶煙)　めでたき瑞祥のけぶり。○〔宋〕「——臨二高牙之建一」。
(祥煙)　前に同じ。○〔舊唐〕「——遍レ空」。
(盛煙)　盛んに立ちのぼるけぶり。○〔唐〕「爨無二——一」。
(窰煙)　瓦をやくかまどのけぶり。○〔西陽雜俎〕「介山上有二黑雲氣一、如二——一」。
(濃煙)　こきけぶり。○〔吳均〕「漠々視二——一」。
(凝煙)　固結せるけぶり。○〔劉鑠〕「——泛二城闕一」。
(炎煙)　火の燃え立つけぶり。○〔謝靈運〕「烈火縱二——一」。
(涌煙)　沸きあがるけぶり。○〔張協〕「騰雲似レ——」。
(吐煙)　けぶりを吹き出たす。○〔梁元帝〕「龍臺——」。
(素煙)　白きけぶり。○〔沈約〕「——晩帶」。「——」。
(碧煙)　青き色のけぶり。○〔沈約〕「盈々開二——一」。
(廚煙)　くりやにて物を調理する火のけぶり。○〔杜甫〕「——覺二遠庖一」。

【哯】　ケイ、キヤウ。倶永切　梗
火、一說に、日光。

【㷌】
煙に同じ。

【煹】　グ。元倶切　虞

【煜】　イク、オク。余六切　屋
食を煮る、にる。

【煜】
㊀かゞやく、かゞやかす、(燿)。○〔揚雄〕「日——二乎晝一月——二乎夜一」。
㊁火焰、ほのほ。○〔陸雲〕「飛烽戢レ——而泱漭」。「絃嘩——」。
㊂盛んなる貌にいふ字。○〔班固〕「管——」。
(炳煜)　光り輝くこと。○〔白居易〕「旋樂紛——」。
(雪煜)　前に同じ。○〔班固〕「——二其間一者、蓋不レ可二勝載一」。
(煒煜)　前に同じ。○〔梁簡文帝〕「——金鏃」。
(暉煜)　前に同じ。○〔梁簡文帝〕「雕琛紛——」。
(熠煜)　前に同じ。○〔柳宗元〕「日晶——」。
(煜々)　光り燿く貌にいふ語。○〔熊鉌〕「流螢——夜稍清」。

【煜】　イフ。弋入切　緝
火の貌にいふ字。

【㸅】　クツ、コチ。許勿切　物
㸅に同じ

【煝】　ビ、ミ。明秘切　寘
㊀かゞやく、かゞやかす、(赫)。
㊁はげしき熱、ひでりのあつさ。

【煞】
俗の殺の字。○〔白虎通〕「春木主——レ土」。

【煬】　ヒウ、フ。孚酬切　尤
火にて乾かす、かわかす。

【煟】　井。于貴切　未
火光、ひかり、又、光る貌にいふ字。○〔詩、箋〕「熾々猶二———一」。

【煠】　エフ。與涉切　葉　テフ。敕涉切
やく、(灼)。

【煠】　サフ、ゼフ。士洽切　洽

【甘】湯にて煮る、うでる。

【𤈦】　カン、ゴン。胡甘切　覃
𤈦に同じ。

【熜】　ソウ、スウ。作孔切　董　青公切　東
㊀麻がらを燃やす、たく。
㊁あたゝか、(溫)。

【煡】　キン。許刃切　震
焰餘、ほのほ。

【煢】　ケイ、ギヤウ。渠營切　庚
㊀同ろと疾し、はやし、さし。
㊁兄弟なきこと、依りどころなきもの、ひとり、ひとりもの。○〔孟〕「哀此——獨」。
㊂うれふ、(憂)。○〔左〕「———余在レ疚」。

【尞】　レウ。力弔切　嘯
火を放つ、やく、たく。

【煣】　ジウ、ニユ。人九切　有
火氣を以て木を柔め揉む、たわむ。

【熖】
俗の焰の字。

【蔑】　ベツ、メチ。莫結切　屑
明かならず、くらし。○〔書〕「布二重——席一」。

【煤】　バイ、メ。莫杯切　灰
㊀煙の物に著じ凝りて黑色をなすもの、すゝ、「煙墨」。○〔呂氏春秋〕「嚮者——入二室甑中一」。
㊁石炭、いしずみ、すみ。○〔正字通〕「石炭即今西北所レ燒之——也」。

㊁書墨、すみ。○〔韓偓〕「蜀-紙麝-煤添二筆媚一」。
〔炱煤〕すゝのこと。○〔宋祁〕「同-幷――入二甌中一」。
〔墨煤〕前に同じ。○〔張祜〕「深-棟――生」。
〔青煤〕あをき色のすゝ。○〔蘇軾〕「萬-竈飛二――一」。
〔松煤〕松の木をたきて得たるすゝ。○〔洞天清錄〕「漆-烟――夾-和爲レ之」。
〔竈煤〕かまどより得たるすゝ。○〔蘇軾〕「死-池研二――一」。
〔埃煤〕塵とすゝと。○〔劉禹錫〕「積爲二――一、――莫可レ掃」。
〔煨煤〕物をやきて得たるすゝ。○〔柳宗元〕「灰-伏――」。
〔奇煤〕珍奇なる墨。○〔張耒〕「――利-翰盈-寶收」。
〔寶煤〕前に同じ。○〔劉仲尹〕「――香散鳳-綃箋」。

【煠】テフ。丑涉切　葉
火の燒殘、もえのこり。

【煥】クワン。火貫切　翰
火光、ひかり、又、あきらか、(明)、又、文章ある貌にいふ字。○〔論〕「――乎其有二文-章一」。
〔炳煥〕あきらか。○〔宋〕「星-辰以レ之――」。
〔昭煥〕前に同じ。○〔宋〕「史-策――」。
〔明煥〕前に同じ。○〔晉〕「今-龍彩-質――」。
〔照煥〕前に同じ。○〔張衡〕「三-柱之――」。
〔輝煥〕前に同じ。○〔陳〕「終不レ能レ掩二其――一」。
〔燭煥〕前に同じ。○〔螢雪叢說〕「金-碧――煒-々」。
〔雕煥〕飾り飾く。○〔晉〕「縟-彩――」。
〔煥々〕光り輝く貌にいふ語。○〔韓愈〕「――衡二瑩-琇一」。
〔蔚煥〕盛んにして光りあること。○〔北〕「其文――」。
〔華煥〕きらびやかなること。○〔劉談錄〕「金-碧――」。
〔彰煥〕前に同じ。○〔梁昭明太子〕「珠-簾――」。
〔啓煥〕開け光る。○〔江總〕「千-輪――」。

【煦】ク、コ。香句切　遇
㊀あたゝむ、あたゝか、(溫)。○〔禮〕「――二嫗覆三育萬-物一」。
㊁うるほす、うるほひ、(潤)。○〔張說〕「氤-氳涵――」。
㊂めぐむ、めぐみ、(恩)。○〔韓愈〕「――謂二之仁一」。
㊃日光、ひかり、又、赤色、あか。○〔儲光羲〕「雞-人傳レ發レ――」。
〔和煦〕溫く日よりのよきこと。○〔謝靈運〕「承二――而芬-腴一」。
〔照煦〕てらし溫むること。○〔十六國春秋〕「仰二朗-日之――一」。
〔溫煦〕暖氣あること。○〔梁簡文帝〕「冬-閨――、夏-室含レ霜」。
〔煖煦〕溫む。○〔獨孤及〕「鞠育――知-寒-熱疾-痛、父-母之慈也」。
〔餘煦〕暖かなる名殘り。○〔上官儀〕「巖-花斂二――一」。
〔流煦〕溫暖の氣を布く。○〔李嶠〕「采-日――」。
〔靈煦〕くしびなる日の光り。○〔宋之問〕「煙-滌期二――一」。
〔微煦〕かすかなる日の光り。○〔熊孃〕「依レ巢之鳥、感二――一而和-鳴」。
〔恩煦〕愛情の濃なること。○〔闕雲〕「大乘二――一」。
〔吹煦〕ふきて柔しあたゝむ。○〔白居易〕「――長未レ已」。
〔明煦〕あきらかなるひかり。○〔元稹〕「曉-日初――」。
〔晩煦〕あたゝかみを帶ぶること早からむ。○〔張廷珪〕「春則――」。
〔暄煦〕溫暖なること。○〔薛能〕「有レ影宜二――一」。

【煦】キョウ、ク。詡拱切　腫
昫に同じ。

【煦】ク、コ。匈于切　虞
あつし、(熱)。○〔李嵩〕「仰二朗-日之照――一」。

【煦】キウ、ク。虛尤切　尤
咻に同じ、痛み念ふ聲にいふ字。

【照】セウ。之少切　嘯
㊀てらす。
(い)光明を加ふ、うつす、かゞやかす。○〔易〕「大-人以繼レ明―二于四-方一」。
(ろ)他と比べて察す。○〔後漢〕「以自鑒―」。
(は)明知す、あきらむ。○〔史〕「同-朋相―」。
㊁光明を發す、ひかる、かゞやく、てる。○〔易〕「日-月得レ天而能久―」。
㊂光明、ひかり、かゞやき、あきらか。○〔晉〕「蒼-生何由仰レ―」。
〔寫照〕光りをうつし取ること。○〔晉〕「傳レ神――」。
〔返照〕光りのてりかへすこと。○〔宋〕「三-光――」。
〔夕照〕いふ日のこと。○〔李嶠〕「光澄――浮」。
〔朗照〕ほがらかに光る。○〔雲笈七籤〕「三-光――」。
〔晨照〕朝光ること。○〔宋孝武帝〕「俟二玉羊之――一」。
〔晩照〕夕方のひかり。○〔宋孝武帝〕「白-日傾二――一」。
〔餘照〕名殘りのひかり。○〔上官儀〕「巖-花斂二――一」。
〔落照〕夕日のこと。○〔梁簡文帝〕「――度二窣-窓一」。
〔迴照〕光りをもとにめぐらしかへす。○〔裴迪〕「雲-日雖レ――、森-沈猶自寒」。
〔燭照〕明らかに光る。○〔庾信〕「此光-芒方斯――」。
〔偏照〕一方にのみ片寄り光る。○〔張蘊古〕「大-明無二――一」。
〔臨照〕上にありて下を燭らす。○〔左〕「以――二百-官一」。
〔即照〕螢のこと。○〔梁〕「瑣-火――」。
〔簡照〕撰擇せらるゝこと。○〔後漢〕「後母年老、旣蒙二――一」。
〔察照〕心をもて考へあきらかにすること。○〔晉〕「來レ垂二――一」。
〔凌照〕深く明らかなること。○〔齊〕「炎-源――」。
〔淵照〕前に同じ。○〔齊〕「――殆二乎機-象一」。
〔際照〕光りをあらはさゞること。○〔齊〕「恆-星――」。
〔遐照〕萬物を掩ひてらす。○〔揚雄〕「高-明足二以――一」。
〔辨照〕判明にす。○〔論衡〕「――二然-否一」。
〔照々〕かゞやきひかる貌にいふ語。○〔景福殿賦〕「其光――」。
〔均照〕齊一に光りを及ぼす。○〔駱賓王〕「靈-輪――」。
〔殘照〕夕日のこと。○〔孟浩然〕「竹-開――入」。

【煨】ワイ、エ。烏回切　灰
㊀蓄へたる火、うづみび。○〔戰〕「犯二白-刃一蹈二――炭一」。
㊁火中に入れ燒く、うづめやく。○〔蘇軾〕「稺-兒嬌-女共煨――」。
〔炮煨〕火に埋めてやく　○〔陸游〕「濕-裏山-病供二――一」。
〔炎煨〕燃えやく。○〔李白〕「仰希二霖-雨灑一寶――」。
〔深煨〕火に埋めてよく物をやく。○〔朱熹〕「――奉二朝-食一」。

【[illegible]】シウ、ジュ。自秋切　尤
耳の中の聲にいふ字。

【煪】シウ、ジュ。自秋切　尤
㊀やく、(燋)。㊁かわかす、かわく、(乾)。
㊂火の貌にいふ字。

【熘】チウ、ヂュ。張流切　尤
前條の㊁に同じ。

【[illegible]】イウ、ウ。以九切　有
ひ、(火)。

【[illegible]】ケキ、キャク。火覓切　陌
驚く貌にいふ字。

【煫】スヰ、ズヰ。徐醉切　寘
燧に同じ。

【[illegible]】バツ、マチ。莫割切　曷

【煩】ヘン、ハン。附袁切　元
明かならず、くらし。

㊀わづらはし。
(い)簡ならず、繁くして多し。○〔書〕「禮―則亂」。
(ろ)亂れて秩序なし。○〔晉〕「魏武以二經世之才一、撥レ―理レ亂」。
(は)頭を痛むべし、厭ふべし。○〔逸士傳〕「許由挂二瓢木上一、風吹有レ聲、以爲レ―遂去レ之」。
(に)忿り爭へり、喧し。○〔左〕「嘖有二―言一」。
㊁わづらはしからしむ、わづらはす、又、勞す。○〔左〕「敢以―二執事一」。
㊂わづらはしと爲す、わづらふ、又、悶ゆ。○〔史〕「病使二人―懣一」。
〔掭煩〕事の少なからざること。○〔杜甫〕「三顧―々天下計」。
〔囂煩〕喧しくして事少なからざること。○〔李白〕「再得レ洗二―々一」。
〔煩煩〕理を明らかにする能はざること。○〔禮〕「寡人惷愚―々」。
〔俗煩〕世俗の繁雜なること。○〔左、疏〕「風散―々」。
〔重煩〕いたく勞せしむること。○〔史〕「方今田時―二百姓一」。
〔滋煩〕益々くだくだしくあり。○〔晉〕「今律令―」。
〔叢煩〕集まり生じて繁雜なり。○〔唐〕「功役―々」。
〔太煩〕甚だ繁雜なること。○〔白虎通〕「何爲―」。
〔苛煩〕嚴酷にして繁雜なること。○〔古雁門太守行〕「救レ吏正レ獄不レ得二―々一」。
〔迷煩〕惑ひてくだくだし。○〔魏武帝〕「意中―々」。
〔傷煩〕繁雜なるために害せらるゝこと。○〔張翽〕「心―々」。
〔黷煩〕穢れて繁雜なること。○〔歐陽修〕「侑敢―」。

【煬】ヤウ。餘亮切 漾

あぶる。
(い)火に對す。○〔戰〕「若レ竈則不レ然、前之人―則後之人無二從見一也」。
(ろ)火にあてゝ熱す、やく、かわかす。○〔莊〕「冬則―レ之」。
(は)熱を加ふ。○〔揚雄〕「南―二丹崖一」。
(に)火氣おこる。○〔柳宗元〕「今有二焚―赫烈之虞一」。
〔炎煬〕焚くこと。○〔東方朔〕「觀二天火之―々一兮」。

【煬】ヤウ。與章切 陽

金を鑠く、とらかす、とく。

十畫

【煹】コウ、ク。古候切 宥

火、かゞり、とぶひ。

【熜】タイ、テ。他回切 灰

㊀火を燒く、やく。
㊁湯にて毛を掃除す、あらふ。

【熴】前條に同じ。

【粦】リン。良刃切 震 力仁切 眞

鬼火、陰火、おにび。○〔博物志〕「戰鬪死亡之所有二人馬血積レ年化爲レ―、著二地及草木一如二露不一レ可レ見、行人觸レ之著レ體有レ光、拂拭即分散無數、又細吒聲如レ鬻、豆靜坐良久尋滅」。

【煻】タウ、ダウ。徒郎切 陽

㊀爐中に畜へたる火、うづみび。
㊁熱したる灰、あつばひ。

【㷅】サウ、セウ。初爪切 巧

いる（熬）。

【㷍】爓に同じ。

【煽】セン。式戰切 霰 式連切 先

【熲】ケイ、キヤウ。古迥切 迥

㊀おこる、又、さかんなり。
(い)火さかる、又、火はげし。○〔蜀都賦〕「高爓飛二―一、于天垂二―一」。
(ろ)勢張る、又、勢强し。○〔詩〕「豔妻―方處」。
㊁助けてさかんならしむ、あふる、おだつ、おこす。○〔任昉〕「羣凶挾―」。
〔驕煽〕おだつること。○〔齊〕「―二―畢類一」。

【熒】シ。楚宜切 支

目の驚く貌にいふ字。

【羨】シ。疾智切 寘

㊀束ねたる炭、たばねずみ。
㊁さらす（曝）。

【煮】前條の㊁に同じ。

【煑】サ、セ。組下切 禡

前々條の㊁に同じ。

【熣】セイ、シヤウ。思營切 庚

あかし（赤）。

【熇】曝に同じ。

【㷔】サイ、セ。子亥切 賄

にる、にゆ（烹）。

【㷊】コク。呼木切 屋

日の出でて赤き貌にいふ字、あかし。

【㷋】コク。胡谷切 屋

赤き貌にいふ字、あかし。

【熀】エフ。爲瓢切 緝

火の光り盛んなる貌にいふ字、又、あきらか（明）。○〔王延壽〕「鴻鵬―以爗閬」。

【熁】ケフ、ゴフ。虛業切 葉

火氣近づき上がる、せまる、あがる。

【㷡】シヨウ、ジヨウ。煮仍切 蒸

㊀熱氣、あつさ。㊁冬日の祭。

【熂】キ、許旣切 未 ケツ、許竭切 月 ケ。 コチ。

草を芟りて燒く、やく、又、其の火、のび。○〔詩、箋〕「―二燎其旁草一」。

【熈】キ。虎委切 紙

烈しき火。

【㷯】ブ、ム。武遇切 遇

火を主る、つかさどる。

【熄】シヨク、ソク。相卽切 職

㊀きゆ。
(い)火滅す。○〔莊〕「爝火不レ―」。
(ろ)亡ぶ、やむ。○〔孟〕「王者之迹―而詩亡」。
㊁きえしむ、けす。○〔史〕「殄二―暴戾一」。
㊂畜へたる火、うづみび。

【熅】ウン、ヲン。於云切 文

㊀焱なき火、うづみび。○〔漢〕「置二―火一」。
㊁鬱せる煙、蒸す氣、一說に、天地の氣。○〔班固〕「降二烟―一調二元氣一」。
㊂煙又は氣の立ち上る貌にいふ字。○〔班固〕「烟々―々」。
㊃あたゝか（煖）。○〔茶經〕「貯二塘煨火一令二―々然一」。

㊄相扶けて和ぐ貌にいふ字。〇[新書]「欣-熅可レ安謂ニ之一ー」。

【熅】ヲン。烏昆切 元
火の微かなるを。

【熅】ヲン。鄔本切 阮
あつし(熱)。

【熅】ウン、ヲン。紆問切 問
火にて物を伸ばす、のばす、のす。

【熅】ヲツ、ヲチ。烏沒切 月
煙の鬱する貌にいふ字、又、熱き貌にいふ字。〇[新書]「天淸-徹地富-ー」。

【熩】コク。胡沃切 沃
やく(灼)。

【熆】カフ、ゴフ。胡臘切 合
火を吹く、ふく。

【熇】コク。火酷切 沃 切 火屋切 屋
火熱す、さかる、おこる、やく、あつし。〇[詩]「多將ニー-ー一、不レ可ニ救-藥ニ」。

【熇】カク。黑各切 藥
謞に同じ、譃慝を崇す、ます。

【熇】ケウ。虛嬌切 蕭
炎氣、ほのほ。

【熇】カウ、ケウ。虛交切 肴
さらす(暴)。

【熇】カウ、コウ。苦浩切 晧
かわく、かわかす(燥)。

【熇】カウ、コウ。口到切 號
あぶる(熇)。

【熈】俗の熙の字。

【熉】ウン、ヲン。王分切 文 羽粉切 吻
色の黃なる貌にいふ字。〇[漢]「照ニ紫-幄ー珠-色ー-然而黃也」。

【熊】イウ、ウ。于弓切 東
㊀一種の猛獸、喉の下に新月形の白き所あるのみにて全身こさぐく黑毛なり、力はなはだ强くして冬期は穴居す、くま。〇[詩]「維ー維羆」。
㊁光澤のあざやかなる貌にいふ字。〇[山海經]「其光ーー、其氣䰟-々」。
〔封熊〕おほいなるくま。〇[張協]「ー-ー之蹯」。
〔蹲熊〕鐘の鈕のこと。〇[周]「旋-蟲ー-ー」。
〔熊熊〕ひかる貌にいふ語。〇[史]「歲-星ー-ー」。
〔伏熊〕輜重車のこと。〇[後漢]「倚-鹿ー-ー」。

【熊】ダイ、ナイ。囊來切 灰
能に同じ、三つの足ある鼈。〇[左]「夢ニ黃ーー入ニ于寢-門ニ」。

【熋】ダイ、ナイ。囊來切 灰
㊀熊に同じ ㊁あつし(熱)。

【[illegible]】リン。良刃切 震
㊀火の貌にいふ字。㊁燭の熄えて火の存するもの、もえさゝり。

【熌】セン、ゼン。舒贍切 艷
煔に同じ。

【熍】キウ、ク。丘弓切 東
焪に同じ。

【熎】エウ。一笑切 嘯
もえのこり(燼)。

【[illegible]】ヲウ、ウ。烏孔切 董
煙氣の貌にいふ字。

【熏】クン、コン。許云切 文
㊀火煙を立ち上らしむ、火煙にかゝりて黑くならしむ、けぶらす、ふすぶ。〇[詩]「穹レ室ーレ鼠」。
㊁煙立ち上る、煙かゝりて黑くなる、ふすぼる、けぶる。〇[畵史]「惟佛-像多經ニ香-煙ーー損ニ本-色ニ」。
㊂やく(灼)。〇[詩]「憂-心如レーー」。
㊃感動す。〇[呂氏春秋]「衆-口ーレ天」。
㊄作す、作る。〇[蔡邕]「下獲ニー-胥之辜ニ」。
㊅和ぎ悅ぶ貌にいふ字、又、坐して安からざる貌にいふ字。〇[詩]「公-尸來止ー-ー」。
㊆醺に同じ、ゑふ。〇[宋之問]「杯ー與醉」。
㊇曛に同じ、くろ、ひぐれ。〇[後漢]「遂與言-談至ニー-夕、極レ歡而去」。
㊈香料を體に塗ること。〇[韓愈]「三-ー三浴而三-ー之ニ」。

【熐】ベイ、ミヤウ。忙經切 青
ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
ー-蠡は、匈奴の聚落の名。

【熑】レン、ロン。勒兼切 鹽
㊀たつ(絕)。㊁火絕えず。

【熑】ケン、コン。苦兼切 鹽
輞を燥かす。

【熒】ケイ、ギヤウ。戶扃切 青
㊀屋下の燈、小光の燭、ともしび。〇[漢]「守ニ突-奧之ー-燭ニ」。
㊁ひかる(光)、又、あきらか(明)、かゞやく(灼)。〇[史]「美-人ーーー兮、顏若ニ苕之榮ニ」。
㊂くらむ、くらます(眩)。〇[莊]「而目將レーレ之」。「委-萎」。
㊃一種の藥草、ゑみぐさ。〇[爾]「ー
㊄螢に通じ用ふ、ほたる。〇[後漢]「逐ニー-光ニ行數-里」。
〔熒々〕わづかなるひかりの火の貌にも、又、あきらかなる貌にもいふ語。〇[說苑]「ー-ー不レ滅」。
〔晶熒〕あきらかにひかる貌にいふ語。〇[韓愈]「堆-金-疊-玉-光ー-ー」。
〔煌熒〕ひかること。〇[沈瑛]「電驚レ窓而ー-ー」。

【熒】クヮウ、ヮウ。乎萌切 エイ、ヤウ。維傾切 庚
火光、ひかり。

【熒】エイ、ヤウ。烏迥切 迥
疑ひ惑ふ、まどふ。〇[莊]「是黃-帝所ニ聽ーー一也」。

【熒】エイ、ヤウ。烏絅切 庚
㊀火の光の貌にいふ字。
㊁暫く明かなる貌にいふ字。

【焓】カン、ゴン。戶感切 感
灼けて爛るるにいふ字、たゞる、やけど。

【熓】ヲツ、ヲチ。烏沒切 月 ヲ、ウ。烏古切 麌
火熄ゆ、きゆ。

【[illegible]】サウ、セウ。初巧切 巧

火にて物を乾かす、かわかす、又、いる、(炒)。

十一畫

【擡】 タイ、テ。 通回切 灰

熓に同じ。

【熚】 ヒツ、ヒチ。 卑吉切 質

火の貌にも火の聲にもいふ字。

【熛】 ヘウ。 補遙切 蕭

㊀火飛ぶ、とぶ。○〔詩、箋〕「炎-熾——怒」。
㊁飛ぶ火、ひのこ。 ○〔史〕「——至風起」。
㊂赤色、あか。 ○〔揚雄〕「前二——闕一而後二應-門一」。

【熜】 熜の本字。

【熝】 ロク。 盧谷切 屋

ねる、(煉)。

【熞】 ケン。 徑天切 先

鐵を灼きて水に漬く、にらぐ。

【熲】 ケイ、キヤウ。 棄挺切 迥

火にて乾し出だす。

【熯】 バク、マク。 末各切 藥

火の貌にいふ字。

【熮】 サウ、セウ。 莊交切 肴

もゆ、もやす、(然)。

【熟】 シユク、ジユク。 市六切 屋

㊀よく煮ゆ、にえとほる、にゆ、又、よく煮る、にえをとほす、にる。○〔左〕「宰-夫胹二熊-蹯一不レ——」。
㊁なる。
(い)みのる。 ○〔書〕「歲則大——」。
(ろ)うむ。 ○〔禮〕「果-實未レ——」。
(は)成遂す。 ○〔北〕「及二醉——一帝欲レ誅レ之」。
(に)調和す。 ○〔南〕「逢二其酒——一取二頭-上葛-巾一漉レ酒」。
(ほ)習ふ。 ○〔東齊記〕「但手——爾」。
㊂なるに至らしむ、なす。 ○〔史〕「成二——萬-物一」。
㊃たゞる、たゞらす、(爛)。 ○〔唐〕「委-靡輭——」。
㊄精審、明了、くわし、つまびらか、あきらか。 ○〔荀〕「凡慮レ事欲レ——」。
㊅熱す、あつし。 ○〔素問〕「五-臟菀——」。
㊆つまびらかに、くはしく、よく〳〵、ぢッさ、つら〳〵。 ○〔戰〕「願王——慮レ之」。
㊇長婦、なさよめ。 ○〔釋名〕「荊-豫人謂二長-婦一曰レ——」。

(大熟) いたくみのれること。○〔書〕「秋——未レ穫」。
(末熟) みのる時來らざること。○〔禮〕「果實——レ——」。
(黄熟) きばみて實のる。○〔韓愈〕「黍-苗——」。
(爛熟) 實の入りすぎてたゞるゝこと ○〔蘇軾〕「櫻-桃———爛レ堦墀」。
(圓熟) まどかにしてよくなれたること、即ち、物事に上手なるにいふ語。 ○〔圖繪寶鑑〕「古-人筆-法——、用-意精-到」。
(睡熟) よくねいること。 ○〔李賀〕「——小-屏深」。
(熟熟) よく熟る。 ○〔傳燈錄〕「生-陳處レ常令二——一」。
(亨熟) にる、にゆ。 ○〔禮〕「——二羶-薌一」。
(晩熟) 遲く實のる。 ○〔禮〕「五-穀——」。
(和熟) なる。 ○〔左〕「年-穀——」。
(蕃熟) 繁茂し實のる。 ○〔史〕「五-穀——」。
(收熟) 實のりて取り入れをなす。 ○〔魏〕「田向二——一」。
(飪熟) よく煮る、又よく煮ゆ。 ○〔北〕「——之節、必親調レ之」。
(善熟) よく實のること。 ○〔唐〕「江-淮田一——」。
(習熟) よく物事になる、よく物事にならす。 ○〔稽苑別錄〕「大-抵杀レ茶亦須二——一」。
(遲熟) 時に後れて實のる。 ○〔金〕「穄-穡——」。
(登熟) 植物の實のること。 ○〔越絕書〕「禾稼——」。
(劑熟) 調合のよくなること。 ○〔墨經〕「——可レ知」。
(機熟) 物事のはづみの十分に乘り來たれること。 ○〔范成大〕「——兩忘レ情」。
(稔熟) 穀物の實のること。 ○〔張耒〕「田-家——人-情好」。

【熠】 イフ。爲立切 シフ。席入切 緝

盛んなる光明あると、鮮明なると、あざやか、あきらか、ひかる、かゞやく、かゞやかす。 ○〔詩〕「——燿其羽」。
(熠々) (い)鮮かなる貌にいふ語。 ○〔歐陽修〕「晩-水明——」。 「流-熠兮」。
(ろ)盛んなる光にいふ語。 ○〔阮籍〕「色——以
(煜熠) あきらか、かゞやく、かゞやかす。 ○〔潘岳〕「鳳-皡——」。
(燿熠) 前に同じ。 ○〔蔡邕〕「——二祖-廟一」。
(煌熠) 光りかゞやくと即ち太陽のこと。 ○〔阮籍〕「欣二——之朝-顯一兮」。
(宵熠) 螢のこと。 ○〔范成大〕「腐-化熠二——一」。
(明熠) あきらか。 ○〔王融〕「——儀-堵流」。

【熨】 ショ、ゾ。 署與切 語

野火、のび。

【熡】 ロウ、ル。 勒侯切 尤

火炎、ほのほ。

【漨】 ホウ、フ。 敷容切 冬

烽に同じ。 ○〔漢〕「置二——燧一」。

【熢】 ホウ、プ。 蒲蒙切 東

煙の鬱する貌にいふ字。

【熥】 ホウ、プ。 蒲蠓切 董

火の氣。

【熮】 イウ、ウ。 余紐切 有

材木を積みたるを然やし燎さなして天を祭ると。

【熷】 サウ、ソウ。 作曹切 豪

火餘の木、やけのこり、やけぼく、又、燒焦す、やく。 ○〔般若經〕「人以二小-火一燒二乾-草-木一」。

【熣】 サイ、セ。 蘇回切 灰

煙塵、すゝ。

【熤】 エキ、ヤク。 夷益切 陌

ヨク、イキ。 逸織切 職

人の名。

【熥】 トウ、ツ。 他東切 東

火にて物を煖む、あたゝむ。

【燋】 シヤク、サク。 即約切 藥

爝に同じ、火の具。

【熧】 シヨウ、シユ。 即容切 冬

㊀火光行く、ひらめく。
㊁火の穴中を行くにいふ字。
㊂火の穴中を出づるにいふ字。

【熨】 井。 於胃切 未

㊀上より按ふ、おさふ、又、おさへ煖む、あたゝむ、又、膏藥をおさへ貼ると。 ○〔史〕「案-抗毒——」。
㊁火氣にて帛布をおさふ、のす、又、のすに用ふる火氣を貯ふる器、ひのし、火斗。 ○〔梁簡文帝〕「——斗成二褶-襵一」。

〔攻熨〕病ある處に藥物を貼りつくること、又、病ある處をあたゝおること、轉じて療治すること。〇〔柳宗元〕「日思ㇾ砭・針一一ㇾ」。「攻也」。
〔湯熨〕ゆを以てあたゝむること。〇〔史〕「一・一之所ㇾ」。
〔砭熨〕病ある箇處にはりをさしあたゝめ又は膏藥をはること、轉じて療治すること。〇〔裴延翰〕「其一・一藥惡」。
〔灙熨〕洗ひてひのしをかけ清むること、即ち、穢れを去るにもいふ語。〇〔宋祁〕「一・一故俗」。
〔洗熨〕前に同じ。〇〔文同〕「淨若新一・一」。

【熨】ウツ、チチ。紆物切　物
前條の㊀に同じ。〇〔蘇軾〕「象床素手一寒衣」。

【熩】コ、グ。後五切　慶
ひかる、（光）。

【熸】セン、ソン。子廉切　鹽
㊀おころ、おこす、（熾）。㊁つく、つくす、（盡）。

【熪】イ。弋支切　支
火の絶えざる貌にいふ字。

【熢】ホウ、ブ。蒲蠓切　董
煙塵の雜り起ころ貌にいふ字。

【熬】ガウ、ゴウ。牛刀切　豪
㊀いる。
（い）火に乾かして汁を去る。〇〔周〕「共ニ飯米一穀ニ」。
（ろ）乾きて汁なくなる。〇〔後漢〕「少ㇾ汁一而不ㇾ可ㇾ熟」。
㊁嗸に通じ用ふ、愁ふる聲にいふ字。〇〔漢〕「衆・庶一・一苦ㇾ之」。
〔煎熬〕煮ると乾かしいると、即ち食物を調理するにいふ語。〇〔七發〕「于ㇾ是使ニ伊・尹一・一ニ」。「香」。
〔烹熬〕前に同じ。〇〔洪希文〕「土銼一・一雨露一ニ之」。
〔研熬〕乾かしいる。〇〔齊民要術〕「赤・白牛・細一ニ」。
〔焦熬〕こげ乾く、又、こがしいる。〇〔劉禹錫〕「土山一・一」。
〔炮熬〕炙り乾かすこと。〇〔梅堯臣〕「霜後可ニ一一」。

【熭】エイ、于歲切　霽
エツ、チチ。王伐切　月
ケイ、ゲ。胡桂切
暴らし乾かす、さらす、かわかす、ほす。〇〔漢〕「日中必一」。

【熮】リウ、ル。力久切　有
㊀火の貌にいふ字　㊁やく、（燒）。
㊂たゞる、（爛）。

【熮】レウ。烙蕭切　蕭
㊀前條に同じ。
㊁はげし（烈）。〇〔逸周書〕「味辛而不ㇾ一」。

【熯】ゼン、ネン。人善切　銑
㊀乾かす貌にも火の盛んなる貌にもいふ字、かわかす、やく。〇〔管〕「燒ニ燐一ニ焚鄭地ニ」。
㊁つゝしむ（敬）。〇〔詩〕「我孔一矣」。

【熯】カン。呼旱切　旱
焊に同じ。

【熯】カン。呼旰切　翰
暵に同じ、かわかす、かわく。〇〔易〕「燥ニ萬物一者莫ㇾ一ニ乎火ニ」。

【熰】オウ、ウ。烏侯切　尤
炮燒す、つゝみやく。〇〔管〕「古之祭有ㇾ時而一」。

【熰】オウ、ウ。於侯切　宥
あたゝか、（煖）。

【燉】ホツ、ボチ。蒲沒切　月
煙起こりて白きにいふ字、けぶろ、ぶろし。

【㷰】チ。丑知切　支
火熾る、さかる。

【㷰】リ。呂支切　支
雌中の火。

【熱】ゼツ、ネチ。如列切　屑
㊀物を溫め又は燒く氣。〇〔揚雄〕「地藏ニ其一ニ」。
㊁暑氣、あつさ。〇〔北〕「叡冒ㇾ一」。
㊂體溫の宜しきを得ざること。〇〔漢〕「使ニ人身一無ㇾ色頭・痛嘔・吐ニ」。
㊃悶え煩ふこと、心のかたより向かふこと。〇〔孟〕「不ㇾ得ニ於其君一則一・中」。
㊄雜沓すること、紛擾すること。〇〔語類〕「方是鬧一・一」。
㊅太だあたゝかなり、あつし。〇〔孟〕「如ニ水益深一、如ニ火益一ニ」。
㊆あつくなる、あつくす、あたゝむ、あたゝまる、むす、やく。〇〔淮〕「天・下熬・然如ニ焦・一ニ」。
〔盛熱〕甚だしくあつきこと。〇〔抱朴〕「每ニ大・醉及一・一、輒入ニ深・水底ニ」。
〔面熱〕顏ののぼせてあつきこと。〇〔晉〕「每ㇾ見輙一一」。「一・一ニ」。
〔炎熱〕暑氣の甚だしきこと。〇〔唐文宗〕「人皆苦ニ一・一」。
〔觸熱〕あつさにあたる。〇〔杜甫〕「一ㇾ一生ニ病・根ニ」。「一一ニ」。
〔漸熱〕次第を追ひてあつくなる。〇〔書、疏〕「冬當ニ一・一之服ニ」。
〔蒸熱〕むしあつきこと、むしやくこと。〇〔詩、疏〕「延ニ
〔溜熱〕さむきとあつきと。〇〔汲冢周書〕「天地之間有ニ一・一ニ」。
〔溫熱〕あたゝかきと、あつきと、又、あたゝか、あたゝまる。〇〔水經、註〕「其水一・一若ㇾ湯」。
〔煩熱〕あつくるしきこと。〇〔桃谷〕「一・一攻ニ四肢ニ」。
〔瘴熱〕莳病、わうたん。〇〔漢〕「近ㇾ夏一・一」。
〔沸熱〕わきあがりあつくなる。〇〔東方朔〕「心一・一其若ㇾ湯」。
〔暑熱〕あつさの極めて烈しくあること。「用消ニ一・一ニ」。
〔苦熱〕前に同じ。〇〔白居易〕「不ㇾ堪ㇾ逢ニ一・一ニ」。
〔餘熱〕名殘りの暑氣。〇〔楊搦〕「持一ニ」。〇〔孫萬壽〕「高齋屛ニ一・一ニ」。
〔殘熱〕前に同じ。〇〔白居易〕「江・上徵ニ一・一ニ」。
〔避熱〕暑氣をよけ去る。〇〔杜甫〕「一ㇾ一」「來ㇾ歸」。
〔隆熱〕暑氣の盛なること。〇〔韓愈〕「六・月一・一」。
〔暖熱〕前に同じ。〇〔蘇軾〕「坐使ニ高・堂生ニ一・一ニ」。「一・一顏生ㇾ壓」。
〔薄熱〕甚しからぬあつさのこと。〇〔范成大〕「連・年一ニ」。
〔燒熱〕あつし、やく。〇〔春秋繁露〕「故爲ニ一・一ニ」。

【熲】ケイ、キヤウ。古迥切　迥
火光、ひかり、又、かゞやく、かゞやかす、（輝）。〇〔詩〕「無ㇾ思ニ百・憂一不ㇾ出ニ于一ニ」。

【燦】サン。倉旦切　翰
俗の燦の字。〇〔揚雄〕「熱則乾一」。

【燦】サン。倉旦切　翰
かゞやく、かゞやかす、（輝）。

十二畫

【㷳】ガン。五旰切　翰
ガン、ゲン。五晏切　諫
火の色、又、火。

【𤑌】前に同じ。

【熶】サン。取亂切　翰

爨に同じ。

【熷】ソウ。作滕切 ショウ、慈陵切 ジョウ。切 蒸 生肉を竹の中に入れて炙る、あぶる。

【爉】ラフ、ロフ。力盍切 合 火のもゆる貌にいふ字。

【爉】レフ。力涉切 葉 火の聲にいふ字。

【熸】セン、ソン。將廉切 鹽 火滅す、勢失す、きゆ、やむ。〇[左]「楚師―」。

【熹】キ。虛其切 支 ㊀あぶる、(炙)。㊁やく、(熱)。㊂むす、(烝)。㊃よろこぶ、(訢)。㊄おこる、さかる、(熾)。㊅さかんなり、(盛)。㊆ひろし、(博)。㊇陽光の微なること。〇[陶潛]「恨二晨光之―微一」。㊈あきらか、(明)。〇[楊萬里]「東-暾淡「未レ―」」。

【熺】熹に同じ、あきらか。〇[管]「古之祭有レ時而星―」。

【熺】熾に同じ。〇[禮]「湛―必潔」。

【熻】キフ、コフ。許及切 緝 ㊀やく、(爇)。㊁あつし、(熱)。

【熽】セウ。蘇弔切 嘯 火熾ろ、さかろ、おころ。

【熾】シ。昌志切 寘 ㊀おころ、さかんなり。

(い)火燃ゆ、火勢つよし。〇[北]「所レ謂火既―矣、更負レ薪足レ之」。
(ろ)氣勢張る、氣勢つよし。〇[詩]「獵-犹孔―」。
㊁おこらしむ、やく、たく、もやす、かしぐ、おこす。〇[左]「―二炭於位一」。

(昌熾) さかんなること。〇(說苑)「夫駿者國-家所二以―-―一」。
(殷熾) 前に同じ。〇(魏)「天-下―-―」。
(隆熾) 前に同じ。〇(論)「德-惠―-―」。
(盛熾) 前に同じ。〇(論)「德-熏―-―」。
(煽熾) 前に同じ、又、おこす。〇(潘岳)「種-落―-―」。
(豐熾) ゆたかにさかんなること。〇(唐)「時 海-内―-―」。
(繁熾) おほくさかんなること。〇(曹植)「皇-嗣―且―」。

【熿】クワウ、胡光切 陽 戸廣切 漾 明か、かゞやく、かゞやかす。〇[司馬相如]「―-炳煇-湟」。

【燀】セン、ゼン。充善切 銑 ㊀さかんなり、おころ、おこす、(熾)。〇[左]「―レ之以レ薪」。㊁光明を發す、かゞやく、かゞやかす。〇[漢]「―二耀威靈一」。

(災燀) 火災おこること。〇(國)「水無二沈-氣一火無二―-―一」。
(威燀) 威嚴のさかんなること。〇(史)「―-―旁-達」。

【燀】タン。黨旱切 旱 厚くして燠か、あたゝか。〇[呂氏春秋]「衣不二―-熱一」。

【燁】エフ。域輒切 葉 イフ、域及切 緝 オフ。切 光る貌にいふ字、かゞやく、かゞやかす、又、光り盛んなり、さかんなり。〇[夏侯湛]「焜-―發-越」。

(燁燁) かゞやく貌にもさかんなる貌にもいふ語。〇(郭璞)「丹-木―-―」。

【燃】俗の然の字、もゆ、もやす。〇[元經]「范-陽地―」。

(燃々) 前に同じ。〇(米黻)「則是星亦嘗―-―而灼-々」。

【燂】セン、ゾン。慈鹽切 鹽 ㊀あたゝむ、あたゝか、(煖)。〇[禮]「―レ湯請レ浴」。㊁たゞろ、たゞらす、(爛)。〇[周]「撟レ角欲下熟二于火一而無上レ―」。

【燂】ジン。除心切 侵 火にて物を熟せしむ、にろ。

【燂】タン、ドン。徒含切 覃 やく、(爇)。

【燅】セン、ゾン。似廉切 鹽 湯中にて肉を溫む、あたゝむ、ゆびく。

【燅】ジン。除心切 侵 あたゝか、あたゝむ、(燂)。〇[儀]「乃―二尸俎一」。

【燆】ケウ。牽幺切 蕭 熇に同じ。

【燇】ソン、スン。祖寸切 願 焌に同じ。

【燈】トウ。都騰切 蒸 ㊀點じたる火、ともしび、あかり、あかし。〇[春明退朝錄]「上-元燃レ―、自レ昏至レ晝」。㊁佛家にて法の義に喩へいふ字。〇[杜甫]「傳-―無二白-日一」。

(神燈) かみにそなふるともしび。〇(崔液)「―-―佛-火百-輪張」。
(風燈) 風にあたるともしびとてすみやかにきゆる意に用ふる語。〇(遼)「人-生如二―-―石-火一、不レ飲將何爲」。
(孤燈) ひとつのともしび。〇(李白)「―-―不レ明思欲レ絕」。
(毬燈) まるがたの燈籠。〇(王世貞)「半-夜―-―出二未-央一」。
(法燈) 佛法のこと。〇(劉孝綽)「欲レ使二―-―永-傳、勝-因長-久一」。
(挑燈) ともしびをかきたつ。〇(盧綸)「―レ―更惜レ花」。
(殘燈) きえのこりのともしび。〇(韋應物)「―-―尙留レ壁」。「空-林一」。
(散燈) ひかりよわきともしび。〇(韓愈)「―-―照二經-夏紗-籠黑」。
(簷燈) のきばにかくるともしび。〇(王建)「―-―」
(暗燈) ひかりのあきらかならざるともしび。〇(張耒)「童-子持二經守二―-―一」。
(籠燈) 燈籠のこと。〇(李中)「―-―吐二冷-艷一」。
(點燈) ともしびをつく。〇(蘇軾)「憐レ蛾不レ―レ―」。
(冷燈) 寒燈といふに同じく光りのさかんならざるともしび。〇(蘇軾)「―-―殘-月照二空-床一」。

【燄】エン。以冉切 琰 火の少しく然え上がる貌にいふ字。〇[左]「―-―不レ滅若二滔-々一何」。

【燄】エン。以贍切 豔 ㊀火のおこり上がる貌にいふ字、もゆ。〇[書]「火始―-―」。㊁上がる火光の端末、ひさき、ほのほ。〇[左]「其氣―以取レ之」。

(氣燄) 氣勢といふに同じ。〇(唐)「其威靈―-―有二以動レ物悟レ人者一」。
(光燄) ひかりのこと。〇(韓愈)「―-―萬-丈長」。
(烟燄) けむりとほのほと。〇(北)「―-―漲レ天」。
(火燄) ほのほのこと。〇(易林)「卒逢二―-―一」。

【焰】カン、ゴン。胡紺切 勘 脂に同じ、肉を食ひて厭かず。

【燉】トン、ドン。徒昆切 元
㊀火の盛んなる貌にいふ字。
㊁火の色。㊂おほいなり、(大)。

【爅】ボク、モク。莫北切 屋
ひ、(火)。

【熻】アフ、オフ。遏合切 合
菜を煮る、にる。

【煏】ヒョク、ヒキ。弼力切 屋
ヒ、ビ。平秘切 寘
火もて乾かす、かわかす。

【熝】ボク、モク。鼻墨切 屋
いる、(熟)。

【燊】シン。所臻切 眞
㊀さかんなり、(熾)。㊁つかふ、(役)。
㊂炎のさかり和ぐ貌にいふ字。

【㷋】クワ、胡瓜切 麻 サイ、蘇内切 隊
ゲ。セ。
さかんなり、(熾)。

【㷶】ラウ、ロウ。郎刀切 豪
物未だ精しからず、あらし。

【燋】セウ。卽消切 蕭
㊀焦に同じ、こがる、こがす。〇[漢]「ーレ頭爛レ額」。
㊁炬火、燎火、かゞりび、たいまつ。〇[周]「以ニ明-火ー爇レー」。

【燋】サク、ソク。側角切 覺
未だ爇かざる燭。〇[禮]「執レ燭抱レー」。

【燋】シャク、サク。卽約切 藥
爝又、灼に同じ。

【燋】セキ、資昔切 陌 シャク。則歷切 錫
龜を灼く炬。

【燌】フン、ボン。符分切 文
焚に同じ。〇[論衡]「皮-膚灼-ー」。

【燂】タン、トン。吐敢切 勘
青黑き繪、一說に、青黃の色、又、青白の色。

【燅】セン、ソン。處占切 鹽
衣の動く貌にいふ字。

【㷻】シ。息移切 支
焦げて臭し、こげくさし。

【燍】セイ、サイ。先齊切 齊
セイ、シャウ。銑挺切 迥
こがる、こがす、(焦)。

【燎】レウ。力弔切 嘯
㊀地上の露火、にはび、そこび、かゞりび。〇[詩]「庭-ー之光」。
㊁獵場の放火、かりび。〇[詩]「ー之方揚」。
㊂やく。
(い)火を放つ、火に燃やす、もやす。〇[詩]「惡彼作-棫、民所レー矣」。
(ろ)火おこる、火に燃ゆ、もゆ。〇[拾遺記]「入レ水不レ濡入レ火不レー」。
㊃てる、てらす、(照)、又、あきらか、(明)。〇[詩]「佼-人ー兮」。
〔庭燎〕にはにたくかゞり火。〇[周]「凡邦之大事共ニ墳燭ー-ーニ」。
〔薪燎〕かゞり。〇[禮]「以共ニ郊-廟及百-祀之ーーーニ」。
〔燧燎〕火をたく。〇[後漢]「ー-ー告レ天」。
〔郊燎〕火をたき天をまつること。〇[晉]「具ニ典-儀ー倏ニー-ー之禮ニ」。
〔燭燎〕ともしびとかゞりびと。〇[程俱]「ー-ー者爭レ明」。
〔燎燎〕ひかる貌にいふ語。〇[韓詩外傳]「ー-ー乎如ニ星-辰之錯-行ニ」。「ー-ーニ。
〔猛燎〕勢つよくもゆること。〇[王僧孺]「摸ニ秋-原之ー」。

【燎】レウ。力小切 篠 憐蕭切 蕭
前條の㊂に同じ、やく。〇[書]「若ニ火之ーニ于原ニ」。

【燏】イツ、イチ。餘律切 質
㊀光る貌にいふ字。
㊁火の貌にいふ字。

【燐】粦に同じ。〇[淮]「久-血爲レー」。
〔野燐〕のはらにもゆるあやしきひ、おにび。〇[閑權]「窆餘ニー-ー寒-沙頭」。
〔鬼燐〕前に同じ。〇[鄭元祐]「ー-ー出ニ霜-草ニ」。

【燒】セウ。式昭切 蕭
やく。
(い)火を放つ、火に燃やす。〇[戰]「以レ責賜ニ諸民ニ因ニー其券ニ」。
(ろ)火に燃ゆ、火發す。〇[淮]「宋伯-姬坐ー而死」。
〔雜燒〕まぜあはせてやく。〇[史]「悉詣ニ守尉ーニ雜ー之ニ」。「去」。
〔屠燒〕人を殺し家をやく。〇[史]「ーニー咸陽ニ而ー」。
〔延燒〕家などのひきつゞきてやくること。〇[史]「ーニー千-餘-家ニ」。
〔縱燒〕火をはなちやく。〇[後漢]「若因レ夜ー-ー、必大驚-亂」。
〔焚燒〕やくこと。〇[韓愈]「月-林恐ニー-ーニ」。
〔薰以香自燒〕かをりものかをりあるゆゑにやかれるとの義、轉じて才能ある者の才能あるためにわざはひを受くるとにいふ語。〇[漢]「ー-ーレー-ー 胥以明自銷」。

【燒】セウ。失照切 嘯
㊀前條に同じ、やく。〇[管]「齊之北-澤ー火-光照ニ堂-下ニ」。
㊁野火、のび。〇[白居易]「夕-照紅ニ于ーニ」。

【燓】ヘン、ハン。附袁切 元
燒田、やきがり。

【燌】フン、ボン。符分切 文
焚に同じ。

【燓】ヘツ、ヘチ。必結切 屑
𤇣に同じ。

【燧】スヰ、ズヰ。徐醉切 寘
燧に同じ、のろし。

【燨】シ。遵爲切 支 セン。子兗切 銑
あつもの、(臛)。

【燔】ヘン、ハン。附袁切 元
㊀やく、(炙)。〇[詩]「或ー或炙」。
㊁膰に通じ用ふ、ひもろぎ、祭肉。〇[左]「與レ執レー焉」。
〔炰燔〕あぶりやく。〇[詩]「ーレ之ーレ之」。
〔燒燔〕やくこと。〇[陶潛]「林室頓ー-ー」。

【燕】エン。伊甸切 霰
㊀一種の鳥、春分に寒地より來たり秋分に暖地に去る、人家の欂梁などに巢くふ、尾長くして岐かる、つばめ、つばくろ、玄鳥。〇[詩]「ー-ー于飛」。

㊁釀に通じ用ふ、さかもり。○〔詩〕「我有二旨-酒一嘉-賓以｜以敖」。
㊂宴に通ず、やすんず、やすし、やすむ。○〔易〕「有レ地不レ｜」。
〔往燕〕かへり去るつばめのこと。○〔陶潛〕「｜｜無二遺-影一」。
〔乳燕〕雛をやしなふつばめ。○〔鮑照〕「｜｜逐二草-蟲一」。
〔紺燕〕ちぎといふ鳥の異名。○〔爾、翼〕「鷂翠鳥也、一名二翠-鷸一、又名二｜｜一」。
〔周燕〕ほとゝぎすといふ鳥の異名。○〔爾、翼〕「子-規亦曰二望帝一、亦曰二杜-宇一、亦曰二杜-鵑一、亦曰二｜｜一」。

【燕】エン。因蓮切 先
國の名。

【燖】ジン。徐心切 侵
燂に同じ、にる。○〔春秋、傳〕「若可レ｜也亦可レ寒也」。
〔炮燖〕やきにる。○〔路史〕「以｜以｜」。

【燂】セン、ゾン。徐鹽切 鹽
肉を湯中に漬けてあたゝむ、あたゝむ、ゆびく。○〔儀、註〕「惟｜者有レ膚」。

【爤】ラン。郎旰切 翰
爛に同じ。

【燜】バイ、メ。武罪切 賄 クワイ、ケ。呼回切 灰
たゞる、たゞらす、(爛)。

【燣】リン。力荏切 沁
㊀火を侵す。㊁火の貌にいふ字。
㊁火舒ぶ、のぶ。

【㷋】イン。以荏切 沁

火盛んなり、さかんなり。

【燙】タウ、ダウ。徒浪切 漾 徒郎切 陽
そゝぐ、(滌)。

【燁】エフ。筠輒切 葉
さかんなり、さかろ、(盛)。

【燚】イツ、イチ。以日切 質
火の貌にいふ字。

【㷷】シ。遵爲切 支
熼に同じ。

【雋】セン。子兗切 銑
火の貌にいふ字。

【㸂】熸に同じ。

【焯】タウ、デウ。直教切 效
急に煎る、急に爨ぐ、いる、かしぐ。

【燥】サウ、セウ。所教切 效
熾火急に燃ゆ。

【熲】ケイ、ギヤウ。倶永切 梗
火の名、一說に、日光。

【㷜】クツ、コチ。許勿切 物
やく、(煨)。

【燲】セキ、シャク。思積切 錫
さらす、(曝)。

十三畫

【營】エイ、ヤウ。余傾切 庚
㊀いさなむ、いさなみ。(い)なす、(造)。○〔詩〕「經レ之｜レ之」。(ろ)をさむ、(治)。○〔詩〕「召-伯｜レ之」。(は)はかる、(度)。○〔呂氏春秋〕「｜二邱-壟之小-大高-卑一」。(に)う、(得)。○〔楚辭〕「何往｜二班-祿一」。
㊁調和す、とゝのふ、やはらぐ。○〔淮〕「鼓レ瑟者期二于鳴-廉修｜｜一」。
㊂周迴す、めぐる、めぐらす。○〔禮、註〕「｜二壘其土一爲レ窟」。
㊃惑亂す、まどふ、まどはす、みだる。○〔漢〕「｜二惑耳-目一」。
㊄往來する貌にも周旋する貌にもいふ字。○〔詩〕「｜｜青-蠅」。
㊅兵の屯在する所、守衛の居る地、軍壘、とりで、しろ、たむろ、まもり。○〔史〕「以二師-兵一爲二｜-衞一」。
㊆魂魄、たましひ。○〔老〕「載二｜-魄一抱レ一、能無レ離乎」。
㊇畛域、周囘、かぎり、さかひ、まはり、めぐり。○〔太元〕「時監二地｜｜一」。
㊈居所、宅舍、すまひ、いへ、やどり。○〔管〕「宮｜大而室-屋寡」。
〔正營〕おそれて安んぜざる貌にいふ語。○〔漢〕「人-民｜-｜」。
〔屛營〕彷徨す、さまよふ。○〔後漢〕「夙-夜｜-｜」。
〔連營〕軍壘を列ぬ。○〔魏〕「樹レ柵｜レ｜」。
〔研營〕軍壘を鑿つ。○〔呉〕「倫-蹤夜｜レ｜」。
〔空營〕人なき軍壘。○〔左、註〕「烏-鳥得二｜-｜一」。
〔堅營〕軍壘を守り固む。○〔史〕「高レ壘｜レ｜」。
〔結營〕軍壘を造る。○〔後漢〕「｜レ｜爲レ陣」。
〔天營〕星の名。○〔宋之問〕「｜-｜逼二翠微一」。
〔栽營〕栽縫す。○〔魏〕「荷-衣葛-履｜-｜已整」。
〔柳營〕漢の大將軍周亞夫の細柳に營したる故事より幕府の異稱にいふ語。○〔盧綸〕「諸-戎拜二｜-｜一」。
〔偸營〕上にかくして盜みつくる。○〔商子〕「則不二｜-｜一」。
〔宿營〕陣取る地。○〔水經、註〕「是克｜-｜處」。
〔屯營〕軍隊のたむろしゐる壘のこと。○〔呉都賦〕「｜-｜櫛-比」。
〔築營〕建造すること。○〔梁簡文帝〕「貳-師將-軍新｜-｜」。
〔軍營〕軍壘のこと。○〔諸亮〕「乘-柳映二｜-｜一」。
〔廢營〕今時用ひをなさゞる軍壘。○〔李商隱〕「荒-材依二｜-｜一」。
〔殘營〕前に同じ。○〔方干〕「野-火燒二｜-｜一」。
〔星營〕星のこと。○〔陸都剌〕「｜-｜跛-角月連レ山」。
〔繕營〕治め作る。○〔魏覯〕「力-役止｜-｜」。

【營】ケイ、キヤウ。懸扃切 靑
辨解す、とく。○〔莊〕「口將レ｜」。

【燠】イク、オク。於六切 屋 アウ、オウ。烏到切 號
㊀熱を中に含むこと、あたゝか、あつし。○〔書〕「曰寒、曰｜」。
㊁隩に通じ用ふ。○〔史〕「其治｜」。
〔寒燠〕さむきとあつきと。○〔漢〕「此｜-｜之表也」。
〔鬱燠〕盛んにあつきこと。○〔王褒〕「不レ若二盛-暑之｜-｜一」。
〔炎燠〕前に同じ。○〔謝朓〕「凉-雨銷二｜-｜一」。
〔極燠〕前に同じ。○〔詩、疏〕「南-地｜-｜」。
〔涼燠〕すゞしきとあつきと。○〔謝朓〕「｜-｜資二成-化一」。
〔溫燠〕暖かなること。○〔劉蛻〕「叙二｜-｜一則寒-谷成-暄」。
〔暄燠〕前に同じ。○〔溫庭筠〕「信比二｜-｜一」。
〔燠々〕暖かなる貌にいふ語。○〔白居易〕「天-氣仍｜-｜」。
〔殘燠〕のこりのあつさ。○〔權德輿〕「溫-臺蕩二｜-｜一」。

【燠】ウ、ヲ。威遇切 遇 イウ、ウ。於求切 尤
痛み念ふ聲にいふ字。○〔左〕「民-人痛-疾而或｜二休之一」。

【燠】アウ、オウ。烏皓切 皓
甚だ熱し、あつし。

【燡】エキ、ヤク。羊益切 陌
光の甚しき貌にいふ字、ひかる、かゞ

やく。○〔王延壽〕「赫——而燭レ坤」。

【熝】アウ、オウ。於刀切　豪
物を灰の中に埋めて熟せしむ、やく。○〔韓愈〕「熚炮熝——熟飛奔」。

【熭】カク、コク。轄覺切　覺
かわく、かわかす(燥)。

【燣】ラン、ロン。盧感切　感
黃色、き、又、き色に焦ぐ、こぐ。

【燯】シャク、サク。職略切　藥
あきらか(明)。

【燤】タイ。他代切　隊　タツ、タチ。他達切　曷
煙の貌にいふ字。

【燤】レツ、レチ。力蘗切　曷
火斷ゆ、たゆ、きゆ。

【燥】サウ、ソウ。蘇到切　號　蘇老切　晧
㊀溼氣盡く、かわく。○〔易〕「火就レ燥」。
㊁かわかしむ、かわかす。○〔易〕「燥二萬物一者莫レ熯二乎火一」。
㊂爍す。○〔戰〕「燥二于秦一」。
〔乾燥〕かわく、かわかす。○〔易、疏〕「火木——」。
〔風燥〕風吹きて乾く。○〔周、註〕「及備二——一」。
〔明燥〕あかるくして乾く。○〔左、疏〕「欲レ更二於——之處一」。
〔炙燥〕あぶり乾かす。○〔戰〕「爆々——也」。
〔高燥〕たかくして乾きあり。○〔南〕「其地——」。
〔卬燥〕前に同じ。○〔唐〕「地本——」。「根」。
〔亢燥〕前に同じ。○〔舒頔〕「築レ室——依二山」。
〔燥燥〕乾く、かわかす。○〔魏〕「是日——」。
〔暵燥〕前に同じ。○〔齊民要術〕「日烈——」。
〔枯燥〕生氣少なくして乾く。○〔放翁〕「地——不レ可レ耕」。

【燦】サン。倉案切　翰
明瀞なる貌にいふ字、あきらか、あざやか。○〔齊東野語〕「戈甲煥——」。
〔光燦〕明かなる貌にいふ語。○〔酉異記〕「堂中無レ燈、而——滿レ室」。
〔明燦〕前に同じ。○〔雲谷雜記〕「星斗——」。
〔閃燦〕前に同じ。○〔劉秉忠〕「雲霞——動二霓旌一」。

【燧】スヰ、ズヰ。徐醉切　寘
㊀火を取る用をなす具、即ち、ひうち石、或は日光を受けて火を取る鏡など。○〔戰〕「挹二水於河一取二火於——一」。
㊁火を取ると、火を改むると。○〔淮〕「蕭——而負レ薪」。
㊂うちび、ぎりび、てんぴ。○〔左、註〕「燒二火——一繫二象尾一」。
㊃烽火、のろし、あげび、特に、其の夜間に打ちあぐるもの。○〔史〕「爲二烽——一」。
㊄轉じて、警備。○〔周邦彥〕「息レ——而摧レ櫓」。
〔金燧〕日光を受けあつめて發火せしむる器、てんぴより。○〔禮〕「左靈二——一」。
〔陽燧〕前に同じ。○〔周〕「謂二之——一之齊一」。
〔木燧〕火を鑽りて取るもの。○〔白虎通〕「何鑽二——一」。
〔鑽燧〕火を取る。○〔論〕「——改レ火」。
〔舉燧〕のろしを打ちあぐ。○〔宋〕「有レ急則——」。
〔陽燧〕日光を受けて火を取るもの。○〔晉〕「火出二於——一」。
〔陰燧〕月光を受けて水を取るもの。○〔崔拙〕「應二——而通レ玄」。　「舉レ燧、夜——」。
〔烽燧〕夜間に發するあひづののろし。○〔漢〕「畫
〔亭燧〕亭障に設けあるあひづののろし。○〔後漢〕「陣-築——、出二長城外一數千里」。
〔關燧〕關處に設けあるあひづののろし。○〔齊〕「今——無レ虞」。
〔邊燧〕外寇に備ふるために國境の地に設けあるあひづののろし。○〔魏〕「——靜息」。
〔巢燧〕始めて木の上に巢をつくりひうちを鑽りて火を取りたると、即ち大古の時のといふ語。○〔書斷〕「——之時、淳一無レ數」。　「——四學」。
〔炎燧〕あひづののろしを打ちあぐ。○〔陳琳〕「——

【燧】前條に同じ。

【燩】キャク、ガク。極虐切　藥
火熾んなり、さかんなり。

【㸆】キ。許其切　支
ひ(火)。

【燨】ヒョク、ヒキ。彌力切　職
燨の字に同じ。

【燩】カク、コク。克角切　覺
火にて物を乾かす、かわかす、又、さらす(曝)。

【燩】ケキ、キャク。詰歷切　錫
乾燥す、かわく、かわかす。

【燪】ケン、コン。虛嚴切　鹽
㊀火の貌にいふ字。㊁あつし(熱)。

【燪】ソウ、ス。麤叢切　東
㊀たいまつ(炬)。㊁あたゝか(溫)。

【燫】レン、ロン。勒兼切　鹽
火絕えず。

【燬】キ、許委切　紙　クワ。呼臥切　箇
火盛んなり、おこる、やく、又、烈火、はげしきひ。○〔詩〕「王室如レ燬」。

【燭】ショク、ゾク。之欲切　沃
㊀炬火、燈火、ともしび、かゞりび。○〔禮〕「燭至起」。
㊁てる、てらす(照)。○〔漢〕「日月所レ燭」。
㊂星の名。○〔史〕「燭星狀如二太白一、其出也不レ行、見則滅」。
〔玉燭〕四時の氣候の調和すると。○〔爾〕「四時和謂二之——一」。
〔執燭〕あかしを手に持つ。○〔禮〕「主者——抱レ燋」。
〔地燭〕かゞり火。○〔周、註〕「燋——也」。
〔明燭〕(い)ともしびをあかるくす。○〔揚雄〕「——執レ符」。(ろ)あかるきともしび。○〔謝惠連〕「燎二薰爐一兮——」。
〔智燭〕智をもて物をあかしてらすと。○〔劉禹錫〕「曈々搜二——一」。
〔電燭〕いなづまの如くにひらめき光る。○〔漢〕「流星旋以——兮」。
〔燎燭〕かゞりび。○〔漢〕「揚二光曜之——一兮」。
〔旁燭〕あまねく照らす。○〔漢〕「——無レ疆」。
〔華燭〕はなやかに飾りたるともしび。○〔後漢〕「精曜——、俯仰如レ神」。
〔脊燭〕螢火のと。○〔南〕「聳二——之末光一」。
〔燃燭〕ともしびをつく。○〔南〕「——側光」。
〔刻燭〕ともし火の器にすぢをきざみて時の移るを驗すると。○〔南〕「——爲二詩四韻者一」。
〔燈燭〕ともしび。○〔宋〕「大張二——一」。
〔秉燭〕ともしびを手にす。○〔宋〕「——視二築牆一」。
〔舉燭〕ともしびをあげ持つ。○〔韓〕「謂レ持レ燭者曰二——一」。
〔徵燭〕ともしびを呼びもとむ。○〔呂氏春秋〕「祭矣垣公樂レ之而——」。　「消窓送レ曙」。
〔銀燭〕あかるきともしび。○〔韓愈〕「——未レ
〔風燭〕風に吹かれてあるともしび。○〔茅亭客話〕「人生百年有レ如二——一」。　「鄉爲二——一」。
〔田燭〕田地のはなの處にかゞりびをたく。○〔禮〕
〔炬燭〕たいまつ。○〔南〕「餉二——十槃一」。
〔燧燭〕光りてらす。○〔沈約〕「皐明——」。
〔膏燭〕油を焚きてともすともしび。○〔淮〕「——以レ明自鑠」。
〔光燭〕燦きてる。○〔張衡〕「衛烈——」。

(丹燭) 赤き色のともしび。○〔傳咸〕「煜-々——」。
(萬燭) 數多くあるともしび。○〔王珪〕「——當ㇾ樓賓-扆開」。
(巨燭) 大いなるともしび。○〔傳燈錄〕「侍-備之——」。
(南天燭) 藥の名。○〔康熙〕「———藥名赤者名₂文燭₁、木而似ㇾ草」。

【燮】セフ。蘇叶切 葉
やはらぐ(和)。○〔書〕「——友柔-克」。
(和燮) 調和すること。○〔爾〕「——和也」。
(調燮) 和ぐること。○〔顔舒〕「配₂阜極₁而——」。
(烹燮) 調ふること。○〔沈遘〕「厥工巧₂——₁」。

【燮】セフ。蘇協切 葉
大いに熟す、にる、にゆ。

【餁】飪に同じ。

【煋】セイ、シヤウ。思營切 庚
あか、あかし(赤)。

【瞥】ベツ、メチ。亡結切 屑
明かならず、くらし。

【熠】脏に同じ。

【燰】アイ。烏灰切 灰
熅火、うづみび。

【煀】クツ、コチ。許勿切 物
やく(烺)。

十四畫

【燸】ジユ、ニユ。汝朱切 虞
㊀あたゝむ(溫)。㊁やく(燒)。

【燹】セン。先踐切 銑
㊀野火、のび。○〔宋〕「經₂鬼-章兵——₁者賜ㇾ錢」。㊁烽火、のろし、あげび。○〔高啓〕「烟-火高-低繼₂烽——₁」。

【燹】ヘイ、ヒヤウ。妨正切 敬

【燹】フン、ホン。敷文切 文
火の貌にいふ字。

【燹】キ。許利切 寘
ひ(火)。

【燺】カウ、コウ。苦浩切 皓
かわく、かわかす(乾)。

【熆】カイ、ガイ。丘蓋切 泰
ひ(火)。

【燐】俗の粦の字。

【燻】クン。許云切 文
熏に同じ。○〔列〕「—則煙上」。

【爂】ヘウ。方昭切 蕭
熛に同じ。

【燼】ジン。徐刃切 震
㊀火の殘餘、災の餘遺、もえのこり、もえかす、ほそくづ、やけのこり。○〔北〕「燭—夜有₂數-升₁」。㊁殘餘、のこり。○〔左〕「収₂二—國之——₁」。
(餘燼) もえのこり。○〔庾信〕「收₂合——₁」。
(灰燼) たきがら。○〔杜甫〕「靑-林——」。
(遺燼) もえのこり。○〔溫庭筠〕「內-舍無ㇾ人——香」。
(煨燼) やけのこり。○〔劉禹錫〕「見ㇾ収₂手——₁」。
(火燼) 前に同じ。○〔魏、誌〕「烏無₂居人₁又無₂——₁」。
(焚燼) 前に同じ。○〔北〕「竝從₂——₁」。

【燽】チウ、ヂユ。直由切 尤
いちじるし(著)。

【燾】タウ、ドウ。徒到切 號 徒刀切 豪 チウ、ヂユ。陳留切 尤
おほふ(覆)、又、てらす(照)。○〔公羊〕「周-公盛₂魯-公—₁」。

【爀】赫に同じ。

【燿】エウ。弋笑切 嘯
光明を發す、てらす、ひかる、かゞやく、かゞやかす。○〔晉〕「光-明之—也」。
(熠燿) (い)あきらかなる貌にいふ語。○〔詩〕「———其羽」。
(ろ)ほたるの異名。○〔古今注〕「螢-火一名₂燿-夜₁、一名₂景-天₁、一名₂——₁」。
(昭燿) ひかりかゞやく。○〔漢〕「——章-明」。
(靈燿) 神妙なるひかり。○〔後漢〕「——著-明」。
(照燿) てらす。○〔春秋繁露〕「以—₂—其所₁ㇾ闇」。

【燿】サウ、セウ。所教切 效
膗に同じ、物の殺げて鋭きにいふ字、そぐ、さかる。

【燿】エウ。餘招切 蕭
あきらか(昭)。

【燿】シヤク、サク。式灼切 藥
爍に同じ。○〔漢〕「—ㇾ金爲ㇾ刃」。

【爁】ラン、ロン。盧瞰切 勘
さかる、又、さかんなり。
(い)火延びひろがる、やく、おこる、又、火勢つよし。○〔淮〕「火——焱而不ㇾ滅」。
(ろ)勢張る、又、勢つよし。○〔人物志〕「立₂事-要₁——炎而不ㇾ定」。

【爁】ラン、ロン。盧甘切 覃
前條の(い)に同じ。

【爚】爚の省の字。

【㸌】クワク、ワク。胡郭切 藥
あつし、やく(熱)。

【爉】レフ。力協切 葉
火の聲にいふ字。

【爆】サン。七亂切 翰
やく(灼)。

【爂】ヘウ。卑遙切 蕭 ベウ、メウ。彌遙切 蕭 匹妙切 嘯 セイ、ゼ。祖芮切 霽
輕くして脆し、やはし、やはらか。○〔周〕「輕——用ㇾ犬」。

十五畫

【爄】レイ。力制切 霽
火を止む、けす、さむ。

【爄】レツ、レチ。力蘖切 屑
火斷ゆ、きゆ、たゆ。

【爚】ヤク。以灼切 藥
火の氣。

【爅】ボク、モク。密北切 職

火の貌にいふ字。

【爆】ハク、ホク。弼角切 [覺] 火に裂く、さく、又、かわく(乾)、やく、(灼)。○[新論]「霹-虵以レ神見レ—」。

【爆】ハウ、ヘウ。北教切 [效] 火にて裂く、さく。

【爇】ゼツ、如劣 子チ。切 [屑] ゼイ、如鋭 子イ。切 [霽] やく(燒)。○[史]「入レ火不レ—」。(焚爇)やくこと。○[白居易]「城-門自——」。

【⿱埶火】俗の爇の字。

【爈】リヨ、ロ。力居切 [魚] 良據切 [御] 山の界に火を放つ、やく、又、其の火、やまび。○[南]「山-澤爈—」。

【爉】爉の本字。

【⿰火節】セツ、セチ。子結切 [屑] ショク、シキ。節力切 [職] 燭餘、もえのこり、もえかす。

【⿰火節】シツ、シチ。子悉切 [質] やく、(煨)。

【爊】アウ、オウ。於刀切 [豪] あたゝむ、(溫)、やく、(煨)、つゝみやく、(熝)。○[漢、註]「爊毛ニ炙肉一也、卽今所レ謂—也」。

【爋】俗の熏の字、

【爌】クワウ、ワウ。苦謗切 [漾] ひかり明かなること、あきらか。○[揚雄]「北—ニ幽-都ニ」。

【爌】クワツ、ワウ。呼晃切 [養] ㊀寛くして明かなり、ほがらか、あきらか。㊁火光、ひかり。

【⿰夕巢】レウ。力照切 [嘯] 郎鳥切 [篠] やく、あぶる(炙)。

【⿰夕巢】サウ、セウ。菲交切 [肴] もゆ、もやす、(然)。

【爍】シヤク、サク。書藥切 [藥] ㊀光明を發す、ひかる、かゞやく、てらす、かゞやかす。○[唐]「中-夜有ニ大流-星一長數-丈光——如レ電」。㊁あつし、(熱)。○[枚乘]「爓——熱-暑」。㊂よし、うつくし、(美)。○[詩]「於—王-師」。㊃鑠に通じ用ふ、とらく、とらかす、きゆ、けす。○[周]「—レ金以爲レ刃」。
(灼爍)ひかる、かゞやかす。○[蔡邕]「榮-華——」。
(爍々)かゞやく貌にいふ語。○[李陵]「——三-星列」。
(熠爍)かゞやくこと。○[陸雲]「紫-暉——」。
(炳爍)前に同じ。○[江淹]「圖ニ繡-編一兮——」。
(閃爍)前に同じ。○[王僧孺]「日流——」。
(輝爍)前に同じ。○[雲笈七籤]「煥-體——」。
(焦爍)やきとらかすこと。○[蘇舜欽]「庶可レ免ニ——一」。

【爍】ヤク。弋灼切 [藥] 爚に同じ。

【爍】ラク。歷各切 [藥] ラク、ロク。力角切 [覺] 鈌け落つ、おつ。

十六畫

【熽】セウ。先彫切 [蕭] やく、(焫)。

【爏】レキ、リヤク。郎狄切 [錫] 火の貌にいふ字。

【爐】ロ、ル。洛乎切 [虞] 火を燃やし、火を貯ふる所、ゐろり。○[范致能]「何-如田-舍火——頭」。

【燅】セン、ゼン。徐廉切 [鹽] 毛に湯を沃ぎて脱せしむ。

【⿰火蕉】シヤク、サク。疾雀切 [藥] 爝に同じ。

【⿰火閹】エフ、オフ。乙業切 [葉] 火明かならず、くらし。

【爦】ラン、ロン。盧敢切 [感] 火亂る、みだる。

【⿰災睪】エキ、ヤク。羊益切 [陌] わざはひ、(災)。

【⿰夕尞】レウ。力照切 [嘯] 郎鳥切 [篠] あぶる、やく、(炙)。

【爓】エン、オン。余廉切 [鹽] エン。以贍切 [豔] 火炎、ほのほ、ひかり。○[東都賦]「吐レ—生レ風」。

【爓】セン、ゼン。徐廉切 [鹽] ジン、徐心切 [侵] 湯に漬く、ゆでる、にる。○[禮]「三-獻—」。

【爓】セン、ゼン。慈鹽切 [鹽] 燖に同じ。

【⿱雔火】セウ。茲消切 [蕭] 焦に同じ。

【爔】キ。許其切 [支] ㊀ひ、(火)。㊁日光。

【爕】俗の燮の字。

【⿰火冪】ベキ、ミヤク。莫狄切 [錫] —蠡は、乾酪。○[揚雄]「燒ニ——蠡ニ」。

【⿰火賴】ラツ、ラチ。郎達切 [曷] そこなふ(害)。

【⿰火賴】ライ。落蓋切 [泰] 火の毒ふ貌にいふ字。

【爗】エフ。筠輒切 [葉] さかんなり、さかる、(盛)。○[詩]「——震-電」。

【燁】イフ、オフ。以及切 [緝] 曄に同じ、ひかる、かゞやく。

【⿰夕番】ヘン、ハン。附袁切 [元] 膰に同じ、ひもろぎ。○[春秋、傳]「天-子有レ事—焉、以饋ニ同-姓諸-侯ニ」。

【爖】ロウ、ル。魯紅切 [東] ひ、(火)。

【⿱隊火】燧に同じ、あげび、のろし。○[漢]「置ニ烽—一然後敢牧レ馬」。

【[illegible]】レン　力展切　銑
火を然やす、もやす。

【[illegible]】ヤク。以灼切　藥
あふぐ、(仰)。

【爆】ハウ、ヘウ。巴校切　效
爆に同じ。

十七畫

【爔】キ。香義切　寘
やく、(燒)。

【爙】ジヤウ、ナウ。汝兩切　養
ひ(火)。

【[illegible]】レン。力展切　銑
爈に同じ。

【[illegible]】レン。力焰切　豔
ひ、(火)。

【爚】ヤク。以灼切　シヤク、式灼切　サク。　藥
㊀火光、ひのひかり、一説に、電光、いなびかり、又一説に、光明、ひかり、かゞやき。○〔史〕「彌融ーー以隱-處」。
㊁光を發す、ひかる、かゞやく、てらす、かゞやかす。○〔王粲〕「熠ー而焜-煌」。
㊂やく、(爇)、とく、(銷)、ちらす、(散)。○〔莊〕「立二其德一而以ー二天下一者也」。
㊃奔走する貌にいふ字。○〔張衡〕「震ー々ーー」。
(煌爚) あきらかなるひかり。○〔摯虞〕「要二華電之ー-ー一」。
(灼爚) かゞやく、かゞやかす。○〔琴賦〕「華容ーー」。
(爍爚) 前に同じ。○〔江淹〕「映二霞光一而ーー」。
(餘爚) あまりのひかりあること。○〔西京賦〕「遺光ーー」。

【爛】ラン。郎旰切　翰
㊀たゞる、たゞれ。
(い)火のために傷る、やけど。○〔左〕「邾-子自投二于牀一、發二于鑪-炭一ー」。「亡」。
(ろ)腐敗す、くさる。○〔左〕「魚ー而亡」。
(は)過度に熟す。○〔呂氏春秋〕「熟而不レー」。
(に)潰え破る。○〔蜀〕「肌-膚刻ー」。
(ほ)苦しみ痛む。○〔齊〕「心ー形燋」。
㊁たゞれしむ、たゞらす、たゞらかす。
㊂あきらか、(明)。○〔孟〕「糜二ー其民一而戰レ之」。○〔詩〕「錦-衾ー兮」。
㊃消散す、ちる、きゆ。○〔楚辭〕「忽ーー漫而無レ成」。「而ーー」。
(灼爛) やけたゞる、やきたゞらす。○〔劉勰〕「掬」
(燋爛) 前に同じ。○〔後漢〕「ーーー爲レ朝」。
(粲爛) あきらかなること。○〔晉〕「星-漢ーー」。
(昭爛) 前に同じ。○〔後漢、疏〕「天-夕ーー」。
(煥爛) 前に同じ。○〔白居易〕「妍-文ーー芙-蓉ーー」。披」。
(熟爛) にえたゞる、にえたゞらす。○〔傳毅〕「逡-巡ー」
(潰爛) くづれたゞる、くづしたゞらかす。○〔南方草木狀〕「水漬レ之不二ーー一」。
(爛爛) あきらかなる貌にいふ語。○〔晉〕「戎眼ーー如二岩-下電一」。
(朽爛) くされたゞること。○〔通典〕「沉レ水者ーー」。
(明爛) あきらか。○〔宋〕「宇-宙光ーー」。
(光爛) 前に同じ。○〔南〕「ーーー如レ火」。
(焜爛) 前に同じ。○〔抱朴〕「不レ見二天光之ーー一」。
(毀爛) やぶる。○〔册府元龜〕「舊-廟既ーー」。
(敗爛) 前に同じ。○〔朱子題跋〕「此紙幸脫二于ーーー之中一」。
(炎爛) あきらかなること。○〔馬融〕「ーーー薄レ天」。

【[illegible]】レン。力焰切　豔
ひ、(火)。

【[illegible]】エン。以贍切　豔
爓に同じ。

十八畫

【爜】ソウ、ズ。徂聰切　東
火の貌にいふ字。

【[illegible]】デフ、ノフ。尼輒切　葉
あたゝか、(煗)、一説に、小しくあたゝかなり。

【[illegible]】タウ、ドウ。徒盍切　合
たゞろ、(爛)、やぶる、(壞)。

【爝】シヤク、サク。即略切　藥　セウ。子肖切　嘯
㊀爝火、炬火、ともしび、かゞりび。○〔莊〕「日-月出而ー-火不レ息」。
㊁てる、てらす、(燭)。○〔呂氏春秋〕「ー以二灌-火一」。
(螢爝) ほたるの光。○〔北〕「聲中二ーーー」。
(烽爝) のろし。○〔陳暹〕「吏議レ舉二ーーー」。

【[illegible]】トウ、ヅ。徒冬切　冬　チウ、ヂユ。直中切　東
ふすぶ、ふすぼる、(熏)、又、やく、あつし、(熱)。

【[illegible]】トウ、ヅ。徒東切　東
烔に同じ。

【爌】クワウ。古晃切　養
光る貌にいふ字。

【爟】クワン。古玩切　翰
熱火、もゆるひ、又、烽火、のろし。○〔呂氏春秋〕「爝以二ー-火一」。

十九畫

【[illegible]】タツ、他達切　曷　ダチ。　タツ、丑伐切　月　テチ。　テツ、敕列切　屑　テチ。
燒けて煙の立つ貌にいふ字、けぶる。

【爇】然の字の古文、もゆ、もやす。○〔陸倕〕「刑酷二ー-炭一」。

【[illegible]】爇に同じ。○〔漢〕「至下ー二脂-火一夜作上」。

【爢】ビ、ミ。忙皮切　支
たゞろ、たゞらす、(爛)、やぶる、(壞)。○〔漢〕「萬-鈞之所レ發無下不二ー-滅一者上」。

【[illegible]】前條に同じ。○〔屈平〕「精二瓊ー一以爲レ粻」。

【[illegible]】爆に同じ。

二十畫

【爣】タウ。他郎切　陽
寛くして明かなり、あきらか、ほがらか。

廿一畫

【爤】ラン。郎旰切　翰
爛に同じ。

【爥】ショク、ソク。朱欲切　沃
燭に同じ。○〔班固〕「散二皇-明一以ーレ幽」。

【爚】ヤク。弋灼切 藥
㊀禴に同じ、夏季の祭、なつまつり。
㊁爚に同じ　○〔摯虞〕「要ニ華電之煜-」ニ。

廿二畫

【㸑】ソン。麤尊切 元
鼎の沸かんと欲する貌にいふ字。

廿三畫

【爡】テツ、テチ。椿劣切 屑
竈の中の烟。

廿四畫

【爧】レイ、リヤウ。郎丁切 青
火光の貌にいふ字。

【爑】焦の本字。

廿五畫

【爨】サン。七亂切 翰
㊀かまど（竈）。○〔詩〕「執レ爨踖々」。
㊁かしぐ（炊）。○〔孟〕「許子以ニ釜-甑ニ爨以レ鐵耕乎」。

【爨】サン。七丸切 寒 セン。取絹切 霰
前條の㊁に同じ。○〔周〕「爨ニ鼎-水ニ」。

廿七畫

【爩】ウツ、ヰチ。紆物切 物
煙出づ、けぶる、又、煙氣、けぶり。

爪　部

【爪】サウ、セウ。側絞切 巧
つめ。
（い）指頭の表に生ずる甲。○〔老〕「虎無レ所レ措ニ其爪ニ」。
（ろ）指頭に被らする甲。○〔樂錄〕「彈レ箏者以ニ鹿-角ニ爲レ爪彈レ之」。
（は）物の端末にありて引き搔く用をなすもの。○〔吳〕「戈-矛爲ニ爪牙ニ」。
〔指爪〕ゆびさきのつめ。○〔後漢〕「以ニ大-戟ニ刺ニ「雄」。—爪中ニ」。
〔利爪〕するどきつめ。○〔葉顒〕「—利爪排レ空怒且—」。
〔猛爪〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「—猛爪入レ頰」。
〔牙爪〕きばとつめと、轉じて、防禦輔佐のもの。○〔荀〕「無ニ爪牙之利、筋-骨之充ニ」。
〔匿爪〕つめをかくすとにて轉じて技能をつゝみあらはさゞる義にいふ語。○〔李允中〕「隼-鷹匿レ爪」。
〔蜀爪〕くちばしとつめと。○〔蘇轍〕「縱-横自恃「—爪畫ニ七-絃ニ」。—爪剛」。
〔素爪〕まろきいろのつめ。○〔李宣古〕「忽揮ニ素爪ニ—」
〔雪爪〕前に同じ。○〔高越〕「雪爪星-眸世所レ希」。

四畫

【爫】サウ、セウ。阻教切 效
手にて覆ひ取る、上よりつかむ、さる。

【爪】シヤウ、サウ。諸兩切 養
もつ（持）。

【𤓯】ダ、ヌ。奴加切 麻
收め除く、のぞく。

【爬】ハ、ベ。蒲巴切 麻
かく（搔）。○〔韓愈〕「爬-羅剔-抉」。
〔聚爬〕集めてかき寄す。○〔蘇轍〕「聚ニ爬薪-樵ニ」。
〔醉爬〕酒にゑひてかく。○〔王惲〕「醉爬ニ短-髮ニ枕レ書眠」。
〔輕爬〕甚しく搔かず。○〔朱德潤〕「輕爬短-刷濕未レ收」。
〔搜爬〕探し求めてかく。○〔孔平仲〕「搜爬常-厭圩」。

【㸒】イン。余箴切 ジン、如林切 ニン。切 侵
近づき求む、もとむ。

【爭】サウ、シヤウ。側莖切 庚
あらそふ、あらそひ。
（い）くらべて勝らんと期す、きそふ、くらぶ。○〔書〕「莫ニ與汝爭レ能」。
（ろ）勝敗を決む。○〔呂氏春秋〕「以與ニ吳王ニ爭ニ一旦之死ニ」。
（は）逆ひ戻る。○〔國〕「不レ睦レ內而圖レ外必有ニ內爭ニ」。
（に）諫む。○〔史〕「雖下以ニ口-舌ニ爭上」。
（ほ）訟ふ。○〔禮〕「分レ爭辨レ訟」。
（へ）辯す。○〔莊〕「有レ競有レ爭」。
〔力爭〕ちからをもていさかふ。○〔左〕「不ニ心競ニ而力爭」。
〔戰爭〕たゝかひをなすこと。○〔蜀〕「戰爭方始耳」。
〔忿爭〕怒りていさかふ。○〔柳宗元〕「羅-列方—「忿爭」。
〔兵爭〕武力をもて競ふ。○〔左〕「皆不レ務レ德而兵爭」。
〔交爭〕互にいさかひをなす。○〔劉歆〕「三-人居レ室、二-人交爭」。
〔軋爭〕仲あしくしていさかふこと。○〔新序〕「當-時諸-侯以レ勢相軋爭」。
〔莛爭〕身をぬきんでいさかふ。○〔徐陵〕「羣-凶「莛爭」。
〔權爭〕權略をもて競ふ。○〔謝靈運〕「懷ニ元-王之沖-粹ニ、丁ニ戰-國之權爭ニ」。
〔喧爭〕囂しくいさかふ。○〔杜甫〕「喧爭懶著レ」。
〔雄爭〕我まさらんといさかふ。○〔范成大〕「往々雄爭如レ負レ辰」。

【𤓯】ダ、ヌ。女加切 麻
收め除く、のぞく。

五畫

【寽】レツ、レチ。力輟切 屑

【爮】ハウ、ベウ。蒲交切 肴
つまむ（撮）。
爪にて刮る、けづる。

【爯】シヨウ。處陵切 蒸
㊀おほいなり（大）。㊁あぐ、あがる、（擧）。

【爰】エン、ヱン。羽元切 元
㊀こゝに（曰）。○〔書〕「爰革ニ夏正ニ」。
㊁ゆるし（緩）。○〔詩〕「有レ兔爰爰」。
㊂いかる（怒）。○〔揚雄〕「爰恚也、楚曰レ爰」。
㊃かふ（易）。○〔史〕「劾レ鼠掠-治傳ニ爰書ニ」。
㊄かなしむ（哀）、うれふ（愁）。

【𤔁】ダ、ヌ。女加切 麻
かく（搔）。

八畫

【爲】ヰ、于嬀切 支
㊀なす。
（い）行ふ、する、す。○〔論〕「爲レ之難」。
（ろ）作る。○〔周〕「以爲ニ樂-器ニ」。
（は）治む。○〔左〕「何以爲レ民」。
㊁なさしむ、せしむ、さす、す。○〔國〕「爲ニ三後-世昭ニ前之令-聞ニ」。
㊂すること、なすこと、おこなひ、しわざ、はたらき。○〔韓愈〕「羞ニ前之爲ニ」。○〔戰〕「不レ戰而已爲レ秦」。
㊃うつり化はる、なる。
㊄にて有り、たり。○〔莊〕「指ニ窮於爲ヒ薪」。
〔無爲〕事をなさゞること。○〔易〕「易无レ思也、無爲也」。

〔有爲〕 事をなす。○〔禮〕「養ニ其身ー以ーレー也」。
〔寡爲〕 なすことをすること稀なり。○〔劉向〕「聖人ーレー、而天下理矣」。
〔至爲〕 極めておほいなるはたらきをなすこと。○〔莊〕「ー・ー去レ爲」。
〔云爲〕 いふこととなすことと、即ち、人の事業。○〔易〕「變化ー・ー」。
〔與爲〕 なしはじめたること。○〔史〕「諸所ニー・ー者」「皆廢」。
〔施爲〕 しわざ。○〔韓愈〕「浮屠西來何ー・ー」。

【爲】 井。于僞切 寘

㊀ため。
(い)所以、わけ、ゆゑ。○〔史〕「ーニ其老、彊忍下取レ履」。
(ろ)たすけまもること。○〔禮〕「不レ求ニ其ーー、此孝子之心也」。
(は)あづかりかかること、ちなみよること。○〔管〕「自ニ妾之身之不ニー持ー接ー」。
㊁よる（緣）、あづかる（與）、まもる（護）、たすく（助）。○〔詩〕「福祿來ー」。
㊂他のなすを受けたるを表すにいふ字、せらる、らる。○〔史〕「父母宗族皆ーニ殺戮ー」。

十畫

【搔】 俗の搔の字。

十一畫

【爏】 レキ、リヤク。狼狄切 錫

爪にて物を擇ぶ、える、えらぶ。

十四畫

【爵】 シヤク、サク。即略切 藥

㊀さかづき。
(い)祭典又は饗禮に酒を酌むに用ふる器、一升の量を入るゝのさだめなりといふ。○〔儀〕「之乃羞ニ無レ算ーー」。
(ろ)酒を酌むに用ふる器。○〔淮〕「滌レ盃而飮、洗レー而食」。
㊁主掌、つかさ。○〔荀〕「宰ー知ニ賓客祭祀饗食犧牲之牢數ー」。
㊂官位、階等、くらゐ。○〔書〕「列レー惟正」。
㊃鳥雀、すゞめ。○〔孟〕「爲レ叢毆レー者鸇也」。

〔好爵〕 よきさかづき、又、よきくらゐ。○〔易〕「我有ニーーー」。
〔尊爵〕 貴きくらゐ。○〔孟〕「夫仁天之ー・ー也」。
〔罰爵〕 罰杯のこと。○〔詩、箋〕「兕觥ー・ー也」。
〔貴爵〕 位をたふとぶ、又、たふときくらゐ。○〔禮〕「夏后氏ーレー而尙レ齒」。
〔天爵〕 自然に德を備へてたふときこと。○〔孟〕「仁義忠信樂レ善不レ倦、此ー・ー也」。
〔貶爵〕 位をおとすこと。○〔孟〕「一不レ朝則ー其ーー」。
〔高爵〕 ひくからざる位。○〔漢〕「七大夫公乘以上皆ー・ー也」。「揮」。
〔祿爵〕 俸祿と官位と。○〔禮〕「王者之制ニー・ー者弗レーー」。
〔玉爵〕 たまのさかづき。○〔禮〕「飮ニー・ー者弗」。
〔人爵〕 人間の定めたる官位のこと。○〔孟〕「公卿大夫此ー・ー也」。
〔封爵〕 領地と官位と。○〔史〕「與誓ーニー之ー」。
〔槃爵〕 たかき位。○〔史〕「寵備ニー・ーニ」。
〔豐爵〕 前に同じ。○〔風俗通〕「何必高祿ー・ー」。
〔顯爵〕 前に同じ。○〔韋少翁〕「赫々ー・ー」。
〔名爵〕 ほまれとくらゐと。○〔晉〕「何能羅レ官數千里以要ニー・ー乎」。
〔鬻爵〕 販爵賣爵といふに同じ、さための金錢を出したる者に位をさづくること。○〔唐〕「詔始ーレー」。
〔美爵〕 よきくらゐ。○〔唐〕「子弟多居ニー・ーニ」。
〔盈爵〕 さかづきに滿つ。○〔曹植〕「清醑ーレー」。

父部

【父】 フ、ホ。扶雨切 麌

㊀ちゝ。
(い)已れを生みたる男子、をとこおや。○〔左〕「保ニ君ー之命ー享ニ其生祿ー」。
(ろ)其のものを生みたる男性のもの。○〔禮〕「禽獸知レ母而不レ知レー」。
(は)生まれたるものに對して生みたるものゝ稱。○〔書〕「惟天地萬物ー母」。「郎」。
㊁老叟、おきな。○〔史〕「ー老何自爲レ」。
㊂老年なる男子の美稱。○〔詩〕「維師尙ー」。
㊃野老、いなかをとこ、おやぢ。○〔戰〕「田ーー見レ之」。

〔諸父〕 (い)天子より同姓の諸侯の父を諸侯より同姓の大夫を呼ぶの稱。○〔詩〕「以速ニー・ーニ」。
(ろ)父の兄弟、をぢ。○〔詩〕「ー・ー兄弟」。
〔王父〕 父の父、ぢゞ。○〔禮〕「孫可ニ以爲ニー・ー尸ー」。「尉處と」。
〔大父〕 前に同じ。○〔史〕「言ニ與其ー・ー其游」。
〔世父〕 をぢ、父の兄。○〔禮〕「王父母兄弟ー・ー叔父」。「三公ニ」。
〔從父〕 (い)母方のをぢ。○〔北〕「與ニー・ー嵩ー俱爲ニ」
(ろ)ちゝの命に背くことをせむ。○〔儀〕「未レ嫁ーレー」。
〔君父〕 主君とちゝと。○〔左〕「保ニー・ー之命ー、而享ニ生祿ー」。
〔嚴父〕 ちゝのこと。○〔宋〕「奉レ之如ニー・ーニ」。
〔婦父〕 妻の男親。○〔海錄碎事〕「皇帝是ー・ー」。
〔若父〕 汝の男おや。○〔史〕「我令ニー・ー霸ー」。
〔神父〕 崇び親みていふ語。○〔後漢〕「政爲ニ明能ー、號稱ニー・ーニ」。
〔父父〕 おやはおやたる道を盡くしておやらしくすること。○〔易〕「ー・ー子子」。
〔祖父〕 (い)ちゞのこと。○〔魏、誌〕「休ー・ー嘗爲ニ吳郡太守ー」。「厚」。
(ろ)ちゞとちゝと。○〔南〕「因ニー・ー之資ー、生業甚」
〔乃父〕 ちゝのこと。○〔陳造〕「幾時筆力踏ニー・ーニ」
〔繼父〕 おやの後を承け嗣ぐ。○〔儀〕「若レ是則ーレー之道也」。
〔叔父〕 父の弟、をぢ。○〔權德輿〕「ー・ー貞ニ素ー履ニ」。
〔猶父〕 己れのちゝおやと同じきやうにすること。○〔論〕「同也視レ予ーレー」。
〔季父〕 父の兄弟中のすゑなるもの、をぢ。○〔戰〕「偶又韓君之ー・ー也」。
〔子父〕 ことおやと。○〔孟〕「夫章子ー・ー責レ善而不ニ相遇ー也」。
〔舅父〕 をぢ。○〔史〕「宣帝ー・ー也」。
〔伯父〕 父の兄、をぢ。○〔禮〕「天子同姓謂ニ之ー・ーー」。「之五十」。
〔主父〕 あるじ又おやぢ。○〔史〕「ー・ー大怒、笞レ」
〔老父〕 としよりおやぢ、又、おきな。○〔史〕「有ニ一・ー・ー過請レ飮」。
〔親父〕 慈愛あるおや、又、ちゝ。○〔史〕「雖レ有ニー・ー、安知ニ其不レ爲レ虎」。
〔慈父〕 (い)いつくしみあるちゝ。○〔晉〕「三辰既朗遇ニー・ーニ」。
(ろ)人民より上にある人を親み崇びていふ語。○〔南〕「移レ風易レ俗號ニー・ーニ」。
〔養父〕 (い)生みのおやにあらずして己れを子とし育ひくるゝ男子。○〔五〕「拜ニ全義ー爲ニー・ーニ」。
(ろ)ちゝおやを孝養す。○〔華陽國志〕「旨酒嘉殽、可ニ以ー・ー」。
〔聖父〕 賢明なるちゝ。○〔宋〕「既尊ニー・ー、亦燕ニ壽母ー」。

四畫

【爸】 ハ、蒲可切 哿 ハ、必駕切 禡 パ。ヘ。

ちゝ（父）。

六畫

【爹】 タ、ダ。屠可切 哿

ちゝ（父）。○〔南〕「始興王人之ー、赴ニ人急ー如ニ水火ー」。

【爺】 トウ、ヅ。徒紅切 東

親むを父に異ならざる者、即ち、養父など。

【爺】 古文の爺の字

九畫

【爹】 シヤ、セ。之奢切 麻

㊀媼母の夫、めのさのたッさ。○〔唐〕「輙自署二皇-后阿―一或謂爲二國―一、軒-然不レ慙」。
㊁吳人の父を呼ぶの稱、ちゝ。

【爺】ヤ、エ。以遮切 麻
ちゝ、（父）。○〔古木蘭詩〕「軍-書三十-卷、卷-々有二―名一」。

爻部

【爻】カウ、ゲウ。胡茅切 肴　後教切 效
㊀かたどる、（象）、ならふ、（效）、一説に、まじはる、（交）。○〔易〕「―レ法謂二之坤一」。
㊁易の卦をなす六つの畫段の稱、卽ち、易の變化の象をあらはすもの。○〔易〕「―在二其中一」。
〔上爻〕易の卦の最上段。○〔張行成元包數〕「―・―不レ變」。
〔初爻〕易の卦の最下段。○〔朱熹〕「諸看屛・上―・―旨」。
〔二爻〕初爻のつぎにあるもの。○〔宋〕「―・―以二陽德一處二高地一」。

四畫

【㸚】リ、力几切 紙

【㸚】
㊀第二位の爻。㊁明白の形象。

【㸚】イ。演爾切 紙
布き明かなる貌にいふ字。

【㸚】レイ、ライ。郞計切 霽
㊀前々條の㊀に同じ。㊁とゞまる、（止）。㊂かく、（系）。

【校】カウ、ゲウ。何交切 肴
たるき、（椽）。

【⿰爻宁】チヨ、ド。丈呂切 語
進む貌にいふ字。

【延】シヨ、ソ。所葅切 魚
㊀みちびく、（道）。㊁さほし、（遠）。㊂さほろ、（達）。

【爼】
俎の字の譌

七畫

【爽】サウ。疎兩切 養　師莊切 陽
㊀あきらか、（明）。○〔書〕「用―二厥德一」。
㊁清くして快きこと、さわやか。○〔史〕「―一然自-失」。
㊂たけし、（猛）、はげし、（烈）。○〔唐〕「健-―自肆」。
㊃たかし、（高）、又、たふとし、（貴）。○〔晉〕「志-氣高―」。
㊄たがふ、（忒）、又、あやまつ、（過）。○〔書〕「惟事其―侮」。
㊅やぶる、（敗）、又、ほろぶ、（亡）。○〔國〕「實有二―德一」。
㊆物事を分別する能力なき病。○〔呂氏春秋〕「其言不レ若レ―」。
〔昧爽〕夜あけ。○〔家語〕「―・―夙興」。
〔俊爽〕すぐれたること。○〔晉〕「容-儀―・―」。
〔英爽〕前に同じ。○〔晉〕「風-姿―・―」。
〔豪爽〕前に同じ。○〔晉〕「溫―・―有二風-槩一」。
〔秀爽〕前に同じ。○〔晉〕「風-骨―・―」。
〔淸爽〕さわやかなること。○〔杜陽雜編〕「飲レ之神-氣―・―」。
〔澄爽〕前に同じ。○〔晉〕「風-鑒―・―」。
〔爽爽〕あきらかなる貌にいふ語。○〔南〕「人-中―・―有二子-頭一」。
〔淒爽〕さびしくさわやかなること。○〔王筠〕「高-秋―・―」。
〔颯爽〕勢よくきもちよきこと。○〔杜甫〕「―・―動二秋-骨一」。

十畫

【爾】ジ、ニ。兒氏切 紙
㊀なんぢ、（汝）。○〔書〕「肆予以二―衆-士一奉レ辭伐レ罪」。
㊁此の如く、かく、しかく。○〔禮〕「―毋二從-々-爾一、―勿二扈-々-爾一」。
㊂物事を形容する字に加へて語調を助くるに用ふる字。○〔禮〕「爾毋二從-々―一、爾勿二扈-々―一」。
㊃其の他に意無きを表すに用ふる字、のみ。○〔孟〕「鬱-陶思レ君―」。
㊄他の言をうけがふ意の響詞に用ふる字、しかり、さやう。○〔晉〕「王若問レ卿、卿但言二―・―一、不レ然必不レ免レ禍」。
㊅邇に同じ、ちかし、ちかづく。○〔詩〕「戚-々兄-弟莫レ遠具―」。
㊆華の盛んなる貌にいふ字、又、おほし、（衆）。○〔詩〕「彼―維何、維常之華」。
〔卓爾〕すぐれたる貌にいふ語。○〔論〕「如二有レ所レ立―・―一」。
〔莞爾〕にッこりと笑ふ貌にいふ語。○〔論〕「夫-子―・―而笑」。
〔率爾〕にはかなる貌にいふ語。○〔論〕「子-路―・―而對」。
〔藐爾〕おろかなる貌にいふ語。○〔詩〕「―・―蠻-荊」。
〔掣爾〕ほそくそげたる貌にいふ語。○〔周〕「望二其輻一、欲二其―・―而纖一也」。
〔灼爾〕かゞやく貌にいふ語。○〔夏侯湛〕「―・―星-羅」。
〔颯爾〕かぜふく貌にいふ語。○〔李白〕「―・―涼-風吹」。
〔確爾〕堅き貌にいふ語。○〔皮日休〕「―・―志亦何易レ得」。
〔寂爾〕志づかなる貌にいふ語。○〔梁簡文帝〕「―・―之萬-籟淸」。
〔縱縱爾〕事に過る貌にいふ語。○〔禮〕「喪事欲二其―・―・―一」。
〔折折爾〕のびやかなる貌にいふ語。○〔禮〕「吉-事欲二其―・―・―一」。
〔遑遑爾〕やすからざる貌にいふ語。○〔列〕「―・―・―睨二一時之虛-譽一」。

【爾】デイ、ナイ。乃禮切 薺
みつ、（滿）。

爿部

【爿】シヤウ、ザウ。疾羊切 陽
ほこ、（戈）、又、木を判かつ、わかつ、一説に、牀の省字。

二畫

【⿰爿又】
將に同じ。

三畫

【⿰爿也】
椸に同じ。

四畫

【⿰爿氷】
古文の漿の字。

【牀】シヤウ、ザウ。仕莊切 陽
㊀屋内に棧を設け板を張りなどしたるもの、卽ち、居人の坐臥する所、ゆか、とこ、すのこ。○〔顏延之〕「屋-下架レ屋―上施レ―」。
㊁身體を安置する具、ねどこ、ねだい、こしかけ。○〔戰〕「至レ楚獻二象―一」。
㊂物を安置する具。○〔徐陵〕「翡-翠筆-―無二時離一レ手」。
㊃井幹、ゐげた。○〔樂府〕「後-園鑿レ井銀作レ―」。
〔寢牀〕ねどこに臥す、又、ねどこ。○〔晁補之〕「夜不レ―・―」。
〔空牀〕人なき床。○〔晉〕「―・―低-帷、誰知レ無レ人」。
〔臥牀〕（い）寢どこ。○〔岑參〕「山-雲到二―・―一」。
（ろ）床につく。○〔後漢〕「何能―レ―、在二兒-女-子手-中-乎」。
〔胡牀〕腰かけ。○〔晉〕「便據二―・―一、談-詠竟レ坐」。
〔方牀〕四角なるねどこ。○〔南〕「革有二六-尺―・―一」。
〔眠牀〕（い）ねどこ。○〔元稹〕「―・―都溷-濁」。

こゝねどこの上に眠る。〇〔南〕「見二北｜｜上一」。
〔匡牀〕ねどこ。〇〔莊〕「與レ王同二｜｜一、食二芻豢一」。
〔蒿牀〕よもぎにて作りたるゆか。〇〔高士傳〕「茅居｜｜、守レ道不レ仕」。
〔禪牀〕佛道を修するために設けたるこしかけ。〇〔沈炯〕「狎・獸繞二｜｜一」。「閑不レ厭」。〇
〔薦牀〕たいに充ち塞がる。〇〔錢起〕「仙・籙｜レ｜」。
〔旭牀〕草の名、はまにんじん。〇〔爾〕「肝｜｜」。
〔蛇牀〕前に同じ。〇〔淮〕「｜｜似二蘪蕪一而不レ能レ芳」。「而泣」。
〔伏牀〕床の上にうつぶせになる。〇〔後漢〕「｜レ｜」
〔女牀〕星の名。〇〔張淵〕「｜｜別二窈窕之色一」。
〔御牀〕天子の安座するゆか。〇〔晉〕「命レ導升二｜｜共坐一」。「｜一」。
〔巨牀〕大いなる床。〇〔唐〕「政事堂會食有二｜｜」
〔弊牀〕破れ穢れたる床。〇〔宋〕「｜｜疏席總是佳趣」。
〔安牀〕身をやすらかにおくことを得る床。〇〔易林〕「｜｜厚褥不レ得二久宿一」。
〔圓牀〕かはや。〇〔英雄記〕「置二｜｜中一」。
〔遨牀〕けんぶつさんじき。〇〔成都記〕「太守凡出遊樂、士女列二於木牀一觀レ之、謂二之｜｜一」。
〔矮牀〕ちひさき床のこと。〇〔眞臘風土記〕「用二｜｜一者、往々皆唐人制作也」。
〔宵牀〕夜の寢どこ。〇〔王安石〕「｜｜速二衾幬一」。
〔簟牀〕竹のすのこ。〇〔項斯〕「松陰到二｜｜一」。

五畫

【⿰爿召】セウ。市昭切 蕭
㊀ゆか（牀）。㊁ながし（浴牀）。

【牁】カ。古俄切 歌
舟を繫ぐに設けたるもの、ふなつなぎ。

【⿰爿且】ショ、ソ。壯所切 語
俎に同じ。

【⿰爿令】レイ、リヤウ。郎丁切 靑
䉖に同じ。

【⿰爿㐌】
椸に同じ。

六畫

【⿰爿兆】テウ、徒了切 篠 エウ。以紹切 蕭
デウ。切
ゆかいた（牀子）。

【牂】シヤウ、サウ。則郎切 陽
㊀牝羊、めひつじ。〇〔詩〕「｜羊墳首」。
㊁さかんなり（盛）。〇〔詩〕「其葉｜｜」。
㊂異樣の狀をなす雲の名。〇〔漢〕「｜｜雲如レ狗、赤色三尾」。
㊃舟を繫ぐに設けたるもの、ふなつなぎ。

七畫

【⿰爿柔】シヤウ、ザウ。慈良切 陽
牆に同じ。

【⿰爿求】キウ、グ。渠尤切 尤
㊀あし（柎）。㊁どんぐりのみ（櫟實）。㊂のみのえ（鑿首）。

【⿰爿尃】ホ、フ。裴古切 麌
欒を節す。

【⿰爿酉】
古文の醬の字。

八畫

【⿰爿空】コウ、ク。苦貢切 送
垣を穿つ、うがつ。

【⿰爿彖】
一に、漿に作る。

【⿰爿戔】サン、ゼン。仕限切 潸
羊を象ふ屋、ひつじごや。

【⿰爿果】クワ。苦果切 哿
棵に同じ。

九畫

【⿰爿施】
椸に同じ。

【牃】テフ、デフ。徒協切 葉
ゆかいた、すのこ（牀版）。

十畫

【牄】シヤウ、サウ。七羊切 陽
鳥獸の來たり食らふ聲にいふ字。

十一畫

【⿰爿責】サク、シヤク。側革切 陌
簀に同じ。

【⿰爿庸】ヨウ、ユ。餘封切 冬
墉に同じ。

十二畫

【⿰爿黃】クワウ、ワウ。姑黃切 陽
牀下の横木。

【⿰爿習】シフ。色入切 緝
殳の立てる貌にいふ字。

【⿰爿賁】フン、ボン。符分切 文
あし（ ）。

【⿰爿賁】フン、ボン。父吻切 吻
ゆかいた（牀版）。

十三畫

【⿰爿雩】レイ、リヤウ。郎丁切 靑
䉖に同じ。

【⿰爿詹】エン、オン。余鹽切 鹽
檐に同じ。

【⿰爿戢】シフ。側立切 緝
殳の立てる貌にいふ字。

【牆】シヤウ、ザウ。才良切 陽
㊀垣蔽、かき。〇〔書〕「峻レ宇雕レ｜」。
㊁柩を飾る衣。〇〔禮〕「周人｜置レ翣」。
㊂嗇に同じ。〇〔穀梁〕「伐二｜｜給如一」。
㊃嬙に通じ用ふ。〇〔漢〕「良家子王｜字照君」。「｜｜之內」。
〔蕭牆〕君臣の會見する處に設けたるかき。〇〔論〕
〔圜牆〕ひとや。〇〔漢〕「幽二于｜｜之中一」。
〔鬩牆〕うちのあらそひ。〇〔詩〕「兄弟｜二于｜一」。
〔短牆〕たけひくきかき。〇〔左〕「牛臣隱二于｜｜以射レ之」。
〔弊牆〕前に同じ。〇〔尸子〕「｜｜來盜」。「｜一」。
〔壞牆〕やぶれたるかき。〇〔溫庭筠〕「龍蛇滿二｜｜一」。
〔女牆〕城の上にたてるかき、ひめがき。〇〔杜甫〕「樓高望二｜｜一」。
〔堵牆〕かきのこと。〇〔禮〕「蓋觀者如二｜｜一」。
〔垣牆〕前に同じ。〇〔戰〕「家之有二｜｜一」。
〔藩牆〕前に同じ。〇〔蘇軾〕「偶落｜｜上」。
〔鑿牆〕かきをうがつ。〇〔易林〕「穿レ室｜レ｜」。
〔庭牆〕にはのかき。〇〔左〕「立依二於｜｜一」。
〔土牆〕つちにて作りたる所。〇〔齊〕「皆爲二板屋｜｜一」。「｜約」。
〔丹牆〕あかくぬりたるかき。〇〔楊炯〕「｜｜數｜」。
〔粉牆〕石灰にて白くぬりたるかき。〇〔白居易〕「玲瓏映二｜｜一」。「｜上」。
〔禁牆〕皇宮のかき。〇〔鄭谷〕「得下逐二晴風一出中｜｜上」。
〔倒牆〕たふれがき。〇〔薛能〕「發二花壓二｜｜一」。
〔蘚牆〕苔牆といふに同じ、こけのむしたるかき。〇〔李建勳〕「斜來破二｜｜一」。

十六畫

【⿰爿歷】レキ、リヤク。狼狄切 錫
ゆかのすのこ（牀簀）。

廿四畫

【爧】レイ、リヤウ。郎丁切 〔青〕
ゆか、（牀-第）。

片部

【片】ヘン。匹見切 〔霰〕
㊀判ち坼きたるもの、半偏なるを、ひら、きれ、かけら、かたわれ、かたく。○〔論〕「—言可三以折二獄者」。
㊁はなびら、（瓣）。○〔韓愈〕「紅-蕚萬—從二風吹一」。
㊂茶の芽葉。○〔白居易〕「綠-芽十—火-前春」。
（花片）はなびら。○〔張祐〕「輕將二玉-杖一敲二—·—一」。「花初—·—」。
（片片）きれぐの貌にいふ語。○〔蘇軾〕「桃-李飛—·—」。
（玉片）たまのかけら。○〔沈佺期〕「四蹄碧—·—」。
（氷片）こほりのかけら。○〔張祐〕「—·—馬蹄中」。
（石片）いしのきれ。○〔白居易〕「—·—觿-題四-首詩」。
（飛片）とびちるひら。○〔黄庚〕「不レ愁—·—落二蒼-苔一」。

【片】ハン。普半切 〔翰〕
牉に同じ。○〔莊〕「雌-雄—·—合」。

三畫

【𤖯】シヤウ、ザウ。仕莊切 〔陽〕
牀の字に同じ。

四畫

【𤖰】シユ、ス。七主切 〔麌〕
せまる、（迫）。

【𤖱】ハン、ベン。歩還切 〔刪〕
わかてるき、（片）。

【版】ハン、ベン。布綰切 〔潸〕
㊀いた。
（い）木材を折き開きて薄く平たくしたるもの。○〔詩〕「縮レ—以載」。
（ろ）金石などを薄く平たくしたるもの。○〔周〕「共二其金—一」。
㊁牓牘、ふだ。○〔管〕「修レ業不レ息レ—」。
㊂八尺の長さ、又、二尺の廣さ。○〔史〕「城不レ浸者三—·—」。
㊃戸籍、名簿、にんべつちやう。○〔周〕「爲二之—一以待」。
㊄笏。○〔後漢〕「投レ—棄レ官而去」。
㊅ひがむ、（僻）、又、そむく、（反）。○〔詩〕「上-帝—·—」。
（戸版）戸籍のこと。○〔唐〕「帝問二歷-代—·—一」。

【𤖲】ケン、コン。虛嚴切 〔鹽〕
𨥫の屬、すき。

【𤖳】カン、コン。苦感切 〔感〕
いた、（板）。

【𤖴】セキ、シヤク。先擊切 〔錫〕
いた、（版）。

【𤖵】ハイ、バイ。晡枚切 〔灰〕
棓に同じ。

五畫

【𤖶】クワ、ケ。戸戈切 〔麻〕
棺の頭。

【𤖷】ハウ、ビヤウ。蒲迸切 〔庚〕
木を析く聲にいふ字。

【牔】タク、チヤク。丑格切 〔陌〕
坼に同じ。

【牉】ハン。普半切 〔翰〕
㊀わかる、わかつ（分）。○〔楚辭〕「背-膺—以交痛」。
㊁なかば、（半）。○〔儀、傳〕「夫-婦—·—合也」。

【牊】セウ。市昭切 〔蕭〕
㸦に同じ。

六畫

【𤖸】シ。章移切 〔支〕
かりごや、（蓋-舍）。

【𤖹】テウ、デウ。徒了切 〔篠〕
朓に同じ。

【𤖺】レツ、レチ。力蘗切 〔屑〕
さく、わる、わかつ、（剖）。

【𤖻】テウ。馳姚切 〔蕭〕　シ。施智切 〔寘〕　ケウ、ゲウ。渠遙切
つくゑ、おしまづき、（几）。

【𤖼】ハク、ヒヤク。匹麥切 〔陌〕
物を破る、やぶる、わかつ、わく。

【𤖽】キヤウ、カウ。許亮切 〔漾〕
北に向きたる牖、きたまど。

【𤖾】シユ、ス。市朱切 〔虞〕
㊀—艛は、水を過ごむる板。「きばし」。
㊁水を渡るに横たへ設けたる木、まる

七畫

【𤖿】ラ。力可切 〔哿〕
艛の別名。

【𤗀】シヨク、ソク。七玉切 〔沃〕
せまる、（迫）。

【𤗁】キウ、グ。渠尤切 〔尤〕
𤖾に同じ。

八畫

【牋】セン、ゼン。則前切 〔先〕
㊀君上にたてまつる表、上書。○〔後漢〕「所レ著賦-—奏-書凡五-篇」。
㊁文書、かきもの。○〔晉〕「修二—於瑉一」。
㊂文字を書するもの、即ち、紙又はふだなど。○〔侯鯖錄〕「出二小-碧—一」。
（上牋）表をたてまつる。○〔南〕「—レ—請レ城」。
（采牋）いろどりあるふた。○〔唐〕「常以二五-—·—爲二書-記一」。
（素牋）ゑろきふた。○〔白居易〕「—·—一-百-句」。

【𤗂】コウ、ク。苦貢切 〔送〕
㸲に同じ。

【𤗃】セフ。蘇協切 〔葉〕
㊀小さき契、こわりふ。㊁ふだ、（箭）。㊂小さき楔、こくさび。

【𤗄】俗の牎の字。

【牒】テフ、デフ。徒叶切 〔葉〕
𤗅に同じ。

【牌】ハイ、ベ。薄佳切 〔佳〕
㊀標示の牓、ゑるしふだ、かけふだ、ふ

だ。○〔明皇雜錄〕「以二錬-銅一爲レ—」。
㊁たて(盾)。○〔夢華錄〕「蠻—木-刀」。
〔牙牌〕(い)きばにてこしらへたるふだ。○〔宋〕「吾官-銜、一-箇——書不レ盡」。
(ろ)かるた。○〔正字通〕「——今戲具、俗傳宣-和二-年高-宗時詔頒二-行天-下一、謂二之骨-牌一、如二博-塞格五之類一」。
〔骨牌〕かるた。○前條の(ろ)の條を見よ。
〔時牌〕時刻をしらするふだ。○〔王禹偁〕「壁-上——催二晝夜一」。
〔銅牌〕あかゞねにて作りたるしるしふだ。○〔宋〕「皆有二——一」。
〔旁牌〕やをふせぐたて。○〔蘇軾〕「長-刀擁二——一」。
〔標牌〕前に同じ。○〔宋〕「多是硬-弩及——手」。
〔圓牌〕まるがたのふだ。○〔元〕「給二銀-字——一」。
〔象牌〕象牙にてつくりたるふだ。○〔于鵠〕「——題二玉京一」。

【⿰片非】牌に同じ。

【⿰片奄】エン。衣儉切 琰 欂櫨の版、のきばいた。

【⿰片咅】ハイ、バイ。蒲來切 灰 いた(版)。

九畫

【⿰片是】テイ、ダイ。田黎切 齊 方一丈ある壁。

【⿰片庶】タク。闥各切 藥 榑に同じ。

【牕】俗の窓の字。

【⿰片畐】ヒヨク、ヒキ。符逼切 職 わかつ、わかる(判)。

【⿰片柬】レン。郞甸切 霰 木理解く、さく。

【牏】チユ、ヅ。持遇切 シユ、ス。之句切 ユ。愈戌切 遇 築牆の短かき版、ついぢいた。○〔史〕「取二親中-裙、厠-—一身自浣-滌」。

【⿰片兪】トウ、ヅ。大透切 宥 ㊀穢惡を瀉ぎ除く穴。㊁おまる(褻-器)。

【⿰片兪】トウ、ヅ。度侯切 尤 ㊀牆を築く短き板。㊁厠中にて糞を受くる器、おまる。㊂あせじゆばん(したぎ、襯衫)。

【⿰片兪】ユ。羊朱切 虞 前條の㊀に同じ。

【牐】サフ、ゼフ。士洽切 洽 ㊀門の上より閉ざすもの。㊁板の蔽、いたがこひ。
〔𨷖牐〕ゐせき。○〔宋〕「仍修二——一」。
〔堰牐〕前に同じ。○〔宋〕「復造二——一」。

【牑】ヘン、ベン。布田切 先 ゆかいた(牀-版)。

【牑】ヘン、ベン。婢典切 銑 ゆか、すのこ(牀-簀)。

【牑】ベン、メン。瞑見切 霰 屋上の簀。

【牒】テフ、デフ。徒叶切 葉 ㊀文字を書く札、ふだ。○〔左〕「右-師不二敢對一、受レ—而退」。
㊁系統を記るしたるもの、けいづ。○〔史〕「取二之譜——一」。
㊂官府の移文、うつしぶみ。○〔晉〕「隨レ—屏轉」。
㊃訟狀、うったへぶみ。○〔齊〕「寧容二都無レ訊レ——一」。
㊄帳簿、ちやうめん。○〔唐〕「視二簿-—一」。
㊅疊布、ぬの。○〔後漢〕「皆服二文-組綵-—一」。
㊆文書、かきもの。○〔晉〕「皆顯二史-—一」。
㊇牀版、ゆかいた。○〔揚雄〕「牀-上板衛之北-郊趙魏之閒謂二之—一」。
㊈板版、いた。○〔進〕「積レ—施レ石」。
〔玉牒〕たまのふだ。○〔史〕「其下則有二——書一」。
〔譜牒〕事を布列してしるしたるかきつけ。○〔宋〕「詔編二次建炎以來——一」。
〔簡牒〕かきつくるふだ。○〔漢、註〕「牒-書謂レ書二于——一也」。
〔名牒〕名札のこと。○〔後漢〕「其高-第者上二——一」。
〔錄牒〕姓名のかきつけたるふだ。○〔後漢〕「而未レ有二——一」。
〔官牒〕官職にある者の姓名をしるしたるふだ。○〔後漢〕「列在二——一者四十九人」。
〔辭牒〕庶民のたてまつる表文。○〔白居易〕「兩-衙少二——一」。
〔訟牒〕訴訟のかきつけ。○〔宋〕「分二掌——一」。
〔書牒〕字をかきしるすふだ。○〔急就篇〕「竹-簡以爲二——一也」。

十畫

【⿰片虒】テイ、タイ。天黎切 齊 ふだ(牌)。

【牓】ハウ。北朗切 養 ㊀標示する爲めに文字を記して揭ぐる版片、かけふだ、しるしふだ、がく。○〔神異經〕「門有二金——一、以レ銀鏤-題曰二天-皇之宮一」。
㊁標示す、揭ぐ。○〔袁宏〕「標二——風-流一」。
〔金牓〕こがねのふだ。○〔神異經〕「門有二——一」。
〔碑牓〕石ぶみとふだと。○〔周書〕「當時——惟文-深及冀-儁而已」。
〔[illegible]牓〕ふだを以て知らす。○〔唐〕「——二郡-縣一」。
〔璇牓〕玉にて作りたる題額。○〔梅堯臣〕「宸-蹤耀二——一」。
〔手牓〕てふだ。○〔元〕「以二——一諭レ之」。
〔石牓〕石にて作りたる額。○〔神異記〕「其一門題曰二鬼-門一」。
〔門牓〕門の題額。○〔段成式〕「——占二休-公一」。
〔牌牓〕ふだのこと。○〔歐陽修〕「——自稱-述」。
〔齋牓〕書齋の題額。○〔陸游〕「揮レ毫爲レ君作二——一」。「醉二黃-封一」。
〔揭牓〕看板を出だすこと。○〔周伯琦〕「明-朝——」。
〔彩牓〕色どりをなしたる札のこと。○〔何中〕「——聚-遠-題」。

【牓】ハウ。舖郞切 陽 履編の模、くつのそこのかた。

【⿰片尃】ハク。伯各切 藥 屋耑の板、のきいた。

【⿰片備】ヒ、ビ。平秘切 寘 ㊀ゆかいたのかた、牑模。㊁まど(牖)。㊂牀の橫桄、よこぎ。

十一畫

【⿰片習】テフ、デフ。徒協切 葉 をさむ、をさまる(治)。

【⿰片悤】シヤウ、サウ。初莊切 陽 通る孔。

【⿰片率】シユツ、シユチ。朔律切 質 いた(板)。

【⿰片离】リ。鄰知切 支
木を破る、やぶる、わる。

【⿰片婁】ル。力朱切 虞
⿰片崔の㊁の條を見よ。

【⿰片虖】カ、ケ。虛訝切 禡
さく、(罅)。

【牖】イウ、ユ。與久切 有
㊀壁を穿ちて風日を引く所、まど。○[詩]「宗-室―下」。
㊁みちびく、(道)。○[詩]「天之―レ民」。
㊂羑に通じ用ふ。○[漢]「文-王拘二于―里一」。
(甕牖) かめをもて作りたる窗。○[禮]「蓽戸―・―」。
(北牖) 北向きの窗。○[禮]「薄・社―・―使陰明也」。
(戸牖) 窗のこと。○[淮]「夫孔・竅者精・神之―・―也」。
(窗牖) 前に同じ。○[李尤]「天設二―・―一、開レ光照レ陰」。
(扃―) 扉と窗と。○[劉伶]「日・月爲二扃・―一」。
(閨牖) 寢屋の窗。○[後漢]「―・―房・闥之任也」。
(房牖) 部屋の窗。○[後漢]「與二先・生一同二郡・壤一、隣二―・―一」。
(穴牖) あなを開けたる儘のこと。○[大戴禮]「蓬・戸―・―、日孜・々上レ仁」。
(星牖) 洞穴などのあかりの通ざるもの。○[藝林伐山]「小者日二―・―一」。
(茅牖) かやぶきの窗。○[曹植]「蓬・戸―・―、原・憲之宅也」。
(朔牖) 北向きの窗。○[陸雲]「啓二―・―一而履レ霜」。
(暗牖) 明りのとれざる窗。○[薛道衡]「―・―懸二蛛・網一」。

【⿰片崔】サイ、セ。倉回切 灰
―⿰片貴は、屋の破るゝ貌にいふ字。

十二畫

【⿰片貴】タイ、デ。杜回切 灰
⿰片崔の條を見よ。

【⿰片菐】ホク、ボク。博木切 屋
大いなる牆板、ついぢいた。

【⿰片黃】クワウ、ワウ。古黄切 陽
牀の横木、よこぎ。

【⿰片粦】リン。良愼切 震
柧稜、かど。

十三畫

【⿰片𧶠】牘に同じ。

【⿰片辟】ハク、ヘキ。博厄切 陌
豆の中の小さくして硬きもの。

【⿰片詹】セン。昌豔切 豔
檐端の板、のきいた。

【⿰片業】ゲフ、ゴフ。魚怯切 葉
㊀牆を築く板、ついぢいた。
㊁筍虡の上の横版の飾。

十四畫

【⿲辛片辛】ヘン。普麪切 霰
㊀轡勒(たづな)の中の絶えたるもの。
㊁なかば、(半)。○[爾]「桑―有レ葚梔」。

【⿰片臺】タイ、デ。坦亥切 賄
逆しまに木を剡る、けづる。

【⿰片壽】シウ、ジュ。是酉切 有
タウ、ドウ。大到切 號
ひつぎ、(棺)。

十五畫

【牘】トク、ドク。徒谷切 屋
㊀文字を記する木簡、ふだ。○[戰]「取二筆―一受レ之」。
㊁文書、かきもの。○[後漢]「所レ見篇―、一覽多能誦・記」。
㊂古代の一種の樂器、大さ五六寸、長きものは七尺、短きものは一二尺、其の端に兩孔ある樂器、兩手をかけ舂をもて地を築きて節をなす。○[周]「舂二―應雅一以敎二祴・樂一」。
(書牘) 文字を書く板、又、文書。○[史]「漢遺二單于一―・―、以二尺一寸一」。
(尺牘) 手紙のこと。○[漢]「與レ人―・―、主皆藏・弆以爲レ榮」。
(簡牘) 書く札、又、文書。○[北]「亦頗覽二文・史一、習二於―・―一」。
(累牘) 書く札を重ね積む。○[北]「連レ篇―レ―、不レ出二月・露之形一」。
(筆牘) 筆と書く版と。○[戰]「善取二―・―一受レ言」。
(篇牘) 書物のこと。○[後漢]「所レ見―・―、一覽多能誦記」。
(章牘) 書き物のこと。○[唐]「由レ是―・―塡委」。
(文牘) 前に同じ。○[宋]「―・―山委」。
(札牘) 物を書くふた。○[柳宗元]「寘二持―・―令、指二動禍・機一」。
(牀牘) 前に同じ。○[馬祖常]「童・子操二―・―一」。
(版牘) 前に同じ。○[劉禹錫]「其製如二―・―一」。
(畫牘) おきてを書きつけたる版。○[白居易]「清・明操二―・―一」。
(奏牘) 天皇に上るふた。○[王廷珪]「百・辟動レ容觀二―・―一」。

十六畫

【⿰片歷】レキ、リヤク。狼狄切 錫
木の障、ついたて。

十七畫

【⿰片毚】サン、ゼン。仕懺切 陷
㊀いた、(版)。㊁水門、ひ。

牙部

【牙】ガ、ゲ。五加切 歌
㊀前齒の兩側にある鋭き齒、きば。○[易]「豶・豕之―」。
㊁きばの狀をなすもの、は。○[禮]「佩-玉有二衝―一」。
㊂帳の前に立つる門。○[漢]「拔二其―門一」。
㊃天子又は將軍の建つる旗、其の竿上に象のきばのかざりありていふ。○[張衡]「―旗繽・紛」。
㊄きばを當て加ふ、嚙む。○[戰]「輕起相―」。
㊅切齒、はがみ、はぎしり。○[揚雄]「始-皇方獵二六-國一而翦―欤」。
㊆芽に通じ用ふ、めばえ、きざし。○[漢]「有レ事二萌―一」。
(爪牙) 鳥のつめと獸のきばと、即ち、守りとなるものにいふ語。○[詩]「祈・父予王之―・―」。
(犬牙) 狗の齒の交も相出入すると、即ち、物の出たり入りたりして相合はざるにいふ語。○[漢]「―・―相制」。
(建牙) 旗を立つること。○[南]「帝―二―於軍・門一」。
(厲牙) きばをとぎみがく。○[北]「切レ齒―レ―」。
(鋸牙) のこぎりの齒。○[賈誼]「擧二其―・―一以左右相指」。
(查牙) けはしきこと。○[蘇軾]「肝・肺―・―生二竹・石一」。
(高牙) たかくれしたてたる旗。○[歐陽修]「―・―大纛不レ足レ爲レ公」。
(聱牙) 聲一ならざること。○[韓愈]「佶・屈―・―」。
(簷牙) 軒のたるき。○[杜牧]「―・―高啄」。
(弩牙) 弩の弦を鉤するもの。○[舊唐]「以二佛・寺銅・鐘一、鑄二―・―兵・器一」。
(倨牙) 踞りたるきばのこと。○[楚辭]「長・爪―・―」。
(象牙) きさのきばのこと。○[後漢]「獻二―・―水・牛封・牛一」。
(齒牙) 動物のはのこと。○[左]「皮・革―・―」。
(徙牙) 牙旗の在る處を遷しやる。○[舊唐]「因―・―于譙・口一」。

〔輔牙〕頰骨ときばと、卽ち、物の相倚りて缺くべからざるにいふ語。○〔唐〕「一一相倚」。

【牙】ガ、ゲ。魚駕切 馬
輪轅、くるまのおほひ。○〔周〕「一也者以爲二固抱一也」。

二畫

【㸦】俗の互の字。○〔韓愈〕「交鷲舌一譫」。

六畫

【⿰牙子】ガ、ゲ。牛加切 歌
赤子、あかご、吳人の語。

【⿰牙艮】カン、ケン。起限切 潸
かむ、(齧)。

八畫

【⿰牙奇】キ。丘奇切 支
㊀きば、(牙)。㊁なゝめ、ゆがむ、よこしま、(邪)。

【牚】タウ、チヤウ。他孟切 庚
邪に支へたる柱、はしら、つッかへばしら。

九畫

【⿰牙禹】ク、コ。區禹切 麌
齲に同じ、むしくひば。

十畫

【⿰牙豈】ガイ。魚開切 灰　コツ、ゴチ。數紇切 月
くひちがふ牙。

牛部

【牛】ギウ、ゴ。語求切 尤
㊀一種の獸、うし、全身肥え脚短くして二本の角あり、世人の能く知るところなり。○〔禮〕「一曰二一元大武一」。㊁牽牛星の稱、ひこぼし。○〔晉〕「斗一一之閒常有二紫氣一」。

〔童牛〕こうし。○〔易〕「一一之牿」。　「賜」。
〔風牛〕さかりのつきたるうし。○〔隋〕「一一本
〔犧牛〕純色のうし。○〔禮〕「天子以二一一一」。「一」。
〔肥牛〕こえたるうし。○〔史〕「乃多醸レ酒買二一一
〔蝸牛〕かたつぶりといふ蟲の名。○〔續博物志〕
「一一小螺也、又名二附蠃一」。
〔犀牛〕獸の名。○〔漢〕「黃支國獻二一一一」。
〔曳牛〕うしをひく。○〔北〕「カ一レ一却行」。
〔犉牛〕めうし。○〔孔叢子〕「欲二速富一畜二五一
〔牝牛〕前に同じ。○〔易〕「畜二一一一吉」。「一」。
〔駮牛〕まだらうし。○〔易林〕「舍レ車而徒亡二其
一一一」。
〔犂牛〕前に同じ。○〔論〕「一一之子」。
〔野牛〕野生のうしのこと。○〔詩、疏〕「兕一一其皮
堅厚可レ爲レ鎧」。　「一」。
〔騂牛〕あをぐろきうし。○〔詩、疏〕「社稷用二一一
〔赤牛〕あかいろのうしにて騂牛ともいふ。○〔詩、
箋〕「其牲用二一一純色一」。
〔犤牛〕こうし。○〔周〕「一一之角、直而澤」。
〔旄牛〕牛に似たる獸の名、からうし。○〔山海經〕
「潘侯之山有レ獸焉、其狀如レ牛而四節生レ毛、名
曰二一一一」。　「一」。
〔耕牛〕耕作に使用するうし。○〔唐〕「給以二耒耜一一
〔天牛〕一種の蟲、かみきり。○〔酉陽雜俎〕「一一
黑角蟲也」。
〔汗牛〕其の荷をひくうしのあせかくこと、荷物の多きことにいふ語。○〔柳宗元〕「其爲レ書處則充二棟宇一出則一二一一馬一」。
〔紫金牛〕一種の植物、やぶかうじ。
〔賣劒買牛〕さむらひかたぎを止めて耕作に從事すること。○〔漢〕「勸三民務二農桑一、民有下持二刀劍一者上使二一レ一一レ一買レ犢」。

二畫

【牝】ヒン、ビン。毗忍切 軫　ヘン、ベン。婢善切 銑　ヒ、ビ。補履切 薺
㊀動植物の女性、め、めす。○〔書〕「一一雞無レ晨」。㊁谿谷、たに。○〔古詩〕「哀一壑叩二虛一一」。

〔騋牝〕丈高きよきめ馬。○〔詩〕「一一三千」。
〔玄牝〕萬物の根本となるにいふ語。○〔老〕「谷神不レ死、是謂二一一」。
〔牡牝〕をとめと。○〔史〕「一一三千餘匹」。
〔畜牝〕めを飼養す。○〔易林〕「一レ一無レ駒」。
〔牧牝〕飼養せるめ馬。○〔通典〕「貞觀初、僅有二一一三千匹一」。
〔晨牝〕あしたを告ぐる雌の鷄のこと、卽ち、婦人の男子に代はりて事を專にするにいふ語。○〔陸機〕「如何一一、殲二我朝聽一」。

【⿰牛力】キウ、ク。居求切 尤
牛の大力あること。

【牞】キウ、ク。居尤切 尤
大いなるのけもの。

【牟】ボウ、ム。莫浮切 尤
㊀牛鳴く、なく。○〔柳宗元〕「一一然而鳴、黃鐘滿レ脰」。㊁さる、(取)、むさぼる、(貪)、うばふ、(奪)。○〔韓〕「一レ食之民」。「侵一一」。㊂すぐ、(過)、をかす、(侵)。○〔淮〕「毋二或而一」。㊃ます、(倍)、かつ、(勝)。○〔楚辭〕「成レ梟「難レ知」。㊄おほいなり、(大)。○〔呂氏春秋〕「一而㊅いつくしむ、(愛)。○〔揚雄〕「愛也宋魯之閒曰レ一」。㊆おほむぎ、(麥)。○〔詩〕「貽二我來一一」。㈧土釜、つちがま。○〔後漢〕「卮八一八」。㈨鍪に通じ用ふ、かぶと。○〔後漢〕「著二岑一一單紋之服一」。㈩眸に通じ用ふ、ひとみ。○〔荀〕「堯舜參一一子」。

〔敦牟〕黍稷を入るゝ器。○〔禮〕「一一卮匜、非レ餕莫二敢用一」。
〔侵牟〕犯し貪る。○〔史〕「將吏貪、多不レ愛二士卒一「一二一一之」。
〔鐵牟〕くろがねの甕のこと。○〔五〕「軍士以二一一一承レ水飲レ之」。
〔憮牟〕をしみあはれむ。○〔揚雄〕「憮俺一一愛「也」。

【牟】ボウ、ム。莫後切 有
くらし、(昏)。

【牟】ボウ、ム。莫候切 宥
務に同じ。○〔荀〕「學二一一光一」。

三畫

【⿰牛干】カン。俄干切 寒
牛を止どむ、とゞむ。

【⿰牛川】シュン、ジュン。詳遵切 眞
㊀牛行くこと遲し、おそし。㊁なる、ならす、(馴)。

【牡】ボウ、モ。莫后切 有
㊀動植物の男性、をす。○〔詩〕「雉鳴求二其一一」。㊁門戶を閉づるに用ふるもの、さざし。○〔漢〕「長安章城門門一一自亡」。

〔肥牡〕太くたくましきを馬。○〔詩〕「既有二一一一、以速二諸舅一」。
〔四牡〕四頭のを馬、卽ち普通の馬車に駕する馬のこと。○〔詩〕「駕二彼一一一」。
〔廣牡〕大いなるを馬。○〔詩〕「於薦二一一一」。
〔牸牡〕黑き脣のを牛のこと。○〔詩〕「殺二時一一一」。

〔乘牡〕をののり馬のこと。○〔詩〕「騑彼ー・ー」。
〔牝牡〕（い）獸のめとをと。○〔周、註〕「可ニ以合ニ馬之ー・ー」。
（ろ）星のありかのこと。○〔晉〕「太白在レ南、歲星在レ北曰ニー・ー」、年穀大熟」。
〔騂牡〕赤き色のをの牛のこと。○〔詩〕「祭以ニ清酒、從以ニー・ー」。
〔畜牡〕營壘のこと。○〔南〕「江東宮南門ー・ー飛」。
〔閉牡〕前に同じ。○〔宋濂〕「避レ人下ニー・ー」。
〔鈦牡〕物を以てとざしをねばしとる。○〔淮〕「盜跖見レ鉛日、可ニ以ーヒー」。
〔陸牡〕勞盛なる馬のこと。○〔潘岳〕「整ニ武猶之ー・ー」。

【牢】ラウ、ロウ。魯刀切 豪

㊀閑圈、をり。○〔詩〕「執ニ家于ーニ」。
㊁狴犴、ひとや。○〔史〕「刻レ地爲レー、議レ不レ入」。
㊂匡郭、かこひ。○〔列〕「長幼羣聚而爲レーー」。
㊃倉廩、くら。○〔史〕「古人名レ廩爲レーー」。
㊄籠圍す、かこむ、こむ。○〔荀〕「皐ニーー天下ニ」。
㊅三牲、卽ち、牛、羊、家の稱。○〔齊〕「環レ山於有レーー」。
㊆廩食、あてがひぶち、ふちまい。○〔史〕「諸將多盜ニー稟ニ」。
㊇價直、あたひ、ねだん。○〔漢〕「多ニ其ー賞ニ」。
㊈堅固なり、かたし。○〔史〕「欲下連ニ固根本ーー甚上」。
㊉たのみ、（聊）。○〔漢〕「名曰ニ畔ーー・ー愁ニ」。
⑪はるか、（遼）。○〔司馬相如〕「ー・ー落陸離」。
⑫おだやか、（穩）。○〔晉〕「將ー太過耳」。
〔家牢〕るのことを入れ置く閒のこと。○〔國〕「大任少溲ニ於ー・ーニ」。
〔大牢〕牛の臨の備はる饗食。○〔禮〕「君子ー・ー而祭」。
〔少牢〕羊の牲の備はる饗食。○〔禮〕「大夫ー・ー」。
〔中牢〕少牢のこと、羊家の牲の備はる饗食。○〔漢〕「祠以ニー・ーニ」。
〔持牢〕固きを執り守ること。○〔獻帝傳〕「計在ニー・ーニ」。
〔堅牢〕堅固なること。○〔蘇軾〕「也知不レ作ニー・ー王ニ」。
〔簡牢〕牲のこと。○〔禮〕「羣介皆有ニー・ーニ」。
〔牲牢〕いけにへのこと。○〔庾信〕「ー・ー修牧」。
〔完牢〕缺けたる所なくして堅固なること。○〔後漢〕「多ー・ー易レ可レ依レ固」。
〔圈牢〕獸を入れおくをりのこと。○〔曹植〕「此徒ー・ー之養物、非ニ臣之志ー也」。
〔狴牢〕囚獄のこと。○〔杜甫〕「叢棘坼而ー・ー傾」。
〔獄牢〕前に同じ。○〔淮〕「執ニー・ー者無レ病」。

【牢】ロウ、ル。郎侯切 尤

㊀けづる、（削）。○〔儀〕「ーニ中旁一寸」。
㊁前條の㊁に同じ。○〔易〕「失レ志懷レ憂如レ坐ニ狴ー・ーニ」。

【牢】リウ、ル。力救切 宥

前々條の㊄に同じ。○〔淮〕「ーニ籠天地ニ」。

【牢】ラウ、ロウ。盧皓切 皓

こす、（漉）。○〔後漢〕「縱ニ放兵士、突ニ其盧舍、淫ニ略婦女、剽ニ虜資物、謂ニ之搜ー・ーニ」。

【牣】ジン、ニン。而振切 震

㊀みつ、（滿）、ふさぐ、ふさがる、（塞）、又、ます、（益）。○〔詩〕「於ー魚躍」。
㊁剛からざること、やはらか、おなやか。○〔呂氏春秋〕「白所ニ以爲ヒ堅也、黃所ニ以爲ヒー也」。
〔充牣〕滿つること。○〔後漢〕「ー・ーニ其第ニ」。

四畫

〔盈牣〕前に同じ。○〔後漢〕「ー・ー珍藏」。
〔儲牣〕蓄へ滿つること。○〔唐〕「再期賦物ー・ーニ」。

【牥】ハウ。府良切 陽

良牛の名、日に行くこと二百里にして沙漠中を行くことに適する橐駝の如しといふ。○〔穆天子傳〕「用ニー牛二百ー以行ニ流沙ニ」。

【牞】イウ、ユ。羽求切 尤

動かず、おづか。

【犴】ケン、コン、居言切 元

犍に同じ。

【牦】バウ、モウ。謨袍切 豪

牛の名、狀水牛の如く尾は長大にして取りて旌の旄となすもの。

【犻】ハイ。博蓋切 泰

㊀生まれて二歲を經たる牛。
㊁身の長き牛、一說に、牛の足の長大なるもの。

【犯】ハ、ヘ。邦加切 麻

角の相反く牛。

【牮】フン、ホン。方問切 問

跳躑す、をごりふむ。○〔山海經〕「善駛ーー」。

【牞】フン、ブン。符分切 文

牡牛、をうし。

【㹈】ダ、ナ。奴多切 歌

牛に似たる一種の獸、白き尾ありといふ。

【犅】

前條に同じ。

【犬】テン。他甸切 霰

牛に草を食らはす、やしなふ。

【牧】ボク、モク。莫六切 屋

㊀放ち畜ふ、はなしやしなふ、かふ。○〔周〕「掌下ーニ六畜ニ而阜ニ蕃其物一、以供中祭祀之牲牷上」。
㊁はなしがひする場所、まき、まきば。○〔孟〕「則必爲レ之求ニー與ヒ芻」。
㊂郊外、おろのそと、まちはづれ、其のまきを置くべきよりいふ。○〔書〕「王朝至ニ商郊ー野ニ」。
㊃やしなふ、（養）。○〔易〕「卑以自ーー」。
㊄みる、（察）、をさむ、（治）、のぞむ、（臨）、つかさどる、（司）。○〔荀〕「請レーレ基賢者思」。
㊅つかさどる者、つかさ。○〔禮〕「舟ー覆レ舟」。
㊆一地方の長官、民を養ひそだつる者の義。○〔書〕「覲ニ四岳羣ーーニ」。
㊇田畝をつかさどる官吏。○〔詩〕「自レー歸レ荑ニ」。
㊈九百畝を二分にしたるもの卽ち、井田の牛。○〔周〕「二ーー而當ニ一井ニ」。
㊉田畝の界を制す。○〔周〕「經ニーー田野ニ」。
⑪腹の黑き牛。○〔爾〕「黑腹ーー」。
〔州牧〕一州をさむる長官。○〔書〕「外有ニー・ー侯伯ニ」。
〔畜牧〕牛羊などをやしなひて野に放つこと。○〔史〕「大縱ニー・ーニ」。
〔耕牧〕田をたがへし牛などを養ふこと。○〔孔武仲〕「時訪以ニー・ーニ」。
〔養牧〕やしなひをさむ。○〔漢〕「ーニー兆民ニ」。

（放牧） 牛羊などをはなしがひにすること。○〔後漢〕「自是牛馬——」。（民牧） 人民ををさむる者。○〔後漢〕「任二——一者、視レ事三歲以上、皆得二察擧一」。

【⿰牛今】 キン、ゴン。巨禁切 沁
牛の舌の病。

【⿰牛斗】 クワ。苦禾切 歌
鄙—は、牛の屬。

【⿰牛斗】 キウ、ク。居尤切 尤
大いなる牡牛。

【牨】 カウ。古郎切 陽
㊀水牛。㊁特牛、たうし。

【⿰牛不】 ヒ、ビ。符悲切 支
牛を使ふ聲。

【⿰牛冘】 チン、ヂン。直深切 侵
水牛、又、吳の牛。

【⿰牛比】 牝に同じ。

【⿰牛介】 カイ、ケ。居拜切 卦
四歲の牛、一說に、五歲の牛。

【物】 ブツ、モチ。文弗切 物
㊀もの。
（い）天地開に見出したる有形、ものな。○〔易〕「品—布レ形」。
（ろ）事。○〔周〕「以二鄉三——一敎二萬民一而賓二興之一」。
（は）色。○〔詩〕「比レ—四驪」。
（に）種類、たぐひ。○〔左〕「是其生也與レ吾同レ—」。
（ほ）財。○〔周〕「辨二三酒之——一」。
（へ）數。○〔國〕「神之見也不レ過二其—一」。
㊁みる、（相）。○〔周〕「——二其地一圖而披レ之」。
㊂たぐふ、（比）。○〔周〕「—レ馬而頒レ之」。

（萬物） 天地開にあるとあらゆるもの。○〔易〕「——資始」。
（庶物） もろ〳〵のもの。○〔易林〕「——蕃息」。
（羣物） 前に同じ。○〔韓詩外傳〕「——安居」。
（方物） 法術性行と物色とのこと、又、其の土地に生産するものゝこと。○〔書〕「畢獻二——一」。
（海物） 海より生ずるもの。○〔陸機〕「——錯二萬類一」。
（玩物） 他物になれまたしむこと。○〔書〕「—レ—喪レ志」。
（遠物） とほく隔たりたる處の産物。○〔書〕「不レ寶二——一則遠人格」。
（禮物） 禮式のこと。○〔書〕「修二其——一」。
（天物） 天産物のこと。○〔書〕「暴二殄——一」。
（生物） 物をつくりいだすこと、又、いきもの。○〔莊〕「養レ虎者不下敢以二——一與上レ之」。
（動物） 鳥獸蟲魚などすべていきものゝ總稱。○〔周〕「其——宜二毛物一」。
（植物） 草木などの總稱。○〔東晳補亡詩〕「——斯高」。
（鱗物） 魚類のこと。○〔周〕「其動物宜二——一」。
（老物） としたけたるもの。○〔晉〕「——可レ憎」。
（尤物） すぐれたるもの。○〔左〕「夫有二——一、足二以移一レ人」。
（文物） 法式のこと。○〔左〕「——以紀レ之」。
（舊物） ふるきもの。○〔左〕「不レ失二——一」。
（奇物） めづらしきもの。○〔史〕「益收二狗馬——一」。
（珍物） 前に同じ。○〔後漢〕「有二大秦——一」。
（靈物） 神妙なるもの。○〔後漢〕「——乃降」。
（棄物） うちすつるもの。○〔老〕「故無二——一」。
（英物） すぐれたる人物。○〔晉〕「眞——也」。
（賤物） 外物をいやしむこと。○〔管〕「尋レ道而—レ—」。
（風物） 風景のこと。○〔陶潛〕「——閑美」。
（理物） ものをとゝのへをさむること。○〔董仲舒〕「文王順レ天—レ—」。「義二焉爾」。
（財物） たからもの。○〔禮〕「因二其——一而致二其義一焉爾」。
（怪物） ばけもの。○〔淮〕「——不レ能レ驚也」。
（美物） うつくしきもの。○〔禮〕「——備矣」。
（帑物） 帑帛のおくりもの。○〔國〕「使三下臣奉二其——一」。
（寶物） たからもの。○〔稽神錄〕「此——也」。
（官物） 政府の品もの。○〔吳〕「時有下盜二——一者上」。
（外物） それのれよりはかのこと。○〔莊〕「——不レ可レ必」。
（造物） 萬物を造りたるかみ。○〔莊〕「偉哉夫——者」。

【牪】 ゲン。牛眷切 霰
牛件つ。

【⿱𠂉牛】 キ。古委切 紙
牛。

五畫

【牠】 タ、ダ。徒和切 クワ。若禾切 歌
角なき牛。

【⿰牛㐌】 牠に同じ。

【⿰牛殳】 タウ、トウ。土刀切 豪
牛徐に行く、又牛行くこと遲し、おそし。

【牭】 シ。息利切 寘
㊀四歲の牛、㊁もさろ、（很）。

【⿰牛乍】 サク。郎各切 藥
長き髦の牛。○〔山海經〕「小華之山多二——牛一」。

【⿰牛丕】 ヒ、ピ。符悲切 支
牛を使ふ聲。

【⿰牛宂】 ジョウ、ニユ。乳勇切 腫
吳牛の名。

【⿱代牛】 セン。作甸切 霰

【⿰牛句】 コウ、ク。呼后切 有
㊀屋の斜になりたるを支ふるもの、はり、つっぱり。㊁土石を以て水を遮ること、ゐせき。

【⿰牛平】 ハウ、ヒヤウ。普耕切 庚
㊀牛鳴く、なく。㊁犢、こうし。

【⿰牛由】 イウ、ユ。余救切 宥
星の如くまだらなる毛色の牛。

【⿰牛由】 皆の黑き牛。

【牲】 セイ、シヤウ。所庚切 庚
神を祭るに供ふる畜、いけにへ。○〔易〕「用二大—一吉」。

（犧牲） いけにへ。○〔禮〕「孟春——毋レ用レ牝」。
（三牲） 牛羊豕のいけにへ。○〔禮〕「——之俎、八簋之實、美斯備矣」。
（割牲） いけにへを調理す。○〔禮〕「天子袒而—レ—」。
（六牲） 六つのいけにへ、卽ち馬牛羊雞犬豕のこと。○〔周〕「膳用二——一」。
（騂牲） 赤き色のいけにへ。○〔周〕「凡陽祀用二——一毛レ之」。
（黝牲） 黑き色のいけにへ。○〔周〕「陰祀用二——一毛レ之」。
（展牲） いけにへを具ふ。○〔周〕「—レ—則告レ牲」。
（野牲） 野に畜ひおけるいけにへ。○〔周〕「凡國祭祀共二——一」。
（五牲） 五つのいけにへ。卽ち麋、鹿、麏、狼、兎のこと。○〔左〕「爲二——三犧一」。
（牢牲） いけにへのこと。○〔韓愈〕「曇鼓侑二——一」。
（下牲） いけにへの格を落として常よりも劣等なるものを用ふること。○〔禮〕「祀則—レ—」。「用二特豚一」。
（薦牲） 奉げすゝむるいけにへ。○〔禮〕「士—レ—」。
（絜牲） 清潔にしたるいけにへ。○〔後漢〕「故薦二嘉玉——一、以禮二河神一」。「進二——一」。
（肥牲） よく太りたるいけにへ。○〔春秋繁露〕「敬」
（麪牲） 麪類をもていけにへの代はりとすること、卽ち腥膻を食らはざるは佛教の旨趣なるをもて此の教旨を奉じたるより出でたるもの。○〔路史〕「梁武帝宗廟——而不二血食一」。

〔玉牲〕神にさゝぐる玉といけにへ、又、神の供物の義。〇〔郭璞〕「延-祝-史-肆二——一」。

【牴】テイ、タイ。都禮切 〔齊〕
㊀ふる（觸）、あたる（當）。〇〔史〕「二-世在二甘-泉一、作二穀—優-俳之觀一」。
㊁あふ（會）。〇〔揚雄〕「—會也、雍-梁之閒曰レ—」。
㊂いたる（至）。〇〔易、註〕「—狼難レ移之物」。
㊃大略、おほよそ、ほど、あらまし。〇〔玉篇〕「太—謂二太-略一」。
㊄羝に同じ、をひつじ。

【牴】タイ、テ。椿皆切 〔佳〕
獬—は、一種の獸、其の性忠直なりといふ。

六畫

【⿰牜各】カ、ケ。居訝切 〔禡〕
駕に同じ。

【牶】ケン、クワン。區願切 〔願〕
牛の鼻に通じたる繩、はなづら、はなづな。

【牷】セン、ゼン。疾緣切 〔先〕
牲牛の毛色の純なること、又、其の牲牛、いけにへ。〇〔周〕「凡時-祀之牲必用二—物一」。
〔柔牷〕やはらかくして體の純色なること。〇〔殷浚〕「神-寥孔昭、嘉二是——一」。
〔騂牷〕いけにへのこと。〇〔大戴禮〕「宗-廟曰二篸—、山-川曰二——一」。
〔博牷〕いけにへの大きくして純色なること。〇〔沈約〕「形-色——」。
〔肥牷〕太りたるいけにへ。〇〔哀瑗〕「屏レ几研二——一」。

【⿰牜劦】ケフ。胡頰切 〔葉〕
牛健かなり、すこやか。

【⿰牜因】アン、エン。於閑切 〔刪〕
牛の尾の色。

【⿱㓞牛】セイ、ゼイ。示勢切 〔霽〕
角の仰ぎたるを、たちつの。〇〔易〕「其牛—」。

【⿰牜同】トウ、ヅ。徒東切 〔東〕
犝に同じ。

【⿰牜后】オウ、ウ。烏后切 〔有〕
特牛、をうし。

【⿰牜后】コウ、ク。苦后切 〔有〕
⿰牜句に同じ。

【牸】シ、ジ。疾置切 〔寘〕
㊀牝牛、めうし。〇〔孔叢子〕「子欲二速富一、當レ畜二五—一」。
㊁牝馬、めうま。〇〔史〕「有レ畜二—馬一、歲課レ息」。
〔羸牸〕かよわき牝牛。〇〔晉〕「負レ重致レ遠、曾不レ若二——一」。
〔黄牸〕きいろなる牝牛。〇〔朝野僉載〕「家有二——牛一、宰而獻レ之」。
〔乳牸〕乳の汁のある牝牛のこと。〇〔宣和畫譜〕「——放牧」。
〔良牸〕善良なる牝牛。〇〔顏道顏〕「——擂二足於雙島一」。
〔牯牸〕牝牛のこと。〇〔范成大〕「——無レ瘕犢兒長」。

【特】トク、ドク。徒得切 〔職〕
㊀牡牛、をうし。〇〔書〕「格二于藝-祖一用レ—」。
㊁牡雄、をす。〇〔周〕「頒レ馬攻レ—」。
㊂ひとり、ひとつ。〇〔戰〕「我十以三—國城一從レ之」。
㊃一、ひとつ〳〵、ひとり〳〵。〇〔周〕「孤-卿—揖」。
㊄配匹、たぐひ、つれあひ、つま。〇〔詩〕「不レ思二舊-姻一、求二爾新—一」。
㊅挺立す、ぬきんづ、すぐる、又、其のもの。〇〔詩〕「百-夫之—」。
㊆異別、ことなり。〇〔禮〕「輕者包重者—」。
㊇取り分けて、ことに。〇〔史〕「臣之所レ見—其小-々者耳」。
㊈たゞ（但）。〇〔史〕「博但雖二七-十-人一、—備レ員弗レ用」。
〔懸特〕物にかけ下げたる牡牛のこと。〇〔詩〕「胡瞻二爾庭一有二——一兮」。
〔寡特〕つれあひとなる人のなきこと。〇〔詩、序〕「武-公——」。
〔介特〕助けなきもの。〇〔左〕「養二老-疾一收二——一」。
〔孤特〕前に同じ。〇〔史〕「——獨-立」。
〔英特〕勝れて雙ぶもののなきこと。〇〔宋〕「龍-顏——」。
〔峻特〕前に同じ。〇〔柳宗元〕「軌-行——、器-宇弘-大」。
〔挺特〕ぬきいづること。〇〔唐〕「人-氣——不レ俗」。
〔殊特〕とりわけて厚きこと。〇〔魏〕「禮-遇——」。
〔貞特〕正しく堅固にして他に勝れてあること。〇〔吳〕「少履二——之行一」。
〔崇特〕高くすぐれてあること。〇〔吳〕「寵-愛——、與レ和無レ殊」。
〔秀特〕前に同じ。〇〔任昉〕「天-表——」。
〔奇特〕凡ならずすぐれてあること。〇〔宋〕「身長七-尺六-寸、風-骨——」。
〔軒特〕抜けあがりすぐれてあること。〇〔唐〕「體-貌——」。
〔傑特〕前に同じ。〇〔桑觀國論〕「始-皇之英-偉——」。
〔偏特〕つれとなるもののなきこと。〇〔曹植〕「憐二孤-鴈之——一」。
〔怪特〕奇異なること。〇〔柳宗元〕「未三始知二西-山之——一」。
〔絕特〕極めてすぐれてあること。〇〔司馬文〕「必求二秀-偉——之文一」。

【⿱此牛】シウ、シユ。尸周切 〔尤〕
牛の名。

七畫

【⿰牜余】ト、ヅ。同都切 〔虞〕
黄色にして虎の文ある牛。

【⿰牜列】レツ、レチ。力輟切 〔屑〕
白き背の牛。

【⿰牜寽】ラツ、ラチ。郎括切 〔曷〕
毛色の駁なる牛、まだらうし。

【⿱差牛】サ、セ。師加切 〔麻〕
牛の名。

【⿰牜矣】シ、ジ。牀史切 〔紙〕
一歳の牛。

【牻】バウ、モウ。莫江切 〔江〕
黑白雜毛の牛、ぶちうし、まだらうし。

【⿰牜夆】ホウ、フ。敷容切 〔冬〕
野牛、のうし。

【⿰牜肖】サウ、セウ。所教切 〔效〕
銳くして上に向かふ角。

【牼】カウ、キヤウ。丘耕切 〔庚〕 カン、ケン。丘閑切 〔刪〕 ケイ、キヤウ。古定切 〔徑〕
牛の膝の下の骨。

【⿰牜邑】リヤウ、ラウ。力薑切 〔陽〕
まだらうし。

【牽】ケン。苦堅切 〔先〕 苦甸切 〔霰〕
㊀ひく。
（い）繋ぎたる綱を執りて後に從へ

行く。○〔書〕「肇―二車牛一」。
(ろ)寄せ近づく。○〔戰〕「鈎不レ能レ―」。
(は)道びく、率ゐる。○〔左〕「―二師老夫一以至二於此一」。
(に)勾む。○〔晉〕「留二―攸船一」。
(ほ)かゝはる、（拘）。○〔史〕「學者―二於所レ聞」。
(へ)繫連す、つなぐ、つゞく。○〔易〕「九二―復吉」。
(と)逼りて爲さしむ。「勿レ―」。○〔禮〕「道而〔獨斷〕「施二―其外一」。
㊁ひくに執るもの、綱、紐、索など。○
㊂牛、羊、豚、馬など、ひかれて行くものの義。○〔左〕「惟是脯資餼―」。
〔羈牽〕ひきつなぐこと。○〔後漢〕「彼豈樂二―・―哉」。
〔連牽〕つゞくこと。○〔晉〕「阿堅―・―三・十・年」。
〔拘牽〕他にひきとめらるゝこと。○〔朱熹〕「煩・纔絶二―・―一」。
〔引牽〕ひく。○〔韓愈〕「起坐相―・―」。
〔挽牽〕前に同じ。○〔一統志〕「舟行―・―五百人方可レ渡」。「―西送」。
〔執牽〕とらへひく、又、索をもつ。○〔蘇舜欽〕「―・

【犋】ハイ。博蓋切 泰
犕に同じ。

【牪】ヘイ、バイ。傍禮切 薺
牛馬の行くにいふ字。

【牣】ジン、ニン。而振切 震
みつ（牣）。

【牿】コク。古沃切 沃
牛馬の牢、をり。○〔書〕「今惟淫舍二―牛馬一」。

【犓】ショ、ソ。楚居切 魚
牛の角。

【觩】キウ、グ。渠幽切 尤
角の貌にいふ字。

【犞】騂に同じ。

【牸】サウ。則郎切 陽
牝羊、めひつじ。○〔戰〕「有二狂・兕―・―車一」。

【犀】セイ、サイ。先稽切 齊
㊀一種の獸、水牛に似て脚に三つの蹄あり毛色黑くして三つの角の一つは頂にあり一は額上にあり一は鼻頭にあり。○〔漢〕「黃・支・國獻二―・―牛一」。
㊁犀の角。○〔後漢〕「人以爲二明・珠文・―一」。
㊂兵器堅固なり、かたし。○〔漢〕「器不二―・利一」。
㊃瓠中の瓣、され。○〔詩〕「齒如二瓠―一」。
㊄額上の骨の髮際に入りて隱起すること、卽ち、貴人の相ありとなすもの。○〔國〕「角―豐・盈」。
〔文犀〕あやある犀角のこと。○〔後漢〕「人以爲二明・珠―・―一」。
〔水犀〕水中に生息するものにて犀の一種。○〔蘇軾〕「安得二夫・差―・―手一」。
〔龍犀〕額の日月角とて中央のたかきをいふ。○〔辨命論〕「―・―日・角、帝・王之表」。
〔黑犀〕くろ色の犀角。○〔後漢〕「皆以二―・―一」。
〔明犀〕角にひかりある犀のこと。○〔洞冥記〕「因名二―・―一」。「明」。
〔牸犀〕牝犀のこと。○〔爾雅〕「―・―之角、文・理分・」
〔燃犀〕さい角をもやす、下に引く故事より幽暗を照らすことにいふ語。○〔晉〕「溫・嶠至二牛渚一水深不レ可レ測、世云其下多二怪・物一、嶠遂―二―・角一照レ之」。
〔靈犀〕くしきさい角、又、心の相照らすことにもいふ語。○〔李商隱〕「心有二―・―一・點通一」。

【犌】フウ、フ。縛牟切 尤 フ、ブ。芳無切 虞
黑き脣の牛。

【犁】犂に同じ。

八畫

【犆】トク、ドク。徒得切 職
㊀特に同じ。㊁にぶし、（鈍）。

【犍】シャ。式夜切 禡
㊀め、（雌）。㊁馬の名。

【犎】セイ、ゼイ。時制切 霽
牛の一角仰ぐ、一說に、牛角立つ、つのたつ。

【犕】ヒ、ビ。平移切 寘
齒を見はす。

【犂】レイ、ライ。憐題切 齊
㊀田畝を耕すに用ふる器、すき、からすき。○〔管〕「童・子五・尺一―」。
㊁たがへす、（耕）。○〔漢〕「―二其庭一」。
㊂ころ、（比）、一說に、むすぶ、（結）、又一說に、くろし、（黑）。○〔史〕「―旦城・中皆降二伏・波一」。
〔留犂〕飯匕のこと。○〔漢〕「單・于以二徑・路刀金・―・―一撓レ酒」。
〔鋤犂〕耕に用ふる器、すき、又、耕作すること。○〔杜甫〕「縱有二健・婦一把二―・―一」。
〔耕犂〕前に同じ。○〔陸游〕「冬・晴正欲レ飽二―・―一」。
〔牛犂〕うしの力にて耡くすきのこと。○〔陸游〕「只合レ還二―・―一」。

【犁】リ。良脂切 支
㊀雜文の毛色の牛、まだらうし。○〔論〕「―牛之子」。「播二棄―老一」。
㊁老人の皮膚の垢ぶみたること。○〔書〕

【犂】リウ、ル。力求切 尤
慓ひ戰く、ふるふ、をのゝく。○〔莊〕「―然有レ當二於人・心一」。

【犉】タウ、テウ。丑交切 肴 敕敎切 效
角にて挑ぐ、あぐ、かゝぐ。

【犃】ホウ、ブ。蒲口切 有
㊀を、をす、（雄）。㊁短き頭の牛。㊂偏りて高し、たかし。

【犅】リヤウ、ラウ。呂張切 陽
牻牛、まだらうし。

【犄】イ。於離切 支
㊀勢を割きたる牛。㊁ながし、（長）。㊂よる、（倚）。㊃ほどこす、（施）。

【犅】カウ。古郎切 陽
赤色の特牛、あかいろのをうし。○〔左〕「魯・公用二犅・―一」。

【犆】トク、ドク。敵德切 職
特に同じ、ひとり、ひとつ、ことなり。○〔禮〕「天・子―・礿」。

【犆】チョク、ヂキ。除力切 職
㊀勢を割きたる牛。㊁へり、（緣）。○〔禮〕「君羔・幦虎―」。

【犇】古文の奔の字。

【犈】ケン、ガン。巨員切 先
脚の黒色なる牛。

【𤛓】ケン。去演切 銑 ケツ、ゲチ。胡結切 屑
㊀牛很りて引くに從はず、もさる。㊁大いなる貌にいふ字。

【犉】ジュン、ニュン。濡純切 眞 ゼン、ナン。而宣切 先
黒き脣の牛、又、身の長七尺の牛。○〔詩〕「九十其━」。

九畫

【𤛫】テン。丑展切 銑
緩やかなる牛。

【𤛑】ショク、シキ。子力切 職
丈低くして小さき牛。

【𤙊】ユ。容朱切 虞
黒き牛、くろうし。○〔南〕「建-武二-年賜以二常所レ乘白━-牛一」。

【𤛗】カ、ケ。古牙切 麻
すぐれて力ある牛。○〔爾〕「━有レ力欣━」。

【犍】ケン、コン。居言切 元
㊀勢を割きたる牛。㊁牛に似たる一種の獸。

【𤛭】チョウ、ヂユ。持用切 送
孕みたる牛、はらみうし。

【𤙭】バウ、メウ。莫包切 肴

犛牛。

【𤛱】俗の摠の字。

【𤛎】リ。力支切 支
㊀文ある牛、まだらうし。㊁微かに畫く、ゑがく。

【㹆】キ。吁韋切 微
犂牛の頭、又、牛の一種。

【犎】ホウ、フ。甫容切 冬
頷上の肉の隆く起こりて橐駝の如き牛。

【㹊】シウ、シユ。踈鳩切 尤
三歲の牛。

【𤙯】牣に同じ。

【𤛛】犍に同じ。

【𤛮】犟に同じ。

【犏】ヘン。匹焉切 先
牛の一種。○〔水東日記〕「牦-牛與二封-牛一合則生二━-牛一、狀類二牦-牛一、偏-氣使レ然故謂二之━一」。

【犐】クワ。苦禾切 歌
牛に角無し、又、角なき牛。○〔淮〕「既━以犙」。

【犑】ケキ、キヤク。古闃切 錫
牛の屬。

十畫

【𤛳】シン、ジン。慈鄰切 眞

牛の一種、水牛より小さし。

【𤛷】サウ。千剛切 陽
牛の名。

【𤜂】ゲン、グワン。愚袁切 元
一種の獸、牛に似て三足なりといふ。○〔山海經〕「乾-山有レ獸、狀如レ牛而三-足名曰レ━」。

【犒】カウ、コウ。苦到切 號
飲食を贈りて軍士を慰問す、ねぎらふ。○〔左〕「使二展-喜━一レ師」。
〔宴犒〕酒もりし勞ふ。○〔五〕「━-━盡レ歡」。
〔往犒〕行きていたはる。○〔宋〕「知-州高-世-由━レ之乃去」。
〔大犒〕いたくねぎらふ。○〔宋〕「━-━諸-軍一」。
〔給犒〕物を與へて勞ふ。○〔宋〕「━-━二襄-郢等處、水-陸戍-士一」。
〔支犒〕前に同じ。○〔宋〕「━-━二軍-民一」。
〔豐犒〕足らはぬ所なく餉りものす。○〔宋〕「━-━而休二養之一」。
〔頒犒〕上より分配する餉りもの。○〔宋〕「凡有二━-━一、均給二軍-吏一」。

【𤜄】ガク、ゴク。五角切 覺 コク。胡沃切 沃
白き牛、しろうし。

【𤜅】キ、ケ。許既切 未
牛の病、一説に、牛饉う、うゝ、又一説に、牛にかふ飲食物。

【𤜆】キウ、ク。許救切 宥
熊に似たる一種の獸。

【𤛵】ハウ。甫旁切 陽
背の白き牛。

【𤛎】コツ、コチ。古忽切 月

牛。

【犕】ビ。平秘切 寘
㊀牛を車につく。㊁八歲の牛、又、齒を具へたる牛。

【𤛝】フク、ボク。房六切 屋
前條の㊀に同じ。

【𣪛】コウ、ク。古厚切 宥
牛羊の乳を取る、ちしぼる。

【𤜇】ケン、コン。居言切 元
犍に同じ。

【犖】ラク、ロク。呂角切 覺
㊀雜色の牛、まだらうし。○〔司馬相如〕「赤-瑕駁━」。㊁分明、あきらか。○〔史〕「此其━-━大者」。㊂超絕す、こゆ、すぐ。○〔班固〕「卓二━乎方-州一」。

【犖】ラク。力各切 藥
前條の㊀に同じ。

【犙】シウ、シユ。心秋切 尤
醜き牛の狀、又、牛に尾なし。○〔淮〕「畀-屯犁-牛、既犐以━」。

【犗】カイ、ケ。古拜切 卦
㊀勢を去りたる牛、へのこきりたるうし。○〔莊〕「任-公-子爲二大-鉤巨-緇一、五-十━以爲レ餌」。㊁あがる、(騰)。㊂畜類の强健なる者の稱。

【⿰牛馬】ボウ、ム。莫後切 有 牡に同じ。

【⿰牛流】ホ、ブ。裴古切 麌 をを、をす(雄)。

十一畫

【⿰牛習】ラフ、ロフ。盧合切 合 牛抵る、ねぶ。

【⿰牛産】サン、セン。所簡切 潸 畜ふ牲、牛、羊など。

【⿰牛崖】セイ、シヤウ。所迸切 庚 めうし(牸牛)。

【⿰牛啇】テキ、ヂヤク。徒歷切 錫 をうし(特牛)、又、をを、をす(雄)。

【犘】バ、マ。莫霞切 麻 重さ千斤ある牛。

【犙】サン、ソン。蘇含切 覃 シウ、シュ。疎鳩切 尤 ㊀三歳の牛。㊁車を引く副へ牛。

【犚】ヰ。於胃切 未 耳黒き牛。

【⿰牛尌】前條に同じ。

【⿰牛堇】キン、コン。几隱切 吻 ㊀よし(善)。㊁やはらか、やはし(柔)。㊂牛馴れてやはらかなり、なる。

【⿰牛崔】サイ、ゼ。昨回切 灰 白色の牛、しろうし。

【⿱敏牛】ビン、ミン。眉隕切 軫 牛に似たる蒼黒き一種の獸。○[山海經]「黄山有レ獸、狀如レ牛蒼黒大目、其名曰レ―」。

【⿰牛虘】ソ、ス。采五切 麌 牛を使ふ。

【⿱從牛】シヨウ、ジユ。常容切 冬 ㊀船を淺き水に引く。㊁革乾く、かわく。

【⿰牛區】オウ、ウ。於口切 有 牨に同じ。

【⿰牛庸】ヨウ、ユ。餘封切 冬 領に隆き肉ある牛。○[司馬相如]「―旋貘犛」。

【犛】バウ、メウ。莫交切 肴 モウ、バウ。謨袍切 豪 長き髦の牛、一說に、狀牛に似て長き尾ある一種の獸、又、其の髦尾。○[國]「巴-浦之犀、―、兕象」。

【犛】リ。里之切 支 前條に同じ、一說に、黑色の牛、くろうし。○[班固]「曳二犀、―一」。

【斄】ライ。郎才切 灰 長尾の牛。

【犒】タウ、ドウ。徒刀切 豪 子無き牛羊。

十二畫

【⿰牛纍】ルヰ。倫追切 支 ⿰牛纍に同じ。

【⿰牛曾】シヨウ、ゾウ。慈陵切 蒸 牛の一種。

【⿰牛翕】タフ、トフ。敵盍切 合 ふる(抵)。

【⿰牛敦】トン。都昆切 元 牛。

【⿰牛黃】クワウ、ワウ。胡光切 陽 牛の名。

【⿰牛厥】ケツ、クワチ。居月切 月 牛。

【犝】トウ、ヅ。徒紅切 東 角なき牛。

【⿰牛菐】ハク、ボク。匹角切 覺 ㊀をうし(特)。㊁未だ勢を去らざる牛。

【⿰牛尋】ジン。徐心切 侵 牛。

【⿰牛堯】ゲウ。魚小切 篠 牛馬の騰躍せるにいふ字、はぬ。

【⿰牛喬】音詳かならず、乾肉、ほじし。○[淮]「以奉二宗-廟鮮―之具一」。

十三畫

【⿰牛蜀】犢に同じ。

【⿰牛畺】キヤウ、カウ。居良切 陽 ㊀脊長き牛。㊁白き牛、しろうし。㊂脊白き牛。

【⿰元覃】グワン、ゲン。火頑切 刪 おさる(劣)。

【⿰牛豙】豙に同じ。○[莊]「吾將三三―月―ヒ汝」。

【⿰牛鬼】ヰ。羽鬼切 尾 牛。

【⿰牛嵬】ギ。語韋切 微 犩に同じ。

【⿰牛解】カイ、ゲ。下買切 蟹 獬に同じ。

【⿰牛萬】レイ。力勢切 霽 タイ。力大切 泰 白き脊の牛。

十四畫

【⿰牛壽】タウ、ドウ。徒刀切 豪 セウ。蚩招切 蕭 サイ。昌來切 タイ。當來切 灰 キウ、ク。去久切 有 子なき牛羊の稱。

【⿰牛需】ジユ、ニユ。而遇切 遇 牛莖、へのこ。

【⿰牛翟】ゴク。五沃切 沃 ガク、ゴク。五角切 覺

白き牛、しろうし。

十五畫

【⿰牜臧】サウ、ザウ。作郎切 陽 よし(善)。

【犡】レイ。力制切 霽 ライ。洛帶切 泰 白き脊の牛。

【⿰牜黎】リ。良脂切 支 犂に同じ。

【犢】トク、ドク。徒谷切 屋 牛の子、こうし。○〔禮〕「天子適二諸侯一、諸侯膳以レ―」。
〔駒犢〕子馬と子牛と。○〔禮〕「犧牲――、擧書二其駒一」。「具」。
〔黃犢〕きいろなる子牛。○〔史〕「壇一――大牢
〔羔犢〕子羊と子牛と、即ち弱きことにいふ語。○〔漢〕「是以二――之弱一、而扞二虎狼之敵一也」。
〔佩犢〕子牛を畜ふこと、即ち、武事を舍てゝ殖産を事とするにいふ語。○〔許月卿〕「――弭二兵紅一」。
〔靑犢〕(い)賊團の名。○〔庾信〕「虜二――之兵一、甚有二秘計一」。(ろ)刀の名。○〔古今注〕「吳大帝有二寶刀三一、二曰、――」。
〔舐犢〕親牛の子牛を舌もてねぶり愛づること、即ち、子の愛に溺るゝことにいふ語。○〔後漢〕「猶懷二老牛――之愛一」。
〔孤犢〕親に放れたる子牛のこと。○〔莊〕「雖レ欲レ爲二――一、其可レ得乎」。
〔禽犢〕とりと子牛とのこと。○〔荀〕「小人之學也、以爲二――一」。
〔嬰犢〕みどりごと子牛とのこと。○〔揚雄〕「――母懷不二爻懷一」。
〔騂犢〕赤き色の子牛のこと。○〔禮〕「祭レ地也用二――一」。
〔牲犢〕いけにへの子牛。○〔周〕「國君膳以二――一」。
〔乳犢〕ち放れせぬ子牛。○〔唐〕「乳駒――」。
〔黝犢〕黑き色の子牛。○〔宋〕「牲陳二――一」。
〔驅犢〕子牛を逐ふこと。○〔王績〕「牧人――返」。
〔烝犢〕烝たる子牛。○〔韋應物〕「――炮羔如二折葵一」。
〔健犢〕すこやかなる子牛。○〔李賀章〕「――春耕土買羔」。
〔耕犢〕耕作に用ふる子牛。○〔吳融〕「雨細幾逢二――一」。
〔斑犢〕まだら色なる子牛。○〔范成大〕「――雕車碧蓋油」。
〔飯犢〕子牛に秣をかふこと。○〔陸游〕「陂塘晨――」。

【犣】レフ。良涉切 葉 旄のこと。

【犤】ヒ。班糜切 支 ヒ、平爲切 支 ハイ、ベ。薄街切 佳 庳くして小さき牛。

【犤】バイ、ベ。部買切 蟹 短き足の牛。

【⿰牜嬰】アウ、ヤウ。烏猛切 梗 ㊀牛を呼ぶ聲にいふ字。㊁牛の鳴くにいふ字、なく。㊂こうし(犢)。

【⿰牜嬰】アウ、ヤウ。於杏切 效 前條の㊂に同じ。

【犥】ベウ。撫招切 蕭 牛の毛色の美澤なくなりて黃白なること。

【犥】ヘウ。被表切 篠 毛羽の色澤を失へること。

【犥】ハウ、ホウ。滂保切 皓 牛の毛色の蒼白なること。

【犥】ハウ、ホウ。巨到切 號 牛の名。

【犦】ハク、ボク。蒲角切 覺 ホク。博沃切 沃 ハク。伯各切 藥 ハウ、ヘウ。巴校切 效 封牛。○〔緯略〕「刻二―牛於槊首一」。

十六畫

【衛】エイ、エ。於劇切 霽 牛の地を踶むにいふ字、又、牛の足を展ばすにいふ字。

【⿰牜褱】クワイ、ゲ。渠穢切 隊 ふる(觝)、特に、牛の人にふるゝにいふ字。

【⿰牜褱】クワイ、エ。戶乖切 佳 體は牛に似て目は人の目の如く角の四つある獸の名をいふ。

【犧】キ、ギ。虛宜切 支 ㊀祭事に神明に供ふる純色の牲、いけにへ。○〔詩〕「以二我齊明與一二――羊一以社以方」。㊁いけにへの牛の形を刻みたる尊さかだる。○〔禮〕「――尊疏布」。
〔騂犧〕赤き色のいけにへ。○〔詩〕「享以二――一」。
〔純犧〕毛色のまじりなきいけにへ。○〔高唐賦〕「進二――一禱二璇室一」。
〔三犧〕天地宗廟を祭るいけにへ。○〔兩都賦〕「於是薦二――一效二五牲一」。
〔芻犧〕いけにへのこと。○〔論衡〕「何而――之不二肥腯一也」。
〔牷犧〕前に同じ。○〔七發〕「純粹――、獻二之公門一」。
〔醇犧〕清み酒とまじりなき毛色のいけにへと。○〔魏〕「――入頌」。
〔郊犧〕祭祀のいけにへ。○〔裴振〕「乃自斷二於――一」。
〔廟犧〕前に同じ。○〔陸游〕「――烏得爲二孤豚一」。

【犧】サ。桑何切 歌 翡翠の羽を以て飾りたる酒器、さかだる。○〔詩〕「―尊將々」。

【犨】シウ、シユ。赤周切 尤 ㊀牛の息する聲にいふ字。㊁いづ(出)。○〔呂氏春秋〕「―二於前一不レ直」。

十七畫

【⿰牜翟】ゴク。五沃切 沃 白き牛、しろうし。

【⿰牜嬰】アウ、ヤウ。烏猛切 梗 ㊀こうし(犢)。㊂牛の鳴くにいふ字。㊁牛の子を喚ぶ聲にいふ字。

【⿰牜毚】サン、ゼン。仕懺切 陷 牛の角の貌にいふ字。

【⿰牜賏】⿰牜嬰に同じ。

【⿰牜嬰】エイ、ヤウ。伊盈切 庚 うし(牛)。

十八畫

【犩】ギ。語韋切 微 魚貴切 未 牛の一種、體大に肉數千斤あるものをいふ。

【犪】ゼウ、ネウ。而沼切 篠 而沼切 嘯 ㊀牛の馴れ伏すにいふ字、なる、又、牛の柔謹なるにいふ字。㊁したがふ(從)、又、なる(馴)、又、やすし、やすんず(安)。○〔古書〕「―而毅」。

【犦】 ハク、ボク。弼角切 覺 ハウ、ヘウ。巴校切 效

犦に同じ。

【𤛱】 クワン、ゲン。巨班切 刪

牛の角、つの。

二十畫

【犪】 キ、ギ。渠追切 支

犩に同じ。

廿一畫

【𤜊】 ルヰ。力追切 支

㊀子を求むる牛。㊁牡をおふめゐのこ。

廿三畫

【犫】 シウ、シュ。尺由切 尤

犨に同じ。

廿四畫

【𤛴】 レイ、リヤウ。郎丁切 青

牛の一種。

犬部（犭）

【犬】 ケン。苦畎切 銑 〔說文〕象形。

家に畜ふ一種の獸、いぬ、（狗）。○〔禮〕「效レ—者左牽レ之」。

〔守犬〕家をまもりて冦賊を認めて吠ゆる犬。○〔穆天子傳〕「—・—七十」。

〔豚犬〕（い）ゐのこと犬と。○〔國〕「士有二—・—之糞一」。（ろ）人物の凡庸なるにいふ語。○〔吳歷〕「生レ子當レ如二孫仲謀一、劉景升兒子若二—・—一耳」。

〔吠犬〕はゆるいぬ。○〔陸 〕「—・—驚二飄葉一」。

〔稚犬〕いぬころ。○〔戴復古〕「—・—迎二來客一」。

〔陽犬〕すゑものゝ犬。○〔金樓子〕「—・—無二守夜之警一」。

〔芻犬〕草にて作りたる犬。○〔朝野僉載〕「以二芻狗一爲二—・—一」。

〔蜀犬〕日を認め怪しく思ひて吠ゆる蜀の地の犬。○〔吳當〕「暘谷吠レ晨驚二—・—一」。

〔田犬〕獵を爲すための犬。○〔周、疏〕「犬有二三種一、一者—・—」。

〔食犬〕むくいぬのこと。○〔三才圖繪〕「—・—猶二今之菜牛一」。

〔走犬〕犬を驅りはしらす。○〔淮〕「—レ—逐二狡兎一」。

〔疾犬〕はしこき犬。○〔韓子〕「韓子盧者、天下之—・—也」。

〔鈍犬〕鈍なる犬。○〔史〕「—・—受二其弊一」。

〔猛犬〕氣象はげしき犬。○〔漢〕「鉅象師二子—・—」「佩一」。

〔猘犬〕前に同じ。○〔李商隱〕「城中—・—憎二闒・—一」。

〔縻犬〕縻を放ち犬を走らせて獵をなすこと。○〔後漢〕「觀二—・—之執一」。

〔怪犬〕あやしげなるふるまひを爲す犬。○〔魏〕「初公孫淵家有二—・—一、冠幘絳衣上レ屋」。

〔特犬〕あひてなき單獨の犬。○〔唐〕「爪牙毆則孤豚—・—悉能爲レ敵」。

〔狎犬〕犬をして馴れ親しましむること。○〔淮〕「揮挩而—レ—也」「雖」。

〔駿犬〕はしこき犬。○〔博物志〕「宋有二—・—一曰レ」。

〔義犬〕義理を辨ふる犬。○〔搜神記〕「今紀南有二—・—塚一、高十餘丈」。

〔邑犬〕村里の間に養ひある犬。○〔屈平〕「—・—羣吠兮吠レ所レ怪也」「欲レ易レ之」。

〔嗤犬〕くひつく犬。○〔楚辭〕「兄有二—・—一弟何」。

〔狂犬〕前に同じ。○〔阮籍〕「値二—・—之暴怒一」。

〔乳犬〕子持ち犬。○〔古諺〕「—・—攫レ虎、伏雞搏レ貍」。

〔獵犬〕かりをなすときに用ふる犬。○〔王維〕「—・—隨レ人還」。

〔羣犬〕むらがりあるあまたの犬。○〔任華〕「—・—多二吠聲一」。

〔閽犬〕門を守る犬。○〔獨孤及〕「—・—迎吠」。

〔饑犬〕食に乏しき犬。○〔孟郊〕「—・—齚二枯骨一」。

〔宿犬〕寢てをる犬。○〔白居易〕「—・—聞レ鈴起」。

〔巷犬〕ちまたの間に棲む犬。○〔陸游〕「—・—聲如レ豹」。

一畫

【犮】 ハツ、バチ。蒲撥切 曷

㊀犬の走る貌にいふ字。㊁除き去る、のぞく、のく。

二畫

【犯】 ハン、ボン。防錽切 豏

をかす。

（い）抵觸す、ふる、あたる。○〔左〕「衆怒難レ—」。「隱而無レ—」。

（ろ）逆ふ、たがふ。○〔禮〕「事レ親有レ隱而無レ—」。

（は）侵伐す、うつ、かすむ。○〔左〕「帥二甲三百一宵—二齊師一、送レ之而復」。

（に）超ゆ、進み入る。○〔史〕「城高五丈而樓、李不レ能二輕—一」。

（ほ）志のぐ、（陵）。○〔禮〕「介冑則有二不レ可レ—之色一」。

（へ）いつはる、（僭）。○〔周、註〕「人見二欺—一欲下向二官所一訟上レ之」。

（と）法を破る、道にたがふ。○〔後漢〕「赦前所レ—後捕繫者悉免二其刑一」。

〔陵犯〕他を志のぎをかす。○〔參同契〕「不二相—・—一」。

〔干犯〕ふれをかすこと。○〔魏〕「有二—・—者一」。

〔觸犯〕前に同じ。○〔晉〕「—二—天威一」。

〔侵犯〕をかす。○〔史〕「不レ見二—・—一」。

〔恥犯〕さからふことをはぢとす。○〔漢〕「而—レ—二其上一」。

【犳】 リヨク、リキ。六直切 職

犬の爭ふ貌にいふ字。

【犰】 キ。擧履切 紙

兎に似たる一種の獸。

【犰】 キウ、グ。渠尤切 尤

猣の字の條を見よ。

三畫

【犱】 シン。息晉切 震

貍の屬、猫に似て猫よりも小さく毛色黃にして體に臭氣を有す。

【犵】 シ。承紙切 紙　シヤ、ゼ。時遮切 麻

狼の屬、或は、狐の屬なりともいふ。○〔山海經〕「蛇山有レ獸其狀如レ狐白尾長耳名二—狼一」。

【犷】 駞に同じ。

【犲】 豺に同じ。

【犳】 シヤク、サク。之若切 職

豹の如き文ある一種の獸、一說に、豹に似て豹の如き班文なき一種の獸。○〔山海經〕「泫陽之山其獸多二犀、兕、虎、—一」。

【犴】 カン。居寒切 寒

野狗、のいぬ。○〔淮〕「青—白虎」。

【犴】 ガン。魚旰切 翰

鄉亭に在るひとや。○〔後漢〕「獄—塡滿」。

【犵】 キツ、キチ。去逸切 屑

猲の字の條を見よ。

四畫

【犺】 サフ、セフ。測洽切 洽

犬の食ふにいふ字。

【犹】イウ、ユ。尤救切 宥
一種の獸。

【犺】カウ。苦浪切 漾
㊀強健なる犬。㊁はりねずみ、(猬)。

【犺】カウ。擧朋切 養
猴に似たる一種の獸、暹羅に產す、一に、――猨、畜ひて驅使に備ふべし。○〔正字通〕「舶-人編レ竹爲レ籠置下――所二往-來一之逕上機取レ之」。

【犭巴】ハ、ヘ。邦加切 麻
豝に同じ。

【犻】ハイ。博蓋切 泰
犬の齗(はぐき)を張る貌にいふ字。

【犻】ホツ、ボチ。蒲沒切 月
過ぎて取らず。

【犻】ハイ、ベ。蒲昧切 泰
㊀犬の過ぐるにいふ字、すぐ。㊁犬の怒りたる貌にいふ字。㊂拂ひ取る、さる。㊃ほゆ、(吠)。

【犻】シ。霜夷切 支
獅に同じ。

【狖】イウ、ユ。余救切 宥
貁に同じ。

【犭开】ゲン。五甸切 霰
ひさくひいぬ(獟-犬)、一說に、虎を逐ふ犬。

【犭开】ガン、ゲン。五晏切 諫
獸を逐ふ犬。

【犭互】コ、グ。瑚故切 遇
玃に似て尾の長き一種の獸。

【犼】コウ、ク。許后切 宥
犬に似たる一種の獸、人を食らふといふ。

【犬欠】ユ。羊朱切 虞
犬の子を呼ぶ聲にいふ字。

【犽】ガ、ゲ。吾駕切 禡
玃に似たる一種の獸。

【犾】ギン、ゴン。語斤切 文
㊀兩犬の相齧むにいふ字、かみあふ、かむ。
㊁兩犬の相吠ゆるにいふ字、ほえあふ、ほゆ。

【犾】前條に同じ。

【犭比】ヒ、ビ。並履切 紙
豕に似たる一種の獸。

【犿】クワン。呼官切 刪
㊀あなぐま、(貛)。㊁相從ふ貌にいふ字。

【犿】ヘン、ハン。方煩切 元
宛轉する貌にいふ字、めぐる。○〔莊〕「其書雖二環-瑋一而連―無レ傷也」。

【犭氏】シ。承紙切 紙
狐の如き一種の獸、此のもの見ゆれば兵事ありといふ。

【狀】ジヤウ、ザウ。助亮切 漾
㊀形態、情勢、容貌、かたち、おもむき、なりふり、すがた、さま。○〔易〕「知二鬼-神之情――一」。
㊁さまを陳述す、のぶ。○〔莊〕「自――二其過一以不レ當レ亡者衆」。
㊂牒札、ふだ、かきつけ。○〔宋〕「直詣二閤-門一進レ――」。
(異狀) めづらしきかたち、又、かたちをことにす。○〔杜甫〕「――君獨見」。
(殊狀) 前に同じ。○〔後漢〕「―レ―共レ體」。
(無狀) 亂れたること。○〔史〕「鯀之治水――」。
(陳狀) ありさまをのぶ。○〔漢〕「指レ陳―レ―」。
(貌狀) すがた。〔後漢〕「固――有二奇表一」。
(形狀) かたち。○〔史〕「――未也」。
(儀狀) 行儀かたちのこと。○〔史〕「――端-正者」。
(辭狀) ことばのさま。○〔吳〕「問二其――一」。
(行狀) おこなひのさまをかきたるもの。○〔晉〕「每私錄二晉-事及功-臣――一」。
(贓狀) 官吏の官物をぬすむさまのこと。○〔晉〕「――狼-藉」。
(容狀) すがた、かたち。○〔南〕「潛-作甚有二――一」。
(姿狀) 前に同じ。○〔宋〕「重-貫――雄-偉」。
(詭狀) ふしぎなるかたち。○〔南〕「殊レ類――」。
(告狀) ありさまをつげしらす。○〔北〕「踰レ牆―レ―」。
(牒狀) かきつけ。○〔唐〕「――無レ違」。
(美狀) うつくしきかたち。○〔方言〕「――爲レ妴」。
(奇狀) めづらしきかたち。○〔孟浩然〕「西-山多二――一」。

【犭斤】ギン、ゴン。語斤切 文
狺に同じ、犬の吠ゆる聲にいふ字。

【犭斤】ギン、魚巾切 眞 ゴン。切　ガイ、牛佳切 佳 ゲ。切
㊀前條に同じ。㊁犬の齧まんとする貌にいふ字。

【犭斤】ギン。擬引切 軫
犬の爭ふにいふ字、あらそふ。

【犭夬】ケツ、ケチ。古穴切 月
㊀一種の獸。㊁獸の走るにいふ字、はしる。

【犭夬】クワイ、ケ。古邁切 卦
獪に同じ。

【犭旬】ケン。胡涓切 先
豹に似て文の少なき一種の獸。

【犭内】ダツ、ナチ。女滑切 黠
豽に同じ。○〔韓愈〕「跳レ鋒壯驚レ―」。

【狁】イン。余準切 軫
獫――、玁――は、匈奴の別號。○〔詩〕「玁――孔棘」。

【狂】キヤウ、ガウ。巨王切 陽
㊀くるふ。
(い)病みて精神錯亂す、きちがふ。○〔史〕「箕-子被レ髮佯――而爲レ奴」。
(ろ)得失理非を辨ずる能はず。○〔莊〕「是以――而不レ信」。
(は)常態を失す。○〔晉〕「以爲二――華一」。
(に)さわぐ、(躁)。○〔詩〕「衆穉且――」。
(ほ)定まりなく動きめぐる。○〔白居易〕「妬-得柳-花――」。
㊁心其れのみに專一にして進むこと。○〔論〕「――者進取」。
㊂きちがひ。
(い)精神の錯亂する病。○〔書〕「我其發二出――一」。
(ろ)くるへる者。○〔詩〕「不レ見二子-都一、且見レ―兮」。

㊃茅鴟の一名、くそとび。○〔爾〕「―茅鴟」。
㊄獡に同じ。○〔山海經〕「栗廣之野有五彩之鳥、有冠、曰―鳥」。
〔淸狂〕狂者にあらずして狂者に似たる者のこと、又一説に、白癡者のこと。○〔陸游〕「詩酒―――二十年」。
〔酒狂〕さけに酔ひてものくるひす。○〔漢〕「我適―――」。
〔醉狂〕前に同じ。○〔白居易〕「無日花間不一――」。
〔猖狂〕いたくくるふ。○〔莊〕「――不知所往」。
〔顚狂〕うつりくるふ。○〔杜甫〕「――柳絮隨風舞」。
〔發狂〕くるひをおこす。○〔老〕「馳田獵令人心―」。
〔詐狂〕まことの狂者にあらずしていつはりて狂者となること。○〔晉〕「歲餘――」。
〔悖狂〕心もとりくるふ。○〔易林〕「季女――」。
〔愚狂〕癡狂といふに同じ、おろかにしてくるふこと、又、北の者。○〔元稹〕「――偶似直」。
〔纇狂〕前に同じ。○〔韓愈〕「余―而―」。

【狂】キヤウ、ガウ。渠放切 漾
㊀輙く妄に爲す。㊁まどふ、(惑)。

【狂】クワク。局縛切 藥
犬の走る貌にいふ字。

【狏】トン、ドン。徒孫切 元
肫に同じ。

【狃】ヂウ、ニユ。女久切 有
㊀なる、ならふ。
(い)就き習ふ。○〔書〕「―于姦宄」。
(ろ)くりかへして爲す。○〔戰〕「彼―又將請地于他國」。
㊁たゞす、(正)。○〔國〕「―中軍之司馬」。
㊂狐狸の跡、あしあと、一說に、ゆび、(指)。○〔爾〕「闕洩多―」。

【狃】ヂウ、ニユ。女救切 宥
㊀前條の㊀に同じ、なる。㊁狐狸。

【狃】ヂク、ニク。女六切 屋
一種の獸。

【狄】テキ、ヂヤク。徒歷切 錫
㊀北方の化外の民、えびす。○〔書〕「南面而征北―怨」。
㊁賤しき官吏、むたざむらひ、下士。○〔書〕「―設黼扆綴衣」。
㊂身體大にして力すぐれたる鹿。○〔爾〕「絕有力―」。
㊃翟に通じ用ふ。○〔禮〕「夫人揄―」。
㊄とほし、(遠)。○〔詩〕「舍爾介―」。
㊅髮除す、のぞく、はらふ、又、をさむ、(治)。○〔詩〕「桓々于征、―彼東南」。
㊆往來疾し、はやし、とし、いそがし。○〔禮〕「流辟邪散、―成滌濫之音作」。
㊇易に通じ用ふ。○〔論衡〕「―牙之調味」。
〔戎狄〕西方と北方とのえびす。○〔左〕「子教寡人和諸―以正諸華」。
〔羣狄〕おほくのえびす。○〔蔡邕〕「――斯柔」。

【犽】ケキ、キヤク。几劇切 陌
一種の獸。

五畫

【狆】ヘン、ベン。皮變切 霰
犬の爭ふ貌にいふ字。

【狕】カウ、ゴウ。後到切 號
犬の聲にいふ字。

【犯】古文の犯の字。

【狚】ダツ、ナチ。尼八切 黠
貀に同じ。

【狜】テフ。託協切 葉
犬の小しく舐るにいふ字、ねぶる。

【狗】フ。方遇切 遇
羊に似たる一種の獸。

【狖】ケン。胡涓切 先
猵急、きみじか。

【狎】カ、ケ。古牙切 麻
やまこ、(玃)。

【狗】ボウ、ム。莫厚切 有
狐――は、かぜたぬき。

【狉】ヒ、ビ。貧悲切 支
㊀貔に同じ、こたぬき、貍子。
㊁獸類の走る貌にいふ字。○〔柳宗元〕「草木榛々、鹿豕――」。

【狊】サイ、セ。側買切 蟹
豹の文。

【狙】テン、デン。亭年切 先
畋に同じ。

【狊】ケキ、キヤク。古闃切 錫
㊀犬の物を視る貌にいふ字。
㊁猨の屬、脣厚くして色靑しといふ。
㊂翅を張る、はる。○〔爾〕「鳥曰―」。
㊃鳥の翅を張り動かす貌にいふ字。○〔爾疏〕「張兩翅――然搖動」。

【狋】ギ。語其切 支
犬の怒る貌にも兩犬の相爭ふ貌にもいふ字、いかる、あらそふ。○〔漢〕「―吽牙」。

【狋】スヰ、ズヰ。遵綏切 支
犬の怒るにいふ字、いかる。

【狋】シ、ジ。俟甾切 支
㊀獸の角の貌にいふ字。
㊁平かならざる貌にいふ字。

【狋】ケン、グワン。巨員切 先
獾に同じ。

【狜】ケフ、コフ。去怯切 葉
怯に同じ。

【狌】シウ、ジユ。之戍切 遇
頭黑くして其の他は黃色なる犬。

【狌】セイ、シヤウ。師庚切 庚
猩に同じ、むやうぐ。○〔山海經〕「誰山有獸狀如禺而白耳、伏行人走、其名曰――」。

【狐】コ、ク。洪孤切 虞
犬の聲にいふ字。

【狢】テウ。丁聊切 蕭
短かき尾の犬。

【狍】ハウ、ベウ。薄交切 肴
一種の獸。○〔山海經〕「鉤吾之山有獸焉、羊身人面、目在腋下、虎齒人爪、音如嬰兒、名曰―鴞」。

【狎】 カフ、ケフ。轄甲切 洽

❶なる。
（い）近づき親しむ、ちかづく。○〔禮〕「賢-者—而敬レ之」。
（ろ）習熟す、ならふ。○〔國〕「未レ—二君政一」。
（は）太だ親しむ。○〔論〕「雖レ—必變」。
（に）あなどる、（易）、かろんず、（輕）。○〔書〕「—二侮五-常一」。
（ほ）たはむる、（戲）。○〔荀〕「今俳-優侏-儒—徒詈-侮而不レ鬪者」。
❷己れに近づけ親しむ、ならす。○〔韓〕「龍之爲レ蟲也可二擾—而騎一也」。
❸更代して、かはるがはる。○〔左〕「且晉楚—主二諸-侯之盟一」。

〔恩狎〕 情愛ありて近づきなること。○〔劉峻〕「莫レ不下締二—一、結中綢-繆上」。
〔申狎〕 親しみ戲る。○〔唐〕「與レ人未二嘗—一」。
〔媟狎〕 誇りあなどる。○〔人物志〕「雖二—一不レ離」。
〔驕狎〕 前に同じ。○〔北〕「—二—公-卿一」。
〔猥狎〕 ますく親み馴る。○〔韓愈〕「與レ上——」。
〔戲狎〕 たはぶれなる。○〔史〕「豎-子不二——一」。
〔親狎〕 近づき親しむ、近づけ親しむ。○〔晉〕「其見二——一如レ此」。
〔昵狎〕 前に同じ。○〔南〕「——過-甚」。
〔愛狎〕 前に同じ。○〔晉〕「人多二—一之一」。
〔款狎〕 前に同じ。○〔南〕「與二寶-高一少而——」。
〔習狎〕 前に同じ。○〔南〕「被二予-良——一」。
〔游狎〕 あそび戲る。○〔南〕「不レ生レ少所二——一」。
〔馭狎〕 なづき近づく、なづけちかづく。○〔南〕「野-鳥——」。「與——一」。
〔通狎〕 交はり親しむ。○〔北〕「雖二鄰-里至-親一、莫二——一」。
〔褻狎〕 親しきに過ぎなること。○〔韓愈〕「雖レ親不二——一」。「——」。
〔慣狎〕 なれ親しむ。○〔管、註〕「相連以レ事則人——」。
〔歡狎〕 喜び親しむ。○〔步非烟傳〕「永奉二——一」。
〔慢狎〕 侮り輕んず。○〔夢溪筆談〕「或—二—之一」。

【狆】 チン。痴鄰切 眞

くるふ、（狂）。

【犳】 タ、ダ。唐何切 歌

一種の獸の名。

【㹍】

狢に同じ。

【狐】 コ、ウ。戶吳切 虞

一種の獸、きつね、形犬より小さく毛黃赤にして喙尖れり性多疑にして敏捷狡猾なり、古昔は、人を誑すさて妖獸とせり。○〔易〕「田獲二三—一」。

〔雄狐〕 をのきつね。○〔詩〕「——綏-々」。
〔短狐〕 一種の蟲、いさごむし。○〔詩、傳〕「蜮——也」。
〔訓狐〕 一種の鳥、このはづく。○〔韓愈〕「有レ鳥夜飛名二——一」。
〔豐狐〕 大いなるきつね。○〔莊〕「——文-狸、棲二于山-林一、伏二于巖-穴一、靜也」。「——一」。
〔奔狐〕 馳せ行くきつね。○〔蘇軾〕「大-魚驚-竄如二——一」。
〔貂狐〕 獸の名、いたちときつねと。○〔抱朴〕「綿-布可二以禦一レ寒、不二必——一」。
〔神狐〕 不可思議なる能力あるきつね。○〔晉〕「靈-鼈——未レ見」。
〔城狐〕 ぼろの中に穴を掘りて棲めるきつね。○〔蕪城賦〕「野-鼠——」。
〔群狐〕 あまたのきつね。○〔南〕「猿-獸不レ如二——一」。「狡-兎一」。
〔文狐〕 あやのあるきつね。○〔曹植〕「曳二——一掩二狡-兎一」。
〔稷狐〕 五穀の神を祭りあるやしろの中に棲めるきつね。〔說苑〕「未レ見二——一見レ攻、社-鼠見レ燻也」。
〔巨狐〕 大いなるきつね。○〔集異記〕「忽有二——一、鳴二噪于庭一」。
〔紫狐〕 野狐に同じ。○〔酉陽雜俎〕「野-狐名二——一、夜擊レ尾則火出」。
〔野狐〕 野の間に棲めるきつね。○〔朝野僉載〕「有二——一、假二簡形一、講二一-紙-書一而去」。
〔妖狐〕 人を誑す狐。○〔玉海露布〕「——就レ擒猾守二舊-穴一」。「—一」。
〔魅狐〕 前に同じ。○〔元稹〕「金-膽不レ得レ擒二——一」。
〔孽狐〕 人にわざはひをなすきつね。○〔玉海露布〕「殲二——之丘一」。「事彰二符-命一」。
〔素狐〕 白き毛色のきつね。○〔鮑照〕「——玄-玉、」

〔輕狐〕 暈のかろきよき狐のかは衣。○〔梁昭明太子〕「——稱レ美」。「客」。
〔塵狐〕 丘に棲めるきつね。○〔張嵲〕「——來試」。
〔疑狐〕 物事の疑ひ深き性あるきつね。○〔黃庭堅〕「——踊レ林道」。
〔僞狐〕 このはづくのこと。○〔中阿含經〕「如二——一在二燥-樵一」。

【狑】 レイ、リヤウ。郎丁切 青

良犬、よきいぬ。

【狹】 アウ。於良切 陽

むじな、（狢）。

【狝】 ビ、ミ。民卑切 支

獼に同じ。

【狒】 ヒ、ビ。扶沸切 未

人に似たる一種の怪獸、脣長く身黑くして毛ありさいふ、一名、山都、梟羊。○〔郭璞〕「——怪-獸被レ髮操レ竹獲レ人則笑」。

【犹】 チユツ、チユチ。丑律切 質

跡に同じ。

【犻】 ヒ。方味切 未

犬の貌にいふ字。

【狓】 ヒ。敷羈切 支

—猖は、飛颺す、とびあがる。

【狔】 ヂ、ニ。女氏切 紙

❶風に從ふ貌にいふ字。❷纖弱、よなやか。

【㹱】 アウ、エウ。於絞切 巧

一種の獸。○〔山海經〕「隄-山有レ獸、其狀如レ豹而文-首名曰レ—」。

【狖】 イウ、ユ。余救切 宥

猿の屬、をながざる、くろざる、ましら。○〔楚辭〕「猨-狖-々兮—夜鳴」。

〔猱狖〕 猿のこと。○〔韓愈〕「踊-躍蹂二——一」。
〔哀狖〕 悲しげに鳴く猿のこと。○〔謝靈運〕「乘レ月聽二——一」。
〔愁狖〕 前に同じ。○〔韓愈〕「——酸-骨死」。
〔飛狖〕 獸の名、むささびとましらと。○〔謝朓〕「——叫二層-巘一」。
〔林狖〕 はやしの間に棲むましら。○〔王僧孺〕「棲二——以二寒-樹-骨-拱一」。「山-月一」。
〔啼狖〕 聲をあげて叫ぶましら。○〔張說〕「——抱二——我耳愁」。
〔酸狖〕 前に同じ。○〔晉書〕「——」。
〔騰狖〕 木に登るましら。○〔郭璞〕「驚二——一與二過-鳥一」。「—一」。
〔山狖〕 山に棲むましら。○〔崔顥〕「江-都聞二——一」。
〔幽狖〕 靜かなる處に棲むましら。○〔韓愈〕「——雜二百-種一」。
〔嘯狖〕 前に同じ。○〔盧毓〕「老-猿——還歎レ客」。
〔饑狖〕 食に乏しき猿。○〔錢起〕「老-猿——」。
〔巖狖〕 岩石の間に棲めるましら。○〔許渾〕「果-隨二——落」。
〔猩狖〕 猿のこと。○〔蘇軾〕「遂-侶二——一」。

【狘】 ケツ、ケチ。許月切 月

獸驚き走る、はしる。○〔禮〕「麟以爲レ畜、故獸不レ—」。

【狗】 コウ、ク。古后切 有

家に畜ふ一種の獸、いぬ、人の善く知る所のもの、特に其の毫末だ長き毛を生ぜざるもの、又は、小さきものにもいふ字。○〔禮〕「尊-客之前不レ叱レ—」。

〔天狗〕 （い）星の名。○〔史〕「——狀如二大-奔-星一」。（ろ）かはせみの別名、一に、水狗。○〔爾〕「鴗——」。
〔社狗〕 けらの別名。○〔揚雄〕「蠰-姑南-楚謂二之——一」。

〔木狗〕 くろいぬに似たる一種の獸、能く木に登るといふ、くろんばう。○〔韓越集〕「—·—生二廣·東左右江·山中一形如二黑·狗一能登レ木」。

〔烹狗〕 いぬを煮る。○〔淮〕「以二火·烟一爲レ氣、殺レ豚「—レ—」。

〔狂狗〕 くひつき犬。○〔左〕「國·人逐二—·—一」。

〔磔狗〕 いぬを裂き殺す。○〔爾〕「今俗當二大·道中一、—レ—以止レ風」。

〔功狗〕 主人の獵をなすときに充分のはたらきを爲せるいぬ。○〔史〕「蕭·何功·人、諸·君—·—也」。

〔屠狗〕 いぬを殺す。○〔史〕「以二—·—一爲レ事」。

〔類狗〕 いぬに似寄りてあり。○〔後漢〕「所レ謂畫レ虎不レ成反—レ—者也」。

〔芻狗〕 草もて作りたるいぬの形、災厄を解くためのものといふ。○〔魏〕「吾昨夜夢見二—·—一、何也」。

〔羣狗〕 あまたのいぬ。○〔外史檮杌〕「雞·刀雖レ小亦可レ斬二—·—一」。

〔牲狗〕 いけにへのいぬ。○〔禮〕「禮具二—·—一」。

〔吠狗〕 家を守るいぬ。○〔左〕「請二其—·—一」。

〔走狗〕 人のためによく馳せて用を爲すいぬ。○〔史〕「狡·兎死—·—烹」。

〔牽狗〕 いぬを引き行く。○〔史〕「一·老父—レ—」。

〔良狗〕 人の用を爲す善良なるいぬ。○〔史〕「狡·兎死—·—烹」。

〔庸狗〕 通常のいぬ。○〔後漢〕「—·—敢如レ是耶」。

〔蹲狗〕 うづくまりでをるいぬ。○〔北〕「彼曇似二—·—一走·死」。

〔獋狗〕 はゆるいぬ。○〔山海經〕「音如二—·—一、是食レ人」。

〔矩狗〕 足のみじかきいぬ、狗の善きもの。○〔逸周書〕「菌·鶴—·—爲レ獻」。

〔尨狗〕 猛きいぬ。○〔穆天子傳〕「—·—豪·羊」。

〔乳狗〕 子持ちのいぬ。○〔越絕書〕「—·—捕レ虎、不レ計二禍·福一」。

〔狎狗〕 馴れたるいぬ。○〔新書〕「譬猶二以鞭二—·—一也」。

〔噬狗〕 くひつくいぬ。○〔淮〕「保·者不三敢畜二—·—一」。

〔疾狗〕 はしこきいぬ。○〔說苑〕「韓·氏之盧、天·下「—·—也」。

〔盧狗〕 前に同じ。○〔抱朴〕「從二—·—一前嚙二狡·獸一」。

〔韓狗〕 前に同じ。○〔晁補之〕「—·—胡·鷹快多レ獲」。

〔狗〕 コウ、ク。許候切 宥

熊虎の子の稱。○〔爾〕「熊虎醜其子—」。

〔狙〕 ショ、ソ。親去切 御　七余切 魚

㊀猨の屬、てながざる、一說に、玃の屬、やまこ。○〔莊〕「衆—見レ之恂·然棄而走」。

㊁狡黠(わるがしこし)なること。○〔戰〕「兵固天·下之—·喜也」。

㊂うかゞふ(伺)。○〔管〕「從—而好二小·察一」。

㊃うかゞひ望む、ねらふ。○〔史〕「良與レ客—二擊秦皇·帝博·浪·沙中一」。

〔猨狙〕 獸の名、ましら。○〔莊〕「取二—·—一而衣以二周·公之服一」。

〔衆狙〕 あまたの猿。○〔莊〕「—·—皆悅」。

〔羣狙〕 前に同じ。○〔陸游〕「三·四調二—·—一」。

〔猲狙〕 獸の名、おほかみの屬。○〔山海經〕「其音如レ豕、名二—·—一」。

〔狚〕 タン。得按切 翰　黨旱切 旱

㊀獦——は、狼に似たる一種の獸。

㊁猲——は、巨大なる狼。

㊂猵——は、狗の如き頭にて猿に似たる一種の獸。

〔狛〕 ハク、ヒヤク。筆戟切 陌　ハ、ベ。步化切 禡　ハク。匹各切 藥

狼に似たる一種の獸、善く羊を驅るさいふ。

〔⿰白犬〕

狛に同じ。

六畫

〔狟〕 クワン。胡官切 寒

㊀犬の行くにいふ字、ゆく。

㊁貉に同じ、狢の屬、あなぐま。○〔淮〕「—狢得二埵·防一、弗レ去而緣」。

〔狟〕 ケン、クワン。許元切 元

前條の㊁に同じ。

〔狠〕 グワン、ゲン。吾還切 刪　ガン、ゲン。五閑切 山　ギン、ゴン。魚巾切 眞

〔狠〕 コン。口很切 寒

㊀犬の鬭ふ聲にいふ字。㊁一種の獸。かむ(齧)。

〔狓〕 ハ、バ。蒲可切 哿

玀——は、腰を僂めて行く。

〔狡〕 カウ、ケウ。古巧切 巧

㊀少狗、こいぬ。○〔說文〕「匈·奴地有二—犬一」。

㊁其の狀は犬の如く其の角は牛の如くにして豹の如き文ありといふ一種の獸。○〔山海經〕「玉·山有レ獸狀如レ犬而豹·文角如レ牛名曰レ—」。

㊂わるがしこし(獪)。○〔左〕「—焉思下啓二封·疆一利中社·稷上」。

㊃みだる(猾)、そこなふ(害)。○〔大戴禮〕「無二—レ民之辭一」。

㊄くるふ(狂)、もとる(戾)。○〔左〕「亂·氣—·憤」。

㊅貌のみにて實なきこと。○〔詩〕「乃見二—·童一」。

㊆さし、はやし(疾)、すこやか(健)。○〔戰〕「—·兎有二三·窟一」。

㊇まじる、まじはる。○〔釋名〕「—交也、與レ物交·錯也」。

〔僄狡〕 心のかるくくるひたること。○〔後漢〕「雖三輕·信與二—·—一」「之客二」。

〔輕狡〕 前に同じ。○〔後漢〕「而要二結—·—無·行」「相詿·誤耳」。

〔內狡〕 心のうちのねじけたること。○〔唐〕「—實—·—黠」。

〔狂狡〕 くるひもとること。○〔後漢〕「故—·—乘レ閑」。

〔凶狡〕 わるくねじけたること。○〔何承天〕「—·—偪·強」。

〔嚚狡〕 心こまやかならずして戾る。○〔南〕「性—·—、恃レ宏無レ所二畏·忌一」。

〔淫狡〕 みだりにして戾る。○〔班彪〕「慣二戎·王之—·—一」。

〔猛狡〕 つよくはやきもの。○〔蘇軾〕「—·—率·服」。

〔頑狡〕 心かたくおろかにしてくるひたること。○〔蘇轍〕「談笑—·—伏」。

〔狢〕 カク。曷各切 藥

貉に同じ、むじな。○〔淮〕「狟、—得二埵·防一、弗レ去而緣」。

〔狧〕 タフ、トフ。都合切 合

犬の食らふにいふ字、くらふ。

〔狣〕 テウ、デウ。治小切 篠　テウ。馳遙切 蕭　タウ、ドウ。杜皓切 皓

壯大にしてすぐれたる力ある犬。

〔⿰犭因〕 エツ、エチ。烏結切 屑　エン。因蓮切 先

𤟤——は、一種の獸。○〔山海經〕「三·危之山有レ獸焉、狀如レ牛、白身四·角、毫如レ披レ蓑、名曰二𤟤—一」。

〔⿰犭幵〕 ゲン。五見切 霰

虎を逐ふ犬。

〔⿰犭㞷〕

狂に同じ。

〔⿰犭夅〕 カウ、ゴウ。胡江切 江

獾——は、犬の牽くに從はざるにいふ語。

〔⿰犭米〕 ベイ。邊迷切 齊

——狾は、獸の名。

【狤】キツ、キチ。居質切〔質〕
㊀くろふ、(狂)。㊁—䝟は、獸の名。

【狤】ケツ、ケチ。吉屑切〔屑〕
前條の㊀に同じ。

【狤】クワイ、ケ。古邁切〔卦〕
獪に同じ。

【狭】シ。爽士切〔紙〕
犬に似たる一種の獸。

【袾】シュ、ス。章俱切〔虞〕
獳の條を見よ。

【狗】俗の徇の字。

【狔】狔に同じ。

【狽】貄に同じ。

【狦】サン、セン。所晏切〔諫〕
㊀惡くして健なる犬。㊁おほかみ、(狼)、一說に、狼に似たる一種の獸。

【狧】タフ、トフ。吐盍切〔合〕
㊀犬の物を食らふにいふ字、くらふ、又、舌を用ひて物を取る、ねぶる。○［漢］「—レ糠及レ米」。
㊁貪慾の貌にいふ字、むさぼる。○［揚雄］「營狩———」。
(冷狧)　犬の吠えずして人に噛み付くこと。○［揚雄］「犬不レ吠而齧レ人曰二——一」。

【㺃】移に同じ。

【㺃】イ、弋支切〔支〕
犬に似たる一種の獸、尾白くして目のふち赤し、見ゆれば火災ありといふ。

【狛】古文の猸の字。

【㺐】ジウ、ニュ。而融切〔東〕
㊀ほそぬの、(細布)。㊁たけし、(猛)。
㊂禺の屬、其の毛柔かにして長し、其の皮はしき物に用ふべしといふ。○［本草］「似レ猴而大、毛黃赤色生二廣南山谷閒一、皮作二鞍褥一」。

【狛】バク、ミヤク。莫白切〔陌〕
駒に同じ。

【犴】犴、犴に同じ。

【猺】ダウ、ノウ。乃老切〔皓〕
めすむじな、(雌貉)。

【狂】劻に同じ。

【狩】シウ、シュ。舒救切〔宥〕
㊀かり。
(い)禽獸を圍みて捕獲すると、又、犬を使用して禽獸を捕獲すると。○［國］「田、—、畢弋」。
(ろ)特に、冬季の獵、ふゆがり。○［左］「春蒐夏苗秋獮冬—皆于二農隙一以講レ事也」。
㊁かりを行ふ、かる。○［詩］「不レ—不レ獵」。
㊂命を受けて守る所、任地。○［孟］「天子適二諸侯一曰二巡——一」。

【狩】シウ、シュ。始九切〔有〕
前條の㊀と㊁とに同じ、かり、かる、○［詩］「叔于レ—」。

【狪】トウ、ツ。他東切〔東〕
豚に似て體內に珠を藏すといへる一種の獸。○［山海經］「泰山有レ獸其狀如レ豕而有レ珠名二——一」。

【狪】トウ、ヅ。徒東切〔東〕
狪に同じ。

【狫】ラウ、ロウ。魯考切〔皓〕
犵—は、蠻の一族。○［炎徼紀聞］「——一曰二犵獠一、種有レ五」。

【狊】ケキ、キヤク。詰逆切〔陌〕
一種の獸の名。

七畫

【浮】コ、ク。形圖切〔虞〕
—猪は、小さき犬、こいぬ。

【狳】ヨ。與魚切〔魚〕
犰—は、一種の獸の名。○［山海經］「餘峩之山有レ獸焉、其狀如レ兔而鳥喙鴟目蛇尾、見レ人則眠、名曰二犰——一」。

【狴】ヘイ、ハイ。邊兮切〔齊〕
㊀野犬、のいぬ。○［柳宗元］「王侯之門狂吠—犴」。
㊁牢獄、ひとや、たり。○［易林］「失意懷レ憂、如レ幽二—牢一」。

【狴】ヘイ、バイ。部禮切〔薺〕
前條の㊁に同じ。

【猔】シャク、サク。七雀切〔藥〕
ショク、ソク。七玉切〔沃〕
㹻犬。

【猇】カウ、ケウ。許交切〔肴〕
豕犬の驚くにいふ字、おごろく。

【猇】カウ、ケウ。許效切〔效〕
貅に同じ。

【狵】バウ、モウ。莫江切〔江〕
毛の多き犬、むくげいぬ、むくいぬ。

【狵】タク、トク。竹角切〔覺〕
㹭に同じ。

【㹳】ゴ、グ。吾胡切〔虞〕
猿の屬。

【㹳】ゴ、グ。五故切〔遇〕
犬に似て鬐ある黃色の一種の猿。

【狷】セウ。相邀切〔蕭〕
くろふ、(狂)、又、くろふ病。

【狶】キ。許里切〔寘〕
㊀豬を呼ぶ聲にいふ字、㊁ぶたゐのこ、(豬)。

【狶】キ。虛宜切〔支〕　キ、ケ。香依切〔微〕
ぶた、(豕)。○［列］「食レ—如レ食レ人」。

【奘】サウ、ザウ。徂朗切〔養〕　左良切〔陽〕
妄に彊き犬。

【奘】サウ。徂亮切〔漾〕

妄に彊し、つよし。

【犭否】　ハイ、ヘ。鋪杯切 灰　貍の子、こたぬき。

【犭更】　カウ、キヤウ。古行切 庚　㊀一種の獸の名、㊁いぬ、(犬)。

【犭谷】　ヨク。余玉切 沃　獨——は、一種の獸の名。○〔山海經〕「北-嚻之山有レ獸焉、其狀如レ虎而白-身犬-首馬-尾彘-鬣爲二獨——一」。

【犭豆】　トウ、ヅ。大透切 宥　犬の吠ゆる聲にいふ字。

【犭杀】　サツ、セチ。初轄切 黠　一種の水獸。

【犭巠】　ゲイ、ギヤウ。五郢切 梗　かろ、かり、(狩)。

【狷】　ケン。古縣切 先　㊀曲げて爲さゞること。○〔論〕「——者有レ所レ不レ爲」。㊁褊急、きみじかし、せまし。○〔後漢〕「豐亦——急」。㊂疑ひて猶豫す、ためらふ。

【狸】　リ。里之切 支　㊀一種の獸、毛薄黑く口先尖り尾太し、たぬき。○〔左〕「狐——所レ居」。㊁薶に通じ用ふ。○〔史〕「殺二——牛一以爲二組-豆牢-具一」。

【狹】　カフ、ゲフ。下甲切 洽　㊀せまし、せばし。(い)廣からず。○〔史〕「地——人寡」。(ろ)多からず。○〔史〕「見下其所レ持者——而所レ欲者奢上」。㊁せましと思ふ、せましとなす、又、せまくなる、せまからしむ、せばまる、せばむ、せまる。○〔書〕「無二自廣——一レ人」。

（隘狹）せばし。○〔詩、註〕「魏-地——」。
（窄狹）前に同じ。○〔魏〕「且南-道——」。
（褊狹）前に同じ。○〔北〕「土-地——不レ如レ魏」。
（阨狹）地勢のせまりてせまきこと。○〔史〕「吳必置二人於——之閒一」。
（偪狹）前に同じ。○〔魏〕「田-地——」。「量」。
（廣狹）ひろきとせまきと。○〔禮〕「幅——不レ中レ」。
（濶狹）前に同じ。○〔史〕「——有レ常」。
（狷狹）心氣のせはしくせばきこと。○〔晉〕「性——、不レ能レ和レ俗」。
（淺狹）ふかゝらざること。○〔管〕「夫國-城大而田-野——者」。
（峻狹）けはしくしてせまきこと。○〔張載〕「山崢-嶸以——」。

【犭邪】　ジヤ、ゼ。徐嗟切 麻　猹——は、一種の獸の名。

【狺】　ギン、ゴン。語斤切 文　狋に同じ、犬の爭ひ吠ゆるにいふ字。○〔楚辭〕「猛-犬——以迎-吠」。

【狻】　サン。素官切 寒　獅子。○〔穆天子傳〕「——猊野-馬走二五-百-里一」。

【狼】　ラウ。魯當切 陽　㊀犬に似たる一種の獸、頭鋭りて頰白く口大にして耳小さし、おほかみ、特に、其の牝の稱。○〔詩〕「竝驅從二兩——一兮」。㊁みだる、(擾)。○〔孟〕「樂-歳粒-米——戾」。㊂星の名。○〔史〕「東有二木-星一曰レ——、——角變レ色多二盜-賊一」。

（貪狼）食をむさぼるおほかみのこと。○〔耶律楚材〕「更驅二虎-豹一逐二———一」。
（豺狼）やまいぬとおほかみとのこと、轉じて勢のわるづよき者、又、慈愛心なき者たるをあらはすにかり用ふる語。○〔孟〕「嫂溺不レ援是——也」。
（虎狼）とらとおほかみとのこと轉じてわるづよき者などにかり用ふる語。○〔漢〕「是以羔-犢之弱一、而扞二——敵一也」。
（餓狼）うゑたるおほかみ。○〔獨孤及〕「戰-爭如二———一」。
（狼狽）猝遽す、あわつ、うろたゆ。○〔後漢〕「——折-札之命一」。

【狽】　バイ。博蓋切 泰　狼の屬、生まれて一足を缺く他の一疋に附き二足となり行く、若し、一疋のもの離るれば顚るといふ。

【犭折】　セイ。征例切　ケイ、吉詣切　カイ。　霽　狂犬、きちがひいぬ。○〔漢〕「宋-國人逐二——犬一」。

【狿】　エン。以然切 先　于線切 銑　狸に似て長け九尺ある大いなる獸。○〔揚雄〕「歆二巨——一」。

【犭廷】　テイ、ヂヤウ。特丁切 青　猿の屬。

【犭羊】　ヤウ。移長切 陽　獚の條を見よ。

八畫

【猅】　ハイ、べ。蒲皆切 佳　短き首の犬。

【猆】　ヒ。甫微切 微　人の姓。

【犭庚】　カウ、キヤウ。居行切 庚　狖——は、犬の名。

【犭沓】　タフ、トフ。他合切 合　犬食らふ、くらふ、ねぶる。

【犭疌】　サフ、セフ。所甲切 洽　豕の母。

【猇】　カウ、ケウ。干包切 肴　虎の人を齧まんと欲して聲を發するにいふ字、ほゆ、さけぶ、一說に、犬聲を發するにいふ字。

【犭空】　カウ、コウ。枯江切 江　腔に同じ。

【犭畀】　ハイ、べ。薄蟹切 蟹　短き脛の狗、又、案の下の狗。

【犭畀】　ハイ、べ。蒲皆切 佳　短かき頭の犬。

【猉】　キ、ギ。渠之切 支　犬の子、こいぬ。

【犭委】　ワ。烏和切 歌　小犬。

【犭委】　井。烏危切 支　——猗は、犬の屬、ちん。

【猰】　キク、コク。居六切　屋
猿を食らふ一種の獸。

【猲】　カン、ケン。呼舘切　陥
犬の聲にいふ字。

【猊】　ゲイ、ガイ。五稽切　齊
獅子の屬。○[穆天子傳]「狻―野走五-百-里」。
〔怒猊〕腹立ち狂へる獅子。○[晉史]徐浩草-、如二―――一。
〔雙猊〕二頭の獅子。○[蘇軾]「――蟠レ礎龍纏「棟」。

【猋】　ヘウ。甫遙切　蕭
㊀回旋する烈風、はやて、つむじかぜ。○[禮]「―-風暴-雨總至」。
㊁芀茶、あしのほ。○[爾]「―、藨、芀」。

【猌】　ギン。魚僅切　震
犬の斷を張りて怒るにいふ字、いかる。

【猍】　猍に同じ。

【猎】　セキ、ジャク。秦昔切　陌
熊に似たる一種の獸。○[山海經]「先-民之山有二槃-蟲一、如二熊狀一、名曰二――一」。

【猎】　シャク、サク。七約切　藥
猉に同じ。

【㹨】　サン、セン。初版切　潸
犬の食らふにいふ字、かむ、くらふ、ねぶる。

【猬】　俗の豣の字。○[呂氏春秋]「懼レ虎而刺レ――」。

【猍】　猍に同じ。

【猑】　コン。古渾切　元
㊀大いなる犬、おほいぬ　㊁――䖘は、野馬、のうま。○[馬融]「羂二――䖘一」。

【猒】　エン、オン。於鹽切　鹽
猒に同じ。

【猓】　グワ。五火切　哿
をながざる（猓）。

【㹹】　俗の狡の字。

【猣】　シヤウ、サウ。郎兩切　養
犬が厲まし嗾す、けしかく、つかふ。

【猔】　猔に同じ。

【猖】　シヤウ、サウ。尺良切　陽
狂ひ駭く、亂れ躁ぐ、くるふ。○[莊]「――狂妄-行」。
〔披猖〕縱恣の貌にいふ語。○[北]「萬-一――、求レ退無レ地」。
〔猋猖〕狂妄なること。○[韓愈]「遐二其――一」。

【猖】　クツ、コチ。九勿切　物
猖――は、一種の獸、體に毛なくたゞ鼻中の毛廣さ寸許ありて長く延び尾に至る、燒刺すれども傷る能はずさいふ。

【猺】　ヘウ、被表　篠　ケウ、巨天　蕭
ベウ。切　ゲウ。切
みだり、（獪）。

【猺】　ケウ、ゲウ。巨小切　篠
たけし、（健）。

【猗】　イ。於離切　支
㊀犗犬、へのこきりたる犬。
㊁歎息の聲にいふ字、あ、あゝ。○[呂氏春秋]「―實始作爲二南-音一」。
㊂よる、（倚）。○[詩]「有二實其―一」。
㊃ながし、（長）。○[琴賦]「微-風餘-音、靡-々―――」。
㊄美しくして盛んなる貌にいふ字。○[詩]「綠-竹―――」。
㊅漪に通じ用ふ、さゞなみ。○[詩]「河-水淸且漣―――」。
㊆兮に同じ、句調を助くるに用ふる字。○[書]「斷-々―――無二他技一」。
㊇依に同じ。○[漢]「――違者連-歲」。
〔陶猗〕陶朱、猗頓とて支那古代の富豪の人の姓。○[抱朴]「夬結-綠-黎、非二――一、不レ能レ市也」。
〔邇猗〕はるかにすぐれて美盛なること。○[蔡邕]「―-―、莫レ參二其一」。
〔欝猗〕抜りて美盛なること。○[郭璞]「從-容―-―」。

【猗】　イ。於綺切　紙
㊀纖弱、錡猗、たなやか、なよやか。
㊁よる、（依）。○[詩]「寬兮綽兮、―二重-較一兮」。
㊂角べて束ぬ、さろ。○[詩]「―二彼女-桑一」。
㊃くはふ、くはゝる、（加）。○[詩]「楊-園之道、―二于畝-丘一」。

【猗】　ア。倚可切　哿
柔順、すなほ、やはらか、なよやか。○[詩]「隰有二萇-楚一、――儺其枝」。

【猗】　イ。於義切　寘
附著す、依倚す、つく、よる、かたよる。○[詩]「兩-驂不レ―」。

【猙】　サウ、シヤウ。側莖切　庚
㊀豹に似て一角五尾の獸、一說に、狐に似て翼ある一種の獸。○[山海經]「章-峨之山有レ獸焉、狀如二赤-豹一五-尾十-角音如レ擊レ石、其名曰レ―」。
㊁あし、（惡）。○[廣異記]「容-貌――獰」。

【猘】　セイ。征例切　霽
猘に同じ。○[淮]「――狗之驚以殺二子-陽一」。

【猚】　タク、ドク。直角切　覺
犬猛くして善く物を噬むにいふ字、かむ、又、其のたけき犬。

【猇】　タウ、テウ。豬孝切　效
かり、かる、（狩）。

【猛】　バウ、ミヤウ。莫杏切　梗
㊀たけし。
（い）絕れて勇まし、はげしく强し。○[禮]「虎-豹之皮示レ服レ―也」。
（ろ）きびし、（嚴）。○[左]「惟有レ德者能以レ寬服レ民、其次莫レ如レ―」。
（は）害なり、惡し。○[禮]「苛-政―二于虎一」。
㊁たけくなる、おこる、たける、いかる。○[張衡]「――簴-虡-々」。
〔鷙猛〕鳥たけきこと。○[辨命論]「――致二人爵一」。
〔精猛〕よく練れて勇ましし。○[公羊、註]「士卒――」。
〔激猛〕驕りてわるづよし。○[史]「貪-戾――」。
〔嚴猛〕きびしくたけし。○[漢]「育爲レ人――尙レ威」。
〔武猛〕健くあること。○[後漢]「擧二――一堪二將帥一者各五人上」。
〔勇猛〕前に同じ。○[後漢]「群-盜以二宗――一皆附レ之」。
〔驍猛〕前に同じ。○[後漢]「石槐――、盡有二鮮-卑之地一」。

(剛猛) 前に同じ。○〔蜀〕「才-捷ーー」。「ーー」。
(雄猛) 前に同じ。○〔洛陽伽藍記〕「其意-氣ーー」
(勁猛) 前に同じ、○〔孔稚圭〕「吳楚ーー」。
(壯猛) 盛んにしてけなげなり。○〔後漢〕「氣-力ーー」。「之ーー」。
(精猛) 潔白にしてけなげなること。○〔後漢〕「牽-顯
(狙猛) 周密ならずしてたけし。○〔後漢〕「性ーー有ㇾ謀」。
(很猛) 戾りてあらくあり。○〔王融〕「ーー降-毒」。
(梟猛) 前に同じ。○〔南〕「魯-爽世ーー」。
(殘猛) 害惡なること。○〔楊維楨〕「寒-鋒-助ニーー一」。
(迅猛) 疾くしてはげしくあること。○〔元〕「湍-浪ーー」。
(湍猛) 前に同じ。○〔元〕「其勢ーー」。「ーーー」。
(良猛) 善良にしてたけくあること。○〔蔡邕〕「將-卒

【猜】サイ。倉才切 灰
㊀恨み惡む、それむ、ねたむ。○〔左〕「送ㇾ往事ㇾ居、耦俱無ㇾー」。
㊁うたがふ(疑)、又、おそる(懼)。○〔左〕「雖ニ吾子一亦有ㇾー焉」。
㊂もとる(很)。○〔史〕「起ー忍人也」。
(雄猜) をゝしくして疑ひ深し。○〔謝靈運〕「ーー多ㇾ忌」。
(嫌猜) 忌み疑ふこと。○〔鮑照〕「不ㇾ受ニ外ーー一」。
(沈猜) 沈着にして疑ひ深し。○〔北〕「世充ーー多ニ詭-詐一」。
(懷猜) 疑ひの心を抱きもつ。○〔梁〕「使ニ彼智-者不ㇾ用ニ愚-者ーー一」。「ー」。
(驚猜) おどろき疑ふ。○〔高適〕「紛ニ羽-族一以ーー
(怨猜) 恨むこと。○〔高啓〕「翠-羽驚-啼莫ニーー一」。

【猝】ソツ、ソチ。麤殁切 月
倉卒、暴疾、唐突、だしぬけ、にはか。○〔揚雄〕「蘖ー也」。

【⿰犭戾】レイ、ライ。郎計切 霽
はりねずみに似たる一種の獸。○〔山海經〕「樂-馬之山有ㇾ獸焉、其狀如ㇾ彙、赤如ニ丹-火一、其名曰ㇾー」。

九畫

【猢】コ。戶吾切 虞
猢ーは、猨に似たる獸の名。

【猣】ソウ、ス。子紅切 東
三兒を生む犬。

【⿰犭𡿺】ダウ、ノウ。奴皓切 皓
猱に同じ、めむしな。

【猤】キ。其季切 寘 キ、ギ。渠惟切 支
勇壯なる貌にいふ字。○〔左〕「狂-趡-獷-ー」。

【猥】ワイ、ヱ。烏賄切 賄
㊀おほし(多)。○〔漢〕「水ー盛則放-溢」。
㊁亂雜す、みだる。○〔左、註〕「取ニ此雜-ー之物一」。「當ㇾ用ㇾ兵」。
㊂妄曲、みだり。○〔史〕「ー云、德-化不ㇾ
㊃さかんなり(盛)。○〔漢〕「雖ㇾ有ニ惡-種、無ㇾ不ニー大一」。
㊄つむ(積)。○〔漢〕「科ニ別其條一、勿ㇾー勿ㇾ抃」。「卑ーー」。
㊅いやし(鄙)。○〔洞冥記〕「黃-安自云
(積猥) 重なり多くなること。○〔漢〕「流-瀰ーー」。
(貪猥) 貪深く鄙しきこと。○〔宋〕「時官ニ鄉-邑一者多ーー」。
(凡猥) 凡庸といふに同じ、普通にしてあまたあるもの。○〔晉〕「雖ニ雜有ニーー之才一、其中賢-明者亦多矣」。「處ニ人-間一」。
(卑猥) 前に同じ。○〔洞冥記〕「自云ーー不ㇾ獲
(細猥) 身分の卑きこと。○〔晉〕「顯ニ僕于ーー之中一」。「路」。
(紛猥) まぎらはしく雜はれること。○〔宋〕「ーー塞ㇾ
(感猥) 心を動かすこと盛んなり。○〔陸雲〕「書重ーー」。「ーーー」。
(悲猥) 哀しみ歎くこと盛んなり。○〔陸雲〕「臨ㇾ表

【猥】ワイ、ヱ。烏潰切 隊
衆犬の吠ゆるにいふ字、ほゆ。

【猇】カウ、ゲウ。後教切 效
犬吠ゆ、ほゆ。

【⿰犭音】アン、エン。乙咸切 咸 於陷切 陷
竇中の犬の聲にいふ字、一說に、犬の吠ゆる聲にいふ字。

【⿰犭風】フウ、フ。方戎切 東
一種の獸、かぜたぬき、狀は猿の如く人に逢へば叩頭す、小しく擊てば死し風を得れば復た蘇生すといふ、一名は、⿰犭音⿰犭屈。○〔正字通〕「ーー狸狀如ㇾ猿而小、目赤、尾短如ㇾ無ㇾ尾、身無ㇾ毛自ㇾ鼻至ㇾ尾有ニ一道靑毛一廣寸許」。

【⿰犭胥】ショ、ソ。新於切 魚
猨の屬。

【猧】ヲ。烏和切 歌
犬の屬、ちん。○〔元微之〕「嬌ー睡猶ㇾ怒」。

【猨】エン、ヲン。雨元切 元
猴の屬、臂長くして善く物に攀ぢ上る、てながざる、さる、ましら。○〔史〕「廣爲ㇾ人長ーー臂、其善射亦天-性也」。

【⿰犭員】
俗の猨の字。

【⿰犭皇】
獚に同じ。

【猩】セイ、シヤウ。桑經切 青
犬の吠ゆる聲にいふ字。

【猩】サウ、シヤウ。所庚切 庚
猴の屬、最も人類に近きもの、聲は小兒の啼くに似たりといふ、しやうじやう。○〔禮〕「ーー能言不ㇾ離ニ禽-獸一」。

【⿰犭咸】カン、コン。古禫切 感
犬の名。

【⿰犭咸】ガン、ゲン。五咸切 咸
力ある羊、つよきひつじ、一說に、牝羊、めひつじ。

【⿰盾犬】トン、ドン。徒困切 願
犬。

【⿰犭盈】エイ、ヤウ。以成切 庚
狐に似て黃色なる獸の名。

【猑】キ。許章切 微 コン。許昆切 元
一種の獸、犬の如き狀にして人の如き面をなし、善く物を投げ、人を見れば笑ふといふ、ひゝ。○〔左思〕「ーー子長-嘯」。

【猑】クン。許云切 文
獯に同じ。

【猪】
俗の豬の字。

【猫】ベウ、メウ。武鑣切 蕭
㊀俗の貓の字、ねこ。○〔蘇軾〕「養ㇾー以捕ㇾ鼠」。
㊁夏期の田獵、なつがり。○〔左〕「春-蒐「夏ー」。

【猬】ヰ。于貴切 未

毛刺、はりねずみ。

【犭是】テイ、ダイ。田黎切 齊 いぬ(犬)。

【猭】セン。尸連切 テン。丑緣切 先 丑戀切 霰 獸の走るにいふ字、はしる。○〔馬融〕「獸不レ得レー」。
〔獑猭〕相連なる貌にいふ語。○〔洞簫賦〕「密漠泊以ーー」。

【献】俗の獻の字。

【猯】タン。他官切 寒 貒に同じ、まみ。

【獳】ドウ、ヌ。奴侯切 尤 犬の怒る貌にいふ字。

【猰】カツ、ケチ。訖黠切 黠 ❶雜犬、まじりけの犬。❷いぬ、(犬)。❸まじる、(雜)。

【猰】猰に同じ。○〔淮〕「殺ニー貐一」。

【猱】ダウ、ノウ。奴刀切 豪 ジウ、ニユ。而由切 尤 猨の屬、てながざる、さる、ましら。○〔詩〕「毋レ教ニー升レ木」。
〔猨猱〕ましらのこと。○〔李白〕「ーー欲レ度愁ニ攀援一」。
〔玃猱〕前に同じ。○〔上林賦〕「蛭蜩ーー」。
〔獑猱〕前に同じ。○〔趙冬曦〕「ーー拱レ樹以相依」。
〔哀猱〕あはれに啼き叫ぶましら。○〔杜甫〕「氷雪淡傷ニーー一」。
〔懸猱〕挂かり下がれるましら。○〔柳宗元〕「半壁跳ニーー一」。
〔捷猱〕すばやきましら。○〔甘澤謠〕「飛走若ニーー一」。
〔飛猱〕跳りとぶましら。○〔陸游〕「人緣ニ絕壁ニ似ニーー一」。
〔姦猱〕わるさがしきましら。○〔舒元輿〕「變態如ニーー一」。
〔戲猱〕たはぶれ游ぶましら。○〔李咸用〕「禁援笑ニーー一」。

【猳】カ、ケ。古牙切 麻 豭に同じ。○〔管〕「欲レ翳ニ我ー一」。

【犭思】シ。胥里切 紙 安からざる貌にいふ字。
〔欺犭思〕大いなる首。○〔王延壽〕「佹ーー顋䀡」。

【犭谷】俗の猶の字。

【猲】カツ、カチ。許曷切 曷 カフ、ケフ。起法切 洽 ❶短き喙の犬。○〔詩〕「載ニ獫ー驕一」。❷威力を加へて恐れしむ、おびやかす、おどす。○〔漢〕「恐ニー良民一」。

【猲】カイ。虛艾切 泰 犬の臭氣あるにいふ字、いぬくさし。

【猴】コウ、ク。呼溝切 尤 さる。
(い)一種の獸、ましら、狀は人に似て四肢皆手なり、身體輕捷にして性質躁なるもの。○〔史〕「楚人沐ーー而冠」。
(ろ)果の名稱。○〔西京雜記〕「查有ニ三種一、內有ニーー查一、梅有ニ七種一、內有ニーー梅一」。
〔猨猴〕ましら。○〔宣和畫譜〕「ーー驚顧圖ニ」。
〔獼猴〕前に同じ。○〔蘇軾〕「村巷驚呼聚ニーー一」。
〔狙猴〕前に同じ。○〔張九成〕「跳梁逐ニーー一」。
〔蠻猨〕あまたの猿。○〔西域記〕「池西持ニ佛鉢一」。
〔情猨〕心猿に同じ、こゝろのこと。○〔法苑珠林〕「跳ニ躑ーー、都無ニ制鎖一」。

【獀】シウ、シユ。所鳩切 尤 ❶いぬ(犬)。❷秋期の田獵、あきがり。

【猵】ヘン。布懸切 先 ヒン、ビン。毗忍切 震 毗賓切 眞 獺の屬、かはをそ。○〔淮〕「畜ニ池魚一者必去ニー獺一」。

【猵】ヒ。芳未切 未 ヘン。匹羨切 霰 ーー狙は、狗の如き頭にて猿に似たる一種の獸。

【猶】イウ、ユ。以周切 尤 ❶玃の屬、さる、性質多疑にして人の聲を聞けばあらかじめ木に登り人なければ下り上下して決せずといふ。○〔爾〕「ー如レ麂善登レ木」。❷轉じて、人の疑惑して容易に決行せざるをいふ字、ためらふ。〔淮〕「擊ニ其ーーー」。❸犬の兒、こいぬ。○〔說文〕「隴西謂ニ犬子ニ爲レー」。❹同一なり、にたり、にる、おなじ。○〔詩〕「寔命不レー」。❺なほ。
(い)比べて同一なるにいふ字、ちやうど、さながら、ごとし、(返し讀みて)。○〔禮〕「兄弟之子ーレ子」。
(ろ)輕重の比較に用ふる字、すら、さへ、だに。○〔史〕「王ー不レ堪」。
(は)前より繼續して、つゞきて、まだ。○〔史〕「然ー不レ止」。
❻べし、(可)。○〔詩〕「上慎レ旃哉、ーレ來無レ止」。❼方法、謀略、みち、はかりごと。○〔詩〕「克壯ニ其ー一」。❽はかる、ゑがく、(圖)。○〔詩〕「允ー翕レ河」。❾疾からず遲からざる其の中を得たる貌にいふ字。○〔禮〕「君子蓋ーー爾」。
〔五猶〕最下の士。○〔管〕「下土曰ニーー一之狀如レ葉」。
〔相猶〕互に眞似すること。○〔詩〕「無ニーー一矣」。
〔夷猶〕猶豫に同じ、ためらひて敏捷にせざること、又、疾舒の中を得たること。○〔楚辭〕「君不レ行兮ーー」。

【猶】エウ。餘招切 蕭 ❶音樂なくして歌ふ。❷搖に通じ用ふ。○〔禮〕「咏斯ー」。

【猷】イウ、ユ。以周切 尤 ❶はかる、はかりごと、(謀)。○〔書〕「若有ニ嘉謀嘉ー一」。❷みち、(道)。○〔周〕「若ニ昔之大ー一」。❸ゑがく、ゑ、(圖)。○〔周〕「以ーニ鬼神祇一」。❹ごとし、(若)おなじ、(同)。○〔古文、詩〕「寔命不レー」。❺いつはる、いつはり、(詐)。○〔方言、註〕「ー謂ニ故爲レ詐」。
〔徽猷〕よき謀。○〔詩〕「君子有ニーー一、小人與屬」。
〔帝猷〕帝王の道。○〔晉〕「ーー顯丕」。
〔王猷〕前に同じ。○〔女史箴〕「ーー有レ倫」。
〔皇猷〕前に同じ。○〔唐〕「巍々ーー昌」。
〔淸猷〕淸淨なる謀。○〔沈約〕「ーー濬發」。
〔遠猷〕奧深く謀り工夫すること。○〔傅若金〕「公卿足ニーー一」。
〔鴻猷〕大いなる謀。○〔史〕「ーー克贊」。
〔英猷〕すぐれまさりたる謀。○〔晉〕「ーー外決」。

〔高猷〕前に同じ。○〔曹毗〕「｜｜遠暢」。
〔宏猷〕廣大なる謀。○〔晉〕「｜｜允塞」。
〔光猷〕明かなる謀。○〔鮑照〕「衣ㇾ道服ニ｜｜ㇾ」。
〔顯猷〕前に同じ。○〔東晳〕「｜｜翼々」。
〔芳猷〕かぐはしくすぐれたる謀。○〔謝朓〕「帶ニ｜｜而爲ㇾ服」。
〔令猷〕前に同じ。○〔謝瞻〕「行矣勵ニ｜｜ㇾ」。
〔茂猷〕盛んなる謀。○〔王紹之〕「思ニ我｜｜ㇾ」。
〔機猷〕計謀のこと。○〔薛登〕「協ニ贊｜｜ㇾ」。
〔先猷〕前代の人の爲しおける計畫。○〔胡宿〕「祇服ニ｜｜ㇾ」。

【臭】 皀に同じ。○〔山海經〕「綸山其獸多ニ｜｜ㇾ」。
〔息臭〕やくに立たぬ人物の義にかりいふ語。○〔顏延之〕「｜｜庸散過宰ニ近邑ㇾ」。
〔忼臭〕奔走す、はしる。○〔司馬相如〕「嫺嫪偃蹇、｜｜以梁倚」。

【猴】 猴の本字。

十畫

【猺】 エウ。徐招切　蕭
猺｜は、一種の狗。
〔峒猺〕西南地方の山間にある苗民のこと。○〔桂海虞衡志〕「蠻猺諸｜｜及西南諸蠻北造作略同」。
〔蠻猺〕西南地方のえびすのこと。○〔舒頔〕「假威及ニ｜｜ㇾ」。

【獙】 ハン、バン。薄官切　寒
｜｜狐は、尾の短き犬。

【猻】 ソン。思渾切　元
さる、（猴）。

【㹮】 𤡮に同じ。

【猲】 タフ、トフ。敵盍切　合
獸の走る貌にいふ字。

【猫】 リウ、ル。力求切　尤
㊀飀に同じ。㊁執｜は、狗の一種。

【猼】 ハク。補各切　藥
人に似て翼ありといふ一種の獸の名。

【猽】 ベイ、ミヤウ。莫經切　青
貘に同じ、小さき豕。

【獅】 シ。息茲切　支　息利切　寘
獄を辨ふる官、裁判官。

【猰】 ケイ。弦雞切　齊
東北の夷の名。

【猿】 エン、オン。雨元切　元
俗の猨の字、てながざる、さる、ましら。○〔戰〕「｜、獼猴、錯ㇾ木據ㇾ水則不ㇾ若ニ魚鼈ㇾ」。
〔攀猿〕たかきところにあがるさる。○〔莊〕「王獨不ㇾ見ニ夫｜｜乎」。
〔窮猿〕難にかゝりくるしみをるさる。○〔莊〕「｜｜投ㇾ林」。
〔心猿〕こゝろのこと。○〔梁簡文帝〕「六馬歸ニ｜｜ㇾ」。
〔猴猿〕さる。○〔水經註〕「山多ニ｜｜ㇾ」。
〔獮猿〕前に同じ。○〔曹植〕「姿才捷ニ于｜｜ㇾ」。
〔饑猿〕うゑたるさる。○〔鮑照〕「｜｜莫ニ下食ㇾ」。
〔駭猿〕ものに驚きたるさる。○〔庾信〕「｜｜時落ㇾ木」。

【猾】 クワツ、カチ。戸八切　黠
㊀みだる、（亂）。○〔書〕「蠻夷｜ㇾ夏」。㊁わるがしこし、（黠）。○〔史〕「傈悍｜｜賊」。㊂もてあそぶ、（弄）。○〔國〕「齒牙爲ㇾ｜」。㊃海獸の一種なりといふ。○〔正字通〕「｜無ㇾ骨、入ニ虎口ㇾ虎不ㇾ能ㇾ噬、處ニ虎腹中ㇾ自ㇾ內齧ㇾ之」。
〔狡猾〕わるがしこし。○〔揚雄〕「小兒多ㇾ詐、謂ニ之｜｜ㇾ」。
〔姦猾〕わるくよこしまなること。○〔漢〕「徙ニ天下｜｜吏民於邊ㇾ」。
〔獪猾〕前に同じ。○〔五〕「皆庸懦不肖傾險｜｜之徒」。
〔險猾〕前に同じ。○〔五〕「柔佞而｜｜」。
〔邪猾〕前に同じ、又、其の者。○〔漢〕「小吏ニ｜｜ㇾ」。
〔凶猾〕前に同じ。○〔晉〕「擶ニ除｜｜ㇾ」。
〔巨猾〕大猾に同じ、いたくわるきこと、又、其の者。○〔晉〕「｜｜陵暴」。
〔貪猾〕慾心の深くわるがしこきこと。○〔漢〕「皆｜｜不遜」。
〔佞猾〕くちさきのりこうなること、又、其の者。○〔後漢〕「以ニ｜｜進ㇾ」。
〔巧猾〕わるがしこし。○〔金〕「｜｜之徒」。

【猻】 猿に同じ。

【獀】 シウ、シュ。所鳩切　ソウ、ス。先侯切　尤
秋期の獵、あきがり。○〔禮〕「達ニ乎｜｜狩ㇾ」。

【㺜】 シウ、シュ。所九切　有
春期の獵、はるがり。○〔周〕「｜ニ于農隙ㇾ」。

【𤢺】 熊に同じ、くま。

【𤡵】 サウ、ソウ。蘇遭切　豪
一種の獸。

【猧】 カ、ケ。古牙切　麻

【獚】 クワウ、ワウ。呼光切　陽
狼の屬。

【獅】 シ。充之切　支
㊀かり、（狩）。㊁獶｜は、犬。

【獂】 ゲン、グワン。愚袁切　元
豕の屬。

【獇】 テイ、チヤウ。唐丁切　青
さる、（猱）。

【㺝】 サ。七何切　歌
犬の狂ふにいふ字。

【獃】 ガイ。五來切　灰
未だ分別あらざること、おろか。
〔憶獃〕志を喪ふ貌にいふ語。

【㲉】 コク。呼木切　屋　コウ、ク。居候切　宥
犬の屬。

【㲎】 カク、コク。黑角切　覺
一種の獸の名。

【㺊】 ヤウ。餘亮切　漾
獅子に似たる一種の猛獸、一説に、つつが、（恙）。

【獄】 ギヨク、ゴク。魚欲切　沃
㊀曲直の判斷を官府に仰ぐこと、罪罰の有無をしらべて處斷すること、うった

へ。○〔易〕「君-子以明二庶-政一无二敢折レ—」。
㊁囚人を繫ぎ留むる所、ひとや。○〔詩〕「宜レ岸宜レ—」。
㊂罪惡、つみ。○〔國〕「褒-人有レ—」。
〔聽獄〕うツたへをきゝさだむ。○〔書〕「—二—之兩辭一」。
〔斷獄〕前に同じ。○〔漢〕「毎-歲—レ—止四-百」。
〔決獄〕前に同じ。○〔漢〕「天-下一-歲—-—幾-何」。
〔鬻獄〕罪人より金錢を取りたて罪をかるくすること。○〔北〕「—レ—賣レ官」。
〔地獄〕佛說にて現世にて惡業あるものゝ死にたる時おち入る所と稱する場所。○〔唐〕「—-—正爲二是人一設矣」。
〔亂獄〕正しからざる訟獄のこと。○〔周〕「四-方有二—-—二之」。
〔訟獄〕うツたへ。○〔孟〕「朝-覲—-—者」。
〔平獄〕うツたへを正しく輕重なきやうにす。○〔漢〕「—レ—緩レ刑」。
〔陰獄〕くらきひとや。○〔蜀、註〕「爲二—-—一以繫レ」
〔牢獄〕罪人を留めおくひとや。○〔言〕「昴明則天-下—-—平」。

【猹】タフ、トフ。託盍切　合
䑜に同じ。

【獂】チウ、ウ。烏公切　東
ゐのこ（豬）。

【獉】ス井。雙隹切　支
犬の名。

【獫】カン、胡黯切　豏　ゲン。午陷切　陷　ケン。下忝切　琰
㊀犬吠えて止まず、ほゆ。
㊁兩犬相爭ふ、あらそふ。

【獅】シ。疏夷切　支
極めて猛き一種の獸、たゝ、髯髵あり尾端の聳毛は大いさ斗の如し。○〔東觀記〕「詣レ闕獻二—-子一」。○〔名勝志〕
〔伏獅〕うつぶせになりたるたゝのこと。「狀若二—-—一」。

十一畫

【獦】セイ。尺世切　霽
狂犬、きちがひいぬ。

【獧】テキ、チヤク。亭歷切　錫
犒に同じ。

【獥】シユク、ソク。子六切　職
つよし（勁）。

【獌】バン、マン。無販切　願
狼の屬、又狸に似たる一種の獸。

【獍】ケイ、キヤウ。居慶切　敬
一種の獸。○〔述異記〕「—之爲レ獸、狀如二虎-豹一小」。

【獁】チヨ、ト。敕魚切　魚
貙に同じ。

【獂】ヨウ、ユ。餘封切　冬
獽に同じ。

【獏】バン、マン。母官切　寒
獌に同じ。

【獖】ル井。晉水切　紙
鼠の形に似て飛走し且つ乳する鳥さいふ。

【獗】ル井。力追切　支

【獶】ル。力朱切　虞
狸に似たる一種の獸。
子を求むる豬。

【獯】ソク。蘇谷切　屋
—㺃は、山の名。

【獠】サウ、側絞切　巧　ラウ、魯皓切　皓
セウ。切　ロウ。切
西南夷の一種。

【奬】シヤウ、サウ。即兩切　養
奬に同じ。○〔敦〕「—二殊-勳者一」。
〔恩奬〕めぐみ。○〔蔡文恭〕「何用承二—-—一」。
〔外奬〕表面にはむること。○〔李白〕「恩-義非二—-—一」。
〔推奬〕はめて引き立つること。○〔杜甫〕「平-昔濫二—-—一」。
〔尊奬〕あがめ佐くること。○〔蜀〕「—二—王-室一」。
〔翼奬〕助成すること。○〔晉〕「群-后不レ能二—-—一之所レ致也」。
〔搜奬〕探し求めて引き立つ。○〔南〕「—二—忠-烈一」。
〔優奬〕特別なる賞譽。○〔南〕「宜レ加二—-—一」。
〔好奬〕すきて引き立つること。○〔南〕「眺—-—二人-才一」。
〔弘奬〕廣く引き立つる。○〔南〕「—-—風-流一」。
〔勸奬〕引き立て勵ます。○〔唐〕「發-揚—-—」。
〔賚奬〕物を賜ひて譽むること。○〔唐〕「—-—優-華」。
〔愛奬〕めでて褒むること。○〔唐〕「—二—士-類一」。
〔慈奬〕前に同じ。○〔鮑照〕「特闕二—-—一」。
〔嘉奬〕譽む。○〔晉鑒〕「—-—士-倫一」。
〔殊奬〕特別なる引き立て。○〔徐陵〕「遂蒙二—-—一」。
〔訓奬〕教へ勵ます。○〔蘇廼〕「師-儒皆—-—」。
〔抽奬〕拔擢しはむ。○〔蘇廼〕「既叶二—-—一、仍儀二職-事一」。

【獤】チン。丑人切　眞
—獤は、連延する貌にいふ語。○〔洞簫賦〕「密漠-泊以—-獤」。

【獫】サン、セン。所檻切　豏
犬の吠ゆる聲にいふ字。

【獵】ソウ、ス。子宋切　宋
猔に同じ。

【獑】サン、セン。山檻切　豏
㊀犬の頭を容れて進むにいふ字、すゝむ。
㊁犬の聲にいふ字。
㊂犬の齧むにいふ字、かむ。
㊃賊疾す、そこれやむ。

【獓】サン、山監切　咸　シン。疏簪切　侵
セン。切　切
前條の㊀に同じ。

【獓】サウ、ソウ。蘇遭切　豪
やまをさこ。○〔神異經〕「西-方深-山有レ人、長尺-餘、袒-身捕二蝦-蟇一以食、名二山—-—一」。

【獑】サン、セン。所鑒切　陷
犬の毛。

【獐】シヤウ、サウ。諸良切　陽
麇の屬。

【獢】カウ、虛交　ラウ、力交　アウ、於交
ケウ。切　レウ。切　エウ。切　肴

【獟】カウ、下巧　ダウ、奴巧
ゲウ。切　デウ。切　巧
㊀咳き吠ゆ、ほゆ。㊁みだる（擾）。
㊂わるがしこし（猾）。

【獑】サン、ゼン。士咸切　咸
㊀前條の㊀に同じ。㊁事露る。

猿の屬にして白き獸。

【獒】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪
指使の用に堪ふる犬、又、たけ四尺以上ある犬、又、猛犬。○〔左〕「嗾二夫——一焉」。
〔旅獒〕西旅の地に産するたうけんのとにて書經の篇の名。○〔書〕「太保乃作二——一」。
〔狂獒〕くひつく犬。○〔舒元輿〕「呑·噬若二——一」。
〔鷹獒〕たかと犬と。○〔岳珂〕「呑二噬——一」。
〔神獒〕神靈に事ふる犬。○〔張憲〕「——帖レ尾臥二床前一」。

【獔】カウ、コウ。呼刀切 豪
貉の類、色白く尾小さくして狀狗に似たる一種の獸。

十二畫

【獋】カウ、ゴウ。胡刀切 豪
嘷に同じ、ほゆ。○〔山海經〕「音如二——犬一」。

【獹】キヨ、コ。休居切 魚
驢に同じ。

【獖】フン、ホン。父吻切 吻
❶ひつじ(羊)。❷狂——は、犬の屬。

【獖】ホン、ボン。部本切 阮
まもりいぬ(守·犬)。

【獖】フン、ボン。符分切 文
豶に同じ。

【獳】ダウ、ノウ。奴刀切 豪
獶に同じ。

【獳】ダフ、ドフ。諸盍切 合
犬の食ふ貌にいふ字。

【獗】ケツ、クワチ。居月切 月
くるふ、たける(猖)。

【獘】弊に同じ。○〔爾〕「木自——柛」。
〔宿獘〕古くより行はれ來たりし惡事。○〔唐〕「素强·幹鈕二——一」。
〔踣獘〕たふる、たふす。○〔國〕「——不レ振」。
〔鈍獘〕鋭利ならず、損す。○〔國〕「甲·兵——」。
〔耗獘〕物の耗り困しむこと。○〔史〕「百·姓——而巧レ法」。
〔罷獘〕つかる、つからす、くるしむ。○〔漢〕「以爲下——二中國一、以奉中無·用之地上」。
〔羸獘〕前に同じ。○〔吳〕「——日久」。
〔衰獘〕前に同じ。○〔魏〕「當二其——一、無二土·崩之勢一」。
〔流獘〕選り來たれる惡事。○〔晉〕「庶能激二揚——一「——者也」。
〔困獘〕くるしむ。○〔唐〕「百·姓——」。
〔亂獘〕みたれくるしむ。○〔魏、誌〕「——之後、百·姓凋·盡」。
〔窮獘〕くるしむ。○〔吳〕「以賑二——一」。
〔疲獘〕弱くして勢なきこと。○〔晉〕「臣以二——一迷二于道·趣一」。
〔頑獘〕かたくなにしてあしきこと。○〔晉〕「忘二臣——一」。
〔往獘〕前時のつひえ。○〔晉〕「革二——一者、則政不レ爽」。
〔時獘〕その時の惡しき事柄。○〔晉〕「以救二——一」。
〔窘獘〕くるしむ。○〔晉〕「——之餘、人懷二貪·競一」。
〔粗獘〕粗造なること。○〔南〕「外服二——一」。
〔故獘〕ふるくやぶれたるもの。○〔南〕「衣被二——一」。
〔獲獘〕瘦せ衰ふること。○〔唐〕「率二——之衆一」。
〔垢獘〕あかつきやぶるゝこと。○〔唐〕「常衣二——一居二丁室一」。
〔勞獘〕疲れ困しむ。○〔五〕「遠·近——」。
〔奇獘〕常に異なりたる惡事。○〔五〕「去二其——一久」。
〔蠹獘〕やぶるゝこと。○〔宋〕「——相沿、應レ日已——一」。
〔積獘〕害惡を重ぬること、又、重なりつもれる害惡のこと。○〔荀〕「彼日、——、我日、積レ完」。
〔罷獘〕疲れ衰ふ。○〔荀〕「以二——一之」。
〔朽獘〕腐れやぶる。○〔易林〕「山·石——」。
〔深獘〕大いなる害惡。○〔顏氏家訓〕「皆有二——一、不レ可二具論一」。

【獙】ヘイ。毗祭切 霽
狐の屬。○〔山海經〕「姑·逢之山有レ獸焉、狀如レ狐而有レ翼、音如二鴻·雁一、名曰二——一」。

【㺍】ガン、ゲン。五閑切 刪
嫺に同じ。

【㺌】カン、ゲン。下赧切 潸
たけし(猛)。

【𤡬】㺍に同じ。

【獚】クワウ、ワウ。胡光切 陽
いぬ(犬)。

【𤞟】シ。睢氏切 紙　スヰ。秦醉切 寘　カイ、胡介切 ゲ。切　サイ、才察切 卦 ゼ。切
めむじな(雌·貉)。

【獛】ホク、ボク。博木切 屋
——鉛は、南方の夷。

【獜】リン。力珍切 眞　レイ、リヤウ。力丁切 青
つよし、すこやか(健)。

【獜】リン。里忍切 軫
❶前條に同じ。❷鱗甲ありて犬に似たる一種の獸。○〔山海經〕「依·軲之山有レ獸焉、狀如レ犬、虎·爪有レ甲、名曰レ——、善駚·牟食者不レ風」。

【𤢊】獜に同じ。

【𤢉】キ。吁爲切 支
一種の蠻民。○〔神異經〕「西·荒之中有レ人焉、短·長如レ人、著二敗·衣一、手虎·爪、名二獏——一」。

【𤢴】スヰ、ズヰ。選委切 紙
豴に同じ。

【獝】キツ、キチ。況必切 質
おどろく(驚)、くるふ(狂)、はしる(走)、とぶ(飛)。○〔禮〕「鳳以爲レ畜、故鳥不レ——」。
〔狘獝〕くるふこと。○〔宋〕「至二其——一傳·合、旌·天·「冥·然」。
〔狂獝〕氣のくるひたること。○〔語林〕「浙·東觀·察·使李·納——、謁二軍·士一不レ以レ禮」。

【𤢿】ヘン、附袁切 元 バン。切　ヘン、皮變切 霰 ベン。切
犬の鬪ふ聲にいふ字。

【㺂】アン、乙減切 エン。切　カン、荒檻切 ケン。切 豏　カン、下瞰切 勘 ゴン。切　虎覽切 感　サン、楚鑑切 陷 セン。切
小さき犬吠ゆ、ほゆ。

【獟】ゲウ。五弔切 嘯
❶虎をおふいぬ(豻·犬)。❷くるふ(狂)。

【獟】ケウ。丘召切 蕭
❶いさむ、いさまし(勇)。○〔史〕「誅二——驊一」。

㊁あらいぬ（獢）。

【獟】ガウ、ゲウ。魚敎切 [效] きちがひいぬ（狂犬）。

【⿰犭彭】ハウ、ヒヤウ。哺橫切 [庚] いぬ（犬）。

【獠】レウ。力照切 [嘯] 夜間の獵、かり。○[管]「—獵畢弋」。

【獠】ラウ、ロウ。魯皓切 [晧] 西南の夷。

【⿰犭寮】タウ、テウ。帳絞切 [巧] ⿰豸寮に同じ。

【⿰犭然】ゼン、テン。如延切 [先] 猿の屬、てながざる、さる。○[埤雅]「—獸似レ猨」。

【獡】シヤク、サク。式灼切 [藥] ㊀人に附かず、なつかず。㊁おどろく、（驚）。

【⿰犭舃】セキ、シヤク。思積切 [陌] 猎の字を見よ。

【⿰犭單】サン、セン。充山切 [删] エン、オン。於櫶切 [先] 犬の噬むにいふ字、かむ。

【獢】ケウ。許驕切 [蕭] 猲の字を見よ。

【⿰犭貴】ケイ、ケ。古惠切 [霽] 猭—は、かゝりざるの小さき者、くもざる、善く鼠を捕らふると家猫よりも捷しといふ。

【⿰犭敕】チン。癡鄰切 [眞] 獭に同じ。

十三畫

【⿰犭离】チ。抽知切 [支] 鷙獸、あらきけもの。

【⿰犭達】タツ、ダチ。他達切 [曷] 獺に同じ。

【⿰犭隨】ズヰ。隨婢切 [紙] 牸豚、めゐのこ。

【⿰犭屛】シユ。之戍切 [遇] 鄉の名。

【獥】ゲキ、ギヤク。刑狄切 ケキ、キヤク。吉歷切 [錫] ケウ。堅堯切 [蕭] 古弔切 [嘯] 狼の子。

【⿰犭農】ダウ、ノウ。奴刀切 [豪] ドウ、ヌ。女江切 [江] ダウ、子ウ。女交切 [肴] 奴冬切 [冬] ㊀毛の多き犬、長き毛の犬、又、惡しき毛の犬。㊁毛多し、おほし、毛長し、ながし、毛惡「し」、あし。

【獦】カツ、カチ。古曷切 [曷] 猲に同じ。

【獧】ケン。古縣切 [先] おどろ、はぬ（跳）、又、とし（疾）、きびし（急）。○[孟]「必也狂—乎」。

【獨】トク、ドク。徒谷切 [屋] ㊀猨の屬、其の狀の大いなるもの。○[埤雅]「—一叫而猨散」。㊁ひとり。（い）他につれのなきと、其のものゝみなると。○[詩]「哀此惸—」。（ろ）單一に、たゞ。○[孟]「—可二耕且爲一歟」。
[孤獨] みなしごと老いて子なきものと、又、ひとりもの。○[禮]「恤二—・—一以逮二不足一」。
[愼獨] ひとりをる時にもおのれの身をつゝしみて道にそむかざるやうにす。○[禮]「故君子—二其—一」。
[專獨] おのれひとりほしいまゝなると。○[家語]「—・—者事之所二以不一成也」。
[寡獨] としたけて夫なきものと子なきものとのと。○[後漢]「賑二護—・—一」。
[閑獨] まづかにひとりにてあると。○[北]「又不レ能二—・—一」。

【⿰犭雍】アウ、オウ。烏江切 [江] —猝は、犬の牽くに服せざると。

【獩】アイ、エ。於廢切 [隊] —貊は、國の名。

【獪】クワイ、ケ。古外切 [泰] 古賣切 [卦] ㊀惡才多し、わるがしこし。○[唐]「性敏—」。㊁みだる、たはぶる（擾）。○[世說]「時作二狡—一耳」。
[狡獪] わるがしこきと。○[史、註]「謂二小兒多詐—・—一爲二無賴一」。
[黠獪] 前に同じ。○[唐]「吐蕃—・—抗二天誅一者、二十四年」。
[猾獪] 前に同じ、又、みだる。○[宋]「性—・—」。
[姦獪] よこしまにして狡猾なると、又、其の者。「而—」。○[唐]「—・—得レ志」。
[詐獪] いつはり多きと。○[方言]「凡小兒多レ—」
[譎獪] 前に同じ。○[田況]「市人—・—亦射レ人」。

【獪】クワツ、カチ。戸八切 [黠] 猾に同じ。

【獫】ケン。虛檢切 [琰] レン。力冉切 [琰] レン、ロン。力鹽切 [鹽] 喙の長き犬、一說に、黃なる顋の黑き犬。○[詩]「載二—歇驕一」。

【⿰犭廌】タイ、テ。都買切 [蟹] 豪強なる貌にいふ字、つよし。

【⿰犭豦】豦に同じ。

【獬】カイ、ゲ。胡買切 [蟹] ㊀强豪なる貌にいふ字、つよし。㊁一種の獸。○[淮]「楚文王好レ服二—冠一」。

【⿰犭斁】ト、ヅ。徒故切 [遇] やぶる（敗）。

【⿰犭喿】セウ。先雕切 [蕭] 山—は、やまをとこ。

【⿰犭畾】ライ。郎才切 [灰] 一種の怪物、ものゝけ、ばけもの。○[張端義]「宮禁中有レ物曰レ—、塊然一物無二頭眼手足一毛如レ漆夜有レ聲如レ雷、禁中人云二—來一」。

【⿰犭素】素に同じ。

十四畫

【⿰犭監】カン、ゲン。胡黯切 [豏] ㊀虎の聲にいふ字。㊁惡犬吠えて止まず、ほゆ。㊂獟犬、あらいぬ。

【獮】セン。息淺切 銑
秋期の獵、あきがり。○〔周〕「ー之日涖トニ來-歳之戒一」。
〔秋獮〕あきのかり。○〔左〕「ーー冬-狩」。

【⿰犭㥯】イン、オン。於靳切 問
山驢、やまうさぎうま。

【獡】シャク、サク。書藥切 藥
犬の驚く貌にいふ字。

【⿰犭與】ヨ。以諸切 魚
㊀歎く聲にいふ字。㊁小兒の聲にいふ字。㊂犬の子。

【獯】クン、コン。許云切 文
ー鬻は、匈奴の夏時代に於ける名稱。○〔孟〕「大-王事二ー-鬻一」。

【獱】ヒン、ピン。毗賓切 眞
獺の屬、かはをそ。○〔揚雄〕「蹈二ー獺一」。

【獰】ダウ、ニヤウ。尼耕切 庚
あし、（惡）。○〔廣異記〕「容-貌猙-ー」。
〔猿獰〕おほかみなどのわるきもの。○〔元稹〕「擇二猙笑一ーー一」。
〔姦獰〕わるもの。○〔許僨〕「只因二鋤-刈一盡二ーー一」。

【⿰犭翟】タク、ドク。直角切 覺
獼猴に似て黄毛なる一種の獸、一説に、鹿に似たる白き尾ある一種の獸。

【獲】クワク、ギヤク。胡伯切 陌
㊀取得す、捕執す、とる、さらふ、う。○〔中〕「不レー二乎上一」。
㊁獵してえたる物、戰ひてえたる物、さりこ、ぶんどり、えもの。○〔周〕「三ー」。
㊂下婢、はしたもの、やつこ、しもべをんな。○〔揚雄〕「罵レ奴曰レ臧、罵レ婢曰レー」。
〔弋獲〕いぐるみとる。○〔詩〕「如二彼飛蟲一時亦ーー」。
〔旗獲〕はたをたてえものをかく。○〔公羊〕「ーー而過レ我也」。
〔攻獲〕敵國をうちてものをとる。○〔戰〕「臣恐三其ーー之利、不レ如二所レ失之費一也」。
〔採獲〕とりをさむ。○〔後漢〕「ー二ー古-今一」。
〔搏獲〕敵をうちとる。○〔後漢〕「薄二ーー之賞一」。
〔俘獲〕敵をいけどる、又、いけどり。○〔唐〕「ーーー過-當」。
〔漁獲〕すなどりしてう。○〔新序〕「今-且ーー」。
〔殺獲〕ころしとる。○〔西都賦〕「觀二三軍之ーー「山-阜一」。
〔積獲〕つみかさねたるえもの。○〔張華〕「ーー被二ー一」。
〔禽獲〕とらふ。○〔蘇舜欽〕「身羅二ーー一」。
〔捕獲〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「津-頭吏-卒雖二ーー一」。

【獲】コ、グ。胡故切 遇
前條の㊀と㊁とに同じ。○〔禮〕「毋二固ーー一」。

【獲】クワ、ゲ。胡化切 禡
爭ひ取る、かる、うばふ、とる。○〔周〕「凡射共二其ー旌一」。

【獵】
俗の獵の字。

【獴】
蒙に通じ用ふ、獱の字を見よ。

【獳】ドウ、ヌ。奴豆切 宥 奴侯切 尤
犬の怒るにいふ字、いかる。○〔山海經〕「獳-犬如二ー-犬一」。

【獳】ジユ、ニユ。人朱切 虞
朱ーは、一種の獸といふ。○〔山海經〕「耿-山有レ獸狀如レ狐而魚-翼名曰二朱ーー一」。

十五畫

【⿰犭樂】シャク、サク。式灼切 藥
獡に同じ。

【⿰犭厲】ライ。落蓋切 泰
くるふ、（狂）。

【⿰犭窮】キウ、グ。渠弓切 東
虎に似たる一種の獸。

【獵】レフ、ロフ。良涉切 葉
㊀禽獸を逐ひ捕らふること、かり。○〔爾〕「春ー爲レ蒐、夏ー爲レ苗、秋ー爲レ獮、冬ー爲レ狩」。
㊁かりを行ふ、かる。○〔詩〕「不レ狩不レー」。
㊂さらふ、（捕）。○〔太元〕「吏所レー也」。
㊃ふへたぐ、（虐）、又、うごかす、（震）。○〔國〕「以犯二ー吳-國之師-徒一」。
㊄とる、（攬）。○〔史〕「ーレ纓正レ襟危-坐」。
㊅差次す、つぐ、ついづ。○〔揚雄〕「鴻-絅緁ー」。
㊆ふむ、こゆ、（躐）、又、ふ、（歷）。○〔荀〕「不レー二不-稼一」。
㊇甲の後を覆ひたる龜。○〔爾〕「龜後弇-覆ー」。
〔軨獵〕小さき車、こぐるま。○〔漢〕「太-僕以二ーー車一奉二迎皇-孫一」。
〔田獵〕かり。○〔禮〕「天-子乃教二於ーー一」。
〔校獵〕禽獸の逃れ走るをふせぐ爲にらちをつくりてかりすること。○〔漢〕「大ーー」。「ー之賦一」。
〔游獵〕なぐさみにかりす。○〔漢〕「請爲二天-子ーー」。
〔射獵〕弓矢もて禽獸をとる。○〔史〕「屛二居藍-田南-山中ーー」。
〔弋獵〕矢にいとをつけて禽獸をとる。○〔漢〕「馳-騁ーー之娛」。
〔涉獵〕ひろくわたる。○〔漢〕「ー二ー書-記一、不レ能レ爲二醇-儒一」。
〔馳獵〕馬をはせてかりす。○〔宋〕「日ー二ー南山下一」。
〔捕獵〕禽獸をかり取る。○〔遼〕「禁二漢-人ーー一」。
〔蒐獵〕春のかり。○〔何承天〕「ーー宣二其號-令一」。

【獿】ダウ、デウ。奴巧切 巧
㊀犬の驚く貌にいふ字。
㊁さる、（猱）。○〔禮、註〕「ー獮-猴也」。
㊂たはむる、（戲）。○〔禮〕「ー二雜子-女一」。

【獶】イウ、於求切 ドウ、奴侯切 尤
ウ。ヌ。
犬。

【獿】ダウ、ノウ。奴刀切 豪
さる、（猱）。

【⿰犭畾】ルヰ。魯軌切 紙
飛ーは、一種の獸、むささび。

【⿰犭頁】ケツ、ケチ。奚結切 屑
一種の獸、鱗ありて毛其の閒に生ぜりといふ。○〔山海經〕「釐-山有レ獸、名曰レー、狀如レ犬而有レ鱗、其毛如二彘鬣一」。

【⿰犭窳】イウ、ユ。羊就切 宥
狖に同じ。

【獷】クワウ、古猛切 ケイ、倶永切 梗
ワウ。キヤウ。
キヤウ、カウ。居往切 養
㊀人に附かず又は人を嚙みなどする犬、あらいぬ。○〔揚雄〕「狙ー而不レ臻」。

❷暴惡なり、あらし、あし。○〔漢〕「—・—亡-秦、滅二我聖-文一」。
〔强獷〕わるづよきこと。○〔晉〕「習—・—粗-暴」。
〔凶獷〕前に同じ。○〔晉〕「肆二—・—一者爲二外-夷一」。
〔麤獷〕あらくしきこと。○〔北〕「豪少—・—」。
〔荒獷〕前に同じ。○〔北〕「氐俗—・—」。
〔頑獷〕かたくなにしてわるづよきこと、又、其の者。○〔元〕「—・—習悅服」。

【獸】ジウ、ジュ。舒救切　〔宥〕
❶四足にして毛ある動物、けもの、○〔書〕「百—率舞」。
❷ほじし、(腊)。○〔儀〕「實—于其上一」。
〔奇獸〕めづらしきけもの。○〔書〕「珍-禽—・—」。
〔珍獸〕前に同じ。○〔史〕「故—・—至、嘉-穀興」。
〔禽獸〕とりとけもの。○〔史〕「其物—・—畫白」。
〔鳥獸〕前に同じ。○〔易〕「觀二—・—之文與二地之宜一」。
〔猛獸〕たけきけもの。○〔周〕「掌レ養二—・—一而教二擾之一」。
〔蟄獸〕熊羆などのたぐひにて冬ごもりするけもの。○〔周〕「掌レ攻二—・—一各以二其物一火レ之、以レ時獻二其珍-異皮-革一」。
〔仁獸〕なさけ深きけもの　○〔公羊〕「麟者—・—也」。
〔野獸〕人にやしなはれずのはらにそだつけもの。○〔漢〕「馳二逐—・—一」。
〔怪獸〕ふしぎなるけもの。○〔晉〕「又畫二鷁-首—・—于舡-首一以懼二江神一」。
〔瑞獸〕麟などの如くめでたきけもの。○〔隋〕「—・—異-禽」。
〔狡獸〕すこやかなるけもの。○〔西京雜記〕「好馳二駿-狗一逐二—・—一」
〔狎獸〕人になれちかづくけもの。○〔沈炯〕「—・—繞二禪-床一」。
〔馴獸〕前に同じ。○〔後漢〕「奇禽—・—」。
〔畜獸〕羊豚などのたぐひにて人に飼はるゝけもの。○〔禮〕「馬牛—・—」。
〔格獸〕けものをてうちにす。○〔魏〕「手—二猛—・—一」。
〔海獸〕うみに生ずるけもの。○〔宋〕「廣-西海-瀕有二—・—一」。
〔毒獸〕わるきけもの。○〔道德指歸論〕「—・—不レ生」。
〔獷獸〕わるづよきけもの。○〔劉希夷〕「—・—血塗レ地」。

十六畫

【⿰犭歷】レキ、リヤク。猥狄切　〔錫〕
獵に同じ。

【⿰隺犬】カク、コク。苦角切　〔覺〕
❶いたる、(至)。❷たかし、(高)。

【獹】ロ、ル。落胡切　〔虞〕
韓國の駿犬の名。

【⿰犭粼】レン。力延切　テン。澄延切　〔先〕　タン、直閑切　〔刪〕　チン。丑人切　〔眞〕　デン。丑刃切　〔震〕
❶兎の走る貌にいふ字。❷犬の草中を走る貌にいふ字。❸猿狖の木に緣る貌にいふ字。

【獺】タツ、タチ。他達切　〔曷〕
其の狀は小狗の如くにて水に居り魚を食らふ一種の獸、かはをそ。○〔禮〕「—祭レ魚」。
〔山獺〕やまをそ、淫獸なりといふ。○〔虞衡志〕「—・—土人呼爲二插-翹一。聞二山中婦人氣一必躍來相抱、無レ偶則抱二木枯-死一」。
〔海獺〕海中に住む一種の獸、あしか　○〔異物志〕「—・—生二海中一似レ獺而大、毛著レ水不レ濡」。
〔豺獺〕やまいぬとかはをそと。○〔漢〕「—・—未レ祭」。
〔猵獺〕かはをそのこと。○〔淮〕「畜二池魚一者、必去二—・—一」。
〔獱獺〕前に同じ。○〔韓愈〕「爲二—・—之笑一者」。
〔鵜獺〕うの鳥とかはをそと。○〔陳陶〕「一半魚蝦屬二—・—一」。
〔頑獺〕おろかなるかはをそ。○〔陸游〕「神-龍失レ水—・—侮」。

【獻】ケン、コン。許建切　〔願〕
❶物を尊長に進上す、すゝむ、たてまつる。○〔周〕「王燕飲-酒則爲二—・—主一」。
❷たてまつる物。○〔儀〕「奠レ—再-拜稽-首」。
❸賢。○〔論〕「文—不レ足故也」。
〔黎獻〕庶民のかしこきもの。○〔書〕「萬邦—・—」。
〔羹獻〕犬のことにて宗廟を祭るに犬の肥えたるものをあつものとす。○〔禮〕「凡祭二宗-廟一之禮、犬曰二—・—一」。
〔進獻〕宗廟などにすゝむること。○〔詩、箋〕「而—二—之一」。
〔貢獻〕天子に物をたてまつること。○〔國〕「春秋—・—」。
〔厚獻〕てあつく物をたてまつること。○〔史〕「以—・—于桓公一」。
〔奉獻〕物をたてまつること。○〔後漢〕「遣レ使—・—」。
〔納獻〕前に同じ。○〔魏〕「遣使—・—」。
〔登獻〕前に同じ。○〔宋〕「即日—・—」。
〔禮獻〕禮儀により物をたてまつること。○〔隋〕「—・—既同」。
〔嘉獻〕よきたてまつりもののこと。○〔韋應物〕「田婦有二—・—一」。

【獻】サ。桑何切　〔歌〕
❶酒尊の名、犧に同じ。❷疏く刻みたること。○〔禮〕「周—豆」。

【獻】ギ。魚羈切　〔支〕
儀、のり。○〔周〕「鬱-齊—酌」。

【獻】キ。虛宜切　〔支〕
斗の魁及び杓の末の勺の形をなすこと。○〔漢〕「立二華-蓋一立二斗—・—一」。

【⿰犭戠】シ。昌志切　〔寘〕
狂犬、きちがひいぬ。

十七畫

【獼】ビ、ミ。武移切　〔支〕
母猴、おほざる。

【獽】ジヤウ、ナウ。汝陽切　〔陽〕
狨の屬。

【⿰犭戲】キ。許羈切　〔支〕
ゐのこ、(豕)。

【⿰犭靈】レイ、リヤウ。郎丁切　〔靑〕
良犬、よきいぬ。

【⿰犭毚】サン、ゼン。鋤銜切　〔咸〕
犬の聲にいふ字。

【⿰犭嬰】エイ、ヤウ。伊卿切　〔庚〕
—・—如は、一種の獸。○〔山海經〕「皐-塗之山有レ獸焉、其狀如レ鹿而白-尾、馬-足人-手而四-角、名曰二—・—如一」。

十八畫

【⿰犭瞿】ク、コ。恭于切　〔虞〕
うつ、(搏)。

【玃】
玃に同じ。

【⿰犭藿】
貛、又、狋に同じ。

【⿰犭遷】セン。息淺切　〔銑〕
獮に同じ。

【獿】ダウ、ネウ。女交切　〔肴〕
❶みだる、(擾)。❷ほゆ、(吠)。

【獿】ダウ、ノウ。奴刀切　〔豪〕
❶さる、(猱)。❷抆拭す、なづ、又、ぬる、(塗)。

【獿】ダウ、ネウ。奴巧切　〔巧〕　ゼウ、ネウ。爾紹切　〔篠〕
犬驚く、おごろく、又、おごろきて吠ゆ、ほゆ。

二十畫

【獮】ケン、ゲン。虚檢切 琰
狁の條を見よ。

【獑】キ、ゲ。渠希切 微
一子を生む犬。

【玃】キヤク、居縛切 藥
カク。切
大いなる猿、おほざる、善く人を攫むさいふ。○〔新論〕「—似レ狙」。
〔雌玃〕おはざるのと。○〔史〕「—・—飛-鼺」。
〔大玃〕前に同じ。○〔易林〕「南-山—・—」。
〔狙玃〕前に同じ。○〔北戸錄〕「大-猿則—・—〓狖之類」。
〔猱玃〕前に同じ。○〔杜甫〕「—・—鶢-鶋古」。
〔狖玃〕くろざるとおはざるとのと。○長楊賦〕「虎-豹—・—」。

【玃】ケキ、キヤク。倶碧切 陌
うつ、(搏)。○〔韓詩外傳〕「—-笞潰-失」。

【獵】ラン、ロン。魯感切 感
犵狫の屬。

【玁】ケウ。許嬌切 蕭
犬の毛色の黄白色なると。

【獢】ケウ。許茁切 蕭
前條に同じ。

【獵】レイ、リヤウ。郎丁切 青
良き犬。

玄部

【玄】ケン、ゲン。瑚涓切 先
㊀黒くして赤きを含む色の稱、くろ、あかぐろ、卽ち、天の色となすもの、一說に、黒くして黄を含む色の稱。○〔易〕「天—而地黄」。
㊁あめ。
(い)天空、そら。○〔楚辭〕「縣-火延-起兮—-顏烝」。
(ろ)上帝、かみ。○〔張衡〕「—謀設而「陰行」。
㊂樞極、もと。○〔老〕「—-牝之門」。
㊃道德、みち。○〔任昉〕「闡二—-闡一以闡レ化」。
㊄老子の說きたるみち。○〔世說〕「容-貌整-麗、妙二於談レ—」。
㊅おくふかし。
(い)微妙なり。○〔姚嵩〕「理之—者」。
(ろ)深遠なり。○〔揚雄〕「處二於—-宮一」。「默-爲レ神」。
㊆靜清なると、まづか。○〔漢〕「以二—-水」。
㊇北方。○〔淮〕「合二於—-海一」。
㊈水。○〔楚辭〕「—-與馳而並集」。○〔韋誕〕
㊉曾孫の子、やしやまご。「耀」。「啓二百-世之曾—-—一」。
⑪炫に同じ。○〔司馬相如〕「采-色—-
〔上玄〕上帝のと。○〔隋〕「受二命—・—一」。
〔通玄〕おくふかき理を悟り知る。○〔雲笈七籤〕「—・—一」。「—レ—達レ妙、其統有レ三」。
〔素玄〕白き色と黒赤き色と。○〔東都賦〕「服-尙二
〔玄々〕おくふかき貌にいふ語。○〔蔡邕〕「仰レ之若二—-嶽—・—-焉」。
〔重玄〕極めておくふかきと。○〔支遁〕「中-略高-韻-並、飛-宛-欽二—・—一」。「之—・—一」。
〔淸玄〕まづかなると。○傅休奕〕「固含二沖-德
〔宵玄〕大空のと。○〔北齊享廟樂辭〕「知-達二—-—一」。「成」。
〔靑玄〕前に同じ。○〔漢〕「忽-乘二—・—一、熙-事備
〔蒼玄〕前に同じ。○〔梁〕「上-靡二—・—一」。
〔儒玄〕仁義のみち。○〔梁〕「洞二達—・—一」。
〔配玄〕草の名、水仙花。○〔三餘帖〕「—・—-榮二於堂一」。
〔淵玄〕おくふかきと。○〔蔡邕〕「—・—-其深」。
〔深玄〕前に同じ。○〔梁昭明太子〕「二-儀-理-寶—・—」。
〔妙玄〕前に同じ。○〔陸雲〕「啓二達—・—一」。
〔齊玄〕同じく赤黒くあると。○閑居賦〕「服-振-々以—・—」。

四畫

【妙】ベウ、メウ。彌笑切 嘯
妙に同じ。

五畫

【玆】シ。子之 支 ケン、瑚涓
切 ゲン。切 先
㊀くろむ、(黒)、にごろ、(濁)。
㊁最も近き物事を指すにいふ字、このこれ。○〔易〕「受二—介-福一」。
㊂ここ。
(い)最も近き所。○〔書〕「爰宅二于—一」。
(ろ)最も近き時。○〔漢〕「歷レ載臻レ—」。
㊃年、時。○〔古詩〕「何能待二來-—一」。
〔今玆〕ことしと訓む、今年といふに同じ、又、いま、ここに。○〔孟〕「—・—未レ能」。
〔但玆〕往者といふが如し、既にすぎにし時。○〔書〕「—・—淮-夷徐-戎並-興」。

六畫

【率】シユツ、シユチ。朔律切 質
㊀捕鳥畢、とりあみ。○〔說文〕「象二絲罔一上-下其竿柄也」。
㊁志たがふ。
(い)遵奉す、うく。○〔左〕「鄭不レ—」。
(ろ)服從す、つく。○〔書〕「惟時有-苗不レ—」。
(は)依る。○〔詩〕「—二西-水滸一」。
(に)行ふ、用ふ。○〔左〕「—レ義之謂レ勇」。
(ほ)すぶ、(領)。○〔荀〕「論二一-相一以兼二—之一」。
(へ)ひきゐる、(將)。○〔左〕「率二—老-夫一以至二於此一」。
㊂大略、おほむね、みな。○〔漢〕「—常在二下-杜一」。
㊃一般、あまねきと。○〔梁〕「齊學-士刻レ燭爲レ詩四-韻則刻二一-寸一以レ此爲レ—」。
㊄先首、さきだち。○〔晉〕「榮身當二士-卒一爲二衆—-先一」。
㊅表的、めあて。○〔後漢〕「方-伯一-方表—-也」。
㊆差等、志な。○〔漢〕「諸-將—爲レ侯者」。
㊇洒落なると、さッぱりしたると。○〔世說新語補〕「晉劉-驎-之好遊二山-澤一、高—善二史-傳一」。
㊈簡略なると、てがろきと。○〔虞氏雜記〕「宋-五坦—-—」。
㊉輕遽なる貌にいふ字、かろぐし。○〔論〕「子-路—-爾而對」。
⑪輕く擧がる貌にいふ字。○〔漢〕「—-然高-擧、遠集二吳地一」。
〔牽率〕率ゐる。○〔後漢〕「曲-媚姦-臣爲レ所二—-—一」。「—レ—」。
〔中率〕軍功賞罰の科に當たれると。○〔史〕「有レ功—・—一」。
〔眞率〕さツぱりとしたると、てがるきと。○〔南〕「其—・—如レ此」。
〔坦率〕前に同じ。○〔北〕「—・—無レ私」。
〔通率〕前に同じ。○〔南〕「任レ情—・—」。
〔簡率〕前に同じ。○〔晉〕「性—・—不レ修二俗操一」。
〔放率〕前に同じ。○〔晉〕「帝彌當二其—・—一」。
〔兜率〕佛經にいふ天の名。○〔紫薇詩話〕「時秀實獨求レ生二—・—一」。「天-子一」。
〔悉率〕すべて循へ行く。○〔詩〕「—・—二左-右一、以燕二天-子一」。
〔收率〕手に入れひきゐる。○〔史〕「大-主—二—天-下一以賓レ秦」。「天-下一」。
〔首率〕先たち。○〔史〕「今乃—二—六-國一、紛二亂諸-方-略一」。
〔躬率〕自身とひきゐる。○〔吳〕「—・—二將-士一、施二
〔躬率〕前に同じ。○〔漢〕「—・—二吏-民一」。
〔大率〕大略に同じ、あらまし。○〔白居易〕「人-情之

(獎率) 勵ましひきゐる。○〔蜀〕「一二一三軍一」。
(勸率) 前に同じ。○〔晉〕「以一二一農功一」。
(奉率) うけ行ふ。○〔晉〕「一二一德義一」。
(任率) ありのまゝにて修飾せざること。○〔晉〕「一一不レ修二威儀一」。
(督率) 監督しひきゐる。○〔晉〕「使三王渾一二一所ロ統」。
(渇率) 集めひきゐる。○〔晉〕「一二一宗族一」。
(清率) 潔くしててがるきこと、いやみなきこと。○〔南〕「居レ身一一」。
(糾率) 合はせひきゐる。○〔南〕「一二一義勇一」。
(野率) 素朴にしてかざらざること。○〔南〕「秀之一一無二風宗一」。
(謙率) 高ぶらずしてさツぱりしたること。○〔南〕「性一一不下以二高名一自居上」。
(粗率) 粗末にしててがるきこと。○〔南〕「衣冠器用莫レ不二一一」。
(疎率) さツぱりしたること、かろぐしきこと。○〔南〕「性一一朗悟有二才略一」。

【率】 リツ、リチ。劣戌切 質

㊀かぞふ(計)、くらぶ(校)。○〔史〕「令二比一一從レ事」。
㊁約數、つゞめたるかず ○〔隋〕「約一圓徑七、周二十二」。
㊂比數、くらぶるかず。○〔宋〕「前一後一之術」。
㊃計比、わりあひ。「計レ錢」。
㊄限度、かぎり、ほど。○〔唐〕「以二權一一」 ○〔孟〕「不下爲二拙射一變中其彀一一上」。
㊅繂に同じ、ぬひつゞる。○〔禮〕「帶有レ一無二箴功一」。
㊆玉藉、たまをおくしきもの。○〔左〕「藻一鞞鞛」。

【率】 ルヰ。力遂切 寘

㊀わりあひ。○〔周、註〕「賦口一一出レ泉也」。「無レ應」。
㊁おほむね、みな。○〔王弼〕「一相比而

【率】 スヰ。所類切 寘

帥に同じ、をさ、かしら。○〔詩、序〕「方伯連一之職」。
(隊率) 軍隊のかしら。○〔史〕「遷爲二一一一」。
(將率) 前に同じ。○〔漢〕「如邊境有レ事、左右之人皆一一也」。
(渠率) かしら。○〔史〕「滕西爲二一一一」。

【率】 サツ、セチ。所滑切 黠

量六兩の稱。○〔史〕「其罰百一」。

玉部(王)

【玉】 ギョク、ゴク。魚欲切 沃

たま。
(い)堅剛にして釆澤(つや)ある美石の總稱。○〔書〕「分二寶一于伯叔之國一」。
(ろ)物事を稱美していふ字。○〔詩〕「生芻一束、其人如レ一」。
(は)物事を珍重していふ字。○〔書〕「惟辟一食」。
(に)寵愛する物事にいふ字。○〔詩〕「王欲レ一レ女、是用大諫」。
(ほ)成功せる物事にいふ字。○〔張載〕「貧賤憂戚、庸一二女于成一也」。
(五玉) 古支那にて、公侯伯子男の五等の諸侯の爵に應じて符として執りたるたま。○〔書〕「脩二五禮一一一」。「國一」。
(寶玉) 珍重なるたま。○〔書〕「分二一一于伯叔之國一」。
(金玉) こがねとたまと、轉じて、稱美すべきもの、珍重すべきものにいふ語。○〔詩〕「毋下一二一爾音一、而有中遐心上」。
(珠玉) たまの稱、又、轉義前に同じ。○〔爾〕「西方之美者、霍山之一一焉」。
(瑤玉) 前に同じ。○〔左〕「況一一乎」。
(瑞玉) 前に同じ。○〔江淹〕「帶二一一一而昇レ光」。
(璧玉) 前に同じ。○〔新語〕「一一珠璣」。
(如玉) 物の美しきにいふ語。○〔詩〕「有レ女一レ一」。
(寒玉) 綠玉に同じ、竹の別名。○〔陸龜蒙〕「萬條一一一一淡煙」。「一」。
(鳳玉) 鷺の別名、さぎ。○〔司馬相如〕「駕鵞一一」。
(蒼玉) 青き色のたま。○〔禮〕「衣二青衣一、服二一一一」。
(佩玉) 帶びたるたま。○〔詩〕「一一之儺」。

(佩玉之圖)

(琢玉) たまをうちみがく。○〔詩〕「可二以一一」。
(嘉玉) 宗廟の祭りに供ふるたま。○〔庾信〕「一一惟芳」。
(玄玉) 黑き色のたま。○〔禮〕「服二一一」。
(含玉) 支那の古禮にて、死人の口に含ましむるたま。○〔周〕「大宰大喪贊二贈玉一一一」。
(美玉) うつくしきたま、又、稱美すべき物事にいふ語。○〔論〕「有レ一二一于斯一」。
(龜玉) 龜の甲とたまと、共に尊重なる物の稱。○〔論〕「一一毀二于櫝中一」。「此一」。
(璞玉) 磨きをかけざるたま。○〔孟〕「有レ一二一於此一」。
(冠玉) かむりにつけたるたま。○〔史〕「平雖二美丈夫一、如二一一一耳、其中未二必有一也」。
(水玉) 水晶。○〔列仙傳〕「赤松子服二一一一」。
(抱玉) たまを所有すること、又、才智德行あることにいふ語。○〔後漢〕「一レ一乘レ龍」。
(埋玉) 人の死を悼みていふ語。○〔晉〕「一二一樹于土中一」。
(尺玉) 大きなるたま、玉の極めて貴重なるもの。○〔曹植〕「寒者不レ貪二一一一而思二短褐一」。
(瘞玉) 玉を土中に埋むること、山を祭るに行ひし古禮。○〔桓譚新論〕「一二一岱宗一」。
(沉玉) たまを水中に沈むること、川を祭るに行ひし古禮。○〔左〕「一レ一而濟」。
(碧玉) 青き色のたま。○〔拾遺記〕「駁二黃金一一一」「之車一」。
(素玉) 白き色のたま。○〔左思〕「綠碧一一」。
(雙玉) つゐのたま。○〔卻掃編〕「綠衣而持二一一一」。
(索玉) たまを探す。○〔蜀〕「擊レ石一レ一」。
(種玉) (い)妻緣のあつきにいふ語。○〔搜神記〕「羊公作二義漿於阪頭一、有レ人就飲、飲訖出二石子一升一與レ之云、此可二以一一レ、且得レ婦、羊公求二徐氏女一、女戲曰、得二白璧一雙一來、當レ爲レ婚、公至二所レ種石中一得二五雙一、以聘遂娶焉」。
(ろ)神仙の農事。○〔盧綸〕「開レ雲一レ一嫌二山淺一」。
(玄圃積玉) 其の人の詩文又は其の集の詩文のすべて佳妙の作なるにいふ語。○〔晉〕「陸機文猶二一一一一、無レ非二夜光一焉」。
(被褐懷玉) 世を遁れて美德を見はさゞるにいふ語。○〔老〕「知レ我者希則我貴、聖人一レ一一レ一」。
(藍田生玉) 藍田といふ處は美玉を産するの義、借りて名門は名士を出だし賢父は賢子を生むなどにいふ語。○〔吳〕「恪少有二才名一、發藻岐嶷、辯論應レ機莫二與爲一レ對、權見而奇レ之、謂二瑾曰一、一一一一、眞不レ虛也」。
(崑山片玉) 才子中の一人文士中の一人の義にいふ語。○〔晉〕「猶二桂林之一枝一一一之一一」。
(他石攻玉) 君子の小人に侵さるゝは却つて其の德器を成就するのたすけとなるにいふ語。○〔詩〕「一山之一、可二以一一」。

【玉】 シュク、ソク。息六切 屋

㊀琢玉の工人、たますり。
㊁きずたま、朽玉。

【玉】 キウ、ク。許救切 宥

篆玉の工人、たまのさいくにん。

【王】 ワウ。雨方切 陽

㊀一國の君主の稱號、夏以後に始まりたる稱號なりとす、特に帝に比しては功德其の亞ぎなるものゝ意あり、又、覇に對しては德教を政事の主要となすものゝ義あり。○〔書〕「天子作二民父母一、以爲二天下一一」。
㊁大諸侯の稱號、秦以後に始まりたる稱號なりとす。○〔史〕「大丈夫定二諸侯一、卽爲二眞一一耳」。

㊂帝室の男子の特號。○〔名畫記〕「江都――緒・霍――元軌之子、太宗皇帝猶子也、多二才藝一善二書畫一」。
㊃人臣の最も高き爵位。○〔韓愈〕「贈太師北平莊武――之孫」。
㊄或る同類或る種族の首長の稱號、をさ、かしら。○〔老〕「江海所三以能爲二百谷――一者、以二其無一レ不レ受」。
㊅血統上に一級前みたるにいふ字。○〔爾〕「父之考爲二――父一、父之母曰二――母一」。
㊆大いなるもの〻稱號にいふ字。○〔周〕「春獻二――鮪一」。
㊇諸侯封を襲ぎたる時に天子に參朝すること。○〔詩〕「莫三敢不二來――一」。

〔哲王〕賢明なる君のこと。○〔詩〕「世有二――一」。
〔君王〕人民を統治する人。○〔禮〕「――討二敵邑之罪一」。
〔前王〕前代のきみ。○〔詩〕「於乎――不レ忘」。
〔三王〕夏の禹王、殷の湯王、周の武王をいふ。○〔禮〕「凡――養レ老皆以レ年」。
〔勤王〕帝王に忠義をつくすこと。○〔左〕「求二諸侯一莫レ如二――一」。
〔天王〕天子のこと。○〔穀梁〕「亦所三以尊二――一之命一也」。
〔后王〕前に同じ。○〔書〕「樹二――君公一」。
〔帝王〕前に同じ。○〔後漢〕「凡遊二――一者」。
〔懦王〕懦弱なるきみ。○〔史〕「吾――也」。
〔稗王〕小王のこと。○〔漢〕「得二右賢――十餘人一」。
〔名王〕なだかききみ。○〔漢〕「越地及匈奴――」。
〔木王〕あづさの木。○〔古今注〕「梓爲二――一」。
〔花王〕牡丹の花を稱していふ。○〔牡丹譜〕「人謂二牡丹――一」。
〔法王〕佛法などすべて敎法中のかしら。○〔庾信〕「――御レ世、天人論レ道」。
〔賢王〕智德のすぐれたるきみ。○〔孟〕「古之――好レ賢而忘レ勢」。
〔辟王〕君王といふに同じ。○〔詩〕「濟々――」。
〔聖王〕智德兼備の明主をいふ。○〔禮〕「故人情者、――之田也」。
〔盛王〕德のさかんなるきみ。○〔禮〕「虞夏殷周天下之――也」。

【王】ワウ。于放切〔漾〕
㊀一國に君臨すること、大諸侯となり封土にあたること、帝室の男子にして特號を受くること、最高の爵位にのぼること。○〔詩〕「――二此大邦一」。
㊁一國に君臨せしむること、又、封土を與へて大諸侯とすること、又、帝室の男子に特號を與ふること、最高の爵位に就かしむること。○〔漢〕「項羽背レ約而――二君王於南鄭一」。
㊂さかんなり（盛）。○〔莊〕「神雖レ――不二善也」。
㊃ゆく（往）。○〔詩〕「昊天曰明、及レ爾出――」。

二畫

【[王厶]】シ。息夷切〔支〕
玉に似たる石。

【玌】シツ、シチ。疎逸切〔質〕　キウ、グ。巨幼切〔宥〕
玉の器。

【玎】テイ、チヤウ。當經切〔青〕　タウ、チヤウ。中莖切〔庚〕
玉の聲にいふ字。

【玏】ロク、リキ。盧側切〔職〕
玉に次ぐ美石。○〔司馬相如〕「瑊――玄厲」。

【[王卜]】ハク、ホク。匹角切〔覺〕
璞に同じ。

【玐】ハツ、バチ。博拔切〔黠〕
㊀玉の聲にいふ字。㊁玉の名。

三畫

【[王凡]】キョウ、ク。古勇切〔腫〕
たま（璧）。

【[王刃]】シン。息進切〔震〕
玉の名。

【玒】コウ、ク。沽紅切〔東〕
たま（玉）。

【[王凡]】シン。思晉切〔震〕
あまねし（遍）。

【[王乞]】イツ、オチ。於筆切〔質〕
たかし（高）。

【玓】テキ、チヤク。都歷切〔錫〕
明珠の光耀あるにいふ字、かゞやく、ひかる。○〔史〕「――二瓅江靡一」。

【[王土]】ホ、フ。博古切〔麌〕
玉の器。

【玔】セン。樞絹切〔霰〕
玉釧、たまのうでわ、又、玉環、たまのわ。

【玕】カン。古寒切〔寒〕
琅――は、玉に次げる一種の美石。○〔書〕「球・琳・琅――」。

【玖】キウ、ク。擧友切〔有〕　居祐切〔宥〕
玉に次げる黑色の美石。○〔詩〕「投レ我以二木李一、報レ之以二瓊――一」。
〔佩玖〕からだのかざりにつくる美石。○〔詩〕「貽二我――一」。

【玗】ウ、チ。羽俱切〔虞〕
玉に似たる一種の石、一說に、玉の屬。○〔爾〕「東方之美者有二醫無閭之珣――琪一」。

【玘】キ。去里切〔紙〕
佩玉、おびたま。

四畫

【[王爪]】サウ、セウ。側絞切〔巧〕
瑵に同じ。

【玝】ゴ、グ。阮古切〔麌〕
人の名。

【玞】フ、ブ。甫無切〔虞〕
赤地にして白文ある一種の美石。○〔山海經〕「會稽之山下多二――石一」。

【[仍/玉]】ジョウ、ニョウ。如乘切〔蒸〕
玉の器。

【玟】ビン、ミン。眉貧切〔眞〕
珉に同じ。○〔禮〕「士佩二瓀――一而縕組綬」。

【玟】ブン、モン。無分切〔文〕
玉の文。

【玠】カイ、ケ。古拜切〔卦〕
其の大いさ尺二寸にして諸侯を封ずるしるしとして用ひし玉。○〔爾〕「珪大尺二寸謂二之――一」。

【玡】ガ、ゲ。魚駕切〔禡〕
骨の玉に似たるもの。

【玢】ヒン、府巾 ビン。切 [眞]　フン、方文 ホン。切 [文]　ハン、逋閑 ヘン。切 [刪]
玉の文理ある貌にいふ字。○〔漢〕「――豳文磷」。

【玣】ヘン、ベン。皮變切 [霰]
玉飾の弁、かんむり。

【玤】ホウ、フ。補孔切 [董]
玉に次ぐ一種の石、系璧（かけひものかざり）と爲すもの。

【⿰王殳】ボツ、モチ。莫勃切 [月]
玉の屬。○〔穆天子傳〕「采石之山有二――瑤一」。

【玥】ゲツ、グワチ。魚厥切 [月]
神の珠。

【⿰王丑】
古文の鈕の字。

【玦】ケツ、ケチ。古穴切 [屑]
一 形は環の如くにして缺くる所ある佩玉、おびたま。○〔史〕「范增數以レ手循レ――示二項羽一」。
二 弓を射る者の弦を持つに右手の大指に掛くるもの、ゆがけ。○〔禮〕「右佩レ――」。
〔玉玦〕玉環に似て缺けたるところあるもの。○〔王建〕「兩頭纖々靑――」。
〔寶玦〕たふときおびたま。○〔魏文帝〕「――初至」。
〔紫玉玦〕茶の異名。○〔蘇軾〕「客賴二赤泥印一、遠物二―――一」。
〔烏玉玦〕墨の異名。○〔孫莘老〕「近有二唐夫子遠致二―――一」。

【玧】イン。余準切 [軫]
充耳の玉、みゝたま。

【⿰王兊】エン。余專切 [先]
――瑤は、蠻夷の充耳、みゝふさぎ。

【玧】ボン、モン。謨奔切 [元]
璊に同じ、赤色の玉。

【珏】カク、古岳 コク。切 [覺]　コク。古祿切 [屋]
一對の玉。

【玩】グワン。五換切 [翰]
一 もてあそぶ（弄）。○〔書〕「―レ人喪レ德、―レ物喪レ志」。
二 なる（習）。○〔易〕「所二樂而―一者、爻之辭也」。
三 もてあそぶ器具、てあそび、おもちや。○〔陸機〕「奇――應レ響而赴」。
〔把玩〕手に執りてもてあそぶ。○〔陳琳〕「――無レ厭」。
〔執玩〕前に同じ。○〔宋〕「輒――咨嗟自歎」。
〔嗜玩〕好みてもてあそぶ。○〔漢〕「后在レ位恭儉、少二――一、不レ喜二笑謔一」。
〔珍玩〕めづらかなるもてあそび物。○〔後漢〕「圖書術籍、――寶怪、皆所二藏在一也」。
〔飾玩〕かざりて弄び物とす。○〔南〕「婦女亦不レ得三以爲二――一」。
〔耽玩〕嗜み弄ぶ。○〔吳〕「――二春秋一、爲二之註解一」。
〔服玩〕貴重なる弄び物。○〔吳、註〕「衣服禮秩、――珍異之賜、諸子莫レ得レ比焉」。
〔傳玩〕人の手より人の手へとわたして弄ぶ。○〔晉〕「五騎――、稽留遂久」。
〔愛玩〕めで弄ぶ。○〔水經、註〕「故爲二人所一――」。
〔悅玩〕前に同じ。○〔晉〕「皆――爲二之訓詁一」。
〔賞玩〕前に同じ。○〔晉〕「有レ足二――一焉」。
〔聲玩〕慰みの物。○〔齊〕「屏二斥――一」。
〔游玩〕慰みあそぶ。○〔南〕「招二集文士一、盡二――之適一」。
〔雜玩〕くさぐさの慰み物。○〔南〕「金銀珠玉衣服――、悉皆禁斷」。
〔器玩〕てあそび。○〔唐〕「天子――、后妃服飾」。
〔秘玩〕ひめおき弄ぶもの。○〔眞集〕「陳二――一」。
〔垢玩〕褻れなる。○〔唐〕「內外――」。
〔精玩〕くはしくなる。○〔宋〕「治レ經當二謹守――一」。
〔翠玩〕飾りとし弄ぶ。○〔抱朴〕「捕二飛禽一以供二――一」。
〔妖玩〕正しからざる慰み物。○〔宋玉〕「鄭衞――、來雜陳些」。
〔弄玩〕慰みもてあそぶ。○〔陶明鑑〕「帝甚――」。
〔嘉玩〕喜びて慰む。○〔益部方物記〕「爲二世――一」。
〔世玩〕世の中の弄び物。○〔書品〕「故道二斯紙一、以爲二――一」。
〔戲玩〕たはぶれもてあそぶ。○〔開元天寶遺事〕「――二于其間一」。
〔持玩〕手にとり慰む。○〔王氏談錄〕「――不レ厭」。
〔携玩〕前に同じ。○〔韓愈〕「何人可二――一」。
〔睹玩〕日に見て慰む。○〔裴度〕「方可二――一」。
〔展玩〕披きのべて弄ぶ。○〔梅堯臣〕「八軸――忘二晨炊一」。

【玪】カン、古函 ケン。切 [咸]　ケン、其淹 コン。切 [鹽]　ギン、魚音 ゴン。切 [侵]
玉に次げる一種の石。○〔玉篇〕「米石山有二――珩琪一」。

【玫】バイ、メ。莫桮切 [灰]
――瑰は、火齊珠、一說に、美石。○〔漢〕「其石則赤玉――瑰」。

【⿱穴玉】ゼツ、ネチ。仁劣切 [屑]
動く貌にいふ字。

【玭】ヒン、步因 ビン。切 [眞]　ヘン、部田 ベン。切 [先]　ヘイ、部迷 ベイ。切 [齊]
淮水に生ずる一種の珠、たま、拍てば能く聲を發するものといふ。○〔何晏〕「垂二環――之琳玉一」。

五畫

【⿰王叏】
玦の本字。

【玲】レイ、リヤウ。郎丁切 [靑]　ラウ、リヤウ。力耕切 [庚]
一 金玉の聲にいふ字。○〔文心雕龍〕「――如レ振レ玉」。
二 明かに見ゆる貌にいふ字。○〔左思〕「珊瑚幽茂而――瓏」。
〔瓏玲〕たまの聲にいふ語。○〔甘泉賦〕「前殿崔巍兮和氏――」。
〔玎玲〕前に同じ。○〔元好問〕「石根寒溜玉――」。

【玳】タイ、ダイ。待戴切 [隊]
俗の瑇の字、又、瑇瑁の略に用ふる字。○〔范雲〕「儐從皆珠――」。

【玴】ケイ。吉曳切 [霽]
玉に似たる一種の石。

【玵】ガン、ゴン。五甘切 [覃]
美しき玉。

【玷】テン。都念切 [豔]　多忝切 [琰]
一 かく。
（い）玉傷つく。○〔詩〕「白圭之―、尙可レ磨」。
（ろ）過つ。○〔詩〕「斯言之―、不レ可レ爲」。
二 かけ、きず。
（い）玉の傷つきたる所。○〔張仲素〕「懷レ璧者耻二慢臧而成一レ―」。
（ろ）過失、欠點。○〔金〕「太猛則小―亦將レ不レ免二于罪一」。
〔毀玷〕きず。○〔後漢〕「訖無二――一」。
〔瑕玷〕前に同じ。○〔後漢〕「典籍無二――一矣」。
〔微玷〕すこしのきず。○〔遼〕「平泉后投二璽擲一階蟠角――」。

【玷】テン、トン。丁兼切 [鹽]
玷に同じ。

【玸】フ、ブ。防無切 [虞]
玉の文、一説に、玉の名。

【玹】ケン。黄練切 [霰] 熒涓切 [先]
㊀玉の色。㊁玉に次げる石。

【璽】俗の璽の字。

【玻】ハ。滂禾切 [歌]
——瓈は、一名、水玉、硝石を製したる透明體のもの、がらす、びいどろ、ぎやまん。○[唐]「赤——瓈綠-金-精」。

【玼】セイ、サイ。千禮切 [薺]
色の鮮かなるにいふ字、あざやか。○[詩]「—兮—兮其之翟也」。

【玼】シ、疾移切 [支] シ。雌氏切 [紙]
㊀きず、(玷)。○[後漢]「靡レ不下服二深-遠一去中——吝上」。㊁玉の中にある石。

【玽】コウ、ク。古厚切 [有]
玉に次げる一種の石。

【玽】コウ、ク。居侯切 [尤]
玉の名。

【玿】セウ。市昭切 [蕭]
美しき玉。

【珀】ハク、ヒヤク。普伯切 [陌]
琥——は、松脂などの地中に入りて化石したるもの、其の色種々あり、摩拭すれば熱を生じ能く芥などを吸ふ。○[正字通]「如二血色一拭熱能吸レ芥色黄明瑩名二蠟——一、色似二松-香一紅而且黄者名二明——一、無二紅-色一如二淺-黄-多二皺-文一名二水——一、如レ石重色黄名二石——一文一-路赤一-路黄者名二花——一、淡者名二金——一、黑者名二鷖——一」。

〔紅珀〕くれなゐのこはく。○[柳毅傳]「鎖-埤君出二——盤一」。
〔水珀〕紅色なく淺黄の如くにしてあやあるこはく。○[本草]「——多無二紅-色一、如二淺-黄一多二皺-文一」。
〔石珀〕石の如くに重く黄色なるこはく。○[本草]「——如二石-重一、色黄不レ堪レ用」。
〔蠟珀〕黄色にしてひかりあるこはく。○[本草]「虎-珀色黄而明-瑩者、名二——一」。

【瓨】瓷に同じ。

【珂】カ。苦何切 [歌]
㊀玉に次げる一種の石、一説に、一種の玉、又、一説に、白碼碯。○[劉蛻]「撼二懸——一兮珊々」。㊁螺の屬、其の介は外黄黑にして內白し馬勒をかざるに用ひしぞ、くつわかざり。○[韓愈]「送以二紫-玉——一」。㊂一種の金。○[事物紺珠]「有二——金一」。
〔譲珂〕鳥の名。○[說苑]「東方有レ鳥、名二——一」。
〔玉珂〕馬具をかざるたま。○[張華]「乘レ馬鳴二——一」。
〔珮珂〕身のかざりにおぶるたま。○[蘇轍]「何處相逢解二——一」。

【玬】ゼン、子ン。而琰切 [琰]
たま、(玉)。

【玣】ヘン、ベン。皮變切 [霰]
弁を飾る玉。

【珄】セイ、シヤウ。所庚切 [庚]
金の色。

【玐】キヨウ、ク。其凶切 [冬]
うでわ、(玔)。

【珆】イ。盈之切 [支]
玉に似たる一種の石。

【珆】タイ。湯來切 [灰]
龍——は、龍文ある圭玉の名。

【珇】ソ、ス。則古切 [麌]
㊀玉面に凸く彫刻を施すこと、あげぼり。㊁よし、(好)、うつくし、(美)。

【珇】シヨ、ゾ。在呂切 [語]
玉の文。

【珈】カ、ケ。古牙切 [麻]
婦人の首飾、かみかざり、編髮の上に加ふる笄飾の最も盛んなるものにして卽ち玉類などを垂れ下げたるもの、古昔は、其の垂玉の數の多少によりて尊卑を分けたりといふ。○[詩]「副笄六——」。

【珉】ビン、ミン。武巾切 [眞]
玉に次げる一種の美石。○[禮]「君-子貴レ玉而賤レ——」。
〔翠珉〕綠色の玉に似たる石。○[黄庭堅]「不下得二雄-文一鐫中——上」。
〔綠珉〕前に同じ。○[孟郊]「——已離レ排」。
〔堅珉〕かたきいし。○[范成大]「百代考二——一」。

【珊】サン。蘇干切 [寒] サツ、桑葛切 [曷] サチ。切
㊀瑚の條を見よ。○[史]「——瑚叢-生」。㊁佩玉の聲にいふ字。○[杜甫]「時聞雜-佩聲——」。
〔婆珊〕匍匐して上下すること。○[司馬相如]「——勃-窣上二金-堤一」。
〔闌珊〕ちりへる貌にいふ語。○[李羣玉]「絲-管——歸-客盡」。

【珋】リウ、ル。力九切 [有]
いし、(石)。

【珌】ヒツ、卑吉切 [質] ヘツ、必結切 [屑] ヒチ。 ヘチ。
佩刀の下部の玉飾、たまのかざり。○[詩]「鞞-琫有レ——」。

【珍】チン。陟鄰切 [眞]
㊀貴重すべし、たふさし、おもし、又、貴重すべき物、たから。○[墨]「賢-良之士、厚二乎德-行一辨二乎言-談一博二乎道-術一、此固國-家之——而社-稷之佐也」。㊁善美なり、よし、うつくし、又、善美なる物。○[呂氏春秋]「味禁レ——衣禁レ襲」。㊂奇異なり、くし、めづらし、又、奇異なる物。○[書]「——禽奇-獸」。㊃甘美なり、うまし、又、甘美なる食味。○[禮]「八-十常レ——」。㊄瑞玉、志るしだま。○[周]「——圭」。
〔坤珍〕洛書をいふ。○[後漢]「琨-圭乃握二乾-符一闡二——一」。
〔兼珍〕うまき食物をいくいろもあはす。○[後漢]「食無レ——」。
〔寶珍〕たふときたま。○[戰]「——隋-珠不レ知「佩兮」。
〔賈珍〕星の名。○[魏]「㬎-珠——」。
〔殊珍〕すぐれたるたから。○[宋]「不レ貴二——一」。

【珓】カウ、ケウ。古孝切 效
杯――は、巫の吉凶を占ふに用ふる器、古は之を玉にて作れりといふ。

【珕】レイ、郞計切 霽 リ。力智切 寘
㊀蠡の屬、一說に、牡蠣の屬。○〔郭璞〕「――珋璿瑰」。
㊁佩刀の飾。○〔詩〕「土――琫而――珌」。

【珙】キョウ、グ。渠容切 冬
おびだま（佩玉）。

【珖】クヮウ。姑黃切 陽
玉の名。

【珗】セン、ゼン。蕭前切 先
玉に次げる一種の石。

【琇】シウ、シユ。之由切 尤
たま（玉）。

【珙】キョウ、拘竦切 腫 ク。九容切 冬
大いなる璧玉、おほたま。○〔左〕「竊ニ其――璧一」。
（雙珙）一對のおほいなるたま。○〔元稹〕「求ㇾ天叩ㇾ地持ニ――一」。

【珙】コウ、グ。胡公切 東
玒に同じ。

【珆】タイ、テ。都廻切 灰
玉を治む、みがく。

【珚】エン。因蓮切 先
玉の名。○〔山海經〕「傳ㇾ山谷水出焉、其中多ニ――玉一」。

【珛】キウ、許救切 宥 キョク、吁玉切 沃 コク。切
きずだま（朽玉）。

【珝】イ。與之切 支 キ。居之切
玉に似たる一種の石、一說に、五色の石。

【珝】ク。況主切 麌
たま（玉）。

【珞】ラク。盧各切 藥
瓔――は、珠をつなぎてつくりたる頸飾、くびかざり。○〔郭翼〕「瓔衣寶――氣氤氳」。

【珞】レキ、リヤク。郞擊切 錫
皪に同じ。

【珮】シユク、ソク。息逐切 屋
㊀きずだま（朽玉）。㊁琢工、たますり。

【珠】シユ、ジユ。章俱切 虞
（い）河海に產する圓形の玉。○〔史〕「徑寸之――」。
（ろ）圓形の玉の狀をなすもの。○〔李白〕「白露垂ㇾ――滴ニ秋月一」。
（は）物事の美稱にいふ字。○〔文心雕龍〕「茂光搖ㇾ筆散ㇾ――、太沖動ㇾ墨而橫ㇾ錦」。
（蠙珠）はまぐりのたぐひより生ぜるたま。○〔書〕「淮夷――蠙魚」。「南出ニ――一」。
（蚌珠）前に同じ。○〔岳陽風土記〕「御池在湖。
（明珠）ひかりあるたま。○〔晉〕「與ㇾ玠同遊婢若ニ――之在ㇾ側朗然照ㇾ人」。
（眞珠）志んじゆといふたま。○〔宋〕「追ニ――衫帽及――一百五兩」。
（瑤珠）たまの名。○〔荀〕「璇玉――不ㇾ知ㇾ佩」。
（江珠）琥珀の異名。○〔博物志〕「琥珀一名ニ――一」。
（美珠）うつくしきたま。○〔淮〕「――不ㇾ文」。
（寶珠）たふときたま。○〔荀〕「處女嬰ニ――一」。
（離珠）星の名。○〔晉〕「――五星、在ニ須女北一」。
（瓔珠）たまの名。○〔晉〕「而貫ニ――一」。
（赤珠）一に龍珠と名づく、龍頷にありと稱するたま。○〔宋〕「有ニ玉雜衜ニ――一」。
（念珠）佛を祈念する者の手にもつつなぎたるたま、おゆず。○〔舊唐〕「手持ニ――一」。
（數珠）前に同じ。○〔蘇軾〕「從ㇾ君乞ニ――一」。
（貫珠）たふときたま。○〔抱朴〕「――出ニ乎蚌一」。「――曰ㇾ璫」。
（耳珠）みゝのかざりにつくるたま。○〔風俗通〕「――
（蛇珠）蛇のくちより吐きたるたま。○〔述異記〕「出ニ――一」。「――蛇所ㇾ吐也」。
（青珠）琅玕といふ美石。○〔華陽國志〕「廣陽縣
（細珠）こまかきたま。○〔嶺表錄異〕「――如ニ粱粟一」。「衰」。
（淚珠）なみだのこと。○〔黃滔〕「――流盡玉顏
（連珠）辭句を對比し連續して諷諭假托を主とする一種の文體。○〔沈約〕「――之作始ニ於子雲一」。

【琹】古文の琴の字。○〔漢魯君碑〕「――書自娛」。

【珟】ユ。羊朱切 虞
玉に次ぐ一種の美しき石。

【珂】瓌に同じ。

【球】璩に同じ。

【琨】ギン、語巾切 眞 ゴン。切 コン・古痕切 元
玉に似たる一種の美石。

【琨】コン。苦恨切 願
玉にたかくなれる跡あること。

【珣】シユン。相倫切 眞
㊀玉の屬。○〔爾〕「東方美者有ニ醫無閭之――玗琪一焉」。
㊁玉の器。

【珣】シユン。須閏切 震
玉の名。

【珸】古文の寶の字。○〔八俊歌〕「天下――金劉叔林」。

【珥】ジ、仍吏切 寘 ニ。切 忍止切 紙
㊀耳に飾る珠玉、みゝだま、みゝかざり。○〔史〕「夫人脫ニ簪――叩頭」。
㊁つば（鐔）。○〔楚辭〕「撫ニ長劍之玉――一」。
㊂さしはさむ（挿）。○〔左思〕「七葉――ニ漢貂一」。「蜺」。
㊃日旁の雲氣、ひがさ。○〔漢〕「抱――虹蜺」。
㊄衈に同じ、牲を割きてまつる祭祀。○〔周〕「以ニ歲時一序ニ其祭祀及其祈――一」。
㊅禽の左耳を取りて功のしるしとなすこと。○〔周〕「致ㇾ禽而――」。
㊆咡に同じ。○〔淮〕「蠶――ㇾ絲」。
（冠珥）赤色の雲氣の太陽のかたはらにあること。○〔周、註〕「虹――也」。「在ニ芳樹下一」。
（墮珥）おちたるみゝたま。○〔李羣玉〕「――尙
（珠珥）たまのみゝかざり。○〔漢〕「――在ㇾ耳」。
（玉珥）前に同じ。○〔韓〕「於ㇾ是爲ニ――一」。

【珥】ジョウ、ニョウ。如蒸切 蒸
前條の㊄に同じ。

【珗】エイ。余制切 ケイ。吉曳切 霽
玉に似たる一種の石。

【珦】キヤウ、カウ。許亮切 シヤウ、サウ。式亮切 漾
たま(玉)。

【珧】エウ。余昭切 蕭
㊀蚌の屬、いたがひ、其の甲は物を飾るに用ふ。○〔爾〕「蜃小者―」。㊁刀飾、かたなかざり。○〔詩〕「天子玉琫而―珌」。㊂一種の弓、いたらがひにて飾りたるもの。○〔楚辭〕「馮レ―利レ決」。㊃一種の玉。○〔抱朴〕「―華黎綠連城之寶也」。
〔蜃珧〕はまぐりのたぐひ。○〔山海經〕「嶧皋之山多二蜃―一」。
〔蛤珧〕前に同じ。○〔周必大〕「東海沙田種二蛤―一」。

【珨】カフ、ケフ。侯夾切 洽
玉蛤、はまぐり、一説に、蜃の甲にて飾りたる器。

【珨】アフ、エフ。烏甲切 洽
門を開閉すると。

【珩】カウ、ギヤウ。戸庚切 庚
㊀佩上の飾玉、おびだま。○〔詩傳〕「雜佩―璜琚瑀衝牙之類」。㊁冠を維持するもの、かむりひも。○〔張衡〕「―紞紘綖」。
〔葱珩〕あをいろの佩びものゝたま。○〔詩、疏〕「赤芾―｜」。
〔黝珩〕あをぐろき色の佩びものゝたま。○〔詩、疏〕「赤・―｜」。
〔璁珩〕おびものゝたま。○〔許善心〕「噦々鏘二―｜一」。
〔璜珩〕前に同じ。○〔鄭元祐〕「篆隷可レ寶如二―｜一」。

【珪】古文の圭の字。

【珫】ジウ。ジユ。昌終切 東
みゝだま(充耳)。

【珬】シユツ、ジユチ。辛律切 質
珂の屬。○〔左思〕「致二遠流離與二珂―一」。

【班】ハン、ヘン。布還切 刪
㊀わかつ、わく。(い)ついでを定む、くらゐを設く、ついづ。○〔玉海〕「以二官位一序―」。(ろ)頒布す、くばる、しく。○〔書〕「武王既勝レ殷、邦二諸侯一―二宗彝一」。㊁わかる(別)。○〔左〕「有二―馬之聲一」。㊂つらぬ、つらなる(列)。○〔書〕「―レ師振レ旅」。㊃次序、ついで。○〔左〕「使三魯爲二其―一」。㊄階位、くらゐ。○〔左〕「―在二九人一」。㊅行列、ならび。○〔玉海〕「分レ行侍二立於丹墀之下一、謂二之蛾眉―一」。㊆雜色、まだら。○〔禮〕「―白者不レ提レ挈」。㊇あまねし(徧)。○〔國〕「車―二外內一」。㊈ひさし(齊)。○〔孟〕「若レ是―乎」。㊉かへる、かへす(還)。○〔牛弘〕「―馬蕭々、歸旌奕々」。⑪槃桓(めぐる)して進まざる貌にいふ字。○〔易〕「乘レ馬―如」。⑫車の聲にいふ字。○〔後漢〕「車―｜而入二河閒一」。⑬明著なる貌にいふ字。○〔後漢〕「不二敢―｜顯言一」。
〔亂班〕順序を失ふ。○〔唐〕「臨淄曰、王―レ｜」。
〔立班〕次序を設く。○〔宋〕「詔―レ｜」。
〔朝班〕朝廷内にて百官の整列するくらゐ。○〔會要〕「彈二―｜不一レ肅」。
〔雄班〕勢力ある位置。○〔唐中宗〕「專席―｜、惟賢是屬」。
〔崇班〕貴重なる位階。○〔盧懷愼〕「忝此愧二―｜一」。
〔榮班〕名譽ある位置。○〔錢起〕「得レ道在二―｜一」。
〔超班〕已れの就くべき位置に急ぎおもむく。○〔蘇軾〕「雜沓來―レ｜」。
〔淸班〕朝廷のきよらかなる位次。○〔蘇軾〕「圭璋滿二―｜一」。
〔常班〕つねなみの位次。○〔晉〕「禮絕二―｜一」。
〔神班〕祭に神の就く位次。○〔隋〕「―｜有レ次」。
〔倫班〕順なはりに次序を立つ。○〔宋〕「詔宰相與二參政一、―｜知レ印」。
〔同班〕おなじき位次。○〔宋〕「參レ事則―レ｜」。
〔末班〕最終の位次。○〔元稹〕「犀象橫前奉二―｜一」。
〔下班〕前に同じ。○〔孟浩然〕「牛刀列二―｜一」。
〔微班〕位次の低きこと。○〔杜甫〕「通二籍―｜忝一」。
〔官班〕官職の上の位次。○〔羊士諤〕「好レ學棄二―｜一」。
〔戀班〕官職を戀ふこと。○〔李紳〕「疏受辭レ榮豈―レ｜」。
〔聯班〕位次を連らぬ。○〔李東陽〕「星壇對立本―レ｜」。

【珮】ハイ、ベ。蒲昧切 隊
佩に同じ。

【⿰王𡿺】ダウ、ノウ。乃老切 皓
瑙に同じ。

七畫

【珳】ブン、モン。無分切 文
玉の文。

【珴】ガ。牛何切 歌
珪璋を奉ぐる貌にいふ字。

【珵】テイ、ヂヤウ。直貞切 庚
美しき光輝ある佩玉、おびだま。○〔屈平〕「覽二察草木一其猶未レ得兮、豈―美之能當」。

【珵】テイ、チヤウ。他項切 迥
珽に同じ。

【珶】テイ、ダイ。田黎切 齊
瑅に同じ。

【珶】テイ、ダイ。大計切 霽
佩玉、おびだま。○〔曹植〕「抗二瓊―一以和レ予兮」。

【珷】ブ、ム。罔甫切 麌
碔に同じ、玉に似たる一種の石。

【珋】リウ、ル。力求切 尤
光輝ある美石。○〔郭璞〕「珕―｜―璢瑰」。

【⿰王步】ホ、ブ。薄故切 遇
―瑶は、一種の美しき玉。

【珸】ゴ、グ。五乎切 虞
琨―は、一種の美しき石。○〔史〕「琳―瑉琨―｜」。

【珹】セイ、ジヤウ。是征切 庚
玉の名、一説に、珠の類。

【珺】クン、ゴン。渠運切 問
美しき石。

【⿰王貝】ハイ、バイ。博蓋切 泰
貝の飾。

【珽】テイ、チヤウ。他項切 迥
㊀一種の美玉。○〔相玉書〕「―玉六寸明自照」。㊁玉の笏、しやく。○〔左〕「袞冕黻―」。
〔玉珽〕たまの笏。○〔北〕「帝以二―｜一自レ後躡レ之踣レ地」。

【琭】トヽ、ツ。通都切 虞
瑹に同じ、美しき玉。

【現】ケン、ゲン。形甸切 霰
㊀珠玉の光輝、ひかり。
㊁出顯す、發生す、あらはる。○〔淨住子〕「有レ形則影－、有レ聲則響應」。
㊂あらはれしむ、あらはす。○〔三藏法數〕「能－色－像一是名二現－識一」。
㊃實在なること、うつゝ。○〔三藏法數〕「－起－生－聚－集－出－現」。
㊄此の時、いま、卽今、今生。○〔三藏法數〕「雖レ不二－作一望二於未－來一、畢－竟不レ－」。
〔顯現〕をどりあらはるゝこと。○〔梁簡文帝〕「多－寶－－」。
〔從現〕虛空中よりあらはれいづること。○〔陸倕誌法師誌銘〕「猶如二－－一」。
〔應現〕世の中のさまによりてあらはれいづること。○〔温子昇〕「－－託レ生」。
〔權現〕かりに世の中にあらはるゝこと。○〔揚炯〕「菩薩之－－」。
〔普現〕ひろくあらはるゝこと。○〔范成大〕「－－無二邊際一」。

【現】ケン、ゲン。胡典切 銑
玉に次げる一種の石。

【琡】シユク、ソク。初六切 屋

サク、ソク。測角切 覺
ひさし、（等、齊）。

【琀】カン、ゴン。胡紺切 勘　胡南切 覃
喪に贈る珠玉、卽ち、死者の口中に入れて左右の齶を柱ふるもの。

【琁】セン、ゼン。似宣切 先
璿に同じ、美しき玉。○〔荀〕「－－玉瑤珠不レ知レ佩也」。

【珽】ケイ、ギヤウ。褧當切 庚
赤玉、あかだま。

【珸】ゴ、グ。吾乎切 虞
琨に同じ。

【琂】ゲン、ゴン。語軒切 元
玉に似たる一種の石。

【球】キウ、グ。巨鳩切 尤
㊀玉を以て板さなしたる磬。○〔書〕「戛－擊鳴レ－」。
㊁一種の美玉。○〔詩〕「受二小－－大－－一」。
〔琳球〕玉の名。○〔傅寬〕「贈二言重一－－一」。
〔紫球〕むらさき色のうつくしき玉。○〔魏略〕「西域來獻二－－一」。

【琄】ケン。乎畎切 銑　ケイ、ギヤウ。戶茗切 迥
佩玉の貌にいふ字。

【琅】ラウ。魯當切 陽
㊀－玕は、玉に似たる一種の美しき石。○〔蘇軾〕「菩－薩指二黃－壤一、要－言刻二靑－－一」。
㊁玉石の聲にいふ字。○〔司馬相如〕「瑠－石相擊、－－磕－々」。
〔倉琅〕靑銅もて作りたる門に著くる鋪首のこと。○〔漢〕二莖－謠曰、木－門－－根」。
〔玲琅〕きよらかなる玉の聲にいふ語。○〔劉子翬〕「－－一鼓萬欲春」。
〔琅琅〕鈴のこと。○〔朱德潤〕「細腰桿動金－－」。
〔琳琅〕玉の聲にいふ語。○〔楚辭〕「撫二長劍一兮玉珥、璆鏘鳴－－」。

【琅】ラウ。力宕切 漾
俍に同じ。○〔管〕「以－－蕩二凌櫟人一」。

【理】リ。良止切 紙
㊀をさむ。
（い）切磨す、みがく。○〔戰〕「謂二玉未レ－者璞一」。
（ろ）整へて亂れざらしむ。○〔國〕「不レ可レ勝レ－」。
（は）定め正す、たゞす。○〔左〕「先－王疆二－天－下一」。
（に）通ず、さほす。○〔淮〕「－二關－市一」。
（ほ）料裁す、とりはからふ、きりもりす。○〔南〕「幹二－家－事一」。
（へ）補ふ、つくろふ。○〔後漢〕「修二－長－安高－廟一」。
（と）區別す、わかつ。○〔舊唐〕「疏二－繫－囚一」。
（ち）飾る。○〔傅毅〕「奪－容乃－」。
㊁整ひて亂れず、正しく定まる、さほる、わかる、をさまる。○〔漢〕「政平訟－」。
㊂道義、みち。○〔易〕「易－簡而天－下之－得矣」。
㊃天性、さが。○〔禮〕「天－－滅矣」。
㊄すぢ。
（い）貫き通りたること、貫き通りたるもの。○〔荀〕「井－々兮其有レ－也」。
（ろ）區別、わかち。○〔禮〕「樂者通二倫－－者」。
（は）ことわけ、わけがら、ことわり。○〔中〕「文－－密－察」。
㊅きめ、め。
（い）物の面のこまかき文。○〔淮〕「金積折レ廉、璧襲無レ－」。
（ろ）はだへの細かき文、膚腠。○〔史〕「君有レ疾在二腠－一」。
㊆たのむ、（賴）。○〔孟〕「大不レ－二於口一」。
㊇容貌、みめかたち、進止、たちゐ、ふるまひ。○〔禮〕「－發二諸外一、而民莫レ不二承－順一」。
㊈訟獄をさむる官、さいばんの吏。○〔禮〕「命レ－瞻レ傷」。
㊉媒介、なかだち。○〔屈平〕「吾令二蹇－修以爲レ－」。
⑪使者、つかひ。○〔左〕「行－－之命」。
⑫星の名。○〔漢〕「騎－官左－角曰レ－」。
〔地理〕地面の條理。○〔易〕「俯察二－－一」。
〔燮理〕やはらぐ。○〔書〕「－二－陰－陽一」。
〔大理〕（い）大いなるすぢ、大いなるみち。○〔管〕「四－時陰－陽有、天－地之－－也」。（ろ）刑獄を治むる高位の官。○〔春秋元命苞〕「聘爲二－－一」。
〔攝理〕他の人になり代はりて治むること。○〔左〕「士－服－景－伯如レ楚、叔－魚－－」。
〔條理〕すぢ道。○〔孟〕「始二－－一者、智之事也」。
〔校理〕考へ正す。○〔漢〕「－二－舊文一」。
〔法理〕法律のすぢ。○〔魏〕「明二達－－一者、使レ持二典－刑一」。「－－一」。
〔料理〕とりはからひ、きりもり。○〔晉〕「當二相－－」。
〔連理〕他の木と枝と互につゞきある木。○〔晉〕「一－角之獸、－－之木」。
〔分理〕それぞれにわかれたる條理。○〔南〕「山－川土－地、各有二－－一」。
〔生理〕生活するみち。○〔舊唐〕「終無二－－一」。
〔脈理〕つゞけるすぢ。○〔吳越春秋〕「山－川－－、金－玉所レ有」。
〔肌理〕はだのきめ。○〔杜甫〕「－－細－膩骨－肉勻」。
〔鋤理〕手を入れをさむ。○〔王建〕「貝－田少二－－一」。
〔窮理〕物事のことわりを推しきはめ知る。○〔易〕「－－盡レ性、以至二于命一」。
〔失理〕ことわりにはづる。○〔詩序〕「但施レ之－－耳」。

〔和理〕調ひ治まること。○〔禮〕「是故婦順備而後內一・一」。
〔章理〕ことわりの明かなること。○〔戰〕「明言一・一、兵甲愈起」。
〔決理〕判斷し治む。○〔史〕「用二峻文一・一一爲二廷尉一」。
〔循理〕ことわりに從ひよる。○〔史〕「推レ數一レ一而觀レ之」。
〔運理〕はたらかし治むること。○〔史〕「一二一一羣物一、考二驗事實一」。
〔統理〕すべをさむ。○〔史〕「一二一一中國一」。
〔綜理〕前に同じ。○〔晉〕「其一・一微密、皆此類也」。
〔達理〕（い）通じたるすぢ。○〔史〕「老子脣頭有二三五一・一一」。
（ろ）事物のことわりに通ず、又、とほる、とほす。○〔柳宗元〕「是必一レ一而聞レ道者也」。
〔人理〕人のみち。○〔漢〕「窮二一・一一該二萬方一」。
〔治理〕よくをさまること。○〔漢〕「一切一・一」。
〔補理〕營繕をなす。○〔後漢〕「一二一一城郭一」。
〔義理〕事物のことわり。○〔蜀〕「講二論一・一一」。

【琇】シウ、シュ。息救切 宥
玉に似たる一種の美石。○〔詩〕「充耳一一瑩」。

【琈】フウ、フ。縛謀切 尤
采色美しき一種の玉。○〔山海經〕「小華之山、其陽多二㻋一一之玉一」。

【琈】フ。芳無切 虞
璷に同じ。

【琉】リウ、ル。力求切 尤
瑠に同じ。○〔古詩〕「移二我一一璃榻一、出置二前-牕下一」。

【琊】ヤ、エ。余遮切 麻

琅一一は、地の名。

八畫

【琔】テン、デン。堂練切 霰
玉の色。

【琕】ヘン、ベン。部田切 先
玭に同じ、一説に、蠙に同じ。

【琕】鞞に同じ。

【琨】グン、ゴン。牛吻切 吻　ギン。牛刋切 軫
ひさし（齊）。

【琡】シウ、シュ。當尤切 尤
玉の文。

【琚】キョ、ゴ。求於切 魚
耳環、みゝわ。

【琙】エキ、ヤク。夷益切 陌
王采、あや。

【琖】サン、セン。阻限切 潸
玉の爵、小さきさかづき。○〔禮〕「爵用二玉一一仍雕一」。

【琗】シツ、シチ。色櫛切 質
璱に同じ。

【琗】サイ、セ。取內切 隊　シン。思晉切 震
珠玉の光采、ひかり、つや、又、光采を放つ、かゞやく。○〔郭璞〕「瑤-珠怪-石一二其表一」。

【琘】ビン、ミン。眉貧切 眞

珉玫に同じ。

【琙】ヨク、井キ。雨逼切 職
人の名。○〔東〕「玄菟太守公孫一一」。

【琚】キョ、コ。九魚切 魚
珩と璜との中にある佩玉、其の形は圭の如し、おびだま。○〔詩〕「投レ我以二木瓜一、報レ之以二瓊一一」。
〔瑛琚〕身におぶるたま。○〔古艷歌〕「織女奉二一一」。
〔雙琚〕つゐのおびだま。○〔詩、傳〕「下有二一・一一」。

【琛】チン。癡林切　シン。式針切 侵
美寶、たから。○〔詩〕「來獻二其一一」。

【琜】ライ、レ。落哀切 灰
玉の屬。

【琟】井。以追切 支
玉に似たる一種の石。

【琟】ギョク、ゴク。虞欲切 沃
瑀に同じ。

【琠】テン、デン。多殄切 銑
たま（玉）。

【琠】テン。他甸切 霰
瑱に同じ、みゝだま。

【琡】シュク、ジュク。昌六切 屋
大いさ八寸ある璋。

【琢】タク、トク。竹角切 覺
㊀みがく。
（い）玉を治む、うつ、ゑる。○〔詩〕「如レ一如レ磨」。
（ろ）修め飾ふ。○〔宣和畫譜〕「作レ詩以レ意爲レ主不レ在三鐫二一一語-言一」。
㊁えらぶ（擇）。○〔詩〕「敦二一一其旅一」。
㊂瑑に同じ。○〔禮〕「大圭不レ一美二其質一也」。
〔採琢〕取りてみがく。○〔晉〕「刑-璞發二一・一一之栄一」。
〔剋琢〕けづりみがく。○〔蘇舜欽〕「器成必一・一」。
〔磨琢〕みがくこと。○〔晉書〕「文似二機雲一飽二一・一一」。

【琣】ホウ、フ。補孔切 董
琫に同じ、佩刀の上部の飾。

【琣】ハイ、ヘ。普罪切 賄
人の名。

【琤】サウ、シヤウ。楚耕切 庚
玉の相擊ちて發する聲にも物の相擊ちて發する聲にもいふ字。○〔孟郊〕「隔レ林寒琮一一」。
〔淙琤〕水の聲にいふ語。○〔朱熹〕「懸-泉忽一・一」。
〔琤琤〕相擊ちて發する聲にいふ字。○〔盧琦〕「一一碧-澗流」。
〔瑽琤〕玉の相擊ちて發する聲にいふ語。○〔楓窗小牘〕「劍珮一・一」

【琥】コ、ク。呼古切 麌
㊀虎の皮の文をきざめる瑞玉、兵を發するときに用ひしもの。
㊁玉の器。○〔左〕「賜二子-家-子雙一一」。
㊂虎の形に作れる玉爵、さかづき。○〔周〕「以二白一一一禮二西-方一」。

【琦】キ、ギ。渠羈切 支
㊀くし。
（い）奇偉なり、すぐれて大いなり、おほいなり。○〔宋玉〕「夫聖-人瑰-

意――行」。

㊁奇異なり、めづらし、こさなり。○〔荀〕「好治ニ怪說ー、玩ニ――辨ー」。

㊂一種の玉。○〔後漢〕「――賂寶貨、巨室不レ能レ容」。

〔琭珷〕おほいなる貌にいふ語。○〔皇甫謐〕「險阻――」。

【堅】ワン。烏貫切　カン。侯旰切　[翰]

玉に次げる石。

【㻋】アク。烏各切　[藥]

白き玉。

【琨】コン。古渾切　[元]

――琪の略、玉に次ぐ一種の美石。○〔書〕「瑤――篠簜」。

【琩】シヤウ、サウ。尺良切　[陽]

みゝだま（耳瑺）。

【琪】キ、ギ。渠之切　[支]

玉の屬。○〔爾〕「東方之美者有ニ醫無閭之珣玗――ー焉」。

【琫】ホウ、フ。邊孔切　[董]

刀の鞘の飾。○〔詩〕「鞞――有珌」。

〔璗琫〕黄金のさやのと。○〔詩、傳〕「諸侯――而璆珌」。

【琬】エン、委遠切　ワン。烏貫切　[阮]　[翰]

㊀鋒芒なき圭。○〔周〕「――圭以治レ德以結レ好」。

㊁一種の美玉。○〔漢〕「鼂采――琰」。

〔玉琬〕たまのと。○〔鮑照〕「――徒見レ傳」。

【琭】ロク。盧谷切　[屋]

㊀玉の貌にいふ字。○〔老〕「不レ欲ニ――如レ玉珞珞如レ石」。

㊁一種の玉。○〔劉父〕「天人一夜剪ニ瑛――ー」。

【琮】ソウ、ス。藏宗切　[送]

外邊の八角形にして中孔の圓空なる瑞玉、わりふだま。○〔周〕「黃――禮レ地」。

【琮】ソウ、ス。子宋切　[宋]

なかわれのたま（半璧）。

【琯】クワン。古滿切　[旱]

管に同じ、くだ。○〔玉篇〕「西王母來獻ニ其白――ー」。

〔玉琯〕玉にて作りたるくだ。○〔續仙傳〕「王母獻ニ――ー」。

〔瑤琯〕前に同じ。○〔劉因〕「玉簫――聲淸佳」、

【琯】コン。古困切　[願]

金を治めて光を出だすと。

【琯】クワン。古丸切　[寒]

玉に似たる一種の石。

【琯】クワン、ケン。古患切　[諫]

玉を貫きてつくりたる飾。

【琰】エン。以冉切　[琰]

㊀玉の光澤ある貌にいふ字。○〔夏侯湛〕「黛ニ玄眉之――ー」。

㊁一種の美玉。○〔江總〕「辭題ニ翠――字勒ニ銀鉤ー」。

㊂鋒芒ある圭、征伐に用ふる瑞節。○〔周〕「――圭九寸」。

㊃圭に鋒芒をつく、けづる。○〔周、註〕「凡圭――レ上寸半」。

〔美琰〕玉。○〔拾遺記〕「薦ニ淸澄――之膏ー以爲レ酒」。

〔彫琰〕ゑりきざみたるたま。○〔梁簡文帝〕「――表レ飾」。

【琱】テウ。都寮切　[蕭]

㊀玉を刻鏤す、ゑる、きざむ。○〔張衡〕「圓方琢――」。

㊁ゑがく（畫）。○〔漢〕「牆塗而不レ――」。

【琲】ハイ。普乃切　ハイ、蒲罪切　べ。　[隊]　[賄]

㊀珠を貫きたるものゝ稱。○〔左思〕「珠――闌干」。

㊁つらぬく（貫）。○〔張有〕「――磊如レ珠」。

【琳】リン。力尋切　[侵]

㊀一種の美玉。○〔書〕「厥貢惟球――琅玕」。

㊁玉の相擊つ聲にいふ字。○〔楚辭〕「璆鏘鳴兮――琅」。

〔琸琳〕うるはしき玉。○〔漢武帝內傳〕「封以ニ――之函ー」。

〔典琳〕たまのと。○〔李中〕「石潤叠ニ――ー」。

【琴】キン、ゴン。巨今切　[侵]

絃を張りたる一種の樂器、こと、上古は絃は五條なりしが周に至り增して七條させり、桐材にて造り長さ三尺六寸廣さ六寸にして上面を圓く反らし內部は空虛にす、下底は方にして四隅に短き脚を付け龍池鳳沼の二孔を穿つ。○〔詩〕「鼓レ瑟鼓レ――」。

〔鼓琴〕ことを搔き鳴らす。○〔詩〕「鼓レ瑟――レ――」。

〔素琴〕飾らざること。○〔禮〕「祥之日鼓ニ――ー」。

〔絃琴〕こと。○〔漢〕「悅ニ此詩書――樂レ古」。

〔鳴琴〕前に同じ。○〔陸機〕「閑夜撫ニ――ー」。

〔援琴〕前に同じ。○〔詩〕「如レ鼓ニ――ー」。

〔援琴〕ことを引き寄す。○〔北〕「――レ撫之」。

〔張琴〕ことの絲をはる。○〔韓詩外傳〕「治レ國者譬若ニ乎――ー然」。

〔胡琴〕夷國の製にかゝること。○〔獨異記〕「東市有下賣ニ――ー者上」。「――ー」。

〔淸琴〕さやらかなること。○〔陸機〕「安處撫ニ――ー」。

〔瑤琴〕玉の飾りを施せること。○〔鮑照〕「――生ニ網羅ー」。「――ー」。

〔雕琴〕刻み飾りたること。○〔鮑照〕「璿璿玉匣之――ー」。

〔幽琴〕靜かにかなづる琴の音。○〔江孝嗣〕「――一彈レ調」。「――而不レ成レ聲」。

〔彈琴〕ことをかなづ。○〔禮〕「孔子旣祥五日、――レ」。

〔奏琴〕前に同じ。○〔史〕「前――レ」。

〔撫琴〕前に同じ。○〔宋〕「――レ動操」。

〔擊琴〕前に同じ。○〔皮日休〕「天籟如レ――レ」。

〔頌琴〕箏のと。○〔左〕「穆姜使下擇ニ美檟ー以爲中――ー」。「――離ー」。

〔大琴〕二十七絃あること。○〔爾〕「――謂ニ之――ー」。

〔調琴〕ことの音をとゝのふ。○〔賀徹〕「――召ニ美人ー」。「――易」。

〔挾琴〕ことを持ち攜ふ。○〔梁簡文帝〕「迎來――レ」。

〔孤琴〕一人にてかなづることの音。○〔徐仁友〕「聲非對ニ――ー」。

〔善琴〕ことを巧みにかなづ。○〔梁〕「惻旣――レ」。

〔寶琴〕貴重なること。○〔西京雜記〕「趙后有ニ――、曰ニ鳳凰ー」。「――ー」。

〔理琴〕ことの音を調ぶ。○〔張說〕「――レ聽ニ猿而奏レ曲」。

〔操琴〕ことを手に執る。○〔蔡邕〕「必正坐――レ」。

〔故琴〕年ふりたること。○〔盧照鄰〕「――無ニ復雪ー」。

【琵】ヒ、ビ。房脂切　[寘]

樂器の絃を上より順に鼓すると。○〔歐陽修〕「推レ手爲レ――却レ手琶」。

【琶】ハ、ベ。蒲巴切　[麻]

㊀樂器の絃を下より逆に鼓すると。○〔歐陽修〕「推レ手爲レ琵却レ手――」。

㊁琵――は、長さ三尺五寸ありて四絃を張れる樂器、びは、古昔は、おもに

馬上にて鼓したりといふ。○〔黄庭堅〕「滿-堂洗盡箏——耳、請師停レ手恐斷レ絃」。

【琸】タク、トク。竹角切 覺 人の名。○〔宋〕「有二都-統劉——一」。

九畫

【琾】カイ、ケ。居拜切 卦 玠に同じ、大いなる圭。

【琿】コン、ゴン。戸昆切 元 一種の美しき玉。

【瑓】ラツ、ラチ。盧剌切 曷 たま（玉）。

【瑀】ウ。王矩切 麌 玉に似たる一種の白石、おびだま、佩玉の中間につく。○〔後漢〕「乃爲二大-佩一衝-牙雙——璜皆以二白-玉一」。〔瑱瑀〕おびだま。○〔詩、傳〕「佩-玉——」。〔琚瑀〕前に同じ。○〔詩、傳〕「雜-佩者、珩璜——衝牙之類」。

【瑁】バウ、モウ。莫報切 バイ、マイ。莫代切 隊 古昔の諸侯天子に朝會する時に天子の執れる玉の稱、方四寸にして下部を邪に刻みて其の濶狹長短すべて諸侯の執れる圭の上部の如くし、其の下部を圭の上部に冒ひて瑞信となせしとぞ。○〔沈約〕「執レ——朝二羣-后一」。

【瑁】バイ、メ。莫佩切 隊

【瑁】ボク、モク。莫沃切 沃

瑇——は、龜の屬、背に黑白の斑文ある甲あり、甲の邊は鋸齒の如し、鬚に似たる四足ありて前短く後長し、其の甲を煮れば柔きこと皮の如く、以て器物の裝飾に用ふべし。○〔史〕「瑇-——鼊-鼉」。

【瑂】ビ、ミ。武悲切 支 玉に似たる一種の石。

【瑄】セン。須緣切 先 大いさ六寸なる璧の稱。○〔漢〕「有-司奉二——玉一」。

【瑅】タイ、デイ。杜奚切 齊 ——玉は、玉の名。

【瑆】セイ、シヤウ。桑經切 青 玉の光、つや。

【瑇】タイ、ダイ。徒耐切 隊 トク、ドク。徒沃切 沃 瑁の字を見よ。

【琘】ビン、ミン。眉貧切 眞 ヒン、ホン。府巾切 眞 玉に次げる一種の美石。○〔周〕「諸-侯之繅-斿九-就、——玉三-采」。

【瑊】シン。職深切 侵 カン、ケン。古咸切 咸 玉に次げる一種の勁き石。○〔史〕「——玏玄-厲」。

【瑸】ヒン、ホン。府巾切 眞 ハン、ヘン。逋閑切 刪 文采ある貌にいふ字。○〔漢〕「璧二馬-犀之璘——一」。

【瑋】井。于鬼切 尾 貴重なること、珍奇なること、めづらし、おもし。○〔何承天〕「聲-音奇-妙瑰-——」。〔琦瑋〕めづらしきこと。○〔潘岳〕「羨二微-蹤之——一」。〔珍瑋〕前に同じ。○〔吳都賦〕「丹青圖二其——一」。〔奇瑋〕前に同じ。○〔傅休奕〕「翫二斯-味之——一」。

【瑌】ゼン、ネン。而緣切 先 ㊀玉に次げる一種の石。○〔史〕「——石武-夫」。㊁玉の佩びもの。○〔詩、傳〕「士佩二——珉一而青-組綬」。

【瑌】ゼン、ネン。而兗切 銑 前條の㊀に同じ。

【瑌】ダン、ナン。奴亂切 翰 水濱の地、一說に、城下の田。

【瑍】クワン。呼玩切 阮 玉に文采あること。

【瑎】カイ、ゲ。戸皆切 佳 玉に似たる一種の黑石。

【瑏】セン。昌緣切 先 たま（玉）。

【瑐】セン。子淺切 銑 玉の名。

【瑑】テン、デン。直戀切 霰 チン、ヂン。持兗切 杜允切 軫 チ、ヂ。陳尼切 支 圭璧の上にすぢぼりを起こすこと、玉を雕刻して文を施すこと。○〔漢〕「㫐-玉不レ——」。

【瑒】チヤウ、タウ。丑亮切 漾 タウ、ヂヤウ。徒杏切 梗 長さ尺二寸にしてたまの柄ある圭、宗廟を祠るに用ふるもの。

【瑒】タウ。待朗切 養 ヤウ。與章切 陽 玉の名。○〔漢〕「——琫——珌」。

【瑓】レン。郎甸切 霰 一種の玉の名。

【瑔】セン、ゼン。絕緣切 先 玉の名、又、貝の名。

【瑙】 に同じ。

【瑕】カ、ゲ。乎加切 麻 ㊀小さくして赤き玉。○〔漢〕「赤——駁-犖」。㊁きず。(い)欽病、ひど、さけめ、われめ、かけ。○〔禮〕「——不レ揜レ瑜」。(ろ)あやまち、とが、過失、欽點。○〔詩〕「烈-假不レ——」。㊂空虛なること。○〔管〕「乘レ——則神」。㊃とほし（遠）。○〔詩〕「不レ——有レ害」。㊄相閒つること。○〔管〕「令入而不レ至謂二之——一」。㊅嚴利なり、きびしくとし。○〔周〕「深——而澤」。㊆なんぞ（胡）。○〔禮〕「——不レ謂」。㊇霞に通じ用ふ。○〔漢〕「翕二青-雲之流——一」。㊈蝦に通じ用ふ。○〔張衡〕「駿——委-蛇」。〔匿瑕〕缺所を掩ひかくす。○〔管〕「含レ垢——レ、所レ在有レ纇」。〔疵瑕〕(い)缺けたる所。○〔釋名〕「五-色之——以惑人者也」。(ろ)あやまちのこと。○〔潛夫論〕「强-歲二——一以相誑-燿」。

〔纖瑕〕些細なる過失。○〔唐〕「――微累、十手爭指矣」。
〔細瑕〕前に同じ。○〔漢〕「擧大美者不レ違二――一」。
〔懷瑕〕缺點を身に抱く。○〔漢〕「或有下抱レ罪――レ與レ下同上レ疾」。
〔求瑕〕缺點を探し見つくること。○〔北〕「披レ毛――レ、競得レ肆レ心」。
〔滌瑕〕缺點を清め去る。○〔舊唐〕「――レ盪垢、咸與維新」。「海二」。
〔洗瑕〕前に同じ。○〔唐〕「滌レ垢――、以倡二四海一」。
〔祓瑕〕前に同じ。○〔唐〕「――洗レ累成二無レ改之美一」。
〔指瑕〕きずをさし示す。○〔唐〕「作二――一以摘二其失一」。
〔毀瑕〕きず。○〔韓〕「理二――一而得二千・鎰一焉」。
〔瑜瑕〕善美なると缺けたると。○〔鮑照〕「寧能與二爾曹一――稍辨論」。

【瑖】タン。都玩切 翰
玉に似たる一種の石。

【瑗】エン、王眷切 霰 エン、于願切 願 ワン。切 ヲン。切
中孔ありて其の廣さ外肉に倍する玉の稱。○〔淮〕「璧――成レ器」。

【瑎】環に同じ。

【璩】キヨ、ゴ。求於切 魚
環の屬、戎夷の貫耳、みゝわ。

【瑯】琊に同じ。

【瑙】ダウ、ノウ。乃考切 皓
瑪――は、玉に次げる一種の文石、めのう、堅くして脆し、色は種々あり從ひて種々の名稱あり、梵語に摩羅迦隸、馬の腦の色に似たれば名づけしといふ。○〔顧薦負暄錄〕「試二瑪――一法以二砑レ木不レ熱者一爲レ眞」。

【瑚】コ、ゴ。戸吳切 虞
珊――は、昔は一種の石となしゝ一種の植蟲の巢、海中の磐石上に生じ枝柯をなす、水中にあるときは直にして軟かなれども水を出づれば曲がりて堅し、色に赤、白、碧、黑などあり、刻琢して文飾となす。○〔漢〕「珊――叢生」。

【瑛】エイ、ヤウ。於京切 庚
光輝ありて自ら圭角をなせる一種の石、すゐしやう、水精。○〔古豔歌〕「姮娥垂二明瑠一織女奉二――琚一」。
〔玉瑛〕水精のこと。○〔符瑞圖〕「漢文帝時、渭陽――見」。
〔珠瑛〕前に同じ。○〔梁簡文帝〕「漢吐二――一」。
〔瑤瑛〕前に同じ。○〔吳至節〕「――篆刻鎭二幾陽一」。
〔赤瑛〕あかきひかりある水精。○〔拾遺錄〕「以二――一爲レ盤」。

【瑇】スヰ、ズヰ。旬爲切 支
――瑇は、玉の名。

【瑜】ユ。羊朱切 虞
㊀一種の美玉。○〔禮〕「佩二――玉一」。
㊁光采あること、美しきこと。○〔漢〕「象載――白集レ西」。
〔琨瑜〕たまの名。○〔徐陵〕「服・燭等二――一」。
〔珪瑜〕前に同じ。○〔盧思道〕「珠石變爲二――一」。

【瑝】クワウ、ワウ。乎光切 陽
玉の聲にいふ字。

【瑞】スヰ、ズヰ。是僞切 寘
しるし。
(い)昔天子の諸侯を封ずるに其の符節として賜はりし圭玉の稱、しるしだま、わりふだま。○〔周〕「玉作二六――一以等二邦國一」。
(ろ)天地感應して嘉祥見はるゝこと、めでたきしるし、よろこび。○〔左〕「麟・鳳五・靈王・者之嘉――也」。○〔書〕「輯二――一」。
〔五瑞〕公侯伯子男五等の諸侯のしるし。
〔六瑞〕王及び公侯伯子男五等の諸侯のしるし。○〔周〕「以玉作二――一以等二邦國一」。
〔嘉瑞〕めでたきしるし。○〔春秋〕「麟者仁獸、聖王之――也」。「獲」。
〔祥瑞〕前に同じ。○〔詩、疏〕「至誠感レ物、――必」。
〔吉瑞〕前に同じ。○〔魏〕「動得二――一」。
〔禎瑞〕前に同じ。○〔晉〕「極二――一、窮二靈符一」。
〔寶瑞〕前に同じ。○〔齊〕「――昭二神圖一」。
〔慶瑞〕前に同じ。○〔宋〕「凡國有二大――一、及レ出レ師勝捷」。
〔天瑞〕天の人に示すしるし。○〔詩、疏〕「人見二――一而歸レ之」。「臻二乎泰山一者也」。
〔符瑞〕しるし。○〔史〕「未レ有下睹二――一見而不レ」。
〔降瑞〕天より符應を下し示す。○〔曹植〕「功侔二太古一、上靈――レ」。
〔典瑞〕符信を掌る官の名。○〔周〕「――掌二玉瑞玉器之藏一」。「――」。
〔聖瑞〕聖人たるとのしるし。○〔史〕「生レ昌有二――一」。
〔靈瑞〕くしびなるしるし。○〔晉〕「――告レ符、休徵響震」。「――」。
〔極瑞〕こよなくめでたきしるし。○〔後漢〕「窮・祥――」。
〔人瑞〕人類中のめでたきしるし。○〔王褒〕「――又明」。「――也」。
〔國瑞〕くにゝとりてめでたきしるし。○〔唐〕「說曰、
〔祕瑞〕容易く世にあらはれざるめでたきしるし。○〔沈約〕「――泉涌」。「――見」。
〔仁瑞〕德あるしるし。○〔論衡〕「皇帝聖人、故
〔珍瑞〕世に稀なるしるし。○〔詩、箋〕「謂爲二――」。「――以行レ禮」。
〔圭瑞〕諸侯の執る玉の符信。○〔禮、疏〕「以二其――」。
〔應瑞〕人の善惡邪正により天の之に對して下すしるし。○〔李中〕「千門忻二――一」。
〔合瑞〕符信を寄せあはせてみること。○〔左〕「天子賜以二命圭一、合レ瑞爲レ信」。
〔呈瑞〕めでたきしるしをあらはす。○〔晉〕「白雀――レ」。
〔徵瑞〕天の符應のこと。○〔晉〕「――表レ祚」。
〔顯瑞〕めでたきしるしをあらはし出だすこと。○〔謝莊〕「金玉――レ」。「――表レ之」。
〔絕瑞〕極めてめでたきしるし。○〔唐〕「必有二――一」。
〔奇瑞〕前に同じ。○〔論衡〕「萬物育則――出」。
〔異瑞〕前に同じ。○〔杜甫〕「奇祥――爭來送」。
〔鴻瑞〕大いなるめでたき符應のこと。○〔文心雕龍〕「克膺二――一」。

【瑹】トツ、トチ。陁沒切 月
玉瑱、みゝだま。

【瑟】シツ、シチ。色櫛切 質
㊀大いなる琴、おほごと、長さ八尺一寸のものと七尺二寸のものとありて、廣さは皆一尺八寸なり或は二十七絃或は二十五絃或は二十三絃或は十九絃なり。○〔書〕「搏二拊琴――一」。
㊁衆多なる貌にいふ字、おほし。○〔詩〕「――彼柞棫」。
㊂矜莊なる貌にいふ字、おごそか、きびし。○〔詩〕「――兮僩兮」。
㊃潔鮮なる貌にいふ字、あざやか、うつくし、一說に、縝密なる貌にいふ字、こまやか、こまかし。○〔詩〕「――彼玉瓚」。「――」。
㊄風の聲にいふ字、○〔古樂府〕「風――――」。
〔鼓瑟〕ことをかき鳴らす。○〔詩〕「竝坐――レ」。
〔奏瑟〕前に同じ。○〔史〕「趙王好レ音、請――レ」。
〔頌瑟〕箏のこと。○〔爾、疏〕「――長七尺二寸、廣一尺八寸、二十五絃盡用レ之」。
〔寶瑟〕貴重なること。○〔梁簡文帝〕「綠綺廉琴、丹山――」。「以――レ」。
〔調瑟〕ことのしらべをなす。○〔晉〕「且膠レ柱不レ可二――」。
〔義瑟〕伏羲の發明にかゝれること、即ち、こと。○〔劉孝威〕「――鼎琴」。

〔蕭瑟〕　風のさわがしく吹きすさむこと。〇〔謝朓〕「一一驚ニ暮-秋ニ」「夕横ニ涼-琴ニ」。
〔淸瑟〕　きよらかなること。〇〔徐彥伯〕「倚ニ一・一」
〔柔瑟〕　音のやはらかに出づること。〇〔李白〕「含レ情弄ニ一・一ニ」「一嬌重レ帆」。
〔弄瑟〕　ことを慰みにもてあそぶ。〇〔余延壽〕「一」
〔大瑟〕　長さ八尺一寸廣さ一尺八寸にして二十七絃あること。〇〔禮〕「指ニ鑿一・一ニ」「之」。
〔竿瑟〕　笛の類とことと。〇〔禮〕「鏞-磬一・一以和」
〔鳴瑟〕　搔きならすことのと。〇〔江淹〕「娼ニ北-里之一・一ニ」「一」。
〔張瑟〕　ことの糸をかけはる。〇〔李嶠〕「調-人更一」
〔膠瑟〕　大林の木を採りて作りたること。〇〔拾遺記〕「一・一愴復傷」。
〔膠瑟〕　ことぢをにかはもてねばしつく、卽ち、物事の變通なききにいふ語。〇〔沈約〕「守-株一・一雖ニ與適レ變」。
〔戛瑟〕　搔き鳴らすこと。〇〔江淹〕「一・一澇落」。
〔彩瑟〕　色どりを施したること。〇〔江淹〕「雕-柱一・一、九-華六-出」。
〔廢瑟〕　用に立たざること。〇〔鮑溶〕「一・一雖レ爲絃」。

十畫

【璢】　俗の瑠の字。

【琛】　チン。丑林切　侵
たから（寶）。

【瑢】　ヨウ、ユ。餘封切　冬
佩玉の聲にいふ字。

【瑣】　サ。蘇果切　哿
㊀細小、ちひさし、こまかし。〇〔詩〕「一一姻-婭」。「卑一一」。
㊁卑賤、いやし、ひくし。〇〔南〕「名-地一一」。
㊂少くして好し、わかし、みめよし。〇〔詩〕「一兮尾兮流-離之子」。
㊃こまかく碎けたるもの、くづ、こな。〇〔仲長統〕「委-曲如レ一」。
㊄連結するを、又、くさり。〇〔左思〕「畢-罕一-結」。
㊅帝王の門、卽ち、くさりの形を刻み鏤めたるよりいふ。〇〔屈平〕「欲ニ少留ニ此靈一一ニ」。
㊆こまかく、つまらぬこと、また、ちひさきこと。〇〔漢〕「一科ニ條其人ニ」。
〔微瑣〕　こまかきと、又、才器のちひさきと、又、いやしきと。〇〔舊唐〕「臣自顧一・一」。
〔小瑣〕　こまかきと。〇〔歐陽修〕「夫一・一目-前之利」。

【瑤】　エウ。余招切　蕭
たま。
（い）一種の美しき玉、一說に、玉に次げる一種の美石。〇〔書〕「一-琨篠-簜」。
（ろ）美稱にいふ字。〇〔漢〕「此眺ニ一一堂ニ」。
〔瓊瑤〕　玉の名。〇〔詩〕「報レ之以ニ一・一ニ」。
〔碧瑤〕　あをき玉。〇〔宣室志〕「贈以ニ一・一杯ニ」。
〔文瑤〕　あやあるたま。〇〔天寶遺事〕「甃以ニ一・一密-石ニ」。
〔白瑤〕　しろきたま。〇〔梁武帝〕「子則一・一靑-玉」。

【⿰王追】　タイ、テ。都回切　灰
玉を治む、みがく。

【瑥】　ヲン。烏昆切　元
人の名。〇〔晉〕「乞-伏-乾使ニ冠-軍翟一伐ニ禿-吐-渾ニ」。

【瑦】　ヲ、ウ。安古切　麌　汪胡切　虞
玉に似たる一種の石。

【瑨】　シン。卽刃切　震
玉に次げる一種の美石。

【瑩】　エイ、ヤウ。永兵切　庚
㊀玉に似たる一種の美石。〇〔詩〕「充-耳琇一」。
㊁光彩、つや、いろ、ひかり。〇〔韓詩外傳〕「良-珠度レ寸雖レ去ニ百-里之外一不レ能レ掩ニ其一ニ」。
㊂精明、あざやか、あきらか。〇〔揚雄〕「一-死一-生性-命一矣」。
㊃あらはす、（凋）。〇〔楚辭〕「菫-荼茂兮扶-疎、蘅-芷彫而兮一-娯」。
〔六瑩〕　樂の名。〇〔列〕「承-雲一・一」。
〔瓊瑩〕　玉に似たるうるはしき石。〇〔詩〕「尙レ之以ニ一・一乎」。「聞」「石-面一・一」。
〔平瑩〕　たひらかにしてあきらかなると。〇〔春渚紀聞〕「石-面一・一」。
〔紅瑩〕　あかくひかると。〇〔泊宅編〕「其色一・一」。

【瑩】　エイ、ヤウ。烏定切　徑
てらす。
（い）光彩を發す。〇〔逸論語〕「如ニ玉之一ニ」。
（ろ）精明にす。〇〔韓愈〕「照ニ一疑-怪ニ」。

【瑩】　エイ、ヤウ。烏迴切　迥
まごふ（惑）。

【瑪】　バ、メ。母下切　馬
瑙の字を見よ。

【瑫】　タウ、トウ。土刀切　豪
美しき玉、一說に、劒を飾る玉。

【⿰王旁】　ハウ、バウ。蒲光切　陽
一-珺は、一種の玉。

【瑬】　リウ、ル。力求切　尤
㊀冕のかざりに垂れ下ぐる玉。
㊁旗に下がり垂るゝもの、はたあし。〇〔宋〕「鸞-輅駕ニ四-馬一旂九-一」。
㊂璆に同じ、美しき玉。

【瑭】　タウ、ダウ。徒郞切　陽
たま（玉）。

【瑮】　リツ、リチ。力質切　質
瑮に同じ、玉の列なりて美しく淸らかなると。

【瑯】　俗の琅の字。

【瑰】　クワイ、ケ。公回切　灰
㊀圓形なる一種の好珠、一說に、一種の美石。〇〔詩〕「瓊一玉-佩」。
㊁珍奇なり、めづらし。〇〔後漢〕「因ニ一-材ニ而究レ奇」。
〔瑠瑰〕　赤色の玉。〇〔山海經〕「爰有ニ一・一ニ」。
〔奇瑰〕　めづらしきと。〇〔孟郊〕「我來余ニ一・一ニ」。

【瑰】　キ。居胃切　未
玫一は、一種の花、はまなす。

【瑱】　テン。他甸切　霰　チン。陟刃切　震
㊀耳を充ぐ玉、みゝふさぎ、みゝだま。〇〔詩〕「玉之一也」。
㊁文采の相雜はるにいふ字。〇〔郭璞〕「金-精玉-英一其裏」。
㊂一種の玉。〇〔江淹〕「巡-華過ニ盈-一ニ」。
〔玉瑱〕　みゝたま。〇〔後漢〕「天-子一・一」。
〔環瑱〕　玉の耳かざり。〇〔戰〕「撤ニ其一・一ニ」。
〔華瑱〕　うつくしきたま。〇〔陸龜蒙〕「精-光具ニ一-一ニ」。

【瑱】　シン。之人切　眞
前條の㊂に同じ。

【瑱】　テン。他典切　銑

たま（玉）。

【瑱】テン、デン。待年切 先
いしずゑ（礩）。○［後漢］「雕二玉ー一以居レ楹」。

【瑲】シヤウ、サウ。七羊切 陽
玉の聲にいふ字、一說に、樂器の聲にいふ字。○［詩］「八鸞ーー」。

【瑲】サウ、シヤウ。楚耕切 庚
物の聲にいふ字。

【瑲】サウ。千剛切 陽
玉の色。

【瑳】サ。七何切 歌
㊀磋に同じ。㊁玉の色鮮かにして白きこと。

【瑳】サ。千可切 哿
㊀玉の色の鮮かにして白きこと、又、物の鮮かにして盛んなること。○［詩］「ー兮ー兮、其之展也」。
㊁巧に笑ふ貌にいふ字。○［詩］「巧笑之ー」。
（瑳瑳） 玉の色のあざやかにして白き貌にいふ語。○［宋］「瑀珉ーー」。

【瑴】カク、コク。古岳切 覺 コク。古祿切 屋
玉の一對の稱、雙玉。○［左］「公爲レ之請レ納三玉於王與二晉侯一皆十ーー」。

【瑴】コク。古祿切 屋
㊀玉の名。㊁前條に同じ。

【瑵】サウ、セウ。側絞切 巧
㊀車蓋の弓の頭の爪の形をなせるものゝ稱。○［漢］「金ー羽葆」。
㊁玉の名。

【瑽】バン、モン。亡凡切 咸
たま（玉）。

十一畫

【璅】ショ、ソ。傷魚切 魚 ト、ツ。通都切 虞
㊀玏。㊁美玉。

【璭】コン。古渾切 元
美しき石、一說に、美しき玉。

【瑽】ショウ、シュ。七恭切 冬
ーー瑢は、玉を佩びて行く貌にいふ語、一說に、佩玉の聲にいふ語。

【瑾】キン、コン。居隱切 吻
ーー瑜は、一種の美しき玉。○［左］「ーー瑜匿レ瑕」。

【瑾】キン、コン。巨靳切 問
赤き玉。

【瑿】エイ。煙奚切 齊
黑色の美石。

【璖】チョ、ト。抽居切 魚 ト、ツ。通都切 虞
一種の玉。○［山海經］「小華之山其陽多二ーー琈之玉一」。

【環】俗の環の字。

【璀】サイ、セ。七罪切 賄
㊀珠の采色、つや、ひかり。○［抱朴］「戈甲ーー錯」。
㊁珠の垂るゝ貌にいふ字。○［孫綽］「琪樹ーー璨而垂レ珠」。
㊂采色の散亂する貌にいふ字。○［吳師道］「瓦光浮ーー」。

【璁】ソウ、ス。倉紅切 東 祖動切 董
一種の美石。

【璂】キ、ギ。渠之切 支
皮弁のぬひめに結びかざりたる玉の稱。○［周］「會二五采之玉ーー一」。

【璃】リ。呂支切 支
瑠ーーは。
（い）一種の美珠、たま、色に赤、白、黑、青等種々あり。○［古詩］「移二我琉ーー榻一」。
（ろ）簟の色。○［蘇軾］「愧二此八尺黃瑠ーー一」。
（玻璃） ビードロのこと。○［梁四公記］「賣二碧ーーー鏡一」。
（淨琉璃） 佛家の說く所の一種の世界。○［藥師琉璃光如來本願經］「東方去レ此過二十殑伽沙等佛土一、有二世界一、名二ーーー一」。

【王+勒】ロク。盧則切 職
一種の玉、一說に、玉に次げる一種の美石。

【璄】エイ、ヤウ。於丙切 梗
璟に同じ、玉の光彩、ひかり、つや。

【璅】サウ、ソウ。子皓切 皓
玉に似たる一種の石。

【璅】瑱に同じ。○［張衡］「既ーーー焉」。

【璆】キウ、グ。渠尤切 イウ、ユ。夷周切 尤 リウ、ル。力救切 宥
㊀磬に作る一種の美玉、又、玉磬。○［漢］「ーー磬金鼓」。
㊁玉の聲にいふ字。○［史］「環佩玉聲ーー然」。
（白璆） 白玉の磬のこと。○［陸雲］「金條懸ーー」。
（琳璆） たまのなり音にいふ語、又、轉じて清き水の聲にいふ語。○［趙秉文］「流泉夾レ道鳴ーー」。

【璇】セン、ゼン。似宣切 先
㊀琁に同じ、一種の玉。○［山海經］「王母之山有二ーー瑰瑤碧一」。
㊁星の名。○［史］「春秋運斗樞云、斗第二ーー」。
（璿璣） 帳簿を整ふるに用ふる竹の器。○［揚雄］「溥謂二之蔽一、或謂二之ーー一」。
（玖璇） たまの名。○［藝文類聚］「ーー曜」。
（瑤璇） 前に同じ。○［謝靈運］「宮室以二ーー一致レ美」。

【璈】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪
一種の樂器。○［漢武帝內傳］「王母命二侍女彈二八琅之ーー一、吹二雲和之曲一」。
（瓊璈） たまの樂器。○［王安中］「ーー列二萬仙一」。
（玉璈） 前に同じ。○［雲林王夫人］「ーー洞二太無一」。

【王+扈】ゴ、グ。後五切 麌
たま（玉）。

【璉】レン。力展切 銑 陵延切 先
宗廟に供する黍稷を盛る器。○［禮］「夏后氏之四ーー」。

【璊】ボン、モン。莫奔切 ベン、マン。模元切 元

赤き玉の色、あかし。○〔詩〕「毳-衣如レ━」。

【璊】ハン、ヘン。蒲還切 刪
まだら、(駁)、又、あや(文)。

【⿰王虖】ト、ツ。通都切 虞
玉の名。

【璋】シヤウ、サウ。諸良切 陽
其の端の半を刻り尖らしたる圭玉、半圭。○〔詩〕「載弄二之━一」。
〔圭璋〕たまの名。○〔莊〕「孰爲二━━一」。「方」。
〔赤璋〕あかき半圭のたま。○〔周〕「以二━━一禮二南方一」。
〔金璋〕こがねにてかざりたる半圭のたま。○〔禮〕「有二圭方━━一」。

【⿰王彗】エイ、エ。于劌切 霽
劔の鼻の玉。

【瑳】サ。子何切 歌
人の名。○〔漢〕「景━」。

【⿰王逢】音未だ詳ならず。
めぐらす。○〔汲冢〕「商-王紂取二天-智-玉-琰━レ身」。

【⿰王寅】イン。夷眞切 眞
には、(場)。

【⿰王婁】リウ、ル。力求切 尤
初秋の祭祀。

十二畫

【⿰王歲】テイ、ダイ。直例切　エイ、エ。于歲切 霽　チチ、エツ。王伐切 月

劔鼻の玉。○〔漢〕「碎-玉劔━━」。

【璐】ロ、ル。洛故切 遇
一種の美しき玉。○〔楚辭〕「被二明-月一兮珮二寶━━一」。
〔佩璐〕うるはしきおびだま。○〔范成大〕「腰-金━━-崇-自-好」。

【璑】ブ、ム。武扶切 虞
悪しき玉の名。

【琇】シウ、シユ。息救切 宥
玉に次げる一種の石。

【璓】イウ、ユ。以九切 有
玉の名。

【璔】ソウ。咨騰切 蒸
玉の貌にいふ字。

【璕】ジン。徐心切 侵
玉に次げる一種の美石。

【⿰王畢】ヒツ、ヒチ。鄙密切 質
青白の玉管、ふゑ。

【璗】タウ、ダウ。徒朗切 養
黄金、こがね。○〔詩、傳〕「諸-侯━-琫而璆-珌」。

【璘】リン。力珍切 眞　良忍切 軫
❶文ある貌にいふ字。○〔古樂府〕「黄-金爲レ闕班━━」。
❷玉の光彩、ひかり、つや。○〔張衡〕「瑞-珉━-彬」。
〔玢璘〕あやありてあきらかなる貌にいふ語。○〔徐商〕「韶-光入レ隙影━━」。
〔璘々〕玉などのひかる貌。○〔歐陽修〕「磊-落金-盤「爛━━」。

【⿰王勞】ラウ、ロウ。魯刀切 豪
玉の名。

【璙】レウ。洛蕭切 蕭　連條切 篠
力弔切 嘯
鐐に同じ。

【璚】ケイ、ギヤウ。渠營切 庚
瓊に同じ。○〔嵇喜〕「俯漱二神-泉一、仰噉二━-枝一」。

【璚】ケツ、ケチ。古穴切 屑
玦に同じ、佩玉。

【⿰王棘】キヨク、ケキ。紀力切 職
埜棘は、地の名、又、たま。

【璛】シユク、ジユク。息逐切 屋
玉を琢く人、たまみがき。

【璜】クワウ、ワウ。戶光切 陽
❶璧を半分したるものゝ稱、卽ち、佩玉の一。○〔周〕「以二玄━一禮二北-方一」。
❷かゞやく、(煌)。○〔揚雄〕「武-義━━」。

【瑨】シン。側岑切 侵
玉に似たる石。

【璝】クワイ、ケ。公回切 灰
瑰に同じ。

【璞】ハク、ホク。匹角切 覺
未だ治めざる玉、あらたま、素玉。○〔老〕「━散則爲レ器」。
〔和璞〕卞和といふものゝ楚の懐王に獻じたるあらたま。○〔戰〕「楚有二━━一」。「━也」。
〔奇璞〕めづらしきあらたま。○〔陸機〕「聖-朝之━」。
〔寶璞〕貴重なるあらたま。○〔晉〕「宜以二━━一」。
〔醜璞〕あしきあら玉。○〔抱朴〕「美-玉出二乎━━一」。
〔磨璞〕あらたまをみがく。○〔梅堯臣〕「━レ━鏤二美-辭一」。

【璠】ヘン、バン。附袁切 元
璵━は、一種の美しき玉。○〔左〕「陽-虎將二璵━━一斂」。

【璡】シン。將鄰切 眞　卽刃切 震
玉に似たる一種の石。

【璢】リウ、ル。力求切 尤
璃の字の條を見よ。

【瑠】リウ、ル。力救切 宥
瓦にて作りたる飯器。

【⿰王奄】アフ、オフ。過合切 合
婦人の首飾、かみかざり。

【⿱⿰石豖玉】ケン。許緣切 先
すきま、ひま、(隙)。

【⿰王巽】セン。士戀切 霰
めづらし、(珍)。

【璣】キ、ケ。居衣切　キ、ゲ。
渠希切 微　キ、ギ。巨至切 寘
❶圓からざる珠、一說に、小さき珠。○〔漢〕「遺二建-荃-葛-珠━━一」。

㊁天文を測るに用ふる機械、圓形體にして旋轉すべく裝置し表面に天文をしるしたるもの、渾天儀。○〔書〕「在二璿—玉—衡一以齊二七—政一」。
㊂星の名。○〔史〕「春—秋運—斗—樞云、斗第—三—」。
㊃大いなる珠をもてつくりたる鏡。○〔徐鉉〕、符—瑞—圖有二——鏡一。
〔珠璣〕たまのこと。○〔莊〕「星—辰爲二——一」。
〔璣璣〕前に同じ。○〔馬祖常〕「庭—柳綴二——一」。
〔璣璣〕前に同じ。○〔王勃〕「——有レ燗」。

【瓅】レキ、リヤク。狼狄切 錫
一種の玉。

十三畫

【璥】ケイ、キヤウ。居領切 梗
たま（玉）。

【璦】アイ。烏代切 隊
一種の美しき玉。

【璧】ヘキ、ビヤク。北激切 陌
外邊圜くして內孔の方なる瑞玉、たま、まるしだま、外邊の幅は內孔の幅に倍するさだめなりとぞ。○〔詩〕「如レ圭如レ—」。
〔弘璧〕たまの名。○〔書〕「——琬—琰」。
〔穀璧〕粟粒の如きあやありといふ白玉。○〔周〕「子執二——一」。
〔蒲璧〕玉の名。○〔周〕「男執二——一」。
〔蒼璧〕青きいろのたま。○〔周〕「以二——一禮レ天」。
〔銜璧〕たまを口にふくむとにて帝王諸侯などの敵國に降るときにかくなすといふ。○〔左〕「許—男面—縛—レ—」。
〔白璧〕しろきたま。○〔史〕「——一—雙」。
〔玄璧〕くろきたま。○〔穆天子傳〕「乃執二白—圭—一—以見二西—王—母一」。
〔寶璧〕貴重なるたま。○〔戰〕「敝—邑有二——一—雙、又—虜二—顆一」。
〔華璧〕うつくしきたま。○〔阮瑀〕「——易レ貽」。
〔抱璧〕たまをもつ、又、天子の命を受けて事に當ること。○〔西征賦〕「想二趙—使之——一」。

【璨】サン。倉案切 翰
㊀一種の玉。
㊁珠玉の光る貌にいふ字。○〔吳筠〕「——列二玉—華一」。
㊂珠玉の垂るゝ貌にいふ字。○〔孫綽〕、琪—樹璀—而垂レ珠」。

【璩】キヨ、ゴ。彊魚切 魚
環の屬。

【璪】サウ、子皓ソウ。切 皓　—に藻、繅に通じ作る。
采絲に玉を貫きたる冕飾、かむりのかざりだま。○〔禮〕「戴二冕——十—有—二—旒一」。

【璩】カウ、乎到ゴウ。切 號　下老切 皓
玉に似たる一種の石。

【璲】スヰ、ズヰ。似睡切 寘
玉の名。

【璿】セン、ゼン。旬宣切 先
琁に同じ。

【璫】タウ。都郎切 陽
㊀充耳の華飾に用ふる珠、みゝふさぎ、みゝだま、みゝかざり。○〔古詩〕「耳著二明—月——一」。
㊁冠に著くる金玉。○〔後漢〕「秦漢中—常—侍參二—用士—人冠一、皆銀—一—左—貂」。
㊂椽頭の飾たるきざきのかざり。○〔班固〕「裁二金—壁一以飾レ——」。
㊃佩玉の聲にいふ字。○〔蘇軾〕「更愛玉—佩聲琅——」。
〔金璫〕こがねの耳だま。○〔後漢〕「加二黃——一」。
〔榱璫〕椽のさきにつくるたま。○〔三輔黃圖〕「華—壁——」。　「和—垣・虎一」。
〔丁璫〕たまの聲にいふ語。○〔鄭谷〕「——玉石」。
〔華璫〕うつくしきみゝかざり。○〔陳琳〕「——玉—瑤」。

【璬】ケウ、古了切 篠
おびだま（佩玉）。

【璭】コン。古困切 願
琯に同じ、金玉を磨きて光を出だすこと。

【璬】レキ、リヤク。郎擊切 錫
たま（玉）。

【璧】ヨウ、ユ。于容切 冬
㊀玉の器。㊁玉に次げる一種の石。

【璪】環の本字。

【璯】クワイ、ケ。黃外切 泰
冠の縫ひめを飾る玉の稱。

【璺】テン、デン。堂練切 霰
琁に同じ、玉の色。

【璺】テン。他甸切 霰
瑱に同じ。

【璺】テン。他典切 銑
琠に同じ、たま（玉）。

【璾】カツ、カチ。居曷切 曷
玉に似たる一種の石。

【環】クワン、ゲン。戶關切 刪
㊀たまき。
(い)圓郭にして圓孔ある玉、古昔佩玉に用ひしものは其の郭と孔との幅は同一なる製なりとぞ、たまのわ。○〔禮〕「行則有二——佩之聲一」。
(ろ)圓郭にして中空なるものゝ稱、わ。○〔詩〕「游——脅—驅」。
㊁回覆して窮極なきこと。○〔莊〕「樞始得二其——中一以應二無—窮一」。
㊂めぐる。
(い)旋回す、まはる。○〔周〕「——拜以二鐘—鼓一爲レ節」。
(ろ)圍繞す、かこむ。○〔周〕「——涂七—軌」。
㊃めぐらしむ、まはす、めぐらす。○〔漢〕「守二濮—陽一——レ水」。
㊄縱と橫と相等しきこと。○〔儀〕「布—巾——幅不レ鑿」。
㊅內外を巡察する官。○〔左〕「掌二——一」。「列之尹一」。
㊆鬣滌の木、かひこだなのよこばしら。○〔揚雄〕「槅、宋、魏、陳、楚、江—淮之閒謂二之繯一或謂二之——一」。
〔金環〕こがねづくりのたまき。○〔晉〕「令二乳—母取三所レ奏——一」。「后玉——一」。
〔連環〕幾個もつゞきたるたまき。○〔戰〕「遺二君—王——一」。
〔循環〕たまきめぐる、反覆してきはまりなきこと。○〔史〕「三—王之道若二——一、終而復始」。
〔刀環〕刀に附屬しあるわ。○〔漢〕「自循二其——一、握二其足一」。
〔指環〕ゆびわ。○〔宋〕「貫二水—晶——一」。
〔珠環〕玉のわ。○〔韓愈〕「——瑜—」。「——一」。
〔佩環〕身に帶ぶる玉のわ。○〔蘇軾〕「滿—詩鳴二——一」。
〔步環〕あゆむとき調子を取るために身に帶ぶる玉の輪。○〔大戴禮〕「——中レ規」。
〔耳環〕みゝに飾りのためにつけたるわ。○〔常璩南中志〕「皆曲—頭木——」。
〔旋環〕めぐる、めぐらす。○〔班婕妤〕「或——而紆—鬱」。

(周環) 前に同じ。○〔魯靈光殿賦〕「馳道——」。
(縈環) 前に同じ。○〔鄧文原〕「溪林若二——一」。
(玦環) 半圓形に切れてある玉のわ。○〔蘇軾〕「亂山如二——一」。「——」。
(碧環) 青き色のたまき。○〔蘇軾〕「東海如二——

【環】クワン。胡慣切 [諫] 前條の㊂㊃に同じ。

【瑟】シツ、シチ。所櫛切 [質] 玉の采色淸くして鮮かなること。
(瑟々) 碧色の珠の稱。

【璲】スヰ、ズヰ。徐醉切 [寘] 佩ぶる瑞玉。○〔詩〕「鞙-々佩——」。

十四畫

【璵】ヨ。以諸切 [魚] 璠の字を見よ。

【璶】シン、ジン。徐刃切 [震] 玉に似たる一種の石。

【璷】リヨ、ロ。力居切 [魚] 一種の玉。

【𤪌】フ。芳無切 [虞] 玞に同じ、美しき玉。

【璸】ヘン、ベン。蒲眠切 [先] 珠の名。

【璸】ヒン。悲巾切 [眞] 玉の文理の貌にいふ字。○〔史〕「——斒文-鱗」。

【璂】キ、ギ。渠之切 [支] 弁の飾玉。

【璹】シウ、殖酉切 [有] ジユ。切 タウ、大到切 [號] ドウ。切 玉の名。

【璹】シユク、ジユク。殊六切 [屋] 玉の器。

【璺】ブン、亡運切 [問] モン。切 キン。許愼切 [震] 玉に裂けたる條あること、轉じて、すべての物の裂けたる條あること、ひゞ、ひゞき、きず。○〔書〕「灼レ龜爲レ兆其——折形-狀有二五-種一」。
(微璺) すこしのきず。○〔酉陽雜俎〕「但有二——一」。
(瑕璺) きず。○〔歙硯記〕「復多二——一耳」。
(疵璺) 前に同じ。○〔名山記〕「色黝-澤如レ漆無二——一」。
(紅璺) あかきひゞ。○〔僧貫休〕「桃熟多二——一」。

【璻】スヰ。祖誄切 [紙] 玉の色。

【璽】シ。斯氏切 [紙] 古昔は、王者諸侯の信印の稱、秦漢以後は天子の信印に限りての稱、しるし、おしで。○〔左〕「公在レ楚、季-武-子使二公-冶問一——書追而與レ之」。
(御璽) 皇帝の御印。○〔史〕「矯二王——一」。
(符璽) 證據のしるしのこと。○〔史〕「奉二北——一以歸-帝-者一」。
(玉璽) たまにてこしらへたるしるし。○〔史〕「受二——一、齋五-日」。
(印璽) しるし。○〔漢〕「單于——與二天-子一同」。
(信璽) 前に同じ。○〔晉〕「奉二送皇-帝——一」。
(神璽) 皇帝のしるし。○〔北〕「槐里獲二——一、大-赦」。「——」。
(實璽) 貴重なる印章のこと。○〔宋〕「學-士院上二——一」。
(鈕璽) 天子の所有するみつるぎとみしるしと。○〔李白〕「——傳二無-窮一」。

【璾】セイ、ザイ 在禮切 [霽] 玉病、きず。

【璾】シ。津私切 [支] 齍に同じ、祀に用ふる黍稷を盛る器。

【璿】セン、ゼン。似沿切 [先] ケイ、ケ。睽桂切 エイ、エ。愈芮切 [霽] 一種の美玉。○〔書〕「在二——璣玉-衡一以齊二七-政一」。
(琢璿) みがきたるたま。○〔李光朝〕「——爲レ衡」。
(玉璿) たまのこと。○〔袁褏〕「東湖鑄二——一」。

【𤪱】カツ、ゲチ。胡𦟜切 [黠] カツ、ガチ。何葛切 [曷] 玉に似たる一種の石。

【瓀】ゼン、ネン。而宣切 [先] 乳兗切 [銑] 玉に似たる一種の石。○〔禮〕「士佩二——玟一而緼-組綬」。

【瓁】クワク、グワク。五郭切 [藥] あらたま、(璞)。

【瓂】カイ。居太切 [泰] 人の名。

十五畫

【瓃】ライ、レ。魯回切 [灰] ル井。力追切 [支] 力遂切 [寘] 玉の器。

【瓄】トク、ドク。徒谷切 [屋] ㊁圭の名。㊂玉の器。

【瓅】レキ、リヤク。狼狄切 [錫] 玉の光彩、ひかり、つや、又、光うつろふ、てらす。○〔史〕「玓二——江靡一」。

【瓆】シツ、シチ。職日切 [質] 人の名。

【瓈】レイ、ライ。郎奚切 [齊] 玻の條を見よ。

【瑑】テン、デン。柱兗切 [銑] 瑃に同じ。

【瓉】俗の瓚の字。

【瓊】ケイ、ギヤウ。渠營切 [庚] ㊀采色の美しきこと、一說に、一種の赤玉。○〔詩〕「報レ之以二——琚一」。㊁一種の美玉。○〔女紅餘志〕「輕二金——七-重-體一」。
(瑤瓊) うるはしきたま。○〔白居易〕「一種如二——一」。
(琳瓊) 前に同じ。○〔許宸〕「四-階植二——一」。
(曲瓊) まがたま。○〔溫庭筠〕「夜明簾-額懸二——一」。
(紅瓊) あかきたま。○〔庾信〕「金-盤襯二——一」。
(瑰瓊) すぐれたるたま。○〔高啓〕「上有二秀-句如二——一」。

【璿】セン、ゼン。旬宣切 [先] 璇に同じ。

【璣】キ、ケ。其旣切 [未] 圓からざる珠。

【瓋】テキ、チヤク。他歷切 [錫]

きず、(瑕)。○[呂氏春秋]「寸之玉必有二瑕—一。」

【⿰王廛】テン。呈練切 [霰] 瓏—は、一種の果。○[武林舊事]「諸色瓏—密煎」。

十六畫

【瓌】クワイ、ケ。公回切 [灰] 瑰に同じ。

【瓈】俗の璃の字。

【瓍】スヰ、ズヰ。旬爲切 [支] たま、(珠)。

【瓎】ラツ、ラチ。郎達切 [曷] たま、(玉)。

【瓏】リヨウ、リユ。力鍾切 [冬] 旱に雨を禱るに用ふる玉。

【瓏】ロウ、ル。盧紅切 [東] ❶玉の相撃ちて發する聲にいふ字。○[漢]「前殿崔巍兮和氏——玲」。❷明かなる貌にいふ字。○[抱朴]「朱草蒙——」。
(瓏々) たまの聲にいふ語、又、あきらかなる貌にいふ語。○[韓愈]「——晩花乾」。「——」。
(玲瓏) 前に同じ。○[韓愈]「窺レ窗映レ竹見ニ——」。
(瓏瓏) たまのあきらかなる貌にいふ語。○[蘇軾]「仇池玉色自——」。「響」。
(瀧瓏) たまの聲にいふ語。○[李賀]「———敷鈴」。

【瓐】ロ、ル。龍都切 [虞] みどり色の玉。○[秦子]「雖ニ赤瓊碧——無レ益也」。

十七畫

【瓓】ラン。郎肝切 [翰] たまのあや、(玉-采)。

【瓔】エイ、ヤウ。於盈切 アウ、ヤウ。於莖切 [庚] ❶—琅は、玉に似たる一種の石。❷玉を連ねたる一種の頸飾、くびかざり。○[韓愈]「金-星墮ニ連——」。
(珠瓔) 頸に施す玉の飾り。○[劉禹錫]「何人不レ願ニ解——」。
(鈿瓔) 前に同じ。○[白居易]「——纍々佩珊々」。
(香瓔) にほひをこめたる頸の飾りのこと。○[法苑珠林]「夫人——嗅出レ宮」。

【⿰王燮】セフ。蘇叶切 [葉] 玉に次げる一種の石。

【⿰弓璽】シ。想氏切 [紙] 弓を弛ぶ、ゆるぶ、はづす。

【瓖】ジヤウ、サウ。息良切 [陽] ❶馬の腹帶の飾り、はらおびのかざり。○[國]「亡人之所ニ懷挾一嬰——以望ニ君之塵垢一者」。❷釵釧の飾り、かんざし、のかざり。○[正字通]「或金或玉不レ同、其爲レ——」。

【⿱霝玉】レイ、リヤウ。郎丁切 [青] 巫の玉をもて神に事ふるもの。

十八畫

【瓗】エイ、ヤウ。於營切 [庚] ケイ、ケ。懸圭切 [齊] イ。以睡切 [寘] ケイ、ケ。睽桂切 [霽] スヰ。津垂切 [紙]

瓊に同じ。

【瓘】クワン。工玩切 [翰] 珪玉。○[左]「鄭裨竈曰、若我用ニ——斝玉瓚一、鄭必不レ火」。

【⿰王燾】タウ、ドウ。徒到切 [號] たま、(玉)。

【瓇】ジウ、ニユ。耳由切 [尤] ダウ、ノウ。奴刀切 [豪] ゼウ、ネウ。如招切 [蕭] たま、(玉)。

【瓚】サン、ザン。徂贊切 [翰] 才旱切 [旱] 圭を以て柄となしたる玉勺、鬯を灌ぐに用ふる器。○[詩]「瑟彼玉——」。
(圭瓚) 宗廟に用ふる器。○[詩]「釐ニ爾——」。
(璋瓚) 前に同じ。○[禮]「大宗執ニ——亞祼」。

二十畫

【瓛】クワン。胡官切 [寒] ケン、コン。許建切 [阮] 公の位にある人の執る玉、桓圭。

【瓛】ゲツ、ゲチ。魚列切 [屑] 馬の鑣、くつわ、くつばみ。

廿一畫

【⿰王甗】ゲン、ゴン。魚蹇切 [銑] 玉の甑、こしき。

【⿰王纍】ルヰ。倫追切 [支] 玉の器。

【瓃】ライ、レ。盧回切 [灰] 璙に同じ。

廿二畫

【⿰王鬵】シン、ジン。徐心切 [侵] 玉に似たる一種の石。

瓜部

【瓜】クワ、ケ。古華切 [麻] 〔說文〕象形 蔓草の實、うり。○[詩]「七月食レ—」。
(王瓜) からすうり。○[禮]「孟夏之月——生」。
(木瓜) 一種の木實、ぼけ。○[詩]「投ニ我以——一、報レ之以ニ瓊琚一」。
(天瓜) きからすうり。○[本草]「栝樓齊人謂ニ——一」。
(守瓜) 一種の蟲、うりばへのこと。○[爾雅]「蠸輿父」「——」。
(匏瓜) (い)ひさご。○[論]「吾豈——也哉」。(ろ)星の名。○[史]「——五星在ニ離珠北一」。
(甜瓜) まくはうり。○[本草]「——一名ニ甘瓜一、一名ニ果瓜一」。
(甘瓜) 前に同じ。○[魏文帝]「浮ニ——於清泉一」。
(菟瓜) からすうり。○[爾雅]「黃——」。「—」。
(美瓜) みごとなるうり。○[後漢]「甘州生ニ——一」。
(寒瓜) すゐくわのこと。○[南]「思レ食ニ——一」。
(西瓜) 前に同じ。○[范成大]「年年來處々食ニ——一」。
(及瓜) 任滿つること、下に引く例より由來す。○[左]「齊侯使ニ連稱管至父戍ニ葵丘一、瓜時而往、曰及レ—而代」。
(破瓜) 十六歲のこと、○[說苑]「成功當レ在ニ——年一」。

三畫

【瓝】ハク、ボク。蒲角切 [覺] ❶小さき瓜。○[爾]「瓞——其紹瓞」。❷一種の草。○[爾]「——九葉」。

【⿰屯瓜】トン、ドン。徒昆切 [元] 瓜の屬。

四畫

【⿰瓜冘】チン、ドン。直禁切 沁
青き皮の瓜。

【⿰分瓜】ハン、ヘン。逋還切 刪
たまうり、（瑞-瓜）。

【⿰屯瓜】トン、ドン。徒門切 問
⿰區瓜—は、瓜の屬。

【⿰瓜丰】ホウ、フ。補孔切 董
瓜の實の多き貌にいふ字。

五畫

【瓞】テツ、デチ。徒結切 屑
蔓の本に近く成實したる小瓜、こうり。○〔詩〕「緜-々瓜—」。

【⿰句瓜】コウ、ク。古侯切 尤
—瓠は、からすうり、（王-瓜）。

【瓝】ハク、ボク。蒲角切 覺
㊀瓝に同じ、こうり。○〔楚辭〕「援二——瓜一兮接レ糧」。
㊁醬の名。○〔宋〕「——醬調二秋-菜一、白-醋解二冬-寒一」。

【瓟】ハウ、ベウ。薄交切 肴
ひさご、（匏）。○〔廣韻〕「——瓠可レ爲二飲-器一」。

【⿰古瓜】コ、ク。古胡切 虞
からすうり、（王-瓜）。

【⿰如瓜】ジョ、ニョ。人渚切 語

ほしな、（乾-菜）。

【⿰令瓜】レイ、リヤウ。郎丁切 青
支那の南方に生ずる小さき瓜。

【㼌】ユ。以主切 麌
㊀本の末より微弱なるを。
㊁勞病、つかれやまひ。

六畫

【⿰耒瓜】ライ、レ。魯猥切 賄
㊀瓜の中にある雜物、うりのわた。
㊁熱のために傷みたる瓜、ひやけ瓜。

【⿰瓜交】ハク、ボク。蒲角切 覺
小さき瓜。

【⿰瓜舌】クワツ、クワチ。苦括切 曷
きからすうり、（果-蓏）。

【瓠】コ、グ。洪孤切 虞
㊀一種の瓜、ゆふがほ、ひさご。○〔詩〕「幡-々——葉采レ之亨レ之」。
㊁つぼ、（壺）、もたひ、（罌）。○〔漢〕「斡二棄周-鼎一兮而寶二康——一」。
〔瓜瓠〕星の名、又、うりとひさごと。○〔星經〕「——五星在二離-珠北一」。
〔康瓠〕瓦もてつくりたる水をもるつぼ。○〔爾〕「——謂二之甈一」。
〔懸瓠〕物に掛けたるひさご。○〔意林〕「樹-上——非二木-實一也」。

【⿰吉瓜】カツ、カチ。恪八切 黠
つよし、（勁）。

七畫

【⿰女瓜】ダイ、子。奴罪切 賄

㊀ひやけ瓜。㊁うりのわた、（瓜-中）。

【⿰豖瓜】トク。丁木切 屋
醋を盛る器。

八畫

【⿰果瓜】クワ、ワ。胡果切 哿
うり、（瓜）。

【⿰咅瓜】ハイ、ヘ。鋪枚切 灰
うり、（瓜）。

九畫

【⿰扁瓜】ヘン、ベン。部田切 先
黃なる瓜、又、白—は、瓜の屬。

【⿰侯瓜】コウ、グ。戶鉤切 尤
からすうり、（王-瓜）。

【⿰柬瓜】レン。郎甸切 霰
瓜中、わた。

【⿰瓜昜】タウ。他朗切 養
㊀瓜の長き貌にいふ字。
㊁大いなる瓜の名。

【⿰奚瓜】ケイ、ケ。古攜切 齊
𤬛に同じ。

十畫

【⿰䍃瓜】エウ。餘招切 蕭
うり、（瓜）。

【⿰瓜兼】レン。力忝切 琰
瓜の名。

【⿰瓜連】レン、ロン。離鹽切 鹽
瓜の子。

【⿰婁瓜】ロウ、ル。郎豆切 宥
𤓰——ば、一種の瓜、からすうり、其の形大小一ならず、夏の末に實のり秋の中ばに熟し霜後に採りて器となす。

【⿰區瓜】ヲン。烏昆切 元
—⿰屯瓜は、瓜の屬。

【⿱𤇾瓜】ケイ、ギヤウ。戶扃切 青　エイ、ヤウ。維傾切 青
小さき瓜。

十一畫

【瓢】ヘウ、ベウ。符霄切 蕭
瓠の屬、ひさご、ふくべ、熟せるものは酒尊となすべし。○〔莊〕「剖レ之以爲レ—、則瓠-落無レ所レ容」。
〔簞瓢〕飯をもるはことひさごと。○〔論〕「一-—食一-—飲」。
〔瓠瓢〕ひさご。○〔謝承〕「——盛レ酒」。
〔酒瓢〕さけをいるゝひさご。○〔姚合〕「頻レ君擧二———一」。

【⿰繇瓜】エウ。余招切 蕭　セウ。式昭切
瓜の名。

十三畫

【⿰當瓜】タウ。都郎切 陽
瓜の中の實、み、わた。

【⿰喜瓜】キ。虛宜切 支
ひさご、（瓠-瓢）。

十四畫

【瓣】ヘン、ベン。蒲莧切 霰　ヘン。匹見切 霰　ハン、ベン。薄閑切 刪
㊀瓜中の實、瓠中の犀、されみ。○〔爾〕「瓠棲—」。㊁花片、はなびら。○〔揚雄〕「須臾蹋破二蓮花—一」。㊂果實の肉の幾箇にも分かれたるもの、一片。○〔仙傳拾遺〕「羅公遠取レ柑嗅レ之、明皇取二食千餘枚一、皆缺二一—一」。
（瓜瓣）うりのさね。○〔韓愈〕「秋始識二——一」。

十六畫

【⿰盧瓜】ロ、ル。籠都切 虞
圓き瓠、まろべうたん。○〔南〕「與二一瓠——一」。

【⿰鬳瓜】ゲン。語堰切 元　語偃切 阮　魚戰切 霰　魚蹇切 銑
ひさご（瓠）

十七畫

【瓤】ジヤウ、ニヤウ。汝陽切　ヂヤウ、ニヤウ。女良切　ダウ、ナウ。奴當切 陽
瓜の中に實ちて瓣を包みたる絮の如きもの、うりわた、瓜練。○〔拾遺記〕「青-皮黑—」。
（黑瓤）うりなどのくろきわた。○〔拾遺記〕「青-皮——」。
（丹瓤）うりのあかきわた。○〔劉楨〕「素-肌——」。

十八畫

【⿰瓜雚】ケン、ゴン。逵員切 先
瓜轉ぶ、まろぶ。

廿一畫

【瓥】レイ、ライ。郎計切 霽
ひさご（瓠子）、又、ひさごびしやく、（瓠杓）。○〔楚辭〕「匏—蠡二于筐-籠一」。

瓦部

【瓦】グワ、ゲ。五寡切 馬
㊀已に燒きたる土器の總稱、すゑもの。○〔禮〕「君尊—甒」。㊁屋宇を葺くに用ふる土器、かはら。○〔史〕「秦軍鼓-譟勒レ兵、武-安屋—盡震」。㊂いさまき、（紡-塼）。○〔詩〕「載弄二之—一」。㊃楯の脊。○〔左〕「射レ之中二楯—一」。㊄人の名。○〔左〕「楚囊—爲二令-尹一」。㊅地名。○〔春秋〕「公會二晉師于—一」。
（縹瓦）琉璃かはら。○〔皮日休〕「全-吳——十-萬-戸」。
（陶瓦）かはら。○〔唐〕「敎レ民作二——一」。
（漆瓦）うるしもて塗りたるかはら。○〔十六國春秋〕「皆——金-瑞」。
（銅瓦）あかゞねもてつくりたるかはら。○〔天中記〕「覆二——一」。
（鴛瓦）のきさきのかはら。○〔庾信〕「武安——振」。

【瓦】ギ。五委切 紙
いしだたみ（甃）。○〔莊〕「槃—結-繩」。

【瓦】ガ、ゲ。五化切 禡
かはらを屋宇に施す、又、かはらをふきたる屋宇。○〔廣韻〕「泥二—屋一」。

二畫

【⿰丁瓦】テイ、チヤウ。特丁切 青
かはら（甎）。

【⿱宀瓦】グワ、ゲ。吾化切 禡
宐に同じ。

三畫

【⿰山瓦】グワ、ゲ。五寡切 馬
山の貌にいふ字。

【⿰凡瓦】ハン、ホン。扶泛切 陷
かはら（瓦）。

【⿹弋瓦】ヨク、イキ。逸職切 職
瓦の坏れりつち。

【⿰巾瓦】古文の甃の字。

【⿰土瓦】ト、ヅ。徒古切 麌
かめ（瓶）、ほさぎ（甖）

【⿰土瓦】カン、コン。口含切 覃
瓦の器。

【⿰土瓦】ト、ヅ。徒故切 遇
土にて作りたる瓶、かめ、ほさぎ。

【瓨】カウ、コウ。古雙切 江　コウ、ク。乎攻切 東
頸の長き甖、もたひ。

【瓨】カウ、ゴウ。胡江切 江
缸に同じ。○〔漢〕「醯-醬千—」。

【⿰亢瓦】カウ。寒剛切 陽
みか、かめ（瓶）。

【瓨】コウ、グ。胡公切 東
陶器、やきもの、すゑもの。

四畫

【瓪】ハン。布綰切 潸　博管切 旱　ヘン、ホン。甫遠切 阮
われがはら（敗-瓦）、一說に、ひらがはら、めがはら、（牝-瓦）。

【瓫】ホン、ボン。步奔切 元
㊀盆に同じ、ほさぎ。㊁湓に同じ、水溢る、あふる。○〔晉〕「水-滂—-溢」。

【⿰火瓦】シウ、シユ。側救切 宥
井中の甃、たゝみがはら。

【⿰禾瓦】ハイ、ヘ。鋪枚切 灰
瓦の未だ燒かざるもの、瓦ゑたち。

【⿰九瓦】カウ。居郎切 陽
もたひ（甖）、かめ（瓶）。○〔揚雄〕「甖甀-桂之郊謂二之—一」。

【⿰亢瓦】カウ。舉朗切 養
甖の屬。

【瓬】ハウ、バウ。分兩切 養
旊に同じ。

【⿰忄瓦】タン、トン。都感切 感
みか、かめ（瓶）、一說に、瓦の屬。

【⿰火瓦】チン、ヂン。持林切 侵

小さきもたひ。○[揚雄]「罌甈、桂之郊謂ニ之瓬ー其小者謂ニ之ーー」。

【瓭】タン、トン。都含切 覃
一石の量を受くる大いなる罌。

【瓨】ケイ、ギヤウ。戸經切 青
カウ、キヤウ。何耕切 庚
壺に似て頸の長きもの、一説に、酒を入るゝ器。

【瓰】カン、ガン。胡男切 覃
㊀治槖の柄、ふいがうのえ。㊁鉼に似て耳ある陶器。

【瓰】ケン。丘釅切 豔
前條の㊁に同じ。

【瓴】前條に同じ。

【瓮】ヲウ、ウ。烏貢切 送
もたひ、(罌)、かめ、(瓶)。○[抱朴]「四瀆之濁不レ方ニ一水之淸ニ巨象之痩不レ同ニ羔羊之肥ニ」。

五畫

【𤭊】キヨウ、ク。居悚切 腫
かめ、(缾)。

【瓳】コ、グ。戸吾切 虞
かはら、(甎)。

【瓴】レイ、リヤウ。郎丁切 靑
㊀かはら、(瓦)。○[司馬相如]「緻ニ錯石之ーー甓ニ兮、象ニ瑇瑁之文章ニ」。
㊁かめ、(瓶)。○[淮]「或以ニ甕ーーニ」。

【瓵】イ。與之切 支
小罌、かめ。○[爾]「甌瓿謂ニ之ーニ」。

【㼜】アウ。於浪切 漾 倚朗切 養
㊀盎に同じ、ほとぎ。
㊁大いなる癭の貌にいふ字。○[莊]「甕ー大癭說ニ齊桓公ニ」。

【㼕】シ。象齒切 紙
かはら、(甎)。

【𤬼】ワン、烏管切 旱
はち、(小盂)。

【㼭】テイ、タイ。都計切 霽
大いなる瓮、おほがめ。

【𤭃】ヨウ、ユ。余頌切 宋
大いなる罌、もたひ。

【𤭊】ダツ、ナチ。女刮切 黠
まるがはら、(甋)。

【㼶】ハウ、ヒヤウ。普孟切 ハウ、ビヤウ。蒲孟切 敬
罌の屬、一説に、瓬の屬。

【𤬾】ハク、ビヤク。薄陌切 陌
瓦屋の泥らざるもの。

【㼠】タ、ダ。徒何切 歌
㊀瓦の盌、はち、㊁はさぎ、(缶)。

六畫

【㼡】シユ。市朱切 虞
もたひ、(甇)、かめ、(瓶)。○[揚雄]「甇陳魏宋楚之閒曰レ甋或曰レー」。

【㼢】イ。與之切 支
㊀かはら、(甎)。㊁かめ、(瓶)。

【瓶】俗の瓶の字。

【瓸】ハク、ヒヤク。博白切 陌
たゝみがはら、(甓)。

【𤭐】タ、ダ。徒果切 哿
みか、かめ、(甌)。

【𤭅】タ、ダ。徒禾切 歌
碢に同じ、いんぢうち、(飛甎戲)。

【㼤】ケツ、ケチ。苦結切 屑 ケイ、カイ。詰計切 霽
かめ、(瓶)。

【㼥】ケイ、エ。懸圭切 齊
甑の底の空、あな。

【瓷】シ、ジ。疾資切 支
質堅くして理緻かき一種の陶器。○[潘岳]「傾ニ縹ーー以酌ニ醽醁ニ」。
(綠瓷) みどりいろにやきつけたるやきもの。○[鄒陽酒賦]「ーー既啓」。
(素瓷) しろくやきつけたるやきもの。○[王修]「ーー傳ニ靜夜ニ」。
(花瓷) はなをいくるやきもの。○[蘇軾]「定州ーー琢ニ紅玉ニ」。

【㼧】カウ、コウ。苦皓切 晧
うつは、(器)。

【𤭗】トウ、ツ。天口切 有
みか、かめ、(瓶)。

【𤭚】デフ、ヂフ。乃牒切 葉
安からざる貌にいふ字。

七畫

【𤭭】ケン。古縣切 先
㊀瓮の底の孔、其れより酒を取るもの。㊁すゑもの、やきもの、陶器。

【𤭏】テイ、ダイ。田黎切 齊
甋に同じ、もたひ。

【𤭛】ハン、ボン。扶汎切 陷
㊀瓶の貌にいふ字。㊁かはら、(瓦)。

【𤭢】トウ、ヅ。徒紅切 東
まるがはら、(牡瓦)。

【㼨】カン、ガン。胡男切 覃
㊀耳ある陶器、一説に、小き缾。㊁口のすぼみたる陶器。

【𤭓】テキ、チヤク。丑亦切 陌
酒を盛る器、もたひ、かめ。

【㼩】セイ、ジヤウ。時征切 敬
かめ、(甔)。

【㼩】セイ、ジヤウ。時正切 庚
うつは、(器)。

【㼮】甍の俗字。

【瓺】チヤウ、ヂヤウ。直良切 陽

直亮切 漾

かめ（瓶）。○［揚雄］「甇燕之東北朝鮮洌水之閒謂二之ー一」。

【瓳】ゴ、グ。訛胡切 虞
わん（甌）。

【瓺】ラウ。盧當切 陽
うつば（器）。

【𤭛】瓶に同じ。

【瓻】チ、ヂ。丑脂切 支
かめ（瓶）、一說に、酒を盛る器、もたひ。
〔一瓻〕書を借るゝとにも書を還すとにもいふ語、古昔は書の借還に酒を一瓻盛りて送りたりといふ。○［王樂道］「借書ーー還書ーー」。

【𤭢】へイ、ビヤウ。蒲明切 庚
罌の屬、かめ、みか。

【㼪】セフ。子協切 葉
㊀半瓦、ふせがはら。㊁瓦の相掩ふにいふ字。

【㼹】クワウ、ワウ。呼光切 陽
うつは（器）。

八畫

【㼫】クワン、グワン。戶管切 旱
クワ、ゲ。戶瓦切 馬
大口なるかめ。

【𤭯】カウ、ギヤウ。胡耿切 梗
ケイ、ギヤウ。下頂切 迥
耳ある瓶。

【㼭】テン、デン。徒念切 豔
㊀さゝふ（支）。㊁さゝへ（柱）。

【𤭴】レイ、ライ。憐題切 齊
小さき瓶。

【瓽】タウ。丁浪切 漾
㊀大いなる甖、おほもたひ。㊁非甃、いしだたみ、ちきがはら。○［揚雄］「一旦叀礙爲二ー所一レ」。

【㼇】バウ、ミヤウ。毋耿切 梗
甑の帶。○［淮］「敝箄甑ー在二裀茵之上一、雖二貧者一不レ搏」。

【𤭼】サイ、セ。楚佳切　バイ、メ。謨皆切 佳
シヤ、セ。初加切 麻
みがく（磨）、一說に、瓦の屑もて器を滌ふ、あらふ。

【𤭺】セイ、サイ。七計切 霽
いしだたみ（甃）。

【𤮏】トン。都昆切 元
甌に似たる一種の陶器。

【𤭪】フウ、プ。扶缶切 送
瓦器、やきもの。

【𤮓】トウ、ツ。多貢切 送
ほさぎ（缶）。

【𤮒】へイ、バイ。部迷切 齊
ヒ、ビ。頻彌切 支　部鄙切 紙
かめ。○［揚雄］「甇謂二之ー一」。

【瓿】ホウ、プ。蒲口切 有　ブ、ム。防無切　ホ、フ。薄胡切 虞　フウ、プ。蒲侯切 尤
みか、かめ（瓶）、ほさぎ（缶）、もたひ（甖）。○［戰］「夫鼎者非レ效二壺醯醬ー一耳」。
〔甌瓿〕かめ。○［爾］「ー・ー謂二之瓵一」。

【甀】ツ井。馳僞切 寘　ス井、ズ井。是僞切　ツ井、ヅ井。直垂切 支
小さき口の罌、かめ、もたひ。○［淮］「抱レー而汲」。

【瓶】へイ、ビヤウ。薄經切 青
㊀水醬酒醴などを盛る陶器、かめ、みか、もたひ。○［左］「衞孫蒯田二于曹一、隧二飲馬于重丘一毀二其ー一」。㊁汲器、つるべ。○［儀］「新盆槃ー廢レ敦重レ鬲」。㊂炊ぐ器。○［禮］「夫奧者老婦之祭也盛二於盆一尊二於ー一」。
〔銀瓶〕しろがねのこがめ。○［杜甫］「指二點ー・ー索レ酒嘗」。
〔酒瓶〕さけをいるゝこがめ。○［張籍］「開向二春風一倒二ー・ー一」。
〔淨瓶〕きよらかなるこがめ。○［李洞］「ー・ー光照レ衆」。
〔罇瓶〕酒をいるゝかめ。○［陳造］「又成二豪飲一臥二ー・ー一」。
〔簞瓶〕飯をもるものと飲をいるゝこがめと。○［易林］「ー・ー空虛」。
〔瑠瓶〕たまのかめ。○［王叔永］「漢江綠酒傾二ー・ー一」。

【𤮖】サイ、セ。蘇對切 隊
わる、やぶる（破）。

【㼷】シュン。子峻切 震
ゼン、ナン。乳兗切 銑
㊀韋を柔かにす、なめす。㊁獵の時に用ふる革袴、かはもゝひき。

九畫

【𤮙】レフ。零帖切 葉
瓦を蹈む聲にいふ字、一說に、薄き瓦。
〔歷𤮙〕物の損ひ破るゝ聲にいふ語。

【𤮜】カイ、ケイ。古諧切 佳
まるがはら（牡瓦）。

【𤮨】セイ、シヤウ。所景切 梗
かめ（瓶）、一說に、耳ある瓶。

【𤮚】ゴウ、グ。五口切 有
ほさぎ（盎）。○［揚雄］「缶謂二之瓿ー一」。

【𤮕】タ、ダ。徒禾切 歌
いんぢうち（飛甎戲）。

【𤮗】ケイ、キヤウ。苦徑切 徑
石の器。

【甂】へン。布懸切 先
小さき盆盎、かめ、ほさぎ。○［揚雄］「自レ關而西盆盎小者曰レー」。

【𤮞】テイ、ダイ。徒禮切 薺
小盆、ほさぎ、かめ。○［揚雄］「甂陳魏宋楚之閒謂二之ー一」。

【𤮬】ユ。羊朱切 虞　イウ、ウ。于求切 尤
かめ（瓶）、もたひ（甇）。○［揚雄］「甇陳魏宋楚之閒曰レー」。

【甃】シウ、シユ。側救切 宥
㊀かはらを疊み築きたるを、かはらを布き駢べたるを、志きいし、たゝみがはら、いしだたみ、志きがはら。
㊁飾る。○〔易〕「六-四井—无レ咎」。○〔李賀〕「光-明譪不レ發、腰-龜徒—レ銀」。
〔缺甃〕かけくぼみたるたゝみがはら。○〔莊〕「入休二乎——之涯一」。
〔碧甃〕青きたゝみがはら。○〔李賀〕「——熒々」。
〔石甃〕いしだたみ。○〔李白〕「——冷二蒼苔一」。
〔苔甃〕こけのむしたる志きがはら。○〔權德輿〕「——桐花落」。
〔璧瓷〕たまの いしだたみ。○〔羅隱〕「——復椒塗」。

【耑瓦】セン、ゼン。淳縁切 先
㊀ほさぎ(盆)。㊁甎に同じ、かはら。

【瓨】カウ、コウ。戸江切 江
もたひ(罌)。

【甄】ケン。居延切 先　シン。側隣切 眞
㊀埴を埏りて器を爲るを、する。○〔漢〕「惟—者之所レ爲」。
㊁かふ(化)。○〔左思〕「玄-化所レ—、國-風所レ稟」。
㊂土。○〔廣雅〕「—土也」。
㊃かはら。○〔博雅〕「—甎也」。
㊄みる(察)。○〔抱朴〕「—二無-名之士於草-萊一」。
㊅あらはす(表)。○〔潘岳〕「—二大-義一以明レ責」。
㊆あきらか(明)。○〔後漢〕「靈-覘自—」。
㊇陣の左右に張れる翼、そなへ。○〔左、註〕「將レ獵張二兩—一、故置二左-司-馬一、兩—猶二兩-翼一」。
㊈鳥の飛ぶ貌にいふ字。○〔楚辭〕「鶉鵠兮——」。
㊉煙突の下。○〔博雅〕「揬-下謂二之—一」。
〔陶甄〕をさめ化すると、又、する。○〔晉〕「—二—萬-方一」。

【甄】シン。之刃切 震
鐘聲掉ふ、ふるふ。○〔周〕「薄聲—」。

十畫

【谷瓦】ヨウ、ユ。與封切 冬
㊀もたひ(罌)、かめ(瓶)。㊁うつは(器)。

【盎瓦】アウ。烏浪切 漾
ほさぎ(盆)。

【甇】アウ、ヤウ。於莖切 庚
罌に同じ。

【荒瓦】カウ、コウ。苦江切 江　カウ。苦岡切 陽
かめ(甎-瓨)。

【荒瓦】クワウ、ワウ。呼光切 陽
㊀うつは(器)。㊁破甇、われもたひ。

【哥瓦】カ。居何切 歌
居の棟に結ぶかはら、むながはら。

【翕瓦】ガフ、ゴフ。五盍切 合
瓦器、やきもの。

【黜瓦】シユツ、シユチ。卒律切 質
行く能はざるを、足なへ。

【甈】ケイ。去例切　ケイ、ケ。九芮切 霽

㊀はち、ほさぎ。○〔揚雄〕「甇—謂二之盎一」。
㊁破瓦、破罌、やぶれがはら、やぶれもたひ。○〔方言、註〕「—破-瓦又破-罌也」。
㊂燥く、裂く。○〔揚雄〕「剛則—柔則坏」。

【甉】カン、ゲン。戸監切 咸　下斬切 豏　サン、セン。
莊陷切 陷

【瓳】タウ、ダウ。徒郎切 陽
㊀瓦屋、かはらや。㊁瓦を屋に施す。
耳ある小さき缾。

十一畫

【票瓦】俗の瓢の字。

【虛瓦】キ。許羈切 支

【毄瓦】ケツ、ケチ。苦結切 屑
㊀ほさぎ(缶)。㊁うつは(器)。

【從瓦】サウ、ソウ。士江切 江　サウ、ス。徂宗切 冬
㊀かめ(瓶)。㊁瓦坯、かはらつち。
かめ(瓶)、もたひ(罌)。○〔揚雄〕「罌江-湘之閒謂二之—一」。

【累瓦】ルヰ。力僞切 寘
かはら(甎)。

【甊】ロウ、ル。郎斗切 有
小さき罌。

【甋】テキ、チヤク。都歷切 錫
かはら、志きがはら(甓)。○〔張協〕「瓴-甋—参二璵-璠一魚-目笑二明-月一」。

【爽瓦】シヤウ、サウ。初兩切 養
㊀磢に同じ、垢を磋く瓦石、又、碎けたる瓦石にて垢を去る、みがく。
㊁牛瓦。

【甌】オウ、ウ。烏侯切 尤
小盆、こばち、瓿甊、ほさぎ、瓴甋、かめ、今俗に盌の深きものをいふ。○〔爾〕「——瓿謂二之瓴一」。
〔甕甌〕ほとぎをうちならす。○〔非烟傳〕「尤工レ—」。
〔金甌〕かねにてつくりたるかめ。○〔南〕「武帝言、我國-家猶若二——一」。
〔瓮甌〕瓦の盆。○〔淮〕「狗-彘不レ擇二——一而食」。
〔升甌〕ほとぎの小形なるもの。○〔方言〕「罃-甄謂二之甌一、北小者謂二之——一」。

【甍】バウ、ミヤウ。耕莫切 庚
屋棟の瓦、瓦の屋棟、むながはら、かはらやれ、いらか。○〔左〕「猶援二廟-桷一動二於—一」。
〔棟甍〕屋のむねのかはら。○〔韓愈〕「帳-廬扶二——一」。
〔連甍〕いらかをつらぬ。○〔蜀都賦〕「比レ屋—レ—」。
〔雲甍〕たかくそびゆるむながはら。○〔宋之問〕「——出二萬家一」。

【甍】ボウ、モウ。母亙切 徑　ベイ、ミヤウ。忙成切 敬
むね(棟)。

【康瓦】カウ。苦岡切 陽　カウ、コウ。枯江切 江
かはら(瓦)。

【甎】セン。職緣切 先
かはら(瓦)、志きがはら(甓)。○〔唐〕「層レ—起レ塔」。
〔紡甎〕いとまき。

【甗】ロク。盧谷切 屋
前條に同じ、かはら、あきがはら。○[三、註]「以二一甎一爲レ障」。

【甌】クワク。古獲切 陌
瓦器、やきもの。

十二畫

【甐】ル井。倫追切 支
かはら（甎）。

【甑】トウ、ヅ。徒紅切 東
あきがはら。

【甎】シヨウ、シユ。之川切 宋
かめの屬。

【甏】ハウ、ビヤウ。蒲孟切 敬
かめ（甕）。

【甑】テイ、ヂヤウ。直正切 敬
かめ（瓶）。○[揚雄]「甖秦之舊都謂二之一一」。

【甐】リン。良刃切 震 離珍切 眞
㊀うつは（器）。
㊁うごく（動）、やぶる（敝）。○[周]「是故輪雖レ敝不レ一二於鑿一」。

【甓】レキ、リヤク。郎擊切 錫
瓦の器。

【甊】クワウ、ワウ。戶盲切 庚
カウ。寒剛切 陽
小さき瓦。

【甔】サフ、ソフ。悉合切 合
器破る、こはる。

【甑】シヨウ。子孕切 徑 シヨウ、ジヨウ。慈陵切 蒸
甑の屬、炊ぐに用ふるもの、こしき、或は底に孔を穿ちたるあり或は全く底なきあり。○[史]「破二釜一一一燒二廬舍一」。
（釜甑）飯などをかしぐかま。○[孟]「許子以二一一一爨一乎」。○[白居易]「置二之一一「中」。
（炊甑）飯をたくかま。
（擧倒甑）一種の草、葉は薄荷に似て能く風熱を治し、其の汁を服すれば諸病に效用ありとぞ。

【甒】ハン。普官切 寒 ヘン、バン。符袁切 阮
かはら（甎）。

【甒】ブ、ム。文甫切 麌
小さき甖、ほさぎ、かめ。○[禮]「君尊瓦一一」。

【甊】ソン。祖昆切 元
酒を入るゝ器、かめ。

【甀】シ。息移切 支 セイ、サイ。先齊切 齊
㊀かめ（瓶）。○[揚雄]「甖謂二之一一」。
㊁甕の破るゝ聲にいふ字。○[涅槃經]「譬如二瓦一瓶破而聲一一」。

十三畫

【甑】トウ。都滕切 蒸
瓦豆、かはらのたかつき。○[唐]「盛以レ一一」。

【甓】ヘキ、ヒヤク。扶歷切 錫 ハク、ヒヤウ。博厄切 陌
かはら（甎）、あきがはら（瓴甓）。○[晉]「侃在レ州無レ事輒朝運二百一一于齋外一暮運二于齋內一」。
（瓴甓）かはら。○[化書]「解二一一一之音」。
（瓦甓）前に同じ。○[莊]「在二一一一」。
（墫甓）前に同じ。○[晉]「夜憐二一一一」。

【甔】タン、トン。丁含切 覃 サン、センン。都濫切 勘 又濫切 觀敢切 感
大いなる甖、おほもたひ。一儋に通じ作る。○[史]「醬千一一」。

【甗】キ。虛宜切 支
ほさぎ（缶）。

【甑】タウ。都郎切 陽
ちひさきほさぎ（小瓦）。

【甗】ライ、レ。魯回切 灰
棟がはら。

【甎】セン、ゼン。時戰切 霰
瓦器の緣、へり、ふち。

【甓】コク。胡谷切 屋
㊀瓦の器。㊁かはらつち（坯）。

【甕】ヲウ、ウ。烏貢切 送
㊀瓮甖、かめ、もたひ、つるべ、みか。○[易]「井谷射レ鮒一一敝漏」。
㊁大いなる癭の貌にいふ字。○[莊]「一一盎大一癭說二齊桓一公一」。
（漏甕）水時計のこと。○[森慄]「非二水師一一一一」。

【甕】ヨウ、ユ。於容切 冬 委勇切 腫 於用切 宋
前條の㊀に同じ。○[漢]「烏弋國有二大一鳥一卵如レ一一」。
（釀甕）酒をつくるかめ。○[書]「置二一一中一」。
（提甕）かめをさげ持つ。○[後漢]「一レ一出汲」。
（瓦甕）かはらけ。○[陸游]「一鋪一一中」。
（糟甕）さけのかすをいるゝかめ。○[白居易]「鋪一啜二一一一」。

【甗】ゲン。魚變切 霰
㊀大山より別かればなれたる小山。
㊁こしき（甑）。

十四畫

【甖】アウ、ヤウ。烏莖切 庚
エイ、ヤウ。於正切 敬
かめ（瓨）、もたひ（罌）。○[劉伶酒德頌]「先生於レ是方捧レ一承レ槽銜レ杯漱レ醪」。

【甗】ギ。魚記切 寘
かめ（瓶）、一說に、大いなる罌、おほもたひ。

【甗】カン、ゲン。胡懺切 陷 カン、ゴン。胡暫切 勘
ほさぎ（甓一坻）、一說に、おほほさぎ、おほがめ（大一瓶）。○[續漢書]「盜伏二於一一下一」。

十五畫

【甒】ブ、ム。罔甫切 麌
甒に同じ、もたひ、かめ。○[揚雄]「罌

周、魏之閒謂二之一一。

十六畫

【甗】タン、ドン。徒南切 覃

壜に同じ、甒の屬、一說に、酒の器。

【甗】ロ、ル。落胡切 虞

酒を入るゝ器。

【甗】ゲン。魚蹇切 阮 語軒切 元 ゲン。語戰切 霰 ゲン。語偃切 阮

㊀或は底なく或は底に孔を穿ちたる甑、こしき。〇〔周〕「一實二二一鬴、厚半寸脣寸」。〔爾〕「重一一隒」。

㊁こしきの如き形をなせる山。〇

㊂こしきの形をなすこと。〇〔漢〕「巖陁一錡摧崣崛崎」。「一之屬」。

〔甑甗〕こしきのこと。〇〔周、疏〕「陶人爲二瓦器一一」

〔甓甗〕はとぎとこしきと。〇〔宋、婆〕「涼一一裂二一一」。

【甕】ロウ、ル。盧紅切 東

㊀穀物を礱り破る具、土にてつくりたるもの、ずりうす、ひきうす。

㊁物を礱くに用ふる瓦、砥石の類。

【甕】ジョウ、ニユ。而隴切 腫 シュン。子峻切 震 ゼン、ニユン。乳兗切 銑 ジュン、ニュン。乳尹切 軫

狩に用ふる革綺、かはもゝひき。

十七畫

【甓】セフ。悉協切 葉 （・・）

瓦の破るゝ聲にいふ字。

【甗】サン、セン。楚鑒切 陷

罌の屬。

【甗】サン、ゼン。仕懺切 陷 サン、ゾン。藏濫切 勘

瀋を盛る大いなる盎。

十八畫

【甗】ケイ。古擕切 齊

窐に同じ、甑の下の孔。

【甗】セフ。質涉切 葉

盎の屬。

【甗】セン。昭穿切 先

行くを正しからず。

十九畫

【甗】ラ、レ。力華切 麻

瓦の器。

二十畫

【甗】リウ、ル。力救切 宥

いらか、（甍）。

廿二畫

【甗】ライ、レ。盧回切 灰

前條に同じ。

廿四畫

【甗】レイ、リヤウ。郎丁切 靑

瓴に同じ。

甘部

【甘】カン、コン。古三切 覃

㊀あまし。
(い)味美し、あぢよし、うまし。〇〔詩〕「其一如レ薺」。
(ろ)說ぶべし。〇〔左〕「幣重而言一」。
(は)おもねりて正しからず、かたまし。〇〔易〕「六三一一臨、无レ攸レ利」。
(に)緩し。〇〔淮〕「一而不レ固」。

㊁あまんず。
(い)うましとす。〇〔書〕「一レ酒嗜レ音」。
(ろ)滿足す。〇〔詩〕「一二心首疾二」。
(は)思ひのまゝに爲す。〇〔左〕「請受而一一心焉」。

㊂味よき食物。〇〔漢〕「絕レ一分レ少」。

㊃樂しむ貌にいふ字。〇〔淮〕「故人之一一」。

㊄成熟して、うまく、よく。〇〔莊〕「一一寢」。「是食」。

㊅杜梨、やまなし。〇〔山海經〕「一一木」。

㊆柑橘、みかん、たちばな。〇〔風土記〕「一一橘之屬」。

〔肥甘〕肉のこえて味ひうまきこと。〇〔孟〕「爲二一一不足二於口一與」。

〔旨甘〕食物のうまきもの。〇〔宋〕「家素貧無三以給二一一二」。

〔珍甘〕ありふれざるうまきもの。〇〔後漢〕「遠方貢二一一二」。

〔甜甘〕あまくうまし。〇〔晉〕「桑葚一一」。

〔豐甘〕ゆたかにありてうまきこと。〇〔晉〕「飲食一一」。

〔酸甘〕すみありてあまきこと、又、すきとあまきと、又、苦樂の義にいふ語。〇〔山海經〕「其味一一」。

〔蘇甘〕ちほの異名。〇〔鷄林類事〕「鹽曰二一一二」。

〔密甘〕甘草の異名。〇〔劉基〕「園蔬如二一一二」。

三畫

【甘】タイ、デ。徒耐切 隊

あまし、（甘）。

四畫

【甚】シン、ジン。時鴆切 沁 常枕切 寢

㊀もッとも安樂す、たのしむ。

㊁過ぎて劇し、すぐれて多し、深し、重し、はなはだし。〇〔淮〕「由レ此觀レ之、則聖人之憂二苦百姓一一矣」。㊂

〔太甚〕はげしくすぎたること。〇〔詩〕「旱旣一一」。

〔籍甚〕いたくひろがること。〇〔漢〕「名聲一一」。

〔去甚〕はなはだしきをのぞく。〇〔老〕「去レ泰一一」。

五畫

【甁】カン、コン。枯甘切 覃

かめ、（甒）。

六畫

【甜】テン、デン。徒兼切 鹽

うまし、（美）、あまし、（甘）。〇〔張衡〕「酸甜一滋味百種千名」。

〔苦甜〕にがきとあまきと。〇〔韓愈〕「百味失二一一二」。

〔墨甜〕睡ること。〇〔蘇軾〕「一枕一一餘」。

〔肥甜〕肉のこえてうまきこと。〇〔梁簡文帝〕「薦二雋鷰之一一二」。

八畫

【甛】甜に同じ。

【甗】エン。以冉切 琰

あまし、（甘）。

【甝】カン、ゴン。胡甘切 覃

㊀白虎。〇〔爾〕「一白虎」。

㊁猛き貌にいふ字。〇〔李陽〕「怒虎一一」。

【甞】嘗に同じ。

【甗】タン、ドン。徒含切 覃

宨字の深邃なる貌にいふ字。

【⿰甚冘】タン、ドン。徒感切 ［感］
盛んなる貌にいふ字。
【⿰甚九】キン、コン。許金切 ［侵］
火の盛んなる貌にいふ字。

九畫

【⿰甘者】シヤ、セ。之夜切 ［禡］
⿰火者に同じ。

十畫

【⿰甘兼】ケン、コン。許兼切 ［鹽］
⿰酉兼に同じ、からばし。

十一畫

【⿱厤甘】カン、コン。古三切　タン、ドン。徒南切
［覃］カフ、コフ。葛合切 ［合］
やはらぐ、(和)。

十二畫

【⿰甘覃】タン、ドン。徒含切 ［覃］
長き味、あぢはひ。
【⿰甘覃】タン、ドン。徒紺切 ［勘］
あまし、(甘)。

十六畫

【⿰甘閻】エン、オン。余廉切 ［鹽］
あまし、(甘)。

生部

【生】セイ、シヤウ。所京切 ［庚］
㊀おこる、おこす、(起)。○〔莊〕「珍則衆-害ー」。
㊁うまる、うむ、(產)。○〔博雅〕「八十月「而ー」。
㊂なる、なす、(造)。○〔公羊〕「遂者何ーレ事也」。
「其ーニ」。
㊃いづ、いだす、(出)。○〔易〕「上-九觀ニ
㊄やしなはろ、やしなふ、(養)。○〔周〕
「ー以取ニ其福ニ」。
㊅長育す、おふ、おほす、はゆ、はやす、そだつ。○〔老〕「師之所レ處荊棘ー」。
㊆いく、いかす、(活)。○〔左〕「狄-人歸ニ其元ニ、面如レー」。
㊇いのちあるもの、いきながらふるもの。○〔孟〕「ー亦我所レ欲也」。
㊈いきたるまゝにて、いきながら。○〔史〕「有ニ能ーー得者ニ」。
㊉性命、いのち。○〔書〕「惟民ー厚」。
⑪產業、すぎはひ。○〔管〕「菽-粟不レ足、末ー不レ禁」。
⑫義理、みち。○〔左〕「民懷レー矣」。
⑬暇なきこと、靈のいらざること。○〔周〕「相レ許欲ニー而搏ニ」。
⑭熟せざるもの、なま。○〔史〕「與ニ一ー彘-肩ニ」。
⑮人物、いきもの。○〔國〕「ー則不レ殖」。
⑯禽虜、いけどり。○〔漢〕「斬レ虜獲レーー有レ功」。
⑰事物、こと。○〔漢〕「故神降ニ之嘉ーニ」。「ーニ」。
⑱學習する人、ものよせい、でし。○〔史〕「魯有ニ兩ーー不ニ肯行ニ」。
⑲ものよせい又はでしの稱呼、又、師長に對して自家の稱。○〔漢〕「以ニ萬戸ー封レー」。
⑳㊀に同じ。○〔汲冢周書〕「郭-都ーーー」。
㉑無意味の助字。○〔李白〕「借-問別-來太瘦ー」。

〔平生〕むかし。○〔阮籍〕「ーー少-年時」。
〔貴生〕基づきてなり出づ。○〔易〕「至哉坤-元、萬-物ーー」。
〔生生〕物の類になり出でて止まざること。○〔易〕「ーー之謂レ易」
〔蕃生〕泛くなり出づ。○〔易〕「是以ーー焉」。
〔蒼生〕人民のこと、あをひとぐさ。○〔書〕「至ニ于海-隅ーーニ」。
〔友生〕友どち。○〔詩〕「矧伊人矣、不レ求ニーーニ」。
〔後生〕のちのちの世にうまれ出づる人。○〔詩〕「以保ニ我ーーニ」。
〔寄生〕或る物體にやどりて生ずるもの、ともやどり木などの類。○〔詩、疏〕「蔦ーー也」。
〔先生〕われよりさきにうまれあひて道を辨へ知れる人。○〔禮〕「遭ニーー于道ニ、趨而進、正-立拱レ手」。
〔全生〕一生を缺くる所なくすぐすこと。○〔莊〕「可ニ以保レ身、可ニ以ーレー」。
〔胎生〕胎内にて形を爲して生まれ出づるもの、人類又は獸類など。○〔禮〕「ーー者不レ殰」。
〔卵生〕たまごの形にて生まれ出づるもの、鳥類又は魚類など。○〔禮〕「ーー者不レ殈」。
〔幸生〕僥幸をもてさせることもなくながらふること。○〔國〕「國斯無レ刑、偸-居ーー」。
〔偸生〕前に同じ。○〔李陵〕「豈ーレー之士而惜レ死之人哉」。
〔諸生〕學生輩といふに同じ。○〔史〕「臣願徵ニ魯ーー、與ニ臣弟-子ニ共起ニ朝-儀ニ」。
〔狂生〕常道をもて規すべからざる學生のこと。○〔齊東野語〕「上曰、此ーー也」。
〔治生〕生活をなす道を立つること。○〔史〕「不レ能ニーー商-賈ニ」。
〔儒生〕道德を修むる學者。○〔史〕「諸-弟-子ーー隨レ臣久矣」。
〔樂生〕世に生存することを嬉しく思ふ。○〔漢〕「有ニーレー之盧ニ」。
〔一生〕一生涯のこと。○〔漢〕「便足レ了ニーー矣」。
〔更生〕一旦死にしを又さらにいくること。○〔漢〕「廼得レ蒙ニーーニ」。
〔羣生〕あまたの人々。○〔漢〕「養ニ育ーーニ」。
〔書生〕學生といふに同じ。○〔後漢〕「要レ人同-行、見ニーーニ」。「道」。
〔長生〕ながいきをすること。○〔老〕「ーー久視之道」。
〔門生〕門下の書生、卽ち、門人のこと。○〔晉〕「乃令ニーーーニ兒共舉レ之至レ州」。
〔鴻生〕大學者。○〔唐〕「願與ニ鉅-學ーー、共レ力「也」。讐-刊」。
〔伐生〕いのちを絕つ。○〔管〕「管-子對曰、此ーレー」
〔養生〕生命を大切にして病に犯されざるやうにすること。○〔劉殲〕「所ニ以ーレー亦以傷レ生也」。「ー」。
〔傷生〕いのちを害ふ。○〔中說〕「古-者不ニ以レ死ーレ」
〔貪生〕飽くまでも生きながらへんと欲す。○〔淮〕「或ーレー而死」。
〔終生〕一生涯をすぐしをはること。○〔王褒〕「誰可ニ與ニ共術ニ。「與今ーレー」。
〔輕生〕いのちを大切にせぬ。○〔韓愈〕「ーレー學ニ
〔寝生〕難產のこと、又一說に、極めて安產すること。○〔左〕「莊公ーー」。
〔放生〕佛經にて功德を積む爲に魚鳥などの生物をはなしやること。○〔東齋記事〕「魯-公喜ニ于ーーニ」。
〔好生〕殘酷なることをみて物の命をとることを嫌ふ。○〔書〕「ーレー之德、于民-心ニ」。
〔復生〕よみがへること。○〔國〕「死-人ーー」。
〔族生〕叢りおふること。○〔爾〕「木ーー爲レ灌」。
〔簇生〕前に同じ。○〔史〕「萬-物ーー」。
〔叢生〕前に同じ。○〔西都賦〕「神-木ーー」。
〔舍生〕いのちを棄てゝ惜まざること。○〔孟〕「ーレー而取レ義者也」。
〔瀉生〕永く生きのぶることを賴みにすること。○〔史〕「衆-庶ーレー」。
〔學生〕書生に同じ。○〔魏〕「幼爲ニ中-書ーーニ」。
〔播生〕衛生に同じ。○〔吳都賦〕「土-壤不レ足ニ以ーレ
ー」。
〔發生〕なり出づること。○〔杜甫〕「當レ春乃ーー」。
〔蔓生〕つるにてはえ生ずること。○〔草木狀〕「雞-草ーー」。「ーー」。
〔寒生〕貧乏書生のこと。○〔湘山野錄〕「江-南ー寒ー」。
〔餘生〕なごりのいのち。○〔謝靈運〕「ーー不ニ歡-娛ニ」。「ーー」。
〔往生〕ゆきて極樂淨土に生ずること。○〔庾信〕「焚-志
〔作麼生〕何をなす、いかん。○〔歐陽修〕「問ニ向-靑-州ーーーー」。

【生】セイ、シヤウ。所敬切 ［敬］
前條の㊀に同じ。

【生】セイ、シヤウ。所景切 ［梗］
そだつ、(育)。○〔論〕「四-乳ーニ八-子ニ」。

【生】古文の生の字。

三畫

【𤯓】姓に同じ。○〔秦惠文王詛楚文〕「伐ニ滅我百ーーニ」。

四畫

【㽒】姓に同じ。

五畫

【甡】シン。所臻切 眞
聚まれる貌にいふ字、おほし。○〔詩〕「瞻ニ彼中-林ー、ーー其鹿」。

六畫

【𤯱】イン。伊眞切 眞
姻に同じ。

【𤯴】セイ、シヤウ。所敬切 敬
さす（刺）。

【產】サン、セン。所簡切 潸
一うむ。
(い)胎内より出だす。○〔呉越春秋〕「剖レ脅而ーニ高-密ニ」。
(ろ)造り出だす。○〔禮〕「ーニ萬-物ー者聖也」。
二うまる。
(い)胎内より出づ。○〔陸疏廣要〕「皆「胎-ー」。
(ろ)おほひそだつ。○〔郭璞〕「珍-怪之所ニ化-ーーニ」。
三うみたるもの、うまれたるもの。○〔孟〕「陳-良楚ー也」。
四生業、なりはひ、すぎはひ。○〔孟〕「有ニ恆ーー者有ニ恆心ニ」。
五資財、もとで。○〔史〕「中-民十-家之ー」。
六一種の樂器。○〔爾〕「大-籥謂ニ之ーーニ」
七嵼に同じ。○〔楚辭〕「思蹇-ー而不レ釋」。
〔異產〕(い)自國に產したるものにあらざるもの。○〔左〕「今乘ニーーニ」。
(ろ)常にあらざる產物。○〔蘇軾〕「靈-區有ニーーニ」。
〔生產〕生活の產業。○〔史〕「其嫂嫉ニ平之不ニ視ニ家ーーニ」。
〔家產〕一家のもとで。○〔晉〕「嶠ーーー豐-富擬ニ于王-者ニ」。
〔畜產〕家畜のこと。○〔漢〕「君ーーー且猶敬レ之」。
〔貲產〕財產といふに同じ。○〔後漢〕「小-人常破ニーーー以祈-禱」。
〔破產〕財產を破滅に歸せしむ。○〔唐〕「其家-子與ニ惡-人遊ーレー」。
〔末產〕商工の產業のこと。○〔管〕「故ーーー不レ禁則野不レ辟」。
〔經產〕秩序ありて宜しきを得る產業。○〔管〕「國有ニ經-士ニ、民有ニーーニ。「也」。
〔陸產〕くがに發生する產物。○〔禮〕「加-豆ーーー
〔天產〕人爲をからず自然に發生する品物。○〔禮〕「皆ニーーー也」。
〔治產〕產業を經理す。○〔史〕「父-子ーレー」。
〔理產〕前に同じ。○〔後漢〕「今ーレー、所レ增三ニ倍于前ニ」。
〔樂產〕產業を安んじて執り行ふ。○〔後漢〕「家給人足安レ業ーレー」。
〔財產〕家の費を維持し行くべきところもの。○〔後漢〕「悉推ニーーー與諸-弟ニ」。
〔傾產〕財產を悉く出だし盡くす。○〔蜀〕「傾レ家ーレ「ー」。
〔私產〕己れの所有する財產。○〔晉〕「至ニ于奴-婢ーーー、未ニ嘗由爲レ之立ニ限也」。
〔物產〕天地間に出でて人類の用に供する品物のこと。○〔左〕「ーーー殷-充」。
〔定產〕恆の產業のこと。○〔宋〕「民有ニーーーニ」。
〔水產〕河海の間に生ずるもの、即ち、魚介水草などの類。○〔毛詩陸疏廣要〕「ーーー必究」。
〔卵產〕雞などの類。○〔孫綽〕「ーーー無レ方」。
〔出產〕うまれ出づること。○〔唐彥謙〕「ーーー在ニ四-時ニ」。

【產】サン、セン。所晏切 諫
うみそだつ（生-育）。

七畫

【甤】ズヰ。儒隹切 支 如累切 紙
一草木の實の垂るゝにいふ字。
二さかんなり（盛）。

【𤯺】俗の嫩の字。

【甥】サウ、シヤウ。所更切 庚
一姊妹の子、をひ。○〔詩〕「韓-侯娶レ妻、汾-王之ー」。
二女の夫、むこ。○〔爾〕「謂ニ我舅ー者吾謂ニ之ーーニ」。
三女の嫁ぎて生める子、外孫。○〔左〕「以下肥之得も備ニ彌-ーーニ」。
四姑及び舅の子、又、妻の兄弟及び姊妹の夫の稱。○〔爾註〕「四-人體-敵、故更相ニ爲ーーニ」。
〔舅甥〕母方のをぢとをひと、又、しうとゝむこと。○〔左〕「凡君即レ位、好ニーーー、修ニ昏-姻ニ」。
〔昏甥〕身分卑き母方のうまご。○〔晉〕「當レ出ニーーーニ」。
〔外甥〕母方のをひ。○〔杜甫〕「劉卒出ニーーーニ」。
〔孫甥〕うまごのこと。○〔孟郊〕「綴-戚觴ニーーーニ」。
〔國甥〕王の婿。○〔魏〕「以ニーーー特レ寵」。
〔他甥〕ほかの姊妹の子、をひ。○〔唐〕「武-帝愛ニ養宮-中ー、異ニーーーニ」。
〔賢甥〕秀でたるをひ。○〔王維〕「似レ舅即ーーー」。
〔姪甥〕めひとをひと、共に兄弟姊妹の子。○〔白居易〕「弟-妹妻-孥小-ーーー」。
〔名甥〕聞こえたかきをひ。○〔李商隱〕「乞レ君有ニーーーニ」。
〔壻甥〕むこ。○〔王粲〕「自云漢ーーー」。

【𤯳】甥に同じ。

【甦】俗の甦の字。

九畫

【甦】ソ、ス。素孤切 虞
穌に同じ。

十二畫

【𤰇】クワウ、ワウ。胡光切 庚
はな（華-榮）。

用部

【用】ヨウ、ユ。余頌切 宋
一もちゐる、もちふ。
(い)施行す、ほどこす、おこなふ。○〔易〕「潛-龍勿レー」。
(ろ)役使す、つかふ。○〔左〕「晉實ーレ之」。
(は)從ひ聽く。○〔漢〕「何向者慕ーー之誠後相倍之盭也」。
(に)登庸す、あげてもちふ。○〔漢〕「試ーレ之」。
二はたらき。
(い)功力、きゝめ、しるし、いさを。○〔易〕「顯ニ諸仁ー藏ニ諸ーニ」。
(ろ)やくにたつこと、つかひみち。○〔莊〕「吾爲ニ其無レー而掊レ之」。
三財貨、たから。○〔周〕「其財ーー出-入」。
四資力、もとで。○〔戰〕「吾ー多」。
五防備、そなへ。○〔國〕「時至而求レー」。
六支費、つひえ。○〔史〕「損レ膳省レー」。
七器實、もりもの。○〔書〕「攘ニ竊神-祇之犧-牷-牲ニ」。
八器具、だうぐ。○〔左〕「利ニ其器ーーニ」。

㊈もッて(以)。○〔詩〕「是—不レ集」。
〔國用〕國家の費用。○〔書〕「冢宰制二——一」。
〔柄用〕勢力ありつかはるゝこと。○〔漢〕「未レ知三王鳳方見二——一」。
〔利用〕(い)物の用を滯らさらしむるやうにすること。○〔易〕「——出入、民咸用レ之」。(ろ)己が方に益ある所につきて事を爲すこと。○〔左〕「三軍以レ——也」。
〔日用〕日ごとに行ひなす。○〔易〕「百姓——而不レ知」。
〔動用〕つかひ行ふ。○〔書〕「予亦不三敢——二レ之一」。
〔嚮用〕氣にかなひ使ふ。○〔宋〕「仁宗亦——二非德一」。
〔聽用〕納得してもちふ。○〔後漢〕「時莫三能——二其謀一」。
〔采用〕取りあげもちふること。○〔詩、箋〕「成就者其可二——一之時」。
〔服用〕身に著けもちふ。○〔禮〕「后敢——二其次一也」。
〔佩用〕身に帶び使ふ。○〔禮〕「左右——」。
〔復用〕再度使ふこと。○〔禮〕「藏二之府庫一而弗二——一」。
〔財用〕つひえ、もとで。○〔周〕「以二九式一均二節——一」。
〔足用〕物のかゝりを充分ならしむ。○〔國〕「儉所二以——一也」。
〔大用〕(い)重大なる費え。○〔周〕「以待二邦之——一」。(ろ)重任を負はしむ。○〔史〕「孔子曰、魯人召レ求、將二——一之」。
〔小用〕聊かなる費え。○〔周〕「待二上之——賜予一」。
〔好用〕すきて使用すること。○〔周〕「——之式」。
〔節用〕費えを制限しておごらしめず。○〔周、註〕「均レ財使レ得二其平一——使二之無一レ過」。
〔賦用〕みつぎもの。○〔周〕「凡邦之——取具焉」。
〔善用〕たくみに使ふ。○〔左〕「惠二恤其民一而——レ之」。
〔功用〕てがら、はたらき。○〔史〕「——既興」。
〔食用〕食料に同じ、食物のしろ。○〔戰〕「使下人給二其——一無上レ使レ之」。
〔擧用〕引きあげて使ふ。○〔史〕「自二堯時一而皆——、未レ有二分職一」。
〔登用〕前に同じ。○〔史〕「舜——攝二行天子之政一」。
〔費用〕金錢貨財の使用のこと、つひえ。○〔史〕「孰知下夫輕二——一之所中以養上レ財」。
〔親用〕ちかく〳〵に使ふ。○〔漢〕「欲二——之一」。
〔施用〕爲し行ふ。○〔史〕「乖異難二——一」。
〔寶用〕尊重して使用す。○〔史〕「民不二——一」。
〔公用〕政府の費え。○〔荀悅〕「賞賜行レ私以越二——一」。
〔信用〕虚僞なきものとして使ふ。○〔史〕「必能——二其民一、庸可レ絕乎」。
〔尊用〕貴重なるものとして使ふ。○〔史〕「斯爲二三公一、可レ謂二——一矣」。
〔徵用〕召し出だして使ふ。○〔史〕「孝文時頗——」。
〔藥用〕病者に投ぜるくすりのつかひ方。○〔史〕「論二——所一レ宜」。
〔官用〕政府の消費する用度のこと。○〔漢〕「度二——一以賦二于民一」。
〔經用〕常に使用する費え。○〔漢〕「——賦稅不レ足二以奉二戰士一」。
〔適用〕あてはめて使用す。○〔晉〕「或隨レ時——、或因レ務遷革」。
〔試用〕ためしみて使用す。○〔漢〕「欲レ——之」。
〔任用〕事務を負はせて使用す。○〔漢〕「惟助與壽王見二——一」。
〔遵用〕したがひ行ふ。○〔漢〕「百姓——」。
〔軍用〕軍隊のつひえ。○〔仲長統〕「薄二吏祿一以豐二——一」。
〔選用〕選拔して使用す。○〔漢〕「——賢良」。
〔擢用〕前に同じ。○〔後漢〕「皆——之」。
〔歲用〕一年間の經費。○〔後漢〕「但絕二——一而已」。
〔儉用〕金錢の費えを節制す。○〔白居易〕「量レ入——、亦可二自給一」。
〔聘用〕禮を以て召し出ださるゝこと。○〔靈樞〕「男兒須二——一」。

二畫

〔甫〕フ、ホ。方矩切 麌
㊀男子の美稱。○〔禮〕「有二天王某—一」。
㊁おほいなり(大)。○〔詩〕「倬彼——田」。
㊂はじめ(始)。○〔周〕「—寧亦如レ之」。
㊃おほし、もろ〳〵(衆)。○〔詩〕「魴鱮——」。
㊄われ(我)。㊅圃に通じ用ふ。
〔章甫〕冠の名。○〔論〕「端二——一願爲二小相一焉」。

〔甬〕ヨウ、ユ。余隴切 腫
㊀はなさく(華)、又、わく(涌)。○〔說文〕「草木華——然也」。
㊁兩側に墻垣を築きたる道路、みち。○〔史〕「築二——道一」。
㊂宮禁の 道、樓閣の複道、かよひみち。○〔淮〕「——道相連」。
㊃鐘の柄 ○〔周〕「鳧氏爲レ鐘舞上謂二之——一」。
㊄量の名、今の斛。○〔禮〕「仲春之月、日夜分則同二度量一、鈞二衡石一、角二斗——一」。
㊅つね(常)。○〔博雅〕「常—也」。
〔禁甬〕宮苑中の巷道。○〔韓愈〕「雲綢凝二——一」。

〔甬〕トウ、ヅ。杜孔切 董
筩に同じ、くだ。

三畫

〔⿱夅用〕カウ、ゴウ。胡江切 江
そなふ、そなはる(具)。

五畫

〔⿱艹用〕ヒ、ビ。皮祕切 寘
備に同じ。

六畫

〔⿱䒑用〕前に同じ。

七畫

〔甯〕デイ、ニヤウ。乃定切 徑
㊀ねがひ(願)。㊁寧に同じ、むしろ。

十四畫

〔⿰享甫〕ヨウ、ユ。餘封切 冬
城垣、かき。

田部

〔田〕テン、待年切。デン。 先 〔說文〕象二四口一、十阡陌之制。
㊀禾穀を植うる耕地、たはたけ、はた。○〔易〕「見二龍在一レ—」。
㊁一井の地。○〔國〕「欲レ以二—一賦一」。
㊂民を養ふこと。○〔書〕「康功—功」。
㊃狩獵、かり。○〔詩〕「叔于レ—」。
㊄太鼓、おほつゞみ。○〔詩〕「應—縣鼓」。
㊅倒れんとするにいふ字、又、鼓の聲にいふ字。○〔禮〕「殷々——、如レ壞レ牆然」。
㊆蓮の葉の貌にいふ字。○〔江南曲〕「蓮葉何——」。
〔公田〕井田の中央のはた、其の耕作は其の外周の八區を受けたる八夫之を負擔し其の收入を公租とす。○〔詩〕「雨二我——一」。
〔爰田〕其の收入を賞與にあてがふはたけ、又、每年耕しつゞけずして年を隔てゝ耕すはたけ。○〔左〕「晉於レ是乎作二——一」。
〔名田〕占田に同じ、人民の所有するはたけ。○〔漢〕「限二民——一」。
〔代田〕每年處をかへて耕すはたけ。○〔通典〕「漢武征和三年、以二趙過一爲二搜粟都尉一、過能爲二——一」。
〔縵田〕うねをつくらざるはたけ。○〔通典〕「常過二——一一斛以上」。
〔樣田〕明朝の屯田。○〔正字通〕「揭二旂軍十一、名二耕種一爲二——一」。
〔營田〕官より廬舍を給して官田を耕作せしむること。○〔通典〕「爲レ官——、非二市田戶一也」。
〔職田〕一に職分田といふ、それ〳〵の職分に應じて官より給與するはたけ。○〔文獻通考〕「隋開皇中始給二——一」。
〔方田〕均田に同じ、はたけの縱橫の長さをひとしか

らしむると、即ち、量括に易く逋賦少なからしむる爲めに施行すとぞ。○〔通典〕「宋熙寧五年、修二ーー一」。
〔區田〕耕作を一ときりに限られたるはたけ。○〔氾勝之書〕「伊尹作二爲ーー法一」。
〔寸田〕眉の間の稱、又、眉の間を上丹田といひ心を絳宮田といひ臍の下三寸の處を下丹田といふ。○〔黃庭經〕「尺宅ーー」。
〔守田〕燕麥に似たる一種の草、みのごめ、廢田の中に生ず。○〔爾〕「皇ーー」。
〔駢田〕つらなりて相著く。○〔王延壽〕「ーー胥附」。
〔游田〕獵をし慰む。○〔書〕「不三敢盤二于ーー一」。
〔桑田〕くはを植ゑつけたるはたけ。○〔神仙傳〕「東海三爲二ーー一」。
〔間田〕土地の界と界との間におきて耕作せざる地。○〔家語〕「咸以二所レ爭之田一爲二ーー一矣」。
〔火田〕耕地に生じたる草を焚きてその灰を肥料となすこと。○〔禮〕「昆蟲未レ蟄、不レ以ーー」。
〔蒐田〕獵を爲すこと。○〔周〕「遂以ーー」。
〔狩田〕前に同じ、冬のかり。○〔周〕「遂以ーー」。
〔獮田〕前に同じ、秋の獵。○〔周〕「遂以ーー」。
〔石田〕植物のよく發生せざる土地。○〔左〕「得二志于齊一、猶レ獲二ーー一也」。
〔井田〕古昔支那の耕地の制九百畝の耕地を井字形に劃し、百畝づつ九箇に分ち、中央を公田とし其の外周の八區を八夫の耕す地とす。○〔穀梁〕「ーー者九百畝公田居レ一」。
〔捜田〕祭祀にさゝぐる穀物を作る田地。○〔孟〕「卿以下必有二ーー一」。
〔乘田〕犧牲を畜ふ官吏。○〔孟〕「孔子嘗爲二ーー一矣」。
〔食田〕田地の收入を祿食とす、又、知行所。○〔晉〕「士ーー」。
〔墾田〕開拓したる田地。○〔國〕「ーー若レ藝」。
〔稼田〕五穀のよくみのる田地。○〔史〕「臣見下道傍有二ーー一者上」。
〔天田〕星の名。○〔東京賦〕「躬三推二于ーー一」。
〔力田〕農事を骨折ること。○〔漢〕「舉二民孝弟ーー者一、復二其身一」。
〔籍田〕祭祀にさゝぐる穀物を天子の自身に作る田地。○〔漢〕「其開二ーー一、朕親率耕、以給二宗廟粢盛一」。
〔屯田〕兵士の其の地の守りを爲しながら田地の耕作を爲すこと。○〔漢〕「ー二ーー張掖郡一」。

〔弄田〕宴遊の慰みのためにおける田地。○〔漢〕「上耕二于鈎盾ーー一」。
〔耕田〕穀物菜蔬を植ゑつくること。○〔擊壤歌〕「鑿レ井而飲、ーレー而食」。
〔良田〕膏腴なる田地。○〔漢〕「多規二ーー一」。
〔膏田〕前に同じ。○〔隋〕「ーー已昌」。
〔山田〕山間にある耕地。○〔後漢〕「家有二ーー果樹一」。
〔薄田〕瘠せたる田地のこと。○〔蜀〕「成都有二桑八百株、ーー十五頃一」。
〔墓田〕はかとなす地のこと。○〔晉〕「賜二ーー一頃一」。
〔塋田〕前に同じ。○〔晉〕「給二ーー一頃一」。
〔瓜田〕うりの作りある畠。○〔古樂府〕「ーー不レ納レ履」。
〔福田〕佛經の語、敬田、恩田、悲田之を三種の福田といひ、此の功德を積むときはこよなき福德を生ずとぞ。○〔舊唐〕「永固二ーー一」。
〔青田〕作物のあをくとしたる土地。○〔楊炯〕「城闕俯二ーー一」。
〔義田〕親族の貧困なるものを救濟するために置く田地。○〔錢公輔〕「時置二負郭常稔之田千畝一、號曰二ーー一」。
〔服田〕耕作の事を執ること。○〔書〕「若二農ーレー力レ穡、乃亦有レ秋」。
〔沃田〕肥えたる田地。○〔論衡〕「以二磐石一爲二ーー一」。
〔漑田〕耕地に水をそゝぎかく。○〔漢〕「引二涇水一ーー」。
〔私田〕己れの所有する田地。○〔後漢〕「ーー八百頃」。
〔水田〕水の湛へてある田地、みづた。○〔隋〕「江南土熱、ーー早熟」。「延及二ーー一」。
〔陸田〕くがにある田はた、はたけ。○〔晉〕「復稽流、ーー化爲二甘壤一」。
〔鹵田〕鹽分の含まれてある田地。○〔蔡邕〕「墾之」
〔闢田〕田地を開拓す。○〔舊唐〕「ー二ー數十頃一」。
〔悲田〕佛經の語、貧者をあはれむこと。○〔朱熹〕「滄洲島上獨有二ーー之客一」。
〔侮田〕土地をたがへすこと。○〔淮〕「治レ國者若レーー、去レ害苗者而已」。

【田】テン、デン。電練切　霰

はたけを耕作す、たつくる。○〔詩〕「無レ田二甫田一」。

【由】イウ、ユ。以周切　尤

㊀よる。
(い)經歷す、ふ。○〔論〕「觀二其所一レー」。
(ろ)因緣す、たよる、ちなむ。○〔儀〕「願レ見無二ー達一」。
(は)從ふ、式とる。○〔論〕「民可レ使レーレ之」。
(に)用ふ。○〔詩〕「君子無レ易ーレ言」。
(ほ)行ふ。○〔書〕「率二ー典常一」。
(へ)於てす。○〔詩〕「無レ易二ー言一」。
㊁經歷、因緣、いきみち、すぢみち、ちなみ、いはれ、いんねん、わけ、よし。○〔方于〕「誰向二青天一問二事ーー一」。
㊂此れに始まり彼れへ轉ずる意を表する字、から、より。○〔禮〕「ー二命士一以下」。
㊃たすく(輔)。○〔揚雄〕「胥、ー、正、輔也」。
㊄たゞす(正)。○〔揚雄〕「ー、迪、正也」。
㊅自得の貌にいふ字、又、喜悦の貌にいふ字。○〔孟〕「ーー焉與レ之偕而不二自失一焉」。
㊆なほ(猶)。○〔孟〕「王ー足二用爲一レ善」。
㊇甹に同じ、木の枝を生ずること。○〔書〕「若三顛木有二ー蘖一」。
〔夷由〕むさゝびの一名。○〔爾、疏〕「鼯鼠一名ーー」。
〔自由〕思ひのまゝなること。○〔柳宗元〕「意欲レ採二蘋花一不二ーー一」。
〔遠由〕奥深きいはれ。○〔晉〕「棄二通道之ーー一」。
〔末由〕いはれの無きこと。○〔論〕「雖レ欲レ從レ之ーレー也」。
〔奸由〕惡しき事のいはれ。○〔新書〕「明者之感二ーー一也、蚤其除二亂謀一也遠」。
〔經由〕經歷し來たりたること。○〔王褒〕「卿相盡ーー」。
〔緣由〕ゆかりのあること。○〔杜甫〕「後會何ーー」。

【甲】カフ、ケフ。古狎切　洽

㊀草木の初生の孚子、かひわり、さや。○〔易〕「雷雨作而百果草木皆ー坼」。
㊁十干の第一位、きのえ。○〔爾〕「歲在レー曰二閼逢一、月在レー曰レ畢」。
㊂第一。○〔張衡〕「北闕ー第」。
㊃秀出。○〔戰〕「臣二萬乘之魏一、而ー二秦楚一」。
㊄はじまる(始)。○〔書〕「ー二內亂一」。
㊅なる(習)、まさる(長)。○〔詩〕「雖二則佩レ韘能不一レ我ー」。
㊆よろひ(鎧)。○〔易〕「離爲二ー胄一」。
㊇ころも(衣)。○〔正字通〕「衣亦謂レー」。
㊈よろひを著たる兵士。○〔戰〕「秦下レー而攻レ趙」。
㊉つめ(爪)。○〔管〕「陰生二金與一レー」。
⑪から(介)。○〔山海經〕「虎爪而有レー」。
⑫はさき(鋩)。○〔淮〕「質莊輕足者爲二ー卒一」。
⑬趙宋の時の義勇民兵の一小區。○〔正字通〕「紹興之間詔二淮漢閉一取二主戶之雙丁十戶一爲レー、五ー爲レ團」。
〔犀甲〕さいといふ獸の皮をもて作りたる鎧、又、かたき鎧。○〔周〕「函人ー七屬」。
〔衷甲〕鎧を衣物の下に著る。○〔左〕「楚人ーレー」。
〔坐甲〕鎧を著くること。○〔左〕「裹レ糧ーレー」。
〔伏甲〕鎧を着けたる武者を隱しおく。○〔左〕「ーレー將レ攻レ之」。
〔蹲甲〕鎧をすゑおく。○〔左〕「ーレー而射レ之徹二七札一焉」。
〔兵甲〕矛戟、鎧胄との類、又、よろひ、又、兵士。○〔左〕「公孫宿以二其ーー一入二于嬴一」。
〔鱗甲〕うろことからと。○〔左、疏〕「ーー不レ足以爲二器用一」。
〔釋甲〕鎧を脱ぎすつ。○〔左〕「公徒ーレー執レ冰而踞」。
〔堅甲〕固くこつらへたる鎧。○〔史〕「當レ敵則斬二ーー鐵幕一」。
〔卷甲〕鎧胄をまきてをさむ、又、兵戈を止むること。○〔晉〕「ーレー韜レ旗廣二農桑之務一」。

〔令甲〕法令の首章。○〔漢〕「――死者不レ可二復生一」。「萬」。
〔帶甲〕鎧を帶けたる兵士のと。○〔史〕「――數十萬」。
〔銀甲〕鎧をきたへて作る。○〔史〕「今天下一レ――砥レ劒矯レ箭累レ弦」。
〔全甲〕軍中の甲兵を毀はざると。○〔漢〕「驃騎將軍――獲レ醜」。
〔玄甲〕黑き色の鎧。○〔漢〕「――耀二日光一」。
〔文甲〕玳瑁のと。○〔漢〕「明珠――」。
〔孚甲〕さや。○〔白虎通〕「甲者萬物――也」。
〔遁甲〕陰陽術の類。○〔南〕「候二孤虛――之術一」。
〔金甲〕こがねづくりの鎧。○〔會要〕「戈鋋――、耀二昭天地一」。「――鴟レ弘」。
〔鐵甲〕くろがねづくりの鎧。○〔北〕「以二所レ著――」。
〔鱗甲〕龜甲のと。○〔吳都賦〕「蛑鱗――」。
〔綴甲〕鎧を糸もておどしつくると。○〔戰〕「秦――厲兵效二勝于戰場一」。「也」。
〔擐甲〕よろひをきる。○〔左〕「――執レ兵固卽死」。
〔貝甲〕かひがら。○〔詩、箋〕「李巡日、餘蚳――黃爲レ質白爲レ文」。「生」。
〔開甲〕外皮の口のあくと。○〔詩、箋〕「――始」。
〔兕甲〕兕牛の皮をもて作りたる鎧。○〔周〕「――壽二百年」。
〔合甲〕革を削り肉を裹みて之つちへたる鎧。○〔周〕「――三百年」。
〔上甲〕月の初めの日。○〔漢〕「正月――風從二東方一來、宜レ蠶」。
〔素甲〕色白くおどしたる鎧。○〔國〕「皆白裳白旂――白羽之矰」。「鈍兵」。
〔敝甲〕破れたる鎧のと。○〔戰〕「今寡君有二――」
〔戍甲〕守りの兵。○〔史〕「益發――卒十八萬一」。
〔精甲〕よく作りたる鎧胄。○〔晉〕「――耀レ日、鐵騎前驅」。
〔偃甲〕鎧胄を藏めおくと、卽ち、戰をやむるにいふ語。○〔晉〕「――息レ兵」。
〔保甲〕宋の義勇兵の稱。○〔正字通〕「宋元豐以レ諸路義勇一改爲二――一」。

【申】シン。失人切　眞

㊀十二支の一、さる。○〔爾〕「太歲在レ申曰二涒灘一」。
㊁み、（身）。○〔爾〕「――身也、物皆成二其身體一各申二束之一使二備成一」。
㊂かさぬ、（重）。○〔易〕「以――命」。
㊃いたす、（致）。○〔禮〕「大夫執レ圭而使、所二以――信一」。
㊄のぶ、（舒）。○〔班彪〕「行止屈――與レ時息兮」。
㊅せのび、（欠伸）。○〔莊〕「熊經鳥――」。
㊆ゆるやかなる貌にいふ字。○〔論〕「子之燕居――如也」。
〔窮申〕きはまるとのぶると。○〔張說〕「行道異二――」。
〔燕申〕やすらかにのびやかなる貌にいふ語。○〔蔡邕〕「齊館從容接二――」。

【申】シン。試刃切　震

ひく、（引）、のぶ、（伸）。

一畫

【甶】フツ、敷勿　物　ヒ。方未　ホチ。切　　切　未

鬼の頭。

二畫

【男】ダン、那含　ナン。切　覃

〔說文〕从レ田从レ力言用二力於田一。

㊀丈夫、をとこ。○〔易〕「――女構精」。
㊁壯丁、をのこ。○〔史〕「民有二――以上一」。
㊂周時代に制定したる五等爵の一。○〔禮〕「公侯伯子男凡五等」。
〔丁男〕わかき男子。○〔漢〕「發二天下――」。
〔奇男〕他にすぐれたるをとこ。○〔韓愈〕「天下――子王適願下見二將軍一白上レ事」。
〔庶男〕妾腹に生まれたる男子。○〔史〕「高祖長――也」。
〔貴男〕をとこのこども。○〔傅休奕〕「――挽二雷車一」。
〔聖男〕智德の完全なるをとこ。○〔易林〕「乾作二――」。

【甽】ケン。姑泫切　先

畎に同じ。○〔周〕「一耦之伐、廣尺深尺謂二之――」。

【甸】テン、デン。堂練切　霰

㊀王都を去ること五百里以內の地の稱、卽ち、天子に直隸の地。○〔書〕「五百里――服」。
㊁王都を去ること千里より千五百里までの間の稱。○〔周、疏〕「侯――男采衛要六服」。
㊂六十四井。○〔禮〕「十六井爲レ丘、四丘六十四井日レ――」。
㊃郊外。○〔左〕「罪重二郊――無レ所二服竄一」。
㊄區域。○〔南〕「區――分二其內外一」。
㊅をさむ、（治）。○〔書〕「俊民――二四方一」。
㊆ぬく、（挺）。○〔揚雄〕「天――二其道一」。
㊇郊野を掌ると。○〔禮〕「磬二于――人一」。
㊈田野の產物。○〔禮〕「納二――於有司一」。
〔邦甸〕天子直隸の地。○〔謝莊〕「紫烟藹二于――」。
〔郊甸〕ちかゐなか。○〔周〕「三日二――之賦一」。
〔丘甸〕十六井の地と六十四井との地。○〔儲光羲〕「――盈二仁心一」。「――攻而殺之」。
〔帥甸〕郊甸の帥のと。○〔左〕「夫人王姬使二――」。

【甸】テン、デン。亭年切　先

かる、（狩）。○〔周〕「若二大――一則帥二有司一而饁二獸于郊一」。

【甸】ショウ。石證切　徑　セイ、ジヤウ。時正切　敬

一種の車。○〔左〕「良夫乘二衷甸一」。

【甸】ジヨウ。繩證切　ヨウ。以證切　徑

【甹】イウ、ユ。夷周切　尤

漢の地名。

ひこばえ、（蘖）。

【甹】ヘイ、ヒヤウ。普丁切　靑

㊀すみやか、（亟）。
㊁をとこぎ、（任俠）。
㊂ひく、（曳）。
㊃財を輕んずる者。○〔爾、註〕「三輔謂二輕レ財者一爲レ――」。

【町】テイ、チヤウ。他頂切　迥　湯丁切　靑

㊀畔埒、あぜ、まち。○〔左〕「――二原防一」。
㊁區域、かぎり。○〔書鑒〕「脫二去筆墨畦――」。

【町】タウ、ヂヤウ。丈梗切　梗

地を除ひて墠となすと。

【町】テン。他典切　銑

――疃は、鹿の跡、あしあと、一說に、舍旁の隙地、あきち。○〔詩〕「――疃鹿場」。

三畫

【画】クワイ、エ。胡卦切　卦

畫に同じ、ゑがく。

【甽】古文の畎の字。○〔漢〕「后稷始――レ田、以二二耜一爲レ耦廣尺深尺曰レ――」。

【甽】シユン、ジユン。松倫切　眞

山の下の霤を受くる所、卽ち、山の肥澤を吸ひ得る所。○〔呂氏春秋〕「一田弃レ――」。

【甽】シユン。朱閏切　震

みそ(溝)。

【畎】 ケン・姑泫切 先
甽に同じ。○〔漢〕「一畮三ー」。

【甾】 シ。側持切 支
㊀菑に同じ。㊁淄に同じ。○〔漢〕「惟ー其道」。㊂䲨に同じ。○〔周〕「翟類有レ六曰翬、曰搖、曰鷸、曰ー、曰希、曰蹲」。

【甿】 バウ、ミヤウ。武庚切 庚 ボウ、モウ。武登切 蒸 母亙切 徑
㊀田つくる人民、たみ。○〔周〕「以二下-劑一致レー、以二田-里一安レー」。㊁無知なる人民。○〔管〕「盡屨-縷之ー」。

【畂】 バウ、マウ。莫郎切 陽
ひろきの、(曠-野)。

【畁】 俗の畀の字。

【旰】 カウ。呼朗切 養
鹵地、しほつち。

【畟】 チョク、チキ。恥力切 職
田つくる器、すき。

【畀】 ヒ。必至切 寘
あたふ、(與)、たまふ、(賜)。○〔書〕「不レ畀ー二洪-範九-疇一」。

【畇】 スン、ソン・思文切 文
よし、(令)。

【畗】 甿に同じ。

四畫

【畓】 シ。側飢切 支
菑に同じ。

【畊】 カウ。古郎切 陽
さかひ(境)、一説に、あぜみち、(陌)。

【畉】 カウ。各朗切 養 擧盎切 漾
甿に同じ、しほのさは。

【畋】 カウ。居浪切 漾
さかひ(境)。

【畒】 ボウ、ム。莫後切 有
畮に同じ。

【畇】 ヰン。羊倫切 シュン。相倫切 シュン、ジュン。詳遵切 眞
墾辟す、ひらく、たつくる。○〔詩〕「ーー原-隰」。

【畈】 ヘン、ハン。方願切 願 ハン、ヘン。方諫切 諫
㊀田。㊁はた、平疇。

【畉】 フ、ブ。防無切 虞
田を耕す、たがへす、すく。

【畊】 サウ、セウ。楚孝切 效
田を耕す、たがへす。

【畝】 シ。莊持切 支
たがへす。(耕)。

【畎】 ケイ、ケ。古惠切 霽
こみち、(蹊)。

【畊】 古文の耕の字。○〔晏子〕「今齊-國丈-夫ー、女-子織」。

【畋】 テン、デン。徒年切 先 堂練切 霰
㊀禽獸を驅り捕ふること、かり。○〔書〕「ー二于有-洛之表一」。㊁田を治む、たつくる。○〔書〕「ー二爾田一」。

〔出畋〕 獵に出づること。○〔司馬相如〕「悉發二車-騎一、與二使-者一ーー」。
〔翔畋〕 馳せまはりて獵を爲す。○〔穆天子傳〕「六-師之人、ー二于曠-原一」。
〔游畋〕 獵をして慰む。○〔潘夫論〕「文王ーー、遇二姜-尙于渭濱一」。
〔中畋〕 馬のこと。○〔東京賦〕「ーー四-牡、旣佶且閑」。
〔漁畋〕 魚又禽獸をとる。○〔曹植〕「罟-網ーー」。
〔郊畋〕 城下近き原野に狩りをなす。○〔張說〕「ーー閱二邦政一」。
〔蒐畋〕 狩りをなすこと、古は狩をなすに託せて兵を習はし制なりき。○〔元稹〕「ーー想二渭津一」。

【界】 カイ、ケ。古拜切 卦
㊀さかひ。(い)境域、ほとり、きは。○〔孟〕「不レ以二封-疆之ー一」。(ろ)區限、かぎり、わかち。○〔後漢〕「以レ禮爲レー」。(は)場所。○〔陶弘景〕「欲ーー之仙-都」。
㊁さかひす、さかふ。(い)さかひをなす、かぎる。○〔班固〕「右ー二褒-斜隴-首之險一」。(ろ)接比す、ならぶ。○〔戰〕「與レ秦壤ー」。(は)離閒す、へだつ。○〔揚雄〕「范-雎ー二涇-陽一」。
㊂あたふ、(與)。○〔後漢〕「非二身-力所レ得、皆以レ滅ー二告者一」。

〔疆界〕 物と物とのさかひ。○〔愈氏聚遠樓詩〕「宜下將二眼-力一爲中ーーと」。
〔境界〕 前に同じ。○〔詩、箋〕「正二其ーー一」。
〔經界〕 前に同じ。○〔孟〕「夫仁-政必自二ーー一始」。
〔分界〕 彼れと此れとをわけてかぎりを爲すこと、又、前に同じ。○〔吳、誌〕「各保二ーー一、無レ求二細-益一而已」。
〔緣界〕 ほとりざかひ。○〔後漢〕「鄧-國嬪傷レ稼大-牙ーー不レ入」。
〔天界〕 大空のこと、又、凡俗外。○〔陶潛〕「杳-然ーー高」。
〔三界〕 佛教にていふ慾界、色界、無色界のこと。○〔頭陀寺碑文〕「遁二殊ーー一」。
〔上界〕 天のこと。○〔張九齡〕「ーー投二佛-影一」。
〔眼界〕 目もて見わたすかぎり。○〔王維〕「ーー今無レ染」。
〔下界〕 人の住む世界。○〔顧況〕「ーー功滿方超二上-界一」。
〔塵界〕 穢らはしき世の中。○〔貫휴〕「盡-捲ー二ー一」。
〔縫界〕 物のぬひめ。○〔詩、註〕「緘紩之ーー也」。
〔接界〕 さかひのつゞけること。○〔戰〕「與レ秦ーー」。
〔國界〕 くにのさかひ。○〔漢〕「延定二ーー一上二計-簿一更定レ圖」。
〔遠界〕 さかひのとほく隔たりあること。○〔後漢〕「奏-言、西千-縣ーー去レ庭千-餘-里」。
〔鄰界〕 となれる土地。○〔後漢〕「威動二ーー一」。
〔畫界〕 さかひを設く、又、さかひ。○〔魏〕「分レ疆ーー各守二土境一」。
〔部界〕 こわけせるさかひのあること。○〔後漢〕「山-川各有二ーー一」。
〔邊界〕 ほとり。○〔晉〕「必使二ーー無レ貪二小-利一强弱不レ得二相陵一」。
〔限界〕 かぎり。○〔宋〕「使二州連-隔以爲二ーー一」。
〔封界〕 土を盛りあげて國のかぎりとせるさかひ。○〔杜甫〕「所レ守ーー接二連梓-州一」。
〔畔界〕 田地のさかひ。○〔陸賈〕「后稷乃列二封-疆一、畫二ーー一以分二土-地之所一レ宜」。
〔無界〕 かぎりなく賢きこと。○〔陶潛〕「高-莽眇レー」。
〔福界〕 さいはひある處。○〔梁簡文帝〕「焜伊ーー寧無二鐫-刻一」。
〔空界〕 大そらのこと。○〔朱熹〕「仰-騰二ーー瀏一」。
〔淨界〕 清淨なる處。○〔梁簡文帝〕「方淸ーー」。
〔法界〕 佛法の世界。○〔鄭愔〕「ーー山-川匝」。
〔世界〕 世の中のこと。○〔岑參〕「登-臨出二ーー一」。
〔花界〕 はなのある處。○〔韋應物〕「塡レ壑躋二ーー一」。

(仙界) やまと人の居る處、又、俗をはなれたる處。○〔劉滄〕「——日長靑鳥度」。
(十界) 十方世界のこと。○〔雲笈七籤〕「超ニ逸——一」。
(塵界) 繁雜なる世の中、又、えみしのすむ所。○〔張協〕「擧ニ世嬉ニ——一」。
(夷界) えみしのある處。○〔杜甫〕「——荒山頂」。

【𤱆】界に同じ。

【畎】ケン。姑泫切 先
㊀小さき水流、こがは、みぞ。○〔書〕「濬ニ——澮一距レ川」。
㊁疏通し流注する水流、そゝぐながれ。○〔乾坤鑿度〕「——流大道」。
㊂山谷の水を通ずる處、たに。○〔書〕「羽—夏翟」。
(疆畎) 田地のさかひにあるみぞ。○〔書〕「爲ニ畎——」。
(溝畎) 田間のみぞ。○〔楊侃〕「屈曲——」。
(畦畎) 田地のうねにあるみぞ。○〔吳萊〕「——魚龍爭」。

【畏】井。於胃切 未
㊀おそる。
(い)心服す、志たがふ。○〔禮〕「—而愛レ之」。
(ろ)惡み忌む。○〔莊〕「魚不レ—レ網」。
(は)心氣くじけひるむ、おづ。○〔山海經〕「佩レ之不レ—」。
(に)愼み戒む。○〔易〕「—ニ鄰戒一也」。
㊁おそるべきこと、嚴かなること。○〔後漢〕「—法之敝也」。
(畏々) おそるべき事をおそる。○〔書〕「乃罔レ——」。
(天畏) 天命のおそるべきこと。○〔書〕「——棐忱」。
(貢畏) つゝしみ懼る。○〔沈約〕「—ニ—上靈一」。
(恭畏) 前に同じ。○〔唐〕「元禮性——善ニ騎射一」。
(抑畏) おさへて嚴しきを戒むること。○〔書〕「維我大王王季、自——」。
(顧畏) 躊躇しおそるゝこと。○〔北〕「當官何所ニ——」。

(懾畏) おぢおそるゝこと。○〔國〕「非レ—ニ—我甲兵之強一也」。
(怖畏) 前に同じ。○〔後漢〕「—ニ—罪戾一」。
(憚畏) 忌みはゞかる。○〔史〕「諸辯者——」。
(猜畏) そねみ忌む。○〔後漢〕「每懷——」。
(嫌畏) 心に好まず怨むこと。○〔唐〕「樂引ニ後進一、然多ニ——一不レ能レ有レ所ニ薦達一」。
(淸畏) よく治まりて民志たがふこと。○〔唐〕「境內——」。
(震畏) 身ぶるひしおそる。○〔唐〕「所レ至——」。
(脅畏) あがめておそる。○〔唐〕「夷人—ニ—之一」。
(謙畏) 遜りておそる。○〔唐〕「才敏銳而——」。
(疏畏) 疎んじはゞかる。○〔唐〕「士大夫皆—ニ—之一」。
(屛畏) 息をこらしおそる。○〔宋〕「胥吏——」。
(嚴畏) はゞかりおそる。○〔尉繚子〕「故謂レ無ニ——之心一」。
(憂畏) 心を勞しおづ。○〔梁昭明太子〕「豈能戚々勞ニ于——一」。
(愁畏) 前に同じ。○〔杜甫〕「——日車翻」。
(勞畏) 前に同じ。○〔元結〕「能辨ニ此——一」。
(情畏) れちおそる。○〔王安石〕「親友——焉」。
(疑畏) 前に同じ。○〔陸游〕「新須レ失ニ——一」。
(愧畏) はづかしく思ひおづ。○〔白居易〕「捫レ心無ニ——一」。
(羞畏) 前に同じ。○〔梅堯臣〕「——情論」。

【畏】ワイ、ヱ。鄔賄切 賄
畏に同じ。

【画】画の本字。

【畏】畏に同じ、おそる。○〔洞靈眞經〕「刑レ之而不レ—」。

【畐】ヒヨク、ヒキ。方六切 屋
㊀みつ(滿)。㊁はゞ(幅)。

五畫

【⿰田且】ソ、ス。則古切 麌
田。

【⿰田句】コウ、ク。居侯切 尤
うね、畦。

【⿰田句】ク、ゴ。權俱切 虞
—町王は西戎の君長の號。

【畔】ハン、バン。薄半切 翰
㊀田界、あぜ、くろ。○〔史〕「耕者皆讓レ—」。
㊁界限、さかひ、ほとり。○〔國〕「脩ニ其疆——一」。
㊂水涯、きし、はま。○〔楚辭〕「江河之—」。
㊃はなる(離)。○〔書〕「—レ官離レ次」。
㊄そむく(倍)。○〔漢〕「漢王并ニ關中一而齊梁—レ之」。
㊅古昔は盤に通じ用ふ。○〔漢碑〕「——桓居レ貞」。
(海畔) うみぎし。○〔史〕「鴟夷子皮耕ニ于——一」。
(際畔) さかひ。○〔列〕「不レ知ニ——之所レ齊限一」。
(疆畔) 前に同じ。○〔詩、傳〕「無レ有ニ——一」。
(天畔) 大空のはて。○〔張說〕「——海雲深」。
(隴畔) 丘の界。○〔後漢〕「皆燒ニ絕——一以遏レ之」。
(無畔) 限りなきこと。○〔潘岳〕「謂ニ原濕兮—レ—」。
(隣畔) となりざかひ。○〔鄭俠〕「殷商是——」。
(岸畔) きしべ。○〔宋〕「復治ニ——一」。
(崖畔) 前に同じ。○〔郭遐叔〕「抗ニ無——一」。
(道畔) みちのほとり。○〔論衡〕「——巨樹」。
(枕畔) まくらべ。○〔蘇舜欽〕「——冷香通ニ醉夢一」。
(澗畔) たにのほとり。○〔宋之問〕「叢々——草靑々」。
(渚畔) みぎは。○〔崔顥〕「——鱸魚舟上釣」。
(水畔) 川のほとり。○〔白居易〕「——行來上ニ小舫一」。
(籬畔) まがきのほとり。○〔朱慶餘〕「故山——菊」。
(橋畔) かけはしのきは。○〔除鳧〕「——誰爲步」。
(鬢畔) びんのはえぎは。○〔鄭谷〕「年來——添レ垂レ白」。
(額畔) ひたひのふち。○〔吳融〕「——半留黃」。
(營畔) 陣屋のほとり。○〔李瑛〕「亞夫——風轉處」。
(澤畔) こみちのほとり。○〔耶律楚村〕「花藏ニ——春泉聲一」。

【畕】キヤウ、カウ。居良切 陽
比べる田。

【⿰田皮】ヒ。攀披切 支
被に同じ、たがへす(耕)。

【⿰田皮】ハ。普火切 哿
睬—は、小しく高し、こだかし。

【⿰田幼】イウ、ユ。於糾切 有
くろつち(黑壤)。

【⿰田冉】ダン、ナン。那含切 覃
田の十畝の稱。

【留】俗の畱の字。

【畚】ホン。布袞切 阮
㊀物を盛りて運ぶに用ふる器、薹茶をもて造りたるもの、ふご、もっこ。○〔周〕「挈レ—以令レ糧」。
㊁すき(鍫)。○〔揚雄〕「鍫也、江淮南楚之閒謂ニ之臿一、沅湘之閒謂ニ之—一」。

【畛】シン。止忍切 軫　側鄰切 眞
㊀田閒の陌、あぜ、くろ。○〔詩〕「徂レ隰徂レ—」。
㊁境界、さかひ、はて。○〔莊〕「爲レ是而有レ—也」。
㊂根本、もと、これ。○〔揚雄〕「黃純ニ於潛一不レ見ニ其—一」。
㊃いたす(致)。○〔禮〕「臨ニ諸侯一—ニ于鬼神一曰レ有ニ天王某甫一」。

㊄つぐ(告)。㊅たつ(殄)。
〔封畛〕田のあぜ。○〔蘇轍〕「——相望」。
〔畦畛〕さかひ。○〔晉書〕「蕭然出二四六——之外一」。
〔徑畛〕田間のこみち。○〔詩、疏〕「此溝上即有二——一以通二大車一」。

【⿰田尓】畛に同じ。

【⿱夗田】畹に同じ。

【畜】チク、トク。丑六切　屋
㊀聚め積む、備へ藏む、つむ、あつむ、をさむ、たくはふ。○〔禮〕「趣レ民收-斂務レ—レ菜」。
㊁たくはへ得、をさまる、つもる、あつまる。○〔魏〕「儉レ用財—」。
㊂たくはふるを、たくはへたるもの、たくはへ。○〔禮〕「無二私-貨一無二私-—一」。
㊃とゞむ(止)。○〔孟〕「—レ君何尤」。
〔小畜〕易の卦の名、☴☰乾下巽上　○〔易〕「——亨、密-雲不レ雨、自二我西郊一」。
〔大畜〕易の卦の名、☶☰乾下艮上　○〔易〕「——利レ貞不二家食一吉」。
〔止畜〕とゞめやむ。○〔易、程傳〕「六-五居二君-位一、—二—天-下之邪-惡一」。
〔聚畜〕あつむ、あつまる。○〔禮〕「孟-夏之月、—二—百-藥一」。

【畜】キク、コク。許六切　屋
㊀やしなふ(養)。○〔易〕「地-中有レ水師、君-子以容レ民—レ衆」。
㊁かふ(飼)。○〔論〕「君賜レ生必—レ之」。
㊂いる(容)。○〔左〕「天-下誰—レ之」。
㊃おこす(起)。○〔詩〕「拊レ我—レ我」。
㊄したがふ。
(い)順從す。○〔禮〕「孝者—也、順二于道一不レ逆二于倫一、是之謂レ—」。
(ろ)孝を爲さしむ。○〔禮〕「無-服之喪以—二万-邦一」。
㊅恤愛勤勞の貌にいふ字。○〔莊〕「堯——然仁、吾恐三其爲二天-下笑一」。
㊆とゞむ(留)。○〔禮〕「易レ祿而難レ—也」。
㊇雞豚の屬、即ち、家にやしなひかふ鳥獸。○〔左〕「其—之碩-大蕃-滋」。
〔六畜〕牛馬羊雞犬豕の家にかふ畜類。○〔左〕「爲二——一五-牲三-犧以奉二五-味一」。
〔五畜〕牛羊豕雞犬の家にかふ畜類。○〔漢〕「民有二——一」。
〔獸畜〕けものゝ如くにして養ふ、又、けもの、ちくしやう。○〔孟〕「愛而不レ敬、—二—之一也」。
〔奴畜〕下べの如くに卑しみて養ふこと。○〔漢〕「習—二—之一、不三自爲二兄-弟數一」。
〔詡畜〕媚好なること。○〔漢〕「北-方謂二媚-好一爲二——一」。
〔活畜〕けものを生かしやる。○〔呂氏春秋〕「夫殺レ人以—レ—不二亦不仁一乎」。
〔耕畜〕土地をたがへしけものを飼養す。○〔史〕「父予——」。
〔奇畜〕珍しき家畜。○〔史〕「——則橐駝」。
〔仁畜〕なさけをかけて養ふ。○〔漢〕「夫匈-奴獨可二以威-服一不レ可三以——一也」。
〔蠻畜〕野蠻畜生といふことにて罵りいやしめていふ語。○〔晉〕「王罵曰、——、我欲レ誅二反-賊一」。
〔雜畜〕くさ〲なる家にかふいきもの。○〔唐〕「掌二廐-牧馬-牛——之籍一」。
〔養畜〕飼ふこと。○〔宋〕「上以下犀違二土性一不上レ可二——一却不レ納」。
〔擾畜〕よく馴らしたる馬。○〔楚辭〕「曲-屋步-壛宜二——一只」。
〔羈畜〕おしこめて飼ふ。○〔謝惠連〕「寵—二——于籠-樊一」。

【畜】キウ、ク。許救切　宥
前條の㊇に同じ。○〔周〕「掌レ共二六——一」。

【畝】ボウ、ム。莫厚切　有
㊀田疇の丈量、其の長さ時代によりて異同あり、司馬法には六尺を一步とし百步を一—となし、秦の孝公は二百四十步を以て一—と定めたり、宋の程顥曰はく、古の百—は今の四十—に當たり今の百—は古の二百五十步に當たれりと。○〔周〕「不-易之地家百—」。
㊁壟界、うね、あぜ。○〔詩〕「南-東其—」。

【畞】古文の畝の字。

【畟】ショク、シキ。察色切　職
耜の嚴しく利なるにいふ字、さし。○〔詩〕「——良-耜」。

【⿻丨畕】シン。式神切　眞
㊀のぶ(申)。㊁かさぬ(重)。

六畫

【畡】カイ、ガイ。柯開切　灰
垓に同じ。○〔國〕「居二九——之田一」。

【畢】ヒツ、ヒチ。卑吉切　質
㊀をふ、をはる(竟)。○〔左〕「日至而—」。
㊁みな(皆)、こと〲く(盡)。○〔詩〕「—來既升」。
㊂月の稱。○〔爾〕「月在レ甲曰レ—」。
㊃二十八宿の一、あめふり。○〔禮〕「孟-夏之月日在レ—」。
㊄あみ(網)。○〔詩〕「鴛-鴦于飛—レ之羅レ之」。
㊅ふだ(簡)。○〔爾〕「簡謂二之—一」。
㊆牲の體を貫くに用ふる叉形の木。○〔儀〕「宗-人執レ—先入」。
㊇車下の鐵。○〔揚雄〕「車-下鐵、陳宋淮楚之閒謂二之—一」。
㊈路寢の門。○〔書〕「立二—門之內一」。
㊉彈に同じ、いる。○〔歸藏鄭母經〕「昔者羿善射—」。
⑪縪に同じ、ぬひ。○〔儀〕「冠六-升外—」。
⑫韠に同じ、ひざかけ。○〔荀〕「共「艾—」。
⑬堂室の牆、かき。○〔爾、註〕「今終-南山道名レ—其邊若二堂-室之牆一」。
〔估畢〕たゞ文書を視るのみにて其の義理を曉らざること。○〔禮〕「今之教者呻二其——一」。
〔篩畢〕竹の札。○〔爾〕「—謂二之——一」。
〔參畢〕星の名。○〔孔平仲〕「皎々橫二——一」。
〔昴畢〕前に同じ。○〔漢〕「趙-地——之分-野」。
〔終畢〕をはる、をふ。○〔白居易〕「天-長地-久無二——一」。
〔了畢〕前に同じ。○〔指月錄〕「大-事——」。

【⿰田光】クワウ、ワウ。姑黃切　陽
垙に同じ、あぜみち。

【⿰田余】タ。吐火切　哿
畭の字の條を見よ。

【⿰田共】キョウ、ク。居容切　冬
にらばたけ(韭-畦)。

【⿰田兆】テウ、デウ。徒了切　篠
㊀田の中の穴、あな。㊁田の界、あぜ。㊂垗に同じ。

【畤】シ。諸市切。チ、ヂ。丈里切　紙
㊀神靈を祭る處、まつりのには、祭地。○〔史〕「祠二上-帝西——一」。
㊁地の名。○〔左〕「成-愆奔二平——一」。
〔密畤〕まつるところ。○〔史〕「秦宣公作二——一於渭-南一祭二青-帝一」。
〔雍畤〕前に同じ。○〔漢〕「祭二五-帝於——一」。
〔靈畤〕神聖なるまつりどころ。○〔司馬相如〕「遊二彼——一」。

【畤】シ、ジ。時吏切　寘

畤に同じ、種子をまく。

【畤】チ、ヂ。池爾切 紙
たくはふ、たくはへ(儲)。

【[illegible]】レイ。力制切 霽
おちいる(陷)。

【略】リヤク。離灼切 藥
㊀經營す、いとなむ、をさむ。〇〔左〕「天-子經ーー」。
㊁計謀、はかりごと。〇〔漢〕「圖二上方-ー二。
㊂智慮、かんがへ。〇〔枚乘〕「雖レ有二心-ー辭-給二。
㊃みち。
(い)道規、のり。〇〔左〕「欲レ復二文-王之ー二。
(ろ)經路、すぢ。〇〔書〕「以遏二亂ーー二。
㊄卦界、さかひ。〇〔左〕「東盡二虢ー二。
㊅要約、かなめ。〇〔莊〕「爲レ汝言二其崖ーー二。
㊆あらまし。
(い)精密ならず、あらし。〇〔荀〕「久ー則論ー」。
(ろ)大概、おほかた、ほど、おほよそ、おほむね。〇〔班叔度〕「又可二ー聞二。
㊇はぶく。
(い)多く功を用ひず。〇〔書〕「嵎-夷既ー」。
(ろ)減少す、そぐ。〇〔公羊〕「喪數ー」。
㊈とる(取)、もとむ(求)。〇〔左〕「以ー二狄-土二。
㊉をかす(犯)。〇〔國〕「ーレ則行レ志」。
⑪奪掠す、うばふ、かすむ。〇〔國〕「犧牲不レー」。
⑫巡行す、めぐる。〇〔左〕「吾將レーレ地」。
⑬さし(利)。〇〔詩〕「有二ー其耜二。
(才略) 才智計謀のあること。〇〔後漢〕「大-小有二ーー二。
(智略) 前に同じ。〇〔史〕「ーー絕レ人」。
(大略) (い)大いなるはかりごと、大いなるちゑ。〇〔史〕「安-國爲レ人多二ーー二。
(い)あらましのこと、大概に同じ。〇〔周、註〕「凡養レ之之具、ーー有レ四」。
(遠略) (い)奧深きはかりごと。〇〔唐〕「翟-敢之餘無二復ーー」。
(ろ)遠き土地を經略す。〇〔左〕「齊-侯不レ務レ德、而勤二ーー二。
(王略) 君王の計謀。〇〔左〕「侵二敗ーー二。
(雄略) をゝしきはかりごと、すぐれたるかんがへ。〇〔史〕「嗟彼ーー、曾非二魁-岸二。
(權略) 臨機のはかりごと、臨機のかんがへ。〇〔晉〕「多二ーー、少-長或宗レ之」。
(霸略) 旗頭たるもののはかりごと。〇駱賓王「ーー今何在」。
(功略) てがらとはかりごとゝ。〇〔史〕「臣請言二大-王ーー二。
(淵略) あらましにて周詳ならざること。〇〔後漢〕「且ー二ー遠-縣細-微之愆二。
(將略) 將軍たるに適する計謀又はちゑ。〇〔蜀〕「應レ變ーー非二其所レ長」。
(兵略) いくさの謀。〇〔後漢〕「鄧-將知規有二ーー二。
(譎略) いつはりの謀。〇〔吳〕「ーー多レ奇」。
(神略) 極めてすぐれたるはかりごと、すぐれたるちゑ。〇〔晉〕「ーー獨斷、征-伐四克」。
(廟略) 朝廷の謀。〇〔晉〕「內經二ーー二。
(妙略) すぐれたるはかりごと。〇〔宋之問〕「終二非-常之ーー二。
(脫略) うちすておくこと。〇〔晉〕「ーー細行二不レ爲二流-俗之事二。
(韜略) 六韜三略の略、即ち、兵法の義、又、いくさのはかりごと。〇〔李林甫〕「ーー遂-雙-該」。
(簡略) あらまし。〇〔後漢〕「務舉二大-綱ーー二。
(淺略) 深からずして省きあること。〇〔書正義序〕「文-義皆ーー」。
(詳略) 密なると粗なると。〇〔春秋繁露〕「屈-伸之志ーー之文皆應レ之」。
(忽略) ゆるかせにして詳かならぬ。〇〔書、傳〕「怠-惰ーー必亂二其政二。
(勇略) 勇氣すぐれて才智多きこと。〇〔史〕「ーー震レ主者危」。
(疆略) 周密ならず。〇〔英雄記〕「爲レ人ーー有二武-勇-善二騎-射二。
(省略) はぶき去りて詳かにせず。〇〔斐駰〕「殊恨二ーーー二。
(輕略) かろがろしくして詳かならず。〇〔禮〕「內-志ーー」。
(侵略) 他の物を犯し取る。〇〔史、註〕「農相ーー」。
(刼略) 威して取る。〇〔史〕「爲レ彌所二註-誤ーーー者皆赦レ之」。
(策略) はかりごと。〇〔後漢〕「遂與二操-參二咨ーー二。
(計略) 前に同じ。〇〔唐〕「然短二於ーー二。
(謀略) 前に同じ。〇〔唐〕「持-論-輕-切、見二ーーー高-白-標-顯」。
(鈔略) かすめ取る。〇〔魏〕「惟以二ーー爲レ資」。
(寇略) 前に同じ。〇〔魏〕「其見二ーーー及亡-命者皆赦二其罪二。
(戰略) いくさのはかりごと。〇〔鄭畋〕「用二關-張之ーーー二。
(規略) はかりごと、みち。〇〔魏〕「ーー明-練」。
(商略) はかりごと。〇〔蜀〕「揚-戲ーー意在二不-羈二。
(殺略) 人をころし物を取ること。〇〔唐〕「未レ嘗ー二ー邊-人二。
(英略) 秀でたるはかりごと。〇〔晉〕「ーー奮-發」。
(叡略) 前に同じ。〇〔晉〕「世宗以二ーーー創レ基」。

【畦】ケイ、ヱ。戸圭切 齊
㊀田五十畝の稱。〇〔屈平〕「ー二留-夷與二揭-車一兮」。
㊁うね(壟)。〇〔漢〕「菜-茹有レー」。
㊂くぎり(區)。〇〔莊〕「爲二無-町ーー二。
㊃田圃、はたけ。〇〔顏延之〕「剪レ棘開二舊ーー二。
(夏畦) なつのあつき時に耕すこと。〇〔孟〕「脅レ肩諂-笑、病二于ーーー二。
(圃畦) はたけのうね。〇〔元結〕「築レ塘列二ーー二。
(稻畦) いねをつくりたる田。〇〔王安石〕「ーー藏レ水綠-秧齊」。
(溝畦) たはたに水をかく。〇〔杜甫〕「薄-暮還レーー」。
(野畦) のはたのうね。〇〔杜甫〕「ーー連二蚊-蟆二。
(霜畦) しものふりかゝれる冬のはたけ。〇〔常建〕「ーーー亂-水閒」。
(綠畦) あをあをとしげりたるはたけ。〇〔唐球〕「畫-傍二ーー一遍二嫩-玉二。
(荒畦) あれたるはたけ。〇〔王安石〕「蕪-落ーー草自生」。

【畇】畇に同じ。

七畫

【[illegible]】レツ、レチ。龍輟切 屑
田を耕し土を起こす。

【番】ヘン、バン。符袁切 元　ハン、バン。孚萬切 願
㊀たがひに其の局に當ること、かはるがはる其の事を行ふこと。〇〔漢〕「賢-良直-宿更ーー」。
㊁回數、たび。〇〔南〕「往-復數ーー」。
㊂枚數、かず。〇〔舊唐〕「吏以二紙萬ーー嚙レ之」。
(交番) かはるがはるに番にあたること。〇〔唐〕「嵩分二三-番二而立レ號曰二ーーー下」。
(當番) 務むべき時にあたること。〇〔舊唐〕「ーーー上」。
(輪番) まはりまはりて務めにあたること。〇〔遼〕「每-日ーーー千-人」。

【番】ハン。普官切 寒
ーー禺、ーー和、ーー須は、地名。

【番】ハ。蒲禾切 歌
㊀鄱陽に通じ用ふ。〇〔史〕「闔-閭使二太-子夫-差將レ兵伐レ楚取レー」。
㊁ーー吾は、趙の地名。
㊂姓。〇〔詩〕「ー維司-徒ーー氏也」。
㊃武勇の貌にいふ字。〇〔書〕「ーーー良-士」。

【畫】クワク、ギヤク。胡麥切 陌
㊀易の卦爻をあらはす横段、即ち、ー(陽)ーー(陰)との稱。〇〔易、疏〕「二ーーー之體雖レ象二陰-陽之氣一未レ成二萬-物之象二。
㊁かぎる。
(い)區分す、界限す、さかふ、わかつ。〇〔左〕「茫-々禹迹ー爲二九-州二。

(ろ)截ち止どまろ、截ち止どむ。○〔論〕「今女ー」。

㊂計謀す、はかる。○〔漢〕「圖二ー安危一」。

㊃計策、はかりごと。○〔鄒陽〕「故願二大王審一レー」。

㊄分明なること。○〔莊〕「其之臣ー然知者去レ之」。

㊅端直なること。○〔史〕「顙若二ー一一」。

㊆文字を書くに一筆に行るべきかぎり。○〔書苑〕「字之點ー稀少者」。○〔宋〕「以レ荻ーレ地學レ書」。

㊇文字を書くこと、直線を描くこと。

㊈一直線に引くこと。○〔白居易〕「曲終收レ撥當レ心ー」。

〔指畫〕 指さして分界を立つ、又、指さしはかる。○〔後漢〕「聚レ米爲二山谷一、ー二ー形勢一」。

〔計畫〕 はかりたる事柄。○〔漢〕「平日、誠臣ーー有二可レ采者一、願大王用レ之」。「甚衆」。

〔石畫〕 堅固なる策。○〔漢〕「奇謀之士ーー之臣」。

〔主畫〕 主となりて計策すること。○〔管〕「ーー之相守レ之」。「終始者也」。

〔摩畫〕 かぎり定むること。○〔淮〕「ー二ー人事之」。

〔碩畫〕 大いにはかり定む。○〔岑参〕「精理皆ー」。○〔史〕

〔口畫〕 口の上にはかりごとをいひとくこと。「願得二望見一ー二ー天下便事一」。

〔案畫〕 考へはかる。○〔後漢〕「ーー以求二諧律一、無下不レ如二數而應一者上」。「ー一」。

〔謀畫〕 はかり定めたる事柄。○〔後漢〕「援具言二ーー」。

〔錐畫〕 きりをもて彫ること。○〔書苑〕「王右軍ー二ー沙印印泥一」。「ー」。

〔潛畫〕 人知れずはかり定む。○〔晉〕「獨與レ帝ーー」。

〔奇畫〕 珍かなるはかりごと。○〔晉〕「ーー指授、制二勝千里一」。

〔辯畫〕 わきまへ定む。○〔晉〕「應レ機ーー」。

〔助畫〕 輔佐してはかり定む。○〔唐〕「陰爲二ーーー」。「ー一」。

〔裨畫〕 前に同じ。○〔五〕「俱備二顧問一、多レ所二ーー」。

〔贊畫〕 前に同じ。○〔薛廷珪〕「ーー允藏」。

〔祕畫〕 ひめおける策。○〔唐〕「數陳二ーー一、多レ所二嘉納一」。

〔裁畫〕 はかり定む。○〔唐〕「陰爲二ーー一」。

〔機畫〕 謀策のこと。○〔五〕「軍中ーー、亡レ晦多レ所二參決一」。

〔條畫〕 すぢを立て定む。○〔宋〕「ーー以聞」。

〔措畫〕 はかり定む。○〔宋〕「ーー有レ方」。

〔缺畫〕 字の點かくをおとしてかく。○〔文心雕龍〕「是以馬字ーレー、而石建懼レ死」。

〔點畫〕 文字のろつと縱横に引くこと。○〔書苑〕「字之ーー稀少者欲二其彼此相映帶一」。

〔字畫〕 文字の點畫。○〔書苑〕「ーー交錯」。

〔異畫〕 すぐれてめづらかなるはかりごと。○〔賈至〕「奇謀ーー外不レ能レ預」。

〔筆畫〕 ふでにてかく點畫。○〔書苑〕「或因二ーー少一而增添」。「置一」。

〔規畫〕 はかり定む。○〔蘇洵〕「先爲二之ーー處一」。

〔參畫〕 干預してはかり定む。○〔元稹〕「ーー盡敦龐」。

【畫】 クワイ、エ。胡卦切 卦

㊀物の形象をうつしあろす、ゑがく。○〔儀〕「ー以二虎豹一」。

㊁物の形象をうつしあろしたるもの、ゑ。○〔晉〕「妙ー通レ靈」。

〔書畫〕 文字と繪畫とのこと。○〔五〕「善圖レ文、工二ーー」。

〔圖畫〕 ゑがく、又、ゑ。○〔漢〕「詔ー二ー于甘泉宮一」。

〔列畫〕 ならべて繪がく。○〔漢〕「ー二ー未央宮一」。

〔如畫〕 物のさまの極めて美しくあるにいふ語。○〔後漢〕「鬚髮眉目ーレー」。「漆之圖一」。

〔綺畫〕 余りたる絹の繪。○〔後漢〕「飾以二ーー丹」。

〔文畫〕 色どる。○〔呉〕「車輿器物、皆不二ーー一」。

〔善畫〕 繪を上手にかく。○〔南〕「能レ書ーレー」。

〔祕畫〕 大切にひめおく繪。○〔唐〕「多納二古帖ーー于女昌一」。

〔名畫〕 名人の手になりたる繪。○〔名畫記〕「唐呉道子郞虔皆ーー」。

〔繢畫〕 ゑ。○〔韓愈〕「或錯若二ーー一」。「ー者」。

〔彩畫〕 色どりゑがく。○〔諸葛亮〕「宛然如二ーー」。

〔俗畫〕 世にありふれたる繪。○〔名畫記〕「不レ可下以二ーー一傳中其意旨上」。

〔古畫〕 古人の作りたる繪。○〔岑参〕「長廊列二ーー一」。

〔奇畫〕 世に珍らかなる繪。「簡易、直ーー也」。○〔瀬眞子〕「筆法ーー」。

〔改畫〕 繪をかきなほす。○〔虞世南〕「掖庭聳二ーー一」。「高二買彪一」。

〔染畫〕 繪をかく。○〔梁簡文帝〕「漢軍ーー、猶ーー」。

〔壁畫〕 かべにかきたる繪。○〔楊炯〕「歲時無二ーー一」。「壽」。

〔能畫〕 繪を上手にかく。○〔杜甫〕「ーー毛延能說」。

〔勝畫〕 景色のよき繪。○〔蘇軾〕「谿山ーー徒」。

〔成畫〕 繪をかく。○〔方岳〕「溪山與レ我俱ーレー」。

〔異畫〕 珍らしき繪。○〔鄭元祐〕「神工ーー先後出」。「ー似二神仙一」。

〔挂畫〕 繪を壁にかけおくこと。○〔薩都剌〕「焚レ香ーレ」。

〔描畫〕 ゑがく。○〔張昱〕「情知二此事難二ーー一」。

〔曝畫〕 繪の蟲ぼしをなす。○〔倪瓚〕「ーレー緡レ書至二夕曛一」。

〔品畫〕 繪の品さだめをなす。○〔倪瓚〕「ーレー評レ詩也自佳」。

〔詩中有畫〕 詩句の風韻に富みて且つよく實景を描寫したるをいふ語。○〔蘇軾〕「味二摩詰之詩一ーーーレー」。

【畬】 ヨ。以諸切 魚　切 羊茹 語

新に開拓して三年を經たる田、一說に、二年を經たるものなりともいへり、あらた。○〔詩〕「如二何新ーー一」。

【畭】 シヤ、ゼ。詩車切 麻

燒きて種を蒔く田、やきた。

【畮】 畬に同じ。

【晦】 畝の本字。○〔周〕「不レ易之地家百ーー」。

【畯】 シユン。祖峻切 震

農夫、たつくるひと、又、田を典る官、たをさ、又、農神。○〔詩〕「田ー至喜」。

〔農畯〕 田官、又、農夫、又、農神。○〔劉楨〕「ーー捉レ鑄而去レ疇」。

〔寒畯〕 野人の稱。○〔正字通〕「擧二引ーーー一」。

【異】 イ。羊史切 寘

㊀ことにす。

(い)わかつ、(分)。○〔史〕「民有二二ー男以上一不分ー者倍二其賦一」。

(ろ)たがふ、(違)。○〔莊〕「墨子好レ學而博不レー」。

(は)特別にす。○〔後漢〕「寵二ー之一」。

㊁ことなり。

(い)同じからず。○〔禮〕「同弗レ與ー弗レ非也」。

(ろ)よそ、ほか。○〔呂氏春秋〕「散爲二ー事一」。

(は)すぐれたり。○〔漢〕「有二秀ー者一」。○「不三

(に)くし、(奇)。○〔家語〕「生而神ー自言二其名一」。

(ほ)あやし、(怪)。○〔史〕「化爲二ー物一」。

(へ)めづらし、(珍)。○〔周〕「買人學レ成二市之貨賄人民牛馬兵器珍ーー」。

㊂ことなりとす、あやしむ。○〔孟〕「王無レ一下於百姓之以レ王爲上レ愛」。

㊃ことなる物事。○〔穀梁〕「雨而水冰也志レー也」。

㊄妖災、變怪、わざはひ、ものゝけ。○〔漢〕「乖氣致レー」。「非一也」。○

〔同異〕 一なると別なること。○〔禮〕「別二同異一明二是非一也」。

〔靈異〕 不思議なること。○〔晉〕「撰二集古今神祇ーー人物變化一」。

〔崖異〕 きはだちことなること。○〔宋〕「心平氣和不レ立二ーー一、一時英偉卓犖之士皆歸レ心焉」。

〔術異〕 すぐれてことなりあることをほのめかす。○〔劉勰新論〕「ーレー露レ才」。「之事」。

〔怪異〕 あやしげなる事柄。○〔書、疏〕「此乃ーー其事一而異自消也」。

〔變異〕 前に同じ。○〔書、疏〕「遭二遇ーー一則正二

〔奇異〕 常になくめづらしきこと。○〔書、疏〕「奇技謂二ーー技能一」。「其居里一」。

〔表異〕 あらはして特別にす。○〔書、傳〕「ー二ー」

〔好異〕 他にかはりてあることを嗜好す。○〔書〕「不二惟ーレー」。

〔殊異〕特別なること、又、ことにす。○〔詩〕「叙有二—・—之觀一」。
〔別異〕かはりてあること、又、ことにす。○〔詩、疏〕「毛・色—・—者各三十也」。
〔尊異〕貴びて特別にあしらふ。○〔列仙傳〕「唐・睿・宗屢加二—・—一」。
〔貴異〕前に同じ。○〔南〕「深加二—・—一」。
〔合異〕ことなりたる所を寄せあはす。○〔春秋左傳序〕「或錯レ經以—レ—」。
〔褒異〕特別にすぐれたるものを褒美す。○〔春秋、疏〕「若有二—・—一則或稱レ官」。
〔絕異〕極めてすぐれたること。○〔左、註〕「—二—于衆一」。
〔偉異〕すぐれてあること。○〔唐〕「以二庶人之—・—一者一爲レ之」。
〔乖異〕常に反してかはりあること。○〔胡三省〕「咸與二古文一—・—」。
〔多異〕怪しげなることさはにあり。○〔史〕「窮・鄕—・—」。
〔分異〕別々になる、別々になす。○〔史〕「不二—・—一者倍二其賦一」。
〔隔異〕へたてゝ別にす、へたたりて別になる。○〔史〕「—二—南越一」。
〔佛異〕もとりて常にことなり。○〔史〕「五・家之文—・—」。
〔災異〕天變地異。○〔漢〕「—・—者天・地之戒也」。
〔卓異〕すぐれてかはりあること。○〔後漢〕「詔擧二孝・行與レ衆—・—者一遣レ詣二公・事一」。
〔尤異〕極めてかはりあること。○〔漢〕「治・行—・—」。
〔謬異〕道に違ひてかはりあること。○〔唐〕「方修二明聖・經一以繼二—・—一」。
〔茂異〕すぐれて常にかはりあること。○〔漢〕「招二選—・—一」。
〔特異〕わけてかはりあること。○〔漢〕「此爲二—・—一」。
〔顯異〕あらはし別にすること。○〔新序〕「—二—於他・臣一」。
〔歎異〕感じてかはりたることとす。○〔後漢〕「後聞レ之咸—・—焉」。
〔疑異〕不安心に思ひあやしむこと。○〔後漢〕「莫レ生二—・—一」。
〔器異〕器量ありすぐる。○〔後漢〕「京師大人、咸—二—之一」。
〔祥異〕吉瑞と變異と。○〔後漢〕「問以二—・—禍・福所レ在一」。
〔妖異〕物の怪。○〔後漢〕「誦レ經自若、亦無二—・—一」。
〔敬異〕うやまひて特別にす。○〔後漢〕「特加二—・—一」。
〔詭異〕正しからずして常にかはりあり。○〔後漢〕「充好二論・說一、始若二—・—一、終有二理實一」。

〔呈異〕あやしげなることをあらはし出だす。○〔晉〕「災・變—レ—」。
〔雄異〕をゝしく常にかはりてあること。○〔北〕「姿・體—・—」。

【畱】リウ、ル。力求切 尤　俗に、留に作る。

㊀とゞまる。
(い)とまりて行かず。○〔史〕「私二利祿・爵一且—」。
(ろ)とゞこほる、(滯)。○〔呂氏春秋〕「不レ欲レ—」。
(は)おくる、(遲)。○〔史〕「常坐二—・落不・遇一」。
(に)まつ、(待)。○〔屈平〕「蹇誰—二兮中・洲一」。
(ほ)決せず、ためらふ。○〔戰〕「不下顧二一・子一—一計上」。
(へ)至らず。○〔儀〕「下曰レ—」。
(と)守りて變ぜず、處りて移らず。○〔管〕「不レ慕レ古不レ—レ今」。
㊁とゞまらしむ、とゞむ。○〔易〕「愼レ用レ刑而不レ—レ獄」。
㊂おそし、(遲)、ひさし、(久)。○〔禮〕「悉數レ之乃—更レ僕未レ可レ終也」。
㊃しづか、ゆるやか、(徐)。○〔國〕「一日惕、一日—」。
㊄をさむ、(治)。○〔國〕「擧・國—レ之」。
㊅機を伺ふ、うかゞふ。○〔莊〕「執レ彈而—レ之」。
㊆黃色の絲。○〔博雅〕「—黃・綵也」。
㊇かたし、(牢)。○〔釋名〕「—幕冀・州所レ名、大・褶下至レ膝者也、—牢也、幕絡也、言牢・絡在二衣・表一也」。
㊈一種の獸。○〔山海經〕「柢・山有レ魚焉、其音如二—・牛一」。

〔苛留〕問ひたづねて止む、呼びとゞむ。○〔范成大〕「見・女遮說相—・—」。
〔淹留〕止まりてあること。○〔戰〕「—・—以觀レ之」。
〔去留〕成らざると成ると。○〔史〕「今吾事之—・—在二張・君一」。
〔遮留〕邪魔をし止とむ。○〔北〕「當・路—・—隨、敵・日始得レ出レ境」。
〔滯留〕とゞこほる、とゞこほらす。○〔宋〕「無レ有二—・—一」。
〔稽留〕前に同じ。○〔易、疏〕「不レ—二—獄・訟一」。
〔停留〕前に同じ。○〔禮、疏〕「不レ得二—・—宿二於家一也」。
〔扶留〕木の名、藤。○〔吳都賦〕「石・帆水・松、東・風—・—」。
〔久留〕永きが間とゞまりあること、又、ひさし。○〔易、疏〕「勢不二—・—一」。
〔縶留〕束縛しとゞむ、又つながりとゞまる。○〔漢〕「不三敢枉レ法妄—二—人一」。
〔遺留〕殘りてをる。○〔春秋序、疏〕「策・書—・—、故曰二遺・文一」。
〔拘留〕囚へてとめおくこと、又、かゝはりとゞまる。○〔漢〕「單・于亦趣—二—漢・使一、以相報・復」。
〔凝留〕滯りをる。○〔後漢〕「—・—不・斷」。
〔行留〕往き去るととゞまりをると。○〔唐〕「軍・伍—・—、悉裁二總之一」。
〔遷留〕移りゆくととゞまりをると。○〔北〕「臨二朝・堂一部二分—・—一」。
〔裁留〕分かち割きてとめおく。○〔唐〕「宜レ詔二所・在一—二—經・用一以補レ償レ民」。
〔止留〕滯らせとめおく、又、とゞまる。○〔唐〕「或謫・益—・—、罪在レ不レ赦」。
〔泣留〕涙を垂れて人を引き止とむ。○〔宋〕「及レ還吏・民遮レ道—・—」。
〔邀留〕出迎へて引き止とむ。○〔宋〕「二・州民—二—境・上一日、何幸我賢太・守也」。
〔少留〕いさゝかとゞまりをる。○〔宋〕「既來安得レ不二—・—一」。
〔丐留〕とゞまりをらんことを請ひ求む。○〔宋〕「士・民—レ—不レ獲」。
〔延留〕永くとゞまりをる。○〔宋〕「就レ館—・—數・月」。
〔息留〕やすらひをる。○〔新序〕「—二—乎大・沼一」。
〔綏留〕はしこからざること。○〔論衡〕「手足—・—者負一」。
〔遲留〕とゞまりをること。○〔韓愈〕「室盡レ日以—・—」。
〔羈留〕旅をしてとゞまりをる。○〔李商隱〕「—・—念レ遠心」。
〔頻留〕一方ならず引きとゞむ。○〔黃滔〕「西・秦霜・霰苦二—・—一」。
〔駐留〕とゞまりをる。○〔方干〕「年・光雖二—・—一」。
〔閒留〕しづかにとまりをること。○〔李中〕「—・—好・鳥庭・密・花」。
〔苦留〕强ひて引きとむること。○〔陸游〕「—・—雖レ惜レ別、細・話却生レ愁」。

【畱】リウ、ル。力救切 宥
㊀まつ、(待)。○〔漢〕「宿二—海・上一」。
㊁昴星の別名、すばる。○〔史〕「北至二於—一、—者言二陽・氣之稽・留一也」。

【⿰田夾】カフ、ケフ。侯夾切 洽
溝の相接するにいふ字、つゞく。

【⿰⿱巛田夫】フ、ブ。防無切 虞
ふご、(畚)。

【⿰⿱巛田夬】ケイ、エ、胡桂切 霽
めしいれ、ふご、(篋)。

八畫

【⿰⿱巛田宁】チョ、ト。丁呂切 語
米を盛るに用ふるもの、こめぶくろ、たわら、(幐)。

【畵】俗の畫の字。

【⿰田幷】ヘイ、ビヤウ。薄經切 青
蒲を織りて造り米を入るゝもの、こめぶくろ、たわら、一說に、竹の筥、ふご。

【⿰田來】ライ。郎才切 タイ。當來切 灰
姑く休めて耕さゞる處、あれた。

【畤】チ、ヂ。丈里切 紙
屋の下にたくはへ置く、たくはふ。

【⿰田卑】ヒ、ビ。班糜切 支
㊀田。㊁水を甀ぎて田に漑ぐこと。

【⿰田奄】アン、オン。鄔感切 感
エフ、オフ。乙業切 葉
田に種う、うゝ。

【⿰田侖】リン。縷尹切 軫
土を壟にす、つちをもる。

【⿰田忝】テン。他典切 銑
㊀田に餇す、かれひす。
㊁—疃は、鹿の踏みたる跡。

【⿰田或】古文の域の字。

【⿰田冉】ゼン、チン。二典切 銑
たかし、(高)。

【⿰田長】畼に同じ。

【⿰田匊】キク、コク。居六切 屋
韮を植ゑたる畦、にらばたけ。

【當】タウ。都郎切 陽
㊀あたる。
(い)たふ、(任)。○〔論〕「—レ仁不レ讓レ師」。
(ろ)あふ、(會)。○〔禮〕「—レ食不レ歎」。
(は)かなふ、(適)。○〔易〕「夬レ履貞-厲位正—也」。
(に)むかふ、(對)。○〔左〕「逢-滑—レ公而進」。
(ほ)つかさどる、(主)。○〔左〕「慶-封—レ國」。
(へ)ならぶ、(偶)。○〔前漢〕「及下飮ニ卓-氏一弄中琴文-君竊從レ戶窺心說而好レ之恐レ不レ得レ—」。
(と)おほふ、(蔽)。○〔左〕「使下祝-鼃寘ニ戈於車-薪一以—上門」。
(ち)とのゐす、(直)。○〔禮〕「妻不レ在妾御莫ニ敢—レ夕」。
(り)敵す。○〔史〕「學ニ兵-法一言ニ兵-事一以ニ天-下一莫ニ能—一」。
(ぬ)値す、あたひす。○〔史〕「以ニ一儀一而—ニ漢-中地一臣請往如レ楚」。
(る)即く、承く。○〔戰〕「—レ世輔レ俗」。
(を)然るべきなり。○〔史〕「坐ニ車-中一自-如固—」。
㊁あたらしむ、あつ。○〔史〕「一-人犯レ蹕—ニ罰-金一」。
㊂まさに、べし(かへし讀みて)。
(い)斷定の意を表すに用ふる字。○〔史〕「—レ如レ是」。
(ろ)推測の意を表すに用ふる字。○〔儀〕「—レ事則戶-外南-面」。
㊃聲にいふ字。○〔楊萬里〕「寒生更-點——裏」。
〔相當〕たがひに合ふこと、又、優劣なきこと。○〔漢、註〕「兩々—-—」。
〔過當〕分にすぎたること。○〔漢〕「殺-虜亦—-—」。
〔猷當〕おしつく。○〔漢〕「東-游以—ニ—之一」。
〔勾當〕とりあつかふ、ひきうけはからふ。○〔歐陽修〕「—ニ—公-事一回」。
〔配當〕くばりあつること。○〔周〕「預爲ニ—-—一」。
〔丁當〕玉の聲にいふ語。○〔杜牧〕「相-家劍-佩嘗—-—」。

【當】タウ。丁浪切 漾
㊀事の宜しきに合ふ、あたる。○〔韓詩外傳〕「君-子行不レ貴ニ苟難一、惟—之爲レ貴」。
㊁そこ、(底)。○〔韓〕「人-主漏ニ泄羣-臣語一譬猶ニ玉-巵之無レ—」。
㊂抵質、ふちいれ、ひきあて。○〔後漢〕「虜所ニ賓-賞一典ニ—胡-夷一攢復抄ニ奪之一」。
〔允當〕道理にかなふ。○〔嵇康〕「體清神正而是-非—-—」。
〔至當〕極めて善くよろしきにかなふこと。○〔孝、序〕「—-—歸レ一」。
〔過當〕よろしきみちにあたらざること。○〔漢〕「或以ニ報レ怨—-—一」。
〔穩當〕おだやかなること。○〔杜牧〕「爲報眼-波須ニ—-—一」。

【畚】ホン。布忖切 阮
㊀畊の屬、たわら。㊁すき、(臿)。

【畷】テツ、テチ。渉劣切 屑 テイ、テ。渉衛切 セイ、セ。稱芮切 霽
田の閒の道、みち、なはて。○〔禮〕「饗ニ農及郵表—禽-獸一」。
〔畛畷〕田閒のみち。○〔吳都賦〕「其四-野則—-—無-數」。
〔古畷〕むかしのなはて。○〔馬祖常〕「原-田表ニ—-—一」。

【畸】キ。居宜切 支
㊀井田に畫したる殘餘の土地、卽ち、井田に畫するに足らざる地、わりのこりの田、殘田。○〔正字通〕「井-田爲ニ正-零一田不レ可レ井者爲レ—」。
㊁零餘、わりのこり。○〔莊〕「—-人者—ニ於人一而侔ニ於天一」。
㊂部曲、こわけ。○〔國〕「王稱ニ左—一」。
㊃ことなり、(異)。○〔荀〕「有レ見ニ於齊一無レ見ニ於—一」。

【畹】エン、チン。委遠切 阮
㊀田の二十畝の稱、一說に、三十畝の稱。○〔屈平〕「滋ニ蘭之九—一」。
㊁田畝、はたけ。○〔左思〕「右則疎-圃曲-地下—高-堂」。
〔戚畹〕天子の外戚。○〔宋〕「幸聯ニ—-—之貴一」。

【畹】エン、チン。紆願切 願
はた、(田-畝)。

【畺】キヤウ、カウ。居良切 陽
㊀かぎり、はて、さかひ、(境)。○〔周〕「—有ニ寓-望一」。
㊁王都を去ること五百里以內の地。○〔周〕「以ニ大-都之田一任ニ—-地一」。

【畺】キヤウ、カウ。丘亮切 漾
死にて朽ちず、くちず。

【⿰田東】トウ、ツ。都籠切 東
地の名。

【畚】畚に同じ。○〔列〕「三-夫叩レ石墾レ壤箕—運ニ於渤-海之尾一」。

【畢】畢に同じ。○〔饒仲〕「—-勒-國人長三-寸」。

九畫

【⿰田坴】ショウ、ジョウ。神陵切 蒸
稻田の畦、うね。

【畼】チヤウ。丑亮切 漾
㊀ながし、(長)、とほし、(遠)。「—有-詭一」。
㊁地の名。○〔史〕「將-軍蒙-驁攻ニ魏-氏」

【畼】チヤウ、ダウ。直亮切 漾

【畼】チヤウ、タウ。仲良切 陽

ものゝ生ぜざる田、やせた。

【畽】トン。他袞切 阮 一に𤳳に作る、怨の條參照。

【畽】タン。土緩切 旱 トウ、ツ。他東切 東 疃に同じ、町-|は、鹿のふみたる迹、一說に、舍の旁の隙地、あきち。○[詩]「町—鹿-場」。

【⿰田柔】ジウ、ニユ。耳由切 尤 よきた(良-田)。

【⿰田耎】ゼン、子ン。而緣切 先 而袞切 阮 入絹切 霰 ダ、ナ。乃臥切 箇 ❶城下の田。❷河の邊地。❸あきち(隙地)。

【畘】タン、トン。視敢切 感 かげ(蔭)。

十畫

【⿱𤇾田】シユン、ジユン。松倫切 眞 ひさし(均)。

【⿱𤇾田】キン。規倫切 シユン。須倫切 シン。船倫切 眞 テン、デン。堂練切 霰 田を墾く、ひらく。

【⿱𤇾田】ケン。胡畎切 銑 田平かにして均し、ひさし。

【⿰田翁】俗の𤳳の字。

【⿰田奚】ケイ、ガイ。弦雞切 齊 蹊に同じ、こみち(徑)。

【⿰田差】サ。咋何切 歌 サ、セ。咨邪切 麻 薉れたる田、あれた。

【畾】ライ、レ。魯回切 灰 ルヰ。魯水切 紙 田の閒、あひだ。

【畿】キ、ゲ。渠希切 微 ❶疆界、さかひ、かぎり、はて。○[詩]「邦—千里」。❷王都を去ること四方五百里以內の稱。○[左]「天-地之地一-圻」。❸王都を去ること四方五百里外の每五百里閒の疆域の稱。○[周]「太-司-馬以二九—之法一施二邦-國之政一」。❹王都。○[顏延之]「佇二我洛—一」。❺門の內。○[詩]「不レ遠伊邇、薄送二我—一」。❻門の限、しきみ。○[韓愈]「白-石爲二門—一」。
(王畿) 帝王の領地。○[周]「方千-里曰二王—一」。
(帝畿) 前に同じ。○[杜審言]「朋-遊滿二帝—一」。
(四畿) 四方のくにざかひ。○[周]「野-廬-氏掌下達二國道-路一至中于四—上」。
(京畿) みやこの地。○[虞世南]「飲-吹入二京—一」。
(近畿) みやこちかき地。○[許棠]「風雨何當達二近—一」。

【⿰田恭】キヨウ、ク。居容切 冬 哄に同じ。

十一畫

【⿰田參】サン、ソン。七紺切 勘 相聯なる田隴。

【疀】サフ、セフ。楚洽切 洽 セツ、セチ。千結切 屑 ヘツ、ベチ。便滅切 すき(剛)。○[爾]「剛謂二之—一」。

【畼】シヤウ、サウ。式羊切 陽 場に同じ。

【⿰田𦰩】カン。呼旰切 翰 許旱切 旱 麥を耕す地、むぎばたけ。

【疁】リウ、ル。力求切 尤 キク、コク。許六切 屋 コク。呼酷切 沃 草を燒きて種を蒔く田、やきばた、やいばた。

【⿰田幷】畊に同じ。

【⿰田庶】ショ、ソ、章恕切 御 ふご(畚)。

十二畫

【疃】タン。土短切 旱 畽に同じ。

【⿰田桼】俗の膝の字。

【[illegible]】レイ、ライ。力霽切 霽 わかつ、又、わかる(別)。

【[illegible]】イク、オク。余六切 屋 ものゝ生ふる田。

【疄】リン。良刃切 震 田を蹸る、きしろ。

【疄】リン。力珍切 眞 里忍切 軫 田の壟、うね。

【⿰番去】ハン。北潘切 寒 ともがら(輩)、くみ(黨)。

【⿰番去】ハン。孚萬切 願 更はる〲次ぐ、つぐ。

【播】⿰番去に同じ。

【⿰田曾】ソウ。子等切 迥 みづた(水-田)。

【⿰田登】トウ。他登切 蒸 長く伸ばす、のばす。

十三畫

【⿱雍田】ヨウ、ユ。於容切 冬 ❶田に培ふ、つちかふ。❷茨(みづぶき)の實。—壅に通じ用ふ。

【疅】キヤウ、カウ。居良切 陽 さかひ(界)。

【⿱畐田】ヒウ、フ。數救切 宥 そふ(貳)。

【⿰糸奚】ケイ。牽奚切 齊 飯を入るゝもの、いひびつ(簏)。

十四畫

【疆】キヤウ、カウ。居良切 陽 ❶境界、さかひ、かぎり、しきり、きは、は

て。○[詩]「萬壽無レ—」。
⊜さかひをなす、さかひす、かぎる、さかふ。○[詩]「迺—迺理」。
⊜界を正す、たゞす。○[左]「楚伐二舒蓼一滅レ之、楚子—レ之」。
④さかひを守ること。○[周]「掌レ—」。
⑤蠶の白くなりて死ぬるにいふ字。
（无疆） かぎりなきこと。○[易]「德合二无—一」。
（侵疆） 國のさかひををかしとる、又、をかしとりたるくにざかひ。○[揚雄]「歸二其侵—一」。
（土疆） 土地のさかひ。○[詩]「徹二申伯土—一」。
（出疆） 國境を去り他國にゆく。○[孟]「出レ—必載レ質」。
（邊疆） 遠きはてのくにざかひ。○[杜甫]「窮年守二——一」。
（畎疆） 田圃のあぜ。○[吳師道]「行者避二——一」。

【疆】 キヤウ、ガウ。巨兩切 養
⊖堅し。○[史]「—檃用レ贊」。
⊜土の焦ぐるにいふ字。

【疄】 疄の本字。

【疇】 チウ、ヂユ・直由切 尤
⊖耕治する地、たはた、はたけ、特に、麻田、あさばたけ。○[禮]「季夏之月可三以糞二田—一」。
⊜界埒、さかひ、かぎり、うね。○[左思]「瓜—芋區」。
⊜たれ（誰）。○[書]「帝曰、—咨レ若レ時登庸」。
④きのふ（曩）。○[左]「羊斟曰、—昔之羊子爲レ政」。
⑤家業を世々相傳ふること。○[史]「故—人子弟分散」。
⑥たぐひ。
（い）部類、わかち。○[書]「洪範九—」。
（ろ）比倫、ともがら。○[戰]「今髡賢者之—也」。
（は）匹偶、つれあひ。○[嵇康]「顧レ—弄レ音」。
⑦つちかふ、おほふ。○[淮]「今夫樹レ木者灌以二潦水一—以二肥壤一」。
⑧ひとし（等）。○[漢]「—二其爵邑一」。
⑨澤の名。○[淮]「堯乃使三羿誅二鑿齒於—華之野一」。
（田疇） （い）穀を植うる田と麻を植うる田と。○[禮]「可三以糞二——一」。
（ろ）田地のあぜ。○[淮]「正二封疆一修二——一」。
（良疇） よき田。○[晉]「——萬頃」。
（先疇） 祖先より世々傳へ來たれる業。○[後漢]「農服二——之畝一」。
（荒疇） あれはてゝ手の入らざる田地。○[曹植]「棄而不レ耕、故爲二——一」。
（盈疇） はたけに充ちふさがる。○[登樓賦]「黍稷—レ—」。
（平疇） たひらかなる田。○[陶潛]「——交二遠風一」。
（尠疇） 類少なし。○[楚辭]「居二嵺廓一兮—レ—」。
（失疇） 仲間をなくなす。○[洞簫賦]「亡二耦—レ—」。
（營疇） はたけを作る。○[曹植]「—レ—萬畝」。
（故疇） もとのはたけのあぜ。○[陸雲]「望二——之迥遼一兮」。
（畫疇） はたけのあぜに限界をつく。○[魏都賦]「均田——」。
（沃疇） 肥えたるはたけ。○[駱賓王]「召南分二——一、接二——一」。
（翠疇） 青き苗のはたけ。○[歐陽修]「李徑陰森——」。

十五畫

【𤳳】 ショ、ソ。章恕切 御
ふご（畚）。

【疈】 ヒョク、ヒキ。芳逼切 職 ヘキ、ヒヤク。必歷切 錫 ヒョク、ホク。芳六切 屋 ハク、ヒヤク。博厄切 陌
（い）牲の胃を磔く、ひらく。○[周]「以二—辜一祭二四方百物一」。さく。
（ろ）物を劈き分く。○[王維]「簞食伊何、—レ瓜抓レ棗」。

十七畫

【𤳷】 カウ、キヤウ。古猛切 梗
枯れたる稻、死禾。

【疊】 テフ、デフ。徒叶切 葉
⊖重累す、つもる、かさなる、たゝまる。○[左思]「累葉百—」。
⊜重累せしむ、たゝむ、つむ、かさぬ。○[宋]「吐二其舌二三—一之」。
⊜おそる（懼）。○[詩]「薄言震レ之、莫レ不二震—一」。
④一種の布。○[後漢]「知二染采文繡厠—氀白—一」。
（層疊） つみかさなる。○[宋]「——高大」。
（積疊） 前に同じ、又、つみかさぬ。○[杜牧]「偃屍——」。「—」。
（雙疊） ふたつかさなる。○[文心雕龍]「體有二——一」。
（疊疊） かさなる貌にいふ語。○[王建]「——看二登朝一」。
（稠疊） しげくかさなる。○[武少儀]「浮恩——」。

十八畫

【疉】 疊に同じ。

【𤳸】 ケイ、エ。戸圭切 齊
畦に同じ。

十九畫

【𤳹】 ロ、ル。龍都切 虞
鑪に同じ、もたひ。

疋部

【疋】 ショ、ソ。所菹切 魚 寫與切 語
あし（足）。○[禮]「問二—何止一」。

【疋】 ショ、ソ。所擧切 御
⊖前條に同じ。⊜しるす（記）。

【疋】 ガ、ゲ。五下切 禡
たゞし、なほし（正）。

【疋】 ヒツ、ヒチ。譬吉切 質
兩の一倍。

二畫

【疋】 古文の正の字。

三畫

【𤴔】 デフ、子フ。尼輒切 葉
機の下の足にて履む所。

四畫

【疌】 セフ。疾葉切 葉
さし、はやし（疾）。

七畫

【疏】 ショ、ソ。所菹切 魚
⊖とほる、とほす（通）。○[禮]「淸廟之瑟朱絃而—越」。「河」。
⊜わかる、わかつ（分）。○[孟]「禹—二九河一」。
⊜閒隙を生ず、まばらにす、まばらになる、すかす、すく。○[楚辭]「—二緩節一兮安歌」。
④とほし。
（い）うとし、⑤に同じ。
（ろ）長し、曠し。○[淮]「體大者節—」。
⑤うとし。
（い）近からず、親しからず。○[禮]「定二親—一」。
（ろ）迂濶なり、まはりどほし。○[禮]「毋二乃已—一乎」。

⑯遠ざく、うとんず、うとむ。○〔呂氏春秋〕「而—ニ太子ニ」。
⑰うとくなる、遠ざかる。○〔史〕「故死而不レ容自—」。
⑱希少なり、しげからず、まばらなり、まれなり。○〔禮〕「祭不レ欲レ—」。
⑲あらし。
(い)細密ならず。○〔老〕「天網恢々—而不レ漏」。
(ろ)そまつなり。○〔論〕「飯ニ—食ニ」。
(は)ぬかり多し、おろそかなり。○〔史〕「其於レ計—矣」。
⑳をさむ(治)。○〔謝靈運〕「—峰抗ニ高館ニ、對レ嶺臨ニ迴溪ニ」。
㉑きざむ(刻)。○〔禮〕「—屏天子之廟飾」。
㉒すかし刻む、すかしほる。○〔禮〕「殷以ニ—勻ニ」。
㉓ゑがく(畫)。○〔管〕「大夫—器」。
㉔すつ(徹)。○〔國〕「公伐レ原令以ニ三日之糧ニ、三日而原不レ降、公令ニ—レ軍而去ヒ之」。
㉕ゑく(布)、つらぬ(陳)。○〔楚辭〕「—ニ石蘭ニ兮爲レ芳」。
㉖おほいなり(大)。○〔揚雄〕「方州部家三位—成」。
㉗蔬に通じ用ふ、あをもの。○〔周〕「以ニ九職ニ任ニ万民ニ、八曰臣妾聚ニ斂—材ニ」。
㉘實ある草木の稱。○〔周〕「凡—材」「木材」。
㉙はだし(跣)、すあし(素足)。○〔淮〕「子佩—揖北面立ニ於殿下ニ」。
㉚衣服盛んなる貌にいふ字。○〔韓詩外傳〕「子路盛服見ニ孔子ニ、孔子曰、由——者何也」。
㉛梳に通じ用ふ。○〔韻會〕「與レ梳通、揚雄頭蓬不レ暇レ—」。

〔扶疏〕枝葉のさかんなる貌にいふ語。○〔漢〕「支葉——異姓不レ得レ間也」。
〔蕭疏〕さびしくまばらなり。○〔杜甫〕「枝葉蕭——」。
〔渠疏〕さらへ、杷。
〔內疏〕心中のたしかならざること。○〔晉〕「孫權劉備外親而——」。
〔簡疏〕ひろびやかなること。○〔唐〕「嘉貞性——與レ人不レ疑」。
〔寬疏〕ゆるやかなること。○〔元〕「禁網——」。
〔情疏〕こゝろ親密ならぬ。○〔禮〕「——而貌親」。
〔稀疏〕まばらなること。○〔後漢〕「民庶——」。
〔浮疏〕かろがろしく細密ならざること。○〔南ニ齊〕「學ニ——ニ」。
〔濶疏〕ひろやかにして狹からざること。○〔論衡〕「周法——不レ可レ因也」。

【疏】ソ、ス。孫租切　虞
前條の㊈に同じ。

【疏】ソ、ス。所故切　遇
㊀條を分かちて陳述すること、かでうのまうしたて、かでうがき、又、其の書狀。○〔揚雄〕「獨可ニ抗レ—時道ニ是非ニ」。
㊁義解、注釋、ときあかし、又、其の書冊。○〔長編〕「鼠銜ニ孝經—ニ置ニ榻前ニ」。

〔暗疏〕そらんじてかきあらはすこと。○〔唐〕「世南—ニ—耳」。—之、無ニ一字謬ニ。
〔義疏〕ときあかし。○〔歐陽修〕「此中庸之——」。
〔手疏〕みづからふでをとりて條陳すること。○〔宋〕「普——諫レ之」。
〔密疏〕內密に條陳すること、又、內密の上書。○〔宋〕「先—ニ—四三人姓名ニ」。
〔封疏〕封緘をくはへたる條陳書。○〔宋〕「——凡五十三上」。
〔條疏〕まうしたての書狀。○〔宋〕「府中——皆希閔所レ爲」。
〔諫疏〕かみをいさむる爲にたてまつるかきもの。○〔宋〕「吾觀ニ唐太宗受ニ人——ニ」。
〔奏疏〕かみにたてまつる條陳の書、又、條陳の書をたてまつる。○〔宋〕「——凡數十」。
〔上疏〕前に同じ。○〔通典〕「皆曰ニ——ニ」。

【疎】疏と同字。○〔史〕「立レ苗欲レ—」。

【[illegible]】ショ、ソ。山於切　魚
門の戶の疏窗、まど。○〔古詩〕「交—結綺窗」。

八畫

【[illegible]】ショ、ソ。所葅切　魚
淸く疏る、とほる。

九畫

【疐】チ。陟利切　寘
つまづく(頓)、又、たふる(仆)。○〔詩〕「狼跋ニ其胡ニ、載—ニ其尾ニ」。

【疐】テイ、タイ。都計切　霽
蔕に同じ。○〔爾〕「棗李曰レ—レ之」。

【疑】ギ。語其切　支
㊀うたがふ、うたがひ。
(い)まどふ(惑)。○〔韓〕「賞譽不レ當則民—」。
(ろ)決せず。○〔左〕「不レ—何卜」。
(は)怪しむ。○〔列〕「—ニ其隣之子ニ」。
(に)おそる(恐)。○〔禮〕「皆爲—レ死」。
(ほ)きらふ(嫌)。○〔後漢〕「義爲ニ君臣ニ恩猶ニ父子ニ何嫌何—」。
(へ)もとる(戾)。○〔夏侯湛〕「同而—」。
㊁うたがはし。
(い)うたがふべし。○〔書〕「罪—惟輕」。
(ろ)似たり。○〔潛夫論〕「馬不レ試則良駑—」。
㊂はかる(度)。○〔儀〕「凡燕ニ見于君ニ必辨ニ君南面ニ、若不レ得則正レ方不レ—レ君」。
㊃官の名。○〔禮〕「虞夏商周有ニ師保ニ有ニ—丞ニ」。

〔斷疑〕まどひをさだむ。○〔易〕「以—ニ天下之—ニ」。
〔決疑〕前に同じ。○〔左〕「卜以レ—レ—」。
〔嫌疑〕うたがふこと。○〔禮〕「所ニ以定ニ親疏ニ、決ニ——ニ、別ニ同異ニ、明ニ是非ニ也」。
〔闕疑〕うたがはしきを其のまゝにさしおく。○〔論〕「多聞—レ—」。
〔狐疑〕うたがひまどふ。○〔史〕「孟賁之——、不レ如ニ庸夫之必至ニ也」。
〔質疑〕うたがひをたゞす。○〔漢〕「從レ之—レ—問レ事」。
〔釋疑〕まどひをさること。○〔荀〕「知莫レ大ニ乎—レ—」。
〔除疑〕前に同じ。○〔韓子良〕「識以—レ—」。
〔恫疑〕うたがふこと。○〔史〕「——虛喝」。
〔沉疑〕ふかきうたがひ。○〔江淹〕「長思多ニ—ニ」。
〔繁疑〕おほきうたがひ。○〔徐陵〕「釋ニ此——ニ」。

【疑】ギョウ。疑陵切　蒸
さだまる(定)。○〔詩〕「靡レ所ニ止—ニ、云徂何往」。

【疑】ギツ、ゴチ。魚乙切　質
容色をおごそかにして止どまる、さとまる。○〔儀〕「賓升ニ西階上ニ—立」。

【疑】ギ。偶起切　紙
擬に同じ、なぞらふ、なずらふ。○〔易〕「陰—ニ于陽ニ」。

十四畫

【[illegible]】シヤウ、サウ。千羊切　陽
はしる(趍走)。

【[illegible]】セイ。之世切　霽
人の姓。

【[illegible]】シ。之侍切　寘
つまづく(跲)。

疒部

【疒】ダク、ニヤク。尼厄切 陌 サウ、ザウ。仕莊切 陽 〔說文〕人有二疾-病一象二倚著之形一。 ㊀やむ、やまひ(疾)。㊁よる(倚)。

二畫

【疓】ザイ、子。汝亥切 賄 ダイ、子。女蟹切 蟹 やむ、やまひ(病)。

【⿸疒九】キウ、ク。居尤切 尤 やむ、やまひ(病)。

【疔】テイ、チヤウ。當經切 青 病創、かさ。〇〔方書〕「—疹有二十三種一」。

【⿸疒乂】ゲイ、ゲ。魚刈切 霽 やむ、やまひ(病)。

【⿸疒丩】カウ、ケウ。吉巧切 巧 キウ、ク。居求切 尤 腹中急に痛むを、はらいたみ。

【⿸疒丩】ヂウ、ニユ。尼猷切 尤 小しく痛む、いたむ。

【⿸疒亐】⿸疒丩に同じ。

【⿸疒亐】キウ、ク。許九切 有 やむ、やまひ(病)。

【疕】ヒ。補委切 紙 頭上の瘍、かしらのかさ、又、其の弁痂、かさぶた、一說に、はげ、(禿)、又一說に、頭痛むを。〇〔周〕「凡邦之有二疾-病一者—瘍者造焉」。

【⿸疒又】イウ、ウ。尤救切 宥 ふるふ(顫)。

【⿸疒又】イウ、ウ。云九切 有 頭を振り搖かす、かしらふる。

三畫

【疘】コウ、ク。沽紅切 東 脫—は、下部の病、しものやまひ。

【疞】ク、コ。匈于切 虞 やむ、やまひ(病)。

【疙】ギツ、ゴチ。魚乙切 質 キ、ケ。居氣切 未 ㊀癡かなる貌にいふ字、おろか。㊁頭上に突起する瘡、たいごくがさ、できもの。〇〔淮〕「親-母爲二其子一治二—禿一」。

【疚】キウ、ク 居又切 宥 病むを久し、なやまし、やまし、又、久しく病む、やむ。〇〔詩〕「憂-心孔—」。

【疛】チウ、チユ。陟柳切 有 陟救切 宥 チク、トク。佇六切 屋 胸腹の疾、むねはらのやまひ、又、其の疾にかゝる、やむ。〇〔呂氏春秋〕「身盡—腫」。

【⿸疒丸】クワン。胡玩切 翰 癰疽の屬、搔きて生ずる創、できもの。

【⿸疒丈】チヤウ、ヂヤウ。直兩切 養 やむ、やまひ(病)。

【⿸疒乇】ト、ツ。都故切 遇 ちゝのはれもの(乳-癰)。

【⿸疒下】カ、ゲ。亥駕切 禡 くだりばら、はらくだし(痢-疾)。

【疝】サン、セン。所晏切 諫 師閒切 刪 腹の痛む病、はらいたみ。〇〔方書〕「男子有二七—一」。

【⿸疒亏】疞に同じ。

四畫

【疢】チン。丑刃切 震 丑忍切 軫 ㊀身體の溫度激する病、ねつびやう、熱病。〇〔禮〕「疾—不レ作」。㊁熱病に罹る、やむ、又、やみに苦めり、やまし。〇〔詩〕「—如レ疾レ首」。㊂美嗜、うまきもの。〇〔左〕「美—不レ如二惡-石一」。

【⿸疒水】スヰ。式類切 寘 はれやまひ(腫-病)。〇〔黃帝靈樞經〕「風—膚脹」。

【⿸疒乞】疙に同じ。

【⿸疒市】シ。阻史切 紙 やむ、やまひ(病)。

【⿸疒元】瘧に同じ。

【疣】イウ、ユ。于求切 尤 皮肉の結ぼれて高く起こりたるもの、いぼ。〇〔莊〕「附-贅縣—」。
〔附疣〕いぼ。〇〔宋〕「項有二—一」。
〔抉疣〕いぼをさく。〇〔蘇軾〕「我有二—一言-能—」。
〔瘡疣〕きずといぼと。〇〔韓愈〕「隨レ事生二——一」。
〔瘢疣〕前に同じ。〇〔元好問〕「刮垢搜二——一」。

【疣】イウ、ウ。尤救切 宥 ふるふ(顫)。

【疤】ハ、ヘ。邦加切 麻 ㊀筋節の病、すぢふしのやまひ。㊁かさのあと(瘡-痕)。

【⿸疒反】ハン。孚萬切 願 ㊀あし(惡)。㊁人を殘ひ罵りて癡騃(おろか)さなすにいふ字。

【⿸疒反】ハン。芳反切 阮 心地惡しくして吐く疾、はき。

【⿸疒夭】タウ、ドウ。徒刀切 豪 やむ、やまひ(疾)。

【⿸疒欠】ケフ、コフ。乞業切 葉 あくび(欠-氣)。

【⿸疒支】シ。津私切 支 次に同じ、具—は、山の名。

【⿸疒及】カフ、コフ。呼合切 合 キフ。訖立切 緝 病みて劣る、つかる。

【⿸疒今】キン、ゴン。巨金切 侵

さむし(寒)。

【疥】カイ、ケ。居拜切 [卦]
㊀濕瘡の一種、肌に細かき瘡を生じてはなはだ癢くして他に傳染す、ひぜん。○[周]「夏時有二痒―之疾一」。㊁瘧に同じ、おこり、(瘧)。○[左]「齊公―遂痁」。
〔爬疥〕かゆきかさをかくこと。○[蘇軾]「佞・諛如レ―」
〔痒疥〕かゆきかさのこと。○[周]「夏時有二―一」。

【疥】キン、コン。香靳切 [問]
瘡の中冷ゆ、ひゆ。

【疦】ケツ、ケチ。呼決切 [屑]
瘡の裏空となる、あなあく、又、其の空、かさのあな。○[集韻]「瘡之大者―」。

【痁】セン。處占切 [鹽] セン。昌豔切 [豔]
皮の剝ぐる病。

【疧】キ、ケ。居氣切 [未]
おろか、(癡)。

【疷】キ、ギ。渠宜切 シ。章移切 [支] テイ、タイ。典禮切 [薺]
やまひ、やむ、(病)。○[詩]「之子之遠俾二我―一兮」。

【疨】カ、ケ。虛加切 [麻] ガ、ゲ。語下切 [馬]
喉の病。
〔痆疨〕やまひのはなはだしきこと。

【疻】チ、ヂ。直里切 [紙]
下部の病、しりのやまひ。

【痄】俗の痒の字。

【疺】シ。章移切 [支]
やむ、やまひ、(病)。

【疹】シン。七鴆切 [沁]
いたむ、(痛)。

【疪】ヒ。必至切 [寘]
㊀脚の冷ゆる疾。㊁庇に同じ、かばふ。○[後漢]「魂靈有レ所レ依―一」。

【疫】エキ、ヤク。營隻切 [錫] 越逼切 [職] イ。以醉切 [寘]
㊀傳染流行する病、やくびやう、えやみ、はやりやみ。○[史]「茂氣至民無二夭―一」。㊁えやみのかみ、やくびやうがみ、(癘鬼)。○[周]「遂令始難毆レ―」。
〔大疫〕さかんなる流行病。○[禮]「則其民―」。
〔疾疫〕流行病。○[禮]「則民多二―一」。
〔癘疫〕前に同じ。○[韓愈]「水旱―之不レ期」。
〔送疫〕疫病のかみをおくりだす。○[後漢]「―レ―出端門一」。
〔瘴疫〕風土氣候のあしきためにおこる疫病。○[晉]「然多二―一」。
〔災疫〕天災と疫病と。○[子華子]「―不レ作」。

五畫

【疛】チウ、チユ。丑鳩切 [尤]
病愈ゆ、いゆ。

【疰】シユ。朱戍切 [遇]
やむ、やまひ、(病)。

【疱】ハウ、ベウ。披教切 [效]
㊀皮膚に生ずる水泡の如き瘡、もがさ。㊁腫るゝ病、はれやまひ。

【痁】コ、ク。古慕切 [遇]
㊀久しく愈えざる病、ながやまひ。㊁小兒の口に發する瘡、くちがさ。

【疲】ヒ、ビ。蒲糜切 [支]
㊀勢氣乏しくして事に任えず、つかる、つかれ。○[後漢]「我自樂レ此不レ爲レ―」。㊁つかれしむ、つからす。○[左]「奸レ時以動、而―レ民以逞」。㊂やす、(瘦)。○[管]「諸侯以二―馬犬羊一爲レ幣」。
〔忘疲〕つかるゝをおぼえず。○[史通]「三復―レ―」。
〔勞疲〕つかるゝこと。○[易林]「道遠―」。

【疲】シ。章移切 [支]
やむ、やまひ、(病)。

【疳】カン、コン。沽三切 [覃]
小兒の甘き物に食中たりして起こる一種の病、この病に心、肝、肺、脾、腎の五種ありといふ。○[正字通]「五―諸積」。

【疶】ゴツ、ゴチ。五忽切 [月]
やむ、やまひ、(病)、一說に、婦人の帶下の病、こしけ。

【疝】クワ、ケ。古禾切 [歌]
㊀かさ、(創)。㊁しらくも、(禿)。
〔燕疝〕春起こるかさ、つばめがさ。
〔鴈疝〕秋起こるかさ、がんがさ。

【疴】ア。於何切 [歌]
やむ、やまひ、(病)。○[漢]「有二口―一」。

【痾】カ、ケ。丘駕切 [禡]
小兒の夢の中にうなされて驚く病、おびえ。

【疵】シ、ジ。才支切 [支] セイ、ザイ。才詣切 [霽]
㊀病處、缺點、過失、罪釁、やまひ、かけ、あやまち、つみ、きず。○[易]「言二乎其小―一」。○[荀]「非二毀―一也」。㊁きずを生ず、そこなふ、きずつく。○
〔小疵〕いさゝかなるきず。○[韓愈]「苟與レ揚大醇而―」。
〔瑕疵〕きず。○[韓愈]「指二前人之―一」。
〔濯疵〕きずつき穢れたる所を洗ひ清む。○[南]「―蕩レ穢」。
〔隱疵〕あらはれざるきず。○[宋]「勿レ理二―細故一」。
〔斥疵〕惡しきものを退け去ること。○[謝靈運]「驅レ妖而―レ―」。
〔訕疵〕そしりそこなふ。○[抱朴]「―二雷同一、攻二伐獨立一」。
〔細疵〕いさゝかなるきず。○[抱朴]「論珍則不下以二―一棄中巨美上」。
〔纖疵〕前に同じ。○[李華]「洗二其―一」。
〔微疵〕かはせみに似たるあをぐろき一種の鳥。○[司馬相如]「―鵁鸕」。
〔掩疵〕缺けたる所を人に知られぬやうかくす。○[謝朓]「豈藏レ瑕而―レ―」。
〔弄疵〕佞人の貌にいふ語。○[宋]「―而前」。
〔吹毛求疵〕人のつみとがを追及するとにいふ語。○[漢]「或無レ罪爲二臣下所一レ侵、庶二有司―レ―一」。

【疵】サイ、セ。仕懈切 [卦]
にらむ、(眦)。

【痆】セツ、私列切 屑 セチ。エイ。以制切 霽 はらくだり（痢）。

【⿸疒去】ケフ、コフ。乞業切 葉 病みて劣る、つかる。

【⿸疒去】キヨ、コ。口擧切 語 やむ、やまひ（病）。

【痡】ホ、博古切 麌 フ。切 普故切 遇 つかへ（痞）。

【疷】疧に同じ。

【疸】タン。得案切 翰 胃より起こる一種の病。〇〔方書〕「―有レ五」。〔黄疸〕きばむ病、膽汁鬱血に雜はるに因りて起こり、皮膚、眼、爪、溺など皆黄色となる、わうだん、黄病。〇〔内經〕「目黄溺黄・赤安臥者黄―」。

【疸】タン。多旱切 旱 ㊀前條に同じ。㊁惡しき創。

【⿸疒朮】コツ、呼忽切 コチ。切 月 シユツ、食聿切 ジユチ。切 チユツ、敕律切 チユチ。切 キツ、休必切 キチ。切 質 ㊀狂ひ走る、くるふ、はしる。

【⿸疒右】カイ。呼來切 灰 やむ、やまひ（病）。

【疹】シン。止忍切 軫 ㊀くちびるのかさ（脣瘍）。㊁皮の外に細かく起こる瘡、かさ、はしか。

【疹】チン。丑刃切 震 デツ、奴結切 デチ。切 屑 疢に同じ、熱病、又、やまし（病）。〇〔張衡〕「思二百憂一以自―」。

【疹】キン。頸忍切 軫 くちびるのかさ（脣瘡）。

【疪】ヒ。兵媚切 寘 やむ、やまひ（病）。

【⿸疒生】セイ、シヤウ。所景切 梗 やす（瘦）。

【⿸疒它】タ、ダ。唐何切 歌 やむ、やまひ（病）。

【⿸疒乇】⿸疒它の本字。

【疺】ハフ、ホフ。扶法切 洽 やす（瘦）、つかる（疲）。〇〔明、永樂北征錄〕「天氣清爽、人馬不レ渴、若二噂熱一人皆―矣」。

【疺】ヘン。悲檢切 琰 やむ、やまひ（病）。

【疻】シ。掌氏切 紙 シ。商支切 支 歐ちて傷つく、うつ、きずつく、又、其の傷、うちきず。〇〔漢〕「遇レ人不レ以レ義而見レ―者、與二痏人之罪一均」。

【疼】トウ、徒冬切 ヅ。切 冬 トウ、徒登切 ドウ。切 蒸 いたむ、いたみ（痛）。

【疽】シヨ、ソ。七餘切 魚 病根深くして久しく癒えざる一種の瘡、はれもの、かさ。〇〔史〕「卒有二病レ―者一起爲吮レ之」。〔癰疽〕はれものゝ名。〇〔魏〕「―・―發・潰」。〔發疽〕はれものゝ病をおこす。〇〔後漢〕「憤・懣―」。〔結疽〕前に同じ。〇〔化書〕「怒則―レ―」。

【疽】シヨ、ソ。再呂切 語 瘙―は、かゆきやまひ（痒病）。

【⿸疒韦】シ。壯仕切 紙 ㊀きず（瑕）。㊁やむ、やまひ（病）。

【⿸疒丕】ハイ、ヘ。補回切 灰 腹に結（かたまり）ありて痛むこと。

【⿸疒尔】俗の疹の字。〇〔曹植〕「憂・思成二疾―一」。

【⿸疒冉】俗の痗の字。

【⿸疒毋】ボウ、ム。莫厚切 有 やむ、やまひ（病）、一説に、痗の字の譌り。

【疾】シツ、ジチ。秦悉切 質

㊀やまひ。
(い)身體の和をうしなひて健かならざるを、わづらひ。〇〔書〕「若藥弗二瞑眩一厥―弗レ瘳」。
(ろ)疫癘、えやみ。〇〔國〕「譬レ之如レ―」。
(は)不具者となるわづらひ。〇〔周〕「老者―者」。
(に)瑕疵、きず。〇〔史〕「中二諸侯之―一」。
(ほ)患苦、くるしみ。〇〔管〕「牧レ民者必知二其―一」。

㊁やまひを生ぜしむるもの、害毒。〇〔左〕「山藪藏レ―」。

㊂やむ、やまし。
(い)やまひに罹る、わづらふ。〇〔後漢〕「后嘗久―」。
(ろ)うれふ（患）。〇〔淮〕「食レ草之獸不レ―二易藪一」。
(は)くるしむ（困）。〇〔荀〕「使二民―一欤」。

㊃苦痛ならしむ、暴虐す、くるしむ、なやます、やます。〇〔詩〕「―・威上帝」。

㊄にくむ。
(い)きらふ（嫌）。〇〔左〕「謂二之―・日一」。
(ろ)うらむ（怨）。〇〔管〕「不レ―二其威一」。
(は)怒る。〇〔孟〕「撫レ劍―視」。

㊅はやし、とし。
(い)急速なり、すみやかなり。〇〔論〕「不二―言一」。
(ろ)敏捷なり、すばやし。〇〔史〕「資辨捷―」。
(は)作す勢壯んなり。〇〔荀〕「輈・鍒―・力」。

㊆力む、趨く。〇〔呂氏春秋〕「―二諷誦一」。

㊇嫉に通じ用ふ、ねたむ。〇〔書〕「冒―以惡レ之」。

㊈蒺に通じ用ふ。〇〔漢〕「掌二―黎一」。

〔問疾〕病氣を見舞ふ。〇〔禮〕「―レ―不レ能レ遺、不レ問二其所一レ欲」。
〔罪疾〕害毒のこと。〇〔書〕「乃崇降二―・―一」。
〔固疾〕永らくの病氣。〇〔後漢〕「臣素有二―・―一、恐二犬馬齒窮一」。
〔廢疾〕不具の病氣。〇〔禮〕「矜・寡孤・獨―・―者、皆有レ所レ養」。
〔癘疾〕惡氣の病。〇〔周〕「四時皆有二―・―一」。
〔寛疾〕寛養しやるべき病氣。〇〔周〕「五曰、―・―」。
〔疢疾〕病氣のこと。〇〔孟〕「有二德慧術智一者、恒存二乎―・―一」。

〔寒疾〕風邪のこと。○〔孟〕「有ニ――一、不レ可ニ以風一」。
〔熱疾〕あつさを持つ病氣のこと。○〔賈島〕「自常有ニ――一」。
〔末疾〕末もの病氣。○〔左〕「風淫――」。
〔腹疾〕腹の痛む病氣。○〔南〕「苦レ濕多ニ――一」。
〔感疾〕病氣に犯さる。○〔宋〕「遂感レ疾、猶自力視レ事」。
〔心疾〕むねの病氣。○〔左〕「遂遇ニ――一而卒」。
〔藏疾〕害毒をかくし持つ。○〔庾信〕「――則自矜ニ乎己一」。
〔足疾〕あしに故障を生ぜる病氣。○〔左〕「光僞ニ――一、入ニ于堀室一」。
〔天疾〕生まれつきての病氣。○〔公羊〕「有ニ――一者、不レ得レ入ニ乎宗廟一」。
〔狼疾〕事理を辨へぬ病氣。○〔孟〕「則爲ニ――人一」。
〔剽疾〕すばやきこと。○〔爾〕「厥性――」。
〔稱疾〕病氣なりといひたつ。○〔史〕「稱レ疾不レ往」。
〔癃疾〕腰の曲がりて背むしの如くになれる病氣。○〔漢〕「――扶レ杖而往聽レ之」。
〔內疾〕內部の病氣のこと。○〔漢〕「吳王身有ニ――一」。
〔療疾〕病氣のてあてを爲す。○〔後漢〕「願乞下詣ニ洛陽一――上」。
〔笑疾〕妄りにをかしくなる病氣。○〔晉〕「雲有ニ――一」。
〔愁疾〕憂へにくむ。○〔北〕「――甚ニ乎厲鬼一」。
〔衰疾〕元氣のおとろふる病氣。○〔唐〕「自陳ニ――一、不レ任レ事」。
〔國疾〕はやくあること。○〔說苑〕「或行安舒、或爲ニ――一」。
〔无疾〕惡しきこと無し。○〔易〕「復亨、出入无レ疾、朋來无レ咎」。
〔遘疾〕病氣にかゝる。○〔南〕「母劉無レ寵遘レ疾」。
〔忿疾〕腹立ち惡む。○〔後漢〕「幸臣――欲レ中レ之」。
〔暴疾〕(い)あらあらしくしてはやし。○〔詩、箋〕「旣覺日風矣、而又――」。(ろ)にはかなる病氣、急病に同じ。○〔唐〕「嘗――」。
〔跳疾〕をどりはねてすばやきこと。○〔詩、箋〕「――之狡兔、遇レ犬則能獲ニ得之一」。
〔勁疾〕强くしてはやし。○〔詩、箋〕「東矢搜然言ニ――一也」。
〔辭疾〕病氣なりといひたてゝことわる。○〔魏〕「每輒辭レ疾、拒違不レ至」。
〔瘧疾〕おこりの病氣のこと。○〔禮〕「民多ニ――一」。
〔厲疾〕猛くして速なり。○〔禮〕「季冬之月、征鳥――」。
〔舒疾〕ゆるやかなるとはやきと。○〔漢〕「古有ニ――緩急一」。
〔蠱疾〕心氣の衰失する病氣。○〔左〕「晉胥克有ニ――一」。
〔痛疾〕いたみくるしむ。○〔左〕「民人――」。
〔恐疾〕恨み惡む。○〔左〕「上下――」。
〔遇疾〕病氣にかゝる。○〔左〕「遂遇レ疾焉」。
〔視疾〕病氣を見舞ふ。○〔公羊傳〕「齊侯歸、弔レ死視レ疾」。
〔急疾〕はやし。○〔魏、註〕「――常出ニ敵之不意一」。
〔養疾〕病氣の手當をなすこと。○〔漢〕「扶レ衰養レ疾」。
〔狂疾〕事理をわきまへぬ病氣のこと、きちがひ。○〔韓〕「愈ニ抑而行レ之、必發ニ――一」。
〔捷疾〕すばやくあり。○〔史〕「資辯――」。
〔敏疾〕はしこくあり。○〔漢〕「敞爲レ人――」。
〔頭疾〕あしき病氣のこと。○〔漢〕「離ニ于――一」。
〔久疾〕永きが間病氣をわづらふ。○〔後漢〕「后嘗「一賢者一」。
〔妬疾〕ねたみにくむ。○〔後漢〕「專レ制擅レ權――」。
〔篤疾〕おもき病。○〔後漢〕「后愈篤ニ――一」。
〔惛疾〕惡み嫉む。○〔後漢〕「――ニ海內英哲一」。
〔遲疾〕おそきとはやきと。○〔後漢〕「月行當レ有ニ――一」。「言不遲」。
〔詐疾〕病氣なりといつはる。○〔後漢〕「嚴詐レ疾而不ニ肯乘一」。
〔重疾〕大病に同じ。○〔後漢〕「岐年三十餘有ニ――一」。
〔眩疾〕目まひのする病氣。○〔後漢〕「稱ニ――一」。
〔風疾〕(い)中風の病、卽ち、五體の自由を缺く病氣のこと。○〔後漢〕「遂稱ニ――一」。(ろ)吹く風の如くにはやくあること。○〔水經、註〕「飭有ニ――馳――一」。
〔宿疾〕永くわづらひある病氣。○〔北〕「弟漢少有ニ――一」。
〔扶疾〕病氣なるに去ひておすこと、又、やまひを介抱すること。○〔晉〕「扶レ疾引見」。
〔託疾〕病氣なりといひたつ。○〔晉〕「託レ疾而歸」。
〔痤疾〕ふきでもの。○〔范成大〕「苗爲ニ――一」。
〔赤疾〕あかき色のふきでもの。○〔梅堯臣〕「――生ニ枯皮一」。

【疒+目】ボク、モク。莫六切 屋
やむ、やまひ(病)。

【疒+今】キン、ゴン。巨禁切 沁
牛の舌の病。

【疒+舀】タウ、ドウ。徒刀切 豪
やむ、やまひ(病)。

【疒+付】フ、匪父切 麌 フ。甫無切 虞 ホ。
㊀俛す病、うつぶしやまひ。
㊁たけひくし(短)。
㊂病みて腫る、はる。

【疒+令】レイ、リヤウ。郎丁切 青
瘦する貌にいふ字、やす。

【疒+令】レウ。憐蕭切 蕭
やむ、やまひ(疾)。

【疿】ヒ。方未切 未
熱に觸れて肌に生ずる小さき瘡、あせも。○〔黃帝素問〕「汗出見レ濕乃生ニ痤――一」。

【痀】ク、權俱切 虞 ク、郡羽切 麌 ゴ。
脊曲がれること、くゞせ。○〔莊〕「仲尼適レ楚出ニ於林中一見ニ――僂者一」。

【痁】セン、詩廉切 鹽 セン。舒贍切 豔
瘧病、おこり、特に、其の病熱の間日なく發生せるもの、又、おこりに罹る、やむ。○〔左〕「齊侯疥遂――」。

【痂】カ、ケ。古牙切 麻
瘡の愈ゆるに隨ひて其の上に生ずる皮、かさぶた、瘡弁。○〔南〕「子邕爲ニ太守一、嗜ニ創――一」。
〔墨痂〕ちりとかさぶたと。○〔沈遼〕「湖水洗レ面去ニ――一」。

【疒+子】
瘑に同じ。

【痃】ゲン、ケン。胡千切 先
筋肉の急縮する一種の病、ひきつるやまひ。○〔本草〕「昔有下患ニ――癖一者上、取ニ大蒜一合レ皮截ニ去兩頭一吞レ之」。

【疒+巨】
痃に同じ。

【痄】サ、ゼ。鉏加切 麻
――痄は、病甚だし、やまひおもし。

【痄】サ、セ。仕下切 馬
合はざる瘡、かさぶた生ぜざる瘡、かさ。○〔朱氏集驗方〕「宋仁宗患ニ――腮一」。

【病】ヘイ、ビヤウ。皮命切 敬
㊀やまひ。
(い)度の加はりたる疾、甚しき疾、わづらひ(疾の字の㊀を參照すべし)。○〔孟〕「七年之病、求ニ三年之艾一」。
(ろ)憂恨、苦痛、うれひ、くるしみ。○〔史〕「三月不レ拔是楚之病也」。
(は)瑕疵、きず。○〔唐〕「砭ニ切政病一」。
㊁やむ。
(い)やまひに罹る、わづらふ。「漢」「母病」。○〔後漢〕
(ろ)うれふ(憂)。○〔禮〕「病レ不レ得ニ其衆一」。
(は)くるしむ(苦)。○〔左〕「鄭人病レ之」。
(に)うらむ(恨)。○〔左〕「曰與下刖ニ其父一而弗レ能レ病者上何如」。
(ほ)きずにてあり、きずなりとす。○〔國〕「舅所レ病也」。
㊂苦痛せしむ、くるしむ、なやます、やます。○〔禮〕「君子不下以ニ其所レ能者一病上レ人」。

㊃はづかしむ、（辱）。○〔禮〕「相詬ー」。
㊄官曹の閑暇なること、ひま。○〔類要〕「唐以下秘-書-監望雖ニ清-雅一實非中要-劇上以レ監爲ニ宰-相ーー坊ニ」。
〔憂病〕わづらひ苦しむ。○〔詩〕「特在ニー・ー之中ニ」。
〔養病〕病を療治すること。○〔禮〕「酒者所ニ以養ヒ老也、所ニ以ー・ー也」。
〔謝病〕疾なりとことわりいふ。○〔戰〕「應-侯因ーレー、請ニ歸ニ相印ニ」。
〔內病〕內部の病氣、外部の病に對していふ語。○〔史〕「吳-王身有ニー・ーニ」。
〔老病〕年よりてやみわづらふこと。○〔言行錄〕「參-軍ー・ー廢レ事」。
〔佯病〕病氣ならぬを病氣なりといつはる。○〔說苑〕「因稱ーレー不レ行」。
〔詐病〕前に同じ。○〔史〕「吳-王ーレー不レ朝」。
〔癖病〕惡しき習慣。○〔柳宗元〕「好-辭工-書皆ー・ー也」。
〔俗病〕いやしきわづらひ。○〔孟郊〕「居山無ニ「ー・ーニ」。
〔心病〕心に憂へわづらふ。○〔詩、疏〕「每思ニ此伯一、使ニ我ー・ーニ」。
〔瘦病〕やせ衰へやみはる。○〔蘇軾〕「却因ニー・ー出ニ奇骨ニ」。
〔酒病〕さけくせのあしきこと。○〔晉〕「王ー・ー不レ能レ入」。
〔罷病〕疲れ苦しむ。○〔汲冢周書〕「問ニー・ー之故政-事之失ニ」。
〔扶病〕病氣の介抱をなす。○〔劉禹錫〕「爲レ君ーレ「ー到ニ芳-山ニ」。
〔久病〕永き間わづらひあるやまひ。○〔周〕「牛有ニー・ー則角裏傷」。
〔疵病〕きずつきかけたること、卽ち、缺點といふに同じ。○〔蘇軾〕「ー・ー不ニ必待ニ入指-摘ニ」。
〔恤病〕やまひあるときを見舞ひて共に心痛しやる。○〔左〕「ーレー討レ貳」。
〔稱病〕病氣なりといひたつること。○〔史〕「後ーレー「使ニ從-者謝ト吉」。
〔辭病〕前に同じ。○〔後漢〕「ーレー不レ就」。
〔診病〕やまひを察しみる。○〔史〕「ーレー知ニ入死-生ニ」。
〔治病〕病氣の手當を施す。○〔漢〕「歸レ家ーレー」。
〔毀病〕瘦せてやみはる、又、そしること。○〔後漢〕「ー・ー不ニ自支ニ」。
〔羸病〕やみてやせおとろふること。○〔晉〕「此子ー・「ー」。

〔寢病〕病氣にかゝりて臥床す。○〔後漢〕「榮曾ーレー」。
〔痼病〕痼の氣のつのるやまひのこと。○〔後漢〕「哺-乳多則生ニー・ーニ」。
〔療病〕やまひをなほすこと。○〔後漢〕「凡ーレー者、必知ニ脉之虛-實、氣之所ヒ結」。
〔疾病〕病氣のこと。○〔後漢〕「ー・ー死-亡、輒捐ニ棄「舊-宅ニ」。
〔廢病〕不具者となるやまひ、又、そこなはれやむこと。○〔魏〕「癈-疾ー・ー、所レ謂天-民之窮者也」。
〔大病〕いたきわづらひのこと。○〔吳〕「我已ー・ー矣」。
〔篤病〕前に同じ。○〔晉〕「因レ此ー・ー」。
〔多病〕身の內にやまひのさはにあり。○〔晉〕「玠ー・ー體羸」。
〔尫病〕か弱くしてやまひのあること。○〔晉〕「並少ー・ー形甚短-小」。
〔轝病〕病氣をおひて車に乘り行く。○〔晉〕「乃ーレー「課レ晞」。
〔熱病〕熱度のさかんなる病氣。○〔南〕「素有ニー・ー、坐-臥常須ニ冷-物ニ」。
〔悸病〕妄りにおぢおそるゝ病。○〔南〕「遂發ニー・「ーニ」。
〔痺病〕身體のしびるゝ病氣。○〔唐〕「地下隱因得ニー・ーニ」。
〔利病〕利害といふに同じ。○〔宋〕「ー・ー大者以「聞」。
〔邪病〕惡しき病氣のこと。○〔莊〕「可レ治ニー・ーニ」。
〔時病〕その頃の弊害のこと。○〔宋〕「最ー・ー之大者」。
〔臥病〕病氣のため臥床すること。○〔孟浩然〕「北-窓「猶ーレー」。
〔忘病〕病氣の苦しみを打ちわするゝこと。○〔錢起〕「味-道能ーレー」。
〔積病〕久しき間の病氣。○〔包佶〕「ー・ー攻難レ愈」。
〔語病〕言葉の上に缺點のあること。○〔黃庭堅〕「便是ー・ー」。
〔貧病〕財乏しくあることとやみわづらふことと。○〔南〕「開レ倉振ニ救ー・ー」ニ。

【痒】病に同じ。

【痆】ダツ、ヂチ。女黠切 〔黠〕
きず、（瘡）。○〔韓愈〕「視レ傷悼ニ瘢ーーニ」。

【痆】ヂツ、ニチ。尼質切 〔質〕
かゆし、（痒）。

【痻】ビン、ミン。眉貧切 〔眞〕
やむ、やまひ、（病）。

【⿸疒豕】サウ、ザウ。從陶切 〔豪〕
やむ、やまひ、（病）。

六畫

【痊】セン。逡緣切 〔先〕
病除く、いゆ、なほる、又、病を除く、いやす、なほす。○〔抱朴〕「灸刺慘-痛而不レ可レ止者以レーレ病」。
〔病痊〕やまひいゆ。○〔杜甫〕「棲-遑ー卽ー」。
〔散痊〕やまひすこしくいゆ。○〔陳〕「比獲ニー・ーニ」。

【⿸疒朿】サク、シャク。色責切 〔陌〕 ソク。蘇谷切 〔屋〕
寒病、ひえ。

【⿸疒朿】シ。七賜切 〔寘〕
風ーーは、膚に寒さを感じて體のたののく病、さむけ。

【⿸疒束】古文の疛の字。

【⿸疒休】キウ、ク。虛尤切 〔尤〕
息み下りする痢病、しぶりばら。

【⿸疒休】キウ、ク。許救切 〔宥〕
うるしかぶれ、（桼-瘡）。

【痋】トウ、ヅ。徒冬切 〔冬〕
動く病。

【痋】チウ、ヂュ。持中切 〔東〕
やむ、やまひ、（病）。

【痌】トウ、ツ。他東切 〔東〕
㊀いたむ、（痛）。㊁瘡潰ゆ、かさやぶる。

【⿸疒夆】ハウ、ホウ。匹江切 〔江〕
胮に同じ、腫るゝこと。

【⿸疒夅】リウ、ル。良中切 〔東〕
つかるゝやまひ、つかれ。

【痍】イ。延知切 〔支〕
皮膚のきずつき開くこと、きず、又、皮膚をそこなひやぶる、きずつく。○〔史〕「天-下之心未レ定傷ー者未レ瘳」。
〔金痍〕刀劍などにてうけたるきず。○〔後漢〕「身被ニー・ーニ」。
〔瘡痍〕きず。○〔杜甫〕「必若レ去ニー・ーニ」。
〔慰痍〕きずをうけたる者をいたはる。○〔顏延之〕「勉レ傷ーレー」。
〔瘢痍〕きずあとのこと。○〔南唐〕「亦無ニー・ーニ」。

【⿸疒吉】カツ、カチ。苦八切 〔黠〕
力を用ひて疲る、つかる。

【⿸疒曳】エイ。以制切 〔霽〕
やむ、やまひ、（病）。

【⿸疒戍】疰に同じ。

【⿸疒先】癬に同じ。

【痎】カイ、ケイ。居諧切 〔佳〕 カイ。柯開切 〔灰〕 カイ、ガイ。戸代切 〔隊〕
二日每に一たび發こる瘧、おこり。○〔左〕「齊-侯ー遂痁」。

【⿸疒兒】カウ、コウ。虛江切 〔江〕
はる、（腫）。

【痏】井。羽軌切 〔紙〕

毆ち傷つく、きずつく、又、うちきず、毆傷。〇〔漢〕「見ㇾ疻者與二——人之罪一鈎」。

〔痏痏〕きず。〇〔書〕「——未ㇾ平」。

【痏】イウ、ウ。尤救切 宥
ふるふ、（顫）。

【痏】井ク、ヲク。于六切 屋
やむ、やまひ、（病）。

【痆】ダイ、ナイ。奴來切 灰
やむ、やまひ、（病）、一說に、よわる、（儜-劣）。

【痆】ザイ、ナイ。汝來切 灰
やむ、やまひ、（疾）。

【痒】シヤウ。式亮切 漾 尸羊切 陽
うれひ、（憂）、又、いたみ、（痛）。

【痐】クワイ、エ。胡隈切 灰
腹の中の長き蟲。

【痖】アフ、エフ。乙洽切 洽
㊀病劣る、よわる、（江淮閒の語）。
㊁禿瘡（しらくもがさ）の下く窪める貌にいふ字。

【痑】タ。丁佐切 箇 湯河切 歌
タン。他干切 寒
㊀馬のやまひ。㊁つかろ、（疲）。
㊂やす、（瘦）。

【痑】シ。賞侈切 紙
衆き貌にいふ字、又、ほしいまゝ、（放-縱）。〇〔漢〕「衍-曼流-爛——以陸-離」。

【痎】カイ、ケ。虛艾切 泰
えやみ、（疫-病）。

【痎】カイ、ケ。古隘切 卦
やむ、やまひ、（病）。

【痎】カイ、ゲ。宜佳切 佳、ケイ、
ガイ。研奚切 霽
癡かなる貌にいふ字、おろか。

【痄】タ、テ。抽加切 麻
癡かなる貌にいふ字、おろか。

【痒】シヤウ、ザウ。似陽切 陽
ヤウ。弋亮切 漾
かさ、（瘍）。

【痒】ヤウ。移章切 陽
㊀やむ、やまひ、（病）。〇〔詩〕「癙-憂以——」。
㊁かさ、（瘍）。〇〔周〕「夏-時有二——疥病一」。

【痒】ヤウ。餘兩切 養
皮膚に搔かんと欲する感あり、かゆし。〇〔抱朴〕「人不ㇾ能三自知二其體老-少痛——之何故一」

〔痛痒〕いたみとかゆみと。〇〔晉〕「非ㇾ有二——一」。
〔疥痒〕前に同じ。〇〔列〕「指-擿無二——一」。
〔爬痒〕かゆきをかく。〇〔麻姑山記〕「經意二其可ㇾ——一」。

【痒】ヤウ。弋亮切 漾
前々條の㊁に同じ。

【痓】シ。充至切 寘
㊁あし、（惡）。㊂風病。

【痢】レイ。力制切 霽
えやみ、（疾-疫）。〇〔公羊〕「大-災者何大瘠也大瘠者何——也」。

【痔】チ、ヂ。丈里切 紙
病の名、肛門に瘡を生ずると、しもがさ、隱瘡。〇〔莊〕「舐ㇾ——者得二車五-乘一」。

〔瘴痔〕しもがさ。〇〔韓〕「內無二痤-疽——之害一」。

【痞】タフ、トフ。德合切 合
肥ゆる貌にいふ字、こゆ。

【痞】ガフ、ゴフ。鄂合切 合
寒き病、ふるひ。

【痨】ラウ、ロウ。魯皓切 皓
瘑——は、ひぜんがさ、（疥-瘡）。

【痕】コン。胡恩切 元
あさ。
（い）胝瘢、きずあさ。〇〔後漢〕「洗ㇾ垢求二其瘢——一」。
（ろ）物の遺し留めたる跡、かた。〇〔魏〕「刻二其水——一」。

〔刀痕〕かたなにてきりたるあと。〇〔蔡琰〕「沙-場白-骨刃、——箭-瘢」。「上ㇾ階綠」。
〔苔痕〕こけのむしたるあと。〇〔劉禹錫〕「———」
〔蘚痕〕前に同じ。〇〔張耒〕「湃々漲二——一」。
〔潮痕〕うしほの打ち寄せたるあとかた。〇〔任番〕「江-右落二——一」。「—夜燭錫」。
〔淚痕〕なみたを流せるあと。〇〔杜審言〕「——
〔瘢痕〕きずのあと。〇〔後漢〕「洗ㇾ垢求二其——一」。
〔墨痕〕すみをつけたるあとかた。〇〔畫繪寶鑑〕「姜-齋寫二山-水一無二——一」。「有二——一」。
〔殘痕〕物の殘れるあとかた。〇〔陸游〕「漲-餘野水——一」。

〔舊痕〕ふるきあと。〇〔杜甫〕「江-流復二——一」、
〔成痕〕あとの出來あること。〇〔張仲素〕「瑾-瑜之質、爛二奢-髮以——一」。
〔屐痕〕下駄のあしあと。〇〔劉長卿〕「春-苔雙——」。
〔泥痕〕どろのつきたるあと　〇〔項斯〕「影-草帶二——一」。
〔瑕痕〕疵のつきたるあとのこと。〇〔陸龜蒙〕「豈敢求二——一」。
〔漲痕〕水のあふれ出でたるあとのこと。〇〔陸游〕「溪「沙記二——一」。
〔耗痕〕減り損じたるあと。〇〔曹松〕「——延二黑-離一」。「——生」。
〔沛痕〕こぼりつきたるあとかた。〇〔釋棲白〕「深-井化粧を乙らしたるあとかた。〇〔蘇軾〕「娟-々」
〔粧痕〕化粧をこらしたるあとかた。
〔著痕〕あとかたのつくこと。〇〔蘇軾〕「信-指如-歸自侵-鬢——深」。「ーㇾー」。
〔沁痕〕しみこみたるあとかた。〇〔范成大〕「——猶有二淚-臙-脂一」。「燃二」。
〔墨痕〕青黑きあと。〇〔陸游〕「山-歸二——一如-尙
〔溫痕〕あたゝかきあと。〇〔楊萬里〕「簾-日漏二——一」。

【痕】ギン、ゴン。五斤切 文 コン。古恨切 願
腫るゝ病、はる。

【痴】ジヨ、ニヨ。人余切 魚
やむ、やまひ、（病）。

【痴】ジヨ、ニヨ。如倨切 御
——瘀は、達（さと）からざること。

七畫

【痟】エン。么懸切 先
㊀骨節痛む、ほねふしいたむ。〇〔內經〕「痿-厥腨——」。
㊁煩鬱す、むすぼる、ふさぐ。〇〔列〕「薦以二粱-肉蘭-橘一心——體煩」。

【痗】バイ、メ。莫佩切 隊 莫賄切 賄
クワイ、エ。呼內切 隊

やむ、やまひ（病）。○〔詩〕「使二我心—一」。
〔疢痗〕熱のやまひ。○〔謝惠連〕「積憤成二——一」。
〔沉痗〕ふかきやまひ。○〔劉禹錫〕「且欲レ去二——一」。
〔疾痗〕やまひのと。○〔揭傒斯〕「經レ春僂二——一」。

【痘】トウ、ヅ。大透切 宥
傳染性の瘡、はうさう、もがさ、瘡の形は豌豆の如し、先づ面に發して後全身に及ぶ、其の重きものは死に至る。○〔方書〕「凡——汁納レ鼻、呼-吸即出」。

【痙】ケイ、ギヤウ。巨井切 梗
筋引きつる。○〔內經〕「諸—項-强皆屬二於濕一」。

【⿸疒呂】リョ、ロ。兩擧切 語
㊀かさ（瘡）。㊁久しく愈えざる病。

【⿸疒辛】シン。所臻切 眞　シン、ソン。所錦切 寑　ソン。鎖本切 阮
寒さに感じて體ふるひをのゝくを、さむけ、寒病。○〔皮日休〕「枕-下聞二淵-湃一、肌-上生二—-瘀一」。

【⿸疒里】リ。兩耳切 紙　里之切 支
やむ、やまひ（病）。

【⿸疒良】リヤウ、ラウ。力讓切 漾
目の病。

【⿸疒春】トン。佗恨切 願
病みつゝ食を貪ぼるにいふ字、むさぼる。

【⿸疒孝】カウ、ケウ。虛交切 肴
—瘷は、喉のやまひ。

【⿸疒孚】フウ、フ。房尤切 尤
膚の火に傷められたるを、やけど。

【⿸疒矣】駭、欸に同じ、おろか。

【痛】トウ、ツ。他貢切 送
㊀いたむ。
（い）病む。○〔禮〕「—甚者其愈遲」。
（ろ）身體に辛楚を感じなやむ。○〔後漢〕「非レ不レ—」。「心」。
（は）苦しむ、艱む。○〔史〕「常—二於心一」。
（に）怨む、悲しむ。○〔漢〕「可二甚悼—一」。
（ほ）いたましむ、なやます、くるしむ。
○〔左〕「—レ心疾レ首」。
㊁いたむを、やまひ、なやみ、くるしみ、いたみ。○〔易〕「坎爲二耳—一」。
㊃いたく。
（い）甚しく。○〔漢〕「市-物—騰-躍」。
（ろ）力の限りを盡くして事を爲すにいふ字。○〔世說〕「—二飲酒一、熟二讀離-騷一便可レ稱二名-士一」。
〔悼痛〕いたみ哀しむ。○〔漢〕「甚可二——一」。
〔惻痛〕前に同じ。○〔公羊〕「龍-門之戰、垣無下——二于民一之心上」。
〔心痛〕胸いたむ。○〔晉〕「遂患二——一」。
〔覺痛〕苦痛を感ず。○〔宋〕「太宗—レ—」。
〔哀痛〕哀しみ傷む。○〔摯虞〕「哀辭之體、以二——爲レ主」。「呼二父-母一也」。
〔疾痛〕やみいたむ。○〔史〕「——慘怛、未三嘗不二—「德也」。
〔愁痛〕憂へ哀しむ。○〔左〕「夫-人——、不レ知レ所レ庇」。
〔楚痛〕いたみ苦しむこと。○〔史〕「何其——而不—
〔首痛〕あたまいたし。○〔後漢〕「身熱——」。「疴」。
〔頭痛〕前に同じ。○〔梁簡文帝〕「纔救二——之
〔竊痛〕人知れずいたみ哀しむ。○〔後漢〕「負レ功建レ謀以至二于此一、竊——レ之」。
〔巨痛〕大いなる苦痛。○〔宋〕「乾-靈降レ禍、二-凶極レ逆、深-酷——」。
〔忍痛〕いたきをこらふ。○〔齊〕「—レ—不レ言」。
〔酷痛〕甚だしくいたむ。○〔宋〕「——煩-寃、心如二焚裂一」。「作讃又恐不レ任」。
〔蝕痛〕むしばの痛むこと。○〔王羲之〕「吾——所レ—」。
〔切痛〕極めて苦痛を感ず。○〔曹植〕「憤-激以——」。
〔銜痛〕苦痛を身に感ず。○〔陸機〕「—レ—東沮」。
〔含痛〕前に同じ。○〔陸雲〕「—レ—靡レ及、悠-々奈何」。「中-腸一」。
〔沈痛〕深く苦痛を感ず。○〔謝靈運〕「——切二于仁-詔一」。
〔酸痛〕あはれに思ひ傷む。○〔謝靈運〕「發二——」「于」。
〔慚痛〕愧ぢて哀しむ。○〔韓愈〕「百-年——淚闌-
〔憯痛〕哀しみいたむ。○〔牛希〕「悶レ不レ—二——於心一」。
〔深痛〕甚だしく哀しむ。○〔晁冲之〕「風-俗移レ人可二——一」。

【⿸疒禿】トク。他谷切 屋
首に生ずる瘍、かさ。

【⿸疒言】コツ、コチ。呼骨切 月
多く睡るを、ねむりやまひ。

【痝】バウ、モウ。莫江切 江
病み困しむ、一說に、酒を病む。

【⿸疒更】カウ、キヤウ。古杏切 梗
やむ、やまひ（病）。

【⿸疒圼】デツ、子チ。乃結切 屑
やむ、やまひ（病）。

【⿸疒邑】イフ、オフ。伊習切 緝
ふさぎ（鬱病）。

【⿸疒希】睎に同じ。

【⿸疒希】キ、ケ。許既切 未
いたむ（痛）。

【⿸疒壯】サウ。側亮切 漾
ねつびやう（熱病）。

【⿸疒庶】シヤ、セ。思遮切 麻
かゆし（癢）。

【痞】ヒ、ビ。部鄙切 紙
腹內の結ぼり痛むを、つかへ。○〔方書〕「有二不レ因レ下而—者一」。

【痞】フウ、フ。俯九切 有
やむ、やまひ（病）。

【痞】ハイ、ヘ。芳杯切 灰
よわし（弱）。

【⿸疒忍】チン。丑忍切 軫
やむ、やまひ（病）。

【痟】セウ。先雕切 蕭
頭の痛む病、づつう。○〔周〕「春-時有二—-首疾一」。

【⿸疒侵】シン。七稔切 寑
容貌陋し、みにくし。

【⿸疒夾】ケフ。苦協切 葉
病人の氣息、いき。

【痠】サン。素官切 寒
㊀いたみ（痛）。
㊁一種の石。○〔山海經〕「風-伯之山多二—-石一」。

【痡】ホ、フ。滂模切 虞　奉甫切 麌

やむ、(病)。○[詩]「我僕―矣」。
[華痡] やむ。○[書]「―ニ于四海ニ」。
[力痡] ちからひるむ。○[李華]「財殫―」。

【痡】ホ、フ。普故切 [遇]
つかへのやまひ、(瘏)。

【痢】リ。力至切 [寘]
㊁腹痛みて大便のはげしく下るを、くそひり、りびやう。○[方書]「血―」。
㊀腹痛みて下りたる穢物、くだりもの。○[元]「嘗レ―以求レ愈」。
[泄痢] 下痢の病、俗にいふ腹くだしのやまひ。○[北齊]「癖之患ニ―、積年不レ起」。
[渴痢] 咽喉のかわきて下痢のすること。○[梁]「熱少時嘗患ニ―ニ」。
[下痢] 食物を頻に肛門より排泄す。○[齊民要術]「令ニ人―ニ」。

【痏】イウ、夷周切 [尤] ユ。余救切 [宥]
㊀やむ、やまひ(病)。
㊁ふるき屋の朽ち木の臭、くちきくさし。○[周]「牛夜鳴則―」。

【痣】シ。職吏切 [寘]
人の肌に在る黑斑、はゝくそ、ほくそ、ほくろ(黑子)。○[長編]「彈丸黑―之地」。

【⿸疒余】タ、直加 デ。切 [麻] ヂョ、陳如 ニョ。切 [魚]
きずあと(瘡痕)。

【痤】サ、ザ。徂禾切 [歌]
小さき腫れもの、又、ひぜんがさ(族瘡)、又、ねぶさ(癤)、又、よう(癰)。○[韓]「彈レ―者痛」。

【痥】タツ、ダチ。徒活切 [曷]

馬の脛の瘍。

【痥】テツ、テチ。椿劣切 [屑]
きず(傷)。

【⿸疒步】ホ、ブ。蒲故切 [遇]
愈えたる病復起こるを、やみかへり。

【⿸疒狂】キヤウ、ガウ。渠王切 [陽]
ねつびやう(熱病)。

【⿸疒宜】俗の癡の字。

【痠】サン。心官切 [寒]
なゆ(痿)。

八畫

【⿸疒來】ライ。洛代切 [隊] ―俗に癩に作る。
一種の惡病、らいびやう(癘)。

【⿸疒來】ライ。郎才切 [灰]
㊀前條に同じ。㊁久しき疾。

【⿸疒易】エキ、夷益 ヤク。切 セキ、施隻 シヤク。切 [陌]
㊀病傳染す、うつる。㊁おろか(癡)。

【痭】ハウ、ヒヤウ。報朋切 [庚]
㊀婦人の癥血(ちのかたまり)の止まざるを。
㊁腹滿つ、ふくる。

【痭】ヒヨウ。皮孕切 [徑]
腫れ滿つる貌にいふ字、はる。

【痮】チヤウ。知亮切 [漾]
腹滿ち張る、はる。

【⿸疒金】キン、口金 コン。切 [侵] カフ、渴合 コフ。切 [合]
瘧を疾みて惡寒を感ずるを。

【痯】クワン。古緩切 [旱]
やむ(病)、又、つかる(罷)。○[詩]「四牡―」。

【痯】クワン。古玩切 [翰]
癰に同じ。

【痰】タン、デン。徒監切 [咸]
咳と共に氣管より出づる一種の粘液、又、其の粘液になやむ病。○[抱朴]「甘遂葶歷之逐ニ―癖ニ」。

【痱】ヒ、符非 ビ。切 [微] ハイ、蒲亥 ベ。切 [賄]
小さき腫れもの、一說に、風病、ふしのいたむやまひ。○[漢]「非ニ宣倒懸而已ニ、又類ニ辟且病―ニ」。

【痱】ヒ。父沸切 [未]
㊀あせも(熱瘡)。㊁さく(避)。

【痱】ヒ。妃尾切 [尾]
しんけいつう(鬼痛病)。

【⿸疒肥】痱に同じ。

【痲】バ、メ。謨加切 [麻]
肢體の感覺を失するにいふ字、しびる、しびれ。○[正字通]「―風熱病」。

【痳】リン。犂鍼切 [侵]
㊀尿道糜爛して溺の通じ難き病、しばゆばり、りんしやう。
㊁せんき(疝痛)。

【⿸疒戔】セン、ゼン。在演切 [銑]
小くかゆし、又、かゆきがかく。

【痴】チ。丑之切 [支]
㊁きず(疵病)。㊀廉ならず、さからず。
㊂おろか(癡)。

【⿸疒季】キ、其季 ギ。切 [寘] ―一に悸に作る。
氣定まらず、心動く、むなさわぎす、おづ。

【⿸疒卷】ケン、ゴン 巨員切 [先]
手の屈まる病。○[程曉]「疲―向レ之久」。

【⿸疒兒】ゲイ、ガイ。研計切 [霽]
うらむ(恨)。

【⿸疒兒】ガイ、ゲ。牛懈切 [卦]
目病む、めのやまひ。

【⿸疒東】トウ、ツ。都籠切 [董]
惡しき氣のために傷ること。

【⿸疒空】カウ、コウ。枯江切 [江]
㊀喉の中の病、のんどのやまひ。
㊁空しき谷の貌にいふ字。

【⿸疒或】クワク、キヤク。呼麥切 [陌]
キヨク、ケキ。忽域切 [職]
頭痛む、づつうす。

【⿸疒奈】ダツ、乃曷 ナチ。切 [曷] ダツ、女黠 ナチ。切 [黠]
㊀いたみ(痛)。
㊁むしさす(螫)。

【㾫】キヨク、ケキ。紀力切 職
㊀さし、(疾)。㊁氣急し、いきはやし。

【疣】イウ、ウ。于求切 尤
かさ、(瘡)。

【痶】テン。他典切 銑
―痶は、病む貌にいふ語。

【痷】アン、オン。烏含切 覃
―婁は、泛き意にいふ語、ひろし。○〔王沈〕「―婁者以二博-約一爲二通-濟一」。

【痷】エフ、オフ。又業切 葉
㊀やむ、やまひ、(病)。㊁痩するまやひ。㊂―殜は、半臥半起の病、ぶら〳〵やみ。

【痷】アフ、エフ。乙洽切 洽
やむ、やまひ、(病)。

【痷】アフ、オフ。烏合切 合
跛疾、あしなへ。

【𤷒】キ、ギ。渠宜切 支
人の名。

【痸】セイ。尺制切 霽
瘛に同じ、一說に、癡病、おろか。○〔山海經〕「鵸可二以已レ―」。

【痽】タイ、テ。都回切 灰
はれる、(腫)。

【𤵖】イン。夷針切 侵
やむ、やまひ、(病)。

【𤶨】バウ、ミヤウ。眉耕切 庚
俗の盲の字。

【㾊】チク、トク。敕六切 屋
腹痛、はらいたみ。
〔㾊㾊〕病む貌にいふ語。

【㾓】キウ、ク。其九切 有
やむ、やまひ、(病)。

【㾦】ハイ、ヘ。滂佩切 隊
かさぶた、(痂)。

【㾦】ハイ、ヘ。芳杯切 灰
かさ、(瘡)。

【痹】ヒ。必至切 寘
㊀身體の感覺作用をうしなふにいふ字、しびる、しびれ、又、其のやまひ。○〔淮〕「谷氣爲レ―」。㊁矢の名。○〔周〕「恆-矢―-矢用二諸散-射一」。
〔風痹〕からだのしびるゝやまひ。○〔唐〕「翰嗜レ酒極二聲-色一、因二―-―一體不-仁」。
〔痿痹〕前に同じ。○〔晉〕「呂猗母皇-氏得二―-―一」。
〔冷痹〕ひえしびる。○〔顏延之〕「手足―-―」。
〔頑痹〕かたくしびる。○〔呂頌〕「膝-脛―-―」。

【痹】ヒ、ビ。毗至切 寘
やむ、やまひ、(病)。

【痺】ヒ。府移切 支
一種の鳥の名。○〔山海經〕「柜-山有レ鳥焉其音如レ―」。

【瘑】クワ。苦臥切 箇
はげやまひ、(禿-病)。

【瘰】ラ。魯果切 哿
るゐれき、ぐり〳〵、(瘰-病)。

【痻】ビン、ミン。彌鄰切 眞 コン。呼昆切 元
やまひ、やまし、(病)。○〔詩〕「多我覯レ―」。

【㾘】ロン。盧昆切 元
指の病。

【痼】コ、ク。古慕切 遇
久しく愈えざる疾病、ながびくやまひ。○〔後漢〕「京-師醴-泉湧-出飮レ之者―-病皆愈」。
〔沈痼〕ながびくやみ。○〔劉楨〕「余嬰二―-―疾一」。
〔根痼〕持病。○〔顏延之〕「―-―漸劇」。
〔癖痼〕前に同じ。○〔李華〕「無二―-―疥搔之疾一」。

【𤷆】イ。於宜切 支
㊀身急しくなる、ひきつる。㊁よわし、(弱)。㊂はれもの、(痤)。

【𤷆】キ。墟彼切 紙
はれもの、(痤)。

【𤷆】イ。隱綺切 紙
㊀はれもの、(痤)。㊁かくしをさむ、(庋-藏)。

【𤷆】アイ、エ。於賅切 咍
短き貌にいふ字、ひくし。

【𤷽】サイ。此宰切 賄
やむ、やまひ、(病)。

【痾】ア。烏何切 歌 阿个切 箇
度漸みて深くたやすく愈えざる疾病、やまひ。○〔潘岳〕「常-膳載加舊―有レ痊」。
〔百痾〕もろ〳〵のやまひ。○〔黄庭堅〕「―-―從レ中來」。
〔妖痾〕あやしげなるやまひ。○〔郝經〕「落二攙邪-職二謫二―-―一」。
〔沉痾〕ひさしきやまひ。○〔晉〕「―-―頓愈」。
〔養痾〕やまひを治療すること。○〔孟郊〕「―レ―念二餘-生一」。
〔微痾〕かるきやまひ。○〔蘇軾〕「―-―坐二、旬一」。
〔負痾〕やまひにかゝりゐること。○〔陶潛〕「―レ―不レ獲レ俱」。
〔懷痾〕前に同じ。○〔江淹〕「―レ―屬二此詩一」。
〔抱痾〕前に同じ。○〔朱熹〕「―レ―守二窮-廬一」。

【痿】ズヰ、ニ。儒佳切 ヰ。於爲切 支 於僞切 寘
痺れて不仁となる、なふ、しびる、又、其の疾病。○〔史〕「如二―-人不レ忘レ行」。

【㾨】ワイ、エ。鄔賄切 賄
―瘣は、風疾。

【㾖】リヨウ。里孕切 徑
風病。

【瘀】ヨ、オ。依據切 御 衣虛切 魚
㊀血積病、ちのやまひ。○〔楚辭〕「形銷-鑠而―-傷」。㊁やまひ、(疾)。○〔揚雄〕「八爲二疾-―一」。

【㾩】クワイ、ケ。公懷切 佳
㊀惡しき瘡、かさ。㊁ひぜんがさ、(疥-疾)。

【瘁】スヰ、ズヰ。秦醉切 寘

㊀やむ(病)、又、つかる(勞)。○[詩]「唯躬是ー」。㊁やぶる(毀)。○[陸機]「悼ニ堂-構之隤ーー一」。

【癟】ヘツ、ベチ。必列切 [屑] はれもだゆ(腫-懣)。

【𤹛】タウ、ドウ。杜到切 [號] いたむ(傷)。

【瘂】ア、エ。烏下切 [馬] おふし、おし(瘖)。

【瘃】チョク、トク。涉玉切 [沃] 皮膚の寒さに中り腫れて皸くなるを、しもやけ、ゆきやけ、寒創。○[漢]「手-足皸ーー」。

【𤸊】トク。的則切 [職] やむ、やまひ(病)。

【瘄】音未だ詳かならず。やむ、やまひ(疾)。

【㿋】ダウ、ノウ。乃老切 [皓] やむ、やまひ(病)。

九畫

【瘇】ショウ、ジュ。豎勇切 [腫] 尰に同じ、はる、はらす。○[漢]「天-下之勢方病ニ大ーー一」。

【𤺄】セイ、シヤウ。所景切 [梗] やす(瘦)。

【瘈】ケイ、カイ。吉詣切 セイ。征例切 [霽] くるふ(狂)。○[左]「國-人逐ニーー狗一」。

【瘉】ユ。勇主切 [麌] 雲倶切 [虞] ㊀病瘳ゆ、いゆ、なほる、又、病を除く、いやす、なほす。○[漢]「漢-王疾ー」。㊁やむ(病)。○[詩]「父-母生レ我、胡俾ニ我ー一」。

【瘉】ヨ。羊茹切 [語] まさる(賢)。○[漢]「不ニ猶ーニ於野一」。

【𤸹】シヤウ、サウ。息良切 [陽] 息兩切 [養] やむ、やまひ(病)。

【瘊】コウ、グ。胡溝切 [尤] いぼ(疣-瘻)、一說に、疣の小さきもの。○[方書]「地-膚-子白-礬各等-分煎-湯洗數-次ーー子盡消」、

【𤷙】キヤク、カク。乞約切 [藥] かさ(瘡-疾)。

【瘋】フウ、フ。方馮切 [東] づつう(頭-風-病)。

【瘌】ラツ、ラチ。郎達切 [曷] ライ。落蓋切 [泰] ㊀いたむ(痛)。㊁からし(辛)。㊂瘠ーーは、調はざるを。㊃きず(傷)。㊄ひぜん(疥)。

【㾫】ヘン。匹連切 [先] 一種の病。○[方書]「ーー病者善發ニ四-支一其狀赤-脈起如ニ編-繩一急痛壯熱」。

【㾣】ケフ。去涉切 [葉] 病みて氣力の少なきにいふ字、おごろふ。

【㾣】ケフ。詰叶切 [葉] 疲に同じ。

【㾮】トツ、ドチ。徒骨切 [月] 下部の病、しものやまひ。

【瘍】ヤウ。移章切 [陽] ㊀頭上の瘡、かさ、できもの。○[禮]「身有レ瘍則浴」。㊁きず(傷)。○[周]「疕ーー者造焉」。
（腫瘍）はれあがりたるふきでもの。○[周]「掌ニーー潰-瘍、金-瘍折-瘍之祝-藥一」。
（病瘍）ふきでものをわづらふ。○[易林]「左-指ーー」「不レ省」。
（瘡瘍）ふきでもの。○[易林]「ーーー疥-癩、孝-婦」

【𤺗】ダウ、ダウ。大涙切 [漾] 家畜の泄病、はらくだり。

【𤸸】ショ、ソ。寫與切 [語] 痛み病む、やむ。

【瘎】シン、ジン。時任切 [侵] シン、ジン。時鴆切 [沁] タン、デン。丈減切 [豏] エン、オン。余廉切 [鹽] 腹內の痼病、ちびやう。○[揚雄]「秦晉之閒謂レ病曰レー」。

【瘏】ト、ヅ。同都切 [虞] やむ、やまひ(病)。○[詩]「我馬ー矣」。

【𤸴】ケワイ、ケ。許濊切 [隊] キ、ギ。巨畏切 [未] くるしみつかる(困-極)。

【瘦】シウ、シュ。所救切 [宥] やす(臞)。○[范雲]「是妾愁成レー、非三君愛ニ細-腰一」。

【瘝】クワン、ケン。姑還切 [刪] ㊀やむ(病)。○[書]「恫ニー乃身一、敬哉」。㊁むなしくす、むなし(曠)。○[書]「若レ時ーニ厥官一」。

【𤹯】カイ、ケイ。古諧切 [佳] おこり(痎)。○[本草]「老瘧發-作、無レ時名ニー瘧一、俗呼ニ妖瘧一」。

【瘐】ユ。勇主切 [麌] 容朱切 [虞] やむ(病)、一說に、囚徒の病むにいふ字。○[漢]「ーー二死獄-中一」。

【𤺥】非。羽鬼切 [尾] やまひ(病)、又、弱き病。

【𤸇】癃に同じ。○[淮]「平-公ー-病」。
（罷𤸇）腰曲りて背の高きやまひ。○[史]「臣不-幸有ニ罷-ー之病一」。

【㾸】瘑に同じ。

【瘑】クワ、ケ。姑華切 [麻] やむ、やまひ(病)。

【瘷】シウ、シュ。側救切 [宥] ちゞむ(縮)。

【㾯】イウ、ユ。于求切 [尤] 息(いき)の悪しき肉、あしきしゝ。

【㾼】タイ、デ。杜回切 [灰]

陰莖のなゆるやまひ。

【㿗】タイ。テ。蕩亥切〔賄〕
やむ、やまひ（病）。

【⿸疒皇】クヮウ、ワウ、胡光切〔陽〕
やむ、やまひ（病）。

【⿸疒彥】イン、オン。於禁切〔沁〕
心（むね）の中の病。

【瘒】ゴン。牛昆切〔阮〕
癡かなる貌にいふ字、おろか。

【⿸疒曷】カツ、カチ。丘葛切〔曷〕
暑さに中たる、又、其の病、あつけ。

【⿸疒曷】カイ。虛艾切〔泰〕
やむ、やまひ（病）。

【瘓】タン。土緩切〔旱〕
癱――は、病む貌にいふ語。

【⿸疒奈】ダツ、ナチ。奴曷切〔曷〕
瘵に同じ。

【⿸疒苦】コ、ク。苦故切〔遇〕
くるしむ（困）。

【瘕】カ、ゲ。何加切〔麻〕
㊀女のやまひ。「痕――」。㊁瑕に同じ、きず。〇〔舊唐〕「負犯有ニ

【瘕】カ、ケ。虛加切〔麻〕
喉の病。

【瘕】カ、ケ。擧下切〔馬〕古訝切〔禡〕
㊀腹中時々に積塊（つもろこり）を生ずろ病。〇〔方書〕「腹-中雖レ硬忽聚忽散無レ有ニ常-準一、謂ニ之――一」。㊁腹中の蟲に傷めらるゝこと、むしのやまひ。〇〔山海經〕「招-搖之山、麗-麐之水出焉其中多ニ育-沛一佩レ之無ニ――疾一」。

【⿸疒畏】クヮイ、エ。呼同切〔灰〕呼乖切〔佳〕
㊀――瘣は、馬病。㊁やまひ（病）、一說に、腫れ物旁に出づろにいふ字。

【⿸疒畏】ワイ、エ。鄔賄切〔賄〕
――瘣は、骨節のいたむやまひ。

【⿸疒畏】タイ、デ。徒同切〔灰〕
陰病、まへのやまひ。

【⿸疒畏】ワイ、エ。烏潰切〔灰〕
――瘣は、ゑびれやまひ（痱）。

【⿸疒胡】コ、グ。洪孤切〔虞〕
㊀――瘦は、くわくのやまひ、（瘯）。㊁物蟄す、さす。

【⿸疒复】フウ、フ。敷救切〔宥〕フク、ボク。房六切〔屋〕
㊀つかる（勞）。㊁再び病む、ぶりかへす。

【瘖】イン、オン。於金切〔侵〕
やまひによりて言語を發する能はざること、おふし、おし。〇〔淮〕「故皐陶――而爲ニ大理一」。
〔病瘖〕聲をいたす能はざる病をやむこと。〇〔蘇軾〕「霜多蟬――」。
〔僞瘖〕聲る能はざる病あるまねすること。〇〔元稹〕「乃――其口一」。
〔喑瘖〕分明に聲を發せずしてうなりゐること。〇〔蘇軾〕「臨レ文但――」。

【瘖】イン、オン。於禁切〔沁〕
痛むこと劇し、はげし。

【⿸疒音】古文の陰の字。

【⿸疒禹】グ、ゴ。元具切〔遇〕
こぶ、いぼ（疣）。

【⿸疒敄】チ、ヂ。展豸切〔紙〕
下病、ゑものやまひ。

【⿸疒品】ヒン、ホン。匹錦切〔寑〕
高く起こり深く入る一種の瘡。〇〔正字通〕「――瘡上高下深」。

【⿸疒延】カン、コン。呼甘切〔覃〕
憨に同じ、はなはだおろか。

【⿸疒哀】アイ。烏苔切〔灰〕
憂疾、ふさぎ。

【⿸疒奉】フ。奉武切〔麌〕
くつ（朽）。

【瘨】テン。丁田切〔先〕
くるふ（狂）、一說に、瘨の字の譌り。

十畫

【⿸疒骨】コツ、コチ。古忽切〔月〕
ひざのやまひ（[illegible]‐病）。

【瘈】セイ、尺制切〔霽〕セツ、セチ。尺列切〔屑〕
引き縱つ、はなつ、ゆるむ。

【⿸疒員】ウン、ヰン。王問切〔問〕云粉切〔吻〕ヰン。羽敏切〔軫〕
やむ、やまひ（病）。

【⿸疒虒】セイ、サイ。先齊切〔齊〕シ。相支切〔支〕
いたみ（疼‐痛）。

【瘙】サウ、ソウ。先到切〔號〕
かさ（創）。

【⿸疒衰】スヰ。所追切〔支〕サ。蘇禾切〔歌〕
㊀へる（減）。㊁やむ（病）。

【⿸疒高】カウ、コウ。古老切〔皓〕
――疙は、ひぜんがさ（疥‐病）。

【瘚】ケツ、コチ。居月切〔月〕
氣逆ふやまひ。〇〔韓詩外傳〕「無レ使ニ小-民飢-寒一、則――不レ作」。

【瘏】ト、ヅ。同都切〔虞〕
やむ、やまひ（病）。

【瘛】セイ、尺制切〔霽〕セツ、セチ。尺列切〔屑〕ケイ、ガイ。胡計切〔霽〕
――瘲は、一種の小兒病、きやうふう。〇〔急就篇〕「癰-疽――瘲-瘻-瘨」。

【⿸疒骨】ソツ、ソチ。蘇骨切〔月〕

｜｜痲は癡かなる貌にいふ語、おろか。

【瘵】サイ、ゼ。鉏佳切 佳
やす、やせ、(瘦)。

【瘵】サイ、ゼ。仕懈切 卦
やむ、やまひ、(病)。

【瘬】シ、ジ。仕知切 支
瘬｜は、えやみ、(疫-病)。

【瘙】サウ。蘇朗切 養
馬のやまひ。

【瘜】ショク、ソク。悉即切 職
寄生せる惡肉、あまじし、つきにく。〇〔聖濟總錄〕「咽生ニ｜-肉一、先刺破令ニ血出一。」

【癕】ヨウ、オウ。於陵切 蒸
たか、(爽-鳩)。〇〔正字通〕「｜隨ニ人所ニ指-縱一。」

【𤸎】バ、メ。莫駕切 禡　バン、メン。莫晏切 諫
目病、めやみ、一說に、惡き氣身に著く、又、一說に、くされがさ、(蝕-創)。

【癄】ダン、ナン。乃諫切 諫
牛馬のやまひ。

【𤺊】瘵の本字。

【瘞】エイ、アイ。壹計切 霽
㊀埋藏す、かくす、うづむ。〇〔詩〕「上-下奠-｜、靡ニ神不一レ宗」。
㊁屍を埋めたる所、はか。〇〔晉〕「發レ｜」「出レ尸」。

(收瘞) とりをさめてうづむ。〇〔北〕「｜ニ｜骸-骨一。」
(埋瘞) 土中にうづむ。〇〔南〕「土-葬則｜ニ｜之一。」
(假瘞) かりにうづむ。〇〔南〕「悉｜-｜焉」。

【瘟】ヲン。烏昆切 元
えやみ、(疫)。〇〔抱朴〕「經ニ｜-役一則不レ畏」。

【瘟】ヲツ、ヲチ。烏沒切 月
心の悶ゆる貌にいふ字、もだゆ。

【瘟】ウン、ヲン。於云切 文
小しく痛む貌にいふ字。

【𤺃】アフ、オフ。烏盍切 合
㊀足なへやまひ、(跛-病)。
㊁短き氣、いき。

【𤺃】カフ、コフ。克盍切 合
疲れ病む。

【𤺃】カイ。丘蓋切 泰
喉の病。

【𤺃】アフ、エフ。乙洽切 洽
やむ、やまひ、(病)。

【𤹯】ガイ。魚開切 灰　牛代切 隊
おろかのやまひ、(癡-病)。

【𤻍】サク、シャク。色窄切 陌
脉の動くにいふ字。

【瘠】セキ、シャク。秦昔切 陌
㊀やす。
(い)病みて體肉減ず、身ほそる。〇〔易〕「乾爲ニ｜-馬一」。
(ろ)體肉の薄きにいふ字。〇〔周〕「其民晳而｜」。
(は)土地に草木を成長せしむる力欠乏す。〇〔國〕「擇ニ｜-土一而處レ之」。
(に)減少す、へる。〇〔禮〕「其曲-直-繁-｜-廉-肉-節-奏」。
㊁省約す、へす、はぶく。〇〔左〕「｜レ魯而肥レ杞」。

(肥瘠) ふとりたるとやせたると。〇〔韓愈〕「視ニ政之得-失一、若ニ越人視ニ秦人之｜-｜一。」
(毀瘠) 瘦せ衰ふ。〇〔禮〕「｜-｜不レ形、視-聽不レ衰」。
(損瘠) 打ち棄てられて瘦せ衰ふ。〇〔漢〕「國亡ニ｜-｜者、以ニ蓄-積多而備先具一也」。
(消瘠) 極めて瘦せ衰ふ。〇〔後漢〕「積-毀｜-｜、殆將レ滅レ性」。
(癯瘠) 瘦せてあり。〇〔唐〕「容-貌｜-｜者累-年」。
(流瘠) 處を定めず流浪して病み衰へたると。〇〔唐〕「盡免ニ江-淮兩-賦一以救ニ｜-｜一。」「｜禹胼-胝」。
(黴瘠) かび生じてやせ衰ふると。〇〔唐〕「堯舜｜」
(損瘠) そこなひ減ず。〇〔管〕「道有ニ｜-｜一矣」。
(瘦瘠) 體やす。〇〔古今注〕「｜-｜能高飛」。
(沃瘠) 地味の肥えたるとやせたると。〇〔宋〕「｜-｜異レ壤」。「ニ興レ嵐｜レ｜」。
(起瘠) 病みてやせたるものを回復せしむ。〇〔庾信〕
(磽瘠) 小石のまじりて肥えをらざると。〇〔陸游〕「｜-｜財三-畝」。

【𤻖】ホ、プ。薄故切 遇
つかへのやまひ、(痞-病)。

【痡】ハイ、ベ。薄拜切 卦
憊に同じ。

【瘡】サウ。初莊切 陽
㊀皮膚病の總名、はれもの、できもの、かさ。〇〔晉〕「石患ニ面｜一。」
㊁體の傷つきたると、きず。〇〔南〕「虎-魄療ニ金-｜一。」

(故瘡) ふるきず。〇〔戰〕「｜-｜未レ息」。
(舐瘡) きずを嘗む。〇〔拾遺記〕「自｜ニ其｜一。」
(傅瘡) きずに藥をつく。〇〔唐〕「賜レ藥｜レ｜」。
(養瘡) きずの治療をなす。〇〔北〕「｜レ｜一-月」。
(吮瘡) はれものゝ膿を吸ふ。〇〔唐〕「｜レ｜注レ藥」。
(塗瘡) きずにぬりつく。〇〔參同契〕「以レ塗｜レ｜」。
(惡瘡) たちのあしきはれもの。〇〔酉陽雜俎〕「主治ニ｜-｜一。」

【瘢】ハン、バン。蒲官切 寒
已に愈えたる瘡の痕跡、きずあと、きず。〇〔後漢〕「吳-王好ニ劍-客一、百-姓多ニ瘡-｜一。」

(滅瘢) きずあとをなくす。〇〔漢〕「美-玉可ニ以｜レ｜」。
(索瘢) きずあとをさがす。〇〔唐〕「急則洗レ垢｜レ｜」。
(傷瘢) きずのあと。〇〔舜諧記〕「｜-｜甚多」。
(蘚瘢) こけのあと。〇〔汪克寬〕「｜-｜拂-拭讀ニ殘-碑一」。

【瘒】グワン、ゲン。吾還切 刪　クン、ゴン。渠云切 文
手足痲痺す、しびる。

【瘣】クワイ、エ。乎罪切 賄　胡冋切 灰
㊀やむ、やまひ、(病)、一說に、腫れ物がたはらに出づ。
㊁木の病みて枝無きと、又、木の瘤、こぶ。〇〔爾〕「｜木苻-婁」。
㊂山の高峻なる貌にいふ字、たかし。〇〔史〕「巖-磈-嵔-｜」。

【瘣】ライ、レ。路罪切 賄
木の枝の節の盤結する貌にいふ字。

【瘤】俗の瘤の字、こぶ。〇〔南〕「景左-足上有ニ肉-｜一。」

〔贅瘤〕こぶのこと。〇〔韓愈〕「若將下以二名位一爲二ーー、貨財爲中塵垢上也」。

【瘀】チヨ、遲據切 ドゥ。 チヨ、抽據切 ト。 ［御］

【瘀】チヨ、ド。直魚切 ［魚］
㊀さかさらず（不達）。㊁はれあし（瘇）。

【瘀】瘀に同じ、きずあさ（瘢）。

【瘟】イ。於賜切 ［寘］
やむ、やまひ（病）。

【瘣】タイ、テ。吐猥切 ［賄］
瘣ーーは、風病。

【瘣】タイ、テ。他內切 ［隊］
瘣に同じ。

【瘥】サ、ザ。才何切 ［歌］ サ、セ。子邪切 ［麻］
㊀疾病、やまひ、又、小疫、こやみ。〇〔詩〕「天方薦レーー」。「竟至二痤ーー一」。
㊁いゆ、いやす（癒）。〇〔開元天寶遺事〕
〔札瘥〕わかじにと病氣と。〇〔舊唐〕「ーーー相仍」。
〔衆瘥〕もろもろのやまひ。〇〔葉適〕「一・善禳二ーー一」。

【瘥】サイ、セ。楚懈切 ［卦］ サ、セ。楚嫁切 ［禡］
前條の㊁に同じ。

【瘌】エン。以冉切 ［琰］
きずつく（傷）。

【瘀】俗の欬の字。

【瘦】シウ、シユ。所救切 ［宥］ 疎鳩切 ［尤］
やす（瘠）。〇〔揚雄〕「山殺ーー」。
〔羸瘦〕からだやす。〇〔後漢〕「禮久餓ーーー」。

〔瘠瘦〕前に同じ。〇〔曹植〕「肌肉ーーー」。
〔肥瘦〕こえたるとやせたると。〇〔南〕「短長ーー、皆有二比擬一」。
〔疎瘦〕まばらにしてやす。〇〔晉〕「ーーー如二隆冬之枯樹一」。
〔疲瘦〕つかれやす。〇〔北〕「人馬ーーー」。
〔老瘦〕年ふけてやす。〇〔杜甫〕「所親驚二ーーー一」。
〔清瘦〕やす。〇〔蘇軾〕「沈郎ーーー不レ勝レ衣」。

【瘇】ツヰ。馳僞切 ［支］
やむ、やまひ（病）。㊁腿に同じ、足腫る。

【瘣】タイ、テ。吐猥切 ［賄］
瘇ーーは、踵の疾。

【瘣】タイ、デ。徒回切 ［灰］
男子の陰部の病、まへのやまひ。

【瘶】ケン、コン。許兼切 ［鹽］
喉の病。

【瘺】レン、ロン。離鹽切 ［鹽］
やするやまひ（臞疾）。

【瘥】ダ、ナ。乃嫁切 ［禡］
やむ、やまひ（病）。

【瘍】チ、ウ。於五切 ［麌］
やむ、やまひ（疾）。

【瘧】ギヤク、ガク。逆約切 ［藥］
或は隔日に或は毎日に時を定めて起こり先には寒くなり後には熱くなる疾病、わらはやみ、おこり。〇〔禮〕「孟夏之月寒熱不レ節、民多二ーー疾一」。
〔温瘧〕おこりのはじめは熱し後には寒きもの。〇〔晉〕「或若二ーーー一」。

【瘨】テン。多年切 ［先］ 丁練切 ［霰］
テン、デン。徒典切 ［銑］ シン。之刃切 ［震］
㊀やむ（病）又、くるふ（狂）。〇〔詩〕「胡寧ーレ我以レ旱」。
㊁腹張る、はらはる。
㊂たふる、たふす（倒）。

【瘨】シン。稱人切 ［眞］
前條の㊀に同じ。

【瘸】ラウ。力岡切 ［陽］
危篤の人の吭の聲にいふ字。〇〔唐椿原病集〕「病危喉中瘸ーー聲」。

十一畫

【瘅】ヒ、ビ。毗至切 ［寘］ ヘツ、ベチ。必結切 ［屑］
㊀足の氣順ならずして筋を轉結するところ、こぶらがへり。
㊁脚の冷ゆる病、濕病。

【瘬】俗の痕の字。

【瘭】ヘウ。卑遙切 ［蕭］ 匹妙切 ［嘯］
一種の病疽、肉中忽ち點（ほし）を生じて大いなるものは豆の如く小さきものは粟の如く甚しきものは梅李の如し、根有りて其の痛み心に應へ久しくなれば四面腫る。〇〔後漢〕「中國之困二胸背之ーー疽一」。

【瘮】シン、ソン。楚錦切 ［寑］
㊀駭き恐るゝ貌にいふ字、おづ。
㊁ひえのやまひ（寒病）。

【瘢】チ。陟里切 ［紙］

腸に起こる病。

【瘯】ソク、ゾク。千木切 ［屋］
一種の皮膚病、ひぜんの類。〇〔左〕「謂二其不レ疾ーー蠡一」。

【瘵】テイ。竹例切 ［霽］
㊀一種の瘡、かさ。
㊁或は白く或は血を交へたる穢物の下痢するを、ゐろなめ、あかなめ。

【瘵】タイ。當蓋切 ［泰］
赤ーー、白ーーは、婦人の下部の病、赤ーーは月經の度を失ひて下るを、ながち、白ーーは、子宮の液の或は白く或は血を交へて下るを、ゐらち。

【瘍】タク、テキ。丑厄切 ［陌］
ひえのやまひ（寒病）。

【瘍】シヤウ、サウ。尸羊切 ［陽］
ふさぎ（憂病）。

【瘰】ラ。魯果切 ［哿］ 盧戈切 ［歌］
㊀ーー癧は、瘍の頸項の邊に繞り絫りて生ずる病、るゐれき、ぐりぐり。〇〔方書〕「ーーー或在二耳後頤項缺盆一」。
㊁皮のかさなり肥ゆるを、一說に、ひぜんがさ（疥病）。

【瘰】ライ、レ。魯猥切 ［賄］
前條の㊁に同じ。

【瘶】アイ、エ。於賣切 ［卦］
病劇くしてうめく聲にいふ字。

【⿸疒殹】イ。於其切 支
㊀前條に同じ。㊁つかる、(羸)。

【瘱】エイ、アイ。於計切 霽
㊀しづか、(靜)。○〔漢〕「婉—有ニ節-操一」。
㊁つまびらか、(審)。○〔揚雄〕「—諦審也、齊楚曰レ—秦、晉曰レ諦」。
㊂おくふかし、(深-邃)。○〔王褒〕「其妙-聲則淸-靜猒—」。

【⿸疒先】セン。息淺切 銑
癬に同じ、ひぜん。○〔史〕「吳有レ越腹-心之病、齊與レ吳疥—也」。

【瘲】ショウ、シュ。足用切 腫、將容切 冬
瘲—は、一種の風病、きやうふう。○〔漢〕「金-創瘲—方三十卷」。

【⿸疒責】セキ、ジヤク。情亦切 陌
やす、(瘦)。

【瘳】チウ、チユ。丑鳩切 尤
レウ。憐蕭切 蕭
㊀いゆ、いやす、(癒)。○〔書〕「若藥弗ニ瞑-眩一、厥疾弗レ—」。
㊁へす、へる、(損)。○〔國〕「君不レ度而賀、大國之襲於レ己何—」。

【⿸疒虘】サ、セ。側加切 麻
かさぶた、(痂-甲)。

【瘴】シヤウ。之亮切 漾
㊀山川のあしき氣に中たりて起こる一種の熱病。○〔晉〕「然多ニ—-疫一」。
㊁熱病をおこす山川のあしき氣。○〔唐〕「山多ニ氛—一」。
〔炎瘴〕熱のやまひ。○〔宋〕「除-赴以レ時以避ニ——一」。
〔山瘴〕やまの惡癘の氣。○〔王胄〕「百-越多ニ——一」。
〔毒瘴〕惡癘の氣。○〔杜甫〕「——未レ足レ憂」。
〔蠻瘴〕南方地方の惡疫の氣。○〔張九成〕「一-擁——腥」。

【⿸疒耑】タ。他果切 哿
腰の病。

【⿸疒享】コ、ク。荒故切 遇
始めて病むにいふ字、(江淮の語)。

【瘵】サイ、セ。側賣切 卦
勞れ病む、やむ。○〔戰〕「上-天甚明無ニ自—一」。
〔凋瘵〕つかれやむ。○〔吳師道〕「淸-淨撫ニ——一」。
〔衰瘵〕前に同じ。○〔孟郊〕「——嬰ニ殘-身一」。
〔尩瘵〕前に同じ。○〔蔡邕〕「疾-病——者」。
〔沈瘵〕ふかきつかれ。○〔當袞〕「轉加ニ——一」。

【瘵】セイ。征例切 霽
㊀やむ、(病)。
㊁筋の或は引き或は縱む病。

【瘶】ソウ、ス。蘇奏切 宥
嗽に同じ。

【⿸疒欶】サク、シヤク。色責切 陌
寒き貌にいふ字。

【⿸疒泰】トウ、ドウ。徒登切 蒸
いたむ、いたみ、(痛)。

【⿸疒裹】クワ。古禾切 歌
㊀禾の苗を蟲の傷害したるを。
㊁かさ、(瘡-病)。

【⿸疒習】シフ。席入切 緝
㊀しびる、(痺)。㊁小しく痛む、いたむ。

【瘸】クワ、グワ。巨靴切 歌
手足の病、てあしのやまひ。

【瘹】テウ。多嘯切 嘯
㊀くるふ、(狂)。㊁小兒の病。

【瘺】ロウ、ル。力侯切 尤
かさ、(瘡)。

【瘻】ロウ、ル。郎豆切　リウ、ル。力救切 宥　ル、ロ。龍遇切 遇
頸の腫るゝ病、くびはれ、一說に、久しく癒えざる創、かさ。○〔山海經〕「半石之山合-水出ニ于其陰一、多ニ鰧-魚一、食者不レ癰、可ニ以已レ—一」。

【瘻】ル。力朱切 虞
痀—は、くゞせ、せむし、(曲-脊)。

【⿸疒殹】エイ、ヤウ。噎寧切 徑
歐く聲にいふ字。

【瘼】バク、マク。末各切 藥
やむ、(病)。○〔詩〕「亂-離—矣」。
〔疾瘼〕やまひ。○〔方干〕「能除ニ——一似ニ良-醫一」。
〔疹瘼〕はしかのやまひ。○〔沈遼〕「和-氣終須レ蠲ニ——一」。
〔深瘼〕ふかくしづみたるやまひ。○〔馬祖常〕「恤レ隱發ニ——一」。

【瘽】キン、ゴン。巨斤切 文、渠巾切 眞、渠吝切 震、巨謹切 吻
やむ、やまひ、(病)。

【⿸疒啚】ヒ。補美切 紙
腸の中の結ぼる病、つかへ。

【⿸疒寧】ダウ、ニヤウ。女耕切 庚
やむ、やまひ、(病)。

【⿸疒連】レン。連彥切 霰
惡しき病。

【癕】ヨウ、ユ。於容切 冬
鼻の香臭を知らざるを。

【⿸疒奞】シン。相印切 震
鳥の奮ふにいふ字。

【⿸疒得】トク。的則切 職
やむ、やまひ、(病)。

十三畫

【⿸疒皐】ケウ。馨幺切 蕭
㊀腫れ物の潰えんと欲するにいふ字。㊁はる、(腫)。

【瘇】ショウ、ジユ。時勇切 腫
足腫る、あしはる。

【⿸疒童】トウ、ヅ。徒東切 東
創のやぶれ潰ゆるにいふ字。

【癀】クワウ、ワウ。胡光切 陽
きばむやまひ、わうだん、(疸-病)。

【⿸疒貴】 タイ、デ。徒回切 [灰] 男子のかくしどころのやまひ、(陰-病)。

【⿸疒貴】 タイ、デ。徒對切 [隊] 下の病の潰ゆるにいふ字。

【⿸疒敫】 セイ、セ。朱芮切 [霽] こぶ、(瘤-腫)。

【⿸疒扁】 ヘン、ベン。毗面切 [霰] しゝ、(肉)。

【瘏】 ト、ツ。同都切 [虞] やむ、やまひ、(病)。

【癁】 フク、ボク。房六切 [屋] ㊀やむ、やまひ、(病)。○[揚雄]「癁病也、東-齊海-岱之閒曰レ癁或曰レー」。㊁復に同じ。

【療】 レウ。力弔切 [嘯] 病を治む、いやす、なほす。○[周]「凡ーレ瘍以二五-毒一攻レ之」。
(救療) たすけいやす。○[北]「者爲二ーー一」。
(求療) 病をいやすことをたのむ。○[後漢]「詣二佗ーレ」「ーー何晉差」。
(治療) やまひをおさめいやす。○[白居易]「兩頭
(攻療) 前に同じ。○[北]「審合和藥劑ーー之驗」。

【療】 シャク、サク。式灼切 [藥] 藥に同じ、やむ。

【⿸疒爲】 井。羽委切 [紙] 口咼む、ゆがむ。

【⿸疒晉】 セン。切親然 [先] シン、ジン。切子朕 [寢] サン、ソン。切七感 [感] いたむ、(痛)。○[漢]「榜-箠ー二於炮-烙一」。

【⿸疒斯】 セイ、サイ。先齊切 [齊] 聲の散り拔くにいふ字。○[揚雄]「ー拔-散也、東-齊聲散曰レー、秦、晉聲變曰レー」。

【⿸疒斯】 シ。相支切 [支] むせぶ、(噎)。○[揚雄]「ー噎也、楚曰レー」。

【⿸疒參】 俗の疹の字。

【⿸疒登】 トウ。都騰切 [蒸] 病の甚しきにいふ字。

【癃】 リウ、リユ。力中切 [東] つかる、(罷)、おゆ、(老)。○[漢]「年老ーー病勿レ遣」。

【癄】 セウ、ゼウ。慈焦切 [蕭] 憔に同じ。

【癄】 セウ。切子笑 [嘯] サウ、セウ。切則教 [效] ちゞむ、(縮)、やむ、(病)。○[漢]「是以纖-微ーー瘁之音作而民思-憂」。

【⿸疒敢】 俗の憨の字。

【⿸疒鳥】 サ、セ。思嗟切 [麻] かゆし、(癢)。

【⿸疒番】 ハン。普官切 [寒] 病みて死ぬ、しぬ。

【瘤】 リウ、ル。切力求 [尤] 切力救 [宥] 病みて膚肉の堆くなりたるもの、こぶ、瘜肉。○[抱朴]「粉-黛至則西-施以加レ麗、而宿ー以藏レ醜」。

【癆】 ラウ、ロウ。切郎到 [號] 切郎刀 [豪] レウ。切憐蕭 [蕭] ㊀藥の反ッて毒を致すこと。㊁いたむ、(痛)。㊂疲勞して瘦すること。

【癟】 ヘツ、ヘチ。必列切 [屑] 腫れ滿ちて皮の裂くるにいふ字、かはさく。

【⿸疒曷】 ゲツ、ゲチ。五紇切 [屑] 痟ーは、癡かなる貌にいふ語。

【⿸疒葉】 シヤ、ゼ。神夜切 [禡] 病多し。

【癇】 カン、ゲン。何閒切 [刪] 小兒の癲病、筋肉の搐きつるやまひ、きやうふう。○[後漢]「哺-乳多則生二ーー病一」。

【⿸疒費】 ヒ、ビ。父沸切 [未] ㊀ー痱は、熱して悶ゆること。㊁盛んに腫る、はれあがる。

【癈】 ハイ、ヘ。放吠切 [隊] 病の固まりて愈えず病める局處遂に用をなす能はざるもの、固病。

【癉】 タン。得案切 [翰] ㊀やむ、やます、(病)。○[書]「彰レ善ーレ惡」。㊁勞病、つかれ。○[左]「荀-偃ーー疽」。㊂一種の熱病、わうだん。○[漢]「南方暑-濕、近レ夏ーー熱」。

【癉】 タ。丁賀切 [箇] ㊀前條の㊀に同じ。㊁つかる、(勞)、くるしむ、(苦)。○[王禹偁]「商民久勞ーー」。

【癉】 タ。丁可切 [哿] ㊀つかる、(勞)。㊁いかる、(怒)。

【癉】 タン。多寒切 [寒] ㊀一種の熱病。○[漢]「ーー十二病-方」。㊁手足の關節の痛む病、風疾。

【癉】 タン。切黨旱 [旱] 切多簡 [潸] ㊀前條の㊁に同じ。㊁容易に制し難し、かたし。○[張衡]「飛-礫雨散剛ーー必斃」。

【癊】 イン、オン。於禁切 [沁] 心(むね)の中の病。

【⿸疒閔】 ビン、ミン。美隕切 [軫] やむ、やまひ、(病)。

【⿸疒㓞】 ケイ。去例切 [霽] ㊀頭の瘍、かさ。㊁はげ、(禿)。㊂肢(はだ)を傷る。

【⿸疒虎】 ギャク、ガク。逆約切 [藥] おこり、(瘧)。

十三畫

【⿸疒亶】 タン。切多旱 [旱] タ。切丁賀 [箇]

癉に同じ、やむ、やます(病)。○[禮]「有二國-家一者、章レ善－レ惡以示二民厚一」。

【⿸疒亶】タン。得案切 翰
たむし(癬病)。

【⿸疒亶】タン、ダン。唐干切 寒
えやみ(疫病)。

【癐】クワイ、ケ。古外切 泰
病甚し、やまひおもし。

【癐】井。影規切 微
喊の聲にいふ字。○[輟耕錄]「淮-人寇二江-南一齊レ聲大二喊阿－－－－一」。

【癑】ドウ、ヌ。乃湩切 送
奴動切 董 奴凍切 東
㊀いたむ(痛)。㊁瘡潰ゆ、やぶる。

【癑】ドウ、ヌ。奴冬切 冬
うみしろ(膿血)。

【癑】ドウ、ヌ。奴宋切 宋
やむ、やまひ(病)。

【⿸疒雋】セン、ゼン。粗兗切 銑 シュン、ジュン。
オ尹切 軫
大いに痒し、かゆし。

【癒】ユ。勇主切 麌
瘉に同じ、いゆ。

【⿸疒勠】リク、ロク。力竹切 屋
やむ、やまひ(病)。

【⿸疒微】ビ、ミ。無非切 微
足の上に生ずる瘡、はじきがさ。

【癔】ヨク、オク。乙力切 屋
思ひ煩ふよりして起こる病、きやみ、心意病。

【癕】ヨウ、ユ。於容切 冬
癰に同じ。○[史]「如下以二千-鈞之弩一決中-潰－上」。

【癖】ヘキ、ヒヤク。匹辟切 陌 匹歴切 錫
㊀飲食の消化せざるやまひ。○[抱朴]「飲過則成二痰－－一」。
㊁偏りたる嗜好ある性質習慣、やまひ、くせ。○[白居易]「人皆有二一－一、我－在二章-句一」。
〔錢癖〕せにをほしがるやまひ。○[晉]「杜-預以-爲、嶠有二－－一」。
〔詩癖〕からうたを嗜好するやまひ。○[梁]「七-歲「有二－－一」。
〔潔癖〕物事を清くせねば氣のすまぬくせ。○[宋]「好レ－成レ－」。
〔睡癖〕眠むることを好むくせ。○[齊東野語]「杜牧有二－－一」。
〔病癖〕嗜好のために心をとらるゝくせ。○[平陽人物志]「好-詞工-書者－－也」。
〔書癖〕書籍を好むくせ。○[高適]「－－杜荊州」。
〔酒癖〕さけの上の惡しきくせ。○[皮日休]「妻仍嫌二－－、醫只禁二詩-情一」。
〔嬾癖〕物事に對してものうくなるくせ。○[茅坤]「遂成二－－一」。
〔腸癖〕腸胃のはたらき惡しくして下痢の催すやまひ。○[秦觀]「夏得二－－之病一」。
〔舊癖〕ふるくよりつきあるくせ。○[林景熙]「貧-妳秋-燈餘二－－一」。
〔嗜癖〕物事をすき好むくせ。○[袁桷]「－－成二書-囊一」。
〔痼癖〕永くわづらひをる病の如くになれるくせ。○[潘岳]「煙-霞成二－－一」。
〔醫癖〕あしきくせを治療すること。○[僧圓至]「大-醫不レ－レ－」。

【⿸疒奧】アウ、オウ。於到切 號
いたむ(痛)。

【⿸疒雷】ライ、レ。魯猥切 賄
皮起こる、小しく腫る、はる。

【⿸疒虜】ロ、ル。魯故切 遇
瘻に同じ。

【癘】レイ。力制切 霽 ライ。落蓋切 泰
㊀惡しき瘡を生ずる一種の疾、即ち、かったゐの類。○[史]「時病レ－歸レ國」。
㊁えやみ(疫)。○[左]「－-病不レ降」。
㊂はげむ(勵)。○[漢衡方碑]「砥レ仁－レ義」。
㊃ころす(殺)。○[管]「不レ－二雞-豰一」。
㊄きたふ、にらぐ(淬)。○[管]「戈-戟之堅、其－何若」。
〔瘴癘〕惡疫のこと。○[南]「寄二命－－之地一」。
〔疥癘〕かゆきふきでものゝやまひ。○[禮]「民多二－－一」。
〔疫癘〕えやみ。○[後漢]「詔以二－－水-潦一令三人半二輸今年田租一」。
〔疾癘〕やまひ。○[北]「合二諸-藥一以救二－－一」。
〔饑癘〕うゑとえやみと。○[唐]「因以－－」。
〔瘡癘〕かさ。○[神異經]「食レ之可二以止二－－一」。
〔瘧癘〕おこりのやまひ。○[杜甫]「－－三-秋孰可レ忍」。

【⿸疒僉】ケン。火占切 鹽
㊀物の喉の中をそこなふ病。㊁どくむしのきず(蠚-瘍)。

【⿸疒歲】井。烏胃切 未
あし(惡)。

【⿸疒皐】エウ。餘招切 蕭
ねぶと(癤)。

【⿸疒睪】エキ、ヤク。夷益切 陌
病傳染す、うつる。

【癙】ショ、ソ。賞呂切 語 商署切 御
㊀憂苦病、ふさぎ、又、其のやまひにかかる、うれふ。○[詩]「－-憂以痒」。
㊁あなを生ずるふきでもの。○[淮]「貍-頭療レ－」。

【⿸疒暑】ショ、ソ。賞呂切 語
暑さに中たれる病、あつけ。

【⿸疒遂】ス井。雖遂切 寘
風－-病。

【⿸疒詹】タン、トン。都濫切 勘
おろか(癡)。

【癛】リン。力稔切 寢 キン、コン。力錦切 寢
キン、ゴン。渠金切 侵
身に寒氣を感ず、さむけだつ、又、其の病、さむけ。

【癛】ヒン、ホン。筆錦切 寢
やむ、やまひ(病)。

【⿸疒愛】アイ、エ。烏對切 隊
しびる、しびれ(痿)。

【⿸疒頑】グワン、ゲン。五鰥切 刪
しびれやまひ(痺-病)。

【癙】ショ、ソ。㧗所切　語
俗に楚に借り用ふ、いたむ（痛）。

【癜】テン、デン。都見切　霰
皮膚に斑を生ずる一種の病、紫白の二種あり、なまづ。○〔本草綱目〕「治レ—用二茄-蔕一」。

【癀】フン、ボン。符問切　問
—痱は、かさのもだえ（瘡-悶）、一説に、熱して腫る。

【癀】フン、ボン。父吻切　吻
病み悶ゆ、もだゆ、くるしむ。

【癀】フン、ボン。符分切　文
—沮は、憂ひ煩ふ貌にいふ語、うれふ、一説に、熱にて腫るゝもの、はれもの。

十四畫

【癰】ヨウ、ユ。於容切　冬
癰に同じ、はれもの。○〔漢〕「發二頸—一」。

【㿀】ヒ、ビ。毗至切　寘
㊀やむ、やまひ（病）。㊁手冷ゆ。

【瘰】ラ。力火切　哿
るゐれき（瘰癧）、一説に、瘰の字の譌り。

【癔】イン、オン。於謹切　吻
皮の外に小さく起こるもの、かさぼろし。

【癨】クワク、ワク。黄郭切　藥

【㿃】瘀——は、喉の塞がりて物の通らざる病、かくのやまひ。

【癯】ヤク。弋灼切　藥
やむ、やまひ（病）。

【癈】ハイ、ベ。蒲拜切　卦
つかる（疲-極）、一説に、俗の痛の字。

【㿅】タウ、トウ。都老切　皓
やむ、やまひ（病）。

【癦】チウ、ヂユ。直祐切　宥
疛に同じ、また腹の病。

【㿆】チウ、ヂユ。陳留切　尤
むなさわぎ（心-悸）。

【癒】カフ、ケフ。古洽切　洽
㊀羊の蹄の閉の疾、又、獸の足の病。㊁かさ（創）。

【癥】セツ、セチ。子結切　屑
はれもの（癰）。

【㿉】ヘツ、ベチ。蒲結切　屑
㊀飛ぶ能はざるにいふ字。㊁枯るゝ病。㊂戾—は、正しからず。

【癠】セイ、ザイ。才詣切　霽
㊀やむ（病）。○〔禮〕「親—色-容不レ盛、此孝-子之疏-節也」。㊁ちひさし（小）、みじかし（短）。○〔揚雄〕「江-湘閒凡物生而不二長-大一曰レ—」。

【癠】セイ、ザイ。徂禮切　薺
前條の㊀に同じ。

【癠】セイ、ザイ。前西切　齊
やむ、やまひ（病）。

【㿇】カイ。口蓋切　泰
喉の病。

【㿈】アフ、オフ。烏合切　合
短き氣。

【癡】チ。丑之切　支
神思足らざると、さとからず、おろか、不慧。○〔晉〕「湛有二隱-德一、人皆以爲レ—」。
〔白癡〕極めて不慧なると。○〔左、註〕「蕤世所レ謂—•—」。
〔虎癡〕猛勇にして不慧なると。○〔魏〕「軍-中呼二—•—一」。
〔書癡〕書物に耽りて物事に心を寄せざると、其のさま不慧なるが如くに見ゆ。○〔劉從益〕「蹉-跎歲-晚坐二—•—一」。
〔狂癡〕精神の亂れて不慧になると。○〔桑琰〕「恍-惚生二—•—一」。
〔大癡〕いたく不慧なると。○〔韓愈〕「小-黠—•—」。
〔愚癡〕おろか。○〔歐陽修〕「金紫包二—•—一」。
〔驕癡〕たかぶりておろかなると。○〔宋之問〕「幼-稚—二—侯-門樂一」。
〔頑癡〕理非の分別なく不慧なると。○〔韋應物〕「飮-酒肆二—•—一」。
〔斷癡〕不慧を去る。○〔白居易〕「—レ—求二慧-劍一」。
〔誡癡〕不慧ならざるやう心に戒む。○〔曹松〕「不二是除二貪即—レ—」。
〔絕癡〕不慧をなくなす。○〔陸游〕「此計又—レ—」。
〔坐癡〕不慧なるによる。○〔路鐸〕「玄-晏躭レ書昔—レ—」。

十五畫

【㿗】ダウ、ニヤウ。尼庚切　庚
やむ、やまひ（病）。

【癤】セツ、セチ。子結切　屑
瘍に似て輕き腫れもの、ねぶと。

【癢】ヤウ。餘兩切　養
痒に同じ、かゆし。○〔列〕「指-擿無二痟-—一」。
〔伎癢〕伎倆を懷きて心中のうづがゆき心地すると。○〔風俗通〕「高-漸-離變レ姓易レ名、爲二人庸-保一、匿作二于宋子一、久レ之作苦、聞二其家堂上有レ客擊レ筑、—•—不レ能レ無レ出レ言」。

【㿖】ロ、ル。魯故切　遇
つかへるやまひ（痞）。

【癧】レウ。力弔切　嘯　ラク。歷各切　藥
病を治む、いやす。○〔詩、箋〕「泌-水之流洋-々-然、飢者見レ之可二飮以—レ飢」。

【㿨】ヤク。弋灼切　シヤク、式灼切　藥　サク。
やむ（病）一説に、病の消ゆるにいふ字。

【瘩】瘰に同じ。

【癥】セツ、セチ。子結切　屑
はれもの（癰）、かさ（瘡）。

【癥】チヨウ。知陵切　蒸
腹にかたまりの生ずるやまひ。○〔史〕「以レ此視レ病、盡見二五-藏—-結一」。

【㿜】ヘン、婢典切　銑　ベン。毗面切　霰
ふうしつ（風-疾）。

【㿦】ハン、バン。並㬋切　寒
足の疾。

十六畫

【⿸疒閻】エン、オン。余廉切 [鹽] ㊀走を病む。㊁かさ（創）。

【⿸疒盧】ロ、ル。龍都切 [虞] 癰の類、はれもの。

【⿸疒盧】ロ、ル。洛故切 [遇] つかへ（瘔）。

【⿸疒頹】タイ、デ。徒回切 [灰] 男子の陰病、かくしどころのやまひ。

【⿸疒蘇】ソ、ス。孫租切 [虞] やむ、やまひ（病）。

【癧】レキ、リヤク。狼狄切 [錫] 瘰の字の條を見よ。

【癨】クワク、ワク。忽郭切 [藥] 邪氣にあたりて起こる一種の疾病、或は筋つり、或は腹痛み、或は悶えはら脹り、或は胸悪しくして吐瀉す。

【⿸疒瞢】ボウ、モウ。彌登切 [蒸] 病人の行くにいふ字。

【⿸疒憲】ケン、コン。許偃切 [阮] ひえのやまひ、ひえ（寒-病）。

【⿸疒龍】リヨウ、リユ。梁川切 [腫] 病む。

【癩】ライ。落蓋切 [泰] 一種の悪疾、悪瘡を生じて全身次第に敗腐するもの、かったゐ、らいびやう、かたゐ。○[論、註]「先-儒以爲ㇾ―」。

【瘌】ラツ、ラチ。郎達切 [曷] 癩に同じ。

【⿸疒器】キ。去冀切 [寘] やむ、やまひ（病）。

十七畫

【⿸疒韱】サン、セン。叉鑑切 [陷] やむ、やまひ（病）。

【⿸疒營】エイ、ヤウ。維傾切 [庚] 病作こる、おこる。

【癬】セン。蘇典切 [銑] 膚に生ずる痒き瘡、次第に從り行きて蔓延す、たむし、乾瘍。○[左、註]「皮-毛無二疥―一」。

【癭】エイ、ヤウ。於郢切 [梗]、伊盈切 [庚] 頸上の瘤、こぶ。○[嵇康]「頸處ㇾ險而―」。（結癭）こぶをふきたす。○[化書]「慣則―ㇾ―」。

【⿸疒興】ヨク、イキ。逸識切 [職] やむ、やまひ（病）。

【⿸疒番】カウ。呼剛切 [陽] 聲にいふ字。

十八畫

【癯】ク、ゴ。其俱切 [虞] 臞に同じ、やす。○[漢]「形容甚―」。

【⿸疒雚】クワン。古玩切 [翰] やむ、やまひ（病）。

【⿸疒奧】ヒ、ビ。匹備切 [寘] 氣の滿つるにいふ字、みつ。

【⿸疒靡】バ、マ。莫婆切 [麻] 半身ふずゐ（偏-病）。

【癰】ヨウ、ユ。於容切 [冬]、委勇切 [腫] 危害なる一種の悪しき瘡、ぼんのくぼ或は背等に發す。○[後漢]「多病二―疽脛-腫一」。

【⿸疒雋】ヰ。愈水切 [紙] きずの裂くるにいふ字、つぶる。

【⿸疒巂】クワイ、ケ。呼卦切 [卦] おろか（愚）。

十九畫

【⿸疒羅】ラ。郎佐切 [箇] やむ、やまひ（病）。

【癱】タン。他丹切 [寒] 風―は、筋脈のしびれてきかぬ病。

【癲】テン。都年切 [先] 精神顛倒す、くるふ。

【⿸疒羸】ル井。倫爲切 [支] やみ疲る、つかる。

【⿸疒麗】レイ、ライ。郎計切 [霽]、リ。鄰知切 [支]、輦介切 [紙] ㊀はれもの（癰）。㊁やせてくろし（瘦-黑）。

【⿸疒麗】レキ、リヤク。狼狄切 [錫] 癧に同じ。

【⿸疒䜌】ラン。落官切 [寒] やむ（病）、又、やす（瘦）。

【⿸疒䜌】レン。閭員切 [先] やみて體の拘曲するにいふ字、かゞまる、ひきつる。

【⿸疒蠆】ライ。落帶切 [泰] 悪しき疾。

【⿸疒蠆】レイ。力制切 [霽] えやみ（疾-疫）。

廿二畫

【⿸疒歡】クワン。火管切 [旱] いたむ（痛）。

廿三畫

【⿸疒攣】俗の⿸疒䜌の字。

癶部

【癶】ハツ、ハチ。北末切 [曷] ㊀そむく（背）。○[元包經]「昆-北――」。㊁ゆく（行）。○[元包經]「漸辵之―」。

四畫

【癸】キ。居誄切 [紙]

❶はかる（揆）。○〔史〕「—之爲レ言揆也、言三萬-物可二揆-度一也」。
❷十幹の末位のもの、みづのと、時に配しては冬、方に配しては北、五行に配しては水。○〔漢〕「陳二揆于—一」。
〔庚癸〕（い）かのえとみづのと。○〔左、註〕「—西-方主レ穀、—北-方主レ水」。
（ろ）軍中にて糧食飲料を求むるに用ふる隱語。○〔左〕「吳申-叔-儀乞二糧于公-孫有-山-氏一、對曰、若登二首-山一以呼曰二—・—一乎則諾」。
〔天癸〕月經、つきのさはり、めぐり。○〔素問〕「女-子二-七而—・—至」。

【癹】
ハツ、ハチ。普活切 曷

かる、（芟）。○〔左〕「—三夷蘊二崇之一」。

七畫

【登】
トウ。都騰切 蒸

❶すゝむ。
（い）上に至る、あがる、のぼる。○〔易〕「初—二于天一」。
（ろ）上に至らしむ、あぐ、のぼす。○〔書〕「疇咨若レ時—庸」。
（は）たてまつる、（上）。○〔禮〕「農乃—レ麥」。
（に）加ふ、加はる。○〔左〕「皆—レ一」。
（ほ）たふさぶ、（尊）。○〔禮〕「—レ龜」。
❷なる、なす、（成）。○〔書〕「以—二乃辟一」。
❸さだむ、さだまる、（定）。○〔周〕「頒二比-法于六-鄕之大-夫一使三各—二其鄕之衆-寡六-畜車-輦一」。
❹みのる、（熟）。○〔孟〕「五-穀不レ—」。
❺力を用ふるときのかけ聲にいふ字。○〔詩〕「築レ之—・—」。
❻おほし、（衆）、又、たかし、（高）。○〔國〕「不レ哀二年之不一レ—」。
〔先登〕（い）人にさきだちて升る。○〔詩〕「誕—・—於岸一」。
（ろ）眞さきに進みゆく。○〔李陵〕「猶復徒-手奮-呼爭爲二—・—一」。
〔前登〕前の（ろ）に同じ。○〔後漢〕「精兵八-百、强-弩千-張、以爲二—・—一」。
〔不登〕（い）のぼせぬこと。○〔左〕「鳥-獸之肉、—レ—」「于俎一」。
（ろ）豐稔ならざること。○〔漢〕「間-者數-年比—レ—」。
〔畢登〕みなすべて升る。○〔左〕「鄭-師—・—」。
〔白登〕春の名。○〔史〕「上出二—・—一、匈-奴騎圍レ上」。
〔延登〕延き入れて殿上にのぼす。○〔漢〕「—二—賢-俊一、招二顯側-陋一」。
〔咸登〕悉くみのる。○〔漢〕「年-歲未二—・—一」。
〔歲登〕其の年の豐穰なること。○〔宋〕「時和—・—」。
〔秋登〕あきの收穫のゆたかにあること。○〔褚白馬賦〕「霽濕月霜、霜戾—・—」。
〔攀登〕よぢのぼる。○〔曹植〕「願二—・—一而無レ階」。
〔禾登〕稻よくみのる。○〔杜甫〕「豈知二秋—・—一」。
〔善登〕上手に升る。○〔爾〕「猶如二麂—・—一レ木」。
〔趨登〕かけ走りてあがる。○〔左〕「其右提-彌-明知レ之—・—」。
〔擢登〕拔きあげのぼす。○〔後漢〕「—二—三-事一」。
〔超登〕衆にぬきんであぐ、又こえのぼる。○〔後漢〕「—二—宮-卿之位一」。
〔隮登〕前に同じ。○〔宋〕「無レ不レ—二—顯-要一」。
〔豐登〕ゆたかにみのる。○〔舊唐〕「失二—・—之望一」。
〔降登〕おると昇ると。○〔宋〕「—・—無レ違」。
〔紹登〕引きつゞきのぼりあらはる。○〔宋〕「祺-祥—・—一」。
〔耗登〕減ると多くなると。○〔張方平〕「繫二生-齒之—・—一」。
〔仰登〕あをのきてあがる。○〔曹植〕「—・—二天-阻一」。
〔歩登〕かちにてあがる。○〔曹植〕「—・—北-邙阪」。
〔晚登〕（い）おそくみのる。○〔鍾會〕「早-植—・—君-子德也」。
（ろ）日くれてあがる。○〔高啓〕「—・—臨-滄觀」。
〔晨登〕あさはやくあがる。○〔嵇康〕「—・—箕-山顚」。「—・—清-雲開」。
〔飄登〕風にひるがへされてあがる。○〔張華〕「—・—元二—・—士樂之壞」。
〔遐登〕はるかにあがる、あなたにあがる。○〔柳宗元〕「—・—」。
〔苦登〕勞してあがりゆく。○〔元稹〕「龍-門在二—・—」。
〔窮登〕あらん限りのぼりつむ。○〔陸倕〕「龍-泉鶴-嶺不レ易二—・—一」。
〔爭登〕先をあらそひて進みゆく。○〔令孤楚〕「校-隊陳二—・—之力一」。

【發】
ハツ、ホチ。方伐切 月

❶放射す、はなつ。○〔詩〕「壹—五-豝」。
❷おこる、（起）。○〔孟〕「舜—二於畎-畝之中一」。
❸おこす、（興）、あぐ、（擧）。○〔呂氏春秋〕「無レ—二大-事一」。「事-業一」。
❹のぶ（舒）、あがる、（揚）。○〔易〕「—二於事-業一」。
❺うごく、うごかす、（動）。○〔老〕「地無二以寧一將レ恐レ—」。
❻あらはる、あらはす、（見）。○〔禮〕「君-子樂二其—一」。「—」。
❼もる、もらす、（洩）。○〔楚辭〕「春-氣奮—」。
❽出づ、出だす。○〔禮〕「雷乃—レ聲」。
❾散ず。○〔素問〕「惡-氣不レ—」。
❿みだる、（亂）。○〔詩〕「毋レ—二我笱一」。
⓫地を伐つ。○〔詩〕「駿—二爾私一」。
⓬ひらく、（開）。○〔書〕「—二鉅-橋之粟一」。
⓭明か。○〔論〕「亦足二以—一」。
⓮往く、去る。○〔詩〕「履レ我—兮」。
⓯行ふ。○〔荀〕「既楚—二其賞一」。
⓰遣はす。○〔戰〕「王何不二—レ將而擊一レ之」。
⓱疾し、はやし。○〔詩〕「飄-風—・—」。
⓲東方の夷。○〔汲冢周書〕「—・—人鹿-々者」。
⓳盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「鱣-鮪—・—」。
〔明發〕夜をとはす。○〔詩〕「—・—不レ寐、有レ懷二二-人一」。
〔雷發〕（い）なるかみとゞろく。○〔禮〕「—乃—レ聲」。
（ろ）勢はげしくはなつ。○〔英雄記〕「强-弩—・—、所レ中必倒」。
〔不發〕（い）開かず。○〔左〕「縣-門—レ—、楚-言而出」。
（ろ）明かにせず。○〔論〕「不レ悱—レ—」。
（は）矢を射はなたず。○〔孟〕「君-子引而—レ—躍如也」。「不レ足」。
〔興發〕おこる、おこす。○〔孟〕「於レ是始—・—補レ不レ足」。
〔騶發〕矢を射はなつ。○〔漢〕「材官—・—」。
〔大發〕大いにくりいたす。○〔漢〕「于レ是漢—・—二十-五-萬-騎一」。
〔風發〕吹くかせ起こりたつ。○〔魏〕「日加レ午而—・—」。「淡-蕩」。
〔華發〕花ひらく。○〔曹植〕「烏-啼—・—則春-容—・—馬之候」。
〔善發〕巧みにおこし出だす。○〔晉〕「—二—談-端一、賞二其要-會一」。「—一」。
〔召發〕兵士又は人夫をつのる。○〔北〕「任二其—・—」。
〔好發〕よく弓いる。○〔戰〕「君—レ—者、其臣決-拾」。
〔先發〕（い）人にさきだちていひいだす。○〔史〕「汲-黯—・—、弘推二其後一」。
（ろ）第一番に開き見る。○〔漢〕「—・—二副-封一」。
〔屢發〕屢おこる。○〔漢〕「灾-異—・—、以告レ不レ治」。
〔連發〕（い）しきりにおこる。○〔漢〕「賊—・—」。
（ろ）つゞけて弓いること。○〔北〕「彭—・—二數-矢一」。
〔開發〕（い）ひらく。○〔漢〕「宮-官左-右—・—」。
（ろ）ひらきてあきらかにす。○〔北〕「—二—幼-蒙一」。
〔空發〕あだにおこる、むだにはなつ。○〔後漢〕「災-異之降、必不二—・—一」。
〔摘發〕つまみいだす、强ひてひき出だすにいふ語。○〔後漢〕「相-監-司以—二—其姦一」。「—二邊-兵一」。
〔擅發〕專斷にくりいだす。○〔後漢〕「安-劫二景—・—」。
〔聲發〕こゑおこる。○〔後漢〕「淸—・—而響-激」。
〔奮發〕勢をはげましおこす。○〔後漢〕「陛-下神-武—・—、以レ少制レ衆」。「耳」。
〔激發〕はげましおこす。○〔後漢〕「敵—二—我—」。
〔濫發〕あだにはなちいる。○〔北〕「弓無二—・—一」。
〔秀發〕すぐれて明かなること。○〔晉〕「神-機—・—」。
〔英發〕前に同じ。○〔南〕「天-才—・—」。
〔爽發〕さわやかに開けあり。○〔南〕「神-采—・—」。
〔競發〕先を爭ひて起こり出づ。○〔南〕「四-鎮—・—、魏衆大敗」。
〔吐發〕はく、又、あきらかなること。○〔北〕「此兒風-神—・—」。
〔偏發〕すべて繰りいだす。○〔南〕「至レ州便—二—人丁一」。
〔盜發〕ぬすびと起り出づ。○〔北〕「五-々相保、若—・—則連二其坐一」。
〔墾發〕開拓をなす。○〔北〕「皆令二就-田—・—以レ時、勿レ失二其所一」。
〔妄發〕濫りにおこし出だす。○〔春秋繁露〕「藏二此四-者一、而勿レ使二—・—一、可レ謂二大矣一」。
〔立發〕忽ちに開く。○〔新序〕「—・—二隱-書一而讀レ之、退而惟レ之、又不レ能レ得」。
〔迅發〕急におこりたつ。○〔宣和書譜〕「震-雷—・—、雲-物冥-晦」。

(映發) はえうつる。○〔宣和畫譜〕「獨得二墨之淺深一、—一、亦極二形似之妙一」。
(促發) 催促していたさしむること。○〔老學庵筆記〕「笑顧二齊吏一—二一奏一」。
(煇發) 輝きあきらかなること。○〔廣川書跋〕「其神明—、正在二筆畫外一」。
(焱發) ひるがへりあがる。○〔劉楨〕「飄乎—、身如レ轉レ波」。
(表發) あらはしあきらかにす。○〔姑溪題跋〕「獨無三文詞翰墨—二其勝一」。

【蕟】ハン、メン。亡咸切 [咸]
あれくさ（蔑）。

十二畫

【[illegible]】ハイ、ヘ。方肺切 [隊]
賦斂、みつぎ。

白部

【白】ハク、ビヤク。旁陌切 [陌]
一 一種の色、しろ。○〔禮〕「殷人尙レ—」。
二 しろし。(い)しろ色なり。○〔書〕「厥土—墳」。(ろ)文飾なし。○〔易〕「—賁無レ咎」。
三 しろくなす、しろくなる、しろむ。○〔後漢〕「既平レ隴復望レ蜀、毎二一發一レ兵、頭鬚爲レ—」。
四 あきらか（明）。○〔禮〕「當二堂之—一」。
五 いさぎよし（潔）。○〔漢〕「顯二潔—之士一」。
六 裝束を著けざること。○〔管〕「—徒三千人奉二車兩一」。
七 未だ熟練せざること。○〔管〕「擊二敺衆—徒一」。
八 官祿なきこと。○〔魏〕「—民輸二五百石一、聽二依レ第出一レ身」。
九 杯爵、さかづき。○〔漢〕「引レ滿擧レ—、談笑大噱」。
十 しろかね（銀）。○〔唐〕「隋末行二五銖—錢一」。
十一 しろごめ（稻）。○〔周〕「其實麷蕡—黑」。
十二 一種の酒。○〔禮〕「酒淸—」。
十三 陳述す、稟告す、まをす。○〔後漢〕「鍾瑾常以二李膺言一—レ皓」。
十四 一年の閒、さし。○〔傳燈錄〕「我止二林閒一、已經二九—一」。
十五 茅にて屋を覆ふこと。○〔漢〕「恐非下周公相二成王一致中—屋之意上」。

(茲白) 虎豹などを食らふといふ一種の猛獸。○〔汲冢周書〕「義渠以二——一」。
(三白) 正月にふる雪の稱。○〔西北農談〕「要レ宜二麥見二——一」。
(五白) 樗蒲の采。○〔宋玉〕「成レ梟而呼二——一些」。
(曳白) 紙筆を手にしながら文詞を成す能はずして老（居ること。○〔唐〕「奭持レ紙終日筆不レ下、人謂二之——一」。
(潔白) 淸きこと。○〔書、傳〕「粉取二——一」。
(粉白) おしろいのこと、又、おしろいをつけてましろなること。○〔魏略〕「——不レ去レ手、行步顧レ影」。
(斑白) 黑き髮としろき髮とのまじりてまだらなること、卽ち、五十歲位の老人にいふ語。○〔禮〕「——者不レ提挈」。
(淸白) 穢れなきこと。○〔莊〕「行不二——一、鞏下荒怠」。
(大白) (い)極めて潔白なること。○〔老〕「——若レ辱」。(ろ)杯のこと。○〔漢〕「遂滿二引——一」。
(黃白) (い)き色なるとしろき色と。○〔史〕「有二——雲降一」。(ろ)狐の皮衣。○〔淮〕「文繡——、人之所レ好也」。
(堅白) 公孫龍が說ける學說にて、卽ち、堅石は石にあらず堅と石となり白馬は馬にあらず白と馬となりとの說。○〔史〕「趙有二公孫龍一、爲二——同異之辯一」。
(黑白) くろき色としろき色と、卽ち、物事の理非を分明にすることにいふ。○〔史〕「今皇帝并二有天下一、別二——一而定二一尊一」。
(精白) 赤精にして潔白なること。○〔漢〕「天下士莫レ不三——以承二休德一」。
(面白) 顏の色のしろくあること。○〔史、註〕「武陽骨勇之人、怒而——」。

(戴白) しらがを頭にいただく。○〔漢〕「——之老、不レ見二兵革一」。
(駭白) 駿馬の名。○〔晉〕「初虜有二駿馬一、曰二——一」。
(飛白) 文字のかすれたる書體の名。○〔書斷〕「——者、後漢左中郎蔡邕所レ作也」。
(建白) 上位にある人に申し立つ。○〔唐〕「毎二——一、必阿邑俯和」。
(明白) あきらかなること。○〔老〕「——四達」。
(純白) 專一にして潔白なり。○〔莊〕「——不レ備」。
(虛白) 空しくあること。○〔庾信〕「一室之中、不レ免二——一」。
(粹白) 眞白なること。○〔呂氏春秋〕「天下無二——之狐一」。
(黙白) しろき物にはしをつく。○〔鮑照〕「—レ—信二青蠅一」。
(老白) 星の名。○〔漢〕「——經レ天而行」。
(肥白) こえふとりて色のしろくあること。○〔史〕「身長大——」。
(皓白) しろくあること。○〔漢〕「須眉——、衣冠甚偉」。
(事白) 事柄明かになる。○〔漢〕「趙王敖——得レ出」。
(罪白) 罪狀の判明すること。○〔漢〕「——者伏二其誅一」。
(早白) 急ぎて申し上ぐ。○〔漢〕「公不二——一、與俱受レ戮矣」。
(數白) あまたゝび上に申しあぐ。○〔漢〕「往者——焉」。
(條白) 條理を立てゝ明かにす。○〔漢〕「卽共——三光乖レ戾、變動見レ端」。
(廉白) 淸潔にして穢れたる行爲なきこと。○〔後漢〕「令二——守レ道者得レ信二其操一」。
(淳白) 前に同じ。○〔後漢〕「所在以二——一稱」。
(貞白) 正固にして穢れなし。○〔後漢〕「在レ位以二——一稱」。
(徽白) すきとほる程しろくあること。○〔南〕「米粒皆令二——一、若二碎折一者悉不レ受」。
(密白) 內々に申し上ぐ。○〔南〕「——高帝一、終無二二心一」。
(驚白) あわておどろきて申し上ぐ。○〔唐〕「子弟——」。
(鮮白) 美しくしろし。○〔唐〕「最——」。
(雲白) 鳥の名、鴇鳥のこと。○〔抱朴〕「過者忿二口于——之酒一」。
(素白) しろきこと。○〔淮〕「——而不レ汚」。
(深白) 極めてしろきこと。○〔袁桷〕「輕朱——鋪二顏色一」。
(淺白) しろきことの十分ならざること。○〔碧雞漫志〕「或白或——」。

(太白) (い)星の名。○〔博雅〕「——謂二之長庚一」。(ろ)殷の時の旗の名。○〔禮〕「殷之——」。
(抽黃對白) 色ものをならぶること、字句を排置すること。○〔柳宗元〕「—レ——レ—、啽哢飛走」。
(取青媲白) 前に同じ。○〔柳宗元〕[illegible]「—レ——レ—」。
(青蠅染白) 邪慾の節操を汚すことなどに譬へいふ語。○〔丁謂〕「疾二——之—一、悲二小雅之詩一」。
(琱閒賦白) しろまだらなること。○〔叔夜〕「——レ——、疎密有レ章」。
(六十日白) 稻米の別稱。○〔陸放翁〕「——最先熟」。

一畫

【百】ハク、ヒヤク。博陌切 [陌]
一 もゝ。(い)十を十倍したる數の稱。○〔漢〕「協二于十一、長二于—一」。(ろ)衆多、もろもろ、おほし。○〔易〕「—官以治」。
二 もゝたび。○〔禮〕「己—レ之」。
三 もゝのもの、もゝの人。○〔後漢〕「以レ一奉レ—」。

(旅百) ならぶるとあまたなり。○〔左〕「庭實旅—」。
(數百) 二三百、或は三四百、或は四五百などに限りてくさぐさにいふ語。○〔史〕「卒二萬人、騎——」。
(勸百) 數多なるものゝ氣象を引き立つ。○〔韓愈〕「罰レ一—レ—政之經」。
(什百) 十人又は百人の仲閒、卽ち兵卒組合のこと。○〔史〕「陳涉躡二足行伍之閒一、而倔二起——之中一」。
(利百) (い)數多の者共を益す。○〔黃石子〕「去レ一—レ—」。(ろ)得益となることの多きにいふ語。○〔史〕「—不レ—、不レ變レ法」。
(服百) 數多の者を從ふ。○〔管〕「勝レ一而—レ—、則天下人畏レ之」。
(正百) 數多の者をして惡を爲さゞらしむ。○〔鹽鐵論〕「刑レ一而—レ—」。
(凡百) 數多の官人。○〔盧琥〕「——敢位以」「副二鐵過懷一」。
(千百) 千又は百のこと、卽ち數多きことにいふ語。○〔韓愈〕「所謂存二什一于——一」。

〔一當百〕ひとりで百人に敵す。○〔後漢〕「膂-氣益壯、無レ不ニ一ーーレー」。

〔教一識百〕天才はなはだ明敏なるを、卽ち、少しく敎ふれば多くを理解するを。○〔小學〕「文-王生而明-聖、太-任ーレ之以レ一而ーレー」。

【百】
バク、ミヤク。莫白切 陌

はげむ、(勵)。○〔左〕「曲-踊三ー」。

〔五百〕行杖人、つゆはらひ、さきばらひ。○〔續志〕「ー-ー赤幘絳鞲」。

二畫

【皀】
ヒフ、北及
ボフ。切
キフ。訖立
切 緝

ヒヨク、
ヒキ。筆力切 職

穀の香ばしきにいふ字、かうばし、一說に、穀の一粒、ひさつぶ。

【皁】
サウ、ザウ。在早切 晧

㊀賤役に服する人、しもべ、こもの。○〔左〕「士臣ー、ー臣輿、輿臣隸」。

㊁うまやのれだ、(櫪)、一說に、うまたて、なり、(馬-閑)。○〔莊〕「編レ之以ニーー棧ニ」。

㊂かひをけ、(槽)。○〔史〕「牛-驥同レー」。

㊃うまや、(廏)。○〔書〕「ー-畜約-制」。

㊄馬の三乘の稱、卽ち、十二匹。○〔周〕「三-乘爲レー、ー一趣-馬」。

㊅くろ、くろし、(黑)。○〔北〕「中-山ーー白太多」。

㊆黑繒、くろぎぬ。○〔漢〕「白衣ニー-綈ニ」。

㊇穀實の未だ堅からざるを。○〔詩〕「既方既ー」。

㊈柞栗の屬の實、どんぐり。○〔周〕「山-林其植-物宜ニー-物ニ」。

〔輿皁〕いやしきつかへびと。○〔任昉〕「物ニ色ーーーニ」。

〔櫪皁〕牛馬などをいるゝをり。○〔方言〕「梁宋齊燕之閒、謂レー曰レー」。

〔駑皁〕わるき馬のをり。○〔陸龜蒙〕「ーーー參ニ驥-騄ニ」。

【皃】
貌に同じ。

【皂】
俗の皁の字。

三畫

【皏】
皏に同じ。○〔晉〕「璀-璨皓-ー、華-蹬四-垂」。

【的】
テキ、チヤク。丁歷切 錫

㊀あきらか。
(い)表はれたるを、見えたるを。○〔淮〕「ーーー者獲」。
(ろ)鮮明、あざやか。○〔司馬相如〕「宜-笑ー-皪」。

㊁たゞし、(端)、まこと、(實)。○〔魏〕「恐三或非ニ眞ーーニ」。

㊂射侯の中、まと。○〔漢〕「矢-道同レー」。

㊃標準、めあて。○〔後漢〕「一-言一-行天-下以爲ニ準ーーニ」。

㊄要處、かなめ。○〔湘山野錄〕「采レ詩者以爲レ中レー」。

㊅まことに、まさに。○〔劉禹錫〕「ー知開レ閤侍ニ諸-賓ニ」。

㊆婦人の額上に點を施すを。○〔王粲〕「施ニ華ーー兮結ニ羽-儀ニ」。

㊇蓮子、はすのみ。○〔爾〕「其實蓮、其根藕、其中ー」。

〔表的〕めあて。○〔後漢〕「閉-拒背-畔爲ニ天-下ーーニ」。

〔標的〕めあて。○〔唐〕「可レ謂ニ宗-室ーーニ」。

〔破的〕まとを打ちやぶる。○〔史〕「一-發ーレー」。

〔質的〕まと。○〔荀〕「ーー張而弓-矢至焉」。

〔格的〕前に同じ。○〔淮〕「ーー不レ中」。

〔鵠的〕前に同じ。○〔戰〕「今夫ーーー、非レ咎ニ罪於人ニ」。

〔柵的〕前に同じ。○〔南〕「嘗以ニーー大-溜ニ、乃取ニ甘-蔗ニ挿レ地、百-步射レ之」。

〔儀的〕前に同じ、又、めあて。○〔韓〕「釋ニーーニ而妄發」。

〔審的〕あきらか、まこと。○〔釋常談〕「相去千-里何以ーーー」。

〔端的〕たゞし、まこと。○〔朱子語類〕「必有ニーー處ニ」。

〔微的〕かすかに目の明かなるを。○〔韓詩外傳〕「三-月ーー而後能見」。

〔貫的〕まとを射ぬく。○〔南〕「撫レ弦ーレー」。

〔設的〕まとをまつく。○〔唐〕「ーレー高數-十-尺」。

〔射的〕まとにむかひて弓いる、又、まと。○〔韓〕「人之有ニ狐-疑之訟ニ者、令ニ之ーレー」。

【皃】
ベイ、メイ。彌蔽切 霽

布帛の幅邊、ぬのゝへり。

四畫

【皅】
ハ、ヘ。普巴切 麻

亂れたる貌にいふ字。○〔靈樞經〕「與ニ天-地ニ同レ紀、紛-々ーーー」。

【皅】
ハ、ヘ。披巴切 麻

草の華の白きにいふ字。

【皅】
ハ、ベ。步化切 禡

色の眞ならざるを。

【皆】
カイ、ケイ。居諧切 佳

㊀俱に、同じく、ことごく、すべて、みな。○〔易〕「雷-雨作而百-果草-木ー甲坼」。

㊁あまねし、(遍)。○〔詩〕「降レ福孔ー」。

【皉】
ヘイ、ハイ。補米切 霽

あきらか、(明-白)。

【皇】
クワウ、ワウ。胡光切 陽

㊀萬物の主宰、あめ、かみ。○〔書〕「ー天眷-命」。

㊁天下を領有する者の通稱、きみ、君主、天子。○〔書〕「ー-帝淸ニ問下-民ニ」。

㊂特に、其の功德の最も高大なる者の稱。○〔風俗通〕「三ー-道-德元」。

㊃血統上一階進みたる死者の敬稱。○〔禮〕「祭ニ王-父ニ曰ニー-祖-考ニ」。

㊄おほいなり、(大)。○〔書〕「惟ー上-帝」。

㊅うつくし、(美)。○〔詩〕「思ニー多-士ニ」。

㊆たゞし、(正)。○〔詩〕「四-國是ー」。

㊇おごそか、(莊)。○〔儀〕「賓入レ門ー」。

㊈盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「穆-々ーーー」。

㊉光華ある貌にいふ字、きらく。○〔詩〕「ーーー者華」。

(十一)はな、(華)。○〔爾、疏〕「草-木之華一名レー」。

(十二)定まらざる貌にいふ字。○〔禮〕「ーーー如ニ可レ望而弗レ至」。

(十三)上部を畫き羽もて飾りたる冠。○〔禮〕「爾-虞-氏ー而祭」。

(十四)五采の羽を持ちてなす舞。○〔周〕「敎ニーー舞ニ」。

(十五)凰に通じ用ふ。○〔書〕「鳳ーー來儀」。

(十六)黃鳥の別名、てうせんうぐひす。○〔爾、疏〕「ーー一-名黃-鳥、呼爲ニ黃-離-留ニ」。

(十七)燕麥に似たる一種の草、廢田に生ずるもの。○〔爾〕「ーー一-名守-田、似ニ燕-麥ニ、實如ニ彫-胡-米ニ」。

(十八)黃白の斑ある馬。○〔詩〕「ーー駁其馬」。

(十九)冢の前の闕、つかのもん。○〔左〕「葬ニ于絰ーーニ」。

(二十)寢門の闕、たまやのもん。○〔左〕「屨及ニ于窒ーーニ」。

(二十一)室に四壁なきを。○〔漢〕「列ニ坐堂ーー之上ニ」。

⑬遑に同じ、いさま。○〔左〕「不レ—二啓-處一」。

〔玉皇〕天帝、あめ。○〔宋〕「祭二——於朝-元-殿一」。
〔覺皇〕佛陀の異稱。○〔鴻苞博苑〕「佛一稱二——一」。
〔於皇〕歎美の聲にいふ語、あゝ。○〔詩〕「——來牟」。
〔聿皇〕疾き貌にいふ語。○〔揚雄〕「武-騎——」。
〔遑皇〕往來する貌にいふ語。○〔張衡〕「察二二-紀五-緯之綢-繆——一」。
〔張皇〕おほいにひろぐること、又、おほいなること。○〔書〕「——二六-師一」。
〔天皇〕皇帝などと同じく至尊の稱なり。○〔唐〕「皇-帝稱二——一」。
〔上皇〕天帝のこと、又、すでに位を子孫にゆづられたる帝王の稱、又、星の名。○〔李白〕「稽-首祈二——一」。
〔東皇〕青帝とも稱す、春をつかさどる神の名、轉じて春の義に用ふることあり。○〔歐陽修〕「——染レ花滿二春-園一」。
〔國皇〕星の名。○〔史〕「——星大而赤」。

【⿰白毛】俗の毳の字。

【⿰白巿】ハツ、ハチ。普活切　曷。
—味は、淺白なる色。

【皈】歸に同じ。○〔李頎〕「頓令三心-地欲二—依一」。

五畫

【⿰白此】セイ、サイ。此禮切　薺。
しろし（白）、一說に、色の鮮潔なるにいふ字、あざやか。

【⿰白此】シ。淺氏切　紙。
玼に同じ。

【⿰白白】白に同じ。

【⿰白白】ケウ。古了切　篠。
しろし、白。

【皋】カウ、コウ。古勞切　豪。
㊀つぐ（告）、よぶ（呼）。○〔周〕「詔二來瞽一—レ舞」。
㊁長く引く聲にいふ字。○〔禮〕「升レ屋而號-告曰、—某復」。
㊂ゆるし（緩）。○〔左〕「魯人之—」。
㊃水岸、水澤、きし、さは。○〔左〕「牧二隰-—一」。
㊄界局、かぎり、しきり。○〔張衡〕「奧-區神-—」。
㊅たかし（高）。○〔禮〕「天-子—-門」。
㊆かたくなにして道を知らざること、又、事を治むる能はざる貌にいふ字。○〔詩〕「——訿-々」。
㊇五月の別名、さつき。○〔爾〕「五-月爲レ—」。
㊈鼛に同じ、おほつゞみ。○〔周〕「韗-人爲二—-鼓一」。
㊉羔に通ず。○〔禮〕「高-子—」。
〔乾皋〕鷗鵃の別名、おはむ。○〔埤雅〕「——斷レ舌則坐歌」。
〔寒皋〕鶡鴠の別名、はゝつてふ。○〔本草綱目〕「天寒欲レ雪飛如レ告、故名二——一」。
〔九皋〕深き澤のこと。○〔詩〕「鶴鳴二于——一」。
〔澤皋〕さはのこと。○〔易林〕「——之書」。

【皌】バツ、マチ。莫撥切　曷。
⿰白巿の字を見よ。

【⿱白夅】古の終の字。○〔亢倉子〕「其—存乎」。

六畫

【⿰白各】皪に同じ、白き色、しろし。

【皎】ケウ。吉了切　篠。
㊀しろし（白）、きよし（潔）。○〔楚辭〕「安能以二——之白一蒙二世-俗之塵-埃一乎」。
㊁ひかる（光）、あきらか（明）。○〔詩〕「月出—兮」。

【皏】ハウ、ヒヤウ。普幸切　梗。
白き色、一說に、淺く薄き色。○〔黃帝〕「肺-風之狀色—-然白」。
〔皛皏〕しろくひかる。○〔郭璞〕「瀬二粉-壇一而——」。

【⿰白缶】ヒウ、フ。俯九切　有。
しろし（白）。

【皁】皋に同じ。

七畫

【皒】ガ。牛河切　歌。
白き色、しろし。

【皓】カウ、ゴウ。下老切　晧。
㊀あきらか（明）、ひかる（光）。○〔揚雄〕「明-星——」。
㊁しろし（白）、いさぎよし（潔）。○〔詩〕「揚之水白-石——」。
㊂虛曠なる貌にいふ字、むなし、ひろし。○〔禮〕「常以——、是以眉-壽」。
㊃昊に通じ用ふ。○〔荀〕「——天不レ復」。
㊄皞に同じ。○〔楚辭〕「歷二太—一以左轉」。

【⿰白吿】クワイ、エ。呼回切　灰。
髮の白くなりて落つるにいふ字。

【皔】カン、ガン。下罕切　翰。
白き貌にいふ字。

【皕】ヒヨク、ヒキ。筆力切　職　ヒ、ビ。兵媚切　寘。
二百の數。

【皖】クワン、ゲン。戶版切　潸。
明かなる貌にいふ字。

【皖】クワン、グワン。胡官切　寒。
地の名。

八畫

【⿰白卑】ハイ、ベ。旁卦切　卦。
しろきかは（白-皮）。

【皗】チウ、ヂユ。直流切　尤。
㊀あきらか（明）。㊁白繒、しろぎぬ。

【⿰白彔】ロク。盧谷切　屋。
白き獸。

【皘】セン。倉甸切　霰。
白き貌にいふ字、しろし。

【⿰白隹】ラク。盧各切　藥。
隺に同じ、鳥の白きにいふ字、しろし。

【皙】セキ、シヤク。先的切　錫。
㊀皮膚の色白し、しろし。○〔周〕「墳-衍其民—而瘠」。
㊁一種の棗の木。○〔爾〕「無レ實—」。
〔白皙〕肌のしろきこと。○〔漢〕「——疏-眉」。
〔潔皙〕きよらかにしろきこと。○〔菌譜〕「色——可レ愛」。

【皙】セキ、シヤク。思積切　陌。
しろし（白）。

【⿰白念】デン、ヂン。乃店切　豔。
船の木、ふなぎ。

九畫

【皛】カツ、カチ。許葛切 〔曷〕
志ろし、（白）。

【暉】キ。許歸切 〔微〕
志ろし、（白）。

【皗】シユン。昌尹切 〔軫〕
志ろし、（白）。

十畫

【皚】ガイ。疑開切 〔灰〕 ギ、ゲ。魚衣切 〔微〕
霜雪の白きにいふ字、志ろし。〇〔晉〕「霜——而依レ庭」。

【皛】ケウ、ゲウ。胡了切 〔篠〕
㊀あらはる、あらはす、（顯）。〇〔潘岳〕「虛—二滴-德一、繆彰二甲-吉一」。㊁志ろし、（白）。〇〔郭璞〕「沆-瀁——溔」。㊂あきらか、（明）。〇〔陶潛〕「———川-上平」。
〔皛々〕志ろき貌にいふ語。〇〔杜甫〕「——行雲浮二日-光一」。
〔皎皛〕あきらかにひかる。〇〔李程〕「粲二玉-質一以「——」。

【皛】ケイ、ギヤウ。戶茗切 〔迥〕
前條の㊁㊂に同じ。

【皛】ハク、ヒヤク。匹陌切 〔陌〕
うつ、（打）。〇〔左〕「—二貙-氓于蔞-艸一」。

【皠】コク。胡沃切 〔沃〕
翯に同じ、鳥の白きにいふ字、志ろし。〇〔何晏〕「——白-鳥」。

【皠】ラク。歴各切 カク。曷各切 〔藥〕
カク、ゴク。轄覺切 〔覺〕
志ろし、（白）。

【皙】テイ、タイ。他計切 〔霽〕
かたく下がる、又、すたる、（廢）。

【皜】カウ、ゴウ。合老切 〔皓〕
志ろし、（白）。〇〔孟〕「———乎不レ可レ尙」。

【皝】クワウ、ワウ。戶廣切 〔養〕
氣の容の貌にいふ字。

【皞】カウ、ゴウ。合老切 〔皓〕
㊀志ろし、（白）、㊁あきらか、（明）。㊂廣大自得の貌にいふ字、ひろし。〇〔孟〕「王-者之民———如也」。

十一畫

【皟】サク、シヤク。側革切 〔陌〕
㊀きよし、（淨）、一說に、深く白し。㊁やす、（瘠）。〇〔管〕「—山諸-侯之國」。

【皫】ベウ、メウ。彌笑切 〔嘯〕
白き色、志ろ。

【皠】サイ、セ。取猥切 〔賄〕
㊀高峻なる貌にいふ字、たかし。「—」。㊁志ろし、（白）。〇〔韓愈〕繽-翻落-羽

【皪】ハク、ヒヤク。傍伯切 〔陌〕
麻の白きにいふ字。

十二畫

【皢】デイ、ニヤウ。乃定切 〔徑〕
つぐ、（告）。

【皢】ケウ。馨鳥切 〔篠〕
㊀志ろし、（白）。㊁あきらか、（明）。

【皤】ハ、バ。蒲禾切 〔歌〕
㊀志ろし、（素-白）。〇〔易〕「賁-如—,如」。㊁特に、髮などの志ろきにいふ字。〇〔班固〕「——國-老」。㊂腹の大いなる貌にいふ字。〇〔左〕「—其腹」。㊃豐かに多き貌にいふ字。〇〔左思〕「行-庖———」。
〔蒼皤〕髮のあをぶろきこと。〇〔劉克莊〕「髮因二時-事一欲二——一」。
〔雙皤〕鬢髮ともに志ろし。〇〔耶律楚材〕「鬢——一」。〔鬢待二〕

【皤】ハン、バン。蒲官切 〔寒〕
馬足をつながれて橫に行くにいふ字。

【皢】トウ。得肯切 〔迥〕
志ろし、（白）。

【皪】ホク、ボク。普木切 〔屋〕
物の氣の蒸して白きにいふ字、志ろし。

【皡】俗の皞の字。

【皠】ソウ、ス。蘇叢切 〔東〕
志ろし、（素-白）。

【皣】皣に同じ。

【皬】皬に同じ。

十三畫

【皪】ゲフ、ゴフ。魚怯切 〔葉〕
草木の白き花、志ろばな。

【皦】ケウ。吉了切 〔篠〕

十四畫

【皧】アイ。於代切 〔隊〕
志ろし、あきらか、（皎）。〇〔論〕「——如也」。

【皭】チウ、ヂユ。陳留切 〔尤〕
きよし、（淨）、又、志ろし、（白）。

【皭】皭に同じ。

【皪】エウ。弋照切 〔嘯〕
白き色、志ろ。

【皫】ボウ、ム。謨蓬切 〔東〕 莫孔切 〔董〕
物の上に生じたる白き醭、かび。

【皬】リウ、リユ。盧翁切 〔東〕
左右の門。〇〔大內規制記〕「左-右小-門曰二—歷左-門一、曰二—歷右-門一」。

十五畫

【皣】エフ。域輒切 〔葉〕 イフ、オフ。域及切 〔緝〕
㊀草木の白き華。㊁あきらか、（明）。㊂光華の盛んなるにいふ字。

【皪】レキ、リヤク。郎狄切 〔錫〕 ラク。歴各切 〔藥〕
白き貌にいふ字、又、明かなる貌にいふ字。〇〔左思〕「丹-藕淩レ波而的——」。

【皪】ハク、ボク。北角切 〔覺〕
—犖は、まだらいろ、（雜-色）。

【皫】ヘウ。普沼切 〔篠〕
㊀志ろきいろ、（白-色）。

㊁物の色あせて光澤の好からざるにいふ字。○〔周〕「鳥—色而沙鳴鬱」。

十六畫

【⿰白蔿】井。羽委切 紙 はな(華)。○〔唐〕「王服二鳥羅冠一、飾以二金——一」。
〔含—〕はなをもつ。○〔後漢〕「百草—レ—」。
〔花—〕はなのこと。○〔舊唐〕「明——攬發」。
〔雜—〕いろ〳〵とまじりたるはな。○〔王儉〕「輕風搖二——一」。
〔丹—〕あかきはな。○〔江淹〕「——驚霜」。
〔素—〕白きはな。○〔陸龜蒙〕「——多藥二別艷一歟」。

【皬】カク、ガク。曷各切 藥 しろし(白)。○〔史〕「——然白首」。

【⿰白歷】レキ、リヤク。郎狄切 錫 皪に同じ。

十七畫

【⿰白霝】⿰白靈に同じ。

十八畫

【皭】シャク、ザク。疾雀切 藥 セウ。子肖切 嘯 白き色にも又淨き貌にもいふ字。○〔史〕「——然泥而不レ滓者也」。

十九畫

【⿰白贊】サツ、サチ。子末切 曷 しろし(白)。

二十畫

【⿰白黨】タウ。坦朗切 養 しろし(白)、又、あきらか(明)。

廿四畫

【⿰白靈】レイ、リヤウ。郎丁切 青 白き色、しろ。

皮部

【皮】ヒ、ビ。符羈切 支 ㊀動植物の體表を被ふもの、かは、きかは。○〔書〕「梁州厥貢熊羆狐狸織—」。㊁おほひ(被)、うはべ(表)。○〔史〕「足下以レ目—相、恐失二天下士一」。㊂强誣、こじつけ。○〔後漢〕「後人——傅無レ所レ容レ篡」。㊃狐貉の裘、かはごろも。○〔莊〕「冬日衣二—毛一」。㊄きかはの射的、まと。○〔論〕「射不レ主レ—」。㊅こけ(苔)。○〔本草釋名〕「仰天—、掬天—、地衣草別名、卽濕地上苔衣」。
〔儷皮〕ふたつの鹿のかは。○〔儀〕「束帛——」。
〔文皮〕虎豹のかは。○〔淮〕「有二斥山之——一焉」。
〔竹皮〕たけのこのかは。○〔漢〕「以二——一爲レ冠」。
〔笋皮〕前に同じ。○〔高適〕「——笠子荷葉衣」。
〔褫皮〕かはをはぐ。○〔宋祁〕「櫻皆—レ—」。
〔姸皮〕うつくしきかは。○〔古諺〕「——不レ裹二癡骨一」。
〔羊質虎皮〕文ありて質なきと、愚にして賢をよそほふと。○〔揚雄〕「——而——、見レ草而說見レ豺而戰」。

二畫

【⿰皮丁】タウ、チヤウ。張梗切 梗 皮膚の急なる貌にいふ字、ひきつる。

【⿰刀皮】ヒ。匹美切 紙 枝折る、をる。

三畫

【⿰丸皮】クワン、グワン。胡官切 寒 ㊀こぶ(瘤)。㊁やづつ(矢藏)。

【皯】カン。古旱切 旱 カン。居案切 翰 疾病によりて面に黑氣あると。○〔列〕「焦然肌色—黣」。

【⿰干皮】皯に同じ。

【⿰勹皮】ハク、ボク。弼角切 覺 曝に同じ、肉肤起す、はれあがる、又、皮破る、やぶる。

【⿰勺皮】皰に同じ。

【⿰才皮】シャク、サク。七雀切 藥 皮の皺、しわ。

四畫

【⿱皮止】ヒ、ビ。兵媚切 寘 ㊀麻莖の皮、かは。㊁しわ(皺)。

【⿰比皮】ヒ。攀糜切 支 ヒ、ビ。部鄙切 紙 器の破れて未だ離れざると、ひび、ひび。○〔揚雄〕「南楚之間器破未レ離謂二之—一」。

【⿰巴皮】ハ、ヘ。伯加切 麻 —皻は、鼻疾、ざくろばな。

【⿰冉皮】ダン、ノン。奴紺切 勘 なめしがは(柔革)。

【⿰皮皮】ヒ。疋卑切 紙 ㊀開き張る、ひろぐ、ひらく。㊁口を開く、くちあく。○〔王延壽〕「皺嗜以—䙾」。

【⿰皮皮】ハ。補火切 哿 跛に通じ用ふ、あしなへ(蹇)。

【⿰彳皮】ハ。補過切 箇 足のまがる病。

【⿰丙皮】皴に同じ。

五畫

【⿰石皮】タク、チヤク。恥格切 陌 しわ(皺)。

【⿰秝皮】レキ、リヤク。力摘切 錫 人の姓。

【⿰民皮】ビン、ミン。彌盡切 軫 皮理細かし、きめよし。

【皰】ハウ、ベウ。皮教切 效 面に生ずる小さき瘡、にきび、又、水の泡の大いさに皮膚に起こる瘡、もがさ。○〔淮〕「潰二小——一而發二痤疽一」。

【⿰未皮】バツ、マチ。莫撥切 曷 かは(皮)。

【⿰女皮】俗の韈の字、かはたび。

【⿰召皮】セウ。之遙切 蕭 肉の上の魄膜、にくのうすかは。

【⿰火皮】エイ、ヤウ。於驚切 庚

青き貌にいふ字、あをし。

【⿰央皮】ヤウ、アウ。於亮切 漾
前條に同じ、又、青き血、一説に、面の蒼きにいふ字。

【⿱此皮】シ。爭義切 ヒ、ビ。平義切 寘
皮の伸びざるを、しわ。

【⿰且皮】ソ、ス。聰徂切 虞 ショ、ソ。七與切 語
寒さにて皮膚裂くるを、ひゞ。

六畫

【⿱合皮】タフ、トフ。都合切 合
皮寛し、ひろし。

【皴】シユン、ジユン。須倫切 眞
足坼く、さく、一説に、俗の皸の字。

【⿰吉皮】キツ、キチ。激質切 質
皮の黑きにいふ字、くろし。

【⿰危皮】キ。九僞切 寘
つかる、(疲・極)。

【⿰交皮】ガウ、ゲウ。牛交切 肴
皮の堅きにいふ字、かはこはし。

【⿰必皮】ヘキ、ビヤク。必歴切 錫
皮の乾く聲にいふ字。

七畫

【⿰旱皮】カン。侯旰切 翰
弓を射る左手を被ふもの、革にて造る、(ゆがけ、ゆごて)。

【⿱截皮】セツ、ゼチ。似絶切 屑
㊀かる、(枯)。㊁皮を撮み取る。

【皳】毬に同じ。

【⿰肖皮】鞘に同じ、刀の室、さや。

【⿰告皮】カク、コク。克角切 覺
皮の乾くにいふ字、かわく。

【⿰面皮】サフ、セフ。側洽切 洽
老人の皮膚の貌にいふ字。

【皴】シユン。七倫切 眞
㊀寒さに傷み皮膚に皺を生じ裂くるを、あかぎれ、ひゞ。○[梁]「執レ筆觸レ寒、手爲ニ――裂一」。㊁皮たるみて其の面に細條の起これるもの、しわ。○[湯垕畫鑒]「文・紋――綱」。㊂皮。○[楊朴]「數个胡――徹レ骨乾」。(凍皴) さぶさのためにひゞきる。○[杜甫]「手脚――皮・肉死」。

【⿰虎皮】タツ、タチ。他活切 曷
皮の剝ぐるにいふ字、かはむく。

【⿰虎皮】トツ、トチ。他骨切 月 テチ、テチ。丑悅切 屑
皮の破るゝにいふ字、かはやぶる。

八畫

【皵】シヤク、サク。七約切 サク。倉各切 セキ、シヤク。七迹切 陌 藥
表皮の細かく起こりてざらざらするもの、しわ。○[爾]「大而――楸」。

(皵皵) しわ。○[鄭浩]「皮――以龍鱗」。

【⿱臤皮】キン。弃忍切 軫
皮の厚き貌にいふ字、あつし。

【⿰录皮】ロク。盧谷切 屋
――瘯は、肉の痩せて皮惡しきを。

【⿰叕皮】セツ、セチ。七絶切 屑
皮の斷るゝにいふ字、かはきる。

【⿰典皮】テン。他典切 銑
皮起こる、ふくる。

【⿰臽皮】カン、ケン。口咸切 咸
平かならざる貌にいふ字。

【⿰奇皮】欹に同じ、そばだつ。

九畫

【⿰沓皮】タフ、トフ。德盍切 合
㊀皵――は、皮の痩せて寛き貌にいふ語。㊁なまぐさし、(腥・羶)。

【⿰者皮】ト、ツ。徒古切 麌
桑の皮。

【皷】俗の鼓の字。

【皸】クン。拘雲切 文 キン。區倫切 眞
寒さに傷みて皮膚に皺を生じ裂くるを、ひゞ、あかゞり、あかぎれ、又、其の皵皸、しわ。○[漢]「將軍士寒手足――瘃」。

【⿱封皮】ホウ、フ。補孔切 董 ハウ、ホウ。補講切 講
あさのくつ、(枲履)、一説に、小兒の皮履、くつ。

【⿱封皮】ハウ、ホウ。悲江切 江
皮裏の履、かわうらのくつ。

【⿰咸皮】コウ、グ。下遘切 宥 胡溝切 尤
石蜜の膜、一説に、石蕈。

【⿰菑皮】シ。莊持切 支
手足の膚の黑きにいふ字、くろし。

十畫

【⿱能皮】古文の羆の字。

【⿰㱿皮】カク、コク。克角切 覺
卵孚化す、かふ、一説に、甲孚、さや。

【⿰旁皮】ハウ。逋旁切 陽
履の邊を治む、つくろふ。

【⿰差皮】スヰ。楚類切 寘 シ。楚委切 紙 サ、ザ。才何切 歌
膚に粟粒の如きもの起これるあらき肌、さりはだ。

【⿰喿皮】サウ、ソウ。七到切 號
糙に同じ、米の未だ舂かずして穀の雜れるもの。

【皺】シウ、シユ。測救切 宥
㊀面のしわ、又、眉をしわむ。㊁表皮のたるみを生じて其の面に細條をあらはすもの、しわ。○[韓愈]「爛・熳堆ニ衆――一」。㊂紅――は、ほしなつめ(乾棗)。○[韓

僉」「紅――曬二檐‐瓦一」。
（皺皺） しわ。○〔薛逢詩〕「老‐皮――交‐縱‐橫」。
（皺皺） のこりのしわ。○〔孫渥〕「展盡帶二――一」。

【皺】 シウ、シュ。菑尤切 尤 ㊀皮文蹙む、ちゞむ、しわむ。㊁くりのいが（栗‐蓬）。○〔貫休〕「新‐蟬避二栗‐――一」。

【紴】 パ、マ。密沙切 麻 ――唇は、口を閉づる貌にいふ語、くちふさぐ。

【⿰倝皮】 カン。何干切 寒 たなしゝ（膜）。

十一畫

【皻】 サ、セ。側加切 麻 鼻の上の皰、もがさ、かざほろし。○〔素問〕「勞汗當二風‐寒一薄爲レ――」。
（酒皻） おやくろばな、鼻端の赤くなる病。○〔正字通〕「紅暈似レ瘡浮起著二面‐鼻一者俗謂二――一」。

【皻】 ソ、ス。采古切 麌 ひゞ、しわ（皵）。

【⿰鹿皮】 ロク。盧谷切 屋 獸の皮に文の有る貌にいふ字。

【⿰畢皮】 ヒツ、ヒチ。畢吉切 質 ㊀畫きたる韋、かは。㊁ひざかけ（韍）。

【⿰甾皮】 シ。側持切 支 手足に堅き皮を生ずるを。

【⿰曼皮】 ベン、武遠切 阮 バン、マン。無販切 願 皮の脱離するにいふ字、かはむく。

【⿰曼皮】 バン、マン。謨官切 寒 かは（皮）。

【⿰⿸厂曼皮】 皺に同じ。

【皺】 シウ、シュ。側救切 宥 皮縮む、ちゞむ。

十三畫

【⿰賁皮】 フン、ブン。扶分切 文 つゞみ（鼓）。

【⿱𦥯皮】 カク、コク。轄覺切 覺 皮乾く、かはく。

【⿰⿸厂易皮】 俗の⿰⿸厂曼皮の字。

【⿰亶皮】 タツ、タチ。他達切 曷 皮の起こるにいふ字、はろ、ふくろ。

【皽】 テン。知輦切 セン。之輦切 銑 セウ。之遙切 蕭 ㊀はなる（離）。㊁皮寛し、ひろし。㊂肉の上の魄膜、にくのうすかは。○〔禮〕「濯レ手以摩レ之去二其――一」。

【⿰亶皮】 タン。黨旱切 旱 面の膚の病。

十四畫

【⿰需皮】 ゼン、デン。忍善切 銑 柔き皮。

【⿰需皮】 ドウ、ヌ。奴侯切 尤 つくりかは（革）。

【⿸厭皮】 エン。於琰切 琰 かさぶた（瘍痂）。

十五畫

【⿰賣皮】 トク、ドク。徒谷切 屋 ㊀なめらか（滑）。㊁弓を藏むる具、ゆぶくろ。○〔揚雄〕「所三所藏二箭‐弩一謂二之箙一弓謂二之韣一或謂二之――一」。

【⿰暴皮】 ハク、ボク。北角切 覺 ㊀うごもりおこる、はれあがる（墳‐起）。㊁皮の破るゝにいふ字。

【⿰蔑皮】 ハツ、ホチ。勿發切 月 たび（足衣）。

【⿰巤皮】 ラフ、ロフ。力盍切 合 皺の字を見よ。

【⿸廣皮】 クワウ。古晃切 養 張りて大いなる貌にいふ字、ひろぐ、

十六畫

【⿸盧皮】 リョ、ロ。凌如切 魚 ㊀かは（皮）。㊁腹の前のかは。

十九畫

【⿰繭皮】 ケン。古典切 銑 ㊀皮起ころ、はる。㊁たこ（胝）。㊂足の節の傷つくにいふ字。

【⿱䜌皮】 セフ。先叶切 葉 やはらぐ（和）。

皿 部

【皿】 ベイ、ミヤウ。眉永切 バウ、ミヤウ。母梗切 梗 飯食を盛るに用ふる一種の器、即ち、盤盂の屬、さら。○〔孟〕「牲‐殺器‐――」。
（溺皿） いばりをいるゝうつは。○〔貞婦韓氏詩〕「安肯作二――一」。

二畫

【⿱卜皿】 キ。孔几切 紙 うつは（器）。

三畫

【⿱工皿】 クワ。古火切 哿 さら、はち（盤）。

【⿱子皿】 ケツ、コチ。居謁切 月 さら、はち（盤）（齊人の語）。

【盳】 バウ、マウ。莫浪切 漾 ――浪は、精要ならざる貌にいふ語、あらくし。

【⿱干皿】 カン。居寒切 寒 さら（盤）、又、わん（盌）。

【盂】 ウ。雲俱切 虞 ㊀飲食を入るゝに用ふる一種の器、はち、わん。○〔史〕「酒一――」。㊁田獵の陳の名。○〔左〕「宋‐公爲二右‐――一鄭‐伯爲二左‐――一」。

㊂一種の草、ちからぐさ。○〔爾、疏〕「—-草似レ茅者、一-名狼-尾」。
〔盤盂〕 書物の名、又、飯食などをもる器。○〔抱朴〕「見ニ諸-海-如ニ—-—ニ」。
〔銚盂〕 酒杯。○〔孔平仲〕「右手進ニ—-—ニ」。
〔飯盂〕 めしをもるうつは。○〔馬祖常〕「—-—給ニ香-積ニ」。

〔⿱亐皿〕 盂の本字。

〔⿱攵皿〕 ハク、ボク。兵捉切 覺 うつは（器）。

四畫

〔⿱瓜皿〕 カ、ケ。火牙切 麻 はち（盂）。

〔盃〕 俗の杯の字。

〔⿱癸皿〕 ケイ、ガイ。胡雞切 齊 小さき盆。

〔盄〕 セウ。之遙切 蕭 うつは（器）。

〔盅〕 チウ、ヂユ。持中切 東 器の内部空し、むなし。○〔老〕「道—而用レ之」。

〔盆〕 ホン、ボン。步奔切 元 ㊀水漿などを盛る一種の瓦器、ほとぎ、はち。○〔周〕「陶-人爲レ—」。㊁鹽を煮るに用ふる一種の器。○〔漢〕「官與ニ牢—ニ」。㊂繭をはちの中に置き手を淹けて蠶絲の緒を出だすにいふ字、くりだす。○〔禮〕「夫-人繅ニ三—レ手」。
〔缺盆〕 乳房の上の骨。○〔史〕「疽發ニ乳-上ニ入ニ—-—ニ。「—狀ニ」。
〔覆盆〕 （い）はちをふす、ふせばち。○〔論衡〕「若ニ—-—」。（ろ）はちを頭上におほふと、轉じて、天日の光を仰ぐ能はざると、冤罪にかゝると、君澤を蒙むる能はざると。○〔駱賓王〕「—-—徒望レ日」。（は）雨のはげしく降るといふ語。○〔釋簡〕「電-掣雷-轟雨—レ—」。（に）くさいちご。○〔本草釋名〕「蓬-虆一-名—-—」。
〔翻盆〕 前の（は）に同じ。○〔杜甫〕「白-帝城-下雨—レ—」。
〔瓦盆〕 かはらもて作りたる鉢。○〔杜甫〕「莫レ笑田-家老—-—」。
〔大盆〕 おほいなるひらか。○〔晉〕「以ニ—-—ニ盛レ酒」。
〔鼓盆〕 鉢を打ちたゝく。○〔莊〕「莊-子則方箕-踞、—レ—而歌」。
〔叩盆〕 前に同じ。○〔淮〕「窮-鄙之社、—レ—拊レ瓴、相和而歌」。
〔戴盆〕 承盤を頭の上に戴すると覆盆の（ろ）に同じ。○〔司馬遷〕「僕以爲—レ—何以望レ天」。
〔瓶盆〕 かめとたらひと。○〔柳貫〕「掬レ月在ニ—-—ニ」。
〔甑盆〕 こしきと鉢と。○〔韓詩外傳〕「昔者舜—-—無レ膻」。
〔偃盆〕 盤をうつぶせにすると。○〔十洲記〕「形似ニ—-—、下狹上廣」。
〔酒盆〕 酒を入るゝ鉢。○〔杜牧〕「喚レ婦呼レ兒索ニ—-—ニ」。
〔照盆〕 てり光るぼん。○〔蘇軾〕「清-泉滿ニ—-—ニ」。
〔栽盆〕 植木をうゝる鉢。○〔文同〕「—-—貯レ水種ニ浮-萍ニ」。
〔盎盆〕 鉢。○〔黄庭堅〕「地-形如ニ—-—ニ」。
〔老盆〕 ふりたるはち。○〔陸游〕「歌-呼閑ニ—-—ニ」。
〔傾盆〕 盤を横たへかたぶく。○〔劉基〕「—レ—倒レ榼混ニ醨-醬ニ」「鱗行-々」。
〔雕盆〕 ゑりきざみたる盤。○〔周權〕「—-—犀-筋」。
〔盥盆〕 たらひ。○〔指月錄〕「北師令レ掌ニ—-—ニ」。
〔盂蘭盆〕 陰暦の七月十五日になす佛事の名、即ち、精靈祭。○〔釋氏要覽〕「亦應レ奉ニ—-—-—ニ」。

〔⿱分皿〕 湓に通じ用ふ、水滿ち起こる、あふる。○〔後漢〕「漢-水—-溢」。

〔盇〕 盍に同じ。

〔盈〕 エイ、ヤウ。餘輕切 庚 ㊀みつ（充）。○〔左〕「彼竭ニ我—一故克レ之」。㊁あふる（溢）。○〔史〕「進-退—-縮」。㊂あまる（餘）。○〔禮〕「樂主ニ其—一」。㊃嬴に通じ用ふ。○〔古詩〕「—-—樓-上女」。
〔虧盈〕 滿ちたるものを損す、又、かくとみつと。○〔易〕「天-道—レ—而益レ謙」。
〔充盈〕 充滿すると。○〔禮〕「四-體既正、膚-革—-—」。
〔滿盈〕 前に同じ。○〔庾信〕「久知ニ—-—ニ」。
〔憤盈〕 怒氣充滿すると。○〔後漢〕「思レ効ニ其區-々—-—一而不レ能レ已也」。
〔衍盈〕 餘り滿つ。○〔韓詩外傳〕「歡-樂—-—」。
〔徐盈〕 しづかに充滿す。○〔淮〕「源-流泉-浡、沖而—-—」。
〔驕盈〕 たかぶりて足ることを知らぬ。○〔新序〕「呂-祿—-—無レ厭」。
〔修盈〕 長じ滿つ。○〔天問〕「鯀-疾—-—」。
〔豐盈〕 ゆたかに足る。○〔趙抃〕「訟-簡歲—-—」。
〔忌盈〕 滿ち足らふことを嫌ひてへりくだること。○〔楊炯〕「自滿知レ損、居レ中—レ—」。
〔沖盈〕 空しくあると滿つと。○〔孫覿〕「圖-畫表ニ—-—ニ」。

〔⿱斗皿〕 キ。丘規切 支 はち（鉢）。

〔盋〕 ハツ、ハチ。兵末切 曷 うつは（器）。

五畫

〔盉〕 クワ、ワ。胡戈切 歌 胡臥切 箇 五味を調理する器、うつは。○〔博古圖〕「商有ニ阜-父丁—一執-戈-父癸—一」。

〔⿱用皿〕 ヨウ、ユ。余頌切 宋 おほほとぎ（大甖）。

〔⿱台皿〕 カイ、ケ。許亥切 賄 酒を盛る器。

〔⿱必皿〕 ビツ、ミチ。彌畢切 質 うつは（器械）。

〔⿱宁皿〕 チヨ、ド。丈呂切 語 うつは（器）。

〔⿱幼皿〕 アウ、エウ。於教切 效 器の中の平かならざるにいふ字。

〔益〕 エキ、ヤク。伊昔切 陌 ㊀ます。（い）饒ゆ、進む、加はる、多くなる。○〔呂氏春秋〕「其家必日—」。（ろ）進ます、加ふ、多くなす、饒やす。○〔國〕「—レ之以ニ三-怨ニ」。（は）助く。○〔國〕「以—ニ公-賞ニ」。㊁ますと、ためになると、利德あると。○〔禮〕「請レ—則起」。㊂多し、饒かなり。○〔史〕「最爲ニ饒-—」。㊃みつ（盈）、あふる（溢）。○〔莊〕「有ニ貌-愿而—ニ」。㊄易の卦の名、☴☳（震下巽上）○〔易〕「—利レ有レ攸レ之」。㊅あるが上に、ますく。○〔左〕「三-命茲—共」。
〔損益〕 減ると增すと。○〔唐〕「論レ事無ニ一言可ニ—-—ニ」。
〔裨益〕 たすく。○〔詩〕「政-事一—ニ—我ニ」。
〔附益〕 つけ加ふ。○〔論〕「而—ニ—之ニ」。
〔增益〕 まし加ふ、まし加はる。○〔孟〕「—ニ—其所レ不レ能」。
〔饒益〕 ゆたかなると。○〔史〕「陽最爲ニ—-—ニ」。
〔誘益〕 たすけみちびくと。○〔後漢〕「好レ士喜ニ—-—後-進ニ」。
〔便益〕 便利よし。○〔謝承後漢書〕「數陳ニ—-—ニ」。
〔富益〕 ます、又、多し。○〔魏〕「可ニ以—-—ニ」。

〔裨益〕 まし加ふ、ましかはる。○〔隋〕「又加二ーー一」。
〔匡益〕 たすく。○〔晉中興書〕「志在二ーー一」。
〔忠益〕 忠義をつくしてためになる。○〔諸葛亮〕「ーー者莫レ大二于進一レ人」。
〔廣益〕 ひろめます。○〔諸葛亮〕「有レ所二ーー一」。
〔規益〕 いましめたすく。○〔諸葛亮〕「斟酌ーー」。

【盁】 ガ、ゲ。語下切 馬
さかづき（酒器）。○〔揚雄〕「杯也秦晉之郊謂二之ーー一」。

【盋】 ハツ、バチ。北末切 曷
食器、盂の屬、わん。○〔程大昌〕「盋食器若レ盂大、今之所レ謂ー盂也」。

【𥁰】 ヘン、ベン。符炎切 鹽　ハン、ホン。孚梵切 陷
さかづき（桮）。○〔揚雄〕「趙魏之閒或曰レー」。

【昷】 ヲン、烏渾切 元
温に同じ。

【盌】 ワン。鄔管切 旱
小さき盂、はち、わん、さら。○〔吳〕「寧先以二銀ー一酌レ酒自飲二兩ーー一」。
〔酒盌〕 さけをもる椀。○〔黃庭堅〕「ーー未二敢驟一」。

【盇】 カフ、ゴフ。胡閤切 合
㊀あふ（合）。○〔易〕「朋ー簪」。
㊁疑問に用ふる字、何不の二字の義を兼ぬ、なんぞ（先づ讀みて）、ざる（返し讀みて）。○〔論〕「ー各言二爾志一」。

【盍】 カツ、丘葛切 曷　カイ、カチ。切丘蓋切 泰
鶡に同じ、ーー旦は鳥の名。○〔禮〕「相二彼ーー旦一」。

【盎】 アウ。於浪切 漾　烏朗切 養
㊀はち、ほとぎ、（盆）。○〔後漢〕「首戴二瓦ーー一」。
㊁盛んなる貌にいふ字。○〔樓昇〕「春陽ーー」。
㊂盛んに見はる、あふる。○〔孟〕「ー二於背一」。
〔盆盎〕 ほとぎ。○〔蘇軾〕「置二之ーー中一」。
〔油盎〕 あぶらをもりたるほとぎ。○〔入蜀記〕「平如二ーー一」。
〔瓶盎〕 かめ。○〔陸游〕「儲米滿二ーー一」。

六畫

【𥁞】 俗の盡の字。

【𥁬】 イウ、ウ。尤救切 宥　云九切 有　クワイ、エ。胡隈切 灰
水を抒むに用ふる小さき甌。

【盒】 カフ、ゴフ。胡閤切 合
盤の屬、さら、一說に、盤の覆、さらのふた。○〔考盤餘事〕「倭ー三子五子必須二子口堅密一不レ泄二香氣一方妙」。

【盦】 アン、オン。烏含切 覃
器の口斂まる、すぼむ。

【𥁱】 レイ。力制切 霽
うつは（器）。

【盓】 ウ、ヲ。憂俱切 虞　ヲ。衣虛切 魚　ヲ、ウ。汪胡切 虞
盤ーーは、水の旋り流るゝにいふ語。○〔木華〕「盤ーー激而成レ窟」。

【𥂀】 ゲン。倪堅切 先
㊀わん（椀）。㊁さかづき（醆）。

【盔】 クワイ、ケ。枯回切 灰
㊀ほとぎ、はち、（盂）。㊁かぶと、（首鎧）。

【𥂁】 ケン、クワン。居願切 願　古倦切 霰
わん、はち、（盂）。○〔揚雄〕「海岱東齊北燕之閒、盂或謂二之ーー一」。

【𥂂】 棬圈に同じ、まげものゝはち。

【𥂅】 アン。於寒切 寒
はち、わん（盂）。○〔揚雄〕「河濟之閒謂二之ー盨一」。

【盖】 俗の蓋の字。

七畫

【𥂇】 ホ、フ。方矩切 麌
黍稷を盛る圜き器。

【𥂃】 キ。居洧切 紙
黍稷を盛る方なる器。

【盛】 セイ、ジヤウ。是征切 庚
㊀器にもりて神前に供ふる黍稷などの稱、もりもの。○〔書〕「犧牲粢ー」。
㊁物をもる器、即ち、杯杅の如きものの稱。○〔禮〕「食二粥於ー一不レ盥」。
㊂もる。
（い）器に入れ盈たす。○〔詩〕「于以ーレ之、維筐維筥」。
（ろ）器に入れ受く。○〔內經〕「小腸者受ー之官」。
㊃なる、なす、（成）。○〔周〕「共二白ー之蜃一」。
㊄裝飾の嚴かなること。○〔左〕「ー服將レ朝」。
㊅堤防、つゝみ。○〔爾〕「山如レ防者ー」。
〔齊盛〕 黍稷を器にもりて神に供ふること。○〔禮〕「天子籍田、奉二天地山川一以爲二ーー一」。
〔豐盛〕 ゆたかなるもりもの。○〔左〕「粢ーーー」。
〔奉盛〕 黍稷をもりたる器をさゝげもつこと。○〔左〕「ーレー以合」。
〔簠盛〕 もる器、又、器にもる。○〔籍田賦〕「我ー斯ー」。
〔容盛〕 入れもる。○〔急就篇〕「無レ不二ーー一」。
〔薉盛〕 いけにへのもりもの。○〔文心雕龍〕「ーー惟馨本二於明德一」。
〔嘉盛〕 よき黍稷のもりもの。○〔李華〕「玉燭內融則ーー豐備」。

【盛】 セイ、ジヤウ。承政切 敬
㊀さかる、さかんなり。
（い）興る、滿つ。○〔禮〕「生氣方ー陽氣發泄」。
（ろ）大いなり。○〔漢〕「私家ー者公室危」。
（は）長ず。○〔漢〕「天子春秋鼎ー」。
（に）多し。○〔後漢〕「學者滋ー弟子萬數」。
（ほ）强し。○〔呂氏春秋〕「此其備必已ー」。
（へ）茂る。○〔呂氏春秋〕「樹木ー則飛鳥歸レ之」。
（と）榮ゆ。○〔史〕「君之祿位尊ー」。
（ち）等進みて其の極にいたる。○〔莊〕「平者水停之ー也」。
（り）物事を歎美していふ字。○〔張衡〕「ー二夏后之致一レ美」。
㊁前條の㊂に同じ、もる。○〔漢〕「壺者所二以ー一也」。
〔大盛〕 極めてさかんなること。○〔史〕「物禁二ーー一」。
〔昌盛〕 さかんなること。○〔術〕「子孫當二ーー一」。
〔明盛〕 道あきらかにさかんなり。○〔王融〕「幸哉ーー世」。

（茂盛）しげる。○〔西京雜記〕「至レ今――」。
（美盛）立派にしてさかんなり。○〔董仲舒〕「習俗――」。
（鮮盛）あざやかなり。○〔詩、疏〕「――者爲レ雄」。
（殷盛）多くさかんなり。○〔史〕「民以――」。
（衆盛）前に同じ。○〔詩、箋〕「戎車既――」。
（熾盛）前に同じ。○〔漢〕「人民――、牛馬布レ野」。
（阜盛）前に同じ。○〔周、疏〕「通二貨賄一使二之――一」。
（豐盛）前に同じ。○〔後漢〕「成都民物――」。
（彊盛）つよくしておほし。○〔北〕「漢武士馬――」。
（雄盛）つよし。○〔晉〕「士馬――」。
（晉盛）位高くさかんなり。○〔史〕「然而君之祿位――」。
（尊盛）前に同じ。○〔漢〕「聞二知竇氏――日久一」。
（富盛）たかちとみてさかんなり。○〔晉〕「宗族――」。
（彌盛）ますますさかんなり。○〔北〕「久而――」。
（全盛）充分にさかんなり。○〔五〕「臣見二長安――時一」。
（榮盛）さかゆ。○〔江淹〕「都野宗二其――一」。
（繁盛）前に同じ。○〔李中〕「――復風流」。

【盜】タウ、ドウ。杜到切 號

㊀ぬすむ。
（い）私かに取る、私かに掠む。○〔左〕「――レ器爲レ姦」。
（ろ）すべて私に利するにいふ字。○〔荀〕「――レ名不レ如レ盜レ貨」。
㊁ぬすびと。
（い）ぬすみする者。○〔周〕「刑二――于市一」。
（ろ）殘賊者。○〔史〕「吾所二以遣レ將守レ關者備二他――之出入與一レ非常一」。
㊂小人。○〔詩〕「君子信レ――亂是以暴」。

（邦盜）國家の寶藏を竊み取れるぬすびと。○〔周〕「六日、爲二―――一」。
（狗盜）小ぬすびと。○〔史〕「客有下能爲二――一者上」。
（大盜）おほぬすびと。○〔後漢〕「聖人生而――起」。「相繼而起」。
（剽盜）追ひはぎをなす。○〔新書〕「――攻擊者、
（謗盜）ぬすびとするとをそしへ知らす。○〔易〕「慢レ藏――」。「荒、――起」。
（姦盜）惡しきもの、ぬすみするもの。○〔晉〕「農事
（險盜）心けはしくして私利をいとなむ。○〔詩、疏〕「此――之人、其言甚甘」。
（賊盜）人をそこなひて私利をいとなむ。○〔春秋、註〕「反與二小人一造二――之計一」。
（寇盜）亂暴をなしぬすみをなすと。○〔漢〕「民俗質木、不レ恥二――一」。
（竊盜）ぬすびと、又、ぬすみ。○〔唐〕「西甞二巴蜀、無二鼠――之一」。
（聚盜）ぬすびとを寄せあつむ。○〔史〕「――二汗上一」。「嘯聚」。
（羣盜）むらがりてありくぬすびと。○〔宋〕「――
（行盜）おしありくぬすびと。○〔漢〕「野無二――一」。
（偸盜）ぬすみすると、又、ぬすびと。○〔後漢〕「傷レ人――者次レ之」。
（鈔盜）物品をかすめぬすむ。○〔後漢〕「不レ爲二――一則可矣」。
（劫盜）おびやかしぬすむ。○〔南〕「毎二火起及有二――一、輙身貫二甲冑一」。
（化盜）ぬすびとを教へ導きて善に遷らしむ。○〔呉〕「漁則――、居則讓レ鄰」。
（淫盜）みだらなる行をなしてぬすみをなす。○〔南〕「賊姦――者、一皆蕩滌洗除」。
（宿盜）大ぬすびと。○〔北〕「誘二接豪右――魁帥一與相交結」。「資」。
（掠盜）かすめぬすむと。○〔北〕「唯以二――一爲レ
（殘盜）多くは平ぎてそのあとにのこりあるぬすびと。○〔唐〕「除二――一」。
（急盜）ぬすびとを嚴重にとりしまると。○〔宋〕「其治以二疾姦――一爲レ本」。「法」。
（繩盜）ぬすびとを法に處す。○〔宋〕「――以二峻
（劇盜）大ぬすびと。○〔宋〕「招二――一曹成一」。
（巨盜）前に同じ。○〔莊〕「――至則負レ匱揭レ篋」。
（跡盜）ぬすびとのあとをつけありくと。○〔宋〕「開二封邏卒夜――」。
（縱盜）ぬすびとをはなちやると。○〔魏收〕「――侍レ國」。
（激盜）大ぬすびと。○〔嵇康〕「――似レ忠」。
（耗盜）減らしぬすむ。○〔王毅之〕「――二官米一」。

【盠】タイ、デ。徒回切 灰

器の名。

【盄】テウ、デウ。徒弔切 嘯 田聊切 蕭

草田の器、ふご。

【⿱足皿】ショク、ソク。又足切 沃

はち、わん（盂）。

【⿱昃皿】サク、ソク。測角切 覺

さかづき（杯）。

【⿱囧皿】

盟の本字。

【⿱亞皿】ア、エ。烏馬切 馬

㊀もる（盛）。㊁さかづき（酒器）。

八畫

【⿱穴皿】ボウ、ム。莫紅切 東

器に盛りて滿つる貌にいふ字、みつ。

【葢】

蓋に同じ。

【盝】ロク。盧谷切 屋

㊀水を去る、つくす（竭）、からす（涸）、たゝらす（瀝）、こす（濾）。○〔周〕「涑レ帛清二其灰一而――レ之」。
㊁小さき櫝匣、はこ。○〔宋〕「皇帝承二天受命之寶納二於小――一」。

（漆盝）うるしぬりのはこ。○〔白居易〕「――是行廚」。
（奩盝）香を藏むるはこ。○〔秦觀〕「圓月探二――」。「――」。

【盞】サン、セン。阻限切 潸

小さき杯、さかづき。○〔東坡題跋〕「盛年時能飮二百――一」。

（酒盞）さかづき。○〔東坡題跋〕「吾少年望二見――而醉」。
（盃盞）前に同じ。○〔元稹〕「――莫二相違一」。
（洗盞）さかづきをすゝぎあらふと。○〔蘇軾〕「――レ――酌二鵝黄一」。「――自相稱」。
（紫盞）むらさき色のさかづき。○〔梅堯臣〕「兔毛
（瓦盞）すやきのさかづき。○〔梅堯臣〕「――無二完全一」。
（琢盞）みがきたるさかづき、又、さかづきをみがく。○〔王安石〕「玻璃――レ――圓」。

【⿱林皿】シヤ、ゼ。常者切 馬

器の名。

【⿱社皿】シヤ、ゼ。神夜切 禡

うつは（器）。

【盟】ベイ、ミヤウ。眉兵切 庚 武永切 梗 眉病切 敬

㊀神明に告げて差はざらんとを約す、ちかふ。○〔詩〕「君子屢――」。
㊁ちかふと、ちかふ所、ちかひ。○〔左〕「背レ――而欺二大國一」。

（詛盟）ちかひ。○〔書〕「以覆二――一」。
（可盟）官の名。○〔周〕「――掌二盟載之法一」。
（同盟）共に誓約をなすと。○〔春秋〕「――于幽一」。
（宗盟）宗室に於ての誓約。○〔左〕「周之――、異姓爲レ後」。
（渝盟）ちかひの旨を變更す。○〔左〕「盟曰、――無レ享レ國」。
（尋盟）ちかひせる旨をたづねならぶ。○〔左〕「會二於稟丘一、――且修二好禮一」。
（要盟）ちかひ。○〔公羊〕「――可レ犯、而桓公不レ欺、曹子可レ讐而桓公不レ怨」。
（大盟）天子親しく臨みて誓約す。○〔周〕「軍旅――則飾二其牛牲一」。
（涖盟）席に臨みてちかひをなす。○〔春秋〕「公子友如レ齊――レ――」。
（爭盟）ちかひをなすとき主となるとを競ふ。○〔左〕「小國――レ――禍也」。
（主盟）ちかひのときにあるじとなる。○〔左〕「何以――レ――」。「――於齊也」。
（與盟）ちかひの列に加はる。○〔左〕「討二其不レ――一」。
（舊盟）もとのちかひ。○〔左〕「君尋二――一」。

(强盟) 欲せざるを推してちかふ。○〔左〕「迫二孔·悝於厠一、—·—レ之」。
(改盟) ちかひをしなはすこと。○〔左〕「晉人請二—·—一、弗·許」。
(約盟) ちかひに同じ。○〔楊萬里〕「湖山苦二—·—一」。
(交盟) 互に誓約すること。○〔徐陵〕「屈レ體—·—」。
(守盟) 誓約せる旨にしたがひまもる。○〔程俱〕「守レ約如レ—·—」。

【⿱朙皿】 バウ、ミヤウ。莫更切 敬
孟に通じ用ふ。○〔史〕「武王東觀二兵於—·津一」。

【⿱泜皿】 チ、ヂ。直宜切 支
泜に同じ、つけな、つけもの。

九畫

【盠】 レイ、ライ。憐題切 齊　盧啓切 薺　良以切 紙
瓢をもて作れる飲器、へうたん、ひさご。

【盡】 ジン。在忍切 軫　徐刃切 震
㊀つく。
(い)空しくなる、無くなる。○〔左〕「糧·食將レ—」。
(ろ)止む、終はる。○〔荀〕「可二以近レ—」。
(は)極まる。○〔左〕「宮·室崇·侈、民·力彫—」。
(に)詳か。○〔禮〕「明者禮之—」。
㊁つくす。
(い)無くならしむ、終はらしむ。○〔左〕「去レ惡莫レ如レ—」。
(ろ)詳かにす。○〔易〕「書不レ—レ言」。
(は)極む。○〔書〕「往—二乃心一」。
(に)まゝに爲さしむ、任す。○〔左〕「—二其家一貸二於公一」。
㊂何れも、みな、ことごとく。○〔左〕「周禮—在レ魯」。
㊃つくし視る貌にいふ字。○〔荀〕「學者之魂—·—·然盱·々·然」。
(竭盡) つくす、つく。○〔漢〕「願三自—·—以承二其親一」。
(罄盡) むなしくつく。○〔晉〕「家·貲—·—」。
(散盡) ちらしつくす、ちりつくす。○〔李白〕「—·—空掉レ臂」。
(曲盡) こまごまときはむ、又、音樂歌舞などのふし終はる。○〔李白〕「—·—星·河稀」。
(窮盡) きはめつくす、きはまりつくす。○〔西京雜記〕「—二—醜·麗一」。
(周盡) 極めてゆきわたる。○〔劉無雙〕「叙·述—·—」。
(小盡) 陰曆にて月の二十九日にてつくること、即ち、小の月、又、月の三十日にてつくるを大の月、即ち、大盡といふ。○〔孀眞子錄〕「中·國以二二·十·九·日一爲二—·—一」。

【⿱肀⿱火皿】 盡の本字、爐と別なり。

【⿱狊皿】 ケキ、キヤク。呼狊切 錫
山の名。

【監】 カン、ケン。古銜切 咸
㊀みる。
(い)下に臨みて督察す、すぶ、しらぶ。○〔詩〕「何用不レ—」。「瘝·歎」。
(ろ)目を閉ざさず。○〔後漢〕「—·瘝」。
㊁しめす、(觀)。○〔國〕「使三長—二于世一」。
㊂かぬ、(攝)。○〔左〕「君行則有レ守、守曰二—·國一」。
㊃雲氣の日に臨むこと。○〔周〕「掌二十·煇之法一四曰—」。

【監】 カン、ケン。古陷切 陷
㊀みる。
(い)明かに察す、あきらかにす。○〔書〕「天—二其德一」。
(ろ)前條の㊀の(い)に同じ。○〔詩〕「—二觀四·方一」。
(は)照し視る、かんがみる。○〔論〕「周—二於二·代一」。
㊁しらぶる者、めつけ。○〔禮〕「其大·夫爲二三—一」。
㊂すぶる者、かさ、宰領。○〔周〕「邦·國立二其—一」。
㊃後宮の官吏、官寺。○〔史〕「因二景—一求レ見二孝·公一」。
㊄かゞみ(鑑)。○〔班倢伃〕「陳二女圖一以鏡—」。
㊅明かなる貌にいふ字。○〔靈樞經〕「陽·明之上—·—然」。
(家監) 身分ある人の家の宰領たる役。○〔史〕「—·—使レ養二惡·豢·馬一」。
(狗監) 君の畜ひおける犬の宰領。○〔漢〕「蜀·人·楊得·意爲二—·—一」。
(四監) 山と澤と林と川との事を宰領する官のこと。○〔禮〕「季·夏之月、命二—·—一大合二百·縣之秩一」。
(馬監) 馬の事を宰領する官の名。○〔漢〕「即·日賜二湯·沐衣·冠一、拜爲二—·—一」。
(軍監) いくさの目附。○〔漢〕「外設二—·—一」。
(冶監) 鍛鐵の事を掌る官。○〔周書〕「—·—毎·月役二八·千·人一」。
(總監) すべくゝりて宰領する官。○〔隋〕「同·州—·—、副·監各一·人」。
(牧監) 畜牧の事を宰領する官。○〔隋〕「置二左·右—·—一」。
(宮監) 宮中の事を宰領する官。○〔唐〕「領二晉·陽—·—一」。
(副監) 正監の下にありて之を輔佐する官の名。○〔唐〕「歷二侍·御史晉·陽宮—·—一」。

十畫

【⿱浦皿】 籀文の餔の字、ゆふめし。

【盤】 ハン、バン。蒲官切 寒
㊀物を盛り又は物を承くるに用ふる器、さら、はち。○〔左〕「饋二—·飧一、寘レ璧」。
㊁沐浴に用ふる器、たらひ。○〔大〕「湯之—·銘」。
㊂般に通じ用ふ、たのしむ。○〔書〕「—·遊無レ度」。
㊃蟠に通じ用ふ、わだかまる。○〔司馬相如〕「其山則—·紆岪·鬱」。
㊄磐に通じ用ふ、いはほ。○〔漢〕「—·石之宗」。
㊅めぐる(旋)。○〔張蟦〕「—·渦逆入嵌·空地」。
(銅盤) あかゞねにて作りたる器。○〔史〕「毛·遂奉二—·—一而跪進レ之」。
(玉盤) たまの飾りを施したるかなたらひ。○〔三輔黃圖〕「乃拂二—·—一墜二氷·玉一」。
(屈盤) かゞまりわだかまる。○〔李白〕「—·—戲二白·馬一」。
(殷盤) 殷代の君盤庚の作りたる盤庚の篇のこと、書經の中に在り。○〔韓愈〕「周·誥—·—、詰·屈聱·牙」。
(遊盤) あそびたのしむ。○〔歐陽修〕「苟懷二四·方志一、所·在可二—·—一」。
(情盤) こゝろたのしむ。○〔顔延之〕「—·—景遽、歡·恰日斜」。
(甘盤) 殷の賢臣の名。○〔書〕「台小·子舊學二于—·—一」。
(小盤) さゝやかなるかなたらひ。○〔杜甫〕「低レ頭拭二—·—一」。
(燭盤) ともしびを載せおく器のこと。○〔杜牧〕「客袖二清·霜·粱二—·—一」。
(寶盤) 奇珍なるたらひ。○〔宋〕「冠二寫·冠一執二—·—一」。
(鼓盤) たらひを打ちたゝく。○〔風土記〕「越·俗飲·宴即—レ—以爲レ樂」。
(唾盤) つばを吐くためのたらひ。○〔女仙傳〕「擲二—·—中一即成二鯉·魚一」。
(鬱盤) おほひて曲がりめぐること。○〔徐勉〕「茲山復—·—」。
(折盤) 舞ふ貌にいふ語。○〔南都賦〕「怨二西·京之—·—一」。
(磨盤) 幾重にもかさなれる石のこと。○〔景福殿賦〕「岡乃建二凌レ雲之—·—一」。
(宵盤) 人に隱れて樂しむ。○〔郭璞〕「圖·豁可二—·—一」。
(宵盤) 夜樂しむ。○〔顔延之〕「—·—晝憩、非レ舟·非レ駕」。
(素盤) 飾らざる盤のこと。○〔鮑照〕「—·—進二青·梅一」。
(雕盤) 物の形を彫り飾りたる盤のこと。○〔張說〕「—·—裝二芸·梅一」。
(麗盤) 美しき盤のこと。○〔梁簡文帝〕「施二雕·金之—·—一」。
(果盤) くだものを入れたる盤のこと。○〔梁簡文帝〕「烟生向二—·—一」。
(璪盤) 玉にて飾りたる沐浴のたらひ。○〔江淹〕「翠·盤—·—、御二靈仙·丹一」。

〔渦盤〕うづまきめぐる。○〔宋之問〕「繚繞避二――一」。
〔縈盤〕まとひつくこと。○〔李白〕「水-狀龍――」。
〔愁盤〕憂への心まとひめぐる。○〔孟郊〕「腸-中轉――」。
〔紆盤〕まがりめぐること。○〔蔡襄〕「山-路何――」。

十一畫

【盬】コ、ク。果五切 [麌]
うつは(器)。

【盥】クワン。古玩切 [翰] 古緩切 [旱]
❶盤水を手に沃ぎかく、あらふ、てあらふ。○〔左〕「奉レ匜沃―」。
❷手あらふ盤、たらひ、てあらひ。○〔金〕「爰潔二其―一亦豐二其俎一」。
〔漱盥〕口そゝぎ手をあらふこと。○〔水經、註〕「無二敢――一」。
〔淸盥〕きよきたらひ。○〔謝朓〕「拔レ衣就二――一」。
〔梳盥〕頭髮をくしけづり手をあらふこと。○〔蘇軾〕「策レ杖就二――一」。
〔盤盥〕前に同じ。○〔陸游〕「晨興未二――一」。
〔濯盥〕てあらふこと。○〔蘇轍〕「未三肯忘二――一」。

【⿱既皿】キ、其既切 [未] キ。去吏切 [寘]
❶器の名。
❷居――は、一種の獸、蝟に似て毛赤し。

【⿱麻皿】バ、眉波切 [歌] バ、謨加切 [麻]
さかづき(杯)。○〔揚雄〕「齊-右平-原以-東或曰レ―」。

【盦】アフ、乙盍切 [合] アン、鄔感切 [感] 烏含切 [覃]
ふた(覆-盍)。○〔博古圖〕「周有二交-虬――一、蓋鼎之益也」。

【盝】盝、漉に同じ、こす。○〔詩、註〕「以レ篚―レ酒」。

【盧】ロ、ル。籠都切 [虞]
❶火を盛る器、一說に、飯を盛る器。○〔漢、註〕「形如二鍛――一」。
❷酒を賣る區、土を累ねてつくり中に酒瓮を据ゑ置くもの。○〔漢〕「文-君當レ―」。
❸黑き色、くろ。○〔書〕「―弓一、―矢百」。
❹樗蒲の采の五子皆くろきものゝ稱、最も勝利を得べきもの。○〔晉〕「挼二喝五-木一成レ―」。
❺矑に通じ用ふ、目中の黑子、ひとみ。○〔揚雄〕「玉-女無レ所レ眺二其淸――一」。
❻獹に通じ用ふ、良き犬の名。○〔詩〕「―令-々」。
❼顱に通じ用ふ、頭の骨。○〔漢〕「頭――相二屬於道一」。
❽鸕に通じ用ふ、う。○〔司馬相如〕「箴-疵鵁――」。
❾蘆に通じ用ふ。○〔漢〕「蓮-藕觚-―」。
❿櫨に通じ用ふ、柱の上の斗栱、ますがた。○〔釋名〕「―在二柱-端一」。
⓫矛戟の柄。○〔國〕「侏-儒扶レ―」。
〔勃盧〕長き矛。○〔越絕書〕「越-王身被二賜夷之甲一、拔二――之矛一」。
〔常盧〕馬の額首飾。○〔詩、箋〕「眉上曰レ錫刻レ金飾レ之、今――也」。
〔的盧〕額に白き毛ある馬の名。○〔世語〕「――乃一-躍三-丈」。
〔蒲盧〕(い)葦、あし。○〔中〕「夫政者――也」。(ろ)細腰の蜂、ぢがばち。○〔爾雅〕「果-蠃――」。(は)腰の細き貌。○〔解頤新語〕「楓細-腰者曰二――一」。
〔胡盧〕(い)河の名。○〔宋〕「有二――河一」。(ろ)ゆふがほ。○〔康熙〕「――瓠而圓者」。(は)笑ふ貌にいふ語。○〔孔叢子〕「衞-君――而大笑」。
〔都盧〕(い)柱の上の斗栱、ますがた。○〔釋名〕「――負二屋之重一也」。(ろ)國の名。○〔漢〕「南入レ海有二――國一」。
(は)擧動すばやくして危險のことをなす技、かるわざ、又、其のわざをなす者。○〔梁元帝〕「百-戲起二乎秦、漢一有二魚-龍――一興レ電動レ雷、呑レ刀吐レ火之類一」。
〔鹿盧〕(い)旋轉機。○〔禮、註〕「以二紼繞一碑-閒之――一」。(ろ)一種の劒、其の首に旋轉機の形をつくりたるもの。○〔古樂府〕「腰-間――劒」。(は)一種の環、くゝりなつめ。○〔禮、註〕「今謂二之――環一」。
〔韓盧〕良犬の名。○〔史〕「譬若下馳二――一而搏中寒-兎上」。
〔漏盧〕草の名。○〔本草〕「――亦名二野-蘭一」。

【盧】リョ、ロ。陵如切 [魚]
矑に同じ。○〔唐〕「攝二鴻――卵一」。

【⿱奮皿】フン、ホン。方問切 [問]
❶ふるふ(奮)。❷さし(迅)。

十二畫

【⿱喬皿】ケウ、ゲウ。渠嬌切 [蕭]
はち、わん(盂)。○〔揚雄〕「椀謂二之――一」。

【盬】コ、ク。洪孤切 [虞]
うつは(器)。

【⿱殘皿】サン、ザン。財干切 [寒]
盞の字の條を見よ。

【⿱須皿】シュ、相庾切 [麌] ショ、ソ。疎擧切 [語]
檟――は、負ひ戴く器。

【⿱敦皿】トン。都昆切 [元]
はち、ほとぎ、わん(盂)。

【⿱敦皿】タイ、テ。都回切 [灰]
血を歃るに用ふる器。

【盩】チウ、チュ。張流切 [尤]
引き擊つ、うつ。

【盩】チウ、直祐切 [宥] ヂュ。陳留切 [尤]
諸――は、太王古公の父の名。

【盩】古の抽の字、ぬく。○〔呂氏春秋〕「渉レ血―レ肝以求レ之」。

【盪】タウ、ダウ。徒朗切 [養]
蕩に同じ、あらふ。

【盪】タウ、ダウ。徒浪切 [漾]
❶おす(推)。○〔易〕「八-卦相―」。「播-越」。
❷うごく、うごかす(動)。○〔左〕「震――」。
❸あらふ(滌)。○〔漢〕「―レ意平レ心」。
❹はなつ、はなる、ほしいまゝ(放)。○〔漢〕「不レ得レ令下晨-夜去二皇-孫一敖-―上」。
❺大いなる貌にいふ字。○〔揚雄〕「廓――其亡レ雙」。
〔渀盪〕波のさかんにうごくこと。○〔水經、註〕「傾-瀾――」。
〔洗盪〕あらひさる。○〔王褒〕「殘-暑歸二――一」。
〔騰盪〕のぼりうごく。○〔謝偃〕「雲-騎――」。
〔摧盪〕おしうごかす。○〔王晳有物混成賦〕「綜二陰-陽之――一」。
〔融盪〕とけやはらぐ。○〔宋濂〕「其情-景相――」。
〔跳盪〕いくさの名。○〔唐〕「矢-石未レ交、陷レ堅突レ衆、敵因而敗者曰二――一」。

【盪】タウ。吐郎切 [陽]
つく(突)。○〔隋大業末童謠〕「忽聞二官-軍至一、提レ刀向レ前―」。

【⿱翏皿】カウ、ケウ。古巧切 [巧]
うつは(器)。

【⿱散皿】音未だ詳かならず。

志ほのかたまり、(鹽-塊)。○[星槎勝覽]「皆鹽—ㇾ爲二盤-盂一」。

十二畫

【⿱楊皿】ヤウ。余章切　シヤウ、側羊切　サウ。　陽

さかづき、(桮)。○[揚雄]「吳越之閒曰ㇾ—」。

【⿰酉⿱有皿】醢に同じ。

【盫】盦に同じ。

【盬】コ、ク。果五切　麌

❶鹽の出づる池、志ほいけ。○[左]「必居二郇-瑕-氏之地一沃-饒而近ㇾ—」。❷志ほ、(鹽)。○[史]「倚-頓用二—-鹽一起」。❸堅牢ならず、かたからず、もろし。○[詩]「王-事靡ㇾ—」。❹すゝる、(啑)。○[左]「晉-侯夢楚-子伏ㇾ己而—二其腦一」。❺志ばらく、(姑-且)、又、にはか、(倉-卒)。

(鹽盬) 志ほをいだす池の名。○[水經、註]「鹽-池在二安-邑西-南一、許-愼謂二之—-—一」。

【盬】コ、ク。古胡切　虞

前條の❶に同じ。

【盬】コ、ク。古慕切　遇

せめつく、かたむ、(攻-緻)。

【⿰馬益】アク、ヤク。乙革切　陌

鼠の屬。

十四畫

【⿱濯皿】カウ、吉巧切　巧　カウ、後教　ケウ。切　ゲウ。切　效

❶うつは、(器)。❷みだし濁らす、にごす、みだす。❸あたゝむるうつは、(溫-器)。❹ちひさきかま、(鍋-錥)。

【⿱淥皿】リク、ロク。力竹切　屋

うつは、(器)。

【⿱⿳宀⿲幺衣幺皿】タフ、テフ。敕洽切　洽

五味を和して烹るにろ。

十五畫

【⿱畾皿】ライ、レ、盧回切　灰

罍に同じ、もたひ、(酒-器)。

【盭】レイ、郎帝　ライ。切　霽　レツ、練結　レチ。切　屑

❶もとろ、(戾)、たがふ、(違)。○[漢]「爲ㇾ人賊—」。❷艾に似たる一種の草、みどりの色を染むるに用ふべし、轉じて、綠の色の組みいと。○[漢]「諸-侯王金-璽—-綬」。❸足の裏の反り戻りて行くべからざる疾。○[賈誼]「病非二徒瘇一也又苦二跳—一」。❹あつかは、たこ、(胝)。○[呂氏春秋]「陳有二惡-人一長-肘而—」。

十七畫

【盬】コ、ク。公苦切　麌

❶もろしく、(師)。❷志ほ、(鹽)。

【⿱毄皿】ク、コ。其倶切　虞

うゝ、(樹-種)。

【⿱㽞皿】ウ、チ。雲倶切　虞

種を蒔くに用ふる田器。

廿二畫

【⿱贛皿】カン、コン。空紺切　勘

❶箱の類、はこ。❷器の蓋、ふた。❸うつはもの、(器)。❹小杯、さかづき。

目部

【目】ボク、モク。莫六切　屋

[說文]人眼、象形、重二童子一也。

❶め。
(い)鼻の上の左右にある二つの孔、五官の一つにして視ることを司どるもの。○[易]「離爲ㇾ—」。
(ろ)眼睛、めだま、まなこ。○[國]「懸二吾—于二東-門一以見二越之入一ㇾ吳」。
(は)明かにすること、見ること。○[書]「明二四—一」。
(に)まなこを動かすこと、めざし、めつき、めづかひ。○[國]「國-人莫二敢言一、道-路以ㇾ—」。
(ほ)輔佐して物事を明かに見るを得しむるもの。○[左]「女爲二君—一將ㇾ司ㇾ明」。
(へ)脈理、すぢめ、きめ。○[漢、註]「纚織ㇾ絲爲ㇾ之、卽今方—紗也」。
(と)空孔、あな。○[吳]「乃作二射-虎-車一爲二方—一」。

❷みる。
(い)まなこにうつして知る、知りて明かにす。○[公羊]「內大-惡諱、此其—言ㇾ之何、遠也」。
(ろ)めを屬す、めをつく。○[史]「船-人疑二其有一ㇾ金—ㇾ之」。
(は)めをつけて他に轉ぜず、みつむ。○[左]「—逆而送ㇾ之」。
(に)めつきにて意を通ず、めくばせす。○[漢]「范-増數—ㇾ羽擊二沛-公一」。

❸さなふ、(稱)。○[穀梁]「以二其—一ㇾ君「知二其爲一ㇾ弟」。❹條件、かど、かでう。○[論]「請二問其—一」。❺要點、かなめ。○[北]「悉二府-史之任-「掌要—一而已」。❻細別、こわけ。○[公羊]「前ㇾ—而後ㇾ凡也」。❼稱號、なまへ、さなへ。○[南]「執二四-部書—一曰、君讀ㇾ此畢可二言優-仕一矣」。❽品藻、志な、がら、志なさだめ。○[後漢]「曹-操微時常求二劭爲一ㇾ己—一」。❾眥に通じ用ふ。○[漢]「嗜二—-宿一」。

(黃目) 周時の彝の名。○[禮]「鬱-尊用二—-—一」。
(瞕目) 蝎鳥、ちん。○[淮]「—-—如ㇾ晏」。
(比目) 魚の名、かれひ。○[爾]「—-—魚名、不ㇾ比不ㇾ行謂二之鰈一」。
(櫃目) 傅草の別名、からちいちば。
(鬼目) 莃草の別名。
(反目) にらみあふこと、仲惡しきにいふ語。○[易]「夫妻—-—、不ㇾ能ㇾ正ㇾ室也」。
(耳目) (い)みゝとめと。○[易]「巽而—-—聰-明」。(ろ)みゝとなりめとなりて聽きたること見たることを告げ知らせて人を輔佐すること。○[史]「趙人多爲二耳-餘—-—一」。
(面目) (い)かんばせ、かほ。○[左]「—-—與二頃-公一相似」。(ろ)狀態、すがた。○[蘇軾]「不ㇾ識二廬-山眞—-—一」。
(節目) (い)ふしとめと、又、木などのふし。○[呂氏春秋]「尺之木必有二—-—一」。(ろ)かど、かなめ、こわけ。○[韓愈]「持二院-中之故-事—-—十-餘-事一」。
(十目) あまたの人のめもてみること。○[禮]「—-—所ㇾ視、十手所ㇾ指」。
(明目) めをあかるくす、又、あきらかなるめ。○[管]「聰-耳—-—、不ㇾ爲ㇾ愛二金-財一」。
(遊目) めもて見廻はす。○[儀]「若父則—ㇾ—」。
(寓目) めを寄す。○[高適]「—-—窮二奢-苦一」。
(蠭目) 蜂の如き目。○[左]「是人也—-—而豺-聲忍人也」。
(屬目) めを注ぎよす。○[左]「吳-師—ㇾ—」。

(睅目)めを大きくす。○(蘇軾)「——知ニ誰瞋一」。
(深目)めのふかくくぼみ入ること。○(漢)「其人皆——多ニ須頬一」。
(瞋目)まなこを怒らす。○(戰)「慷慨者——、髮盡上衝レ冠」。
(側目)めをそばたて見る。○(戰)「妻—レ—而視」。
(養目)めを肥やしやしなふ。○(史)「刻鏤文章、所ニ以—レ—也」。
(張目)めを見はる。○(史)「相如——叱レ之」。
(鴟目)ふくろうの如きまなこ。○(漢)「王莽虎吻——」。
(拭目)めを押しぬぐひ見る、氣を附けて見る。○(後漢)「天下——」。
(聚目)めを寄せあつむ。○(後漢)「天下—レ—而視」。
(溢目)めにあまる。○(晉)「金寶——」。
(品目)しなさだめ。○(魏、註)「常爲ニ名士——一」。
(擧目)見あぐること。○(晉)「風景不レ殊、—レ—有ニ江山之異一」。
(眇目)すがめ。○(晉)「仲堪——、驚曰、此太逼レ人」。
(抉目)まなこをゑぐり取る。○(唐)「爭—レ—擿レ肝」。
(經目)めをとほし過ぐ、見ること。○(唐)「二—レ—弗レ忘也」。
(悅目)めに愉快を感ぜしむ。○(韓詩外傳)「衣服容貌者所ニ以—レ—也」。
(惑目)めに感動を與ふ。○(管)「慢氣以—レ—」。
(亂目)めを惑はす。○(莊)「五色—レ—」。
(眺目)ながめ見ること。○(劉勰)「登レ峯——、極ニ于烟際一」。
(滿目)め一ぱいになる。○(沈約)「音容—レ—、言笑在レ耳」。
(拙目)物を見ることの下手なること。○(陸機)「或受ニ嗤于——一」。
(巧目)物を見ることの上手なること。○(管)「雖レ有ニ——利手一、不レ如ニ拙規矩之正ニ方圓一也」。
(害目)まなこを傷ふ。○(嵇康)「葷辛—レ—」。
(傷目)前に同じ。○(王僧孺)「痛レ心—レ—、豈伊一事」。
(肆目)十分に見る。○(陸機)「輪匠—レ—、不レ乏ニ奚仲之妙一」。
(窮目)めの力の及ぶかぎりを盡くす。○(鮑照)「—レ—盡ニ帝州一」。
(蔽目)めを掩ひかくす。○(張蘊古)「雖ニ冕旒——、視ニ于未形一」。
(指目)ゆびもてさし見る。○(唐)「軍中往々—ニ—之一」。
(病目)やみをるまなこ、又、めをやむ。○(唐)「幼—レ—」。

(名目)なまへ、となへ。○(魏)「最見ニ——一」。
(開目)まなこをあく。○(吳)「—レ—動レ手」。
(題目)表題をなすこと。○(北)「未レ有ニ——一」。(ろ)しなさだめ。○(晉)甄ニ別人物一、各爲ニ——一。
(刮目)まなこをこすり拭ふ、注意して見る。○(吳)「即更——相待」。
(條目)箇條。○(晉)「——懸ニ之亭傳一」。
(炫目)まなこをくらます。○(晉)「精光—レ—」。
(過目)めをとほりすぐ、ちよツとみる。○(梁)「讀書數行並下、—レ—皆憶」。
(注目)めを寄す。○(晉)「四海—レ—」。
(細目)こわけ。○(晉)「務存ニ大綱一、不レ拘ニ——一」。
(燊目)めにかゞやく。○(晉)「錦綺—レ—」。
(閉目)めを塞ぐ。○(晉)「斂聲—レ—」。
(瞑目)前に同じ。○(晉)「輒—レ—不レ答」。
(書目)書類の箇條わけ。○(姚合)「就レ架題ニ——一」。
(綱目)大ぐくりの箇條とこわけと。○(朱熹)「資治通鑑——凡五十九卷」。
(科目)試驗を以て人を取ること、又、しな、こわけ、かでう。○(宋)「國家以ニ——一、網ニ羅天下之英俊一」。
(盲目)めしひ。○(李商隱)「——把ニ大旆一」。
(總目)すべての箇條わけ。○(梅堯臣)「崇文庫書作ニ——一」。
(奏目)朝廷に言上したる事柄の箇條わけ。○(薩都剌)「故人傳ニ——一」。

一畫

【目乚】ケウ。居小切 [篠]
目の重皮、ふたへまぶち、ふたかはめ。

二畫

【目丩】チウ、チユ。救鳩切 [尤]
瞀に同じ。

【目丩】ケウ。居天切 [蕭]
㊀前條に同じ。
㊁ふたへまぶち、ふたかはめ(重瞼)。

【目丩】アウ、エウ。於絞切 [巧]
瞀に同じ。

【目丂】俗の眄の字。

【目卜】ホク、ボク。補木切 [屋]
目孔の骨。

【盯】タウ、チヤウ。直庚切 [庚]
直視す、みつむ、みる。○(孟郊)「眼瞟強——」。

【旬】ケン、ゲン。熒絹切 [霰]
目搖く、うごく、まじろく。

【旬】シュン、ジュン。須倫切 [眞]
めくろめく(眩)。

【目又】セキ、シャク。照昔切 [陌]
目のやまひ。

三畫

【目彡】サン、所咸切 [咸]　セン。所鑑切 [陷]
瞻視す、みつむ、みる、一說に、暫く視る、ぬすみみる。

【盰】カン。古旱切 [旱]　古按切 [翰]
㊀眼に白多き目、しろめがち。
㊁目を張る、みはる。○(白虎通)「—レ目陳レ兵」。

【目千】セン。倉先切 [先]
視れども遙かにして明かならず、くらし、かすか。○(張衡)「靑冥—瞑」。

【目丸】クワン、グワン。胡玩切 [翰]
㊀目を轉ず、まじろかす。
㊁大いなる目の貌にいふ字。

【盱】ク、チ。況于切 [虞]
㊀眼を上げ視る、みる、みあぐ。○(易)「—豫悔」。
㊁目を張る、みはる。○(漢)「—衡厲色」。
㊂周章して(あわて)視る貌にいふ字。○(莊)「而睢々——而誰與居」。
㊃喜悅の貌にいふ字、よろこばし、たのし。○(韓詩外傳)「洵—且樂」。
㊄おほいなり(大)。○(漢)「亦作ニ恂—一」。
㊅質朴の貌にいふ字。○(王延壽)「鴻荒朴略、厥狀睢—」。
㊆一種の草、はまにんじん。○(爾)「—䖵牀」。

【目亐】コ、ク。荒胡切 [虞]
盱に同じ、目を張る。

【目亏】盻の本字。

【目凡】ケイ、キヤウ。虛政切 [敬]
目轉ず、まじろく。

【目凡】ハン、ホン。扶泛切 [陷]
大いなる目。

【目刃】ジン、ニン。而振切 [眞]
視る貌にいふ字、一說に、めくろめく、(眩)。

【盲】バウ、ミヤウ。武庚切 [庚]
㊀目中に眸子なきこと、色相を見るの視力なきこと、めくら、めしひ、又、其の者。○(淮)「—者目形存而無ニ能見一也」。

㊂明かならず、くらし。○〔呂氏春秋〕「天大風晦ー」。
㊃風甚だ疾きにいふ字、はやし、さし。○〔禮〕「仲秋ー風至」。
〔偏盲〕かたくのめしひ。○〔漢〕「少好二經書一、而目ーー」。
〔目盲〕めしひとなること。○〔老〕「五色令二人ー」「ー一」。
〔瞍盲〕つんぼとめしひと。○〔後漢〕「ー二ー一世之人一」。
〔晦盲〕くらくして明かならざること。○〔荀〕「闇乎天下之ーー也」。
〔隔盲〕前に同じ。○〔易林〕「聾瞽ーー」。
〔昏盲〕前に同じ。○〔沈興求水母詩〕「結成此物宜二ーー一」。
〔發盲〕めのえひたる病をおこす。○〔論衡〕「宋人父子、偶以二風寒一ーレー」。
〔佯盲〕めしひざるを欲きてめしひとなること。○〔元稹〕「焉肯自ーー」。
〔瞽盲〕あまたのめしひ。○〔鄭元祐〕「揗二世聾瞽一閉二ーー一」。

【盲】バウ、マウ。巫放切 漾
望に同じ。○〔周〕「家ー眡而交睫腥」。

【盳】バウ、マウ。謨郎切 陽　無放切 漾
仰ぎ視る貌にいふ字。

【盳】俗の盲の字。

【𥃩】セン。樞絹切 霰
視るに專らなること、みつむ。

【直】チョク、ヂキ。除力切 職
㊀なほし、たゞし。
(い)屈曲なし。○〔史〕「蓬生二麻中一不レ扶自ー」。
(ろ)平かなり。○〔禮〕「田事既畢先定二準ー一」。
(は)傾かず。○〔禮〕「頭容ー」。
(に)すなほなり。○〔詩〕「洵ー且侯」。
(ほ)私なし。○〔書〕「王道正ー」。
(へ)つよし。○〔周〕「骨ー以立」。
(と)宜し。○〔詩〕「爰得二我ー一」。
㊁たゞしきおこなひ、たゞしきみち、たゞしきもの。○〔論〕「友レー」。
㊂なほからしむ、たゞしからしむ、なほす、たゞす。○〔孟〕「枉レ己者未レ有二能ーレ人者一也」。
㊃のぶ。
(い)冤を治む。○〔韓愈〕「爲ー二其冤一」。
(ろ)引き延ぶ。○〔孟〕「枉レ尺而ーレ尋」。
㊄あたる。
(い)對す。○〔儀〕「主人立二于阼階下一ー二東序西面一」。
(ろ)準當す、ひきあたる。○〔禮〕「馬各ー二其算一」。
㊅たつ(殖)。○〔山海經〕「有二神人一ーー目」。
㊆はべる(侍)。○〔晉〕「悉統二宿衞一入ー二殿中一」。
㊇守番すること、とのゐ。○〔晉〕「候二其「上レー」。
㊈たゞ(但)。○〔孟〕「ー不二百歩一耳」。
㊉猶豫なく、すぐに、たゞちに。○〔史〕「ー墮二其履圯下一」。
⑪語勢を助くるに用ふる字。○〔史〕「神龜知二吉凶一而骨ー空枯」。
⑫え(柄)。○〔禮註〕「彫刻飾二其ー一」。
⑬涌く泉。○〔公羊〕「ー泉何、涌泉也」。
〔器直〕曲尺、さしがね。○〔韻會小補〕「ーー曲尺也、梓人用レ之」。
〔繩直〕すみなはの如くにすぐなり。○〔籍田賦〕「窓汧ーー、近陥如レ矢」。
〔忠直〕まごころありて正し。○〔書〕「敢有下侮二聖言一逆中ーー上」。
〔曲直〕すぐならざるとまがりなきと。○〔禮〕「不レ可二敵以ーー一」。
〔正直〕邪ならざ正しきこと。○〔詩〕「ーー是與」。
〔司直〕裁判を掌る。○〔詩〕「邦之ーー」。
〔清直〕濁れなく正し。○〔晉〕「忠毅ーー」。
〔廉直〕前に同じ。○〔禮〕「ーー勁正」。
〔易直〕簡易にして正し。○〔周〕「取二諸ーー一也」。
〔好直〕正しき道をすく。○〔左〕「吾子ーレー」。
〔遺直〕今に殘れる正しき人。○〔左〕「叔向古之ーー也」。
〔彊直〕性强くして正し。○〔南〕「性甚ーー」。
〔質直〕素朴にして正し。○〔論〕「ーー而好レ義」。
〔擧直〕正しきを採用す。○〔論〕「ーレー舍二諸枉一」。
〔友直〕正しきをともとす。○〔論〕「ーレー友レ諒友二多聞一」。
〔愚直〕智慧なくして正しきこと。○〔宋〕「惟陛下赦二其ーー、而取二其拳々之忠一」。
〔平直〕高低なくまがりなきこと。○〔蔡邕〕「或抵縮ーー、或蜿蜒膠戾」。
〔切直〕深切にして正しくあること。○〔漢〕「ーー之言、明主所レ欲二急聞一」。
〔端直〕正しくまがらず。○〔史〕「ーー敦忠、事業有レ常」。
〔剛直〕氣象强くして正し。○〔史〕「刻廉ーー」。
〔大直〕極めてすぐなり。○〔老〕「ーー若レ屈」。
〔峭直〕きびしくすぐなること。○〔漢〕「錯爲レ人ーー刻深」。
〔方直〕正しくまがらず。○〔漢〕「可レ謂二ーー之上一矣」。
〔戇直〕おろかにして正し。○〔漢〕「汲黯爲レ人、ーー好二直諫一」。
〔狂直〕狂氣じみて正しきこと。○〔吳〕「古之ーー固難レ免二乎末世一」。
〔亮直〕心あきらかにして正しくあること。○〔晉〕「性剛勁ーー」。
〔疏直〕おろそかにして正し。○〔吳〕「性ーー數有二酒失一」。
〔秉直〕正しき道を執り守る。○〔晉〕「有二史魚ーレー之風一」。
〔鯁直〕こはく正し。○〔北〕「干ーー少レ言、有二武藝一」。
〔敢直〕勇敢にして正し。○〔唐〕「世推二其ーー一」。
〔中直〕偏倚ならざ正しきこと。○〔易〕「同人之先以二ーー一也」。
〔惡直〕すぐなるものを忌み嫌ふ。○〔左〕「ーレー醜レ正」。
〔錯直〕正しきもの丶上に置き加ふ、一説に、正しきものを棄ておく。○〔論〕「擧レ枉ー二諸ー一則不レ服」。
〔訐直〕人の惡しき事柄を發き出だして自ら正しと思惟すること。○〔北〕「其ーー如レ此」。
〔抗直〕物に對して屈せずすぐなること。○〔史〕「亦可レ謂二ーー不レ撓矣」。
〔堅直〕堅固にして正しくあること。○〔史〕「ーー廉正、無レ所二阿避一」。
〔誠直〕詐りなくして正し。○〔漢〕「緯有二ーー之心一」。
〔過直〕すぐなること度を超ゆ。○〔漢〕「報レ仇ーレー」。
〔撓直〕すぐなるものをたわめ曲ぐること。○〔荀〕「ーレー爲レ曲、劉レ方爲レ圓」。
〔貞直〕正固にして曲がらざ。○〔後漢〕「多乏二ーー一」。
〔簡直〕簡略にして正し。○〔宋〕「議論ーー」。
〔勁直〕つよくして曲がらず。○〔韓〕「必强毅而ーー」。
〔朝直〕朝廷にまゐる。○〔鄭谷〕「ーー叨居省闥」。
〔宿直〕とのゐす。○〔齊〕「親近ーー」。
〔入直〕前に同じ。○〔杜甫〕「三人同ーー」。
〔訥直〕口辯よからざして正しくあること。○〔南〕「ーー守レ信」。
〔純直〕專一にして曲がらず。○〔北〕「惇少ーー、晩更浮動」。
〔當直〕とのゐの番にあたる。○〔李商隱〕「鳳詔裁成ーレー歸」。

【直】チ、ヂ。直吏切 寘
㊀あたる(値)。○〔史〕「ーレ夜潰レ圍」。
㊁あたひ。
(い)物價、ねだん。○〔北〕「貪二雞羹一何不レ還二他價ー一」。
(ろ)賃錢。○〔柳宗元〕「受二若ー一怠二若事一」。
〔倍直〕常のあたひに增し加ふること。○〔唐〕「皆ーレ市二于州一」。
〔還直〕あたひを與ふ。○〔後漢〕「啓買二人田一、不レ肯ーー」。
〔酬直〕前に同じ。○〔唐〕「成安公主奪二民園一不レーレー」。
〔賤直〕安きあたひ。○〔後漢〕「以二ーー一請二奪沁水公主田園一」。
〔半直〕はんねだん。○〔宋〕「以二ーー一與二世道一」。
〔價直〕あたひ。○〔北〕「求レ還ーー」。

【見】アウ、エウ。於敎切 效
窅に同じ。

四畫

【盶】ゲン、ゴン。五遠切 阮
みる(視)。○〔王延壽〕「ー睒矖而踧踖」。

【盷】テン、デン。亭年切 先

轉視す、みまはす、みめぐる。○〔大戴禮〕「人生三月而徹一」。

【眗】 ケン。胡千切 先

大いなる目。

【相】 シヤウ、サウ。息良切 陽

❶交はる、あふ。○〔易〕「二氣感應以相與」。
❷彼れも此れも、たがひに、ともに、あひ。○〔公羊〕「胥命何一命也」。
❸みる、（視）。○〔周〕「有二一翔者一誅レ之」。〔羊〕。
❹逌に同じ。○〔屈平〕「聊逌遙以一一」。
〔交相〕おなじきこと。○〔歐陽修〕「勝敗可二一一」。
〔端相〕たゞしく視ること。○〔周邦彥〕「仔細一一」。

【相】 シヤウ、サウ。息亮切 漾

❶みる。
（い）觀察す、あきらむ。○〔禮〕「一レ鼠有レ體」。
（ろ）吉凶を占ひ考ふ。○〔周〕「以一二民宅」。
（は）人の容貌によりて其の人の心術運命を判斷す、にんさうをみる。○〔左〕「內史叔服能一レ人」。
❷にんさう。
（い）人の容貌、みめかたち。○〔史〕「無レ若二季之一」。
（ろ）人のみめかたちをみて其の心術運命を判斷すると、又、其の方技。○〔史〕「善レ一者」。
❸形態、現象、かたち、さま。○〔楞嚴經〕「心一一亦同」。
❹たすく、（助）。○〔易〕「輔二一天地之宜一」。
❺みちびく、（導）。○〔國〕「問誰一レ禮」。
❻つとむ、（勵）。○〔易〕「君子以勞レ民勸一」。
❼をさむ、（治）。○〔左〕「而楚所レ一也」。
❽えらぶ、（擇）。○〔周〕「上春一レ簭」。
❾主をたすけて客に接する者、かいぞへ。○〔周〕「朝覲會同則爲二上一一」。
❿みちびきする者、案內者。○〔禮〕「猶二瞽之無レ一與、倀々乎其何之」。
⓫君王をたすけて政務にあたる官長。○〔禮〕「命レ一布レ德和レ令」。
⓬主をたすけて事を行ふ者。○〔禮〕「士不レ名二家一」。
⓭主任者、つかさ。○〔史〕「還爲二計一一」。
⓮春くに杵を送る聲、きねうた。○〔禮〕「鄰有レ喪春不レ一」。
⓯章を表とし中に糠を充たしたる一種の樂器、樂の節をなすに用ひしもの。○〔禮〕「治レ亂以レ一」。

〔勵相〕力をつくしてたすく、はげましつとむ。○〔書〕「用一二一我國家一」。
〔丞相〕人臣中の上にたち天子をたすけて政をとむる官職の名。○〔漢〕「蕭何盡收二秦一一府圖籍文書一」。
〔宰相〕前に同じ。○〔漢〕「漢興惟韋平父子至二一一」。
〔臺相〕前に同じ。○〔後漢〕「居二一一總二持權衡一者多矣」。
〔公相〕前に同じ。○〔北〕「終至二一一」。
〔輔相〕前に同じ。○〔南〕「晏首一一才也」。
〔善相〕きはめてよくたすくること、又、人相を觀るとのたくみなること。○〔史〕「上使二一レ一者相ア通」。
〔守相〕郡國の政をつかさどる役。○〔漢〕「帝拜二刺史一一一」。
〔賢相〕すぐれてさときる輔佐。○〔宋〕「大稱二一一」。
〔聖相〕前に同じ。○〔宋〕「齊國安集、當時遂謂二之一一一」。
〔骨相〕骨格相貌のこと。○〔酉陽雜俎〕「君一一無二道氣一」。
〔奇相〕めづらしき相貌。○〔唐〕「若有二一一一」。
〔異相〕前に同じ。○〔唐〕「才器不レ常有二一一一」。
〔皮相〕うはべのみのこと。○〔韓詩外傳〕「子乃一一之士也」。
〔倆相〕もりやく。○〔漢〕「封二故楚、趙一一內史「前死レ事者四人子一」。
〔國相〕一國の政を輔佐する者。○〔左〕「困獸猶鬭況一一乎」。
〔胥相〕（い）星の名。○〔史〕「三日二一一一」。
（ろ）たふとき人相。○〔魏〕「此兒有二一一一」。
〔卜相〕（い）うらなひの術と觀相の方とのこと。○〔唐〕「凡推步一一醫巧皆技也」。
（ろ）宰相となるべき人をうらなひ定む。○〔史〕「今者聞下君召二先生一而一上レ一」。
〔愚相〕おろかなる相貌、又、おろかなる宰相。○〔史〕「夫以二罷主一責二一一一」。
〔反相〕反逆をする人相。○〔漢〕「汝狀有二一一一」。
〔名相〕なだかき宰相。○〔漢〕「爲二漢一一一」。
〔眞相〕まことのすがた。○〔蘇軾〕「摳レ衣禮二一一一」。
〔妙相〕神妙なるかたち。○〔耶律楚材〕「山色水光呈二一一一」。

【眕】 チン、ヂン。直引切 軫

❶瞋怒する目の貌にいふ字。
❷ひとみ、（睽）。○〔後漢、註〕「無二目一一曰レ瞽」。

【眣】 テン。他年切 先　他甸切 霰

みる、（視）、又、仰き視る。

【眘】 ボク、モク。莫六切 屋

穆、又、睦に同じ。

【盹】 シュン、ジュン。朱倫切 眞　之閏切 震

❶鈍き目。
❷目藏す、ふさぐ、くらむ。

【県】 ケウ。古堯切 蕭

首を倒に懸く、さらす。○〔廣韻〕「一レ首磔二其骨一」。

【眏】 ケツ、ケチ。古穴切 屑

❶目患、めやみ。
❷驚き視ると、みる、みだる。
❸顧眄して（かへりみて）定まらざる貌にいふ字、きよろきよろ。○〔王延壽〕「眏二瞲睢一以一一瞠」。

【眲】 ヂク、ニク。女六切 屋

みる、（視）。

【盺】 キン、コン。許斤切 文

❶よろこぶ、（喜）。
❷視て明かならず、くらし。

【眝】

俗の眝の字。

【盻】 ケイ、ガイ。胡計切 霽　ゲイ、ガイ。吾禮切 薺

❶恨を含みて視る、にらむ。○〔魏〕「猪瞋レ目一レ之」。
❷勤め苦む貌にいふ字。○〔孟〕「使二民一一然一」。

【盼】 クワク、カク。古獲切 陌

目の貌にいふ字。

【眅】

眅に同じ。

【盼】 ハン、ヘン。匹莧切 諫

❶目中の黑白分明なるにいふ字、めもとうつくし、又、めもとうつくしき目。○〔詩〕「巧笑倩兮美目一兮」。
❷美しき目を動かす、めづかひす。○〔宋玉〕「目若二微一一」。
❸みる、（視）、かへりみる、（顧）。○〔宋〕「同被二齒一一」。
❹木の名。○〔山海經〕「浮山多二一木一」。
〔含盼〕うつくしき目をもつこと。○〔楚辭〕「旣一レ一兮又宜レ笑」。
〔睇盼〕めをうごかしみること。○〔後漢〕「一一則人從二其目之所一レ視」。
〔美盼〕うつくしき目。○〔瑯嬛記〕「巧笑一一」。
〔淸盼〕きよらかにくもりなき目。○〔韓愈〕「何由覩二一一一」。

〔流盻〕ながし目にみること。○〔張景〕「—…—星-光動」。

【盼】ハン、ヘン。披班切 [刪]
前條の㊀に同じ。

【盼】ブン、ブン。符分切 [文]
矉—は、天のまさに明けんとする時、あけがた、あかつき。○〔王褒〕「矉—兮上二丘-墟一」。

【⿰目切】セイ、サイ。七計切 [霽]
㊀みる、（視-察）。㊁哀に視る、ながしめにみる。

【盾】ジュン。豎尹切 ヰン。羽敏切 [軫]
一種の兵具、身を蔽ひて矢石を扞ぐもの、たて。○〔詩〕「龍—之合」。
〔龍盾〕龍を畫きたる楯のこと。○〔詩〕「—…—之合」。
〔矛盾〕(い)ほことたてのこと。○〔詩、疏〕「兵-甲—…—、備-具如レ是」。
(ろ)言の相副はざること、論の相戻ること。○〔韓〕「楚人鬻二其盾之堅一曰、物莫二能陷一也、又譽二其矛之利一曰、物無レ不レ陷也、或曰、以二子之矛一陷二子之盾一如何、其人弗レ能レ應、此—…—之說也」。
〔戈盾〕前の(い)に同じ。○〔周〕「掌二—…—之物一而頒レ之」。
〔戟盾〕前に同じ。○〔漢〕「前-行持二—…—一」。
〔鞞盾〕なめしがはにて綴ぢたるたて。○〔國〕「輕-罪贖以二—…—一-戟一」。
〔劍盾〕つるぎとたてと。○〔史〕「持二—…—一-步走」。
〔蔽盾〕たてにて身を蔽ふこと。○〔魏〕「行者皆—レ—」。
〔圓盾〕まるがたのたて。○〔唐〕「又以二—…—一傳レ肩」。

【盹】トン、ドン。杜本切 [阮]
趙—は、人の名。

【⿱目夬】ケツ、ケチ。火劣切 [屑]　キヨク、ケキ。況逼切 [職]
目を擧げ人を使ふ、めづかふ。

【⿱目叐】セキ、シヤク。七役切 [陌]
前條に同じ、又、目小しく動く、まじろく。

【⿰目支】俗の眵の字。

【⿰目攵】ビン、ミン。武巾切 [眞]
視る貌にいふ字。

【⿱目文】前に同じ。

【⿰目夫】フ。防無切 [虞]
のぞむ、（望）。

【⿰目化】クワ、ケ。許肥切 [麻]
目動く、まじろく。

【眀】ベイ、ミヤウ。眉兵切 [庚]
みるとあきらか。

【省】セイ、シヤウ。息井切 [梗]
㊀みる。
(い)つまびらかに視る、あきらかに察す、かへりみる。○〔易〕「先-王以—レ方觀レ民設レ敎」。
(ろ)安否を問ふ。○〔禮〕「昏定而晨—」。
㊁つまびらか、（審）、あきらか、（明）。○〔列〕「實-僞之辨如レ此其—也」。
㊂よし、（善）。○〔詩〕「帝—二其山一」。
㊃あやまち、（過）。○〔史〕「飾レ—宜レ義」。
㊄宮禁、ごてん。○〔漢〕「帝姉長-公-主共二養—-中一」。
㊅官廳、やくしよ。○〔唐〕「官-司之別曰レ—曰レ臺」。
㊆はぶく。
(い)簡易にす、やすくす。○〔史〕「—二約文-書籍-事一」。
(ろ)減少す、へらす。○〔左〕「貶レ食—レ用」。
㊇告に通じ用ふ。○〔公羊〕「春王正-月肆二大—一」。
〔宮省〕禁署といふに同じ。○〔後漢〕「見二—…—宮-闈、及諸-梁兄-弟一」。
〔掖省〕前に同じ。○〔唐〕「—…—崇-峻」。
〔禁省〕前に同じ。○〔後漢〕「探二刺—…—一」。
〔學省〕學校のこと。○〔唐〕「古天-子學曰二辟-雍一、亦曰二—…—一」。
〔修省〕おのれをかへりみをさむ。○〔易〕「君-子以恐-懼—…—」。
〔三省〕つらくかへりみ察す。○〔禮〕「—…—月-試」。
〔內省〕おのれの心はいかにとかへりみ察すること。○〔論〕「—…—不レ疚」。
〔滅省〕へらしはぶく。○〔漢〕「有下可二蠲-除—…—以便二萬-姓一者上」。
〔損省〕前に同じ。○〔後漢〕「皆宜二—…—一」。
〔刪省〕前に同じ。○〔月令問答〕「故不レ能三復加二—…—一」。
〔罷省〕やめへらす。○〔漢〕「—二—不-急之用一」。
〔孰省〕つらく察す。○〔漢〕「—二—臣言一」。
〔停省〕とゞめはぶく。○〔後漢〕「可二皆—…—一」。
〔澄省〕心をきよめ察すること。○〔後漢〕「惟陛-下留レ神—…—」。
〔簡省〕はぶきさる。○〔後漢〕「景雖レ—二役-費一、然猶以二百-億一計」。
〔巡省〕めぐりて觀察す。○〔徐陵〕「—二—諸-華一」。
〔留省〕のぞきはぶく。○〔唐〕「請—…—折-哀」。
〔儉省〕約省といふに同じ、つゞめはぶく。○〔宋〕「務-滌二—…—一」。
〔歸省〕家にかへりて親の起居をとふこと。○〔朱慶餘〕「—…—及二花-時一」。
〔默省〕たづかにしてかんがへみること。○〔荀滔〕「支-頤—…—舊-林-泉」。
〔睪省〕はぶく ○〔韓愈〕「不二敢—…—一」。

【⿱否目】フウ、フ。方鳩切 [尤]
みる、（見）。

【眂】視に同じ。○〔周〕「王—二治-朝一則贊二聽-治一」。

【眃】ウン。王分切 [文]
視るに明かならざる貌にいふ字、くらし。

【眃】コン、ゴン。戸袞切 [阮]
疾く視る貌にいふ字。○〔張衡〕「儵眩—兮反二常-閭一」。

【⿱目卬】カウ、ガウ。魚剛切 [陽]
目を擧げて視る、みあぐ。

【眄】ベン、メン。莫甸切 [霰] 彌殄切 [銑]
㊀目子を偏して視る、よこに視る、よこめをつかふ、ながしめにみる、ながむ。○〔史〕「按レ劍相—」。
㊁意をかたよせ傾くるにいふ字。○〔晉〕「慈—如レ子」。
〔睇眄〕よこめにみる。○〔阮籍〕「—…—有二光-華一」。
〔顧眄〕ながめをうつす。○〔後漢〕「永-言—…—」。
〔恩眄〕てあつくめをかく。○〔北〕「侍-中盧-昶蒙二—…—一」。
〔遲眄〕前に同じ。○〔庾肩吾〕「天-人—…—」。
〔遊眄〕游覽のこと。○〔曹植〕「—…—窮二九-江一」。
〔顧眄〕かへりみること。○〔阮德如〕「—…—懷二惆-悵一」。
〔流眄〕ながしめにみる。○〔阮籍〕「—…—顧二我旁一」。
〔佇眄〕たゝずみてみること。○〔陸機〕「—…—要二遐-景一」。
〔仰眄〕あふぎみること。○〔孫綽〕「—二—松-林一」。
〔眄眄〕ながしめにみる貌にいふ語。○〔鮑照〕「目—…—兮意蹉-跎」。

【眅】ハン、ヘン。普版切 [潸] 普班切 [刪]
㊀白眼の多きこと。㊁反目す、にらむ。

【眆】ハウ、バウ。撫兩切 [養]

㊀彷、彷、髣に同じ。㊁微しく見る。㊂倣に同じ、ならふ。〇〔袁楚客〕「非レ―レ桀紂」。

【眜】ハイ。普蓋切 泰 明かならず、くらし。

【眛】ハツ、ハチ。普活切 曷 瞥に同じ。

【苜】ベツ、メチ。莫結切 屑 バツ、マチ。莫撥切 曷 テツ、デチ。徒結切 目正しからず。

【眇】ベウ、メウ。亡沼切 篠 ㊀一目の小なること、かたくゝ盲なること、かため、めっかち、すがめ、又其の者。〇〔易〕「―能視」。㊁ちひさし（微）、こまか（細）、すゑ（末）。〇〔漢〕「朕以二―身一護二保宗廟一」。㊂とほし（遠）。〇〔莊〕「藏二其身一也、不レ厭二深―一而已矣」。㊃つくす（盡）。〇〔荀〕「王者仁―二天下一、義―二天下一、威―二天下一」。㊄目を細かくして視る、すがむ。〇〔班固〕「離婁―二目於毫分一」。㊅遠きを視る貌にいふ字、はるか、かすか。〇〔史〕「佻杳―而無レ見」。
〔微眇〕かすかにちひさし。〇〔史〕「以二―・―之身一託二于兆民一」。
〔幽眇〕深遠なること。〇〔韓愈〕「―・―感二鬼神一」。
〔玄眇〕前に同じ。〇〔淮〕「―・―之中」。
〔至眇〕前に同じ。〇〔淮〕「道―・―者無二度量一」。
〔沖眇〕幼少といふに同じ。〇〔晉〕「成王―・―」。
〔鴻眇〕大にして遠きこと。〇〔論衡〕「皆爲二―・―之オ一」。

【眇】ベウ、メウ。彌笑切 篠 ㊀なる、なす（成）。〇〔易〕「―二萬物一而爲レ言」。㊁微細、こまか。〇〔漢〕「窮二極幻―一」。
〔要眇〕みめ好き貌にいふ語。〇〔楚辭〕「美―・―兮宜レ修」。

【眈】耽に同じ。

【盻】キツ、コチ。許乙切 質 みる（視）。

【眉】ビ、ミ。武悲切 支 ㊀日の上に生ふる毛、まゆ、まゆげ。〇〔春秋元命包〕「天有二攝提一人有二兩―一」。㊁毛長きまゆ。〇〔詩〕「爲二此春酒一以介二―壽一」。㊂老いたる者の稱。〇〔揚雄〕「東齊謂レ老曰レ―」。㊃井の邊、ゐどばた。〇〔揚雄〕「居二井之―一」。㊄嵋に同じ。〇〔李白〕「峨―山月半輪秋」。
〔蛾眉〕まゆより出でたる蛾の眉の如きまゆ。〇〔詩〕「螓首―・―」。
〔鬚眉〕ひげとまゆげと。〇〔後漢〕「是美二―・―一者也」。
〔畫眉〕かきまゆ。〇〔漢〕「敞爲レ婦―レ―」。
〔伸眉〕まゆをのばす、又、愁ひをひらくことにいふ語。〇〔漢〕「可三―二―于後一」。
〔展眉〕前に同じ。〇〔白居易〕「時々強―レ―」。
〔廣眉〕まゆのひろくあること。〇〔漢〕「城中好二―・―一」。
〔愁眉〕憂はしげなるまゆ。〇〔漢〕「善爲二―・―啼粧一」。
〔長眉〕まゆげ長くあり。〇〔古今注〕「魏宮人好レ畫二―・―一」。
〔修眉〕前に同じ。〇〔洛神賦〕「―・―連娟」。
〔揚眉〕まゆをはりあぐ、又、目を張ること。〇〔列〕「―レ―而望レ之、弗レ見二其形一」。
〔翠眉〕あをきまゆ。〇〔古今注〕「魏宮人多作二―・―一」。
〔連眉〕左右のまゆげのつゞきあること。〇〔列仙傳〕「陽都女者、生而―・―耳細而長」。
〔俛眉〕まゆげを下げて人にへつらふ。〇〔揚雄〕「蔡卿不レ揖レ客、將相不レ―レ―」。
〔曲眉〕まゆのまがりたること、みかづきまゆ。〇〔韓愈〕「―・―而豐頰」。
〔毫眉〕ほそきまゆげ。〇〔詩、箋〕「人年老者、必有二―・―秀出一」。
〔列眉〕ならびあるまゆげ。〇〔戰〕「吾信レ汝也猶二―・―一也」。
〔掃眉〕まゆをゑがく。〇〔晉〕「學二其―・―一」。
〔雙眉〕兩方のまゆ。〇〔王鎡〕「玉人曾剪二畫―・―一」。
〔秀眉〕毛のこくよきまゆ。〇〔南〕「明目―・―、容貌方雅」。
〔藝眉〕まゆげをうへること。〇〔南〕「貴族―レ―」。
〔低眉〕垂れさがりたるまゆげ。〇〔語林〕「菩薩―・―、所三以慈二悲六道一」。
〔直眉〕すぐなるまゆ。〇〔離騷〕「青色―・―、美目嫿只」。
〔細眉〕ほそきまゆ。〇〔孫楚〕「頷下作二―・―一」。
〔纖眉〕前に同じ。〇〔宋徽宗〕「―・―丹臉小腰肢」。
〔啼眉〕淚にしづめるまゆ。〇〔元稹〕「紅粧少婦斂二―・―一」。
〔恨眉〕うらみを帶びたるまゆ。〇〔劉昚虛〕「自守二空樓一斂二―・―一」。
〔髭眉〕ひげとまゆと。〇〔姚合〕「坐深二霜露一…―・―」。
〔彎眉〕弓なりにまがれるまゆ。〇〔黄庭堅〕「新月如二―・―一」。
〔舒眉〕まゆをのばす。〇〔黄溍〕「軒然談笑一―レ―」。
〔開眉〕愁へのまゆをひらく。〇〔朱弁〕「善謔爲レ―レ―」。
〔遠山眉〕とほやまの横はれるが如くに青くひけるまゆ。〇〔杜牧〕「笑別―・―・―」。

【昒】バイ、メ。莫佩切 隊 ㊀遠きを視て日冥きにいふ字、くらし、かすむ。㊁ひさし（久）。㊂みる（視）。㊃―昕は、日明、あかつき、よあけ。〇〔班固〕「―昕寤而仰思」。

【昒】ハツ、マチ。亡撥切 曷 ㊀遠きを視る、みる、ながむ。㊁正しく視ざる貌にいふ字。

【昒】ブツ、モチ。文拂切 物 くらし（瞑）。〇〔劉歆〕「飄寂寥以荒―」。

【昒】バツ、マチ。莫八切 黠 みる（視）、又、眓に同じ。

【眢】昒に同じ。

【眢】コツ、コチ。呼骨切 月 急に視る貌にいふ字。

【眊】バウ、モウ。亡報切 號 ㊀くらし。（い）目に精氣なし。〇〔孟〕「胸中不レ正則眸子―」。（ろ）明かならず。〇〔漢〕「憒―不レ知レ所レ爲」。㊁くらくなる、くらむ。〇〔賈嵩〕「目眩精―」。㊂耄に同じ、おいぼれ、其の目のくらきよりいふ。〇〔漢〕「哀二夫老―一」。
〔瞭眊〕目のあきらかなると昏くあると。〇〔韓愈〕「眸子看二―・―一」。
〔政眊〕まつりごとの道明かならず。〇〔漢〕「―・―而不レ行」。
〔眊々〕昏くある貌にいふ語。〇〔封龍子〕「―・―乎其猶レ醉也」。
〔昏眊〕くらくして見えず。〇〔歐陽修〕「兩目―・―」。
〔聾眊〕耳しひて目の見えざること。〇〔晉書〕「久レ之等二―・―一」「甚」。
〔惛眊〕くらし。〇〔上官儀〕「風雨之疾、―・―日―」。
〔耗眊〕精神減り目くらむ。〇〔劉禹錫〕「老而―・―」。
〔目眊〕目のひとみのかすみ昏むこと。〇〔晉書〕「仰視―・―」。

【眊】バク、モク。莫角切 覺 ㊀前に同じ。㊁おもふ（思）。

【眊】 バイ、メ。莫佩切 [隊]
よし、(好)。

【眊】 瞙に同じ。

【看】 カン。丘寒切 [寒] 苦旰切 [翰]
みる、(視)。○[吳]「一二伺空一隙二」。
〔看々〕よくみる貌にいふ語。○[孟浩然]「一一似二相識二」。
〔傳看〕人の手より手へとつたへてみる。○[歐陽修]「新詩何惜爲一一」。
〔遙看〕遠きあなたより視る。○[韓愈]「草色一一近却無」。
〔回看〕振りかへり見る。○[王維]「閑道一一上「苑花」。
〔眄看〕めに視る。○[王維]「一一人盡醉」。
〔强看〕推し忘ひて見る。○[李白]「一一秋浦花」。
〔愁看〕憂ひて見る。○[杜甫]「滄江白髮一一汝」。
〔獨看〕連れそふものなく一人見る。○[杜甫]「雪嵋一一西日落」。
〔貪看〕飽くまで見る。○[杜甫]「仰レ面一一鳥回「飛」頭」。
〔頻看〕志ば〳〵見る。○[趙嘏]「天上一一破鏡」。
〔徐看〕ゆる〳〵と見る。○[杜甫]「遲日一一錦纜牽」。
〔慣看〕見なる。○[杜甫]「賓客兒童慣「一」。
〔曉看〕あけがたに見る。○[杜甫]「一一紅濕處」。
〔羞看〕見ることを耻かしく思ふ。○[郎士元]「雙鬢覺一レ一」。
〔留看〕とまりゐて見る　○[白居易]「夜火且一一「一」。
〔臥看〕いねながら見る。○[趙嘏]「竹開依レ舊一一レ書」。
〔深看〕もとめさがして見る。○[李商隱]「青鳥殷勤爲二一一二」。
〔坐看〕ゐながらにして見る。○[馬戴]「一一凉月上「成レ峯」。
〔橫看〕よこさまに見ること。○[蘇軾]「一一成レ嶺側一一」。
〔登看〕上にあがりて見る。○[吳融]「晴樓百尺獨「一一」。
〔重看〕見ること一度ならず。○[蘇軾]「歸來呼レ酒更一一」。
〔愛看〕めでて見る。○[徐積]「一一白鳥伺二呑魚二」。
〔熟看〕よく〳〵見る。○[李覯]「乘レ閑更一一」。
〔極看〕みることを盡る。○[蔣渙]「梨花亦一レ一」。
〔耐看〕こらへ見る。○[華幼武客樓夜詩]「燈花不レ一レ一」。

【䀂】 ワツ、ワチ。烏括切 [曷]

【䀂】 ワン。烏管切 [旱]
目を掐ず、する、こする。

【䀂】 ダイ、子。女夬切 [卦]
眡一一は、目惡し、あし。

【盻】 キツ、コチ。許乙切 [質]
むかふ、(嚮)。

【盻】 キツ、コチ。丘乙切 [質]
みる、(視)。

【眮】 ハウ、バウ。非朗切 [養]
みる、(見)。

【眄】 ベン、メン。莫見切 [霰]
邪めに視る、よこめをつかふ。

五畫

【眥】 ヒ、ビ。扶沸切 [未] ハツ、ハチ。普活切 [曷]
目明かならず、くらし。

【費】 フツ、ホチ。敷勿切 [物]
㊀視る貌にいふ字。㊁昉の條を見よ。

【眯】 眥に同じ。

【眎】 シ、ジ。時利切 [寘]
㊀古文の視の字。○[文子]「一二于冥々一聽二于無聲二」。㊁志めす、(示)。○[漢]「以一二羌虜二」。

【映】 アウ、ヤウ。倚朗切 [養]
㊀目明かならず、くらし、くらむ。㊁恨み視る、うらむ、にらむ。

【映】 アウ、ヤウ。烏郎切 [陽]
前條の㊀に同じ。

【映】 エイ、ヤウ。於慶切 [敬]
みる、(視)。

【眐】 セイ、シヤウ。諸盈切 [庚]
獨視す、耑視す、みつむ。

【眲】 バ、メ。彌邪切 [麻]
目小さし。

【眗】 ク、コ。九遇切 [遇]
左右の目、兩のまなこ、又、兩のまなこにて視る、みる。○[元包經]「大有三一鑾二于眞二」。

【眗】 ク、コ。舉于切 [虞]
㊀前條に同じ。㊁瞿に同じ。

【眑】 エウ。伊鳥切 [篠]
㊀視る貌にいふ字。㊁深遠なり、ふかし、とほし。○[漢]「淸思一一々」。

【眑】 アウ、エウ。於絞切 [巧]
窅に同じ。

【眑】 アウ、エウ。於交切 [肴]
顤に同じ。

【眒】 シン。試刃切 [震] 失人切 [眞]
㊀みる。

【䀹】
㊀目を張る、みはる。㊁目を引く、ひく。㊂疾し、はやし。○[史]「儵一淒洌」。㊃鳥獸の驚くにいふ字、おどろく。○[左思]「鷹犬倏一一」。

【眓】 クワツ、クワチ。呼括切 [曷]
みる、(視)。

【眔】 タフ、ドフ。徒合切 [合]
目相及ぶ、みあふ。

【眕】 シン。之忍切 [軫]
㊀目に限る所ありて止む。㊁おもんず、(重)、忘のぶ、(忍)。○[左]「憾而能一者鮮矣」。

【䀶】 キヤウ、カウ。許放切 [漾]
みる、(視)。

【眗】 ク、コ。恭于切 [虞]
㊀眗に同じ。㊁一瞜は、わらふ、(笑)。

【眗】 コウ、ク。墟侯切 [尤]
目の深き貌にいふ字。

【昚】 古文の慎の字。○[史]「王一勿レ予」。

【眏】 ケツ、ケチ。呼決切 [屑]
㊀驚き視る、みる、みはる。○[王延壽]「佗歎憄以鵰一一」。㊁目の深き貌にいふ字。

【眙】 チ。丑吏切 [寘]
㊀みる。

(い)目を矚して他に移さず、みつむ。○〔史〕「目ー不レ禁」、○〔班固〕「猗傷ー而不レ能レ階」。

(ろ)驚き視る、おどろく。

㊁さしまる(逗)。○〔揚雄〕「ー逗也、西秦謂二之逗一」。

〔竦眙〕おそれみる。○〔唐〕「中外ーー」。

〔瞠眙〕目をみはり視る。○〔長笛賦〕「留眎ーー」。

〔瞪眙〕目をはりておそろしき視る。○〔魚孟威〕「騈レ臂東立ーー而已」。

【眙】チョウ、ヂョウ。丈證切 徑

前條の㊁に同じ。

【眙】イ。與之切 支

目を擧ぐる貌にいふ字、みあぐ。

【眚】セイ、シヤウ。所景切 梗

㊀目病みて翳を生ずるを、くもり、かすみ、又、其のやまひにかゝる、かすむ、くもる。○〔范成大〕「目ー昏花燭穗垂」。

㊁あやまち(過)。○〔左〕「不下以二一ー一掩中大德上」。

㊂わざはひ(災)。○〔後漢〕「景雲降集ー沴息」。

㊃あやし(妖)。○〔漢〕「中山小王未レ滿レ歲有二ー病一」。

㊄はぶく(省)、へらす(損)、そぐ(殺)。○〔周〕「馮レ弱犯レ寡則ーレ之」。

〔災眚〕わざはひ。○〔易〕「凶有二ーー一」。

〔妖眚〕前に同じ。○〔後漢〕「ーーー之來、皆爲レ此也」。

〔肆眚〕罪ある者を赦すこと。○〔春秋〕「ー二大ー一」。

〔天眚〕天災のこと。○〔後漢〕「推二咎台衡一以答二ーー一」。

【眛】キツ、キチ。許聿切 質

㊀深き目の貌にいふ字。

㊁目動く、まじろく。

【眛】バイ、メ。莫佩切 隊

目明かならず、くらし。○〔左〕「目不レ別二五色之章一爲レー」。

【眜】バツ、マチ。莫撥切 曷

前條に同じ。

【眝】チヨ、ト。展呂切 語

長く眙る、みつむ、一說に、目を張る、みはる。○〔陸機〕「ー二美目一其何望」。

【眮】

覞に同じ。

【䀡】テン。丑黠切 黠 テン、凝廉切 鹽

㊀覘に同じ、うかゞふ。○〔揚雄〕「凡相竊視南楚或謂二之ー一」。

㊁目垂るゝを、たれめ。○〔青箱雜記〕「ー睇者淫亂也」。

【䀡】タン、トン。吐濫切 勘

候ひ視る、うかゞふ。

【眞】シン。側鄰切 眞

㊀道を成すと(道家にいふ)。○〔司馬子坐〕「練レ形爲レ氣、名曰二ー人一」。

㊁自然。○〔莊〕「而況其ー乎」。

㊂妙理、みち。○〔莊〕「是謂二其反一レー」。

㊃原質、もと。○〔漢〕「俗儒守レ文多失二其ー一」。

㊄常住不變なると。○〔南〕「佛號二正ー一、ー會二無生一」。

㊅神氣、たましひ。○〔莊〕「苦レ心勞レ形以危二其ー一」。

㊆まこと。

(い)正實なると、いつはりならざると、たゞしきと。○〔漢〕「使三ー僞毋二相亂一」。

(ろ)精淳なると、まじりなきと。○〔莊〕「ー者精誠之至也」。

(は)假りのものにあらざると。○〔後漢〕「帝王自有レー也」。

㊇實に、まことに。○〔荀〕「ー積レ力久則入」。

〔歸眞〕淳正誠實なるに趣く。○〔戰〕「ーレー反レ璞、則終身不レ辱」。

〔聖眞〕通明にして淳正なると。○〔漢〕「憲二章六學一、統二壹ーー一」。

〔保眞〕もとをたもつ、みちをまもる、自然をやぶらず、たましひを傷つけず。○〔屈平〕「超然高擧以ーレー乎」。

〔守眞〕前に同じ。○〔後漢〕「味レ道ーレー」。

〔全眞〕前に同じ。○〔晉〕「因能ーレー養レ和」。

〔道眞〕道理ありて淳正誠實なると、又、みち、又、みちのもと。○〔漢〕「寃二同門一、妒二ーー一」。

〔本眞〕もと、みち、本來のまこと。○〔漢〕「雖有二ーー一」。「ー也」。

〔逼眞〕誠實に近寄る。○〔南〕「協學二其書一殆ーレ」。

〔天眞〕姓生の元、又、自然、又、天然のまゝにして虛僞なきと。○〔琴操〕「性反二其ーー一也」。

〔明眞〕明かなるみち、明かなる自然、明なる神氣、又、暗からざ誠實なると。○〔阮瑀〕「但當レ守二ーー一」。

〔寫眞〕(い)眞正のまゝをうつしとる。○〔杜甫〕「必逢二佳士一亦ーレー」。

(ろ)ものゝ像をうつしたるもの。○〔張君房麗情集〕「浦女崔徽ーー」。

〔眩眞〕正實をくらます。○〔景殿賦〕「多雜ーレー」。

〔養眞〕天然のまゝを育成す。○〔夏侯湛〕「佗爾ーレー」。

〔應眞〕佛法にいふ羅漢のと、羅漢は阿羅漢の略、佛の稱號。○〔遊天台山賦〕「ーー飛レ錫以躡レ虛」。

〔任眞〕天然のまゝになすと。○〔陶潛〕「ーレー無レ所レ先」。

〔失眞〕まことをなくなす。○〔李白〕「時訛皆ーレー」。

〔正眞〕まこと。○〔白居易〕「始覺檻花不二ーー一」。

〔溷眞〕正實をまぎらす。○〔鹽鐵論〕「色厲而內荘、ーレー者也」。

〔精眞〕純粹誠實なると。○〔元好問〕「ーー郎計受二纖塵一」。

〔質眞〕飾りなく天然のまゝなると。○〔淮〕「ーーー而素樸」。

〔玉眞〕玉の異名。○〔抱朴〕「ーー者玉之別名也」。

〔汚眞〕正眞をけがしみだす。○〔杜甫〕「行高無レーレー」。

〔履眞〕誠のみちを踏み行ふ。○〔水經、註〕「ーレー懷レ道、窮二數術之美一」。

〔淑眞〕善くして且正眞なると。○〔杜甫〕「態濃意遠ー且ー」。

〔冲眞〕深く正粹なると。○〔王徽之〕「未レ若レ保二ーー一」。

〔葆眞〕うぶにして穢れなき天然のまゝなると。○〔傅亮〕「在昔龍種今也ーー」。

〔蘊眞〕積みつゝめる正粹の理。○〔謝靈運〕「ーレー誰爲レ傳」。

〔高眞〕けだかく正粹なると。○〔張九齡〕「寶跡啓二ーー一」。

〔純眞〕まじりなく眞正なると。○〔李白〕「白鷴雖レ白非二ーー一」。

〔淸眞〕潔白にして誠實なると。○〔李白〕「右軍本ーー」。

〔貞眞〕固く純粹なると。○〔李白〕「燕石非二ーー一」。

〔幽眞〕ふかにして天然のまゝなると。○〔王安石〕「南堂棲二ーー一」。

【真】

俗の眞の字。

【眗】ク、ゴ。果羽切 麌

驚き視る貌にいふ字。

【眑】バウ、メウ。莫飽切 巧

咬ーーは、邪めに視るを、ながしめ。

【眡】テイ、タイ。都奚切 齊

視る貌にいふ字。

【眂】

視に同じ。

【眠】ベン、メン。莫賢切 先

❶ねむる。
（い）目を翕はせ寐ぬ、やすむ、いぬ。○〔後漢〕「終夕不レー」。
（ろ）鳥獸の偃息するにいふ字、いこふ。○〔宋〕「ー羊臥鹿」。
（は）草木のしばらく萎れ偃すにいふ字。○〔三輔故事〕「漢苑有三柳如二人形一、一日三ー三起」。
❷伴り死ぬ。○〔山海經〕「見レ人則ー」。
〔芊眠〕茂密なる貌にいふ語、しげし、又、色の深き貌にいふ語、又、遙かに視るに暗くして未だ明かならざる貌にいふ語。○〔陸機〕「淸麗ーー」。
〔醉眠〕酒に醉ひてねむる。○〔杜甫〕「冷石ーー醒」。
〔熟眠〕よくねむる。○〔柳宗元〕「隱レ几ーー開ニ北牖一」。
〔陽眠〕いつはりねむる。○〔南〕「對之舉見使ー」。
〔安眠〕やすらかにねむる。○〔北〕「ーー美食」。
〔睡眠〕ねむる。○〔李咸用〕「摘レ芳爲レ藥除ニーー」。
〔驚眠〕ねむりをさます。○〔徐陵〕「百舌曉ーレー」。
〔晏眠〕時おそくまでねむる。○〔王逢〕「檣草無レ功日ーー」。
〔偷眠〕まをぬすみてねむる。○〔白居易〕「吏部暫ーレー」。
〔快眠〕こゝちよくねむる。○〔朱熹〕「琴開ー知章好一」。

【眄】ベン、メン。眠見切　霰
❶前條の❶に同じ。
❷みだる、（亂）。○〔司馬相如〕「眩ーー而無レ見」。

【眄】ベン、メン。彌殄切　銑
ー娫は、欺謾す、あざむく、一說に、開通せざる貌にいふ字、くらし、又一說に、嗤弄す、あざける、又一說に、おさる、（劣）。○〔列〕「ー娫誣謏」。

【眠】ビン、ミン。彌盡切　軫

みる、（視）。

【皰】ハウ、皮敎　效　ハク、彌角
ベウ。切　ボク。切　覺
目の怒る貌にいふ字。

【眢】ワン。一丸切　寒
❶目の明を失ふを、眸子枯陷するを、めくら、めしひ。
❷井の枯れて水なきを。○〔左〕「目ニ於ー井一而極レ之」。

【眣】シュン。輸閏切　震
目を動かして指を通ず、めくばせす、みる、まじろかす。○〔公羊〕「ー晉大夫一使ニ與レ公盟一」。

【眣】チツ。丑栗切　質　テツ、徒結　デチ。切　屑
❶目正しからず、ぬすみめ、ながしめ。
❷視しもの散失して記するをなし。

【眣】タツ、テチ。陟鎋切　黠
目の露はるゝ貌にいふ字。

【眥】セイ、ザイ。在詣切　霽
❶目匡の外角、まなじり。○〔列〕「拭レー揚レ眉而望レ之」。
❷衣の交領、えりのあはせめ。○〔爾〕「衣ーー謂ニ之襟一」。
〔目眥〕まなじり。○〔史〕「ーー盡裂」。
〔裂眥〕まなじりをさくとて眼をいからすると。○〔吳社編〕「此皆怒髮ーー、暴虎馮河之流」。
〔抉眥〕前に同じ。○〔曹植〕「張レ目ーレー」。
〔雙眥〕兩眥といふに同じ。○〔通賓〕「撩レ鞍一叱ーーー裂」。

【眥】サイ、ゼ。仕懈切　卦　釦住切
シ。資四切　寘

目を舉げて相忤ふ、恨を含みて視る、にらむ。○〔史〕「睚ーー之怨必報」。

【眦】皆に同じ。

【昭】セウ。尺沼切　蕭

目つきにて人を弄ぶ、もてあそぶ。

【眨】サフ、セフ。側洽切　洽
目動く、まじろく。

【眩】ケン、ゲン。熒絹切　霰
❶分明ならず、くらし。○〔淮〕「照レ物而不レー」。
❷くるめく。
（い）くらむ、❸の（い）に同じ。
（ろ）亂れ旋る、めぐる。○〔柳宗元〕「或投レ之旋ーー滑汩」。
❸くらむ。
（い）眼亂れ昏む、めまひす、めくるめく、めくらむ。○〔博物志〕「目ー則溺死」。
（ろ）惑亂す、まどふ、みだる。○〔漢〕「ーニ于名實一」。
❹くらましむ、くらます。○〔劉勰〕「人之性貞所ニ以邪一者慾ーレ之也」。
❺混合す、まじる、まじふ。○〔史〕「紅杳渺以ーー滑」。
〔瞑眩〕めくるめく。○〔書〕「若藥弗ニーー一、厥疾不レ瘳」。
〔震眩〕身ふるひ目くるめく。○〔楊萬里〕「擧レ岸已ーーー」。
〔巧眩〕たくみにめをくらます。○〔後漢〕「單朱不レ爲ニーー一移レ目」。
〔昏眩〕めくるめく、又、くらし。○〔桂海虞衡志〕「疼痛目ーーー」。
〔眊眩〕前に同じ。○〔報耕錄〕「眼目ーー」。
〔吐眩〕食物をはき目昏む。○〔徐兢〕「舟中之人ーーー頭仆」。
〔汗眩〕あせいでめくらむ。○〔柳宗元〕「毒炎當「目ーーー」。

〔耀眩〕かゞやくと昏くなると。○〔蘇軾〕「索怯ニーーー」。
〔譁眩〕聽くにやましく見るにめくらむ。○〔韓維〕「目厭ニーーー」。

【眩】ケン、ゲン。胡辨切　諫
幻に同じ、人の目をくらますを、てづまなど。○〔史〕「安息王以ニ黎軒善ー人一獻ニ于漢一」。

【眩】ケン、ゲン。扃縣切　先
衒に同じ。

【眍】ヒ、兵媚　ビ。切　寘　ビツ、莫筆　ミチ。切　質
❶直視す、みつむ。
❷はづ、（慙）。

【眍】バツ、マチ。莫八切　黠
みる、（視）、一說に、惡みみる、にらむ。○〔孟郊〕「獰眼困逾ー」。

【眪】ヘイ、ヒヤウ。補永切　梗
❶みる、（視）。
❷目明かなり、あきらか。

【眪】ハウ、バウ。撫兩切　養
昉に同じ。

【眲】ヂ、ニ。女利切　寘
みる、（視）。

【眊】ボウ、ム。莫豆切　宥
媢ぶる貌にいふ字。○〔靑箱雜記〕「ーー瞼者嫉ニ妒人一也」。

【昨】ソ、ス。靖故切　遇
め、（目）。

【督】ド、ヌ。農督切　遇

目をいからす、いかる。○〔帝京景物篇〕「――瞈據指」。

六畫

【眭】 キ。　許規切　[支]
㊀深目、くぼみめ。
㊁睢に同じ、目を仰ぐ、あをのく、みあぐ。
㊂健强の貌にいふ字、つよし。

【眭】 ケイ、ガイ。　弦雞切　[齊]
目を深くくぼめて惡み視る、にらむ。

【睳】 瞸の省字。

【眭】 ケイ、ケ。　涓惠切　[霽]
視る貌にいふ字。○〔淮〕「――然能視」。

【眬】 コウ、ク。　虎孔切　[董]
目明かならず、くらし。

【睰】 ク、コ。　況于切　[虞]
盱に同じ。

【眊】 クワツ、ケチ。　荒刮切　[黠]
怒り視る。

【眊】 クワツ、クワチ。　古活切　[曷]
目暗し、くらし。

【睰】 ラク。　盧各切　リヤク、ラク。　力灼切　[藥]
みる、（眄）。○〔揚雄〕「吳揚江淮謂レ眄曰レ―」。

【眮】 トウ、ヅ。　徒紅切　[東]
徒孔切　[董]　徒弄切　[送]

【眄】 ケイ、カイ。　苦兮切　[齊]
㊀まぶた、まぶち（目眶）
㊁目を瞋らして顧視す、ふりかへりにらむ。

【眄】 ケイ、ゲ。　戸圭切　[佳]　ケイ、カイ。　詰計切　[霽]
㊀人に蔽はれて見る、うかゞふ。
㊁直視す、みつむ。
㊂躁ぎ視る、視るに睛を定めず。

【眡】 能く視る、直視す、みつむ。

【眡】 ショク、シキ。　設職切　[職]
目の記す所、みおぼえ、めじるし。

【眆】 カウ。　寒剛切　[陽]
飛びて高下す、とぶ、かける。○〔揚雄〕「魚頡而鳥―」。

【眯】 ベイ、マイ。　莫禮切　[薺]
みだる。
(い)目の中に物入りて視るを亂るにいふ字、まどふ、まよふ。○〔文中子〕「蒙レ塵而欲レ無レ―、不レ可レ得レ絜」。
(ろ)まごはしむ、まごはす、まよはす。○〔莊〕「播レ糠―レ目」。

【眯】 ビ、ミ。　密二切　[寘]
寐に同じ、おそはる。○〔莊〕「彼不レ得レ夢必且二數―一焉」。

【眯】 ビ、ミ。　民卑切　[支]
睞に同じ、すがめ。

【睃】 カウ、ケウ。　吉巧切　[巧]
瞭の字の條を見よ。

【眣】 コウ、ク。　許候切　[宥]
目を怒らして視る、にらむ。○〔揚雄〕「遠―近棓失二父類一」。

【眰】 眣、又、覴に同じ。

【眱】 イ。　以脂切　[支]　テイ、ダイ。　田黎切　[齊]
㊀小しく視る。
㊁無言にして熟視す、みつむ。

【睇】 テイ、ダイ。　大計切　[霽]
睇に同じ。

【眴】 カフ、ケフ。　古洽切　[洽]
㊀細くして暗き眼、かすみめ。㊁すがめ、（眇）。㊂目睫動く、またゝく。

【盹】 トン。　丁本切　[阮]
朦朧として睡らんとする貌にいふ字。

【眲】 ダク、ニヤク。　尼戹切　[陌]　チョク、チキ。　竹力切　[職]　ジ、ニ。　仍吏切　[寘]
輕視す、あなどりみる。○〔列〕「莫レ不レ―レ之」。

【眻】 セン。　莊緣切　[先]
㊀またゝき、瞬目。
㊁眇視す、すがめみる。
㊂目明かならず、くらし。

【眩】 カイ。　柯開切　[灰]
㊀目の大いなる貌にいふ字。
㊁衆の相視る貌にいふ字。

【睞】 ライ、レ。　盧對切　[隊]

目正しからず。

【眪】 ケツ、ケチ。　呼決切　[屑]
視るの惡しき貌にいふ字。

【眶】 コウ。　居鄧切　[徑]
目の起こる貌にいふ字。

【眳】 ベイ、ミヤウ。　彌幷切　[敬]　亡井切　[梗]
㊀悅ばず、いかる。
㊁眉と睫との閒。○〔張衡〕「――藐流眄」。

【眴】 ケン、ゲン。　熒絹切　[霰]　ケン。　許縣切　[先]
㊀目を動かして私かに見る、めくばせす。○〔史〕「項梁―レ籍曰、可レ行」。
㊁眩に同じ、めくるめく、めくらむ。○〔楚辭〕「―兮杳々」。
㊂視るを明かならず、くらし。○〔班固〕「目――轉而意迷」。
㊃柔順、すなほ。○〔管〕「苗始其少也、――乎何其孺子也」。
㊄鮮明、あざやか。○〔宋玉〕「――煥粲爛」。
㊅まどふ、（惑）。○〔揚雄〕「臣嘗有レ病一顚――」。（瞑眴）目くらし。○〔甘泉賦〕「目――而無レ見」。

【眴】 ジュン。　舒閏切　[震]
目自から動く、またゝく。

【眴】 シュン。　相倫切　[眞]
目くるめく。
（䁃眴）涯なきこと。○〔張衡〕「――」。

【眵】 シ。　叱支切　[支]
眥を傷むると、一說に、目の汁の凝りた

ろもの、めやに、瞢兜。○〔韓愈〕「兩目—昏頭雪白」。

【眶】キヤウ、カウ。去王切 陽

目の匡、まぶち、まぶた。○〔列〕「矢來注二眸子一而—不レ睫」。

〔盈眶〕まぶたにみつ。○〔柳宗元〕「涙余滿之—」。

〔眼眶〕まぶた。○〔歐陽修〕「或沿二——一」。

【眷】ケン、クワン。居倦切 霰

㊀かへりみる。

（い）回視す、ふりかへりみる。○〔詩〕「—言顧レ之」。

（ろ）心嚮かふ、あつく思ふ。○〔書〕「皇天—命」。

㊁心の嚮かふ貌にいふ字、ねんごろ、あつし。○〔詩〕「——懷顧」。

㊂恩顧、めぐみ。○〔晉〕「蒙レ—累レ世」。

㊃親屬、やから。○〔五〕「魏晉以來世爲二名族一居二燕省一者號二東——一、居レ涼者號二西——一、居二河東一者號二中——一」。

〔天眷〕上帝の顧みてめぐみをかくること。○〔晉〕「非二——之隆一、將何以至レ此」。

〔過眷〕身分に相應せざる恩顧のこと。○〔宋〕「謬蒙二——一」。

〔荷眷〕恩顧を受く。○〔北〕「—二—於孝文一」。

〔佇眷〕たゞずみとゞまりて顧みる。○〔王勃〕「指二皇輿一而——」。

〔朝眷〕みかどの恩顧。○〔魏〕「等荷二——一、未二敢仰從一」。

〔宸眷〕前に同じ。○〔北〕「屢動二——一」。

〔宿眷〕一朝一夕ならざる恩顧のこと。○〔魏〕「仰特二皇造——之隆一」。

〔恩眷〕めぐみ。○〔北〕「綢二繆——一」。

〔殊眷〕特別なる恩顧。○〔北〕「深被二梁主——一」。

〔昵眷〕親しみめぐむ。○〔北〕「特垂二——一」。

〔禮眷〕ゐやをなしめぐむ。○〔唐〕「——殊渥」。

〔降眷〕めぐみをかく。○〔宋〕「明靈——」。

〔歆眷〕心によろこびてかへりみめぐむ。○〔楓窓小牘〕「九重——」。

〔垂眷〕恩顧をかく。○〔曹植〕「君不レ—レ—」。

〔篤眷〕手厚き恩顧。○〔陸雲〕「——彌隆」。

〔廻眷〕ふりかへりみる。○〔潘岳〕「僕馬——」。

〔親眷〕親屬といふに同じ。○〔鮑照〕「復與二——一違」。

〔隆眷〕優渥なる恩顧。○〔劉基〕「付託屬二——一」。

〔厚眷〕前に同じ。○〔唐明皇〕「答二人神之——一」。

〔深眷〕前に同じ。○〔杜甫〕「遠客驚二——一」。

〔優眷〕前に同じ。○〔元載〕「——愈深」。

〔哀眷〕あはれに思ひめぐむ。○〔杜甫〕「上天回二——一」。

〔延眷〕くびをのべかへりみる。○〔丘丹〕「下レ磴空——」。

〔舊眷〕もとのまたしみ。○〔徐鉉〕「——終無レ替」。

〔睿眷〕みかどの恩顧。○〔呂頌〕「綢二繆——一」。

〔沖眷〕前に同じ。○〔李商隱〕「昔帝迴二——一」。

【眸】ボウ、ム。莫浮切 尤

目童子、ひとみ。○〔孟〕「存二乎人一者莫レ良二於眸子一」。

〔雙眸〕兩眼のひとみ。○〔世說〕「——閃々」。

〔清眸〕あきらかなるひとみ。○〔張衡〕「——流眄」。

〔明眸〕前に同じ。○〔洛神賦〕「——善睞」。

〔凝眸〕ひとみをこらすこと。○〔李商隱〕「斂レ笑——意欲レ歌」。

〔瞪眸〕ひとみの物をみつめてうごかざること。○〔晉〕「——不レ轉」。

〔睜眸〕怒りたる時の眼のたま。○〔北〕「——瞥駐」。

〔黑眸〕くろきひとみ。○〔北〕「素質——」。

〔曇眸〕すぐれたるひとみ。○〔漢武內傳〕「——絕朗」。

〔橫眸〕いろめづかひ。○〔盧思道〕「態意薦二——一」。

〔秋眸〕前に同じ。○〔李商隱〕「柔腸早被二——割一」。

〔丹眸〕あかきひとみ。○〔李白〕「——星皎」。

〔昏眸〕あきらかならざるひとみ。○〔吳萊〕「胸正無二——一」。

【眹】チン、ヂン。丈忍切 軫

㊀前條に同じ、ひとみ。○〔周註〕「無二目——一謂二之瞽一」。

㊁きざし（兆）。○〔佩觿集〕「吉凶形兆謂二兆——一」。

【睫】セフ。卽涉切 葉

前條の㊀に同じ。

【眺】テウ、他弔切 嘯 吐了切 篠

㊀驚惕して目正しからず、おそろ、おどろく。○〔潘岳〕「邪——旁剔」。

㊁遠きを視る、みる、のぞむ、ながむ。○〔禮〕「可二以遠——望一」。

㊂ながむること、ながむる所、ながめ。○〔李嶠〕「羈——傷二千里一」。

〔臨眺〕ながめみる。○〔南〕「頗有二——之美一」。

〔延眺〕ながむ。○〔唐〕「——良久歎二其美一」。

〔迴眺〕遠方をながむ。○〔杜甫〕「——積水外」。

〔遠眺〕前に同じ。○〔晉〕「登レ高——」。

〔遐眺〕前に同じ。○〔盧諶〕「——二存亡一」。

〔遙眺〕前に同じ。○〔沈約〕「——想二京闕一」。

〔閑眺〕しづかにながむ。○〔劉禹錫〕「——江上亭」。

〔晚眺〕よるのながめ。○〔岑參〕「山河宜二——一」。

〔顧眺〕かへりみながむ。○〔酉陽雜俎〕「徘徊——」。

〔伏眺〕低き場所をたかき處よりのぞむ。○〔李巨仁〕「——盡二山川一」。

〔登眺〕高きところにあがりてながむ。○〔張九齡〕「暇日時——」。

〔野眺〕のはらのながめ。○〔鄭谷〕「——春吟更是誰」。

〔矚眺〕ながめみる。○〔朱熹〕「——庭宇肅」。

〔視眺〕前に同じ。○〔吳師道〕「——猶未レ饜」。

〔凝眺〕ながめみつむ。○〔劉秉忠〕「樓頭——倚二晴暉一」。

【眻】ヤウ。與章切 陽 餘亮切 漾

眉と眉との閒。

【眼】ガン、ゲン。五限切 潸

㊀め。

（い）目孔中の珠子、めだま、まなこ。○〔史〕「抉二吾——置二之東門一」。

（ろ）目の孔。○〔司馬子〕「纖毫入レ——則不レ安」。

（は）あな（孔）。○〔歲華記麗〕「穿二針——挂二犢鼻一」。

（に）めだまの狀をなすもの。○〔茶寮記〕「煎川二活火一候二湯——鱗々起一」。

（ほ）見ること。○〔南〕「彫績滿レ—」。

㊁要點、かなめ。○〔滄浪詩話〕「曰句法、曰字——」。

〔龍眼〕果實の名。○〔後漢〕「舊南海獻二——荔枝一」。

〔鵞眼〕錢の名。○〔吳萊〕「楡莢——爭相縈」。

〔肉眼〕人間の目のこと。○〔張羽〕「——紛々爭二醜好一」。

〔獨眼〕かため。○〔五〕「莊宗父李克用一目眇、號二——龍一」。

〔碧眼〕あを色の目。○〔林景熙〕「——野僧知二我意一」。

〔書眼〕書籍をみる目。○〔皮日休〕「——若二薄霧一」。

〔露眼〕たかくいでたる目。○〔漢〕「——赤精」。

〔患眼〕めを病む。○〔梁〕「初生—レ—」。

〔魚眼〕さかなの目。○〔王維〕「——射レ波紅」。

〔俗眼〕つねなみの者の目。○〔集異記〕「——不レ識二神仙一」。

〔柳眼〕やなぎの葉のめだしのこと。○〔歲華紀麗〕「——挑レ金」。

〔白眼〕（い）まなこの白き處の稱。○〔圖繪經〕「氣之精爲二——一」。

（ろ）いかれるめつき、にらむめつき。○〔晉〕「見二禮俗之士一以二——一對レ之」。

〔青眼〕よろこぶめつき、愛するめつき。○〔晉〕「嵇喜弟康、乃挾レ琴齎レ酒造焉、籍大悅乃見二——一」。

〔具眼〕識別の力あること。○〔蘇軾〕「闍黎蓋—レ—」。

〔淚眼〕なみだをもつ目。○〔錢起〕「——凝時明」。

〔法眼〕佛語にて道を悟りたる者の目。○〔滄浪詩話〕「——無レ瑕」。

〔字眼〕文章などにて一篇の主要なる文字を稱する語。○〔滄浪詩話〕「曰二——一」。

〔佛眼〕ほとけの道に通じたる者の目。○〔眞山民〕「——共レ燈明」。
〔洗眼〕目をあらふ。○〔杜甫〕「—レ—看二輕薄一」。
〔客眼〕旅客の目。○〔杜甫〕「西川供二——一」。
〔慈眼〕なさけ深き目。○〔李子卿〕「——如レ睇」。
〔冷眼〕求むる所なき者の目。○〔李羣玉〕「孤蓬——無二來人一」。
〔醉眼〕酒にゑひたる者の目。○〔蘇軾〕「——朦朧覓二歸路一」。
〔著眼〕めをつく。○〔蘇軾〕「——細看君勿レ誤」。
〔千里眼〕能く遠きを見るといふ語。○〔北〕「楊使君有二———一」。
〔一隻眼〕一つのめだま。○〔滄浪詩話〕「方許レ具二———一」。

【眼】ゴン。魚懇切 阮
突出する貌にいふ字、又、出でて大いなる貌にいふ字。○〔周〕「望二其轂一欲二其—一」。

【睆】クワウ、虎廣切 養　クワウ、呼光切 陽　バウ、謨郎切　マウ。
目明かならず、くらし。○〔靈樞經〕「目——如レ無レ所レ見」。

【眽】バク、ミヤク。莫獲切 陌
❶財かに視る、ぬすみみる、一說に、姦人の視る貌にいふ字。❷相視る、みる、みあふ。○〔古詩〕「盈々一水閒、———不レ得レ語」。

【眽】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
❶衺に視る、よこめをつかふ。❷みる、(視)。○〔漢〕「—二隆-周之大-寧一」。

【眾】シウ、シユ。之仲切 送
❶數少なからず、一つばかりにあらず、おほし、おほきもの、もろ〳〵。○〔書〕「格爾——庶」。❷三日以上つゞけて降る雨、ながあめ。○〔禮、註〕「雨三-日以レ上爲レ霖、今月-令曰二——雨一」。❸草の名。○〔爾〕「——一-名秫、稷之黏者也」。

【眴】ケン。古懸切 先
清明、きよし、あきらか、ほがらか。

七畫

【眉】
眉の本字。

【睛】ホ、フ。卜古切 麌
みる、(視)。

【睯】コク。古祿切 屋
❶目開く、あく。❷大いなる目。❸目動く、まじろく。

【睓】クツ、コチ。許勿切 物
日動く、まじろく。

【睂】カク、訖岳切 覺　コク。切　コク。胡谷切 屋
目動く、まじろく。

【睂】
睯に同じ。

【睃】シユン。祖峻切 震
みる、(視)。

【睁】ホウ、フ。敷容切 冬
みる、(睽)。

【睄】サウ、セウ。所教切 效
小しく視る。

【睅】クワン、ゲン。戸版切 潸　カン、ガン。下罕切 旱
大なる目、おほいなるめ、又、目出で見はるゝ貌にいふ字。○〔左〕「—二其目一」。

【睆】クワン、ゲン。戸版切 潸
❶前條に同じ。❷實のる貌にいふ字。○〔詩〕「有二—其實一」。❸目圓く轉ず、まじろく、一說に、圜く轉ず、まろぶ。○〔詩〕「睍—黃-鳥、載好二其音一」。❹あきらか、(明)。○〔詩〕「—彼牽-牛」。❺美好、うつくし、よし。○〔禮〕「華而—大-夫之簀與」。❻窮め視る、みわたす。○〔莊〕「————然在二纆-繳之中一、而自以爲レ得」。

【睆】ワン。鄔管切 旱
小しく嫵媚す、こぶ。

【睦】ボク、モク。莫六切 屋
目病む、めやみ。

【睈】テイ、ヂヤウ。待鼎切 迥
目出づ。

【睇】テイ、ダイ。特計切 霽
小しく視る、ぬすみめす、傾き視る、よこめつかふ、又、ぬすみめ、よこめ。○〔禮〕「在二父-母舅-姑之所一、不二敢——視一」。
〔邪睇〕よこめづかひ。○〔禮〕「不二—•—而視一レ之」。
〔微睇〕少しくみる。○〔楊師道〕「——轉二橫-波一」。
〔流睇〕ながしめにみる。○〔張衡〕「微眺——」。
〔仰睇〕あをのきみる。○〔陶潛〕「——二天-路一」

【睇】テイ、ダイ。田黎切 齊
❶睼に同じ。❷みる、(視)。

【睉】ゲイ、ギヤウ。五到切 梗
直視す、みつむ。

【睉】ガフ、ゲフ。五夾切 洽
視る貌にいふ字。

【睽】
眣に同じ。

【睽】シ。式基切 支
またゝく、(眴)。

【睰】カウ、ケウ。虛交切 肴
めつかち、(瞎)。

【脰】トウ、ツ。當侯切 尤
目の汁の凝りたるもの、めやに。

【睈】テイ、チヤウ。丑郢切 梗
❶照らし視る、みる。❷意盡きず。

【睉】サ、ザ。昨禾切 歌　粗果切 哿
目の小さきを、ほそめ。

【睉】サイ、ゼ。仕夬切 卦
❶目惡し、あし。❷くだく、(碎)。

【睙】リヤウ、力讓切　ラウ。　キヤウ、丘亮切　ガウ。　ラウ。郎宕切 漾
目病む、めやみ。

【⿰目良】ラウ。里黨切 養
矋に同じ。

【⿰目劫】ケフ、コフ。訖業切 葉
急がしく視る、みる。

【⿳𠂊目夊】ケン、火遠切 願 ケン、巨員切 先
コン。切　ゴン。切
みる(視)。

【⿳𠂊目又】クワン、ケン。古玩切 翰
大いなる目。

【⿰目貝】クワク、キヤク。郭獲切 陌
目を閉づ、めつぶる、さづ。○[神異經]「八荒有二毛人一、見レ人則—レ目開レ口」。

【⿰目尨】バウ、モウ。莫江切 江
目暗し、くらし。

【⿰目𡈼】ワウ。烏光切 陽
目泣かんさする貌にいふ字、なきかゝる。

【⿱折目】テイ。丑例切　セイ。征例切 霽
セツ、之列切 屑
セチ。

❶ちらさみる、(瞥)。
❷目光る、ひかる、かゞやく。
❸目明か、あきらか。
❹目美し、めもさよし。

【睊】エン。於絢切 霰

【睊】ケン。古縣切 先
視る貌にいふ字。

目を側だて相視る、よこめでみあふ。○[孟]「——胥讒」。

【⿱谷目】ケキ、キヤク。許役切 陌
❶みる、(視)。❷まなこ、(眼)。

【⿰目生】ワウ。于放切 養
みる、(視)。

【省】サ。素何切 歌
倫み視る。

【睒】セン。失冉切 琰
目のまばたく動く貌にいふ字。

【䀹】セフ、サフ。子葉切 葉
❶目の旁の毛、まつげ。○[史]「忽—々承レ——」。
❷瞬に同じ、目の動く貌にいふ字。

【䀹】サフ、セフ。側洽切 洽
眨に同じ、目うごく。

【䀹】ガフ、ゲフ。五洽切 洽
戲謔する貌にいふ字、たはむる。

【䀹】カフ、ケフ。訖洽切 洽
目睫動く、まつげうごく、一說に、すがむ、すがめ、(眇)。○[韓]「聱兩目—」。

【⿱罒目】ケン。居倦切 霰
目の圈、まぶち、まぶた。

【⿰目兑】エツ、エチ。欲雪切 屑
目にて玩ぶ、もてあそぶ。

【⿱比目】チウ、チユ。丑鳩切 尤
ながしめ、(眣)。

【⿱比目】タウ、テウ。丑交切 肴
目ざし正しからず。

【⿱比目】タウ、トウ。他刀切 豪
❶目明かならず、くらし、一說に、日中通じて白くなる。
❷重瞼、ふたへまぶち。

【⿰目我】ガ。五何切 歌
のぞむ、(望)、みる、(視)。○[班固]「—二北卓一」。

【⿰目甹】ヘイ、ヒヤウ。匹正切 敬
みる、(視)。

【⿰目辰】シン。昌眞切 眞
瞋に同じ。

【⿰目辰】ジン、ニン。而振切 震
❶視る貌にいふ字。❷もだゆ、(懣)。
❸めくるめく、(眩)。

【⿰目辰】シン。之忍切 軫
前條の❷に同じ。

【⿰目延】エン。于線切 霰
❶行く〳〵相顧視す、かへりみる。
❷みる、(視)。

【⿰目延】セン。七絹切 霰
更め視る貌にいふ字。

【睌】バン、メン。武限切 潸
みる、(視)、又、畏るゝをなしに視る。

【睍】ケン。胡典切 銑
❶目あらはれ出づ、いづ、又、いでたる目、でめ。
❷小しく視る、ぬすみみる。○[唐]「低レ首下レ心、伈—々——」。
❸よし、(好)。○[詩]「——睆黃鳥」。

【睍】ケン、ゲン。形甸切 霰
目小さし、こまし、又、こまかき目。

【睎】キ、ケ。香衣切 微
❶のぞむ、(望)、みる、(視)。○[班固]「——二秦嶺一」。
❷志たふ、(慕)。○[揚雄]「—レ顏之人、亦顏之徒也」。
(仰睎) あふぎのぞむ。○[懷舊賦]「——二歸雲一」。
(遐睎) 遠方のながめ。○[韓愈]「蒼黃忘二——一」。

【⿰目叟】ジン。舒仁切 眞
目を引く。

【督】ト、ツ。董五切 麌
おほし、(多)。

【⿰目走】ケフ。許頰切 葉
昏暗なる貌にいふ字、くらし。

【⿰目匚】リウ、ル。力求切 尤
臥して視る、みる。

八畫

【睒】セン。失冉切 琰
❶暫く視る、ぬすみめす。○[郭璞]「猿獺——二瞲乎廢空一」。
❷うかゞふ、(窺)。○[揚雄]「膏復—レ天不レ覩二其畛一」。

㊂電光、いなびかり。○〔韓愈〕「雷-電生二——睒一」。
㊃光輝の晶熒する貌にいふ字、ぎらぎら、ぴか〳〵。○〔韓愈〕「太-白——」。

【睒】ゼン。舒贍切 豔
視るを速かなる貌にいふ字。

【睒】タン、トン。吐濫切 勘
候ひ視る、うかゞふ。

【睓】テン。他典切 銑
はづ、はぢらふ(慙)。

【睔】コン。古本切 阮 クワン、ゲン。胡關切 刪
目の大いなるを、又、大いなる目。○〔南〕「瞯——煥二七-曜之文一」。

【睔】コン。古困切 願 クワン、クン。古患切 諫
目大にして睛露はる。

【睔】ロン。盧本切 阮
目の貌にいふ字。

【睕】エン、チン。委遠切 阮 ワツ、ワチ。烏括切 曷
㊀目の開く貌にいふ字、あく。
㊁小しく嫵媚す、こぶ。

【睕】ワン。烏貫切 翰
—睆は、大いなる目、又、目を轉ず、まじろかす。

【睆】ワン。鄔管切 旱
睆に同じ、こぶ。

【睕】ワン。烏丸切 寒
深き目の貌にいふ字。○〔晉〕「瘤目——正耐レ溺レ中」

【䁂】カン、ケン。侯簡切 潸
大いなる目、おほめ。

【䁁】ヘウ。必昭切 蕭
眼を著けて視る、しかさみる。

【䀹】カン、ゴン。胡紺切 勘
目の深き貌にいふ字。

【䀹】カフ、ケフ。乞洽切 洽
目陷る、おちいる、くぼむ。

【䁑】タク、トク。竹角切 覺
目明か、あきらか。

【𥆤】ビ、ミ。民卑切 支
すがめ(眇)。

【䁆】ケイ、ギヤウ。下頂切 迥
瞑目の貌にいふ字。

【瞁】ケキ、キヤク。許役切 陌
驚く貌にいふ字。

【䀿】古文の朙の字。

【䀿】ハウ、バウ。撫兩切 養
昉に同じ。

【睖】チヨウ、ヂヨウ。丑升切 リヨウ。閭承切 蒸
直視す、みつむ。

【睗】セキ シヤク。施隻切 陌
㊀疾く見る、いそがはしくみる。○〔左思〕「忘三其所二睒——一」。
㊁電光、いなびかり。○〔韓愈〕「雷-電生二睒——一」。

【䁅】バウ、ミヤウ。母梗切 梗
㊀よろこぶ(喜)。㊁いかる(恚)。

【䁅】バウ、ミヤウ。莫更切 庚
目の怒る貌にいふ字。

【睼】テイ、ヂヤウ。徒徑切 徑
みる(見)。

【睙】レツ、レチ。力結切 屑
まなこを轉じて視る、しろりさみる。

【䁆】エフ、オフ。於業切 葉 アン、オン。烏感切 感
目閉づ、とづ。

【睚】ガイ、ゲ。五佳切 佳 牛懈切 卦 ガ、ゲ。魚駕切 禡
目の際、めぎは、まぶち、まなじり、又、目を擧ぐ、みあぐ、にらむ。○〔漢〕「報二——眦之怨一」。

【睛】セイ、シヤウ。子盈切 庚
目の中の珠子、めだま。○〔禽經〕「鵁-鶄——交而孕」。
〔瞳睛〕眼のたま。○〔劉勰〕「——殊也」。「孕」。
〔目睛〕前に同じ。○〔相鶴經〕「——不レ轉則有」
〔迴睛〕眼のたまをまはす。○〔應璩〕「—レ—盼二曲-阿一」。
〔橫睛〕にらむこと。○〔吳、誌〕「——逆視」。
〔眼睛〕めたま。○〔韓愈〕「爲二天之——一」。

【睛】セイ、シヤウ。此靜切 梗
眳——は、悅ばざる目の貌にいふ語。

【睜】睛に同じ。

【䅟】リ。良脂切 支
目閉づ、とづ。

【䀙】チヤウ、タウ。丑亮切 漾
㊀志を失ふ貌にいふ字。㊁恨む。

【䀙】チヤウ、タウ。中良切 陽
目の大いなる貌にいふ字。

【睞】ライ。洛代切 隊
目の童子正しからざる方に向かふにいふ字、みまはす、わきみす、よこめをつかふ、かへりみる。○〔南〕「眄-—則目-光燭レ人」。
〔善睞〕よきめづかひ。○〔曹植〕「明-眸——」。
〔旁睞〕かたはらをながむ。○〔潘岳〕「瞵二睥目一以——」。

【睞】ライ。郎才切 灰
目偏る、かたよる。

【窅】ビヨク、ミキ。亡遍切 職
暫く視る、細かく視る、みる。○〔吳萊〕「—瞭目以霧-披」。

【䁈】ケイ、カイ。詰計切 霽
㊀かへりみる(省)。㊁うかゞふ(窺)。

【[illegible]】前條に同じ。

【睟】ス井。雖遂切 寘

㊀視ろを正し、たゞし、又、目清明なり、きよし、あきらか、ほがらか。○〔沈約〕「臨レ朝凝ーー」。
㊁潤澤あり、つやあり、つやゝかし。○〔孟〕「ーー然見二於面一」。
㊂純粋、もッぱら、まじりなし。○〔揚雄〕「ー君道也」。
〔昞睟〕あきらかに潤澤あること。○〔顏延之〕「暦圖ーー」。

【睟】サイ、セ。祖對切 隊
目の際、まぶち。

【睠】眷に同じ。

【睡】スヰ、ズヰ。是僞切 寘
れむる、れむり。
(い)坐しながら寐ぬ、ゐねむる。○〔賈誼〕「將吏被二介冑一而ー」。
(ろ)寐ぬ。○〔貫耳錄〕「劉垂範往見二羽士寇朝一、其徒告以レー、劉坐二寢外一聞二鼻鼾之聲一雄美可レ聽、曰寇先生ー有レ樂乃華胥調」。
〔昏睡〕ねむる。○〔南〕「時或ーー」。
〔鼾睡〕いびきを發してねむる。○〔程史〕「豈容二他人ーー一耶」。
〔嗜睡〕ねむることを好む。○〔齊東野語〕「荆公ーー」。
〔眠睡〕ねむる。○〔白居易〕「夕困多二ーー一」。
〔寢睡〕前に同じ。○〔魏〕「父母ーー之後」。
〔陽睡〕いつはりてねむるまねす。○〔五〕「則垂レ頭ーー不レ省」。
〔佯睡〕前に同じ。○〔郭璞〕「見レ人ーー」。
〔破睡〕ねむけをさる。○〔白居易〕「ーレー見二茶功一」。
〔午睡〕ひるね。○〔蘇軾〕「ーー昏々」。
〔熟睡〕十分によくいぬ。○〔蘇軾〕「東坡但ーー」。

【[illegible]】セイ。征例切 霽
目明か、あきらか。

【睢】キ。許惟切 支　香季切 寘
㊀目を仰ぎて見る、みあぐ、又、目を大にして視る、みはる。○〔漢〕「萬衆ーー、驚怪連日」。
㊁ほしいまゝ、(恣)、いかる、(怒)、そしる、(毀)。○〔史〕「暴戾恣ーー」。
〔睽睢〕そむきみる貌にいふ語。○〔魯靈光殿〕「顒顙顎而ーー」。

【睢】ス井。宣隹切 支
水の名、又、所の名。○〔左〕「出舍二于ーー上一」。

【睢】ケイ、ケ。戶畦切 齊
元氣の貌にいふ字。

【睢】井。曰唯切 支
天ーは、星の名。

【[illegible]】ヒ、ビ。芳微切 微　ヒン、ホン。府巾切 眞
大いなる目、おほめ。

【[illegible]】カツ、ケチ。訖黠切 黠
視る貌にいふ字。

【睏】キン、グン。渠殞切 吻
大いなる目、おほめ。

【[illegible]】コク。呼或切　キョク、ケキ。忽域切 職
睡むる目の貌にいふ字。

【[illegible]】キ。去奇切 支
目の一隻なること、かため。

【督】トク。冬毒切 沃
㊀みる、(察)。○〔唐〕「檢二ー王家一至三過失皆上聞一」。
㊁うながす、(催)。○〔唐〕「趣ー倚辨故能成功」。
㊂ひきゐる、(率)、又、すぶ、(都)。○〔唐〕「請二身ー戰一」。
㊃すゝむ、(勸)、又、いましむ、(敕)。○〔漢〕「宜レ有二以教ーー一」。
㊄たゞす、(董)。○〔書傳〕「美以戒レ之、威以ーレ之」。
㊅せむ、(責)。○〔史〕「聞大王有レ意レー二過之一」。
㊆かんがふ、(考)。○〔韓〕「ーー參鞠レ之」。
㊇たゞし、(正)、又、あつし、(篤)。○〔左〕「謂二ー不レ忘」。
㊈主長、をさ。○〔史〕「家有二長子一曰二家ーー一」。
㊉總べ率ゐる人。○〔後漢〕「校尉一二統於ー一」。
⑪中央、なか、まなか。○〔莊〕「緣レー以爲レ經」。
〔程督〕課し責む。○〔漢〕「固不二ーー一」。
〔教督〕をしへ正す。○〔漢〕「宜レ有二以ーー一」。
〔都督〕すべ率ゐる。○〔晉〕「ーー中外諸軍事一」。
〔檢督〕取りしまり察すること。○〔後漢〕「使二相ーー一」。
〔監督〕前に同じ。○〔後漢〕「上設二ーー之重一」。
〔董督〕前に同じ。○〔吳〕「安可二ーー一在レ遠、禦レ寇濟レ難乎」。
〔催督〕うながしきらぶ。○〔蜀〕「ーー運事一」。
〔選督〕えりぬき正す。○〔吳〕「虎林ーー堪レ之者衆」。
〔搜督〕探し求め正す。○〔唐〕「ーー甚峻」。
〔繩督〕正す。○〔唐〕「數以レ法ーー」。
〔親督〕自ら取りしまる。○〔唐〕「大王ーー精銳一」。
〔專督〕專一に取りしまる。○〔宋〕「願ーー軍旅一」。
〔分督〕別々に取りしまる。○〔宋〕「ー二ー行營一」。

【睥】ヘイ、ハイ。匹詣切 霽
㊀邪めに視る、ながしめにみる。○〔後漢〕「ーー睨天地之閒一」。
㊁うかゞふ、(窺)。○〔釋名〕「於二孔中一ー二睨非常一」。

【睤】前條に同じ。

【睦】ボク、モク。莫六切 屋
㊀つゝしむ、うやうやし、(敬)。○〔逸雅〕「所三以爲二恭ーー也」。
㊁敬み順ふ、親しみ和す、したしむ、やはらぐ、むつぶ。○〔禮〕「講レ信修レーー」。
㊂したしみ好し、やはらぎ厚し、よし、あつし、むつまし。○〔書〕「九族既ー」。
〔和睦〕やはらぎしたしむ。○〔董仲舒〕「上下ーー」。
〔雍睦〕前に同じ。○〔南〕「家門ーー」。
〔輯睦〕前に同じ。○〔左〕「羣臣ーー」。
〔協睦〕前に同じ。○〔北〕「使二朝廷ーー一」。
〔慈睦〕いつくしみしたしむ。○〔禮〕「教以二ーー一」。
〔敦睦〕あつくむつまし。○〔宋〕「閨門ーー」。
〔親睦〕したしむ。○〔易林〕「四國ーー」。
〔友睦〕兄弟の間むつまし。○〔南〕「兄弟ーー」。
〔肅睦〕つゝしむ。○〔金〕「孝祀ーー」。
〔恭睦〕うやまひつゝしむ。○〔逸雅〕「所二以爲二ーー也」。

【睧】コン。呼昆切 元
目暗し、くらし、又、くらくなる、くらむ。○〔淮〕「漢二ーー於勢利一」。

【[illegible]】ク、コ。恭于切 虞　果羽切 麌
㊀目ざしの邪なること、よこめ、

❷長さ六指ある矢。

【瞿】ク、コ。倶遇切 [遇]
瞿に同じ。

【䁥】キョク、ケキ。迄力切 [職]
奭に同じ。

【瞚】シュン。之閏切 [震] 朱倫切 [眞]
鈍き目。

【䀿】トン。他昆切 [元]
視ること明かならず、くらし。

【䁨】クワク。光鑊切 [藥]
矌に同じ。

【睩】ロク。盧谷切 [屋]
謹み視る、みる。○〔王逸〕「哀二世兮一ー一ー」。

【睨】ゲイ、ガイ。研計切 [霽]
❶衺視す、ながしめにみる、にらむ。○〔左〕「余與二禍之交一レ之」。❷伺視す、うかゞふ、みる。○〔釋名〕「於二孔中一睥二ー非常一也」。❸日斜なること。○〔莊〕「日方中方ー」。
〔睥睨〕（い）ながしめにみる、にらむ、みる、うかゞふ、みまはす。○〔宋〕「至二城下一ー一ー久レ之而去」。（ろ）城上のひめがき。○〔釋名〕「城上垣曰二ー一ー一」。
〔睤睨〕ながしめにみること。○〔漢〕「ー二ー一兩宮間一」。
〔眄睨〕前に同じ。○〔莊〕「不レ能二ー一ー一也」。
〔睥睨〕前に同じ。○〔全唐詩話〕「ー一ー不レ已」。
〔傲睨〕おごりにらむ。○〔杜甫〕「ー一ー俯二峭壁一」。
〔瞋睨〕氣をたてゝにらむ。○〔翁經〕「雞以ー一ー」。
〔眇睨〕こまかにみる。○〔陳造〕「ー一ー人閒世」。

【睪】エキ、ヤク。羊益切 [陌]
❶伺ひ視る、うかゞふ、みる。❷ひく（引）。❸たまふ（給）。❹うむ、うまる（生）。❺たのしむ（樂）。❻このむ（好）。

【睪】デフ、ヂフ。昵輒切 [緝]
前條の❶に同じ。

【睪】タク、ヂヤク。直格切 [陌]
澤に同じ。○〔荀〕「側載二ー芷一以養レ鼻」。

【睪】ト、ツ。都故切 [遇]
殬斁に同じ。

【睫】セフ。子葉切 [葉]
❶目旁の毛、まつげ。○〔禮〕「冢望視而交レー睫」。❷目動きて上下のまつげ相接す、つぶる、まじろく。○〔列〕「矢來注二眸子一而睚不レー」。
〔交睫〕まつげをあはするとにて眼をとづるをいふ。○〔史〕「陛下不レーレー不レ解レ衣」。
〔眉睫〕まゆげとまつげと。○〔韓〕「離朱易二百歩而難二ー一ー一」。
〔眶睫〕まぶたとまつげとのこと。○〔盧仝〕「恐是ー一ー一閒」。
〔稜睫〕まつげにとまる。○〔陳造〕「路人私語淚ーレー」。

【䁖】チウ、チユ。知丑切 [有]
ふかし（深）。○〔淮〕「深哉ー一ー」。

【睓】テン。丁念切 [豔]
目の垂るゝ貌にいふ字。

【㖷】カウ、ケウ。故巧切 [巧]
すれる（拗）。○〔靑箱雜記〕「應徵拗ー者幅强入也」。

【䁤】アフ、エフ。烏挿切 [洽]
こぶ（媚）。

九畫

【䁹】キョク、コキ。訖力切 [職]
目を張る、はる、みはる。

【睮】ユ。容朱切 [虞]
こぶ（媚）。○〔漢〕「ー一ー諂夫」。

【瞍】ソウ、ス。蘇后切 [有] 先侯切 [尤]
眸子のなきこと、めしひ、めくら、又、其の者。○〔國〕「ー一ー賦矇誦」。

【䁚】コン。呼昆切 [元]
もだゆ（悶）。

【䁣】ワツ、ワチ。烏括切 [曷]
❶深くして短き目の貌にいふ字、又、深くして黑き目の貌にいふ字。❷ふさぐ、ふさがる（塞）。

【䁷】ダツ、ヂ、女刮切 [黠] 女利切 [寘]
目の深き貌にいふ字、ふかし、くぼし。

【䁋】ケフ。盧涉切 テフ、デフ。徒協切 [葉]
一目を閉ぢて視る、すがめみる、又、視ること正しからず、ながしめにみる。

【䁴】バツ、マチ。莫八切 [黠]
みる（視）。

【督】タウ、トウ。丑降切 [絳]
直視す、みつむ。

【䀹】カ、ゲ。亥駕切 [禡]
閑暇に視る、ゆるゆるみる、一說に、緩く視る。

【䀿】カ、ゲ。何加切 [麻]
目の白き貌にいふ字。

【䁑】テン。他典切 [銑]
靦に同じ、はづ、はぢらふ。

【䁩】ウツ、ヲチ。王勿切 [物]
暫く見る、みる

【䁕】バウ、モウ。亡保切 [號]
目を低れて視る、目を俯して細かに視る、みる。○〔書〕「武王惟ー」。

【瞀】ボウ、ム。莫候切 [宥]
❶前條に同じ。❷目明かならず、くらし。

【䁐】ゼン、ネン。而緣切 [先]
目垂る、たる、さがる。

【煦】ク、コ。況于切 [虞]
ー瞜は、笑ふ貌にいふ語。

【䁻】セイ、シヤウ。息井切 [梗]
みる（視）、又、照らしみる。

【䁝】セイ、シヤウ。桑徑切 [徑] 蘇佞切 [徑]
目精照る、てる、かゞやく。

【睳】ケイ。呼携切 齊
㊀瘠せたる人の視る貌にいふ字。
㊁目瞀し、くらし、かすむ。
㊂健かにして德なし。

【瞁】カフ、ケフ。苦夾切 洽　カン、ケン。口陷切 陷　口減切 豏
目陷ろ、おちいる。

【䁍】カン、コン。枯含切 覃
みる、（視）。

【䁟】サフ、セフ。色洽切 洽
目睫（まつげ）の動く貌にいふ字。

【䁌】ク、コ。果羽切 麌
おどろく、（驚）、又、おどろき視る、みる。

【䁝】ケイ、キヤウ。古迥切 迥
㊀大なる目。㊁目の驚く貌にいふ字。㊂目の光。

【䁎】タウ、チヤウ。宅耕切 庚
㊀審らかに視る貌にいふ字。
㊁直視す、みつむ

【䁎】テイ、チヤウ。唐丁切 青
目眵、めやに。

【睴】コン。古鈍切 願　コン、ゴン。胡本切 阮
㊀大いなる目出づ、又、目急に出づ。
㊁視る貌にいふ字。

【䁏】エウ。伊鳥切 篠
遠く視る、かすか。○〔木華〕「朱-爋緑-烟—眇蟬-蜎」。

【睵】サイ。倉才切 灰
㊀みる、（視）。㊁そむく、（睽）。

【䁐】エイ、ヤウ。於驚切 庚
深き目、くぼみめ。

【䁐】エイ、ヤウ。於慶切 敬
みる、（視）。

【睶】シユン。尺尹切 軫
大いなる目。

【睷】ケン、コン。居言切 元
目をもて數ふ、かぞふ。○〔王守仁〕「—二異-景於穹-坳一」

【睸】ビ、ミ。密二切 寘
目合ふ。

【睹】ト、ツ。當古切 麌
古文の覩の字、みる。○〔漢〕「此子大-夫所二—聞一也」。

【睺】コウ、グ。戸鉤切 尤　胡遘切 宥
㊀半盲、かため。㊁深き目、くぼみめ。

【䁕】クワン、ケン。姑還切 删
みる、（視）。

【䁒】シフ。郎入切 緝
㊀目動く、まじろく。
㊁涙の出づる貌にいふ字。

【䁁】クワ、ケ。姑華切 麻
目。

【瞍】ソウ、ス。祖叢切 東
みる、（視）。

【瞍】ソウ、ス。作孔切 董　作弄切 送
伺ひ視る、竊み視る、うかゞふ。

【䁗】カイ、ケ。古拜切 卦
いかる、（怒）。

【䁔】ケン、コン。許元切 元　況遠切 阮
大いなる目。○〔韓愈〕「電-光磯-磹頳二目—一」。

【䁔】クワン、グワン。胡官切 寒
大いなる目の眥、まなじり。

【䁔】カン、ガン。下罕切 旱
睅に同じ。

【睻】暖に同じ。

【睼】テイ、他計切 霽　テイ、ダイ。田黎切 齊
迎へ視る、遠く視る、又、坐して視る。○〔張衡〕「親所レ—而弗レ識」。

【睼】テン。他甸切 霰
みる、（視）。

【睽】ケイ、ケ。苦圭切 齊
㊀反目す、にらみあふ。○〔六書故〕「反-目也因レ之爲二—乖一」。
㊁こさなり、（異）、そむく、（乖）、又、はづる、（外）。○〔宋〕「內自—疑」。
㊂目を張る貌にいふ字。○〔韓愈〕「萬-目—-—」。
㊃易の卦の名、☲☱離上兌下 ○〔易〕「—小事吉」。
〔極睽〕乖くときはまる。○〔周易畧例〕「—-—而合」。「合、其道通也」。
〔先睽〕はじめに乖く。○〔京房易傳〕「—-—後天-下—-—」。
〔孤睽〕助けなく放れ乖く。○〔揚雄〕「守失二其微一、
〔阻睽〕隔てそむく。○〔孫超〕「佳-期欲二—-—一」。
〔乖睽〕そむき放る。○〔呂大鈞〕「—-—有レ甚於間-獵一」。

【睽】キ。其季切 寘
前條の㊂に同じ。○〔王延壽〕「䠅-類-顇而—-睢」。

【睧】ビン、ミン。武巾切 眞
旼に同じ、みる、（視）、又、俯してみる。

【睾】カウ、コウ。古勞切 豪
㊀さは、（澤）。○〔列〕「望二其壙一—-如也」。
㊁廣大なる貌にいふ字、ひろし、おほいなり。○〔荀〕「—-—廣-々孰知二其德一」。
㊂ことごく、（盡）。○〔荀〕「—牢二天-下一而制レ之若レ制二子-孫一」。
㊃陰囊の中にある球狀をなせるもの、きんきんたま、睾丸。○〔靈樞經〕「腰-脊控レ—而痛」。

【䁑】ビ、ミ。民卑切 支
汚れたる面、あかつきがほ。

【睿】エイ、エ。以芮切 霽
物事に通じて深く明かなるにいふ字、ふかし、あきらか、又、さとし、（智）、ひじり、（聖）。○〔書〕「思曰レ—、—作レ聖」。

【䁚】眹、眤に同じ。

【頣】ヒ、ビ。薄意切 寘
まなじり(眥)。

【瞀】ボウ、ム。莫候切 宥
㊀くらし。
(い)目明かならず。○〔晉〕「眼—精絶故瞀-々也」。
(ろ)知無し。○〔荀〕「愚-陋-傋-—」。
㊁みだる(亂)。○〔北〕「是-非—-亂」。
㊂目を低れて謹みて視る、又、敢て正しく視ず。○〔荀〕「子-弟之容—-—-然」。
㊃髮を被むること。○〔淮〕「去ニ其—一而載ニ之木ニ」。
〔眩瞀〕目おぼろにして明かならぬ。○〔國〕「有ニ—-—之疾一者告」。
〔昏瞀〕くらきこと。○〔書、傳〕「天-下民—-—墊溺」。
〔昧瞀〕前に同じ。○〔權德輿〕「疎-愚—-—」。
〔交瞀〕こもごも亂る。○〔晉〕「枉-直—-—」。
〔悶瞀〕もだえ亂る。○〔屈平〕「中ニ—-—之忳-々ニ」。
〔瞭瞀〕目のおぼろなること。○〔韓愈〕「涙-目苦ニ—-—ニ」。
〔狂瞀〕心くるひ亂る。○〔梅堯臣〕「斯語豈—-—」。

【瞀】バク、モク。莫角切 覺 ブ、ム。亡遇切 遇
前條の㊀の(い)と㊂とに同じ。○〔素問〕「民病ニ肩-背—-重ニ」。

【瞀】バウ、モウ。莫到切 號
物を視るに眩み易きこと。○〔莊〕「予適有ニ—-病ニ」。

【瞀】ボク、モク。莫卜切 屋
雀—は、とりめ。○〔康熙〕「人有下至ニ夕-昏ニ不レ見レ物者上謂ニ之雀—-—ニ」。

【[目+剌]】ラツ、ラチ。盧達切 曷
目子正しからず。

【[目+狊]】ケキ、キヤク。呼役切 陌
驚き視る貌にいふ字。○〔周邦彥〕「心駭神悸—-瞲而不ニ敢進ニ」。

【[目+犮]】ハツ、ボチ。扶撥切 月
たて(盾)。○〔張衡〕「植レ鎩縣レ—」。

【睒】セン。式冉切 琰 セフ。式涉切 葉
目の貌にいふ字。

【[目+盾]】チツ、チチ。烏沒切 月
惡くみ視る、にらむ。

【[目+育]】ロク。盧谷切 屋 フ。芳無切 虞
深き目、くぼみめ。

【[大+䀠]】キヨク、ケキ。迄力切 職
邪に視る、ながしめにみる。

十畫

【瞇】ビ、ミ。毋婢切 支
すがめ(眇)。

【瞇】ベイ、マイ。彌計切 霽
ながしめにみる、にらむ(睥)。

【[般+目]】ハン、バン。蒲官切 寒 ハン、ヘン。普患切 諫
目を轉じて視る。

【[目+豈]】カイ、ケ。苦改切 賄
あきらか(明)。

【[目+䍃]】エウ。以紹切 篠
㊀美目、うつくしきめ。㊁瞜に同じ。
〔眇—〕視る貌にいふ語。○〔木華〕「—-—冶夷」。

【[目+䍃]】エウ。餘招切 蕭
前條の㊀に同じ。

【瞈】チウ、ウ。烏孔切 董
目明かならず、くらし。

【[目+晏]】エン。於殄切 銑 エン。伊甸切 霰 アン、エン。於諫切 諫 アツ、エチ。乙黠切 黠
㊀みる(視)。○〔揚雄〕「視也東-齊曰レ—」。
㊁目をもて戲れあふ、たはむる。○〔揚雄〕「以レ目相戲曰レ—」。

【[目+員]】ソン。鎖本切 阮
目の病、めやみ。

【[塞省+目]】ソク。悉則切 職
視て物の見ゆるなし、くらし。

【瞉】コウ、ク。苦候切 宥
心明かならざること、くらし、おろか。

【瞉】ケイ。古例切 霽
久しく視る、みつむ。

【[目+皆]】エツ、エチ。一決切 ケツ、ケチ。古穴切 屑
目の深くなりたる貌にいふ字、くぼし。

【[目+唐]】タウ。徒黨切 養
明かならず、くらし。

【瞋】シン。昌眞切 眞 シ。稱脂切 支
㊀目を張り起こす、はる、いからす。○〔史〕「項-王—レ目叱レ之、樓-煩目不ニ敢視ニ」。
㊁いかる(怒)。○〔魏〕「—-怒無レ度」。

【瞋】チン。癡鄰切 眞
盛んなる貌にいふ字。

【瞋】テン、デン。亭年切 先
目を低るゝ貌にいふ字。

【瞋】シン。之刃切 震
いかる(恚)。

【瞋】テン。他甸切 霰
睼に同じ。

【[目+貢]】コウ、ク。呼貢切 送
明かならず、くらし。

【瞌】カフ、コフ。克盍切 合
ねむる(睡)。○〔貫休〕「—-睡山-童欲レ成レ夢」。

【[目+眔]】クワン、ケン。古患切 諫
鰥に同じ。

【[䀠+丌]】ク、コ。九遇切 遇
目を擧げて驚き視る貌にいふ字、おそる。

【[䀠+介]】クワウ。苦礦切 漾
㊀前條に同じ。㊁よし、このまし(好)。

【[䀠+介]】ケイ、キヤウ。畎迥切 迥
目驚く、おどろく。

【睆】睆に同じ。　ダイ、ナイ。乃代切 [隊]

【䁗】視ること明かならず、くらし。　カツ、カチ。戸八切 [黠]

【䀷】直に視る貌にいふ字。　カク、キヤク。古核切 [陌]

【䁥】目正しからず。

上【睝】レイ、ライ。郎計切 [霽]　リ。力智切 [寘]　みる(視)、もとむ(求)、又、索めみる、さがす、又、伺ひみる、うかゞふ。○[郭璞]「—ニ霧-祲於清-旭ニ」。

【瞉】コウ、ク。居候切 [宥]　みる(視)。

【䁯】テキ、チヤク。他歴切 [錫]　チウ、チユ。丑鳩切 [尤]　失意して視る、みる。○[左思]「—-爲失レ所」。

【䁶】バ、メ。莫駕切 [禡]　みる(視)。

【䁬】トウ、ドウ。徒登切 [蒸]　美しき目の貌にいふ字、うるはし。

【䁛】キ。倶位切 [寘]　大いに視る、みる。

【瞍】ソウ、ス。蘇后切 [有]　先侯切 [尤]　セウ。先彫切 [蕭]　㊀目に眸子なきを、めしひ、めくら、又、其の者。○[詩]「矇-—奏レ公」。㊁長老の稱。○[書]「祇レ載見ニ瞽-—ニ」。

【䁕】タフ、トフ。得合切 [合]　大いなる目の垂るゝ貌にいふ字。

【瞫】眕に同じ。

【覘】チン。丑林切 [侵]　私かに頭を出だして視る、みる、うかがふ。

【䁨】看に同じ。

【瞎】カツ、ケチ。許鎋切 [黠]　㊀一目盲するを、めつかち、かため、又、其の者。○[十六國春秋]「吾聞—兒一-淚信乎」。㊁盲目、めくら、又、其の者。○[孟郊]「西-明-寺後窮—張-太-祝」。

【䁇】ケイ、ガイ。牽奚切 [齊]　ケイ、ガイ。戸禮切 [薺]　目動く、まどろく。

【𥈽】イク、オク。余六切 [屋]　㊀のぞむ(望)。㊁目の明かなる貌にいふ字。

【𥈽】カク、ガク。下各切 [藥]　㊀前條に同じ。㊁明を失ふ、くらむ。

【𥈽】カク。黒各切 [藥]　曤に同じ。

【䁱】ケウ。古了切 [篠]　ゲツ、ゲチ。魚列切 [屑]　あきらか(明)。

【瞏】ケイ、ギヤウ。渠營切 [庚]　㊀驚きて直視す、みつむ、おどろく。○[素問]「目—絶レ系」。㊁依る所なし。○[詩]「獨-行—-—」。㊂うれふ(憂)。○[詩]「—-—在レ疚」。

【睘】セン、ゼン。旬宣切 [先]　旋に同じ。

【䁙】ベツ、メチ。莫結切 [屑]　ビ、ミ。武移切 [支]　汚るゝ面。

【䁜】クワウ、ワウ。戸廣切 [養]　目の大いなる貌にいふ字。

【𥈯】クワウ、ワウ。呼晃切 [陽]　目疾む、めやみ。

【䁰】テイ、ダイ。杜奚切 [齊]　テイ、ダイ。大計切 [霽]　㊀みる(視)。㊁困み視る貌にいふ字。㊂あらはる、あらはす(顯)。

【睹】古文の視の字。

【瞐】バク、モク。莫角切 [覺]　㊀美目、うるはしきめ。㊁深目、くぼみめ。

【䁝】カウ、キヤウ。古幸切 [梗]　瞌の字を見よ。

【䀼】ボウ、ム。莫紅切 [東]　矇に同じ。

【瞜】ボウ、ム。蒙弄切 [送]　みる(視)。

【䁆】イ。於避切 [未]　目小しく怒る貌にいふ字、いかる。

【𥋙】眊に同じ。

【瞑】ベイ、ミヤウ。莫經切 [青]　毋迥切 [迥]　莫定切 [徑]　㊀目を翕はす、あはす。○[皇極經世]「在レ水者不レ—」。㊁くらし。(い)目明かならず。○[晉]「臣耳-目聾-—不レ能ニ自勵一」。(ろ)視て審かならず。○[淮]「其視—-—」。㊂めのくらきを、めのくらき者、めくら。○[呂氏春秋]「—者目無レ由レ接」。

【瞑】ベン、メン。莫賢切 [先]　㊀眠に通じ用ふ、いぬ、ねむる。○[莊]「據ニ高-梧一而—」。㊁一種の菜。○[本草綱目]「—-菜一名ニ睡-菜一南-海人食レ之思レ睡」。〔肝眠〕汝密の貌にいふ語、ふかし、又、色の深き貌にも遥かにして闇き貌にもいふ語。○[張衡]「靑-瞑—-—」。

【瞑】ベン、メン。莫甸切 [霰]　藥などの劇しくまはりて心憒れ目亂るゝにいふ字、めくるめく、めまひ。○[書]「藥不ニ—-眩一」。

【䁸】バウ、ミヤウ。莫耕切 [庚]　矃に同じ。

【䁝】ケイ、キヤウ。懸扃切 [青]　エイ、ヤウ。維傾切 [庚]

まどふ、まどひ（惑）。

【瞥】アウ、ヤウ。於塋切 [庚]
目の淨き貌にいふ字。

【瞥】ワウ。烏猛切 [梗]
㊀まどふ、まどひ（惑）。
㊁きよし（清-潔）。

【瞑】睡の本字。

【瞜】瞜に同じ。

【瞋】シン、ジン。時斤切 [文]
眠―は、ねむげなる目つき。○〔青箱雜記〕「眡-瞇眠―淫-亂也」。

【瞪】トウ、ツ。當侯切 [尤]
㊀――瞘は、目の深きこと。
㊁脰に同じ、めやに。

【瞭】レン、ロン。勒廉切 [鹽]
――眡は、目じりの垂れたること、たれめ、めさがり。○〔春箱雜記〕「眡――眠-瞜淫-亂也」。

【瞐】ボウ、モウ。莫登切 [蒸]
目の明かならざるにいふ字、くらし。

【瞰】ハン、バン。㭭桓切 [寒]
めぐる。

十一畫

【瞮】セン、ゼン。似宣切 [先]
嫙に同じ、好き貌にいふ字、うつくし。○〔靈樞經〕「陰-陽和-平之人、其狀――」

―-然」。

【瞔】サク、シヤク。側革切 [陌]
目を張る、みはる。

【瞕】シヤウ。之亮切 [漾]
目に障（さはり）ありて明かに見えず、かすむ。

【瞛】ビツ、ミチ。莫筆切 [質]
測るべからざるにいふ字、ふかし。

【瞜】バ、メ。謨加切 [麻]
緩く視る貌にいふ字、ながむ。

【瞤】セン、ゼン。食川切 [先]
目動く、まじろく。

【瞘】ロク。盧谷切 [屋]
瞜―は、眼淨し、又、目の明かなること。

【瞡】セキ、シヤク。倉歷切 [錫]
みる（見）。

【瞜】カウ、キヤウ。客庚切 [庚]
――矎は、視るに分明ならざること、おぼろ。○〔王延壽〕「屹――矎以勿-罔」。

【瞟】瞟に同じ。

【瞠】テツ、テチ。丁結切 [屑]
䀔の字を見よ。

【際】セイ、七計切 サイ。切 テイ。丑例切 [霽]
サツ、初八切 サチ。切 [黠]
視察す、みる、又、なゝめに視る。○〔顏延之〕「聆レ龍――二九-泉一」。

【瞗】ケウ。堅堯切 [蕭]
みる（視）。

【瞖】エイ、アイ。壹計切 [霽]
一種の眼病、目に翳を生ずるもの、かすみ、又、其の病ひにかゝる、かすむ。○〔宋〕「后生而――二一-目一」。

【瞭】カウ。苦岡切 [陽]
映――、瞊――、瞜――は、みな目の貌にいふ語。

【瞞】タク、チヤク。丑尼切 [陌]
㊀光澤ある眼、つやあるめ。
㊁目の明かなる貌にいふ字。
㊂目豎つ、めじりあがる。

【瞞】キ。火癸切 [紙]
恚視す、にらむ。

【瞎】ヂツ、ニチ。尼質切 [質]
小さき目。

【瞗】テウ。丁聊切 [蕭]
熟視す、よくみる。

【瞗】トウ、ツ。當侯切 [尤]
鳥の名、人面鳥喙にして、翼あれども飛ぶを能はずとぞ。

【瞜】カウ、ケウ。口交切 [肴]
胥――は、面の平かならざること。

【瞡】ベキ、ミヤク。莫狄切 [錫]
邪視す、よこめにみる。○〔王延壽〕「眙晲-瞍以――睗」。

【瞘】オウ、烏侯切 コウ、墟侯切 ウ。切 ク。切 [尤]
深き目の貌にいふ字、くぼし。

【瞘】キヨ、コ。丘擧切 [語]
目往く、めうごく。

【瞙】バク、マク。末各切 [藥]
目の明かに見えざるにいふ字、かすむ。

【矑】覰に同じ。

【瞚】シユン、ジユン。舒閏切 [震]
瞬に同じ、またゝく、またゝき。○〔莊〕「終-日視而目不レ―」。

【瞛】シヨウ、シユ。七恭切 [冬]
目光る、ひかる。○〔張協〕「怒-目靁―」。

【瞙】ベウ、メウ。無昭切 [蕭]
目を張り開きて見る、みはる。

【瞜】サン、セン。師咸切 [咸]
暫らく見る、志ばし見る。

【瞜】サン、ソン。桑感切 [感]
みる（視）。

【瞜】瞜に同じ。

【瞜】ロウ、落候切 ル。切 郎侯切 [宥] [尤]
㊀みる（視）。
㊁―瞜は、偏盲、めツかち、一説に、細かに見る、屢視る、みる。

【瞜】ル。力朱切 [虞]
㊀眗—は、笑ふ。
㊁瞴—は、微視す、すこしくみる。

【瞝】チ。抽知切 [支]
歴視す、へつゝみる、みる。○[賈誼]「—二九州一而相レ君兮、何必懷二此都一也」。

【䁨】クワク。忽郭切 [藥]
驚き視る、みる。○[揚雄]「龍唯——兮罧布列」。

【瞞】バン、マン。謨官切 [寒]
㊀目皆（めじり）の平かなると、目瞼（まぶた）の低れたると、なみめ、平目。
㊁目明かならず、くらし、又、目を閉づる貌にいふ字。○[荀]「酒・食聲・色之中則——然」。
㊂事情を隱して欺く、だます、すかす、くらます。○[汲冢周書]「淺・薄閒—其謀乃獲」。
（阿瞞）三國の魏の太祖の小字。
（鄤瞞）長狄の國の名。

【瞞】ボン、モン。謨奔切 [元]

【瞞】バン、メン。母版切 [潸]
慚づる貌にいふ字、はづ。○[莊]「子貢—然慙」。

【𥇂】ボン、モン。母本切 [阮]
くらし、（暗）。

【瞟】ヘウ。匹沼切 [篠]
㊀みる（瞭）。㊁一目病む、やむ。㊂目の小さき貌にいふ字。

【瞟】ヘウ。匹妙切 [嘯]
もさめみる、（矖）。

【瞟】ベウ。撫招切 [蕭]
㊀明かに察す、みる。
㊁視るに明かならざる貌にいふ字。○[王延壽]「忽—眇以響・像」。

【瞠】タウ、チヤウ。抽庚切 [庚] 恥孟切 [敬]　タウ、ヂヤウ。徒杏切 [梗]　タウ。他郎切 [陽]
目を張りて直視す、みつむ、みはる。○[莊]「夫・子奔・軼絶・塵而回、—二若乎後一」。
（瞠々）眼をみはると。○[陸龜蒙]「心惝々目——」。

【瞠】タウ、ヂヤウ。除更切 [敬]
瞪に同じ。

【睍】キ。居爲切 [支]
自得の貌にいふ字、一説に、眇め視る、すがむ、又一説に、小しく視る、ぬすみみる。○[荀]「學・者之嵬——然」。

【瞡】キ。規恚切 [寘]
㊀窺に同じ、みる。㊁いからす（瞋）。
㊂眇め視る貌にいふ字。

【瞢】ボウ、ム。木空切 [東]
㊀くらし。
（い）目明かならず。○[文中子]「誰謂三齊文宣—而善揚二遵・彦一也」。
（ろ）分明ならず。○[揚雄]「莫レ不二——一」。
（は）光明なし。○[楚辭]「冥・昭——闇」。
㊁目しば〳〵動く、目くらくなる、めくるめく、くらむ。○[楞嚴經]「大・衆瞪——」。
㊂はづ、（愧）、一説に、もだゆ、（悶）。○[左]「不レ與二於會一亦無レ—焉」。
（醜瞢）はぢてめくらむ。○[魏都賦]「有二——容一」。
（闇瞢）くらし。○[吳澄集]「日・月蝕則光——」。
（昏瞢）前に同じ。○[劉基]「使二我一・見開一—」。

【瞢】ボウ、モウ。武登切 [蒸]　忙背切 [迴]　母亙切 [徑]
前條の㊀㊁に同じ、くらし、くらむ。○[王粲]「瞪——忘レ食」。
（瞢々）くらき貌にいふ語。○[韓愈]「——莫二瞢・省一」。
（愚瞢）おろかにしてあきらかならず。○[鮑照]「質非二——所一宜二循・踐一」。
（聾瞢）耳のきこえざると目のあきらかならざるのと。○[昝丞]「耳・目異二——一」。

【瞢】ベツ、メチ。莫結切 [屑]
前々條の㊀の（い）と㊁とに同じ。

【瞢】バウ、ミヤウ。眉庚切 [庚]
盲に同じ。○[山海經]「可二以已一レ—」。

【瞢】ボウ、ム。莫鳳切 [送]
夢に同じ、雲—は、澤の名。○[周]「荊州其澤曰二雲——一」。

【䁻】ギヨ、ゴ。魚居切 [魚]
兩目白くして魚の目に似たる馬、今の環眼馬、さめうま、めおろうま、馬の最下等。○[爾]「馬二目白—」。

【瞯】カン、ケン。古晏切 [諫]
みる、（視）。

【𥊍】リ。力其切 [支]
㊀ふたへまぶち、（目吅）。
㊁瞭に同じ、みる。

【瞌】カフ、コフ。渇合切 [合]
睡らんさする貌にいふ字。

十二畫

【瞤】ジユン、ニユン。如匀切 [眞]
㊀まじろく、（瞬）。㊁ひく、（掣）。

【䁐】ギ。五委切 [紙]
目の好き貌にいふ字。

【䁎】クワン、ケン。古患切 [諫]
直視する貌にいふ字、みはる。

【䁒】シフ。側立切 [緝]
㊀目涙を出だす、なみだたる。
㊁目の動く貌にいふ字、またゝく、まじろく。○[王延壽]「睩——睢以映・睦」。

【瞥】ヘツ、ヘチ。匹蔑切 [屑]
目を過ぐ、財かに見る、ちらりさみゆ、ちらりさみる。○[張衡]「遊二塵・外一而—レ天」。
（斜瞥）よこにちらりとみると。○[張炎]「僻二銀・屏一——」。

【䁔】コツ、ゴチ。胡骨切 [月]
あか、（濁・垢）。

【瞟】ボウ。ム。蒙弄切 [送]
目明かならず、くらし。

【瞲】ソン。祖寸切 [願]
赤き目。

【瞺】ソウ、ゾウ。徂棱切 [蒸]
目明かならず。

【矐】カク、キヤク。呼麥切 [陌]
目病む、めのやまひ。

【瞡】ケツ、ゲチ。胡結切 [屑]
瞡──は、目の赤き貌にいふ語。

【瞟】ヘウ。卑遙切 [蕭]
㊀惡しく視る貌にいふ字。
㊁のぞむ、（望）。

【瞦】キ。虛其切 [支]
目童子（ひとみ）の精あるにいふ字、ひかる。

【瞧】セウ、ゼウ。慈消切 [蕭]
偸み視る、ひそかにみる。○〔稽康〕「覩二文-籍一則目─」。

【瞨】ハク、ホク。匹角切 [覺]
目暗し、くらし。

【瞠】タウ、チヤウ。中庚切 [庚]
直視す、みはる。

【瞱】ヨウ。以證切 [徑]
㊀美しき目。㊁大いに見る。

【瞪】トウ、ドウ。大登切 [蒸]
㊀前條に同じ。
㊁ひさつ、かたく、（片-方）。○〔揚雄〕「隻也南-楚江-淮之閒或謂レ─」。

【瞸】瞠に同じ。

【瞻】セン、ゼン。昨鹽切 [鹽]
目を閉ぢて內に思ふ、かんがふ。

【瞹】セン。漸念切 [豔]
㊀前條に同じ。
㊁うれふ、（憂）。○〔揚雄〕「宋、衞謂レ憂或曰レ─」。

【瞺】キフ、コフ。許及切 [葉]
視る貌にいふ字。

【瞸】ケフ。虛涉切 [葉]
睞に同じ、すがめ視る。

【矚】俗の矚の字。

【瞪】タウ、ヂヤウ。直庚切 [庚] 大證切 [徑]
目を張りて直視す、みつむ、みはる。○〔晉〕「─眸不レ轉」。

【瞫】シン。式荏切 [寢]
深く視る、又、下し視る、又、ひそかに見る、又、平かに視る。

【瞫】シン、ソン。式禁切 [沁]
目を低れて視る。

【瞫】タン、ドン。徒南切 [覃] 徒紺切 [勘]
みる、（視）。

【矙】サイ、セ。先外切 [泰]
ながしめにみる、流盻す。

【瞔】カウ、コウ。虎項切 [講]
邪めに視る、よこめをつかふ。

【瞬】シユン、ジユン。舒閏切 [震]
目自から動く、またゝく、まじろく。○〔列〕「先學レ不レ─而後可レ謂レ射」

〔一瞬〕ひとまたゝきのまにて極めてわづかなるあひだのこと。○〔呂氏春秋〕「萬-世猶二一─一」。
〔倏瞬〕わづかなるときのま。○〔謝莊〕「尋二瓊-宮于一─一」。
〔轉瞬〕またゝきすること、又、其のあひだ。○〔沈約〕「無-未二一─一、有己躡レ之」。
〔妙瞬〕うつくしきまたゝきのこと。○〔段成式〕「一─乍疑レ生」。

【瞸】タイ。他蓋切 [泰]
曖──は、明かならざること。

【曉】アウ、エウ。於絞切 [巧] 於教切 [效]
オウ、コウ。烏侯切 墟侯切
窅に同じ、深き目の貌にいふ字。

【瞭】レウ。朗鳥切 [篠] 憐蕭切 [蕭]
㊀目睛の明かなること、あきらか。○〔孟〕「胸-中正則眸-子─焉」。
㊁はしたか、（鷂）。○〔禽經〕「─曰レ鷂」。
㊂はるか、（杳）。○〔楚辭〕「─冥-々而薄レ天」。

〔明瞭〕あきらかなること。○〔郭熙〕「高-遠者─一」。
〔眼瞭〕眼のあきらかなること。○〔蘇軾〕「佛-眼自─一」。

【瞲】ゼン、ネン。而兗切 [銑]

──瞲は、形狀の乖戾すること、もとる。○〔王延壽〕「睨──瞲而瞅-㠭」。

【瞮】テツ、テチ。敕列切 [屑]
あきらか、（明）。

【瞸】トク。惕得切 [職]
──瞀は、目の眠らんとするにいふ語。

【瞯】カン、ゲン。何閒切 [刪]
㊀邪視す、なゝめにみる、よこめをつかふ。○〔揚雄〕「眄也吳揚江-淮之閒或曰レ─」。
㊁人の目の白き部分の多きにいふ字。
㊂驏に同じ、片目の白き馬。○〔爾疏〕「馬一-目白者名レ─」。
㊃小兒の病、きやうふう。○〔漢書音義〕「─小-兒癎-病」。

【瞷】カン、ケン。居諫切 [諫]
覸に同じ、うかゞふ、みる。○〔孟〕「王使二人─二夫-子一」。

【瞯】俗の瞷の字。

【瞰】カン、コン。苦濫切 [勘]
㊀みる、（視）。○〔揚雄〕「東─目盡」。
㊁俯して視る、みおろす。○〔張衡〕「─二瑤-谿之赤-岸一」。

〔下瞰〕したをふしてみる。○〔劇談錄〕「可三以─二城中一」。
〔窺瞰〕うかゞひみる。○〔黃庭堅〕「魚-蝦避二─一」。
〔延瞰〕ひろくながむ。○〔范浚〕「塵-襟得二─一」。
〔遐瞰〕遠方のながめ。○〔余闕〕「─一盡二三-秦一」。

【瞱】エフ。域輒切 [葉]
目の動く貌にいふ字、一說に、怒り視る。

【瞲】キツ、キチ。況必切 [質]
目の深き貌にいふ字。

【瞲】ケツ、ケチ。呼決切 [屑]
驚き視る貌にいふ字。○〔荀〕「――然視レ之」。

【瞳】トウ、ヅ。徒東切 [東]
㊀日中の珠子、ひとみ。○〔史〕「舜目蓋重――子、項羽亦重――子」。
㊁無心にして直視する貌にいふ字、又、未だ知あらざる貌にいふ字。○〔莊〕「女――焉如二新生之犢一」。
〔雙瞳〕目のひとみのふたへあること。○〔李白〕「紫電明二――一」。
〔方瞳〕ひとみの方形なること。○〔拾遺記〕「有二父老五人一、――提二青藜杖一」。
〔綠瞳〕目のひとみのあをきこと。○〔唐〕「其人長大赤髮――、踐苗者也」。
〔紺瞳〕あを黑き目のひとみ。○〔神仙傳〕「――綠髮」。
〔明瞳〕あきらかなるひとみ。○〔元稹〕「波瀲雨「――」。
〔藻瞳〕黑き目のひとみ。○〔蘇軾〕「――已照人天上」。
〔昏瞳〕明かならざるひとみ。○〔梅堯臣〕「細書刺二――一」。
〔凝瞳〕見つめたるひとみ。○〔吳萊〕「――冷將レ字」。

【瞳】タウ、トウ。丑降切 [絳]
前條の㊁に同じ。

【䁹】バイ、メ。莫佳切 [佳]
㊀視る貌にいふ字。㊁小しく視る。

【瞴】ボウ、ム。迷浮切 [尤] ブ、ム。武夫切 [虞]
――婁は、微しく視る。

【瞴】ブ、ム。文甫切 [麌]
㊀よし、(好)。㊁微しく視る貌にいふ字。

【瞴】ビ、ミ。忙皮切 [支]
美はしき目の貌にいふ字。

【瞪】タウ、ヂヤウ。除更切 [敬]
定め見る、みさむ。

【瞵】リン。離珍切 [眞]
㊀目の精、ひかり。㊁文ある貌にいふ字。㊂視るに了(さと)からず、くらし。㊃みる、(視)。○〔潘岳〕「――悍目以旁睞」。㊄下し視る貌にいふ字。

【瞵】リン。里忍切 [軫] 良刃切 [震]
視るに明かならざる貌にいふ字。

【瞵】レン。靈年切 [先]
目を怒らす貌にいふ字、一說に、目を以て隨ふ。

【瞶】キ。歸謂切 [未] イ。以醉切 [寘]
㊀極め見る、みつくす。㊁目に精無し、くらし。

【罤】コン。公渾切 [元]
このかみ、あに、(兄)。
省いて罤に作る、今通じて昆に作る。

【䁳】バウ、マウ。母朗切 [養]
㊀一目のなきこと、かため、又、其の者。㊁目ひかりなきこと、目明かならず、くらし。

【矏】ベン、メン。明連切 [先]
遠く見る。

【黽】シツ、シチ。雖一切 [質]
罪止む。

十三畫

【瞸】エフ。弋涉切 ケフ。虛涉切 [葉]
㊀まぶち、(瞼)。㊁すがめして視る。

【瞹】アイ。於蓋切 [泰]
かくる、(隱)。

【䁕】ガフ、ゴフ。玉盍切 [合]
睡る貌にいふ字。

【瞥】ベツ、メチ。莫結切 [屑]
㊀めやに、(眵)。㊁目の赤きこと、あかきめ。㊂蔑に同じ。

【瞺】ワイ、エ。烏外切 [泰]
眉と目との閒、まゆのはざま。

【䁴】セン。旨善切 [銑]
㊀視て止む。㊁視て面色の變はるにいふ字。

【瞍】シウ、シユ。菑尤切 [尤]
まゆをひそむ、(顰)。

【𥌒】ヘン。邦免切 [銑]
初生の小兒の目に翳有ること、かすみ。

【瞏】クワン、ゲン。胡關切 [刪]
大いなる目の貌にいふ字。○〔王延壽〕「――暝歷而窣離」。

【䁯】ケキ、キヤク。吉歷切 [錫]
目のまたゝきせざるにいふ字。

【䁯】ケウ。吉了切 [篠]
あきらか、(明)、一說に、淸く別かるゝ貌にいふ字。

【䁰】バウ、ミヤウ。母梗切 [梗] 武庚切 [庚]
㊀――盯は、直視す、みはる。㊁視る。

【䁺】カク、コク。訖岳切 [覺]
目の明かなるにいふ字、あきらか。

【䁺】ヨク。烏酷切 [沃]
目を怒らす、いからす、にらむ。

【𥌊】ダウ、ノウ。濃江切 [江]
目の明かならざる貌にいふ字。

【𥌊】ドウ、ヌ。奴冬切 [冬]
目を怒らす、いからす、にらむ。

【𥌛】
睥に同じ、

【𥋒】
䁥に同じ。

【䁥】セキ、シヤク。施隻切 [陌]
視る貌にいふ字。

【矅】エキ、ヤク。夷益切 [陌]
本睪に作る。
目の明かなる貌にいふ字、あきらか。○〔繆襲尤射〕「上下―爰易レ盤」。

【瞻】セン。之廉切 [鹽] セン。章豔切 [豔]
臨み視る、仰ぎ視る、みる。○〔詩〕「――」

彼日-月ニ。

〔顧瞻〕ふりかへりみる。○〔詩〕「ーニー周-道ニ」。

〔具瞻〕ともに仰ぎ視る。○〔魏〕「民所ニーーニ」。

〔觀瞻〕みる。○〔宋〕「從-衞ーー」。

〔視瞻〕みる。○〔禮〕「ーー毋レ回」。

〔互瞻〕たがひにみる。○〔晉〕「邪-黨ーー」。

〔仰瞻〕あふぎみる。○〔蘇武〕「ーーニ天-漢濱ニ」。

〔眺瞻〕ながめみること。○〔梁昭明太子〕「ーー情未レ終」。

〔斜瞻〕なゝめにみる。○〔劉峻〕「ーー白-鶴館」。

〔欣瞻〕こゝろうれしくみる。○〔江總〕「ーーニ瑞-應ニ」。

〔翹瞻〕つまたて仰ぎみる。○〔徐陵〕「率-土ーー」。

【瞼】ケン。居奄切　琰

㊀眼の上を被ふ皮、まぶた。○〔北〕「ー垂覆レ目不レ得レ視」。

㊁州。○〔唐〕「有ニ十ーーニ」。

【瞽】コ、ク。公戶切　麌

㊀めくら、めしひ。

(い)上下の目皮平合したるを、目のつぶれてあかざるを、又、其の者。○〔莊〕「ー者無ニ以與ニ乎文-章之觀ニ」。

(ろ)善惡を見わくる能はざるを、又、其の者。○〔書、傳〕「舜父有レ不レ能ニ分-別好-惡ー故時-人謂ニ之ーーニ」。

㊁樂工、樂官、がくにん。○〔書〕「ー奏レ鼓」。

〔狂瞽〕たゞしからざくらし。○〔南〕「盡ニーー之說ニ」。

〔神瞽〕すぐれたるめしひ。○〔詩序、疏〕「故ーー有ニ以知ニ其趣ニ」。

〔愚瞽〕おろかなるもの。○〔隋〕「野-人ーー」。

〔盲瞽〕目のみえざる者。○〔論衡〕「知レ今不レ知レ古、謂ニ之ーーニ」。

〔瞭瞽〕前に同じ。○〔嵇康〕「ーー面レ墻而不レ悟」。

【瞿】ク、コ。九遇切　遇

㊀驚き視る貌にいふ字。○〔禽經〕「雀以レ猜ーー視」。

㊁いそがはしく視まはす貌にいふ字。○〔禮〕「ーーー如レ有レ求而弗レ得」。

㊂目を張りて視つむる貌にいふ字。○〔荀〕「學-者之鬼ーー然」。

㊃驚く貌にいふ字。○〔禮〕「曾-子聞レ之ーー然」。

㊄驚きあわてゝ審かならざる貌にいふ字。○〔禮〕「視容ーー」。

㊅志の守る所なき貌にいふ字。○〔詩〕「狂-夫ーー」。

㊆つゞまやか、(儉)。○〔詩〕「良-士ーー」。

㊇懼に通じ用ふ、おそる。○〔禮〕「ーー然先レ席」。

【瞿】ク、コ。其俱切　虞

㊀前條に同じ。

㊁一種の鳥。○〔山海經〕「禱-過-山鳥名レー」。

㊂ー-父は、山の名、ー塘は、灘の名。

㊃人の姓、人の名。

㊄戳に同じ、ほこ。○〔書〕「一-人冕執レー」。

㊅衢に通じ用ふ、まち。○〔韓詩外傳〕「ー日ニ不-苗ニ」。

〔戣瞿〕ほこの種類。○〔孔穎達、疏〕「ーー蓋今三鋒矛」。

〔強瞿〕ゆりの異名。○〔名醫別錄〕「百-合一-名ーー」。

〔騤瞿〕走る貌にいふ語。○〔西京賦〕「ーー奔-馳」。

【䁑】タウ、ダウ。徒郎切　陽

みる、(視)。

【𥉂】キウ、ク。許尤切　尤

目に汁多きにいふ字。

【䁓】カ、ケ。居迓切　禡

みる、(視)。

【瞰】ビ、ミ。武悲切　支　無非切　微

うかゞひみる、(伺-視)。

【䁥】ケキ、キャク。古役切　陌

みる、(見)。

【𥈽】シヤウ。殊羊切　陽

みる、(見)。

十四畫

【𥌁】カク、キャク。呼格切　陌

目赤し、又、あかきめ。

【䁟】サツ、サチ。初戛切　黠

視る貌にいふ字。

【𥊯】キフ、コフ。乞及切　緝

目睛(めだま)の中枯る。

【矏】ベン、メン。民堅切　先

みる、(視)。

【𥌒】ベイ、ミヤウ。忙經切　青

ひそか、(密)。

【𥋌】コツ、クチ。苦骨切　月

目の突き出づる貌にいふ字。

【𥊞】エフ。益涉切　葉

目の動く貌にいふ字。

【矃】チウ、チユ。張流切　尤

ー眼は、目の動く貌にいふ語。

【矃】デイ、ニヤウ。乃頂切　迥

みる、(視)。○〔吳萊〕「守ニ町ーー讀ニ眞-瞶ニ」。

【䁪】カン、ケン。居銜切　咸

みる、(視)。

【矄】クン、コン。許云切　文

目暗し、くらし。

【矅】睔に同じ。

【矆】クワク。怳縛切　藥

㊀大いに視る、みる。

㊁いなびかり、(電-光)。○〔木華〕「靁-昱絶電-百色妖-露呵-嗽掩-鬱ーー睒無レ度」。

【䂄】ワク。屋虢切　陌

視るにあわつる貌にいふ字。

【矇】ボウ、モウ。莫紅切　東

㊀めくら、めしひ。

(い)ひとみあれども視力なきを、又、其の者。○〔詩〕「ー-瞍奏レ公」。

(ろ)物事を分別する能力なきを、又其の者。○〔論衡〕「人未ニ學-問ー曰レー」。

㊁明かならず、くらし。○〔班固〕「心ーー猶未レ察」。

〔瞽矇〕目のみえざる者。○〔周〕「樂-師有ニーーニ」。

〔瞍矇〕前に同じ。○〔國〕「ー賦ー誦」。

〔愚矇〕おろかなること。○〔馬汝驥〕「直-道若ニーーニ」。

【矇】ボウ、モウ。母總切　董

目明かならず、くらし。

【䁵】ヘン、ベン。蒲莧切　霰

小兒の白眼、しろめつかふこと。

【⿰目辡】ヘン。普莧切 [諫] ㊀前條に同じ。㊁視る貌にいふ字。

【瞜】俗の瞢の字。

【矈】ベン、メン。民堅切 [先] 彌殄切 [銑] ㊀目の旁薄く緻かなること。㊁ひそか(密)。

【矉】ヒン、ビン。毗賓切 [眞] 顰に通じ用ふ、しかむ。○[莊]「西-施病レ心而—二其里一」。

【矊】ベン、メン。彌延切 [先] 彌殄切 [銑] ㊀瞳の黒子、くろまなこ、ひとみ。○[揚雄]「南-楚江-淮之閒、䁅-瞳之子謂二之—一」。㊁まさふ(脉)。○[楚辭]「靡-顏膩-理遺「視—些」。㊂視る貌にいふ字。○[郭璞]「江-妃含レ嚬而—眇」。

【瞵】瞵の本字。

【⿰目夔】ケイ、ケ。翾畦切 [齊] 瞌—は、面に垢(あか)あること。

【⿰目需】瞤に同じ。

【瞑】ベイ、ミヤウ。彌幷切 [敬] 眉の閒のひろきにいふ字、ひろし。

【⿰目留】リウ、ル。良秀切 [宥] ㊀溫故復習すること、さらふこと。㊁意を定む。

十五畫

【⿰目樂】シヤク、サク。式灼切 [藥] 美しき目。

【⿰目樂】レキ、リヤク。狼狄切 [錫] 暫らく視る、みる、ちらりとみる。

【⿰目墨】ボク、モク。密北切 [職] 瞢の字を見よ。

【矌】クワウ、ワウ。苦謗切 [漾] ひとみ無きこと、めしひ。

【矌】クワク、ワク。光鑊切 [藥] 目を張る貌にいふ字、又、視る貌にいふ字。○[江淹]「矖—盡二都-甸一」。

【⿰目巤】レフ。良涉切 [葉] 目暗し、くらし。

【⿰目賣】バイ、メ。莫懈切 [卦] なゝめに見る、ながしめにみる。

【⿰目賣】ガイ、ゲ。牛懈切 [卦] 睚に同じ。

【⿰目賣】シユ、ジユ。殊遇切 [遇] 視る貌にいふ字。

【⿰目黎】レイ、ライ。憐題切 [齊] 郎計切 [霽] みる(視)。

【矍】クワク、カク。厥縛切 キヤク、カク。怳縛切 [藥] 左右に驚き顧る、おどろきみる、おどろく、一說に、あわてて視る貌にいふ字。○[易]「視——」。(驚懼)おどろき視る。○[蘇軾]「睢-眼忽——」。

【矎】ケン。火懸切 [先] ケイ、キヤウ。呼正切 [敬] 直視す、みはる、みつむ。○[張志和]「唯-吁—-眓察二乎瞳一」。

【矎】ケン。翾縣切 [霰] 目ざしの正しからざるにいふ字。○[王延壽]「目——而喪レ精」。

【⿰目蔑】ベツ、メチ。彌列切 [屑] ㊀目眥の傷つき赤くなりたるを、ただれめ。○[呂氏春秋]「氣鬱處目則爲レ—爲レ盲」。㊁目明かならず、くらし。

【⿰目樊】ハン、ベン。扶艱切 [刪] 美しき目の貌にいふ字。

【⿱疑目】ギ。五其切 [支] みる(視)。

十六畫

【⿰目縣】ケン、ゲン。戶犬切 [銑] ケン、ゲン。胡涓切 [先] くろきひとみ(盧-童子)。

【⿰目歷】レキ、リヤク。狼狄切 [錫] —矓は、眼淨きこと、日明かなること。

【矒】バウ、ミヤウ。莫耕切 [庚] 瞢の字を見よ。

【矐】カク。黑各切 [藥] ㊀重目、ふたかはめ。㊁光明、ひかり、あきらか。㊂明を失ふ、めをつぶす。○[史]「秦始-皇惜二高-漸-離善擊一レ筑重赦レ之乃—二其目一」。

【矆】クワク、ワク。忽郭切 [藥] ㊀目を開く、めをあく。㊁おどろき視る。

【⿰目遺】イ。以追切 [支] 以醉切 [寘] 目の病むにいふ字。

【矑】ロ、ル。龍都切 [虞] ㊀みる(視)。「亡レ所レ眺二其淸—一」。㊁ひとみ(目-童子)。○[揚雄]「玉-女 (交矑)あをさぎといふ鳥の異名。○[本草]「鵁-鶄一-名——」。(明矑)あきらかなるひとみ。○[岑參]「朱-唇翠-眉映二——一」。

【⿱默目】ボク、モク。密北切 [職] 聽——は、目の眠たげなる貌にいふ語、一說に、驚く。

【⿰目羲】キ。虛宜切 [支] 目動く、またゝく。

【⿱艹⿰目民】ビウ、ム。謨中切 [東] ねごと(寐-言)。

【⿰目普】瞢に同じ。

十七畫

【⿰目毚】ザン、ゼン。助咸切 [咸] ㊀怒り視る、いかる。㊁目の深き貌にいふ字、くぼし。

【䁶】エウ。弋笑切 嘯
㊀めくろめく、めまひす(眩)。
㊁視誤す、みあやまる。

【𥌯】ヤク。弋灼切 藥
視る貌にいふ字。

【𥍄】ラン、レン。離閑切 删
視る貌にいふ字。

【𥍂】レイ、リヤウ。郎丁切 青
目光、めのひかり。

【䁝】アウ、ヤウ。於莖切 庚
━━瞸は、目の光りなきこと。

【𥍆】ヨウ、オウ。於陵切 蒸
━━睖は、定め視る、みさむ。

【𥌸】セン。子冉切 琰
笑ふ貌にいふ字。

【𥌻】キ。居韋切 微
め、まなこ(目)。

十八畫

【𥍌】
瞜に同じ。

【𥍘】セフ。失涉切 デフ、尼輒切 子フ。切 葉
目の動く貌にいふ字、まじろく。

【矔】クワン。古玩切 翰
㊀目に精(ひかり)多し。
㊁目を瞋らす、目を張る、いからす、はる。○〔揚雄〕「梁、益之閒、瞋レ目曰レ━」。
㊂目を轉ず、顧視す、まじろかす、かへりみる。○〔劉歆〕「空下レ昔而━レ世兮」。
㊃一目を閉づるにいふ字、すがむ。

【矔】クワン、ケン。古患切 諫
前條の㊀に同じ。

【𥍕】ケン、クワン。逵員切 先
まぶち(目-眶)。

【𥍗】スヰ。精垂切 支
━━眭は、みる(視)。

【𥍖】ケイ、ヱ。懸圭切 齊
齊の韻の眭の字に同じ。

【𥍖】キ。虎癸切 紙
いかりみる(恚-視)。

【𥍛】セウ。子肖切 嘯
㊀目冥しくらし。
㊁目を瞋らす、いからす。
㊂一種の貝。○〔朱仲相貝經〕「━貝使ニ胎消一、勿三以示ニ孕-婦一」。

【𥍛】シヤク、サク。卽約切 藥
セイ、シヤウ。沓盈切 庚
目瞑し、くらし。

十九畫

【𥍞】セフ。悉協切 葉
目を閉づ、とづ、ふさぐ。

【矕】バン、メン。武版切 潸
㊀目の美しきにいふ字。
㊁視る貌にいふ字、みる。○〔後漢〕「右━ニ三-塗一」。
㊂きる(被)。○〔班固〕「━ニ龍-虎之文一舊矣」。

【矕】バン、マン。謨官切 寒
前條の㊁に同じ。

【矕】バン、謨還切 删 ラン。盧丸切 寒
目暗し、くらし。

【矖】シ。所綺切 紙
索め視る貌にいふ字、くばる、みる。○〔魏〕「━ニ目八-荒一」。

【矖】サイ、セ。所蟹切 蟹
みる(視)。○〔馬融〕「目━ニ鼎-俎一」。

【䴡】リ。鄰知切 支
━━瞜は、古の明目の人。

【矗】チク、敕六 シユク、昌六 トク。切 ソク。切 屋
チウ、チユ。丑衆切 送
㊀草木の盛んなるにいふ字、さかんなり。○〔左思〕「橚━森-萃」。
㊁ひとし(齊)。○〔鮑照〕「━似ニ長-雲一」。
㊂なほし(直)。○〔元包經〕「語ニ其義一則━━然不レ誣」。
㊃長く直なる貌にいふ字。○〔謝靈運〕「直-陌━其東-西」。
㊄聳え上がる、そびゆ、高く起こる、おこる。○〔司馬相如〕「崇-山━━」。
〔斜矗〕なゝめにあがること。○〔孫覿〕「樓高━━酒-旗風」。
〔駢矗〕ならび聳ゆ。○〔戴良〕「玉-山鬱━━」。

二十畫

【矘】タウ。坦朗切 養
㊀目に精(ひかり)無く直視するにいふ字、みつむ。○〔後漢〕「龔鳶-肩豺-目洞-精━━-眄」。
㊁ひかり無し、目明かならず、くらし。○〔楚辭〕「昔晻-曀其━-莽」。

【矘】タウ。他郎切 陽
前條の㊁に同じ。○〔青箱雜記〕「曭-━晃者憨-人也」。

【矙】カン、コン。苦濫切 勘
みる(視)、うかゞふ(窺)。○〔孟〕「陽-貨━ニ孔-子之亡一而饋ニ孔-子蒸-豚一」。

【𥌠】カン、コン。古濫切 勘
瞰に同じ。

【𥍐】ガン、ゴン。五犯切 豏
儼に通じ用ふ。

【矆】クワク、カク。恍縛切 藥
㊀視る、又、大いに視る、又、省る。○〔揚雄〕「喰ニ於血一━自肥也」。
㊁おそる(懼)。○〔左思〕「━━焉相顧」。

廿一畫

【矚】ショク、ソク。朱欲切 沃
視ることの甚しきにいふ字、めをつく、みつむ、ながむ、みる。○〔魏〕「凝レ神遠━」。
〔遐矚〕はるかに見つむ。○〔趙冬曦〕「凭レ軒肆ニ━━一」。
〔遊矚〕前に同じ。○〔柳宗元〕「探レ奇極ニ━━一」。

（遠矚）前に同じ。○〔梁簡文帝〕「一一既濡レ翰」。
（遊矚）あそびてながめ見る。○〔晉〕「府内有レ山、田得二一一甚善也」。
（下矚）見おろす。○〔韓愈〕「樂遊一一無二遠近一」。
（眺矚）望み見る。○〔晉〕「一二一中原一」。
（霽矚）うらゝかなるながめ。○〔南〕「寒潤清漂翻映二一一一」。
（凝矚）見つむ。○〔世説〕「一一不レ轉」。
（瞻矚）視る。○〔世説〕「先在レ坐一一甚高」。
（駢矚）ならべ見る。○〔廬山記〕「東南陰二諸嶺二不レ得二一一一」。
（驚矚）おどろき見る。○〔王勃〕「朝野一一」。
（眷矚）めぐみをかくること。○〔春渚紀聞〕「雖二草木之微一、偶加二一一一」。「金臺亦有レ聞」。
（放矚）喜びて見る。○〔隋煬帝〕「碧海雖二一一一、
（軒矚）のびあがりて見る。○〔垣譚賞鶴賦〕「延二修頸一以一一一」。「須二矣」。
（停矚）足をとゞめて見る。○〔王弘〕「可二一一一而忘レ鋤而一一」。
（留矚）ふみとゞまりて見る。○〔謝子範〕「見者
（環矚）めぐり見る。○〔章永慶〕「海二情閑一而一一」。
（聽矚）耳にきゝ目に見る。○〔韓駒〕「相與娛一一」。
（旁矚）あまねくながめ見る。○〔蘇軾〕「延レ英一一、念二故老之不一レ來」。
（寄矚）ながめ見る。○〔黄鎮成〕「一一千岑遙」。

【目纍】ル井、倫追切 支
視る貌にいふ字。

廿三畫

【目變】ヘン。卑見切 霰
目を閉づ、めをふさぐ。

廿五畫

【目闌】カン、ケン。呼閒切 删
目精なし、目明かならず、くらし。

矛　部

【矛】ボウ、ム。莫浮切 尤
長柄の頭に兵刃をつけたる兵器、ほこ。○〔書〕「立二爾一一」。
（戈矛）ほこ。○〔書〕「鍛二乃一一」。
（酋矛）ほこの一種。○〔周〕「一一常有四尺」。
（夷矛）前に同じ。○〔周〕「一一三尋」。
（杖矛）ほこをつゑにつく。○〔史〕「沛公遐雪レ足一レ一日、延レ客入」。
（操矛）ほこをもつ。○〔後漢〕「一吾一二吕伐レ我乎」。
（蛇矛）ほこの一種。○〔晉〕「右手執二丈八一一一」。
（楯矛）たてとほこと。○〔韓〕「楚人有下鬻二一與一一者上」。
（橫矛）ほこをよこにもつ。○〔蜀〕「瞋レ目一レ一」。
（銛矛）するどきほこ。○〔唐〕「有二鎖甲一一一」。
（利矛）前に同じ。○〔李商隱〕「長戈一一日可レ磨」。
（運矛）ほこをふるふ。○〔宋〕「左渋レ弓、右一レ一」。

三畫

【矛勺】ケキ、キヤク。結歷切 錫
ほこ（矛）。

【矛刃】ヂク、ニク。女六切 屋
さし（刺）。

四畫

【矛丑】ヂウ、女久切 有 ヂク、女六切 屋
ニユ。切　ノク。切
さす（刺）。

【矛殳】ケキ、キヤク。馨激切 ケキ、
ギヤク。刑狄切 錫
矜に同じ。

【矛殳】エキ、ヤク。營隻切 陌
小さき矛、こほこ。

【矜】キン、ゴン。巨巾切 眞 ケイ、ギヤウ。渠京切 庚
㊀矛の柄。○〔史〕「起二窮巷一奮二棘一一」。
㊁つゑ（杖）。○〔揚雄〕「一謂二之杖一」。

【矛令】キヨウ。居陵切 蒸
㊀あはれむ（憐）。○〔書〕「天一二于民一」。
㊁くるしむ（苦）。○〔詩〕「爰及二一人一」。
㊂をしむ（惜）。○〔書〕「不レ一二細行一終累二大德一」。「曰レ一」。
㊃かなしむ（哀）。○〔揚雄〕「齊、晉之閒」
㊄おごそか（莊）。○〔論〕「一而不レ爭」。
㊅つゝしむ（敬）。○〔孟〕「使下諸大夫國人皆有上レ所二一式一」。
㊆たふさぶ（尚）。○〔賈誼〕「嬰以二廉恥一故人一二節行一」。
㊇自ら賢れりとす、ほこる。○〔書〕「汝惟不レ一天下莫下與レ汝爭上レ能」。
㊈そばだつ（竦）。○〔張衡〕「魚一レ鱗而并凌」。
㊉あやふし（危）。○〔詩〕「居以二凶一一」。
⑪にはか（遽）。○〔揚雄〕「秦、晉或曰レ一或曰レ遽」。
⑫堅くして強き貌にいふ字。○〔詩〕「一一兢々」。
（哀矜）かなしみあはれむ。○〔論〕「如得二其情一則一一而勿レ喜」。
（驕矜）ほこる。○〔史〕「一一而不二敢進一」。
（夸矜）前に同じ。○〔史〕「此宜二一一見レ所レ長」。
（伐矜）前に同じ。○〔管〕「一一好レ事」。
（自矜）おのれに及ぶものなしとほこる。○〔蜀〕「或驚レ抜以一一」。「性一一」。
（仁矜）いつくしみ深くあはれみあること。○〔後漢〕
（憐矜）あはれみの情をいたく。○〔後漢〕「悵然一レ一」。

【矜】キン、居覲切 震

【矜】クワン、ケン。姑頑切 删
前條の㊀に同じ。
㊁やむ（病）。○〔後漢〕「瘖、痱恫一」。
㊂鰥に同じ、やもを。○〔詩〕「不レ侮二一寡一」。

【矛肖】ケキ、キヤク。許激切 錫
長き矛、ほこ。○〔左思〕「長一短兵」。

五畫

【矛它】猇に同じ。

【矛号】カウ、許迸切 敬 カウ、下考切 皓
キヤウ。切　ゴウ。切
矛の屬。

【矛开】矛に同じ。

六畫

【矛殳】ケキ、キヤク。馨激切 錫
ほこ（矛）。

【矛危】キ。古委切 紙
短矛、みじかきほこ。

【矛虫】トウ、ヅ。徒冬切 冬
㊀さす（刺）。
㊁ほこ（矛）。

七畫

【矞】イツ、イチ。餘律切 質
㊀錐を以て穿つ、うがつ、一説に、滿ちて出づ、あふる。
㊁物の春風に成長する貌にも聲にもいふ字。○〔揚雄〕「物登二明堂一、一一皇々」。

㊂一種の雲色、瑞祥となすもの。○〔漢〕「雲五-色爲レ慶、三-色成レ｜」。

【矞】キツ、キチ。況必切 質　㊀飛ぶ貌にいふ字、又、驚き遑つる貌にいふ字。○〔禮〕「鳳以爲レ畜、故鳥不レ｜」。㊁馬の走る貌にいふ字。○〔左思〕「驈-駥驈-｜」。

【矞】ケツ、ケチ。古穴切 月　譎に同じ、いつはる。○〔荀〕「｜-宇嵬-瑣」。

【⿰矛多】タイ、デ。丈買切 蟹　ほこ（矛）。

【⿰矛良】ラウ。魯當切 陽　矛の屬、一説に、短き矛。

【⿰矛夋】サン。七桓切 寒　ほこ（矛）。

【矟】サク、ソク。所角切 覺　長さ一丈八尺ある矛、ほこ、馬上にて用ひしもの。○〔晉〕「以レ｜擬二殷-仲-堪一」。
〔大矟〕ながきほこ。○〔南〕「多作二｜-｜一」。
〔執矟〕ながきほこをもつ。○〔唐〕「令三敬-德｜レ｜從二其-獵一」。
〔把矟〕前に同じ。○〔周〕「左手｜レ｜」。
〔奮矟〕ながほこをうちふる。○〔南〕「｜レ｜直奔二魏-軍一」。
〔舞矟〕前に同じ。○〔南〕「尤エ｜レ｜」。
〔弄矟〕ながほこをあつかふ。○〔舊唐〕「善レ射｜レ｜」。

【⿰矛斤】セイ。征例切 霽　ほこ（矛）。

【⿰矛夆】ホウ、フ。符容切 冬　｜-矟は、二つの横刃ある矛。

【⿰矛夆】ホウ、フ。敷容切 冬　矛の屬。

【⿰矛侵】シン。子心切 侵　子鴆切 沁　セン、ソン。將廉切 鹽　きり（錐）。

【⿰矛寸】矝に同じ。

【⿰矛告】サク、シャク。精百切 陌　矛の屬。

八畫

【⿰矛內】ダフ、ノフ。諾盍切 合　やはらか（柔）。

【⿰矛丑】ヂウ、ニユ。女九切 有　しなやか（輭）。

【矠】サク、シャク。士革切 陌　矛を以て物を取る、刺し取る、さす。○〔國〕「｜二魚鼈一」。

【矠】サク、ソク。仕角切 覺　さす（刺）。

九畫

【⿰矛侯】コウ、グ。胡溝切 尤　矛の屬。

【⿰矛侯】前條に同じ。

【⿰矛施】シャ、セ。禡遮切 麻　シ。齊支切 支　短き矛。

【⿰矛建】ケン、コン。居偃切 阮　ケン。九件切 銑　ほこ（矛）。

【⿰矛叟】ソウ、ス。祖叢切 東　きり（錐）。

【⿰矛匽】エン。隱憶切 銑　三つの刃ある戟。

【⿰矛英】エイ、ヤウ。於莖切 庚　羽にてつくりたる矛飾、ほこのかざり。

【⿰矛盾】盾に同じ。

十畫

【⿰矛茸】ジョウ、ニユ。而容切 冬　⿰矛夆の字の條を見よ。

【⿰矛氣】キ、ケ。許旣切 寘　㊀たゝかふ（戰）。㊁弩の具。

【⿰矛倉】槍に同じ、やり。○〔通俗文〕「剡レ木傷レ盜謂二之｜一」。

【⿰矛⿱罒木】キョウ。居陵切 蒸　すくなし（寡）。

【⿰矛害】カイ。苦蓋切 泰　カフ、コフ。渴合切 合　矛の屬。

十一畫

【⿰矛堇】キン、ゴン。巨巾切 眞　㊀矛の柄。㊁矜に同じ。㊂くは（鉏、耰）、

【⿰矛悤】サウ、ソウ。楚江切 江　短き矛。

【⿰矛悤】ショウ、シュ。七恭切 冬　ほこ（矛）、一説に、小さき矛。

【⿰矛逢】⿰矛夆に同じ。

【⿰矛責】サク、シャク。側革切 陌　⿰矛勺に同じ、矛の屬。

十二畫

【⿰矛象】ヨ。羊茹切 御　⿰矛解｜は、矛の屬。

【⿰矛解】カイ、ゲ。下買切 蟹　前條を見よ。

【⿰矛童】ショウ、シュ。尺容切 冬　短き矛。

【⿰矛出】イツ、イチ。允律切 質　いづ（出）。

十三畫

【⿰矛豊】レイ、ライ。里弟切 薺　戟の屬、又、てぼこ（鈒）。

【⿰矛蚤】リ。良以切 紙　小さき矛。

十四畫

【⿰矛爾】ビ、ミ。民卑切 支

矛の屬。

【䂆】ショ、ゾ。徐呂切 語
ほこ（矛）。

【䂍】ゼン、ナン。而兗切 銑
なやか、たをやか（軟-弱）。

【𥎜】シヤウ、サウ。充莊切 陽
短き貌にいふ字。

十五畫

【䂐】ハク、ボク。彌角切 覺
―矟は、唐の衞仗の名。○〔金元〕「俱有二―矟一」。

十九畫

【穳】サン。作管切 旱 サン。子算切 翰
ほこ（鋋）。○〔北〕「東魏來攻二潁川一、思政作二火―一、火箭一焚二其攻具一」。

【䂎】サン。七亂切 翰
ちひさきほこ（小-矟）。

【䂏】サン。七丸切 寒
遙かの方より物を捉ふるに用ふる矛。

二十畫

【䂓】クワク、ワク。居縛切 藥
㊀矛の屬。㊁きり（錐）。

矢部

【矢】シ。式視切 紙

㊀弓弦につがへて射るもの、や。○〔荀〕「浮-游作レ―」。「棠二。

㊁つらぬ（陳）。○〔春秋〕「公―二魚于棠一」。

㊂ちかふ（誓）。○〔書〕「出二―言一」。

㊃たゞし（正）、なほし（直）。○〔易〕「得二黃―一吉」。

㊄ほどこす（施）。○〔詩〕「―二其文-德一」。

㊅投壺の籌、かずとり。○〔禮〕「主-人奉レ―」。

㊆くそ（屎）。○〔左〕「埋二之馬―之中一」。

〔金矢〕かねにて作りたる弓の箭。○〔易〕「噬二乾-胏一得二―一」。

〔弧矢〕木にて作りたる弓の箭。○〔書〕「―之利、以威二天下一」。

〔彤矢〕赤く塗りたる弓の箭。○〔書〕「彤弓一、―百」。

〔盧矢〕黑く塗りたる弓の箭。○〔書〕「盧弓一、―百」。

〔弓矢〕ゆみとゆみのやと。○〔書〕「―戎兵」。

〔束矢〕たばねたるゆみの矢。○〔詩〕「―其搜」。

〔如矢〕直なるといふ語。○〔詩〕「其直如レ―」。

〔砥矢〕平かにして直なること。○〔蔡邕〕「言如二―一」。

〔流矢〕それ矢。○〔論巴蜀檄〕「觸二白刃一冒二―一」。

〔遜矢〕よもぎにて作りたる箭。○〔禮〕「射人以二桑弧―六一、射二天地四方一」。

〔蒿矢〕前に同じ。○〔後漢〕「桑弧―、以射二菟首一」。

〔約矢〕（い）弓の箭をつかねおく。○〔禮〕「侍レ射則―」。（ろ）弓の箭にむすびつく。○〔史〕「魯連乃爲レ書、―二之―一以射二城中一、遺二燕將一」。

〔枉矢〕火射に用ふる弓の箭。○〔徐陵〕「―宵飛」。

〔絜矢〕前に同じ。○〔周〕「凡矢枉-矢―利二火-射一」。

〔殺矢〕近く射るに用ひ、又、田獵に用ふる弓の箭。○〔周〕「冶-氏爲二―一」。

〔鍭矢〕前に同じ。○〔周〕「矢人爲レ矢、―三-分、茀矢三-分」。

〔矰矢〕鳥を射て捕るに用ふる弓の箭。○〔周〕「共二―一」。

〔茀矢〕前に同じ。○〔周〕「矰-矢―、用二諸弋-射一」。

〔八矢〕枉矢、絜矢、殺矢、鍭矢、矰矢、茀矢、恒矢、痺矢のこと。○〔周〕「掌二六-弓四-弩―之法一」。

〔抽矢〕弓の箭をぬきとる。○〔左〕「―レ―策二其馬一」。

〔殪矢〕えびらに入れたる弓の箭。○〔史〕「平原君負二―一、爲二公子先-引一」。

〔鏃矢〕やじりのつきたる弓の箭。○〔莊〕「―之疾、而有二不レ行不レ止之時一」。

〔飛矢〕とびくる弓の箭。○〔潘岳〕「―雨集」。

〔發矢〕弓の箭を射放つ。○〔關尹子〕「聖人力行、猶二之―一レ」。

〔激矢〕勢烈しき弓の箭。○〔楊子〕「般之揮-斤、羿之―、君-子不レ言、言必有レ中」。

〔勁矢〕つよく烈しき弓の箭、勢よき箭。○〔陸機〕「年往迅二―一、時來亮二急-弦一」。

〔竹矢〕たけもて作れる弓の箭。○〔書〕「垂之―」。

〔舍矢〕弓の箭を射はなつ。○〔詩〕「―既均」。

〔毒矢〕毒となるものをやじりに塗りたる弓の箭。○〔韓愈〕「操二强弓―一、以與二鱷魚一從-事」。

〔棘矢〕いばらの木もて作りたる弓の箭。○〔左〕「桃-弧―、以除二其災一」。

〔乘矢〕四本の弓の箭。○〔孟〕「發二―一而後反」。

〔傅矢〕弓の箭を弓につがふ。○〔史〕「高帝令二士皆持レ滿―レ―」。「我師―而逐レ之」。

〔束矢〕弓の箭を一處に寄せあつめ射る。○〔舊唐〕

〔縱矢〕弓の箭を射放つ。○〔唐〕「―三-百步」。

〔雨矢〕弓の矢を雨の降るが如くに射下す。○〔唐〕「紹軍―、士失レ色」。

〔矯矢〕弓の箭を眞直になほす。○〔淮〕「調レ弓―レ―未レ發、而猿レ柱號矣」。

〔觸矢〕弓の箭にさはる。○〔歸田賦〕「―レ―而斃」。

〔嚆矢〕響箭、かぶらや、又、射の初にかぶらやを射て的の遠近を定めしより物事の端緒の義にいふ語。○〔莊〕「焉知下曾史之不上レ爲二桀-紂之―一哉」。

【矣】イ。于己切 紙
語の末尾に用ひて斷定の意を表はす字。○〔禮〕「王-道備―」。

〔懷矣〕おぼし。○〔詩〕「何彼―」。

〔皇矣〕さかんなり。○〔詩〕「―上-帝」。

〔信矣〕いつはりなきこと。○〔梁昭明太子〕「―其―、昭々」。

〔多矣〕ゆたかにてすくなからざること。○〔詩〕「物―」。

〔久矣〕ながきあひだ。○〔史〕「吾太-公望レ子―、故號レ之曰二太-公望一」。

〔美矣〕うつくし。○〔孟〕「道則高矣―」。

〔邈矣〕遠くはるかなる貌にいふ語。○〔晉〕「―聖-皇」。

〔卓矣〕すぐれたる貌にいふ語。○〔北〕「―仙-才」。

〔粹矣〕正しくまざりけなきこと。○〔隋〕「―天-儀」。

〔懿矣〕善美にして大いなること。○〔張衡〕「―玆嵩」。

〔愴矣〕かなし。○〔曹植〕「―其悲」。

〔頹矣〕うるはし。○〔陶弘景〕「輪乎―」。

三畫

【矦】古文の矦（ノ）字。

【矤】矧の本字。

【知】チ。陟离切 支

㊀しる。

（い）認識す、みとむ、さとる。○〔易〕「百-姓日用而不レ―」。

（ろ）辨別す、わきまふ。○〔書〕「―レ人則哲能官レ人」。

（は）記憶す、おぼゆ。○〔論〕「父-母之年不レ可レ不レ―」。

（に）見る、聞く。○〔列〕「所レ願―」。

（ほ）しる所となる、しらる。○〔呂氏春秋〕「―二於顏-色一」。「于齊二。

（へ）交はり親しむ。○〔左〕「―二叔-孫」。

（と）主る。○〔左〕「子-產其將レ―レ政」。

㊁しること、しる所、さとり。○〔揚雄〕「其多―歟」。

㊂性識。○〔荀〕「有レ生而無レ―」。

㊃欲情。○〔禮〕「―誘二於外一」。

㊄匹偶、たぐひ。○〔詩〕「樂二子之無一レ―」。

㊅交はり親しむ人、しりあひ。○〔左〕「遂如二故―一」。

㊆其の人となりをしりて優待すること。○〔孚参〕「忽受二國-士―一」。

㊇いゆ（愈）。○〔素問〕「二刺則―」。

〔蹈知〕踏み行ひさとる。○〔書〕「亦惟十人、ーニーー上帝命ニ」。
〔生知〕うまれながらにして覺る、卽ち、聖人のこと。○〔任昉〕「道亞ニーー」。「能ーー」。○
〔前知〕事の起こらぬ以前に覺り知る。○〔宋〕「遇レ事ーー」。
〔先知〕（い）後生の人の未だ覺らざる前にありて道を覺りたる人。○〔孟〕「使ニーー覺ニ後知ニ」。（ろ）他にさきんじて覺る。○〔白居易〕「秋冷ーー是瘦人」。
〔後知〕後生の人。○〔孟〕「使ニ先知覺ニーーニ」。
〔良知〕天然に享け得たる善良なる知能。○〔孟〕「人之所ニ不レ學而知ニ者其ーー也」。「ーレ」。
〔見知〕目に見心にさとる。○〔孫雲〕「君子特ーー」。
〔聞知〕耳にきゝ心にさとる。○〔九辯〕「桓公ー而ーレ之」。
〔心知〕心の中にさとり知る。○〔史〕「深思ーー」。
〔揣知〕推しはかりてさとる。○〔漢〕「ーニーー其指ニ」。
〔四知〕天の知り地の知り人の知り己れの知ること、後漢の楊震の語より出づ。○〔王融〕「幽夜有ニーーー」。「志ーレー」。
〔服知〕己れのさとれる所を行ふ。○〔莊〕「孔子勤レー」。
〔眞知〕眞正なる覺り。○〔列〕「無レ樂無レ知、是眞樂ーーー」。「ーーーニ」。
〔新知〕あたらしきちりあひ。○〔鮑照〕「銜レ淚見ニーーニ」。
〔廣知〕覺りをひろくす。○〔黃石公書素〕「博志切問、所ニ以ーーー」。
〔精知〕こまやかに覺る。○〔禮〕「ーーー畧而行レ之」。○
〔獨知〕他人皆知らずして己れのみ一人覺る。○〔淮〕「大將者必獨見ーー」。
〔重知〕覺りをるが上に覺りをる。○〔後漢〕「臣聞知而復知、是爲ニーーーニ」。
〔周知〕遍く覺る。○〔宋〕「得ニ以ーーニ」。
〔至知〕極めて高きさとり。○〔莊〕「雖レ有ニーーー、萬人臘レ之」。
〔微知〕ちるし知る。○〔荀〕「心有ニーーニ」。
〔自知〕己れと己れの人となりを覺ること。○〔中說〕「ーーー者英、自勝者雄」。「ーーー」。
〔權知〕かりに覺る。○〔國老談苑〕「列郡以ニ京官ーーー」。
〔訪知〕たづねて覺る。○〔蘇晃會要〕「風聞ーー」。
〔朋知〕友人のこと。○〔謝靈運〕「再與ニーーー辭」。
〔舊知〕昔なじみ。○〔謝瞻〕「方舟析ニーーニ」。
〔靈知〕くしき覺り、卽ち心のこと。○〔王融〕「ーー常湛然」。
〔晩知〕おくれて覺ゆ。○〔陳思道〕「ーー書畫眞有レ益」。
〔承知〕知遇を蒙る。○〔蘇易簡〕「小子最ーレー」。
〔偏知〕ひとへに覺えをる。○〔施肩吾〕「淺深更漏妾ーー」。

【知】チ。知意切 寘

智に同じ。○〔荀〕「是レ是非レ非謂ニ之ーー」。

四畫

【矣】古文の族の字、やじり。

【矦】コウ、ク。乎溝切 尤

侯、又、帿に同じ、まと。

【矤】シン。式忍切 軫

㊀まして、いはんや、（況）。○〔書〕「至誠感レ神、ー茲有苗」。
㊁斷に同じ、はぐき。○〔禮〕「笑不レ至レー」。

【矨】ゲイ、ギヤウ。五到切 效

短く小さき貌にいふ字。

【𥎿】鏃に同じ。○〔石鼓文〕「彤矢ーーー」。

五畫

【𥏠】ハフ、ホフ。乎法切 洽

矢の貌にいふ字。

【矩】ク、コ。俱雨切 麌

㊀方を正す則、さしがね、かねざし。○〔禮〕「規ーー之於ニ方圜ニ」。
㊁けた、（方）、かど、（廉）。○〔漢〕「ーニ方器械ニ」。
㊂のり、（儀）、つね、（常）、おきて、（法）。○〔漢〕「湨之受ニ吳疆土ー踰レー」。
㊃刻み識るす、きざむ。○〔周〕「凡斬レ轂之道必ーニ其陰陽ニ」。
㊄大地の稱、天圓地方の說より來たる。○〔揚雄〕「ー靜而守レ物」。

〔規矩〕ぶんまはしと曲尺と、卽ち法則にいふ語。○〔北〕「爲ニ世ーーニ」。
〔中矩〕規則にあてはまる。○〔禮〕「周旋ーレー」。
〔絜矩〕のり、法則のこと。○〔禮〕「是以君子有ニーー之道ー也」。
〔繩矩〕前に同じ。○〔唐〕「言動皆有ニーーニ」。
〔摸矩〕前に同じ。○〔東觀餘論〕「殊應ニーーニ」。
〔憲矩〕前に同じ。○〔曹植〕「永作ニーーニ」。
〔儀矩〕前に同じ。○〔北〕「粗合ニーーニ」。
〔半矩〕一尺三寸三分寸の一。○〔周〕「車人之事ーーー謂ニ之宣ニ」。
〔高矩〕高尙なる法則。○〔張華〕「貽ニ我ーーニ」。
〔師矩〕師表、てはん。○〔唐〕「朕子賴以ーー」。
〔風矩〕樣子のこと。○〔唐〕「鄂公綽子有ニ父ーーニ」。
〔成矩〕成就しをる法則のこと。○〔閻復太師貞憲王碑〕「無レ替ニーーニ」。
〔方矩〕曲尺のこと。○〔玉篇〕「圜曰レ規、ー曰レー」。
〔聖矩〕聖人の立てたる法則。○〔蔡邕〕「克遵ニーーニ」。
〔前矩〕先代の人の爲し置きたる模範。○〔蔡邕〕「克光ニーーニ」。「ーー」。
〔應矩〕法則にあてはまる。○〔魏明帝〕「進退ーレー」。
〔度矩〕法則のこと。○〔魏文帝〕「楷茲ーーニ」。
〔尋矩〕前に同じ。○〔唐〕「雅俗有ニーーニ」。「ーーニ」。
〔靈矩〕すぐれたる法則。○〔曹植〕「躡ニ帝王之ーーニ」。
〔遺矩〕先代の人の殘し置きたる模範。○〔傅亮〕「詠ニ侍格之ーーニ」。
〔合矩〕のりにあたる。○〔梁武帝〕「中レ規ーレー」。
〔蹈矩〕前人ののりを履み行ふ。○〔北齊元會大饗登歌〕「應レ規ーレー」。「ーーニ」。
〔茂矩〕盛んなる手本。○〔源子恭〕「興ニ一代之ーーニ」。
〔舊矩〕むかしよりある法則。○〔唐亨吳天樂〕「無レ爲遵ニーーニ」。「朕ーーニ」。
〔後矩〕後の世の模範。○〔北〕「惟遵ニ酌前王ニ、貽ニーーニ」。

【矧】テウ。都聊切 蕭

【𥏫】ハツ、バチ。蒲八切 黠

みじかし、（短）、又、犬の短き尾。

【𥏮】古文の拙の字。

ーー矯は、短き貌にいふ語。

【𥏮】セツ、セチ。姝悅切 屑

短き貌にいふ字。

【𥏭】セイ、祖稽切 齊 サイ。 シ。將支切 支

𥏥ーーは、短小の貌にいふ語、たけひくし。

六畫

【𥏯】チツ。陟栗切 質

みじかし、（短）。

【𥏵】テウ、デウ。徒了切 篠

矢。

【𥏲】チウ、チユ。張流切 尤

鳥を射る箭、や。

【𥏴】前條に同じ。

【𥏳】キ。苦委切 紙

うむ、（倦）、一說に、つまだつ、（跂）。

【𥏶】カツ、カチ。恪八切 黠

𥏫の字を見よ。

【𥏸】古文の知の字。

七畫

【𨈖】射の本字。

【矬】サ、ザ。昨禾切 歌
みじかし(短)。○〔北〕「孝王學涉、形貌ーー陋、而好ニ臧ニ否人物ニ」。

【矢廷】ケイ、ヂヤウ。研領切 梗
小さき貌にいふ字。

【短】タン。都管切 旱
㊀みじかし。
(い)たけ少し。○〔左〕「彼其髮ーー」。
(ろ)たけ低し。○〔史〕「僬僥三尺ー之至也」。「ーニ」。
(は)あひだ近し。○〔禮〕「夏有ニ長ー」
(に)缺けたり、少なし。○〔淮〕「知者之所レー」。
㊁欠點を指す、そしる。○〔史〕「上官大夫ーニ屈原於頃襄王ニ」。
㊂足らざるを、すぐれざるを、あやまちあるを、欠點。○〔漢〕「稱ニ逃望之ー車騎將軍ニ」。
㊃未だ冠せずして死ぬるを、わかじに。「○〔書〕「凶ー折」。
〔醜短〕外見醜しく且つたけ長からぬ。○〔晉〕「ー而ー黑」。
〔補短〕長からざる所に足しまへをなす。○〔孟〕「今滕截レ長ーレー、將ニ五十里也」。
〔貌短〕丈長からぬ。○〔北〕「ーー而禿」。「人ニ」。
〔蕞短〕やせて丈長からぬ。○〔唐〕「ーーオ及ニ中
〔才短〕智能少なし。○〔世說〕「志大而ーー」。
〔長短〕長きと長からざると、又、ながさ。○〔援神契〕「知ニ人生命ーーニ」。
〔縮短〕長からざるものにつきあはす。○〔戰〕「斷レ長ーレー」。
〔屈短〕まがりてみじかし。○〔史〕「白虹ーー」。
〔淺短〕深からず長からざると、即ち、ぐれをらざるにいふ語。○〔漢〕「智謀ーー」。
〔藏短〕すぐれをらざる所を除き去る。○〔後漢〕「智者ーレー取レ長、以致ニ其功ニ」。
〔蔽短〕勝れをらざる所を隱す。○〔漢〕「今累レ家者、雖レ有レーレー、合ニ其要歸ニ」。
〔偏短〕片よりてすぐれをらざると。○〔魏〕「士有ニーーー、庸可レ疑乎」。
〔非短〕惡しきと、又、そしると。○〔吳〕「人有ニーーー、口未ニ嘗及ニ」。
〔愚短〕おろかにしてオなし。○〔晉〕「以ニ臣ーーー、當ニ此至難ニ」。
〔闇短〕前に同じ。○〔晉〕「吾以ニーーー、託ニ宗皐闕ニ」。
〔凡短〕平凡なると。○〔晉〕「臣質ーー、風操不レ立」。
〔庸短〕前に同じ。○〔魏〕「其人ーー」。
〔陋短〕野鄙にして身のたけ長からぬ。○〔唐〕「貌宗ーー俯僂」。
〔毀短〕惡口をなす。○〔書〕「更相ーー」。
〔訾短〕前に同じ。○〔書〕「共ーニー之ニ」。
〔捐短〕傷害をなす。○〔唐〕「乃共豈ニ其跡ーニー」。
〔諉短〕さかしら言をなしそしる。○〔唐〕「ーーー百緒」。
〔譖短〕前に同じ。○〔唐〕「爲ニ要近ーーー、遂失レ恩」。
〔沮短〕邪魔をなす。○〔唐〕「ーニーー其譖ニ」。
〔疵短〕缺點のと。○〔書〕「介レ指摘ーーニ」。
〔細短〕長じてをらざると。○〔劉熙〕「今忌ニ人之ーーニ」。
〔修短〕長短に同じ。○〔魏文帝〕「ーーー無レ差」。
〔護短〕長じをらざる所を介抱す。○〔韓愈〕「ーレー遇レ嚴憚ニ我敬ニ」。
〔短々〕長からざる貌にいふ語。○〔李白〕「白日何ーー」。
〔漏短〕水時計の過ぐるの長からざると。○〔朱慶餘〕「送風聽ーーニ」。
〔窮短〕難に陷りてすぐれをらざると。○〔公羊〕「恐ニ已說ーーニ」。

【規】規の本字。

八畫

【矢屈】クツ、ゴチ。渠勿切 物
短き貌にいふ字、みじかし。

【矢卷】カイ、ケ。丘吠切 隊
ー矢彖は、短く小さき貌にいふ語。

【矢幸】ケイ、ギヤウ。下頂切 迥
小さき貌にいふ字、ちひさし。

【矢奇】イ。隱綺切 紙
㊀短き貌にいふ字、みじかし。
㊁痤に同じ、はれもの、できもの。

【矢亞】ア、エ。衣駕切 禡
矲ーは、みじかし(短)。

【矢叕】テツ、テチ。株劣切 屑
みじかし(短)。

【矢甫】ヘツ、ヘチ。必結切 屑
もさる(戾)。

【矮】アイ、エ。烏蟹切 蟹
たけ短し、ひくし、みじかし、又、みじかくす、ちぢむ。○〔易〕「猨隨ニ高木ー不レーニ手足ニ」。
〔矲矮〕たけひくきと。○〔陸游〕「醉撫ニ酒壺ニ憐ニーーニ」。

【矢卑】ヘイ、ハイ。邊兮切 齊 ヒ、ピ。賓彌切
微 ハイ、ヘ。旁卦切 卦
矢比と矢斯との字の條を見よ。

九畫

【矢皆】カイ、ケ。苦駭切 駭
矲ーは、短き貌にいふ語、みじかし、たけひくし。

【矢彖】カイ、ケ。呼吠切 隊 ガイ、ゲ。牛吠切 隊
矢卷の字の條を見よ。

【矢易】サウ、シヤウ。千羊切 陽
きず、きずつく(傷)。

十畫

【矢矣】シ、ジ。牀史切 紙
まつ(待)。○〔爾〕「不レー不レ來也」。

十一畫

【矢昜】
矢易に同じ。

十二畫

【矢斯】シ。相支切 支
矢卑ーは、短小の貌にいふ語、みじかし、ひくし。

【矯】ケフ。居夭切 篠
㊀たむ。
(い)曲がれるを直ぐす、なほくす。○〔史〕「ーレ矢栗レ弦」。
(ろ)正す。○〔漢〕「氏彌惰忘將ニ何以ーレ之」。
(は)いつはる、㊁に同じ。
㊁いつはる。
(い)ほしいまゝに理法を曲ぐ、みだる。○〔國〕「其刑ーー誣」。
(ろ)詐りて君命に託す、かこつく、ことよす。○〔漢〕「羽ーニ殺卿子冠軍ニ」。
㊂いさむ(勇)、たけし(武)。○〔詩〕「ーー虎臣」。
㊃つよし(強)。○〔禮〕「强哉ーー」。
㊄あぐ(擧)。○〔陶潛〕「時ーレ首而遐觀」。
㊅さぶ(飛)。○〔孫綽〕「整ニ輕翮ニ而思レー」。
〔輕矯〕身がるに飛ぶ。○〔韓愈〕「因拘念ニーーニ」。
〔匡矯〕ためたゞす。○〔蜀〕「無ニ能ーーニ」。
〔撓矯〕ためいつはる。○〔北〕「多涉ニーーニ」。
〔烝矯〕むしてためたゞす。○〔荀〕「故枸木必將ー待ニ檃括ーーニ然後直と」。
〔奇矯〕めづらしくたけし。○〔數爾孫〕「ーーー無レ前」。
〔痛矯〕てひどくためたゞす。○〔吳訥〕「歐陽永叔ーーニ西崑酒禓ニ而變レ之」。

【詭矯】いつはり。○〔王勃〕「痛ニ迷-生之——」。
【矯矯】のぼりあがる。○〔吳均〕「飄-然飲ニ—・—」。

【矯】ケウ。嬌廟切 嘯
⊖撟に同じ。⊜いつはる（詐）。
⊜強く亢がる、高く擧がる、あがる。

【矯】ケウ。居妖切 蕭
⊖躍り出づ、をどりいづ。○〔神異東荒經〕「東-王-公與ニ玉-女一更投-壺、千二百-矢—」。
⊜高く擧がる、あがる。○〔漢〕「賈-生——弱-冠登レ朝」。

【矢菐】ホク、ボク。蒲木切 屋
短き人、たけひくき人。

【矰】ソウ、ゾウ。作滕切 蒸
⊖繳を結び附けたる矢、いぐるみの矢。○〔史〕「飛者可ニ以爲ㇾ—」。
⊜短き矢。○〔吳越春秋〕「中-軍素-羽之—」。
【繳矰】いぐるみのや。○〔淮〕「好レ魚者、先具ニ—與」—」。
【弋矰】前に同じ。○〔雷淵〕「——何苦慕ニ冥-鴻ニ」。

十四畫

【矱】ワク。鬱縛切 藥
⊖彠に同じ、のり。○〔屈平〕「求ニ榘——之所ㇾ同」。
⊜ものさし、さし（尺）。○〔後漢〕「協ニ準——之貞-度ニ」。

十五畫

【矲】ハイ、ベ。薄蟹切 蟹
ハ、ベ。歩化切 禡

短と矮と矠との字の條を見よ。

十七畫

【矢嬰】エイ、ヤウ。伊盈切 庚
みじかし（短）。

十八畫

【矢雚】クワン。呼官切 寒
みじかし（短）。

石部

【石】セキ、ジヤク。常亦切 陌
⊖一種のかたき鑛物、いは、いし。○〔書〕「鉛松怪—」。
⊜八音の一、いしにて造りたる樂器、即ち、磬など。○〔書〕「擊レ—拊レ—」。
⊜樂器の聲の揚がらざるをにいふ字。○〔周〕「厚聲—」。
㊃かたし（堅）。○〔漢〕「——畫之臣」。
㊄いしばり（砭）。○〔左〕「孟-孫惡ニ我藥——也」。
㊅投げ放ついし、古昔の戰に多く用ひしもの。○〔左〕「身受ニ矢——ニ」。
㊆碑碣、いしぶみ。○〔呂氏春秋〕「功-績勒ニ平金——ニ」
㊇一斗の十倍。○〔漢〕「夫治レ田百-畮歲收ニ畮一——半ニ、爲ニ粟百-五-十——ニ」。
㊈百二十斤の稱。○〔書〕「關レ—和レ「鈞」。
㊉權の大なるもの、はかり、おもり。○〔禮〕「鈞ニ衡——ニ」。
【介石】いしよりも確堅なり。○〔易〕「—于—ニ」。
【玉石】たまといしと、即ち、善きものと惡しきものとにたぐへいふ語。○〔書〕「火炎ニ崑-岡ニ、——俱焚」。
【白石】しろきいし。○〔詩〕「揚之水、——鑿-々」。
【卷石】一握りのいし。○〔禮〕「今夫山一——之多」。
【嘉石】文のあるいし罪人を坐せしむるいし。○〔周〕「桎-梏而坐ニ諸——ニ」。 「民ニ。○〔周〕
【肺石】赤き色のいし。○〔周〕「以ニ——達ニ窮-民ニ」。
【鈎石】かけめ。○〔禮〕「平ニ權-衡ニ、正ニ——ニ」。
【隕石】空より落ちたるいし。○〔左〕「—ニ—于宋ニ」。
【鑑石】いしにさばる。○〔公羊〕「—レ—而出」。
【密石】きめの細き石、即ち砥石のと。○〔國〕「礱レ之加ニ——焉」。 「—爲レ櫓」。
【黃石】（い）色のきばみたるいし。○〔神異經〕「—
（ろ）人の名。○〔運命論〕「張-良受ニ——之符ニ」。
【投石】（い）いしになげつく。○〔漢〕「若ニ卵——」。
（ろ）いしをなげうつ。○〔史〕「方—レ—超-距」。
【一石】量十斗のと。○〔史〕「——亦醉」。
【砥石】刃物をすりみがくいし、といし。○〔淮〕「——不レ利、而可ニ以利ニ金」。
【磐石】わだかまれる大いなるいし。○〔穆天子傳〕「觴ニ天-子於——之上ニ」。 「—ニ。
【文石】あやのつきあるいし。○〔漢、註〕「山出ニ—
【柱石】はしらいし、礎、即ち、肝要なる物にいふ語。○〔漢〕「將-軍爲ニ國——ニ」。
【穿石】いしに穴をあく。○〔漢〕「太山之霤—レ—」。
【轉石】ころがるいし、又、いしをまろばす。○〔漢〕「用レ賢則如レ——」。 「〔漢〕「—レ—爲レ城」。○〔漢〕
【累石】積み重ねたるいし、又いしを重ね積む。○
【礧石】こけまろぶいし。○〔漢〕「———相擊」。
【儋石】兩甕の穀量、即ち、量目の僅かなるにいふ語。○〔漢〕「無ニ——之儲」。
【刊石】いしにきざむ。○〔後漢〕「封レ山—レ—」。
【瓦石】かはらといしと、即ち、價値なきものにいふ語。○〔世說、註〕「如ニ珠-玉在ニ——間ニ」。
【磁石】鑛物の名、針吸ひ石。○〔吳〕「——不レ受ニ曲-鍼ニ」。 「—ㇾ」。
【片石】かたわれのいし。○〔五〕「當下還ニ一-龍-鵰中—
【燕石】玉に似たる價値のなきいし、轉じて、價値なきまがひものゝ義に用ふる語。○〔韓〕「宋之愚人、得ニ——于梧臺之側ニ」。
【化石】物の形をかへていしとなるもの、みいら。○〔鄭元祐〕「鶴老離レ巢松—レ—」。
【重石】量のおもきいし。○〔劉子託付〕「附ニ得其所ニ、則——可レ浮」。
【磔石】小さきいし。○〔韓詩外傳〕「泰-山不レ讓ニ——ニ」。 「—ニ。
【漻石】もゆるいし。○〔水經、註〕「建-成-縣出ニ—
【側石】傾きたるいし。○〔釋智炫〕「——傾ニ斜-潤ニ」。
【賓石】昔重なるいし、たま。○〔元好問〕「———倚-來定-山鬼」。
【巨石】大いなるいし。○〔梁〕「塡以ニ——ニ」。

一畫

【石乙】アツ、エチ。乙黠切 黠
石の貌にいふ字。

二畫

【矴】テイ、チヤウ。丁定切 徑
舟におもりする石、いかりいし。

【石巳】破に同じ。

【石八】ハツ、ハチ。普八切 黠
石の破るゝ聲にいふ字。

【石刂】俗の砌の字。

【石卜】ハク、ホク。匹角切 覺
硝——は、藥の名。

【矻】コツ、クチ。口骨切 月
心を用ふると。

三畫

【石勺】テキ、チヤク。丁歷切 錫
石を投げ下す、いしうつ。

【矸】カン。居案切 翰
⊖山の石の貌にいふ字。
⊜きぬた（碪-石）。

㊂石の淨き貌にいふ字。○〔甯戚飯牛歌〕「南山—白-石爛」。㊃石を投げおろす、いしなぐ。

【矸】カン。居寒切 寒 ㊀前條に同じ。㊁丹砂に同じ。○〔荀〕「加レ之以二丹——一」。

【矸】カン。古旱切 旱 うつ、(擊)。

【矹】ゴツ、ゴチ。五忽切 月 硉—は、石崖の穩かならざる貌にいふ語、あやふし、又、沙石の水に隨ふ貌にいふ語。○〔郭璞〕「巨-石硉——以前-却」。

【⿰石亡】バウ、マウ。謨郎切 陽 山の石の貌にいふ字。

【矺】タク、チヤク。陟格切 陌 ㊀磔に同じ。㊁いしうつ。

【矺】タク。他各切 藥 —梟は、木の名。○〔儀註〕「王-棘—梟」。

【矺】タフ、トフ。都盍切 合 タ、テ。竹亞切 禡 地に擲つ聲にいふ字。

【⿰石叉】サイ、セ。初佳切 佳 ㊀一種の石。㊁小さき石、こいし。

【矻】コツ、クチ。苦骨切 月 勞極す、つかる、又、健作す、はたらく。○〔韓愈〕「——窮レ年」。〔欵矻〕つかる。○〔蘇軾〕「我馬亦——」。

【矻】カツ、カチ。丘八切 黠 硈に同じ、石の堅き貌にいふ字。

【矼】カウ、コウ。枯江切 江 カウ、ク。苦貢切 送 ㊀慤實なる貌にいふ字、かたし。○〔莊〕「德厚信—」。㊁石を一步づつ隔たりたる處に置きて水をひろひ渡るに設けたるもの、いしばし、さびいし。○〔魏都賦〕「石——飛-梁」。〔蘚矼〕苔のむしたるいしばし。○〔陸龜蒙〕「藤-鞋踏二——一」。

四畫

【砂】サ、セ。師加切 麻 いさご、すな、(沙)。○〔史〕「西-北丹——有二數-百-里一」。〔朱砂〕朱となるすな。○〔南〕「給二黃-金——一」。〔硇砂〕硫黃。○〔唐〕「安-西土貢二——一」。〔練砂〕すなをねる。○〔蕭郗刺〕「分レ鑪學レ—レ—」。

【砃】タン。都干切 寒 白き石。

【砄】ケツ、ケチ。古穴切 屑 いし、(石)。

【砅】レイ。力制切 霽 リ。鄰知切 支 石を履みて水を渡る、わたる。

【⿰石厷】クワウ。乎萌切 庚 石の聲にいふ字。—或は、硡に作る。

【砆】フ。甫無切 虞 玉に次げる一種の美石。○〔山海經〕「會-稽-山下多二——石一」。

【砇】ビン、ミン。眉貧切 文 玉に次げる一種の美石。

【砈】ダ、ナ。奴果切 哿 碟—は、石の貌にいふ語。

【砉】ケキ、キヤク。呼臭切 錫 クワク、キヤク。虎伯切 陌 皮と骨との相離るゝ聲にいふ字。○〔莊〕「——然嚮-然奏レ刀騞-然」。〔騞砉〕物の離るゝ音にいふ語。○〔沈佺期〕「始憂羽以——」。〔礫砉〕石などのふるゝ聲にいふ語。○〔孔平仲〕「——時有レ聲」。

【⿰石交】カウ、ゲウ。胡茅切 肴 石の平かならざるにいふ字。

【砊】カウ。口浪切 漾 カウ、キヤウ。客庚切 庚 ——硠は、石の聲にいふ字。

【砊】カウ。丘剛切 陽 雷などの聲にいふ字。○〔張衡〕「凌二驚-雷之——礚一」。

【⿰石丰】ハウ、ボウ。步項切 講 ㊀石の貌にいふ字。㊁玤に同じ、玉に次げる石。

【砋】シ。渚市切 紙 繒(きぬ)を擣つ石、きぬた、一說に、あらと、(礪-石)。○〔揚雄〕「輆於二——石一」。

【砌】セイ、サイ。七計切 霽 階の甃、みぎり、いしだたみ。○〔班固〕「玄-墀釦—、玉-階彤-庭」。〔鳴砌〕(い)蟲の名、みゝず。○〔古今注〕「蚯-蚓善長二吟于地-中一、江-東人謂二之歌-女一、或謂二之——一」。(ろ)いしだたみを響せしむ。○〔陸游〕「漸-々雨—レ—」。「珠-簾——移二明-月一」。〔玉砌〕玉もてたゝみたる石たたみ。○〔陳後主〕「——」。〔文砌〕あや模樣のつきあるいしだたみ。○〔張正見〕「鳴レ玉升二——一」。〔綺砌〕前に同じ。○〔唐太宗賦〕「抗二微-山於——一」。〔錦砌〕前に同じ。○〔盧照鄰〕「封レ霜連二——一」。〔壁砌〕かべといしだたみと。○〔迷樓記〕「——生レ光」。〔鱗砌〕魚のうろこの如くにたゝみたる石たたみ。○〔東京夢華錄〕「華-綵——」。〔甃砌〕石たたみ。○〔東京夢華錄〕「杈-子裏有二磚-石——御-溝水-兩道一」。〔碧砌〕青き石たたみ。○〔梁簡文帝〕「幔-陰通二——一」。〔珉砌〕石たたみ。○〔王勃〕「——百-枝然」。〔雕砌〕彫刻したる石たたみ。○〔王勃〕「君-王乃指二——一陟二玄-室一」。〔閑砌〕物靜かなる石たたみ。○〔孟浩然〕「雞-鶴遊二——一」。〔陰砌〕物かげの石たたみ。○〔薛奇童〕「楊-葉垂二——一」。〔險砌〕けはしき石たたみ。○〔孟郊〕「——高-峯石」。〔危砌〕高き石たたみ。○〔韋處厚〕「雨合飛二——一」。〔峻砌〕前に同じ。○〔李庾〕「白-闕朱-軒、崇-基——」。〔注砌〕石たたみにそゝぎかゝる。○〔白居易〕「白レ落—レ—」。〔瑤砌〕玉の石たたみ。○〔元稹〕「階-藥附二——一」。〔幽砌〕物しづかなる石たたみ。○〔李商隱〕「——欲レ乾殘-菊露」。〔苔砌〕こけのむしたる石たたみ。○〔徐朝陽〕「秋-色生二——一」。

【砍】カン、コン。苦感切 感 きる、(斫)。

【砎】カイ、ケ。居拜切 卦 かたし、(硬)。

【砎】カツ、ケチ。紇黠切 黠
㊀礣—は、小さき石。
㊁石の貌にいふ字。

【砏】ヒン。披巾切 眞
㊀雷の鳴る聲にも石の轉ずる聲にもいふ字ごろごろ。○〔楚辭〕「鉅寶遷兮砏—磤」。
㊁水の名。㊂いし(石)。

【砏】フン、ホン。敷文切 文
大いなる聲にいふ字。

【砐】ガフ、ゴフ。五合切 合
——礏は、山の高き貌にいふ語、さがし、一説に、動搖する貌にいふ字、うごく。○〔郭璞〕「陽侯——礏以岸起」。

【砑】ガ、ゲ。魚駕切 禡
㊀きしろ(碾)。㊁光る石。

【矻】コツ、コチ。古忽切 月
する(磨)。

【砓】セツ、セチ。之烈切 屑
けはしき貌にいふ字。

五畫

【砝】ケフ、コフ。訖業切 葉
かたし(硬)。

【砝】カフ、コフ。居盍切 合
石の聲にいふ字。

【砞】バツ、マチ。莫葛切 曷
くだけいし(碎-石)。

【砟】サ、ゼ。助駕切 禡
いしぶみ(石-碑)。

【砟】サク、ザク。在各切 藥
㊀石の貌にいふ字。㊁石の上。

【砠】ショ、ソ。千余切 魚
石を戴く土山、いしやま。○〔詩〕「陟彼—矣」。

【砡】ギク。逆菊切 屋　ギョク、ゴク。魚欲切 沃
頭をそろふる貌にいふ字、そろふ、ひとし。○〔馬融〕「劘-積頩—」。

【砢】ラ。朗可切 哿
㊀石の積み重なれる貌にも又小さき石の衆き貌にもいふ字。○〔司馬相如〕「水-玉磊—」。
㊁人の性體のすぐれたるをにいふ字。○〔世說〕「其人磊—而英多」。
㊂とゞろき響く聲にいふ字。○〔顧雲〕「轟-々——」。
〔碉砢〕相扶持すると、たすけあふ。○〔司馬相如〕「抗-衡——」。

【砢】カ。丘何切 歌
珂に同じ、石の玉に次げるもの。

【砆】テツ、デチ。徒結切 屑
砲—は、いしびやの石。

【砆】シ。矧視切 紙
石の墮つる聲にいふ字。

【砣】タ、ダ。徒和切 歌
㊀磚(かはら)を飛ばす遊戲。
㊁いしのひきうす、(碾-輪-石)。

【砤】タ、ダ。徒和切 歌
砣に同じ。

【砥】シ。掌氏切 紙　テイ、タイ。典禮切 薺
㊀兵刃を磨ぐに用ふる石のきめ細きもの、さいし、と、あをと。○〔山海經〕「崦-嵫之山其中多二—礪一」。
㊁たひらか、(平)、ひとし、(均)。○〔國〕「—二共遠-邇一」。「操」。
㊂とぐ、みがく、(磨)。○〔禮〕「—二礪節-」
〔礪砥〕といしのこと。○〔書〕「—-—砮-丹」。
〔如砥〕たひらかなるにいふ語。○〔詩〕「周-道—レ—」。
〔平砥〕たいらかなること。○〔晉〕「脊-壤——」。
〔柔砥〕やはらかなる質のといし。○〔淮〕「厲-利-劍-者、必以二——一」。

【砬】俗の砥の字。

【矴】テイ、チヤウ。湯丁切 靑
いしぶみのいし、(碑-材)。

【砼】トウ、ツ。覩動切 冬
石の墜つる聲にいふ字。

【砒】シ。此茲切 支
ゐわうせき、ゐわう、(—黃-石)。

【砦】サイ、ゼ。士邁切 卦
とりで、(壘-寨)。○〔宋〕「拔レ—遁去」。
〔營砦〕敵をふせぐとりでをつくる。○〔宋〕「劉-亮—レ—深入二賊-地一」。

【砧】チン。知林切 侵
㊀布帛を擣つに用ふる石、きぬた。
○〔庾信〕「秋——調二急-節一」。
㊁草を擣つにもいふ字。○〔古樂府〕「藁——今何在」。

【砆】フ。符遇切 遇
ゐろずゐしやう、(白-石-英)。

【砨】アイ、エ。烏懈切 卦　アク、ヤク。乙革切 陌
砨—は、一種の玉。

【砈】前條に同じ。

【砇】珉瑉に同じ。

【砩】ハイ、ヘ。放吠切 隊
石をもて水を過どむること。

【碫】碬の本字。

【砪】ボウ、ム。莫後切 有
雲—は、藥の名。—通じて母に作る。

【砫】シュ、ス。腫庾切 麌
宗廟の主石、いしびつ。

【砭】ヘン、ホン。悲廉切 鹽
石にて造りたる鍼、身體の病處を刺して療するに用ふるもの、いしばり、又、いしばりを加へて病を療すること。○〔史〕「年二二十是謂二易-貿一、法不レ當二—灸一」。
〔割砭〕肉をきりさくいしばり。○〔韓愈〕「鋸-刃甚二——一」。
〔鍼砭〕はり。○〔范成大〕「時-々苦-語見二——一」。

【砮】ド、ヌ。暖五切 麌　農都切 虞
石の鏃、いしのやのね。○〔國〕「仲-尼

曰、肅-愼-氏貢二楛-矢一、石-ㄧ長尺-有-咫」。

【砐】前條に同じ。

【砅】ヒョウ。披冰切 [蒸] 水の山の巖を擊ちて聲あるにいふ字、うつ。○〔郭璞〕「ㄧレ崖鼓作」。

【⿰石半】ハン、バン。蒲官切 [寒] 大いなる石、おほいし。

【砰】ハウ、ビヤウ。披耕切 [庚] ㊀石の聲にいふ字。○〔司馬相如〕「ㄧㄧ磅訇磕」。㊁盛んなる聲にいふ字。○〔漢〕「休-嘉ㄧㄧ隱」。
〔硼砰〕なみの音。○〔岑參〕「渤-澥ㄧㄧ」。〔雷砰〕かみなりの聲。○〔元稹〕「聲若二ㄧㄧ一目流レ電」。

【硑】ハウ、ビヤウ。蒲迸切 [敬] 石の落つる聲にいふ字。

【硐】ケイ、キヤウ。欽熒切 [庚] 石の聲にいふ字。

【砱】レイ、リヤウ。郎丁切 [青] ㊀石の孔の開きて明かなるを。㊁石の聲にいふ字。

【⿰石甲】カフ、ケフ。古狎切 [洽] 山の側、やまのそば。

【砲】礟に同じ、礟の字の註に見ゆ。

【⿰石幼】アウ、エウ。於教切 [效] 石の平かならざる貌にいふ字。

【⿰石㐱】シン。止忍切 [軫] 石をもて川匡の廉をつくるを。

【⿰石㐱】シン。之人切 [眞] ㊀石の平かならざる貌にいふ字。㊁致し難き貌にいふ字、かたし。○〔揚雄〕「拔レ石ㄧㄧ、力沒以盡」。

【砳】レキ、リヤク。力摘切 [錫] ㊀水の石に激する聲にいふ字。㊁二つの石の相擊ちて聲あるにいふ字。

【破】ハ。普過切 [箇] やぶる、さく、ひらく、わる。
（い）物事を壞敗坼裂するにいふ字。○〔史〕「拔レ劍而撞二ㄧ之一」。
（ろ）物事の壞敗坼裂せるにいふ字。○〔後漢〕「兇-賊殄ㄧ」。

〔膽破〕きもわる、卽ち驚き又懼るゝ場合にいふ語。○〔陳琳〕「足-下ㄧㄧ衆散」。
〔補破〕やぶれたるものをつぎあはす。○〔黃庭堅〕「見寒敎ㄧレㄧ之」。
〔距破〕拒ぎてやぶる。○〔漢〕「秦-將章-ㄧ二ㄧ」。
〔擊破〕うちやぶる。○〔漢〕「引レ兵、北ㄧ二ㄧ終-公一」。
〔推破〕椎をもてうちわる。○〔漢〕「不レ如下ㄧ二ㄧ故-印一以絕中禍-根上」。
〔腐破〕腐らせやぶる。○〔後漢〕「ㄧ二ㄧ積-世之業一」。
〔摧破〕くじきやぶる、くじけやぶる。○〔後漢〕「莫レ不二ㄧㄧ一」。
〔殄破〕亡びやぶる。○〔後漢〕「囚-賊ㄧㄧ」。
〔掩破〕襲ひやぶる。○〔後漢〕「南匈奴ㄧ二ㄧ北-庭一」。
〔奔破〕逃げ走りやぶる。○〔後漢〕「凶-醜ㄧㄧ」。
〔抵破〕擊ちわる。○〔後漢〕「ㄧ二ㄧ書-案一」。
〔燔破〕燒きてやぶる。○〔後漢〕「ㄧ二ㄧ竊-積一」。
〔窮破〕追ひつめ行きてやぶる。○〔後漢〕「浮レ河絕レ濟、ㄧ二ㄧ虜-廷一」。
〔齧破〕齒にてかみやぶる。○〔晉〕「ㄧㄧ而吐レ之」。
〔裂破〕引きさく。○〔南〕「手自ㄧㄧ投二之唾-壺一」。
〔鑿破〕掘りひらく。○〔水經、註〕「始-皇發レ民ㄧㄧ此岡一」。
〔歲破〕八將神の一、水神のこと。○〔論衡〕「負二太-歲一名曰二ㄧㄧ一」。
〔剖破〕われさく。○〔蔡邕〕「白-骨ㄧㄧ」。
〔傷破〕そこなひやぶる。○〔謝靈運〕「昔隴西ㄧㄧ」。
〔裁破〕たちやぶる。○〔元稹〕「縫-綴難レ成ㄧㄧ易」。
〔剪破〕切りわる。○〔裴說〕「同レ刀ㄧㄧ澄-江一色一」。
〔戕破〕前に同じ。○〔謝宗〕「風-驄ㄧㄧ湘-烟澁」。
〔撲破〕打ちやぶる。○〔僧齊己〕「到-頭須二ㄧㄧ一」。
〔脆破〕もろくやぶる。○〔司馬光〕「衣不レ離レ身成二ㄧㄧ一」。
〔綻破〕ほころびてやぶる。○〔梅堯臣〕「恐二衣或ㄧㄧ一」。
〔說破〕いひひらきをなすこと。○〔白玉與〕「活-計ㄧㄧ君ㄧㄧ」。「鞋-無二覓處一」。
〔踏破〕足もてふみやぶる。○〔傳燈錄〕「ㄧ二ㄧ鐵-鞋一」。
〔如破〕物の勢はげしきにいふ語。○〔詩〕「不レ失二其馳一、舍レ矢ㄧレㄧ」。

【砙】ダ、子。女下切 [馬] 砙ㄧは、石の垂るゝ貌にいふ語。

【砵】ヒン。匹刃切 [震] いし（石）。

【砛】シン。之忍切 [軫] 石の重密に累積せるにいふ字。

【砙】カツ、ケチ。古札切 [黠] 小さき石、こいし。

六畫

【⿰石戎】ジウ、ニユ。而融切 [東] いし（石）。

【硂】セン。此緣切 [先] 銓に同じ。

【硃】シユ、ス。鍾輸切 [虞] 丹砂、あかすな。

【硋】イ、エ。隱豈切 [紙] 石の聲にいふ字。

【硄】クワウ、カウ。枯光切 [陽] ㊀石の聲にいふ字。㊁石の色の光澤あるもの。

【⿰石因】ゲン。吾甸切 [霰] 硯に同じ。

【硅】カク、キヤク。虎伯切 [陌] やぶる（破）、一說に、砉の字の譌り。

【硘】磓に同じ。

【⿰石朱】礨に同じ。

【⿰石臾】ユ。容朱切 [虞] 玉に次げる石。

【⿰石舟】シウ、シュ。之由切 [尤] いし（石）。

【⿰石兆】ケウ。苦皎切 [篠] カウ、口交切 [肴] 磽に同じ、やせた。

【⿰石兆】テウ、デウ。徒了切 [篠] 碎に同じ。

【⿰石夅】コウ、グ。胡公切 [東] 石の隕つる聲にいふ字。

【⿰石夸】クワ、ケ。枯瓜切 [麻]

いは、（礐-石）。

【确】カク、ギヤク。鄂格切 陌
礋--は、西方の獸の名。

【硆】礘に同じ。

【䂼】セン。蘇前切 先　ソン。蘇本切 阮
珗に同じ、玉に次げる石。

【硇】ダウ、ネウ。尼交切 肴
--砂は、藥石。――一に、磠に作る。

【𥑑】テン、デン。徒念切 豔
俗に笮と呼ぶもの、屋のつッかひぼう、つッぱり、（撐-柱）。

【砈】ダ、ナ。奴果切 哿
碟--は、石の貌にいふ語。

【硈】カツ、カチ。丘八切 黠
㊀かたし（確）。○〔爾註〕「--然堅-固」。㊁つく（突）。㊂石の貌にいふ字。

【䂬】キヨウ、古勇切 腫　キヨク。渠容切 冬
水邊の石。

【硉】ロツ、ロチ。盧沒切 月
㊀矻の字の條を見よ。㊁石を轉下す、まろばしおとす。○〔枚乘七發〕「上-擊下--」。

【硊】ギ。五委切 紙
磈--は、江の貌にいふ語、一說に、足曲がる。

【䂽】キ。居僞切 寘

石--は、江の名（宛陵の西の方に在り）。

【䂻】ガツ、ガチ。牙葛切 曷
石の貌にいふ字。

【硋】ガイ。牛代切 隊
礙に同じ。○〔列〕「雲-霧不レ--ニ其視一」。

【硌】ラク。歷各切 藥
㊀山上の大いなる石。○〔山海經〕「西-上-申之山無ニ草-木一而多ニ--石一」。㊁壯んなる貌にいふ字。○〔嵇康〕「磥-硌--、美-聲將レ興」。㊂玉に次げる石。㊃石の貌にいふ字、又、石の堅くして相入れざる貌にいふ字。○〔王逸〕「山-阜兮----」。
〔硌硌〕石のかたく相入れざる貌にいふ語。○〔王逸〕「山-阜兮--」。
〔砟硌〕石のかたち。○〔魏武帝〕「崔-嵬--」。

【磿】レキ、リヤク。郞狄切 錫
礫に同じ、こいし。

【硍】カン、ゲン。胡簡切 潸
石のこゑ、いしおと。

【硍】コン。苦恨切 願
㊀石に痕（あと）あるにいふ字（吳の俗語）。㊁石又は雷などの聲するにいふ字。

【硍】カン、ケン。居閑切 刪
鐘の高き聲にいふ字。

【硣】カウ、ケウ。丘交切 肴
--磝は、城の名。

【硎】ケイ、ギヤウ。奚經切 青
㊀といし（砥-石）。○〔莊〕「刀-刃若ニ新發ニ於--一」。㊁谷の名。○〔尚書序、疏〕「始-皇令ニ冬-月種ニ瓜於驪-山--谷之中溫-處一」。

【硎】カウ、キヤウ。客庚切 庚
阬に同じ。○〔左思〕「左稱ニ巒-崎一、右號ニ臨--一」。

【䂮】リヤク、ラク。力灼切 藥
㊀みがく（磨）。㊁さし（利）。

【研】ゲン。倪堅切 先
㊀礲磨す、する、とぐ、みがく。○〔墨經〕「直--爲レ上、直--乃見ニ眞-色一」。㊁審かに究む、きはむ。○〔易〕「能--ニ諸-侯之慮一」。
〔精研〕くはしく究む。○〔後漢〕「--ニ--六-經一」。
〔鑽研〕みがくこと。○〔後漢〕「君-子之道、----勿レ替」。
〔沉研〕深く究む。○〔晉〕「--ニ--書-册一」。
〔窮研〕どこまでも深く究む。○〔陳〕「莫レ不下--ニ--旨-奧一、遍中探墳-典上」。
〔攻研〕みがき究む。○〔王建〕「兄-弟相--」。

【研】ゲン。倪甸切 霰
硯に同じ、すゞり、いし、すゞり。○〔郭璞〕「綠-苔鬖ニ髿乎--上一」。
〔竹研〕たけにて作りたる硯のこと。○〔硯譜〕「廣-南有ニ----一以レ--爲レ--」。
〔圓研〕まるがたのすゞり。○〔雲林石譜〕「先-子頃

【硐】トウ、ヅ。徒東切 東
みがく（磨）。

【硐】トウ、ヅ。杜孔切 董

鏓--は、刀を以て竹の節を通じて笛に爲ること。○〔馬融〕「鏓--隤-墜」。

【矸】オ、ウ。於故切 遇
いしうち（䃰）。

【𥑢】カウ、キヤウ。口庚切 庚
石の聲にいふ字。

【𥐿】ヘキ、ヒヤク。普擊切 錫
いかづち（霆）。

【硑】砰に同じ。

七畫

【硜】カウ、キヤウ。丘耕切 庚
㊀石の聲にいふ字。○〔史〕「石-聲--、--以立レ別」。㊁小人の貌にいふ字。○〔論〕「----然小-人哉」。

【硝】セウ。先彫切 蕭
固體をなす一種の藥。○〔正字通〕「--有ニ七-種一」。
〔芒硝〕くすりの名。○〔本草〕「----生ニ于朴-硝一」。
〔英硝〕前に同じ。○〔本草〕「又有ニ----者一、其狀若ニ白-石-英一、作ニ四-五-棱一」。
〔川硝〕前に同じ。○〔本草〕「硝有ニ三-品一、生ニ西-蜀一者、俗呼ニ----一、最勝、生ニ河-東一者、俗呼ニ鹽-硝一、次レ之、生ニ河-北青-齊一者、俗呼ニ土-硝一」。
〔甜硝〕前に同じ。○〔本草〕「取ニ芒-硝英-硝一、再以ニ蘿-蔔一煎-鍊、去ニ鹹-味一、即爲ニ----一」。

【硝】セウ。七肖切 嘯
石の堅き貌にいふ字。

【硓】ラウ、ロウ。郞刀切 豪
石の器。

【硞】カク、コク。克角切 覺 石の聲にいふ字。

【硞】カク、キヤク。克革切 陌 水石に激し峻險にして平かならざる貌にいふ字。○〔郭璞〕「磍——礐-礭」。

【硞】コク。枯沃切 沃 石の貌にいふ字。

【⿰石孚】フウ、フ。披尤切 尤 破るゝ聲にいふ字。

【⿰石剌】ラフ、ロフ。盧合切 合 いし、(石)。

【硟】セン。尺戰切 先 繒を打つに用ふる石、きぬた。

【硠】ラウ。魯堂切 陽 石の聲にいふ字。○〔司馬相如〕「礧-石相擊——礚-々」。〔雷硠〕大いなる聲にいふ語。○〔左思〕「拉-擸——」。〔磅硠〕前條に同じ。○〔張衡〕「伐二河-鼓——一」。

【硠】ラウ。里黨切 養 かたし、(堅)。

【硠】ラウ。郎宕切 漾 硫の字を見よ。

【⿰石兌】エイ、エ。愈芮切 霽 磨ぎて消えしむ、さぎけす。

【硃】サン、ソン。桑感切 感 碎けたる石、くだけいし。

【硡】クワウ、キヤウ。火宏切 庚 石の落つる聲にいふ字。○〔潘岳〕「鼓-鞞——隱以砰-磕」。

【⿰石足】シユク、ソク。初六切 屋 小さき石、こいし。

【硣】カウ、ケウ。虛交切 肴 —-磟は、山の勢にいふ語。

【⿰石尾】ビ、ミ。武斐切 尾 礫——は、みがく、(磨)。

【硤】カフ、ケフ。轄夾切 洽 —-石は、州の名。

【⿰石甫】フ、ホ。方矩切 麌 —-碵は、ひきうす、(磑)。

【⿰石坐】サ、ザ。取果切 哿 碎けたる石、くだけいし。

【⿰石坐】サ、セ。叉瓦切 馬 好き雌黃、しわう。

【硥】バウ、モウ。武項切 講 石の貌にいふ字。

【硦】ラク。盧獲切 藥 硠——は、石の聲にいふ語。

【硦】ロウ、ル。盧貢切 送 あな、(穴)。

【硁】カウ、キヤウ。丘耕切 庚 さいし、(磨-石)。

【⿰石矣】シ、ジ。牀矢切 紙 石の墮つる聲にいふ字。

【硧】ヨウ、ユ。尹竦切 腫 ❶さいし、(磨-石)。❷硐に同じ。

【砊】カウ。口浪切 漾 礚——は、高下ありて平かならざる貌にいふ語。

【硨】シヤ、セ。昌遮切 麻 —-磲は、玉に次ぐ寶石しやこ。○〔玄中記〕「—-渠出二天-竺國一」。

【硩】テツ、テチ。敕列切 屑 あばく、(挑-摘)。

【硩】テキ、チヤク。大歷切 錫 石の中の火。

【硪】ガ。五何切 歌 いはほ、(石-巖)。

【硪】ガ。五可切 哿 砐の字を見よ。

【硫】リウ、ル。力求切 尤 一種の藥、ゆのはな。○〔正字通〕「青-—不レ佳」。

【硬】ガウ、ギヤウ。魚孟切 敬 ❶かたし、(堅-牢)、つよし、(强)。○〔杜甫〕「書貴二瘦——方通一レ神」。❷—-黃は、唐紙の名。○〔蘇軾〕「—-黃小字臨二黃-庭一」。

【硭】バウ、マウ。武方切 陽 —-硝は、藥の名。

【硭】バウ、マウ。謨郎切 陽 碭——は、山の名。

【确】カク、コク。轄覺切 覺 ❶石の多き貌にいふ字、又、其の地。○〔韓愈〕「山-石犖-—行-徑微」。❷堅く正しきにいふ字。○〔後漢〕「指二切時-要一言辯而—」。❸其の實を檢す、しらぶ。○〔後漢〕「不三復質二——共過一」。❹角に同じ、きそふ、くらぶ。○〔漢〕「數與レ虜—」。

【硯】ゲン。倪甸切 霰 墨を研る具、すゞり、すゞりいし。○〔文房四譜〕「篆曰、帝-鴻-氏—」。

〔筆硯〕ふでとすゞりと、即ち、文字上の事にたづさはるにいふ語。○〔後漢〕「安能久事二——一乎」。

〔鐵硯〕黑がねもて作りたるすゞり。○〔五〕「乃鑄二——一以示レ人」。

〔捧硯〕すゞりを手にさゝげ持つ。○〔撫遺〕「貴-妃——」。

〔琴硯〕ことゝすゞりと。○〔孟浩然〕「平-石藉二——一」。

〔呵硯〕すゞりを息もてあたゝむ。○〔洪希文〕「吟成——冰猶堅」。

〔石硯〕いしにて作りたるすゞり。○〔南〕「慈取二琴-——及孝子圖一而已」。

〔蚌硯〕貝にて作りたるすゞり。○〔南〕蚌-盤——白-象-牙筆」。

〔瘞硯〕すゞりを土中に埋藏す。○〔春明退朝錄〕「書成—二北——一」。

〔洮硯〕臨洮より出づるすゞり、最も貴重なるもの。○〔洞天清錄〕「無レ知レ有二——一、然目所レ未レ覩」。

〔雙硯〕二つのすゞり。○〔陸游〕「一一殊朱黄ニ」。
〔陶硯〕すゑものもて作りたるすゞり。○〔硯史〕「相州士人、自製ニ一一ニ」。「一輕氷散」。
〔拂硯〕すゞりの塵をはらひ清む。○〔李商隱〕「一」
〔寒硯〕つめたきすゞり。○〔鄭谷〕「一一旋生ㇾ澌」。
〔冷硯〕前に同じ。○〔蘇軾〕「寒窓一一氷生ㇾ水」。
〔凍硯〕こほりたるすゞり。○〔僧尚顏〕「一一向ㇾ陽呵」。「一ニ」。
〔巨硯〕大いなるすゞり。○〔沈遼〕「追琢爲ニ一一生ニ明珠ニ」。「筆光ニ」。
〔枯硯〕つかひからしたるすゞり。○〔陳與義〕「一一
〔几硯〕つくゑとすゞりと。○〔楊萬里〕「一一生ニ
〔滿硯〕すゞりに盈つ。○〔方回〕「落花一ㇾ一痛磨ㇾ墨ニ」。

【硯】ケン。古典切 銑
うるほへるいし、（濡石）。

【𥓓】サ、セ。師加切 麻 サ。千可切 哿 千臥切 箇
一一石は、地の名。

【硱】コン。苦本切 阮
一一碖は、石の落つる貌にいふ語。

【砲】エキ、ヤク。伊昔切 陌
地の名。

【硍】ゲン。五堅切 先
かんがふ、（考）。

【硴】クワ、ゲ。何瓦切 馬
聲にいふ字。

八畫

【硾】クワイ、ケ。公懷切 佳
㊀石の貌にいふ字。㊁くだく、（碎）。

【硯】研に同じ。

【碍】ギヤク、ガク。逆約切 藥
㊀一一碃は、大いなる屑の貌にいふ語。㊁ひきうす、（磑）。

【硹】シウ、ス。息弓切 東
地の名。

【碌】タク、トク。竹角切 覺
うつ、（擊）。

【碱】クワク、キヤク。古獲切 陌
石を擊ち破る、わる。

【硻】カウ、キヤウ。丘耕切 庚 苦杏切 梗
かたし、（堅）又、こはし、（剛）。

【碋】サク、シヤク。色窄切 陌
碎け石の隕つる聲にいふ字。

【硼】ハウ、ヒヤウ。披耕切 庚
㊀石の名、或は、磞に作る。㊁一一砂は、藥の名。

【碮】クワ、ワ。鄔果切 哿
砈の字の條を見よ。

【碞】エン。衣檢切 琰
山の巖の兩つ相合ふにいふ字。

【碒】エン、オン。衣廉切 鹽
石の名。

【硾】ツ井、ヅ井。直類切 寘
志づむ、（鎭）、又、志む、（笮）。○〔呂氏春秋〕「一ㇾ之以ㇾ石」。

【碢】タ。都果切 哿
石の貌にいふ字。

【碾】タウ、チヤウ。除更切 敬
㊀さぐ、（磨）。㊁ふさぐ、（塞）。

【碚】コウ、ク。苦紅切 東
㊀一一青は、藥の名。㊁石の落つる聲にいふ字。

【碀】サウ、シヤウ。鋤耕切 庚
㊀破るゝ聲にいふ字。㊁石の聲にいふ字。

【碁】棊に同じ。○〔揚雄〕「圍一一擊劍反自眩刑」。

【碂】ソウ、ス。子宋切 宋
くだく、（碎）。

【碂】ソウ、ス。才紅切 東
石の聲にいふ字。

【碡】トク。冬毒切 沃
落つる石。

【碉】テウ、デウ。徒了切 篠
磽一一は、石の名。

【硴】ライ。里亥切 賄
さぐ、（磨）。

【碃】セイ シヤウ。千定切 徑
いし、（石）。

【碄】リン。犂針切 侵
深き貌にいふ字、ふかし。○〔張衡〕「漂ニ通川之一一ニ」。

【碃】タフ、ドフ。達合切 合
舂きやみて復擣くにいふ字、うすつく、一說に、臼を設け脚をもてきねのえを踏みて米を舂くにいふ字。

【碊】サイ、セ。取內切 隊
ひきうす、（磑）。

【碊】サイ、セ。楚懷切 佳
みがく、（瓹）。

【碶】硨の本字。

【碅】キン。區倫切 眞
一一碕は、石の危き貌にいふ語。

【碆】ハ。逋禾切 歌
弋鏃となすべき石、やじりいし、又、石の弋鏃、やじり。○〔史〕「一一ニ新繳ニ」。

【碌】タイ、テイ。待戴切 隊
埭に同じ、水をせく、（壅）。

【碇】矴に同じ、いかり。○〔唐〕「蕃舶泊步有ニ下ㇾ一稅ニ」。

【碟】セフ。疾葉切 葉
礏一一は、山の連屬せる貌にいふ語。

【碏】サク、ソク。測角切 覺
いし、（石）。

㊂石腒下す、まろぶ、又、其聲にいふ字。

【碉】テウ。都聊切 [蕭]
いはや（石室）。

【硟】セン。財仙切 [先]
㊀濺に同じ。㊁さか（阪）。

【碊】サン、ゼン。仕限切 [潸]
かたよる（岐）。

【碋】カ、ガ。下可切 [哿]
碋𥖁━━は、山の貌にいふ語。

【碌】ロク。盧谷切 [屋]
石の貌にいふ字。

【碌】ラク、ロク。力角切 [覺]
━礫は、石地の平かならざるを。

【碌】リヨク、ロク。龍玉切 [沃]
㊀石の青き色、あを。㊁人に隨從する貌にいふ字。○[史]「九‐卿━━奉ニ其官ー」。「玉」。㊂少き貌にいふ字。○[老]「━━如ㇾ

【碍】俗の礙の字。

【碎】サイ、セ。蘇對切 [隊]
㊀くだく、わる。
（い）こまかに破る、こはし散らす。○[列]「━ㇾ之之怒」。
（ろ）こまかに破る、こはれ散る○[史]「臣頭與ㇾ璧倶━ニ於柱ー」。
㊁くだけたること、こまかきこと。○[文中子]「其文━」。
㊂くだけたるきれ、細片、こな、くづ。○[漢]「米‐鹽靡‐密初若ニ煩━━ー」。

（破碎）やぶれくだく。○[史]「盡━ニ━其家ー」。
（敗碎）前に同じ。○[禮、疏]「則━━不ㇾ直」。
（細碎）こまかなること。○[金]「卿等所ㇾ斷、皆━━事」。
（殞碎）いのちをすつ。○[王昌齡]「辟‐音期ニ━━」。「━」。
（雜碎）こまかきもの。○[後漢]「百‐家━━」。
（鄙碎）いやしくこまかし。○[北]「所ㇾ著文章━━無ニ大‐體ー」。「━」。
（苛碎）きびしくこまかなり。○[晉]「帝蠲除━━」。
（摧碎）くだく。○[魏]「所ㇾ値皆━━」。
（毀碎）前に同じ。○[謝靈運]「雋龜玉之━━」。
（粉碎）こなごなにくだく。○[晉]「數日果震ㇾ柏━━」。
（齏碎）前に同じ。○[易林]「━━無ㇾ處」。「滅」。
（零碎）おちくだく。○[白居易]「雪花━━逐ㇾ年」
（小碎）こまか。○[元稹]「━━詩篇取次書」。
（紊碎）みだれくだく。○[水經、註]「文字━━」。
（飛碎）とばしくだくこと。○[劉楨]「應ㇾ弦━━」。
（碎碎）こまかなる貌にいふ語。○[五燈會元]「再‐三項‐々━━」。
（槌碎）うちくだく。○[李白]「我且爲ㇾ君━ニ━「黃鶴樓」」。
（璺碎）前に同じ。○[何夢桂詩]「━ニ━缺壺ニ歌不ㇾ盡」。「白雲堆」。
（踏碎）足にてふみくだく。○[陸游]「青鞋━━」
（蹴碎）前に同じ。○[戴表元]「馬蹄━━路西茁」。
（剪碎）さきわる。○[曹松]「━ニ━琅玕ニ意有ㇾ餘」。
（搖碎）うごかしてくだく。○[高士談]「東風━━翠‐蘋影」。

【𥔲】ア、エ。於加切 [麻]
磑━━は、平かならざる貌にいふ語。○[郭璞]「玄‐礪磈‐磥而碨━━」。

【碯】カン、コン。苦紺切 [勘]
磡に同じ、嵓崖の下、きしした、がけもと。

【碯】カン、ケン。乎韽切 [陷]
石の名。

【碏】シヤク、サク。七約切 [藥]
㊀つゝしむ（敬）。㊁石の[illegible]色なるもの。

【碏】セキ、シヤク。思積切 [陌]
さまたぐ（礙）。

【碐】リヨウ。閭承切　ロウ。盧登切 [蒸]
石の貌にいふ字。

【碑】ヒ。逋眉切 [支]
㊀竪立したる石、たちいし。○[禮]「君牽ㇾ牲既入ニ廟‐門ー麗ニ於━ー」。
㊁椁の前後の四角に樹つるもの、形はたていしの如くにて下に轆轤を設け紼を以て棺にくゝりつけ棺を共に引くの定めなりき、王莽の時より其の面に其の葬らるゝ人の功德を記述することとなれり。○[禮]「公‐室視ニ豐━ー」。
㊂文字を記したるたちいし、いしぶみ。○[初學記]「━以悲ニ往‐事ー也、今宮‐室廟‐塔墓‐隧之碣‐文鐫ニ於石ー皆曰ㇾ━」。
（苔碑）こけのむしたるたていし。○[張正見]「山‐雨濕ニ━━ー」。
（樹碑）たていしをたつ。○[北]「━ㇾ━以紀ㇾ德焉」。
（撰碑）いしぶみをつくる。○[聖宋撰遺]「余沂━━摎ニ潤筆ニ百‐千ー」。「落卧ニ秋‐風ー」。
（斷碑）われたるたていし。○[黃庭堅]「━━零‐落卧ニ秋‐風ー」。
（頑碑）かたき石碑。○[楊萬里]「競磨ニ濃‐墨ー打ニ━━ー」。
（舊碑）ふるきいしぶみ。○[高啓]「無‐限花‐宮沒━━」。

【碑】俗の碑の字。

【䃂】コン。古本切 [阮]
㊀ひゞの入りたる鐘の聲にいふ字。○[周]「高聲━」。

【碒】ギン、ゴン。魚音切 [侵]
嶔━は、深く且つ險しくして連なり延ぶる貌にいふ語。○[左思]「嶔ニ━乎數‐州之閒ー」。

【碨】タイ、テ。都內切 [隊]
碓に同じ。

【碓】タイ、テ。都內切 [隊]
物を入れて舂く具、ふみうす、からうす。○[桓譚新論]「宓‐犧制ニ杵‐臼之利ー、後‐世加ㇾ巧借ㇾ身、踐ㇾ━而利十‐倍」。
（水碓）水の力をもてつくうす。○[魏]「使下治ニ屋‐宅ー作中━━上」。
（舂碓）つきうす。○[南]「於ニ石‐頭ー立ニ大━━ー」。
（山碓）やまにかけたるうす。○[岑參]「━━水能舂」。
（踏碓）うすを足にふみてつく。○[陸游]「━ㇾ━舂ニ白‐玉ー」。

【碓】タイ、テ。都回切 [灰]
きし（岸）。

【碔】ブ、ム。罔甫切 [麌]
珷に同じ。

【碕】キ、ギ。渠宜切 [支]
㊀曲岸、まがれるきし。○[揚雄]「探ㇾ巖排ㇾ━」。㊁長邊、ながきほとり。○[郭璞]「━━巓爲ㇾ之嵒‐嶹」。

【碕】キ。去奇切 [支]
いしばし（石杠）。

【碕】キ、墟彼切 [紙]

石の貌にいふ字。○〔楚辭〕「嶔崟——礒」。

【碖】ロン。魯本切 阮
碖の字の條を見よ。

【碖】ロン。盧囷切 願
石の貌にいふ字。

【碖】リン。龍春切 眞
いし（石）。

【硷】シン。初朕切 寢
あしきもの（毒）。

九畫

【𥓓】バウ、モウ。謨袍切 豪
前高く後下き丘。

【碝】ゼン、ナン。而兗切 銑
瑌に同じ、石の玉に次ぐもの。○〔司馬相如〕「——石碔玞」。

【𥓍】カイ。居諧切 佳
山の名、一説に、瑎に同じ、黑き石の玉に似たるもの。

【碞】ガン、ゲン、五咸切 咸
巖に同じ。○〔書〕「用顧二畏于民——一」。
〔衆碞〕おほくの險阻。○〔王惲〕「官程畏衆——」。

【碟】セツ、ゼチ。食列切 屑
皮を治むるにいふ字。

【磫】ソウ、ス。䄻叢切 東
いし（石）。

【磲】キヨ、ゴ。强魚切 魚
磲に同じ、硨の字の條を見るべし。

【碡】トク、ドク。徒谷切 屋
碌——は、田を磨り平かならしむる農具。

【磜】
俗の砦の字。

【䃏】シフ。測入切 緝
石の貌にいふ字。

【碈】
砇に同じ、美しき石。○〔禮〕「君子貴レ玉而賤レ——」。

【砠】ショ、ソ。子與切 語　セキ、シャク。資昔切 陌
㊀硧——は、場外の名。㊁ひきうす（磑）。

【碕】
硊に同じ。

【碣】ケツ、ゲチ。渠謁切 屑
㊀特立せる石、たちいし。○〔張衡〕「若二雙——之相望一」。
㊁山の特立せる貌にいふ字。○〔揚雄〕「——以二崇山一」。
㊂石碑、いしぶみ。○〔柳宗元〕「賦頌碑——文」。
㊃鳥を形容するにいふ字。○〔郭璞〕「往來勃——」。
〔峻碣〕たかき石碑。○〔陶弘景〕「表二茲——一」。
〔碑碣〕たていし。○〔王回〕「予嘗閲二古鐘鼎——之文一」。
〔墓碣〕はかにたてたる石。○〔司馬光〕「凡當時王公大人廟碑——、靡レ不レ請焉」。
〔臥碣〕よこに仆れたる石碑。○〔蘇軾〕「山頭——弔二孤冢一」。
〔剝碣〕すりつぶれたる石碑。○〔孔武仲〕「斷碑——還傷レ神」。「猶蝌蚪」。
〔苔碣〕こけのむしたるたていし。○〔宋濂〕「——
〔神道碣〕廟墓に入るみちにたてたる石碑。○〔白居易〕「不レ願レ作二人家墓前——一」。

【碣】カツ、カチ。丘葛切 曷
石の貌にいふ字。

【碣】アツ、エチ。乙轄切 黠
——碣は、勁く怒る貌にいふ語。

【䃔】クワウ、キヤウ。呼宏切 庚
訇に同じ、石の聲にいふ字。

【碤】エイ、ヤウ。於驚切 庚
文采ある石。

【䃱】ヒヨク、ヒキ。普逼切 職
石の落つるにいふ字、おつ。

【碥】ヘン。方典切 銑
㊀車に登る時の履み石、ふみいし。㊁水疾くして厓傾くにいふ字。

【碦】カク、キヤク。乞格切 陌
石の堅きにいふ字。

【𥔮】コウ。居鄧切 徑
石の相連らなる貌にいふ字。

【碧】ヘキ、ヒヤク。兵亦切 陌
㊀色青く美なる石。○〔山海經〕「高山多二青——一」。
㊁深き青色、こきあをいろ、あをみどり。○〔永嘉郡記〕「可レ染レ——」。

〔瑤碧〕玉の屬。○〔山海經〕「章莪之山無二草木一、多二——一」。「多二——一」。
〔水碧〕水玉のたぐひ。○〔山海經〕「[illegible]山無二草木一
〔紺碧〕黑あをき色。○〔范成大〕「曉霧朝暾——烘」。「英」。
〔綠碧〕みどりなる玉の類。○〔南都賦〕「——紫
〔縹碧〕はなだ色の玉の類。○〔吳都賦〕「——素玉」。「——」。
〔空碧〕そらのあをき色。○〔李白〕「天光搖二——
〔丹碧〕赤き色とあをき色と。○〔陳泰〕「晶熒——飛二甍閣一」。
〔青碧〕あをき玉の類。○〔後漢〕「朱丹——」。
〔璇碧〕玉のたぐひ。○〔宋〕「——照二龍津一」。
〔深碧〕濃きみどりの色。○〔名山記〕「其色——」。
〔寸碧〕僅かなるみどりの色。○〔韓愈〕「遙岑出二——一」。「——停二闌角一」。
〔翠碧〕鳥の名、[illegible]の小なるもの。○〔陸游〕「——
〔瀲碧〕みどりの色を動かす。○〔故都宮殿記〕「——[illegible]池一」。「飛二——一」。
〔斷碧〕きれぎれなるみどりの色。○〔范成大〕「行雲
〔漾碧〕あをき色をたゞよはす。○〔王勃〕「遊魚——レ——」。「——」。
〔涵碧〕あをき色をひたす。○〔朱熹〕「一水方——レ
〔鏤碧〕ちりばめたる玉の類のもの。○〔梁元帝〕「——獻二周人一」。
〔湛碧〕青き色を滿たす。○〔吳激〕「——寒無レ痕」。
〔澄碧〕清くみどりなる水の色。○〔李白〕「君去滄江望二——一」。「涼蒸一」。
〔散碧〕みどりの色をあらく。○〔李端〕「——レ——出二
〔遙碧〕遠きあなたのあをそら。○〔劉禹錫〕「飛去入二——一」。
〔虛碧〕あをき水のこと。○〔倪瓚〕「戲風動二——一」。
〔穹碧〕前に同じ。○〔趙蕃〕「轉二低影於——一」。
〔灕碧〕竹。○〔韓愈〕「——遠輸委」。
〔鋪碧〕みどりの色を布きつむ。○〔白居易〕「——レ——水平流」。「凝レ[illegible]」。
〔曠碧〕廣くしてあをし。○〔沈亞之〕「天——以
〔嫩碧〕若葉のあをきこと。○〔崔涯〕「——淺輕態」。
〔蔥碧〕あをきこと。○〔王叡〕「色包二——一薦琅玕」。
〔藍碧〕前に同じ。○〔李洸〕「浮動波濤挑二——一」。

〔滓碧〕清くしてあをし。○〔梅堯臣〕「——如磨銅」。
〔湛碧〕すべてあをきこと。○〔周邦〕「——萬里」。
〔老碧〕濃くなりたるみどりの色。○〔李咸用〕「嫩緑與——」。
〔遠碧〕前に同じ。○〔蘇軾〕「飛鳥投——」。
〔微碧〕わづかなる緑の色。○〔張準〕「圭峯露——」。
〔變碧〕あをき色にかはる。○〔鄧文原〕「海變桑田蓮——」。
〔矮碧〕さゝやかにして緑なり。○〔陶安〕「——千年松」。

【碒】碶に同じ。

【碨】ワイ、エ。烏賄切 賄
㊀石の貌にいふ字。㊁——碰は、平かならざるにいふ語。

【碨】ワイ、エ。烏同切 灰
㊀石の平かならざるにいふ字。㊁——柍は、聲の競ひ奮ふ貌にいふ語。○〔馬融〕「嗔菌——柍」。

【𥓵】デツ、チチ。乃結切 屑
礬石の別名、みやうざん。

【碩】セキ、ジャク。常隻切 陌
充實して大いなり、おほいなり。○〔詩〕「——人其頎」。
〔孔碩〕いたくおほいなること。○〔詩〕「爲レ俎——」。
〔博碩〕おほいなること。○〔左〕「奉レ牲以告曰、——肥腯」。
〔豐碩〕肉のゆたかにありておほいなること。○〔舊唐〕「后辯惠——」。
〔肥碩〕前に同じ。○〔唐〕「牧養——」。
〔耆碩〕年齡のたけたること。○〔唐〕「以二鈞——長・背一、顧レ不レ任二職谷一」。
〔瑰碩〕すぐれておほいなること。○〔宋〕「保吉姿貌——」。

【碪】砧に同じ。

【碪】ガン、ゴン。五感切 感
——碍は、山の形にいふ語。○〔左思〕「恆碣——二碍於青霄一」。

【碫】タン。丁貫切 翰
鍛に同じ。

【碬】カ、ゲ。何加切 麻
㊀さいし（厲石）。㊁磄——は、石地の高下あるを、たかひく。

【碭】タウ、ダウ。大浪切 漾　持朗切 養　徒郎切 陽
㊀文采ある石。○〔何晏〕「墉垣——基其光昭々」。㊁すぐ（過）。㊂ほしいまゝ（蕩）。○〔揚雄〕「回猋肆其——駭兮」。○〔莊〕「吞舟之魚——而失レ水」。
〔沆碭〕白氣の貌にいふ語。○〔漢〕「西顥——秋氣肅殺」。

【𥔲】シン。之人切 眞
いし（石）。

【𥔲】イン。伊眞切 眞
山の名。

【礈】タイ、デ。徒對切 隊
墜の本字、おつ、おとす。○〔漢〕「星——至レ地則石」。

【䃍】チュツ、ヂュツ。直律切 質
おつ（隕）。

【碮】テイ、ダイ。田黎切 齊
㊀きぬた、砧（砧）。㊁隄に同じ。

【䃎】タ、テ。竹下切 馬
——䃔は、石の垂るゝ貌にいふ語。

【碯】ダウ、ノウ。乃老切 皓
瑙に同じ。

【硄】クヮウ、キャウ。口觥切 庚
石の聲にいふ字。

【碲】テイ、ダイ。田黎切 齊
唐——は、いし（石）。

【䃤】セウ。先了切 篠
小さき石、こいし。

【砋】シ。照以切 紙
さいし（礪石）。

十畫

【碵】サ。損果切 哿
小さき石、こいし。

【確】カク、コク。克角切 覺
㊀かたし（堅）。○〔易〕「——乎其不レ可レ拔」。㊁つよし（剛）。○〔易〕「夫乾——然示二人易一矣」。
〔貞確〕たゞしく堅固なり。○〔陳〕「我心——」。
〔詳確〕あきらかにしてかたし。○〔唐〕「使二升退——二」。
〔延確〕すぐれてたゞしくたしかなること。○〔唐〕「入レ對——」。
〔端確〕たゞしきこと。○〔宋〕「京持論——」。
〔精確〕こまやかにしてかたし。○〔江總〕「心力——」。
〔堅確〕かたくたしかなり。○〔李東陽〕「其臣拜跪俱——」。

【碻】確に同じ。

【碼】バ、メ。莫下切 馬
瑪に同じ。

【碽】コウ、ク。古紅切 東
石を擊つ聲にいふ字。

【碾】俗の碾の字。

【磐】ハン、ヘン。補還切 刪
㊀石の文、あや。㊁石の鋪く貌にいふ字。

【䃗】ケン、ゲン。巨焉切 先
いしずゑ（礩）。

【䃣】クワイ、エ。胡對切 隊
石の貌にいふ字。

【䃒】カク、ギャク。下革切 陌
石地の惡しきこと。

【䃓】コウ、ク。居候切 宥
㊀古昔の刑罰、いしこづめ。㊁ふみいし（礀）。㊂いしだたみ（甃）。㊃石を投げ下す。

【䃓】コウ、ク。居候切 尤
かたし（堅）。

【䃔】コウ、グ。戸冬切 冬　胡宋切 宋　キウ、ク。丘弓切 東
——礐は、石の落つる聲にいふ語。

【磆】ソツ、ソチ。蘇骨切 月
みがく（磨）、一說に、石を碎く、くだく。

【碥】センン。式戰切 [霰] 玉を攻(をさ)むるに用ふる石、みがきいし。

【磓】硑に同じ。

【礐】碎に同じ。

【礐】ラク、ロク。呂角切 [覺] ——確は、石の相うつ聲にいふ語。

【磁】シ、ジ。才資切 [支] 鐵を汲引する氣を有する石、ぢしやく。○[曹植]「——石引レ鐵於レ今不レ連」。

【磃】シ。相支切 [支] 館の名。

【碮】テイ、ダイ。田黎切 [齊] 磃——は、あやしきいし(怪-石)。

【磄】タウ、ダウ。徒郎切 [陽] ㊀前に同じ。㊁——庨は、いし(石)。

【磅】ハウ。普郎切 [陽] ハウ、ヒヤウ。披庚切 [庚] ㊀石の落つる聲にいふ字。○[司馬相如]「砰——訇礚」。㊁——磄山は、山の名。㊂盤礴す、はびこる。○[馬融]「駢-田——唐」。

【石咢】ガク。逆各切 [藥] 石の危き貌にいふ字。

【石烏】ヲ、安古切 [麌] ウ。哀都切 [虞] ㊀塢、隖に同じ、こゞて(小-障)、一說に、ひくきしろ(庳-城)。㊁山の阿、くま。

【磆】クワツ、グワチ。戸八切 [黠] ——石は、藥の名。

【磆】カツ、カチ。丘葛切 [曷] 器に爲るべき石。

【磇】ヘイ。篇迷切 [齊] ——霜は、石藥。

【石剝】ハク、ホク。北角切 [覺] 石——は、きし(岸)。

【石剝】サク、ソク。測角切 [覺] こいし(礫)。

【磈】井。於鬼切 [尾] ㊀山の名。㊁神の名。㊂石の貌にいふ字、又、あやふし(危)。○[成公綏]「山-嶽磊——」。

【磈】クワイ、ケ。口猥切 [賄] ㊀いし(石)。○[戴表元]「嵌-巖大——」。㊁石の貌にいふ字。

【磉】サウ。寫朗切 [養] 柱下の石、いしずゑ。

【磊】ライ、レ。落猥切 [賄] ㊀衆多の石の貌にいふ字。○[楚辭]「石——兮葛蔓-々」。㊁石のかさなりて大いなる貌にいふ字。○[司馬相如]「水-玉——砢」。㊂壯大なる貌にいふ字。○[世說]「——砢而英多」。

〔磊々〕おほくの石の貌にいふ語、人物などの細事にかゝはらざる氣風あるにもいふ。○[晉]「大-丈-夫行レ事、當ニ——落-々如ニ日-月皎-然ニ」。
〔碨磊〕おほくの石のたひらかならざる貌にいふ語。○[海賦]「——山-壟」。
〔磈磊〕前に同じ、又、轉じて人のこゝろの不平なるにもいふ。○[元好問]「何物能澆ニ——乎」。

【磋】サ。倉何切 [歌] 蘿臥切 [箇] みがく(磨-治)。○[詩]「如レ切如レ—」。

【磌】テン、デン。亭年切 [先] シン。之人切 [眞] ㊀石の落つる聲にいふ字。○[公羊]「霣-石聞ニ——然ニ」。㊁柱の下の石、いしずゑ。○[班固]「雕ニ玉——ニ居レ楹」。

【磍】カツ、ガチ。胡八切 [黠] ㊀碣——は、目を搖かし舌を吐くを、盛んに怒るを。○[漢]「建ニ碣——之虡ニ」。㊁はぐ(剝)。

【磍】アツ、エチ。乙轄切 [黠] ——磤は、石地の平かならざるを。

【磎】ケイ、ガイ。苦奚切 [齊] 谿に同じ、たに。○[馬融]「臨ニ萬-仞之石——ニ」。

【磏】レン、ロン。力鹽切 [鹽] ㊀あらと(厲-石)、一說に、赤き色。㊁刻意す、心を苦しむ。○[韓詩外傳]「仁-道有レ四—爲レ下仁—則其德不レ厚」。㊂古文の廉の字。

【磐】ハン、バン。蒲官切 [寒] ㊀いはほ(大-石)。○[易]「鴻漸ニ于—ニ」。㊁廣大なる貌にいふ字。○[郭璞]「荊-門闕竦而—礴」。㊂—牙は、相連なり結ぶを。○[後漢]「盜-賊羣起—牙連-歲」。

【磑】ガイ、ゲ。魚對切 [隊] ギ、ゲ。魚衣切 キ、ケ。居希切 [微] 上下二つの石を合はせて其の相合ふ面に縱橫齒を刻み上の石を旋轉し中に入れたる物を碎きて粉となす器、ひきうす。○[陸游]「小——落ニ雪-花ニ」。

〔落磑〕ひきうすにいる。○[黃庭堅]「—レ—霏-々雪不レ如」。「霏-々」。
〔轉磑〕ひきうすをまはす。○[陸游]「雨-前—レ—雪」
〔茶磑〕ちやをひくうす。○[陸游]「——細-香供ニ隱-几ニ」。

【磑】グワイ、ゲ。魚回切 [灰] 高く積む、つむ。○[漢]「——郎-々」。

【磑】カイ。公哀切 ガイ。魚開切 [灰] かたし(堅)。○[張衡]「行ニ積-冰之——ニ」。

【磑】バ、マ。蒙破切 [箇] みがく(磨)。○[揚雄]「陰-陽相——物皆雕-離」。

【磒】隕に同じ、おつ。○[春秋]「——ニ石于宋ニ五」。

【磓】タイ、都回切 灰 ツヰ、傳追切 支
㈠聚まれる石。㈡石を投ず、いしをなぐ。

【磓】ツヰ、ヅヰ。直類切 寘
硾に同じ、うつ（擣）。○「木華」「五岳鼓舞而相—」。

【磔】タク、チヤク。陟格切 陌
㈠體を裂く、肉を剔く、戸を張る、はる、ひらく、さく、さく。○「禮」「—攘以畢二春氣一」。㈡體をひきさく刑、卽ち、車ざきなど。○「荀」「斬・斷枯—」。㈢戸を張りさらす刑、はりつけ。○「漢」「改レ—曰二棄市一」。㈣書法にて字の畫の右に下れるものの稱。○「崔瑗」「—憶レ昔以遲移」。㈤風を祭ること。○「爾註」「今俗當二大道中一—レ狗云以止レ風」。㈥物の聲にいふ字。○「蘇軾」「春山——鳴二春禽一」。
〔僵磔〕よこにたふしてきりさく。○「後漢」「乃—二市屍於夏城門一」。
〔轘磔〕車ざき。○「陳」「—二—形骸一」。
〔車磔〕前に同じ。○「孔叢子」「齊王行二——之刑一」。
〔離磔〕からだをさきはなすこと。○「唐」「后怒令レ—二—其尸一」「—」。
〔剟磔〕からだをきりさくこと。○「宋」「或斷斬—・—」。
〔鈍磔〕書法の語にて右のさがるをいふ。○「王羲之」「鈎則——」「磔二」。
〔分磔〕裂きわかつ。○「曾鞏」「腦・尾——垂二弓」。

【磕】カイ。丘蓋切 泰
兩つの石の相擊つ聲にいふ字、又、すべての石の聲にいふ字。○「張華」「八-音硼——」。
〔砰磕〕石の相打つ聲にいふ語。○「羽獵賦」「——聲若二雷霆一」。
〔硍磕〕前に同じ、又、雷の聲などに用ふる語。○「王逸」「雷霆兮——」。
〔硠磕〕前に同じ。○「張衡」「凌二驚雷之——一兮」。

【磖】ラフ、ロフ。落合切 合
—磔は、物を破る聲にいふ語。

十一畫

【磚】セン。職緣切 先
甎に同じ、かはら。○「後漢」「古者生レ女三日臥二之牀下一弄二之瓦一——二而齋告焉」。

【磚】タ、ダ。徒禾切 歌
圜き貌にいふ字。

【磛】サン、ゼン。鉏銜切 咸 セン、ゼン。慈染切 琰
山の險しき貌にいふ字、けはし。

【磛】サン、ゼン。士減切 豏
高峻なる貌にいふ字、たかし。

【磛】前に同じ。

【硻】硻に同じ、かたし。

【⿰石婁】ロウ、ル。郎口切 有
いし（石）。

【⿰石鹿】ロク。盧谷切 屋
いし（石）。

【磜】セイ、サイ。七計切 霽
砌に通じ用ふ、きざはしのみぎり。

【磝】カウ、ゲウ。五交切 肴
嶅に同じ、山の石の多きにいふ字。○「韓愈」「山——而相軋」。

【磞】ハウ、ヒヤウ。普耕切 庚
石を擊つ聲にいふ字。○「成公綏」「——硍震・隱」。

【⿰石族】ソク、ゾク。千木切 屋 サク、ソク。仕角切 覺
㈠⿰石族——は、石地の平かならざること。㈡鏃に通じ用ふ、やじり。○「李賀」「四尺角弓青石—」。

【⿰石康】カウ。岳岡切 陽
石の聲にいふ字。

【磟】リク、ロク。力竹切 ロク。盧谷切 屋
㈠—碡は、石輥ぶ、まろぶ、又、田を平かにする器。㈡䃙の字の條を見よ。

【⿰石國】クワク、カク。口穫切 藥
石の硬き聲にいふ字。

【磠】ロ、ル。籠五切 麌
すな（砂）。

【⿰石虘】シヤ、セ。七邪切 麻
いし（石）。

【碏】サク。倉各切 藥
さいし（厲石）。

【⿰石莫】バク、マク。末各切 藥
沙—は、廣漠たる砂地の原、すなはら。

【磡】カン、コン。苦紺切 勘

【磢】シヤウ、サウ。楚兩切 養
瓦石もて物を洗ふ、みがく。○「郭璞」「奔・溜之所二—錯一」。

【磣】シン、ソン。楚錦切 寢 サフ、ソフ。錯合切 合
物の沙に雜はるにいふ字、まじる。

【⿰石連】レン。力延切 先
鏈に同じ。

【⿱敢石】タン、トン。都敢切 感
石——は、藥の名、たんばん。

【⿰石虖】カ、ケ。呼嫁切 禡
石の裂くろにいふ字、いしさく。

【磤】イン、オン。倚謹切 吻
雷などの聲にいふ字。○「何晏」「聲-訇—其如レ震」。

【⿱殹石】エイ。烟奚切 齊
黑き色の美石。

【磥】磊に同じ。○「嵇康」「踸-踔——路」。

【⿰石郭】クワク、カク。光鑊切 藥
槨に同じ（蓋し古は石を用ひしならん故に石に从ふ）。

【⿱高石】碻に同じ。

【磦】ヘウ。卑遙切 蕭
山の峰の出づる貌にいふ字。

【磝】カウ、ケウ。口教切 㸚
石の平かならざるにいふ字。

【磧】セキ、シャク。七迹切 陌
㊀水渚の石多き處、かはら。○〔水經、註〕「偃-子-潭有二石ー一ー州一、長六-十-丈、廣十-八-丈」。
㊁すなはら、沙漠。○〔杜甫〕「今君渡二沙ーー一參-月斷二人-烟一」。
〔大磧〕大沙漠。○〔唐〕「其北皆ーーー也」。
〔廣磧〕ひろき沙はら。○〔諸葛亮〕「長山ーーー、足二以自備一」。
〔淺磧〕深からざる水渚。○〔崔子向〕「捨レ櫂行二ーーー一」。
〔石磧〕いしのあるかはら。○〔薛道衡〕「跳レ波鳴二ーーー一」。
〔細磧〕小石のかはら。○〔梁簡文帝〕「離-々ーー」。
〔錦磧〕美しき小石の水渚。○〔釋慧漂〕「銀-溪ーーー明」。
〔越磧〕沙漠を過ぎ行く。○〔狄仁傑〕「ーレー踰レ海、分レ兵防-守」。
〔窒磧〕障害となるもののなき河原。○〔王維〕「暮-雲ーーー時駈レ馬」。
〔枯磧〕荒れはてたる沙原のこと。○〔顧況〕「黄-沙ーー無二寸-草一」。
〔明磧〕廣き沙原。○〔曹松〕「日斜尋二ーーー一」。
〔幽磧〕遠き沙原。○〔陳毅〕「朔-雪沉二ーーー一」。

【磨】バ、マ。眉波切 歌
㊀みがく。
(い)すり治む、とぐ。○〔詩〕「白-圭之玷尚可レー」。
(ろ)修め成す。○〔揚雄〕「朋-友以ーレ之」。
㊁摩擦す、こする、する。○〔蘇軾〕「墨不レ許二人ー一」。
㊂すれ消ゆ。○〔韓愈〕「百-世不レー」。
〔琢磨〕うちみがく。○〔詩〕「如レー如レー」。
〔切磨〕きりみがく、朋友などの互に勵ましあふにいふ語。○〔宋〕「交相ーーー」。
〔瑩磨〕前に同じ。○〔高僧傳〕「ーーー將レ畢」。
〔研磨〕前に同じ。○〔梁武帝〕「ー二ー墨一以膳レ文」。
〔揩磨〕前に同じ。○〔桂海蟲魚志〕「ーーー去レ皮」。
〔濡磨〕すみなどをこくする。○〔洞天淸錄〕「必ー二ー墨-汁一」。
〔刮磨〕こする。○〔却掃編〕「ー二ー垢-蝕一」。
〔消磨〕けす。○〔歐陽修〕「萬-事ーー酒百-分」。
〔礱磨〕みがく。○〔韓愈〕「ー二ー乎事-業一」。
〔擺磨〕すりうごかす。○〔韓愈〕「ーーー出レ火」。
〔砥磨〕とぐこと、又、といしもてみがく。○〔鄭亞〕「ー二ー周-鈸一」。

【磨】バ、マ。模臥切 箇
いしうす、ひきうす、（石-磑）。○〔天文志〕「如二蟻旋レー一」。
〔馬磨〕うまの力もてひくうすのこと。○〔晉〕「ー自給」。
〔轉磨〕うすをまはすこと。○〔唐〕「盤如レーー」。○〔蜀〕「以二ーーー一」。
〔運磨〕前に同じ。○〔劉基〕「以レ之ーレー」。
〔水磨〕みづの力を使用するうすのこと。○〔宋〕「創二置ーーー一」。
〔茶磨〕ちやをひくてうす。○〔一統志〕「ーーー以二石-門山石一爲レ之」。
〔白磨〕うす。○〔蘇軾〕「却欲レ供二ーーー一」。
〔空磨〕からうす。○〔蘇轍〕「有レ類レ轉二ーーー一」。

【磩】セキ、シャク。倉歷切 錫
碶ーは、石の玉に次ぐもの。○〔班固〕「碶ー綵-緻」。

【磩】シュク、ソク。側六切 屋
いしずゑ、（礎）。

【礫】サウ、ゼウ。鋤交切 肴
石をかされて爲りたる巢。

【磪】サイ、ゼ。昨回切 灰
山の高く峻しき貌にいふ字。○〔嵇康〕「ー-嵬岑-嵓」。

【磪】サイ、セ。取猥切 賄
絲の大いなる貌にいふ字。

【磫】ショウ、シュ。將容切 冬
ー礭は、さいし、（礪）、一説に、石路。

【磬】ケイ、キヤウ。苦定切 徑
㊀玉又は石にて造りたる一種の樂器、即ち、八音の一にして拍ち鳴らすもの。○〔五經要義〕「ー立-秋之樂」。
㊁馬を馳す、はす。○〔詩〕「抑ー-控忌」。
㊂くびる、（縊）。○〔禮〕「ー二于甸-人一」。
㊃罄に通じ用ふ、盡く。○〔國〕「室如二縣ーー一」。

（磬の圖）

〔拚磬〕絞許す、あばきつぐ、又、事に激すること、いきどほること。
〔浮磬〕泗水の水涯に産する樂器に作るべき石にて水中にうかぶが如きさまに見ゆるを以て此の稱ありといふ。○〔書〕「泗-濱ーーー」。
〔玉磬〕たまにて作りたる樂器にてうちたゝき聲を發するもの。○〔書〕「拊二搏ーーー一」。
〔擊磬〕磬石をうちならす。○〔論〕「子ー二ー于衛一」。
〔砮磬〕やのねいしと音樂に用ふる石と。○〔書〕「厥貢璆鐵銀-鏤ーーー」。
〔鐘磬〕樂に用ふるつりがねと磬石と。○〔史〕「而君器-物ーー自-若」。
〔淸磬〕きよらかなる磬石のひゞき。○〔岑參〕「夜-來聞二ーーー一」。
〔遠磬〕はるか隔たりたる處にてうちならす磬石。○〔劉長卿〕「ーーー秋-山裏」。
〔梵磬〕佛寺にある石の樂器。○〔馬祖常〕「鶴馴看二ーーー一」。

【磬】ケイ、キヤウ。去挺切 迥
石を擊つ聲にいふ字。

【磸】シャク、サク。昌約切 藥
大いなる脣の貌にいふ字。

【磸】ギン、ゴン。擬引切 文
石の聲にいふ字。

【磐】シュク、ジュク。殊六切 屋
石の聲にいふ字。

【磍】カク、キヤク。呼麥切 陌
石の裂くる聲にいふ字。

十二畫

【礁】キヨ、コ。休居切 魚
石の貌にいふ字。

【磳】シン。沓林切 侵
㊀いし、（石）。
㊁いはさ、（石-門）。

【磯】キ、ケ。居希切 微
㊀水中の磧石、水の石に激する處、かはら、いそ。○〔晉〕「至二牛-渚ーー一」。
㊁激す。○〔孟〕「是不レ可レー也」。
㊂なづ、（摩）。
〔石磯〕いそのこと。○〔摭言〕「而叟已先坐二ーーー一矣」。
〔釣磯〕魚をつるべきいそのこと。○〔名勝志〕「麓有二ーーー一」。
〔苔磯〕こけのむしたるいそ。○〔趙嘏〕「宅-邊秋-水浸二ーーー一」。
〔漁磯〕すなどりすべきいそのこと。○〔李中〕「亂-蘚滑二ーーー一」。
〔釋磯〕いりえ。○〔王逢〕「遊-人裙-幄占二ーーー一」。

【礚】セン、ゼン。常演切 銑
墡に同じ、白き土。

【礟】ケツ、クヮチ。居月切 月

石を發く、あばく。

【磿】礪に同じ。

【磅】碎に同じ。

【⿰石景】礫に同じ。

【⿰石欽】キン、コン。去金切〔侵〕 嶔に同じ、山の高く險しきにいふ字。

【⿰石敢】カン、コン。古覽切〔感〕 ――密・模・末・膩は、大食國の酋長の名。

【⿰石斯】シ。息移切〔支〕 みがく、(磨)。

【⿰石爲】キ。虎委切〔紙〕 毀に同じ。○〔列〕「事有ニ破――一而有下舞ニ仁・義一者上」。

【磳】ソウ、ゾウ。作滕切〔蒸〕 サウ、ジヤウ。鋤耕切〔庚〕 石の貌にいふ字。○〔楚辭〕「硱――磈硊」。
(磳硊) 石の貌にいふ語。○〔招隱士〕「嶔・岑碕・礒兮――磈硊」。
(磅磳) 前に同じ。○〔孟郊〕「碕・岸斷ニ――一」。
(稜磳) 前に同じ。○〔元好問〕「――石・磴倚ニ高・梯一」。

【⿰石肅】シユク、ソク。息六切〔屋〕

【⿰石巢】サウ、セウ。先巧切〔巧〕 黑き砥石、といし。○〔山海經〕「京山有ニ玄――一」。

【磴】トウ。丁鄧切〔徑〕 ㊀石のある阪路、いしざか。○〔水經註〕「石――縈委若ニ羊腸一」。○〔孫綽〕「跨ニ穹・隆之懸――一」。㊁小水のかさ相益す。
(石磴) いはほのと。○〔范成大〕「瑤・屋仄ニ――一」。
(翠磴) みどりいろのいはほ。○〔江總〕「山斜――危」。「躡ニ危泉一」。
(複磴) かさなりあひたるいはほ。○〔王勃〕「――」
(鑿磴) いはほをほる。○〔李嶠〕「――日通レ溪」。
(苔磴) こけのむしたるいはほ。○〔孟浩然〕「――滑難レ歩」。
(蘚磴) 前に同じ。○〔陸游〕「――高攀不レ計レ程」。
(蘿磴) つるくさのからみたるいはほ。○〔姚鵠〕「――靜攀雲共通」。
(滑磴) なめらかなるいはほ。○〔蘇軾〕「――攀ニ秋・蔓一」。

【磴】トウ。都騰切〔蒸〕 石を益す。

【磵】澗に通じ用ふ、たに。

【磶】セキ、シヤク。思積切〔陌〕 いしずゑ、(礎)。○〔張衡〕「雕・楹玉――、繡・栭雲・楣」。

【磷】リン。離珍切〔眞〕 水の石間を流るゝ貌にいふ字、又、玉石の光澤かゞやく貌にいふ字。○〔司馬相如〕「――爛々」。
(緇磷) くろきかゞやき。○〔李白〕「趙璧無ニ――一」。
(磷磷) かゞやく貌にいふ語。○〔宋之問〕「碎レ石水――」。

【磷】ラウ、リヤウ。力耕切〔庚〕 峻しき貌にいふ字。○〔司馬相如〕「徑入ニ雷・室砰――鬱・律一」。

【磷】リン。里忍切〔軫〕 石の貌にいふ字。

【磷】リン。良刃切〔震〕 ㊀薄石、うすきいし、又、うすき石となる、うすろぐ。○〔論〕「磨而不レ――」。㊁雲母(きらゝ)の別名。㊂こいし、(石・礫)。

【磹】テン、デン。徒念切〔豔〕 磹――は、いなびかり、(電・光)。○〔元包經〕「礔・礚列・鈌摶磹――灼」。

【⿰石最】サイ、セ。先外切〔泰〕 小さき石、こいし。

【⿰石毳】セツ、セチ。七絶切〔屑〕 石の破るゝにいふ字。

【磺】カウ、キヤウ。古猛切〔梗〕 銅鐵の樸石、あらがね。

【磺】クワウ、ワウ。胡光切〔陽〕 石の名。

【⿰石童】タウ、ドウ。傳江切〔江〕 石の貌にいふ字。

【⿱敦石】トン。都昆切〔元〕 踞すべき石、こしかけいし。

【磻】ハン、バン。蒲官切〔寒〕 ――溪は、太公の釣せし處(鳳翔の虢縣にあり)。

【磻】ハ。博禾切〔歌〕 碆に同じ、石のいぐるみに著くるもの、いしのやのね。○〔張衡〕「――不ニ特絓一」。

【磻】ハ。補過切〔箇〕 矢鏃に爲るべき石。

【⿰石余】サフ、ソフ。七合切〔合〕 石の雜はるにいふ字、一説に、俗の磣の字。

【磼】サフ、ザフ。咋合切〔合〕 ――磼は、山の高き貌にいふ語。○〔史〕「嵳・峨――磼」。

【礏】セフ、ソフ。士劫切〔葉〕 ⿰石習――は、物を破る聲にいふ語。

【磽】カウ、ケウ。口交切〔豪〕 石の多くして地味の瘠薄なるにいふ字、かたし。○〔漢〕「郡・國或――陿無レ所ニ農・桑一」。

【磽】カウ、コウ。輕皎切〔皓〕 ガウ、ゲウ。魚敎切〔效〕 磽に同じ、山田。

【磾】テイ、タイ。都黎切〔齊〕 ㊀繒を染むるに用ふる黑き石。㊁堤に通じ用ふ。

【⿱隆石】リウ、ル。良中切〔東〕 ロウ、ル。力冬切〔冬〕 魯宋切〔宋〕 ⿱隆石――は、石の落つる聲にいふ語。○〔韓愈〕「投レ斧鬨ニ⿱隆石――一」。

【⿰石無】ブ、ム。微夫切 虞
⿰石甫ーーは、いし、(石)。

【⿰石廡】ブ、ム。罔甫切 麌
碔に同じ。

【磿】レキ、リヤク。郎狄切 錫
㊀石の小さき聲にいふ字。㊁綍を執る者、つなとり。○〔周〕「及レ窆抱ーー」。

【⿰石彭】ハウ、ヒヤウ。普孟切 梗
⿰石虎ーーは、石の聲にいふ語。

【⿰石蕭】セウ。相鳥切 篠
わる、(破)。

【磻】ハン。鋪官切 寒
ーー砙は、おほがはら、(大・磚)。

十三畫

【礆】ケン。許撿切 琰
險に同じ。

【礇】イク、オク。乙六切 屋
石の玉に似たるもの。

【⿰石亶】タン、ダン。唐干切 寒
石の壇、まつりのには。

【⿰石遂】墜に同じ。○〔路史〕「羲・軒而降淫二於禮一、亂二於樂一、淳風ー矣」。

【礉】カク、ギヤク。下革切 陌
覈に通じ用ふ。○〔史〕「韓・子慘ーー少レ恩」。

【礉】カウ、ケウ。口教切 效
石の平かならざるにいふ字。

【磝】カウ、ケウ。丘交切 肴
磽に同じ。

【礊】カク、キヤク。呼麥切 陌
鞕の聲にいふ字。

【⿱彭石】ハウ、ビヤウ。蒲孟切 梗
⿰石虎ーーは、石の聲にいふ語。

【⿰石戠】チン。陟甚切 寢
石にて搗つ、うつ。

【磼】シフ。側立切 緝
石の貌にいふ字。

【礋】タク、ヂヤク。直格切 陌
ーー砱は、獸の名、長短人の如く羊の頭猴の尾にして行くを健かなりといふ。

【⿰石窟】コツ、クチ。苦骨切 月
巉に同じ。

【礧】ライ、レ。盧對切 隊
石を推して高きより下す、ころばす。

【礌】ライ、レ。魯猥切 賄
磊に同じ、衆くの石の貌にいふ字。

【⿰石詹】タン、トン。都敢切 感
石ーーは、一種の藥、たんばん。

【礍】カツ、カチ。丘葛切 曷
石の貌にいふ字。

【⿱貇石】コン。口很切 阮
石の貌にいふ字。

【礎】ショ、ソ。創擧切 語 ソ。創祖切 遇
柱下に置く石、はしらいし、どだいいし、いしずゑ。○〔王冷然〕「石ーー松・檽」。
〔柱礎〕はしらのしたにおく石。○〔晉〕「水・精爲二ーー一」。「ーー尙在」。
〔階礎〕のぼりたんのいしずゑ。○〔水經、註〕「陛・下
〔花礎〕はなのかざりなどをきざみたるいしずゑのこと。○〔輟耕錄〕「靑・石ーー」。「山探」。
〔方礎〕四角なるいしずゑ。○〔元稹〕「ーーー荊・
〔梔礎〕いしずゑをたつ。○〔周必大〕「ーーレー歷二函・斥一」。「ー恐輿・致」。
〔斷礎〕ちぎれたるいしずゑ。○〔周霜震〕「荒・碑ーー、

【礏】ガフ、ゴフ。五合切 合
磼の字の註を見よ。

【⿰石雩】砱に同じ。

【礐】カク、コク。克角切 覺 コク。胡沃切 沃 胡谷切 屋
山の大石多きにいふ字。

【礰】レキ、リヤク。力摘切 錫
ラク、リヤク。離宅切 陌
水の石に激する聲にいふ字、又、水の石に激し嶮峻にして平かならざる貌にいふ字。○〔郭璞〕「幽・澗積・岨ー・硞礐・礭」。

【礑】タウ。丁浪切 漾
そこ、(底)。

【礒】ギ。語綺切 紙
㊀いはほ、(巖)。㊁碕ーーは、石の貌にいふ語。○〔楚辭〕「欽・崟碕ーー」。

【礓】キヤウ、カウ。居良切 陽
こいし、(礫)。

【礔】ヘキ、ヒヤク。匹錫切 錫
霹に同じ、いかづち。○〔張衡〕「ーー礰激而增レ響」。

【磈】グワイ、ゲ。五賄切 賄
㊀衆くの石の貌にいふ字。㊁いし、(石)。

【⿰石嵬】ライ、レ。力罪切 賄
衆多の石の攢まり積む貌にいふ字。

【⿰石感】カン、コン。古禫切 感 姑南切 覃
いしのはこ、(石・函)、いしのふた、(石・蓋)。○〔宋〕「爲二石・泥一封レー」。
〔石⿰石感〕石もて作りたるはこ。○〔唐〕「ーー以二方・石一再累」。「三以ーレー」。
〔纏⿰石感〕いしびつにまとひつく。○〔宋〕二又爲二金・纏一
〔封⿰石感〕いしびつをとづ。○〔宋〕「爲二石・泥一ーレー」。

十四畫

【⿰石賓】ヒン。紕民切 眞
石を碎く聲にいふ字。

【⿰石蒦】レキ、リヤク。力摘切 錫
ー礫は、草を打つ農具。

【礘】キフ、コフ。乞及切 緝

砬—は、石の聲にいふ語。

【礘】ガフ、ゴフ。五合切 合
石の貌にいふ字。

【[illegible]】セキ、シャク。倉歷切 錫
夜を守るに用ふる鼓、つゞみ。

【礙】ガイ、ゲ。五代切 隊
㊀妨ぐ、阻つ、限る、さゝふ、さへぎる。○〔揚雄〕「聖-人治二天-下一、—レ諸以二禮-樂一」。「無レ所レ—」。
㊁止ごまる、挂かる、さゝはる。○〔淮〕
㊂さゝふるを、さゝふる所、さゝへ。○〔揚雄〕「水避レ—則通二于海一」。
〔辯礙〕さゝはりをよく。○〔揚雄〕「水—レ—則通二于海一」。「所」。
〔阻礙〕さゝはる。○〔易、疏〕「東-北險-位—・—之所」。
〔留礙〕さゝへ留とむ。○〔晉〕「行無二—・—一」。
〔關礙〕前に同じ。○〔舊唐〕「不レ許二—・—一」。
〔窒礙〕さゝはりて通せず。○〔金〕「通二其—・—一」。
〔罣礙〕さゝはり。○〔淨住子〕「今欲三水行二非二舟-航一不レ移、二—・—也」。「—一」。
〔障礙〕前に同じ。○〔白居易〕「但覺虛-空無二—・—飛」。
〔阻礙〕前に同じ。○〔洛陽伽藍記〕「百-姓出-入無二復—・—一」。
〔妨礙〕さまたげ。○〔范成大〕「無レ端—・—小-蟲」。
〔滯礙〕とゞこはり。○〔杜甫〕「于レ事少二—・—一」。

【礒】ギ。魚其切 支
—礒は、青石。

【礚】磕に同じ。○〔子虛賦〕「硠-々—・—」。
〔礚礚〕石と石と相撃つ聲にいふ語。○〔上林賦〕「砰磅—・—」。
〔訇礚〕鉦鼓などの聲に用ふる語。○〔元好問〕「鉦-鼓亂—・—」。

【礛】カン、ケン。居銜切 咸
—-䃴は、玉石を治むる青礪、といし。○〔戰〕「被二—-磻一」。

【礛】礛の省文。

【礜】ヨ。羊茹切 語 羊諸切 魚
一種の毒石。○〔山海經〕「皐-塗之山有二白-石一名レ—可レ毒レ鼠」。

【石馮】ヒョウ、ビョウ。皮孕切 徑
—-磬は、石の聲にいふ語。

【磜】サツ、セチ。七慇切 黠
姜—は、石の名。

十五畫

【礣】バツ、マチ。莫八切 黠 ベツ、メチ。莫結切 屑
㊀—-石は、堅し。㊁小さき石、こいし。

【礤】サツ、サチ。七曷切 曷
あらきいし、(粗-石)。

【礤】サツ、サチ。子末切 曷
擦に同じ、する、(摩)。

【礥】ケン、ゲン。下珍切 眞 胡田切 先
けはし、(難-險)、又、つよし、(剛-强)、かたし、(難-梗)。○〔揚雄〕「陽-氣微動動而—-—物生之難也」。

【石數】ソウ、ス。蘇后切 有
いし、(石)。

【石韱】セン。先念切 豔
礛の字の條を見よ。

【石賣】トク、ドク。徒谷切 屋
石の名、一說に、碡、磟に同じ。

【石盤】磐に同じ。

【礦】磺に同じ、あらがね。○〔郭璞〕「其下則金—丹-礫」。

【石巤】ラフ、ロフ。力盍切 合
石の墮つるにいふ字。

【石巤】レフ。力涉切 葉
—-崨は、山の連屬せる貌にいふ語。

【磟】レウ。朗鳥切 篠
—-磽は、石の垂るゝ貌にいふ語。

【石著】チャク。陟略切 藥
きる、(斫)、一說に、石を砕く。

【礧】ライ、レ。魯猥切 賄
㊀大石、おほいし。○〔杜篤〕「一-夫擧レ—-—」。
㊁石の貌にいふ字。○〔杜甫〕「水淸石—-—」。
〔硊礧〕おほいしのたいらかならざる貌。○〔陸游〕「買レ酒不レ澆胸—-—」。
〔礧礧〕おほいなるいしのさま。○〔石珤〕「激二—-—一而未レ平」。

【礨】ルヰ。魯水切 紙
山の貌にいふ字。

【礌】ライ、レ。盧回切 灰
うつ、(擊)、まろびつく、(轉-突)。○〔郭璞〕「駭二崩-浪一而相—」。

【礧】ライ、レ。盧對切 隊
㊀かさなる、(重)。
㊁礌に同じ、石を高きより下す、おさす、まろばす。○〔司馬相如〕「—-石相擊」。
㊂儡に同じ。○〔唐書音訓〕「窟-儡-子亦曰二魁-—-子一作二偶-人一以戲」。

【礨】ライ、レ。魯賄切 賄
小さき穴、あな、一說に、小さき封、つか。○〔司馬相如〕「丘-虛堀-—」。

【礩】シツ、シチ。職日切 質 シ。脂利切 寘
柱の下に居く石、いしずゑ、はしらいし。○〔戰〕「以二錬-銅一爲二柱—一」。

【礩】窒に同じ、ふさがる。○〔周書〕「宿-疑—-滯」。

【礪】レイ。力制切 霽
㊀兵刃をみがくに用ふる石、其の粗なるもの、と、といし、あらと。○〔山海經〕「陰-山多二—-石一」。
㊁研磨す、とぐ、みがく。○〔書〕「—二乃鋒-刃一」。
〔砥礪〕といし、又、みがくこと。○〔史〕「—-—名-號-者、不三以レ欲傷二行」。「利」。
〔礱礪〕前に同じ。○〔荀〕「鈍-金必待二—-—一而後利」。
〔淬礪〕とぐこと。○〔劉諗〕「越-劍性利非二—-—一而不レ銛」。
〔磨礪〕前に同じ。○〔書、傳〕「—二—-鋒-刀一」。
〔勉礪〕つとめはげむ。○〔論衡〕「—-—爲レ善矣」。

【礫】レキ、リヤク。郎狄切 錫
㊀小さき石、こまかきいし、こいし。○〔張衡〕「爛若二磧—一」。

㊁すな(沙)。○〔郭璞〕「金・礦丹ー」。

〔黄礫〕 黄屑木、きはだ。○〔司馬相如〕「鮮支ーー」。

〔沙礫〕 すなと小石と。○〔漢〕「大風起ーー擊ㇾ面」。

〔磧礫〕 水渚の小石。○〔北〕「守ニーー」者悟ニ渤澥之泓ニ」。

〔瓦礫〕 かはらと小石と、即ち物の價値なきにいふ語。○〔北〕「所ニ以同ニ于ーーニ」。

〔石礫〕 いしと小石と、意前に同じ。○〔淮〕「視ニ珍寶珠玉ニ猶ニーー」也」。

〔珠礫〕 眞珠と小石と。○〔柳貫〕「ーー同ニ一收」。

〔卓礫〕 勝れて堅確なること。○〔後漢〕「英才ーー」。

〔飛礫〕 小石を吹きとばす。○〔宋〕「驚ㇾ砂ーー」。

〔蘊礫〕 小石をつゝむ。○〔後書品〕「銀・鋼ーー」。

〔積礫〕 積もれる小石。○〔張華〕「白沙與ニーー」。

〔燕礫〕 價値なき小石。○〔文心彫龍〕「宋客以ニーー」爲ニ寶珠ニ」。

〔丹礫〕 赤き色の小石。○〔郭璞〕「金沙ーー潛」。

〔素礫〕 白き色の小石。○〔陶潛〕「ーー皛ニ修ーニ」。

〔聚礫〕 小石を寄せ集む。○〔王勃〕「ーㇾー延ㇾ砂、即挨ニ爲ㇾ山之業ニ」。

〔澗礫〕 谷川の小石。○〔李賀〕「苔・絮縈ニーーニ」。

〔錦礫〕 美しき色をなせる小石。○〔溫庭筠〕「ーー潺湲玉・溪水」。

〔投礫〕 小石をなげつく。○〔蘇軾〕「ーㇾー犯ニ淸・冷ニ」。

〔荒礫〕 あれはてたる小石。○〔袁桷〕「沙田ーーー蕨」。

【礬】 ヘン、バン。符袁切 元

一種の礦物、藥料又は染料に用ふ。○〔郭璞〕「ーー石也、楚人名ニ涅石ニ」。

〔山礬〕 木の名、春にあたり白き花の咲く高さ數尺程の木。○〔黄庭堅〕「北嶺ーー取・次開」。

〔白礬〕 藥の名。○〔唐本草〕「礬石有ニ五種ニ、ーーー入ㇾ藥用」。

〔雪礬〕 白礬の白潔なるもの。○〔唐本草〕「ーー方士謂ニ之白君ニ、潔白者爲ニーーニ、光明者爲ニ明礬ニ」。

〔明礬〕 白礬のひかりあるもの、例前に出づ。

〔青礬〕 くすりの名。○〔唐本草〕「ー黒ニーー撩ㇾ揩」。

〔絳礬〕 くすりの名。○〔本草〕「ーー燒ㇾ之則赤」。

【[石摩]】 摩に同じ、する。

十六畫

【礭】 カク、コク。苦角切 覺

㊀かたし(鞕)。㊁水の石に突き當たりて嶮峻にして平かならざる貌にいふ字。○〔郭璞〕「礐硞礭ー」。

【[石親]】 シン。初覲切 震

水中にある石。

【礮】 ハウ、ヘウ。披教切 效　俗に、砲に作る。

石をはじき飛ばす兵機、いしはじき。○〔劉克〕「遠ー忽ニ虛發ニ」。

〔車礮〕 はじき石の機器をくるまにつけたるもの。○〔方夔〕「雲如ニーー」低壓ㇾ城」。

〔將軍礮〕 城などを攻むるときに用ふるはじき石の機械。○〔唐〕「密攻ニ王世充於東都ニ以ㇾ機發ㇾ石、爲ニ攻城械ニ、號ニーーーーニ」。

【[石榮]】 エイ、ヤウ。縈營切 庚

いし(石)。

【礰】 レキ、リヤク。郎狄切 錫

㊀磿に同じ。㊁靂に同じ。

〔的礰〕 光り明かなること、かゞやく。○〔張衡〕「顏ーー以遺ㇾ光」。

【[石諸]】 シヨ、ソ。專於切 魚

礛の字を見よ。

【[石褭]】 デウ、テウ。乃了切 篠

㊀山の曲くま。㊁砯石。

【礱】 ロウ、ル。盧東切 東　盧貢切 送

㊀する、みがく、とぐ(礪)。○〔揚雄〕「有ㇾ刀ーㇾ諸」。㊁磨臼、すりうす。○〔陸游〕「長腰秔米出ニ新ーーニ」。

〔磨礱〕 とぐこと、又、ひきうす。○〔枚乘〕「ーー砥・礪」。

〔斲礱〕 きりみがく。○〔國〕「趙子爲ㇾ室、ーニ其椽ニ而ーㇾ之」。

〔磋礱〕 みがく。○〔馬融〕「是ー是ー」。

〔錯　〕 すりみがく。○〔杜綰〕「頗費ニーーニ」。

【[石褱]】 クワイ、エ。乎乖切 佳

石の平かならざるにいふ字。

【[石褱]】 クワイ、ケ。姑回切 灰

小さき石、こいし。

【[石褱]】 硜の古字。

【[石嬴]】 エイ、ヤウ。怡成切 庚

㊀石の名。㊁もてあそぶ(翫・習)。

十七畫

【[石韱]】 セン。先念切 豔

磹の字を見よ。

【[石韱]】 シン。咨林切 侵

くさび(楔)。

【[石襄]】 ジヤウ、ナウ。汝兩切 養

雌黄の悪しきもの。

【礷】 ラン。郎肝切 翰

玉石の貌にいふ字。

【礯】 礐に同じ。

【[石譽]】 ハク、ホク。匹角切 覺

石の聲にいふ字。

【礴】 ハク、バク。白各切 藥

旁ーは、混同す、まじる、廣被す、おほふ、充塞す、又、みちふさがる。○〔莊〕「旁ニーー萬物ニ」。

〔磅礴〕 まじる貌、又、廣くみちふさがること。○〔宋〕「ーーー罔ㇾ測」。

〔般礴〕 般の字一に槃につくる、兩足を箕の如くはりて坐すること。○〔莊〕「則解ㇾ衣ーー」。

十八畫

【[石瞿]】 ク、ゴ。權俱切 虞

蹤ーは、さいし(礪)。

【礨】 俗の磊の字。

【[石雔]】 サフ、ソフ。七盍切 合

石の多き貌にいふ字。

【[石闕]】 ケツ、ケチ。怯月切 月

いし(石)。

十九畫

【[石羅]】 砢に同じ。

【[石靡]】 磨の本字。

【礸】 サツ、サチ。子末切 曷

磜に同じ。

【礐】 カウ、ゴウ。胡降切 絳

山に大小の石のある貌にいふ字。

二十畫

【礹】 ガン、ゲン。魚銜切 咸　ガン、ゴン。五犯切 豏

㊀石のある山、いしやま、いはやま。
㊁高くけはしきにいふ字。

廿一畫

【礭】ハ、ヘ。必駕切　禡

壩に同じ、ゐせき。

【礷】ラン。郎旰切　翰

玉石の貌にいふ字。

廿二畫

【礹】ダウ、ナウ。乃涙切　漾

山の隈、くま。

【礶】ラ。勒可切　哿

ー碕は、山の貌にいふ字。

廿九畫

【礸】ウツ、チチ。紆物切　物

ー礹は、小さき石、こいし。

示　部

【示】キ、ギ。巨支切　支

祇に同じ。〇〔周〕「大宗伯掌二天神人鬼地ー之禮一」。

【示】シ、ジ。神至切　寘

しめす、しめし。
(い)見はす、知らしむ。〇〔書〕「ー二天下不レ服」。
(ろ)語ぐ。〇〔戰〕「ー二之病一」。
(は)教ふ。〇〔史〕「ーレ之者三」。

〔指示〕ゆびさしをしふ。〇〔史〕「發レ蹤ーニーー獸處ー者人也」。
〔懸示〕垂れをしふ。〇〔水經、註〕「ーニーー後賢一耳」。
〔誨示〕教訓を垂る。〇〔後漢〕「反覆ーー」。
〔覲示〕見せしめにす。〇〔周、註〕「以ーニーー四方一、使レ放二效之一」。
〔宣示〕布きをしふ。〇〔魏〕「ーニーー品令一」。
〔明示〕明白に垂れ示す。〇〔左〕「以ーニーー百官一」。
〔覽示〕前に同じ。〇〔史〕「以ーニーー漢富厚一焉」。
〔戒示〕警戒を垂れ示す。〇〔漢〕「ーニーー子孫一」。
〔帥示〕衆を率ゐるをしふ。〇〔漢〕「傷二薄風化一、無三以ーニーー四方一」。
〔班示〕分かちて垂れ示す。〇〔後漢〕「乃以レ所レ上、ーニーー百官一」。
〔垂示〕をしへしめす。〇〔後漢〕「ーニーー後世一也」。
〔開示〕啓きをしふ。〇〔後漢〕「ーニーー衆庶所レ從道徑往來一」。
〔張示〕張大にし垂れしめす。〇〔魏〕「今不下ーニーー威刑一、以副中民望上」。
〔光示〕耀發し知らしむ。〇〔後漢〕「名足三以ーニーー遠人一」。
〔誇示〕たかぶりて見す。〇〔後漢〕「ーニーー羌敵一」。
〔中示〕かさね示す。〇〔後漢〕「ーニーー國恩一」。
〔告示〕申し知らしむ。〇〔晉〕「人君有レ瑕必露二其愆一以ーーー焉」。
〔曉示〕さとし知らしむ。〇〔魏〕「王澄遣レ人ーニ「ー情禮一」。
〔揭示〕揭げ知らしむ。〇〔宋〕「ーニーー不レ實者一」。
〔昭示〕明かに知らしむ。〇〔張衡〕「ーニーー萬嗣一」。
〔彰示〕前に同じ。〇〔曹植〕「ーーニ來世一」。
〔教示〕をしへを垂る。〇〔韓愈〕「ーーー不レ屈レ節」。
〔風示〕前に同じ。〇〔元禮典〕「以ーニーー天下一」。
〔耀示〕かゞやかし見す。〇〔歐陽修〕「以ーニーー于千萬世一」。

一畫

【礼】古文の禮字。

二畫

【礽】ジョウ、ニョウ。如蒸切　蒸

㊀さいはひ、(福)。㊁なる、つく、(就)。

三畫

【社】シヤ、ゼ。常者切　馬

㊀土地の神、くにつかみ。〇〔詩〕「以ーー以方」。
㊁くにつかみの祠、ほこら、やしろ。〇〔禮〕「王爲二羣姓一立レー」。
㊂くにつかみの祭、まつり。〇〔春秋〕「公如レ齊觀レー」。
㊃古昔の民戸の編制上の目、二十五家の稱、くみあひ。〇〔左〕「請レ致二千ーー」。
㊄民戸の一團、なかま。〇〔漢〕「禁下民私所二自立一ー上」。
㊅同人朋友のあつまりあふもの、結合、會聚。〇〔事文類聚〕「遠公結二白蓮ー一以レ書招二淵明一」。
㊆江淮地方にて母を呼びていふ。〇〔淮〕「ー何愛二速死一吾必悲二哭ー一」。
㊇立春後の第五の戊の日及び立秋後の第五の戊の日の稱。〇〔韓偓〕「秋ーー歸時也不レ歸」。

〔大社〕王が羣姓のために立てたる國土を守護する神のほこら。〇〔禮〕「天子ーー、必受二霜露風雨一、以達二天地之氣一也」。
〔王社〕王自らのために立てたる土地の神のほこら。〇〔唐〕「今日先農失二ーー之義一」。
〔帝社〕前條に同じ。〇〔獨斷〕「天子之社曰二王社一、一曰二ーー一」。
〔國社〕諸侯百姓のために立てたる土地の神のほこら。〇〔禮〕「諸侯爲二百姓一、立レ社曰二ーー一」。
〔侯社〕諸侯自らのために立てたる土地の神のほこら。〇〔李正封〕「ーー退二無功一」。　「ーー」。
〔公社〕前に同じ。〇〔詩、箋〕「祈二來年百穀於ーー一」。
〔官社〕前に同じ。〇〔漢〕「已有二ーー一、未レ立二官稷一」。
〔郊社〕夏至と冬至とに都へ近き野にて爲す祭と土地の神のほこらと。〇〔禮〕「ーー之禮、所三以事二上帝一也」。
〔馬社〕始めて馬に乘ることを發明せし者を祭れるほこら。〇〔周〕「秋祭二ーー一」。
〔里社〕里の中に立てたる土地の神のほこら。〇〔漢〕「ー中ー平爲レ宰」。
〔罷社〕社の祭りを爲すことを廢止す。〇〔魏〕「曜坐聞レ之、爲レ之ーレー」。
〔蓮社〕佛法を修むるにつきての結合。〇〔蓮社高賢傳〕「遠法師與二諸賢一結二ーー一、以レ書招二淵明一」。　「如レーレー」。
〔結社〕聚合を結成すること。〇〔温庭筠〕「誓對レ山松ーー一」。
〔宗社〕宗廟と社稷と。〇〔五〕「樞密使郭威志安二ーー一」。
〔保社〕互に保護しあふ會聚。〇〔元好問〕「父老漸來同ーー」。　「ーー」。
〔朝社〕朝廷と社稷とのこと。〇〔王微〕「猛氣捍二ーー一」。
〔祭社〕土地の神を祭る。〇〔書、傳〕「ーレー日レ宜」。
〔宜社〕前に同じ。〇〔禮〕「類二乎上帝一、ー二乎ーー」。
〔廟社〕宗廟と社稷と。〇〔韓愈〕「來獻二闕下一以告二ーー一」。
〔方社〕四方と土地との神の祭をなす。〇〔詩〕「祈レ年孔夙、ーー不レ莫」。
〔誓社〕土地の神に對して誓約をなす。〇〔禮〕「君親ーレー、以習二軍旅一」。
〔祀社〕土地の神を祭る。〇〔禮〕「ーニーー於國一」。
〔州社〕二千五百家の邑に祭れる土地の神のほこら。〇〔周〕「祭二祀ーーー」。
〔配社〕土地の神のほこらにあはせ祭る。〇〔左、疏〕「句龍既爲二后土一、又亦ーレー」。
〔類社〕土地の神を祭る。〇〔後漢〕「禋レ天ーレー」。
〔冢社〕土地を守護する神のほこら。〇〔潘尼〕「乃定二ーー一」。
〔僧社〕佛寺のこと。〇〔白居易〕「最憐ーーー題レ橋處」。
〔吟社〕詩歌を作る會聚。〇〔高駢〕「好與二高陽一結二ーー一」。
〔酒社〕酒もりの會聚。〇〔蘇軾〕「ーーー我爲レ敵」。
〔趁社〕人々の會聚に趣く。〇〔陳造〕「咸言ーー極二歡嬉一」。

【礿】ヤク。弋灼切　藥　エフ。弋笑切　嘯

祭事、まつり、特に春期のまつりにいふ字。〇〔禮〕「四時之祭、春曰レー」。

〔夏礿〕なつのまつり。〇〔禮〕「春祠ーー」。
〔祠礿〕春の祭と夏の祭と。〇〔詩、疏〕「若以二四時一當レ云二ーー一嘗烝一」。
〔春礿〕はるのまつり。〇〔禮〕「天子諸侯宗廟之際、ー曰レー」。

〔禘礿〕夏の祭と春の祭と。○〔施肩吾〕「稃既殊ニ于ーー一」。

【祀】シ、ジ。詳子切 紙

㊀まつる、まつり（祭）。○〔禮〕「以レ死勤レ事則ーレ之」。
㊁年、とし（殷の世に用ひたり）。○〔書〕「惟元ーー」。
㊂にる（似）。○〔孝、疏〕「ー者似也、似レ將レ見ニ先人一也」。

〔元祀〕（い）はじめての年、即ち、元年といふに同じ。○〔書〕「惟ーー」。（ろ）大いなる祭。○〔書〕「稱ニ秩ーー一」。
〔典祀〕國の禮典とし定めたる祭。○〔國〕「國之ーー也」。
〔禋祀〕潔くし祭る。○〔詩〕「來方ーー」。
〔孝祀〕よく祖先に事へまつる。○〔詩〕「苾芬ーー、神嗜ニ飲食一」。
〔淫祀〕祭るべきものにあらずして祭るまつり。○〔漢〕「ーー有レ禁」。
〔望祀〕柴を燔きて山川を祭ること。○〔史〕「至ニ雲婁ーー」。
〔時祀〕四時の祭。○〔周〕「凡ーー之牲、必用ニ牷物一」。
〔世祀〕世々に傳へての祭祀。○〔任昉〕「用彰ニーー一」。
〔閒祀〕四時の正祭の月の閒にまじへて祭る祭。○〔後漢〕「ーー悉還ニ更衣一」。
〔崇祀〕あがめ祭ること。○〔柳宗元〕「ーー式孚」。
〔享祀〕神に物を供へ祭る。○〔詩〕「春秋匪レ解、ーー不レ忒」。
〔禱祀〕祈り祭る。○〔禮〕「ーニー祭祀一」。
〔祭祀〕祭りのこと。○〔馮衍〕「奉ニ宗廟一廣ニーー一」。
〔家祀〕宗廟の祭りのこと。○〔左〕「太子奉ニーー社稷之粢盛一、以ニ朝夕一視ニ君膳一者也」。
〔順祀〕順序に循ひまつる。○〔左〕「冬十月ーニーー先公一而祈焉」。
〔先祀〕祖先の祭。○〔左〕「苟守ニーーー、無レ廢ニ二勳一」。
〔逆祀〕順序に逆ひて祭る。○〔左〕「大事ニ於大廟一、躋ニ僖公一、ーー也」。
〔禘祀〕まつる。○〔左〕「以下寡君之未ニーー一、與中民之未レ息上、不レ然不ニ敢忘一」。
〔蠶祀〕あまたのまつりのこと。○〔後漢〕「增ニ修ーー一」。
〔郊祀〕都城近き郊野にて祭る。○〔孝〕「昔者周公ーニー后稷一」。

〔宗祀〕尊び祭る。○〔漢〕「ーニーー天地一」。
〔制祀〕祭りの禮を制定し祭る。○〔國〕「故愼ニーーー以爲ニ國典一」。
〔祠祀〕祭る。○〔史〕「遂上ニ泰山一、立レ石封ーー」。
〔祉祀〕土地の神の祭り。○〔史〕「禹興而修ニーー、通禮也」。
〔修祀〕禮ををさめ祭る。○〔漢〕「ーニーー山川古今ー一」。
〔燔祀〕柴をたきて祭る。○〔隋〕「ーニーー於昊天上帝一」。
〔降祀〕降雨を祈り祭る。○〔唐〕「孟夏ーニーー昊天上帝於圜丘一」。
〔常祀〕平常定まりをれる祭。○〔唐〕「凡歲之ーーー二十有二」。
〔卜祀〕吉凶を占ひて後に祭る。○〔宋〕「三年ーーー、百世承レ基」。
〔躬祀〕親しく祭る。○〔金〕「天子ーー」。
〔清祀〕（い）十二月の祭。○〔獨斷〕「四代稱レ臘之別名、夏曰ニ嘉平一、殷曰ニーー一、周曰ニ大腊一、漢曰レ臘」。（ろ）清潔なる祭。○〔孔攸〕「結レ縷奉ニーー一」。
〔特祀〕とりわけて祭りをなす。○〔劉歆〕「凡在ニ異姓一、猶將ーニー之一、況於ニ先祖一」。
〔貫祀〕尊貴なる祭。○〔摯虞〕「漢、魏相仍、著爲ニーーー」。
〔報祀〕むくい祭る。○〔張九齡〕「明宗ーー」。
〔封祀〕山上に於て封禪の祭りをなす。○〔柳宗元〕「ーー之山、隔ニ成異域一」。

【祁】キ、ギ。渠宜切 支

㊀さかんなり（盛）、又、おほいなり（大）。○〔書〕「冬ーー寒」。
㊁おほし（衆・多）。○〔詩〕「采レ蘩ーー」。
㊂舒かに遲き貌にいふ字、しづか。○〔詩〕「彼之ーー」。

【𥘅】シ。職雉切 紙

地の名。

四畫

【衼】キ。古委切 紙

庪に同じ、ー縣は、山を祭る名。

【衼】禔に同じ。

【祄】カイ、ゲ。下介切 卦

たすく、たすけ（祐）。

【祅】エウ。伊堯切 蕭

凶なる物象、まがごと、わざはひ。○〔禮〕「姦僞不レ萌、ーー孽伏息」。

【祆】ケン。呼烟切 先 テン。他年切 先

天を指していふ（關中の語）。

【祇】キ、ギ。渠宜切 支

㊀地の神、くにつかみ。○〔周〕「以祭ニ地ーー一」。
㊁すべての神の稱。○〔木華〕「ー是盧」。
㊂やすし（安）。○〔詩〕「壹者之來、俾ニ我ー一」。
㊃おほいなり（大）。○〔易〕「不レ遠復、無ニー悔一」。
㊄圻に通じ作る。○〔左〕「是以獲レ沒ニ於ー宮一」。

〔靈祇〕くしびなる地の神。○〔東征賦〕「庶ニーー之鑒照一兮」。
〔人祇〕人と神と。○〔石闕銘〕「ーー響附」。
〔神祇〕天つかみと國つ神と。○〔論〕「禱ニ爾于上下ーー一」。
〔明祇〕あきらかなる神。○〔舊唐〕「何以契ニーーー」。
〔僧祇〕梵語、數多きこと。○〔舊唐〕「訶陵國遣レ使獻ニーー僮一」。
〔頌祇〕歌をつくりて地の神を祭る。○〔甘泉賦〕「登ニ乎ーー之堂一」。
〔徠祇〕神を招ひ祭る。○〔甘泉賦〕「ーー郊禋、神所レ依兮」。
〔后祇〕地の神。○〔魏明帝〕「配ニ乾稽ーー一」。
〔皇祇〕天つ神と國つ神と。○〔晉饗神歌〕「整ニ泰圻ニ竢ニーー一」。
〔雨祇〕あめの神。○〔謝莊〕「先ニーーー而洒レ路」。
〔山祇〕山の神。○〔皮日休〕「醜可レ駭ニーー一」。
〔嶽祇〕前に同じ。○〔韓愈〕「ーー業峨」。

〔百祇〕あまたの神。○〔姚燧〕「山川ーー」。
〔水祇〕海川の神。○〔沈炯〕「詔蹕ーー竄」。
〔方祇〕土地のこと。○〔顏延之〕「ーー始凝」。

【祗】シ。旨而切 支

まさに（適）、たゞ（第）。○〔詩〕「ー攪ニ我心一」。

【祇】チ。竹尸切 支

穀の始めて熟するにいふ字、みのる。

【祈】キ、ゲ。渠希切 微

㊀福利を垂れんことを神明に求むるにいふ字、もとむ、いのる、いのり。○〔詩〕「以ーニ甘雨一」。
㊁つぐ（告）。○〔詩〕「以ーニ黃耇一」。
㊂さけぶ（叫）。○〔周〕「大祝掌ニ六ー一以同ニ鬼神示一」。
㊃祁に同じ。○〔禮〕「冬ー寒」。

〔祈祈〕雨のおだやかにふる貌にいふ語。○〔詩〕「興レ雨ーー」。
〔春祈〕はるの節にあたりていのりて福をもとむること。○〔論衡〕「ーーニ穀雨一」。
〔禱祈〕神に福をいのりもとむ。○〔後漢〕「廣爲ニーー一」。
〔齋祈〕ものいみしていのる。○〔隋〕「更ーー如レ初」。

【祈】キ。古委切 紙

衼に同じ、山を祭ること。○〔周〕「其ー沈以レ馬」。

【祉】チ。丑里切 紙

さいはひ（福）。○〔詩〕「既受ニ多ーー」。

〔帝祉〕上帝の降し給ふ幸福。○〔詩〕「既受ニーー一、施ニ于孫子一」。
〔繁祉〕さはなる幸福。○〔詩〕「介以ニーーー」。
〔降祉〕幸福を下し賜はる。○〔後漢〕「今皐天ーー、嘉瑞並臻」。
〔靈祉〕くしびなる幸福。○〔晉〕「ーー踰昌、世業彌盛」。

〔錫祉〕 幸福を賜はる。○〔詩〕「用二錫ー一。」
〔嘉祉〕 めでたき幸福。○〔柳宗元〕「奉二北吉・玉一、以對二ーー一。」
〔垂祉〕 幸福を垂れのこす。○〔柳宗元〕「宗・祉ーレ、ー、啓二祐皐心一。」
〔積祉〕 幸福を積みかさぬ。○〔晉〕「ーレー丕レ基、克昌二來裔一。」
〔流祉〕 幸福を布き及ぼす。○〔隋〕「ー二ー邦・國一。」
〔効祉〕 幸福を致す。○〔隋〕「積二圖・慄一而ーレー。」
〔餘祉〕 あまりある幸福のこと。○〔孫萬壽〕「濟レ世承二ーー一。」
〔發祉〕 幸福をひらきおこす。○〔宋〕「ーレー隕レ祥。」
〔祈祉〕 幸福をいのり求む。○〔宋〕「爲レ農ーレー。」
〔元祉〕 大いなる幸福。○〔宋〕「永錫二ーー一。」
〔丕祉〕 前に同じ。○〔東晳〕「以介二ーー一。」
〔壽祉〕 命長く幸福あること。○〔元〕「永膺二於ーー一。」
〔天祉〕 天の幸福。○〔韓詩外傳〕「惟鳳爲二能通一ーー、應二地靈一。」
〔介祉〕 大いなる幸福。○〔風俗通〕「邪疾已去、祈二ーー一也。」
〔祿祉〕 幸福。○〔易林〕「遊二在右門一、ーー安・全。」
〔福祉〕 幸福を得んといのる。○〔易林〕「靈・符ーレー、疾・病爲レ患。」
〔福祉〕 さいはひ。○〔易林〕「賜二我ーー一、壽・算無レ極。」
〔休祉〕 前に同じ。○〔後趙錄〕「當レ蒙二ーー一。」
〔衆祉〕 あまたの幸福。○〔拾遺記〕「奇・祥ーー、莫レ不二總・集一。」
〔祥祉〕 前に同じ。○〔沈約〕「ーー流二嘉・貺一。」
〔附祉〕 前に同じ。○〔王勃〕「萬・靈ーー。」
〔遐祉〕 遠大なる幸福。○〔前秦錄〕「垂レ祚無レ窮、永延二ーー一。」
〔享祉〕 幸福を受く。○〔封禪文〕「帝用ーレー。」
〔延祉〕 幸福を伸べしく。○〔孫綽〕「ーレー以分・流。」
〔集祉〕 幸福をよせあつむ。○〔謝莊〕「祚・靈ーレー、優・誕迎レ祥。」
〔種祉〕 幸福をうく。○〔江淹〕「時・雨ーレー。」
〔毓祉〕 幸福を長ず。○〔王勃〕「蒼・黎ーレー。」

【⿰礻比】 ヒ。補委切 紙 ヒ、ピ。毗至切 寘 まつる、(祠)。○〔漢律〕「祠二ーー司・命一。」

【祊】 ハウ、ヒヤウ。補耕切 庚 ㊀神を廟門の内に祭ること。○〔詩〕「祝祭二于ー一。」 ㊁廟門内のまつりの明日に其の禮物を再び廟門外に列べて祭ること。○〔禮〕「設二祭於堂一、爲二ー乎外一。」

【祋】 タイ、テ。都外切 泰 タツ、タチ。丁活切 曷 ほこ、(殳)。○〔詩〕「何二戈與一レー。」

【⿰礻夫】 フ。甫無切 虞 祭の名。

【祌】 チウ、ヂュ。直衆切 送 神の名。

【神】 冲に同じ。

五畫

【祏】 セキ、ジヤク。常亦切 陌 木主を藏する爲に宗廟の中に設け置く石室、いしびつ。○〔左〕「命二我先人一、典二守宗ー一。」

【祐】 イウ、ウ。尤救切 宥 ㊀神の助くるにいふ字、上より助くるにいふ字、たすく、たすけ。○〔書〕「皇天眷二ー有商一。」 ㊁さいはひ、(福)。○〔楚辭〕「何ー。」
〔天祐〕 上帝よりのたすけ。○〔易〕「自レ天ーレ之。」
〔祥祐〕 かみのたすけ。○〔晉〕「以答二ーー一。」
〔降祐〕 天よりさいはひをさづく。○〔宋〕「皇天ーレー。」
〔蒙祐〕 かみの助けをうく。○〔漢〕「猶不ーレー。」
〔福祐〕 かみよりさづかるさいはひ。○〔揚雄〕「受二神人之ーー一。」
〔享祐〕 神助をうく。○〔揚雄〕「專用二己之私一而能ーレー者哉。」
〔獲祐〕 前に同じ。○〔易林〕「君子ーレー。」
〔薄祐〕 神助のうすきこと。○〔晉〕「接二ーー一、少孤而無二兄・弟一。」
〔靈祐〕 神妙なるかみのたすけ。○〔魏武帝〕「賴二祖・宗ーー一。」
〔休祐〕 さいはひ。○〔宋〕「時膺二ーー一。」
〔帝祐〕 天帝のたすけ。○〔陸雲〕「荷二ーー之休・命一。」
〔嘉祐〕 さいはひ。○〔宋〕「皇・聖膺二ーー一。」
〔祥祐〕 前に同じ。○〔許善心〕「ーー之來若レ此。」
〔冥祐〕 神のたすけ。○〔北齊〕「冀獲二ーー一。」

【祑】 チツ、ヂチ。直質切 質 祭の次序あること。

【⿰礻世】 エイ。羿制切 霽 まつり、(祭)。

【祒】 テウ、デウ。田聊切 蕭 人の名。

【⿰礻可】 カ。虎何切 歌 何佐切 箇 まつり、(祭)。

【祓】 フツ、ホチ。敷勿切 物 神に祈りて災を除き福を求め又は穢れを除き潔くするを願ふにいふ字、はらふ、はらひ。○〔左〕「祝ーレ社。」

【祓】 ハイ、ヘ。方肺切 隊 ㊀前條に同じ。 ㊁さいはひ、(福)。

【⿰礻弗】 祓に同じ。

【⿰礻主】 シュ、ス。腫庾切 麌 宗廟の石室、いしびつ。

【⿰礻句】 ク。舉朱切 虞 禰ーは、山の名。

【祔】 フ、ブ。符遇切 遇 ㊀後裔を先祖に合はせ祭るにいふ字、あはせまつる。○〔禮〕「以二吉・祭一、易二喪・祭一明・日ー二於祖・父一。」 ㊁後裔を先祖と合はせ葬るにいふ字、あはせはふむる。○〔禮〕「周・公蓋ー。」

【祕】 ヒ。兵媚切 寘 ヒツ、ヒチ。畢吉切 質 ㊀測られざること、宣ぶ可からざること。○〔庾信〕「謀深計ー。」 ㊁閉ぢて示さざること、妄に見はさざること。○〔張衡〕「ー舞更奏。」 ㊂密かにす、藏す、ひむ。○〔史〕「獨喜二其事一ーレ世莫レ知也。」
〔神祕〕 神妙にし祕密にす。○〔史、正義〕「秦欲レーニ其道一、故假二名鬼・谷一也。」
〔隱祕〕 ひめかくす。○〔吳〕「宅加二ーー一。」
〔奧祕〕 深密なること。○〔蜀〕「幹二茲ーー一。」
〔奇祕〕 珍らしくひめたること。○〔晉〕「天下ーー、世所二希有一者。」
〔珍祕〕 前に同じ。○〔鄧文原〕「君家ーー在。」
〔開祕〕 ひめたる所をあけはなつ。○〔晉〕「晉・圖ーレー之地。」
〔尊祕〕 尊貴にして奧深きこと。○〔宋〕「禁・庭ーーー。」
〔機祕〕 機密といふに同じ。○〔潘尼〕「執二權・衡一提二ーー一。」
〔深祕〕 奧深くあること。○〔宋〕「蹤・跡ーーし、包二藏禍・心一。」
〔冲祕〕 前に同じ。○〔梁簡文帝〕「ーー隱・嶙路二千・畝于晉・日一。」
〔緘祕〕 とぢかくす。○〔孫過庭〕「ーー已深。」
〔幽祕〕 前に同じ。○〔崔融〕「天・道ーー。」
〔靈祕〕 くしびにひめたること。○〔江總〕「發二東・越之ーー一。」
〔樞祕〕 樞密といふに同じ、肝要にして祕密なる事柄を取り扱ふこと。○〔李嶠〕「入總二ーー一。」
〔索祕〕 ひめたる事柄を搜し求む。○〔范仲淹〕「探レ幽ーレー。」

【祖】 ソ、ス。則古切 麌

❶父の父、おほぢ、ぢゞ。〇〔書〕「乃—乃父」。
❷せんぞ。
(い)一血統の宗主。〇〔禮〕「別-子爲レ—」。
(ろ)一血統の宗主ならずとも廟に祭りたるものゝ稱。〇〔康熙〕「自ニ始-祖ニ下皆曰レ—、以レ祖配レ之、獨不レ包ニ羣—ニ乎」。
❸せんぞを祠りたる處、せんぞのたまや。〇〔周〕「左レ—右レ社」。
❹はじめ、(始)、かみ、(上)、もと、(本)。〇〔禮〕「—ニ述堯·舜ニ」。
❺承傳する物事のもとゝなれるもの。〇〔因話錄〕「爲ニ畫-家三—ニ」。
❻のっとる、(法)。〇〔禮〕「亨ニ狗於東-方ニ、—ニ陽-氣之發ニ於東-方ニ」。
❼ならふ、(習)。〇〔國〕「—レ識ニ地-德ニ」。
❽發足するに道途の神を祭ること。〇〔詩〕「仲-山-甫出—」。

(烈祖) 功烈ある祖先。〇〔書〕「伊-尹乃明ニ言—之成-德ニ、以訓ニ于王ニ」。
(先祖) 初代の祖先のこと、とほつおや。〇〔禮〕「自名以稱ニ揚其—之美ニ」。
(鼻祖) 前に同じ。〇〔漢〕「或—ニ—於汾-隅ニ」。
(初祖) 前に同じ、又、特に禪家にて達磨の稱。〇〔蘇軾〕「更把ニ安-心ニ向ニ—ニ」。
(田祖) 始めて耕作の事を發明せし祖先。〇〔詩〕「以御ニ—ニ」。
(尊祖) 祖先をあがむ。〇〔禮〕「親レ親故—レ—」。
(父祖) ちゝとぢゞと、又、祖先のこと。〇〔杜甫〕「廻-繼先ニ—ニ」。
(彭祖) 古の長壽の人。〇〔莊〕「—壽-考者之所レ好也」。
(佛祖) 釋迦牟尼のこと。〇〔蘇軾〕「今年洗レ心參ニ—ニ」。
(禪祖) 達摩のこと。〇〔蘇軾〕「古-刹訪ニ—ニ」。
(六祖) 達摩より六代目の祖先、慧能のこと。〇〔正宗記〕「—慧能大-師、姓盧-氏、新-興人」。
(文祖) 陶唐の始祖のこと。〇〔書〕「受ニ終于—ニ」。
(藝祖) 文祖のこと。〇〔書〕「歸ニ格于—ニ、用レ特」。
(乃祖) おのれの祖先。〇〔揚雄〕「昔我—、宣ニ其明-德ニ」。

(皇祖) すめらみおや、大君の祖先。〇〔書〕「—有レ訓、民可レ近不レ可レ下」。
(高祖) 一血統の宗主。〇〔書〕「肆上-帝將レ復ニ我—之德ニ」。
(太祖) 初祖に同じ。〇〔詩〕「—太-師皇-父」。
(始祖) 前に同じ。〇〔書、傳〕「告ニ其—ニ」。
(念祖) とほつおやの名を汚さじと思ふ。〇〔書、傳〕「宜ニ—レ修レ德」。
(爾祖) 汝のとほつおや。〇〔詩〕「王之藎-臣、無レ念ニ—ニ」。
(顯祖) 祖先の名譽をあらはす。〇〔陳琳〕「—レ揚レ名」。
(昭祖) 前に同じ。〇〔晉〕「—レ揚レ禰、封-禪爲レ首」。
(馬祖) 星の名、天駟星。〇〔周〕「春祭ニ—ニ」。
(妣祖) 歿りたる母とそと。〇〔王粲〕「昭ニ大孝ニ衎ニ于—ニ」。
(告祖) 祖先の廟にまうでて知らす。〇〔禮〕「必—ニ—ニ」。
(本祖) 祖先をもとゝなす。〇〔禮〕「人—ニ乎—ニ」。
(遠祖) とほつおや。〇〔後漢〕「朕得下識ニ昭·穆之序ニ、寄中—之思上」。〇〔後漢〕「—」。
(傳祖) 先々につたへて法る。〇〔後漢〕「皆專相—レ—」。
(祭祖) 祖先によく事ふ。〇〔後漢〕「臣聞子孫以レ—レ—爲レ孝」。
(共祖) とほつおやを一つにす。〇〔魏〕「五·帝三-王、雖ニ同レ氣—レ—、禮不ニ相襲ニ」。
(聖祖) 賢明なるとほつおや。〇〔晉〕「魏-々—」。
(曾祖) ひぢゞ卽ち祖父の父。〇〔祖〕「此兒當レ及ニ其—ニ」。「成中此宅-相上」。
(外祖) 母の父、母方のぢゞ。〇〔晉〕「當下爲ニ—ニ—、」
(累祖) 代々のとほつおや。〇〔晉〕「澡ニ蹈—ニ寵-光餘-烈ニ」。
(師祖) 法る。〇〔宋〕「遞相—」。
(睿祖) すぐれたるとほつおや。〇〔齊〕「皇矣—」。
(毅祖) 威ありて畏るべくあるぢゞ。〇〔宋〕「不レ可レ謂ニ—毅-父、義一也」。
(靈祖) くしびなる德を備へたる初祖。〇〔揚雄〕「皇-々—」。「思ニ」。
(懷祖) 祖先を思ふ。〇〔杜篤〕「悽-然有ニ—レ—之」。
(禰祖) 父と祖先との廟。〇〔聶孟〕「旣去ニ—ニ」。
(蛇祖) 竹のこと。〇〔梅堯臣〕「—龍-孫生ニ屋-後ニ」。

【祖】シヤ、セ。沓邪切 麻

❷地の名。〇〔漢〕「安-定-郡有ニ—厲-縣ニ」。
❸神の名。〇〔山海經〕「—狀之戶」。

【祇】シ。烝夷切 支

つゝしむ、つゝしみ、(敬)。〇〔書〕「—承ニ于帝ニ」。
(肅祇) おごそかにし敬む。〇〔史〕「陛-下—、郊ニ祀上帝ニ」。
(虔祇) 敬むこと。〇〔唐亨太廟樂章〕「誠效ニ—ニ」。

【祘】サン。蘇貫切 翰

かぞふ、(算)。

【祙】ビ、ミ。明祕切 寘

やまのかみ、こだま、(魑-魅)。

【祚】ソ、ズ。靖故切 遇

❶さいはひ、(祿)。〇〔詩〕「永錫ニ—胤ニ」。
❷くらゐ、(位)。〇〔史〕「卒踐ニ帝—ニ」。
❸さし、(歲)。〇〔晉〕「彈レ琴詠レ典以保ニ年—ニ」。
(光祚) 顯榮といふに同じ。〇〔後漢〕「非下所ニ以—ニ子·孫ニ者上也」。
(福祚) さいはひ。〇〔左〕「—之不レ登」。
(天祚) 天よりたまはりたるさいはひ。〇〔蜀〕「此—也」。
(德祚) 得る所のさいはひ。〇〔漢〕「—已盛」。
(延祚) さいはひをながく保つ、又、永きさいはひのこと、又、年をながくたもつこと。〇〔後漢〕「歷ニ十·二之—ニ」。
(流祚) さいはひを布く。〇〔晉〕「—無レ疆」。
(慶祚) めでたきさいはひのこと。〇〔魏、誌〕「開ニ誕—ニ鍾ニ聖-躬ニ」。
(休祚) おほいなるよきさいはひ。〇〔晉〕「—顯ニ萬-世ニ」。
(景祚) 前に同じ。〇〔晉〕「流ニ—ニ」。
(遐祚) ながき歲、又、永遠のさいはひのこと。〇〔晉〕「后-皇延ニ—ニ」。
(啓祚) さいはひを開く。〇〔隋〕「炎·靈—レ—」。
(永祚) ながきさいはひ、又、長年のこと。〇〔晉〕「保ニ茲—ニ」。
(傳祚) さいはひを後につたへのこす。〇〔晉〕「亦當ニ書ニ之竹·帛ニ、—中—萬-世上」。
(靈祚) 神妙なるさいはひ。〇〔晉〕「於赫—」。
(華祚) もろ〳〵のさいはひ。〇〔晉〕「百-禮治、—臻」。
(嘉祚) よきさいはひ。〇〔陳〕「遂享ニ—ニ」。
(登祚) 帝位に卽く。〇〔南〕「太-祖—レ—」。
(年祚) 天よりうくる年。〇〔南〕「嘗問ニ—遠-近ニ」。
(皇祚) 帝位といふに同じ。〇〔北〕「翼ニ成—ニ」。
(寶祚) 前に同じ。〇〔隋〕「延ニ—、眇無レ疆」。
(受祚) さいはひをうく。〇〔薛綜〕「上-下—レ—」。
(垂祚) さいはひをのこす。〇〔宋〕「發レ祥—レ—」。
(聖祚) 盛德ある帝王の位。〇〔宋〕「大昌ニ—ニ」。
(丕祚) 帝位のこと。〇〔元〕「嗣ニ承—ニ」。
(攝祚) かりに帝王の位にあること。〇〔揚雄〕「周-公—レ—」。
(降祚) 天よりさいはひをくだしさづく。〇〔史岑〕「—ニ—有-漢ニ」。
(獲祚) 福を得。〇〔蔡邕〕「靜レ躬祈レ福卽—レ—」。
(榮祚) さかんなるさいはひ。〇〔陸雲〕「垂ニ—乎祖·宗ニ」。
(餘祚) のこしれかれたるさいはひ。〇〔白居易〕「中-郞—鍾ニ羊·祜ニ」。
(顯祚) あきらかなるさいはひ。〇〔魏文帝〕「永享ニ—ニ」。
(踐祚) 帝王の位につく。〇〔鍾會〕「受レ命—レ—」。
(保祚) さいはひをまもりたもつ。〇〔荀勗〕「隆レ德—レ—」。
(吉祚) よきさいはひ。〇〔薛存義〕「垂ニ—于當-時ニ」。「—」。
(臨祚) 帝位につくこと。〇〔柳宗元〕「由ニ正-統ニ而—レ」

【祑】アウ。於良切 陽

殃に同じ。

【祛】キョ、コ。丘於切 魚

❶はらふ、(禳)、おふ、(逐)、ちらす、(散)、ひらく、(開)。〇〔漢〕「封-禪告レ成、合ニ—於天-地ニ」。

㊁つよし、（彊健）。○〔詩〕「以二車ー・ー一」。
〔病祜〕疾ちる。○〔陳造〕「都無二ー可一ー」。

【祜】コ、グ。後五切 麌

厚き福、さいはひ。○〔詩〕「受二天之ー一」。
〔天祜〕上帝よりさづかるさいはひ。○〔詩〕「受二ー之ー一」。
〔多祜〕すくなからざるさいはひ。○〔潘岳〕「已求二ー・ー一」。
〔皇祜〕おほいなるさいはひ。○〔漢〕「ー・ー元始」。
〔薄祜〕さいはひのうすきこと。○〔魏武帝〕「自惜二身ー・ー一」。
〔篤祜〕さいはひを厚くす、又、あつきさいはひ。○〔苗嶽〕「天ー二其ー一」。
〔神祜〕かみよりさづかるさいはひ。○〔宋〕「篤二ー之ー一」。
〔垂祜〕さいはひをたれのこす。○〔宋〕「ー・ー無レ窮」。
〔福祜〕さいはひ。○〔長楊賦〕「受二神人之ー・ー一」。
〔享祜〕さいはひを天よりうく。○〔曹植〕「宜レー二斯ー一」。
〔豐祜〕ゆたかなるさいはひ。○〔陸雲〕「裔二皇聖之ー・ー一」。
〔休祜〕よきさいはひ。○〔王韶之〕「永介二ー・ー一」。

【祝】シュク、ソク。之六切 屋

㊀神に事へ神を饗しのりさを告げいのりを行ふ者、はふり。○〔詩〕「工ー致レ告」。
㊁後來の福を請ふ、いはふ。○〔莊〕「請ー二聖人一」。
㊂おる、（織）、つく、（屬）。○〔詩〕「素絲ーレ之」。
㊃たつ、（斷）。○〔公羊〕「子路死、孔子曰、天ーレ予」。
〔秘祝〕はふり。○〔王安石〕「ー・ー可レ罷レ廢」。
〔戸祝〕前に同じ。○〔莊〕「ー・ー不レ越二樽俎一而代レ之矣」。
〔巫祝〕前に同じ。○〔杜甫〕「終朝走二ー・ー一」。
〔野祝〕村落などにあるはふり。○〔梅堯臣〕「ー・ー鑿レ鼓降二神語一」。

【祝】シウ、シュ。職救切 宥

言を以て神に告ぐ、のろ、又、其の詞、のりさ。○〔詩〕「侯作侯ー」。

【祝】チュ、ト。陟慮切 御

藥を附著すること。○〔周〕「瘍醫掌二ー藥一」。

【神】シン、ジン。食鄰切 眞

㊀かみ。
(い)天上の主宰、あまつかみ。○〔書〕「攘二竊ー祇之犧牷牲用一」。
(ろ)冥々の閒に存在し人閒以上の靈力を有するものゝ稱。○〔木華〕「惟ー是宅」。
(は)いつき祭りたるものゝ稱。○〔漢〕「雲陽有二涇路ー一」。
㊁精氣。○〔皇極經世〕「天之ー棲二乎日一、人之ー棲二乎目一」。
㊂精魂、たましひ。○〔呂氏春秋〕「費レー傷レ魂」。
㊃心。○〔揚雄〕「莫レ大二于寧レー一」。
㊄靈妙なること、測る可からざること、變化極まりなきこと。○〔孟〕「聖而不レ可レ知謂二之ー一」。
〔入神〕靈妙の域に立ち入る。○〔易〕「精義ーレー以致レ用也」。
〔鬼神〕神靈のこと、又、陰陽測られざるをいふ。○〔易〕「與二ー・ー一合二其吉凶一」。
〔嶽神〕大いなる山の神靈。○〔北〕「ー・ー自見」。
〔百神〕よろづの神々。○〔詩〕「懷二柔ー・ー一」。
〔如神〕極めて靈妙なるにいふ語。○〔史〕「其知ーレー」。
〔尊神〕かみ〴〵を崇む。○〔禮〕「殷人ーレー」。
〔敬神〕かみを崇めうやまふ。○〔禮〕「夏道尊レ命事レ鬼ーレー而遠レ之」。
〔天神〕あまつ神。○〔周〕「掌二建邦ー・ー人鬼地示之禮一」。
〔馭神〕神靈の事を取り締る。○〔周〕「祭祀以ー二其ー一」。
〔存神〕(い)精神を浮かれしめざるやうになす。○〔班固〕「守二寂寞一而ーレー」。(ろ)精神をくるしむ。○〔莊〕「ー二君之ー一與レ形」。
〔三神〕天と地と人との神。○〔甘泉賦〕「逆二釐ー・ー一」。
〔通神〕神明の道に通じさとる。○〔唐〕「非レー・ー不レ可レ得而知一」。
〔知神〕虛中の神。○〔老〕「ー・ー不レ死」。
〔飛神〕たましひを馳す。○〔關尹子〕「隨二情所一レ見可二以ーレー一」。
〔海神〕わたつみのこと。○〔三齊略記〕「ー・ー爲レ之豎レ柱」。
〔水神〕河の神、又、わたつみ。○〔柳宗元〕「雜骨占レ年拜二ー・ー一」。
〔精神〕心、たましひ。○〔莊〕「五未者、須二ー・ー之運心術之動一、然後從レ之者也」。
〔寧神〕心を安んず。○〔揚雄〕「寧レ親莫レ大二于ー・ー一」。
〔會神〕靈妙なる域に出であふ、又、精氣をあつむ。○〔聖主得賢臣頌〕「聚レ精ーレー」。
〔游神〕心を樂しましむ。○〔馮衍〕「誠少レー二ー乎經書之林一」。
〔潛神〕深く思案す。○〔答賓戲〕「ー・ー默記、默以二年歲一」。
〔騁神〕心を游ばす。○〔琴賦〕「殺二恆ーレー一」。
〔駭神〕心を驚かす。○〔琴賦〕「竦二衆聽一而ーレー」。
〔貫神〕尊き神靈のこと。○〔劉孝儀〕「牲樽禮二ー・ー一」。
〔麗神〕あでやかなる神靈。○〔陳暄〕「臨淄遂二ー・ー一」。
〔至神〕極めて靈妙なること。○〔易〕「非二天下之ー・ー一、其誰能與二于此一」。
〔聖神〕極めて通明靈妙なること。○〔羅璣〕「適際二ー・ー之運遠邦奔走一」。
〔明神〕効顯いやちこなる神靈。○〔詩〕「敬二恭ー・ー一」。
〔羣神〕八百よろづのかみ。○〔書〕「徧二于ー・ー一」。
〔化神〕教化いやちこなり。○〔禮、註〕「氣盛而ーレー」。
〔大神〕社及び方嶽の神。○〔周〕「封二于ー・ー一」。
〔庶神〕もろ〳〵の神靈。○〔國〕「以約二誓於上下ー・ー一」。
〔社神〕土地を守護する神靈。○〔禮、疏〕「故祀以爲二ー・ー一」。
〔塩神〕土地のこと。○〔劉禹錫〕「ー・ー噴濕」。
〔竦神〕心をそばたておそらす。○〔漢〕「盡レ己ーレー」。
〔殫神〕思ひを盡くす。○〔唐〕「殫レ思ーレー」。
〔心神〕心のこと。○〔魏〕「澡二雪ー・ー一」。
〔不神〕靈妙ならず。○〔老〕「其鬼ーレー」。
〔保神〕精神を保全して放出せざるやうにす。○〔莊〕「形體ー・ー、各有二儀則一」。
〔集神〕前に同じ。○〔關尹子〕「神不二外馳一、可二以ーレー」。
〔淨神〕心を淸潔にす。○〔春秋繁露〕「君子平レ意以ーレー」。
〔接神〕神靈に應接す。○〔中鑒〕「所謂者蔽以ーレー、自然應也」。
〔稷神〕五穀の神のこと。○〔獨斷〕「ー・ー厲山氏之子柱也」。
〔疏神〕心を通明ならしむること。○〔中論〕「學也者、所以ーレー達レ思」。
〔威神〕もののふの道のかみ。○〔劉勰新論〕「火爲二ー・ー一」。
〔番神〕えみし國のかみ。○〔酉陽雜俎〕「佛殿內西座ー・ー、甚古質」。
〔定神〕心をおちつく。○〔班固〕「安レ體ーレー」。
〔遊神〕たましひを遊ばす。○〔張君祖〕「尋二條獨ーレー一」。
〔放神〕心をはしいまゝにす。○〔韋應物〕「ーレー遺レ所レ拘」。
〔爽神〕心をさわやかにす。○〔常建〕「二靜々ーレー」。

【祟】スヰ。雖遂切 寘　シュツ、シュチ。雪律切 質

神の禍を降すにいふ字、たゝる、たゝり。○〔左〕「實沈臺駘爲レー」。
〔除祟〕神のたゝりを除き去る。○〔梁〕「名爲ーレー」。
〔大祟〕大いなる神のたゝり。○〔賈誼〕「是天下之ー・ー也」。
〔怪祟〕物のけのたゝり。○〔易林〕「福祿不レ遂、家多二ー・ー一」。
〔災祟〕わざはひ。○〔明林〕「齊侯疾戾、被二其ー・ー一」。
〔禍祟〕たゝりに出であふ。○〔黃庭堅〕「年來ーレー窮二三豪一」。
〔神祟〕神明のたゝり。○〔蘇軾〕「古屋澄潭有二ー・ー一」。
〔繁祟〕多きわざはひ。○〔張時徹〕「惟二陽侯之ー・ー一」。

【祠】シ、ジ。詳茲切 支

㊀まつる。
(い)春に神を祭るにいふ字。○〔詩〕「禴ー烝嘗」。
(ろ)いのり求めたる所遂げて報賽（かへりまつり）するにいふ字、むくいまつる。○〔周〕「禱二ー於上下

下神-示二」。
(は)すべて神を祭るにいふ字。〇〔漢〕「各自奉—」。
㊁まつる神。〇〔史〕「諸神—皆聚」。
㊂神を祭りたる處、やしろ、ほこら、たまや。〇〔司馬光〕「漢世多建二—堂於墓-所一」。
㊃其の人の功德を仰ぎ生存中に立てたるやしろ。〇〔史〕「慶爲二齊相一大治、爲立二石-相—一」。
㊄やしろに事ふる人。〇〔朱子語錄〕「王-介-甫更二新-法一慮二天下之議-論不一レ合、於レ是刱爲二宮-觀—祿一以待二異-議之人一」。

〔禴祠〕春の祭り。〇〔詩〕「——烝嘗」。
〔社祠〕國土を治むる神。〇〔漢〕「句-龍能平二水-土一、死爲二——一」。
〔稷祠〕五穀を掌る神。〇〔漢〕「柱能殖二百-穀一爲二——一」。
〔親祠〕自身に祭る。〇〔漢〕「今上帝躬——」。
〔禰祠〕子孫相繼ぎて祖先を祭ること。〇〔漢〕「家-人尙不レ欲レ絕二——一」。
〔解祠〕神を祭りて罪をはらひ福を求む。〇〔漢〕「古天-子嘗以レ春——」。
〔禖祠〕子を求むるために祭る神のほこら。〇〔漢、註〕「武-帝晩得二太-子一、喜而立二——一」。
〔禱祠〕福を求めて禮祭りをなす。〇〔周〕「—二—於上下神-示一」。
〔禖祠〕賓としまつる。〇〔史〕「取而—二—之一」。
〔齋祠〕神をいつき祭る。〇〔漢〕「敬二——之禮一、頗作二詩-歌一」。
〔奉祠〕前に同じ。〇〔漢〕「各自——」。
〔重祠〕尊び祭る。〇〔漢〕「吾甚——而敬-祭」。
〔湛祠〕物を沈めて川の神を祭る。〇〔漢〕「留二日——而去」。
〔報祠〕禮祭りをなす。〇〔漢〕「——大享」。
〔昏祠〕夜祭ること。〇〔漢〕「——至レ明」。
〔立祠〕ほこらを設く。〇〔漢〕「起レ冢—レ—」。
〔潔祠〕みそぎ祭る。〇〔後漢〕「三-月三-日、於二東-流水-上一、自潔-濯謂二之——一」。
〔仁祠〕僧寺のこと。〇〔竣然〕「——當二絹-境一」。
〔監祠〕みはりをなし祭る。〇〔晉〕「謁-者一-人—」。
〔祖祠〕祖先の廟。〇〔鹽鐵論〕「春-秋修二其——一」。
〔侑祠〕祭ること。〇〔吳郡圖經續記〕「季-子——焉」。
〔嚴祠〕祭をおごそかにしてなほざりにせぬ。〇〔張衡〕「天-廣—レ—而祿レ粹」。
〔望祠〕山川の祭りをなすこと。〇〔何晏〕「—二—山-川一」。
〔舊祠〕古き社。〇〔庾信〕「還二歸——一」。
〔古祠〕前に同じ。〇〔盧思道〕「——臨二渭-北一」。
〔遙祠〕遠く隔たりたる處にありて祭る。〇〔庾信〕「漢-后欲二——一」。
〔禋祠〕潔め祭る。〇〔李寶〕「——彰二舊典一」。
〔修祠〕祭りをなす。〇〔高子〕「帝-穆-淸以——」。
〔靈祠〕くしびなる神のほこら。〇〔李商隱〕「逐啓二——一」。
〔佛祠〕ほとけを祭れるほこら。〇〔陸游〕「淸-江邊二——一」。
〔荒祠〕あれはてたる神のほこら。〇〔溫庭筠〕「一-逕入二——一」。
〔淫祠〕祭るべからざるものを祭りたるやしろ。〇〔唐〕「毀二吳、楚——一」。
〔祟祠〕貴き神のやしろ。〇〔李義府〕「日-觀啓二——一」。
〔類祠〕祭りをなす。〇〔漢〕「先—二—泰-一一」。

【柴】柴に同じ、柴を燒き祭ること。〇〔揚雄〕「欽—宗祈」。

【祀】祀、禩に同じ。

【祢】デイ、ナイ。乃禮切 齊
禰に同じ。〇〔揚雄〕「宗二厥祖—一」。

六畫

【祣】リョ、ロ。兩擧切 語
山川を祭ること。〇〔書〕「九-山刊—」。
〔大祣〕上帝をまつること。〇〔周〕「—二—上-帝一」。

【祇】バク、ミヤク。莫伯切 陌
かみ、(神)。

【祤】ウ。王矩切 ク。況羽切 麌
祋—は、縣の名。

【祥】シヤウ、ザウ。徐羊切 陽
㊀めでたきこと、よろこび、さいはひ、「善福」。〇〔書〕「襲二于休—一」。
㊁吉凶の兆、しるし、さが。〇〔漢〕「妖-孽自レ外來謂二之—一」。
㊂喪服中の祭事。〇〔禮〕「父-母之喪期而小—、又期而大—」。
㊃詳に通じ用ふ、つまびらか。〇〔史〕「陰-陽之術大—」。

〔吉祥〕さいはひ。〇〔史〕「聖-人所レ謂——善事者與」。
〔考祥〕徵驗をかんがへしらぶ。〇〔陸雲〕「訪二百-神一而—レ—」。
〔徵祥〕吉凶のしるし。〇〔詩、疏〕「無二三-辰之災一、而有二——之瑞一」。
〔祺祥〕前に同じ。〇〔夢溪筆談〕「雲-物——、及當-夜星-氣、與二司-天一占レ狀對-勘」。
〔百祥〕あまたのさいはひ。〇〔書〕「作レ善降二之——」。
〔降祥〕さいはひを下す。〇〔江淹〕「山-雲—レ—」。
〔休祥〕さいはひのこと。〇〔後漢〕「可下垂二景光一致中——上矣」。
〔禎祥〕前に同じ。〇〔禮〕「國家將レ興必有二——一」。
〔農祥〕星の名、房星。〇〔國〕「——晨致」。
〔禨祥〕たゝりのこと。〇〔列〕「越信二——一者也」。
〔萬祥〕あまたの吉事。〇〔聖主得賢臣頌〕「——畢至」。
〔發祥〕さいはひをあらはす。〇〔宋〕「—レ—流レ慶」。
〔福祥〕さいはひ。〇〔後漢〕「興二——之本一、而止二禍亂之源一」。
〔慈祥〕愛みありて善きこと。〇〔儀〕「言忠-信——」。
〔兆祥〕善事のしるしをあらはす。〇〔史〕「神-靈之休、祐レ福—レ—」。
〔善祥〕吉なるしるし。〇〔漢〕「讒-者以爲二——一」。
〔美祥〕善きしるし。〇〔漢〕「數有二——一」。
〔嘉祥〕前に同じ。〇〔漢〕「屢獲二——一」。
〔珍祥〕奇しきしるし。〇〔漢〕「——畢見」。
〔殊祥〕前に同じ。〇〔司馬光〕「——輻-湊」。
〔衆祥〕あまたの吉なるしるし。〇〔漢〕「——並至」。
〔群祥〕前に同じ。〇〔拾遺記〕「聖-德之所レ洽、——咸至矣」。
〔呈祥〕しるしをあらはす。〇〔晉〕「星斗—レ—」。
〔效祥〕前に同じ。〇〔梁簡文帝〕「山-澤—レ—」。
〔異祥〕前に同じ。〇〔李華〕「生有二——一」。
〔迎祥〕さいはひを待ち受く。〇〔曹植〕「亟レ歲—レ—」。
〔符祥〕しるし。〇〔江賦〕「——非レ一」。
〔淑祥〕善きしるし。〇〔徐彥伯〕「歲-雜獻二——一」。

【祻】禋に同じ。

【桊】ケン。古倦切 霰
まつり、(祭)。

【祦】コ、グ。訛胡切 虞
さいはひ、(福)。

【祧】テウ。他彫切 蕭
遠祖の廟。〇〔左〕「以二先-君之—一處レ之」。
〔廟祧〕たまや。〇〔禮〕「設二——壇-墠一」。
〔宗祧〕先祖をまつるたまや。〇〔禮〕「設二爲—一」。
〔合祧〕ひとつの廟にあはせまつること。〇〔舊唐〕「準レ禮——」。

【票】ヘウ。卑遙切 蕭 ヘウ、呲召切 嘯
㊀火飛ぶ、又、飛び散る火。〇〔揚雄〕「見レ—如レ累レ明」。
㊁輕く擧がる、輕く疾し。〇〔漢〕「——然逝-旗逶-蛇」。

【祩】シユ、チユ。鍾輸切 虞 チユ、追輸切
のろふ、(詛)。

【祮】クワツ、グワチ。戶括切 曷
まつり、(祭)。

【祮】クワツ、ゲチ。乎刮切 [黠]
㊀のり(法)。㊁禳祭の名、はらひ。

【祮】クワン、グワン。胡玩切 [翰]
神に報ゆる祭、まつり。

【祪】キ。古委切 [紙] 歸謂切 [未]
㊀廟の主を毀つ。㊁やぶる、こぼつ(毀)。

【祫】カフ、ケフ。胡夾切 [洽]
後死の者を祖先の廟に合祭す、あはせまつる。○〔公羊〕「大事者何大｜｜也、大｜｜者何合祭也」。

【祬】古文の祇の字。

【祭】セイ、サイ。子例切 [霽]　〔說文〕从レ示以レ手持レ肉。
まつる、まつり。
(い)儀を整へ具を供して神に事ふるにいふ字。○〔禮〕「索｜祝ニ于祊ニ」。
(ろ)神として崇め事ふにいふ字。○〔禮〕「相ニ其所ヒ｜レ之」。

〔禴祭〕四時のまつりの中最も薄きもの。○〔易〕「東鄰殺レ牛、不レ如ニ西鄰之｜｜實受ニ其福ニ」。
〔尹祭〕脯のこと。○〔禮〕「凡祭ニ宗廟ニ之禮、脯曰ニ｜｜ニ」。
〔商祭〕乾したる魚。○〔禮〕「槀魚曰ニ｜｜ニ」。
〔脡祭〕鮮かなる魚のこと。○〔禮〕「鮮魚曰ニ｜｜ニ」。
〔獺祭〕かはをそ魚をもてその先をまつる、轉じて徒に物をならべつむことにいふ語。○〔禮〕「｜｜レ魚」。
〔豺祭〕やまいぬ獸を用ひてその先をまつる。○〔禮〕「｜｜、獸然後田獵」。
〔師祭〕いくさのまつり。○〔禮、註〕「禡｜｜也」。
〔與祭〕まつりの席につらなる。○〔論〕「吾不レ｜｜、如レ不レ祭」。
〔血祭〕牲を殺し其の血液をもて神をまつる。○〔禮〕「｜｜盛レ氣也」。
〔社祭〕土地の神の祭り。○〔禮〕「｜｜土而主ニ陰氣ニ也」。
〔贊祭〕祭りの事を輔佐す。○〔周〕「王燕食則奉レ膳｜レ｜」。
〔日祭〕毎日のまつりをなす。○〔國〕「蔡公謀父曰、｜｜月祀、時享歲貢」。
〔享祭〕物をそなへまつる。○〔易、疏〕「可レ用ニ｜｜ニ矣」。
〔類祭〕まつりをなす。○〔書、疏〕「｜ニ｜于上帝ニ」。
〔望祭〕山川のまつりをなすこと。○〔書、傳〕「皆一時｜ニ｜之ニ」。
〔偏祭〕あまねくまつりを爲す。○〔書、疏〕「又｜｜ニ羣神ニ」。
〔設祭〕まつりの支度をなす。○〔書、疏〕「｜レ｜以告ニ巡狩ニ」。
〔瀆祭〕祭るべからざるものを祭る。○〔李德裕〕「可レ謂レ不ニ諂レ神｜レ｜」。
〔郊祭〕都近き野にて天を祭る。○〔詩、箋〕「命レ魯｜ニ｜天ニ、亦配レ之以ニ君祖后稷ニ」。
〔繹祭〕祭りを爲したる翌日の祭り。○〔書〕「祭ニ天地社稷山川五祀ニ、皆有ニ｜｜ニ」。
〔喪祭〕もとまつりと。○〔書〕「重ニ民五敎ニ、惟食｜｜」。
〔烝祭〕冬のまつり。○〔書〕「｜｜歲文王騂牛一、武王騂牛二」。
〔常祭〕通常のまつり。○〔書〕「特ニ異｜｜ニ」。
〔報祭〕禮祭りをなす。○〔禮〕「｜ニ｜四方之神ニ」。
〔供祭〕祭りに進めそなふ。○〔漢、註〕「羔菟蠶所ニ以｜レ｜」。
〔祝祭〕はふりまつる。○〔詩〕「｜ニ｜于祭ニ」。
〔告祭〕神に申しまつる。○〔詩、疏〕「以｜下｜于汝先祖有ニ文德ニ之人上」。
〔雩祭〕雨請ひのまつり。○〔春秋繁露〕「大旱｜｜請レ雨」。
〔配祭〕合はせて祭る。○〔詩、箋〕「皆如レ是｜而｜」。
〔妄祭〕謂はれなくまつる。○〔禮、註〕「｜｜神不レ饗」。
〔濫祭〕前に同じ。○〔禮、疏〕「若｜｜亦是淫祀」。
〔時祭〕四時の祭。○〔禮〕「望レ墓而爲レ壇以｜｜」。
〔臘祭〕十二月の祭りの名。○〔禮、疏〕「｜｜之時、暫出ニ田獵以取レ禽」。
〔練祭〕人の死にて十三ヶ月目のまつり。○〔禮〕「主人｜｜而不レ旅」。
〔祫祭〕先祖及親疏遠近を合はせまつる祭り。○〔禮〕「｜ニ｜於祖ニ、則祝ニ迎四廟之主ニ」。
〔臨祭〕祭りの席に出づること。○〔禮〕「有司跛倚以｜｜、其爲ニ不敬ニ大矣」。
〔蜡祭〕歲の終はりの祭りの名。○〔禮〕「｜之｜也、主ニ先嗇ニ而祭ニ司嗇ニ也」。
〔私祭〕公ならず祭りをなす。○〔禮〕「終レ事而後敢｜｜」。
〔軷祭〕かどでせんとするときに祭るまつりの名。○〔禮〕「令レ爲ニ｜｜ニ」。
〔禡祭〕いくさの祭りの名。○〔周、註〕「故亦｜｜、禱ニ氣勢之十百而多ニ獲也」。
〔兵祭〕前に同じ。○〔周、註〕「旬以講レ武治レ兵、故有ニ｜｜ニ」。
〔遙祭〕遠き方にありて祭る。○〔周、疏〕「爲レ壇｜ニ｜之ニ」。
〔薄祭〕祭りを手うすくす。○〔左〕「黜レ官｜レ｜」。
〔敬祭〕祭りをつゝしみ大切にす。○〔史〕「吾甚重レ祠而｜レ｜」。
〔禘祭〕王者の大祭。○〔後漢〕「前修ニ｜｜ニ以盡ニ孝敬ニ」。
〔醮祭〕祭りの名。○〔漢〕「益州有ニ金馬碧鷄之神ニ、可ニ｜｜而致ニ」。
〔賻祭〕死亡者に品物を贈り祭る。○〔後漢〕「遣ニ加ニ賞賜｜｜ニ」。
〔弔祭〕悔みまつる。○〔後漢〕「使者｜｜賵賻甚厚」。
〔燎祭〕柴を焚きてまつる。○〔魏〕「｜ニ｜天地五嶽四瀆ニ」。

【祭】サイ、セ。側界切 [卦]
國の名、又姓。

七畫

【⿰示酉】標に同じ。

【⿰示肖】サウ、セウ。所交切 [肴]
さいはひ(祜)。

【祰】カウ、コウ。苦浩切 [皓] 居號切 [號]
いのる(禱)。

【⿰示豆】トウ、ヅ。大透切 [宥]
祭の福、供物のさがりもの。

【祱】ス井。式瑞切 [寘] 輸芮切 [霽]
まつり(祭)。

【祱】ライ、レ。嘗外切 [泰]
かどまつり(門祭)。

【⿰示我】ガ。牛何切 [歌]
祭の名。

【祲】シン。咨林切 [侵]
㊀凶兆ある氣、あしきき、妖氛、又、日の旁の氣、ひのかさ。○〔左〕「吾見ニ赤黑之｜ニ」。㊁さかんにす(盛)。○〔班固〕「天官景從｜レ威盛レ容」。
〔氣祲〕太陽のかたはらにあらはるゝ氣。○〔五〕「至ニ于｜｜之象ニ」。
〔祥祲〕めでたき瑞氣のこと。○〔張衡〕「｜｜衛布」。

【祳】シン。子鴆切 [沁]
㊀前條に同じ。㊁｜祥は、地の名。

【祳】シン、ジン。時忍切 [軫]
脤に同じ、社祭に供ふる生肉、まつりのにく。

【祴】カイ、ガイ。柯開切 [灰] カツ、ケチ。訖黠切 [黠]
｜夏は、古の樂章の名。○〔周〕「以ニ鐘鼓ニ奏ニ九夏ニ、有ニ｜夏ニ」。

【祴】カイ、ケ。居膎切 [佳]
導を敷きたる道、かはらみち。

【⿰示壹】シウ、ジユ。承呪切 [宥] 是酉切 [有]
年の久しからんことを祈る。

八畫

【⿰示奄】エン。衣檢切 [琰]
はらふ(祓)。

【⿰礻奄】エン。於贍切 〖鹽〗
汚れ觸る。

【祹】タウ、ドウ。徒勞切 〖豪〗
㊀さいはひ（福）。㊁神。

【⿰礻叕】テイ、テ。陟衞切 〖霽〗
重き祭。

【⿰礻叕】テツ、テチ。陟劣切 〖屑〗
酹に同じ、酒を地に沃ぎ祭る。

【䄍】サ、ゼ。助駕切 〖禡〗 蜡に通じ作る。
年の終はりのまつり。

【祺】キ、ギ。渠之切 〖支〗
㊀さいはひ（祥）。○〔詩〕「壽考維—」。㊁安泰にして憂へ懼れざる貌にいふ字。○〔荀〕「儼然壯然—然」。
〔春祺〕はるのさいはひ。○〔漢〕「惟—之—」。
〔福祺〕吉祥のこと。○〔唐〕「爛ニ遺光ニ流ニ——ニ」。
〔受祺〕さいはひを授かる。○〔張說〕「—ニ天之—ニ」。

【⿰礻固】コ、ク。古暮切 〖遇〗
まつり（祭）。

【⿰礻奇】キ。乞喜切 〖紙〗
好き貌にいふ字。

【祑】祆に同じ。

【⿰礻甾】シ。旨而切 〖支〗
やすし（安）。

【祼】クワン。古玩切 〖翰〗
一種のまつり、圭瓚（たまのひしやく）にて鬱鬯の酒を酌み尸に獻じ祭り了はれば其の酒を地に灌ぐ ○〔詩〕「—ニ將于京ニ」。
〔鬱祼〕鬱といふ香草のまざりたる酒を酌みて地にそゝぎて祭ること。○〔晉〕「——升レ禮」。

【祽】サイ、セ。祖對切 〖隊〗
月の祭。

【祾】リョウ。閭承切 〖蒸〗
㊀祭の名。㊁神の福、さがりの供物。

【禄】ロク。盧谷切 〖屋〗
㊀福善、めでたきこと、さいはひ、よし。○〔詩〕「百—是何」。㊁官に處りて上よりうくる給與、ふち。○〔禮〕「位定然後—レ之」。
〔不祿〕ふちを終へざること、士の死することにいふ語。○〔禮〕「士曰ニ——ニ」。
〔司祿〕星の名。○〔史〕「文昌宮六曰ニ——ニ」。
〔回祿〕火の神。○〔左〕「鄭禳ニ火於——ニ」。
〔世祿〕子々孫々に傳ふる扶持。○〔書〕「——之家、鮮ニ克由レ禮」。
〔第祿〕さいはひ、福祿といふに同じ。○〔詩〕「——爾康矣」。
〔百祿〕あまたのさいはひ。○〔詩〕「受ニ天——ニ」。
〔干祿〕さいはひを求む。○〔詩〕「—レ—豈弟」。
〔後祿〕のちのさいはひ。○〔詩〕「樂具入奏、以綏ニ——ニ」。
〔爵祿〕官位と俸祿と。○〔禮〕「——可レ辭也」。
〔大祿〕大いなる俸祿。○〔淮〕「出ニ——ニ行ニ大賞ニ也」。
〔重祿〕前に同じ。○〔禮〕「忠信——所ニ以勸レ士也」。
〔司祿〕俸祿にかゝはる事務を擔當する官の名。○〔周〕「——中士四人、下士八人」。
〔天祿〕（い）天より賜はるさいはひ。○〔漢〕「功成事立、則受ニ——ニ而永レ年」。（ろ）天より賜はる俸祿。○〔孟〕「弗ニ與食ニ——ニ也」。
〔秩祿〕俸祿に同じ。○〔晉〕「——準レ舊」。
〔光祿〕官の名、宮殿掖門戸の事を掌る。○〔唐〕「拜ニ——卿ニ」。
〔美祿〕うるはしき俸祿。○〔漢〕「酒者天之——、所ニ以頤ニ養天下ニ」。
〔辭祿〕ふちを辭退す。○〔亢滄〕「夫魯連之智、—レ—而不レ返」。
〔逃祿〕前に同じ。○〔後漢〕「豈但子文—レ—公儀退レ食之比哉」。
〔寸祿〕僅かのふち。○〔晉〕「妻子不レ霑ニ——ニ」。
〔薄祿〕前に同じ。○〔劉長卿〕「辛勤羞ニ——ニ」。
〔微祿〕前に同じ。○〔高適〕「——果徒勞」。
〔顯祿〕大いなるふち。○〔荀勗食擧樂歌〕「天被ニ——、福履是綏」。
〔榮祿〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「勇拋ニ——ニ逐天員」。
〔失祿〕ふちにはなる。○〔新序〕「受レ魚—レ—」。
〔福祿〕さいはひ。○〔詩〕「君子萬年、——宜レ之」。
〔受祿〕さいはひを授かる、又、ふちをうく。○〔詩〕「宜レ民宜レ人、—ニ—于天ニ」。
〔利祿〕ふちをまうけ得ること。○〔禮〕「事レ君三違而不レ出レ竟則—レ—也」。
〔制祿〕ふちの額を定む。○〔呉〕「以レ功—レ—」。
〔寵祿〕寵愛して與ふるふちのこと。○〔左〕「四者之來——過也」。
〔益祿〕ふちを增加す。○〔荀〕「庶人—レ—」。
〔專祿〕ふちを得るを專一と心がく。○〔左〕「—レ—以周旋戮也」。
〔吉祿〕めでたきさいはひ。○〔邵眞〕「豐福——、綏祉崇慶」。
〔封祿〕知行、扶持。○〔戰〕「飯ニ——之粟ニ而載ニ方府之金ニ」。
〔安祿〕ふちを安堵して受けをること。○〔晉〕「臣—レ—樂レ逸」。
〔食祿〕ふちを受けをる。○〔史〕「—レ—者不レ得ニ與ニ下民ニ爭レ利」。
〔奉祿〕受けをるふちのこと。○〔史〕「——甚多」。
〔官祿〕官位とふちと。○〔漢〕「皆受ニ——田宅財物ニ」。
〔厚福〕重大なるふち。○〔漢〕「久尸ニ——ニ」。
〔餘祿〕餘得とするふちのこと。○〔新序〕「忠臣無ニ——ニ」。
〔家祿〕家に傳ふるふち。○〔後漢〕「遂承ニ——ニ」。
〔仰祿〕ふちを求む。○〔王安石〕「—レ—之士猶可レ驕」。
〔班祿〕ふちをわかち與ふ。○〔管〕「—レ—賜予」。
〔俟祿〕へつらひをもて得るふち。○〔元倉子〕「朝無ニ——ニ」。
〔倖祿〕ふちを僥倖し求む。○〔曹植〕「僥ニ余生之——ニ」。
〔祉祿〕さいはひ。○〔崔駰〕「——來臻」。
〔豐祿〕ゆたかなるふち。○〔逵雲〕「——崇禮、已隆ニ其人ニ」。
〔要祿〕ふちを求む。○〔陸雲〕「因遺レ生以—レ—」。
〔竊祿〕その實なくしてふちを得。○〔宋璟〕「—ニ—譽宸ニ」。
〔斗祿〕僅かのふち。○〔歐陽修〕「試問塵埃勤ニ—レ—」。
〔念祿〕俸祿を得んことを思望す。○〔陸游〕「揣ニ我貧ニ—レ—亦可レ羞」。
〔苟祿〕俸祿をいやしくも偸む。○〔馬祖常〕「—レ—」。
〔叨祿〕ふちを貪る。○〔高啓〕「明時已—レ—」。
〔儋石祿〕僅かばかりのふち。○〔史〕「守ニ———之—ニ」。
〔五斗祿〕前に同じ。○〔孟浩然〕「欲レ狥ニ———ニ」。
〔萬石祿〕多きふち、一鍾は六石四斗。○〔鄭炎〕「食ニ此———ニ」。

【禒】リヨク、ロク。龍玉切 〖沃〗
彩貌を以て禮をなすこと。

【禀】俗の稟の字。

【禁】キン、コン。居蔭切 〖沁〗
㊀吉凶の忌、いみ。○〔論衡〕「不レ避ニ日—ニ」。㊁とゞむ（制）、いましむ（戒）、つゝしむ（謹）、さりしまる（錄）。○〔易〕「—ニ民爲レ非」。㊂ある行爲をなさしめざる法令、いましめ、はッと、おきて。○〔呂氏春秋〕「爲ニ國之—ニ」。㊃厭勝、まじなひ、呪詛、のろひ、妖幻、まほふ。○〔呉、註〕「賊中有ニ善レ—者ニ」。㊄天子のゐます所、きんり、ごしよ、皇居。○〔蔡邕〕「漢制天子所レ居門閤有レ—非ニ侍御之臣ニ不レ得ニ妄入ニ—稱ニ——中ニ」。㊅酒樽を陳列する器。○〔禮〕「大夫士棜—」。
〔邪禁〕國家の禁制。○〔書〕「司寇掌ニ——ニ」。

〔時禁〕時刻にあらずして出入する者をいましむること。○〔周〕「辨二外・內一而——」。
〔閒禁〕國のいましめを尋ぬ。○〔禮〕「入レ竟而—レ—」。
〔舍禁〕禁制を捨て棄つ。○〔周〕「五曰、—レ—」。
〔犯禁〕禁制を破る。○〔淨〕「—レ—者處レ之」。
〔大禁〕大いなるいましめ。○〔孟〕「問二國之——一」。
〔法禁〕おきて。○〔漢〕「多陷二——一」。
〔驅禁〕おきてにさゝはる。○〔漢〕「搖レ手—レ—、不レ得二耕・桑一」。
〔禮禁〕禮儀禁制のこと。○〔後漢〕「使レ知二——一」。
〔酒禁〕酒飲むことを制するいましめ。○〔魏、註〕「太祖制二——一」。
〔弛禁〕禁制を緩かにす。○〔蜀、註〕「緩レ刑—レ—」。
〔宮禁〕皇宮のこと。○〔宋〕「密二邇——一」。
〔丹禁〕赤く塗りたる宮殿。○〔沈佺期〕「南山奕々逼二——一」。
〔設禁〕掟をこしらふ。○〔漢〕「故爲—レ—」。
〔重禁〕輕からぬいましめ。○〔詩、疏〕「脊以二——一」。
〔執禁〕掟を守る。○〔禮〕「—レ—以譏」。
〔憲禁〕おきて。○〔潛夫論〕「——必從」。
〔糾禁〕前に同じ。○〔周〕「以治二王・宮之政令、凡宮之——一」。
〔門禁〕門の出入の制限。○〔隋〕「往來不レ限二——、其恩倖如レ此」。
〔戒禁〕いましめ、又、おきて。○〔周〕「掌二其政・教與二其——一」。
〔去禁〕おきてを棄つ。○〔左〕「弛レ關—レ—」。
〔解禁〕前に同じ。○〔後漢〕「以爲宜レ—二黨—一」。
〔知禁〕おきての畏るべきを見て之を守ることを辨ふ。○〔孝〕「示レ之以二好・惡一而民—レ—」。
〔抵禁〕おきてを犯す。○〔漢〕「民觸レ法—レ—」。
〔苛禁〕殘酷なるおきて。○〔漢〕「或擅爲二——一」。
〔科禁〕おきて。○〔後漢〕「其中二明——一」。
〔常禁〕平常のおきて。○〔後漢〕「令三民知二——一」。
〔威禁〕威重と禁制と。○〔吳、註〕「——大行」。
〔刑禁〕おきて。○〔魏〕「——日弛」。
〔嚴禁〕きびしきいましめ。○〔宋〕「密立二——一」。

【禁】キン、コン。居吟切 侵
㊁當たり勝つ、劫し持つ、おしつく、ひきさゞむ。○〔漢〕「弗レ能レ—」。○〔荀〕「其纓—緌」。

【裪】タウ、トウ。覩老切 晧
禱に通じ用ふ、いのる。

【祀】ケン。丘倦切 霰 丘願切 願
㊀まつり（祠）。㊁まつりのくもつ（福）。

【[illegible]】リク、ロク。力竹切 屋
みる（見）。

【禃】ショク、ジキ。承職切 職
もっぱら（專一）。

【[illegible]】シュツ、シュチ。雪律切 質
行く能はざるにいふ字。

九畫

【禈】キ。許歸切 支
まつり（祭）。

【[illegible]】カウ、ギヤウ。戶盲切 庚 クワウ、ガウ。戶光切 陽
禓—は、まつりの名。

【[illegible]】コウ、グ。胡冓切 尤
祭りて福を求む、いのる。

【禊】ケイ、ガイ。胡計切 霽 カツ、ケチ。訖黠切 黠
㊀惡を除ふ祭事、水邊にて行ふもの、みそぎ。○〔晉〕「帝親觀レ—」。
㊁みそぎを行ひ惡を除ふ、みそぐ。○〔劉孝綽〕「薰二祓三陽暮一、濯二—元巳初一」。○
〔祓禊〕みそぎをなすこと。○〔庾信〕「雖レ行二——之飮一、即同二春苑之儀一」。
〔洛禊〕洛水にて行ふみそぎ。○〔劉孝威〕「皐儲遵二——一」。
〔俶禊〕不淨を去るがためにみそぎを行ふこと。○〔褚爽〕「將レ—二—於洧・川一」。
〔修禊〕みそぎの式を行ふ。○〔何延之〕「—レ—揮レ毫製レ序」。
〔春禊〕上巳に行ふみそぎのこと。○〔王維〕「故・事修二——一」。
〔濯禊〕みそぎ。○〔劉孝綽〕「——元巳初」。
〔飲禊〕みそぎして酒を飲む。○〔蘇轍〕「——何妨似二洛陽一」。

【禋】イン。伊眞切 眞
物事を潔くして祀る、精意を致して享す、まつる。○〔書〕「—二于六宗一」。
〔郊禋〕天を祭ること。○〔劉允濟〕「——之禮爰盛」。
〔烝禋〕まつる。○〔陸機〕「—二—皇祖一」。
〔帝禋〕天子のまつり。○〔王珪〕「明・堂奉二——一」。

【禑】ク。果羽切 麌
姓。

【禌】シ。子絲切 支
やすむ、いこふ（息）。

【禍】クワ、グワ。戶果切 哿
神咎を受くること、危害の及ぶこと、福祿あらざること、まがごと、わざはひ、さいなん。○〔禮〕「君子愼以避レ—」。
〔樂禍〕わざはひのおこるをねがふ。○〔左〕「歌・舞不レ倦、—レ—也」。
〔嫁禍〕わざはひを他にうつす。○〔戰〕「內—レ—安レ國、此善事也」。
〔結禍〕わざはひをでかす。○〔史〕「此所レ謂市レ怨—レ—者也」。
〔宿禍〕わざはひをとゞむ。○〔漢〕「畜レ亂—レ—」。
〔召禍〕わざはひをよびだす。○〔荀〕「言有レ—レ—」。
〔閑禍〕わざはひの來たるをふせぐ。○〔管〕「—レ—在レ除レ怨」。
〔構禍〕わざはひをつくる。○〔詩〕「我日—レ—」。
〔辟禍〕わざはひをよく。○〔禮〕「君子愼以—レ—」。
〔酒禍〕さけよりおこるわざはひ。○〔禮〕「此先王之所三以備二——一也」。
〔免禍〕わざはひをのがる。○〔唐〕「可二以—レ—」。
〔脫禍〕前に同じ。○〔漢〕「君等幸—レ—矣」。
〔速禍〕わざはひを招く。○〔左〕「所二以—レ—也」。
〔移禍〕わざはひを他へうつす。○〔史〕「今—レ—、庶去二是身一乎」。
〔陰禍〕人にかくれたるわざはひ。○〔史〕「以二吾多一——也」。
〔息禍〕わざはひをけし止む。○〔漢〕「其勢固不レ能レ—二天下之—一」。
〔銷禍〕前に同じ。○〔晉〕「則—レ—而福至」。
〔怖禍〕わざはひのきたるを懼る。○〔後漢〕「亂夫—レ—」。
〔畏禍〕前に同じ。○〔唐〕「沙—レ—隱二衡山一」。
〔遠禍〕おのれの身のわざはひに接せず。○〔舊唐〕「古人所二以——一」。
〔女禍〕婦人より生ずるわざはひ。○〔唐〕「再罹二——一益深」。
〔養禍〕わざはひをつくる。○〔五〕「緩レ之則—レ—而「—」」。
〔除禍〕わざはひをのぞき去ること。○〔荀〕「救レ患—レ—」。
〔福禍〕さいはひとわざはひと。○〔韓愈〕「告以二——一」。
〔艱禍〕困難と災害とのこと。○〔劉琨〕「——繁興」。
〔綏禍〕わざはひをゆるべて輕くすること。○〔柳宗元〕「願以二潭・上田一、貿レ財以—レ—」。
〔飲禍〕酒をのむよりおこるわざはひ。○〔皮日休〕「不レ見二前世之——一耶」。

【禎】テイ、チヤウ。知盈切 庚
さいはひ（祥）、たゞし（貞）、よし（休）。○〔禮〕「必有二—祥一」。
〔休禎〕よきさいはひ。○〔後漢〕「——符瑞豈遠乎哉」。
〔祥禎〕前に同じ。○〔張華〕「百神輯二——一」。
〔嘉禎〕前に同じ。○〔魏收〕「——幽明」。「—」。
〔表禎〕吉祥をあらはすこと。○〔宋武帝〕「有レ穗—」

【福】フク、ホク。方六切 屋
㊀天より祐くること、めでたきこと、志あはせよきこと、よろこび、さきはひ、さいはひ、吉祥、休善。○〔書〕「嚮用二五—一」。

㊁神に奉る供物、ひもろぎ。〇〔周〕「祭-祀之致レ—者受而膳レ之」。
㊂同に同じ。〇〔張衡〕「仰二—帝-居一陽-耀陰藏」。

〔受福〕幸福を授かる。〇〔詩〕「—レ—無レ疆」。
〔錫福〕幸福を下し賜はる。〇〔書〕「汝則—二之—一」。
〔多福〕幸福さはにあり。〇〔書〕「應レ受—・—一」。
〔遐福〕積大なるさいはひ。〇〔詩〕「降二爾—・—一」。
〔萬福〕あまたのさいはひ。〇〔詩〕「—・—攸レ同」。
〔景福〕よきさいはひ。〇〔詩〕「以介二—・—一」。
〔祈福〕幸福を請ひ求む。〇〔禮〕「爲レ民—レ—」。
〔天福〕天帝の賜はるさいはひ。〇〔漢〕「屢獲二—・—一」。「邑之社-稷一」。
〔徼福〕さいはひを求む。〇〔左〕「君惠二—ユ—于敝-邑之社-稷一」。
〔豐福〕ゆたかなるさいはひ。〇〔國〕「受二天之—・—一」。
〔逢福〕幸福に出であふ。〇〔國〕「道而得レ神是謂「—レ—」。
〔歸福〕まつりの時神に供へたる肉を賜りやる。〇〔國〕「必速祠而—レ—」。
〔家福〕家のさいはひ。〇〔晉〕「保二寧—・—一」。
〔混福〕さいはひのこと。〇〔漢〕「中外—・—」。
〔長福〕永久なるさいはひ。〇〔漢〕「社-稷之—・—」。
〔纂福〕さいはひを受け得。〇〔後漢〕「家必—レ—」。
〔餘福〕名殘りのさいはひ。〇〔後漢〕「遭二値太-平一、先-人—・—」。
〔祺福〕さいはひのこと。〇〔梁北郊樂歌〕「純-嘏不レ僭、—・—是賚」。
〔致福〕さいはひを招きよす。〇〔周〕「凡祭-祀—レ—」。
〔介福〕善き幸福。〇〔詩〕「報以二—・—一、萬-壽無レ疆」。
〔祉福〕幸福のこと。〇〔詩〕「烈文辟-公、錫二茲—・—一」。
〔嘉福〕前に同じ。〇〔易林〕「長受二—・—一」。
〔降福〕天よりさいはひを下し賜はる。〇〔詩〕「—レ—穰-々」。
〔禍福〕災難と幸福と。〇〔禮〕「—・—將レ至」。
〔威福〕威光とさいはひとを擅にすること。〇〔漢〕「朝無二—・—之臣一」。
〔盛福〕盛大なるさいはひ。〇〔史〕「天-下之—・—也」。
〔享福〕幸福を授かり受く。〇〔後漢〕「高宗以—レ—」。
〔傳福〕さいはひをつたへ及ぼす。〇〔後漢〕「天人相感、—レ—無レ窮」。
〔保福〕さいはひを保全す。〇〔晉〕「修レ德—レ—」。
〔遠福〕さいはひを招きよす。〇〔晉〕「欲二人知ニ爲レ善之—一ア—」。
〔壽福〕長壽とさいはひと。〇〔易林〕「更與二—・—一」。
〔追福〕死者のために冥加を祈ること。〇〔北〕「上爲立レ寺—・—爲」。「託劉-氏二爲レ女」。
〔薄福〕さいはひのすくなきこと。〇〔北〕「我—・—」。
〔冥福〕死にての後のさいはひのこと。〇〔北〕「追二奉—・—一」。「帝方惑二佛-老一、—レ—祈レ年」。
〔祈福〕さいはひを得んことを神佛に祈請す。〇〔唐〕
〔營福〕追福を行ひいとなむ。〇〔唐〕「事レ佛—レ—」。
〔厚福〕淺はかならざるさいはひ。〇〔宋〕「能保-全而亨二—・—一者由二忠-正一也」。
〔洪福〕大いなるさひはひ。〇〔金〕「社-稷之—・—也」。
〔奇福〕得べきいはれなくして慮らずも得るさいはひのこと。〇〔文中子〕「從二天之則一、內無二—・—一、外無二奇-禍一」。
〔積福〕さいはひをつみ累ぬ。〇〔易林〕「蓄レ利—レ—、「日新二其德一」。
〔益福〕前に同じ。〇〔易林〕「增レ祿—レ—」。「—一」。
〔巨福〕大いなるさいはひ。〇〔劉談錄〕「皆享二—・
〔瑞祿〕めでたきさいはひ。〇〔王褒〕「慶降二—・—一」。
〔吉福〕前に同じ。〇〔蔡邕〕「享二茲—・—一」。
〔延福〕さいはひをのべひろぐ。〇〔摯虞〕「履レ信思レ順、所二以—ア—」。
〔淨福〕清淨なるさいはひ、即ち佛教にいふ語。〇〔徐陵〕「大傾二財-寶一、同修二—・—一」。

【福】ヒウ、フ。敷救切 宥
をさむ(藏)。〇〔史〕「邦—二重-龜一」。

【䄐】エン。王眷切 霰
おびもの(佩)。

【禑】ゴ、グ。五乎切 虞
さいはひ(福)、又、禑に同じ。

【禓】ヤウ。移章切 陽
道上の祭、みちのまつり、一說に、道の神。

【禓】シヤウ。尺羊切 陽
強き鬼を拂ふ、おにやらひす、又、其神。

【禔】シ。旨而切 支　テイ。杜奚切 齊
さいはひ(福)、又、やすし(安)。

【禔】祗に同じ、たゞ、たゞに。〇〔史〕「—取レ辱耳」。

【禇】シヨ、ソ。寫與切 語
祭に用ふる具。

【禕】イ。於宜切 支
㊀よし(美)。㊁めづらし(珍)。

【禖】バイ、メ。謨杯切 灰
天子の子を求むるまつりの名。〇〔禮〕「仲-春之月以二太-牢一祠二于高—一」。
〔高禖〕天子の子を求むる祭の名。〇〔禮〕「以二太-牢一祠二於—・—一」。
〔郊禖〕前に同じ。〇〔詩、傳〕「古者必立二—・—一焉」。
〔燕禖〕前に同じ。〇〔杜牧〕「—・—得二皇-子一」。

【禗】シ。新茲切 支　想里切 紙
神の安んぜずして去らんさ欲する意にいふ字。〇〔漢〕「靈—・—象-輿轙」。

【禘】テイ、ダイ。大計切 霽
昭穆を序づる王者の大祭、おほまつり。〇〔禮〕「禮不レ王不レ—」。
〔祫禘〕王者のなす祖先の大まつりのこと。〇〔禮〕「天-子犆-礿—・—」。
〔郊禘〕都近き野にて爲す天地のまつりと祖先の大まつりと共に王者の行ふまつり。〇〔禮〕「魯之—・—非レ禮也」。
〔饗禘〕王者の爲す祖先の大まつりのとき供物をなすこと。〇〔禮〕「—・—有レ樂、而食嘗無レ樂」。
〔礿禘〕天子の爲す春と夏とのまつりの名。〇〔禮〕「—・—陽義也」。
〔吉禘〕王者の左昭右穆を辨にするために行ふまつりのこと。〇〔春秋〕「夏五-月乙-酉、—ユ—于莊-公一」。
〔大禘〕祖先の大まつりをなす。〇〔詩 謚〕「太-武康-王、—・—報-祀」。
〔卜禘〕祖先の大まつりをなす日を占ひて定む。〇〔禮〕「未レ—レ—、不レ視レ學、學二其志一也」。

十畫

【禚】シヤク、サク。職略切 藥
齊の地の名。

【禛】シン。之人切 眞
眞をもて福を受くるにいふ字。

【禜】エイ、爲命切 敬　ヤウ。永兵切 庚
㊀なはばりにてまつりのにはを設け凶災を禳ふ祭事、まつり、又、其のまつりを行ふ、まつる。〇〔左〕「山-川之神則水-旱疫-癘之災於レ是—レ之」。
㊁繩ばりにて設けたる祭事を行ふ處、まつりのには。〇〔禮、疏〕「—壇-域也」。

【䄃】リウ、力救切 宥　チウ、陳留切 尤　ル。　ヂユ。
まじなふ。

【禝】シヨク、節力切 職　シキ。
稷に通じ作る。
后—は、堯の臣、周の祖先。

【禢】ハウ、ビヤウ。薄庚切 庚
—禢は、祭の名。

【禞】祰に同じ。

【禖】ベイ、ミヤウ。忙經切 青
さいはひ(福)。

【禟】タウ、ダウ。徒郎切 陽

たすけ（祐）。

【禝】禝の本字。

【禠】シ。相支切　キ。翹移切　支　イ。演爾切　紙　さいはひ（福）。○〔張衡〕「祈レ—禳レ災」。

【禡】バ、メ。莫駕切　禡　師旅の止まる地にて先世の軍法を始めて造りし者を祭るを、いくさのまつり。○〔詩〕「是類是—」。

十一畫

【𥜒】ヒツ、ヒチ。壁吉切　質　竈のまつり。

【禓】禓に同じ。

【䄬】サウ、ザウ。才勞切　豪　㊀かみのたすけ（祐）。㊁家のまつり。

【䄻】ロウ、郎侯切　尤　ル。龍珠切　虞　飲食のまつり。

【𥛱】テキ、チヤク。丑歷切　錫　さいはひ（福）。

【禤】ケン。呼淵切　先　姓。

【𥛠】リ。力之切　支　さいはひ（福祥）、又、魑に作る。

【𥜸】タウ、トウ。丑江切　江

㊀祠りの恭まざるにいふ字。㊁祭の壇を毀たざるにいふ字。

【𥛩】詛に同じ。○〔漢〕「劉屈氂復坐ニ祝—ー要斬」。

【禦】ギヨ、ゴ。魚據切　語　㊀ふせぐ。（い）拒みて入れず、さゝへ守る。○〔左〕「鄭伯—レ之」。（ろ）抗たる。○〔論〕「—レ人以ニ口給ニ」。（は）備ふ。○〔國〕「所ニ以—ヒ災也」。（に）避く。○〔山海經〕「可ニ以—ヒ火」。㊁やむ。（い）止どまる。○〔易〕「以言ニ乎遠ー則不レ—」。（ろ）止どむ。○〔左〕「執政—レ之」。㊂ふせぐもの、さゝむるもの。○〔詩〕「不レ畏ニ彊——ニ」。

〔外禦〕外部に向かひて防ぎ止どむ。○〔詩〕「兄弟鬩ニ于牆ー——ニ其侮ニ」。
〔豫禦〕かねて防ぎ止どむ。○〔公羊〕「——レ之也」。
〔備禦〕敵に備へ防ぐ。○〔梁〕「修ニ城隍ー爲ニ——ニ」。
〔救禦〕危きをすくひて防ぎ止どむ。○〔國〕「如レ經ニ大川ー、潰而不レ可ニ——ー也」。
〔守禦〕城を固く守りて敵を防ぎ止どむ。○〔國〕「小國諸侯有ニ——之備ニ」。
〔抗禦〕敵に抵抗して防ぎ止どむ。○〔晉〕「招ニ集義勇ー——ニ仇讎ニ」。
〔戍禦〕屯して敵を防ぎ止どむ。○〔鹽鐵論〕「邊民苦ニ於——ニ」。
〔屯禦〕前に同じ。○〔獨孤及〕「少罷ニ——ー、餘悉休レ之」。
〔撫禦〕民を安んじ敵を防ぐ。○〔晉〕「撫ニ寧彊場ー、有ニ——之績ニ」。
〔扞禦〕敵を防ぎとゞむ。○〔宋〕「委以ニ——之任ニ」。
〔率禦〕兵をひきゐ敵を防ぐ。○〔陳〕「——有レ方」。
〔防禦〕敵を防ぎとゞむ。○〔唐〕「——使以レ無レ虞爲ニ上考ニ」。
〔懲禦〕寇をこらしめとゞむ。○〔唐〕「來則——、去則謹レ備」。
〔鎭禦〕鎭撫し防ぐ。○〔賈至〕「才膺ニ——ニ」。
〔控禦〕ひかへとゞむ。○〔宋〕「——以扼ニ其衝ニ」。

【𥜻】ハク、ホク。匹角切　覺　久しく視る、みる。

十二畫

【䄹】膰に同じ。

【𥛳】ケツ、ケチ。古穴切　屑　あしきさが、わざはひ（不祥）。

【𥝀】セイ、ゼ。充稅切　霽　サン。千短切　旱　㊀こことわる（謝）。㊁しばしば祭る。

【禧】キ。虛宜切　支　㊀さいはひ（福）、又、よし（吉）。○〔隋〕「受レ—降レ祉」。㊁つぐ（告）。

〔福禧〕幸あること。○〔范鎭〕「同レ心仰ニ——ニ」。
〔繁禧〕數しげき幸福。○〔張昱〕「萬宇受ニ——ニ」。
〔鴻禧〕大いなる幸福。○〔張德潤〕「漢郊五時答ニ——ニ」。

【𥛚】レウ。力弔切　嘯　禋—は、柴を燒きて天を祭る。

【禨】キ。居希切　微　㊀さいはひ（祥）。○〔列〕「楚人鬼而越人—」。㊁たゝり（祟）。

【禨】キ、ケ。居氣切　未　沐したる後酒を飮むにいふ字、又、其の酒の稱。○〔禮〕「進レ—」。

【禪】セン、ゼン。時戰切　霰　㊀地を除ひて山川を祭ること。○〔漢〕「言ニ封——事ニ」。㊁位を傳ふ、代はらしむ、ゆづる。○〔孟〕「唐虞—」。

〔受禪〕帝位の傳與を得。○〔宋〕「—レ—卽レ祚」。
〔傳禪〕帝位を讓り傳ふ。○〔許山〕「——易レ祖」。
〔登禪〕帝位の傳與を受けて帝位にのぼる。○〔張衡〕「嘉ニ大舜之——ニ」。
〔顯禪〕あらはに傳へ與ふ。○〔曹植〕「——ニ天位ー、希レ唐效レ堯」。
〔承禪〕帝位の傳與を受く。○〔陸雲〕「披レ圖—レ—」。
〔交禪〕互に帝位を傳へあひて己れ卽かんとせず。○〔皇甫謐〕「魏氏以ニ——ー比ニ唐虞ニ」。
〔敬禪〕つゝしみて帝位を傳ふ。○〔任昉〕「今便——ニ于梁ニ」。

【禪】セン、ゼン。市連切　先　㊀しづか（靜）。○〔禪修行方便經、序〕「—非レ智無ニ以窮ニ其寂ー、智而非レ—無ニ以深ニ其照ー、則——智之要照寂之謂其相救也」。㊁靜慮、卽ち、專心守一にしてもろもろの繫累を斷ちて普智、卽ち、明心達理の境に到るを（佛家の說）。○〔傳燈錄〕「—有ニ深淺階級ニ」。㊂打坐して靜慮普智の業を修むると、ざぜん。○〔蘇軾〕「睡穩如レ—息々匀」。㊃靜慮普智を旨となす一派の佛教。○〔白居易〕「—僧出レ郭迎」。

〔坐禪〕佛家にて行ふとにて靜に默坐して妙理を究むること。○〔佛國記〕「佛本於レ此——」。
〔悟禪〕佛理を心にさとり知る。○〔范成〕「華省仙郎早レ—レ—」。
〔參禪〕佛のみちに入ること。○〔皮日休〕「林間孤鶴欲レ—レ—」。
〔習禪〕佛法をまなびならふ。○〔魏〕「沙門惠始自レ—レ—、至ニ於沒ニ世、五十餘年」。
〔立禪〕たちながら靜默して佛理を悟らんとする法をいふ。○〔全唐詩話〕「常與室——」。
〔耽禪〕佛のみちにふける。○〔靈徹〕「以ニ其——ー、多交ニ衲子ニ」。
〔安禪〕ほとけをおくと。○〔江總〕「石室乃—レ—」。
〔修禪〕ほとけの法ををさむ。○〔徐陵〕「—レ—遠谿」。

[趣禪] 佛のみちにむかふこと。〇[顔眞卿]「一心唯一ー」。
[解脱禪] 人慾を離れたるほとけのみちの悟りをいふ。〇[法苑珠林]「若王入ㇾ禪卽入二ーーー一」。

【禫】 タン、ドン。 徒感切 [感]

㊀父母の喪の除期となりたるときに行ふ祭事の名、父母の死後二十五ヶ月を經て祥のまつりを行ひたる月の中に行ふもの。〇[禮]「父母之喪期而小祥、又期而大祥、中月而ー」。
㊁澹に同じ。〇[荀]「神二ー其辭一」。

【禬】 キヨ、コ。 休居切 [魚]

びんぼうがみ（耗鬼）。

十三畫

【禪】 エキ、ヤク。 夷益切 [陌]

祭事の明けの日。
㊁まつりの名、繹に同じ。

【禬】 クワイ、エ。 古外切 [泰]

災害を除く祭事、はらひ。〇[周]「女祝掌二以ㇾ時招梗ー禳之事一」。
[禳禬] わざはひをはらふまつり。〇[唐]「以爲二ーー一」。
[祝禬] 前に同じ。〇[唐]「帝自ーー」。

【禮】 セン、ゼン。 時戰切 [霰]

㊀天を祭る。
㊁ゆづる（讓）。〇[漢]「舜、禹受ㇾー」。

【禭】 スヰ、ズヰ。 徐醉切 [寘]

㊀まつりの名。㊁祔の名。

【禮】 レイ、ライ。 里弟切 [薺]

㊀人の履み行ふべき外形上の秩序品節、ゐや、のり。〇[書]「欲敗ㇾ度縱敗ㇾ禮」「ーㇾ之」。
㊁敬意を表すること。〇[呂氏春秋]「其ー」。
㊂敬意を表する物、れいもつ。〇[禮]「無ㇾー不ㇾ見」。
㊃敬意を表する式、ぎしき。〇[禮]「凶荒殺ㇾー」。

[合禮] 禮儀にあてはまる。〇[易]「嘉會足二以ー一」。
[典禮] 法典禮儀。〇[易]「以行二其ーー一」。
[制禮] 禮式を作る。〇[晉]「治定ーㇾー」。
[三禮] 儀禮、周禮、禮記。〇[南]「特精二ーー一」。
[由禮] 禮儀により行ふ。〇[書]「世祿之家、鮮ㇾ克ㇾーㇾー」。
[五禮] 吉禮、凶禮、軍禮、賓禮、嘉禮のこと。〇[北]「修二ーー之缺一」。「ーㇾー」。
[敗禮] ゐやをくづしやぶる。〇[書]「欲敗ㇾ度、縱ーーー」。
[百禮] あまたのゐや。〇[詩]「烝二畀祖妣一、以洽二ーー一」。「禮」。
[問禮] ゐやのことをとひたづぬ。〇[禮]「ーㇾー對以ㇾ禮」。
[殺禮] 禮儀をおとす。〇[禮]「凶荒ーㇾー」。
[賓禮] 賓客を饗應する儀式。〇[禮]「ーーー毎造以ㇾ讓」。
[六禮] 冠禮、昏禮、喪禮、祭禮、鄕禮、相見禮の六つのゐや。〇[禮]「司徒修二ーー一以節二民性一」。
[修禮] ゐやを明かにす。〇[禮]「ーㇾー以耕ㇾ之」。
[治禮] ゐやを行ふ。〇[禮]「謁者ーㇾー」。
[隆禮] ゐやを盛にし起こす。〇[禮]「ーㇾー由ㇾ禮、謂二之有方之士一」。
[亢禮] 同等のゐやをなす。〇[禮]「莫二敢與ㇾ君ーーー」「ー」。
[議禮] 禮の當否をあげつらふ。〇[禮]「毋二輕ー」。
[軍禮] 軍事にかゝはるゐや。〇[周]「大宗伯之職、以二ーー一同二邦國一」。
[嘉禮] 飲食昏冠饗宴慶賀などのゐや。〇[周]「大宗伯之職、以二ーー一親二萬民一」。
[吉禮] 神の祭祀などのぎしき。〇[周]「大宗伯之職、以二ーー一事二邦國之鬼神示一」。
[陰禮] 婦人の禮式。〇[周]「以二ーー一敎二六宮一」。
[周禮] 書物の名、周公旦の作りしもの。〇[周、註]「周公居ㇾ攝而作二六典之職一、謂二之ーー一」。
[悖禮] 禮儀にもとりさかふ、又、理にたがひたる禮。〇[孝]「不ㇾ敬二其親一而敬二他人一者、謂二之ーー一」。
[繁禮] 禮儀をくだくしくす、又、くだくしき禮。〇[史]「ーㇾー飾ㇾ貌、無ㇾ益二于治一」。
[頂禮] 佛に祈るときになす禮。〇[眞臘風土記]「佛見則伏ㇾ地ーー」。
[拘禮] 禮儀に拘泥して融通のつかざること。〇[劉向]「ーㇾー之人、不ㇾ足二與言一ㇾ事」。
[無禮] ゐやなし。〇[詩]「相ㇾ鼠有ㇾ體、人而ーㇾー」。
[式禮] のりに法りしたがふ、又、のり。〇[陶潛]「二子承ㇾ親、ーㇾー遵ㇾ誥」。
[備禮] ゐやを準備して缺けたる所なきやうにす。〇[蔡邕]「虛ㇾ已ーㇾー」。
[行禮] ゐやをなしおこなふ。〇[禮]「君子ーㇾー不ㇾ求ㇾ變ㇾ俗」。
[祭禮] 鬼神をまつるぎしき。〇[禮]「ーーー與二其敬不ㇾ足而禮有ㇾ餘也、不ㇾ若二禮不ㇾ足而敬有ㇾ餘也」。
[慝禮] 惡しきゐや。〇[禮]「淫樂ーー不ㇾ接二心術一」。
[崇禮] 禮儀を尊重す。〇[禮]「敦厚以ーㇾー」。
[報禮] 恩にむくゆるゐや。〇[禮]「民之ーー重」。
[立禮] 禮儀を設く。〇[禮]「先王之ーㇾー、以二有ㇾ本有ㇾ文」。「焉」。
[盈禮] 禮を充分に行ふ。〇[禮]「君子恥ㇾーㇾー」。
[重禮] 禮儀を尊重す。〇[禮]「輕ㇾ財而ーㇾー之義也」。
[昏禮] 結婚を行ふゐや。〇[禮]「ーー者將ㇾ合二二姓之好一」。「然也」。
[尙禮] (い)太古の禮儀。〇[禮]「器用陶匏ーー」(ろ)禮を尊ぶ。〇[國]「備ㇾ師ーㇾー」。
[中禮] 禮儀にあてはまる。〇[禮]「射者進退周還必ーㇾー」。「ー也」。
[僭禮] 分限を超えたるゐや。〇[禮]「諸侯之ー」。
[冠禮] 元服の禮式、二十にして冠をなす禮のこと。〇[禮]「無二文夫ーー一、而有二昏禮一」。
[覲禮] 諸侯の天子に朝覲するゐや。〇[禮]「ーー天子不ㇾ下ㇾ堂而見二諸侯一」。
[致禮] ゐやを行ふ。〇[後漢]「各奉賀ーㇾー」。
[執禮] ゐやを守る。〇[南]「ーㇾー弘ㇾ律」。
[盡禮] ゐやを十分に爲し行ふ。〇[後漢]「所ㇾ宜ーㇾー、何謂ㇾ輕哉」。
[踐禮] ゐやを履み行ふ。〇[銭]「不ㇾ足二以ーㇾー」。

【禯】 ヂヨウ、ニユ。 尼龍切 [冬]

厚祭、あつきまつり。

【禮】

祿に同じ。〇[杜尙碑]「匪二ー是榮一」。

十四畫

【禰】 デイ、ナイ。 乃禮切 [薺]

㊀親の廟、ちゝのたまや。〇[穀梁]「爲二ー宮一」。
㊁廟にまつりたる父の稱。〇[晉]「昭ㇾ祖揚ㇾー」。
㊂行くに奉持する廟主、かたしろ、行主。〇[禮]「其在ㇾ軍則守二於公ーー一」。
[祖禰] 祖先の廟、又、祖先。〇[禮]「敬ㇾ宗所二以尊二ーー也」。
[公禰] 出師のせつに奉持するかたしろ。〇[禮]「其在ㇾ軍則守二於ーー一」。

【禱】 タウ、トウ。 都老切 [晧] 刀號切 [號]

神明に事を告げ福を求むるにいふ字、いのる、いのり。〇[周]「作二六辭一以通二上下親疏遠近一、五曰、ー」。
[善禱] よく神に祈請す。〇[宋]「善頌ーー」。
[請禱] 神に祈らんことを乞ひ求む、又、こひいのる。〇[論]「子疾病、子路ーㇾー」。
[祈禱] いのる。〇[周、疏]「皆是ーー之事」。
[分禱] それぞれにわかれていのる。〇[後漢]「ーㇾー二五岳四瀆一」。
[祭禱] まつりいのる。〇[宋]「凡諸寺觀遇二旱蝗水潦無ㇾ雪、皆ーー焉」。
[禳禱] 殃禍を祓ひて福を求む。〇[魏、註]「於ㇾ是大修二ーー之術一以厭焉」。
[仰禱] あをのき拜みて祈請す。〇[北]「夜在二庭中一ーー斗極一」。
[密禱] みそかに神に祈請す。〇[唐]「守珪ーー二于神一」。
[致禱] 神に祈請することを爲す。〇[宋]「幸二太平寺上清宮一ーㇾー」。

〔祝禱〕はふりいのる。○〔宋〕「主二北-方-邑-居廟-堂祭-祀——事一」。
〔齋禱〕物いみして神に祈請す。○〔宋〕「以二久-雨一——」。
〔精禱〕極めて丁寧に祈請す。○〔杜甫〕「——既不レ昧、觀-娛將レ謂レ何」。
〔親禱〕自身に祈請す。○〔宋〕「蓋——于太-乙-宮一而雨」。
〔泣禱〕涙を流して神に福を求む。○〔宋〕「天-性至孝、母病甚、——于天一」。
〔誠禱〕誠實をこめて神に祈禱す。○〔宋〕「丞以二——之二-夕一雨-露足」。
〔默禱〕言葉に發せずして神に祈請す。○〔韓愈〕「潛レ心——若レ有レ應」。
〔拜禱〕をがみ祈る。○〔宋〕「相從——」。
〔素禱〕日頃より神に祈請しをる。○〔論衡〕「孔子——、身猶疾-病」。
〔詭禱〕僞りて神に祈請す。○〔文心雕龍〕「潘-岳——于愍-懷一」。
〔祠禱〕神明を祭りて祈請す。○〔王周〕「——布二安-寧一」。

【〓】エン。於琰切 琰　於豔切 豔　はらふ(禳)。

十五畫

【〓】イウ、ウ。於柳切 有　さいはひ(福)。

十六畫

【禲】ライ。力大切 泰　くづろ(隳-壞)。

【〓】ラン。盧旱切 旱　祭るに惰る、おこたる。

【〓】ライ。落蓋切 泰　祩—は、のろひ(祝-詛)。

十七畫

【〓】獮に同じ。

【禳】ジヤウ、ナウ。如羊切 陽　神明を祀りて癘殃を除ふ、はらふ。○〔周、註〕「卻二變-異一曰レ—」。

【〓】レイ、リヤウ。郎丁切 青　神の名、一說に、靈に同じ。

【禴】礿に同じ。○〔詩〕「—祀烝嘗」。

十九畫

【禶】サン、ザン。藏旱切 旱　まつりの名。

【禶】サン。則旰切 翰　神に祝ふ、のろふ。

【禷】ルヰ。力遂切 寘　類に同じ、まつり。

【〓】ケン。古典切 銑　つゝしむ(敬)。

二十畫

【〓】ケン、コン。去言切 元　まつり(祭)。

内　部

【内】ジウ、ニユ。人九切 有　獸類の地を蹂みたる形跡、あしあと。○〔爾〕「狸狐貒貈醜其足蹯其跡—」。

四畫

【禹】ウ。王矩切 麌
❶夏の朝を創業せし聖王の號。○〔顏師古〕「—湯皆字、三王去二唐之文一、從二高-古之質一、故夏、商之王皆以レ名爲レ號」。❷のぶ、ゆるやか(舒)。❸むし(蟲)。

【禺】グ、ゴ。牛具切 遇　猴の屬、をながざる。

【禺】グ、ゴ。遇倶切 虞　ギヨウ、グ。魚容切 冬
❶封—は、山の名。○〔史〕「汪-罔氏之君守二封—之山一」。❷—彊は、神の名。○〔莊〕「—彊得レ之立二乎北-極一」。❸魚の名。○〔司馬相如〕「——魼-鰨」。❹わかち(區)。○〔管〕「是爲二十——一」。❺事の端の初めて見はるゝにいふ字、あらはる。❻虞に通じ作る。○〔管〕「將レ合可二以—一」。○〔山海經〕「夸-父追二日-景一逮二之於—谷一」。

【禺】ゴウ、グ。五口切 有　偶に通じ用ふ、其の形を木にてかたどりつくりたるもの、即ち、ひとがた、でくなど。○〔史〕「木——龍欒車一駟」。

六畫

【离】チ。丑知切 支　螭に同じ。

【离】リ。鄰知切 支　離に同じ。○〔晉〕「司-馬-公-尸-居-餘-氣形-神-已—」。

【〓】禺に同じ。○〔左思〕「猩-々啼而就レ擒、——笑而被レ格」。

【禼】セツ、セチ。私列切 屑
❶契に同じ。○〔漢〕「—作二司徒一」。❷むし(蟲)。

八畫

【禽】キン、ゴン。巨今切 侵
❶二足にして羽ある動物、とり。○〔書〕「珍—奇-獸」。❷鳥獸の稱。○〔魏〕「吾有二一-術一名二五—之戲一、一曰虎、二曰鹿、三曰熊、四曰猿、五曰鳥」。❸戰に勝ちて執へ獲、とりこにす、いけどる、又、執へ獲たるもの、いけどり、とりこ、捕虜。○〔左〕「外-僕髡-屯—レ之以獻」。

〔珍禽〕めづらかなる鳥。○〔書〕「——奇-獸不レ育二於國一」。
〔神禽〕前に同じ。○〔後漢〕「嘉-穀靈-草奇-獸——應レ圖合レ牒」。
〔膳禽〕膳部に供する鳥。○〔周〕「惟王及后之——不レ會」。
〔蜚禽〕飛ぶ鳥。○〔史〕「縱二遠-方奇-獸——及白-雉諸-物一」。
〔逸禽〕逃げ去りたる鳥。○〔後漢〕「乘二斯時一也、獵二——之赴二深-林一」。
〔祥禽〕めでたき瑞應の鳥。○〔庾信〕「瑞-獸霜-凝、——雪-映」。
〔翠禽〕青さけ色の鳥。○〔晉〕「撫二——之毛一」。
〔時禽〕時節にあひたる鳥。○〔朱熹〕「——促二新-陽一」。
〔家禽〕家にかひおける鳥のと。○〔梁〕「䳘-卵如二——焉」。
〔翔禽〕飛ぶ鳥。○〔謝萬〕「——撫レ翰遊」。
〔林禽〕林檎。○〔廣志〕「林-檎似二赤-奈-子一、一名——」。
〔輕禽〕身のかるき鳥。○〔李顒〕「——翔二雲-漢一」。
〔嘉禽〕よき鳥。○〔魏文帝〕「狩-人獻二——一」。
〔水禽〕みづ鳥。○〔洛神賦〕「——翔而爲レ衞」。

〔文禽〕毛色のうつくしき鳥。○〔盧琰〕「――蔽二綠水一」。
〔孤禽〕友なき鳥。○〔張觀〕「翩々棲二――一」。
〔游禽〕あそびめぐる鳥。○〔王融〕「訪二――於絕澗一」。
〔驚禽〕おどろきさわぐ鳥。○〔王融〕「危葉畏レ風、――易レ落」。
〔羣禽〕むれあひの鳥。○〔王維〕「――相與還」。
〔幽禽〕しづかなる處に棲息する鳥。○〔陸游〕「――窺レ戸語」。
〔毆禽〕鳥を驅る。○〔詩、疏〕「田獵有下使二人一――之義上」。
〔乘禽〕雉又は雁の屬。○〔周〕「上公――日二九十變一」。
〔野禽〕原野に棲む鳥のこと。○〔漢〕「――彈走狗〔京〕」。
〔金禽〕雉。○〔王建〕「上棲孤――」。
〔胎禽〕鶴。○〔宋〕「偉二茲――一」。
〔瑞禽〕めでたき瑞祥の鳥。○〔宋〕「爲二奇獸――一賜レ之」。
〔鷙禽〕猛き鳥、即ち、鷲鷹などの類。○〔劉禹錫〕「秋霜動二――一」。
〔勇禽〕前に同じ。○〔抱朴子〕「或射二――於郊坰一」。
〔雙禽〕二羽の鳥。○〔易林〕「田獲二――一」。
〔瑰禽〕奇しき鳥。○〔西京雜記〕「奇果異樹――怪獸畢備」。
〔兇禽〕雉。○〔劉勰〕「雉爲二――一」。
〔窮禽〕きはまりはてたる鳥。○〔化書〕「――竭獸食之暴也」。
〔天禽〕天狩星。○〔庾肩吾〕「――下二北閣一」。
〔化禽〕鳥に姿をかふること。○〔宣和畫譜〕「―レ―飛去」。
〔仙禽〕鶴のこと。○〔舞鶴賦〕「偉二胎化之――一」。
〔棲禽〕木にすみをる鳥。○〔曹植〕「仰見二雙――一」。
〔晨禽〕朝早き頃の鳥。○〔鮑照〕「――不二敢飛一」。
〔朔禽〕雁のこと。○〔謝靈運〕「――避レ涼」。
〔放禽〕鳥をはなちやる。○〔梁簡文帝〕「解レ網―レ―」。
〔籠禽〕かごの中にとぢこめられたる鳥。○〔何遜〕「――恨二蹐促一」。
〔浴禽〕水をあぶる鳥。○〔劉孝威〕「――飄二落蕊一」。
〔猜禽〕疑ひ深きとり。○〔隋煬帝〕「――無レ暇レ起」。
〔閒禽〕しづかなる鳥。○〔周復俊〕「――引二小雛一」。
〔養禽〕とりを飼養す。○〔元稹〕「―レ―當レ養レ鶴」。
〔喧禽〕かまびすしき鳥。○〔李德裕〕「――萬族聲應二崖谷一」。
〔雛禽〕ひなどり。○〔賈島〕「求レ食飼二――一」。
〔歸禽〕ねぐらにかへる鳥。○〔崔塗〕「落日羨二――一」。
〔勞禽〕疲れたる鳥。○〔李咸用〕「――不レ擇レ枝」。
〔彩禽〕羽色の美しき鳥。○〔韋莊〕「雛邊無レ限――飛」。

九畫

【萬】萬に同じ。

十三畫

【[illegible]】ヒ、ビ。扶沸切 未

深山に棲息する一種の怪獸、猴に似て大きく脣其の目を掩ふ、人を見れば笑ひ、又、人を食らふといふ、ひゝ、狒々。○〔說文〕「州靡國獻レ―」。

禾部

【禾】クワ、ワ。戸戈切 歌

〔說文〕从レ木从二𠂹省一。𠂹象二其穗一。

⊖穀類の最も嘉きもの、いね。○〔左〕「大無二麥―一」。
⊜穀類の總稱。○〔詩〕「十月納二―稼一」。
⊝穀類の苗の既に生じて未だ秀でざるもの、稱、なへ、又、穀類の莖節の稱、わら。○〔書、傳〕「反レ風起レ―」。
㊃玉山に生ずる一種の木、食らふべしとぞ。○〔鮑照〕「食二玉山―一」。
㊄稼穡に力むること。○〔歐陽修〕「孝悌勤二蠶―一」。
〔嘉禾〕穗の多くつけるよき苗、又、いね。○〔吳〕「――生」。
〔瑞禾〕前に同じ。○〔宋〕「撫州獻二――一」。
〔植禾〕苗を植ゑつく。○〔參同契〕「―レ―當レ以レ穀」。
〔種禾〕前に同じ。○〔北齊〕常―レ―飼二馬數千疋一。
〔刈禾〕稻をかりとる。○〔崔道融〕「新秋看二――一」。
〔登禾〕稻よくみのる。○〔范成大〕「萬隴――新霽色」。
〔芻禾〕まぐさ。○〔蘇軾〕「長鳴飽二――一」。
〔稷禾〕六百四十斛の粟。○〔國〕「田一井出二――一」。
〔菅禾〕新に成れる穀をもて神を祭る。○〔史〕「皆有二――一」。
〔傷禾〕苗を害す。○〔晉〕「隕霜―レ―」。
〔稑禾〕早熟の稻。○〔呂氏春秋〕「種二――一」。
〔黍禾〕きびのこと。○〔白虎通〕「涼風至――乾」。
〔凡禾〕通常の稻。○〔水經、註〕「大二于――一」。
〔穉禾〕稻の苗。○〔曹植〕「――重穗、生二彼邦畿一」。
〔萎禾〕しをれたる苗。○〔陸雲〕「――竦而振レ穎兮」。
〔珍禾〕常になきよき苗。○〔陸雲〕「發二――之神穎一」。
〔祥禾〕前に同じ。○〔韓愈〕「甘津澤二――一」。
〔晩禾〕おくての稻。○〔劉長卿〕「黃雀啾々爭二――一」。
〔舂禾〕稻を臼つく。○〔張籍〕「主人―レ―爲二夜食一」。
〔鋤禾〕苗を耕しすく。○〔李紳〕「―レ―日當レ午」。
〔堆禾〕稻をうづ高く積む。○〔李建勳〕「廳院亦―レ―」。
〔剪禾〕稻を刈り取る。○〔徐鉉〕「金風促二――一」。
〔秔禾〕わせの稻。○〔范成大〕「――未レ實秈禾瘦」。

【朩】ケイ、カイ。古奚切 齊　ガイ、ゲ。五漑切 隊

木の頭を曲げ止ごまりて上ぐること能はざるにいふ字。

二畫

【禿】トク。他谷切 屋

⊖頭髮脫落したるにいふ字、はげ、かぶろ。○〔穀梁〕「使二―者御一レ之」。
⊜かぶろさなる、はぐ。○〔盧照鄰〕「毛落鬢―」。
⊝樹木なくして地質のあらはれたるにいふ字。○〔杜甫〕「漱レ壑松柏―」。
㊃筆などの尖毛の刮れ殘れたるにいふ字。○〔王令〕「慣掃百筆―」。
㊄すべて被ふ物の落ち盡くして赤地の見はれたるにいふ字。○〔後漢〕「以二―節一致レ貞」。
〔老禿〕よはひたけて頭髮のぬけはげたること。○〔韓愈〕「中書君―而―」。
〔病禿〕頭髮のぬくるやまひにかゝる、又、疾のためにはげたること。○〔五〕「爲レ人―レ―折レ脖」。
〔鬖禿〕かみのけのぬけはげたること。○〔韓愈〕「――骨力羸」。
〔鬢禿〕びんのけのぬけはげたること。○〔歐陽修〕「莫レ怪我今雙――」。
〔斑禿〕またらにはげたること。○〔唐〕「鬢髮――」。

【秀】シウ、シユ。息救切 宥

⊖ひいづ。
(い)華さく、茂る、榮ゆ（禾と草とにいふ）。○〔詩〕「實發實―」。
(ろ)あらはれ出づ、ぬきんづ、すぐる。○〔呂氏春秋〕「擧二其――士一」。
⊜禾草の莖頭に華實あつまり生ずる處。○〔韓詩外傳〕「二―苗同二――一」。
⊝よし、うつくし（美）。○〔左〕「子太叔美―而文」。
㊃才能うつくしき者、すぐれたる人。○〔晉〕「皆南士之―」。
㊄精粹。○〔禮〕「人者五行之―氣」。
〔俊秀〕すぐる。○〔後漢〕「天下――王叔茂」。
〔競秀〕すぐれ出づることを爭ふ。○〔晉〕「千巖―レ―」。
〔挺秀〕ぬきんですぐる。○〔晉〕「英姿――」。
〔獨秀〕とりわきてすぐる。○〔宋〕「松柏挺然――者也」。
〔特秀〕前に同じ。○〔劉峻〕「天下英偉、珪璋――」。
〔前秀〕先つ代のすぐれたる人。○〔宋〕「方二軌――一」。
〔閨秀〕婦人のすぐれたるもの。○〔元好問〕「誰言――房―」。

〔神秀〕靈妙にしてすぐれたること。○〔孫綽〕「天台山者、蓋山嶽之——也」。
〔蚤秀〕早くさかゆる。○〔蘇軾〕「姿宜二——一」。
〔高秀〕けたかくすぐる。○〔王獻之〕「在二母家一志行——」。
〔才秀〕才智すぐる。○〔晉〕「覩二朝榮一則敬二——之士一」。「俱集」。
〔靈秀〕神妙にすぐる。○〔晉〕「——之士、煥乎德、文章之榮」。
〔英秀〕ひいですぐる。○〔吳〕「弘雅之素、——之」
〔彥秀〕前に同じ。○〔晉〕「謝氏尤——」。
〔逸秀〕前に同じ。○〔晉〕「高明——」。
〔簡秀〕繁雜ならずしてすぐる。○〔晉〕「——不レ如二眞長一」。「風振二宏材一」。
〔通秀〕滯る所なくしてすぐる。○〔晉〕「景純——、
〔沖秀〕奥深くしてすぐる。○〔晉〕「——雙美」。
〔明秀〕聰明にしてすぐる。○〔晉〕「衍神情——、風姿詳雅」。
〔穎秀〕ぬきんですぐる、又、は。○〔陸雲〕「——若レ華、景逸二扶桑一」。
〔標秀〕模範となりすぐる。○〔晉〕「此兒非二惟吾門之——一、乃佐レ時之良器也」。
〔挺秀〕高く抜き出づ。○〔宋〕「峰巒——、林樹繁密」。
〔誕秀〕すぐれたるものを生ず。○〔楊烱〕「出レ忠入レ孝、——レ興賢」。「—」。
〔晉秀〕すぐれたるものを尊重す。○〔陳〕「東南—レ
〔淸秀〕潔くしてすぐる。○〔魏〕「風流——、容止閑雅」。
〔奇秀〕くすしくすぐる。○〔江淹〕「岩崿、轉——」。
〔魁秀〕衆にすぐれ出づ。○〔唐〕「靖姿貌——通二書史一」。
〔偉秀〕前に同じ。○〔唐〕「嵩貌——美二須髯一」。
〔邃秀〕前に同じ。○〔唐〕「以二——一見レ賞」。
〔茂秀〕前に同じ。○〔唐〕「皆一時——」。
〔軒秀〕前に同じ。○〔唐〕「姿質——」。
〔瑛秀〕前に同じ。○〔唐〕「姿儀——有二器識一」。
〔爽秀〕氣象さわやかにしてすぐる。○〔唐〕「淳風幼——」。「—光麗」。
〔娟秀〕うつくし。○〔唐〕「左右侍姬百餘、皆——」
〔趫秀〕足の健かにすぐれたるもの。○〔唐〕「擇二——强力者萬人一」。
〔端秀〕正しくしてすぐる。○〔五〕「容止——」。

〔歛秀〕茂り榮ゆ。○〔宋〕「發レ榮—レ—」。
〔吐秀〕はをあらはす。○〔宋〕「含レ滋—レ—」。
〔雅秀〕みやびやかなること。○〔宋〕「風神——」。
〔翹秀〕高くすぐる。○〔宋〕「克幼而——」。
〔整秀〕齊整にしてすぐる。○〔宋〕「器宇——」。
〔芳秀〕かぐはしくして茂る。○〔稚川外篇〕「紫芝——」。「姿一」。
〔貞秀〕正固にしてすぐる。○〔陶潛〕「懷二此——一」。
〔鬱秀〕盛んに茂る。○〔八景王餘〕「扶桑——」。
〔擢秀〕ぬきんですぐる。○〔潘岳〕「擢二州閭一以——」。
〔珍秀〕めづらかにすぐる。○〔陸雲〕「懷二瑤林之——一」。
〔竦秀〕そばだちひいづ。○〔謝靈運〕「孤岸——、長洲芊緜」。「然——」。
〔孤秀〕ひとり勝れ出づること。○〔梁昭明太子〕「儼——」。
〔峻秀〕けはしくすぐれいづ。○〔沈佺期〕「諸嶺皆——、中峯特美好」。「—」。
〔崇秀〕高くすぐれいづ、○〔陳子昻〕「今景山——」

【私】　シ。息夷切　支

❶いれ、（禾）。○〔說文〕「北道名二禾主一人曰二——一主人一」。

❷わたくし。

（い）公平ならざること、偏頗なること。○〔書〕「以レ公滅レ—」。

（ろ）邪曲、よこしま。○〔呂氏春秋〕「知二其不一レ爲レ—」。

（は）我慾。○〔老〕「少レ—滅レ欲」。

（に）陰密。○〔禮〕「嫌レ探二人之—一」。

（ほ）一家、一己、うちわ、みうち、おのれ、ひとり。○〔呂氏春秋〕「身非二其——有一」。「我—」。

（へ）一家一己の物事。○〔詩〕「遂及二我—一」。

（と）凡て天子以下の人に關する物事にいふ字。○〔漢〕「大官—官」。

❸わたくしす。

（い）偏頗なることをなす、よこしまなることをなす、我慾を遂ぐ、陰密にす、陰密をあかす、自家の有とす。○〔晉〕「生二于自—一」。

（ろ）特に寵す、特に寵せらる。○〔左〕「寡君君之—也」。

（は）小便す、いばりす。○〔左〕「師慧過二宋朝一將レ—焉」。

❹恩恤、めぐみ。○〔李嶠〕「何有二殊効一合レ降二隆——一」。

❺家臣の自稱。○〔儀〕「夫子之賤——」。

❻姊妹の夫の稱。○〔詩〕「譚公是—」。

〔燕私〕家内打ち解けて睦しくかたらふこと。○〔詩〕「諸父兄弟、備言—レ—」。
〔省私〕燕居の時を氣をつけ見る。○〔論〕「退而—二其—一」。「公耳—レ—」。
〔忌私〕已の身にかゝはる事柄を氣にとめむ。○〔漢〕
〔有私〕公平ならぬ行あること。○〔後漢〕「公—レ—乎」。
〔寵私〕めでいつくしむこと。○〔任昉〕「豈宜下妄加二——、以乏中王事上」。
〔營私〕己れにのみ利益なることを行ひ爲す。○〔漢〕「邪枉貪汙、—レ—多レ欲」。
〔姻私〕緣戚の間柄となりて依怙の沙汰をなすこと。○〔後漢〕「與二官豎一相——」。
〔樹私〕公平ならざることを爲す。○〔晉〕「人臣—レ—則背レ公」。「——一」。
〔曲私〕ねじけて公平ならず。○〔荀〕「志不レ免二于——一」。
〔贍私〕己れの利益を富足す。○〔南〕「廢レ公—レ—、日不二暇給一」。
〔徇私〕己れの方にたよりよくす。○〔韓〕「言曲而——」。「謂レ克」。
〔勝私〕私欲に打ち勝つ。○〔揚雄〕「—二已之—一之」
〔斷私〕己れのみの益になる事柄を絶つ。○〔諸葛亮〕「—レ—降レ意以養二將士一」。
〔家私〕家事上のこと。○〔王粲〕「內不レ廢二——一」。
〔榮私〕寵愛して顯貴となす。○〔陳子昻〕「累忝二——一」。「—一」。
〔眷私〕寵愛せらるゝこと。○〔周伯琦〕「長懷被二——一」。

【秂】　ジン、ニン。而鄰切　眞

禾の結ばんと欲するもの。

【秄】　レウ。力天切　蕭

ひいづ、（秀）。

三畫

【秄】　シ。祖里切　紙

禾の本を壅ぐ、つちかふ。○〔詩〕「或耘或—」。

【秄】　シ。將吏切　寘

禾の猥りに生ずるもの。

【秄】　ケツ、ケチ。吉列切　屑

いれかき、（禾把）。

【秅】　タ、テ。宅加切　麻　ト、ツ。都故切　遇

六百四十斛の稱。○〔儀〕「禾三十車、車三—」。

〔秉秅〕米粟などのかぞの名。○〔柳宗元〕「周官賦二——一」。

【秔】　バウ、マウ。武方切　陽

こめのもみ、（稻秄）。

【秄】　ウ。羽俱切　虞

禾秀でず、ひいでず。

【秆】　カン。古旱切　旱

わら、（稾）。○〔左〕「或取二一秉—一」。

【杋】

古文の藝の字。

【秈】　セン。相然切　先

うるち、うるしね、（稉）。○〔揚雄〕「江南呼レ稉爲レ—」。

【杙】　ヨク、エキ。與職切　職

わら、（稈）、又、むぎわら、（麩）。

【杓】　テウ。都了切　蕭

禾の穗の垂るゝ貌にも物を懸くるにもいふ字たる、かく。

【⿰禾乞】　コツ、ゴチ。下沒切　月
稻生ず、はゆ、又、粟を舂きて潰えざるにいふ字。

【⿰禾乞】　ケツ、ゲチ。奚結切　屑
屑米の細なるもの、こごめ。

【⿰禾己】　キ。墟里切　紙
芑に同じ、もちきび、ゐろあは。○〔管〕「其種穋｜」。

【秉】　ヘイ、ヒヤウ。兵永切　梗
㊀刈りたる禾の把に盈つるものゝ稱、たば。○〔詩〕「彼有二遺｜一」。
㊁十六斛の稱。○〔禮〕「十斗曰レ斛、十六斗曰レ籔、十籔曰レ｜」。
㊂執持す、とる。○〔書〕「｜レ德明レ恤」。
〔總秉〕　すべくゝりとること。○〔漢〕「｜二｜諸事一」。

【秉】　ヘイ、ヒヤウ。陂病切　敬
柄に同じ。○〔史〕「二十八舍主二十二州一、斗｜兼レ之」。

【秊】　デン、子ン。奴顛切　先
年に同じ、とし、みのり。○〔左〕「大有レ｜」。

【⿱禾夕】　イウ、ユ。與九切　有
穀の成らざること。

四畫

【⿰禾夫】　フ。甫無切　虞
㊀黑き稻。㊁再び生ずる稻。

【秋】　シウ、シユ。七由切　尤
㊀あき。
(い)四氣の一、即ち、夏の後、冬の前にて禾穀の成熟する時。○〔爾〕「｜爲二白藏一」。
(ろ)禾穀の熟すること、みのり。○〔書〕「乃亦有レ｜」。
㊁時期、とき、なり。○〔曹植〕「此寧子商歌之｜」。
㊂騰驤する貌にいふ字、とびあがる。○〔漢〕「飛龍｜二游上天一」。
㊃舞ふ貌にいふ字。○〔荀〕「鳳凰｜｜」。
〔春秋〕　(い)はるとあきと。○〔詩〕「｜｜匪レ懈、享祀不レ忒」。(ろ)魯國の歷史の名、孔子の著せるもの。○〔孟〕「孔子成二｜｜一、而亂臣賊子懼」。
〔仲秋〕　あきのなかばの月、即ち、陰曆の八月。○〔禮〕「｜｜之月日在レ角」。
〔季秋〕　あきの末つ方の月。○〔禮〕「｜｜之月、日在レ房」。
〔暮秋〕　前に同じ。○〔梁簡文帝〕「金城合二｜｜一」。
〔末秋〕　前に同じ。○〔法書要錄〕「｜｜初冬必思下與二諸君一一佳集上」。
〔抄秋〕　前に同じ。○〔楚辭〕「靚二｜｜之遙夜一兮」。
〔窮秋〕　前に同じ。○〔鮑照〕「｜｜九月荷葉黃」。
〔麥秋〕　麥の出來する季節。○〔張正見〕「長楊送二｜｜一」。
〔素秋〕　あきのこと。○〔抱朴〕「｜｜厲二肅殺之氣一」。
〔千秋〕　千年といふに同じ。○〔李陵〕「嘉會難二再遇一、三載爲二｜｜一」。
〔高秋〕　あきの時節のたけたること。○〔沈約〕「開レ帆望二｜｜一」。
〔知秋〕　あきの期節の來たれるを知る。○〔淮〕「一葉落而天下｜レ｜」。
〔首秋〕　秋のはじめつ方、即ち七月のこと。○〔王僧孺〕「｜｜雲物善」。
〔早秋〕　秋のはじめ。○〔庾肩吾〕「初弦値二｜｜一」。
〔上秋〕　前に同じ。○〔謝惠〕「復而｜｜初」。
〔肇秋〕　前に同じ。○〔梁元帝〕「上秋亦曰二｜｜一」。
〔九秋〕　秋のこと。○〔七啓〕「｜｜之夕、爲レ歡未レ央」。
〔涼秋〕　あきの期節。○〔王昌齡〕「夏夜如二｜｜一」。
〔凜秋〕　前に同じ。○〔楚辭〕「竊獨悲二此｜｜一」。
〔勁秋〕　前に同じ。○〔文賦〕「悲二落葉于｜｜一」。
〔開秋〕　秋のはじめ。○〔阮籍〕「｜｜兆二涼氣一」。
〔小秋〕　前に同じ。○〔許渾〕「｜｜梨葉紅」。
〔悲秋〕　物寂しくあはれを含めるあきの期節。○〔許渾〕「不レ知何事愛二｜｜一」。
〔送秋〕　あきの期節をおくり出だす。○〔七命〕「高風｜レ｜」。「｜日一」。
〔淸秋〕　氣のすめる秋の節。○〔殷仲文〕「獨有二｜｜一」。
〔橫秋〕　あきの空によこたはりひく。○〔北山移文〕「霜氣｜レ｜」。
〔晚秋〕　秋のすゑ。○〔庾肩吾〕「春寒及二｜｜一」。
〔經秋〕　秋の季節をとほり過ぐ。○〔張正見〕「別路已｜レ｜」。
〔傷秋〕　秋の期節の來たるを悲みいたむ。○〔韓愈〕「我亦｜レ｜」。
〔有秋〕　五穀よくみのる。○〔孟浩然〕「田家賀｜レ｜」。
〔立秋〕　陰曆の七月の節。○〔唐〕「｜｜祀二白帝一」。
〔覲秋〕　秋の節に諸侯の天子に見ゆること。○〔周、註〕「或宗レ夏或｜レ｜」。
〔盛秋〕　あきのもなか。○〔漢、註〕「｜｜馬肥」。
〔臨秋〕　あきの期節にさしかゝる。○〔漢〕「｜レ｜收斂猶有二之者一」。
〔始秋〕　首秋に同じ。○〔後漢〕「蟋蟀吟二於｜｜一」。
〔初秋〕　前に同じ。○〔曹植〕「｜｜涼氣發」。
〔望秋〕　あきの節をのぞみまつ。○〔北〕「謀レ新去レ故如二農｜レ｜」。
〔中秋〕　あきのもなか。○〔仙傳拾遺〕「開元｜｜夜、明皇於二宮中一翫レ月」。
〔涉秋〕　あきの期をふる。○〔朱熹〕「｜｜未レ停レ車」。
〔登秋〕　五穀のよくみのること。○〔曹植〕「｜｜必有レ成」。

【种】　チウ、ヂユ。直弓切　東
わかし（稚）。

【秎】　フン、ボン。符分切　文
フン、ボン。父吻切　吻
禾を穫る、いれさる、又、禾の把束、たば。○〔管〕「歲雖二凶旱一有レ所二｜穫一」。

【⿰禾开】　ケン。吉典切　銑
小さき束、たば、一說に、十束、さたば。

【⿰禾勿】
古文の利の字。

【秏】　カウ、コウ。呼到切　號
クワイ、ヱ。莯內切　隊
バウ、モウ。謨袍切　豪
㊀稻の屬。○〔說文〕「飯之美者、南海之｜」。
㊁耗に同じ、へる、へらす、むなし。○〔漢〕「｜矣哀哉」。
〔豐秏〕　ゆたかなるとむなしきと。○〔禮〕「視二年之豐｜一」。「數一」。
〔登秏〕　前に同じ。○〔宋〕「覽二歷代戶口｜｜一之」。
〔盈秏〕　前に同じ。○〔水經、註〕「亦時有二｜｜一也」。
〔虛秏〕　むなしくへる。○〔禮、疏〕「物被二殘暴一則｜｜」。
〔消秏〕　減少す、へる、へす。○〔參同契〕「藥材不レ至二｜｜一」。
〔損秏〕　前に同じ。○〔南〕「將藏｜｜」。
〔減秏〕　前に同じ。○〔唐〕「倉庫｜｜」。
〔虧秏〕　前に同じ。○〔宋〕「既而六有二｜｜一」。
〔衰秏〕　おとろふ。○〔鹽鐵論〕「國家｜｜」。
〔彫秏〕　前に同じ。○〔韓愈〕「氣象日｜｜」。
〔貧秏〕　まづしくおとろふ。○〔漢〕「百姓｜｜」。
〔費秏〕　財物などをつかひへらす。○〔漢〕「公私｜｜、皆出二於民一」。
〔傷秏〕　いたみへる。○〔漢〕「重馬｜｜」。
〔鮮秏〕　すくなし。○〔漢〕「穀稼｜｜」。
〔疲秏〕　おとろへつかる。○〔後漢〕「且和二天下｜｜一」。「｜」。
〔荒秏〕　あれはてゝむなしきこと。○〔後漢〕「況今｜｜」。
〔殘秏〕　前に同じ。○〔唐〕「｜｜已甚」。
〔空秏〕　むなしく乏し。○〔宋〕「國用｜｜」。

【秏】　バウ、モウ。莫報切　號
｜亂は、明かならず、くらし。

【⿰禾丑】　ヂウ、ニユ。女九切　有

禾の耎弱なるを、しなやか。

【秐】ウン、ヲン。於分切 〔文〕
耘に同じ、苗の閒の穢を除く、のぞく、くさぎる。

【科】クワ。苦禾切 〔歌〕
㊀程度、ほど。○〔論〕「爲ニ力不ヒ同レ―一。」
㊁品等、しな。○〔孟〕「此四―、優・劣之差」。
㊂條目、すぢ。○〔公羊、疏〕「此一―三―旨也」。
㊃條格、きまり。○〔漢〕「以ニ此―一第ニ郎・從・官一」「之」。
㊄區別、こわけ。○〔正字通〕「分レ―植レ之」。
㊅法律、おきて。○〔魏〕「宣ニ我新―一」。
㊆おきてに照らして處斷するを、とが、罪責。○〔漢〕「一―律兩―」。
㊇あな（坎）。○〔孟〕「盈レ―而後進」。
㊈うつろ（空）。○〔易〕「―上稿」。

〔設科〕科程を立つ　○〔孟〕「夫子之―レ―也、往者不レ追、來者不レ拒」。
〔殊科〕品を殊別にす。○〔舊唐〕「多レ算少レ謀、衆寡―レ―」。
〔甲科〕第一の品等。○〔漢〕「望之以ニ射策―・―一」「爲レ郎」。
〔乙科〕第二の品等。○〔唐〕「俱―・―」。
〔丙科〕第三の品等。○〔史〕「乃中ニ―・―一」。
〔催科〕裁斷す。○〔宋〕「―・―不レ擾、爲ニ治・事之最一」。
〔舊科〕舊時の法令。○〔晉〕「刪ニ約―・―一」。
〔依科〕法文にもとづく　○〔後漢〕「其―レ―罷者聽レ爲ニ太・子・舍・人一」。
〔法科〕おきて。○〔蕭子良〕「心乖ニ理・義一、行越ニ―・―一」。
〔置科〕法令の科條をおく。○〔魏〕「常―ニ―于左右一」。
〔改科〕法律の科條を更へなほす。○〔晉〕「―ニ投・書棄・市之―一」。
〔贖科〕直沒の類。○〔晉〕「呈ニ資・金一爲ニ―・―一」。
〔中科〕科程にあてはまる。○〔晉〕「有レ不レ―レ―、刺・史太守免レ官」。
〔違科〕法令に違背す。○〔晉〕「朝・廷以レ―レ―免ニ濫官一、士・庶詣レ闕訟レ之」。
〔恆科〕常に定まれる法令。○〔宋〕「罰有ニ―・―一、爵無ニ濫・品一」。
〔均科〕法令の條文を齊一にしあてはむ。○〔宋〕「輕・重―レ―」。
〔嚴科〕きびしき法律。○〔宋〕「束以ニ―・―一」。
〔峻科〕前に同じ。○〔薛登〕「降ニ明・制一頒ニ―・―一」。
〔律科〕法律の槼項。○〔南〕「刪ニ省―・―一」。
〔重科〕輕からざる法律。○〔南〕「疎ニ慢事一蹈ニ―・―一」。
〔常科〕尋常の品等。○〔舊唐〕「不レ得ヨ限以ニ―・―一」。
〔高科〕すぐれたる品第。○〔舊唐〕「載レ策入ニ―・―一」。
〔學科〕學問の條目。○〔唐〕「優ニ―・―一先ニ經・義一」。
〔詞科〕詞賦の科目。○〔宋〕「―・―惟强・記者能レ之」。
〔末科〕下劣の品第。○〔宋〕「與ニ京・佚一在ニ―・―一」。
〔首科〕第一の品第。○〔柳宗元〕「連擢ニ―・―一」。
〔上科〕前に同じ。○〔宋〕「卽貢ニ―・―一」。
〔擢科〕上位の科第に拔擢すること。○〔宋〕「自レ此―レ―者相繼」。
〔異科〕科程を異列にす。○〔新語〕「賺・節―レ―」。
〔刑科〕刑法のこと。○〔唐高僧傳〕「不レ濫ニ―・―一」。
〔拔科〕人物のすぐれたりといふ試驗の科目。○〔揮麈錄〕「張咸應ニ―・―一、蓋賢・良方・正科也」。
〔犯科〕法律を犯しやぶる。○〔諸葛亮〕「作レ姦―レ―、及爲ニ忠・善一」。
〔輕科〕かろきおきて。○〔王融〕「百・鍰―・―、反行ニ季・葉一」。
〔明科〕明白なる法律の條文。○〔沈約〕「宜下寘以ニ―・―一、黜中之流・行上」。
〔儁科〕すぐれたる品第。○〔蘇轍〕「策ニ名―・―一」。

【秅】ハ、ベ。白駕切 〔禡〕
―・秺は、稻の名。

【秒】ベウ、メウ。亡沼切 〔篠〕
㊀禾芒、のぎ。○〔說文〕「禾有レ―、秋・分而定」。
㊁物事の細微なるにいふ字。○〔漢〕「造・計―・忽」。
〔分秒〕一分一秒、即ち、物の微細なること。○〔五〕「各得ニ次氣日・辰及―・―一也」。

【秓】シ。章移切 〔支〕
わら（稈）。

【秔】カウ、キヤウ。古行切 〔庚〕
稻の黏らざるもの、うるしね、秈稻。○〔漢〕「馳ニ騖禾・稼稻・―之地一」。

【⿰禾牙】ガ、ゲ。牛加切 〔麻〕
㊀いれたば（稷）。㊁きび（稷）。㊂め（芽）。

【⿰禾予】ヨ、オ。衣虛切 〔魚〕
くさ（草）。

【秕】ヒ。卑履切 〔紙〕　ヒ、ビ。頻脂切 〔支〕
㊀穀實の成熟せざるもの、しひな。○〔書〕「若ニ粟之有ヒ―」。
㊁けがす、けがる（穢）。○〔後漢〕「―ニ我王・度一」。
〔糠秕〕ぬかとしひなと、又、こまかきくづ。○〔後漢〕「雖レ有ニ糠・粥一、―・―相半」。
〔揚秕〕しひなを吹きあぐ、又、けがれをあらはす。○〔歐陽修〕「顧以―レ―以增レ羞」。
〔稊秕〕穢草としひなと、又、不用のものにいふ語。○〔劉禹錫〕「秣レ之以ニ―・―一、飲ニ之于汚・池一」。
〔少秕〕しひな稀にあり。○〔蘇軾〕「常美―レ―」。
〔垢秕〕あかとしひなと、共に役に立たざるもの。○〔劉說〕「著ニ天・下名・德一爲ニ―・―一」。

【秪】シ。章移切 〔支〕
まさに（適）。○〔漢〕「―怨・結而不レ見レ德」。

【⿱爫禾】スヰ、ズヰ。徐醉切 〔寘〕
穀類などの穗、ほ。

【䄲】ズヰ、ニ。而瑞切　ヂ、ニ。女恚切 〔寘〕
いろ（內）、又一說に、秙―は、心輕薄にして語ること。

【⿰禾几】キ。几利切 〔寘〕
しげし（稠）。

【⿰禾升】レイ、ライ。憐題切 〔齊〕
たがへす（耕）。

【⿰禾气】キ、ケ。居气切 〔未〕
舂きて潰えず、つきべりせず。

【⿰禾乞】コツ、ゴチ。胡骨切 〔月〕
あらきこ、あらこ（麤屑）。

【⿰禾幺】シ。終基切 〔支〕
穗生ず、はゆ。

【⿰禾幺】チ。陟离切 〔侵〕
再生の禾、ひつちばえ。

五畫

【秺】ト、ツ。都故切 〔遇〕
漢の侯國の名。

【⿰禾加】カ、ケ。居牙切 〔麻〕
いね（禾）。

【秘】ヒ、ビ。兵媚切 〔寘〕
ひそか、みそか（密）。

【秘】ベツ、ベチ。蒲結切 〔屑〕
かをりぐさ（香草）。

【秙】コ、ク。苦故切 [遇]
——穛は、禾の實のらざること。

【[illegible]】俗の移の字。

【秚】ハン、バン。部滿切 [旱]
物相和ぐ、やはらぐ。

【秛】ヒ。敷羈切 [支]
禾の租、みつぎ。

【秜】ヂ、女夷切 リ。力脂切 [支]
㊀自生の稲、ひつぢ。㊁小さき麥、こむぎ。

【秜】ヂツ、ニチ。尼質切 [質]
稲の先熟するもの、わせ、早稲。

【秝】レキ、リヤク。郎擊切 [錫]
稀疏の適度なること、ほどよくあらくろこと。

【[illegible]】ヒツ、ビチ。房密切 [質]
禾の重なり生ずるにいふ字、はゆ。

【[illegible]】ホツ、ボチ。蒲沒切 [月]
——稡は、秀でたるも實のらざる禾の聚まりて上に向かふ貌にいふ語。

【[illegible]】俗の稃の字。

【秞】イウ、ユ。以周切 [尤]
禾黍の盛んなるにいふ字、一說に、物の初めて生ずる貌にいふ字。○〔元結〕「其生如-何兮——」。

【租】ソ、ス。則吾切 [虞]
㊀みつぎ。
（い）官より田地にわりあてゝ其の收穫の幾分を上納せしむるもの。○〔史〕「賜二天-下民田——半一」。
（ろ）官より人民にわりあてゝ上納せしむるものゝ稱。○〔史〕「軍-市之——」。
㊁つむ（積）。○〔詩〕「予所二蓄——一」。
〔市租〕市より納むるみつぎ。○〔史〕「——皆入二莫-府一爲二士-卒費一」。
〔食租〕みつぎものを取り立て祿食とす。○〔漢〕「縣-官當二——一衣レ税而已」。
〔負租〕みつぎものゝおひめをなす。○〔韓愈〕「公無二——一」。
〔地租〕土地より出だすみつぎ。○〔王績〕「無三人索二——一」。
〔蠲租〕みつぎものゝ納むべきを除きやる。○〔楊維楨〕「聖主方——レ——」。
〔田租〕耕作地より出だすみつぎ。○〔後漢〕「皆半入二——一芻-藁一」。
〔催租〕みつぎの未納を督促す。○〔詩話總龜〕「忽——レ——人至」。
〔督租〕前に同じ。○〔北〕「先——二——于冀-州一」。
〔半租〕常に定めたるみつぎのなかばにあたるみつぎもの。○〔史〕「元-年五-月、除二田——一」。
〔逋租〕みつぎものをなさゞること。○〔宋〕「大二赦天-下一、——宿-債勿二復收一」。
〔運租〕みつぎものを輸送す。○〔晉〕「少孤-貧、以二——レ——自業一」。
〔當租〕田地よりのみつぎものにあてはむること。○〔南〕「聽二受雜-物——一」。
〔復租〕租税の徵收を免除すること。○〔北〕「閒二人疾-苦一、——レ——一-年」。
〔徵租〕みつぎものを取り立つ。○〔北齊〕「計レ戸——レ——」。
〔免租〕田地よりのみつぎものを免除す。○〔北〕「遭レ蝗之處——レ——」。
〔折租〕田地よりのみつぎものゝ半ばにあたる。○〔唐〕「雖二水-旱一得二以レ蠲——一」。
〔代租〕田地より出だすみつぎものにかはらす。○〔唐〕「詔二江-南一以レ布——レ——」。
〔庸租〕日數を定めて政府に使はるゝ夫役と田地の收穫より出だすみつぎと。○〔唐〕「取二一-年——一」。
〔本租〕田地より出だす正しきみつぎ。○〔金〕「免二——及一-切差-發一」。
〔官租〕政府に納むるみつぎ。○〔韓愈〕「——日輸-納」。
〔税租〕みつぎもの。○〔十六國春秋〕「復二百-姓——之半一」。
〔賦租〕前に同じ。○〔白居易〕「勸-農均二——一」。
〔殘租〕取り立てのこりたるみつぎ。○〔陸游〕「——不レ待急-符催」。

【租】ショ、子余切 [魚] ソウ、將侯切 [尤] ソ。ス。
つゝむ（包）。

【秠】ヒ。敷悲切 [支] ヒウ、フ。匹九切 [有] 匹尤切 [尤]
一つ稃の中に二つの米ある黑黍、くろきび。○〔詩〕「維秬維——」。

【秡】ハツ、バチ。蒲活切 [曷]
禾傷む、いたむ。

【秢】レイ、リヤウ。郎丁切 [青]
㊀禾の始めて熟するにいふ字。㊁齡に同じ、よはひ、とし（年）。

【秣】バツ、マチ。莫撥切 [曷]
㊀まぐさを與へ養ふ、かふ。○〔詩〕「言——二其馬一」。㊁牛馬を養ふ禾穀、まぐさ。○〔周〕「芻-——之式」。

【秣】バイ、メ。莫佩切 [隊]
前條の㊀の解に同じ。○〔詩〕「摧レ之——レ之」。

【秤】ショウ。昌孕切 [徑]
㊀物の輕重を計り知る器械、はかり、てんびん。○〔諸葛亮〕「我心如レ——」。
㊁十五斤の稱。○〔詩〕「斤十謂二之衡一、衡有-半謂二之——一、——二謂二之鈞一」。

【秥】デン、チン。女占切 [鹽]
いね（禾）。

【秦】シン、ジン。慈隣切 [眞]
國の名、又、朝の名。○〔詩〕「——隴-西谷名、在二雍-州鳥-鼠-山之東-北一」。

【秧】アウ。於良切 [陽]
うゑつくる禾苗、なへ。○〔農政全書〕「乃種レ——」。

【秧】アウ、ヤウ。於兩切 [養]
禾の密き貌にいふ字、ゐげし。

【秨】サク、在各切 [藥] ソ、昨誤切 [遇] ザク。ズ。
禾の搖く貌にいふ字、うごく、ゆるぐ。

【秩】チツ、ヂチ。直一切 [質]
㊀次序、ついで。○〔管〕「提レ衡爭レ——」。
㊁俸祿、ふち。○〔左〕「收二膳-夫之——一」。
㊂官職、つかさ、くらゐ。○〔左〕「委二之常——一」。
㊃つね（常）。○〔詩〕「不レ知二其——一」。
㊄ついづ（叙）、とゝのふ（整）。○〔書〕「平二——東-作一」。
㊅さとし（智）。○〔詩〕「——大-猷」。
㊆きよし（淸）。○〔詩〕「德-音——」。
㊇流れ行く貌にいふ字。○〔詩〕「——斯干」。
㊈つゝしむ、うやうやし（肅-敬）。○〔詩〕「左-右——」。
㊉十年閒の稱。○〔容齋隨筆〕「已閒二第七——一」。○
〔望秩〕山川を祭ること。○〔漢〕「——二山-川一」。

（祿秩）俸祿のこと。○〔禮〕「季‐秋之月、收ニ―・―之不レ當、供‐養之不レ宜者ニ」。
（榮秩）たかき職官のこと。○〔後漢〕「―・―兼優」。
（顯秩）前に同じ。○〔李虞仲〕「非ニ潔‐名―・―」、不レ在ニ玆選ニ。
（峻秩）前に同じ。○〔歐陽修〕「道愧ニ師‐儒一乃忝ニ春宮之―・―ニ。「―ニ。
（攀秩）常祿をとりあぐ。○〔左〕「而―ニ攀‐公‐子
（卹秩）特別にいつくしみて官をさつくること。○〔左〕「吾又―ニ―之ニ。「―・―ニ。
（常秩）官司の定まりたる職掌。○〔左〕「委ニ之
（職秩）官司の常職。○〔左〕「王‐子朝因ニ舊官百‐工之喪ニ―・―者ト以作レ亂」。「故」。
（官秩）前に同じ。○〔史〕「逐復ニ三‐入―・―ニ如レ
（增秩）祿位をます。○〔漢〕「數―レ―賜レ金」。
（加秩）前に同じ。○〔史〕「―ニ其―ニ。
（既秩）官職をさぐ。○〔史〕「卜式―レ―爲ニ太‐子太‐傅ニ。
（爵秩）位と祿と。○〔後漢〕「並無ニ―・―ニ。
（品秩）前に同じ。○〔後漢〕「其職‐條―・―事在ニ百‐官‐志ニ。
（高秩）たかき位、又、位をたかくす。○〔後漢〕「―レ―厚レ禮」。「與レ今同」。
（服秩）衣服と食祿と。○〔晉〕「僕‐射―・―印‐綬
（祭秩）神廟などのまつりの料にあてたる祿。○〔齊〕「詔增ニ仲‐尼―・―ニ。
（俸秩）官職あるものへ給料。○〔管〕「祿‐賜―・―、散ニ之親‐故ニ。「終‐始」。
（厚秩）てあつき俸祿。○〔北〕「高‐位―・―、與レ時
（優秩）前に同じ。○〔南〕「詔加ニ―・―ニ。
（位秩）官付と俸祿と。○〔北〕「不レ加ニ―・―ニ。
（卑秩）いやしき官職。○〔歐陽修〕「竊‐賜守ニ―・―ニ。
（美秩）よき官位のこと。○〔賈至〕「宜レ加ニ―・―ニ。

【秩】イツ、イチ。弋質切 質
雉の如くにして黑く海中又は山中に棲む鳥。○〔爾〕「―・―海‐雉」。

【䄷】セキ、ジヤク。常隻切 陌
百二十斤。

【秪】チ。丁尼切 支
初めて熟する禾、一說に、にどまき（再‐種）。

【秫】シュツ、ジュチ。食聿切 質
㊀もちあは、あは（黏‐粟）。○〔禮〕「仲‐冬乃命ニ大‐酋一、―‐稻必齊」。
㊁鉥に同じ、ながきはり。○〔戰〕「鯷‐冠―‐縫」。
（種秫）もちあはをうゝ。○〔晉〕「在レ縣公田悉令レ―ニ―‐穀ニ。
（蜀秫）きびのこと。○〔本草〕「―・―卽高‐粱、南人呼爲ニ蘆‐穄ニ。
（舂秫）もちあはをうすつくこと。○〔陶潛〕「―レ―作ニ美‐酒ニ。

【秬】キョ、ゴ。其呂切 語　求於切 魚
くろきび（黑‐黍）。○〔詩〕「維―維秠」。
（釀秬）黑黍をかもしつくる。○〔詩、疏〕「―レ―爲レ酒」。「分ニ。
（黑秬）くろきび。○〔禮、疏〕「―・―一‐黍爲ニ一‐
（玄秬）前に同じ。○〔崔駰〕「―・―黃‐趚應レ圖而合レ牒」。
（祕秬）稀にあるめでたききび。○〔李義府〕「仙‐階溢ニ―・―ニ。

【秭】シ。將几切 支
數の名、億の萬倍。○〔詩〕「萬‐億及―」。

【⿰禾白】ハク。匹各切 藥
禾の實のらざるもの、しひな。

【⿰禾出】スヰ。尺僞切 寘
うりよね（糶）。

【⿰禾片】クワ、ワ。胡戈切 歌　胡臥切 箇
棺の頭。

【⿰禾此】サイ、セ。側買切 蟹
いね（禾）。

【⿱禾尒】黍に同じ。

六畫

【秱】トウ、ヅ。徒東切 東
禾の盛んなる貌にいふ字、又、禾の稾の節の間にいふ字。○〔呂氏春秋〕「得レ時之禾長―而穗大、得レ時之麥長―而頸黑」。

【⿰禾存】ソン、ゾン。徂悶切 願
禾積む、つむ。

【⿰禾兆】タウ、デウ。直交切 肴
禾の穭生、ひつぢ。

【⿰禾兆】テウ。他彫切 蕭　タウ、トウ。他刀切 豪
いね（稻）。

【秲】チ、ヂ。直里切 紙
―‐穲は、稻の名。

【秲】シ、ジ。時至切 寘
蒔に同じ。

【秳】クワツ、グワチ。戶括切 曷
㊀粟を舂きて潰えざるにいふ字。㊁禾の生ずるにいふ字、はゆ。

【⿰禾西】テン。他玷切 琰
鄕の名、濟北の蛇丘縣に在り。

【秴】カフ、コフ。曷閤切 合
㊀たがへす（耕）。㊁うゝ（種）。

【秵】イン。伊眞切 眞
禾の葉、又、禾の華。

【⿰禾戎】ジュク、ニク。如叔切 屋
あつし（厚）。

【⿰禾戎】ジュウ、ニユ。乳勇切 腫
くろきび（秬‐黍）。

【⿰禾巟】クワウ、ワウ。呼光切 陽
荒に同じ、凶年、むなし。

【⿰禾如】ヂョ、ニヨ。女魚切 魚
臭き草。

【秶】シ。津私切 支
きび（稷）。

【⿰禾朵】タ、ダ。徒臥切 箇
禾積む、つむ。

【⿰禾夅】カウ、コウ。古巷切 絳
禾垂る、たる。

【⿰禾曳】エイ。餘制切 霽
白―は、稻の名。

【秷】チツ。陟栗切 質
禾を刈る聲にいふ字。

【⿰禾列】レツ、レチ。良薛切 屑　レイ。力制切 霽
きびがら（黍‐穰）、一說に、禾の行列齊しきにいふ字。

【⿱安禾】アン。烏旰切 翰
禾を櫟る、する。

【秴】カク、ガク。下各切 藥
禾の屬、黍に似て小さきもの。

【秸】カツ、ケチ。古黠切 黠
㊀禾藁、わら。○〔書〕「三-百-里納レ—服」。㊁皮を去りたる禾藁の席、わらのしきもの。○〔五〕「環—在レ地方-隅整-然」。
〔麥秸〕むぎわら。○〔唐〕「隤レ墻取二—・—一」。「—」。
〔剝秸〕はぎとること。○〔王令〕「榾-皮竹-顚盡—・—」

【秸】キツ、キチ。激質切 質
—鞠は、鳥の名、くわっこうどり、（鳴-鳩）。

【秾】キョウ、グ。渠容切 冬
おくて、（穜）。

【秾】キョウ、巨壠切 キョウ、丘勇切 腫
グ。ク。
かる、（穫）。

【秹】ジン、ニン。忍甚切 寑
禾弱し。

【秎】レイ、ライ。力帝切 霽
長き禾。

【秺】ト、當故切 遇　タ、陟加切 麻
ツ。テ。
地の名。○〔史〕「—侯金-日-磾」。

【秸】ケイ、ケ。古攜切 齊
桂に同じ、田器。

【秼】ワ、エ。烏蝸切 麻
たがへす、（耕）。

【移】イ。弋支切 支
㊀うつる。
（い）禾なびき倚る。○〔説文〕「禾相倚—也」。
（ろ）變はる。○〔書〕「世變風—」。
（は）轉ず。○〔左〕「晉師右—」。
（に）延く。○〔禮〕「絶-族無二—服一」。
（ほ）去る。○〔楚辭〕「思-怨—只」。
（へ）動く。○〔曹植〕「精—神駭」。
（と）歸す。○〔呂氏春秋〕「賞重則民—レ之」。
（ち）及ぶ。○〔後漢〕「流—至二澶-州一」。
㊁うつす。
（い）なへを分けうゝ。○〔六書故〕「凡種レ稻先苗レ之、後—レ之」。
（ろ）變ぜしむ、轉ぜしむ。○〔孟〕「貧-賤不レ能レ—」。
（は）延ばす、及ぼす。○〔史〕「如有レ—二德於我一」。「之」。
（に）動かす、去る。○〔列〕「化-人—レ之」。
（ほ）歸せしむ。○〔左〕「可レ—二令-尹一」。
（へ）遺す。○〔博雅〕「—脫-遺也」。
（と）書に志たためておくる。○〔漢〕「弘乃—レ病免歸」。
㊂志たゝめおくる文書、まはしぶみ。○〔後漢〕「致二僚-屬一作二文—一」。
〔風移〕風俗遷りかはること。○〔弄〕「世變—・—」。
〔日移〕日のかげのうつり行くこと。○〔潘岳〕「槃閡—・—」。
〔星移〕ほしのめぐりの幾たびか遷りかはること、即ち年月の經るにいふ語。○〔王勃〕「—・—幾-度秋」。
〔意移〕心のうつり行くこと。○〔戰〕「趙-王—・—」。
〔奪移〕强ひて取りて他にうつす。○〔後漢〕「神之所レ賓、不レ可二—・—一」。「—」。
〔飛移〕とびて他にうつりゆく。○〔晉〕「志在二—・—一」。
〔量移〕罪を得て遠地に遷られしを後赦にあひて近地にうつる。○〔白居易〕「三-年徭レ例未二—・—一」。
〔支移〕此れより彼れに移しやり近きより遠に輸びやること。○〔宋〕「移レ此輸レ彼移レ近輸レ遠謂二之—・—一」。
〔割移〕分かちやること。○〔宋〕「典-賣—・—」。
〔徛移〕無心にしてうつりかはること。○〔列〕「吾與レ之盡而—・—」。
〔密移〕陰かにうつりかはる。○〔列〕「天-地—・—」。
〔渝移〕うつりかはる。○〔呂氏春秋〕「榮乎其心不二—・—一也」。「同貫異」。
〔時移〕時代推しうつる。○〔抱朴〕「—・—俗易、物」。
〔推移〕うつりかはる。○〔楚辭〕「能與レ世—・—」。
〔回移〕めぐりうつる。○〔張衡〕「精魂—・—」。

【移】イ。以豉切 寘
㊀前條に同じ、うつる、うつす。○〔曹植〕「意甚不レ—」。
㊁あく、あかす、（飽）。○〔禮〕「以—レ民」。

【移】シ。敞尒切 紙
廣くなす、ひろむ。○〔禮〕「衣-服以—レ之」。

【秖】シ。側吏切 寘
志げし、おほし、（穊）。

【秙】ケイ、カイ。古奚切 齊
さどこほる、さどまる、（滯）。

【栗】古文の粟の字。

七畫

【稇】ホ、ブ。博孤切 虞
㊀攢め積む、つむ、あつむ。㊁だいづ、（大-豆）。㊂禾を刈る、かる。

【稀】キ、ケ。香依切 微
希に通じ作る、まれ、まばら。○〔魏〕「月明星—」。
〔依稀〕彷彿といふに同じ。○〔李賀〕「—・—和-氣排二冬-嚴一」。
〔不稀〕疎かならぬ。○〔殷遙〕「山-行趣—レ—」。

【稒】ヘツ、ヘチ。必列切 屑
禾の行列の齊しからざるにいふ字。

【稁】藁に同じ。

【稂】ラウ。魯當切 リヤウ、呂張切 陽
ラウ。切
莠に似たる一種の草、いぬあは、苗を害するものといふ。○〔詩〕「浸二彼苞—一」。

【稡】ホツ、ボチ。蒲沒切 月
いれのほ、（禾-秀）。

【稭】コク。苦沃切 沃
禾熟す。

【稍】ケン。古淵切 先
蠲に同じ、麥の莖、くき。

【稊】テイ、ヂヤウ。待鼎切 徑
稻麥の傑れ立つ貌にいふ字、ぬきんづ。

【秀】イウ、ウ。云九切 有
わかつ、わかる、（分-別）。

【稃】フ。芳無切 虞　フウ、房尤切 尤
ブ。
穀米の殼、あらかは、あらぬか、もみがら、すくも。○〔楊濤〕「二-粒同レ—」。
〔紅稃〕熟して赤ばみたる穀皮。○〔梅堯臣〕「霜-前稻熟春二—・—一」。「脾盤」。
〔熬稃〕穀皮を火もていること。○〔范成大〕「—レ—膩-」

【稄】ショク、シキ。阻力切 職
稫—は、禾の密き貌にいふ語、志げし。

【稅】セイ、ゼ。舒芮切 霽

㊀みつぎをわりあて斂むること、とりたて。○〔春秋〕「初—レ畝」。
㊁とりたつる貢賦、かゝりもの、みつぎ。○〔孟〕「納二其貢—一」。
㊂おく、〔舍〕、とく、〔釋〕。○〔史〕「我未レ知レ所レ—レ駕」。
㊃物を遺る、おくる。○〔禮〕「未レ仕者不レ—レ人」。

〔衣稅〕民よりとりたるみつぎものをもて衣を作りきること。○〔漢〕「縣官當レ食レ租—二—一而已」。
〔戸稅〕家ごとよりとりたつる稅金。○〔唐〕「免二安南——丁錢二歲」。
〔賦稅〕人民よりとりたつるみつぎもの。○〔史〕「其收二——於民、以二小斗一受レ之」。
〔出稅〕みつぎものをさしたすこと。○〔周、疏〕「虞衡是官非二——之人一」。
〔田稅〕田地の割合ひにしたがひてさしたすみつぎもの。○〔宋〕「因請均二定——一」。
〔征稅〕みつぎものをとりたつること。○〔禮、疏〕「雖レ無二——一、猶有二譏禁一」。
〔關稅〕牲を飼ふ家よりとりたつるみつぎもの。○〔禮〕「乃收二——一」。
〔徵稅〕みつぎものをとりたつること。○〔周、註〕「閭者—二民之—一」。
〔常稅〕定まりたるみつぎもの。○〔晉〕「國無二——一」。
〔租稅〕年貢運上のこと。○〔史〕「而有二——之賦一」。
〔假稅〕前に同じ。○〔後漢〕「勿レ收二——二歲一」。
〔雜稅〕いろ〳〵のとりたて。○〔南〕「可レ停二道中——一」。「事二阻遏一」。
〔輸稅〕みつぎものを上にをさむ。○〔顧況〕「—レ——」。
〔番稅〕庸役と租稅と。○〔唐〕「轉徙者脫——」。
〔收稅〕みつぎものをとりいる。○〔唐〕「以レ月—レ—」。
〔加稅〕みつぎものを增加す。○〔唐〕「軍興—レ—」。
〔減稅〕みつぎもの〻たかをうすくへらす。○〔唐〕「以二水災一—レ—」。
〔薄稅〕前に同じ。○〔王維〕「—レ—歸二天府一」。
〔重稅〕かろからざるとりたて、又、みつぎものをおもくとりたつ。○〔唐〕「設レ法—レ—」。
〔蠲稅〕民よりとりたつるみつぎを除きゆるすこと。○〔五〕「—二民—一」。

【稅】タイ、テ。吐外切 泰
日を經て喪を聞き忌服すること。○〔禮〕「小功不レ—」。

【稅】タツ、タチ。他括切 曷
とく、〔解〕。○〔左〕「晉侯見二鍾儀一問レ之、有司對曰、鄭人所レ獻楚囚也、使レ—レ之」。

【稅】セツ、セチ。輸爇切 屑
田賦、みつぎ。

【稅】エツ、エチ。戈雪切 屑
悅に通じ用ゆ、よろこぶ。○〔史〕「凡禮始二乎脫一成二乎文一終二乎—一」。

【稅】スヰ、ズヰ。徐醉切 寘
襚に通じ用ふ、死者の尸に衣するに贈る服。○〔史〕「辟陽侯乃奉二百金一往—」。

【稆】穭の本字、自生の稻。○〔後漢〕「尙書郞以下自出採レ—」。

【稞】ビ、ミ。無匪切 尾　無沸切 未
かゆ、〔饘〕。

【稇】コン。苦本切 阮
みのる、〔成熟〕。

【稈】カン。古旱切 旱
秆に同じ、わら、禾莖。○〔爾、疏〕「其莖—似レ木而粗大者是也」。

〔稭稈〕わら。○〔黃庭堅〕「招二東若——一」。
〔禾稈〕前に同じ。○〔漢、註〕「稾——也」。「石一」。
〔豆稈〕豆のから。○〔孫〕「——一右當レ吾二十
〔萁稈〕前に同じ。○〔潘岳〕「——空虛」。
〔𥞊稈〕わらにもちを粘しつく。○〔秦潜紀聞〕「—叢レ身」。
〔麥稈〕むぎのわら。○〔秦潜紀聞〕「散レ膠盡塗二場開——一」。
〔遺稈〕のこしあるわら。○〔張耒〕「穀穗無二一粒一、——如二立薪一」。

【稉】秔に同じ、うるしね。○〔漢〕「馳二騁——稻之地一」。

【稍】ケン。吉典切 銑
小さき束、こたば。

【稄】スヰ、ズヰ。儒隹切 支
禾の四把のこと。

【稧】ケフ。古協切 葉
かりいれ、〔穧〕。

【稊】テイ、ダイ。田黎切 齊
㊀地に布きて生ずる一種の穢草、稗に似たり、くろいぬびえ、のびえ。○〔莊〕「——米之在二太倉一」。
㊁荑に通じ作る、かはやなぎのほ、一說に、木の更に生ずるもの。○〔易〕「枯楊生レ—」。
〔稗稊〕稻にたる草の名、ひえ。○〔歐陽修〕「況與二鳧鷖一爭二——一」。

【稏】秠に同じ。

【程】テイ、ヂヤウ。直貞切 庚
㊀寸の百分の一、卽ち、一分の十分の一。○〔說文〕「十髮爲レ—十—爲レ分」。
㊁ほどをはかる器用、卽ち、はかり、ます、さしなど。○〔除鉉〕「—者權衡斗斛曆律也」。
㊂ほど。
（い）容受、ますめ、長短、ながさ、輕重、かけめ、多少、かず、卽ち、物事の量。○〔禮〕「按二度—」。
（ろ）制限、課定、品等、かぎり、きまり、きな。○〔漢〕「責以二員—一」。
㊃法式、のり。○〔呂氏春秋〕「後世以爲二法—一」。
㊄はかる。
（い）ほどを見はからふ。○〔禮〕「引二重鼎一不レ—二其力一」。
（ろ）ほどを設く、かぎる。○〔漢〕「自—二決事一」。
㊅みち。
（い）道里、みちのり。○〔李紳〕「浦—通二曲浦一」。
（ろ）旅行。○〔張九齡〕「戒レ—有レ攸レ往」。
㊆しめす、〔示〕。○〔張衡〕「致レ飾—レ蠱」。
㊇豹の稱（秦人の言）。○〔莊〕「青寧生レ—」。

〔章程〕文書の限定。○〔漢〕「命二張蒼一定二——一」。
〔嚴程〕嚴重なる期限。○〔韓愈〕「——迫二風帆一」。
〔歸程〕もときし處に歸り行く道里。○〔岑參〕「東望二——一」。
〔水程〕水上の道のり。○〔韓駒〕「未レ用二舩頭報二——一」。
〔課程〕割りあつる仕事の程度。○〔唐〕「徒役——逋缺之物」。
〔便程〕作業の程度をたよりよくし課す。○〔史〕「——東作」。
〔法程〕法則。○〔說苑〕「犯二國——一」。
〔商程〕はかり定む。○〔宋〕「量レ物—レ—」。
〔過程〕度に超ゆ。○〔唐〕「笞督—レ—」。
〔稽程〕考へ定む。○〔宋〕「—二—律論一」。
〔隨程〕程度にしたがひよる。○〔金〕「—レ—幹辦」。
〔常程〕定まれる程度。○〔杜甫〕「山行有二——一」。
〔準程〕從ひすること。○〔宋〕「萬世——」。
〔典程〕法度に法りよること。○〔逸周書〕「允惟——」。
〔準程〕準へはかる。○〔管〕「盡有二——事律一」。
〔方程〕數學の名。○〔算經〕「八日、——」。
〔標程〕めじるしとなること。○〔圖畫見聞志〕「百代——」。
〔按程〕はかり定めたるのり。○〔蔡邕〕「——經用、以レ事上聞」。

〔品程〕法式のこと。○〔曹植〕「禮記有ニーーニ」。
〔兼程〕常の道のりを倍にし行くこと。○〔楊萬里〕「舩輕風順更ーレー」。
〔世程〕世の中の法式となる。○〔王惲〕「萬古爲ニー・ーニ」。
〔期程〕あてとし定む。○〔張說〕「來經預ー・ー」。
〔合程〕程度に合格すること。○〔柳宗元〕「射策ーレー逐冠ニ首科ニ」。
〔訓程〕教へののり。○〔柳宗元〕「由ニ公ー・ーニ」。
〔違程〕のりにはづる。○〔劉禹錫〕「園-蜂速去恐ーレー」。
〔險程〕平坦ならざる道のりのこと。○〔元稹〕「來隨ニ夢ニー・ーニ」。
〔倦程〕旅の道に厭きはつること。○〔李商隱〕「ー・ー山向-背」。
〔問程〕道のりを尋ぬ。○〔李商隱〕「鳴-搏莫レーレー」。
〔故程〕もと來し道里。○〔劉言史〕「荏-苒失ニー・ーニ」。
〔殘程〕行く先のほど。○〔李昌符〕「ー・ー尙幾-年」。
〔算程〕道のりを數へみる。○〔周賀〕「ー・ー淮-邑遠」。
〔短程〕長からざる道のり。○〔羅鄴〕「終-日長-程復ー・ー」。
〔規程〕さだめ。○〔徐鉉〕「方能知ニ彼ー・ーニ」。
〔異程〕道程を殊別にす。○〔蘇軾〕「出處恐ニー・ーニ」。
〔使程〕使命の道のり。○〔程子紫閣詩〕「ー・ー雜ニ久駐ニ」。
〔修程〕長き道のり。○〔余靖〕「素-履將ニー・ーニ」。
〔行程〕道のり。○〔楊萬里〕「榴-郎相語敀ニー・ーニ」。

【稌】ト、他胡切 虞　ツ。他古切 麌　もちいれ（稬-稻）。○〔詩〕「豐-年多レ黍多レー」。

【稌】ショ、ゾ。常如切 魚　やまのいも（署-預）。

【稍】サウ、セウ。所教切 效　㊀すこしづつ度のますにいふ字、しだいに、やうやく、やゝ。○〔史〕「上怒ー怒」。㊁ふち（廩-食）。○〔儀〕「惟ー受レ之」。㊂ひさし（均）、ちひさし（小）。○〔周〕「凡王之ーー事」。㊃王城を距る三百里の地の稱。○〔周〕「去ニ王-城ニ三-百-里日レー」。
〔稍稍〕漸次の意に同じ。○〔韓〕「ー・ー竄ニ食之ニ」。
〔家稍〕大夫の采地。○〔周〕「四日ニー・ー之賦ニ」。
〔廩稍〕ふち。○〔後集〕「寧適豐ニー・ーニ」。

【稍】サウ、セウ。山巧切 巧　前條の㊁の解に同じ、やゝ。

【稍】サウ、セウ。師交切 肴　みつぎ（稅）。

【⿱⿰氵刃禾】梁に同じ。

【秏】秅に同じ。

【⿰禾足】サク、ソク。側角切 覺　今年枯れて來年自生する稻、ひつぢ。

【秘】ヘツ、ベチ。蒲結切 屑　禾の香、かをり。

【⿰禾叔】ク、コ。果羽切 麌　木の曲がれる枝、又、積ーは伸びざること。

八畫

【稏】ア、エ。衣稼切 禡　䆉ーは、稻の名。○〔杜牧〕「䆉ーー百-頃田」。

【⿰禾非】ヒ。妃尾切 尾　禾の穂の貌にいふ字。

【⿰禾務】ショウ。書蒸切 蒸　麻の屬。

【⿰禾甾】シ。莊持切 支　㊀たがへす（耕）。㊁禾死す、かる。

【⿰禾奇】イ。於宜切 支　禾の茂れる貌にいふ字、しげし。

【⿰禾定】⿰禾廷に同じ。

【稐】ロン。魯本切 阮　禾の束、たば。

【⿰禾居】キョ、コ。斤於切 魚　⿰禾唐ーは、もちきび（黍）。

【稑】リク、ロク。力竹切 屋　最も早く熟する稻、わせ。○〔周〕「上-春詔ニ王-后一帥ニ六-宮之人一生ニ穜-ー之種一而獻ニ之于王ニ」。

【稒】コ、ク。古慕切 遇　縣の名。

【⿰禾奄】アン、オン。烏含切 覃　かうばし（香）。

【⿰禾奄】エン、オン。衣廉切 鹽　禾美し、うるはし。

【⿰禾奄】アン、オン。鄔感切 感　田に種う、うゝ。

【⿰禾奄】エン。衣檢切 琰　禾の實のらざるもの、しひな。

【⿰禾奄】アフ、オフ。乙業切 葉　禾の敗れて生ぜざるにいふ字。

【⿰禾委】ス井、ズ井。儒隹切 支　⿰禾妥に同じ。

【稔】ジン、ニン。如甚切 寑　㊀さし（年）、即ち、穀の一回みのるの期。○〔左〕「不レ及ニ五ーーニ」。㊁穀の熟するを、みのり。○〔宋〕「巒-田大ー」。㊂久しく積む、つむ。○〔任昉〕「惡積釁ー」。
〔登稔〕穀物ゆたかにみのる。○〔梅堯臣〕「九-穀初ー・ー」。
〔積稔〕年久しきこと。○〔晉〕「歷レ諫ー・ー」。
〔累稔〕年をかさぬ。○〔南〕「故黃-霸-莅ニ穎-川ニー・ー」。

【稕】ジュン。之閏切 震　稈を束ぬ、つかぬ。

【⿰禾來】ライ。洛哀切 灰　リ。陵之切 支　むぎ（麥）、又、小麥。

【⿰禾昆】コン、ゴン。戶袞切 阮　草を束ぬ、つかぬ。

【⿰禾卷】ケン、カン。去阮切 阮　禾の相近きにいふ字、ちかし。

【稖】ハウ、ボウ。步項切 講　棓に同じ、稆の屬。

【稗】ハイ、ベ。傍卦切 卦　㊀葉は稻に似て實は黍に似たる一種の草、ひえ、其の實は食用とすべし、のびえ、くさびえ、いぬびえ等の種類あり。○〔孟〕「荀爲レ不レ熟不レ如ニ

蕒ーー」。
㊁こまかし、ちひさし、（細）。○〔唐〕「算二ー販之緡一」。「長」。
〔蒲稗〕がまとひえとのこと。○〔杜甫〕「ーー各自

【稗】前條に同じ。

【稊】テイ、テ。株衛切　霽
禾の貌にいふ字。

【稖】クワン。苦緩切　旱
禾病、いねのやまひ。

【稍】シヤウ、サウ。尺良切　陽
ぬか、（糠）。

【稘】キ。居之切　支
一周年、ひさまはり。○〔唐〕「我見下其不ち逮二再ーー一」。

【稘】キ、ギ。渠之切　支
豆の莖。

【稙】チヨク、チキ。竹力切　ショク、ジキ。丞職切　職
早種の禾、はやまきのいね。○〔詩〕「ーー穉菽-麥」。

【稚】チ、ヂ。直利切　寘
㊀晩く生まれたり、をさなし、いさけなし、ちひさし。○〔穀梁〕「驪-姫有二ニ-子一長曰二奚-齊一ー曰二卓-子一」。
㊁いさけなき者、をさなき人。○〔蔡邕〕「養レー惟愛」。
〔年稚〕としわかし。○〔魏〕「卿ー倘ー」。
〔驕稚〕おごりはこりて人をこどもあつかひすること。

○〔莊〕「ー二ー莊子一」。
〔孩稚〕いとけなきもの。○〔梁武帝〕「ーー無レ遺」。
〔嬰稚〕前に同じ。○〔元稹〕「ーー近封レ公」。
〔孥稚〕前に同じ。○〔蘇軾〕「戮及二ーー一也」。
〔孤稚〕親をうしなひたる年少者。○〔張籍〕「親朋有二ーー一」。
〔嬌稚〕愛らしくいとけなし。○〔張率〕「小-婦尚ーー」。

【稇】コン。苦本切　阮
絡ひて束ぬ、くゝる、からぐ、つかぬ。○〔黃庭堅〕「物被二收ーー一」。

【稛】キン、クン。苦隕切　軫
みつ、（滿）。○〔國〕「ー-載而歸」。

【稑】タ、ダ。徒果切　スヰ、ズヰ。聚橤切　紙
樹僞切　寘
小しく積む、つむ。

【稌】タ。吐火切　哿
禾の穗。

【稜】ロウ。魯登切　蒸
㊀いつ、いきほひ、（威）。○〔漢〕「威ーー憺二乎鄰-國一」。
㊁かど、すみ、（廉）。○〔班固〕「上觚ーー而棲二金-爵一」。

【稜】ロウ。魯鄧切　證
田の遠近多少を指すにいふ字。○〔康熙〕「農-人指二田遠-近多-少一曰二幾-ーー」。

【稾】コウ、ク。苦紅切　東
稻の稈、わら。

【棚】ハウ、ビヤウ。蒲庚切　庚
禾密し、志げし、いねつらなる。

【稞】クワ。苦禾切　歌
大麥の一種にして芒の易く取るゝもの、はだかむぎ。

【稞】クワ、ゲ、胡瓦切　馬
穀の善きもの。

【稞】ラ。魯果切　哿
皮のなき穀

【稟】リン、ロン。力錦切　寑
㊀穀を賜ふこと、ふち、賜はる穀、ふちまい。○〔禮〕「既ー稱レ事」。
㊁廩に同じ、こめぐら。○〔徐鉉〕「公ーー賜レ之」。

【稟】ヒン、ホン。筆錦切　寑
㊀命を受く、うく。○〔書〕「臣-下罔レ攸レ稟レ命」。
㊁事を白す、まうす。○〔書傳〕「今俗以レ白レ事爲レー」。
㊂天賦の性質、さが、たち、卽ち、天よりうけ得たるものゝ義。○〔釋名〕「形-貌之ー」。
〔諮稟〕事をとひ命をうく。○〔後漢〕「內-外ーー、事同二成-人一」。
〔承稟〕命令をうく。○〔後漢〕「不二相ーー一」。
〔奏稟〕君に上申すると上の命令をうくること。○〔唐〕「恐萬-機ーー、有レ所二壅-閼一」。
〔天稟〕天よりさづかりたる性、卽ち、自然の命をいふ。○〔王安石〕「好レ古乃ーー」。
〔賦稟〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「寵常侍二ーー一」。
〔異稟〕めづらしき天賦。○〔陳琳〕「此乃天-然ーー」。
〔特稟〕すぐれたる生れつき。○〔房寬〕「降二龍駒之ーー一」。
〔英稟〕前に同じ。○〔黃庭堅〕「皆有二ーー一」。

【稟】ヒン。逋鴆切　沁
うく、（受）

【稷】シヨク、シキ。阻色切　職
禾の束、たば。

【稴】ケン、コン。虛嚴切　鹽
禾肥えて傷る、やぶる。

【稠】チウ、ヂユ。直由切　尤
志げし、（密）、さかんなり、（穠）、又、おほし、（多）。○〔戰〕「書-策ーー濁」。
〔稀稠〕少なきと多きと卽ち疎密といふに同じ。○〔漢〕「異有二大-小ーー一」。
〔繁稠〕志げく多くあること。○〔梁昭明太子〕「藥-樹永ーー」。
〔疎稠〕稀少なると繁多なると。○〔白居易〕「ーーー要滿レ欄」。

【稠】テウ、デウ。徒弔切　嘯
動搖する貌にいふ字、うごく、ゆるぐ。○〔漢〕「天-下ー-寂」。

【稠】テウ、デウ。田聊切　蕭
さゝのふ、（調）。○〔莊〕「可レ謂二ーー適而上-遂一」。

【稡】ソツ、ソチ。臧沒切　月
稡の字の條を見よ。

【稡】サイ、セ。子外切　泰
萃に同じ、あつまる、あつむ。○〔郭璞〕「會二ーー舊-說一」。

【稶】ヰク、ヲク。於鞠切 屋
黍稷の盛んなる貌にいふ字。

【〓】レイ、ライ。憐題切 齊
黑木。

【〓】ヒ。必至切 寘
縣の名。

【稞】クワ。何戈切 歌 クワ、グワ。戸臥切 箇
棺の頭。

【〓】エキ、ヤク。夷益切 陌
收穫したる畝。

【〓】トク、ドク。匿德切 職
稻の穰なるを、ゆたか。

【〓】チヤウ。丑㯶切 漾
いなたば（穧）。

九畫

【〓】ヲク。烏祿切 屋
のぎ（禾芒）。

【〓】稦の本字。

【〓】稊に同じ。

【〓】シユ。相庾切 麌
一種の草。

【〓】ヲ。烏禾切 歌 ヰ。鄔毀切 紙
おほし（多）。

【稧】ケイ、ガイ。胡計切 霽
秡りたる稻、かりいれ。

【稧】ケツ、ケチ。詰結切 屑
㊀禾の稈、わら。㊁禊に借り用ふる字、みそぎ。○〔王羲之〕「脩二——事一」。

【稨】ヘン。卑眠切 先
いんげんまめ（籬上豆）。

【〓】シウ、シュ。即就切 宥
みのる（稔實）。

【〓】チウ、ヂユ。直祐切 宥
みつぎ（税）。

【〓】キ。几利切 寘
禾の長き穗。

【稪】フク、ホク。方木切 屋
穀の名。

【〓】セイ、シヤウ。桑經切 青
まばら（稀）。

【〓】稞に同じ。

【〓】稴に同じ。

【〓】クワウ、胡光切 陽 カウ、ギヤウ。胡盲切 庚
禾——は、きび。

【〓】シウ、シュ。子幽切 尤
禾生ず、はゆ。

【稫】ヒヨク、ヒキ。芳逼切 職
——稄は、禾の密き貌にいふ語、こげし。

【稫】ヒヨク、ヒキ。筆力切 職
禾を踩みて葉を下すにいふ字、ふむ。

【〓】シフ。測入切 緝
うゝ（種）。

【稬】ダ、ナ。乃臥切 箇 ダン、ナン。乃管切 旱
米の黏れる稻、もちごめ、もちいれ。○〔蘇軾〕「誰勸レ耕二黃——一」。

【稭】カツ、ケチ。訖黠切 黠 カイ、ケ。古諧切 佳
皮を去りたる禾藁にてつくりたる席、あらごも。○〔史〕「古者封-禪掃レ地而祭-席用二葅——一」。

【秸】前條に同じ。○〔禮〕「藁——之設」。

【〓】タ。丁果切 哿 タン。多官切 寒
禾の垂るゝ貌にいふ字、たる。

【稴】レン、ロン。力兼切 鹽
かをり、芳氣。

【〓】ケツ、ケチ。居列切 屑 カツ、カチ。苦曷切 曷
禾の穗出づ、ひいづ。

【〓】ケツ、ゲチ。巨列切 屑
ぬか（糠）。

【〓】バウ、メウ。謨交切 肴 眉教切 效
穮——は、禾の實らざるを。

【種】シヨウ、シュ。主勇切 腫
㊀たね。

(い)穀物のめばえするもと。○〔周〕「春獻レ——」。(ろ)動植物の生ずるもと。○〔禮〕「使下入二蠶于蠶-室一奉レ——浴中于川上」。(は)起因、もと。○〔法苑珠林〕「一切智——」。(に)もとの系統を承けつぎて生じたるもの、うまれ。○〔史〕「王-侯將-相寧有レ——乎」。

㊁たぐひ。(い)品類、くさ、いろ、こな。○〔國〕「七-事八——」。(ろ)部族、なかま、やから。○〔後漢〕「鮮-卑異——」。

㊂謹愨なる貌にいふ字、うやうやし。○〔莊〕「舍二夫——之機一」。

㊃髮の短き貌にいふ字。○〔左〕「我髮如レ此——」。

〔易種〕種類を交換すること。○〔晉〕「無レ俾レ——于茲新-邑一」。

〔嘉種〕よきたね。○〔詩〕「誕降二——一」。

〔善種〕前に同じ。○〔漢〕「雖レ有二——一不レ能レ生焉」。

〔五種〕黍、稷、麻、麥、豆の五つの類。○〔漢〕「種レ穀必雜二——一」。

〔將種〕將校の家柄の生まれ。○〔史〕「臣——也、請得下以二軍-法一行上レ酒」。

〔貴種〕尊貴なる家柄の生まれ。○〔史〕「女不二必——一、要二之貞-好一」。

〔首種〕藏めおくべき麥。○〔禮〕「雪-霜大-摯、——不レ入」。

〔苗種〕稻と麥と。○〔周〕「澤-草所レ生、種二之——一」。

〔播種〕たねを蒔く。○〔孟〕「今夫麰-麥、—レ—而耰レ之」。

〔上種〕よきたね。○〔史〕「長-石-斗-取二——一」。

〔糧種〕食料と物のたねと。○〔後漢〕「悉目賦二貧-民一、給二與——一」。

〔名種〕珍らしき類のもの。○〔謝承〕「異-物——、不下與二中-國一同者、悉口二陳其狀一」。

〔雜種〕いりまじはれる種類。○〔丘遲〕「姬-漢舊-邦、無レ取二——一」。

〔根種〕物の本原となるもの。○〔元包經〕「物之——也」。

〔龍種〕君王のたね、又、善き馬のたね。○〔杜甫〕「――自與ニ常人一殊」。
〔惠種〕すぐれたる種類。○〔越絕書〕「――生レ聖、癡・種生レ狂」。
〔擇種〕たねをえりぬく。○〔說苑〕「田者―レ―而種レ之」。
〔入種〕人間のたね。○〔法苑珠林〕「欽レ令ニ―・―不レ絕」。
〔移種〕たねをうつし植う。○〔聞見後錄〕「求ニ其地一始―レ―」。
〔僊種〕すこやかなる種類。○〔程史〕「皆西北―・―」。
〔好種〕よき種類。○〔杜預〕「其所レ留―・―萬・頭」。
〔下種〕たねをおろす。○〔傅休奕〕「調レ土―レ―播レ之有レ經」。
〔疏種〕野菜のたね。○〔鮑照〕「拭ニ藜・杖一布ニ―・―一」。
〔聲種〕聲貴の生まれ。○〔李華〕「釋・宮―・―」。
〔駿種〕よき馬のたね、即ち、すぐれたる生まれのものにいふ語。○〔蘇軾〕「象賢眞―・―」。

【種】シヨウ、シユ。朱用切 宋
うゝ。
(い)植う。○〔史〕「醫・藥卜・筮―・樹之書」。
(ろ)布く。○〔書〕「邁―レ德」。
(は)たねをまく。○〔唐〕「蒔―・漑・灌」。
〔糞種〕肥料をなしたねをまく。○〔周〕「凡―・―騂・剛、赤緹用レ羊」。
〔穊種〕ましげくうゝること。○〔史〕「深耕―・―、立レ苗欲レ疏」。

【穆】俗の穆の字。

【稖】エン、オン。一鹽切 鹽
苗齊し、ひさし。

【稖】イン、オン。於禁切 沁
禾苗の茂盛なるにいふ字、ましげし、盛んなり。

【稯】ソウ、ス。子紅切 東
㊀禾の束、いねたば。
㊁六百四十石の稱。○〔周〕「四・秉曰レ筥、十・筥曰レ―」。

【稯】ソウ、ス。祖動切 董
禾の聚まる束たば、又、聚まる貌にいふ字、あつまる。○〔莊〕「是――者何爲者耶」。

【𥟐】穊に同じ。

【稰】シヨ、ソ。相居切 魚 私呂切 語
㊀禾の子の落つる貌にいふ字、おつ。
㊁熟したるを穫る、かる、又、晩稻、おくて。○〔禮〕「―・穛」。

【稰】シヨ、ソ。爽阻切 語
神を祭る米、せんまい。○〔漢〕「費ニ椒―一以要レ神兮」。

【稱】シヨウ。處陵切 蒸
㊀はかりにかけて輕重を知る、はかる。○〔禮〕「分レ繭―レ絲」。
㊁あぐ。
(い)ひッさぐ、かゝぐ、さゝぐ。○〔書〕「―ニ爾戈一」。
(ろ)行ふ。○〔周書〕「公―ニ丕・顯之德一」。
(は)用ふ。○〔左〕「禹―ニ善・人一不・善・人遠」。
(に)興こす。○〔左〕「―レ兵以害レ我」。
(ほ)說く、述ぶ。○〔禮〕「言レ在不レ―レ徵」。
(へ)宣揚す、ほむ、たゝふ。○〔禮〕「君・子―ニ人之善一」。
㊂名いふ、呼ぶ、さなふ。○〔國〕「王―ニ左・崎一」。
㊃名聲、ほまれ。○〔後漢〕「少有ニ英・―一」。
㊄名號、さなへ。○〔孟子題詞〕「子者男・子之通―」。
〔見稱〕褒めたゝへらる。○〔史〕「以レ賦―レ―」。
〔名稱〕ほまれ、又、となへ。○〔漢〕「材器―・―、稍不レ能レ及」。
〔難稱〕となへいふことを恥づかしく思ふ。○〔漢〕「仲尼之門、五・尺之童―レ―ニ五・霸一」。
〔英稱〕すぐれたる評判。○〔後漢〕「大人小有ニ―・―一」。
〔孝稱〕親孝行なる評判。○〔後漢〕「憂年五・歲、便有ニ―・―一」。
〔通稱〕普通の名稱。○〔養生論〕「此天・下之―・―也」。
〔嗟稱〕感じてほめたゝふ。○〔鮑照〕「漢・帝益―・―」。
〔肇稱〕始めていひいだす。○〔書〕「王―・―殷禮一、祀ニ于新・邑一」。
〔面稱〕面前にていふ。○〔許諸序、疏〕「―・―不レ爲レ諂、目・諫不レ爲レ謗」。
〔內稱〕身內の者を推擧す。○〔禮〕「人有ニ―・―不レ辟レ親」。
〔自稱〕自身にいふ。○〔禮〕「―・―於ニ諸・侯一」。
〔謙稱〕謙遜していふ。○〔左、註〕「孤・寡不・穀諸・侯―・―」。
〔私稱〕表だゝずにいふ。○〔公羊、疏〕「公・者臣・子之―・―」。
〔號稱〕なづけいふ、又、となへ。○〔史〕「―ニ―千・萬一」。
〔廉稱〕廉潔なるをもてたゝへらる。○〔宋〕「然其所レ至無ニ―・―一」。
〔令稱〕よき名稱のこと。○〔垣範〕「東・脩著・行、少有ニ―・―一」。
〔褒稱〕はめたゝふ。○〔卞蘭表〕「―・―盛行」。
〔過稱〕實にすぎたるほまれ。○〔後漢〕「―・―虛・譽」。
〔德稱〕道德の評判。○〔後漢〕「陰・后見レ后、―・―日盛」。
〔追稱〕其の人の死にたる後よりたゝへいふ。○〔後漢〕「―ニ―道一」。
〔聲稱〕よき評判。○〔後漢〕「以ニ才・能一有ニ―・―一」。
〔美稱〕前に同じ。○〔晉〕「俱有ニ―・―一」。
〔矯稱〕いつはりていふ。○〔後漢〕「―ニ―記・讖一」。
〔莽稱〕名あらはれたゝへらる。○〔晉〕「以ニ友・愛一―・―」。
〔取稱〕ほまれを受く。○〔舊唐〕「是時山東人李白亦以ニ文・奇一―レ―、時・人謂ニ之李杜一」。
〔交稱〕互にたゝへいふ。○〔宋〕「士、大・夫――ニ其能一」。
〔獨稱〕唯其のもののみたゝへらる、又、其のもののみのとなへ。○〔淮〕「三・王―・―」。
〔醜稱〕惡しき名稱。○〔揚雄〕「座・服鼎夫之―・―也」。
〔時稱〕其の頃のほまれ。○〔全唐詩話〕「漏在ニ鄴・場一甚有ニ―・―一」。
〔詩稱〕よく詩を作る評判のこと。○〔全唐詩話〕「最有ニ―・―一」。
〔傳稱〕此れより彼れへつたへたゝへらる。○〔魏武帝〕「止而不レ驕、其德―・―」。
〔累稱〕頻にたゝへらる。○〔長笛賦〕「―・―屢讃」。
〔嘉稱〕よき名稱。○〔張載〕「垂ニ―・―于百・代一」。
〔佳稱〕前に同じ。○〔沈約〕「羅・幽同ニ―・―一」。
〔眞稱〕前に同じ。○〔謝莊〕「爲レ爾著ニ―・―一」。
〔殊稱〕前に同じ。○〔孫覿〕「華・楙有ニ―・―一」。

【稱】シヨウ。昌證切 徑
㊀物の輕重をはかる器、てんびん、はかり、權衡。○〔荀〕「建ニ國・家之權―一」。
㊁斤兩、かけめ。○〔管〕「一―・―數」。
㊂適度、ほどあひ。○〔荀〕「貧・富輕・重皆有レ―者也」。
㊃はかる（度）。○〔易〕「―レ物平レ施」。
㊄かなふ。
(い)ほどあひに合ふ。○〔易〕「罪―而隱」。
(ろ)意に快しとす。○〔爾註〕「物―ニ人・意一亦爲レ好」。
(は)相等し、つりあふ、そろふ。○〔周〕「謂ニ之參―一」。
(に)そふ（副）。○〔漢〕「無ニ以報―一」。
㊅衣の單複の具はるもの。○〔禮〕「袍必有レ表不レ禪、衣必有レ裳、謂ニ之一・―一」。
㊆利倍を取る、あぐ。○〔孟〕「―貸而益レ之」。
㊇利倍を償ふ、あがる。○〔漢〕「取ニ倍・―之息一」。
〔權稱〕はかり。○〔荀〕「是懸ニ天・下之―・―也」。
〔古稱〕むかしのはかり。○〔隋〕「梁、陳依ニ―・―一」。
〔重稱〕おもきに過ぎたるはかり。○〔北〕「敢ニ―・―一」。
〔失稱〕適當なる度合をうしなふ。○〔荀〕「一・物―」。

〔手稱〕はすとはかりと。〇〔淮〕「角二一・一」。〔宜稱〕よろしくかなひたると。〇〔韓偓〕「遍將二一・一間三旁人二」。

【稯】ショク、シキ。察色切 職
禾の稠き貌にいふ字、ねげし。

【稥】キヤウ、カウ。烘姜切 陽
かをり、（芳-氣）。

【稵】ジウ、ニユ。人九切 有
禾の穗を蹂る、する。

【稩】シフ。子入切 緝
ねげし、（稠）。

【稳】シ。掌氏切 紙
とゞまる、（止）。

【稦】キ。頸爾切 紙
曲がりたる枝の果、このみ。

【稧】キ。居里切 紙
一首-蛇は、頭二つある蛇。

【稩】エフ、オフ。於劫切 葉
禾の敗れて生ぜざるにいふ字。

【稪】穊に同じ。

十畫

【稫】アイ、エ。烏懈切 卦
稻の小把、こたば、又、稻の種、もみ。

【稬】シ。息杏切 支
禾を治む、かる。

【稭】ハウ、バウ。步光切 陽
一稈は、きび、（穄）。

【稴】リツ、リチ。力質切 質
禾を積む貌にいふ字、つむ。

【稶】サウ。七溟切 漾
禾の穗。

【稷】コツ、コチ。古忽切 月
禾の莖。

【稴】レン、ロン。力兼切　ケン、ゲン。戸兼切 鹽　カン、ゲン。胡讒切 咸　ケン。力忝切 琰　力店切 豔
㊀米の黏らざる稻、うるしね、一說に、白き米の青稻
㊁一穖は、禾の實らざる貌にいふ語。

【稸】チヤウ。丑亮切 漾
かりいれ、（穧）。

【稹】ゴン。五困切 願
相謁げて麥を食らふと。

【稽】キ、ギ。渠脂切　シ、ジ。市之切 支
種を下す、まく。

【稻】リウ、ル。力求切 尤
禾の盛んなる貌にいふ字。

【稼】シ。子之切 支
㊀禾の生ずる貌にいふ字。
㊁滋に同じ、ます。㊂うゝ、（蒔）。

【稿】ス、仕于切 虞　シウ、シユ。莤尤切 尤
黍の實を取り去りたるもの、きびがら。

【稷】ショク、シキ。子力切 職
㊀五穀の一、きび、其の米は黃にして其の苗の穗は蘆に似たるもの。〇〔詩〕「彼一之苗」。
㊁五穀の神、又、其の祠。〇〔風俗通〕「一五-穀之長、五-穀衆-多不レ可二偏-祭一故立レ一而祭レ之」。
㊂さし、はやし、（疾）。〇〔詩〕「既齊既一」。
㊃昃に通じ用ふ、かたむく。〇〔穀梁〕「戊-午日下一乃克レ葬」。
〔后稷〕古の農官の名、又、周室の祖先なる人の號。〇〔禮〕「祀二帝于郊一、配以二一・一」。
〔黍稷〕きびとあはと。〇〔書〕「一・一非レ馨」。
〔社稷〕土地と五穀との神にして國をたもつものはこれを建つ、又、國家といふ意をあらはすに代へて用ふるとあり。〇〔漢〕「上曰、古有二一・一之臣一」。
〔玄稷〕くろきあは。〇〔漢〕「嘉-穀一・一降二于郡-國一」。
〔祭稷〕五穀の神をまつる。〇〔旬〕「社祭レ社也、稷「一レ一也」。
〔穫稷〕あはをとりをさむ。〇〔文中子〕「樹レ黍者、不レ「于一・一」。
〔馨稷〕かうばしきよきあはのと。〇〔玉海〕「歲儲二
〔稻稷〕米粟といふに同じ。〇〔嵇康〕「無二一・一之域一、必以二菽-麥一爲二珍-養一」。

【稸】キク、コク。許竹切 屋
蓄に同じ、つむ、あつむ、たくはふ。〇〔戰〕「一一積-朽-腐而不レ用」。

【穃】稐に同じ。

【稾】サク。昔各切 藥
禾の貌にいふ字。

【稄】サク、シャク。色窄切 陌
禾の穗。

【稹】シン。之忍切 軫　側鄰切 眞
㊀こまか、（緻）。〇〔周〕「一理而堅」。
㊁むらがる、（叢）、あつむ、（聚）、ねげし、（稠）。〇〔郭璞〕「橉-杝一-薄」。

【稹】テン、デン。亭年切 先
㊀木の根相迫る、せまる。
㊁前條の㊀に同じ。

【稨】ヘン。卑眠切 先
いんげんまめ、（籬-上-豆）。

【稺】チ、ヂ。直利切 寘
㊀後く種ゑつけたる稻。〇〔詩〕「稙一一菽-麥」。
㊁幼小、いとけなし、わかし、をさなし、又、幼小なるもの。〇〔詩〕「衆一且狂」。

【稺】チ、ヂ。直離切 支
㊀前條の㊁に同じ。
㊁自ら驕矜なる貌にいふ字、おごる、ほこる。〇〔管〕「菽-粟不レ足末-生不レ禁、民必有二饑-色一而工以二雕-文刻-鏤一相一也謂二之逆一」。

【穀】シヤク。之若切 藥　コク。
姑妖切
ドク、ノク。奴沃切 沃
禾の皮。

【穏】ウン、チン。於云切 文
芬一は、盛んなる貌にいふ語。

【稻】タウ、ドウ。徒晧切 晧

粟に芒ある一種の穀、いれ、米の色白し、性尤も水田に適す、其の米の黏りあるを稬といひ、黏りなきを秔といふ、秈なるものあり、小粒にして最も黏りなし、又、早熟のものをわせといひ、晩熟のものをおくてといふ。○〔禮〕「凡祭ニ宗-廟一之禮―曰ニ嘉-蔬一」。

〔稄稻〕いねを刈り取る。○〔詩〕「十-月―レ―」。
〔刈稻〕前に同じ。○〔晉〕「―ニ其―一」。
〔薦稻〕いねを供ふ。○〔禮〕「秋薦レ黍、冬―レ―」。
〔賊稻〕いねを害ひやぶる。○〔晉〕「賊―ニ入―一」。
〔秧稻〕いねの苗。○〔宋〕「土宜ニ五-穀一、多種ニ―・―一」。「―・―生」。
〔穭稻〕自然に生ずるいね。○〔唐〕「十-九-年揚-州―」。
〔陸稻〕陸地に作るいね、をかぼ。○〔韓〕「淳-熬煎レ醢加ニ于―・―上一」。
〔烝稻〕火にていりたるいね。○〔周、疏〕「白-爲ニ―・―米三-也」。
〔宜稻〕いねを植うるに適當す。○〔周〕「其穀―レ―」。
〔爲稻〕いねを植う。○〔戰〕「東-周欲レ―レ―」。
〔粳稻〕うるち。○〔史〕「祭以ニ―・―一」。「英」。
〔飯稻〕いねを炊ぎ食ふ。○〔白居易〕「―・―茹ニ芹・英一」。
〔舂稻〕いねをうすつく。○〔魏〕「率ニ將-士一勸レ―レ―」。
〔植稻〕前に同じ。○〔宋〕「引レ水―レ―」。「―」。
〔秫稻〕もちのいね。○〔宋〕「悉令レ種ニ―・―一」。
〔野稻〕自然生のいね。○〔南〕「吳-興生ニ―・―一」。
〔穀稻〕いねのこと。○〔宋〕「其土宜ニ―・―一」。
〔黍稻〕きびといねと。○〔宋〕「廣羅ニ―・―一」。
〔麻稻〕あさといねと。○〔宋〕「其地無レ麥、有ニ―・―一」。
〔藁稻〕いね。○〔易林〕「多穫ニ―・―一」。「―一」。
〔蠶稻〕いねをかね。○〔易林〕「蝗―ニ我―一」。
〔新稻〕あらたに取りあげたるいね。○〔蘇軾〕「―・―香可レ飯」。
〔旱稻〕ひでりにめげざるいね。○〔齊民要術〕「―・―用ニ下-田一」。
〔晩稻〕おくてのいね。○〔白居易〕「―・―綠扶-疎」。
〔香稻〕青裝なせるいね。○〔杜甫〕「六-月―・―多」。
〔早稻〕わせのいね。○〔白居易〕「碧-毯線-頭抽ニ―・―一」。
〔給稻〕いねをあてがふ。○〔劉公輔〕「歲入―ニ八-百-斛一」。
〔打稻〕いねをうつ。○〔陸游〕「―レ―家-々趁ニ晩-晴一」。
〔移稻〕いねを他のところにうつしうゝ。○〔陸游〕「陂-塘―レ―客相呼」。
〔嘉稻〕よきいね。○〔朱熹〕「―・―卷ニ不-疇一」。
〔濕稻〕打ちしめりたるいね。○〔吳澄〕「樹-膏蘇ニ―・―一」。

【稼】カ、ケ。古訝切 ㊀禡

㊀穀を種う、うゝ。○〔書〕「土爰―-穡」。
㊁うゝるを、うゑつけ、又、農事、耕作。○〔論〕「請レ學レ―」。
㊂うゑつけたる穀、特に、禾の秀でて實のりたるもの。○〔詩〕「十-月納レ―」。

〔躬稼〕おのれみづから農作に手をくだすこと。○〔論〕「禹-稷―・―而有ニ天-下一」。
〔傷稼〕うゑたる稻などをいたむ。○〔荀〕「楛-耕―レ―」。「―」。
〔稺稼〕おそくうゑたるいね。○〔淮〕「―・―不レ得ニ育レ時」。
〔五稼〕五穀。○〔劉長卿〕「―・―滿ニ春由一」。
〔耕稼〕田をたがへし穀をうゝ。○〔孟〕「自ニ―・―陶-漁一以至レ爲レ帝」。
〔農稼〕前に同じ。○〔柳宗元〕「卽レ事觀ニ―・―一」。
〔桑稼〕養蠶と穀作と。○〔後漢〕「詔ニ百-姓一、勉ニ務―・―以備ニ災-害一」。
〔苗稼〕いねのなへ。○〔吳〕「不レ踐ニ―・―一」。
〔稻稼〕いね。○〔晉〕「―・―蕩-沒」。
〔百稼〕もろもろの穀物。○〔司馬光〕「―・―豐-茂」。
〔熟稼〕よくみのりたる穀物。○〔淮〕「不レ待レ雨而求ニ―・―一」。
〔力稼〕農作に骨ををる。○〔韓詩外傳〕「率レ民―レ―」。「―」。
〔晩稼〕おそくうゑたるいね。○〔張衡〕「猶及ニ秋-田―・―害一」。

【稽】ケイ、カイ。古奚切 ㊀齊

㊀かんがふ。「―ニ其類一」。
(い)みろ、(察)、はかろ、(評)。○〔易〕「於ニ以ニ關―・―一」。
(ろ)かぞふ、(計)、あはす、(合)。○〔周〕「相―」。
(は)たくらぶ、(較)。○〔漢〕「反-脣而―ニ書-契一」。
(に)をさむ、(治)。○〔周〕「掌レ―ニ市之書-契一」。
㊁遲留す、とゞまる、とゞこほる、又、とゞこほらす、とゞむ。○〔後漢〕「何足ニ久―ニ天-下士一」。
㊂いたる、(至)。○〔莊〕「大-浸―レ天而不レ溺」。
㊃同じ、又、合ふ。○〔史〕「維―レ古」。
㊄はたぼこ、(棨-戟)。○〔國〕「攤レ鐸拱レ―」。

〔滑稽〕戲言すること、おどけ。○〔史〕「―・―多レ智」。

【稽】ケイ、カイ。康禮切 ㊤薺

下拜して首の地に至るにいふ字。○〔書〕「禹拜―-首」。

【稾】カウ、コウ。古老切 ㊤晧

㊀禾莖、わら。○〔漢〕「奉ニ穀-租一又出ニ―-税一」。
㊁文章の草案、したがき。○〔史〕「屬ニ草―一未レ定」。
㊂莖幹、くき。○〔馬融〕「持ニ箭―一而「莖-立」。

〔屬稾〕草稿を作る。○〔陸游〕「詩囊―レ―題ニ新-思一」。「之」。
〔奏稾〕上奏文のしたがき。○〔唐〕「取ニ―・―焚レ之」。
〔腹稾〕おねの中にて組み立てたる考案。○〔唐〕「及レ援レ筆成レ篇、號ニ―・―一」。
〔默稾〕前に同じ。○〔蘇軾〕「―・―已在レ腹」。
〔芻稾〕わら。○〔史〕「芻-稾―・―」。
〔收稾〕いなぐさを取り上ぐ。○〔史〕「毋ニ―レ―爲ニ禽-獸食一」。
〔薪稾〕たきぎとわらと。○〔史〕「―・―于レ軍」。
〔視稾〕草稿を一覽す。○〔唐〕「遣ニ儀―レ―」。
〔留稾〕したがきをとめ置く。○〔宋〕「所レ著文-章、隨卽毀レ之、多不レ―レ―」。
〔窒稾〕實のつきてなきわら。○〔易林〕「但見ニ―・―一」。

【稾】カウ、ケウ。居效切 ㊁效

枯れたる禾。

【稾】カウ、コウ。居號切 ㊁號

散る、ちらす。

【稿】

稾に同じ。

【穀】コク。古祿切 ㊅屋

㊀其の米の食さすべきものゝ總稱、たなつもの。○〔禮〕「孟-秋農乃登レ―」。
㊁よし、(善)。○〔詩〕「―旦于差」。
㊂さいはひ、(祿)。○〔詩〕「俾ニ爾戩―一」。
㊃いく、(生)。○〔詩〕「―則異レ室」。「女」。
㊄やしなふ、(養)。○〔詩〕「以―ニ我士―猶且差レ之」。
㊅孺子、わらべ、わらはべ。○〔荀〕「臧-」。
㊆水の名。○〔國〕「―洛鬭」。
㊇谷に同じ、たに。○〔漢〕「―風迅-疾從ニ東-北一來」。「之喪」。
㊈告に同じ、つぐ。○〔禮〕「齊―ニ王-姬之喪一」。

〔百穀〕もろもろのたなつもの。○〔易〕「―・―草-木麗ニ乎土一」。
〔嘉穀〕よきたなつもの。○〔書〕「蠱殖ニ―・―一」。
〔五穀〕米麻粟麥豆のこと、又一說には、麻黍稷麥豆となす。○〔禮〕「―・―皆入」。
〔不穀〕王侯などの自稱に用ふる語。○〔禮〕「于レ內自稱曰ニ―・―一」。
〔祈穀〕たなつものゝ成熟を神にいのりもとむ。○〔禮〕「―ニ―于上-帝一」。「饋-食用ニ―・―一」。
〔六穀〕黍、稷、稻、粱、苽、麥をいふ。○〔周〕「凡王之」
〔九穀〕黍、稷、秫、稻、麻、大豆、小豆、大麥、小麥をいふ。○〔周〕「一日ニ三-農一、生ニ―・―一」。
〔布穀〕としよりこひどいふ鳥の異名、又、穫穀ともいふ。○〔後漢〕「―・―鳴ニ於孟-夏一」。
〔殖穀〕たなつものをうゑつくること。○〔韓詩外傳〕「夫闢レ土―レ―者后-稷也」。
〔辟穀〕米麥などの穀類をよけてくらはず。○〔史〕「乃學ニ―レ―道-引輕レ身」。
〔錢穀〕金銭と穀物と。○〔史〕「問ニ天-下一-歲―・―出-入幾-何一」。

〔糞穀〕米などをむだにちらす。○〔漢〕「爲ニ酒醪ニ以ーレー者多」。
〔雨穀〕空中より穀物をふらす。○〔後漢〕「陳留ーレー如ニ稗實ニ」。
〔絕穀〕穀物をたちてくらはず。○〔淮〕「ーレー不レ食」。
〔樹穀〕たなつものをうゝ。○〔管〕「一年之計、莫レ如レーレー」。
〔傷穀〕たなつものをそこなふ。○〔禮〕「仲夏行ニ冬令ニ、則雹凍ーレー」。
〔敗穀〕前に同じ。○〔禮〕「介蟲ーレー」。
〔熬穀〕火にていりこがしたる穀實。○〔周〕「共ニ飯米ーーニ」。
〔舊穀〕昨年中の穀物。○〔論〕「ーーー既沒」。
〔轉穀〕穀物を運送す。○〔後漢〕「ーーニ二萬斛ー以給碭」。
〔稸穀〕たなつものをつみたくはふ。○〔魏〕「畜レ財」「ーレー」。
〔倉穀〕くらに積みたるたなつもの。○〔後漢〕「倉曹主ニーーー事ニ」。
〔漕穀〕たなつものをはこぶ。○〔五〕「歲ーニー百萬石ニ」。
〔糧穀〕米などのこと。○〔後漢〕「ーーー踊貴」。
〔儲穀〕つみたくはへたる穀物、又、穀物をたくはふ。○〔魏〕「時后家大有ニーーニ」。
〔畜穀〕前に同じ。○〔呉〕「力レ農ーレー」。
〔貯穀〕前に同じ。○〔越絕書〕「多ニーーー富ニ百姓ニ」。
〔重穀〕たなつものをたいせつにすること。○〔魏〕「務レ農ーレー」。
〔斷穀〕たなつものをたちて食せず。○〔晉〕「帝雅好ニ黄老ニ、ーレー餌ニ長生藥ニ」。
〔稻穀〕いねのこと。○〔北〕「文偉積ーーー于范陽城ニ」。
〔禾穀〕たなつもの。○〔易林〕「傷ニ害ーーニ」。

【穀】コウ、ク。居候切 宥
前條の㊀に同じ。

【穁】ジョウ、ニュ。而容切 冬
㊀穠ーーは、かうばし、（芳）。㊁禾の稍。

【穁】ジョウ、ニュ。而隴切 腫
前條の㊁の解に同じ。

【⿰禾致】チ、ヂ。直利切 寘

禾稠し、ゑげし。

【耩】カウ、コウ。古項切 講
耩に同じ、たがへす、（耕）。

【⿰禾辱】ドク、ノク。奴沃切 沃
耨に同じ、草を治む、くさぎる。

【⿰黍周】チウ、ヂュ。澄流切 尤
ゑげし、（稠）。

【⿱秘示】ヘツ、ベチ。必列切 屑
きびし、（急性）。

十一畫

【⿰禾累】ラ。落戈切 歌
穀積む、つむ。

【⿰禾累】ス井。思累切 寘
禾の四把、よたば。

【⿰禾條】ト、ヅ。同都切 虞
禾の穗、いなぼ。

【⿰禾荼】ショ、ゾ。時預切 御　ヂョ、ニヨ。陳如切 魚
やまのいも、（儲與）。

【𥡴】稽の本字。

【⿰禾莘】シン。所臻切 眞
㊀穀の名。
㊁牀の前の横木。○〔揚雄〕「杠東齊海岱之閒謂ニ之ーニ」。

【穙】ソク。作木切 屋
草木叢生す、むらがりはゆ。

【⿰禾舂】タウ、トウ。丑江切 江
禾秀でず、ひいでず。

【⿰禾爽】シヤウ、サウ。所兩切 養
禾の貌にいふ字。

【⿱艹稕】ソン、ゾン。粗本切 阮
稕に同じ、禾積まる、あつまる。

【稡】リツ、リチ。劣戌切 質
糲米、くろごめ。 ―或は、粹に作る。

【⿰禾堇】キン、コン。居覲切 震
穰なる草。

【⿰禾票】セウ。子肖切 嘯
縮小す、ちゞむ。

【穄】セイ。子例切 霽
稷の別名、くろきび。○〔後漢〕「其土地宜レー」。

【⿰禾悤】ソウ、ス。祖動切 董
禾の聚まりたる束、たば、又、禾の稾、わら。○〔書〕「百里賦納レー」。

【穅】カウ。苦岡切 陽
糠に同じ。

【穆】ボク、モク。莫六切 屋
㊀言語容止の美盛なるにいふ字、うつくし、うるはし。○〔詩〕「ーーー文王」。
㊁容儀敬謹なるにいふ字、つゝしむ、うや〳〵し。○〔書〕「我其爲レ王ー」。
㊂威儀の多き貌にいふ字、おほし。○〔禮〕「天子ーー」。
㊃事清し、きよし。○〔蔡邕〕「生ニ淸ーーー之世ニ」。
㊄情厚し、あつし。○〔夏侯湛〕「敦ニーー于九族ニ」。
㊅やはらぐ、（和）。○〔詩〕「ー如ニ淸風ニ」。
㊆よろこぶ、（悅）。○〔管〕「ーニ君之色ニ」。
㊇靜かに思ふ貌にいふ字、ゑづか。○〔漢〕「於レ是吳王ーー然」。
㊈睦に同じ。○〔趙岐〕「君臣集ーー」。
㊉廟の序にて二世卽ち子たるものゝ位の稱。○〔禮〕「ーー答レ君」。
〔昭穆〕宗廟の配列の序次にして一世を昭となし二世を穆となし順次に配置す。○〔禮〕「夫祭有ニーーーニ」。
〔和穆〕やはらぐこと。○〔後漢〕「何以ーニー陰陽ニ」。
〔雍穆〕前に同じ。○〔魏〕「閨門ーーー」。
〔緝穆〕前に同じ。○〔蜀〕「將相ーーー」。
〔諧穆〕前に同じ。○〔魏〕「尊卑ーーー」。
〔安穆〕やすらかなること。○〔蜀〕「邦域ーーー」。
〔肅穆〕つゝしむこと。○〔荀悅〕「莫レ不ニーーーニ」。
〔淸穆〕きよらかなること。○〔蔡邕〕「夫子生ニーーー之世ニ」。
〔友穆〕兄弟のむつまじきこと。○〔宋〕「兄弟ーーー之至、擧レ世莫レ及也」。
〔怡穆〕よろこびやはらぐ。○〔北〕「尊卑ーーー」。
〔悅穆〕前に同じ。○〔文中子〕「ーニー胸中ニ」。
〔粹穆〕まじりけなくきよらかなること。○〔宋〕「沖澹ーーー」。
〔敦穆〕人情の厚くやはらぐこと。○〔王儉〕「ーニー于餘庭ニ」。
〔婉穆〕心のやはらかなること。○〔張華〕「柔順ーーー」。

【⿰禾啇】テキ、チヤク。他歷切 錫
離して種う、うゝ。

【⿰禾虘】サ、セ。側加切 麻
赤ーーは、紅き稻、あかごめ。

【⿰禾埶】藝に同じ。

【穇】サン、セン。所銜切 咸
穗は粟の如くにて數岐に分かれ米は

黍粒の如くにて色赤き一種の穀、ひえ。○〔正字通〕「ー子生二水田下濕地一」。

【穇】シン。楚簪切 侵

穇に同じ、禾の長き貌にいふ字。

【穈】ボン、モン。謨奔切 元

㊀赤粱粟、あかあは。○〔詩〕「維ー維芑」。
㊁かゆ、（粥）。

【稶】ヨク、イキ。與職切 職

黍の蕃る貌にいふ字、しげし。

【稬】ロウ、ル。郎斗切 有

畦を耕す、たがへす。

【稺】稺に同じ。○〔說苑〕「幼ーー童ー蒙」。

〔幼稺〕いとけなし。○〔後漢〕「父老ー・ー」。
〔田稺〕わかいね。○〔埤雅〕「善害二ー・ー一」。
〔誨稺〕わかきものに教ふ。○〔明堂月令論〕「顯二教レ幼ーレー之學一」。
〔老稺〕年たけたる者とわかきものと。○〔蘇軾〕「ー・ー相扶攜」。
〔秧稺〕稻のなへ。○〔范成大〕「ー・ー與レ風戰」。
〔苗稺〕前に同じ。○〔陸游〕「ー・ー憂二草茂一」。
〔孱稺〕いとけなきもの。○〔劉克莊〕「序酌逮二ー・ー一」。

【稊】テイ、ダイ。杜奚切 齊

穉に同じ。

【穊】キ。几利切 寘

しげし、（稠）。○〔史〕「深耕ー種立レ苗欲レ疏」。

【穋】稑に同じ。

【穋】キウ、ク。居尤切 尤

秦ーーは、藥の名。

【穋】キウ、グ。渠幽切 尤

禾の類。○〔管〕「其種ー秠」。

【穌】ソ。孫租切 虞

㊀若き禾を把取す、かきさる、あつむ。
㊁蘇に同じ、よみがへる。

【穮】ヘウ。卑遙切 蕭

稻の苗の秀で出でたるもの。

【穮】ヘウ、ベウ。弭沼切 篠

のぎ、（禾芒）。○〔宋〕「秋分而禾ーー定ー定而禾熟」。

【䅻】リ。呂支切 支

㊀禾の二把、ふたたば。
㊁秀でて垂るゝ貌にいふ字。

【積】セキ、シヤク。子昔切 陌 則歷切 錫

㊀つむ。
（い）聚まる、累なる、疊まる、つもる。○〔莊〕「天道運而無レ所レー」。
（ろ）聚む、累ぬ、疊む。○〔易〕「大車以載ーレ中不レ敗也」。
㊁ひだ、（辟）。○〔儀〕「皮弁服素ー」。

〔重積〕つみかさぬ、かさなる。○〔唐〕「ー二ー其上一」。
〔山積〕やまの如くつみかさぬ。○〔崔駰〕「處士ー・ー」。
〔委積〕つみかさなる。○〔雪賦〕「徘徊ー・ー」。
〔盈積〕みちつむ。○〔潘岳〕「流盈日ー・ー」。
〔充積〕前に同じ。○〔陳〕「資產ー・ー」。
〔壅積〕とゞこほりて通ぜぬ。○〔陳〕「事多二ー・ー一」。
〔豐積〕ゆたかなること。○〔周〕「使二國儲ー・ー一」。
〔阜積〕をかの如くゆたかにつみかさなること。○〔英雄記〕「山崇ー・ー」。
〔累積〕つむ。○〔高唐賦〕「交加二ー・ー一」。
〔叢積〕あつまる。○〔上林賦〕「ー二ー乎其中一」。
〔鬱積〕こもりあつまること。○〔李時勉〕「定磅礴而ー・ー」。

【積】シ。子智切 寘

儲蓄、たくはへ。○〔詩〕「乃ー乃倉」。

〔私積〕おのれの家の備蓄。○〔左〕「無二ー・ー一」。
〔滯積〕一方にとゞこほりたるたくはへ。○〔左〕「國無二ー・ー一」。
〔散積〕財寶などの儲蓄をちらす。○〔五〕「勸二其ーレー以讓二之」。
〔蓄積〕たくはへ。○〔漢〕「ー・ー有レ餘」。
〔珍積〕めづらしきたからなどのたくはへのこと。○〔後漢〕「ー・ー皆盡」。
〔厚積〕ゆたかなる儲蓄のこと。○〔陸游〕「富商豪吏多二ー・ー一」。
〔多積〕前に同じ。○〔禮〕「備不レ祈二ー・ー一」。
〔儲積〕つみたくはふ。○〔周書〕「ー二ー食糧一」。
〔貯積〕前に同じ。○〔法苑珠林〕「過分ー・ー」。
〔餘積〕ありあまるたくはへ。○〔管〕「民毋二ー・ー一者」。
〔凝積〕かたまりあつまること。○〔鹽鐵論〕「沙石ー・ー」。

【穎】エイ、ヤウ。餘頃切 梗

㊀さき、ほ。
（い）禾穗の末、ほさき。○〔書〕「唐叔得レ禾異レ畝同レー」。
（ろ）尖りたるものゝ頭。○〔史〕「如三錐之處二囊中一乃ー脫而出」。
㊁かれのわ、（鐶）。○〔禮〕「卻レ刃授レー」。
㊂めざましまくら、（警枕）。○〔禮〕「ー杖琴瑟」。
㊃拔け秀でたること。○〔齊〕「剛儁ー・ー出」。
㊄ぬけ秀でたる者。○〔陸機〕「拔レ尤取レー」。

〔秀穎〕禾穗のぬけいでたること、又、轉じて人の群衆にすぐれたる者にもいふ。○〔吳〕「皆當世ー・ー」。
〔毛穎〕筆の異名。○〔舊唐〕「愈作二ー・ー傳一」。
〔齊穎〕さきをそろへて高低なきこと。○〔謝莊〕「騁レ跡ーレー」。
〔垂穎〕穗さきのたなたるゝこと。○〔漢〕「含レ秀ーレー」。
〔才穎〕才智のすぐれてさときこと。○〔魏、註〕「夙以二ー・ー一發レ名一」。
〔聰穎〕前に同じ。○〔晉〕「懸懷ー・ー」。
〔明穎〕前に同じ。○〔宋〕「幼而ー・ー」。
〔英穎〕前に同じ。○〔魏〕「秀雅ー・ー」。
〔警穎〕前に同じ。○〔宋〕「兒時ー・ー」。
〔俊穎〕前に同じ。○〔宋〕「欽幼子稱二ー・ー美秀一」。
〔剛穎〕つよくすぐれたること。○〔齊〕「ー・ー儁出」。
〔奇穎〕衆に異なりてすぐれたること。○〔宋〕「少ー・ー」。
〔嘉穎〕めでたきいねの穗さき。○〔拾遺記〕「麗苗擢二其ー・ー一」。
〔重穎〕いねなどのみの熟したるおもき穗さき。○〔陸機〕「嘉禾垂二ー・ー一」。
〔豐穎〕ゆたかに熟したるいねなどの穗さき。○〔顏延之〕「穫觀眺二ー・ー一」。
〔禾穎〕いねの穗。○〔唐太宗〕「ー・ー積二京畿一」。
〔岐穎〕人の性質などの他にすぐれたること。○〔張說〕「性質ー・ー」。
〔管城穎〕筆の異名。○〔蘇軾〕「一抹ー・ー・ー」。

【䅼】バン、メン。莫還切 刪

赤ーーは、稻の名。

【䅼】バン、マン。莫半切 翰

䅼に同じ、蒔ゑざる田、あれた。

【䅺】ショウ、シユ。七恭切 冬

ーー移は、禾を治む、かる。

【䅵】ダイ、子。乃回切 灰

草木の子の垂るゝ貌にいふ字。

【䅳】カ、ケ。古遮切 麻

たがへす、（耕）。

【䅿】積に同じ。

【穓】ヨク、イキ。與職切 職
たがへす、(耕)。

【積】ホン、ボン。蒲本切 阮
穡—は、穀の未だ鎌さゞる貌にいふ語。

【穬】クワウ、ワウ。胡光切 陽
野にある穀。

【𥢕】リウ、ル。力求切 尤
禾の盛んなる貌にいふ字。

【穕】セフ。七接切 葉
土—は、農具。

【穇】シン。鋤針切 侵 キン、巨今切 ジン、ゴン。切
禾の秀でんさ欲するにいふ字。

【𥣜】ケン、コン。其淹切 鹽
禾の名。

【𥢿】クワ、ケ。胡瓜切 麻
禾の盛んなる貌にいふ字。

【穖】キ、ケ。居狶切 尾
禾の穗。

【穖】穊に同じ、ゑげし。

【䆀】バイ、メ。莫亥切 賄
㊀禾雨に傷む、いたむ。㊁やぶる、(敗)。㊂くろし、(黑)。

【䆀】バイ、メ。莫佩切 隊
前條の㊀に同じ。

【䆀】バイ、メ。母罪切 賄
禾の雨に傷みて黑き斑を生ずるにいふ字。

【穗】スヰ、ズヰ。徐醉切 寘
㊀穀類の禾頭に米實の結べるところ、ほ。○[詩]「彼稷之—」。
㊁ほの如き狀をなせるもの。○[王勃]「金芝吐レ—」。
(滯穗) とりのこされたるいねのほ。○[詩]「此有二—·—一」。
(拔穗) いねのほをうつ。○[資治通鑑]「百姓—レ—以給二禁軍一」。
(禾穗) いねのほ。○[韓]「惜二草茅者耗二—·—一」。
(麥穗) むぎのほ。○[後漢]「—·—兩岐」。
(駢穗) ふたつならびていでたるほ。○[宋]「嘉生—·—來呈レ辭」。
(實穗) みのりたるほ。○[易林]「—·—无レ有」。
(摘穗) 穀實をいたさんためにほをうちたゝく。○[釋名]「加二杖于柄頭一以—レ—、而出二其穀一也」。
(好穗) みごとに熟したるよき穗。○[齊民要術]「常歲別選二—·—純色者一」。「—似レ黍」。
(擢穗) ほを高くぬきいだすこと。○[本草]「禾賓·稷—」。
(垂穗) ほたれたるほ、又、ほさきをたれたること。○[埤雅]「禾生—レ—向レ根、不レ忘レ本也」。
(岐穗) 枝の如くふたつにわかれたるほ。○[曹植]「御二—·—一把二醴·滋一」。
(霜穗) しものかゝりたるほ。○[蘇軾]「秋·來—·—重」。「中寄」。
(臥穗) よこにふしたること。○[劉子翬]「—·—霜」
(早穗) はやくうゑつけたる稻のほ。○[范成大]「—·—已垂々」。

【𥢒】カウ、古老切 晧 カウ、後到切 號 コウ。ゴウ。
かゞまり止どまる。

【𥢒】カウ、ゴウ。下老切 晧
綢繆す、つゞろ、あむ、

【𥢧】ラウ、ロウ。郎刀切 豪
野豆、そらまめ。

【穘】カウ、ケウ。許交切 肴
㊀歊に同じ、禾の肥ゆるに傷むにいふ字。㊁草の貌にいふ字。

【穘】ゼウ、子ウ。人要切 嘯
禾の貌にいふ字。

【穙】ホク、ボク。蒲木切 屋
つむ、(積)。

【穙】ホク、ボク。普木切 屋
草の穊く生ずるにいふ字。

【穚】ケウ。舉喬切 蕭
㊀禾秀づ、ひいづ。㊁莠草の長く茂れる貌にいふ字。

【𥢻】シウ、ジユ。承呪切 宥
つく、(付)。

【穛】サク、ソク。側角切 覺
早く穀を取る、なまの穀を穫る、かる。○[禮疏]「—是斂縮之名」。

【𥢯】タク、トク。竹角切 覺
㊀特り止どまる。㊁卓れ立つ、ぬけいづ。

【𥢯】タウ、テウ。陟教切 效
㊀前條に同じ。㊁つくゑ、(卓)。㊂をかす、(冒)。

【穜】トウ、ヅ。徒紅切 東
先に種ゑて後に熟する穀、おくて。○[周]「生二—稑之種一」。

【穜】チヨウ、ヂユ。直容切 冬
うゝ、(埶)。

【𥣣】ショク、ソク。松足切 沃
禾の穗、ほ。○[淮]「寸生二於—一、—生二於日一」。

十三畫

【穟】スヰ、ズヰ。徐醉切 寘
㊀禾の粢の貌にいふ字、又、苗の好美なる貌にいふ字、うつくし、うるはし。○[詩]「禾役—·—」。㊁禾秀、ほ。○[嘉禾甘露賦]「穎—秋秀」。
(嘉穟) めでたきいねのひいづること。○[抱朴]「和·氣洽而—·—生」。
(挺穟) たけたかくいねのほいづ。○[潘岳]「瞻二—·—之楯·擢一」。
(麥穟) むぎのほさき。○[盧元明]「鬟似二—·—一成」。
(稻穟) いねのほさき。○[徐鉉]「秋·暮天高—·—半垂」。

【𥤚】レイ、リヤウ。郎丁切 青
草の莖の疎なるにいふ字。

【𥢑】カウ、コウ。古勞切 豪
あめ、(餹餹)。

【𥣇】クワイ、ケ。苦會切 泰 クワ。古臥切 箇
ぬか、(糠)。

【𥢱】カツ、カチ。古達切 曷
禾長し、ながし。

【穖】ケツ、ゲチ。胡結切 屑
麥の全きにいふ字。

【穠】ヂヨウ、ニユ。女容切 ジヨウ、ニユ。而容切 冬
華木の稠く多き貌にいふ字、さかんなり、しげし。○〔詩〕「何彼―矣」。
〔繁穠〕しげく盛んなること。○〔劉子翬〕「―・―既爲レ李」。
〔妖穠〕あでやかに盛んなること。○〔梅堯臣〕「捧-執無二―・―一」。
〔奇穠〕くすしく盛んなること。○〔楊適〕「環-瑚獻二―・―一」。「―玉手指」。
〔半穠〕容子の盛んなること。○〔任詞詩〕「一人―・―」。
〔鮮穠〕あざやかに盛んなること。○〔楊載〕「桃-李角二―・―一」。

【穡】シヨク、シキ。所力切 職
❶禾を斂むるにいふ字、をさむ、さりいれ。○〔詩〕「不レ稼不レ―」。
❷さりいろゝ禾。○〔東晳〕「參-々其―」。
❸耕作、農事。○〔左〕「力二于農―一」。
❹をしむ（愛-吝）。○〔左〕「臧-文-仲曰、務レ―勸レ分」。
〔力穡〕穀のとりいれにつとむ。○〔書〕「若二農服レ田―・―一」。
〔稼穡〕穀をうへるとかりをさむること。○〔書〕「土爰―・―」。
〔農穡〕耕作のこと。○〔左〕「其庶人力二于―・―一」。
〔寶穡〕農業のこと。○〔顏延之〕「―・―者就レ之艱」。

【穮】レン、ロン。離鹽切 鹽
――穖は、草の實のらざること。

【䆃】タウ、ドウ。徒皓切 皓
❶えらぶ（擇）。❷粟を治む。

【䆃】タウ、ドウ。大到切 號
米を擇ぶこと。

【⿰禾亶】セン。旨善切 銑
禾の束、たば。

【⿰禾資】シ。津私切 支　子智切 寘
禾を積む、つむ、かさぬ。

【⿰禾禁】ケツ、ケチ。居竭切 屑
長き禾。

【穢】アイ、エ。於廢切 隊
❶雜草生ひ茂る、ある。○〔漢〕「蕪―不レ治」。
❷雜草、あれぐさ。○〔詩、箋〕「草―既除而禾-稼茂」。
❸榛林、草澤、あれぐさの生ひしげれる地。○〔後漢〕「並蹈二潛―一」。
❹汙惡、けがれ、よごれ。○〔書〕「無二起レ―以自臭一」。
❺けがれを加ふ、けがす、よごす、又、けがれに染む、けがる、よごる。○〔漢〕「材朽行―」。
❻けがらはしき場所。○〔漢〕「身殘處レ―」。
❼騷亂、又、凶賊。○〔淮〕「夷レ險除レ―」。
〔疏穢〕けがれをさらへのぞく、又、乱賊を平ぐ。○〔國〕「敎二之樂一以―二其―一、而鎭二其浮一」。
〔濁穢〕にごりけがれたること、又、世のみだれたること。○〔史〕「蟬二蛻于―・―一」。
〔掃穢〕けがれをはき除く、惡賊などを平ぐ。○〔晉〕「披レ艱―レ―」。
〔荒穢〕あれはてたること。○〔晉〕「而田畝―・―」。
〔惡穢〕よごれ。○〔禮、疏〕「又水受二―・―一」。
〔垢穢〕あかつきてよごれたること。○〔詩、疏〕「洗二去石之―・―一」。
〔腥穢〕なまぐさくけがれたること。○〔王惲〕「涵-天―・―思二一-掃一」。
〔汙穢〕けがれたること。○〔後漢〕「而―二―朝-廷一」。
〔陷穢〕わろきもののうちにおちこむこと。○〔漢〕「―二于茲―一」。
〔塵穢〕ほこりのよごれ。○〔後漢〕「盥二洗―・―一」。
〔盪穢〕けがれをあらひ去ること。○〔晉〕「振二高浪一以―レ―」。
〔芟穢〕わるき草などのけがれを刈り去る、又、みだれたるを平ぐ。○〔蜀〕「―レ―弭レ難」。
〔榛穢〕惡き草などのしげれること。○〔曾植〕「步二乎―・―之藪一」。
〔羣穢〕おほくの惡草、又、衆賊。○〔元稹〕「嚴-霜蕩」「―・―」。
〔苛穢〕規則などのきびしきにすぎてわろきこと。○〔晉〕「蠲二苛―・―一」。
〔貪穢〕利慾にふけりて心の濁りたること。○〔晉〕「上望レ掃二清―・―一」。
〔煩穢〕多きにすぎてわろきこと。○〔晉〕「初嚴以二漢-紀―・―一」。
〔鄙穢〕いやしくけがる。○〔隋〕「文-辭―・―」。
〔醜穢〕わろきけがれ。○〔隋〕「蒸-淫―・―」。
〔滓穢〕にごりけがれ。○〔隋〕「蠲二除―・―之法一」。
〔瀰穢〕前に同じ。○〔王維〕「洪-波退流、必盪二其―・―一」。
〔凶穢〕不祥にしてけがれたること、又、わる者。○〔曹植〕「蕩二滌―・―一」。
〔奸穢〕よこしまにしてわろきこと、又、凶賊。○〔陸雲〕「行-實―・―」。
〔耘穢〕惡草をすきとる。○〔傅咸〕「良-農―レ―」。
〔朽穢〕くされけがれたること。○〔韓愈〕「今無レ故取二―・―之物一」。
〔剗穢〕惡草などを刈りとる。○〔白居易〕「新-園聊―レ―」。
〔叢穢〕惡草などのしげりたること。○〔元稹〕「―・―弁-徧」。

【⿰禾賷】積の本字。

十四畫

【⿰禾疑】ギ。魚紀切 紙
黍稷の盛んなる貌にいふ字、さかんなり。

【穤】俗の稬の字。

【穥】ヨ。羊洳切 語
❶黍稷美し、よし。❷禾を稼う、うゝ。❸與に通じ作る、蕃盛なる貌にいふ字。

【穦】ヒン。紕民切 眞
かうばし（香）。

【⿰禾寧】ダウ、ニヤウ。乃庚切 庚
❶のぎ（禾-芒）。❷芒の長き穀。

【⿰禾厭】エン。於琰切 琰　於豔切 豔　エフ。益涉切 葉
稻の實のらざるもの、しひな。

【穧】セイ、ザイ。在詣切 霽　在禮切 薺
穫刈したる禾、かりいれ、又、いれの撮把、いれたば。○〔詩〕「此有二不レ斂―一」。

【⿰禾齎】シ、ジ。疾二切 寘
❶前條に同じ。❷積に同じ、禾を積む、つむ、かさぬ。

【穨】タイ、デ。杜回切 灰
❶禿の貌にいふ字、かぶろ。❷暴風、あらきかぜ、つむじかぜ。○〔詩〕「維風及―」。❸すたる、おとろふ（頽-廢）。○〔後漢〕「至二於戰-國一、漸至二―陵一」。

【穩】ヲン。烏本切 阮
❶穀を蹂みて聚む、あつむ。❷安隱、おだやか、やすらか。○〔朱熹〕

「客-枕終難レ—」。
〔安穩〕 おだやかなること。○〔晉〕「行-人——、布-帆無レ恙」。
〔深穩〕 奥ゆかしくあること。○〔杜甫〕「顧-視清-高氣——」。
〔圓穩〕 まどかにしておだやかなること。○〔後林題跋〕「渾詩——麗密」。
〔不穩〕 おだやか。○〔杜甫〕「十-月江——」。
〔穩々〕 前に同じ。○〔誠復古〕「不-々——、爲レ公爲レ鄕」。

【稱】 俗の稱の字。

【穫】 クワク、胡郭切 藥。ワク。胡陌切 陌。
㊀穀を刈る、かる。○〔詩〕「八-月其—」。㊁收得す、とりいる、をさむ。○〔呂氏春秋〕「稼就而不レ—也」。
〔隕穫〕 困窮して志を失ふ貌にいふ語。○〔禮〕「儒有下不レ——ニ於貧賤一不上レ充ニ詘於富貴一」。
〔耕穫〕 田をたがへし穀を刈りとる。○〔易〕「无妄六・二、不ニ——一、不ニ菑・畬一」。
〔收穫〕 穀をかりをさむ。○〔書、疏〕「——有ニ多・少一」。
〔刈穫〕 前に同じ。○〔南〕「至ニ於水・陸所レ宜——早・晩一」。
〔斂穫〕 前に同じ。○〔唐〕「租以ニ——蚕・晩險・易遠・近一爲レ差」。
〔多穫〕 すくなからざる穀物のとりいれのこと。○〔歐陽修〕「——由ニ力・耘一」。
〔秋穫〕 あきの季節に穀物の熟したるをかりとること。○〔李商隱〕「自悲——少」。
〔芸穫〕 草を去り穀を刈る。○〔晉〕「或親ニ——於隴・畝一」。
〔朝種暮穫〕 あさうゑてくれにかる、借りて事をなす間の短きことにいふ語。○〔晉〕「————善・惡不レ定」。

【穫】 コ、グ。胡故切 遇。
焦—は、地の名。○〔詩〕「整居ニ焦——一」。

【[illegible]】 シウ、ジユ。士九切 有。
あつまる、あつむ（聚）。

【[illegible]】 ソウ、ズ。徂送切 送。

麻の束、又一說に、禾を積む、つむ。

【[illegible]】 穧に同じ。

【穙】 ホク、ボク。普木切 屋。
草の生じて穊きにいふ字、しげし。

【[illegible]】 テキ、ヂヤク。徒歷切 錫。
穀粟の名、もちごめ。

【[illegible]】 シヤウ、ザウ。從向切 漾。
やはらか（柔）。

十五畫

【[illegible]】 セイ。子例切 霽。
いれかる、かる（穫）。

【穳】 俗の穳の字。

【穬】 クワウ、キヤウ。古猛切 梗。
㊀粟芒、のぎ。㊁稻の熟せざるもの。

【[illegible]】 ベツ、メチ。莫結切 屑。
いね（禾）。

【穭】 リヨ、ロ。力擧切 語。
自生の稻、ひつぢ、おろか。

【[illegible]】 ライ、レ。盧對切 隊。
稑—は、稻の名。

【[illegible]】 シツ、シチ。阻瑟切 質。
禾の重生、にごばえ。

【穲】 ハ、ベ。歩化切 禡。
—稏は、いね又、稻の動搖する貌にいふ語、うごく、ゆるぐ。

【[illegible]】 イウ、ウ。於求切 尤。
秉把、たば。

【穮】 ヘウ。卑嬌切 蕭。
草を除く、くさぎる。○〔左〕「是—是蓘」。

【[illegible]】 ハウ、ヘウ。披交切 肴。披教切 效。
—秞は、禾の虚しき貌にいふ語。

【[illegible]】 穚の本字。

十六畫

【穟】 スヰ、ズヰ。秦醉切 寘。
㊀いね（稻）。㊁ねばる（黏）。

【[illegible]】 ビ、ミ。明祕切 寘。
種を散ず、まく。

【[illegible]】 デウ、テウ。乃了切 篠。
衡の擧がらざること。

十七畫

【[illegible]】 ロウ、ル。盧紅切 東。
㊀かりたるいね、いねたば。㊁禾病、いねのやまひ。

【穰】 ジヤウ、ナウ。汝陽切 陽。
㊀米粟を去りたる殘餘の莖、から、わら。㊁ゆたかなり。(い)禾の實の量多くしてよく實のりたるにいふ字。○〔詩〕「豐・年——」。(ろ)すべて物事のおほくして盛んなるにいふ字。○〔詩〕「降レ福——」。㊂福を求むること。○〔史〕「道・傍有ニ——田者一」。㊃瓤に同じ、されわた。○〔正字通〕「凡果・實中之子曰ニ犀——一」。

【穰】 ジヤウ、ナウ。汝兩切 養。
ゆたか（豐）。○〔漢〕「京・師長・安中浩・——」。
〔穰々〕 多き貌にいふ語。○〔漢〕「瑞——兮委如レ山」。
〔饑穰〕 饑饉と豐熟と。○〔漢〕「世之有ニ——一、天之行也」。
〔豐穰〕 五穀ゆたかに實のる。○〔後漢〕「比・年雖ニ豐——一、尙乏ニ儲積一」。
〔紛穰〕 もつれみだる。○〔韓維〕「————繞ニ卷・軸一」。

【[illegible]】 ゼイ、ニヤウ。人成切 庚。
禾黍の殘餘を蹂む、ふむ。

【[illegible]】 セン、ゼン。作甸切 霰。
獸類の食らふ草。

【[illegible]】 セン、思廉切 鹽。セン。先念切 豔。ソン。切
穇—は、禾などの實のらざること、しひな。

十八畫

【[illegible]】 ケン、グワン。渠元切 元。
黄なる禾。

【[illegible]】 セフ。實涉切 葉。
風の禾を動かす貌にいふ字。

【[illegible]】 ヒ。扶沸切 未。浮鬼切 微。フン、方問切 問。ホン。父尾切 尾。
莖紫にして黏らざる稻。

【穱】 サク、ソク。側角切 覺。

㊀稻を穫りたる下に種うる麥。○[張衡]「冬稌夏—」。㊁ちひさし(小)。㊂早く熟す、みのる。○

【穱】シヤク、サク。即約切 藥
きび(稌)。

【穮】ベウ、メウ。亡沼切 蕭
のぎ(禾芒)。

十九畫

【穲】穤に同じ。

【穳】サン、ザン。在丸切 寒
禾聚まる、あつまる。

【穳】サン、ザン。徂管切 旱
刈りたる禾を積む、あつまる、つむ。

【穳】サン、ザン。才贊切 翰
禾の茂りて實のらざるにいふ字。

二十畫

【⿰禾黨】タウ。底朗切 養
黃なる穀の名。

【⿰禾矍】クワク、カク。厥縛切 藥
染料に用ふる一種の草。

廿一畫

【⿰禾霝】レイ、リヤウ。郎丁切 青
蔓生の草の名。

廿四畫

【[illegible]】稱に同じ。

【⿰禾鹽】エン、オン。余廉切 鹽
いれ(禾)。

穴部

【穴】ケツ、ゲチ。胡決切 屑
㊀あな。(い)土中の室、むろ。○[易]「—居而野處」。(ろ)冢壙、つか。○[詩]「死則同レ—」。(は)くぼみ陷りたる所。○[易]「出レ自レ—」。(に)空孔、ほら、うつろ、すきま。○[孟]「鑽二—隙一」。㊁穿つ。○[漢]「小者偸—」。㊂かたはら(側)。○[爾]「氿泉—出」。

〔陶穴〕すゑものをやく釜の如き形したるむろ。○[詩]「古公亶父陶復—・—」。
〔丹穴〕丹砂の出づるあな。○[史]「其先得二—・—一而擅二其利一數世」。
〔窟穴〕人の籠もるあな。○[漢]「—・—黎庶、莫レ不二懽喜一」。
〔孔穴〕あな。○[後漢]「漸有二—・—一」。
〔巖穴〕いはあな、又、いはあなにすむ土人。○[後漢]「其以二—・—一爲レ先」。
〔金穴〕金の出づるあな。○[後漢]「號二況家一爲二—・—一」。
〔巢穴〕鳥のをるすと獸のこもるあなと、又、人の通ひ路稀なるすみか。○[後漢]「吾既不レ能レ隱二處—・—一」。
〔螘穴〕蟻のあな。○[應璩]「隄潰自二—・—一」。
〔曲穴〕まがりくねれる穴。○[淮]「貛貉爲二—・—一」。
〔廻穴〕風の定まらざる貌にいふ語。○[風賦]「—・—錯迕」。
〔洞穴〕ほらあな。○[張衡]「趨二谽・閜之—・—一兮」。
〔舊穴〕もと住まひしあな。○[干公異]「妖・狐就レ擒、猾守二—・—一」。
〔複穴〕平地に土を築りあげてまつちへたる穴。○[禮]「古者—・—」。
〔偸穴〕墻を穿ちて盜みをなすこと。○[漢]「大者羣盜、小者—・—」。
〔鑿穴〕あなを掘る。○[後漢]「—レ—爲レ居」。
〔管穴〕くだのあな、即ち乏しき見識にいふ語。○[晉]「思下以二—・—一、毗中佐大・猷上」。
〔熏穴〕あなの中を烟もてふすぶ。○[宋]「毀レ廟—レ—、得二十數・狐一」。
〔竅穴〕あなのと。○[莊]「大・木百圍之—・—」。
〔窒穴〕あなを塞ぐ。○[埤雅]「壞レ垤—レ—」。
〔郄穴〕すきあな。○[荀]「入二—・—一而不レ偪」。
〔空穴〕からあな。○白居易「—・—易レ來レ風」。
〔隙穴〕すきあな。○[蘇轍]「窒二—・—一以爲二水備一」。
〔潛穴〕かくれたるあな。○[曹植]「出二山岫之—・—一」。
〔赴穴〕あなある方に行く。○[王粲]「狐・狸馳レ—」「—」。
〔虎穴〕とらのすめるあな、借りて、危險なる場處の義にいふ語。○[後漢]「不レ入二—・—一」。
〔幽穴〕奥深くまづかなるあな。○[鍾虞]「探二龜・蛇於—・—一兮」。
〔封穴〕蟻のたかく築きあげたるあな。○[李德裕]「覩—・—而知レ雨」。
〔隱穴〕あなの中にかくれひそむ。○[陶潛]「豐狐—レ—、以レ文自殘」。
〔灌穴〕あなの中に水を注ぎ入る。○[柳宗元]「撥レ死—レ—」。
〔側穴〕わきに通ぜるあな。○[方干]「不レ知—・—通二潮信一」。
〔層穴〕かさなりあへるあな。○[馬戴]「湘中有二—・—一」。

一畫

【穴】鐍に同じ。

【穵】アツ、エチ。烏黠切 黠
㊀大いなる空、おほあな。㊁手にて穴を探る、さぐる。㊂ふかし(深)。

二畫

【⿱穴丁】タウ、チヤウ。宅耕切 庚
小しく突く、うがつ。

【究】キウ、ク。居又切 宥
㊀きはまる(極)。○[易]「其—爲レ健」。㊁きはむ。(い)竟ふ。○[漢]「不レ及レ—二于天・下一」。(ろ)盡くす。○[孟、疏解]「—而言レ之」。(は)推尋す、おしたづぬ。○[詩]「是—是圖」。(に)謀る。○[詩]「爰—爰度」。㊂互に惡感情を懷きて相親しまず、にくむ、にくみあふ。○[詩]「自二我人一—・—」。㊃あな(窟)。○[博雅]「—窟也」。㊄山溪の瀨。○[水經、註]「逕二越・裳・—九・德・—南・陵・—・—一」。

〔宣究〕のべ盡くす。○[漢]「—・—其意・著各二人一」。
〔窮究〕きはめつくす。○[晉]「名・山勝・川靡レ不二—・—一」。
〔詳究〕つばらにつくし知る。○[陳]「多レ所二—・—一」。
〔博究〕廣くきはめ知る。○[晉]「—・—儒・術及百・家之言一」。
〔諳究〕そらんじ窮む。○[晉]「西・都舊・事多レ所二—・—一」。
〔精究〕精細にきはめ知る。○[晉]「皆—二—大・義一」。
〔畢究〕盡くし知る。○[晉]「算・曆圖・緯靡レ不二—・—一」。
〔練究〕熟練しきはむ。○[宋]「允—二—萬・事一」。
〔辨究〕明かにしきはむ。○[梁]「—二—穴・微一」。
〔該究〕兼ねきはむ。○[陳]「釋・典經・論、靡レ不二—・—一」。
〔按究〕推し窮む。○[魏]「—二—往・說一」。
〔評究〕評論し盡くす。○[魏]「論・者雖レ多、皆有レ所レ闕、莫レ能二—・—一」。
〔考究〕かんがへ盡くす。○[魏]「及レ更二—・—一、果如二君語一」。
〔覽究〕閱覽しきはむ。○[魏]「少敦二學・業一、多レ所二—・—一」。
〔檢究〕しらべきはむ。○[袁粲]「—二—源・流一」。
〔綜究〕綜察しきはむ。○[魏]「凡所二—・—一、多如二此類一」。
〔論究〕あげつちひきはむ。○[北齊]「可レ令三群・官更加二—・—一」。
〔推究〕推理しきはむ。○[周書]「—二—事・源一」。
〔詰究〕つめ盡くす。○[唐]「乃—二—本末一」。
〔淹究〕たくはへ窮む。○[唐]「—二—經・術一」。
〔討究〕たづねきはむ。○[唐]「—二—曆・術一」。
〔闡究〕探明しきはむ。○[宋]「—二—精・微一」。

〔講究〕明かにしきはむ。○〔宋〕「神宗―二―方田利害一」。
〔通究〕前に同じ。○〔宋〕「無レ不二―・―一」。
〔洞究〕前に同じ。○〔元〕「―二―術數一」。
〔質究〕たゞしきはむ。○〔宋〕「使二淮南―・―一矣」。
〔硏究〕みがき盡くす。○〔元〕「伊洛諸儒之書、深所二―・―一」。
〔磨究〕前に同じ。○〔緩耕錄〕「不レ欲二硏窮―・―一」。
〔徧究〕あまねくきはむ。○〔白虎通〕「德―・―」。
〔略究〕あらかた窮む。○〔法書要錄〕「―・―二北妙一」。
〔粗究〕前に同じ。○〔曹植〕「―・―二北終始一」。
〔測究〕推測しきはめ知る。○〔神女賦〕「盛矣麗矣、難二―・―一矣」。
〔探究〕さぐりつくし知る。○〔元行冲〕「雖レ存二―・―、咨謀罷レ所」。「初」。
〔根究〕根原をきはめ知る。○〔宋元〕「―・―嬰兒
〔源究〕前に同じ。○〔管〕「守二物之終始一、終身不レ竭、此謂二―・―一」。

【穸】エウ。烏了切　篠

ふかし、(深)。

【究】シン。章刃切　震

ふかし、(深)。

三畫

【穸】セキ、ジヤク。祥亦切　陌

㊀墓穴、つかあな。○〔左〕「楚子告二大夫一曰、惟是春秋窀―之事」。
㊁夜。○〔左、註〕「窀厚也―夜也、言穴中厚、暗如二長夜一也」。
〔窀穸〕假もがりのつかあな。○〔任昉〕「―・―殷辨」。
〔幽穸〕奥深くふるづかなるつか穴。○〔張九齡〕「潛二滑陣於―・―一」。「屈叟横二―・―一」。
〔泉穸〕身を投じて死したる淵川のこと。○〔劉克莊〕

【穸】究の字に借り用ふ。○〔漢樊敏碑〕「貫二―道度一」。

【穹】キウ、ク。去宮切　東

㊀たかし、(高)、おほいなり、(大)。○〔詩〕「靡レ有二旅力一以念二―蒼一」。
㊁大空、そら、あめ。○〔潘岳〕「仰二皐―一兮歎息」。「熏レ鼠」。
㊂きはむ、きはまる、(窮)。○〔詩〕「―レ窒
〔顥穹〕上天のこと。○〔袁宏〕「自二―・―之生レ民」。
〔皇穹〕前に同じ。○〔潘岳〕「仰二―・―一兮歎息」。
〔玄穹〕前に同じ。○〔張華〕「高冠拂二―・―一」。
〔昊穹〕前に同じ。○〔陸機〕「降二佐於―・―一」。
〔淸穹〕きよらかなるそら。○〔謝瞻〕「凡霜謝二―・―一」。
〔紫穹〕むらさきの雲のたなびきたるそら。○〔宋樂舞歌〕「登二瑞―・―一」。
〔蒼穹〕あをそら。○〔高適〕「遙―翩翩二―・―一」。
〔靑穹〕前に同じ。○〔李頎〕「高歌盼二―・―一」。
〔高穹〕たかきそら。○〔裴松年〕「兵氣横二―・―一」。
〔秋穹〕あきのそら。○〔王延齡〕「戴搭倚二―・―一」。
〔遐穹〕はるかなるそら。○〔孟郊〕「碧雲散二―・―一」。

【穹】コウ、ク。苦紅切　東

㊀鼓の木腹、だう。○〔周〕「爲二皐陶一―者三之一」。
㊁芎に通じ作る。○〔司馬相如〕「―・―窮蒼蒲」。

【空】コウ、ク。苦紅切　東

㊀むなし。
(い)盡きたり。○〔詩〕「杼柚其―」。
(ろ)中にものなし。○〔管〕「倉廩實而囹圄―」。「―・―谷一」。
(は)大いなり、ひろし。○〔詩〕「在二彼
(に)實なし、さりさめなし、つかまへどころなし。○〔史〕「皆―語無二事實一」。
(ほ)用なし、いたづらなり、むだなり。○〔韓愈〕「―言無レ施雖レ切何益」。
(へ)知性なし。○〔論〕「―・―如也」。
(と)私意なし。○〔呂氏春秋〕「―・―乎其不レ爲レ巧故也」。
㊁中のむなしきこと、うつろ、から、あき。○〔山海經〕「峽山多二―奪一」。
㊂實在ならざること、執著せざること。○〔蘇軾〕「了々方知レ不レ落レ―」。
㊃天と地との間のむなしき處、こくう、そら、ちう。○〔世說〕「終日書レ―、作二咄々怪事四字一」。
㊄さりさめなく、つかまへどころなく、いたづらに、むだに、むなしく。○〔漢〕「引レ軍―還」。
〔望空〕是非を識別せざること。○〔干寶〕「當レ官者以レ―レ―爲レ高、而笑二勤恪一」。
〔乘空〕そらにのりゆく。○〔王維〕「萬里若レ―レ―」。
〔太空〕天つ空。○〔蘇軾〕「歸二之―・―、―・―冥々不レ可二得而名一」。「―」。
〔騰空〕大そらに登りゆく。○〔沈約〕「羽翻已―レ
〔獄空〕牢獄の中罪人なし。○〔宋紹興聖政記〕「大理奏―・―」。
〔眞空〕眞正に虛無なること。○〔李商隱〕「上士悟二―・―一」。
〔本空〕前に同じ、本來虛無なること。○〔鶴林玉露〕「不レ執二文字一而迷二―・―一」。
〔頑空〕頑然として感じなきもの。○〔羅大經〕「―・―者木石是也」。
〔躡空〕そらを履みゆく。○〔孫綽〕「飛レ錫以―レ―」。
〔碧空〕あをそら。○〔梁簡文帝〕「朝光蕩二―・―一」。
〔靑空〕前に同じ。○〔許敬宗〕「纖羽絢二―・―一」。
〔四空〕天のこと。○〔徐孝克〕「上宰明二―・―一」。
〔嶔空〕岸側の空なる處。○〔江賦〕「㺹猢睒二嶔空一、蹐乎―・―一」。
〔談空〕虛無の理をかたらふ。○〔孟浩然〕「―レ―對二樵叟一」。「―」。
〔凌空〕そらの上に出づること。○〔張錫〕「瑞塔迴―レ
〔排空〕そらをおしひらく。○〔魏濬〕「軒擧―レ―」。
〔淨空〕きよらかなるそら。○〔劉孝威〕「長河隔二―・―一」。「―レ―」。
〔翳空〕空中にひらめき舞ふ。○〔祖孫登〕「將レ花共
〔橫空〕そらによこさまにわたる。○〔虞世南〕「―レ―一鳥度一」。
〔悟空〕虛無のことわりを覺り知る。○〔沈佺期〕「流思始―レ―」。「―レ―」。
〔搏空〕そらに羽ばたきす。○〔唐明皇〕「九霄飲レ
〔晴空〕はれわたれるそら。○〔李白〕「碧嶂晝二―・―一」。「―」。
〔遙空〕遙か隔たりたるそら。○〔李白〕「晴雲散二―・―一」。
〔高空〕たかき大そら。○〔杜甫〕「一雁入二―・―一」。
〔雲空〕そらのこと。○〔儲光羲〕天鳥遊二―・―一」。
〔浮空〕そらにうきあがる。○〔蘇軾〕「―・―積翠如二雲烟一」。
〔飛空〕大そらを飛びゆく。○〔傳燈錄〕「雪山五百仙人―レ―而至」。「之音」。
〔透空〕そらにまでも通ふ。○〔南卓〕「―レ―碎レ遠
〔翻空〕そらにひらめき飛ぶ。○〔許郴〕「―レ―雁連接」。「便―レ―」。
〔翔空〕そらをかけり飛ぶ。○〔駱賓王〕「幽鴆翔レ網
〔標空〕そらにあらはれたつ。○〔庾信〕「靑松―レ―、鼯泉吐レ漏」。「―」。
〔架空〕そらにかけわたす。○〔唐太宗〕「飛廊迴―レ
〔翠空〕あをそら。○〔唐太宗〕「籠鶴散二―・―一」。
〔洑空〕うつろなること。○〔朱熹〕「衆右何―・―」。
〔映空〕そらにうつる。○〔杜甫〕「哀荷且―レ―」。
〔泬空〕さぶそら。○〔杜甫〕「蕭瑟浸二―・―一」。
〔澄空〕淨き天。○〔常建〕「立鶴下二―・―一」。
〔危空〕高きそら。○〔盧綸〕「棧道響二―・―一」。
〔迥空〕前に同じ。○〔元稹〕「晴烟塞二―・―一」。
〔寬空〕廣き大そら。○〔孟東野〕「直幹入二―・―一」。
〔聳空〕そらにそびえ立つ。○〔李頻〕「丹嶂―レ―無二過鳥一」。
〔靈空〕そら。○〔李咸用〕「星淡在二―・―一」。
〔盤空〕そらにわたかまる。○〔韓琦〕「大鵬―レ―不二輕搏一」。

【空】コウ、ク。苦動切　董

孔穴、うろ、あな。○〔韓〕「―・―竅神明之戶牖也」。
〔匿空〕身をかくすあな。○〔史〕「舜穿レ井爲二―・―旁出」。「大・澤二乎」。
〔壘空〕ちひさきあな。○〔莊〕「不レ似二―・―之在一」。
〔樹空〕木のうろ、あな。○〔詩、疏〕「又逐而走入二―・―中一」。
〔鑿空〕あなをはる。○〔北〕「張騫―二―于前一」。

〔土窒〕つちむろ。○〔方輿記〕ニ秦人呼ニ土窟ー爲ニ ー・ーニ。

【空】コウ、ク。苦貢切 送
㊀きはむ、(窮)。○〔詩〕「不レ宜レーニ我師ニ」。
㊁さほす、(通)。○〔漢〕「張-騫鑿ニーー「諸ニ。
㊂うがつ、(穿)。○〔漢〕「衣又穿ーー」。
㊃かく、(缺)。○〔揚雄〕「酒-誥之篇俄ーー「ー」。爲」。
㊄むなし、(虛)。○〔論〕「回乎其庶乎屢ー」。

【窒】ソク。蘇則切 職
土を以て穴を塞ぐ、ふさぐ。

【穻】ウ。邕倶切 虞
まど、(牖)。

【窔】ド、ヌ。那胡切 虞
ふさぐ、(窒)。

【窆】バウ、マウ。母朗切 養
むなし、(空)。

【窌】肉の字。○〔漢〕「香-酒美ー」。

四畫

【突】シン、ソン。所今切 侵
ふかし、(突)。

【窊】ゼン、ヂン。乳兗切 銑
柔皮、なめしがは。○〔周〕「倉-頡-篇有ニ鞄ーー」。

【窋】チウ、チユ。敕中切 東
うがつ、(穿)。

【穽】アン、オン。烏敢切 感 エン。於撿切 琰
ドヾづ、(閉)、又、俗の弇の字、一説に、穽の字の譌り。

【穽】セイ、ジヤウ。疾正切 敬 疾郢切 梗
獸などを陷るゝ坑、あな、おとしあな。○〔書〕「杜ニ乃擭ー斂ニ乃ーー」。
〔陷穽〕おとしあな。○〔詩、疏〕「不レ入ニーーニ」。
〔檻穽〕をりとおとしあなと。○〔漢〕「及レ在ニーー・ーー之中ー」。
〔深穽〕ふかきおとしあな。○〔徐寅〕「以下從ニーー・ーー」、「ーレ、流-血丹上レ野」。
〔嶺穽〕おとしあなにみつ。○〔左、疏〕「至レ有下積-骸親ニ高-墉上」。
〔阬穽〕おとしあな。○〔南〕「不レ避ニーーー馳-騁」。
〔崖穽〕がけあな。○〔宋〕「檜陰險如ニーー」。
〔坎穽〕おとしあな。○〔鹽鐵論〕「若下陷ニーー・ーー、食中于懸-門之下上」。

【穾】エツ、エチ。於決切 ケツ、ケチ。呼決切 屑
㊀うがつ、(穿)。㊁あな、(空)。

【窅】エウ。一叫切 嘯
㊀ふかし、(深)。
㊁くらし、(幽)。
㊂隱れて暗き處。○〔司馬相如〕「巖ーー「洞-房」。
㊃室を以てとりまきたる室、複室。○〔楚辭〕「冬有ニーー-厦ニ」。

【窊】エウ。伊鳥切 篠
㊀戸樞(とぼそ)の聲にいふ字。
㊁室の東南の隅。

【窔】エウ。伊堯切 蕭
深き竅の聲にいふ字。○〔莊〕「ー者咬者」。

【穿】セン。尺絹切 霰
つらぬく、(貫)。○〔漢〕「貫ニーー經-傳ニ」。

【穿】エン、チン。於權切 先
火の起こる貌にいふ字。

【穿】セン。昌緣切 先
㊀うがつ。
(い)穴をあく。○〔詩〕「何以ーニ我「屋ニ」。
(ろ)開通す、ひらく、とほす、あく。○〔漢〕「ーニ穢-貊朝-鮮ー置ニ滄-海-郡ニ」。
(は)鑿鑽す、きる、ほる。○〔漢〕「ーレ渠漑レ田」。
(に)穴あく。○〔後漢〕「衣-履ーー決」。
㊁孔穴、あな。○〔周〕「七ーー」。
〔下穿〕またの方に穴あく。○〔趙晉〕「忽嵌空而ーーー」。
〔鐵穿〕細き穴。○〔韓愈〕「上不レ見ニーー・ーー」。
〔細穿〕前に同じ。○〔陸龜蒙〕「ーー菱-線小-鯢游」。
〔排穿〕推しあく。○〔皮日休〕「作-者如ニーー・ーー」。
〔節穿〕ふしあなあく。○〔陸龜蒙〕「ーー・ーー開ニ耳-目ニ」。
〔雙穿〕兩方をあく。○〔陸龜蒙〕「不ニ翅ーーニ」。
〔旁穿〕あまねく通ぜること。○〔楊弘貞〕「洞-達而ーーー」。

【宏】クワウ、ギヤウ。胡泓切 庚
㊀大いなる屋。
㊁屋の深き響きにいふ字。

【窀】チユン。陟倫切 眞
長し、厚し、一説に、長く埋む。○〔左〕「ーー窆之事」。

【窀】トン、ドン。徒渾切 タン、テン。墜頑切 元
㊀うづむ、(瘞)。
㊁火の穴中に見ゆるにいふ字。

【突】トツ、ドチ。陀骨切 月
㊀にはか、(猝)。○〔揚雄〕「江-湘謂ニ卒相見ニ曰レーー」「而弁兮」。
㊁あらはれ出づ、つきいづ。○〔詩〕「ー「鋒ニ」。
㊂つく。
(い)ふろ、(觸)。○〔張衡〕「胸ーニ銛-鋒ニ」。
(ろ)をかす、(犯)。○〔南〕「排ニーー陛-衞ニ」。
(は)志のぐ、(凌)。○〔荀〕「陶誕ーー盜」。
(に)うがつ、(穿)。○〔左〕「胥ーーニ陳-城ニ」。
㊃あざむく、(欺)。○〔任昉〕「維此魚-目唐ニーー璵-璠ニ」。
㊄短髮、かぶろ。○〔荀〕「孫-叔-敖ーー禿「長-左」。
㊅戸の鎖を維持する植木、とざしのたてぎ。○〔爾〕「植謂ニ之傳ー、傳謂ニ之ーーニ」。
㊆惡馬。○〔漢〕「以レ轡而御ニ悍ーーニ」。
㊇竈突、けむりだし。○〔漢〕「其竈直ーー」。
〔直突〕すぐなる烟だし。○〔劉禹錫〕「是時ーー烟「烟ニ發」。
〔曲突〕まがりたる烟だし。○〔張協〕「虫無ニーーーー」。
〔竈突〕かまどの烟りだし。○〔孔叢子〕「ーー・ーー炎上棟-宇將レ焚」。
〔豨突〕ゐの如くに衝きかゝる。○〔漢〕「名曰ニーー・ーー「豨-勇ニ」。
〔馳突〕かけまはり衝く。○〔宋〕「ーー・ーー讖ニ鄉-導ニ」。
〔排突〕おしひらきつきあたる。○〔南〕「寵ーニーー「ーー・ーー陛-衞ニ」。
〔黔突〕ふすぼり黒みたる烟だし。○〔淮〕「孔-子無ニ黔突ー」。
〔煬突〕茶をあぶる烟だし。○〔杜陽雜編〕「鬻レ茶者爲ニ羽形ー、置ニーー・ーー間ー、祀爲ニ茶神ニ」。
〔桑突〕桑翟といふ人の家のかまどの烟だし。○〔班固〕「ーー・ーー不レ黔」。
〔猝突〕かけまはりて衝きあたる。「ーーニ、ーー賊-陣ニ」。○〔後漢〕「馬驚〔衝突〕つきあたり來ること。○〔南〕「洪-精-騎八-千ー、「叢-棘ニ」。率-先ーー・ーー」。
〔抵突〕つきあたる　○〔吳〕「北升レ山赴レ險、ーーニーー

〔家突〕ゐの如くに向かふ見ずにつきあたる。○〔唐創業起居註〕「當二巨猾一ー・ー之勢一」。
〔觸突〕ふれあたる。○〔後漢〕「不レ能レ持レ久、而果二于ー・ー一」。
〔前突〕進みてつきあたる。○〔魏〕「馬超負二其力一、陰欲二ー・ー一」。
〔欺突〕たぶらかす。○〔新書〕「ー二ー伯・父一、逆二于「父・母一」。
〔冲突〕飛びあがり出づ。○〔異苑〕「乃ー・ー而出」。
〔干突〕犯し衝く。○〔異苑〕「道レ生已久、無レ宜二ー・ー一」。
〔陵突〕のりこえあたる。○〔廣川書跋〕「此帖超・軼ー・ー、似レ欲レ出二其家・學一」。
〔駭突〕驚きてつきあたる。○〔謝翱宋鼓吹曲〕「猷窮ー・ー」。
〔撞突〕つきあたる。○〔王起〕「若乃飛二驚刀一以ー・ー」。
〔撑突〕さゝへ衝く。○〔孔平仲〕「ー二ー盤・盂一」。
〔晨突〕あさ飯を炊ぐかまどの烟だし。○〔陳師道〕「風・煙起レ壓ー・ー冷」。
〔曉突〕前に同じ。○〔李覯〕「ー・ー誰能炊」。
〔寒突〕貧しき家のひえわたりたるかまどの烟りたし。（〔文同〕「ー・ー無二晨・烟一」。

【㝔】テツ、デチ。徒結切　屑
前條の㊀と㊁とに同じ、又、犬の穴中より暫く出づるにいふ字、又、なめらか（滑）。○〔易〕「ー・ー如其來・如」。

【窂】ラウ、ロウ。魯刀切　豪
㊀みつ（實）。
㊁牛馬の閑圈、かこひ、をり。○〔劉歆〕「天烈・々以厲・高兮、寥・琸・窻以梟ー・ー」。

【窅】ベン、メン。莫見切　霰
冥く合ふ。

【窌】イン。余針切　侵
ふかし（深）。

【窊】グワン。五丸切　寒
あな（竅）。

【穾】窔に同じ。

【穿】アツ、烏八　黠　ダツ、女滑
アチ。切　ナチ。切　黠
うがつ（穿）。

【窆】ヒ、ビ。餅移切　支
うつは（器）。

【窣】スヰ。式類切　寘
邃に同じ、ふかし。○〔揚雄〕「ー深也」。

【窣】ソク。蘇谷切　屋
穴の中より出づ、いづ。

五畫

【窌】ケウ。吉弔切　嘯
深く遠し、又、志づか（靜）。○〔張衡〕「望ー・篠以徑・廷」。

【窌】エウ。伊鳥切　篠
窈に同じ。

【窄】サク、シャク。側伯切　陌
㊀せまし（狹・隘）。○〔杜甫〕「如レ覺二天・地ー一」。
㊁せまる（迫）。○〔張説〕「命ー途殫」。
〔寬窄〕廣きと狹きと。○〔李商隱〕「衣・帶無レ情有二ー・ー一」。
〔緊窄〕引きしまりて狹し。○〔圖畫見聞志〕「衣・服ー・ー」。
〔縐窄〕ねはひせまし。○〔盧照鄰〕「秋・蟬悲二其ー・ー一」。
〔黑窄〕くらくせまし。○〔岑參〕「盡日無レ光、其下ー・ー」。
〔傾窄〕かたぶきてせまくあり。○〔趙居貞〕「盤・途「古・時衣」。
幾ー・ー」。
〔短窄〕たけ長からず且つせまし。○〔王建〕「ー・ー
〔險窄〕けはしくして且つせまし。○〔梅堯臣〕「綴・韻孤・淸仍ー・ー」。

【窔】セイ、セ。輸芮切　霽
ふかし（深）。

【窙】クワウ、キヤウ。胡萌切　庚
㊀屋の響きにいふ字。
㊁幽に深き貌にいふ字。

【窚】ヲウ、ワウ。烏橫切　庚
小なき水の貌にいふ字。

【窅】エウ。烏皎切　篠　一叫切
アウ、エウ。於絞切　巧　嘯
㊀深き目。
㊁深く遠き貌にいふ字、ふかし、さほし。○〔鶡冠子〕「擧レ善不レ以二ー・ー一」。
〔窅々〕ふかき貌にいふ語。○〔韓愈〕「ー・ー深・塹」。
〔幽窅〕前に同じ。○〔郝經〕「ー・ー足二眞趣一」。
〔陰窅〕くらくふかし。○〔張說〕「竹・徑入二ー・ー一」。
〔杳窅〕深遠の貌にいふ語。○〔鮑溶〕「ー・ー靑・雲望」。

【窅】アウ、エウ。於交切　肴
ー窊は、曲がれる貌にいふ語。○〔漢〕「ー・窊桂・華」。

【窅】ベン、メン。莫賢切　先
うらみのぞむ（悵）。○〔莊〕「ー・ー然喪二其天・下一」。

【窆】ヘン。方驗切　豔　悲檢切
ホウ。逋鄧切　徑
㊀棺を壙に葬り下す、はうむる。○〔周〕「及レー執レ斧以涖二匠・師一」。
㊁棺を葬り下す壙、つか、あな。○〔說苑〕「修二棺槨一作二穿ー・ー一」。
〔埋窆〕棺を下しうづむ。○〔後漢〕「乃有二掩・骼ー・ー之制一」。「詳二其所一」。
〔潛窆〕人知れずはうぶる。○〔晉〕「ー二ー山・谷一、莫
〔改窆〕あらためてはうぶる。○〔南史〕「凡七・柩皆ーー焉」。
〔遷窆〕處をうつしかへてはうぶる。○〔北〕「徵二歲・月推・移、ー・ー無レ曉」。
〔營窆〕墓域を作る。○〔唐〕「爲二ー・ー一置二陵・廟一」。
〔故窆〕古き墓。○〔唐〕「合二葬建・陵・啓二ー・ー一」。
〔客窆〕寄寓せる土地にありて葬らるゝこと。○〔唐〕「遂・良ー二ー愛・州一」。「異・數也」。
〔護窆〕つかを保護す。○〔宋〕「發レ卒ー二其ー一、蓋
〔夙窆〕早くより葬る。○〔沈約〕「ー・ー二買・生墳一」。
〔歸窆〕故地にもどり來て葬らる。○〔庾信〕「天・和某・年、ー二ー于襄・陽白・沙之舊・塋一」。
〔遠窆〕遙かに隔たりたる處に葬る。○〔梁肅〕「ーー舊・疆一」。
〔祔窆〕合はせはうぶる。○〔權德輿〕「ー二ー雙・魂一、滋・殷無レ窮」。
〔野窆〕原野にある墓。○〔張籍〕「ー・ー動・鼓・鉦一」。
〔孤窆〕子孫の吊ふもののなきはか。○〔陸龜蒙〕「如・何ー・ー裹」。

【窋】アフ、烏甲　洽　サツ、子曷　曷
エフ。切　サチ。切
脉に入りて穴を刺す、さす。

【窇】ハク、ボク。蒲角切　覺
㊀あなぐら（窖）。㊁あな（竅）。

【窈】エウ。烏皎切　篠
㊀ふかし（深）、志づか（靜）。○〔莊〕「至ー道之精、ー・ー冥・々」。
㊁美し、好し、又、おくゆかし。○〔揚雄〕「美心爲レー」。
㊂冥し。○〔淮〕「可二以明一、可二以ーー」。
㊃舒ぶる貌にいふ字。○〔詩〕「舒二ー糾一兮」。
〔深窈〕ふかく靜かなり。○〔蘇軾〕「禪・室各ー・ー」。

【窉】ヘイ、ヒヤウ。兵永切　梗
三月の稱。○〔爾〕「三・月爲レー」。

【⿱穴丙】ヘイ、ヒヤウ。陂病切［敬］
㊀あな、(穴)。㊁驚く病。

【⿱穴皿】ベイ、ミヤウ。武永切　バウ、ミヤウ。母梗切［梗］
あな、(窟)。

【⿱穴令】レイ、リヤウ。力丁切［青］
ゐご、(井)。

【窊】ア、エ。烏瓜切［麻］
㊀汙下す、くぼむ、又、くぼみて下し、ひくし、くぼし。○〔馬融〕「波-瀾鱗-淪、─隆詭-戾」。㊁高からざる貌にいふ字。○〔馬融〕「─-圓窴-詖」。㊂滿たざる貌にいふ字。○〔漢〕「窅-─桂-華」。
〔苑窊〕蠶の神の名。○〔晉〕「祭二蠶-神一曰二─-─一」。
〔杓窊〕鷙鳥の總稱。○〔鄧〕「─-─鷙-鳥之總-名、以爲二印-紐一」。
〔隆窊〕たかひくある貌にいふ語、又、轉じて盛衰の意に用ふる語。○〔陶潛〕「時有二語-默一、運因二─-─一」。「且─」。
〔深窊〕ふかくくぼきと。○〔梅堯臣〕「礙多歲久─」
〔坳窊〕くぼし。○〔蘇軾〕「堆-壒生二─-─一」。

【窊】ワ、エ。烏化切［禡］
下き地、くぼき所、くぼみ。

【⿱穴乙】イツ、イチ。弋質切［質］
あな、(穴)。

【窋】トツ、テチ。張滑切［月］
物の穴の中にある貌にいふ字。○〔王延壽〕「緣-房紫-窋、─窊垂レ珠」。

【窋】タツ、テチ。張刮切［黠］　チュツ、チュチ。竹律切［質］
㊀穴中より出づる貌にいふ字。○〔孟郊〕「闞レ竇楔─窔」。㊁あな、(窟)。○〔吳〕「公-子光伏二甲于─-室中一」。

【窌】カウ、ケウ。居効切［效］
あなぐら、(窖)。○〔周〕「囷─倉-城逆-牆六-分」。

【窌】ハウ、ヘウ。披教切［效］
前條に同じ、又、窌に同じ。

【⿱穴卯】ラウ、レウ。力嘲切［肴］
深く空しき貌にいふ字。○〔馬融〕「空-─巧-老」。

【窞】イン。夯針切　シン。式針切［侵］　タン、ドン。徒感切［感］　シン、ソン。所禁切［沁］
㊀ふかし、(深)。㊁窅─は、黑し。㊂けむりだし、(竈-突)。㊃柩を埋む、うづむ。

【⿱穴昔】サク。子錯切［藥］
安んずる貌にいふ字。

【⿱穴且】ショ、ソ。七居切［魚］
岨に同じ。

【窂】ラウ、ロウ。魯刀切［豪］
㊀やしなふ、(養)。㊁かたし、(堅)。

【⿱穴示】ヒ。匹寐切［寘］
氣下り泄る、もろ、ひろ。

【⿱穴石】タウ、ダウ。徒朗切［養］
すぐ、(過)。

【窑】エウ。余搖切［蕭］
陶師の瓦を燒くにいふ字。

六畫

【⿱穴同】トウ、ヅ。徒紅切［東］
さほす、(通)。

【⿱穴同】トウ、ヅ。杜孔切［董］
地に穴を通ず。

【⿱穴危】キ、ケ。古委切［紙］
あな、(穴)。

【⿱穴矺】タ、テ。陟嫁切［禡］
物の穴の中にある貌にいふ字。○〔王延壽〕「窋─垂レ珠」。

【⿱穴共】コウ、グ。胡貢切［送］
空き貌にいふ字。

【⿱穴有】イウ、ウ。於究切［宥］
むなし、(空)。

【⿱穴血】チュツ、ヂュチ。直律切［質］
穴を鑿りて居る、ゐる。

【⿱穴血】ケツ、ケチ。呼決切［屑］
空しき貌にいふ字。

【窅】エウ。烏皎切［篠］　一叫切［嘯］
㊀くらし、(冥)。㊁とほし、(遠)。㊂かくろ、(隱)。㊃ふかし、(幽)。

【⿱穴孚】ヲ、ウ。汪胡切［虞］
ひくし、(卑-下)。○〔馬融〕「運-裛─-洝」。

【窐】ケイ。古攜切［齊］　ワ、エ。烏瓜切［麻］
甑のあな。○〔楚辭〕「珪-璋雜二于甑-─一」。

【窔】アウ、エウ。於交切［肴］
深く遠き貌にいふ字。○〔宋玉〕「─-寥窈-冥、不レ見二其底一」。

【窐】エイ。淵畦切［齊］
ふかし、(深)。

【窑】俗の窯の字。

【⿱穴合】カフ、コフ。口答切［合］
あふ、(合)。

【⿱穴合】アフ、エフ。乙洽切［洽］
土地墊し、ひくし。

【窒】チツ。陟栗切［質］　テツ、テチ。丁結切［屑］
㊀ふさぐ、ふさがる、(塞)、つむ、つまる、(滿)。○〔易〕「有レ孚─」。㊁月の西方にあると。○〔爾〕「月在レ庚曰レ─」。㊂劒の削。○〔揚雄〕「劒-削自レ河而北、燕趙之閒謂二之─一」。
〔懲窒〕怒をこらし慾を塞ぐ。○〔易、疏〕「忿-欲皆有二往來一、故─-─互文以相足也」。
〔鼽窒〕鼻ふさがりつまる。○〔漢〕「秋行二夏-令一、民多二─-─一」。
〔鼻窒〕前に同じ。○〔本草〕「療二─-─一」。
〔壅塞〕ふさがりて通せず。○〔宋〕「杭纔戸-窓後、河-渠─-─」。
〔屯窒〕なやみて通せぬ。○〔韓愈〕「當二─-─之時一」「雖レ危無レ咎」。
〔愚窒〕おろかにして通せず。○〔皮日休〕「愍-蓄-僻之─-─兮」。

(不窒) 通じて滯らず。○〔莊〕「至人潛行ーレー、蹈レ火不レ熱」。
(鑿窒) 塞がりたるを穿ち通ず。○〔王令〕「ーレー復ニ舊貫ニ」。

【窒】テツ、デチ。徒結切 ［屑］
㊀前條の㊀に同じ。㊁寢門、みたまやのもん、又、冢闕、つかのもん。○〔左〕「投レ袂而起、屨及ニ于ー皇ニ」。

【窓】俗の窻の字。

【窔】エウ。烏叫切 ［嘯］ 伊鳥切 ［篠］
㊀幽深なる所、くらきところ、おくふかきところ。○〔甘泉賦〕「雷鬱ニ律于巖ーー」。
㊁室の東南の隅、すみ。○〔儀〕「聚ニ諸ーニ」。
(奧窔) 家室の隅のくらきところ。○〔荀〕「ー・ー之間、簟-席之上」。
(玄窔) ふかくくらきところ。○〔郭祥正〕「沉-默造ニー・ーニ」。
(堂窔) 家の堂上と奧のくらきところと。○〔馬融〕「蠨蛸亦集ニー・ーニ」。

【窕】テウ、デウ。徒了切 ［蕭］
㊀ふかし(深)、しづか(閑)。○〔杜甫〕「烟生窈ー溪」。
㊁美し、好し、又、おくゆかし、しさやか。○〔詩〕「窈ー淑-女」。
㊂ほそし(細)。○〔左〕「小者不レー」。
㊃條に同じ、ものさびし。○〔淮〕「霄-ー之野」。
(窈窕) うつくし、みめよし、おくゆかし。○〔後漢〕「ー・ー作-態」。
(ろ) 山水又は宮室などの深き貌にいふ語。○〔江賦〕「幽-岫ー・ー」。
(杳窕) 遙かに遠き貌にいふ語。○〔杜甫〕「ー・ー入雲漢」。

【窕】エウ。餘招切 ［蕭］
前條の㊁に同じ。○〔荀〕「不レ至ニ于ー-冶ニ」。

【窕】テウ。他彫切 ［蕭］ 他弔切 ［嘯］ 土了切 ［篠］
佻に同じ、かろぐし。○〔左〕「楚-師輕-ー」。

【窕】テウ、デウ。徒弔切 ［嘯］
篠に同じ、ふかし、さほし、はるか。○〔荀〕「充ニ盈大-宇ニ而不レー」。

【窑】穿に同じ。

【⿱穴亘】クワン。胡官切 ［寒］
垣に同じ。

【⿱穴史】シ。疏吏切 ［寘］
あな(穴)。

【⿱穴炎】シン。式林切 ［侵］
けむりだし(竈-突)。

【⿱穴老】キウ、ク。香中切 ［東］
老いて弱し。

【⿱穴旨】トウ、ヅ。徒候切 ［宥］
㊀あな(穴)。㊁水の穴に至ること。㊂さく(決)。

七畫

【⿱穴廷】テイ、チヤウ。唐丁切 ［青］
あな(穴)。

【⿱穴豆】トウ、ヅ。大透切 ［宥］
おさしあな(陷-竇)。

【⿱穴良】ラウ。盧當切 ［陽］
㊀あな(穴)。㊁むなし(㝩)。

【⿱穴余】タ、テ。宅加切 ［麻］
窊ーは、深き貌にいふ語。

【⿱穴夬】エツ、エチ。於決切 ［屑］
㊀穴の貌にいふ字、むなし。㊁うがつ(穿)。

【窌】リウ、ル。力救切 ［宥］
齊の地の名。○〔左〕「鞌之戰、齊-侯以ニ辟-司-徒之妻ニ爲レ有レ禮、與ニ之石-ーニ」。

【窖】カウ、ケウ。古孝切 ［效］
㊀物を藏むる地中の穴、あなぐら。○〔禮〕「穿ニ竇ーーニ」。
㊁深き心、あさはかならざるこゝろ。○〔莊〕「縵者ー者」。

【窖】サウ、ソウ。則到切 ［號］
竈に同じ。

【窗】サウ、ソウ。楚江切 ［江］
室内に外よりあかりを入るゝに設けたる孔、まど、特に屋上にあるものの稱。○〔周〕「四-旁兩夾ー」。

【⿱穴囱】ソウ、ス。麤叢切 ［東］
㊀あな(孔)。㊁けむりだし(竈-突)。

【⿱穴巠】ケイ、キヤウ。苦定切 ［徑］ 棄挺切 ［迥］ 牽盈切 ［庚］ 苦丁切 ［青］
むなし(空)、又、つく(盡)。○〔詩〕「瓶之ー矣」。

【窘】キン、グン。渠隕切 ［軫］
窮迫す、急困す、きはむ、きはまる、つまる、つむ、せまる、くるしむ、たしなむ。○〔莊〕「困ーー織レ履」。
(窮窘) 困難にせまりくるしむ。○〔史〕「故士ーーー而得レ委レ命」。
(艱窘) 前に同じ。○〔張耒〕「孔-明用レ蜀最ー・ー」。
(逐窘) あとをおひてたしなむ。○〔漢〕「ーニ・ー高-祖彭-城西ニ」。
(饑窘) 食乏しくしてくるしむ。○〔魏〕「鳥-獸ー・ー」。
(危窘) あやふくせまる。○〔五〕「善因ニー・ー出ニ奇-計ニ」。

【窘】キ、巨畏切 ［未］ ギ。 クン、具運切 ［問］ グン。
㊀前條に同じ。㊁しびろ(瘒)。

【窙】カウ、ケウ。許交切 ［肴］
開き達る貌にいふ字、ひろし、たかし。○〔潘岳〕「幽-谷豁以ー-寥」。

【⿱穴成】セイ、ジヤウ。時聲切 ［庚］
屋の受くる所。

【⿱穴求】キウ、グ。渠尤切 ［尤］
ふかし(深)。

【⿱穴肙】ケン。火犬切 ［銑］
あな(穴)。

【⿱穴夋】シン、ソン。所今切 ［侵］
けむりだし、けむだし(竈-突)。

【⿱穴見】ベキ、ミヤク。莫敵切 ［錫］

覓に同じ。

【甬】トウ、ツ。他貢切 [送]
あな、(穴)。

【宑】ケン。苦簟切 [琰]
鹿の名。

【窂】コウ、ク。苦侯切 [宥]
㊀かすむ、(鈔)。㊁あらし、(纂)。

【窞】タン、ドン。徒覽切 [感]
傍より入る坎。

【窚】シン。植鄰切 [眞]
屋宇、いへ、特に、天子の居所にいふ字。

【窐】チン。烏本切 [阮]
くら、ゐごころ、(坐)。

【窙】ロウ、ル。盧貢切 [送]
あな、(穴)。

【窨】アン、オン。鄔感切 [感]
ふさぐ、ふさがる、(窒)。

【窫】エン。衣儉切 [琰]
おほふ、おほひ、(蓋)。

【窬】セン。昌緣切 [先]
㊀あな、(孔)。㊁とほる、(通)。

【窴】デイ、ニヤウ。農汀切 [青]
そら、(天)。

【寇】コウ、ク。苦侯切 [宥]
㊀かすむ、(鈔)。㊁あらし、(纂)。

【窡】イ。弋支切 [支]
室の東南の隅、すみ。

【窣】窣に同じ。

八畫

【窪】カイ、ケ。古買切 [卦] クワ、ケ。古瓦切 [馬]
博局の方目、すぢ。

【窮】ホウ。方隥切 [徑] ヘン。陂驗切 [豔]
喪葬して土を下す、はうむる。

【窲】ラン、ロン。盧感切 [感]
あつむ、(聚)。

【窞】タン、ドン。徒感切 ラン、ロン。盧感切 [感]
坎の底にある坎、一説に、旁より入る坎。○〔易〕「習坎入于坎――」。
〔玄窞〕ふかきあな。○〔韓愈〕「下・覩蠶――」。

【窟】コツ、クチ。苦骨切 [月]
㊀土中の孔穴、むろ、いはや、ほら、あな。○〔史〕「公子光伏甲士于――室中」。
㊁獸類蟲屬などのかくれすむあな、す。○〔戰〕「狡兎有三――、僅得免其死耳」。
㊂すむ所、あつまる地。○〔杜甫〕「冠冕「之――」。
〔營窟〕人のつくりたるつちむろ。○〔禮〕「冬則居――」。
〔巢窟〕すみかのとにてわるに惡賊などの根據の場處にいふ。○〔晉〕「賊大衆在此、則――虛矣」。
〔理窟〕物事のすぢみちを深く究むること。○〔徐陵〕「雖長――」。
〔土窟〕つちむろ。○〔晉〕「爲――居之」。
〔巖窟〕いはや。○〔薛據〕「鍊・藥在――」。
〔石窟〕前に同じ。○〔佛國記〕「新・城・山有――」。
〔深窟〕ふかきあな。○〔梁宣帝〕「潛――而學六・通」「――」。
〔定窟〕常にきまりたるあな。○〔杜甫〕「蛟・龍無――」。
〔洞窟〕はらあな。○〔柳宗元〕「風出――」。
〔幽窟〕奥ふかきあな。○〔柳宗元〕「――潛神蛟」。
〔寶窟〕たからのみちたるあな。○〔韋莊〕「探珠逢――」。

【窣】タン、ドン。徒感切 [感]
㊀ふかし、(深)。㊁けむりだし、(竈突)。

【窟】カフ、ケフ。口夾切 [洽]
重からず、かろし。

【窩】ワ。烏禾切 [歌]
㊀くら、(藏)。㊁あな、(窟)。

【窠】クワ。苦禾切 [歌]
穴中のすみか、す。○〔小爾〕「雞雉所乳謂之――」。

【窴】テン。丁見切 [霰]
山の下の穴、あな。

【窡】トツ、テチ。丁滑切 [月]
穴の中より見る、あらはる。

【窢】タツ、テチ。丁刮切 [黠]
穴の中より出づる貌にいふ字。○〔孟郊〕「闞寶楔窟――」。

【窢】クワク、キヤク。忽麥切 [陌]　キヨク、コク。忽域切 [職]
風に逆らふ聲にいふ字。○〔莊〕「其風――然惡可而言」。

【窪】ユ。以主切 [麌]
器の中の空しきにいふ字、むなし、又、器病、きず。

【窣】ソツ、ソチ。蘇骨切 [月]
㊀穴の中より卒に出づ、いづ。○〔何遜〕「烟墻――而旁駛」。
㊁安からざる聲にいふ字。○〔韓駒〕「老樹挾霜鳴――」。
〔勃窣〕行くとゆるき貌にいふ語、又、匍匐してゆくこと。○〔子虛賦〕「勃窣――而上乎金堤」。
〔窸窣〕やすからざる聲にいふ語。○〔酉陽雜俎〕「忽有風吹物、――過其前」。
〔屑窣〕前に同じ。○〔韓駒〕「落・葉――鳴風廊」。

【窢】最に同じ。

【窾】クワン。古寬切 [寒]
地の名。

【窌】カウ、ケウ。平孝切 [效]
あなぐら、(窌)。

【窚】ビ、ミ。密二切 [寘]
いぬ、(寐)。

【窮】キヨウ、ク。許用切 [宋]
老いて弱し。

【窴】デイ、ニヤウ。奴丁切 [青]
㊀おほいなり、(大)。㊁あきらか、(明)。㊂そら、(天)。

【窣】カフ、コフ。口合切 [合]
めぐる、(匝)。

九畫

【焢】コウ、ク。呼公切 東 光の色にも火の貌にもいふ字。

【窻】窗に同じ。

【⿱穴复】フウ、ブ。扶富切 宥 鳥の卵を抱くこと、かひこあたゝむ。

【窨】イン、オン。於禁切 沁 イン。伊淫切 侵 地窨、あなぐら。○〔後漢〕「蠶室ー室」。

【窨】イン、オン。於金切 侵 ー突は、くろし(黑)。

【窩】ワ。烏禾切 歌 窩穴、むろ、あな。○〔楊敬之〕「蜂ーー聯ー々」。
〔彈窩〕石面の水波に激してまるくあなのあきたること。○〔宋无〕「浪擊ニーー圓」。「巖ニーーニ」。
〔舊窩〕もとすみたるいはやのこと。○〔戴昺〕「何須

【窪】ワ、エ。烏瓜切 麻 ふかし(深)、くぼし(窊)、又、くぼむ(汙)。○〔老〕「ー則盈」。
〔卑窪〕土地などのくぼく低きこと。○〔唐〕「ーーー與ニ環・玉ニ同ㇾ俗」。
〔低窪〕前に同じ。○〔元鄭游〕「ーー寧望」酬」。
〔蹄窪〕馬などのひづめのあとにて地のくぼみたること。○〔劉勰〕「ーー之內、不ㇾ生ニ蛟・龍ニ」。
〔坳窪〕くぼみたること。○〔柳宗元〕「凡ーー坻岸之狀」。

【⿱穴佳】アイ、エ。於佳切 佳 エイ、ヤウ。庚頃切 梗 水の名。

【窫】アツ、エチ。乙黠切 黠

【窬】ユ。羊朱切 虞 トウ、ヅ。度侯切 尤 大透切 宥 ㊀空しく大いなり。㊁しづか(靜)。
㊀門傍の牆に穿ちたる小戶、くゞり、いりぐち、あな。○〔禮〕「華門圭ーー」。㊁牆を穿つ、うかがつ。○〔論〕「穿ーー盜」。
〔窺窬〕すきをうかゞふ。○〔晉〕「狡・寇ーー」。

【窬】トウ、ツ。當侯切 尤 ㊀甌ーは、深く下し、ひくし、ふかし。㊁𨢊ーは、おまる、褻器。㊂淸ーは、かはや。

【⿱穴彖】窬に同じ。

【⿱穴情】カウ、ケウ。古孝切 效 あなぐら、地藏。

【⿱穴員】ケン。王眷切 霰 垣院、いへ。

十畫

【窮】キウ、ク。居雄切 東 きはまる、つまる、又、きはむ、つむ。
(い)せまる(急)。○〔禮〕「充ㇾ々如ㇾ有ㇾーㇾ」。
(ろ)くるしむ(窘)。○〔韓詩外傳〕「人ーー則詐」。
(は)をはる、をふ(竟)。○〔書〕「永世無ㇾーㇾ」。
(に)つく、つくす(盡)。○〔春秋序〕「究ニ其所ㇾー」。
(ほ)ふさがる、ふさぐ(塞)。○〔孟〕「遁辭吾知ニ其所ㇾー」。
〔振窮〕貧窮を救助す。○〔周〕「以ニ保・息六ニ養ニ萬民ニ、三日、ーㇾー」。
〔固窮〕いふまでもなく困窮す。○〔論〕「君子ーー」。
〔阨窮〕困窮すること。○〔孟〕「ーー而不ㇾ閔」。
〔矜窮〕困難せるものをあはれに思ふ。○〔國〕「禮ㇾ貧ーㇾー、禮之宗也」。
〔途窮〕行く先切迫す。○〔史〕「吾日暮ーー」。
〔數窮〕あまたゝび困難す。○〔老〕「多言ーー、不ㇾ如ㇾ守ㇾ中」。
〔諱窮〕困窮なることを嫌ふ。○〔莊〕「孔子曰、我ーㇾーㇾ久矣、而不ㇾ免ㇾ命也」。
〔持窮〕困窮を執り守る。○〔韓詩外傳〕「ーㇾー而遇ニ入之國ニ矣」。
〔詰窮〕問ひつむ。○〔劉向〕「訊ㇾ獄ーニー其窮ニ」。
〔送窮〕困窮をおくりやる。○〔四時寶鑑〕「韓愈作ニーㇾー文ニ」。
〔餓窮〕食乏しく困窮なること。○〔漢〕「彼ーーー自降、不ㇾ過ニ數十日ニ決矣」。
〔推窮〕おしつめ知る。○〔北〕「有司宜ニ卽ーーニ」。
〔樂窮〕困窮に居るをもてたのしみとす。○〔列女傳〕「好ㇾ奢必ーㇾー」。
〔幽窮〕かくれしこめらる。○〔韓愈〕「ーー共誰語」。
〔研窮〕研鑽窮理す。○〔陳亮〕「ーニー義・理之精微ニ」。
〔聽窮〕困窮せる者の訟を裁判す。○〔石闕銘〕「或以ーㇾー省ㇾ寃」。

【窯】エウ。餘招切 蕭 窰に同じ、瓦を燒く竈。○〔吳澄〕「廝・烟起ニ蒸ーーニ」。

【窯】エウ。弋笑切 嘯 物を燒く穴、あな。

【窙】カウ、ケウ。丘交切 肴 ーー寥は、さびし。

【窰】窯に同じ、瓦をやくかまど。○〔范成大〕「風側瓦ーー烟」。

【⿱穴堯】ゼン、ヂン。而兗切 銑 なめしがは(柔皮)。

【⿱穴堯】シュン。子峻切 震 獵師のはく皮もゝひき。

【窱】テウ、デウ。徒弔切 嘯 テウ。土了切 篠 深く遠き貌にいふ字、ふかし、さほし、はるか。○〔張衡〕「望窈ーー以徑廷」。
〔窅窱〕深遠なる貌にいふ語。○〔馬第伯〕「石・壁ーー」。
〔杳窱〕前に同じ。○〔西都賦〕「又ーー而不ㇾ見ㇾ陽」。
〔窈窱〕ふかき貌にいふ語。○〔盧照隣〕「隱ニ重・廊且ーーニ」。
〔窱々〕前に同じ。○〔博雅〕「弘・々淵・々、ーー・ー窈々深也」。

【窴】古文の塡の字、みつ、ふさぐ、ふさがる。○〔漢〕「負ㇾ薪ーニ決・河ニ」。

【⿱穴貝】アン、エン。膺眼切 潸 ー赧は、せまる(迫・窄)。

【窴】テン。丁天切 先 顚に同じ。○〔穆天子傳〕「ー・軨之隥」。

【⿱穴冓】コウ、ク。居候切 宥 あな(穴)。

【⿱穴料】サウ、ゼウ。鋤交切 肴 レウ。力弔切 嘯 屋の幽深なる貌にいふ字、おくふかし。○〔王延壽〕「泓寥ーー以崢・嶸」。

【窳】ユ。以主切 麌 ㊀器に汙窊(くぼみ)生ずること、ゆがむこと、惡病(きず)あること。○〔史〕「器不ニ苦ーーニ」。㊁おこたる(惰)。○〔史〕「楚、越之地地勢饒ㇾ食、無ニ饑・饉之患ニ以ㇾ故呰ーー」。

㊂よわし(弱)。○[枚乘]「手足惰―」。

(苦窳) ゆがむこと、くぼむこと。○[史]「河濱器皆不―・―」。

(汙窳) 前に同じ。○[唐]「器不―・―」。

(合窳) 獸の名。○[山海經]「多山有獸焉、其狀如彘而人面、黄身而赤尾、名曰―・―」。

(窫窳) 前に同じ。○[山海經]「少咸之山有獸焉、其狀如牛而赤身、人面馬足、名曰―・―」。

(隆窳) さかんなると衰ふると。○[蜀]「道有―・―」。

(惰窳) おこたること。○[論衡]「―・―之人」。

(病窳) やみて弱し。○[蘇轍]「管恐―・―不中規模」。

【窳】 ユ。容朱切 虞

【窊】 ワ、エ。烏瓜切 麻 ㊀鄕の名。㊁愉に通じ作る、つかる。

窪、窊に同じ。

【⿱穴氣】 ヒ。匹寐切 寘 氣下り泄る、へをひる、又、其の氣、へ。

【⿱穴流】 リウ、ル。力救切 宥 あなぐら(窖)。

【⿱穴取】 キウ、ク。居祐切 宥 ㊀きはまる、きはむ(窮)。㊁ふかし(深)。㊂はかる(謀)。

【⿱穴匊】 キク、コク。居六切 屋 きはまる、きはむ(窮)。

【⿱穴豆】 エウ。烏皎切 篠 ㊀とほし(遠)。㊁かくろ(隱)。

【⿱穴⿰米未】 ビ、ミ。無沸切 未

一種の魚、いはな、谷川の岩穴に棲む、形鱒に似て小さきもの。○[山海經]「諸鉤山多二―魚一」。

【⿱穴員】 ウン。以忿切 吻 ㊀雲の起こり轉ずること。㊁いかづち、かみなり(雷)。

【⿱穴坌】 ヲン。烏本切 阮 すわる、ゐる(坐)。

【⿱穴軒】 ケン。火千切 先 穴の中。

【⿱穴怨】 エン、ヲン。於願切 願 まへたぐ(宛屈)。

【⿱穴叙】 サイ、ゼ。徂賄切 賄 ふさぐ(塞)。

【⿱穴恙】 エウ。餘招切 蕭 瓦を燒く窯、かまど。

【⿱穴畱】 リウ、ル。力救切 宥 あな(穴)。

【窴】 テン、デン。待年切 先 ふさぐ、ふさがる(塞)。

十一畫

【⿱穴堅】 ケン。牽典切 銑 動かざること、かたし。

【⿱穴曼】 バン、マン。謨官切 寒 穴の黑き貌にいふ字。

【⿱穴咨】 タツ、タチ。張滑切 黠 食物を口に入れて滿たす、ほゝばる。

【⿱穴𡖅】 タツ、タチ。張滑切　クワツ、ゲチ。乎刮切 黠

【⿱穴區】 ウ。邕倶切 虞 ㊀短き面、まるがほ。㊁うつくしきすがた(嬌姿)。

山にある穴。

【⿱穴啇】 タク、チヤク。陟格切 陌 兎の窟、あな。

【⿱穴參】 寥に同じ。

【⿱穴⿰豕瓜】 ⿰木⿰豕瓜に同じ。

【⿱穴鳥】 テウ。多嘯切 嘯　タウ、トウ。覩老切 皓 ふかし(深)。○[杜甫]「影動―窕冲融閒」。

【⿱穴淡】 タン、トン。他甘切 覃 監―は、薄くして大いなること、又、ひらたく薄きこと。

【⿱穴淡】 タン、トン。吐濫切 勘 監―は、深き穴。

【窶】 ク、コ。其矩切 麌 ㊀家に財なくして居に禮に中たる備へを爲す能はざるにいふ字、やつる、まづし。○[詩]「終―且貧」。㊁ちゞまりて小し。○[蔡邕]「僂―」。

(辭窶) まづしきわけをいひ立ててことわる。○[禮]「主人―以―」。

(貧窶) まづしくやつる。○[晉]「寔少―・―」。

(孤窶) みなしごにしてまづし。○[唐]「―且―」。

(羇窶) 他鄕にありて貧し。○[唐]「少―・―所レ向少レ諧」。

(困窶) くるしみやまづしきために艱苦す。○[文中子]「姚義―二於―一」。

(凋窶) 衰へまづし。○[唐]「海内―・―」。

(寒窶) まづし。○[唐]「家―・―」。

【窶】 ロウ、ル。郞侯切 尤　リヨ、ロ。良據切 御 甌―は、狹小にして傾きたる地。○[史]「甌―滿レ篝」。

【⿱穴聊】 レウ。連條切 蕭　力弔切 嘯 うがつ(穿)。

【⿱穴肅】 シヨウ、ジユ。常容切 冬 器病、きず。

【⿱穴悉】 シツ、シチ。息七切 質 ㊀穴より出づ、いづ。㊁安からざる聲にいふ字。○[李賀]「海-神山-鬼來二座-中一、紙-錢―窣鳴二颯-風一」。

【⿱穴牾】 ゴ、グ。牛故切 遇 かまど(竈)。○[倉頡]「楚人呼レ竈曰レ―」。

【窺】 キ。去隨切 支 ㊀竊かに見る、小しく視る、のぞく、うかゞふ。○[論]「―二見室-家之好一」。㊁跬に同じ、かたあしをあぐ、あぐ。○[漢]「雖レ有二武-籛精-兵一、未レ有下能―二左-足一而先應者上」。

(俯窺) うつぶきてのぞき見る。○[中說]「鳥獸之巢、可二―而―一」。

(窒窺) 徒にのぞき見る。○[鶡冠子]「籠中之鳥、―・―不レ出」。

〔籬窺〕まがきをのぞき見る。〇〔杜牧〕「━━脊·
謂女」。「━ニ前·經ニ。
〔恭窺〕つゝしみてうかゞひ見る。〇〔謝靈運〕「━
〔遍窺〕あまねくうかゞひ見る。〇〔揚炯〕、━━ニ靈·
跡ニ。「玉·板ニ。
〔詳窺〕つばらにうかゞひ見る。〇〔李嶠〕「━━ニ
〔躡窺〕履み行き見る。〇〔趙冬曦〕「巖·嶠共━━」。
〔伺窺〕うかゞひ見る。〇〔柳宗元〕「螺·形決·目潛
━·━兮」。「寫━·━」。
〔闇窺〕ひそかにのぞき見る。〇〔白居易〕「雲·香
〔近窺〕近より見る。〇〔梁裕水德賦〕「北━━
也、若ニ氷·鮮與ニ玉·潔ニ」。
〔潛窺〕みそかにのぞき見る。〇〔張仲素〕「往·跳レ
管而━━」。「水長」。
〔斜窺〕横さまにのぞきみる。〇〔向子諲〕「━━秋·
〔遐窺〕遙かにのぞき見る。〇〔閻伯璵〕「入レ澤━
━、喜ニ晴·天之遠曙ニ」。
〔爭窺〕競ひてのぞき見る。〇〔姚鵠〕「淺·淸━·━
孔室深」。「井·邑ニ」。
〔坐窺〕ゐながらのぞき見る。〇〔閻伯里〕「━━ニ
〔深窺〕奧ふかくのぞき見る。〇〔王禹偁〕「━━
鵜鳳姿」。「影動」。
〔倒窺〕さかしまにのぞき見る。〇〔林逋〕「━━踈·
〔縱窺〕思ひのまゝにのぞき見る。〇〔梅堯臣〕「倚レ
杖聊━━」。

【寖】シン。子朕切 寢
地の名。〇〔漢〕「汝·南·郡━·縣」。

【寖】シン。子鴆切 沁
㊀浸に同じ、いけ、はびこる、ひたす。〇〔漢〕「東·南曰ニ揚·州一、━曰ニ五·湖ニ」。㊁やうやく、やゝ(漸)。〇〔漢〕「其後━盛」。

【窻】俗の窗の字。

【窯】エウ。於昭切 蕭
瓦を燒く竈。

【𥨐】ビ、ミ。莫庇切 寘

いぬ、(寢)。

【寱】ゲイ、ガイ。魚際切 霽
ねごと(睡語)。

【𥦶】カウ。丘岡切 陽
屋閑かなり、むなし、しづか。

【邃】スヰ。雖遂切 寘
㊀きはまる(窮)。㊁深く遠し。

【𥩂】セイ、シヤウ。西青切 青
さとる(悟)。

【𥨼】ヒウ、フ。縛牟切 尤
吹く聲にいふ字。

【窹】ゴ、グ。吾故切 遇
かまど(竈)。

【窞】タン、ドン。徒感切 感
坎の中の小さきあな。

【窼】サウ、ゼウ。莊交切 肴
鳥の巢穴す。

【𥨸】キヨ、ゴ。彊魚切 魚
あな(穴)。

【𥨶】セツ、セチ。千結切 屑
私かに取る、ぬすむ。

【窱】テウ。他弔切 嘯
深く遠し。

【窱】テウ、デウ。徒聊切 嘯

はかる、ふかし(深·遠)。

十二畫

【𥨦】リウ、ル。力救切 宥
あな(穴)。

【𥨍】フク、ボク。房六切 屋
穴窟、むろ、あな。〇〔詩〕「陶━陶·穴」。

【𥩫】タウ、チヤウ。宅耕切 庚
屋の響きにいふ字。

【窾】クワン。苦管切 旱
㊀むなし(空)。〇〔史〕「實不レ中ニ其聲一者謂ニ之━ニ」。㊁かる(枯)。〇〔揚雄〕「━━枯木·丁、衝振ニ其枝ニ」。

【窾】クヮ。苦禾切 歌
あな、うろ、ほら(空)。〇〔淮〕「見ニ━━木浮レ水而知レ爲レ舟」。
〔匪窾〕かけのほら。〇〔韓愈〕「到ニ晝圭·角一出ニ━·━ニ。「交ニ玉·衡ニ」。
〔小窾〕ちひさなるあな。〇〔書、傳〕「爲ニ━·━一以
〔苓窾〕ほら。〇〔袁·楠〕「━━超ニ荒·埃ニ」。
〔虆窾〕あなをうがつこと。〇〔宋濂〕「━レ━塡レ金文
物·膠」。

【竄】サン。取亂切 翰
かくす、かくろ(匿)。

【𥧤】シウ、シユ。將由切 尤 シツ、シチ。子悉切 質
穴の中の鼠の聲にいふ字。

【𥩓】タン、ドン。徒感切 感
内に曲がる、まがる。〇〔揚雄〕「雷·椎欿━」。

【𥨲】ケツ、ケチ。呼決切 屑
窐き貌にも穿つ貌にもいふ字。

【𥩶】タウ、ヂヤウ。中莖切 庚
㊀闊大なる貌にいふ字、ひろし、おほいなり。㊁屋の響きにいふ字。㊂ゐぎぬ(晝·縉)。〇〔晉〕「東·海氣如ニ圓━ニ」。

【窿】リウ、リユ。力中切 東
天空のそりまがれる貌にいふ字。〇〔梁簡文帝〕「天·閣復穹━」。

【𥩽】ショウ、シユ。昌容切 冬
㊀むなし(空)。㊁さわぐ(躁)。㊂おこる、おこす(作)。

【𥩙】トウ、ツ。吐孔切 董
━籠は、くらし(闇)。

【竀】タウ、チヤウ。丑庚切 庚
㊀正しく視る、みる。㊁赤き色。〇〔左〕「衞·侯卜、其繇曰、如ニ魚━尾ニ」。㊂特に、二たび染めたる赤色。〇〔周、註〕「爾·雅曰、一染謂ニ之縓一、再染謂ニ之━一、三染謂ニ之纁ニ」。

【𥪃】テイ、チヤウ。丑貞切 庚
穴の中より正しく見ること。

【𥪂】テイ、チヤウ。丑正切 敬
廉視す、みる、志らぶ。

【竁】セイ、ゼイ。充芮切 霽 セン。尺絹切 霰 セツ、セチ。妹悅切 屑

㊀地を穿つ、あなほる。○〔周〕「卜二華兆一甫―」。㊁あな（窟）。○〔顏延之〕「月―來賓」。㊂小さき鼠の壁にいふ字。
〔冢窬〕 棺を埋むるつかあな。○〔南〕「先有二―一―」。
〔塡窬〕 つかあなをうづむ。○〔小爾〕「―レ―謂二之封一」。

【竁】 セイ、楚税切 霽 セン。昌緣切 先
前條の㊀に同じ。

【窷】 レウ。洛蕭切 蕭
㊀うがつ（穿）。㊁いへ（舍）。㊂あな、（空）。

【䆗】 シユン。子峻切 震
覺に同じ。

【𥧌】 コウ、ク。古孔切 董
㊀礦に同じ、けづる。㊁あな（穴）。

【𥨍】 ハン。普官切 寒
水洄る、めぐる、又、其の所、ふち。○〔莊〕「止水―爲レ淵」。

【窱】 テウ。他弔切 嘯 丁了切 篠
深き貌にいふ字。

【𥨊】
窾に同じ、あな。

【𥨎】 セイ、シヤウ。桑經切 青
大いに惺悟す、さとる。

【𥨩】
窺に同じ。

【𥨝】 クワ。苦禾切 歌
㊀あな（窟）。㊁巢。

十三畫

【竄】 サン。七亂切 翰
㊀逃匿す、のがる。○〔周〕「自―二于戎翟之閒一」。
㊁つゐ放に處す、死刑に處す、はなつ、ころす。○〔書〕「―二三苗于三危一」。
㊂かくる、かくす、藏隱す。○〔國〕「可二以―一レ惡」。
㊃ふすぶ（薰）。○〔史〕「―以レ藥」。○〔韓愈〕「漬レ墨―二古史一」。
㊄あらたむ（改）、かふ（易）。
㊅いへ、やれ（屋）。○〔廣東新語〕「增城謂レ屋爲レ―」。
〔逋竄〕 のがれかくる。○〔左〕「―二于晉一」。
〔鼠竄〕 前に同じ。○〔漢〕「常山王奉レ頭―・―」。
〔隱竄〕 前に同じ。○〔荀〕「天子出、庶人―・―」。
〔逃竄〕 前に同じ。○〔魏〕「瞬負義―・―之人耳」。
〔藏竄〕 前に同じ。○〔魏〕「流亡―・―」。
〔遯竄〕 前に同じ。○〔晉〕「野有二―・―之人一」。
〔潛竄〕 前に同じ。○〔梁〕「年十三而遭二家難一―・―」。
〔亡竄〕 前に同じ。○〔通典〕「―二―山澤一」。
〔點竄〕 文章などをあちこち改めかふること。○〔册府元龜〕「不レ如二―・―一」。
〔塗竄〕 文章などを抹殺す。○〔唐〕「―・―而牽還」。
〔走竄〕 はせのがるゝこと。○〔禮、註〕「象二鳥雀之―・―也」。
〔奔竄〕 前に同じ。○〔蜀〕「或―二―山谷一」。
〔閒竄〕 ひそかにのがる。○〔後漢〕「―・―歸レ家」。
〔縮竄〕 勢力なくのがる。○〔吳〕「今北虜―・―」。
〔鳥竄〕 とりの如くのがれさる。○〔吳〕「―二―荒裔一」。
〔遠竄〕 とほきところにのがる、又、とほざけはなつ。○〔王粲〕「―・―江漢邊一」。
〔改竄〕 文章などをつくりかふること。○〔晉〕「無レ所二―・―一」。
〔流竄〕 罪により遠地へはなたるゝこと。○〔册府元龜〕「管内多二―・―者子孫一」。
〔斥竄〕 前に同じ。○〔遼〕「―二―湧郡一」。

【竄】 サン。七丸切 寒
㊀穴に入る、いる、はいる。㊁人を惡に誘ふこと。

【竅】 ケウ。苦弔切 嘯
孔穴、あな。○〔周〕「以二九―之變一」。
〔鑿竅〕 あなをほりうがつ。○〔獨孤及〕「方―二―于夫子之墻一」。
〔孔竅〕 あなのこと。○〔韓〕「其―・―虛」。「灑レ之」。
〔穴竅〕 前に同じ。○〔宋〕「以二木盤一貯レ水、―・―」。
〔坦竅〕 かさのあな。○〔舊唐〕「皆厚爲二―・―一、騰二之複壁一」。「者一」。
〔竹竅〕 たけのあな。○〔宋〕「篪之制探二―・―一厚鈞」。
〔瑕竅〕 玉のきずとあなと。○〔蘇軾〕「固自絕二―・―一」。

【𥩟】 キヨ、ゴ。强魚切 魚
あな（穴）。

【𥩰】 ス井。七醉切 寘
ふさぐ、ふさがる（塞）。

十四畫

【䆾】 ラン、ロン。魯甘切 覃
窞―は、薄くして大いなること。

【𥩉】 ラン、ロン。盧瞰切 感
窞―は、平かならざること、又、深き穴。

【竆】
窮に同じ。

【𥩚】 ゲイ、ガイ。魚際切 霽
㊀ねごと（睡語）。㊁おどろく（驚）。

【𥩺】 キウ、グ。渠弓切 東
國の名。

【竃】 サウ、ソウ。則到切 號
竈に同じ、かまど。

【窰】 エウ。餘招切 蕭
陶（するもの）師の瓦を燒くこと。

十五畫

【竳】 タウ、チヤウ。猪孟切 敬
畫縉（ゑざぬ）を開き張る、はる。

【竊】
俗の竊の字。

【竇】 トウ、ヅ。田候切 宥
㊀あな。
（い）壁垣を穿ちたる小戶、くゞり。○〔左〕「王叔之宰曰、華門圭―之人」。
（ろ）地に穿ちたる穴のだゑん形をなせるもの。○〔禮〕「穿二―窖一」。
（は）孔穴、うろ。○〔禮〕「順二人情一之大―」。
（に）水道、みぞみち。○〔左〕「齊烏餘襲二我高魚一、有二大雨一、自二其―一入」。
㊁さく（決）。○〔國〕「不レ―レ澤」。「―二」。
㊂魯の地の名。○〔左〕「殺二子糾于生―」。
〔圭竇〕 門旁のくゞりの形圭の如きもの。○〔梁昭明太子〕「―・―狐潛」。
〔決竇〕 水門をさくる。○〔韓〕「澤居苦レ水者、買レ庸而―レ―」。
〔鑿竇〕 穴を穿つ。○〔淮〕「―レ―而出レ水」。
〔石竇〕 石の孔。○〔江總〕「風聽穿二―・―一」。
〔水竇〕 みぞのこと。○〔五〕「後二―・―一屬二破之一」。
〔塞竇〕 孔を閉づ。○〔宋〕「閉レ門―レ―」。
〔巖竇〕 岩あなのこと。○〔宋〕「棲二身―・―一」。「流」。
〔開竇〕 水門をあく。○〔張衡〕「其水則―レ―灑」

〔雲竇〕くもの湧き出づる穴。〇〔謝朓〕「杳・々―・―深」。
〔岩竇〕うろ。〇〔杜甫〕「竹竿拔二―・―一」。
〔虚竇〕空なる孔。〇〔樊晦〕「靈光分・曉出二―・―一而雙飛」。「―傾」。
〔幽竇〕ほづかに奥深き穴。〇〔韓愈〕「細泉―・―」。

【竇】トク、ドク。徒谷切　屋
瀆に同じ。〇〔周、註〕「四―五嶽」。

【竊】ジヨ、ニヨ。忍與切　語
いぬ、（寐）。

【竉】ジヨウ、ニユ。而容切　冬
毳飾、けおりのかざり。

【竨】クワク、キヤク。古獲切　陌
のぞく、（除）。

【竀】キク、コク。居六切　屋
きはむ、きはまる、（窮）。

十六畫

【竈】サウ、ソウ。則到切　號
炊煮の器を掛くるもの、其の中に火を焚きて炊煮す、かまど、くど。〇〔禮〕「孟夏祀レ―」。
〔祀竈〕かまどの神をまつること。〇〔後漢〕「故後常以二臘日一レ―而薦二黄羊一焉」。
〔祠竈〕前に同じ。〇〔史〕「―レ―則致レ物」。
〔夷竈〕かまどを平地とおなじくならすこと。〇〔左〕「塞レ井―レ―」。「―産レ鼃」。
〔沈竈〕水のなかにつかりたるかまど。〇〔國〕「―・―
〔媚竈〕權臣にへつらふ意。〇〔論〕「寧―二于―一」。
〔釜竈〕かまとかまどのこと。〇〔新序〕「使下之與二狸鼬一試中於―・―之閒上」。
〔竹竈〕鸜といふ鳥の異名。〇〔詩、疏〕「長頸赤喙、白身黑二尾翅一、一名二―・―一」。「―煙二」。
〔厨竈〕くりやのかまど。〇〔李白〕「―・―無二青・

〔野竈〕のはらにあるかまど。〇〔陸龜蒙〕「―・―烟初起」。「溟渤二」。
〔塵竈〕あまのたくかまど。〇〔梅堯臣〕「―・―煮二

【竉】レキ、リヤク。郞狄切　錫
うがつ、（穿）。

【竉】ロウ、ル。力董切　董
あな、（穴）。

【竆】キク、コク。居六切　屋
きはむ、きはまる、（窮）。

【竂】レウ。力喬切　蕭
㊀あな、（穴）。㊁うがつ、（穿）。

【竅】ケキ、キヤク。古歷切　錫
回りて阸し、せまし。

【竇】タク。闥各切　藥
うがつ、（穿）。

【竆】キク、コク。居六切　屋
きはむ、きはまる、（窮）。

【竃】スヰ。將遂切　寘
穴を塞ぐ、ふさぐ。

十七畫

【竊】セツ、セチ。千結切　屑
㊀ぬすむ。
（い）ひそかに取る、とる。〇〔左〕「―二寶・玉大・弓一」。
（ろ）わたくしに利す。〇〔論〕「臧・文・仲其―レ位者與」。「―狗・盜」。
㊁ぬすみする者、ぬすびと。〇〔史〕「鼠・
㊂ひそかに、わたくしに、（私）。〇〔論〕「―比二於我老・彭一」。
㊃あさし、（淺）。〇〔爾〕「虎―・毛謂二之虦・貓一」。
㊄鳥の名、いかるが。〇〔爾〕「桑・扈―・―名―脂」。
〔竊窺〕あきらかに見る。〇〔莊〕「―・―然知レ之」。
〔草竊〕追ひはぎをなす賊。〇〔唐〕「盧二道多二―・―一、命二御・史一詰レ盜」。
〔鼠竊〕小ぬすびと。〇〔史〕「此特羣・盜―・―狗・盜」。
〔狗竊〕前に同じ。〇〔魏〕「寧息二―・―之響一」。
〔攘竊〕ぬすみとること。〇〔書〕「今殷民乃―・―二神・祇之犧・牷・牲一」。
〔盜竊〕前に同じ。〇〔漢〕「上有二好レ利之臣一、則下有二―・―之民一」。
〔不竊〕盜みをなさぬ。〇〔論〕「雖レ賞レ之―レ―」。
〔據竊〕籠もりてぬすみ取る。〇〔創業起居註〕「羣・凶―・―、一鼓而崩」。
〔僭竊〕身の分を超えて爵位をぬすむ。〇〔埤雅〕「唯謹二杜滅―・―之萌一」。
〔貪竊〕慾深くしぬすむ。〇〔埤雅〕「雀物之淫者、鼠物之―・―者」。
〔叨竊〕みだりにぬすむ。〇〔顏眞卿〕「盡陳二其力一、―・―二其位一」。「退・鄙一」。
〔侵竊〕侵略して物を掠めとる。〇〔魏收〕「―二―
〔隱竊〕人に知られぬやうにしぬすむ。〇〔顏延之〕「―・―以成レ攀」。
〔濫竊〕みだりに盜み取る。〇〔梁武帝〕「―・―彌多」。
〔寇竊〕亂暴をなし盜みとる。〇〔牛弘〕「永・嘉之後、―・―難・號」。
〔竄竊〕かくれ逃れて盜みをなす。〇〔王延壽〕「擬二片・詞一增二―・―一」。

【竈】シ。息之切　支
㊀あな、（穴）。㊁水の厓、みづぎし。

十八畫

【竈】ケイ、ギヤウ。戶頂切　迥
老いて弱し。

十九畫

【竉】トウ、ツ。大紅切　東
風の聲にいふ字。

【竈】シ。息移切　支
あな、（穴）。

二十畫

【竉】タン、ドン。徒甘切　覃
衣帶をも解かずして寐ぬるを、まるね。

廿四畫

【竈】レイ、リヤウ。郞丁切　青
あな、（穴）。

立　部

【立】リフ。力入切　緝
㊀たつ。
（い）とどまる、とどむ、（住）。〇〔禮〕「―必正レ方」。
（ろ）おく、（置）。〇〔周〕「―二其監一」。
（は）なる、（成）。〇〔禮〕「而後禮・儀―」。
（に）竪にす。〇〔書〕「―二爾矛一」。
（ほ）おきあがる。〇〔左〕「家人―而啼」。「水皆―」。
（へ）起く、起こる。〇〔杜甫〕「四・海之所レ―」。
（と）見はる、見はす。〇〔淮〕「德無レ所レ―」。
（ち）作す。〇〔書〕「―レ愛惟親」。
（り）存す。〇〔戰〕「燕、秦不二兩―一」。
（ぬ）竦つ。〇〔後漢〕「角―傑・出」。
（る）堅く守る。〇〔論〕「三・十而―」。
（を）當たる、蒞む。〇〔史〕「明・主―レ政」。「―一」。
（わ）位に卽く。〇〔左〕「未レ知二其誰

㊂速かに、たちどころに。○[史]「錐之處二囊中一其末ー見」。
㊃粒に通じ用ふ。○[詩]「ーニ我烝ー民二。

(獨立) 他の補助をからぎしてをる。○[易]「君子以ーー不ㇾ懼」。
(特立) 前に同じ。○[禮]「其ーー有ㇾ如ㇾ此者二。
(正立) かたよるとなくたちをること。○[禮]「ーー拱ㇾ手」。
(山立) 山岳の如くにそばだちあり。○[郭璞]「百・僚ーー」。
(中立) 偏倚することなくたちあること。○[禮]「ーー而不ㇾ倚」。
(鼎立) 正しく立ちて自ら定まれる貌にいふ語。○[儀]「婦ーニーー于席西二。
(兩立) 雙方共に滅びずたちあること。○[戰]「燕、秦不ニーー二。
(却立) あとじさり立つ。○[史]「因持ㇾ璧ーー、怒・髮上衝ㇾ冠」。
(名立) 名譽のあがること。○[史]「功成ーー而利附焉」。
(樹立) 固く立つこと。○[魏、註]「以ㇾ此深奇ㇾ之、而ーー之意定」。
(孤立) 輔けなくてあり。○[後漢]「並ーー無ㇾ黨」。
(子立) 前に同じ。○[後漢]「蘇子單・特ーー」。
(介立) 前に同じ。○[夏侯湛]「似ニ孤・臣之ーー二。
(隻立) 前に同じ。○[蜀]「單・煢ーー」。
(壁立) 牆壁の如くに立ちてあること。○[吳]「四面ーー」。
(鼎立) かなへの足の如くに三方に住しあること。○[蜀、註]「天下ーー」。
(骨立) 瘦せ衰へて骨ばかりになりたること。○[後漢]「哀・毀ーー」。
(成立) 成就すること。○[後漢]「猶恐ㇾ無ㇾ所ニーー二。
(侍立) 傍にはべりて立ちたること。○[蜀]「皆執ㇾ刀ーー」。
(傑立) 拔き出でてたちあること。○[陸游]「ーー插ニ雲・間二。
(海立) 海の波の涌きあがること。○[蘇軾]「天・外黑・風吹ーー」。
(羅立) ならび立つ。○[杜甫]「諸・峯ーー似ニ兒・孫二。
(直立) すぐに立つ。○[金]「挺・然ーー」。
(佇立) たゞずみたつこと。○[詩]「瞻・望不ㇾ及、ーー以泣」。
(共立) 相ともにをること。○[詩、疏]「逐得賢・者ニ、ーーニ於朝二。
(始立) 初めて其の位にあること。○[詩序、疏]「宣・王ーー」。
(羣立) 衆人と共に群をなしてをること。○[禮]「三・年之喪、纍不ニーー一、不ニ旅・行二。
(久立) 長きが間たつ。○[白居易]「感ニ我此言一良ーー」。
(功立) 功業成就す。○[論衡]「本不ㇾ求ㇾ功、故其ーー」。
(起立) おこしたつ、おこりたつ。○[指月錄]「見ニ代宗來ーー」。
(新立) 始めて位に即く。○[左、疏]「魯公ーー、鄰・國及ㇾ時來朝」。
(並立) 共に成就す。○[晉]「功名不ニーー二。
(兼立) 前に同じ。○[後漢]「功名ーー」。
(竪立) 立つ。○[博、疏]「草木皆自ーー」。
(會立) 集まり立つ、あつめたつ。○[史]「三・公九・卿嘉ーー」。
(攢立) 集まり立つ。○[史]「ーー叢倚」。
(遲立) たつ。○[魏、註]「好作ニ政・敎一、以ーニーー名・譽二。
(峙立) そばたつ。○[吳、註]「吳、魏ーー」。
(制立) こしらへ設くること。○[晉]「猶未ㇾ有ㇾ所ニーー二。
(扶立) 介抱し立つること。○[晉]「兩・人夾・ー以ー」。
(造立) 遺作すること、○[南]「ーニーー第・舍二。
(創立) はじめこしらふ。○[南]「軍・國器・械、多ㇾ所ニーー二。
(挺立) 擢でてあること。○[南]ニ孝・嗣幼而ーー」。
(存立) 生存しなりたつ。○[北]「使ニ孥弱孤・孤、得ニーー二。
(端立) 正しく立ちあること。○[宋]「ーー不ㇾ動」。
(私立) 公ならぬこしらへ設く。○[宋]「ーーニ文・法二。
(威立) 威光の行はるゝこと。○[宋]「劈成ーー」。
(峭立) そばたちあり。○[謝都判]「雙・崖ーー幾・千仞」。
(竦立) そばたつこと。○[王彬之]「丹・崖ーー、葩・藻映ㇾ林」。

【立】 并。于貴切 末
位に同じ。○[石經春秋]「公即ㇾ位作ニ公即ㇾ立一」。

一畫

【辛】 ケン。丘虔切 先
愆に作る、つみ、とが、あやまち。

二畫

【竌】 ショ、ソ。昌御切 御
たゞし(正)。

【竏】 ゲン、ゴン。虞遠切・阮
よる(倚)。

三畫

【𥩟】 竢に同じ。

【竎】 フウ、フ。方又切 有
のぼる(登)。

【竞】 竞に同じ。

四畫

【𥩲】 ヘツ、ボチ。房越切 月
たゞずむ(竚)。

【𥩿】 ハ、ヘ。匹馬切 馬
短き貌にいふ字。

【竑】 クワウ、ギヤウ。戸萌切 庚　コウ。古弘切 蒸
ひろし(廣)、又、はかる(量・度)。○[周]「故ーニ其輻廣一以爲ニ之弱一、則雖ㇾ有ニ重・任一轂不ㇾ折」。

五畫

【竘】 ク。丘羽切 麌
すこやか(健)、又、たくみ(匠)。○[逸周書]「有ニーー匠二。

【竘】 コウ、ク。丘垢切 宥
㊀たくみ(巧)。㊁貌を治む、かざる。

【𥪕】 竘に同じ、たみ、ゐなかうど。

【竛】 レイ、リヤウ。郎丁切 青
ーー竮は、行くに正しからざること。

【𥪇】 エツ、ヂチ。王伐切 月
たゞずむ(竚・立)。

【𥪰】 クワイ、ゲ。胡卦切 卦
たな(庋)。

【𥪉】 シヤク、サク。七雀切 藥
おそる、おづ(恐・懼)。

【竚】 チユ、ヂユ。直庾切 麌　直句切 遇
まつ(竢)、又、とゞまる(止)。

【竜】 リヨウ、リユ。盧容切 冬
㊀龍の古字。㊁たつ、おこる(起)。

【竝】 ヘイ、ビヤウ。蒲迴切 迥
㊀偕に、みな、ならびに。○[書]「以ー受ニ此丕・丕基二
㊁倂比す、あふ、ならぶ。○[禮]「參ニ於天・地一、ーニ於鬼・神二
(相竝) ともにならぶ。○[禮、疏]「當ニ以ㇾ類ーー二。
(比竝) ならぶこと。○[顏況]「可ㇾ憐無ーー」。

【𥪂】 ハウ、バウ。蒲浪切 漾
ならぶ。
(い)ちかづく(近)。○[晉]「散・騎ーニ乘・輿車二。
(ろ)つらなる(連)。○[史]「ーニ南・山二。

【竝】ハン、バン。部滿切 〔旱〕
縣の名、牂柯郡の屬縣。

【⿰立可】カイ、ケ。口駭切 〔蟹〕
䇌―は、人のたけ短かきこと。

【⿰立尼】デイ、ナイ。年題切 〔齊〕
ごろ、(水-土)。

六畫

【竟】ケイ、キヤウ。居慶切 〔敬〕
㊀きはむ、きはまる、(極)。○〔漢〕「故不レ竟―」。
㊁をふ、をはる、(終)。○〔史〕「哉―兩家常折レ劵棄レ責」。
㊂をはりには、きはには、つひに。○〔史〕「籍大喜略知二其意一、又不二肯―學一」。
〔究竟〕きはまる。○〔後漢〕「上下―・―」。
〔終竟〕をはる。○〔後漢〕「言己不レ得レ―二―于子道一」。
〔窮竟〕きはめつくす。○〔史〕「―二―其事一」。

【竞】ケイ、キヤウ。擧影切 〔梗〕
境に同じ、さかひ。○〔禮〕「入レ―而問レ禁」。

【⿰立戈】
哉に同じ。

【⿰立亥】カイ、ガイ。下改切 〔駭〕
㊀竪―は、神に事ふる人、神人、一說に、神の名。㊁たつ、(起)。

【章】シヤウ、サウ。諸良切 〔陽〕
㊀あきらか、(明)。○〔易〕「品物咸―」。
㊁あらはす、(表)。○〔張衡〕「―二后皇之爲レ貴」。
㊂あらはる、(露)。○〔素問〕「反論自―」。
㊃あや。
(い)文采、いろどり、もやう。○〔書〕「五服五―哉」。
(ろ)文飾、かざり。○〔詩〕「維其有レ―矣」。○
㊄文詞の一段落、かぎり、をはり。○〔詩、疏〕「詩有二―句一」。
㊅文詞。○〔魏〕「下レ筆爲レ―」。
㊆文書。○〔獨斷〕「凡羣臣書通二於天子一者四、曰―、曰奏、曰表、曰駮議」。
㊇形狀、かたち。○〔呂氏春秋〕「合而爲レ―」。
㊈できあがりたる事物。○〔孟〕「不レ成レ―不レ達」。
㊉表識、しるし。○〔國〕「變二前之大―一」。
⑪印款、おしで。○〔漢官儀〕「刻曰二某官之―一」。
⑫科條、くだり。○〔史〕「約二法三―一」。
⑬法程、のり。○〔國〕「將下以講レ事成上―」。
⑭區別、わかち。○〔家語〕「上下有レ―」。
⑮大いなる材木。○〔史〕「千―之材」。
⑯いたゞきの平かなる山。○〔爾、疏〕「山形上平者名レ―」。
⑰樟に同じ、くすのき。○〔司馬相如〕「楩柟豫―」。
⑱獐に同じ、のろ。○〔周〕「山以―」。
⑲しうと、(舅)。○〔釋名〕「俗或謂レ舅爲レ―」。
〔含章〕かざりを內に貯へもつこと。○〔易〕「―レ―可レ貞」。
〔成章〕(い)いろどりの組みあはせをこしらへなす。○〔易〕「故六位而―レ―」。(ろ)文章をこしらへなす。○〔魏〕「言出而爲レ論、下レ筆―レ―」。
〔舊章〕古來よりののり。○〔詩〕「不レ愆不レ忘、率二由―・―一」。
〔報章〕かへしぶみ。○〔謝朓〕「方含レ奢而―・―」。
〔表章〕あらはし明かにす。○〔漢〕「罷二黜百家一、―二―六經一」。
〔有章〕文飾のあること。○〔詩〕「出レ言―レ―」。
〔總章〕大寢の西堂の南がは。○〔禮〕「孟秋之月、天子居二―・―左个一」。
〔龍章〕龍の模樣。○〔禮〕「旂十有二旒、―・―而設二日月一以象レ天也」。
〔憲章〕法則。○〔禮〕「仲尼祖二述堯舜一、―二―文武一」。
〔身章〕からだの飾り。○〔陸游〕「漢雲野客作二―・―一」。
〔飛章〕ふみを急ぎつかはす。○〔後漢〕「程璜使二人―レ―言レ邕」。
〔主章〕法律の條文を掌る。○〔後漢〕「到二京師一路二―レ―吏一」。
〔寵章〕優遇をなし表すること。○〔王銘〕「―・―爰降」。
〔雕章〕ゑりかざりたる文章。○〔晉〕「愛藻在二乎―・―一」。
〔銀章〕白がねもて作りたる表章。○〔李白〕「五十佩二―・―一」。
〔天章〕天文。○〔馬祖常〕「迴同二雲漢一見二―・―一」。
〔抗章〕表疏を奉る。○〔倦遊錄〕「―レ―乞二致仕一」。
〔知章〕あきらかなることを辨へしる。○〔潘岳〕「克岐克嶷、―レ―知レ微」。
〔雅章〕音樂の篇章。○〔儲光羲〕「勞二君奏一―・―」。
〔文章〕(い)文字を組み立てゝ志思を發表するもの。○〔漢〕「―・―則司馬遷相如」。(ろ)あやもやう。○〔史〕「刻二鏤―・―一、所二以養一レ目也」。(は)のり。○〔禮〕「近二―・―一」。
〔旗章〕はたの模樣。○〔國〕「爲二車服―・―一以旌レ之」。
〔日章〕日にまし明瞭になる。○〔禮〕「君子之道、闇然而―・―」。
〔明章〕あきらかに表章すること。○〔晉〕「聽二天下之內治一、―二―婦順一」。
〔采章〕色どりのある飾り。○〔禮〕「群臣乃服二―・―一、貪虞已質」。
〔服章〕衣服の飾り。○〔後漢、註〕「漢明帝備二其―・―」。
〔名章〕名譽世に發揚す。○〔左〕「或欲レ蓋而―・―」。
〔上章〕表文をさゝぐ。○〔韓愈〕「―レ―請レ討、俟レ命超坐」。
〔拜章〕官職を仰せつけられたるにつきこの上表文のこと。○〔南〕「自製二―・―一、便有二文采一」。
〔徽章〕しるしのこと。○〔國〕「爲レ變二其―・―一、以雜二秦軍一」。
〔滋章〕ますますあきらかになること。○〔史〕「法令―・―、盜賊多有」。
〔宣章〕あきらかなる貌にいふ語。○〔史〕「此其―・―尤異者也」。
〔宜章〕のべあきらかにす。○〔漢〕「宣下―二―盛德一以示中天下上」。
〔朝章〕朝廷の規則。○〔後漢〕「明二習―・―一」。
〔辭章〕文詞詩賦のこと。○〔後漢〕「好二―・―一、敗術天文、妙操二音律一」。
〔顯章〕あらはる、あらはす。○〔韋昭〕「―二―功名一」。
〔周章〕あわてうろたふ。○〔魏〕「賊―・―方結レ陣、不レ得レ還レ船」。
〔篇章〕文詞のこと。○〔北〕「性愛二―・―一」。
〔典章〕規則のこと。○〔隋〕「成二一代之―・―一」。
〔尋章〕一章一句の意味をまでも細かく探したづぬること。○〔李賀〕「―レ―摘レ句老雕蟲」。
〔奏章〕君上に上奏する表文のこと。○〔歐陽修〕「旣披二―・―一、宜レ示二褒異一」。
〔印章〕おして、しるし。○〔周、註〕「璽節―・―」。

【章】シヤウ、サウ。之亮切 〔漾〕
障に同じ。○〔禮〕「四面有レ―」。

【⿰立寺】
待に同じ。

七畫

【⿰立孛】ホツ、ホチ。普沒切 〔月〕
物を接ふる聲にいふ字。

【⿱亡立】
望に同じ。

【竢】シ、ジ。牀史切 〔紙〕
まつ、(待)。○〔漢〕「―二罪長沙一」。

【⿰立甫】ホ。奔模切 〔虞〕
物の端、はし。

【⿰立肖】セウ。七肖切 〔嘯〕
立つ貌にいふ字。

【竣】シユン。七倫切 〔眞〕 セン。逡緣切 〔先〕
㊀とゞまる、(止)、をふ、(畢)、しりぞく、

（退）、うづくまる、（踞）、あらたむ、（改）。○〔國〕「有司已ㇾ事而―」。

㊁伏す貌にいふ字。

【竑】クヮウ、ギヤウ。胡萌切　庚

はかる、（度・量）。

【童】トウ、ヅ。徒東切　東

㊀十歳前後の男女兒の稱、わらべ、わらはべ、こども。○〔詩〕「――子佩ㇾ觿」。

㊁罪ありて奴婢となるもの、めしつかひ。○〔漢〕「―手指千」。

㊂牛羊の角なきもの。○〔易〕「――牛之牿」。

㊃草木無きこと。○〔荀〕「山不ㇾ―而百姓有ニ餘材一」。

㊄盛んなる貌にいふ字。○〔蜀〕「桑樹――如ニ小車蓋一」。

㊅同に借り用ふ。○〔列〕「狀與ㇾ我―者、近而愛ㇾ之」。

〔頑童〕義理のわきまへなきわらはべ。○〔書〕「比ニ――」。

〔狡童〕惡智慧あるわらはべ。○〔詩〕「不ㇾ見ニ子充一、乃見ニ――」。

〔狂童〕ものくるはしきわらはべ。○〔詩〕「――之狂也」。

〔小童〕夫人の己れを卑下していふ語。○〔論〕「夫人自稱曰ニ――」。

〔成童〕八歳以上のわらはべ。○〔禮〕「――舞ㇾ象」。

〔聖童〕すぐれたるわらはべ。○〔後漢〕「張湛少時號ニ――」。

〔齔童〕齒の拔けかはることども、卽ち七八歳の頃のこと。○〔東觀漢記〕「――時介然特立、不ㇾ隨ニ於世一」。

〔奇童〕すぐれたることども。○〔唐〕「因賀ㇾ得ニ――」。

〔孝童〕父母によく事ふるわらは。○〔唐〕「時號爲ニ――」。

〔神童〕才智のすぐれて神明の如くにすぐれたることども。○〔李昉〕「七歳――古所ㇾ難」。

〔青童〕仙人。○〔李白〕「倚ㇾ樹招ニ――」。

〔宛童〕やどり草。○〔本草〕「寄生草一名――」。

〔海童〕わたつみ。○〔木華海賦〕「――邀ㇾ路」。

〔舞童〕舞をよくするもの。○〔鮑照〕「――心駐」。

〔牧童〕牧畜をわざとするわらは。○〔孟浩然〕「荷ㇾ鋤偕ニ――」。

〔僮童〕わらはのこと。○〔曹植〕「僮僕――」。

〔野童〕村里のこども。○〔杜甫〕「使府――香」。

〔林童〕前に同じ。○〔杜甫〕「拾ㇾ穗許ニ――」。

〔仙童〕わらはのやまびと。○〔杜甫〕「虛ㇾ室使ニ――」。

〔樵童〕木をこることをなりはひとするわらはべ。○〔杜甫〕「斤斧任ニ――」。

〔奚童〕こども。○〔蘇軾〕「――謁ニ君實一」。

〔歌童〕うたうたふわらはべ。○〔韓愈〕「似ㇾ妬ニ――作ニ艷聲一」。

〔學童〕まなびの道に志すわらはべ。○〔漢〕「漢興太史試ニ――」。

〔結童〕髮の毛をゆふ頃のわらは。○〔後漢〕「――入學、白首空歸」。

〔義童〕義勇あるわらは。○〔後漢〕「盜帥曰、此――也、辭謝而去」。

〔凡童〕つねのわらは。○〔南〕「哀毀有ㇾ異ニ於――」。

〔狀童〕狀貌のわらはの如くあること。○〔列〕「智不ニ必童一而――」。

〔幼童〕をさなきはらは。○〔蔡邕〕「叔父親ㇾ之、猶若ニ――」。

〔浴童〕水をあぶるわらはべ。○〔劉孝威〕「――爭ニ淺岸一」。

〔津童〕舟渡しをわざとするわらはべ。○〔張說〕「――夜櫂ㇾ舟」。

〔嬌童〕うるはしきわらはべ。○〔儲光羲〕「――攜ニ錦纈一」。

〔巷童〕市中のこども。○〔梅堯臣〕「倦ㇾ聽――謠」。

〔蕘童〕草刈りをなすわらはべ。○〔洪适〕「――牧豎」。

〔蠻童〕えみしのわらは。○〔梅堯臣〕「三尺――一髻旋」。

【[illegible]】ショウ、シユ。諸容切　冬

地の名。○〔公羊〕「公會ニ宋公于夫――」。

【竦】ショウ、シユ。荀勇切　腫

㊀つゝしむ、（敬）。○〔漢〕「寡人將ニ――意而覽一焉」。

㊁おそる、（懼）。○〔詩〕「不ㇾ戁不ㇾ―」。

㊂あぐ、（上）。○〔國〕「―ㇾ善抑ㇾ惡」。

㊃うごく、（動）。○〔劉峻〕「神飛魂―」。

㊄志たがふ、（從）。○〔釋名〕「―從也、體皮皆―引也」。

㊅聳に同じ。

（い）相觀る、みる。○〔揚雄〕「整ㇾ輿―ㇾ戎」。

（ろ）そびやかす、そびゆ、そばだつ。○〔潛命論〕「亭々――不ㇾ雜ニ風塵一」。

〔翹竦〕たかくたつ。○〔南、疏〕「枝皆――」。

〔驚竦〕おどろきて心うごきおそる。○〔後漢〕「郡內――」。

〔悚竦〕十分におそる。○〔吳〕「觀者――」。

〔戰竦〕身をふるはせおそる。○〔韓〕「――而却」。

〔峻竦〕たかく聳ゆ。○〔水經、註〕「――層雲」。

〔高竦〕前に同じ。○〔水經、註〕「建白樓甚――」。

〔齊竦〕均しく聳ゆること。○〔水經、註〕「雙峙――」。

〔孤竦〕ひとりたちてたかきこと。○〔水經、註〕「高峯――」。

〔直竦〕まがらずしてすぐにたつ。○〔江隣幾雜志〕「而介士――」。「橘樹――」。

〔奮竦〕ふるひうごく。○〔四子講德論〕「抱鼓鐸々――」。

〔祇竦〕つゝしみおそる。○〔陸機〕「拜受――」。

〔崇竦〕たかく聳ゆること。○〔謝靈運〕「凌ニ岡上一而――」。

〔森竦〕樹木などのしげりてたかきこと。○〔隋煬帝〕「――蔽ㇾ林」。

〔恐竦〕おそる。○〔溫庭筠〕「兒熊增ニ――」。

【竮】ヘイ、ヒヤウ。滂丁切　青

つかふ、（使）。

【[illegible]】シユク、ソク。初六切　屋

㊀齊謹す、つゝしむ。㊁ひとし、（等）。

【[illegible]】

躐に同じ。

【[illegible]】レフ。力協切　葉

―・竦は、行くに正しからざること。

【[illegible]】セイ、ジヤウ。從性切　敬

シン、ソン。支禁切　沁

人の名、

【[illegible]】シン、ソン。仄謹切　吻

身の端しきにいふ字。

【[illegible]】シユ、ス。詢趨切　虞

まつ、（竢）。

八畫

【[illegible]】シヤク、ザク。在爵切　藥

驚く貌にいふ字。

【[illegible]】セキ、シヤク。七迹切　陌

㊀つゝしむ、（敬）。㊁おそる、（竦）。

【[illegible]】クヮイ、ケ。苦猥切　賄

獨り立つ貌にいふ字。

【[illegible]】フク、ボク。房六切　ロク。盧谷切　屋

ビツ、ミチ。莫筆切　質

鬼の見はるゝにいふ字。

【[illegible]】テウ、デウ。徒弔切　嘯

高く危き貌にいふ字。

【竩】古の誼の字。

【[illegible]】テン。他點切　琰

うやうやし、（恭）。

【[illegible]】タイ、テ。都罪切　賄

㊀重なり聚まる、かさなる。

㊁木の實の垂るゝ貌にいふ字。

【竪】 俗の豎の字、わらは。〇〔史〕「沛-公罵曰、ー-儒」。

【竫】 セイ、ジヤウ。疾郢切 梗
㊀えらぶ(撰)。〇〔公羊〕「惟諓-々善ーレ言」。
㊁しづか(靜)。〇〔後漢〕「ー-潛二思于至-頤一」。
㊂小人の名、ちひさきひと。〇〔列〕「ー-人長九-寸」。

【𥪂】 リ。力至切 寘 ルヰ。力遂切 寘
リフ。力入切 緝
㊀のぞむ(臨)。㊁したがふ(從)。
㊂さほる(疏)。

【𥪡】 ワ。烏臥切 箇
ー-嬴は、弱く立てる貌にいふ語。

【竨】 ハ、傍下切 馬 ハイ、部買切 蟹
短人の立てる貌にいふ字、ひくし。

【䇑】 ヒ。普支切 支
行くに正しからざるにいふ字。

【𥪙】 竨に同じ。

【𥪰】 シユ、ス。遵須切 虞
佝-ーは、つかる(羸)。

九畫

【竵】 ク。丘圭切 齊
たつ(立)。

【䇖】 チン。知林切 侵
坐立して移らざる貌にいふ字。

【𥪻】 シユ、ス。詢趨切 虞
立ちて待つ、まつ。

【竭】 ケツ、ゲチ。巨列切 屑
㊀つくす、つく(盡)。〇〔禮〕「君-子不レ盡二人之歡一、不レー二人之忠一」。
㊁負ひ擧ぐ、おひあぐ、あぐ。〇〔禮〕「五-行之動迭相ー也」。
㊂やぶる(敗)。〇〔左〕「曹-劌曰、一鼓作レ氣、再而衰、三而ー」。
〔力竭〕 ちからきはまる。〇〔左〕「師勞ー-ー」。
〔衰竭〕 おとろへつく。〇〔漢〕「血氣ー-ー」。
〔乾竭〕 かわきつく。〇〔左、註〕「外雖レ有二彊-形一、而內-實ー-ー」。
〔匱竭〕 むなしくつく。〇〔國〕「官不レ易レ方、而財不二ー-ー一」。
〔盡竭〕 前に同じ。〇〔後漢〕「百-姓ー-ー」。
〔空竭〕 前に同じ。〇〔荀悅〕「百-姓ー-ー」。
〔殫竭〕 つく、つくす。〇〔晉〕「儲-用ー-ー」。
〔極竭〕 前に同じ。〇〔漢〕「ー二ー-翠々之思一」。
〔罄竭〕 つく。〇〔晉〕「公-私ー-ー」。
〔傾竭〕 前に同じ。〇〔南〕「ー二ー財-產一以事二時-要一」。
〔屈竭〕 くるしみきはまる。〇〔漢〕「賦-斂玆重而百-姓ー-ー」。
〔困竭〕 前に同じ。〇〔後漢〕「官-民ー-ー」。
〔窮竭〕 前に同じ。〇〔晉〕「臣-僕者ー-ー而不レ足」。
〔枯竭〕 かれつく。〇〔南〕「血-脉ー-ー」。
〔耗竭〕 物へりつく。〇〔水經、註〕「畦-水ー-ー」。
〔疲竭〕 つかれきはまること、つからしつくす。〇〔通賢〕「民-力愈ー-ー」。
〔貧竭〕 まづしくして資產乏し。〇〔白居易〕「亦不二甚ー-ー一」。

【竮】 ヘイ、ビヤウ。滂丁切 青
竛-ーは、行くに正しからざること。

【𥪶】 フク、ホク。房六切 屋
よこしま(邪)。

【端】 タン。多官切 寒
㊀なほし(直)、たゞし(正)。〇〔禮〕「目-容ー」。
㊁なほす、たゞす。〇〔禮〕「振二書ー一書于君前一」。
㊂はし、こぐち。
(い)萠兆、きざし。〇〔孟〕「惻-隱之心仁之ー也」。
(ろ)首始、はじめ。〇〔禮〕「五-行之ー」。
(は)際末、きは、さき。〇〔淮〕「運-轉無レー」。
㊃くち。
(い)こぐち、はし、㊂に同じ。
(ろ)いとぐち(緖)。〇〔揚雄〕「緖南-楚或曰レー」。
(は)しな(等)。〇〔漢〕「吏-道雜而多ー」。
㊄つまびらか(審)。〇〔戰〕「郄-疵對二智-伯一曰、韓、魏之君視レ疵ー而趨疾」。
㊅もつぱら(專)。〇〔戰〕「敢ー二其願一」。
㊆布帛一丈八尺の長さの稱。〇〔晉〕「有二練數-千ー-ー一」。
㊇周代の朝服、玄色にして襦裳あるもの。〇〔穀梁〕「桓-公委レー搢レ笏」。
〔兩端〕 兩方のこぐち。〇〔禮〕「執二其ー-ー一、用二其中于民一」。
〔更端〕 こぐちを變改す。〇〔禮〕「君-子問ーレー、則起而對」。
〔玄端〕 色赤黑くして正幅を制して殺ぎたる所なき服のこと。〇〔禮〕「ー-ー而朝」。
〔序端〕 東西の廂のはし。〇〔儀〕「主-人坐奠二爵于ー-ー一」。
〔履端〕 正月元日のこと。〇〔晉〕「ー-ー元-日正-始之初」。
〔爭端〕 爭ひをおこすこぐち。〇〔左〕「民知二ー-ー一」。
〔釁端〕 前に同じ。〇〔胡傳〕「啓二ー-ー一而鬩レ之」。
〔異端〕 聖人の道に異なりたる道。〇〔論〕「攻二乎ー-ー斯害也已」。
〔四端〕 仁義禮智のこぐち。〇〔孟〕「人之有二是ー-ー也、猶三其有二四-體一」。
〔百端〕 くさぐさなること。〇〔史〕「悉延二ー-ー之學一、「之ー-ー」。
道二一使之士一」。
〔無端〕 こぐちのなきこと。〇〔史〕「奇-正相生、如二環ー-ー一」。
〔筆端〕 ふでのさき。〇〔蘇軾〕「妙-解寄二ー-ー一」。
〔毫端〕 前に同じ。〇〔韓愈〕「一-塵集二ー-ー一」。
〔匿端〕 こぐちを人に知られざるやうにす。〇〔鬼谷子〕「ーレー隱レ貌逃レ情」。
〔鋒端〕 ほこのさき。〇〔徐悱〕「報-効乃ー-ー」。
〔舌端〕 したのさき、卽ち辯舌のこと。〇〔鮑照〕「兩-說窮二ー-ー一」。
〔辯端〕 つばらに調べ正すこと。〇〔禮〕「ー二ー-經-術一」。
〔探端〕 事のはしをさがし求む、はじめ。〇〔禮、疏〕「ーレー知レ緖」。
〔視端〕 目見ること正し。〇〔宋〕「波自レ幼行直ー-ー」。
〔平端〕 たひらかにして正しくあり。〇〔柳宗元〕「外-隅ー-ー」。
〔侈端〕 驕奢のいとぐち。〇〔唐〕「寖啓二ー-ー一」。
〔發端〕 事のこぐちを開きはじむ、又、はじめ。〇〔宋〕「ーレー寫レ難」。
〔開端〕 前に同じ。〇〔韓愈〕「ーレー要レ驚レ人」。
〔吏端〕 官吏の處置正しきを得。〇〔孔融〕「ー-ー刑清」。
〔下端〕 したの方のさき。〇〔蔡邕〕「垂二ー-ー一」。
〔興端〕 はしを盛んにしおこす。〇〔陸機〕「滯-思叩而ーレー」。
〔憂端〕 物思ひのはし。〇〔魏觀〕「徐-々散二ー-ー一」。
〔萬端〕 事の多きにいふ語。〇〔晉〕「千-緖ー-ー、罔レ有二遺-漏一」。

【竱】 セン。尺兗切 銑
喘に同じ。〇〔荀〕「ー而言」。

【端】 ベン、メン。美辨切 銑
冕に同じ、周代大夫以上の冠、かんむり。〇〔禮〕「諸-侯玄-ー而祭」。

【𥫃】 シユ、ズ。常注切 遇
たつ(立)。

十畫

【⿰立芻】シュ、ス。詢趨切 虞 立ちて待つ、まつ。

【⿰立奚】ケイ、ガイ。戸禮切 薺 徯に同じ、まつ。

【⿰立眞】テン、デン。亭年切 先 ふさぐ、ふさがる（塞）。

十一畫

【⿱臤立】カイ、ケ。居拜切 卦 きはむ（極）。

【⿰立屛】竮に同じ。

【竱】セン。主兗切 銑 テン。株戀切 霰 タン。都玩切 翰 多官切 寒 ひさし、ひさしくす（等）。〇〔國〕「―レ本肇レ末」。

十二畫

【竲】ショウ、ジョウ。慈陵切 蒸 高き貌にいふ字。

【⿰立曾】橧に同じ。

【竳】トウ。都騰切 蒸 立てる貌にいふ字。

【⿰立堯】ゲウ。倪弔切 嘯 ㊀高く危きにいふ字。㊁くはだつ（企）。㊂まつ（候）。

【竴】シュン。七倫切 眞 よろこぶ（喜）。

【⿰立須】シュ、ス。詢趨切 虞 まつ（待）。〇〔古文、詩〕「卬―二我友一」。

【竸】競に同じ。〇〔王延壽〕「晉-文監レ膍國以―兮」。

【⿰立族】ソク。千木切 屋 立ちて待つ、まつ。

十三畫

【⿰立羸】ラ。魯過切 箇 ㊀なゆ（痿）。㊁綾の字の條を見よ。

【⿰立奇】キ。居綺切 紙 立つを正し。

【⿰立龍】リョウ、リュ。力冬切 冬 行くに正しからざるにいふ字。

【⿰立爾】クワ、ケ。火媧切 佳 正しからず。

十四畫

【⿰立需】シュ、ス。詢趨切 虞 まつ（待）。

【競】ケイ、ギヤウ。渠敬切 敬 ㊀つよし（彊）。〇〔書〕「乃有二室大―一」。㊁きそふ。（い）おふ（逐）。〇〔詩〕「不レ―不レ絿」。（ろ）あらそふ（爭）。〇〔左〕「師―已甚」。（は）すゝむ（進）。〇〔呂氏春秋〕「天-下皆―」。「―焉」。㊂にはか（遽）。〇〔左〕「使二肥與一有レ職 〇 ㊃たかし（高）、又、さかんなり（盛）。〇〔左〕「二-惠―-爽」。㊄境に通じ用ふ、さかひ。〇〔秦詛楚文〕「奮レ兵盛レ師以偪二吾邊―一」

〔華競〕きそひて華奢にむかふ。〇〔晉〕「抑二絕―-―一」。

〔奔競〕われおとらじときそふ。〇〔洛陽伽藍記、序〕「瀍-東―-―、北風承塵」。

〔趨競〕前に同じ。〇〔南〕「無二―-―心一」。

〔馳競〕前に同じ。〇〔唐〕「後-世復相―-―」。

〔爭競〕あらそふ。〇〔後漢〕「與レ人未二嘗有一―-―一」。

〔利競〕金錢などの利得をきそふ。〇〔後漢〕「―-―暫則仁-義道塞」。

〔誇競〕他にほこりきそふこと。〇〔後漢〕「互相―-―」。

〔躁競〕たちつかざること。〇〔魏〕「稟性―-―」。

〔進競〕われおくれじとすゝみきそふこと。〇〔晉〕「是以―-―之志恒鋭、而務レ學之心不レ修」。

〔讙競〕あらそふ。〇〔顧況〕「終歲無二―-―一」。

〔浮競〕木を養はずしてすゝむとのみに心力をつくす。〇〔晉〕「貴遊豪服及―-―之徒」。「―一」。

〔貪競〕利益をきそひむさぼる。〇〔晉〕「人懷二―-

〔矜競〕ほこりきそふこと。〇〔南〕「寡-慾鮮二―-―一」。

〔詭競〕いつはりをもてきそひすゝむこと。〇〔南〕「―-―求レ進」。

〔校競〕他とたくらべきそふこと。〇〔北〕「亦不下與二諸弟一―-―上」。

〔紛競〕みだれあらそふ。〇〔宋〕「臣恐吏-民―-―不レ一、往見二其擾一」。

【竷】カン、コン。苦紺切 勘 鼓を撃つ、つゞみうつ。

【⿰立竷】カン、コン。苦濫切 感 ㊀舞曲の名。㊁和ぎ悅びの響。㊂樂器の名。

【⿰立韋】タイ、テ。都猥切 賄 重なり聚まる、かさなる。

十六畫

【⿰立頁】トウ、ヅ。徒滾切 東 鍾の聲にいふ字。

十七畫

【競】竟に同じ。

竹部

【竹】チク、トク。張六切 屋 ㊀草にあらず木にあらざる一種の植物、たけ。〇〔詩〕「綠―猗猗」。㊁八音の一、卽ち、笙管など、ふえ。〇〔周〕「播之以二八-音一金、石、土、革、絲、木、匏、―」。

〔綠竹〕青き色のたけ。〇〔高適〕「深-塵生二―-―一」。

〔孤竹〕特生したるたけ。〇〔劉楨〕「徘徊―-―根」。

〔剖竹〕たけを割る、又、わりたけ。〇〔史〕「襄-子齋三-日、親自―レ―、有二朱-書一」。

〔破竹〕たけをわる、又、たけをわるに一節をわらば他の節は力を用ふる少くもわるべきより事の勢せぎして滯みはかどるに譬へいふ語。〇〔晉〕「今兵威已振、譬若レ―レ―」。

〔絲竹〕琴瑟と笛と。〇〔晉〕「―-―盡二當-時之選一」。

〔篁竹〕たけの林。〇〔黃庭堅〕「烟-沙―-―江-南岸」。

〔叢竹〕むらがり生じたるたけ。〇〔漢〕「夾以二深-林―-―一」。

〔種竹〕たけを植ゑつく。〇〔晉〕「便令レ―レ―、何可二一-日無二此君一」。

〔修竹〕長きたけ。〇〔北〕「―-―夾レ池」。

〔爆竹〕たけの音をなして割る。〇〔神異經〕「山-臊畏二―-―一、聲聞則驚遁」。

〔帝竹〕たけの名。〇〔竹譜〕「員丘―-―、一節爲レ船」。

〔翠竹〕青きたけ。〇〔洛陽伽藍記〕「青松―-―、羅二生其旁一」。

〔墨竹〕（い）すみ繪の竹。〇〔圖畫見聞誌〕「工畫二―-―一、筆力老-勁、名著二當-時一」。

（ろ竹の名。○〔茅亭客話〕「有ニ綠竹ニ葉細面青莖瘦而紫、亦謂ニ之——ニ」。

〔新竹〕あらたに生じたるたけ。○〔謝朓〕「丹臒纔ニ——ニ」。

〔剪竹〕たけを切り取る。○〔吳均〕「——製ニ山屐ニ」。

〔匏竹〕笛のこと。○〔禮〕「歌者在レ上、——在レ下」。

〔卭竹〕卭の地に生ずるたけ、節高くして中に空虛なきもの。○〔水經、註〕「山溪之中、多生ニ——ニ」。

〔移竹〕たけを他處にうつし植う。○〔晉〕「掘レ果——」。

〔箭竹〕矢に作るたけ。○〔晉〕「苞木——之族生焉」。

〔茂竹〕生ひしげりたるたけ。○〔北〕「宅內有ニ——ニ」。

〔怪竹〕珍奇なるたけ。○〔唐〕「宦者采ニ——ニ」。

〔斑竹〕皮のまだらなるたけ。○〔劉禹錫〕「更灑湘江——枝」。

〔巨竹〕大いなるたけ。○〔老學庵筆記〕「蜀有ニ竹炭ニ、燒ニ——ニ爲レ之」。

〔苦竹〕たけの名、まだけ。○〔世說〕「家有ニ——數十頃ニ」。

〔採竹〕たけを採拾す。○〔錢起〕「學知——レ人」。

〔編竹〕たけをあむ。○〔徐寅〕「織レ茅——レ稱ニ貧居ニ」。

〔截竹〕たけを剪る。○〔遼〕「——爲ニ四竅之笛ニ」。

〔扶竹〕卭竹に同じ。○〔山海經〕「龜山其下、多ニ青雄黃ニ、多ニ——ニ」。

〔槁竹〕枯れたるたけ。○〔淮〕「——有レ火」。

〔杖竹〕たけをつゑとす。○〔水經、註〕「貫レ衣——」。

〔談竹〕竹の名、はちく。○〔夢溪筆談〕「——對ニ——ニ」。

〔屈竹〕たけを推しまぐ。○〔王褒〕「——作レ把」。

〔吹竹〕笛をふく。○〔江總〕「——動ニ笙簧ニ」。

〔嫩竹〕若きたけ。○〔徐陵〕「——猶含レ粉」。

〔栽竹〕たけを植ゑつく。○〔韓愈〕「——逾ニ萬竿ニ」。

【竹】ショク、ヅク。廚玉切 沃 かも（鴨）。○〔揚雄〕「獨——孤鶴」。

二畫

【竺】チク、トク。張六切 屋 たけ（竹）。

〔天竺〕印度の古名、一に、身毒（けんどく）ともいへり。○〔後漢〕「帝於レ是遣ニ使——ニ」。

〔中竺〕天竺の地上中下の三部にわかれたる中央の部をいふ。○〔王遙〕「趺坐——嶺」。

【竺】トク。東毒切 沃 丁木切 屋 篤に同じ、あつし。○〔楚辭〕「稷惟元子、帝何——レ之」。

【⿱竹丁】テイ、チヤウ。他頂切 迥 竹函、はこ。

【竻】ロク。歷德切 職 ㊀竹の根。㊁刺ありて堅き一種の竹、ばらだけ。○〔肇慶府志〕「——竹名、俗呼ニ刺竹ニ」。

【⿱竹方】古文の筋の字。

【⿱竹厶】セン。支穿切 先 竹折る、をる。

【⿱竹乂】ギ。魚几切 紙 たけ（竹）。

三畫

【⿱竹凡】ホウ、ブ。蒲蒙切 東 竹を織り箬（たけのは）を編みて造り船を覆ふに用ふるもの、とま。

【⿱竹弋】ヨク、イキ。逸職切 職 竹の索、なは。

【⿱竹子】シ。祖似切 支 しやうのふえ（笙）。

【竽】ウ。雲俱切 虞 一種の樂器、ふえ、古昔は三十六管なりしが後世に至りて十九管となしたりといふ、管の排列は參差して鳥の翼にかたどれり、吹きて聲をなすもの。○〔周〕「掌レ敎レ吹レ——」。

（竽之圖）

〔吹竽〕ふえをふき鳴らす。○〔史〕「其民無レ不ニ——鼓レ瑟」。

〔鳴竽〕ふえ。○〔淮〕「琴瑟——不レ能レ樂也」。

〔拊竽〕たかんなの初めて生ぜしものを擘ちきづつく。○〔管〕「拊レ夭レ英、拊レ——」。

〔操竽〕ふえを手に執る。○〔王安石〕「——入レ齊人」。

〔琵竽〕琴とふえと。○〔周伯琦〕「發ニ歌應ニ——ニ」。

〔盜竽〕大いなる姦盜の稱、竽唱ふれば衆樂皆和する定めなりしより大姦盜倡ふれば小姦盜和して起こる義にとりいふ。○〔老〕「服ニ文采ニ、帶ニ利劍ニ、厭ニ飲食ニ而資貨有レ餘、此之謂ニ——ニ」。

【⿱竹己】キ。口己切 紙 たかむしろ（籧）。

【竾】チ、ヂ。陳知切 支 篪に同じ。○〔禮〕「仲夏之月調ニ竽笙——簧ニ」。

【笏】ウン、オン。于刎切 吻 ふえ（笈）。

【⿱竹亏】竽に同じ。

【笀】バウ、マウ。謨郎切 陽 芒に同じ、のぎ。

【竿】カン。古寒切 寒 ㊀竹梃、たかざを。○〔詩〕「籊々竹——」。㊁干に通じ用ふ、をかす。○〔後漢〕「僭ニ擬車服ニ、時人號ニ——摩車ニ」。

〔釣竿〕つりざを。○〔杜甫〕「——欲レ拂ニ珊瑚樹ニ」。

〔揭竿〕さをかゝげたつ。○〔過秦論〕「——爲レ旗」。

〔投竿〕さををなぐ。○〔嵇康〕「放レ櫂——」。

〔輕竿〕おもからざるさを。○〔潘尼〕「——餘穉」。

〔綠竿〕青き色のさを。○〔劉子翬〕「半出ニ僧垣遙——ニ」。

〔旌竿〕はたざを。○〔翟湜〕「霜氣下ニ——ニ」。

〔麾竿〕大將のたつるはたざを。○〔宋〕「公所レ執——折」。

〔齋竿〕たけたかきさを。○〔宋玉〕「右執ニ——ニ」。

〔高竿〕前に同じ。○〔東魏童謠〕「百尺——摧ニ折水底ニ」。

〔柔竿〕なよなよとやはらかなるさを。○〔曹植〕「持ニ——之丹々芬」。

〔修竿〕ながさを。○〔曹植〕「掩以ニ——ニ」。

〔操竿〕さをゝもつ。○〔杜摯〕「呂望身——」。

〔彤竿〕あかくぬりたるさを。○〔王彪之〕「——綠筒」。

〔旗竿〕前に同じ。○〔張正見〕「雜雨凍ニ——ニ」。

〔魚竿〕つりざを。○〔杜甫〕「白水——客」。

〔檣竿〕ふねのほばしら。○〔劉禹錫〕「河頭——帆」。

〔帆竿〕前に同じ。○〔陸龜蒙〕「風生ニ江口ニ亞ニ——ニ」。

〔荷竿〕さをゝになふ。○〔鄭遨〕「——尋レ水釣」。

【竿】カン 古旱切 旱 幹に同じ、やがら（箭笴）。

【竿】カン。居案切 翰 きものかけ（衣架）、かけざを（箷）。

四畫

【笄】ケイ。古奚切 齊 ㊀束ねたる頭髪を安んずるにさすもの、かうがい、かんざし、又、冠を係け

て落さゞらしむるためにもさす。○〔儀、疏〕「天子諸侯之后夫人用レ玉爲レ—」。
㊁かざし、かうがいを髪に加ふ。○〔禮〕「十有五而—」。
〔副笄〕婦人のかんざしの名。○〔詩〕「—・—六珈」。
〔衡笄〕前に同じ。○〔周〕「追ニ—・—ニ」。
〔吉笄〕象牙にてつくりたるかざし。○〔儀〕「—・—者象笄也」。
〔箭笄〕たけにて作りたるかざし。○〔禮、正義〕「—・—長一尺」。
〔玉笄〕たまもて作りたるかざし。○〔虞淳熙〕「朋簪合ニ—・—ニ」。
〔竹笄〕前に同じ。○〔宛委餘編〕「女媧氏以レ—爲レ—」。
〔珥笄〕みゝかざりとかざしと。○〔楊愼〕「典寶攀ニ—・—ニ」。

【筊】カウ、ゲウ。胡交切 [肴]
長さ一尺二寸にて十六管ある簫、ふえ。○〔爾〕「簫小者謂ニ之—ニ」。

【笆】ハ、ベ。補下切 [禡]
一種の竹、いばらだけ、ならびて深く一叢に生えて林を爲し根は堆輪の如く節は束ねたる針の如し。○〔竹譜、註〕「—竹筍味甘、苦、落ニ人鬢髪ニ」。

【笆】ハ、ベ。伯加切 [麻]
刺ある竹の籬、又葦の籬、かき、かきね、ませ。

【⿱竹公】シヨウ、シユ。諸容切 [冬]
長き節の竹。

【笟】コ、グ。胡故切 [遇]
㊀縄を收むる具、なはまき。㊁肉を懸くる竹格、たけのたな。㊂一種の竹。○〔僧贊寧筍譜〕「—筍味苦節疎大ニ於箭筍ニ少許山人採剝以ニ灰汁ニ熟ニ煮之ニ都爲ニ金色ニ然後可レ食苦味減而甘甚佳也」。

【笇】算に同じ、かぞふ。○〔史〕「調レ兵—ニ軍食ニ」。

【笈】ケフ、ゴフ。極業切 [葉]　キフ、ギフ。極入切 [緝]　サフ、セウ。測洽切 [洽]
背に負ふ書籍、ふばこ、おひばこ。○〔史〕「負レ—從レ師」。
〔玉笈〕玉もて飾りたるふばこ。○〔陸龜蒙〕「—・—詩成吟處曉」。
〔滿笈〕箱に充實す。○〔沈約〕「積レ練累レ紊、盈レ車「—レ—」。
〔擔笈〕ふばこを負ひ荷ふ。○〔北〕「允性好ニ文學ニ、—レ—負レ書」。
〔携笈〕ふばこを携帯す。○〔李賀〕「—レ—歸レ江重「入レ門」。
〔簦笈〕笠とふばこと。○〔溫庭筠〕「—・—倚ニ崎嶇ニ」。
〔雙笈〕二つのふばこ。○〔許渾〕「一壺—・—嶧陽「琴」。
〔錦笈〕にしきもて飾りたるはこ。○〔羅隱〕「—・—作復還」。
〔藥笈〕くすりを入れたる箱。○〔王安石〕「褁レ飯「隨ニ—・—ニ」。
〔書笈〕ふばこ。○〔陸游〕「小兒負ニ—・—ニ」。
〔塵笈〕ちりの積みたる箱。○〔范成大〕「入レ靜拂ニ—・—ニ」。
〔函笈〕箱。○〔眞德秀〕「遂之ニ廬山ニ入ニ太平宮ニ、發ニ其—・—ニ」。
〔長笈〕丈ながくまつらへたる箱のこと。○〔朱德潤〕「有レ客擔レ簦負ニ—・—ニ「烟・嵐ニ」。
〔靈笈〕神靈なる箱。○〔戴表元〕「入傳ニ—・—ニ鎖ニ轉」。
〔瓊笈〕玉もて飾りたる箱。○〔宋无〕「却擔—・—「—・—ニ」。
〔巾笈〕ぬのもて作りたる箱。○〔王安石〕「屬獨開ニ—・—ニ」。
〔敗笈〕破れたる箱。○〔蘇舜欽〕「侈々張ニ—・—ニ」。
〔經笈〕ふばこ。○〔沈遼〕「左右參ニ—・—ニ」。

【笉】シン、ジン。士忍切 [軫]　キン。羽敏切 [軫]
㊀笑ふ貌にいふ字。㊁たけのなは、（筊）。

【⿱竹六】リク、ロク。力竹切 [屋]
たけ、（竹）。

【笊】サウ、セウ。側絞切 [效]
㊀竹を編みたる一種の器、いかき、ざる。○〔淮〕「張ニ天下ニ以爲レ籠、因ニ江海ニ以爲レ—」。㊁鳥の居る穴す。

【笋】筍に同じ。
〔地笋〕澤蘭、さはあらゝぎの根、食用に供すべし。

【⿱竹屯】トン、ドン。杜本切 [阮]
㊀米穀を納るゝ器、ざる。○〔淮〕「守ニ其篅—・—ニ」。㊁ちのふえ、（篪）。

【⿱竹亍】キヤウ、カウ。虚放切 [漾]
魚を覓（あさ）る具。

【⿱竹方】ハウ、バウ。分房切 [陽]
竹器、かご。

【笌】ガ、ゲ。牛加切 [麻]
たけのこ、（筍）。

【笍】テイ、テ。株衛切 [霽]　デツ、ネチ。女劣切 [屑]
㊀羊車の騶者が用ふる箠、むち、其の端に長さ半分の箴をつけたりといふ。㊁小車の具。

【笍】ゼイ、ネ。儒稅切 [霽]
竹の名。

【笫】シ、ジ。士止切 [紙]
長さ百丈にて大いさ三丈ありといふ一種の竹。○〔神異經〕「—竹子美、煮而食レ之亡ニ創癘ニ」。

【笎】ゲン、グワン。愚袁切 [元]
竹の名。○〔齊民要術〕「—竹黑皮有レ文」。

【笏】コツ、コチ。呼骨切 [月]
位階ある人の束帶の時持つ版、しやく、記憶すべき事件を記す用をなす、古昔は長さ二尺六寸其の中の廣さは二寸の定めにて、位階の高下によりて其の材を異にし、天子は璆玉を用ひ諸侯は象牙を用ひ大夫は竹に魚須を文りたるものにて士は象牙にして竹木なるものなりきといふ。○〔禮〕「受ニ命于君前ニ則書ニ于—ニ」。
〔搢笏〕しやくをはさむ。○〔禮〕「端ニ韠・紳ニ—レ—」。
〔象笏〕象牙もて作りたるしやく。○〔北〕「其一門敍ニ—・—ニ者百餘人」。
〔良笏〕よきしやく。○〔唐〕「親擇ニ—・—ニ與レ之」。
〔擁笏〕しやくをもつこと。○〔唐〕「輒衣レ紫—レ—」。
〔執笏〕前に同じ。○〔晉〕「古者貴賤皆—レ—」。
〔簪笏〕かんざしをさししやくをもつことにて朝廷の禮服をつくること、又、其の者。○〔教坊致語〕「萃ニ—・—于九・門ニ」。
〔玉笏〕たまもて作りたるしやく。○〔洞冥記〕「周・公以ニ—・—ニ與レ之」。
〔端笏〕しやくをたゞしくもつ。○〔王維〕「—レ—明・「光・殿」。
〔整笏〕前に同じ。○〔謝眺〕「—レ—侍ニ升・平之禮ニ」。
〔正笏〕前に同じ。○〔歐陽修〕「垂レ紳—レ—」。
〔帶笏〕おほおびとしやくとにて、文官の朝服のこと。○〔宋〕「賜ニ—・—ニ」。
〔紳笏〕前に同じ。○〔宋〕「—・—儼然、辭色不レ動」。
〔投笏〕しやくをすつること、又、官を辭することに用ふる語。○〔韋莊〕「—レ—還辭丹鳳闕」。

【笏】フン、モン。武粉切 [吻]
筤・—は、手にて笛の孔を循づる貌に

いふ語。○〔馬融〕「筊——抑-隱行入ニ諸-變ニ」。

【笏】ブツ、モチ。文拂切 〔物〕
筊——は、繁密なる貌にいふ語、しげし。

【笐】カウ。居郎切 〔陽〕
㊀竹の列らなるにいふ字。㊁絃を竹に加ふるにいふ字。㊂絃ある樂器。㊃一種の竹。

【笐】カウ、ガウ。下浪切 〔漾〕
竹に同じ、竹の竿。

【笐】カウ、ゴウ。胡降切 〔絳〕
㊀衣を挂くる架、みぞかけ。㊁竹の列ぶにいふ字。

【⿱竹太】テイ、タイ。他計切 〔霽〕
くるまのきぬがさ(車-蓋)。

【笑】セウ。蘇弔切 〔嘯〕
わらふ、わらひ。
(い)欣喜す、よろこぶ、たのしむ。○〔詩〕「燕——語兮」。
(ろ)嘲る、侮る。○〔詩〕「顧レ我則——」。
(は)顏を破り齒を啓き聲を發す(よろこびてなすにも侮りてなすにもいふ)。○〔禮〕「父-母有レ疾、——不レ至レ矧」。
(に)聲を發せず齒を啓かずしてやや顏を破るにいふ字、ゑむ。○〔論〕「夫-子莞-爾而——」。
(ほ)花の咲くにいふ字。○〔李商隱〕「天-桃惟是——、舞-蝶不ニ空飛ニ」。
〔巧笑〕他の愛を買ふべきたくみなるゑみ。○〔詩〕「——倩兮、美-目盼兮」。

〔燕笑〕打ちとけ樂しみゑむ。○〔宋〕「從-容——、沛-然有ニ餘-暇ニ」。
〔優笑〕わざをぎ、俳優の類。○〔國〕「——在レ前、賢-材在レ後」。
〔諂笑〕こびを呈してわらふ。○〔孟〕「脅レ肩——、病ニ於夏-畦ニ」。
〔談笑〕物語りしわらふ。○〔孟〕「已——而道レ之」。
〔戮笑〕辱めを蒙り物笑ひとなる。○〔戰〕「爲ニ天-下——ニ」。
〔獨笑〕已れ一人わらふ。○〔蜀〕「欣-然——以忘ニ寢-食ニ」。
〔愧笑〕耻辱なりとし物わらひにす。○〔後漢〕「令ニ入——ニ」。
〔歌笑〕うたうたひゑむ。○〔漢〕「彈レ琴——以自娛」。
〔嬉笑〕たはぶる。○〔宋〕「雖ニ——怒-罵之辭ニ、皆可ニ書而誦レ之」。
〔冷笑〕せゝらわらひをなす。○〔白居易〕「閑-談——接ニ交-親ニ」。
〔强笑〕ゑみたくもなきにゑひてゑむこと。○〔歸甲銓〕「每溫-顏——以遣レ之」。
〔含笑〕ゑみをなす。○〔杜甫〕「——看ニ吳-鉤ニ」。
〔調笑〕からかひわらふ。○〔辛延年〕「——酒-家胡」。
〔花笑〕はなの開くこと。○〔沈佺之〕「——鶯歌-詠」。
〔嬌笑〕媚を呈してゑむ。○〔陳後主〕「小-婦獨——」。
〔帶笑〕ゑみをなす。○〔李白〕「長得ニ君-王——看ニ」。
〔靨笑〕ゑくぼいりてゑむ。○〔溫庭筠〕「欲レ綻似レ含ニ嚬-——ニ」。
〔言笑〕物事を打ちかたらひゑみをなす、さゞめきわらふ。○〔詩〕「——晏-々」。
〔竊笑〕心の中にてをかしく思ふ。○〔戰〕「臣——レ之」。
〔目笑〕目もて見あひて打ちわらふ。○〔史〕「相與——ニ之而未レ發也」。
〔瘖笑〕わらふこと。○〔史〕「夫怒因——」。
〔姍笑〕そしりわらふ。○〔漢〕「——ニ三-代ニ、盪ニ-滅古法ニ」。
〔謔笑〕たはぶれわらふ。○〔漢〕「——類ニ俳-倡ニ」。
〔歡笑〕喜び樂しみてゑむ。○〔魏〕「拊レ手——」。
〔咲笑〕わらふ。○〔魏〕「大ニ——之ニ」。
〔失笑〕をかしくてたまらずふきだしわらふ。○〔蘇軾〕「諳生聞レ語定——」。
〔嗤笑〕あざけりわらふ。○〔晉〕「更相——、紛ニ-然於世ニ云」。
〔嘲笑〕前に同じ。○〔魏〕「尤善ニ——ニ」。
〔輕笑〕其の人を輕重にせずしてわらふ。○〔唐〕「數爲ニ俳-類——ニ」。
〔安笑〕いはれなくしてわらふ。○〔南〕「未ニ嘗——ニ」。
〔鄙笑〕野卑なりとしわらふ。○〔唐〕「滿-座——」。
〔取笑〕物わらひを招く。○〔杜甫〕「——ニ同-學翁ニ」。
〔匿笑〕わらひを人に見られざるやうにす。○〔程史〕「皆縮レ頸——」。
〔微笑〕ほゝゑむ。○〔舞賦〕「遷-延——」。
〔發笑〕ゑみをおこす。○〔司馬遷〕「適足ニ以——而自點ニ耳」。
〔世笑〕世の中の物わらひとなる。○〔陶潛〕「永爲ニ——レ之」。
〔薄笑〕いさゝかゑむ。○〔梁簡文帝〕「——未レ爲レ欣」。
〔譁笑〕口やかましく物わらひをなす。○〔柳宗元〕「有ニ輒——ニ之、以爲ニ狂-人ニ」。
〔侮笑〕あなづりて物わらひにす。○〔韓愈〕「低レ頭受ニ——ニ」。
〔解笑〕蕾を開く。○〔元稹〕「桃-花——鶯能語」。
〔唏笑〕わらふ。○〔戴表元〕「童-奴——妻-子罵」。
〔諧笑〕おどけわらふ。○〔顧葟〕「——雜ニ微-飆ニ」。
〔忍笑〕をかしくあるを堪へてわらひをなさゞること。○〔麗鐱〕「老-奴——憐ニ翁癡ニ」。
〔開口笑〕大口をあきてからくと打ちわらふ。○〔杜甫〕「語盡還成ニ——ニ」。

【笒】シン、ゾン。鋤簪切 〔侵〕
竹の名。

【笒】キン、ゴン。巨禁切 〔沁〕
たけのくじ、竹籤。○〔釋名〕「——檣在ニ車-前ニ、織レ竹作レ之」。

【笒】カン、ゴン。胡南切 〔覃〕
答に同じ。

【笓】ヘイ、バイ。部迷切 〔齊〕 ヒ、ビ。頻脂切 〔支〕
魚を取る竹器、うへ。○〔博雅〕「籓-筌謂ニ之——ニ」。

【笓】ヒ、ビ。毗至切 〔寘〕
櫛の屬。

【笓】ヒツ、ピチ。薄必切 〔質〕
ならぶ、ついづ(次)。

【笔】
筆に同じ。

【⿱竹勼】キウ、ク。居尤切 〔尤〕
竹の名。

【⿱竹仆】ホク。普木切 〔屋〕
小しく撃つ、うつ。

【⿱竹欠】ケン。丘檢切 〔琰〕
小さき竹。

【⿱竹丹】キヤウ、カウ。虛誑切 〔漾〕
魚を筧(さが)す具。

【笢】
匙に同じ、かぎ。○〔李商隱〕「玉——不レ動便-門鎖」。

五畫

【笖】イ。養里切 〔紙〕
たけのこ(筍)。

【笖】スヰ。主蘂切 〔紙〕
竹の筍を生ずるにいふ字。

【⿱竹甘】カン、コン。沽三切 〔覃〕
竹の名。

【⿱竹甘】カン、コン。古覽切 〔感〕
實中(あなな し)の大竹。

【⿱竹末】バツ、マチ。莫葛切 〔曷〕
鰌(どぢやう)を捕ふる竹の器。

【筋】ケン、コン。居健切 願
筋の本。

【筋】ケン、コン。居言切 元
筋のつけ根の肉、一說に、筋の大いなるもの。

【笘】セン、失廉切 鹽 ゾン。切 サン、七廿切 覃 ソン。切
㊀竹を折くに用ふる箠、むち。㊁小兒の書き寫すに用ふるふだ(潁川の人の語)。

【笘】テフ。託協切 葉
たけのふだ(筯)。

【笁】チユ、ヂユ。重主切 麌
樂器、絃を調ふるもの。

【笙】サウ、シヤウ。師庚切 庚
㊀大いなるものは十九箇の管あり小なるものは十三箇の管ある樂器、しやうのふえ、さうのふえ、古昔は管を瓠の中に列して簧を管の端に施したる製なりとぞ。○〔詩〕「—磬同レ音」。㊁ほそし(細)。○〔揚雄〕「—細也、自レ關而西、秦晉之閒凡細貌謂二之—一」。㊂鐘の名、たかむしろ。○〔揚雄〕「鐘謂二之—一」。㊃地の名、晉の境に在り。○〔左〕「歸父還レ自レ晉至レ—」。

(笙之圖)

〔竽笙〕ふえの名。○〔禮〕「君子聽二竽・—・簫・管之聲一」。
〔巢笙〕おほいなるふえ。○〔宋〕「今—・—和・笙各二人」。
〔賓笙〕貴重なるふえ。○〔梁元帝〕「金・爐對二—・—一」。
〔鐘笙〕かねの聲と相應ずる笙。○〔周〕「凡祭祀・饗・射共二其—・—之樂一」。
〔匏笙〕大小二種ありて其の製作はともに大笙の如しといふ。○〔唐〕「有二大—・—一」。
〔琴笙〕ことへふえと。○〔東觀漢紀〕「桓帝好レ音樂一、善二—・—一」。
〔瑤笙〕たまのふえ。○〔戴叔倫〕「更弄二—・—一罷」。

【笙】シン。疏臻切 眞
地の名。○〔史〕「遂殺二子糾于—瀆一」。

【笋】コ、ク。洪孤切 虞
箶に同じ。

【笚】カフ、ゲフ　胡甲切 洽
筐に同じ。

【笚】タフ、トフ。德盍切 合
竹の相擊つにいふ字。

【笝】ダフ、ノフ。諾盍切 合
箘に同じ。

【笛】テキ、ヂヤク。杜歷切 錫
管に孔を穿ちたる一種の樂器、ふえ。○〔風俗通〕「武帝時丘仲作レ—、—滌也、蕩二滌邪志一納二之雅正一長尺四寸七孔」。
〔長笛〕たけ長きふえ。○〔晉〕「歌聲濁者、用二—・—長律一、而聲高」。
〔箏笛〕さうとふえと。○〔嵆康〕「琵琶・箏—・—閒促」。
〔橫笛〕よこぶえ。○〔唐〕「寧王善吹二—・—一、達官大臣慕レ之」。
〔漁笛〕漁人の吹くふえ。○〔汪元量〕「—・—漁郵上・下鳴」。
〔鄰笛〕鄰人の吹くふえ。○〔李端〕「月斜—・—盡」。
〔夜笛〕よる吹くふえ。○〔陳後主〕「風高—・—喧」。
〔寒笛〕さびしげなるふえの聲。○〔盧綸〕「—・—怨二空鄰一」。
〔羣笛〕邊塞のえみしの吹く笛。○〔劉滄〕「酒醒聞二—・—一」。
〔吹笛〕ふえを吹く。○〔後漢〕「好—レ—」。
〔短笛〕たけ長からざるふえ。○〔晉〕「歌聲清者用二—・—短律一」。
〔晩笛〕日暮れて後にきこゆるふえ。○〔江總〕「秋城韻二—・—一」。
〔奏笛〕ふえを吹き鳴らす。○〔晉〕「勅二御伎一—レ—」。
〔簫笛〕ふえ。○〔韓維〕「纔以二—・—一相諧和」。
〔笳笛〕こまぶえ。○〔吳〕「夜以二金鼓—・—一爲レ節」。
〔工笛〕ふえを巧みに吹く。○〔于寶晉紀〕「美而—レ—」。
〔鼓笛〕ふえを吹き鳴らす。○〔王禹偁〕「畬田—・—樂—熙々」。
〔牧笛〕うしかひするものゝ吹くふえ。○〔陸游〕「牛隴二—・—一入二柴門一」。
〔雅笛〕正しき調のふえ。○〔夢溪筆談〕「笛有二—・—、有二羌笛一」。
〔鳴笛〕吹きならすふえ。○〔韓愈〕「—・—急吹爭二落日一」。
〔朗笛〕聲はがらかになるふえ。○〔陸機〕「—・—疎而吐レ音」。
〔淸笛〕聲のすみて聞こゆるふえ。○〔傅縡〕「聽二—・—之寥亮一」。
〔哀笛〕聲のあはれに聞こゆるふえ。○〔薛道衡〕「寒夜哀・笛曲」。
〔腰笛〕こしにさしたるふえ。○〔于濆〕「—・—期二煙濟一」。
〔怨笛〕うらみを含みてきこゆるふえ。○〔張伾〕「—・—落二紅梅一」。
〔樵笛〕木こりの吹きならすふえ。○〔周檣〕「數聲—・—人何處」。

【筑】筑の字の譌り。

【笜】チユツ、チユチ。竹律切 質 トツ、トチ。當沒切 月
竹筍の生ずる貌にいふ字。

【笝】ダフ、ノフ。諾盍切 合
舟をつなぐ竹索、たけのともづな。

【笝】ダフ、子フ。泥洽切 洽

㊀前條の解に同じ。㊁縫を補ふ、つくろふ。

【笞】チ。丑之切 支
挿擊す、むちうつ、うつ。○〔荀〕「捶—臏脚」。
〔掠笞〕むちうつ。○〔史〕「共執—・—數百不レ服」。
〔搖笞〕前に同じ。○〔白虎通〕「—・—之刑也」。
〔鞭笞〕前に同じ、又、驅除する意に用ふ。○〔後漢〕「—二—一百鬼一」。
〔受笞〕むちにてうたる。○〔史〕「張耳厲レ之使レ—レ—」。
〔當笞〕むちうつ罰にあつ。○〔王褒〕「—二—一—百一」。

【笩】ハツ、ハチ。普活切 曷
魚を捕らふるに用ふる竹器。

【笟】コ、ク。攻乎切 虞
箛に同じ、たゞ(箛、篙と混同すべからず)。

【笠】リフ。力入切 緝
雨を防ぎ暑を遮ぎらん爲に頭にかぶるもの、かさ、かぶりがさ。○〔詩〕「何レ蓑何レ—」。
〔蓑笠〕みのとかさと。○〔列〕「吾君將レ被二—・—一、而立二乎畎畝之中一」。
〔戴笠〕かさを頭上にいたゞく。○〔高啓〕「蹤跡當レ頭—レ—時」。
〔圓笠〕まろきかぶりがさ。○〔儲光羲〕「—・—覆二我首一」。
〔蒻笠〕草の名、かさに作るべきもの。○〔謝朓〕「—・—聚二東菑一」。
〔箬笠〕たけのこがさ。○〔王建〕「草衣—・—倶二槳一」。
〔蓋笠〕かさのと。○〔晉〕「天似二—・—一、地法二覆槃一」。
〔負笠〕かぶりがさを背におふ。○〔吳興雜記〕「擔レ簦—レ—」。
〔氈笠〕毛織物にて作りたるかぶりがさ。○〔劫掠編〕「軍二氈褒—・—一」。

〔華笠〕はなやかに飾りを施したるかぶりがさ。○〔蔡邕〕「戴ニ——ニ」、「當ニ金鈴ニ」。
〔短笠〕みじかきかぶりがさ。○〔劉禹錫〕「長刀——去ニ燒畬ニ」。
〔荷笠〕かぶりがさを背に負ひ擔ふ。○〔劉長卿〕「—レ—帶ニ斜陽ニ」。
〔鋤笠〕耕作に用ふるすきとかぶりがさと。○〔陸龜蒙〕「歸來輟擬荷ニ——ニ」。
〔釣笠〕釣を垂るゝときに用ふるかぶりがさ。○〔崔道融〕「耕蓑——取レ未レ暇」。
〔行笠〕道行くときに用ふるかさ。○〔梅堯臣〕「赤日薄ニ——ニ」。
〔背笠〕かぶりがさをせに負ふ。○〔陳造〕「卷レ蓑—レ—隨ニ漁翁ニ」。
〔耘笠〕耕作に用ふるかぶりがさ。○〔鄭俠〕「——漁蓑笑語中」。
〔側笠〕かぶりがさをかたぶく。○〔僧清洪〕「—レ—披ニ青蓑ニ」。
〔蓬笠〕よもぎの草もて作りたるかぶりがさ。○〔釋利登〕「短蓑——種ニ荒田ニ」。

【笁】チヨ、ド。丈呂切 語
機の具、緯(ぬき)を持つもの、ひ。

【笡】シヤ、セ。七夜切 禡
㊀斜に逆ふ、さかふ。
㊁つッか、ひばしら、(柱-距)。

【笢】ビン、緜盡切 軫　ミン。武巾切 眞
㊀たけのかは(竹-膚)。
㊁髮駿(たてがみ)に光澤をつくる刷、くし、はけ。

【笣】ハウ、斑交切　ヘウ。カウ、虛交切　ケウ。切 肴
竹の名、荔浦に產し、箣は冬生ずさぞ。

【𥬇】アウ、エウ。於教切 效
竹の節。

【笘】箬に同じ。

【笤】テウ、デウ。田聊切 蕭
たけはゝき(笤-箒)。

【筁】キヨ、コ。去魚切 魚
㊀飯を盛る器、めしばち、一說に、餅を盛る筥、もちばこ。○〔儀註〕「笄竹器而衣者、其形蓋如ニ今之筥——盧一矣」。
㊁山谷にて獸を遮る器、わな。

【笝】デフ、チフ。乃叶切 葉
㊀——篁は、竹の名、皮は霜の如く白し、大いなるものは篙に爲すべし。○〔揚雄〕「其竹則鐘-籠——篁」。
㊁竹——は、小さき箱。

【笥】シ。相吏切 寘　想止切 紙
飯或は衣などを盛るに用ふる器、はこ、特に其の方なるものにいふ。○〔書〕「惟衣-裳在レ—」。
〔篋笥〕ものをいるゝはこ。○〔禮〕「不ニ敢藏ニ于夫之——ニ」。
〔簞笥〕前に同じ。○〔駱賓王〕「——無レ餘」。
〔發笥〕はこをひらく。○〔劉禹錫〕「時發—レ—」。
〔竹笥〕たけにてつくりたるはこ。○〔後漢〕「——木-屐以遺レ之」。
〔革笥〕獸皮にてつくりたるはこ。○〔漢〕「則匈-奴之——木-薦弗レ能レ支也」。
〔衣笥〕衣服をいるゝはこ。○〔唐〕「——有ニ五-色雲ニ」。
〔藥笥〕くすりばこ。○〔神仙傳〕「一擔ニ——ニ」。
〔璧笥〕たまのはこ。○〔鄭俠〕「——光-彩錯」。

【符】フ、ブ。防無切 虞
㊀文書をしるしたる木版竹簡などを兩分しておの〳〵其の一片を持し合はせて信となすもの、わりふ。○〔周〕「門-關用ニ——節ニ」。
㊁證驗、あかし、しるし。○〔司馬遷〕「修-身者智之—也」。
㊂祥瑞、めでたきさが。○〔禮〕「万-物—長」。
㊃あふ(合)。○〔史〕「豈非ニ道之所レ——而自-然之驗一耶」。
㊄神明の加護あるをしるしたるかきもの。○〔帝王世紀〕「黃-帝討ニ蚩-尤ニ、西-王-母以レ—授レ之、乃立請レ祈ニ之壇ニ、親自受レ—」。
㊅未來の事を豫言したるかきもの、未來記。○〔後漢〕「自ニ闕-中一奉ニ赤-伏——ニ」。
㊆はだ(膚)。○〔山海經〕「丹-木赤——而黑-理」。
㊇孚に通じ用ふ。○〔史〕「萬-物剖ニ——甲ニ而生」。
㊈一種の竹、葉の上に蝸牛の涎の如き文ありといふ。○〔廣東新語〕「劉-仙-壇側有ニ——竹ニ」。
〔合符〕わりふをあはす。○〔史〕「公-子即—レ—」。
〔寶符〕貴きしるしふだ。○〔史〕「吾藏ニ——于常-山上ニ」。
〔剖符〕わりふをわかつ。○〔漢〕「與ニ功-臣一—レ—作レ誓」。
〔伍符〕軍士の小部隊ごとに相保つしるしふだのこと。○〔漢〕「安知ニ尺-籍——ニ」。
〔祥符〕めでたきしるし。○〔後漢〕「抑ニ沒——ニ」。
〔天符〕上天よりくだす祥瑞、又、草の名。○〔舊唐〕「天-子膺ニ——一納ニ介-福ニ」。「—レ—升」。
〔地符〕地より生ぜる祥瑞。○〔王融〕「天-瑞降——」。
〔焚符〕わりふを燒く。○〔莊〕「—レ—破レ璽」。
〔元符〕おほいなる祥瑞。○〔楊炯〕「上可ニ以薦ニ——于七-廟ニ」。「天-剖ニ——ニ」。
〔神符〕靈妙なるわりふ、靈妙なるまもり。○〔揚雄〕
〔璽符〕天子の御印。○〔史〕「上ニ天-子——ニ」。
〔剖符〕わりふをわかつ。○〔漢〕「亦皆—ニ—世-爵ニ」。
〔同符〕ひとしきしるし、又、しるしをおなじくす。○〔後漢〕「—ニ—高-祖ニ」。「爲レ信」。
〔圓符〕まるがたのふだ。○〔元〕「則以ニ金-字——」
〔降符〕しるしをしたにさぐ。○〔元〕「此天—レ—以告ニ陛-下ニ」。
〔吐符〕祥瑞をいたす。○〔陳太丘碑〕「—レ—降レ神」。
〔將符〕軍將のしるしふだ。○〔韓愈〕「出把ニ——ニ」。
〔陰符〕ひそかに意を通ぜるわりふ、即ち、關係せざるものに知らせざるわりふ、轉じて、祕計、又は、兵書の義にいふ語。○〔戰〕「得ニ太-公——之謀一伏而誦レ之」。

【𥬊】ゼン、而琰　デン、乃玷切　子ン。切　子ン。切 琰
竹の弱き貌にいふ字、たわやか。

【笧】古文の冊の字。

【笧】策に同じ。○〔馬融〕「基多無レ—分、如レ聚ニ羣-羊ニ」。

【笩】ハイ、バイ。蒲蓋切 泰
飛揚す、あがる。

【笨】ホン、ボン。部本切 阮
㊀たけのうら(竹-裏)。
㊁あらし(麤-率)。○〔晉〕「豫-章大-守史-疇以ニ人肥-大一時-人目爲ニ——伯ニ」。

【笪】タン。多旱切 旱
うつ(擊)。

【笪】タン。得案切 翰
㊀はこ(筥)。㊁たかづな(笮)。
㊁たかむしろ(符-篖)。

【笪】タツ、タチ。當割切 曷
㊀むちうつ(笞)。
㊁舟を覆ふ篷、たかむしろ。
㊂空の暗きにいふ字。○〔南部新書〕

「盧-文-進出-獵忽天暗星見、士-人謂ニ之ー一ニ。

【第】シ。蔣兇切 紙 爭義切 寘 シツ、シチ。側瑟切 質 シン。阻引切 軫

牀簀、牀版、牀棧、すのこ、ゆかいた、ゆかだな、ゆか。○〔周〕「玉-府掌ニ王之衽-席牀ー一ニ。

〔牀第〕ゆかのすのこのこと。○〔後漢〕「又有ニ赤-蛇、盤ニ于ーー之閒ニ。

【第】テイ、ダイ。大計切 霽

㊀次序、ついで。○〔左〕「子-西曰、楚-國ー、我死令-尹司-馬非レ勝而誰」。
㊁科級、しな。○〔晉〕「爲ニ三-等之ー一ニ。
㊂ついでを定む、しなさだめをなす。○〔晉〕「品而ーレ之」。
㊃ついでにならぶ、しなに入る。○〔全唐詩話〕「譏ニ隱未レーー」。
㊄弟に同じ、したがふ（順）。
㊅たゞ（但）。○〔史〕「陛-下ー出僞遊ニ雲-夢ニ。
㊆館宅、やしき、いへ、其の甲乙のついでであるよりいふ。○〔漢〕「爲ニ列-侯ー者賜ニ大ー一ニ。
㊇物事のついでを記するに用ふる字。○〔漢〕「令ニ何ーー一ニ。

〔甲第〕（い）邸宅のこと俗にかみやしきと云ふ、其の甲といふは甲乙の次第あるによる。○〔史〕「賜ニ列-侯ーーー一ニ。（ろ）進士の及第を甲乙の二等にわかち最もすぐれて過失なきものを稱するに用ひたるとあり。○〔唐〕「至-適爲ニーー一ニ。
〔高第〕門人などの優位にある者を稱する語、又、進士の及第者中の優位の者をもいふ。○〔史〕「子-貢門-人之ーー也」。
〔門第〕邸宅、やしき。○〔史〕「爲ニーー康-莊之衢ニ。
〔治第〕やしきをつくる。○〔唐〕「度ー一ニー東-都集-賢里ニ。
〔邸第〕邸宅。○〔後漢〕「帝自在ニーー一ニ。
〔大第〕廣きやしき。○〔漢〕「治ニーー一ニ。
〔就第〕官をやめて私家に歸る。○〔後漢〕「復以ニ列-侯ーレー」。
〔歸第〕前に同じ。○〔後漢〕「ーレー養レ疾」。
〔還第〕前に同じ。○〔晉〕「吾便角-巾ーレー」。
〔私第〕私邸のこと。○〔後漢〕「旣還ニーー一ニ。
〔下第〕落第といふに同じ。○〔唐〕「劉蕡ーー」。
〔及第〕試驗の科に登る。○〔唐〕「擧ニ明-經ーーー」。
〔登第〕前に同じ。○〔唐〕「ーー者加ニ一-階ニ。
〔次第〕順序といふに同じ。○〔南〕「讀失ニーー一ニ。
〔起第〕邸宅を新につくる。○〔晉〕「故爲レ起ーニー于萬-春-門内ニ。
〔移第〕邸宅を他にうつす。○〔晉〕「於レ是乃ーニー北-芒山-下ニ。
〔別第〕しもやしき。○〔唐〕「營ニーー疊-山-鵾-鵲谷ニ。
〔品第〕品評して順序をさだむ。○〔鄭元祐〕「畫-院森-々嚴ニーー一ニ。
〔乙第〕しもやしき。○〔晉〕「命舍ニ之于永-昌ーー」。
〔簡第〕擇びて次第をつく。○〔晉〕「ーニーー諸-女ニ。
〔造第〕やしきをつくる、又、やしきに到ること。○〔北〕「欲ニ獨爲ーーー」。
〔擢第〕及第者の中にありて殊にすぐれたるより引きあぐ。○〔北〕「以ニ明-經ーーー」。
〔不第〕試驗に及第せぬこと。○〔宋〕「嘗擧ニ進-士ーレーー」。
〔構第〕やしきをいとなみつくる。○〔唐〕「爲レ周ーーー」。
〔營第〕前に同じ。○〔宋〕「帝初爲レ飛ーレーー」。
〔築第〕前に同じ。○〔宋〕「晩-年ーニー杭-州萬-松-嶺ニ。
〔館第〕やしきのこと。○〔唐〕「置ニーー數-十千-石-頭-城ニ。
〔家第〕私邸のこと。○〔唐〕「始ーー掌-柱生ニ槐-枝ニ。
〔官第〕官廳の所有せるやしき。○〔宋〕「又假以ニ惠-寧坊之ーーー一ニ。
〔居第〕住家のこと。○〔吳萊〕「ーー擬ニ侯-王ニ。
〔落第〕試驗の科に及第せざること。○〔唐詩紀事〕「ーー者至-省-門-散去」。

【笭】レイ、リヤウ。郎丁切 靑 離呈切 庚 郎鼎切 迥

㊀舟中にての物の下に薦く牀、ゆか。
㊁ーー箵は、小さき籠、かたみ。

【笭】レイ、リヤウ。郎定切 徑

ーー篁は、車中の筵、むしろ。

【笮】サク、シヤク。側格切 陌

㊀せまし（狹）。㊁せまる（迫）。㊂おす（壓）。㊃出で去ること疾し。㊄やねうらのす（笮）。○〔釋名〕「ー迮也編レ竹相連迫-迮也」。
㊅竹を織りて造りたる矢箙、えびら。○〔儀〕「甲-胄干ーー」。
㊆錢の名。○〔禮、疏〕「貨-泉之錢食-貨-志云今-世謂ニ之ー-錢-也」。

【笮】サク、ザク。疾各切 藥

㊀なは（筊）。○〔陸游〕「度レー臨ニ千-仞ニ。
㊁五刑の一、いれずみ、黥刑。○〔國〕「其次用ニ鑽ーー一ニ。

〔錦笮〕錦もて作りたる綱。○〔劉逕〕「ーー繫ニ晃-舸ニ。「維ニ大-艦ニ。
〔葦笮〕あしもて作りたる綱。○〔五〕「乃以ニーーー」。
〔連笮〕つらなりつゞきたる竹の綱。○〔杜甫〕「ーー動嫋-娜」。
〔雙笮〕二すぢの竹綱。○〔范成大〕「絕-叫斷ニーー一ニ。

【笮】サ、セ。側駕切 禡

醡に同じ、しぼる。○〔水經、註〕「耿-恭吏-士渴-乏ーニ馬-糞汁-飲レ之」。

【笯】ド、ヌ。農都切 虞 奴故切 遇 ダ、チ。奴加切 麻

さりかご（鳥-籠）。○〔楚辭〕「鳳-凰在レー兮、雞-鶩翔舞」。

〔離笯〕去り離めたる鳥の籠。○〔陸游〕「乍如レ開ニーーー一ニ。

【笰】フツ、ホチ。敷勿切 物

㊀輿の後の戶。○〔詩〕「簟ーー魚-服」。
㊁や（箭）。㊂かんざし（笄）。

【笰】ヒ。方未切 未

矢を削りて細くす、ほそむ。

【笱】コウ、ク。擧后切 有

竹を曲げて造り魚を捕ふる具、うへ。○〔詩〕「毋レ發ニ我ーー」。

【笲】ヘン、バン。符袁切 元 ヘン、ハン。扶晚切 阮 ヘン、ベン。毗面切 霰

葦竹などにて箱の如くに造り之に靑き繒を著せ棗栗の屬を盛る器、かご。○〔禮〕「婦執ニーー棗栗段-脩ー以見」。

〔受笲〕かごを手にてうけ取る。○〔儀〕「降レ階ーニー腶-脩ニ。
〔徹笲〕かごを取りはらふ。○〔儀〕「舅答-拜、宰ーレー」。

【笳】カ、ケ。居牙切 麻

蘆の葉を卷きて吹く一種の笛、あしのはぶえ、ふえ、其形は觱栗（ひちりき）に似たり。○〔蔡琰〕「胡ーー動兮、邊-馬鳴」。

【笴】カ。嘉我切 哿 カン。古旱切 旱 居案切 翰 カウ、コウ。古老切 皓

㊀矢の幹、やがら。○〔周〕「凡相レーー」。
㊁藁などの莖、みき、から。○〔歐陽修〕「敗-蒲薦ニ藉ーー一ニ。

〔矢笴〕矢がら。○〔書、傳〕「篠之材中ニー之ー一ニ。
〔筠笴〕あを竹の膚もて作りたるやがら。○〔歐陽修〕「節-行寡ニーー一ニ。

【笵】ハン、ボン。防錽切 [豏]
範に同じ、のり、かた。〇[通俗文]「規-模曰レ一、以レ土曰レ型、以レ金曰レ鎔、以レ竹曰レ一」。

【筅】セン。蘇典切 [銑]
めしはき、(飯-帚)。

【筥】キョ、コ。臼許切 [語]
たいまつ、(火-炬)。

【笍】ゼイ、ヂ。儒税切 [霽]
するどし、(鋭)。

【⿱竹央】アウ。倚朗切 [養]
竹の名、一説に、竹に色無し。

【⿱竹英】オウ。於興切 [蒸]
たけのこ、(筍)。

【筍】イン、オン。於錦切 [寑]
笑ふ貌にいふ字、わらふ。

【⿱竹百】ハク、ビャク。薄陌切 [陌]
皮の白き竹。

【⿱竹余】デフ、ヂフ。女涉切 [葉]
役に疲るゝこと、つかれ。

六畫

【笿】ラク。歷各切 [藥]
㊀かご、(籠)、ふせご、(篝)。㊁つかぬ、(束)。

【⿱竹囟】テイ、ダイ。直例切 [霽]
竹を以て缺けたるを補ふ。

【⿱竹囟】古文の箕の字。

【筨】コウ、ク。古送切 [送]
わんかご、(栝-筶)、又、はしかご、(箸-籠)。

【筀】ケイ、ケ。涓惠切 [霽]
一種の竹、葉細く節あらし、篾絲を作るべし、人を傷くれば其の人死ぬべしとぞ。〇[僧贊寧筍譜]「一竹、吳、越多生」。

【⿱竹曲】キョク、コク。區玉切 [沃]
かひこのす、(蠶-簿)。

【⿱竹曳】エイ。以制切 [霽]
㊀ながし、(長)。
㊁板の際(あはひ)を合はす、つけあはす。

【⿱竹曳】エツ、エチ。羊列切 [屑]
算を校べ縫ふ、こしきをあむ。

【⿱竹戎】ジウ、ニュ。而融切 [東]
一種の小さき竹、矢に爲るべし。

【⿱竹舛】セン、尺兗切 [銑]
竹にて造り物を貫く用になすもの、たけのくし。

【笸】キ。居之切 [支]
蟣蝨(志らみ)を取る櫛、くし。

【⿱竹池】
篪に同じ、ふえ。

【⿱竹帚】デフ、ヂフ。尼輒切 [葉]
たけ、(竹)。

【⿱竹朱】シュ。春朱切 チュ。追輸切 [虞]
ふれのほ、(箏-篗)。

【⿱竹朱】シウ、初尤切 [尤] シュ。サウ、初講切 [講] ソウ。
帆を張る、ほあぐ。

【筃】イン。伊眞切 [眞]
㊀竹の名。
㊁茵に同じ、車の志され。

【⿱竹兆】エウ。弋照切 [嘯] イウ、餘招切 [蕭] ユ。夷周切 [尤]
瓦の下さ莽(むね)の上さに在る竹簿、たけす。〇[爾]「屋-上薄謂二之一一」。

【⿱竹列】レイ。力制切 [霽] レツ、力泄切 レチ。[屑]
かずとり、(籌)。

【⿱竹老】ラウ、ロウ。魯皓切 [皓]
栳に同じ。

【筅】セン。蘇典切 [銑]
飯などをすり洗ふに用ふる小さき帚、さゝら。〇[麻九疇]「以レ松爲レ一得二之天一」。
(狼筅) 兵器。〇[戚繼光武藝篇]「一一用二大毛竹上截一、連二四-旁附-枝-節-々枒-杈一、視レ之粗可二二尺一、長一丈五-六-尺、利-刃在レ頂長一尺」。
(茶筅) 茶はゝき。〇[大觀茶論]「一一以二筋-竹者-爲レ之」。
(淨筅) 淸らかなる茶はゝき。〇[朱希晦]「一一石-鼎烹二春-茶一」。

【筆】ヒツ、ヒチ。鄙密切 [質]
㊀ふで。
(い)文字圖畫を書く具。〇[爾]「不-律謂二之一一」。
(ろ)書くこと、記ろすこと。〇[左、註]「仲-尼絕二一于獲-麟一」。
(は)かきしるせる文字圖畫、ふでのあと。〇[唐]「旭視レ之天-下奇-一也」。
㊁星の名。〇[釋名]「一-星星-氣有二一-枝一」。

(載筆) 史をかく。〇[唐]「臣職二一一」。
(刀筆) 簡にしるすときに用ひしこがたな、又、小官吏のもつもの、小官吏の仕事 〇[史]「何于二秦時一爲二一一吏一」。
(簪筆) ふでをかしらにさす。〇[漢]「佩二玉-環一一」。
(下筆) ふでをつかひてかく。〇[漢]「君房一レ一」。
(投筆) ふでをなげ棄つ。〇[後漢]「書レ表一レ一拙レ及而絕」。
(舞筆) 事實をまげてたくみにかきあらはす。〇[後漢]「一レ一奮レ辭以破二北義一」。
(曲筆) 前に同じ。〇[後漢]「南史不二一レ一以求レ存」。
(弄筆) 前に同じ。〇[晉]「汝能一レ一當レ置二吾何地一」。
(紙筆) かみとふでと。〇[魏]「捐二棄一一一」。
(墨筆) すみとふでと。〇[歐陽修]「一一不レ能レ下」。
(援筆) ふでをもつ、又、かく。〇[魏]「植一レ一立成可レ觀」。
(秉筆) 前に同じ。〇[唐]「一レ一隨二宰-相一」。
(操筆) 前に同じ。〇[後漢]「陳-廷尉宜二便一レ一」。
(執筆) 前に同じ。〇[晉]「一レ一無二春-事之功一」。
(攬筆) 前に同じ。〇[後漢]「衡一レ一而作レ文無レ加レ點」。
(持筆) 前に同じ。〇[論衡]「握レ刀一レ一」。
(捉筆) 前に同じ。〇[唐]「一レ一賦レ詩」。
(閣筆) ふでをさしおく。〇[唐]「一レ一相視」。
(落筆) ふでをくだしてかきはじむ。〇[杜甫]「一レ一四-座驚」。
(直筆) いみはゞかる所なく正しくかきあらはすこと。〇[晉]「敢忘二一一一」。
(奮筆) ふでをつかふ。〇[唐]「丈-夫一レ一成二一-家一」。
(運筆) 前に同じ。〇[蘇軾]「柳-侯一レ一如二電閃一」。
(揮筆) 前に同じ。〇[李頎]「一レ一如二流-星一」。
(史筆) 歷史をかきあらはすふで。〇[晉]「旣登二東-觀一染二一一一」。

〔潤筆〕ふでをもて書畫などを志るす、又、其の直。○〔宋〕「送二馬五十匹一爲二――一」。
〔舐筆〕ふでをねぶる。○〔唐〕「―レ―輒成」。
〔肆筆〕ふでをつかふ。○〔揚雄〕「―レ―而成レ書」。
〔製筆〕ふでをつくる。○〔筆經〕「―レ―之法」。
〔造筆〕前に同じ。○〔顏氏子錄〕「蒙恬―レ―」。
〔健筆〕文章などすべてかくことの達者なるをいふ。○〔徐陵〕「陳琳――未レ盡二愚懷一」。
〔逸筆〕すぐれたるふでとてかくことのすぐれたるをいふ。○〔杜甫〕「――映二千古一」。
〔荷筆〕ふでをもちゆく。○〔駱賓王〕「―レ―入二文昌一」。
〔禿筆〕さきのきれたるふで。○〔杜甫〕「戲拈二――一掃二驊騮一」。
〔畫筆〕ゑをかくに用ふるふで。○〔元好問〕「――尙餘詩興猾」。
〔銷筆〕ふでさきをにぶらして明らかにかへを。○〔晉〕「銷レ口―レ―」。
〔拙筆〕つたなきふで。○〔尹程〕「托二微言于――一」。
〔短筆〕前に同じ。○〔南〕「但恨――不レ足レ書二英誅一」。
〔才筆〕才智のまはるふで。○〔北〕「頗有二――一」。
〔停筆〕かくことをやむ。○〔南〕「不二暫――一」。
〔精筆〕よく選びて作りたるふで。○〔唐〕「褚遂良非二――佳墨一、未二嘗輒書一」。
〔良筆〕よきふで、又、みごとにかくにもいふ。○〔唐〕「世稱二――一」。
〔奇筆〕めづらしきふで、又、すぐれてかきたるもの。○〔唐〕「天下――也」。
〔搖筆〕ふでをつかふ。○〔杜審言〕「――羽書飛」。
〔洗筆〕ふでをあらひきよむ。○〔白孔六帖〕「飄―二其―一」。
〔棄筆〕うちすてたるふで、又、文字に從事することをやむるの意に用ふ。○〔庾信〕「非レ有二班超之志一遂以―レ―」。
〔退筆〕さきのきれて用ひられざるふで。○〔雷淵〕「――成レ丘竟何益」。
〔敗筆〕前に同じ。○〔太平廣記〕「――如二丘山一」。
〔墜筆〕ふでを志たにおとすこと、かくこと。○〔圖畫見聞志〕「高君―レ―亦成レ畫」。
〔妙筆〕すぐれたるふでのあと。○〔米芾〕「精絶入二――一」。
〔宸筆〕天子の自らかゝれたるもの。○〔畫繼〕「徽宗出二祖宗御書、及――所レ摸名畫一」。

〔眞筆〕いつはりなきまことのふでのあと。○〔畫史〕「周昉丹青見二――一」。
〔醉筆〕酒にゑひてかきたるふでのあと。○〔蘇軾〕「――龍蛇走」。
〔擇筆〕ふでをえらぶ。○〔廣川書跋〕「必先――」。
〔撲筆〕ふでをうちつく。○〔韓愈〕「從レ書―レ―歎二悽然一」。
〔呵筆〕ふでにいきをふきかくること。○〔方干〕「―レ―尺書遲」。
〔凍筆〕さむさにてこほりたるふで。○〔釋貫休〕「歐陽解二――一」。
〔提筆〕ふでをたづさふ。○〔王儉〕「―レ―入二廣場一」。
〔董狐筆〕董狐は古の良史の名、轉じて威勢におそれず直筆すること。○〔文天祥〕「在レ晉―――」。
〔綵鳳筆〕文詞を達者にかくこと。○〔方鎭編年〕「田承嗣答二治文案一如二流水一、吏人相謂曰、世罕レ有二此―――一」。
〔椽大筆〕大文詞を草することにいふ語。○〔晉〕「王珣夢下人以二大筆如一レ椽與上レ之、既覺、語レ人曰此當レ有二大手筆事一」。

【筇】キヨウ、グ。渠容切　冬

㊀杖の用に適する一種の竹。○〔廣志〕「――竹出二南廣邛都縣一」。
㊁竹杖、つゑ。○〔范成大〕「拖レ―入二林下一」。
〔青筇〕あを色のたけ。○〔拾遺記〕「手握二――之杖一」。
〔杖筇〕たけをつゑつく。○〔韓偓〕「一手攜レ書一―レ―」。
〔長筇〕たけながきたけ。○〔王安石〕「自把二――一倚二行根一」。
〔牽筇〕たけのつゑを曳く。○〔劉子翬〕「―レ―入二翠微一」。
〔拖筇〕前に同じ。○〔范成大〕「―レ―入二林下一」。

【⿱竹任】ジン、ニン。忍甚切　寢　如鴆切　沁

ひさへのむしろ、(簟席)、又、臥に供するむしろ。

【筈】クワツ、クワチ。古活切　曷

弦を受くる矢末、やはず、はず。○〔陸機〕「離合非レ有レ常、譬二彼弦與一レ―」。

【⿱竹江】カウ、コウ。古雙切　江

いかだ、(筏)。

【等】トウ。都肯切　迥

㊀比類、同輩、ともがら、たぐひ。○〔易〕「爻有レ―、故曰レ物」。
㊁科級、差別、わかち、しな。○〔禮〕「貴賤―矣」。
㊂ひとし、(均)。○〔左〕「春秋分而晝夜―、謂二之日中一」。
㊃とゝのふ、(齊)。○〔周〕「―二其功一」。
㊄はかる、(量)。○〔孟〕「―二百世之王一」。
㊅まつ、(俟)。○〔篇海〕「―候待也」。
〔降等〕等級をさぐ、又、きざはしなどのたんをおる。○〔論〕「出―二一―一」。
〔躐等〕次第をこゆ。○〔禮〕「學不レ―レ―也」。
〔差等〕差別、等級。○〔舊唐〕「自有二――一」。
〔公等〕おん身らといふに同じ。○〔史〕「――皆去」。
〔異等〕他のともがらにまさる。○〔漢〕「有二茂才――、可下爲二將相及使中絶國上者」。
〔超等〕他のともがらにまさる、又、等級をとびこゆ。○〔後漢〕「―レ―踰レ匹」。
〔高等〕等級たかくすぐる。○〔後漢〕「以二――一擢二拜議郎一」。
〔齊等〕差別なくひとし。○〔詩、箋〕「和平――也」。
〔同等〕おなじきたぐひ、又、ひとし。○〔禮〕「見二――一不レ超」。
〔盡等〕きざはしなどのたんを登りつくすこと。○〔禮〕「升レ自二西階一―レ―」。
〔學等〕學問の等級。○〔禮〕「然後立二之――一」。
〔彼等〕彼の輩といふに同じ。○〔史〕「如二――一者、無レ足三與計二天下事一」。
〔吾等〕吾輩どもといふに同じ。○〔史〕「乃――非也」。
〔殊等〕ことなりたる等級。○〔後漢〕「禮設二――一」。
〔平等〕差別なきこと。○〔五燈會元〕「天――、故常覆」。
〔儕等〕同輩といふに同じ。○〔南〕「恩寵超二於――一」。
〔凡等〕つねなみのたぐひ。○〔南〕「不レ異二――一」。

〔均等〕たぐひを同じくす。○〔北〕「禮數―レ―」。
〔減等〕等級をへらす。○〔舊唐〕「罪減二――一」。
〔絕等〕たぐひにすぐれまさりたること。○〔吳筠〕「貞華服レ物、而以二――一見レ猜」。

【等】タイ。多改切　賄

前條の㊁に同じ。

【筊】カウ、何交切　肴　ゲウ。切　カウ、古巧切　巧　ケウ。切

㊀竹の索、なは。○〔史〕「搴二長―一沈二美玉一」。
㊁小さき簫、長さ尺二寸にして十六の管あるもの。○〔爾〕「大簫謂二之言一、小者謂二之―一」。

【筋】キン、コン。擧欣切　文

㊀肉中に通じたる理、すぢ、卽ち、體力の元さなるもの。○〔周〕「以レ辛養レ―」。
㊁體力、ちから。○〔漢〕「勞レ―苦レ骨」。
〔割筋〕にくのすぢをきりさく。○〔吳〕「乃以レ刀自―二其―一」。
〔闌筋〕馬の日のまたの井字なりにくぼみたるすぢ。○〔相馬經〕「一筋從二玄中一出、謂二之――一」。
〔露筋〕すぢをあらはす、又、いちじるしくうはべにあらはれたるすぢ。○〔書斷〕「稍―二―骨一」。
〔綠筋〕あをいろのすぢ。○〔眞誥〕「名在二瓊簡一者、目有二――一」。
〔牛筋〕うしのすぢ、又、檍の木の異名。○〔洛陽伽藍記〕「――狗骨之木」。
〔轉筋〕からだのすぢをたがふ、こぶらがへり。○〔韓〕「腓痛足攣、―レ―而不レ敢レ坐」。
〔豐筋〕ふときすぢ。○〔筆陣圖〕「多力――者聖」。
〔扶筋〕藥草の名。○〔本草〕「狗脊一名二強膂一、一名二――一」。
〔地筋〕ちがやの異名。○〔本草〕「白茅一名二――一」。
〔骸筋〕からだ。○〔歐陽修〕「徒自苦二――一」。
〔細筋〕ほそきすぢ。○〔蘇軾〕「――入レ骨如二秋鷹一」。

【筋】ケン、ゲン。渠焉切 先
おほすぢのつけね、(大-腱)。

【筌】セン。逡縁切 先
魚を捕ふるに用ふる竹器、ふせご、うへ、又、柴を水中に積み魚の寄り來て食をあさるべく造りたるもの。○〔莊〕「―者所二以得一レ魚、得レ魚而忘レ―」。
(蹄筌) 兎あみとうへと、又、道を說ける言文。○〔任昉〕「言象可レ廢、―・―自默」。
(篝筌) 魚を取るふせご。○〔博雅〕「―・―謂二之筌一」。
(捨筌) 魚をとるうへを打ち棄つ。○〔王珣〕「廢レ華任レ誠、―レ―存レ旨」。
(羅筌) 魚をとるうけを列ねならぶ。○〔江賦〕「夾レ潨―レ―」。
(空筌) からふせごのこと。○〔謝靈運〕「丹丘徙二―・―一」。
(漁筌) 魚をとるふせご。○〔陸龜蒙〕「家々下二―・―一」。
(得魚忘筌) 學問をするに其の眞意を得て言語に拘泥せざるをいふ語、莊子の言より出づ。○〔傳燈錄〕「得レ意而忘レ言、悟レ理而遺レ敎、亦猶二―レ―而―レ―、得レ兎忘一レ蹄」。

【⿱竹考】カウ、コウ。苦皓切 皓
―⿱竹考は、竹木をかゞめて造りたる器。

【筍】シュン。聳允切 軫
㊀竹の初めて萌え出でたるものゝ稱、たけのこ、たかんな。○〔詩〕「其蔌維何、維―及蒲」。
㊁簨に同じ、鍾磬を懸くる橫木。○〔周〕「梓人爲二―虡一」。
(紫筍) 青き色のたかんな。○〔蘇軾〕「白魚―・―不レ論レ錢」。
(青筍) 前に同じ。○〔潘岳〕「菜則葱韮蒜芋―・―紫薑」。
(翠筍) 前に同じ。○〔梁簡文帝〕「五離九折、出二桃枝之―・―一」。
(蔬筍) 野菜とたかんなと。○〔鶴山題跋〕「亦致二―・―之餽一」。
(束筍) たばねたるたかんな。○〔韓愈〕「戢々已多如二―・―一」。
(鮮筍) 新鮮なるたかんな。○〔方回〕「―・―紫泥開二玉版一」。
(洪筍) 大いなるたかんな。○〔竹譜〕「―・―滋肥、可レ爲二旨蓄一」。
(萠筍) もえ出づるたかんな。○〔竹譜〕「―・―包二籜、夏多春鮮一」。
(牙筍) たけのこ。○〔開元天寶遺事〕「―・―未二嘗相離一、密々如レ栽也」。
(野筍) 原野におふるたかんな。○〔王禹偁〕「旋對二杯盤一―・―一」。
(弧筍) 一本のたけのこ。○〔西溪叢語〕「唐鄭棨聯句、有二亭々―・―綠沈レ槍之句一」。
(抽筍) たけのこを拔きはやす。○〔歐陽修〕「新篁―レ―添二夏影一」。
(嫩筍) めばえの竹のこ。○〔蕭大圜竹花賦〕「拊二―・―一以含レ啼」。
(稚筍) 前に同じ。○〔僧善住〕「―・―擾レ窓已作レ竽」。
(短筍) みじかきたかんな。○〔庾信〕「―・―穽猶生」。
(迸筍) ほとばしり生じたるたかんな。○〔張祜〕「―・―斜穿レ塢」。
(籬筍) まがきに生じたるたかんな。○〔白居易〕「林迸穿二―・―一」。
(斑筍) 斑竹のたけのこ。○〔梅堯臣〕「―・―迸レ林犀角豐」。
(煮筍) たけのこをにる。○〔僧惠洪〕「烹レ茶―レ―未二嘗勤一」。
(煨筍) たけの子を燒く。○〔黃庭堅〕「―レ―充レ盤春竹林」。

【筠】ヰン。於倫切 眞
わかきたけ、子竹、席に造るべし。○〔書〕「敷二重―席一」。

【筍】シュン。須閏切 震
たけのこし(竹-輿)。○〔公羊〕「齊人歸二公孫敖之喪一、脅レ我而歸レ之、―將而來也」。

【筎】ジョ、ニョ。人余切 魚
竹の皮を刮ぎ取り舟の水の漏れを塞ぐに用ふるもの、まきはだ。

【笧】古文の冊の字。

【笧】サン、セン。所晏切 諫
柵に同じ。

【笧】策に同じ、はかりごと。○〔馬融〕「碁多無レ―」。

【筏】ヘツ、ボチ。房滑切 月
竹木を編みて水に泛ぶるもの、いかだ。○〔南〕「縛レ―以濟」。
(縛筏) いかだをあむ。○〔南〕「―レ―以濟」。
(津筏) いかだ。○〔韓愈〕「自可レ得二―・―一」。
(舟筏) ふねといかだと。○〔五〕「使下梁得二―・―一渡上レ河、吾無レ類矣」。
(船筏) 前に同じ。○〔宋〕「以通二黃・沈二河―・―一」。
(巨筏) おほいなるいかだ。○〔宋〕「飛伐二君山木一爲二―・―一」。
(乘筏) いかだにのる。○〔宋〕「官軍―レ―」。
(構筏) いかだをつくる。○〔宋〕「乃進二―・―投レ稟之說一」。
(聯筏) いかだをつなぐ。○〔金〕「未レ幾果―レ―大噪」。

【筏】ハツ、ハチ。北末切 曷
かご、(箄)。

【筐】キヤウ、カウ。曲王切 陽
㊀物を盛る竹器、かご、かたみ。○〔詩〕「不レ盈二頃―一」。
㊁床の方なるもの。○〔莊〕「與レ王同二―牀一、食二芻豢一」。
(承筐) かたみを手に受け取る。○〔易〕「上六女―レ―、无レ實」。
(虛筐) 一物も入りてあらざるかたみ。○〔易〕「上六无レ實、承二―・―一也」。
(傾筐) かたぶきたるかたみ。○〔詩〕「采二采卷耳一、不レ盈二―・―一」。
(敧筐) 前に同じ。○〔詩、註〕「傾筐―・―也」。
(懿筐) 深きかたみ。○〔詩〕「女執二―・―一、遵二彼微行一」。
(籩筐) 竹むしろとかたみと。○〔禮〕「曲二植―・―一」。
(玉筐) 玉もて飾りたる箱。○〔任昉〕「金飾―・―」。
(提筐) かたみを持つ。○〔吳筠〕「拭レ淚且―レ―」。
(執筐) かたみを手に持つ。○〔詩、疏〕「庶人之女、―レ―行レ饁」。
(饔筐) かめとかたみと。○〔儀、註〕「謂二其實一也實二于―・―一」。
(空筐) 一物の入りあらざるかたみ。○〔易林〕「女執二―・―一」。
(破筐) 敗損せるかたみ。○〔易林〕「―・―敝筥、棄二捐於道一」。
(殊筐) かたみを異別にす。○〔論衡〕「調レ飯也―レ―」。
(緒筐) 絲をつむぐかたみ。○〔西京雜記〕「墜二后―・―中一」。
(敝筐) 破れたるかたみ。○〔搜神記〕「置二之室中一、覆以二―・―一」。
(攜筐) かたみを提げ持つ。○〔太平廣記〕「逍遙―レ―採レ菊」。
(盈筐) かたみに充實す。○〔鮑照〕「堆レ鼎―レ―」。
(滿筐) 前に同じ。○〔王褒〕「羅敷未レ―レ―」。
(粉筐) おしろいを入れおく箱。○〔鮑照〕「―・―黛器靡二復遺一」。
(瑤筐) 玉の飾りをなしたる箱、うつくしきかたみ。○〔王勃〕「宿二蘭燕於―・―一」。
(篚筐) かたみのこと。○〔柳宗元〕「奮二厥―・―一」。

【筑】チク、トク。張六切 屋
㊀一種の絃器、瑟或は箏に似たり、竹にて鼓す。○〔史〕「高漸離擊レ―、荊軻和而歌二於市中一」。
㊁ひろふ(拾)。○〔書〕「凡大木所レ偃、起而―レ之」。
(鼓筑) 竹を曲げて作りたる五絃の樂器をうちならす。○〔沈炯〕「趙女―レ―」。
(琴筑) ふたつの樂器の名。○〔白居易〕「塵土生二―・―一」。
(悲筑) かなしきふしの筑の音。○〔陶潛〕「高漸離擊二―・―一」。

【⿱竹充】ジウ、シュ。充仲切 送
竹尖る、さがる。

【筒】トウ、ヅ。徒東切 東

圓長にして中の空虚なるもの、つゝ、くだ。○〔呂氏春秋〕「黄-帝命二伶-倫一作二律次一制二十二一一以別二十二一律一」。
〔郫筒〕酒の名、蜀の郫縣の大竹を截りてつゝとなし中に酒を盛り蕉葉にて包み藕絲にて閉ぢ二晝夜を經て酒の香外に達すとぞ。○〔李商隱〕「一一當二酒-壚一」。
〔蜜筒〕瓜の名。○〔庾信〕「甘-瓜開二一一一」。
〔釣筒〕魚をつる道具をいるゝもの。○〔黄庭堅〕「落-日幾-家收二一一一」。
〔銀筒〕志ろがねのつゝ。○〔蕭統〕「藥蘊二一一一」。
〔射筒〕竹の名。○〔異物志〕「一一竹細小通長長丈餘無レ節、可レ爲二射-筒一出二交-趾一」。

【筒】トウ、ヅ。徒弄切 送
底のなき簫、ふえ。

【筓】笄の本字。

【答】タフ、トフ。都合切 合
㊀たけのさもづな（竹-筃）。
㊁こたふ。
(い)他の言に對して反し言ふ、いらふ。○〔孟〕「所レ不レ一也」。
(ろ)當たる。○〔禮〕「北-面一レ君也」。
(は)報ゆ。○〔書〕「棄二其肆-祀一弗レ一」。
(に)應ず、合はす。○〔蘇軾〕「行歌相一」。
㊂こたふるを、こたふる所、こたへ。○〔南〕「時以爲二名一一」。
㊃厚重の貌にいふ字。○〔漢〕「一一布皮-革千-石」。
〔條答〕條理を立てゝこたへをなす。○〔蜀〕「事々一一、無レ所二遺失一」。
〔手答〕手づから書き認めて返報す。○〔晉〕「煩-近書-疏、莫レ不二一一一」。
〔報答〕返報をなす。○〔周〕「隨レ機一一、皆合二事-宜一」。
〔亢答〕應待すること。○〔周、疏〕「獻-酢相一一」。
〔寵答〕めでいつくしみて返報をなす。○〔漢〕「乃賜二錯璽-書一一一焉」。
〔奉答〕敬みてこたへまゐらす。○〔潘岳〕「一二一天-命一」。
〔親答〕自身にてこたへをなす。○〔後漢〕「一一レ之」。
〔下答〕おりて應答をなす。○〔後漢〕「迎拜二車下一、丹一一レ之」。
〔往答〕行きさきをなすこと。○〔後漢〕「光-武初、以二通士-君-子一相慕也、故一二一之一」。
〔永答〕永久の間をむかふ。○〔晉〕「告二類上-帝一、一一衆-望一」。
〔卽答〕直ちに應答す。○〔晉〕「嘉還見一一レ之」。
〔慰答〕心をいたはりて之に報ゆ。○〔晉〕「庶足三以一二一存レ亡申レ孤之心一也」。
〔酬答〕報酬應答す。○〔嵇康〕「人-間多-事、堆レ案盈レ几、不相一一一」。
〔撰答〕撰著して報答す。○〔齊〕「懸-曉一二一詔-草一」。
〔訓答〕訓讀を付し試問に應答す。○〔齊〕「伯-珍一一、甚有二條-理一」。
〔應答〕こたへを爲す。○〔梁〕「一一如レ響」。
〔效答〕志るしありて應ず。○〔梁〕「捕レ影繫レ風、終無二一一一」。
〔優答〕特によくあしらふ。○〔北齊〕「帝一一不レ許」。
〔勅答〕みことのりをもて報答すること。○〔南〕「宜レ改二之一一一」。
〔名答〕巧みなるこたへ。○〔南〕「時以爲二一一一」。
〔表答〕上書して返答す。○〔魏〕「詔以レ間レ光、光一一一」。
〔拜答〕ぬかづきてこたへをなす。○〔唐〕「諫者一一不レ暇」。
〔謬答〕いつはりて返答す。○〔隋〕「一一日檢二校客-內一、無二此色人一」。
〔嘉答〕嘉奬して返答す。○〔唐〕「太-子手令二一一一」。
〔褒答〕褒賞して返答す。○〔唐〕「手制二一一一」。
〔裁答〕裁斷し返答す。○〔唐〕「其一一一受レ意」。
〔饋答〕品物を送りこして挨拶をなす。○〔唐〕「每レ有二一一一、至-忠引二其使一、北-面拜-受」。
〔筆答〕文字もて返答す。○〔文士傳〕「有二劇-問一以一二一之一」。

【筊】タ、ダ。徒果切 哿
竹の名。

【筡】タ、テ。陟瓜切 麻
むち（箠）。

【筕】カウ、ギヤウ。何庚切 庚
カウ、ガウ。寒剛切 陽
一篖は、あんぺらに似たる直文にして粗なる竹簟、たけむしろ。

【策】サク、シヤク。楚革切 陌
㊀編簡、ふだ。○〔儀〕「百-名以-上書二於一一」。
㊁文書、かきもの。○〔禮〕「先-生書-一琴-瑟在レ前」。
㊂課題、さひ。○〔晉〕「舉二秀-才一者五-一皆通拜爲二郞-中一」。
㊃敎令、のり。○〔左〕「一二命晉-侯一爲二侯-伯一」。
㊄籌謀、はかりごと。○〔戰〕「欲レ決二手蘇-秦之一一」。
㊅數蓍、めどぎ。○〔史〕「黃-帝得二寶-鼎神-一一於レ是迎レ日推レ一」。
㊆籤籌、くじ、かずとり。○〔柳宗元〕「戲抽二佛一一」。
㊇箠杖、むち、つゑ。○〔禮〕「君車將レ駕則僕執レ一立二于馬-前一」。
㊈むちを加ふ、むちうつ。○〔左〕「抽レ矢一二其馬一」。
㊉ちひさし（小）。○〔揚雄〕「木細謂二之杪一、燕之北-鄙朝-鮮洌-水之閒謂二之一一」。
⑪落葉の聲にいふ字。○〔韓愈〕「秋-風一披-拂、一一一鳴不レ已」。
⑫さす（刺）。○〔揚雄〕「凡草-木刺レ人北-燕朝-鮮之閒謂二之一一」。
〔警策〕言少なくして其の要にあたること。○〔陸機〕「乃一-篇之一一」。
〔鞭策〕むち。○〔禮〕「必朝服執二一一一」。
〔天策〕星の名。○〔左〕「一一焞々」。
〔短策〕(い)短き鞭。○〔陸機〕「杖二一一一而遂往」。(ろ)深からざる計謀。○〔韓愈〕「我欲レ進二一一一、無レ由レ至二丹-墀一」。
〔上策〕上乘なる謀計。○〔漢〕「故謂二之一一一」。
〔下策〕下拙なる謀計。○〔漢〕「南-坂火-攻、國出一一一耳」。
〔射策〕難問を簡板に記しおき之を机上に置き試驗に應ずる者之に對し意中に投射し取りて之に與ふること。○〔漢〕「一一一甲-第」。
〔杖策〕馬箠をつゑつく、つゑ、むち。○〔後漢〕「禹一二一謁二軍-門一」。
〔玉策〕玉板のふだ。○〔魏都賦〕「鏤二一一一于金-」
〔揆策〕はかりごと。○〔聖主得賢臣頌〕「圖-事一一、則君不レ用二其諫一」。
〔敝策〕馬箠を傷ひやぶる。○〔聖主得賢臣頌〕「傷レ吻敝レ一一而不レ進」。
〔諸策〕諸のはかりごと。○〔王命論〕「英-雄陳レ力、一一一畢舉」。
〔輕策〕むちの重からざるもの。○〔進方生〕「杖二一一一以行遊」。
〔首策〕首領となりて計謀を爲す。○〔杜篤〕「一一一之臣、運レ籌出レ奇」。
〔停策〕馬箠を息らふ、卽ち、馬を留めて休息すること。○〔謝靈運〕「一レ一倚二茂-松一」。
〔抗策〕馬むちを擧ぐ、又、馬を行る。○〔洛神賦〕「攬二騑-轡一以一レ一」。
〔揮策〕馬箠をふるひ動かす、又、馬を行る。○〔李白〕「一レ一楊-子津」。
〔策策〕葉の落つる聲にいふ語。○〔周伯琦〕「市樓風一一一」。
〔蓍策〕めどぎ。○〔淮〕「一一日施」。
〔銜策〕くつわとむちと。○〔禮正義、序〕「泛-鸞之馬、設二一一一以驅レ之」。
〔執策〕むちを手に持つ。○〔禮〕「獻二車-馬一者執二一一綏一」。
〔轡策〕たづなとむちと、卽ち、駕御の柄。○〔家語〕「人-君之政、執二其一一一而已矣」。
〔決策〕計謀を決行す。○〔史〕「不レ如二一レ一東-鄕爭二權天-下一」。
〔定策〕前に同じ。○〔漢〕「宣-帝立、有二一一一功一」。
〔運策〕計謀をめぐらし定む。○〔王褒〕「一二一帷-幄一、參二謀幕-府一」。
〔籌策〕はかりごと、又、かぞとり。○〔漢〕「景-帝時-々使二入閒一一一」。
〔畫策〕はかりごとを案出す。○〔解嘲〕「留-侯一レ一、陳-平出レ奇」。

〔對策〕政化の得失を記錄して問題となし之に應答せしむること。○〔梁簡文帝〕「--二--雲臺一」。「--」。
〔建策〕計謀を設けはじむ。○〔兩都賦〕「奉春--」。
〔秘策〕ひめおけるはかりごと。○〔宋〕「深謀--、功流二萬世一」。
〔獻策〕計謀を君上に申し進む。○〔宋〕「以二布衣一--」。
〔計策〕はかりごと。○〔吳〕「間以二--一」。
〔御策〕馬をつかひこなすに用ふるむち。○〔晉〕「王良之--也」。「--」。
〔高策〕すぐれたるはかりごと。○〔王勃〕「遠凝二--」。
〔箠策〕馬のむち。○〔李尤〕「御者--、示レ有二威怒一」。
〔佐策〕君を助けて計謀を爲す。○〔袁宏〕「子布--、致二延譽之美一」。

【⿱竹耳】ジョウ、如容切 冬 ニユ。乳勇切 腫
文ある竹、まだらだけ。

【⿱竹丞】ショウ、ジョウ。諸仍切 蒸
㊀たいまつ(竹炬)。㊁皮に文ある竹。

【⿱竹仲】チウ、ヂユ。直衆切 東
㊀大ならず小ならず、其の中位にある籥、ふえ。㊁一種の竹。

【⿱竹隼】シユン。心準切 軫
かれかけ(箟)。

【⿱竹朶】タ、ダ。杜果切 哿
⿱竹然--は、一種の竹、南陽に生じ、漢の時獻じて馬のむちになしたるものなりとぞ。

【⿱竹杉】檛に同じ、むち。

【筘】コウ、ク。丘遘切 尤
布--。○〔金仁山〕「三十升布則爲二--千二百日一」。

【⿱竹央】エイ、ヤウ。於驚切 庚
たけのこ(笋)。

【⿱竹毛】エウ。羊笑切 嘯
屋の上の簿、たけず。

【笑】俗の笶の字。

【⿱竹刎】ブン、モン。武粉切 吻
竹を截る、たけきろ。

七畫

【⿱竹沂】ギ。牛肌切 支 ギン、ゴン。魚斤切 文
大いなるふえ(大箎)。

【筟】フ、ブ。芳無切 虞
㊀緯絲を卷きつくるくだ。㊁竹の中の薄き皮。

【筠】ヰン。于倫切 眞 ウン。于分切 文
㊀竹の青皮、卽ち、竹幹の堅きところ。○〔禮〕「其在レ人也如二竹箭之有一レ--」。㊁たけ(竹)。○〔杜甫〕「柴門空閉鎖二松--一」。
〔松筠〕まつの木とたけと。○〔儲光羲〕「節操方二--一」。
〔疎筠〕まばらに生じたる青たけ。○〔洛陽名園記〕「--琅玕如二碧玉椽一」。
〔野筠〕野生のたけ。○〔韋應物〕「池荒--合」。
〔貞筠〕いつも色のかはらざること。○〔元稹〕「--寒更佳」。
〔砌筠〕いしだたみのほとりに生じたるたけ。○〔白居易〕「--塗二綠粉一」。
〔翠筠〕みどりの竹。○〔白居易〕「霜刀劈二--一」。
〔修筠〕たけながき竹。○〔朱熹〕「史君簾閣對二--一」。

【⿱竹寽】リツ、リチ。呂邮切 質
篳に同じ、鳥を射る竹の管。

【⿱竹求】キウ、グ。渠尤切 尤
小さき籠。

【⿱竹囤】トン、ドン。杜本切 阮
笆に同じ、こくざる。

【筡】ト、ヅ。同都切 虞
中の空虛なる竹。

【筡】チヨ、ヂヨ。陳如切 魚
㊀前條に同じ。㊁折竹の篾、われだけのかは。

【筡】シヨ、ソ。商居切 魚
籧--は、たけのはこ(筐)。

【筡】テイ、タイ。丑戾切 霽
㊀前條に同じ。㊁たけのうら(竹裏)。

【筢】ハ、ベ。白巴切 麻
齒の五つあるさらへ、さらへ。

【⿱竹角】カク、コク、訖岳切 覺
竹の樌、たるき。

【⿱竹角】アク、オク。乙角切 覺
竹の名。

【⿱竹別】ヘツ、ヘチ。筆別切 屑
㊀竹を分かつ、わる。㊁わりふ(分契)。

【⿱竹灼】ハク、ボク。蒲角切 サク、ソク。側角切 覺
くるまおほひのほれを約したるもの、篕帶。○〔揚雄〕「車枸簍、宋、魏、陳、楚之閒其上約謂二之--一」。

【筣】リ。良指切 支 力至切 寘
レイ。郎奚切 齊
笓--は、竹を織りて障(さゝへ)と爲すもの。

【筣】レイ、ライ。里第切 霽
荆(いばら)を織りたるもの。

【⿱竹⿰占刂】テン、癡廉切 鹽 テン。敕豔切 豔
物をけづりて薄くす、けづる。

【筳】テイ、ヂヤウ。直貞切 庚
筳--は、たかむしろ(筵)、一說に、竹の名、笛に爲るべし。

【筳】テイ、チヤウ。湯丁切 青
竹の器。

【筳】テイ、チヤウ。他定切 徑
車の中に敷く筵、むしろ。

【⿱竹邪】ヤ、エ。余遮切 麻
竹の名。○〔贊寧筍譜〕「--竹筍無レ味」。

【⿱竹肑】ハク、ホク。北角切 覺
ヘキ、ヒヤク。必歷切 錫
手足の指の節の鳴るにいふ字。

【⿱竹夆】篷に同じ。

【⿱竹夅】カウ、ガウ。胡江切 江
--篗は、さけこしざる(酒篘)。

【筤】ラウ。盧當切 陽
㊀蒼ーは、幼き竹、わかたけ。〇〔易〕「震爲二蒼ー竹一」。
㊁筍ーは、山の名。〇〔四川志〕「筍ーー山在二大-渡-河西-北五-十-餘-里一」。

【筤】ラウ。里黨切 養
かご、かたみ、(籃)。

【筤】ラウ。郎宕切 漾
扇の類、曲がれる柄のぬひあるきぬがさ。〇〔宋〕「扇ーー在二乘-輿後一」。

【⿱竹絺】チ。丑飢切 支
竹の器、かご。

【⿱竹删】サン。相干切 寒 雜旱切 旱 所簡切 潸 セン。蘇典切 銑
飯ばち、又、箸づつ。

【⿱竹耴】テフ。陟葉切 葉
小さき葉。

【⿱竹耴】篛に同じ、くびわ。

【筥】キョ、コ。居許切 語
㊀圓形の筐、はこ、古昔は特に米を盛るに用ひしもの。〇〔周〕「賓-客亦如之共二其禮車-米ーー米芻-禾一」。
㊁刈りたる稻の束、いねのたば。〇〔儀〕「四-秉曰レー、四ーー曰レ稯」。
〔筐筥〕米を盛るはこ。〇〔詩〕「維ー及ー」。
〔圓筥〕米を盛るまるがたのはこ。〇〔詩、疏〕「農-人載二其方-筐及其ー・ー一」。
〔敝筥〕やぶれたるはこ。〇〔易林〕「破-筐ー・ー」。
〔飯筥〕めしばこ。〇〔齊民要術〕「大如二ー・ー一」。
〔負筥〕はこをせおふ。〇〔盧肇〕「提レ筐ーレー」。
〔箱筥〕はこ。〇〔蘇軾〕「犀色照二ー・ー一」。

【筥】リョ、ロ。兩擧切 御
⿱竹旅に同じ、飯いれ。〇〔急就篇〕「竹-器之盛レ飯者、大曰レ篗、小曰レー」。

【⿱竹吂】バウ、マウ。莫浪切 漾
やれのす、(屋-簀)。

【⿱竹者】簋に同じ。

【⿱竹豆】トウ、ヅ。大透切 宥
豆に同じ、古の肉を盛りたる器。

【⿱竹尾】ピ、ミ。武斐切 尾
はゝき、(帚)。

【⿱竹邑】イフ、オフ。乙及切 緝
魚を捕る竹器。

【筦】クヮン。古滿切 旱
㊀ふえ、くだ、(管)。〇〔詩〕「磬ー鏘々」。
㊁つかさどる、(主)。〇〔史〕「桑-弘-羊爲二大-司-農一ー二諸會-計事一。「鍵一」。
㊂かぎ、(鑰)。〇〔戰〕「諸-侯避レ舍納二ーー

【⿱竹酉】シウ、シュ。初尤切 尤
篘に同じ、さけこし。

【筧】ケン。古典切 銑
水を通ずる竹筒、かけひ。〇〔白居易〕「錢-塘-湖北有二石-函一、南有レー、放レ水漑レ田」。
〔翠筧〕青竹のかけひ。〇〔宋无〕「ー・ー分レ泉細」。
〔通筧〕かけひをかよはす。〇〔陸游〕「石-泉ーレー藥-苗肥」。
〔竹筧〕たけのかけひ。〇〔陸游〕「ー・ー寒-泉晨灌-苗」。
〔曲筧〕まがれるかけひ。〇〔吳擴〕「ー・ー分レ泉細」。
〔山筧〕山にかけわたせるかけひ。〇〔劉璘〕「斷-泉ー・ー細」。

【⿱竹折】セイ。征例切 霽 セツ、之列切 屑 セチ。切
たかむしろ、(簟)。〇〔揚雄〕「自レ關而西之人謂レ簟曰レー」。

【⿱竹含】カン、ゴン。胡南切 覃
ー篕は、孔なき一種の竹。〇〔戴凱之竹譜〕「ー篕竹大如二脚-指一、堅-厚脩-直腹-中白-膜闌-隔狀如二濕-麪一生レ衣將レ成レ竹而筍-皮未レ落、輒有二細-蟲一齧レ之、隕-籜之後、蟲齧處往-々成二赤-文一頗似二繡-畫一南-康所レ出」。

【筩】トウ、ヅ。徒東切 東
㊀たけづつ、(竹-筒)。〇〔漢〕「制二十-二ーー一」。「罍比レ船」。
㊁かぎ、(鉤)。〇〔郭璞〕「ーー灑連レ鋒罾-
〔銗筩〕たけにて作りたる錢づつの如きもの。〇〔漢〕「受二民-間書一爲二ー・ー一以投レ之」。
〔訟筩〕民の訟書を受くるたけづつ。〇〔余靖〕「政移二風-俗一ー・ー稀」。

【筩】トウ、ヅ。杜孔切 董
前條の㊀に同じ。

【筩】ヨウ、ユ。尹竦切 腫
やづつ、やつぼ、(箭-室)。〇〔左、註〕「箭-ー盞」。

【筫】チ。陟利切 寘 シツ、之日切 質 シチ。切
㊀たけのうつは、(竹-器)。㊁きち、(朴)。

【筫】シ。諸紙切 紙
謹みを致す、つゝしむ、又、正し。

【⿱竹妙】ベウ、メウ。彌笑切 嘯
藥の名。

【筬】セイ、ジヤウ。時征切 庚
㊀竹の名。
㊁機織の具、經絲を治むるに用ふ、をさ。

【筭】算に同じ。〇〔史〕「以二計ーー一用レ事」。
〔計筭〕かぞへはかる。〇〔史〕「桑-弘-羊以二ー・ー一用レ事侍レ中」。
〔遠筭〕遠謀といふに同じ、又、遠隔の地を經營するはかりごと。〇〔晉〕「呂-光雖レ擧二全-州之軍一、而無二經レー之ー一。「ー・ー一。
〔神筭〕神妙なる計略。〇〔後漢〕「京-師以爲レ有二
〔靈筭〕前に同じ。〇〔沈約〕「ー・ー遐-永」。
〔長筭〕永久の深きはかりごと。〇〔魏〕「廟-勝ー・ー自レ古之道也」。
〔籌筭〕はかりごと。〇〔唐〕「用レ兵多二ー・ー一」。
〔廟筭〕戰にさきだちて豫め立つる計略。〇〔晉〕「無レ垠」。「決二定ー・ー一」。
〔心筭〕こゝろのうちにてはかる。〇〔潘岳〕「ー・ー
〔多筭〕計ることのおほし。〇〔漢〕「故ー・ー勝二少-筭一」。「及ー・ー一」。
〔踐筭〕とよみをかぞへはかる。〇〔後漢〕「習二詩-禮
〔負筭〕他にひきおはするかぞ。〇〔後漢〕「寬二其ー・ー一」。「ー一。
〔智筭〕さときはかりごと。〇〔晉〕「深-沉有二ー
〔任筭〕計略にまかす。〇〔魏〕「太-祖矯レ情ーレー」。
〔遺筭〕ておちのはかりごと。〇〔吳、註〕「謀無二ーー一。「ー遠-圖發二于衷-誠一者也」。
〔妙筭〕すぐれたるはかりごと。〇〔陳〕「此將-軍ー・
〔星筭〕天文歷數のこと。〇〔梁〕「尤明二陰-陽五-行風-角ー・ー一」。「也」。
〔良筭〕よきはかりごと。〇〔通典〕「救レ弊之ー・ー
〔弘筭〕大なるはかりごと。〇〔宋〕「救レ弊之ー・ー」。

〔英筭〕すぐれたるはかりごと。○〔宋〕「故知ーー所レ苞、先勝而後戰也」。
〔雄筭〕前に同じ。○〔徐陵〕「英・謀ーー」。
〔謬筭〕まちがひの計算。○〔唐〕「詭・謀ーー」。
〔狡筭〕わるがしこきはかりごと。○〔唐〕「少聰・明多ニーー一」。「費」。
〔通〕あまねくかぞふ。○〔元稹〕「ー二ー衣・食人・生事一」。
〔細筭〕こまかにかぞへはかる。○〔杜牧〕「ーー」。
〔無筭〕數かぎりなし。○〔淮〕「日計ーレー」。

【筮】セイ、ゼイ。時制切 霽

㊀めどぎをかぞへて易卦を布き占ふにいふ字、うらなふ、うらなひ、うらかた。○〔書〕「乃命ニトーー一」。
㊁うらなひに用ふる具、めどぎ、古昔はおもにめどぎの莖を用ひしさいふ、其の數五十本あり。○〔儀〕「執レ韇以擊レー」。
〔卜筮〕龜を燒きてうらなふと蓍をもてうらなふと。○〔易疏、序〕「易爲ニーー之書一」。
〔龜筮〕前に同じ。○〔書〕「ーー協・從」。
〔枚筮〕或る一事を指さず泛く吉凶を卜ふ。○〔左〕「歎ニ南蒯ーー之遇一」。
〔謀筮〕うらかたに尋ね見る。○〔魏都賦〕「謀レ龜ーレー」。
〔著筮〕めどぎもてうらなふ、又、めどぎ。○〔書、序〕「有レ常」。「必利ニーー一」。
〔泰筮〕大いなるうらかた。○〔禮〕「假ニ爾ーーー」。
〔更筮〕あらためてうらなふ。○〔禮、疏〕ニ不レ得ニ因ーーー」。
〔預筮〕豫めうらなひ見る。○〔儀、疏〕「士冠・禮亦于ニ三・旬之內ーー」。
〔卦筮〕うらなひ。○〔孔融〕「梁・丘以ニー、ー」寧レ「世」。
〔易筮〕前に同じ。○〔晉〕「智有ニ思・義一能ニーーー」。
〔善筮〕うらなひの術に上達す。○〔北〕「遵明レ易ー」「中」。
〔占筮〕うらなひのこと。○〔北〕「會每ーー、大小必ー」。

【筮】エイ。以制切 霽

㊀前條の㊀に同じ。

㊁北ーー山は、山の名。

【筯】チヨ、ド。治據切 御

㊀はし、（箸）。○〔北〕「攜ニヒーー一」。
㊁蚌蛤の類の水蟲、其の介內に楡莢（にれのみ）の大いさの小蟹あり筯甲を開きて食らへば蟹も亦出で食し筯甲を閉ぢ合すれば蟹も亦還り入り筯の爲めに食を取り死生を共にして終始相離れずさぞ。○〔神異經〕「南・海有ニ水・蟲一名曰レーー」。
〔竹筯〕たけにて作りたる箸のこと。○〔白居易〕「白・甌青ーー」。

【篸】サ。蘇禾切 歌

機の具、緯（ぬき）を行るもの、ひ。

【箶】ゴ、グ。訛胡切 虞

籍に同じ、竹の名。

【筰】サク、ザク。疾各切 藥

㊀たけのなは、（笮）。○〔釋名〕「引レ舟者曰レーー」。
㊁國の名。○〔史〕「徙ー都最大」。

【筰】サク、シヤク。側革切 陌

せまる、（迫）。○〔周〕「修聲ー」。

【筕】ゲン、ゴン。魚軒切 元

簫の大いなるもの。

【筱】セウ。先了切 篠

志のだけ、（小篠）。

【筲】サウ、所交切 肴　サク、色角切 覺
セウ。切　ソク。切

㊀畚の種類の竹器、ふご、はこ。○〔儀〕「ー三黍稷麥一」。
㊁さゝら、（飯帚）。○〔類篇〕「陳・留謂ニ飯・帚一曰レー」。
㊂めしびつ、（飯器）。○〔類篇〕「一日、飯・器容ニ五・升一」。
㊃はしづつ、（筯筩）。○〔類篇〕「宋、魏謂ニ筯・筩一爲レー」。
〔斗筲〕（い）竹にて作りたるうつはにして飯米などをいるゝもの、又、器量の小さきにいふ語。○〔論〕「ーーー之人、何足レ筭也」。
（ろ）受くる俸給の少なきにいふ語。○〔後漢〕「大丈夫焉能處ニーー之役一乎」。
〔竹筲〕ふご、はこ、めしびつ。○〔唐〕「飯用ニーー一」。
〔瓶筲〕かめとはこと容量の少なきにいふ語。○〔崔駰〕「ーーー小材」。

【筳】テイ、チヤウ。唐丁切 靑

㊀くだ。
（い）絲をつむぐ管、いとくだ。○〔正字通〕「今紡レ絲銓曰ニーー子一」。
（ろ）小竹竿。○〔東方朔〕「以レ蠡測レ海以レー撞レ鐘」。
㊁竹算、たけのかずとり。○〔屈平〕「索ニ蓃・茅一以ー蓴兮」。
㊂きびし、（急）。○〔揚雄〕「絙ー急也」。

【筳】テイ、チヤウ。待鼎切 迥

うつばり、（屋梁）。

【筴】サク　シヤク。楚革切 陌

㊀めどぎ、（筮）。○〔禮〕「龜爲レトー爲レ筮」。
㊁はかりごと、（謀）。○〔史〕「怨下陳・王不レ用ニ其ーー一」。
㊂ふだ、（簡）。○〔莊〕「挾レー讀・書」。
㊃柵に同じ。○〔莊〕「祝・宗・人玄・端以臨ニ牢ーー一」。
〔龜筴〕卜筮に用ふるかめとめどぎと。○〔禮〕「牲死則埋レ之、ーー敝則埋レ之」。
〔探筴〕筮竹をとりてうらぶること。○〔晉〕「ーレー以卜ニ世・數一得レー」。

【筴】ケフ。古協切 葉

㊀はし、（箸）。○〔茶經〕「火ーー一名筯」。
㊁はさみあぐ、あぐ、（擧）。○〔韓愈〕「ー二漢・陽一」。

【筴】カフ、ケフ。古洽切 洽

鍼箭をはさむ具。○〔東京賦〕「拚ー已設」。

【筵】エン。夷然切 先

むしろ。
（い）竹などを編みてつくりたる席、しきもの。○〔王融〕「授レ几肆レー」。
（ろ）座席、せき。○〔詩〕「賓之初ー」。
〔几筵〕おしまづきと席と。○〔荀〕「牀第ーー、所ニ以養一レ體」。
〔蒲筵〕かばもて作りたるむしろ。○〔周〕「諸・侯祭祀席ニーー一」。
〔莞筵〕ゐもて作りたるむしろ。○〔周〕「設ニーー」「紛・純一」。
〔開筵〕座席を設く。○〔孟浩然〕「ーレー舊・峴・山」。
〔長筵〕ながきむしろ。○〔宋〕「ーー列ニ嘉・賓一」。
〔法筵〕正しき席、又、佛の道を說きさとす席。○〔北山移文〕「ーー久埋」。
〔瓊筵〕玉もて飾りたるむしろ、卽ち紛華の席にいふ語。○〔舊唐〕「對ニ食ーー一」。「ー一」。
〔舞筵〕舞蹈の席。○〔杜甫〕「燕蹴ニ飛花一落ニーー」。
〔御筵〕天子の著きたまふ席。○〔宇文融〕「南宮飾ニーー一」。
〔經筵〕經書の講義をなすために設けたる席のこと。○〔宋〕「再赴ニーー一、恩・禮甚渥」。
〔玳筵〕玳瑁をもて飾りたるむしろ。○〔酉陽雜俎〕「遠厠ニーー一」。
〔錦筵〕にしきのきれもて飾りたるむしろ。○〔鮑照〕「臥對ニーー空一」。
〔恩筵〕君のめぐみを垂れて設けたまへるむしろ。○〔庾肩吾〕「接レ醴侍ニーー一」。

（綺筵）華麗なるむしろ。○（宋之問）「山-河入二｜-｜一」。
（賓筵）客を請ずるむしろ。○（張説）「誰令三醉-舞拂二｜-｜一」。
（御筵）設けの席に就く。○（詩、箋）「賓初｜レ｜之時、能自敕戒以レ禮」。
（登筵）席上にのる。○（詩、疏）「｜レ｜依レ几」。
（降筵）席をおる。○（儀）「｜レ｜北-面」。
（復筵）もとの座席にかへる。○（儀）「主-人｜レ｜」。
（滿筵）席上に充實す。○（晉）「賓-客｜レ｜、文-案盈レ几」。
（密筵）みそかなる寄りあひの席。○（齊）「｜-｜閑-讌」。
（談筵）講談のために設けたる席。○（舊唐）「講-席｜-｜、務盡二忠-規之道一」。
（講筵）前に同じ。○（姚合）「紫-閣｜-｜鄰二御-座一」。
（拂筵）むしろの塵を除き去る。○（梁）「便｜レ｜整レ帶」。
（宴筵）酒もりのむしろ。○（劉孝孫）「披レ雲促二｜-｜一」。

【篣】ヘイ、ヒヤウ。傍丁切 青
舟車などにかくる篷、とま。

【⿱竹祈】ギン、ゴン。魚斤切 眞
⿱竹济に同じ、篪の大いなるもの。

【⿱竹呈】デツ、子チ。乃結切 屑
篞に同じ。

【⿱竹兒】筦に同じ。

【筱】セウ。先鳥切 篠
細き竹。

【⿱竹際】ベイ、マイ。亡箆切 齊
たけのはだかは、（篾）。

【⿱竹坐】サ。倉何切 歌

かご、（籠）。

【⿱竹⿱凡木】築に同じ、つく。

八畫

【箁】ホウ、ブ。蒲侯切 尤
たけのかは、（竹-箬）。

【箁】フウ、フ。房尤切 尤
竹の名。

【箁】ホ、ブ。蓬逋切 虞
｜-箷は、小さき竹の網。

【⿱竹侖】リン。力倫切 眞
｜-子は、船の具。

【箃】シウ、シュ。甾尤切 尤
㊀竹黃。㊁竹柴の別名。

【箳】ヘイ、ヒヤウ。旁經切 青　卑盈切 庚
㊀竹の名。㊁｜-箳は、さびら、（戶-扇）。

【⿱竹夅】バウ、マウ。母朗切 養
節の多き竹の名。○（爾）「｜-數-節」。

【箄】ヘイ、ハイ。邊迷切 齊
小さき籠、かご。○（揚雄）「簁小者南-宋謂二之簍一、自レ關而西、秦、晉之閒謂二之｜-｜一」。

【箄】ヒ。補弭切 紙
㊀前條に同じ。㊁簁簿、ふるひのす。

【箄】ハイ、ベ。蒲街切 佳
大いなる桴、いかだ。○（後漢）「將二數-萬-人一乘二枋-｜一下二江-關一」。

【箅】ヒ。必至切 寘　ヘキ、ビヤク。蒲歷切 錫
たけす、す、（簿）。

【箅】ヘイ、ハイ。必計切 霽
㊀甑（こしき）の底に敷く簿、す。○〔淮〕「敝｜-甑-瓾在二旃-茵之上一、雖二貧-者一不レ傳」。
㊁小さき篩、ふるひ。○（急就篇）「簁-｜箕-帚篋-簍」。
㊂おほふ、おほひ、（蔽）。○（周）「輪｜則車行不レ掉」。

【箅】ヒ。邦爾切 紙
迦-｜は、藿香の梵語。

【⿱竹典】テン。多殄切 銑
㊀古文の典の字 ㊁大いなる篋、はこ。

【箆】篦に同じ。

【⿱竹周】テウ、丁聊切 蕭
祑-｜は、山の名。

【箇】カ。古荷切 箇
物事を數ふるに用ふる字。○（荀）「負-矢五-十｜-｜」。「猶レ言二幾-何枚一」。
（若箇）若干數といふに同じ。○（薤露）「｜-｜
（箇箇）ひとつ〳〵のこと。○（杜甫）「樵-歌｜-｜同」。
（幾箇）いくつの數といふ義。○（劉詵）「出二草-先｜-｜」。

【⿱竹沼】セウ。止少切 嘯
㊀竹の名。㊁たけのへり、（竹-緣）。

【⿱竹治】チ、ヂ。澄之切 支　タイ、ダイ。堂來切 灰　タイ、テ。坦亥切 賄
志のだけのたけのこ、（箈-萌）、一説に、水中の魚衣、みづも、も。○（周）「加-豆之實、｜-菹、雁-醢、筍-菹、魚-醢」。

【⿱竹函】答に同じ。

【⿱竹捞】カイ、ゲ。求蟹切 蟹
うへさなす竹器。

【箊】ヨ、オ。央居切 魚
箖-｜は、一種の竹、其の葉は薄くして廣し。○〔左思〕「其-｜則篔-簹箖-｜」。

【箋】セン。將先切 先
㊀文書を志るすもの、かみ、ふだ。○〔語林〕「謝-安就乞二｜-紙一」。
㊁文書、かきもの、ふみ。○〔異苑〕「投レ｜與二河-伯一」。
㊂上書、たてまつるふみ。○〔元〕「皇-后生-日百-官進レ｜」。
㊃ふみの意義を解き明かすこと。○〔後漢〕「鄭-玄作二毛-詩｜一」。
（花箋）花の札。○（張嘉貞）「｜-｜落二九-霄一」。
（紅箋）赤き札。○（韓翃）「｜-｜色奪風-流座」。
（巾箋）ぬのゝふた。○（北里志）「使下人諭-訊以二｜-｜一送-達上」。
（操箋）書きつけを手に執る。○（陸雲）「｜レ｜染レ翰」。
（短箋）わづかなることを記るしたるふみ。○（劉禹錫）「因レ君達二｜-｜一」。
（御箋）天子の書きたまふふみ。○（李賀）「｜-｜銀-沫冷」。
（矮箋）短小なるふた。○（陸游）「｜-｜移入放-翁詩」。

【⿱竹戉】ワク。王縛切 藥
籰に同じ、絲を收むる具。

【⿱竹或】ヨク、ヰキ。越逼切 職

竹むらがり生ゆ、志げくはゆ。

【箬】カウ、コウ。居勞切 豪

篙に同じ、さを。

【箕】タイ、直蹊切 蟹 タイ、徒蓋切 泰
デ。　ダイ。

淺くして長き籃、かご。

【箔】セン、才先切 先 セン、昨鹽切 鹽
ゼン。　ゾン。

紙を漉くに用ふる簀、すのこ。

【箪】タウ、都教切 效 タク、直角切 覺
テウ。　ドク。

罩に同じ、魚を捕ふる竹籠。

【箍】コ、ク。古胡切 虞

竹をもて物を束ぬる用となすもの、たが。○〔語錄〕「宋大慈寺ー桶者精レ易、程顥兄弟就質レ所レ疑」。

【箆】ヒ、ビ。無非切 微

竹の名。

【箟】ハ、ヘ。邦加切 麻

やれのす（笆）。

【箎】コ、ク。火五切 麌

一種の竹、百丈程の高さに成長すとぞ。

【箏】サウ、シヤウ。側耕切 庚

㊀竹身の絃器、即ち、瑟の類、こと、古昔は十二絃なりしが後に至りて十三絃となせり、秦の蒙恬の創制にかゝりきといふ。○〔史〕「叩レ缶彈レー」。
㊁箏の音にいふ字。○〔釋名〕「箏施レ絃高急ーー然」。

〔彈箏〕ことをならす。○〔史〕「退二ーー一而取二鄲虞一」。

〔素箏〕かざりをつけざること。○〔北〕「戲二ーー濁酒一以奉迎」。

〔秦箏〕ことのこと、此の秦といふは秦の國にて始めしによる。○〔岑賦〕「況齊慰與二ーー一」。

〔哀箏〕聲のあはれげなること。○〔杜甫〕「ーー傷二老大一」。

〔風箏〕簷端にかくるふうりん。○〔李商隱〕「西樓一夜ーー急」。

〔搊箏〕ことをもつ。○〔孫賁〕「十四ーレー能擅レ名」。

〔琴箏〕こと。○〔抱朴〕「五典爲二ーー一」。

〔善箏〕よきこと、又、ことをよく彈ず。○〔玉泉子〕「聞二君ー〻ー、可レ得聞乎」。

〔横箏〕ことをよこたふ。○〔梁元帝〕「ーレー在二故帷一」。

〔調箏〕ことの調子をあはす。○〔蕭放〕「ーレー更撥レ絃」。

【箪】タン、ダン。徒官切 寒

まろき竹器。

【箐】セイ、シヤウ。子盈切 庚

竹ーーは、小さき籠、かたみ。

【箭】セン。倉甸切 霰

竹を撓み張る弓弩、たけのゆみ。

【篁】シヤウ、サウ。千羊切 陽

竹の名。○〔謝靈運〕「竹之細者籬ーー之流也」。

【箑】サフ、セフ。色洽切 洽

あふぎ（扇）。○〔潘岳〕「屏二輕ーー一釋二纖絺一」。

〔輕箑〕重からざる扇。○〔傅咸〕「忽二ーー一于坐隅二」。

〔翣箑〕羽にて作りたる扇。○〔荀〕「皆有二ーーー文章之等一」。

〔扇箑〕あふぎ。○〔揮塵後錄〕「令下人有二物外之興一、而忘中ーーー之勞上」。

〔巾箑〕ぬのもて作りたる扇。○〔潘岳〕「覽二ーーー以好レ悲」。

〔珍箑〕めづらかなる扇。○〔李德裕〕「積二玆鳥于ーーー」。

〔畫箑〕物の象をゑがきたる扇。○〔蘇軾〕「仙風照二ーーー一」。

【箑】サフ、ゼフ。實洽切 洽

箑に同じ、行書をいふ。

【箑】セフ、ソフ。山輒切 葉

脯（ほじし）の名。○〔宋〕「帝堯時、廚中自生レ肉、其薄如レー、搖動則風生、食物寒而不レ臭、名曰二ー脯一」。

【篓】箑に同じ、あふぎ。○〔韓愈〕「長ー倦還捉」。

【箛】カウ、ガウ。合浪切 漾

竹の竿、さを。

【箒】シウ、シュ。之九切 有

塵を掃ふ具、はゝき、はうき。○〔賈誼〕「毋下取二箕ー一立而誶語上」。

〔拂雲箒〕竹の名、莖は指の大いさの如く梢に細き葉密に生じて箒の如し、採りて土産となし人に贈るとぞ。○〔僧贊寧竹譜〕「ーーー生二廬山一」。

【箓】ロク。廬谷切 屋

丈の高き篋、はこ。

【篔】ショク、ジキ。丞職切 職

志やうのふえ（笙）。

【箔】ハク、バク。白各切 藥

㊀すだれ（簾）。○〔明本〕「庭花映レー眩二吟眸一」。
㊁金屬をたゝきて薄く延ばしたるもの。○〔宋〕「禁下以二金ー一飾中佛像上」。

〔珠箔〕たまのすだれ。○〔唐〕「羽葆ーー」。

〔玉箔〕前に同じ。○〔北〕「珠簾ーー之奇」。

〔簾箔〕すだれ。○〔三秦記〕「以金玉珠璣爲二ーー一」。

〔葦箔〕あしのすだれ。○〔馬祖常〕「蓽門仍ーー」。

〔翠箔〕みどりのたまのすだれ。○〔陸游〕「ーー珠簾客意迷」。

〔飾箔〕すだれをまきあぐ。○〔秦觀〕「ーレー蓬風動」。

【箕】キ。居之切 支

㊀み。
（い）二十八宿の一。○〔春秋緯〕「月麗二于ー一風揚レー」。
（ろ）米を揚げ糠を去るに用ふる具。○〔篇海〕「簸ー揚レ米去レ糠之具」。
㊁塵をはき入るゝ具、ちりとり。○〔禮〕「凡爲二長者一糞之禮、必加二帚於ー上一」。
㊂一種の木。○〔國〕「檿弧ー服」。
㊃風師、かぜのかみ。○〔張衡〕「屬二ーー伯一以函レ風兮」。

〔斗箕〕ふたつの星の名。○〔爾〕「ーー之閒漢津也」。

〔執箕〕みをもつ。○〔管〕「ーレー膺揲」。

【箘】キク、コク。居六切 屋

竹の根。

【箖】リン。力尋切 侵

篬の字を見よ。

【箖】リン、ロン。力錦切 寑

おほふ、おほひ（翳）。

【箅】サン。蘇管切 旱

㊀かず（數）。○〔儀〕「無レー爵、無レー樂」。
㊁かずを計る、かぞふ。○〔論〕「斗筲之人何足レー」。

【算】サン、緒纂切 旱 セン。須兗切 霰
ザン。　切

㊀前條に同じ。㊁竹の器。○〔史〕「其餽二遺人一不レ過二—器食一」。

【算】サン。蘇貫切 翰

㊀歴又は數を計るに用ひし器、小さき竹管の徑一寸長さ六寸のもの二百七十一枚をあつめて六觚をつくりて一握となすもの。○〔世本〕「黃帝時隸首作二—數一」。
㊁歴又は數をかぞふる術。○〔漢〕「善爲レ—」。
㊂歴數、かず。○〔吳〕「吾—訖」。
㊃籌籤、かずとり。○〔儀〕「二—人執レ—以從レ之」。
㊄籌畫、はかりごと。○〔揚雄〕「爲レ國不レ廸二其法一望二其效一譬二諸—一乎」。
㊅智略、ちゑ。○〔列〕「自長非レ所レ增、自短非レ所レ損、—之所レ亡若何」。

【箘】キン、巨隕切 軫 キン。區倫 グン。切 眞

㊀篠の類、しのだけ、箭の用に適し皮は特に色黑し。○〔書〕「惟—簵楛」。○〔呂氏春秋〕「和之美者越簵之—」。
㊁たけのこ（筍）。
㊂すごろくのこま（博棊）。○〔揚雄〕「簿或謂二之—一」。

〔楛箘〕矢につくる木と竹と。○〔韓愈〕「扱二播杞梓一收二——一」。
〔竹箘〕たけのこ。○〔王安石〕「濕々嶺雲生二—」。

【箙】フク、ボク。房六切 屋

矢を盛る具、やなぐひ、えびら。○〔周〕「仲秋獻二矢—一」。

〔弩箙〕いしび矢をいるゝもの。○〔後漢〕「木瘠戈矛——尙書御史所レ藏」。
〔鞶箙〕えびらをたへくと。○〔選〕「嬰—レ—日、生レ男矣」。
〔夏箙〕夏后氏の良弓良矢を盛りしえびら。○〔司馬相如〕「右二——之勁箭一」。

【箚】タフ、テフ。竹洽切 洽

㊀鍼を以て刺す、さす。
㊁敎令又は上書の一體。○〔正字通〕「非レ表非レ狀者謂二之—子一」。

〔勅箚〕天子の賜はるかきつけ。○〔魏鄭錄〕「大刹宮觀者降二——一」。

【箛】コ、ク。古胡切 虞

㊀一種の竹。○〔張衡〕「其竹篠簳—箠」。
㊁一種の吹器、ふえ、古昔は箛管を用ひたりしが後に銅管を用ふるとさなれり、其の聲は觱栗に似たりさいふ。○〔晉先蠶儀、註〕「車駕住吹二小—一發吹二大—一」。
㊂頭に孔あり吹きて聲をなす鞭、ふえのむち。

【箜】コウ、ク。苦紅切 東

㊀—篌は、一種の絃器、くだらごと、二十三絃にして體曲がりて長し、懷中に抱き兩手にて齊しく奏するもの。○〔釋名〕「——篌、師延所レ作靡々之樂、空國之侯所レ存也」。
㊁かご（籃）。

（箜篌之圖）

【箝】ケン、コン。其廉切 鹽

㊀くさりにて項を鎖すと、くびかせ、又、木を口にふくまするを、ふくみ。○〔韓愈〕「口如レ銜レ—」。
㊁はさむ（鑷）。○〔戰〕「蚌合而—二其喙一」。

㊂さざす（鎖）。○〔漢〕「墮レ城削レ刀—レ語燒レ書」。

【箞】ケン、クワン。驅圓切 先 苦倦切 霰

竹を揉む、たわむ。

【箈】デン、テン。奴店切 豔 デフ、テフ。諾叶切 葉

竹索、たかづな、舟を挽く索、ふなづな。○〔白居易〕「苒弱竹箋—」。

【⿱竹刪】サン。蘇干切 寒 蘇旰切 翰 サン、所簡切 潸 セン。師姦切 刪 顙旱切 旱

竹器、はこ。

【箠】スヰ、ズヰ。是爲切 支

一種の篠。○〔張衡〕「其則竹篠簳箛—」。

【箠】ツヰ。株垂切 紙

㊀竹の節、ふし。
㊁馬策、むち。○〔史〕「杖二馬—一下二趙數十城一」。
㊂箠刑、たゝき。○〔漢〕「景帝中六年定二——一」。
㊃むちにて擊つ、むちうつ。○〔唐〕「小過亦鞭—流レ血」。「—」。

〔操箠〕むちをもつ。○〔管〕「弱子下レ瓶、慈母—レ—」。
〔荷箠〕むちをになふ。○〔列〕「使二五尺童子—レ—而隨一レ之」。
〔修箠〕ながきむち。○〔鹽鐵論〕「執二——一以笞二八極一」。

【⿱竹舀】タウ、トウ。他刀切 豪

かご。○〔揚雄〕「—篹也、趙代之閒謂二之——一」。

【⿱竹弥】ベイ、マイ。亡篦切 齊

たけのはだかは（篾）。

【管】クワン。古滿切 旱

㊀一種の樂器、ふえ、篪の如くにて六孔あるもの、一說に、笛の如くにて小さく兩つを併せ吹くもの。○〔詩〕「嘒々—聲」。
㊁圓長にして中の空虛なるもの、稱、卽ち竹筒などの如きもの、くだ。○〔玉泉記〕「取二宜陽金門竹一爲レ—」。○〔禮〕「右佩二玦捍——一」。
㊂筆彄、ぢく。
㊃くだにて造り吹きて聲をなす樂器の稱。○〔淮〕「列二——弦一」。
㊄總理す、あづかる、つかさどる。○〔史〕「趙高以二刀筆吏一入二秦宮一、—レ事二十餘年」。
㊅主當す、あたる、かぬ。○〔禮〕「禮樂之說—二乎人情一」。
㊆樞要、かなめ。○〔荀〕「聖人也者道之—也」。
㊇小見の貌にいふ字、又、自ら恣なる貌にいふ字。○〔詩〕「靡レ聖——」。
㊈五臟の腧。○〔莊〕「支離疏者五—在レ上」。
㊉鍵籥、かぎ。○〔周〕「司門掌下授二——鍵一以啓中閉國門上」。

〔彤管〕紅ふで。○〔詩〕「貽我——」。
〔簫管〕ふえ。○〔史〕「從以二——一」。
〔吹管〕ふえを吹く。○〔庾信〕「—レ—鳳凰臺」。
〔下管〕ふえのと。○〔陸機〕「象二——之偏疾一」。
〔銓管〕物事をはかりてすべくゝる。○〔崔湜〕「再司二——一恩可レ忘」。
〔金管〕こがねりて作れるふえ。○〔李白〕「玉簫——坐二兩頭一」。
〔淸管〕聲のよくすみわたりたるふえ。○〔王融〕「——乍聯綿」。
〔弦管〕琴とふえと。○〔郭璞〕「商人是須詠之——」。
〔急管〕聲の急疾なるふえ。○〔岑參〕「——更須吹」。
〔鐃管〕にようはちとふえと。○〔梁元帝〕「山盧和二——一」。

〔細管〕太からざるふえ。○〔庾信〕「｜・｜調ニ歌・曲一」。
〔擅管〕恣に管理す。○〔史〕「欲レ｜ニ｜山・海之貨一」。
〔綜管〕綱べをさむ。○〔漢〕「屢省ニ朝・政一、｜ニ｜衆・律」。
治一。
〔截管〕竹のくだをたちきる。○〔後漢〕「｜レ｜爲レ律」。
〔機管〕政務のこと。○〔晉〕「游・獵無レ度、｜・｜不レ脩」。
〔職管〕つかさどる。○〔南〕「興・宗｜ニ｜九流一」。
〔樞管〕物事の肝要なることにいふ語。○〔傅亮〕「愼也者言・行之｜・｜乎」。
〔笳管〕こまぶえ。○〔南〕「孝・緒聞ニ其｜・｜一」。
〔總管〕總理すること。○〔唐、註〕「置ニ｜・｜一以統レ軍」。
〔參管〕參與しつかさどる。○〔五〕「｜ニ｜機要一」。
〔窺管〕くだの中より天をのぞきみること、即ち、小さき見識にて他の知り難き物事を臆斷することにいふ語。○〔陸雲〕「所レ謂｜レ｜以臆レ天」。
〔司管〕つかさどる。○〔潘岳〕「｜ニ｜閶・闔一」。
〔絲管〕琴とふえと。○〔宋之問〕「｜・｜淸且悲」。
〔奏管〕ふえを吹く。○〔唐五郊樂章〕「鳴レ鞞｜レ｜芳・薦」。「聲淺・繁」。
〔畫管〕飾りを施さゞるふえ。○〔李賀〕「畫・絃｜・｜々手」。
〔聽管〕ふえのねをきゝとる。○〔賈至〕「｜レ｜爐・｜・｜何足レ道」。
〔濁管〕聲のたみたるふえのこと。○〔載表元〕「淫・絃｜・｜何足レ道」。
〔笙管〕笙のふえのこと。○〔潙苛〕「六・街明・月吹ニ｜・｜一」。

【管】クワン。古丸切 寒
館に同じ。○〔儀〕「｜・人布ニ幕于寢・門外一」。

【箇】クツ、九勿 物 コツ、吉骨 月 コチ。切 クチ。切
さゝら（刷）。

【篼】エン、チン。委遠切 阮
㊀竹の器。㊁竹の名。

【箣】策に同じ。○〔史〕「諸・靈數｜｜莫レ如ニ汝信一」。

【箸】タフ、トフ。托合切 合
㊀竹冒。㊁竹の名。

【箤】シュツ、ジュツ。昨律切 質
かたみ、かご（笭）。

【箶】箝に同じ。

【箵】ショ、ソ。千余切 魚

【箒】シウ、シュ。初鳩切 尤
㊀竹の名。㊁水のある澤、さは。

【箚】タ、テ。陟瓜切 麻
酒｜｜は、さけこし。

【箑】デフ、子フ。女涉切 葉
むち（策）。

【箓】たけ（竹）。

【箖】シャク、サク。之若切 藥
こめあげざる（籅）。

【箤】エフ。弋涉切 葉
たけ（竹）。

【箰】シュ、ス。心趨切 虞
たけ（竹）。

【箭】シフ、ゾフ。從輯切 緝
おほふ、おほひ（覆）。

【箠】サ、ザ。昨禾切 歌
たけ（竹）。

【策】サク、シャク。側革切 陌
はかりごと（籌）。

九畫

【箬】ジャク、ニャク。如灼切 藥
㊀竹の皮。○〔說文〕「楚謂ニ竹・皮一曰レ｜」。
㊁一種の草、くまざさ、南方の平澤に生じ、根莖は皆小さき竹に似て葉さ擇さは蘆荻に似たり葉は面青く背淡く柔かにして韌く新舊交代し四時常に青し、男は其の葉にて笠を作り女は鞋の底に敷けり。○〔本草〕「｜草名、一曰ニ遼・葉一」。
〔青箬〕あをきたけのかは。○〔張志和〕「｜・｜笠綠・蓑衣」。
〔綠箬〕前に同じ。○〔覺懷英〕「紅・莎｜・｜春風「餠」。
〔黃箬〕色きばみたる竹の皮。○〔蘇轍〕「靑・蒙｜・｜可ニ纏・包一」。

【箭】セン、ゼン。子賤切 霰
㊀や（矢）。○〔唐〕「以ニ大・｜一射卻レ之」。
㊁一種の小さき竹、しのだけ、やだけ、高さ一丈に過ぎず、節の間は三尺程隔たり堅く勁くして矢の用に適す、江南の諸山に產し會稽に生ずるもの最も精好なりとぞ。○〔史〕「震・澤致レ定竹｜既布」。
㊂すごろくのさい（博・箸）。○〔博雅〕「博・箸謂ニ之｜一」。
㊃みづどけいの壺の中に挿したるや、幹に度を刻みありて水の壺中に漏れ入るにつれて上るべく裝置し其の上りて刻みたる度のあらはれたるによりて時を知る。○〔周、註〕「閒以ニ漏・｜一」。
〔矯箭〕弓の矢をためて直くす。○〔漢〕「鍛レ甲摩レ劍、｜レ｜控レ弦」。
〔帶箭〕矢を身に負ふ。○〔陸游〕「我似ニ傷・禽｜レ｜飛一」。
〔繫箭〕矢に物を結びつく。○〔張衡〕「魯・連｜レ｜而聊・城弛・柝」。
〔急箭〕（い）矢の行くよりも速かなり。○〔孔稚珪〕「奔・湍｜レ｜」。（ろ）速かに飛びくる矢。○〔唐太宗〕「啼・猿悲ニ｜・｜一」。
〔鳴箭〕響き矢のこと、なりかぶら。○〔史、註〕「鍋箭也、如ニ今｜・｜一」。
〔流箭〕それやのこと。○〔後漢〕「堅爲ニ｜・｜所レ中」。
〔火箭〕ひや、火を仕かけて射る矢のこと。○〔李商隱〕「｜・｜侵ニ乘・石一」。
〔避箭〕矢の飛び來るをのがれよく。○〔白居易〕「｜レ｜高・鴻盡翅・飛」。
〔飛箭〕とびくる弓の矢。○〔晉〕「｜・｜雨集」。
〔叢箭〕矢を一處にあつめ射る。○〔宋〕「選ニ善射者一、｜・｜射レ之」。
〔常箭〕通常の弓の矢。○〔魏〕「矢異ニ｜・｜一」。
〔遺箭〕弓の矢を贈りやる。○〔魏〕「｜ニ｜於竄・咄一」。
〔激箭〕勢するどく射たる弓の矢。○〔唐太宗〕「｜・｜流・星遠」。
〔斷箭〕折れたる弓の矢。○〔五〕「｜・｜遺・鏃、布厚寸・餘」。
〔緩箭〕、勢の弱く飛び行く矢。○〔啓顏錄〕「急・風吹ニ｜・｜一」。
〔傅箭〕矢の根に附着す。○〔本草〕「｜レ｜射ニ禽・獸一、十步卽倒」。
〔毒箭〕毒藥を塗りたる矢。○〔本草〕「以作ニ｜・｜一」。「加」。
〔勁箭〕つよき弓の矢。○〔范成大〕「何必｜・｜一」。
〔篠箭〕しのたけのこと。○〔梁宣帝〕「｜・｜亂ニ其形・類一」。
〔抽箭〕拔き出でたるしの竹。○〔王儉〕「貞・筠｜・｜、潤レ壁懷レ山」。
〔筠箭〕しのたけ、竹。○〔劉峻〕「心貞ニ｜・｜一」。
〔快箭〕勢の利き矢。○〔陸龜蒙〕「｜・｜拂下西・飛鶴」。
〔發箭〕矢を引きはなつ。○〔李白〕「養・由｜レ｜、奇・肱飛レ車」。
〔猛箭〕勢はげしく射る矢。○〔楊維楨〕「材・官｜・｜與レ之敵」。
〔如箭〕物の勢のはやきにいふ語。○〔江表傳〕「往船｜・｜」。
〔銜箭〕矢の物に中たりて入りこむこと。○〔庾信〕「石・梁｜レ｜」。

（曉箭）あかつきの時計の刻。○〔杜甫〕「五-夜漏-聲催ニ ー・ーニ。
（更箭）夜のふけゆく時計の刻。○〔陸都刺〕「枕-邊漏-水催ニ ー・ーニ。

【篁】キン。居忍切 [軫]
一種の竹、皮は霜の如く白し、大いなるものは篙に爲るべし。○〔揚雄〕「其竹則籠-籦-笨ー野-篠紛-邑」。

【箑】エフ。弋涉切　テフ、敕涉切　デフ。切 [葉]
㊀たけのふだ、（籤）。㊁葉に同じ、かみかず、ふだかず。

【篘】ク、コ。果羽切 [麌]
ー篗は、車の輞（おほわ）を規すのり。

【萱】ケン、クワン。許元切 [元]
竹の花。

【篕】ハク、ボク。蒲角切 [覺]
一種の巨竹、節の閒は至りて短く中は孔無く實ち堅くして強く柱棟の用に供す。○〔異物志〕「ー竹其大數-圍」。

【篖】フク、ホク。甫六切 [屋]
㊀機の具、をさ。㊁竹の名。

【篡】タウ。待朗切 [養]　タウ、徒浪　ダウ。切 [漾]
酒を盛る竹器。

【箯】ヘン、ベン。卑眠切 [先]
竹木を編みて造りたる輿、たけごし。○〔史〕「上使ニ泄-公持レ節問ニ之ー-輿前ニ」。

（竹箯）竹もて作りたる輿。○〔袁宏〕「循レ濱含ニ ー・ーニ。

【篌】クワイ、ケ。古對切 [隊]
㊀さま、（篷）。㊁かたみ、（篋）。

【篌】クワク、コク。古獲切 [陌]
くるまがさのほね、（車-子-弓）。○〔揚雄〕「車枸-簍宋、魏、陳、楚之閒謂ニ之ーニ。

【篌】クワイ、ケ。枯回切 [灰]
ー篷は、くるまのおほひ、（蓋）。

【篌】ト、ヅ。徒故切 [遇]
かみさし、かんざし、（簪）。

【篔】シユン。思引切 [軫]
簨に同じ。○〔張衡〕「負ニー-業ー而餘-怒乃奮レ翅而騰-驤」。

【篹】シユン。思引切 [軫]
㊀筍に同じ。○〔莊〕「不レー久竹」。㊁ー篗は、鳥を捕らふる具。

【篙】クワ、ケ。古瓦切 [馬]
籰ーは、絲を卷き收むる具、わく。

【篖】ダン、ナン。奴感切 [感]
わかきたけ、（弱-竹）。

【箱】シヤウ、サウ。息良切 [陽]
㊀車內の物を容るゝ處、にぐら。○〔詩〕「晥彼牽-牛、不ニ以服ーレー」。㊁こめぐら、（廩）。○〔詩〕「乃求ニ千斯倉ー、乃求ニ萬斯ーー」。㊂篚篋、かたみ、かけご、はこ。○〔儀、註〕「今之冠ー也」。

㊃廂に同じ、ひさし。○〔儀〕「賓升公揖退ニ于ーニ。
（倉箱）米倉。○〔柳宗元〕「富ニ兵戎-盈ニー・ーニ。
（萬箱）萬程も數多くある米倉。○〔法林珠林〕「家豊ー・ー之歛」。
（服箱）車を牽く。○〔張衡〕「羈ニ騕-裊ー以ーレー」。
（高箱）高くある車の物を入るゝ處。○〔後漢〕「少-卿志レ仕、終乘ニー・ーニ。
（巾箱）ぬのにて張りたるはこ。○〔元稹〕「僮-兒拂ニー・ーニ。「ーレー」。
（盈箱）はこに充實す。○〔呂溫〕「王-公之珍-服
（行箱）旅の折に用ふるはこ。○〔鮑照〕「忌-轍-覆ニー・ーニ。
（方箱）四角なる車の物を入れ載する處。○〔玉海〕「爲レ車者有ニ廣-箱-有ニー・ーニ。
（書箱）ふばこのと。○〔晉〕「置ニー・ー鏡-奩之具ニ。
（封箱）緘ぢたるはこ。○〔晉〕「有ニ一-小-姘-持ニー・ー來」。
（重箱）車のかさなりたる物を入るゝ處。○〔隋〕「諸-末ー・ー盤-輿」。
（車箱）車の物を入るゝ處。○〔杜甫〕「ー・ー入レ谷無ニ歸-路ニ」。
（充箱）車の物を入るゝ處に充實す。○〔韓詩外傳〕「長幾ーレー」。
（筐箱）かたみ。○〔李郢〕「ー・ー漸見新-芽來」。○
（瑚箱）雕りきざみたる車の物を入るゝ處。○〔傅休奕〕「象-輿ー・ー」。○
（連箱）あまたならびたる車の物を入るゝ處。○〔韓愈〕「ー・ー載己賓」。
（瑤箱）玉のはこ。○〔王勃〕「ー・ー薦ニ金約ニ。
（瑤箱）前に同じ。○〔王勃〕「彩-帙ー・ー」。
（開箱）はこをあけはなつ。○〔杜甫〕「ー・ー覩ニ黑-裘ニ」。
（潔箱）淸らかなるはこ。○〔雲笈七籤〕「以ニ青-筆爲レ星、丹-筆爲レ綱、盛ニ之ー・ーニ。
（空箱）一物も入りあらざるはこ。○〔白居易〕「飲レ棄ー・ー侶少レ恩」。

【節】ヤ、エ。以遮切 [麻]
臨海に生ずる竹。

【劲】ケイ、キヤウ。堅正切 [敬]
筋竹。

【筅】セン。蘇典切 [銑]
筅に同じ。

【箅】俗の箅の字。

【箴】シン。職深切 [侵]
㊀はり。
（い）衣巾を綴り縫ふに用ふる針。○〔禮〕「紉レー請ニ補-綴ニ。
（ろ）膚肉を刺し病ひを療するに用ふる針。○〔漢〕「ー-石湯-火所レ施」。
㊁規戒、いましめ。○〔書〕「猶胥ニ顧于ー-言ニ。
㊂羽の數にいふ字。○〔爾〕「一-羽謂ニ之ー、一十-羽謂ニ之縛ニ。
（酒箴）さけのいましめ。○〔漢〕「黃-門-郎揚-雄作ニー・ー以諷ニ諫成-帝ニ。「ー」。
（作箴）規戒の辭をつくると。○〔後漢〕「彪獨ーレ
（良箴）よきいましめ。○〔朱熹〕「早-晩奉ニー・ーニ。
（學箴）學問する者のいましめ。○〔晉〕「著ニー・ーニ。
（文箴）文章を作る上のいましめ。○〔唐詩紀事〕「李-德-裕嘗爲ニー・ーニ。
（明箴）道理のあきらかなるいましめ。○〔高允〕「永佩ニー・ーニ。
（世箴）よの中のいましめ。○〔元結〕「永爲ニー・ーニ。
（規箴）いましめ。○〔陸瓊〕「常-語是ー・ー」。
（大寶箴）帝王の位に對するいましめ。○〔唐〕「張-蘊古上ニー・ー・ーニ。
（皇極箴）前に同じ。○〔玉海〕「知-制-誥祖-無-擇獻ニー・ー・ーニ。

【篕】カン、ケン。古斬切 [豏]
竹の名。

【篡】カツ、カチ。居曷切 [曷]
一種の竹。

【篕】ガツ、ゲチ。吾瞎切 黠
篕に同じ、樂を止どむるにうつ器。

【箐】セイ、シヤウ。所景切 梗
箐一一は、かご(篝-籠)。○[皮日休]「朝空二箐一一去」。

【箐】セイ、シヤウ。銑挺切 迥
箐一一は、車のてすり。

【箐】セイ、シヤウ。先青切 青
箐一一は、魚をあさる具。○[大唐新語]「漁-具總曰二箐一一二」。

【葭】カ、ケ。古牙切 麻
㊀葦の未だ秀でざるもの、よし。○[王記]「河-內一一草爲レ灰」。
㊁笳に同じ、よしぶえ。○[宋]「一一李-伯-陽入二西-戎一所レ造郎笳也」。

【箶】コ、グ。洪孤切 虞
㊀一種の竹。
㊁やなぐひ、やいれ(箭-室)。○[吳萊]「饗レ士論レ功懸二箭一一二」。「一」。
(霜箶) ひかりあるやなぐひ。○[王勃]「雪-鍊一-

【篪】シ、ヂ。常支切 支
簧の屬、ふえのした。

【箷】イ。余支切 支
腰掛けの前の几。

【篦】テイ、ダイ。田黎切 齊
篦に同じ。

【篾】ケイ、カイ。堅奚切 齊

篺に同じ。

【箷】シ。商支切 支
竹の名。

【箷】イ。弋支切 シ。常支切 支
ころもかけ(衣-架)。○[爾疏]「凡以レ竿爲二衣架一者名曰レ一」。

【箷】イ。余支切 支
腰掛の前の几、つくゑ。○[揚雄]「榻-前几也趙、魏之閒謂二之一一二」。

【篧】カク。克各切 藥
㊀かご(籠)。㊁さかづき(桮)。

【落】ラク。歷各切 藥
㊀まがき(籬)。㊁わんかご(柸-籠)。

【箸】チヨ、ト。治據切 御
㊀物を挾みもつ具、はし。○[禮]「飯レ黍毋レ以レ一」。「其一」。
㊁著に同じ、いちじるし。○[列]「形-物
(沙箸) 荻の細き者の如く尺餘の高さに成長し、春苗を吐きて其の心骨の如く白くして且つ勁し南海の人其の色を愛し酒籌と爲せり、之を採らんとする者は靜かに步み前みて拔き取るなり、若し其の音を聞けば遽に沙中に縮み入りて得べからざ、ちみやなぎ。○[嶺表錄]「南-海岸-邊沙-中生二一一一二」。
(象箸) 象牙にて作りたるはし。○[史]「紂始爲二一一二」。
(前箸) まへにおきたるはし。○[漢]「臣請借二一一以籌一之」。
(匕箸) 食事のせつに用ふるさじ。○[蜀]「先-主方食失二一一二」。「一一畫灰」。
(火箸) ひばしのこと。○[湘山野錄]「久レ之以二一一

【箸】チヤク、ヂヤク。直略切 藥
被服す、黏附す、きる、ねばりつく、つく。

○[戰]「智-伯曰、兵一一二晉-陽三一年矣」。

【箸】チヨ、ト。直呂切 語
宁に同じ、門屏の閒、には。○[國]「大-夫日恪二位一一一以儆二其官二」。

【篌】サ。損果切 哿
㊀竹の名。㊁むしろ(席)。
㊂魚を捕らふる具。

【箹】アウ、エウ。於教切 效
たけのふし(竹-節)。○[竹譜]「竹之節曰レ一一」。

【箹】アク、乙角切 覺 ヤク。乙却切 藥
　　オク。切　　　　　　切
小さき籥、ふえ。○[爾]「大-籥謂二之產一其中謂二之仲一小者謂二之一一」。

【箻】リツ、リチ。劣戌切 質
竹の管、鳥を射るに用ふるもの。

【箽】チク。烏谷切 屋
竹生えて密なり、ゑげし。

【篔】井。羽鬼切 尾
はこ(匯)。

【箽】トウ、ツ。多動切 董
竹器、一說に、竹の名。

【箾】セウ。蘇彫切 蕭
簫に同じ。○[說文]「虞-舜樂曰二一一韶一尙-書作二簫-韶二」。

【箾】サク、ソク。色角切 覺
㊀舞曲の名。○[荀]「武-酌桓一一簡-象」。

【箑】トツ、トチ。他骨切 月
㊁竿を以て人を擊つ、うつ。

【箳】ハイ、ヘ。普卦切 卦
竹の器、かご。

【箳】ハイ、ヘ。普卦切 卦
たけぎれ(竹-片)。

【箂】篺に同じ。

【箆】ヒ、ビ。蒲彌切 支
かご(籠)。

【箵】テイ、チヤウ。丁定切 徑
竹の器、かご。

【箿】シフ。息入切 緝
㊀竹器の緣(へり)を織る、あむ。
㊁おほふ(覆)。

【箬】テフ。敕涉切 葉
竹の葉。

【節】セツ、セチ。子結切 屑
㊀ふし。
(い)竹又は他の植物の枝幹の約まりむすぼれたる所。○[詩]「旄-丘之葛兮、何誕之一兮」。
(ろ)音調の曲折變化する所、てうし。○[後漢]「大會二賓-客一閱二試音-一二」。
㊁志行の守り執る所あること、みさを。○[左]「聖達レ一、次守レ一、下失レ一」。
㊂行事、こと、おこなひ。○[論]「臨二大-一二而不レ可レ奪」。
㊃ゐるし。
(い)符信、わりふ、てがた、ゐかし。○

〔書〕「惟厥正・人越小臣諸―」。
（ろ）經驗、ためし。○〔禮〕「無レ―二于内一者觀レ物弗二之察一矣」。
❺制斷、さだめ、きまり。○〔禮〕「藝之分仁之―也」。
❻法度、のり。○〔禮〕「恭・敬撙―」。
❼適度、ほどあひ。○〔禮〕「視二寒・煖之―一」。「同レ―」。
❽等差、しな。○〔史〕「大・禮與二天・地一同レ―」。
❾區畫、かぎり、しきり。○〔說苑〕「一―見則百―知矣」。
❿とき。
（い）時候の區分。○〔史〕「四・時八・位十・二・度二十・四・―」。
（ろ）時期、をり。○〔史〕「晩―色衰愛弛」。
⓫ほどよくす、かぎる、さだむ、制す、檢す。○〔書〕「―レ性惟日其邁」。
⓬ほどよくあり、きまる、さだまる。○〔禮〕「風・雨―寒・暑時」。
⓭君王の壽日、ごたんおやうび。○〔明皇實錄〕「請下以二八・月五・日一爲中千・秋―上」。
⓮一種の樂器、擊ちて他の音樂のふしをとゝのふるもの。○〔晉〕「善擊レ―」。
⓯山の高峻なる貌にいふ字、たかし。○〔詩〕「―彼南・山」。

〔苦節〕身をくるしめて操を立つ。○〔謝靈運〕「―・―之僧、明・發懷・抱」。
〔踰節〕制限を過ぐ。○〔禮〕「禮不レ―レ―、不二侵・侮一、不二好・狎一」。
〔品節〕階段をつけ制限す。○〔禮〕「―二―斯一、斯之謂レ禮」。「謂レ孫」。
〔陵節〕制限を凌ぎ過ぐ。○〔禮〕「不レ―レ―而施レ之」。
〔禮節〕禮儀品節。○〔禮〕「―・―者仁之貌也」。
〔疏節〕疎略なるみさを。○〔禮〕「色・容不レ盛、此孝子之―・―也」。
〔無節〕（い）驗しのあらざること。○〔禮〕「―レ―于内一者、觀・物弗二之察一矣」。

（ろ）操のあらざること。○〔詩、序〕「東方未・明、刺レ―・―也」。
〔邦節〕天子のくにの事に用ふるおるし、即ち珍圭、牙璋、穀圭など。○〔周〕「掌下守二―・―一而辨二其用一以輔中王・命上」。
〔玉節〕玉にて作りたるてがた。○〔周〕「守二邦・國一者用二―・―一」。
〔使節〕使者の持ちありくてがた。○〔周〕「凡邦・國之―・―、山・國用二虎・節一」。
〔虎節〕とらの形をなしたるてがた。○〔寶・牟〕「深持―・―居」。
〔符節〕てがた。○〔孟〕「若レ合二―・―一」。「也」。
〔璽節〕印章のこと。○〔史、註〕「―・―者今之印章也」。
〔旌節〕使者の持ちゆく旗おるし。○〔陳子昂〕「―・―此從レ戒」。
〔執節〕手がたを携帶すること。○〔常建〕「―レ―乘二赤・龍一」。
〔大節〕大いなる操守、大なる事。○〔國〕「男・女之別、國之―・―也」。「矣」。
〔守節〕操を堅くまもる。○〔史〕「君・子曰、能―レ―」。
〔改節〕操守を變ぞ。○〔家語〕「君子修レ道立レ德、不下爲二窮困一而―上レ―」。
〔折節〕操守を屈して人に卑下す。○〔戰〕「主―レ―以下二其臣一」。
〔氣節〕義氣操守のあること。○〔權德輿〕「勇・敢―・―、根二於公廉一」。
〔制節〕程を見はからひて制限す。○〔漢〕「―レ―謹レ度以防レ奢」。
〔抗節〕操守ありて屈せぞ。○〔漢〕「唯陳咸年少―・―不レ附」。
〔死節〕操を立てゝ一命を拋つ。○〔胡安國〕「春・秋重二―レ―之臣一」。
〔逆節〕忠順ならざる操守あること。○〔漢〕「今以法割二削諸・侯一、則―・―萌・起」。「大・夏一」。
〔杖節〕旌節をつゑにす。○〔漢〕「博・望―レ―、收二功之―・―也」。
〔盛節〕立派なるみさを。○〔漢〕「昭・姓考瑞、帝・王之―・―也」。
〔名節〕名譽操守のこと。○〔魏文帝〕「乃・祖以・來世著二―・―一」。
〔變節〕操守をあらたむ。○〔漢〕「年四十乃―レ―、從二博・士白・子友一受レ易」。
〔底節〕操守を砥ぎみがく。○〔漢〕「聖主―レ―信レ德」。
〔奇節〕くすしくすぐれたる操守のこと。○〔虞世南〕「韓・魏多二―・―一、倜儻遺二名・利一」。「端・直性一」。
〔多節〕ふしさはにあり。○〔劉禹錫〕「―レ―本懷二」。
〔芳節〕春の時節。○〔唐太宗〕「眺・聽欲二―・―一」。
〔華節〕前に同じ。○〔初學記〕「春節曰二―・―一」。

【篘】チウ、ヂユ。丈九切 〔有〕
竹の根を易へて枯るゝこと。

【篙】タイ、デ。徒哀切 〔灰〕 度耐切 〔隊〕
箈に同じ。

【篗】ケン。九件切 〔先〕
竹の名。

【篓】サフ、ゼフ。實洽切 〔洽〕
箑に同じ。

【箞】サク、シヤク。側格切 〔藥〕
笮に同じ、屋上の板。

【篓】シ。息兹切 〔支〕 想止切 〔紙〕
海の畔に生ずる一種の竹、竹さ筍さには皆毛ありて甲をさぐ具さなす、又、箭を作るべしさぞ。○〔續竹譜〕「―竹皮・上有レ文可レ爲二錯・子一」。

【篁】クワウ、ワウ。胡光切 〔陽〕
❶一種の竹、其の心は實ちて節短く其の質堅くして體圓し、皮は霜粉の如く白し、大いなるは船の材さなすべく細きものは笛に爲るべし。○〔謝靈運〕「初―苞二綠・籜一」。
❷竹の叢生する處、たかばやし、やぶ、たかむら。○〔史〕「薊・丘之植植二于汶―・―一」。
❸竹。○〔謝靈運〕「初・―苞二綠・籜一」。

❹簫笛の類。○〔文心雕龍〕「志感二絲―・―一」。「―兮」。
〔幽篁〕物おづかなる竹やぶ。○〔九歌〕「余處二―・―一」。
〔叢篁〕たかむら。○〔杜甫〕「―・―低・地碧」。
〔綠篁〕あをくとせる竹やぶ。○〔孟浩然〕「―・―盡―・―」。「植」。
〔筠篁〕竹。○〔水經、註〕「七・賢祠左右、―・―列・翠・節一」。
〔篔篁〕前に同じ。○〔裴硎傳奇〕「烟鎖二―・―之―・―一」。「雪凌レ霜」。
〔修篁〕長き竹。○〔宣和畫譜〕「―・―高・勁、架」。
〔紫篁〕青き竹のはやし。○〔黃鑑〕「甘・露皆零二於―・―一」。「嶺」。
〔翠篁〕前に同じ。○〔江淹〕「綠・筠繞レ岫、―・―綿レ」。
〔珍篁〕めづらしき竹。○〔吳筠〕「修・竹之―・―」。
〔疎篁〕まばらに生えたる竹。○〔柳宗元〕「簷・下―・―十・二莖」。
〔老篁〕ふるびいたみたる竹。○〔羅隱〕「―・―攜レ指徵・羽吼」。「夏・筍一」。
〔野篁〕原野にある竹の林。○〔歐陽修〕「―・―抽二」。
〔調篁〕笛の音の調子をとる。○〔歐陽修〕「新・音巧―レ―」。
〔瘦篁〕やみはそりたる竹。○〔陸游〕「―・―穿二石・竅一」。
〔碧篁〕綠なる竹の林。○〔袁桷〕「―・―相對乳・禽還」。

【篂】セイ、シヤウ。桑經切 〔青〕 息非切 〔梗〕
くろまおほひ（敝・篂）。

【篃】ビ、ミ。明祕切 〔寘〕 旻悲切 〔支〕
バイ、メ。莫佩切 〔隊〕
一種のおのだけ、江漢の間には箭竿さ呼び、一尺の中に數節あり葉大にして扇の如し蓬に衣せ被らすべし、又、箭の用に適す、其の筍は冬生ずさぞ。

【篋】クワイ、ケ。苦怪切 〔卦〕 枯回切 〔灰〕
おのだけ、（篃）。○〔戴凱之竹譜〕「篃亦箘

徒槃節而短、江漢之閒謂ニ之竹｜｜一、根深耐レ寒」。

【範】 ハン、ボン。防錽切 【豏】

法式、模楷、かた、てほん、のり。〇〔周〕「｜ニ圍天地之化一而不レ過」。

〔洪範〕 夏禹の時に洛水中より出でたる九章をいふ。〇〔書〕「天廼錫ニ禹洪範九疇一」。
〔模範〕 法式のこと。〇〔揚雄〕「師者人之｜｜」。
〔軌範〕 前に同じ。〇〔法書要錄〕「｜ニ｜後人一」。
〔憲範〕 前に同じ。〇〔北〕「須下存ニ撰譔一立ニ當世之大誠一、作中將來之｜｜上」。
〔典範〕 前に同じ。〇〔圖畫見聞錄〕「｜｜則有ニ春秋毛詩論語孝經爾雅等圖一」。
〔垂範〕 のりを將來にのこすこと。〇〔沈約〕「｜ニ｜後昆一」。
〔英範〕 すぐれたるのり。〇〔晉〕「創ニ千齡之｜｜一」。
〔秀範〕 前に同じ。〇〔傅亮〕「膺陶鈞之｜｜一」。
〔雄範〕 前に同じ。〇〔江淹〕「遠寧ニ｜｜一」。
〔柔範〕 やはらかなる德ののりにて婦女のをしへをいふ。〇〔晉〕「體ニ｜｜一而弘ニ六儀一」。
〔儀範〕 禮儀のかた。〇〔晉〕安處レ家、常以ニ｜｜一訓ニ子弟一」。
〔閫範〕 婦女の法則。〇〔晉〕「具宣ニ｜｜一」。
〔休範〕 よき法式。〇〔晉〕「流ニ｜｜于無窮一」。
〔懿範〕 前に同じ。〇〔陸雲〕「思我｜｜一」。
〔師範〕 標式。〇〔北〕「爲ニ世｜｜一」。
〔規範〕 法則。〇〔北〕「共墻宇｜｜」。
〔格範〕 前に同じ。〇〔參同契〕「司天者、立レ表測影以爲ニ｜｜一」。
〔淑範〕 たゞしき婦德ののり。〇〔唐〕「故｜｜懿行更爲ニ內助一」。
〔立範〕 のりをたてさだむ。〇〔文心雕龍〕「｜レ｜運レ衡」。
〔勝範〕 すぐれたるのり。〇〔陳後主〕「｜｜淸規」。
〔圓範〕 まるがたのいかた。〇〔齊民要術〕「以ニ竹木一作ニ｜｜一」。
〔體範〕 形ののり。〇〔圖畫見聞錄〕「合ニ當時之｜｜一」。
〔訓範〕 をしへのこと。〇〔陳後主〕「垂ニ後昆之｜｜一」。
〔貽範〕 をしへをあとにのこす。〇〔陸雲〕「｜ニ｜萬世一」。
〔聖範〕 ひじりののり。〇〔沈約〕「洋々｜｜」。

【篒】 シン。七鴆切 【沁】

墨工人の用ふる具、すみさし。

【篅】 スヰ、ズヰ。是爲切 【支】 セン。市緣切 テン。重圓切 【先】

穀を盛る圓形の囤、まるきざる、こめあげざる。〇〔急就篇〕「笆｜篅篿」。
〔䈾篅〕 あじか。〇〔釋惠洪〕「又負ニ｜｜一訪ニ了齋一」。

【篆】 テン、デン。持兗切 【銑】

㊀古文字の一體、楷書、隷書の祖となるもの、秦以前に用ひしが後世にてはおもに鐘鼎などの銘題及び符節などの文字に用ふ。

天地玄黃（楷書）　天地玄黃（隷書）　天地玄黃（篆書）

〇〔尙書序、疏〕「秦書有ニ八體一、一曰大｜、二曰小｜、及ニ亡新居攝一、使ニ大司空甄豐等校ニ文書部一、時有ニ六書一、三曰｜書、卽小｜、下杜人程邈所レ作」、曰繆｜、所ニ以摹レ印」。
㊁くびき（轂約）。〔周〕「孤乘夏｜」。
㊂鐘の帶。〇〔周〕「鐘帶謂ニ之｜一」。
〔大篆〕 書體の名、周の宣王の太史の作れる所といふ。〇〔曹唐〕「｜｜龍蛇隨ニ筆札一」。
〔小篆〕 書體の名、秦の丞相李斯の作れる所ともいひ、又、程邈ともいふ。〇〔書斷〕「斯｜｜入レ神」。
〔鳥篆〕 篆書のこと。〇〔索靖〕「蒼頡旣正ニ書契一、是爲ニ蝌斗｜｜一」。
〔朱篆〕 あかく塗りたるくびき。〇〔薛能〕「｜｜逍ニ龍坑一」。
〔陳篆〕 くびきをつらねならぶ。〇〔周〕「輪人容レ轂必直、｜レ｜必正」。
〔秦篆〕 小篆。〇〔陸游〕「山空野火焚ニ｜｜一」。
〔籀篆〕 大篆。〇〔江淹〕「散閱ニ｜｜一、側覩ニ硯功一」。
〔楷篆〕 楷書と篆書と。〇〔北〕「從ニ司徒崔浩一學ニ｜｜一」「足レ算」。
〔草篆〕 草書と篆書との二體。〇〔蔡邕〕「何｜｜之于｜｜一」。
〔隷篆〕 隷書と篆書との二體。〇〔薛存誠〕「得ニ先銜ニ」

【篇】 ヘン。芳連切 【先】

㊀一つゞりとなりたる書册、ふみ。〇〔漢〕「著ニ之於｜一」。
㊁ふみの部わけ。〇〔史〕「作ニ孟子七｜一」。
㊂完結せる詞章、かきもの。〇〔文心雕龍〕「雖レ有ニ短｜一亦思之速也」。
㊃むちうつ（笞掠）。〇〔說文〕「關西謂レ榜曰レ｜笞掠也」。
㊄翩に同じ。〇〔古文易〕「｜｜不レ富以ニ其鄰一」。
〔靈篇〕 神妙なるかきもの、又、其の簡册。〇〔齊〕「｜｜祕圖」。
〔長篇〕 ながくかきたる詩文など。〇〔蘇軾〕「｜｜發ニ春榮一」。
〔奇篇〕 めづらしきかきもの。〇〔全唐詩話〕「多ニ｜｜祕籍一」。
〔初篇〕 書物のはじめの卷册。〇〔後漢〕「且詩｜｜實首ニ關雎一」。
〔立篇〕 篇章をたておこすこと。〇〔宋〕「隨レ國｜レ｜」。
〔華篇〕 みごとなるかきもの。〇〔徐陵〕「于建作ニ｜｜一」「撮ニ其指要一」。
〔羣篇〕 おほくの書物。〇〔隋〕「欲遂總ニ括｜｜一」、
〔歌篇〕 歌體の詞章。〇〔舊唐〕「尤長ニ于｜｜一」。
〔古篇〕 むかしのかきもの。〇〔唐〕「｜｜奇字世所レ惑者」。
〔屬篇〕 詞章をつくる。〇〔文心雕龍〕「管晏｜レ｜、事覈而言練」。
〔短篇〕 詩文などのみじかき章。〇〔高啓〕「擧レ杯邀レ我賦ニ｜｜一」。
〔名篇〕 なたかきかきもの。〇〔謝朓〕「得石室之｜｜」「有ニ｜｜一」。
〔祕篇〕 世にひめたるかきもの。〇〔陳子昂〕「靑囊｜｜」
〔佳篇〕 すぐれたる詩文など。〇〔蘇軾〕「偶然談笑得ニ｜｜一」。
〔詩篇〕 詩章のこと。〇〔元稹〕「李杜｜｜敵」。
〔全篇〕 篇章の全體をいふ。〇〔李山甫〕「曹溪行者答ニ｜｜一」「新語一」。
〔雄篇〕 すぐれたる詩文など。〇〔蘇軾〕「｜｜關ニ」
〔豪篇〕 前に同じ。〇〔蘇軾〕「｜｜來督戰」。

【篍】 シャク、サク。之若切 【藥】

米を盪（こ）す具、こめあげいかき。

【篓】 ソウ、シュ。先奏切 【宥】

小さき竹、こたけ。

【築】 チク、トク。張六切 【屋】

㊀つく、きづく。
（い）土をうち堅む。〇〔詩〕「九月｜ニ場圃一」。
（ろ）土石を積み重ねてうち固む。〇〔淮〕「是月可ニ以｜ニ城郭一」。
（は）家屋を構へ造る、先づ垣をきづくよりいふ。〇〔史〕「改ニ｜宮一而師ニ事之一」。
㊁土木工事。〇〔穀梁〕「功｜罕」。
㊂きづきつくりたるもの、卽ち、家屋、墻垣など。〇〔杜甫〕「畏人爲ニ小｜一」。
㊃翼を鼓す、たゝく。〇〔韓愈〕「逗レ翳翅相｜」「盡起而｜レ之」。
㊄ひろふ（拾）。〇〔書〕「凡大木所レ偃」。
㊅きね（杵）。〇〔史〕「身負ニ板｜一」。
㊆妯に同じ、あによめ。〇〔方言、註〕「關西兄弟婦相呼爲ニ｜娌一」。
〔推築〕 傍よりつゝきて意を通ず。〇〔魏〕「典農私｜ニ｜斐一」。
〔版築〕 板と板との間に土をもりてつきかたむること。〇〔孟〕「傅說擧ニ於｜｜之一」。

〔新築〕あらたにきづく。○〔蘇軾〕「―二―長夜室一」。
〔畚築〕土をはこびてきづく。○〔高適〕「――豈無レ謀」。
〔營築〕いとなみつくる。○〔史〕「古公乃―二―城郭屋室一」。
〔穿築〕地をほり土をもる。○〔南〕「家庭――極二林泉之勢一」。
〔修築〕隄のやぶれなどをつくろふ。○〔宋〕「則有下―二―河隄一之役上」。
〔增築〕これまでの構造よりましてふしんす。○〔宋〕「復長―二―長隄一」。
〔創築〕はじめてつくりきづく。○〔水經、註〕「或言張良――」。
〔列築〕つらねきづく。○〔水經、註〕「―二―隄道一」。
〔架築〕橋をかけつゝみをきづく。○〔徐賢妃〕「非レ無二――之勞一」。
〔構築〕つくりきづくこと。○〔蘇軾〕「師來――便能高」。

【箵】シヨ、ソ。相居切 魚 ㊀篩―は、竹の名。○〔戴凱之竹譜〕「篩――竹其節疎」。㊁箕の屬。

【篤】トク。都毒切 屋 竺に同じ、あつし。

【篊】コウ、グ。胡公切 東 竹を以て水を引くもの、さひ、一說に、竹木の束、たば。

【篊】コウ、ク。呼貢切 送 ㊀竹の器、物を燒くに用ふるもの。㊁魚を取る具、やな（魚梁）。○〔酉陽雜俎〕「晉時錢唐有レ人作レ―、年取レ魚億計」。

【筰】サク、ザク。疾各切 藥 一に、筰に作る。たけづな（筊）。

【[illegible]】ユ。羊朱切 虞 黑き竹。

【[illegible]】ユ、勇主切 麌 黑き色の竹。

【篋】ケフ。乞協切 葉 狹長にして方（かく）なる箱、はこ。○〔禮〕「入レ學鼓レ―孫二其業一也」。
〔發篋〕はこをひらく。○〔符載〕「俛然―レ―」。
〔胠篋〕前に同じ。○〔祖君彥〕「―レ―而取二神器一」。
〔開篋〕前に同じ。○〔白居易〕「今日―レ―看」。
〔啓篋〕前に同じ。○〔宋〕「闔レ戸―レ―取レ書讀レ之竟レ日」。
〔筐篋〕はこ。○〔漢〕「在二刀筆――、而不レ知二大體一」。
〔封篋〕かたく緘をほどこしたるはこ。○〔高啓〕「燈前看二――一」。
〔牢篋〕書類などをいるゝをりばこ。○〔莊〕「祝宗人玄端以臨二――一」。
〔書篋〕書物をいるゝはこ。○〔魏〕「惟有二賜衣――一而已」。
〔倒篋〕はこを傾く。○〔方干〕「―レ―惟求レ醉」。
〔敝篋〕やぶれたるはこ。○〔宋〕「惟――貯二一玉杯一」。
〔滿篋〕はこのなかに充つ。○〔徐陵〕「淸文―レ―」。
〔盈篋〕前に同じ。○〔張華〕「充レ簞―レ―」。
〔籠篋〕かごとはこと。○〔靑箱雜記〕「官職非二臥房――中物一」。
〔寶篋〕たふときたから物をいるゝはこのこと。○〔徐陵〕「秦亡二――一」。
〔深篋〕ふかきはこのこと。○〔李白〕「委レ之在二――一」。
〔箱篋〕はこ。○〔杜甫〕「將來洗二――一」。
〔塵篋〕ちりほこりのたまりたるはこ。○〔呂溫〕「日月書委二――一」。
〔囊篋〕ふくろとはことのこと。○〔歐陽詹〕「―二――一」。
〔巾篋〕きぬのはこ。○〔沈遼〕今猶秘二――一。
〔韋篋〕なめし皮のはこ。○〔戴表元〕「――錦囊鮮二彩奩一」。

【篌】コウ、グ。胡鉤切 尤 箜―は、樂器、箜の字を見よ。

【篶】エン。于眷切 霰 竹を斷る、きる。

【篹】クワン、グワン。戸管切 旱 篹―は、たけふだ（篰）。

【篍】シウ、シユ。此由切 尤 セウ。此遙切 蕭 七肖切 嘯 ふえ（簫）。○〔急就篇〕「箛――起居課二前後一」。

【[illegible]】サイ。息改切 賄 竹の名。

【[illegible]】シ。想止切 紙 たけのかは（篾）。

【簍】ソウ、ス。先后切 有 ㊀十六斗の枡目の稱。㊁こめあげざる（炊簍）。

【[illegible]】セイ、シヤウ。之盛切 敬 ㊀竹の名。㊁人の名。

【[illegible]】コ、ク。孔五切 麌 ㊀竹の名。㊁魚を捕らふるもの。

【䈥】筋に同じ。

【[illegible]】チユ、ト。廚遇切 遇 壇欒竹、家に植うる竹。

【箝】鉗に同じ。

【筯】俗の筋の字。

【[illegible]】ソウ、ス。祖叢切 東 ㊀折（さ）きたる竹の箠、むち。㊁木の細き枝、こえだ。

【[illegible]】キク、コク。居六切 屋 罪人を治め窮むるにいふ字。

【[illegible]】筋に同じ。

【篝】カウ、ク。居侯切 尤 ふせご（燻籠）。

【[illegible]】カツ、ガチ。胡八切 黠 ひろふ（拾）。

十畫

【篔】ウン。王分切 文 エン、于權切 先 ―簹は、一種の竹、水邊に生じ長さ數丈に達し圍尺五六寸あり、節の間は六七尺或は一丈程相隔たれり、續みて布を爲るべし、其の大いなるものは甑（こしき）に當て、又、節の長きものは矢筒に用ふ。○〔柳宗元〕「――簹湘湖閒皆有レ之」。

【篕】カフ、ゴフ。胡臘切 合 カイ。居泰切 泰 ―篠は、あんぺら（蘧篨）。○〔揚雄〕「簟謂二之蘧曲一、或謂二之蘧篨一、或謂二之―篠一」。

【篎】ベウ、メウ。弭沼切 篠 彌笑切 嘯 ちひさきふえ（小管）。○〔爾〕「大管謂二之簥一、其中謂二之篞一、小者謂二之―一」。

【[illegible]】フウ、フ。房尤切 尤 竹の文あるもの、まだらだけ。

【[illegible]】エウ。餘招切 蕭 タウ、ドウ。徒刀切 豪 ―枝は、竹の屬、さう。○〔爾〕「――枝」。

四寸有ㇾ節」。

【篖】タウ、ダウ。徒郎切 陽
符—は、竹を削りて縦に編みなしたる麤き竹席、たかむしろ、あんぺら。〇〔揚雄〕「符——自ㇾ關而東、周‐洛楚之閒謂ニ之倚‐佯一、自ㇾ關而西謂ニ之符—一、南‐楚之外謂ニ之—一」。

【簄】シヨク、ソク。悉郎切 職
簊—は、竹の器、かご。

【篗】ワク。王縛切 藥
絲を巻き付くる具、いさわく。〇〔揚雄〕「—樣也、兗豫、河濟之閒謂ニ之樣一」。

【篘】シウ、シユ。初尤切 尤
酒を漉（こ）す具、さけこし。〇〔蘇軾〕「公‐餘試ニ新——一」。

【篗】シウ、シユ。初尤切 尤
さけこしざる、（酒‐篘）。
〔酒篘〕さけこしの器。〇〔皮日休〕「黄‐復樓‐中挂ニ——一」。

【簑】エン、チン。于元切 元
樣に同じ、いさわく。

【篖】リヨ、ロ。兩擧切 語
飯を盛る器、めしばち。〇〔揚雄〕「南‐楚謂ニ之筲一、趙、魏之郊謂ニ之—一」。

【篙】カウ、古勞切 豪 コウ。居號切 號
船を進むる竿、ふなざを。〇〔庾寅〕「挿ニ—葦‐渚一繋ニ漁‐艇一」。「—」。
〔輕篙〕かろきふなざを。〇〔柳宗元〕「乘ㇾ深屛ニ——‐
〔擔篙〕ふなざををになふ。〇〔南〕「百姓——ㇾ荷ㇾ錘」。「艇ニ」。
〔竹篙〕たけのふなざを。〇〔白居易〕「———撐ニ釣‐—」。
〔棕篙〕ふなざををあつかふ。〇〔高啓〕「渡ㇾ河自——‐「訴」。
〔老篙〕年たけたる水夫。〇〔戴良〕「———亦悲‐

【篚】ヒ。方尾切 尾
圓形の筐器、かたみ、はこ、かご。〇〔書〕「厥—織‐文」。
〔筐篚〕はこ。〇〔杜甫〕「胡‐顔入ニ———一」。
〔瑤篚〕たまのはこ。〇〔唐樂章〕「———既列」。
〔樽篚〕たるとはこと。〇〔潘尼〕「設ニ———于兩楹之閒一」。

【篙】ケキ、キヤク。許激切 錫
こめあげざるの屬、形小さくして高し、米を斛にうつすに用ふるもの。〇〔揚雄〕「所ニ以注ㇾ斛、陳、魏、宋、楚閒謂ニ之—一又謂ニ之籮一、自ㇾ關而西謂ニ之注‐箕一、盛ニ米‐穀一寫ニ斛中一者也」。

【簌】サク、シヤク。測革切 陌
うつ、（擊）。

【篇】セン。式戰切 霰
㊀あふぎ、（箑）。㊁たけ、（竹）。

【篛】ジヤク、ニヤク。日灼切 藥
㊀くまざさ。〇〔謝靈運〕「摘ニ—于谷一」。
㊁たけのこ、（筍）。〇〔僧贊寧筍譜〕「筍一名——竹、土内皮中謂ニ之——也」。

【篜】シヨウ、煮仍切 蒸 ジヨウ。切
たけ、（竹）。

【篝】コウ、居侯切 尤 ク。吉候切 宥
㊀火を覆ひて上に衣を被ひ或は薰らし或は乾かす籠、ふせご。〇〔楚辭〕「秦—齊縷」。
㊁焚く火を覆ふ籠、かゞり。〇〔歐陽修〕「——火餱‐糧」。
㊂物を負ふ籠。〇〔史〕「甌‐窶滿ㇾ—」。
〔匠篝〕ふせごのとにて薫籠ともいふ。〇〔方言〕「炊‐篹謂ニ之縮一、或謂ニ之篗一、或謂ニ之——一」。
〔衣篝〕前に同じ。〇〔陸游〕「不ㇾ惜——重換ㇾ火」。
〔香篝〕前に同じ。〇〔宋光〕「春‐寒不ㇾ禁——火」。

【篞】デツ、子チ。乃結切 屑
管の大ならず小ならず其の中位にあるもの。〇〔爾〕「大‐管謂ニ之簥一、其中謂ニ之—一」。

【篛】ダフ、ノフ。諸答切 合
㊀たかづな、（竹‐索）。
㊁香の有る草の名、葉は栟櫚の如くにして小さく實は檳榔に類せりとぞ。

【篇】ホ、ブ。蓬逋切 虞
—施は、小さき竹の網、魚を捕らふるに用ふ。

【篟】セン。倉甸切 霰
㊀竹の茂れる貌にいふ字。㊁青き竹。

【篗】ケイ、ガイ。戸禮切 薺
いかりづな。

【篠】セウ。先鳥切 篠
一種の細き竹、矢の用に供ふ、やだけ、しのだけ、しの。〇〔書〕「——簜既敷」。
〔叢篠〕あつまり生ひたる細き竹。〇〔張九齢〕「——亦清‐深」。
〔堇篠〕節せまり斛圜く質堅く皮の白き竹としのだけと。〇〔竹譜〕「——之屬必生ニ高‐燥一」。
〔風篠〕かぜのために吹き動かされて音のするしの。〇〔梁元帝〕「———雑ニ絃‐聲一」。「徑」。
〔箭篠〕矢につくる細だけ。〇〔王褒〕「———時通ㇾ
〔嫩篠〕若き細たけ。〇〔竹譜〕「修‐篁——」。
〔細篠〕しのだけ。〇〔倪瓚〕「雲‐林——蕭‐疎」。
〔疑篠〕いはほに生じたるしのだけ。〇〔謝朓〕「——‐—或傍ㇾ嶼」。
〔茂篠〕しげり生ひたるしのだけ。〇〔梁簡文帝〕「有‐嬋‐娟之——一」。
〔翠篠〕みどりの色なせるしのだけ。〇〔杜甫〕「風含ニ——娟‐々靜」。「塘交ニ——一」。
〔密篠〕しげく生ひたるしのだけ。〇〔劉孝綽〕「方‐
〔徑篠〕小みちの閒に生ひたるしのだけ。〇〔倪瓚〕「庭‐柯——綠‐依‐々」。
〔岸篠〕きし邊に生ひたるしの竹。〇〔張說〕「倚ㇾ棹攀ニ——一」。「—‐爲ㇾ堰」。
〔東篠〕たばねたるしのだけ。〇〔魚孟威〕「雑ニ——‐
〔薜篠〕蔦かづらとしの竹と。〇〔方于〕「薜‐樹渉‐亭——陰」。「欹難ㇾ直」。
〔雪篠〕ゆきのかゝれるしの竹。〇〔曹松〕「——
〔亂篠〕みだれ生ひたるしの竹。〇〔楊萬里〕「橋橫———叢」。

【篾】ケキ、キヤク。奇逆切 陌
竹にて造りたる履物、たけぐつ。

【篡】サン、セン。初患切 諫
（い）逆奪す、うばふ。〇〔漢〕「其友公‐孫‐敖與ニ壯‐士一往—ㇾ之」。
（ろ）弋（いぐるみ）して取る。〇〔字彙補〕「弋‐人何—」。

【篼】シウ、シユ。疎鳩切 尤
竹の名。

【篼】クワイ、エ。呼乖切 佳
簏に同じ、ふしだかだけ。

【篟】イ。隱綺切 紙

—篣は、たかむしろ（籽篨）。

【篢】 コウ、ク。沽紅切 東
笠の名。

【篢】 カン、コン。古禫切 感
䉈に同じ、はこ。

【篘】 ク、コ。俱遇切 遇
㊀織機の具。㊁竹の名。

【䈴】 シン。之人切 眞
㊀やだけ（箭）。㊁器の名。

【篣】 ハウ、バウ。蒲光切 陽
㊀箕の屬、み。
㊁一種の竹。○〔戴凱之竹譜〕「百葉參差生於南垂、傷レ人則死醫莫能治亦曰篣竹」。

【篣】 ハウ、ビヤウ。蒲庚切 庚
㊀かご（籠）。○〔揚雄〕「籠南楚江沔之閒謂之篣」。
㊁榜に同じ、むちうつ。○〔後漢〕「輒加篣二百」。

【篸】 サン、タン、徂含切　ゾン。ドン。徒甘切 覃
テン、ト ン。癡廉切 鹽
馬の毛を刷（か）く筐、うまぐし、くし。

【篹】 ヨ。羊諸切 魚
篽に同じ、かご。

【篧】 サウ、所交切 肴　セウ。サク、色角切 覺　ソク。
㊀飯帚、さゝら。○〔說文〕「陳留謂飯帚曰篧」。
㊁飯器、めしいれ。○〔說文〕「一曰、飯器容五升」。
㊂箸箭、はしづつ。○〔說文〕「宋魏閒謂箸箭為篧」。
㊃梢に同じ、うごく。○〔馬融〕「纖末奮篧」。

【篳】 コ、グ。戶吳切 虞
きろ、かうぶろ（被）。

【篘】 キク、コク。居六切 屋
罪人を窮理す、ちらぶ、さばく。

【篋】 タウ、トウ。他刀切 豪
㊀竹器、かたみ、ざる。
㊁牛を飼ふ具、かたみ。

【篤】 トク。冬毒切 沃
あつし。
（い）義固し、情深し、あさからず。○〔書〕「篤前人成烈」。
（ろ）純壹なり、もっぱらなり。○〔禮〕「篤行而不レ倦」。
（は）病甚し。○〔史〕「遂稱病篤」。
〔論篤〕 談論の篤實なること。○〔論〕「論篤是與」。
〔敦篤〕 人情などの厚きこと。○〔後漢〕「蔡尙敦篤」。
〔甚篤〕 いたくてあつし。○〔後漢〕「撫育恩愛甚篤」。
〔慈篤〕 なさけぶかく人情あつし。○〔後漢〕「而紆尤慈篤」。
〔仁篤〕 前に同じ。○〔蔡邕〕「仁篤慈惠」。
〔謹篤〕 つゝしみぶかくこゝろのあつきこと。○〔南〕「琨少謹篤」。
〔純篤〕 心の誠一なること。○〔後漢〕「剋薄禍而純篤稀」。
〔醇篤〕 前に同じ。○〔朱熹〕「趙公之孝謹醇篤」。

【篜】 ハン。逋幡切 元
㊀魚を捕らふる具、竹を削りて編み其の口入るべくして出づべからざるやうに造りたるもの、うへ。
㊁篜錢は、一種の竹。

【篜】 ハン、バン。蒲官切 寒
篜篨は、たけのかは（箆）。

【篨】 シ。叉宜切 支
篨篸は、竹の貌にいふ語、又、そこなきふえ、洞簫。

【篨】 サ、ザ。才何切 歌
筲の屬、はこ。

【篨】 サ、セ。側下切 馬
炭籠、すみかご（長沙の語）。

【篨】 サン、セン。所簡切 潸
大いなる籥、ふえ。

【篙】 カ。古我切 哿
たけのこ（筍）。

【篙】 篙に同じ。

【篛】 タウ、ドウ。徒合切 合
㊀まど（窗）。㊁とびら（客扉）。
㊂窓明かなり、あかるし。

【篛】 エイ。以制切 霽
蓍（めどぎ）を數へ占ふ、かぞふ、うらなふ。

【篛】 セツ、ゼチ。食列切 屑
揲に同じ。

【篜】 サウ、ソウ。蘇遭切 豪

【篥】 リツ、リチ。力質切 質
竹の聲にいふ字。
㊀一種の竹。○〔吳錄〕「日南有篥竹、勁利削為レ矛」。
㊁音のきびしきにいふ字。○〔篇海〕「其聲悲篥」。
〔篳篥〕 一に觱篥に作る、一種の樂器、ひちりき、竹を管となし蘆を首となす其の狀胡笳に類し九孔あり。○〔通典〕「篳篥出於胡中」。

【篏】 ケン。詰念切 豔
かご（籠）。

【篘】 チウ、烏公切 東　ウ。於孔切 董
竹の盛んなる貌にいふ字、ちげる。

【篊】 コウ、ク。呼貢切 送
物を炙るに用ふる竹器、あぶりかご。

【篦】 ヘイ、ハイ。邊迷切 齊
かんざし（釵）、又、けすぢたて（導）。○〔王陶談淵〕「有一小鐵篦」。
〔銀篦〕 しろかねのかんざし。○〔白居易〕「鈿頭銀篦擊レ節碎」。
〔象篦〕 象牙のかんざし。○〔虞淳熙〕「嬋媛斂象篦」。

【篦】 ヒ。頻脂切 支
𥫱に同じ、魚を捕らふる具。

【篧】 サク、仕角　ヅク。切　タク、竹角　トク。切 覺
コ、胡故　グ。切 遇
魚を捕らふる籠、細き竹を編みて造る。○〔爾〕「篧謂之罩」。

【篨】 チヨ、ヂヨ。陳如切 魚
籧篨は。

(い)たかむしろ、あんぺら、(竹-席)。○[揚雄]「簟或謂二之籧―一」。
(ろ)醜(みにく)き疾の名、胸のはれ出でて俯すべからざるを、はさむれ。○[詩]「籧―不レ鮮」。

【篩】シ。中之切 支

㊀一種の竹、長さ百尺周圍は二丈五六尺あり、南方の人取りて船を爲せり。○[神異經]「―竹一-名太-極」。
㊁粉末の麤きものを去り細かきものを取るに用ふる器、ふるひ、其の底に竹をもて孔をあらく編み造る物を入れ細かきを其の孔より下し麤きをさゞめ殘す、後世、銅線、葛、馬尾等にて造れり。○[王禹偁]「從レ僧借二藥―一」。
㊂ふるひにかけて麤を去り細を取る、ふるふ。○[漢]「―レ土築二阿-房-宮一」。

【簁】サイ、セ。所街切 佳

前條の㊁と㊂とに同じ。

【篪】チ、ヂ。直离切 支

㊀管を横にして吹く一種の樂器、ふえ、大いなるものは長さ尺四寸、小なるものは尺二寸あり管に八孔あり其の一孔は上にありて吹く所。○[詩]「伯-氏吹レ壎仲-氏吹レ―」。
㊁一種の竹。○[水經、註]「君-山東-北對-編-山多二―竹一」。

（篪之圖）

〔雅篪〕雅樂に用ふるふきもの。○[禮、圖]「―-―長「尺四-寸」。

〔頌篪〕頌樂に用ふるふきもの。○[禮]「―-―長尺二寸」。

【篯】セン。蘇見切 霰

たけ、(竹)。

【築】チク、トク。張六切 屋

手を以て物を擣く、つく。

【箚】

箚に同じ、ふだ。

【篕】カツ、ゲチ。何瞎切 黠

ひろふ、(拾)。

【箭】セン、ゼン。子淺切 霰

箭に同じ、やだけ。

【篬】シヤウ、サウ。千羊切 陽

㊀竹の名。㊁竹の色にいふ字、あをし。

【篭】

籠に同じ。

【篈】ヨウ、ユ。餘封切 冬

―箰は、矢、一説に、まだらだけ、(文-竹)。

【篡】ボ、ム。莫故切 遇

たけのはこ、(竹-筥)。

【篥】サク。昔各切 藥　サク、

シヤク。色窄切 陌

たけづな、(竹-絙)。

【篣】フ。芳無切 虞

竹の青き皮。○[儀、註]「笠竹―-―蓋也」。

【篢】シフ。所戢切 緝

足を見はす。

【篨】ヂヨ、ニヨ。女除切 魚

機の具、ひ。

【篇】ラク。歷各切 藥

まがき、かきれ、(籬)。

【篴】イツ、イチ。弋質切 質

おく、(置)。

【篺】

醡に同じ。

十一畫

【篰】ホウ、蒲口切　ホウ、普后切　有
ブ。　フ。

たけのふだ、(牘)。

【篱】リ。鄰知切 支

ざる、いかき、(笊)。

【篲】セイ、セ。施芮切 霽

㊀一種の篠竹、細き幹にして大いなるは箭竹の如く長きものは丈許に至る、根杪條など等しく下節より生ず最も帚に宜し。○[竹譜]「―-篠竹中二掃-帚一」。
㊁塵を去る具、はゝき。○[莊]「操二拔-―一以侍二門-庭一」。

〔擁篲〕はゝきを抱へ持つ。○[史]「如レ燕昭-王―-レ―先-驅」。

〔帚篲〕はゝき。○[揚雄]「或擁二―-―一而先-驅」。

〔綺篲〕飾りの施しあるはゝき。○[沈亞之]「涂二鑿-金千―-―一」。

【篴】ス井。雖遂切 寘

㊀前條の㊀に同じ。
㊁星の名、はゝきぼし。

【篲】ソツ、ソチ。蘇骨切 月

㊀前條に同じ。㊁つとむ、(勤)。

【篳】ヒツ、壁吉切 質　ヒ、必至切 寘
ヒチ。　ビ。

㊀荊竹を編みたる籓落、まがき。○[禮]「―-門圭-窬」。
㊁荊竹などにて蔽ひたる門、しばのと。○[南]「寂-寥蓽―-―」。
㊂竹荊、しば、いばら。○[左]「―-―路藍-縷以啓二山-林一」。

【篘】コク。胡谷切 屋

㊀大いなる箱。㊁米を盛る器。

〔石篘〕草の名、いはとぐさ。

【篛】

古の籌の字。

【篛】シフ、ジフ。似入切 緝

篛―は、船を修むる具。

【篴】テキ、亭歷切 錫
チヤク。切　一笛に通じ作る。

管に七つの孔ある樂器、ふえ、今時のものは五つの孔あり。○[周]「笙-師掌レ敎レ歈二竽、笙塤、籥簫、―、管一」。

【篤】チク、ドク。直六切 屋

一種の竹。

【篠】ソウ、ス。先后切 有

㊀十六斗の稱。㊁こめあげざる、(炊-籅)。

【篵】ソウ、ス。倉紅切 東

竹の病ひありて用に堪へざるもの。

【篗】サウ。所兩切 養

竹の貌にいふ字。

【篢】 タン、トン。丁感切 [感]
㊀一種の竹。㊁籃に同じ、かご。

【⿱竹區】 オウ、ウ。烏侯切 [尤]
蠶を育つるに用ふる竹器、えびら(吳人の語)。○[古逸詩甘泉歌]「金-陵下ニ餘-石ニ、大如ニー-士-屋ニ」。

【⿱竹莫】 バク、マク。末各切 [藥]
ー-篛は、一種の竹。

【篶】 エン。夷然切 [先]
黑き竹。

【篷】 ホウ、ブ。薄紅切 [東]
竹などを編みて船車などの上を覆ふもの、とま。○[揚雄]「車-簍、南-楚之外謂ニ之ーー」。
(船篷) ふねのとま。○[黃庭堅]「風-雨打ニー-ーニ」。
(細篷) こまかくあみたるとま。○[白居易]「ー-ー靑-霞織ニ魚-鱗ニ」。
(漏篷) とまに水たれおつ。○[元稹]「慣レ聞ニ-ーーレ聲」。
(背篷) せを覆ふとま。○[韓偓]「坐-睡ニ漁-師-者ニ-ー、上ニ岸-頭ニ」。
(靑篷) あをきいろのとま。○[韓偓]「揭ニ起ー-ーニ」。
(釣篷) つりぶねのとま。○[胡宿]「碧-蓮田々擁ニ-ー-ーニ」。
(疎篷) あらくあみたるとま。○[黃庭堅]「漁-火透ニ-ー-ーニ」。
(蓋篷) とまを覆ふ。○[范成大]「野-鶴猶-ー-短-ー、眺ニ」。
(擧篷) とまをぬきとる。○[朱熹]「ーレー聘ニ遐-眺ニ」。
(開篷) とまをあく。○[陸游]「ーレー相-勞-苦」。

【籛】 セン。七然切 [先]
篬-ーは、一種の竹。

【⿱竹途】 ト、ヅ。同都切 [虞]

【⿱竹遞】 テイ、タイ。丑戾切 [霽]
折(さ)きたる竹の箟、たけのかは。

【篸】 シン。疏簪切 [侵]
㊀胡竹の名。㊁つゑ(杖)。
㊀長短相等しからざるを。㊁竹の長き貌にいふ字。㊂鍼、針に同じ。

【篸】 サン、ソン。作含切 [覃]
簪に同じ、かんざし。○[韓愈]「江作ニ靑-羅帶一、山爲ニ碧-玉ーーニ」。
(抽篸) かんざしをぬく。○[孟浩然]「東-帶異ニーーーニ」。
(玉篸) たまのかんざし。○[劉孝威]「ーー久落レ簪」。

【篸】 サン、ソン。作紺切 [勘]
針をもて物を綴る、つゞる、ぬふ。

【⿱竹終】 シウ、シユ。之戎切 [東]
㊀たけ(竹)。㊁かたみ(篋)。

【篹】 サン、蘇管切 [旱]
㊀籩の屬にて筥に似たるもの、かたみ。○[禮]「玉-豆雕-ー」。㊁竹又は木にて造りたるかざりなき器の稱。○[禮]「食ニ於ー-一者盥」。

【篹】 サン、セン。皺莞切 [潸]
もつ(持)、のぶ(述)。○[漢]「書之所レ起遠矣、至ニ孔-子ー一焉」。

【篹】 セン、ゼン。除戀切 [霰]
㊀前條に同じ。㊁饌に同じ、食を具ふると。○[漢]「獨

置ニ孝-元廟一、故-殿以爲ニ文-母ー-食堂ニ」。

【⿱竹脯】 ホ、ブ。薄胡切 [虞]
水中に沈めて魚を捕らふる竹器。

【⿱竹渒】 ハイ、べ。步皆切 [佳]
大桴、おほいかだ。○[南]「命爲レー」。
(枋簰) ふねといかだと。○[後漢]「乘ニーーー下ニ江-關ニ」。
(竹簰) たけをあみたるいかだ。○[蕭觀]「江-平偏見ニーー多ニ」。
(蘆簰) あしの草をあみたるいかだ。○[吳錄]「乃夜伐レー爲レー」。

【⿱竹捭】 ハイ、べ。蒲街切 [佳] ヒ、ピ。部買切 [蟹] ヘン、ベン。蒲瞻切 [豔] 蒲糜切 [支]
いかだ(筏)。○[揚雄]「泭謂ニ之ー一、ー謂ニ之筏ニ」。

【篻】 ベウ、メウ。彌遙切 [蕭] ヘウ。敷沼切 [篠]
一種の細竹、中實ちて孔無し、莖五六寸に成長し弩矢に爲るべし。○[左思]「ー-篣有レ叢」。

【篻】 ヘウ。匹妙切 [嘯]
一種の竹、中實ちて孔無く强し、交趾の人取りて矛に爲る甚だ銳利なりさぞ。○[異物志]「ー-竹大如ニ戟-槿一」。

【篼】 トウ、ツ。當侯切 [尤]
㊀馬に水を飲ます器、うまぶね。○[揚雄]「飮レ馬橐、自レ關而西或謂ニ之掩-兜一、或謂ニ之樓-ーニ」。
㊁たけのこし、かご(筁)。

【篽】 ギョ、ゴ。魚巨切 [語]
籞に同じ、さめば。

【篾】 ベツ、メチ。彌列切 [屑]
㊀靑きを去りたる折竹の皮、たけのかは、わりだけ。○[書]「敷ニ重ー-席ニ」。
㊁さう(桃-枝)。○[張衡]「其竹則鍾-籠篁-ー」。
㊂小さき貌にいふ字。○[揚雄]「木細枝謂ニ之杪一、江、淮、陳、楚閒謂ニ之ーニ」。
(竹篾) 竹の皮。○[元]「苒-蒻ーーー靑」。
(靑篾) 靑き竹のかは。○[白居易]「細-蓬ーーー織ニ魚-鱗ニ」。
(翠篾) 前に同じ。○[皮日休]「ーーー初-織來」。
(削篾) わりだけ。○[傅咸]「差ニーーー於毫-纊ニ」。
(荻篾) をぎと竹皮と。○[秦韜玉]「爛-研瑟-々穿ニーーニ」。
(束篾) たばねたる竹の皮。○[釋智攵]「只添ニー「ー-腰-間重」。

【⿱竹密】 ベツ、メチ。莫結切 [屑]
篾に同じ、たけのかは。○[禮註]「ー、竹-ー謂下竹之靑可ニ以爲ヒ繫者上」。

【⿱竹密】 ビツ、ミチ。莫筆切 [質]
孔小さくして穳(さん)ある一種の竹。

【篿】 タン、ダン。度官切 [寒]
圜き竹器。

【篿】 セン。朱緣切 [先]
竹を折りてトふと(楚人の語)。○[屈平]「索ニ瓊-茅一以筳-ー」。

【簀】 サク、シヤク。測革切 [陌]
㊀すのこ。
(い)牀棧、牀板、ゆかだな、ゆかいた、ゆか。○[禮]「華而睆大-夫之-ー歟」。
(ろ)竹葦などを編みたる簿、す。○[史]「卽卷以レー置ニ厠-中ニ」。

㊂つむ(積)、あつむ(聚)。○〔詩〕「綠竹如レ—」。

〔易簀〕臥しある牀を取り換ふ、卽ち死ぬるとにいふ語。○〔禮〕「元起—レ—」。
〔玉簀〕玉の飾りをなしたる牀。○〔晉〕「何異三象—椽—而對二腐木朽楹一哉」。
〔家簀〕我が家の牀。○〔唐〕「獨保二腰領一死二—、—「窓閒二」。—、寧不レ幸耶」。
〔敝簀〕破れたるすのこ。○〔韋應物〕「—・—委二—二」。
〔招簀〕死人に湯をあぶす牀。○〔淮〕「死而棄二其—・—二」。
〔拔簀〕すのこをぬく。○〔王績〕「—レ—更燃レ爐」。
〔折簀〕牀をくじく。○〔抑宗元〕「拔レ几—レ—而無二以寧一焉」。
〔華簀〕うつくしく飾りたるゆか。○〔唐無名氏〕「—・—輝・燭以潛鋪」。
〔臥簀〕ゆかにいぬ。○〔范成大〕「十日—レ—」。
〔破簀〕やぶれたるすのこ。○〔楊基〕「私擬二—・—炊二戶・楗一」。

【簀】サイ、セ。側賣切 卦
酒を壓む具。

【簁】シ。山宜切 支 所綺切 紙
サイ、セ。所佳切 佳
籭に同じ、ふるひ。

【簂】クワイ、ケ。古對切 隊
クワク、キヤク。古獲切 陌
㊀かたみ(筐)。
㊁髮の上を恢やかに覆ふ首飾、かみかざり、かづら。○〔後漢〕「婦人至二嫁時一、乃養レ髮分爲レ髻、著二句・決一飾以二金・碧一、猶二巾・國有二—歩・搖一」。
㊂婦人の喪中につくる冠。

【簂】クワイ、ケ。姑回切 灰
前條の㊁に同じ。

【⿱竹圈】ケン、窘遠切 阮　ケン、ガン。巨卷切 霰
㊀一種の竹。
㊁囷の屬、いかき、ざる。

【⿱竹堇】キン、擧欣切 文
コン。几隱切 吻
一種の竹、かはしろだけ、節の閒短く體まろく質つよし、皮は霜の如く白し、大いなるものは船棹に爲るべく細きものは笛を爲るべしとぞ。○〔張衡〕「竹則鐘・籠—・—篾」。

【箾】サウ、セウ。所交切 肴
㊀船の舵尾、かぢ。
㊁稍に同じ、うごく。○〔馬融〕「其應二淸・風一也纖・末奮—・—」。

【箾】サク、ソク。色角切 覺
㊀飯帚、さゝら。
㊁箸筩、はしづつ。㊂飯器、めしばち。

【⿱竹図】リヨ、ロ。力渚切 語
飯を盛る器、めしばち。

【⿱竹莫】バク、ミヤク。莫獲切 陌
車のおほひ。○〔揚雄〕「車・枸謂二之—一」。

【簚】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
車のさこゑばり(牟帶)。

【⿱竹處】キヨ、コ。居許切 語
蠶を養ふに用ふる竹器、えびら。○〔揚雄〕「江沔之閒謂二之篝一、趙岱之閒謂二之筥一小者楚謂二之篗一、秦晉謂二之筻—一」。

【簃】イ。余支切 支　チ。廷知切 支
チ、ヂ。丈爾切 紙
樓閣に連なりて其の邊にある小屋。○〔爾註〕「堂樓閣邊小屋今呼二之—一」。

【⿱竹巢】タウ、テウ。陟交切 肴
大いなる笙、ふえ、十九個の簧あるもの。○〔風俗通〕「笙正・月之音・物生故謂二之笙一、大者名レ—也」。

【簄】ゴ、グ。後五切 麌
水中に竹を立て連られて魚を捕らふるもの。

【⿱竹庶】シヨ、ソ。商署切 御
かたみ(筐)。

【⿱竹瓶】レフ。力協切 葉
物を乾すに用ふる竹等、あみたるたけ。

【⿱竹洴】ヘイ、ヒヤウ。卑盈切 庚
絮(わた)を盛る籠、わたかご。

【⿱竹聆】レイ、リヤウ。郎丁切 青
㊀一種の竹。㊁竹の器。

【簅】サン、セン。楚簡切 潸
大いなる簫、おほぶえ、笛に似て三つの孔ありて短し。

【簆】コウ、ク。苦侯切 宥
機の具、をさ。

【簇】ソク。千木切 屋
小さき竹、さゝだけ。

【簇】ソウ、ス。千候切 宥
湊聚す、あつまる、むらがる、むる。○〔史〕「萬・物—・—生」。

〔一簇〕ひとむれ。○〔杜甫〕「桃・花—・—開無レ主」。
〔簇々〕むらがる貌にいふ語。○〔白居易〕「楚山青—・—」。

【簇】サク、ソク。楚角切 覺
㊀やのれ(矢-金)。㊁餅を作るに用ふる具。

【簈】ヘイ、ヒヤウ。必郢切 梗　ヘイ、ベヤウ。卑盈切 庚　旁經切 青
—簹は、車蔽、ちりよけ、おほひ。

【⿱竹惪】チウ、ヂユ。陳由切 尤
—箸は、たちもとほろ、さまよふ。

【⿱竹㒼】バン、マン。毋伴切 旱
㊀竹の器。㊁—篓は、たけのふた(蔀)。

【⿱竹通】トウ、ツ。他東切 東
一種の竹、中空にして節なし。

【簉】シウ、シユ。初救切 宥
㊀副倅、そへ。○〔左〕「僖子使レ助二薳氏之—一」。
㊁ひさし(齊)さし(疾)。○〔唐〕「—・羽鵾・鸞」。

【⿱竹虖】コ、ク。荒故切 遇
かご(籠)。

【⿱竹累】ルヰ。力委切 紙
㊀土を盛る籠、もっこ。㊁のり(法)。

【簋】キ。古委切 紙

黍稷を盛る器、内圓く外方にして量一斗二升を入るべし。○〔周〕「凡祭-祀共二簠ーー」。

〔簠簋〕ゑりきざみたる黍稷をもる祭器、又、其の器を彫る。○〔禮〕「簠簋ー」ー朱紘」。

〔簠簋〕黍稷を盛る祭器。○〔國〕「修二其ーー」。

〔土簋〕つちもて作りたる祭器。○漢「飯二ーー」。

〔籩簋〕まつりの器の名。○〔王績〕「俯-映簠二ーーー」。

〔簋簋〕前に同じ。○〔宋〕「鈙二其ーー」。

【簾】レツ。憐蕭切　屑

一種の竹、節せまりて短し、體柔かにて殆ど麻の如く物を結び束ぬべし、其の筍は味無しとぞ。○〔竹譜〕「ー籦二族亦甚相二似把-髮-苦-竹一」。

【簈】ケン、ゲン。胡千切　先

やがら、（箭-笴）。

【籏】カン、ゴン。胡南切　覃

笞に同じ。

【篠】シヤウ、ザウ。即兩切　養

㊀削きたる竹の未だ節を去らざるもの。
㊁たけのふだ、（觚）。

【簩】シヤウ、サウ。賚良切　陽

むしろ、（席）。

【簜】シヤウ、サウ。七亮切　漾

竹の名。

【簌】ソク。蘇谷切　屋

㊀ふるひ、（篩）。
㊁茂密なる貌にいふ字、志げし。○〔元稹〕「風動二落-花一紅ーー」。

【簍】ロウ、ル。郎侯切　尤

目の疏き籠、かご。○〔急就篇、註〕「ー者疏-目之籠言二其孔樓-々-然一」。

【簨】ク、グ。郡羽切　麌

簴ーは、車の輞（おほわ）を規す則。

【簍】ル。隴主切　麌

㊀前條に同じ。
㊁車の弓籠、ほろのほね。

【簎】セキ、シヤク。測戟切　陌

㊀魚を刺し取る具、やす、又、やすにて魚を刺し取る、さす。○〔周〕「以レ時ー二魚-鼈-龜-蜃凡狸-物一」。
㊁牢圏、をり。○〔列、註〕「ー謂下以二竹-木一圍-繞上」。

【簎】サク、ソク。士角切　覺

前條の㊁に同じ。

【簏】ロク。盧谷切　屋

丈高き竹篋、はこ。〔楚辭〕「弁二雞-豚于簏ーー一」。

〔書簏〕書册を入るゝはこ、志よもつばこ、又、下に引く例より書を讀みて義に通せざるものにいふ語。○〔晉〕「劉-柳爲二僕射一、時右丞-傅-迪廣讀レ書而不レ解二其義一、柳讀二老-子一而已、迪毎輕レ柳曰、卿讀レ書而無レ所レ解、可レ謂二ーー一矣」。

〔荅簏〕塗らざるはこ。○〔晉〕「收二得ーー數-枚一」。

〔囊簏〕ふくろとはこと。○〔晉〕「ーー盛二錢-兒一」。

〔篋簏〕はこ。○〔捜神記〕「而ーー故完」。

【簒】サン、セン。初患切　諫

小しく舂つく、うすつく。

【簝】シ。脂利切　寘　シフ。即入切　緝

箭竹、やだけ。

【簢】バン、マン。莫盤切　寒

竹の名。○〔筍譜〕「ー筍皮青而肉皙-白」。

【簣】クワイ、ケ。苦回切　灰

篃竹、やだけ。

【簁】ト、ツ。丁故切　遇

たな、（格）。

【簃】ダ、チ。女加切　麻

とりかご、（鳥-籠）。

【篝】コウ、ク。古候切　宥

篝に同じ。

【簇】サウ、ソウ。朔降切　絳

簇に同じ。

【簿】フ、ボ。符遇切　遇

たけのかは、（篾）。

【簴】キヨ、コ。其據切　御

竹。

【籔】シウ、シユ。側救切　宥

魚を捕らふる具。

【簛】シ。側持切　支

簁に同じ、田の耕さどろもの。

【簓】テウ。丁叫切　嘯

竹。

【簉】バウ、マウ。巫放切　漾

竹の名、又、竹の色。

【簩】サウ、ソウ。川倉切　江

まがき、（籬）。

【簕】タイ、テ。吐芮切　霽

たつ、（斷）。

【簴】キヨ、コ。臼許切　語

鍾鼓をかくる柎、あし。

【簟】デン、チン。乃典切　銑

恭ーー弓は、つりばり、釣（魏人の語）。

【簾】レン、ロン。力鹽切　鹽

つづみ、（鼓）。

【簏】セイ、セ。此芮切　霽

たつ、（斷）。

【簕】リ。陵之切　支

旅ーーは、すくひざる、（竹-杓）。

【簑】サ。素禾切　歌

蓑に同じ、みの。○〔儀〕「稾-車載二ーー笠一」。

十二畫

【簙】ハク。伯各切　陌　匹各切　藥

箸（さい）を投じ其のあらはれたる數により棊（こま）を行りて勝敗を爭ふ一種の遊戲、即ち、ばくち、すごろく、局戲。○〔楚辭〕「菎-蔽象-棊有二六-ー一些」。

【簸】ベキ、ミヤク。莫狄切　錫

車の覆闌、てすりおほひ。○〔禮〕「䩉-屨素-ーー」。

【竹+散】サン。蘇旱切 旱 サツ、サチ。桑葛切 曷
葛ーーは、桃枝竹、さう。

【箛】コ、ク。洪孤切 虞
㊀かご、(稜)。㊁けた、(方)。
㊂たけのふだ、(簡)。

【竹+敝】ヘイ、ヘ。必袂切 霽
すごろくのさい、(簙-簺)。○〔揚雄〕「簙謂ニ之ーー」。

【簁】シ。山宜切 支
㊀簏に同じ、ふるひ。㊁竹の節、ふし。

【簛】サイ、セ。所街切 佳
前條の㊀に同じ。

【竹+樊】ハン、バン。扶萬切 願 タン、デン。持晩切 阮
㊀竹。㊁車上の篷、とま。

【竹+復】フク、ホク。方六切 屋
竹の實、おれんご。○〔竹譜〕「竹生ニ花-實一、其年便枯死、ー竹-實也」。

【簜】タウ、ダウ。待朗切 養
大いなる竹、節の間の遠きもの。○〔書〕「篠ー既布」。

【竹+毳】セイ、セ。初芮切 霽 スヰ。蚩瑞切 寘
うすつく、つく、(擣)。

【竹+發】ハイ、ヘ。方吠切 泰
竹+廢に同じ。

【篸】サン、ソン。作勘切 勘
衣を綴る、つゞる。

【簝】レウ。連條切 蕭 ラウ、ロウ。郎刀切 豪 魯皓切 皓
祭肉を盛る竹器。○〔周〕「凡祭-祀共ニ其牛-牲之互與ニ其盆-ーー以待レ事」。

【簞】タン。多寒切 寒
㊀小筥、はこ、かたみ。○〔論〕「一ーー食」。
㊁一種の竹。○〔嵆含草木狀〕「ーー竹葉疎而大、一節相去五-六-尺」。
㊂ひさご、(瓢)。○〔揚雄〕「蠡、陳、楚、宋、魏之閒、或謂ニ之ーー」。
〔奉簞〕かたみを手にさゝげ持つ。○〔儀〕「一-宗人ーニ-巾一、南ニ面于槃-北ニ」。
〔瓢簞〕ひさごとかたみと。○〔曹植〕「甘ニ此ーーー」。
〔荷簞〕かたみを擔ひ持つ。○〔白居易〕「婦-姑ーニーー-食ニ」。
〔珠簞〕玉の箱。○〔杜牧〕「ーーー背一-振」。
〔空簞〕一物も入れてあらざるかたみ。○〔朱熹〕「夜闌ニーーー訊鼠ニ」。
〔盈簞〕箱に充實す。○〔江淹〕「珠-藥不レーーー」。

【簟】テン、デン。徒玷切 琰
㊀竹又は葦にてあみたる席、たかむしろ、むしろ。○〔詩〕「ーー-茀朱-鞹」。
㊁一種の竹、ふさ大にして肉薄く節の間はなはだ長しといふ。○〔南越志〕「博-羅-縣東-州足ニーー-竹ニ」。
〔蛇簟〕がまむしろとたけむしろと。○〔王維〕「ーーー不レ可レ近」。
〔象簟〕象牙もてつくりたるむしろ。○〔西京雜記〕「武-帝以ニーー-牙ニ爲レーー」。
〔清簟〕きよらかなるむしろ。○〔杜甫〕「ーーー疎-簾-看ニ奕-棋ニ」。
〔枕簟〕まくらとむしろと。○〔蕭穎士〕「凋-歇遷ニーーーニ」。
〔華簟〕うつくしきたけむしろ。○〔晉子夜〕反-ーーー上。
〔珍簟〕めづらしきたけむしろ。○〔謝朓〕「ーーー」「清ニ寢-室ニ」。
〔夏簟〕なつの時節に用ふるむしろ。○〔隋煬帝〕「ーーー蔭ニ修-竹ニ」。
〔青簟〕あをきたけむしろ。○〔王維〕「ーーー日何長」。
〔凉簟〕すゞしげなるむしろ。○〔武元衡〕冰-紋ー「ー弱」。
〔廣簟〕せまからざるむしろ。○〔許渾〕ニ河-漢秋-雲ーーー凉」。
〔翠簟〕みどり色のむしろ。○〔馬戴〕「華-堂開ニーー」「ーーニ」。
〔湘簟〕前に同じ。○〔李羣玉〕「金-風吹ニーーーニ」。
〔暑簟〕夏のあつき時に用ふるむしろ。○〔蘇轍〕「ーーー臥-淸-ハニ」。
〔瑤簟〕たまのむしろ、うつくしきむしろ。○〔張羽〕「玉-露淸ニーーーニ」。
〔滑簟〕なめらかなるむしろ。○〔劉光祖〕「胡床」「ーーー塵レ無レ痕」。

【篃】ビ、ミ。明祕切 寘
㊀筍の冬生じたるものゝ稱。
㊁一種の竹、肉厚く節長くして根深し、筍は冬土中に生ずといふ。○〔山海經〕「英-山多ニ箭ーニ」。

【竹+隆】リウ、リユ。良中切 東
たかやぶ、(篁)。

【竹+尋】シン、ジン。徐心切 侵
一種の竹、海畔の山に生ず、高さ千丈程に及び大船に爲るべしといふ。○〔僧贊寧竹譜〕「ーー竹、本-根長千-丈、生ニ海-畔山一、其竹萌數-丈猶爲レ筍」。

【竹+蛩】キヨウ、ク。丘恭切 冬 ギウ、グ。丘中切 東
ーー籠は、車のほろのほれ。○〔揚雄〕「車-枸-簍宋、魏、陳、楚之閒或謂ニ之ーー-籠ニ」。

【竹+隊】スヰ、ズヰ。徐醉切 寘
㊀たけむしろ、(籧-ー)。㊁たけのこみち、(竹-徑)。

【簠】フ、ホ。裴父切 麌 芳遇切 遇 フ。甫無切 虞
黍稷を盛る一種の祭器、外方にして内の圓なるもの、一斗二升を容るべしといふ。○〔儀〕「兩ーー-繼レ之粱在レ北」。
〔竹簠〕たけのもりもの。○〔儀、疏〕「直有ニーーー以盛ニ棗-栗ニ」。
〔簋簠〕黍稷などをもる祭器。○〔韓愈〕「私習ニーー」「ーニ」。

【竹+肩】ケン。去演切 銑 輕烟切 先
ーー籥は、なふだ、(戸-版)。

【簡】カン、ケン。古限切 潸
㊀文字をしるすに用ふる竹牒、ふだ、古昔は紙なく文字をふだにしるしたりといふ。○〔書斷〕「紙代レー」。
㊁編冊、書策、かきもの、しよもつ、ふみ。○〔禮〕「大-史典レ禮執ニーー記一奉ニ諱-惡ニ」。
㊂たくらぶ(比)、かぞふ(數)、けみす(閱)。○〔周〕「大-司-馬ーニ稽-鄕-民ニ」。
㊃はぶく(略)。○〔張衡〕「ーニ珠-玉ニ」。
㊄つゞむ(要)。○〔素問〕「ー而不レ匱」。
㊅もとむ(求)、えらぶ(選)、わかつ(分)。○〔禮〕「ーニ不-肖一以紬レ惡」。
㊆汰ぐるを、明かにするを。○〔戰〕「ー練以爲ニ揣-摩ニ」。
㊇おほいなり(大)。○〔詩〕「降レ福ーーー」。
㊈つゞまやかなるを、はぶきたるを、くだくしからざるを、やすきを。○〔易〕「乾以レ易知、坤以レー能」。

⑪わけへだてなきこと、おほまかなること、細行を顧みざること。○〔左〕「子羽謂二子皮一曰、宋左師一而禮」。
⑫禮なきこと、おろそかなること、あなどること、おごること。○〔孟〕「是一レ驕也」。
⑬いさむ、(諫)。○〔左〕「是用大一」。
⑭まこと、(誠)。○〔禮〕「有レ旨無レ一不レ聽」。「一」。
⑮皷の聲にいふ字。○〔詩〕「奏レ皷一一」。
⑯ふだ、(手版)。○〔韻會〕「古制長二一尺四寸短者半レ之、蔡邕曰、漢制長二二尺短者半、蓋單執二一札一謂二之一一」。
〔易簡〕繁碎ならざること。○〔易〕「一・一而天下之理得矣」。
〔狂簡〕進取の氣象に富み志大いにして行の之に伴はざること。○〔論〕「吾黨之小子一・一」。
〔行簡〕省略して繁碎ならざることを行ひ爲す。○〔論〕「居レ敬而一レ一」。
〔太簡〕甚だ略して禮あらず。○〔論〕「居レ簡而行レ簡、無二乃一・一一乎」。
〔賤簡〕尊重せずして省略す。○〔史〕「夫卜筮者、世俗之所二一・一一也」。
〔脫簡〕書物の册にぬけたる所あること。○〔權德輿〕「豈一・一之難レ徵」。
〔蠲簡〕疾病を驅逐する神の名。○〔後漢〕「一・一食二不祥一」。
〔仁簡〕恩惠ありて繁碎ならず。○〔後漢〕「政惟一・一以レ身率レ物」。
〔高簡〕けたかくして繁碎ならず。○〔梁〕「介性一・一少二交遊一」。
〔寛簡〕寛大にして繁碎ならず。○〔晉〕「一・一有二大量一」。「貝二」。
〔妙簡〕極めてよく撰びぬく。○〔潘岳〕「一・一二邦・」
〔煩簡〕繁碎なると否らざると。○〔歐陽修〕「國體大小、適二一・一之宜一」。
〔虛簡〕虛心平氣にして事を省略す。○〔晉〕「道尚二一・一、政貴二不靜一」。
〔和簡〕やはらぎて禮を略す。○〔晉〕「然猶以二一・一、爲二百姓所レ悅」。
〔辭簡〕ことば繁碎ならず。○〔晉〕「一・一而有レ會」。
〔疏簡〕あらく省略す。○〔晉〕「宜レ從二一・一」。
〔平簡〕平易にして碎瑣ならず。○〔晉〕「大常臣謨、一・一貞正」。
〔柬簡〕前に同じ。○〔梁〕「性託二一・一、特愛二林泉一」。
〔料簡〕はかりえらぶ。○〔蔡邕〕「涉二決虛亢一、一・一貞實一」。
〔竹簡〕竹もて作りたる手版、又、ふだ。○〔晉〕「得二一・一二枚一」。
〔恬簡〕しづかにして繁碎ならず。○〔陳〕「性一・一善二隸書一」。
〔精簡〕精密に擇び拔く。○〔南〕「徐陵爲二吏部尚書一、一・一二人物一」。
〔銓簡〕はかり擇ぶ。○〔宋〕「令二兩制一・一一」。
〔象簡〕象牙の手版。○〔嗣談錄〕「凡有二一・一竹笏一、以二手捻一之」。
〔書簡〕ふみを書いつくる手版。○〔陸機〕「或一・一筆筒中、七日而化」。
〔省簡〕省略を貴ぶ。○〔文心雕龍〕「折レ辭一レ一」。
〔揀簡〕あらはし擇ぶ。○〔舜曜〕「博選二良材一、一・一二髦俊一」。

【簢】ビン、ミン。弭盡切 [軫]
中空なる一種の竹、席を造るべし。○〔僧贊寧竹譜〕「一・一、箭嫩而節頭薄」。

【簜】タウ、ダウ。徒郎切 [陽]
タウ、ヂヤウ。除庚切 [庚]
うをとるうつは、あみ、(罩)。

【簣】キ、ギ。其貴切 [未] クワイ、ケ。苦怪切 [卦]
土を盛るに用ふる竹籠、あじか、もッこ。○〔書〕「爲レ山九仞、功虧二一一」。
〔覆簣〕もッこの土をかへしおほふ。○〔潘尼〕「一レ一由レ玆起」。
〔虵簣〕もッこの土を覆すとに力を入る。○〔邯鄲淳〕「頤子大夫、一レ一成レ山」。
〔積簣〕もッこの土を覆し累ぬ。○〔陸雲〕「一レ一爲レ山」。

【箛】コ、ク。空胡切 [虞]
たけのかは、(篋)。

【簤】タイ、デ。徒駭切 [蟹]
竹の器。

【簥】ケウ。居妖切 [蕭]
⊖大いなるふえ。○〔爾〕「大管謂二之一」。
⊜田器。

【簁】ス。雙雛切 [虞] サウ、セウ。所交切 [肴]
五升を受くる飯筥、めしいれ、又、かご、(筥)。

【簦】トウ。都騰切 [蒸]
⊖大きくして長き柄の蓋、手に執りて行くもの、からかさ、さしがさ。○〔古逸詩〕「君擔レ一我跨レ馬」。
⊜竹。
〔蒙簦〕かさ。○〔徐鉉〕「一・一稍穩收」。

【⿱竹隋】タ、ダ。杜臥切 [箇] タ。都果切 [哿] タイ、デ。杜罪切 [賄]
答一は、一種の竹。○〔吳筠〕「答一綷文而纖擺」。

【⿱竹無】ブ、ム。微夫切 ボ、ム。莫胡切 [虞]
皮の黑き竹。

【籓】ハン、ヘン。方煩切 [元]
⊖大いなる箕、み。⊜おほふ、(蔽)。

【篰】ホ、ブ。伴姥切 [麌]
竹の器。

【⿱竹須】ス。詢趨切 [虞]
うへ、(筍)。

【箽】トウ、ツ。都動切 [董]
⊖竹の器。⊜竹の名

【籂】ス井、ズ井。是爲切 [支]
篩に同じ、ざる。

【⿱竹樔】ラ。盧臥切 [箇]
すのこ、(牀簀)。

【簧】クワウ、ワウ。胡光切 [陽]
⊖笙の管中にある薄片、また、吹きて之を鼓動して聲をなす。○〔禮〕「女媧之笙一」。
⊜言を以て人を惑はすこと。○〔蔡邕〕「思在レ口而爲レ一」。
⊜かみかざり、(步搖)。○〔急就篇〕「冠幘簪一結レ髮紐」。
〔執簧〕笙の管の中にある舌を手に持つ。○〔詩〕「君子陽陽、左一レ一右招レ我由レ房」。
〔鼓簧〕笙の管の中にある舌を鳴らす。○〔詩〕「既見二君子一、竝坐一レ一」。
〔笙簧〕笙の笛の舌。○〔庾信〕「更炙二一・一、還移二箏柱一」。
〔幽簧〕しづかなる笙の笛の舌。○〔笙賦〕「搖二纖翮一以震二一・一」。
〔銀簧〕白かねの笙の笛につきある舌。○〔王翰〕「青瑣一・一雲母扇」。「發二丹唇一」。
〔鳴簧〕笙の笛の舌をふきならす。○〔陸雲〕「一レ一以舒レ憂兮」。
〔吹簧〕吹き鳴らす笙の舌。○〔庾信〕「鳳起逐二一・一」。
〔炙簧〕笙の笛の舌を火にかけて暖む。○〔崔駰〕「調レ笙更一レ一」。
〔假簧〕笙の笛を吹くにことよすること。○〔劉向〕「頵

【⿱竹就】シュク、ソク。子六切 [屋]
シウ、シュ。千繡切 [宥]
篸に同じ、さかさのほこ、さかやり。

【⿱竹殘】サン。千安切 [刪]

㊀竹の籤、くじ。㊁かご、(笭)。

【簜】ヤウ。余章切 陽

篟ーは、たけむしろ。

【⿱竹惢】ツ井、ニ。女委切 紙

㊀筍の初めて生じたるもの。㊁竹葉の垂れ生ずるにいふ字。

【⿱竹粦】リン。良刃切 震

㊀中の實ちたる一種の竹。㊁薄き石。

【⿱竹曾】ソウ、ゾウ。徂稜切 蒸

かさ、(笠)。

【⿱竹遞】テイ、ダイ。大計切 霽

ー鍾は、樂器。

【⿱竹賁】フン、ブン。符分切 文

帥ーは、ゆみづる、(弦)。

【⿱竹最】サイ、ゼ。才外切 泰

ー篭は、竹の器。

【⿱竹軨】レイ、リヤウ。郎丁切 青

㊀くるまのおほひ、(車笭)。㊁かご、(籯)。

【簨】シュン。笋允切 軫

鼓を懸くる横木。〇〔禮〕「夏-后-氏之龍-ー-虡」。

〔擧簨〕釣り木を引きあぐ。〇〔釋名〕「在レ旁ーレー也」。

〔翠簨〕青き色の釣り木。〇〔蔣捷〕「ー・ー翔レ龍、金・摐曜レ鳳」。

【簨】サン、ゼン。雛綰切 潸

竹の器。〇〔禮〕「食ニ于ー」。

【簩】ラウ、ロウ。魯刀切 豪 力到切 號

一種の竹、毒あり物を刺せば其の物枯死す、筍は肉無くして食すべからずとぞ。〇〔異物志〕「ー・ー竹有レ毒、ー人以爲レ觚刺レ獸」。

【⿱竹咠】イフ。一入切 緝

ひさご、ひさく、(杓)。

【⿱竹綜】サウ、ソウ。朔降切 絳

竹木を以て物を刺す、さす。

【簪】シン、側吟切 侵 サン、ソン。作含切 覃 ソン。子感切 感

㊀冠をかけ持つために首髮にさすもの、かんざし、かうがい。〇〔漢〕「ー・ー不レ得レ着レ身」。

㊁さし、(疾)、一說に、あつまる、(攢)。〇〔易〕「由-豫大有レ得、勿レ疑朋盍ー」。

㊂首髮をかざるもの。〇〔漢〕「三ー・ー梟」。

〔遺簪〕かんざしをおとす、又、おちたるかんざし。〇〔史〕「後有ニー・ー」。

〔脫簪〕かんざしをぬき去る。〇〔瑣語〕「乃ーニー・ー珥、待ニ罪于永-巷ニ」。

〔玉簪〕たまのかんざし。〇〔西京雜記〕「就取ニー・ー搔レ頭」。

〔珠簪〕前に同じ。〇〔張衡〕「ー・ー挺ら縱髮亂」。

〔瓊簪〕前に同じ。〇〔南〕「ー・ー玉枋碎、爲レ邕」。

〔瑤簪〕前に同じ。〇〔范成大〕「玉-英危綴碧ー・ー」。

〔投簪〕かんざしをなげすつ。〇〔左思〕「聊欲レーニ吾ーニ」。「下-垂」。

〔金簪〕こがねのかんざし。〇〔梁簡文帝〕「ー・ー鬢」。

〔斜簪〕よこさまにさしたるかんざし。〇〔沈約〕「ー・ー映ニ秋-水ニ」。

〔移簪〕かんざしのさしどころをうつしかふ。〇〔皮日休〕「冠傾慵レー・ー」。

【籫】サン、ザン。徂官切 寒

攢に同じ。

【篴】笛に同じ。

【簫】セウ。蘇彫切 蕭

㊀小管を編み參差して鳳翼に象りたる一種の樂器、吹きて聲をなさしむるもの、ふえ、其の長さは二尺なりといひ、一說に、尺四寸なりといひ、又一說に、大なるものは尺四寸なれども小なるは尺二寸なりといふ、其の管の數も諸說一定せず、或は十管なりといひ、或は大なるものは二十四管にして小なるものは十六管なりといひ、或は大なるものは二十三管にして小なるものは十三管なりといひ、或はたゞ二十四管なりといふ 〇〔詩〕「ー-管備擧」。

(簫之圖)

㊁弓末、ゆはず。〇〔禮〕「凡遺ニ人弓ー者、右-手執レー左-手承レ弣」。

㊂篠竹、しのだけ、しの。〇〔馬融〕「林-ー-蔓-荊」。

〔洞簫〕底なき吹きもの。〇〔漢〕「善-鼓ニ琴-瑟ー吹ニーー」ニ。

〔短簫〕長からざる吹きもの。〇〔晉〕「北有ニー・ー之樂ー者、則所レ謂王-師大-捷、令ニ軍-中凱-歌ー者也」。

〔玉簫〕たまにて飾りたる吹きもの。〇〔李百藥〕「ー于松-霧ニ」。「擽ニー・ー之清-管ニ」。

〔邊簫〕簫の聲の遠く聞こゆるもの。〇〔謝莊〕「鳴ニー・ー」。

〔管簫〕ふえ。〇〔鄭玉〕「社-下游-人弄ニー・ーニ」。

〔大簫〕聲のおほいなる吹きもの。〇〔爾〕「ー・ー謂ニ之言ニ」。

〔箏簫〕きやうの琴とふえと。〇〔魏略〕「乃畜ニ歌者琵-琶ー・ーニ」。

〔幢簫〕はたとふえと。〇〔唐〕「其器有ニ鐃-鈸-鐘-磬ー・ー琵-琶ニ」。

〔籟簫〕ふえ、又、風にいふ語。〇〔黃庭堅〕「ー・ー吹ニ木末ニ」。「ー冷ー」。

〔風簫〕風の吹くこゑ。〇〔集異記〕「天-籟虛徐、ー」。

〔餘簫〕殘多のふえ。〇〔笙賦〕「ー・ー外透」。

〔笳簫〕こまぶえ。〇〔權德輿〕「ー・ー發ニ連營ニ」。

〔弄簫〕ふえを慰みに吹きならす。〇〔陳陶〕「巫-祇ーレー香-雨收」。

〔塤簫〕つちぶえと、十の管にて長さ二尺あるふえと。〇〔吳質〕「ー・ー激ニ於華-屋ニ」。

〔奏簫〕ふえを吹き鳴らす。〇〔庾信〕「ーレー下レ鳳、此岫爲レ鳳」。

〔樓簫〕たかどのにありて吹き鳴らすふえの音。〇〔韓偓〕「ー・ー豈羨レ秦」。

【⿱竹甯】デイ、ニヤウ。乃挺切 迥

ー籯は、かご、(籯)。

【簬】簵に同じ。

【⿱竹爲】井。羽委切 紙

竹の皮。

【簁】サイ。山皆切 佳

ー籭は、ふるひ。

【簭】セイ、ゼイ。時制切 霽

㊀筮に同じ。㊁かむ、(噬)。〇〔周〕「凡擇-稱援-ー之類」。

【⿱竹劉】リウ、ル。力求切 尤

竹の聲にいふ字。

【⿱竹劉】リウ、ル。力久切 有

竹の名。

【⿺辶算】サン。蘇貫切 〔翰〕 竹の器。

【⿱竹黑】アン、オン。烏紺切 〔勘〕 垢の附きたる肉の貌にいふ字。

【⿱竹亭】テイ、チヤウ。丁定切 〔徑〕 竹の器。

【⿱竹兟】シン。蹠臻切 〔眞〕 たかむしろ（簟）。

【⿱竹陼】ト、ツ。丁故切 〔遇〕 わんかご（栝-客）。

【⿱竹殽】カウ、ゲウ。下巧切 〔巧〕 たけのこ（筍）。

【⿱竹絕】セイ、セ。子芮切 〔霽〕 いさまき（絡-絲）。

【⿱竹甍】バウ、ミヤウ。謨耕切 〔庚〕 竹、一説に、筍。

十三畫

【簳】カン。古旱切 〔旱〕 ㊀一種の竹、葉青く莖は紫にて子の大いさ珠の如し、ゐのだけ。○〔張衡〕「其竹則篠ー箛-篞」。㊁やがら（笴）。○〔列〕「燕角之弧、朔蓬之ー」。

〔箭簳〕やがら。○〔晉〕「以二斜-細-篤一書、納二ー・ー中一」。
〔繖簳〕からかさの柄。○〔茅亭客話〕「[illegible]二ー・ー一」。
〔生簳〕なまなる矢がら。○〔潘岳〕「剡二ー・ー一截二然-竇一」。
〔弓簳〕弓と矢がらと。○〔何承天〕「ー・ー利、鐵既不二都斷一」。
〔沒簳〕やがらを埋めこむ。○〔高啓〕「導巡雪埋深ー・ー」。
〔羽簳〕矢ばねとやがらと。○〔黄庭堅〕包貢遺二「ー・ー」一。

【⿱竹幹】カン。居案切 〔翰〕 箭の羽。

【⿱竹豊】レイ、ライ。里弟切 〔薺〕 一種の竹、細く軟かに肌薄くして文理あり。○〔竹譜〕「ー竹二一種似二苦-竹一」。

【⿱竹奧】井ク、チク。於六切　キク、コク。居六切 〔屋〕 米を漉し洗ふ竹器、いかき、かたみ、ざる。○〔揚雄〕「炊ーー謂二之縮一或謂二之匼一」。

【⿱竹奥】アウ、オウ。烏浩切 〔晧〕 蠶を移すに用ふる具。

【簴】キヨ、コ。臼許切 〔語〕 鍾を懸くる縦の木、これに天上の神獸さて鹿の頭龍の身のものを刻みて飾る、かねかけ。○〔周〕「及二祭-祀一帥二其屬一而設二筍-ー一陳二庸-器一」。

【簵】ロ、ル。洛故切 〔遇〕 箭竹に似たる一種の竹、其の竹の皮の特に黑く澀れるを箭竹と異なる点とす、矢の川に適す。○〔書〕「惟箘ー楛」。

【⿱竹稚】チ、ヂ。直利切 〔寘〕 竹。

【⿱竹雉】チ、ヂ。直利切 〔寘〕 わかたけ（幼-竹）。

【⿱竹解】蓬に同じ。

【簶】ロク。盧谷切 〔屋〕 胡ーは、やなぐひ、やづつ、箭-室。

【⿱竹腱】ケン、ゴン。渠言切 〔元〕 筋[illegible]る。

【⿱竹開】ケン。去演切 〔銑〕 ー⿱竹鮮は、戸籍、なふだ。

【⿱竹義】ギ。語綺切 〔紙〕 竹の器、かご。

【⿱竹感】タン、トン。都感切 〔感〕 竹の器、かご。

【⿱竹豦】キヨ、コ。荷許切 〔語〕 キヨ、ゴ。強魚切 〔魚〕 ㊀蠶を養ふ器。㊁牛に飲まする筐。

【簷】檐に同じ、のき。

【⿱竹擭】クワク、ワク。胡郭切 〔藥〕 コ、グ。胡誤切 〔遇〕 魚を取る竹の器。

【簸】ハ。補火切 〔哿〕 補過切 〔箇〕 ㊀穀を揚げ振ひて糠を去る、ひる。○〔詩〕「或ー或蹂」。㊁汰ぐ。○〔梅堯臣〕「沙灘浄如レー」。㊂あふり揚ぐ、又、あふり揚がる。○〔杜甫〕「浪ー舩應レ坼」。

〔舂簸〕米を臼もてつき糠を箕もてあふる。○〔釋惠洪〕「原舍倘聞ー・ー聲」。
〔飄簸〕ひるがへされ揚がる、又、ひるがへし揚ぐ。○〔韓愈〕「無風自ー・ー」。
〔翻簸〕前に同じ。○〔蘇軾〕「ー・ー蹤二歸-騎一」。
〔掀簸〕あふり揚がる、又、あふり揚ぐ。○〔蘇[illegible]〕「帳田二ー・ー一」。
〔揚簸〕前に同じ。○〔王尚絅〕「糠-粃任二ー・ー一」。
〔吹簸〕ふき揚がる、ふき揚ぐ。○〔韓愈〕「ー・ー頹飆精」。

【簹】タウ。都郎切 〔陽〕 篔の字を見よ。

【⿱竹黨】タウ。丁浪切 〔漾〕 車の塵よけ。

【簺】サイ。先代切 〔隊〕 ㊀すごろくのさい（博-塞）。○〔漢、註〕「格-五、棊行レー法曰、塞-白-乘-五」。㊁竹木を編み水を斷ちて魚を捕らふると。

【簻】タ、テ。陟瓜切 〔麻〕 むち、ゐもさ（箠）。○〔馬融〕「栽以當レー便易レ持」。

【⿱竹適】簻に同じ。

【⿱竹搆】篝に同じ、ふせご、かゞり。○〔史〕「即以レー燭二此地一」。

【簽】セン、ソン。千廉切 〔鹽〕 ㊀かご（籠）。㊁ー書は、文字。

【⿱竹愛】アイ。烏代切 〔隊〕 隱れて見えず、おほふ。

【簾】レン、ロン。離鹽切 〔鹽〕 ㊀竹などを編みてつくりたる幃簿、たけのさばり、すだれ、す。○〔漢〕

下レ一而授二老子一。「後二。
㊁たけのおちかは、（籜）。
〔下簾〕すたれをたれおろす。○〔白居易〕「靜室深ーレ一」。
〔垂簾〕前に同じ。○〔舊唐〕「天后ーニ一於御座
〔珠簾〕たまのすだれ。○〔鮑照〕「ー・ー無レ隔レ露」。
〔織簾〕すたれをおる。○〔陸游〕「寒・廢用ーレ一」。
〔上簾〕すたれのたれたるをまきあぐ。○〔唐〕「后
曰、善、詔ーレ一」。
〔卷簾〕前に同じ。○〔宋〕「ーレ一升レ殿審視」。
〔疎簾〕まばらなるすたれ。○〔杜甫〕「清簟ー・ー
看二奕・碁一」。
〔發簾〕すたれをひらく。○〔南〕「延・之ーレ一熟視
曰、朽木雖レ雕」。
〔開簾〕前に同じ。○〔王僧孺〕「ーレ一一種色」。
〔撥簾〕前に同じ○〔白居易〕「香爐峰雪ーレ一看」。
〔帷簾〕たれまくとすだれと。○〔南〕「ー・ー皆白」。
〔褰簾〕すたれをかゝげあぐ。○〔錢起〕「涼夜ーレ
ー好」。
〔御簾〕天子の宮殿中にかゝげられたるすたれ、み
す。○〔顧況〕「風入ニー・ー輕」。
〔竹簾〕たけのすたれ。○〔西京雜記〕「以レ一爲レ一」。
〔水簾〕たき、又、うきくさの異名。○〔皮日休〕「將レ
泉作ニー・ー一」。
〔細簾〕こまやかにあみたるほそきすたれ。○〔梁簡
文帝〕「ー・ー時半捲」。「一」。
〔透簾〕すたれをすきとほす。○〔元稹〕「輕颸毎ーレ
〔破簾〕やぶれたるすたれ。○〔元稹〕「獨倚ニー・ー
開帳望」。「ー・ー逐レ日卷」。
〔毳簾〕毛をおりてつくりたるすたれ。○〔白居易〕
〔荻簾〕をぎもてつくりたるすたれ。○〔白居易〕「門
稱ニー・ー垂二」。「御光二」。
〔懸簾〕すたれをかく。○〔李賀〕「禁院ーレー隔ニ
〔映簾〕すたれにかげのうつること。○〔李商隱〕「ーレ
ー夢斷聞二殘語一」。
〔舊簾〕ふるきすたれ。○〔薛能〕「路塵應レ滿ー・
ー間」。「轉レ頭」。
〔捲簾〕すたれをかゝぐ。○〔韓偓〕「一手ーレ一微
〔篩簾〕すたれのすきまをもれこす。○〔范成大〕
「小窗朝送日ーレ一」。

【篾】ビ、無非切 [微]　ミ。武悲切 [支]

竹の名。

【篧】カク、キャク。各核切 [陌]
竹の障子、たけのかうし。

【簴】ク。其句切 [遇]
竹の器。

【籧】トン、ドン。徒渾切 [元]
むち、（榜）。

【簟】テン。丁練切 [霰]
うつ、（擊）。

【箄】ヘイ、蒲計切 [霽]　バイ。ヒ。匹智切 [支]
鳥を弋する具。

【篇】ガツ、ゲチ。五瞎切 [黠]
樂を止むるにうつ器、木虎。

【簿】ホ、ブ。裴古切 [麌]
㊀冊籍、さちぶみ、ちやうめん。○〔孟〕「先ーニ正祭器一」。
㊁特に、會計の冊籍、かんぢやうちやう。○〔漢〕「多張ニ空ー・ー一」。
㊂ゐやく、（笏）。○〔蜀〕「秦密見ニ太守一以レ一擊レ頰」。
㊃つかさどる、（領）。○〔荀〕「五官ーレ之而不レ知」。
〔計簿〕計算をしるしたるかきもの。○〔漢〕「上ニー・ー一」。
〔簿〕事實とあはざる計簿。○〔漢〕「多張ニー・ー一」。
〔鹵簿〕車駕扈從の次第、ぎやうれつ。○〔晉〕「季龍常以ニ女騎一千一爲ニー・ー一」。
〔貲簿〕金錢などの出入をかきたるもの。○〔唐〕「悉收ニー・ー一」。
〔軍簿〕軍隊の帳簿。○〔漢〕「吏治ニー・ー一至レ明」。
〔文簿〕かきもの。○〔晉〕「ー・ー盈積一」。
〔披簿〕帳簿をあけひろぐ。○〔北〕「ーレ一以審レ之」。

【簿】ハク。伯各切 [藥]
せまる、（迫）。

【簙】ハク、傍各切 [藥]　バク。ハク、蒲角切 [覺]　ボク。
㊀蠶の具。㊁箔に同じ、すだれ。

【簿】ヘキ、ビヤク。蒲碧切 [陌]
壁柱。

【簙】ハク。補各切 [藥]
㊀棊を行る局戲、ばくち、すごろく。○〔五〕「君知レ一乎」。
㊁蠶を養ふに用ふる具、えびら。

【篹】クワイ、ケ。苦猥切 [賄]
竹の高き節、たけのふし。

【篶】セン。作句切 [霰]
筏の上のすまひ、いかだのり。

【簟】タン、ダン。同丹切 [寒]
たけづな、（竹索）。

【簢】ビン、ミン。美隕切 [軫]
篔に同じ、中の空しき竹。

【篘】コウ、ク。居侯切 [尤]
ー篘は、さう、（桃枝）。

【簹】ショク、シキ。所力切 [職]
ふるひ、（篩）。

【篡】サン。蘇貫切 [翰]
うつは、（器）。

【篶】シャ、セ。四夜切 [禡]
笘ーは、たけふだ。

【簗】篾に同じ、たけのくじ。

【篾】ベツ、メチ。莫結切 [屑]
竹の皮。

【簣】サク、シャク。阻厄切 [陌]
ゆかいた、ゆか、（牀版）。○〔揚雄〕「齊、魯之閒謂ニ之ー一陳、楚之閒或謂ニ之第一」。

【籓】シャウ、サウ。七亮切 [漾]
たけかご、（籠）。

【篠】篠の字の譌り。○〔庾信〕「ー・ー鷚既數、瑤琨削序」。

十四畫

【籃】ラン、ロン。盧甘切 [覃]
大いなる籠、かたみ、かご。○〔徐照〕「挈レ一桑葉開」。
〔竹籃〕たけかご。○〔陳與義〕「我獨白ー・ー」。
〔筠籃〕前に同じ。○〔陳奏〕「ー・ー日暮挑ニ菜茨一」。「ー・ー二」。
〔藥籃〕くすりをいるゝかご。○〔括異志〕「惟留ニ一
〔傾籃〕かごをかたむく。○〔陳師道〕「ーレ一的
皪寫ニ朝露一」。「貯ーレ一」。
〔滿籃〕かごのなかに充つ。○〔宋徽宗〕「桑葉青々
〔綵籃〕うつくしきいろいともて飾りたるかご。○
〔蘇軾〕「金・桑ー・ー以獻ニ于坐一者五十有三人一」。○
〔筐籃〕かご。○〔蘇軾〕「可ニ以資ニー・ー一」。
〔翠籃〕おはくのかご。○〔文同〕「ー・ー競擷レ新」。
〔箯籃〕たけもてあみたる輿。○〔張翥〕「雨歸借ニ
ー・ー一」。

【篷】ハク。匹各切 [藥]

一種の竹、節の間は長くして肌薄く屋の椽に用ふべし、其の筍は春生じて食すべし。○[簀譜筍譜]「――竹出二溫處一」。

【⿱竹領】レイ、リヤウ。郎鼎切 迥 篣――は、かたみ、かご（籯）。

【籄】キ。求位切 寘 グワイ、苦怪切 卦 あじか（簣）。

【⿱竹截】セツ、ゼチ。昨結切 屑 竹を剃す、たけをそろへきる。

【籅】ヨ。羊諸切 魚 かご、かたみ（筐）。○[揚雄]「筐、江・沔之間謂二之――一」。

【篗】ワク。王縛切 藥 糸を巻き付くる具、いとわく（桛）。

【⿱竹著】ショ、ソ。章恕切 御 籮の屬、ざる。

【籇】カウ、ゴウ。胡刀切 豪 ふなざを（船竿）。

【⿱竹穀】コク。古祿切 屋 はこ（篚）。

【⿱竹揔】ソウ、ス。損動切 董 はしづつ（箸筩）。○[揚雄]「箸筩自レ關而西謂二之桶――一」。

【⿱竹⿰犭壽】籌に同じ。

【⿱竹討】タウ、テウ。知教切 效

魚を捕らふる籠。

【⿱竹端】タン。多官切 寒 簹――は、とう（桃枝）。

【⿱竹綽】タク、トク。敕角切 覺 罩に同じ、うへ。

【⿱竹滿】バン、マン。母伴切 旱 篇に同じ、竹器。

【籈】シン、側隣切 眞 敔を鼓するに用ふるもの、さゝら、割りたる木にて長さ尺なりとぞ。○[爾]「所二以鼓レ敔謂二之――一」。

【⿱竹甄】セン。章憐切 ケン。居延切 先 竹器。

【⿱竹稍】サウ、セウ。山巧切 巧 竹の枝の長きにいふ字。

【⿱竹盡】シン。此忍切 軫 小さき竹、をざさ。

【⿱竹臺】タイ、ダイ。堂來切 灰 かぶりがさ（笠）。○[謝朓]「――笠聚二東菑一」。

【⿱竹[illegible]】ビ、ミ。民卑切 支 たけのかは（篾）。

【⿱竹復】箙に同じ、えびら。

【⿱竹⿰女并】ヘイ、ヒヤウ。傍丁切 青 籓曲、えびら（吳人の語）。

【⿱竹叢】ソウ、ズ。徂紅切 東 籠――は、魚を取るに用ふる竹器。

【籊】テキ、チヤク。他歷切 錫 竹の枝無く長く殺（そ）げたる貌にいふ字、ながし。○[詩]「――竹竿以釣二于淇一」。

【⿱竹爾】籋に同じ。

【籋】デフ、子フ。尼輒切 葉 ㊀くびわ（箝）。㊁小さき箱、こばこ。㊂躡に同じ、ふむ。○[漢]「――二浮雲一晻上馳」。

【⿱竹爾】ビ、ミ。緜紕切 支 苧竹、をだけ。

【⿱竹巢】サウ、セウ。莊交切 肴 ㊀巢に同じ、大笙。㊁鳥の穴の中。

【⿱竹廖】チウ、チユ。丑鳩切 尤 竹相合ふ、しげる。

【籌】チウ、ヂユ。直由切 尤 ㊀數をかぞふる表となすもの、かずとり。○[儀]「箭――八十」。㊁投壺の戲に用ふる矢。○[禮]「――、室中五扶、堂上七扶、庭中九扶」。㊂謀策、はかりごと。○[史]「運二――帷幄之中一」。㊃竹片などに標記をなし引きあてたる標記によりて事を定むるもの、くじ。○[北]「州有二優劣一令二探レ――取一レ之」。

[運籌] はかりごとをめぐらす。○[漢]「――・――合二上意一」。

[牙籌] 象牙もてつくりたるかずとり。○[晉]「每日執二――一晝夜算計」。

[象籌] 前に同じ。○[魏文帝]「――列植」「――」。

[更籌] 時刻をはかるもの。○[杜甫]「城內敲二――一」。

[酒籌] さかづきのかずとり。○[白居易]「醉折二花枝一作二――一」。

[觥籌] 前に同じ。○[歐陽修]「――交錯」。

[箭籌] 矢のかずとり。○[儀]「――八十」「也」。

[遠籌] 永遠のはかりごと。○[晉]「非二經國――一」。

[散籌] 算木をちらす。○[世說]「每與二夫人一燭下――算計」「――」。

[良籌] よきはかりごと。○[高適]「廟堂運二――一」。

[軍籌] いくさのはかりごと。○[杜牧]「玉帳――羅二俊彥一」。

[邊籌] 邊境に對するはかりごと。○[劉克莊]「郎君今復贊二――一」。

【⿱竹燾】タウ、ドウ。徒刀切 豪 いたゞく（戴）。

【籍】セキ、ジヤク。秦昔切 陌 ㊀ふみ。(い)書冊、記錄、しよもつ。○[左]「昔而高祖司二晉之典――一」。(ろ)書策、かきつけ、かきもの。○[漢]「尺――伍符」。㊁人名簿、戶口記、にんべつちやう。○[史]「高祖入レ關、何獨先走二丞相府一收二圖――一」。㊂符牒、ふだ。○[漢]「令下從官給二事宮司馬門中一者、得中爲二父母兄弟一通上――」。㊃語聲の縱橫なる貌にいふ字。○[漢]「國中口語――」。㊄語りて相傳ふ、しく。○[史]「此四君者皆爲二大夫一以レ是――二于諸侯一」。

[典籍] 書物。○[孟]「不レ足二以守二宗廟之――一」。

[載籍] 前に同じ。○[史]「夫學者――極博」。

[戶籍] 其の部に屬しある戶籍。○[史]「宗室毋二師行一者、除二其――一」。

(圖籍) 地圖と戸籍と。○[史]「據ニ九・鼎ニ按ニ一・一ニ」。
(名籍) 人名ちやう。○[通典]「上ニ皐族一・一ニ」。
(記籍) 記錄。○[漢]「縣各有ニ一・一ニ」。「間ニ」。
(史籍) 歷史の書物。○[後漢]「遂專ニ心一・一之」
(六籍) 六經といふに同じ。○[魏]「一・一雖レ存、固聖・人之糠・粃」。
(仙籍) やまびとの仲間に編入しあること。「叩ニ名于一・一ニ」。
(司籍) 書籍を管掌す。○[答賓戲]「劉・向一レ一、(道器)辨ニ章舊・聞ニ」。「閒ニ」。
(篇籍) 書物のこと。○[答賓戲]「休ニ息乎一・一之
(伍籍) 組合の戸籍。○[周、註]「以ニ一・一發レ徒起レ役者」。
(　籍) 名位尊卑の事を記載せる書物。○[周]「掌ニ邦・國賓・客之一・一ニ」。
(宦籍) 宮吏としてありたる名籍。○[史]「當ニ高罪死ニ、除ニ其一・一ニ」。
(案籍) 戸籍を考へ調ぶ。○[後漢]「追惟勳烈ニ、披レ圖一レ一」。「十萬衆ニ」。
(戸籍) 人別帳。○[魏]「昨案ニ一・一ニ、可レ得ニ三
(書籍) 書物のこと。○[魏]「吾家一・一文・章、盡當レ與レ之」。「好ニ莊・老ニ」。
(羣籍) あまたの書物。○[晉]「籍博覽ニ一・一ニ、尤
(禁籍) 秘藏し置く書物。○[晉]「秘・書一・一」。
(經籍) 聖賢の著述せる書物。○[晉]「乃耽ニ思一・
(墳籍) 前に同じ。○[晉]「耽ニ思一・一ニ」。「一ニ」。
(移籍) 戸籍を他處に移しやる。○[南]「遂一ニ一會・稽ニ」。
(除籍) 官吏としての籍を除却す。○[宋]「御・史・蔡言當レ一レ一」。「一・一ニ」。
(法籍) おきての書物のこと。○[淮]「推ニ蹶三・王之
(會籍) 戸籍。○[通典]「掌ニ皐族外・戚一・一ニ」。
(聖籍) 聖人の著したる書物。○[韓愈]「一・一飽ニ商・権ニ」。
(遺籍) 古人の殘しおきたる書物。○[陸機]「覽ニ一・一以慷・慨」。

【籍】シヤ、ゼ。謝夜切 禡
藉に通じ用ふ。○[漢]「治敢往少ニ溫一・一ニ」。

【篵】箆に同じ。

【籧】サフ、セフ。色甲切 洽
破竹の偏、わりだけのかたく。

【篙】カク、キヤク。各核切 陌
竹障、たけがうし。

【鞫】キク、コク。居六切 屋
鞠に同じ、つまみとる。

【篘】ケイ。居ᅳ切 霽
海のほとりに生ずる一種の竹。

【篓】萋・篓に同じ、あふぎ。○[呂氏春秋]「冬不レ用レ一非レ愛レ一也淸有レ餘也」。

十五畫

【䉦】セン。七然切 先
㊀箒一は、一種の竹、一に篝に作る。㊁一子は稻を收むる具。

【籕】リウ、ル。力求切 尤
㊀竹の名。㊁竹の聲にいふ字。

【𥷑】リウ、ル。力久切 宥 力救切 宥
竹の名。

【籣】リヨ、ロ。力居切 魚
一箐は、一種の竹。○[戴凱之]「一・箐竹其節疎」。

【籐】トウ、ドウ。徒登切 蒸
一或は、籐に作る。
㊀竹の器。
㊁蔓生して竹に似たる一種の植物。

【䉤】シウ、シユ。苗尤切 尤 側救切 宥
魚を取る器。

【䉛】ギ、ゲ。魚既切 未
㊀竹の名。㊁竹の節。㊂小さき竹。

【簒】篡に同じ。○[漢]「陳・平共ニ一・飯之一ニ而將・相加レ驩」。

【篹】サン。損管切 旱
籑の屬、一說に、竹木の素器、きぢのうつは。

【𥷜】ヘン、ハン。孚袁切 元
㊀蔽ひ物、おほひ。㊁大いなる箕、み。

【籚】リヨ、ロ。良據切 御
舟中の簀、ふなどこ。

【籈】チウ、ウ。烏侯切 尤
小兒を息はする竹の器。

【籀】チウ、ヂユ。直又切 宥
㊀古文字の一體、周時代に行はれたるもの。○[法書攷]「一文史一所レ作也」。㊁書を讀む、よむ。

【𥷀】ライ、レ。盧對切 隊
すりうす、(磑)。

【籫】クワン、グワン。胡管切 旱
すだれ、(簾)。

【籭】ハイ、ヘ。放吹切 隊
たかむしろ。○[方言、註]「江・東呼ニ籧・篨一爲レ一」。

【籓】ハン、ホン。方煩切 元
㊀大いなる箕。㊁おほふ、おほひ、(蔽)。

【籔】ス。爽主切 麌 取句切 遇
十六斗の稱。○[儀]「門・外米三十車、車秉有ニ五一・一ニ」。
(窶籔) 竹の器、物を頭に戴く時下に敷く環の狀をなしたるもの。○[楊惲傳]「鼠不レ容レ穴銜ニ一・一也」。

【籔】サク、ソク。所角切 覺
窶一は、四の足のある几、おしまづき。

【籔】ソウ、ス。蘇后切 有
こめあげざる、(炊・箕)。

【簶】レフ。良涉切 葉
一種の竹、一說に、竹を編みてつくりたる器。

【䉢】タイ、デ。杜回切 灰
竹の筆。

【䉮】リン。良刃切 震
中の實ちて堅き一種の竹、席に作る。

【䈴】セン。支尖切 先
たま、(玉)。

【籬】リ。力冀切 寘
勑竹、すぢだけ。

【簻】シヤ、セ。息姐切 馬

たけのふだ、（筥）。

【𥽃】 簟に同じ。

【𥶷】 テン。他典切 〔銑〕
簟に同じ、よし、あつし。

【𥷟】 テイ、ダイ。田黎切 〔齊〕 大計切 〔霽〕
篪に同じ、竹の名、一說に、竹の器。

【𥳌】 コ、ク。何姑切 〔虞〕
―被は、たけのおちかは（籜）。

【𥹝】 篸に同じ、つゞる。○〔唐人〕「憶薦福寺牡丹詩、註」「以レ針―レ物之―」。

十六畫

【䉋】 キ。虎委切 〔紙〕
米一斛を舂きて八斗の精米となると、つきべり。

【䈮】 キク、コク。丘六切 〔屋〕
㊀古文の麴の字。㊁推し辨ず、きはむ。○〔劉歆〕「五經所レ詁不レ合二爾雅一者、詁―爲レ病」。

【𥽟】 セン。須兗切 〔銑〕
たけのへり、（竹緣）。

【𥷼】 セン。朱緣切 〔先〕
まきがはら、（甓甎）。

【篧】 クワク。苦郭切 〔藥〕 サク、ゾク。在角切 タク、トク。竹角切 〔覺〕
魚を捕らふる籠。

【𥷑】 篠に同じ。

【籙】 リョク、ロク。力玉切 〔沃〕
㊀未來記、讖書、策。○〔張衡〕「高祖膺レ―受レ圖、順レ天行レ誅」。㊁ほんばこ（篋）。㊂ふみ（籍）。

【籚】 ロ、ル。龍都切 〔虞〕
㊀一種の竹、肌の理勻淨にしてつやよし、篪をつくるに此の竹にあらざれば鳴らずとぞ。○〔戴凱之竹譜〕「有二竹象レ―因以爲レ名」。㊁大いなる筐、かご、かたみ。○〔儀、註〕「筭竹器而衣者、其形蓋如二今之筥、笙―一矣」。㊂盧に通じ作る、矛戟の柄。○〔周〕「秦無レ―」。㊃櫨に同じ、ますがた。○〔國〕「侏儒扶―」。

【𥷒】 テフ、デフ。徒協切 エフ。弋涉切 〔葉〕
ひろ、（筬）。

【𥸥】 スヰ、ズヰ。旬爲切 〔支〕
かご（籠）。

【𥶟】 スヰ、ズヰ。徐醉切 〔寘〕
篨に同じ、たかむしろ。

【𥶽】 エイ、エ。于歲切 〔霽〕
一種の竹、肌薄く細くしてつよし。○〔竹譜〕「―尤勁、薄博矢之賢」。

【籛】 セン。將先切 〔先〕
人の姓。

【籛】 セン。子淺切 〔銑〕
竹の名。

【籜】 タク。他各切 〔藥〕
㊀たけのこにまとへる皮、成長するに隨びて脫落す、たけのかは。○〔謝靈運〕「初篁苞二綠―一」。㊁一種の草。〔山海經〕「葵本而杏葉、黃花而莢實、名曰レ―可二以已一レ瞢」。

〔筍籜〕 たけの皮。○〔元稹〕「風吹二―・―一颭二紅砌一」。「―」。
〔含籜〕 竹の皮をつけてあり。○〔杜甫〕「綠竹半―」
〔解籜〕 竹の皮を落とし去る。○〔元稹〕「新篁纔―レ―」。
〔竹籜〕 竹の皮。○〔茶經〕「茶有下如二―・―一者上、枝幹堅實」。
〔紫籜〕 青き竹の皮。○〔沈約〕「―・―開二綠篠一」。
〔枯籜〕 生氣のなくなりたる竹の皮。○〔鮑照〕「君不レ見三―・―走二階庭一」。
〔垂籜〕 竹の皮垂れ下がる。○〔武三思〕「鳳竹初―レ―」。
〔餘籜〕 また去りやらぬ竹の皮。○〔王維〕「嫩節留二―・―一」。
〔新籜〕 あらたに生じたる竹の皮。○〔李白〕「岸筍開二―・―一」。
〔迸籜〕 はとばしり生じたる竹の皮。○〔柳宗元〕「―・―分二苦節一」。「―而映淨」。
〔泛籜〕 竹の皮を水上に浮ぶ。○〔何遜〕「泉―」
〔蘚籜〕 苔の皮。○〔皮日休〕「蘚林―・―水犀文」。
〔嫩籜〕 わかやぎたる竹の皮。○〔歐陽修〕「―・―筍粉暗」。
〔筍籜〕 竹の皮。○〔范純仁〕「―・―乍開春後綠」。
〔墮籜〕 竹の皮を地に落とす。○〔文同〕「斑々―レ―開二新筍一」。

【𥷦】 レイ、ライ。郞計切 〔霽〕
たけのふだ、ふだ（籤）。

【籝】 エイ、ヤウ。怡成切 〔庚〕
㊀かご（籠）。㊁はしいれ（箸筩）、竹病。

【𥴨】 エン、オン。余廉切 〔鹽〕

【𥸊】 リン。良刃切 〔震〕
㊀そこなふ（損）。㊁うゝ（植）。

【𥸄】 ヘン、ベン。皮莧切 〔銑〕
あしのはぶえ（笳）。

【籞】 ギョ、ゴ。偶許切 〔語〕
㊀山川原野に魚獵採伐又は往來するを得しめざるために竹木などを折り繩にて結びつらねかこひを設けたる處、さめば、禁苑。○〔梁元帝〕「梵王四鶴集二林―一而和鳴」。㊁池水の中に竹籬を結びて魚を養ふ處、いけす、又、竹などを編みてかこひを設け鳥を養ふ處、なり。○〔東京賦〕「濵池淸―淥水澹々」。㊂こかひを設く、さゞむ。○〔漢、註〕「緜連禁―」。

〔池籞〕 いけす。○〔魏〕「除二―・―之禁一」。
〔波籞〕 前に同じ。○〔馬融〕「降二集―・―一」。
〔宮籞〕 禁中のいけす。○〔晉〕「混二干―・―一」。
〔苑籞〕 前に同じ。○〔金〕「宮室―・―無レ所二增益一」。
〔禁籞〕 前に同じ。○〔張說〕「―・―氛埃隔」。
〔籠籞〕 魚鳥などをいるゝかた。○〔柳宗元〕「羽毛摧折二―・―一」。

【籟】 ライ。落蓋切 〔泰〕
㊀三つの孔ある籥、ふえ、一說に、簫の別名。○〔史〕「擬二金鼓一吹二鳴―一」。㊁凡て孔竅機括よりの發聲にいふ字。○〔莊〕「地―則衆竅是已、人―則比竹是已」。

〔天籟〕 風などの自然に聲を爲すもの。○〔莊〕「敢問二―・―一」。
〔爽籟〕 さわやかなる聲。○〔段仲文〕「―・―警二幽律一」。

（萬籟）あまたの聲をなして鳴れるもの。○〔常建〕「――此俱寂」。
（吹籟）笛を吹きならす。○〔呂氏春秋〕「客有下以レ―レ―見二越王一者上」。
（竽籟）笛。○〔高唐賦〕「聲似二――一」。
（靈籟）前に同じ。○〔吳都賦〕「櫂謳唱――鳴」。
（風籟）風の聲。○〔蘇軾〕「――與レ耳謀」。
（淸籟）淸らかなる聲。○〔朱熹〕「天風發二――一」。
（竹籟）笛。○〔賈島〕「脩々――殘」。「仙曲二」。
（澗籟）谷川の流るゝ聲。○〔溫庭筠〕「――添」。

【籠】ロウ、ル。盧紅切 東
㊀かご。(い)竹などにて編みつくり中に物を入るゝ器の汎稱、かたみ、ざる、ふせご、たけのこし。○〔西京雜記〕「漢制天子以二象牙一爲二火――一」。(ろ)鳥檻、とりのをり。○〔莊〕「以二天下一爲二之―一則雀無レ所レ逃」。㊁包擧す、かねあぐ、つゝむ、こむ。○〔漢〕「―二貨-物一―二鹽-鐵一」。㊂矢を盛る器、えびら。○〔周〕「田弋充二―箙矢一」。
（樊籠）かご。○〔杜甫〕「局促傷二――一」。
（熏籠）いぶしかご。○〔劉道〕「熏-杷覆二――一」。
（香籠）前に同じ。○〔李廌物〕「――散二輕煙一」。
（雕籠）ゑりきざみたるうつくしきかご。○〔禰衡〕「閉以二――一」。
（筠籠）たけかご。○〔杜甫〕「野人相贈滿二――一」。
（綵籠）うつくしきいろいともてかざりたるかご。○〔韓愈〕「細雨浮煙作二――一」。
（紗籠）うすぎぬもてはりたるかご。○〔白居易〕「――歌二殘燭一」。
（提籠）かごをさげもつこと。○〔喬知之〕「―レ―逢二故夫一」。
（珠籠）たまもてかざりたるかご。○〔白居易〕「――鎖二冥鴻一」。
（寶籠）うつくしきかご。○〔韓琦〕「爭擲二寶衣一上二――一」。
（脫籠）かごをぬけいづ。○〔庾九疇〕「如レ鶴――」。

【籠】リヨウ、リユ。力鍾切 冬
㊀一種の竹。○〔張衡〕「其竹則籦―篁篋」。㊁車轄、くるまおほひのほね、くさびおほひ。○〔史〕「令下其宗人盡斷二其車軸末一而傅中鐵―上」。㊂一種の草。○〔管〕「有二―與一レ斥」。

【籠】ロウ、ル。力董切 董
㊀竹器、かご。○〔周〕「道二野役一及レ窆、抱-磨共二丘――一而退」。㊁瀧に同じ、うろほふ。○〔荀〕「東――」。

【籫】カン、ケン。侯襇切 澗
竹の枯るゝにいふ字、かる。

【⿱竹槳】シヤウ、サウ。子兩切 養
槳に同じ。

【籋】ヂ、ニ。尼理切 紙
はこ、(箱)。

【⿱竹殽】カウ、ゲウ。胡交切 肴
㊀たけのなは、(竹-索)。㊁筊に同じ、小さき簫。

【⿱竹敫】カウ、下巧切 巧 ゲウ。後敎切 效
たけのこ、(筍)。

【⿱竹歷】レキ、リヤク。狼狄切 錫
竹火にて刀をにらぐ。

【⿱竹穀】コク。胡谷切 屋
いさわく、(籆)。

【⿱竹器】キ。去冀切 未
いき、(氣)。

【⿱竹橦】チウ、ツ。涉隆切 東
やだけ、(簳)。

【⿱竹縕】オウ、ウ。烏侯切 尤
竹の器。

【籞】ギヨ、ゴ。偶擧切 語
篽に同じ。

十七畫

【籅】ヨ。羊諸切 魚
㊀一種の竹。㊁籅の俗字、かご。㊂あんだ、(箯-輿)。

【⿱竹彌】ビ、ミ。民卑切 支
篾に同じ、竹の皮。

【籢】レン、ロン。力鹽切 鹽
奩に同じ、かゞみばこ。○〔列女傳〕「置二鏡――中一」。

【⿱竹牒】テフ、デフ。徒涉切 葉
ひろ、(箑)。

【籣】ラン。郎干切 寒
弩の矢を盛りて人の負ふもの、其の形木の桶の如し、えびら。○〔漢〕「令下騎-士兵-車四-面營-陣被二甲-鞮-鍪一居二馬-上一抱レ弩負中―上」。

【籤】セン、ソン。千廉切 鹽
㊀數ふるしるしをなすもの、ふだ、かずとり。○〔陳〕「投二―于階-石之上一」。㊁竹のふだなどにしるしをつけて抽きあてたるしるしによりて事を定むるもの、くじ。○〔玉篇〕「竹―用以卜者」。㊂竹を細く削りて鋭くし物を貫くに用ふるもの、くし、さし。○〔宋〕「每レ盾削二竹――十六一穿二于革一」。㊃しるし、(標)。
（牙籤）象牙もて作りたるふだのこと。○〔舊唐〕「經-庫紅――」。
（瓊籤）玉のふた。○〔溫庭筠〕「唯恐――報二天曙一」。
（漏籤）時刻をしるしたるふた。○〔王珪〕「――初-刻上二銅-壺一」。
（典籤）官の名。○〔北〕「隋文帝輔レ政引爲二丞-相-府――一」。

【⿱竹鮮】セン。蕭前切 先 息淺切 銑
㊀竹の名。㊁⿱竹鮮―は、入戸の版籍、にんべつちやう。

【籥】ヤク。以灼切 藥
㊀笛に似たる一種の樂器、或は三孔あり或は六孔あり、ふえ。○〔詩〕「左手執レ―」。㊁書僮の文字を學ぶに用ふる竹筒、てならひふだ。㊂鑰に同じ、かぎ。○〔書〕「啓―見レ書」。㊃星の名。○〔周天〕「天―司二其啓-閉一」。
（龡籥）笛を吹く。○〔周〕「舞レ羽―レ―」。
（葦籥）あしにて作りたる笛のこと。○〔楊萬里〕「――一聲-外無二笙-竽一」。
（管籥）笛のこと。○〔孟〕「百-姓聞二王鐘-鼓之聲、――之音一」。
（鼓籥）笛を吹き鳴らす。○〔皮日休〕「笙師之吹レ竽、―人之―レ―、不レ能レ過也」。
（橐籥）ふいがうのこと、鍛冶工の用ふる器。○〔老〕「天-地之閒猶二――一乎」。
（擫籥）指もて笛をおす。○〔南都賦〕「彈レ琴―レ―、流-風徘-徊」。
（鳴籥）笛を吹きならす。○〔韓愈〕「紅-頰吹二――一」。
（秉籥）笛を手に持つ。○〔詩、傳〕「―レ―而舞、與二笙相應一」。

（舞簫）羽を持ち笛を吹きて舞ふ。○〔禮、疏〕「學二此一・一之文・舞一也」。
（清簫）聲の澄みわたれる笛のこと。○〔遜讓〕「一・一發レ徵」。
（簫簫）笙。○〔范曄〕「何異二一・一納レ氣而鳴一耶」。
（韶簫）笛を竪につゝむ。○〔笙賦〕「弛レ絃一レ一」。
（笙簫）笙の笛と三つ孔のある短小なる笛と。○〔何承天〕「一・一協レ節」。
（哀簫）聲のあはれにきこゆる笛。○〔謝靈運〕「慨二伶倫之一・一二」。
（撫簫）笛を手もて撫でさする。○〔蘇軾〕「他日一レ一以爲レ日也」。
（竿簫）笛のこと。○〔王禹偁〕「何曾聞二一・一二」。
（咽簫）聲やかましき笛。○〔張羽〕「栖・烟初噪如二一・一二」。

【䉫】簃に同じ。

【籙】リ、力智切 支
㊀ふだ（籤）。㊁むち（箠）。

【䉺】ジヤウ、ナウ。如陽切 陽 汝兩切 養
㊀つゝむ（裹）。㊁米を漉す竹の器、ざる。

【籦】ショウ、シユ。諸容切 冬
㊀一籦は、一種の竹、笛に作るべし。○〔馬融〕「惟一・籦之奇-生兮于二終南之陰-崖一」。㊁竹の器。

【籧】キョ、ゴ。强魚切 魚
篨の字を見よ。

【籧】キョ、コ。居許切 語
一筐は、蠶を養ふに用ふる器。○〔禮〕「季-春之月具二曲-植一・筐一」。

【䉛】ケイ。居例切 霽

㊀海邊に生ずる一種の竹。㊁一・簃は、竹の實ぶれんご。

【䉲】キク、コク。居六切 屋
罪人を窮理す、しらぶ、さばく、きはむ。○〔楚辭〕「皆歸二射一・一而無レ害二厥躬一」。

【䉢】シユク、ソク。子六切 屋
籧に同じ、はしらのけづめ。

【䉝】フウ、フ。方中切 東
一種の小さき竹。

【䉠】トン、徒渾切 元 ドン。テン。丁練切 霰
ゆみのためぎ（榜）。

十八畫

【籋】レフ。力協切 葉
たかむしろ（竹-笪）。

【䉮】サフ、ゾフ。昨合切 合
すだれ（簾）。

【䉶】サウ、ソウ。疏江切 江
㊀ほ（帆）。㊁さけこしざる（酒-篘）。

【籤】セン、ゼン。才先切 先
細く削りたる竹。

【䉯】カイ。居諧切 佳
一種の黑き竹。

【籩】ヘン。卑眠切 先
㊀祭祀燕享に用ふる竹豆、たけのたかつき、かたみ、竹を編みて造り口に籐の緣あり形豆の如し量四升を受く棗、栗、桃、梅、菱、芡、脯、脩、膴、鮑、糗-餌などを盛る。○〔詩〕「一・豆有レ踐」。
（豆籩）黍稷を盛りて祭祀に供する木と竹とにて作りたる器。○〔書〕「奔-走執二一・一二」。
（肆籩）祭祀に列らね供ふるかたみ。○〔周〕「掌二一・一之實二」。
（羞籩）祭祀に物を入れて供ふるかたみ。○〔周〕「一・一之實、糗-餌粉-餈」。「一羞-籩二」。
（薦籩）前に同じ。○〔周〕「賓-客之事、共二其一・一二」。「一匕一」。
（簋籩）祭祀に用ふるかたみ。○〔袁桷〕「潔二其一・一二」。
（實籩）かたみに入れ滿つること。○〔劉基〕「可二以一・一二」。
（翠籩）青き色をなせる竹のかたみ。○〔宋濂〕「乃潔二一・一二」。

【䉵】クワン。古丸切 寒
竹の杼、ひ。

【籗】サク、ソク。側角切 覺
魚を捕らふる具。

【䉹】サウ、セウ。莊交切 肴
すくひあみ（撩-罟）。

【䉭】箔に同じ。

【䈏】フウ、フ。敷救切 宥
竹の蓋、かさ。

十九畫

【䉫】籞に同じ、いけす。

【籫】サン。祖管切 旱
はしいれ、はしづつ（箸-筩）。○〔急就篇、註〕「一盛二匕-箸一之籠」。

【籬】リ。鄰知切 支
柴竹などにて造れるあらき柵、まがき、ませがき、かき。○〔晉〕「與二弟-子一樹レ一」。
（笊籬）すくひざる。
（槿籬）むくげのいけがき。○〔沈約〕「一・一疎復密」。
（藩籬）まがき。○〔左、疏〕「以爲二一・一二」。
（墻籬）前に同じ。○〔鹽鐵論〕「無二一・一之難二」。
（肉籬）人をふせぎにあつること。○〔唐〕「驅二臭-人一爲二一・一二」。
（疎籬）まばらなるかき。○〔杜甫〕「一・一帶二晩-花一」。
（短籬）たけひくきかき。○〔陸游〕「斷レ竹作二一・一二」。
（竹籬）たけがきのこと。○〔杜甫〕「茅-舍一・一短」。
（瓊籬）たまのかき。○〔陸倕〕「一・一齊-起」。
（缺籬）すきまのあきたるかき。○〔杜甫〕「一・一將レ棘拒」。
（補籬）かきのやぶれをつくろふ。○〔杜甫〕「牽レ蘿「門」。一破・一二」。
（棘籬）いばらのかき。○〔蘇軾〕「三-々五-々一・一」。
（垣籬）かき。○〔元德明〕「晝永一・一雞-犬閑」。
（荒籬）あれはてたるかき。○〔高啓〕「棄在二一・一荊棘邊二」。

【籭】シ。山宜切 支 所綺切 紙
篩に同じ、ふるひ。

【䉤】サイ、セ。所佳切 佳
㊀前條の解に同じ。㊁一種の竹。

【籮】ラ。郎何切 歌
㊀み（箕）。○〔揚雄〕「箕、陳魏宋楚之閒謂二之一一」。㊁底方にして上圓き筐、かたみ。

【䉢】シユク、ソク。七六切 屋
はしらのけづめ（筐）。

【䉦】トン、ドン。大昆切 元
簪に同じ、ゆみため。

【籞】ショ、ソ。章恕切 御 かたみ、(筐)。

【籚】篝に同じ、竹のかご。

二十畫

【籯】エイ、ヤウ。餘輕切 庚 三四升の量を容るゝ竹器、かたみ。○〔漢〕「遺二子黃金滿一レ籯、不レ如二一經一」。

【籆】ワク。王縛切 藥 絲を絡(まと)ふ具、いとわく。

【䉛】ヨク。越逼切 職 竹の叢生するにいふ字。

【籢】ゲン、ゴン。魚枕切 ㊀弋射に蔽ふもの、おほひ。㊁おほふ(蔽)。㊂いけす(籞)。㊃とゞむ、ふせぐ(禦)。

【籠】ロウ、ル。盧東切 東 かたみ(筐)。

【籔】キ。虎委切 紙 うすつく、つく(舂)。

廿一畫

【𥸩】ヘン、ベン。平免切 銑 たけのふだ(竹簡)。

廿三畫

【籭】サイ、セ。所蟹切 蟹 こゝ(廝)。

【籰】ワク。王縛切 藥 魚を取る具。

廿四畫

【籫】カン、コン。古禫切 感 ㊀毛ある一種の竹。㊁箱の屬、はこ。

【䉥】タン、トン。都感切 感 一種の竹。

【籗】タク、竹角切 覺 クワク。闊鑊切 藥 篧に同じ、魚を捕らふる具。

【𥸚】レイ、リヤウ。郎丁切 青 ㊀一種の竹。㊁竹の器。

【𥸶】簪に同じ。

【䉶】サン、ソン。作紺切 勘 つゞろ(綴)。

廿六畫

【籲】ユ。兪戍切 遇 ヤク。以灼切 藥 よぶ(呼)。○〔書〕「籲レ俊尊二上帝一」。

米部

【米】ベイ、マイ。莫禮切 薺 〔說文〕象二禾實之形一。

穀粟の實、こめ、よね。○〔周〕「舍人掌二粟米出入一」。

〔負米〕穀實をせおふ。○〔家語〕「爲レ親負二米百里之外一」。

〔聚米〕穀實をあつむ。○〔後漢〕「又于二帝前一聚レ米爲二山谷一」。

〔齎米〕穀實をもちゆく。○〔吳〕「琮父柔嘗使下琮齎二米數千斛一、到レ吳有上レ所二市易一」。

〔新米〕たきゝとこめと。○〔宋〕「詔二三司一、減レ價出二新米一以濟レ之」。

〔稊米〕こつぶの穀實。○〔莊〕「不レ似二稊米之在一太倉一乎」。

〔糲米〕ふらげざる穀實。○〔韓詩外傳〕「糲米之食未二嘗飽一也」。

〔炊米〕穀實をたく、又、たきたる穀實。○〔范成大〕「冰泉炊レ米碾二手沙一」。

〔精米〕ふらげたる穀實。○〔禮、疏〕「君子饗二精米一嘉器一也」。

〔粗米〕あらごめ。○〔漢〕「一醸用二粗米二斛、麴一斛一」。

〔給米〕てあてとし與ふるこめ、又、穀をあたふ。○〔宋〕「假給米也」。

〔芻米〕食用の肉と穀と。○〔左〕「繩レ之芻米」。○〔禮〕

〔赤米〕こめのわるきもの。○〔國〕「市無二赤米一」。

〔賜米〕上の者より下に米をあたふ。○〔南〕「賜二米五百斛一」。

〔擇米〕こめつぶをよる。○〔唐〕「以二鳥羽一擇レ米」。

〔舂米〕穀實をうすつく。○〔十六國春秋〕「李漢家舂レ米」。

〔租米〕年貢の穀物。○〔陳造〕「交レ券輦二租米一」。

〔稅米〕前に同じ。○〔晉〕「畝稅米三升」。

〔御米〕天子の御膳にのぼすこめ。○〔水經、註〕「江州縣北有二稻田一、出二御米一也」。

〔收米〕田より取りいるゝ穀實。○〔張耒〕「淮潁耕田倍二收米一」。

〔薄米〕ちはとこめと。○〔白居易〕「庖童朝告薄米盡」。

〔倉米〕くらにつみたる穀實。○〔晉〕「延及二山陰倉米數百萬斛一」。

〔官米〕政府のこめ。○〔晉〕「取二官米數石一餉レ妹」。

〔魚米〕さかなとこめと。○〔晉〕「賜以二魚米一」。

〔秫米〕もちごめ。○〔晉〕「今年田得二七百石秫米一」。

〔黃米〕前に同じ。○〔唐〕「都人以二黃米一及黑豆屑蒸食之一」。「熟」。

〔穀米〕前に同じ。○〔本草〕「穀米性寒、作レ酒則」

〔饋米〕こめを他へおくりつかはす。○〔晉〕「玄饋二米二千斛一」。

〔樵米〕たきゞとこめと。○〔南〕「賜以二樵米一」。

〔秩米〕秩祿の穀實。○〔南〕「以二秩米三千餘斛一、助二人租稅一」。

〔祿米〕前に同じ。○〔韓〕「七十受二祿米一」。

〔白米〕つきふらげたるこめ。○〔楊維楨〕「白米紅鹽十萬家」。

〔粳米〕うるちね。○〔南〕「噉二粳米一」。

〔腐米〕くされたるこめ。○〔魏文帝〕「倉腐米一供二老姑一」。

〔糴米〕穀實を買ひ入るゝこと。○〔趙營〕「得レ錢糴レ米」。

〔嚼米〕こめをかみくだく。○〔北〕「嚼レ米爲レ酒」。

〔新米〕收穫してより一年のあひだの穀實。○〔北〕「人有下餉二新米一斛一者上」。

〔竹米〕たけに生ずる實にしてこめの如く食ふべきもの。○〔皮日休〕「野客病時分二竹米一」。

〔熟米〕にたるこめ、又、こめをにること。○〔唐〕「可二以熟米一」。

〔粱米〕よきこめ。○〔唐〕「有二粱米一乎」。

〔貯米〕つみたくはへたる穀、又、穀を積みたくはふ。○〔唐〕「惟貯米五斛」。

〔蓄米〕前に同じ。○〔五〕「將軍蓄レ米、將レ療レ飢乎」。

〔積米〕前に同じ。○〔論衡〕「或積二米穀一」。

〔儲米〕前に同じ。○〔陸游〕「儲米藏二瓶盎一」。

〔糶米〕穀實をうること。○〔徐陵〕「糶レ米商レ鹽」。

〔錢米〕ぜにと穀實とのこと。○〔宋〕「給錢米以釋レ之」。

〔義米〕民の飢をすくふための穀實。○〔宋〕「發二義米一振レ糶」。

〔醪米〕さけとこめとのこと。○〔宋〕「唯嚴西帥張宗元時饋二醪米一」。

〔紅米〕いろ純白ならずしてあかみをおびたるこめ。○〔蘇轍〕「飯軟莫レ嫌二紅米一暖」。

〔粟米〕こめ。○〔曾鞏〕「粟米之賤、斗至二數錢一」。

〔禾米〕前に同じ。○〔徐照〕「黃金埋藏禾米棄」。

〔陳米〕ふるごめ。○〔李嶠〕「乞火蒸二陳米一」。

〔老米〕前に同じ。○〔本草〕陳倉米一名二老米一」。

〔𥻘米〕おほいなるつぶにて味なきこめ。○〔本草〕「𥻘米顆大無レ味」。

〔釀米〕こめをかもして酒につくること。○〔鄱陽〕「釀二野田之米一」。「熟」。

〔麥米〕むぎとこめとのこと。○〔陸游〕「小巢瀨老麥米」

〔珠米〕たまの如くうつくしきこめ。○〔馬祖常〕「珠米圓々白」。

一畫

【籸】ハ。布火切 哿 碎けたる米、こごめ。

二畫

【籵】テイ、チヤウ。丁定切 徑
いひ（米-飷）。

【籴】羅の省字。

【粂】サフ、ゾフ。咋合切 合
雜に同じ、まじふ、まじる。○[莊]「鳩二一天-下之川一」。

三畫

【粍】タク、チヤク。陟格切 陌
㊀屑米の飯、こごめのめし。㊁ればる（粘）。

【籸】シン。所臻切 眞
粉滓、こかす、一説に、粥凝、かゆのこり。○[歳時雜記]「除-夕作二蕡-燭一以二麻-一濃-油一、如二庭-燎一、律有二元-日油-一之文一、今一-盆是也」。

【[米工]】コウ、グ。戸公切 東
陳臭ある米、ひねくさきこめ、一説に、赤色をなしたる米、あかごめ。

【籹】ジヨ、忍與 ヂヨ、尼呂 ニヨ。切 ニヨ。切 語
粔一は、米麪に蜜を和し煎熬してつくりたるもの、おこしごめ、おこし。○[楚辭]「粔-一蜜-餌」。

【籺】ケツ、ゲチ。胡結切 屑
屑米の細かきもの、こごめ、又、米粉、こめのこ。

【籺】コツ、ゴチ。下扢切 月
堅き麥、一説に、粗きこごめ。

【㐾】古文の粟の字。

【籸】シン。疏臻切 眞
米の滓、かす。

【类】類に同じ。

【籼】秈に同じ。

四畫

【粃】ヒ、補履切 紙　ヒ、ピ。房脂切 支
㊀秕に同じ、しひな。○[書]「若二粟之有一レ一」。㊁知らざると。○[揚雄]「一不レ知也」。

【[米氏]】キ、ギ。巨支切 支
赤き米、あかごめ。

【[米丏]】ベツ、メチ。莫結切 屑
こごめ（䅇）。

【粄】ハン、バン。博管切 旱
屑米の餅、だんご。

【粅】ブツ、モチ。文拂切 物
粉の貌にいふ字。

【粆】サ、セ。師加切 麻
さたう（沙-糖）。

【粇】糠に同じ。

【粈】ヂウ、女九 ニユ。切 ジウ、人九 ニユ。切 有　ヂウ、女救 ニユ。切 宥
雜飯、ごもくめし。

【粌】トン、ドン。徒渾切 元
[月昆]一は、もち（餌）。

【粉】フン、ホン。方吻切 吻
㊀物の細かく碎けて分散するもの、こごな。○[周]「糗-餌-一-資」。
㊁こなさなる、こなさなす、碎く。○[晉]「柏-一-碎」。
㊂顔色をかざるにつくる白きこな、おしろい、古昔は、米のこなを用ひしさいふ。○[史]「傅二脂-一-一」。
㊃石を燬きてこしらへたる白き灰、いしばい、牆壁に塗るもの。○[白居易]「紫-界金-牆白-一-闌」。
㊄設采潤色、いろどり、かざり。○[六韜]「禮-樂治之-一-澤」。
㊅一種の竹。○[閩部疏]「一-竹春絲爲下佳二紙-料一者上」。

[胡粉] 白き粉。○[參同契]「一-一投二火-中一」。
[膩粉] おしろい。○[方干]「葉墮般-々一-一膩」。
[丹粉] あかいろのこ。○[李商隱]「萱-草含二一-一」。
[香粉] にほひあるこ。○[齊民要術]「作二一-一法唯多著二丁-香於粉-合中一」。
[霊粉] こまかくつぶる。○[杜甫]「十月卽爲二一-一期一」。
[著粉] おしろいのこをつく。○[宋玉]「一-レ一則太白」。
[施粉] 前に同じ。○[何遜]「復慚二一-一人一」。
[傅粉] 前に同じ。○[語林]「魏文帝疑二其一-レ一」。
[加粉] 前に同じ。○[蔡邕]「一-レ一則思二其心之鮮一」。
[艶粉] うつくしきおしろい。○[張正見]「一-一飜飛蝶一」。
[朱粉] あかいろのこ。○[南]「飾以二一-一」。
[石粉] いしのこ。○[水經、註]「表裏飾以二一-一」。
[赬粉] あかきこの類につくるもの。○[釋名]「一-一赤也」。
[桂粉] おしろい。○[桂海虞衡志]「鉛-粉桂-州所レ作最有レ名、謂二之一-一」。
[鉛粉] 前に同じ。○[沈約]「洗-却一-一妝」。
[紅粉] べにとおしろいと。○[劉憲]「一-一綺-羅人」。
[蛤粉] はまぐりのからをこなにしたるもの。○[筠]「打二蒼-一-一而爲レ一」。
[濕粉] しめりたるこ。○[庾信]「白-沙如二一-一」。
[散粉] とびちるこな、又、こなをちらすと。○[宗懍]「一-一初成レ蝶」「一-一」。
[瓊粉] たまのこな。○[華嚴物]「莫レ遣二兒-童觸一」。
[籜粉] たけのこに生ずるこな。○[賈師泰]「一-一已翻鱗-甲紫」。

【粉】フン、ホン。方問切 問
ものを傅け飾る、けしやうす、ぬる。○[梁簡文帝]「輕-粧薄-一」。○

【[米廾]】デツ、子チ。乃結切 屑
手にて持つ、もつ。

【粊】ヒ、ビ。兵媚切 寘
惡しき米。

【[米次]】粢に同じ。

【粋】サイ、セ。蘇内切 隊
㊀もつぱら（純）。㊁くはし（精-微）。

【[米大]】レツ、レチ。練結切 屑
一-一奠は、頭の衰なる狀態にいふ語、一説に、節目多きを、ふしめおほし。

五畫

【粒】リフ。力入切 緝
㊀つぶ。
（い）米實の個々の稱、こめつぶ。○[孟]「一-米狼-戾」。
（ろ）こめつぶの如き狀をなすもの。○[聞見後錄]「靈-丹一-一點レ鐵爲レ金」。
㊁米食すると。○[書]「烝-民乃一」。

(絶粒) 米つぶを食せぬ。○[北]「凡人ーレーー七日乃死」。
(剖粒) 米つぶをさく。○[列]「ーレー爲レ餌」、
(飯粒) めしつぶ。○[世説]「ーー脫ニ落盤席閒ニ。」 「夫先ーニ其ーニ。」
(嘗粒) 米つぶをくらふ。○[劉楨]「嘉禾始熟而農夫ーーー之食」。
(米粒) こめつぶ。○[書、疏]「天下衆人、乃皆是「ーニ。
(移粒) 前に同じ。○[陸龜蒙]「敢怨烝黎無ーーー」
(遺粒) おちこぼれたる米つぶ。○[北]「拾ニーー」而織ニ落毛ニ。
(新粒) たきゞとこめと。○[宋]「凡ーー蔬菓箕帚之屬」。「ーニ。」
(種粒) たねに用ふるこめつぶ。○[金]「貸ニ之ー
(麥粒) むぎのつぶ。○[骨翠]「ーー收來品絕倫」。
(餘粒) のこりたる米つぶ。○[春渚紀聞]「聚ニ所「棄ーー「食レ之」。
(粟粒) こめつぶ。○[杜牧]「釘頭磷々多ニ於在庾之ーーニ。

【〓】ハン。博管切 旱
屑米の餅、こごめのもち、だんご。○[荊楚歳時記]「三月三日取ニ鼠麴汁ー蜜和レ粉謂ニ之龍舌ーー以厭ニ時氣ニ。

【粓】カン、コン。古三切 覃
泔に同じ、米の汁。

【〓】サ、セ。莊加切 麻
かす、(滓)。

【〓】サク。卽各切 藥
糳に同じ。

【〓】ハイ、ヘ。鋪枚切 灰
粉麪を滲して製したる一種の藥。

【粔】キヨ、コ。其呂切 語

枚の字を見るべし。

【粊】ビ、ミ。兵媚切 寘 ハイ、ベ。蒲昧切 隊
枈に同じ。

【粕】ハク。匹各切 藥 ハク、ヒヤク。匹陌切 陌
酒を漉して殘留したる麤き滓、さかおり、かす、轉じて、滋味を去りたる殘物。○[莊]「古人之糟ー」。
(糟粕) 酒のしぼりかす。○[晉]「名位爲ニーーニ。
(沉粕) 酒のおり、又、かめのそこにのこりたるかす。「以掩ニーーニ。
○[劉兌]「把レ酒醨ニーーニ。
(甕粕) かめのなかにある酒のかす。○[馬祖常]「儲

【〓】フ。芳無切 虞
もみがら、すくも、(稃)、一説に、一つの粰に二つの米あるもの。

【宷】ビ、ミ。綿批切 支 | 罙に同じ。
❶ふかし、(深)。❷をかす、(冒)。❸あみ、(罟)。❹おく、(置)。

【〓】ベツ、メチ。莫結切 屑
かゆ、(粖)。

【〓】ベイ、ミヤウ。莫經切 青 ビ、ミ。忙皮切 支
漬したる米、かしごめ。

【〓】ハン、バン。符萬切 願
ここな、(粉)。

【粖】バツ、マチ。莫撥切 曷
かゆ、(饘)。

【粖】ベツ、メチ。莫結切 屑

かゆ、(糜粥)。

【粗】ソ、ス。千胡切 虞 ソ、ズ。坐五切 麌
麤に同じ、あらし。○[禮]「其ー以厲」。

【〓】タ。湯河切 歌
もち、(餌)。

【〓】ダフ、デフ。女洽切 洽
ねばる、(黏)。

【粘】デン、デン。女廉切 鹽
黏に同じ。

【〓】シ。息利切 寘
かす、(糟)。

【粐】コ、グ。洪孤切 虞
のり、ねばり、(黏)。

【〓】イ。盈之切 支
あめ、(飴餳)。

【粙】チウ、ヂユ。直祐切 宥
稲實のる、みのる。

【〓】カ、ケ。居牙切 麻
こめ、(米)。

【〓】
黐に同じ。

【〓】チヨ、ド。直呂切 語
米を盛る、もる。

【〓】フン、ボン。房吻切 吻
屑米の餅、だんご。

【粛】
俗の肅の字。

【粜】
糶に同じ。

【〓】
俗の粲の字。

六畫

【粞】セイ、サイ。先稽切 齊 サイ。思計切 霽 サイ。蘇來切 灰
米の碎けたるもの、こごめ。

【粟】シヨク、ソク。相玉切 沃
❶米の未だ殼皮を去らざるもの、もみごめ、もみ。○[書]「四百里ー」。❷嘉穀の一、稱して陸種の首となすもの、あは。○[韻會小補]「粱ー類、米之善者、五穀之長、今人多種レー而少レ種レ粱以下其損ニ地力ー少中收穫上也」。❸あはの米粒に似たるものゝ稱。○[山海經]「中多ニ丹ーー」。❹水の名。○[水經、註]「居庸縣故城魏上谷郡治有ニーー水在ニ焉」。
(發粟) もみを倉廩などよりいだして散ず。○[書]「ーニ鉅橋之ーニ。」「我ーニ。」
(啄粟) 鳥のもみをついばみくらふ。○[詩]「無レーニ
(鋤粟) 井田法の行はるゝ時に於て九夫の相助けてつくる所の一井の稅粟をいふ。○[周]「掌レ聚ニ野之ーー屋粟閒粟ニ。」
(稅粟) 租稅として民のいたすもみ。○[周、註]「空レ田者罰以ニ三家之ーーニ。」
(米粟) こめ。○[孟]「ーー非レ不レ多」。
(食粟) あはをくらふ。○[史]「季文子廐無ニーーー之馬ニ。」
(貯粟) もみをつみたくはふ、又、たくはへたるもみ。
(儲粟) 前に同じ。○[陶潛]「瓶無ニーーニ。」○[公羊]「無レーレー」。
(餘粟) つかひあまりのこめ。○[孟]「以レ羨補レ不レ足、則農有ニーーニ。」

〔陳粟〕ふるびたるこめ。○〔王維〕「－－萬箱紅」。
〔嘉粟〕めでたきもみのこと。○〔阮籍〕「－－屏而不レ存兮」。
〔給粟〕手當にあたふるもみ、又、もみを與ふること。○〔唐〕「月－レ－十七萬斛」。
〔官粟〕政府の米。○〔劉子翬〕「平生飽二－－一」。
〔賦粟〕年貢として民より取りたつる米。○〔孟〕「而－－倍二他日一」。
〔秣粟〕もみを馬の食とす。○〔後漢〕「馬不レ－レ－」。
〔倉粟〕くらにつみたるもみ。○〔晉〕「天下饑、－－少」。
〔廩粟〕前に同じ。○〔韓愈〕「歲縻二－－一」。
〔糴粟〕もみを買ひ入る。○〔隋〕「折レ絹－レ－」。
〔稻粟〕米。○〔隋〕「歲收二－－數十萬石一」。
〔收粟〕もみをとりいる。○〔唐〕「歲－レ－二十萬石」。
〔腐粟〕くさりたるもみ。○〔典論〕「倉廩畜二－－一」。

【米先】籼に同じ。

【粠】紅に同じ。

【米束】サク、シヤク。色責切 陌
❶糯－は、こごめ、壞米。
❷餅相黏る、ねばる。

【米亘】クワン。呼官切 寒
白き米。

【米風】ハイ、ベ。蒲昧切 隊
米を研りて羹にまじへたるもの、こなかき。

【粡】トウ、ヅ。徒東切 東
❶ちまき(粽)。
❷あらきこめ(粗米)。

【粪】キヨウ、グ。渠容切 冬
しらげたるこめ、精米。

【米名】ベイ、ミヤウ。彌并切 梗
漬米、かしごめ。

【粢】シ。即夷切 支
きび(稷)。○〔爾〕「－者稷也」。

【粢】シ、ジ。才資切 支
粢に同じ、こめのもち。○〔列〕「食則－－糲」。

【粢】セイ、ゼイ。才詣切 霽
さけ(酒)。○〔禮〕「－醍在レ堂」。
〔明粢〕宗廟のまつりに用ふるあは。○〔禮〕「凡祭二宗廟一之禮、稷曰二－－一」。
〔糲粢〕精げざるあは。○〔韓〕「－－之食」。

【米交】カウ、ケウ。古肴切 肴
－粑は、米の粉にて造れる餅、だんご。

【米向】シヤウ、サウ。式亮切 漾
餉に同じ。

【粣】サク、シヤク。色責切 陌
こながき(糝)、又、ちまき(粽)。○〔南〕「作二扁米－－一」。

【粤】エツ、チチ。王伐切 月
❶語の發端に用ふる字、こゝに、又、歎息の聲にいふ字、あゝ。○〔王延壽〕「－若稽二古帝漢祖宗一」。
❷あつし(厚)。○〔管〕「天爲二－－宛、草木養長一」。
❸越に通じ用ふ、國の名。○〔漢〕「從二百－之兵一、以佐二諸侯一誅二暴秦一」。

【白米】キウ、其九 切 イウ、於九 切 ウ。 有
❶粮を舂く、つく。
❷糗に同じ、いりごめ、ほしひ。
❸乾飯の屑、ほしひのこ。

【米曳】エイ。以制切 霽
白－は、稻の名。

【粥】シユク、ソク。之六切 屋
❶米を煮てたゞらかしたるもの、かゆ、糜よりゆるし。○〔禮〕「仲秋行二糜－食飮一」。
❷卑謙の貌にいふ字、又、柔弱にして愚なる貌にいふ字、又、敬み懼るゝ貌にいふ字。○〔禮〕「－－若レ無レ能也」。
〔糜粥〕かゆ。○〔唐〕「春秋給二羊酒－－一」。
〔饘粥〕前に同じ。○〔後漢〕「朝暮送二－－一」。
〔粥粥〕へりくだる貌にいふ語。○〔禮〕「－－若レ無レ能也」。
〔歠粥〕かゆをすゝる。○〔孟〕「－レ－面深墨」。
〔豆粥〕まめがゆ。○〔後漢〕「異上二－－一」。
〔沸粥〕わきたちたるかゆ。○〔唐〕「百揆聚刺如二－－紛麻一」。
〔茗粥〕茶のこるもて煮たるかゆ。○〔茶錄〕「吳人采レ茶煮レ之名二－－一」。
〔薄粥〕こるのおほきかゆ。○〔陸游〕「－－猶難「卒二歲儲一」。
〔淡粥〕前に同じ。○〔蘇軾〕「折脚鐺中煨二－－一」。
〔啜粥〕かゆをくらふ。○〔南〕「方－レ－、未レ暇二此事一」。
〔御粥〕帝王の御膳にすゝむるかゆ。○〔北〕「帝輒賜以二－－一」。
〔煮粥〕かゆをにる。○〔北〕「羆乃－－與二將士一」。
〔寒粥〕ひやゝかなるかゆ。○〔許渾〕「－－杏花香」。

【粥】イク、ヨク。余六切 屋
❶賣る、ひさぐ。○〔荀〕「瞽之－二牛馬一者不二豫賈一」。
❷前條の❷に同じ。○〔漢〕「－－－音「送」。

【粥】ビ、ミ。靡爲切 支
前々條の❶に同じ。

【粦】リン。力刃 切 震 離眞 切 眞 良忍 切 軫
血などの年經て變化し光りを放つもの、おにび、鬼火、又、螢火にもいふ、ほたるび。○〔博物志〕「戰鬪死亡之處、有二人馬血一、積レ年化爲レ－、著レ地入二草木一、如二霜露一不レ可レ見、有二觸者一著二人體一便有レ光、拂拭便散無數」。

【米多】タン、ドン。徒藍切 覃
ねばる(黏)。

【奴米】ジヨ、ニヨ。忍與 切 ヂヨ、ニヨ。碾與 切 語
籹に同じ。

【粣】サツ、サチ。桑葛切 曷
まじふ(糝)。○〔齊〕「時－々－レ之」。

【粧】シヤウ、サウ。側羊切 陽
紅粉をぬりて容貌を飾ろにいふ字、よそほふ、けしやうす、よそほひ、けしやう。○〔本事詩〕「盛－而往」。
〔新粧〕あたらしきよそほひ。○〔東京夢華錄〕「巧製二－－一」。
〔淡粧〕あッさりとして濃厚ならざるよそほひ。○〔梅妃傳〕「－－雅服、而姿態明秀」。
〔濃粧〕こまやかなるよそほひ。○〔酉陽雜俎〕「不得二－－高髻一」。
〔華粧〕うつくしきよそほひ。○〔晉子夜〕「輕袖拂二－－一」。
〔妍粧〕前に同じ。○〔鮑照〕「京洛女兒多二－－一」。

〔故粧〕もとのまゝなるよそほひ。○〔梁簡文帝〕「—-—瑠-累-貝」。〔舊粧〕前に同じ。○〔韓莊〕「宮-様改二—-—一」。

七畫

【粏】タイ、デ。杜外切 隊
こゝな（屑）。

【粯】ケン、コン。苦遠切 阮
こな（粉）。

【粧】クワン。胡官切 寒
粉餌、だんご。

【粮】リヤウ、ラウ。呂張切 陽
糧に同じ、かて。○〔張衡〕「屑二瑤-蕋一以爲レ—」。

【粡】ホ、ブ。蒲故切 遇
餔—は、あめ。

【粦】前條に同じ。

【粯】カン、ゲン。侯襉切 諫
米粉、こ。

【梅】バイ、メ。莫杯切 灰
酒本、かうぢ。

【粶】チヨク、トク。丑玉切 沃
糈—は、損へる米。

【粫】セウ。七小切 篠
こゝこな（粉）。

【粽】サン、ソン。桑感切 感

蜜漬にしたる瓜實。

【粰】フウ、フ。房鳩切 尤
おこし、（饊）、一説に、かゆ（鬻）。○〔晉〕「士-卒唯給二—-橡一」

【粰】フ。芳無切 虞
穀皮、もみ。○〔晉〕「階爲二趙-郡大-守一、時俸盡食二醬—一、上聞レ之戲曰、卿家醬頗得レ不レ滅耶」。

【粖】リウ、ル。力求切 尤
おこし（饊）。○〔博雅〕「粰、—、饊也」。

【粱】リヤウ、ラウ　呂張切 陽
㊀粟の一種にて其の粒の大いなるもの、おほあは。○〔周〕「尤宜レ—」。
㊁莠の一種。○〔爾〕「稂童—」。
〔稍粱〕あはの一種。○〔詩〕「不レ能レ藝二—-—一」。
〔白粱〕前に同じ。○〔禮、疏〕「粱謂二—-—黄-粱一也」。
〔黄粱〕前に同じ。○〔後漢〕「石-上慊々春—「—一」。
〔赤粱〕前に同じ。○〔廣志〕「遼-東—-—魏-武-帝以爲二御-粥一」。
〔青粱〕前に同じ。○〔本草〕「—-—殼-穗、有レ毛而青」。
〔粳粱〕うるしね。○〔梁〕「服除猶絕二—-—一」。

【粰】ホツ、ボチ。蒲沒切 月
こゞめ（屑-米）。

【粻】ビ、ミ。無沸切 未
かゆ、（粥-粖）。

【粲】サン。蒼案切 翰
㊀最もよく精鑿したる米、しらげよね。○〔杜甫〕「精-鑿傳二白—-—一」。
㊁鮮明、あきらか、あざやか。○〔司馬

相如〕「皓-齒—-爛」。
㊂清潔、きよし、いさぎよし。○〔荀〕「—-—然有下秉二芻-豢稻-粱一而至者上」。
㊃文采多き貌にいふ字。○〔詩〕「—-—衣-服」。
㊄優かなり。○〔爾〕「宴-々—-—」。
㊅衆し。○〔詩〕「三-英—兮」。
㊆好し、みめよし。○〔陸雲〕「—-—都-人子」。
㊇笑ふ貌にいふ字。○〔穀梁〕「皆—-然笑」。「—者二」。
㊈三人の女の稱。○〔詩〕「見二此—-—一」。
㊉よねをしらぐると。○〔梁〕「猶當レ降二等薪—一、遂頓釋二鉗-鍺一」。
〔笑粲〕わらふ。○〔孫覿〕「欣-然一—-—」。
〔灼粲〕うるはし。○〔抱朴〕「芝-華—-—」。
〔華粲〕前に同じ。○〔乾淳歲時記〕「—-—可レ觀」。

【粳】俗の秔の字、うるち。○〔庾肩吾〕「有下謝二賚—-米一啓上」。

【粻】シヨ、ソ。私呂切 語
㊀糧の米。㊁神を祠る米。

【粰】粘に同じ。

【粷】サン、ソン。思感切 感
羹糝、こなかき。

八畫

【粶】ロク。盧谷切 屋
火に爆ぜたる米、はぜごめ。

【粡】キク、コク。居六切 屋
こな、（粉）。

【棃】リ。良脂切 支

かゆ、（饘）。

【粸】キ、ギ。渠之切 支
餅の一種。

【棱】リヨウ。閭承切 蒸
烏—は稻の名。

【粫】セキ、シヤク。先的切 錫
米を汰ふ、あらふ。

【粹】スヰ。雖遂切 寘
㊀雜りなきこと。○〔呂氏春秋〕「無二—白之狐一」。
㊁專らなること。○〔荀〕「—而能容レ雜」。
㊂齊しきこと。○〔屈平〕「昔三-后之純—兮」。
㊃全きこと。○〔荀〕「—而王、駁而霸」。
㊄精しきこと。○〔文心雕龍〕「理—而辭駁」。
㊅靈氣。○〔揚雄〕「天-精天—萬-物作レ類」。
㊆碎に同じ。○〔荀〕「力少而任重舍二—-折一無レ適也」。
〔純粹〕精一にしてまじりなきこと。○〔史〕「名-實—-—」。
〔眞粹〕前に同じ。○〔晉〕「齊眞德—-—」。
〔醇粹〕前に同じ。○〔書、傳〕「則王之政-事—-—」。
〔精粹〕前に同じ。○〔漢〕「聰-明—-—」。
〔淳粹〕前に同じ。○隋「道者精-微—-—」。
〔天粹〕天よりうけたるまゝにてまじりなきこと。○〔黃庭堅〕「惟—-—之質」。
〔平粹〕たひらかにたゞしくまじりなきこと。○〔李百藥〕「誠二其—-—一」。
〔夷粹〕前に同じ。○〔世說〕「無レ得レ保二其—-—一」。
〔溫粹〕やはらかにして純精なること。○〔歐陽修〕「眞-德質—-—」。
〔和粹〕前に同じ。○〔唐〕「貝兄-弟皆—-—」。
〔淸粹〕きよらかにして純一なること。○〔魏、註〕「—-—有二雅-量一」。

(貞粹) 貞正にして純一なること。○〔梁書〕「之子以ニ純・懿一ーー、追ニ烈・祖之蹤一」。「體・德ーー」。
(沉粹) 性質なその靜深にして純一なること。○〔晉〕
(明粹) あきらかにしてたゞしくまじりなきこと。○〔宋〕「其書詞・義ーー」。
(雅粹) 正しくして純一なること。○〔輟耕錄〕「尤多ニ老・歐之ーー、老・蘇之蒼・勁、長・公之神・俊一」。
(溫粹) 純一なる德をたくはふ。○〔傅亮〕「含レ章ーレ和」。
(端粹) たゞしきこと。○〔柳宗元〕「惟公ーー沖」。
(寬粹) ゆるやかにしてたゞしきこと。○〔崔羣〕「ーー莊重」。
(神粹) 神妙にして純一なること。○〔范仲淹〕「ーー而明」。「得ニ家・法一」。
(秀粹) すぐれて正し。○〔歐陽修〕「文・章ーー」

【粺】 ハイ、ベ。旁卦切 卦
精米、しらげよれ、特に糲米一斗をしらげて九升となしたるものゝ稱。○〔詩〕「彼疏彼ー」。
(精粺) しらげたる米。○〔曹植〕「芳・菰ーー」。

【粺】 ハ、ベ。歩化切 禡
しらげよれ(毀)。

【粣】 俗の粺の字。

【粻】 チヤウ。陟良切 陽　知亮切 漾
タウ、チヤウ。除庚切 庚
㊀かて(糧)。○〔詩〕「以峙ニ其ー一」。
㊁あめ(餳)。

【粼】 リン。離珍切 眞
水の石間を流れて清く激する貌にいふ字。○〔詩〕「揚之水白・石ーー」。

【粼】 リン。良忍切 軫
隱ーーは、川の形にいふ語。

【⿰米巻】 ケン、コン。去阮切 阮
㊀こな(粉)。㊁まろむ(摶)。

【⿰米卷】 クン、コン。丘粉切 吻
粥の稠き貌にいふ字。

【粽】 ソウ、ス。作弄切 送
糉に同じ、ちまき。○〔續齊諧記〕「今人作レー、幷ニ戴楝・葉五・色絲一」。

【糁】 サン、ソン。蘇感切 感
羹に雜はれる米のこ。

【⿱尼米】 デイ、ナイ。乃計切 霽
糟の濃きもの。

【⿰米周】 シウ、シユ。職流切 尤
粰ーは、だんご(粉・餌)。

【精】 セイ、シヤウ。子盈切 庚
㊀きはめて細し、こまし、こまか。○〔莊〕「至ー無レ形、至・大不レ可レ圍」。
㊁くはし。
(い)審かなり、こまやか。○〔呂氏春秋〕「用レ志如レ此其ー」。
(ろ)こまかに義理に通じて明かなり。○〔書〕「惟ー惟一」。
㊂專らなり。○〔淮〕「心・意不レー」。
㊃熟したり。○〔禮〕「ーニ知・略一而行レ之」。
㊄巧みなり。○〔世說〕「爲レ文思ー」。
㊅銳利なり、するどし。○〔呂氏春秋〕「欲ニ其ー一也」。
㊆潔し。○〔國〕「其心ー」。
㊇美し。○〔南〕「織・蓋服・玩其ー」。
㊈妙なり。○〔呂氏春秋〕「其知彌ー」。
㊉正し、善し、好し。○〔禮經解〕「潔・靜ー・微易敎也」。
⑪すべて物事の純にして至れるにいふ字。○〔莊〕「形ー不レ虧」。「ー」。
⑫清明、あきらか。○〔漢〕「陰・霧不レ一四・時一」。
⑬光輝、ひかり。○〔呂氏春秋〕「ー行ニ四・時一」。
⑭日、月、星。○〔張衡〕「五ーー帥而來摧」。
⑮萬物生育の眞氣、もと、もとのちから。○〔易〕「男・女合レー」。
⑯靈魂、たましひ。○〔陸機〕「稟ニーー東嶽一」。「籍一」。
⑰心神、こゝろ。○〔應璩〕「潛ニー墳一」。
⑱誠意、まごころ。○〔管〕「中不レー心不レ治」。
⑲鬼神、かみ、又、物怪、ものゝけ。○〔傳異記〕「郎知ニ女・伴衆・花之ーー」。
⑳饌米、しらげよれ。○〔莊〕「鼓レ筴播レーー」。
㉑えらぶ、(擇)、しらぐ、(鑿)。○〔屈平〕「ー瓊・靡ー以爲レ粻」。
㉒玉の稱。○〔國〕「一・純二ー」。
㉓睛に通じ用ふ。○〔荀〕「用レー惑也」。
㉔鶄に通じ用ふ。○〔司馬相如〕「交・ー旋・目」。「ー」。
㉕菁に通じ用ふ。○〔宋玉〕「芙・蓉之ー」。
(厲精) 心をはげます。○〔唐〕「天子ーー政レ治」。
(三精) 日月星のこと。○〔後漢〕「ーー霧・塞」。
(專精) 專一至粹なること。○〔淮〕「陰・陽之ーー爲ニ四・時一」。
(黃精) 草の名。○〔博物志〕「太・陽之草名ニーー一」、「食レ之可ニ以長・生一」。
(至精) 極めてくはしきこと、又、極めて純粹なること。○〔易〕「非ニ天・下之ーー一」。「神」。
(養精) こゝろをやしなひたもつ。○〔漢〕「ーレー游レ」。
(頤精) 前に同じ。○〔魏〕「ーレー養レ壽」。
(竭精) こゝろをつくす。○〔漢〕「各厲レ志ーレー」。
(山精) やまのぬし。○〔抱朴〕「ーー一日レ蚑、一日ニ超・空一、一日レ揮、一日ニ飛・龍一」。
(全精) こゝろを完全に保つ。○〔關尹子〕「ーレー者忘ニ是非一、忘ニ得・失一」。
(胥精) 神心を尙ぶ。○〔莊〕「聖・人ーレー」。
(搖精) 神心を靜にせざること。○〔莊〕「無レー汝ーー」。
(雲精) きらゝの異名。○〔異物志〕「雲・母一名ニーー」。

【粿】 クワ。古火切 哿
㊀浄き米、しらげよれ。㊁いひ(米・食)。

【粿】 クワ、ゲ。戸瓦切 馬
穀の善きもの、一說に、皮のなき穀。

【⿰米昆】 コン。胡元切 元
もち、だんご(餅)。

【⿰米施】 チ。抽知切 支
ひめのり(膠)。

【⿰米向】 餉に同じ。

【⿰米备】 俗の糒の字。

【⿰米⿱彐田】 シウ、シユ。楚搜切 尤
こして取りたる粉。

九畫

【粲】 サン。倉案切 翰
明かに盛んなり、あきらか。

【糂】 サン、ソン。桑感切 感
糝に同じ。○〔荀〕「藜・羹不レー」。

【⿰米是】 シ。池爾切 紙　チ。丈尓切 紙　シ、ヂ。是義切 寘
ねばる(黏)。

【糃】タウ、ダウ。徒郎切 [陽]
志らげよね(精-米)。

【糄】ヘン。卑眠切 [先]
こめ(米)。

【糄】ヘン。方典切 [銑]
稻を燒きて取りたる米、やきごめ。

【𥻨】エイ、ヤウ。於京切 [庚]
志らげよね(精-米)。

【𥻧】ケン、コン。居言切 [元]
かゆ(粥)。

【䊜】タン、ダン。徒官切 [寒]
だんご(粉-餌)。

【𥼶】糷に同じ。

【䊡】ダン、ナン。乃感切 [感]
糝茹。

【糅】ヂウ、ニユ。女救切 [宥] ジウ、ニユ。忍九切 [有]
まじろ、まじふ(雜)。○〔史〕「同一二玉-石一兮、一-槩而相量」。
(雜糅) まじる。○〔國〕「民-神一一、不レ可二方-物一」。
(混糅) 前に同じ。○〔陶弘景〕「或三-品一一」。
(駁糅) 前に同じ。○〔梅堯臣〕「怪說多二一一一」。
(紛糅) みだれまじる。○〔謝惠連〕「雪一一而遂多」。
(叢糅) むらがりまじる。○〔潘岳〕「稀-寂一一」。

【糅】ジウ、ニユ。而由切 [尤]
くらふ(食)。

【䊗】クワウ、ワウ。胡光切 [陽]

㊀祭の米。㊁穇一は、稌の別名。

【䊪】ラツ、ラチ。郎達切 [曷]
くろごめのめし(粗-飯)。

【糲】ライ。落蓋切 [泰]
麤き米、玄米。

【䊕】カイ、ケイ。口皆切 [佳]
米の別名。

【糆】俗の麪の字。

【䊇】ヒヨク、ヒキ。符逼切 [職]
火にて肉を焙る、あぶる。○〔周、註〕「鮑-魚於二一一室中一糗二乾之一」。

【䊞】カン、ゲン。下斬切 [豏]
カン、ケン。居咸切 [咸]
ぬる(塗)。

【𥻺】シウ、シユ。即就切 [宥]
稻の實、こめ。

【䊒】エフ。弋涉切 [葉]
餅の一種。

【𥻿】カツ、ガチ。何葛切 [曷]
白き米。

【糇】コウ、グ。戸鉤切 [尤]
かて(糧)、ほしいひ(糒)。○〔詩〕「迺裹二一-糧一」。

【糈】ショ、ソ。新於切 [魚] 私呂切 [語]
神に供する精米、せんまい、志らげよれ、又、かて(糧)。○〔屈平〕「懷二椒-一一而要レ之」。
(椒糈) 香物と精米とのとにて神に供ふるもの。○〔屈平〕「懷二一-一一而要レ之」。
(糳糈) 志らげよねをのぞく。○〔袁中道〕「家-計雖レ貧未レ一レ一」。
(稌糈) もちいねの志らげたるもの。○〔山海經〕「凡四-十-四-神、皆用二一-一米一祠レ之」。

【糈】ショ、ソ。疏擧切 [語] ソ。山於切 [魚]
おこしごめ(饊)。

【糉】ソウ、ス。作弄切 [送]
粘米を蘆菰などの葉につゝみて熟したるもの、ちまき、角黍。○〔續齊諧記〕「今-世五-月五-日作レ一」。
(筒糉) ちまきのとにて一に角黍となづく、菰葉もて粘米をつゝみたるもの。○〔風土記〕「端-午進二一-一二」。
(食糉) ちまきをくらふ。○〔荊楚歲時記〕「夏-至節-日一レ一」。
(綠糉) みどりのちまき。○〔元稹〕「一-一新-菱實」。
(蜜糉) はちみつにて甘味をつけたるちまき。○〔范成大〕「一-一冰-團爲レ誰好」。
(裹糉) ちまきをつくる。○〔陸游〕「貧-家猶一レ一」。

【糊】コ、グ。戸吳切 [虞] コツ、クチ。許骨切 [月]
米、麪などを煮たるねばり粥、のり、又、のりを加ふ、のりつく。○〔宋正考父鼎銘〕「以一二余口一」。
(糢糊) 志かとりさだめずひろき貌にいふ語。○〔白居易〕「平-明山-雪白一-一」。
(漫糊) 前に同じ。○〔白居易〕「苔-壁錦一-一」。

【𥻬】リ。力至切 [寘]
志もべ、やつこ。

【粼】リン。力眞切 [眞]
碎けたる米、こごめ。

【𥻊】ラツ、ラチ。郎達切 [曷]

【䊀】シ。子雌切 [支]
碎けたる米、こごめ。

【糋】セン。子賤切 [霰]
煎りたる餌、せんべい。

【䊐】シ。審視切 [紙]
くそ(屎-尿)。

【糑】ゴウ、グ。語口切 [有]
二人並びて耕すこと。

【糑】即ち糑の字。

【𥹦】クン、ゲン。午堅切 [先]
㊀細かき米。㊁熟す。㊂研に同じ。

【䊛】ベイ、マイ。名禮切 [薺]
めづ(愛)。

【𥻓】シ、ジ。才資切 [支]
もち(稻-餌)。

【糁】サン、ソン。蘇感切 [感]
羹に米を糝へたるもの。

【𥼚】ケン、クワン。去阮切 [阮]
こごな(粉)。

十一畫

【𥻸】シウ、シユ。楚鳩切 [尤]
濾みて取れる紛。

【䊚】タイ、テ。都同切 [灰]

たんご、(粉-餌)。

【糏】セツ、セチ。先結切 屑 舂きたる米麥の破れ餘りたるもの、こごめ、つきあまり。

【糏】ソツ、ソチ。蘇骨切 月 米の粉。

【糐】フ。芳無切 虞 だんご(粉-餌)。

【𥽍】サツ、サチ。桑割切 曷 はなつ(放)。

【𥻗】ダク、ニヤク。昵格切 陌 だんご(粉-餌)。

【𥼶】デキ、ニヤク。乃歷切 錫 粉餌をにたるもの。

【䊴】カン、胡讒切 咸 ゲン。カン、古咶切 覃 コン。稻の粘らざるもの、うるち。

【䊴】ケン、コン。賢兼切 鹽 稻の名。

【糒】ヒ、ビ。平祕切 寘 ハイ、ベ。步拜切 卦 乾したる飯、ほしいひ、多く行軍などの糧となす。○〔史〕「截レ—給二貳-師一」。(糗糒) ほしいひ。○〔儲光羲〕「—-—常共飯」。(乾糒) 前に同じ。○〔唐〕「處-俊據二胡-床一、餐二—-—一不-顧」。(米糒) 前に同じ。○〔後漢〕「—-—薪-炭、悉令レ省之」。(脯糒) ほじしとほしいひと。○〔陸機〕「進二—-—一而誰嘗」。(糧糒) 兵糧。○〔唐〕「器-械—-—」。(醞糒) さけと糧食と。○〔宋〕「但求二—-—一、犒レ師而旋一」。

【𥼜】サク、シヤク。色窄切 陌 水を多くして米を炊ぎ熟したるとき其の汁を取るもの、ゆさり。○〔食經〕「作レ—法」。

【糓】俗の穀の字。

【糔】シウ、シユ。息有切 有 しる(汁)、一説に、まじふ、かく(溲)。○〔禮〕「爲二稻-粉—-—二溲之一以爲レ酏」。○

【糔】シウ、シユ。思留切 尤 サウ、ソウ。蘇老切 晧 久泔、ふるきしろみづ。

【糕】餻に同じ。○〔松漠紀聞〕「金-國重-陽有二寶-階—-—一」。

【糖】タウ、ダウ。徒郎切 陽 ㊀あめ(飴)。○〔揚雄〕「餳謂二之—-—一」。㊁甘蔗より製したる甘味のもの、沙に似たり、さたう。○〔易林〕「南-箕無レ舌、飯多二沙—-—一」。

【糗】キウ、ク。去九切 有 丘救切 宥 セウ。尺沼切 篠 熬りたる穀を擣きて粉となしたるもの、ほしいひ、いりごめ。○〔周〕「羞-籩之實—-—餌粉-餈」。(粱糗) おほあはのほしいひ。○〔左〕「進二稻-醴—-—-腶-脯-焉」。(脯糗) ほじしとほしいひと。○〔鮑照〕「恩-逾二—-—一」。(殘糗) 食ひあまりのほしいひ。○〔梁簡文帝〕「尚悲二—-—一」。

【䊳】ベン、メン。瞑見切 霰 ベイ、ミヤウ。莫定切 徑 こごめ(米-屑)。

【𥹳】糴に同じ。

【𥽬】セキ、シヤク。之亦切 陌 いさなむ(營)。

【䊁】ハウ、バウ。蒲光切 陽 きび(穄)。

【粹】サイ、セ。七碎切 隊 粉のかす。

【糈】シユ。錫兪切 虞 かて(糧-米)。

【𥽍】𥽍に同じ。

【糞】フン、ホン。方問切 問 つく(盡)。

十一畫

【糙】サウ、ソウ。七到切 號 未だ舂かざる粗米、あらごめ、くろごめ。

【糚】サウ。側霜切 陽 側亮切 漾 粧に同じ、よそほふ、よそほひ。○〔司馬相如〕「靚—-—刻-飾」。(啼糚) 顏につけたるおしろいを目のしたのみうすく拭ひてよそふ。○〔後漢〕「婦-女作二愁-眉—-—一」。

【䊍】リ。鄰知切 支 米を熬り壞る、やぶる。

【𥼲】シユク、ソク。子六切 屋 米を熬りて餌となせるもの、いりもち。

【䊩】ハン、ボン。符艱切 元 しろみづ(米-汁)。

【𥼺】タン、ダン。徒官切 寒 だんご(粉-餌)。

【䊝】セツ、セチ。私列切 屑 シツ、シチ。息七切 質 ソツ、ソチ。蘇骨切 月 ちらす(𥽍)。

【䊓】タク、チヤク。陟革切 陌 ㊀ねばる(黏) ㊁まろむ(摶) ㊂壞れたる米、こごめ。

【𥻊】リツ、リチ。劣戌切 質 くろごめ(糲-米)。

【糛】糖に同じ。

【糜】ビ、ミ。靡爲切 支 ㊀米を煮て糜爛せしめたるもの、かゆ。○〔禮〕「行二—-—粥-飯-食一」。㊁ただる、ただらす(爛)。○〔孟〕「—-—爛其民一」。㊂靡に通じ用ふ、つひゆ、つひやす。○〔禮、疏〕「財-物—-—散-凋-敝」。㊃眉に同じ。○〔漢〕「赤-—-開レ之」。(糠糜) ぬかのかゆ。○〔韓愈〕「蒸二彼—-—一」。(殘糜) くひあましのかゆ。○〔韓愈〕「棄二食—-—一」。(淳糜) かゆ。○〔陸游〕「食有二—-—一猶足レ飽」。(薄糜) 濃厚ならざるかゆ。○〔後漢〕「作二—-—一徧-班二士-衆上」。

〔豆糜〕まめがゆ。○〔唐〕「居貧厭二—・—一以自給」。
〔茗糜〕茶粥。○〔王維〕「無二個—・—一難レ禦レ暑」。
〔瓊糜〕よきしろごめのかゆ。○〔黃庭堅〕「羇人清曉獻二—・—一。「宿二。
〔諸糜〕いもがゆ。○〔蘇軾〕「芋糝—・—以飽二耆-

【米崔】サイ、ゼ。昨回切 灰
しらげよね、（精-米）。

【米两】ベン、バン。模元切　ボン、モン。莫奔切 元
㊀粥凝、かたかゆ。㊁粉滓、こかす。

【米責】サク、ジャク。士格切 陌
白き米。

【糝】サン、ソン。桑感切 感　ソン。蘇含切 覃　シン、ソン。桑錦切 寢
㊀米を羹に和したるもの、即ち、米と獸肉とを合はせて餌となして煎たるもの、こながき。○〔周〕「羞-豆之實、酏-食—-食」。
㊁ねばる、（黏）。○〔莊〕「孔-子窮二于陳、蔡之閒一、七-日不二火-食一藜-羹不レ—」。
㊂まじふ、まじろ、（雜）。○〔周、疏〕「—-侯者、—雜也、豹鵠而麋飾レ下」。

【糞】フン、ホン。方問切 問
㊀けがれ、（穢）。○〔左〕「是—-土也」。
㊁腹中より下泄する穢物、即ち、消化したる食物の滓、くそ。○〔傳燈錄〕「向二佛頭-上一放レ—」。
㊂培ひ治む、つちかふ、おほふ。○〔禮〕「可三以—二田-疇一」。
㊃はらふ、（掃-除）。○〔荀〕「堂-上不レ—則郊-草不レ瞻二曠-芸一」。
〔掃糞〕けがれを除き去ること、又、はらふ。○〔五〕「—二馬-—一得二—・豳-炙一」。
〔除糞〕前に同じ。○〔吳越春秋〕「妻給レ水—レ—」。
〔馬糞〕うまのくそ。○〔唐〕「賣二苑-中—・—一」。
〔溉糞〕田圃に水をそゝぎてつちかふ。○〔漢〕「且—且—」。
〔遺糞〕くそをたる。○〔晉〕「馬有二—・—一、輒以レ水灌レ之」。
〔拾糞〕くそをひろひとる。○〔五〕「—二馬-—一以相養-活」。

【艹糞】フン、ホン。府文切 文
掃棄す、はらひすつ。○〔韓愈〕「—二除天-下山-川一」。

【既米】キ、ケ。許既切 未
客に芻米を饋ること。

【糟】サウ、ソウ。作曹切 豪
㊀滓を漉さゞる酒、もろみざけ、にごりざけ。○〔周〕「共下后之致二飲于賓-客一之禮、醫、酏、—上」。
㊁かす。
（い）酒を漉して殘留せる滓、もろみ。○〔楚辭〕「何不下餔二其—一而啜中其釃上」。
（ろ）滋味を去りたる殘物。○〔莊〕「古-人之—魄」。
〔壓糟〕人をみなごろしにす、又一說に、不潔なるにもいふ。○〔漢、註〕「世-俗謂下盡死二殺人一爲中—・—上」。
〔丘糟〕さけのかすをこやまの如くにつむ。○〔張蘊古〕「—二其—一而池二其酒一」。

【糟】サウ、ソウ。祖到切 號
前條の㊁に同じ。

【糠】カウ。苦岡切 陽
㊀米穀の薄皮、ぬか、もみぬか、あらぬか。○〔莊〕「播レ—眯レ目」。
㊁煩碎のもの、こまかくくだけたるもの、こな。○〔莊〕「塵-垢粃—」。
㊂樂を好み政に怠ること。○〔漢〕「中-山—-王」。
㊃星の名。○〔石氏〕「箕前亦名二—-星一、大明歲豐、小微天-下饑-荒無レ米」。
〔糟糠〕酒のかすとあらぬかと。○〔史〕「—・—不レ厭」。
〔食糠〕あらぬかをくらふ。○〔晉〕「戎令レ—レ—而肥愈甚」。
〔簸糠〕あらぬかをあふり去る。○〔詩、傳〕「或—レ—者」。

【糅】フウ、ブ。房鳩切 尤
もみ、（粇）。

【米曼】バン、マン。謨官切 寒
㊀飯澤、めしのつや。㊁—-頭は、もち、（餌）。

【米犁】リ。呂支切 支
簪の名。○〔黃香〕「操二巨—之礅-簪一」。

【殺米】サツ、サチ。桑割切 曷
糳に同じ、ちらす、はなつ。

【米竟】キヤウ、ガウ。其亮切 漾
漿—は、こんず。

十二畫

【米麤】ソ、ス。倉胡切 虞
米の精げざるもの、くろごめ。

【糤】サン。蘇旱切 旱
熬り稻の糧、かて。

【米幾】キ、ゲ。渠希切 微
小しく食らふ、くらふ。

【米黃】クヮウ、ワウ。胡光切 陽
—-塵は、かうちのはな。

【米焦】穛に同じ。

【米覃】タン、ドン。徒感切 感　徒含切 覃
雜れる糜、かゆ。

【米覃】タン、ドン。徒紺切 勘
おり、（滓）、一說に、ゆるき糜、かゆ。

【米肅】セウ。先弔切 嘯
かゆ、（糜）。

【毳米】ゼイ、ゼ。充芮切 霽
穀を再び舂く、しらぐ。

【糯】俗の糯の字。

【米壹】エツ、エチ。烏結切 屑
糉の屬、ちまき。○〔齊民要術〕「—用二秫-稻米末一、絹羅二水-蜜一溲レ之、長尺餘、廣二寸、餘以二棗-栗肉一上-下著レ之、油塗用二竹-箬一裹、爛-蒸」。

【米菐】ホク、ボク。普卜切 屋
米—は、くろごめ。

【糦】シ。昌志切 寘　キ。虛其切 支
㊀酒食、さけさかな。○〔詩〕「吉-蠲爲レ—」。
㊁黍稷、きび。○〔詩〕「大—是承」。
㊂熟す。○〔揚雄〕「—熟也、自レ河以-北趙、魏之閒火-熟曰レ爛氣-熟曰レ—」。

【糧】リヤウ、ラウ。呂張切 陽

㊀行くに齎す穀食、かて、古昔は、おもにほしひを用ひたり。○[莊]「適二百-里一者宿舂レ—、適二千-里一者三-月聚レ—」。㊁一種の藥、かうぼふむぎ。○[神異經]「禹-餘—、世傳禹治レ水棄二其所レ餘—于江-中一生爲二藥-草一也」。
(糗糧) かて。○[柳宗元]「—·—芻-藁」。
(餱糧) 前に同じ。○[詩]「廼裹二—·—一」。
(乞糧) かての給與を請ふ。○[左]「吳申叔儀、—二—於公·孫有-山-氏一」。
(齎糧) かてをもちゆく。○[史]「吾聞下鄭莊行二千-里一、不上レ—レ—」。
(聚糧) かてをよせあつむること。○[劉子翬]「求レ飽當レ—レ—」。○[一]。
(資糧) 資用の糧食のこと。○[史]「悉收二將寶之—·—一」。
(治糧) 道を行く時のかてをとゝのふ。○[周]「則—二其—一與二其食一」。「—レ—」。
(就糧) かてある處によりつく。○[後漢]「北道—·—」。
(斗糧) 一斗のかて。○[戰]「不レ費二—·—一」。
(後糧) 軍隊のあとへにあるかて。○[史]「絕二其—·—于梁-地一」。
(乏糧) かての足らざること。○[史]「吳兵—レ—」。
(見糧) 現にあるかて。○[史]「軍無二—·—一」。
(轉糧) かてをはこびうつす。○[史]「老弱—二—千-里之外一」。
(衣糧) きものとかてと。○[晉]「藥-物—·—、與レ衆共レ之」。
(食糧) かて、又、かてをくらふ。○[漢]「不レ可下以二大-船一載二—·—一下上也」。「以—ヲ—」。
(充糧) かてにあて用ふること。○[漢、註]「其根可二食—一」。
(穀糧) たなつものゝかて。○[後漢]「收二其—·—畜-産一而還」。
(酒糧) さけとかてと。○[後漢]「間以二—·—一」。
(積糧) かてをつみ貯ふ。○[後漢]「—二—漢-中一」。
(貯糧) 前に同じ。○[吳地記]「越-王—レ—處」。
(懷糧) かてをもち行く。○[後漢]「—レ—步走」。
(負糧) 前に同じ。○[梁武帝]「—レ—景從」。
(運糧) かてをはこぶ。○[杜甫]「—二—繩-橋一壯-士喜」。「—」。
(匱糧) かてをつかひつくす。○[宋]「至二酣-門一—レ」。
(粳糧) うるしねのかて。○[陶潛]「但願飽二—·—一」。

【䊧】 ヒ。匹寐切 [未] ㊀下漏する氣、へ、又、へを失す、へひる。○[山海經]「東-始之山泚-水出焉、其中多二泚-魚一—首而十-身、食レ之不レ—」。㊁一種の獸。○[大康記]「秦文-公時陳-倉人獵得レ獸若レ彘而俱不レ知二其名一、道逢二一-童-子一曰此名—、勿-泚」。

【糨】 キヤウ、ガウ。其亮切 [漾] 糡に同じ。

【䊼】 チ。丑知切 [支] 黐に同じ、とりもち、もち。

【䊩】 ヘン、ハン。扶翻切 [元] ひろ、(百-合-蒜)。

【䊤】 タン、ドン。徒藍切 [覃] ればろ、(黏)。

【䊨】 ラ。力戈切 [歌] 穀を積む、つむ。

【糒】 粃に同じ、悪しき米。

十三畫

【釋】 セキ、シヤク。施隻切 エキ、夷益切 [陌] 米を漬す、ひたす。

【𥼾】 セン。諸延切 [先] かゆ、(糜)。

【糩】 稽に同じ。

【糪】 ハク、ヒヤク。博厄切 [陌] 飯の未熟の米あるもの、なまごめ。○[爾疏]「飯-中有二腥-米一者謂二之—一」。○

【糪】 ハツ、ハチ。普八切 [黠] 餅の半熟せるもの。

【糲】 ライ。落蓋切 [泰] ラツ、郎達切 [曷] 糲に同じ。

【䊂】 サイ、セ。七罪切 [賄] 稲の赤き米、あかごめ。

【糫】 クワン、ゲン。戸關切 [刪] 膏—は、おこし、(粔-籹)、又、もち、(餌)。

【䉶】 レイ、リヤウ。郎丁切 [青] 米の餌。

【糗】 糗に同じ。

【粢】 シ。精雌切 [支] だんご、(粉餌)。

【𥽞】 フ。芳無切 [虞] だんご、(粉餌)。

【𥻲】 セウ。相叫切 [嘯] 酒を飲み盡くす、つくす

【𥽁】 タ、テ。丑寡切 [馬] 食らふべき穀の名、一說に、からあふひ、(戎-葵)。

十四畫

【𥽉】 タウ、ドウ。徒到切 [號] ㊀ればろ、(黏)。㊁おほふ、(覆)。

【𥽉】 チウ、ヂユ。陳留切 [尤] 厚き粥、かたきかゆ。

【𥼽】 カン、ゲン。胡甿切 [銑] かゆ、(饘)。

【糮】 糜の本字。

【䊮】 テウ。他弔切 [嘯] テキ、ヂヤク。徒歷切 [錫] 穀。

【糯】 ダ、奴臥切 [箇] ダン、奴亂切 [翰] ナ。切 ナン。切 稲米の黏るもの、もちごめ。○[雞林類事]「五-穀皆有レ之、粟最大無二秫一—以二粳-米一爲レ酒」。
(香糯) さけ。○[文同]「對レ此酌二—·—一」。
(新糯) ことしとりいれたるもちごめ。○[蘇轍]「家-釀熟二—·—一」。

【糰】 タン、ダン。徒官切 [寒] だんご、(粉-餌)。○[武林舊事]「元-夕前-食所レ尚宜二利-少·澄沙—子一」。

十五畫

【䊍】 レキ、リヤク。狼擊切 [錫] 雜糅したる食、かてめし、ごもくめし。

【糵】 ゲツ、ゲチ。魚列切 [屑] 麴—は、かうぢ、もやし。

【䊯】 クワウ、キヤウ。古猛切 [敬] 穀の芒、のぎ。

【糲】 レイ。力制切 [霽] ライ。落蓋切 [泰]

䊪 ラツ、力達切 曷
ラチ。

㊀あらし（䴴）。○〔史〕「用爲二夫‐人䴴‐之費一」。

㊁精げざる米、くろごめ、玄米。○〔史〕「䊪‐粱之食」。

【䊪】バツ、マチ。莫撥切 曷

むぎこ（麪）。

【糵】ベツ、メチ。彌列切 屑

かゆ（粥）。

【䊆】キウ、ク。許九切 有

乾飯の屑。

【䉶】レイ、リヤウ。郎丁切 青

米の餌。

十六畫

【糦】カク。黑各切 藥

いりたる黍、いりきび。

【糵】俗の䕪の字。

【糴】テキ、ヂヤク。徒歷切 錫

㊀穀を買ふを、かひよれ。○〔左〕「臧‐孫‐辰告二—于齊一」。「薪‐稾千‐車」。

㊁かひよれの穀。○〔漢〕「穀—千‐鍾」。

㊂灕に同じ。○〔揚雄〕「—米肥‐腯」。

〔糴糴〕疾き貌にいふ語。○〔潘岳〕「擲——以脺激」。

〔販糴〕米を買ひ入る。○〔史〕「千里不二——一」。

〔歸糴〕米をおくる。○〔國〕「——于晉一」。

〔仰糴〕米を賣買す。○〔後漢〕「——糧食一」。

〔市糴〕前に同じ。○〔南〕「——不レ通」。

〔常糴〕常にましして多く米をかひいる。○〔宋〕「仍令二——廣‐蓄一」。

〔抑糴〕政府の威により民をおさへて米を買ひあぐ。○〔宋〕「元‐符以‐後、有二低レ價——之弊一」。

〔晉糴〕相場よりたかく米を買ひいる。○〔越絕書〕「——粟‐稾一」。

【糶】タウ、徒刀切 豪　チヤク、直略切 藥
ドウ。　ヂヤク。

【䊭】チヨ、ド。陟如切 魚

姓。○〔左〕「晉‐侯使二—茷如一レ楚」。

かて（糧）。

【䊵】キク、コク。丘六切 屋

酒の母、かうぢ。

十七畫

【穰】ヂヤウ、ニヤウ。女亮切 漾

まじる、又、まじふ（糅‐雜）。

【糷】糷に同じ。

【䊚】セン、ソン。思廉切 鹽

だんご（粉‐餌）。

【糵】ゲツ、ゲチ。魚列切 屑

かうぢ、もやし（麴）。○〔書〕「惟麴——」。

〔麴糵〕かうぢ、又、酒のことにもいふ。○〔禮〕「——必時」。「—金‐帛綿‐絮一」。

〔秫糵〕かうぢのこと。○〔漢〕「故詔レ吏遺‐單‐于——」。

〔良糵〕よきかうぢ。○〔王褒〕「——爭二清‐醇一」。

十八畫

【䊯】シフ。側立切 緝

新き穀の汁に舊き穀を漬けたる汁。

【䊮】バン。卜管切 旱

屑米の餅、だんご。

十九畫

【䊶】カク、ギヤク。下革切 陌

穀の糠の破れざるもの、すくも、もみぬか。

【糜】ビ、ミ。靡爲切 支

米の糠を碎き去る、くだく、しらぐ。

【糶】テウ。他弔切 嘯

㊀穀を賣り出だすを、うりよれ。○〔史〕「—二十病レ農九‐十病レ末」。

㊁うりよれの穀。○〔論衡〕「穀—在レ市、一‐貴一‐賤」。「齊レ物」。

〔不糶〕たやしき價にて米を賣り出す。○〔史〕「—レ—「米一」。○

〔儉糶〕年のゆたかならざる時に米を賣り出す。○〔晉〕「—則—」。

〔貴糶〕價たかく米をうり出す。○〔北〕「更—二—其

〔勸糶〕米を賣りだすことをすゝむ。○〔宋〕「—レ—以賑レ民」。

〔販糶〕米を賣りたす。○〔宋〕「誘レ入入レ京——」。

【䊽】ハク、ヒヤク。匹麥切 陌

糵に同じ、なまごめ。

【䊴】レン、ラン。龍卷切 霰

㊀いりごめ（餌‐熬）。㊁ねばる（黏）。

【䊻】ケン。丘殮切 豔

粉——は、こゝこな。

【䉽】サウ、ソウ。七到切 號

米穀の雜れるを、又、まじる、まじふ。

二十畫

【䊲】サン、セン。所鬬切 潸

粟を礱するを、もみひき。

【䊲】ハン。孚萬切　サン。芻萬切 願

小しく舂く、つく。

廿一畫

【糷】ラン。郎肝切 翰　郎干切 寒　ガン。魚旱切 旱

飯のゆるく爛れて相著くもの。○〔爾〕「摶者謂二之——」。

【糳】サク。則落切 藥　ソク、ゾク。租毒切 屋

㊀細精の米、しらげごめ。○〔九章算法〕「粟五‐十爲二糲三‐十、粺二‐十‐七、—二‐十‐四、御二‐十‐一一、皆三之一也」。

㊁舂きて精細のものとなす、しらぐ。○〔屈平〕「—二—中‐椒一以爲レ糧」。

糸部

【糸】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫

㊀細絲、ほそいと。㊁微幺、こまか、ほそし。

【糸】絲の省字。

一畫

【糺】キウ、ク。吉酉切 有

糾に同じ。○〔後漢〕「援レ旗—レ族」。

【系】ケイ、ガイ。胡計切 霽

㊀つなぐ、つながる（繫）。○〔漢〕「—二高‐頊之玄‐胄一」。

㊁つぐ（繼）。○〔張衡〕「雖三—以二隤レ牆「塡一レ塹」。

㊂いとぐち(緒)。○[班固]「繼レ天而作レ—」。

㊃血統たれ、ちつゞき。○[左註]「本-—枝-派」。

㊄聯屬、つゞき。○[左思]「本二前-修一以作レ—」。「—」。

㊅細縷、いとすぢ。○[唐]「不レ斷若レ—」。

[世系] 世々の血すぢ。○[唐]「— —聯-遠」。

[譜系] 系圖。○[周必大]「譜通二— —一」。

[帝系] 帝王の血すぢ。○[庾信]「— —極二於輿-圖一」。「同二— —一」。

[根系] もとの血すぢ。○[晉]「舜後姚虞陳田本—」。

[先系] 前代の血すぢ。○[唐]「智光少賤、失二其— —一」。「光明二— —一」。

[姓系] 姓氏系統、卽ち系圖のこと。○[唐]「敬-淳」

[如系] 物の將に絕えなんとしてからくもつゞきあるにいふ語。○[唐]「歷二秦-秦一不レ斷—レ—」。

[紹系] 絲くちをつなぎあはす。○[鹽鐵論]「中-者「—」。

[別系] いとくちを異別にす。○[晉書]「殊レ—」。

[發系] いとくちをひらき起こす。○[王僧孺]「自レ姬—レ—」。

二畫

【⿰糸九】 絿に同じ。

【⿰糸丁】 タウ、チヤウ。張梗切 梗

絲繩などのしまりて直き貌にいふ字。

【⿰糸丁】 タウ、チヤウ。張庚切 庚

ひく(引)。

【糾】 キウ、ク。居黝切 有

㊀まとひ合はす、まとひ合ふ、あざなふ、あざなはる、なふ、よぢる、よる。○[史]「何異二—纆一」。

㊁まつはる、まとふ(繚)、むすぼる、むすぶ(結)。○[詩]「— —葛屨」。

㊂合はす。○[後漢]「收レ離—レ散」。

㊃收む。○[後漢]「—レ人完レ聚」。

㊄もとろ、もとらす(戾)。○[何遜]「洑-流自洄-—」、

㊅しらぶ(察)、たゞす(督)。○[周]「以—二萬-民一」。

[繩糾] 嚴急にたゞし取りしまる。○[唐]「—二—吏-治所レ至聳-畏」。

[紛糾] 物事もつれまつはる。○[漢]「文-書— —」。

[裁糾] 決斷し合はす。○[唐]「每以レ義—二—之一」。

[繆糾] なやみもつる。○[淮]「偃-蹇— —、曲二-成文-章一」。

[蟠糾] わたかまりもつる。○[參同契]「玄-武龜-蛇、— —相扶」。

[繚糾] まつはりもつる。○[王褒]「躑-躅— —、羅-鱗捷-獵」。

[競糾] 爭ひもつる。○[王勃]「千-株— —」。

[結糾] むすびまつはる。○[韓愈]「逶-陁— —」。

【紏】 シュツ、シュチ。之聿切 質

ひとつ(一)

【糺】 糾に同じ。

【⿰糸了】 テウ。烏了切 篠

倒懸す、さかしまにかく。

三畫

【紀】 キ。居理切 紙

㊀をさむ(理)。○[詩]「綱二—四-方一」。

㊁通ず。○[淮]「經二—山川一」。

㊂すぢ(經)。○[禮註]「大曰レ綱、小曰レ—」。

㊃くち(緒)。○[呂氏春秋]「萬-事之—」。

㊄のり(法)。○[國]「四-時以爲レ—」。

㊅みち(道)。○[呂氏春秋]「無二亂-人之—一」。

㊆かなめ(要)。○[禮]「中-和之—」。

㊇もとゐ(基)。○[詩]「有レ—有レ堂」。

㊈かず、ほど(數)。○[禮]「毋レ失二經-—一」。

㊉こと(事)。○[書]「五-—」。

⑪あひめ(會)。○[禮]「月窮二于—一」。

⑫きまり(極)。○[國]「數之—也」。

⑬十二年。○[書]「既歷二三—一」。

⑭とし(歲)。○[晉]「以爲二年—一」。

⑮しるす(識)。○[張衡]「咸用—レ宗存レ主」。

⑯記錄。○[揚雄]「稽二於之秦—一」。

[人紀] 人の人たる所以の理。○[書]「先-王肇-修— —一」。

[三紀] 三十六年のこと。○[南]「踰二-歷— —一」。

[天紀] 天理の自然に運行する綱紀。○[儲光羲]「— —啓二-貞-命一」。

[國紀] 國家の秩序を紊らざらんがためののり。○[國]「夫禮—之—也」。

[女紀] 西北の地をいふ。○[淮]「日至二于— —一、是謂二大遷一」。

[亂紀] いとくちをみだす。○[陸機]「朱-絲—レ—」。「羅-袿失レ領」。

[律紀] おきて、のり。○[蘇軾]「老-將練二兵精—二— —一」。

[民紀] 人の守るべきのり。○[顏延之]「旁緝二— —一」。

[六紀] (い)諸父兄弟族人諸舅師長朋友のこと。○[易林]「五-經— —、仁-義所レ存」。(ろ)百六十五萬六千年のこと。○[禮、疏]「遂-皇之後、歷二— —一」。「五-帝— —讚」。

[本紀] 帝王の歷史を紀したるものゝ名。○[史]

[譜紀] 系圖事跡のこと。○[史]「— —不レ明、有-司靡レ踵」。

[大紀] おほいなるのり。○[漢]「歷者天-地之—」。「—也」。

[畢紀] みな書きしるす。○[唐]「通二-譯于鴻-臚—者、莫レ不二— —一」。

[官紀] 官府の規律。○[唐]「— —蕩-然」。

[邦紀] 國家を綱理する所以ののり。○[宋]「薛-々英-皇、總二-提— —一」。

[倫紀] 人の人たる所以ののり。○[元]「下以敘二— —之常一」。

[循紀] のりにしたがひよる。○[法書要錄]「方正— —、修-短合レ度」。「— —」。

[前紀] 先代の事柄。○[謝靈運]「國-史以載二— —一」。

[踰紀] 年を過ごす。○[周墀]「歲-月忽—レ—」。

[來紀] 來ん年月。○[曹昆]「— —奄復仍」。

[逾紀] はるかに隔たりたる年。○[鮑照]「伏-聞— —」。

[違紀] 前に同じ。○[江淹]「惡二彼— —一」。

[治紀] のりをさめてみだれざるやうにす。○[韓]「— —以知二尊-卑之端一」。

【紗】 サ、セ。初訝切 禡

衣襴、はだばかま。

【紇】 ケツ、ケチ。吉列切 屑

いとたば(絲束)。

【紆】 カン。古旱切 旱

衣を摩り展ぶ、のばす。

【紲】 紖に同じ。

【紂】 チウ、ヂユ。丈九切 有

しりがひ(緧)。○[揚雄]「鍬車紂自レ關而西謂二之—一」。

【紨】 緇に同じ。○[禮]「爵弁經——衣」。

【紃】 純に同じ。

【紃】 シュン、ジュン。詳倫切 眞 セン。昌緣切 先

㊀縧の如くにまろく組みたる條、まろうちのひも。○[禮]「—以二五-采一」。

㊁循に同じ、したがふ。○[及]「—二察之一則倜-然無レ所二歸-宿一」。

㊂のり(法)。○[淮]「以レ道爲レ—」。

[組紃] うちひも。○[禮]「治二絲-繭一織レ紝—レ—」。

[縧紃] あらきうちひも。○[晉]「縧-布之衣、— —レ履」。

【約】ヤク、アク。於略切 [藥]

一 むすぶ。
(い)纏束す、たばぬ、くゝる、つかぬ。○〔詩〕「—レ之閣閣」。
(ろ)要盟す、ちかふ。○〔呂氏春秋〕「相與—」。
(は)結合す、あはす。○〔戰〕「今君—二天下之兵一」。
二 とゞむ、(止)。○〔戰〕「蘇代—二燕王一」。
三 かゞむ、(屈)。○〔楚辭〕「土伯九—」。
四 くるしむ、(窮)。○〔禮〕「小人貧斯—」。
五 つゞまやか。
(い)はぶくこと、省略。○〔論〕「以レ—失レ之者鮮矣」。
(ろ)要會、しめくゝり。○〔孟〕「孟施舍守—也」。
六 つゞまやかにす、はぶく、しめくゝる、つゞむ。○〔禮〕「君子—レ言」。
七 つゞまやか、さなる、へる、しまる、つづまる。○〔荀〕「—而不レ速」。
八 要盟、ちかひ。○〔史〕「已而倍レ—」。
九 證券、あかし、わりふ。○〔周〕「萬民之有二—劑一者」。
十 弱き貌にも美しき貌にもいふ字。○〔莊〕「淖—若二處子一」。
十一 大略、おほむね、ほゞ。○〔抱朴〕「家道—易」。
十二 なは、(繩)。○〔左〕「人尋レ—」。

〔儉約〕節限ありてつゞまやかなること。○〔漢〕「殫躬率以二——一」。
〔司約〕言語の約束を管掌す、即ち、周時代の官の名。○〔周〕「——掌二邦國及萬民之約劑一」。
〔處約〕困窮なる地位に居る。○〔論〕「不仁者不レ可二以久—一」。
〔居約〕前に同じ。○〔史〕「始—レ—時、相然信以レ死」。
〔守約〕己れの執りまもるところの要まりあり。○〔孟〕「——而施博者善道也」。
〔倍約〕盟誓に背反す。○〔史〕「已而—レ—與二趙、魏一合從」。
〔困約〕困難して車足らはぬ勝ちなること。○〔史〕「亡居レ外十九年、至二——一」。
〔隱約〕(い)あらはれずして困窮す。○〔後漢〕「勤處二——一」。
(ろ)ほのかと取り定めて見えざること。○〔蘇軾〕「——見二津涘一」。
〔陰約〕内密に誓約をなす。○〔韓〕「知伯——二韓魏一」。
〔卽約〕儉約なる方に避け就く。○〔中鑒〕「華レ奢—レ—」。
〔萎約〕萎つ。○〔宋玉〕「余——而悲愁」。
〔輕約〕重からず周密ならざること。○〔韓愈〕「其待レ人也—以—」。
〔納約〕約束を取り結ぶ。○〔易〕「—レ—自レ牖、終无レ咎」。
〔要約〕約束のこと。○〔唐〕「移レ書與二老人一示二——一」。
〔棄約〕約束したる事柄を放擲す。○〔詩、疏〕「歎二其—レ—不一レ與二我相親信一」。
〔期約〕限り定めたる約束。○〔詩、疏〕「男子之初、與二婦人一有二——一矣」。
〔信約〕約束の證據となす。○〔王逸〕「哀二惜懷王與レ己——而復背一レ之也」。
〔纏約〕まとひ束ぬ。○〔詩、疏〕「以レ朱——二其緘之輒一」。
〔寡約〕質素にして飾りを爲さゞること。○〔禮〕「以二——一入」。
〔盟約〕ちかひを爲す。○〔史〕「天下負レ之、以二不義之名一、以下其背二——一而殺中義帝上也」。
〔貧約〕貧しく困難す。○〔晉〕「廉潔儉素、居甚——」。
〔畔約〕約束に背反す。○〔史〕「已而—レ—」。
〔負約〕前に同じ。○〔史〕「又惡レ——」。
〔違約〕前に同じ。○〔史〕「—レ—王レ漢」。
〔軍約〕軍隊の約束。○〔史〕「申二明——一、賞罰必信」。
〔通約〕互に約束をなすこと。○〔史〕「呉、晉始—レ—伐レ楚」。
〔私約〕自己の便宜により約束すること。○〔史〕「——而去」。
〔絕約〕一たび約束したる事柄を拒絕す。○〔史〕「閉レ關—レ—」。
〔婞約〕容止の美しきこと。○〔史〕「靚莊刻飾、便嬛——」。
〔從約〕支那戰國の末韓魏趙齊燕楚六國、合從して秦に抗衡せんとの約束をなしゝこと。○〔史〕「王于レ是乃倍二——一、而因レ儀請レ成二于秦一」。
〔簡約〕簡略にしてしめくゝりのあること。○〔唐〕「政——輕二徭賦一」。
〔節約〕儉約にして妄に修飾を爲さゞること、○〔後漢〕「性——常服二布被疏食瓦器一」。
〔履約〕(い)約束したる事柄を踐みて其の通りに行ふ。○〔後漢〕「清明—レ—率レ禮無レ違」。
(ろ)儉約の旨趣を踐み行ふ。○〔班固〕「居レ儉—レ—」。
〔誓約〕盟約をなす。○〔蜀〕「共相——」。
〔締約〕約束を取りむすぶ。○〔唐〕「——益好」。
〔檢約〕檢束して放縱ならしめず。○〔唐〕「自——」。
〔條約〕約束したる條項。○〔唐〕「數改二——一、衆不レ悅」。

【約】エウ。一笑切 [篠]
要に同じ、かなめ、くゝり。○〔漢〕「明德之鄕、治本—」。

【約】アウ、エウ。於敎切 [效]
かゞむ、(屈)。

【約】アク、オク。乙角切 [覺]
つかぬ、(束)。

【約】ケキ、キヤク。吉歷切 [錫]
まとふ、(纏)。

【約】
的に同じ。○〔枚乘〕「九寡之珥以爲レ—」。

【紅】コウ、グ。胡公切 [東]

一 くれなゐ。
(い)白を帶びたる赤色、あざやかなる赤色。○〔論〕「—紫不三以爲二褻服一」。
(ろ)一種の草、べにを製すべし、べにぐさ。○〔爾〕「—蘢古」。
二 くれなゐなる一種の染料、顏色をけしやうするに用ふるもの、べに。○〔鑑銘〕「當レ眉寫レ翠、對レ臉傳レ—」。
三 くれなゐなる花。○〔李賀〕「嚵—殘蓴嗜參差」。
四 功に通じ用ふ。○〔史〕「服二大—一者十五日」。
五 工に通じ用ふ。○〔漢〕「—女下レ機」。

〔陳紅〕米などの古びて赤くあること。○〔蘇軾〕「不レ妨持レ節散二——一」。
〔雄紅〕牡丹の一名。○〔花譜〕「牡丹一名——」。
〔刺紅〕薔薇の一名、ばら。○〔花譜〕「薔薇一名——」。
〔裁紅〕くれなゐの花をきりきざむ。○〔梁簡文帝〕「——點翠愁二人心一」。
〔吐紅〕くれなゐの色をあらはし出だす。○〔弘執恭〕「浚レ波獨—レ—」。
〔深紅〕極めて濃きくれなゐの色。○〔杜甫〕「可レ愛——開二淺紅一」。
〔淺紅〕極めてうすきくれなゐの色。○〔方物罘記〕「——者爲二醉太平一」。
〔殷紅〕赤くあること。○〔元稹〕「——稠疊花」。
〔女紅〕婦女子の爲す仕事。○〔漢〕「錦繡纂組害二——一者也」。
〔眞紅〕しんくの色、即ち、まツかなること。○〔漢武內傳〕「有二大——芝草一」。
〔稍紅〕少しく赤みを帶ぶること。○〔方物罘記〕「明日——」。
〔丹紅〕赤きこと。○〔梁簡文帝〕「刻桷映二——一」。
〔藏紅〕くれなゐの色をかくす。○〔唐太宗〕「嫩花薄—レ—」。
〔艷紅〕あかくあること。○〔宋之問〕「夕陽芳——」。
〔閃紅〕赤き色をひらめかす。○〔孟郊〕「——驚二蚴虬一」。
〔凝紅〕赤き色をこらす。○〔李賀〕「芙蓉—レ—得二秋色一」。
〔含紅〕赤き色をふくみもつ。○〔朱超〕「菁レ紫復—レ—」。
〔羞紅〕はづかしく思ひて顏にくれなゐの色をなす。○〔范成大〕「斷腸聲裏香二——一」。
〔老紅〕ふるぼけたる赤き色。○〔鄭損〕「危叢棲二——一」。

【紅】カウ、コウ。古巷切 [絳]
絳に同じ。○〔漢〕「孝平二十二人有二—侯一」。

【紆】ウ。憶俱切 ク。匈于切 [虞]

㊁まがろ、かゞまろ（屈）、めぐろ、まつはろ（縈）。○〔史〕「寃‐結‐—‐—‐軫兮」。㊂なは（繩‐索）。「—‐—」。

〔盤紆〕わだかまりまつはる。○〔應瑒〕「心惀‐結而—‐—」。

〔縈紆〕まつはる。○〔史通〕「列‐行—‐—以相屬」。

〔永紆〕久しきが間まとふ。○〔梁〕「竝ニ誓河‐岳一、—‐—青‐紫一」。

〔煩紆〕わづらはしくまつはる。○〔李白〕「寸‐心増ニ—‐—一」。

〔鬱紆〕はればれせずまつはると。○〔曹植〕「—‐—將ニ何念一」。

〔回紆〕めぐりまがる。○〔沈約〕「綠‐浦復—‐—」。

〔環紆〕めぐりまとふ。○〔王勸〕「複‐嶂—‐—」。

〔摧紆〕くじけまとふ。○〔柳宗元〕「此心未レ慊、祇益—‐—」。「視ニ庭‐除一」。

〔重紆〕かさねまとふ。○〔王安石〕「—‐—ニ衡‐蓋一、周陽—‐—は、山の名。

【紆】　オウ、ウ。烏侯切 [尤]

【紇】　コツ、ゴチ。下沒切 [月]

㊀糸下ろ。㊁人の姓、又、名。

㊂つかぬ（束）。

【紇】　ケツ、ケチ。恨竭切 [屑]

㊀前條に同じ。㊁ふときいと（大‐絲）。㊂みろ（觀）。㊃きびし（急）。

【紈】　クワン、グワン。胡官切 [寒]

㊀ねりたろ白ききぬの光澤あるもの、ねろぎぬ。○〔古詩〕「被ニ服—與一レ素」。㊁むすぶ（結）。

〔綺紈〕あやあるかとり絹と白きかとりぎぬと。○〔後漢〕「錦‐繡—‐—」。

〔羅紈〕うすきかとりぎぬ。○〔鹽鐵論〕「夫—‐—文‐繡者、人‐君后‐妃之服也」。

〔輕紈〕かろくねつらへたるかとり絹。○〔蕭子顯〕「—‐—雜ニ重‐錦一」。

〔薄紈〕うすくねつらへたるかとりぎぬ。○〔漢〕「白‐穀之表、—‐—之裏」。

〔紨紈〕前に同じ。○〔藉田賦〕「—‐—綷‐縩」。

〔黃紈〕黃なる色に染めなしたるかとり絹。○〔漢〕「延‐壽衣ニ—‐—方‐領一。「俗一。

〔繒紈〕かとり絹。○〔宋〕「錦‐組—‐—、見レ珍ニ殊‐俗一」。

〔衣紈〕かとり絹の服を身に著く。○〔鹽鐵論〕「婢‐妾—レ—履レ絲」。

〔綈紈〕あつくねつらへたるかとりぎぬ。○〔洞冥記〕「隔ニ—‐—重‐幕一」。

〔裂紈〕かとりぎぬを破る。○〔梁元帝〕「遂作ニ—‐—詩一」。「玄‐翰一」。

〔素紈〕白きかとりぎぬ。○〔成公綏〕「握ニ—‐—染ニ

【紉】　ジン、ニン。女鄰切 [眞]

㊀いと（纏）、なは（索）。○〔禮〕「衣‐裳綻‐裂—レ鍼請ニ補‐綴一」。㊁さく、つゞざく。○〔揚雄〕「擘楚謂ニ之—一」。㊂印のひも（鞶）。

〔鍼紉〕針とより絲と。○〔沈亞之〕「願賜ニ妾於—‐—也」。「—‐—挽ニ舫綴一」。

〔蒲紉〕がまの草をもてつくりたる繩。○〔王禹偁〕

〔補紉〕絲をもてつくろひを爲す。○〔黃庭堅〕「兒‐女衣‐褡得ニ—‐—一」。「—一」。

〔縫紉〕絲もてぬひとづ。○〔陸游〕「赤‐脚婢ニ—‐

【紟】　キン、コン。居覲切 [震]

絲をより合はせて繩となすにいふ字。

【紇】　ベツ、メチ。彌列切 [屑]

すこし（微）。

【紖】　弦に同じ。

【紆】　紆に同じ。

【紵】　チク、トク。佇六切 [屋]

さく（解）。

四畫

【紘】　コ、グ。胡故切 [遇]

繩を收むるもの。

【紊】　ブン、モン。亡運切 [問]　無分切 [文]

みだろ、みだす（亂）。○〔書〕「若ニ綱在レ綱有レ條而不レ—」。

〔弛紊〕張らずして秩序なくなる。○〔南〕「故政‐刑—‐—」。

〔淸紊〕まじり亂る。○唐〕「十不レ收レ一、取‐舍—‐—」。

〔虧紊〕完からずして亂る。○〔唐〕「布レ德施レ令、有レ所ニ—‐—一」。

〔彫紊〕すたれ亂る。○〔唐〕「昭‐宗時制‐度—‐—」。

〔侵紊〕範圍を犯し秩序なくなる。○〔宋〕「竝違ニ舊‐制一、毋ニ相—‐—一」。「漸致ニ—‐—一」。

〔隳紊〕やぶれて秩序なくなる。○〔宋〕「朝‐廷紀‐綱—‐—一」。

〔繁紊〕煩雜にして秩序なし。○〔拾遺記〕「更除ニ其—‐—一」。「—‐—」。

〔散紊〕ばらばらになり亂る。○〔文心雕龍〕「憲‐章—‐—」。

〔妨紊〕障害をなし亂す。○〔陳後主〕「—ニ—‐—政‐道一」。「章—‐—」。

〔墮紊〕亡び亂る。○〔牛弘定樂奏〕「江‐左之初、典‐

〔枉紊〕理を曲げ亂る。○〔李嶠〕「繩ニ糾其—‐—一」。

【紋】　ブン、モン。無分切 [文]

物の面の文、かた、もやう、あや。○〔蘇軾〕「俯看ニ秋‐水—一」。

〔綺紋〕きぬの織りなせるあや。○〔鮑照〕「花簿綠ニ—‐—一」。「散ニ—‐—一」。

〔纈紋〕絹の染めたるあや。○〔蘇軾〕「吹レ面東‐風

〔羅紋〕うすぎぬのあや。○〔北〕「婦人以ニ—‐—白‐布一爲レ幅」。「甚奇」。

〔花紋〕花の形をなしたるあや。○〔淸異錄〕「—‐—

〔賕紋〕帛を賄ると、即ち賄賂を爲すといふ語。○〔隨〕「故下明ニ愛‐施一、而務ニ—‐—之政一」。

〔旋紋〕よどみてあやをなす。○〔硯史〕「自‐然成ニ—‐—一」。

〔皺紋〕しわの入りたる如くあやを爲す。○〔書史〕「滿‐目—‐—錦‐褾玉‐軸」。

〔蹙紋〕前に同じ。○〔元稹〕「綾‐行輕‐蹈—‐—波」。

〔細紋〕こまやかなるあや。○〔何遜〕「寒‐流聚ニ—‐—一」。「—」。

〔重紋〕かさねてあやを爲す。○〔張說〕「日靜水—レ

〔縠紋〕かとりぎぬのあや。○〔范成大〕「行‐開淸淺—‐—生」。「—」。

〔綃紋〕うす絹のあや。○〔鄭璧〕「雁風姸卷玉—

〔縱紋〕たてすぢのあや。○〔范成大〕「—‐—死‐潞雁」。

【紌】　キウ、グ。渠尤切 [尤]

紌の字を見よ。

【納】　ダフ、ナフ。奴答切 [合]

㊀濡ひしめろ貌にいふ字。○〔楚辭〕「衣—‐—而掩レ露」。

㊁いる。

（い）うちに致す。○〔孟〕「閉レ門不レ—」。

（ろ）なかに置く。○〔書〕「乃—ニ冊于金‐縢之匱‐中一」。

（は）收む。○〔詩〕「—ニ禾‐稼一」。

（に）致す。○〔禮〕「—ニ女於天‐子一」。

（ほ）取る。○〔國〕「—ニ其室一以分ニ婦‐人一」。

（へ）延く。○〔儀〕「小‐臣—ニ卿大‐夫一」。

（と）獻ず。○〔大戴禮〕「—ニ卵‐蒜一」。

（ち）受く。○〔晉〕「汎愛博—」。

（り）歸す。○〔左〕「諸‐侯—レ之」。

（ぬ）をさまろ、かくろ。○〔書〕「貢餞ニ—‐日一」。

㊂軜に通じ用ふ、くつばみ。○〔荀〕「奉レ軶持レ—」。

㊃補綴す、つゞろ、おぎなふ。○〔華陽國志〕「多レ所ニ補—一」。

〔出納〕物事のたし入れをなす。○〔書〕「夙‐夜—‐—朕命‐惟允」。「乃深相—‐—」。

〔結納〕むすび入る、即ち、結託するにいふ語。○〔唐〕

〔引納〕引き寄せ入る。○〔後漢〕「吾所ニ以—ニ—羣‐子一、習ニ之學‐官一者」。「—‐—一」。

〔延納〕前に同じ。○〔後漢〕「光武愛レ之、數被ニ—‐

〔獻納〕たてまつり入る。○〔潘岳〕「愧レ無ニ—‐—一、尸‐素以甚」。

〔吐納〕たし入れをなす。○〔嵇康〕「呼‐吸—‐—」。

〔拜納〕再拜してすゝめ入る。○〔戰〕「願――ニ之於王ー」。
〔省納〕顧みてきゝ入る。○〔王逸〕「屈原作ニ離騷ー、「不レ見ニ――ー」。
〔巽納〕擇り拔きて入る。○〔後漢〕「――尙レ簡」。
〔接納〕接見し引き入る。○〔後漢〕「光武深――ニ之ー」。
〔廣納〕廣く聽きいる。○〔後漢〕「陛下既――ニ謇‐「々ー以開ニ四聰ー」。
〔採納〕取り上ぐ。○〔後漢〕「宜下――ニ貝臣ー以助‐聖化上」。「高明ー」。
〔徵納〕召し出だす。○〔後漢〕「如蒙ニ――ー以輔ニ
〔嘉納〕喜びて採用す。○〔後漢〕「上ニ便宜ー、陳ニ密事ー、深見ニ――ー」。「於レ我是匡」。
〔諭納〕とひはかり用ふ。○〔崔駰〕「――ニ耆老ー、
〔悉納〕すべて取り入る。○〔吳〕「雖レ不レ能ニ――ー、然時采ニ其言ー」。「――」。
〔撫納〕撫循し取り入る。○〔吳〕「承レ制遣レ使、宣レ恩
〔信納〕信用す。○〔晉〕「軍國之政、多見ニ――ー」。
〔開納〕塞ぎ防ぐることをせずして入れ用ふ。○〔晉〕「――ニ讜言ー」。
〔誘納〕誘掖す。○〔晉〕「玩――ニ後進ー、謙若ニ布衣ー」。
〔允納〕信とし用ふ。○〔晉〕「多見ニ――ー」。
〔深納〕淺からぬ取り上ぐ。○〔晉〕「漢祖感悟、――ニ其言ー」。
〔嘗納〕はめたゝふ。○〔陳〕「深相――」。
〔褒納〕前に同じ。○〔唐〕「璽書――」。
〔聽納〕先方の思ふ所をきゝ入る。○〔唐〕「常屈レ意――」。「國志」「多レ所ニ――ー」。
〔補納〕足らはぬ所を足しおぎなへをなし入る。○〔華陽
〔察納〕よくあきらかにし聽き入る。○〔柳宗元〕「俯垂ニ天聽ー、――ニ微誠ー」。
〔普納〕一般にひろく入りこます。○〔左思〕「開ニ市朝而――」。
〔珍納〕類ひ稀なることとして　り用ふ。○〔除陵〕「願加ニ――ー」。

【紞】カン、コン。姑南切 覃

絲の貌にいふ字。

【紁】シ。卽移切 支

績ぎて紲ぐ所、つなぎめ。

【紎】シ。側持切 支

異色の繒、かはりいろのきぬ。

【紏】トウ、ツ。他口切 有

㊀つぐ、(告)。㊁黃色なる絲。

【紐】ヂウ、ニユ。女久切 有

㊀むすぶに用ふる絲、ひも。○〔周〕「朱‐裏延――」。
㊁むすぶ。
(い)あはせて結束す、ゆはへる、ゆふ、つかぬ。○〔楚辭〕「結ニ――ー帛ニ」。○
(ろ)かゝる、(係)、又、もとづく、(本)。○〔莊〕「禹舜所レ――也」。
㊂結ばる、むすぼる。○〔劉勰〕「波――而氣腐」。
㊃あはせむすびたる所、むすびめ。○〔禮〕「――約以レ組」。

〔解紐〕結びめをほどく、卽ち物事のゆるぶこと。○〔于寶〕「天綱――レ――」。
〔結紐〕むすびしむ。○〔晉〕「必――ニ――于紀綱ー」。
〔重紐〕再び結ぶ。○〔南〕「地維絕而――」。
〔根紐〕本原の結びめ。○〔十洲記〕「此乃天地之――、萬度之綱柄」。
〔屈紐〕伸びず結ぼる。○〔爾〕「寒氣自――也」。
〔圯紐〕結びめをやぶる。○〔曹植〕「皇綱――レ――」。

【紉】ソツ、蒼沒切 月 セツ、千結切 屑
ソチ。　　　　　セチ。

なは、(繩‐索)。

【紑】フウ、方鳩切 尤 孚不切 有
フ。

白く鮮かなる衣の貌にいふ字、いさぎよし。○〔詩〕「絲衣其――」。

【紑】フ。芳無切 虞 ハイ、蒲枚切 灰
べ。

フツ、文弗切 物
モチ。

【紡】?

【紘】

【紕】

【紐】

緡の色の鮮かなるにいふ字、あざやかなるきぬ。

【紕】緬に同じ。

【紞】ベツ、メチ。莫結切 屑

ほそし、(細)。

【紒】ケイ、吉詣切 霽 ケツ、吉屑切 屑
カイ。　　　　　ケチ。

㊀髮を結ぶ、むすぶ、ゆふ。○〔儀〕「將レ冠者采‐衣――」。
㊁心了ならず、さとからず。

【紒】カイ、ケ。居拜切 卦

印のひも、(緺)。

【紓】ショ、商居切 魚 神與切 語
ソ。

ゆるし、ゆるむ、(緩)、又、とく、(解)。○〔左〕「――レ禍也」。

【純】シユン、ジユン。主尹切 軫

衣の緣、へり、ふち。○〔禮〕「不レ――レ素」。

〔下純〕衣の下部につきあるへり。○〔禮、疏〕「謂ニ深‐衣之――ー也」。
〔繢純〕いろどりたるへり。○〔周〕「諸‐侯祭‐祀、席ニ蒲筵――ー」。「――ー」。
〔畫純〕えがきたるへり。○〔宋濂〕「緣レ之以ニ――ー」。
〔緇純〕黑き色のへり。○〔儀〕「蒲‐筵――布――」。

【純】トン、徒溫切 元 杜本切 阮
ドン。

つかぬ、たばぬ、(束)。○〔詩〕「白‐茅――束」。

【純】セン、ゼン。從緣切 先

まつたし、(全)。○〔儀〕「二‐算爲レ――」。

【純】シ。莊持切 支

緇に同じ。○〔周〕「――帛無レ過ニ五‐兩ー」。

【純】シユン、ジユン、船倫切 眞

門の名。

【純】ジユン。常倫切 眞

㊀いと、(絲)。○〔論〕「今也――儉」。
㊁もつぱら。
(い)雜糅なきこと、まじりなきこと。○〔易〕「――粹精也」。
(ろ)專一なること、ほかにむかざること。○〔書〕「嗣ニ汝股‐肱――ー」。
㊂いつはりなきこと、かざりなきこと、自然のまゝなること。○〔淮〕「不レ剖ニ割――樸ー」。
㊃大いなり。○〔詩〕「――嘏爾常矣」。
㊄已まざること。○〔詩〕「文‐王之德之――」。
㊅善し。○〔禮〕「貴レ――之道也」。
㊆美し、好し。○〔漢〕「冰‐紈綺‐繡――‐麗之物」。
㊇篤し。○〔老〕「――孝也」。
㊈一丈五尺の稱。○〔淮〕「里閒九――」。
㊉みな、(皆)。○〔周〕「諸‐侯――九」。
⑪和ぐこと。○〔論〕「從レ之――如也」。

〔一純〕もつぱらなること。○〔國〕「謂ニ之――ー」。
〔溫純〕ぬくやかにしてまじりなきこと。○〔晉鑿〕「――玉‐性眞」。
〔忠純〕忠義篤實なること。○〔宋〕「卿世濟ニ――」「豪――レ――也」。
〔尙純〕まじり無きことを貴重す。○〔詩、傳〕「宗廟齊レ志ー」。
〔貴純〕前に同じ。○〔禮〕「――レ――之義也」。
〔思純〕純一なることを思念す。○〔左〕「在レ約――レ――」。
〔清純〕潔白にしてもつぱらなり。○〔晉〕「――體レ道」。「達ニ於面ー」。
〔精純〕極めてもつぱらなること。○〔宋〕「――之氣
〔純純〕專一の貌にいふ語。○〔九辯〕「紛――之願レ忠兮」。「名彰也」。
〔貞純〕正しくもつぱらなること。○〔韋曜〕「――之
〔全純〕まつたくまじりなきこと。○〔歐陽修〕「躍不ニ――ー」。

〔罠純〕罠止にしてもツばらなる√。○〔劉因〕「氣-機千-古見ニ一-一ニ」。

【紃】古文の縱の字。

【紕】ヒ、ビ。頻脂切 支
㊀かざる、（飾）。○〔詩〕「素-絲一レ之」。
㊁へり、（緣）。○〔禮〕「縞-冠素-一」。
㊂あやまる、（錯）。○〔禮〕「五者一-物一-一 レ繆」。
㊃いさのふし、（纇）。
㊄繒の壞れんさ欲するにいふ字。
㊅繒の疏なるもの、あらききぬ。
〔翠紕〕白き旗のかざり。○〔王世貞〕「皎-月照ニ一-一ニ」。
〔縫紕〕へりをぬひあはす。○〔詩、箋〕「以爲レ纓、以一レ一」。

【紕】ヒ、ビ。毗意切 寘
前條の㊁に同じ。

【紕】ヘン、ベン。蒲眠切 先
けおりもの（緶）。

【紕】シ。昌里切 紙
績学の數、うみをのかず。

【紕】シ、醜止切 紙
前に同じ。

【紊】キ、ギ。渠之切 支
綦に同じ。

【紩】クワイ、ケ。古邁切 卦
細き絲。

【紖】チン、直引切　イン。以忍切 軫
牛の鼻に繫ぐ索、うしのはづな。○〔禮〕「牛則執レ一」。

〔縱紖〕牛をつなぐ色どりをなしたる縄。○〔宋〕縈「縕一-一也」。
以ニ一-一ニ。
〔馬紖〕うまをつなぐに用ふるなは。○〔急就篇、註〕
〔脫紖〕牛をつなぐなはをはづす。○〔洪希文〕「一-一レ解レ犢就ニ茅-屋ニ」。

【絉】ボク、モク。莫卜切 屋
なは、（繩）。

【紨】フ、ブ。風無切 虞
襲袂、かさなれるそで。

【紗】サ、セ。師加切 麻
つむぎたる絲にて織りたる織物、甚だ輕く薄し。○〔漢〕「充衣ニ一-轂襌-衣ニ」。
〔絳紗〕赤き色のうす絹。○〔後漢、施ニ一-帳-「前ニ」。
〔烏紗〕黑きうす絹。○〔柳宗元〕「朝-帽挂ニ一-一ニ」。
〔輕紗〕薄くあつらへたる絹。○〔陸游〕「亳-州出ニ一-一ニ」。
〔蟬紗〕せみの羽の如くうすくあつらへたる絹。○〔楊維楨〕「美-人睡超祖ニ一-一ニ」。
〔素紗〕白きうすぎぬ。○〔禮〕「夫-人秋稅ニ一-一ニ」。
〔漆紗〕黑きうすぎぬ。○〔朱熹〕乃以ニ一-一ニ爲レ之」。「兇-禍」。
〔緊紗〕目のよくつみたるうすぎぬ。○〔唐〕「一-一
〔窓紗〕まどかけに用ふるうすぎぬ。○〔白居易〕「絮撲ニ一-一ニ燕拂レ簷」。
〔緋紗〕赤きうす絹。○〔白居易〕「一-一燭-下水-平-流」。「紅映レ肉」。
〔捲紗〕うすぎぬを捲きあぐ。○〔蘇軾〕「翠-袖一レ一
〔織紗〕うすぎぬをおる。○〔蘇軾〕「獨倚ニ雲-機-看レ一-一」。「蝦簪レ花帽」。
〔剪紗〕うすぎぬをはさみきる。○〔陸游〕「一レ一新
〔蕉紗〕芭蕉の纖緯をもて製したるうすぎぬ。○〔白居易〕「一-一暑服輕」。

【紗】ベウ、メウ。弭沼切 篠
かすか、（微）。

【約】絢に同じ。

【紘】クワウ、ギヤウ。胡盲切 庚
㊀冠の纓を首に結び其の餘れるを組み上げて冠の兩端にかくるものゝ稱、かむりひも、其の冠の兩端にかけてなほ餘れるものを垂れ下げてかざりさなす。○〔儀〕「緇-組一-」。
㊁磬をかくる繩。○〔儀〕「倚ニ于頌-磬西一-一ニ」。
㊂綱維、おほづな。○〔淮〕「一ニ宇-宙ニ」。
㊃維落、なはどり。○〔淮〕「八-殥之外有ニ八一-一ニ」。
㊄ひろし、おほいなり、（宏）。○〔淮〕「至-一以大」。
〔朱紘〕赤き冠のかざり。○〔禮〕、冕而一-一、躬秉レ耒」。
〔帝紘〕帝王の綱維。○〔西都賦〕「恢ニ皇綱ニ、闡ニ「一-一ニ」。
〔地紘〕地面の成りたちゆくつなぎ。○〔柳宗元〕「愬ニ天-綱-頓ニ一-一ニ」。「絲也」。
〔網紘〕あみのひも。○〔詩、疏〕「綱一-一也、紀別-

【紒】クワ、胡瓦切 馬　コ、洪孤切 虞
ゲ。グ。

【紒】クワイ、胡卦切 卦
エ。
くつ、（履）、一說に、青絲頭の履。○〔揚雄〕「西-南梁-益之閒謂ニ之一ニ」。

【紝】ゼン、チン。如占切 鹽
襜一は、ひざかけ、まへだれ、（蔽-厀）、一說に、衣の下の襈、へり。

【紞】緶に同じ、つるべなは。○〔漢〕「單-極之一斷レ幹」。

【紙】シ。諸氏切 紙
書畫をかくに用ふるもの、かみ、ふるき絮或は樹の皮或は敝れたる布などをすきて作る。○〔潘岳〕「染レ翰操レ一-慨-然而賦」。
〔落紙〕筆を紙上におとして書きつく。○〔陸游〕「墨-較一レ一草-書顚」。
〔故紙〕反故のかみ。○〔北〕「安能作ニ刀-筆吏-、返披一-一-乎」。「書」。
〔片紙〕半びらのかみ。○〔宋〕「高-宗嘗以ニ一-一」
〔諫紙〕君上を諫め奉るがために文を書いつくるかみ。○〔白居易〕「月慚ニ一-一二-百-張ニ」。
〔簡紙〕物事を書いつくるふだとかみと。○〔晉〕「徒費ニ一-一ニ者、皆絕不レ通」。「之」。
〔糊紙〕かみをのりばりにす。○〔謝承〕「一レ一補レ
〔剪紙〕はさみもてかみをきる。○〔北〕「削レ木一レ一、皆無ニ故-事ニ」。
〔官紙〕官府にて使ふ用紙 ○〔南〕「不レ書ニ一-一ニ、以成ニ親之淸-白ニ」。
〔空紙〕一物をも書いつけあらざるかみ。○〔北〕「直付一-一ニ、卽令ニ宣-讀ニ」。
〔試紙〕試驗の折にわたされたるかみ。○〔舊唐〕「手持ニ一-一ニ、竟レ日不レ下ニ一-字ニ」。
〔鳳紙〕帝王の用ひ給ふ用紙。○〔舊唐〕親ニ綸-言於一-一ニ」。
〔廢紙〕反故のかみ。○〔唐〕「從レ吏求ニ一-一ニ掘レ筆-著ニ家-傳十-篇ニ」。
〔黏紙〕かみをつなぎあはす。○〔唐〕「一-一是牒、豈曰レ敕」。
〔薄紙〕うすきかみ。○〔唐〕「帝以ニ一-一ニ手作レ詔」。
〔蔽紙〕かみをもてふさぎ掩ふ。○〔唐〕「皆一レ一爲レ裳、唐レ於レ賊矣」。
〔印紙〕印象の押してあるかみ。○〔宋〕「御-書一-一、錄ニ其功-最ニ」。
〔乏紙〕かみすくなし。○〔抱朴〕「常一レ一」。
〔累紙〕かみをかさぬ。○〔世說〕「修レ書一レ一」。
〔寸紙〕僅かなるかみ。○〔北堂書鈔〕「善レ書一-一不レ遺」。
〔尺紙〕前に同じ。○〔賀鑄〕「一-一爲レ君裁」。
〔幅紙〕前に同じ。○〔陸游〕「開レ緘展ニ一-一ニ」。
〔蠻紙〕えびすの國に產するかみ。○〔負暄雜錄〕「高-麗歲貢ニ一-一ニ」。
〔嘉紙〕善良なるかみ。○〔方輿勝覽〕「有-地名ニ龍鬚ニ、出ニ一-一ニ」。
〔生紙〕うらうちせざるかみ。○〔韓愈〕「一-一寫、不レ加ニ裝-飾ニ」。

〔挼紙〕かみを手にひきよす。○〔謝靈運〕「—レ—提レ管」。
〔御紙〕皇帝の用ひたまふかみ。○〔徐陵〕「——風飛」。
〔鋪紙〕かみを地にしく。○〔白居易〕「引レ筆—レ—」。
〔窓紙〕あかり障子のかみ。○〔白居易〕「風激雨々打二——一」。
〔滿紙〕かみ全體のこと。○〔陸游〕「——風鴉字斗斜」。

【級】キフ。居立切 緝

㈠等次、ついで、くらゐ、わかち、しな。○〔禮〕「貴賤之等—」。「足」。
㈡階段、きだ、だん。○〔禮〕「拾レ—聚レ足」。
㈢戰場にて敵の首を獲れば其の功によりて首の數に從ひてくらゐ上がりしより敵の首を獲たるにいふ字。○〔史〕「斬レ首十五—」。

〔等級〕階段、ついで、しな。○〔書、疏〕「其肥瘠——甚多」。
〔階級〕前に同じ。○〔呉〕「——踰邁」。
〔陛級〕前に同じ。○〔後漢〕「——縣遠」。
〔拾級〕階段をひろひて登る。○〔哀衷〕「—レ—那能較二先後一」。
〔名級〕名目等級。○〔顏延之〕「懿二彼——一」。
〔勳級〕功勞に對するくらゐ。○〔唐〕「寧二官吏——一」。
〔官級〕官吏の等級。○〔漢、註〕「故爲置二——一也」。
〔俘級〕敵をとりこにし首を得たること。○〔南〕「番禺之功、——亂數」。
〔榮級〕光榮あるくらゐ。○〔南〕「固辭二——一」。
〔顯級〕顯貴なる等位。○〔南〕「蹈二履淸正一、用升二——一」。
〔限級〕制限のこと。○〔北〕「嚴立二——一」。
〔斬級〕敵のくびをきりとる。○〔宋〕「與二—レ—者一同レ賞」。
〔末級〕下等の階級。○〔宋〕「詔寘二——一」。
〔積級〕くびをつみかさぬ。○〔宋〕「——如レ山」。
〔功級〕功勳の等位。○〔亢倉子〕「大夫士第有二——一」。

【紛】フン、ホン。府文切 文

㈠馬尾の韜、うまのをのふくろ。○〔呂氏春秋〕「——分々」。
㈡みだる（亂）、ゆるむ（緩）。○〔老〕「解二其—一」。
㈢むすぼる（結）。○〔西京賦〕「—瑰麗」。
㈣まじる（雜）。○〔漢〕「羽旄——」。
㈤おほし（衆）。○〔屈平〕「—吾既有二此內美一兮」。
㈥さかんなり（盛）。
㈦よろこぶ（喜）。○〔揚雄〕「—怡喜也、湘潭之閒曰二—怡一」。
㈧綬に似たるもの、文ありて綬より狹し。○〔書〕「篾席玄—純」。「爲レ—」。
㈨旗旒、はたのあし。○〔揚雄〕「靑雲——」。

〔繽紛〕前に同じ。○〔上林賦〕「周覽泛觀、——軋芴」。
〔紛紛〕——。
〔解紛〕みだれをとき去る。○〔史〕「排レ難—レ—」。
〔姑紛〕宮中のみだれ。○〔管〕「宮中亂曰二——一」。
〔繽紛〕衆く盛んなる貌にいふ語。○〔蜀都賦〕「絡繹——」。
〔糾紛〕もつれ亂る。○〔魏都賦〕「剠敵——」。
〔楯紛〕たての飾り。○〔書、傳〕「施二汝——一」。
〔佩紛〕身におびて物を拭ふもの。○〔王融〕「——甘自遠」。
〔放紛〕まとまりなくもつる。○〔蘇軾〕「收二拾散亡一理二——一」。
〔時紛〕世の中のもつれ。○〔晉〕「謀解二——一、功濟二宇內一」。
〔交紛〕互にまじる。○〔王褒〕「衆體錯兮——」。
〔碧紛〕あをき旂のたれ。○〔唐六典〕「旂之游曰二——一」。
〔思紛〕思慮みだる。○〔文賦〕「瞻二萬物一而——」。
〔世紛〕世の中のみだれ。○〔陶潛〕「閒居離二——一」。
〔羣紛〕かまびすしくみだる。○〔朱昇〕「兼以隔二——一」。
〔喧紛〕前に同じ。○〔裴度〕「此夕任二——一」。

【紜】ウン、チン。王分切 文

㈠物事の多くて亂るゝにいふ字、みだる。○〔班固〕「萬騎紛—」。
㈡物事の衆くて盛んなるにいふ字。○〔柳宗元〕「溶々——」。

【紝】ジン、ニン。切 如煁 沁 切 如林 ヂン、ニン。尼心切 侵

㈠繒帛、きぬ。○〔禮〕「織レ—組レ紃」。
㈡織機に懸くる縷、はたいと。○〔魏畧〕「攘レ臂結レ—」。
㈢おる（織）。○〔柳宗元〕「組—縫製」。

〔鬻紝〕繒帛を賣り拂ふ。○〔鹽鐵論〕「古者不レ——、不レ市レ食」。

【紞】タン、トン。都感切 感

㈠瑱（みゝふさぎ）を懸くる條 ひも、冠の兩旁に垂る。○〔左〕「衡—紘綖」。
㈡組みたる糸をもて被衿の領の側に著くる緣飾、よぎのふちかざり、よぎおるし。○〔禮〕「衿五幅無レ—」。
㈢鼓を擊つ聲にいふ字。○〔晉〕「—如レ打二五鼓一」。

〔玄紞〕赤黑き冠のみゝふさぎのひも。○〔國〕「王后親織二——一」。
〔珩紞〕冠の玉のみゝふさぎのひも。○〔東京賦〕「—紘綖」。
〔瑱紞〕前に同じ。○〔李商隱〕「冕紘——」。
〔紞々〕鼓の鳴る音にいふ語。○〔孔平仲〕「——有レ如二打雨鼓一」。

【紟】キン、コン。居吟切 侵

衣を結びつくる系、ひも、おび。○〔揚雄〕「佩—謂二之程一」。

【紟】ケン、其淹 ゴン。切 鹽 キン、渠金 ゴン。切 侵

布帛の名。

【紟】キン、ゴン。巨禁切 沁

よぎ（被）。○〔儀〕「綪絞—」。

【素】ソ、ス。桑故切 遇

㈠きめ緻き白色の生帛、しろのきぎぬ、縞に比すればあらし。○〔禮〕「純以レ—」。
㈡白色、しろ。○〔周〕「後二—功一」。
㈢無色、むぢ。○〔管〕「—也者五色之質也」。
㈣もと。
(い)本始、はじめ、もとゐ。○〔列〕「大—者質之始也」。
(ろ)性質、なりたち。○〔淮〕「平易者道之—也」。
(は)豫備、したぢ。○〔國〕「謀必—」。
(に)平常、つね。○〔儀、註〕「飯—食」。
(ほ)舊故、むかし。○〔王褒〕「積—累舊之歡」。
(へ)原料、しろ。○〔周〕「春獻レ—」。
(と)由來、もとより。○〔素問〕「皆非二其—所一レ能」。
㈤飾りなきこと、巧僞なきこと、もとのまゝなること、きぢ、すなほ、あら。○〔呂氏春秋〕「不レ彫二其—一」。
㈥まこと（誠）。○〔戰〕「竭二其智能一示二情——一」。「—爾」。
㈦こゝろざし（志）。○〔後漢〕「必旌二厥—一」。
㈧位なきこと、卑しきこと。○〔莊〕「元聖—王之道」。
㈨たゞ。
(い)空しく、いたづらに、たゞに。○〔孟〕「不二—餐一」。
(ろ)其れのみさの意を表すにいふ字。○〔左〕「其衆—飽」。
㈩鄉かふ。○〔禮〕「—レ隱行レ怪」。
(十一)其の分に循ふこと、其の境に逆はざること。○〔史〕「—二其位一而行」。
(十二)愫に通じ用ふ、ゑぶくろ。○〔史〕「—爲レ厨」。
(十三)象瑱、ざうげのみゝだま。○〔詩〕「充耳以レ—」。

（に）低し。○〔博異志〕「歌-音清ーー」。

（ほ）輕し。○〔唐〕「罪ー不レ宜レ免ニ大-臣ニ」。

（へ）狹し。○〔白居易〕「青-黛點レ眉々ー長」。

㊁こまし、こまやか、こまか。

（い）粗ならず、くはし。○〔北〕「自レ粗入レー」。

（ろ）煩はし、くだくし。○〔左〕「其ー已甚」。

（は）極めてちひさし。○〔夢溪筆談〕「鼠-毛更ー」。

㊂地位部しき人、たみ。○〔國〕「怨由レー」。

㊃性質部しき人。○〔晉〕「抑ニ奸ー不-逞之計ニ」。

〔三細〕　三たび小罪を犯す。○〔書〕「ーー不レ宥」。

〔五細〕　五つの邪まなることを爲すもの、即ち賤しくして貴きを妨げ、少にして長を凌ぎ、遠疏にして親しきものをへだて、新しくして舊きものをへだて、小にして大を犯すもの。○〔左〕「ーー不レ在レ庭」。

〔苛細〕　苛酷にして細事に心づく。○〔漢〕「以ニーー誅レ之」。

〔繁細〕　繁雜にして事こまかなること。○〔晉〕「好爲ニ糾-察、近ニ於ーーニ」。

〔猥細〕　みだりにして煩碎なること。○〔亢倉子〕「謂ニ業-雜之人爲ニーーニ」。

〔微細〕　こまやかなること。○〔新書〕「ーー難レ識」。

〔謹細〕　謹愼にしてこまかに注意のとゞく。○〔古畫品錄〕「精微ーー」。

〔輕細〕　かろくして小さし。○〔博異志〕「童-顔如レ玉、衣-服ーー」。

〔委細〕　くはしくこまやかなり。○〔禮、疏〕「是ーー屈-曲街-巷之禮」。

〔纖細〕　こまやかなること。○〔禮〕「事既ーー天下無下分ニ破之ー者上」。

〔嚴細〕　嚴重にしてこまかくゆきわたる。○〔北〕「政-體ーー、甚無ニ聲-譽ニ」。

〔柔細〕　やはらかにしてはそし。○〔爾雅翼〕「其毛長ーー」。

〔卑細〕　ひくゝあること。○〔論衡〕「官爵ーー」。

〔擧細〕　こまかき事柄をあげ示す。○〔韓詩外傳〕「辟則ーレー」。

〔煩細〕　わづらはしくこまやかにすぐ。○〔劉勰〕「必刻-覈而ーー」。「之事」。

〔瑣細〕　前に同じ。○〔却掃編〕「其所レ掌皆ーー之瑕ニ」。

〔精細〕　精微なること。○〔女紅餘志〕「皆鋪ニーー」。「ーー」。

〔薄細〕　厚からずして緻密なること。○〔蔡邕〕「帛必ーー必盡」。

〔黔細〕　人民。○〔郭璞〕「ーー未レ輯ニ於下ニ」。

〔洪細〕　大いなることと小なることと。○〔梁武帝〕「ーー」。

〔纓細〕　こまかし。○〔徐陵〕「綿-々ーー」。

〔踈細〕　あらきものとこまかきものと。○〔蘇軾〕「官-柳猶ニーーニ」。

〔肌細〕　はたへのきめのこまやかなること。○〔司空圖〕「ーー分ニ紅-脉ニ」。「ー」。

〔短細〕　長からず小さきこと。○〔王惲〕「歔-欷氣ーー」。

【紱】　フツ、ボチ。分勿切　物

㊀印のひも、綬。○〔易〕「朱ー方來」。

㊁まとふ、身につく。○〔莊、註〕「便謂足三以纓ニー其心ー矣」。「ー之綬ニ」。

〔璽紱〕　印につきあるくみひも。○〔後漢〕「加ニーー」。

〔解紱〕　印につきあるくみひもをはときさる。○〔陸雲〕「ーレー拔レ褐、投レ印懷レ玉」。

〔華紱〕　はなやかなる飾りを附したる印のくみひも。○〔史〕「冠ニ玉-冠-佩ニーーニ」。「璽ーレー」。

〔紆紱〕　印のくみひもを身にまとふ。○〔後漢〕「懷レーにいふ語」。

〔纓紱〕　冠のひもと印のくみひもと、即ち、官途にあるにいふ語。○〔北〕「早霑ニーーニ」。

〔雙紱〕　二つの印のくみひも。○〔蔡邕〕「兩印ーー並在ニ璽帶ニ」。

〔釋紱〕　前に同じ。○〔曹植〕「解レ璽ーレー」。

〔佩紱〕　印のくみひもを身に帶ぶ、即ち、官途に就くにいふ語。○〔蔡邕〕「七ニ其ーニ」。「ーニ」。

〔組紱〕　印のくみひものこと。○〔江淹〕「空貽ニーー」。

〔搢紱〕　笏をはさみ印のくみひもを身につく。○〔陶弘景〕「君雖下ーニー朝-班ー綴-庠-塾上」。「ー」。

〔曳紱〕　印のひもをひく。○〔柳宗元〕「懷レ印ーレ」

【紱】　紱に同じ。

【紲】　セツ、セツ。私列切　屑

㊀きづな。

（い）牛馬などをつなぎ牽く繫、はづな。○〔左〕「臣負ニ羈ーー從レ君巡ニ於天-下ニ」。

（ろ）物をつなぐ繫、つな。○〔吳〕「突-入斷ニ兩ーーニ」。

㊁きづなに繫ぐ、つなぐ。○〔漢〕「束ニ縛之ニ、係ニーー之ニ」。

㊂ゆだめ（弓-韣）。○〔周〕「辟如ニ終ーー、非ニ弓之利ー也」。

㊃跇に同じ、わたる、こゆ。○〔漢〕「亶觀ニ夫票-禽之ー隃ニ」。

〔兩紲〕　二つのつな。○〔吳〕「以レ力斷ニーーニ」。

【紳】　シン。升人切　眞

㊀腰を束ね其の餘りを垂れて飾りとなす帶、高貴の人の著用するもの、おほおび、大帶。○〔論〕「子-張書ニ諸ーニ」。

㊁轉じて、高貴の人の稱。○〔趙抃〕「公-議協ニ朝ーーニ」。

㊂束帶す、つかぬ、むすぶ。○〔禮、註〕「自ーー約」。

〔薦紳〕　大帶にかきつく。○〔韓愈〕「味-者宜レーレー」。

〔紓紳〕　おほ帶をゆるべのぶ。○〔蔡邕〕「ーレー綬レ佩」。「ー」。

〔褫紳〕　おほ帶をはぐ。○〔雪賦〕「念ニ解レ佩而ーレ笏、不レ動ニ聲-色ニ」。

〔垂紳〕　おほ帶をたれ下ぐ。○〔歐陽修〕「ーレー搢レ」

〔搢紳〕　笏をさしはさみおほ帶をたれ下ぐ、即ち、貴顯の士にいふ語。○〔晉〕「所レ謂ーー之士者」。

〔華紳〕　華飾せるおほ帶、又、高貴の稱。○〔宋〕「儼若ニーーニ」。「ーーニ」。

〔縉紳〕　きぬのおほ帶。○〔江淹〕「出-入玉-帶與ニーーニ語」。

〔纓紳〕　冠のひもと大帶と、即ち、身分ある士にいふ語。○〔顔師古〕「濟-々盛ニーーニ」。「學-士家ニ」。

〔高紳〕　身分高き士のこと。○〔歐陽修〕「在ニーー」

【絉】　袜に同じ。

【絉】　バツ、モチ。勿發切　月

足衣、たび。○〔後漢〕「絳-袴ーー」。

【紴】　ハ。逋禾切　歌

條の屬、うちひも。

【紴】　ヒ。匹靡切　紙

水ーーは、錦の文。

【紴】　ヒ、ビ。平義切　寘

裴ふ貌にいふ字、よそほふ。

【紤】　シャ、セ。充夜切　禡

縄を以て維持す、つなぐ。

【紵】　チョ、ド。丈呂切　語

㊀いちび麻の屬。○〔詩〕「可ニ以漚レー」。

㊁又、其の皮をうみて織れる布、あさぬの。○〔左〕「獻ニー衣ニ」。

【紶】　キョ、コ。口擧切　語

いさぐち（緒）。

【紶】　キョ、コ。去魚切　魚

つぐ（繼）、又つかぬ（束）。

【絣】　絣に同じ。

【絅】　ア。於何切　歌

ほそききぬ（細繒）、一説に、ねりぎぬ（練）。

【組】　縦に同じ。

【絈】　緒に同じ。

【⿰糸乍】サ、セ。仕下切 禡

緒の端より解くる貌にいふ字、ほどく。

【紷】レイ、リヤウ。郎丁切 靑

⊖わた(絮)。⊜細き絲の練りたる者。

【紸】シュ。之戍切 遇

つぐ(繼)。○〔荀〕「—レ纊聽レ息之時」。

【紹】セウ。市沼切 篠

⊖繼續す、つぐ。○〔書〕「—二復先王之大業一」。⊜佐助す、たすく。○〔戰〕「請爲二——介一」。

〔克紹〕よく承けつぐ。○〔書〕「俾三——二先烈一」。

〔繼紹〕先代の人に承けつぐ。○〔周、疏〕「取二其——而盡レ善盡レ美也」。

〔復紹〕ふたゝび承け繼ぐ。○〔魏〕「絕而——至レ今」。

〔遠紹〕遙に隔たりたるを承けつぐ。○〔韓愈〕「獨旁搜而——」。

【紺】カン、コン。古暗切 勘

深き靑に赤を含める閒色、こんいろ。○〔論〕「君子不下以二——緅一飾上」。

〔中紺〕靑き中に赤きを帶びたる色のものを裏にす。○〔韓詩外傳〕「—レ—而表レ素」。

〔玄紺〕靑黑き中に赤みをおびたる色。○〔陸璣詩、疏〕「色——善魅レ人」。

〔專紺〕靑赤き色をのみもッぱらにす。○〔摯虞〕「靑不レ—レ—」。

【紻】アウ。倚兩切 養 於良切 陽

かんむりのひも(纓)。

【紼】フツ、ボチ。分勿切 物

⊖物を維ぐ索、棺を引く索、つな、ひきづな。○〔禮〕「助レ葬必執レ—」。⊜紱に通じ用ふ、印の紐。○〔漢〕「上將レ使二人加レ—而封一レ之」。⊜芾に通じ用ふ、ひざかけ。○〔白虎通〕「—者蔽也、行以蔽レ前、天子朱—、諸侯赤—」。

〔綸紼〕經緯を織綜するつなと車をひきだすなはと、卽ち禮記の王言如レ綸、其出如レ紼との意より詔勅の意に用ふる語。〔柳宗元〕「捧二對——一、不レ如レ所レ圖」。

〔止紼〕柩をひく索をやすむ。○〔北〕「—レ—慟哭」。

〔引紼〕柩をひく索をひきゆく。○〔呂氏春秋〕「—レ—者、左右萬人以行レ之」。

〔布紼〕柩ひく索を備へておきおく。○〔張華〕「設レ祖—レ—」。

〔竦紼〕柩をひく索をれでそかにし準備す。○〔潘岳〕「—レ—俟レ徒」。

【紼】ヒ、ビ。芳未切 未

くづあさ、ふろわた(縕)。

【⿰糸戉】エツ、チチ。王伐切 月

采色、いろどり、又、いろいさにて織りたるもの、いろぎぬ、又、あさぬの、紵布、又、細き布、又一說に、車馬の飾り。○〔急就篇、註〕「—織レ綵爲レ之、卽今之織成也」。

【紽】タ、ダ。唐何切 歌

絲の數にいふ字、かず。○〔許〕「素絲五——」。

【紾】シン。止忍切 軫

⊖めぐる、めぐらす(轉)。○〔淮〕「千變萬——」。⊜もさる、もさらす(戾)。○〔孟〕「—二其兄之臂一」。⊜むすばる、むすぶ(結)。○〔淮〕「相繆——」。

〔錯紾〕まじはりもとる。○〔淮〕「婚委——」。

〔繆紾〕まとひめぐる。○〔淮〕「華蟲疏鏤以相——」。

【紾】テン、デン。徒典切 銑

⊖縝に同じ、ひさへぎぬ、單衣。⊜繩を轉ず、まはす、まく、くる。

【紾】テン。知演切 銑

⊖前條に同じ。⊜絕えなんさする貌にいふ字。

【紾】セン、ゼン。上演切 銑

ねづ、ねぢる(捻)。○〔周〕「老牛之角——而昔」。

【紾】キン。頸忍切 軫

急しく絲を纏ふ、まく。

【紿】タイ、デ。徒亥切 賄

⊖あざむく(欺)、又、いつはる(詐)。○〔穀梁〕「惡二公子之——一」。⊜うたがふ(疑)。⊜まさふ(纏)。㊃ゆるむ(緩)。

【絀】チュツ、チュチ。竹律切 質

⊖あかし(絳)。⊜ぬふ(紩)、又、縫會、ぬひめ。○〔史〕「却レ冠秫レ—」。⊜かゞむ(屈)。○〔荀〕「緩急贏——」。㊃黜に同じ、志りぞく。○〔禮〕「不孝者君——以レ爵」。

【絁】シ。商支切 支

粗なる帛、つむぎ。○〔唐〕「丁歲輸二綾——二丈一」。

〔絹絁〕きぬ布。○〔隋〕「桑土調以二——一」。

〔紗絁〕うすきあし絹。○〔唐〕「貢二——一」。

〔黄絁〕色のきなるあし絹。○〔陸游〕「貝土刀尺製二——一」。

〔黑絁〕黑きつむぎ。○〔鄒松〕「背有二囊琴結二——一」。

【終】シュウ、シュ。職戎切 東

⊖をはる。(い)極まる、盡く、已む。○〔左〕「婦怨無レ—」。(ろ)成る、充つ。○〔禮〕「節文——遂」。(は)死ぬ、歿す。○〔周〕「死——則書二其所以一」。⊜極む、盡くす、已む、成す、充つ、をふ、(前の⊖の項參照)。○〔論〕「——レ日不レ食」。⊜をはる所、すゑ、志まひ、をはり。○〔左〕「履二端于始一、擧二正于中一、歸二餘于——一」。㊃をはりに、はては、つひに。○〔左〕「——將レ諱レ之」。㊄十二年閒の稱、卽ち、歲星の一周。○〔左〕「十二年矣、是謂二之——一」。㊅方百里の稱。○〔漢〕「里十爲レ同、同十爲レ—」。

〔有終〕結末のあること。○〔易〕「无レ初—レ—」。

〔要終〕終極をたづねもとむ。○〔易〕「原レ始—レ—」。

〔愼終〕(い)父母の死ぬるとき葬儀を鄭重にすること。○〔論〕「—レ—追レ遠」。(ろ)終極の際を完からしめんと心をつく。○〔書〕「—二厥——、惟其始」。

〔令終〕終末を善くし全うす。○〔詩〕「高朗—レ—」。

〔敬終〕終末を善くせんと心をおろそかにせぬ。○〔禮〕「事レ君愼レ始而—レ—」。

〔異終〕終末を異別にす。○〔左〕「同レ始—レ—、胡可レ定也」。

〔歲終〕一年の終末。○〔左〕「以會二——一」。

〔戒終〕終末を善くせんとつゝしむ。○〔漢〕「善レ始以—レ—」。

〔善終〕終末を全うしよくす。○〔晉〕「年者辭レ榮—レ—」。

〔偕終〕終末をともにす。○〔管〕「天地終乎、與レ我常—レ—」。

〔待終〕死ぬるときの來たるをまち受く。○〔莊〕「處レ

（徼終）終末を求む。○〔尹文子〕「窮則―レ―」。
（守終）終末をかたくまもりてよくす。○〔蔡邕〕「―レ―有レ令」。
（永終）後來にのこりあり。○〔詩〕「庶幾夙夜以―」「―レ譽」。
（歸終）終極をもとづけ知る。○〔淮〕「―レ―知レ來」。
（贈終）死にたるものに物をおくる。○〔曹植〕「何以―レ―、哀以送レ之」。
（薄終）終極の際を輕薄にす。○〔曹植〕「―レ―義所レ尤」。

【紘】ケン、ゲン。胡田切 先
㊀琴瑟などに張りて彈ずる絲、つるいさ、いと。○〔禮〕「朱―而疏越」。
㊁つるいさを張りたる樂器、卽ち、琴瑟など。○〔禮〕「鐘石、筦、―」。
㊂琴瑟などを彈ずること。○〔史〕「令三樂人誦二―之二」。
（大紘）樂器のふときいと。○〔文子〕「―・―緩」。
（小紘）樂器のほそき糸。○〔淮〕「―・―絕矣」。
（筦紘）笛と琴瑟の類と。○〔漢〕「鏑石―・―」。
（絕紘）いとをきる。○〔後漢〕「伯牙―レ―」。
（新紘）前に同じ。○〔元稹〕「時迸―・―聲」。
（撫紘）琴瑟の糸をさする。○〔淮〕「搏レ琴―レ―」。
（箏紘）さうの琴の糸。○〔元稹〕「―・―玉指調」。
（夜紘）よるかなづるいとの音。○〔李白〕「松風鳴二―・―一」。
（緊紘）しげき琴の音。○〔蔡邕〕「―・―既抱」。
（淸紘）きよげなる音の琴の糸。○〔陳子昂〕「斟二綠酒一弄二―・―一」。
（調紘）琴の音をしらぶ。○〔王融〕「―・―詎未レ央」。
（彈紘）琴をかなづ。○〔漢〕「女子―レ―」。
（嬌紘）なまめかしげなる琴の音。○〔陸龜蒙〕「玉指弄二―・―一」。
（按紘）琴の糸をなでさする。○〔宋〕「―レ―拭レ徽」。
（拊紘）前に同じ。○〔琴賦〕「―・―安歌」。
（鳴紘）琴の糸をならす。○〔元〕「―レ―率舞」。
（毀紘）琴をやぶる。○〔長笛賦〕「伯牙―レ―」。
（悲紘）悲しげにきこゆる琴の音。○〔宋孝武帝〕「深心悶二―・―一」。

【組】ソ、ス。則古切 麌
㊀くむ。
（い）交へ織る、交へ絡ふ。○〔詩〕「執レ轡如レ―」。
（ろ）かけ縫ふ、かけつなぐ。○〔詩〕「素絲―レ之」。
（は）構へ作す。○〔劉峻〕「―二織仁義一」。
㊁物を束ね結ぶに用ふるくみたる繫、くみひも、うちひも、特に其の斜なる文あるもの又は薄く濶きものゝ稱。○〔禮〕「織二紝―紃一」。
（朱組）赤きくみひも。○〔禮〕「玄冠―・―」。
（纂組）くみひものたぐひ。○〔招魂〕「―・―綺縞」。
（綺組）あや絹のひらひも。○〔晉〕「禁二彫文―・―非法之物一」。
（楚組）くみひもの類。○〔長門賦〕「垂二―・―之連綱一」。
（華組）はなやかなるくみひも。○〔曹植〕「―・―之纓」。
（縟組）しげき色どりのあるくみひも。○〔江賦〕「―・―垂レ映」。
（尺組）短きくみひも。○〔王維〕「腰下無二―・―一」。
（縫組）ぬひくむ。○〔詩、箋〕「―二―於旗旟一、以爲二之飾一」。
（綦組）色どりたる糸すぢ。○〔詩、疏〕「用二―・―一飾二旒之邊一」。
（素組）白きくみひも。○〔禮、疏〕「今用二―・―一爲レ綬」。
（文組）あやのあるくみひも。○〔阮籍先生大人傳〕「挾二金玉一垂二―・―一」。
（垂組）たれ下がりたるくみひも。○〔獨孤申叔〕「垂二―・―一而溫潤澤矣」。
（珪組）圭玉につきてあるくみひも。○〔晉〕「綰二累葉之―・―一」。
（綵組）色どりあるくみひも。○〔晉〕「皆帶レ綬以二―・―一爲二緄帶一」。
（結組）印のひもをゆふ。○〔宋〕「―レ―登レ朝」。
（解組）印のひもをほどき去る、卽ち、官途を退くにいふ語。○〔幸靈物〕「―レ―傲二園林一」。
（皇組）大いなる印のひも。○〔東京賦〕「紆二―・―一、要二干將一」。
（緹組）赤きくみひも。○〔沈約〕「容裔被二―・―一」。
（遺組）印のくみひもを棄て去る。○〔陳子昂〕「―レ―去二邯鄲一」。
（鞶組）皮帶のひも。○〔姚元崇〕「飾以二―・―一」。
（章組）あやある印のひも。○〔權德輿〕「夕拖二―・―一」。
（懷組）印のひもをいだきもつ。○〔蘇轍〕「今予命レ爾―レ―而歸」。

【絅】ケイ、キヤウ。涓熒切 靑
急引す、きびしくひく。

【絅】ケイ、キヤウ。犬迥切 迥　口定切 徑
ひとへもの（襌衣）。○〔中〕「衣レ錦尙レ―」。

【絆】ハン。博慢切 翰
㊀ほだし、きづな、つな。
（い）馬などを繫ぎ止どむる繩。○〔北〕「人有下盜二馬―一者上」。
（ろ）ものをつなぎ止どむるもの。○〔漢〕「今吾子已貫二仁義之羈―一」。
㊁繫ぎ止ごむ、つなぐ、ほだす。○〔淮〕「系二―其足一以禁二其動一」。
（羈絆）ほだしとなること、きづな。○〔儲光羲〕「無三復從二―・―一」。
（籠絆）とぢこめほだす。○〔隋〕「―二―朝市一」。
（絕絆）ほだしを切りたつ。○〔十洲記〕「皆―レ―離レ繫」。
（勒絆）馬のきづな。○〔通典〕「持二―・―一」。
（連絆）きづなをならぶ。○〔通典〕「不レ許―レ―」。
（華絆）はなやかなるきづな。○〔傅休奕〕「飾二五采之―・―一」。
（羅絆）あみにかけほだす。○〔陸龜蒙〕「爲レ人―・―取二材力一」。
（拘絆）とらへほだす。○〔王禹偁〕「應レ知驥足暫―・―」。
（縈絆）まとひつなぐ。○〔孔武仲〕「北船―・―南舩去」。
（圈絆）とらはれとなりつながる。○〔蘇軾〕「親族遭二―・―一」。
（囚絆）前に同じ。○〔鄭俠〕「重負遭二―・―一」。
（新絆）あらたに捕らはる。○〔王令〕「遷徙就二―・―一」。

【絇】ク、グ。權俱切 虞　ク。九遇切 遇
㊀履頭に施したる繶紃の飾り、かざり、くつかざり。○〔儀〕「靑―繶純」。
㊁わな（罥）。○〔爾、註〕「救絲以爲レ―、或曰、亦罥名」。
（履絇）くつの頭の飾り。○〔禮〕「不二―・―一」。
（織絇）くつの頭の飾りをおる。○〔左〕「―二―邯鄲一」。
（靑絇）くつの頭のあをき飾り。○〔古樂府〕「―・―黃金縷」。
（緗絇）薄く黃なる絹にてしつらひたる履の頭の飾り。○〔溫庭筠〕「碧繶―・―」。

【絈】バク、ミヤク。莫白切 陌
かうべつゝみ、頭巾。

【絉】シュツ、ジュチ、食聿切 質
なは（繩）。

【〓】アウ、エウ。於孝切 效
袎に同じ。

【結】コ、ク。攻乎切 虞
――縷は、草の名。

【〓】エン、ヲン。委遠切 阮
綩に同じ。

【〓】エン、ヲン。於袁切 元
繙――は、亂るゝこと。

【綍】紼に同じ。

【綷】サイ、セ。祖外切 泰
鮮潔なり、あざやか、きよし。

【〓】ヘイ、ヒヤウ。補永切 梗
むすぶ（結）。

【絔】〓に同じ。

【紝】 ジン、ニン。如林切 侵
紝に同じ。

【絭】 前條に同じ。

【絎】 カウ、ギヤウ。下更切 敬
㊀へり（緣）。㊁ぬふ（縫）。

【紲】 セツ、セチ。私列切 屑
㊀擽紾す、繋結す、ゆばる、くゝる、つなぐ。○〔論〕「雖ㇾ在₂縲—之中₁」。
㊁ものをつなぎくゝるもの、きづな。○〔左〕「臣負₂羈—₁」。

【絏】 エイ。以制切 霽
紲に同じ。

【結】 ケツ、ケチ。古屑切 屑
㊀むすぶ。
（い）交へ繋ぐ、ゆふ、ゆはへる。○〔詩〕「親—₂其₁褵」。
（ろ）纏ふ、まく。○〔禮〕「德-車—ㇾ旌」。
（は）括す、くゝろ、ゆむ。○〔詩〕「心如ㇾ—兮」。
（に）縛す、ゆばる。○〔班固〕「罝-羅之所₂羂—₁」。
（ほ）閉ざす。○〔道德指歸論〕「天-地鈐—」。
（へ）收む、まとむ。○〔陸雲〕「信以—₂民情₁」。
（と）約す、ちぎる。○〔戰〕「口相—」。
（ち）構ふ。○〔王維〕「鵲-巢—₂空-林₁」。
（り）成す。○〔白居易〕「秋-房始—白-芙-蓉」。
（ぬ）屈す。○〔禮〕「蚯-蚓—」。
（る）親しむ。○〔唐〕「欵₂—之₁」。
㊁自らむすびたる如くになる、むすばる。○〔梁簡文帝〕「藤—如ㇾ帷」。
㊂むすぼる。
（い）むすばれて解けず。○〔詩〕「我心蘊—」。
（ろ）悶え煩ふ。○〔曹操〕「是用憂—」。
㊃むすぶ所、むすびめ。○〔漢〕「帶有ㇾ—」。
㊄煩惱、（佛家の言）。○〔法華經、科註〕「斷ㇾ—成ㇾ佛」。

〔蘊結〕積みむすぼれて解けぬ。○〔詩〕「我心——兮」。
〔菀結〕前に同じ。○〔詩〕「我心——」。
〔鬱結〕むすぼれて發せず。○〔莊〕「地-氣——」。
〔解結〕むすぼれをほどく。○〔漢〕「往-者周-網—ㇾ「——」。
〔屯結〕滯りむすぼる。○〔後漢〕「到則解-散、去復——」。
〔糾結〕合ひむすぼる。○〔金〕「固草-根——之荒-地哉」。
〔團結〕まとまり一つになる。○〔金〕「—₂—士-兵₁爲ㇾ備」。
〔釋結〕むすぼれたるを解き去る。○〔孔融〕「解ㇾ疑—ㇾ—」。
〔絓結〕むすぼる。○〔九章〕「心——而不ㇾ解兮」。
〔憂結〕心わづらひむすぼる。○〔曹操〕「是用——」。
〔哽結〕むせびむすぼる。○〔陸機〕「悲-懃——」。
〔縈結〕まとひむすぼる。○〔吳都賦〕「苞笴抽ㇾ節、往-々——」。
〔括結〕くゝりむすぶ。○〔易、註〕「——否閉、賢人乃隱」。
〔親結〕ただしくむすぶ。○〔詩〕「——₂其褵₁」。
〔信結〕まことを以てむすぶ。○〔陸雲〕「——₂民-情₁」。
〔固結〕堅固にむすびあふ。○〔東京賦〕「民-心——」。
〔要結〕約束しむすぶ。○〔元〕「—₂—諸將₁」。
〔約結〕前に同じ。○〔史〕「—₂—上左右₁」。
〔面結〕面會して約束をなす。○〔史〕「使₂手膠-西—ㇾ——之」。「——₁」。
〔冤結〕無實の罪にかゝりて解けず。○〔漢〕「民多₂——₁」。
〔枉結〕前に同じ。○〔後漢〕「中₂理——₁」。
〔素結〕日頃より交りをむすぶ。○〔後漢〕「——₂輕-客₁、必舉₂大-事₁」。「——₁」。
〔交結〕交際を取りむすぶ。○〔虞世南〕「財-雄重₂——₁」。
〔積結〕つもりむすぼれて解けざること。○〔後漢〕「解₂釋先-瞀之——₁」。「傑₁」。
〔撫結〕撫循し取りむすぶ。○〔後漢〕「—₂—雄-傑₁」。
〔連結〕つらねむすぶ。○〔後漢〕「—₂—閭-里₁」。
〔攬結〕とりむすぶ。○〔吳筠〕「春-草可₂——₁」。
〔誘結〕誘引し取りむすぶ。○〔魏〕「構₂合徒-黨₁、—₂—鄉-落₁」。
〔盛結〕盛に取りむすぶ。○〔唐〕「朋-黨——」。
〔締結〕ゆめむすぶ。○〔易林〕「——難ㇾ解」。
〔紆結〕まとひむすぶ。○〔阮瑀〕「懷——而不ㇾ暢」。
〔纏結〕前に同じ。○〔江淹〕「—₂—中-寓₁」。「—」。
〔繞結〕めぐりむすぶ。○〔邊讓〕「清-氣激而——」。
〔紛結〕もつれむすぼる。○〔劉向〕「心——而未ㇾ離」。「也」。
〔捲結〕卷きむすぶ。○〔釋名〕「氣在ㇾ外—₂—之」。

【絜】 ケイ、ガイ。胡計切 霽
係に同じ、かく、かゝる、つなぐ、つながる。○〔漢〕「跪而—ㇾ之」。

【結】 ケイ、カイ。吉詣切 霽
もとどり、たぶさ（髻）。○〔漢〕「魁—箕-踞」。

【絠】 シウ、シュ。之由切 尤
わた（綿）。

【絑】 シュ、ス。章倶切 チュ、ツ。追輸切 虞
雜りけの無き赤色、あけ、一説に、赤色の繒。

【絉】 シウ、ス。市流切 尤
ゆらぎぬ（紈）。

【繂】 イツ、イチ。允律切 質
長き貌にいふ字。

【絓】 クワ、空媧切 麻 ケ。 クワイ、公懷切 佳 ケ。
繭より抽き出だしたる粗絲、ゆげいと、ゆけ、又、其の繒、ゆけおり。○〔急就篇、註〕「紬之尤麤者曰ㇾ—」。

【絓】 クワイ、ケ。古畫切 卦
かゝる。
（い）礙止す、とゞまる、さゝはる、とゞこほる。○〔左〕「驂—而止」。
（ろ）つながり結ばる。○〔漢〕「不ㇾ—₂聖-人之罔₁」。

【絔】 ハク、ヒヤク。博陌切 陌
おぎなふ（補）。

【絗】 キヤウ、カウ。許兩切 養
わた（綿）。

【絚】 ケン。經天切 先
ゆまる（緊）。

【絕】 セツ、ゼチ。徂雪切 屑 〔說文〕斷ㇾ絲也从ㇾ糸从ㇾ刀从ㇾ卩。
㊀たつ。
（い）きる（斷）。○〔戰〕「絲-々不ㇾ—、蔓-々奈何」。
（ろ）ほろぼす（滅）。○〔書〕「勦₂—其命₁」。
（は）とゞむ（止）。○〔家語〕「—₂筆于獲-麟₁」。
（に）隔つ、遮ぎる。○〔史〕「遮₂—趙救及糧-食₁」。
（ほ）橫過す、よこぎる、わたる。○〔荀〕「而—₂江-河₁」。

(へ)交通を謝す。○〔左〕「告二子—楚一」。

㈡たゆ。

(い)きる、(斷)。○〔史〕「仰レ天大笑、冠纓索—」。

(ろ)ほろぶ、(滅)。○〔禮〕「繼二—世一」。

(は)やむ、(止)。○〔戰〕「荊楚之志—」。

(に)おちゐる、(陷)。○〔詩〕「踰二—險一」。

(ほ)竭く。○〔禮〕「救二之—一」。

(へ)死ぬ。○〔左、註〕「當-時悶—」。

(と)隔たる、塞がる。○〔戰〕「地—兵遠」。

(ち)交通やむ。○〔史〕「壹別長—」。

(り)超越す、すぐる。○〔晉〕「愷之有二三—一、才—、畫—、癡—」。

㈢おつ、おとす、(落)。○〔屈平〕「萎—其何傷兮」。

㈣極めて、はなはだ。○〔史〕「秦女—美」。

〔乏絶〕少なくなり盡く。○〔禮〕「賜二貧窮一、賑二—一」。

〔繼絶〕斷えたるものを續くること。○〔公羊〕「桓公有レ存レ亡—レ—之功一」。「交一」。

〔斷絶〕たちきる。○〔戰〕「常苦二出レ辭—一、—人之交一」。

〔交絶〕交際無くなる。○〔戰〕「——不レ出二惡聲一」。

〔長絶〕永久に打ちたゆ。○〔史〕「異域之人、壹別——」。

〔懸絶〕かけへだつ。○〔易、註〕「重險——」。

〔遏絶〕止どめたつ、又、やみたゆ。○〔後漢〕「——一狂狡窺欲之源一」。

〔離絶〕はなれ〴〵になる、又、はなれ〴〵にす。○〔詩、小序〕「夫婦——、國俗傷敗」。

〔接絶〕きれたるものをつぎあはす。○〔禮、註〕「麥者—レ—續レ乏之穀尤重レ之」。「之敵一」。

〔輕絶〕無造作にたちきる。○〔戰〕「—二—强秦」。

〔杜絶〕塞ぎたつ、又、ふさがりたゆ。○〔後漢〕「—二—邪僞請託之原一」。「何待」。

〔驟絶〕にはかにたちきる。○〔左〕「——之、不レ亡」。

〔奸絶〕をかしたつ。○〔左〕「—二—我好一」。

〔中絶〕中ごろにしてたゆ。○〔南都賦〕「或豁爾而——」。

〔食絶〕糧食なくなる。○〔史〕「兵疲——」。

〔逈絶〕はるかにへだたる。○〔張華〕「超二詭異之——一」。「—」。

〔曠絶〕空しくなりたゆ。○〔江淹〕「故叔世而—・—不レ和」。

〔斥絶〕却けあひて交らざ。○〔史〕「君臣——不レ和」。「四海一」。

〔橫絶〕橫ぎりわたる。○〔史〕「羽翮已就、—二—」。

〔請絶〕交際をやめんことを求む。○〔史〕「趙石父——」。

〔求絶〕前に同じ。○〔史〕「何子—レ—之速也」。

〔遮絶〕さへぎりたつ。○〔史〕「—ユ—趙救及糧食一」。

〔困絶〕困難し乏しくなる。○〔史〕「軍亦有二天幸一、未嘗——也」。

〔紹絶〕たえ無くなりたるものを繼續す。（〔史〕「—レ—立レ廢」。

〔距絶〕拒ぎたつ。○〔漢〕「陛下—ユ—此類一」。

〔閉絶〕塞ぎなくなす。○〔漢〕「—ユ—私路一」。

〔過絶〕すぐ、すぐる。○〔漢〕「博見强志、—ユ—于人一」。

〔禁絶〕とゞめたつ。○〔後漢〕「悉令二——一」。

〔謝絶〕ことわり斷つ。○〔後漢〕「—二—賓客一」。

〔抑絶〕おさへ斷つ。○〔傅亮〕「輒深自——」。

〔妙絶〕すぐれ出づ。○〔後漢〕「—ユ—時人一」。

〔冠絶〕前に同じ。○〔晉〕「—二—時輩一」。

〔卓絶〕前に同じ。○〔晉〕「才藻——」。

〔泯絶〕亡びなくなる。○〔魏〕「禮經——」。

〔廢絶〕すたれなくなる。○〔劉歆〕「不レ思二——之闕一」。「通」。

〔壅絶〕塞がり斷つ。○〔東方朔〕「道——而不レ通」。

〔超絶〕こえすぐる。○〔魏文帝〕「逸——共無レ儔」。「人一」。

〔殊絶〕前に同じ。○〔諸葛亮〕「曹操智計—二—于人一」。

【緑】ツ井、ヅ井。持僞切　寘
なはをかく、(縋)。

【絖】クワウ。苦謗切　漾
㈠わた、(纊)。○〔莊〕「洴二澼—一爲レ事」。
㈡八十縷。

【⿰糸名】ベイ、ミヤウ。忙經切　青
細絲、ほそいと。

【絗】コツ、グチ。胡骨切　月
縷縈る、めぐる、まとふ。

【絘】シ。七四切　寘　津私切　支
績緝す、つむぐ。○〔周〕「廛人掌レ斂二市—布一」。

【⿱次糸】シ。資四切　寘
絲を理む、いとをくる。

【⿰糸耳】ジ、ニ。忍止切　紙
轡の盛んなる貌にいふ字、さかんなり。

【絙】クワン。胡官切　寒
ゆるし、(緩)。

【絚】コウ。古恆切　蒸
緪に同じ、はる、わたる。○〔屈平〕「姱容修態—二洞房一些」。

【絛】タウ、トウ。他刀切　豪
編みたる絲繩、ひらうちひも、まろうちひも、うちひも、くみいと。○〔金唐詩話〕「不レ知二誰是解レ—人一」。

〔赤絛〕あかき糸なは。○〔杜甫〕「蒼水使者捫二——一」。「靴」。

〔卓絛〕くろ色の糸なは。○〔金〕「——羅帶皁靴」。

〔長絛〕ながきくみひも。○〔張耒〕「紅錦——〳〵背垂」。

〔束絛〕つかねたるくみひも。（〔都穆〕「黃衣——儼乎如レ生」。

【⿰糸巟】クワウ、呼光切　バウ、謨郎切　マウ。陽
絲曼延す、いとながくひく。

【⿰糸多】ビ、ミ。忙皮切　支
縻に同じ。

【⿰糸多】イ。羊至切　寘
かさなる、かさぬ、(重)。

【⿰糸多】イ。以豉切　寘
物を次第す、ついづ。

【⿰糸多】井。弋睡切　寘
たる、(垂)。

【絜】ケツ、ケチ。古屑切　屑
㈠麻の一耑。
㈡きよし、いさぎよし、(淨)。○〔左〕「——粢豐盛」。
㈢いさぎよくす、きよむ。○〔詩〕「—二爾牛羊一」。

【絜】ケツ、ゲチ。胡結切　屑
㈠はかる、(度)。○〔禮〕「有二—矩之道一」。
㈡くゝる、(結)。○〔莊〕「—レ之百圍」。

【絜】ケイ、カイ。詰計切　霽
ひつさぐ、(提)。

【絜】カツ、ケチ。訖黠切　黠
ひとり、(獨)。

【絝】コ、ク。苦故切　遇
㈠脛衣、はかま。○〔史〕「夫人置二兒—中一」。
㈡またがる、(跨)。○〔史〕「—二白虎一」。

〔紈絝〕白ねりの絹のはかま。○〔宋〕「豈——子弟、得下以二恩澤一處上耶」。

〔皮絝〕かはのはかま。○〔後漢〕「身衣二羊裘—」

〔襬袴〕はたぎと股引と。○〔禮〕「衣不レ帛ニ──ニ」。〔絆袴〕赤き色のはかま。○〔漢官儀〕「今漢・家火・行宜ニ──ニ」。〔市袴〕はかまを賣り拂ふ。○〔後漢〕「──レ──償レ之」。

【絝】絢の古字。

【絞】カウ、ケウ。古巧切　巧

❶くびる、（縊）。○〔左〕「──縊以戮」。❷なふ、よる、（糾）。○〔爾、疏〕「糾ニ──繩索ニ」。❸めぐる、（繞）、又、くゝる、（縛）。「綿・々────」。○〔邵謌〕❹そしる、（刺）。○〔論〕「直而無レ禮則──」。❺きびし、（急）。○〔左〕「叔・孫──而婉」。〔手絞〕己が手をかけてくびる。○〔韓〕「──ニ其夫ー者也」。

【絞】カウ、ゲウ。何交切　肴

❶蒼黄色、もえぎいろ。○〔禮〕「──衣以裼レ之」。❷束ぬ、堅む、むすぶ、しめる、しぼる。○〔禮〕「小・斂布──」。

【絞】カウ、ケウ。居效切　效

黑くして黃を帶ぶる繒色。

【絟】セン。此緣切　先　セツ、促絶切　屑　セチ。切

❶細布、ほそぬの。❷くずぬの、（葛・布）。

【絠】カイ、ケ。古亥切　賄

❶彈弸す、ゆみをひく、はなつ。❷繩を解く、さく、ほごく。❸冠に卷くもの。

【絡】ラク。歷各切　藥

❶わた、（絮）、又、未だ漚さゞる麻、きあさ、又、いと、（絲）。○〔汲冢周書〕「以爲ニ絺──ニ以爲ニ材ー用ニ」。❷つむぎ、（紬）。○〔急就篇、註〕「──即今之生・緬也、一曰、今之綿・紬」。❸つるべなは、（繘）。○〔揚雄〕「繘或謂ニ之──ニ」。❹籰車を轉ずるいと、しらべいと。○〔揚雄〕「──謂ニ之格ニ」。❺ながえしばり、（輅）。○〔淮〕「黃・雲──」。❻きづな、（絆）。○〔金〕「金・鑣玉──」。❼あみ、（網）。○〔班固〕「衍ニ地──ニ」。❽まとふもの。○〔晉〕「鉤──鉤・帶也」。❾系維、すぢ。○〔史〕「中・經維──」。❿まとふ。(い)括す、くゝる。○〔揚雄〕「緜ニ──天・地ニ」。「些」。(ろ)縛す、しばる。○〔楚辭〕「鄭綿──」。(は)めぐる、さりまく。○〔班固〕「籠レ山──レ野」。(に)まきつく、からまる、まつはる。○〔柳宗元〕「翠・蔓蒙──」。⓫連屬す、つなぐ、つながる、つゞく。○〔謝朓〕「───結ニ雲・騎ニ」。

〔網絡〕くるめまとふ。○〔司馬貞〕「──ニ古・今ニ」。〔脉絡〕つながりまとふ、又、すぢ。○〔宋〕「其源・委──」。〔幕絡〕おほひまとふ。○〔爾、疏〕「──ニ其身ー也」。〔織絡〕おりまとふ。○〔徐鉉〕「───文・章麗」。〔繩絡〕つなぎまとふ、又、つながりまとふ。○〔晉〕「朱・絲──」。〔聯絡〕つゞきからむ、又、すぢ。○〔謝瞻〕「上・下──」。〔廣絡〕ひろくまとふ。○〔唐〕「──ニ原・野ニ」。〔籠絡〕こめしばりて自由ならしめず。○〔宋〕「士大・夫無レ不レ受ニ其───ニ」。「毚」。〔交絡〕まじはりまとふ。○〔揮塵後錄〕「───羇」。〔穿絡〕うがちまとふ。○〔宣和畫譜〕「至ニ于──ニ──眞・性ー、固已失レ之矣」。〔結絡〕ゆはへまとふ。○〔江賦〕「龍・鱗───」。〔繫絡〕つなぎまとふ、つながりまつはる。○〔韓愈〕「凡五・藏之───甚微」。〔斷絡〕きれたるわた、又、きるゝとつゞくと。○〔沈遼〕「我生無ニ庸物ニ──ニ」。「無ニ巨・細ニ」。○〔句絡〕かねまとふ。○〔柳貫〕「蒟・竇之所レ資、──」。〔覆絡〕おほひまとふ。○〔太上飛行九神玉經〕「───吾身ニ」。〔纏絡〕まとふ。○〔太上飛行九神玉經〕「玉・光──「─」」。

【絢】ケン。許縣切　霰

❶文章、いろ、あや。○〔儀〕「──組」。❷あやある貌にいふ字。○〔論〕「素以爲レ──兮」。「貧絕」。❸疾き貌にいふ字。○〔顏延之〕「──練之姿ニ」。

〔英絢〕すぐれてあやあること。○〔晉〕「孫・楚負ニ──」。〔瑋絢〕色どりを加ふ。○〔顏延之〕「素・章──レ──」。〔藻絢〕かざり。○〔江總〕「烟霞舒ニ卷五・色ー、成ニ其───ニ」。「風ニ」。〔還絢〕殘餘のあや。○〔晉〕「採ニ其──」、足レ勵ニ澆・」。〔彫絢〕物の象をはる色どり。○〔魏〕「───漸起」。〔明絢〕あきらかにあやあること。○〔蘇軾〕「金・碧斕──」。〔光絢〕つやを發しあやあること。「色───」。〔彩絢〕色どりのこと。○〔雲仙雜記〕「彩・──」。○〔入越記〕「───甚華」。〔黙絢〕色どりをあちらこちらに附す。○〔潘岳〕「列レ素──レ──」。「──レ──」。〔吐絢〕色どりをあらはす。○〔唐雩祀樂章〕「瑤・圖」。〔流絢〕あやをしきながす。○〔王勃〕「固──ニ──于丹・條ニ」。「──ニ」。〔炳絢〕あやのあること。○〔江淹〕「發ニ麟・麗之──」。〔呈絢〕文飾をあらはす。○〔褚遂良〕「卿・雲──レ──」。〔發絢〕前に同じ。○〔許敬宗〕「井離レ蓮兮──レ──」。〔摛絢〕あやを舒ぶ。○〔許敬宗〕「──レ──紹レ天、含レ章挺レ曆」。〔華絢〕はなやかなる色どり。○〔劉子翬〕「隋レ裾蕩ニ「───」ニ」。

【絢】シュン、ジュン。松倫切　眞

紃に同じ。

【絣】ハウ、ビヤウ。北萌切　庚

❶殊縷の布、しまおりのきぬ、又、無文の綺、むちのきぬ。❷わた、（綿）。○〔戰〕「妻自組ニ甲──ニ」。❸つぐ、つゞく、（續）。○〔後漢〕「將レ──ニ萬・嗣ニ」。❹繩墨を振ふ、ひく。○〔韋莊〕「泝・水悠・々去似レ──」。❺洴に同じ、はりたる絃。

【絣】ヘイ、ヒヤウ。卑盈切　庚

前條の❹に同じ。

【絣】ハウ、ヒヤウ。普幸切　梗

❶つぐ、（續）。❷急しく絚る、いさはる。

【絣】弁に同じ。○〔周〕「──經服」。

【絔】線に同じ。○〔周、註〕「線讀爲レ──、謂ニ縫レ革之縷ニ」。

【紱】フク、ボク。房六切　屋

韍に同じ。

【紕】ヒ、ビ。平祕切　寘

鞴に同じ。

【給】キフ。訖立切　緝

❶そなはる、（備）、又、たる、（足）。○〔國〕「財不レ──」。❷そなふ、（供）、又、たす、（足）。○〔左〕「敢不ニ共──ニ」。❸賜與す、たまふ、あたふ、あてがふ。○〔晉〕「特──レ之」。❹賜與を受く、たまはる、あてがはる。○〔史〕「仰ニ──縣・官ニ」。

〔不給〕不足といふに同じ。○〔孟〕「秋省レ斂而助レ──レ──」。〔家給〕戶ごとに足る。○〔漢〕「百・姓未レ能ニ──ニ」。

（周給）あまねくあてがふ。○［後漢］「賑ニ給鄕閭故人一、莫レ不ニ——一」。
（自給）自ら供給をとる。○［後漢］「與ニ諸生一織レ席——」。
（資給）供給すること。○［魏］「——甚厚」。
（賜給）にぎはし與ふること。○［晉］「皆以ニ——一九族一、賞ニ賜軍士一」。
（取給）供給をとる。○［潘岳］「人畜——」。
（饒給）ゆたかに足る。○［漢］「及ニ孝武時一、國用——」。
（奉給）さゝげ供ふ。○［史］「使ニ臣陰——ニ君賚一」。
（富給）財多く足る。○［後漢］「少好ニ經營一、家——而遵ニ恭儉一」。
（充給）給料にあつ、又、滿ち足ること。○［後漢］「歲々開・廣百姓——」。
（賑給）にぎはし與ふ。○［後漢］「乃開レ倉——以救ニ其敝一」。
（經給）經營濟給す。○［後漢］「——ニ醫藥一、所部多蒙ニ全濟一」。
（餉給）食糧をおくり與ふ。○［宋］「——不レ虛」。
（共給）供へあてがふ。○後漢「——ニ車馬衣資一」。
（供給）前に同じ。○［魏］「——ニ資費一」。
（豐給）ゆたかに足る。○［後漢］「境內——」。
（營給）經營給與す。○［晉］「薪水之事、皆自——」。
（特給）特別に給與す。○［晉］「有ニ勳德一者——之」。
（出給）米穀などを支給す。○［晉］「皆聽ニ——一」。
（寵給）めでて給與す。○［晉］「諸所ニ——一、皆生ニ于百姓一」。
（配給）くばりあてゝ給與す。○［晉］「方始——」。
（悉給）盡くあてがふ。○［晉］「忱——レ之」。
（粗給）粗造にてまにあはす。○［晉］「宮宇——」。
（饋給）おくりあてがふ。○［宋］「量ニ軍儲——一」。
（犒給）慰勞し與ふ。○［宋］「——ニ四川久戍將士一」。
（官給）政府よりあてがふ。○［宋］「——ニ錢米一」。
（月給）月々の給與。○［宋］「特加ニ——之數一」。
（賞給）褒美として下し賜はる。○［宋］「輦下諸軍亦希ニ——一」。
（俸給）官より職務に應じ手當として賜はるもの。○［宋］「歲賜以爲ニ——一」。
（坐給）勞し求めずして足る。○宋「軍餉——」。
（完給）完全に給足す。○［魏］「獨以ニ——一者非力削儉也」。

【給】ケフ、ゴフ。極業切 葉 口説敏捷なり、さし、はやし、くちまへよし。○［論］「禦レ人以ニ口——一」。
（辭給）くちまへとし。○［漢］「口諧——」。
（捷給）小ざかしくあること。○［漢］「豈效ニ此嗇夫喋々——哉」。
（佞給）口辯の上手なること。○［列］「——而不レ中」。
（敏給）口前のとく達者なること。○［後漢］「應對——」。
（辯給）口辯の能達なること。○［北］「——取レ士」。

【絧】トウ、ヅ。徒東切 東 布の名。

【絧】トウ、ツ。他東切 東 緩くして直に通ほる貌にいふ字、さほる。

【絧】トウ、ヅ。徒弄切 送 直に馳する貌にいふ字、相連なる貌にいふ字。○［漢］「鴻——緁獵」。

【[糸米]】ベイ、マイ。母禮切 薺 細かき米を聚めたるが如き繡文、あや。

【絨】ジウ、ニユ。而中切 東 狨に同じ、細き布、ほそぬの。

【[糸式]】織に同じ。

【[糸式]】シ。職吏切 寘 はたおろし。

【[糸式]】ショク、シキ。設職切 職 機のたて絲。○［揚雄］「趙、魏閒呼ニ經而未レ緯者一曰ニ機——一」。

【絩】テウ。他弔切 嘯 綺絲の数にいふ字、いとのかず。

【絩】テウ、デウ。徒了切 篠 ㊀前條に同じ。㊁繒ノ長き貌にいふ字。

【絩】タウ、ドウ。杜晧切 晧 五色の縷、いろどりいと。

【絪】イン。伊眞切 眞 ㊀元氣、もとのき、又、氣の蒸す貌にいふ字。○［易］「天・地——、萬・物化・醇」。㊁しとね（茵）。○［漢］「加ニ畫・繡——一」。

【絫】ルヰ。力委切 紙 ㊀十黍の重さ。○［漢］「不レ失ニ黍——一」。㊁累の古字、かさぬ、かさなる。○［漢］「脊レ肩——レ足」。

【絬】セツ、セチ。私列切 屑 かたし（堅）。

【[糸𠂢]】ハイ、ヘ。匹卦切 卦 ㊀散らばれる絲。㊁未だつむがざる麻。

【絭】ケン、カン。區願切 願 古倦切 霰 ケン。驅圓切 先 キョク、ゴク。拘玉切 沃 臂の袖をかゝぐる紐、たすき。○［博雅］「——謂ニ之纏一」。

【絮】ジョ、ソ。息御切 御
㊀わた。
（い）繭を漬し擘きて作りたるもの、まわた、特に其の粗なるもの。○［漢］「九十以上賜ニ帛人二疋——三斤」。
（ろ）やれわた、（敝・綿）、ふるわた（故綿）。○［晉］「嘗辭レ衣、乃披レ——作レ被」。
（は）柳の花又は雪の片など。○［鄭谷］「千・絲萬——惹ニ春風一」。
㊁わたを褚ひたる衣、わたいれ。○［孝子傳］「冬不レ衣レ——」。
㊂なづみて決せざること。○［兩抄摘腴］「富韓並相時、偶有ニ一事一、富公疑レ之久不レ決、韓謂レ富曰、公又——」。
（絲絮）いとゝ綿と。○［孟］「麻・縷——」。
（胥絮）わたぼうし。○［史］「以ニ——一提ニ文帝一」。
（金絮）こがねと綿と。○［漢］「漢歲致ニ——采繒一以奉レ之」。
（綿絮）わた。○［酉陽雜俎］「婚・禮納采有ニ——」。
（故絮）ふる綿。○［晉］「盛ニ——而已」。
（敗絮）前に同じ。○［陳師道］「寒・氣挾レ霜侵ニ——」。
（弊絮）前に同じ。○［世說］「法・師今日如下著ニ——在ニ荊棘中上」。
（墜絮）綿うちをなす。○［越絕書］「女・子——ニ于瀨・水之中一」。
（落絮）上の方より吹きおつるわた、雪または花などの飛散するさまにたとへていふ語。○［[illegible]子[illegible]］「——亂從レ風」。
（擘絮）綿をちぎる。○［韓愈］「晴・雲如レ——」。
（輕絮）かろきよきわた。○［溫庭筠］「南・國滿地堆ニ——一」。
（縕絮）きぬと綿と。○［白居易］「——足レ禦レ寒」。
（紵絮）綿。○［揚雄］「——三千」。
（壞絮）やぶれ綿。○［阮籍大人先生傳］「匿ニ乎——一」。
（散絮）綿をちらす。○［李鬼勳］「狂・酒玉・擧初——」。

【絮】ヂョ、ト。褚御切 御 味を調ぶ。○［禮］「毋レ——レ羹」。

【絮】ダ、乃亞切　カ、企夜切　禡　ダ、子。ケ。子。
女加切　麻

絲の紊るゝにいふ字、みだる。

【絯】カイ、ガイ。柯開切　灰
約束す、つかぬ、くゝる、むすぶ。○〔莊〕「方且レ爲ニ物一ニ」。

【絯】カイ、下楷切　蟹　ガイ。下改切　賄
㊀ふさきいさ（大-絲）。㊁かく（挂）。

【絰】テツ、デチ。杜結切　屑
喪の時に首さ腰さに著くる麻、哀戚を表する意、ものころも、あさのおび。○〔禮〕「襲レ裘帶レ一」。
〔衰絰〕喪の時に葬するさよみの衣服と首と腰とに著くる麻と。○〔禮〕「君子一・一則有ニ哀-色ニ」。
〔弁絰〕弁の冠に麻を著くるもの、即ち帝王の弔服。○〔周〕「王之一・一、弁而加ニ環-絰ニ」。
〔苴絰〕實の多くつきある麻の首と腰とに著くる喪のときのもの。○〔儀〕「一・一者麻之有レ蕡者」。
〔葛絰〕くずの葛にて作りたる喪の時に首と腰とに著くるひも。○〔禮〕「一一而麻帶」。
〔繆絰〕喪の時に用ふる麻の首と腰とに著くるひもの両足を交叉す。○〔禮〕「衣レ衰而一レ一」。
〔免絰〕喪の時に用ふる麻の首と腰とに著くるひもを除き去る。○〔儀〕「主-人北-面一レ一」。
〔加絰〕喪の時に用ふる首と腰とに著くるひもをくはへのす。○〔左〕「一ニ一于顙一而逃」。

【綵】タ。都果切　哿
冕の前に垂るゝもの。

【統】トウ、他綜切　宋　ツ。吐孔切　董
㊀もさ。
（い）本始、はじめ。○〔公羊〕「一ニ大-一也」。
（ろ）總理、おほぐくり。○〔周〕「以ニ八-一一詔ニ王馭ニ萬-民ニ」。
（は）業緒、わざのこぐち。○〔孟〕「創レ業垂レ一」。
㊁系絡、つゞき、すぢ。○〔後漢〕「援ニ立皇一一ニ」。
㊂綱紀、次緒、のり、ついで。○〔史〕「百-官奉レ憲各遵ニ其職ニ而國一一備矣」。
㊃總理す、をさむ、かぬ、すぶ。○〔書〕「一ニ百-官ニ」。
㊄もさゐす、もさづく、又、ついづ、つぐ。○〔易〕「乃一レ天」。
〔天統〕自然ののり、又、天子のちつゞき、天子の創業。○〔史〕「使ニ人不ニ備レ得ニ一・一矣」。
〔聖統〕聖王の業緒、又、天子のちつゞき。○〔史〕「欲レ與ニ一・一、惟在レ擇ニ任將-相ニ哉」。
〔繼統〕系統を承け續ぐ。○〔漢〕「昔成-周以ニ孺-子一一レ一、業ニ」。
〔承統〕前に同じ。○〔漢〕「孝宣一レ一、纂ニ修洪-業ニ」。
〔撥統〕前に同じ。○〔任昉〕「一ニ一千祀ニ」。
〔元統〕大いなるのり。○〔漢〕「推ニ日-月一・一ニ」。
〔總統〕すべくゝる。○〔晉〕「以ニ一・一功-進拜ニ太-保ニ」。
〔嗣統〕統緒をつゞけ承く。○〔漢〕「一レ一垂レ業」。
〔嫡統〕國の正統。○〔漢〕「厥害ニ一・一ニ」。
〔大統〕帝王の系統。○〔後漢〕「皇-后之子、宜レ承ニ一・一ニ」。
〔秉統〕政柄を握る。○〔漢〕「太-后一レ一數-年」。
〔根統〕もと。○〔後漢〕「始失ニ一・一ニ」。
〔獨統〕己れのみにて一つにす。○〔魏〕「一一ニ大-衆ニ」。
〔踐統〕位にのぼりて一にしあはす。○〔魏〕「一ニ一洪-緒ニ」。
〔官統〕官府ののり。○〔魏〕「夫一・一不レ一、則職業不レ修」。
〔鎭統〕鎭撫しすべくゝる。○〔魏〕「宜下得ニ清-公大-德一、以一・一之上」。
〔兼統〕彼れ此れをかねあはせて綜ぶ。○〔魏〕「吏無ニ一・一之勢ニ」。
〔掌統〕司どりて總理す。○〔魏〕「一ニ一方-任ニ」。
〔典統〕前に同じ。○〔晉〕「皆一ニ一之ニ」。
〔旨統〕旨趣系統のこと。○〔晉〕「莫ニ適論ニ其一・一也」。
〔監統〕監督統理す。○〔晉〕「虛有ニ一・一之名ニ」。
〔源統〕もと。○〔宋〕「不レ究ニ一・一ニ」。
〔世統〕世々の血統。○〔宋〕「奉ニ祀一・一、以昭ニ功-德ニ」。「從レ劍東馳」。
〔戎統〕軍隊のおほぐくり。○〔宋〕「總ニ司一・一、」
〔創統〕業緒をはじめ開く。○〔魏〕「乾-業一・一」。
〔光統〕てらし綜ぶ。○北齊「一ニ一前-緒ニ」。
〔分統〕それ〳〵にわけて綜ぶ。○〔舊唐〕「諸-韋子-姪一ニ一之ニ也」。
〔本統〕もと。○〔宋〕「所下以一ニ一・一明上レ舜レ舜」。
〔開統〕統緒を開創す。○〔徐世隆〕「至-德體レ元、中-華一レ一」。
〔授統〕系統を與ふべきものにそむきて與へざ。○〔揚雄〕「晉獻一レ一」。
〔祖統〕祖先の業緒。○〔桓譚〕「興ニ復一・一一、爲ニ人-臣主ニ」。「一ニ」。
〔遐統〕遙かなる事業。○〔曹植〕「紹ニ虞-氏之一・一」。
〔傳統〕帝王の系統を傳へ授く。○〔沈約〕「守-器一レ一于レ斯爲レ重」。「一・一」。
〔管統〕管轄綜理す。○〔雲笈〕「各有ニ官-僚ニ、更相一ニ一」。
〔洪統〕大いなる系統。○〔陸機〕「綿-々一・一」。
〔乾統〕帝王の系統。○〔謝莊〕「猥以ニ寡-薄ニ、屬ニ承一・一ニ」。

【絲】シ。息兹切　支
㊀いさ。
（い）蠶の吐き出だしゝ細き條、きぬいさ。○〔書〕「其貢漆、一」。
（ろ）細き條の泛稱、すぢ。○〔埤雅〕「鳶飄引レ一而上ニ」。
（は）琴瑟などの如きいさを張りたる樂器。○〔周〕「皆播レ之以ニ八-音ニ、金、石、土、革、一、木、匏、竹」。
（に）きぬいさを織りたるもの、きぬいさを編みたるもの。○〔漢〕「食不レ重レ肉、妾不レ衣レ一」。
㊁いさを抽くを、いさ〳〵ろを、いさを紡ぐを。○〔郭璞〕「不レ蠶不レ一」。○〔書〕「厥篚一・一」。「紽」。
〔壓絲〕山ぐはをもて飼ひたる蠶のいと。○〔書〕「厥篚一・一」。
〔素絲〕白き絹いと。○〔詩〕「羔-羊之皮、一・一五-紽」。
〔貿絲〕絹いとゝ交易す。○〔詩〕「抱レ布一レ一」。
〔治絲〕絹いとをそろへて亂れざるやうにす。○〔左〕「猶ニ一レ一而棼レ之也」。
〔蠶絲〕きりたる絹いと。○〔劉子新論〕「一・一滿レ筐、不レ可ニ織爲レ綺」。
〔遊絲〕かげらふのこと。○〔梁武帝〕「晻-曖遍ニ一・一」。「一ニ」。
〔蛛絲〕蜘蛛の張れる巣。○〔鄒崧〕「綺-戸白-日橫ニ一・一ニ」。
〔琴絲〕ことのいと。○〔武元衡〕「一・一蕭-管怨ニ津-樓ニ」。
〔寸絲〕短きいと。○〔傳燈錄〕「一・一不レ掛」。
〔繅絲〕繭をひきて絲を取る。○〔劉克莊〕「細-君炊レ黍、婢一レ一」。
〔頒絲〕いとを分かちくばる。○〔周〕「典-絲一ニ一于外-内工ニ」。
〔湅絲〕絹いとを水にひたす。○〔周〕「慌-氏一レ一以ニ涗-水ニ」。
〔貢絲〕絹いとをみつぎものとし出だす。○〔國〕「使レ一ニ一於周ニ而返」。
〔衣絲〕絹いとの衣類を身に著く。○〔漢〕「妾不レ一レ一」。
〔屢絲〕絹いともて作りたる履を穿つ。○〔漢〕「一レ曳レ縞」。「一レ一」。
〔吐絲〕絹いとを口より出だす。○〔玄中記〕「蠶レ人一レ一」。
〔理絲〕絹いとをひきいたす。○〔晉〕「分レ繭一レ一」。
〔圓絲〕まろく巻きたるいと。○〔南〕「老-姥爭ニ一・一ニ」。
〔垂絲〕たれさがりたる絲、又、いとをかけ下ぐ。○〔李白〕「一・一百-尺挂ニ雕-楹ニ」。「一」。
〔綜絲〕いとをすべをさむ。○〔曹植〕「織-婦欣而一レ一」。
〔散絲〕いとをちらばす。○〔張協〕「密-雨如ニ一・一ニ」。
〔韜絲〕琴瑟を藏む。○〔鮑照〕「蒙レ管而一レ一」。「一ニ」。
〔鼓絲〕ふるきいと。○〔梁簡文帝〕「縫-鍼脆ニ一・一ニ」。
〔悲絲〕あはれにきこゆる琴の音。○〔杜甫〕「一・一與ニ急-管ニ」。
〔鳴絲〕琴のね。○〔李白〕「魏-姝弄ニ一・一ニ」。
〔機絲〕はたのいと。○〔杜甫〕「織-女一・一虛ニ夜-月ニ」。

【絳】カウ、コウ。古巷切　絳
大いに赤き色、こきあか、あけ。○〔左〕「綸-組紫-一」。
〔淺絳〕薄赤き色。○〔朱熹〕「香-臚一・一中」。
〔縱絳〕赤き色。○〔史〕「張ニ一・一帷ニ」。

〔染絳〕赤き色をそめなす。○〔白虎通〕「可ニ以レ―別ニ尊-卑-也」。
〔衣絳〕赤き色の衣物を身に著く。○〔漢〕「令ニ郎-從-官者――ニ」。「也」。
〔靑絳〕あを色と赤色と。○〔釋名〕「――爲ニ之緣ー」

【絪】 細に同じ。

【絲】 シ。七四切 寘
漆を器に塗ること、うるしぬり。

【絳】 ボウ、ム。迷浮切 尤
相和せず、むつましからず。

【緊】 緊に同じ。

【絴】 シヤウ、ザウ。徐羊切 陽
たかし（高）。

【絳】 絳に同じ。○〔格古要論〕「―-帖晉-王-府藏レ之」。

【絲】 エキ、ヤク。夷益切 陌
絲を絡ふ、まとふ。

【綏】 コウ、ク。居侯切 尤
のぶ（舒）。

七畫

【綅】 繭の古字。

【帬】 帬に同じ、殷冠の名。

【綌】 キ、ギ。渠記切 寘
㊀連なる針、はり。㊁てんびんのを（秤-綍）。

【綷】 ショウ、ゾウ。慈陵切 蒸
緝に同じ。

【絹】 ケン。規椽切 霰
㊀絲の絙くて厚き繒、きぬ、けんぷ。○〔後漢〕「助レ蠶者縹――」。
㊁射侯の綱紐、まとのはりづな。
〔遺絹〕きぬの布を贈りつかはす。○〔後漢〕「令レ―ニ――二疋ニ」。
〔贈絹〕前に同じ。○〔唐〕「――ニ――數-千-匹ニ」。
〔賜絹〕きぬを目下の人につかはす。○〔魏、註〕「―ニ其――疋ニ」。
〔織絹〕絹の布を機もておりなす。○〔白居易〕「―レ―未レ成レ疋」。
〔賻絹〕きぬの布を香奠としおくる。○〔後漢〕「―ニ―千疋ニ」。
〔餘絹〕あとに殘りあるきぬ。○〔蜀、註〕「雲有ニ軍-資――ニ」。
〔給絹〕きぬの布を給與す。○〔晉〕「又―レ―春百匹、秋二百匹」。「―十-匹ニ」。
〔官絹〕政府の所有するきぬの布。○〔晉〕「貸ニ―――十-四ニ」。
〔送絹〕絹布を送附す。○〔晉〕「皆計レ所レ侵、―レ―償レ之」。「―一疋ニ」。
〔貿絹〕きぬの布と交換をなす。○〔南〕「二升米―ニ―疋ニ」。
〔販絹〕絹の布を賣り捌く。○〔南〕「世以レ―レ―爲レ業」。
〔租絹〕税として出だす絹の布。○〔宋〕「收ニ――「歲二十-餘-萬ニ」。
〔準絹〕絹の布になずらふ。○〔魏〕「皆―レ―給レ錢」。
〔書絹〕絹の布に文字をかるす。○〔北齊〕「弼手師―レ―」。
〔責絹〕絹布をはたりて出ださしむ。○〔北齊〕「先―ニ―五疋ニ、然後爲レ受」。
〔贖絹〕罪をあがなふために出だす絹の布。○〔隋〕「收ニ――男子六-十疋」。
〔徵絹〕罪を犯して得たる絹の布。○〔北〕「乃以ニ所レ徵――五-百-匹ニ賜レ之」。
〔斂絹〕絹の布を取りたつること。○〔北〕「―ニ―數-千匹ニ遺レ之」。
〔俸絹〕俸祿として賜はりたる絹の布。○〔北〕「唯有ニ――數-十-匹ニ」。「致」。
〔餽絹〕賄與せる絹布。○〔舊唐〕「受ニ人――ニ事」。
〔納絹〕絹布を官府に上納す。○〔唐〕「商人―レ―以代ニ鹽-利ニ者」。之」。
〔賫絹〕絹布を下し賜はる。○〔唐〕「―ニ―三-千-遣レ」
〔軟絹〕柔く織りたるきぬ。○〔元〕「裹以ニ――包-袱ニ」。
〔酬絹〕報酬としてきぬの布を贈る。○〔集異記〕「―ニ―千疋ニ」。
〔封絹〕絹の布を封じ入る。○〔宜春傳信錄〕「―ニ―於庫-内ニ」。
〔生絹〕練らざる絹の布、きぎぬ。○〔畫史〕「古-畫至ニ唐-初-皆――」。
〔硬絹〕こはき絹の布。○〔畫史〕「展卷久爲ニ―ニ」。「――」。
〔寸絹〕僅かばかりなる絹の布。○〔徐陵〕「――不レ輸ニ官-庫ニ」。「兩ニ」。
〔素絹〕白ぎぬの布。○〔李白〕「度麻――排ニ數-」

【絹】 ケン。古泫切 先
罥に同じ、わな。○〔周、註〕「置ニ其所レ食之物于――中ニ」。

【絺】 チ。抽遲切 支
精細なる葛布、こまかきくずぬの、ほそぬの。○〔詩〕「爲レ―爲レ綌」。
〔縐絺〕縮みたる細き葛布。○〔詩〕「蒙ニ彼――ニ」。
〔袗絺〕單へのほそき葛ぬの。○〔論〕「當レ暑――綌、必表而出レ之」。「―ニ」。
〔葛絺〕葛もて作りたるほそ布。○〔莊〕「夏-日衣ニ―」。
〔纖絺〕かぼそき葛の布。○〔劉楨〕「羅以ニ――ニ」。
〔貫絺〕ほそき葛布を貫重す。○〔詩、疏〕「―レ―而服レ綌」。
〔始絺〕はじめてほそき葛布の衣を著く。○〔禮〕「仲-夏之月、天-子――」。
〔上絺〕ほそき葛布の衣をうはぎにす。○〔禮〕「―レ――下レ綌」。「冬則―レ―」。
〔資絺〕細き葛布をもて商ひのもとでとす。○〔國〕
〔紈絺〕白く細き葛の布。○〔唐〕「諸-子不レ服ニ――ニ」。
〔紵絺〕麻布葛布のこと。○〔說苑〕「具ニ―――三-百ニ」。
〔緅絺〕薄あかき色のほそき葛の布。○〔張衡〕「交-趾――」。「陽」。
〔麤絺〕目のあらき葛の布。○〔陶潛〕「――以應レ」
〔單絺〕前に同じ。○〔韓愈〕「――已厭レ褫」。
〔被絺〕細き葛の布を衣とし著く。○〔黃庭堅〕「臈-年―ニ―葛ニ」。

【絺】 チ。展几切 紙
黹に同じ、ぬひもの。

【絻】 ブン、モン。文運切 問
㊀喪を發する時に著する服。○〔左〕「使ニ太子―ニ」。
㊁死者を弔ひて其の棺を挽くに把る紼、ひつぎなは。○〔公羊、註〕「弔所レ執紼曰レ―」。

【絻】 ベン、メン。美辨切 銑
冕に同じ、かむり。○〔史〕「郊之廟――」。
〔冠絻〕冠を被ること。○〔史〕「若ニ入――ニ焉」。
〔紱絻〕冠をくみひもにて結ぶ。○〔淮〕「――而親-迎」。

【絻】 バン、マン。無販切 願
舟を引く繂、ふなづな。

【綄】 バン、マン。母官切 寒
つらぬ、つらなる（連）。

【紖】 チン、丈忍切 軫　ザン。
―一に、紖に作る。
牛の鼻につけて牛を牽く繩、うしのはなづな。○〔周〕「凡祭-祀飾ニ其牛-牲ー置ニ其――ニ」。

【絽】 リヨ、ロ。兩擧切 語
㊀ぬまおり（緋）。㊁衣を紩ふ、ぬふ。

【緎】 セイ、ジヤウ。市征切 庚
おる（織）。

【綍】 ヘイ、ヒヤウ。滂丁切 靑
絮を數ふるにいふ字（吳人の語）。

【絿】 キウ、グ。渠尤切 尤

㊀きびし、（急）。○〔詩〕「不レ競不レ―」。
㊁もさむ、（求）。

【絕】エフ、オフ。於業切　葉
くさきころも、（臭-衣）。

【綊】ケフ、コフ。訖業切　葉
補縫す、つゞる、ぬふ。

【綀】ショ、ソ。山於切　魚
㊀紡ぎたるあらき絲。
㊁絡の屬、くずぬの。

【綁】ハウ。補曠切　養
捕縛す、しばる。

【綂】俗の統の字。

【綃】セウ。相邀切　蕭
生絲の繒、きぎぬ、一說に、綺の屬、あやぎぬ、又一說に、輕縠、うすぎぬ。○〔禮〕「玄――衣以爲レ裼」。
〔霧綃〕はそき薄ぎぬ。○〔宋玉〕「曳ニ――之輕裾ニ」。
〔微綃〕薄ききぬの布。○〔潘尼〕「凱-風揚ニ――ニ」。
〔絳綃〕赤きうすぎぬ　○〔郭璞〕「僻レ褐披ニ――ニ」。
〔飛綃〕輕きうすぎぬ　○〔曹子顯〕「薄-穀閉ニ――ニ」。
〔生綃〕練らざるうすぎぬ。○〔韓愈〕「――數-幅垂ニ中堂ニ」。
〔擣綃〕きぬをうち練る。○〔韓愈〕「砧寒永レ――」。
〔朱綃〕赤きうすもの。○〔儀、註〕「紊衣――」。
〔單綃〕ひとへのうすもの。○〔拾遺記〕「處以ニ――華-幄ニ」。
〔卷綃〕うすききぬをまく。○〔吳都賦〕「泉室潛織而――レ――」。
〔縠綃〕うすもの。○〔劉孝威〕「勞レ君擅ニ――ニ」。
〔寇綃〕まどかけのうすもの。○〔韓愈〕「――疑ニ閟-艶ニ」。
〔素綃〕白きうすもの。○〔陸游〕「――細-織氷-霞-縷」。

【綃】サウ、セウ。所交切　肴
㊀頭髮を鈔りてつゝむと、はちまきするを。○〔後漢〕「著ニ絳――頭ニ」。
㊁帆を挂くる長木、ほばしら。○〔木華〕「維ニ長――ニ」。

【綄】クワン。胡官切　寒
風の方向をうかゞふに用ふる具、かざみ、（五-兩）。

【綄】クワン。戶管切　旱
まさふ、まさひ、（纏）。

【綄】ワン。烏悲切　諫
綰に同じ、鉤り繫ぐ。

【綅】シン。七林切　侵
あかきいと、（絳-綫）。○〔詩〕「貝-冑朱――」。

【綅】セン、ソン。息廉切　鹽
白き經にて黑き緯の帛。

【綆】カウ、キヤウ。古杏切　梗
釣瓶に著けて水を汲み揚ぐる繩、つるべなは、ゐどなは。○〔莊〕「―短不レ可レ汲レ深」。
〔汲綆〕つるべ繩。○〔隋〕「乃以レ絹爲ニ――ニ」。
〔短綆〕たけ長からざるつるべ繩。○〔說苑〕「――不レ可ニ以汲ニ深-井ニ」。
〔素綆〕白ききぬのつるべ繩。○〔古樂府〕「金-瓶――汲ニ寒-漿ニ」。
〔修綆〕長きつるべなは。○〔馬戴〕「――懸ニ林-表ニ」。
〔絡綆〕つるべ繩。○〔方言〕「關-西謂ニ之――ニ」。
〔垂綆〕たれ下がれる釣瓶なは。○〔歐陽修〕「飛泉溜ニ――ニ」「――」。
〔纖綆〕細きつな。○〔溫庭筠〕「百尺啞-々下ニ――」。
〔細綆〕前に同じ。○〔鄭谷〕「溜-々如ニ――ニ」。
〔縻綆〕つな。○〔賈島〕「吟-詠作ニ――ニ」。

【綆】ヘイ、ヒヤウ。必郢切　梗

ハン。補滿切　願
わのおほひ、輪單。○〔周〕「眡ニ其――欲ニ其蚤之正ニ也」。

【絤】シウ、シュ。息酉切　有
前の兩足を絆す、ほだす、つなぐ。

【綈】テイ、ダイ。田黎切　齊
あしぎぬ、つむぎ、あつぎぬ、（平-紬）。○〔史〕「取ニ一――袍一以賜レ之」。
〔弋綈〕黑き色の平つむぎ。○〔漢〕「身衣ニ――ニ」。
〔皂綈〕前に同じ。○〔名臣言行錄〕「烏-帽――華-帶」。「―以爲レ飾」。
〔加綈〕厚ぎぬを上にくはへのす。○〔吳淑〕「或―レ」。
〔繒綈〕厚ぎぬ。○〔張伯淳〕「積-潤浸ニ――ニ」。

【紕】紕に同じ。

【紕】ヘイ、ハイ。邊迷切　齊
あはす、（幷）。

【綉】トウ、ツ。他候切　宥
綿の一片。

【綊】ケフ、ゲフ。檄頰切　葉
㊀車の飾り。㊁かんむりのたれ、（緌）。

【綤】ヘツ、ヘチ。必結切　屑
㊀くみなは、くみいさ、（編-繩）。

【綌】ケキ、キヤク。乞逆切　陌
麤なる葛布、あらきくずぬの、ぬの。○〔詩〕「爲レ絺爲レ―」。
〔絺綌〕細き葛布とあらき葛布と。○〔周〕「以レ時徵ニ――之材ニ」。「―乖-離」。
〔袗綌〕ひとへのあらき葛布。○〔歲華紀麗〕「――」。
〔輕綌〕かろくちつらへたるあらき葛布。○〔王建〕「衣-服唯――」。「川-陽透」。
〔衣綌〕あらき葛布を身に著く。○〔梅堯臣〕「―レ―」。
〔蒙綌〕身にあらき葛布を著く。○〔柳貫〕「大-暑無ニ――ニ」。
㊁御の左に回るにいふ字。
㊀帶腰の鉤帶。

【綍】フツ、ポチ。分勿切　物
㊀紼に同じ、ひつぎなは。○〔周〕「及レ葬而屬ニ六――ニ」。
㊁大索、おほづな。○〔禮〕「其出如レ―」。
〔綸綍〕詔勅のこと。○〔柳宗元〕「捧ニ對――」、「不レ知レ所レ圖」。
〔錦綍〕にしきもて作りたるひつぎなは。○〔米芾〕「瓊-籤挿ニ――ニ」。

【綍】ヒ。方未切　未
大いなる索、おほづな。

【綎】テイ、チヤウ。他丁切　靑
ひも、（絲-綬）。

【綏】スヰ。宣隹切　支
㊀車中の把、とりて、車上に立ち又は車に上ろに把るべく設けたるもの。○〔儀〕「壻御ニ婦車ニ授レ―」。
㊁やすし、やすんず、（安）。○〔詩〕「福-履―レ之」。「―」。
㊂車を却く、しりぞく。○〔左〕「出戰交
㊃やすらかなる貌にいふ字、又、さかん

なる貌にいふ字。○[荀]「ーー今其有二文章一」。
㊄毛の長き貌にいふ字、又、つれあひて行く貌にもいふ字。○[詩]「有レ狐ーー」。
㊅黍稷を供へて尸を祭ること。○[儀]「不二ー祭一」。
（授綏）車に乘るなはを人に與ふ。○[禮]「僕幷レ轡授レー」。
（執綏）車にのるなはを手に持つ。○[論]「升レ車必正立執レー」。
（交綏）互に戰場を退くこと。○[左]「晉人從二秦師於河曲一ーー」。
（寵綏）めで安んず。○[書]「ー二ー四方一」。
（永綏）永久の間安んず。○[書]「ーー厥位一」。
（克綏）よく安んず。○[書]「ーー二厥猷一惟后」。
（撫綏）鎭めて安からしむ。○[書]「用集二大命一、ー二ー萬方一」。
（鎭綏）前に同じ。○[晉]「ー二ー南海一」。「方一」。
（底綏）安泰ならしむるとを致す。○[書]「ーレー二四-
（貳綏）車にのるときに執るなは正と副とある中の副のなは。○[禮]「取二ーー一跪乘」。
（正綏）君の車にのるとき執りて升るなは。○[禮、疏]「ーー擬二君之升一」。
（副綏）僕右の車にのるときに執りて升るなは。○[禮]「右帶レ劍負二ーー一」。○[禮、疏]「ーー擬二僕右之升一」。
（納綏）車に升るときに執るなはを脫す。○[禮]「車則ーレー、執以將命」。
（齊綏）おちと車にのるときに執るなはと。○[禮]「獻二車馬一者執二ーー一」。
（來綏）來たりておちつく。○[潙衍]「福祿ーー」。
（玉綏）玉もて飾りたる王の乘る車のとりづな。○[子虛賦]「繆二繞ーー一」。
（綏綏）龍の行く貌にいふ語。○[甘泉賦]「ー容ーーー」。「正レ位ーレー」。
（受綏）車に升るとりづなを手に受けとる。○[崔駰]
（靖綏）安泰にす。○[蔡邕]「ー二ー六合一」。
（咸綏）悉く安泰なり。○[王粲]「九域ーー」。
（妥綏）穩かにし安んず。○[陸機]「ー二ー天保一」。
（緝綏）集めて安泰にす。○[獨孤及]「ー二ー瘡人一」。
（惠綏）めぐみて安泰にす。○[張元晏]「ー二ー羣品一」。

（安綏）やすし。○[范鎭]「方面要二ーー一」。

【綏】ズヰ、ニ。儒隹切 [支]
㊀旌旗の竿頭に樹つるもの、はたかざり。○[詩]「淑旂ー章」。
㊁冠綏、かむりひも。○[禮]「夏后氏之ー」。

【綏】キ。呼恚切 [寘]
前々條の㊅に同じ。

【綏】タ。吐火切 [哿]
心又は領より下になす、くだす。○[禮]「大夫則ーレ之」。

【綏】タイ、テ。通回切 [灰]
安坐す、すわる。

【綐】タイ、テ。都外切 [泰]
つむぎ、(紬)。○[管]「刑餘戮民不二敢服レー」。

【紗】サ、セ。師加切 [麻]
ちひさし、(小)。

【綑】コン。苦本切 [阮]
㊀稇に同じ。㊁おる、(織)。

【綒】フ。芳無切 [虞]
あらきあみ、(纚網)。

【經】ケイ、キヤウ。古靈切 [青]
㊀たて。
(い)上下又は南北の方向、縱。○[算經]「正二督ーー緯一」。
(ろ)織機に縱にかゝれる絲、たていと。○[黃庭堅]「經レー緯レ緯」。
(は)上下又は南北の方向に通ずるもの。○[周、疏]「南北之道謂二之ー」。
㊁縱橫、たてよこ、又、たてよこに通ずるもの、また、絲網などの稱。○[潘岳]「織ー連レ白」。
㊂系脈、すぢ。○[素問]「何必守レー」。
㊃みち。
(い)道路、ちまた。○[周]「諸侯ー涂」。
(ろ)つれ、㊄に同じ。
㊄つれ。
(い)たゞしきすぢ、義理。○[易]「拂レー於レ丘」。
(ろ)きまりたること、變ぜざること。○[左]「天之ー也」。「ー」。
(は)禮儀、法則、のり。○[左]「武之善-
㊅區界、さかひ。○[孟]「仁政自二ーー界一始」。
㊆おる、(織)。○[黃庭堅]「ーレ經緯レ緯」。
㊇はかる、(度)。○[詩]「ーレ之營レ之」。
㊈をさむ、(治)。○[左]「以ー二三物一」。
㊉いとなむ、(營)。○[莊]「而ー二子所レ以」。
⑪ふ、さほる。
(い)往來す。○[星經]「太白ーレ天」。
(ろ)歷過す。○[張衡]「街衢相ー」。
⑫由る、順ふ。○[周]「ー而無レ絕」。
⑬みちをつく、さかひを畫す。○[周]「體レ國ーレ野」。
⑭絞縊す、くびる。○[論]「自ー二溝瀆一」。
⑮物事のすぢみちを記載したるもの、書籍。○[國]「挾レー秉レ枹」。
⑯特に、聖人の述作せる書籍。○[揚雄]「制二成六ーー洪業一也」。
（九經）(い)九種の常に行ふ事柄。○[禮]「凡爲二天下國家一有二ーー一」。
(ろ)九つのたての途。○[周]「國中ーー九緯」。
(は)九つの聖人の書。○[初學記]「禮有二周禮、儀禮、禮記一曰二三禮一、春秋有二左氏、公羊、穀梁三傳一、與二易、書、詩一、通數謂二之ーー一」。
（五經）(い)五つののり、即ち吉、凶、軍、賓、嘉の五つの禮。○[禮]「禮有二ーー一、莫レ重二於祭一」。
(ろ)五つの聖人の書。○[唐]「易、書、詩、左氏春秋、禮記爲二ーー一」。
（六經）六つの聖人の書、即ち、易、書、詩、左氏春秋、禮記、樂記。○[漢]「表二章ーー一」。
（反經）常の道にそむく。○[公羊]「權者ー二於ー一、然後有二善者一」。
（帶經）聖人の書を身に著く。○[漢]「ーレー而鋤」。
（明經）聖人の書をあきらかに知る。○[漢]「忠直ーレー」。
（守經）常の道を執りまもる。○[漢]「ーレー據レ古、不レ阿二當世一」。
（授經）聖人の書ををしへさづく。○[唐]「遣二博士一爲レーレー」。「ー・ー」。
（受經）聖人の書ををしへらる。○[漢]「欲レ從レ勝
（石經）石に刻したる聖人のふみ。○[晉]「有二ーー古文一」。
（聽經）聖人の書の講說を聽聞す。○[後漢]「因就ーレー」。
（熊經）熊の枝をよぢ上りて自ら懸かるが如くすること、即ち導引法の一種。○[後漢]「ーー鴟顧、引二挽腰體一」。「ーレー」。
（講經）ひじりのふみを講說す。○[唐]「命二碩達-
（佛經）はとけの教をしるしたるふみ。○[晉]「唯誦二ーー一」。
（橫經）聖人の書をわきばさむ。○[北齊]「ーレー受レ業之侶、遍二於鄕邑一」。「而聞」。
（窮經）聖人のふみの奧義を研究し知る。○[南]「ーー顧
（道經）老莊の教を說けるふみ。○[遼]「學者當二ーレー明レ道」。
（馱經）佛經を馬にのせてはこぶ。○[張文成]「西域ーレー之路」。
（引經）聖人の書を證據としひく。○[高適]「匡衡多ーレー」。
（不經）常あらざること。○[書]「與二其殺一不辜、寧失二ーー一」。「也」。
（禮經）(い)禮儀の常。○[禮]「著レ誠去レ僞禮之ー」。
(ろ)禮儀の事を記したるふみ。○[白居易]「一々如二ーー一」。

〔大經〕（い）大いなるのり、○〔禮〕「爲能經綸天下之——」。
（ろ）卷數の多き聖人のふみ。○〔唐〕「凡禮記、春秋左氏傳爲——」。
〔中經〕卷數の中位にある聖人のふみ。○〔唐〕「詩、周禮、儀禮爲——」。
〔小經〕卷數の少なき聖人のふみ。○〔唐〕「易、尚書、春秋公羊傳、穀梁傳爲——」。
〔政經〕政治上ののり。○〔李彭年〕「——有序、德洽人心」。「——也」。
〔善經〕善良なるのり。○〔左〕「兼弱攻昧、武之——也」。
〔釋經〕聖人のふみを解釋す。○〔宋〕「——訂史、開悟後學」。
〔先經〕常道を首とし行ふ。○〔春秋繁露〕「——而後權」。
〔挾經〕兵書を挾にかいばさむ。○〔國〕「——秉枹」。「—」。
〔常經〕常にしてかはらざるのり。○〔戰〕「兵有——」。
〔七經〕七つの聖人のふみ、即ち詩、書、禮、樂、易、春秋、論語。○〔後漢〕「乃按——」。
〔據經〕聖人のふみを根據とす。○〔宋〕「——審議」。
〔試經〕聖人の書に就きて試驗をなす。○〔晉〕「皆令——」。
〔誦經〕聖人のふみを誦讀す。○〔唐〕「七歲能——」。
〔典經〕聖人のふみ。○〔晉〕「擯闕里之——」。
〔羣經〕多くの聖人のふみ。○〔南〕「周官一書、實爲——源本」。
〔鴻經〕大いなる聖人のふみ。○〔魏〕「聖典——、炳勒金石」。
〔卷經〕聖人のふみをまきをさむ。○〔北〕「——而不談」。
〔聖經〕聖人のふみ。○〔唐〕「方修明——」。
〔梵經〕佛經の書。○〔司空曙〕「——初向竺僧求」。
〔紀經〕のり。○〔七啓〕「緩人事之——」。
〔披經〕聖人のふみを繙き見る。○〔顧雲〕「——閱史」。
〔唱經〕はとけのふみを唱誦す。○〔李洞〕「雲深靜——」。
〔傳經〕孔孟の敎のふみ。○〔楊衡〕「髮白習——」。
〔緯經〕横すぢとなりたてすぢとなる。○〔吳師道〕「修梁雄跨相——」。

【綔】コ、グ。胡故切 遇 印を佩ぶる系、いんのひも。○〔後漢〕「諸侯王以下以綔、赤絲蕤縢、各如其印」。

【綕】古文の織の字。

【糸壯】シヤウ、サウ。側況切 漾 綿を入る、わたいれ。

【緐】ヘン、ハン。附袁切 元 ハン、バン。蒲官切 寒 馬の髦（たてがみ）の飾り。

【緐】ハ、バ。蒲波切 歌 姓。

【豹糸】ヤク、アク。弋灼切 藥 ㊀しらぎぬ（縞）。㊁ねりぎぬ（練）。

【糸里】リ。力支切 支 あや（文）。

【綖】エン。以然切 先 以淺切 銑 延面切 霰 冕の前後に垂れ覆ふもの、おほひ。○〔左〕「衡紞紘綖」。

【綫】セン。私箭切 霰 いさすぢ（綫）。

【沙糸】紗に同じ。○〔漢、註〕「輕綺今之輕紗也」。

【緐】ヘン、ハン。附袁切 元 亂れ絲。

【糸㐬】リウ、ル。力求切 尤 旌旗の旆、はたのあし。

【綘】縫の省字。

【綻】縼の省字。

八畫

【綜】ソウ、ス。子宋切 宋 ㊀機の經絲の交をすべ持つ具、をさ。○〔列女傳〕「推而往引而來者—也」。㊁經理す、すぶ。○〔易〕「錯—其數」。
〔錯綜〕まじへてすべあつむ。○〔左、序〕「——經文、以盡其變」。
〔甄綜〕分かちて經理すること。○〔蜀〕「陶治世俗——人物」。
〔該綜〕兼ねあはせ總ぶ。○〔梁〕「又——百氏、皆爲諱避」。
〔機綜〕はたのをさ。○〔黃庭堅〕「候蟲響——」。
〔銓綜〕輕重善惡をはかり總ぶること。○〔晉〕「委以——」。
〔博綜〕廣くすべをさむ。○〔晉〕「——萬機、不可一日有曠」。
〔參綜〕干與して經理す。○〔晉〕「——朝權、與桓溫不協」。
〔畢綜〕悉くすべ知る。○〔晉〕「其餘巧藝、靡不——」。
〔通綜〕貫きてすぶ。○〔晉〕「——上下、旁貫庶事」。
〔旁綜〕廣くすべあつむ。○〔晉〕「加以——廣深」。
〔專綜〕一人にて擅に經理す。○〔晉〕「——機密之任」。
〔窮綜〕奧深くきはめすぶ。○〔宋〕「——幽微」。
〔關綜〕あづかりて總べをさむ。○〔魏〕「百家之言、無不——」。
〔研綜〕研究しすべ知る。○〔魏〕「五經百家、多所——」。
〔探綜〕探究し明かにしすべ知る。○〔蔡邕〕「——圖緯」。
〔闡綜〕開きあきらかにしすぶ。○〔荀悅〕「——大猷」。
〔躬綜〕己れ身をもてすべをさむ。○〔郭璞〕「——萬」。

【緣】テン、持兗切 デン。切 セン、船釧切 線 ゼン。切 しばろ（縛）。

【糸恵】セイ、セ。須銳切 霽 繐の省字。

【綝】チン。丑林切 侵 ㊀よし（善）。㊁とゞまる（止）。

【綝】シン。疏簪切 侵 —纚は、毛羽又は衣裳の垂るゝ貌にいふ語。○〔楚辭〕「舒佩兮—纚」。

【綞】タ。都果切 哿 —子は、あや（綾）。

【糸居】絇に同じ。

【綟】レイ、ライ。力霽切 霽 蒼艾の色、よもぎいろ、戻草の染色、かりやすぞめ。○〔東觀漢紀〕「復設諸侯王金璽—綬」。
〔綠綟〕みどりのいろどり。○〔宋〕「相國則——」。

【綟】レツ、レチ。力結切 屑 麻のみどりいろなるもの。

【綠】リヨク、ロク。力玉切 沃 ㊀青さ黃さの閒色、もえぎ、みどり。○〔詩〕「—兮衣兮」。㊁みどりいろの被服。○〔揮麈錄〕「知制誥衣—」。㊂王芻、かりやす。○〔詩〕「——竹猗々」。
〔采綠〕かりやすの草を採拾す。○〔詩〕「終朝——、不盈一匊」。「有——」。
〔結綠〕宋國の寶玉の名。○〔史〕「周有砥砨、宋

〔含綠〕みどりの色をもつ。○〔李白〕「山中尙―」
―」。「―レ―」。
〔眉綠〕みどりの色をきそふ。○〔庾信〕「眉將レ柳而
〔黛綠〕眉にさしたるすみ色あをし。○〔韓愈〕「粉‐
白――者、列レ屋而閒‐居」
〔新綠〕あらたに芽ざしたるみどりの色。○〔白居
易〕「風吹二――一草‐芽拆」。「―二」。
〔故綠〕もとのみどり色。○〔蘇軾〕「霜‐葉失二――
〔萬綠〕あまたのみどり色。○〔姜夔〕「――正迷レ
人一。「―レ―」。
〔染綠〕みどりの色をそむ。○〔梁元帝〕「露沾レ疑レ
〔紫綠〕むらさきの色とみどりの色と。○〔晉〕「平‐
兎衣、――二色」。「采二」。
〔碧綠〕みどりの色。○〔傅休奕〕「敷二――一之純‐
〔縹綠〕はなたの色とみどりの色と。○〔隋〕「赤白
――」。「浦以――」。
〔被綠〕みどりの色をかうむる。○〔謝靈運〕「竹綠レ
〔緋綠〕ひの色とみどりの色と。○〔宋〕「京‐朝官
衣二――一。
〔寒綠〕つめたくしてみどりの色をなす。○〔李賀〕
「――幽‐風生二短‐絲一」。
〔穠綠〕盛んなるみどりの色。○〔李賀〕「千‐山――‐
―生二雲‐外一。
〔凝綠〕みどりの色をこらしあつむ。○〔李賀〕「長‐
眉――レ幾‐千‐年」。
〔吐綠〕みどりの色を表にあらはす。○〔曹植〕「丹‐
栄―レ―」。
〔翠綠〕みどりの色。○〔曹植〕「彫以二――一」。
〔繁綠〕しげく盛んなるみどりの色。○〔白居易〕「新‐
黃開二――一」。「―レ―」。
〔垂綠〕みどりの色をたれ下ぐ。○〔張載〕「翹‐光
〔揚綠〕みどりの色をあらはしあぐ。○〔張協〕「揮二
長‐枝一以―レ―」。
〔傷綠〕みどりの色をやぶりそこなふ。○〔謝琨〕「高‐
風入レ林而―レ―」。
〔增綠〕みどりの色をまし加ふ。○〔簡子範〕「雨龍
葉―レ―」。
〔淺綠〕濃からぬみどりの色。○〔魏彥深〕「新‐枝
含二――一。

【綹】フ、ホ。斐父切 ［麌］ フウ、フ。敷救切 ［宥］
敝絮を治む。

【糸兒】ジ、ニ。如支切 ［支］ サイ。山皆切 ［佳］
㊀まさふ（纏）。
㊁繒の美しき貌にいふ字、きぬのいろよし。

【糸念】デン、チン。奴店切 ［豔］
船を挽く篋、たけづな。

【綡】リヤウ、ラウ。呂張切 ［陽］
かんむりのきれ、（冠‐纓）。

【綢】チウ、ヂユ。陳留切 ［尤］
㊀まさふ、まつはる、（纏）。○〔詩〕「―‐繆束レ薪」。
㊁むすぶ、くゝる、（縛）。○〔楚辭〕「薜‐荔拍兮蕙―」。
㊂しげし（密）。○〔詩〕「―直如レ髮」。

【綢】タウ、トウ。他刀切 ［豪］
前條の㊀に同じ。○〔禮〕「―‐練設レ旐」。

【綢】テウ、デウ。徒弔切 ［嘯］
蜩‐蟉は、龍の首の動く貌にいふ語、蜩或は綢に作る。

【糸阿】ア。於何切 ［歌］
細き繒、きぬ。

【糸空】コウ、ク。苦貢切 ［送］
絲の屬、いさ。

【緁】セフ、ソウ。郎涉切 ［葉］
縷を續ぐ、つなぐ。

【綣】ケン、コン。苦遠切 ［阮］ 區願切 ［願］
繾―は、情あつくして離散せざるを、れんごろなるを、盟ひてそむかざるを、くりかへして厭はざるを。○〔左〕「繾―從レ公」。

【絓】クワイ、エ。胡卦切 ［卦］
さゝふ、さはる（礙）。

【綥】キ、ギ。渠之切 ［支］
㊀帛の蒼艾の色、もえぎ。
㊁わらぐつ（不借）。

【綦】キ、ギ。渠之切 ［支］
㊀采文、あや。○〔博雅〕「―、綺‐綵也」。
㊁綥に同じ、もえぎ、古昔には未だ嫁せざる婦人の服色とせり。○〔詩〕「縞‐衣―‐巾」。
㊂青黑色、あをぐろ、一說に、赤黑色、あかぐろ。○〔書〕「四‐人―‐弁」。
㊃屨を拘け止どむる繫、くつひも。○〔禮〕「―繫二于踵一」。
㊄きはむ、きはまる（極）。○〔荀〕「―大而王、―小亡」。
〔屨綦〕くつのひも。○〔陸機〕「苔‐蘚――絕」。
〔文綦〕あやある履ひも。○〔劉楨〕「表以二――一」。
〔輕綦〕かろき履ひも。○〔謝靈運〕「想二――之往‐跡一」。
〔故綦〕ふるき履ひも。○〔梁簡文帝〕「苔‐階沒二――一」。
〔珠綦〕たまの飾りを施せる履ひも。○〔梁元帝〕「――趨二北‐閣一」。
〔步綦〕履ひも。○〔孫逖〕「新‐紅滿二――一」。

【綪】サウ、シヤウ。側莖切 ［庚］
㊀紆げて未だ縈はざる繩。
㊁急しき弦の聲にいふ字。
㊂詘げて戻らす、まぐ、かゞむ。

【綧】シュン、ジュン。主尹切 ［軫］
㊀布帛の幅廣、はゞ。
㊁准に同じ、きまり、かぎり。

【綨】
綦に同じ。

【糸忝】テン、トン。他廉切 ［鹽］
けおり、（罽）。

【綩】ヱン、ヲン。委遠切 ［阮］
㊀かんむりのたれ、（紘）。
㊁纁色の衣、あかきころも。
㊂あみ、（罔）。

【綪】セン。倉甸切 ［霰］
茜にて染めたる繒、あかねぞめのきぬ、一說に、靑赤色の繒、あをさあかさのまじりいろのきぬ。○〔左〕「以二大‐路少‐帛―‐茷旃‐旌一」。

【綪】セイ、シヤウ。倉經切 ［靑］
淺碧の色、あさぎ。

【綪】サウ、シヤウ。側莖切 ［庚］
㊀まぐ、（屈）。○〔禮〕「齊則―二結佩一而爵韠」。
㊁まさふ、（縈）。○〔史〕「―二繳蘭‐臺一」。

【糸育】イク、ヨク。余六切 ［屋］
青き縱糸と縹（はなだいろ）の横糸とを以て織りたる帛。

【綫】
線に同じ、いと、すぢ。○〔漢〕「不レ絕如レ―」。

【綬】シウ、ジュ。是酉切 ［有］ 承呪切 ［宥］
㊀官人の帶ぶる印の環を承け繫ぐ組、いんのひも。○〔後漢〕「秦乃以二采‐

組ニ連ヲ結於綫、光ニ明章ニ表ニ轉相結受、故謂ニ之ー一。

㊁くみひも、(組)。○〔周〕「掌ニ帷・幕・幄・帟ー之事ニ」。

〔墨綬〕くろき組みひも。○〔漢〕「邑宰銅章ー・ー、秩六百石」。

〔印綬〕しるしとしるしにつきあるひものこと。○〔史〕「佩ニ其ー・ーニ」。

〔結綬〕印のくみひもをゆふ。○〔顏延之〕「ー・ー登ニ王畿ニ」。

〔釋綬〕印のくみひもを解き去る。○〔曹冏〕「解レ印ーレー、貢ニ奉社稷ニ」。

〔組綬〕くみひものこと。○〔詩、傳〕「士佩ニ瑌珉ニ而青ー・ーニ」。

〔璽綬〕印とそのくみひもと。○〔後漢〕「得ニ其ーーニ」。

〔賜綬〕印のくみひもを下し賜はる。○〔後漢〕「ー御衣及ーニ」。

〔佩綬〕印のくみひもを身に帶ぶ。○〔唐〕「六品以下、去レ劍ーレー」。

〔章綬〕印とそのくみひもと。○〔西京雜記〕「懷ニー・ーニ」。

〔帶綬〕印のくみひも。○〔搜神記〕「省ニ內冠狗ーレー以爲ニ笑樂ニ」。

〔卷綬〕印のくみひもをまく。○〔梁簡文帝〕「ーレー避レ賢」。

〔華綬〕はなやかなる印のくみひも。○〔梁簡文帝〕「ー・ー苒・藹」。

〔文綬〕前に同じ。○〔虞世南〕「帶ニー・ーニ而旁垂」。

〔綸綬〕くみひも。○〔江淹〕「纓ニ衣ー・ー」。

〔纓綬〕冠のひもと印のひもと。○〔張說〕「ー・ー爲ニ徽纆ニ」。

〔桂綬〕印のくみひもを物に懸け下ぐ、卽ち官を罷むるにいふ語。○〔元稹〕「ーレー出ニ都門ニ」。

【經】シン。息林切 イン。夷針切 侵

久しく綏き貌にいふ字。

【絟】給に同じ。

【維】井。以追切 支

㊀つなぐ。
(い)ほだす、くゝる。○〔詩〕「縶レ之ーレ之」。
(ろ)連れ結ぶ。○〔周〕「以ーニ邦・國ニ」。
(は)係け持つ。○〔周〕「大・小相ー」。

㊁つなぐ繩、つな。○〔漢〕「是猶下度ニ江・河ニ亡中ー・楫上」。
㊂射侯をつなぐつなの舌角にあるもの。○〔儀〕「中離ニー・綱ニ」
㊃おほづな、おほもと、おほぐくり、(綱)。○〔史〕「畧擧ニ綱ー・ーニ」。
㊄天地の極隅、すみ。○〔素問〕「不レ及ニ四ー・ーニ」。
㊅發語に用ふる助字。
(い)これ、(惟)。○〔詩〕「ー鳩居レ之」。
(ろ)たゞ、(唯)。○〔荀〕「非ニー下・流水多ー邪」。

〔縶維〕つなぐこと。○〔詩〕「ーレ之ーレ之」。

〔水維〕みづのすぢ。○〔史〕「久不レ返兮ー・ー緩」。

〔坤維〕地の成立する綱維。○〔李洞〕「徐・生何代降ニー・ーニ」。

〔地維〕前に同じ。○〔庾信〕「奔河絕ニー・ーニ」。

〔四維〕四つのつな、卽ち、禮、義、廉、恥、又、東、西、南、北。○〔管〕「禮・義・廉・恥、國之ー・ー」。

〔天維〕天の成立する綱維。○〔淮〕「ー・ー建・元、常以レ寅始」。

〔乾維〕前に同じ。○〔李義府〕「載・化撫ニー・ーニ」。

〔王維〕帝王の綱紀。○〔褚淵〕「拯ニー・ー於已墜ニ」。

〔皇維〕前に同じ。○〔宋〕「蹶ニ我ー・ー、締ニ我宋・宇ニ」。

〔國維〕國家を成立する綱紀。○〔論衡〕「股ニ肱ー・ーニ」。

〔羈維〕束縛して自由をはたらかしめざること。○〔杜牧〕「才・雋受ニー・ーニ」。

【綮】ケイ、カイ。康禮切 薺

㊀きめのこまかなるきぬ、(緻・繒)。
㊁はたじるし、しるしばた、(徽・幟・信)。
㊂ほこのさや、(戟・衣)。
㊃戟の支。

〔牙綮〕歯のつきぎはの處。○〔仇池筆記〕「得ニ微・肉于ー・ーニ」。

【綮】ケイ、キヤウ。詰定切 徑 棄挺切 迴 エイ、アイ。壹計切 霽

肯ーは、筋肉の結ばれたる處、すぢのつけれ。○〔莊〕技經ニ肯ー・ーニ之未レ嘗」。

【絣】絣に同じ。

【㬨】キョク、コク。居玉切 沃

㊀つかぬ、(約)。㊁まとふ、(纏)。㊂つらぬ、(連)。

【綯】タウ、ドウ。徒刀切 豪

㊀繩索を糾絞す、あはせよぢる、よる、なはなふ、なふ。○〔詩〕「宵爾索ー」。
㊁あはせよぢりたるもの、なは、(繩・索)。○〔劉勰〕「縻以ニ尋ー・ーニ」。

〔曲綯〕車のなは。○〔方言〕「或謂ニ之ー・ーニ」。

〔茅綯〕ちがやもて作れるなは。○〔神仙傳〕「以ニー・ー懸レ之」。

〔尋綯〕長さ八尺のなは。○〔劉勰〕「縻以ニー・ーニ」。

【綀】ライ。郎才切 灰 り。陵之切 支

㊀こはきけ、(强・毛)。㊁毛起つ。

【綰】ワン、エン。烏版切 潸

㊀あし、(惡)。㊁あか、(絳)。㊂わな、(羂)。「君重ー・ー」。㊃つらぬく、(貫)。㊄かく、つなぐ、(繫)。○〔除鉉〕「綠・綬」 ㊅すぶ、(統)。○〔史〕「東ーニ穢・貉・朝・鮮・眞・番之利ニ」。

【綱】カウ。古郎切 陽

㊀おほづな。
(い)網の衆目を張り持つ大繩、あみのおほづな。○〔書〕「若ニ網在レー有レ條而不レ紊」。
(ろ)物をつなぐ大繩、つな。○〔儀〕「乃張レ侯下レー」。
(は)總要、おほもと、おほぐくり。○〔禮緯含文嘉〕「君爲ニ臣ーー、父爲ニ子ーー、夫爲ニ妻ーー」。

㊁係維す、つなぐ。○〔周〕「ーニ惡・馬ニ」。
㊂綱を張る、はる、總攝す、すべくゝる。○〔詩〕「ー・ーニ紀四・方ニ」。
㊃行列、つら、なみ。○〔鮑昭〕「離ーー別赴」。

〔紀綱〕のりとなること。○〔漢〕「ーニー人・倫ニ」。

〔天綱〕星の名。○〔晉〕「北・落西・南一・星曰ニー・ーニ」。

〔三綱〕人倫の三つの大ぐくりののり。○〔摯虞〕「爰整ニ禮・樂ニ而維ニー・ーニ」。

〔大綱〕大ぐくり。○〔洛神賦〕「陳ニ交・接之ー・ーニ」。

〔乾綱〕君主ののり。○〔晉〕「紐ニー・ー以流レ化」。

〔皇綱〕帝王の世を治むるおほもと。○〔韋昭〕「呼下聖・眞張ニー・ーニ」。

〔王綱〕前に同じ。○〔荀勗〕「ー・ー允敘」。

〔宏綱〕おほづな。○〔孔安國〕「擧ニ其ー・ーニ」。

〔人綱〕人倫の綱紀。○〔解嘲〕「上世之士、ー・ー人紀不レ生則已」。

〔條綱〕條理、綱紀。○〔柳宗元〕「左・轄備ニー・ーニ」。

〔斗綱〕北斗の第一第三第七の三星のこと。○〔漢〕「ー・ー之端、連ニ貫營・室ニ」。

〔維綱〕のりとなる。○〔漢〕「引ニー・ー盡ニ思・慮ニ」。

〔道綱〕道德のくゝりとなるつな。○〔漢〕「緯ニ六・經綴ニー・ーニ」。

〔總綱〕政治の綱紀をすべくゝる。○〔晉〕「垂・拱ーレー」。

〔潤綱〕宏大なる綱紀。○〔晉〕「唐・虞密ニ皐・人之ー・ーニ」。

〔國綱〕國家を治むる紀綱。○〔晉〕「當ニ以總ー・ーニ」。

〔頹綱〕衰へやぶれたる政の綱紀。○〔晉〕「振ニ千・載之ー・ーニ」。

〔憲綱〕のり。○〔北〕「節ニ之ー・ー、欽ニ瀰加ニ訓・導ニ」。

〔朝綱〕朝廷の綱紀。○〔辞能〕「ー・ー自有レ倫」。

〔擧綱〕あらましのすべくゝり。○〔北〕「爲レ政貴レ當レーレー」。

〔提綱〕つなを携へあぐ、卽ち、大ぐくりを擧ぐるといふ語。○〔宋〕「ーレー而衆・目張」。

〔引綱〕太きつなをひきはる。○〔成公綏〕「布レ綱ーレー」。

〔本綱〕もとのすべくゝりとなる。○〔韓〕「吏者民之ー・ー者也」。

〔民綱〕ひとのすべくゝり。○〔余靖〕「政爲ニー・ーニ」。

〔帝綱〕帝王の世を治むるのり。○〔晉樂章〕「頌ニ武文ニ建ニー・ーニ」。

〔握綱〕すべくゝりを執りもつ。○〔潘尼〕「ーレー提レ領」。

〔組網〕集まりたる政ののり。○〔論盟運〕「尋ニ建武之一ー一」。

〔網〕バウ、マウ。文兩切　養

㊀あみ。
（い）佃漁に用ひて魚鳥獸を捕らふる具、絲繩を編み結びたるもの。○〔書〕「若二ー在一レ綱」。
（ろ）經緯の斜めに行きかふ文。○〔屈平〕「ー一戶朱綴」。
（は）法律。○〔老〕「天ー恢々」。
㊁あみす。
（い）あみを施しさる。○〔王十朋〕「以「釣以ー」。
（ろ）包みくるむ。○〔漢〕「ー二羅天下異能之士一」。

〔羅網〕魚鳥を捕らふるあみ。○〔後漢〕「動行絓ニー一一」。
〔禁網〕法律。○〔漢〕「風流篤厚、ー一疏闊」。
〔結網〕あみをこしらふ。○〔王褒〕「ーレ一捕レ魚」。
〔墮網〕穢れたる世の中。○〔陶潛〕「誤落ニー一中一」。
〔觸網〕法律を犯す。○〔南〕「卿何敢故觸ーレー」。
〔世網〕世の中のおきて。○〔嵇康〕「牽レ法循レ理、不レ絓ニー一」。「毋一」。
〔采網〕あみ。○〔呂氏春秋〕「結ニー一以養二其ー」。
〔蛛網〕さゝがにの結び設けたる巣。○〔揚雄〕「倶ニー一罔漏レ鯨」。
〔漏網〕あみの目を拔けもる。○〔張協〕「朧雲如レー」「漏」。
〔疎網〕あらき目のあみ。○〔許敬宗〕「ー一妖鯢ー」。
〔魚網〕うををを捕らふるために設けたるあみ。○〔詩〕「ー一之設、鴻則離レ之」。
〔張網〕あみを布きはる。○〔韓〕「善ーレー者引ニ其綱一」。「得而因レ之」。
〔畢網〕あみを引きあぐ。○〔史〕「漁者豫且ーレー、」
〔文網〕法律のこと。○〔史〕「扞ニ當世之ー一一」。
〔買網〕鳥を捕らふるあみと魚をとるあみと。○〔漢〕「ー一不レ布ニ于壄澤一」。
〔機網〕物を陷れて捕ふるからくりとあみと。○〔後漢ニ張ニ設ー一」。「縱。
〔綱網〕世をすべをさむるのり。○〔後漢〕「ー一弛ー」。
〔科網〕おきて。○〔後漢〕「ー一稍密」。

〔計網〕計略といふに同じ。○〔吳〕但當下設ニー一ー以羅上レ之」。
〔纖網〕細き絲もてつくりたるあみ。○〔晉〕「酷祝振ニー一一」。
〔密網〕（い）こまやかなるあみの目。○〔揚雄〕「ー一離ニ於淵一」。（ろ）苛細なる法律。○〔晉〕「羅ニー一以羅ニ微罪一」。
〔寬網〕法律をゆるやかにす。○〔陳〕「ーレー省レ刑」。
〔淫網〕亂暴なる法律。○〔晉〕「俱陷ニー一一」。
〔威網〕法律のこと。○〔晉〕「ー一寬簡」。
〔脫網〕あみをぬけ出づ。○〔晉〕「ーレー之鯨、豈罟所レ制」。「寬政一」。
〔虐網〕慘酷なる法律。○〔梁〕「解ニ茲ー一、被以ニ「承ニー一之宥一」。
〔習網〕あみ。○〔陳〕「大設ニー一一」。
〔解網〕法律をゆるべて罪をゆるしつかはす。○〔南〕「悲夫」。
〔極網〕こよなき重き罪科。○〔陳〕「遂寘ニー一一、」
〔刑網〕刑律。○〔北〕「ー一太密」。
〔密網〕前に同じ。○〔唐〕「冒ニ觸ー一一」。
〔纖網〕いぐるみの矢とあみと。○〔鹽鐵論〕「ー一不レ入ニ於澤一」。

〔綳〕

綳に同じ。

〔綴〕テイ、テ。株衞切　霽

㊀つゞる、つゞく。
（い）縫ひ緝ぐ、つぎあはす、つぐ。○〔禮〕「紉レ箴請ニ補ー一」。
（ろ）合せ著く、あつめ結ぶ、さゞつく、むすぶ。○〔詩〕「爲ニ下國ー旒一」。
（は）連ぬ、繫ぐ。○〔禮〕「ーレ之以レ食」。
㊁離れず、絕えず、つゞく、あつまる、つながる。○〔荀〕「ー一然」。○〔書〕「底ー」。
㊂彩雜はりて文をなすこと。
㊃ふち（緣）。○〔屈平〕「網ー戶朱ー」。
㊄しるし（表）。○〔禮〕「行ニ其ー一兆一」。
㊅はたあし（旒）。○〔揚雄〕「熊ー耳爲レー」。
㊆かざり（飾）。○〔大戴記〕「赤ー一戶」。

〔旒綴〕はたあし。○〔杜甫〕「宮闕深ー一一」。
〔補綴〕おぎなひつゞる、卽ち取りつくろふ。○〔步里客談〕「ーニー事迹一」。「之也」。
〔連綴〕つらねつゞく。○〔周、疏〕「故用レ纓ーニー」。
〔聯綴〕前に同じ。○〔周、疏〕「相合耦而ー一一」。
〔牽綴〕ひきよせつゞく。○〔古今注〕「輙身相擊了不ニ相ー一一」。
〔點綴〕點をうちたるが如くにをちこちにつらなる。○〔晉〕「乃不レ如ニ微雲ー一一」。
〔校綴〕事實をかんがへつゞる。○〔晉〕「ーニー次第一、尋ニ考指歸一」。「無ニー一一」。
〔縫綴〕ぬひあはせつゞる。○〔晉〕「但結束相連、略」
〔緝綴〕集めつゞる、文章を作る。○〔南〕「性好ニ讀書一、愛ニー一一」。
〔集綴〕事柄をよせあつめて文に作る。○〔唐〕「ーニー當世事一」。「器」。
〔羅綴〕ならびつらなる。○〔荊州圖記〕「ー一相ー一一也」。
〔班綴〕順序を立てつらぬ。○〔却掃編〕「然初無ニ「書」。
〔編綴〕編纂しつゞる。○〔山谷題跋〕「ー一爲ニ緘ー「ーニー史漢中字一」。
〔鈔綴〕拔き出だしつゞりあはす。○〔放翁題跋〕「ー一一」。
〔粘綴〕糊もてねばしつゞる。○〔晦庵題跋〕「剪裂」
〔接綴〕つなぎあはす。○〔瀫耕錄〕「ーニー首尾一」。
〔稠綴〕多くつらなる。○〔白居易〕「纈帽珠ー一一」。
〔停綴〕つゞるをやむ。○〔姑溪題跋〕「未ニ嘗ーー一」。

〔綴〕テツ、テチ。竹劣切　屑

㊀まぐ（拘）。○〔儀〕「ーレ足以ニ燕几一」。
㊁とゞむ（止）。○〔禮〕「禮者所ニ以ー一レ淫也」。

〔綵〕サイ、セイ。此宰切　賄

㊀彩文、あや、もやう、いろ、いろどり。○〔高士傳〕「衣ニ五ー一衣一」。
㊁彩文の帛、もやうのあるきぬ、あやぎぬ。○〔晉〕「妻不レ重レー」。

〔五綵〕青、黃、白、赤、黑の五つの色。○〔孫襄〕「相鮮「ー日」。ー一衣」。
〔戲綵〕たはぶれに色どる。○〔郭鈺〕「座上衣冠ー」

〔衣綵〕五色のきものを著く。○〔趙鵠〕「ーレー獨歸去」。
〔文綵〕あや模樣。○〔古詩〕「ー一雙鴛鴦」。
〔綵綵〕綾ぎぬ。○〔白居易〕「掃ニ設金銀與ニー一」。「千餘一」。
〔縮綵〕絹。○〔庾信〕「詔賜ニー一一千段粟麥二十匹」。
〔雜綵〕（い）くさぐのあやぎぬ。○〔晉〕「ー一四十匹」。（ろ）五色の色どり。○〔晏子〕「身服不レーレー」。
〔繡綵〕ぬひとりの絹。○〔北〕「賜ニ先ー一一百匹一」。
〔奇綵〕あやしく色どりあること。○〔北〕「所レ珍在レ書、「不レ務ニー一一」。
〔兼綵〕あやぎぬをあはせ著る。○〔北〕「所レ幸昭儀嘗入衣無レーレー」。
〔鳴綵〕あやぎぬを下したまはる。○〔北〕「ーニー五「百段一」。
〔陳綵〕ふるきあや絹。○〔唐〕「故緒ー一一、觸レ手衢壞」。
〔剪綵〕あやぎぬをたちきる。○〔李白〕「吳刀ーレー「縫ニ舞衣一」。
〔綾綵〕あや絹。○〔國史補〕「賓以ニー一一」。
〔輕綵〕うすく織り成したるあや絹。○〔鼓盧閣雜組〕「共剪ニー一、作ニ連理花千餘朵一」。

〔綶〕クワ。古我切　哿

纏束す、まとふ。

〔綷〕サイ、セ。祖對切　隊　蘇同切　灰

五綵を合はせ施したるきぬ、いろどりのきぬ、ゑぎぬ。○〔史〕「ー一雲蓋而樹ニ華旗一」。

〔綷〕ス井、セ。七醉切　寘　サイ、セ。取猥切　賄

ー縩は、紈素の聲にいふ語。

〔綷〕シュツ、シュチ。即聿切　質

あまねし（周）。

〔綸〕リン。龍春切　眞　ロン。盧昆切　元

㊀いんのひも（綬）。○〔後漢〕「百石靑紺ー」。

㊁つりいと(釣-繳)。○〔詩〕「言―二之縄一」。

㊂こといと(絃)。○〔莊〕「以二文之―一終」。

㊃おほづな(綱)。○〔易、疏〕「―謂レ綱也」。

㊄麤絲、ふといと。○〔禮〕「王言如レ絲其出如レ―」。

㊅纏裹す、まといつゝむ。○〔易〕「彌二―天-地一」。

㊆經理す、つかさどる。○〔易〕「君-子以經―」。

㊇わた(絮)。○〔淮〕「―組節束」。

〔絲綸〕詔勅。○〔翰林志〕「掌二―・―之命一」。

〔投綸〕釣糸を水中におろす。○〔列〕「―レ―沉レ鉤、手揮二輕重一」。

〔垂綸〕前に同じ。○〔温庭筠〕「終日―レ―還有レ霓」。

〔紛綸〕絲すぢをもつれさす。○〔杜甫〕「紛-刀纓-切空―・―」。「愁」。

〔經綸〕すぢを立てをさむ。○〔杜甫〕「宮-禁―・―」。

〔釣綸〕つりいと。○〔杜甫〕「花浪得二―・―一」。

〔緡綸〕釣りの絲。○〔謝靈運〕「―・―不レ投」。

〔青綸〕あをき組みひも。○〔後漢〕「身無二半通二―・―之命一」。

〔綈綸〕かとりとくみいとと。○〔晉〕「武帝絶二―・―之貢一」。

〔沈綸〕水中に投じ入れたる釣りの絲。○〔抱朴〕「引二―・―以拔二潛鱗一」。

〔扱綸〕釣り絲をひく。○〔説苑〕「―レ―錯レ餌迎而吸レ之者陽-鱎也」。

〔纖綸〕細き釣り絲。○〔嵇康〕「―・―出二鱣鮪一」。

〔修綸〕長き釣りの絲。○〔孫承〕「揮二―・―於洄潤一」。

〔觸綸〕釣りの絲にかゝる。○〔呉都賦〕「文-鰩夜飛而―レ―」。

〔皇綸〕君王の經營する事柄。○〔劉禾妻〕「毗二贊―・―一」。

〔收綸〕釣り絲をかたづけをさむ。○〔陰鏗〕「釣晩欲レ―レ―」。

【綸】クワン、ケン。古頑切 刪

青絲の綬、あをきいんのひも。○〔北堂書鈔〕「送二白―巾一」。

【䌨】サク、疾各切 藥 セキ、秦昔切 陌 ザク。切 ジヤク。切

舟を引く篗、たけのなは。

【綹】リウ、ル。力九切 有

緯の十縷、一説に、二十縷。

【綺】キ。去倚切 紙

あや。

(い)其の文の邪にして經緯の縱横に順はざる繒、あやぎぬ、りんず。○〔漢〕「賈-人無レ得レ衣二錦繍―縠紵罽一」。

(ろ)文藻、彩色、いろ、つや、もやう。○〔張衡〕「流―星連」。

(は)飾りあること、巧あること。○〔陸機〕「詩緣レ情而―靡」。

〔綠綺〕琴の名、漢の司馬相如の所有せしもの。○〔張載〕「佳-人遺二我―・―琴一」。

〔振綺〕はそきあやぎぬを揮ふ。○〔李白〕「揮レ毫如レ―レ―」。

〔錦綺〕にしきとあやあるかとりと。○〔李端〕「迴-風舒二―・―一」。

〔奢綺〕はでを飾る。○〔呉〕「歷錦-罽文、繍、獨爲二―・―一」。

〔文綺〕かざりを爲す。○〔呉〕「艶-姿者、不レ待二―・―一以致レ愛」。

〔紈綺〕白きかとりとあやあるきぬと。○〔宋〕「後-庭無二―・―絲竹之音一」。

〔清綺〕きよらかに飾る。○〔南〕「思-顯彌爲二―・―一」。

〔羅綺〕うすぎぬとあやぎぬと。○〔隋〕「曳二―・―而呼-嗟躍一」。

〔華綺〕飾りのあること。○〔北〕「諸-宮-殿―・―者、皆撤二毀之一」。

〔綾綺〕あやのある絹。○〔元〕「其細-密比二―・―一」。

〔綈綺〕かとり絹。○〔元〕「帝嘉レ之、賜二―・―一旌レ之」。

〔煥綺〕かゞやきてあやあること。○〔文心雕龍〕「山-川―・―」。

〔輕綺〕重きを缺きて飾りを主とす。○〔文心雕龍〕「晉世羣-才稍入二―・―一」。

〔雕綺〕飾りのあること。○〔謝朓〕「裂二―・―之翠-羽一」。

〔藉綺〕あやあるものを布く。○〔鮑照〕「藉レ金―」「素」。

〔縉綺〕あやある絹。○〔沈約〕「拂二―・―而麗二丹―升二曲-筵一」。

【綻】タン、デン。直莧切 諫

テン、デン。堂練切 霰

ほころぶ。

(い)縫ひめ解く、ほぐる。○〔禮〕「衣-裳―裂」。

(ろ)蕾解く。○〔王禹偁〕「日照二野-塘一梅欲レ―」。

〔補綻〕衣類のほころびたる處をつくろふ。○〔杜甫〕「―レ―才過レ瘑」。

〔紅綻〕赤くなりて開かんとす。○〔杜甫〕「―・―雨肥レ梅」。

〔斷綻〕きればころぶ。○〔韓維〕「補-裳―・―搜二尺寸一」。

〔吹綻〕息をふきかけてふくらみひらかす。○〔許有壬〕「紫-簫―・―碧-桃花」。

【𦁆】エン。於幰切 藍

絲を繰りて緒を出だす、いとをくる。

【綼】ヘキ、必歴切 錫 ヒツ、毗必切 質 ヒ。頻彌切 支

ヒヤク。切 ビチ。切

㊀著て幅(きやはん)のあたりに在る裳、もすそ。○〔儀〕「縓―裼」。

㊁わた(絲-絮)。

【綽】シヤク、サク。尺約切 藥

㊀寛大にして急迫ならず、ゆるし、ゆるやか。○〔詩〕「寛兮―兮」。

㊁おほし(多)。○〔楚辭〕「滂-心―態」。

㊂婉美なる貌にも柔弱なるにもいふ字、うつくし、しなやか、しなやか、やはし。○〔傅毅〕「―・―約閑-靡」。

〔寛綽〕くつろぎてゆるやかなること。○〔晉〕「性―・―以能容」。「明」。

〔揮綽〕ふるひあがる。○〔莊〕「其聲―・―、其名高-明」。

〔弘綽〕廣くゆるやかなること。○〔鍾嶸詩品〕「雖レ不二―・―一、而文-體剿-淨」。

〔卓綽〕すぐれてゆるやかなること。○〔典引〕「―・―者莫レ崇二乎陶-唐一」。

〔閑綽〕しづかにして綽かなること。○〔任昉〕「風度―・―」。「―・―」。

〔柤綽〕やはらぎゆるやかなること。○〔沈約〕「性-調―・―」。

【綾】リヨウ。力膺切 蒸

㊀氷の如き文理ある繒、あや、あやぎぬ。○〔庾信〕「方見二靑―之重一」。

㊁平かならざる貌にいふ字。○〔王延壽〕「繒―而龍-鱗」。

〔文綾〕あやある絹。○〔唐〕「河-南府河南郡土、貢二―・―縐-穀絲-葛一」。

〔呉綾〕呉の地にて織りだしたるあやぎぬ。○〔侯寘〕「歌-姫以二―・―一」。

〔束綾〕たばねたるあやぎぬ。○〔侍兒小名錄〕「贈二蜀-錦―・―一」。

〔繚綾〕はなた色のあやぎぬ。○〔魏〕「管見二明-帝著レ縹被二―・―半袖一」。

〔異綾〕珍らしきあや絹。○〔舊唐〕「製二奇-錦―レ―一」。「―レ―」。

〔服綾〕あやぎぬの服を著る。○〔唐〕「三-品以上―・―」。

〔細綾〕絲ぼそのきぬ。○〔舊唐〕「貢二―・―瑞-綾一」。

〔胡綾〕えびすの地にて織りたるあやぎぬ。○〔梁簡文帝〕「―・―織二大-秦之草一」。

〔羅綾〕うすぎぬとあやある絹と。○〔玉海〕「河-北則―・―細-紗」。

〔縐綾〕平かならざる貌にいふ語。○〔魯靈光殿賦〕「崩―・―而龍-鱗」。

〔曳綾〕あやある絹の衣の裾をひく。○〔傅毅〕「曳二―・―穀一」。「―」。

〔綺綾〕あやある絹。○〔劉基〕「蹴レ霞躇レ露碎二―・―一」。

〔褐綾〕あらき毛織りの布とあやある絹と。○〔白居易〕「―・―袍厚暖」。

〔輭綾〕柔きあやぎぬ。○〔白居易〕「―・―腰褥薄綿被」。

〔綵綾〕五色の色どりあるあやぎぬ。○〔張渭〕「―・―五色、鸞鶴互飛」。

【綿】

緜に同じ。

【緀】セイ、千西切 齊 サイ。此禮切 薺

あや、文章。

【緁】セフ。七接切 葉 シフ。七入切 緝

ぬふ、(縫)。○〔漢〕「白-穀衣薄-紈之裏、――以二偏-諸一」。

【綅】タン、トン。他紺切 勘　セン、ソン。處占切 鹽　サン、ソン。充含切 覃

㊀衣の采色の鮮かなるにいふ字、あざやか。

㊁麻をつむぐ。○〔淮〕「――レ麻索レ縷」。

【緂】タン、トン。吐敢切 感

帛のもえぎ色のもの、もえぎのいろどり。

【縱】ショウ、シュ。將容切 冬　足用切 宋

絨の屬、いろぎぬ、一説に、車馬の飾り。

【緄】コン。古本切 阮

㊀織りなしたる帶、おび。○〔後漢〕「童-子佩レ刀――帶各一」。

㊁なは、(繩)。○〔詩〕「竹-閉――縢」。

【緄】コン。胡昆切 元

㊀ぬふ、(縫)。㊁――夷は、えびすの名。

【緄】コン、ゴン。戶袞切 銑

前條の㊀に同じ。

【緅】シウ、ス。側尤切　ソウ、ス。將侯切 尤　ス。子句切 遇　遵須切 虞

㊀青さ赤さの閒色。○〔淮〕「以レ涅染レ――」。

㊁青く赤き色の帛、いろぎぬ。○〔論〕「君-子不下以二紺――一飾上」。

【緆】セキ、シヤク。先的切 錫

㊀細き麻布、ほそぬの、又、ねりたる布、ねりぬの。○〔漢〕「曳二阿――一被二珠-玉一」。

㊁もすその下の緣。○〔儀〕「縓緆――」。

〔弱緆〕細き布。○淮「有二龍-文繁-纖――・――錐-紈一」。

〔灰緆〕緆を取りて布となしあく灰を加へて治「めたるもの。○禮「緆加二――一」。

〔綌緆〕あらき葛布と細き布と。○〔儀〕「冪用二――若――一」。

【緆】イ。以豉切 寘

前條の㊀に同じ。

【緇】シ。側持切 支

㊀黑色、くろ。○〔詩〕「――衣之宜兮」。

㊁くろき色の衣。○〔列〕「衣レ――而還」。

㊂僧侶、其のくろ衣を著るよりいふ。○〔盧綸〕「泯レ跡在二――流一」。

〔成緇〕くろき色をこしらふ。○〔列〕「熟レ素――レ――」。

〔紡緇〕つむぎたる墨染めの衣。○〔呂氏春秋〕「昔我所レ亡者――・――也」。

〔名緇〕名高き僧侶。○〔宋齊〕「瞻-護頃二――・――一」。

〔入緇〕くろきものゝ中に入る。○〔論衡〕「白紗――レ――、不レ染自黑」。

〔衣緇〕黑き衣を身に著く。○〔列〕「天雨解二衣一、――レ――而返」。

〔過緇〕黑き色の度を超ゆ。○〔魏收〕「――レ――爲レ紺」。

〔黝緇〕黑き色に黝をうつ。○〔元稹〕「――レ――成レ素」。

〔洗緇〕黑き色を染め去る。○〔陳師道〕「一――二七-年――一」。

〔披緇〕黑染の衣を著る。○〔高啓〕「――レ――別二家-入一」。

【緇】シ。壯仕切 紙　側吏切 寘

くろに染む、くろむ。○〔漢〕「涅而不レ――」。

【緈】緈に同じ、つぐ。

【緈】ケイ、ギヤウ。下頂切 迥

なほし、(直)。

【緉】リヤウ、里養切 養　ラウ。力仗切 漾

㊀履二つ。㊁よりあはす、(絞)。

【緊】キン、コン。居忍切 軫

㊀きびしく纏ひ合はす、よろ、まとふ、又、きびしく纏ひ合ふ、よろ、まつはろ。○〔楚辭〕「心――紊兮傷レ懷」。

㊁ちゞむ、(縮)。○〔素問〕「其化斂――」。

㊂きびし、(急)。○〔雲仙雜記〕「聲――而小」。

㊃かたし、(堅)。○〔管〕「戈-戟之――」。

〔凄緊〕すさまじくきびし。○〔殷仲文〕「風-物自――・――」。

〔遒緊〕かたくきびし。○〔韓愈〕「慕作二千詩一轉

〔鮮緊〕あざやかにしてかたし。○〔後耆品〕「甚爲二――・――一」。

〔圓緊〕まどかにしてかたし。○〔皮日休〕「――・――珊-瑚飾一」。

〔細緊〕こまやかにしてかたし。○〔桐譜〕「一種文-理――」。

〔高緊〕たかくきびし。○〔杜牧〕「紅絃――聲々急」。

〔愜緊〕心よくきびし。○〔杜牧〕「――・――出二塵-瑪一」。

【緋】ヒ。甫微切 微

㊀赤絳、あか。○〔酉陽雜俎〕「血可レ染レ――」。

㊁あかの練帛。○〔唐〕「袴-褶之制、五-品以-上――」。

〔衣緋〕赤き色のきぬを著る。○〔唐〕「――レ――者以二銀飾レ之」。

〔著緋〕前に同じ。○〔白居易〕「大-遙――レ――宜二老-大一」。

【緌】ズヰ、ニ。如隹切 支

㊀冠纓、かんむりのひも、纓飾、かんむりのひものかざり。○〔詩〕「冠――雙止」。

㊁蟬のくちばし、長くして腹の下に在り。○〔禮〕「范則冠而蟬有レ――」。

㊂旌の橦(はたざを)の首に旄牛の尾を注けたるもの、はた、昔、有虞氏の用ひしもの。○〔釋名〕「――有-虞-氏之旌也」。

㊃物の長く垂れ下がる貌にいふ字。○〔杜牧〕「壯-髮緌――・――」。

〔垂緌〕下がりたるはた。○〔淮〕「羽-旄――・――」。

〔紫緌〕むらさきの冠のひも。○〔禮〕「玄-冠――・――」。

〔績緌〕色どりある冠のひも。○〔禮〕「緇-布-冠――・――、諸-侯之冠也」。

〔素緌〕白き冠のひも。○〔家語〕「三-王共皮弁――・――」。

〔長緌〕ながきはた。○〔七啓〕「垂二宛-虹之――・――一」。

〔[illegible]緌〕冠のひも。○〔呂吳〕「纁-纜動二――・――一」。

〔修緌〕蟬の長き喙。○〔陸雲〕「振二――・――一以表レ首」。

〔端緌〕喙を正しくす。○〔范雲〕「――レ――挹二霄-液一」。

〔短緌〕長からざる冠の飾り。○〔顏之推〕「――・――何足レ貴」。

〔朱緌〕赤き冠のひも。○〔柳宗元〕「纓以二――・――一」。

【緢】クツ、コチ。九勿切 物　ケツ、クワチ。去月切 月

㊀えびすのころも、(狄-衣)。

㊁むすぶ、(結)。

【緍】婚に同じ。

【緎】ヨク、ヰキ。雨逼切　キヨク、ケキ。況逼切 職　イク、ヨク。乙六切 屋

㊀ぬふ、(縫)。○〔詩〕「素-絲五――」。

㊁縫會、ぬひめ。○〔爾〕「――羔-裘之縫」。

〔界緎〕ぬひ目のさかひ。○〔補、疏〕「卽皮之――・――」。

〔素緎〕白ききぬのぬひめ。○〔許月卿〕「羔-羊――・――風」。

【緫】コツ、クチ。呼骨切 月

こまか、(微)。

【縝】シン。止忍切 軫

うみを、(纑)。

【紖】チン。丑人切 眞 おび、(帶)。

【䋾】ゼフ。實攝切 葉 緡の屬、きぬ。

【綄】エン。以轉切 銑 はづな、(紖)。

【緫】ソウ、ス。倉紅切 東 一總に同じ。二青と黄との混和せる色、もえぎ。三つむぎ、(紬絹)。

【繼】繼に同じ。

【絏】緤に同じ、きづな。〇[管]「又攝二桃-渠緤一ーー」。

【緤】テフ、デフ。徒協切 葉 西國の布の名。

【縎】コ、ク。何布切 遇 絲繩、ひも。〇[穆天子傳]「引二興-服-志諸-侯王以-下以二赤-絲-蕤-縢ーー」。

【縈】縈に同じ。

九畫

【緒】ショ、ゾ。徐呂切 語 一はし、こぐち。(い)絲の端、いとぐち。〇[陳與義]「如二盆-繭抽一ー」。「其端ーーニ」。(ろ)起始、おこり、もと。〇[淮]「孰知二(は)殘餘、端末、のこり、すゑ。〇[莊]「其ー餘以爲二國-家一」。二系統、つゞき、つなぎ。〇[張衡]「宗ー中圮」。三事業、わざ、しごと。〇[周]「展二其功ーー」。四たづぬ、(尋)、又、ついづ、(次)。〇[史]「張-蒼爲二計-相一時ーー正律-暦一」。

(令緒) 善良なるあとめ。〇[書]「今王嗣二有ーー」。
(遺緒) 殘れる事業。〇[書]「守二文-武-成-康ーーー」。
(就緒) いとぐちにつく、卽ち、成功しかくること。〇[詩]「三事ーレー」。
(纘緒) 事業を受け嗣ぐ。〇[獨孤及]「用二文-字一ー」。
(功緒) 功業といふに同じ、いさを。〇[周]「展二其ーーー」。
(鴻緒) 大いなる事業。〇[唐]「紹二祖-宗之ーーー」。
(前緒) 前代の事業。〇[魏]「方當下恢二崇ーーー」。
(萬緒) あまたの事柄のこぐち。〇[列]「擾々ーー起矣」。
(頭緒) こぐち。〇[蔡邕]「適有二ーーー」。
(墜緒) 衰へすたれたる事業。〇[韓愈]「尋二ーーー之茫-々一」。
(基緒) もとゐ。〇[書]「丕承二ーーー」。
(聖緒) すぐれたる事業。〇[漢]「朕承二先-帝之ーーー」。
(承緒) 先代の事業を受けつぐ。〇[晉]「陛下ーー」。
(遐緒) 遙かに隔たりたるいさを。〇[王韶之]「綿二ーー」。「絕」。
(妙緒) たへなる事業。〇[晉]「ーー與二淳-風一竝」。
(肩緒) すぐれたる事業。〇[晉]「紛二綸ーーー」。
(帝緒) 帝王の事業。〇[王褒]「攘二却西-戎一、始開二ーーー」。
(絲緒) 絲のこぐちをゆふ。〇[王起]「網則ーレー」。
(究緒) こぐちのある所をきはめ知る。〇[北]「論レ端ーレー」。
(福緒) 幸のおこるもとゐ。〇[宋]「ーー祥-源、厥後克昌」。
(丕緒) 大いなるいさを。〇[宋]「ーー啓二宗-祊一」。
(端緒) はじめ、又、こぐち。〇[淮]「孰知二其ーーー」。
(家緒) おのが家の事業。〇[宋]「ーー淩替」。
(滅緒) もとゐを失しなふ。〇[道德指歸論]「絕レ端ーレー」。
(名緒) 名あるいさを。〇[程史]「誦二故-侯之ーー」。
(宗緒) もと。〇[揚雄]「忘二其ーーー」。
(勳緒) いさを。〇[傳毅]「光二此ーーー」。
(洪緒) 大いなる事業。〇[張敘敬]「開二帝王之ーーー」。
(茂緒) 盛んなる事業。〇[顏延之]「光二昭ーーー」。
(談緒) はなしのこぐち。〇[梁昭明太子]「消二憶ーーー」「ー留-連」。
(情緒) 情のくさぐさに動くこぐち。〇[江淹]「ーーー息」。
(絲緒) いとのこぐち。〇[江淹]「控二ーー於一ーー」。
(先緒) 前代の事業。〇[邢部]「聿遵二ーーー」。
(紊緒) もつれみだれたるこぐち。〇[王勃]「攖二六-和之ーーー」。
(懊緒) なやみわづらふ心のこぐち。〇[徐渭]「ー付二媽・妳一」。

【緋】ハイ、ヘ。補妹切 隊 はだぎ、(襦)。

【緂】タフ、ドフ。達合切 合 きぬ、(絹)。

【緗】シヤウ、サウ。息良切 陽 淺黄の色、又、其の帛。〇[後漢]「賈-人ーー縹而已」。
(緹緗) 赤き色と桑の葉の如き色と。〇[江總]「緘二彼ーーー」。
(縹緗) 黄なる色をなしたるうすき絹。〇[柳宗元]「具二筆-札一拂二ーーー」。
(綠緗) 青き青色のきぬとうすき黄なるきぬと。〇[劉孝綽]「編二ーー於七閣一」。
(靑緗) あをきうすぎぬ。〇[謝莊]「編二詔潤二ー」「ーー」。

【緛】ヂウ、ニユ。女救切 宥 雜色の繒。

【緘】カン、ケン。居咸切 咸 一封束す、ふうをなす、からぐ、とづ。〇[家語]「有二金-人三ーー其口一」。二ふうをなしたる處、ふうじめ、とぢめ、ふう。〇[宋]「必題二其ーー」。三ふうをなしたる書筒など。〇[令狐楚]「捧レー跪發」。
(啓緘) 封じめをひらく。〇[宋]「ーレー示レ之」。
(開緘) 前に同じ。〇[李白]「ーレー使二人嗟一」。
(披緘) 前に同じ。〇[蕭穎士]「亦既ーレー、慰悠交集」。
(華緘) はなやかなる書狀を封じたるもの、卽ち、うつくしき封筒のこと。〇[非煙傳]「發二ーー而思飛」。「字ー」。
(駢緘) ならべてとづ。〇[老學庵筆記]「予是ーニーー之、謂二之雙-書一」。
(素緘) 白き封じぶくろ。〇[白居易]「ーー署レ丹」。
(密緘) むなしくとづ。〇[羅隱]「ーー永恨」。
(縢緘) とぢふさぐこと。〇[虞集]「營-丘北-苑開二ーーー」。

【緘】カン、ケン。公陷切 陷 棺を束ぬるもの、かんのつかね。

【緙】カク、キヤク。楷革切 陌 一ぬふ、(紩)。二緯を織る、おる。

【緆】エイ。於罽切 霽 一きびし、(急)。二成らず、やぶる。

【緆】エツ、オチ。於歇切 月 繒壞る、やぶる。

【緆】エツ、エチ。乙列切 屑 一前々條に同じ。二小さき意にいふ字。

【線】セン。先見切 霰 すぢ。(い)絲縷、いとすぢ。〇[周]「縫-人掌二王-宮縫ーー之事一」。(ろ)細く長くしていとすぢの狀をなせるもの。〇[范雲]「春-風柳-ー長」。

〔□線〕よわき糸すぢ。○〔杜甫〕「□・□玉・紋□ニー・ー」。
〔熟線〕よくねりたる絲すぢ。○〔唐〕「貢ニー・ー綾ニ」。
〔辮線〕組み絲のすぢ。○〔元〕「作ニー・ー細・招ニ」。
〔麻線〕あさもて作りたる絲すぢ。○〔漫笑〕「姥翻以ニー・ーニ」。「共長」。
〔素線〕白絲のすぢ。○〔玄散詩話〕「ー・ー牽時恨」。「ーニ」。
〔硬線〕こはきすぢ。○〔欽硯説〕「ー・ー高起隱下」。
〔鐵線〕はりといと。○〔喬知之〕「曲・房押ニー・ー」。
〔縫線〕絲ををさめて秩序よくす。○〔劉詩〕「臨レ風ー・ー錦」。「有レ得」。
〔引線〕いとすぢを引く。○〔韓愈〕「舉・竿ーレー忽」。
〔比線〕いとすぢの如くにあること。○〔韓愈〕「ーレー茆ニ芳齋ニ」。「縫ニ」。
〔短線〕みぢかきいとすぢ。○〔孟郊〕「ー・ー無ニ長」。
〔斷線〕いときる。○〔孟郊〕「散・服ー・ー多」。
〔抽線〕絲をぬき出だす。○〔韓愈〕「調レ琴ーレー露ニ尖・鋒ニ」。

【縃】シュ、ス。諏趨切 虞 又 ショウ、シュ。聳取切 腫 箭勇切 腫
ほだす、ほだし（絆）。○〔左思〕「ーニ驟驥ニ」。

【繘】シュツ、シュチ。雪律切 質
錦の名。○〔揚雄〕「自造ニ奇・綿、紌縡ー・ー」。

【緛】ゼン、ナン。乳兗切 銑
㊀ちゞむ（縮）。㊁おろ（纖）。㊂滅維の衣。

【緜】ベン、メン。彌延切 先
㊀わた。
（い）繭を潰して擘きたる無文にして涵柔なるもの、まわた、特に其の精かきもの又は新しきもの。○〔漢〕「純ー・ー之麗・密」。（ろ）木綿の實に生ずるまわたに似たるもの、もめんわた。○〔吳錄〕「交・川永・昌木・緜樹高過レ屋、有ニ十・餘・年不レ換者一、實大如ニ酒・杯一、中有レー如レ絮、色正白」。
㊁わたを謂ひたる衣服、わたいれ。○〔鹽鐵〕「夏則衣レー」。
㊂つらなる、つらぬ（連）。○〔張衡〕「ーニ」「ー・ー絡・些」。
㊃まとふ、まつはる（纏）。○〔屈平〕「鄭日・月ニ而不レ衰」。
㊄かく、かゝる（係）。○〔張衡〕「好ニー・ー攣以倖ニ已」。「藟」。
㊅長くして絶えず。○〔詩〕「ー・ー葛・藟」。
㊆遠し。○〔陸機〕「去レ家邈以ー」。
㊇微小なり、こまし、ちひさし。○〔素問〕「ー・ー以去」。「麃」。
㊈詳密なり、くはし。○〔詩〕「ー・ー其麃」。
㊉はびこる（漫）、又ほどこす（施）。○〔穀梁〕「ー・ーニ地千・里ニ」。

〔純緜〕正粹なるわた。○〔陸游〕「黎・布敵ニー・ーニ」。
〔連緜〕つらなりて絶えざること。○〔崔湜〕「山・嶂ー・ー不レ可レ極」。「之ニ」。
〔纏緜〕まつはりつゞく。○〔蘇軾〕「世・事ーニ・ー之ニ」。
〔芊緜〕ひろがりつらなる。○〔李白〕「雜・樹窒ー・ー」。
〔衾緜〕わたの衣をよそはひ著る。○〔杜甫〕、衣冷欲レーレー」。
〔柳緜〕やなぎの花に生ずるわた。○〔李商隱〕「ー・ー相憶隔ニ章・臺ニ」。
〔佳緜〕よきわた。○〔晉〕「至・帛ー・ー」。
〔慶緜〕よろこびつゞく。○〔晉〕「純・曜未レ渝、ー・ーニ萬・祀ニ」。
〔周緜〕あまねくつらなる。○〔晉〕「ー・ーニ千・里ニ」。
〔綸緜〕絲とわたと。○〔魏〕「採ニ諸漏・戶ニ、合レ輸ニー・ーニ」。
〔絹緜〕きぬとわたと。○〔唐〕「厥賦ー・ー布・麻」。
〔毳緜〕毛とわたと。○〔老〕「重ニ狐貉・裘ニー・ーニ」。
〔絮緜〕わたのこと、新しきを緜といひ故きを絮といふ。○〔姚合〕「新・衣薄ニー・ーニ」。
〔木緜〕わたをとる草木、もめん。○〔本草〕「ー・ー有ニ草・木二種ニ」。

【[illegible]】ベツ、メチ。莫列切 屑
しなやかなり、よわし（弱）。

【緝】シフ。七入切 緝
㊀つむぐ（績）。○〔詩〕「ー・ー續作ニ衣・服ニ」。
㊁つぐ、つゞく（續）。○〔詩〕「授レ几有ニー・ー御ニ」。
㊂ぬふ（縫）。○〔儀〕「斬者何、不レー也」。
㊃輯に同じ、あつむ、あつまる。○〔褚淵碑文〕「衣・冠未レー」。
㊄ひかる（光）。○〔禮〕「於ー熙敬・止」。
㊅口舌の聲にいふ字。○〔詩〕「ー・ー翩・々」。

〔緝々〕ものいふ聲にいふ語。○〔詩〕「ー・ー翩々謀欲レ譖レ人」。
〔綏緝〕安んじ集む。○〔後漢〕「招・懷ー・ー、多降・附」。
〔輦緝〕前に同じ。○〔蜀〕「內保ニー・ー之實ニ」。
〔補緝〕おぎなひあつむ。○〔晉〕「正ニ名百・物一、ーニー四・維ニ」。
〔綜緝〕すべあつむ。○〔晉〕「威能ーニー遺・文ニ」。
〔編緝〕あみあつむ。○〔唐〕「手自ー・ー、篋・函盈・滿」。
〔諧緝〕やはらぎあつまる。○〔南〕「中・外ー・ー、人無ニ閒・言ニ」。
〔連緝〕つらねつゞく。○〔北〕「復以鐵・鎖ー・ー」。
〔撫緝〕めぐみ集む。○〔五〕「ー・ーニ兵・民ニ」。
〔營緝〕經營補緝す。○〔五〕「因ー・ーニ諸・城ニ」。
〔招緝〕呼びよせ集む。○〔五〕「ー・ー綏撫、人・士歸レ之」。
〔采緝〕取りあつむ。○〔宋〕「ーニー前・代文・字ニ」。
〔纂緝〕編纂す。○〔宋〕「唯ー・ーニ羣・人遺・著ニ」。
〔總緝〕すべをさむ。○〔董仲舒〕「ーニー百・僚ニ」。
〔湊緝〕こしらへあつむ。○〔梁簡文帝〕「因ニー・ー而成レ文」。
〔□緝〕よそほひあつむ。○〔洪邁題跋〕「卽・日勘・校ー・ー」。

【緞】カ、ゲ。胡加切 麻 ダン。杜管切 旱 タン、徒玩切 翰

雞のかゝさに張り着けたるきれ。○〔急就篇〕「厭鳥韜裏繍ー、細」。

【[illegible]】ボウ、ム。莫侯切 尤 ビウ、ム。武彪切 幽 宥 コウ、ク。丘候切 宥
㊀きぬ（絹）。㊁しばる（縛）。

【緣】
縫に同じ。

【緟】チョウ、ヂュ。直容切 冬
㊀ます（增・益）、かさなる、かさぬ（重）。㊁あつし（厚）。

【緟】チョウ、チュ。柱用切 宋
きぬのいさ（縎・縷）。

【締】テイ、ダイ。特計切 霽 テイ、ダイ。杜奚切 齊 チ、ヂ。徒二切 寘 丈尒切 紙
むすぶ、むすばる（結）。○〔史〕「合・從ーレ交」。

〔繹締〕思擇むすばる。○〔道德指歸論〕「思結ー一而不レ可レ解」。
〔交締〕まじはり結ばる。○蘇軾「歡・暎ー・ー」。
〔自締〕自然に解けざるやうになる。○〔楚辭〕「氣繚・轉而ー・ー」。

【緡】ビン、ミン。武巾切 眞 コン。呼昆切 元
㊀端に鉤をつけて魚を釣る絲、つりいと。○〔詩〕「其釣維何、維絲伊ー」。
㊁なは（繩）。○〔爾雅註〕「繩也、江・東謂ニ之ーニ」。
㊂かうむる、かうむらす（被）。○〔詩〕「言ーニ之絲ニ」。
㊃錢の孔に貫きたばぬる繩、ぜにさし。○〔漢〕「初筭ニー・錢ニ」。「之罪」。
㊄さしに貫きたる貨錢。○〔漢〕「匿レー

〔牽緡〕 釣りいとを引く。○〔六韜〕「魚求二于餌一乃一ㇾ緡一」。
〔擾緡〕 釣りいとを動かす。○〔吳都賦〕「迎二潮水一而一ㇾ一」。
〔垂緡〕 錢のさしをたれ下ぐ。○〔張正見〕「赤仄一ㇾ一」。
〔沉緡〕 釣絲を沈す。○〔駱賓王〕「一二一于川一」。
〔釣緡〕 魚をつるいと。○〔杜甫〕「飄・搴且一・一」。
〔收緡〕 釣絲ををさむ。○〔杜甫〕「釣・艇一ㇾ一」。
〔巨緡〕 大いなる釣りいと。○〔韓愈〕「一・一東釣儻可ㇾ期」。
〔脆緡〕 もろきいとすぢ。○〔陸龜蒙〕「病・來懸・著一・一絲」。
〔錢緡〕 錢のさし。○〔韓琦〕「雜以二假・僞一積二一・一」。

【緡】 ベン、メン。彌延切 先
緜に通じ用ふ。

【緡】 ビン、ミン。弭盡切 軫
㊀さかんなり（盛）。○〔莊〕「丘・陵草・木之一」。
㊁泯く合ふ、あふ。○〔莊〕「當ㇾ我一乎」。
㊂いたむ（痛）。

【緢】 バウ、メウ。莫飽切 巧　莫教切 效
旄牛の尾の如きいと、旄絲。

【緢】 ベウ、彌遙切 蕭　バウ、謨交切 肴　メウ。切　メウ。切
㊀前條に同じ。㊁絲旋る、めぐる。

【緧】 シュン、ジュン。松倫切 眞
㊀繞一一は、衣の脊脊、せぬひ。○〔揚雄〕「繞一一謂二之襦・裺一」。㊁ぬふ（縫）。

【緝】
幅に同じ、はゞ。

【緣】 エン。以絹切 先
㊀へり、ふち。
（い）衣服の邊端にまさひつけたる布帛。○〔禮〕「純袂・一」。
（ろ）物の邊端、めぐり。○〔聞見錄〕「其所ㇾ用幃・簾有二青・皮一者一」。
㊁へりを附け飾ること。○〔漢〕「一・飾以二儒・術一」。
〔徹緣〕 へりを取り去る。○〔禮〕「素衣素・裳素・冠一ㇾ一」。
〔緣緣〕 白ききぬのへり。○〔禮〕「黃・裏一・一」。
〔緅緣〕 青く赤き色のへり。○〔隋〕「以ㇾ一爲ㇾ一」。

【緣】 エン。與專切 先
㊀よる。
（い）ちなむ（因）。○〔荀〕「凡一而往埋ㇾ之」。
（ろ）たどる（循）。○〔孟〕「一ㇾ木求ㇾ魚」。
（は）したがふ（順）。○〔莊〕「一ㇾ督以爲ㇾ經」。
（に）まさふ（絡）。○〔荀〕「一ㇾ之以二方城一」。
㊁よる所、かゝりあひ、ちなみ、たより、ゆかり。○〔傳燈錄〕「俗・一未ㇾ盡」。
〔因緣〕 ちなみ、ゆかり。○〔史〕「未ㇾ有二一・一一也」。
〔攀緣〕 よづ。○〔吳融〕「一・一可ㇾ到玉峯頭」。
〔綰緣〕 つらなりまとふ。○〔舊唐〕「蘿・蔦一・一」。
〔由緣〕 ちなみ。○〔陶〕「路遐無二一・一一」。
〔萬緣〕 もろ〳〵の因緣。○〔鄭士元〕「心持二半偈一一・一空」。
〔百緣〕 前に同じ。○〔蘇軾〕「我生紛・々擾二一・一一」。
〔俗緣〕 世の中の因緣。○〔傳燈錄〕「一・一未ㇾ盡」。
〔塵緣〕 前に同じ。○〔范成大〕「軟・紅三・尺舊一・一」。
〔世緣〕 前に同じ。○〔戴叔〕「青・山謝二一・一一」。
〔前緣〕 前生の因緣。○〔蘇軾〕「此殆世・俗之所ㇾ謂一・一者」。
〔依緣〕 たよりまとふ。○〔詩、箋〕「有ㇾ所二一・一一則「超」。
〔外緣〕 おのれの身よりほかのちなみ。○〔白居易〕「一・一不ㇾ能ㇾ干」。
〔良緣〕 よきちなみ。○〔李商隱〕「舊好隔二一・一一」。
〔來緣〕 來生の因緣。○〔梁高僧記〕「永結二一・一一」。
〔宿緣〕 むかしの因緣。○〔蘇軾〕「一・一在二江・海一」。
〔妙緣〕 靈妙なる因緣。○〔梁簡文帝〕「此實生・善之一・一」。
〔縈緣〕 まとひよる。○〔宋濂〕「神・奇臭・腐相一・一」。

【緤】 セツ、セチ。先結切 屑
㊀つなぐ（繫）。○〔屈平〕「登二閬・風一而一ㇾ馬」。
㊁きづな（絆）。○〔禮〕「犬則執ㇾ一」。
〔緊緤〕 つなぎしばる。○〔漢〕「若夫束二縛之一一・一二之一」。

【緥】 ハウ、ホウ。補抱切 皓
小兒の衣被、むつき。○〔漢〕「曾・孫雖ㇾ在二襁一・一一」。

【編】 ヘン。布懸切 先
㊀あむ。
（い）簡を綴る、とづ。○〔詩、箋〕「與二衆・篇一合・一」。
（ろ）ついづ（次）。○〔穀梁〕「春・秋一・一年」。
（は）つらぬ（連）。○〔司馬相如〕「一・一列之民」。
（に）むすぶ（結）。○〔楚辭〕「一二愁・苦一爲ㇾ膺」。
（ほ）交へ織る、くむ。○〔蘇轍〕「護ㇾ筍藩・籬可二細一一」。
㊁さちいさ、さちかは、さちめ。○〔史〕「韋・一三絕」。
㊂書籍、さちぶみ、ふよもつ。○〔韓愈〕「百・家之一」。
㊃書籍の冊數にいふ字。○〔李納〕「窮二黃・石之三・一一」。
㊄髮をあみたるもの、かもじ。○〔周〕「爲二副、一、次一」。
〔簡編〕 書籍のこと。○〔溫庭筠〕「冥・心向二一・一一」。
〔蒲編〕 がまの草をあみて簡牘の代用となしたるもの。○〔鄭谷〕「一因ㇾ學更一」。
〔簡編〕 舊編の爛絕せること。○〔漢〕「傳二致一・一一」。
〔遺編〕 前人の殘しおける書籍。○〔舊唐〕「往・聖一・一、咸窺二壼・奧一」。
〔末編〕 書籍のすゑのところ。○〔晉〕「作二外・戚・傳一以繼二一・一一、非二其義一也」。
〔陳編〕 ふるき書籍。○〔蘇軾〕「獨掩二一・一一弔二「興・廢一」。
〔別編〕 別に編次す。○〔舊唐〕「一ㇾ一奏ㇾ之」。
〔次編〕 順序を立てゝあむ。○〔文心雕龍〕「魯國以二公・旦一一・一」。
〔齊編〕 ひとしく組み入る。○〔抱朴〕「一・一二庸民一」。
〔排編〕 書物を架に懸け下ぐ。○〔揚烱〕「一・一則色迹二翠・竹一」「竹・苑」。
〔韻編〕 めでたき書籍。○〔崔融〕「日載二一・一一過二雜二擬詩一」。
〔神編〕 神秘の書籍。○〔元稹〕「一・一啓二黃簡一」。
〔新編〕 あらたにあみたる書籍。○〔李商隱〕「一・一筆」。
〔舊編〕 舊を操りてあむ。○〔宋鵠〕「一・一纏絡」。
〔倦編〕 あむをものうく思ふ。○〔宋鵠〕「一ㇾ一刓ㇾ一」。
〔蠹編〕 蟲ばみたる書籍。○〔陸游〕「一・點殘燈守二一・一一」。
〔靈編〕 神靈なる書籍。○〔陸龜蒙〕「盥ㇾ手披二一・一」。
〔羣編〕 あまたの書籍。○〔乾象新書御製序〕「總覽二一・一一」。
〔故編〕 ふるき書籍。○〔楊萬里〕「吹ㇾ燈呻二一・一」。

【緶】 ヘン、ベン。蒲眠切 先
㊀枲をくむ、あむ。㊁うちひも（絛）。

【緶】 ヘン。方典切 銑
辮に同じ、いさくむ、くゝる、あむ。○〔漢〕「解二一・髮一」。

【緛】 デン、ニン。女心切 侵
㊀おる（織）。㊁さゝのふ（齊）。

【緼】 テイ、チヤウ。湯丁切 青　エイ、ヤウ。怡成切 庚
ゆるし（緩）。

【緩】クワン、グワン。戶管切 㮠(旱)

㊀ゆるし、ゆるやか。

(い)遲し、のろし、にぶし。○〔韓〕「千里之馬時一、其利ー」。

(ろ)柔し、和か。○〔呂氏春秋〕「地肥而土ー」。

(は)しまりなし、又、きびしからず。○〔釋名〕「ー浣也、斷也、持レ之不レ急則動搖浣斷自放縱也」。

(に)迫らず。○〔戰〕「齊不ニ與レ秦壤レ界而患ー」。

(ほ)寬なり、ゆたか。○〔漢〕「至ニ晩節ー治加レー」。

㊁ゆるむ。

(い)ゆるからしむ、おくらす、やはらぐ、すておく、のばす、たるむ、ゆるます。○〔孟〕「民之事不レ可レー也」。

(ろ)ゆるくなる、おくろ、やはらぐ、のぶ、たるむ、ゆるまる。○〔呂氏春秋〕「德義之ー」。

〔舒緩〕しづかにゆるやかなり。○〔北〕「舉措ー・ー」「名爲レ平」。
〔加緩〕ますくゆるやかなること。○〔漢〕「治ーレー」。
〔優緩〕ゆるやかなること。○〔後漢〕「臨政亦稱ニー・ーニ」。
〔滯緩〕敏捷急速ならず。○〔晉〕「安性ー・ー」。
〔寬緩〕くつろぎて急迫ならず。○〔史〕「ー・ー不レ苛」。
〔延緩〕ほどけゆるぶ。○〔後漢〕「宜ニ小ー・ーニ」。
〔徐緩〕ゆるやかにす。○〔魏〕「且ニーー之ニ」。
〔遲緩〕滯りて急速ならず。○〔晉〕「賞報ー・ー」。
〔疎緩〕うとくゆるやかなり。○〔北齊〕「我性實ー・ー」。
〔矜緩〕あはれみを垂れてきびしくせず。○〔北〕「乞賜ニー・ーニ」。
〔閑緩〕暇ありてのろし。○〔北〕「公緒ー・ー不レ任レ事」。
〔停緩〕滯りて急ならず。○〔隋〕「雖レ致ニー・ーニ、有レ所ニ造用ニ」。
〔淹緩〕滯れること。○宋「督ニ北ー・ーニ」。
〔調緩〕口調の迫らざること。○〔文心雕龍〕「旨切而ー・ー」。
〔掉緩〕物しづかにしていそがしからず。○〔埤雅〕「猿性ー・ー」。
〔急緩〕つよくひきしまるとゆるぶること。○〔李光〕「ー・ー必時」。
〔疲緩〕つかれてひきしまらず。○〔江淹〕「體本ー・ー、臥不ニ肯起ニ」。

【緪】コウ。古恆切 㮠(蒸) 古鄧切 㮠(徑)

㊀大索、おほなは。○〔魏、註〕「擲レ劍緣レー」。 ㊁急しく張る、はる。○〔楚辭〕「ー瑟兮交鼓」。 ㊂わたる(亘)。○〔楚辭〕「ーニ洞房ー些」。 ㊃きびし(急)。 ㊄はやし(疾)。

〔高緪〕繩わたりの戲伎。○〔舊唐〕「江右猶有ニー・ー之伎ニ」。
〔舞緪〕前に同じ。○〔通典〕「所レ謂ー・ー者也」。
〔環緪〕輪の如くにわたる。○〔韓愈〕「日月屢ー・ー」。
〔緊緪〕大なはをかく。○〔南〕「ー・ー數百人、叫呼引レ之」。
〔羅緪〕鳥をとるあみ。○〔雲笈〕「以羅ニー・ー之患ニ」。

【緫】ソウ、ス。麤叢切 㮠(東)

㊀帛の青色、あを、一說に、輕絹、うすぎぬ。○〔周〕「彫レ䈊ー」。 ㊁絲の數。○〔詩〕「素絲五ー」。

【總】緵に同じ。

【糹皆】カイ、ケ。丘皆切 㮠(佳) 口駭切 㮠(駭)

太き絲。

【緃】ショウ、ソウ。息凌切 㮠(蒸)

あさぬの(枲緝)。

【緬】ベン、メン。彌兗切 㮠(銑)

㊀ほそきいと(微絲)。 ㊁はるか(邈)、又、とほし(遠)。○〔穀梁〕「擧レ下ー也」。 ㊂思ふ貌にいふ字。○〔國〕「ーー然引レ領南望」。 ㊃かろし(輕)。

〔冥緬〕暗くはるかなり。○〔水經、註〕「幽煙ー・ー、非ニ生人所ニ安」。
〔悠緬〕はるかに遠し。○〔支遁〕「ー・ー歎ニ時往ニ」。
〔遐緬〕遠くあること。○〔陶潛〕「蒼旻ー・ー」。
〔陵緬〕空をしのぎてはるかなり。○〔謝靈運〕「登レ棧亦ー・ー」。
〔超緬〕はるかなり。○〔李白〕「原野曠ー・ー」。
〔懷緬〕思ふこと。○〔杜甫〕「予實苦ニー・ーニ」。
〔崇緬〕たかくとほし。○〔韓休奕〕「慶緒ー・ー」。
〔迂緬〕まはり遠し。○〔岳岱〕「山徑益ー・ー」。

【絗】クワイ、エ。胡對切 㮠(隊)

衣の領の緣の貌にいふ字。

【糹虔】ケン。九輦切 㮠(銑)

ちぢむ(縮)。

【緭】井。于貴切 㮠(未)

㊀きぬ(繒)。 ㊁うちひも(絛)。 ㊂いさぐち(緒)。

【糹臿】サフ、セフ。側洽切 㮠(洽)

ぬふ(縫)。

【綶】チ、ヂ。丑二切 㮠(至)

固く結ぶ、むすぶ。

【糹胄】チウ、ヂュ。直祐切 㮠(宥)

㊀わざ(業)。 ㊁いさぐち(緒)。

【緯】井。于貴切 㮠(未)

㊀よこ。

(い)左右又は東西の方向、横。○〔京、縱〕「正ニ督經ー・ーニ」。

(ろ)横に織る絲、よこいと、ぬき。○〔黃庭堅〕「經レ經緯レー」。

(は)左右又は東西の方向に通ずるもの。○〔周、註〕「東西之道謂ニ之ーニ」。

㊁縱横、たてよこ又はたてよこに通ずるもの、又、すべて經と相縱横して物事をおり成すもの丶種、すぢ、みち、もと。○〔揚雄〕「立ニ天之經ニ曰ニ陰與レ陽、形ニ地之ーニ曰ニ縱與レ横」。 ㊂經籍、しよもつ、又、其の解說。○〔蔡邕〕「探ニ綜圖ー・ーニ」。 ㊃未來記。○〔任昉〕「圖ーー著ニ王佐之符ニ」。 ㊄星。○〔陸倕〕「晷ーー冥合」。 ㊅おる(織)。○〔莊〕「ーレ蕭而食」。

〔嫠緯〕はたおる者横いとの少なきを憂ふ、即ち、者が身の上の事を憂へて他を憂ふるに暇なきことをいへる語。○〔左〕「嫠不レ恤ニ其ーニ」。
〔圖緯〕河圖六經のこと。○〔蔡邕〕「探ニ綜ー・ーニ」。
〔經緯〕たてよこのいと、即ち秩序を正して物の準則となること。○〔左〕「天地之ー・ー也」。
〔讖緯〕未來の事柄を記載したる書籍。○〔晉〕「雜覽ー・ーニ」「ー」。
〔六緯〕(い)五經及び樂緯のこと。○〔漢〕「五經ー・ー」。(ろ)五臟及び膽のこと。○〔雲笈七籤〕「我已練ニ魂精ー・ー之姓名ニ也」。
〔接緯〕よこにつぎあはす。○〔宋〕「剎礎ーレー」。
〔精緯〕精神。○〔宋〕「哀動ニー・ーニ」。
〔符緯〕未來記。○〔宋〕「協ニ應ー・ーニ」。
〔辰緯〕星辰。○宋「精氣貫ニー・ーニ」。
〔祕緯〕神祕の事柄を記したる書物。○〔魏〕「天文ー・ー」。
〔彈緯〕琴のいとをひく。○〔劉向〕「挾ニ人箏ニ而ーレー」「臆」。
〔晷緯〕日の影と五星と。○〔顏延之〕「ー・ー昭應」。
〔綜緯〕すべくくり。○〔孫綽〕「亮ニ天地之ー・ーニ」。
〔滅緯〕人ののりを失ひ破る。○〔江淹〕「毀レ禮ー」。
〔職緯〕強からざる機のよこ絲。○〔章孝標〕「殘經ー・ー不レ通レ梭」。

【糹韋】井。羽鬼切 㮠(尾)

つかぬ(束)。○〔周〕「農ーニ厥耒ニ」。

【緰】トウ、ヅ。徒侯切 尤
⊖——貲は、ぬの（布）。⊜——紫は、緆布（ぬの）の尤も精しきもの。

【緰】シュ、ス。相兪切 虞
繒の采色、いろ。

【緰】ユ。容朱切 虞
輸に通じ用ふ、裂けたる繒。

【緰】エウ。餘招切 嘯
きぬ（帛）。

【緱】コウ、ク。居侯切 尤
刀劍の把、つか、まきつか。○〔史〕「馮先-生甚貧猶有二一-劍一耳、又蒯——」。

【⿰糹封】ホウ、補孔切 董 ハウ、補講切 講 ホウ。フ。切
あさぐつ、（枲履）、又、小兒の皮履。

【⿱封糸】
⿰糹封に同じ。

【緲】ベウ、メウ。弭沼切 篠
遠く視る貌にいふ字、かすか、（微）。○〔畫繼〕「祥-光瑞-氣動二於縹——之閒一」。○
（縹緲）ひろくかすかなること。○陳陶「——不レ可レ期」。

【緳】ケツ、ゲチ。奚結切 屑
おび（帶）。○〔莊〕「正レ—係レ履而過二魏-王一」。

【練】レン。郎甸切 霰
⊖ねる。（い）素繒を煮て漚して柔かにす。○〔周〕「春曝——」。（ろ）精しからしむ、熟せしむ。○〔禮〕「簡二——桀-俊一」。（は）經驗を積む、ふけみす。○〔漢〕「昔靡レ不レ—」。
⊜ねられて成る、煮漚されて柔かくなる、精熟す、經驗積む、ねれる。○〔晉〕「在二中-朝一諳二——舊-事一」。
⊜ねりたる白繒、しろのねりぎぬ。○〔左〕「被——三-千」。
㊃えらぶ（選）。○〔漢〕「——二時-日一」。
㊄一周忌に著る服、白のねりぎぬにて製す、小祥服。○〔禮〕「——而慨-然」。
㊅白くしてつやよき貌にいふ字。○〔江淹〕「色——而欲レ奪レ光」。

（繒練）帛のあやもやうのなきもの。○〔漢〕「宜三日衣二——一」。
（大練）大はゞのねりぎぬ。○〔後漢〕「后常衣二——一」。
（明練）聰明にして熟練す。○〔晉〕「咸稱二——一」。
（幹練）事にあたりて熟練す。○〔蔡邕〕「——二——樹-事一」。
（素練）あやなきねり衣。○〔唐〕「如二輕-縑——一」、
（擣練）つきねる。○白居易「——掀眉娉」。
（縞練）白きねりぎぬ。○蘇軾「綵-中——舒二眼-界一」。「以獸衆望上」。
（揀練）えらび拔く。○〔後漢〕「誠宜下——二卓-異一」。
（選練）前に同じ。○〔水經、註〕「——二武-衛一」。
（重練）おもきねりぎぬの衣、卽ち粗なる服のこと。（〔漢〕）「久衣二——一」。
（閑練）習ひねる。○〔後漢〕「——二故-事文-札一」。
（達練）通達熟練す。○〔後漢〕「避二恭-色——二——事-體一」。
（深練）前に同じ。○〔晉〕「思-綜——」。
（校練）かんがへねる。○〔南〕「手自——」。
（官練）政府の所有に屬するねりぎぬ。○〔魏〕「有レ盜二——一」。
（諳練）そらんじ知る。○〔晉〕「悉——之」。
（綜練）總べ知る。○〔晉〕「兼——二醫術一」。
（討練）研究熟練す。○〔北〕「無レ不二——一」。
（詳練）あきらかに熟知す。○〔北〕「——二故-事一」。
（訓練）教訓習練す。○〔唐〕「——二士馬一、隨閱「——」繕-補」。
（組練）組甲被練のこと。○〔張說〕「日-華光二——一」。
（蒐練）兵士を訓練すること。○〔唐〕「此不二——一之過」。
（該練）兼ねあはせ習練す。○〔江總〕「志-業——」。
（洗練）あらひねる。○〔本草〕「可三以——二衣服一」。
（澡練）前に同じ。○束皙「——精-神、呼二吸沛-虛一」。
（文練）あやあるねりぎぬ。○〔孫知之〕「不二砧搗——一」。
（砧練）きぬたもてつくねりぎぬ。○〔韓愈〕「——終宜擣」。

【⿰糹若】ダク、ナク。匿各切 藥
綩——は、蠻夷の布の名。

【縿】タ、テ。竹下切 馬 展賈切 禡
⊖——絮は、相著く貌にいふ語。⊜絲棼る、みだる。

【緵】ソウ、ス。子紅切 東 作弄切 送
⊖八十縷の稱。○〔史〕「令三徒-隸衣二七——布一」。⊜魚罔、あみ。○〔爾、註〕「今之百-囊-罟、江-東謂二之——一」。⊜稯に通じ用ふ。

【緶】ヘン、ベン。房連切 先
⊖枲（を）をくむ。⊜衣をへりぬひす、ぬふ。

【緶】ヘン。方典切 銑
もすそを褰ぐ、かゝぐ。

【緭】ワイ、エ。烏回切 灰
紐に施し飾りたる五色の絲、いとのかざり、卽ち、五色の絲を寸斷して之を紐の線の股閒に著け繞らしたるもの。○〔顏氏家訓〕「東-宮舊-事六-色罽——」。

【緷】コン。古本切 コン、戶袞切 阮 ゴン。切 胡昆切 元 ケン、響遠切 コン。切 阮
⊖百の羽。⊜大いに束ね、つかぬ。

【緷】ウン、ナン。王問切 問
ぬきいと、（緯）。

【⿰糹科】クワ。口和切 歌
⊖あやのいろどり、（紋綵）。⊜絲を理む。

【緸】イン。伊眞切 眞
搖動する貌にいふ字、うごく。○〔馬融〕「——宛蜒-蟺」。

【緹】テイ、田黎切 齊 テイ、土禮切 ダイ。切 タイ。切 霽
赤き色、又、赤き帛。○〔周〕「辨二五-齊之名一四曰、——齊」。
（赤緹）あかくあること。○〔周〕「——用レ羊」。
（布緹）赤き色をしく。○〔盧淳熙〕「明-堂上——」。
（青緹）あをあかくある色。○梁元帝「日似二——一」。

【緺】クワイ、古蛙切 佳 クワ、古禾切 ケ。 ラ。盧戈切 歌
紫青の閒色の印の紐。○〔史〕「佩二青——一」。

【緻】チ、ヂ。直利切 寘
⊖精密なり、あらからず、こまかし。○〔後漢〕「碩-礪-釆——」。

㊀おぎなふ（補）。○〔方言、註〕「—綻二—納敝衣一」。㊁つゞれ（纏）。○〔方言〕「其敝者謂二之—一」。

（工緻）巧密なること。○〔唐〕「——過レ之」。
（細緻）こまかく密なり。○〔諸寺奇物記〕「——可レ愛」。
（密緻）こまかく行きわたる。○〔詩、箋〕「其情性——」。
（精緻）精細緻密なり。○〔唐〕「用意——」。
（詳緻）くはしく周密なり。○〔唐〕「薄最——」。
（華緻）うつくしくして質密なり。○〔宋〕「斑分二——一也」。
（堅緻）固く密なり。○〔釋名〕「其聲磬々然——」。
（薄緻）厚からずしてこまやかなり。○〔宋〕「——可レ愛」。
（膚緻）きめこまかなり。○〔益部方物記〕「茲竹或取節修——者一用爲二韋笠一」。
（潤緻）まどかにして質のこまかなり。○〔寶寧蜀識〕「——異二于餘處一」。
（叢緻）あつまりて密なり。○〔坤雅〕「根本——」。
（潤緻）うるはひありて密なり。○〔森諸紀聞〕「特——」。
（會緻）よりあひて密なり。○〔張華〕「——密固」。
（疎緻）まばらなると密なると。○〔符載〕「——不レ中」。
（組緻）まとひて密なり。○〔陸龜蒙〕「——柔美」。
（周緻）あまねく密なり。○〔戴復古〕「禮數——」。

【緼】チン。烏渾切 〔元〕
赤黃の閒色。○〔禮〕「一—韍幽衡」。

【緼】ウン。於云切 〔文〕
㊀天地の元氣、又、元氣の上りむす貌にいふ字。○〔易〕「天地絪—」。
㊁盛んなる貌にいふ字、又亂るゝ貌にいふ字。○〔楚辭〕「紛—宜二修姱而不一レ醜」。
（紛緼）髮のみだるゝ貌にいふ語。○〔長笛賦〕「——幡紆」。

【緼】ウン、チン。於粉切 〔吻〕
㊀淵奥、おくふかし、おく。○〔易〕「其易之—邪」。
㊁枲纊、ふるわた、やれわた。○〔禮〕「—爲レ袍」。
㊂亂麻、もつれあさ、くづあさ。○〔漢〕「卽束レ—請二火於亡レ肉家一」。
㊃絮纊を入れたる衣、わたいれ。○〔齊〕「不レ制二—袍之一」。
㊄くづあさにて織れる布。○〔南〕「服二麻——一」。
（袍緼）粗なる綿入れのころも。○〔周伯琦〕「二寒花叔惟——」。
（疏緼）あらきあさぬの。○〔北〕「——不レ改」。
（衣緼）綿入れのころも。○〔漢〕「兵本無レ刀、——無レ文」。
（敝緼）やぶれたる綿入れのころも。○〔褚融〕「——闕如」。
（枲緼）からむしと古わたと。○〔急就篇〕「絡紵——」。

【緅】シユク、ソク。側六切 〔屋〕
縬に同じ、ちゞめるあや。

【緅】俗の緅の字。

【緱】緱に同じ。

【縷】縷に同じ、つけひも。

【綌】ケイ。吉詣切 〔霽〕
絲結ばる、むすばる。

【緆】セン、ゼン。才先切 〔先〕
織るを一番す、おる。

【緽】テイ、チヤウ。丑成切 〔庚〕
赤き色、あか。

【緶】バン、マン。無販切 〔願〕

舟を引く縴、ひきづな。

【緱】ゴウ、グ。五侯切 〔尤〕
すみ、（隅）。

【緶】ヘイ、ハイ。必計切 〔霽〕
つむぐ、（緝）。

【緼】オウ、ウ。於候切 〔宥〕
喪に手を束ぬるもの。

【緅】セウ。思邀切 〔蕭〕
綃に同じ。

【縈】サク、ソク。色角切 〔覺〕
さづ、からぐ、（緎）。

【緾】纏の省字。

【緅】キヨ、コ。求於切 〔魚〕
無—は、いろぎぬ（綵）。

【縫】縢に同じ。

【縃】綃に同じ。

【綡】ケイ、キヤウ。居卿切 〔庚〕
冠のかけひも。

【緈】ゲフ。魚葉切 〔葉〕
つぐ、（續）。

十畫

【縈】素に同じ。

【緋】ヒ。府尾切 〔尾〕
㊀匪に同じ、竹の器。

【縈】エイ、ヤウ。娟營切 〔庚〕
㊀錦の名。○〔揚雄〕「統繽—纈」。
めぐる、めぐらす。
（い）縈き繞ふ、さりまく、まさふ、まつはる、からむ、からまる。○〔詩〕「葛藟—レ之」。
（ろ）紆曲す、まぐ、まがる、まはす、まはる。○〔張衡〕「——河之洋々」。
（廻縈）めぐる。○〔李白〕「三十六曲水——」。
（盤縈）前に同じ。○〔張衡〕「止則—二于漢沂一」。
（繚縈）わたかまりまとふ。○〔晉〕「——有二文章一」。
（綿縈）まつはりめぐる。○〔益部方物志〕「苒弱——」。
（華縈）廻旋の貌にいふ語。○〔長笛賦〕「徘徊—」。
（垂縈）たれまとふ。○〔張衡〕「被纖——、同服騈奏」。
（抽縈）引きぬきめぐらす。○〔王粲〕「思逝若二——一」。
（疥縈）うるさくまとふ。○〔張紘〕「或如二兎絲之——一」。
（經縈）たてにまとふ。○〔何偃〕「薩幹相——」。
（斜縈）なゝめにまとふ。○〔梁簡文帝〕「錦帳復——」。
（容縈）いはれなくまとふ。○〔庾肩吾〕「羅袖勿二——一」。
（逕縈）めぐらす、又、めぐる。○〔韓愈〕「牽柔誰——」。
（纏縈）まとひめぐる。○〔元稹〕「不二復相——一」。
（微縈）すこしくめぐる。○〔陸游〕「婦々欲レ斷還——」。
（紆縈）まとひめぐる。○〔黄公度〕「連山帶水自——」。
（總縈）前に同じ。○〔党懐英〕「翠峯連娟相——」。
（牽縈）引きつれまとふ。○〔胡直〕「吏事滋——」。

【絜】ラク。歷各切 〔藥〕
わた、（絮）。

【絡】絡に同じ、まこふ。

【縒】リ。鄰知切 〔支〕　レイ、ライ。憐題切 〔霽〕

㊃つなぐ、(維)。㊄絓｜は、ちげいさ。㊅綷｜は、惡しき絮。

【縉】シン。卽刃切 震 シ。將吏切 寘

㊀うす赤の色、又、其の帛。㊁搢に同じ、さしはさむ、はさむ。〇〔荀〕「｜｜レ紳而無二鉤帶一矣」。

【縊】エイ、於計切 霽 イ。於賜切 寘

くびる、くゝる。

(い)頸をくゝりしめて死ぬ。〇〔左〕「莫敖｜二于荒谷一」。

(ろ)頸をくゝりしめて殺す。〇〔周〕「不レ伏二其轅一必｜二其牛一」。

〔絞縊〕ひもをもてしめくゝる。〇〔左〕「｜｜以戮」。

〔刎縊〕首をはぬるとくゝると。〇〔宋〕「由レ是｜｜相尋」。

【⿰糸叟】シウ、シユ。七由切 尤

緧に同じ、しりがひ。

【縋】ツイ、ヅイ。直類切 寘

㊀繩を懸け下す、おろす、おろせし繩に身を託す、すがる。〇〔左〕「夜｜而出」。

㊁懸け下す繩、なは。〇〔晉〕「燭之武乘レ｜以入レ秦」。

〔繩縋〕なはをうちかけておろす。〇〔拾異志〕「鄭道士以二｜｜下百餘丈一」。

〔懸縋〕前に同じ。〇〔張衡〕「燭武｜｜而秦伯退レ師」。

〔下縋〕なはを打ちかけておろす。〇〔洞天淸錄〕「篝火｜｜方得レ之」。

〔綆縋〕釣瓶なはをおろす。〇〔劉禹錫〕「懸雷｜｜、日中見レ昧」。

【縌】ケキ、ギヤク。宜戟切 陌

いんのひも、(綬)。〇〔後漢〕「自二青綬一以上｜皆長三尺二寸」。

【⿰糸唐】タウ、ダウ。徒郎切 陽

大いなる繩、おほづな。

【縍】ハウ。博旁切 陽

㊀履の邊を治む、つくろふ。㊁縍絮、ふるわた(吳の俗語)。

【⿰糸鬼】キ。基位切 寘

きぬ、(繒)。

【縎】コツ、古忽切 コツ、胡骨切 月 コチ。グチ。

㊀結びて解けず、むすぼる。〇〔楚辭〕「心結｜｜兮折摧」。㊁繒の類。

【縏】ハン、パン。蒲官切 寒

ちひさきふくろ、(小囊)。〇〔禮〕「施二｜袠一」。

【縐】シウ、シユ。側救切 宥 ス、ソ。之遇切 遇 シユク、ソク。側六切 屋

㊀縐にちゞみを掛けて織りたる布帛、ちりめん、ちゞみ。〇〔詩〕「蒙二彼｜絺一」。

㊁ちゞむ、(縮)又、縮めるあや。〇〔史〕「襞積褰｜｜」。

〔羅縐〕うすぎぬとちゞみと。〇〔劉孝綽〕「珠圍｜｜」。

【⿰糸秊】繂に同じ、なはし。

【⿰糸栗】リツ、リチ。力質切 質

蒸｜は、いろぎぬ、(綵)、又、一說に、黃色の繒。

【縑】ケン、コン。古嫌切 鹽

絲を并せて織りたるきぬ、卽ち、ふたこぎぬ、かとりぎぬの類。〇〔漢〕「媼爲レ翁須レ作二單｜｜衣一」。

〔懷縑〕かとりをふところに入る。〇〔後漢〕「乃｜二｜一匹一」。〔後漢〕「唯｜二｜七匹一」。

〔餘縑〕かとりを殘す、又、つかひのこりのきぬ。〇

〔新縑〕あらたに織りなしたるきぬ。〇〔劉孝綽〕「｜｜綖二故素一」。「縑二」。

〔輕縑〕量のかろくあるかとり。〇〔唐〕「如二｜｜素・」

〔纖縑〕わたときぬと。〇〔韓愈〕「何況｜與レ｜」。

〔梳縑〕白きかとり。〇〔歐陽修〕「圖レ之掛二｜｜一」。

〔遺縑〕かとりを贈與す。〔後漢〕「使三其兄｜二｜百匹一」。

〔上縑〕かとりを獻納す。〇〔後漢〕「復｜二｜萬匹一」。

〔賜縑〕かとりを下し與ふ。〇〔後漢〕「増二秩一等一、｜二｜百匹一」。

〔寄縑〕きぬを寄遣す。〇〔後漢〕「令二｜レ｜以嗣一焉」。

〔裁縑〕かとりをたち切る。〇〔晉〕「｜二｜・帛一以爲レ帕」。

〔綾縑〕きぬ。〇〔北〕「大失二｜｜一」。

〔賚縑〕かとりを賜與す。〇〔隋〕「｜二｜一匹一」。

〔尺縑〕僅かばかりなるかとり。〇〔舊唐〕「無二｜｜丈・帛一」。

〔輸縑〕かとりを送致す。〇〔唐〕「賓事方興而｜レ｜」。

〔綵縑〕五色のあやあるかとり。〇〔劉克莊〕「｜｜百段支・女樂」。

〔束縑〕たばねたるかとり。〇〔圖畫見聞志〕「贈二之｜｜一」。

〔斷縑〕僅かに殘りある切れはじのかとり。〇〔畫繼〕「往々｜｜片紙、皆可二珍惜一」。

〔殘縑〕使ひのこりのきぬ。〇〔輟耕錄〕「人有二｜｜敗素一」。

〔生縑〕よく練らざるきぬ。〇〔圖繪寶鑑〕「畫二梅於｜｜一」。

〔素縑〕白きかとり。〇〔元稹〕「十疋｜｜功未レ到」。

〔熟縑〕よく練りたるかとり。〇〔陸游〕「秋淸初換｜｜衣」。

〔緗縑〕薄く黃なるかとり。〇〔王安石〕「今不レ在二

【縒】シ。又茲切 支

參｜は、參差に同じ。

【縒】サ。蘇可切 哿

鮮絜なる貌にいふ字、いさぎよし。

【縒】サク。倉各切 藥

｜綜は、みだる(亂)。

【縓】セン。逡緣切 先 取絹切 霰

㊀淺絳、うすあか、もゝいろ。〇〔爾〕「一染謂二之｜一」。㊁もゝいろの帛、もゝいろのきぬ。〇〔儀〕「麻衣｜緣」。

【⿰糸毘】ヒ、ビ。頻脂切 支

細き布。

【⿰糸婁】縷に同じ。

【⿰糸桑】シヤウ、サウ。所兩切 養

まゆ、(繭)。

【緼】縕に同じ。

【縖】カツ、ゲチ。下瞎切 黠

物を束ぬ、つかぬ。

【縩】サイ、セ。師駭切 蟹

襒｜は、衣破る、又、つゞれ。

【縗】サイ、セ。倉回切 灰

喪服、長さ六寸博さ四寸、胸の前に著く。〇〔左〕「晏嬰麤｜斬」。

〔單縗〕ひとへの喪服。〇〔北〕「嚴寒｜｜跣・足」。

〔著縗〕喪の折につくる服を身にきる。〇〔晉〕「嘗｜二｜經一」。

〔變縗〕喪服をとりかふ。〇〔唐〕「俟レ｜レ｜而召可也」。

〔解縗〕喪期を過ぎてその喪服を解除す。〇〔唐〕「讖召布｜レ｜」。

【縗】サ。蘇何切 歌

鷺の羽を編みて爲れる衣。

【縗】スヰ。雙隹切 [支]
鷺の首毛。

【縘】ケイ。牽奚切 [齊]
惡しき絜。

【⿰糸蚤】繅に同じ。

【⿰糸荒】絖に同じ。

【⿰糸祟】スヰ。雖遂切 [寘]
管に巻きつけたる緯糸、くだいと。

【⿰糸留】リウ、ル。力求切 [尤]
あやぎぬ（綺）。

【⿰糸鬲】カク、ギヤク。下革切 [陌]
きいと（生-絲）。

【⿰糸茸】ジヨウ、ニユ。如容切 [冬]
絲の飾り。

【⿰糸茸】ジヨウ、ニユ。而用切 [宋]
⿰革茸に同じ、くらのけのかざり、一說に、けおり（罽）。

【⿰糸茸】ジヨウ、ニユ。乳勇切 [腫]
なは（繩）。

【⿰糸恩】コン。虎本切 [阮]
むすぶ（結）。

【縚】タウ、トウ。他刀切 [豪]
㊀條に同じ、くみひも。㊁かくす（藏）。㊂ひろし（寛）、㊃つるぎのふくろ（劒-衣）。

【縛】ハク、符約切 [藥] バク。ハ、符臥切 [箇] バ。
㊀しばろ、くゝろ。
(い)薄り束ぬ、巻き繋ぐ、からむ、つかぬ、つなぐ。○〔左〕「—レ一如レ瑱」。
(ろ)捕らへつなぎて自由を得しめず、いましむ。○〔史〕「執—レ之」。
(は)すべてからめて自由を得しめざるにいふ字。○〔杜甫〕「苦レ被二微-名—一」。
㊁いましめしばろを、いましめ、なは、又、つかれつなぐ繩、なは、きづな。○〔晉〕「束レ身就レ—」。
㊂車下の鉤心、くろましばり。○〔釋名〕「—在二車-下一、與レ輿相連-縛」。

〔束縛〕つかねしばりて自由を失はしむ。○〔史〕「—以二刑-罰一」。
〔縲縛〕前に同じ。○〔北〕「惟用二—・—一」。
〔面縛〕手を背にしばりて面前に向かふ。○〔左〕「微-子—・—銜レ璧」。
〔解縛〕しばりたる繩をはなちやる。○〔隋〕「—レ—授以二紙筆一」。
〔釋縛〕前に同じ。○〔晉〕「遂—二其—一」。
〔緊縛〕とらへしばる。○〔賈誼新書〕「—・—榜-笞」。
〔執縛〕前に同じ。○〔史〕「即—二—之一」。
〔急縛〕つよくしばる。○〔杜甫〕「往々遭二—・—一」。
〔生縛〕いけ捕にす。○〔白居易〕「即應二—・—一」。
〔自縛〕己れと己れをしばる。○〔魏〕「條遂—・—出」。
〔寬縛〕繩めをゆるぶ。○〔魏、誌〕「命使レ—レ—」。
〔收縛〕捕らふ。○〔三輔黃圖〕「業等—・—考-問」。
〔就縛〕捕はれの者となる。○〔晉〕「束レ身—レ—、不二敢顧-望一」。
〔狙縛〕ねらひ設けてしばる。○〔唐〕「—二—王-緖一以徇」。
〔被縛〕しばらる。○〔唐〕「翰—レ—云」「也」。
〔速縛〕つゞけてしばる。○〔釋名〕「與レ輿相—・—」。
〔纏縛〕まつはりて身の自由を失ふ。○〔淨住子〕「已離二妻-子一無二—・—一」。
〔囚縛〕捕へしばる。○〔林子春傳〕「爲レ所二—・—一」。
〔結縛〕ゆはへしばる。○〔庾信〕「消二除—・—一」。
〔袒縛〕肩はだをぬぎ手をしばる。○〔賈至〕「係-頸—・—而請レ命」。
〔勒縛〕しばる。○〔元稹〕「火-伴相—・—」。
〔劫縛〕おびやかししばる。○〔柳宗元〕「鄉之行二—・—一者側レ目」。
〔毆縛〕うちたゝきしばる。○〔柳宗元〕「—二—農民一」。
〔羈縛〕つなぎしばる。○〔袁凱〕「雞-犬遭二—・—一」。
〔擒縛〕とりこにす。○〔金剛經塢異〕「遂—二—五-六-人一」。

【縛】フ、ボ。符遇切 [遇]
紨に同じ、なは（繩）。

【⿰糸剡】タン、トン。他感切 [感]
帛の雜色なるもの、あさぎいろのきぬ。

【縜】ヰン、于倫切 [眞] 羽敏切 [軫] ウン、チン。王分切 [文] 羽粉切 [吻]
侯（まと）の綱を持つ紐、つなひも。○〔周〕「上-綱與二下-綱一出レ舌尋—寸焉」。

【⿱朔糸】サク、ソク。色角切 [覺]
こづ（封）。

【縝】シン。稱人切 [眞] チン。痴鄰切 [眞]
㊀うみたるあさいと。○〔揚雄〕「纑謂二之—一」。
㊁みだろ（紛）。

【縝】シン。之忍切 [軫]
㊀前條の㊀に同じ。
㊁こまか（緻）。○〔禮〕「—・—密以栗」。
㊂鬒に同じ、くろかみ。○〔謝朓〕「誰—不レ變」。
㊃むすぶ（結）。㊄ひとへ（單）。

【⿰糸犀】チ、ヂ。直利切 [寘]
ぬふ（縫）。

【縞】カウ、古考切 [皓] コウ。居號切 [號]
練繒、ねりぎぬ、精繒、こまかききぬ、白繒、しろぎぬ、一說に、生絹、きぎぬ。○〔詩〕「—衣綦-巾」。

〔纖縞〕細ききぬ。○〔晉〕「除-州既籠玄—・—」。
〔阿縞〕極めて精緻なるねりぎぬ。○〔史〕「—・—之衣」。
〔曳縞〕あざやかなるねりぎぬをひく。〔漢〕「服レ絲—レ—」。
〔紵縞〕織りたる麻布とねりぎぬと。○〔蘇轍〕「白-鳥飛二—・—一」。
〔織縞〕ねりぎぬをおる。○〔說苑〕「妻善—レ—」。
〔綺縞〕あやあるねりぎぬ。○〔後漢〕「今衣二—・—一傅-粉-墨」。「沙-隨也」。
〔緹縞〕あかきねりぎぬ。○〔大戴禮〕「—・—也者」「之」。
〔薄縞〕うすきねりぎぬ。○〔淮〕「—・—之檮、將荷之矯」。
〔素縞〕しろききぬ。○〔論衡〕「令二京-公—・—哭」。
〔鮮縞〕あざやかなるねりぎぬ。○〔元稹〕「織-韋琴二—・—一」。
〔破縞〕うすぎぬをつきやぶる。○〔孔武仲〕「勁-弩—・—已衰雖レ—レ—」。

【⿱暴糸】ハク、伯各切 [藥] バク。ホク、歩木切 [屋] ボク。
えり（領）。

【縟】ジヨク、ニク。儒欲切 [沃]
㊀繁多なる采飾、いろどり、かざり。○〔張衡〕「采-飾纖—」。
㊁もの多し、度かさなれり、おほし、しげし。○〔儀〕「其文—」。

〔繁縟〕しげき色どりのあると。○〔曹植〕「步-光之劍、華-藻—・—」。
〔優縟〕ゆたかにおほし。○〔唐〕「賜-賚—・—」。

（茂縟）なゝめにかさ〳〵あること。○〔玉海〕蔚牙——」。「之——」。
（蔚縟）さかんにさげき色どり。○〔易、疏〕「如豹文——」。
（紛縟）色どりしげくあること。○〔後漢〕「榮華——」。「悍而外——」。
（柔縟）やはらかく色どりのあること。○〔晉〕「紹內勁
（穠縟）れいの繁くあること。○〔宋〕「——儀豊」。
（婉縟）さなやかにして色どりの繁くあること。○〔唐〕「文章——」。
（鮮縟）あざやかにして色どりの繁くあること。○〔倉經〕「色正碧——可愛」。
（雕縟）えりちりばめ色どりかざる、卽ち修飾を施すこと。○〔文心雕龍〕「古來文章以——成體」。
（華縟）飾りのあること。○〔古器評〕「——爛然濃日」。〔孫誼〕「質如——」。
（細縟）こまかくして色どりのさげくあること。○〔公
（繳縟）繳紛にして色どりさげし。○〔張衡〕「采飾——」。「——」。
（珍縟）めづらかなる色どりおほし。○〔李尤〕「密采
（綺縟）あやさげし。○〔江淹〕「勝雜樹之——」。
（掩縟）さげき色どりをおほひかざす。○〔謝莊〕「列宿——」。
（綺縟）あやをなし色どる。○〔江淹〕「首飾——」。

【縠】コク、ゴク。胡谷切 屋
面に縐める文ある細縛、ちりめん、もち。○〔宋玉〕「動霧——以徐步」。
（綺縠）あやあるうす絹。○〔潛夫論〕「或裁切——」。〔漢〕「厠——」。
（霧縠）輕くほそくしてきりの如くにあるうす絹。○
（文縠）あやあるうすぎぬ。○〔曹植〕「被——之華裾」。
（薄縠）うすき絹。○〔蕭子顯〕「——開飛綃」。
（尺縠）丈の短きうすぎぬ。○〔戰〕「不若愛——」。
（羅縠）ろ、もち。○〔後漢〕「錦綺——」。〔也〕。
（綃縠）うすぎぬ。○〔埤雅〕「相去數丈之間、如隔——」。
（纖縠）色どりあるうす絹。○〔後漢〕「錦綺——」。
（紈縠）色の白きはそぎぬ。○〔柳宗元〕「稍歎——」。
（繐縠）はそきぬ。○〔楽書〕「衣不——」。
（蹙縠）うすぎぬをかさぬ。○〔曹植〕「累如——」。
（碧縠）青きちりめんのきぬ。○〔貫休〕「微波散——」。
（細縠）こまかなるちりめんのきぬ。○〔吳師道〕「皺紋縈——」。
（紋縠）あやある縮緬のきぬ。○〔王逢〕「風過細浪生——」。

【綷】サイ、作亥切 賄 サイ。作代切 隊
こゝ（事）。○〔漢〕「上天之——」。

【緆】タフ、トフ。託盍切 合
索なもて買を設け物をかけ捕る、なはなかけとる。○〔通鑑〕「飛縄以——廁仁節生獲之」。

【縢】トウ、ドウ。徒登切 蒸
㊀からぐ、さづ（約）。○〔詩〕「竹閉緄——」。
㊁ひも、なは（繩）。○〔詩〕「朱英綠——」。
㊂さぢたる所、さぢめ、ふうじめ、又、さぢふうじたるつゝみ。○〔謝靈運〕「啓——剖蹻」。
㊃脛に著くる衣、はゞき、むかばき。○〔戰〕「嬴——履蹻」。
㊄幐に同じ、ふくろ、きんちやく。○〔後漢〕「小乃制爲——囊」。
（緘縢）とぢからぐ。○〔後漢〕「皆各——、不敢陳設」。
（封縢）前に同じ。○〔後漢〕「——于瑤壇之上」。
（纓縢）いとをもてとぢからぐ。○〔逸周書〕「年不登、甲則——」。
（羅縢）うすぎぬのむかばき。○〔七林〕「綺袴——」。

【縣】ケン、ゲン。胡涓切 先
㊀かく、又、かゝる。
（い）係繫す、つなぐ、つながる。○〔荀〕「——之以王者之功名」。
（ろ）垂下す、さぐ、さがる。○〔後漢〕「以朽索——萬斤石于心上」。
（は）揭ぐ、又、揚がる。○〔易〕「——象著明」。
（に）視す、又、見はる。○〔淮〕「不可——以利」。
（ほ）隔絶す。○〔漢〕「——隔千里」。
㊁かくる樂器、卽ち、鐘磬の類。○〔周〕「化樂——之位」。
（四縣）樂器の四面にかゝる。○〔宋〕「金石——、用之郊廟」。
（樂縣）鐘磬の簨簴にかゝる。○〔白居易〕「始就——變雅音」。
（庋縣）山を祭る。○〔爾〕「祭山曰——」。
（心縣）心定まらず。○〔陸雲〕「徑怕——」。
（宿縣）前夜の中にかけおく。○〔詩、疏〕「樂人——」。
（徹縣）かけたるものを取り除く。○〔禮〕「大夫無故不——」。「繼」。
（耨縣）兵粮の乏しくあること。○〔魏〕「——而難」。
（挂縣）かゝげ下ぐ。○〔隋〕「爲崇牙以——」。

【縣】ケン、ゲン。形甸切 霰
郡又は府に係屬する行政上の一區劃、あがた。○〔周〕「邦——之賦」。
（行縣）あがたを巡行す。○〔高適〕「——雨隨軺」。
（受縣）一縣をもらひ受く。○〔左〕「上大夫——」。
（容縣）一のあがたをこぞりて人の居らざなること。○〔史〕「沛中——」。「——如故」。
（削縣）既に賜ひしあがたを取りあぐ。○〔漢〕「——不稱軍意」。
（治縣）あがたの政を爲す。○〔漢〕「直自知——」。「——」。
（邊縣）邊境にあるあがた。○〔後漢〕「五原之——」。
（僻縣）前に同じ。○〔韋莊〕「——不容投刺客」。
（莅縣）あがたを管轄す。○〔晉〕「將以——」。
（連縣）あまたのあがたをつらねあはす。○〔隋〕「兼州——」。
（監縣）あがたを監督す。○〔水經、註〕「始置三十六郡以——矣」。
（比縣）近隣のあがた。○〔晉書〕「北餘及於——旁州」。

【縘】ケイ、ガイ。胡計切 霽
おび（帶）。

【縤】ソ、ス。桑故切 遇
きぬ（生帛）。

【縥】シン、ソン。阻近切 吻
水急なり、はやし。

【緫】古の總の字。

【緇】緇に同じ、くろし。○〔隸釋〕州輔碑「涅而不——」。

【緊】キン。苦隕切 軫
しばる（束縛）。

【絚】俗の綱の字。

十一畫

【縩】サイ。倉代切 隊
綷——は、鮮かなる衣、又衣の聲にいふ詞。○〔漢〕「紛綷——兮」。

【縪】ヒツ、ヒチ。壁吉切 質
㊀さゞまる（止）。
㊁ひざかけ（韍）。
㊂ぬひめ（縫）。○〔儀〕「冠六升外——」。

【縪】ヘツ、ヘチ。必結切 屑
圭玉の中央をくゝる。

【縫】ホウ、ブ。符容切 冬 フウ、ブ。符風切 東
○ぬふ。

(い)布帛を刺し綴る、ぬひあはす。○［魏］「可三以一レ裳」。
(ろ)補合す、つぎあはす、とりつくろふ。○［左］「敢拜二子之彌一レ一二」。
㊁ぬふ方、ぬふ所、ぬひかた、ぬひもの。○［詩］「羔羊之一」。

〔彌縫〕補ひあはす。○［左］「一二一北闕一、而匡二救其災一」。
〔縮縫〕縦にぬひあはす。○［禮］「古者冠一一」。
〔衡縫〕横さまにぬひ合はす。○［禮］「今也一一」。
〔裁縫〕布帛をたちてぬひ合はす。○［鮑照］「旅服少二一・一一」。
〔重縫〕かさねてぬひ合はす。○［詩話］「破衫却有二一・一處一」。
〔能縫〕上手に衣をぬひあはす。○［岑參］「主人小女一一二衣一」。
〔慣縫〕ぬふことに習熟す。○［盧仝］「荷衣已一レ一」。
〔懶縫〕ぬふことにものうくあり。○［張羽］「壞色衣穿自一レ一」。

【縫】 ホウ、ブ。扶用切 宋

ぬひ會はせたる所、ぬひめ、あはせめ。○［周］「掌二王宮之一線之事一」。

〔死縫〕かはらのつぎめ。○［杜牧］「一一參差、多二于周身之帛縷一」。
〔合縫〕あはせとづ。○［焚椒錄］「鳳靴抛二一・一一」。
〔袷縫〕あはせたる衣のぬひめ。○［李賀］「分レ花對二一・一一」。
〔甲縫〕鎧のぬひめ。○［曾唐］「風射二犀文一・一開一」。
〔隙縫〕すきまをとぢあはす。○［赦經］「一・一重銜「若二鮮皮一」。
〔書縫〕書物のとぢめ。○［林寬］「潤二侵一・一黑一」。

【縉】 セフ。七接切 葉 シフ。七入切 緝

緝に同じ、へりぬふ。○［楚辭］「襲二英衣一兮緹一・一」。

【縉】 キン、コン。几隱切 軫

織れる文の緻密なるにいふ字。

【縬】 シュク、ソク。子六切 屋

㊀ちゞむ、(縮)。㊁ちゞめるあや、(縐)。㊂縐文、きぬあや。㊃聚まれる文。

【縻】 縬に同じ。○［唐］「困一一不レ文」。

【縭】 リ。鄰知切 支

㊀絲を以て履の飾りとなす、ゑがく。㊁にほひぶくろ、きんちやく、(褘)。○［詩］「親結二其一一」。
㊂つなぐ、(繫)。○［詩］「紼一二維之一」。

【縮】 シュク、ソク。所六切 屋

㊀たて、(從)。○［禮］「古者冠一縫、今也衡縫」。
㊁みだる、(亂)。○［爾］「縦一一亂也」。
㊂約束す、つかぬ。○［詩］「一レ版以載」。○［左］「無三以一二酒一」。
㊃滓を去る、ゑたむ、こす。
㊄ちゞむ。
(い)かく(歉)。○［戰］「一二于財用一則匱」。
(ろ)ゑりぞく、(退)、とゞむ、とゞまる(止)。○［史］「退舍曰レ一」。
(は)をさむ、をさまる、(斂)。○［淮］「春一秋一二其和一」。
(に)短くす、短くなる、せまる。○［淮］「孟秋始一」。
(ほ)ちゞらす、ちゞる。○［劉長卿］「寒馬毛一」。
(へ)沮む、挫く。○［唐］「賊氣沮一一」。
㊅よし、(義)、なほし、(直)。○［孟］「自反而一」。

〔季縮〕ちがやもて酒をゑたむ。○［蘇軾］「社酒明二一・一一」。
〔鳳縮〕遡り前むと退き舍すると、のぶるとちゞむと。○［淮］「一・一卷舒、淪二于不測一」。
〔蓄縮〕たくはへちゞむ。○［化書］「蝸牛能一・一」。
〔局縮〕屈まりちゞまる。○［韓愈］「氣勢日一・一」。
〔出縮〕いづるとちゞまると。○［張九成］「頭角互一・一」。
〔收縮〕をさまりて伸びざ。○［詩傳］「霜降而一二一萬物一」。
〔攣縮〕ひきつりちゞむ。○［魏註］「一・一如二羊膓一」。
〔斜縮〕なゝめになりちゞまる。○［晉］「坐營二建極殿井木一・一」「如レ初」。
〔羞縮〕耻ぢて身伸びざ。○［唐］「帝一・一待レ之對」。
〔愧縮〕前に同じ。○［唐］「平叔一・一逐寢」。
〔迺縮〕前に同じ。○［唐］「士良等一・一、不レ得レ對」。
〔慵縮〕前に同じ。○［陳造］「亦憐一・一不二自容一」。
〔惴縮〕恐れてちゞむ。○［唐］「猶恐二群臣一・一不二敢進一」。
〔縮縮〕伸びざる貌にいふ語。○［唐］「一・一愧恧」。
〔退縮〕前むを得ずして衰へちゞまる。○［金］「首尾一・一」。
〔却縮〕前に同じ。○［易林］「遷延一・一、不レ見二頭目一」。「一一」。
〔伸縮〕のぶるとちゞむと。○［蘇軾］「機牙任二一・一」。
〔展縮〕前に同じ。○［錢起］「方寸能一・一」。
〔舒縮〕前に同じ。○［楞嚴經］「見レ有二一・一」。
〔畏縮〕恐ろしく思ひてちひさくなる。○［范成大］「無事苦二一・一狀一」。
〔卷縮〕まきをさまる。○［釋道潛記］「一・一非二一・一」。
〔寒縮〕こゞえてちゞまる。○［元好問］「一・一寧作二春生窮一」。

【縯】 エン。以淺切 銑 延面切 霰

ながし、(長)。

【縯】 イン。以忍切 軫

ひく、(引)。

【繁】 リヤク、ラク。力灼切 藥

㊀ゑまおり、(絣)。㊁衣を紩ふ、ぬふ。

【縰】 シ。所綺切 紙

㊀髮をつつむ巾、かみづつみ。○［禮］「櫛一笄總」。
㊁衆多なる貌にいふ字、おほし。○［宋玉］「一・一莘々」。

【縱】 シヨウ。シユ。子用切 宋

㊀はなつ。
(い)矢を發す、いる。○［詩］「抑一送忌」。
(ろ)きづなを解く。○［蜀］「七一七擒」。
(は)撥き行る。○［漢］「莫二敢一レ兵一」。
(に)發す。○［史］「從レ下一レ火焚レ稟」。
(ほ)ほしいまゝにす。○［詩］「無レ一二詭隨一」。
㊁ゆるぶ、ゆるし、(緩)。○［蔡邕］「天綱一、人紘弛」。
㊂ゆるす、おく、(舍)。○［後漢］「帝故一レ之」。
㊃ほしいまゝ。
(い)放任なると、檢束せざると、きまま。○［書］「一敗レ禮」。
(ろ)汎くて、定めなきと。○［禮］「一言至二于禮一」。
(は)自在なると、とゞこほりなきと。○［論衡］「意奮而筆一」。
㊄みだる、(亂)。○［爾］「一、縮亂也」。

〔放縱〕はしいまゝ。○［王僧孺］「天然一・一、極有二筆力一」。
〔欲縱〕私欲の情恣なり。○［禮］「一不レ可レ一」。
〔天縱〕天のゆるすと。○［論］「固一・一之將聖」。
〔弛縱〕緩慢なると。○［魏］「行步一・一、筋不レ束レ體」。
〔猷縱〕あき足りて恣なると。○［國］「豈敢一二一其耳目心腹一、以亂二百度一」。「一」。
〔僭縱〕分を踰えて恣なると。○［後漢］「諸侯一・一」。
〔知縱〕現に知りてをりながらわざと縱くす。○［後漢］「著二一・一之律一」。
〔恣縱〕心のまゝに横舞ふ。○［元稹］「謝公一一頭狂放」。

〔肆縱〕前に同じ。○〔後漢〕「如或違レ此則爲二｜｜一。
〔誕縱〕放誕任縱なること、はしいまゝ。○〔梁〕「竝肆レ情｜｜」。
〔酣縱〕たのしみはしいまゝなること。○〔晉〕「終日｜｜、恆爲二有司所一レ按」。
〔任縱〕意にまかせて恣なること。○〔晉〕「嗜レ酒｜｜」。
〔傲縱〕おごりて恣なること。○〔晉〕「｜｜過レ之」。
〔矜縱〕前に同じ。○〔北〕「頗自｜｜」。
〔英縱〕すぐれてあること。○〔宋〕「命世｜｜」。
〔優縱〕ゆるす、即ち寛容す。○〔魏〕「無レ所二｜｜一」。
〔含縱〕前に同じ。○〔隋〕「雖二是親族一、無レ所二｜｜一」。
〔緩縱〕ゆるぶ。○〔周書〕「兩脚｜｜」。

【縱】ソウ、ス。作孔切 董
急遽事に趨く、いそぐ。○〔禮〕「喪事欲二其｜｜爾一」。

【縱】ショウ、シュ。足勇切 腫
｜臾は、奬勵す、すゝむ、はげます。○〔漢〕「日夜｜臾」。

【縱】ショウ、シュ。卽容切 冬
㊀南北又は上下の方向、たて、又、たてに通じたるもの。○〔詩名物疏〕「田之法遂横溝｜」。
㊁蹤に通じ用ふ。○〔楊著碑〕「追二｜曾參一」。
〔衡縱〕横なると縱なると。○〔蘇軾〕「二頃收二｜｜一」。

【縈】縈に同じ。

【縲】ルヰ。力追切 支
つなぐ、ゐばる、（縈）、又、其の索、ゐばりなは。○〔論〕「雖レ在二｜絏之中一」。

【縲】ラ。盧戈切 歌

ふさきなは、（大索）。

【縳】テン、デン。持兗切 銑
白くして鮮かなる色、ゐろ。

【縳】ケン。規椽切 霰
絹に同じ、きぬ。

【縳】テン、デン。柱戀切 霰
羽數の束ねの名。○〔周〕「十羽爲レ審、百羽爲レ摶、十摶爲レ｜」。

【縳】セン。樞絹切 霰
雙｜は、こまかききぬ、（緻繒）。

【縳】テン、デン。重緣切 先
まく、（卷）。

【縸】ベキ、ミャク。莫狄切 錫
つな、なは、（繩索）。

【縴】ケン。經天切 先
きびし、（緊）。

【縴】ケン。輕煙切 先
｜繞は、惡しき絮。

【縹】テウ。丁了切 篠
物を懸く、かく。

【縵】バン、マン。莫半切 翰
㊀無文の繒、あやなききぬ。○〔漢律〕「｜表白裏」。
㊁凡て文飾なきものゝ稱。「乘二夏｜一」。
㊂田に甽（うね）をつくらざるを。○〔周〕「甸｜一歳之收、常過二｜田一」。○〔漢〕

〔乘縵〕飾りのなき車にのる。○〔左〕「降レ服｜レ｜」。
〔紈縵〕あやのなききぬ。○〔唐〕「喪服｜｜、不レ復衣二淺色一」。
〔緹縵〕赤き色のきぬ。○〔後漢〕「布二｜｜室中一」。
〔紕縵〕あらくあやなききぬ。○〔元稹〕「些々｜｜最宜レ人」。

【縵】バン、マン。謨官切 寒
前條の㊀に同じ。

【縵】バン、メン。謨晏切 諫
㊀他の樂に和する雜聲のもの、卽ち雜へかなづる絃器など。○〔周〕「教二｜樂一」。
㊁遲くして決せざる貌にいふ字、又、驚きて寧からざる貌にいふ字。○〔莊〕「｜者窖者」。

【繅】ダイ、子。女介切 泰
絮の亂るゝ貌にいふ字、みだろ。

【縶】チフ。陟立切 緝
㊀つなぐ、又、つながる。
（い）絆す、絆さる。○〔詩〕「｜レ之維レ之」。
（ろ）拘ふ、拘はる。○〔左〕「南冠而｜者誰」。
（は）連らぬ、連なる。○〔北〕「冀二相維｜一」。
㊁覊絆、ほだし。○〔左〕「韓厥執二｜馬前一」。

〔維縶〕つなぎはたす。○〔潘尼〕「騏驥見二｜｜一」。
〔覊縶〕前に同じ。○〔溫庭筠〕「翛然脫二｜｜一」。
〔繫縶〕前に同じ。○〔周霆震〕「頭仆免二｜｜一」。
〔拘縶〕とらへほだす。○〔南〕「同被二｜｜一」。
〔籠縶〕かごの中につなぐ。○〔元稹〕「野鳥多二｜｜一」。

【縶】セフ。質涉切 葉

人の名。

【縷】ル。力主切 麌
㊀絲一條、いとすぢ。○〔周〕「典枲掌二布緦｜紵之麻草之物一」。
㊁いとすぢの如き細長なるものゝ稱。○〔溫庭筠〕「柳｜生レ芽」。
㊂くはし、こまかし、委曲。○〔枚乘〕「固未レ能レ｜三形其所二由然一」。

〔布縷〕ぬのとよりいとゝ。○〔孟〕「有二｜｜之征一」。
〔一縷〕一本のいとすぢ。○〔漢〕「以二｜｜之任一、係二千鈞之重一」。
〔金縷〕こがねのいとすぢ。○〔梁簡文帝〕「縷擢｜｜」、「映レ目」。
〔鍼縷〕針といとすぢと。○〔江總〕「｜｜則千緘｜｜」。
〔線縷〕いとすぢ。○〔杜甫〕「仰望垂二｜｜一」。
〔絲縷〕前に同じ。○〔南〕「狀若二｜｜一」。
〔帛縷〕きぬのいとすぢ。○〔杜牧〕「多二於周身之帛｜｜一」。
〔絮縷〕わたといとゝ。○〔宋〕「賦斂及二於｜｜一」。
〔細縷〕ほそきいとすぢ。○〔謝朓〕「｜｜覺無レ諼」。
〔微縷〕前に同じ。○〔陳子昂〕「｜｜懸二千鈞一」。
〔弱縷〕强からざるいとすぢ。○〔沈約〕「｜｜冠二絺衣一」。
〔覼縷〕委曲、くはし。○〔柳宗元〕「秉レ筆｜｜」。
〔綵縷〕色どりのいとすぢ。○〔蘇軾〕「捧レ箱｜｜香二新絲一」、「縈絲」。
〔縺縷〕もつれたるいとすぢ。○〔范成大〕「｜｜如二中無一｜｜」。
〔寸縷〕わづかなるいとすぢ。○〔元好問〕「室人無｜｜」。
〔結縷〕草の名、かうらいゐば。○〔爾、註〕「一名｜｜、俗謂二之鼓箏草一」。

【縷】ロウ、ル。郎侯切 尤
藍｜は、敝れたるを縫ひ綴れる衣、つづれ。○〔左〕「篳路藍｜以啓二山林一」。

【縼】シヤウ、サウ。所兩切 養
履中の絞、くつのなは。

【綃】 サウ、セツ。師交切 [肴] 舟を維ぐ、つなぐ。

【縸】 ボ、ム。莫故切 [遇] 惡しき絮（齊人の語）。

【縸】 バク、マク。末各切 [藥] 幕に通じ用ふ、とばり、おほふ。○[後漢]「纖-羅絡-一」。

【縹】 ヘウ。普沼切 [篠] 匹妙切 [嘯] ㊀淺靑色、はなだいろ、はないろ、そらいろ、一說に、靑黃色、もえぎいろ。○[後漢]「賈-人湘-一而已」。㊁輕く擧がれる貌にいふ字、ひろがへる。○[漢]「鳳-一-一其高逝兮」。
(靑縹) はなだ色。○(謝瞻)「山-氣一-一色、故曰二翠-微一」。
(碧縹) 前に同じ。○(博雅)「一-一紺-縹蒼-靑也」。
(緗縹) 薄はなだ色。○(范成大)「一-一如レ山畫 掩レ閣」「水」。
(落縹) 前に同じ。○(李商隱)「畫-圖一-一松-溪」。
(合縹) はなたの色を醬へもつ。○(夏侯湛)「發二鮮-縹以一レ一」。

【縺】 レン。落賢切 [先] 纏結びて解けず、むすぼる、もつる。

【縻】 ビ、ミ。忙皮切 [支] 靡奇切 [寘] ㊀牛馬の轡、はなづら、おもづら、叉、紼索、きづな、なは。○[潘岳]「洪-一在レ手」。㊁つながる、つなぐ（繫）。○[漢]「羈-一不レ絕」。㊂靡に同じ、ちらす、ちる。○[韓愈]「歲-一二廩-米一」。
(綅縻) 鈎べなは。○(王粲)「淚下如二一一」。
(緊縻) なは。○(韓愈)「汝腑有二一-一」。
(繫縻) つなぐ。○(蘇軾)「君臣之恩、一二-一之於前一」「一」。
(飛縻) つなをとばしかく。○(柳宗元)「掉レ手一-一」。
(永縻) 長久のあひだつなぎたもつ。○(柳宗元)「而對一-一二王-衛一」。
(攬縻) つなを手に持つ。○(劉禹錫)「牛-叟一レ一」。
(斷縻) 絕ちたるつな。○(元稹)「淚流如二一-一一」。
(拘縻) かゝはりつながる。○(釋德洪)「愛-幻相一-一」。

【〓】 キン、クン。苦隕切 [先] たばる、つかぬ、束縛。

【〓】 ビ、ミ。吳悲切 [支] ㊀縻に同じ。㊁わかつ（分）。

【〓】 ロク。盧谷切 [屋] まじりなし、もツぱら（純）。

【縼】 セン、ゼン。隨戀切 [霰] 長き繩をもて牛を繫ぐ。

【總】 ソウ、ス。作孔切 [董] ㊀あふ（合）、あつまる（聚）。○[淮]「萬-物一而爲レ一」。㊁すぶ。(い)あつめあはせて括る、つかぬ、つゞむ、くゝる。○[淮]「德之所レ一」。(ろ)監領す、ひきゐる、をさむ、とりまとまる。○[左]「一二其罪-人一」。㊂むすぶ、むすばる（結）。○[屈平]「一二余-轡乎扶-桑一兮」。㊃かく、かゝる（係）。○[史]「一二光-耀之采-旄一」。㊄會要、おほぐくり、およそ。○[周]「執二其一一」。㊅衆き貌にいふ字。○[屈平]「紛一-一其離-合」。㊆亂るゝ貌にいふ字。○[周書]「殷-政一-一」。㊇おほくのもの、もろもろ、皆、すべて。○[書、疏]「一皆送レ之」。㊈束髮、あげまき、たばねがみ。○[詩]「一-角丱兮」。㊉髮を束ぬる首飾、かみづつみ。○[儀]「一-六-升」。⑪束ねたるもの、たば。○[管]「錯レ一之法」。⑫流蘇、ふさ。○[周]「彫レ面蒼-一」。⑬禾稾、いねわら。○[書]「納レ一」。
(笄總) かうがいをさし髮をつかぬ。○禮「櫛縰笄一-一」。
(兼總) あはせすぶ。○(公羊)「兼一二一北成功之稱也」。
(銓總) はかりすぶ。○(唐)「一-一平允」。
(塡總) みちあつまる。○唐「機-務一-一」。
(納總) 藁を貢ものとしをさむ。○(書)「百-里賦一レ一」。
(組總) くみひものふさ。○(周)「翟車貝-面、一-一有レ握」。
(傅總) ふさをつく。○(漢)「西-馬一レ一」。
(該總) 包ねあはせ知る。○(謝承)「一二-一五-經一」。
(專總) 恣にしすぶ。○(後漢)「竇-憲兄-弟、一二-一威-權一」。
(內總) 朝廷以內にありて總括す。○(晉)「一-一朝維」。
(出總) 朝廷以外にありて總括す。○(晉)「一-一二皇-畿一六-師一」。
(任總) 責任を負ひすぶ。○(梁簡文帝)「一二-一一日萬-幾」。
(留總) 殘りゐてすべくゝる。○(晉)「常一-一二後-事一」。
(躬總) 己れの身もてすぶ。○(北)「一-一二大-政一、」
(親總) 前に同じ。○(抱朴)「不レ可レ以一-一一」。
(參總) 干與しすぶ。○(唐)「與二中-書-令一-一、而顓二判省-事一」。
(分總) 分配してすべくゝる。○(宋)「一-一路分」。
(鈐總) すべくゝる。○(宋)「一二-一禁旅一」。
(潛總) ひそかにあつむ。○(郭璞)「玄-羅一-一」。
(紛總) まぎれあつまる。○(梁武帝)「叢-勞一-一」。
(繁總) 多くあつまる。○(庾信)「軍-國忠-勤、規-模一-一」。
(監總) 監督しすべくゝる。○(宋)「不レ以二大-臣一-一」。

【績】 セキ、シヤク。則歷切 [錫] ㊀麻又は絲をつぎのばして纑縷（いとすぢ）となす、つむぐ、うむ。○[詩]「不レ一二其麻一」。㊁成功、事業、わざ、いさを。○[書]「庶-一皆咸熙」。㊂つぐ（纘）、なす（成）、こと、す（事）。○[書]「懋二其攸レ一」。
(考績) いさをの多少を檢定す。○(書)「三載考レ一」。
(嘉績) よきいさを。○(書)「一-一多二于先-王一」。
(丕績) 大いなるいさを。○(書)「嘉二乃一-一」。
(成績) 成就したるいさを。○(書)「惟王有二一-一」。
(紡績) きぬをおりいとをつむぐ。○(唐)「家二裁-縫一-一」。
(紡績) いとをつむぐ。○(漢)「夫-人自一-一」。
(緝績) 前に同じ。○詩、箋「使レ可二一-一作二衣-服一」。
(邦績) 國家に對してたてたる功勳。○(李乂)「端-揆凝二一-一」。
(敗績) いたく破らる。○(書序)「夏-師一-一、湯遂從レ之」。
(纍績) こがひするとつむぐと。○(韓愈)「若二布-帛、必一-一而後成者也」。
(功績) いさを。○(呂氏春秋)「故一-一銘二乎金-石一」。
(勳績) 前に同じ。○(晉)「紀二其一-一」。
(遠績) とほつ世に樹てたるいさを。○(水經、註)「立レ碑以刊二一-一」。
(偉績) 前に同じ。○(左)「世增二其業、不レ墜二一-一」。
(效績) いさをゝつくす。○(國)「男-女一レ一」。
(善績) よきいさを。○(後漢)「定之一-一、毋レ有二北-助一焉」。
(異績) すぐれたるいさを。○(後漢)「潔白無二他一-一」。
(治績) 善政を施せるいさを。○(隋)「頗有二一-一」。
(政績) 前に同じ。○(南)「所レ居必有二一-一」。
(巨績) おはいなるいさを。○(吳)「元-勳一-一、侔二於古-人一」。
(校績) いさをの多少を考定す。○(晉)「一レ一論レ功」。
(懿績) 善美なるいさを。○(晉)「一-一克宣」。
(奔績) 功勳をあらはす。○(晉)「歷レ官一レ一」。
(庸績) 功績といふに同じ。○(晉)「一-一著二于王府一」。

〔殊績〕異績といふに同じ。○〔晉〕「在レ郡有二—・—一」。
〔名績〕いちじるしきいさを。○〔晉〕「皆有二—・—一」。
〔聲績〕前に同じ。○〔晉〕「所在有二—・—一」。
〔微績〕いさゝかのいさを。○〔宋〕「竟無二—・—一」。
〔懿績〕よきいさを。○〔宋〕「—・—忠謨」。
〔美績〕前に同じ。○〔李嶠〕「—・—宣二于內・外一」。
〔紀績〕いさををしるし傳ふ。○〔隋〕「司レ勳—レ—」。

【䌇】セイ、セ。相銳切 霽
繐に同じ、細き布。

【縿】サン、セン。師銜切 咸
旌旗の正幅、はたのなかみ、一說に、旌旗の屬游、はたのあし。○〔詩〕「以縫二紕旌之旒—一」。
〔旒縿〕旗のながし。○〔禮、疏〕「竿首未レ有二—・—一」。
〔龍縿〕龍の形したるはたのながし。○〔爾〕「素陞「—二于—一」。
〔風縿〕かぜに吹かるゝはたのながし。○〔劉永之〕「寸心搖曳似二—・—一」。

【縿】セン、ソン。思廉切 鹽
幓に同じ、はたのあし。

【縿】セウ。思邀切 蕭
綃に同じ、きぬ。○〔禮〕「——幕畧也」。

【縿】サウ、ソウ。蘇遭切 豪
繅に同じ。

【縿】サン、ソン。七感切 感
薄き紺色の繒。

【繀】サイ、セ。蘇對切 隊
—車は、絲を筟(くだ)に著くる車、ぬきかぶり、いとぐるま。

【繁】ヘン、ハン。附袁切 元
㊀しげし。
(い)多し。○〔書〕「寔—有レ徒」。
(ろ)盛んなり。○〔禮〕「辭・讓之節—」。
(は)煩し。○〔史〕「——禮飾レ貌」。「用」。
(に)しば〳〵なり。○〔淮〕「箠・策—」。
(ほ)いり雜れり。○〔孝、序〕「安得レ不レ翦二其—蕪一」。
㊁枝葉しげく生ず、しげる。○〔宋〕「後益—茂」。
〔禮繁〕ゐやくだ〳〵し。○〔韓〕「——者實・必哀也」。
〔辭繁〕文ことさはなり。○〔人物志〕「文本二—・—一」。
〔穠繁〕しげくあり。○〔嵇康〕「麗・藻—・—」。
〔翠繁〕あをくしげし。○〔陸雲〕「萬・葉—・—」。
〔陰繁〕物のかげ多くあり。○〔白居易〕「煙散柳—・—」。
〔獄繁〕訴訟事多くあり。○〔禮〕「爭・鬪之—・—」。
〔華繁〕はな多くあり。○〔大戴禮〕「夫——而實寡者天也」。
〔文繁〕かざり多くあり。○〔後漢〕「——者質荒」。
〔滋繁〕しげりて多くあり。○〔杜牧〕「百・寶—・—」。
〔殷繁〕さかんに多くあり。○〔洛陽伽藍記〕「民訟—・—」。
〔喧繁〕かまびすしくしげし。○〔杜甫〕「籬・雀暮—・—」。
〔捨繁〕多きを除き去る。○〔法書要錄〕「—レ—從レ省」。
〔劇繁〕いそがはしくしげし。○〔宋〕「多任二—・—一」。
〔浩繁〕大いに多し。○〔舊唐〕「舟車輻輳、人庶—・—」。
〔傷繁〕多きにそこなはる。○〔圖繪寶鑑〕「但人・物「—・—耳」。
〔頻繁〕頻りに多くあり。○〔杜甫〕「——命屢及」。
〔阜繁〕盛に多くあり。○〔孫楚〕「族・類—・—」。

【繁】ハン、バン。蒲官切 寒
馬の腹帶、うまのはらおび。○〔左〕「——纓以朝」。

【緐】繁の字の譌り。

【繂】リツ、リチ。劣戌切 シュツ、シュチ。所律切 質
㊀物を維持する大索、おほづな、ひきづな。○〔禮、註〕「下レ棺以レ—繞」。
㊁玉の下にしく藉、たまのしきもの。○〔張衡〕「藻—鞶厲」。
〔紼繂〕柩の車のひきづな。○〔禮〕「朝レ廟之時用二—・—一」。
〔挽繂〕舟のひきづなをひく。○〔唐〕「旁索レ民—レ—」。
〔藻繂〕玉のしきものゝもやうあるもの。○〔張衡〕「—・—鞶・厲」。
〔繫繂〕ひきづなをつなぐ。○〔孟郊〕「高張—レ—帆」。
〔添繂〕ひきづなを加へそふ。○〔范成大〕「轉レ灣—レ—挽」。

【綳】ハウ、ヒヤウ。補耕切 庚
㊀つかぬ、(束)、まく(卷)。○〔墨〕「禹葬二會・稽一、桐・棺三寸葛以—レ之」。
㊁嬰兒を束ぬる衣、むつき、せおひおび。○〔師古〕「襁郎今之小・兒——也」。
〔倒綳〕さかしまに束ぬ。○〔事文類聚〕「苗・君覓—二—孩兒一矣」。
〔錦綳〕にしきのきぬもて作れる小兒のむつき。○〔孫邦傑〕「未レ放——開二束・縛一」。
〔羅綳〕うすものゝむつき。○〔嚴維〕「——色欲レ妍」。
〔懷綳〕ふところとむつきと、轉じて、小兒を介抱することにいふ語、又、幼時に介抱せらるゝことにいふ語。○〔韓愈〕「簪・笏自二—・—一」。
〔繡綳〕ぬひとりのきぬもて作れるむつき。○〔陳深〕「——嬌・兒在レ旁戲」。

【繄】エイ、アイ。煙奚切 齊 イ。於宜切 支
㊀ほこぶくろ(戟衣)。
㊁赤く黑き色の繒。
㊂これ(伊)。○〔左〕「民不レ易レ物、惟德「—物」。

【繄】エイ、アイ。壹計切 霽
㊀歎く聲にいふ字、あゝ。○〔左〕「—我獨無」。
㊁—裕は、小兒の次衣、よだれかけ。

【繅】サウ、ソウ。蘇遭切 豪
繭をひき出だして絲になす、いとをくる。○〔禮〕「夫・人—三盆レ手」。

【繰】サウ、ソウ。子皓切 皓
㊀前條に同じ。
㊁玉に薦くもの、五采の文あり。○〔周〕「加二—・席畫・純一」。

【繆】ビウ、ム。亡幽切 尤 リウ、ル。力求切 尤
㊀枲の十絜、さつかね、さたば。
㊁からむ、まとふ(纏・綿)。○〔詩〕「綢二—牖・戶一」。

【繆】キウ、ク。居尤切 尤
くびる、(絞)。○〔漢〕「郎自——死」。

【繆】ビウ、ム。眉救切 宥
㊀あやまる、あやまり、(誤)。○〔禮〕「不レ能レ詩於レ禮—」。
㊁たがふ、ちがふ(違)。○〔漢〕「何以錯—至レ是」。
㊂いつはる、いつはり、(詐)。○〔漢〕「臨邛令—爲二恭・敬一」。
〔糾繆〕あやまりをたゞす。○〔書〕「繩レ愆—レ—、格二其非・心一」。
〔錯繆〕まじはりたがふ。○〔漢〕「陰陽—・—、氛・氣充・塞」。
〔紕繆〕あやまりたがふ。○〔漢〕「政多二—・—一、則陰・陽不レ調」。
〔乖繆〕そむきたがふ。○〔漢〕「經・理—・—、號・令不レ一」。
〔禁繆〕あやまりをいましむ。○〔管〕「人・心—レ—而已」。
〔病繆〕あやまりたがふことを憂ふ。○〔荀〕「遠擧則—レ—」。

【繆】レウ。則鳥切 篠
繚に同じ、まとふ、めぐる。○〔漢〕「——繞玉・綏」。

【繆】　穆に同じ。○[禮]「序以二昭-|一」。

【繆】　レウ。憐蕭切 [蕭]
絲の亂るゝ貌にいふ字、もつる。○[王安石]「涷合髮|-|」。

【繆】　レウ。力弔切 [嘯]
䌛に同じ。

【繇】　エウ。餘招切 [蕭]
㊀隨從す、したがふ。㊁しげる(茂)、又、ぬく(抽)。○[書]「厥草惟|」。㊂傜に同じ、ぶやく。○[史]「常|二咸-陽一」。㊃陶に通じ用ふ。○[漢]「仁-人咎-|」。㊄謠に同じ。○[漢]「人-民|-俗」。㊅搖に同じ、うごく。○[史]「二-日而莫レ不二盡|一」。

【繇】　イウ、ユ。夷周切 [尤]
㊀よる(因)。○[易]「其所二|來一者漸矣」。㊁すぐ(過)。○[左]「|レ朐汰レ輈」。㊂よし(由)。○[漢]「無レ|レ教二訓其民一」。㊃猷に同じ、みち、はかりごと。○[漢]「譔二先-聖之大|-|一兮」。㊄悠に同じ。○[漢]「犬-馬|-|」。㊅游に同じ。○[漢]「陸-子優-|」。
〔優繇〕ゆるやかなること。○[漢]「賓二禮故-老一、|-|亮-直一」。
〔皇繇〕帝王の道。○[傅休奕]「於鑠|-|、既祖且平」。
〔畢繇〕したがひよる。○[傅亮]「萬品同|-|」。

【繇】　チウ、ヂユ。直祐切 [宥]
卦兆の古辭、うらかたのことば。○[左]「間二成-季之|一」。

【繈】　キヤウ、カウ。居兩切 [養]
㊀錢の孔に通じて束ぬる繩、ぜにさし、錢貫。○[漢]「臧|-千-萬」。㊁繦に同じ、せおひおび、むつき。○[史]「靑子在二|-褓中一」。㊂ふし(纇)。

【編】　ヘン　方典切 [銑]　卑眠切 [先]
裳を褰ぐ、もたかゝぐ。

【𦄠】　トウ、ツ。當侯切 [尤]
縷を結びてつくれる囊。

【𦆸】　テツ、テチ。丁結切 [屑]
むすぶ(結)。

【𦅲】　ヘイ、ハイ。邊迷切 [齊]
あはす(幷)。

【繉】　コン、ゴン。胡昆切 [元]
ぬふ(縫)。○[管]「又擅二橿-渠-|-緣一所三以御二春-夏之事一也」。

【𦅂】　オウ、ウ。於候切 [宥]
麻をひたす。

【䌟】　サク。七作切 [藥]
絲の貌にいふ字、

【𦃿】　靡に同じ。

十二畫

【繎】　ゼン、ネン。如延切 [先]　儒轉切 [銑]
㊀つかる(勞)。㊁紅色の尤もこくして火のもゆるが如きもの、こきあか。㊂絲の理め難きこと、いとのもつれ。

【繬】　シユ、ス。詢趨切 [虞]　相庾切 [麌]　ス、ソ。宣遇切 [遇]　シウ、シユ。息有切 [有]　ジヨウ、シユ。筍勇切 [腫]
繬に同じ、つなぐ。

【繰】　キヨ、ゴ。強魚切 [魚]
繰に同じ。

【繏】　セン。息絹切 [霰]
㊀なは(繩-索)。㊁蜀の錦。○[揚雄]「絾-|-紐-纈」。

【繏】　セン。逡緣切 [先]
前條の㊁に同じ。

【繏】　シユ、ス。縱取切 [麌]
かひこのすなかくろもの(縣襦)。

【繐】　ケイ、エ。胡桂切　セイ、セ。相銳切 [霽]
いさすぢ細くてあらき布。○[儀]「|-衰者何以、小-功之|也」。

【纀】　ホク、ボク。逢玉切 [沃]
㊀纀に同じ、はちまき。㊁幅を削れる裳。

【䌖】　セフ。疾葉切 [葉]　シフ。卽入切 [緝]
㊀あふ、あはす(合)。㊁蠻夷の貨の名、えびすのたから。○[左思]「|-|賄紛-紜」。

【纆】　ホク、ボク。逢玉切 [職]
なは(索)。

【繑】　ケウ。丘祆切 [蕭]
はかまのひも(袴-紐)。○[晉]「絢レ|而踵相隨」。

【繑】　キヤク、カク。訖約切 [藥]
屐に同じ、あしだ。

【𦇒】　フ。芳武切 [麌]
㊀織布の殘餘、うみのこし。㊁いと(絲)。

【繒】　ショウ、ゾウ。慈陵切 [蒸]
帛の總名、きぬ。○[漢]「睢-陽販レ|者也」。
〔緋繒〕赤き色のかとり。○[史]「爲二|・|衣一、書以二五-采一」。「三-五尺一」。
〔買繒〕かとりを購ひ求む。○[宋]「爲レ妻|二|・絲」
〔縵繒〕あやのなきかとり。○[北]「躬御二|・|一而已」。「遣二」。
〔金繒〕こがねとかとりと。○[宋]「外無二|・|之」
〔縑繒〕かとりのと。○[宋]「服-御用二|・|一」。
〔裂繒〕きぬを破る、又、さきたるきぬ。○[帝王世紀]「好レ聞二|レ|之聲一」。
〔雜繒〕くさぐなる色の入りまじりたるかとり。○[漢]「|・|三-萬-疋」。「|爲レ之」。
〔練繒〕よくねりたるきぬ。○[禮、疏]「總者裂二|・|」
〔重繒〕めかたのおもきかとり、卽ち、粗なるきぬ。○[漢]「|・|厚-繒、流而復御」。「斥二去華-飾一」。○
〔厚繒〕前に同じ。○[後漢]「陛-下躬服二|・|一」、
〔剡繒〕かとりをきりきざむ。○[周、註]「王-后之服、|レ|爲二之形一」。「蔽也」。
〔蒼繒〕青き色のかとり。○[周、註]「以二|・|一爲レ」
〔亡繒〕きぬを紛失す。○[戰]「越-人|レ|」。
〔鬻繒〕絹ときぬと。○[史]「|・|酒-米」。
〔縱繒〕赤き色のかとり。○[漢、註]「總以二|・|一、飾-鑲-錯-也」。

（皁繒）黑き色のかとり。○〔後漢〕「千石以上、—·—習·蓋」。
（奮繒）かとりを賣却す。○〔後漢〕「亦有二—·—屠·狗輕·滑之徒一」。
（好繒）精好なるかとり。○〔後漢〕「或刻二畫—·—一」。
（服繒）かとりもてこしらへたる衣を著く。○〔舊唐〕「—レ—示レ儉」。
（素繒）白き色のかとり。○〔鮑照〕「不レ爭—·—鮮」。
（細繒）ほそくよき絲もて織りたるかとり。○〔子虛賦、註〕「阿—·—也」。
（纖繒）前に同じ。○〔李嶠〕「豈—·—之爲レ比」。
（文繒）あやあるかとり。○〔說文〕「綺—·—也」。
（績繒）ゑがきたるかとり。○〔白虎通〕「自約二整—·—一、爲レ結二于前一」。「—」。
（煞繒）かとりにしるしをうつ。○〔論衡〕「以レ墨—レ—」。
（麤繒）あらく織りたるかとり。○〔蘇軾〕「—·—大·布裹二生·涯一」。
（敝繒）やぶれたるかとり。○〔沈遼〕「高·堂閑·坐撩二—·—一」。
（霜繒）白き色のかとり。○〔范成大〕「潑·藤卷二—·—一」。

【繒】ソウ。咨騰切　〔蒸〕
㊀前條に同じ。
㊁矰に同じ、いぐるみ。○〔三輔黃圖〕「佽飛具二—繳一以射レ雁」。

【⿰糸尋】ジン。徐林切　〔侵〕
つぐ、つゞく、(續)。

【⿰糸叅】縿に同じ。

【繓】サツ、サチ。子括切　〔曷〕
㊀むすぶ、くゝる、(結)。
㊁ぬひあまり、(縫餘)。

【織】ショク、シキ。質力切　〔職〕
㊀おる。
(い)機に張りたる經(たていと)に緯(よこいと)を交へ組みて布帛を成す、はたおる。○〔詩〕「休二其蠶—一」。
(ろ)交へ作す、くむ。○〔舊唐〕「共爲二羅—一」。
㊁はた。
(い)機に張りたる絲、はたいと。○〔後漢〕「何異レ斷二斯—一」。
(ろ)おりなしたる布帛。○〔宋〕「每鬻二機—一資·給」。
（蠶織）こがひをなしきぬをおる。○〔詩〕「休二其—·—一」。
（促織）蟲の名、こほろぎ。○〔謝眺〕「秋·夜—·—鳴」。
（趨織）前に同じ。○〔爾雅、疏〕「幽·州人謂二之—·—一」。
（耕織）田をたがへし機をおる。○〔後漢〕「以二—·—一爲レ業」。
（斷織）はた糸をたちきる。○〔列女傳〕「以レ刀—二其—一」。
（羅織）種々にして罪をさぐり出だしこしらへなす。○〔舊唐〕「共爲二—·—一」。
（組織）(い)設け爲す。○〔劉陵〕「—二—仁·義一」。(ろ)絲をくみはたをおる。○〔遼〕「樹二桑·麻一、習二—·—一」。
（惰織）はたおることを怠る。○〔素書〕「寒在レ—レ—」。
（婦織）をみなのはたおり。○〔李勣〕「倚レ牀看二—·—一」。
（文織）あやをり。○〔周〕「—·—貝·貨·賄之物」。
（親織）自身に手をかけておる。○〔淮〕「妻—·—」。
（絍織）絲をよりおる。○〔北〕「可レ充二—·—一」。
（桑織）くはを植ゑ機をおる。○〔道德指歸論〕「—·—有レ餘」。
（簡織）機おることをおろそかにす。○〔道德指歸論〕「—レ—賤レ耕」。
（急織）いそぎてはたおる。○〔埤雅〕「其聲如二—·—也」。
（紡織）をゝつむぎ機をおる。○〔開天遺事〕「或將レ照二—·—機·杼一」。
（務織）はたおるを仕事とす。○〔通典〕「匹·婦—レ—」。
（教織）はたおることをしへ授く。○〔古樂府〕「十·三—二汝—一」。
（妙織）巧みにはたおる。○〔梁昭明太子〕「女·工之—·—」。
（任織）はたおるを仕事とす。○〔沈約〕「兎·絲不レ—レ—」。
（停織）機おるを止む。○〔王筠〕「—レ—坐二嬉春一」。
（能織）前に同じ。○〔庾信〕「鳴レ機—レ—」。
（嬾織）機おるをものうし。○〔段成式〕「愁·機—·—同·心苣」。
（手織）おのれてづからおる。○〔于濆〕「—·—身無レ衣」。

【織】シ。職利切　〔寘〕
㊀おりたる綵文、あや又あやある布帛。○〔禮〕「士不レ衣レ—」。
㊁徽章、しるし。○〔詩〕「—·文鳥·章」。
㊂號幟、はたじるし、しるしばた。○〔漢〕「旗—加二其上一」。

【繕】セン、ゼン。時戰切　〔霰〕
㊀つくろふ、なほす。
(い)おぎなふ、(補)。○〔禮〕「—二囹·圄一」。
(ろ)をさむ、(修)。○〔左〕「征—以輔二孺·子一」。
(は)すべておぎなひをさめて善ならしめ勁ならしむるにいふ字。○〔詩〕「—レ甲治レ兵」。
㊁そなふ、(備)。○〔漢〕「—二修干·戈一」。
㊂文籍を編錄す、あつむ。○〔後漢〕「供·—寫上一」。
㊃つよし、(勁)、又、よし、(善)。○〔周、註〕「—之言勁也善也」。
（營繕）作りをぎなふ。○〔晉〕「比·年—·—、並己修·整」。
（修繕）つくろひをなす。○〔漢〕「皆豫治レ道、—二—故·宮一」。
（興繕）土木の工事をおこしなす。○〔北〕「太·后銳二于—·—一」。
（濬繕）深くしつくろふ。○〔後漢〕「—二—城·隍一」。
（征繕）征伐と宮室などの修理。○〔劉基〕「何以奉二—·—一」。
（戎繕）前に同じ。○〔魏〕「—·—兼興」。
（飾繕）かざりを施しつくろふ。○〔晉〕「—二—神·祠一」。
（葺繕）補ひつくろふ。○〔魏〕「緣レ期發レ旨、卽加二—·—一」。
（督繕）督勵をなしをさむ。○〔唐〕「—·—益急」。
（寛繕）ゆたかにしをさむ。○〔袁淑〕「—二—淮·內一」。
（謄繕）うつしをさむ。○〔謝瑞〕「緘·封遞—　—」。

【繕】勁に同じ。○〔禮〕「急二—其怒一」。

【⿰糸焦】セウ、ゼウ。慈消切　〔蕭〕
㊀未だひたさゞる生枲、あさ。
㊁ぬの、(布)。

【繖】サン。蘇旱切　〔旱〕
〔豏〕サン、セン。蘇簡切　〔潸〕　先諫切　〔諫〕
きぬがさ、かさ、(蓋)。○〔晉〕「遇レ雨請二以レ—入一」。
（錦繖）にしきをもて張れるきぬがさ。○〔北〕「乘二介·馬一張二—·—一」。
（緒繖）赤き色のきぬがさ。○〔海山記〕「坐二—·—下一」。
（火繖）火をもてはりたるきぬがさ、卽ち暑熱の下にあるにいふ語。○〔韓愈〕「赫·々炎·官張二—·—一」。
（儀繖）儀仗の時にかざすきぬがさ。○〔南〕「風·飄二—·—一出二城·外一」。
（御繖）帝王のかざすきぬがさ。○〔隋〕「配執二—·—一」。
（大繖）おほいなるきぬがさ。○〔唐〕「天·子出二—·—一右·廂·行」。
（夾繖）きぬがさをはさみかざす。○〔唐〕「—·—左·
（羅繖）うすものもて張れるきぬがさ。○〔貫耳集〕「中·原數·角黃—·—」。
（捉繖）きぬがさを手に執りもつ。○〔捜神後記〕「二·人—レ—覆レ之」。
（覆　）きぬがさをおほひかざす。○〔唐無名氏〕「雖二—　—之可一レ蔽」。

【[illegible]】テツ、デチ。直列切　〔屑〕
衣破る、又、つゞれ。

【繗】リン。力珍切　〔眞〕
㊀つぐ、(紹)。
㊁絲を理む。

【繘】イツ、イチ。允律切　キツ、キチ。居律切　シュツ、シュチ。食律切 [質]

汲水器に附けたる索、つるべなは。○〔易〕「汔至、亦未レ━レ井」。

〔說繘〕釣瓶なはをほどく。○〔禮〕「管人汲不レ━━屈レ之」。
〔綆繘〕釣べなは。○〔揚雄〕「關東謂ニ之━一、關西謂ニ之━ニ」。
〔彙繘〕大いなるなはと釣べなはと。○〔急就篇〕「━・━繩索」。
〔收繘〕釣瓶なはを引きあぐ。○〔周易集解〕「以ニ轆轤━レ━也」。
〔懸繘〕かけ下げたる釣瓶なは。○〔唐無名氏〕「━・━下・垂」。

【繘】ケツ、ケチ。古穴切 [屑]

紡に同じ、いとすぢ（縷）。

【繙】ヘン、ハン。符袁切 [元]　ハン、バン。蒲官切　ハン、ベン。符艱切 [刪]

➊結べる紐を解く、ひもとく。○〔莊〕「於レ是━ニ十二經一以ニ老聃ニ」。
➋みだる（亂）、又、ひるがへる（飜）。

〔繽繙〕風の旗を吹く貌にいふ語。
〔迷繙〕まきりにひもとく。○〔楊萬里〕「雨・夜━・━約・寶・集」。

【⿱敝糸】ヘツ、ベチ。必結切 [屑]

➊繩を編む、あむ。
➋つるぎのひも（劍帶）。

【⿱敝糸】ヘイ、ベイ。毗祭切 [霽]

あしきわた（惡綿）。

【⿰糸黃】クワウ、ワウ。胡曠切 [漾]

繩にて束ぬ、むすぶ。

【繚】レウ。憐蕭切 [蕭]　力照切 [嘯]

➊まとふ、まつはる（纏）、めぐる、めぐらす（繞）。○〔班固〕「修・袖━━繞而滿レ庭」。
➋もとる、もとらす（紾）。○〔儀〕「弗レ━右絕レ末以祭」。
➌祭の名。○〔周〕「辨ニ九祭一、八曰、━・━祭」。

〔縈繚〕まとひめぐる。○〔柳宗元〕「━レ青━レ白」。
〔繚々〕まとふ貌にいふ語。○〔益部方物記〕「其角━・━黑質而白文」。
〔翹繚〕たかくまとふ。○〔爾、疏〕「細・枝━・━上句然」。皆爲ニ叅木一。
〔環繚〕めぐりまとふ。○〔唐〕「遶レ水━・━如レ璧」。
〔回繚〕前に同じ。○〔益部方物記〕「━・━可レ喜」。
〔繞繚〕前に同じ。○〔皇甫松〕「桑・麻━・━」。
〔屈繚〕まがりめぐる。○〔唐〕「━・━爲レ郭」。

【繚】ゼウ、ネウ。爾紹切 [篠]

➊前條の➊に同じ。
➋をさむ（理）。○〔莊〕「━レ意絕レ體而爭」。

人の名。

【繛】シヤク、サク。尺約切 [藥]

ゆるやか（緩）。

【繜】ソン。祖昆切 [元]

➊腰部に擐き著くる衣、其の狀ふごしの如し。○〔急就篇〕「襌・衣蔽・膝布・母━・━」。
➋あつまる（聚）。○〔離騷、註〕「總・々猶ニ

【繜】ソン。茲損切 [阮]

撙に同じ、おさふ。○〔荀〕「不レ能則恭・敬━絀以事レ人」。

【⿰糸奠】テン、デン。堂練切 [霰]

あやぎぬ（文繒）。

【繝】カン、ケン。居莧切 [諫]

錦文、にしきのあや。○〔唐〕「禁ニ大━竭・鑿六・破・錦ニ」。

【繞】ゼウ、ネウ。爾紹切 [篠]

➊めぐる、めぐらす（遶）。○〔張衡〕「━ニ黃・山ニ」。
➋まとふ、まつはる（纏）。○〔山海經〕「四・蛇相━」。

〔營繞〕まとひめぐらす。○〔詩齊譜〕「水所ニ━・━一」、故曰ニ營丘ニ。
〔繳繞〕まとひめぐりて大體に通せず。○〔史〕「名家苛・察━・━」。
〔圍繞〕まどかにめぐる。○〔爾、註〕「蹙・々━・━」。
〔圜繞〕かこひめぐる。○〔張說〕「衆山皆━・━」。
〔繆繞〕まどひめぐらす。○〔漢〕「━ニ━玉綬ニ」。
〔繞々〕まとひめぐる貌にいふ語。○〔巢鈞〕「流・藹方━・━」。
〔環繞〕めぐる。○〔南〕「以レ樹━・━」。
〔回繞〕前に同じ。○〔北〕「━ニ━其傍ニ」。
〔盤繞〕前に同じ。○〔隋〕「━・━至レ額」。
〔紆繞〕まとひめぐる。○〔後漢〕「振ニ弱支ニ而━・━兮」。
〔夾繞〕はさみめぐる。○〔呂氏春秋〕「有ニ兩・蛟ニ━ニ━其船ニ」。
〔叢繞〕むらがりめぐる。○〔右岳瀆經〕「弈・號━・━」。
〔纏繞〕まとひめぐる。○〔抱朴子〕「生・累━・━」。
〔連繞〕つらなりめぐる。○〔李衞公問對〕「諸・部━・━」「復・護」。
〔繚繞〕まとひめぐる。○〔鶴山題跋〕「人・情━・━」。
〔摧繞〕くじけもつる。○〔王逸〕「思・念紆・戾腸━・━」。
〔紛繞〕もつれまとふ。○〔孫楚〕「憂・喜相━・━」。
〔綿繞〕つらなりまとふ。○〔楊萬里〕「海・棠━・━雪・茶蘼」。

【繞】ゼウ、ネウ。人要切 [嘯]

たわむ、たむ（撓）。

【繟】セン。齒善切 [銑]　尺戰切 [霰]　タン、ダン。徒干切 [寒]

ゆるし、ゆるやか（寬綽）。

【繟】セン、ゼン。時延切 [先]

引きつゞきて絕えざる貌にいふ字。

【⿰糸喪】サウ。蘇郎切 [陽]　四浪切 [漾]

緗━は、薄き黄色。

【繠】ズヰ、ニ。如累切 [寘]　如纍切 [紙]　汝垂切 [支]

むらがる（聚）、たる（垂）。○〔左〕「佩・玉━兮」。

〔繠々〕垂るゝ貌にいふ語。○〔劉基〕「竹實━・━」。
〔繠榮〕つながりたると。○〔易林〕「佩・玉━・━、無ニ以繫レ之」。

【繡】シウ、シュ。息救切 [宥]

➊五綵の絲を以て布帛に施したる畫文、ぬひとり、ぬひ、ぬひもやう。○〔呂氏春秋〕「文━有レ常」。
➋五綵の絲を以て畫文を布帛に刺し施すにいふ字、ゑがく、ぬひとる、ぬふ、ぬひ、ぬひとり、ぬひはく、ぬひもの。○〔周、註〕「畫━二工」。
➌ぬひある布帛。○〔漢〕「衣レ━夜行」。

〔刺繡〕ぬひとり。○〔史〕「━・━文不レ如レ倚ニ市門ニ」。
〔文繡〕あやのぬひとり。○〔孟〕「所ニ以不レ願ニ人之━・━也」。
〔錦繡〕にしきとぬひとりと。○〔世說〕「著ニ文章爲ニ━・━ニ」。
〔著繡〕ぬひとりの衣をきる。○〔魏〕「所レ謂━レ━晝行也」。
〔藻繡〕ゑがきいろどる。○〔張衡〕「文燦ニ━・━ニ」。
〔錯繡〕交はりぬひとる。○〔晏融〕「往・々━ロ━北開ニ」。
〔綺繡〕あやぎぬ。○〔杜甫〕「━・━相展轉」。
〔緹繡〕赤きぬひとり。○〔後漢〕「土木被ニ━・━ニ」。
〔裳繡〕ぬひとりのきぬをもすそにす。○〔晉〕「衣レ畫而━レ━」。

〔执繐〕白きぬひとり。○〔晉〕「皆曳二――一、珥二金・翠一」。

〔緜繐〕あつぎぬのぬひとり。○〔宋〕「土木衣二――一」。

〔曳繐〕ぬひとりのきぬをひく。○〔方干〕「裁レ霞――」。

〔組繐〕くみひもとぬひとりと。○〔羅鄴〕「瑞・彩玉・樓開二――一」。「采二」。

〔鞶繐〕色どりのきぬ。○〔宋〕「別以二衣・裳――一之」。

〔積繐〕前に同じ。○〔馬融〕「緣以二――一」。

〔繁繐〕はげしき色どり。○〔淮〕「齊俗有二詭文――一」。「華・裳二」。

〔縟繐〕繁き色どりのきぬ　○〔王粲〕「曳二――一之」。

〔類繐〕ぬひとりのきぬに似たり。○〔謝靈運〕「斑采――」。

〔絲繐〕色どりのきぬ。○〔蘇軾〕「――光二翻座一」。

〔夜行被繐〕よるありくにぬひとりの衣を著る　借りて、功名を懐きて世に知られざるとにいふ語。○〔蘇武〕「語曰、――――、不レ足レ爲レ榮」。

【繡】
セウ。先彫切　嘯

綺の屬、あや、あやぎぬ。○〔詩〕「素・衣朱――」。

【繢】
クワイ、エ。胡對切　隊

㊀おりあまり（織ノ餘）。

㊁うちひも（紐）。○〔急就篇、註〕「――亦條・組之屬」。

㊂畫文、采繡、もやう、ぬひ、ゑ。○〔周〕「蒲・筵――純」。

㊃ぬひ又はもやうを施す、ぬふ、ゑがく。○〔周〕「畫――之事」。

㊄もやう又はぬひある布帛。○〔漢〕「以レ――爲二皮・幣一」。

〔藻繢〕ゑがく。○〔陳琳〕「舉二――之彩一」。

〔衣繢〕ゑがき色どれる衣をきる。○〔僕、疏〕「――レ――而裳レ繡」。

〔雕繢〕ゑりゑがく。○〔南〕「亦――滿レ眼」。

〔染繢〕そめゑがく。○〔舊唐〕「文、之以二――一、飾レ之以二締・繡一」。「――」。

〔織繢〕はたおり色どる。○〔隋唐〕「掌二裁・縫――」

〔采繢〕色どりかざる。○〔杜牧〕「飾・心無二――一」。

〔文繢〕あやをなし色どる。○〔李德裕〕「被二我――一」。

〔綺繢〕前に同じ。○〔宋玉〕「羅・紈――盛二文・章一」。

〔雅繢〕みやびやかに色どる。○〔謝瞻〕「――信炳博」。

〔粉繢〕ゑがき色どる。○〔劉允濟〕「神・功多二――一」。「――」。

〔緹繢〕赤き色どり。○〔鮑照〕「袨・服雜二――一」。

〔並繢〕色どりを雙べつらぬ。○〔梁簡文帝〕「離如二――一」。「文」。

〔列繢〕前に同じ。○〔江總〕「錦・牆――、繡・地成レ」

【繪】
クワイ、エ。胡隈切　灰　コツ、グチ。胡骨切　月

采色の鮮かなると、あざやか。

【繥】
キ、ギ。求位切　寘

繹に同じ。

【綳】
ハウ、ヒヤウ。晡横切　庚

むすぶ（結）。

【繠】
ショク、ソク。須玉切　沃

縐文、ちゞみ。

【繣】
繣に同じ。

【繣】
クワイ、エ。胡卦切　卦　クワク、キヤク。呼麥切　陌

㊀そむきたがふ（乖違）、又、むすびさまたぐ（結礙）。○〔屈平〕「忽緯――其難レ遷」。「項中一」。

㊁むすぶ繫、ひも。○〔周、註〕「有レ――結二

㊂破るゝ聲にいふ字。○〔潘岳〕「――瓦解而冰泮」。

【繕】
サク。昔各切　藥

ふさきなは（大綱）。

【繾】
ケン。起輦切　銑

ちゞむ（縮）。

【縢】
縢に同じ、さちからぐ。

【繰】
繰に同じ。

【繻】
繻に同じ。

【纂】
纂に同じ。

【繥】
キ。虛之切　支

㊀わらふ（笑）。㊁たのしむ（樂）。

【纇】
纇に同じ。

【纆】
ボク、モク。命伏切　屋

いと（絲）。

十三畫

【繩】
ショウ、ジョウ。神陵切　蒸

㊀なは。
（い）兩股以上の細條を合はせなひたるもの。○〔易〕「上古結レ――而治」。
（ろ）工匠の直線を作るに用ふるすみなは。○〔書〕「惟木從レ――則正」。

㊁直からざるを彈正す、たゞす、いましむ。○〔書〕「――レ愆糾レ謬」。

㊂つぐ、つゞく（繼）。○〔詩〕「宜二爾子孫――――一兮」。

㊃直し、正し。○〔淮〕「進・退履――」。

㊄法度、のり。○〔淮〕「中レ程者賞、缺レ――者誅」。

㊅ほむ（譽）。○〔左〕「蔡侯――二息・嬀一以語二楚・子一」。

〔繩々〕つゞける貌にいふ語。○〔詩〕「子・孫――――萬・民靡レ不レ承」。

〔絲繩〕いともて作りたるなは。○〔晉〕「以二兩・大――一繫二兩・柱頭一」。

〔準繩〕水盛りの器と墨なはと、即ち、物ののりとなるもの。○〔史〕「左二――一右二規・矩一」。

〔引繩〕なはを引き張る。○〔史、註〕「――レ――爲レ綿」。

〔推繩〕推しきはめたゞす。○〔舊唐〕「郎合二據レ法――一」。

〔法繩〕法律をもてたゞす。○〔後漢〕「以レ――レ――之」。

〔長繩〕たけながきなは。○〔晉〕「以二――一連レ之」。

〔鈎繩〕曲尺と墨なはと。○〔淮〕「――不レ能二曲・直一」。

〔應繩〕墨なはによくあたる。○〔莊〕「直者――レ――」。

〔中繩〕前に同じ。○〔荀〕「木直――レ――」。

〔玉繩〕玉衡の北にある二つの星の名。○〔西京賦〕「正睹二瑤・光與二――――一」。

〔赤繩〕あかきなは、即ち、男女のえにしのとにいふ語。○〔幽怪錄〕「李・固旅二次宋・城一、遇二老・人向レ月檢レ書、囚問二囊・中――一、云繫二夫・婦足一、雖二仇・家異・域一、此繩一繫終不レ可レ易」。

〔胡繩〕香草の名。○〔離騷〕「索二――之纚・々一」。

〔執繩〕なはを手にもつ。○〔南〕「有レ人――レ――以レ杖臨レ之」。

〔直繩〕正直にしてのりにかなふ。○〔晉〕「恭・恪――、百官憚レ之」。「花去」。

〔絲繩〕色どりしたるなは。○〔韋應物〕「――拂」。

〔踰繩〕のりにはづる。○〔後漢〕「――レ――越レ契」。

〔世繩〕世の中のきづな。○〔魏、註〕「纏二絆於――一」。「倫一」。

〔曲繩〕のりを曲ぐ。○〔晉〕「姬・公不レ――二于天・」

〔弄繩〕なはを玩ぶ。○〔南〕「上二嵩・帝腹・上一――レ――」。

〔攔繩〕なはにさはる。○〔隋〕「入從レ外來――レ――則爲二機旋轉一」。

〔斜繩〕法をもてたゞす。○〔白帖〕「――二――列・郡一」。

〔牽繩〕なはを引く。○〔韓愈〕「愁・膓若レ――レ――」。

〔繫繩〕なはをつなぐ。○〔詩、傳〕「――二――於釣・竿一也」。

〔縋繩〕なはにすがる。○〔左、註〕「――レ――登レ城」。

〔深繩〕甚しく法をもてたゞす。○〔舊唐〕「令二――二――裴・非一」。

〔規繩〕ぶんまはしとすみなはと、即ち、法則のと。○〔宋〕「立二之――一」。

〔矩繩〕曲尺とすみなはと、即ち、法則のこと。○〔大戴禮〕「所レ謂賢人者、行中二——一」。
〔踏繩〕のりを履み行ふ。○〔論衡〕「遵レ禮—レ—」。
〔糾繩〕なはをはぎく。○〔張衡〕「政若レ——」。
〔互繩〕大いなるなは。○〔蘇舜欽〕「初如二——縵一」。「井」。
〔竟繩〕張からざるなは。○〔史達祖〕「——挂」

【繩】ヨウ。以證切 徑 實を含む、ふくらむ。○〔周〕「秋—而芟レ之」。

【繩】ビン、ミン。彌盡切 軫 涯際なき貌にいふ字、一說に、運動して絕えざる意にいふ字。○〔老〕「——不レ可レ名」。

【繩】シヨウ、ジヨウ。石證切 徑 いさ、（徽）。

【繐】セイ、セ。須銳切 霽 ねりぬの、（練布）。

【繪】クワイ、エ。胡對切 隊 ㊀五彩を會はせ繡す、彩色を雜へて畫く、いろどる、ぬふ、ゑがく。○〔論〕「—事後レ素」。㊁ぬひとりたる彩文、ゑがきたる象形、いろどり、もやう、ぬひ、ゑ。○〔江淹〕「循レ遠訪レ—」。㊂ぬひ又はゑある布帛。○〔文心雕龍〕「視レ之則錦—」。
〔圖繪〕ゑがくこと。○〔宣和畫譜〕「周昉生平——「—」甚多」。
〔刻繪〕きざみゑがく。○〔方岳〕「新樣衣裳巧——」。
〔藻繪〕ゑがき色どる。○〔梁〕「環二給——之府一」。
〔彩繪〕前に同じ。○〔王安石〕「微語無二——一」。
〔妝繪〕よそほひ色どる。○〔宋〕「五彩——」。
〔品繪〕品さだめをなしゑがく。○〔法書要錄〕「甚難二——一」「鑒—レ—」。
〔成繪〕色どりゑがくことをなす。○〔全唐詩話〕「看レ
〔華繪〕はなやかに色どる。○〔嵇康〕「——彫琢」。
〔鮮繪〕あざやかにゑがく。○〔梁簡文帝〕「切均二——一」「——」。
〔文繪〕あやをなしゑがく。○〔江淹〕「浮磬銷二遷——一」。
〔訪繪〕ゑのことをたづね問ふ。○〔江淹〕「循レ遠—」「夜」。
〔粉繪〕色どりゑがく。○〔杜甫〕「鄭公——隨二長——一」。
〔美繪〕うつくしき畫。○〔崔損〕「——廻二超于雲閣一」。
〔周繪〕あまねくゑがく。○〔陳會〕「——二四牖一」。
〔素繪〕粉を施しゑがく。○〔吳萊〕「——巧飾含二光榮一」。

【繪】クワイ、エ。黃外切 泰 ㊀前條に同じ。㊁五采をもて髮を束ぬ。

【繫】ケイ、カイ。吉詣切 霽 ㊀絓纊、しげいと、一說に、縴纊、ねりぐり、くづわた。㊁つなぐ、又、つながる。(い)約束す、束縛す、ほだす、しばる、くゝる、むすぶ、又、約束せらる、束縛せらる、ほださる、しばらる、くゝらる、むすばる。○〔史〕「縱二其父一而還自—焉」。(ろ)むすび留どむ、とゞむ、又、むすび留ごめらる、とまる。○〔莊〕「汎若二不レ—之舟一」。(は)維持す、もつ、又、維持せらる、もたる。○〔淮〕「民命—矣」。(に)拘囚す、とらふ、又、拘囚せらる、とらはる。○〔漢〕「勝覇既久—」。㊂罪囚、とらはれ。○〔禮〕「出二輕——一」。㊃羈絆、きづな、ほだし。○〔十洲記〕「牛馬恐駭驚斷二絚——一」。
〔維繫〕なはもてつなぐ。○〔儀、疏〕「以二僕——一前兩足一」。
〔械繫〕かしをはめつなぐ。○〔史〕「乃下二相國廷尉一——之一」。
〔逮繫〕捕らへてつなぐ。○〔漢〕「——二長安一」。
〔拘繫〕前に同じ。○〔晉、疏〕「主下——當二刑殺一者上」。
〔襆繫〕はゞきの紐。○〔韓〕「文王伐レ崇、——解」。
〔輕繫〕かろきつみ人。○〔禮〕「決二小罪一出二——一」。
〔組繫〕くみひものこと。○〔儀〕「裹著二——一」。
〔囚繫〕捕らへて牢につなぐ。○〔易林〕「身加二纆徽一、——束縛」。
〔捕繫〕前に同じ。○〔漢〕「——二豪強一」。
〔收繫〕前に同じ。○〔漢〕「妻子皆——」。
〔劾繫〕罪ある者を告發してひとやにつなぐ。○〔史〕「——二都司空一」。
〔頌繫〕かしをはめずして捕らへおくこと。○〔漢〕「——之一」。
〔徵繫〕召し寄せて捕らふ。○〔漢〕「——二請室一」。
〔坐繫〕連坐せられてひとやにつながる。○〔宋〕「飛——數月」。
〔列繫〕ならべつなぐ。○〔晉〕「——二幢旁一」。
〔冤繫〕罪なくして捕らはる。○〔唐〕「出二——三千人一」。
〔誣繫〕罪なきをあるが如くにいつはりて捕らふ。○〔唐〕「曾——二桐廬令李師旦二百餘家一」。
〔踵繫〕つゞいて捕らはる。○〔唐〕「——不レ絕」。
〔妄繫〕つみをたゞさず恣にひとやにつなぐ。○〔唐〕「又——二令狐運一」。
〔留繫〕とゞめおきつなぐ。○〔宋〕「有下久被二——一滿レ獄者上」。
〔縲繫〕繩もてしばりひとやにつなぐ。○〔宋〕「——」
〔束繫〕前に同じ。○〔易林〕「執因——」。
〔緩繫〕ゆるやかにつなぎおく。○〔齊民要術〕「養レ馬無レ勞者——レ之」。
〔繞繫〕めぐらしつなぐ。○〔東京夢華錄〕「——二北身一」。
〔羈繫〕きづな。○〔賈塞〕「邊來閑身落二——一」。
〔圓繫〕打ちたゝきしばりつなぐ。○〔牛希〕「歸縣——、無レ所レ不レ至」。
〔官繫〕官途のほだし。○〔白居易〕「——何因得二再遊一」。

【繫】ケイ。牽奚切 齊 前條の㊁㊂に同じ。

【繫】ケイ、ガイ。胡計切 霽 ㊀つなぐ、又、つながる。(い)むすび連らぬ、つらぬ、つゞる、又、むすばれ連らなる、つゞらる、つらなる。○〔周〕「—二邦國之民一」。(ろ)懸く、又、懸かる。○〔晉〕「取二金印如二斗大一—二肘後一」。㊁連屬す、つく、つぐ、つゞく。○〔周〕「南—二于洛水一」。㊂系統、すぢ、つゞき、つながり。○〔周〕「奠二世—一」。㊃易の卦爻につきての說明。○〔易、疏〕「兩上—、五下—」「——」。㊄つなぐ條組、ひも。○〔儀〕「著二組—一」。

【[illegible]】ラフ、ロフ。力盍切 合 きぬ、（縕）。

【繬】シヨク、シキ。所力切 職 ㊀交へ合はす、あはす。㊁ぬふ、（縫）。

【[illegible]】紵に同じ、わたいれ。○〔任昉〕「華袞與二縕—一同レ歸」。

【繭】ケン。吉典切 銑 ㊀蠶衣、まよ、まゆ、蠶のみづから吐き出だしゝ絲にて造りたる圓形のものにて中に其の身を潛む、これより絲又は綿を製す。○〔禮〕「世婦卒レ蠶奉レ—以示二于君一、遂獻二—于夫人一」。㊁まゆの纖緯、いとすぢ。○〔何遜〕「輕似二曳—一」。㊂纊衣、わたいれ、又、縕衣、きぬもの。○〔左〕「重レ—衣レ裘」。

④聲氣の微にして絶えざる貌にいふ字、かすか。○〔禮〕「言-容━━」。
⑤足の底の皮皺みて傷るゝと、あかゞり、あかぎれ。○〔戰〕「足重━而不二休-息一」。
〔角繭〕つの玉まゆの如くにあり。○〔蘇軾〕「但有二纉━━一」。
〔獻繭〕まゆをたてまつる。○〔李庾〕「當二仲夏一而「━レ━」。
〔野繭〕のらに生ずるまゆ。○〔風俗通〕「旅-穀彌-望、━━被レ山」。
〔魚繭〕紙のこと。○〔韓愈〕「青魚箋二━・━一」。
〔抽繭〕玉まゆを拔き出だす。○〔陸倕〕「微若レ━━」。
〔貯繭〕玉まゆをため置く。○〔禮、疏〕「蠶則須レ匡」「以━レ━」。
〔率繭〕玉まゆを獻る。○〔禮〕「世-婦卒レ蠶、━レ━以示二於君一」。
〔絲繭〕絹いと。○〔禮〕「執二緜-泉一治二━・━一」。
〔蠶繭〕蠶。○〔爾〕「蟓━・━」。
〔稱繭〕よもぎを食らひていくるかひこ。○〔爾〕「蚢「━レ━」━・━」。
〔作繭〕玉まゆの形をなす。○〔張祜〕「莫レ道野-蠶能「━レ━」。
〔蠶繭〕かひこよりなりたる玉まゆ。○〔後漢〕「此繭生レ自二━・━一」「蠶」。
〔治繭〕玉まゆのいとをとる。○〔宋〕「蠶婦━レ━績」。
〔玉繭〕たままゆ。○〔埤雅〕「繰-女採二━・━一織-成」。
〔拔繭〕、玉まゆをちらす。○〔沈約〕「━レ━勝レ花」。
〔曳繭〕まゆの絲をぬきひく。○〔元好問〕「愁-心歷-亂如二━レ━一」。
〔繰繭〕前に同じ。○〔潘大臨〕「撫レ事盈━レ━」。
〔蒸繭〕玉まゆを蒸て絲を抽かんとす。○〔僧惠洪〕「拾レ薪━レ━語讙-譁」。
〔曝繭〕玉まゆを日にさらす。○〔楊萬里〕「━レ━攤レ絲立二晩-乾一」。

【繇】チウ、ヂュ。直又切 [宥]
卦兆の辭、うらかたのことば。

【綟】レイ、ライ。郎計切 [霽]
いんのひも、(綬)。

【糸業】デフ、ゲフ。昵輒切　ゲフ、ゴフ。逆怯切 [葉]

ぬふ、(縫)、又、志ばる、(縛)。○〔王延壽〕「蹔-搴レ髮以━-縛」。

【繮】キヤウ、カウ。居良切 [陽]
うまのはづな、(韁)。○〔陸游〕「鳥出二樊-籠一馬脫レ━」。
〔馬繮〕うまのはながは。○〔揭傒斯〕「朱-絲不二是凡-━━一」。

【糸詹】タン、トン。都甘切 [覃]
ゆるし、(緩)。

【繯】ケン、ゲン。乎吠切 [銑]
まとふ、(絡)、めぐる、(環)、つなぐ、(繫)。○〔漢〕「虹-蜺爲レ━」。

【繯】クワン、ゲン。胡慣切 [諫]
①蠶の簿をかくるなは。○〔揚雄〕「縣-槌、宋、魏、陳、楚、江、淮之閒謂二之━一」。
②うすぎぬのあや、(縞-文)。

【繰】サウ、ソウ。子皓切 [皓]　セウ。千遙切 [蕭]　七小切 [篠]
きぬ、(繅)。

【繅】繰に同じ、絲をくる。○〔女仙傳〕「每二繭━一六-七日乃盡━訖」。

【糸禁】キン、コン。居陰切 [沁]
①いと、(絲)。
②青き色、あゐ。○〔陶隱居〕「藍染二━━碧一所レ用也」。

【繱】總に同じ。

【總】サウ、ス。祖動切 [董]

綮━━は、きぬ、(綃)。

【繲】カイ、ケ。居隘切 [卦]
ふるぎ、(故-衣)。○〔莊〕「挫レ鍼治レ━」。

【敫糸】繳に同じ。

【緷】ウン、チン。王問切 [問]
閉色を染む、そむ。

【繳】シヤク。之若切 [藥]
①生絲の縷、きいとのいと、すなはち、絲繩、いと。○〔易、疏〕「結二━於矢一」。
②いとを矢に結びて鳥を射てまさひ捕らふると、いぐるみ、又、いぐるみの矢。○〔史〕「矯二━蘭-臺一」。
〔矰繳〕いぐるみのと、きいとを矢に着けて射るもの。○〔史〕「雖レ有二━・━一、尙安所レ施」。
〔弓繳〕前に同じ。○〔孟〕「思下援二━・━一而射上レ之」。
〔纖繳〕細きいぐるみのきいと。○〔史〕「微-繒出二━・━一」「━」。
〔緡繳〕釣のいと。○〔詩、箋〕「當レ從レ之爲二之━・━一」。
〔釣繳〕前に同じ。○〔詩、箋〕「綸━・━也」。
〔輕繳〕かろきいとのいぐるみ。○〔梁昭明太子〕「━・━綸飛、則連-鴻儷レ羽」。
〔絚繳〕繩。○〔晉〕「━・━上-下」。
〔修繳〕きいとのいぐるみを繕ふ。○〔說苑〕「蒲-且「━」、━レ━、鳥-雁悲-鳴」。
〔離繳〕いぐるみに引きかゝる。○〔曹植〕「有レ鴈━レ━」。
〔緩繳〕前に同じ。○〔張華〕「負レ矰━レ━」。
〔罾繳〕あみといぐるみと。○〔陳琳〕「互設二━・━一」。
〔游繳〕いぐるみを逃る。○張九齡「━レ━歸二南-浦一」「紫-霞一」。
〔飛繳〕いぐるみをとばしやる。○〔陸機〕「━レ━入二淵一」。
〔引繳〕いぐるみをひきしぼる。○〔潘岳〕「━レ━擧レ效」。
〔過繳〕いぐるみの來たるに出であふ。○〔吳都賦〕「精-衞銜レ石而━レ━」。
〔繁繳〕數多きいぐるみ。○〔夏侯湛〕「張二弱-弓一理二━・━一」。
〔弋繳〕いぐるみ。○〔敬括〕「隼怒嬰二于━・━一」。

【繳】ケウ。吉了切 [篠]
まとふ、(纏)。○〔漢〕「苛-察━-繞」。
〔繁繳〕まとふ。○〔張華〕「蒲-蘆━・━」。
〔纏繳〕前に同じ。○〔莊〕「睆-々然在二━・━之中一」。

【繴】ヘキ、ヒヤク。必歷切 [錫]

ハク、ビヤク。薄革切 [陌]
むそうあみ、(罦)。

【糸斂】レン。力冉切　セン。纖琰切 [琰]
蠶の簿をかくるなは。○〔揚雄〕「縣-槌、關-西謂二之━一」。

【糸辟】ハク、ヒヤク。匹麥切 [陌]
おび、(帶)。

【糸辟】ヘキ、ヒヤク。必益切 [陌]
緜━は、わた、(絮)。

【繵】テン。澄延切 [先]
①ひとへぎぬ、(涼-衣)。○〔揚雄〕「襜━━、謂二之━一」。
②まとふ、(纏)。○〔史〕「動二胃━-緣一」。

【繵】タン。唐干切 [寒]
①なは、(繩)。②紫の色。

【繵】タン、ダン。徒旱切 [旱]
①腰を束ぬる大帶。
②つかぬ、(束)。

【糸羨】セン。昌善切　テン、デン。直碾切 [銑]
ゆるやか、(緩)。

【縯】エン。延面切 [銑]
まとふ(纏)。

【纙】ラ。郎何切 [歌]
あや(綾·紋)。

【繝】繝に同じ。

【繁】カン、コン。古南切 [覃]
やぶさか(慳·悋)。

【繄】ケン、コン。呼縻切 [鹽]
㊀意志を持つと堅固なり、かたし。㊁口閉づ。

【纈】上に同じ。

【繶】オク、乙力 エキ。切 [職] ——或は、纏に作る。
履の縁をからぐる五色の紐、うちひも。○[周]「赤——黃——」。
[丹繶] 赤きくみひも。○[任昉]「青絇——」。
[碧繶] 青きくつのへり。○[溫庭筠]「——湘鉤、鄣泥鳳頭」。
[絇繶] 履のへりの飾り。○[宋]「其飾亦有二——純·綦一」。

【繷】ドウ、奴孔 ヌ。切 [董] ダウ、尼交 子ウ。切 [肴]
善からざる物事の盛んに多きにいふ字。○[後漢]「紛——塞レ路」。

【繺】シツ、シチ。色櫛切 [質]
いろどり、又、いろ。

【纚】テイ、タイ。他禮切 [薺]
まとふ(纏)。

【繸】ス井、ズ井。徐醉切 [寘]
いんのひも(綬)。○[爾、註]「佩·玉之組所三以連二繫瑞·玉一者、因通謂二之——一」。

【繹】エキ、ヤク。夷益切 [陌]
㊀緒を抽く、ひく、ぬく。○[漢]「燕·見紬——」。
㊁をさむ(理)、又、さく(解)。○[揚雄]「——理也、絲曰レ——レ之」。
㊂つらぬ、つらなる(陳)、ゑく(布)。○[詩]「會·同有レ——」。
㊃たづぬ(尋)、又、きはむ(窮)。○[漢]「誦·次尋——」。
㊄つゞく(續)。○[詩]「徐·方——騷」。
㊅ながし(長)、又、おほいなり(大)、又、たかし(高)、又、さかんなり(盛)。○[揚雄]「望二通·天之————一」。
㊆みつ(充)。
㊇をはる(終)。
㊈善く走る貌にいふ字。○[詩]「以レ車————」。
㊉生ずる貌にいふ字。○[爾]「————生也」。
⑪絶えざる貌にいふ字、窮まらざる貌にいふ字。○[論]「皦·如——·如」。
⑫端緒、いとぐち。○[揚雄]「神歇二靈·——一」。
⑬龜の屬。○[周]「地·龜曰二——·屬一」。
⑭宗廟を祭りし翌日に行ふ祭祀。○[左]「壬·午猶——」。
[尋繹] たづぬ。○[陶潛]「萬·化相——·——」。
[討繹] 前に同じ。○[唐]「——·——精明」。
[絡繹] 往來の絶えざるにいふ語。○[長笛賦]「繁縟——·——」。
[講繹] 講究尋繹すると。○[唐]「——二—政·事一」。
[論繹] あげつらひ窮ぬ。○[唐]「相與——·——」。
[衍繹] 敷衍す、のぶ。○[禮、序]「會·粹——·——、而附以二隱·見之言一」。
[演繹] 前に同じ。○[宣和畫譜]「講二求其說一、——·——頗多」。
[紬繹] 前に同じ。○[王褒]「陳·綏——·——、中·折不レ失レ節」。
[闡繹] 開きのぶ。○[唐]「固且——·——優游、與不レ及レ排、繹不レ及レ辭」。
[純繹] 專らにのぶ。○[金]「八·音——·——」。「——」。
[理繹] ことわりを立てのぶ。○[人物志]「論辯——·——」。
[思繹] 考へたづぬ。○[世範]「反·復——·——」。
[吟繹] 口ずさみたづぬ。○[楊於陵]「昨·來恣二——·——一」。「——」。
[紹繹] ひもときたづぬ。○[岑安卿]「焚レ香日——·——」。
[連繹] つらなりつゞく。○[周邦彥]「互二萬·里一而——·——」。
[玩繹] 弄びたづぬ。○[王襞]「伏·讀——·——」。
[追繹] 後よりたづぬ。○[羅湖野錄]「因——二——疇·昔一」。

【縉】レイ、リヤウ。郎丁切 [青]
わた(絮)。

【繐】俗の縵の字。

【纏】レン、ロン。離鹽切 [鹽]
はたのみ(緣)。

【繫】ケイ、エ。懸圭切 [齊]
繫に同じ。

【繡】サン。祖管切 [旱]
纂に同じ、うちひもの類、又、つなぐ。○[後漢]「——二幽·蘭之秋·華一兮」。

【纆】セン。将先切 [先]
韉に同じ、ふたぐら。

【纇】ライ。郎才切 [灰]
みだるゝいと(緢·絲)。

【纆】繹に同じ。

十四畫

【辮】ヘン、ベン。薄泫切 [銑]
㊀交じへ綯ふ、交じへ成す、あむ、くむ。○[張衡]「——二忠·貞一」。「弛レ——」、
㊁辮髪、くみたるかみ。○[唐]「束レ手
[索辮] 編髪。○[隋]「——拳·殭·肉一」。
[弛辮] あみたる髮の毛をはときゆるぶ。○[唐]「——握レ刀」。
[解辮] 前に同じ。○[唐]「皆爭——レ——易レ服」。
[交辮] まじへあむ。○[宋]「——二——兩·股一」。
[綜辮] あみたる髮の毛。○[謝靈運]「綜·心兩·緖——」。
[編辮] 前に同じ。○[張九成]「清·晨解——·——」。

【纀】ス、ソ。瓜遇切 [遇]
くずぬの(絺)。

【繓】サン。作管切 [旱]
つむ(積)。

【纅】ブ、ム。亡遇切 [遇]
纅淹の殘餘、くりあまり。

【繻】シュ、ス。相兪切 [虞]
㊀繒の采色、きぬのいろどり。
㊁細密の羅、こまがきろおり、一說に、細密の網、めのこまかきあみ。
㊂帛の邊、きぬのへり、古昔は、きぬのへりを裂きて符信に用ひしぞ。○[漢]「闕·吏與二軍——一」。
[裂繻] きぬのへりを引き破る。○[漢、註]「因——一頭一合以爲二符·信一也」。
[棄繻] きぬの符をすつ。○[漢]「——レ——而去」。
[捐繻] 前に同じ。○[李光]「——二——傳一而勿レ論」。
[符繻] しるしとなすための帛のへり。○[元稹]「傳レ箭作二——·——一」。
[裂繻] 前に同じ。○[蘇軾]「關·市有二——·——一」。
[給繻] 色ぎぬのしるしをあてがふ。○[姚燧]「——歸レ之」。

【繼】ケイ、吉詣 カイ。切 [霽] ——俗に、継に作るあし。

㊀つぐ、つゞく。
(い)受く、受けて絕やさず。○〔呂氏春秋〕「—二其業一也」。
(ろ)傳はる、傳はりて絕えず。○〔左〕「信不レ—盟無レ益」。
(は)次ぎ立つ。○〔周〕「—二主君一」。
㊁つゞき、つぎ。○〔史〕「罔レ非二天—一」。「—レ望」。
㊂つなぐ、つながる、(繫)。○〔漢〕「羣-下
〔難繼〕承けつぐことたやすからず。○〔禮〕「後レ—レ—也」。「—・—一」。
〔善繼〕よく受けつぐことをなす。○〔李賦〕「聖-明知二
〔堪繼〕承けつぐことを得。○〔詩、疏〕「言二其—ヲ—二事公一」。「之業一」。
〔傳繼〕前人よりつたへられ承く。○〔禮、疏〕「如ヨ今-人—二—周-孔一是也」。
〔續繼〕承けつぐ。○〔禮、疏〕「武-王能—二—父-祖
〔紹繼〕前に同じ。○〔淨住子、序〕「子者—・—爲レ義」。
〔承繼〕前に同じ。○〔白虎通〕「天-子—・—、萬-物當レ知二其數一」。「也」。
〔聯繼〕つらねつぐ。○〔爾、疏〕「皆謂二—・—不レ絕
〔表繼〕世にあらはしつぐ。○〔魏〕「敦二崇帝族一、—二—絕世一」。「爲二—・—一」。
〔後繼〕あとの方よりつゞく。○〔晉〕「率二諸將一以
〔思繼〕承けつがんことを思念す。○〔逸周書〕「余小-子—レ—二厥常一」。「—レ—」。
〔殊繼〕繼續の方法を異別にす。○〔莊〕「三-代
〔常繼〕いつも定まりて承け行ふ。○〔顏氏家訓〕「一則不レ可二—・—一」。「—承々」。
〔繼々〕承けつゞくる貌にいふ語。○〔韓愈〕「—・
〔妄繼〕是非にかゝはらずつゞく。○〔陸游〕「——二古樂章一」。
〔願繼〕承けつゞけんことを願望す。○〔陸游〕「心雖レ—レ—無二傳學一」。

【⿰糸爾】纏に同じ。

【繽】ヒン。匹賓切 眞
おほし、(衆)、さかんなり、(盛)。○〔屈平〕「九-疑—其竝迎」。

【縕】イン、オン。於謹切 吻
衣を縫ひて相著く、ぬひつく、つらぬ。

【繚】ボウ、ム。莫紅切 東 母總切 董
絲の緒を亂す貌にいふ字。

【⿰糸翟】タウ、ドウ。杜皓切 皓 大到切 カウ、コウ。居號切 號 テキ、ヂヤク。徒歷切 錫
綠色、もえぎ。

【⿰糸匱】キ。求位切 未
おりあまり、(織-餘)。

【⿰糸既】⿰糸爾に同じ、けおり。

【繾】ケン。去演切 銑 キン。遣忍切 軫
綣の字を見よ。

【繅】繰に同じ。

【繿】襤に同じ。

【纀】ホク、ボク。博木切 屋
裳の幅を削る、はゞをたつ。

【纀】ホク、ボク。逢玉切 沃
幞に同じ、はちまき、(帕)。

【纁】クン、コン。許云切 文
淺絳、うすあか、又、淺絳の帛、うすあかのきぬ。○〔爾〕「三染謂二之—一」。
〔玄纁〕黑赤き色。○〔書〕「厥篚—・—璣組」。
〔執纁〕うす赤き色のきぬを手にもつ。○〔書、傳〕「諸-侯世-子—レ—」。
〔深纁〕濃き赤色のこと。○〔詩、傳〕「朱—・—也」。
〔綠纁〕かとりぎぬとうすあかの絹と。○〔舊唐〕「賜二—・—一有レ差」。

【纂】サン。作管切 旱
㊀赤き組、あかきくみひも。○〔漢〕「錦-繡—組」。
㊁纘に同じ、つぐ、つゞく。○〔漢〕「—二堯之緒一」。
㊂攢に同じ、あつむ、あつまる。○〔潘岳〕「歌二棗-下之—・—一兮」。
〔論纂〕あげつらひ聚む。○〔論、釋疏〕「門-人相與輯而—・—」。
〔嗣纂〕前人の爲したることを承けつぐ。○〔陳〕「—二—洪業一」。「—」。
〔參纂〕參考輯纂す。○〔唐〕「詔二秘書內省—・—
〔纏纂〕まとひあつむ。○〔梁簡文帝〕「永言—・—」。
〔膺纂〕つゝしみて承け嗣ぐ。○〔沈約〕「—二—乾業一」。
〔恢纂〕大いに承く。○〔呂溫〕「—二—鴻休一」。
〔編纂〕編輯に同じ、書をあみあつむ。○〔白居易〕「親二其述作—・—之旨一」。

【⿰糸屖】チ、ヂ。直利切 寘
ぬふ、(紩)。

【⿰糸疑】ギ。偶起切 紙
おび、(帶)。

【縒】縒に同じ。

十五畫

【纅】ヤク。以灼切 シヤク、式灼切 サク。切 藥
絲の色よきこと。

【⿰糸樂】レキ、リヤク。狼歷切 錫
絲を治む。

【⿰糸鼠】ラフ、レフ。盧盍切 洽
—-颯は、絲の雜はれる貌にいふ語。

【縩】サツ、サチ。七曷切 曷
ちりめん、(縐-縠)、一說に、綃の屬、うすぎぬ。

【縩】サイ。七蓋切 泰
紈素、(うすぎぬ)のするゝ聲にいふ字。○〔潘岳〕「綃-紈-綷—」。

【纆】ボク、モク。莫北切 屋
纆索、なは、特に、其の三股のものゝ稱、みつこよりのなは。○〔史〕「禍-福如二糾—・—一」。
〔徽纆〕大いなるなは。○〔易〕「上-六係用二—・—一」。
〔械纆〕牛をつなぐ繩、又、物をつなぐこと。○〔馬融〕「植-持—・—」。
〔寘纆〕なはをおく。○〔梁簡文帝〕「—レ—逢レ徽」。

【纇】ライ、レ。盧對切 隊
㊀調はざる絲の節、いとのふし、又、ふしある絲、ぶしいと。○〔淮、註〕「絲之結—・—」。
㊁絲のふしの狀をなすもの。○〔陸龜蒙〕「數-枝花—・—小」。
㊂もとる、(戾)。○〔左〕「忿—・—無レ期」。
㊃きず、(疵)。○〔淮〕「明-月之珠不レ能レ無レ—」。
〔忿纇〕腹立ち戾る。○〔左〕「—・—無レ期」。
〔疏纇〕物の滯るふしを通じて滯ることなからしむ。○〔唐〕「治レ條—レ—」。
〔鉏纇〕戾れるものを誅鋤す。○〔唐〕「—レ—夷レ荒」。
〔疵纇〕きずあること、即ち、不完全なるにいふ。○〔梅堯臣〕「未二必—・—・—無一」。
〔瑕纇〕前に同じ。○〔劉禹錫〕「尋-尺招二—・—一」。
〔微纇〕いさゝかなる疵。○〔新論〕「亦有二—・—一」。
〔荒纇〕すさびて戾れるもの。○〔韓愈〕「鋤二荊—・—一」。
〔掎纇〕瑕疵のあるところをかくす。○〔韓泉〕「愧二隋-珠之—・—一」。

〔花纈〕はなのつぼみ。○〔陸龜蒙〕「數枝――小」。
〔破纈〕蕾のわれさくること。○〔梅堯臣〕「野杏正―レ―」。

【纈】ケツ、ゲチ。奚結切 屑
㊀しぼり。
(い)布帛の處々を結びて染めて文をなすこと、又、其の布帛。○〔魏〕「奴·婢不レ得レ衣二綾、綺、――一」。
(ろ)處々に染文あること。○〔蘇軾〕「醉·眼何由作二―·文一」。
㊁しぼりに染む、しぼる。○〔韓愈〕「碎―紅滿レ杏」。
〔纈纈〕うすものゝ染めたるもの。○〔詩話總龜〕「贈二―――篋一」。
〔襭纈〕ぬひとりの模様あるきぬ。○〔洛陽伽藍記〕「―·―油·綾」。
〔錦纈〕にしきと染めたるきぬと。○〔韓愈〕「蜂蝶碎二―·―一」。
〔采纈〕色どりをなし染めたるきぬ。○〔秦觀〕「―·―生二風·瀾一」。

【纃】俗の纘の字。

【繂】リツ、リチ。劣戌切 質
船を擧ぐる索、ふれづな。

【繂】リツ、リチ。呂卹切 質
㊀きぬ、しらぎぬ(素)。
㊁ひきづな(紼)、つな(索)。

【纊】クワウ。苦謗切 漾
㊀新絮、細綿、わた。○〔儀〕「屬レ―」。
㊁わたを褚ひたる衣、わたいれ。○〔南〕「不レ衣二綿―一」。
〔絓纊〕みゝあて。○〔東方朔〕「――充レ耳」。
〔纖纊〕細やかなるわた。○〔書〕「厥篚――」。
〔[illegible]纊〕わたを身につく。○〔禮〕「改レ服―レ―」。
〔絲纊〕きぬいとゝわたと。○〔禮〕「丹·漆――竹·箭與レ衆共レ財也」。

〔挾纊〕綿を身につく。○〔左〕「三軍之士、皆如レ―レ―」。
〔綿纊〕いとすぢと綿と。○〔禮〕「右佩二箴·管―·―一」。
〔白纊〕新しきわた。○〔儀〕「瑱用二――一」。
〔絹纊〕きぬとわたと。○〔南〕「金·粟――」。
〔纖纊〕前に同じ。○〔南〕「冬月猶無二――一」。
〔重纊〕あつきわたいれ。○〔潘岳〕「昔日無二―·―一、雖レ與同二歲·寒一」。
〔曝纊〕綿を日にさらす。○〔淮〕「小人在二上位一、如二寢レ關―レ―」。
〔絺纊〕葛布とわたと。○〔張説〕「――忽彌レ年」。
〔旒纊〕冠のたれとみゝあてと、即ち、耳目を塞ぐもの。○〔任昉〕「陛下遊隱二――一」。
〔發纊〕耳にあてたるわたを開きとる。○〔王安石〕「披レ旒―レ―廣二耳目一」。
〔耳纊〕耳を塞ぐもの。○〔韓愈〕「褰レ旒去二――一」。
〔漂纊〕わたを水にさらす。○〔黄庭堅〕「短·褐―レ―·江寒」。
〔絮纊〕綿。○〔張耒〕「殘思狐·白易二――一」。

【纋】イウ、於求切 尤 ヲウ。烏侯切 宥
笄の中央にまさふ髮、一說に、笄の中央にまさひて髮を安んずる巾。○〔儀〕「髻·笄用レ桑、長四寸、―レ中」。

【纀】ハク。伯各切 藥
襆に同じ。

【繐】セイ、セ。須銳切 霽
蜀の地に產する細布。

【續】ショク、ゾク。似足切 沃
㊀つゞく。
(い)連繼す、つぐ。○〔詩〕「似二――妣·祖一」。
(ろ)連屬す、つく。○〔禮〕「――レ衽鉤レ邊」。
㊁いさを(績)。○〔穀梁〕「其無レ―乎」。
〔紹續〕繼承す。○〔蔡邕〕「旣文且武、桓々――」。

〔繼續〕前に同じ。○〔禮〕「常ニ――長二養之一」。
〔纘續〕前に同じ。○〔晉〕「―ニ―北事一、覓レ未レ成レ功」。
〔斷續〕きれまたつゞく。○〔唐太宗〕「哀笳時――」。
〔陸續〕つゞくさまにいふ語。○〔陸游〕「小車搖レ羊跛――」。
〔膠續〕にかはもてつけあはす。○〔博物志〕「請二以――之一」。
〔連續〕つらねつゞく。○〔詩、疏〕「緝·續者――之一」。
〔補續〕つくろひつぐ。○〔禮〕「―ニ―獸·皮一、片々相合以至二完全一也」。
〔更續〕あらためつゞく。○〔周〕「歲時――、共二其常·車一」。
〔妄續〕つぐべきものにあらざしてつぐ。○〔史〕「非オ――」。
〔轉續〕移りかはりつぐ。○〔劉禹錫〕「四·時――」。
〔續々〕つゞく貌にいふ語。○〔白居易〕「低·眉信レ手――彈」。
〔縷續〕糸すぢつゞく。○〔韋承慶〕「單·思針·懸而――」。
〔延續〕伸ばしつぐ。○〔雲笈〕「蒙二――之年一」。
〔絕續〕たちきるとつゞくと。○〔成公綏〕「將レ―復―」。
〔添續〕加はりつゞく。○〔雲笈〕「故――不レ絕」。

【纍】ルヰ。力追切 支
㊀なは(索)、つるべなは(綆)、きづな(絆)。○〔漢〕「以レ劔斫二絕―一」。
㊁つゞる、つゞく(綴)。○〔禮〕「――乎端如二貫·珠一」。
㊂つなぐ、つながる(繫)。○〔左〕「以二―臣一」。
㊃かく、かゝる(係)。○〔詩〕「甘·瓠―レ之」。
㊄まさふ(纏)、めぐる(繞)。○〔詩〕「葛·藟―レ之」。
㊅憊れたる貌にいふ字。○〔禮〕「喪·容――」。
㊆志を得ざる貌にいふ字。○〔史〕「――如二喪·家之狗一」。
㊇甲を盛る器。○〔國〕「不レ解レ―」。
㊈寃罪を蒙りて死ぬること。○〔漢〕「欽弔二楚之湘―一」。

〔族纍〕神の名。○〔漢〕「巫·保――之屬」。
〔僕纍〕蝸牛、かたつぶり。○〔山海經〕「靑要之山、是多二――蒲·盧一」。
〔係纍〕つながる。○〔王逸〕「赤詞二孱兮――一兮」。
〔縶纍〕迫促す。○〔王逸〕「――擠·摧兮常困·孱」。
〔纍纍〕はだし。○〔柳宗元〕「――芬以榮纏」。
〔解纍〕つながれをほどく。○〔姚燧〕「竭·歷―レ―必出二是期一」。

【纍】ルヰ。力僞切 寘
累に同じ。

【[illegible]】ベツ、メチ。亡結切 屑
ほそし(細)。

【纎】俗の纖の字。

【纏】テン、デン。直連切 先 直碾切 霰
繞ひ束ぬ、約び捲く、からむ、からまる、まつはる、まつはす、まさふ。○〔淮〕「―·繇經·穴」。
〔腰纏〕こしに佩びまとふ。○〔殷芸小說〕「――十萬·貫」。
〔星纏〕はしの如くにまとふ。○〔顏延之〕「寶·釵――、鏤·章霞·布」。
〔藤纏〕ふぢまつはる。○〔杜甫〕「倒石賴二――一」。
〔蔓纏〕つるまつはる。○〔蘇軾〕「弱·松困二――一」。
〔邪纏〕なゝめにつかぬ。○〔詩、疏〕「―ニ―於足一、謂二之邪·幅一」。
〔牽纏〕引きまつはる。○〔陳〕「―ニ―人·世一、羇志弗レ從」。
〔擔纏〕負荷すること。○〔列〕「―ニ―薪·菜一」。
〔糾纏〕あざなひつかぬ。○〔賈誼〕「交若二――一」。
〔情纏〕人情まつはる。○〔劉孝標〕「蕪レ學者――典·素一」。
〔旋纏〕つなぎつかぬ。○〔長笛賦〕「或乃植·持――」。
〔扳纏〕よぢまとふ。○〔謝靈運〕「質弱易二――一」。
〔結纏〕ゆひつかぬ。○〔梁簡文帝〕「――披·解」。
〔縈纏〕まとひめぐる。○〔梁簡文帝〕「新·弁――」。
〔縛纏〕まはりつかぬ。○〔荀子賦〕「使二――一更重」。

(紆纏) まとひつかぬ。○〔虞世南〕「筋力——」。
(包纏) つゝみまとふ。○〔韓愈〕「古言自——」。
(拘纏) からみとりまく。○〔杜甫〕「蔓草易二——」。

【纑】 倔に同じ。

十六畫

【纑】 レキ、リヤク。郎敵切 錫
縄を以て界埒を設くるを、なはばり。

【繝】 エン。以冉切 琰
——撚は、未だ纜がざるを。

【纘】 エン、オン。余廉切 鹽
續ぐ、つゞく。

【纜】 纜に同じ。

【纑】 ロ、ル。落胡切 虞
㊀布縷、ぬのいと、あさいと。○〔左註〕「紡レ—」。
㊁麻を練る、ねる。○〔孟〕「妻辟——」。
㊂紵の屬、布をつくるべし。○〔史〕「山西饒二材、竹、——一」。
㊃あさ布。○〔皮休日〕「吾衣任二穀—」。
(紡纑) いとをつむぎ麻を練る。○〔趙孟〕「教レ女學二——一」。
(臘纑) 麻を接ぐ。○〔王褒〕「結レ葦—レ—」。
(懸纑) 掛け下げたる纑。○〔歐陽詹〕「縋二——一以下二梓人一」。

【繖】 繖に同じ。

【纒】 チヨウ、ヂユ。直容切 冬
なほし(直)。

【纇】 ヒン、ビン。符眞切 眞

衣を擣つ、うつ。

【纏】 俗の纏の字。

【纉】 纉に同じ、なは。

【纉】 シユ、ス。登取切 麌
鼈の簿を掛くるひも。○〔揚雄〕「縣標東齊海岱之閒謂二之——一」。

【纂】 キン、コン。倶倫切 眞
つかぬ(束)。

【纕】 セウ。即消切 蕭
㊀きからむし(生枲)。
㊁布の屬、ぬの。

【纈】 ラフ、ロフ。力盍切 合
——縐は、衣破る、又、つゞれ。

十七畫

【纗】 ケイ。居例切 霽
氊の類、けおり。

【纓】 エイ、ヤウ。於盈切 庚 於正切 敬
㊀冠を頸に繋け結ぶ系、かんむりのを、かんむりのひも、を、ひも。○〔孟〕「可三以濯二我——一」。「就」。
㊁むながひ(馬鞅)。○〔儀〕「薦馬——三—一就」。
(繁纓) 馬の腹帶とむながひと。○〔禮〕「大路——」。
(玉纓) 玉の冠のひも。○〔左〕「楚子玉自爲二瓊弁——、未二之服一也」。
(珠纓) 前に同じ。○〔三禮圖〕「——翠綾」。
(斷纓) 冠のひもをきる。○〔左〕「以レ戈擊レ之—レ—」。
(絕纓) 前に同じ。○〔曹植〕「——盜馬之臣」。
(結纓) 冠のひもをゆふ。○〔陳後主〕「不レ就二—レ—之功一」。
(長纓) ながき冠のひも。○〔左〕「鄒君好服二——、左右皆有二——一」。
(冠纓) かうぶりのひも。○〔史〕「——索絕」。
(羅纓) うすぎぬの冠のひも。○〔漢樂府〕「泣下沾二——一」。「遠埃」。
(華纓) 飾りのある冠のひも。○〔鮑照〕「——結二——一」。
(絡纓) 馬のむながひ。○〔唐太宗〕「奔流灑二——一」。
(馬纓) うまのむながひ。○〔盧照隣〕「黃金鏁二——一」。
(簪纓) 髮にかざすものと冠のひもと、又、位官の義。○〔杜甫〕「身上愧二——一」。
(衿纓) ひもを結ぶ。○〔禮〕「總角—レ—」。
(組纓) 冠のくみひも。○〔禮〕「玄冠朱——」。
(縮纓) 冠のひもをひきしむ。○〔後漢〕「——垂二五寸一」。
(垂纓) 冠のひもを下ぐ。○〔揚雄〕「戴レ縱—レ—」。
(振纓) 冠のひもをふりうごかす。○〔東方朔〕「希レ古—レ—」。
(蓬纓) よもぎもて編みたる冠のひも。○〔齊〕「故葦蓆——之閒、黃虱猥流」。
(飾纓) むながいを美しくす。○〔宋〕「並不レ得レ—」。
(皁纓) 黒き冠のひも。○〔尉繚子〕「皆皁冠——」。
(投纓) むながひを與へもたしむ。○〔韓詩外傳〕「—レ—而乘」。
(犛纓) 犛牛の尾もて作りたる冠のひも。○〔晉〕「白冠——」。
(衣纓) 衣服と冠のひもと。○〔大業拾遺錄〕「華夏——盡過二江表一」。

【纗】 纗に同じ。

【纔】 サン、セン。所銜切 咸 仕懺切 陷
帛の雀の頭の色したるもの、一說に、すこしく黑き色。

【纔】 サイ、ザイ。昨哉切 灰
わづか(僅)。○〔漢〕「遠縣—至」。
(初纔) わづかなると。○〔陸游〕「——渐邇二渐戶一」。

【纕】 シヤウ、サウ。息良切 陽
㊀臂をかゝぐ。㊁たすき(綦)。
㊂おび(帶)。○〔屈平〕「以二蕙——一」。○〔國〕「懷挾二纓——一」。
㊃馬の腹帶、はらおび。
(佩纕) 帶。○〔離騷〕「解二——一以結レ言兮」。
(纓纕) 馬のむながひと腹帶と。○〔李華〕「身被二——一」。
(錦纕) にしきの帶。○〔宋濂〕「皮帽新裁繫二—」。

【纕】 サウ。蘇郎切 陽
纕に同じ。

【纕】 ジヤウ、ニヤウ。汝兩切 養
絲みだる、みだる。

【纖】 セン、ソン。息廉切 鹽
㊀微細、ちひさし、こまかし。○〔蔡邕〕「剖レ—入レ冥」。
㊁細縷の布帛、うすぎぬ、うすぬの。○〔屈平〕「被レ文服レ—」。
㊂細線、こまかきすぢ。○〔賈餘〕「纖積二于—一」。○「禮而—」。
㊃黑き經にて白き緯の布帛。○〔禮〕
㊄徃衣の飾り、うはぎのかざり。○〔史〕「蜚レ—垂レ髾」。
㊅殺小なり、さがる。○〔周〕「欲二其學爾而—一」。
㊆儉嗇、ちわし。○〔史〕「周人既—」。
㊇細好、たをやか、ちなやか。○〔江洪〕「腰—蔑二楚媛一」。「剃」。
㊈殲に同じ、さす。○〔禮〕「其刑罪——」。
(纖々) 細微の貌にいふ語。○〔魏註〕「——往來、求レ成二界好一」。
(至纖) 極めて微細なると。○〔漢〕「古之治二天下一、——至悉也」。
(洪纖) 大いなると微細なると。○〔後漢〕「——之度、其頤可レ探也」。「有レ方」。
(穠纖) 盛んなると微なると。○〔梁武帝〕「——」

〔[illegible]纖〕 わづかばかりなること。○〔歐陽修〕「而與二造化一爭二ー・ー一」。「懦・弱」。
〔尪纖〕 かぼそきこと。
〔條纖〕 枝の細くあること。○〔魏〕「汝曹觀二此人一、ー・ー」。○〔隋〕「葉密ー・ー如レ髮絲下垂」。
〔輕纖〕 かろくしていと細し。○〔舊唐〕「元帝罷二ー・ー之服一」。
〔義纖〕 意義深微なり。○〔論衡〕「春秋ー・ー」。
〔被纖〕 絲のほそき衣を著る。○〔張衡〕「ーレー垂レ」「ー」。
〔微纖〕 こまかに小さきこと。○〔韓愈〕「不レ知二己ー・」「ー」。
〔脩纖〕 長くして細し。○〔王安石〕「其末乃ー・」「ー」。
〔珍纖〕 珍奇なるおりもの。○〔劉禹錫〕「衣極二ー・ー一」。
〔尖纖〕 とがる。○〔白居易〕「ー・ー嫩二紫芒一」。
〔鉅纖〕 大きなると微細なると。○〔汪克寬〕「豈ー・ー之異宜」。

【⿰糸鮮】 纎に同じ。

【⿰糸龠】 ヤク。以灼切 藥。いと（絲）。

十八畫

【⿰糸雚】 ケン、コン。驅圓切 先。㊀ー惓は、づきん（幘）、一説に、小兒の帽子。㊁布の名。

【⿰糸雚】 クワン、ケン。求患切 諫。褌に同じ、衣のそで。

【纗】 ス井。姊宜切 支 ゲイ。元圭切 齊 クワイ、胡卦切 卦 チ。竹恚切 寘 エ。㊀つなぐ、ひも（系）。○〔張衡〕「ー二幽蘭之秋華一兮」。㊁おほおび（紳帶）。

【纗】 井。以唾切 寘。紘の中絶ゆ、いとたゆ。

【⿰糸聶】 デフ、子フ。尼輒切 葉。絲のつぎめ。

【⿰糸蹙】 シユク、ソク。子六切 屋。ちゞむ（縮）、一説に、纖に同じ。

【⿰糸叢】 ソウ、ズ。徂聰切 東。絲を合はせて織る、おる。

【⿰糸薰】 纁に同じ。

十九畫

【纘】 サン。祖管切 旱。つゞく、つぐ（繼）。○〔書〕「ー二禹舊服一」。
〔承纘〕 受けつぐ。○〔[illegible]〕「[illegible]ー・ー」。
〔繼纘〕 前に同じ。○〔劉崧〕「令緒愼二ー・ー一」。

【繳】 カク、ギヤク。下革切 陌。衣の領の内、えりうら。

【纙】 ラ。郎佐切 箇。ぜにさし（錢緡）。

【纚】 シ。所綺切 紙。㊀髪をつゝむきれ、かみづつみ、又、かみづつみの繒、かむりぎれ。○〔儀禮〕「緇ー廣終幅、長六尺」。㊁羣行する貌にいふ字、むらがりゆく、又、衆多なる貌にいふ字、おほし。○〔漢〕「ーー乎淫々」。㊂連屬す、つゞく。○〔漢〕「聲道ーー屬」。㊃索の好き貌にいふ字。○〔屈平〕「索二胡繩之ーー一」。㊄長き貌にいふ字。○〔張衡〕「奮二長袖之颯ーー一」。
〔笄纚〕 かみづつみを置く。○〔儀禮〕「實二笄ー二ー笄・櫛于簞南端一」。
〔設纚〕 かみづつみをしつらへおく。○〔儀禮〕「坐レ櫛ーレー」。
〔正纚〕 かみづつみを正しくなほす。○〔儀禮〕「宮[illegible]ーレー如レ初」。

【纚】 リ。犛介切 紙。前條の㊂に同じ。

【纚】 リ。鄰知切 支。かんむりのひも（緌）、一説に、たけづな（筰）。○〔詩〕「紼ーー維レ之」。

【纚】 サイ、セ。所蟹切 蟹。物の垂るゝ貌にいふ字。○〔屈平〕「舒二佩兮綝ーー一」。
〔褷纚〕 垂れさがる貌にいふ語。○〔海賦〕「被二羽翮之ーー一」。
〔襂纚〕 ひるがへる貌にいふ語。○〔漢〕「落英ーー」。

【纚】 シ。所宜切 支。車の飾りの貌にいふ字。○〔漢〕「灕乎幓ー」。

【纛】 タウ、ドウ。徒刀切 豪 杜皓切 皓 徒到切 號 トク、ドク。徒沃切 沃 徒谷切 屋。はたぼこ、はた。（い）柩を輓くの役を指麾する羽葆幢。○〔周〕「及レ葬執レー以與二匠師一」。（ろ）軍中の大旗、乘輿（おのりもの）の大旗、おにがしら。○〔周〕「先驅二ー于近城一」。
〔狼纛〕 おほかみの頭の形をつけたる大旗。○〔楊維楨〕「氣呑二ー・ー一」。
〔大纛〕 軍中の大旗。○〔歐陽修〕「高牙ー・ー」。
〔執纛〕 羽のはたをもつ。○〔周〕「及レ葬ーレー」。
〔[illegible]纛〕 乘輿六纛のこと、卽ち、天子の用ふるもの。○〔北史〕「竊假二ー・ー一」。
〔甲纛〕 よろひと軍旗と。○〔唐〕「征行者假二ー・ー旗幡一」。
〔旗纛〕 はた。○〔唐〕「獲二馬牛橐駝ー・ー一不レ可レ計」。
〔旄纛〕 前に同じ。○〔馬戴〕「ー・ー冒レ霜懸」。
〔鼓纛〕 軍鼓と軍旗と。○〔遼〕「受二唐ー・ー之賜一」。
〔牙纛〕 軍旗のこと。○〔張養浩〕「ー・ー明二郊原一」。
〔陣纛〕 前に同じ。○〔陸龜蒙〕「蚩尤ー・ー[illegible]」。

【⿰糸霝】 シ。中之切 支。つむぎ（粗紬）。

【⿰糸靡】 バ、マ。毋果切 哿。行く貌にいふ字。

【⿰糸羸】 ラ。魯過切 箇。㊀均しからざるにいふ字。㊁細からざるにいふ字。

二十畫

【⿰糸霝】 シ。商支切 支。つむぎ（紬）。

廿一畫

【纜】 ラン、ロン。盧瞰切 勘。舟をつなぐ索、ふなづな、ともづな。○〔杜甫〕「遲日徐看錦ー牽」。
〔結纜〕 舟のともづなをゆふ。○〔陰鏗〕「ーレー晩洲中」。
〔解纜〕 舟のともづなをほどく、卽ち、出帆するにいふ語。○〔江淹〕「ーレー候二前侶一」。
〔錦纜〕 にしきもて作りたるともづな、卽ち、飾りあるともづなにいふ語。○〔張正見〕「金堤分二ー・ー一」。「解レ衣臥」。
〔舸纜〕 はしけ舟のともづな。○〔吳〕「更増二ー・ー一」。
〔繫纜〕 ともづなをつなぎつく。○〔陸游〕「放翁ーー水雲鄕」。

（收纜）舟のともづなを引きあぐ。○〔鮑照〕「—レ—辭二吳鄉一」。
（鎖纜）ともづなのあるがまゝなること。○〔梁簡文帝〕「水苔—レ—緊」。
（別纜）わかれ去る時ひきあぐるともづな。○〔杜仲高〕「—・—解時風度緊」。
（放纜）ともづなを引きはなす。○〔韓維〕「野艇時—レ—」。
（緊纜）ともづなをきびしくゆふ。○〔陳造〕「—レ—下レ窓坐」。
（牽纜）ともづなを引きゆく。○〔虞集〕「桃花吹レ雨春—レ—」。
（纖纜）出船の用意をなすこと。○〔賈島〕「—・—歸二絕岸一」。

【⿰糸屬】シヨク、ソク。朱欲切 〔沃〕 ㊀おび（帶）。㊁えりを綴づるひも、こちひも。

【纝】ル井。力追切 〔支〕 ㊀綱をかく、まとふ。㊁縲に同じ、ゑばりなは。

廿二畫

【⿰糸囊】ダウ、ナウ。乃浪切 〔漾〕 儴に同じ、ゆるやか。

廿三畫

【⿰糸疊】テフ、デフ。達協切 〔葉〕 絲の數、いとのかず。

【纞】レン。龍絹切 〔霰〕 斷えざるにいふ字、つゞく。

缶部

【缶】フウ、フ。方久切 〔有〕 ㊀腹の大きくして口のつぼめる瓦器、もたひ、はち、かめ、ほとぎ、おもに酒漿を盛るに用ふ、秦人は之を鼓して歌の節とせしぞ。○〔易〕「有レ孚盈レ—」。㊁四斛の量、一說には、一斛六斗。○〔國〕「其歲收田一井、出二稯禾秉芻・—米一」。
（鼓缶）ほとぎをうちならす。○〔淮〕「鄙人—レ—」。
（擊缶）前に同じ。○〔史〕「爲一—レ—」。
（拊缶）前に同じ。○〔漢〕「仰レ天—レ—而呼二烏々一」。
（盈缶）ほとぎのなかに充滿す。○〔傅咸〕「我心之孚有レ—二于—一」。
（土缶）ほとぎ。○〔國〕「獲レ如二—・—一」。
（瓦缶）前に同じ。○〔李商隱〕「濁酒盈二—・—一」。

三畫

【缻】俗の缶の字。

【缸】カウ、ゴウ。下江切 〔江〕 瓨に同じ、かめ、もたひ。○〔史〕「醯醬千——」。
（玉缸）たまにて作りたる酒漿などをもるうつは。○〔岑參〕「北投二—・—一春酒香」。
（罌缸）酒などをもるもたひ。○〔韓愈〕「四壁堆二—・—一」。
（酒缸）さけをいるゝもたひ。○〔黃庭堅〕「叩レ門提二—・—一」。
（糟缸）さけのかすをいるゝもたひ。○〔蘇軾〕「微官終日守二—・—一」。
（滿缸）もたひのなかに充つ。○〔張耒〕「春色欣頭酒—レ—」。

【⿰缶干】缸に同じ。

【⿰缶于】ウ。雲俱切 〔虞〕 汲む器。

【⿰缶下】カ、ケ。呼嫁切 〔禡〕 あな、すきま（孔）。

四畫

【缼】キ。詰利切 〔寘〕 火を吹く、ふく。

【缹】フウ、フ。方久切 〔有〕 火にて熟る、にる。

【⿰缶不】桮に同じ。

【⿰缶开】ケイ、ギヤウ。呼經切 〔青〕 罌に似て頸の長き器、一說に、酒を入るゝ器。

【䍃】イウ、以周切 〔尤〕 エウ。餘招切 〔蕭〕 もたひ、かめ（瓶）。○〔揚雄〕「甖、淮汝之閒謂二之—一」。

【缺】ケツ、ケチ。苦穴切 〔屑〕 ㊀かく。（い）破損して完成ならざるにいふ字、やぶる、こはる、こはす、そこなふ。○〔書〕「咸以レ正罔レ—」。（ろ）不足す。○〔大戴禮〕「粟—二于倉一」。㊁かけ。（い）不足。○〔戰〕「補二黑衣之—一」。（ろ）きず（玷）。○〔西京雜記〕「皆達照無二瑕—一」。
（殘缺）やぶれかく。○〔漢〕「散籍—・—」。
（玷缺）完全ならずしてかく。○〔皮日休〕「佐レ我無二—・—一」。
（虧缺）前に同じ。○〔史〕「治道—・—」。
（圓缺）まろきとかけたると。○〔蘇軾〕「月有二陰晴—・—一」。
（破缺）やぶる。○〔詩〕「既—二我斧一、又—二我斨一」。
（補缺）かけたるをおぎなふ。○〔史〕「何常興二關中卒一輒—・—」。
（亢缺）前に同じ。○〔漢〕「今當下選二於聖卿一、以—中其—上」。
（敝缺）衰へてまつたからず。○〔漢〕「故王道雖二—・—一、而筦絃之聲未レ衰也」。
（修缺）かけやぶれたるをおさめつくろふこと。○〔漢〕「漢—二其—一」。
（凋缺）おとろへやぶる。○〔後漢〕「禮序—・—」。
（淪缺）前に同じ。○〔隋〕「樂章—・—」。
（散缺）ちりうせて完備せず。○〔魏〕「樂章—・—」。
（盈缺）みちてまつたきとかくると。○〔魏〕「弦望有二—・—一」。
（瑕缺）玉などのきず。○〔西京雜記〕「皆達照無二—・—一」。
（廢缺）すたれかく。○〔班昭〕「夫不レ得レ婦、則威儀—・—」。
（損缺）そこねてまつたからず。○〔荀悅〕「公義—・—」。
（亡缺）ほろびてまつたからず。○〔牛弘〕「樂書—・—」。
（剝缺）はがれかく。○〔韓愈〕「其文—・—」。
（圮缺）くづれそこなふ。○〔蘇轍〕「補二其—・—一」。
（頹缺）前に同じ。○〔蘇過〕「鑿二補垣之—・—一」。
（列缺）いなびかり、天門。○〔史〕「貫二—・—之倒景一兮」。
（兎缺）脣のかけたると、いぐち。○〔晉〕「生而—・—」。
（金甌無缺）國家の外侮を受けしことなきにいふ語。○〔南〕「武帝言我國家猶若二—・—一無二一傷—一」。

【缺】キ。犬橤切 〔紙〕 ケン。窺絹切 〔霰〕 冠を固くいただくために項中に結びつくる巾、はちまき、絛幘。○〔儀〕「緇布冠—項」。

【⿰缶瓦】缶に同じ。

五畫

【⿰缶占】テン、多忝切 〔琰〕 部念切 〔豔〕 かく（缺）。

【⿰缶令】罏に同じ。

【⿰缶宁】チヨ、ト。丁呂切 〔語〕

こめぶくろ、（帳）。

【⿰缶乏】タフ、ドフ。徒盍切 合 ヘキ、ビヤク。鋪彳切 陌

【⿱巩缶】キヨウ、ク。古勇切 腫 ㊀下の平かなるほさぎ。㊁かめ、（甁）。かめ（瓨）。

【⿰缶只】タイ、テ。知駭切 蟹 かく（缺）。

【⿱此缶】スヰ。子累切 紙 かめ（瓶）。

六畫

【⿰缶交】カウ、ケウ。古肴切 肴 土にて造れる樂器、塤の類。

【⿰缶交】カク、コク。訖岳切 覺 器の名。

【⿰缶交】ケキ、キヤク。詰歷切 錫 吹く器。

【⿱吅缶】器に同じ。

【⿰缶圭】カイ。革鞋切 佳 好き器。

【⿱次缶】シ。疾資切 支 陶器の緻堅なるもの。

【缾】ヘイ、ビヤウ。薄經切 青 瓶に同じ、つるべ、かめ。○〔揚雄〕「子猶レ—」。

〔罌缾〕かめの水を汲む器。○〔韓愈〕「罌滿缾ニ—・「—ニ」。
〔窑缾〕前に同じ。○〔李頎〕「—・—宛轉下」。
〔長缾〕ながきかたちのかめ。○〔陸游〕「欣・然一・醉倒ニ—・—ニ」。
〔磁缾〕磁器のかめ。○〔藝苑珠林〕「得ニ古—・—ニ」。
〔罌缾〕水漿をもるもたひ。○〔元結〕「戸・牖皆—・—」。
〔垂缾〕つるべをさげおろす。○〔蘇軾〕「—レ—得ニ清・甘ニ」。

【缿】カウ、ゴウ。胡講切 講 トウ、ヅ。徒口切 有 錢を受くる器、ぜにづつ。

【缿】コウ、グ。下遘切 宥 其の形瓨の如くにて板書を入るゝ筩、ふみづつ。○〔漢〕「又敎レ吏爲ニ—・筩ニ」。

七畫

【⿰缶孚】フ。芳無切 虞 未だ燒かざる瓦。

【⿰缶巠】カウ、ギヤウ。何耕切 庚 鐘に似て頸の長き器。

【⿰缶否】ハイ、ヘ。晡枚切 灰 ほさぎ、はち、（缶）。

八畫

【⿰缶或】ヨク、ヰキ。雨逼切 職 瓦の器。

【⿱尚缶】甇に同じ。

【⿰缶周】シウ、シユ。支手切 有 器の成就せるを、又、なる。

【⿰缶幷】ヘイ、ビヤウ。薄經切 青 瓶に同じ、つるべ、かめ。○〔詩〕「—之罄矣、維罍之恥」。

【⿰缶戔】サン、ゼン。阻限切 潸 酒の器、さかづき、玉の爵、たまのさかづき。

【⿰缶咅】フウ、ブ。縛謀切 尤 ホウ、ブ。蒲侯切 薄口切 有 小さき缶、はち。

【罁】カウ。居郎切 陽 かめ、（甁）。

九畫

【⿰缶是】テイ、ダイ。待禮切 薺 はち、ほさぎ、（甂）。

【⿰缶重】シヨウ、シユ。諸容切 冬 量の名、六斛四斗のこと。

十畫

【⿱[illegible]缶】スヰ、ズヰ。是爲切 ツヰ、ヅヰ。傳追切 支 かめ、（甀）。

【⿱㱿缶】コウ、ク。苦候切 有 コク。空谷切 屋 未だ燒かざる瓦器。

【⿰缶留】リウ、ル。力救切 宥 こしき、（甑）。

【罃】エイ、ヤウ。烏莖切 庚 火を備ふる頸の長き甁、かめひばち。

十一畫

【罄】ケイ、キヤウ。苦定切 徑 棄挺切 迥 ㊀内部の空しきにいふ字、むなし、つく。○〔左〕「室如ニ縣—一」。㊁すべて、みな、のこらず、ことごとく。○〔詩〕「—無レ不レ宜」。㊂嚴に整ふこと。○〔逸周書〕「師・旅—然」。

〔窘罄〕困窮して資財の乏しきこと。○〔宋〕「多有ニ—・—ニ」。
〔虛罄〕むなし。○〔宋〕「廩・藏—・—」。
〔空罄〕前に同じ。○〔魏〕「祭・祀—・—」。
〔凋罄〕おとろへて資財の乏しきこと。○〔唐〕「百・姓—・—」。
〔疲罄〕前に同じ。○〔唐〕「三・蜀—・—」。

【罅】カ、ケ。虛訝切 禡 ㊀孔隙、すきま、あな。○〔史〕「不レ能三傳ニ合疏—一」。㊁孔隙を生ず、さく。○〔太元經〕「密・々不レ—」。

〔補罅〕すきまをつくろふ。○〔陸游〕「窓破—・非「—ニ」。
〔石罅〕いしのすきあな。○〔宋〕「枝插ニ于—・—ニ」。
〔寸罅〕一寸ばかりのわづかなるすきま。○〔何先〕「—・—必塞」。
〔巖罅〕いはのすきま。○〔皮日休〕「—・—雲如「縷」。
〔林罅〕はやしのすきま。○〔沈彬〕「眼穿ニ—・—見ニ郴州ニ」。
〔隙罅〕すきあな。○〔蘇軾〕「至レ今餘ニ—・—ニ」。
〔明罅〕あかりをとるあな。○〔方鳳〕「知此—・—從レ何穿」。
〔完罅〕缺けたるを全くす。○〔周邦彦〕「補レ弊—」「—」。
〔發罅〕すきあなをみたす。○〔王令〕「—レ—窺ニ堂奥ニ」。
〔窗罅〕まどのすきま。○〔陸游〕「野・藤擂周入ニ—・—ニ」。
〔雲罅〕くものすきま。○〔范成大〕「不レ覺星從ニ—・—吐」。

(孔罅) すきあなのと。○[戴復古]「石罅生二ー-ー」。
(拆罅) すきまを裂きひらく。○[柳貫]「青天ーレー拔二飛流一」。

【𦉜】 罅に同じ。

十二畫

【䍀】 セン、ゼン。時戰切 霰
瓦器の緣、へり、ふち。

【罇】 ソン。祖昆切 元
尊に同じ、さかだろ。○[蜀都賦]「合レーー促レ席」。
(華罇) うつくしきたる。○[傅休奕]「ーー享二清酤一」。
(淸罇) きよらかなるたる。○[劉包]「ーー久不レ「䣷」。
(酒罇) さかたる。○[蘇軾]「河漢落二ー-ー一」。
(瀣罇) たるにからたをよせかく。○[江淹]「ーー還惆-然」。
(茶罇) ちやをいるゝもたひ。○[釋皎然]「ー-ー獨對レ余」。

十三畫

【罄】 ケイ、苦計切 霽 カイ。切 カク、キヤク。揩革切 陌
器の中盡く、つく。

【䍦】 鑪に同じ。

【罋】 ヲウ、烏貢切 送 ヨウ、於容切 冬
甕に同じ、かめ、もたひ。○[賈誼]「ー-ー牖繩-樞之子」。

十四畫

【䍚】 キン。許覲切 震
器裂く、さく。

【𦉪】 カン、ゴン。戸䨵切 感
㊀すゑもの(陶)。㊁水を盛る器。

【䍐】 カン、コン。呼濫切 勘
鷩に同じ、大いなる缶、おほほさぎ。

【罌】 アウ、烏莖切 庚 エイ、於正切 敬 ヤウ。 ヤウ。
もたひ(缶)、かめ(瓶)。○[漢]「以二木-ー-缶一度レ軍襲二安-邑一」。
(木罌) 木にて作りたる瓶。○[史]「以二ー-ー瓶一渡レ軍」。 「承レ槽」。
(捧罌) もたひをさゝげもつ。○[酒德頌]「ーレー」
(餅罌) もたひ。○[蘇軾]「年-來小-器溢二ー-ー一」。
(毀罌) やぶれそこねたるかめ。○[易林]「ー-ー破-瓮」。
(銅罌) あかゞねもて作りたる餅。○[晉春秋]「以二ー-ー盛レ水」。
(玉罌) たまもて作りたるかめ。○[歸田錄]「余家有二ー-ー一」。
(湯罌) ゆをわかすかめ。○[博古圖]「漢ー-ー、盤溫レ水器也」。
(荷罌) もたひをになふ。○[崔駰]「ーレー負レ缶」。
(壺罌) 酒などをいるゝかめ。○[鮑昭]「何時傾レ杯竭二ー-ー一」。
(杯罌) さかづきとかめと。○[杜甫]「誰欽レ致二「ー-ー一」。
(罍罌) 酒などをいるゝたる。○[柳宗元]「ー-ー相追」。 「寄」。
(雙罌) ふたつのかめ。○[蘇軾]「百-里ー-ー遠相」
(浮罌) うきがめ。○[沈與求]「出二沒沙-際一如二ー-ー一」。
(甑罌) ゐろきかめ。○[陸游]「酒-蟾溢二ー-ー一」。
(提罌) もたひをひきさげもつ。○[孫蕢]「婦-女ーー汲江-水一」。

十五畫

【𦉾】 ガツ、ゲチ。牛轄切 黠
器の缺くろと。

【罍】 ライ、魯回切 灰 ルヰ。倫追切 支 レ。切
雲雷の形を畫きたる酒尊、さかだろ、其の形は壺に似て大いなり、一斛の量を入るゝ定めなりさぞ。○[周]「皆有レー、諸-臣之所レ酢也」。
(金罍) こがねもて作りたる酒樽。○[詩]「我姑酌二彼ー-ー一」。
(玉罍) たまもて作りたるさかたる。○[梁雅樂歌]「ー-ー信濕-々」。
(瓶罍) さけをいるゝかめとたると。○[詩]「ー之罄矣、維ー之恥」。
(瓦罍) かはらもて作りたるさかたる。○[三禮圖]「ー-ー謂二祭-祀之大-罍一也」。「ー」。
(樽罍) さかたる。○[元稹]「雨-行紅-袖排二ー-ー一」。

十六畫

【罎】 タン、ドン。徒南切 覃
壜に同じ、甁の屬、さくり。

【罏】 ロ、ル。落胡切 虞
さかだろ(罍)、又、かめ(甆)。

十七畫

【䍅】 レイ、リヤウ。郎丁切 靑
瓶に似て耳ある瓦器、もたひ。

【䍤】 ソン。倉困切 願
瓦器、やきもの。

【䍥】 セン。倉甸切 先
絲ぐろまのつむ、紡錘。

【䨓】 鑘に同じ。

十八畫

【罐】 クワン。古玩切 翰
㊀ほさぎ。
㊁汲器、つるべ、又、杓の類。

【𦉥】 ヲウ、烏貢切 送 ヨウ、於容切 冬
ウ。 ユ。
つるべ(汲-瓶)。

二十畫

【𦊄】 ガツ、ゲチ。五鎋切 黠
かく(缺)。

网部

【网】 バウ、文兩切 養 マウ。切
羅罟の總名、あみ。
(說文 從レ冂下象二网交文一。)

【𦊆】 テイ、他丁切 靑 チヤウ。切 他鼎切 迥
ーー罟は、こあみ、小罔。

【𦉭】 古文の四の字。

三畫

【罜】 トク、ドク。徒穀切 屋
うなあみ(魚-罔)。

【罔】 バウ、マウ。文兩切 養
㊀あみ。
(い)絲繩を組み結びて佃漁に用ふるもの、網罟。○[易]「結レ繩而爲二ー-罟一」。
(ろ)刑律。○[詩]「天之降レー」。
㊁羅致す、あみをかく、あみす。○[詩、傳]「天-下羅ーー」。
㊂結ぶ、繫ぐ、あむ。○[屈平]「ー二薜荔一爲レ帷」。
㊃なし(無)。○[書]「ーレ有レ攸レ赦」。
㊄あれどもなきが如くに視ろ、なみす。○[荀]「偸-儒而ー」。
㊅志ふ(誣)。○[論]「ーレ之生也、幸免」。
㊆無知なる貌にいふ字、喪心の貌にい

ふ字、おろか、うつさり。○〔張衡〕「――然若レ醒」。

㊇憂ふる貌にいふ字。○〔宋玉〕「―兮不レ樂」。

㊈魍に同じ。○〔孔叢子〕「土木之怪、夔、―兩」。

〔迷罔〕精神みだれくらむ。○〔列〕「秦人逢氏子有二――之疾一」。
〔欺罔〕あざむきくらます。○〔漢〕「以二――一世一主一」。
〔誣罔〕しふ。○〔後漢〕「横被二――之譏一」。
〔侍罔〕君の權をおかしなみす。○〔漢〕「臣驕――」。
〔惑罔〕まどふ。○〔雲笈七籤〕「以定二――之迷一」。

【罕】罕に同じ。○〔宋玉〕「罘――不レ傾」。
〔高罕〕たけたかき旗。○〔徐陵〕「――將レ臨」。
〔揚罕〕はたをあぐ。○〔李義甫〕「―レ―馭二風司一」。
〔翠罕〕みどり色のはた。○〔王勃〕「翔二――于雲句一」。
〔旆罕〕はた。○〔徐彥伯〕「辭光燿二綸于――一」。

【罕】カン。許旱切 旱
㊀まれ、まばら、(希)。○〔詩〕「叔發―忌」。
㊁旌旗、はた。○〔史〕「荷二―旗一以先驅」。
㊂網罟、あみ。○〔後漢〕「―罔合レ部」。
〔雲罕〕大旗の名。○〔南〕「置二旆頭――一」。
〔畢罕〕前に同じ。○〔晉〕「旆頭――」。
〔旌罕〕はた。○〔宋〕「――紛亂」。

【⿱罒弓】テキ、チヤク。都歷切 錫
魚を網に繫く、魚を擊め牽く、つなぐ。○〔潘岳〕「貫レ鰓―レ尾」。

【罕】罕に同じ。

四畫

【⿱罒比】ヒ、ピ。頻脂切 支
㊀蝦を取る具。㊁かご、かたみ(篝-笭)。

【⿱罒牙】ガ、ゲ。牛加切 麻
うさぎあみ(兔-罟)。

【罘】フウ、ブ。縛謀切 尤　ヒ、ビ。盆悲切 微　フ。芳無切 虞
㊀あみ(罟)、特に、兎を捕らふるものにいふ。○〔史〕「―罔彌レ山」。
㊁かさぬ(復)。○〔釋名〕「―復也、罘罳也」。
〔罝罘〕兎などを捕らふるあみ。○〔後漢〕「擧レ趾觸二――一」。
〔張罘〕うさぎを捕らふるあみをはる。○〔七啓〕「彌レ野―レ―」。
〔罟罘〕魚鳥などを捕らふるあみ。○〔淮〕「好レ漁者先具二―與レ―」。
〔解罘〕あみをとき去る。○〔東京賦〕「―レ―放レ鱗」。

【⿱罒互】ゴ、グ。五故切 遇
うさぎあみ(兔-罟)。

【⿱罒厷】カウ、キヤウ。古橫切 庚
罔に滿つ、みつ。

【⿱罒厷】カウ、ギヤウ。乎萌切 庚
なは(索)。

【⿱罒今】シン、ジン。鋤簪切 侵
あみ(罔)。

五畫

【⿱罒示】ボウ、ム。莫厚切 有
網を張る、はる。

【⿱罒母】ボウ、ム。莫後切 有
あみ(網)。

【⿱罒巨】キヨ、ゴ。其呂切 語
あみ(罟)。

【⿱罒卯】リウ、ル。力久切 有
罶に同じ。

【⿱罒氐】テイ、タイ。都黎切 齊
あみ(罔)。

【⿱罒氐】テイ、タイ。典禮切 薺
うさぎあみ(罘)。

【⿱罒句】コウ、ク。古厚切 有
笱に同じ、魚を捕らふる具、うへ、竹を曲げて造る。

【⿱罒令】レイ、リヤウ。力鼎切 迥　郞丁切 靑
罓の字を見よ。

【罛】コ、ク。古胡切 虞
㊀うをあみ(魚-罟)。○〔詩〕「施レ―濊々」。
㊁形貌、かたち。○〔張衡〕「睽―庨豁」。
〔美罛〕うつくしき網。○〔宋〕「怍以二――一」。
〔圓罛〕まるがたのあみ。○〔陸龜蒙〕「左手揭二――一」。

【⿱罒凶】デン、ヂン。女減切 豏
魚を捕らふる網、うをあみ。

【⿱罒包】ハウ、ヘウ。匹交切 肴　フウ、ブ。縛謀切 尤　フク、ホク。方副切 屋　フ。芳無切 虞
罘に同じ、むそうあみ。

【⿱罒主】シユ、ス。之戍切 遇　腫庾切 麌　トク、ドク。徒谷切 屋
こあみ、(小-網)、一說に、うをあみ、(魚-罟)。○〔張衡〕「設二―麗一」。

【罝】シヤ、セ。子邪切 麻　シヨ、ソ。子余切 魚
あみ(罔)、特に、兎又は他の獸を捕らふるに用ふるもの、うさぎあみ、けものあみ。○〔禮〕「田獵―罘羅-網畢-翳」。
〔兔罝〕うさぎを捕らふるあみ。○〔詩〕「肅々―」。
〔張罝〕うさぎを捕らふるあみをはること。○〔爾雅疏〕「―レ―捕レ之也」。
〔破罝〕やぶれあみ。○〔論衡〕「藏二身――之路一」。
〔破罝〕鳥獸などを捕らふるあみ。○〔馬融〕「――羅罻」。
〔疎罝〕繁密ならざるあみ。○〔夏侯湛〕「――結二于通-藪一」。
〔繁罝〕緻密なるうさぎあみ。○〔王融〕「――或罣レ兔」。
〔罹罝〕あみにかゝる。○〔鄭浩〕「今如二兎―レ―」。
〔禽罝〕とりを捕らふるあみ。○〔高啓〕「――帶レ雨張」。

【⿱罒且】罝に同じ。

【罞】ボウ、ム。莫紅切 東　バウ、メウ。莫交切 肴　ボウ、ム。莫候切 宥
しかあみ(麋-罟)。○〔爾〕「麋-罟謂二之――一」。

【罟】コ、ク。公戶切 麌
㊀あみ。
(い)あみ、(罔)、特に、魚を捕らふるに用ふるもの、うなあみ。○〔易〕「結レ繩而爲二罔――一」。

(ろ)刑律。○〔詩〕「畏二此罪ーー一」。○〔周〕「掌レーー二田-獸一」。

㊁あみにかけ捕らふ、あみす。

〔守罟〕あみのばんをなす。○〔周〕「時-田則ーレーー」。
〔數罟〕こまかくあみたるあみ。○〔孟〕「ーーー不レ入二洿池一」。
〔羅罟〕あみ。○〔杜甫〕「終覓畏二ー・ー一」。
〔兔罟〕うさぎあみ。○〔詩、傳〕「兔罝ーーー也」。
〔緵罟〕小魚を捕らふるあみ。○〔詩〕「九-罭ーー、小-魚之網也」。
〔鳥罟〕とりを捕らふるあみ。○〔爾〕「ーーー謂二之羅一」。
〔麋罟〕志かを捕らふるあみ。○〔爾〕「ーーー謂二之罞一」。
〔斷罟〕あみをたちきる。○〔國〕「里-革ー斷ー而棄レ之」。
〔施罟〕あみをはる。○〔摯虞〕「ーレー設レ網」。
〔漁罟〕魚を捕らふるあみ。○〔朱德潤〕「黄-葦-堆-灘插二ー・ー一」。

【罠】ビン、ミン。武巾切 眞 ㊀つる(釣)。㊁兔䍐を捕らふる網、一說に、麋を捕らふる網。○〔左思〕「ーー䍡連レ網」。

【罡】カウ。居康切 陽 天ーーは、星の名、北斗星。○〔參同契〕「二-月楡-魁臨二于卯一、八-月麥生天-ーー據レ酉」。

【⿱罒玄】罥に同じ。

【⿱罒不】コ、ク。侯古切 麌 あみ(網)。

六畫

【⿱罒合】アフ、遏合 オフ。切 カフ、口合 コフ。切 合 さりあみ(鳥-網)。

【⿱罒米】ビ、武移 ミ。切 支 ベイ、緜兮 メイ。切 齊 ㊀あまねくめぐる、(周-行)、一說に、たかす(冒)、ふかし(深)。㊁あみ(罟)。

【⿱罒元】クワウ。姑横切 庚 網に滿つ、みつ。

【罣】クワイ、古賣切 卦 ケイ、ケ。古惠切 霽 ㊀かく、かゝる(挂)。㊁さゝふ、さゝはる(礙)。

【⿱罒丣】リウ、ル。力求切 尤 鳥獸を捕らふる具。

七畫

【⿱罒呂】リヨ、ロ。良倨切 御 あみ(網)。

【⿱罒豕】ボウ、ム。莫紅切 東 むそうあみ(覆-網)。

【⿱罒每】バイ、莫栝 メ。切 灰 バイ、莫佩 切 隊 ブ、文甫 ム。切 ボ、滿補 モ。切 麌 きじあみ(雉-網)。

【⿱罒毎】ボウ、ム。莫後切 有 罘に同じ。

【⿱罒否】フウ、縛謀 ブ。切 尤 ヒ、貧悲 ビ。切 支 うさぎあみ(兔罟)。

【罤】テイ、ダイ。田黎切 齊 うさぎあみ(兔-罝)。

【罥】ケン。姑泫切 銑 かく(挂)、つなぐ(係)。○〔鮑昭〕「蕪-葛ーレ塗」。
〔掛罥〕たかくかく。○〔杜甫〕「高-者ー二ー長-林梢一」。

【罥】ケン。古縣切 先 わがぬ(絹)。

【⿱罒良】ラウ。郎宕切 漾 莽ーーは、廣大なる貌にいふ語。○〔左思〕「相與騰二躍乎莽ーー之野一」。

【罦】フ。芳無切 虞 フウ、縛謀 ブ。切 尤 車の轅に網を結びつけ車の轉ずるに從ひ解きて鳥を捕らふるもの、むそうあみ(覆-車)。○〔詩〕「雉離二于ー一」。
〔罝罦〕鳥獸などを捕らふるあみ。○〔淮〕「ーーー不レ得レ布二于野一」。

八畫

【罧】シン、所今 ソン。切 リン。黎針 切 侵 シン、所禁 ソン。切 沁 シン。斯甚 切 寢 ふしづけ(涔)。

【⿱罒孤】罛に同じ。

【⿱罒固】コ、ク。古暮切 遇 魚を取る具。

【罨】エン。於檢切 琰 エフ、於業 オフ。切 葉 アフ、烏合 オフ。切 合 あみ、あみす(罔)。○〔左思〕「ーー二翡-翠一」。

【罩】タウ、都教 テウ。切 效 タク、竹角 トク。切 覺 ㊀竹又は荊などを編みて造り魚を捕らふるに用ふる籠、かご。○〔爾〕「籗謂二之ーー一」。㊁こむ。(い)かごに入れ捕らふ。○〔詩〕「南有二嘉-魚一、烝-然ーー」。(ろ)入れ包む。○〔司空圖〕「荷-塘烟ー小-齋-虛」。
〔鈎罩〕つるとこむと、即ち、魚を捕らふること。○〔黃庭堅〕「不レ可二ー・ー一」。
〔釣罩〕つりばりとかごと。○〔陸龜蒙〕「ー・ー無レ所レ及」。
〔罾罩〕魚を捕らふるかご。○〔晁補之〕「網-罟ーー」。
〔籠罩〕魚を捕らふる竹かご。○〔李賀春〕「湘-儼在二ー・ー一」。
〔弛罩〕かごをゆるぶ。○〔曹植〕「ーレー出二鳳-雛一」。
〔網罩〕魚を捕らふるかご。○〔蘇軾〕「戸-々懸二ー・ー一」。

【⿱罒皁】罩に同じ。

【⿱罒隹】タウ、テウ。都教切 效 鳥を籠に入れて出ださゞること。

【⿱罒戔】セン。私箭切 霰 うをあみ(魚-網)。

【罪】サイ、ゼ。徂賄切 賄 ㊀つみ、とが。(い)禁を犯すこと、法に觸るゝこと。○〔左〕「狄有二五ーー一」。(ろ)理に戻ること、正に差ふこと。○〔史〕「至二相-如門一謝レー」。(は)刑罰。○〔左〕「欲レ加二之ー一」。(に)殃害。○〔左〕「懷レ璧有レー」。㊁つみを科す、つみす。○〔書〕「四ー而天-下咸服」。
〔加罪〕つみにあておこなふ。○〔左〕「欲レーー二之一」。

〔獲罪〕 つみをうく。○〔論〕「―ニ于天ニ」。
〔得罪〕 前に同じ。○〔歐緯〕「―レ―旣不レ測」。
〔宥罪〕 つみを赦してたゞさぬ。○〔易〕「君子以赦レ過―レ―」。
〔墨罪〕 いれずみの刑にあたるつみ。○〔周〕「―・―五百」。
〔臏罪〕 前に同じ。○〔賈誼〕「―・―日積」。
〔劓罪〕 はなきりの刑にあたるつみ。○〔周〕「―・―五百」。
〔刖罪〕 あしきりの刑にあたるつみ。〔周〕「―・―五百」。
〔宮罪〕 淫刑とてかくしところをきるにあたるつみ。○〔周〕「―・―五百」。
〔蔽罪〕 つみをおほひさす。○〔左〕「叔魚―ニ―邢侯ニ」。
〔舊罪〕 ふるきつみ。○〔家語〕「不レ錄ニ―・―ニ」。
〔過罪〕 あやまちとつみと。○〔戰〕「忠無ニ―・―ニ」。
〔除罪〕 つみを加へぬ。○〔史〕「出レ貨者―レ―」。
〔裁罪〕 つみを判定す。○〔戰〕「大王―ニ其―ニ」。
〔謝罪〕 あやまちをわぶ。○〔後漢〕「咎犯―ニ―文公ニ」。
〔忌罪〕 つみあるをわする。○〔漢〕「說以―レ―」。
〔遠罪〕 つみを犯さず。○〔漢〕「使ニ民日遷レ善―レ―、而不ニ自知一也」。
〔治罪〕 つみをしらべたゞす。○〔齊〕「付レ獄―レ―」。
〔減罪〕 つみを輕減す。○〔後漢〕「不レ得レ―レ―」。
〔功罪〕 てがらとつみと。○〔後漢〕「善・惡要ニ乎―・―ニ」。
〔原罪〕 つみをゆるして刑罰を加へず。○〔後漢〕「有レ詔―レ―」。
〔正罪〕 つみをたゞす。○〔後漢〕「遂擧―ニ其―ニ」。
〔成罪〕 つみをなす、又、なりたちたるつみ。○〔潛夫論〕「況―・―乎」。
〔抱罪〕 つみを身にもつ。○〔後漢〕「―レ―懷レ瑕」。
〔重罪〕 かろからざるつみ。○〔韓愈〕「而我抱ニ―・―ニ」。
〔嬰罪〕 つみにかゝる。○〔後漢〕「叔・向―レ―」。
〔怖罪〕 つみにかゝるを懼る。○〔吳〕「卓不レ―レ―」。
〔議罪〕 つみを論じてしらぶ。○〔晉〕「付レ法―レ―」。
〔刑罪〕 刑戮にあたるつみ。○〔南〕「―・―無ニ輕・重一悉原レ之」。
〔間罪〕 つみをとひたゞす。○〔宋〕「遣レ使―レ―」。
〔徒罪〕 徒刑のつみ。○〔宋〕「所ニ斷―・―以上獄ニ」。
〔杖罪〕 つゑにてうちたゝく刑罰にあたるつみ。○〔宋〕「―・―釋レ之」。
〔流罪〕 遠地にうつす刑罰にあたるつみ。○〔五〕「故ニ―・―以下四ニ」。
〔死罪〕 死刑にあたるつみ。○〔宋〕「雜犯―・―」。
〔當罪〕 つみにあておこなふ。○〔管〕「審レ刑―レ―」。
〔弛罪〕 つみをゆるぶ。○〔韓〕「―レ―廢レ法」。
〔懲罪〕 法をたゞしてつみあるものをこらす。○〔說苑〕「何以―レ―」。

【罣】 クワイ、エ。胡桂切 〔卦〕
さゝこほる、(礙)。

【罫】 カイ、ケ。古買切 〔蟹〕
博局の方の目、め。○〔桓譚〕「使ニ―・中死・棊皆生ニ」。

【罬】 テツ、テチ。陟劣切　ケツ、ケチ。古穴切 〔屑〕
㊀むそうあみ、(覆車)。
㊁つらぬ、つらなる、(連)。

【罭】 ヨク、井キ。雨逼切 〔職〕
小魚を取る網、こあみ、うをあみ。○〔詩〕「九―・之魚」。
〔九罭〕 網の名。○〔詩〕「―・―之魚鱒・魴」。
〔網罭〕 あみ。○〔沈約〕「躬事ニ―・―ニ」。

【置】 チ。陟吏切 〔寘〕
㊀おく。
(い)ゆるす、(赦)。○〔史〕「無レ有レ所レ―」。
(ろ)まうく、(設)。○〔呂氏春秋〕「―ニ四・面ニ」。
(は)たつ、(立)。○〔漢〕「不レ知ニ―レ辭ニ」。
(に)施す。○〔荀〕「其―ニ顏・色一出ニ辭・氣ニ」。
(ほ)留どむ。○〔漢〕「―ニ車官・廚ニ」。
(へ)棄つ。○〔國〕「―ニ大・德ニ」。
(と)安んず。○〔列〕「易而―レ之」。
㊁遞驛、うまつぎば、しゆくば。○〔漢〕「取ニ狐・父、祁、善・―ニ」。
㊂驛馬、しゆくばのうま。○〔漢〕「騎レ―以・聞」。
〔廢置〕 やむるとたつるとのことにて役人を黜陟する義にもいふ。○〔周〕「以詔ニ王及冢・宰ニ―・―」。
〔倒置〕 さかしまにたつ。○〔史〕「―ニ―干・戈ニ」。
〔易置〕 とりかへおく。○〔史〕「―ニ―軍・吏ニ」。
〔改置〕 前に同じ。○〔周〕「―ニ―宿・衞官・員ニ」。
〔傳置〕 馬つぎば。○〔漢〕「餘者以給ニ―・―ニ」。
〔廐置〕 前に同じ。○〔史〕「至ニ戶・鄕―・―ニ」。
〔郵置〕 前に同じ。○〔陳傅良〕「伺レ市看ニ―・―ニ」。
〔驛置〕 前に同じ。○〔駱賓王〕「―・―五・侯來」。
〔疾置〕 宿驛にそなへたるはやうま。○〔漢〕「丞・相長・吏乘ニ―・―以・聞」。
〔騎置〕 前に同じ。○〔漢〕「因ニ―・―以・聞」。
〔發置〕 前に同じ。○〔淮〕「雖ニ馳・傳―・―、不レ若ニ此其亟ニ」。
〔卷置〕 まきをさめおく。○〔周、註〕「謂レ―ニ―藥・中一也」。
〔處置〕 あつかふ。○〔韓愈〕「如レ此―・―非レ所レ宜」。
〔布置〕 位置のくばりをいふ。○〔續畫品〕「善ニ于―・―ニ」。
〔位置〕 前に同じ。○〔名畫記〕「經ニ營―・―ニ」。
〔建置〕 たて設く。○〔漢〕「―ニ―朔・方ニ」。
〔變置〕 これまでのものにかへて設く。○〔孟〕「旱・乾水・溢、則―ニ―社・稷ニ」。
〔誤置〕 まちがへておく。○〔史〕「―・―其籍代伍中ニ」。
〔亭置〕 うまつぎば。○〔史〕「郵・驛―・―如ニ中國ニ」。
〔召置〕 よびちかづけおく。○〔漢〕「―ニ―門・下ニ」。
〔選置〕 えらびおく。○〔漢〕「―ニ―師・友ニ」。
〔設置〕 まうく。○〔後漢〕「惟陛下―ニ―七・臣ニ」。
〔署置〕 人を官職につく。○〔隋〕「劉武周―ニ―百・官ニ」。
〔迭置〕 かはるがはるたておく。○〔晉〕「故恒興ニ太・尉―・―不ニ並・列ニ」。
〔標置〕 あらはれ立つ。○〔晉〕「其高自―・―如レ此」。
〔散置〕 ちらしおく。○〔晉〕「輒―ニ―大・路ニ」。
〔加置〕 増置といふに同じ、これまでのものよりましてて官職などをおく。○〔唐〕「―ニ―僚・佐ニ」。
〔創置〕 あらたにたつ。○〔名畫記〕「漢武―ニ―秘閣ニ」。
〔排置〕 ならべおく。○〔梅堯臣〕「―・―屋角邊」。
〔計置〕 はかりかぞへておくこと。○〔宋〕「―ニ―陝・西錢糧ニ」。
〔高置〕 たかくかゝげおく。○〔白居易〕「―ニ―寒・燈一如ニ客・店ニ」。
〔均置〕 ひとしく布きおく。○〔六韜〕「―ニ―稷・麥ニ」。
〔屈置〕 まげおく。○〔夢溪筆談〕「可ニ以―・―ニ」。
〔安置〕 やすらかにおく。○〔白居易〕「―ニ―疎・慵身ニ」。
〔備置〕 具置といふに同じ、そなへたておく。○〔班彪〕「―ニ―官・屬ニ」。
〔連置〕 つらねおく。○〔王粲〕「絚・網―・―」。
〔留置〕 とゞめおく。○〔李華〕「―ニ―左・右ニ」。
〔謫置〕 官を貶として遠地へおく。○〔白居易〕「―ニ―湘之陰ニ」。
〔移置〕 うつしおく。○〔歐陽修〕「―ニ―湖・南ニ」。

【⿱罒沓】 タフ、トフ。他合切 〔合〕
あみ、(罔)、一說に、おほふ、おほひ、(覆)。

【⿱罒毛】 ケイ。居例切 〔霽〕
氈の類。

九畫

【罯】 アン、オン。烏感切 〔感〕
おほふ、おほひ、(覆)。

【罯】 アフ、オフ。烏合切 〔合〕
前條に同じ。

【⿱罒紂】
羅に同じ。

【⿱罒⿰月刂】 サク、ソク。所角切 〔覺〕
あみ、(罔)。○〔張衡〕「飛・罕・䍡―」。

【罰】 ヘツ、バチ。房越切 〔月〕
㊀罪を責めて法に行ふこと、つみ、とが。○〔書〕「五・刑不レ閒正ニ于五・―ニ」。
㊁つみを科す、つみす、とがむ。○〔周〕「三讓而―レ之」。

〔愼罰〕 妄りに人をつみにあてず。○〔荀〕「明レ法─」「─ー」。
〔天罰〕 上帝よりくだしたるつみ。○〔書〕「奉二將─」。
〔行罰〕 つみある者を法にあつ。○〔漢〕「使二自─」「─ー」。
〔佚罰〕 つみあやまち。○〔書〕「惟予一人有二─・─」。
〔後罰〕 つみにあつることをあとまはしにす。○〔禮〕「先レ賞而─レ─」。
〔赦罰〕 つみすべき者を宥す。○〔韓〕「無レ─レ─」。
〔陟罰〕 官をのぼせ賞することつみに行ふこと。○〔諸葛亮〕「─二─臧・否一」。
〔刑罰〕 おもきつみとかろきつみとのこと。○〔易〕「聖人以レ順動則─・─清而民服」。
〔亂罰〕 法によらずしてみだりにつみにあつ。○〔書〕「─二─無レ罪、殺二無辜一」。
〔濫罰〕 前に同じ。○〔吳筠〕「─・─猶レ如レ斯」。
〔致罰〕 つみを行ふ。○〔左〕「─二─於楚一」。
〔墨罰〕 いれずみのつみ。○〔書〕「─・─之屬千」。
〔劓罰〕 はなきりのつみ。○〔書〕「─・─之屬千」。
〔剕罰〕 あしきりのつみ。○〔書〕「─・─之屬五百」。
〔宮罰〕 陰具にはどこすつみ。○〔書〕「─・─之屬五百」。
〔誅罰〕 つみす。○〔周〕「而─二─之一」。
〔受罰〕 つみをうく。○〔左〕「有レ罪─レ─」。
〔憚罰〕 つみをうくるをおそれはゞかる。○〔國〕「何以─レ─」。
〔審罰〕 法を明かにしてつみす。○〔國〕「─レ─則可二以戰一乎」。
〔必罰〕 つみある者はかならずつみに行ふ。○〔漢〕「信レ賞─レ─」。
〔參罰〕 星の名。○〔漢〕「太初在二─・─一」。
〔褒罰〕 ほめ賞することつみすること。○〔後漢〕「古之明君、─・─必以二功過一」。
〔撲罰〕 うちたゝきてつみす。○〔後漢〕「孝明皇帝始有二─・─一」。
〔威罰〕 おどしつみす。○〔鹽鐵論〕「大强則不レ可下以二─・─一」。
〔訓罰〕 さとしせめること。○〔南〕「后加二─・─一」。
〔加罰〕 つみにあておこなふ。○〔北〕「逢下虜帥桎二─奴一將上「─・─一」。
〔極罰〕 きはめておもきつみ。○〔北〕「大怒將レ加二─レ─」。
〔杖罰〕 つゑをもてうちたゝきてつみす。○〔北〕「至レ有二─・─一」。
〔鞭罰〕 むちをもてうちたゝきてつみす。○〔北〕「三日不レ雨當レ加二─・─一」。
〔勸罰〕 よき者を賞しあしき者をつみす。○〔北〕「立レ訓有二─・─之科一」。
〔罪罰〕 つみ。○〔北〕「橫受二─・─一」。
〔譴罰〕 あやまちをせめてつみに行ふ。○〔北〕「王獨還無レ所二─・─一」。
〔懲罰〕 こらしめつみす。○〔北〕「隨レ事─・─」。
〔私罰〕 公法によらずおのれの愛憎によりてつみす。○〔管〕「惡レ人而─二─之一」。
〔善罰〕 よくつみをたゞす。○〔淮〕「─・─者刑省而姦禁」。
〔薄罰〕 つみをかろくす。○〔吳越春秋〕「緩レ刑─レ─」。
〔顯罰〕 あらはにつみす。○〔劉歆〕「─二─有過一」。
〔深罰〕 おもくつみす。○〔崔寔〕「則宜二重レ賞─レ─以御一レ之」。

【罱】 ラン、ロン。胥敢切 感

あみ、（網）、又、魚を夾む具。

【罳】 ソウ、ス。作弄切 送

緵に同じ、うをあみ（九・罭）。

【署】 シヨ、ゾ。常恕切 御

㊀坐位、くらゐ。○〔國〕「臣立二先・臣之─一」。

㊁公廨、やくしよ。○〔漢〕「久汚二玉・堂之─一」。

㊂部曲の勾當、やくわり、てわけ。○〔史〕「部─已定」。

㊃表記、志るし。○〔魏、註〕「公・殿題─」。

㊄志るす。

（い）表記す。○〔後漢〕「大二─榜一曰、賊・臣王・甫」。

（ろ）記名す、檢押す、なまへをかく、かきはんす。○〔韓愈〕「晛レ丞曰、當レ─」。

㊅部曲を分かち設く、おく。○〔楚辭〕「選二─衆・神一」。

㊆くらゐに除す。○〔後漢〕「召二─主一簿一」「事」。

㊇つかさどる。○〔齊職儀〕「虫二─其事一」。

〔部署〕 やくわりをさだむ。○〔史〕「項梁─二─吳中豪・傑一」。
〔連署〕 聯署といふに同じ、他のものと共に姓名をかきつらぬ。○〔唐〕「立・案─・─」。
〔粉署〕 白色にぬりたるおほやけどころ。○〔漢官儀〕「省中皆胡・粉塗レ壁、故曰二─・─一」。
〔紫署〕 王宮内の役所。○〔劉懐一〕「─・─春色早」。「也」。
〔官署〕 前に同じ。○〔史、註〕金・馬門者、─・─門也。
〔禁署〕 前に同じ。○〔唐〕「孰謂二頗・牧在一吾─・─一」。
〔總署〕 すべあつかふ。○〔後漢、註〕「掌二凡行・諸及祭祀、─二─曹事一」。
〔受署〕 他の者よりすべらる。○〔後漢〕鄭・康成北・面─レ─。
〔中署〕 內署といふに同じ、王宮の內。○〔後漢〕「輸二─・─一」。
〔寺署〕 役所のこと。○〔後漢〕「近在二─・─一」。
〔府署〕 前に同じ。○〔後漢〕「─・─第・館」。
〔官署〕 前に同じ。○〔宋〕「請下置二─・─一掌中其事上」。
〔私署〕 官命を奉ぜずしてわたくしに官職を授く。○〔後漢〕「─二─將・帥一」。
〔廨署〕 役所のこと。○〔東都賦〕「─・─碁・布」。
〔治署〕 前に同じ。○〔唐〕「刺・史以二縣爲二─・─一」。
〔局署〕 前に同じ。○〔宋〕「所・在置・官吏─・─一」。
〔委署〕 掌る所をすておく。○〔蜀、註〕有二軍・任一不レ可レ得二─・─一」。
〔公署〕 おほやけどころ。○〔金〕「揭二之─・─一以示二懲一」。

【罳】 シ。息茲切 支　サイ。桑才切 灰

罘─は、門外に樹てある屛。

【[illegible]】 ボウ、ム。莫後切 有

あみ、（罔）。

【[illegible]】 ユ。以懼切 遇

ころも、（衣）。

【[illegible]】 カン、ゴン。胡感切 感

かんむり、（冕）。

十畫

【[illegible]】 ヨ。羊舒切 魚

あみ、（罔）。

【羂】 ケン、コン。古甜切 鹽

絲の網、あみ。

【罵】 バ、メ。莫駕切 禡

惡言す、のゝしる、のる。○〔史〕「輕レ士善─」。

〔嫚罵〕 あなどりのゝしる。○〔史〕「上─・─曰、豎子能爲レ將乎」。
〔詈罵〕 むちうちのゝしる。○〔江少虞〕「朝夕─・─」。
〔笑罵〕 わらひのゝしる。○〔宋〕「─・─從レ汝」。
〔痛罵〕 いたくのゝしる。○〔世說〕「肆・言─・─」。
〔搶罵〕 おしりぞけのゝしる。○〔蘇軾〕「往・々爲二醉・人所二─・─一」。
〔竊罵〕 かげにてのゝしる。○〔史〕「弟・子皆─・─曰」。「─」。
〔怒罵〕 はらをたてのゝしる。○〔黃庭堅〕「嬉・笑─」。
〔忿罵〕 前に同じ。○〔南〕「─・─形二于辭・色一」。
〔詈罵〕 のゝしる。○〔蔡琰〕「不レ堪二其─・─一」。
〔醉罵〕 酒にゑひてのゝしる。○〔後漢〕「坂─・─」。
〔呵罵〕 責めのゝしる。○〔魏〕「太・祖見二徽・書一─二─之一」。
〔叫罵〕 さけびのゝしる。○〔宋〕「弘之─・─見レ殺」。
〔侮罵〕 あなどりのゝしる。○〔魏〕「見二─・─一遂僻去レ之」。
〔責罵〕 せめのゝしる。○〔魏〕「─二─朦等一」。
〔謗罵〕 のゝしる。○〔魏〕「乃至二聲・出加二以─一」。「去」。
〔詬罵〕 前に同じ。○〔魏〕「不レ滿レ意則─・─不レ」。
〔誶罵〕 前に同じ。○〔柳宗元〕「有下後二傲者一而─二─有・司一者上」。
〔捶罵〕 うちたゝきのゝしる。○〔釋惠洪〕「往・々遭二─・─一」。
〔嗔罵〕 めをいからしのゝしる。○〔北〕「時帝已被レ酒、向レ嶺─・─」。

〔兇罵〕のろひのゝしる。○〔義山雜纂〕「——神-先一」。
〔唾罵〕つばをはきかけのゝしる。○〔檮神錄〕「鬼乃——二某一而去」。
〔箠罵〕むちうちのゝしる。○〔朱彧可談〕「時被二——一」。
〔嘲罵〕、あざけりのゝしる。○〔僧惠洪〕「狗-坐相——」。
〔惡罵〕くちわろくのゝしる。○〔蕭子良〕「——無二復高-卑一」。
〔詈罵〕そしる。○〔晁補之〕「適-人所二——一」。

【罶】リウ、ル。力久切 有
曲がれる笱、うへ。○〔詩〕「魚麗二于——一」。

【罷】ハイ、ベ。薄蟹切 蟹　ハ、ベ。皮買切 禡
やむ。
(い)罪を赦す、ゆるす。○〔徐鍇〕「與レ——同-意、罷レ之則去レ之也」。
(ろ)休止す。○〔詩〕「或鼓或——」。
(は)退歸す、まかる。○〔左〕「布-路而——」。
(に)廢す。○〔晉〕「沙二汰郎-官一非-才者一レ之」。
〔斥罷〕しりぞけ歸す。○〔漢〕「輒——二之一」。
〔發罷〕やむ。○〔宋〕「宜レ通二——一」。
〔郎罷〕閩の方言にして父を呼ぶ語。○〔陸游〕「阿-囝略知——老」。

【罷】ヒ、ビ。符羈切 支
㊀つかる、(疲)。○〔周〕「以二圜-土一聚二教——民一」。
㊁にぶし、(駑)。○〔楚辭〕「誅二譏——一只」。
〔老罷〕としたけて衰ふ。○〔陳師道〕「——形骸不二自持一」。

【罷】ヒョク、ヒキ。拍逼切 職
副に同じ、わかつ。

【罡】カウ。古當切 陽
あみ、(網)。

【罽】ケイ　居例切 霽
細き毛、ほそげ。

十一畫

【⿱罒曹】サウ、ゾウ。才勞切 豪
——網は、魚を捕らふるあみ。

【罹】リ。呂知切 支
㊀かゝる。
(い)かうむる、(被)。○〔書〕「——二其凶-害一」。
(ろ)あふ、(遭)。○〔漢〕「以——二寒-暑之數一」。
㊁うれふ、(憂)。○〔書〕「滅無レ——」。
〔獨罹〕おのれのみ憂ふ。○〔詩〕「我——于——」。
〔遭罹〕憂にあふ。○〔幽通賦〕「故——レ——而羸縮」。
〔備罹〕つぶさにあふ。○〔宋濂〕「百難——」。

【⿱罒參】シン、ソン。所禁切 沁
罧に同じ。

【⿱罒憂】罶に同じ。

【罺】サウ、セウ。側交切 肴　初教切 效
撩罟、すくひあみ、又、すくひあみを用ひて取る、すくふ。○〔左思〕「——二鰝-鰕一」。

【罻】ヰ。於胃切 未　ウツ、チチ。紆勿切 物
鳥を捕らふる罔、さりあみ、一説に、小罔、こあみ。○〔禮〕「鳩化爲レ鷹、然後設二——羅一」。

【罼】ヒツ、ヒチ。卑吉切 質
長き柄の小さき罔、こあみ、一説に、兎を捕らふる罔、うさぎあみ。○〔揚雄〕「荷二畢-天之——一」。
〔罼罼〕うさぎなどを捕らふるあみ。○〔李嶠〕「前驅——一」。

【䍡】ロク。盧谷切 屋
罜——は、小さきうなあみ。○〔國〕「水-虞於レ是乎、禁二罝——一設二穽-鄂一」。

【罬】チツ。竹律切 質
面の短き貌にいふ字。

【⿱罒果】サウ、セウ。側交切 肴
すくひあみ、(抄-網)。

十二畫

【⿱罒景】レウ。力弔切 嘯
うなあみ、(魚-網)。

【⿱罒無】ブ、ム。武夫切 虞
きじあみ(雉-網)。

【罽】ケイ。居例切 霽
㊀魚を捕らふる罟、うなあみ。
㊁氈紕(まうせん)の類、毛にて織れるもの。○〔漢〕「狗-馬被二繢——一」。

【⿱罒毯】俗の罽の字。

【⿱罒巽】セン。思絹切 霰　サン、セン。式撰切 銑　所晏切 諫
あみ、(網)、又、わな、(羂)。

【罾】ソウ。作滕切 蒸
㊀一種の魚網、よつであみ、其の形は繖蓋(からかさ)を仰むけたる如く、網の四隅を繩又は竹などにて張り水中に沈めて魚を捕らふるもの。○〔莊〕「鉤-餌網-罟——笱之知」。
㊁よつであみを用ひて捕らふ、あみす。○〔漢〕「置二所レ——魚-腹中一」。
〔魚罾〕魚を捕らふるあみ。○〔陸游〕「小-舟供レ罾尋二——一」。
〔漁罾〕前に同じ。○〔韋莊〕「向レ月展二——一」、
〔修罾〕ながきあみ。○王濟「——麗鏖」。
〔施罾〕あみをおく。○〔元稹〕「木-上莫レ——レ——」。
〔垂罾〕つりをたれあみをおろす。○〔韋莊〕「待レ月好——」「望」。
〔守罾〕あみをまもる。○〔張耒〕「河-邊——レ——茅作レ」。
〔牽罾〕あみをひく。○〔范成大〕「——レ——柳-際棚」。
〔脫罾〕あみをぬけいづ。○〔陸游〕「強-魚健——レ——」。
〔破罾〕やぶれたるあみ。○〔李孝光〕「山-色-范似二——一」。

【⿱罒路】ロ、ル。洛故切 遇
魚を取る具。

【罿】ショウ、シュ。尺容切 冬　トウ、ヅ。徒紅切 東
むそうあみ、(幡-車-罔)。○〔詩〕「雉離二于——一」。
〔張罿〕あみをはること、又、はりたるあみ。○〔范成大〕「獵-火遠二——一」。

【⿱罒欸】ケイ。居例切 霽
うなあみ、(魚-網)。

十三畫

【⿱罒辟】ハク、ビヤク。蒲革切 陌　ヘキ、ビヤク。毗亦切 陌　ヘイ、ベ。毗祭切 霽
さりあみ、(鳥-罔)。

【罠】ビン、ミン。美殞切 軫
網細し、こまかきあみ。

【䍣】ライ、レ。盧回切 灰
百囊罟、卽ち、小さき魚を捕らふるあみ、うをあみ。〇〔郭璞〕「罾―比レ船」。

【罤】テイ、ダイ。徒黎切 齊
あみなは(網-繩)。

【罥】ケン。姑泫切 銑
繩又は網などを張り獸類の脚に係けて捕らふるもの、わな、又、わなに係け捕らふ、わなす、くゝる。〇〔司馬相如〕「―二騕-褭一」。
〔肩罥〕禽獸をわなにかけて捕らふ。〇〔周、誌〕「所三以―二禽-獸一」。

十四畫

【䍦】セイ、サイ。子禮切 薺
酒を搦る、志ぼる、こす。

【罎】タン、トン。吐敢切 感
うをあみ(魚-網)。

【羃】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
⊖飮食物を蓋ふ巾、ふきん。〇〔周〕「常共二巾―一」。
⊜頭をおほふ巾。〇〔魏〕「多以二羅―一爲レ冠」。
⊝おほふ、おほひ(覆)。〇〔春渚紀聞〕「皆以二靑-帛一―レ之」。
〔羃羃〕酒樽をおほふきれ。〇〔儀〕「尊者徹二――一」。
〔羃䍦〕おほひぶた。〇〔儀〕「簋有二――一」。
〔羃々〕おほふ貌にいふ語。〇〔宋之問〕「――潤-畔草」。
〔羃羃〕おほひかぶさること。〇〔柳貫〕「雲亦何心故――」。
〔疎羃〕まばらなるまく。〇〔蘇軾〕「養-酒映二――一」。

【䍝】タウ、テウ。陟敎切 效
罩に同じ、とりかご、又、小さき網、こあみ、又、あみす。

【䍆】デン、テン。女減切 豏
罠に同じ。

【羅】ラ。魯何切 歌　リ。鄰知切 支
⊖鳥を捕らふる罟、あみ、とりあみ。〇〔詩〕「雉離二于―一」。
⊜あみにかけて捕らふ、あみす。〇〔周〕「掌レ―二烏-鳥一」。
⊝絡ひ包む。〇〔漢〕「網二―天-下異-能之士一」。
㊃絡ひ組む。〇〔舊唐〕「招二集亡-賴一、令レ告二其事一、只爲二―-織一」。
㊄陳列す、つらぬ、つらなる。〇〔楚辭〕「―二生兮堂-下一」。
㊅文の疎なる帛、うすぎぬ、もち、ろ。〇〔戰〕「綵二――紈一」。
〔新羅〕古代朝鮮の一部、志らぎ。〇〔唐〕「――弁-韓苗-裔也居二漢樂-浪地一」。
〔尉羅〕とりを捕らふるあみ。〇〔禮〕「然後設二――一」。
〔烏羅〕前に同じ。〇〔孟郊〕「――不レ張レ水」。
〔張羅〕あみをかく。〇〔後漢〕「―二―海-內一」。
〔包羅〕つゝみくるむ。〇〔孟子題辭〕「―二――天-地一」。
〔雀羅〕すゞめを捕らふるあみにて一に雀羅に作る。〇〔漢〕「及レ廢門-外可レ設二――一」。
〔網羅〕あみのこと、轉じてつゝみこむる意に用ふ。〇〔家語〕「或成二――一」。
〔駢羅〕ならびつらなる。〇〔後漢〕「萬-騎――」。
〔星羅〕ほしの如くにならぶ。〇〔晉〕「烽-炬――」。
〔綺羅〕うつくしきうすぎぬ。〇〔舊唐〕「後-庭有二――之當一」。
〔紅羅〕くれなゐのうすぎぬ。〇〔李白〕「――袖裏分-明見」。
〔緻羅〕うすぎぬ。〇〔曹植〕「被-服――」。
〔森羅〕おびたゞしくならぶ。〇〔張九齡〕「森-木自――」。
〔爬羅〕掻きとる。〇〔韓愈〕「――剔-抉」。
〔罝羅〕禽獸を捕らふるあみ。〇〔謝靈運〕「――不レ披」。
〔綾羅〕あやぎぬとうすぎぬと。〇〔張華〕「嫂-妾蹈二――一」。
〔籠羅〕かごとあみと、轉じて籠絡の意に用ふ。〇〔晉〕「有下――二宇宙一之志上」。
〔紫羅〕むらさき色のうすぎぬ。〇〔鮑起〕「細-白佳-人著二――一」。
〔白羅〕志ろ色のうすぎぬ。〇〔舊唐〕「王以二――一爲レ冠」。
〔皁羅〕くろ色のうすぎぬ。〇〔宋〕「以二――一爲レ之」。
〔紗羅〕うすぎぬ。〇〔晉史〕「擧-人始以二――一爲二長-頂-頭-巾一」。
〔娑羅〕木の名。〇〔酉陽雜俎〕「外-國僧見曰、此――也」。
〔絳羅〕あか色のうすぎぬ。〇〔羅隱〕「――高捲不レ勝レ春」。
〔羅羅〕獸の名、又、鳥の名。〇〔山海經〕「北-海內有二青-獸一焉、狀如レ虎、名曰二――一」。
〔海羅〕うみに生きるのり。〇〔南越志〕「海藻一名二海-苔一、或曰二――一、生二研石上一」。
〔擘羅〕ゆりの異名。〇〔本草〕「百-合一名二――一」。
〔鱗羅〕魚のうろこの如くつらなる。〇〔羽獵賦〕「――布-列」。
〔投羅〕あみのうちに入る。〇〔曹植〕「見レ鷂自――」。
〔宏羅〕ひろやかなるあみ。〇陶潛「――制而烏驚」。
〔輕羅〕うすぎぬ。〇〔梁武帝〕「――飛二玉腕一」。
〔列羅〕ならぶ。〇〔梁昭明太子〕「鏤二華-形一以――」。
〔參羅〕錯はりならぶ。〇〔鄭符〕「森-象――」。
〔緗羅〕志もの如く志ろき色のうすぎぬ。〇〔范成大〕「――薄-袖綠-裙單」。
〔弋羅〕いぐるみとあみと。〇〔白居易〕「高-喜二蹄-鴻-鵠二――一」。
〔罹羅〕あみにふれかゝること。〇〔白居易〕「烏-解二高-飛一豈――」。

【邏】ラ。郎佐切 箇
邏に同じ、めぐる。

【羆】ヒ。彼爲切 支
熊の屬、志ぐま。〇〔詩〕「維熊維―」。
〔孤羆〕ひとつの志ぐま。〇〔韓愈〕「深-叢見二―一」。
〔猳羆〕志ぐまのを。〇〔賀、詮〕「關-西呼曰二――一」。
〔雌羆〕をすの志ぐま。〇〔易林〕「――在レ後」。
〔號羆〕なきさけぶ志ぐま。〇〔魏文帝〕「――當二我道一」。

【䍢】ブ、ム。武夫切 虞
幬中の罔。

【羇】キ。居宜切 支
馬の絡頭、おもがひ。

【羂】ケン、コン。古願切 願
あみ(網)。

十五畫

【罍】ライ、レ。魯回切 灰
うをあみ(百-囊-罟)。

【䍖】トク、ドク。徒谷切 屋
うをあみ(魚-罔)。

【䍟】コン。公渾切 元
あみ(罔)。

十六畫

【䍧】レキ、リヤク。郎擊切 錫
⊖飮食を蓋ふ巾、ふきん。
⊜䍧―は、煙の貌にいふ語。

十七畫

【羈】キ。居宜切 支

㊁他郷に寄り止まるを、たび、たびずまひ、旅寓。○〔左〕「一一旅之臣」。

㊂たびずまひの人、たびびと、旅客。○〔周〕「以待二一一旅一」。

〔同羈〕ともにたびする者、又、たびのやどりをともにす。○〔庾信〕「賢聖一レ一」。

〔孤羈〕ともなきたび。○〔韓愈〕「始得レ完二一・一一」。

十九畫

【䍦】リ。呂支切 支

頭をおほふ巾、おほひぎれ、ばうし。○〔唐書〕「古冠而不レ幘、晉宋之世方用二冪一一」。

〔接䍦〕白色の帽。○〔錢起〕「未レ免杯前倒二一・一一」。

〔冪䍦〕かしらをつゝむもの。○〔馬祖常〕「買レ絲得レ錦買二一・一一」。

【羂】ケン。古縣切 霰

あみ、（罔）、一説に、わな、（綰）。

【䍡】シヨ、ソ。所葅切 魚　シ。所綺切 紙

篋もて酒を漉す、こす。

【羈】キ。居宜切 支

㊀馬の絡絆、きづな、くつわ、たづな、おもがひ。○〔左〕「臣負二一一紲一」。

㊁一は縱に一は横に交へ結びたる髻、もとゞり。○〔禮〕「男角、女一」。

㊂つなぐ。

(い)ひく、（牽）。○〔呂氏春秋〕「有三以一二誘之一也」。

(ろ)ほだす、（絆）。○〔漢〕「必一二南越王一而致二之闕下一」。

(は)さりしむ、（檢）。○〔晉〕「穎脫不一」。

㊃つなぐ用をなすもの、きづな。○〔蘇軾〕「不レ受世間一」。

㊄羇に同じ、たび、たびびと。○〔左〕「爲レ一終レ世」。

〔鷙羈〕鳥獸などをつなぐ。○〔莊〕「禽獸可二一一而遊一」。

〔韁羈〕馬の手綱。○〔顏延之〕「既剛且淑、服二一一兮」。

〔金羈〕こがねの馬絆。○〔曹植〕「連翩飾二一・一一」。

〔銜羈〕前に同じ。○〔韓愈〕「新恩釋二一・一一」。

〔鞅羈〕前に同じ。○〔王安石〕「天馬脫二一・一一」。

〔微羈〕よわき手綱。○〔晉〕「夫以二一・一一而取二悍馬一」。

〔解羈〕馬の手綱をときすつ。○〔淮〕「還二入馬一而一二其一」。

〔牽羈〕ひきつなぐ。○〔石崇〕「歎復見二一・一一」。

〔素羈〕まろき手綱。○〔齊嘉平中謠〕「白馬一一西南馳」。

【[illegible]】ハク、ヒヤク。普革切 陌

あみ、（罔）。

【[illegible]】ラン。落官切　バン、マン。謨官切 寒

鏇の罟、あみ、又、まさふ、（幕）。○〔後漢〕「罘罝羅一」。

羊部

【羊】ヤウ。與章切 陽　〔說文〕從レ𦍌、象二頭角足尾之形一。

㊀一種の獸、ひつじ。○〔禮〕「食二麥與一一」。

㊁徉に通じ用ふ。○〔漢〕「雙飛常一」。

㊂うつくし、（美）。

〔刲羊〕ひつじを刺す。○〔易〕「士一レ一无レ血」。

〔牽羊〕ひつじをつなぎひく。○〔易〕「一レ一悔亡」。

〔羝羊〕牡のひつじ。○〔易〕「一・一觸レ藩」。

〔䍧羊〕前に同じ。○〔進〕「一・一之裘」。

〔羔羊〕こひつじ。○〔詩〕「一・一之皮」。

〔羵羊〕魯の季桓子の穿ちたる井よりいでたるもの。○〔國〕「土之怪曰二一・一一」。

〔餼羊〕いけにへに用ふるひつじ。○〔論〕「子貢欲レ去二告朔之一・一一」。

〔[illegible]羊〕前に同じ。○〔詩〕「與二我一・一一」。

〔商羊〕水の祥瑞なりといふ鳥の名。○〔家語〕「天將二大雨一一・一起舞」。

〔驅羊〕ひつじをれひかく。○〔戰〕「是若爲二趙魏一一レ一也」。

〔牧羊〕ひつじをやしなふ。○〔漢〕「武杖二漢節一一レ一」。

〔烹羊〕ひつじを煮る。○〔漢〕「一レ一炰レ羔」。

〔屠羊〕ひつじをころす。○〔後漢〕「一レ一救レ楚」。

〔特羊〕一疋のひつじ。○〔禮記〕「歲祀有二一・一一」。

〔羱羊〕一種のひつじにて角のおほいなるもの。○〔爾、註〕「一・一似二吳羊一而大角」。

〔[illegible]羊〕狒々といふ獸の異名。○〔汲冢周書、註〕「費々曰二一・一一」。

〔羳羊〕ひつじの腹のきいろなるもの。○〔爾〕「一・一黃腹」。

〔[illegible]羊〕ひつじをころす。○〔戰〕「刑レ馬一レ一」。

〔羣羊〕おほくのひつじ。○〔戰〕「爲レ從者、無レ以異三於驅二一・一一而攻二猛虎一也」。

〔炙羊〕ひつじの肉を火にあぶる。○〔晉〕「與レ尼一レ一飲レ酒」。

〔善羊〕よきひつじ。○〔唐〕「一・一賀二弓矢一」。

〔蛟羊〕ひつじに似て角なきけものゝ名。○〔述異記〕「一・一似レ羊而無レ角、啖レ之毒」。

〔封羊〕一種のひつじの名。○〔涼州異物志〕「一・一其背如レ駝」。

〔[illegible]羊〕のひつじ。○〔子虛賦〕「手二熊羆一足二一・一一」。

【𦍌】羊の本字。

一畫

【芈】ビ、ミ。綿婢切 紙

羊鳴く、なく。

二畫

【羌】キヤウ、カウ。去羊切 陽

㊀西方の蠻族、えびす。○〔書〕「及庸蜀一髳微盧彭濮人」。

㊁歎息の聲にいふ字、あゝ。○〔屈平〕「一內恕レ己以量レ人」。

㊂つよし、（强）。

㊃あきらか、（章）。

㊄かへる、（反）。

【羗】キヤウ、カウ。許亮切 漾

一量は、鳥の雛の飢ゑて困しむ貌にいふ語。

【[illegible]】羌に同じ。

【羒】ホン、ボン。房弅切 元

色の白き羊。

三畫

【[illegible]】羍に同じ。

【羍】タツ、タテ。他達切 曷

㊀羊の子、こひつじ。

㊁うまる、（生）。

【美】ビ、ミ。無鄙切 紙

㊀よし。

(い)味甘し、あまし、うまし。○〔孟〕「香一脆味」。

(ろ)義正し。○〔進〕「君子修レ一」。

(は)よみすべし、ほむべし。○〔論〕「盡レ一矣」。

(に)貌よし、色よし、うつくし、うるはし。○〔詩〕「匪二女之爲レ一」。

㊁よしと爲す、よみす、ほむ。○〔詩、序〕「一二召伯一也」。

㊂よきを、よきもの。○〔晉〕「徒不二東南之一一、實爲二海內之俊一」。

〔知美〕よきをしる、又、みめよきをしる。○〔穀〕「强而一其一」。

〔濟美〕善きを成す。○〔左〕「世一其一」。

〔好美〕みめよきを愛す。○〔漢武故事〕「景帝一、而臣貌醜」。

〔擅美〕うつくしきをひとりにて占む。○〔宋〕「檦レ能一レ一」。

〔軟美〕やはらかにしてうまし。○〔白居易〕「一一佛家酒」。

〔蔽美〕よきものをおほひかくす。○〔管〕「ーレー揚レ惡」。
〔溢美〕實に過ぎてほむ。○〔莊〕「兩・喜必多二ー・ー之言一」。
〔姣美〕みめうるはし。○〔荀〕「桀・紂長・巨ー・ー、天・下之傑也」。
〔盡美〕うつくしきを極めつくす。○〔論〕「子謂レ韶、ー・ー矣、又盡レ善也」。
〔窮美〕前に同じ。○〔莊〕「ーレー究レ勢」。
〔肥美〕やせずしてよし。○〔戰〕「田ー・ー民殷・富」。
〔便美〕よろし。○〔史〕「得二漢食・物一、皆去レ之以示レ不レ如二湩・酪之ー・ー一」。
〔盛美〕さかんにうつくし。○〔史〕「世・俗ー・ー」。
〔潤美〕光澤うるはし。○〔漢〕「資・質ー・ー」。
〔衆美〕もろもろのよきこと。○〔漢〕「臚二ー・ー一而不レ足」。
〔追美〕すでに死にたるものを慕ひほむ。○〔漢〕「ー二ー充・國一」。
〔醜美〕きたなきものとうるはしきものとのこと。○〔後漢〕「斯・豚謂二太・小廉・隆ー・ー之形一」。
〔沃美〕土地などの肥えてあしからず。○〔後漢〕「土・地ー・ー」。
〔豐美〕ゆたかにうつくしきこと。○〔後漢〕「水・草ー・ー」。
〔虛美〕實なくしてうはべを飾りよくす。○〔魏〕「不レ爲二ー・ー一」。
〔贊美〕よきことをたすけ成す。○〔晉〕「故竭二誠・思一、以ー二其ー一」。
〔具美〕そなはりよし、又、よきを備ふ。○〔白居易〕「三・者ー・ー」。
〔雙美〕ふたつともうるはし。○〔琴賦〕「ー・ー並・濟」。
〔醇美〕純粹にして正し。○〔晉〕「播二ー・ー之化一」。
〔粹美〕前に同じ。○〔老學庵筆記〕「重・厚ー・ー」。
〔揚美〕よきほまれを後來にのこす。○〔晉〕「夏・商ー二ー於鼎・室一」。
〔清美〕きよらかにうつくし。○〔司馬光〕「山・川ー・ー」。
〔官美〕ほむること。○〔南〕「梁見二ー・ー一」。
〔褒美〕前に同じ。○〔漢〕「賜レ品ー・ー」。
〔甘美〕味あまくうまし。○〔南〕「其水ー・ー」。
〔優美〕すぐれてうるはし。○〔北〕「韻二致ー・ー一」。
〔雅美〕卑俗ならずうるはし。○〔舊唐〕「兩・彦伯・具二文・辭ー・ー一、時・人謂二之河・中三・絕一」。
〔遒美〕勢韻などのつよくうるはしきこと。○〔唐〕「筆・法ー・ー」。
〔功美〕人の功德などをほむ。○〔唐〕「吏・民ー・ー」。
〔譽美〕そしるとほむると。○〔唐〕「往・々ー・ー失レ傳」。
〔咨美〕感嘆してほむ。○〔唐〕「ー二ー・ー直・筆一」。
〔豔美〕うつくし。○〔金〕「資・質ー・ー」。
〔麗美〕前に同じ。○〔論衡〕「論・說ー・ー」。
〔華美〕はなやかなること。○〔韓偓〕「世・間ー・ー無レ心レ問」。
〔綺美〕前に同じ。○〔全唐詩話〕「往・々涉二於齊梁ー・ー婉麗一」。
〔淑美〕婦女の德のすぐれてうるはしきこと。○〔應瑒〕「余心嘉二夫ー・ー一」。
〔至美〕きはめてうつくし、又、きはめてよし。○〔梁簡文帝〕「國・家之ー・ー」。

【𦍒】ヤウ。余章切 陽
善し、うつくし。

【羑】イウ、ユ。與久切 有
㊀みちびく、(誘)。㊁みち、(道)。

四畫

【羒】フン、ブン。符分切 文
牡羊、をひつじ。○〔爾〕「羊牡ー」。

【羓】ハ、ヘ。邦加切 麻
腊の屬。

【𦍷】ショ、ゾ。祥余切 魚
[illegible]に同じ。

【羱】グワン。五官切 寒
野羊の名。

【羘】
牂に同じ。○〔史〕「泰山之高百仞、而跛牂牧二其上一」。

【𦍿】ハツ、ハチ。普活切 曷
㊀めひつじ、(牯羊)。㊁へのこきりたるひつじ、(羯)。

【羔】カウ、コウ。古牢切 豪
小さき羊、こひつじ。○〔周〕「卿執レー」。
〔用羔〕こひつじをつかふ。○〔宋〕「毋レーレー」。
〔失羔〕こひつじをなくす。○〔易林〕「亡レ羝ーレー」。
〔漬羔〕漬たるこひつじの肉。○〔鹽鐵論〕「ー・ー豆・賜」。
〔臑羔〕前に同じ。○〔徐幹〕「蒸・豚ー・ー」。
〔璧羔〕たまとこひつじと。○〔東都賦〕「ー・ー皮・帛之贄既奠」。
〔烝羔〕むしたるこひつじの肉、又、こひつじの肉をむす。○〔蘇軾〕「非二內・府之ー・ー一」。

【𦍛】
羔に同じ。○〔佩觽〕「ー羊之ー爲レ美、其順レ非有レ如レ此者一」。

【羕】ヤウ。餘亮切 漾
水長し、ながし。

【羖】コ、ク。公戶切 麌
色の黑き牝羊、めひつじ。○〔詩〕「俾レ出二童ー一」。
〔牝羖〕めすの山羊。○〔爾、疏〕「其ー者名レー」。

【羗】
羑に同じ。

【牂】サウ。子唐切 陽
めひつじ、(牝羊)。

五畫

【𦍵】バツ、マチ。勿發切 月
胡(えびす)の羊の名。

【𦍝】タ、ダ。徒何切 歌
𦍝ーは、羊に似て四つの耳と九つの尾とある獸といふ。

【𦍸】ハウ、ヒヤウ。普耕切 庚
駁毛の羊、まだらひつじ、一說に、羊を使ふ、つかふ。

【羜】トツ、トチ。當沒切 月
羊の名。

【羚】レイ、リヤウ。郎丁切 青
細き角ある大羊、其の角に圓く繞れる雙文あり。○〔埤雅〕「ー羊似レ羊而大角」。

【𦍩】シ。此移切 支
羊の名。

【𦍨】
羯に同じ。

【羛】ギ。魚倚切 支
ー陽は、村落の名。○〔後漢〕「大破二五校於ー陽一」。

【羜】チョ、ド。直呂切 ショ、ソ。賞呂切 魚
生まれて五月を經たる羔、こひつじ。○〔詩〕「既有二肥ー一」。

【𦍭】
羖に同じ。

【羝】テイ、タイ。都奚切 齊
をひつじ、(牡羊)、又、生まれて三歳を經たる羊。○〔易〕「ー羊觸レ藩」。
〔白羝〕しろきをひつじ。○〔爾、疏〕「其牡者名レ羝、即ー・ー也」。
〔捶羝〕をひつじをうつ。○〔雜寶藏經〕「婦以レ杖ーレー」。

【羞】シウ、シュ。息流切 尤
㊀すゝむ。(い)進む。○〔書〕「今我既ー告二爾于朕志一」。

(ろ)供へ致す、そなふ。○〔國〕「不レ一二珍・異一」。
㊂そなふる滋味、すゝむるもの、さかな。○〔周〕「掌二王之食・飲膳・一一二」。
㊂食物。○〔禮〕「羣・鳥養レ一」。
㊃はづ、はぢらふ(恥)。○〔書〕「惟口起レ一一」。

〔庶羞〕神などにすゝむるもろ〳〵のものにて正羞にそへてそなふ。○〔禮〕「一・一不レ踰レ牲」。
〔薦羞〕神などにすゝむる食物。○〔禮〕「俎豆牲醴一・一皆有二等・差一」。
〔膳羞〕牲肉と滋味ある食物と。○〔周〕「掌二王之食・飲一・一二」。
〔好羞〕めづらしくうまき食物。○〔周〕「共二祭祀之一・一二」。「一二」。
〔珍羞〕前に同じ。○〔酌〕「家貧養レ母、常得二一・一」。
〔嘉羞〕よき食物。○〔韓愈〕「房酌一・一」。
〔忍羞〕恥をこらふ。○〔淮〕「能爲二社・徒一一レ一」。
〔含羞〕はぢらふさまをもつ。○〔梁簡文帝〕「一レ一未レ上レ砌」。
〔靜羞〕前に同じ。○〔嚴維〕「歌・聲似レ一レ一」。
〔厚羞〕はぢらふ。○〔韓愈〕「出拜忘二一・一二」。
〔流羞〕酢菜のすゝめもの。○〔詩、疏〕「言二一・一之薦二」。
〔後羞〕あとの恥辱。○〔漢〕「恐レ有二一・一二」。
〔豐羞〕ゆたかなる滋味ある食物。○〔晉〕「一・一幕・組」。
〔曾羞〕恥をなし知ふ。○〔李陵〕「適足レ一レ一」。
〔嬌羞〕たわやかにはぢらふ。○〔前蜀〕「西・北織婦正一・一」。
〔香羞〕にほひたかきすゝむる食物。○徐彦伯〕「薦以二一・一二」。
〔常羞〕つねの食物。○〔杜甫〕「枚廚倍二一・一二」。
〔深羞〕うすからざるはぢ。○〔元結〕「指以爲二一・一」。「一レ一」。
〔懷羞〕はぢらふ心をいだく。○〔趙嘏〕「矢・意自一一二」。

【羒】フン、ブン。符云切 文
色の白きをひつじ。

【羍】
羍に同じ。

【羝】ジウ、ニユ。如侯切 尤
小さき兎、こうさぎ。

【𦍧】テウ、デウ。治小切 篠
ダウ、ドウ。杜皓切 皓
生まれて一歳なる牝羊。

【羠】イ。以知切 支 シ、ジ。徐姉切
㊀騬羊、へのこきりしひつじ。
㊁大角ある牝羊、めひつじ。○〔史〕「其民𫆀一一不レ均」。

【𦍩】シヤウ、ザウ。徐羊切 陽
おほし(多)。

【羦】キ。古委切 紙
羊の角の齊はざるを。

【羛】シ、ジ。疾二切 寘
めひつじ(牝羊)。

【羪】イン。伊眞切 眞
色の黑き羊。

【𦍯】トウ、ヅ。徒紅切 東
角なき羊。

【𦍬】グワン。吾官切 寒
野羊の名。

【𦍣】
𦍣に同じ。

【羯】ケツ、コチ。居謁切 月
なひつじ(雄羊)。

【羡】イ。以脂切 支
地の名。○〔漢〕「江・夏郡沙一」。

【羢】ジヨウ、ニユ。而容切 冬
ひつじ。

【羣】クン、グン。渠云切 文
㊀むれ。
(い)同類、一類、ともがら、くみ。○〔易〕「物以レ一分」。「一居」。
(ろ)朋友、とも。○〔禮〕「離レ一而索居」。
(は)親黨、みうち。○〔禮〕「因以飾レ一」。
㊁むれをなす、むる、むらがる、あつまる。○〔詩〕「或一或友」。
㊂會合す、あつむ。○〔荀〕「壹二統類一而一二天下之英・傑一」。
㊃おほし、もろ〳〵(衆)。○〔禮〕「王爲二一姓一立レ社」。「一」。
㊄調和す、やはらぐ。○〔詩〕「俴・駟孔一二」。

〔珍羣〕めづらしきむれ。○〔漢〕「岡二騶・虞之一一二」。
〔逸羣〕もろ〳〵のともがらよりたちまさる。○〔蜀〕「亮少有二一・一之才、英・霸之器一」。
〔冠羣〕前に同じ。○〔揚雄〕「一二乎一倫一」。
〔絕羣〕前に同じ。○〔江淹〕「冠二百・草一而一レ一」。
〔出羣〕前に同じ。○〔張說〕「傳・道孤松最一・一」。
〔殊羣〕前に同じ。○〔晉〕「法・師業行一レ一」。
〔拔羣〕前に同じ。○〔梁〕「出レ類一レ一」。
〔超羣〕前に同じ。○〔淮〕「同レ師而一レ一者」。
〔特羣〕前に同じ。○〔劉邵〕「獸之一・一者爲レ雄」。
〔越羣〕前に同じ。○〔褚白馬賦〕「別レ趾一レ一」。
〔踰羣〕前に同じ。○〔高允〕「出レ類一レ一」。
〔毛羣〕けものゝむれ。○〔西都賦〕「一・一內闐」。
〔孔羣〕驅馬などのはなはだよく調和すると。○〔詩〕「俴・駟一・一」。

〔[illegible]羣〕魚のともがら。○〔[illegible]語〕「[illegible]沖、[illegible]一・一[illegible]社」。
〔[illegible]羣〕ともをさがしもとむ。○〔[illegible]〕「孤・獸走一一」。
〔匹羣〕ともがら。○〔阮籍〕「離・々無二一・一」。
〔逐羣〕むれのあとをさがし求む。○〔李羣玉〕「自能高飛不レ一レ一」。

【群】
俗の羣の字。

【羥】カン、ケン。苦閑切 刪
カウ、キヤウ。口莖切 庚
羊の名。

【羦】クワン。胡寒切 寒
角の細き山羊、一說に、羊に似たる惡獸。

【羧】サイ、セ。宗囘切 灰
羊の病、やまひ。

【羨】セン、ゼン。似面切 霰 エン。延面切 以淺切 銑
㊀うらやむ。
(い)貪り欲す。○〔詩〕「無二然歆一・一二」。
(ろ)慕ふ。○〔張衡〕「一二上・都之赫・戲二分」。
㊁あまり(餘)。○〔詩〕「四・方有レ一」。
㊂すぐ(溢)。○〔史〕「功一二五・帝一」。
㊃ながし(長)、のぶ(延)。○〔周〕「璧一以起レ度」。

〔欣羨〕めでうらやむ。○〔詩〕「無二然一・一二」。
〔嘉羨〕前に同じ。○〔吳、註〕「甚可二一・一二」。
〔欽羨〕前に同じ。○〔任藩〕「公・卿無レ不二相一・一二」。
〔奇羨〕あまり。○〔史〕「中・國[illegible]・輪時有二一・一二」。
〔餘羨〕前に同じ。○〔晉〕「計二今地一有二一・一二」。

〔曼羨〕盛大なる貌にいふ語。○〔漢〕「汾-潏一-一」。
〔去羨〕うらやむ心をおこさず。○〔子華子〕「一レ一去レ甚」。
〔度羨〕めで祝してうらやむ。○〔後漢〕「衆人皆一ニ一之ニ。
〔企羨〕うらやむ。○〔北〕「莫レ不ニ一-一ニ。
〔興羨〕うらやみの心をおこす。○〔梁〕「不レ　ニ一于江-海ニ。
〔充羨〕満ちあまる。○〔唐〕「儲-倉一-一」。
〔盈羨〕前に同じ。○〔唐〕「而倉庫一-一」。
〔流羨〕あまりあること。○〔宋〕「稱-祿一-一」。
〔榮羨〕とみさかえて物あまりあり。○〔李德裕〕「儲-蓄一-一」。
〔嶽羨〕たとふ。○〔梅堯臣〕「舉レ手但一-一」。
〔仰羨〕前に同じ。○〔謝惠連〕「一ニ-一古風ニ。
〔豐羨〕あまりあまりて不足なきこと。○〔歐陽修〕「民給亦一-一」。
〔歆羨〕感歎してうらやむ。○〔文同〕「使ニ人一-一不レ能レ已」。

【羨】エン。夷然切　先

墓道、はかみち。○〔史〕「共-伯入ニ釐-侯墓-道一自-殺」。

【義】ギ。宜寄切　寘

㊀裁制の宜しきに合すること、物事の理に適すること。○〔易〕「利レ物足ニ以和レ一」。
㊁すぢ、みち。
(い)人の履み行ふべき正しき條理、人の執り守るべき常の分限、のり、みち。○〔論〕「一以爲レ質、禮以行レ之」。
(ろ)物事の意旨、わけ、むね。○〔史〕「學ニ春-秋一通ニ六-一ニ。
㊂すぢみち正しく、きりもり宜しく、たゞしく、よろし、よし。○〔孟〕「春-秋無ニ一-一戰一、彼善ニ於此一則有レ之矣」。
㊃衆の尊び戴くこと。○〔史〕「尊ニ懷-王一曰ニ一-帝ニ。
㊄衆と事を共にすること、他と憂ひを同じくすること。○〔錢公輔〕「置ニ負-郭常-稔之田千-畝一、號曰ニ一-田一、以養ニ濟羣-族之人ニ。
㊅よき行ひの人に過ぐること。○〔史〕「太-公曰、一-士也」。
㊆血緣外の人と血緣の關係を約すること。○〔五〕「其所ニ與俱一皆一-時雄-傑魁-武之士、往-々養以爲レ兒、號ニ一-兒-軍ニ。
㊇外表に附屬すること。○〔唐〕「楊-貴-妃常以ニ假-髻一爲ニ首-飾一、而好服ニ黄-裙一、時-人爲ニ之語一曰、一-髻拋ニ河-裏一黄-裙逐レ水流」。
㊈他の飲料と混和したること。○〔搜神記〕「作ニ一-漿於假-頭ニ。
㊉禽獸の賢きこと。○〔搜神記〕「今紀-南有ニ一-犬塚ニ。
⑪儀に通じ用ふ。○〔漢〕「褒ニ一-父之後ニ。

〔文義〕文章のすぢ。○〔南〕「不レ解ニ一-一ニ。
〔古義〕むかしののり。○〔史〕「欲レ傳ニ一-一ニ。
〔禮義〕事物を裁制するたゞしきのり。○〔史〕「聖人一ニ之於一-一ニ。
〔六義〕風、雅、頌、賦、比、興の六種の詩體をいふ。○〔詩、序〕「詩有ニ一-一焉」。
〔人義〕父子兄弟夫婦長幼君臣などの人のふむべき正しきみち。○〔禮〕「父慈、子孝、兄良、弟弟、夫義、婦聽、長惠、幼順、君仁、臣忠十者、謂ニ之一-一ニ。
〔十義〕前に同じ。○〔雲笈七籤〕「行ニ一-一之教ニ。
〔抱義〕正道をいだきもつこと。○〔禮〕「一レ一而處」。
〔挾義〕前に同じ。○〔後漢〕「不レ如下立ニ宗室ニ一レ一誅-伐上」。
〔行義〕正しき道をとりおこなふ。○〔左〕「禮以一レ一」。
〔貫義〕正しきみちをたふとぶ。○〔穀梁〕「春秋一レ一」。
〔重義〕前に同じ。○〔漢〕「輕レ財一レ一」。
〔破義〕正理をやぶりそこなふ。○〔左〕「淫一レ一」。
〔賊義〕前に同じ。○〔孟〕「一レ一者謂ニ之殘ニ。
〔害義〕前に同じ。○〔家語〕「小-辨一レ一」。

〔僞義〕前に同じ。○〔宋〕「寛過則縱而一レ一」。
〔毀義〕前に同じ。○〔說苑〕「君-子以レ一レ一爲レ辱」。
〔服義〕正しきみちによる。○〔家語〕「一レ一而行レ信」。
〔枉義〕正しき道をあやまりてよろしきによらぬ。○〔左〕「於レ德爲ニ一-一ニ。
〔仁義〕儒者の尚ぶ所の極めて正しき道。○〔老〕「大-道廢有ニ一-一ニ。
〔後義〕正しき道をあとへまはす。○〔孟〕「苟爲ニ一レ一而先レ利」。
〔高義〕よろしきみちの行ひ。○〔史〕「救レ趙一-一」。
〔名義〕名目のこと。○〔唐〕ニ「一-一至-重」。
〔嗜義〕正しき道を執ることをこのむ。○〔宋〕「一レ一輕レ財」。
〔好義〕前に同じ。○〔禮〕「未レ有ニ上好レ仁、而下不レ一レ一者一也」。
〔布義〕正しき道を廣くほどこし行ふ。○〔汲冢周書〕「一レ一行レ剛日レ景」。
〔修義〕正しき道ををさめ行ふこと。○〔管〕「權-度不レ一、則一レ一者惑」。
〔大義〕おほいなるすぢみち。○〔易〕「歸-妹天-地之一-一也」。
〔道義〕正しきすぢみちのこと。○〔蘇軾〕「一-一偶相契」。
〔精義〕こまやかなる道理。○〔宋〕「一-一入レ神以致レ用也」。
〔奥義〕深遠なる道理。○〔宋〕「講ニ論諸經一-一ニ。
〔合義〕正しきみちにかなふ。○〔晉〕「動必一レ一」。
〔率義〕正しきみちをおこなふ。○〔左〕「一レ一之謂レ勇」。
〔履義〕前に同じ。○〔後漢〕「躬レ德一レ一」。
〔明義〕道理をあきらかにす。○〔書〕「敦レ信一レ一」。
〔度義〕みちの多少をくらべはかる。○〔書〕「同レ德一レ一」。
〔秉義〕たゞしき道を守りて行ふこと。○〔史〕「質レ仁一レ一」。
〔執義〕前に同じ。○〔漢〕「一レ一不レ同」。
〔遵義〕正しき道にしたがふこと。○〔書〕「一ニ王之一ニ。
〔順義〕前に同じ。○〔春、傳〕「以ニ富-貴ニ而能一レ一」。
〔守義〕前に同じ。○〔後漢〕「依レ經一レ一」。
〔正義〕たゞしきすぢみち。○〔任昉〕「歸ニ之一-一ニ。
〔德義〕なさけあつきよきみち。○〔左〕「一-一利之本也」。
〔恩義〕前に同じ。○〔晉〕「素有下感ニ其一-一者上」。

〔辭義〕ことばのすぢ。○〔釋名〕「文者會ニ集衆-字一以成ニ一-一ニ。
〔異義〕ことなりたる意義のこと。○〔詩、疏〕「其說多ニ一-一ニ。
〔難義〕難問討義す。○〔禮、序〕「唯聚一-一」。
〔失義〕よろしきすぢをうしなふ。○〔老〕「一レ一而後禮」。
〔著義〕よろしき道をあきらかにす。○〔禮〕「以一ニ其一ニ。
〔志義〕正しき道を守る心をいだくこと。○〔禮〕「君子聽ニ琴-瑟之聲一、則思ニ一レ一之臣ニ。
〔立義〕すぢみちをおこす。○〔戰〕「一レ一者霸」。
〔超義〕よき道によりてたつこと。○〔冊府元龜〕「一ニ一-雲-中ニ。
〔知義〕正しき道をさとること。○〔左〕「民未レ一-一」。
〔常義〕さだまりたるつねのみち。○〔左、疏〕「天以ニ光-明ニ爲ニ一-一ニ。
〔五義〕父は義に母は慈に兄は友に弟は恭に子は孝なる五つのみち。○〔國〕「一-一紀レ宜」。
〔允義〕よろしき道を極はむ。○〔戰〕「一レ一益レ國」。
〔嶽義〕正しき道によるをまたふ。○〔史〕「心一レ一無レ窮」。
〔弃義〕道のよろしきをすて守らぬ。○〔史〕「秦失レ德一レ一」。
〔舍義〕前に同じ。○〔北〕「一-朝背レ德一レ一」。
〔節義〕おこなひのかたく道によりたること。○〔蘇軾〕「一-一古所レ重」。
〔倍義〕正しきみちにそむき離るゝこと。○〔史〕「吾豈可ニ以鄕レ利一レ一乎」。
〔死義〕忠義のためなどすべて道のために生命をすつ。○〔史〕「好ニ直-諫ニ守ニ節一レ一」。
〔奔義〕道におもむく、任俠をなす。○〔史〕「維彼一レ一」。
〔赴義〕前に同じ。○〔魏、誌〕「並輕レ財一レ一」。
〔趨義〕前に同じ。○〔顧況〕「翕-然一レ一」。
〔說義〕論說の旨義、又、すぢみちを說ず。○〔張融〕「正可ニ論レ道一レ一」。
〔信義〕眞實のすぢみち。○〔庾信〕「開ニ一-一以爲ニ苑-囿ニ。
〔經義〕經學のすぢみち。○〔後漢〕「咸爲ニ人質直守ニ一-一ニ。
〔悅義〕正しき道によることをよろこび慕ふ。○〔漢〕「遠-方之君、莫レ不ニ一レ一奉レ幣而來-朝ニ。
〔就義〕道の正しきに近づく。○〔後漢〕「去レ愚一レ一」。

〔疑義〕うたがはしきすぢ。○〔宋〕「嘗從二朱熹一訂二－－十數條一」。
〔唱義〕正しき道をとなふ。○〔後漢〕「通布衣－レ－」。
〔違義〕正しき道にそむきたがふこと。○〔後漢〕「仁者不二－レ－以要一レ功」。
〔遵義〕正しき道に依りしたがふ。○〔後漢〕「－レ－以濟レ功」。
〔伏義〕前に同じ。○〔杜預〕「推レ誠－レ－」。
〔據義〕前に同じ。○〔淮〕「－レ－行レ理」。
〔解義〕義理をときあかす。○〔晉〕「向秀於二舊註外一而爲二－－一」。
〔釋義〕前に同じ。○〔北〕「尤精二－－一」。
〔新義〕むかしになきあたらしき旨義。○〔晉〕「多有二－－一」。
〔學義〕學問の眞義。○〔晉〕「闡二明－－一」。
〔忠義〕仕ふる所の者に正しき道をつくす。○〔宋〕「可レ爲者惟－－而已」。
〔談義〕義理をかたる。○〔元經〕「不レ－レ－而深二諸乎理一」。
〔佛義〕ほとけのみち。○〔南〕「尤善二－－一」。
〔孝義〕おやにつかふるよきみち。○〔唐〕「貞-觀三-年、賜二－－之家、粟五-斛一」。
〔字義〕文字の義理。○〔魏〕「參二定－－一」。
〔講義〕文理の意を究明して解説す。○〔會要〕「然後按レ文－－」。
〔故義〕道のよろしきをなす。○〔北〕「正是英雄－レ－之會也」。
〔旨義〕意味といふに同じ。○〔唐〕「不レ窮二－－一」。
〔意義〕前に同じ。○〔神仙傳〕各有二－－一」。
〔彰義〕正しき道をあらはし明らかにす。○〔部眞〕「藏レ事－レ－」。
〔主義〕正しきをもととす、又、おもなるすぢみち。○〔汲冢周書〕「－レ－行レ德」「下」。
〔名義〕義理を解説す。○〔王禎農書〕「－二－－一樹-」。
〔深義〕淺からざる意味。○〔淨住子〕「幾-句－－、－、已二彼讃一」。「－レ－」。
〔路義〕正しき道によりて行ふ。○〔歐陽修〕「守レ節
〔令義〕善良なるよき道の行ひ。○〔曹操〕「鄕-人敦二－－一」。
〔損義〕正しき道をそこなふ。○〔梁邵陵王〕「勞レ兵－レ－」。
〔朋義〕交友の道義。○〔韓非〕「尤見二－－教一」。

【義】ギ。魚羈切 支 宜に通じ用ふ。

【⿰羊豕】テン。寵戀切 霰 羊の長き尾。

【⿰羊余】ジヨ。似魚切 魚 一種の羊、皮は鼓を冒ふに適すとぞ。

【⿰羊余】ヨ。羊諸切 魚 野羊。

【⿰羊反】ハン。方官切 寒 羊に似たる獸。

【⿰羊豸】獬又、豸に同じ。

六畫

【⿰羊見】カイ、ケ。居佳切 佳 ケイ、ゲイ。研奚切 齊 羺－－は、胡の羊。

【羫】カウ、コウ。苦江切 江 腔に同じ、骨體、ほね、又、羊の肋、あばら。

【羫】コウ、ク。苦貢切 送 羊の腊、ほじし。

【⿰羊叕】ケツ、ケチ。傾雪切 屑 やむ（病）。

【⿰羊叕】ケツ、クワチ。居月切 月 ケツ、ケチ。紀列切 屑 羊の病ひ、やまひ。

【⿰羊叕】テツ、テチ。株劣切 屑 羊躍りて死す、卒す、又、跳る貌にいふ字。

【⿰羊委】ヰ。於詭切 寘 烏毀切 紙 あつまる（積）。

【⿰羊戔】サン、ゼン。仕限切 潸 羊を豢ふ家。

【⿰羊或】ヨク、ヰキ。越逼切 職 羔裘の縫ひ。

【⿰羊爭】サウ、シヤウ。甾莖切 庚 羊の名、又、羊の子。

【⿰羊東】トウ、ツ。徳紅切 東 多貢切 送 チン、ヂン。直珍切 眞 羊に似たる獸。○〔山海經〕「泰-戲之山有レ獸焉、其狀如レ羊一-角一-目日在二其後一其名曰二－－一」。

【⿰羊孝】シ。昌志切 寘 ひく（牽）。

九畫

【⿰羊亟】キヨク、ケキ。訖力切 職 羊の名。

【⿰羊垔】エイ。烏奚切 齊 イン。伊眞切 眞 アン、エン。烏閑切 刪 ㊀群羊相積る、あつまる。㊁色の黑き羊。㊂くろし（黑）。

【羬】ケン、ゴン。巨淹切 鹽 丈六尺ある大いなる羊。○〔爾〕「羊六-尺爲レ－」。

【⿰羊咸】ガン、ゲン。魚咸切 咸 大いなる羱羊、又、山羊の大にして角の細きもの。

【⿰羊柔】ジウ、ニユ。而由切 尤 ㊀柔き革、なめしがは。㊁やはらか（耎）。

【⿰羊韋】ヰ。羽鬼切 尾 羊の相逐ふ貌にいふ字、一說に、ならびつく（羝）。

【⿰羊閑】カン、ケン。丘閑切 刪 羴に同じ。

【羭】ユ。羊朱切 虞 愈戍切 遇 ㊀色の黑き羝、いろくろのをひつじ。○〔歸藏〕「雨-壺雨－－」。㊁うつくし、よし（美）。○〔左〕「且其繇曰、專レ之渝攘二公之－一」。㊂山の神。○〔山海經〕「－山-神也、祠レ之用レ燭」。

【⿱敄羊】ブ、ム。亡遇切 遇 ボウ、ム。莫後切 有 生れて六月になれる羔、こひつじ。

【⿱享羊】シユン、ジユン。常倫切 眞 熟す、一說に、ひさぐ（鬻）。

【羮】俗の羹の字。

【羯】ケツ、ケチ。居竭切 月 ㊀勢を去りたる羊、へのこきりたるひつじ。○〔急就篇〕「羖之犗者爲レ－、謂二閹-々一」。

㊀戰士、もの丶ふ。○〔唐〕「募二勇・健者一爲二柘――一」。
㊁匈奴の別族、えびす。○〔杜甫〕「玉・觴淡無レ味、胡―豈强・敵」。
〔羯羯〕あたし來たるえびす。○〔晉〕「――飮二馬于長江一」。
〔羌羯〕えびす。○〔晉〕「巴・帥及諸――」。
〔羆羯〕前に同じ。○〔南〕「――醜・類」。
〔戎羯〕前に同じ。○〔唐〕「拯二本――之禁一」。
〔羣羯〕おほくのえびす。○〔晉〕「上不レ能レ掃二除――一」。
〔醜羯〕あしきえびす。○〔南〕「――倂・張」。
〔兇羯〕わるづよきえびす。○〔洛陽伽藍記〕「同討二――一」。

【羫】羫に同じ。

十畫

【羻】ハク。補各切 藥　へのこきりたる羊。

【羭】フ、ホ。方遇切 遇　羖の字を見るべし。

【羮】羹に同じ。

【羖】コウ、ク。居候切 宥　羊の乳汁を取る、ちしぼる。

【羱】グワン。吾官切 寒　ゲン、グワン。愚袁切 元　橢形の大いなる角を有する一種の羊。○〔埤雅〕「――羊善鬪」。
〔伏羱〕ぼらばひたるのひつじ。○〔蘇軾〕「寧・從如二―――一」。

【羯】コツ、クワチ。古忽切 月　羊の名。

【羺】カツ、ケチ。居轄切 黠　羺羊、へのこきりたるひつじ、又、一種の羊。

【羲】キ。許羈切 支　人の姓。○〔書〕「乃命二――和一」。

【羵】シ。疾智切 寘　羵――は、あつまる、一說に、羊の疫、やまひ。

【䍠】ロウ、ル。落侯切 尤　羊の一種。○〔山海經〕「崑崙之山有レ獸焉、其狀如レ羊而四・角、其銳難レ當、觸レ物則斃、食レ人、其名曰二土――一」。

【羱】クワン、ゲン。戶關切 刪　羊の一種。○〔山海經〕「洵・山有レ獸焉、其狀如レ羊而無レ口其名曰レ―」。

十二畫

【羳】ヘン、ハン。附袁切 元　腹の黃色なる羊。○〔爾〕「――羊黃・腹」。

【羴】ケツ、クワチ。居月切 月　ひつじ（羊）。

【䍩】セン。隨戀切 霰　須兗切 銑　㊀生まれて一年を經ざる羊羔、こひつじ。㊁うまし（美）。

【羴】セン。式連切 先　カン、ケン。許閑切 刪　羊の臭、にほひ。

【䍚】トウ、ヅ。徒紅切 東　角なき羊。

【䍐】レキ、リヤク。狼狄切 錫　䍐の省き字。

【䍪】䍐に同じ。

【羵】フン、ブン。符分切 文　フン、ホン。父吻切 吻　土中の怪。○〔國〕「土之怪曰二――羊一」。

【羦】グワン。五官切 寒　角細くして形の大いなる羊の一種。

【䍦】シン。側岑切 侵　羊肉の腌、しほづけ。

【䍣】サン、ソン。祖含切 覃　塩（つちくれ）に藏めたる肉、一說に、羊の一種。

【䍣】サン、ソン。祖含切 覃　セン、ゾン。慈鹽切 鹽　サフ、ソフ。子答切 合　羊の臭、にほひ。

【䍣】䍣に同じ。

十三畫

【䍤】トク、ドク。徒谷切 屋　丈六尺ある羊。

【羶】セン。式連切 先　㊀羊の臭、羊の脂、にほひ、あぶら。○〔周〕「辨二腥・臊――香之不レ可レ食者一」。㊁肉臭あり、なまぐさし。○〔禮〕「其臭―」。㊂汗穢の義に借りいふ字。○〔莊〕「舜有二――行一」。㊃なまぐさき肉。○〔皮日休〕「棄―在二庭・際一」。
〔羣羶〕くさき草となまぐさき肉と。○〔白居易〕「獻「冀無二――一」。
〔逐羶〕なまぐさきをたづねもとむ、又、けがれたるものに就くの義にも借りいふ語。○〔王禹偁〕「―レ―甚二蚍・蜉一」。

【羹】カウ、キヤウ。古行切 庚　肉を煮たる臛、あつもの、すひもの、にもの。○〔書〕「若作二和――一」。
〔鼓羹〕おほきくきりたる肉のあつもの。○〔詩〕「毛炰――」。
〔大羹〕前に同じ。○〔禮〕「――不レ和」。
〔芼羹〕野菜と肉とまぜたるあつもの。○〔禮〕「――菽・麥」。
〔菜羹〕青物のあつもの。○〔禮〕「稷・食――」。
〔藜羹〕あかざのあつもの。○〔家語〕「――不レ充」。
〔藿羹〕まめの葉のあつもの。○〔戰〕「豆・飯――」。
〔斟羹〕あつものをくむ。○〔淮〕「跪而―レ―」。
〔煖羹〕あつものをあたゝむ。○〔六韜〕「溫レ飯―」。

【羹】コク。胡沃切 沃　小さき羊、こひつじ。

【羷】レン。力驗切 豔　レン。良冉切 琰　ケン。虛檢切 琰　角の三匝せる羊。○〔爾〕「角三・觠―」。

【羸】ル非。力爲切 支　㊀よわし（弱）。○〔老〕「或强或―」。㊁やす（瘦）、つかる（罷）、やむ（病）。○〔淮〕「入―車敝」。○

㊂くるしむ、(困)。○[易]「―ニ其角一」。
㊃くつがへす、(覆)。○[易]「―ニ其瓶一」。

十四畫

【羺】ドウ、ヌ。奴鉤切 尤
羺の字を見よ。

【⿱與羊】ヨ。羊茹切 魚
ひつじ、(羊)。

十五畫

【⿰羊賣】バイ、メ。莫懈切 卦
―⿰羊褱は、垢膩の貌にいふ語。

【羼】サン、セン。初鴈切 諫
まじふ、まじはる、(廁)、一說に、出で前むすゝむ。○[顏氏家訓]「典-籍錯-亂皆由ニ後-人所一レ―」。

十六畫

【⿰羊褱】クワイ、エ。胡怪切 卦
⿰羊賣の字を見よ。

【⿰羊歷】レキ、リヤク。郎擊切 錫
色の黑き羖、をひつじ。○[梅堯臣]「老-―暫瘦-腔」。

十九畫

【⿰羊韱】羶に同じ。

廿四畫

【⿰羊靈】羚に同じ。

羽部

【羽】ウ、チ。王矩切 麌
㊀は、はね。
(い)鳥の長き毛、け。○[書]「齒革―毛」。
(ろ)鳥の翅、つばさ。○[易]「其―可ニ用爲一レ儀」。
(は)飛蟲のつばさ、又、すべて鳥のつばさの狀をなすものゝ稱。○[詩]「螽-斯―詵-々兮」。
(に)古昔に舞ふ者の執りしもの、かざしのは、つばさを折きてかざすべく造る。○[莊]「秉レ―」。
(ほ)箭頭につけたる鳥のはね。○[漢]「中レ石沒レ―」。
㊁飛鳥の屬、とり。○[禮]「其蟲―」。
㊂かざしのはを執りて舞ふを。○[左]「初獻ニ六―一」。
㊃五聲の一。○[禮]「其音―」。
㊄鳥の長き毛のつきたるまゝの皮。○[禮]「衣ニ―毛一」。
㊅左右輔佐の義。○[漢、註]「―所三以爲ニ王-者―-翼一」。

〔于羽〕むかしの舞の名。○[書]「舞ニ―-―于兩-階一」。
〔拂羽〕鳥はゞたきす。○[禮]「鳴-鳩―ニ其―一」。
〔毛羽〕はそきけとはねと。○[左]「骨-角―-―」。
〔積羽〕つみかさねたる鳥のはね、又、はねをつむ。○[史]「―-―沈レ舟」。
〔翠羽〕みどりのはね、かはせみのはね。○[漢]「通-犀―-―之珍」。
〔鱗羽〕魚類と鳥類と。○[王融]「―-―僣翔」。
〔飲羽〕箭の物にあたりてはねまで沒入すること。○[南]「所レ中皆洞レ甲―レ―」。
〔刷羽〕はねをかいつくろふ。○[梁簡文帝]「―レ―向ニ沙-洲一」。
〔樹羽〕鳥のはねにてかざりたるものをたつること。○[詩]「崇-牙―レ―」。
〔宮羽〕宮聲と羽聲と。○[禮]「右ニ徵-角一左ニ―-―一」。
〔玄羽〕北方にわりあてたる聲。○[唐]「雲-駁ニ―-―一」。
〔怪羽〕ふしぎなる鳥。○[唐]「以ニ此時-捕ニ奇-禽―-―一」。
〔箭羽〕矢につくるはね。○[宋]「時調ニ稱-造-輸ニ[illegible]―-―一」。
〔奮羽〕鳥のはねに力を加ふること。○裴寂仲「―-―飲ニ南-遊一」。
〔蟬羽〕せみのはね。○[張衡]「譬ニ之―-―一」。
〔華羽〕うつくしきはね。○[鍾會]「―-―參-差」。
〔揮羽〕はねをふるひうごかす。○[曹植]「―レ―邀ニ清-風一」。
〔濯羽〕はねをあらふ。○[陸機]「揮ニ清-波一以―レ―」。
〔素羽〕白き色のはね。○[張華]「―-―明-鮮」。
〔綿羽〕前に同じ。○[張載]「翩ニ―-―于清-霄一」。
〔駁羽〕またらいろのはね。○[摯虞]「―-―朱-掖」。
〔戢羽〕はねを收めて鳥の飛ばざるにいふ字。○[潘]「―ニ―寒-條一」。
〔異羽〕めづらしきはね、又、其の鳥。○[張充]「奇-禽―-―」。
〔頳羽〕あかき色のはね。○[謝莊]「素-扇―-―」。
〔暮羽〕日のくれの鳥。○[王褒]「密-林鳴ニ―-―一」。
〔曬羽〕はねを日光にさらす。○[元稹]「向レ陽偏―レ―」。

【羽】コ、グ。後吾切 麌
ゆるし、ゆるむ、(緩)。○[周]「五ニ分其長一而―ニ其一一」。

三畫

【翁】セウ。相幺切 蕭
は、はね、(羽)。

【⿰羽也】チ。陳知切 支
燕の飛ぶ貌にいふ字。

【⿰羽干】ガン、ゲン。五板切 潸
飛ぶ貌にいふ字。

【羾】コウ、グ。戶公切 東
飛ぶ聲にいふ字。

【羾】コウ、ク。古送切 送
いたる、(至)。

【⿰羽工】羾に同じ。○[漢]「登ニ椽-欒一而―ニ天-門一兮」。

【羿】ゲイ、ガイ。五計切 霽
たひらか、一說に射師、いて。

【⿱羽亏】ウ、倶羽切 麌　ヲ。王遇切 遇
かざしのはを執りて舞ふを。

【⿰丂羽】羾に同じ。

四畫

【⿰羽戈】翼に同じ。

【⿰冄羽】ダン、ナン。奴感切 感
㊀羽弱し、よわし。㊁はね、(羽)。
㊂⿰羽冓の字を見よ。

【⿰亢羽】カウ。寒剛切 陽　カウ、下朗切 養　ガウ。合浪切 漾
鳥飛び下る、くだる。

【⿰扌羽】ゲン。魚典切 銑
飛ぶ貌にいふ字。

【⿱羽及】シフ。席入切 緝
飛ぶ貌にいふ字。

【翀】チウ、ヂユ。直弓切 東
直く上がり飛ぶ、さぶ。

【⿰羽巴】ハ、ヘ。披巴切 麻

飛ぶ貌にいふ字。

【翕】 タフ、トフ。吐盍切 合
盛んに飛ぶ貌にいふ字。

【翁】 ヲウ、ウ。烏紅切 東
㊀頸毛、のどげ。○[漢]「赤-鴈集六紛-員、殊一一雜ニ五-采文ニ」。
㊁おやぢ。
(い)父。○[史]「吾一卽若一」。
(ろ)老人、おきな。○[史]「與ニ長・孺一共一老・禿一一」。
㊂飛ぶ貌にいふ字。
(孤翁) ひとり身のおきな。○[易林]「一一寡-婦」。
(醉翁) 酒にゑひたるおきな。○[鄭谷]「會向ニ源-鄕ニ作ニ一・一ニ」。
(漁翁) すなどりするおきな。○[柳宗元]「一・一夜傍ニ西-巖ニ宿」。
(田翁) 山翁又は村翁といふに同じ、ゐなかのおきな。○[柳宗元]「一・一笑相念」。 「一・一ニ」。
(鳥翁) かものくびげ。○[黃庭堅]「春-溪蒲-稗沒ニ
(晉翁) ちらがあたまのおきな。○[趙元]「一・一傴・僂負レ薪行」。
(信天翁) あはうどりとて海島に棲む一種の鳥。○[攻媿記]「水-禽名ニ一・一・一ニ」。

【蓊】 ヲウ、ウ。鄔孔切 董
蓊白色、あをじろ。○[周註]「成而一・一一然」。

【翂】 フン、ホン。府文切 文
飛ぶ貌にいふ字、一説に、飛ぶをおそき貌にいふ字、一説に、飛ぶと高からざる貌にいふ字、又一説に、羽翼の聲にいふ字。○[莊]「其爲レ鳥一・一翂・々而似ニ無-能ニ」。

【𦐘】 翂に同じ。

【翌】 クワウ、ワウ。胡光切 ワウ。雨方切 陽
皇に通じ用ふ、舞の名、かざしの羽を持ちて舞ひ自ら其の首にかざして星辰を祀るさいふ。

【翃】 カウ、ギヤウ。戸萌切 庚
さぶ(飛)、一説に、蟲飛ぶ。

【𦐀】 狘に同じ。

【𦐂】 シ。赤知切 ジ。市之切 支 シ。職吏切 寘
㊀盛んに飛ぶ貌にいふ字。
㊁羽翼盛んなり、さかんなり。

【翅】 シ。施智切 寘
㊀つばさ(翼)。○[戰]「鼓レ一奮レ翼」。
㊁飛ぶ貌にいふ字。○[漢]「幡比一一同-集」。 「食頃」。
㊂啻に同じ、たゞ、たゞに。○[孟]「奚一」
(著翅) はねをつく。○[寶鑒]「沿-流如レ一・レ一」。
(搖翅) つばさをうごかす。○[爾、疏]「青-蠅之翅、好一・レ一自扇」。
(竦翅) 前に同じ。○[爾、註]「一・レ一上・下」。
(動翅) 前に同じ。○[梁簡文帝]「一・レ一拂ニ花・林ニ」。
(拂翅) 前に同じ。○[劉孝綽]「鳴・鷗一・レ一歸」。
(奮翅) はねに力をこめて飛ぶ。○[劉楨]「一・レ一凌ニ紫-氛ニ」。
(舒翅) はねをのべひろぐ。○[說苑]「一・レ一而跳」。
(張翅) 前に同じ。○[易林]「旋レ枝一・レ一」。
(羽翅) はねとつばさと。○[杜甫]「安得レ如ニ鳥有ニ一・一ニ」。
(舉翅) はねをたつると。○[易林]「一・レ一摅レ怒」。
(鬐翅) くちばしとつばさと。○[南方草木狀]「一・一・一尾足」。
(團翅) まるがたのつばさ。○[異苑]「金-喙黑-色而一・一」。
(皓翅) 白色のつばさ。○[路喬]「奮ニ一・一之翮-々ニ」。
(雙翅) 兩翼といふに同じ。○[許渾]「一・一欲レ帰ニ千-萬-里ニ」。 「門ニ」。
(廣翅) ひろきつばさ。○[李白]「張ニ一・一於天-」
(翼翅) つばさ。○[孔平仲]「一・一不レ能レ舉」。
(薄翅) うすきつばさ。○[賈蓬萊]「一・一凝ニ香-粉ニ」。

【翄】 キ、ギ。巨支切 支
前條の㊀㊁に同じ。

【𦐊】 翅に同じ。○[漢註]「同一・一而雙集」。

【𦐋】 翅に同じ。○[史]「三-國布レ一」。

【翓】 ケツ、ケチ。許劣切 屑
小鳥飛ぶ、さぶ。

【𦐒】 翠に同じ。

五畫

【翇】 フツ、ブチ。分勿切 物 ハイ、バイ。蒲蓋切 泰
紱に同じ、五采の繒を裂きて作り、社稷を祀るときの舞に用ふるもの。

【翈】 カフ、ゲフ。胡甲切 洽
翮の上の短き羽。

【𦐡】 ケツ、クワチ。許月切 月 キツ、キチ。休必切 質
飛ぶ貌にいふ字。

【𦐠】 狼に同じ。

【𦐝】 ホン。普木切 阮
㊁飛び起つ、たつ。㊂はしる(走)。

【翊】 ヨク、イキ。與職切 職 イフ。弋入切 緝
㊀飛ぶ貌にいふ字。○[漢]「共一一一合レ所レ思」。
㊁つゝしむ(敬)。
㊂たすく(輔)。○[呂温]「鎭ニ一鴻-業ニ」。
(翊々) 恭敬の貌にいふ語。○[韓詩外傳]「濟々一・一」。
(環翊) めぐりにありてたすく。○[漢]「藩-位一・一」。
(匡翊) たゞしたすく。○[陳藩]「家宰一・一」。
(輔翊) たすく。○[閻伯璵]「黃覇藴ニ其一・一ニ」。

【翋】 ラフ、ロフ。盧合切 合
さぶ(飛)。○[左思]「趍-趞一-猱」。

【翌】 ヨク、イキ。與職切 職
明日、あくるひ。○[漢]「一-日親登ニ嵩-高ニ」。

【翑】 ハウ、ヘウ。博抱切 肴
矢の羽、又、五采の羽。

【𦐧】 ゼン、チン。而琰切 琰
弱き羽、鳥の翼の下の毛、にこげ。

【翍】 ヒ。敷羈切 支
㊀羽を張る貌にいふ字。
㊁披に同じ、ひらく。○[漢]「一ニ桂-椒ニ」。

【𦐨】 ハ。滂禾切 歌
飛ぶ貌にいふ字。

【𦐩】 ヒ。平義切 寘
はね(羽)。

【𦐤】 ケウ。許幺切 蕭

一翢は、毛の貌にいふ語。

【翢】テウ。丁聊切　蕭
羽の惡しき貌にいふ字。

【[illegible]】テウ、デウ。田聊切　蕭
鳥の尾のながき貌にいふ字。

【翏】リウ、力救切　宥　レウ。力弔切　嘯
高く飛ぶ、こぶ。

【翏】レウ。憐蕭切　蕭　リク、力竹切　ロク。切　屋
長き風の聲にいふ字。

【翎】レイ、リヤウ。郎丁切　青
はれ(羽)。○〔長編〕「需₂鵝一₁爲ㇾ箭」。

〔鵝翎〕あひるのはね。○〔長編〕「濟取₂一一₁代ㇾ輸」。
〔剪翎〕はねを切る。○〔韓愈〕「一ㇾ一送₂籠中₁」。
〔梳翎〕はねをくしけづる。○〔鄭谷〕「風動鶴一ㇾ一」。
〔雕翎〕くまたかのはね。○〔朱慶餘〕「箭搖₂一一₁」「瀏」。
〔複翎〕かさなりたるはね。○〔酉陽雜俎〕「鵝子雨翅、各有₂一一₁」。「晴空」。
〔白翎〕まろきはね。○〔楊允孚〕「一一隨ㇾ馬叫」。
〔蒼翎〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「將ㇾ期ㇾ養₂一一₁」。
〔羽翎〕はねのと。○〔僧惠洪〕「修鶴聳₂一一₁」。
〔毛翎〕鳥のはね。○〔盧照鄰〕「一一類悴飛無ㇾ力」。
〔綠翎〕みどり色のはね。○〔楊衡〕「沙閒拾₂一一₁」「暉」。
〔雙翎〕ふたつのはね。○〔梅堯臣〕「一一墜₂落一₁」。
〔短翎〕はね。○〔韓愈〕「路遠一一短」。
〔蝶翎〕てふのはね。○〔溫庭筠〕「一一胡粉盡」。
〔遺翎〕おちたるはね、又、はねをおとす。○〔李羣玉〕「樹都鳥一ㇾ一」。
〔墮翎〕前に同じ。○〔唐同〕「松巢鶴一ㇾ一」。
〔疎翎〕まばらにはえたるはね。○〔顧雲〕「預返₂一射羽₁」。

【翐】チツ、ヂチ。直一切　質
飛ぶ貌にいふ字、又、飛ぶと遲き貌にいふ字。○〔莊〕「翐々一一而似ㇾ無ㇾ能」。

〔光翎〕ひかりあるうつくしきはね。○〔王周〕「金碧耀₂一一₁」。
〔綵翎〕うつくしきいろのはね。○〔朱松〕「二実翻₂「一一」₁」。

【翑】ク、倶雨切　シュ、爽主切　麌
グ。切　ス。
㊀後足の皆白き馬。
㊁羽曲がる、まがる。

【[illegible]】ウ、チ。王遇切　遇
箭の羽、はれ。

【[illegible]】シ。掌氏切　紙
咫に同じ、八寸の長さ。○〔周、註〕「天子巡狩、禮所ㇾ云制ㇾ幣丈八尺、純四一一與」。

【習】シフ、ジフ。似入切　緝
㊀ならふ。
(い)志ばく飛ぶ。○〔禮〕「鷹乃學一一」。
(ろ)志ばく服し行ふ、くりかへして修め爲す。○〔易〕「不ㇾ一无ㇾ不ㇾ利」。
(は)學ぶ。○〔北〕「轉相摸一一」。「誦」。
㊁なる。
(い)ならひて達す。○〔戰〕「不ㇾ一₂於誦₁」。
(ろ)親しむ、なじむ。○〔爾、疏〕「謂₂狎一一也」。
(は)そまり移る。○〔五〕「人性易ㇾ一」。
(に)志ばく其の物事に接して易しとす。○〔後漢〕「所在號一一遂至₂怠慢₁」。
㊂ならはしむ、なれしむ、ならはす、ならす。○〔魏、註〕「勇可ㇾ一也」。
㊃ならはし、ならひ、なれ。○〔宣和畫譜〕「狃₂于世一一₁」。
㊄積む、重ぬ。○〔易〕「一一次」。
㊅和ぎ舒ぶる貌にいふ字。○〔詩〕「一一谷風」。

〔講習〕究めならふ。○〔易〕「君子以朋友一一」。
〔近習〕君のおそばちかく勤むる者。○〔禮〕「雖ㇾ有₂貫戚一一₁、毋ㇾ有ㇾ不ㇾ禁」。
〔博習〕學問などひろくならふ。○〔韓〕「一一辯智如₂孔墨₁」。「綜」。
〔慣習〕なれ、又、なる。○〔杜甫〕「一一₂炎蒸歲絺₁」。
〔教習〕をしへまなばす。○〔梁簡文帝〕「聚ㇾ徒一一」。
〔曉習〕あきらかにならふ。○〔後漢〕「又一₂一過事₁」。
〔明習〕前に同じ。○〔蔡邕〕「一₂一易學₁」。
〔閑習〕ならふ。○〔王褒〕「兵書久一一」。
〔簡習〕前に同じ。○〔孫楚〕「一₂一水戰₁」。
〔積習〕久しきならはし。○〔唐〕「特由₂水墨之一一₁耳」。
〔翕習〕威の盛んなる貌、又、風のふく貌にいふ語。○〔劉希夷〕「軍容何一一」。
〔調習〕ならす。○〔詩、疏〕「諸馬皆須₂一一₁也」。
〔便習〕なる。○〔後漢〕「一₂一山谷₁」。
〔服習〕上の命にしたがひてそむかず。○〔管〕「存₂乎一一₁」。
〔翫習〕たのしみならふ。○〔魏〕「羣臣皆當ₜ一₂一古義₁、修₂明經典₁、稱ₕ朕意ₜ焉」。
〔備習〕あまねくならふ。○〔後漢〕「一一₂五經₁」。
〔久習〕ながらくの閒なれならふ。○〔後漢〕「帝亦惜₂其幹用一一₂舊事₁」。
〔校習〕かんがへならふ。○〔吳〕「宜ₜ講₂修術學一₂一射御₁、以周ₕ世務ₜ」。
〔新習〕あたらしくならふ、又、あたらしきならはし。○〔孟郊〕「時文有₂一一₁」。
〔練習〕きたひならふ。○〔晉〕「一₂一兵馬₁」。
〔諳習〕そらんじならふ。○〔韋賢〕「一₂一絃歌₁」。
〔崇習〕たふとびならふ。○〔北〕「以₂貴族豪門一₂一奢侈₁」。
〔耽習〕ふけりまなぶ。○〔北〕「一₂一不ㇾ倦」。
〔歷習〕あまねく一々まなぶ。○〔北〕「一₂一經典₁」。
〔究習〕きなびきはむ。○〔唐〕「一₂一方書₁」。
〔素習〕平生よりならふ。○〔宋〕「一過目如₂一一₁」。
〔專習〕ひとつのことをまなぶ。○〔宋〕「一₂一弓弩₁」。
〔宿習〕ふるくよりならふ。○〔宋〕「所ㇾ覽如₂一一₁」。
〔染習〕習慣。○〔宋〕「亦猶ₜ人之善惡、以₂一一₁而成ₜ也」。
〔業習〕人のおこなひならはし。○〔顏延之〕「一一移₂其天識₁」。
〔貫習〕學藝などの道をつらぬきならふ、又、なる。○〔梁武帝〕「多ㇾ所₂一一₁」。
〔篤習〕熱心にまなぶ。○〔沈約〕「綜博生₂乎一一₁」。
〔狃習〕なれならふ。○〔王安石〕「則上一一而知₂其事₁」。
〔溫習〕すでにおぼえたるわざを忘れざるやうにならふ。○〔袁凱〕「暇歸₂專案前₁一一」。

【翍】翅に同じ。

【[illegible]】翀の本字。

【翏】レウ。力叫切　嘯
飛ぶ貌にいふ字。

【[illegible]】翑に同じ。

六畫

【[illegible]】チュ。丑倶切　虞
飛ぶ貌にいふ字。

【[illegible]】カイ、ガイ。胡改切　賄
飛ぶ貌にいふ字。

【[illegible]】翑に同じ。

【[illegible]】シウ、シュ。之由切　尤

㊀弱き羽。㊁いそぐ(急)。

【𦐧】エイ。以制切 霽 セツ、私列切 屑
さぶ(飛)。

【翗】キツ、キチ。許聿切 質
飛び去る貌にいふ字。○[郭璞]「鼓レ翅翗——」。

【翓】ケツ、ゲチ。胡結切 屑
飛び上がる、あがる。

【𦐾】ハク。匹各切 藥
飛び去る、さる。

【𦐿】ラク。歷各切 藥
飛ぶ貌にいふ字。

【𦑀】𦐿に同じ。

【翔】シヤウ、ザウ。似羊切 陽
㊀かける。(い)翅を張り伸ばして飛ぶ。○[易]「天-際—也」。(ろ)臂を張りのばして行く。○[禮]「室-中不レ—」。(は)飛ぶ、行く、遊ぶ。○[穆天子傳]「——ニ畋于曠-原ニ」。㊁回顧す、旋回す、ふりむく、めぐる、かへる。○[周]「前弱則俛、後弱則—」。㊂莊敬の貌にいふ字、つゝしむ、又、安舒の貌にいふ字、やすらか。○[禮]「朝-廷濟-々——」。
(翱翔) とびまはる。○[詩]「河-上乎——」。
(飛翔) 前に同じ。○[戰]「六-足四-翼——ニ乎天-地之閒ニ」。
(回翔) 前に同じ。○[湘中記]「有ニ白鶴——ニ其上ニ」。
(雲翔) 散りはなる。○[職]「——而不ニ敢校ニ」。
(高翔) そらたかくめぐり飛ぶ。○[戰]「飄-搖-乎——」。
(嬉翔) 戲れ飛ぶ。○[晉]「二-龍交レ首——」。
(遊翔) 前に同じ。○[宋]「——ニ庭宇ニ」。
(馴翔) 人になれちかづきて飛ぶ。○[梁]「——ニ廡-側ニ」。
(翹翔) かけまはる。○[呂氏春秋]「——閑-雅」。
(驚翔) おどろきてとびまはる。○[呉越春秋]「——之鳥相隨而集」。
(遠翔) はるかさきまで飛びまはる。○[說苑]「鴻-鵠高-飛——」。
(泳翔) 水におよぐとそらを飛ぶとのこと、又、魚と鳥との稱。○[拾遺記]「——之類、自相馴擾」。
(群翔) 鳥などのむらがり飛ぶこと。○[孫楚]「——ニ于雲-中ニ」。
(翻翔) 鳥などの身をひるがへし飛ぶこと。○[魏文帝]「ニ飛鳥——雙」。

【翕】キフ、コフ。迄及切 緝
㊀あふ、あはす(合)。○[書]「——受敷-施」。㊁をさむ、をさまる(斂)、あつむ、あつまる(聚)、とづ(閉)。○[易]「其靜也—」。㊂ひく(引)。○[詩]「—ニ其舌ニ」。㊃おこる(起)、又、さかんなり(盛)。○[後漢]「—-純曒-繹」。㊄職に堪へざる貌にいふ字。○[爾]「——訾-々」。㊅うごく(動)。㊆あぶる(炙)。㊇疾き貌にいふ字。○[左思]「神-化—-忽」。
(噏翕) いきなどのひく方にむかふ。○[道德指歸論]「——去レ張」。
(噓翕) 呼吸といふに同じ。○[西漢叢話]「大-牢元-氣——」。
(呼翕) 前に同じ。○[陸機]「爾乃——ニ九陽ニ」。
(吐翕) 前に同じ。○[江淹]「視-傾-蚰之——ニ」。
(翦翕) きりたひらぐ。○[摯虞]「——ニ强-楚ニ」。

【翖】翕に同じ。

【𦑊】カ、ガ。巨何切 歌
飛ぶ貌にいふ字。

【𦑆】シ。初已切 紙
飛ぶ貌にいふ字。

【𦑇】翗に同じ。

【翖】翕に同じ。

【𦑂】タイ、テ。丑犗切 卦
速く飛ぶ貌にいふ字。

【𦑃】カウ、キヤウ。許肱切 庚
羽を弄ぶ聲にいふ字。

七畫

【𦑝】カウ、コウ。口到切 號
さぶ(飛)。

【𦑟】シュク、ソク。子六切 屋
飛ぶ貌にいふ字、又、羽の齊しき貌にもいふ字。

【𦑚】ハウ、ホウ。傍保切 晧
さぶ(飛)。

【𦑣】シン。所臻切 眞
羽の多きにいふ字、おほし。

【𦑞】フ。芳無切 虞
はね(羽)、一說に、細き毛、はそげ。

【翛】セウ。蘇彫切 蕭
羽敝る、やぶる。○[詩]「予尾——」

【翛】イウ、ユ。以九切 有
疾き貌にいふ字。○[莊]「——然而往」。

【翛】シュク、式竹切 イク、余六切 ソク。オク。屋
飛ぶとの疾き貌にいふ字。

【𦑶】セウ。思邀切 蕭
翛に同じ。

【𦑻】翛に同じ。

【𦑸】ダフ、ヂフ。女法切 洽
飛ぶ貌にいふ字。

【𦑹】シ。初紀切 紙
飛ぶ貌にいふ字。

【翜】シフ。色立切 緝
飛ぶを疾し、はやし(捷)、一說に、たすく(俠)。○[爾]「—捷也」。

【翣】サフ、セフ。所甲切 洽
㊀棺に飾りたる羽。㊁つかふ(使)。

【𦑼】カン、コン。呼含切 覃
小鳥の飛ぶ貌にいふ字。

【𦑵】ハク。匹各切 藥
さぶ(飛)。

八畫

【𦒉】タウ、テウ。丑卯切 巧

毛多し、おほし。

【⿰羽彔】 ロク。盧谷切 屋
㊀水の上を飛ぶ、さぶ。
㊁上がり飛ぶ貌にいふ字。

【⿰沓羽】 タフ、トフ。他合切 合
飛ぶ貌にいふ字。

【⿰羽京】 キヤウ、カウ。居良切 陽
鵲の行く貌にいふ字。

【翜】 サフ、セフ。楚洽切 洽
飛ぶ貌にいふ字。

【翟】 テキ、ヂヤク。徒歴切 錫
㊀尾の長き雉、きじ。○〔書〕「羽-畎夏-ー」。
㊁雉羽、きじのはね。○〔詩〕「秉レー」。
㊂雉羽もて飾れる衣。○〔詩〕「其之ー」。
㊃雉羽もて飾れる車蔽ひ。○〔詩〕「ー茀以朝」。
㊄羽の舞ひを敎ふる者。○〔禮〕「夫祭有レ畀ニ煇胞-閽者ニ」。
㊅狄に同じ、えびす。○〔國〕「翟ニ戎ー「之閒ニ」。
〔夏翟〕五彩の羽の雉。○〔庾信〕「ーー秋飛」。
〔篝翟〕前に同じ。○〔漢〕「襯ニーー之文、采・華之色ニ」。
〔重翟〕雉の羽の車飾り。○〔隋〕「皇后之車十二等、一曰ニーーニ」。
〔厭翟〕前に同じ。○〔隋〕「二曰ニーーニ、以祭ニ陰社ニ」。
〔馴翟〕人になれたる雉。○〔南〕「野多ニーーニ」。

【翟】 タク、ヂヤク。場伯切 陌
陽ーは、縣の名。○〔史〕「韓王成因ニ故都ー都ニ陽ーニ」。

【⿱羽隺】 タク、ドク。直角切 覺
鸐に同じ、やまどり。

【⿰羽青】 セイ、シヤウ。咨盈切 庚
旌に同じ。

【⿰朮羽】 シユツ、ジユチ。昨律切 質
飛ぶこと疾き貌にいふ字。

【翠】 スヰ。七醉切 寘
㊀形は燕に似て總身の青黃色なる一種の鳥、やませみ、六翮の上の青毛長さ寸餘用ひて飾りとなすべし、一名鷸又は青羽雀。○〔漢〕「ー-鳥千」。
㊁青さ黃さの閒色、みどり、もえぎ。○〔晉〕「必無ニ經レ時之ーニ」。
㊂鳥の尾の肉、ひたれ。○〔禮〕「舒-鴈ー」。
〔翡翠〕鳥の名、赤羽雀と青羽雀。○〔史〕「揜ニーー」、射ニ鵕鸃ニ」。
〔青翠〕あを色。○〔三輔黃圖〕「ーー繁密」。
〔蒼翠〕前に同じ。○〔老學庵筆記〕「北佳者、質溫潤ーー」。
〔紫翠〕むらさきの色と綠のいろと。○〔杜牧〕「千-峰橫ニーーニ」。
〔金翠〕金色を帶びたるみどりいろ。○〔埤雅〕「孔雀尾有ニーーニ」。
〔紅翠〕山鳥の名。○〔皮日休〕「ーー數聲瑤室響」。
〔彩翠〕うつくしきやませみのはね、又、うつくしきみどり。○〔湘山野錄〕「ーー奪レ目」。
〔光翠〕前に同じ。○〔茅亭客話〕「ーー奪レ目」。
〔集翠〕やませみの羽をよせあつむ。○〔集異記〕「則天賜ニ張昌宗ーー裘ニ」。
〔葱翠〕みどり色。○〔梁簡文帝〕「竹水俱ーー」。
〔鬱翠〕樹木などのあを〳〵と茂りたること。○〔吳拭〕「藹-菁ーー」「ーレー」。
〔含翠〕みどりの色をもつ。○〔杜牧〕「吳・主宮・殿柳ーー」
〔松翠〕まつばのみどり。○〔朱慶餘〕「山深ーー冷」。
〔舒翠〕みどりいろをのぶ。〔仲子陵〕「ーレー錯紅」。
〔落翠〕青き色をおとす。○〔王僧巳〕「霜威始ーレー」。
〔佩翠〕みどりいろをもつ。○〔李百藥〕「柳ーレー而辭レ寒」。
〔疏翠〕まばらなるみどり。○〔許渾〕「萬-竹動ニーーニ」。
〔新翠〕あらたにいでたるみどり。○〔歐陽修〕「暮・雲點ニーーニ」。
〔幽翠〕おくふかくあを〳〵したること。○〔蘇軾〕「樹・林ーー藏ニ山-谷ニ」「烟」。
〔深翠〕こきみどり。○〔蘇軾〕「樹林ーー己生」。
〔綠翠〕みどり色。○〔李白〕「ーー如ニ芙蓉ニ」。
〔宿翠〕まつばなどのふるき葉色にいふ語。○〔呂溫〕「松-窓ーー含ニ風薄ニ」。
〔踏翠〕のやまの草などのあを〳〵とおげりたる場處をふみて行くこと。○〔白居易〕「尋レ芳ーレー弄ニ源溪ニ」。
〔濃翠〕こきみどり。○〔李商隱〕「ーー遙相倚」。
〔吐翠〕みどりのいろをあらはす。○〔韋莊〕「草根微ーレー」

【翡】 ヒ。父沸切 未
翠の屬、全身通じて黑くたゞ胸の前及び背の上翼の後に赤毛あり、かはせみ、又、赤羽雀ともいふ、一說に、翠の雄。○〔漢〕「以ニーー翠ニ」。

【⿰羽戔】 サン、側板切 潸 セン、財千切 ゼン。 先 セン。子淺切 銑
鷙飛ぶ、迅く飛ぶ、鳥はげしく擊つ、さぶ、うつ。○〔揚雄〕「蟜-虎桓-々鷹-隼ーー」。

【⿰羽戔】 セン。旨善切 銑
たけし、(武)。

【翢】 タウ、土刀切 豪 トウ。 タウ、大到切 號 ドウ。
羽葆幢、はたぼこ。

【⿰羽或】 カク、キヤク。呼麥切 陌 ヨク、ヰキ。越逼切 職
飛ぶ貌にいふ字。

【⿰或羽】 キヨク、ケキ。況逼切 職
羽の聲にいふ字。

【⿰羽奄】 エン。於劍切 豔
羽を斂む、をさむ。

【翣】 サフ、所甲切 洽 セフ。色輒切 葉
㊀あふぎ、(扇)。○〔儀〕「燕-器杖、笠、ー」。
㊁棺の羽飾、はねかざり。○〔周〕「后之ー」。
㊂おにがしら、(蘇)。「喪持レー」。

【⿰羽隹】 タイ、テ。丑楷切 駭
飛ぶを速かなり。

【⿰惰羽】 タ、ダ。唐何切 歌
飛ぶ貌にいふ字。

九畫

【⿰咸羽】 カン、ゲン。胡讒切 咸
ー⿰咸羽は、疾く飛ぶ、とぶ。

【翥】 ショ、ソ。章恕切 御
飛び擧がる、とぶ、あがる。○〔張衡〕「鳳翥ニー於甍-標ニ」。

【翦】 セン。即淺切 銑
㊀たつ、きる。
（い）斷りて齊しくす、そろふ。○〔爾註〕「南-方人呼ニー刀ニ爲レ剃ニ」。

(ろ)斷ち去る、のぞく。○〔詩〕「勿レ―勿レ伐」。
(は)そぐ、ころす、(殺)。○〔後漢〕「自刑―以明ニ我情ニ」。
(に)けづる、(削)。○〔左〕「其―以賜ニ諸侯ニ」。
(ほ)つくす、(盡)、ほろぼす、(滅)。○〔左〕「―ニ滅之ニ」。
㊁あさし、(淺)。○〔儀〕「疏布緇―」。
㊂善く辨ずる貌にいふ字、一説に、佞人の貌にいふ字、又一説に、短く淺き貌にいふ字。○〔莊〕「佞人之心―々者」。

(殘翦) そぎけづる ○〔左〕「又欲下―ニ―我宮室一、傾中覆我社稷上」。
(俘翦) いけどりにするときりころすと。○〔左〕「―我王宮ニ、―我羈馬ニ」。
(快翦) よくきる。○〔杜甫〕「焉得ニ幷州―々刀ニ」。
(剔翦) 切斷す。○〔詩、疏〕「獲ニ去之ニ、―ニ―之者」。
(裁翦) 前に同じ。○〔韓偓〕「分明窓下聞ニ―ニ」。
(剗翦) 前に同じ。○〔梁武帝〕「―ニ―鯨鯢ニ」。
(除翦) きり去ると。○〔左〕「我諸戎―ニ―其荆棘ニ」。
(刪翦) けづりきる。○〔劉寬夫〕「――成レ功」。
(誅翦) 罪ある者をきり殺すと。○〔後漢〕「所ニ共―ニ―者合ニ入室ニ」。
(梟翦) きりさらす。○〔崔湜〕「―ニ―鯨鯢ニ」。
(開翦) きりひらく。○〔晉〕「―ニ―河右ニ」。
(夷翦) 三族をきりころす。○〔隋〕「恣與―ニ―」。
(禽翦) 捕らへころす。○〔北〕「終莫レ不ニ―ニ―ニ」。
(斜翦) なゝめにきる。○〔梁、徐〕「避ニ―花―ニ―」。
(碎翦) くだききる。○〔梅堯臣〕「黃金――千萬層」。

〔翦〕 箭に同じ。

〔𦒄〕 セン、須緣切 〔先〕
飛ぶ貌にいふ字。

〔翭〕 コウ、グ。戶鉤切 〔尤〕
㊀羽の本、一説に、羽の初めて生えたる貌にいふ字。
㊁かざきりばね、(風狄羽)。

〔𦒉〕 コウ、グ。下遘切 〔宥〕
鍭に同じ。○〔儀〕「―矢一乘」。

〔翵〕 クワン。火卵切 〔旱〕
飛ぶ貌にいふ字。

〔翮〕 カク、キヤク。古核切 〔陌〕
つばさ、(翼)。

〔翧〕 ケン、カン。況元切 〔元〕
さぶ、(飛)。

〔𦒎〕 セン、ゼン。荀緣切 〔先〕
かける、(翔)。

〔䎙〕 シヨウ、シユ。尺勇切 〔腫〕
はね、(羽)。

〔䎗〕 フク、ヒキ。芳逼切 〔職〕
さぶ、(飛)。

〔翝〕 カウ、キヤウ。呼宏切 〔庚〕
羽の聲にいふ字。

〔翨〕 シ。施智切 〔寘〕
㊀はね、(翮)。㊁たけし、(武)。

〔翨〕 キ。居企切 〔支〕
翨に同じ。

〔翩〕 ヘン。芳連切 〔先〕
㊀疾く飛ぶ、とぶ、かける。○〔詩〕「――者鵻」。
㊁反る、ひるがへる。○〔詩〕「―其反矣」。
㊂輕く擧がる貌にいふ字。○〔易〕「――不レ富以ニ其鄰ニ」。
㊃連屬す、つゞく。「絡繹」。○〔魏文帝〕「聯―」。
㊄往來する貌にいふ字。○〔詩〕「緝々――」。
㊅動搖する貌にいふ字、行きて息まざる貌にいふ字。○〔詩〕「旟旐有レ―」。
㊆宮闕の顯盛なる貌にいふ字。○〔後漢〕「――巍々」。
㊇自得の貌にも自喜の貌にもいふ字。○〔張華〕「――然有ニ以自樂一也」。

〔翨〕 シ、ジ。是支切 〔支〕
羣り飛ぶ貌にいふ字。

〔翪〕 ソウ。子紅切 〔東〕 作孔切 〔董〕 作弄切 〔送〕
ス。
翅を竦てゝ飛ぶ、さぶ。○〔爾〕「鵲鵙醜其飛也―」。

〔翿〕 纛に同じ。

〔翫〕 グワン。五換切 〔翰〕
㊀もてあそぶ。
(い)手に持ちて慰む。○〔呂氏春秋〕「終日―レ之而不レ去」。
(ろ)反覆して釋てず、厭くまで習ふ。○〔易〕「―ニ其辭ニ」。
(は)狎れて易る、輕んじ瀆す。○〔左〕「寇不レ可レ―」。
(に)むさぼる、(貪)。○〔左〕「―レ歲而愒レ日」。
(ほ)めづ、(愛)、よろこぶ、(悅)。○〔何劭〕「流レ目―ニ鯈魚ニ」。
㊁もてあそぶ器具、おもちや、てあそび。○〔南〕「服―車馬」。

〔𦒋〕 タフ、トフ。丑法切 〔洽〕
飛ぶ貌にいふ字。

〔翬〕 キ。居歸切 〔微〕
㊀大いに飛ぶ、疾く飛ぶ、とぶ、又、其の羽の聲にいふ字。○〔爾〕「鷹隼醜其飛也―」。
㊁雉の屬、きじ、毛色の太だ光鮮なるもの。○〔詩〕「如ニ―斯飛ニ」。
(翬々) 鳥などの飛ぶときにやき時の羽の聲にいふ語。○〔爾、詩〕「鼓翅――然疾」。
(俯翬) 遠く飛びあがる。○〔衞凱〕「――旣形」。
(驚翬) おどろきてとびあがるとと。○〔韓〕「雷―――」。

〔翭〕 猴に同じ

〔𦒃〕 前條に同じ。

〔翥〕 翥に同じ。

〔𦑷〕 翦に同じ。

〔𦑱〕 翨に同じ。

〔𦒆〕 翪に同じ。

〔𦒌〕 翬に同じ。

〔𦒭〕 猶に同じ。

十一畫

〔𦒢〕 タク、チヤク。直格切 〔陌〕
𦒢―は、飛ぶ貌にいふ語。

【⿰羽尃】 フ。芳無切 虞
翮の下の羽、又、細き毛、ほそげ。

【⿰犭羽】
貈に同じ。

【翮】 カク、ギヤク。下革切 陌
羽莖、羽本、はねのくき、はねのもと、はね。○〔周〕「羽人掌三以レ時徵二羽ーー之政于山-澤之農一」。
（搏翮） 空中をとぶはね、轉じて飛鳥の意に用ふることあり。○〔七啓〕「ーー成レ雲」。
（鍛翮） はねをそぐ。○〔世説〕「ー二其羽ー一」。
（風翮） かぜを凌ぐはね。○〔杜甫〕「ーーー九霄」。
（擧翮） はねをたつ。○〔左思〕「ーレー觸二四隅一」。
（揚翮） 前に同じ。○〔鮑照〕「胡沙超二分隴ーレー」。
（逸翮） すぐれたるはね。○〔范雲〕「ーー凌二北海一」。
（弱翮） つよからざるはね。○〔牛鳳及〕「微臣慙二ーーー一」。
（幹翮） おもなるおほばね。○〔唐〕「雖二ーー非一レ彊、亦可二以兌一レ累」。
（文翮） あやあるはね。○〔射雉賦〕「ーー鱗次」。
（浮翮） 水にうかびたるはね。○〔七命〕「斷二ーー一以爲レ工」。
（駿翮） 疾く飛ぶはね。○〔陸機〕「頓二ーー一以婆娑」。
（舒翮） のびやかなるはね。○〔張望〕「翩二ーー一以和鳴」。
（揮翮） はねをふるひうごかす。○〔陸機〕「ーレー生レ風」。
（騰翮） たかく飛び翔る。○〔鄭曼季〕「ーユーー天池二」。
（翅翮） つばさとはねと。○〔趙景眞〕「ーーー摧屈」。
（素翮） 志ろき色のはねのと。○〔梁宣帝〕「鼓ユーー之霏々二」。
（舞翮） はねをはしうごかす。○〔梁簡文帝〕「臨レ高ーレー」。
（疎翮） まばらなるはね。○〔杜甫〕「ーーー稀毛不レ可レ状」。
（黑翮） くろ色のはね。○〔九道〕「ーーー之鳳」。
（玄翮） 前に同じ。○〔墉城集仙錄叙〕「翺翔則羣羽ーーー」。

【⿰鬲羽】 レキ、リヤク。郎歷切 錫

翮に同じ。○〔史〕「吞二三ー六一翼一以高二世主一」。

【⿱龸羽】 カウ、キヤウ。呼宏切 庚
㊀飛ぶ聲にいふ字。㊁羣鳥の翅を弄ぶと。

【翯】 コク。胡沃切 沃 カク、ゴク。胡角切 覺
㊀鳥の肥えて澤ある貌にいふ字、又、羽の潔く白き貌にいふ字。○〔詩〕「白鳥ーーー」。㊁水の白く光る貌にいふ字。○〔史〕「ーー乎滈々」。

【翯】 カウ、ゴウ。下老切 晧 コク。胡谷切 屋
素き羽、志らは。

【⿰能羽】
鶬に同じ。

【翰】 カン。侯旰切 翰 カン。胡安切 寒
㊀天雞、やまどり。○〔逸周書〕「大ーー若二翬雉一」。㊁高く飛ぶにいふ字、たかし。○〔易〕「ー音登二于天一」。㊂白色の鮮潔なるにいふ字、志ろし、きよし。○〔易〕「白馬ーー如」。㊃白馬、志ろうま。○〔禮〕「戎事乘レー」。㊄もさ、みき、(幹)。○〔詩〕「維周之ー」。㊅は、はね、(羽)。○〔魏〕「如レ翮如レー」。㊆文筆、ふで。○〔南〕「染レー便成」。㊇文書、ふみ。○〔南〕「甚嫻二詞ーー一」。
（屏翰） 藩屏といふに同じ、又、柱石の臣といふ意に用ふ。○〔唐〕「吾爲二國ーーー一」。
（藩翰） 前に同じ。○〔曾鞏〕「爲二國ーーー一」。
（文翰） 文書。○〔晉〕「詔令ーーー亦悉豫焉」。
（點翰） 筆をそめて文字などをかきしるす。○〔晉〕「舒レ箋ーレー」。
（染翰） 前に同じ。○〔南〕「介ーレー便成レ文無二加點一」。
（揮翰） 揮毫といふに同じ、書畫などをかくと、又、筆をふるふ。○〔周〕「或ーユー鳳池一」。
（藻翰） 文詞。○〔唐〕「ーーー精富」。
（柔翰） 筆。○〔左思〕「弱冠弄二ーーー一」。
（筆翰） 前に同じ。○〔南〕「自レ是專二公家ーー一」。
（管翰） 前に同じ。○〔晉〕「固非二ーーー之所一レ述」。
（宸翰） 帝王のかゝれたるもの。○〔宋〕「求得二仁皇ーーー一」。
（飛翰） かきつけをいそぎはすと。○〔後漢〕「馳レ檄ーレー」。
（援翰） 筆を執る。○〔晉〕「故ーレー以寫レ心」。
（秉翰） 前に同じ。○〔柳宗元〕「ーレー執レ簡」。
（驚翰） ものにおどろきたる鳥。○〔任峯古詩〕「ーーー遊レ林飛」。
（投翰） ふでをなげたす。○〔劉楨〕「ーレー長歎息」。
（史翰） 歴史をかく文筆。○〔齊〕「其有二ーーー一」。
（書翰） ふみ。○〔南〕「兼掌二ーーー一」。
（尺翰） てがみ。○〔陳〕「ーーー馳而聊城下」。
（札翰） かきつけ、又、かみとふでと。○〔魏〕「閑習二尺牘ーーー一」。
（牘翰） 前に同じ。○〔劇談錄〕「亦以二ーーー一避二于王公之前一」。
（遺翰） 死にたるあとにのこれるかきもの。○〔東觀餘論〕「獨區々ーーー見レ寶二後人一」。
（輕翰） (い)かろきふで。○〔楊師道〕「ーーー染二煙莚一」。(ろ)かろきはね。○〔沈約〕「負二重雪于ーーー一」。
（弄翰） 筆をもてあそびて書畫などをかく。○〔宣和畫譜〕「則ーレー游戲」。
（綠翰） みどりのはね。○〔陸龜蒙〕「紅綠ーーー兩參差」。
（馳翰） ふでをはしらせてかきものを爲す。○〔劉掉〕「ーレー洙レ眼食」。
（雙翰） ふたつのはね。○〔梁陳〕「因レ盤二界ーーー一」。
（鼓翰） 鳥などのはゞたきすると。○〔郭璞〕「飛鼠ーレー」。
（羽翰） はね。○〔鮑照〕「ーーー始差池」。
（手翰） てがみ。○〔韓愈〕「皆二惠ーーー還答一」。

【⿱罒羽】 タフ、ドフ。徒合切 合
こぶ、(飛)。○〔左思〕「趁趯䎕ーー」。

【⿰攸羽】 イウ、ユ。夷周切 尤
鳥の飛ぶ貌にいふ字。

【⿰冒羽】 フ、プ。防無切 虞
飛ぶ貌にいふ字。

【⿰虒羽】 シ。又宜切 支
ー⿰羽也は、燕の飛ぶ貌にいふ語。

【⿰章羽】 タフ、トフ。丁盍切 合
飛ぶ貌にいふ字。

【⿰羽羽】 タフ、トフ。吐盍切 合
鳥の羽。

【⿱羽百】 リウ、ル。力求切 尤
小しく飛ぶ、とぶ。

十二畫

【⿱亯羽】
翶に同じ。

【⿰羽莫】 カン。呼爛切 翰
飛ぶ貌にいふ字。

【翲】 ヘウ。撫招切 蕭 匹妙切 嘯
高く飛ぶ、とぶ。

【翳】 エイ、アイ。壹計切 霽
㊀華蓋、きぬがさ、又、羽葆、はたぼこ。○〔山海經〕「乘レー」。㊁雉尾扇の類、かざしのは、舞ふ者の執るものにて鳥羽をもてつくる。○〔書、註〕「羽ー也、舞者所レ執」。㊂旁盾の屬、たて。○〔國〕「兵不レ解レー」。㊃射獵に用ひて身をおほふ具。○〔禮〕「華ー」。㊄かげ。(い)こかげ、おほひ。○〔詩、疏〕「蔽レ地爲二陰ーー一」。

(ろ)光明のさへぎられて暗くなれるを、くもり。○〔世說〕「天-月明-淨、都無ニ纖-｜ニ」。
(六)目病みてくもりを生ずるを、まぶしめぼし。○〔梅堯臣〕「忽-然生レ｜無ニ藥瘳ニ」。
(七)かくろ、かくす(隱)。○〔魏〕「潛ニ｜海-隅ニ」。
(八)おほふ(蔽)。○〔爾、註〕「｜ニ覆地ニ」。
(九)さゝふ(障)。○〔國〕「縱レ過而｜レ諫」。
(十)ほりぞく(屏)、又、ほろぼす(滅)。○〔國〕「｜ニ其人ニ」。
(十一)頭上をおほふ、眼前にさゝふ、かざす。○〔急就篇、註〕「羽-翳以自隱｜｜」。
(十二)かすむ。
(い)くもりを生ず、くもろ。○〔宋〕「纖-靄不レ｜」。
(ろ)目にめぼしを生ず。○〔宋〕「目爲レ之｜」。
(十三)木の自然に枯死するを。○〔詩〕「其菑其｜」。
(十四)こくたん、烏文木。○〔古今注〕「｜｜木出ニ交-州ニ」。
(十五)一種の鳥、一說に、鳳の屬なりといふ。○〔楚辭〕「乘レ｜」。
〔翳々〕あきらかならざる貌にいふ語。○〔南〕「景｜｜以將レ入」。
〔屏翳〕風のかみ、又一說に、雷神ともいふ。○〔曹植〕「｜｜收レ風」。
〔氛翳〕わるき氣。○〔李白〕「開レ元掃ニ｜｜ニ」。
〔陰翳〕生木枝葉の地を覆ふもの。○〔左、註〕「翳-桑桑之多ニ｜｜ニ者」。
〔蔽翳〕かざしおほふ。○〔爾、註〕「雞者所ニ以自｜｜也」。
〔潛翳〕ひそみかくる。○〔魏〕「｜ニ｜海-隅ニ」。
〔沈翳〕前に同じ。○〔摯虞〕「河-圖｜｜」。
〔淪翳〕前に同じ。○〔禮長卿〕「時-人自｜｜」。
〔蒙翳〕樹木などのしげり蔽ふこと。○〔陸游〕「桑-麻｜｜不レ通レ隣」。
〔霧翳〕くもりたるあしき氣。○〔唐〕「｜｜澄-皎」。
〔纖翳〕こまかきくもり。○〔世說〕「都無ニ｜｜ニ」。
〔掃翳〕おほひ障すもの。○〔博雅〕「｜｜障-蔽也」。
〔掩翳〕おほふ。○〔耶律楚材〕「雲-霞｜｜」。
〔叢翳〕草木などのしげり蔽ふこと。○〔岳陽風土記〕「草-木｜｜」。
〔冥翳〕くらき貌にいふ語。○〔李白〕「｜｜不レ可レ識」。
〔雲翳〕くものかげ。○〔陸游〕「大-空｜｜終當レ散」。
〔荒翳〕あれはてたるこかげ。○〔陸游〕「村-圃半ニ｜｜ニ」。
〔陰翳〕くらきかげ。○〔陳子昂〕「陽-彩皆｜｜」。
〔靈翳〕くらき妖氣の蔽ふこと。○〔李白〕「｜｜周與レ秦」。
〔薈翳〕草木おほひしげる。○〔夏侯〕「蒙ニ｜｜ニ而松-桂出」。

【翴】 レン。力延切 先
飛びて相及ぶ貌にいふ字、又、さぶ。

【⿰習羽】 ⿰犭立に同じ。

【翖】 シ。式支切 支
鳥の二つの羽。

十二畫

【翷】 リン。力珍切 眞
さぶ(飛)。

【䎖】 ソウ。作滕切 蒸
あがる(擧)、又、さぶ(飛)。

【⿰童羽】 トウ、ヅ。達貢切 送
飛ぶ貌にいふ字。

【⿰羽惠】 ケイ、エ。胡桂切　エイ。餘制切 霽
かざきりばね(風-狄-羽)。

【⿰賁羽】 ホン。匹本切 阮
飛ぶ貌にいふ字。

【⿱羽堯】 翹に同じ。

【翹】 ケウ、ゲウ。渠遙切 蕭
(一)尾の長毛、を。○〔郭璞〕「以垂レ｜」。
(二)はね(羽)。○〔楚辭〕「砥-室翠-｜」。
(三)あぐ。
(い)おこす(起)。○〔禮〕「麤而｜レ之」。
(ろ)つまだつ(企)。○〔史〕「可ニ｜レ足而待ニ」。
(四)あがる(擧)。○〔南都賦〕「｜-遙遷-延」。
(五)かく、かゝろ(懸)。○〔曹植〕「｜-思慕ニ遠-人ニ」。
(六)おほし(衆)、又、たかし(高)。○〔詩〕「｜｜錯-薪」。
(七)あやふし(危)、又、危ぶむ貌にいふ字。○〔詩〕「予室｜｜」。
(八)遠き貌にも又は長き貌にもいふ字。○〔左〕「｜｜車-乘」。
(九)茂り盛んなる貌にいふ字。○〔陸機〕「翫ニ春｜ニ而有レ思」。
〔雲翹〕(い)舞の名。○〔梁元帝〕「樂有ニ｜｜之舞ニ」。(ろ)くものはねを張りたる如きさまにいふ語。○〔陸雲〕「｜｜映レ晨」。
〔舒翹〕はねをのべはるとにて人などにはうでをふるふさまに用ふ。○〔柳宗元〕「今之甚-智、莫レ不ニ｜レ｜揚レ英、推レ類援レ朋」。
〔異翹〕草の名、れんげう。○〔爾〕「連｜｜」。
〔大翹〕前に同じ。○〔爾、疏〕「｜｜葉狹長如ニ水-蘇ニ、花黃可レ愛」。
〔揚翹〕あがる。○〔射雉賦〕「班-尾｜｜」。
〔搖翹〕はねをうごかすこと。○〔劉向〕「｜レ｜奮レ羽」。
〔雙翹〕ふたつのつばさ。○〔七啓〕「[illegible]羽之｜｜」。
〔藻翹〕あやあるはね。○〔陸機〕「金-雀垂ニ｜｜ニ」。
〔雉翹〕きじのはね。○〔劉禹錫〕「鞍-傍見ニ｜｜ニ」。

【翺】 ガウ、ゴウ。五勞切 豪
かけろ、あそぶ(翔)。○〔詩〕「齊-子｜｜翔」。
〔翺翔〕飛びまはること。○〔柳宗元〕「汲若ニ｜｜ニ」。
〔翺々〕羽をまはし飛ぶ貌にいふ語。○〔何景明〕「｜｜飛ニ雲-間ニ」。
〔摻翺〕羽をまじへて飛ぶ。○〔何景明〕「鴻-鵠共｜レ｜」。

【⿰敝羽】 ヘツ、ヘチ。匹蔑切 屑
飛ぶ貌にいふ字。

【⿰喬羽】 ケウ、ゲウ。渠遙切 蕭
高く飛ぶ、大き飛ぶ、さぶ、かたむく、たかし。○〔揚雄〕「翬｜飛也」。

【翻】 ヘン、ハン。孚袁切 元　ハン、ヘン。孚艱切 刪
(一)さぶ(飛)。○〔張衡〕「衆-鳥翩-｜」。
(二)反覆す、ひるがへる、ひるがへす。○〔岑參〕「旗｜渭-北風」。
〔繽翻〕みだれ飛ぶ。○〔吳都賦〕「大-鵬｜｜」。
〔飛翻〕鳥などのとぶこと。○〔沈約〕「短-翮屢｜｜」。
〔聯翻〕つらなりひるがへる。○〔王粲〕「｜｜飛-鸞鳥」。「鶖」。
〔燎翻〕たかくひるがへる。○〔溫庭筠〕「｜｜翠-鳳」。
〔騰翻〕たかくとびひるがへる。○〔李嶠〕「魚-龍｜｜」。
〔影翻〕ひるがへりとぶ。○〔蘇軾〕「羽-翮見レ月爭｜｜」。
〔覆翻〕ひるがへる。○〔宋玉〕「蓉-與相｜｜」。

【⿰矞羽】 イツ、イチ。餘律切 質
飛ぶ貌にいふ字。○〔郭璞〕「鼓レ翅｜-翊」。

【⿰肅羽】 シユク、ソク。息逐切 屋
(一)鳥の羽おこにいふ字。(二)さぶ(飛)。

【翼】 ヨク、井キ。逸職切 職
(一)つばさ。

（い）鳥の左右の肢、は、はね。○[易]「垂二其ー一」。
（ろ）飛蟲の有するはね。○[莊]「不下以二萬-物一易中蜩之ー上」。
㊁魚の左右にある鬣。○[宋玉]「振レ鱗奮レー」。
㊂左右の部隊。○[史]「多爲二奇-陳一張二左-右ー一」。
㊃屋の四阿、のき。○[後漢]「列二勢-橑一以布レー」。
㊄鼎の耳。○[史]「三-翮六-ー」。
㊅たすく。
（い）戴き奉く。○[書]「庶-明勵ー」。
（ろ）傍より贊く。○[書]「汝ー」。
（は）かばひ成す。○[國]「鳥ー二鷇-卵一」。
㊆輔佐、たすけ。○[詩]「有レ馮有レー」。
㊇とぶ（飛）、あがる（翹）。○[王粲]「ーー飛鸞」。
㊈つゝしむ（敬）。○[詩]「有レ嚴有レー」。
㊉うやうやし（恭）。○[詩]「小-心ーー」。
（十一）ならふ（閑）。○[詩]「四-牡ーー」。
（十二）やはらぐ（和）。○[屈平]「鄂-翔之ーー」。
（十三）おほし（蕃）、おほし（衆）、さかんなり（盛）。○[詩]「我黍ーー」。
（十四）うつくし（美）。○[詩]「匪-々ーー」。
（十五）壯健なる貌にいふ字、つよし。○[詩]「四-騏ーー」。
（十六）整飭せる貌にいふ字、たゞし。○[詩]「疆-場ーー」。
（十七）隨意なる貌にいふ字、きまゝ。○[宋玉]「ー放-縱而綽-寛」。
（十八）あす（翌）。○[書]「越ーー日」。
（十九）二十八星宿の一、たすき。○[禮]「昏ー中」。

（羽翼）はねとつばさと、又、輔佐の意に用ふる語。○[史]「ーー已成、難レ動矣」。
（補翼）たすく。○[史]「旦ー〻ーー」。
（贊翼）前に同じ。○[魏]「ー二ー共美一」。
（翄翼）前に同じ。○[晉]「ー二ー二宮一」。
（匡翼）前に同じ。○[晉]「內-外並二ーー之規一」。
（扶翼）前に同じ。○[晉]「ー二ー皇家一」。
（振翼）つばさをふるひて飛ぶ。○[後漢]「ー二ー雲-漢一」。
（舒翼）つばさをのべひろぐ。○[世說]「雛乃ーー」。
（矯翼）つばさをたむ。○[漢]「ーーー厲レ翮」。
（拊翼）はゞたきす。○[後漢]「ーー而未レ舉」。
（鼓翼）前に同じ。○[埤雅]「先鳴而後ーーレー」。
（斂翼）つばさをおさめあはせて飛ばず。○[應璩]「復ー二乎故-枝一」。
（奮翼）前に同じ。○[王褒]「飛鳥ーレー」。
（戢翼）前に同じ。○[陳琳]「鴻-雀ー二ー于汚-池一」。
（垂翼）つばさをたれさげて飛翔せず。○[陸雲]「ー二ー闕-沼一」。
（濡翼）つばさをみにひたす。○[詩]「不レー二其ー一」。
（服翼）かはほりといふ鳥の異名。○[方言]「蝙蝠自レ關而東謂二之ーー一」。
（翅翼）つばさ。○[漢]「ーー雖レ傷不レ避也」。
（素翼）白き色のつばさ。○[崔融]「翩-々ーー」。
（修翼）ながきつばさ、轉じて、おほいなる鳥の翼をあらはすに用ふ。○[鄭炎詩]「ーー無二卑棲一」。
（羚翼）うつくしきつばさ。○[潘岳]「聳ーー」。
（壯翼）つよきつばさ。○[梁元帝]「ーー臨レ空」。
（翹翼）つばさをあぐ。○[周翰]「五-鳳ーレー」。
（虎傅翼）心術不正の者の利柄を得たるにいふ語。○[韓]「乘二不-肖之人于勢一是爲二ーーレー也」。

【⿰羽堯】翹に同じ。

【⿰羽喬】翻に同じ。

【⿰羽喬】翻に同じ。

【⿰羽巽】翼に同じ。○[峋嶁禹碑]「承レ帝曰、咨ー-輔佐-卿」。

羽部十三畫

【翧】ケン。許延切　テン、直連切　デン。切　㊉先　とぶ（飛）。

【⿰羽感】カン、コン。虎感切　㊊感　飛ぶ貌にいふ字。

【翽】クワイ、ケ。呼會切　㊊泰　許穢切　㊊隊　苦夬切　㊊卦　羽の聲にいふ字、又、おほし（衆-多）。○[詩]「鳳-凰于飛、ーーー其羽」。

【翾】ケン。許緣切　㊉先
㊀小しく飛ぶ、とぶ。○[楚辭]「ーー飛兮翠-曾」。
㊁はやし（急）。○[荀]「喜則輕而ー」。
（翾翾）かろく飛ぶ貌にいふ語。○[謝靈運]「何但ーー」。
（翾々）すこしく飛ぶ貌にいふ語。○[蔡邕]「跂-々ーー」。
（連翾）ならびて飛ぶ。○[陳陶]「愁-鴻ーー兮曳レ絲」。
（翾翾）ひるがへりとぶ。○[范成大]「簾-箔ー以ー」。

【⿰啇羽】ハク。匹各切　㊈藥　飛ぶ貌にいふ字。

十四畫

【⿰賓羽】ヒン。卑民切　㊉先　とぶ（飛）。

【翿】タウ、ドウ。徒到切　㊈號　徒刀切　㊉豪　杜皓切　㊋皓　羽葆幢、はたぼこ、おにむしら、又、雉尾扇の類、かざしのは。○[詩]「君-子揚-々左執レー」。

【耀】エウ。弋照切　㊈嘯　曜に同じ、かゞやく、ひかる、びかり、かがやき。○[左]「光遠而自レ他有レー者也」。
（流耀）ひかりを布く。○[西都賦]「ーレー含レ英」。
（光耀）ひかり。○[列]「日-月星-辰亦積-氣中之有二ーー一者」。
（誑耀）たぶらかしほこる。○[潛夫論]「彊-膚二兆-眼一以相ーー」。
（震耀）いたくふるひかゞやく。○[後漢]「天-威ーー」。
（增耀）ひかりをます。○[後漢]「ー二日-月之ー一」。
（隱耀）ひかりをあらはさず。○[魏]「龍-鳳ーレー」。
（掩耀）前に同じ。○[晉]「晦-明ーレー」。
（韜耀）前に同じ。○[晉]「藏-果而ー二其ー一」。
（匿耀）前に同じ。○[宋]「居レ晦ーー」。
（清耀）きよらかなるひかり。○[魏、詮]「ーー燭夜」。
（焜耀）ひかりかゞやくと。○[瞿光羲]「餘輝方ーー」。
（晃耀）前に同じ。○[宋]「榮-華相ーー」。
（衒耀）才學などのほまれをかゞやかしてらふ。○[晉]「馳ーー取レ達」。
（鮮耀）あざやかにかゞやく。○[陳]「五-采ーー」。
（精耀）前に同じ。○[漢武內傳]「天-姿ーー」。
（華耀）うつくしきひかり。○[楊衒]「蓮-阿縱二ーー一」。
（文耀）前に同じ。○[劉陶]「職二三-光之ーー一」。
（藻耀）前に同じ。○[張說]「紅-荷ー二ー于澤-畔一」。
（照耀）かゞやきてらす。○[易林]「光-明ーー」。
（靈耀）神妙なるひかり、又、太陽のことにもいふ。○[論衡]「神-光ーー」。
（炳耀）ひかりかゞやく。○[拾遺記]「文-彩ーー」。
（熠耀）前に同じ。○[柳宗元]「旟-旗ーーー于洪-河」。
（輝耀）前に同じ。○[柳宗元]「威-武ーー明二鬼區一」。
（明耀）あきらかにひかる。○[述異記]「ーー絕世」。
（晶耀）前に同じ。○[宋之問]「ーー日何在」。
（暉耀）かゞやく貌にいふ語。○[沈佺期]「電ーー兮龍躍」。
（榮耀）さかえかゞやく。○[曹植]「ーーー當-世」。

〔英耀〕はなやかなるひかり。○〔夏侯湛〕「—・—秀・落」。「—」。
〔發耀〕ひかりをあらはす。○〔柳宗元〕「當レ空—」。
〔炫耀〕ひかる。○〔白居易〕「晴・暉—・—」。
〔暉耀〕かゞやきひかる。○〔晏殊〕「可レ繼二重・華之—・—一」。

十五畫

【獯】 獯に同じ。○〔淮〕「奮レ翼揮レ—」。

【獵】 ラウ、ロフ。盧合切 合

—翻は、初めて飛び起つ貌にいふ語。

【翻】 カク、キヤク。虎伯切 陌

飛ぶを疾し、はやし、又、とびさる（獥）。

【䎙】 ラウ、ロウ。郎到切 號

ひろし（寬）。

老部

【老】 ラウ、ロウ。盧皓切 皓 〔說文〕从二人毛匕一、言三須髮變二白也。

㊀おゆ。

(い)久しく壽を保つ、多く齡を重ぬ、としよる。○〔詩〕「與レ子偕—」。○〔詩〕

(ろ)としより衰ふ、おいぼる。「永錫難レ—」。

(は)としよりて致仕す。○〔左〕「桓—公立乃—」。

(に)久しく日を過ごす、多く時を重ぬ。○〔國〕「且楚師—矣」。

(ほ)時日を過ぎ重ねて衰ふ。○〔荀〕「美不レ—」。「—」。

㊁おゆると、おい。○〔史〕「能使二物卻一レ—」

㊂としより。

(い)おいたる人、特に七十歲以上の人にいふ。○〔孟〕「敬レ—慈レ幼」。○

(ろ)德高くよはひ多き人の敬稱。〔周〕「鄕—」。

㊃公卿の長。○〔禮〕「天子之—」。

㊄諸侯の長。○〔詩〕「方叔元—」。

㊅羣吏の長、又、家臣の長。○〔論〕「爲二趙魏—一則優」。

㊆よはひを尙ぶと、としよりを敬すると。○〔孟〕「—二吾老一」。

㊇春秋時代の有名なる楚人李耳の稱、又、其の唱道せし道德の稱。○〔史〕「學本二黃—一」。

〔耋老〕としより。○〔書〕「播二棄—・—一」。
〔國老〕三公のとしよりたるもの。○〔禮〕「有虞氏養二—・—于上庠一」。
〔三老〕前に同じ。○〔禮〕「食二—・—五更于大學一」。
〔庶老〕卿大夫などのとしとりたるもの。○〔禮〕「養二—・—于下庠一」。
〔養老〕としよりたる者をやしなふ。○〔周〕「二曰、—・—」。
〔衰老〕年たけて體力のおとろふると、又、其の者。○〔禮〕「養二—・—一授二几杖一」。
〔羸老〕前に同じ。○〔左〕「余—・—也」。
〔朽老〕前に同じ。○〔南〕「—・—筋力盡」。
〔貴老〕としよりたる者を尙ぶ。○〔禮〕「—レ—爲二其近一於親一也」。
〔耆老〕七八十歲のとしより。○〔王褒〕「聚二主儁二—・—之逸孝」。「—」。
〔宗老〕一家中のとしよりたる者。○〔國〕「饗二—・—一」。
〔家老〕大夫などの家宰をいふ。○〔國〕「且吾子之—・—也」。
〔長老〕(い)としより、又、齡德ともに高き者。○〔宋〕「—・—之談」。
(ろ)佛家にて年たけ德たかき者を稱するに用ふ。○〔禪門規式〕「道高臘長、呼爲二須菩提一、亦曰二—・—一」。
〔郤老〕くこの木の異名にて仙人杖ともいふ。○〔爾〕「杞枸一名二—・—一」。○
〔遺老〕世にいきのこりたるとしより。○〔史〕「問二其—・—一」

〔扶老〕(い)としよりを介抱す。○〔漢〕「此必攜レ幼—レ—、以歸二聖德一」。
(ろ)禿秋と稱する鳥の異名。○〔本〕「禿鶖一名二—・—一」。
〔故老〕むかしの事柄などを知れるとしより。○〔後漢〕「諮二之於—・—一」。
〔舊老〕前に同じ。○〔北〕「諡以二—・—一見レ禮」。
〔宿老〕前に同じ。○〔北〕「州中有德—・—」。
〔古老〕前に同じ。○〔崔融〕「聽二—・—之遺語一」。
〔碩老〕德のおほいなるとしより。○〔晉〕「可レ謂二國之—・—、邦之宗模一」。
〔佚老〕(い)としよりをやすんず。○〔宋〕「宋制設二祠祿之官一、以—レ—優レ賢」。
(ろ)世をのがれかくれたるとしより。○〔王粲〕「江濱—・—」。
〔安老〕前の(い)の解に同じ。○〔陸璣〕「—レ—懷レ少」。
〔野老〕ゐなかのとしより。○〔宋〕「田夫—・—皆號爲二司馬相公一」。
〔垂老〕としの七十歲にちかきと。○〔宋〕「—・—之年、須二身逸鎬一」。
〔愛老〕としよりをいつくしみあはれむ。〔說苑〕「君—レ—而恩無レ不レ逮」。「農」。
〔休老〕としよりをやすんず。○〔禮〕「然後—レ—勞レ農」。
〔老々〕としよりを敬養す。○〔禮〕「上—レ—而民興レ孝」。「孝敬」。
〔耆老〕六七十歲のとしより。○〔漢〕「旅二—・—一復二鄕邑中の年たけたるもの、又、公卿などの致仕して鄕にあるもの。○〔皮日休〕「—・—聞名不二放還一」。
〔請老〕官にあるもの〻としよりて官をやめんとを求むると。○〔左〕「隨武子—レ—」。
〔告老〕前に同じ。○〔左〕「晉韓獻子—レ—」。
〔辭老〕前に同じ。○〔史〕「乃怒—レ—」。
〔謝老〕前に同じ。○〔北〕「元吉謝—・—」。
〔齒老〕としたけたると。○〔史〕「馬則吾馬、—亦—矣」。
〔罷老〕身體つかれとしおゆ。○〔漢〕「學者—・—」。
〔篤老〕いたくとしよりたると。○〔漢〕「上以二其年—・—一許レ之」。
〔賤老〕としよりをいやしむ、又、いやしきとしよりのと。○〔後漢〕「烏桓貴レ少而—レ—」。「—」。
〔侮老〕としよりをさげしむと。○〔後漢〕「畏レ壯—レ—」
〔孔老〕孔子と老子と。○〔後漢〕「觀二覽乎—・—之論一」。

〔鄙老〕いやしきとしよりの意にて老人の謙辭に用ふる語。○〔晉〕「是以—・—思レ獻レ所レ知」。
〔甄老〕としよりてかたちみにくきもの。○〔阮籍〕「夕・暮成二—・—一」。「—・—」。
〔莊老〕莊周と老子と、又、其の道。○〔北〕「善談二—・—一」。
〔釋老〕釋迦と老子と、又、其の道。○〔北〕「善談二—・—一」。「疾癈」。
〔癃老〕おいぼれたると、又、其の者。○〔宋〕「—・—」。
〔堂老〕宰相のたがひに稱呼するに用ふる語。○〔國史補〕「宰相相呼爲二—・—一」。
〔窮老〕貧困なるとしよりたると。○〔杜甫〕「—・—多二疾病一」。
〔單老〕としよりて妻子なきもの。○〔梁武帝〕「凡民有二—・—孤稚不レ能二自存一主」。
〔存老〕としよりをめぐみやすんず。○〔唐明皇〕「恤レ—・—」。「餘二—・—一」。
〔稚老〕幼少の者ととしよりと。○〔張弘靖〕「殺戮」

【考】 カウ、コウ。苦浩切 皓 〔說文〕从二老省一。

㊀長壽を保つ、おゆ、ながいきす。○〔詩〕「周・主壽—」。

㊁なす。

(い)壽を終ふるにいふ字。○〔書〕「—二終命一」。

(ろ)成就す、でかす。○〔詩〕「—レ槃在レ澗」。「—旦兮」。

㊂をはる（終）。○〔楚辭〕「身憔悴而—レ」。

㊃死にたる父の稱。○〔易〕「—無レ咎」。

㊄かんがふ。

(い)問ふ、たづねたゞす。○〔詩〕「—レ卜維王」。

(ろ)校す、たくらべはかる。○〔國〕「—省不レ倦」。「行」。

(は)觀ず、みる。○〔淮〕「—二世俗之行一」。

(に)察す、つまびらかにす。○〔易〕「中以自—」。

(ほ)按す、さりしらぶ。○〔後漢〕「詔遣二覆—一」。「于四岳」。

(へ)正す、さゝのふ。○〔書〕「—制度」。

㊅うつ（擊）。○〔詩〕「弗レ鼓弗レ—」。

㈦瑕釁、きず。○〔淮〕「夏后氏之璜不レ能レ無レ—」。

〔壽考〕生命のながきこと。○〔詩〕「使二君——一」。

〔上考〕官吏などの勤務をくらべはかりたる結果すぐれたる成績をいふ。○〔唐書〕「閲二刺史縣令中——一「格」。

〔祖考〕みまかりたる祖父と父と。○〔書〕「——來」。

〔皇考〕みまかりたる父。○〔禮〕「父曰二——一」。

〔大考〕いたく官吏の能否勤怠を調査す。○〔周〕「三年大比、則—二—州里一」。

〔覆考〕ひとたびしらべたるものを再びしらぶ。○〔後漢〕「詔遣二——一」。

〔案考〕しらぶ。○〔唐〕「參覆——」。

〔掠考〕あら〳〵しく罪をしらぶ。○〔後漢〕「——遠年」。

〔參考〕てらしあはせてかんがふ。○〔魏、誌〕「又—二—能・否一」。

〔検考〕しらぶること。○〔後漢〕「案二相——一」。

〔銓考〕官吏などの才能をしらぶ。○〔宋〕「今不レ由二——一」。

四畫

【[illegible]】シュ、ジュ。常句切　遇

老人の行きてわづかに相逮ぶにいふ字、おひつく。

【耄】バウ、モウ。莫報切　號

㈠老いて心惽く忘るゝにいふ字、おいぼる、おゆ、一説に、七十歳に至るをいふ、一説に、八十歳に至るをいふ、又一説に、九十歳に至るをいふ。○〔書〕「——期倦二于勤一」。

㈡おいぼるゝこと、おいぼれたる人、おいぼれ。○〔禮〕「悼與レ—雖レ有レ罪不レ刑」。

〔老耄〕おいぼる。○〔晉、疏〕「王雖二——一猶能用レ賢」。

〔昏耄〕前に同じ。○〔宋〕「頗——爲レ所レ罔」。

〔衰耄〕前に同じ。○〔宋〕「假以二——一、命還二不鎮一」。

〔耆耄〕としより。○〔雜鑑論〕「耆老異レ撰所下以優二——一而明中養レ老上」。

【者】シャ、セ。止也切　馬

㈠もの。

(い)人。○〔詩〕「見二此粲——一」。

(ろ)事。○〔易〕「小過小——」。

(は)物。○〔詩〕「彼茁—葭」。

㈡ものを差別するにものに就けて用ふる字は。○〔易〕「元—善之長也」。

㈢この、これ(此)。○〔增韻〕「凡稱二此箇一爲二—箇一」。

〔昔者〕すでにすぎたるふるき時をいふ、又、昨日の義。○〔孟〕「日、——」「流」。

〔日者〕(い)曆數家。○〔詩、疏〕「則——卜祝之流」。(ろ)往日といふに同じ。○〔史〕「——荊王兼二有其地一」。

〔長者〕(い)としたけたるもの。○〔禮〕「謀二於——一、必操二几杖一以從レ之」。(ろ)德のたかきもの。○〔史〕「居縣中素信謹、稱爲二——一」。

〔從者〕ともびと。○〔論〕「——病莫二能興一」。

〔隱者〕世の中をのがれかくれたる人。○〔論〕「子曰、——也」。

〔謁者〕官名、四方に使する職なり。○〔漢〕「使二——隨何之九江王布所一」。

〔頃者〕ちかごろ。○〔漢〕「——頗有二變改一」。

〔明者〕智識あきらかなる人。○〔宋〕「——不レ達」。

〔仁者〕德のかくる所なき人。○〔易〕「——見レ之、謂二之仁一」。

〔智者〕心あきらかに識見ある人。○〔戰〕「——覩二未形一」。

〔往者〕すぎさりたるもの。○〔論〕「——不レ可レ諫」。

〔來者〕この後にきたるもの。○〔論〕「——猶可レ追」。

〔介者〕甲冑をつけたる人。○〔禮〕「——不レ拜」。

〔相者〕(い)主人をたすけて禮を行ふ人。○〔禮〕「以擯二——一」。(ろ)人の相貌を觀て善惡吉凶をいふもの。○〔隋〕「高祖密令二善——來和、徧視二諸子一」。

〔秀者〕すぐれたる人。○〔禮〕「大樂正論二造士之——一」。

〔近者〕ちかごろと訓ず、又、遠からざる處にある人。○〔禮〕「——悅服、而遠者懷レ之」。

〔胞者〕肉吏の身分いやしきもの。○〔禮〕「——肉吏之賤者也」。

〔翟者〕音樂を掌る官吏のいやしきもの。○〔禮〕「——樂吏之賤者也」。

〔閽者〕門の開閉を掌る人。○〔禮〕「——守門之賤者也」。

〔門者〕前に同じ。○〔後漢〕「詣二——一」。

〔王者〕德あつく天下の君たるべき人。○〔論〕「如有二——一、必世而後仁」。

〔屠者〕食用に供する畜類をころすを業とする人。○〔戰〕「避二仇隱於——之間一」。

〔豪者〕權勢をむさぼり世にはこる人。○〔史〕「——死レ權」。

〔俠者〕をとこだて。○〔史〕「——以レ武犯レ禁」。

〔儒者〕孔孟の主義を執る學者。○〔史〕「韓非以爲——用レ文亂レ法」。

〔卜者〕龜をやきて吉凶をうらなふもの。○〔史〕「任二於——一」。

〔宦者〕宦官のことにて宮掖の中に仕ふるもの、いづれも宮刑を加へられたるものなりといふ。○〔聞見錄〕「漢・唐——可レ謂レ盛矣」。

〔瞽者〕目のくらき人。○〔莊〕「——無二以與乎文章之觀一」。

〔聾者〕耳のきこえざる人。○〔莊〕「——無二以與乎鐘鼓之聲一」。

〔將命者〕とりつぎの人。○〔論〕「——出レ戶」。

〔肉食者〕富貴の人を稱する語。○〔左〕「——謀レ之」。

〔缺々者〕小智の人。○〔柳宗元〕「是直小丈夫——之事」。

〔菜食者〕まづしき人。○〔梁武帝〕「———張」。

〔好事者〕俗にいふものずきの人。○〔孟〕「——爲レ之也」。

【耆】キ、ギ。渠伊切　支

㈠年長けて、老人となる、としよる、おゆ、又、おいたる人、としより、周禮には六十歳をいふとあり、禮記には八十歳をいふとあり。○〔劉向〕「年—力竭」。

㈡つよし(强)。○〔左〕「不レ懦不レ—」。

〔屠耆〕匈奴にて賢者の稱。○〔史〕「匈奴謂レ賢曰二屠——一」。

〔鬐耆〕馬の脊の刺鬣、うまのせのきず。○〔漢〕「[illegible]」。

〔養耆〕としよりをいたはりやしなふ。○〔先賢行狀〕「——育レ孤」。

【耆】シ。軫視切　紙

いたす、いたる(底)。○〔詩〕「—二定爾功一」。

【耆】シ、ジ。時利切　寘

嗜に同じ、たしむ。○〔禮〕「節二—欲一」。

【耊】

耋に同じ。

【[illegible]】

[illegible]に同じ。

五畫

【[illegible]】タウ、ドウ。大到切　號

七十の老年の稱。

【[illegible]】テン。多忝切　琰

年老いて面に黑點を生ずるにいふ字、おゆ、又、其の面の黑點、しみ。

【耇】コウ、ク。古厚切　有

㈠面に垢の如きしみの生ずる老年となれるにいふ字、長く壽を保つにいふ字、おゆ、いのちながし。○〔詩〕「遐不二黃—一」。

㈡おいたる人、いのちながき者、としより。○〔書〕「咈二其——長一」。

〔耆耇〕老人。○〔蘇軾〕「中興天爲レ生二——一」。

〔遐耇〕としよりになること。○〔韋孟〕「年其—レ—」。

六畫

【耉】

耇に同じ。

【䎱】コン。呼昆切 [元]
おいぼろ、おいぼれ、(耄)。

【耋】テツ、徒結切 デチ。 テツ、他結切 テチ。 [屑]
七八十歳の老人さなる、さしよろ、おゆ、又、七八十歳の老人、さしより。○[詩]「逝者其―」。
(大耋) 八十歳以上のとしより。○[孟郊]「―・―歌ニ聖朝ニ」。
(耆耋) としよりたる者。○[禮]「―・―好レ禮」。
(耄耋) 前に同じ。○[蔡邕]「登ニ耆―・―ニ」。
(羸耋) よわきとしより。○[陸龜蒙]「敗屋羸―・―」。
(稚耋) 幼き者と年たけたる者と。○[宋祁]「存ニ問―・―ニ」。
(孩耋) 前に同じ。○宋祁「―・―相持」。

【耊】耋に同じ。

十一畫

【𦒷】耄に同じ。

而部

【而】ジ、ニ。如之切 [支]
㊀ほゝのわきぼれ、(須)。○[周]「其鱗之―」。
㊁なんぢ、(汝)。○[書]「―康ニ―色ニ」。
㊂ごさし、(如)。○[詩]「垂レ帶―レ厲」。
㊃すなはち、(乃)。○[禮]「―曰然」。
㊄字句に添加する助字。㊀[詩]「俟ニ我於著ニ乎―」。
㊅志かうして、志かして、志かありて。
(い)上を承けて下に續くるさきに用ふる字、かくありて、かくして、して、て。○[論]「學―時習レ之」。
(ろ)上を抑へ下を起こすさきに用ふる字、志かれども、なれども、しても、で。○[左]「王室―既卑矣」。
(は)端緒を換へひらくさきに用ふる字。○[史]「―秦法、羣臣侍ニ殿上ニ者不レ得レ持ニ尺寸之兵ニ」。
㊆に於きて、にありて、にて、て。○[論]「十有五―志ニ于學ニ」。
(慱而) かなしみいたむ貌にいふ語。○[王粲]「胡不ニ―・―ニ」。
(禕而) うるはし。○[東京賦]「侯其―・―」。
(餒而) 飢う。○[左]「不ニ其―・―ニ」。

【而】ダウ、ノウ。奴登切 [蒸]
よく、よくす、(能)。○[易]「宜ニ建レ侯―レ不レ寧」。

【𦓎】カク、コク。古岳切 [覺]
むら、(邑)。

三畫

【耍】サ、セ。沙下切 [禡]
㊀さし、(利)。㊁たはむる、(戲)。

【㚧】ジ、ニ。人之切 [支]
こぶ、(媚)。

【耎】ゼン、テン。而兗切 [銑]
㊀よわし、(弱)、又、やはらか、(柔)。○[戰]「楚之―國」。
㊁端に同じ、うごめく。○[莊]「惴―之蟲」。
㊂退きて進まざるさ。○[史]「其已出三日而復有ニ微入ニ、入ニ三日乃復盛出、是謂レ―」。

【耏】ダイ、ナイ。乃代切 [隊]
其の頰毛を鬀(そ)る、ひげそる、古昔の刑罰の一、髡(かみそる)より輕し。○[漢]「―爲ニ鬼薪ニ」。
(髡耏) かみをそり去るとほゝひげをそりさるとの刑罰。○[姚燧]「罪人―・―」。

【耏】ジ、ニ。如之切 [支]
頰鬚、ほゝひげ。○[後漢]「胃―之類」。
(霜耏) ほゝひげ。○[後漢]「黄色有ニ―・―ニ」。

【耐】ダイ、ナイ。奴代切 [隊]
㊀耏に同じ、ひげそる。○[漢]「―以上請レ之」。
㊁忍び得、こらふ、たふ。○[荀]「能―任レ之」。
(不耐) たへ志のぶをあたはず。○[舊唐]「此謗辜小―レ―欲レ誣レ之也」。
(難耐) 忍びやすからず。○[五]「女人―・―レ」。
(巧耐) よくたふ。○[杜甫]「勝裏金花―・―寒」。

【耐】ドウ、ノウ。奴登切 [蒸]
よく、よくす、(能)。○[禮]「故聖人―以ニ天下ニ爲ニ一家ニ」。

【耑】タン。多官切 [寒]
端に同じ、こぐち、さき、はし。○[周]「摩ニ其―ニ」。

【耑】セン。昌緣切 [先]
馨の穿、あな。

【𦓐】ジ、如之切 [支] クワン。胡官切 [寒]
圜狀のものゝよく旋轉するにいふ字。

四畫

【耎】ダン、ナン。泥短切 [旱]
ちゞむ、(縮)。○[揚雄]「―レ首」。

五畫

【𤆍】ジ、ニ。如之切 [支]
煮熟す、にる。

【㼷】ジ、ニ。人之切 [支]
かはら、(瓦)。

六畫

【䎠】ジ、ニ。人之切 [支]
連繫す、つらなる。

七畫

【𦓚】ドク、ノク。乃谷切 [屋]
憂ふる貌にいふ字。○[王褒]「憤伊鬱而酷―・―」。

八畫

【𦓛】歠に同じ。

十畫

【𦓜】セン。市兗切 [銑]
小卮、こさかづき。

【𦓝】[illegible]に同じ。

耒部

【耒】ライ、盧對切 [隊] ルヰ。魯猥切 レ。魯水切 [紙] 倫追切 [支]
—[說文]从ニ木推ニ丯ッ
手に持ちて耕す曲木の農具、すき、すきのえ、神農氏の創作にかゝれりさ

いふ。○〔易〕「揉レ木爲レ—」。○〔禮〕「躬—レ—」。
〔秉耒〕すきをもつ。○〔晉〕「躬—レ—以奉二社稷宗廟一」。
〔執耒〕前に同じ。
〔操耒〕前に同じ。○〔徐積〕「有レ客能——」。
〔釋耒〕すきをすて、耕作をやむ。○〔史〕「農夫莫レ不下輟レ耕——、釋食甘食、傾レ耳以待上レ命」。
〔輟耒〕前に同じ。○〔南〕「年二十始——」。
〔投耒〕前に同じ。○〔後漢〕「聞二寶至一——而歸」。
〔御耒〕帝王の執るすき。○〔晉〕「設中監造二———於壇南一」。
〔擁耒〕すきをかゝへもつ。○〔南〕「老人——レ—」。
〔抱耒〕前に同じ。○〔陸游〕「——新湖葑」。

【耒乙】レツ、レチ。力輟切 屑
禾麥の多少を知る、はかる。

二畫

【耓】テイ、チヤウ。湯丁切 青
耒の下の木。

【耒力】ライ、レ。盧對切 隊 魯猥切 賄
縣の名。

三畫

【耔】シ。祖里切 紙 津之切 支
苗の本を培養す、つちかふ。○〔詩〕「今適二南畝一、或耘或—」。

【耜】耜に同じ。

【耒乞】キツ、コチ。袪乙切 質
平かに量る、はかる。

【耕】カウ、キヤウ。古庚切 庚
たがへす、たがやす。
(い)穀菜を植うるの準備に田の土をほり反す、すく。○〔山海經〕「始作二牛——一」。
(ろ)農作に力む。○〔禮〕「三年——必有二一年之食一」。
(は)力を致して怠らざるにいふ字。○〔揚雄〕「——レ道得レ道」。
(に)農作以外の事によりて衣食するにもいふ字。○〔晉〕「既筆——爲レ食」。
〔躬耕〕おのれみづから田をたがへす。○〔陶潛〕「既——」。
〔耦耕〕二人の者相ならびてたがへす。○〔陶潛〕「依々在二——一」。○〔易、釋〕。
〔深耕〕つちをふかくほりたがへす。○〔孟〕「——」。
〔傭耕〕傭人にやとはれて耕作す。○〔史〕「嘗與レ人——」。
〔輟耕〕田をたがへすとをやむ。「——」。
〔歸耕〕郷里にかへりて農事に從事す。○〔應璩〕「昔伊尹」。○〔漢〕「不レ如二——一」。
〔精耕〕精密にたがやさず。○〔荀〕「——傷稼」。
〔牛耕〕うしの力を用ひてたがへす。○〔杜甫〕「二寸荒田——得レ—」。
〔筆耕〕文字をうつす。○〔任昉〕「王僧孺既——爲レ養」。
〔墾耕〕たがへす。○〔詩、疏〕「以爲下隰美之大田可二——一者也」。
〔時耕〕立春ののちを耕す。○〔國〕「及寒擊レ草除レ田、以待二——一」「耰耨」。
〔疾耕〕とくたがへす。○〔漢〕「男子——不レ足二於—」。
〔力耕〕ほねをりてたがへす。○〔韓愈〕「土膺事二——一」。
〔屯耕〕兵士の守備のかたはらたがへす。○〔元〕「令二木宜——以食一」。
〔耨耕〕くさぎりたがへす。○〔荀〕「積二——一而爲二農夫一」。

【耖】サウ、セウ。初教切 效
㊀重ねて耕す、たがへす。㊁まぐは(耙)。

【耗】カウ、コウ。虛到切 號
㊀稻の屬。○〔呂氏春秋〕「南海之—」。㊁へる、へす(減)。○〔莊〕「未二嘗敢以—レ氣也」。㊂つひゆ、つひやす(費)。○〔素問〕「以二——散其眞一」「—之神」。㊃やぶる(敗)。㊄むなし(虛)。○〔禮〕「視二年之豐—一」。○〔抱朴〕「月建二無—一」。㊅うすし(薄)。○〔大戴記〕「——土之人醜」。㊆悪しきと、つひえ。○〔董仲舒〕「察二天下之息—一」。
〔息耗〕みつるとへると。○〔漢〕「故候二——一者」。
〔盈耗〕前に同じ。○〔唐〕「以卜二歲——一」。
〔半耗〕半分へる。○〔宋〕「戶版——」。

【耗】バウ、モウ。莫報切 號
多きに過ぎ亂れて明かならず、みだる。○〔通鑑〕「各修二其職一、不レ事二官職一、——亂者丞相以聞」。

【耗】バウ、メウ。謨交切 肴
盡きて一物も存せざるにいふ字、つくなし。○〔漢〕「靡レ有二子遺——一矣」。

【耘】ウン。于分切 文 王問切 問
㊀田間の穢草を取り除く、くさぎる。○〔詩〕「今適二南畝一、或—或耔」。㊁穢を除き去る、のぞく。○〔史〕「不レ戰而—」。
〔鉏耘〕除き去る。○〔漢〕「——豪強一」。
〔決耘〕草をのぞき去る。○〔管〕「民有二以——一」。
〔耕耘〕たがへしくさぎる。○〔宋濂〕「——之夫最可二矜憐一」。
〔強耘〕つとめてくさぎると。○〔淮〕「暑以——」。

【耙】ハ、ヘ。必駕切 禡
田をからすきにて耕したる後更に土こゞりをこなしならす農具、まぐは、高さ三尺横四尺ばかり上の兩端に柄あり下に齒ありて牛馬に牽かせて用ふ。○〔農政全書〕「制有二方—一有二八字——一」。

五畫

【耒平】ジヨウ。昌蠅切 蒸
すきのえ(耒)。

【耒皮】ヒ。篇夷切 支
㊀たがへす(耕)。㊁小しく高し。

【耛】チ、ヂ。澄之切 支
草を取り除く、くさぎる。

【耛】耛に同じ、すきのえのはし。

【耜】シ、ジ。詳里切 紙
耒の頭にある木又は金、すき。○〔詩〕「以二我覃—一俶載二南畝一」。
〔良耜〕あしからざるすき。○〔詩〕「畟々——」。
〔耒耜〕すき。○〔禮〕「修二——一具二田器一」。
〔懸耜〕たかきところにかけたるすき。○〔國〕「民無二——一」。
〔耨耜〕すきくはなどの農具。○〔南〕「——之具、頗有二存者一」。
〔持耜〕すきをもつ。○〔唐〕「執レ耒—レ—以二高品一」。
〔鑄耜〕すきをいものにて作る。○〔易林〕「銷レ鋒——」。

【耒以】耜に同じ。

【耝】ショ、ソ。七慮切 御
耕して土起こる。

【耝】ショ、ソ。牀魚切 魚
鉏に同じ。

【耞】カ、ケ。居牙切 [麻]
連―は、穀を打つ具、からざを。

【耟】キョ、ゴ。其擧切 [語]
すきのは、(耜)。○[管]「―二耒・耨一懷二銚・鉊一」。

六畫

【桂】ケイ、ケ。涓畦切 [齊]
すき。

【耚】ワ、エ。烏媧切 [麻]
たがへす、(耕)。

【耠】カフ、コフ。侯閤切 [合]
たがへす、(耕)。

【絟】セン、ゼン。才緣切 [先]
たがへす、(耕)。

【絡】カク、キャク。各領切 [陌]
たがへす、(耕)。

七畫

【耡】ショ、ゾ。牀倨切 [御] 牀魚切 [魚]
㊀井田の八區を受けたる八家の者の共に力をあはせて中央にある公田を耕作し其の收穫をもて公租さなすを。○[周]「掌レ聚二野之―・粟屋・粟閒・粟一」。
㊁里宰の治處、ちゆくばのやくしよ、又、ふだのつじ、市明亭。○[周]「以二歲時一合二耦于―一以治二稼・穡一」。
㊂人民相助くるを。○[周]「興レ―利レ甿」。

【耥】キョク、コク。衢六切 [屋]
㊀たがへす、(耕)。㊁麥を耕す地。

【耖】サウ、セウ。所敎切 [效] 師交切 [肴]
うゝ、(種)。

八畫

【耘】
耘に同じ。

【𦓾】ハイ、ヘ。普卦切 [卦]
うゝ、(種)。

【棪】エン。以冉切 [琰]
㊀さきすき、(利・耜)。㊁たがへす、(耕)。

【棶】ライ、郎才切 [灰]
たがへす、(耕)。

【棓】ハウ、ホウ。部項切 [講]
耜の屬、すき。

【椿】ホウ、ソ。蒲侯切 [尤]
たがへす、(耕)。

【椁】サウ、シャウ。側耕切 [庚]
犂の上の木、すきのえ。

【楊】エキ、ヤク。夷益切 [陌]
たがへす、(耕)。

【棆】リン、縷尹切 [軫]
束ねたる禾。

【棆】リン。龍春切 [眞]
たがへす、(耕)。

【耛】エフ、オフ。切 又業 [葉] アン、オン。切 鄔感 [感]
うゝ、(種)。

【棍】コン。古本切 [阮]
うゝ、(種)。

【椔】シ。莊持切 [支]
㊀たがへす、(耕)。
㊁開墾して一歲を經たる田、あらた。

【椄】非。邕危切 [支]
田をたがへす器。

【棞】リン。力準切 キン、ゴン。巨隕切 [軫]
禾の束、たば。

【椵】トク、ノク。奴勒切 [職]
㊀穀をうつ具、からざを。
㊁棫―は、草の生ずる貌にいふ語。

【耤】セキ、ジャク。秦昔切 [陌]
㊀民力を借りて帝王親ら田を耕すを、又、其の親ら耕す田、一說に、民力を借る義にあらず蹈みちく義なり。○[漢]「開二―田一」。
㊁かる、かす、(借)。○[漢]「以レ軀―レ友報レ仇」。

【楮】シャ、ゼ。慈夜切 [禡]
耤に同じ、ちきもの。

九畫

【椶】サウ、ソウ。初江切 [江] 楚降切 [絳]
耕さずして種う、うゝ。

【椶】ソウ、ス。祖叢切 [東]
うゝ、(種)、一說に、其の中に内る。

【耺】エイ、ヤウ。於京切 [庚]
草ちげる。

【楕】セイ、シャウ。所景切 [庚]
むぎ、(麥)。

【楔】トツ、ドチ。陁沒切 [月]
たがへす、(耕)。

【耦】ゴウ、グ。語口切 [有]
㊀耜にて二たび地を伐つを、又、其の伐ちたる廣さ(古昔は耜の廣さ五寸の定めなりしより一尺の廣さなりさいふ)。○[詩]「千・千維―」。
㊁たぐひ。
(い)並び立つ兩者、相對する双方、あひて。○[左]「射者三・―」。○[李尤]「戲・謔爲レ―」。
(ろ)同類、ともがら、くみ。
(は)配合者、つれあひ、めをと。○[左]「各有二妃―一」。
㊂あふ。
(い)並び立つ、相對す、むきあふ、ならぶ。○[漢]「―語者棄・市」。
(ろ)同類となる、くみあふ。○[淮]「邪・人參―」。
(は)配合す、つれあふ。○[左]「吾聞姬・姞―、其子孫必蕃」。
(に)かなふ、(諧)。○[漢]「留・落不―」。
㊃不畸の數、てうのかず、てう。○[易]「陽・卦奇、陰・卦―」。
㊄さほる、さほす、(通)。○[淮]「覽二―百・變一」。
(嘉耦)よき配偶。○[王績]「老・萊藉二―・―一」。

〔飛耦〕ねはくの二人づつの組合。〇〔詩〕「旣比二—一」。
〔敵耦〕たぐひならぶ。〇〔禮〕「毋二敢—・ニ—于家・婦一」。
〔妃耦〕配偶、つれあひ。〇〔左〕「各有二—一—」。

【⿰耒畐】ヒヨク、ビキ。符逼切 [職] ㊀いね（禾）。㊁黍を盛ろ、豆を治む。

十畫

【⿰耒茸】ジヨウ、ニユ。而勇切 [腫] 草しげる。

【⿰耒耆】キ、ギ。渠伊切 [支] 麥の種子をおろす、たれまく。

【⿰耒尃】フ、ホ。符遇切 [遇] 田をたがへす器。

【⿰耒叟】叟に同じ。

【⿰耒盍】耠に同じ。

【耨】ドウ、ヌ。乃豆切 [宥] ㊀鎒に同じ、田を鉏き草を除くに用ふる農具、くは。〇〔呂氏春秋〕「—柄尺」。㊁くはを使用して田を鉏き草を除く、すく、くさぎる。〇〔周〕「耕二—王藉一、以レ時入レ之」。

【耨】ジヨク、ノク。奴沃切 [沃] 前條の㊁に同じ。

【耩】カウ、コウ。古項切 [講] ㊀たがへす（耕）。㊁くさぎる（穮）。

【⿰耒員】耘の本字。

十一畫

【⿰耒离】リ。良脂切 [支] 種子をまく、たれまく。

【⿰耒商】テイ、タイ。他計切 [霽] 耕さずして種う、うゝ。

【⿰耒啇】テキ、チヤク。他的切 [錫] 種う。

【⿰耒𦰩】カン。呼肝切 [翰] 冬耕す、又、耕して田を暴す。

【⿰耒責】サツ、ゼチ。査鎋切 [黠] 農具。

【⿰耒責】サク、シヤク。士革切 [陌] 灰の中に種子をまく。

【⿰耒曼】バン、マン。莫半切 [翰] 種子をまかざる田。

【⿰耒曼】バン、マン。謨官切 [寒] 種子をまく。

【耬】ロウ、ル。郎侯切 [尤] 種子をまく具、其の形三足の犂の如し、中に漏斗を置き種子を入れて牛に牽かせ人此の具を取りて行きつつゆるがして種子をおろす、たれまきぐるま。

【耬】ロウ、ル。郞口切 [有] 畦を耕へす。

十二畫

【⿰耒童】タウ、ドウ。傳江切 [江] 種子をまく。

【⿰耒幾】キ、ケ。居希切 [微] たがへす（耕）。

【⿰耒異】ヨク、イキ。逸織切 [職] たがへす（耕）。

【耮】ラウ、ロウ。郞到切 [號] 田をならす器。

【⿰耒斯】サク、ザク。在各切 [藥] セキ、ジヤク。秦昔切 [陌] ㊀地の名。㊁人の名。

【⿰耒啻】テイ、タイ。他計切 [霽] 耕さずして種子をまく。

【⿰耒禽】リ。良脂切 [支] 種子をまく。

【⿰耒莽】ハイ、ヘ。蒲卦切 [卦] 種子をまく。

十三畫

【⿰耒睪】セキ、シヤク。施隻切 [錫] エキ、ヤク。羊益切 [陌] たがへす（耕）。

【⿰耒會】クワイ、ケ。骨外切 [泰] たがやす具。

十四畫

【⿰耒蒦】クワク、ワク。黃郭切 [藥] 穀を刈る、いねかる。

十五畫

【⿰耒麃】穮に同じ、くさぎる。

【⿰耒罷】ヒ。班靡切 [支] 耜の屬、すき。

【耰】イウ、ウ。於尤切 [尤] ㊀種子を覆ふ。〇〔論〕「—而不レ輟」。㊁すき（鋤）、又、塊をうつ椎。〇〔淮〕「民勞而利薄、後世爲二之耒耜—鋤一」。

十八畫

【⿰耒巽】シヨク、シキ。昌力切 [職] たがへす（耕）。

【⿰耒瞿】ク、グ。權俱切 チユ。椿俱切 [虞] すき（耜）。

十九畫

【⿰耒靡】バ、マ。莫个切 [箇] たがへす（耕）。

耳部

【耳】ジ、ニ。忍止切 [紙] ㊀みゝ。（い）顏の左右にあり孔ありて聽くことを主る官。〇〔戰〕「堅塞二兩—一、無レ聽二其談一」。（ろ）凡て人のみゝの如き形したるもの。〇〔史〕「有レ雉登二鼎—一」。

(は)聽くこと。○〔漢〕「辨・口快レー、其實未レ可レ從」。

㊁其の物事に決し止まるの意を表すにいふ字、ばかり、のみ。○〔史〕「與二父-老一約二法三-章一ー」。

㊂字句に添へ加ふる助字。○〔論〕「女得レ人焉ー乎」。

㊃至りて盛んなるにいふ字、一說に、柔く從ふにいふ字。○〔詩〕「六-轡ーー」。

㊄曾孫の孫、ひまごのまご、一說に、玄孫の孫、やしやごのまご。○〔漢〕「內-外公-孫ー-孫」。

〔李耳〕 虎の異名。○〔方言〕「江淮南・楚之閒謂二之ー「ーー」。

〔卷耳〕 苓耳の異名。○〔詩〕「采二々ーー一」。

〔充耳〕 みゝを飾ふかざり。○〔詩〕「ーー琇瑩」。

〔塞耳〕 前に同じ、又、みゝをふさぐ。○〔王建〕「徃-人ーレー馬不レ行」。

〔截耳〕 みゝをきる。○〔南〕「乃ーレー置二盤-中一」。

〔傾耳〕 注意してきく。○〔禮〕「ーレー而聽レ之」。

〔瑲耳〕 玉のさかづき。○〔左〕「賂以二瑤-甕玉-櫝ーーー」。

〔掩耳〕 手をもてみゝをおほふこと、又、聞くを欲せざることにいふ語。○〔韓愈〕「言語纔及輒ーレー」。

〔盈耳〕 みゝによくいる。○〔論〕「洋-々-乎ーレー哉」。

〔聳耳〕 みゝのちからをそたつ。○〔史〕「鏞・鼓・管・絃所二以ーレー也」。

〔附耳〕 みゝもとにちかづく、又、星の名。○〔漢〕「囚「ーレー語」。

〔側耳〕 みゝをたてゝきかんことを求む。○〔史〕「呂・后ーニー于東廂-聽」。

〔鼠耳〕 みゝを洗ふ。○〔後漢〕「或ーレー而山-棲」。

〔駭耳〕 みゝをおどろかす。○〔後漢〕「雷-霆ーレー」。

〔逆耳〕 いさめごとなどこゝちよくきかれざること。○〔舊唐〕「犯レ顏ーレー」。

〔忤耳〕 前に同じ。○〔韓〕「至-言ー二于ー一」。

〔俗耳〕 俗人のみゝ。○〔白居易〕「嗟-々ー-人-ー」。

〔秀耳〕 すぐれたるみゝ。○〔舊唐〕「龍-肩ーーー」。

〔桑耳〕 くはの木に生ずるきのこ。○〔本草〕「ーーー一名二桑蛾一」。

〔槐耳〕 槐の木に生ずるきのこ。○〔本草〕「ーー槐-樹-上菌也」。

〔執牛耳〕 同盟者の主人公たること。○〔左〕「諸レーーー」。

〔大聲不入里耳〕 正しき音樂は俗人にわからぬこと、深遠なる道理は愚者にわからぬこと。○〔莊〕「ーーーレー于ーー、折・揚皇・荂則嗑然笑」。

【耳】 ジヨウ、如蒸切 蒸 子ヨウ。切 仍拯 徑

己れより數へて八葉の孫、卽ち玄孫の曾孫、やしやごのひまご、一說に、玄孫の子、やしやごのこ。○〔漢〕「ーー孫」。

一畫

【𦔮】 ギツ、ゴチ。逆乙切 質

聲ーーは、魚鳥の狀にいふ語、一說に、衆くの聲にいふ語。○〔左〕「魚-鳥聲-ー」。

【耴】 テフ。陟涉切 葉

耳垂る、たれる。

二畫

【耷】 須、需、胥に通じ用ふ、まつ。○〔戰〕「臣爲レ王之レ楚、ー二臣之友一而行」。

【耵】 テイ、都挺切 梗 チヤウ。湯丁切 青

ー聹は、みゝあか、（耳-垢）。

三畫

【耶】 ヤ、エ。以遮切 麻

㊀字句に添へ加ふる助字。○〔莊〕「人大喜ー毗二於陽一、人大怒ー毗二於陰一」。

㊁疑ひ問ふときに用ふる字、か、や。○〔漢〕「神-人尙背ー不ー」。

㊂父の稱。○〔古詩〕「衆-々有二ー名一」。

〔莫耶〕 古昔の名劒。○〔荀〕「ーー長-刄利-鋒」。

〔圩耶〕 低き田地。○〔史〕「ーー滿-車」。

【耶】 邪に同じ、よこしま。○〔荀〕「ーー枉僻-同失二道-途一」。

【聎】 エウ。伊堯切 蕭

耳鳴る。

【耾】 コウ、ク。古紅切 東

鬼を聞く。

【耷】 タフ、トフ。德盍切 合

大いなる耳。

【耿】 ダイ、チ。女央切 卦

睉ーーは、目の惡しきこと。

四畫

【眲】 ゲツ、グワチ。魚厥切 月

グワツ、ゲチ。五刮切 黠

耳を墮とす、みゝをきる。

【聳】 聳の本字。

【耴】 セフ。悉協切 葉 デフ、日涉切 子フ。切

ヨウ、乳勇切 腫 ニユ。切

つかふ（使）。

【聆】 キン、渠金切 侵 ゴン。切 ケン、其淹切 鹽 ゴン。切

おさ（音）。

【耺】 ウン。王分切 文

耳の中の聲あるにいふ字、みゝなる。

○〔揚雄〕「琴-瑟不レ鏗、鍾-鼓不レー、吾則無三以見二聖-人一」。

【耺】 ヨウ。筠氷切 蒸

ー聎は、こゑ（聲）。

【耻】 俗の恥の字。○〔晉〕「ー二衒-耀取レ逵」。

【聑】 古文の聽の字。

【聃】 タン、他甘切 バン、謨甘切 覃 トン。切 モン。切

耳ひろくして輪なし。

【耼】 フ、ブ。馮無切 虞

希望す、こひねがふ。

【耹】 瑱に同じ。

【耽】 タン、トン。丁含切 覃

㊀耳大いに垂る、たる。○〔淮〕「夸-父ーー耳在二其北-方一」。

㊁度を過ごして樂む、たのしむ、すさむ、ふける。○〔詩〕「于-嗟女兮無二與レ士ーー一」。

㊂虎の視るにいふ字、視るに威あるにいふ字、遠き志を持して近きものを視るにいふ字。○〔易〕「虎-視ーーー」。

㊃深邃の貌にいふ字、おくふかし。○〔張衡〕「大-廈ーーー」。

〔深耽〕 いたくたのしみふける。○〔北〕「梁武-帝ーニ釋-學一」。

〔苦耽〕 苦蔵といふ草の名。○〔嘉祐本草〕「ーーー生二故-墟垣-塹閒一」。

〔樂耽〕 たのしみ、又、たのしむ。○〔馮衍〕「務二富-貴之ーーー一」。

〔玩耽〕 もてあそびたのしむ。○〔陳琳〕「謹-韜-櫝ーーー以爲二吟-誦一」。

〔久耽〕永くふける。○〔韓維〕「——二田野樂一」。〔沈耽〕すさみふける。○〔雲笈七籤〕「以致二——之惑一」。

【耽】タン、トン。都感切 感
虎ノ視るにいふ字。

【耽】タン、ドン。徒感切 感
徐ヶに視る。

【耾】クワウ、ギヤウ。乎盲切 庚
㊀つんぼ(聾)。㊁耳語す、さゝやく。㊂耳の中に聲あるにいふ字、みゝなり。㊃大いなる聲にいふ字、雷の聲にいふ字。○〔揚雄〕「非レ雷非レ霆、隱-々——」。

【耿】カウ、キヤウ。古幸切 梗
㊀耳の頰に著くにいふ字、たる、つく。㊁心に存して忘るゝ能はざる貌にいふ字、心の安んぜざるにいふ字、つゝしみいましむるにいふ字。○〔詩〕「——不レ寐」。㊂固く節操を守るさ。○〔馮衍〕「獨——介而慕レ古兮」。㊃ひかり(光)。○〔書〕「以覲二文-王之——光一」。㊄あきらか(炤)。○〔國〕「其光二——於民一」。
〔雄耿〕つよくおほいなり。○〔北〕「意-烈性——」。〔炯耿〕前に同じ。○〔韓愈〕「——凌二宇宙一」。〔憂耿〕うれふ。○〔梁武帝〕「省レ疏增二其——一」。〔光耿〕ひかり。○〔柳貫〕「幅-背出二——一」。

【耿】ケイ、ギヤウ。倶永切 梗
前條の㊃に同じ。

【耿】ケイ、キヤウ。古熒切 青
明白、あきらか。

【⿰耳切】セイ、サイ。七計切 霽
耳聽し、みゝさし。

五畫

【⿰耳甘】聃に同じ。

【耼】俗の聃の字。

【聄】シン。止忍切 軫
㊀つぐ(告)。㊁きく(聽)。

【⿰耳氐】聄に同じ。

【⿰耳必】ヒ。兵媚切 寘　ビツ、ミチ。莫筆切 質
はづ(恥)。○〔揚雄〕「秦、晉之閒言二心內慙一矣、趙魏之閒謂二之——一」。

【聅】テツ、テチ。敕列切 屑　タン、ダン。徒干切 寒　エツ、エチ。羊列切 屑
矢を以て耳を貫くさ、軍法の刑。○〔司馬法〕「小-罪——、中-罪刖、大-罪剄」。

【聆】レイ、リヤウ。離呈切 青
㊀きく。(い)耳に聲を取る。○〔漢〕「姚——レ呱而刻レ石兮」。(ろ)したがふ(從)。○〔法苑珠林〕「邪-業易レ——」。㊁曉解す、さとる。○〔淮〕「所レ居——」。
〔靜聆〕心をしづかにきく。○〔梁肅〕「——法音一」。〔側聆〕ひそかにきく。○〔宋祁〕「——恩册一」。〔俯聆〕うつぶしてきゝとる。○〔劉基〕「——鴻鵰吟一」。

【⿰耳正】セイ、シヤウ。諸盈切 庚
ゆく(行)。

【⿰耳占】テン、トン。丁兼切 鹽　テフ。丁愜切 葉
小しく垂れたる耳。

【⿰耳幼】イウ、ユ。于糾切 有
しづか(幽-靜)。○〔唐山夫人安世房中歌〕「淸-思——、經-緯冥-々」。

【聉】グワツ、ゲチ。五滑切　タツ、テチ。丁滑切 黠　ギツ、ゴチ。魚乙切 質
無知の意、おろか。

【聉】タイ、テ。吐猥切 賄
——顡は、癡癩なる貌にいふ語、おろか。

【聊】レウ。憐蕭切 蕭
㊀耳鳴る。○〔楚辭〕「耳——啾而儻-慌」。㊁字句に添へ加ふる助字。○〔詩〕「椒-——之實」。㊂苟且に、かりそめに、ちよつさ、しばらく、いさゝか。○〔晉〕「——復爾耳」。㊃たのむ、やすんず(賴)。○〔漢〕「使三天-下父-子不二相——一」。㊄たのしむ(樂)。○〔楚辭〕「心煩-憒兮意無レ——」。㊅恐懼の貌にいふ字。○〔枚乘〕「——兮慄兮」。㊆——浪は、放曠なる貌にいふ語、ほしいまゝ。○〔左思〕「相與——二浪乎昧-莫之坰一」。
〔無聊〕さびし。○〔陳後主〕「四-酌情——」。

【聊】リウ、ル。力求切 尤
㊀前條の㊀に同じ。㊁騮に同じ。○〔漢〕「華——綠-耳之乘」。

【聊】レウ。力弔切 嘯
木の名。

【聓】セイ、サイ。思計切 霽
壻に同じ、むこ。○〔博物志〕「粲非二女-——オ一乃妻レ凱」。

【⿰耳申】ジ、ニ。仍吏切 寘
牲を供へて神に告ぐ、まうす。○〔山海經〕「祈——用レ魚」。

【⿱敄耳】ボウ、ム。蒙遘切 宥
かふ(易)。

六畫

【⿰耳共】コウ、ク。呼公切 東
耳に聲あり、みゝなる。

【聎】テウ。他彫切 蕭　タウ、トウ。他刀切 豪
耳の疾、一說に、耳鳴る。

【聏】ヂク、ノク。女六切 屋
はづ(慙)。

【聏】ジ、ニ。仍吏切 寘　入之切 支
やはらぐ(和)。○〔莊〕「以レ——合-驩」。

【聐】ガツ、ゲチ。牛轄切 黠
——顡は、聞く所無し、くらし、おろか。

【聑】テフ。的協切 葉
㊀やすし、やすんず(安)。○〔馬融〕「舐-

巴—レ杜、磬-襄弛レ懸」。㊁愚弄す、侮りて無知となす、あなどる。○〔揚雄〕「揚越之郊、凡人相侮以爲二無-知一謂二之—一」。㊂耳の垂るゝ貌にいふ字。

【聑】タク、チヤク。陟革切 陌

耳の竪つ貌にいふ字。

【聒】クワツ、クヮチ。古活切 曷

㊀無知なる貌にいふ字、くらし、おろか。○〔書〕「今汝——」。㊁語多し、聲擾れて煩はし、かしまし、かまびすし。○〔左〕「—而與レ之語」。

〔強聒〕かまびすし。○〔韓國寶〕「强聒——江城晩」。

〔喧聒〕前に同じ。○〔南〕「卽便——」。

〔噪聒〕前に同じ。○〔劉基〕「——亂二語・談一」。

〔淸聒〕きよらかなる聲のかしましきこと。○〔歐陽雜俎〕「負レ金者聲——」。

〔吠聒〕雜聲のかまびすしきにいふ語。○〔長笛賦〕「——二共前・後一者」。

〔驚聒〕おどろきてかまびすしく聲をたつ。○〔梅堯臣〕「——若レ遊レ戲」。

〔叫聒〕かまびすしくさけぶ。○〔李白〕「驚・猿相——」。

〔惡聒〕わるやかましきこと。○〔王安石〕「吾兒亦——」。

【𦕶】シュ、朱戍切、フ。芳遇切 遇

ス。

㊀志ろし（白）。㊁みなもと（源）。㊂こゑ（聲）。㊃よぶ（呼）。

七畫

【䎚】聊に同じ。

【聐】ゴ、グ。五故切 遇

きく（聽）。

【聕】カウ、ゴウ。胡老切 皓

㊀みゝ（耳）。㊁きく（聞）。

【𦕏】セイ。征例切 霽

きく（聞）。

【𦕧】コウ、グ。胡孔切 董

耳の中鳴る。

【聖】セイ、シヤウ。式正切 敬

㊀通ぜざる所なきこと、知德最もすぐれたること。○〔易〕「——人作而萬-物覩」。㊁通ぜざる所なき人、知德最もすぐれたる者。○〔禮〕「以繼二先——之後一」。㊂天子の敬稱にいふ字。○〔魏〕「——駕淸レ道」。㊃其の道に傑出の人。○〔枹朴〕「有二棊——之名一」。

〔明聖〕知德すぐれあきらかなること、又、其の者。○〔漢〕「陛下發二——之德一」。

〔叡聖〕前に同じ。○〔後漢〕「加レ之以二——一」。

〔英聖〕前に同じ。○〔宋明帝皇業頌〕「祚・福啓二——一」。

〔神聖〕神妙なる靈德あること、又、其の者。○〔漢〕「五・帝——」。

〔玄聖〕極めてすぐれたるひじり。○〔後漢〕「——御レ世」。

〔元聖〕前に同じ。○〔晉〕「聿求二——一」。

〔書聖〕書學に達したる者。○〔抱朴〕「衞・協張・墨號二——一」。

〔易聖〕周易の學に精通したる者。○〔唐〕「大・經邃二於易一、人謂二之——一」。

〔亞聖〕ひじりにつぐべき賢人。○〔張載〕「孟・子顏淵——也」。

〔孔聖〕孔丘のこと、又、いたくすぐれて萬事に通じたること。○〔詩〕「皇・父——」。

〔至聖〕極めて知德のすぐれたること、又、其の者。○〔禮〕「唯天下——」。

〔大聖〕前に同じ。○〔後漢〕「孔・子——」。

〔賢聖〕かしこくすぐれたること、又、其の者。○〔孟〕「——之君、六・七作」。

〔晉聖〕ひじりを尙ぶ、又、缺點なくすぐれたる德を尙ぶ。○〔史〕「何以——」。

〔仁聖〕仁德のすぐれたるひじり、又、其の德。○〔漢〕「考二——之風一」。

〔哲聖〕前に同じ。○〔蔡邕〕「翼二我——一」。「——一」。

〔勳聖〕功勞高きひじり。○〔晉〕「以二姬・旦之——一」。

〔忠聖〕忠誠の厚きひじり。○〔晉〕「古・來君・子皆謂二周・公——一」。

〔聰聖〕すぐれてさときこと、又、其の者。○〔北〕「文・明太・后以二帝——一後或不レ利二馮・氏一」。

〔慧聖〕前に同じ。○〔淮〕「——而好レ治」。

〔眞聖〕まことのひじり。○〔新語〕「雖二——一不二敢自安一」。

〔前聖〕先聖といふに同じ、むかしのひじりをいふ。○〔東都賦〕「——麗レ得レ言焉」。

〔往聖〕前に同じ。○〔陳基〕「——既莫レ作」。

〔佐聖〕ひじりをたすく、又、聖德ある帝王を助く。○〔阮籍〕「—レ—扶レ命」。

〔祐聖〕前に同じ。○〔成公綏〕「翼レ仁—レ—」。

〔凡聖〕つねなみの者とひじりと。○〔陶弘景〕「若—若—」。

【𦕈】耾に同じ。

【䎕】レフ。力協切 葉

㊀耳垂る、たる。㊁かみづつみ（幘）。

【聘】ヘイ、ヒヤウ。匹正切 敬

㊀安否を訪問す、うかゞふ、とむらふ、さふ、おとづる。○〔詩〕「靡レ使二歸——一」。㊁納徵（ゆひなふ）を致して娶る、めさる。○〔禮〕「——則爲レ妻」。㊂幣帛を具へて賢者を徵す、めす。○〔孟〕「湯使三人以レ幣——レ之」。

〔朝聘〕君王の宮庭にいりて君にまみえ起居を訪ふこと。○〔左〕「且レ聽二——之數一」。

〔贄聘〕贄帛もて賢者などをめす。○〔孟〕「湯使二人以レ——一之」。

〔類聘〕大夫の多人數にて朝聘すると小人數にて朝聘すると。○〔周〕「皆二・采一・就以——」。

〔盛聘〕さかんなる訪問の禮。○〔左、註〕「今脩二——以無レ忘二舊・好一」。

〔徵聘〕君主より在野の賢者などを召しいたす。○〔左〕「王・使來——」。

〔辟聘〕前に同じ。○〔陸龜蒙〕「——無レ所レ就」。

〔報聘〕訪問をうけたる返禮をなす。○〔左〕「劉康・公來——」。

〔重聘〕てあつき贄聘をもて召す。○〔後漢〕「或——而不レ來」。

〔使聘〕つかひもて訪問す。○〔後漢〕「——流通」。

〔禮聘〕禮儀をあつくして賢者などを召しいたす。○〔南〕「後屢加二——一」。

【𦖞】古文の聞の字。○〔虞世南〕「怡・然動レ色似レ—二簫・韶之響一」。

【聦】聰に同じ。

【𦕓】聊の本字。

【𦕺】シン。書刃切 震

儵——は、疾き貌にいふ語。○〔王延壽〕「儵儵——而奄赴」。

【聐】聒の本字。

八畫

【𦖍】セイ。征例切 霽

きく（聞）、又、意に入る、

【聙】セイ、シヤウ。子盈切 庚

ささく聽く、きく。

【䎨】エン。於檢切 琰

みゝ、(耳)。

【聰】 バウ、マウ。文兩切 〔養〕

耳さとし。

【聚】 シュ、ズ。慈庾切 〔麌〕

㊀あつまる。
(い)集會す、よりあふ、つどふ。○〔漢〕「五星｜二于東井一」。
(ろ)歸湊す、おもむく、むく。○〔管〕「發二於衆心之所一レ｜」。「｜也」。
(は)斂まる、積もる。○〔左〕「敬德之｜」。
(に)一つとなる。○〔易〕「方以レ類｜」。
(ほ)具はる。○〔周〕「六材已｜」。
㊁あつまらしむ、あはす、むかす、斂む、積む、一となす、具ふ、あつむ(㊀の條參照)。○〔易〕「學以｜レ之」。
㊂あつまりたる貨物、あつまりたる人民、もろ〳〵。○〔國〕「守二天｜一者」。
㊃人民のあつまり居る所、むら、邑落。○〔史〕「成レ｜」。

(總聚) すべあつむ。○〔易、疏〕「總謂二｜｜一」。
(積聚) あつめたる穀物などをいふ、又、あつむ。○〔春秋繁露〕「天道｜二｜一衆精以爲レ光」。
(萃聚) あつむ、又、あつまる。○〔易〕「｜｜而升不レ來也」。
(合聚) 前に同じ。○〔禮〕「歲十二月｜二｜萬物一」。
(集聚) 前に同じ。○〔左、疏〕「治民尙二其｜｜一」。
(鳩聚) 前に同じ。○〔北〕「唯｜二｜遺逸一」。
(歛聚) 民よりとりあげあつむ。○〔書、疏〕「輯二是｜｜一」。
(畜聚) 財寶などをたくはへつむ。○〔漢〕「然俗奢侈、不下以二｜｜一爲上レ意」。
(貯聚) 前に同じ。○〔魏、誌〕「無レ有二｜｜一」。
(生聚) 民をそだて財物をあつむ。○〔左〕「越十年｜｜」。
(會聚) よりあつまる。○〔公羊〕「古者諸侯必有二｜｜之事、相朝聘之道一」。
(博聚) てびろくあつむ。○〔漢〕「以｜二｜英儁一」。
(捜聚) さぐりもとめてあつむ。○〔隋〕「頗更｜｜」。
(宴聚) 酒宴を開きて人々あつまる。○〔舊唐〕「良辰｜｜」。
(霧聚) きりの如く多くあつまる。○〔舊唐〕「雲合｜｜」。
(環聚) まるくあつまる。○〔宋〕「｜｜而泣」。
(叢聚) むらがりあつまる。○〔竹書紀年〕「慶雲｜｜」。
(陵聚) をかの如く多くあつまる。○〔羽獵賦〕「丘累｜｜」。
(雲聚) くもの如くおほくあつまる。○〔王融〕「玉帛｜｜」。
(烟聚) けむりの如くむらがりあつまる。○〔王融〕「魚用｜｜」。
(離聚) はなれわかるゝとあつまりあふと。○〔劉孝威〕「浮芥｜還｜」。
(譟聚) かまびすしくさわぎあつまる。○〔唐〕「｜｜犯レ關」。
(雜聚) まざりあつまる。○〔載表元〕「叢市｜｜」。

【聘】 ヒ。補弭切 〔紙〕

耳をかたむく。

【⿰耳奇】 キ。去奇切 〔支〕

前條に同じ。

【⿰耳空】 テイ、タイ。都禮切 〔薺〕

耳の膿を患ふるにいふ字、みゝだれ。

【聜】 タ。丁果切 〔箇〕

㊀耳垂る、たる。㊁耳さとし。

【⿰耳周】 シウ、シュ。之酉切 〔宥〕

㊀耳。㊁あきらか、(明)。

【聞】 ブン、モン。無分切 〔文〕

㊀きく。
(い)聲を耳に取る、きゝとる。○〔詩〕「我｜二其聲一」。
(ろ)言を耳に受く、事を心に記す。○〔列〕「吾側｜レ之、試以告レ汝」。
(は)知る。○〔國〕「我未レ｜者」。
(に)嗅ぐ。○〔魏文帝書〕「五里｜レ香」。
(ほ)教ふるを受く。○〔禮〕「願レ｜下所三以行二三言一之道上」。
㊁きかしむ、きゝに達す、つぐ、をしふ、まうす、きかす。○〔禮〕「弗二敢以｜一」。
㊂きゝたる物事、卽ち、言說、談論、うはさ、はなし、きゝづたへ。○〔蘇軾〕「奇｜異觀」。

(寡聞) もろ〳〵の學說などをおほくきゝ知らざること。○〔禮〕「獨學而無レ友、則孤陋而｜｜」。
(博聞) ひろくもろ〳〵の說などをきゝたること。○〔禮〕「｜｜强識」。
(淺聞) 前に同じ。○〔史〕「小吏｜｜」。
(多聞) 前に同じ。○〔荀〕「｜｜曰博」。
(贍聞) 前に同じ。○〔郭璞〕「英儁｜｜之士」。
(方聞) 道そなはり博く事をきゝたる。○〔漢〕「詳延二天下｜｜之士一」。
(近聞) ちかごろきゝたる。○〔漢〕「｜｜以二特進一領二城門兵一」。
(聽聞) きく。○〔書〕「俾予之德言足二｜｜一」。
(薦聞) かみにきこえあぐ。○〔左〕「敢不二｜｜一」。
(傳聞) ひとづてにきく。○〔公羊〕「所二｜｜一異レ辭」。
(異聞) めづらしくかはりたる說をきく。○〔論〕「子亦有二｜｜一乎」。
(舊聞) むかしよりのきゝつたへ。○〔宋〕「考二｜｜於前史一」。
(百聞) おほくもろ〳〵の說をきく。○〔漢〕「｜｜不レ如二一見一」。
(千聞) 前に同じ。○〔南〕「｜｜不レ如二一見一」。
(習聞) ちらりときく。○〔後漢〕「耳所二｜｜一」。
(具聞) つぶさにきく。○〔晉〕「想所二｜｜一也」。
(驛聞) うまつぎをもて上奏す。○〔韓愈〕「大者｜｜」。
(臥聞) ふしながらきく。○〔馬戴〕「山鐘可二｜｜一」。
(風聞) うはさ。○〔唐〕「托以二｜｜一」。

【聞】 ブン、モン。亡運切 〔問〕

㊀きこゆ。
(い)言聲達す、こゑとゞく、ことばとゞく。○〔詩〕「聲｜二于天一」。
(ろ)知れ傳はる。○〔呂氏春秋〕「謀未レ發而｜二於國一」。
㊁達名、きこえ、ほまれ。○〔詩〕「令｜令望」。

(嘉聞) よきほまれ。○〔左〕「生有二｜｜一」。
(仁聞) 仁德あるほまれ。○〔孟〕「今有二仁心｜｜一」。
(流聞) 廣くつたはりきこゆ。○〔南〕「｜二｜河朔一」。
(升聞) かみにきこゆ。○〔書〕「玄德｜｜」。
(明聞) あらはれきこゆ。○〔國〕「以｜二｜於天下一」。
(特聞) ひとりきこゆ。○〔莊〕「而彭祖乃今以レ久｜｜」。

【⿰耳彔】 ロク。力木切 〔屋〕

｜｜聽は、蟲の名、蜥蜴に似たり、樹上に居り下りて人を嚙む。

【聝】 クワク、キヤク。古獲切 〔陌〕

耳を斷つ、みゝきる。○〔左〕「以爲二俘｜一」。

【⿰耳昏】

古文の聞の字。

【⿰耳晉】 セイ、シヤウ。書盈切 〔庚〕

形無くして響く、きく。

【聟】

俗の壻の字、むこ。○〔王羲之女聟帖〕「取レ卿爲二女｜一」。

【聠】 ヘイ、ヒヤウ。匹名切 〔庚〕

耳閉づ。

【聦】

聰に同じ。

【⿰耳卸】 シヤ、セ。司夜切 〔禡〕

きく、（聞）。

九畫

【聹】ジ、ニ。仍吏切 [寘] 音をきゝて敢て言はず。

【(耳秋)】シウ、シュ。自秋切 [尤] 耳鳴る。

【(耳星)】セイ、シヤウ。桑經切 [青] さとし、（聰）。

【聤】テイ、チヤウ。唐丁切 [青] 耳より惡水を出だす疾病、みゝだれ。

【(殸耳)】グワイ、ゲ。五怪切 [卦] 聵に同じ、つんぼ。

【(耳頁)】タイ。他外切 [泰] クワツ、ゲチ。五刮切 [黠] おろか、（癡）。

【聥】ク、グ。倶雨切 ウ。王矩切 [麌] ク、グ。勾于切 [虞] ウ。王遇切 [遇] ㊀おどろく、（驚）。㊁耳を張りて聞く所あるにいふ字、きく。

【(耳匽)】アン、エン。烏雁切 [諫] 耳の戲れ、たのしみ。

【聦】俗の聰の字、

【聧】ケイ。傾圭切 [齊] クワイ、ケ。枯回切 [灰]

㊁耳の相聽こえざるを、つんぼ、みゝしひ。○〔揚雄〕「聾之甚者秦、晉之閒謂ニ之ーー」。㊂私かに呼く、なげく。

【(刺耳)】シ。七賜切 [寘] 聽くの當たらざるを、きゝちがへ。

【(耶耳)】レフ。盧協切 [葉] 耳垂る、たれる。

【(耳夋)】ソウ、ス。蘇后切 [宥] さとし、（聰）。

【(耳刺)】(刺耳)に同じ。

【(耳盈)】ビ、ミ。民卑切 [支] 面を汗す、つらよごす。

十畫

【(耳骨)】コツ、グチ。戸骨切 [月] 耳の聲にいふ字。

【(熒耳)】エイ、ヤウ。維傾切 [庚] こえ、（聲）。

【(耳宰)】サイ、セ。子亥切 [賄] つんぼ、（聾）、又、牛聾。

【(耳叟)】(耳夋)に同じ。

【(耳冥)】ベン、メン。莫賢切 [先] ビン、ミン。弭盡切 [軫] 注意して聽く、きく。

【(耳冥)】ベイ、ミヤウ。忙經切 [青] 行きて上に聽く。

【(耳翁)】チウ、ウ。烏孔切 [董] 耳の聲にいふ字。

【(耳兼)】レン、ロン。勒兼切 [鹽] ーー聒は、耳垂る、たる。

【(耳荅)】タフ、トフ。德合切 [合] 大に垂るゝ耳の貌にいふ字。

【(耳眞)】テン、デン。亭年切 [先] 聲耳に盈つ、みつ。

【(眞耳)】(耳眞)に同じ。

【(耳恧)】ヂク、ノク。奴陸切 [屋] はづ、（恥）。

【(耳鬼)】媿に同じ、はづ。

十一畫

【聯】レン。陵延切 [先] ㊀絶えず、つゞく、つながる、つらなる。○〔張衡〕「繽ーー翩兮紛暗・曖」。㊁つゞけ合はす、つらぬ、あはす。○〔周〕「三日、ーニ兄・弟一」。㊂連絡、つゞき、つらなり。○〔周〕「三日、官ーー」。㊃周時代の編戸の一區。○〔周〕「五・家爲レ比、十・家爲レー」。㊄周時代の人別の一區。○〔周〕「五・人爲レ伍、十・八爲レー」。㊅周時代の邑里の一區。○〔周〕「四・閭爲レ族、八・閭爲レー」。

〔接聯〕つゞきつらなる。○〔姚合〕「科名歲ーーー」。

〔聯聯〕つらなる貌にいふ語。○〔韓愈〕「明・珠何ーー」。

〔星聯〕ほしの如くに多くつらなる。○〔舊唐〕「彫・矩ーー」。

〔鉤聯〕まがりつらなる。○〔司馬法〕「ーーー蟠・曲」。

〔頷聯〕律詩の第三第四の兩句。〔頸聯〕律詩の第五第六の兩句 ○〔滄浪詩話〕「有ニーー一有ニ「ーー」。

〔綴聯〕つゞきつらなる。○〔南都賦〕「或岩・嶙而ーー」。

〔屬聯〕前に同じ。○〔韓愈〕「五・色光ーー」。

【聰】ソウ、ス。倉紅切 [東] 聞くを敏捷なり、知るを察かなり、才智明かなり、みゝさとし、あきらか、かしこし、さとし。○〔書〕「ー爲レ謀」。

〔掩聰〕みゝのとからざるやうに耳を蔽ふ。○〔家語〕「所ニ以ーー一也」。

〔塞聰〕前に同じ。○〔劉向〕「所ニ以ーー一」。

〔明聰〕目のあきらかなると耳のさときと、又、轉じて、智慮のすぐれたるをあらはすにいふ語。○〔宋之明〕「遠負ニーー一」。

〔宸聰〕叡聰といふに同じ、帝王の耳。○〔徐元弼〕「猶是滿ニーー一」。

【(耳豦)】ガイ、ゲ。五介切 [卦] みゝしひ、つんぼ。

【(耳商)】タク、チヤク。陟革切 [陌] 耳の竪つ貌にいふ字。

【(耳窒)】チツ。陟栗切 [質] 聽くをさとからず。

【(耳窒)】タツ、タチ。都括切 [曷] つんぼ。

【(耳室)】テイ、タイ。典禮切 [薺] ㊀前に同じ。㊁耳の病。

【(耳鄕)】クワク。古霍切 [藥]

おほみゝ（大耳）。

【聱】ガウ、ゲウ。牛交切 [肴]
㊀人の語を聽き入れざるにいふ字。〇〔唐〕「白蠖ニ——叟ニ」。㊁言辭の平易ならざるにいふ字。〇〔韓愈〕「周誥殷盤詰屈——牙」。㊂衆多の聲あるにいふ字。〇〔左思〕「魚鳥——耳」。

【聱】ガウ、ゴウ。牛刀切 [豪]
前條の㊀に同じ。

【聱】ガウ、ゴウ。魚到切 [號]
——耳は、魚鳥の状にいふ語。

【⿰耳鹿】ロク。盧谷切 [屋]
耳鳴る。

【⿰耳祭】セイ、サイ。七計切 [霽]　サツ、セチ。初戛切 [黠]　セツ、セチ。千結切 [屑]
さとし（聰）。

【⿰耳巣】サウ、セウ。莊交切 [肴]
㊀耳の中に聲あるにいふ字、みゝなる。㊁聲耳を擾す、みだす。

【⿸麻耳】ビ、ミ。母彼切 [支]
乘輿の金馬耳、かざり。

【⿰耳曹】セウ、ゼウ。慈焦切 [蕭]　サウ、ゾウ。財勞切 [豪]
耳の中に聲あり、耳鳴る。

【⿰耳翏】レウ、ロウ。落蕭切 [蕭]　ラウ、ロウ。魯刀切 [豪]
耳鳴る。

【聲】セイ、シヤウ。書盈切 [庚]
㊀こゑ。
（い）物相軋り鳴りて耳に聞こゆるもの、ひゞき、おと、ね。〇〔禮〕「雷始收レ—」。
（ろ）特に、音に對し單純にして曲折なきひゞきの稱。〇〔詩、序〕「情發ニ於—ニ、—成レ文、謂ニ之音ニ」。
（は）咽喉より發するひゞき。〇〔儀〕「—三」。
（に）言語、ことば。〇〔鬼谷子〕「心無レ形、求レ有レ—」。
㊁字の末尾のひゞきによりて漢字を大別したる稱、即ち、平上去入の四つをなす。〇〔唐〕「知レ變ニ四—ニ」。
㊂音樂、おんがく。〇〔禮〕「仲夏月止ニ—色ニ」。
㊃音曲、ふし。〇〔史〕「善歌爲レ變ニ新—ニ」。
㊄なしへ（教）。〇〔左〕「樹ニ之風—ニ」。
㊅な（名）。〇〔呂氏春秋〕「臣聞ニ其—ニ」。
㊆ほまれ（譽）。〇〔淮〕「—施ニ千里ニ」。
㊇いきほひ（勢）。〇〔戰〕「—ニ威天下ニ」。
㊈のぶ（宣）、又、鳴る。〇〔孟〕「金—而玉振レ之也」。

〔五聲〕宮商角徵羽の五つのこゑ。〇〔禮〕「然後正ニ六律、和ニ——ニ」。
〔正聲〕たゞしきこゑ、又、聲調をたゞしくす。〇〔禮〕「——感レ人」。
〔柔聲〕こゑをやはらぐ。〇〔禮〕「—レ—以諫」。
〔發聲〕こゑをいだす、又、いだすこゑ。〇〔劉向〕「——清哀」。
〔鐘聲〕つりがねの音。〇〔左〕「猶レ聞ニ——ニ」。
〔陽聲〕陽氣に屬するこゑ。〇〔唐〕「雷者——也」。
〔頌聲〕功德をほむるこゑ。〇〔公羊〕「什一行而——作矣」。
〔鄭聲〕鄭國の音にして正しからざるもの。〇〔論〕「放ニ——ニ遠ニ佞人ニ」。

〔惡聲〕よろしからざるうはさ、又、わるきこゑ。〇〔孟〕「——至必反レ之」。
〔聽聲〕こゑをきく。〇〔白居易〕「時々—レ—」。
〔履聲〕くつおと。〇〔漢〕「我識ニ鄭尚書——ニ」。
〔家聲〕家のほまれ。〇〔漢〕「隤ニ其——ニ」。
〔英聲〕すぐれたるほまれ。〇〔景福殿賦〕「後世賴ニ其——ニ」。
〔軍聲〕兵馬のひゞき。〇〔唐〕「以亂ニ——ニ」。
〔鳥聲〕とりのこゑ。〇〔盧照鄰〕「山窓聽ニ——ニ」。
〔揚聲〕こゑをはりあぐ、又、ほまれをあぐ。〇〔孔融〕「天下談士依以—レ—」。「—ニ」。
〔笑聲〕わらひごゑ。〇〔晉唐〕「遥隔ニ彩雲ニ聞ニ——ニ」。
〔審聲〕こゑをあきらかにたりきはむ。〇〔禮〕「—レ—以知レ音」。
〔逸聲〕すぐれたる音曲など。〇〔國〕「耳不レ樂ニ——ニ」。「——ニ」。
〔政聲〕善きまつりごとのほまれ。〇〔後漢〕「甚有ニ——ニ」。
〔考聲〕こゑをえらぶ。〇〔後漢〕「吹以—レ—」。
〔延聲〕ほまれを布く。〇〔宋〕「不レ爲レ俗以—レ—」。
〔奇聲〕めづらしきこゑ。〇〔南〕「此兒有ニ——ニ」。
〔異聲〕前に同じ、又、ほまれ。〇〔世說〕「取用果有ニ——ニ」。
〔抗聲〕こゑをはりあぐ。〇〔魏〕「幼廉——」。
〔文聲〕文章のたくみなるほまれ。〇〔宋〕「嵩以ニ——起」。「儒」。
〔善聲〕よきこゑ。〇〔鹽鐵論〕「——而不レ知レ」
〔珮聲〕おびだまのおと。〇〔西征賦〕「想ニ——之遺響ニ」。
〔爆聲〕物の火にやけて發するおと。〇〔搜神記〕「禁豈聞ニ其——日」。「—ニ」。
〔屐聲〕あしだのおと。〇〔陸游〕「墻外泥乾無ニ——ニ」。
〔殊聲〕ことなりたるこゑ、又、こゑをことにす。〇〔文心雕龍〕「—レ—而合レ響」。
〔清聲〕きよらかなるこゑ。〇〔揚雄〕「聽ニ素女之——ニ」。
〔俊聲〕すぐれたるほまれ。〇〔彦周〕「讀書有ニ——ニ」。
〔洪聲〕おほいなるほまれ、又、おほいなるこゑ。〇〔枚乘〕「——遠布」。
〔德聲〕よきとくのあるほまれ。〇〔曹植〕「不レ能レ歌ニ——ニ」。
〔衆聲〕もろもろのこゑ。〇〔郭璞〕「千籟——」。
〔惠聲〕めぐみふかきほまれ。〇〔韋承慶〕「——遂ニ于遠近ニ」。
〔喜聲〕よろこびのこゑ。〇〔姚合〕「今朝足ニ——ニ」。「—ニ」。
〔吟聲〕詩をうたふこゑ。〇〔溫庭筠〕「——撥ニ舜」。
〔澗聲〕たにかはのおと。〇〔溫庭筠〕「喧餘有ニ——ニ」。
〔後聲〕前に同じ。〇〔張耒〕「喧々虛枕納ニ——ニ」。

【聳】ショウ、シュ。息拱切 [腫]　サウ、ソウ。雙講切 [講]
㊀つんぼ。〇〔揚雄〕「—聾也、生而聾、陳、楚、江、淮之閒謂ニ之—ニ」。
㊁高く立つ、そびゆ、たかし。〇〔韓愈〕「詩思猶孤——」。
㊂すゝむ（奬）。〇〔國〕「—レ善而抑レ惡」。
㊃つゝしむ（敬）。〇〔國〕「能—ニ其德ニ」。
㊄おそる（悚）。〇〔左〕「莫レ不ニ—懼ニ」。

〔孤聳〕たぐひなくひとりたかし。〇〔西征記〕「峯行——」。
〔特聳〕前に同じ。〇〔水經、註〕「孤峯——」。
〔修聳〕たけながくたかし。〇〔梁元帝〕「對ニ喬木之——ニ」。
〔慴聳〕おそる。〇〔吳、誌〕「莫レ不ニ——ニ」。
〔直聳〕すぐにしてたけたかし。〇〔南方草木狀〕「——三四十丈」。
〔森聳〕樹木などのむらがりたけりてたけ高きこと。〇〔水經、註〕「——可レ愛」。
〔斗聳〕匪嶺などのけはしくそびえたること。〇〔水經、註〕「——相亂」。
〔高聳〕かたくそびゆ。〇〔水經、註〕「白標甚——」。
〔秀聳〕すぐれてたかし。〇〔宣和畫譜〕「崢嶸姮風儀——」。
〔堅聳〕かたくたかし。〇〔癸辛雜識〕「兩峯——」。
〔青聳〕あをあをとたかし。〇〔韓偓〕「山岳遥——」。
〔碧聳〕前に同じ。〇〔釋齊己〕「——新生竹」。

【⿰耳票】ヘウ。匹妙切 [嘯]

【⿰耳習】セフ。實涉切 [葉]
㊀わづかに聞く。㊁行きて聽く。

みゝ(耳)。

十二畫

【⿰耳悳】 トク。惕得切 職
⿰耳悳ーは、目の臥れんと欲する貌にいふ語。

【聵】 クワイ、ゲ。五怪切 卦
生まれながらの聾、つんぼ。○[國]「聾ー不レ可レ使レ聽」。

【⿰耳焦】 聵に同じ。

【⿰耳覃】 タン、ドン。徒含切 覃
かまびすし(聒)。

【⿰耳善】 セン。旨善切 銑
耳の門、みゝのこぐち。

【聶】 デフ、ヂフ。尼輒切 葉
㊀他の耳に附きて小語す、さゝやく。○[史]「乃效ニ女-兒一呫ーー耳-語一」。
㊁さゝのふ(攝)。○[管]「十-二-歲而ーレ廣」。
㊂とる(取)、又、もつ(持)。○[山海經]「聶-耳之國在ニ無-腸-國東一、爲レ人兩-手ーニ其耳一」。

【聶】 ゼフ、ヂフ。日涉切 葉
前條の㊀に同じ。

【聶】 テフ、デフ。直涉切 葉
牒に同じ、肉を薄く切る、ほそびく。○[禮]「牛與ニ羊魚之腥ーー而切レ之爲レ膾」。

【聶】 エフ。弋涉切 葉
攝に同じ、動く貌にいふ字。

【聶】 セフ。質涉切 葉
㊀あふ(合)。○[爾]「守-宮-槐、葉晝ー
㊁欇に同じ。　　　　　　　　　　「宵炕」。
㊂木の葉の動く貌にいふ字。

【⿰耳黑】 コツ、グチ。戸骨切 月
㊀耳くろし。㊁耳の聲、みゝなり。
㊂あか(濁-垢)。

【⿱敝耳】 ヘツ、ヘチ。匹蔑切 屑
暫らく聞く、ちらときく。

【職】 シヨク、シキ。質力切 職
㊀微を記す、しるす。○[徐鉉]「國有ニ六ーー皆主レ記ニ事之微一」。
㊁主掌す、つかさどる、つかさどる。○[國]「非ニ子ー一之其誰乎」。
㊂つとめ。
(い)官務、つかさ、やくめ。○[書]「六-卿分レー」。
(ろ)常にとり守るべき任務、せめ。○[孟]「共ニ爲レ子ー一而已矣」。
㊃官秩、くらゐ。○[漢]「不レ著ニ右ーー一」。
㊄定業、しごと。○[周]「閒-民無ニ常-ー一」。
㊅貢賦、みつぎ。○[淮]「四-夷納レー」。
㊆主として、おもに、もッぱら。○[詩]「ー爲ニ亂-階一」。「ー」。
㊇多き貌にいふ字。○[莊]「萬-物ーー有レ闕」。○[詩]「ーー

(褒職) 政事の樞機にあづかるつかさ。○[詩]「ーー
(敬職) つかさどるわざをつゝしみて怠惰過失なきやうにす。○[忠經]「天-下ーレー」。
(內職) 宮廷れくわきの職務。○[禮]「后聽ニーーー」。
(官職) かみのつかさ。○[周]「二日ニーーー」。
(宗職) 祖先の職務。○[左]「而使レ嗣ニーーー」。

(述職) 諸侯の帝王に朝して職務をのぶること。○[孟]「諸-侯朝ニ于天-子一曰ニーーー」。
(常職) つねに定まりたるわざ。○[孟]「皆有ニーー「共ーー」。
(守職) かたく職務をまもる。○[管]「下之人ーー」
(典職) 職務を掌ること。○[史]「ーレー數-十-年」。
(稱職) 人の才能のつかさにかなふこと。○[漢]「吏ー其ーー」。
(越職) おのれのつかさどる職務外の事にまでたちいる。○[劉向]「又恐レーレー」。
(雄職) すぐれたるつかさ。○[後漢]「不レ可レ假以ニーーー」。
(劇職) はげしき職務。○[南]「每ニ朝-見一猶-請ニーーー自效一」。
(女職) 婦人の官司。○[北]「置ニーー以典ニ內-「司一」。
(曠職) 官職あるも其の事務のみがら安して職務をむなしくすること。○[韓愈]「亦不レ敢ーニ其ーー」。
(重職) かろからざる職務。○[王獻之]「中-書ーーー」。
(職職) おほき貌にいふ語。○[莊]「萬-物ーーー」。
(廢職) 職務を怠りて行はず、又、すたれたるつかさ。○[書]「義-和ーニ厥ー一」。
(后職) 皇后のくらゐ。○[詩、疏]「堪レ居ニーー一」。
(昇職) つかさどることの同じからざるをいふ。○[詩、箋]「故外-內ーレー」。
(殊職) 前に同じ。○[莊]「五-官ーレー」。「ーー」。
(貢職) みつぎ。○[莊]「ーー不レ美」。
(修職) つかさどるわざをとゝのふ。○[周]「各ーニ乃ーー」。
(忘職) みつぎをいるゝことをわする、又、つかさどる職務をわする。○[左]「豈敢ーレー」。
(遵職) つかさにしたがふ。○[漢]「人-臣奉レ法ーレー而已」。「ー」。
(任職) 職司にあたる。○[史]「而不ニ肯仕レ官ーレ」。
(武職) 軍事を司る官。○[馬融]「不レ吏ニーーー」。
(軍職) 前に同じ。○[宋]「久任ニーーー」。
(營職) 職務をはげむ。○[漢]「務ニ一-心ーーレー」。
(吏職) 官吏の職務。○[後漢]「常-慷-慨不レ樂ニーーー」。「ーー」。
(貴職) たふとき官。○[後漢]「前-插-貂-尾一爲ニーーー」。
(兼職) 本官のほかになほかねて官職をおぶ。○[梁]「ーー如レ故」。
(就職) 官職につく。○[宋]「出乃ーレー」。
(課職) 課官。○[晉]「共掌ニーーー」。

(去職) 官をやむること。○[宋、「稱レ疾ーレー」。
(蒞職) 職務におかふこと。○[宋]「ーレー勤-恪」。
(宮職) 宮內の官職。○[晉]「宜レ爲ニーーー」。
(法職) 法律をつかさどる官職。○[齊]「使レ處ニーーー「爲ニーーー」。
(藩職) 諸侯のもとに屬する官職。○[李公緒]「驅レ
(辭職) 役をことわりやむ。○[梁]「因ーレー」。
(乘職) くらゐたかゝらざる官。○[陳]「止ニ晶宰之ーーー」。
(暇職) 前に同じ。○[稽康]「那居ニーーー」。
(免職) 官職を去らしむること。○[南]「敬-容ーレー」。
(史職) 歷史編修の官。○[文心雕龍]「ーーー爲レ盛」。「ー無ニ拘-束一」。
(散職) 定まりたる職務なき官のこと。○[白居易]「ー
(憐職) いつくしみあふこと。○[方言]「ーーー愛也、言相愛-憐者、吳越之間、謂ニ之ーーー」。

【職】 トク。敵德切 屋
くひ(杙)。

【職】 樴に同じ。○[史]「百-官執レー」。

【⿰耳荅】 タフ、トフ。得合切 合
みゝ(耳)。

【⿰耳毳】 ジヨウ、ニユ。而龍切 腫
毛のかざり。

【聯】 レン。閭員切 先
つなぐ(係)。

十三畫

【⿰耳農】 ダウ、ノウ。女江切 江
耳の中鳴る、みゝなる。○[淮]「聽レ雷者ー」。

【⿰耳當】 タウ。都郎切 陽

耳下がり垂る、たる。

【[耳喿]】セウ。子小切 篠 耳鳴る。

【聸】タン、トン。都甘切 覃 たれみゝ。

【[耳嗇]】ショク、ソク。子測切 職 新穀の汁に舊穀を漬すこと。

十四畫

【聹】デイ、ニヤウ。奴丁切 青 乃挺切 迥 耵ーは、耳の垢、みゝあか、一説に、耳かまびすし。

【聺】セツ、セチ。千結切 屑 ここし(聰)。

【聻】ヂ、ニ。乃里切 紙 ㊀物を指す、ゆびさす。㊁助字。

【[耳適]】セキ、シヤク。子役切 陌 おに(鬼)。

【[耳㬎]】シフ。失入切 緝 耳の動く貌にも又牛馬の耳をうごかす貌にもいふ字。

十五畫

【[耳廣]】クワク。古博切 藥 耳ひろし、ひろし。

十六畫

【[耳歷]】レキ、リヤク。郎敵切 錫 審かに聞く。

【聽】テイ、チヤウ。他定切 徑 きく。(い)審かに聞く。○〔書〕「ーレ德惟聰」。(ろ)まつ(待)。○〔禮〕「不レーレ事」。(は)うく(受)。○〔左〕「鄭伯如レ晉ーレ成」。「也」。(に)したがふ(從)。○〔易〕「未二退ーー」。(ほ)さだむ(斷)。○〔周〕「以ーニ獄訟一」。「不レー」。(へ)をさむ(治)。○〔國〕「不レ可二以不レー乎」。(と)あきらかにす(察)。○〔國〕「丑何(ち)うかゞふ(候)。○〔戰〕「請爲レ王ー二東方之處一」。(り)まかす(任)、ゆるす(可)。○〔漢〕「民欲レ處二寬大之地一者ーレ之」。

〔天聽〕上帝のきくこと、又、帝王のきくことにもいふ。○〔書〕「ーー自二我民一聽」。
〔視聽〕みるときくと。○〔莊〕「無レー無レー」。
〔觀聽〕前に同じ。○〔後漢〕「皆可二ーー一」。
〔道聽〕路上にてきく。○〔論〕「ーー而塗說」。
〔同聽〕おなじくともにきく。○〔孟〕「耳之於レ聲也、有二ーー一焉」。
〔兼聽〕いくつもかねきくこと。○〔漢〕「廣覽ーー」。
〔重聽〕ひとたびきゝたるとをかさねきく。○〔漢〕「正類ーー何傷」。
〔妄聽〕みだりにきゝとる。○〔晉〕「耳不二ーー一」。
〔周聽〕あまねくきゝとる。○〔管〕「ーー一遠近一以續レ明」。
〔聰聽〕さとくきく。○〔張說〕「敏誠ーー」。
〔斂聽〕つゝしみてきく。○〔蔡邕〕「恒不二ーー一」。
〔殊聽〕前に同じ。○〔唐〕「帝ーー」「入」。
〔過聽〕あやまりきく。○〔韓詩外傳〕「ーーー殺」。
〔服聽〕したがふ。○〔戰〕「天下ーー」。
〔竊聽〕ひそかにきゝとる。○〔史〕「然左右多二ーー者一」。
〔潛聽〕前に同じ。○〔韓愈〕「屏息ーー」。
〔玩聽〕なぐさみにきく。○〔漢〕「ー二ー音樂一」。
〔聖聽〕帝王のみゝにいる。○〔晉〕「朝之得失必關二ーー一」。
〔衆聽〕多くの音のきくこと。○〔後漢〕「至音不レ合二ーー一」。
〔臥聽〕いねてきく。○〔周〕「ー而ーレ之」。
〔博聽〕ひろくきく。○〔新語〕「靜思而ーー」。
〔細聽〕こまかにきく。○〔唐道潛〕「石底ーー紅泉落」。
〔靜聽〕しづかにきく。○〔劉伶〕「ーー不レ聞二雷霆之聲一」。
〔諦聽〕あきらかにきく。○〔金剛經〕「汝今ーー」。

【聽】テイ、チヤウ。他丁切 青 ㊀耳に聲を取る、きく。○〔杜甫〕「哀怨不レ堪レー」。㊁廳に同じ、まんどころ、やくしよ。○〔集韻〕「中庭曰二ーー事一」。

【聾】ロウ、ル。盧東切 東 ㊀聞く能力を缺きたるを、耳くらきを、みゝしひ、つんぼ、又、其の不具者。○〔禮〕「瘖ー跛躃」。㊁くらし(闇)。○〔左〕「鄭昭宋ー」。

〔恣聾〕其狀羊の如くにして首黑く鼠亦きけものゝ名。○〔山海經〕「符禺之山其獸多二ーー一」。
〔耳聾〕みゝきこゆるなし。○〔戰〕「舌敝ー耳」。
〔半聾〕なかばみゝしふ。○〔杜甫〕「右臂偏枯耳ーー」。
〔瘖聾〕口語る能はず耳聞く能はざるもの。○〔史〕「不レ如二ーー之指麾一」。
〔盲聾〕目見る能はざると耳きく能はざると、又、其の者。○〔易林〕「耳目ーー」。

【[耳龍]】聾に同じ。

十七畫

【[耳闑]】グワツ、ゲチ。五滑切 黠 グワイ、ゲ。五怪切 卦 つんぼ。○〔揚雄〕「聾之甚者、秦晉之閒謂二之ーー一」。

聿部

【聿】イツ、イチ。允律切 質 ㊀ふで(筆)。○〔說文〕「楚謂二之ー一、吳謂二之不律一」。㊁つひに(遂)。○〔書〕「ー求二元聖一與レ之戮レ力」。㊂これ、こゝに(惟)。○〔詩〕「歲ー其莫」。㊃のぶ(述)、又、したがふ(循)。○〔詩〕「無レ念二爾祖一、ー二修厥德一」。㊄みづから(自)。○〔詩〕「爰及二姜女一ー來胥レ宇」。

【肀】デフ、ヂフ。女涉切 葉 たけ(竹)。

二畫

【[聿丿]】セン。子仙切 先 ㊀こゝろざし(志)。㊁すゝむ(進)。

三畫

【[聿彡]】シン。將鄰切 眞 聿にて飾る、かざる、又、俗語に、書の好きにいふ字。

四畫

【肁】テウ、デウ。直紹切 篠 ㊀はかる(謀)。㊁はじむ(始)。㊂ひらく(開)。

【肂】シ。息利切 イ。羊至切 寘 棺を埋むる坎、あな。○〔儀〕「掘レー見レ衽」。

五畫

【畫】俗の畫の字、ゑがく。

七畫

【肄】イ。羊至切 寘

❶ならはす、ならふ、(習)。○[左]「臣以爲二肄一レ業及レ之」

❷いたはる、ほねをる、(勞)。○[詩]「正-大夫離-居、莫レ知二我肄一」。

❸わかきえだ、(嫩-條)、又、ひこばえ、(枿)。○[詩]「伐二其條肄一」。

❹あまり、(餘)。○[禮、註]「肄餘也」。

〔習肄〕ならふ。○[史]「乃令二羣-臣肄一レ肄」。

〔存肄〕うしなはざるやうに保ちならふ。○[漢]「常肄肄之」。

〔都肄〕武備などをこゝろみならはす。○[漢]「光出二都肄郎羽林一」。

〔素肄〕もとよりならふ。○[潘岳]「兵不二素肄一」。

〔教肄〕教習といふに同じ。○[頭陀寺碑]「肄肄南移」。

【肅】シュク、ソク。息六切 屋

❶戒めて慢らざるにいふ字、うやくしつゝしむ。○[書]「恭爲レ肅」。

❷つゝしみてうやくしく事ふ、うやまふ。○[書]「社-稷宗-廟罔レ不二祇-肅一」。

❸威あるを、嚴なるを、おごそか。○[禮]「色-容厲-肅」。

❹ととのふ、(整)。○[國]「寬-肅宣-惠」。

❺いましむ、(戒)。○[晉]「罪-名既輕、無二以懲-肅一」。

❻ちゞむ、(縮)。○[禮]「寒-氣時發、草-木皆肅」。

❼すゝむ、(進)。○[禮]「客固-辭、主-人肅レ客而入」。

❽清靜、きよし。○[素問]「其政肅」。

❾きびし、(急)。○[禮]「　肅而俗敝則法無レ常」。

❿さむし、(寒)。○[管]「春行二冬-政一肅」。

⓫正し。○[詩]「肅肅謝-功」。

⓬疾し、さし。○[詩]「肅肅宵征」。

⓭敬禮を行ふを、拜して頭を低るゝと、一説に、俯して手を下ぐると。○[左]「敢肅二使-者一」。

⓮羽の聲にいふ字。○[詩]「肅肅鴇羽」。

〔恭肅〕うやまひつゝしむ。○[後漢]「肅肅小-心」。

〔謹肅〕前に同じ。○[史]「吉愈益肅肅」。

〔忠肅〕忠義の心ふかくつゝしみあつきと。○[北]「肅肅奉レ上」。

〔震肅〕ふるひつゝしむ。○[後漢]「莫レ不二肅肅一」。

〔振肅〕前に同じ。○[晉]「京-都肅肅」。

〔祗肅〕つゝしむ。○[書]「罔レ不二肅肅一」。

〔虔肅〕前に同じ。○[後漢]「禮肅肅以應レ天」。

〔恪肅〕前に同じ。○[蜀]「肅肅禋-祀一」。

〔厲肅〕おごそかなると。○[禮]「色-容肅肅」。

〔謙肅〕へりくだりつゝしむ。○[後漢]「愈自肅肅」。

〔淸肅〕きよらかにとゝのふ。○[後漢]「郡-中肅肅」。

〔匡肅〕たゞし整ふ。○[後漢]「多レ所二肅肅一」。

〔畏肅〕おそれつゝしむ。○[後漢]「望レ風肅肅」。

〔整肅〕きびしくとゝのふ。○[晉]「閨-門肅肅」。

〔勤肅〕勤勉にしてつゝしみぶかし。○[晉]「劉-超肅肅奉レ上」。

〔嚴肅〕おごそかなり。○[南]「軍-令肅肅」。

〔明肅〕すぢみちあきらかにして整ふ。○[南]「爲レ政肅肅」。

〔端肅〕たゞしくとゝのふ。○[北]「風-儀肅肅」。

〔澄肅〕きよらかに整ふ。○[唐]「內-外肅肅」。

〔雍肅〕やはらぎ整ふ。○[易林]「四-門肅肅」。

〔簡肅〕ことすくなくして整ふと。○[秦觀]「政尙二肅肅一」。

【肅】セウ。先妙切 嘯

前條の❶に同じ。

【肆】シ。息利切 寘

❶きはむ、きはまる、(極)。○[國]「藪-澤肆既」。

❷はなつ、ほしいまゝ、(放)。○[易]「其事肆而隱」。

❸のぶ、(展)。○[左]「肆二大-惠一復二肆文之業一」。

❹やどり、(次)。○[詩箋]「謂レ更二其肆一也」。

❺つらぬ、つらなる、(陳)。○[詩]「肆レ筵設レ席」。

❻なみ、つら、(列)。○[左]「歌-鐘二肆」。

❼賣り物をつられ置く處、たな、みせ。○[漢]「開二市肆一以通レ之」。

❽死刑に處したる尸を暴す、さらす。○[周]「凡殺レ人者踣二諸市一、肆レ之三日」。

❾つひに、(遂)。○[書]「肆類二于上帝一」。

❿ゆゑに、(故)。○[書]「肆予以二爾衆-士一奉レ辭代レ罪」。

⓫ゆるし、ゆるむ、(緩)。○[左]「肆二大-眚一」。

⓬おほいにす、おほいなり、(大)。○[書]「越二厥疆土一、于二先王一肆」。

⓭ながし、(長)。○[詩]「其詩孔碩、其風肆好」。

⓮すつ、(棄)。○[揚雄]「故平不レ肆レ險、安不レ忘レ危」。

⓯つく、(突)、又、さし、(疾)。○[詩]「是伐是肆」。

⓰なほし、(直)、たゞし、(正)。○[史]「肆直而慈-愛」。

⓱つとむ、(力)。○[張衡]「厥庸孔肆」。

⓲とる、(操)。○[揚雄]「肆レ筆而成レ書」。

〔列肆〕みせをならぶ。○[唐]「道-路肆レ肆具二酒食一」。

〔市肆〕あきなひみせ。○[漢]「開二肆肆一以通レ之」。

〔閉肆〕みせをとざす。○[漢]「則肆レ肆下レ簾」。

〔屠肆〕牛羊などをころしてあきなふみせ、又、二星の名。○[後漢]「隱二于肆肆之閒一」。

〔酒肆〕さけを賣るみせ。○[晉]「使三宮人爲二肆肆一」。

〔恣肆〕はしいまゝ。○[潙子振]「肆肆鑠鑠」。

〔縱肆〕前に同じ。○[後漢]「專レ權肆肆」。

〔放肆〕前に同じ。○[唐]「武士レ尙二肆肆一」。

〔廣肆〕ひろきみせ。○[高道素]「通-衢肆肆」。

〔書肆〕本をうるみせ。○[劉禹錫]「軍-士遊二肆肆一」。

〔茶肆〕ちやをうるみせ。○[聞見前錄]「北貌肖二肆肆中見者一」。

〔踞肆〕うづくまる。○[吳儆浮丘山賦]「肆肆而察、不レ得二肆肆一矣」。

〔安肆〕こゝろやすくはしいまゝ。○[漢]「一時見二盤-礴一」。

〔慾肆〕はしいまゝなるものをこらす。○[左]「此二物者、所三以肆レ肆而去二貪也」。

〔游肆〕心のまゝにあそびてきまゝなり。○[管]「縱レ意肆肆」。

〔鄽肆〕商店のと。○[唐]「肆肆之人」。

〔店肆〕前に同じ。○[讀曲歌]「家貧近二肆肆一」。

〔開肆〕みせをひらく。○[隋伯魄亦]「肆レ肆賣レ卜」。

〔徹肆〕みせをやむ。○[唐]「皆肆レ肆塞レ門」。

〔衢肆〕まちの商店あるところ。○[唐]「游二歷肆肆一」。

〔奢肆〕おごりてはしかまゝなると。○[唐]「頃既肆肆」。

〔矜肆〕はこりてはしいまゝなり。○[唐]「職得-意甚益肆肆」。

〔驕肆〕前に同じ。○韓詩外傳「而無二肆肆之容一」。

〔橫肆〕よこしま。○[唐]「久頗越レ法肆肆」。

〔熾肆〕さかんにはしいまゝなり。○[唐]「使二兒-賊肆肆一」。

〔惰肆〕をこたりておごそかならず。○[宋]「擧-止肆肆者」。

〔閑肆〕ゆるやかなり。○[歐陽修]「肆肆可レ喜」。

〔舒肆〕のびやかなり。○[成公綏]「或肆肆而自反」。

〔藥肆〕くすりをうるみせ。○[陸龜蒙]「肆肆成二虛-設一」。

〔城肆〕まち。○[鄒浩]「騎レ羊入二肆肆一」。

【肆】シツ、シチ。息七切 質

はなつ、ほしいまゝ、(放)。

【肆】肄に同じ。○[禮]「肆-束及帶」。

【肆】カイ。古來切 灰

肆夏は、樂の名、一に、陔夏に作る。○[禮]「其出也肆-夏而送レ之」。

【肆】テキ、チヤク。他歷切 錫
⊖肉を解き治む、さく。〇〔禮〕「腥一一爓・脍祭」。
⊜さきたる牲體。〇〔周〕「羞⁼其一⁻」。

八畫

【肇】テウ、デウ。直紹切 篠
⊖はじめ、はじむ（始）。〇〔書〕「一⁼我邦于有・夏⁻」。
⊜たゞし、たゞす（正）。〇〔國〕「溥レ本一レ末」。
⊜さし（敏）。〇〔書〕「一牽⁼車・牛⁻」。
㊃ながし（長）、又、はかろ（謀）。〇〔詩〕「一⁼敏戎・公⁻、用錫⁼爾祉⁻」。
㊄兆に同じ。〇〔詩〕「一⁼域彼四・海⁻」。
㊅うつ（擊）。
〔初雖〕はじめ。〇〔司馬相如〕「伊上古之一・一」。

【肈】タウ、ドウ。杜皓切 皓
うつ（擊）。

【肇】肇に同じ、又、戟の屬。

肉部

【肉】ジク、ニク。如六切 屋 〔說文〕象形。〔文書〕作レ肉。
⊖截りたるしゝ、きりみ、しゝむら。〇〔禮〕「觴・酒豆一」。
⊜動物の身體の大部分をなし皮に蔽はれ骨を包める柔きもの、み、しゝ。〇〔管〕「五・藏已具而後生レ一」。
⊜身體、み、からだ。〇〔史〕「法有⁼一刑三⁻」。
㊃果實又は菜蔬などの皮に包まれたろ柔き部分の稱、み。〇〔齊民要術〕「淡・竹筍法取⁼筍一五・六・寸者⁻、按⁼鹽・中⁻」。

〔飛肉〕鳥類の稱。〇〔揚雄〕「明・珠彈⁼于一・一⁻」。
〔土肉〕海中に生ずる蟲の屬、長さ五寸許にして色黑し、腹部のみありて口耳なく足多し、炙りて食らふべしとぞ。〇〔郭璞〕「一・一石・華」。
〔宿肉〕しゝむらをよべにす。〇〔論〕祭⁼于公⁻不レ一レ一」。
〔祥肉〕大祥とて三年の喪をはりて後の祭に供へたるしゝ。〇〔禮〕「顔・回之喪饋⁼一・一⁻」。
〔豆肉〕豆の器に盛れるしゝ。〇〔國〕「觴酒一・一簞・食、未⁼嘗敢不レ分也」。
〔骨肉〕はねとしゝと、又、親子兄弟のこと。〇〔史〕「一・一同姓少」。「帛一レ一」。
〔食肉〕鳥獸のしゝをくらふ。〇〔孟〕「七十者衣レ帛一レ一」。
〔舍肉〕しゝを食らはずそのまゝにさしおく。〇〔左〕「食一レ一」。「一・一⁻」。
〔肥肉〕ふとりたる鳥獸のしゝむら。〇〔孟〕「庖有⁼一・一⁻」。
〔膰肉〕ひもろぎのしゝ。〇〔孟〕「一・一不レ至、不レ稅レ冕而行」。
〔繼肉〕しゝを引きつゞき供ふ。〇〔孟〕「庖人一レ一」。「至」。
〔梁肉〕うまき米と鳥獸のしゝと。〇〔戰〕「一・一」。
〔分肉〕しゝを配り與ふ。〇〔北〕「殺レ牛一レ一」。
〔割肉〕しゝをきりたつ。〇〔史〕「方⁼其一⁼一組・上⁻之時⁻其意固已遠矣」。
〔切肉〕前に同じ。〇〔史〕「拔レ劍一レ一」。
〔攫肉〕しゝをつかむ。〇〔漢〕「鳥一⁼其一⁻」。
〔亡肉〕しゝむらを亡失す。〇〔史〕「里・婦夜一レ一」。
〔截肉〕しゝをきる、又きりみ。〇〔後漢〕「母常一レ一」。
〔髀肉〕もゝのしゝ。〇〔蜀〕「一・一皆消」。
〔臠肉〕きりみ、しゝむら。〇〔淮〕「嘗⁼一一・一⁻、知⁼一・鑊之味⁻」。
〔走肉〕しゝむらのあゆむこと、即ち、生きてゐながら生きがひのなきにいふ語。〇〔拾遺記〕「不レ學者雖レ存謂⁼之行尸・一・一⁻爾」。
〔乾肉〕はじし。〇〔易〕「噬⁼一・一⁻得⁼黃・金⁻」。
〔腊肉〕前に同じ。〇〔易〕「噬⁼一・一⁻遇レ毒、小吝无レ咎」。
〔濡肉〕うるほひのあるしゝむら。〇〔禮〕「一・一齒・決」。
〔牢肉〕牛羊豕の三つの肉のこと。〇〔禮〕「夕深衣、祭⁼一・一⁻」。「再・拜⁻」。
〔酒肉〕さけとしゝむらと。〇〔禮〕「一・一之賜⁼弗」
〔啄肉〕しゝをついばむ。〇〔元稹〕「一レ一瘵⁼其皮⁻」。
〔委肉〕しゝを打ちすつ。〇〔戰〕「一レ一當⁼餓・虎之蹊⁻」。
〔縣肉〕しゝむらをかけ下ぐ。〇〔史〕「一レ一爲レ林」。
〔加肉〕しゝの食の上に尙しゝの食を重ぬること。〇〔史〕「食不レ一レ一」。
〔生肉〕なまなるしゝむら。〇〔漢〕「一・一爲レ臘」。
〔噉肉〕しゝむらを食らふ。〇〔宋〕「能一レ一至⁼數斤⁻」。「一レ一」。
〔戒肉〕しゝむらをとゞめて用ひず。〇〔魏〕「節レ酒一レ一」。
〔餘肉〕殘餘のしゝむら。〇〔劉言史〕「今・年社・日分⁼一・一⁻」。
〔胙肉〕ひもろぎのしゝ。〇〔金〕「一・一加⁼於俎⁻」。
〔爛肉〕たゞれたるしゝむら。〇〔韓〕「朽・骨一・一施⁼於土・地⁻」。
〔嗜肉〕しゝをこのむ。〇〔呂氏春秋〕「一レ一者非⁼麋・鼠之謂⁻也」。

【肉】ジウ、ニユ。如又切 宥
⊖錢又は璧などの如き中に空孔ありて環狀をなすものゝ外邊の實體の稱。〇〔爾〕「一倍レ孔謂⁼之璧⁻」。
⊜こゆ（肥）、みつ（滿）。〇〔禮〕「廉一節・奏」。「裕一一好」。
⊜音の洪いなるにいふ字。〇〔史〕「寬・

【肉】ジウ、ニユ。而由切 尤
前條の⊖に同じ。

【肉】ジユ、ニユ。儒遇切 遇
しゝ。

【月】ジク、ニク。而六切 屋
肉に同じ、日月の月とは異なり。

一畫

【肊】ヨク、イキ。於力切 職
⊖むれ（匈）。⊜氣滿つ。

二畫

【肋】ロク。歷德切 職
あばらぼれ（脅・幹）。〇〔宋〕「餘皆杖レ一」。
〔雞肋〕にはとりのあばら骨。〇〔魏、誌〕「一・一棄レ之如レ可レ惜」。
〔細肋〕ほそやかなるあばら骨。〇〔本草〕「但一・一尊レ臥⁼沙・地⁻」。
〔兩肋〕兩方のわきぼね。〇〔唐〕「一・一各十・六」。
〔脇肋〕わきぼね。〇〔齊民要術〕「欲⁼其一・一⁻」。
〔沙肋〕羊のこと。〇〔王阮〕「一・一微・茫筆・端足」。

【肋】筋に同じ。

【肊】ヒツ、ヒチ。普密切 質
のんどの肉。

【肌】キ。居宜切 支
膚肉、はだへのにく、はだへ。〇〔史〕「割レ皮解レ一」。
〔割肌〕はだへをさく。〇〔漢〕「雖⁼介之推一レ一以存⁻レ君」。
〔切肌〕前に同じ。〇〔劉伶〕「不レ覺⁼寒・暑之一レ一」。
〔侵肌〕はだへに犯し入る。〇〔朱淑眞〕「森々凉・氣暗一レ一」。「一」。
〔浸肌〕はだにしみこむ。〇〔柳宗元〕「凉・暑怕レ一」。
〔冰肌〕白く滑らかなるはだへ。〇〔孟泉〕「一・一王・骨清無レ汗」。
〔皮肌〕はだへ。〇〔晁補之〕「一・一殘⁼紅・線⁻」。
〔削肌〕はだへをそぎとる。〇〔李紹鈞命決〕「一一刻レ骨」。「脈結レ筋」。
〔解肌〕はだへを解剖す。〇〔史〕「割レ皮一レ一、決レ脈結レ筋」。
〔浹肌〕はだへに行きわたる。〇〔漢〕「一⁼一膚⁻而藏⁼骨・髓⁻」。「骨」。
〔磨肌〕はだへをすりみがく。〇〔韓愈〕「一レ一戛レ一」。
〔豐肌〕肥えたるはだへ。〇〔司馬相如〕「弱・骨一一」。
〔濕肌〕はだを濡す。〇〔揚雄〕「沾レ衛一レ一」。

〔通肌〕はたへに透る。◯〔陳琳〕「ーレー暢レ骨」。
〔傷肌〕はたへをそこなふ。◯〔禰衡〕「ーレー者被レ刑」。
〔嗞肌〕はたへをかむ。◯〔王粲〕「搦レ肉ーレー」。
〔素肌〕白きはたへ。◯〔白居易〕「ー・ー擘＝新玉＿」。
〔細肌〕きめこまやかなるはたへ。◯〔傅休奕〕「ー・ー密理」。
〔暴肌〕はたへをあらはにしさらす。◯〔裴秀〕「沾レ體ーレー」。
〔完肌〕無傷なるはたへ。◯〔杜甫〕「身上無レ有＝ー・ー・膚＿」。
〔痒肌〕かゆきはたへ。◯〔韓愈〕「ーレー費＝蚝刺＿」。
〔玉肌〕うつくしきはたへ。◯〔韋莊〕「ー・ー香膩透＝紅紗＿」。
〔雪肌〕白く清らかなるはたへ。◯〔韓偓〕「ー・ー仍是玉琅玕」。
〔軟肌〕柔かなるはたへ。◯〔翻譯名義集〕「柔膚ー・ー」。
〔膚肌〕はたへ。◯〔蘇軾〕「刺＝芒在＝ー・ー＿」。
〔按肌〕はたをさする。◯〔謝翺〕「ー・ー不レ粟清露下」。
〔粉肌〕おしろいを附けたるはたへ。◯〔王丕才〕「ー・ー生レ汗白蓮香」。

【肔】チツ。丑一切 質
肥えて滑かなる貌にいふ字、なめらか。

【肍】キウ、グ。渠尤切 尤
熟したる肉の醬、一説に、乾きたる肉の醬、ほしびしほ。

【肸】キツ、コチ。許訖切 物
ふろふ（振）。

【冐】背に同じ。

【肙】エン、チン。於願切 願
㊀小さき蟲。㊁空し。

【肙】エン、チン。於袁切 元
うごく（動）。

【肙】蜎に同じ、井の中の蟲。

三畫

【𦘫】カン、ガン。胡岸切 翰
掻きて創を生ず、きづつく。

【𦘴】フウ、ブ。符風切 東
ちゝ、ち（乳）。

【肊】ヨク、イキ。乙力切 職
むねのほね（胷骨）。

【肑】テキ、チヤク。都歴切 錫
㊀腸の下の肉。㊁わきばら（脅）。

【肑】ハク、ホク。北角切 覺

【肑】ヘキ、ヒヤク。必歴切 錫　ハク。浦約切 藥
㊀指の節鳴る。㊁こゆ（腴）。前條の㊀に同じ。

【肒】クワン、グワン。胡玩切 翰
掻きて創を生ず、かきこはす。

【肎】古文の肯の字。

【肓】クワウ、ワウ。呼光切 陽
心の上鬲の下。◯〔左〕「居＝肓之上膏之下＿」。

【𦘩】ト、東徒切 虞　タ、陟加切 麻　ツ。切　テ。切
胍ーーは、大いなる腹の貌にいふ詞、一説に、椎の大いなるものゝ稱。

【肚】ト、ツ。都故切 遇
廣き腹。

【肔】イ。演爾切　チ。丑豸切　シ、賞是切 紙
腸を刳る、さく。

【肕】ジン、ニン。而振切 震
筋肉堅し、かたし。◯〔管〕「人能正静者筋肕而骨强＿」。

【肖】セウ。仙妙切 嘯
㊀にる。
（い）骨相肉體の相似るにいふ字。◯〔書〕「説築＝傅巖之野＿惟ー」。
（ろ）すべて物事の相似るにいふ字。◯〔揚雄〕「久則ーレ之」。
（は）のつとる（法）、かたどる（象）。◯〔揚雄〕「七十子之ー＝仲尼＿」。
㊁にてあらしむ、にす。◯〔唐〕「僭＝ー宮省＿」。
㊂ちひさし。◯〔揚雄〕「趙、ー小也」。
〔克肖〕よく似る。◯〔韓愈〕「ーー＝其德＿」。
〔不肖〕愚なるもの。◯〔禮〕「爾＝ー・ー以紲レ張」。
〔賢肖〕かしこきものと愚かなるものと。◯〔梁簡文帝〕「民無＝ー・ー＿、愛均＝一子＿」。

【肖】セウ。思邀切 蕭
㊀衰微す、おとろふ。◯〔史〕「申呂ー矣」。
㊁散失す、うす。◯〔莊〕「達＝於知＿者ー」。

【𦘭】グワ、ゲ、五寡切 馬
足斷つ、あしきる。

【肗】ジヨ、ニヨ。人渚切 語
魚の鮮かならざるにいふ字、くさる。

【𦘧】クン、コン。許運切 問
羊肉の羹。

【肘】チウ、チユ。陟柳切 有
㊀臂の關節、かひな、ひぢのふし、ひぢ。◯〔禮〕「袂可＝以回＿レー」。
㊁ひぢを取りて留どむるにいふ字、掣して爲さしめざるにいふ字、さゝむ。◯〔後漢〕「欲レ命レ駕數被レー」。
㊂尺度の長さ、二尺の稱、一説に、一尺五寸。◯〔韻會〕「四ー爲＝一弓＿」。
〔繫肘〕かひなにかく。◯〔晉〕「取＝金印如＝斗大＿ーレー」。
〔引肘〕かひなをひく。◯〔晉〕「皆ー＝其ー＿」。
〔兩肘〕雙のかひな。◯〔杜甫〕「衣袖露＝ー・ー＿」。
〔戟肘〕かひなをはこの如くにす。◯〔詩、箋〕「如＝人挾＝弓矢＿ー＝其ー＿」。
〔運肘〕かひなを動かす。◯〔蘇軾〕「ーレー風生看レ研レ脂」。
〔中肘〕かひなに的中す。◯〔左〕「射レ之ーレー」。
〔縛肘〕かひなをしばる。◯〔晉〕「以＝朱絲＿ー＝其ー＿」。
〔掣肘〕かひなをひく。◯〔王延珪〕「有レ物礙レーレー」。
〔皓肘〕白きかひな。◯〔邊讓〕「援＝毛嬙之ー・ー＿」。
〔掩肘〕かひなをかくす。◯〔陶潛〕「弊襟不レーレー」。
〔枕肘〕かひなをもて枕にす。◯〔杜甫〕「日斜ーレー寢已熟」。
〔束肘〕かひなをしばる。◯〔陸龜蒙〕「藤根時ーレー」。
〔跟肘〕踵とかひなと。◯〔蘇軾〕「詰曲猶能辨＝ー・ー＿」。
〔雙肘〕兩のかひな。◯〔蘇軾〕「竹几閣＝ー・ー＿」。
〔曲肘〕かひなをまぐ。◯〔黃庭堅〕「心似＝次山＿嶷」

【肙】エン。烏懸切　ケン。縈絹切 霰
㊀小さき蟲、一説に、空し。㊁たわむ（撓）。◯〔周〕「刺兵欲レ無レー」。

【肚】ト、當古切 麌　ツ。獨故切 遇

ゐぶくろ（胃）、又、はら（腹）。〇〔韓愈〕「腸—鎭ニ煎熇ニ」。
〔畫肚〕腹に物の形をかく。〇〔畫斷〕「恒手—レ—」。
〔帯肚〕腹に附着す。〇〔啓顏錄〕「ホ乃—レ—」。

【肛】カウ、古雙切 江 コウ、胡公切 東 コウ。グ。
㊀脹大なるにいふ字、こゆ、ふくろ。〇〔韓愈〕「形・軀頓降—」。
㊁—門は、大腸の端、しりのあな。〇〔史〕「—門重十二兩」。

【肜】イウ、ユ。余中切 東
㊀祭りの翌日のまつり、またのまつり。〇〔爾〕「繹又祭也商曰レ—」。
㊁和ぐ貌にも絶えざる貌にもいふ字。〇〔王延壽〕「——靈宮」。

【肜】チン。丑林切 侵
船の行く貌にいふ字。

【肝】カン。古寒切 寒
きも。
（い）五臟の一、きも、漢方にては、膽を以て府となし左に三葉あり右に四葉ありて脊の第九椎に著くと說く。〇〔禮〕「祭以レ—」。
（ろ）心衷、こゝろ。〇〔白居易〕「苦在レ心兮酸在レ—」。
〔肺肝〕呼吸機ときもと、又、心のうちをいふ。〇〔禮〕「如レ見ニ其——ニ然」。
〔馬肝〕うまのきも。〇〔史〕「文成食ニ——ニ死耳」。
〔析肝〕きもを分析す、即ち、誠の心をあらはすにいふ。〇〔史〕「剖レ心—レ—相信」。
〔心肝〕心ゝと肝臟と、即ち誠實の心にいふ語。〇〔李白〕「豁然露ニ——ニ」。
〔披肝〕肝臟をひらきあらはす。〇〔魏〕「感ニ知己ニ而—ニ——ニ」。
〔忠肝〕君につくすま心。〇〔宋〕「——若ニ鐵石ニ」。
〔輸肝〕ま心をいたす。〇〔李白〕「—レ—剖レ膽效ニ英・才ニ」。
〔刳肝〕きもを割く。〇〔韓愈〕「—レ—以爲レ紙」。
〔鏤肝〕きもにえりつく、即ち、心にきみこますることにいふ語。〇〔歐陽修〕「—レ—琢レ腎」。
〔洗肝〕きもをすゝぎ淸む。〇〔蘇軾〕「江・水—我—ニ」。

【肻】育の本字。

【胘】ケン、ゲン。胡田切 先
牛のゐぶくろ。

【肞】サ、セ。昌遮切 麻
腶—は、ほじし（脯）。

四畫

【肤】ケツ、古穴切 屑 ケチ。切 ケイ、胅桂切 霽 ケ。
あな（孔）。

【肏】シヤ、セ。之夜切 禡
きりにく。〇〔韓愈〕「萬・牛—レ—」。

【肪】ヘン。普麵切 霰
かたみ（片・體）。

【股】コ、ク。果五切 麌
㊀あし。
（い）脛の本、即ち、脚の上部、また、もゝ。〇〔漢〕「—戰而栗」。
（ろ）兩のもゝの狀をなすもの。〇〔韓偓〕「釵—欲レ分猶半疑」。
㊁車上の轂に近き部分。〇〔周〕「參ニ分其—圍ニ」。
㊂磬の上の大いなる部分。〇〔周〕「磬氏爲レ磬、其博爲レ一、—爲レ二、鼓爲レ三」。
㊃句と弦とによりて直角三角形をなす一邊の稱。〇〔宋〕「下參ニ句—之數ニ」。
㊄繩索などの絲縷、こ。〇〔急就篇、註〕「紺ニ兩—以上ニ、總而合レ之」。
〔動股〕足をはたらかす。〇〔詩〕「五・月斯・螽—レ—」。
〔赤股〕もゝの内がはに毛なし。〇〔周〕「犬—ゝ—而躁・臊」。「—之誠ニ」。
〔刺股〕もゝをさしとほす。〇〔李商隱〕「朿レ伸ニ—レ」
〔扑股〕もゝを割く。〇〔唐〕「—レ—以祭」。
〔剔股〕前に同じ。〇〔唐〕「—レ—以進」。「也」。
〔切股〕もゝを斫り取る。〇〔淮〕「—ニ其—ニ以自罰」
〔髀股〕はぎともゝと。〇〔宋〕「——皆腐」。
〔脩股〕長き足。〇〔淮〕「奇肱——之民」。
〔纏股〕足にまきつく。〇〔韓愈〕「以レ錦—レ—」。
〔羸股〕痩せたる足。〇〔宋玉〕「——而步」。
〔翅股〕つばさと足と。〇〔蘇軾〕「又報蝗蟲生ニ——ニ」。「—ニ其—ニ」。
〔枕股〕もゝをもて枕となす。〇〔蘇軾〕「萬室鬪々—ニ」。

【肢】シ。旨而切 支
軀體の支、即ち、手足。〇〔管〕「四—不レ通、六・道不レ達」。
〔四肢〕手と足と。〇〔荀〕「如ニ——之從ニ心」。
〔腰肢〕こしのと。〇〔蕭綸〕「軟・娟著ニ——ニ」。
〔雪肢〕白き手足。〇〔楊維楨〕「——欲レ透紅霜葰」。

【肢】シ。矢利切 寘
體仲びず（佚）。

【肒】クワン。古緩切 旱
脘に同じ、ゐぶくろ。

【肒】ゲン、ゴン。虞遠切 阮
陰部の異呼、かくしどころ。

【肣】カン、ゴン。胡男切 覃
㊀した（舌）。
㊁肥えたる牛のほじし。
㊂ふいがうのえ（排・囊・柄）。

【肣】カン、ゴン。戸感切 感
牛の腹。

【肣】キン、ゴン。渠金切 侵
をさむ、をさまる（斂）。〇〔史、傳〕「—謂ニ兆足斂—也」。

【肞】カフ、コフ。呼合切 合
こゆ（肥）。

【肤】膚に同じ。

【肥】ヒ、ビ。符非切 微
㊀こゆ、こえたり。
（い）體肉の多きにいふ字、ふとる、ふとし。〇〔禮〕「猶ニ食而弗レ—」。
（ろ）地味の厚きにいふ字。〇〔書、傳〕「田之高・下—瘠」。
（は）饒裕なるにいふ字、ゆたか、又、盛んなり。〇〔易〕「上・九—遯」。
㊁こえしむ、こやす。〇〔史〕「恩—ニ土・城ニ」。
㊂こえたる馬、こえたる肉。〇〔漢〕「乘レ堅策レ—」。
㊃泉源同じくて歸入する所の異なる小水。〇〔詩〕「我思ニ—泉ニ」。
〔家肥〕いへゆたかになる。〇〔黄庭堅〕「孝・友—正—」。
〔乘肥〕ふとりたる馬に打ちのる。〇〔韓〕「—レ—衣「輕」。
〔蝨肥〕ひさごの如くにふとりてあり。〇〔蘇軾〕「食・蝕已——」。
〔敗肥〕はりきるばかりにふとる。〇〔何承天〕「廐・馬患ニ——ニ」。「自——」。
〔輕肥〕衣かるく馬ふとる。〇〔杜甫〕「五・陵裘・馬

〔鮮肥〕新鮮にして且ふとる。〇〔黃庭堅〕「煩レ公湯-鼎割ニー・ー一」。
〔甘肥〕うまくふとりたる肉。〇〔晉〕「每致ニー・ー一于母ニ」。
〔驅肥〕ふとりたる馬を走らす。〇〔晉〕「乘レ輕ー」。
〔境肥〕やせたる土とこえたる土と。〇〔荀〕「相ニ高-下視ニー・ー一」。
〔盈肥〕盈ちふとる。〇〔王褒〕「人-馬皆ー・ー」。
〔溫肥〕あたゝかにしてふとる。〇〔嵇康〕「ー・ー者早終」。
〔珍肥〕めづらかにしてふとりたるもの。〇〔韋應物〕「所レ媿乏ニー・ー一」。
〔齧肥〕ふとりたるしゝむらを食らふ。〇〔劉禹錫〕「持レ醪而ーレー」。
〔策肥〕ふとりたる馬にうち乘る。〇〔李翺〕「寧服レ輕而ーレー」。
〔軟肥〕柔らかにしてふとる。〇〔文同〕「蕈-菜鱸-魚止ー・ー」。
〔驕肥〕勢づきておごりふとること。〇〔李山甫〕「傑-兒宛-馬正ー・ー」。

【肥】ヒ。補美切　紙
うすし、そしろ(瀕)。〇〔列〕「口所ニ偏ー二晉國黜レ之」。

【肦】フン、ブン。符分切　文
㊀大いなる首の貌にいふ字。㊁衆多なる貌にいふ字。

【朌】ハン、ヘン。布還切　刪
㊀頒顙なり、高大なり。㊁わかつ(賦)。〇〔禮〕「名-山大-澤不ニ以ー一」。

【⿰月反】ハン、バン。薄半切　翰
ちゝ(肉)。

【䏔】チウ、チユ。渋柳切　宥
肘に同じ。

【䏔】ヂウ、ニユ。女久切　宥
食らふ肉。

【腬】ジウ、ニユ。如又切　宥
善き肉。

【朒】ジク、ニク。而六切　屋
鼻血を出だす。

【⿰月壬】ジン、ニン。忍甚切　寝
飪に同じ。

【⿰月瓦】胝に同じ。

【胚】ハイ、ヘ。芳杯切　灰
婦の孕みて一月を經たるにいふ字、はらむ。

【肧】フウ、フ。匹尤切　尤
物の未だ形を成さゞるを、はじめ。

【⿱否肉】ハイ、ヘ。鋪枚切　灰
きざめる肉の未だ醬を成さゞるもの。

【胮】ハウ、ホウ。匹降切　絳
㊀ふくろ、ばる(脹)。㊁臭き貌にいふ字。

【肨】ハウ、ホウ。披江切　江
胮に同じ、ばる(腫)。

【⿰月丰】ホウ、フ。敷容切　冬
肉の端。

【肩】ケン。古賢切　先
㊀かた。(い)頸の下にて臂の本。〇〔儀〕「ー、臂、臑」。(ろ)負担すること。〇〔左〕「請レ息ニー於晉ニ」。㊁なす(作)、かつ(克)あたふ、たふ(勝)。〇〔詩〕「佛ニ時仔ー二」。㊂まかす(任)。〇〔書〕「不レーレ好レ貨」。㊃三歲の獸。〇〔詩〕「竝驅從ニ兩ー一兮」。

〔兩肩〕兩方のかた。〇〔宋〕「兩-髖ー・ー」。
〔豚肩〕ぶたのかたの肉。〇〔禮〕「ー・ー不レ掩レ豆」。
〔隨肩〕かた丈後れあとにつく、卽ち、長者に事ふる禮。〇〔梁昭明太子〕「陪ニ宜-春-以ーレー」。
〔及肩〕かたの處まで高さのあること。〇〔論〕「賜之牆也ーレー」。
〔脅肩〕兩のかたをそびやかす。〇〔孟〕「ーレー諂-笑」。
〔比肩〕かたをならぶ、卽ち、等位を同じくするにいふ語。〇〔北〕「ー・ーニー東-閣之吏ニ」。
〔併肩〕前に同じ。〇〔漢〕「ーレー而事レ主」。
〔鳶肩〕上の竦ちたるかた。〇〔國〕「ー・ー而牛-腹」。
〔巨肩〕大いなるかた。〇〔史〕「鳥-鼻ー・ー」。
〔垂肩〕かたにまで下がりをる。〇〔杜甫〕「雙-耳下ーレー」。
〔側肩〕かたをそばだつ、又、身を横にするにいふ語。〇〔史〕「明-旦ーレー爭レ門而入」。
〔齊肩〕かたをならぶ。〇〔玉海〕「ー・ーニー稷契ニ」。
〔竝肩〕前に同じ。〇〔南〕「ー・ーニー英-彦ニ」。
〔駢肩〕前に同じ。〇〔徐彦伯〕「咸ーレー而側レ足」。
〔摩肩〕かたとかたとこする、卽ち、雜沓するにいふ語。〇〔庾信〕「ーレー相接」。
〔傅肩〕かたに附着す。〇〔唐〕「以ニ圓肩ーレー」。
〔崇肩〕高くそびえたるかた。〇〔唐〕「ー・ー博頤」。
〔憑肩〕かたによりかゝる。〇〔金〕「ーレー而語」。
〔解肩〕かたの骨を割く。〇〔元〕「ーレー者不レ使レ傷ニ其脊ニ」。
〔袒肩〕はたを脱ぐ。〇〔李華〕「衲衣ー・ー、跣足行乞」。
〔脱肩〕前に同じ。〇〔薛能〕「羅-衫半ーレー」。
〔鷹肩〕鳥の名、たか。〇〔禮、註〕「征-鳥ー・ー也」。

【肩】カン、ケン。丘閑切　刪
前條の㊀に同じ。

【肩】コン。胡恩切　元
羸せて小さき貌にいふ字、一説に、直なる貌にいふ字。〇〔莊〕「其頸ー・ー」。

【⿰月引】イン。羊進切　震
㊀きず(瘢)。㊁にはか(遽)。㊂脊の肉。

【⿰月引】チン、ヂン。直引切　軫
うたれたる杖の痕のはれたる處。

【肪】ハウ。敷房切　陽
こゆ、あぶら(脂)。〇〔揚雄〕「脂-牛正-ー不レ濯レ釜而烹」。

〔截肪〕かたまれるあぶらをきる、又、切りたるあぶら。〇〔宋〕「色如ニー・ー一」。
〔栽肪〕前に同じ。〇〔葬經〕「ーレー切レ玉、備ニ具五-色ニ」。
〔割肪〕前に同じ。〇〔郭璞〕「散似ニ針-露ー、凝如ニー・ー一」。
〔脂肪〕かたまれるあぶら。〇〔廣州記〕「內白如ニ乳」。
〔骨肪〕前に同じ。〇〔陸游〕「土如ニー・ー一、水如レ」

【肫】シユン。株倫切　眞
㊀懇誠なる貌にいふ字、ねんごろ。〇〔中〕「ー・ー其仁」。㊁腊の全きもの。〇〔儀〕「ー-髀不レ升」。

【肫】サイ、セ。子罪切　賄
前條の㊁の解に同じ。

【肫】トン、ドン。徒渾切　元
臀ーは、こなもち(餌)。

【肫】シユン。主尹切　軫
おさがひ(頤)。

【肫】セツ、セチ。朱劣切　屑

面の骨、つらぼね。

【肬】イウ、ウ。于求切 [尤]
㊀皮肉の高く起こりたるもの、はれもの、いぼ。○〔荀〕「晉未レ如二―贅一」。
㊁轉じて、冗物の義にいふ字。○〔楚辭〕「竭二忠誠一以事レ君而贅―」。

【肭】ヂク、ニク。女六切 [屋]
縮―は、朔日に月の東方に見ゆるを。

【肭】トツ、ドチ。奴骨切 [月]。ダツ、子チ。女滑切 [黠]
膃―は、肥えたるを。

【肮】カウ、ガウ。呼郎切 [陽] 下黨切 [養]
喉嚨、のど、のどぶえ。○〔史〕「不レ搤二其―一」。

【胝】シ。呂脂切 [支]
膍―は、鳥の藏、とりのはらわた。

【肎】肯に同じ。

【肯】コウ。苦等切 [迥]
㊀可と爲す、がへんず、うけがふ、うべなふ。○〔詩〕「惠然―來」。
㊁うけがふ意を表すにいふ字、あへて。○〔史〕「安―有下盡二忠信一而趨二闕下一者上哉」。
〔不肯〕うべなはぬ。○〔隋〕「尙書―レ―」。

【肯】カイ、ケ。可亥切 [賄]
骨に著く肉。○〔莊〕「技經二―一緊二之未レ嘗」。
〔綮肯〕筋肉のむすばる處、すぢのつけね、轉じて肝要。○〔李商隱〕「祇叢非二―一―一」。

【肰】ゼン、ヂン。如延切 [先]
犬の肉。

【肱】コウ、キヤウ。姑弘切 [庚]
臂の幹、即ち、臂の上部、ひぢ。○〔詩〕「麾レ之以レ―」。
〔股肱〕もゝとひぢと、即ち、輔佐となるにいふ語。○〔書〕「臣作二股―耳目一」。
〔横肱〕ひぢをよこたふ。○〔禮〕「竝坐不レ―レ―」。
〔曲肱〕ひぢをまぐ。○〔論〕「―レ―而枕レ之」。
〔枕肱〕ひぢをもて枕のかはりとす。○〔僧惠洪〕「地爐深暖―レ―眠」。
〔三折肱〕ひぢをくじく、轉じて、修業に辛苦をへたるをいふ語。○〔左〕「―――知レ爲二良醫一」。

【肐】クワイ、ケ。古對切 [隊]
臂に同じ、腰いたむ。

【〓】ヒツ、ヒチ。譬吉切 [質]
はら肥ゆ、こゆ。

【育】イク、チク。余六切 [屋]
㊀そだつ。
(い)養ひて善に赴かしむ、率ゐて德を成さしむ、やしなふ。○〔易〕「果レ行―レ德」。
(ろ)養はれて善に進む、率ゐられて德成る、やしなはる。○〔吳〕「陶二―聖化一」。
(は)長へさなる、おひたつ、おふ。○〔詩〕「既生既―」。
(に)長大ならしむ、おひたゝしむ、おほす。○〔詩〕「長レ我―レ我」。
(ほ)生ず、うむ、うまる。○〔中〕「發二―萬物一」。
㊁幼稚、いさけなし、いわけなし、わかし。○〔詩〕「昔―恐二育鞫一」。

〔生育〕うみそだつ。○〔家語〕「南者――之鄕」。
〔載育〕地の萬物をのせそだつるを。○〔成公綏〕「統二羣生一而――」。
〔竝育〕齊しく生長す。○〔禮〕「萬物――而不二相害一」。
〔教育〕をしへて成就せしむ。○〔孟〕「得二天下英才一而――之」。
〔蕃育〕あまた生長す。○〔管〕「六畜――」。
〔遺育〕種子を殘して生長せしむ。○〔書〕「無二――一」。
〔長育〕生長せしむ。○〔王褒〕「―二―豚駒一」。
〔率育〕ひきゐて養ひ長ぜしむ。○〔何承天〕「―二―萬類一」。
〔覆育〕おほひ長ず。○〔禮〕「―二―萬物一」。
〔化育〕物を化成長養す。○〔禮〕「可三以贊二天地之――一」。
〔發育〕發生長養す。○〔禮〕「洋々乎―二―萬物一」。
〔仁育〕めぐみて長養す。○〔史〕「―二―羣生一」。
〔治育〕馭撫長養す。○〔漢〕「―二―羣生一」。
〔撫育〕めぐみ養ふ。○〔陳子昂〕「早蒙二――之恩一」。
〔惠育〕前に同じ。○〔後漢〕「―二―元々一也」。
〔坤育〕皇后のめぐみを垂るゝにいふ語。○〔後漢〕「―二―天下一」。
〔濟育〕救濟し養ふ。○〔魏〕「―二―羣生一」。
〔陶育〕薰陶長養せらる。○〔吳〕「―二―聖化一」。
〔誨育〕をしへそだつ。○〔吳〕「猶―二―門生一」。
〔鞠育〕養ひそだつ。○〔蔡邕〕「母氏――」。
〔愛育〕めでて長養す。○〔北〕「爲二兄泉之所一――一」「好」。
〔養育〕やしなひそだつ。○〔歐陽修〕「――既堅」。
〔成育〕成長す。○〔王褒〕「胎卵得二以――一」。
〔矜育〕あはれみそだつ。○〔薛道衡〕「―二―蒼生一」。
〔繁育〕さかえ長ず。○〔郭璞〕「子孫――」。
〔煦育〕めぐみをかけ養ふ。○〔柳宗元〕「――資始」。

【〓】タン、トン。他甘切 [覃]
膚の肉壞る、やぶる。

【肳】吻に同じ。

【肳】バイ、メ。暮拜切 [卦]
㊀目を冥くして遠く視る。㊁久し。

【〓】タン、トン。他感切 [感]
肉の汁の滓、おり、ゐるのかす。

【〓】タン、トン。丁紺切 [勘]
㊀―臙は、短く醜き貌にいふ語。
㊁虎の視るにいふ字。

【肴】カウ、ゲウ。何交切 [肴]
穀物以外の物にて已に調理したる食らふべき物、さかな。○〔詩〕「爾―既馨」。
〔酒肴〕さけとさかなと。○〔陸龜蒙〕「揚雄重二――一」「俎」。
〔豐肴〕ゆたかに多くあるさかな。○〔晉〕「――萬」
〔上肴〕貴重なるさかな。○〔淮〕「越人得二髯蛇一以爲二――一」。
〔蔥肴〕香草のひたしもの。○〔王融〕「――芳醴」。
〔山肴〕山中の草をもてひたしものとす。○〔歐陽修〕「――野蔌」。
〔甘肴〕うまきさかな。○〔後漢〕「旨酒――」。
〔旨肴〕前に同じ。○〔劉仔肩〕「――陳二海陸一」。
〔鮮肴〕あざやかなるさかな。○〔南〕「有下贈二――一者上」。
〔珍肴〕めづらかなるさかな。○〔辛延年〕「就レ我求二――一」。
〔異肴〕前に同じ。○〔七命〕「四膳――」「陳」。
〔饌肴〕杯とさかなと。○〔梁簡文帝〕「――滿二四

【肵】キン、コン。居忻切 [問]
つゝしむ（敬）。○〔禮〕「―爲レ言敬也」。

【肵】キ、ゲ。渠希切 [微]
牲の肺などを盛りて神に供ふる俎、まないた。○〔儀〕「佐食升二―俎一」。

【肶】ヒ、ビ。頻脂切 [支] ヘイ、ベイ。斬迷切 [齊]

㊀牛の百葉、鳥の脘胵、ゐぶくろ、ゑぶくろ。○〔儀、註〕「脾讀爲二雞脾一―之脾一、牛百葉也」。「重」。㊁あつし（厚）。○〔爾、註〕「―輔皆厚」

【肶】ヒ、ビ。必至切 〔寘〕
まつろ（祠）。

【肶】ヘイ、バイ。傍禮切 〔薺〕
髀股、もゝ。

【肷】キツ、キチ。許律切 〔質〕
牛の肉。

【肸】キツ、コチ。黑乙切 〔質〕 許訖切 〔物〕
ケツ、ゲチ。顯結切 〔屑〕
さかんなり（盛）、ふるふ（振）。○〔漢〕「鄉咈―以根レ根兮」。
〔肸肸〕大いなる貌にいふ語、又、人の名。「―・―」。
〔肸々〕盛んなる貌にいふ語。○〔戴表元〕「天・女笑

【肸】ヒ。兵媚切 〔寘〕
邑の名。

【肺】ハイ、ヘ。方廢切 〔隊〕
㊀五臟の一、呼吸をつかさどるもの、六葉兩耳ありて脊の第三椎に附きてありといふ。○〔淮〕「―爲レ氣」。㊁心衷、こゝろ。○〔方岳〕「久覺相如詩―渴」。㊂茂れる貌にいふ字、さかんなり。○〔詩〕「其葉―・―」。
〔膂肺〕心の中のこと。○〔唐〕「人莫能探其―・―」、
〔潤肺〕體内の呼吸器を沾す。○〔開元天寶遺事〕「口吸花露以―レ―」。「―」。
〔肝肺〕まことの心。○〔蘇軾〕「一篇向レ人寫二―・

〔愁肺〕憂への心。○〔李賀〕「旅酒侵二―・―」。
〔心肺〕こゝろ。○〔歷據〕「更無二外事來二―・―」。
〔渴肺〕かわきたる胸の中。○〔鄭蠲〕「枯腸―・―忘二朝飢一」。
〔沽肺〕前に同じ。○〔朱松〕「汲レ井沃二―・―」。

【眇】ベウ、メウ。弭沼切 〔篠〕
脅の下の處。

【脺】サイ、セ。則外切 〔泰〕
拜して容を失ふ。

【䏃】サン。祖管切 〔旱〕
あぶら（脂）。

【胿】ト、ツ。丁姑切 〔虞〕
大腸。

五畫

【胂】チン。丑八切 〔眞〕
㊀身を伸ぶ。㊁せにく、せじし（脢）。

【胂】イ。延知切 〔支〕 シン。升人切 〔眞〕
脊をはさむ肉。

【胃】ヰ。于貴切 〔未〕
（說文）从レ囪从レ肉象形。
㊀上腹の左方にありて食物の消化を司る機器、ゐ、ゐぶくろ。○〔史〕「―・―腧筋微耳」。「朗思來照」。㊁心衷、こゝろ。○〔陸雲〕「淵―往藏」。㊂二十八宿の一、西方にあるもの、こきへ。○〔禮〕「季春之月日在レ―」。
〔腸胃〕腹わたとゐぶくろと。○〔史〕「湔二洗―・―」。
〔洗胃〕ゐぶくろを淸む。○〔南〕「飲レ灰―レ―」。
〔浣胃〕前に同じ。○〔劉基〕「―レ―滌レ腸、絕二去病根一」。

〔補胃〕ゐぶくろをとゝのふ。○〔梁昭明太子〕「調レ腸―レ―」。
〔肝胃〕きもとゐぶくろと、即ち、腹中のこと。○〔蘇軾〕「一笑瀉二―・―」。
〔心胃〕胸の中。○〔蘇軾〕「冷洌淸二―・―」。
〔腂胃〕疫病を驅逐する神の名。○〔後漢〕「―・―食レ虎」。
〔腹胃〕はらの中。○〔韓〕「傷二害―・―」。
〔調胃〕ゐぶくろのはたらきを良くす。○〔名醫別錄〕「―レ―止レ洩」。
〔治胃〕ゐぶくろの病をなほす。○〔本草衍義〕「醉而―レ―」。
〔逆胃〕ゐぶくろを傷ふ。○〔稗諧〕「食レ甘多則損レ―レ―」。
〔裂胃〕ゐぶくろを破る。○〔王粲〕「陷レ心―レ―」。

【冑】チウ、ヂユ。直又切 〔宥〕
㊀系嗣、嫡長、あとゝり、よつぎ、さうりやう。○〔書〕「教二―子一」。㊁後裔、系胤する者、ちすぢ、つゞき。○〔左〕「四嶽之裔―」。
〔世冑〕よつぎ、又、よき系統。○〔宋〕「並用二―・―」。「憂絕二」。
〔華冑〕貴き家の系統。○〔晉〕「衣冠―・―」、宜レ蒙二
〔齒冑〕王の太子の學校に入るに年齡の多少をもて順序を立つること。○〔唐〕「入レ學―・―」。
〔洪冑〕大いなる血すぢ。○〔王僧孺〕「昭々―・―」。
〔國冑〕王の長子。○〔王儉〕「時彥莘々、―・―楚々」。「結納二」。
〔高冑〕高貴の血すぢ。○〔宋〕「名門―・―、多欲二
〔貴冑〕前に同じ。○〔陳〕「非以二―・―充レ之」。
〔門冑〕家の血すぢ。○〔宋〕「―・―雖レ華、而國家不二與姻婭一」。「―」。
〔遠冑〕隔たりし後世の子孫。○〔謝眺〕「帝唐―・―」。
〔餘冑〕前に同じ。○北齊〕「珠洛濱―・―」。
〔末冑〕前に同じ。○〔蔡邕〕「姬稷之―・―也」。
〔遐冑〕前に同じ。○〔摯虞〕「有二軒轅之―・―兮」。
〔支冑〕わかれの血すぢ。○〔唐〕「自レ魏訖レ唐、―・―扶疏」。
〔胤冑〕血すぢ。○〔沈約〕「寵奮二―・―」。
〔緒冑〕前に同じ。○〔陸倕〕「―・―莫レ詳」。
〔皇冑〕帝王の子孫。○〔徐陵〕「本歸二―・―」。
〔名冑〕貴き家の子孫。○〔唐〕「綬既―・―、於二吏事一有二方略一」。

【肰】バツ、マチ。莫葛切 〔曷〕
はら（肚）。

【胅】テツ、デチ。徒結切 〔屑〕
㊀骨差ふ、たがふ。㊁ゐさらひのにく（連脽肉）。㊂はる、ふくる（腫）。○〔淮〕「萬物背レ陰而抱レ陽、沖氣以爲レ和、故曰一月而膏、二月而―」。

【胚】セイ、シヤウ。諸成切 〔庚〕
魚を煮又は肉を煎りなどすること。

【胆】タン、ダン。蕩旱切 〔旱〕
膚を出だす、はだぬぐ。

【胆】タツ、ダチ。當割切 〔曷〕
膽―は、肥えたる貌にいふ語。

【胆】タン。唐干切 〔寒〕
口の脂澤。

【胇】ヘツ、ベチ。蒲結切 〔屑〕
肥えたる肉、又、こゆ。

【胇】ヒツ、ビチ。薄宓切 〔質〕
胇に同じ。

【胇】ヒツ、ビチ。房密切 〔質〕
―肹は、大なる貌にいふ語。

【胇】ハイ、ヘ。芳廢切 〔隊〕
肺に同じ。

【胇】ヒ、ビ。扶沸切 [未]
かわく、(乾)。

【胈】ハツ、バチ。蒲撥切 [曷]
膚の上の小さき毛、にこげ。○[漢]「躬胝胼胝無レ一」。

【胒】ハイ、バイ。蒲蓋切 [泰]
㊀前條に同じ。㊁白き肉。

【胒】ヒツ、ヒチ。僻吉切 [質]
を、(牡)。

【胉】ハク。匹各切 [藥] ハク、ヒヤク。博陌切 [陌]
ひざぼれ、(胴)、又、あばら、(脅)、又、かいがねぼれ、(肩甲)。○[儀]「去レ蹄兩一脊一肺」。

【朐】ク、權俱切 [虞] キヨク、コク。吁玉切 [沃] キヨウ、クヨウ。詡拱切 [腫]
㊀乾肉の屈まれるもの、ほじし。○[禮]「左レ一右レ末」。
㊁とほし、(遠)。○[管]「觀二之風氣一、古之祭者有レ時而一」。
㊂屈まれる貌にいふ字。○[禮、註]「屈一脯一一然也」。
㊃一衍は、戎の名。

【胊】シユン、尺尹切 [軫]
一腮は、漢の縣の名。

【胊】ハク、ホク。北角切 [覺]
箹に同じ。

【胋】テン、デン。徒兼切 [鹽]

【背】ハイ、ヘ。補妹切 [隊]
㊀こゆ、(肥)。
㊁大肉の羹、あつもの。
㊂せ。
(い)身體の後方の頸部より腰部までの稱、せなか。○[孟]「見二于面一盎二于一一」。
(ろ)すべてものゝ前方に反對せる方の稱、うしろ、うら。○[周]「若二一手文一」。
(は)堂の北、古昔は堂を南に面して建つる定めなりしよりいふ。○[詩]「言樹二之一一」。
㊃雲氣の日をまけること、一說に、其の外面に向いてまけるものゝ稱。○[漢]「暈適一穴」。
〔台背〕せなか鮐魚の如くにあり、卽ち、老人のこと。○[詩]「黃髮一一」。「其一一」。
〔拊背〕せなかをうちなづ。○[史]「不レ搤二其肮一一」。
〔相背〕せなかの相好をみる。○[史]「一君之一、貴乃不レ可レ言」。
〔笞背〕せなかをうつ。○[漢]「一二其一一」。
〔鞭背〕前に同じ。○[唐]「逐禁無レ得レ一レ一」。
〔踏背〕せなかをふみにじる。○[漢]「一二其一一以出レ血」。
〔搔背〕爪もてせなかをかく。○[後漢]「令二人一一」。「一一」。
〔炙背〕せなかを火にあぶる。○[何遜]「一レ一豈知レ豪」。
〔沾背〕せなかをぬらす。○[史]「汗出一レ一」。
〔著背〕せなかにつけおく。○[周、詁]「一二其一一」。
〔暴背〕せなかをあらはにしさらす。○[職]「一レ一而耨」。
〔項背〕うなじとせなかと。○[後漢]「監司一一相望」。
〔啼背〕せなかに息を吹きかく。○[後漢、詁]「乃以口一二其一一」。
〔署背〕せなかに書きつく。○[北]「自一二名于一一」。
〔鞭背〕せなかをおさへつく。○[南]「劍一二其一一」。
〔蹴背〕せなかをたゝく。○[北]「以拳一二其一一」。
〔拍背〕前に同じ。○[北]「一二其一一而不レ顧」。
〔傴背〕せなかの曲がり伏すこと、ねこせ。○[舊唐]「蔫肩一一」。
〔灼背〕せなかをやく。○[宋]「一レ一爛レ頂」。
〔銘背〕せなかに刻みつく。○[家語]「參緘二其口一而一二其一一」。
〔爬背〕せなかを爪もてかく。○[蘇軾]「但還二麻姑一更一レ一」。「人抓」。
〔痒背〕かゆきせなか。○[蘇舜欽]「一一恰得二仙人抓一」。

【揹】ハイ、ベ。蒲昧切 [隊]
反面す、孤負す、うしろむく、たがふ、そむく。○[詩]「噂沓一憎」。
〔捐背〕棄てゝそむきゆく。○[潘岳]「良人忽以一一」。「王室」。
〔離背〕心をはなしそむく。○[詩、疏]「不レ欲レ一二一一」。
〔違背〕たがひそむく。○[禮、正義序]「一二一本經」。「約」。
〔反背〕前に同じ。○[晉、傳]「以一二一一詛盟之約一」。
〔翻背〕前に同じ。○[舊唐]「懷二一一之計一」。
〔好背〕そむくことを媿ぢず。○[職]「燕、趙一レ一而食レ地」。
〔悖背〕戾りそむく。○[史]「一一二人道一」。
〔乖背〕前に同じ。○[舊唐]「不二相一一一」。
〔鄉背〕向かひあふとせなかあはせになると。○[洛陽伽藍記]「言二其始終一一一也」。「歸」。
〔逃背〕のがれ去る。○[金]「昔雖二一一一」、今能復一。
〔迴背〕めぐりそむく。○[水經、註]「一一一無レ定」。
〔棄背〕すて去る。○[白居易]「古稱色衰相一一」。

【𦙶】キフ、コフ。乞及切 [緝]
肉の羹、あつもの。

【䏰】ラフ、ロフ。落合切 [合]
膸の字を見よ。

【𦙼】タイ、ダイ。待戴切 [隊]
脊の字を見よ。

【胍】コ、古胡切 [虞] クワ、ク。姑華切 [麻]
一一肫は、大いなる腹。

【胍】コ、グ。胡故切 [遇]
肫一一は、大いなる貌にいふ語。

【胎】タイ。土來切 [灰]
㊀孕みて未だ生まざるにいふ字、(めをやよりいふ)、孕まれて未だ生まれざるにいふ字、(生まるゝ兒よりいふ)、はらむ、はらごもる、くわいにん、はらごもり。○[史]「一一生者不レ殰」。
㊁はらめるめをや、はらみめ、又、はらごもれる生兒、はらのこ。○[禮]「不レ殺レ一」。
㊂めをやのはらみ生兒のはらごもれる機器、はら、こぶくろ。○[陸機]「剖二柔一一於孕豹一」。
㊃すべて物の中に包まれ生じてはらごもりの狀なるにいふ字、又、それを包みたるものにいふ字。○[史]「剖二明月之珠一一」。
㊄體氣の根原。○[九眞中經]「凝レ精堅レ一」。
㊅物事既に起原して未だ形跡の見はれざるを、もさ、はじめ、きざし。○[漢]「禍生有レ一」。
〔夭胎〕少しく長けたるものと腹ごもりの子と。○[漢]「施及二一一」。
〔禍胎〕わざはひのきざし。○[晉]「禍萠一一」。
〔胚胎〕はらむ、又、物のきざすといふ語。○[韓愈]「木氣佳二一一」。
〔竹胎〕竹の子の一名。○[皮日休]「山蔬收時簪二一一」。
〔卵胎〕鳥のたまごと獸のはらごもりと。○[禮]「鳥獸之一一」。
〔刳胎〕はらごもりの獸を殺しさく。○[史]「一レ一殺レ夭、則麒麟不レ至レ郊」。
〔胞胎〕えな。○[參同契]「與二乎一一」。

〔處胎〕腹でもりす。〇〔因果經〕「菩薩ーレー」。
〔出胎〕生まれ出づ。〇〔酉陽雜俎〕「合レ手ーレー」。
〔新胎〕あらたに身でもる。〇〔陳信〕「解レ角ーー」。

【胏】シ。祖似切［紙］
乾きたる臠肉の骨あるもの、ほじし。〇〔易〕「噬ニ乾ーー」。
〔乾胏〕たかの乾して骨ある肉。〇〔唐〕「人莫ニ能探ニ其ーー」。
〔取胏〕ほじしの骨あるものを手に執る。〇〔唐〕「令ニ冠者ーレー以授ニ皇太子」。

【胜】胏に同じ。

【⿰月示】シ、ジ。時吏切［寘］
肉生ず。

【胐】コツ、クチ。苦骨切［月］
㊀ゐさらひ（臀）。
㊁あしのひきかゞみ（曲脚）。

【胐】タツ、テチ。張滑切［黠］
剳の疾。

【胑】シ。旨而切［支］
肢に同じ。〇〔淮〕「四ーー不レ動、四慮不レ用」。

【⿰月冊】サン。相干切［寒］
あぶら（脂肪）。

【⿵冂肉】カ、ケ。居牙切［麻］
㊀かさぶた（瘡痂）。
㊁ひぜんかさ（疥）。

【胒】デイ、ナイ。乃計切［霽］
㊀こゆ（肥）。

㊁骨さ肉さを搏ちたゝきて汁を無くなしたる志ほから、たゝき。

【胓】ヘイ、ビヤウ。蒲兵切［庚］
牛羊の脂、あぶら。

【胓】ハウ、ヒヤウ。披耕切［庚］
腹脹る、ふくろ。

【胔】シ。資四切［寘］
肉尚ほ存する殘骨、一説に、存する肉の已に腐りたる殘骨。〇〔禮〕「掩レ骼埋レー」。
〔埋胔〕殘りの骨をうめやる。〇〔禮〕「掩レ骼ーレー」。
〔曝胔〕日にさらされたる殘りの骨。〇〔梁簡文帝〕「ーー未レ收」。

【胔】シ。疾移切［支］
㊀ー蠵は、水族の名、うみがめ。〇〔左思〕「摸ニ蟕蝟ー捫ニー蠵ー」。
㊁みづわた（水腸）。〇〔淮〕「海水雖レ大不レ受ニー芥ー」。

【胔】セキ、ジヤク。秦昔切［陌］
やす（瘦）、やむ（病）。

【胕】腑に同じ。〇〔揚雄〕「肺ーー之行」。

【胕】フ。風無切［虞］
㊀あし（足）。〇〔戰〕「跗中膝折、尾湛ー潰」。
㊁はれもの（腫）。〇〔山海經〕「竹山有レ草焉、其名曰ニ黄藿ー、浴レ之已レ疥、又可ニ以已ーレー」。

【胖】ハン。普半切［翰］
㊀牲の半體、かたみ。〇〔周〕「凡掌下共ニ羞脩刑膴ー、骨鱐ー以待ち共レ膳」。
㊁脊側の薄き肉、一説に、廣き肉。〇〔禮〕「鵠鴞ー」。
〔膴胖〕骨なきはじしと鳥獸の肉のかたみと。〇〔周〕「凡祭祀共ニ豆脯薦脯ーー」。
〔二胖〕いけにへのかたみ。〇〔儀、疏〕「故唯亨ニーー也」。

【胖】ハン、バン。蒲官切［寒］
大いなり、安舒なり、ゆたかなり。〇〔大〕「心廣體ー」。

【胖】ハン。補綰切［潸］
脊を夾む肉、せじし。

【⿰月皮】ヒ。甫委切［紙］
こゝ（肉）。

【胗】シン。止忍切［軫］　キン。居忍切［軫］
かさ（創）、くちひゞ（脣瘍）。〇〔宋玉〕「中レ脣爲レー」。
〔癮胗〕皮膚に小さく起てる創、かざはろし。〇〔廣韻〕「ーー皮外小起」。

【⿰月尓】俗の胗の字。

【胘】ケン、ゲン。胡田切［先］
㊀牛のゐぶくろ。
㊁胃の厚き肉。

【胙】ソ、ズ。存故切［遇］　サク、ザク。疾各切［藥］
㊀祭に供へたる肉、ひもろぎ、祭祀を終へて頒け配る。〇〔左〕「使ニ宰孔賜ニ齊侯ーー」。
㊁むくゆ（報）。〇〔左〕「ーニ之土ー」。
㊂さいはひ（福）。〇〔國〕「天地所レー」。
㊃くらゐ（位）。〇〔國〕「反ニー於絳ー」。
〔賜胙〕ひもろぎを下したまはる。〇〔後漢〕「論レ功ーレー」。「ーニ於堂上ー」。
〔受胙〕ひもろぎを拜受す。〇〔左、註〕「自ニ堂下ー」。
〔歸胙〕ひもろぎをおくる。〇〔左〕「ーニー于公ー」。
〔祭胙〕神を祭るときに供ふる肉。〇〔左、註〕「故賜以ニーーー」。「子ーレー」。
〔致胙〕ひもろぎをおくる。〇〔史〕「孝公二年天子一殿ーニ于九廟ー」。
〔薦胙〕ひもろぎを神にさゝぐ。〇〔陳諫勸聽政表〕「ーー」。
〔福胙〕祭りの餘りの肉。〇〔蘇軾〕「東朝歸ニーー」。
〔餘胙〕前に同じ。〇〔陸游〕「ーー殘雞手自携」。
〔豐胙〕ゆたかなるさいはひ。〇〔宋〕「永膺ニーー」。「與ーーー」。
〔廟胙〕宗廟に供へたる祭りの肉。〇〔魏武帝〕「賜ニーー」。

【⿰月主】チユ、ヂユ。重主切［麌］
身の直なる貌にいふ字。

【⿱夗月】ワン。烏貫切［翰］
うで（手腕）。

【胚】ハイ。鋪枚切［灰］　フウ、フ。匹尤切［尤］
孕みて一月さなるにいふ字、はらみ、はらごもり、轉じて、物事の起原、はじめ。〇〔郭璞〕「類ニーー渾之未レ凝」。

【胆】ショ、ソ。千余切［魚］　七慮切［御］
肉の中に蠅の生みたる蟲、うじ。

【胛】カフ、ケフ。古狎切［洽］
胷脅さ相會闔する背上の骨、かいがねぼね、又、背上兩膊の閒、かたのあはひ。〇〔後漢〕「中レ矛貫レー」。
〔髀胛〕ひぢと肩のあはひと。〇〔南〕「ーー肥耳」。
〔裂胛〕せなかをおほふ。〇〔南〕「乃加ニ雲霞布ー」。ー」。
〔袒胛〕肩はたをぬぐ。〇〔水經、註〕「如ニ人ーーー」。

【胴】シ。息利切〔寘〕
あたまのふた、(腦蓋)。

【胜】セイ、シヤウ。桑經切〔青〕
㊀犬の膏臭し。㊁雞の膏。
㊂熟せざるを、なま。

【胜】セイ、シヤウ。七正切〔敬〕
——遇は、鳥の名。○〔山海經〕「玉山有レ鳥焉、名曰二——遇一」。

【胜】サウ、シヤウ。所庚切〔庚〕
饋肉、おくるしゝ。

【胝】テイ、タイ。張尼切〔齊〕
勞作に因りて手足の皮の厚く堅くなり又は裂け傷るゝにいふ字、たこ、あかゞり。○〔漢〕「躬胝胼——無レ胈」。
〔胼胝〕ひゞのきるゝこと。○〔呂氏春秋〕「手足——」。
〔辮胝〕前に同じ。○〔孟康〕「禹勤——、無レ有二毳—」「毛—也」。
〔累胝〕ひゞをかさねきらす。○〔高誘〕「重繭——也」。
〔瘢胝〕胝のあと。○〔蘇軾〕「糗糊半已似二——」。

【胝】シ。稱脂切〔支〕
㊀鳥の胃。㊁牲體本。

【胝】テイ、タイ。丁計切〔霽〕
前條の㊁に同じ。

【胞】ハウ、ヘウ。披交切〔肴〕
㊀胎内の兒を包みたる衣の如きもの、えな。○〔漢〕「善臧二我兒——」。
㊁面に氣を生ずること、もがさ。○〔職〕「夫瘍雖·腫—二癰·疾一」。
〔同胞〕兄弟のこと。○〔北〕「——共·氣、家·國所レ憑」。「—之異二」。
〔紫胞〕むらさきの色したるえな。○〔南〕「有二——、
〔出胞〕えなをぬけ出づ。○〔宋〕「兒已レ—、而—手誤執二母腸一」。
〔脫胞〕前に同じ。○〔參同契〕「兒—レ—而乳巳生」。
〔緊胞〕えなをつなぐ。○〔雲笈七籤〕「女以—レ—」。

【胞】フウ、フ。方鳩切〔尤〕
前條の㊀に同じ。

【胞】庖に同じ。○〔莊〕「——人」。

【胟】拇に同じ。

【胠】キョ、コ。去魚切〔魚〕
㊀わき、(脅)。○〔素問〕「喘而兩——滿」。
㊁ひらく、(發)。○〔莊〕「將下爲二——レ篋探レ囊發レ匱之盜一而爲中守備上」。
㊂さる、(去)。○〔荀〕「儵·鮴者浮·陽之魚也、——二於沙一而思レ水則無レ逮矣」。
㊃軍の左右翼、そなへ。○〔左〕「狼·蘧·疏爲二右——」。
〔支胠〕旁、わき。○〔素門五藏生成論〕「有二積氣一、在二心下——一」。
〔兩胠〕兩方のわき。○〔素問大奇論〕「喘而——滿」。

【胠】キョ、コ。丘據切〔御〕　口舉切〔語〕

【胠】ケフ、コフ。乞業切〔葉〕
前條の㊀に同じ。

【胠】カフ、ケフ。苦洽切〔洽〕
前々條の㊁に同じ。

【胡】コ、グ。洪孤切〔虞〕
㊀垂れ下がれる頷の肉、あごのたれにく、のどのたれにく。○〔詩〕「狼跋二其——」。
㊁くび、(頸)。○〔漢〕「日磾捽レ—」。
㊂なに、なんぞ、いづくんぞ、(何)。○〔書〕「弗レ慮—獲、弗レ爲—成」。
㊃いのちながし、(壽)。○〔詩〕「——考之寧」。
㊄おきな、(老)。○〔左〕「雖レ及二——耇一」。
㊅戈の鋒の曲がりて旁に出でたるもの、かま、又、戈の柄に內る處、ほこのくび。○〔周〕「戈—三レ之、戟—四レ之」。
㊆大いなり、遠し。○〔儀〕「眉·壽萬·年、永受二——福一」。
㊇鼉の簴を懸くる橫木。○〔揚雄〕「—以懸レ㯿、關·西謂二之綠一」。
㊈瑚に同じ、禮器。○〔左、註〕「胡·簋禮器夏曰レ—」。
㊉蒙古地方の民族、えびす。○〔晉〕「羌·—健·兒」。
⑪菰米、まこものみ。○〔漢〕「東·藩彫—」。
⑫糊に同じ、のり、ぬる。○〔釋名〕「—糊也、和レ脂以塗レ面」。
⑬方形の丘。○〔爾〕「方丘——丘」。
⑭聲の喉閒に在るにいふ字。○〔唐〕「含レ—而絕」。
〔由胡〕草の名、しろよもぎ。○〔爾〕「蘩——」。
〔鵜胡〕鳥の名、がらんてう。○〔爾、註〕「鵜——」。
〔盧胡〕笑聲の喉の閒に在ること、卽ち、口を開きて大いに笑ふことにいふ語。○〔孔叢子〕「——大笑」。
〔鑊胡〕戟の名。○〔揚雄〕「凡戟而無レ刃、東·齊、秦晉之閒謂二其大者一曰二——一、其曲者謂二之鉤·釨——一」。
〔頷胡〕のどのたれにくをいふ。○〔詩、傳〕「老·狼有レ胡、進則—二其—一」。
〔曼胡〕粗にして文なき纓。○〔莊〕「——之刃、短·後之衣」。
〔彊胡〕勢強きえびす。○〔司馬遷〕「橫挑二——一」。
〔垂胡〕したくびたれ下がる。○〔陸游〕「形容二牛·老已——」。
〔矮胡〕丈ひくきえみし。○〔張孝祥〕「——雖二木·強一、醇·德元無レ涯」。
〔肥胡〕幡のこと。○〔國〕「建二——一」。
〔瓏胡〕私かに咽びかたる。○〔後漢〕「請爲二諸君一鼓二——一」。

【胡】コ、グ。胡故切〔遇〕
くび、(頸)。

【月古】コ、ク。空胡切〔虞〕
さらす、(曝)。

【月古】股に同じ。

【月尻】カウ、コウ。丘刀切〔豪〕
しり、(脽)。

【胣】チ。丑豸切　イ。演爾切　シ。賞是切〔紙〕
腸を刳く、さく。○〔莊〕「昔者龍·逢斬、比干剖、萇·弘—」。

【胤】イン。羊進切〔震〕
㊀子孫相承續するにいふ字、うく、つぐ。○〔書〕「予乃—レ保、大相二東·土一」。
㊁承續せる子孫、つゞき、ちつゞき、ちすぢ、たね。○〔書〕「罔レ非二天·——一」。
㊂ならふ、(習)。○〔詩〕「永錫二祚——一」。
〔傳胤〕世つぎを授く。○〔後漢〕「孝·明——」。
〔苗胤〕苗裔といふに同じ、子孫たること。○〔後漢〕「賈」「恂·々——」。
〔枝胤〕系統。○〔牛僧孺〕「——茂·秩、眾·々而—」。
〔洪胤〕大いなる種。○〔褚白馬賦〕「寶二先·景之——一」。

(來胤) 後世の子孫。○〔晉〕「播ニ—·—ニ垂ニ後昆ニ」。
(祖胤) 祖先よりの傳授。○〔北夢瑣言〕「禪門有ニ—·—ニ」。
(曲胤) まがる。○〔長笛賦〕「詳觀ニ夫—·—之繁·會叢雜ニ」。
(帝胤) 帝王の子孫。○〔蔡邕〕「姜·肱出ニ自ニ—·—ニ」。
(昭胤) あきらかに繼ぐ。○〔蔡邕〕「—·—休序」。
(賢胤) かしこくすぐれたる子孫。○〔王粲〕「—·—承レ統」。
(淑胤) 善良なる子孫。○〔陸機〕「誕ニ生—·—ニ」。
(名胤) 名譽あるよつぎ。○〔潘岳〕「積善餘慶、啓ニ茲—·—ニ」。
(皇胤) 帝王の子孫。○〔謝靈運〕「率·敷ニ功于—·—ニ」。「公侯—·—」。
(家胤) 長上たるたね。○〔駱賓王〕「皇·唐舊臣、—·—」。
(後胤) 子孫のこと。○〔張純如〕「等ニ康成之—·—、克紹ニ家聲ニ」。

【胥】 ショ、ソ。相居切 魚 / 寫與切 語
㊀蟹醢、かにのしほから。○〔周、註〕「靑·州之蟹—」。
㊁あひ(相)。○〔書〕「—克—匡」。
㊂みな(皆)。○〔詩〕「民—然矣」。
㊃たすく(助)。○〔漢〕「—ニ靡之ニ」。
㊄もちふ、まつ(須)。○〔史〕「—ニ後·令ニ」。
㊅みる(視)。○〔管〕「與レ人相—」。
㊆繇役に供する者、こもの、こやくにん。○〔周〕「—·師、二·十·肆則一·人、皆二·史」。
㊇舞樂を司る者。○〔禮〕「—鼓レ南」。
㊈辭句に添ふる助字。○〔詩〕「侯·氏燕—」。
㊉蝴蝶、こてふ。○〔列〕「蝴·蝶—也」。
(樂胥) たのしむ。○〔詩〕「君·子—·—」。
(閭胥) 官の名、村里の小役人。○〔周〕「—·—各掌ニ其閭之徵·令ニ」。
(小胥) 周時代の官の名。○〔周〕「—·—掌ニ國·士」「之徵·令ニ」。
(大胥) 前に同じ。○〔周〕「—·—掌ニ學·士之版ニ」。
(蟹胥) かにのひしほ。○〔庾信〕「鼎肴異ニ—·—ニ」。
(徒胥) 小役人のこと。○〔逸〕「總ニ—·—禁ニ豪·猾ニ」。
(諂胥) 僕婢、又、儲蓄。○〔尙書大傳〕「皆ニ其人—者皆ニ其—·—ニ」。
(靈胥) 海神の名。○〔左思〕「習ニ御長·風ニ、狎ニ翫靈胥ニ」。
(僮胥) こもの。○〔牟融〕「醇·甘逮ニ—·—ニ」。

【䏱】 腩に同じ。

【胦】 アウ、オウ。於江切 江
—肛は、伏さゞる人。

【胦】 ヤウ、於良切 陽 / アウ。倚朗切 養
脖—は、へそ(臍)。

【服】 ハン。邦貫切 翰 — 服と同じからず。
しゝ(肉)。

【服】 腷に同じ。

【賀】 カ、ケ。古暇切 禡
—膠は、密ならざるにいふ語。

【脄】 ハイ、マイ。毛載切 隊
背の傍の肉、せじし。

【胔】 シ。此移切 支
みづぶくろ(子腸)。

六畫

【脉】 ヒヨウ。披冰切 蒸
腹のふくろゝ貌にいふ字。

【胋】 テン、ドン。徒兼切 鹽
こゆ(肥)。

【䏦】 クワツ、ケチ。古滑切 黠
あぶら(脂)。

【胭】 エン。烏蓮切 先
㊀のんど(喉)。
㊁—脂は、燕脂に同じ、べに。

【䏧】 ダ、チ。女加切 麻
賀—は、密かならざるにいふ語。

【䏧】 シ。敕尒切 紙 / ダ、チ。女下切 馬 / タ、テ。丁可切 哿 / 乃嫁切 禡
肉物の肥えて美なるにいふ字。○〔詩、箋〕「庶—也」。

【胮】 ハウ、ボウ。皮江切 江
—肛は、脹大になる、はる。

【䏉】 キヤウ、去王切 漾 / 去羊切 陽 / カウ。切
腹中寛し、ひろし。

【胯】 コ、ク。苦故切 遇 / クワ、ケ。枯瓜切 麻 / 苦化切 禡
兩股の閒、また。○〔史〕「不レ能レ死出ニ我—下ニ」。
(帶胯) おびの飾り。○〔白居易〕「通·犀排ニ—·—ニ」。
(鈿胯) 帶につくる飾り。○〔白居易〕「帶纍ニ—·—花腰重」。
(肘胯) ひぢとまたと。○〔蘇軾〕「偪·仄入ニ—·—ニ」。

【胯】 カイ、ケ。枯買切 蟹
膀肥なる貌にいふ字、やはらかにこゆ。

【胰】 イ。延知切 支
脊を夾む肉、せじし。

【胰】 䏿に同じ。

【胱】 クワウ、ワウ。姑黃切 陽
膀—は、ゆばりぶくろ、せうべんぶくろ、腹部の中にあり溺を湛ふる嚢の如きもの、薄き膜より成る。○〔素問〕「膀—者州·都之官、津·液藏焉、氣化則能出」。

【胲】 カイ、ガイ。柯開切 灰
足の大指、一説に、そなはる(備)。○〔莊〕「臘者有ニ膍—ニ、可レ散而不レ可レ散也」。

【胲】 カイ、ケ。居亥切 賄
頰の肉、ほゝ。○〔漢〕「樹ニ頰—ニ」。

【胳】 カク。剛鶴切 藥
腋の下、わき。○〔博雅〕「—謂ニ之腋ニ」。

【胳】 カク、キヤク。各額切 陌
牲の後の脛の骨、すねぼね。○〔儀、註〕「後·脛·骨二、膊—也」。

【胴】 トウ、ヅ。徒弄切 送
大腸、ふさわた。○〔抱朴〕「雄·黃服·餌之法、以ニ玄—腸ニ裹蒸ニ之於赤·土下ニ」。

【胴】 トウ、ヅ。杜孔切 董
侗—は、直き貌、又、形狀。

【胵】 シ。稱脂切 支
鳥の藏、牛の百葉、ゐぶくろ、ゑぶくろ。

【胵】 チ。陟利切 寘
こゆ(肥)。

【胵】チツ。陟栗切 質
郅に同じ、郁—は、地の名。

【䏰】イ。與之切 支
豕の息肉、あましゝ。

【脏】脤に同じ。

【胶】カウ、ゲウ。何交切 肴
㊀こゑ、(聲)。㊁はぎのほね、(脛骨)。

【胸】キヨウ、ク。虛容切 冬
むね。(い)腹と喉との間の兩乳房のある處。○〔莊〕「毀レ首碎レ—」。(ろ)心情、こゝろ、おもひ。○〔列〕「死·生驚·懼不レ入二乎其—一」。(は)衣背、えもん。○〔左〕「魏·華東レ—見二使·者一」。(に)前面。○〔左思〕「開二—殷·衛一」。(ほ)むねの狀なるものに借りいふ字。○〔戰〕「魏天·下之—·腹」。

(傷胸)むねに負傷す。○〔左〕「—於—ニ」。
(搶胸)むねをうつ。○〔晉、註〕「拊レ心謂二—レ—也」。
(拄胸)むねをつく。○〔戰〕「右手—二北—一」。
(穴胸)むねをつき貫く。○〔唐〕「殞首—レ—」。
(貫胸)前に同じ。○〔山海經〕「鑿レ首—レ—之長」。
(穿胸)前に同じ。○〔陸倕〕「—レ—露頂之豪」。
(洞胸)前に同じ。○〔子虛賦〕「—レ—達レ腋」。
(披胸)むねをおしひらく。○〔列〕「—レ—受レ矢」。
(充胸)むねに塞がる。○〔淮〕「怨·尤—レ—」。
(龜胸)龜の甲の如くになりたるむね。○〔南〕「生而—·—」。
(滿胸)むねの中に充滿す。○〔委宛子〕「智·能—レ—之人」。
(拳胸)むねをさする。○〔指目錄〕「以レ手—レ—」。

【胷】胸に同じ、○〔史〕「大·膺大·—」。

【腇】クワイ、ケ。呼罪切 賄　タイ、テ。都回切 灰
腲—は、大いに腫るゝ貌にいふ語、はる。

【胹】ジ、ニ。人之切 支
煮爛す、煮熟す、にすごす、たゞらす、にる。○〔左〕「宰·夫—二熊·蹯一不レ熟」。
(任胹)よく養る。○〔揚雄〕「—·—酷熟也」。
(烹胹)かなへもて物を煮る。○〔皇甫松〕「蓬·俎「緒·餘二—·—」。
(調胹)物を料理す。○〔王安石〕「幕·府—·—用ユ」。

【䏐】キフ、コフ。迄及切 緝　アフ、オフ。遏合切 合
肩の立ち起ころにいふ字、そびゆ。

【胺】アツ、アチ。阿葛切 曷
肉の敗れて臭氣を生ずるにいふ字、くさる。

【䘏】セツ、セチ。先結切 屑
あぶら、(脂)、一說に、臆中の脂。

【脢】ボウ、ム。迷浮切 尤
せ、せなか、(脊)。

【胻】カウ、ギヤウ。何庚切 庚
はら、(肚)。

【胻】カウ、呼郎切 陽　カウ、ギヤウ。下梗切 梗　下孟切 敬
はぎ、(脛)。○〔史〕「壯·士斬二其—一」。

【肥】ヲ、ヱ。於靴切 麻
手足の曲がる病。

【䏏】コン、ゴン。胡恩切 元
足の後、くびす、きびす。

【胼】ヘン、ベン。蒲眠切 先
跰に同じ、たこ、あかゞり。

【能】ドウ、ノウ。奴登切 蒸
㊀骨節充實せる一種の獸。○〔說文〕「—獸堅·中故稱二賢·能一」。㊁よくす。(い)堪へ善くす、たふ、あたふ。○〔史〕「弗レ—レ援」。(ろ)順習す、ゑたがへならす、ゑたがひならふ。○〔詩〕「柔レ遠—レ邇」。㊂物事をよくする才力、はたらき、ちから。○〔呂氏春秋〕「使二我畢一レ—」。㊃よくする所の藝術、わざ。○〔詩〕「各奏二爾—一」。㊄才力藝術の多きこと、又、才力藝術多き人。○〔周〕「四曰、使レ—」。㊅堪へて、習れて、よく。○〔史〕「已知二將·軍—用一レ兵」。

(爭能)はたらきを競ふ。○〔書〕「天·下莫二與レ汝—一」「—」。
(使能)才知あるものを任用す。○〔禮〕「唯其人「—」。—レ—也」。
(拔能)才知あるものを引用す。○〔禮〕「舉レ賢—」。
(無能)才知なし。○〔禮〕「弼·々若レ—レ—也」。
(十能)十たびして善くす。○〔禮〕「人—レ—之、己千レ之」。
(興能)才知あるものをあげ用ふ。○〔周〕「使二民—一、入使レ治レ之」。
(多能)技能さはにあり。○〔論〕「固天縱レ之將聖、又—·—也」。
(不能)才知なきもの。○〔論〕「嘉レ善而矜二—·—一」。
(伎能)善くするのわざ。○〔史〕「無二他—·—一」。
(殊能)特別なる才知。○〔晉〕「雖レ無二—·—一、而庶·績咸·理」。
(竭能)才知の及ぶかぎりをつくす。○〔管〕「賢·聖無レ從レ—レ—」。
(程能)伎能の多少を計る。○〔韓〕「—レ—而授レ事」。
(擢能)才知あるものを拔き出だし用ふ。○〔劉子〕「—二—于屠·販一」。
(簡能)才知あるものを撰び用ふ。○〔後漢〕「尋レ功—レ—」。
(護能)才知ある者に己れの位地を與ふ。○〔書〕「推レ賢—レ—」。
(賢能)德あるものを賢といひ才知あるものを能といふ、共に世に傑出したる士にいふ語。○〔周〕「獻二—·—之書于王一」。
(任能)才知のはたらきあるものに責を負はしむ。○〔晉〕「委レ賢—レ—」「—而讓二其下一」。
(尙能)才知あるものを貴重す。○〔左〕「君·子—レ—」。
(驕能)才知あるを恃みて人にたかぶる。○〔左〕「無レ敖レ禮、無レ—レ—」。
(智能)才智能力。○〔史〕「故李·牧得レ盡二其—·—一」。
(才能)前に同じ。○〔史〕「此兩·人非レ有二—·—一」。
(吏能)官吏としての才知あること。○〔後漢〕「以二其—·—一昇二主·簿一」。

【胅】俗の胾の字。

【胾】シ。側吏切 寘
切りたる肉、きりにく、きりみ、ゑゝむら。○〔漢〕「獨置二大—一」。

(右胾)切りたる肉を右に向く。○〔左〕「左レ殽—」「—」。
(牛胾)うしの切りたるゑゝむら。○〔禮〕「醯二—·—一」。
(大胾)おほきく切りたる肉。○〔史〕「獨置二—·—一」。
(炮胾)炙りたる切りにく。○〔沈約〕「口絕二—·—一」。
(炙胾)前に同じ。○〔急就篇〕「膹·膾—·—各有レ形」。
(食胾)切りたる肉をはむ。○〔禮〕「主·人延レ客—」「食—レ—」。
(薦胾)切りたる肉をすゝむ。○〔儀、通解〕「上二佐以啖二賓·佐一」。
(割胾)肉を裁割す。○〔冊府元龜〕「—·—方寸」。
(䏎胾)切りたる肉。○〔蔡邕〕「煎二熬—·—之閒」。
(嚼胾)切りたるゑゝむらを食らふ。○〔韓〕「不レ—·—二其—一者也」。
(枯胾)乾したる切り肉のこと。○〔張來〕「買レ餅瑠

【眭】ケイ、ケ。涓畦切 齊
大いなる腹、又、はらふくろ。

【眭】ケイ、ケ。睽桂切 霽
あな、(孔)。

【脀】ショウ。辰陵切 蒸
㊀おろか、(騃)。
㊁脟—は、はろ、(腫)。
㊂牲肉を鼎に實り又は俎に升す、のぼす、もろ、又、其の牲肉、もりもの、いけにへ。○〔儀〕「脯醢無レ—」。
〔祭脀〕肺を祭るときいけにへを俎の上にのぼす。○〔儀〕「宗人告二——一」。
〔殺脀〕骨ある肉を俎の上に升す。○〔儀〕「皆—‐位一」。
〔薦脀〕いけにへを供す。○〔儀〕「其—レ—設二於其

【脇】イウ。ウ。羽求切 尤
疣に同じ。

【脠】ショウ。諸丞切 蒸
にろ、(熟)。

【朓】テウ。他弔切 嘯
祭りの名、又、祭りの肉。

【脁】エウ。餘招切 蕭
うつくし、よし、(好)。○〔揚雄〕「—說‐好也」。

【脂】シ。旨夷切 支
㊀肉中の粘き液の凝りて柔滑なるもの、あぶら。○〔詩〕「膚如二凝——一」。
㊁美なると、榮ゆると。○〔揚雄〕「出レ泥入レ—」。
㊂あぶらを生ず、あぶらづく、又、肥ゆ。○〔博雅〕「人二—月而—」。
㊃あぶらを塗りて物をなめらかならしむ、あぶらさす。○〔詩〕「載—載舝」。
㊄紅藍(くれあゐ)の花の汁より製したる紅色のもの、べに。○〔正字通〕「後人用爲二口——一」。
㊅べにを脣に塗る、べにさす。○〔何中〕「濃粉深—」。
〔脣脂〕べに。○〔釋名〕「——以レ丹作レ之、象二脣赤一也」。
〔竊脂〕鳥の名、嘼田が肉を食らふ、好みて脂膏を盜む、因て此名あり、俗に青雀ともいふ。○〔詩、傳〕「桑扈——也」。
〔販脂〕あぶらを賣る。○〔史〕「—レ—辱處也」。
〔膏脂〕前に同じ。○〔徐陵〕「—レ—藏レ腑」。
〔畫脂〕かたまれるあぶらに えがく。○〔鹽鐵論〕「—レ—鏤レ氷」。
〔然脂〕あぶらをもやす。○〔魏〕「夜—レ—照二城外一」。
〔多脂〕脂肪かさはにあり。○〔易林〕「肥腯—レ—」。
〔聚脂〕寄りあつまれるあぶら。○〔抱朴〕「其皮中有二——一」。
〔丹脂〕赤き色のあぶら、べに。○〔拾遺記〕「皆以二——一熟レ傾」。
〔燕脂〕べに。○〔正字通〕「——以二紅藍花汁一凝脂爲レ之」。

【脂】シ。軫視切 寘
指に同じ、ゆび。

【䏝】セイ、セ。切 卅芮 霽 セツ、セチ。切 促絕 屑

【脆】ソツ、ソチ。切 蒼沒 月
㊀破れ易し、斷ち易し、よわし、やはし、もろし。○〔晉〕「城—致レ衝」。
㊁かろし、(輕)。○〔後漢〕「風俗—薄」。
㊂欲す。

【脥】バイ、メ。切 謨杯 灰 切 莫佩 隊
切 莫賄 晦 ビ、ミ。切 茫歸 微
脊(せぼね)の傍の肉、せにく。○〔楚辭〕「敦——血拇逐レ人駓駓些」。

【脅】ケフ、コフ。迄業切 葉
㊀わき。
(い)腋の下にて胸の側なる所、あばら、わきばら。○〔史〕「折レ—摺レ齒」。
(ろ)旁側、かたはら。○〔顧況〕「滄島之—有二白沙之墟一」。
㊁おびやかす。
(い)威力を用ひて人を恐す、おどす、おびやす。○〔書〕「——從罔レ治」。
(ろ)責め求む、せむ。○〔公羊〕「以二朱絲一營レ社、或曰—レ之」。
㊂をさむ、(收斂)。○〔漢〕「動靜辟——」。
〔駢脅〕一枚あばら。○〔吳都賦〕「旌—‐駢——」。
〔比脅〕前に同じ。○〔論衡〕「公子重耳——爲二諸侯一」。
〔腐脅〕わきのしたをくさらす。○〔沈遼〕「伯仁憂二——一」。
〔外脅〕そとがはに向かふわきのした。○〔詩、箋〕「著二服馬之——一」。
〔壓脅〕わきの下をおさへつく。○〔禮〕「上毋レ—レ—」。
〔挾脅〕わきの下にかいこむ。○〔杜牧〕「或以二長矛一—レ—」。
〔剖脅〕わきの下をさく。○〔晉〕「—レ—生レ子」。
〔傷脅〕わき骨をやぶる。○〔晉〕「因レ酒墜—レ—」。
〔胷脅〕むねの中、即ち、心のこと。○〔晉〕「禁藏二于——之内一」。
〔鼓脅〕わきの下を鳴らす。○〔王令〕「——亦有レ聲」。
〔劫脅〕おびやかす。○〔魏〕「——二—使者一」。
〔迫脅〕つめかけおびやかす。○〔漢〕「——二—王侯一」。
〔逼脅〕つめよせおびやかさる、又、おびやかす。○〔晉〕「脅二——一之罪一」。
〔威脅〕おどしつく。○〔晉〕「將下以——二—朝廷一、傾中危社稷上」。
〔恐脅〕前に同じ。○〔梁武帝〕「更相——、以求二財帛一」。
〔威脅〕墨ぎれびやかす。○〔韓〕「——二—有道之士一」。
〔驅脅〕かり催しおどす。○〔賈誼〕「——二—丁壯一」。
〔汚脅〕穢しれびやかす。○〔陸游〕「橫遭二——一」。

【脅】ケン。許欠切 豔
さまたぐ、(妨)。

【脅】キフ、コフ。迄及切 緝
體を高く立つ、そびやかす。○〔孟〕「—レ肩諂笑」。

【脆】俗の脃の字、もろし、かろし。
○〔韓〕「有二方圓則有二堅——一」。
〔甘脆〕あまくして柔かなり、即ち、うまき味にいふ語。○〔史〕「旦夕得二——一」。
〔耎脆〕軟くもろし、即ち、弱きとにいふ語。○〔漢〕「不‐王數以二——一之玉體一、犯二勤勞之煩毒一」。
〔柔脆〕前に同じ。○〔老〕「萬物草木之生也——」。
〔遳脆〕前に同じ。○〔魏都賦〕「肆賓——」。
〔新脆〕あたらしくして柔かなり。○〔周邦彥〕「夏果收二——一」。
〔輕脆〕かろがろしくしてうすし。○〔晉〕「吳人——、終無二能爲一」。
〔危脆〕安固ならぬ。○〔南〕「人生——、宜レ有二遠慮一」。
〔淡脆〕さわやかにして柔かなり。○〔南海百詠記〕「鮮甜——」。
〔貞脆〕正固なると柔かなると。○〔韋應物〕「——各有レ終」。
〔肥脆〕ふとりて柔かなり。○〔北戶錄〕「——偏堪レ爲レ炙」。
〔淸脆〕きよく柔かなり。○〔白居易〕「——秋絃管」。
〔凍脆〕こほりて斷ち易くなる。○〔皮日休〕「柳帶——攢二闌干一」。
〔呈脆〕柔かなるさまをあらはす。○〔陸游〕「瓶貫珠二而—レ—」。
〔浮脆〕安固ならず。○〔陸游〕「吾曹——不二自悟一」。

〔嬌脆〕なまめかしく柔かなり。〇楊萬里「酥瑩――手輕拈」。

【脇】　脅に同じ、わき。〇〔國〕「聞ニ其駢―ニ」。

【脈】　バク、ミヤク。莫白切　陌

㊀すぢ。
(い)動物の體中に血の運行連絡する經路、ちのみち、ちのすぢ、血理。〇〔左〕「亂氣狡憤、陰血周作、張―僨興」。
(ろ)すべて物事の貫通連絡して系統をなすものにいふ字、みち、つづき。〇〔水經、註〕「知ニ許偉君曉ニ知水――、召與議レ之」。
㊁ちのすぢの動靜を候して病狀を察するを。〇〔史〕「至レ今天下言レ―者由ニ扁鵲ニ也」。
㊂連絡す、まさふ、つゞく。〇〔楚辭、註〕「心中膷―時々竊視」。

〔血脈〕血脈の流通する筋。〇〔史〕「動ニ盪――ニ」。
〔地脈〕土地のつゞけるすぢ。〇〔史〕「不レ能レ無レ絶ニ――ニ」。
〔診脈〕血のすぢを察す。〇〔史〕「特以レ―レ―爲レ名耳」。
〔察脈〕前に同じ。〇〔王洙談錄〕「治レ疾―レ―」。
〔切脈〕前に同じ。〇〔史〕「不レ待ニ―レ―望レ色聽レ聲寫レ形」。
〔水脈〕水の流通するすぢ。〇〔魏〕「爲レ之絡ニ――ニ」。
〔絡脈〕血液のすぢを切斷す。〇〔論衡〕「―レ―而死」。
〔色脈〕顏色と血脈と。〇〔史〕「合ニ――ニ」。
〔喜脈〕血脈を察して病を醫することを好む。〇〔史〕「―レ―來學」。
〔平脈〕異狀なき脈。〇〔史、註〕「其脈沉而滑名ニ――ニ也」。
〔苗脈〕末のつゞき。〇〔金〕「訪ニ察銅鑛――ニ」。
〔正脈〕正常なる系統。〇〔宋〕「此孔孟――也」。

〔支脈〕わかれの系統。〇〔宋元〕「――崑崙析」。
〔按脈〕血液の流通を考察す。〇〔素問〕「善診者察色―レ―」。
〔筋脈〕血すぢ。〇〔素問〕「――和同」。
〔國脈〕國家の繼續するすぢ。〇〔潛夫論〕「是以身常安而――永」。
〔候脈〕血液の流通ぐあひをうかゞひみる。〇〔搜神記〕「―ニ其―ニ」。
〔評脈〕前に同じ。〇〔劇談錄〕「―レ―知ニ吉凶休咨ニ」。
〔道脈〕道統といふに同じ、其の道の系統のこと。〇〔戴良〕「儒言存ニ――ニ」。
〔通脈〕血すぢの流通を快利にす。〇〔白居易〕「候レ病須レ―レ―」。

【脉】　俗の脈の字。〇〔淮〕「百―九竅」。

【胸】　シュン、ジュン。如順切　震　シュン。

尺尹切　軫
胗の字の條を見よ。

【脊】　セキ、シャク。資昔切　陌

㊀せ、せなか。
(い)背の中央の上下に貫通したる骨、せぼね、背呂。〇〔禮〕「狸去ニ正―ニ」。
(ろ)せぼれに著する肌肉、せにく。〇〔易〕「爲ニ美――ニ」。
(は)長く延ける山の上頭、みね、をか、やまのせ。〇〔爾〕「山――岡」。
(に)すべてせぼれの狀をなせるもの。〇〔戰〕「今梁天下之―也」。
㊁すぢ、(理)。〇〔詩〕「有レ倫有レ―」。
㊂瘠に通じ用ふ、死人の骨。〇〔周、註〕「故書骴作レ―」。
㊃踐み藉く貌にいふ字。〇〔莊〕「天下――大亂」。

〔登脊〕せなかにあがる。〇〔北〕「帝―レ―疾走、都無ニ畏怖ニ」。
〔首脊〕くびとせと。〇〔莊〕「行者踐ニ其――ニ」。
〔要脊〕こしとせなと。〇〔後漢〕「折ニ其――ニ」。
〔刀脊〕かたなのむね。〇〔北齊〕「以ニ柔鐵ニ爲ニ――ニ」。
〔折脊〕せなかをくじく。〇〔李白〕「或碎レ腦以―レ―」。
〔斷脊〕せなを絶ちきる。〇〔商子〕「吏遂―ニ頭頓之―ニ」。
〔弱脊〕せの強壯ならざること。〇〔韓詩外傳〕「從レ後視レ之、高肩――」。
〔曲脊〕せをかゞます、又、せかゞむ。〇〔韓詩外傳〕「獸目――」。
〔平脊〕せのたひらかなること。〇〔齊民要術〕「――大腹」。
〔隆脊〕せの隆くあること。〇〔殷臣〕「――矜尾、聳甲舒張」。
〔脣脊〕せ弓なりにかゞむ。〇〔陸機〕「其狀也――運管」。
〔瘦脊〕やせおとろへたるせ。〇〔蘇軾〕「――盤々倚倚レ窒」。
〔連脊〕せをならぶ。〇〔李元陽〕「―レ―屏列、內抱如ニ池弓ニ然」。
〔崻脊〕みねのせなか。〇〔吳萊〕「小徑殘榛分ニ――ニ」。

【胆】　ジ、ニ。仍吏切　寘
筋健し、つよし。

【[illegible]】　セイ、ゼイ。時制切　霽
割きたる肉、きりみ。

【腂】　ワ、エ。烏寡切　馬
―肥は、肥えたる貌にいふ語、こゆ。

【脙】　キウ、ク。虛尤切　尤
㊀腹脊の閒。㊁瘠せたる腹、やせばら。

【[illegible]】　アイ、エ。倚亥切　賄
こゆ、(肥)。

【脥】　ケフ。火叶切　葉
大いなる腹。

【[illegible]】　ショ、ソ。子余切　魚
うじむし。

【[illegible]】　脟に同じ、きりにく、(臠)。

七畫

【脕】　ブン、モン。文運切　問
草新に生ず、はゆ。

【脕】　ベン、マン。無販切　願　無遠切　阮
容色豔美なり、うつくし、うるはし、つやよし。〇〔楚〕「玉色頩以―顏」。

【脠】　セン、ゼン。隨戀切　霰　旬宣切　先
エン。與專切　銑
短小なり、たけひくし。

【脖】　ボツ、ボチ。蒲沒切　月
―胦は、へそ、ほそ。

【脗】　ブン、モン。武粉切　吻
あふ、(合)。〇〔莊〕「爲ニ其―合ニ置ニ其滑湣ニ」。

【脗】　ビン、ミン。美殞切　軫
波のきは無き貌にいふ字。

【脘】　クワン。古緩切　旱
胃の府、ゐ。〇〔黃庭堅〕「佳句洗ニ肺――ニ」。

【睆】　クワン、ゲン。戶版切　潸
ゑし、(肉)。

【脘】　クワン、グワン。胡官切　寒　胡玩切　翰

あぶら、(脂)。

【脙】キウ、グ。巨鳩切 尤
㊀やす、(瘠)。㊁腹と脊との閒。

【⿰月劫】ケフ、コフ。迄業切 葉
腋の下、わき。

【脚】キヤク、カク。訖約切 藥
腳に同じ、あし。〇〔後漢〕「泣抱二馬——一」。
〔伸脚〕あしをのばす。〇〔唐〕「地狹不レ足レ—レ—」。
〔躄脚〕あしのきかざる病。〇〔韓愈〕「比得二——病一」。
〔赤脚〕仙人の名、又、はぎをあらはすこと。〇〔蘇軾〕「——浣二白紵一」。
〔雲脚〕くもの行き通ひ。〇〔韓愈〕「——飛二銀綿一」。
〔卑脚〕足短し。〇〔陸機〕「——短喙」。
〔高脚〕足長くあり。〇〔述異記〕「鶴——踈節」。
〔刖脚〕罪によりて足をきらる。〇〔史〕「孫臏—レ—」。
〔折脚〕脛をくじく。〇〔南〕「牛奔墮レ車—レ—」。
〔跛脚〕片足正しく歩むことを得ず、ちんば。〇〔南〕「——奴何爲耶」。
〔患脚〕脛の病をわづらふ。〇〔南〕「惡—レ—」。
〔行脚〕僧の諸國を巡りあるくこと、あんぎや。〇〔杜牧〕「——尋常到レ寺稀」。
〔繫脚〕あしをしばる。〇〔南〕「乃以レ縷—レ—爲レ誌」。
〔損脚〕あしをそこなふ。〇〔搜神記〕「—レ—臥レ地不レ能レ去」。
〔廢脚〕あしを用ひたゝずならしむ。〇〔淮〕「走獸—レ—」。
〔刎脚〕脛をきる。〇〔韓〕「抽レ刀而—二其—一」。
〔裏脚〕あしを物にてつゝむ。〇〔釋名〕「—レ—可三以跳二躐輕便一也」。「超」。
〔交脚〕あしをくみあはす。〇〔魏畧〕「—レ—臥而不レ」。
〔濯脚〕あしを洗ひきよむ。〇〔抱朴〕「或—二—於澗濱一」。「折」。
〔轢脚〕あしを車にてひく。〇〔神仙傳〕「—レ—砦」。
〔撫脚〕脛をなでさする。〇〔神仙傳〕「以レ手—レ—」。
〔企脚〕あしをつまだつ。〇〔世說〕「—二—北窗下一」。
〔牽脚〕あしを引く。〇〔世說〕「—レ—加二桓公頸一」。
〔頓脚〕あしをふみならす。〇〔韓愈〕「抵レ掌—レ—、失笑相顧」。
〔醉脚〕酒によひてよろめく足。〇〔陸游〕「——加二其腹一」。
〔信脚〕足の向かふまゝなること。〇〔陸游〕「一笻—レ—乾坤迮」。
〔失脚〕あしを蹈みはづす。〇〔陸游〕「—レ—墮二世網一」。
〔通脚〕あしの行きかひをなす。〇〔陳師道〕「泥雪微—レ—」。
〔老脚〕年よりのよろめくあし。〇〔楊萬里〕「——散酸半要レ扶」。

【脛】ケイ、ギヤウ。胡定切 徑 下項切 迥
カウ、ギヤウ。戶孟切 敬
㊀あし。
(い)膝より下踝より上、すね、むかふずね、はぎ。〇〔史〕「—大二於股一、不レ折必披」。「—二」。
(ろ)歩むこと。〇〔陸雲〕「想二白日之寸—一」。
㊁直き貌にいふ字、なほし。〇〔漢〕「——者未二必全一也」。
〔齗脛〕はぎを切る。〇〔水、註〕「—レ—而視レ髓也」。
〔叩脛〕はぎをうつ。〇〔論〕「以レ杖—二其—一」。
〔椎脛〕前に同じ。〇〔唐〕「力士—二其—一」。
〔掩脛〕はぎをおひかくす。〇〔杜甫〕「短衣數換不レ—レ—」。
〔貫脛〕はぎをつきぬく。〇〔後漢〕「援中レ矢—レ—」。
〔截脛〕はぎを切る。〇〔晉〕「—レ—剖レ心、脯レ賢剝レ孕」。
〔刳脛〕前に同じ。〇〔荀〕「欲レ—二其—一」。
〔踝脛〕くるぶしとはぎと。〇〔南〕「及二——一」。
〔提脛〕刑制にてはぎをむちもてたゝく。〇〔魏〕「—レ——者一分」。
〔交脛〕はぎをくみあはす。〇〔江淹〕「跂レ踵—レ—與二羽民一兮」。
〔赤脛〕からすね。〇〔梅堯臣〕「——衣二短褐一」。
〔高脛〕長きはぎ。〇〔詩、疏註〕「鶴——蠡節」。
〔搖脛〕あしをふり動かす。〇〔符載〕「—レ—而至」。
〔瘦脛〕やせたるあし。〇〔陸龜蒙〕「——高袠梵礫輕」。
〔雙脛〕兩方のはぎ。〇〔蘇轍〕「水寒——長」。

【⿰月百】ジウ、ニユ。耳由切 尤
面和らぐ、やはらぐ。

【⿰月瓦】セフ。叱涉切 葉
肉動く、うごく。

【脝】カウ、キヤウ。虛庚切 庚
腹滿つ、ふくろ。〇〔韓愈〕「苦開腹膨—」。

【脞】サ、ザ。徂果切 哿
細碎にして大略無し、こまかし、くだくし、一說に、切りたる肉。〇〔書〕「元首叢—哉」。
〔叢脞〕理まらずしてくだくし。〇〔宋〕「若萬事——、乃西晉之風、何益二于治一」。

【脞】サ、ゼ。錯加切 麻 サ、ザ。徂禾切 歌
もろし、(脆)。

【⿰月志】シ。職吏切 寘
ほくろ、(黑子)。

【⿰月呂】リヨ、ロ。兩擧切 語
せぼね、せ(脊)。

【⿰月赤】カク、ギヤク。下革切 陌
ゑゝ、(肉)。

【脟】レツ、レチ。龍輟切 屑
脅の肉、一說に、腸の閒肥ゆ、又一說に、はらわたの脂。

【脟】レン。力轉切 銑 ラツ、ラチ。盧活切 曷
やす、(臞)、一說にきりにく、(臠)、又、さく、(割)。〇〔漢〕「——割輪焠」。

【脬】ハウ、ヘウ。披交切 肴
腹中の水の府、みづぶくろ。

【䏰】シユン。尺尹切 軫 ジユン、ニユン。如順切 震
朐——は、蟲の名、みゝず、又、縣の名。

【⿰月局】キク、コク。居六切 屋
㊀み、(身)。㊁こゆ(肥)。

【⿰月成】セイ、ジヤウ。時正切 敬
こゆ、(肥)。〇〔揚雄〕「梁益之閒、凡人言三盛及二其所一レ愛曰レ諱、其肥—謂二之膿一」。

【脠】セン。尸連切 先
生肉の醬、ひしほ一分の膾と二分の細切とを和合し之をかきまぜて造る。〇〔齊民要術〕「有二燥—法一」。

【脠】テン。丑延切 先
魚の醢、しほから。

【脡】テイ、チヤウ。他頂切 迥
㊀伸ばしたる脯、ほじし。〇〔公羊〕「與二四——脯一」。
㊁なほし、(直)。〇〔禮〕「鮮魚曰二——祭一」。
〔脡々〕直なる貌にいふ語。〇〔儀、疏〕「取二——然直一」。

【⿰月弟】テツ、デチ。徒結切 屑
㊀たがふ、(差)。㊁はる、(腫)。

㊂連脽の肉、ゐさらひのにく。

【睇】テイ、タイ。天黎切 齊
膈ーーは、鼻の正しからざること。

【脟】セツ、セチ。旨熱切 屑
脟皮、あぶらかは、一説に、牛羊の脂。

【脁】サウ、セウ。所教切 效
㊀凡そ物の殺げて鋭きにいふ字、そがる。
㊁目の明かならざる貌にいふ字。○〔揚雄〕「ーー二提明-德一或遁二之行一」。

【脭】ボウ、ム。毋潼切 董
㊀豐かに大いなり。㊁はる、(腫)。

【脭】バウ、モウ。毋項切 講
ふされるにく、(豐-肉)。

【胧】ボウ、モウ。莫江切 江
身大いなり。

【脂】ダン、ナン。奴紺切 勘
ー臟は、肥えたる貌にいふ語。

【脞】ヒ、ビ。部比切 紙
㊀もゝ、(股)。㊁ー脞は、ゐぶくろ。

【脢】バイ、謀杯切 灰 莫佩切 隊
メ。

ビ、莊歸切 微
莫賄切 賄 ミ。

脊の側の肉、せにく。○〔易〕「九-五咸二其ー一」。
(脊脢) せの肉。○〔劉基〕「傾二瀉精-髓-通二ー-ー一」。

【脣】シン、ジン。殊倫切 眞
口の縁、くちびる。○〔穀梁〕「ー亡則齒寒」。
(牛脣) 草の名、さじおもだか、水舃。○〔爾〕「藚ーー」。
(反脣) くちびるをそりかへす、又、そしること。○〔漢〕「ーレー而相稽」。
(搖脣) くちびるを動かす、又、ものいふこと。○〔莊〕「ーレー鼓レ舌」。
(動脣) 前に同じ。○〔鵩賦〕「ーレー有レ曲、致レ口有レ音」。
(焦脣) くちびるをかわかす。○〔呂氏春秋〕「ーレー乾レ肺」。
(齞脣) 口の張りて齒のあらはれたるくちびる。○〔宋玉〕「ーー歷-齒」。
(絳脣) 赤きくちびる。○〔蕪城賦〕「玉-貌ーー」。
(丹脣) 前に同じ。○〔鵩賦〕「發二妙-聲於ーー一」。
(補脣) くちびるを縫ひあはす。○〔孫郃〕「及レ遇二醫-者一、ーー已者矣」。
(厚脣) あつきくちびる。○〔周〕「ーー弇-口、出-目短-耳」。
(緘脣) くちびるをとぢふさぐ、又、默すること。○〔隋〕「齰レ舌ーレー」「鼲」。
(割脣) くちびるをさき切る。○〔淮〕「ーレー而治」。
(缺脣) くちびるをかく、即ち、三つ口のこと。○〔淮〕「孕-婦見レ兎、而子ーレー」。
(宣脣) くちびるをのばす。○〔易楊〕「大-口ーー」。
(穿脣) くちびるに穴をあく。○〔酉陽雜俎〕「賧-婆-羅人ーレー」。
(染脣) くちびるをそめて色をなさしむ。○〔王褒〕「ーレー漬レ口」。
(舐脣) くちびるを嘗む。○〔東皙〕「滌レ器者ーレー」。
(頳脣) 赤き色のくちびる。○〔江淹〕「赤-膚-瞳而ーー」。
(當脣) くちびるにあてつく。○〔李賀〕「ーレー注二玉-壘一」。
(張脣) くちびるを開きて大きくす。○〔盧仝〕「ーー一哆-豬食不レ休」。
(敗脣) くちびるを破る。○〔徐積〕「ーレー折レ齒猶相與」。
(濡脣) くちびるをぬらす。○〔蘇軾〕「兩復ー二子ー一」。

【脤】シン、ジン。時軫切 軫
社稷宗廟に祭り供へたる生肉、まつりのにく、蜃器に盛れるもの。○〔左〕「帥レ師者、受二命于廟一、受二ー于社一」。
(歸脤) 祭りの脤肉をおくる。○〔左〕「天-子使二石-尙來一レー」。

【脥】ケン。謙琰切 琰
腹の下。

【脥】ケフ、コフ。詰叶切 葉
㊀腹の下。㊁腋の下。㊂頰の俗字。

【脦】トク。惕得切 職
肋ーは、正しからざる容止。

【脝】カン。侯肝切 旱
膹ーは、切り創に用ふる藥の名。

【脧】サイ、セ。祖同切 灰
㊀赤子の陰、あかごのまへのもの。
㊁口嚾頹す、うごく。

【脧】セン。息緣切 先 サ。子戈切 歌
ス井。祖誄切 紙 津垂切 支

へる、(減)、ちゞむ、(縮)。○〔漢〕「民日削月ー」。

【脨】ショク、ソク。趨玉切 沃
炙筋、やきぐし。

【脨】セキ、ジャク。秦昔切 陌
やす、(瘦)。

【脺】シン。思晉切 震 シ。息恣切 支
ひよめき、あたまのあはせめ、(腦-會)。

【脗】カン、ゴン。戸感切 感
おさがひ、(頷)。

【脗】カン、ゴン。胡附切 㗅
㊀肥えたる牛の脯、ほじし。
㊁ふいごのえ、(排-囊-柄)。

【脩】シウ、シュ。思留切 尤
㊀ほじし、(脯)。○〔周〕「凡肉ーー之頒-賜皆掌レ之」。
㊁をさむ。
(い)整ふ。○〔詩〕「ー二爾車-馬一」。
(ろ)習ふ。○〔禮〕「藏レ焉ーレ焉」。
(は)設く備ふ。○〔淮〕「ー二禮-樂一」。
(に)行ふ。○〔禮〕講レ信ーレ睦」。
(ほ)掃除す、はらふ。○〔禮〕「ー二其宗-廟一」。
(へ)洗滌す、あらふ。○〔周〕「凡酒ーー酌」。
(と)敬む。○〔國〕「朝-夕ーレ我」。
㊂をさめて成る、をさまる、(㊁の條參照)。○〔書〕「太-府孔ー」。
㊃ながし。
(い)たけ高し。○〔詩〕「孔ー且張」。
(ろ)遠し、○〔屈平〕「路漫-々其ーー遠兮」。
(は)久し。○〔周〕「及二其ー一也」。
㊄かわく、かわかす、(乾)。○〔詩〕「暵二其ー一矣」。
㊅歌曲なくして徒に鐘鼓すること。○〔爾〕「徒鐘-鼓謂二之ー一」。
(束脩) たばねたるほじし禮として人にさゝぐるもの。○〔禮〕「ーー之問、不レ出レ竟」。
(段脩) ほじし。○〔禮〕「大-饗尙二ーー一而已」。
(脯脩) 前に同じ。○〔禮〕「執二棋-榛ーー一棗栗一」。
(日脩) 晝の間長くあり。○〔淮〕「陽-氣勝則ーー」。
(景脩) 日のかげ長くあり。○〔淮〕「ーー則陰-氣勝」。
(阻脩) 隔たりて遠くあり。○〔白居易〕「隔-山若ーーー一」。
(酒脩) さけとほじしと。○〔禮〕「是ーー獻レ人之法也」。

〔猥脩〕はしたるいひとはむしと。○〔儀〕「主婦羞ニ—・—ニ「止」。
〔剸脩〕はじしをさききる。○〔唐〕「—レ—剸レ酒三爵「—ニ」。
〔遐脩〕世運長久なり。○〔李尤〕ニ革ニ厥舊ニ而—」。
〔遐脩〕はるかに遐し。○〔劉楨〕「望ニ南路之—。
〔迴脩〕めぐりくて長くあり。○〔傅亮〕「究ニ川陸之—・—ニ。
〔信脩〕まことに長くあり。○〔江淹〕「嗟ニ青髮之—・—ニ。

【脩】イウ、ウ。云九切 尤
卣に通じ用ふ。○〔周〕「廟用レ—」。

【脩】テウ。他彫切 蕭
縣の名。

【脩】セウ。思邀切 蕭
羽の敝るゝにいふ字、やぶる。

【脪】キン、香靳切 問　コン。許謹切 吻　興忍切 軫
㊀創の肉反り出づ、腫れ起こる。
㊁熱氣膚中に著く。

【脪】チ。丑飢切 支
脪—は、牛馬の子腸。

【䏲】タ、テ。宅加切 麻 ㄔ
舌を含む貌にいふ字。

【腌】エフ、オフ。又業切 葉
漬けたる肉、又、鹽漬けの魚。

【脫】タツ、ダチ。徒活切 曷
㊀肉の離るゝにいふ字、皮を剝ぐにいふ字。○〔爾〕「肉曰レ—レ之」。
㊁はなる、はなす、(離)。○〔荀〕「不ニ剝—ニ」。
㊂さく、はづす、はづる、(解)。○〔易〕「後「—ニ之弧ニ」。
㊃衣冠などをさきはなすにいふ字、衣冠などのさけはなるゝにいふ字、ぬぐ。○〔國〕「—レ衣就レ功」。
㊄ぬく。
(い)はなれ出づ、はなし出だす。○〔史〕「穎—而出」。
(ろ)まぬかる、(免)。○〔漢〕「不レ得レ—ニ長安ニ」。
(は)まぬかるゝことを得しむ。○〔顏延之〕「免ニ—幾身罪累ニ」。
(に)去る。○〔莊〕「吾自以爲レ—」。
(ほ)除く。○〔公羊〕「—然愈」。
(へ)ぬかる、ぬかす、わする、のこる、おつ、おとす。○〔南〕「無レ所ニ漏—ニ」。
㊅遺漏、ぬけ、おち、ぬかり、あやまり。○〔漢〕「無レ有ニ遺—ニ」。
㊆疏略、あらまし、あらし、おろそか。○〔史〕「禮始ニ乎—ニ」。
㊇假りに設けて說くときに用ふる字、もし。○〔吳子〕「—其不レ勝」。

〔解脫〕物事の拘束をぬけはなる。○〔溫子昇〕「未レ能ニ—・—ニ」。
〔甌脫〕邊境の地にて斥候を爲すために設けたる室。○〔史〕「各居ニ其邊ニ爲ニ—・—ニ」。
〔簡脫〕簡略にして拘束をぬけはなる。○〔晉〕「性—・—有ニ鑒裁ニ」。
〔通脫〕物事に拘泥せず。○〔南〕「琛性—・—」。
〔免脫〕罪を免除せらる。○〔漢〕「—・—者衆」。
〔輕脫〕かろぐしくして拘らず。○〔後漢〕「動・靜—・—」。
〔傾脫〕わきにむきはづる。○〔晉〕「冠・幘—・—」。
〔度脫〕衆人を濟度して煩惱の苦をとき去らしむ。○〔南〕「—ニ—衆生ニ」。
〔踈脫〕簡略にして拘束せられず。○〔北〕「天性—・—」。
〔詭脫〕僞りて免かる。○〔唐〕「—ニ—綜・賦ニ」。
〔剝脫〕はがしおとす、又、はげおつ。○〔荀〕「不ニ—・—、不ニ砥礪ニ」。
〔濟脫〕渡りはなる。○〔易林〕「—・—無レ他」。
〔擺脫〕除き去る。○〔宣和畫譜〕「乃—ニ—舊習ニ」。
〔高脫〕高尙にして世俗の拘束をぬけはなる。○〔韓愈〕「君獨—・—」。
〔超脫〕前に同じ。○〔劉克莊〕「從レ今詩律應ニ—・—ニ」。
〔幸脫〕さいはせにはなれ去る。○〔蔡邕〕「—・—ニ虞人機ニ」。

【脫】エツ、エチ。欲雪切 屑
蟲の新に皮をぬけ出づるを、もぬけ、又、もぬけの皮、ぬけがら。○〔莊〕「其狀若レ—」。

【脫】タイ、テ。吐外切 泰
舒かなる貌にいふ字、又、喜ぶ貌にいふ字。○〔淮〕「—然喜矣」。

【脬】ハウ、ヘウ。披交切 肴
ゆばりぶくろ、(膀胱)。○〔史〕「風癉客レ—」。
〔補脬〕ゆばりぶくろのやしなひとなる。○〔本草〕「黃絲絹—レ—」。
〔膀脬〕はらわたとゆばりぶくろと。○〔蘇舜欽〕「直「恐レ潰ニ爛—與レ—」。

【脭】テイ、チヤウ。馳貞切 庚
精肉。○〔枚乘〕「飮食則溫淳甘膬、—醲肥厚」。

【脮】タイ、テ。吐猥切 賄
㊀䐌—は、肥えたる貌にいふ語。
㊁鮾に同じ、魚敗る、あざる。

【脯】フ、ホ。匪父切 麌
乾し燥かしたる肉、ほじし、特に、其の薄く折きたるものゝ稱、○〔詩〕「餚殺伊—」。
〔暇脯〕姜桂を加へたるはじし。○〔左〕「滑ニ稻醢粱・糗—・—ニ焉」。
〔束脯〕束脩の條を見よ。○〔淮〕「趙宣孟以ニ—・—ニ免ニ兆軀ニ」「食」。
〔市脯〕はじしを買ひ求む。○〔論〕「沽酒—・—不レ食」。
〔脁脯〕ひさごとはじしと、卽ち、粗なる食品にいふ語。○〔晉〕「玄酒忘レ勞甘ニ—・—ニ」。
〔片脯〕一きれのはじし。○〔搜神記〕「當持ニ斗酒—・—ニ候レ之」。
〔切脯〕はじしを割く。○〔尙書大傳〕「遂酌レ酒—」。
〔賜脯〕はじしを給與す。○〔呂氏春秋〕「宣孟更—ニ之—ニ束ニ而去」。
〔薦脯〕はじしを供す。○〔儀〕「—レ—用レ邊」。
〔藥脯〕はじしにくすりをつく。○〔穀梁〕「—レ—以毒」。
〔腒脯〕直なるはじし。○〔公羊〕「與ニ四—・—ニ」。
〔壁脯〕はじしをつんざく。○〔北〕「酌レ酒—レ—食レ之」。
〔福脯〕祭りに供へたるはじし。○〔風俗通〕「上ニ—・—三十牖ニ」。
〔啖脯〕はじしを食らふ。○〔東觀漢記〕「方坐—レ—」。
〔肥脯〕こえたる肉もて製したるはじし。○〔東晳〕「受レ餞在ニ于—・—ニ」。
〔脩脯〕はじし。○〔韓琦〕「靈飮レ綠ニ—・—ニ」。

【脯】ホ、ブ。蓬逋切 虞
酺に通じ用ふ、大いに酒を飮む。

【脯】ホ、ブ。蒲故切 遇
人物に災害を爲す神、一說に、會聚して飮み食ひするを。

【脰】トウ、ヅ。大透切 宥
㊀くび、うなじ、(頸)。○〔史〕「自奮絕レ—而死」。
㊁まじはる、(錯)。
㊂そなへもの、(餖)。
〔閼脰〕くびをひきちぎる。○〔漢〕「魂亡魄失、筋レ輻—レ—」。

（斷脰）前に同じ。○〔戰〕「―レ―決脰」。
（頸脰）うなじ。○〔韓愈〕「顚盼勞―――」。
（短脰）長からざるうなじ。○〔周〕「大體――」。
（係脰）うなじをひきくゝる。○〔史〕「―レ―東レ手」。
（申脰）うなじを伸ばす。○〔周書〕「―レ―就レ戮」。
（延脰）前に同じ。○〔梁昭明太子〕「―レ―覩レ之」。
（拘脰）くびかせを著く。○〔韓愈〕「―レ―械レ手」。
（脊脰）物もてうなじをつく。○〔韓逢〕「椹顙―レ」「――」。
（邪脰）曲がれるうなじ。○〔陸龜蒙〕「或樂斬二――」。
（縛脰）うなじを取りまく。○〔陸龜蒙〕「纏レ肩―レ―」。
（縮脰）うなじをひきこます。○〔蘇舜欽〕「―レ―縮如レ蝟」。
（垂脰）うなじを低くす。○〔蘇軾〕「白髮―レ―」。
（昂脰）うなじをもちあぐ。○〔宋濂〕「慷慨或―――」。

【腰】カウ、キヤウ。古杏切 梗
食らひたる骨の咽中に留ごまるにいふ字、ほれたつ。

【腥】デツ、子チ。乃結切 屑
はる、（腫）。

【胭】カク、キヤク。古麥切 陌
脚曲がる、まがる。

【脠】エン。余連切 先
たけ短き貌にいふ字。

【脘】クワン。居款切 旱
肥えたる貌にいふ字。

【腕】ワン。烏貫切 翰
寸口（みやくどころ）の前にして掌の後なる處、うでくび。

【腩】カン、ゴン。胡南切 覃
おとがひ、（頤）。

【腒】コツ、クチ。苦骨切 月
㊀しりぼれ、（髖）。㊁ゐさらひ、（臀）。㊂朕れ出づ、はる。

【脹】チヤウ。知亮切 漾
腹張り滿つ、はる、ふくろ。○〔急就篇〕「寒氣泄注腹臚――」。
（腹脹）はらふくる。○〔南〕「――而黄」。
（痞脹）食物胸につかへてふくる。○〔南〕「胸腹――」。

【脹】チヤウ。仲良切 陽
大小腸

【䐬】サン、昨干切 寒　ザン。才贊切 翰
禽獸の食ひ餘り、くひのこし。

【䐪】サン、セン。仕限切 潸
腹の大いなる貌にいふ字。

【脺】セツ、促絶切 屑　セチ。
セイ、此芮切 霽　セ。
ソツ、蒼沒切 月　ソチ。
耎かにして破れ易し、もろし。

【脺】スヰ。雖遂切 寘
㊀顏面の澤、かほのつや。㊁なづき、（腦）。

【腱】セフ。郎涉切 葉
かたさきのほれ、（骨）。

【腤】ホウ、ブ。薄口切 尤
豕肉の醬、ひしほ。

【腤】ホウ、ブ。蒲候切 宥
尻の衣、しりあて。

【腤】ハイ、バイ。扶來切 灰
姓。

【腠】俗の腠の字。

【䐭】リヤウ、ラウ。里養切 養
㊀しゝ、（肉）。㊁味多し。

【腃】ハウ、ホウ。普邦切 江
腹れ滿つ、はる。

【脽】スヰ。視隹切 支　シウ、職流切 尤　シユ。
しりのほれ、（髖）、又、ゐさらひ、（臀）。○〔漢〕「連二――尻一」。

【脾】ヒ、ビ。頻脂切 支
㊀五臟の一にて胃の下にあり、胃を助けて食物の消化を主る。○〔禮〕「孟春之月祭先レ―」。㊁とゞまる、（止）。○〔揚雄〕「鋪――止也」。㊂ひくし、（卑）。
（心脾）心臟と內胃の下部にある脾臟と。○〔魏甄后〕「感結傷――」。
（割脾）內胃の下部にある脾をさき斷つ。○蘇轍「――レ―分レ蜜曾無レ遺」。

【腗】ハイ、ベ。蒲街切 佳
前條の㊂に同じ。

【䏘】ヘイ、ハイ。匹計切 霽
盛んに肥ゆ、こゆ。

【脾】ヒ、ビ。卑履切 紙
もゝ、（股）。

【髀】俗の腗の字。

【腎】ケイ、遣禮切 薺　カイ。詰計切 霽
こむら、ふくらはぎ、（腓）。

【腀】リン。力民切 眞
かは、（皮）。

【䐜】シン、ソン。市金切 侵
やむ、（病）。

【胼】ヘン、ベン。蒲眠切 先
㊀あかぎれ、たこ、（胝）。○〔荀〕「手足――胝」。㊁かたし、（固）。○〔揚雄〕「陰形――胃」。

【脟】ハン、ポン。薄鑑切 感
膚の肉の疎き貌にいふ字、きめあらし。

【腂】クワ。古臥切 箇
腫れて赤し。

【腂】クワ、ゲ。戸瓦切 馬
藥草の名、山谷の中に生ず之を服すれば氣を益し年を延ぶといふ。

【腂】ルヰ。力軌切 紙
皮起こる、はる。○〔唐〕「膝――皆碎」。

【踦】キ。居義切 寘
牲を分かつ、一說に、あつもの、（臓）。

【腃】キ。丘媿切 寘

筋節急なり、ひきつる。

【腃】ケン。逵員切 [先] ㊀くちさき。〇[周註]「吻口—也」。㊁身曲がる。

【⿰月制】セイ。之曳切 [霽] 魚の醬、ひしほ。

【⿰月取】キン。頸忍切 [軫] くちびるのかさ、（脣瘍）。

【腄】ツヰ。竹垂切 スヰ。株垂切 [支] ㊀きずあとのかは、（瘢胝）、一說に、馬及び鳥の脛の上の結骨、こぶぼれ。㊁ゐさらひ、（臀）。

【腄】ツヰ。馳僞切 [寘] スヰ。視隹切 [支] イウ、ウ。羽求切 [尤] 縣の名。

【腄】サイ、ゼ。崇懷切 [佳] ⿰月累—は形惡し。

【⿰月放】ハウ、バウ。滂謗切 [漾] ふくろ、はる、（脹）。

【⿰月豖】タク、トク。竹角切 [覺] ㊀ゐさらひ、（臀）。㊁こゆ、（肥）。

【豚】トク。丁木切 [屋] 尾の下の竅、しりのあな。

【腅】タン、ドン。徒濫切 [勘] ㊀しゝ、（肉）。㊁はだへ、（肌膚）。㊂相飲む、又、相飲ましむ。

【⿰月烝】ショウ。之仍切 [蒸] にる、（熟）。

【⿰月彔】リョク、ロク。龍玉切 [沃] ㊀あぶら、（脂）。㊁こゆ、（肥）。

【⿰月戾】レイ、ライ。郎計切 [霽] ちんば、（跛足）。

【⿰月官】クワン。古緩切 [旱] 脘に同じ、ゐぶくろ。

【⿱劦肉】脅の本字。

【⿰月爭】サウ、シャウ。甾莖切 [庚] 側杏切 [梗] 足の跟の筋、きびすのすぢ。

【腆】テン。他典切 [銑] ㊀おほし、（多）、あつし、（厚）。〇[書]「厥父母慶自洗—致レ用レ酒」。㊁よし、（善）。〇[禮]「無二不—一」。㊂いたる、（至）。〇[書]「殷小—」。㊃わする、（忘）。〇[揚雄]「聲—忘也」。㊄ひさし、（久）。〇[博雅]「—久也」。

（荒腆）すさみあつくなる。〇[書]「惟——二於酒一」。

（加腆）ますくよきを加ふ。〇[宋]「犒賜——」。

（繼腆）前に同じ。〇[魏文帝]「嘉貺—レ—」。

【⿱典月】古文の腆の字。

【腇】タイ、ヌ。弩罪切 [賄] ㊀萎—は、耎弱なる貌にいふ語、よわし。〇[後漢]「萎—咋レ舌又レ手從レ族乎」。㊁餒に同じ、うゝ、あざる。

【[illegible]】ハン、ホン。補范切 [豏] 浮き腫る、はる。

【䐃】キン、グン。巨隕切 [軫] ㊀腹腸中の脂、あぶら。〇[靈樞經]「—堅而有レ分」。㊁肘又は膝の後の肉塊、にくのかたまり、一說に、腹中の胎、こぶくろ。〇[素問]「脫レ肉破レ—」。

【䐃】シュン。支春切 [眞] 腹の中に積聚して形を成す塊膜、かたまり。

【⿰月臽】カン、ゲン。乎韽切 [感] カン、コン。呼紺切 [勘] ㊀肉を食らひて厭かず、あかず。㊁足腫る、はる。

【⿰月臽】カン、ゴン。下瞰切 [感] 炙りて熟せざるもの。

【腈】セイ、シャウ。咨盈切 [庚] 肉の極めて善きもの、精肉。

【⿰月戾】ギ。牛肌切 [支] しり、（脽）。

【⿰月戾】キ。香義切 [寘] うめく、（呻）。

【⿰月采】サ。倉何切 [歌] サイ。此宰切 [賄] 倉代切 [隊] 大いなる腹。〇[山海經]「丹熏之山有レ獸焉、名曰二耳鼠一、食レ之不レ—」。

【腉】カイ、ケ。居佳切 [佳] ちゝ、ち、（乳）。

【[illegible]】シン、ジン。船倫切 [眞] 脣に同じ、くちびる。

【[illegible]】ビン、ミン。彌盡切 [軫] ブン、モン。武粉切 [吻] —合は、波の際なき貌にいふ語。

【腊】セキ、シャク。思積切 [陌] ㊀よく乾きて堅くなりたる肉、ほじし、特に其の小片のもの〻稱。〇[周]「腊人掌二乾肉凡田獸之脯—一」。㊁乾きからびたるもの、ひもの。〇[淸異錄]「蕎花—耳」。㊂ひさし、（久）、あつし、（厚）。〇[漢]「味厚—毒」。㊃きはまる、（極）、すみやか、きびし、（亟）。〇[國]「毒之酉—者其殺也滋速」。㊄おく、（措）。〇[釋名]「齊人云二摶—一、—猶二把作一、麤貌也、（中略）麤措也」。㊅體の皺、しわ。〇[山海經]「其脂可二以已レ—」。

（枯腊）ひからびたるもの。〇[漢]「鬱爲二——一」。

（乾腊）前に同じ。〇[山海經]「雲山之上、其實——」。

（人腊）人體のひからびたるもの、即ち、木乃のと。〇[酉陽雜俎]「有二——一長三寸許」。

（腒腊）はじし。〇[徐鉉]「重華——」。

【腋】エキ、ヤク。夷益切 セキ、シャク。之石切 [陌] 左右の脅間、わきのした、わき。〇[史]「千羊皮不レ如二一狐之—一」。

（肘腋）かひなとわきの下と、又、左右。〇[晉]「變起二——一」。

([illegible]) わきの下を[illegible]擽らす。〇[四子][illegible]「ーレー而笑」。「流・矢二」。
([illegible]腋) おれのところ。〇[西征賦]「洞ニーー一以ニ
([illegible]腋) わきの下をひらく。〇[進]「ーレー而受レ刃」。
([illegible]腋) わきの下をさき破る。〇[傅毅]「ーレー分レ
([illegible]腋) 一、わきわきの下。〇[傅休奕]「作・頭ーー」、

【腌】エフ、乙業 オフ。切 [葉] エン、於嚴 オン。切 [鹽] 酢漬けの肉、又、鹽漬けの魚。

【膱】シヨク、シキ。質力切 [職] ㊀長さ尺有二寸の脯。㊁ねばる、(黏)。〇[周、註]「脂・膏ーー敗」。

【⿰月直】チヨク、ヂキ。除力切 [職] こゆ、(肥)。

【腍】ジン、忍甚 ニン。切 [寢] シン。式任 切 [侵] ㊀味好し、うまし。㊂あく、(飫)。㊁にる、(熟)。〇[禮]「腥・肆・爓ーー祭」。

【⿰月念】テン、デン。徒念切 [豔] うまし、(美)。

【⿰月欣】キン、コン。香靳切 [問] ㊀痛に同じ、創のあさはれあがる。㊁痛の中冷ゆ、ひゆ。

【腎】シン、ジン。時軫切 [軫] ㊀五臟の一、形長く扁くして胃の下の兩旁にあり、ぶんのざう、むらさ、尿水を分泌する機關。〇[素問]「ー者作レ强之官伎・巧出焉」。㊁かたし、(堅)。
(心腎) 心臟と腎臟と、又、物事の肝要なるにいふ語。〇[顏氏家訓]「文以二理致一爲二ーー一」。

(肝腎) 肝臟と腎臟と、肝要に同じ。〇[韓愈]「不レ用二雕・琢・愁ニーー一」。
(傷腎) 腎臟を損ふ。〇[沈仕]「六・恐ーレー」。
(廢腎) 腎臟を用に立たずならしむ。〇[列]「ー二北ーー、則足不レ能レ歩」。
([illegible]腎) はらわたと腎の臟と。〇[李嶠]「洗ニ貪・慾之ーーー」。
(衞腎) 腎の臟を保護す。〇[雲笈]「五・色ーレー」。
(補腎) 腎の臟に入る。〇[攝生要錄]「鹹ーレー」。
(十腎) 腎臟を害す。〇[管]「辛ーレー」。

【腏】テツ、陟劣 テチ。切 [屑] タツ、下活 ダチ。切 [曷] セイ、旋芮 ゼ。切 [霽] ㊀骨の閒の肉を挑取す、ゑぐる。㊁骨の閒の髓。

【腏】テイ、テ。陟衞切 [霽] 祭酹す、まつりにさけをそゝぐ。

【腐】フ、ボ。扶古切 [麌] ㊀くさる。(い)そこなひて臭氣を發す、たゞる、くつ、やぶる。〇[禮]「ー・草爲レ螢」。(ろ)任用に堪へざるにいふ字。〇[漢]「折二頤・何一曰、ー・儒」。(は)壞滅するにいふ字。〇[唐]「垂二不ーー一」。㊁くさらしむ、たゞらす、くちさす、やぶる、くさらかす。〇[史]「切レ齒ーレ心」。㊂男子の勢を割く刑、宮刑。〇[漢]「死・罪欲レー者許レ之」。㊃くされたるを、くされたる物。〇[呂氏春秋]「懷レー而欲レ香」。
(紅腐) あかくなり朽ち敗る。〇[漢]「ーー而不レ可レ食」。
(臭腐) くさくなりくさる。〇[後漢]「貪・汚ーー」。

(半腐) なかばくさる。〇[後漢][illegible]「ーー」。
(折腐) くじけて朽ち敗る、又、くされたるをくじく。〇[後漢]「如二推レ枯ーレー耳」。
(盈腐) 充實し朽敗す。〇[唐]「庫・儲ーー」。
(陳腐) ふるくなりくさる。〇[宋]「無二ーー一」。
(敗腐) 破れ朽つ。〇[宋]「遂無二ーー一」。
(朽腐) くちやぶる。〇[易林]「冬・藪ーー」。
(爛腐) たゞれ朽つ。〇[緣環]「肝・膽爲二ーー一」。
(伐腐) 腐朽したるものをきりとる。〇[魏名臣奏]「ーレー擢レ枯」。「ー共香レ腥」。
(啄腐) 朽敗したるものをついばむ。〇[鮑昭]「ーレー」。
(枯腐) 朽ちやぶる。〇[陸龜蒙]「ーー尙求レ律」。
(草木俱腐) くさきとあはせくさる、又、人の無聞にして終はると。〇[唐]「與ニーーーー一者可ニ勝陀一哉」。

【腑】フ、匪父 ボ。切 [麌] 符遇 切 [遇] はらわた。(い)支那の醫說上にて、體中の機關なる膽、胃、大腸、小腸、膀胱、三焦の六つの總稱。〇[抱朴]「破二積・聚於ー・臟一」。(ろ)心衷、こゝろ。〇[柳宗元]「常繫二心ーー一」。
(六腑) 體內の六つの臟、卽ち、大腸、小腸、膽、胃、三焦、膀胱の六つ。〇[晉、嵇康]「腹爲二ーー之總一」。
(肺腑) 心中の義にいふ語。〇[白居易]「ーー都無レ隔」。
(臟腑) 體內の臟物。〇[晉]「引二出五ー六ー一洗レ之」。
(襟腑) 眞心の義にいふ語。〇[源乾曜]「大彌ニーー」「ーー」。
(濁腑) 清からざる臟腑。〇[韓琦]「玉・漿淸ニーー」。

【腒】キヨ、斤於 コ。切 [魚] 居御 切 [御] ㊀鳥獸の乾腊、ほじし、特に、雉のほじし。〇[周]「夏行二ー・鱐一膳二膏・臊一」。㊁ひさし、(久)。㊂なかば、(央)。
(用腒) 乾したる雉を使用す。〇[儀]「夏ーレー」。
(雉腒) 雉の乾したるもの。〇[殷紹]「男・子之贄、羔・雁ーー」。

(若腒) 乾したる肉の如くにあり。〇[論衡]「舜ーーー」。

【⿰月甾】シ。側吏切 [寘] 肥えたる貌にいふ字。

【⿰月甾】シ。側持切 [支] 腊ーは、やす。

【腓】ヒ、符非 ビ。切 [微] 扶沸 切 [未] ㊀脛の背面のふくれてある處、ふくらはぎ、こむら。〇[莊]「ー無レ胈、脛無レ毛」。㊁やむ、(病)、又、かはる、(變)。〇[詩]「百・卉具ー」。㊂さく、(避)。〇[詩]「君・子所レ依、小・人所レー」。
(感腓) こむら物に感じて動く。〇[易]「ー二其ー一」。
(陵腓) もゝ。〇[蔡邕]「感二其ーー一」。

【腔】カウ、コウ。苦江切 [江] ㊀內の空しきを、から、又、外に圍ひあるを、かこひ。〇[程顥]「此心常使レ在二ー子內一」。㊁形狀、かたち、骨體、からだ。〇[梅堯臣]「老・瘦瘠瘦ーー」。㊂羊の肋、わきばら、羊の腊、ほじし。〇[黃庭堅]「乃不レ美二羊ーー一」。㊃馬の膁、ひばら、よこばら、はら。〇[齊民要術]「相・馬・法腸欲レ充、ー欲レ小」。㊄歌曲の調、てうし、ふし。〇[范成大]「爲二拊洮・河ー」。
(羊腔) ひつじの骨のつきある體。〇[韓愈]「酒・運級ニーーー」。
(新腔) あらたなる歌曲の調。〇[黃庭堅]「秀・句入ニーーー」。

〔空腔〕かれはてゝ内むなしくあり。○〔梅堯臣〕「百・歳成ニ―・―ニ」。

【腔】カウ、ク。苦貢切 [送]
㊀羊腊、ひつじのほじし。㊁羊肋、ひつじのあばら。

【腕】ワン。烏貫切 [翰]
うで。
(い)手掌の後節の宛屈する處、てくび。○〔戰〕「天下之遊士莫レ不ニ日夜扼レ―瞋レ目切ヒ齒」。
(ろ)肘さてくびさの間、かひな、ただむき。○〔嵇康〕「發ニ和顏一、攘ニ皓――一」。
(は)わざまへ、うでまへ、伎倆。○〔張雨〕「盡レ力輸ニ老――一」。
〔解腕〕うでを割く。○〔南〕「―レ―求レ存」。
〔斷腕〕うでを切りとる。○〔韓琦〕「―レ―未レ足レ駭」。
〔把腕〕かひなを持つ。○〔吳〕「―レ―別」。
〔手腕〕かひな。○〔晉〕「智乃以ニ朱書ニ―・―ニ」。
〔振腕〕かひなをふり動かす。○〔劇談錄〕「萬・敵―レ―瞋レ目」。
〔仰腕〕かひなを上に向かはしむ。○〔射經〕「爲レ壓レ肘「―レ―」。
〔露腕〕かひなをあらはし出たす。○〔鄰幾雜記〕「秉レ圭―レ―」。
〔懸腕〕かひなにかけ下ぐ、又、かひなをかく。○〔洞天清錄〕「山谷乃―レ―書」。
〔轉腕〕かひなをはこびめぐらす。○〔林泉高致〕「蓋由ニ其―レ―運レ筆之不ニ滯也」。
〔肘腕〕ひぢとかひなと。○〔衍極〕「寸以ニ外法ニ在ニ―・―ニ」。
〔弱腕〕なよやかなるかひな。○〔成公綏〕「動ニ纖・指ニ舉ニ―・―ニ」。
〔攘腕〕かひなをはらひ動かす。○〔傅休奕〕「―レ―探ニ柔桑ニ」。
〔舒腕〕かひなを伸ばす。○〔潘尼〕「攜ニ纖・手ニ兮―ニ皓・―ニ」。
〔握腕〕かひなをにぎり持つ。○〔晉子夜〕「―レ―同遊・戲」。
〔擧腕〕かひなをもちあぐ。○〔劉遵〕「―レ―嫌・衫重ニ」。

【⿰月危】跽に同じ、ひざまづく。○〔史〕「髡希韝鞠―ニ」。

【⿰月亞】ア、エ。衣駕切 [禡]
――膪は、こゆ、(肥)。

【⿰月昆】コン。胡昆切 [元]
㊀鯤に同じ。㊁蟲の總名。

【⿰月昆】コン。胡本切 [阮]
圓く長き貌にいふ字。

【腖】トウ、ツ。都弄切 [送]
志ゝ、(肉)。

【⿰月戔】サン、ザン。昨干切 [寒]
禽獸の食ひ餘り、くひのこし。

【⿱制月】⿰月制に同じ。

【⿰月悤】ソウ、ス。子公切 [東]
やむ、(病)。

【⿰月禹】ク、コ。古于切 [虞]
女の陰、かくしどころ。

【腎】シン、ジン。時忍切 [軫]
頭上に斗の形をなしたる肉。○〔山海經〕「陽山有レ獸、如レ牛而赤・毛、其頸―、其狀如ニ句・瞿ニ」。

九畫

【⿰月盈】エイ、ヤウ。以成切 [庚]
こゆ、(肥)。

【⿰月韋】ヰ。于貴切 [未]

かは、(皮)。

【⿰月契】ケイ、ガイ。胡計切 [霽]
膠に同じ、のどのうすかは、(喉・膜)、一說にはら、(腹)。

【腛】アク、乙角切 [覺] ヲク。烏谷切 [屋]
脂豐かなり、脂厚し、おほし、あつし。○〔周〕「欲ニ其柔滑ニ而―脂レ之則需」。

【腜】バイ、メ。謨杯切 [灰]
㊀婦人始めて孕む、はらむ。㊁こゆ、(肥)。㊂美し。○〔左思〕「―・―坰・野」。

【腝】ジ、ニ。人移切 [支] デイ、ナイ。年題切 [齊] ダイ、ナイ。汝來切 [灰]
骨のまじれる醢、志ほから。

【腝】ゼン、デン。乳兗切 [銑]
足疾む。

【腝】ダウ、ノウ。那到切 [號]
臂の節、ふし。

【腝】ドン、ノン。奴困切 [願]
やはらか、(嫩・弱)。

【腝】ジ、ニ。人之切 [支]
胹に同じ。

【⿰月奐】クワン。胡玩切 [翰]
こゆ、(肥)。

【腞】トン、ドン。杜本切 [阮] 徒困切 [願]
行くに踵を曳く、ひきずる。

【腞】テン。柱兗切 [銑] 勑轉切 [霰]
瑑に同じ、ちりばむ。○〔莊〕「得ニ死於――楯之上ニ」。

【⿰月豙】トツ、ドチ。陁沒切 [月]
腯に同じ、こゆ。

【⿰月壴】シユ、ス。芻數切 [遇]
そなへもの、(膳)。

【⿰月亭】テイ、ヂヤウ。特丁切 [青]
ほじし、(脯)。

【膣】チツ。丑一切 [質]
肉生ず。

【⿰月厘】テン。澄延切 [先]
沐――は、水怪の別名。

【⿰月是】テイ、タイ。都黎切 [齊]
厚――は、強き脂。

【腠】ソウ、ス。千候切 [宥]
㊀皮膚の肉理、きめ。○〔儀〕「右・體進レ――」。㊁皮膚、はだへ。○〔史〕「君有レ疾在ニ――理ニ」。
〔肉腠〕志ゝと膚のきめと。○〔素問〕「留ニ連――ニ」。
〔中腠〕膊にあたる。○〔淮〕「辭必―レ―」。
〔膚腠〕はだへのきめ。○〔陳〕「――不レ適、爆・衛有レ餘」。

【腡】ラ。落戈切 [歌] クワ、ケ。公蛙切 [麻]
手の指の文、てのすぢ。

【腢】ゴウ、グ。魚侯切 [尤] グ。元俱切

〔䫿〕グヮイ、ゲ。音回切 [灰]
かたさき（肩-頭）。○〔儀〕「當レ-用二吉-器一」。

〔腣〕テイ、タイ。都計切 [霽]
-腣は、大いなる腹。

〔腨〕シュン。尺尹切 [軫]
こゆ（肥）。

〔臝〕ラ。魯果切 [哿] 盧戈切 [歌]
淺毛の獸。

〔䐁〕シウ、シュ。雌由切 [尤]
股と脛との間。

〔腤〕アン、オン。烏含切 [覃] 鄔感切 [感]
にる（煮）。○〔齊民要術〕「有二--雞法一」。

〔腥〕セイ、シヤウ。桑丁切 [青] 新佞切 [徑]
㊀家の肉中にある星の如き小さき息肉、あまじし。○〔周〕「豕盲-眡而交-睫-」。
㊁脊脂、あぶら。○〔周〕「膳二膏--一」。
㊂肉の未だ熟炙せざるにいふ字、なま。○〔史〕「上二--魚一」。
㊃なまなる肉の臭にいふ字、なまくさし。○〔史〕「犯-肉--臊」。
㊄なまぐさき物、即ち、肉類。○〔梁武帝〕「無二牲--一」。
㊅汚穢、けがれ。○〔書〕「--聞在レ上」。
〔臭腥〕（い）にはひなまぐさくあり。○〔禮〕「其--」。（ろ）なまぐさきもの。○〔蔡邕〕「人似レ含レ食二--一」。
〔分腥〕なまぐさきものを配分す。○〔說苑〕「分レ熟不レ如二-レ-」。

〔[illegible]腥〕なまぐさし、又、そのもの。○〔武帝內傳〕「絕二五-穀-去二--一」。
〔[illegible]腥〕なまぐさきにほひを去る。○〔孟郊〕「去レ惡如二-レ-」。
〔祖腥〕なまぐさきものを机やうの臺にのぼす。○〔[illegible]〕「[illegible]」。
〔[illegible]腥〕なまぐさきものを供へまつる。○〔禮〕「-レ-而退、敬之至也」。
〔血腥〕血液の流れ出づるなまぐさき臭氣。○〔杜甫〕「昨夜東風吹二--一」。
〔[illegible]腥〕なまぐさき品物を消供す。○〔宋〕「次--レ-」。
〔[illegible]腥〕なまぐさき品物を消し去る。○〔呂氏春秋〕「--去レ臊」。
〔鮮腥〕あざやかにしてなまぐさし。○〔論衡〕「--猶二少-壯一」。
〔魚腥〕うをの臭氣なまぐさし。○李綱「江-村市合レ厭二---一」。
〔茹腥〕なまぐさき品物を食ふ。○〔拾遺記〕「變二---之食一」。
〔香腥〕なまぐさき品物をのむ。○〔鮑昭〕「啄レ腐共二-レ-」。
〔鹹腥〕しほはからくして、且なまぐさし。○〔楊萬里〕「金-陵江-水只---」。
〔葷腥〕ひるの類と鳥獸魚の類と、即ち、あしきにほひある食物。○〔白居易〕「毎因二齋-戒一斷二---一」。
〔羶腥〕なまぐさし。○〔元稹〕「---不二復聞一」。
〔啄腥〕なまぐさき物をついばむ。○〔劉基〕「-レ-爭レ腐聲噪-嚨」。

〔膘〕テフ、デフ。直涉切 セフ。質涉切 [葉]
肉を薄く切る、ほそびく、きる。○〔齊民要術〕「有二作-犬--法、莧--法一」。

〔腦〕ダウ、ノウ。乃老切 [皓]
㊀頭骨の中にある柔かにして灰白色のもの、あたまのなう、頭の髓。○〔左〕「鹽二其-一」。
㊁草木の髓、なう。○〔僧道潛〕「葵-心菊--」。
㊂精力。○〔顏延之〕「痛レ心拔レ-」。
㊃頭骨、顱頭、づがいこつ、あたま。○〔淮〕「折レ脊碎レ-」。
〔肝腦〕肝臟と腦髓と。○〔漢〕「--塗レ地」。
〔中腦〕物類蓋骨にあたる。○〔五〕「矢-二其-一」。○
〔頭腦〕なうみそ、又、精力、又、物事の主要。○〔杜牧〕「--彰-利筋-骨輕」。
〔補腦〕なうみそをおぎなひ益す。○〔曹植〕「遷-精--レ-」。
〔精腦〕なうみそ。○〔沈約〕「或資二---之力一」。
〔開腦〕頭蓋骨をあく。○〔書〕「能--出レ靈」。
〔[illegible]腦〕頭蓋骨を打ちやぶる。○〔五〕「爭-二其--一」。
〔[illegible]腦〕[illegible]に同じ、[illegible]の名。○〔宋〕「獻[illegible]-」「之」。
〔斫腦〕頭蓋骨を切る。○宋「以レ斧-二其--殺一」。
〔食腦〕なうみそを食む。○〔神異經〕「--入--矣」。
〔抽腦〕なうみそを引き拔く。○〔神仙傳〕「-レ-徹レ髓」。
〔尻腦〕しりと頭蓋骨と。○〔[illegible]〕「[illegible]二其--一」。
〔搖腦〕頭蓋骨をからめしむ。○〔劍俠傳〕「乃搖レ手--レ-」。
〔樟腦〕くすの木より取りたる成分。○〔本草〕「--一名韶-腦」。
〔[illegible]腦〕しまりたる頭蓋骨。○〔杜甫〕「---雄-姿迷レ所レ向」。
〔[illegible]腦〕ふとりをらざる頭蓋骨。○〔杜甫〕「魚-目--」。
〔通腦〕なう髓にかよふ。○〔杜甫〕「目-於-一」。

〔腦〕ダウ、ノウ。乃到切 [號]
㊀ゆたかなるかは（優-皮）。
㊁つや（優-澤）。

〔腧〕シュ。傷遇切 [遇]
膀に對して脊中にある灸点の要處、しちく。

〔腴〕ユ。羊朱切 [虞]
媚ぶる貌にいふ字。

〔睽〕キ、ギ。渠追切 [支]
啳-睽は、みにくし（醜）。○〔淮〕「啳-睽哆-噅蓬-篨戚-施雖二粉-白黛-黑一弗レ能レ爲レ美者嫫-母仳-催也」。

〔腤〕[illegible]に同じ。

〔腨〕セン、ゼン。市兗切 [銑]
-腸は、こむら。

〔胼〕ハン、ベン。薄蠲切 [阳]
肉の[illegible]き貌にいふ字。

〔腤〕サフ、セフ。測洽切 [洽]
あつものゝにく（臛-肉）。

〔腠〕タ、テ。陟加切 [麻]
㊀密ならず、あらし。
㊁ねばる（黏）。

〔膌〕タ、テ。陟駕切 [禡]
前條の㊀に同じ。

〔腬〕ジウ、ニュ。而由切 [尤]
面色柔和なり、やはらぐ。

〔腨〕ヒン。逋忍切 [軫]
すぢのつけねのにく（腱-子-肉）。

〔腷〕ヘン、ベン。婢典切 [銑]
脈の隱起するをくみたる繩の如きにいふ字、ひきつる、おこる。

〔腈〕タ。吐火切 [哿]
牲肉、いけにへのにく。

〔腩〕ダン、乃感切 [感] タン、徒南切 [覃] ナン。ドン。切
煮たる肉、又、ほじし（脯）。○〔齊民要術〕「有二--炙法一」。

【月甚】 腪に同じ。

【腪】 ウン、チン。王問切 問 たなじし（膜）。

【腪】 ウン、チン。委隕切 軫 ─腯は、こゆ（肥）。

【䐴】 カイ、居諧切 佳 ケ。苦蠏切 蟹 やす（瘦）。

【腫】 シヨウ、シユ。主勇切 腫

㊀皮膚のはれ起こりたるもの、はれもの、できもの。○〔周〕「掌二─瘍潰瘍金瘍折瘍之祝藥劀殺之齊一」。㊁皮膚浮き起こる、ふくる、はる。○〔漢〕「公閉レ門而泣レ之、目盡─」。○

〔擁腫〕ふくれあがる。○〔莊〕「其大本──、而不レ中二繩墨一」。
〔肬腫〕はれもの。○〔孟郊〕「痾病失二──一」。
〔疽腫〕はれもの。○〔左、疏〕「病二此──一」。
〔癭腫〕病の名、こぶ。○〔博物志〕「山居之民多二──一」。
〔瘤腫〕前に同じ。○〔釋名〕「血流聚所レ生──也」。
〔癰腫〕ふきでもの。○〔後漢〕「體生二──一」。
〔臚腫〕腹ふくる。○〔後漢、註〕「病二──一」。
〔水腫〕水ぶくれになる。○〔後漢、註〕「五疽──」。
〔陰腫〕病氣の病。○〔晉〕「甚患二──一」。
〔洪腫〕大きくはれあがる。○〔隋〕「二偏髀──」。
〔瘀腫〕あがりふくる。○〔淸異錄〕「二左腮──」。
〔疼腫〕いたみふくる。○〔王獻之〕「患二面──一」。
〔黃腫〕黃色になりはれあがる。○〔任伯雨〕「顏色盡──」。
〔赤腫〕あかみをもちはれあがる。○〔雲笈〕「──昏眩」。
〔浮腫〕はれあがる。○〔史〕「後五日當二──一」。

【月胃】 胃に同じ。

【腬】 ジウ、而由切 尤 ニユ。如又切 宥 肥えて美しき肉、善き肉。

【腬】 ジウ、ニユ。忍九切 有 面色の和柔なる貌にいふ字。

【腭】 齶に同じ。

【月咠】 シフ。郎入切 緝 ㊀肥肉の膏、あぶら。㊁あぶら出づ、しみいづ。㊂創やぶれてうみ出づ、つひゆ。㊃やはらぐ（和）。

【腮】 俗の顋の字。

【月垔】 エン。因蓮切 先 ㊀のんど（咽喉）。㊁くび（項）。

【腯】 トツ、他骨切 月 トチ。 トン、杜困切 願 ドン。 肉の充ち盛んなるにいふ字、ふとる、こゆ。○〔左〕「牲牷肥─」。

〔循腯〕完全しふとる。○〔宋〕「──其均」。
〔告腯〕肥えたる旨を申す。○〔唐〕「北面─レ─」。
〔博腯〕大きくなり肥ゆ。○〔宋〕「牲牷──」。
〔黑腯〕色くろくして肥ゆ。○〔淸異錄〕「斯女──」。
〔豐腯〕ふくれ肥ゆ。○〔陸游〕「豚豬──祭二家神一」。

【腯】 トン、ドン。杜本切 阮 行くに踵を曳くにいふ字、ひこづろ、すりあし。

【腰】 エウ。伊消切 蕭

㊀こし。（い）腹と背との下にて臀の上あたりの所、即ち、身體の中央の約處。○〔管〕「楚王好二小─一而美人省レ食」。（ろ）すべて身體の中央の約處の如き狀なる處の稱。○〔戰〕「梁天下之─也」。㊁こしに著く、こしにす。○〔陸游〕「負レ琴─レ劍成二三友一」。㊂おびなどの如きこしにおぶるものを數ふるにいふ字、すぢ。○〔北〕「帶一──」。

〔細腰〕さゝやかなるこし。○〔後漢〕「楚王好二──一」。
〔纖腰〕前に同じ。○〔張衡〕「舒二眇婧之──一」。
〔楚腰〕前に同じ。○〔鄧鏗〕「爭レ妍學二──一」。
〔折腰〕こしを屈む、又、人に屈すること。○〔晉〕「吾不レ能下爲二五斗米一──上」。
〔蜂腰〕はちのこし、即ち、こしのすぼみてさゝやかなるにいふ。○〔蘇軾〕「──鶴膝嘲二希逸一」。
〔垂腰〕こしまで下がる。○〔李白〕「餘髮散─レ─」。
〔反腰〕こしをそりかへす。○〔南〕「能──帖レ地」。
〔繞腰〕こしのところを取りかこむ。○〔白居易〕「─レ─際與二靑銀魚一」「匕首」。
〔插腰〕この處にはさむ。○〔劉孝威〕「─レ─銅
〔抱腰〕こしをかゝふ。○〔十六國春秋〕「左右─二其─一止レ之」。
〔弓腰〕こしをゆみなりに屈む。○〔酉陽雜俎〕「舞袖──渾忘却」。
〔鳴腰〕こしの處にありて音をなす。○〔盧照鄰〕「佩玉─レ─」。
〔伸腰〕こしをのばす、即ち、腰を息むるにいふ語。○〔陸游〕「──午飯餘」。
〔廻腰〕こしをめぐる、又、こしをまはす。○〔吳均〕「倪辮不レ─レ─」「管」。
〔傾腰〕こしをかたぶけまぐ。○〔王訓〕「─レ─逐二韻
〔橫腰〕こしをよこにす。○〔庾信〕「─レ─帶二錦心一」「知」。
〔曲腰〕こしをかゞむ。○〔李白〕「─レ─向レ君君不レ
〔懸腰〕こしにかけ下ぐ。○〔白居易〕「黃金印綬──底一」。
〔低腰〕こしをひきくし下ぐ、又、人に屈す。○〔白居易〕「─レ─復斂レ手」。
〔紹腰〕こしに繫ぐ。○〔白居易〕「金帶─レ─衫委レ地」。
〔束腰〕こしに帶ぶ。○〔蘇軾〕「裹レ頭─二其─一」。
〔修腰〕ながきこし。○〔蘇軾〕「連峰斷二──一」。

【要月】 腰に同じ。

【月侯】 腯に同じ。

【腱】 ケン、ゴン。渠建切 願 すぢ（筋）、一說に、筋の頭、又、筋の大いなるもの、又、すぢのつけね。

【腱】 ケン、居言切 元 コン。 ケン、渠焉切 先 ゲン。 巨展切 銑 ケン、巨偃切 阮 ゴン。 ㊀筋の頭、すぢのさき。○〔楚辭〕「肥牛之─、臑若芳些」。㊁筋鳴る。

【腱】 筋に同じ。

【腲】 ワイ、エ。鄔賄切 賄 ─腇は、肥えたる貌にいふ語、こゆ、又、舒遲の貌にいふ語、のびやか。○〔王褒〕「其奏二歡娛一則莫下不二憚漫衍凱阿那──腇一者上已」。

【膟】 リツ、呂戌切 質 リチ。 ル井。力遂切 寘 ㊀血祭の肉。㊁膟に同じ、はらわた。

【膟】 スヰ。所類切 寘 いくさのまつり（師祭）。

【月屎】 キ。馨夷切 支 ㊀吚に同じ、うめく。㊁大いに笑ふ。

【腳】 キヤク、カク。訖約切 藥

㊀あし。
(い)すね(脛)。○〔荀〕「警-倨-拵-搏-捶-笞-臏—·—」。
(ろ)器物の下につきて其の體を支ふる用をなすもの。○〔晉〕「實用二故-車—一」。
(は)山の麓。○〔中山詩話〕「山—·—石-蟠レ虬」。
(に)行くこと。○〔杜甫〕「日—·—下二平-地一」。
㊁あしにて蹂む、ふむ、又、あしを持つ、あしさる。○〔司馬相如〕「射レ麋—レ麟」。
〔臏腳〕 罪によりて脛を斫る。○〔司馬遷〕「孫-子—·—、兵-法-修-列」。
〔長腳〕 蟲の名、あしたか蜘蛛。○〔詩、疏〕「蠨-蛸-長-蹄、一-名—·—」。

【腴】 ユ。容朱切 虞　勇主切 麌
㊀腹の下の肉、肉の肥えて耎き處。○〔禮〕「進レ魚右レ—」。
㊁肉の內部に含有するればれる液、あぶら。○〔論衡〕「甘而多レ—」。
㊂肥えてあぶらづきたる肉。〔南〕「膳無二鮮—一」。
㊃肥えたるにいふ字、あぶら多きにいふ字。○〔漢〕「爲二九-州膏—一」。
㊄美なること、豐かなること。○〔班固〕「味二道之—一」。
㊅肥えしむ、こやす、又、豐大ならしむ。○〔王融〕「舄-鹵可レ—」。
㊆猪又は犬の腸　○〔禮〕「君-子不レ食二圂—一」。
〔脂腴〕 あぶら、又、あぶらづきて肥えたること、又、富貴なること。○〔後漢〕「若生二長—·—一」。
〔華腴〕 はでやかにして豐かなり。○〔宋〕「性不レ好二—·—一」。
〔上腴〕 最もよく肥ゆ。○〔西都賦〕「九州之—·—」。
〔苦腴〕 艱澁にして豐肥なり。○劉禹錫「丑辭—而—」。「甚レ鮮」。
〔刲腴〕 肥えたる肉を裁割す。○劉禹錫「—レ—」
〔蕈腴〕 なまぐさく肥ゆ、又、其のもの。○〔黄庭堅〕「與レ世滋二—·—一」。
〔膾腴〕 充足豐肥なること。○〔後漢〕「是爲二—·—一」。
〔[illegible]腴〕 豐肥なる位地に身を置く。○〔晉〕「—·—能約」。
〔滋腴〕 滋養分ありて肥えたるもの。○〔何〕「何至レ復引二此—·—、自汙中腸胃上」。
〔沃腴〕 こえたること。○〔華陽國志〕「土-地—·—」。
〔濃腴〕 濃からずして肥ゆ。○〔唐〕「—·—鮮-美盡在矣」。
〔甘腴〕 甘味なるあぶら。○〔宋〕「肥二民骨-血一、爲二己—·—一」。
〔珍腴〕 常に得べからずして肥ゆ。○〔益部方物嘉魚贊〕「爲レ味—·—」。

【腠】 キヤク、ガク。極虐切 藥
㊀大いに笑ふ、わらふ。㊁牛の舌。

【膵】 膈に同じ。

【腵】 カ、ケ。居牙切 麻
腸の病ひ、又、癥の病ひ。

【腶】 タン。都玩切 翰
ほじし(乾肉)。○〔左〕「進二稻-醴-粱-糗—·脯一」。

【腪】 ブン、モン。武粉切 吻
㊀吻に同じ、口のへり。㊁聚まれる筋。

【腷】 ヒヨク、弼力切 職　フ、ボ。符遇切 遇
意泄れず、むれふさがる、むすぼる。○〔古兩頭纖々詩〕「—·—膊々雞始鳴」。○

【腸】 チヤウ、ヂヤウ。直良切 陽
㊀はらわた。
(い)六腑の一、胃より肛門にまで廻り疊みて通じたる膜管、わた、はらわた、胃の氣を通し食したる物の滓穢を去るの機器。○〔禮〕「狼去レ—狗去レ腎」。
(ろ)心裏、こゝろ。○〔漢〕「無二它—一」。
㊁つまびらか(詳)。
〔腎腸〕 腎臟とはらわたと、又、まごころの意にいふ語。○〔晉〕「今予其敷二心·腹—·—一」。
〔斷腸〕 (い)はらわたを絶ちきる。○〔魏〕「使—レ—湔·洗」。
(ろ)なげくとの甚しきにいふ語。○〔蔡琰〕「空—レ—兮思惜々」「—」。
〔爛腸〕 はらわたをたゞらす。○〔爾、雅〕「入レ腹—レ—」。
〔剛腸〕 つよきはらわた、即ち、物に屈せざる氣質をそなへたるにいふ語。○〔南〕「—·—似レ直」。
〔刮腸〕 腹わたをけづる。○〔南〕「必香·刀—レ—」。
〔踐腸〕 腹わたを踐みあるく。○〔隋〕「隳·骨—レ—」。
〔剖腸〕 腹わたを割く。○〔五〕「嘗剖—二其—一」。
〔刳腸〕 前に同じ。○〔鮑照〕「猶二—レ—而興一レ疾」。
〔無腸〕 腹わたあることなし、又、確固たる意志なきにいふ語。○〔蘇軾〕「江·南刺·史已—レ—」。
〔中腸〕 中心といふに同じ、まごころ。○〔全唐詩話〕「著·作不レ休出二—·—一」。
〔冷腸〕 不熱心なること又は薄情なることにいふ語。○〔顔氏家訓〕「楊·朱之侶、世謂二—·—一」。
〔腐腸〕 腹わたを腐敗せしむ。○〔七發〕「甘·脆肥·醲命曰二—·—之藥一」。
〔回腸〕 腹をめぐらしかへす、即ち、物に感動することの激しきにいふ語。○〔高唐賦〕「—レ—傷レ氣」。
〔絶腸〕 腹わたをちぎる、即ち、悲しきにいふ語。○〔曹植〕「愴二傷心一而—レ—」。
〔愁腸〕 憂への心にいふ語。○〔傅休奕〕「爲レ我—·—」。
〔枯腸〕 はらわたの中に物の充實しをらざること。○〔盧仝〕「三·椀搜二—·—一」。
〔石腸〕 剛きはらわた、即ち、確たる意志あるにいふ語。○〔皮日休〕「疑二其鐵·心—·—一」。
〔浣腸〕 腹わたを洗ひきよむ。○〔史〕「湔二—·—一」。
〔塡腸〕 腹わたに充實す。○〔後漢〕「—レ—滿レ腹」。
〔刷腸〕 腹わたの塵を去る。○〔晉〕「剖レ腹以—レ—」。
〔捐腸〕 腹わたをひねる。○〔唐〕「或—レ—求二珠·玉一」。
〔滌腸〕 腹わたにそゝぎかく。○〔齊〕「痛入二骨·髓—一」「耳」。
〔娛腸〕 心を悦ばしむるにいふ語。○〔梁〕「—レ—悦」
〔空腸〕 (い)腹わたの中食物なくなる。○〔楊萬里〕「—·—暗怒訴二長·饑一」。
(ろ)草の名。○〔急就篇、註〕「蒼·芩一名—·—」。
〔心腸〕 こゝろ。○〔阮籍〕「—·—未二相好一」。
〔潤腸〕 腹はたのはたらきをよくす。○〔鮑照〕「潤レ胃—レ—」。

【腹】 フク、ホク。方六切 屋
㊀はら。
(い)胸と腰との間の腸胃をつゝめる處。○〔史〕「夢三蒼·龍據二吾—一」。
(ろ)ゐぶくろ、ゐぶくろ、又、はらわた。○〔莊〕「不レ過レ滿レ—」。
(は)心裏、こゝろ。○〔左〕「敢布二—·心一」。
(に)生みたること。○〔漢〕「有二遺—·子煖一」。
(ほ)前面。○〔五〕「背—受レ敵」。
(へ)身體に於けるはらの狀をなせる處の稱。○〔河圖引蜀謠〕「江出二其—一」。
㊁あつし(厚)。○〔禮〕「水·澤—·堅」。
㊂懷抱す、いだく。○〔詩〕「出·入—レ我」。
〔心腹〕 (い)胸とはらと。○〔史〕「人之有二—·—之病一也」。
(ろ)誠實の心にいふ語。○〔漢〕「吏皆輸二寫—·—一無レ所二隱匿一」。
〔剖腹〕 はらを割く。○〔戰〕「—レ—折レ頤、首·身分·離」。
〔鼓腹〕 はらを打ち鳴らす、はらつゞみ打つ。○〔史〕「—レ—吹·篪」。
〔捧腹〕 はらをかゝふ。○〔史〕「司·馬季主—レ—而大笑」「悵」。
〔便腹〕 大いなるはら。○〔程俱〕「便·腹—·—轉·陳」。
〔果腹〕 はらの分量をなす。○〔顔延之〕「—レ—而炊」。
〔入腹〕 はらの中に入りこむ。○〔吳〕「身·蟲—二其—一」「欄」。
〔叢腹〕 はらに物のかを叢がく。○〔南〕「—レ—爲二射·」

（披腹）はらをひらく。○〔五〕「屠者一二其一一」。
（實腹）はらに充つ。○〔老〕「一二其一一」。
（充腹）前に同じ。○〔白居易〕「隨レ宜飲食聊一レ一」。
（胷腹）むねとはら、又、物の要處にいふ語。○〔戰〕「魏天下之一・一」。
（捫腹）はらをひねる。○〔蘇軾〕「散步逍遙自一レ一」。
（拄腹）はらをさゝふ。○〔蘇軾〕「撐レ腸一レ一」。
（決腹）はらをきりたつ。○〔戰〕「斷レ脰一レ一」。
（撫腹）はらをなでさする。○〔後漢〕「一二光一一」。
（縫腹）はらをぬひあはす。○〔魏〕「一レ一舉レ膏」。
（破腹）はらを斷ちわる。○〔魏〕「當二一レ一取一」。
（剖腹）前に同じ。○〔晉〕「岐伯一レ一以盪レ腸」。
（滑腹）前に同じ。○〔嵇道〕「嗜慾者一レ一之斧」。
（鍼腹）はらに針うつ。○〔唐〕「滑一二其一一」。
（櫟腹）はらをひきさる。○〔唐〕「以二門牡一レ一」。
（洞腹）はらのなか、又、はらを貫く。○〔淮子〕忠「一レ一藏二元氣一」。
（中腹）はらに打ちあつ。○〔金〕「遙擊一二非一一」。
（盈腹）はらをからにす。○〔荀〕「一レ一張レ口」。
（山腹）山の中身の處。○〔廬山記〕「水出二一・一一」。
（叩腹）はらを打ちたゝく。○〔誠齋襍記〕「玠一レ一」。
（寬腹）大いなるはら。○〔羣經〕「共鑑一・一小口」。
（豐腹）前に同じ。○〔魏文帝〕「一・一高隆、庳根四顏」。
（飽腹）腹に充實す。○〔柳宗元〕「克レ心一レ一」。
（空腹）はらに物なきこと、すきばら。○〔白居易〕「一・一三盃卯後酒」。「山一・一一」。
（半腹）中身の處、多く山にいふ語。○〔孫覿〕「行穿二一・一一」。
（鞭長不及馬腹）力あればとて勢に逆ふべからざるをいふ語。○〔左〕古人曰、雖二一之一、一レ一二一・一一」。
（推赤心置人腹）己が心にわだかまりを挾まざるものから他を疑ふとなく待遇するをいふ語。○〔後漢〕「蕭王一二一・一一一二一・一中一」。

【腟】テツ、デチ。徒結切 〔屑〕
骨差ふ、たがふ、一說に、はる、（腫）、又、ゐさらひのにく、（連-脽-肉）。

【膍】ソウ、ス。七公切 〔東〕

やむ、（病）。

【腸】エイ。於例切 〔霽〕
むれ、（臆）。

【膉】ケキ、キヤク。呼役切 〔陌〕
みる、（視）。

【膾】イン、オン。於禁切 〔沁〕
胸中の病ひ、むれのやまひ。

【脸】カン、ゴン。胡南切 〔覃〕
ふいがうのえ、（鞴-囊-柄）。

【腁】ハウ、ビヤウ。比諍切 〔敬〕
腹のふくるゝ貌にいふ字。

【膞】ショク、シキ。節力切 〔職〕
セキ、シヤク。資昔切 〔陌〕
腻の字の條を見よ。

十畫

【腿】タイ、テ。吐猥切 〔賄〕
はぎ、（脛）、一說に、脛と股との後の肉。

【膀】ハウ、バウ。步光切 〔陽〕
㊀わきばら、（脅）。㊁脁の字を見よ。㊂ふくろ、（脹）。

【膁】ケン。苦簟切 〔琰〕
㊀腰の左右の肉虛しき處。㊁大いなる味。

【膁】カン、ケン。丘咸切 〔咸〕
牛馬の腰後のくぼき處。

【膁】餁に同じ。

【臁】ゲン、ゴン。牛廉切 〔鹽〕
うまし、（美）。

【膭】シン。稱人切 〔眞〕
㊀引き起こす、又、起こる。㊁肉ふくれ起こる、はる、特に、邪氣の爲に肉ふくれ起こるにいふ字。○〔揚雄〕「股-脚一如レ維レ身之疾一」。

【膹】サ。蘇果切 〔哿〕　蘇臥切 〔箇〕
あぶらのたなじし、（膏-膜）。

【膈】ジヤク、ニヤク。日灼切 〔藥〕
㊀たなじし、（膜）。㊁やはらか、（脆-腝）。㊂志ゝ、（肉）。

【膇】タイ、テ。都罪切　クワイ、エ。虎猥切 〔賄〕　胡隈切 〔灰〕
腫れて大いなり。

【膂】リヨ、ロ。兩舉切 〔語〕
㊀志ゝ、（肉）。○〔博雅〕「一肉也」。
㊁せぼれ、（脊-骨）。○〔書〕「作二股-肱心-一一」。
㊂筋肉の力、ちから。○〔揚雄〕「一力也、宋、魯曰レ一」。
（肱膂）ひぢと背骨と、又、最もたのみとすべきものゝ義。○〔唐〕「任以二一・一事一」。
（腰膂）こしとせ骨と。○〔蘇軾〕「老病入二一・一一」。
（筋膂）すぢと背ぼねと、又、力。○〔廬綸〕「盛有二一・一一」。
（共膂）力を同じくす。○〔郭璞〕「同レ心一レ一」。
（曲膂）せぼねを屈ます。○〔柳宗元〕「一レ一屈レ膝、惟行之紆」。
（賁膂）脊をつきとほす。○〔王仲信〕「雕題一レ一」。
（升膂）脊。○〔劉基〕「嵩岳鑑二一・一一」。
（髀膂）もゝとせと。○〔陳鑑〕「一・一墳起、筋骸强健」。

【膃】チツ、チチ。烏沒切 〔月〕
㊀肭の字の條を見よ。㊁一膄は、やむ、（病）。

【膄】シウ、シユ。所救切 〔宥〕
やす、やせ、（臞）。○〔詩箋〕「欒-々-然一・一瘠也」。

【膆】カウ、コウ。虎項切 〔講〕
肥えたる貌にいふ字。

【膟】コウ、ク。居侯切 〔尤〕
足曲がる。

【膅】タウ、ダウ。徒郎切 〔陽〕
こゆ、（肥）。

【膧】クワウ。呼郎切 〔陽〕
㊀肉の開。㊁猴一は、南蠻國の名。

【臍】臍に同じ。

【膤】セツ、セチ。先結切 〔屑〕
あぶら、（脂）。

【膠】シウ、側救切 〔宥〕　ソウ、ス。將侯切 〔尤〕
ほじし、（脯）。

【膒】シユ、ス。芻注切 〔遇〕
㊀そなへもの、（膳）。㊁うるはし、（姸）。㊂志わ、（皺）。

【膆】ソ、ス。蘇故切 遇
㊀こゆ、(肥)。
㊁嗉に同じ、のんどの食を受くる處。
○[潘岳]「裂レ—破レ嗉」。

【𦢊】シヤウ、サウ。楚兩切 養
皮傷る、さく。

【𦢁】ショク、シキ。悉卽切 職
あまじし、(寄-肉)。

【膇】ツ井、ヅ井。直類切 寘
足腫る、下腫る、はる。○[左]「民愁則墊-隘、於レ是乎有二沉-溺重—之疾一」。
[沉膇] 陽氣順ならずして下に病あると。○[文心雕龍]「猝-顚—-—」。

【䐠】ソン。鎖本切 阮
あつもの、(臛)。

【䐝】サイ、セ。初佳切 佳 サ。セ。初牙切 麻 シ。叉宜切 支
ほじし、(脯)。

【䐝】サ、ザ。才何切 歌
腹鳴る。

【𦢳】キ。許意切 寘
こりのやまひ、(塊-病)。

【𦢳】キ、ケ。許旣切 未
餼に同じ。

【膈】カク、キヤク。各核切 陌
㊀心と脾との間、むねのうち、胸中。○[後漢、註]「多レ病二胷—痛一」。
㊁鐘を懸くる格、かねつりぎ。○[史]「懸二—鐘一尚撞レ—」。
[肝膈] 肝臟とむなわちの處と、又、心の中にいふ語。○[蘇軾]「淸-微見二—-—一」。

【膉】エキ、ヤク。伊昔切 陌
㊀こゆ、(肥)。
㊁脰の肉、くび。○[儀]「取二諸左—-—一」。
㊂豕槽に伏す、ふす。

【䐄】カン、ゴン。戸感切 感
口の下、おたあご。

【𦢍】チウ、ウ。烏孔切 董
㊀にほふ、(臭)。㊁こゆ、(肥)。

【膶】カフ、コフ。口答切 合
睡眠を欲する貌にいふ字、まどろむ。

【膍】ビ、ミ。名移切 支
汙れたる面の貌にいふ字。

【膏】カウ、コウ。口到切 號
㊀槁に同じ。㊁にほひ、(蒿)。

【膞】トン、ドン。徒渾切 元
屍に同じ、ゐさらひ。

【䐣】コン、ゴン。胡困切 願
肥えたる貌にいふ字。

【膊】ハク。匹各切 藥
㊀肉をうちたゝきて物に著け燥かしたるもの、ほじし。○[周、註]「拍爲レ—」。
㊁かた、(肩)。○[儀]「肩、臂、臑、—、骼」。
㊂罪囚を裸體となして磔するを、はりつけ、さらし。○[左]「殺而—二諸城-上一」。
㊃肉の切片、きりにく。○[淮]「嗜二厚—一者」。
㊄物を擊つ聲にいふ字。○[韓愈]「脳—戰-聲喧」。
[臂膊] ひぢと肩と。○[周書]「李-穆蔡-祐、亟-相—-—」。「而舞」。
[上膊] 肩にのぼす。○[北]「扶二女-子一—レ—、搖レ手」
[拉膊] 肩をとりひしぐ。○[潛夫論]「—レ—擧レ胸」。
[落膊] 肩の上におつ。○[王昌齡]「胡-瓶—レ—紫薄汗」。
[袒膊] はたをぬぐ。○[李賀]「—-—渦二冬-天一」。

【膊】レツ、レチ。龍輟切 屑 ハイ、ヘ。鋪枚切 灰 フ。芳無切 虞
さかひ、(界)。○[揚雄]「福則有レ—」。

【膞】シュン、ジュン。殊倫切 眞
股の骨。

【䐬】サウ、ソウ。蘇遭切 豪
臊に同じ。

【𦡶】シ。壯仕切 寘
食らふ。

【𦜣】凶に同じ。

【𦡹】チフ、ザフ。直立切 緝
屈とれる脯、ほじし。

【䐅】カク。黑各切 クワク、カク。忽郭切 藥 コク。呼木切 屋 呼酷切 沃

【𦡃】あつもの、(羹)。
瘤に同じ。

【𦛗】キウ、ク。居雄切 東

【㱿】コク。古祿切 トク、ドク。徒谷切 屋
かくしどころをきるつみ、(腐-刑)。

【殼】カク、コク。苦角切 覺
㊀あしのかふ、(足-跗)。㊁牲の後足。
㊂から、(皮-甲)。「(素)。
㊃上より下を擊つ、うつ、一說に、もと、

【膋】レウ。洛蕭切 蕭
腸の間の脂、あぶら。○[禮]「取二膟—一燔-燎升レ首、報レ陽也」。
[血膋] 血液とはらわたの間のあぶらと。○[詩]「取二其—-—一」。
[焚膋] 腸の間のあぶらを燃やす。○[舊唐]「—二—-蕭一」。
[肝膋] 肝臟のあぶら。○[唐]「取二—-—一燔二手爐一」。

【𦡤】脊に同じ。

【䐐】サイ。先代切 隊
脊—は、體の顫動する貌にいふ語、ふるふ。

【膌】セキ、シヤク。資昔切 陌
㊀やす、(瘦)。○[管]「時節二稽馬-牛之肥-—一」。㊁死にたる者の骨。
㊂やせたる腹、やせばら。

【䐶】クワイ、ケ。公回切 灰
こゆ、(肥)、一說に、六畜の孕めるにいふ字。

【膭】カイ、ケ。可亥切 㷊 ガイ。魚開切 灰
肉羹、あつもの。

【膍】ヒ、ビ。頻脂切 支
㊀五臟の總名、はらわた、一說に、ゑぶくろ、(肚)。○[徐渭雪]「庖-坦縱-橫「解-犢——」。
㊁あつし、(厚)。

【膍】ヘイ、ベイ。部迷切 齊
——臍は、ほぞ、へそ。○[急就篇]「脾腎、五-藏、——臍乳」。

【膎】カイ、ガイ。戶皆切 佳
㊀ほじし、(脯)。○[徐鉉]「古謂脯之屬爲膎——」。
㊁肉の食肴、さかな。○[南]「孔-靖飮宋高-祖、酒無レ——、取伏-雞卵爲レ肴」。
㊂熟したる食物。○[揚雄]「多-田不レ婁費我——功」。
㊃はだへ、(肌-膚)。○[博雅]「肌-膚者——也」。

【膒】ワ、エ。烏瓜切 麻
——臁は、臚の腹の下の肉。

【膏】カウ、コウ。姑勞切 豪
㊀こゆ、こえたり。
(い)肉の豐かなるにいふ字、ふさる、ふさし。○[國]「——梁之性」。
(ろ)滋液潤澤の多きにいふ字。○[左思]「——腴兼-倍」。
㊁あぶら。
(い)肉の內部に含有するればれる液、特に其の凝結してあらざるもの丶稱。○[易]「雉——不レ食」。
(ろ)潤澤、うるほひ。○[國]「土——其動」。
㊂脣脂、くちべに、古昔は丹とあぶらとを和してつくりたりといふ。○[詩]「豈無——沐」。
㊃あぶらを用ひたる藥、おもに外科方に用ふ、あぶらぐすり。○[後漢]「傅以神——」。
㊄甘きと、美なると。○[禮]「降——露」。
㊅豐かなると、榮ゆると。○[後漢]「身處脂——」。
㊆きめ細かくてつやよきと。○[周]「其植-物宜——物」。
㊇味好くて滑かなると。○[山海經]「——菽——稻」。
㊈心の下、むねのまた。○[左]「居肓之上——之下」。
〔盛膏〕あぶらをもり入る。○[史]「輠者車之——レ器也」。
〔殘膏〕あぶらをつくさずにあり。○[劉子翬]「孤-燈倒——レ——」。
〔豐膏〕ゆたかにあぶらけあると。○[韓詩外傳]「——不獨樂」。「繼レ晷」。
〔焚膏〕あぶらを燃やす。○[韓愈]「——油以繼レ晷」。
〔華膏〕よきあぶら。○[孟郊]「燒死被——」。
〔民膏〕人民よりしぼりとりたるあぶら、即ち、苛税を課して得たるもの。○[宋太宗]「爾俸爾祿、——民脂」。
〔韁膏〕あぶらをきる。○[蘇軾]「枯-松欲レ——レ——」。
〔腴膏〕肥えてあぶらけあると、又、富裕なるにいふ語。○[隋]「處——不レ潤其質」。
〔灌膏〕あぶらをそそぎかく。○[三國]「——以魚——」。
〔沸膏〕たぎらしたるあぶら。○[曹植]「投——於回-谿中」。
〔素膏〕白き色のあぶら。○[夏侯湛]「融——」。
〔塗膏〕あぶらを塗抹す、又、塗抹したるあぶら。
○[吳師道]「透色賤——」。
〔肌膏〕皮膚のあぶら。○[郝經]「——坐銷鑠」。

【膏】カウ、コウ。古到切 號
あぶらを施す、あぶらす、なめらかにす、うるほす。○[詩]「陰-雨——レ之」。

【膂】膐に同じ。

【膇】タイ、テ。都罪切 賄
大いに腫るゝ貌にいふ字。

【膱】シ。昌支切 支
目の汁凝る、こる。

十一畫

【膒】オウ、ウ。烏侯切 尤 於候切 宥
久しき脂、一說に、脂をもて皮を漬す。

【膑】イン。夷眞切 眞
脊を夾む肉、せじし。

【膓】俗の腸の字。

【膔】ロク。盧谷切 屋
腹鳴る。

【膧】ショウ、シュ。七恭切 冬
肥ゆる病、こゆ。

【膭】サウ、ゾウ。昨勞切 豪
㊀やはらか、(脃)。㊁腹鳴る。

【膌】膌、又、瘠に同じ。

【膕】カク、キャク。古伯切 陌 コク。骨或切 職
㊀膝の後の曲がれる處、ひきかゞみ、ひッかゞみ。○[荀]「詘レ要撓レ——」。

【膖】サン、セン。楚限切 潸
㊀足を並ぶ、ならぶ。
皮起ころ。

【豚】テン。他兗切 銑
やきぶた。

【膗】サ、セ。壯加切 麻
鼻の上の皰、あわ、又、あわの生じたる鼻、ざくろばな。

【膖】ハウ、ホウ。披江切 江 チョウ、チュ。丑隴切 腫
——肛は、腫る、ふくる。

【膁】セン、ゼン。旬宣切 先 隨戀切 霰 詳兗切 銑
たけひくし、みじかし、(短)。

【膢】ライ、レ。盧懷切 佳
膗の字を見よ。

【膘】ル井。晉水切 紙
皮起ころ、はる。

【膘】ル井。倫追切 支
ほじし、(脯)。

【脩】シウ、シュ。思留切 尤
進め獻る、すゝむ、特に、滋味をすゝむるにいふ字。

【膗】サイ、セ。仕懷切 佳

腂ーは、形の惡しきこと。

【膘】ヘウ。普沼切 篠
牛の脅後髀前の皮肉相合うて薄き處、又、其の處の肉。

【膘】セウ。子小切 篠
一 前條に同じ。二 脅骨。

【臕】膘に同じ。

【膙】キヤウ、カウ。居兩切 養
筋の頭、又、筋強し。

【⿰月庸】チヨウ、丑凶切 チユ。 ヨウ、餘封切 ユ。 冬
傭に同じ、ひとし、直し。

【⿰月責】サク、シヤク。側革切 陌
魚の子のほじし。

【膚】フ。方無切 虞 リヨ、凌如切 魚
一 はだへ。
（い）身體の表を被へる皮、はだ、○〔詩〕「ー如ニ凝・脂一」。
（ろ）表皮、うはかは。○〔後漢〕「樹ーー麻・頭」。
二 家の肉。○〔儀〕「ー鮮・魚鮮・腊」。
三 切肉。○〔禮〕「脯・羹兎・腊䐑ーー」。
四 うはかはにとゞまりて深く入らざること、淺きこと。○〔班固〕「末・學ーー受」。
五 おほいなり（大）。○〔詩〕「以奏ニーー公一」。
六 うつくし（美）。○〔詩〕「公・孫碩ーー」。
七 手指を側たてたる長さ。○〔公羊〕「ー寸而合」。
八 つく（傅）。
九 はなる（離）。
十 はぐ（剝）。

〔噬膚〕はたへをかむ。○〔易〕「ーレー滅レ鼻、无レ咎」。
〔肌膚〕はたへ。○〔莊〕「ー・ー若ニ氷・雪一、綽・約若ニ處・子一」。
〔體膚〕身體皮膚。○〔孟〕「餓ニ其ー・ー一」。「ー」。
〔嗜膚〕はたへより血をすひとる。○〔淮〕「蚊・虻ーレー」。
〔險膚〕險陂淺薄なること。○〔書〕「起レ信ー・ー」。
〔倫膚〕豕の皮と骨ともて作りたるもの。○〔儀〕「ー・ー七」。
〔髮膚〕かみとはたへと。○〔孝〕「身・體ー・ー、受ニ之父・母一」。
〔玉膚〕たまの如くうつくしきはたへ。○〔洞冥記〕「ー・ー柔・軟」。
〔鏤膚〕はだへにはりものをなす。○〔魏都賦〕「或ーレー而鑽レ髮」。
〔腯膚〕肥滿す。○〔吳都賦〕「鳥・獸ー・ー」。
〔殘膚〕はたへをくらふ。○〔蕪城賦〕「乳レ血ーレー」。
〔青膚〕苔蘚、こけ。○〔韓愈〕「ー・ー聳ニ瑤・楨一」。
〔薛膚〕前に同じ。○〔陸機〕「ー・ー一何潤」。
〔芳膚〕かうばしきはたへ。○〔孟郊〕「蔟・々抽ニー・ー一」。
〔裂膚〕はたへを破る。○〔李華〕「墮レ指ーレー」。
〔剝膚〕はたへをむきとる。○〔韓愈〕「ーレー椎レ髓」。
〔皮膚〕はたへ。○〔柳宗元〕「搔ニー・ー一」。
〔披膚〕はたへを切り開く。○〔唐〕「矢著レ眉ーレー郭レ目」、「食」。
〔噉膚〕はたへをかみ食らふ。○〔唐〕「三・蠱ーレー而
〔冰膚〕白くうつくしきはたへ。○〔宋〕「ー・ー雪・肌、金・玦玉・珮」。「肌」。
〔豐膚〕肥えふとりたるはたへ。○〔王粲〕「ー・ー曼・舒・展」。
〔稹膚〕赤き色のはたへ。○〔張載安〕「ー・ー自折」。
〔素膚〕白き色のはたへ。○〔七命〕「ー・ー雪落」。
〔擘膚〕はたをつき裂く。○〔岑參〕「烈・風ニ我ー一」。
〔寒膚〕冷えわたりたるはたへ。○〔元稹〕「ー・ー漸ーレー」。
〔銘膚〕はたに刻む。○〔令狐楚〕「ーレー鏤レ骨」。
〔粟膚〕寒くしてはたへにあは粒の如きものを生ず。○〔蘇軾〕「無レ衣ー我ー一」。
〔侵膚〕はたへに迫る。○〔黃幹〕「始知寒・色已ーレー」。

【膛】タウ。他郎切 陽
肥ゆる貌にいふ字。

【⿰月啇】タ、テ。竹下切 馬 セキ、シヤク。之石切 陌
ほねのあひだのにく（腏・肉）。

【⿰月啻】タク、チヤク。陟革切 陌
骨閒の肉をゑぐりさる。

【膪】タイ、テ。陟卦切 卦
ー腔は、肥えたる貌にいふ語。

【⿰月習】テフ、デフ。直渉切 葉 チフ、ヂフ。直立切 緝
一 薄く切りたる肉。
二 なま（腥）。
三 やく（爚）、一説に、半熟にすること。

【膜】バク、マク。末各切 藥
一 體肉をまとふ薄き皮、たなじし、うすかは。○〔爾、疏〕「治レ肉除ニ其筋・ー一取ニ好者一」。
二 なづ（撫）。○〔揚雄〕「ー撫也」。
〔眼膜〕目のうすかは。○〔杜甫〕「金・篦刮ニー・ー一」。
〔昏膜〕よく見えずなれる目のうすかは。○〔歐陽脩〕「磨・眼刮ニー・ー一」。
〔絳膜〕赤き色のうすかは。○〔蘇舜欽〕「熟・李吸ニー・ー一」。
〔脆膜〕堅固ならざるうすかは。○〔陳泰〕「初疑ー・ー輕無レ力」。

【膜】ボ、ム。莫胡切 虞
拜するに長く跪くこと。○〔穆天子傳〕「ー拜而受」。

【⿰月皐】ケウ。許幺切 蕭
はる（腫）。

【⿰月靡】バ、マ。眉波切 歌
くだりばら（漏・病）。

【膝】シツ、シチ。息七切 質
股と脛との閒の折れ曲がる節頭、ひざふし、ひざ。○〔儀〕「袂屬幅レ長下レー」。
〔鶴膝〕楯の名。○〔唐〕「ー・ー犀・渠」。
〔鼈膝〕良馬の名、良馬の頭を低るれば口の膝の上に及ぶよりいふ語。○〔漢〕「規ニー・ー一」。
〔加膝〕ひざの上に載す。○〔禮〕「若レ將レ加ニ諸ー一」。
〔造膝〕ひざもとに至る。○〔穀梁〕「ーレー而諫」。
〔屈膝〕ひざを曲ぐ、又、他に屈伏すること。○〔魏〕「交レ臂ーレー」。
〔前膝〕ひざを進ます。○〔北〕「屬爲レ之ーレー」。
〔擁膝〕ひざをかゝへ持つ。○魏、註〕「至アーレー抱ニ文・書一而寢と」。
〔抱膝〕前に同じ。○〔蜀、註〕「常ーレー長嘯」。
〔容膝〕ひざを入る、又、身體を安んずるの義。○〔韓詩外傳〕「所レ安不レ過レーレー」。
〔接膝〕ひざをつきあはす。○〔北〕「ーレー款」。
〔褁膝〕ひざを物に包む。○〔吳越春秋〕「裂レ裳ーレー」。
〔拊膝〕ひざを撫でさする。○〔吳越春秋〕「骨擢肉飛、ーレー數・百・里」。
〔蔽膝〕ひざおほひ、前かけ。○〔詩、箋〕「芾太古ー・ー之象也」。
〔端膝〕ひざを正しくす。○〔後漢〕「坐必ーレー」。
〔斂膝〕前に同じ。○〔晉〕「終・日ーレー危・坐」。
〔傾膝〕ひざをくづす。○〔晉〕「應レ機辨・難、ーレー酬・接」。
〔搖膝〕ひざを動かす。○〔北〕「ーレー吟・咏」。
〔壓膝〕ひざを押へつく。○〔北〕「以レ木ーレー」。
〔據膝〕ひざにもたる。○〔莊〕「左手ーレー」。
〔達膝〕ひざにとゞく。○〔淮〕「踰ーレー」。
〔沒膝〕ひざを隱す。○〔蘇軾〕「汪・々春・泥已ーレー」。
〔慈膝〕愛深き兩親のひざもと。○〔隋煬帝〕「情痛ニー・ー一」。「ー」。
〔舒膝〕ひざを伸ばす。○〔杜甫〕「吾兄睡穩方ーレー」。
〔離膝〕ひざもとをわかれ去る。○〔杜甫〕「嬌兒不レーレー」。
〔撼膝〕ひざを動かす。○〔韋莊〕「隱・扶・璃・時・埔ー・ー」。

【膸】ギヨ、ゴ。牛居切 魚
馬の二目白きもの、さめ。

【膞】セン。主兗切 テン、乳兗切 銑
㊀肉を切る、特に、細く割くにいふ字。㊁きりにく、(臠)。㊂―腸は、ふくらはぎ。「炭燤」。㊃一挺の肉、ちゝむら。○〔淮〕「一―」

【膞】シユン。殊倫切 眞
髀の下の股の骨、またのほね。○〔儀〕「升二羊豕肩臂臑、―胳一。」

【膞】セン。淳沿切 先
㊀陶器を作る用具。○〔周〕「器中レ―」。㊁鳥の胃。

【膟】リツ、呂卹切 シユツ、朔律切 リチ。シユチ。質
―膋は、血祭に供ふる肉、一説に、腸間の脂、はらわたのあぶら。○〔禮〕「取二―膋一」。

【膠】カウ、ケウ。古肴切 肴
㊀皮又は角を煮て製したるもの、にかは、物を黏著するに用ふ。○〔周〕「―必厚施」。㊁かたし、(固)。○〔詩〕「德音孔―」。㊂黏著す、ねばりつく、つく、ねばしつく。○〔莊〕「置レ杯焉則―」。㊃もどる、(戾)。○〔史〕「蜿蟺―戾」。㊄やはらぐ、(和)。○〔詩〕「雞鳴――」。㊅面の平かならざるを。㊆いつはる、(詐)、あざむく、(欺)。○〔揚雄〕「或曰レ譎、或曰レ―」。㊇たゞす、(糾)、一説に、まなびどころ、(學)。○〔禮〕「養二國老於東―一」。

〔脂膠〕あぶらとにかはと。○〔禮〕「菁幹――」。
〔折膠〕かたきをくじく、又、にかはをくじく。○〔庾信〕「盲風正―レ―」。「夏造レ氷」。
〔鍊膠〕にかはを鎔解す。○〔淮〕「以レ冬―レ―、以レ
〔煎膠〕にかはを煮る。○〔墨經〕「正在二―レ―之
〔施膠〕にかはをかく。○〔周〕「―レ―必厚」。〔妙二。

【膠】カウ、コウ。乎刀切 豪
前條の㊃に同じ。○〔楚辭〕「多端而―加」。

【膠】カウ、ケウ。古巧切 巧
動き撓む貌にいふ字。○〔莊〕「―――擾々」。

【膠】ダウ、ヂウ。女巧切 巧
梟―は、亂るゝ貌にいふ語。

【膡】ヨウ。以證切 徑
㊀大いに視る、みる。㊁美目、うつくしきめ。㊂ふたつ、(雙)。㊃ます、(增・益)。㊄おくる、(送)。

【膯】トウ、徒登切 チヨウ、持凌切 ドウ。ヂヨウ。蒸
ショウ。詩證切 徑
前條の㊀㊁に同じ。

【䐘】シユク、ソク。子六切 屋
腳―は、つや、膏澤。

【膢】リヨ、力居切 魚 リウ、力求切 尤 ロ。ル。
㊀飲食の神を祭るを。㊁臘日の祭事。㊂八月の旦に先人を祭祀するを。㊃立秋の日に天子出獵し還りて宗廟を祭るを。

【膢】劉に同じ。

【膭】カイ、ケ。古對切 隊
腰忽ち痛むを、こしいたみ。○〔巢氏病源〕「卒然傷レ腰、致レ痛謂二―腰一」。

【䐚】前條に同じ。

【䐪】ハン、ヘン。方減切 豏
淫、みだり(河東の方言)。

【膣】チツ。陟栗切 質
肉生ず。

【䐋】膌に同じ。

【膜】バク、マク。莫各切 藥
たなじし、(肉-膜)。

十二畫

【膦】レン。力展切 銑
―腝は、力無し。

【膧】トウ、ヅ。徒紅切 東
㊀肥ゆる貌にいふ字。㊁―䐭は、尻の骨。

【䐡】セイ、サイ。前西切 齊
臍に同じ、ほぞ。

【膨】ハウ、蒲孟切 敬 ビヤウ。蒲庚切 庚
ふくろ、はる、(脹)。○〔韓愈〕「豕腹脹―脝」。

【膩】ヂ、ニ。女利切 寘
㊀肉の豐かなるにいふ字、あぶらの多きにいふ字、こゆ、こえたり、あぶらぎる。○〔宋〕「極爲二肥―一」。㊁あぶらに汙染す、あぶらじむ、あかつく、又、あぶらの垢、あぶらあか、あか。○〔潘岳〕「領―如レ初」。㊂なめらか、(滑)。○〔宋玉〕「靡顏―理」。

〔潤膩〕うるほひて滑か。○〔宋〕「膚極爲二――一」。
〔脂膩〕あぶらあか。○〔左思〕「――漫二白袖一」。
〔垢膩〕あかつきあぶらじむ、又、あか。○〔杜甫〕「火雲滋――」。
〔堅膩〕固くしてなめらかなり。○〔錄異記〕「青色――」。
〔細膩〕こまかにしてあぶら氣あり。○〔杜甫〕「肌理――骨肉勻」。
〔滋膩〕潤澤ありて滑かなり。○〔事文類聚〕「――如レ脂」。
〔柔膩〕やはらかく滑かなり。○〔諸寺奇物記〕「――如二芭蕉一」。
〔餘膩〕殘りあるあぶらあか。○〔沈約〕「去留二―」「―」。
〔𦞦膩〕なまぐさくあぶら氣あり。○〔顧況〕「攻二肉食之――一」。
〔腥膩〕前に同じ。○〔張籍〕「䗺衣常――」。
〔肪膩〕あぶらじむ。○〔袁尋尼〕「臉齒森腕玉瑩――」。

【𦢊】キ、居希切 微 カイ、己亥切 ケ。ケ。
頰の肉、ほゝ。

【膪】タ、テ。陟駕切 禡
膪―は、こゆ、(肥)。

【膪】タイ、テ。竹賣切 卦
ほれのあひだのにく、(脇-肉)。

【膫】膋に同じ。

【膫】レウ。力弔切 嘯
あぶる、(炙)。

【膫】ラウ、ロウ。郎刀切 [豪] 腸の脂、あぶら。

【膬】セツ、促絶切 [屑] セイ、此芮切 [霽] セチ。ゼ。脆に同じ、もろし。○〔管〕「釋レ堅而攻レ——」。

【膭】クワイ、ケ。姑回切 [灰] クワイ、エ。胡對切 [隊] 肥えて大いなる貌にいふ字。

【膭】タイ、デ。徒對切 [隊] 下部の大いなる貌にいふ字。

【[月黄]】クワウ、ワウ。姑横切 [庚] 肥えたる貌にいふ字、ふさる。

【[月黄]】クワウ、ワウ。胡光切 [陽] 腫を病む。

【膮】ケウ。許幺切 [蕭] 馨鳥切 [篠] 許照切 [嘯] キウ、ク。香幽切 [尤]
㊀家の羹、あつもの。○〔禮〕「膷臐——醢」。
㊁かうばし、(香)。
〔膷膮〕羊のあつものと家のあつものと。○〔隋大饗歌〕「特以膷膮加二—·—一」。

【[月巽]】ソン。鎖本切 [阮] ソン、ゾン。徂悶切 [願] セン、ゼン。士戀切 [霰] サン、ゼン。雛産切 [潸] 熟肉を切りて血中に和したるもの、一説に、熟肉を切りて再び煮たるもの、又一説に、熟肉を切り米を糝ぜて煮たるもの。○〔齊民要術〕「有二肺-—法一」。

【[月曾]】ソウ、ゾウ。徂棱切 [蒸] こゆ、(肥)。

【[月朁]】サン、ソン。祖含切 [覃] シン。杏林切 [侵] にる、(烹)。

【[月朁]】セン、ゾン。慈鹽切 [鹽] 肉を塩す、つちにつゝむ。

【[月朁]】シン。子朕切 [寑] 子鴆切 [沁] 脣の病、又、脣闕く、みつくち。

【[月矞]】ケツ、ケチ。呼決切 [屑] 瘡の貌にいふ字、かさ。

【[月壹]】エイ、アイ。壹計切 [霽] やす、(瘦)。

【膯】トウ。他登切 [蒸] あく、(飽)。

【[月單]】タン。都寒切 [寒] 大いなる腹。

【臑】ジ、ニ。如之切 [支] にる、(煮)。

【[月畫]】カク、キヤク。呼麥切 [陌] あしのひきかゞみ(曲-脚-中)。

【膰】ハン、ベン。符艱切 [刪] 宗廟社稷を祭るに供ふる火熟の肉、ひもろぎ。○〔史〕「如致二—乎大-夫一」。
〔脤膰〕社稷宗廟に供したるひもろぎ。○〔周〕「以二——之禮一、親二兄-弟之國一」。
〔執膰〕ひもろぎを持つ。○〔左〕「祀有レ—·—」。
〔羞膰〕祭の肉をすゝむ。○〔隋〕「——已具、奠酧將レ終」。

【膰】ハン、バン。蒲官切 [寒] ハ、バ。蒲波切 [歌] 大いなる腹。

【腭】ガク。逆各切 [藥] はぐき、(齒-齗)。

【[月肅]】シウ、ス。疎鳩切 [尤] ほしうを、(乾-魚)。○〔禮〕「夏宜二腒-—一膳二膏-臊一」。

【[月肅]】セウ。蘇弔切 [嘯]
㊀肉を切り食に糅ぜたるもの。
㊁あつもの、(脽)。

【[月夭]】ヘウ。卑遙切 [蕭] はる、(腫)。

【[月奢]】タ、テ。陟加切 [麻] きずあと、(瘡-痕)。

【[月奢]】タ、テ。陟嫁切 [禡] 胷——は、密かならざるを。

【膱】ショク、シキ。質力切 [職]
㊀長く切りたる脯、ほじし。○〔儀〕「——長尺二-寸」。
㊁肉敗る、たゞる、くさる、又、くさし、(臭)。

【[月覃]】タン、トン。他紺切 [勘]
㊀食の味美なり、うまし。
㊁膽——は、こゆ、(肥)。

【[月覃]】タン、ドン。徒南切 [覃] 厚味、あぢあつし。

【[月辜]】コ、ク。古胡切 [虞] 大いなる脯。

【膲】セウ。即消切 [蕭]
㊀六腑の一、みのわた。○〔集韻〕「三-—無-形之府」。
㊁肉の滿たざるにいふ字。○〔淮〕「是以月虛而魚-腦減、月死而蠃-蛖-—」。

【膳】セン、ゼン。上演切 [霰] —、一に饍に作る。
㊀食物を備へ供す、そなふ。○〔詩〕「仲-允—-夫」。
㊁備へ供する食物。○〔漢〕「其令二大-官一損レ—省レ宰」。
㊂くらふ、(食)。○〔禮〕「食下問レ所レ—」。
㊃くらふ肉、くらふ物。○〔周〕「飲-食—-羞」。
〔珍膳〕めづらしき供食。○〔周、註〕「今-時美-物曰二——一」。
〔奉膳〕食物をさゝげ供す。○〔蜀、註〕「供二養其祖-母一—レ—」。
〔六膳〕馬牛羊犬雞豕の食物。○〔周〕「六-飲—·—」。
〔視膳〕供食を粗漏なきやうに注意す。○〔左〕「朝-夕—二君—一」。
〔減膳〕供食の品數を減らす。○〔晉、詔〕「太-官——」。
〔饗膳〕熟煮したる食物と具備したる食物と、即ち、供食のこと。○〔漢〕「陛-下親二-宮之—·—一」。
〔典膳〕官の名、供食の事務を掌る。○〔唐〕「—·—掌-膳各四-人」。
〔夕膳〕夜の供食。○〔宋〕「晨-飲是汲、—·—是營」。
〔玉膳〕美なる供食。○〔李白〕「君-王減二—·—一」。
〔供膳〕食物としさゝぐ。○〔後漢〕「常以—二-母之—一」。
〔常膳〕平時の食物。○〔南〕「—·—不レ過二數-品一」。

（徹膳）供食を取り去る。○〔漢〕「有╷紀╷過之史┃┃之宰」。
（復膳）供食を舊時の如くになす。○〔宋〕「宰‐相上‐表請╷┃┃╷不╷許」。
（問膳）食事の準備如何をたづぬ。○〔王維〕「雞‐鳴「┃」。
管┃╷┃」。
（嘗膳）供食を食らひみる。○〔儀〕「君祭先飯、徧┃╷
「┃╷┃」。
（羞膳）すゝめ供する食事。○〔柳貫〕「歡喜潔╷┃╷
┃」。
（加膳）供食の數を常よりも多くす。○〔左〕「爲╷之
（食膳）食事のこと。○〔漢〕「損╷┃‐┃╷不╷聽╷樂」。
（進膳）供食を差したす。○〔後漢〕「朝‐夕┃╷┃」。
（御膳）帝王に供奉する食事。○〔晉〕「減╷┃‐┃之
半」。
（充膳）食事にあつ。○〔晉〕「割╷人┃╷┃」。

⿰月散 サン。相干切 寒
あぶら、(脂‐肪)。

⿰月厥 ケツ、クワチ。居月切 月
臂の骨、ほね。

膴 コ、荒胡切 虞 ク、火羽 ク。切 コ。切 麌
骨無き腊、ほじし、又、鳥の腊、又、うすくして大いなる臠、おほぎりのにく、又、魚腹を刳きたるもの。○〔周〕「凡掌╷共╷羞、脩、刑、┃、胖、骨‐鱐╷、以待╷共╷膳」。
（刑膴）大ぎりの肉。○〔周〕「共╷其脯‐脩┃‐┃╷」。

膴 ブ、ム。武夫切 虞
㊀前條に同じ。
㊁のり、(法)。○〔詩〕「民雖╷靡╷┃」。

膴 フ、ホ。方矩切 麌
㊀美し、又、厚し。○〔詩〕「周‐原┃‐┃」。
㊁骨無きほじし。

膴 バイ、メ。謨杯切 灰

背肉。

⿸厤肉 ⿰月厥に同じ。

⿸厤月 レキ、リヤク。狼狄切 錫
腱の字の條を見よ。

⿰月絜 ケツ、ゲチ。下結切 屑
たなじし、(膜)。

⿰月毄 ケイ、ガイ。胡計切 霽
のんどのみやく、(喉‐脈)。

⿱齊肉 セイ、サイ。心妻切 齊
腹┃┃は、ほぞ、へそ。

⿰月亳 ハウ、ホウ。巨到切 號
はる、(腫)。

十三畫

⿰月睪 タク、ダク。達各切 藥
㊀膞┃┃は、檢限無し、さりしまりなし。
㊁肥えたる貌にいふ字。

膷 キヤウ、カウ。虚良切 陽
㊀牛肉の羹、うしのあつもの。○〔禮〕「┃臐膮醢」。
㊁かうばし、(香)。
㊂肉の中に息肉(あましゝ)を生ずるにいふ字。

膸 ス井。相觜切 紙
骨中の心、ずん、又、骨中の脂、あぶら。

膸 井。羊水切 紙
あな、(穴)。

膹 フン、ボン。房吻切 吻
あつもの、(臛)。

⿰月費 ヒ、ビ。浮鬼切 尾 符非切 微
汁多き臛、あつもの。

⿰月罷 古文の孕の字、はらむ。○〔管〕「┃‐婦不╷銷‐棄╷」。

膺 ヨウ、オウ。於陵切 蒸
㊀むね、(胷)。○〔史〕「大┃┃大‐胷修‐下而馮」。
㊁身に親づくろにいふ字、ちかづく。○〔禮〕「執╷箕┃╷揭」。
㊂抱き持つ。○〔國〕「┃╷保明‐德╷」。
㊃あたる、(當)。○〔書〕「誕┃╷天‐命╷以撫╷方‐夏╷」。
㊄うく、(受)。○〔楚辭〕「撰╷體協‐脅、鹿何┃╷之」。
㊅うまのはらおび、(馬‐帶)。○〔詩〕「虎‐韔鏤┃」。
㊆うつ、(擊)。○〔孟〕「戎‐狄是┃」。
（服膺）胸中に存して忘れざること。○〔禮〕「拳‐々┃┃╷」。
（拊膺）胸をなでさする。○〔阮籍〕「臨╷觴┃╷┃」。
（塡膺）胸に充ちふさがる。○〔恨賦〕「悲來┃╷┃」。
（搏膺）胸をうちたゝく。○〔左〕「┃╷┃而踊」。
（搯膺）前に同じ。○〔國〕「無╷┃‐┃╷無╷憂‐容╷」。
（光膺）輝きあたる。○〔晉〕「┃‐┃嗣╷位」。
（謬膺）其の實なきをあやまりて選にあたる。○〔哀桷〕「┃‐┃╷翰‐墨選╷」。
（初膺）始めて其の位地を受く。○〔隋〕「陛下┃┃╷寶‐曆╷」。
（寒膺）胸中をひやゝかならしむ。○〔唐〕「忠‐臣┃╷┃、哀‐士痛╷骨」。
（篤膺）厚く親しむ。○〔陸雲〕「┃┃╷俊‐人╷」。
（煩膺）事多くわづらはしき胸の中。○〔元稹〕「詠‐謠暢╷┃‐┃╷」。

膺 ヨウ、オウ。於證切 徑
氣の壅塞するにいふ字、ふさがる。○〔黃庭經〕「舌‐下玄‐┃」。

膻 タン、ダン。蕩旱切 旱
㊀或は省きて胆に作る、襢に同じ、はだをぬぐ。
㊁中┃┃は、心の下にある鬲膜。○〔素問〕「┃‐中者臣‐使之官、喜‐樂出焉」。

膻 セン。尸連切 先
羶に同じ、なまぐさし。○〔列〕「王之羶‐御┃‐惡而不╷可╷親」。

膽 タン、トン。都敢切 感
㊀きも。
(い)六腑の一、腹部にあり、漢方にては決斷の官なりといへり。○〔史〕「坐‐臥卽嘗╷┃」。
(ろ)決斷力、勇氣。○〔漢〕「┃」。○〔漢〕「瞋╷目張╷┃」。
(は)心裏、こゝろ。○〔後漢〕「同╷心‐┃」。
㊁拭ひ治むること。○〔禮〕「桃曰╷┃╷之」。
（嘗膽）越王句踐が吳に報せんとの志を懷きて膽をかけて坐臥に之を嘗めしとの故事より、報復せんと志し辛苦するにいふ語。○〔南〕「撫╷劍┃╷┃」。
（肝膽）きものこと、卽ち、誠實の心にいふ語。○〔史〕「披‐腹‐心╷輸╷┃‐┃╷」。「敢諫╷」。
（破膽）驚き懼るゝことにいふ語。○〔漢〕「┃╷┃而不╷祈╷恩」。
（披膽）誠實を致すことにいふ語。○〔上官儀〕「┃╷┃「┃‐┃驚╷」。
（落膽）氣を喪失することにいふ語。○文同〕「長抱╷者通‐明」。
（熊膽）くまより取りたるきも。○〔本草〕「┃‐┃佳」。
（斗膽）蜀の姜維のきも斗ますの如くに大なりしとの故事より膽略の大いなること。○〔胡曾〕「負╷姜‐維之┃‐┃╷」。
（壯膽）勇壯なる膽氣。○〔貢半千〕「蹀╷血多╷┃‐「┃」。

〔嗜膽〕きもを食ふを好む。○〔劉鐵雲〕「文王一レ一」。
〔義膽〕正義の心。○〔楊炎〕「一・一披・露、上心亦同」。
〔魂膽〕たましひ、こゝろ。○〔北齊〕「猶頓喪二一・一」。
〔飲膽〕きもを口中に呑みこむ。○〔隋〕「一レ一嘗レ血」。
〔灑膽〕誠實の心を注ぐ。○〔宋〕「披レ肝一レ一」。
〔沮膽〕心氣を喪失す。○〔鹽鐵論〕「莫レ不二一レ一挫・折心逝一」。
〔襲膽〕前に同じ。○〔蘇軾〕「初聞一レ一」。
〔勇膽〕いさましき氣力のあること。○〔旬〕「一・一猛・氣」。
〔撃膽〕氣力を失はざること。○〔梁武帝〕「義・夫一レ一」。
〔露膽〕誠實の心を表明す。○〔王僧孺〕「一レ一披レ誠」。
〔呈膽〕前に同じ。○〔呂溫〕「瀝レ肝一レ一」。
〔洞膽〕きもを通じてらす。○〔周邦彦〕「寶鑑一レ一」。
〔一身是膽〕きもたまの大なることいふ語。○〔蜀〕「子龍一・一都一・一」。

【腿】タ、テ。張瓜切 [麻] ㊀足腫る、はる。㊁もゝ、（腿）。

【⿰月奧】イク、乙六切 [屋] アウ、烏到切 [號] 鳥の胃、ゐぶくろ。

【⿰月奧】アウ、オウ。烏浩切 [晧] ㊀前條に同じ。㊁腰の骨。

【膱】シフ。側立切 [緝] 或は省きて肸に作る、肥えて膏出づ。

【膝】俗の膝の字。

【⿰月當】タウ。都郎切 [陽] 耳垂れ下がる。

【膾】クワイ、ケ。古外切 [泰] 細く切りたる肉、ほそぎりのにく、なます。○〔禮〕「一炙處レ外」。
〔供膾〕細かに切りたるなますを奉供す。○〔後漢〕「常力・作一レ一」。
〔炙膾〕細かに切りたる肉を火もてあぶる。○〔周、疏〕「燒レ爇一レ一」。
〔切膾〕なますをきる。○〔吳、註〕「一レ一適・了」。
〔蒸膾〕むしたる細かなる切り肉。○〔隋〕「至レ於一・一、嘗レ之而已」。
〔脯膾〕粗く切りたる肉と細く切りたる肉と。○〔急就篇〕「一・一炙・胾各有レ形」。
〔噉膾〕なますを食ふ。○〔齊諧記〕「一レ一不レ知レ足」。
〔斫膾〕刀もてなますを切る。○〔酉陽雜俎〕「善一レ一」。
〔思膾〕なますを得まほしく思ふ。○〔月令廣義〕「冬月一レ一」。
〔鮮膾〕あざやかなる魚の細き肉。○〔杜甫〕「一・一出二江中一」。
〔設膾〕なますの準備をなす。○〔杜甫〕「姜侯一レ一當二嚴冬一」。
〔縷膾〕細く切りたる肉。○〔陸游〕「喜レ看二一・一映二盤箸一」。

【膿】ドウ、ノウ。奴冬切 [冬] ㊀腫物つひえて出づる一種の液、うみしる、うみ。○〔史〕「後八日嘔レ一」。㊁たゞる、（爛）。○〔齊民要術〕「水稻苗長七八寸、陳草復起、以レ鎌浸レ水芟レ之、草悉一死」。㊂濃厚なる汁、こきしる。○〔曹植〕「肥・豢一・肌」。

【臀】トン、ドン。徒渾切 [元] ㊀背の下腿の上にて肉の高く厚き處、ゐしき、ゐさらひ、しり。○〔易〕「一無レ膚」。㊁そこ、（底）。○〔周〕「爲レ量其一一寸」。
〔規臀〕しりを圓かに畫す。○〔國〕「覂二神一二其一一」。
〔陛臀〕くそぶくろの通じあるしりのあな。○〔韓愈〕「髡二其皮肉一通二一・一一」。

【臁】レン、ロン。離鹽切 [鹽] ㊀あな、（穴）。㊁はぎ、（脛）。

【⿰月董】トウ、ツ。覩動切 [董] こゆ、（肥）。

【⿰月罝】ダ、ナ。囊何切 [歌] 骨を雜へたる醬、ひしほ。

【⿰月罝】ヂヤ、ヂ。乃邪切 [麻] 鳴く物の聲聒しきにいふ字。

【臂】ヒ。卑義切 [寘] 肘と腕（てくび）との間、又は手の上部、うで、かひな、ひぢ。○〔孟〕「紾二兄之一一」。
〔攘臂〕ひぢをはらふ、又、勇を鼓すること。○〔孟〕「馮・婦一レ一」。
〔盤臂〕前に同じ。○〔鹽鐵論〕「孟・賁一レ一」。
〔交臂〕ひぢを拱ふ、又、人と人と相ならぶこと。○〔戰〕「西面一レ一而事レ秦」。
〔掉臂〕ひぢをふる。○〔史〕「一レ一而不レ顧」。
〔斷臂〕ひぢを切り取る。○〔方干〕「一レ一青猿」。
〔猨臂〕ましらの如きさまのひぢつき。○〔史〕「爲レ人長一・一」。
〔扼臂〕ひぢをにぎり持つ。○〔殷復古〕「新・交一レ一行」。
〔把臂〕前に同じ。○〔後漢〕「臨レ別一レ一言・誓」。
〔垂臂〕ひぢを低くし下ぐ。○〔蜀〕「一レ一下レ膝」。
〔伸臂〕ひぢを長くしのばす。○〔名畫記〕「一レ一布レ指」。「刺レ血」。
〔宣臂〕前に同じ。○〔神仙感遇傳〕「忻・然一レ一」。
〔怒臂〕ひぢを張る。○〔莊〕「一二其一一以當二車轍一」。
〔揚臂〕ひぢを高くさしあぐ。○〔尉繚子〕「使二民一レ一出二農・職一」。
〔肘臂〕ひぢ。○〔華經〕「要如二一・一一」。
〔製臂〕ひぢをひき抑ふ。○〔宣和畫譜〕「一レ一者數・四」。
〔損臂〕ひぢを傷つく。○〔冷齋夜話〕「墮レ馬一レ一」。
〔隕臂〕ひぢを休息せしむ。○〔侍兒小名錄〕「一レ一休レ膝」。
〔直臂〕ひぢをますぐにす。○〔射經〕「一レ一如レ枝」。
〔鍥臂〕ひぢを切る。○〔王金珠〕「一レ一飮二清・血一」。
〔綰臂〕ひぢにまとふ。○〔繁欽〕「一レ一雙・金・環」。
〔裹臂〕ひぢを物に包む。○〔庚信〕「小・衫裁一レ一」。
〔駢臂〕ひぢをならぶ。○〔潘子振〕「一レ一枝レ指」。
〔援臂〕ひぢを牽く。○〔借馬供〕「具・辰一二余一一」。

【⿰月辟】ヘキ、ビヤク。蒲歷切 [錫] ㊀ほぞ、へそ、（臍）。㊁積みたる病。

【⿰月辟】ハク、ヒヤク。博厄切 [陌] 豆の中の小さく梗きもの。

【臃】ヨウ、於容切 [冬] ユ。於隴切 [腫] 病ひによりて肉の腫れ起こりたるもの、はれもの。○〔史〕「色將レ發レ一」。

【臄】キヤク、ガク。極虐切 [藥] ㊀口の上阿、うはあご。○〔詩〕「嘉・殽脾一・一」。㊁切りたる肉。

【⿰月豦】キヨ、ゴ。强魚切 [魚] 鳥の腊、ほじし。

【臅】ショク、尺玉切 ソク。切 [沃] 臆の中の膏、あぶら。○〔禮〕「小二切狼一一・膏一」。

【臆】オク、イキ。乙力切 [職] ㊀むね。（い）胷肉、むなしゝ。○〔史〕「噓・唏服レ一」。（ろ）意中、こゝろ、おもひ。○〔史〕「請以レ一對」。㊁みつ、（滿）。○〔方言、註〕「愊一氣滿レ之也」。㊂おさふ、（抑）。○〔釋名〕「一猶レ抑也、抑氣所レ塞也」。
〔胷臆〕（い）むねの中。○〔晉〕「若レ出二其一・一一」。（ろ）心もて推量するにいふ語。○〔唐〕「百・家競二一一之說一」。

〔沽臆〕胸をぬらす。〇〔沈約〕「淳浸涙ーレー」。
〔撫臆〕胸をなでさする。〇〔陸機〕「ーレー論レ心」。
〔突臆〕胸中にわだかまりなし、又、おもひのたけをつくす。〇〔唐〕「敢ーレー盡レ言」。「ー」。
〔發臆〕胸中より起こり出づ。〇〔楊戲〕「忠・情ーレ」
〔褊臆〕狭からざる胸。〇〔孫楚〕「穎・昆ー・ー」。
〔推臆〕胸を挫折す。〇〔孫楚〕「遂以ーレー」。
〔寵臆〕胸を掩ひかくす。〇〔梁簡文帝〕「紅・毛ーレー」。
〔盈臆〕胸中に充滿す。〇〔沈約〕「於参・差而ーレー」。

【膣】イ。隱已切　紙
醴醃（あまざけ）を和したる飲料。

【膸】セン。徂兗切　銑　スヰ。遵爲切　支
汁の少なき臛、あつもの。〇〔曹植〕「膾レ鯉ー二胎・鰕一」。

【臈】俗の臘の字。〇〔古今注〕「出二蜜ーー一」。

【臈】カツ、カチ。居曷切　曷
ーー胆は、肥えたる貌にいふ語。

【臉】ケン。居奄切　琰
目の下頰の上なる處。

【臉】セン、千廉切　鹽　ラン、力減切　豏　ソン。レン。
あつもの（臛）。〇〔齊民要術〕「羹・臛・法有二ー・臟・羹一」。

【臊】サウ、ソウ。蘇曹切　豪
あぶら、にほひ、なまぐさし（腥）。〇〔史〕「狎肉腥ーー何足レ食」。
〔膏臊〕豕のあぶら。〇〔周〕「膳二ー・ー一」。
〔羶臊〕なまぐさし。〇〔舒頓〕「盤・中乏二ー・ー一」。

【腊】セイ、シヤウ。諸盈切　庚
醋にて煮たる魚。

【臂】チク。烏酷切　沃
あぶらのたなじし（膏・膜）。

【臂】チク。烏谷切　屋
肥えたる貌にいふ字。

【臏】コツ、クチ。口骨切　月
ゐさらひ（臀）。

【臐】タク、ダク。徒各切　藥
朓ーーは、檢限なきにいふ語、さりしまりなし。

【臀】臀に同じ。

【臋】癰に同じ。〇〔史〕「後五日當二ーー腫一」。

十四畫

【臍】セイ、ザイ。前西切　齊
ほぞ。
（い）胞を繫ぎたる痕の腹の中央にあるもの、へそ。〇〔南〕「射レ之一發、即中レー」。
（ろ）瓜果の蔕、へた。〇〔博物廣志〕「北・極如二瓜・蔕一、南・極如二瓜ーー一」。
（は）すべて腹に於けるほぞの狀をなせるものにいふ字。〇〔朱熹〕「如二輪之轂一如二磑之ー一」。
〔噬臍〕ほぞをかむ、即ち、事後れて及ぶべからざるといふ語。〇〔左〕後君ーレー」。
〔過臍〕ほぞの上に至る。〇〔蘇軾〕「冬涉レ水ーレー」。
〔暖臍〕ほぞを寒からざるやうにす。〇〔蘇軾〕「留レ氣ー二下・ー一」。
〔磨臍〕石臼のほぞ。〇〔朱熹〕「不レ動如二ー・ー一」。
〔中臍〕ほぞに當る。〇〔南〕「一發即ーレー」。
〔膃肭臍〕獸の名、をツとせい。〇〔本草〕「ーーー・ーー名海・狗・腎」。

【膊】膊に同じ。

【臑】ホ、ブ。薄胡切　虞
雉子の肉。

【臛】エウ。弋笑切　嘯
やす（瘠）。

【臊】サウ、セウ。所敎切　效
凡そ物の殺げて尖れるにいふ字、さがる。

【臎】デイ、ニヤウ。奴頂切　迥
耳の中の垢、みゝくそ。

【臘】俗の臘の字。

【臎】スヰ。七醉切　寘
㊀鳥の尾の上の肉　㊁こゆ（肥）。
㊂まりのほれ（臀）。

【臎】スヰ。遵誄切　紙
㊀くろぶし（髁・骨）。
㊁こえみつ（肥・實）。

【臇】アイ、倚亥切　賄　ヨ。演女切　語
エ。
こゆ（肥）。

【臑】チウ、ヂユ。陳留切　尤
ほじし（脯）。

【臑】チウ、チユ。陟柳切　有
㊀痫に同じ、ふたはらの病　㊁髀の後。

【臏】ヒン。婢忍切　軫
㊀膝頭にある皿の如き骨、ひざのさら、膝骨。〇〔潘岳〕「狙潛レ鉛而脫レー」。
㊁脛の骨、はぎのほれ。〇〔史〕「擧レ鼎絕レー」。
㊂はぎのほれを割斷するにいふ字、あしきる、即ち、古の刑罰の一。〇〔禮、註〕「宮、割、ー、墨、劓、刖皆割二刺人・體一也」。
〔中臏〕膝のさらにうちあたる。〇〔論衡〕「擧二秦王ーレー」。
〔膝臏〕ひざのさら。〇〔急就篇〕「股・腳ー・ー脛爲レ柱」。

【臐】クン、許云切　文　コン。許運切　問
羊の臛、あつもの。〇〔禮〕「膷ー膮醢」。

【臗】コン。胡困切　願
こゆ（肥）。

【臘】カン、ケン。乎韽切　陷
餅の中の肉。

【臏】タイ、デ。杜對切　隊
茂れる貌にいふ字。

【臓】ヂ、女利切　寘　ギヨウ、魚稜切　蒸
ニ。ゴウ。
あぶら、こゆ（膩）。

【朦】ボウ、莫紅切　東　莫孔切　董
ム。
大いなる貌にいふ字、又、ゆたか（豐）。〇〔揚雄〕「秦晉之閒、凡大貌謂二之ー一」。

【朦】バウ、モウ。母項切　講
豐かなる肉。

【⿰月畀】ヒ。匹備切 寘 こえてさかんなり、(肥-壯)。○〔揚雄〕「—盛也、自レ關以-西秦、晉之閒語也」。

【⿰月臬】ギ。魚器切 寘 あまじし、(膃-肉)。

【臑】ダウ、ノウ。乃到切 號 奴刀切 豪 かひな、ひぢ、(臂)、一說に、ひぢの節。○〔史〕「取二前-足—-骨一」。〔臂臑〕ひぢのふし。○〔宋〕「割二羊—・—一以睒」。

【臑】ジ、ニ。人之切 支 胹に同じ、にる、たゞる。○〔枚乘〕「熊-蹯之—」。

【臑】グワン。五管切 旱 あたゝか、(煗)。

【臑】コン。昏困切 願 にくびしほ、(肉-醢)。

【臑】ジュ、ニュ。如朱切 虞 ㈠嫩耎なる貌にいふ字、まなやか、やはらか。㈡肱の骨、ひぢ、一說に、衣の名。

【⿰月㬎】キフ、コフ。乞及切 緝 ほじし、(脯)、一說に、かわく、(乾)。

【⿱賏月】癭に同じ。

【臒】ワク。烏郭切 藥 善き肉。

【⿰月虎】ヒヨウ、ビヨウ。蒲孕切 徑

【⿱髟肉】ギヨウ、ゴウ。魚陵切 蒸 腫れ滿つる貌にいふ字、はれふさがる。

【⿰月尩】クワウ、ワウ。何光切 陽 こゆ、(肥)。

【⿰月尩】腫るゝ病ひ、はれ。

十五畫

【⿰月暴】ハク、ボク。蒲角切 覺 肉腫れ起こる、はる。○〔山海經〕「松-果之山、有レ鳥焉其名曰二䳋-渠一、可二以已一レ—」。

【⿰月美】カウ、ギヤウ。何庚切 庚 肉湆、あつもの。

【⿰月賣】古文の殰の字、やぶる。○〔呂氏春秋〕「壯-佼老-幼胎-—之死-者」。

【⿰月幾】キ、ゲ。渠希切 微 頰の肉。

【⿰月廣】クワウ、ワウ。古曠切 漾 腫るゝ貌にいふ字、はる。

【⿰月養】ヤウ。以兩切 養 吐かんと欲する貌にいふ字。

【⿰月賢】ケン。胡典切 銑 こゆ、(肥)、一說に、肉引きつる。

【臕】ヘウ。卑遙切 蕭 肥えて盛んなり、こゆ。

【臖】キヨウ、コウ。許應切 徑 腫れ起こる、はれあがる。

【⿰月畾】ライ、レ。魯猥切 賄 腲の字の條を見よ。

【臗】コン。枯昆切 元 ゐさらひ、(臀)、しり、(尻)。

【臗】クワン。枯官切 寒 髖に同じ、兩股の閒、また。

【⿰月質】シツ、シチ。之日切 質 腟の字の條を見よ。

【⿰月樂】ハク、ホク。北角切 覺 ㈠—-犖は、亂雜す、まじる。㈡祭肉、ひもろぎ。

【臘】ラフ、ロフ。力合切 合 レフ。力涉切 葉 ㈠冬至の後第三の戌の日に行ふ祭事。○〔禮〕「孟-冬—二先-祖五-祀一」。㈡年末の祭事。○〔正字通〕「俗謂二—之明-日一爲二初-歲一」。㈢歲年、とし。○〔白居易〕「福-智壽-—」。㈣なはなふ、(索)。㈤兩刃、もろは。○〔周〕「桃-氏爲レ劔、—廣二-寸有半-寸」。

〔膢臘〕狩りの祭の名。○〔漢、註〕「故有二—・—之祭一」。
〔伏臘〕伏日と臘日と。○〔後漢〕「歲・時—・—、輒休二遣徒・繫一」。
〔天臘〕道家の言にいふ正月一日の祭の名。○〔雲笈七籤〕「正・月一・日名二—・—一」。
〔地臘〕道家の言にいふ五月五日の祭の名。○〔雲笈七籤〕「五・月五・日名二—・—一」。
〔初臘〕十二月の臘日。○〔史〕「惠・文・君十・二・年—・「—一」。
〔蜡臘〕歲終の祭の名。○〔後漢、註〕「歲終有二—・
〔過臘〕十二月の臘の祭の日を通りこす。○〔荊楚歲時記〕「—レ—一・日謂二之小歲一」。
〔窮臘〕おしつまりたる臘の祭の日、即ち、年のおしつまりたるにいふ語。○〔楊凌鍾〕「—・—催レ年急」。
〔正臘〕冬至の後三つ目の戌の日に百神を祭ると、即ち、十二月の臘の祭。○〔漢〕「母畢二—・—一還去歸レ郡」。
〔王侯臘〕前に同じ。○〔雲笈七籤〕「十・二・月節・日名二—・—・—一」。
〔道德臘〕道家の言にいふ七月七日の祭の名。○〔雲笈七籤〕「七・月七・日名二—・—・—一」。
〔民歲臘〕道家の言にいふ十月一日の祭の名。○〔雲笈七籤〕「十月一・日爲二—・—・—一」。

十六畫

【臙】エン。因仙切 先 のんど、(咽)。

【⿰月嬴】エイ、ヤウ。以成切 庚 くそ、(屎)。

【⿰月巂】スヰ、シ。遵爲切 支 あつもの、(臛)。

【⿰月穌】酥に同じ。

【⿰月瞢】ボウ、モウ。彌登切 蒸 —一に膠に作る。ふづみくらし、(沉-昏)。

【⿰月閻】エン、オン。一鹽切 鹽 セン、ゾン。徐廉切 鹽 肉を湯の中に入る、ゆでる。

【⿰月遺】ヰ。弋隹切 支 こゆ、(肥)。

【⿰月遺】イ。以醉切 寘 肉痛む、いたむ。

【⿰月蕭】セウ。先弔切 嘯

あつもの、(臛)。

【臡】シウ、ス。疏鳩切 尤
乾魚の尾。○[周]「膴-鮑魚-|」。

【膸】髓に同じ。

【膸】イ。羊棰切 紙
あな、(孔)。

【臚】リヨ、ロ。力居切 魚
㊅かは、はだへ、(膚)。○[抱朴]「淳-于能解レ|以理レ肸」。
㊁腹の前、はら、又、はら張る、はる。○[通雅]「|-脹膨彭-脹也」。
㊂つらぬ、(陳)、つ、いづ、(叙)。○[史]「|二於郊-祀一」。「聽二|-言於市一」。○[國]
㊃上より下に語を傳ふ、つたふ。
(腹臚) はら肥えふくれたる處。○(韋昭)「王侯外-國爲二|-|以養一之也」。
(傳臚) 上の語をつたへて下に告ぐること。○(黃溍)「行矣臚二|-|一」。
(大鴻臚) 外國の賓客を接待陳叙する官の名。○(魏略)「宜-字景-然爲二|-|-|一」。

【臚】旅に同じ。○[漢]「大-夫|レ岱」。

【臛】カク、コク。火酷切 沃
㊀肉羹、あつもの、特に、菜を加へざるもの。○[曹植]「|二江-東之潛-鼉一」。
㊁ふすぶ、(燻)。○[史]「乃|二其目一」。
(黄臛) あつもの。○黄庭堅「猶用充二|-|一」。
(羹臛) にてあつものにす。○陸游「蒋-雄|-|無二俸-筋一」。

【朧】ロウ、ル。力董切 董
肥えたる貌にいふ字。

十七畫

【臝】ラ。魯果切 哿
㊀衣を脫して赤體を露はす、はだぬぐ、はだかとなる、又、露はしたる赤體、はだか、すはだ。○[左]「趙-簡-子夢二童-子|而轉以歌一」。
㊁淺毛の獸、即ち、虎、豹、貔、貙の屬。○[周]「其動-物宜二|-物一」。
㊂蓏に同じ。○[集韻]「本作二蓏|一」。
(果臝) 草の名、からす瓜。○(急就篇、註)「一名|-|、一名王瓜」。

【䑋】ジヤウ、汝兩切 養 ナウ。汝陽切 陽
㊀こゆ、(肥)。○[說文]「益-州鄙言二人盛諱二其肥謂二之|一」。
㊁さかんなり、(盛)。○[揚雄]「|盛也、自レ關以-西秦、晉之閒語也」。

【⿰月闌】ラン。郎干切 寒 ラン、レン。郎患切 諫
熟す。

【⿰月嬰】エイ、ヤウ。於郢切 梗
くび、(脰)、又、のんど、(嗌)。

【⿰月韱】セン、ソン。七廉切 鹽
あつもの、(臛)。

【⿰月尃】膊に同じ、きりにく。○[齊民要術]「有二|炙豘法一」。

十八畫

【⿰月巂】イ。尹棰切 紙
きず、(瘠)。

【⿰月嶲】ス井。遵爲切 支

あつもの、(臛)。

【⿰月聶】ゼフ、子フ。日涉切 葉
㊀肉動く、うごく。㊁切りたる肉。

【⿰月聶】ダフ、子フ。呢洽切 洽
かひな、ひぢ、(臑)。

【臞】ク、權俱切 虞 ゴ。衢過切 過
㊀やす、(瘠)。○[史]「形-容甚|」。
㊁へる、(耗)。○[揚雄]「赫-河|」。

【⿰月雚】ケン、ゴン。巨員切 先
醜し。

【⿰月雚】クワン。呼官切 寒
|疏は、獸の名。○[山海經]「帶-山有レ獸焉、其狀如レ馬、一-角有レ錯、其名曰二|-疏一」。

【臟】サウ、ザウ。才浪切 漾
腑と共に體の中の機關をなすもの、はらわた、心、肝腎肺脾の五つを總べていふ。○[抱朴]「破二積-聚於腑-|一」。
(肝臟) 五臟中の一つ、きも。○(魏)「|-|傷-裂」。
(內臟) 體內の臟。○(柳宗元)「靈-府理二|-|一」。
(心臟) 五臟の一つ、又、心のことにいふ。○王逵「|-|空-疎-人-割」。「|-|」。
(脊臟) 五臟の所在をしらべみる。○(異苑)「剖レ腹

十九畫

【臠】レン。力轉切 霰
㊀切りたる肉塊、きりにく、きりみ。○[禮、註]「嘬謂二一-擧盡レ|」。
㊁魚腹を剖きたるもの。○[儀、註]「以爲二大-|一」。
㊂やす、(瘠)。

【臠】ラン。落官切 寒
瘠する貌にいふ字。

【⿰月靡】バ、マ。眉波切 歌
|痳は、くだり病ひ。

【⿰月羅】ラ、レ。利遮切 麻
腹の下の肉。

【臡】デイ、ナイ。年題切 齊 ジ、ニ。人移切 支 ダ、ナ。諸何切 歌 ザイ。汝來切 灰
肉骨を摶き雜ぜたる醢、ひしほ、たゝき、しほから。○[周]「其實昌-本麋-|」。

【⿱難月】臡に同じ。

【⿰月䜌】レン。閭員切 先
驢馬の腹肤る、にいふ字、はる。

二十畫

【⿰月蘇】ソ、ス。孫祖切 虞
酪の屬。

【⿰月矍】キヨ、コ。其居切 魚
人の名。

廿三畫

【⿰月戀】クワ、ケ。驢韡切 麻
驢の腸胃。

臣部

【臣】シン、ジン。丞眞切 眞
(說文)象二屈服之形一。

㊀君に仕ふる者、おみ、けらい。○〔禮〕「君命順則一有レ順レ命」。
㊁おみ又はけらいの君に對して自家の稱にいふ字。○〔史〕「此一之所ニ爲レ君患一也」。
〔主臣〕語頭又は語末に用ひて敬ひ謙する意を表す語、惶恐又は誠惶などに同じ。○〔漢〕「陳平謝曰、一・一」。
〔王臣〕君主の家來。○〔易〕「一・一蹇々」。
〔帝臣〕皇帝の家來。○〔論〕「一・一不レ蔽、簡在ニ帝心ニ」。
〔小臣〕身分ひきゝ家來。○〔周〕「一・一掌ニ王之小命ニ」。
〔亂臣〕國家を治むる能力ある家來。○〔書〕「予有ニ一・一十人ニ」。
〔近臣〕そば近く召しつかふ家來。○〔杜甫〕「天顏有レ喜一・一知」。
〔藎臣〕忠義の家來。○〔詩〕「王之一・一」。
〔虎臣〕勇武ある家來。○〔詩〕「矯々一・一」。
〔守臣〕土地をまもる家來。○〔禮〕「某土之一・某」。
〔陪臣〕帝王の臣たる人に事ふる家來、また家來。○〔論〕「一・一執ニ國命ニ」。
〔武臣〕ものゝふの道をもて事ふる家來。○〔杜甫〕「高官多ニ一・一ニ」。
〔外臣〕他國の人他國の君主に對していふ語。○〔儀〕「他國之人則曰ニ一・一ニ」。
〔嬖臣〕身分ひきゝ家來。○〔左〕「一・一彪將下率ニ諸侯一以討上焉」。
〔末臣〕前に同じ。○〔崔瑗〕「惟我一・一、頑蔽無レ聞」。
〔良臣〕善良なる家來。○〔左〕「雖富ニ一・一ニ」。
〔具臣〕家來の列にそなはりある通常の家來。○〔論〕「可レ謂ニ一・一矣」。
〔爭臣〕君の非を諫めあらそふ家來。○〔孝〕「天子有ニ一・一七人ニ」。
〔世臣〕累代其の國に仕へある家來。○〔孟〕「有ニ一・一之謂也」。
〔親臣〕恩みを垂れてしたしく召しつかふ家來。○〔孟〕「王無ニ一・一矣」。
〔孤臣〕君主に離れたる家來。○〔孟〕「獨一・一孽子、其操レ心也危」。
〔宰臣〕衆臣中の重任を帶びたる家來。○〔國〕「不レ及ニ一・一ニ」。
〔隷臣〕附屬してある家來、卽ち、家來といふに同じ。○〔國〕「晉國其非君之一・一也」。
〔老臣〕(い)年寄りたる家來。○〔戰〕「一・一病レ足」。(ろ)身分重き家來。○〔杜甫〕「丹青憶ニ一・一ニ」。
〔選臣〕善良なる家來を選擇す。○〔史〕「政在レ一レ一」。
〔信臣〕信用寵幸する家來。○〔後漢〕「爲漢一・一」。
〔媵臣〕附き添への家來。○〔說苑〕「伊尹有莘氏之一・一也」。
〔弄臣〕玩弄の用に供する家來。○〔史〕「此吾一・一、君釋レ之」。
〔直臣〕硬直にして志を枉げざる家來。○〔漢〕「因而輯レ之以旌ニ一・一ニ」。
〔藩臣〕王室の藩屛となる家來、卽ち、諸侯王などのこと。○〔殷堯藩〕「却倚ニ天詔ニ報ニ一・一ニ」。
〔忠臣〕君に事へて心づくしをなす家來。○〔漢〕「一・一雖レ在ニ畎畝ニ、猶不レ忘レ君」。
〔貞臣〕志行堅固なる家來。○〔楚辭〕「屬ニ一・一而日娭」。
〔名臣〕名譽高くある家來。○〔小學紺珠〕「此一・一也」。
〔重臣〕輕からざる責任を帶びたる家來。○〔蘇洵〕「一・一者不レ可ニ一日無一也」。
〔家臣〕卿大夫の家に事へある家來。○〔史〕「爲ニ高昭子一・一ニ」。
〔大臣〕國家の重任を帶ぶる家來。○〔禮〕「敬ニ一・一則不レ眩」。
〔亡臣〕其の國を出奔したる家來。○〔禮〕「君惠ニ弔一・一重耳ニ」。
〔羣臣〕もろ〳〵の家來。○〔周〕「詔王御ニ一・一ニ」。
〔臣々〕家來たる位地にありて其の職分を守る。○〔論〕「君々一・一」。
〔功臣〕功績ある家來。○〔小學紺珠〕「漢一・一三十一人」。
〔謀臣〕君を輔佐して計略をめぐらす家來。○〔國〕「施伯魯君之一・一也」。
〔賢臣〕賢明なる家來。○〔說苑〕「一・一處ニ六正之道ニ」。
〔寵臣〕寵遇あつき家來。○〔漢〕「所ニ以厲ニ一・一之節ニ也」。
〔柄臣〕權力を擅れる家來。○〔漢〕「將人圖ニ一・一」。
〔從臣〕つきしたがへる家來。○〔宋之問〕「雪潤ニ一・一衣ニ」。
〔勳臣〕功勞ある家來。○〔小學紺珠〕「一・一二十四人」。
〔史臣〕歷史をかきしるすための家來。○〔杜甫〕「直筆在ニ一・一ニ」。
〔元臣〕身分高き家來。○〔雅琥〕「登用必一・一」。
〔儒臣〕儒學をもて仕ふる家來。○〔劉因〕「一・一相伯仲」。
〔逋播臣〕其の國を逃亡して他の地に流寓せる家來。○〔書〕「伐ニ殷一・一・一ニ」。
〔介胄臣〕武臣に同じ。○〔後漢〕「有レ難則貴ニ一・一之一ニ」。

一畫

【臣】イ。與之切 支　アイ。曳來切 灰
頤に通じ作る、おとがひ。

二畫

【臤】賢の古字。

【臤】カン、ケン。苦閑切 刪　カウ、キヤウ。丘耕切
かたし(堅)。
庚 ケン。輕煙切 先　カン。丘寒切 寒

【臥】ガ。吾貨切 箇　(說文)从ニ人臣ニ取ニ其伏一也。
㊀やすむ。
(い)ふす、ねる、㊁の(い)(ろ)に同じ。
(ろ)やすらふ、いこふ、休息す。○〔張華〕「僕諸惛疾巳甚、暫西一」。
㊁ふす、ねる。
(い)人畜などのたふれ横たはる、やすむ、よこになる。○〔戰〕「一者一、起者起、行者行、止者止」。
(ろ)人のよこになりて精氣變化しつゝの境を離るゝにいふ字、いぬ、ねむる、やすむ。○〔禮〕「吾端冕而聽ニ古樂一、則唯恐レ一」。
(は)すべて物のよこになるにいふ字。○〔隋〕「旗一則跪」。
(に)いぬるが如き狀にいふ字。○〔山海經〕「見レ人則一」。○〔水經註〕「畜產皆布レ穩一レ之」。
㊂ふさしむ、ねかす、ふす。
㊃寢室、ふしど、ねま。○〔後漢〕「乃以ニ張卿一爲ニ大謁者一、出ニ入一內ニ」。
〔高臥〕世俗の係累を離るゝにいふ語。○〔晉〕「一・一ニ東山ニ」。
〔橫臥〕身をよこたへてねる。○〔南〕「一・一ニ北上」。
〔酣臥〕快くねる。○〔唐〕「公在我得ニ一・一矣」。
〔區臥〕たふれねる。○〔汝南先賢傳〕「見ニ安一・一矣」。
〔對臥〕互に向かひあひて寢る。○〔韓愈〕「羣樹朝一・一」。
〔醉臥〕酒にゑひて寢ぬ。○〔史〕「買レ酒一・一」。
〔堅臥〕强ひて寐ねをること。○〔漢〕「亞父一・一不レ起」。
〔扶臥〕介抱して寐ねさす。○〔漢〕「爲ニ侍婢一・一」。
〔假臥〕かりねをなす。○〔後漢〕「晝日一・一」。
〔安臥〕しづかに寢ぬ。○〔梁〕「欲レ求ニ一・一其可レ得乎」。
〔仆臥〕たふれ寢ぬ。○〔南〕「一・一ニ中路ニ」。
〔恬臥〕安く寢ぬ。○〔淮〕「甘孫叔敖一・一」。
〔長臥〕永久の間寢ぬ。○〔論衡〕「夫死一・一不レ悟者也」。
〔裸臥〕はだかになりて寢ぬ。○〔易林〕「一・一失レ明」。
〔熟臥〕よく寢ぬ、うまひす。○〔神仙傳〕「一ニ・一于雪中ニ」。
〔仰臥〕あをのき寢ぬ。○〔世說〕「日中一・一」。
〔閒臥〕しづかに寐ぬ。○〔李白〕「一・一贈ニ太淸ニ」。
〔吟臥〕詩歌を口ずさみ寐ぬ。○〔蘇舜欽〕「一・一欲レ忘レ機」。
〔憊臥〕疲れて寐ぬ。○〔高士說〕「蘇醉唯一・一」。

五畫

【臣㐱】シン。之忍切 軫
昕に同じ、あきらか(明)。

六畫

【臦】キヤウ、カウ。古況切 漾　ワウ。嫗往切 養

そむく、（背）。

【䣼】 ケイ、ギヤウ。倶永切 梗

人の名。

八畫

【臧】 サウ、ザウ。滋郎切 陽

❶よし、（善）。○〔易〕「初-六師出以レ律、否レ—凶」。❷あつし、（厚）。

❸奴僕の賤稱、こもの、めしつかひ。○〔楚辭〕「釋二管晏一而任二—獲一」。

❹賕（まひなひ）を受けたるを、不正なる事によりて物を得たるを。○〔漢〕「貪-汚坐レ—」。

❺藏に同じ、をさむ、をさまる。○〔管〕「天-子—二珠-玉一、諸-侯—二金-石一」。

〔否臧〕 惡きと善きと。○〔白居易〕「賢-愚定二—-—一」。

〔僭臧〕 皆善し。○〔詩〕「與レ子—-—」。

〔允臧〕 まことに善し。○〔陸雲〕「豐-恩—-—」。

〔謀臧〕 計略する所善くあり。○〔詩〕「—-—不レ從」。

〔拔臧〕 推し抑ふ。○〔長笛賦〕「拔-擎—-—」。

【臟】 サウ、ザウ。才浪切 漾

❶藏に同じ、くら。○〔漢〕「御-府之—」。

❷臓に同じ、はらわた。○〔漢〕「吸レ新吐レ故、以練二五—一」。

【臨】 リン。犂針切 侵

❶のぞむ。

（い）上より下を視るにいふ字、みおろす。○〔詩〕「上-帝—レ女」。

（ろ）高きより低きに對するにいふ字。○〔論〕「—レ之以レ莊則敬」。

（は）對す。○〔易〕「如レ—二父-母一」。

（に）貴きものゝ卑きものゝ所に適くにいふ字。○〔禮〕「—二諸-侯一」。

（ほ）撫有す、なでたもつ。○〔穀梁〕「有下—二天-下一之言上」。

（へ）制御す、をさむ。○〔戰〕「循二有-燕一以—レ之」。

（と）討伐す、うつ。○〔戰〕「以—二韓、魏一」。

（ち）守る、譬たる、すべて其の物事の局にあたるにいふ字。○〔戰〕「君—二函-谷一」。

❷みおろすべく構へたる兵車、やぐるま。○〔詩〕「以二爾鉤-援與二爾—-衝一」。

〔照臨〕 たかきにありてひかりてらす。○〔詩〕「—-—下-土一」。

〔肯臨〕 來り至ることをうべなふ。○〔漢〕「大-王乃「—-—レ臣」。

〔登臨〕 高き所に上りて下を伏しみる。○〔杜甫〕「留レ服共—-—」。

〔至臨〕 來たり至る。○〔易〕「—-—无レ咎」。

〔莅臨〕 其の局にあたりのぞむ。○〔詩、疏〕「成-王將欲レ—二其政一」。

〔非臨〕 來り至らず。○〔左〕「神—レ—也」。

〔始臨〕 はじめて君主となる。○〔漢〕「武-帝—-—二天下一」。

〔瞰臨〕 見おろす。○〔漢〕「—-—左-右一」。「—」。

〔威臨〕 威重をもて人に對す。○〔後漢〕「以相—」。

〔親臨〕 自身に來たる。○〔魏〕「帝—-—送レ亂」。

〔辱臨〕 貴人の來たりくれたるに用ふる敬語。○〔晉〕「不レ以二鄙-賤一而—-—レ之」。

〔慈臨〕 慈悪の心を以て下に對す。○〔齊〕「伏願—-—、賜二臣敬昔一」。

〔遠臨〕 遙か隔たりたる處を見おろす。○〔梁〕「開-閣-室二以—-—」。

〔撫臨〕 循へ治む。○〔魏〕「—二—萬國一」。

〔鑒臨〕 書畫などをうつしかく。○〔宣和畫譜〕「俗-畫—-—」。

〔光臨〕 人の來たるに敬ひいふ語。○〔七啓〕「幸見二—-—一」。

〔窺臨〕 下をのぞき見る。○〔朱熹〕「—-—忽滄-洲」。

〔俯臨〕 うつむき見る。○〔陸倕〕「—-—二烟-雨一」。

【臨】 リン、ロン。力禁切 沁

喪に哭する禮をなすを、一說に、特に其の衆人にてなすにいふ字。○〔左〕「卜下—二于大-宮一且巷出上レ車」。

〔入臨〕 喪ある時に朝にいりて哭禮を行ふ。○〔禮〕「—-—不レ翔」。

〔弔臨〕 死者を哭するを。○〔周〕「凡內-人—二—外一」。

〔侍臨〕 君主などにつきてたがひに哭す。○〔通典〕「—-—肴者素服哭」。

【䡭】 キヤウ、ガウ。倶往切 養

驚き走る、又、往來する貌にいふ字。

【䡰】 ケイ、ギヤウ。倶永切 梗

四に同じ、人の名。

十五畫

【䡲】 クワン、ケン。獲頑切 刪

堅—は、かたし。

自部

【自】 シ、ジ。疾二切 寘

❶より、から。

（い）もとづき出でたる處を表すに用ふる字。○〔詩〕「退二食—レ公」。

（ろ）志たがひ來たれる處を表すに用ふる字。○〔史〕「—二河-內一至二長-安一」。

❷よる。

（い）因緣す、もとづく、ちなむ。○〔左〕「有二—來一矣」。「終」。

（ろ）志たがふ、（率）。○〔禮〕「—レ周有レ康一、奄二有四-方一」。

（は）もちふ、（用）。○〔詩〕「—二彼成-已」。

❸事物の本來のまゝなるにいふ字、おのづから、おのづと。○〔列〕「—-然而息」。

❹已れ一個にいふ字、おのれ、みづから。○〔易〕「天-行健、君-子以—彊不レ息」。

〔奚自〕 何れの處より來たると疑ひ問ふ語。○〔論〕「晨-門曰、—-—」。

〔何自〕 如何なる理によると疑ひ問ふ語。○〔史〕「今公—-—從二吾兒一遊乎」。

一畫

【自】 古文の鼻の字。

二畫

【𦣻】 ケウ。居小切 篠

自ら重んず。

三畫

【臬】 京に同じ。○〔漢伯著碑〕「京-兆作二—-晃一」。

四畫

【臬】 ゲツ、ゲチ。魚列切 屑

❶射の墩的、やのまと。○〔張衡〕「所レ發無レ—」。

❷門中の橛、もんのくひ。○〔爾〕「樴謂二之杙一、在レ地者謂二之—一」。

❸其の景を取りて方を正す柱、ひかげばしら。○〔周、註〕「樹二八-尺之—一」。

❹すべて物事を正す準法の稱、のり。○〔書〕「外-事汝陳二時—一」。

❺きはむ、（極）、又、かぎる、（限）。○〔王粲〕「共廣無レ—」。

〔水臬〕 みづもりのと。○〔景福殿賦〕「或違二于—-—一」。

〔桁臬〕 くひ。○〔張衡〕「—-—山廻」。

〔置臬〕 ひかげばしらを設けおく。○〔王褒〕「臨二衍-人一而—レ—」。

【皋】 ケイ、ケ。九芮切 霽

前條の㊀に同じ。

【臭】シウ、シユ。尺救切 宥
㊀にほひ、かをり、か。(い)鼻にかぎ感ずる氣。〇[禮]「其―羶」。(ろ)くさき氣。〇[左]「十年尙猶有レ―」。(は)かうばしき氣。〇[易]「其―如レ蘭」。
㊁にほひ惡し、くさし。〇[漢]「年老口―」。
㊂にほひ好まし、かうばし。〇[史]「側載二―茝一」。
㊃腐敗す、くさらす、くさる、やぶる。〇[書]「若レ乘レ舟、汝弗レ濟―二厥載一」。
㊄汙穢す。〇[書]「無二起レ穢以自―一」。
㊅汙穢したる聲聞、あしききこえ。〇[晉]「不レ足三復遺二―萬載一」。
(赤臭)惡しき人。〇[揚雄]「―・―播鬪」。
(聲臭)こゑとにほひと。〇[詩]「上天之載、無レ聲無レ―」。
(乳臭)ちゝのか失せやらず、卽ち、年の若く經驗少なきにいふ語。〇[漢]「是口尙―・―」。
(香臭)にほひ。〇[張九齡]「―・―誰爲レ中」。
(尙臭)香氣あるものを貴重す。〇[禮]「周人―レ―」。
(惡臭)善くなきにほひ。〇[禮]「如レ惡二―・―一」。
(銅臭)錢くさし、卽ち、金錢をのみ貯蓄するものにいふ語。〇[後漢]「議者嫌二其―・―一」。「―一」。
(餘臭)殘りあるにほひ。〇[南]「到・溉尙有二―・―一」。
(聞臭)にほひの知るゝこと。〇[周書]「相去數步、遜―二其―一」。
(泄臭)にほひ他に出づ。〇[周書]「上不レ―レ―」。
(酷臭)甚だ惡しきにほひをなす。〇[抱朴子]「加レ之―・―」「異」。
(奇臭)常に異なりたるにほひ。〇[荀]「―・―以レ鼻」。

【臭】キウ、ク。許救切 宥
嗅に通じ用ふ、にほふ、かぐ。〇[荀]「―レ之而無レ嗛二于鼻一」。

六畫

【臮】古の暨の字、および。〇[史]「蠙珠―魚」。

【臯】俗の皋の字。

【臰】俗の臭の字。

八畫

【自夬】エツ、エチ。一決切 屑
殠き貌にいふ字、くさし。

九畫

【臱】ベン、メン。眉然切 先
見えず、みず。

【自犮】ハツ、バチ。蒲撥切 曷
病の氣。

十畫

【臲】ゲツ、ゲチ。魚列切 屑
―卼は、安からざるにいふ語。〇[易]「上六困二于葛藟于―卼一」。

【自臬】前條に同じ。

【自囟】シン。思晉切 震
腋氣の病ひ、わきが。

十一畫

【自邑】エフ、オフ。又業切 葉 ケウ。丘消切 蕭
くさし(臭)。

【自扁】ヒ。披義切 寘
㊀好き貌にいふ字、よし。㊁魚の名。

【臭莫】ホツ、ボチ。薄沒切 月
くさきき(臭-氣)。

十二畫

【臭曷】カツ、カチ。許葛切 曷
㊀犬の臭氣、いぬのにほひ。㊁寢れたる間の呼吸れいき。

【臭曷】カイ、ケ。許介切 卦 虛艾切 泰
くさし(臭)。

【臭曷】エツ、オチ。於歇切 月
物のくされたる氣。

【臭柰】ダイ、ナイ。尼戒切 卦
臭害―は、くさし(臭)。

【臭昷】チツ、チチ。烏沒切 月
病の氣。

十四畫

【自畀】ヒ、ビ。毗至切 寘
㊀犬の初めて生みたる子、一說に、首子。㊁むじめ(首)。

【臭害】カイ。火戒切 卦
臭柰の字の條を見よ。

至部

【至】シ。脂利切 寘
[說文]鳥飛从レ高下至レ地也、从レ一、猶レ地也、象形。
㊀いたる。(い)きたる(來)。〇[詩]「如二川之方一―一」。(ろ)さとく、およぶ(達)。〇[書]「自レ朝―二于日中昃一」。(は)きはまる(極)。〇[易]「―哉坤元」。(に)あつまる(會)。〇[孟]「而禽獸―」。
㊁いたれるを、きはみ、いたり。〇[禮]「敬之―也」。
㊂大いに、きはめて、いたりて。〇[戰]「法令―行」。
㊃よし(善)。〇[禮]「婦猶有二不レ―者一」。
㊄一歲間の最短日、さうじ、又、一歲間の最長日、げし。〇[易]「―日閉レ關」。
(長至)冬至。〇[禮]「日―・―陰陽爭」。
(後至)他におくれて來たる。〇[周]「誅二―・―者一」。
(飮至)宗廟にて酒を飮む。〇[左]「歸而―・―」。
(蟻至)群がり來たる。〇[左]「求二諸侯一而―・―」。
(洊至)頻に來たる。〇[王褒]「禎祥―・―」。
(來至)來たる。〇[論衡]「太平之際見二―・―一也」。
(期至)定めたる時限來たる。〇[詩、箋]「―・―故登二毀垣一」。
(情至)心情的極す。〇[揚方]「―・―斷二金石一」。
(偏至)すべて來たる。〇[史]「瑞應―・―」。
(總至)悉く來たる。〇[任昉]「祥光―・―」。
(物至)物事其の極處に到達す。〇[戰]「―・―而反、冬夏是也」。
(竝至)俱に來たる。〇[禮]「菑害―・―」。
(冬至)一陽來復の期、二十四氣の一。〇[史]「日―・―則一陰下藏、一陽上舒」。
(夏至)冬至に對していふ語、二十四氣の一。〇[史]「―・―日祭二地祇一」。
(驟至)急に到來す。〇[歐陽修]「風雨―・―」。
(從至)附き添ひ來たる。〇[史]「羣臣―・―」。
(畢至)すべて來たる。〇[史]「游說之士、莫レ不二―・―一」。
(致至)手厚く盡くす。〇[後漢]「恩禮―・―」。

三畫

【致】チ。陟利切 寘
㊀いたす。

(い)おくろ、(送)。○〔春秋〕「季孫行-父如レ宋一レ女」。
(ろ)まねく、(招)。○〔易〕「借レ物一レ用」。
(は)をさむ、(納)。○〔禮〕「大夫七十一レ事」。
(に)つたふ、(傳)。○〔詩〕「工祝一レ告」。
(ほ)審かにす。○〔禮〕「一レ樂以治レ心」。
(へ)きはむ、(極)。○〔書〕「凡爾衆、其惟一レ告」。
(と)ゆだぬ、(委)。○〔易〕「君子以一レ命」。
(ち)誠にす。○〔老〕「其一レ之」。
(り)會す。○〔周〕「以一ニ萬民一」。
(ぬ)挑む。○〔左〕「以一ニ晉師一」。
(る)運ぶ。○〔詩〕「是一是附」。
(を)すべていたらしむろにいふ字。○〔韓愈〕「不レ可ニ幸而一一也」。
㊁いたる、(至)。○〔周〕「一日、一夢」。
㊂つく、(就)。○〔老〕「故一數レ車無レ車」。
㊃さだめ、(制)。○〔管〕「以レ一爲レ儀」。
㊄おもむき。
(い)歸所、むれ。○〔後漢〕「其志一一遠矣」。
(ろ)趣態、さま。○〔六帖〕「風一一整」。
㊅緻密、こまか。○〔禮〕「德産之一也」。
㊆整ひたろと。○〔漢〕「文一不レ可レ得レ反」。

〔書致〕かき記して人に送る。○〔禮〕「獻ニ田宅一者操ニ一一」。
〔高致〕けたかくあるおもむき。○〔公羊、註〕「帝王之一一也」。
〔坐致〕ゐながらにして物を來たす。○〔周書〕「一一ニ千里一」。
〔屈致〕服從し來たらしむ。○〔蜀〕「此人可ニ就見一、不レ可ニ一一一也」。「帛以一一」。
〔羅致〕引き寄せ來たらしむ。○〔林希逸〕「揮ニ金一一ニ衆賢一」。
〔廣致〕汎く召し寄す。○〔晉、傳〕「一一ニ衆賢一」。
〔自致〕己れみづから盡くし極む。○〔禮〕「一一ニ其敬一」。
〔極致〕窮め盡くしたる所。○〔公羊、注疏序〕「聖人之一一」。
〔立致〕忽ちの間に來たらしむ。○〔元倉〕「太平其一一矣」。
〔招致〕呼び寄す。○〔史〕「一ニ一任俠姦人一」。
〔誘致〕おびき寄す。○〔漢〕「一ニ一單于一」。
〔一致〕ひとつむね。○〔易〕「一一而百慮」。
〔生致〕生捕りにし來たす。○〔漢〕「必一ニ一之一」。
〔窯致〕調べきはむ。○〔漢〕「一ニ一其非一」。
〔拘致〕囚へ來たる。○〔狄遵度〕「一ニ一鯉鯨一」。
〔羅致〕前に同じ。○〔魏〕「一ニ一北闕一」。
〔引致〕ひき寄す。○〔國史補〕「一ニ一後進一」。
〔奇致〕めづらかなるおもむき。○〔南〕「時有ニ一一一」。
〔勝致〕すぐれたるおもむき。○〔王晉〕「有ニ園遊之一一」。
〔精致〕精密なるむね。○〔南〕「甚有ニ一一」。
〔殊致〕歸する所を一にせず。○〔南〕「指歸一レ一」。
〔異致〕前に同じ。○〔魏〕「古今一レ一故也」。
〔乖致〕道に順はず來たる。○〔宋〕「盈虛一一」。
〔兼致〕あはせ至る。○〔北〕「資望一一」。
〔雅致〕みやびやかなるおもむき。○〔孫逖〕「一一表ニ于文詞一」。
〔泰致〕忽ちの間に來たす。○〔魏〕「一一ニ富貴一」。
〔絕致〕すぐれたるおもむき。○〔郭祥正金山行詩〕「壯觀一一遁應レ同」。

四畫

【𦤳】致に同じ。○〔洞靈經〕「善事ニ父母一之所レ一也」。

五畫

【𦤶】チツ。陟栗切 [質] 僁一は、觝牾す、理に循はず、もさろ、ふろ、たがふ。

六畫

【臵】咯に同じ、いたる。

【臶】セン、ゼン。才句切 [霰] 再び至る、かさなる、又、かされて、志きりに、志ばく。

【臷】テツ、デチ。徒結切 [屑] ㊀耋に同じ、おゆ。○〔漢〕「犬馬齒一」。㊁たがひに、(迭)。○〔韓詩外傳〕「日月諸、胡一而微」。

【臷】チツ、ヂチ。直質切 [質] テイ、タイ。他計切 [霽] 國の名。○〔山海經〕「有ニ一民之國一」。

【臷】替に同じ。○〔周成雜字〕「替-與ニ零-替一同」。

【臷】鐵に同じ。○〔漢〕「及車轔四-一小戎之篇」。

【臸】ジツ、ニチ。入質切 [質] シ。止而切 [又] チョク、チキ。竹力切 [職] いたる、(至)。

【𦤸】シン。即刃切 [震] 前に往く、すゝむ。

七畫

【臺】俗の臺の字。

【臹】シウ、ス。思留切 [尤] ㊀ならふ、(習)。㊁すゝむ、(進)。

八畫

【臺】タイ、ダイ。徒哀切 [灰] ㊀四方を觀望すべく高く築きたるもの、ものみ、うてな。○〔禮〕「可ニ以處ニ一榭一」。㊁上に物をのせ支ふる具。○〔夢溪筆談〕「堂中設ニ視章一一、每レ草レ制則具ニ衣冠一據レ一而坐」。㊂陵墓、みさゝぎ、つか。○〔山海經〕「帝嚳、堯、舜、各二一一」。㊃中央の官省、又、其の高官。○〔北〕「一一人處ニ南一一、一人處ニ北一一、當レ使ニ天下肅然一」。㊄城門。○〔江總〕「驅レ駕出ニ城一一」。㊅賤役の輩、こもの。○〔孟〕「自レ是臺無レ饋也」。㊆草の名、すげ、夫須。○〔詩〕「南山有レ一」。

〔咍臺〕いびきする貌にいふ語。○〔世說〕「許-喉於ニ丞相帳一一大鼾」。
〔冰臺〕艾の異名。○〔爾〕「艾一一」。
〔靈臺〕(い)天子の設くるうてな、即ち、祲氣を觀察するためのもの。○〔詩〕「經ニ始一一一」。(ろ)こゝろの稱。○〔莊〕「一一者有レ持」。
〔輿臺〕身分卑きもの。○〔杜甫〕「照-耀一一驅」。
〔瀨臺〕星の名。○〔晉〕「織女星東足四星曰ニ一一」。
〔蘭臺〕官署の名。○〔後漢〕「一一令史六百石」。
〔三臺〕尙書卽ち中臺、御史卽ち憲臺、謁者卽ち外臺の稱。○〔後漢〕「周歷ニ一一一」。
〔瑤臺〕珠玉もて飾れるうてな。○〔李白〕「一一雪花數千點」。
〔瓊臺〕前に同じ。○〔孫綽〕「一一中レ天而懸レ秀」。
〔崇臺〕高くかまへたるうてな。○〔西都賦〕「承以一一一閒館一」。
〔築臺〕うてなを造る。○〔左〕「一ニ一于郎一」。
〔登臺〕うてなの上に乘る。○〔後漢〕「一レ一觀レ雲」。
〔輿臺〕身分卑しき者。○〔後漢〕「一一舒レ情」。
〔累臺〕重ね造れるうてな。○〔司馬相如〕「一一增成」。

九畫

【𡔂】アイ、エ。烏解切 [蟹] いへ、(舍)。

【𦥄】テツ、デチ。徒結切 [屑]

喪の時につくるころも、縗絰。

十畫

【臻】シン。側詵切 眞

いたる。
（い）きたろ、（來）。○〔詩〕「饑饉薦―」。
（ろ）およぶ、（逹）。○〔詩〕「逝―二于衞一」。
（は）あつまろ、（聚）。○〔鹽鐵論〕「商賈之所レ―、萬物之所レ殖」。

（來臻）きたる。○〔李白〕「春客盡――」。
（屢臻）あまたび至る。○〔後漢〕「甘露――」。
（並臻）同じく至る。○〔潛夫論〕「符瑞――」。
（畜臻）前に同じ。○〔宋〕「騈貴――」。
（旁臻）あまねく至る。○〔李白〕「神休――」。
（欻臻）忽ちの間に至る。○〔杜甫〕「――二于長樂之舍一」。
（濫臻）理由なく至る。○〔李商隱〕「通班昔――」。

【[illegible]】チ。丑利切 寘

念戾す、いかりもとる。

十一畫

【[illegible]】シ。脂利切 寘

軽に同じ。

十二畫

【[illegible]】シツ、ジチ。職日切 質

ふさぐ、ふさがる、（窒）。

【緻】チ、ヂ。直利切 寘

履の底を刺す、さす。

臼部

【臼】キウ、グ。巨久切 有

〔說〕本作レ臼、省作レ―。象形中〔文象〕米。

二畫

❶米などを搗くに用ふる中凹き具、うす。○〔易〕「掘レ地爲レ―」。
❷うすに入れて搗く、うすつく。○〔張衡〕「杵爲二舂――之用一」。

（杵臼）（い）星の名。○〔史〕「――四星在二危南一」。（ろ）きねとうすと。○〔韓愈〕「依レ前使二兎操一――」。「――一」。
（石臼）いしもて作りたるうす。○〔後漢〕「力擧二――」。
（敗臼）星の名。○〔後漢〕「――察レ穴而揚レ輝」。
（穿臼）うすを掘りて作る。○〔王襃〕「居當レ――」。

【𦥑】キョク、コク。拘玉切 沃

手を叉くこまぬく。

二畫

【臽】カン、戸猪切 陷 カン、苦感切 感　ゲン。切　コン。切

小さき阱、あな、おとしあな、又、おとしあなに入る、おとしいる。○〔除鉉〕「以―レ虎」。

【臾】キ。求位切 寘

蕢に同じ、あじか。

【臾】ユ。羊朱切 虞　ヨ。雲居切 魚

❶須――は、志ばらく。○〔中〕「不レ可二須―離一也」。
❷臾――は、くぼみ。○〔荀〕「流丸止二于臾――一」。

【臾】ユ。勇主切 麌

夾――は、一種の弓。○〔周〕「往體多、來體寡、謂二之夾――之屬一」。

【臾】

溷に同じ。

三畫

【臿】サフ、セフ。楚洽切 洽

❶舂きて麥の皮を去る、うすつく。○〔史〕「雜二―並閉一」。
❷插に同じ、さす。
❸鍤に同じ、すき。○〔漢〕「擧レ―爲レ雲」。

四畫

【舀】エウ。以沼切 篠　ユ。羊朱切 虞

臼より取り出だす、彼れを取りて此れに注ぐ、くむ。

【[illegible]】ヘツ、ボチ。房越切 月　ハイ、ヘ。芳廢切 隊

米を舂く、つく、うすつく。

【舁】ヨ。以諸切 魚　羊茹切 御　キョ、コ。衎許切 語

兩手を掛けて舉ぐ、かく。

【[illegible]】

師に同じ。

五畫

【[illegible]】バツ、マチ。莫葛切 曷

米を舂き砕く、くだく。

【舂】ショウ、シュ。書容切 冬

❶つく、（擣）。○〔周、註〕「―二築地一爲レ節」。
❷うすつく。
（い）物を臼に入れ杵にてつく。○〔詩〕「或―或揄」。
（ろ）夕日の沒せんとするにいふ字。○〔薛能〕「隔レ溪遙見夕陽―」。
❸衝に通じ用ふ。○〔史〕「―二其喉一以レ戈殺レ之」。
❹――容は、質問を受くるをにいふ語。○〔禮〕「善待レ問者如レ撞レ鐘、待二其―容一然後盡二其聲一」。

（雅舂）身を正しくしてうすつく。○〔史〕「使二白公――一」。「――」。
（賃舂）入に雇はれてうすつく。○〔後漢〕「爲二吳祐一――」。
（戈舂）ほこをもて杵に代へて米をつく。○〔荀〕「猶二以レ指測レ河、以レ戈舂一レ黍也」。「猶」。
（宿舂）よべに米をつく。○〔莊〕「適二百里一者―レ―」。
（高舂）日のめぐりて晡時に至るにいふ語。○〔李商隱〕「紅燭近二――一」。
（下舂）日のめぐりて晡後になるにいふ語。○〔淮〕「日至二連石一曰二――一晡後一」。「入――」。
（親舂）他の力をからず自身に臼つく。○〔後、註〕「夫人―レ―也」。
（助舂）臼つくに力を添ふ。○〔鹽田呂氏去〕「歌以」「市一」。
（碓舂）杵もて臼をつく。○〔漢〕「使二杵白――一于」
（喧舂）かまびすしくうすつく。○〔秦觀〕「――起二傍舍一」。

六畫

【[illegible]】ハク。匹各切 藥

うすつく、（舂）。

【舄】セキ、シャク。思積切 陌

❶底の複なりたる履、くつ。○〔詩〕「赤―几々」。「楄有レ―」。
❷大いなる貌にいふ字。○〔詩〕「松―」。
❸光曜の流れ行く貌にいふ字。○〔班固〕「―二奕乎千載一」。「―承跋」。
❹磶に同じ、いしずゑ。○〔何晏〕「玉―」。
❺潟に同じ、かた。○〔漢〕「終古―鹵兮生二稻粱一」。

（金舄）かねの履。○〔詩〕「赤芾――」。
（革舄）なめし皮のくつ。○〔漢〕「足履二――一」。
（墮舄）おちたるくつ、又、くつを落としなくなす。○〔書〕「遺劍――」。「劍二升レ殿」。
（脫舄）くつをぬぎすつ。○〔通典〕「至二陛階一――」。
（幅舄）むかばきと履と。○〔左〕「帶裳――」。
（履舄）くつ。○〔史〕「――交錯、杯盤狼藉」。
（礎舄）石ずゑ。○〔史、註〕「水精爲二――一」。
（縞舄）白色のくつ。○〔說苑〕「帶二玉劍一履二――一」。

〔複舄〕二枚底のあるくつ。○〔方言〕「謂之一一」。〔遺舄〕くつをすておとす。○〔李白〕「棄我如一一」。〔提舄〕くつを手に持つ。○〔唐中宗〕「漢文一レ一」。〔素舄〕白き色のくつ。○〔柳宗元〕「縞冠一一」。〔躡舄〕履を足につく。○〔高道素〕「一一揚レ埃」。〔海舄〕海のかた。○〔譚復〕「一一近傳鳧逐度」。

【舄】シヤク、サク。七約切 藥

鵲に同じ、かさゝぎ。

七畫

【(臼+旦)】ケン。去演切 銑

小塊、つちくれ。

【舅】キウ、グ。其久切 有

㊀母の兄弟、をぢ。○〔詩〕「我送二一氏一、日至二渭陽一」。

㊁婦より夫の父を呼ぶの稱、しうと。○〔禮〕「婦事二一姑一」。

〔諸舅〕あまたの母方のをぢ。○〔詩〕「以速二一一」。〔元舅〕母方のをぢ。○〔漢〕「一一大將軍王鳳」。〔叔舅〕同姓のをぢと異姓のをぢと、即ち、父方のをぢと母方のをぢと。○〔李商隱〕「一一德惟馨」。〔外舅〕妻の父。○〔爾〕「妻父爲二一一一、妻之母爲二外姑一」。〔似舅〕母方のをぢによくにる。○〔王維〕「一レ一郎「賢甥」。〔父舅〕天子の諸侯を尊敬していふ語。○〔書、疏〕「天子于二諸侯一稱二一一一而已」。〔伯舅〕天子の異姓の諸侯を尊稱していふ語。○〔禮〕「異姓謂二之一一一」。〔賢舅〕かしこき母方のをぢ。○〔演〕「至戚一一」。〔哲舅〕前に同じ。○〔潘岳〕〔藉田賦〕「荷二一一之矜憐一」。〔姑舅〕夫の母と夫の父と、即ち、しうとめとしうとと。○〔于濆〕「畏二姦事二一一一」。

八畫

【與】ヨ。演女切 語

㊀くみす。

(い)黨す、くみあふ。○〔戰〕「合レ齊一二强楚一」。

(ろ)親しむ。○〔禮〕「諸侯以レ禮相一」。

(は)ゆるす(許)、したがふ(從)。○〔管〕「天地一レ之」。

(に)まつ(待)。○〔論〕「歲不二我一一」。

(ほ)ともにす(以)。○〔詩〕「之子歸、不二我一一」。「者」。

(へ)たすく(助)。○〔戰〕「不レ一二勝」。

(と)もちふ(用)。○〔詩〕「人之爲レ言、苟亦無レ一」。

㊁施予す、ほどこす、あたふ。○〔禮〕「一レ人者不レ問二其所レ欲」。

㊂同類、黨比、くみ、たぐひ、ともがら。○〔國〕「夫禮之立成者爲レ飫、昭二明大節一而已、少二曲一一爲」。

㊃やはらぐ(和)。○〔戰〕「內寇不レ一外敵不レ可レ拒」。

㊄かぞふ(數)。○〔禮〕「生一二來日一」。

㊅物事をならべ說くときに用ふる字、および、と。○〔易〕「立二人之道一、曰二仁一レ義」。

㊆物事をくらべ說くときに用ふる字、より。○〔禮〕「君子一三其有二諸責一也、寧有二已怨一」。

㊇物事をくらべ問ふときに用ふる字、ぞ、か。○〔漢〕「大王自料、勇悍仁彊、孰二一項王一」。

㊈豫に通じ用ふ。○〔漢〕「猶一無レ決」。

㊉くみして、ともに。○〔左〕「相一偕出」。

〔私與〕おのれ一人のはからひにて物を他人に施予す。○〔禮〕「不二敢一一」。〔取與〕他よりものをとると己よりものをあたふると。○〔戰〕「將欲一レ之、必姑一レ之」。〔容與〕閑適の貌、即ち、ゆるやかにはしいまゝなると。○〔史〕「翱翔一一」。〔易與〕くみしやすし、即ち、敵のあつかひやすきにいふ字。○〔史〕「漢一レ一耳」。〔黨與〕くみあふ、なかま。○〔管〕「一一成二于下一」。〔施與〕物をあたへほどこす。○〔吳〕「性好二一一」。〔給與〕物をさづけあたふ。○〔唐〕「一一不レ時」。〔讓與〕他にゆずりほどこす。○〔說苑〕夫賞賜一一者、人之所レ好也」。〔奪與〕うばひ取ると施しあたふると。○〔潛夫論〕「賦官一一」。〔儔與〕朋輩。○〔蔡邕〕「翩々獨征無二一一一兮」。〔付與〕あたふ。○〔杜甫〕「一二一後世傳」。

【與】ヨ。羊諸切 魚

㊀か。

(い)疑ひ問ふときに用ふる字。○〔論〕「君子人一、君子人也」。

(ろ)確と斷定せざる意を表すに用ふる字。○〔論〕「孝弟其爲レ仁之本一」。

㊁のぶ(舒)。○〔漢〕「專二一萬物一」。

㊂蕃れる貌にいふ字。○〔詩〕「我黍一一」。

㊃威儀の宜しき貌にいふ字。○〔論〕「一一如也」。

㊄往來する貌にいふ字。○〔揚雄〕「雄雄々一一」。

〔猗與〕傷歎の聲にいふ語。○〔詩〕「一一漆沮」。〔歸與〕かへらんとを促すにいふ語。○〔登樓賦〕「有二一一之嘆音一」。

【與】ヨ。羊茹切 御

參預す、あづかる。○〔中〕「夫婦之愚、可三以一二知一焉」。

九畫

【(臼+垂)】スヰ。之睡切 寘

杵もて擊つ、うつ、うすつく。

【(臼+易)】タウ、ダウ。徒朗切 養

米を精ぐ、しらぐ、又、うすつく(舂)。

【興】キヨウ、コウ。虛陵切 蒸

㊀おく。

(い)寐ぬるより起く、さむ。○〔詩〕「夙一夜寐」。

(ろ)屈めるより立つ、たつ。○〔儀〕「君爲レ之一」。

㊁おこる、又、おこす。

(い)生ず。○〔史〕「淫樂一焉」。

(ろ)發す。○〔左〕「使下一二國人一以攻中白公上」。

(は)感ず。○〔論〕「一二於詩一立二於禮一」。

(に)行はる、又、作す。○〔呂氏春秋〕「姦偽雜亂貪戾之道一」。

(ほ)さかる、さかんにす、(盛)。○〔詩〕「以莫レ不レ一」。

(へ)あがる、あぐ、(擧)。○〔周〕「進レ賢一レ功」。

(と)うごく、うごかす、(動)。○〔周〕「弓末應將レ一」。

(ち)成る、成す。○〔國〕「其可レ一乎」。

㊂たふとぶ(尙)。○〔詩〕「一レ迷二亂于政一」。

㊃官の徵課物、かゝりもの。○〔周〕「平二其一一」。

㊄よろこぶ(悅)。○〔禮〕「不レ一二其藝一不レ能レ樂」。

㊅よろこぶこと、たのしみ。○〔殷仲文〕「能使二高一盡一」。

㊆意思を他の物に況べ象りて述ぶる一種の詩體。○〔周〕「敎二六詩一、曰風、曰賦、曰比、曰一、曰雅、曰頌」。

〔嗣興〕前者に繼ぎてさかんに起こる。○〔晉〕「禹乃一一」。

(寢興) いね臥すと起き出づと。○[顏延之]「―・―靡無レ已」。「亦中レ之」。
(代興) かはる〳〵起こり出づ。○[左]「與レ君――」。
(勃興) 盛に起こる。○[馬衍]「至二湯・武一―・―」。
(晨興) 早曉に起きいづ。○[漢]「反側――」。
(蕃興) 茂り盛んになる。○[易、疏]「然後萬・物――」。
(妄興) いはれなく起こす、又、濫に起こり出づ。○[荀悦]「妖・神――」。
(中興) 中つ世に至りて復び盛んになりいづ。○[詩、序]「周室―・―焉」。
(並興) 一時に起こる。○[書]「徐戎――」。
(福興) さいはひ生ず。○[漢]「災消而――」。
(序興) 順次を失はず生じ起こる。○[禮]「夏籥――」。
(廢興) 衰へやむと起こり盛んになると。○[陳子昂]「三元更―・―」。
(僨興) 持ちあがり起こる。○[左]「張脈―・―」。
(再興) 二度盛にし起こす。○[國]「一姓不二―・―一」。
(遞興) かはる〳〵起こる。○[史]「――遞廢」。
(迭興) 前に同じ。○[史]「名・士――」。
(拔興) 殊にぬきんじ起こる。○[史]「何其―・―之暴也」。
(暴興) 急に發生す。○[吳都賦]「凄・風――」。
(更興) かはる〳〵起る。○[後漢]「威・德――、文・武迭用」。
(隆興) 盛んになる。○[後漢]「聖・德―・―」。
(繁興) 多く發生す。○[舊唐]「獄・訟―・―」。
(叢興) 集まり生ず。○[後漢]「怨・仇―・―」。
(繼興) 引きつゞき起こり出づ。○[後漢]「頌・德――」。「發」。
(紹興) 前に同じ。○[劉克莊]「―・―謀議誰當」
(數興) あまたたび生ず。○[後漢]「軍・役―・―」。
(蔚興) 盛んにおこる。○[晉]「有・曾―・―」。

【舋】 釁に同じ、ちぬる。○[禮]「既―レ器用レ幣」。

【⿱臼糸】 キヨク、コク。居玉切 沃 靴に纏ひ連らなるもの、くつひも。

十畫

【⿰臼差】 サ、ザ。酢何切 歌 うすつく(舂)、つく(擣)。

【⿰臼差】 シ。阻氏切 紙 麥を磨す、ゑらぐ。

十一畫

【⿺走臼】 サフ、セフ。測洽切 洽 麥を揚ぐるに用ふる杴、すき。

【舉】 キヨ、コ。居許切 語

㊀あぐ。
(い)かく(扛)。○[史]「令三兩・人共持二其書一、僅能勝レ之」。
(ろ)さゝぐ(擎)。○[禮]「跪而―レ之」。
(は)ひッさぐ(挈)。○[五]「楊・行・密爲レ人長・大有レ力、能手―二百・斤一」。
(に)企つ。○[呂氏春秋]「延レ頸―レ踵」。
(ほ)進む。○[淮]「―レ白而進レ之」。
(へ)拔く。○[戰]「三・十・日而―二燕・國一」。「―」。
(と)用ふ。○[禮]「懷二忠・信一以待レ―」。
(ち)發す。○[戰]「―レ兵而伐レ之」。
(り)立つ。○[左]「楚・國之―、恆在二少・者一」。
(ぬ)總べ合はす、こぞる。○[史]「―レ國而與二仲・子一爲レ讐」。
(る)取る。○[戰]「―レ齊屬二之海一」。
(を)言ふ。○[禮]「主・人不レ問、客不二先―一」。
(わ)錄す。○[左]「仲・尼使レ―二是禮一也」。
(か)宗ぶ。○[詩]「靡二神不一レ―」。
(よ)牲を殺して膳に盛る。○[周]「王日一―」。

㊁あがる。
(い)高くなる、升る、進む。○[詩]「火烈具―」。
(ろ)興こる。○[戰]「當・世之―、王必誅レ暴正レ亂」。
(は)飛ぶ。○[張衡]「鳥不レ暇レ―」。
(に)去る。○[楚辭]「離レ羣而遠―」。
(ほ)すべて物事のあげられたるにいふ字。○[史]「趙―而秦强」。○[國]「不下爲二豐・約一―上」。
(へ)高きに升す。○[北]「―二煙於城・北一」。
(れ)財貨を官に沒收す。○[周]「凡財・物犯レ禁者―レ之」。
(た)杯酒を飮む。○[儀]「―レ奠盥入」。

㊂うごく、ふるまふ(動)。
㊃たつ(起)。○[國]「―而從レ之」。
㊄ゆく(行)。○[戰]「王―則從」。
㊅拔擇、試驗、こゝろみ、えらび。○[宋]「應二進・士之―一」。
㊆骨體の正脊、せな、せすぢ。○[儀]「乃食、食レ―」。
㊇行動、おこなひ、ふるまひ。○[漢]「人・主無二過―一」。
㊈こぞりて、みな。○[左]「君―不レ信二羣・臣一乎」。
㊉三兩の稱。○[小爾]「兩有半曰レ捷、倍レ捷曰レ―」。
⑪けやき(欅)。○[山海經]「其狀如レ楠如レ―」。

(任擧) 責を負はせ用ふ。○[禮]「其―・―有レ如レ此者一」。
(外擧) 緣故なきものを用ふ。○[禮]「―・―不レ避レ怨」。
(內擧) 緣故あるものを用ふ。○[杜牧]「―・―無レ慚二古所レ難一」。
(鄕擧) 博く鄕閭に問ひてすぐれたる者を引き揚ぐ。○[漢]「必―・―求二窮・痕一」。
(包擧) 一にしかねあはす。○[史]「―二・―宇・內一」。
(廢擧) 物をとゞめ貯ふ。○[史]「子貢好二―・―一」。
(豪擧) 盛んなるふるまひ。○[曹珏]「少年―・―氣如レ虹」。
(萬擧) 多く事を爲しふるまふ。○[玉海]「既圖二―・―而萬・全」。「事二」。
(毛擧) こまかくあげ示す。○[司馬光]「―二・―敢・」
(高擧) けたかき地位に身を置く。○[九歎]「寧超・然―・―以保レ眞乎」。
(薦擧) 見抜かれて任用せらる、又、見ぬきて任用す。○[漢]「以二郎・縣吏一―・―」。
(繆擧) 其の人にあらざる者をあげ用ふ。○[曹植]「濫授レ之謂二―・―一」。
(辟擧) 召し出だして採用す。○[宋]「柴・寧五・年辟二―・―一」。「初二」。
(貢擧) 貢擧をもとむ。○[陸游]「苦・學猶如二―・―一」。
(輕擧) 身がるに高き位地にあがる。○[張華]「―・―擧二龍・鱗一」。「大・綱二」。
(暴擧) あらましをあげ示す。○[易、疏]「今則―・―」
(枚擧) 一々かぞへあぐ。○[書、傳]「―・―之辭也」。
(備擧) 缺くる所なく行はる。○[詩]「蘇・管―・―」。
(糾擧) たゞしてかぞへあぐ。○[周、疏]「―二・―其非一」。
(雙擧) 兩つながらあぐ。○[左、疏]「皆名・字―・―」。
(錯擧) 交へあぐ。○[左、序]「故―・―以爲二所レ記之名一」。「約二」。
(移擧) 動かし持ちあぐ。○[孟、註]「能―二・―千・」
(稱擧) 推薦す。○[史]「文・帝―・―」。
(推擧) すゝめ用ふ。○[漢]「所二―・―一」。
(徵擧) 召しいたして採用す。○[後漢]「毎レ有二―・―必先二嚴・穴一」。
(覈擧) 調べて推薦す。○[後漢]「―二・―賢・良一」。
(薦擧) 推薦す。○[後漢]「諸・公多二―・―之一者」。
(選擧) 擇りぬきて推薦す。○[後漢]「皆讓二―・―一」。
(濫擧) 人の賢否善惡をあきらめずして妄に任用す。○[晉]「―・―之法不レ改」。
(遷擧) 遷にあがる。○[隋]「頻・蒙―・―」。
(貢擧) 州郡より優秀の子弟を選拔して推薦す。○[詩]「入・仕則有二―・―之科一」。「江南・子」。○
(擧趾) 擧止端麗の說にいふ語。○[韓愈]「―・―」

【⿱臼舉】 ヨ。羊諸切 魚 前條の㊀の(い)に同じ、あぐ、かく。

十二畫

【⿱咎臼】 タウ、ヂヤウ。除庚切 庚
うすつく、（舂）。

【⿰臼最】 サイ、セ。七外切 泰
小しく舂く、うすつく。

【舊】 キウ、グ。巨救切 宥
㊀ふるし。
（い）今より前なり。○〔詩〕「率二由——一章二」。
（ろ）時を經る久し、ひさし。○〔漢〕「聞二暴·公·子威·名——一矣」。
（は）新しき状變じたり、ふるびたり。○〔張衡〕「厥器惟—」。
（に）前と異なるをなし、珍しきをなし。○〔文心雕龍〕「體—而趣新」。○〔穀梁〕

㊁ふるくなる、ふるる、ふるぶ。「弁·冕雖レ—必加二于首一」。
㊂ふるき時代、むかし、もと。○〔荀〕「按二往——一造レ說、謂二之五·行一」。
㊃耆宿、としより。○〔唐太宗〕「尙レ齒重レ—」。
㊄ふるき交誼、なじみ、ちなみ。○〔蜀〕「素與レ靖有レ—」。
㊅ちなみある人、故人。○〔國〕「且棄レ—也」。
㊆ふるき物事。○〔公羊〕「修レ—也」。
㊇柩に通じ用ふ、ひつぎ。○〔金〕「燕靈·王—」。

〔求舊〕 新しからざる者を捜す。○〔書〕「人惟—レ—」。
〔故舊〕 むかしよりの知り人。○〔周〕「親二——一朋友一」。
〔舍舊〕 ふりたるものを見はなす。○〔左〕「—二其—一而新是圖」。
〔親舊〕 （い）親戚舊友。○〔唐〕「一人言二卿擬レ官多二——一」。
（ろ）むかしより交りある者をしたしみ近づく。○〔魏文帝〕「禮レ賢——レ—」。
〔耆舊〕 としより。○〔後漢〕「——大·姓」。
〔感舊〕 ふりにし事どもを思ひ出だして心を動かす。○〔後漢〕「兆·人懷二—レ—之哀一」。
〔道舊〕 過ぎにし事どもを談話す。○〔舊唐〕「相與—レ—以爲二笑·樂一」。
〔循舊〕 舊時のまゝによりて從ふ。○〔劉禐〕「苟害二于事一、不レ可レ—レ—」。
〔朋舊〕 ともだち。○〔張說〕「——少二相過一」。
〔結舊〕 ふりにし時よりの契りへ交りをかへす。○〔左〕「——則安」。
〔除舊〕 ふりにし者を解き去る。○〔左〕「—レ—布レ新」。○
〔仍舊〕 ふりにしまゝに從ひよる。○〔晉〕「其便——政一」。
〔遵舊〕 前に同じ。○〔漢〕「委·任—レ—、未レ有二過·—」。
〔新舊〕 あらたなるものと舊時よりなじみあるものと。○〔晉〕「撫二納——一」。
〔思舊〕 思舊の情ありてむかしよりの交あること。○〔後漢〕「嘗與レ僕有二——一乎」。「——一」。○
〔鄉舊〕 鄉里のむかしなじみ。○〔後漢〕「久戀二—·—一」。
〔素舊〕 むかしなじみ。○〔後漢〕「司·徒侯霸與レ光——」。
〔知舊〕 知りあひの人。○〔宋〕「遇二——一」。
〔勳舊〕 ふるくより事へて功勞あるもの。○〔晉〕「以二其——一耆老禮レ之甚重」。「——」。
〔復舊〕 再びもとのとほりになす。○〔宋〕「可二悉—一」。
〔改舊〕 ふるくより行はれし事どもを變更す。○〔周書〕「創レ新—レ—」。
〔世舊〕 世々仕へ來たりたる舊臣。○〔唐〕「以二——一待レ甫甚善」。
〔遺舊〕 ふるき交りある者をすて遠ざく。○〔高允〕「交不レ—レ—」。
〔一見如舊〕 ちよとあひて交情のあつきことにいふ語。○〔唐〕「杖レ策上二謁軍·門一、——レ—」。

十三畫

【⿱臼同】 キヨウ、古勇切 腫 キヨウ、グ。
渠谷切 冬 キヨ、居許切 語 コ。
支へ隔つるに用ふるもの、ときり、一說に、舂く器。

【舋】 キン、コン。許覲切 震
㊀釁に同じ、ひま。○〔溫庭筠〕「私·門集レ—」。
㊁うごく、（動）。○〔王延壽〕「奮—而軒レ「鬐」。

【⿱臼兀】 ウツ、オチ。紆勿切 物
——屈は、短き貌にいふ語。

【⿱臼大】 タウ、トウ。他刀切 豪
古器、ふるきうつは。

十四畫

【⿱臼具】 ウ。雲俱切 虞
種まきの器。

【⿰臼壽】
擣に同じ。

【⿱臼具】 ウ。王遇切 遇
まろぶ、まろばす、（轉）。

十九畫

【⿱䜌臼】 ケン、居願切 コン。切 ハン、方萬 バン。切 願
はかる、（量）。

舌 部

【舌】 セツ、食列 ゼチ。切 屑 〔說文〕舌在レ口、
㊀した。
（い）口中にありて言音を助け飲食を味ふ用をなす機關。○〔詩〕「莫レ捫二吾—一」。
（ろ）射侯（まと）の左右に出でたる箇處の稱。○〔儀〕「倍レ中以爲レ躬倍レ躬以爲二左·右——一」。
（は）口中のしたの形をなすもの。○〔書、疏〕「鐸鈴也、以レ金爲二之—一」。
（に）言說、くち、ことば。○〔揚雄〕「吐·黃晉——」。
㊁異邦の言說を譯し傳ふること、つうべん、象胥。○〔國〕「使二——人體·委與レ之」。

〔口舌〕 口辯。○〔史〕「釋レ本而事二——一」。
〔喉舌〕 言語を用ふること。○〔書、傳〕「納·言——之官」。
〔長舌〕 したのながくあること、卽ち、口辯を用ふるにいふ語。○〔詩〕「婦有二——一、維厲之階」。
〔反舌〕 鳥の名、もず。○〔禮〕「——無レ聲」。
〔百舌〕 前に同じ。○〔杜甫〕「赤·葉楓·林——鳴」。
〔鴃舌〕 前に同じ、又、他邦人の語にいふ語。○〔孟〕「南·蠻——之人」。
〔乾舌〕 したをかわかす、言說に勞す。○〔史〕「焦レ脣—レ—」。
〔掉舌〕 したをふり動かす、しやべる。○〔蘇鶚欽〕「—レ—滅二西·寇一」。
〔卷舌〕 （い）星の名。○〔漢〕「居二——東一」。
（ろ）驚きて言を發する能はざること。○〔李白〕「巴·人皆—レ—」。
〔結舌〕 口をきかざるにいふ語。○〔漢〕「智者—レ—」。
〔吐舌〕 したをあらはし出だす。○〔漢〕「牛喘—レ—」。
〔拭舌〕 したをぬぐふ。○〔後漢〕「脊レ脣—レ—」。
〔鼓舌〕 したを鳴らす。○〔莊〕「鼓·脣—レ—」。
〔訥舌〕 口のよくきけざるした、卽ち、はなはだらぬしたにいふ語。○〔柳宗元〕「拔二去——一、納以二工·言一」。
〔忠舌〕 忠義の者のくち。○〔後漢〕「嘉·言結二於——一」。
〔吞舌〕 口をきかざること。○〔江淹〕「銛レ口—レ—」。
〔利舌〕 巧みに口をきく。○〔參同契〕「叕·辯——」。
〔詞舌〕 言語のことにいふ語。○〔搜神記〕「常以二——過レ人、同·輩莫レ不二畏·憚一」。
〔饒舌〕 よく口をきく。○〔黃庭堅〕「伯·勞——世不レ明」。「莫レ聽」。
〔巧舌〕 よく口をきくこと。○〔劉兼〕「——如二簧總一駟難レ追」。
〔惡舌〕 人の害になる口をきく。○〔孟遲〕「由·來——」。
〔讒舌〕 さかしらごとをいふ口。○〔劉因〕「浪·嘗——長」。

(弄舌)　またをふり動かす。○(歐陽修)「鼓レ喉—レ—識可レ愛兮」。
(三寸舌)　またのたけ三寸ぐらゐあるよりまたのとにいふ稱。○(史)「今以二—・—・—一爲二帝者師一」。
(蘇張舌)　戰國の時代の蘇秦と張儀との口舌のと、即ち、詭辯を弄して理非得失を混同して巧みにいひなす言語にいふ語。○(杜甫)「却假二—・—・—一」。
(廣長舌)　幅ひろくしてたけ長きまたのと、即ち、口辯をよくするにいふ語。○(蘇軾)「溪聲便是—・—・—」。
(駟不及舌)　一たびいひ出だしたるとは取りかへしのならぬにいふ語。○(論)「惜乎夫子之說レ君子也、—・—・—・—」。

二畫

【舍】　シャ、セ。始夜切　禡
㊀やどり。
(い)假にとゞまりいこふ處、やど。○(禮)「將レ適レ—」。
(ろ)天體の二十八宿の一。○(淮)「日入二於虞淵之汜一、曙二於蒙谷之浦一、行二九州七—一」。
(は)軍隊の一日程、昔は三十里の定めさせり。○(穆天子傳)「五—至二于重璧之一」。
㊁官人の事務を執る處、やくしよ。○(周)「以レ時比二宮中之官府次—之衆寡一」。
㊂館第、家屋、住居、いへ、やかた、やしき。○(蜀)「宅—弊薄」。
㊃すべて物の止まり居る處の稱、ゐどころ。○(鬼谷子)「神歸二其—一」。
㊄やどる。
(い)止どまり息ふ。○(詩)「不レ遑レ—」。
(ろ)星其のやどりに移る。○(史、註)「二十八宿之所レ—」。
㊅止め息はす、やどす、かくまふ。○(漢)「—匿者、論皆有レ法」。
㊆をる、(處)。○(詩)「—レ命不レ渝」。
㊇おく。
(い)處らしむ。○(戰)「王不レ如下—二需於側一、以稽中二—人者之所上爲」。
(ろ)のぞく、(除)、ゆるす、(赦)。○(詩)「—二彼有レ罪」。
㊈やむ。
(い)息む、いこふ。○(禮)「耕者少—」。
(ろ)廢す。○(左)「—二中軍一卑二公室一」。
㊉とゞむ、とゞまる、(止)。○(管)「良臣不レ使二讒賊是—一」。
⑪はなつ、(釋)。○(詩)「—レ矢既均」。
⑫ほどこす、(施)。○(左)「施—不レ倦」。
⑬あつ、あたる、(中)。○(禮)「射之爲レ言釋也、或曰、—也」。
(廬舍)　小屋。○(周、註)「有二小—・—一以設二飲食一」。
(壘舍)　軍壘と軍舍と。○(周)「量人營二軍之—・—一」。
(館舍)　とまりやど。○(周)「治二其委積—・—飲食一」。
(野舍)　王の旅行先にて宿る所のやど。○(周)「司隸守二王宮與二野—一之禁厲一」。
(賜舍)　館舍を給與す。○(儀)「天子—レ—」。
(三舍)　三十里を一舍といふ、即ち、九十里のと。○(左)「其避レ君—・—」。
(出舍)　宮を出でてやどる。○(左)「—・—二于郊一」。
(休舍)　いこふ、即ち、休息すると。○(史)「止レ宮—・—」。
(旁舍)　かたはらなる小屋。○(史)「敵從二—・—一來」。
(傳舍)　驛傳に設けたるやどりの屋舍。○(史)「舍二相如廣成—・—一」。
(同舍)　屋舍をともにすると、又、その屋舍。○(漢)「其—・—有二告歸一」。
(精舍)　寺院。○(後漢)「遂隱居立二—・—一」。
(校舍)　前に同じ。○(後漢)「別立二—・—一」。
(學舍)　學校。○(南)「室山起二—・—一」。
(僧舍)　前に同じ。○(許渾)「—・—寂基消二白日一」。
(屋舍)　家屋。○(陸龜蒙)「先夸二—・—好一」。
(義舍)　施與を行ふため行路の間に設けおく屋舍。○(魏)「魯據二漢中一作二—・—一」。
(茅舍)　かや葺の家屋。○(元積)「居人盡—・—」。
(僦舍)　屋舍を借りうく。○(鄭谷)「貧無二—レ—錢一」。
(築舍)　家屋を作る。○(仇遠)「—レ—東皐野水濱」。
(第舍)　邸宅。○(史)「寄二宿羅氏—・—一」。
(客舍)　旅店のと、はたご。○(史)「飲レ舍二—・—一」。
(田舍)　田中に設けたる屋舍、即ち、ゐなかや。○(王維)「醉歌—・—酒」。
(頓舍)　とゞまりやどる。○(史)「三日三夜不二—・—一」。
(官舍)　官吏を置くために設けたる屋舍。○(史)「—・—皆滿」。
(空舍)　人なき家屋、あきや。○(漢)「舍二于窮里—・—一」。
(鄰舍)　となりの家屋。○(後漢)「—・—比里」。

【舍】　シャ、セ。始野切　馬
㊀すつ、(廢)、やむ、(止息)。○(論)「不レ—二晝夜一」。
㊁おく、(置)。○(左)「使二杜洩—一レ路」。

【舍】　釋に同じ。○(周)「—レ采」。

三畫

【䑛】　舓に同じ。

四畫

【[舌今]】　キン、ゴン。巨禁切　沁
牛舌の病ひ。

【[舌今]】　キン、コン。居蔭切　沁
噤に同じ、つぐむ。○(韓愈)「巧舌千皆—」。

【舐】　俗の舓の字。○(莊)「—レ痔者」。

【[舌支]】　キ。去智切　寘

【敌】　クワツ、ケチ。乎刮切　黠
喘息の貌にいふ字、あへぐ。
つく、つくす、(盡)。

【[舌允]】　吮に同じ。

【甛】　タン、トン。他甘切　覃　吐濫切　勘
テン。他念切　豔　ゼン、子ン。女鹽切　鹽
—談は、舌を吐く貌にいふ語。○(王延壽)「玄熊—談、以斷レ々」。

六畫

【舒】　ショ、ソ。商魚切　魚
㊀のぶ。
(い)展伸す、のびる、のばす。○(魏)「旌旗卷—」。
(ろ)ちる、ちらす、(散)。○(淮)「嬴縮卷—」。
(は)ひらく、(開)。○(孔璋)「芝蓋高—」。
(に)詳かにす、又、ついづ、(序)。○(淮)「—レ之幎二六合一」。
(ほ)ゆるくす、ゆるくなる、ゆるむ。○(杜甫)「坦然心神—」。
㊁ゆるし、ゆるやか。「—々」。
(い)徐か、おだやか。○(詩)「—而脫」。
(ろ)急ならず。○(穀梁)「不レ聞二其—一」。
(は)遲し。○(詩)「—窈糾」。
(に)閑雅、みやびやか。○(禮)「君子之容—遲」。
㊂詳か。○(淮)「—安以定」。
㊃次序、端緒、ついで、いとぐち。○(易林)「陰陽辨レ—、二姓相合」。
(望舒)　月御、つきのかみ。○(抱朴)「—・—曜レ景」。
(安舒)　躁しからず。○(公羊、疏)「緩性—・—」。
(寬舒)　急迫ならず。○(公羊、疏)「其氣—・—」。
(意舒)　心ばせ伸びやかなり。○(柳宗元)「心平—・—」。
(閑舒)　靜にゆるやかなり。○(唐)「靈氣—・—」。

(霽舒)　月。〇[謝朓]「――佇レ德」。
(清舒)　潔白にしてしづかなり。〇[公羊、疏]「其氣――」。
(長舒)　ながく伸ぶ。〇[南齊]「初-遂――」。
(徐舒)　せはしくあるとゆるやかなると。〇[東京賦]「齊ニ――于寒-燠一」。
(和舒)　やはらぎてゆるやかなり。〇[下國賦]「揚ニ怛-娟之――」。
(舒々)　ゆるやかなる貌にいふ語。〇[韓愈]「淮之水「――」。
(散舒)　あらけひらく。〇[夏侯湛]「垂-梁――」。

【舒】　ヨ。羊如切　魚
豫に同じ。〇[晉]「性-理安―」。

七畫

【𦧲】　テン。他年切　先
―嘽は、言正しからず。

【辞】　俗の辭の字。

八畫

【䑜】　タフ、トフ。他合切　合
大いに食らふ、くらふ、又、すゝる、(歠)。〇[韓愈]「―ニ隨光-化一」。

【舓】　シ、ジ。神爾切　紙
舌もて食を取ることいふ字、なむ、ねぶる。

【䑛】　クワツ、ゲチ。下刮切　黠
細き紬の稱。

【舔】　テン。他點切　琰
舌もて物を拭ふ、ねぶる。

【䑙】　甜に同じ。

【𦧺】　テフ。他叶切　葉
小さき舌。

九畫

【𦧸】　舓に同じ。

【𦧼】　タフ、トフ。託盍切　合
大いに食らふ、くらふ、又、すゝる、(歠)。

【𦧽】　テフ。他協切　葉
小しく舐る、ねぶる。

十畫

【𦨁】　カツ、ケチ。居轄切　黠
舌の出づる貌にいふ字。

【舘】　俗の館の字。

十二畫

【舚】　タン。他干切　寒　テン、デン。亭年切　先
嘽の字の条を見よ。

十三畫

【𦨉】　甜に同じ。〇[韓愈]「舌-牙―」。

十四畫

【𦨌】　クワ、ケ。呼瓜切　麻
舌の短き貌にいふ字。

十七畫

【𦨑】　ラン。郎干切　寒
嘽―は、語正しからず。

舛　部

【舛】　セン。尺兗切　銑　―〔說文〕从ニ夕㐄一相背。
一そむく、(背)、たがふ、(違)。〇[漢]「朝-臣―午」。
二はぐ、(剝)。〇[莊]「其道―駁」。
三みだる、(亂)。〇[左思]「詭-類―錯」。
(頹舛)　くたくしくして道にはづる。〇[沈約]「刑-政――」。
(差舛)　たがひそむく。〇[後漢、註]「志-意――」。
(違舛)　前に同じ。〇[北]「――處レ多」。
(疎舛)　疏雜になり理にたがふ。〇[晉]「禪-儀――」。
(紕舛)　前に同じ。〇[晉]「文辭鄙拙、――不倫」。
(乖舛)　理にそむきもとる。〇[蔡邕]「經-藝――」。
(訛舛)　あやまりたがふ。〇[隋]「風-流――」。
(謬舛)　前に同じ。〇[唐]「功-狀多――」。
(錯舛)　まじへ亂す、又、まじはり亂る。〇[舊唐]「――隱-匿」。
(紛舛)　もつれそむく。〇[唐]「陰-陽――」。
(雜舛)　まじはり亂る。〇[唐]「圖-籍――」。
(壞舛)　やぶれ亂る。〇[唐]「借ニ人書-籍-帙――」。
(交舛)　入りみだる。〇[馬融]「往-來――」。
(蹇舛)　なやみそむく。〇[白居易]「況我與レ命――不レ足レ恃」。

【舛】　シュン・尺尹切　軫
まじる、(雜)。

六畫

【舜】　シュン。輸閏切　震
一木槿、むくげ。〇[詩]「有レ女同レ車、顏如ニ――華一」。
二支那上古の有名なる聖君有虞氏の名、儒家の唱へて道德の祖となせる人。〇[史]「虞――者名曰ニ重-華一」。

七畫

【斝】　カ、ケ。擧下切　馬
玉爵、たまのさかづき。

【舝】　カツ、ゲチ。胡瞎切　黠
一車軸の端の鍵、かぎ、くさび。〇[詩]「載脂載―」。
二星の名。〇[史]「鈐-北一-星曰レ―」。
(車舝)　くるまにくさびさす。〇[詩]「閒-關―之―兮」。
(設舝)　車のくさびをすゑつく。〇[詩、傳]「閒-關―」「―也」。

八畫

【舞】　ブ、ム。文甫切　麌
一まふ。
(い)手足身體を行動して種々なる態をなすにいふ字、特に、音樂歌謠に合はせてなすにいふ字。〇[漢]「軍-中無ニ以爲レ樂、請以レ劍―」。〇[列]「鳥―魚躍」。
(ろ)廻旋す、めぐる、まはる。
二まふを、まふ技、まひ。〇[詩]「萬-―洋-々、孝-孫有レ慶」。
三まはす。
(い)まはしむ。〇[蘇軾]「―ニ幽-壑之潛-蛟一、泣ニ孤-舟之嫠-婦一」。
(ろ)變弄す、かへもてあそぶ。〇[漢]「―レ知以御レ人」。
四鍾の體の上部。〇[周]「鉦上謂ニ之―一」。
(屢舞)　あまたたびまふ。〇[詩]「――僊-々」。
(歌舞)　うたうたひまふ。〇[左]「天-下誦而――之」。
(善舞)　たくみにまふ。〇[詩、疏]「美ニ其――一」。
(手舞)　手を動かしまはす。〇[周、註]「人-舞者―――」。
(興舞)　身を起こしてまひをどる。〇[詩、疏]「爲ニ我――峙-々-然」。
(起舞)　前に同じ。〇[國]「僊-旆――」。
(野舞)　野人の舞を學ばんと思ふ者。〇[周]「舞-師凡――則敎レ之」。

〔兵舞〕武の樂。○〔周、註〕「——用於山川、有ニ干・戚之舞ニ」。
〔韶舞〕虞舜の樂。○〔論〕「樂則——」。
〔劍舞〕つるぎを持ちてまひをどる。○〔晉〕「謝ニ——爲レ歡」。
〔獻舞〕貴人の前にてまひをなす。○〔張華〕「齊・倡——レ——趙・女歌」。
〔躍舞〕あがりまふ。○〔朱熹〕「龍・鶴共——」。
〔象舞〕周の武王の樂、兵を用ふる時の刺し伐つに象りたるまひ。○〔詩、小序〕「維淸奏ニ——ニ」。
〔習舞〕まふことを練習す。○〔禮〕「入レ樂——レ——」。
〔學舞〕前に同じ。○〔岑參〕「世・人——レ——祗是舞」。
〔翔舞〕かけりまふ。○〔史〕「鳥・獸——、簫・韶九・成」。
〔抃舞〕手をうちまひをどる。○〔晉〕「坤・神——」。
〔奏舞〕まひを爲す。○〔晉〕「登・歌——」。
〔蹈舞〕足をふみならしまふ。○〔唐〕「寮・言——」。
〔㦮舞〕聲を出だしはやし手足をまはしをどらす。○〔宋〕「黎・庶——」。
〔羅舞〕列なりてまひをどる。○〔古郊祀歌〕「千・童「——」。
〔騰舞〕高くのぼりまふ。○〔王延壽〕「蹶ニ危・臬ニ而——」。
〔徐舞〕しづかにまひをどる。○〔張華〕「淸・歌——降・祗・神ニ」。
〔亂舞〕序次を正さずにまふ。○〔梁簡文帝〕「——未レ成レ行」。
〔巧舞〕上手にまひをどる。○〔梁簡文帝〕「工歌——入ニ人・意ニ」。
〔集舞〕寄りあつまりてまひをどる。○〔唐雩祀樂章〕「鼗・磬——泛ニ祥・風ニ」。
〔聚舞〕前に同じ。○〔李白〕「——若ニ鶴吟ニ」。
〔傾舞〕勉めて舞ふことをせむ。○〔杜甫〕「酒闌——誰相挽」。
〔慢舞〕前に同じ。○〔白居易〕「緩歌——凝ニ絲・竹ニ」。
〔軟舞〕やさしくまひをどる。○〔張祜〕「花・下傞・傞——來」。
〔按舞〕手をさすりまふ、○〔徐昌〕「秦・樓——時」。
〔爭舞〕我れ勝ちにと競ひをどる。○〔李商隱〕「折レ腰——鬱・金裙」。
〔觀舞〕まひを見物す。○〔張衡〕「客有下——ニ於淮・南ニ者上」。
〔香舞〕前に同じ。○〔蘇軾〕「山・下黃・童爭——レ——」。

十五畫

〔䑟〕クワウ、ワウ。胡光切 陽
㊁花蘂、しべ。㊂くさばな（榮）。

廿一畫

〔𦫿〕シュン。將倫切 眞
羽獵にて著くる韋袴、かはばかま。

舟部

〔舟〕シウ、シユ。職流切 尤
㊀物を載せ水上に浮ぶる具、ふね。○〔易〕「刳レ木爲レ——、剡レ木爲レ楫」。
㊁おぶ（帶）、又、のす（載）。○〔詩〕「何以——レ之」。
㊂尊の下の承槃、うけだらひ。○〔周禮〕「祼用ニ雞・彝鳥・彝ニ皆有レ——」。
〔虛舟〕物なきふね。○〔易、疏〕「若下乘ニ——ニ以涉上レ川也」。
〔行舟〕ふねをやる。○〔書〕「罔レ水——レ——」。
〔乘舟〕船にうちのる。○〔詩〕「二・子——レ——」。
〔泛舟〕船を水に浮ぶ。○〔唐〕「——ニ春・苑・池ニ」。
〔櫂舟〕船にかひをつく。○〔方干〕「海・邊津・吏——レ——迎」。
〔造舟〕船をまつらふ。○〔詩〕「——レ——爲レ梁」。
〔方舟〕船をならぶ。○〔國〕「——レ——設レ泭ニ」。
〔比舟〕前に同じ。○〔柳宗元〕「——レ——爲レ梁」。
〔維舟〕船を繋ぐ。○〔吳書〕「以レ錦——レ——」。
〔焚舟〕船を燒きはらふ。○〔左〕「濟レ河——レ——」。
〔同舟〕船を共にす。○〔左〕「與レ王——レ——」。
〔盪舟〕手もて船を推しやる。○〔論〕「奡——レ——」。
〔推舟〕前に同じ。○〔論、疏〕「能陸・地——レ——而行」。
〔輕舟〕重量なき船。○〔戰〕「乘ニ夏・水ニ浮ニ——ニ」。
〔沉舟〕船を水中に沒す。○〔戰〕「積・羽——レ——」。
〔呑舟〕船を口中に入る。○〔史〕「漢興網漏ニ於——之魚ニ」。
〔扁舟〕さゝやかなる船。○〔史〕「乃乘ニ——ニ浮ニ於江・湖ニ」。
〔陳舟〕船を列らぬ。○〔漢〕「——レ——列レ兵、陳・幣」「南・行」。
〔犀舟〕堅固なる船。○〔後漢〕「——・——勁・楫」。
〔刻舟〕船に物の記號をゑりつく。○〔唐〕「——レ——而記」。
〔引舟〕船を挽き行く。○〔書〕「以レ身——レ——」。
〔藏舟〕船ををさめ入る。○〔莊〕「——ニ——于壑ニ」。
〔刺舟〕船に棹す。○〔沈遘〕「潮來——レ——去」。
〔漁舟〕すなどりする船。○〔陸龜蒙〕「故・人溪・上有ニ——ニ」。
〔艤舟〕船よそひをなす。○〔蘇軾〕「——レ——佪・山下」。
〔飛舟〕早船。○〔魏文帝〕「浮ニ——之萬・艘ニ」。
〔運舟〕船をやる。○〔成公綏〕「中・庭——レ——」。
〔孤舟〕つれのなき船、一つのふね。○〔陶潛〕「眇・々——逝」。
〔客舟〕他郷にあそぶ船。○〔陶潛〕「誰言——遠」。
〔歸舟〕郷里を指して歸來する船。○〔謝靈運〕「夢・寐佇ニ——ニ」。
〔釣舟〕魚をつる船。○〔蘇頲〕「瑱・谿擁ニ——ニ」。
〔毀舟〕船をうちこはす。○〔淮〕「心所レ說——レ——爲レ杖」。
〔燔舟〕船を焚きはらふ。○〔晉〕「——レ——而進」。
〔升舟〕船に乘る。○〔晉〕「尙・卿近——レ——」。
〔編舟〕船を組みあはす。○〔北〕「——レ——爲レ橋」。
〔操舟〕船をあやつる。○〔杜甫〕「能者——レ——疾若レ風」。
〔浮舟〕船を水に浮ばす。○〔魏文帝〕「——ニ——萬・筆ニ」。
〔停舟〕船をつなぎとゞむ。○〔儲光羲〕「枉・渚暫——レ——」。

一畫

〔舟乙〕ギツ、ゴチ。魚乙切 質
舟行く、ゆく。

二畫

〔舠〕タウ、トウ。都勞切 豪
刀の如き小形の舟、こぶね、一說に、三百斛を容るゝ舟。○〔吳均〕「征——犯ニ夜・湍ニ」。
〔盈舠〕小船に充實す。○〔劉孝標〕「日・暮且レ——レ——」。
〔輕舠〕重量なき小船。○〔李太白〕「送レ客回ニ——ニ」。
〔度舠〕わたり行く小船。○〔陳後主〕「浮・氷隨ニ——ニ」。
〔金舠〕金屬をもて作りたる酒杯。○〔李德裕〕「雅復勸ニ——ニ」。
〔小舠〕さゝやかなるふね。○〔王禹偁〕「笙・歌泛ニ——ニ」。
〔漁舠〕魚をとる小舟。○〔鄭浩〕「春・光集ニ——ニ」。
〔行舠〕漕ぎゆく小舟。○〔袁凱〕「南・來河・伯避ニ——ニ」。
〔回舠〕小舟の歸路に就くこと。○〔僧道衍〕「帰・帆促ニ——ニ」。

〔舟刂〕ゴツ、ゴチ。五忽切 月
船行くこと安からず、あやふし。

〔舟了〕レウ。朗鳥切 篠
小さき船、こぶね。○〔越絕書〕「越人呼レ船爲ニ須・慮長・郎——也」。

三畫

〔舟叉〕艖に同じ、はしけぶね。

〔舟兀〕ゴツ、ゴチ。五忽切 月
舟を播かす、うごかす。

〔舡〕カウ、コウ。許江切 江
㊀舡——は、船の貌にいふ語、一說に、吳の船の名。㊁ふね（船）。

〔舡〕俗の船の字。○〔漢〕「晉——人固・來」。

〔舟彡〕チン。丑林切 侵
船行く、舟行きて相續ぐ、ゆく、つゞく。

〔舟乇〕タフ、トフ。吐盍切 合
㊀舟の名。㊁舟に就く。

〔舟乞〕ギツ、ゴチ。魚乙切 質

舟行く、ゆく。

四畫

【舥】 ハ、ヘ。普巴切 [麻]
浮梁、ふなばし。

【舤】 サウ、セウ。初教切 [效]
船安からず、あやふし。

【舡】 ジツ、ニチ。入質切 [質]
舟の飾り、ふなかざり。

【舦】 タイ。他蓋切 [泰]
舟行く、ゆく。

【舲】 キン、ゴン。巨禁切 [沁]
舟(蜀人の語)。

【般】 ガフ、ゴフ。五合切 [合]
船の動く貌にも船の貌にもいふ字。

【舧】 ハン、ベン。符咸切 [咸]
ふね(舟)。

【舨】 ハン、ヘン。補綰切 [潸]
艟—は、舟。

【舩】 船に同じ。○〔史〕「鄧通以レ濯レ—爲二黃-頭-郎一」。

【舸】 カ。居河切 [歌]
船の名。

【航】 カウ、ガウ。胡郎切 [陽]
㊀船の別名、ふね。○〔左思〕「汎二舟——於彭蠡一」。㊁方べたる舟、もやひぶね。○〔淮〕「以爲二舟——一」。㊂浮橋、ふなばし。○〔北〕「守二朱-雀-—一」。㊃ふねにて水を渡る、わたる。○〔北〕「雖二萬-里而作レ限、聊一-葦而可レ—」。

〔浮航〕うきたるふね、即ち、舟橋のこと。○〔北〕「敕二都-水一造二—-—一」。

〔車航〕くるまと船と。○〔法言〕「—-—混-々、不レ捨二晝夜一」。

〔乘航〕船にうちのる。○〔法言〕「乘レ國者其如レ—-—乎」。

〔吞航〕船を口中に入る。○〔吳都賦〕「長-鯨—レ—」。○

〔歸航〕鄕里を指してかへりわたる、又、其の船。○〔僧皎然〕「晨發泛二—-—一」。

〔綵航〕飾りを施したるふね。○〔張說〕「魚躍翻來入二—-—一」。

「浪一」。

〔沉航〕船を水中に沒す。○〔晉〕「若レ—二—于鯨-浪一」。

〔度航〕水をわたりゆく船、又、水をわたる。○〔陳後主〕「菱-花拂二—-—一」。「水」。

〔呼航〕船を呼びとゞむ。○〔北齊〕「斯—レ—而濟レ—-—一」。

〔溢航〕船に實ちあふる。○〔魏文帝〕「盈レ舟—レ—」。

〔輕航〕重量なきふね。○〔謝安〕「微-風翼二—-—一」。

〔妓航〕歌ひめを載せたる船。○〔梁元帝〕「荷生交二—-—一」。

〔津航〕わたしの船。○〔張館〕「—-—絕レ濟」。

〔雜航〕船もてわたりゆくと易からず。○〔梁元帝〕「合-浦不レ—レ—」。

〔雕航〕物象を彫り飾りたる船。○〔唐太宗〕「攜レ手上二—-—一」。

〔艢航〕船にさはる。○〔沈亞之〕「鷺-鱗乍—レ—」。

【舫】 ハウ。補曠切 [養] ハウ、分房切 [陽] バウ。切
二つ併べあはせたる船、もやひぶれ。○〔史〕「—-船載レ卒」。

【舫】 ハウ。敷亮切 [漾]
ふね(舟)。○〔禮〕「—-人習レ水者」。

〔乘舫〕船にうちのる。○〔南〕「赴レ水—レ—」。

〔畫舫〕ゑがき飾りたる船。○〔揚游〕「—-—照二河-堤一」。

〔連舫〕もやひぶね。○〔宋〕「伐レ木爲二—-—一」。

〔輕舫〕重量なき船、即ち、小船。○〔南〕「—-—還レ闕」。

〔空舫〕物の乘りをらざる船。○〔南〕「將運二—-—一」。

〔艇舫〕ふね。○〔南〕「—-—泝レ流俱下」。

〔偶舫〕もやひ船。○〔唐〕「治二大-艦—-—、而待」。

〔花舫〕飾りを施したる船。○〔朱慶餘〕「曲-溶廻二—-—一」。

〔巨舫〕大いなる船。○〔劉基〕「濟レ河須二—-—一」。

〔驛舫〕宿次に備へおけるふね、てんまぶね。○〔岑參〕「—-—江-風引二鄕-書」。

〔行舫〕漕ぎゆく船。○〔韋應物〕「—-—過二長-津一」。

〔停舫〕船をとゞむ。○〔韋應物〕「—レ—臨二孤-驛一」。

〔敗舫〕毀れたる船。○〔溫庭筠〕「萍-稀—-—沈」。

〔筏舫〕いかだ船。○〔范成大〕「肯將二—-—一換二柴-扉一」。「—一」。

〔官舫〕政府の所有せる船。○〔高啓〕「磯-石繫二—-—一」。

〔文舫〕飾りを施せる船。○〔劉基〕「鏤-首䳄二—-—一」。

【般】 ハン、バン。蒲官切 [寒]
㊀はこぶ(運)、うつす(移)。○〔通典〕「船-艘—-載」。「旋之儀」。㊁めぐる、めぐらす(旋)。○〔抱朴〕「—-—」。㊂たのしむ(樂)。○〔荀〕「—-樂奢-汰」。㊃物事を數へ呼ぶに用ふる字。○〔宋〕「豈-樂多-—-—」。「之」。㊄鞶に同じ、ふくろ。○〔穀梁〕「—-申レ之」。㊅磐に同じ、いはほ。○〔漢〕「鴻漸二于—-—一」。㊆ゆく(行)。㊇まかす(任)。㊈大船、おほぶれ。

〔多般〕樂しみさはにあり。○〔宋〕「豈-樂—-—」。

〔一般〕すべて同じくあるにいふ語。○〔陸龜蒙〕「朝-市山-林隱—-—」。

〔幾般〕いくたびなること。○〔戎昱〕「愁坐賜レ心事—-—」。

〔萬般〕あまたなることにいふ語。○〔稽穀〕「一宿郵亭事—-—」。

〔千般〕前に同じ。○〔元稹〕「孤-吟獨寢意—-—」。

〔百般〕前に同じ。○〔杜牧〕「年來事—-—」。

【般】 ハン、バン。蒲滿切 [旱]
面の平かなる貌にいふ字。

【般】 ハン、ヘン。布還切 [刪]
㊀反還す、めぐる、めぐらす、かへる、かへす。○〔漢〕「明-主—レ師罷レ兵」。㊁わかつ(分)、たまふ(賜)。○〔揚雄〕「渙レ爵—レ秩」。㊂しく(布)。○〔漢〕「先以レ雨—裔-々」。㊃まだら(斑)。○〔禮〕「馬黑-脊而—-臂漏」。

【般】 ハツ、ハチ。北末切 [曷]
—若は、智慧の義(佛家の言)。○〔心經註〕「—-若梵-言、此曰二智-慧一」。

五畫

【舲】 レイ、リヤウ。郎丁切 [青]
㊀屋ある小船、やかたぶれ。○〔楚辭〕「乘二—-船一余上レ沅兮」。㊁小船、こぶれ。○〔淮〕「越—蜀艇不レ能二無レ水而浮一」。

〔鶩舲〕やかた船を走らす。○〔鮑昭〕「—レ—馳二桂-浦一」。

〔廻舲〕やかた船の方向をめぐらす。○〔謝莊〕「—レ—拓二繩-戶一」。

〔同舲〕一の船に共に乘る。○〔韓愈〕「朝レ京忽—レ—」。

〔漁舲〕すなどりする船。○〔孫一元〕「身世—-—」。「—」。

〔孤舲〕つれあひなきやかた船。○〔汪元量〕「岳-陽城-下繫二—-—一」。

【舸】 コウ、ク。古侯切 [尤]
—艫は、形扁くして大いなる船、おほぶれ。○〔北堂書鈔〕「郎呂-蒙作二—-艫大-艑一處」。

【艴】 フツ、ボチ。符勿切 [物]

大船、おほぶね。

【舳】チク、ドク。直六切 屋
㊀船の後の梔を持つ處、とも。○〔漢〕「一一轤千一里」。
㊁かぢ（梔）。○〔方言、註〕「今江東呼レ梔爲レ一」。

【舳】イウ、ユ。余救切 チウ、ヂユ。直祐切 宥
舟首、へさき。○〔爾〕「船頭謂二之一一」。
〔連舳〕船のかぢをつらぬ、卽ち、船をならぶること。○〔吳都賦〕「弘舸一レ一」。
〔盜舳〕船のともを掩ふ。○〔庾信〕「一レ一觸レ艫」。
〔艫舳〕船のへさきとともと。○〔庾信〕「一一雙流」。

【舴】タク、チヤク。陟格切 サク、シヤク。側格切 陌
一艋は、こぶね、小舟。○〔張志和〕「兩々三々一一艋舟」。

【⿰舟氐】テイ、丁計切 霽 タイ、典禮切 薺
一艦は、水戰に用ふる船、いくさぶね。

【舵】梔に同じ。

【⿰舟㐌】前條に同じ。

【舶】ハク、ビヤク。傍伯切 陌
海上に浮ぶる大船、おほうみぶね。○〔南〕「乘二賈人一一入レ海」。
〔蕃舶〕外國の海船。○〔唐〕「一一泊步有二下レ碇稅一」。
〔市舶〕商人の所有する海中の大船。○〔唐〕「中人之一一者、不三敢干二其法一」。
〔大舶〕海上を往來する大船。○〔黃鎮成〕「一一押舟海上行」。
〔商舶〕商人の所有する大船。○〔鄭俠〕「大矛一一蔽二汀洲一」。
〔汎舶〕海上に大船を浮ぶ。○〔一統志〕「一二一會溪口一」。
〔故舶〕海上を往來するふるき大船。○〔王褒〕「波生レ從二一一」。
〔蠻舶〕外國の海船。○〔五國故事〕「每發二一一」。
〔奇舶〕珍奇の貨物を載せたる海中の大船。○〔劉禹錫〕「映日帆多一一來」。
〔浮舶〕大船を海にうかぶ。○〔柳宗元〕「一レ一聽レ命」。
〔賈舶〕商人の所有せる大船。○〔張籍〕「一一傾二諸國一」。
〔巨舶〕大船。○〔吳萊〕「富首一一類二天星一」。

【舷】ケン、ゲン。胡田切 先
船の邊、ふなべり、ふなばた。○〔郭璞〕「詠二採菱一以叩レ一」。
〔刻舷〕船ばたをきざみてつくる、又、物事に拘泥するにいふ語。○〔齊己〕「一レ一沙門、守レ株道士」。
〔扣舷〕船ばたを打ちたゝく。○〔宋〕「一レ一飲レ酒」。
〔船舷〕舟のはた。○〔杜甫〕「一一不二重扣一」。
〔繫舷〕ふなばたをつなぎとむ。○〔王安石〕「瀕舟平一レ一」。
〔鳴舷〕船ばたを打ちならす。○〔朱熹〕「一レ一夜相過」。
〔侵舷〕船ばたにかゝる。○〔韋莊〕「晚風侵レ浪水一レ一」。

【舸】カ。古我切 哿
大いなる船、おほぶね。○〔左思〕「弘一一連レ舳」。
〔艇舸〕早ぶね。○〔晉〕「率二一一出二其上流一」。
〔畫舸〕ゑがき飾りたる大船。○〔白居易〕「龍頭一一猗二明月一」。
〔單舸〕はやぶね。○〔耶律楚材〕「兩岸淸風一一穩」。
〔泥舸〕前に同じ。○〔吳〕「豫備二一一」。
〔別舸〕他所にある船。○〔宋〕「元在二一一、踊入二敵舟一」。
〔素舸〕飾りなき大船。○〔李白〕「我乘二一一同二康樂一」。
〔遙舸〕はるかの彼方にある大船。○〔梁元帝〕「衒君一一似二行林一」。
〔鷁舸〕鷁首を飾りたる船。○〔庾信〕「一一泛二中川一」。
〔壞舸〕破れたる大船。○〔庾信〕「一一或空浮」。
〔利舸〕早船。○〔盧思道〕「輕舠一一、便習者多」。
〔泛舸〕大船を浮ぶ。○〔崔顥〕「一レ一貪二斜月一」。
〔悠舸〕ゆるゆると浮び行く船。○〔楊當〕「一一不レ知レ移」。
〔移舸〕船の在る所を轉ず。○〔僧無可〕「一レ一浮二中沚一」。
〔纜舸〕船のともづなをかく。○〔喩鳧〕「一一擁二花水一」。
〔方舸〕船をならぶ。○〔曾鞏〕「魚鹽一レ一集」。

【⿰舟召】テウ。都聊切 蕭
吳の船。

【⿰舟永】エイ、ヤウ。爲命切 敬
舟行く。

【船】セン、ゼン。食川切 先
㊀ふね（舟）。○〔左思〕「戈一一掩二平江湖一」。
㊁衣領、えり。○〔正字通〕「蜀人呼二衣繫帶一爲レ穿、俗因改レ穿作レ一」。
〔乘船〕舟に打ちのる。○〔史〕「水行一レ一」。
〔沉船〕舟を水中に沒す。○〔史〕「引レ兵渡レ河皆一レ一」。
〔艤船〕ふなよそひす。○〔史〕「烏江亭長一レ一待」。
〔樓船〕やぐらぶね、船上に樓を設けたるもの。○〔史〕「一一高十餘丈」。
〔蕩船〕舟をゆり動かす。○〔杜甫〕「湖日一レ一明」。
〔賈船〕商人の所有する舟、あきうどぶね。○〔漢〕「蠻夷一一轉送致レ之」。
〔刺船〕舟に竿さす。○〔莊〕「遂一レ一而去」。
〔方船〕舟をならぶ。○〔漢〕「一レ一而下」。
〔習船〕舟をあやつるに練熟す。○〔漢〕「一レ一者請レ行」。
〔擢船〕棹をもて舟をやる。○〔漢〕「通以レ一レ一爲二黃頭郞一」。
〔戰船〕戰爭に用ふる舟、いくさぶね。○〔晉〕「作二一一通二水道一」。
〔酒船〕さけを入るゝ舟、さかぶね。○〔李商隱〕「雨送一一香」。
〔綵船〕ゑがき飾りたる舟。○〔梁元帝〕「長虹藏二一一」。
〔虛船〕物なき舟、からぶね。○〔莊〕「有二一一一」。
〔鐵船〕黑がねを張りたる舟。○〔九國志〕「造二一一渡レ海」。
〔夜船〕よる水中を上下する舟、よぶね。○〔許渾〕「溪雨一一發」。
〔契船〕舟に記號を刻す。○〔張衡〕「一レ一而求レ劍」。
〔汎船〕舟を水中に浮ぶ。○〔庾信〕「落江卒一レ一」。
〔釣船〕魚をつる舟。○〔庾信〕「高荷沒二一一」。
〔客船〕旅のふね。○〔張九齡〕「餘花滿二一一」。
〔江船〕揚子江を上下する舟。○〔杜甫〕「一一火獨明」。
〔單船〕つれあひなき舟。○〔宋〕「公一一過レ江」。
〔焚船〕舟を燒きはらふ。○〔史〕「渡レ河一レ一」。
〔舫船〕舟をもやふ、又、もやひぶね。○〔史〕「一一載レ卒、下レ水而浮」。
〔治船〕舟を修繕す。○〔漢〕「築レ倉一レ一」。
〔浮船〕舟を水中にうかぶ。○〔庾信〕「武侯南征、一二一於瀘水一」。
〔漕船〕舟をやる、又、物をはこぶ舟。○〔陳高〕「何時發二一一」。
〔引船〕舟を牽き行く。○〔漢〕「輒一レ一而去」。
〔陳船〕舟をならぶ。○〔漢〕「一レ一欲レ渡二臨晉一」。
〔發船〕舟を出だしやる。○〔杜甫〕「打レ鼓一レ一何郡郞」。
〔御船〕高貴の人舟に乘る、又、帝王の舟。○〔漢〕「太后上及後宮可レ一レ一」。
〔天船〕星の名。○〔後漢〕「有レ星孛二於一一北一」。
〔箄船〕竹木をもて舟の代りとなしたるもの、いかだ。○〔後漢〕「乘二一一、南下二江漢一」。
〔具船〕舟を支度す。○〔後漢〕「陰一レ一欲レ遁」。
〔試船〕舟の運轉をためしみる。○〔魏〕「作二御樓船一於陶河一レ一」。
〔舸船〕大いなる舟、おほふね。○〔吳〕「乘二大一一突入」。
〔舍船〕舟に乘ることを止む。○〔吳〕「今反一レ一就レ步」。
〔輕船〕重量なき舟、早ぶね。○〔吳〕「乘二一一一不二介胥一」。
〔詣船〕舟に至り行く。○〔吳〕「因一レ一賀」。
〔迴船〕舟の方向を轉ず、舟をかへす。○〔梁簡文帝〕「那得二久一レ一」。

（解船）舟のともづなをはなつ。○〔王融〕「帆開欲｜｜」。
（就船）舟中に至る。○〔晉〕「賈充｜レ｜與語」。
（運船）舟を漕ぎやる、又、物をはこぶ舟。○〔王建〕「西江｜・｜立二紅蝦一」。
（造船）舟をこしらふ。○〔晉〕「｜二｜于蜀一」。
（皮船）牛馬のかはをもてつゝみたる舟。○〔晉〕「爲二牛｜・｜百餘艘一」。
（給船）舟を與へつかはす。○〔宋〕「賜二樵米一｜レ｜」。
（鬪船）戰爭をなすための舟、いくさぶね。○〔南〕「江中無二｜・｜一」。「齊防一」。
（堅船）堅固に作りたる舟。○〔南〕「求二｜・｜一以爲」
（鑿船）舟に穴をあく。○〔周書〕「｜レ｜沈レ米、斬レ纜而歸」。
（泊船）舟の碇をおろす。○〔孟浩然〕「河橋晩｜レ｜」。
（舶船）海上の大船。○〔張佑〕「風廻望二｜・｜一」。
（擺船）舟に打ちのる。○〔舊唐〕「數十郡｜レ｜人皆大笑・子寶・袖・衫」。
（遊船）舟に打ちのりてあそびたのしむ。○〔宋〕「五月｜レ｜」。
（輪船）舟に車の輪の如きをつけたるもの。○〔元〕「貴乘二｜・｜一順レ流東走」。
（僦船）舟を賃借す。○〔全唐詩話〕「乏二｜レ｜之資一」。
（撐船）さをさす。○〔楊萬里〕「映裏｜レ｜更不「行」。
（觥船）大いなる酒杯。○〔杜牧〕「｜・｜一棹百分」「｜」。
（傾船）舟を横さまにたふす。○〔孟郊〕「驚浪恐レ｜レ｜」。
（篷船）とまをかけたる舟。○〔韋莊〕「夜來江雨宿二｜・｜一」。

【舺】カフ、ケフ。轄甲切 洽
ふれ（舟）。

【舸】カ、ケ。居訝切 禡
舟を具ふ、そなふ。

六畫

【䑬】クヮツ、グヮチ。戸括切 曷
舟行く。

【舼】キョウ、グ。渠容切 冬
小船、こぶれ。

【舼】コウ、グ。胡公切 東
ふれ（舟）。

【舥】ハン、ベン。符咸切 咸
ふなばた（舷）。

【䑪】カフ、ゴフ。鄂合切 合
舟の動く貌にいふ字。

【舽】ハウ、ボウ。皮江切 江
｜舡は、吳の船の名、又、蠢きて大いなる物の稱。

【䑰】艟に同じ。

【䒂】キヤウ、カウ。奚剛切 陽
方べたる舟、もやひぶね。

七畫

【䑠】タウ、トウ。徒刀切 豪
ふれ（舟）。

【艀】フウ、ブ。房尤切 尤
㊀小さき艀、はしけ。㊁ふれ（舟）。

【艄】サウ、セウ。師交切 肴
船尾、とも。

【艄】サウ、セウ。所教切 效
行くこと迅疾なる船、偵巡に用ふ。

【䑯】テイ、ダイ。徒禮切 薺 特計切 霽
ふれ（船）。

【舲】舲に同じ。

【艅】ヨ。以諸切 魚
｜艎は、船の名。○〔郭璞〕「漂二飛雲一運二｜・艎一」。

【艆】ラウ。魯當切 陽
㊀海中の大船、おほぶれ。㊁ふなばた（舷）。

【艇】テイ、ヂヤウ。徒鼎切 迥
狹長なる小船、特に、其の載積二百斛以下のものゝ稱。○〔淮〕「蜀｜｜一版之舟」。
（小艇）小舟。○〔北〕「亮乃備二｜・｜百餘一」。
（遊艇）あそびに用ふる舟。○〔晉書〕「泝レ流飛二｜・｜一」。
（搖艇）小舟を動かしやる。○〔彥伯〕「｜レ｜入江煙一」。
（廻艇）舟をかへす。○〔孟浩然〕「｜レ｜夕陽邊」。
（釣艇）魚をつる舟、つりぶね。○〔杜甫〕「｜・｜收レ緡盡」。
（孤艇）つれのなき小舟。○〔劉長卿〕「夕陽｜・｜去」。
（舫艇）もやひぶね。○〔白居易〕「二隻短｜・｜」。
（短艇）こぶね。○〔陸游〕「｜・｜湘湖自采レ蓴」。
（繫艇）小舟をつなぎとゞむ。○〔高啓〕「｜レ｜岸垂レ花」。
（背艇）舟にうしろを見す。○〔李孝光〕「沙禽｜レ｜飛」。
（泛艇）小舟を水中に浮ぶ。○〔宋琬〕「晴湖｜レ｜鷗衝レ槳」。
（移艇）小舟の在所をかふ。○〔高啓〕「｜レ｜聞二煙唱一」。

【䑺】ホ、ブ。蒲故切 遇
長さ短くして底深き船。○〔通鑑〕「使レ引二淮中叔｜及海艟一」。

【䑳】コウ。許恆切 蒸
鹽を入るゝ舟、しほぶね。

八畫

【䑲】エン、ヲン。委遠切 阮
ふれ（舟）。

【艋】バウ、ミヤウ。莫杏切 梗
舴の字の條を見よ。

【䑽】タウ、デウ。直教切 效
舟を行るに用ふる具、かい。

【䑺】ハイ、ベ。蒲拜切 卦
船の後にありて水を排する木、かぢ。

【䑳】ロン。盧昆切 元
｜兪は、舟の名。

【䑳】リン。龍春切 眞　ケン。圭懸切 先
船の前の木、よこぎ。

【䑴】キ、ギ。渠之切 支
ふれ（舟）。

【艌】デン、チン。奴店切 豔
舟を挽く索。

【䑿】セフ。蘇協切 葉
舟行く疾し、はやし、さし。

【艒】テウ。丁聊切 蕭　タウ、トウ。都勞切 豪
小船、こぶれ、一說に、三百斛を載積する舟の名にて短く廣く傾き易からざるもの。

【䑵】セン。倉甸切 霰

輕き舟。

九畫

【[舟胃]】ヰ。于貴切〔未〕
漕運に用ふる船。

【艅】ユ、ヨ。羊諸切〔魚〕
艅―は、木の中をくり空しくしたる舟、うつろぶれ。

【艎】クワウ、ワウ。胡光切〔陽〕
㊀大船、おほぶれ。○〔謝朓〕「飛――溯二極浦一」。㊁津舫、わたしぶれ。○〔字彙補〕「荊人呼二渡レ津舫一爲レ―」。

【[舟畐]】フク、ホク。方六切〔屋〕
――䑿は、おほぶれ、大舟。

【[舟契]】ケイ、カイ。詰計切〔霽〕
ふれ（舟）。

【[舟夋]】艘に同じ。

【艏】シウ、シユ。始九切〔有〕
㊀ふれ（舟）。㊁へさき（船首）。

【[舟突]】トツ、トチ。陁沒切〔月〕
釣舟、つりぶれ。

【艐】ソウ、ス。子紅切〔東〕
㊀船著きて行かず、すわる。㊁いたる（届）。○〔史〕「踢以―レ路」。

【艐】カ。口箇切〔箇〕
前條の㊀に同じ。

【[舟風]】ハン、ベン。符咸切〔咸〕扶泛切〔陷〕
ほ（帆）。○〔韓愈〕「祥飈送レ―」。

【[舟斿]】イウ、ユ。夷周切〔尤〕
舟行く。

【[舟曷]】[舟欶]に同じ。

【艑】ヘン、ベン。薄泫切〔銑〕紕連切〔先〕
㊀底淺くして扁き舟、ひらたぶれ。○〔唐〕「乘レ―而亡去」。㊁大いなる船、おほぶれ。○〔荊州記〕「湘州七郡大―皆受二萬斛一」。
〔敗艑〕毀れたるひらたぶれ。○〔盧山記〕「今有二――一」。
〔巨艑〕大いなるふれ。○〔陸龜蒙〕「――可二貫而行一之矣」。

【艒】ボク、モク。莫六切〔屋〕バウ、モウ。莫報切〔號〕
――䑿は、こぶれ、小舸。

【艓】テフ、デフ。達協切〔葉〕
小舟。○〔戴暠〕「葉花裝二小――一」。
〔輕艓〕小舟。○〔隋〕「率二數百――一、徑登二江岸一」。
〔馳艓〕小舟を駛走せしむ。○〔梁武帝〕「沿レ波―レ―」。
〔行艓〕小舟を漕ぐ。○〔杜甫〕「貧窮取レ給―二――一」。
〔艤艓〕やかたぶね。○〔白居易〕「旌旗――中」。

【[舟及]】キフ、ゴフ。逆及切〔緝〕
舟行く、ゆく。

【[舟愛]】艘に同じ。

【[舟架]】カ、ケ。居迓切〔禡〕
舟を具ふ、そなふ。

十畫

【[舟豈]】ガイ。魚開切〔灰〕
ふれ（船）。

【艕】ハウ。補曠切〔漾〕
ふれ（船）。

【[舟奚]】ケイ、ガイ。胡禮切〔薺〕
船を安重にすること。

【[舟冓]】舸に同じ。

【[舟芻]】シウ、ス。側鳩切〔尤〕ス。莊倶切〔虞〕
艍―は、海船、うみぶれ。

【艖】サ、セ。初加切〔麻〕切 サイ、セ。初佳切〔佳〕側下切〔禡〕
小舸、こぶれ。

【艗】ゲキ、ギャク。五歷切〔錫〕
船頭、へさき、又、ふれ（船）。○〔正字通〕「晉王濬造二大船一、畫二鷁鳥怪獸於船首一以懼二江神一、後人因名レ舟爲レ―」。

【[舟弱]】タフ、トフ。吐盍切〔合〕
幅廣くして載積多き船、おほぶれ。○〔梁元帝〕「何時乘レ―歸」。

【艘】セウ。蘇彫切〔蕭〕サウ、ソウ。蘇遭切〔豪〕
㊀船の汎稱、ふれ。○〔抱朴〕「欲下浚二洪波一而遐濟上必因二――楫之器一」。㊁船を數ふるにいふ字。○〔六韜〕「三―流入二大江一」。
〔連艘〕ならべたる舟、又、舟をならぶ。○〔柳宗元〕「連火明二――一」。
〔巨艘〕大いなる舟。○〔宋〕「番舶――、形若二山嶽一」。
〔文艘〕ゑがき飾りたる舟。○〔抱朴〕「浮二――于淥濱一」。
〔交艘〕交通の舟。○〔張融〕「遊舶――」。
〔輕艘〕小舟。○〔周繇〕「乍辭二芸署一泊二――一」。
〔征艘〕旅の舟。○〔羅鄴〕「西風獨自泛二――一」。
〔戰艘〕戰争の用に供する舟。○〔吳萊〕「南海給二――一」。
〔維艘〕舟を繋ぐ。○〔柳貫〕「歲闌歸路各―レ―」。
〔客艘〕人を乘せて貨錢をとるを業とする船。○〔張翥〕「風起西津斷二――一」。
〔江艘〕揚子江を往來する大いなる舟。○〔何景明〕「――海舶送二花石一」。

十一畫

【䑿】シユク、ソク。息六切〔屋〕
艒の字の條を見よ。

【艀】ホ、フ。薄故切〔遇〕フ。芳無切〔虞〕
長さ短くして底深き艇、はしけ。○〔揚雄〕「艇長而薄者謂二之艒一、短而深者謂二之――一」。

【[舟基]】[舟其]に同じ。

【[舟鹿]】ロク。盧谷切〔屋〕
舸の字の條を見よ。

【[舟習]】シフ、ジフ。似入切〔緝〕
船を覆ふ具、やれ。○〔江淹〕「草蔓―長埋」。

【[舟敖]】ガウ、ゴウ。五勞切〔豪〕
船の接頭木、へさきのき

【艚】サウ、ザウ。昨勞切〔豪〕

小船、こぶれ。○〔唐〕「維レ—以梁ニ其上ニ」。
〔輕艑〕小舟。○〔南〕「以進ニ——ニ」。
〔雙艑〕ならびたる小船、又、ふたつの小舟。○〔劉方平〕「晝舸——錦爲レ纜」。「寒江正—レ—」。
〔復艑〕舟をもとの處にかへす。○〔王安石〕「萬里——ニ」。
〔䑸艑〕船。○〔陸游〕「無ニ時往來䑸ニ——ニ」。

【⿰舟將】槳に同じ。

【艛】ロウ、ル。落侯切 尤　船の樓。○〔白居易〕「旌旗——船中」。

【⿰舟戚】セイ。七例切 霽　舟危し、あやふし。

【艜】タイ。當蓋切 泰　長くして狹き艇、こぶれ。○〔揚雄〕「艇長而溥者謂ニ之—ニ」。

【⿰舟羞】シウ、シュ。思由切 尤　船が進む、すゝむ、やる。

【⿰舟畐】フウ、フ。芳副切 宥　㊀ふれ(舟)。㊁船に積むこと多し。

十二畫

【⿰舟發】ハツ、ハチ。北末切 曷　海中の大船、おほうみぶれ。

【⿰舟貴】非。于貴切 未　運送船、はこびぶれ。

【⿰舟敦】トン。都困切 願　おほぶれ(大船)。

【⿰舟尞】レウ。憐蕭切 蕭

【⿰舟番】ヘン、ハン。孚袁切 元　小さくして長き船、こぶれ。

【艞】エウ。弋照切 嘯　船の飾。

【⿰舟黄】カウ、ギヤウ。胡盲切 庚　㊀江中の大船、おほぶれ。㊁岸に泊する舟より岸に板をわたして往來に便するもの、あゆみ。

【⿰舟廣】クワウ、ワウ。胡光切 陽　いかだ(筏)。

【⿰舟厥】ケツ、グワチ。其月切 月　前條に同じ、又、艎に同じ。

【⿰舟翕】タフ、トフ。託盍切 合　舟を繫ぐ木、くひ、もやひ。

【⿰舟尊】ソン。祖悶切 願　大船、おほぶれ。

【⿰舟徹】テツ、テチ。丑列切 屑　船底の孔。

【⿰舟殺】セツ、セチ。色列切 屑　船行く。

【艟】トウ、ヅ。徒東切 東　ショウ、シュ。昌容切 冬　ふれ(船)。

艨—は、狹く長き兵船、いくさぶれ、敵船に衝突するに用ふるもの。○〔宋書〕「艨—巨艦—毛輕」。

【艟】タウ、ドウ。丈降切 絳　短き船。

【⿰舟堯】橈に同じ。

【⿰舟參】サン、ソン。倉含切 覃　㡳—は、戰艦内に貫きたる大材。

【⿰舟桼】トウ、ドウ。同能切 蒸　からぐ、こづ(緘)。

十三畫

【艡】タウ。都郎切 陽　他浪切 漾　ふれ(舟)。

【艢】檣に同じ。

【⿰舟霝】舲に同じ。

【⿰舟逢】篷に同じ。

【⿰舟歇】ケツ、ケチ。許竭切 屑　大船、おほぶれ。

【艣】櫓に同じ、船を進むる具。○〔老學菴筆記〕「八—戰船」。
〔柔艣〕いそがはしく漕がざる櫓。○〔僧惠洪〕「夢隨ニ——ニ到ニ西興ニ」。
〔鳴艣〕船を進むる木をこぎて音をさす。○〔王安石〕「藜杖聽レ——レ」。
〔促艣〕つよく漕ぐ櫓。○〔余靖〕「——鷹齊鳴」。
〔緊艣〕いそがはしく漕ぐ船の櫓。○〔范成大〕「——湖痕出」。
〔篙艣〕みさをと櫓と。○〔王惲〕「推挽代ニ——ニ」。

【艤】ギ。語綺切 紙　檥に同じ、舟を整へて岸に向かふにいふ字、よそほふ。○〔左思〕「試ニ水客一—ニ輕舟ニ」。

【⿰舟戠】楫に同じ。

【⿰舟賁】ヒ。浮鬼切 尾　船の釘、ふなくぎ。

十四畫

【艦】カン、ゲン。胡黤切 豏　水戰に用ふる船、いくさぶれ、古昔は板を船身の四方に施して矢石を禦ぎ船内上下に牀を重ねて恰も牢檻の如くに構へたりといふ。○〔晉〕「大—漂沒」。
〔鬪艦〕いくさ船。○〔吳〕「蒙衝——以レ千數」。
〔戰艦〕前に同じ。○〔晉〕「乃以ニ運船ニ爲ニ——ニ」。
〔戎艦〕前に同じ。○〔張仲素〕「迎レ秋而大閱ニ——ニ」。「水城西南角ニ」。
〔舸艦〕大いなるいくさ船。○〔南〕「大列ニ——ニ攻ニ」
〔巨艦〕前に同じ。○〔五〕「以ニ——ニ絶レ河」。
〔輕艦〕かろくて快走する戰船。○〔何承天〕「給ニ——百艘ニ」。
〔舟艦〕いくさ舟。○〔晉〕「詔溶修ニ——ニ」。
〔船艦〕前に同じ。○〔晉〕「打ニ官軍——ニ」。
〔樓艦〕屋形舟。○〔江淹〕「——五萬」。
〔治艦〕いくさ船の手入れをなす。○〔宋〕「—レ—拒レ險」。
〔繕艦〕前に同じ。○〔南〕「瑤乃—レ—」。
〔乘艦〕いくさ舟に上る。○〔南〕「將レ戰—ニ大—一」「肥ニ瓜」前」。
〔列艦〕いくさ舟を陳らぬ。○〔南〕「大—舟—于合—」。
〔蔽艦〕いくさ舟をおほひかくす。○〔北〕「其高—」—」。

【⿰舟舞】ブ、ム。文甫切 麌　長き舟。

【艧】ワク。烏郭切 藥

ふれ、(舟)。○〔江淹〕「方水埋ニ金ーーニ」。

【艨】ボウ、ム。莫紅切 東 蒙弄切 送 忙用切 宋

艩の字の條を見よ

【艩】セイ、ザイ。前西切 齊

艣を承くるもの、ろべそ。

【𦪙】セイ、サイ。子禮切 薺

ふれ、(舟)。

十五畫

【䑢】レイ、ライ。里弟切 薺

大船、おほぶれ。

【𦪾】ボク、モク。密北切 屋

ーー艜は、つりぶれ、(釣艇)。

【艪】艣に同じ。

十六畫

【𦪷】リョウ、リュ。力鍾切 冬

上に蓋をおく小船、こぶれ。

【𦪷】ロウ、ル。盧東切 東

舟の名。

【艫】ロ、ル。洛乎切 虞

㊀船頭の櫓を刺す處、へさき、一說に、船尾、とも。○〔漢〕「舳ーー千里」。

㊁舟の名。○〔唐〕「共乘ニーー江中ニ」。

〔飛艫〕早くゆくふね。○〔梁〕「ーーー巨艦、覓レ水浮レ川」。

〔舟艫〕船。○〔梁〕「士卒器械、ーーー戰艦」。

〔艕艫〕いくさ船。○〔唐〕「ーーー甚盛」。

〔舳艫〕前に同じ。○〔唐〕「ーーー七百伐ニ湖南ニ」。

〔巨艫〕大いなる船。○〔唐〕「以ニーーー濟レ人」。

〔攏艫〕船のともをうちくだく。○〔宴字記〕「ーレー碎艫」。「艦」。

〔連艫〕舟のともをならぶ。○〔柳宗元〕「ーレー糜」。

〔峻艫〕高く大いなる船。○〔蕭士穎〕「ーーー衝レ濤以直透」。

〔接艫〕ともをまとへつゞく。○〔吳都賦〕「巨艦ー」「ーーーニ」。

〔行艫〕漕ぎ出だす船のとも。○〔謝朓〕「巨人理ニ」。

【艫】リョ、ロ。凌如切 魚

船尾、とも。

【𦪹】レキ、リャク。狠狄切 錫

ふれ、(船)。

十七畫

【𦪻】艣に同じ。

【艬】サン、ゼン。鋤銜切 咸

大船、おほぶれ。

【䑲】レイ、リャウ。郞丁切 靑

ふれ、(舟)、一說に、窓ある舟、やかたぶれ。

十八畫

【艭】サウ、ソウ。所江切 江

艕ーーは、船の名。

廿一畫

【䑝】レイ、ライ。里弟切 薺

江中の大船。

艮部

【艮】コン。古恨切 願 〔說文〕从ニ匕目一、匕目猶ニ目相匕不ニ相下一。

㊀易の卦の名☶☶艮下艮上 ○〔易〕「兼山ー君子以思レ不レ出ニ其位ニ」。

㊁うしとら。

(い)東北。○〔宅經〕「從レ坤向レー」。

(ろ)午前二時より同四時までの時刻。○〔唐〕「多取ニ乾ーー二時ニ」。

㊂とゞまる、(止)、又、かぎる、(限)。○〔易〕「ーニ其限一列ニ其夤ニ」。

㊃かたし。

(い)堅し。○〔揚雄〕「ー、磑、堅也」。

(ろ)難し。○〔揚雄〕「象ニー有ヒ守」。

〔抵艮〕丑寅の位に至る。○〔唐〕「雲漢自レ坤ーレー爲ニ地紀ニ」。

〔止艮〕とゞまる。○〔李程〕「胡ーー而不レ前」。

【艮】コン、ゴン。胡恩切 元

根に同じ。

一畫

【良】リヤウ、ラウ。呂張切 陽

㊀よし。

(い)惡ならず。○〔孟〕「不ー知ー能」。

(ろ)賢し。○〔書〕「元首明哉、股肱ー哉」。

(は)美し。○〔詩〕「見ニ此ーー人ニ」。

(に)勝りたり。○〔蜀〕「馬氏五常白眉最ー」。

(ほ)正し。○〔後漢〕「見ニ貞ーー之節ニ」。

(へ)易直なり、すなほなり。○〔論〕「溫、ー、恭、儉、讓」。

(と)巧なり、又、牢し。○〔禮〕「陶器必ー」。

(ち)吉なり、めでたし。○〔韓愈〕「日吉時ー利レ行ニ四方ニ」。

㊁賢者、君子、善人。○〔詩、序〕「責ニ鳥哀ニ三ーー也」。

㊂駿馬。○〔史〕「乘レ堅驅レー」。

㊃よきもの、泛稱。○〔山海經〕「瑾瑜之玉爲レー」。

㊄ふかし、(深)。○〔後漢〕「ーー夜乃罷」。

㊅やゝ。

(い)度進みて。○〔漢〕「遂幸ニ甘泉宮一病ー愈」。

(ろ)時加はりて、しばらくたちて。○〔列〕「公子牟默然、ー久告レ退」。

㊆まことに、(信)、よく、(能)。○〔左〕「弗ニー及一也」。

〔明良〕君賢明にして臣善良なり。○〔唐〕「君臣ーー」。

〔忠良〕忠義善良なり。○〔書〕「小大之臣、咸懷ニーー」。

〔選良〕善良なる事を成しとぐ。○〔書〕「顯レ忠ーレー」。

〔元良〕大いに善し。○〔書〕「一人ーー」。

〔任良〕善良なる人物を採用す。○〔左〕「ーレー物レ官」。

〔賢良〕賢德ありて善良なり。○〔禮〕「遂ニーー」、「ーーニ」。擧ニ挨・六ニ。

〔苦良〕惡しきと善きと。○〔柳宗元〕「取レ貨有ニ」。

〔麤良〕粗末なると善良なると。○〔周〕「比ニ其小大與ニ其ーー而賞ニ罰之ニ」。

〔儁良〕すぐれて善良なり。○〔後漢〕「署ニ六師ニ、接ニーーニ」。

〔隱良〕善良なるものを妨げて人に知らしめず。○〔荀〕「ーレー者謂ニ之妒ニ」。

〔留良〕よきものを引きとめおく。○〔柳貫〕「何必更ーレー」。「有ニーーニ」。

〔平良〕公平にして善良なり。○〔耶律楚材〕「奇・謝」

〔善良〕非惡の反、よし。○〔唐〕「皆爲ニーーニ」。

〔齊良〕一齊に善良なり。○〔柳宗元〕「進退ーー」。

〔柔良〕柔順にして善良なり。○〔淮〕「溫惠ーー者詩之風也」。

〔淸良〕淨潔にして善し。○〔魏〕「多選ニーーニ」。

〔前良〕先時の善良なるもの。○〔張衡〕「偕ニーー之遺風ニ兮」。

〔擇良〕善なるものをえりとる。○〔宋〕「ーレー選レ奇」。

〔吉良〕あや模樣のある馬。○〔唐〕「二目、ーー」。

（精良）精密にして善し。○〔唐〕「吐-蕃鎧-冑―・―」。
（端良）正しくして善し。○〔宋〕「德-行―・―之士」。
（淳良）あつくして善し。○〔物理論〕「非二廉-潔―・―一不レ可レ信」。
（調良）乘りこなせて善良なり。○〔魏文帝〕「甚―・―善走」。
（完良）缺けたる所なくして善良なり。○〔管〕「―・―備-用必足」。
（聖善）通明にして善良なり。○〔荀〕「必有二仁-義―・―之民一」。
（駿良）すぐれて善し。○〔易林〕「―・―美-好」。
（駑良）馬の遲鈍なるものと善く走るものと。○〔韓〕「臧-獲不レ疑二―・―一」。
（牢良）堅固にして善し。○〔淮〕「服二輕-煖一乘二―・―一」。
（嘉良）吉祥なること。○〔蔡邕〕「時惟―・―」。
（閑良）しづかにして善し。○〔班婕妤〕「弃-性―・―」。
（邦良）一國中の善良なる士。○〔潘岳〕「妙簡二―・―一」。
（國良）前に同じ。○〔張九齡〕「敢二求―・―一」。
（興良）善良なるものを起こし立たしむ。○〔柳宗元〕「―レ―廢レ邪」。

【良】リヤウ、ラウ。里養切 〔養〕

方―は、罔兩に同じ、みづは。○〔周〕「擊二四-隅一敺二方―・―一」。

六畫

【根】コン。古本切 〔阮〕

再び耕す、たがへす。

十一畫

【艱】カン、ケン。古閑切 〔刪〕

㊀かたし。
（い）平易ならず、たやすからず、むづかし。○〔書〕「稼-穡之―難」。
（ろ）けはし（險）。○〔詩〕「其心孔―」。
㊁かたしとす、かたんず。○〔書〕「后克―二厥后一、臣克―二厥臣一」。
㊂窮苦す、くるしむ、なやむ。○〔文中子〕「其思苦其言―」。
㊃なやみ。
（い）窮苦、くるしみ。○〔書〕「乃罔二後-―一」。
（ろ）忌中、も。○〔王儉〕「以レ居二母―一去レ官」。
（後艱）後來のなやみ。○〔書〕「惟克果-斷、乃罔二―・―一」。
（投艱）なやましき事を與へ授く。○〔書〕「―二―于朕身一」。
（思艱）物事の容易ならざるを念ふ。○〔書〕「永―レ―」。
（險艱）けはし。○〔杜甫〕「經レ時冒二―・―一」。
（忘艱）なやましきを思はず。○〔宋〕「負レ糧―レ―」。
（曲艱）屈曲險阻なること。○〔揚雄〕「鬪二嶄-嶮一以二―・―一兮」。
（釋艱）なやみを解き去る。○〔崔駰〕「衞人―レ―」。
（銜艱）困難に出であふ。○〔陸雲〕「―レ―遘レ愍」。
（私艱）我が身に關する公けならぬなやみ。○〔懷舊賦〕「予既有二―・―一」。
（拙艱）巧みならず難澁なること。○〔閒居賦〕「―・―之有レ餘也」。
（處艱）困難の場合に身をおく。○〔傅亮〕「―レ―以レ貞」。
（阻艱）險し。○〔白居易〕「蓬-壺路―・―」。
（辛艱）からくなやむ。○〔高啓〕「但怪力盡愁二―・―一」。

色部

【色】ショク、シキ。所力切 〔職〕

㊀いろ。
（い）顏面の氣、かほいろ。○〔禮〕「―・―容壯」。
（ろ）青黃赤白黑などの光。○〔史〕「天出二五―・―一」。
（は）畫彩、いろどり。○〔左〕「五―比-象」。
（に）潤澤、つや。○〔北〕「體―・―不レ變」。
（ほ）風致、おもむき、けしき、やうす。○〔莊〕「車-馬有二行―・―一」。
（へ）男女間の慾情。○〔書〕「內作二―荒一」。
（と）容貌美なること。○〔後漢〕「先レ―後レ德」。
（ち）兆候、きざし、志ろし。○〔周〕「大-夫占レ―」。
㊁いろをつけ飾る、いろどる、かざる。○〔論〕「東-里子-產潤二―之一」。
㊂いろだつ。
（い）いろ生ず、やうすあり、きざしあり。○〔潘岳〕「重-圍克解、危-城載―」。
（ろ）かほいろを變ず。○〔公羊〕「―・―然而駭」。
㊃うろほす、うるほふ（澤）。○〔詩〕「郎―郎笑」。
（聲色）音樂と女色と。○〔書〕「惟王不レ邇二―・―一」。
（正色）顏色をたゞしくす。○〔書〕「―レ―率レ下」。
（物色）人相書を四方にまはして其の人を尋ぬ。○〔後漢〕「光-武以二―・―一訪レ光」。
（柔色）顏いろをやさしげにす。○〔禮〕「―レ―以溫レ之」。
（菜色）青くしをれたるかほ色。○〔禮〕「民無二―・―一」。
（辨色）物のあやめを見わく。○〔禮〕「朝―レ―始入」。
（愉色）よろこばしき顏色。○〔禮〕「有二和-氣一者必有二―・―一」。
（喜色）滿悅なるかほ色。○〔禮〕「乃有二―・―一」。
（遠色）女色を近づけず。○〔禮〕「君-子―レ―以爲二民紀一」。
（國色）國中の美貌。○〔左〕「鄭-姫者―・―也」。
（變色）（い）顏の色を惡しくす。○〔左〕「公懼―レ―」。（ろ）物のつやをかふ、又、いろがはりす。○〔劉禹錫〕「雨晴催二―・―一」。
（慍色）いかりの顏色をなす。○〔論〕「三已レ之無二―・―一」。
（戰色）おのゝきおそるゝ顏いろ。○〔論〕「勃-如―・―」。
（容色）容貌顏色。○〔金〕「―・―莊-重」。
（觀色）顏色の如何を注意し見る。○〔論〕「察レ言而―レ―」。
（饑色）食物の乏しき容子。○〔孟〕「民有二―・―一」。
（采色）美しきいろどりの目をよろこばすもの。○〔孟〕「抑爲二―・―不レ足レ視二於目一與」。
（徵色）顏色にその態度をあらはす。○〔孟〕「―二於―一、發二於聲一」。
（望色）顏色をながめ見る。○〔史〕「―レ―聽レ聲」。
（盛色）美しき顏色、即ち、美婦人の容姿。○〔李白〕「―・―無二十-年一」。
（華色）前に同じ。○〔漢〕「不レ間二―・―一」。
（姿色）前に同じ。○〔後漢〕「―・―端-麗」。
（動色）顏色をかふ。○〔後漢〕「君臣―レ―」。
（嚴色）顏色をおごそかにす。○〔亢倉子〕「高冠―・―」。
（艷色）つやゝかなる顏いろ。○〔孟浩然〕「―・―本傾レ城」。
（大色）欲の模樣。○〔梁元帝〕「水-際含二―・―一」。
（愧色）己れの惡しきを耻づる顏色。○〔晉〕「誠無二―・―一」。
（令色）顏色を善くして人の心に會はんことを求む。○〔書〕「巧-言―・―」。
（顏色）かほばせのいろ。○〔論〕「正二―・―一斯近レ信矣」。
（怡色）顏色を和げよろこばす。○〔禮〕「下レ氣―レ―」。
（服色）衣服のいろ模樣。○〔禮〕「改二正-朔一、易二―・―一」。
（間色）色と色との配合によりてなりたるいろ、たとへば紫の如きもの。○〔禮〕「衣二正-色一裳二―・―一」。
（好色）（い）みめよきいろをこのむ。○〔論〕「吾未レ見二好レ德如レ―レ―者一也」。（ろ）美しきいろ、即ち、美婦人のみめよきこと。○〔孟〕「―・―人之所レ欲也」。
（酒色）飲酒と女色と。○〔史〕「好二―・―一」。
（作色）怒りの顏色をなす。○〔史〕「勃-然―レ―」。
（玩色）女色をもてあそびとなす。○〔漢〕「―レ―無レ厭」。
（厲色）顏色をはげしくす。○〔晉〕「―レ―謂二左-右一」。
（神色）精神と顏色と。○〔晉〕「―・―自若」。
（本色）固有せるいろ。○〔晉〕「不レ失二其―・―一」。
（才色）容姿のすぐれたること。○〔晉〕「兵-家女有二―・―一」。
（忤色）もとりさからふ顏色。○〔蘇軾〕「擲レ簡搖レ毫無二―・―一」。
（辭色）言語顏色のこと。○〔晉〕「―・―壯-哉」。
（悅色）顏色を喜ばす、他人の旨をかふにいふ語。○〔晉〕「承レ顏―レ―」。
（犯色）顏色を犯しそむく。○〔宋〕「犯レ顏―レ―者

（光色）光澤、つや。○〔辛〕「——甚麗」。
（懼色）怒れる容子。○〔北史〕「亦無二——一」。
（奪色）本來の色を失はす。○〔曹植〕「朱紫相——」。
（面色）かほいろ、おもゝち。○〔五〕「——青黑」。
（察色）顏色をよく見る。○〔韓〕「觀‐貌——」。
（染色）いろをつく、又、そめいろ。○〔呂氏春秋〕「——不レ貞」。
（異色）いろどりを別にす、又、かはれるいろ。○〔沈約〕「參‐差多二——一」。
（改色）色を變更す。○〔李德林〕「歲寒無レ——」。
（鮮色）あざやかなるいろ。○〔夏侯湛〕「雙‐綱‐素之——一」。
（含色）いろをもつ。○〔謝朓〕「柳——于遠‐岸一」。
（表色）いろをあらはす。○〔梁昭明太子〕「丹鳥——」。
（蘊色）いろあひをつゝみかくす。○〔梁簡文帝〕「玉匣——」。
（古色）ふるびたるいろあひ。○〔杜甫〕「萬‐里起二——一」。
（晦色）いろあひを見えずならしむ。○〔常袞〕「青‐郊——」。
（溫色）むくやかなるいろあひ。○〔白居易〕「白‐玉無二——一」。
（斂色）まやかしのいろあひ、本色の反對。○〔白居易〕「——迷レ人猶若レ是」。
（淨色）清潔なるいろあひ。○〔張籍〕「——左霜‐枝一」。
（豔色）いろあひを增し加ふ。○〔張希復〕「宿雨香——」。
（不擇色）樂しまざる顏色、即ち、不興なるかほいろ。○〔孟〕「夫‐子若レ有二——一然」。
（傾城色）一城をかたぶけ亡ぼす容色、即ち、美婦人にいふ語。○〔孫綽〕「徹レ撫二——一」。

四畫

【䒗】ケイ。呼雞切 〔齊〕 黃病の色。

五畫

【艴】アウ。倚雨切 〔養〕 氣の流るゝ貌にいふ字。

【艴】ホツ、ボチ。蒲沒切 〔月〕 氣色を盛んにするにいふ字。○〔呂氏春秋〕「——然充盈、手足矜者兵革之色也」。

【艴】フツ、ボチ。敷勿切 〔物〕 かほ色怒る、いかる。○〔孟〕「曾子——然不レ悅」。

【艴】ハイ、ベ。滂佩切 〔隊〕 將に曙ならんとする色、よあけがたのいろ。

【艴】ハツ、ハチ。普活切 〔曷〕 ——艴は、色なし、一說に、色淺し。

【艴】バツ、マチ。莫葛切 〔曷〕 前條を見よ。

七畫

【艳】俗の艶の字。

八畫

【艵】ヘイ、ヒヤウ。普丁切 〔青〕 普迥切 〔迥〕 縹色、はなだいろ。○〔楚辭〕「玉‐色——以晩‐顏」。

十畫

【䒌】ベイ、ミヤウ。莫定切 〔徑〕 あをぐろ（青黑色）。

【䒌】瞑に同じ。

【䒌】ヲ、烏化切 〔禡〕 エ。烏瓦切 〔馬〕 色取る、あす。

【䒌】アウ、オウ。烏項切 〔講〕 色の深くして惡しき貌にいふ字、いろあし。

【艴】ハウ。匹朗切 〔養〕 ——艴は、無色。

十一畫

【艴】バウ、マウ。母朗切 〔養〕 前條を見よ。

【䒌】ソウ。思登切 〔蒸〕 艶——は、神爽かならず。

【䒌】ソウ。七鄧切 〔徑〕 艶——は、顏色惡し。

十三畫

【艶】俗の豔の字。

十四畫

【䒌】クン、コン。吁運切 〔問〕 物の熏べられたる色。

【䒌】ボウ、ム。莫中切 〔東〕 みにくし（醜）。

十六畫

【䒌】ボウ、モウ。彌登切 〔蒸〕 ——艶は、神爽かならず。

【䒌】ボウ、モウ。母亙切 〔徑〕 ——艶は、顏色惡し。

十八畫

【艷】豔に同じ。

艸部（艹）

【艸】サウ、ソウ。采老切 〔皓〕 一に艹に作る、草に同じ、くさ。○〔儀禮〕「在レ野曰二——茅之臣一」。

【屮】テツ、デチ。直列切 〔屑〕 草の初めて生ずる貌にいふ字。

【艹】カイ、乖買切 〔蟹〕 クワ、古瓦切 〔馬〕 ケ。ケ。羊の角の開けたる貌にいふ字。

二畫

【艻】ロク。盧則切 〔職〕 ㊀蘿——は、一種の菜、めはじき。㊁扐に同じ、ゆびのまた。○〔揚雄〕「幷二餘于——一」。

【艻】キョク、ケキ。紀力切 〔職〕 羊矢棗、まるなつめ。○〔資治通鑑〕「樹二——木一爲レ柵」。

【艼】テイ、チヤウ。湯丁切 〔青〕 一種の草、ゑみぐさ。

【艼】テイ、チヤウ。都挺切 〔迥〕 酊に同じ。○〔韓愈〕「著二——馬‐上一知レ爲レ誰」。

【芀】テウ、デウ。田聊切 〔蕭〕 葦の秀ほ、取りて帚となす。○〔爾〕「葦醜——」。

【艽】キウ、グ。巨鳩切 尤
㊀遠荒の地、くにのはて、へんぴ。○[詩]「我征徂レ西、至ニ于──野ニ」。㊁獸の蓐、ねどこ。○[淮]「野-彘有ニ──・莦槎-櫛窟-虛之連-比ニ」。

【艽】カウ、ケウ。居肴切 肴
秦──は、一種の藥草、はかりぐさ。

【艹丩】キウ、ク。居由切 尤 ハウ、ヘウ。匹交切 肴
前條に同じ。

【艾】ガイ。五蓋切 泰
㊀山野に自生する一種の草、よもぎ、別名は、冰臺、醫草。○[詩]「彼采レ─兮」。㊁よもぎの葉にて製し灸に用ふるもの、もぐさ。○[博物志]「削レ冰令レ圓、擧以向レ日、以レ─承ニ其影ニ得レ火」。㊂年長けたる者、經歷多き人。○[楚辭]「竦ニ長-劍ニ兮擁ニ幼─ニ」。㊃老人の稱、さしより。○[揚雄]「東-齊-魯-衛之閒凡尊レ老謂ニ之──人ニ」。㊄ふ(歷)。○[爾]「─歷也」。㊅みる、たすく(相)。○[爾、釋]「─相也」。㊆やしなふ(養)。○[詩]「保ニ─爾後ニ」。㊇つく、つくす(盡)。○[詩]「其夜未レ─」。㊈やむ(止)。○[左]「憂未レ─」。「─」。㊉むくゆ(報)。○[國]「─レ人必豐」。⑪美好、うつくし、又、うつくしき女。○[孟]「知レ好レ色則慕ニ少──ニ」。⑫蒼白色、あをじろ、よもぎいろ。○[荀]「共ニ──畢ニ」。
〔樹艾〕壬のこと。○[史]「──淹-茂大-始元-年」。
〔蓬艾〕よもぎぐさ。○[宋松]「陋-巷-翳ニ──ニ」。
〔蕭艾〕前に同じ。○[淮]「紫-芝與ニ──ニ俱死」。
〔蒿艾〕前に同じ。○[韓愈]「汝落ニ──間ニ」。
〔好艾〕嬖臣おほきこと。○[國]「國-君─レ─大-夫殆」。
〔搏艾〕もぐさをまろめかたむ。○[南]「─レ─爲レ帽ニ」。
〔秀艾〕すぐれたる人。○[唐]「四-方──」。
〔灼艾〕もぐさをやく、即ち、灸をすうること。○[宋]「親爲─レ─」。「──染レ燭」。
〔青艾〕みどりのよもぎ。○[宋]「亭-麗上-巳日以ニ詔詢ニ──ニ」。
〔養艾〕老人をやしなふ。○[蘇轍]「尊レ儒─レ─」。
〔燃艾〕もぐさをやく。○[陸游]「─レ─取ニ一-快ニ」。
〔耆艾〕年たけたるもの、老人。○[朱熹]「側聞溫而息中──上也」。
〔老艾〕前に同じ。○[鹽鐵論]「所下以鯆ニ脊-壯─」。
〔鍼艾〕疾病を治するために行ふはりともぐさと。○[梁簡文帝]「──湯-液」。

【艾】ゲイ。倪制切 霽
㊀かる(芟)。○[穀梁]「一-年不レ─而百-姓飢」。㊁をさまる、をさむ(治)。○[漢]「天-下─-安」。

【艿】ジョウ、ニョウ。如蒸切 蒸
芟らざりし陳根(ふるね)より再び生ひ出でし草。○[唐]「延-齡妄言、長-安咸-陽閒、得ニ陂──數-百-頃ニ」。

【艹丂】カイ、ケ。苦蟹切 蟹
もさる(戾)。

三畫

【艹小】セウ。私兆切 篠
一種の草、ひめはぎ、遠志。

【艹才】サイ、ザイ。昨哉切 灰
あぶらがや(蔽)。

【芃】ホウ、ブ。薄紅切 フウ、ブ。符風切 東
㊀草の盛長するにいふ字、さかんなり、そだつ。○[詩]「──其麥」。㊁尾の長き貌にいふ字、一說に、小獸の貌にいふ字。○[詩]「有レ─者狐、率ニ彼幽-草ニ」。㊂一種の草。○[山海經]「成-侯之山其草多レ─」。

【芄】クワン、グワン。胡官切 寒
──蘭は、ゐ、めはじき。

【芅】ヨク、イキ。與職切 職
銚──は、いらくさ、羊桃。

【艹卂】シン。思晉切 震
蒿の類。

【芆】サイ、セ。初加切 麻
鬼──は、いらくぐさ。

【芇】ベン、メン。武延切 先 彌殄切 銑
㊀相當たる、あたりあふ。㊁物を賭けて相折くにいふ字、くじ「く」。

【芉】カン。居寒切 寒 古旱切 旱
蔽──は、草の名、一說に、薏苡子、ずゆずご。

【芊】セン。倉先切 先
㊀草の盛んなる貌にいふ字、さかんなり、しげる。○[謝朓]「遠-樹曖──」。㊁碧き貌にいふ字。○[潘岳]「碧-色肅其──」。
〔葱芊〕あをくとしげれること。○[顏延之]「積-翠亦──」。
〔青芊〕前に同じ。○[曆志]「──稻六-月熟」。

【芊】セン。倉甸切 霰
─蒨は、樹木の相雜はれる貌にいふ語。

【芊】
茜に同じ。

【芋】ウ、ヲ。王遇切 遇
大葉塊根にして其の根に數多の塊子を生ずる一種の野菜、いも、さといも、蹲鴟。○[史]「士-卒食ニ─菽ニ」。
〔紫芋〕あかみをおびたるいも。○[張籍]「沙-田─-肥」。
〔栗芋〕くりのみといもと。○[宋]「止食ニ──ニ」。
〔野芋〕天然に生じたるいも、いもに似たる一種の毒草。○[博物志]「──狀小ニ於家-芋ニ」。
〔煮芋〕いもをにる。○[山家清供]「趙-西-安詩云、─レ─雲-山上」。
〔蹲芋〕さつまいもともからいもとも稱するいも。○[蘇軾]「土-人頓-々食ニ──ニ」。

【芌】ウ、ヲ。雲俱切 虞
草の盛んなる貌にいふ字。

【芧】ク、コ。匈于切 虞 キョ、コ。休居切 魚
おほいなり(大)。○[詩]「君-子攸レ─」。

【芌】
芋に同じ。

【艹乇】タク、チャク。陟格切 陌
藥草。

【芍】シャク、サク。市若切 藥
──藥は、一種の草花、えびすぐすり。○[詩]「贈レ之以ニ─-藥ニ」。

【芍】ケウ、ゲウ。胡了切 篠
くろくわゐ(鳧茈)。

【芍】 テキ、チヤク。丁歷切 錫
蓮中の子、はすのみ。

【芀】 ジン、ニン。而振切 震
一種の毒草、すひかづら。

【苎】 コウ、ク。苦婁切 尤
くさ、(草)。

【芎】 キウ、ク。去宮切 東
―藭は、一種の香草、たんなかづら、馬銜―｜、雀腦―｜、川―｜、台―｜、撫―｜は其の別名。○[揚雄]「蔑三蘭‐蕙與二―藭二」。

【芏】 ト、他魯 麌 ト、徒故 遇
ツ。切 ヅ。切
莞藺に似たる一種の草、海邊に生ず、採りて席を織るべし。

【芐】 コ、候古 麌 カ、胡駕 禡
ク。切 ゲ。切
㊀地黄、ちわう、さをひめ、一名は、地髓。㊁蒲苹、がま。○[禮閒傳]「―翦不レ納」。

【芑】 キ。墟里切 紙
㊀白粱粟、もちあは。○[詩]「維糜維―」。㊁苦菜(けしあざみ)に似たる一種の菜、ちさ、生食すべし。○[詩]「薄言采レ―」。㊂一種の草。○[詩]「豐‐水有レ―」。

【芒】 バウ、マウ。莫郎切 陽
㊀のぎ。
(い)穀端の細毛。○[周]「種二之―種一」。
(ろ)尖刺、さげ、はり。○[孝經援神契]「蜂‐蠆垂レ―」。
(は)光輝の放射。○[史]「作‐々有レ―」。
㊁さき。
(い)禾頭、ほ。○[文選]「垂レ―」。
(ろ)尖端、はし。○[風俗通]「截二―角」。
㊃罷れ倦みたる貌にいふ字。○[孟]「―‐―然歸」。
㊄茫に通じ用ふ。○[詩]「洪‐水―‐―」。
㊅邙に通じ用ふ。○[後漢]「葬二于洛‐陽北―一」。
㊆鋩に通じ用ふ、ほさき、はこさき。○[後漢]「洩二針―一」。
(光芒) ひかり。○[杜牧]「星‐劍―‐―射二斗‐」
(鍼芒) はりさき。○[唐]「―‐―木‐葉無レ不レ中」。
(毫芒) ほそき毛のさきのとにて極めてこまかきとにかり用ふ。○[莊]「而不レ失二―‐―一」。
(稻芒) いねののぎ。○[後漢]「陰察二視口‐眼一有二―‐―一」。
(爟芒) はこさきをかゞやかす。○[吳都賦]「爟‐戟―レ―」。
(雄芒) おほいなる鋒刃。○[七命]「建二雲‐髦一啓二―‐―一」。
(寒芒) さむげなる星などのひかり。○[蘇軾]「諫‐星弄二―‐―一」。
(精芒) するどきほこさき。○[晉]「―‐―炫レ目」。
(暉芒) ひかり。○[劉勰]「太‐白―‐―」。
(紅芒) あかきのぎ。○[鍾會]「靑‐柯―‐―」。
(赤芒) あかきひかり。○[郝經]「長‐虹迸二―‐―一」。

【芒】 クワウ、ワウ。呼光切 陽
茫に同じ。○[莊]「―乎芴乎」。

【芒】 クワウ、ワウ。虎晃切 養
くらし、(昏)。

【苎】 芒の本字。

【芓】 シ、ジ。疾置切 寘
㊀麻母、めあさ、一説に、なあさ、からむし、(枲)。㊁つゝみ、(隄)。

【芓】 シ、ジ。祖似切 紙
耔に通じ用ふ、くさぎる。○[周]「耨芸―也」。

【芋】 シ。津之切 支
一種の草、くさのかふ。

【芔】 キ。許偉切 尾
くさ、(草)。○[揚雄]「―草也、東‐越揚‐州之閒曰レ―」。

【芔】 キ。許貴切 未
㊀さかんなり、おこる、(勃)。○[穆天子傳]「流‐澥―隕」。㊁鼓動す、ふるふ、うごく。○[司馬相如]「蓊‐莅―‐歙」。

【芕】 茭に同じ。

【芖】 チ、ヂ。重智切 寘
をさむ、をさまろ、(治)。○[揚雄]「離‐木―‐金」。

四畫

【芕】 セウ。書沼切 篠
くさ、(草)。

【芘】 ヒ、ビ。毗志切 寘
草。○[鹽鐵論]「俊―‐―蓼‐蘇」。

【芘】 ヒ、ビ。房脂切 支
梨―は、荊‐蕃。

【芘】 庇に同じ、おほふ、かげ。○[莊]「隱將レ―二其所レ賴」。

【芙】 フ、ブ。防無切 虞
蓉の條を見よ。

【芚】 トン、ドン。徒渾切 元
㊀莧(ひこ)に似たる一種の菜。㊁木の始めて生ずる貌にいふ字。○[揚雄]「春‐木之―」。

【芚】 チユン。敕倫切 眞
無知の貌にいふ字、おろか。○[莊]「聖‐人愚―‐―」。

【芛】 イ。羊棰 紙 シユン。登尹 軫
切 切
シユツ、食律 イツ、餘律 質
ジユチ。切 オチ。切
草木の榮華、はな。

【芞】 キツ、コチ。去訖切 物
―輿は、一種の香草。

【芝】 シ。止而切 支
㊀莖蓋ともに堅き一種の菌、さいはひだけ、れいし、ひじりだけ、支那にては瑞祥のものとす。○[瑞應圖]「王‐者敬二事耆‐老一不レ失二舊‐故一、則―‐―草生」。㊁くさびら、(菌)。○[禮]「―‐栭蔆椇」。㊂かさ、きぬがさ、(蓋)。○[楊雄]「登二夫鳳‐凰一兮翳二華―一」。
(金芝) こがねのいろのひじりだけ。○[漢]「―‐―九‐莖產二於函‐德‐殿‐銅‐池‐中一」。
(玄芝) くろきひじりだけ。○[朱熹]「寄二與―‐―手自封」。
(五芝) 五色をおびたる靈芝。○[馮衍]「食二―‐―之茂‐英一」。
(玉芝) たまのひじりだけ。○[十洲記]「生二―‐―及神‐草四‐十‐餘‐種一」。

（神芝）靈妙なるひじりたけ。○〔繆襲〕「――產ニ於長平之習陽一」。
（靈芝）ひじりたけ。○〔續古今注〕「――一名ニ壽潛一、一名ニ希夷一」。
（祥芝）めでたきひじりたけ。○〔李義府〕「靈檢燭ニ――一」。
（瑞芝）前に同じ。○〔杜甫〕「――產ニ廟柱一」。
（隱芝）かくれたるひじりたけ。○〔眞誥〕「得ニ――一服レ之可ニ天仙一」。
（水芝）はちす。○〔古今注〕「芙蓉一名ニ荷花一、一名ニ――一」。
（雷芝）前に同じ。○〔古今注〕「芙蓉一名ニ――一」。
（蒼芝）青くしてひかりあるひじりたけ。○〔拾遺記〕「岱輿山有ニ七色芝一、其色青光耀爛、謂ニ之――一」。
（黑芝）くろきいろのひじりたけ。○〔抱朴〕「――生ニ于山之陰大谷中一」。

【芟】サン、セン。所銜切 咸
㊀かる。
（い）草を薙ぎ去る。○〔詩〕「載芟載柞」。
（ろ）絶ち除く。○〔鄭俠〕「煩事如ニ掃――一」。
㊁草を刈るに用ふる鎌、くさかりがま。○〔國〕「耒耜枷――」。

【⿱艹𡰪】ヰ。尹捶切 紙
芽に同じ。

【芠】ブン、モン。無分切 文
㊀一種の草。
㊁分明ならざる貌にいふ字。○〔淮〕「芒――漠閔」。

【⿱艹牛】ギウ、グ。魚丘切 尤
――膝は、一種の藥草、いのくづち。

【芡】ケン、ゲン。具險切 琰
一種の草、みづぶき、其の葉大にして荷の如く葉上に皺多し、其の實は芒ありて其の中に米の如きものあり食らふべし、一名は雞頭。○〔周〕「加籩之實菱芡桌脯」。
（蔆芡）みづぶき。○〔方言〕「――雞頭也」。
（綠芡）みどりのみづぶき。○〔白居易〕「――行堪レ採」。
（刺芡）おにはちす。○〔韓愈〕「鴻頭排ニ――一」。

【⿱艹允】
蒬に同じ。

【⿱艹冘】イン。餘針切 侵
あつし（熱）。

【䒞】タン、トン。都感切 感
一種の草、はなすげ、知母。

【芣】フウ、ブ。縛謀切 尤
――苢は、大いなる葉長き穗ある一種の草、おほばこ、車前、馬舄。○〔詩〕「采ニ々――苢一」。

【芣】フウ、フ。俯九切 有
芘――は、ぜにあふひ（荍）。

【芣】フ。芳無切 虞
華の盛んなる貌にいふ字。

【艽】キウ、グ。巨鳩切 尤
――蕒は、一種の草。

【芤】コウ、ク。苦侯切 尤
㊀旁實ちて中空しき物の稱。
㊁葱の別名、ねぎ。

【芥】カイ、ケ。古拜切 卦
㊀菘に似たる一種の菜、からしな、辛き味を含有す。○〔禮〕「秋用レ芥」。
㊁草の細片、不要物の細片、ごみ、あくた。○〔漢〕「經術苟明其取ニ青紫一如三俛拾ニ地芥一」。
㊂細微なるもの。○〔春秋繁露〕「春秋記ニ纖芥之失一」。
（草芥）あくた。○〔夏侯湛〕「視ニ爵列一如ニ――一」。
（腐芥）くさりたるあくた。○〔吳〕「琥珀不レ取ニ――一」。
（遺芥）おちあるあくた。○〔晉〕「舉ニ二都一如レ拾ニ――一」。
（浮芥）うきたるあくた。○〔淮〕「猶ニ飛羽――一也」。
（土芥）つちとあくたと。○〔左〕「以レ民爲ニ――一」。
（辛芥）からしな。○〔方言〕「蕪菁小者謂ニ之――一」。
（毛芥）けのごみ。○〔論衡〕「猶ニ――之易一レ吹也」。
（青芥）味からき菜の名。○〔本草〕「有ニ――一似レ菘」。
（菘芥）前に同じ。○〔蘇軾〕「未背雜ニ――一」。

【芥】カツ、ケチ。託黠切 黠
小さき草。

【芦】
芐に同じ。

【⿱艹宁】チョ、ド。丈呂切 語
㊀苧に同じ。
㊁三稜草、みくり。○〔漢〕「蔣苧青蘋」。

【芧】ショ、ゾ。象呂切 語
くぬぎ（栩）、又、其の實、どんぐり。○〔莊〕「狙公賦レ芧」。

【⿱艹公】ショウ、シュ。職容切 冬
コウ、ク。沽紅切 東
一種の草の名。

【⿱艹公】
菘に同じ。

【芨】キフ。居立切 緝
㊀堇草、烏頭、かぶさぎく、さりかぶさ、
㊁白――は、一種の草、ちらん、白及、白給。○〔本草〕「白芨葉似ニ初生稷苗一、開レ花長寸許、紅紫色、中心如レ舌、七月實熟」。
㊂其の皮にて紙を製する一種の草。○〔謝靈運〕「剝芨巖椒」。

【⿱艹朴】ホク。普木切 屋
㊀草の生ふる貌にいふ字。
㊁小しく擊つ、うつ、たゝく。

【芩】キン、ゴン。巨金切 侵
㊀一種の草、其の根は釵の股の如く其の葉は竹の如し、低くして濕り多き鹹地に生ず、馬牛などの喜び食らふもの。○〔詩〕「呦々鹿鳴、食ニ野之芩一」。
㊁蒜に似たる一種の菜、水中に生ず。
（黃芩）藥草の名、こがねやなぎ、わうごん。○〔藥譜〕「――一名ニ苦督郵一」。
（經芩）前に同じ。○〔本草〕「黃芩一名ニ――一」。
（子芩）前に同じ。○〔本草〕「黃芩內實者名ニ――一」。
（宿芩）前に同じ。○〔本草〕「破者名ニ――一」。
（鼠尾芩）前に同じ。○〔本草〕「黃芩一名ニ――一」。

【芪】キ、ギ。巨支切 支
――母は、一種の藥草、はますげ、やまし、黃――も亦一種の藥草。

【芪】
荎に同じ。

【苽】コ、グ。胡誤切 遇

一種の草、こくさぎ。

【芫】ゲン、グヮン。愚袁切 元

一種の草、ふぢもどき、さつまふじ、其の華を煮たる汁を水中に投ずれば魚死にて浮び出づといふより一名は魚毒。○〔史〕「飲以ニ——花一-撮ニ」。

【芬】フン、ボン。撫文切 文

㊀草初めて生じて分かれ布くにいふ字、はびこる。○〔楊愼〕「嚴-花度——」。

㊁かをりを發す、かをる、又、かをり好し、かうばし。○〔詩〕「燔-炙——」。

㊂かをり。

(い)好き香氣、にほひ、か。○〔傅咸〕「蘭-蕙含レ—」。

(ろ)德名。○〔晉〕「揚ニ—于-歲之上ニ」。

㊃亂るゝ貌にいふ字。○〔汲冢周書〕「泯-々——」。

㊄起こる貌にいふ字。○〔管〕「——然若レ灰」。

㊅衆多、おほし。○〔漢〕「—哉茫-々」。

㊆毛草、こぐさ。

㊇やはらぐ、(和)。

〔芳芬〕かうばし。○〔王褒〕「披ニ華-蒙ニ芳——」。

〔靈芬〕神妙なる芳香。○〔潘衍〕「揚ニ屈-原之——ニ」。

〔清芬〕きよらかなる香氣。○〔蘇軾〕「香-室延ニ——ニ」。

〔蘭芬〕かはりぐさの香氣。○〔魏鄴賦〕「則得-陵-君之名若ニ——ニ也」。

〔奇芬〕めづらしき香氣。○〔韓愈〕「天-能吐ニ——ニ」。

〔高芬〕たかきかをり。○〔晉〕「——斯盛」。

〔藻芬〕藥草の名。○〔本草〕「白芷一名ニ——ニ」。

〔霽芬〕霽香。○〔鮑照〕「內含ニ——之紫-烟ニ」。

【芭】ハ、ヘ。伯加切 麻

㊀蕉の字を見よ。

㊁一種の香草。○〔楚辭〕「傳レ—兮代舞」。

㊂葩に通じ用ふ、はな。○〔大戴禮〕「拂ニ桐——ニ」。

【芮】ゼイ、ネ。而鋭切 霽

㊀草の生ずる貌にいふ字。

㊁小さき貌にいふ字。○〔本草、註〕「其葉——短-小」。

㊂水涯、みづぎは。○〔詩〕「——鞠之卽」。

㊃楯を繋ぐ綏、たてひも。○〔史〕「革-抉吷——無レ不ニ畢具ニ」。

〔蒙芮〕小さき貌にいふ語。○〔潘岳〕「——ニ于域-隅ニ」。

〔石龍芮〕一種の草、たがらし。○〔本草註〕「——一生ニ于石-上ニ」。

【芮】ゼツ、ネチ。如劣切 屑

えびすの一族、柔然の稱。○〔通鑑〕「——遣レ使」。

【芰】キ。奇寄切 寘

其の實の外皮に尖角ある一種の水草、ひし、特に其の外皮の四角若しくは三角なるものゝ稱。○〔國〕「屈-到嗜レ—」。

〔荷芰〕はちすとひしと。○〔杜審言〕「——水-亭開」。

〔綠芰〕みどり色のひし。○〔魏都賦〕「——泛レ濤而浸レ潭」。

〔菱芰〕ひし。○〔列〕「夏-日則食ニ——ニ」。

【花】クヮ、ケ。呼瓜切 麻

㊀はな。

(い)草木に美麗なる瓣を開くもの、又、其のものゝ開く草木。○〔後漢〕「草迎レ歲而發レ—」。

(ろ)特に、牡丹の稱。○〔歐陽修〕「至ニ牡-丹一則不レ名直曰レ—」。

(は)草木のはなの形をなすものゝ稱。○〔司空圖〕「剪ニ得燈——自掃レ眉」。

(に)文象、もやう、あや。○〔圓覺經〕「譬ニ彼病レ目、見ニ空-中——ニ」。

㊁はなを生ず、はな開く、はなさく。○〔宋之問〕「溫-庭橘未レ—」。

〔風花〕(い)かぜにちるはな。○〔虞世南〕「——隔レ水來」。(ろ)風のおこるにさきだちて大霧の充塞するをいふ。○〔陸游〕「——忽起又遮レ山」。

〔散花〕おちちるはな、又、はなをちらす。○〔陸游〕「釣レ魚——洲」。

〔簪花〕はなをかざす。○〔宋〕「文武百-僚並—レ—赴ニ文-德-殿ニ」。

〔萬花〕おほくのはな、又、もろもろのはな。○〔宋伯仁〕「——新種小-亭-臺」。

〔千花〕前に同じ。○〔白居易〕「——百-草凋-零後」。

〔百花〕前に同じ。○〔劉孝威〕「——珍-藥之果」。

〔銜花〕はなを口にふくむ。○〔宋之問〕「—レ—翡翠來」。

〔苑花〕宮苑にさきたるはな。○〔白居易〕「——似レ雪同隨レ輦」。

〔晩花〕おくればせにさくはな。○〔梁簡文帝〕「——與ニ薫-風ニ俱落」。

〔庭花〕にはにさきたるはな。○〔梁簡文帝〕「——對レ雕藏」。

〔野花〕のはらにさきたるはな。○〔方干〕「——多ニ異-色ニ」。

〔落花〕はなをおとす、又、おちちりたるはな。○〔開天遺事〕「使ニ僮-僕聚ニ——ニ」。

〔香花〕佛に供する香とはなと。○〔白居易〕「——照ニ瑤-綺ニ」。

〔芳花〕前に同じ。○〔范成大〕「——芳-草春自融」。

〔鏤花〕はなをゑりちりばむ、又、其のはな。○〔周伯琦〕「——香-案錯ニ琳-鏐ニ」。

〔異花〕めづらしきはな。○〔范成大〕「天-女散-餘多ニ——ニ」。

〔奇花〕前に同じ。○〔李咸用〕「——不ニ敢妖ニ」。

〔嘉花〕よきはな。○〔宋〕「延-福宮——名-木」。

〔佳花〕前に同じ。○〔陶潛〕「一-條有ニ——ニ」。

〔火花〕ひばなのと、又、火を好む蛾の異名。○〔崔豹古今注〕「飛-蛾善拂レ燈、一名ニ——ニ」。

〔探花〕はなをさぐりみる。○〔皮日休〕「酬-人多-病—レ—稀」。

〔洛花〕牡丹の異名。○〔歐陽修〕「——以ニ穀-雨ニ爲ニ開-候ニ」。

〔穿花〕はなのさきたるなかを經過す。○〔陸游〕「小蝶—レ—似レ繭黃」。

〔澆花〕はなに水をそゝぎかく。○〔歐陽修〕「——亦自有レ時」。

〔灌花〕前に同じ。○〔戴昺〕「汲レ水—レ—私ニ雨露ニ」。

〔接花〕はなをつぐ。○〔歐陽修〕「此——之法也」。

〔衆花〕おほくのはな。○〔梁武帝〕「——紛重-疊」。

〔羣花〕前に同じ。○〔李白〕「——散ニ芳-園ニ」。

〔綺花〕うつくしきはな。○〔梁簡文帝〕「——非ニ一-種ニ」。

〔好花〕前に同じ。○〔杜甫〕「——隨-處發」。

〔美花〕前に同じ。○〔杜甫〕「——多映レ竹」。

〔攀花〕はなをひく。○〔梁簡文帝〕「垂-手作—レ—」。

〔絳花〕あかき色のはな。○〔梁簡文帝〕「熟-視——多」。

〔疎花〕まばらにさきたるはな。○〔吳師道〕「——月-中落」。

〔燭花〕ともしび。○〔楊衡〕「——侵レ霧暗」。

〔看花〕はなをながめみる。○〔何遜〕「—レ—時轉レ側」。

〔覩花〕前に同じ。○〔宋之問〕「—レ—寂不レ動」。

〔叢花〕むらがりてさきたるはな。○〔江總〕「——響-後發」。

〔結花〕はなを着く。○〔李端〕「何事—レ—遲」。

〔著花〕前に同じ。○〔趙彥昭〕「繁-條偏是—レ—遲」。

〔瑞花〕雪。○〔許渾〕「——瓊-樹合」。

〔祥花〕めでたきはな。○〔宋之問〕「微-風一起——落」。

〔殘花〕ちりおくれたるはな。○〔盧照鄰〕「——落ニ古-樹ニ」。

〔詠花〕はなを詩歌などにつくりよむこと。○〔庾信〕「定有ニ——人ニ」。

〔聚花〕はなをあつむ、又、むらがりたるはな。○〔駱賓王〕「——如ニ薄雪ニ」。

〔逢花〕はなにいであふ。○〔庾信〕「——駐レ馬看」。

〔嬌花〕みやびやかなるはな。○〔陳樵〕「——無ニ言答ニ黃-鶯ニ」。

〔艷花〕前に同じ。○〔司空曙〕「——那勝レ竹」。

〔繁花〕たはくのはな。○〔杜甫〕「亂-插——向ニ晴-昊ニ」。

〔鮮花〕あざやかなるはな。○〔陳子昂〕「——未吐レ紅」。

（弄花）はなをもてあそぶ。○〔沈佺期〕「啼・鳥―レ―「物」。
（鬭花）前に同じ。○〔梁簡〕「攀レ英―レ―以賞二景・物一」。
（亂花）さきみだれたるはな。○〔白居易〕「―・―漸欲レ迷二人・眼一」。
（挑花）はなをはらひのぞく。○〔李白〕「―レ―弄レ琴「坐二青・苔一」。
（宮花）御苑にさきたるはな。○〔白居易〕「―・―似レ雪從二乘・輿一」。
（禁花）前に同じ。○〔羅綸〕「―・―呈二瑞・色一」。
（御花）前に同じ。○〔李賀〕「宮・簾隔二―・―一」。
（惜花）はなのちるををしむこと。○〔常袞〕「―レ―風起・頻」。「―」。
（舊花）ふるきはな。○〔韓愈〕「却道新・花勝二―・―一」。
（僞花）はなのちるをいたみなげく。○〔元稹〕「涙・草―・―不レ爲レ春」。「泥」。
（種花）はなをうへ。○〔皮日休〕「淸・泉閑洗―・―陰一」。
（醉花）こけのはな。○〔蘇軾〕「陰・崖亞二―・―一」。
（苔花）前に同じ。○〔李山甫〕「―・―千・點遍二松・
（凡花）つねのはな。○〔于濆〕「―・―亦能香」。
（細花）こまかなるはな。○〔薛能〕「―・―庭・樹蔭」。
（墮花）おちちるはな。○〔鄭谷〕「逆レ流穿レ樹―・―隨」。
（踐花）はなをふみつく。○〔陳造〕「村・路―レ―踐」。
（餅花）かめにいけたるはな。○〔陸游〕「―・―力盡無レ風墮」。
（汀花）みぎはにさきたるはな。○〔徐照〕「―・―一・半在二船・篷一」。
（解語花）うつくしき女。○〔開天遺事〕「何如此―・―・―耶」。
（杜鵑花）さつきのはな。○〔古今詩話〕「潤・州鶴林寺―・―・―」。
（紫陽花）あぢさゐのはな。○〔白居易〕「因以二―・―・―名レ之」。
（牽牛花）あさがほのはな。○〔孔平仲〕「籬・上―・―・―」。「―・―・―」。
（富貴花）牡丹の花の異名。○〔陸游〕「共賞人・間

【苍】俗の花の字。

【芳】ハウ。敷方切　陽

㊀かをり。
（い）香氣、にほひ。○〔玉海〕「聯レ蹄齊レ頴、接レ萼均レ―」。
（ろ）德名。○〔晉〕「傳二―于南・頓一」。
㊁かをる、又、かうばし。
（い）にほひを發す、にほふ、又、にほひ好し。○〔夢溪筆談〕「其氣芬―」。
（ろ）德名の流傳するにいふ字。○〔蔡邕〕「雖レ沒不レ朽名・字―兮」。
㊂かをりある草木、かほりある花。○〔益部方物略記〕「繁而不レ艷是異二于衆―一」。
㊃賢者、能士。○〔屈平〕「衆―之所レ在」。
（芬芳）香氣、又、其の貌にいふ語。○〔荀〕「鼻辨二―・―腥・臊一」。
（流芳）にほひをつたふ、又、つたはるにほひ、のこれる花、轉じてはほまれをつたふ、つたはりのこりたる德。○〔晉〕「旣不レ能二―後・世一」。
（遺芳）あとにのこりたるにほひ又ははな、又、轉じて德をのちにのこすとにもいふ語。○〔張華〕「誰與翫二―・―一」。
（餘芳）餘德といふに同じ。○〔晉〕「―・―遺・烈」。
（含芳）にほひをたもつ。○〔潘岳〕「―・―委レ曜」。
（春芳）はるはなさくにほひぐさ。○〔梁元帝〕「處・々―・―動」。
（秋芳）あきの季節のにほひばな。○〔白居易〕「―・―初結白・芙・蓉」。「―」。
（微芳）すこしのにほひ。○〔謝惠連〕「順・風振二―・―一」。
（衆芳）おほくのにほひ、又、もろ〳〵のはな。○〔韓維〕「偶尋二佳・處一閱二―・―一」。
（尋芳）にほひぐさをたづねもとむ。○〔姚合〕「―レ―行不レ困」。「即・々」。
（美芳）うつくしきにほひばな。○〔漢〕「―・―礎・々
（垂芳）德をあとにのこす。○〔晉〕「―二―竹・帛一」。
（流芳）前に同じ。○〔北〕「―二―萬・古一」。
（善芳）鳥の名。○〔汲冢周書〕「奇・幹―・―」。
（百芳）もろ〳〵のにほひばな。○〔埤雅〕「蜂採二百―・―一釀レ蜜」。
（酸芳）すくしてとはひたかし。○〔本草〕「味絕―・―」。「―レ―」。
（吐芳）にほひをはきいたす。○〔南都賦〕「含レ蘭―・―」。
（香芳）にはひたかし、又、其のもの。○〔養生論〕「―・―腐二其骨・髓一」。
（肆芳）にほひを十分にいたす。○〔傅亮〕「麗二朝・風而―レ―」。「落而―レ―」。
（散芳）にほひをちらしいたす。○〔謝靈運〕「淵轉レ寒・條一」。
（摘芳）はなをつみとる。○〔謝靈運〕「―レ―弄二草之―・―一」。
（英芳）花のにほひあるもの。○〔梁簡文帝〕「食二六・
（叢芳）むらがりたるにほひぐさ。○〔陳子昂〕「―・―爛・漫」。「―・―」。
（擷芳）にほひぐさをとる。○〔劉禹錫〕「何人事二
（采芳）前に同じ。○〔陳陶〕「吳・洲―・―客」。
（搴芳）前に同じ。○〔僧廣宣〕「自勉―二鬪・―一」。
（妍芳）うつくしくにほひあること。○〔李綱〕「桃・李―・―耀二新・妝一也」。

【芴】ブツ、モチ。文弗切　物

㊀一種の菜。○〔陸機〕「非二幽・州謂二之―一」。「軋・紛緻―・―」。
㊁こころざし、こまやか（密）。○〔司馬相如〕

【芴】惚に同じ。○〔荀〕「故愚・者之言―・然粗」。

【芺】ケツ、ケチ。古穴切　屑

―光、―明は、一種の草、えびすぐさ。○〔爾〕「薢茩―・光、〔註〕葉如二江・芒一、子形如二馬・蹄一呼爲二馬・蹄―・明一」。

【芷】シ。諸市切　紙

一種の藥草、よろひぐさ、其の根は肌膚顏色を潤澤する料となす。○〔荀〕「蘭・槐之根是爲レ―、其漸二之滫一君・子不レ近」。
（蘭芷）にほひぐさ。○〔嵇康〕「棄二此―・―一」。
（蕙芷）前に同じ。○〔東方朔〕「睎二―・―一以爲レ佩兮」。
（蘅芷）前に同じ。○〔劉向〕「懷二蘭・蕙與二―・―一兮」。
（淸芷）きよらかなるにほひぐさ。○〔江淹〕「―・―在二沅・湘一」。「―・―汀・蘭」。
（岸芷）みぎはに生じたるにほひぐさ。○〔范仲淹〕
（白芷）藥草の名、一に芳香とも澤芬ともいふ。○〔錢起〕「衍・蕪―・―動」。

【芸】ウン、ナン。王分切　文

㊀豌豆に類したる一種の香草、くさのかう、叢生して其の葉に芳香あり。○〔禮〕「―始生」。
㊁多き貌にいふ字。○〔老〕「物―・―各復二歸其根一」。
㊂盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「―其黃矣」。
㊃耘に通じ用ふ、くさぎる。○〔論〕「植二其杖一而―」。
（牛芸）花は黃色に葉は苜蓿に似たる香草にして苜華ともいふ。○〔王氏談錄〕「公曰、此乃―・―、爾雅所レ謂二權・黃・華一者」。
（銅芸）一に同芸ともいふ草の名。○〔本草〕「防・風一名二―・―一」。
（種芸）草などをうへるとくさぎると。○〔鄭谷〕「羇レ禍來・年暫―・―」。「―盡已無」。
（新芸）あたらしきにほひぐさ。○〔朱棹〕「書掩二―・

【芹】キン、ゴン。巨斤切　文

水澤に生じて食らふべき一種の草、せり、楚葵。○〔詩〕「思樂二泮・水一、薄采二其―一」。
（香芹）にほひたかきせり。○〔杜甫〕「―・―碧・澗羹」。「水・英」。
（水芹）せりのこと。○〔爾、註〕「本・草云、―・―一名二
（白芹）せりの高田に生ずるもの。○〔本草〕「水・芹生二黑・滑地一、不レ如二高・田者宜一レ人、高・田者名二―・―一」。
（野芹）のぜり。○〔釋道潛〕「午・飯―・―香」。

【芺】アウ、オウ。烏老切　皓

味苦き一種の草。

【芺】エウ。於兆切　蕭　アウ、オウ。于到切　號

薊の屬、あざみ。

【芻】 ス。側愚切 虞
㊀牛馬を飼ふ刈草、かりくさ、まぐさ。○〔國〕「司-馬陳レ—」。
㊁草を刈るよ、草を刈る人、くさかり。○〔詩〕「詢二于—蕘一」。
㊂まぐさを食らふ牲、卽ち、牛馬など。○〔孟〕「猶三—豢之悅二我口一」。
㊃わら、(藁)。○〔禮〕「士執レ—」。
㊄刈りたる芻草、まこも。○〔詩〕「生—一束」。
〔束芻〕 たばねたるまぐさ、又、まぐさをたばぬ。○〔詩〕「綢繆—レ—」。
〔生芻〕 乾枯せざるまぐさ。○〔詩〕「—・—一束」。
〔通芻〕 刈草を税として納めざること。○〔宋〕「蠲-內「諫・鼓懸」。
〔詢芻〕 上より人民にとひはかる。○〔張説〕「—レ—民—レ—」。

【芼】 バウ、モウ。莫報切 號
㊀草覆蔓す、おほひはびこる。
㊁菜を擇び搴く、ぬく、さる。
㊂菜を雜へたる肉羹。○〔禮〕「—・—羹」。

【芼】 バウ、モウ。謨袍切 豪
くさ、(草)。○〔柳宗元〕「頗雜二池-沼—一」。

【茚】 ガウ。五剛切 陽　ギヤウ、ガウ。魚兩切 養
菖蒲、しやうぶ、あやめ、あやめぐさ。

【芽】 ガ、牛加切 麻　ガ・ゲ。牛何切 歌　コ、ゲ。訛乎切 虞
㊀め。
(い)草木の萌え出でたるもの、めざし。○〔呂氏春秋〕「萌—始動、凝-寒來レ形」。
(ろ)起始、おこり、もと。○〔漢〕「防二絕萌—一」。
㊁めを生ず、めざす、めぐむ。○〔薛逢〕「徒蒙二蔭-覆一、莫二自根—一」。
〔萌芽〕 もえ出づる草木のめ、又、めをもえ出だす。○〔禮〕「仲春月、安二—・—一」。
〔吐芽〕 前に同じ。○〔黃庭堅〕「柳-縷—レ—香-玉「春」。
〔發芽〕 前に同じ。○〔東京夢華錄〕「栞槃—レ—」。
〔抽芽〕 草木のめをぬき出だす、又、ぬきいでたるめ。○〔茶苑總錄〕「嫩-葉—レ—」。
〔叢芽〕 あつまり生じたる草木のめ。○〔鮑照〕「—・—將レ放」。
〔嫩芽〕 わかやぎたる草木のめ。○〔周必大〕「荷-葉既深稱二—・—一」。
〔芳芽〕 かぐはしき草木のめ、特に茶のかをりあるにもいふ。○〔徐世隆〕「兔・豪盞淨啜二—・—一」。

【芾】 ヒ。方味切 未　ハイ。布蓋切 泰
蔽—は、小なる貌にいふ語。○〔詩〕「蔽—甘-棠」。

【芾】 フツ、ホチ。分物切 物
草木翳薈す、しげる。

【芾】 韍に同じ、まへだれ。○〔詩〕「朱—斯皇」。

【芿】 ジヨウ、ニヨウ。而證切 徑
剪らざる草。○〔列〕「藉レ—燔レ林」。

【芿】 艿に同じ。

【芫】 カウ。胡郎切 陽
一種の草。○〔張衡〕「草則葴、莎、菅、蒯、薇、蕨、荔、—」。

【芐】 コ、グ。胡故切 遇
繩に爲る一種の草。

【芾】 ハツ、バチ。北末切 曷
小さき貌にいふ字。

【芇】 バン、マン。母官切 寒
相當たる、あたりあふ。

五畫

【苑】 エン、ヲン。於阮切 阮
㊀その。
(い)かこひを設け禽獸を養ふ場處。○〔漢〕「故秦—囿園・池令二民得レ田レ之」。
(ろ)かこひありて花卉菓果などをうろ處、はたけ。○〔韓〕「發二五—之蔬-果一」。
(は)物のあつまりたる—かこひ。○〔文心雕龍〕「晉世文—足レ儷二鄴-都一」。
㊁菀に通じ用ふ。○〔國〕「人皆集二于—一」。
〔鹿苑〕 しかを養ふその。○〔春秋、註〕「築レ墻爲二—・—一」。
〔天苑〕 星の名。○〔史〕「二日二—・—一」。
〔禁苑〕 王宮內のその。○〔漢〕「省二—・—一以予二貧-民一」。
〔宮苑〕 前に同じ。○〔唐〕「京-都諸—・—」。
〔御苑〕 前に同じ。○〔郭元振〕「—・—殘-鶯啼二落-日一」。
〔根苑〕 根原といふに同じ、もと。○〔管〕「諸-生之「—・—也」。
〔藝苑〕 文藝界。○〔傅亮〕「遊二日—・—一」。
〔池苑〕 いけとその。○〔白居易〕「歸-來—・—皆依レ舊」。
〔園苑〕 その。○〔庾信〕「—・—足二芳-菲一」。
〔廐苑〕 馬を養ふ場處。○〔星經〕「主二天子馬坊—・—之官也」。
〔臺苑〕 うてなとそのと。○〔三輔黃圖〕「諸-廟及—・—、皆在二渭-南一」。
〔囿苑〕 禽獸を飼養するその。○〔張衡〕「豢-豗-獸於—・—一」。
〔藥苑〕 くすりとなる草木をそだつるその。○〔顏延之〕「—・—香-林」。
〔故苑〕 むかしのその。○〔舊宮詩〕「—・—煙-花客「自看」。
〔舊苑〕 前に同じ。○〔崔湜〕「—・—經二寒-露一」。
〔廣苑〕 ひろやかなるその。○〔謝脁〕「臨二—・—一陟二崇-臺一」。
〔花苑〕 はなあるその。○〔李嶠〕「滴-瀝明二—・—一」。
〔廢苑〕 あれすたれたるその。○〔通賢〕「—・—發-花盡」。

【苑】 鬱、又、蘊に同じ。○〔禮〕「故事大積焉而不レ—」。

【芝】 ハン、ヘン。匹凡切 咸
草の水中に浮べる貌にいふ字。

【苒】 ゼン、ナン。而琰切 琰
草の盛んなる貌にいふ字。○〔王粲〕「布二萋-々之茂-葉一兮挺二—・—之柔-莖一」。

【苓】 レイ、リヤウ。郞丁切 青
㊀—耳は、一種の菜、をなもみ、みゝな。○〔爾〕「卷-耳—耳也」、〔註〕「卷-耳形似二鼠-耳一、叢-生如レ盤」。
㊁一種の藥草、かんざう。○〔詩〕「山有レ榛、隰有レ—」。
㊂零に通じ用ふ、おつ。○〔說文〕「草曰レ—、木曰レ落」。
〔茯苓〕 一種の藥草、まつほど。○〔魏〕「能辟二穀餌—・—一」。
〔豨苓〕 はぎほど。○〔韓愈〕「進二—・—一」。

【苓】 古の蓮の字。○〔枚乘〕「蔓-草芳—」。

【苔】 タイ、ダイ。徒哀切 灰
こけ、(蘚)。○〔陸龜蒙〕「高有二瓦—一」。
〔青苔〕 あをごけ。○〔淮〕「生以二—・—一」。

〔綠苔〕前に同じ。○〔孟浩然〕「淸・泉盡一・一」。
〔碧苔〕前に同じ。○〔李那〕「丹・墀染二一・一二」。
〔蒼苔〕前に同じ。○〔劉長卿〕「祠・廟惟一・一」。
〔翠苔〕前に同じ。○〔胡宿〕「五・粒靑・松護二一・一二」。
〔新苔〕あたらしく生じたるこけ。○〔王灣〕「行處有二一・一二」。
〔剝苔〕こけをけづり去る。○〔韓愈〕「一レ一別レ蘚露二節・角二」。
〔隱苔〕こけのなかにかくる。○〔隋煬帝〕「魚寒欲レ一レ一」。
〔踐苔〕こけの上をあゆむ。○〔孟浩然〕「捫レ蘿亦一レ一」。
〔古苔〕ふるごけ。○〔溫庭筠〕「碑折一・一靑」。
〔陰苔〕おめりたるこけ。○〔蘇軾〕「古甃缺・落生二一・一二」。
〔海苔〕うみに生ずるも。○〔南越志〕「海・藻一名二一・一二」。

【苕】 テウ、デウ。徒聊切 蕭

㊀一種の豆、ゑんどう、其の莖は勞豆（たんきりまめ）の如く其の葉は蒺藜（はまびし）に似たり。○〔詩〕「邛有二旨一・一二」。
㊁濕地に生じ其の花紫色なる一種の草、たかむらさう、一名めくろぐさ、皁色を染むるに用ひまた煮て髮を沐するに用ふ。○〔詩〕「一之葉、芸其黃矣」。
㊂高き貌にいふ字、たかし。○〔張衡〕「壯亭・々以一・一」。
〔陵苕〕草の名、一に鼠尾といふ。○〔詩、傳〕「苕一・一也」。
〔苕々〕高き貌にいふ語。○〔陸雲〕「望二天・尋之一・一二」。
〔連苕〕草の名。○〔爾、疏〕「連一名二異・翹二、郭云、一名二一・一二」。

【苖】 テキ、ヂヤク。徒歴切 錫

羊蹄草、志のねぐさ。

【苗】 ベウ、メウ。武儦切 蕭

㊀草の初生のもの、なへ、又、木の初生のものにもいふ字。○〔詩〕「彼黍離・々、彼稷之一」。
㊁夏時の田獵、なつのかり、なへの爲めに害を除くの義よりいふ。○〔詩〕「之子于一、選レ徒囂・々」。
㊂衆庶、もろ〳〵。○〔後漢〕「損レ膳解レ驂、以贍二黎一・一二」。
㊃ちすぢ、たれ（胤）。○〔屈平〕「帝高・陽之一・裔兮」。
㊄支那の南方に僻在せる蠻族。○〔史、註〕「爲レ人饕・餮淫・逸無レ理、名曰二一・族二」。
〔有苗〕南方蠻族の名。○〔書〕「惟時一・一弗レ率」。
〔三苗〕前に同じ。○〔漢〕「其後一・一亂レ德」。
〔蒐苗〕春の獵と夏の獵と。○〔左〕「故春一夏一」。
〔嘉苗〕よきなへ。○〔張駿〕「一・一布二原・野二」。
〔良苗〕前に同じ。○〔程俱〕「一・一有二佳・色二」。
〔美苗〕前に同じ。○〔鹽鐵論〕「大・塊之間無二一・一二」。
〔禾苗〕五穀のなへ。○〔賈島〕「前・山漸見短二一・一二」。
〔麥苗〕むぎのなへ。○〔宋〕「一・一滋盛」。
〔靈苗〕神妙なるなへ。○〔拾遺記〕「一・一擢二其嘉・穎二」。
〔養苗〕なへをそだつ。○〔陸游〕「一レ一先去レ草」。
〔稻苗〕いねのなへ。○〔庾肩吾〕「靑・花出二一・一二」。
〔綠苗〕みどり色のなへ。○〔岑參〕「花・間藉二一・一二」。
〔蚤苗〕はやきのなへ。○〔孟雲卿〕「一・一既芃・々」。
〔晩苗〕おそきのなへ。○〔范成大〕「一・一猶剪・々」。

【苘】 ケイ、キヤウ。口迥切 迥

檾に同じ、いちび。

【苙】 リフ。力入切 緝

をり、（圈）。○〔孟〕「既入二其一二」。

【苙】 キフ。其立切 緝

白苙、よろひぐさ。

【苛】 カ。寒歌切 歌

㊀煩褥なり、こまかし、わづらはし。○〔史〕「好二一禮二」。
㊁嚴酷なり、きびし、からし。○〔禮〕「一・政猛二於虎二」。
㊂おもし（重）。○〔素問〕「一・疾不レ生」。
㊃かゆし（疥）。○〔禮〕「問二衣燠・寒疾・痛一・癢二」。
㊄ねたむ（妬）。○〔爾、註〕「煩一・一者多二嫉・妬二」。
㊅せむ（譴）。○〔周〕「一二罰之二」。
㊆さがむ（何）。○〔漢〕「亭・長一レ之」。
㊇みだる（擾）。○〔國〕「一二我邊・鄙二」。
㊈いかる（怒）。○〔揚雄〕「一怒也」。
㊉病む。○〔呂氏春秋〕「身無二一・殃二」。
〔小苛〕わづらはし、うるさし。○〔漢〕「湯辯常在二文・深一・一二」。
〔細苛〕前に同じ。○〔唐〕「治簡・易蠲二瑣一・一二」。
〔蠲苛〕わづらはしき政令などを除き去ること。○〔後漢〕「一レ一救レ敝」。
〔去苛〕前に同じ。○〔後漢〕「遵レ典一レ一」。
〔除苛〕前に同じ。○〔晁錯〕「一レ一解レ嬈」。
〔嚴苛〕法令などのはなはだきびしきこと。○〔晉〕「魏・法一・一」。
〔深苛〕前に同じ。○〔南〕「政亦一・一」。
〔暴苛〕きびしく無法なること。○〔宋〕「徐州守一・一」。
〔煩苛〕前に同じ。○〔周曇傳照詩〕「爲レ政一・一獸亦飢」。
〔慘苛〕政令などのいたくきびしきこと。○〔陳琳〕「細・政一・一」。

【苛】 カ。下可切 哿

前條の㊁に同じ。

【芸】 キヨ、コ。去魚切 魚

草を刈る器。

【苜】 ボク、モク。莫六切 屋

一・蓿は、牛馬を飼牧する宿根自生の草、うまごやし、おほひ。○〔史〕「馬嗜二一・蓿二」。

【苝】 ハイ、ベ。蒲昧切 隊

やまにら（山韭）。

【苞】 ハウ、ヘウ。布交切 肴

㊀履又は席などをつくるに用ふる一種の草、あぶらがや。○〔司馬相如〕「蔵・菥一・荔」。
㊁叢生す、むらがる、しげる。○〔書〕「草・木漸一」。
㊂叢生する草木。○〔詩〕「集二于一・栩二」。
㊃もと（本）。○〔詩〕「一有二三・葉二」。
㊄つゝむ（裹）。○〔詩〕「白・茅一レ之」。
㊅つゝみたる物、つゝみ、つと。○〔儀〕「一・一二」。
〔黃苞〕きいろなるつゝみ。○〔韓愈〕「一・一猶掩レ翠」。
〔紫苞〕むらさき色のつゝみ。○〔謝靈運〕「野・蕨漸一・一」。
〔兼苞〕あはせつゝむ。○〔韋曜〕「百・行一・一」。
〔香苞〕かをりあるつゝみ、又、花などをいふ。○〔孔平仲〕「野・梅相壓吐二一・一二」。
〔芳苞〕前に同じ。○〔元好問〕「一・一一破不二更合二」。

【苞】

蘸、又、匏に同じ。

【苟】 コウ、ク。古厚切 有

㊀一種の草。○〔急就篇〕「一草名也」。
㊁いやしくも。
(い)草次にも、ちよつとにも、かりそめにも。○〔晏子雜篇〕「行廉不レ爲二一得二」。
(ろ)假りに設け說くさきに用ふる字、もし。○〔史〕「秦・兵一退」。
(は)たゞ（但）。○〔揚雄〕「非二一知レ之」。

(に)まことに、(誠)。○[國]「一中心圖レ民、知雖レ不レ及必將レ至ニ。」
㊂前途を謀らずして安きを求むること、輕率にふるまふこと、かりそめ。○[周]「民不レ一」。
(不苟) 輕率にせず。○[古杖銘]「輔レ人一レ一」。

【苟】コウ、ク。居侯切 尤
一吻は、草の名、やまうろし。

【苠】ビン、ミン。眉貧切 眞
㊀竹膚、たけのかは。
㊁衆多の貌にいふ字、おほし。○[揚雄]「人一一而處ニ乎中ニ。」

【苡】イ。羊已切 紙
㊀芣一は、一種の草、おほばこ。
㊁薏一は、蓮實、はすのみ、又、一種の藥草、紅白の花を開きて珠に似たる青白色の實を結ぶ、ずゆずだま、別名は、草珠鬼、はさむぎ、回々米、ふいくまい。

【苡】ワ。烏禾切 歌
婆一は、北狄の別種。

【苢】苡の本字。

【苣】キヨ、ゴ。其呂切 語
㊀葦などを束ね燃やして物を照らすに用ふるもの、たいまつの類。○[後漢]「ニ束レ一乘レ城」。
㊁萵一は、一種の菜、ちさな。○[陸游]「黃瓜翠一最相宜」。
㊂苦一は、一種の菜の、ちさ、けしあざみ、けしなぐさ。○[賈師秦]「矧茲惡一與ニ苦茶ニ。」
(萵苣) ちさな。○[雪花洲閒錄]「蔓ヨ一金色龍食ニ所レ藝一一數畦ニ。」

【苤】ヒ。攀悲切 支
草木の花の盛んなる貌にいふ字。

【若】ジヤク、ニヤク。而灼切 藥
㊀菜を擇ぶ、えらぶ。
㊁したがふ(順)。○[書]「欽一ニ昊天ニ」。
㊂なんぢ(汝)。○[儀]「勗帥以レ敬、先妣之嗣、一則有レ常」。
㊃ごとし。
(い)比べて同じき意を表する字。○[書]「一ニ網在レ綱」。
(ろ)推し量る意を表する字、らし、やうにあり。○[孟]「水一ニ以美一然」。
(は)或る物事を限り指すさきに用ふる字。○[論]「一ニ聖與レ仁、則吾豈敢」。
㊄及ぶ、しく。○[左]「知レ臣莫レ一レ君」。
㊅もし。
(い)假りに設けて說くときに用ふる字。○[儀]「君一降ニ送之ニ、則不ニ敢顧ニ」。
(ろ)其の物事のみに限らずして更に他を指すさきに用ふる字、もしくは。○[漢]「爲レ復ニ子一孫ニ」。
㊆語勢を助くるに用ふる字。○[詩]「桑之未レ落、其葉沃一一」。
㊇すなはち(乃)。○[周]「必有レ忍也、一能有レ濟也」。
㊈物の垂れ下がりたる貌にいふ字。○[漢]「印何纍々綬一一」。
㊉水の神、わたづみ。○[莊]「向レ一而歎」。
⑪此の如く、かくのごとく、かく。○[史]「一者必死」。
⑫問ひを發するときに用ふる字、いかん、いかで。○[左]「一レ之何不レ弔」。
(嚴若) 嚴正の貌にいふ語。○[易]「有レ孚一一」。
(祇若) つゝしむ。○[書]「敢不レ一ニ一王之休命ニ」。
(丹若) ざくろの木の異名。○[酉陽雜俎]「一一石榴也」。
(杜若) やぶめうが。○[李中]「一一滿ニ汀洲ニ」。
(海若) うみの神。○[西京賦]「一一游ニ于玄渚ニ」。
(蕙若) にほひぐさの名。○[李商隱]「濕レ衣憐ニ一一ニ」。
(芸若) 前に同じ。○[景福殿賦]「一一充レ庭」。
(隨若) なげく。○[易]「不ニ節若ニ、則一一」。
(允若) まことある貌にいふ語。○[書]「瞽瞍亦一一」。
(儼若) おごそかなる貌にいふ語。○[宋]「衣冠一一」。
(敬若) うやうやし。○[後漢]「一ニ一昊天ニ」。
(肅若) つゝしむ貌にいふ語。○[王遜]「一一衛ニ寒更ニ」。
(冉若) 草などのさかんなる貌にいふ語。○[王融]「金華紛一一」。
(炯若) ひかりある貌にいふ語。○[蔣防]「一一通レ輝」。
(赤奮若) 太歲の丑にあるをいふ。○[爾雅]「太歲在レ丑曰ニ一一一ニ」。

【若】ジヤ、ニヤ。人者切 馬
㊀乾ける草。
㊁般一は、智慧の義、(梵語)。○[宋註]「靈鷲山佛說ニ般一ニ」。
㊂蘭一は、浮屠の居る所、てら。○[孟浩然]「問レ法尋ニ蘭一ニ」。

【苦】コ、ク。康土切 麌
㊀一種の菜、けしなぐさ。○[詩]「采レ一采レ一首陽之下」。
㊁味甘からず、にがし、又、にがき味。○[書]「炎上爲レ一」。
㊂くるしむ。
(い)つとむ(勤)。○[詩]「母氏勞一」。
(ろ)せまる(急)。○[史]「危一之時易レ德耳」。
(は)いたむ(悵)。○[呂氏春秋]「白一而居ニ海上ニ」。
(に)きびしくして謗る、きしろ。○[莊]「疾則一而不レ入」。
(ほ)くるしむ、なやます、いたます。○[宋]「苛ニ一輸者ニ」。
(へ)うれふ(患)。○[漢]「病非ニ徒腫一也、又一ニ跌盭ニ」。
㊃くるしむこと、くるしむ所、くるしみ。○[史]「死亡貧一、人之大惡存焉」。
㊄こゝろよし(快)。○[郭璞]「一而爲レ快、猶ニ以レ臭爲レ香、亂爲レ治、反覆用レ之也」。
㊅製品精巧ならず、あらし、もろし。○[史]「器皆不ニ一窳ニ」。
(功苦) うつはの堅きものともろきものと。○[國]「辨ニ其一一ニ」。
(寒苦) さむさのくるしみ。○[後漢]「民得ニ以免ニ一一ニ」。
(辛苦) くるしみ、又、くるしむ。○[史]「勾踐爲レ人能一一」。
(愁苦) うれひくるしむ。○[李陵]「身之窮困獨坐一一」。
(憂苦) 前に同じ。○[史]「一ニ一萬民ニ」。
(窮苦) せまりくるしむ。○[王維]「一生自一一」。
(困苦) 前に同じ。○[書、傳]「病レ水一一」。
(勤苦) ほねをりつとむ。○[禮]「時過然後學、則一一而難レ成」。
(刻苦) 前に同じ。○[宋]「徽之幼一一爲レ學」。
(鹹苦) 味のからにがきと。○[魏]「廣武井水一一」。
(悽苦) かなしみいたむ。○[世說]「張驎酒後挽歌甚一一」。
(悲苦) 前に同じ。○[繁欽定情詩]「一一愁ニ我心ニ」。

【苦】コ、ク。苦故切 遇
前條の㊂に同じ、くるしむ。○[西溪叢語]「今人不ニ善乘レ船、謂ニ之一船ニ」。

【苧】チヨ、ド。直呂切 語
一種の植物、からむし、また、其の皮は

用ひて縄に爲り又は布を織るべし。○〔張衡〕「其草則蘸ー蘋莞」。

〔桑苧〕くはの木とからむしと。○〔杜牧〕「益種ニ桑ーー」。

〔麻苧〕あさとをぐさと。○〔宋〕「河東路寡ニ桑柘一、而富ニーー一」。

【苨】デイ、ナイ。奴禮切 〔薺〕

㊀薺ーし、薦ーーは、つりがねさう。○〔劉勰〕「若三薺ーーー之亂ニ人-參一」。

㊁茂り盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「維葉ーー」。

【苪】ヘイ、ヒヤウ。兵永切 〔梗〕

明著、あきらか。

【苫】セン、ソン。失廉切 〔鹽〕

㊀草にてあみたる屋上の覆ひ、とま、又、用ひて粗惡なる席となす。○〔禮〕「寢レー枕レ干」。

㊁覆ふ。○〔公羊、註〕「不ニ以レ蓑ーレ城也」。

〔賤苫〕閉く。○〔晉〕「竘-嬈ーー」。

【苬】シウ、ジユ。似由切 〔尤〕

ひたりだけ、(芝)。

【苭】エウ。烏皎切 〔篠〕

草の長ずる貌にいふ字。

【苮】セン。相然切 〔先〕

莞に似たる一種の草。○〔隋〕「南-郊神-座皆用ニーー席一」。

【苯】ホン。布忖切 〔阮〕

草叢生す、むらがる。○〔晉〕「禾-卉ーー蕣以垂レ穎」。

【苰】コウ。胡肱切 〔蒸〕

㊀藤ーーは、胡麻。㊁鞃に通じ用ふ。

【英】エイ、ヤウ。於驚切 〔庚〕

㊀開きて實のらざる華、はな。○〔詩〕「有レ女同レ車、顔如ニ舜ーー」。

㊁はなぶさ、(蕚)、はなしべ、(蕋)、一説に、葉にいふ字。○〔屈平〕「夕餐ニ秋-菊之落ーー」。

㊂美なるを、美なるもの。○〔班固〕「浮ニーー華一湛ニ道-德一」。

㊃勝れたるを、勝れたる人。○〔孟〕「得ニ天-下ーー-才一而敎ニ育之一」。

㊄飾りあるを、飾りあるもの。○〔詩〕「二-矛重ーー」。

㊅うるはしく茂れる貌にも和ぎて盛んなる貌にもいふ字。○〔呂氏春秋〕「雲-其音ーーー」。

㊆雲の貌にいふ字。○〔詩〕「ーーー白-雲」。

㊇ふたつ重なれる山。○〔爾、疏〕「山-形兩重者名レーー」。

㊈初生の草木。○〔管〕「毋レ夭レーー」。

〔瓊英〕美石の玉に似たるもの。○〔詩〕「尙レ之以ニーー-乎而」。

〔三英〕かはごろものかざり。○〔詩〕「ーーー粲兮」。

〔玄英〕冬の稱。○〔爾〕「冬爲ニーーー」。

〔玉英〕たま。○〔蘇軾〕「海-波翻ニーーー」。

〔羣英〕もろ〳〵のすぐれたる者。○〔後漢〕「協ニーーー之勢-力一」。

〔雲英〕きらゝの異名。○〔本草〕「雲-母一名ニーーー」。

〔絳英〕あかいろの花。○〔李商隱〕「廻レ棧撲ニーー下ーー一」。

〔賢英〕かしこくすぐれたる者。○〔漢〕「欽ニ以致ニ天-下ーー一」。

〔衆英〕おほくのすぐれたる者。○〔易林〕「ーーー積-聚」。

〔麥英〕ゆすらむめの異名。○〔本草〕「櫻-桃一名ニ朱-桑一、一名ニーーー」。

〔丹英〕あかいろの花。○〔益部方物志〕「綠-葉ーー」。

〔華英〕ひかり。○〔陸雲〕「具ニ我ーーー」。

〔雜英〕いろ〳〵の花。○〔謝朓〕「ーーー滿ニ芳-甸一」。

〔祥英〕めでたき花。○〔徐彥伯〕「六-出ーーー亂繞レ枝」。

〔豪英〕衆人にすぐるゝ者。○〔李白〕「長-嘯尋ニーーー」。

〔繁英〕多くつきたる花。○〔元稹〕「ーーー盡-㸚-落」。

〔新英〕あらたに生じたる花、あらたに生じたる葉。○〔元稹〕「ーーー蜂採-掇」。

〔素英〕志ろき花。○〔李紳〕「ーーー飄處海-雲深」。

〔殘英〕ちりのこりたる花。○〔尹廷高〕「欽覓ニーーー片-雛」。

【茒】エイ、ヤウ。於慶切 〔徑〕

かざり、(飾)。

【苲】サ、セ。測下切 〔馬〕

あくた、(土-苴)。

【苲】サク、ザク。疾各切 〔藥〕

地の名、又、山の名。

【苿】朮に同じ。○〔山海經〕「女-几之山、其草多ニ菊-ーー」。

【苳】トウ、ツ。都宗切 〔冬〕

苣ーーは、冬生ずる一種の草。

【苴】タツ、タチ。當割切 〔曷〕

くさびら、(蕈)。

【苴】タン、ダン。徒案切 〔翰〕

一種の草。

【苴】シヨ、ソ。千余切 〔魚〕

㊀子ある麻、あさ。○〔莊〕「ーー布之衣、而自飯レ牛」。

㊁くろし、(黯)。○〔禮〕「ーー杖竹也」。

㊂志く、(藉)。○〔呂氏春秋〕「衣敝不レ補、履決不レーー」。

㊃つゝむ、(包)。○〔管〕「上夾而下ーー」。

㊄つゝみたる物、つゝみ、つと、あらまき。○〔孔叢子〕「苞ーー之禮行」。

㊅一種の木。○〔山海經〕「服-山其木多レーー」。

〔苞苴〕つと、贈りもの。○〔唐〕「不下以ニーーー一汚上レ家」。

〔叔苴〕あさのみをひろふ。○〔詩〕「九-月ーレーー」。

【苴】サ、ゼ。鋤加切 〔麻〕

㊀かる、(枯)。○〔楚辭〕「草ーー比而不レ芳」。

㊁草木のかれ落ちて水に漂ふもの、一説に、水中の浮草。○〔詩〕「如ニ彼棲-ーー一」。

【苴】ソ、ス。宗蘇切 〔虞〕

祭事に藉く茅、あらごも。○〔漢〕「席用ニーー稭一」。

【苴】サ、セ。側下切 〔馬〕

㊀糞草、あくた。○〔莊〕「其土ーー以治ニ天-下一」。

㊁補ふ。○〔韓愈〕「補ニーー罅-漏一」。

【苴】ソ。將豫切 〔御〕

志く、(藉)。○〔漢〕「ーーニ白-茅于江-淮一」。

【苴】巴に同じ。○〔史〕「ーー-蜀相攻-擊」。

【苴】サ、ゼ。才野切 〔禡〕

㊀さばり、(慢)。㊁うかゞふ、(伺)。

【莧】ケイ、キヤウ。許永切 〔梗〕

一種の草。

【⿱艹兄】怳に同じ。○〔漢〕「寢-淫敞-ー寂兮無レ音」。

【⿱艹奴】ダ、女加切 麻　ヂョ、女居切 魚　ニョ。 蔱-ーは、一種の草。

【⿱艹矢】シ、ジ。徐姊切 紙 よもぎ（蒿）。

【苵】テツ、デチ。徒結切 屑 くろびえ（稊）。

【苶】デツ、ヂチ。奴結切 屑 ㊀わする（忘）。○〔莊〕「ーー然疲-役、而不レ知二其所一レ歸」。㊁つかる（疲）。○〔唐〕「言二其衰-ト不一レ任レ事」。

【荼】茶に同じ。

【苷】カン、コン。沽三切 覃 甘味ある一種の藥草、かんざう。○〔王十朋〕「閒-庭勝レ蒔レー」。

【苞】ハウ、ホウ。補抱切 皓 草の盛んなる貌にいふ字。

【苹】ヘイ、ビヤウ。符兵切 庚 ㊀よもぎ（賴-蒿）。○〔詩〕「呦-々鹿鳴、食二野之ー一」。㊁草の貌にいふ字。○〔宋玉〕「渉二莽-々ー馳一ーーー」。

【苹】ヘン、ベン。蒲眠切 先 敵に對して自身を蔽ひ隱す戰車。○〔周〕「ーー車之萃」。

【苹】ハウ、ヒヤウ。披耕切 庚 めぐる（迴）。○〔馬融〕「爭-湍ーー縈」。

【苺】バイ、メ。母罪切 賄 覆盆草、くさいちご、おほいちご。○〔本草〕「蛇-ー蠶-ー」。

【苻】フ、プ。防無切 虞 ㊀叢生する一種の草、其の莖は葛の如く其の葉は圓くして毛あり、子は耳瑠（みゝだま）の如くにて赤色なり。○〔爾〕「ー鬼-目」。㊁草の莩甲、たれのかは。○〔史〕「萬-物剖二ーー甲一而出」。

【苻】ホ、プ。薄故切 遇 萑-ーは、地の名。○〔左〕「攻二萑ーー之盜一盡殺レ之」。

【苽】ク、コ。攻乎切 虞 水上に生ずる一種の草、まこも、其の實は食さすべし。○〔禮〕「蝸-醢而ー-食雉-羹」。〔巨苽〕一種の草、あまちや。

【苾】ヒツ、ビチ。簿必切 質 かうばし、かをる、かをり（馨-香）。○〔詩〕「ーー芬孝-祀」。〔苾々〕かうばしき貌にいふ語。○〔詩〕「ーー芬-々」。〔芬苾〕かうばし。○〔荀〕「椒-蘭ー-ー」。〔芳苾〕前に同じ。○〔朱熹〕「薦-饋ー-ー」。

【苾】ヘツ、ベチ。蒲結切 屑 一種の菜。

【茀】フツ、ホチ。敷勿切 物 ㊀草多くして行くべからざること。○〔曾鞏〕「得二鄰之ーー地一」。㊁たけげる（蘢）。○〔爾〕「覜-髳ーー離也」。㊂强盛なり、つよし、さかんなり。○〔詩〕「臨-衝ーーーー」。㊃をさむ（治）。○〔詩〕「ー二厥豐-草一」。㊄首飾、あたまのかざり。○〔易〕「婦喪二其ー一」。㊅車の後の戸、一説に、車の前後の障。○〔詩〕「翟ーー以朝」。㊆さいはひ（福）。○〔詩〕「ーー祿爾康矣」。㊇紼に通じ用ふ、ひつぎなは。○〔左〕「用二葛ーー一」。

【茀】帯に通じ用ふ。○〔王應麟詩〕攷二「蔽ーー甘-棠」。

【茀】孛に同じ。○〔史〕「有レ星ー二于東-井一」。

【茀】ホツ、ボチ。蒲没切 月 氣の貌にいふ字。○〔莊〕「氣-息ーー然」。〔馝茀〕香氣あること。○〔司馬相如〕「晻-薆ー-ー」。

【茁】サツ、セチ。鄒滑切 黠 ㊀草木初めて生出す、めざす、めぐむ。○〔詩〕「彼ー者葭」。㊁生長する貌にいふ字。○〔孟〕「牛羊ー壯-長而已矣」。〔茁々〕草のはじめて生ずる貌にいふ語。○〔舒頔〕「ー-ー青蒲芽」。〔萌茁〕くさのめのもえいづること。○〔蔡珪〕「百卉已ー-ー」。

【茁】キツ、キチ。厥律切　チツ。竹律切 質 草の芽、め。

【茂】ボウ、モ。莫候切 宥 ㊀草木の枝葉ゆたかにしてさかんなるにいふ字、たげる、たげし。○〔詩〕「如二松-柏之ー一」。㊁ゆたか（豐）、さかんなり（盛）。○〔易〕「先-王以ー對レ時育二萬-物一」。㊂よし、うつくし（美）。○〔詩〕「種二之黃ーー一」。㊃材德のすぐれてうつくしきこと。○〔漢〕「存二問ー-才一」。㊄つとむ（勉）。○〔國〕「ー正二其德一而厚二其性一」。

〔閹茂〕歲星の戌の方に在るをいふ。○〔爾〕「太歲在レ戌曰二ーー一」。
〔俊茂〕才學のすぐれたること、又、其の者をいふ。○〔漢〕「舉二其ー-ー一」。
〔淑茂〕德のすぐれてうるはしきこと。○〔漢〕「資質ー-ー」。
〔嶲茂〕前に同じ。○〔潘岳〕「淸-才ー-ー」。
〔熾茂〕さかんにたげる。○〔唐〕「百-穀ー-ー」。
〔壯茂〕前に同じ。○〔易林〕「花-葉ー-ー」。
〔幽茂〕ふかく草木の葉などのたげれること。○〔謝朓〕「綠-葉ー-ー」。
〔悔茂〕のびくとさかんにたげれること。○〔孟〕「草-木ー-ー矣」。
〔富茂〕ゆたかにさかんなること。○〔家語〕「旣ー-ー」。
〔榮茂〕たげりさかんなること。○〔漢〕「枯-槁ー-ー」。
〔繁茂〕前に同じ。○〔潘岳〕「蕭森ー-ー」。
〔滋茂〕前に同じ。○〔酉陽雜俎〕「極二ー-ー一」。
〔純茂〕醇一にしてうるはしきこと。○〔宋〕「舉二孝-弟彰-聞、德行ー-ー者一人一」。
〔淳茂〕前に同じ。○〔後漢〕「聖-德ー-ー」。
〔豐茂〕ゆたかにたげる。○〔漢〕「百-穀ー-ー」。
〔碩茂〕おほいにたげること。○〔漢〕「支-葉ー-ー」。
〔偉茂〕おほいにすぐれたること。○〔魏、誌〕「聖-德ー-ー」。
〔英茂〕前に同じ。○〔晉〕「顏才-德ー-ー」。
〔秀茂〕前に同じ。○〔晉〕「文-詞ー-ー」。
〔弘茂〕ひろくさかんなり。○〔晉〕「勳-業ー-ー」。
〔哲茂〕才德のすぐれたること。○〔宋〕「藩-王ー-ー」。

〔翠茂〕草木などあを〳〵とさかえる。○〔府〕「——若レ春」。
〔蔚茂〕草木いたくさかえる。○〔謝靈運〕「擢二緑·葉之——一」。
〔薹茂〕草木などのさかりはびこること。○〔宋〕「芝·葉「——」。
〔朴茂〕かざらずして才學のおのづからすぐれたること。○〔宋〕「士以二純·明——之美一」。
〔茂茂〕ふさ〳〵と繁盛なるにいふ語。○〔古筆銘〕「奄之——」。
〔生茂〕おひさかえる。○〔易林〕「萬·物——」。
〔高茂〕たけたかくのびさかえる。○〔鄭曼季〕「芳·條——」。
〔修茂〕前に同じ。○〔曹植〕「林——而鳥喜」。
〔洪茂〕おほいにさかんなり。○〔王褒〕「德澤——」。
〔艶茂〕うつくしくさかえる。○〔蔡邕〕「形猗·々以——芬」。
〔蔚茂〕むらがりさかえる。○〔阮籍〕「榯——以傾倚芬」。
〔美茂〕うるはしくすぐる。○〔盧思道〕「才·識——」。
〔逸茂〕才德などふかくしてさかんにすぐる。○〔陸機〕「德·量——」。
〔沈茂〕前に同じ。○〔陸雲〕「淸·粹——」。
〔蕃茂〕さかえる。○〔蘇軾〕「——爭二新·春一」。

【范】ハン、ベン。房啖切 ［豏］
はち、(蠭)。○〔禮〕「—則冠而蟬有レ緌」。

【茄】カ、ケ。古牙切 ［麻］
㊀荷の莖、はすのくき。○〔張衡〕「帶二倒——於藻·井一」。
㊁一種の菜、なすび。○〔王褒〕「別レ—拔レ葱」。
㊂荷に通じ用ふ、はちす。○〔漢〕「裤二芰——之緑·衣一」。
〔荷茄〕はすのくき。○〔爾〕「—芙蕖、其莖—」。
〔五茄〕藥草の名。○〔柳宗元〕「珍·蔬折二——一」。

【茅】バウ、メウ。謨交切 ［肴］
かや、ちがや、(菅)。○〔易〕「拔レ—連·茹」。
〔白茅〕しろきいろをおびたるちがやにて絲茅ともいふ。○〔易〕「藉用二——一无レ咎」。
〔菅茅〕白茅に似てたけながきもの。○〔本草〕「——只生二山上一」。
〔蔚茅〕よもぎの一種とちがやと。○〔周〕「祭·祀供二——一」。
〔把茅〕ちがやの草を手に握りもつ。○〔史〕「左·牽レ羊、右レ—」。
〔草茅〕くさとちがやと、又、在野の義。○〔杜甫〕「荒·菴指二——一」。
〔黄茅〕菅茅に似たる草の名。○〔本草〕「——似二菅·茅一、而莖上開レ葉、可レ爲二索·綯一」。
〔香茅〕一種のちがやにて香氣あり、菁茅又は瓊茅ともいふ。○〔水經、註〕「泉·陵·縣有二——一」。
〔芳茅〕前に同じ。○〔拾遺記〕「援以二——一莖一」。
〔仙茅〕ちがやのごとき葉を生ずる一種の草にて西域に產するものといふ。○〔本草〕「——生二西·域一、其葉似レ茅」。
〔藉茅〕かやを敷く。○〔後漢〕「今盜以レ死、下レ—、存二右·制一也」。
〔葺茅〕かやもて屋上を覆ふ。○〔白居易〕「—レ—爲二我廬一」。
〔編茅〕かやをあむ。○〔拾遺記〕「—レ—爲レ菴」。
〔織茅〕ちがやをあみおること。○〔徐寅〕「—レ—編レ竹稱二貧·居一」。
〔獨茅〕仙茅の異名。○〔本草〕「仙·茅一名二——一」。
〔縛茅〕かやをくゝる。○〔攬轡錄〕「別一竿—レ—浸レ酒」。
〔叢茅〕むらがり生じたるちがや。○〔鮑照〕「——將レ啓」。
〔芒茅〕かや。○〔房千里投荒記〕「——黄·枯時」。

【茅】バイ、メ。莫佩切 ［隊］
——蒐は、あかね、(蒨·草)。

【茆】バウ、メウ。莫飽切 ［巧］
水澤の中に生ずる一種の草、ぬなは、あさゞ、鳧葵、蓴菜。○〔詩〕「思樂二泮·水一薄采二其—一」。

【茚】茅に通じ用ふ。○〔周〕「—菹」。

【茇】ハツ、バチ。蒲撥切 ［曷］
㊀草根、くさのね。
㊁草に舍す、やどる、とまる。○〔詩〕「召·伯所レ—」。
㊂跋に通じ用ふ。○〔通鑑綱目〕「—涉至レ此」。
〔藁茇〕香草の名。○〔山海經〕「其狀如二——一」。
〔龍茇〕藥草の名。○〔南方草木狀〕「蒟·醬——」。
〔苫茇〕くさ。○〔孫賁〕「——臨二丹·壑一」。

【茷】ハイ。博蓋切 ［泰］
白き華の苕、のうぜんかづら。

【茷】ブツ、分勿切 ［物］　ハイ、方肺切 ［隊］
モチ。ヘ。
紼に通じ用ふ。

【茈】シ。將此切 ［紙］
㊀紫色の染料となす一種の草、むらさき。○〔山海經〕「勞·山多二——草一」。
㊁——綦は、蕨に似たる菜、ぜんまい。○〔後漢〕「——綦芸·葙」。
㊂むらさき色の蕈、しやうが。○〔司馬相如〕「——·薑蘘·荷」。
㊃鮆に似たる一種の魚。○〔山海經〕「其中多二——魚一」。
㊄紫色の蠃、こやすがひ。○〔山海經〕「其中多二——蠃一」。
㊅齊しからざる貌にいふ字。○〔司馬相如〕「菜·池——虒」。

【茈】シ。疾移切 ［支］
㊀鳧——は、くろくわゐ。○〔後漢〕「掘二鳧——一而食レ之」。
㊁——菰は、くわゐ、剪刀草。○〔韻會〕「——菰似二鳧——一白」。

【茈】サイ、セ。鉏佳切 ［佳］
——胡は、一種の藥草、あまあかな。

【茉】バツ、マチ。彌葛切 ［曷］
——莉は、一種の花草。○〔陸賈〕「——莉不下隨二水·土一而變上」。

【茦】シ。想姊切 ［紙］
㊀こほりさく、(澌)。
㊁難ず、はゞむ、なやむ。

【⿱艹代】タイ、デ。徒再切 ［隊］
草の貌にいふ字。

六畫

【茖】カク、キャク。古伯切 ［陌］
山に生ずる葱、ぎやうじやにんにく。○〔爾〕「——山·葱」。

【茗】ベイ、ミヤウ。莫迥切 ［迥］
㊀ちや。
(い)茶の芽を取りて飲料に供するもの、特に、其の晩く取りたるもの、稱。○〔杜甫〕「——飲蔗·漿攜レ所レ有」。
(ろ)湯を加へ又は煮出だしたる茶の葉芽の汁。○〔白居易〕「或飲二一·甌——一」。
㊁酩に通ず。○〔韓愈〕「——二于馬·上一「曉」知爲レ誰」。
㊂高き貌にいふ字。○〔張載〕「——邈·茗·—二而已」。
〔茶茗〕ちやの芽。○〔五〕「然歲·貢不レ過二所レ產—·
〔好茗〕茶をすく、又、よき茶。○〔桐君錄〕「皆出二——一」。
〔養茗〕茶をにる。○〔韋應物〕「何人遞レ—レ—」。
〔煎茗〕前に同じ。○〔陸游〕「活火閒—レ—」。
〔嗜茗〕茶をのむことを好む。○〔袁桷〕「平·生—レ—有レ癖」。
〔啜茗〕茶をすゝりのむ。○〔杜甫〕「春·風—レ—時」。
〔山茗〕自然にやまなどに生じたる茶の木。○〔蘇軾〕「嘗二盡溪·茶與二——一」。
〔蔬茗〕蔬と茶と。○〔李攀玉〕「淸·晨課二——一」。

〔嘗茗〕茶をのむ。○〔陸晁〕「―レ―聽レ茶經ニ半夜ニ」。
〔蒸茗〕茶の芽をむす。○〔項斯〕「―レ―氣從ニ茅舍一出」。
〔芳茗〕かはりある茶。○〔陸希〕「半坡――露ニ「華鮮ニ」。
〔薄茗〕うすき茶。○〔歐陽修〕「濕薪焚々煮ニ――ニ」。
〔濃茗〕うすからざる茶。○〔蘇軾〕「――洗ニ積昏ニ」。
〔奇茗〕めづらしき茶。○〔蘇軾〕「江夏無雙種ニ――ニ」。
〔佳茗〕よき茶。○〔蘇軾〕「從來――似ニ佳人ニ」。
〔新茗〕しんめの茶。○〔趙師使宴坐詞〕「半甌――味間時」。「―ニ」。
〔翠茗〕みどり色の茶。○〔陳高〕「石眼汲レ泉煎ニ――」。
〔異香茗〕花の名。○〔逃異記〕「巴東有ニ―・―・―ニ」。

【茘】リ。力智切 寘
蒲に似たる一種の草、おほにら、馬藺。○〔禮〕「―挺出」。
〔薜茘〕一種の香草。○〔屈平〕「貫ニ―・―之落蘂ニ」。

【⿱艹邛】キョウ、グ。渠容切 冬
蓂莢。

【茙】ジウ、ニユ。如融切 東
㊀葵の屬、からあふひ。
㊁厚き貌にいふ字。

【茛】コン。古恨切 願
草烏頭の苗、やまとりかぶとのなへ、うまのあしがた。

【茜】セン。倉甸切 霰
あかね。
(い)絳色の染料となす一種の草、あかねぐさ、茅蒐、地血、風車草、過山龍。○〔史〕「千畝卮―」。
(ろ)絳色、あか。○〔玉燭寶典〕「染ニ藍―一加ニ雕鏤ニ」。

〔輕茜〕うすあかきいろ。○〔王氏蘭譜〕「若ニ素・練―・―、玉・顔半酡ニ」。

【⿱艹⿷匚大】テイ、デイ。直例切 霽　リク、ロク。力竹切 屋
草をもて鉄を補ふ、おぎなふ、一説に、綴る、つゞる。

【⿱艹⿷匚丙】ル。隴主切 麌
小蒿草、くさよもぎ。

【⿱艹⿷匚内】蔞蘛に同じ。

【⿱艹匡】キヤウ、カウ。去王切 陽
㊀一種の草。㊁したがふ（隨）。

【茝】シ。醜止切 紙
芎藭（めかづら）の苗、よろひぐさ。○〔禮〕「佩帨―蘭」。

【⿱艹𢆉】ソク。作木切 屋
草木叢生す、むらがる。

【⿱艹丞】蒸に同じ、純一なる貌にいふ字。○〔漢〕「―・―不レ至ニ於姦ニ」。

【茟】古の荓の字。

【茟】イツ、イチ。允律切 質
あかざ（藜）。

【茟】ヒツ、ヒチ。兵密切 質
一種の草。

【茟】イ。於詭切 紙
草木の花の始め、つぼみ。

【⿱艹⿰女乇】タ、テ。陟駕切 禡

―眉は、黄芩、やまひゝらぎ。

【茠】薅に同じ、かる、くさぎる。○〔唐〕「身操ニ舂・臿一、―・―刺無ニ休時ニ」。

【茠】庥に通じ用ふ、かげ。○〔淮〕「得ニ―・―越下一、則脫・然喜矣」。

【茠】コウ、ク。許候切 宥
蔻に同じ。

【⿱艹⿰丂力】キ、ギ。巨支切 支
絲を繰り緒を鉤く、ひく。

【茾】ヤウ。余章切 陽
―菓は、ひよどりじやうご。

【茢】レツ、レチ。良薛切 屑
苕（あしのほ）の掃帚、はゝき、不祥をはらふに用ひしぞ。○〔禮〕「君臨ニ臣喪一、以ニ巫・祝、桃―、執・戈ニ、惡レ之也」。
〔紫茢〕そめくさの名。○〔周、註〕「豕・首―・―之屬」。

【⿱艹朵】タ。都火切 哿
木の垂るゝにいふ、こずゑたる。

【茤】タ。當何切 歌
鹿―は、漢の時代の南夷の名。○〔後漢〕「下ニ江・漢一擊ニ附・塞夷鹿―・―ニ」。

【茥】ケイ、ケ。古攜切 齊
くさいちご（覆・盆）。

【茦】サク、シヤク。楚革切 陌
草の刺針、はり、とげ。○〔爾〕「―刺」。

【茦】莿に同じ。

【茨】シ、ジ。疾資切 支
㊀茅草にて屋を蓋ふにいふ字、ふく、くさぶき。○〔書〕「惟其塗・墍―」。
㊁屋をふきたる茅草、かや、くさ。○〔史〕「采・椽不レ斲、茅―不レ翦」。
㊂荊棘、いばら、うばら。○〔詩〕「楚・々者―、言抽ニ其棘ニ」。
㊃蒺蔾、はまびし。○〔詩〕「牆有レ―」。
㊄積む、聚む。
〔茸茨〕かやぶき。○〔沈約〕「因ニ―・―一以結レ名」。
〔棘茨〕いばら。○〔陸游〕「石・罅生ニ―・―ニ」。

【茩】コウ、ク。古厚切 有
薢―は、一種の藥草、えびすぐさ。

【茪】クワウ、ワウ。古黄切 陽
萁―は、一種の草、えびすぐさ。

【茫】バウ、マウ。莫郎切 陽
水の遠くつゞける貌にいふ字、廣大なる貌にいふ字、ひろし、はるか、さほし。○〔左〕「―・―禹・跡」。
〔漭茫〕漭然としてひろき貌にいふ語。○〔子華子〕「―・―之初、是名ニ太初ニ」。
〔滄茫〕水のあをくとひろき貌にいふ語。○〔方干〕「鍾・驪斷・續在ニ―・―ニ」。
〔森茫〕水の廣大なる貌にいふ語。○〔孟浩然〕「君去春・江正―・―」。
〔汪茫〕前に同じ。○〔唐〕「至レ甫渾涵―・―」。
〔杳茫〕はるかなる貌にいふ語。○〔歐陽修〕「御・仙雖ニ―・―ニ」。
〔浩茫〕水のひろやかなると ○〔水經、註〕「親ニ巨海ニ之―・―ニ」。
〔微茫〕うすくはるかなる貌にいふ語。○〔陳子昂〕「高・丘正―・―」。
〔莫茫〕ひろくてあきらかならざる貌にいふ語。○〔沈佺期〕「雲・海已―・―」。

〔昏茫〕前に同じ。○〔支曇諦〕「日-月｜-｜」。
〔昧茫〕前に同じ。○〔陶宗儀〕「至レ晩天｜-｜」。

【茫】 バウ、マツ。毋黨切 [養]
㊀前條に同じ。○〔揚雄〕「鴻-濛沆-｜」。○
㊁慌に通じ用ふ、きぬけす、ほる。〔韓愈〕「｜-惚使二人愁一」。

【苹】 韃に同じ。

【茌】 シ、ジ。仕之切 [支] 草の貌にいふ字。

【茬】 サ、ゼ。鋤加切 [麻] 木を斫る、きる。○〔國〕「山不レ｜レ蘖」。

【茭】 カウ、ケウ。古肴切 [肴]
㊀乾れたる芻、かれくさ、まぐさ。○〔書〕「峙二乃芻｜一」。
㊁水澤中に生ずる一種の草、うまぜり。○〔爾〕「｜牛蘄」。
㊂竹若しくは葦にて志つらへたる絙、つな、なは。○〔後漢〕「搴二長｜一兮湛二美玉一」。
〔刈茭〕わらぐさをかりとる。○〔齊民要術〕「六-月｜-萑-葦-芻-｜一」。

【茭】 蔆に同じ、ひしのね。

【茭】 カウ、ケウ。口敎切 [效] ｜媞は、欺謾する詞。

【茭】 ケキ、キヤク。吉歷切 [錫] 弓檠ゆだめ。

【茮】 セウ。卽消切 [蕭] なるはじかみ（茮）。

【苿】 デウ、テウ。乃了切 [篠] 葯｜は、草の長ずる貌にいふ語。

【茯】 フク、ボク。房六切 [屋] 苓の字の條を見よ。

【萸】 ユ。羊朱切 [虞] 茱｜は、かははじかみ。○〔風土記〕「九-月九-日折二茱｜一房一挿レ頭可レ辟二惡-氣一」。
〔香萸〕かうばしきかははじかみ。○〔盧藏用〕「雜-佩冒二｜-｜一」。
〔紅萸〕あかきかははじかみ。○〔趙長卿〕「白-酒｜-｜」。
〔丹萸〕前に同じ。○〔趙彥昭〕「｜-｜辟二舊-邪一」。

【茰】 ス。雙雛切 [虞] 茱｜は、椒子の聚まりたる貌にいふ語。

【䒷】 クワツ、クワチ。古活切 [曷]
㊀｜-蔞は、きからすうり。
㊁茇の字の條を見よ。

【茱】 シユ。市朱切 [虞] 萸の字の條を見よ。

【茳】 カウ、コウ。古雙切 [江] ｜-蘺は、せんきうのなへ。

【茲】 シ。子之切 [支]
㊀蓐席、むしろ、わらの志され。○〔史〕「康-叔封二布｜一」。
㊁滋に通じ用ふ、ます。○〔漢〕「賦-斂｜重」。
㊂こゝ、これ、この、こゝに（此）。○〔書〕「念レ｜在レ｜」。
㊃髭に同じ。○〔荀〕「珢-玗-龍｜」。
〔負茲〕諸侯の疾あるに稱する語。○〔公羊〕「屬二｜-｜一」。
〔若茲〕こゝにと訓ず、又、かくの如しとも訓ず。○〔郝經〕「造-化亦｜レ｜」。
〔徂茲〕さきごろ、往者といふが如し。○〔書〕「｜レ｜淮-夷徐-戎並興」。
〔保茲〕これをたもつと訓ず。○〔陸機〕「何足二以｜-｜一」。
〔如茲〕此の如しといふに同じ。○〔陶潛〕「人道每レ｜-｜」。

【茴】 クワイ、エ。戶恢切 [灰] ｜-香は、一種の草、うゐきやう。○〔嵇康〕「乃見三｜-香生二蒙-楚之閒一」。

【茵】 イン。於眞切 [眞]
㊀蓐席、志きもの、志され、むしろ。○〔詩〕「文-｜暢-轂」。
㊁｜-陳は、蒿の一種、ねずみよもぎ。○〔杜甫〕「｜-陳春-藕香」。
㊂｜-芋は、一種の藥草、みやま志きみ。
〔接茵〕志とねをならべつゞく。○〔晉〕「同レ輿一レ｜」。
〔錦茵〕にしき織りの志とね。○〔杜甫〕「當レ軒下レ馬入二｜-｜一」。
〔累茵〕志とねを幾枚もかさぬ。○〔家語〕「｜レ｜而坐」。
〔芳茵〕かをりある志とね。○〔抱朴〕「藉二翠-蘭之｜-｜一」。
〔花茵〕はなのむしろ。○〔開元天寶遺事〕「吾自有二｜-｜一」。
〔華茵〕うつくしき志とね。○〔謝靈運〕「遠レ榻設二｜-｜一」。
〔重茵〕かさねたる志きもの。○〔後漢〕「詔賜二｜-｜一」。
〔旃茵〕毛をあみて作りたる志とね。○〔淮〕「席二｜-｜一」。
〔苔茵〕こけのむしろ。○〔顧居〕「屋右布二｜-｜一」。
〔軟茵〕柔らかなるむしろ。○〔許渾〕「隨-處｜-｜供二小-坐一」。

【茶】 タ、デ。直加切 [麻]
㊀俗の檟の字、春其の葉芽を採りて飲料に用ふる一種の木、又、其の採りたる葉芽、特に、其の最初に採りたるものゝ稱。○〔宋〕「拔レ｜而植レ桑」。
㊁其の葉芽に湯を沃ぎ又は之を煎じたる汁。○〔世說〕「王-濛好レ飲レ｜」。
〔嗜茶〕ちやをのむことを好む。○〔唐〕「羽｜レ｜著二經三-篇一」。
〔啜茶〕ちやをのむ。○〔朱熹〕「白-酒頻斟當二｜-｜一」。
〔煎茶〕ちやをにる。○〔事文類聚〕「取二雪-水一｜レ｜」。
〔烹茶〕前に同じ。○〔國史補〕「｜二｜帳中一」。
〔煮茶〕前に同じ。○〔朱熹〕「坐對二清-陰一只｜レ｜」。
〔龍茶〕ちやの名。○〔宋〕「建-寧府貢二｜-｜一」。
〔苦茶〕味にがき茶。○〔本草〕「｜-｜能去レ脂」。
〔新茶〕あらたに製したるちや。○〔白居易〕「深-爐敲レ火炙二｜-｜一」。
〔擷茶〕ちやの芽をつみとる。○〔唐〕「｜レ｜者病レ之」。
〔摘茶〕前に同じ。○〔韓偓〕「鄉-俗｜レ｜歌」。
〔販茶〕ちやを鬻ぐこと。○〔宋〕「商-賈｜レ｜」。
〔產茶〕ちやを生ずること。○〔宋〕「占-城地不レ｜レ｜」。
〔名茶〕なだかきちや。○〔華陽國志〕「南-安武-陽皆出二｜-｜一」。
〔焙茶〕ちやをはうじかわかす。○〔白居易〕「夜-火｜-｜香」。
〔觕茶〕かためたる茶にて切りて用ふるもの。○〔茶經〕「飲有二｜-｜散-茶末-茶餅-茶者一」。
〔收茶〕ちやをつみをさむ。○〔清異錄〕「｜レ｜在二四-月一」。
〔藏茶〕ちやをたくはへおく。○〔茶錄〕「｜レ｜宜二蒻-葉一」。
〔種茶〕ちやをうう。○〔張籍〕「穿レ林自｜レ｜」。
〔殘茶〕のみあまりのちや。○〔白居易〕「｜-｜冷-酒愁二殺人一」。 「對レ客煎。
〔攜茶〕ちやをたづさへもつ。○〔張耒〕「辯-子｜-｜」
〔好茶〕ちやをこのむ、又、良茶。○〔蘇轍〕「性似二｜-｜常自養一」。
〔磑茶〕ちやをうすにてひく。○〔陸游〕「深-院無レ風香レ｜-｜」。

【茷】ハイ、ベ。符ケ切 隊　ヘツ、ボチ。房越切 月
草の葉の茂りて多きを、しげり。○【柳宗元】「斫二榛莽一、焚二茅―一」。
【茅茷】かやのしげり。○【柳宗元】「焚二――一」。

【茷】ハイ、バイ。蒲蓋切 泰
㊀順序ある貌にいふ字。○【詩】「其旂――」。
㊁旗尾、はたあし。○【左】「綪―旆-旌」。

【茷】茇に同じ、くさのね。

【茸】ジョウ、ニュ。而容切 冬
㊀草の盛んに生ひたるにいふ字、しげし、しげる。○【張衡】「阿-那蓊―」。
㊁草の如き細條のあつまりたるにいふ字。○【東観漢記】「獅-子尾-端――毛大如レ斗」。
㊂毛又は草などの如き細條のもの、亂るゝ貌にいふ字。○【史】「狐-裘蒙―」。
㊃鹿の舊角落ちて生じたる新角、ふくろづの。○【黄庭堅】「擲-葉風微鹿養レ―」。
【纖茸】くさこまかくしげる。○【孟郊】「草-色何――」。
【鹿茸】藥草の名。○【本草】「――味甘-溫無レ毒」。
【茸々】くさのしげれる貌にいふ語。○【盧仝】「相逐之處花――」。

【茸】ジョウ、ニュ。乳勇切 腫
㊀草の生ずる貌にいふ字。○【漢】「叢以蘢――」。
㊁おす、(推)。○【司馬遷】「―以二蠶-室一」。

【⿱艹血】ケツ、ケチ。呼決切 屑

地―は、あかね。

【⿱艹灰】クワイ、ケ。呼灰切 灰
―藿は、一種の草、あをあかざ。

【茹】ジョ、ニョ。人諸切 魚　ジョ、ニョ。人與切 御　ジュ、ニュ。而遇切 遇
㊀根の牽き連なれる貌にいふ字、又、牽き連なれる根。○【易】「拔レ茅連―」。
㊁うく、(受)。○【詩】「柔亦不レ―」。
㊂くらふ、(食)。○【禮】「―レ毛飲レ血」。
㊃すゝる、(啜)。○【爾】「―啜也」。
㊄飲食に貪なるを。○【揚雄】「吳、越之閉凡貪二飲-食一者、謂二之―一」。
㊅な、(菜)。○【枚乘】「白-露之―」。
㊆ゆびき調理したる菜蔬、ゆびきな、ひたしもの。○【爾雅翼】「蒸爲レ―」。
㊇牛馬に飯す、かふ。
㊈やはらか、(柔)。○【屈平】「攬二―蕙一以掩レ涕兮」。
㊉臭敗す、くさる。○【呂氏春秋】「以二―魚一驅レ蠅」。
(十一)自然に枯死す、かる。○【左思】「神-藥形―」。
(十二)はかる、(度)。○【詩】「來咨來―」。
【利茹】防葵といふくさの異名。○【本草】「防-葵別名二――一」。

【茺】ジウ、ジュ。昌終切 東
―蔚は、めはじき、益母草。

【⿱艹丩】キウ、ク。居蚪切 尤
草の相糾繚するにいふ字、めぐりまさふ。

【茻】バウ、マウ。模朗切 養　ボ、ブ。滿補切 麌　ボウ、ム。莫後切 有
㊀衆草、もろ〳〵のくさ。㊁蕨の屬。

【茼】トウ、ヅ。徒紅切 東
―蒿は、一種の草、しゆんぎく。

【茽】チウ、ヂユ。直衆切 送
草卉の叢生するにいふ字、むらがる。

【⿱艹幵】ケン。輕烟切 先
秦―は、一種の藥草。

【茿】チク、トク。張六切 屋
萹―は、赤莖にして節あり小さき藜に似たる一種の草。

【荀】シュン、ジュン。相倫切 眞
其の狀は蒩(かや)の如くにて黄華赤實なる一種の草。○【山海經】「青要之山有レ草焉、黄-華赤-實名曰二――草一」。

【荁】クワン、グワン。胡官切 寒
菫の一種。○【禮】「菫-―枌-楡」。

【⿱艹耒】ライ、レ。盧對切 隊
耕すに草多きを。

【莱】ルヰ。倫追切 支
果實の下がり垂るゝ貌にいふ字。

【⿱艹臼】キウ、グ。渠救切 宥　巨九切 有
鬼―は、一種の草、かさぐさ、つりがねさう、璿田草、八角盤、唐婆鏡、害母草。

【荂】フ。芳無切 虞
榮華、はな。○【左思】「異―蓲-蘛」。
【華荂】さかゆ。○【爾】「―・―榮也」。
【葩荂】はなびら。○【柳貫觀】「刻-字寸-許無二―一」。

【荂】ク。況于切 虞
ひめあざみ又はおにあざみの實。○【爾】「芙薊其實―」。

【荂】クワ、ケ。況華切 麻
皐―は、古の歌曲の名。○【莊】「折-揚皇―、則嗑-然而笑」。

【荃】セン。此緣切 先
㊀芥粉、からしのこ、又、一種の香草。○【屈平】「―不レ察二余之中-情一」。
㊁絟に通じ用ふ、ほそぬの。○【漢】「綵-王閎-侯遣二建―-葛一」。
㊂筌に通じ用ふ、ふしづけ。○【莊】「得レ魚而忘レ―」。

【荄】カイ、ケ。古哀切 灰
草の根、ね。○【漢】「根―以遂」。
【洪荄】おほいなる根。○【抱朴子】「不レ可三以含二――一」。
【枯荄】かれたる根。○【潘岳】「――帶-墳隅」。

【⿱艹爻】ヘウ、ベウ。符少切 篠
餓ゑて命を殞こすを、うゑじに。○【漢】「野有二餓―一而不レ知レ發」。

【⿱艹爻】ヒ、ビ。部鄙切 紙　ホウ、ブ。蒲侯切 宥
草木枯落す、かる、おつ。

【荅】タフ、トフ。都合切 合
㊀小赤、あづき。○【晉】「菽―麻麥」。
㊁答に通じ用ふ、こたふ。○【書】「奉―

—天命ニ。
㊂厚き貌にいふ字。○〔史〕「—布千—疋」。
㊃合に通じ用ふ、一種の器。○〔史〕「麴—蘖鹽—豉千—」。
〔渠荅〕鐵蒺藜、くろがねびし。○〔漢〕「布ニ——ニ」。

【荊】ケイ、キヤウ。舉卿切 庚
㊀叢生する一種の小木、にんじんぼく。○〔山海經〕「其下多ニ—杞ニ」。
㊁刺（とげ）ある小木の泛稱、うばら、いばら。○〔柳宗元〕「遺—畝當ニ榛—ニ」。
㊂笞刑に用ふる杖、つゑ、古昔は、にんじんぼくにて作りしよりいふ。○〔史〕「肉—袒負レ—」。
〔紫荊〕花木の名。○〔本草〕「——一名ニ紫珠ニ」。
〔柴荊〕いばらなどの雜木。○〔范成大〕「隣翁講レ禮拜ニ——ニ」。
〔石荊〕ばらに似て小さくみぎはなどに生ずるもの。○〔本草〕「——似レ荊而小、生ニ水旁ニ、一名ニ——ニ」。

【茈】キ。口已切 紙
金瘡を治する一種の藥草。

【荇】カウ、ギヤウ。何梗切 梗
一種の水草、あざみ、あさゞ、はなじゆんさい、其の葉は圓形紫赤色にて水上に浮び根は水底にありて莖の長短は水の深淺に等しく其の莖上靑く下白く食らふべし、一名、接余、莕公鬚。○〔詩〕「參差—菜」。
〔蔆荇〕水くさのひしとあさゞと。○〔儲光羲〕「遲—々——上」。
〔紫荇〕あさゞのとにて葉のうらむらさきいろをなすよりいふ。○〔蘇軾〕「——穿レ腮氣惱懐」。
〔細荇〕こまかきあさゞ。○〔沈周〕「當レ門——牽ニ微浪ニ」。
〔蓮荇〕はすとあさゞと。○〔洛陽名園記〕「苗帥園有レ池宜ニ——ニ」。
〔綠荇〕あをくしたるあさゞ。○〔齊東野語〕「孤葉靑々——齊」。
〔翠荇〕前に同じ。○〔郭元超〕「雜ニ靑蘋與ニ——ニ」。
〔連錢荇〕一種のあさゞの名。○〔洞冥記〕「漢宮—池有ニ———ニ」。

【苖】キヨク、コク。區玉切 沃
蠶薄、かひこのす。

【荈】セン。尺兗切 銑
茶の老葉。○〔吳〕「賜ニ曬茶—ニ」。

【草】サウ、ソウ。采老切 皓
㊀木の如くに高大に生長せず幹も堅からずして枝莖多くは一年にて枯れ腐り宿根若しくは實より再び萌芽する植物の泛稱、くさ。○〔書〕「爾惟風下民惟—」。
㊁くさの生ひしげれる處、のはら、くさはら。○〔漢〕「軍無ニ横レ—之功ニ」。
㊂あらし、（粗）。○〔史〕「惡—具進」。
㊃いやし、（鄙）。○〔史〕「—野而倨侮」。
㊄はじむ。
（い）爲し起こす。○〔後漢〕「—ニ創天下ニ」。
（ろ）書き起こす。○〔後漢〕「蕭何—レ律」。
㊅創刱、はじめ。○〔易〕「天道—昧」。
㊆書き起こしたる文案、志たがき。○〔漢〕「視レ—迺遣」。
㊇心を勞す、くるしむ。○〔詩〕「勞人——」。
㊈苟且簡略なるを、てがる、あらまし、又、急ぎ爲すにいふ字、いそぐ。○〔韓愈〕「可下—作ニ傳記一令上傳ニ于後世ニ」。
㊉最も字畫を省略せる一種の書體。○〔魏〕「覬好ニ古文隷—ニ」。
㊊櫟實、どんぐり。○〔徐鉉〕「櫟實可ニ染レ帛爲レ黑、故曰レ—」。
㊋くさを芟る、くさかる。○〔禮〕「民弗ニ敢—也」。
〔諼草〕草の名、一に忘憂といひ、又、萱草ともいふ、わすれぐさ。○〔朱熹〕「階前樹ニ——ニ」。
〔豐草〕ゆたかにしげりたるくさ。○〔鹽鐵論〕「茂林之下無ニ——ニ」。
〔水草〕（い）みづのなかに生ずるくさ。○〔詩、箋〕「魚之依ニ——、猶ニ人之依ニ明王ニ也」。（ろ）みづとくさと。○〔史〕「逐ニ——ニ遷徙」。
〔蔓草〕つるくさ。○〔詩〕「野有ニ——ニ」。
〔茂草〕しげりたるくさ。○〔陸贄〕「燔ニ——ニ以爲レ田」。
〔腐草〕くさりぐさ。○〔禮〕「——爲レ螢」。
〔殺草〕くさをからすと。○〔周〕「掌ニ——之政令ニ」。
〔結草〕くさをあみむすぶ。○〔後漢〕「—レ—爲レ廬」。
〔枕草〕くさをまくらとす。○〔左〕「寢レ苫—レ—」。
〔靑草〕あをくしたるくさ。○〔左〕「野無ニ——ニ」。
〔綠草〕前に同じ。○〔梁昭明太子〕「——含レ滋」。
〔碧草〕前に同じ。○〔洞冥記〕「有ニ——如レ麥」。
〔翠草〕前に同じ。○〔鮑昭〕「——前衰」。
〔春草〕はるの季節に生ずるくさ。○〔謝〕「苒——」。
〔苴草〕ふかくしげりたるくさ。○〔管〕「——林木」。
〔香草〕かをりあるくさ。○〔庾肩吾〕「披ニ其叢薄ニ、非レ無ニ——ニ」。
〔芳草〕前に同じ。○〔王維〕「——空隱處」。
〔茹草〕くさをくらふ。○〔淮〕「古者民—レ—飲レ水」。
〔百草〕もろもろのくさ。○〔後漢〕「——含レ蘤」。
〔萬草〕前に同じ。○〔杜甫〕「——千花動ニ凝碧ニ」。
〔勁草〕つよきくさ。○〔鮑昭〕「風烈無ニ——ニ」。
〔焚草〕くさをやく、又、文章などの草稿をやく。○〔宋〕「必手書—レ—」。
〔燒草〕くさをやく。○〔史〕「是時東郡——」。
〔甘草〕藥草の名。○〔吳寬〕「豈不レ見ニ——ニ」。
〔燋草〕くさをこがす。○〔管〕「火暴焚レ地—レ—」。
〔神草〕靈妙なるくさ。○〔十州記〕「生ニ玉芝及——四十餘種ニ」。
〔仙草〕前に同じ。○〔十州記〕「瀛州生ニ神芝——ニ」。
〔靈草〕前に同じ。○〔班固〕「嘉穀——」。
〔藥草〕くすりに用ふるくさ。○〔梁昭明太子〕「或貨ニ東海之——ニ」。
〔潤草〕くさをうるほす、又、うるほひを帶びたるくさ。○〔春秋元命苞〕「露以—レ—」。
〔秋草〕あきの季節に生ずるくさ。○〔孫楚〕「零雨沾ニ——ニ」。
〔露草〕つゆをふくみたるくさ。○〔杜甫〕「萋々——碧」。
〔遺草〕作者の既に死にてあとにのこりたる詩文などの草稿をいふ。○〔釋護國〕「篋中——是琅玕」。
〔霜草〕しもをおびたるくさ。○〔李頎〕「麈尾拂ニ——ニ」。
〔庶草〕もろもろのくさ。○〔書〕「——蕃廡」。
〔雜草〕前に同じ。○〔江淹〕「——不レ窺」。
〔染草〕そめくさ。○〔周〕「掌下以ニ春秋ニ斂中——之物上」。
〔茈草〕むらさきぐさ、一に紫丹ともいふ。○〔爾〕「茈——」。
〔善草〕よきくさ。○〔魏、註〕「樹ニ松柏雜木——于其上ニ」。
〔美草〕うつくしきよきくさ。○〔宋〕「多ニ——ニ不レ生レ花」。
〔淺草〕いたく茂生せざるくさ。○〔漢〕「平地——」。
〔野草〕のはらに生じたるくさ。○〔漢〕「斬ニ叢棘ニ夷ニ——ニ」。
〔毒草〕どくをふくむくさ。○〔後漢〕「能食ニ——ニ」。
〔莽草〕しげりたるくさ、又、くさはら。○〔後漢〕「有ニ大蛇自ニ——ニ而出」。
〔藪草〕前に同じ。○〔柳宗元〕「剗ニ割——ニ」。
〔薪草〕たきゞとくさと。○〔吳〕「實以ニ——ニ」。
〔藉草〕くさを志くと。○〔吳〕「—レ—待レ罪」。
〔編草〕くさをあみて織る。○〔管〕「—レ—爲レ裳」。
〔纖草〕ほそきくさ。○〔孫綽〕「藉ニ萋々之——ニ」。
〔夏草〕なつの季節に生ずるくさ。○〔唐〕「——蘸茂」。
〔秣草〕士馬の食に供するかてとくさと。○〔宋〕「我等藏ニ芻登運ニ——ニ」。
〔異草〕めづらしきくさ。○〔宋〕「嘉禾——」。
〔奇草〕前に同じ。○〔李德林〕「珍木——」。
〔珍草〕前に同じ。○〔陸游〕「有レ客餉ニ——ニ」。
〔行草〕行書と草書との字體。○〔陸游〕「書成半——」。

〔諫草〕いさめのかきつけ。○〔宋〕「一・一已具」。
〔願草〕おほいなるくさ。○〔穆天子傳〕「爰有二大・木一一」。
〔食草〕くさをくらふ。○〔雲笈七籤〕「一レ一者愚・騃而足レ力」。
〔墾草〕くさを刈りひらく。○〔韓〕「今上急レ耕レ田一レ一以厚二民產一」。
〔山草〕やまに生じたるくさ。○〔易林〕「鹿食二一・一」。
〔眞草〕楷書と草書との字體。○〔顏氏家訓〕「吾見二二王一・一」多矣」。
〔蕙草〕かをりぐさの名。○〔南方草木狀〕「一・一一名二薰草一」。
〔兒草〕やまのいも。○〔本草〕「薯蕷一名二諸・署一、一名二一・一」。
〔藍草〕黃色を染むるに用ふるくさ。○〔本草〕「一・一生二青・衣川谷一」。
〔冒草〕もぐさの異名。○〔本草〕「艾一名二冰臺一一名二一・一」。
〔黃草〕前に同じ。○〔曹鄴〕「八・月一・一生」。
〔瓊草〕うつくしきくさ。○〔郭璞〕「乃取二北・嶽一・一奇・鳥怪・獸一」。
〔芟草〕くさをきる。○〔李白〕「殺レ人如レ一レ一」。
〔荒草〕あれはげりたるくさ。○〔韋應物〕「一・一似レ無レ人」。
〔亂草〕前に同じ。○〔杜甫〕「寒・花隱二一・一一」。
〔擾草〕むちもてくさをうつ。○〔王勃〕「神・農一レ一而救レ之」。
〔嫩草〕めばえのやはらかきくさ。○〔王維〕「一・一承レ趺・坐一」。
〔砂草〕すなはらのくさ。○〔李華〕「一・一晨牧」。
〔擷草〕くさをつみとる。○〔韋應物〕「沒レ露一二幽一一」。
〔茨草〕くさを屋にふく。○〔柳宗元〕「築レ室一レ一」。
〔啄草〕くさをついばみくらふ。○〔白居易〕「雪中一レ一氷上宿」。
〔不死草〕かれざるくさ、又、麥門冬とも階前草とも名づくる草の異名。○〔淮〕「南方有二一・一・一之一一」。
〔皮弁草〕鳥蔵蓮の異名。○〔古今注〕「苦蔵形如二皮弁一、一名二一・一・一一」。
〔返魂草〕まをんと稱する草の異名。○〔本草〕「紫菀一名二一・一・一一」。

【茢】 ジ、ニ。讓之切 支

㊀草の多き貌にいふ字。㊁くさびら（菌）。○〔馬融〕「芝一一菫菖」。

【茭】 ケウ、ゲウ。渠遙切 蕭

蕪菁に似たる一種の草、こあふひ、ぜにあふひ、其の花は紫綠色なり、別名は荊葵、錦葵花。○〔詩〕「視レ爾如レ一」。

【荎】 チ、直尼切 支　テツ、徒結ヂ。切 屑

㊀一一藸は、されかづら、びなんかづら、五味子。○〔爾〕「菋一一藸」。㊁櫙一一は、はりにれ、あきにれ。㊂牛一一は、いのくづち、ふしだか。

【荏】 ジン、ニン。如甚切 寑

㊀菽の一種、そらまめ、大豆。○〔詩〕「一一菽旆旆」。㊁其の實より油を壓し出だす一種の草、え。○〔益都方物略記〕「每・歲一且レ熟」。㊂やはらか（柔）。○〔論〕「色厲而內一」。

【荐】 セン、ゼン。在甸切 霰

㊀再び至りて、聚まり來たりて、ふたたび、かされて、しきりに。○〔左〕「晉一饑」。㊁くさ（草）。○〔左〕「戎・狄一居」。

【荑】 テイ、ダイ。田黎切 齊

㊀茆の始生のもの、つばな。○〔詩〕「手如二柔一一」。㊁草木の始めて生ずるにいふ字、めぐむ、のぶ。○〔晉〕「蘭一爭翹」。㊂稊に同じ、いぬびえ。○〔孟〕「爲不レ熟不レ如二一・稗一」。

【荑】 イ。延知切 支

㊀荎一一は、一種の草。○〔爾〕「荎一一藙藙」。㊁かる（刈）。○〔周〕「以レ水殄レ草而芟二一之一」。

【荒】 クワウ、ワウ。呼光切 陽

㊀ある。
（い）土地理まらずして雜草地を掩ふにいふ字。○〔國〕「田・疇一蕪」。
（ろ）果穀の升らざるにいふ字。○〔韓〕「天饑歲一」。
㊁敗る、亂る。○〔周書〕「靡二敵不一レ一」。㊂すたる、すつ（廢）。○〔書〕「無レ一二棄朕命一」。㊃迷ひみだれて省ず、すさむ。○〔書〕「內作二色一一」。㊄大いなり。○〔詩〕「大・王一レ之」。㊅むなし（空）。○〔國〕「一・城不レ盟」。㊆おほふ（掩）。○〔詩〕「葛・藟一レ之」。㊇おほふもの、おほひ。○〔禮註〕「在レ旁曰レ帷、在レ上曰レ一」。㊈肓に同じ。○〔史〕「髓・腦揲一」。㊉慌に同じ、くらし。○〔屈平〕「一・忽其焉極」。(十一)あれたる土地、あれち。○〔晉〕「開レ一五・千・餘・頃」。(十二)湯裔、はて、さかひ、えびす、かたほとり。○〔史〕「并二吞八一一」。
〔要荒〕遠く王城を隔つる處。○〔荀勗〕「外納二一・一」。
〔四荒〕四方のくにのはて。○〔漢〕「一・一鄉レ風」。
〔遐荒〕王城をさるとはるかに遠きえびすの國土。○〔晉〕「流・澤布二於一・一」。
〔洪荒〕秩序なくおほいにある。○〔謝靈運〕「一・一莫レ傳」。
〔榛荒〕くさはげりある。○〔王粲〕「駛二此一・一」。
〔酒荒〕さけにすさむ。○〔蜀〕「加有二一・一之病一」。
〔凶荒〕としみのらず。○〔周〕「掌二縣・都之委・積一、以待二一・一」。
〔饑荒〕年のゆたかなると穀のみのらざると。○〔周〕「降二一・一之祲・象一」。
〔淫荒〕みだらにすさむ。○〔漢〕「誠一・一無レ度」。
〔窮荒〕（い）乏しきにくるしむ。○〔後漢〕「百・姓一・一」。（ろ）四土のはて、えびすの地。○〔李華〕「越二一・一踰二卑・水一」。
〔殊荒〕遠きえびす。○〔魏〕「展二雄武・功一、則威蓋二一・一」。
〔開荒〕くさなどのはげりあれたる土地をひらく。○〔陶潛〕「一レ一南・野際」。
〔拔荒〕前に同じ。○〔太平廣記〕「一レ一立レ舍」。
〔懷荒〕遠方の者をなづく。○〔晉〕「一レ一弭レ泰」。
〔投荒〕遠方の地に身をいる。○〔柳宗元〕「萬・死一レ一十・二・年」。
〔芟荒〕草のあれはげりたるを刈る。○〔答賓戲〕「夷レ險一レ一」。
〔蕪荒〕草のみだれはげりたるをいふ。○〔元稹〕「一・一擾・輒耕」。

【荷】 ヤ、エ。以遮切 麻

梟の屬、あさ。

【荓】 ケウ、ゲウ。巨天切 蕭

草の相糺るゝ貌にいふ字、よれあふ。

【茈】

古文の乖の字。

【苝】 クワ、ケ。空媧切 麻

正しからず、

【荓】 ヘイ、ビヤウ。旁經切 青

㊀萍に同じ。㊁ばれん（馬・藺）。

【荔】

荔に同じ。

【茱】 シツ、シチ。千吉切 質

其の葉は蘇（のらえ）に似たる一種の草。

【茋】シ。諸市切 紙
小さき草、うきくさ。

【荕】キン、コン。舉斤切 眞
ほれ（骨）。

【荖】ハイ、蒲同切 灰 ラウ、盧皓切 皓
一種の草、きんま。○〔西溪叢語〕「閩廣之人、食二檳榔一、每切爲レ片、蘸二蠣灰一以二一葉一裹嚼レ之」。

【茂】シュツ、シュチ。朮律切 質
莪・一は、一種の藥草。

七畫

【荰】ト、ヅ。徒古切 麌
一蘅は、かんあふひ。

【荱】ビ、ミ。武斐切 尾
一種の草。

【荱】ビ、ミ。無沸切 未
草の垂るゝ貌にいふ字。

【莇】フン、モン。武粉切 吻
鉤一一は、一種の草、なべわり、やまうるし。

【茛】バイ。博蓋切 泰
一一母は、一種の藥草、はゝぐり。

【荲】チク、トク。敕六切 屋
一種の菜、はぶぐさ、はのねぐさ、ぎしぎしだいわう。

【荲】リ。陵之切 支
冬藍に似たる一種の草。

【荳】トウ、ヅ。田候切 宥
まめ（菽）。○〔物理論〕「菽者衆一一之名」。

【苵】イ。于紀切 紙
くさよもぎ（蒿）。

【荴】フ。芳無切 虞
未だ落ちざる荷葉、はちすは。○〔漢〕「函二荾一一以俟レ風」。

【荵】ジン、ニン。而軫切 軫
一冬は、一種の草、すひかづら。

【莒】イフ、オフ。於汲切 緝
㊀一菸は、茹熟す、にゆ。㊁草傷壞す、やぶる。

【菦】ギン、ゴン。語斤切 文 ギ。魚其切 支
草の多き貌にいふ字。

【荶】ギン、ゴン。牛金切 侵
水中に生ずる一種の菜。

【𦯈】セツ、セチ。之列切 屑
㊀草を斷つ、きる。㊁たかむしろ（簟）。

【荷】カ、ガ。胡歌切 歌
池沼などに生ずる一種の草、はちす、はす、芙蓉、扶渠。○〔詩〕「濕有二一一華一」。

〔菱荷〕水くさのひしとはちすと。○〔大業雜記〕「池沼之内、冬-月剪-綵爲二一・一一」。
〔池荷〕いけに生ずるはちす。○〔梁簡文帝〕「一・一飮レ吐レ心」。
〔蒲荷〕水草のかばとはちすと。○〔詩〕「有二一與一一」。
〔採荷〕はちすをとる。○〔梁〕「年十七作二一・一詞一」。
〔紅荷〕べにいろのはちすの花。○〔水經、註〕「一・一覆レ水」。
〔挺荷〕たけたかくぬきいでたるはちす。○〔杜陽雜編〕「池中有二一・一一」。
〔薄荷〕莖葉えごまに似たる草にて一に蕃荷菜と名づく。○〔瑣碎記〕「猫以二一・一一爲レ酒、食レ之即醉」。
〔萬荷〕おほくのはちす。○〔黄溍〕「一・一影裏歌聲過」。
〔初荷〕新荷といふに同じ、あらたに芽のいでたるはちす。○〔徐陵〕「一・一未レ聚レ塵」。
〔綠荷〕みどりのはちすの葉をいふ。○〔李陵〕「珠湛二一・一中一」。
〔碧荷〕前に同じ。○〔李白〕「一・一生二幽泉一」。
〔露荷〕つゆにうるほひたるはちす。○〔宋之問〕「一・一新變レ節」。
〔衰荷〕秋にいりかれなんとしたるはちす。○〔李商隱〕「一・一一面風」。
〔枯荷〕かれたるはちす。○〔黄庭堅〕「折・葦一・一共晩紅」。

【荷】カ、ガ。胡可切 哿
㊀になふ。
（い）肩に受け持つ。○〔論〕「有下一レ蕢而過二孔子之門一者上」。
（ろ）身に受け持つ。○〔晉〕「惟朕寡德負二一洪-烈一」。
㊁になふ物、に。○〔唐〕「至レ有二重一一趨レ市而徒返者一」。
㊂苛に通じ用ふ、わづらはし、からし。○〔漢〕「握-齪好二一・一禮一」。
㊃怨み怒る聲にいふ字。○〔通鑑〕「口苦索レ蜜不レ得、再曰二一・一一」。
〔擔荷〕荷をになふ、又、荷物。○〔管〕「負レ任一レ一」。
〔久荷〕永久に負ふと。○〔元經薛氏傳〕「大-名不レ可二一・一一」。
〔膺荷〕任務にあたり負ふ。○〔蘇源明〕「所レ當二一・一一」。

【荸】ホツ、ボチ。蒲沒切 月
一薺は、くろぐわゐ。

【䒹】シ。息夷切 支
茅荾、かやのほ。

【荹】ホ、ブ。薄故切 遇
㊀牛馬を飼ふ草、かひば。㊁亂したる藁、わら。

【荺】井ン。于敏切 軫
草の根の食らふ可きものゝ稱、一說に、たけのこ（筍）。

【荺】井ン。于倫切 眞
藕紹、はすのね。

【荻】テキ、ヂヤク。徒歷切 錫
葦の如くにて葦より細かなる一種の草、をぎ。○〔晉〕「官-家養二蘆-花一爲レ一」。
〔蘆荻〕あしとをぎと。○〔馬戴〕「一・一晩江雨」。
〔枯荻〕かれたるをぎ。○〔北〕「與二一・一同レ色」。
〔岸荻〕きしべに生じたるをぎ。○〔徐陵〕「秋-江一・一黃」。

【䓣】ケン。古玄切 先
祭のまきものに用ふる草、ちがや。

【𦳆】キ。奇寄切 寘

一種の草。

【莡】其に通じ用ふ、まめがら。○[孫]「ー秆一-石當ニ吾二十-石ニ」。

【荼】ト、ヅ。同都切[虞] タ、デ。宅加切[麻] ㊀葉は苦苣に似て花は菊に似たる一種の草、けし、あざみ、けしなぐさ、のげし、其の味苦し。○[詩]「誰謂ニー苦ト其甘如レ薺」。㊁蓷荁、をぎのほ。○[詩]「采レー薪レ樗」。㊂茅秀、つばな。○[詩]「有レ女如レー」。㊃穢草、あれぐさ。○[詩]「以薅ニー蓼ニ」。㊄害惡。○[書]「弗レ忍ニー毒ニ」。㊅茶に同じ。○[野客叢書]「惟ー檟之ー卽今之茶也」。㊆いつはる。○[博雅]「ー僭也」。㊇かる。○[揚雄]「倩ー借也」。㊈神ーーは、其の昆弟なる鬱壘と共に能く鬼を執らふるといふ神の名。○[蔡邕]「十二月歲竟、乃畫ニーー-壘、幷懸ニ葦索、以禦レ凶」。

[苦荼] にがな。○[詩]「ーー如レ飴」。

【荼】シヤ、ゼ。時遮切[麻] あしのほ(芀)。

【荼】コ、グ。後五切[麌] 茅秀、かやのほ。

【荼】舒に通じ用ふ。○[史]「荊ー是徵」。

【荼】琛に通じ用ふ。

【荼】サイ。倉大切[泰] ーー首は、兩頭の鹿。○[博物志]「雲-南-郡ー-首、其音爲ニ蔡-茂ー是兩-頭鹿名也」。

【荼】ヤ、エ。余遮切[麻] ㊀ー陵は、縣の名。㊁ー恬は、人の名。

【荽】スヰ。息遺切[支] 香氣ある一種の菜、こにし。○[潘岳]「藙ー芬-芳」。

【荾】荽に通じ用ふ。

【荾】スヰ。息遺切[支] ㊀華の中の齊、ほぞ。○[漢]「函ニー荴ー以俟レ風」。㊁荾に同じ。

【荿】セイ、ジヤウ。時征切[庚] 草。

【莀】古文の農の字。

【莀】シン。酉眞切[眞] 草の多き貌にいふ字。

【莁】ブ、ム。武夫切[虞] 蕪の字を見よ。

【莕】コク。姑沃切[沃] 木の皮。

【莃】ザフ、ニフ。尼立切[緝] 〔熟〕菴ーーは、一種の草。㊀草の密なる貌にいふ字、しげし。

【莭】ヘツ、ベチ。彼列切[屑] ㊀わりふ、(符)。「蒔」。㊁たれまく、(種-概)、うつしうゝ、(移-)。㊂佛家にて散文の稱。○[黃庭堅]「夙承ニ記ーーニ」。

【莃】キ、ケ。香衣切[微] 葵に似て葉の小さき一種の菜。

【莑】ホン、ボン。蒲悶切[願] 草を以て界となすこと。

【莔】ソン。壯本切[阮] こめざる、いかき(篅)。

【莍】蔌に同じ。

【莒】キヨク、ケキ。訖力切[職] さし、(敏-疾)。

【莄】カウ、キヤウ。古杏切[梗] くさ、(草)、又、くさの莖、くき。

【莅】リ。力至切[寘] 其の位に卽く、其の場に臨む、のぞむ。○[易]「君-子以ーレ衆」。

[臨莅] 其の場處にのぞむ。○[四子講德論]「其所ニーーニ」。
[出莅] いでて其の場にのぞむ。○[書]「ーー遐-陬ニ」。
[端莅] 正しく臨む。○[宋]「永-言ーー」。
[來莅] きたり臨む。○[宋]「穆-々ーー」。
[遠莅] はるかなる場所にのぞむこと。○[張說]「ーー長-沙潞ニ」。

【莅】リツ、リチ。力質切[質] ㊀前條に同じ。○[曹植]「示レ不ニ敢ーニ」。㊁林木のふるひ動く聲にいふ字。○[司馬相如]「藰ー卉-歙」。

【莆】フ、ホ。方矩切[麌] 蓮ーは、帝堯の時に生ぜし瑞草。

【莆】蒲に同じ。○[屈平]「ー藿是營」。

【莇】チヨ、ド。遲據切[御] 一種の草、苟苣。

【莇】耡に同じ。

【莍】ケキ、キヤク。呼歷切[錫] 草盛んなり。

【莍】赫に同じ、いかる。

【莍】カク、キヤク。乞格切[陌] ーー茶は、おそる、(懼)。

【莈】ヰ。羊捶切[紙] エキ、ヤク。營隻切[陌] みづぶき、(芡)。

【莋】ヤ、エ。以遮切[麻] 芣ーーは、一種の草、しやうぶ。

【莁】シヤ、ゼ。似邪切[麻] 一種の菜。

【莉】レイ。郞奚切[齊] 一種の草。

【莉】リ。力至切[寘]

茱の字を見よ。

【莊】シヤウ、サウ。側羊切 陽

㈠草の芽の盛んなる貌にいふ字、ものゝおひたちの盛んなる貌にいふ字。さかんなり。○〔管〕「苗始其少也恂-恂乎、何其孺-子也、至二其壯一也—-—乎、何其士也」。

㈡おごそか、（嚴）。○〔論〕「臨レ之以レ—、則敬」。

㈢盛んに飾ること。○〔韓〕「—二居-處衣-服一」。

㈣六方に通じたる道路、むつつじ、ひろき交通路。○〔左〕「得二慶-氏之木百-車于—一」。

㈤城市外に設けある一區劃の地。○〔玉海〕「置二牛-具一選二習レ耕兵-士一置二屯-田—一」。

㈥城市外などの隔だてたる處に別に設けある宅舍、ゑもやしき。○〔宋〕「齊-賢歸レ洛、得二裴-度午-橋—一」。

㈦田舍、ゐなかや。○〔郭翼〕「花-開移レ艇過二漁—一」。

㈧戰國時代に生まれたる有名なる學者莊周の稱、又、其の說きたる道の稱。○〔晉〕「好二老—一」。

㈨海貝の一枚、たからがひ。○〔雲南道志〕「海-貝一-枚、土-人謂二之—一」。

〔齊莊〕おごそかなること。○〔禮〕「——中-正」。

〔矜莊〕前に同じ。○〔鬩、註〕「嚴-恪——」。

〔嚴莊〕前に同じ。○〔管〕「壑-齊——、則民畏レ之」。

〔山莊〕やまにあるいはり。○〔梁昭明太子〕「命レ駕出二——一」。

〔美莊〕うつくしきゑもやしき。○〔獨異志〕「予有二三-十所——一」。「——」。

〔爾莊〕たゞしくおごそかなること。○〔史〕「專務二——一」。

〔端莊〕前に同じ。○〔韓維〕「——九-尚重」。

〔祇莊〕つゝしみおごそかなること。○〔羽獵賦〕「——雍-穆之徒」。「——」。

〔奇莊〕めづらしきゐなかや。○〔孫嗣〕「臨レ流想二——一」。○〔柳宗元〕「韓-安-平——端-殺」。

〔厲莊〕はげしくおごそかなること。

〔溪莊〕たにがはのほとりにあるゐなかや。○〔袁易〕「桃-花夾レ岸護二——一」。

【莊】シヤウ、サウ。測亮切 漾

つゝしむ、うやうやし、（恭）。

【莋】セキ、ジヤク。秦昔切 陌

草ながら茹らふ、くらふ。

【莋】サク、ザク。在各切 藥

定—は、地の名。

【莞】シウ、ジユ。昌終切 東

—蔚は、一種の草、めはじき、やくも、なつかれぐさ。

【莌】タツ、ダチ。徒活切 曷

活—は、一種の草。

【莍】キウ、グ。巨鳩切 尤

外皮に裹まれたる實の聚生して房を成すもの。○〔爾〕「椒椴醜—」。

【莋】ゴ、グ。五乎切 虞

艾に似たる一種の草。

【莕】蕪に同じ。

【莎】サ。蘇禾切 歌

㈠莖と葉とは三稜（みくり）に似たる一種の草、根の周匝に毛多し、はますげ、蒿侯、香附子。○〔北〕「相去百-步、懸二—-草一射レ之、七-發五-中」。

㈡桄榔（くろつぐ）に似たる一種の樹。○〔王融〕「分レ草愛二——一」。

〔青莎〕はますげ草のあをくゑたるもの。○〔韋莊〕「御-苑—-嘶二戰-馬一」。

〔綠莎〕前に同じ。

〔碧莎〕前に同じ。○〔梁簡文帝〕「洞-塘繞二——一」。「——」。

〔叢莎〕むらがりゑげりたるはますげ。○〔孟浩然〕「階-下——有二露-光一」。

〔岸莎〕きしべに生じたるはますげ。○〔盧綸〕「——青有レ路」。

〔露莎〕つゆをおびたるはますげ。○〔鄭谷〕「猶把二芳-算一藉二——一」。

【莏】スヰ。宣隹切 支

手にて切摩す、する、もむ。○〔元稹〕「挼—五-木一擲二梟-盧一」。

【莎】サ、セ。師加切 麻

—雞は、一種の蟲、はたおりむし。○〔詩〕「六-月—-雞振レ羽」。

【莏】莎に同じ、もむ。

【莐】チン、ヂン。直深切 侵 タン、トン。丁敢切 感

—藩は、一種の草、やまし。

【莻】シ。章移切 支

㈠あきにれ、（楡-莢）、㈡つけもの、（菹）。

【莑】ホウ、フ。敷容切 冬

草芽始めて生ず、めざす。

【莒】キヨ、コ。居許切 語

いも、（芋）。

【莄】シン。七稔切 寢

おほふ、（覆）。

【莓】バイ、メ。謨杯切 灰

㈠きいちご、（莓）。○〔齊民要術〕「——草實可レ食」。

㈡こけ、（苔）。○〔杜甫〕「隨-意坐二—-苔一」。

㈢草などの美しくあをあをしたる貌にいふ字。○〔左思〕「蘭-渚——」。

【莔】バウ、ミヤウ。武庚切 庚 バウ、マウ。謨郎切 陽

華葉共に韮に似て根は圓く白くして小貝の形をなせる一種の草、はゝぐり。○〔張衡〕「王-芻—-臺」。

【莕】荇に同じ。

【莋】ハク、ヒヤク。博陌切 陌

藍の別名。

【莖】カウ、ギヤウ。戶耕切 庚

㈠くき。(い)本幹、みき、もと、特に、草にいふ字。○〔管〕「無レ根無レ—」。(ろ)草又は細長きすぢを數ふるにいふ字。○〔杜甫〕「數—白-髮那拋得」。

㈡枝柱、さゝへばしら。○〔班固〕「抗二仙-掌一以承レ露、擢二雙-立之—一」。

㈢ひとり、（特）。○〔張衡〕「徑二百-常一而—擢」。

㈣劍夾、つか。○〔周〕「以二其臘廣一、爲二之—圍一長倍レ之」。

〔紫莖〕むらさき色のくき。○〔庾肩吾〕「——六-英通」。

〔纖莖〕ほそきくき。○〔吳均〕「——易二凌-忽一」。

〔細莖〕前に同じ。○〔爾、註〕「——大-葉」。

〔枝莖〕草木のえだとくきと。○〔蔡邕〕「何——」

之豔美」。
〔長莖〕ながきくき。○〔呂氏春秋〕「――而短足」。
〔脩莖〕前に同じ。○〔夏侯湛〕「擢二――一乎清波一」。
〔女莖〕菊の異名。○〔本草〕「菊一名二女花一、一名二
――一」。
〔丹莖〕あかいろのくき。○〔高唐賦〕「――白蒂」。
〔柔莖〕やはらかなるくき。○〔王粲〕「挺二苒々之
――一」。「立」。
〔茂莖〕しげりたるくき。○〔應瑒〕「建二――一以竦・
〔碧莖〕あをきくき。○〔陳〕「立二――一之婀娜一」。
〔翠莖〕前に同じ。○〔傅咸〕「茂二此――一」。
〔綠莖〕前に同じ。○〔法苑珠林〕「――朱蕊」。
〔弱莖〕かよわきくき。○〔卞敬宗〕「荏苒――」。
〔宿莖〕ふるきくき。○〔沈約〕「――抽二晩幹一」。
〔新莖〕あらたに生じたるくき。○〔韓愈〕「――未レ
偏半猶枯」。
〔弄莖〕かをりたかきくき。○〔白居易〕「――與二
臭・葉一」。「却是絲」。
〔蓮莖〕はちすのくき。○〔楊維楨〕「折二斷――一
〔穠莖〕前に同じ。○〔僧伽經〕「佛・法青而細如二
――絲一」。

【莖】アウ、ヤウ。烏莖切 庚
姚――は、一種の草。

【莗】シャ、セ。昌遮切 麻
――莿は、一種の草、おほばこ。

【𦬊】シ。職吏切 寘
遠――は、ひめはぎ。

【䓍】カン。胡幹切 旱
柔莖細葉なる一種の菜、いぬからし。○〔林洪〕「輒以二――一菜一供二蔬品一」。

【莘】シン。斯人切 眞
㊀葉は芥の如き一種の藥草、みらのれぐさ。○〔正字通〕「――草生二山・澤一」。

㊀衆多、おほし、もろ〳〵。○〔班固〕
「組・豆――」。「――其尾一」。
㊁ながし（長）。○〔詩〕「魚在在レ藻、有二

【莙】キン、グン。渠殞切 軫
葉大にして莖長き一種の藻、さゝも、やなぎも。○〔爾〕「――牛藻」。

【莚】エン。以然切 先
一種の草。

【莚】エン。于線切 霰
斷えず、つゞく。○〔左思〕「風連二――蔓於蘭・皐一」。

【莛】テイ、ヂヤウ。特丁切 青 徒鼎切 迥
㊀草莖、くき。○〔漢〕「以レ――撞レ鐘」。
㊁屋梁、うつばり。○〔莊〕「――與レ楹」。
〔枯莛〕かれたる草のくき。○〔劉基〕「化爲二――一」。

【莜】テウ、デウ。徒弔切 嘯 テウ。他凋切 蕭
草田器、あじか。

【莜】テウ。多嘯切 嘯
おほにら（薤）。

【莝】サ。寸臥切 箇
㊀細く斬りたる芻、きりわら、きりまぐさ。○〔漢〕「豪・强有レ論レ罪、輸二掌・畜・官一使レ斫レ――」。
㊁輕小なるものに借りいふ字。○〔柳宗元〕「合二――・脃一以爲レ强」。

【莞】クワン。胡官切 寒
㊀蒲の一種、席に作くるべし、ゐ、まるがま、蒐蒲。○〔摯虞〕「編レ――爲レ筏」。
㊁ゐにて作りたる席、ゐむしろ。○〔詩〕「上レ――下レ簟」。
〔蕭莞〕ゐとかばと。○〔鹽鐵論〕「古者大・夫――・
――」。「似レ――」。
〔蒲莞〕かばとふとゐと。○〔本草〕「――叢二生水・際一

【莧】クワン、ゲン。戸板切 潸
小しく笑ふ貌にいふ字、にっこりさ。○〔論〕「夫・子――爾而笑」。

【莟】カン、ゴン。胡紺切 勘
花蘂、しべ。

【莟】カン、ゴン。胡感切 感
花の開かんとする色を含むもの、つぼみ。○〔楊萬里〕「櫻・桃開過隔レ牆――」。
〔晩莟〕おくれたるはなのつぼみ。○〔楊萬里〕「且看二桃・花――開一」。
〔新莟〕あらたなる花のつぼみ。○〔楊萬里〕「我・愛
――許・來多」。

【莠】イウ、ユ。與九切 有
㊁稷に似て實のらざる一種の穢草、はぐさ。○〔孟〕「惡レ――恐二其亂一レ苗也」。
㊁醜きものに借りいふ字。○〔詩〕「――言自レ口」。

【莡】サク。倉各切 藥
草の行く聲にいふ字。

【莢】ケフ。古協切 葉
豆實を包む外皮、さや。○〔周〕「其植・物宜二――物一」。
〔茨莢〕草の名。○〔太平廣記〕「植二――一百・莖于市一」。
〔蓂莢〕堯の時に生じたりと稱する瑞草の名。○〔宋〕
「――名二蓂莢一、夾レ階而生」。

【莣】バウ、マウ。武方切 陽 無放切 漾
すゝき（杜・榮）。

【菍】ブ、ム。未付切 遇
蟌――は、さんぼ。○〔淮〕「水・蠆爲二蟌・――一」。

【莤】シュク、ソク。所六切 屋
㊀ゑたむ（縮）。○〔詩、傳〕「滑――レ之也」。
㊁榼の上の塞ぎ、せん。

【莤】イウ、ユ。夷周切 尤 以九切 有
一種の水草、ほかけぐさ、かりがねさう。○〔爾〕「――蔓・于」。

【莥】ヂウ、ニユ。女久切 有 ヂク、ニク。女六切 屋
鹿豆、たんきりまめ。○〔爾〕「鹿・藿其實――」。

【莦】サウ、セウ。所交切 肴
惡しき草の貌にいふ字。○〔淮〕「野・彘有二――・槎・櫛、窟・虛連・比一以象二宮・室一」。

【莧】カン、ケン。侯澗切 諫 ケン、ゲン。形甸切 霰
一種の菜、ひゆ。○〔管〕「――下二于蒲一」。

【莧】莞に同じ、小しく笑ふ貌にいふ字。

【莨】ラウ。魯當切 陽
藏――は、牛馬の芻さなす一種の草、まぐさ。○〔司馬相如〕「其埤・濕則生二藏・――蒹・葭一」。

【莨】 ラウ。來宕切 漾
——莨は、おほみるぐさ、おにしろぐさ。○〔史〕「飲以二——莨一」。

【莩】 フ。芳無切 虞
㊀葭の筩の中の薄き白皮、うすかは。○〔漢〕「葭——之親」。
㊁廡、母、めあさ。○〔儀、註〕「治二去——垢一」。

【莫】 バク、マク。慕各切 藥
㊀なし。
(い)むなし、(虛)。○〔莊〕「去二君之累一、除二君之憂一、獨與レ道遊二于大——之國一」。
(ろ)有らず。○〔孟〕「不祥——レ大レ焉」。
㊁不可の意を表すにいふ字、なかれ。○〔史〕「諸公——三敢明二言於王一」。
㊂さだまる、(定)。○〔詩〕「監二觀四方一求二民之——一」。
㊃はかる、(謀)。○〔詩〕「秩々大猷、聖人——レ之」。
㊄つとむ、(强)。○〔淮〕「猶未二之——一與」。
㊅けづる、(削)。○〔管〕「刀可レ——レ鐵」。
㊆おほいなり、(大)。○〔莊〕「廣——之野」。
㊇くらし、(闇)。○〔荀〕「悖亂昏——不二終極一」。
㊈しげる、(茂)。○〔詩〕「維葉————」。
㊉瘼に通じ用ふ、やむ、やます。○〔詩〕「——二此下民一」。
⑪幕に通じ用ふ。○〔史〕「——府省二約文書籍事一」。
⑫膜に通じ用ふ、うすかは。○〔禮、註〕「皮肉之上魄——」。
〔廣莫〕ひろし、又、風の名。○〔左〕「狄之——、于レ晉爲レ都」。
〔遮莫〕任他といふ語に同じ、さもあればあれと訓ず。
○〔岑參〕「——千山與二萬山一」。
〔落莫〕さびし。○〔韓愈〕「不二——一否」。
〔索莫〕さびしく勢なし。○〔郝經〕「晉上詩懷尤————」。
〔闇莫〕くらし。○〔七發〕「烟雲————」。

【莫】 バク、ミヤク。莫白切 陌
㊀しづか、(靜)。○〔詩〕「君婦————」。
㊁きよし、(淨)。○〔甘泉賦〕「神————而扶傾」。

【莫】 ボ、ム。莫故切 遇
㊀暮に同じ、くれ。○〔易〕「——夜有レ戎」。
㊁赤き節にして節ごとに柳に似たる一つ葉ある一種の菜。○〔詩〕「彼汾沮洳言采二其——一」。
〔歲莫〕歲晚といふに同じ、年のくれ。○〔左〕「——云——矣」。
〔蚤莫〕朝とひぐれと。○〔儲光羲〕「預覺知二——一」。
〔夙莫〕前に同じ。○〔陸雲〕「感二秋林之————一」。

【茿】 テフ。涉葉切 葉
小さき葉。

【茵】 蔥の本字。

【菴】 アク、オク。於角切 覺
——蘥は、一種の豆。

【莕】 フ。芳無切 虞
花の盛んなるにいふ字。

【莬】 ブン、モン。亡運切 問
草木の新に生じたるものゝ稱。

【莭】 セツ、セチ。子結切 屑
草莖の約まりたる部分、ふし。

【茚】 ギヤウ、ガウ。語兩切 養
昌蒲、せきしやう。

【苐】 テイ、ダイ。田黎切 齊
草木の初めて生じたる貌にいふ字。

【萂】 ダン、ナン。那含切 覃
萓——は、わすれぐさ。

【莡】 蓬に同じ。

【莗】 タツ、タチ。多葛切 曷
蕁——は、一種の草。

【荓】 萍に同じ。

【莒】 キヨ、コ。休居切 魚
草華、くさばな。

【莕】 シヤウ、サウ。七羊切 陽
うごく、うごかす、(動)。

【莱】 葉に同じ。

【莂】 ケウ、ゲウ。胡了切 篠
鼻莊、くろぐわゐ。

【茲】 シ。川思切 支
つけもの、(菹)。

【茅】 バウ、メウ。門包切 肴
菜。

【茵】 チ。池爾切 紙
缺けたるを補ふ、つくろふ。

【莇】 ヘイ、ヒヤウ。坡生切 庚
出づる水、しみづ。

八畫

【莽】 バウ、マウ。莫朗切 養
㊀くさ、(草)。○〔淮〕「野——白素」。
㊁草深き貌にいふ字。○〔楚辭〕「草木————」。
㊂草ふかき處、くさむら、くさはら。○〔鮑昭〕「林——杳而無レ際」。
㊃廣大なる貌にいふ字、おほいなり、ひろし。○〔左思〕「相與騰二躍乎——買之野一」。
㊄幽遠なる貌にいふ字、かすか、とほし。○〔莊〕「乘二夫——眇之鳥一」。
㊅蟲魚などに毒をなす一種の草、しきみ。○〔周〕「掌下除二蠹物一以二——草一薰上レ之」。
㊆節の閒の促りたる一種の竹。○〔爾〕「——數節」。
〔草莽〕くさむら、又、民間の義にかり用ふる語。○〔孟〕「在レ野曰二————之臣一」。
〔鹵莽〕そまつなること。○〔莊〕「耕而——二之一」。
〔灌莽〕雜草木のみだれしげりたるくさむら。○〔柳宗元〕「抵二丘垤一伏二————一」。
〔榛莽〕前に同じ。○〔黃庭堅〕「幽蘭秀二————一」。
〔榛莽〕前に同じ。○〔僧齊巳〕「————摧二丘墟一」。
〔蒼莽〕あを〳〵とおほいなる貌にいふ語。○〔韓詩外傳〕「所レ謂天非二————之天一也」。
〔鼠莽〕ねづみころしと稱する草の異名。○〔本草〕「莽草名二————一」。
〔高莽〕たかくしげりたる草。○〔陶潛〕「————渺無レ涯」。
〔深莽〕しげりたるくさむら。○〔梅堯臣〕「晡雛————中」。
〔叢莽〕前に同じ。○〔杜佑〕「雜二————一呈二修篁一」。
〔斬莽〕くさをきる。〔韋述〕「——レ——闢レ蕪」。
〔衰莽〕かれたるくさ。○〔樂滴〕「敗蘆————而已」。

【莽】俗の莽の字。

【莿】シ。七賜切 寘
㊀はり、さげ、のぎ、（芒）。
㊁そしろ、（譏）。○〔鶡冠子〕「非二過-材之一ー一」。

【菀】エン、ヲン。於阮切 阮
㊀茈ーーは、其の根紫色にて柔き一種の草、しをん、おにのしこぐさ。○〔博雅〕「女-腸女ーー也」。
㊁茂盛なる貌にいふ字、しげる、しげし、又しげれる草木。○〔詩〕「有レー者柳」。
㊂苑に通じ用ふ。○〔漢〕「牧-師ーー令」。

【菁】セイ、シヤウ。杏盈切 庚
㊀韭華、にらばな。○〔張衡〕「秋韭冬ー」。
㊁茅の一種、たまほ。○〔書〕「包-匭ーー茅」。
㊂一種の菜、かぶらな。○〔周〕「ー-菹」。
㊃華英、うるはし。○〔張衡〕「麗-服颺ーー」。
〔蕪菁〕かぶらな。○〔後漢〕「種ニーー以助二人食一」。
〔蔓菁〕前に同じ。○〔急就篇、註〕「蔓-菁一日ニーー一」。
〔冥菁〕前に同じ。○〔急就篇、註〕「又日ニーー一」。

【菁】セイ、シヤウ。倉經切 青
茂り盛んなる貌にいふ字、しげる、しげし。○〔詩〕「ーー者莪」。

【菡】シウ、ジユ。徐由切 尤
水田に生じ其の子食らふべき一種の草。

【菂】テキ、チヤク。丁歴切 錫　ケウ、ゲウ。胡了切 篠
蓮實、はすのみ。○〔王延壽〕「緣-房緣-ー」。
〔蓮菂〕はすのみ。○〔陳高〕「ーー苦如レ蓼」。

【菧】デイ、ナイ。奴低切 齊
根をあらはしたる草。

【菞】デイ、ナイ。乃禮切 薺
露の濃き貌にいふ字。

【菄】トウ、ツ。都籠切 東　多貢切 送
ーー風は、ふらやまぎく。

【菅】クワン、ケン。古顔切 刪
㊀茅の屬、かや、ちがや、あぶらがや、莖は茅の如くに滑澤なれども毛なし、其の筋は索さなすべし。○〔詩〕「白-華ー兮」。
㊁ちがやにて編みたる苫、とま。○〔山海經〕「白ー爲レ藉」。
㊂莘色、うゐたるいろ。○〔管〕「野蕪-曠則民乃ー」。
〔榛菅〕みだれしげりたるくさむらのかや。○〔韓愈〕「豈念幽-桂遺ニーー一」。
〔霜菅〕しもをおびたるかやぐさ。○〔蘇軾〕「樂-天雙-鬢如ニーー一」。
〔翠菅〕あをくしたるかや。○〔王維〕「水驚レ波兮ーー靡」。
〔枯菅〕かれたるかや。○〔柳宗元〕「風-韻碎ニーー一」。
〔神菅〕一種のちがや。○〔蘇軾〕「神-草出ニーー一」。
〔深菅〕ふかくしげりたるかや。○〔高啓〕「宋-帝陵-墠埋ニーー一」。

【菎】ハク、ビヤク。傍伯切 陌
葉は木棉に似たる一種の草。

【菆】シウ、ス。側鳩切 尤
㊀草の叢生するにいふ字、むらがる。
㊁麻蒸、あさがら。○〔潘岳〕「感ニ市-閭之ーー井一」。
㊂好き箭。○〔左〕「左-射以レー」。
㊃しされ。○〔博雅〕「蓐謂ニ之ーー一」。
㊄あまり、（餘）。

【菆】シユ、ス。芻注切 遇
鳥の巣、す、特に、鷹にいふ。○〔酉陽雜俎〕「鷹-巣一-名ー、鷹呼ニーー子一者、雛-鷹也」。

【菆】サン、ザン。徂丸切 寒
殯するに木を棺の側に積むにいふ字。あつむ。○〔禮〕「ーーニ塗龍輴一」。

【菆】叢に通じ用ふ。○〔太玄經〕「鳥託ニ巣于ーー一」。

【菇】コ、ク。故吳切 虞
王瓜、からすうり。

【菉】リヨク、ロク。力玉切 沃
㊀一種の草、かりやす、玉芻。○〔謝朓〕「霜-剪ニ江-南ーー一」。
㊁錄に通じ用ふ、しるす。○〔汲冢周書〕「掌レ爲ニ天-子之ー-幣一」。

【菋】ク。許倶切 虞
いも、（芋）。

【菈】ラフ、ロフ。盧合切 合
崩れ弛ぶ聲にいふ字。○〔左思〕「ー-獵雷-硠」。

【菊】キク、キク。居六切 屋
秋に花を開く一種の草、かはらをはぎ、治牆。○〔屈平〕「秋ーー之落-英」。
〔芳菊〕かをりあるきく。○〔荊州記〕「北源芳悉ーーー」。
〔芬菊〕前に同じ。○〔傅亮〕「院ニ中-原之ーーー」。
〔黃菊〕花のきいろきく。○〔唐〕「帝篇ニーーー歌一」。
〔叢菊〕むらがりしげりたるきく。○〔張協〕「輕-露棲ニーー一」。
〔丹菊〕あかきいろの花さくきく。○〔貞闓〕「潛-渊汎ーー」。
〔靈菊〕めづらしくすぐれたるきく。○〔袁崧〕「ーー植ニ幽-崖一」。
〔籬菊〕まがきのもとにあるきく。○〔李白〕「河レ嚥東ーー」。「苗-菲一」。
〔園菊〕そのにうゑたるきく。○〔江總〕「ーーー抱」。
〔殘菊〕ちりのこりたるきく。○〔唐太宗〕「ーー猶承レ露」。「ー偽一」。
〔霜菊〕しもをおびたるきく。○〔蘇軾〕「獨伴ーー」。
〔紫菊〕むらさきの花さくきく。○〔拾遺記〕「背明之國有ニーーー」。
〔盆菊〕はちにうゑたるきく。○〔吳師道〕「ーー自開」。
〔細菊〕こまかききく。○〔元好問〕「ーー斑-々也采-々黃-金實」。
〔露菊〕つゆをおびたるきく。○〔元好問〕「ーー霜-叢ー菜薦ニ枕-囊一」。
〔佳菊〕よききく。○〔韓愈〕「霜-風ニーー」。
〔新菊〕あらたにめをいだしたるきく。○〔許渾〕「ーー亦侵レ籬」。
〔疎菊〕まばらに生じたるきく。○〔皮日休〕「ーー臥ニ烟-莖一」。
〔畦菊〕田のあぜに生じたるきく。○〔蘇軾〕「ーー發ニ新-穎一」。

【菋】ビ、ミ。無沸切 未　バイ、メ。暮拜切 卦
されかづら、一説に、ごみし。

【菛】ク、コ。匈于切 虞
一種の藥草、はまにんじん、はまぜり。

【菌】キン、ゴン。渠隕切 軫

㊁朽木又は汚土に生ずる一種の植物、くさびら、きのこ、たけ、花なく葉なく多くは莖と、かさとを有す、特に其の毒ありて食すべからざるものにいふ字。〇〔莊〕「樂出レ虛、蒸成レ—」。
㊂—蠢は、芝(れいし)の貌にいふ語。〇〔張衡〕「芝・房—・蠢」。
〔芝菌〕靈芝のこと。〇〔皮日休〕「壞靈有二—・—一」。
〔朝菌〕一日のうちに生死するきのこ、又一說に、蕣華のこともいふ。〇〔莊〕「—・—不レ知二晦・朔一」。
〔松菌〕松の根もとに生ずるきのこ。〇〔殷仲文〕「薄言寄二—・—一」。
〔蘆菌〕あしぐさの根もとに生ずるきのこ。〇〔急就篇、註〕「—・—一名二雚・蘆一」。
〔黃菌〕きいろなるきのこ。〇〔酉陽雜俎〕「輒生二—・—一」。「化爲レ蝶」。
〔腐菌〕くさりたるきのこ。〇〔詩疏廣要〕「—・—
〔槐菌〕ゑんじゆの木より生ずるきのこ。〇〔本草〕「槐・樹之菌名二—・—一」。
〔異菌〕めづらしききのこ。〇〔菌譜〕「爰䔢二—・—一」。
〔采菌〕きのこをつみとる。〇〔楊誠〕「—レ—蔵二寒木一」。
〔濕菌〕しめりより生ずるきのこ。〇〔薛能〕「朽・腐生二—・—一」。
〔黃耳菌〕みゝの如き形をしたる黃色のきのこ。〇〔蘇軾〕「老楮忽生二—・—・—一」。

【菌】キン。匿倫切 眞
㊀桂の一種、にくけい。〇〔屈平〕「雜二申・椒與二—・桂一兮」。
㊁一種の香草、かをりぐさ。〇〔素問〕「夢見二—・香生・草一」。
㊂衆くの聲のむすぼれ積みて外に發出する貌にいふ字。〇〔馬融〕「瞋—礙・柍」。

【䓉】ヤ、エ。以遮切 麻

【菎】コン。古渾切 元
其の皮を索となす一種の木。

一種の香草。〇〔楚辭〕「—蔽象・棊」。

【菎】コン。古本切 阮
—簬は、一種の草。

【菏】カ、ガ。胡歌切 歌
㊀—蔽は、一種の草。㊁荷に同じ。

【茍】キョク、ケキ。紀力切 職
自ら急救す、あらたまる、つゝしむ、いましむ。

【葘】菑に同じ。〇〔書〕「既勤二敷—一」。

【菒】カウ、コウ。古老切 晧
枯草、かれくさ、又、わら(稈)。〇〔國〕「撃レ—除レ田」。

【菓】クワ。古火切 哿
木實、このみ、くだもの。〇〔史〕「古者有二春嘗—一」。

【菔】フク、ボク。蒲北切 職
蘆—は、だいこん、すゞしろ。〇〔後漢〕「掘二庭中蘆—根一」。
〔萊菔〕だいこん。〇〔爾雅〕「—・—能制二麵毒一」。

【菔】服に通じ用ふ。〇〔周〕「服當レ作レ—刀劍衣也」。

【菍】シン。思林切 侵
螟に苗の心を食はれて枯る、かる。

【菕】ロン。盧昆切 元
一種の木、ちやんちん。〇〔管〕「其木宜三蚖—與二杜・松一」。

【菖】シヤウ、サウ。尺良切 陽
蒲の屬にて水澤の中に生ずるもの、しやうぶ、さうぶ。〇〔呂氏春秋〕「冬至後五旬七日、—始生」。
〔石菖〕水石の間などに生ずる草の名。〇〔本草〕「—・—生二水石間一」。

【菗】チウ、ヂユ。直由切 尤
—蒢は、えびすれ。

【䓘】カウ、コウ。古勞切 豪
實は瓜に似たる一種の草。

【䓘】キウ、グ。巨九切 有
一種の草。

【菘】シウ、シユ。息弓切 東
隆冬にても其の葉凋まざる一種の菜、たうな。〇〔南〕「秋末晚—」。

【菲】クワイ、ケ。古懷切 佳
一種の草。

【菲】クワ、ケ。苦緺切 麻
雜はりて斜めなる貌にいふ字。

【菙】スヰ、ズヰ。時髓切 紙
にんじんぼく(荊)。〇〔周〕「燋・焌用二荊—之類一」。

【菹】ショ、ゾ。詳餘切 魚 ソ。叢租切 虞
㊀—蘁は、韮に似たる一種の草。
㊁—菇は、水田に生じ其の塊根食用となすべきもの、くわゐ。

【草】フウ、ブ。房久切 宥
—鬱は、一種の香草。

【菜】サイ。倉代切 隊
㊀食らふべき草の總稱、な、やさい、あをもの。〇〔禮〕「務レ畜レ—」。
㊁穀物足らずやさいを主食として顏色惡しく青みたるこ。〇〔禮〕「民無二—色一」。
㊂采に通じ用ふ、とる。〇〔漢孔耽碑〕「躬—二菱・藕一」。
〔荇菜〕あさゞといふうきくさ。〇〔詩〕「參差—・—」。
〔食菜〕青物をくらふ。〇〔陸游〕「—レ—終年安二貧一」。
〔茹菜〕前に同じ。〇〔舊唐〕「尚厭・衣—レ—」。
〔鹽菜〕しほと青物と。〇〔後漢〕「不レ食二—・—一」。
〔奠菜〕青物を神前にそなふ。〇〔舊唐〕「盛陳二—・—之儀一」。「鹽共—レ—」。
〔摘菜〕なをつみとる。〇〔說苑〕「使二王子革、王子—レ—一」。
〔挑菜〕前に同じ。〇〔世說〕「後園—レ—傷レ指」。
〔種菜〕青物をうゝ。〇〔詩、疏〕「—レ—之地謂二之圃一」。
〔芹菜〕せりな。〇〔詩、疏〕「我王使下人於二此水中一采中芹—・—上」。
〔蘋菜〕浮き草の食らふべきもの。〇〔詩疏〕「菜此—・—一」。「—・—者」。
〔美菜〕うつくしきよき青物。〇〔詩、箋〕「蕃・殖—・—
〔水菜〕せりの如くみづのなかに生ずるな。〇〔詩、箋〕「芹—・—也」。
〔苣菜〕にがなの一種たるちさな。〇〔詩、疏〕「—似二苦・菜一也」。
〔蕈菜〕おゆんさいとて食らふべき浮き草。〇〔岑參〕「忽思—・—羹」。
〔苦菜〕にがな。〇〔詩、傳〕「荼—・—也」。
〔葷菜〕くさき菜。〇〔爾、疏〕「爾說文云、—・—也」。
〔蔥菜〕なの名、かぶらのたぐひ。〇〔國〕「菲—・—」。
〔秋菜〕あきの時節のな。〇陸游「行・圃歛・畦—・—長」。
〔蔬菜〕青物。〇〔宋〕「竹・木—・—之屬」。

〔野菜〕前に同じ、又、野生のな。○〔陸游〕「道邊多ニ――ニ。
〔異菜〕めづらしきな。○〔拾遺記〕「多種ニ――ニ。
〔奇菜〕前に同じ。○〔郭璞〕「爰有ニ――ニ。
〔香菜〕かはりぐさ。○〔月令廣義〕「――蘿也」。
〔合歡菜〕菜の名。○〔雜記〕「舜禹有レ菜、四葉相對、夜合晝開名ニ――ニ。

【菝】ハツ、バチ。蒲八切 黠
一種の草、さるとりいばら。

【莉】リ。良脂切 支
地の名。○〔穆天子傳〕「讀ニ書于――丘ニ。黎に通じ用ふ。○〔漢〕「――庶無ニ干戈之役ニ。

【菟】ト、ツ。湯故切 遇
㊀――絲は、一種の草、ねなしかづら。㊁兎に通じ用ふ。○〔漢〕「不レ見ニ伏――ニ。

【菟】ト、ヅ。同都切 虞
於――は、虎の稱。

【菠】ハ。逋禾切 歌
――薐は、一種の菜、はうれんさう。○〔劉禹錫〕「――薐種自ニ西國ニ」。

【荓】ヘイ、ビヤウ。旁經切 青
㊀蓍に似たる一種の草、掃彗につくるべし。○〔爾〕「――馬帚」。㊁しむ、せしむ、(使)。○〔詩〕「――レ云レ不レ逮」。㊂ひく、(曳)。○〔詩〕「莫ニ予――蜂ニ」。

【菢】カク、コク。許角切 覺

草の聲にいふ字。

【菡】カン、ゴン。胡感切 感
芙蕖の華の已に色を含みて未だ開かざるものゝ稱、はちす、つぼみ。○〔吳均〕「折レ――巫山下」。

【菢】ハウ、ボウ。薄報切 號
おほふ、(覆)、又、鳥の卵を抱くにもいふ字。○〔韓愈〕「變化在ニ啄――ニ。

【菣】キン。去刃切 震　ケン。苦甸切 霰
蒿の屬、くさよもぎ、よもぎ。

【菤】ケン、カン。居轉切 銑
――耳は、一種の草、蒼耳に同じ、をなもみ。

【䓛】コツ、コチ。古忽切 月　クツ、コチ。曲勿切 物
はらふ、(刷)。

【菥】セキ、シヤク。先擊切 錫
――蓂は、薺の大いなるもの、おほなづな、おになづな。○〔張衡〕「――蓂芋瓜」。

【菥】シ。相支切 支
蔵――は、燕麥に似たる一種の草。○〔司馬相如〕「蔵――苞荔」。

【菦】キン、ゴン。渠巾切 眞　キン、コン。居隱切 吻　カイ、ガイ。戶代切 隊
一種の菜、せり。

【菧】テイ、タイ。典禮切 薺
根莖共に人參に似たる一種の草、つりがねさう。

【菧】シ。軫視切 紙
――蘵は、小さき苹。

【䓋】シ、ヂ。蒸夷切 支　チ、ヂ。陳尼切 支
つけもの、(菹)。

【菨】セフ。卽葉切 葉
莕――は、水中に叢生して食らふべき一種の草、あさゞ、其の葉は其の莖端に在り。

【菨】
翣に同じ、棺の羽の飾。

【菩】ハイ、ベ。薄亥切 賄
㊀一種の草、ほさけぐさ。○〔齊民要術〕「凡穀田、二月上旬及ニ麻――楊生ニ、種者爲ニ上時ニ。㊁小さき席、むしろ、しさみ。

【菩】ホク、ボク。蒲北切 職
前條の㊁に同じ。

【菩】フウ、ブ。房久切 有
一種の香草、かをりぐさ。○〔周註〕「以ニ――蒭棘柏ニ爲ニ神主ニ。

【菩】ホ、ブ。薄胡切 虞
悟道するを、さとり、(佛家の言)、又、薩の字を見よ。○〔綱目集覽〕「釋典――之爲レ言了也」。

【菪】タウ、ダウ。徒浪切 漾
㊀莨――は、毒液ある一種の草、おにしろぐさ。
㊁水莨――も、毒ある一種の草、うまのあしがた。

【菫】キン、コン。居隱切 吻
一種の香草、すみれ、香氣ある花を開く。○〔禮〕「――荁枌楡」。

【菫】キン、ゴン。渠吝切 震
烏頭、とりかぶと。○〔莊〕「藥也其實――也」。
〔和菫〕毒藥の名。○〔淮〕「蝮蛇螫レ人、傅以ニ――、卽愈」。

【菬】セウ、ゼウ。昨焦切 蕭
草。

【菬】セウ。止少切 篠
――子は、一種の藥。

【菭】チ。澄之切 支
㊀――藸は、きく。㊁水衣、みづごけ。

【菭】
苔に通じ用ふ、こけ。○〔漢〕「華殿塵兮玉階――」。

【蒮】ヨク、ヰキ。雨逼切 職
むらがる、くさむら、(叢)。

【華】クワ、ゲ。戶花切 麻
㊀花に同じ、はな、はなさく。○〔詩〕「灼々其――」。㊁光氣、ひかり。○〔史〕「日月光――兮」。㊂色澤、いろ、つや。○〔禮〕「大夫元――」。㊃彩文、いろどり、もやう。○〔禮〕「――而睆」。㊄修飾、巧致、かざり、さいく。○〔張衡〕「鏗――鐘」。

㊅美なること。○[素問]「――食而脂肥」。
㊆榮ゆること、盛んなること。○[史]「以二繁―一時一」。
㊇はでやかなること、はなやかなること。
㊈內に盈ちて外に發すること。○[國]「貌情之―也」。
㊉容貌、辭氣たちゐ、ふるまひ、やうす。○[晉]「謝-混風―爲二江-左第一一」。
⑪名望。○[南]「此二―職清―一」。
⑫文德。○[書]「重―協二于帝一」。
⑬禮儀、文事。○[後漢]「敷二文―一以緯二國-典一」。
⑭禮文盛んなる地、中國。○[隋]「混二一戎―一」。
⑮外形、虛飾、卽ち、內實の反。○[潛夫論]「志レ道者少レ興、逐レ俗者多レ疇、是以明-黨用レ私背レ實趨レ―」。
⑯髮の白きこと。○[後漢]「――首彌固」。

〔舜華〕木槿のはな。○[詩]「顏如二――一」。
〔春華〕はるにさく花。○[蘇武]「努-力愛二――一」。
〔法華〕佛經の名。○[南]「晝-夜讀二誦――・經一」。
〔氷華〕はちすのはな。○[蘇軾]「――風-葉暮蕭-々」。
〔素華〕白色の花。○[陸機]「玄髮吐二――一」。
〔朱華〕あかいろの花。○[曹植]「――冒二綠-池一」。
〔荷華〕はちすのはな。○[詩]「隰有二――一」。
〔黃華〕きいろのはな。○[禮]「鞠有二――一」。
〔節華〕きくの花。○[爾、疏]「菊-花一名二――一」。
〔女華〕前に同じ。○[本草]「菊-花一名二女-節、一名二――一」。
〔銀華〕しろかねのはな。○[北]「六-品以-上冠-飾二「――」一」。
〔繁華〕物事のさかへてはなやかなること、又、さかりはなさくこと。○[南]「不レ尙二――一」。
〔京華〕都城、みやこ。○[謝靈運]「余游二――一」。
〔物華〕景色。○[杜甫]「且盡二芳-樽戀二――一」。
〔鉛華〕白粉、おしろい。○[曹植]「――不レ御」。
〔月華〕月のひかり。○[江淹]「――始徘-徊」。
〔高華〕名望あること。○[晉]「自負二才-地――一」。
〔名華〕前に同じ。○[舊唐]「雖二――爲二一時冠一」。

〔吐華〕花を生ず。○[中論]「春也―レ―」。
〔採華〕花を摘みとる。○[崔駰]「彼―二其―一」。
〔園華〕そのにさく花。○[白居易]「――雪壓レ枝」。
〔英華〕うるはしきひかり、又、はな。○[禮]「和-順積レ中、而――發レ外」。
〔國華〕國家のひかり。○[國]「吾聞以二德-榮一爲二――一」。
〔榮華〕さかんにさかゆ。○[淮]「有二――一者必有二憔-悴一」。
〔浮華〕實なくしてうはべのうるはしきこと。○[後漢]「勿レ取二――一」。
〔菁華〕はなぶさ。○[舊唐]「論-語者、六-經之――」。
〔芳華〕にほひあるはな。○[白居易]「日-夜減二――一」。
〔年華〕としつき。○[庾信]「――未レ暮」。
〔歲華〕前に同じ。○[蘇軾]「――來-未レ窮」。
〔才華〕才智。○[顏氏家訓]「――不レ爲二妻-子所一レ容」。
〔奢華〕おごりてはなやかなること。○[韓愈]「當レ春天-地爭二――一」。
〔精華〕極めてうるはし、又、はなやかにひかりあり。○[楚辭]「揚二――一以炫-燿兮」。
〔芬華〕はなやかにかゞやく。○[史]「無レ功者雖レ富無レ所二――一」。
〔珍華〕めづらしくうつくし。○[後漢]「服-御――」。
〔中華〕中國といふに同じ。○[元稹]冠-冕――「客」。
〔端華〕正しくうつくし。○[南]「帝姿-貌――」。
〔豪華〕すぐれておほいにさかんなり。○[許渾]「英-雄一去――盡」。
〔閑華〕しづかにしてうるはし。○[南]「淸-止――」。
〔鮮華〕あざやかにうるはし。○[隋]「不レ尙二――一」。
〔窮華〕十分にうるはしきをきはむ。○[隋]「―レ―極レ麗」。
〔豐華〕ゆたかにしてうつくし。○[北]「食-膳――」、
〔纖華〕ほそくうつくし。○[舊唐]「不レ御二――一」。
〔黜華〕はなやかなるをしりぞく。○[舊唐]「會二相-公尙レ右―レ―之日一」。
〔聲華〕ほまれ。○[韋應物]「――滿二京-洛一」。
〔玄華〕頭髮をまもる神の名。○[酉陽雜俎]「髮-神曰二――一」。
〔優華〕すぐれてうるはし。○[徐陵]「莫レ不二――一」。
〔姸華〕うるはし。○[朱熹]「桃-李自――」。

【華】クワ、ケ。呼瓜切 麻

中より裂く、さく。○[禮]「爲二國-君一者―レ之」。

【崋】クワ、ゲ。胡化切 禡

㊀五嶽の一。○[爾]「――山爲二西-嶽一」。
㊁樺に同じ、かば。○[司馬相如]「―楓枰櫨」。

【⿱艹盂】ウ。羽俱切 虞

韭に似たる一種の草。

【⿱艹孟】バウ、ミヤウ。莫更切 敬

バウ、マウ。莫浪切 漾

狼尾草、ちからぐさ。

【菰】コ、ク。古胡切 虞

㊀一種の水草、まこも、其の實米は胡菰(かつみ)又は綠節(こもつの)と稱し食用とすべし。○[柳宗元]「維莞、維蒲、維―、維蘆」。
㊁孤に借り通じ用ふ。○[漢校書碑]「履二――竹之廉一」。

【⿱艹狐】コ、ク。攻乎切 虞

草の多き貌にいふ字。

【菱】

蔆に同じ。

【菲】ヒ。妃尾切 尾　父沸切 未

㊀下濕の地に生ずる一種の草、其の形は蕪菁(かぶら)に似たり、紫赤色の華を開く。○[詩]「采レ葑采レ―」。
㊁うすし(薄)。○[論]「―二飲-食一而致二孝乎鬼-神一」。
㊂いたむ(悵)。○[揚雄]「――愁悵也」。
㊃扉に通じ用ふ、わらぐつ。○[禮]「不レ杖不レ―不レ次」。

【菲】ヒ。芳微切 微

㊀草の茂れる貌にいふ字、又、花の美しき貌にいふ字。○[左思]「暐兮―・―」。○[楚辭]「芳――兮滿レ堂」。
㊁かうばし(香)。
㊂香草、美花。○[庾肩吾]「春-日生二芳-―一」。「黑――」。
㊃亂雜なる貌にいふ字。○[揚雄]「白-――」。
㊄高下の定まらざる貌にいふ字。○[後漢]「志――二于升-降一」。

【⿱艹空】コウ、ク。苦紅切 東

莖の中空なる草。

【⿱艹戾】レイ、ライ。郎計切 霽

蒼艾色(もえぎ)を染むるに用ふる一種の草、かりやす。

【菳】キン、コン。去金切 侵

蒿に似たる一種の草。

【菴】アン、烏含 オン。切 覃　エン、倚廉 オン。切 鹽

㊀―閭は、くさよもぎ。○[司馬相如]「――閭軒-于」。
㊁―羅は、一種の果。○[謝靈運]「希二――羅之芳-園一」。
㊂庵に通じ用ふ、いほり。○[本草]「可三以蓋二覆―閭一」。

【菴】アン、烏紺 オン。切 勘　烏感切 感

おほふ(翳)。○[左思]「茂二八-區一而――藹」。

【⿱艹爭】サウ、シャウ。士耕切 庚

―‐䔱は、草の亂るゝ貌にいふ語。

【菗】シウ、シユ。之由切 尤
葵に似たる一種の草。

【䒽】バウ、マウ。文兩切 養
燕麥に似たる一種の草、みのごめ、其の米を飯となす。

【䕨】カウ。居郎切 陽
葵に似たる葉ありて赤莖白華なる一種の草なりとぞ。

【菶】ホウ、邊孔切 董　ホウ、蒲蒙切 東
茂り盛んなる貌にいふ字、又、實の多き貌にいふ字。○〔詩〕「――萋々」。

【蔕】
帶に同じ。

【菸】ヨ、衣虛切 魚　エン、烏前切 先
しをる、（萎）、くさる、（臭）。○〔宋玉〕「葉―邑而無レ色兮」。

【菸】ヨ、オ。依倨切 御
㊀蔫―は、やぶる、（敗）。㊁臭草、くさきくさ。

【菹】ショ、ソ。側魚切 魚
酢などに生にて漬けたる蔬菜果實、つけもの。○〔禮〕「水草之―」。
〔桃菹〕もゝのみのつけたるもの。○〔禮、疏〕「―――梅菹」。
〔梅菹〕うめぼし。○〔禮、疏〕「桃菹――」。
〔菜菹〕なのつけもの。○〔南〕「而爲レ設二粟飦――一」。
〔芹菹〕せりのひたしもの。○〔賈島〕「軍厨尙二―――」。
〔瓜菹〕うりのつけもの。○〔黃庭堅〕「――已佳節」。

【菹】シヤ、セ。子邪切 麻
草の生ひ茂れる澤。○〔孟〕「驅二龍蛇一而放二之―一」。

【菺】ケン。經天切 先
一種の草、はなあふひ、からあふひ。

【菻】リン、ロン。力錦切 寢
きつれあざみ、（藁蒿）。

【菻】
麻に同じ。

【菼】タン、トン。吐敢切 感
葦の屬、其の莖の中實つ、なぎ。○〔詩〕「毳衣如レ―」。

【菽】シユク、ソク。式竹切 屋
衆豆の總稱、まめ。○〔春秋〕「隕レ霜殺レ―」。
〔啜菽〕まめをくらふ。○〔禮〕「―レ―飮レ水盡二其歡一」。
〔含菽〕前に同じ。○〔漢〕「―レ―飮レ水」。
〔食菽〕前に同じ。○〔蘇軾〕「年々養レ子秋―レ―」。
〔茹菽〕前に同じ。○〔後漢〕「―レ―不レ足」。
〔穀菽〕あはとまめと。○〔唐〕「――不レ種」。
〔禾菽〕前に同じ。○〔地理通釋〕「――彌望」。
〔粱菽〕前に同じ。○〔嵇康〕「食二園池之――一」。
〔麥菽〕むぎとまめと。○〔淮〕「大火中則種二――一」。
〔嘉菽〕よきまめ。○〔張華〕「――垂レ枝」。
〔藜菽〕あかざとまめと。○〔文同〕「共甘者――」。
〔薪菽〕たきゞとまめと。○〔梅堯臣〕「――甘二自刈一」。
〔啖菽〕まめをまきちらす。○〔陸游〕「雨點如レ―レ―」。
〔飯菽〕粟と豆と。○〔蘇軾〕「午飯飽二――一」。

【菾】テン、ドン。徒兼切 鹽
甜味ある一種の菜、たうぢさ。○〔類篇〕「―‐菜治二病熱一」。

【菾】テン。他念切 豔
草木の長じ茂れる貌にいふ字。

【菿】タウ、トウ。刀號切 號
草木の倒るゝにいふ字、たふる。

【菿】タウ、トウ。覩老切 皓
一種の草。

【菿】タク、トク。竹角切 覺
草の大いなる貌にいふ字。○〔韓詩外傳〕「―彼甫田」。

【萀】コ、ク。呼古切 麌
一種の豆、貍豆（ふぢまめ）に似たるもの。

【萅】
蒔に同じ。

【萲】バン、亡梵切 陷　サン、士咸切 咸
メン、ゼン。切
草木蔓蕪す、ある、はびこる。

【萁】キ、ギ。渠之切 支
㊀豆の實を去りたる莖枝、まめがら。○〔漢〕「種二一頃豆一、落而爲レ―」。
㊁萩に似たる一種の草。○〔漢〕「檿弧―服」。
〔豆萁〕まめがら。○〔陸游〕「閑レ爐積二――一」。
〔枯萁〕かれたるまめがら。○〔黃庭堅〕「馬齧二――諠二午枕一」。
〔齕萁〕まめがらをかむこと。○〔方回〕「―レ―老馬厩中聲」。
〔薌萁〕宗廟を祭る米の稱。○〔禮〕「凡祭二宗廟一之禮粱曰二――一」。

【萁】カイ。居開切 灰

一種の木。○〔淮、註〕「取二――木燧之火一」。

【萃】スヰ、ズヰ。秦醉切 寘
㊀草の貌にいふ字。「―止」。
㊁あつむ、あつまる、（聚）。○〔詩〕「有レ鶚―止」。
〔拔萃〕あつまりたるうちよりぬきいづること、卽ち、秀づること。○〔孟〕「―二乎其―一」。
〔出萃〕前に同じ。○〔夏侯湛〕「進不レ能レ拔レ萃――」。
〔鱗萃〕うろこの如くれはくあつまる。○〔宋〕「四海――」。
〔叢萃〕むらがりあつまる。○〔中論〕「賢俊――而不レ迷」。
〔翠萃〕前に同じ。○〔國〕「管子曰、今夫士――」。
〔翕萃〕ありの如くおほくあつまる。○〔宋〕「――畜集」。
〔咸萃〕悉くあつまる。○〔宋〕「百神――」。
〔畢萃〕前に同じ。○〔魏徵〕「鱗羽――」。
〔㑹萃〕あはせあつむ。○〔宋〕請令下禮官――二古今典範一爲中五禮書上」。
〔霧萃〕きりの如く多くにあつまる。○〔潘尼〕「雲―」「蒸――」。
〔雲萃〕くもの如く多くにあつまる。○〔雲笈七籤〕「群賢――」。
〔市萃〕あつまる。○〔蔡襄〕「軍旅――」。

【萃】サイ、セ。七內切 隊
㊂衣のすれあふ聲にいふ字。○〔司馬相如〕「翕呷――蔡」。
㊁倅に通じ用ふ。○〔周〕「車僕掌二戎路之―一」。

【萄】タウ、ドウ。徒刀切 豪
蒲―は、美果を結べる一種の蔓草、ぶだう。○〔魏文帝〕「蒲―石蜜」。

【菝】
茸に同じ。

【萆】ヒ。頻彌切 支
―‐薢は、一種の藥草、さころ、あまどころ。

【萆】蔽に通じ用ふ、おほふ。○[漢]「從二閒·道一ーレ山而望二趙·軍一。

【萆】ヘキ、ピヤク。蒲歷切 錫

【萇】チヤウ、ヂヤウ。直良切 陽

雨衣、あまぎ、一說に、蓑衣、みの。

【萇】羊桃、いらゝぐさ。○[張衡]「薇·蕪蓀ー」。

【萈】クワン、胡官切 寒

山羊の細き角。

【葈】シ。想止切 紙

胡ーは、枲耳、おなもみ。

【⿱艹沓】タフ、トフ。他合切 合

㊀水中に生ずる大葉の草。㊁荷の水を覆ふを。

【萉】ヒ、扶沸切 未 ビ。フン、符分切 文 ボン。

枲の實。

【萉】ヒ、ビ。符非切 微

さく(避)。○[班固]「安·慆·々而不レー兮」。

【萉】蔽に通じ用ふ。○[爾]「突蘆·ー」。

【萞】ヘイ、ハイ。邊兮切 齊

葉は大麻に似たる一種の草、からえ、其れより印肉の油を作る。

【萊】ライ。洛哀切 灰

㊀其の葉食らふべき一種の草、あかざ。○[詩]「北·山有レー」。㊁田畝の耕作廢れたるにいふ字、田畝に雜草生ひしげるにいふ字、ある。○[周]「辨二其夫·家人·民田ーー之數一。㊂生ひしげれる雜草、あれぐさ、又、あれぐさのしげれる地、あれち、くさむら。○[孟]「闢二草ーー任二土·地一者次レ之」。㊃あれ草を除く、のぞく。○[周]「ー二山·田之野一。

〔芟萊〕草をやく。○[周]「凡田·事ー·ーー」。
〔燔萊〕前に同じ。○[鹽鐵論]「ーレー而播レ粟」。
〔蓬萊〕神仙のすめりと稱する海中の山の名。○[山海經]「ー·ー山在二海·中一」。
〔荒萊〕あれたるくさむら。○[賀循]「ー·ー之特·苗」。

【萋】セイ、七稽切 齊 サイ。此禮切 薺

㊀草木の盛んなる貌にいふ字、しげし。○[詩]「卉·木ーー止」。㊁雲の行く貌にいふ字。○[詩]「有レ渰ー·ー」。㊂力を盡くす貌にいふ字。○[爾、釋訓]「藹·々ーー臣盡レ力也」。㊃文章相錯はる貌にいふ字。○[詩]「ー兮斐兮成二是貝·錦一」。㊄敬愼の貌にいふ字。○[詩]「有レー有レ苴」。

【萌】バウ、ミヤウ。莫耕切 庚

㊀きざす。
(い)芽生ず、めざす。○[禮]「天·地和·同草·木ーー動」。
(ろ)始まる。○[莊]「日·夜相二代乎前一而莫レ知二其所ーレー」。
㊁芽蘖、め、めばえ、ひこばえ。○[周]「乃舍二ー于四·方一。
㊂おこり、はじめ、きざし。○[韓]「見レ微以知レー」。「不レ震不レ正」。
㊃動かざる貌にいふ字。○[莊]「ー·乎
㊄たがやす(耕)。○[周]「春始生ーレ之」。
㊅氓に通じ用ふ、たみ。○[戰]「施及二ー·隸一。
㊆あり(在)。○[爾]「存·々ーー在也」。
㊇のぎ(芒)。○[禮]「ー者盡達」。

〔竹萌〕たけのこ。○[蘇軾]「千·里寄二ー·ー一。
〔筍萌〕やたけのたけのこ。○[爾]「筤ー·ー」。
〔邪萌〕よこしまなる心生じ。○[後漢]「非レ所ミ以杜二·塞ー·ー一。「自·堰」。
〔花萌〕おはくの草などのめばえ。○[楊炯]「ー·ー
〔萬萌〕前に同じ。○[鮑昭]「ー·ー迎レ表·達」。

【萠】ベイ、ミヤウ。眉兵切 庚

蕨ーーは、一種の草、いたちさゝげ。

【萍】ヘイ、ビヤウ。旁經切 青

根は地に著せずして水上に浮び生ふる一種の草、うきくさ。○[禮]「ー始生」。

〔浮萍〕うきくさ。○[傅休奕]「ー·ー本無レ根」。
〔白萍〕白魚の異名。○[古今注]「白·魚·子好萍二泳水·上一者、名曰二ー·ー一。
〔細萍〕こまかきうきくさ。○[徐陵]「ー·ー時帶「飲レ散」。樹」。
〔流萍〕ながるゝうきくさ。○[楊炯]「踊二ー·ー一而
〔疎萍〕まばらに生じたるうきくさ。○[王勃]「ー·ー泛レ綠」。
〔雙萍〕ふたつならびたるうきくさ。○[李白]「ー·ー易二飄·轉一。
〔紫萍〕うきくさの一種にして葉のおもて青く背はむらさき色をおびたるもの。○[本草]「一·種而青背紫、謂二之ー·ー一。
〔蘋萍〕うきくさ。○[謝靈運]「ー·ー泛二沈·深一。
〔新萍〕あらたに生じたるうきくさ。○[王融]「ー·ー泛レ沚」。
〔漂萍〕水にたゞよひて場所さだまらざるうきくさ。○[杜甫]「垂·老獨ー·ー」。
〔采萍〕うきくさをとる。○[李華]「ーレー箴·采·綠」。○[韓愈]
〔鷗萍〕うきくさのほとりへかしらを出す。「吽·々魚ーレー」。
〔沼萍〕ぬまに生じたるうきくさ。○[溫庭筠]「鬪·文破二ー·ー一。「是·浪·痕」。
〔粘萍〕うきくさを附着す。○[方干]「岸·木ーレー
〔啄萍〕鳥などのうきくさをついばみくらふこと。○[李咸用]「ーレー客レ餅愈己鬪」。「ー一。
〔枯萍〕かれたるうきくさ。○[蘇軾]「癡·沼粘二ー·
〔綠萍〕こまやかにしげりたるうきくさ。○[趙師秀]「ー·ー妨二下·釣一。

【⿱艹知】チ。珍離切 支

ーー母は、一種の藥草、はなすげ。

【萎】井。於危切 支

㊀草木の衰へ縮むにいふ字、しぼむ、しをる。○[詩]「無二木不ーレー」。㊁衰へ疲る。○[蘇軾]「老·眼欲二枯·ーー一。㊂病む。○[禮]「哲·人其ー乎」。㊃縮む。○[後漢]「ー·腰咋レ舌」。

【萎】井。鄔毀切 紙

ー蕤は、一種の藥草、ゑみくさ。○[韓愈]「ー·蕤綴二藍·瑛一。

【萎】餧に同じ。

【萏】タン、ドン。徒感切 感

菡ーーは。
(い)芙渠、はちす。○[詩]「彼澤之陂有二蒲菡ーー一。
(ろ)艶華の貌にいふ字、はなやか。○[杜甫]「雲菡ーー以張レ蓋」。

【萐】サフ、セフ。山洽切 洽

ー蒲は、一種の瑞草をいふ。

【萑】スヰ。職追切 [支]
㊀草の多き貌にいふ字。
㊁一種の草、めはじき、やくも。
㊂未だ漚さゞる枲、からむし。

【萑】クワン。胡官切 [寒]
㊀をぎ（薍）。○〔詩〕「八月——葦」。
㊁涙の流るゝ貌にいふ字。○〔漢〕「涕-泣流兮——蘭」。
㊂鴟の屬。

【莆】フ、ホ。符遇切 [遇]
藥草。

【莃】莃に同じ。

【菸】エン。以轉切 [霰]
一種の草。

【菨】ケン、ゲン。渠篆切 [銑]
やはらか（耎）。

【萊】リヤウ、ラウ。里養切 [養]
一種の草。

【萠】ベン、メン。莊殄切 [銑]
㊀たひらか（平）。㊁あたる（當）。
㊂明かならんと欲す、あけかゝる。

【萯】バン、マン。莊盤切 [寒]
穿孔なき貌にいふ字、あななし。

【萱】ギ。魚羈切 [支]
—萬は、一種の草、わすれぐさ、即ち、鹿蔥、くわんざう。

【莓】バイ、メ。毋亥切 [賄]
其の實は桑椹の如き一種の草。

【蔃】莓に同じ。

【萗】ボウ、モウ。彌登切 [蒸]
くさある（薉）。

【菀】クツ、許物切 [物] コツ、クチ。呼骨切 [月]
さし、はやし（疾）。

【菔】キヨク、ケキ。紀力切 [職]
前條に同じ。

【萵】萵に同じ。○〔柳宗元〕「一日不レ—」。

【萆】キウ、ク。居休切 [尤]
秦——は、一種の藥草、はかりぐさ。

【萕】俗の薺の字。

【菉】秉に同じ、いなたば。○〔齊民要術〕「芒張—黃」。

【萩】ドウ、ノウ。乃冬切 [冬]
たがやす（耕）。

【萛】キウ、ク。居幽切 [尤]
草相糾る、よれあふ。

【萯】若に同じ。○〔古周易〕「出レ涕沱——」。

【莍】ヒ。敷飢切 [支]
花盛んなり。

【萛】典に同じ。○〔漢〕「言不レ失二——實一」。

九畫

【萩】シウ、シユ。七由切 [尤]
㊀よもぎ、くさよもぎ（蕭）。○〔左〕「秦周伐二雍-門之——一」。
㊁楸に通じ用ふ、ひさぎ。○〔管〕「——レ室熯レ造」。

【萩】セウ。子遥切 [蕭] 子小切 [篠]
或は菽に作る、人の名。○〔穀梁〕「使二——來聘一」。

【萪】クワ。苦禾切 [歌]
㊀一種の草、海葱。㊁藤の類、とう。

【萩】カウ、コウ。虛到切 [號]
草木の葉を以て田に糞するを。

【萩】バウ、モウ。莫報切 [號]
草の覆ひ蔓るにいふ字、はびこる。

【萩】ボウ、莫候切 [宥] バウ、莫老切 [晧] モウ。ム。
細き草叢生す、むらがる。

【萫】キヤウ、カウ。許亮切 [漾]
芼羹、なのあつもの。

【萬】バン、マン。無販切 [願]
㊀蜂の異名。○〔埤雅〕「蜂一名——、蠤蜂-類衆-多動以レ萬計」。
㊁よろづ。
（い）数の名目、千の十倍。○〔漢〕「長二于百一大二于千一衍二于——一」。
（ろ）多數の義にいふ字。○〔易〕「——國咸寧」。
㊂よろづのもの。○〔荀〕「以レ一行レ——」。
㊃よろづたび、又、よろづたび倍するを。○〔孟〕「或千——」。
㊄一種の舞、殷湯の創めしもの。○〔周〕「——也者干-戚之舞也」。
〔振萬〕身をうごかし舞ふ。○〔宋〕「——方明レ德」。
〔萬々〕（い）非常に多數なるを。○〔漢〕「治陵歲費且二——一」。
（ろ）とても、十分に。○〔韓愈〕「况——無二此理一」。
〔對萬〕萬人に匹敵す。○〔韓〕「千可レ以——レ」。
〔直萬〕萬錢にねうちす。○〔漢官紀聞〕「直二千——一」。

【萬】ウ。王矩切 [麌]
㊀草。㊁楀に同じ。

【萬】ク。恭于切 [虞]
車輪の曲がりたるを正す器。○〔周〕「——レ之以眡二其匡一」。

【萮】ユ。羊朱切 [虞]
莒——は、花の貌にいふ語。

【萮】ユ。勇主切 [麌]
——茈は、木耳、きくらげ。

【萮】トウ、ヅ。徒侯切 [尤]
一種の草。

【萯】フウ、ブ。房久切 [有] フ、ボ。符遇切 [遇] ハイ、ベ。蒲昧切 [隊]
王——は、草藜、からすうり。

【蒹】レン。郎甸切 [霰]
㊀白蘞、やまかゞみ。
㊁青く盛んなる貌にいふ字。○〔郭璞〕

「涯灌ニ芊ーー」。

【萱】ケン、クワン。況袁切 元
忘憂草、わすれぐさ、即ち、くわんざう、鹿葱、又、妊婦其の花を帶ぶれば必ず男を生むといふより宜男ともいふ。○〔杜甫〕「堂後自生レー」。
〔樹萱〕わすれぐさをうゝ。○〔晏殊〕「忘レ憂ーレー」。
〔紫萱〕わすれぐさの異名。○〔述異記〕「萱草一名ニーーー」。
〔背萱〕前に同じ。○〔謝朓〕「ーー鮮ニ於堂北ニ」。
〔叢萱〕むらがり生じたるわすれぐさ。○〔李白〕「滿院羅ニーーニ」。

【葼】萱に同じ。○〔王應麟詩攷〕「爲得ニーー草ニ」。

【萳】ダン、ナン。怒感切 感
草の長くて弱き貌にいふ字。

【萳】ダン、ナン。那含切 覃
一種の草。

【萴】ショク、ソク。阻力切 職
一種の藥、そくし。○〔鹽鐵論〕「如ニ食レー之充レ腸」。

【茵】イン。伊眞切 眞
ー蔯は、一種の香草、かはらよもぎ。

【萵】ワ。烏禾切 歌
㊀ーー苣は、一種の菜、ちさ。○〔杜甫〕「ーー苣向ニーー旬ニ」。
㊁毒ある菜の名。○〔續博物志〕「ーーー菜出ニ萵國ニ、有レ毒、百蟲不ニ敢近ニ」。

【萅】シュン。尺尹切 軫
㊀草春に生ず、はゆ。㊁おす、(推)。㊂まじる、(雜)。

【萷】セウ。思邀切 蕭
㊀草木の花葉落ちて蕭疎なる貌にいふ字、さびし、まばら。○〔宋玉〕「ー蕭槮之可レ哀兮」。
㊁草木の茂れる貌にいふ字。

【萷】サウ、セウ。師交切 肴 サク、ソク。色角切 覺
枝の聳え擢づるにいふ字。○〔漢〕「紛ー溶ーー蔘」。

【萸】ユ。以主切 麌
百ーは、一種の草。

【萹】ヘン。布玄切 先 方典切 銑
ーー竹は、地に布き生じ其の節に白き花ある一種の草、うしくさ。

【萹】ヘン、ベン。蒲眠切 先
ー蓄は、草木の動く貌にいふ語。

【萻】アン、オン。烏含切 覃
野の草。

【萼】ガク。五各切 藥
花のうてな、はなぶさ、はな。○〔晉〕「春華發レー」。
〔紅萼〕くれなゐのはなぶさ。○〔白居易〕「雨多ーー稀」。
〔素萼〕白きはなぶさ。○〔陸機〕「秋風搖ニーーーニ」。
〔冬萼〕ふゆの花。○〔易林〕「秋花ーーー」。
〔蘂萼〕花のしべとはなぶさと。○〔宣和畫譜〕「以ニ其枝葉ーーーニ」「ー挺レ蒂」。
〔頳萼〕あかきはなぶさ。○〔張協安石榴賦〕「ーーー」。
〔朱萼〕前に同じ。○〔束晳〕「白華ーーー」。
〔絳萼〕あかきはなぶさ。○〔趙師俠〕「ーーー襯ニ輕紅ニ」。
〔翠萼〕みどりのはなぶさ。○〔江淹〕「標レ葉ーーー」。
〔紫萼〕むらさき色のはなぶさ。○〔梁簡文帝〕「迴風舒ニーーーニ」。
〔妖萼〕うつくしきはなぶさ。○〔蕭子雲〕「黃鶯對ニーーーニ」。
〔香萼〕にほひあるはなぶさ。○〔杜安世〕「紅蠟鏤成ーーー潤」。
〔萬萼〕れはくのはなぶさ。○〔楊基〕「千花ーーー委ニ輿埃ニ」。
〔千萼〕前に同じ。○〔白居易〕「努レ碧排ニーーーニ」。

【落】ラク。歷各切 藥
㊀おつ。
(い)草木の衰謝するにいふ字、おぼむ、かる。○〔禮〕「草木零ーー、然後入ニ山林ニ」。
(ろ)降下す、くだる、さがる。○〔家語〕「向有レ爆ーニ甑中ニ」。
(は)くだりて下に著く。○〔晉〕「嘗使レ書レ扇筆誤ーー、因畫ニ烏駮牸牛ニ甚妙」。
(に)廢す、すたる。○〔梁武帝〕「頃因ニ多難ー、治綱弛ーーー」。
(ほ)脫す、ぬく。○〔漢〕「髮齒墮ーー、血氣衰微」。
(へ)歿す。○〔書〕「帝乃殂ーー」。
(と)歸す。○〔晉〕「中原之鹿、未レ識レーニ誰手ニ」。
(ち)おちぶる、さすらふ、おちいる。○〔唐〕「流ーー變遷」。
(り)剝ぐ。○〔李邕〕「苔蘚剝ーー、雨露淋漓」。
㊁おちしむ、おとす(㊀の條參照)。○〔莊〕「無レーニ吾事ニ」。「ー如レ石」。
㊂相入れざる貌にいふ字。○〔老〕「ーー
㊃廓大なる貌にいふ字、おほいなり、ひろし。○〔晉〕「大丈夫行レ事當ニ礌々ーー如ニ日月皎然ニ」。
㊄稀疎なる貌にいふ字、あらし、さびし。○〔歎逝賦〕「親ーーー而日稀」。
㊅宮室のできあがりたるさきに行ふ儀式。○〔左〕「楚子成ニ章華之臺ニ、願與ニ諸侯ーーレ之」。
㊆成りたる鐘に猳豬の血をぬること。○〔左〕「饗ニ大夫ニ以ーレ之」。
㊇はじむ、はじめ、(始)。○〔詩〕「訪予ー止」。
㊈藩籬、まがき、かき、かこひ。○〔莊〕「削格羅ーー罝罘之知多、則獸亂ニ于澤ニ」。
㊉人の聚居する所、むら、さと。○〔後漢〕「躡ニ冒頓之區ーーニ」。
⑪杯圈に作る一種の木、あきにれ。○〔爾疏〕「欀一名ー」。
⑫絡に通じ用ふ、まとふ。○〔莊〕「ーニ馬首ニ穿ニ牛鼻ニ」。
〔凋落〕しぼむこと、おちぶるゝこと。○〔詩、疏〕「常無ニーーーニ」。
〔黃落〕草木の葉などの枯れおつること。○〔禮〕「季秋之月、草木ーーー」。
〔籬落〕まがき。○〔應璩〕「ーーー高峻」。
〔藩落〕前に同じ。○〔柳宗元〕「ーーー隔ニ烟火ニ」。
〔廓落〕氣象のひろくおほいなるにいふ語。○〔李白〕「ーーー青雲心」。
〔部落〕民族のあつまりむれをなしたる所。○〔史、註〕「匈奴ーーー名」。
〔種落〕前に同じ。○〔魏〕「各還ニーーーニ」。
〔村落〕むらざと。○〔白居易〕「閒行遶ニーーーニ」。
〔里落〕前に同じ。○〔後漢〕「ーーー化ニ其仁讓ニ」。
〔邑落〕前に同じ。○〔北〕「ーーレ各自有レ長」。
〔牢落〕さびしきこと、又、まばらにしてまれなること。○〔魏都賦〕「臨睨ーーー」。
〔振落〕ふるひおとす、又、おちたる葉などをふるふこと。○〔張華〕「涼風ーーー」。
〔聚落〕人家の群れをなしたる村里。○〔後漢〕「參差ーーー」。
〔磊落〕こゝろおほきくして細事にかゝはらざること。○〔文心雕龍〕「ーーー以使レオ」。

〔解落〕はなれおつ。○〔淮〕「季-夏行二春-令一則穀-實一-一」。
〔[illegible]落〕さツぱりとして俗氣なし。○〔宋〕「泊風-霽一-一」。
〔擺落〕はらひおとす。○〔白居易〕「一-一如二泥-塵一」。
〔飄落〕かぜにゆれおつ。○〔江淹〕「泣二蕙-草之一-一」。
〔[illegible]落〕おとろへほろぶ。○〔李白〕「溟-風未二一-一」。
〔缺落〕かけおつ。○〔白居易〕「齒-牙未二一-一」。
〔遺落〕(い)ぬけおつ、又、すつ。○〔禮、疏〕「明-詩有二一-一也」。(ろ)のこりたるむらざと。○〔于部〕「邑有二一-一」。
〔枯落〕かれおつ。○〔諸葛亮〕「遂成二一-一」。
〔刊落〕けづりおとす。○〔後漢〕「故其書一-一不レ盡」。
〔擯落〕しりぞく　○〔謝靈運〕「懺-然有下一-一榮-華一、兼二濟物-我一之志上」。
〔萎落〕花などしぼみおつ。○〔晉〕「五-六日而一-一」。
〔頹落〕かたぶきてくづれおつ。○〔晉〕「有-數-枚一-一敎」。
〔脫落〕すて去る、又、ぬけおつ。○〔晉〕「一-一二-一名-」。
〔[illegible]落〕はげてぬけおつ。○〔南〕「髮-皆一-一」。
〔黜落〕しりぞけて登せず。○〔唐〕「謀レ爲二一-一之計一」。
〔豁落〕ひろくおほいなり。○〔李白〕「七-元-洞一-一」。
〔[illegible]落〕涙などたれおつるにいふ語。○〔北征賦〕「泫一-一而霑レ衣」。
〔崩落〕くだけちる。○〔王粲〕「草-木爲レ之一-一」。
〔頹落〕くづる。○〔韓愈〕「堂-階一-一」。
〔褰落〕ぬき去る。○〔韋應物〕「冠-帶亦一-一」。
〔撲落〕うちおとす。○〔成彥雄〕「滿-窓一-一銀-蟾影」。

〔[illegible]〕エイ、ヤウ。怡成切 庚　かはらよもぎ、(薊)。

〔[illegible]〕テン、ドン。徒兼切 鹽　藥草、くすりぐさ。

〔萿〕クワツ、クワチ。古活切 曷　㊀其の葉は舌に似たる一種の草、春に生ず。㊁獨一一は、一種の藥草、しゝうど。

〔萿〕クワツ、クワチ。戸活切 曷　萿一一は、一種の瑞草、さるとりいばら。○〔揚雄〕「攢二并-閭與二茇-一一兮」。

〔[illegible]〕ヒ、ビ。房脂切 支　くさよもぎ、(蒿)。

〔葁〕俗の薑の字。

〔[illegible]〕シ。矧視切 紙　くそ、(糞)。

〔[illegible]〕蕑に同じ。

〔葂〕ベン、マン。武遠切 阮　人の名。

〔[illegible]〕セキ、ジヤク。秦昔切 陌　㊀一一菇は、くわゐ、烏芋。㊁一種の菜。

〔葃〕サク、ザク。在各切 藥　前條の㊀に同じ。

〔葄〕ソ、ズ。存故切 遇　㊀水芋、くわゐ。㊁しく、(藉)。○〔唐〕「一二枕圖-史一」。

〔[illegible]〕蒩に同じ。

〔[illegible]〕菹に同じ。

〔蒩〕サ、セ。側加切 麻　楚葵、せり。

〔[illegible]〕ソ、ス。總古切 麌　苴。

〔[illegible]〕菹に同じ。

〔葆〕ハウ、ホウ。補抱切 皓　㊀草木の叢り生ふる貌にいふ字、しげる、むらがる、又、叢り生ふる草木、おどろ、いばら。○〔漢〕「頭如二蓬一一、勤-苦至矣」。㊁車蓋の邊に垂れ又は旗竿の頭に樹つる鳥羽、又、鳥羽を垂れたる車蓋、鳥羽を樹てたる旌旄。○〔張衡〕「垂二翟一一」。㊂秀穗、ほ、又、孽苗、ひこばえ。○〔元倉子〕「得レ時之稻莖一一長」。㊃ほむ(褒)。○〔禮〕「不レ樂二一一大一」。㊄やすし、やすんず(安)。○〔呂氏春秋〕「是之謂二五-藏之一一」。㊅たひらか(平)。○〔素問〕「從-容之一」。㊆薮、又、菜。○〔史〕「主二一-旅事一」。㊇藏す、かくす、つゝむ。○〔莊〕「此之謂レ一レ光」。㊈褓に通じ用ふ、むつき。○〔史〕「成-王少在二襁一之中一」。㊉寶に通じ用ふ、たから。○〔史〕「見二穀-城山下黃-石一、取而一二祠之一」。⑪堡に通じ用ふ、とりで。○〔史〕「侵二盜上-郡一-塞一」。
〔蓬葆〕よもぎのさかんに茂りたるにいふ。○〔蔡邕〕「首如二一-一」。
〔羽葆〕五色のはねをあつめて作りたる幢。○〔漢〕「金-埵一-一」。
〔旄葆〕はたほことはたおるしと。○〔郎元佑〕「鮮-整一與レ一」。
〔葆々〕くさのしげる貌にいふ語。○〔博雅〕「一-一茂也」。
〔幡葆〕はたおるし。○〔西京雜記〕「如レ飛二一-一」。
〔[illegible]葆〕はたさきのやまどりの羽かざり。○〔西京賦〕「華二一-一飛-翠旗一」。
〔叢葆〕草のむれしげりたるをいふ。○〔宋濂〕「孤-峯出二一-一」。

〔[illegible]〕ハウ、ホウ。博毛切 豪　ひろし、(廣)。

〔[illegible]〕サイ、ゼ。鋤佳切 佳　一一胡、のぜり。

〔葇〕ジウ、ニユ。而由切 尤　㊀橭一一は、小き蘇、しそ、のらえ、いぬえ。㊁石-香一一は、一種の草。

〔[illegible]〕ジウ、ニユ。忍九切 有　切らざる菜。

〔葈〕シ。想止切 紙　胡一一は、枲耳、おなもみ。

〔葉〕エフ。與涉切 葉　㊀草木の莖枝に生ずる扁形のもの、は。○〔詩〕「苑有二菀一一」。㊁はの狀をなすものにいふ字。○〔禮、註〕「執レ箕膺レ一」。㊂支末、すゑ、わかれ。○〔謝莊〕「神一一靈-條爰自二帝堯一」。㊃時代、よ。○〔詩〕「昔-在中-一」。㊄書册の牒、ふだ、かみ。○〔宋〕「必指二卷如册一一所レ在」。㊅あつむ、あつまる、(聚)。
〔落葉〕おちば。○〔宋〕「龍-艘生二于一-一」。
〔墜葉〕前に同じ。○〔謝靈運〕「送二一-一于秋-宴一」。
〔枝葉〕草木などのえだとはと、又、かりて物の本よりわかれ出でたる末にいふ語。○〔詩〕「一-一未レ有レ害」。

（荷葉）前に同じ。○〔陶潛〕「ー・ー自摧折」。
（翠葉）みどりのは。○〔漢〕「揚二ー・ー一抗二紫莖一」。
（碧葉）前に同じ。○〔白居易〕「ー・ー風來自有レ情」。
（累葉）かさなりたるはのと、又、累世の義に用ふ。○〔後漢〕「耿氏ー・ー以二功名一自終」。
（奕葉）前に同じ。○〔唐〕「ー・ー忠貞」。
（上葉）むかしの時代をいふ。○〔齊〕「勵二華弘一風于ー・ー」。
（玉葉）たまのは、又、金枝或は金柯の語を加へて帝王の子孫を稱するに用ふ。○〔梁簡文帝〕「ー・ー散二秋影一」。「如レ掌」。
（紅葉）あかきは。○〔酉陽雜俎〕「有二ー・ー一大
（槁葉）かれば。○〔潘岳〕「ー・ー夕隕」。
（枯葉）前に同じ。○〔後漢〕「猶下以二烈風一掃中彼ー・ー上」。「風」。
（細葉）こまかきは。○〔李商隱〕「ー・ー輕陰滿座
（纖葉）前に同じ。○〔蔡珪〕「ー・ー斜橫蜀柳條」。
（庇葉）はをおほ ひまもる。○〔中記〕「是所レ謂ー二其ー一而傷二其枝一者也」。
（末葉）末代といふに同じく後胤をいふ。○〔盧思道〕「周氏ー・ー、仍値二醉王一」。
（花葉）はなとはと。○〔晉〕「分二其ー・ー一」。
（來葉）將來の時代。○〔唐〕「永貽二範于ー・ー一」。
（嚼葉）はを口にふくみてうそぶく。○〔舊唐〕「ー・ー銜レ葉而嘯、其聲清震」。
（丹葉）あかきは。○〔江淹〕「或採二ー・ー一、或拾二翠條一」。
（絳葉）前に同じ。○〔吳均〕「ー・ー淩二朱臺一」。
（根葉）ねとはと、轉じて本と末との義に用ふ。○〔權德輿〕「澤流二ー・ー一」。
（陳葉）ふるきくされたるは。○〔柳宗元〕「掃二ー・ー一排二腐木一」。「輕」。
（燥葉）かわきたるは。○〔陳後主〕「波中ー・ー
（故葉）ふるは。○〔張正見〕「霜飛二ー・ー一」。
（墜葉）おちばの上をふみあゆむ。○〔溫庭筠〕「寒階ーレー行」。
（步葉）前に同じ。○〔王勃〕「ーレー下二清溪一」。
（貞葉）いつもあをくとしてちらざるは。○〔蔡知之〕「寒竹有二ー・ー一」。
（醜葉）うつくしからざるは。○〔李白〕「枯枝無二ー・ー一」。

（衰葉）生氣なきは。○〔崔塗〕「ー・ー墮レ無レ時」。
（霜葉）しもにふれて黃紅の色をあらはしたるは。○〔劉長卿〕「靑楓ー・ー稀」。
（腐葉）くされたるは。○〔盧綸〕「ー・ー塡二荒轍一」。
（勁葉）やはらかならざるは。○〔劉操〕「疾風摧二ー・ー一」。
（乾葉）生氣なくかわきたるは。○〔黃庭堅〕「ー・ー落成レ陣」。「ー」。
（露葉）つゆをおびたるは。○〔蘇軾〕「寒光翻二ー・ー一」。
（繁葉）しげりたるは。○〔包佶〕「ー・ー彩禽棲」。
（濃葉）前に同じ。○〔李遠〕「碧梧ー・ー覆二西廊一」。
（庭葉）にはの樹木のは。○〔李中〕「夕風ー・ー落」。
（清葉）つみかさなりたるは。○〔張公藥〕「掃二涼村蕫蟜一」。「秋先覺」。
（蠹葉）蟲のくひたるは。○〔陸游〕「衰如二ー・ー一」。
（合歡葉）夜分に至り二つに合ふは。○〔本草〕「ー一名二合昏一、其ー至レ暮即合、故云二合昏一」。

【葊】古文の菴の字。

【葽】蕎に同じ。

【䕤】ト、ヅ。徒故切 遇
香草、かをりぐさ。

【葋】ク、コ 其俱切 虞
ー芋は、一種の草。

【葌】カン、ケン・居顔切 刪
茅の屬、かや。○〔山海經〕「吳林之山、其中多二ー草一」。

【葍】フク、ホク。方六切 屋
だいこん（蕾）。○〔詩〕「言采二其ーー一」。

【葎】リツ、リチ。呂卹切 質
莖に細刺ある一種の草、むぐら。○〔本草〕「ーー草莖有二細刺一」。

【葏】セン。子仙切 先　セイ、ショウ。咨盈切 庚
草の茂れる貌にいふ字。

【葐】フン、ボン。符分切 文
盛んなる貌にいふ字。○〔左思〕「ー・ー菡以翠微」。

【葐】ホン、ボン。步奔切 元
蔽ーー一に覆ーは、莓の一種、なついちご。

【葑】ホウ、フ。府容切 冬
蔓菁、かぶら。○〔詩〕「采レー采レ菲」。

【葑】ホウ、フ。芳用切 宋
菰の根、一說に、前條に同じ。

【葒】葓に同じ。

【葓】コウ、グ。戸公切 東
蘢古、おほけたで。○〔北〕「造二荻ー一覚二數里一以塞二船路一」。

【葔】コウ、グ。戸鉤切 尤
ー莎は、はますげ。

【葂】エイ、エ。以芮切 霽
草の生ずる貌にいふ字、又、草初めて生ず、めざす。○〔左思〕「鬱兮ー茂」。

【葕】エン。延面切 霰
はびこる（蔓）。

【䓘】コン。胡墾切 阮
著に似たる一種の草、青白の花を開く。

【蒫】サ、ゼ。鋤加切 麻
水中の浮草、うきぐさ。

【葖】トツ、ドチ。徒骨切 月
すゞしろ、だいこん、蘆菔。

【著】チョ、ト。陟慮切 御
㊀明顯す、あらはる。○〔中〕「形則ー」。
㊁あらはす。
（い）あらはれしむ、あきらかにす。○〔周註〕「書二其買一而ー二其物一」。
（ろ）立言す、つくる。○〔漢〕「更議ーレ令」。
（は）圖錄す、志るす。○〔淮〕「皆ー二於明堂一」。
㊂あらはれて隱れなし、あきらか、いちぢるし。○〔史〕「形則ーー」。
㊃おもふ（思）。○〔禮〕「致レ愨則ー」。
㊄貯に通じ用ふ、たくはへ。○〔家語〕「子貢廢レー、鬻二財於曹魯之閒一」。
㊅門屛の閒。○〔詩〕「俟二我乎ー一乎而」。
㊆位次、くらゐ。○〔左〕「不レ廢二君命一固有レー」。
（明著）あきらか。○〔晉〕「功勳ー・ー」。
（昭著）前に同じ。○〔南〕「若斯ー・ー」。
（論著）論說をあらはし紀述す。○〔漢〕「皆通所ー・ー也」。
（光著）すぐれていちゞるし。○〔後漢〕「功效ー・ー」。
（兼著）いちゞるしくあらはる。○〔後漢〕「崇近事ー・ー」。「ー」。
（顯著）あきらかにいちゞるし。○〔後漢〕「絲絲ー・ー」。
（彰著）前に同じ。○〔晉〕「深忠ー・ー」。
（素著）ひごろよりあらはる。○〔後漢〕「且忠孝ー・ー」。
（累著）たかくいちゞるし。○〔後漢〕「勳庸ー・ー」。
（流著）廣くあらはる。○〔魏〕「恩信ー・ー」。
（弘著）前に同じ。○〔晉〕「徽猷ー・ー」。

〔遠著〕はるか遠きところまであらはる。○〔魏〕「威-名一・一」。「蓋一・一」。
〔浴著〕いづくまでも附くあらはる、○〔蜀〕「則-仁-
〔昭著〕あきらかにあらはす。○〔南〕「一一清-繪」。

【著】チヤク、ヂヤク。直略切 藥

㊀つく。
(い)附接す、あふ、あはす、すりつく、ちかづく。○〔周〕「眡二其一一欲二其淺一也」。
(ろ)こゞまりて移らず、又、こゞめて移さず。○〔漢〕「身-毒-國在二太-夏東-南一其俗土一・一」。
(は)益す。○〔風俗通〕「因取二奇-言怪-語、附二一一之耳」。
(に)屬す。○〔詩、箋〕「天之大-命又附二一于女、使レ爲二政-教二」。
(ほ)施す。○〔論衡〕「凡可二憎-惡一者、若下濺二墨-漆一附中一一人-身上」。
㊁おく(置)。○〔吳越春秋〕「從レ陰收一」。
㊂殷の時の尊、さかだる、其の底をぢかに地におきたるよりいふ。○〔禮〕「一一殷尊也」。

〔地著〕土地に附きて離れ去らず、又、農によりて業をたつ。○〔漢〕「一・一爲レ本」。
〔沈著〕おちつきて輕躁ならず。○〔范成大〕「意-象頓一・一」。
〔住著〕とゞまりつく。○〔鄭常〕「僧-家無二一・一二」。
〔懸著〕たかきところにかけおく。○〔論衡〕「今-縣-鼓無レ所二一・一二」。「輻-也」。
〔黏著〕ねばりつく。○〔周、註〕「謂二泥不一レ一二一」。
〔汚著〕きたなく附く。○〔禮、疏〕「恐レ有二殺-粒一二一之也」。「也」。
〔縫著〕ぬひつく。○〔儀、註〕「緯謂レ一二一於武」。
〔懸著〕ふゞめよす。○〔魏、註〕「不レ如下待二其來攻一、一・一泗-水中上」。
〔縛著〕つなぎつく。○〔淨住子〕「恩-愛一一・一」。
〔帖著〕はりつく。○〔南史〕「一二一菊-枕二」。
〔愛著〕他の物に對しいつくしみの離れざること。○〔淨住子〕「種-々一・一」。
〔纏著〕前に同じ。○〔韓愈〕「引非レ所二一・一一」。
〔膠著〕かたくかたまり附く。○〔易林〕「一・一未レ而」。
〔激著〕ふれあたる。○〔水經、註〕「一二一樹-木二」。
〔沈著〕心の物にかたくかたまりつく。○〔雲笈七籤〕「栄生一・一」。

【著】チヨ、ヂヨ。直餘切 魚

㊀一一雍は、太歳の戊にあるを。
㊁荎一一は、されかづら(蒔)。

【著】チヤク。陟略切 藥

㊀つく。
(い)衣服を被る、きる。○〔禮、疏〕「童-子體、不レ宜レ一一レ裘」。
(ろ)禮に結束す。○〔晉〕「一二軟-材平-底木-屐二」。
㊁衣服、きもの。○〔韓詩外傳〕「褐-衣編一一」。「三一・一」。
㊂奕子を下すを。○〔范成大〕「看長棋」。
㊃動作を表する助字。○〔嘉話錄〕「韓-愈與二崔-大-羣一同-年、往-還二-十-餘年、不三會共說二一文-章二」。「醉-眠」。

〔倒著〕さかさまに被る。○〔仇遠〕「一二一烏-巾-且」。
〔衣著〕きもの、又、きものきる。○〔楊萬里〕「施二添一一試二春-寒二」。
〔結著〕むすびつく。○〔晉、註〕「而一二一之也」。
〔裝著〕きものをきかざる。○〔義山雜纂〕「杜-甫有二疋-帛一不二一・一二」。

【菽】チ。陟利切 寘

草大いなり。

【萸】ゼン、チン。而兗切 銑

木耳、きくらげ。

【菑】シ。側持切 支

㊀耕さゞる田、あれ草の生ひたる田、あれ草塞がり生ふる地を開拓して未だ種まきをなさゞる田、あれち、あれた。○〔詩〕「于二此一一畝二」。
㊁あれ地を開拓す、ひらく。○〔易〕「不二一一畬二」。

【葙】シャウ、サウ。息良切 陽

青一一子は、のげいとう。○〔齊民要術〕「一一根以爲レ葅香辛」。

【⿱艹是】シ、ジ。常支切 支

一一母は、ますげ。

【葚】シン、ジン。時鴆切 寢

桑實、くはのみ。○〔晉〕「桑一一甜-甘」。

【⿱艹軌】キ。矩鮪切 紙

香草。

【⿱艹吾】フ。芳無切 虞

一一菸は、花の貌にいふ語。

【葛】カツ、カチ。居曷切 曷

㊀地にはえ延び又は物に纏ひ繞れる莖枝、つる、かづら。○〔易〕「困二于一一藟二」。
㊁一種のつる草、くず、其の纖維にて絺綌を織る。○〔詩〕「一一之覃兮」。
㊂くずの纖維にて織りたるもの、かたびら、くずぬの、ぬの。○〔漢〕「夏-日一一衣、冬-日鹿-裘」。

〔膠葛〕(い)驅り馳する貌にいふ語。○〔司馬相如〕「雜-遝一・一以方馳」。(ろ)上り揺むれ。○〔漢〕「猟二一・一二」。
〔裘葛〕冬期に服するかはごろもと夏期に被る葛布のきものと。○〔柳貫〕「一・一屢遷レ年」。
〔宮葛〕王佐の才略ありたる管仲と諸葛亮と。○〔李白〕「自言一・一竟誰許」。
〔冶葛〕一に胡蔓草と名づくる毒草の名。○〔南方草木狀〕「一・一毒-草也」。「一作秋衣二」。
〔蕉葛〕芭蕉布を織る原料。○〔馬祖常〕「家-々一・一
〔山葛〕くずといふつるくさ。○〔楊萬里〕「一・一棠-梨-花-映-時二」。
〔食葛〕前に同じ。○〔左思〕「一・一香-茅」。
〔煮葛〕くずをにる。○〔詩、疏〕「一レ一以爲二絺-綌二」。
〔搠葛〕葛に似たるつるくさにしてふしあるもの、一に鼠尾とも虎葛ともいふ。○〔蜀〕「拔二一・一二」。
〔細葛〕ほそき葛布。○〔周禮〕「一・一如レ長汗如レ雨」。
〔練葛〕あらく織りたる葛布、○〔陳基〕「輕-帢-換一・一二」。「上二歙-纖二」。
〔蘢葛〕くずかづらをつかみひく。○〔袁高〕「一レ一」。
〔挽葛〕前に同じ。○〔梁宣帝〕「餓-擎二藤而一レ一」。
〔緻葛〕こまかきくずかづら、又、細き布。○〔潘年〕「幽谷茂二一一二」。「一・一」。
〔修葛〕長く生じたるくずかづら。○〔陸機〕「弱-蘿-兮」。
〔瓜葛〕うりのつる、轉じて、えんつゞき。○〔晉〕「相與有二一・一二」。

【葜】カツ、ケチ。苦轄切 黠

菝一一は、さるとりいばら。

【葝】ケイ、ギヤウ。渠京切 庚

㊀山中に生ずる薤、やまにら。
㊁鼠尾、たむらさう。

【⿱艹昜】チヤウ。褚羊切 陽

枝々相値たり葉々相當たれる一種の草。

【⿱艹昜】ヤウ。余章切 陽

一種の草。

【⿱艹昜】タウ。吐郎切 陽

蕩に同じ。

【葛】 蕩に同じ。○〔漢〕「儻一一不二自收-斂一」。

【葞】 ビ、ミ。綿婢切 紙 一種の草、はるむぎ。○〔爾〕「一春-草」。

【莿】 蕒に同じ。

【莿】 ラツ、ラチ。盧達切 曷 よもぎ、(蒿)。

【葬】 ハイ、ヘ。布怪切 卦 蕳蘘、あをあかざ。

【葟】 クワウ、ワウ。胡光切 陽 ㊀はな、(華)。㊁さげる、(茂)。㊂一栄は、蒜に似たる一種の草、みのごめ、水邊に生ず。

【葠】 葠に同じ。

【葎】 キヤウ、カウ。口羊切 陽 つくりな、(菜)。

【葡】 ホ、ブ。薄胡切 虞 一萄は、蒲萄に同じ。

【葼】 ハツ、バチ。蒲撥切 曷 草を除く、かる。

【葢】 蓋に同じ。

【董】 トウ、ツ。多動切 董 ㊀たゞす、(督)。○〔書〕「一レ之用レ威」。㊁かくろ、(藏)。○〔史〕「氣當二大一一」。㊂藕根、はすのね。

〔振董〕 兩手にて相擊つこと。○〔周、註〕「一・一以二兩-手-相擊一也」。
〔骨董〕 ふるき器物。○〔韓駒〕「盛取江-南一・一」。

【董】 ショウ、シュ。主勇切 腫 みじかし、(短)。

【葤】 チウ、ヂユ。除柳切 有 つゝむ、(裹)。

【葥】 セン、ゼン。子賤切 霰 ㊀山中に生ずる莓、きいちご。㊁藜に似たる一種の草、はゝきぐさ。

【葥】 セン、ゼン。才前切 先 車一は、一種の藥草、おほばこ。

【葧】 ホツ、ボチ。蒲沒切 月 ㊀葧一は、しろよもぎ、蘩母。㊁盛んなる貌にいふ字。○〔柳宗元〕「蓊一香-氣」。

【葦】 井。禹鬼切 尾 于非切 微 葭の大いなるもの、あし。○〔詩〕「一一杭レ之」。

〔剖葦〕 あしといふ草のみきをわる。○〔爾〕「鳭・鷯一レ一」。
〔菅葦〕 ちがやとあしと。○〔禮〕「苞-苴謂下編二一一以裹中魚-肉上」。
〔葭葦〕 あし。○〔漢〕「浮二大-澤一・一中一」。
〔蘆葦〕 前に同じ。○〔貫休〕「一・一深-花裏」。
〔蒲葦〕 がまとあしと。○〔晉〕「良-田變生二一・一一」。
〔乾葦〕 かれたるあし。○〔易林〕「一・一復生」。
〔朽葦〕 くされたるあし。○〔搜神記〕「一・一之爲レ蛬也」。「爲レ蛬」。
〔編葦〕 あしをあむ。○〔南方草木狀〕「南-人一レ一」。
〔斷葦〕 きりて生じたるあし。○〔鄭情〕「一・一新花白」。

〔疎葦〕 まばらに生じたるあし。○〔沈與求〕「蕭-々細-雨一・一響」。
〔刈葦〕 あしをかりとる。○〔蘇軾〕「一レ一秋織レ箔」。
〔溼葦〕 しめたるあし。○〔蘇軾〕「破-竈燒二一・一一」。
〔亂葦〕 みだれしげりたるあし。○〔張羽〕「野-燒時明一・一間」。

【葦】 緯に同じ、あむ。○〔莊〕「一レ蕭而食者」。

【葩】 ハ、ヘ。普巴切 麻 はな、(華)。○〔張衡〕「披二紅一一之狎-獵一」。

〔丹葩〕 あかき花。○〔左思〕「一・一耀二陽-林一」。
〔緋葩〕 前に同じ。○〔楊方〕「一・一象二赤-雲一」。
〔奇葩〕 めづらしき花。○〔司馬相如〕「一・一逸-麗」。「一一」。
〔異葩〕 前に同じ。○〔五燈會元〕「枯-椿吐二一・一吐二奇-芬一」。
〔天葩〕 天然にうつくしき花。○〔韓愈〕「一・一吐二」。
〔靈葩〕 よき花。○〔張協安〕「耀二一・一于三-春一」。
〔春葩〕 はるのはな。○〔短譚〕「一・一含レ日似レ笑」。
〔刻葩〕 花をゑりつく。○〔文心雕龍〕「雕レ卉一レ一」。
〔蓮葩〕 はすのはな。○〔杂邕〕「色若二一・一一」。
〔含葩〕 つぼみのはな。○〔獨孤及〕「一・一向二新-陽一」。
〔重葩〕 かさなりあひたる花。○〔吳都賦〕「一・一掩レ葉」。「掩レ葉」。
〔繁葩〕 おほくつきたる花。○〔雲林右英夫人〕「一・一盛二嚴-氷一」。
〔紫葩〕 むらさきいろのはな。○〔白居易〕「一・一「覆二清-瀬一」。
〔瓊葩〕 玉の如きうつくしき花。○〔薛元衡〕「一・一耀二初日一」。「一一」。
〔殘葩〕 ちりのこりたる花。○〔蘇轍〕「拾レ徑得二一・一」。
〔嘉葩〕 よき花。○〔柳完元〕「一・一毒-卉」。
〔羣葩〕 おほくの花。○〔王阮〕「孤-標-衆-々壓二一・一一」。
〔艶葩〕 うつくしき花。○〔趙爽〕「玫-瑰循二一・一一」。

【葪】 ケイ。吉詣切 霽 ㊀薊に同じ。㊁さく、(割)。

【葪】 芥に同じ。○〔史〕「細-故慸-一」。

【葫】 コ、グ。洪孤切 虞 蒜の屬の大いなるもの、おほびる、にんにく。○〔本草、註〕「今-人謂レ一爲二大-蒜一」。

〔菰葫〕 菰の米、まこものみ。

【蒸】 蘼に同じ。

【葿】 ベウ、メウ。亡沼切 篠 彌笑切 嘯 草の細き莖。

【葬】 サウ。則浪切 漾 (説文 从二死在二艸中一)。はうむる、はうぶり。(い)尸を地中に埋む。○〔禮〕「一先レ輕而後レ重」。(ろ)尸を藏む。○〔屈平〕「一二魚-腹一」。

〔合葬〕 尸をおなじあなにあはせうづむ。○〔魏〕「一・一非レ禮也」。
〔附葬〕 前に同じ。○〔漢〕「一・一之禮、自レ周興焉」。
〔厚葬〕 てあつくはうむる。○〔漢〕「一・一以破レ業」。
〔羸葬〕 死者を裸體のまゝはうむる。○〔漢〕「吾欲二一・一以反二吾眞一」。
〔收葬〕 なきがらをひきとりうづむ。○〔魏〕「王-循詣二太-祖一、乞二一・一云」。
〔反葬〕 客爲中に死にたる者を故郷に歸りはうむること。○〔禮〕「皆一・二一於周一」。
〔歸葬〕 前に同じ。○〔漢〕「季-子不二一・一一」。
〔助葬〕 はうむりの禮儀をたすく。○〔禮〕「一レ一必執レ紼」。
〔送葬〕 はうむりをみおくる。○〔禮〕「一レ一不レ辟二塗-潦一」。
〔會葬〕 あつまりはうむる。○〔史〕「來一・一」。
〔改葬〕 既にはうむりたるをあらためて他處にうづめはうむる。○〔左〕「是以一・一」。
〔薄葬〕 てうすくはうむること。○〔後漢〕「所レ論一・一、其義至矣」。

〔儉葬〕費用を節約してはうむる。○〔魏、誌〕「戒ニ其子以ニ一・一ー」。「如レ禮」。
〔營葬〕はうむりの禮をいとなみ行ふ。○〔金〕「一レ一」
〔水葬〕うみかはなどのみづの中へ死者を投げこみはうむる。○〔皮日休〕「不レ知一一今何處」。
〔火葬〕死者を火に焚きてはうむる。○〔林寛〕「神・運不ニ一・一ー」。
〔燒葬〕前に同じ。○〔北〕「殺・焚一・一」。
〔土葬〕死者を土中に埋む。○〔南〕「一・一則塵ニ埋之ー」。
〔鳥葬〕死者をのはらの中に棄て鳥などにくらはしむ。○〔南〕「一・一則棄ニ之中・野ー」。
〔斂葬〕死者をうづめはうむる。○〔唐〕「獨免爲ニ一・一ー」。
〔臨葬〕はでやかにはうむる。○〔唐〕「競務ニ一・一ー」。
〔奢葬〕前に同じ。○〔唐〕「豊煩ニ一・一ー」。
〔深葬〕地をふかく掘り穿ちて死者を埋む。○〔元稹〕「一・一一枝瓊」。

【菼】　タン、ダン。徒玩切　㊤感
むくげ、（槿）。

【葭】　カ、ケ。古牙切　㊤麻
㊀葦の未だ秀でざるもの、あし。○〔詩〕「彼茁者ー」。
㊁笳笛、ふえ、よしぶえ。○〔謝靈運〕「鳴レー戻ニ朱宮ー」。

【葯】　ヤク。於略切　㊤藥　アク、於角切　オク。　㊤覺
白芷の葉、よろひぐさのは。○〔楚辭〕「辛・夷楣兮ー・房」。
〔秋葯〕あきの季節のよろひぐさの葉。○〔淮〕「身若ニ一・一被レ風」。
〔蘭葯〕かをりぐさの葉。○〔王禹偁〕「野・飯烹ニ一・一」。「一ー」。
〔芷葯〕前に同じ。○〔王柏〕「霜・風妬ニ一・一ー」。

【菂】　テキ、チヤク。丁歷切　㊤錫
まさふ、（纏）。○〔潘岳〕「首ーニ綠・素ー」。

【葰】　ス井。息遺切　㊤支

萑の屬。

【葰】　サ。蘇果切　㊤哿
縣の名。

【葰】　シユン。祖峻切　㊤震
おほいなり、（大）。○〔司馬相如〕「實・葉ー茂」。

【葱】　ソウ、ス。倉紅切　㊤東
㊀葉外直にして內空しき一種の葷菜、ねぎ。○〔禮〕「膾春用レー」。
㊁あを、あをし、（蒼）。○〔禮〕「赤韍ー・衡」。
㊂氣達す、こほる。○〔後漢〕「氣佳哉、鬱・々ー・ー・然」。

【葱】　サウ、ソウ。初江切　㊤江
ー・靈は、輜車、にぐるま。○〔左〕「陽・虎載ニー・靈ー寢ニ其中ー而逃」。

【葲】　セン、ゼン。疾緣切　㊤先
羊ーーは、其の花の狀菊に似て紫色なる一種の草、ほろし、うるしげし。

【葳】　井。於非切　㊤微
㊀ー・蕤は、
（い）盛んなる貌にいふ語。○〔東方朔〕「上ー・蕤而防レ露兮」。
（ろ）一種の草、ゑみぐさ、あまさ、あまどころ。○〔述異記〕「ー・蕤・草、一名麗・草」。
㊁茈ーーは、蘧麥、のうぜんかづら。

【葴】　シン。職深切　㊤侵
㊀大葉の藍、おほあゐ。
㊁寒漿、かゞち、ほゝづき。

【葵】　キ、ギ。渠追切　㊤支
㊀其の葉つねに日に向かふといふ一種の草、ふゆあふひ。○〔禮〕「七・月烹ニー・及菽ー」。
㊁揆に通じ用ふ、はかる。○〔詩〕「天・子ーレ之」。
〔兔葵〕いへにれの異名。○〔爾〕「莃ー・ー」。
〔楚葵〕せりの異名。○〔爾〕「芹ー・ー」。
〔鳧葵〕一に水葵とも稱す、葉まろくして蓴に似たるみづくさ。○〔後漢〕「桂・荏ー・ー」。「鳧」。
〔露葵〕蓴菜の異名。○〔宋玉〕「爲レ臣煮ニー・ー之」。
〔戎葵〕はなあふひ。○〔爾〕「蔜ー・ー」。
〔綠葵〕青きあふひ。○〔潘岳〕「ー・ー含レ露」。
〔防葵〕藥草の名。○〔本草〕「ー・ー藥名、葉似レ葵、每レ莖三・葉、根似ニ防・風ー」。
〔旅葵〕あふひのおほいなるもの。○〔阮瑀〕「堂・上生ニー・ーー」。「ー」。
〔傾葵〕ひぐるまといふ草。○〔張昱〕「嚮・仰只ー・ー」。
〔黃葵〕きいろき色のひぐるま。○〔劉基〕「ー・ー開ニ紅・葉ー」。

【葶】　テイ、ヂヤウ。特丁切　㊤青
ー・藶は、其の實も葉も芥に似たる一種の草、はまがらし、いぬなづな。○〔西京雜記〕「ー・藶死ニ於盛・夏ー」。

【葷】　クン、コン。許云切　㊤文
㊀韮などの如き辛味ある菜。○〔儀〕「問ニ夜・膳ーー」。
㊁葱などの如き臭氣ある菜。○〔荀〕「不レ在ニ於食レー」。
㊂菜辛し、菜臭し、からし、くさし。○〔後漢〕「渾ニー・菜ー」。
㊃薰に同じ。○〔史〕「遂ニー・粥ー」。
〔茹葷〕臭菜をくらふ。○〔宋〕「絕ニ飲・酒ー・ー者三・十・年」。
〔五葷〕五種の臭菜。○〔爾雅翼〕「西・方以ニ大・蒜、小・蒜、興・渠、慈・葱、茖・葱ー、爲ニー・ーー」。
〔遊葷〕肉のなまぐさきものと菜のくさきものと。○〔韓愈〕「盤・饌羅ニー・ーー」。「改」、
〔絕葷〕くさき菜をくらはず。○〔杜甫〕「ーレー性不」
〔肥葷〕肉と菜のからきものと。○〔雲笈七籤〕「沐浴盛潔棄ニー・ーー」。

【葸】　シ。胥里切　㊤紙
おそる、（畏・懼）。○〔禮〕「愼而無レ禮則ー」。

【葹】　シ。式支切　㊤支
おなもみ。○〔屈平〕「薋菉ー以盈レ室」。

【葺】　シフ。七入切　㊤緝
㊀屋宇を修補す、つくろふ、屋宇を覆ふ、ふく。○〔左〕「繕・完ーレ牆」。
㊁かさなる、（累）。○〔左思〕「ー・ー鱗・鏤・甲」。
〔修葺〕家屋城壁などをつくろふ。○〔南〕「ー・ーニ庠・序ー」。
〔補葺〕前に同じ。○〔安王石〕「茅・竹隨ニー・ーー」。
〔繕葺〕前に同じ。○〔宋〕「督・吏・卒ー・ー」。
〔營葺〕前に同じ。○〔沈約〕「旣加ニー・ーー」。
〔治葺〕前に同じ。○〔任昉〕「將レ加ニー・ーー」。
〔重葺〕前に同じ。○〔白居易〕「敝・宅須ー・ーー」。
〔完葺〕つくろふ。○〔唐書〕「亭傳ニー・ー」。

【葻】　ラン、ロン。盧含切　㊤覃
草の風を得る貌にいふ字。

【葻】　フウ、ブ。符風切　㊤東
草の風に偃す貌にいふ字。

【葼】　ソウ、ス。子紅切　㊤東
㊀木の細き枝、ほもこ、こずえ。○〔揚雄〕「折レー答レ之」。
㊁一種の草。○〔謝靈運〕「蘡・薁ー・薺」。

【葽】　エウ。於霄切　㊤蕭

㊀薳志、ひめはぎ。○[詩]「四-月秀-|」。㊁草の盛んなる貌にいふ字。○[漢]「豐-草-|女-蘿施」。

【葽】エウ。伊烏切 [蕭] 前條の㊁に同じ。

【葽】エウ。於笑切 [嘯] 草の盛んなる貌にいふ字。

【萩】サン、セン。師銜切 [咸] 肥えたる禾。

【[illegible]】ル。力主切 [麌] 小さき蒿草、よもぎぐさ。

【葾】エン、ヲン。於袁切 [元] やぶる(敗)。

【葿】ビ、ミ。武悲切 [支] 菀-|は黃芩、こがねやなぎ。

【蒀】ウン、ヲン。於芸切 [文] 盛んなる貌にも香しき貌にもいふ字。○[左思]「鬱蒀-|以翠-微」。

【葰】シユン。子峻切 [震] 蒻の皮、稃。

【[illegible]】ハウ、ヒヤウ。補耕切 [庚] 繩墨、すみなは。

【[illegible]】ハン、ヘン。兵攀切 [删] 嫚しき事の貌にいふ字。

【葙】ケン、ゴン。求拮切 [臻]

【蓍】ベツ、メチ。莫結切 [屑] 目明かならず、くらし。そむく(乖)。○[揚雄]「-|鍵挈契-」。

【萚】タク。通各切 [藥] 葉落つ、おつ。

【蔾】黎に同じ。○[漢]「-|-庶亡二干-弋之役一」。

【蓧】テウ、デウ。田聊切 [蕭] さゞこほる(滯)。

【菝】ハツ、バチ。蒲撥切 [曷] 草木の根。

【[illegible]】ケン、ガン。巨篆切 [銑] やはらか(耎)。

【蒬】ジユ、ニユ。汝朱切 [虞] 桑の皮、かは。

【蔟】ソウ、ス。千侯切 [尤] 鳥の巢す。

【蔕】滯に同じ。○[班固]「上無レ所レ-|、下無レ所レ根」。

【蓒】カン。古寒切 [寒] 蔬菜、な、やさい。○[鹽鐵論]「飯-|糲者、不レ可三以言二孝」。

【[illegible]】[illegible]に同じ。

【菰】コ、クワ。何吳切 [虞]

草多き貌にいふ字。

十畫

【营】キウ、ク。去公切 [東] |-藭は、一種の香草、をんなかづら。

【[illegible]】バウ、モウ。莫江切 [江] 一種の草。

【[illegible]】豝に同じ、豨の聲。○[左思]「封-豨-|」。

【薅】カウ、コウ。呼高切 [豪] 田の草を除き去る、くさぎる。

【蒐】シウ、シユ。所鳩切 [尤] ㊀絳色の染料に用ふる一種の草、あかね、一名は、地血。○[山海經、註]「-|一-名茜」。㊁あつむ(聚)。○[爾、註]「-|者 以三其聚二人-衆一也」。㊂春期の田獵、かり。○[左]「春-|夏苗」。㊃かくす(隱)。○[左]「服レ讒-|レ慝」。[茅蒐] あかき色を染むる草。○[爾]「茹藘-|-|」。

【蓑】サ。素何切 [歌] 葌-|は、草木の盛んなる貌にいふ語、又、草の根。

【蒑】イン、オン。於斤切 [文] ㊀一種の菜。㊁草色靑し、あをし。

【蒒】シ、疏夷切 [支] 一種の海草、うみごめ、其の實大麥に似たりといふ。○[博物志]「海-上有レ草焉名レ-|」。

【蒓】蓴に通じ作る。

【蒔】シ、ジ。時吏切 [寘] 場所を更へ種う、うゝ。○[晉]「-|二樹一-根一以旌二戰-功一」。

【蒔】シ、ジ。市之部 [支] -|蘿は、其の實馬芹に似たる一種の草、いのんど、一名、うゐきやう。

【蒚】蔚に同じ。

【蔱】サツ、所八 サチ。切 [曷] サイ、所介 セ。切 [卦] 榝に同じ。○[張衡]「蘇-|紫-薑」。

【蒖】シン。側鄰切 [眞] おゆんさい(莧-葵)、一説に、薁茨の實。

【蓨】テキ、ヂヤク。亭歷切 [錫] 草木の旱に盡くるにいふ字、かる。○[王應麟詩攷]「-|-|山-川」。

【蒗】ラウ。魯當切 [陽] 一種の藥草、やまぐさ。○[山海經]「太-騩之山有レ草焉、其名曰レ-|」。

【蒘】ジヨ、ニヨ。女居切 [魚] 蕳-|は、芹に似て食らふべき草、子の大いさ麥の如くにて人衣などに著く、やぶにんじん、いぬぜり。

【蒙】ボウ、モウ。莫紅切 [東] ㊀女蘿、ねなしかづら。○[爾]「-|王-女也」。㊁くらし。(い)明かならず、かすか。○[左思]「迥-眺冥-|」。

(ろ)顯れず。○〔易〕「━以養ㇾ正聖功也」。
(は)知少なし、又、齡少なし、○〔書〕「訓ニ于━士一」。
㊂幼者、愚人、凡て卑小なるものゝ稱。○〔蔡邕〕「童━頼ㇾ焉」。
㊃かうむろ、かうぶる。
(い)おほふ、(覆)、つゝむ、(裹)。○〔左〕「以ㇾ幕━ㇾ之」。
(ろ)被る。○〔左〕「━ニ皐比一犯ㇾ之」。
(は)受く。○〔後漢〕「今日所ㇾ━稽古之力也」。
㊄あざむく、(欺)。○〔左〕「使三圍━二其先君一」。
㊅をかす、(冒)。○〔漢〕「━ㇾ死而存ㇾ之」。
㊆覆ひたるもの、かぶりたるもの、おほひ、かぶり。○〔漢〕「如ㇾ發ㇾ━耳」。
㊇雑羽、まじりばね。○〔詩〕「━伐有ㇾ苑」。
(幼蒙) いとけなきもの。○〔陸機〕「誕ニ自━━一」。
(養蒙) くらきをもて正道ををしへやしなふ。○〔王昌齡〕「黃精可ㇾ━ㇾ━」。
(包蒙) おろかなる者をつゝむ。○〔易〕「九二、━━吉」。
(相蒙) 互に欺く。○〔左〕「上下相━」。
(鴻蒙) 自然の元氣をいふ。○〔莊〕「適ニ遭━━一」。
(飛蒙) 飛びあがる貌にいふ語。○〔淮〕「━━踊躍」。
(頑蒙) おろかなること。○〔揚子〕「倥侗━━」。
(愚蒙) 前に同じ。○〔杜甫〕「此語亦足ㇾ爲ニ━━一」。
(冥蒙) 深奥の貌にいふ語。○〔呉都賦〕「珋眺━━」。
(耆蒙) 老人と幼者と。○〔易林〕「━━睡眠」。
(啓蒙) 知らざる者の智をひらくこと。○〔朱熹〕「著ニ易學━━一」。

【蔏】 レキ、リヤク。郎擊切 錫
山蒜、ぎやうじやにんにく。

【蔐】 カク、キヤク。下革切 陌
蒲の頭に在る臺、一説に、山蒿、やまよもぎ。

【⿱艹酒】 シウ、ジユ。自秋切 尤
酒の滋液、しる。

【⿱艹酒】 糟に同じ。

【蓛】 サク、シヤク。測革切 陌
馬に餧ふ莝の中に穀を雑ぜたるもの。

【蓛】 セキ、シヤク。色責切 陌
小しく言ふ貌にいふ字。

【⿱艹害】 カツ、ゲチ。胡瞎切 黠
のらえ、(蘇)。

【蒢】 チヨ、ド。陳如切 魚
㊀黄━は、酸漿の一種、ほゝづき。「橀」。
㊁菗━は、えびすれ、われもかう、地
㊂蘧の字の條を見よ。

【蒣】 藷に同じ。

【蒤】 ト、ヅ。達胡切 虞
㊀紅草(いぬたで)の如くにて細き刺ある一種の草、いたどり、赤色の染料に用ふ。
㊁穢草、あれぐさ。

【蒥】 リウ、ル。力求切 尤
㊀香草。 ㊁━荑は、藥の名。

【蒦】 クワク。屋虢切 陌
一種の草。

【蒦】 ヤク。乙却切 藥
はかる、はかり、ものさし、(度)。○〔漢〕「尺者━也」。

【⿱艹栗】 リツ、リチ。力質切 質
一種の海草、ひし。

【⿱艹冓】 コウ、ク。居侯切 尤
草を積む、つむ。

【⿱艹耿】 カウ、キヤウ。古幸切 梗
芋の莖、いもがら、ずゐき。

【蒛】 ケツ、ケチ。傾雪切 屑
蕨の字を見よ。

【蒜】 サン。蘇貫切 翰
一種の葷菜、ひる、にんにく。○〔高士傳〕「遺以ニ生━一」。

【蒝】 ゲン、ゴン。愚袁切 元
莖葉布く、しく。

【蒝】 セン。取絹切 霰
草木の貌にいふ字。

【蒞】 莅に同じ。

【蒟】 ク。俱雨切 麌 俱遇切 遇
㊀━醬は、一種の草、きんま、其の子は桑椹に似たり。
㊁━蒻は、塊根なる一種の菜、こんに「やく。

【⿱艹倭】 ズヰ、ニ。汝隹切 支
薑の屬、なんばんはじかみ。

【蒠】 シヨク、ソク。相卽切 職
菲。

【蒡】 ハウ、バウ。蒲光切 陽　ハウ、ビヤウ。薄庚切 庚
隱葱、しろよもぎ。

【蒡】 ハウ、バウ。北朗切 蕩
牛━は、一種の菜、其の實の外殼は栗莍の如し、ごばう、きたきす。

【蒨】 セン。倉甸切 霰
㊀あかね、(茜)。○〔儀、註〕「名ㇾ━爲ニ韎韐一」。
㊁草の盛んなる貌にいふ字、さかんなり、しげし。○〔左思〕「夏曄冬━」。
㊂鮮明なる貌にいふ字、あざやか。○〔束晳〕「━━士子」。
㊃一種の木。○〔山海經〕「如ㇾ━如ㇾ擧」。
(染蒨) あかねの色をそむ。○〔詩、註〕「今人━ㇾ━者、乃假ニ蘇方木一」。
(孩蒨) あかみさす。○〔宗欽〕「枯顏━━」。
(妍蒨) あざやかなる貌にいふ語。○〔何景明〕「務極ニ━━一」。

【⿱艹宰】 シ。阻史切 紙
羹菜、あつもの、な。

【⿱艹耝】 ソ、ス。則古切 麌
菜。

【蒩】 ソ、ス。則吾切 魚
㊀祭事の藉、こも、あらごも。○〔周〕「羞ニ牛牲一共ニ茅━一」。
㊁其の葉地を覆ひて生ずる一種の菜、

別名は土茄。○〔左思〕「樊以二——圃一」。

【蕣】ハク。匹各切 藥 ホク。匹沃切 沃

苴——は、大いなる蘘荷、おほめうが。○〔楚辭〕「膾苴——只」。

【蒫】サ、酢何切 歌 シャ、咨斜切 麻 ザ。セ。

薺の實、なづなのみ。○〔急就篇、註〕「薺甘-菜也、其實曰レ—」。

【蒬】エン、オン。於袁切 元

棘——は、たんじ。

【蓶】イク、オク。余六切 屋

㊀山韭、やまにら、ぎやうじやにら。○〔爾、疏〕「韭生二山-中一者名レ—」。
㊁薁に通じ用ふ、ゆすらうめ。○〔王應麟詩攷〕「食二鬱及—一」。

【蒯】クワイ、ケ。苦怪切 卦

菅の屬、あぶらがや。○〔左〕「雖レ有二絲-麻一無レ棄二菅—一」。

【蔀】クン、グン。具運切 問

芝の屬、くさびら。

【蒵】エウ。弋照切 嘯

弱絲、ねなしかづら。

【蓨】エウ。餘招切 蕭

蒲葉、がまのは。

【蒪】フ。芳武切 麌

—蒪は、一種の草。

【蒚】カ。居何切 歌

栟櫚に似たる一種の草の實。○〔齊民要術〕「——母樹-皮有レ蓋、狀似二栟-櫚一、但肥不レ中レ用、南-人名二其實一爲レ—」。

【蒱】ホ、ブ。薄胡切 虞

㊀樗——は、物を賭けて勝負を爭ふ一種の遊戲、ばくち、ばくえき。○〔晉〕「若二——葦一」。「樗-—牧-猪-奴戲耳」。
㊁蒲に通じ用ふ、がま。○〔荀〕「柔-從

【蓮】リ。陵之切 支

一種の豆。

【蒳】ダフ、ノフ。奴荅切 合

栟櫚の如き葉ある一種の香草、陰乾にして食らふ。○〔左思〕「草則藿—豆-蔻」。

【蒲】ホ、ブ。薄胡切 虞

㊀席に織り爲る一種の水草、がま。○〔詩〕「維筍及—」。
㊁柳の一種、かばやなぎ。○〔詩〕「揚之水不レ流二束—一」。「—」。
㊂がまの席、むしろ。○〔家語〕「妾織レ—」。
㊃草葺きの圓屋、くさぶきのまろやれ。○〔釋名〕「草圓-屋曰レ—」。
㊄蒱に通じ用ふ。○〔馬融〕「好二此樗-—一」。
㊅匍に通じ用ふ。○〔左〕「懷レ錦奉二壺-飲冰一以—伏焉」。

〔束蒲〕つかねたるかはやなぎ。○〔詩〕「不レ流二—一」。
〔深蒲〕がまのね。○〔周〕「—·—醯醢」。
〔蕉蒲〕ばせうとがまと。○〔左〕「澤之—·—」。
〔茅蒲〕すげがさ。○〔國〕「首戴二—·—一」。
〔編蒲〕がまをあむ。○〔任昉〕「—レ—緝レ柳」。「——」。
〔菖蒲〕草の名、あやめぐさ。○〔李白〕「我來采二—·
〔菰蒲〕まこも。○〔陸游〕「兩-岸紅-蓼連二—·—一」。
〔紫蒲〕がまぐさ。○〔汲冢周書〕「樹レ之以二竹葦—·—一」。
〔截蒲〕あしとがまと。○〔素問〕「上生二—·—一」。
〔葦蒲〕ふるひろごくがま。○〔李商隱〕「—·—知二雁-唳」。
〔翠蒲〕みどりのがま。○〔王惲〕「堤柳含レ烟—·—」「茁」。

【蒲】薄に通じ用ふ。○〔竹書紀年〕「太-戊城二—-姑一」。

【蒴】サク、ソク。所角切 覺

—藋は、一種の藥草、そくづ。

【蒵】ケイ、ガイ。胡雞切 齊

兎——は、よもぎ。

【蔡】ケイ、ガイ。戶禮切 薺

屧の中に藉く草、くつわら。○〔南〕「玩-之爲二少-府一、猶躡レ屐造レ席、高-帝取レ屐視レ之、—斷以レ芒接レ之」。

【蒶】フン、ブン。符分切 文

積む貌にいふ字。○〔王褒〕「—-蘊兮黴黑」。

【蒀】ショウ。煮仍切 蒸

つけもの、(菹)。

【蔦】チ、ウ。汪胡切 虞

—蘆は、をぎ、(荻)。

【蒹】ケン、コン。古甜切 鹽

ひめよし、(蘼)、一說に、をぎ、(雚)。○〔詩〕「—-葭蒼-々」。

【蒸】ショウ。煮仍切 蒸

㊀皮を折き去りたる麻幹、をがら、あさがら。○〔西征賦、註〕「賣二麻—·—一」。
㊁細き薪、たばしば。○〔詩〕「以薪以—」。
㊂衆多、おほし、もろもろ。○〔詩〕「天生二—-民一」。
㊃もろもろの人、たみくさ、人民。○〔司馬相如〕「覺二悟黎—·—一」。
㊄烝に通じ用ふ、すすむ。○〔爾〕「冬-祭曰レ—」。
㊅むす。
(い)氣の上達するにいふ字。○〔潘尼〕「氣觸レ石而結—」。
(ろ)氣を通ぜしむ。○〔論衡〕「穀未二春—一曰レ粟」。

〔鬱蒸〕氣むしこもる。○〔杜甫〕「炎-天瀞二—·—一」。

【蒺】シツ、ジチ。秦悉切 質

—藜は、刺ある一種の藥草。

【蓓】イフ、オフ。乙及切 緝

草の密き貌にいふ字。

【蒻】ジヤク、ニヤク。而灼切 藥

㊀根上初生の蒲、わかきがま、がまのめ、又、莖の下の泥に入りたる白き處。○〔張衡〕「爲二莞—席一」。
㊁荷などの根上の初生又は泥中の白莖。○〔爾、註〕「莖-下白—」。
㊂わかきがまにて織りたる席、がまのむしろ。○〔鹽鐵論〕「無二旃—之美一」。
㊃其の塊根は食さなすべき一種の菜、こんにやく。○〔古今注〕「揚-州人謂レ—爲二班-杖一、不レ知レ食レ之」。

〔蒲蒻〕わかきがま。○〔詩、傳〕「蒲—·—也」。
〔白蒻〕くきの下のしろきがま。○〔貢師泰〕「紅-蓮—·—滿二西-池一」。

〔芳蒻〕にほひ高きがま。○〔華陽國志〕「園有二一-一香-若一」。
〔蒟蒻〕こんにやく。○〔蜀都賦〕「北圃則有二一-一-業瓜-甘蔗-區一」。

【蒻】ダク、ノク。呢角切 覺
菉一-一は、豆。

【蒫】デツ、ヂチ。奴結切 屑
蒜に似たる一種の生草。

【蒉】キ、去幾切 微　クヮイ、胡對切 隊
ケ。切　エ。
蕨に似たる一種の水草、みのごめ。○〔呂氏春秋〕「菜之美者有二雲-夢之一一」。

【蒈】ガイ。魚開切 灰
乾菜、ほしな。

【蒼】サウ。七岡切 陽
❶深青、こきあを、あをし。○〔詩〕「悠-々一-天」。
❷しげる、（茂）。○〔書〕「至二于海-隅一一-生」。
❸物の老いたる貌にいふ字。○〔詩〕「蒹-葭一-一」。
〔青蒼〕あをくとしたる色。○〔白居易〕「松-色鬱二一-一一」。
〔穹蒼〕そら、あめ、其の色のあをきよりいふ。○〔詩〕「以念二一-一」。
〔昊蒼〕前に同じ。○〔曹植〕「俟-忽造二一-一一」。
〔彼蒼〕前に同じ。○〔詩〕「一-一者天」。
〔老蒼〕老人のこと。○〔杜甫〕「結レ交皆一-一」。

【蒼】サウ。采朗切 養
❶前條の❶に同じ。○〔白居易〕「寒銷春一-茫」。
❷一-卒は、急遽の狀にいふ語、あわただし。○〔唐〕「一-卒犇-迫」。

〔莽蒼〕爽を貌にいふ語、近郊の色にいふ語。○〔莊〕「適二一-一者、三飡而反」。

【蒾】ベイ、メイ。緜紕切 齊
莢-一は、がまずみ。

【蓀】ソン。思渾切 元
石菖蒲に似て葉に脊なき一種の香草、はなあやめ。○〔楚辭〕「一-橈兮蘭-旌」。

【蒏】ジヨウ、ニユ。乳勇切 腫
草の亂るゝ貌にいふ字。

【蒑】ゼン、ノン。人遠切 阮
水苔、みづごけ。

【蒳】タン、トン。他酣切 覃
ねぎ、ねぶか、（葱）。

【蒳】ナン、ノン。那含切 覃
一種の草、につくわうらん、ゆろさう。

【蓁】シン。側詵切 眞
❶盛んに叢生する貌にいふ字、しげし。○〔詩〕「其葉一-一」。
❷積み聚まる貌にいふ字、おほし。○〔楚辭〕「蝮-蛇一-一」。
❸草木のしげき處、くさむら、もり。○〔晁補之〕「傲レ世逃二深一-一」。
❹首に物を戴く貌にいふ字。○〔爾〕「一-一戴也」。
〔蕨蓁〕草などのさかんなる貌にいふ語。○〔曹植〕「宿二林-藪之一-一」。

【蒿】カウ、コウ。呼高切 豪
❶蓬蒿の屬、よもぎ、くさよもぎ。○〔禮〕「詩」「食二野之一一」。
❷氣の蒸し上る貌にいふ字。○〔禮〕「焄-一-悽-愴」。
❸つかる、（耗）。○〔國〕「使二民一一」。
❹よもぎの塵にまみれ易きより塵にまみれたるにいふ字。○〔莊〕「一-目而憂二世之患一」。
〔蓬蒿〕よもぎ。○〔三輔決錄〕「所レ居一-一沒レ人」。
〔艾蒿〕前に同じ。○〔本草〕「艾一名二一-一一」。
〔牡蒿〕をとこよもぎ。○〔詩、疏〕「蔚一-一也」。
〔皤蒿〕しろよもぎ。○〔陸璣詩疏〕「凡艾白-色爲二一-一一」。
〔白蒿〕前に同じ。○〔本草〕「一-一葉麤二于青-蒿一」。
〔藜蒿〕あかざとしろよもぎと。○〔易林〕「但見二一-一」。
〔蔯蒿〕まばらに生じたるよもぎ。○〔儲光羲〕「羅-一-一下」。

【蓄】チク、トク。丑六切 屋
❶あつむ、（聚）。○〔易〕「君子以容レ民一レ衆」。
❷つむ、（積）。○〔張衡〕「洪-恩素一」。
❸をさむ、をさまる、（藏）。○〔金〕「世-宗寶一レ之」。
❹たくはふ。
（い）をさめて用を待つ、つみて事に備ふ。○〔詩、箋〕「一二聚美-菜一」。
（ろ）やしなふ、（養）。○〔國〕「一レ力一-紀」。
❺たくはふるを、たくはへたるもの、たくはへ。○〔禮〕「無二私-貨一無二私-一一」。
❻冬日の用にたくはへたる菜、即ち、乾茸の屬。○〔詩〕「我有二旨一-一」。
❼やしなふもの。○〔韓詩外傳〕「故公-家一也、罷而不レ爲レ用、故出放也」。
〔廩蓄〕こめぐらのたくはへ。○〔唐〕「則一-一不レ乏矣」。
〔儲蓄〕積み貯ふ、又、其のもの。○〔後漢〕「節二用一-一以備二凶-災一」。
〔積蓄〕前に同じ。○〔白居易〕「不レ用多二一-一一」。
〔資蓄〕錢穀などの家をなすに必用なるもの。○〔北〕「遺以二一-一一」。
〔藏蓄〕おさめたくはふ。○〔吳萊〕「富-豪儲一-一」。
〔累蓄〕かさなりつもる。○〔梁昭明太子〕「煩-勞多二一-一一」。
〔渟蓄〕水などのとゞまりたまること。○〔韓愈〕「汎-濫一-一」。
〔涵蓄〕をさめたくはふ。○〔王炎〕「胸-次要二一-一」。

【蓄】キク、コク。許六切 屋
冬のあをもの、（冬-菜）。

【蓂】ベイ、ミヤウ。莫經切 青
一-莢は、堯の時に生じたりと言ひ傳ふる瑞草の名、月の一日より十五日までに日毎に一葉を生じ十六日より晦日までには日毎に一葉を落させりといふ。○〔玉篇〕「曆得二其分-度一、則一-莢生二于階一」。

【蓂】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
菥-一は、おほなづな、大薺。○〔張衡〕「菥-一-芋-瓜」。

【蒐】シウ、シユ。疎鳩切 尤
椒の子の聚まり生じて房を成す貌にいふ字。

【蒪】俗の蒓の字。

【蓆】セキ、ジヤク。祥易切 陌
❶おほいなり、（大）。○〔詩〕「緇-衣之一兮」。
❷席に通じ用ふ。○〔六韜〕「坐以二文-綺之一一」。

（茵蓆）むしろ。○〔蘇軾〕「夜-涙濕二—・—一」。

【蓈】ラウ。盧當切 陽
蓈—は、禾粟の米の成らざるものゝ稱、しひな。

【蓉】ヨウ、ユ。餘封切 冬
芙—は、はちす、はす、蓮華。○〔屈平〕「集二芙—一以爲レ裳」。

【蔵】セン。式戰切 霰
鬼—は、ひあふぎ。

【蕢】コウ、ク。古送切 送
草木の子の叢生する貌にいふ字。

【蓊】ヲウ、ウ。烏紅切 東
—蘙は、草華の莖に細かき葉の叢がり生ずるもの。

【蓊】ヲウ、ウ。鄔孔切 董
㊀盛んなる貌にいふ字。○〔張衡〕「鬱-—蔆-蔚」。
㊁黄色の染料となす一種の草。

【蓋】カイ。古太切 泰
㊀茅苫、とま。○〔左〕「被二苫—一」。
㊁おほふ。
(い)隱蔽す、かくす。○〔書〕「爾尙—二前-人之愆一」。
(ろ)物の上に塞ぐ、さへぎる。○〔關尹子〕「其高無レ—」。
㊂おほひ。○〔詩、箋〕「芡屋—也」。
㊃尙ぶ。○〔國〕「—レ威以好レ勝」。
㊄かさ。
(い)車上に樹つる傘、くるまがさ、きぬがさ ○〔周〕「爲レ—以象レ天」。
(ろ)きぬがさの如き形をなすもの。○〔韓愈〕「萍—涔-池淨」。
㊅物の口のおほひ、ふた。○〔儀〕「會-簠—也」。
㊆大略を想像する意を表するにいふ字、けだし。○〔詩〕「謂二天—高一」。

（敝蓋）やぶれたる車のかさ、又、やぶれたるとま。○〔禮〕「—・—不レ棄、爲レ埋レ狗也」。
（傾蓋）車のかさをなゝめにすとて行きあひて車を駐むると。○〔家語〕「—レ—而語終日」。
（交蓋）前に同じ。○〔漢、註〕「傾-蓋猶二—・—一駐レ車也」。
（冠蓋）かんむりと車のかさと。○〔史〕「—・—相望」。
（張蓋）車のかさをひらく。○〔史〕「暑不レ—レ—」。
（車蓋）くるまの上を蔽ふかさ。○〔後漢〕「人有下盜二其—・—一者上」。
（帷蓋）とばりと車を蔽ふきぬがさと。○〔漢〕「尙加二—・—之報一」。
（華蓋）きぬがさ、又、星の名。○〔晉〕「天-皇-大-帝上九-星曰二—・—一、所三以覆二蔽大-帝之座一也」。
（絳蓋）はたぼこと朱のかさと。○〔柳宗元〕「—・—鐸-鼓」。
（朱蓋）あかき色のきぬがさ。○〔王粲〕「—・—如レ振レ霞」。
（大蓋）車上を蔽ふおほいなるかさ。○〔史〕「擁二—・—一、策二駟馬一」。
（麾蓋）はたときぬがさと。○〔李嶠〕「行當レ[illegible]二—・—一」。
（旌蓋）前に同じ。○〔齊〕「—・—飄颻」。
（旗蓋）前に同じ。○〔潘岳〕「—・—相望」。
（持蓋）かさをもつ。○〔家語〕「命二使-者皆—レ—一」。
（偃蓋）ふし蔽ふ。○〔抱朴子〕「大陵—・—之松」。
（素蓋）白色の絹がさ。○〔劉楨〕「輦車飛二—・—一」。
（駐蓋）車をとゞむ。○〔白居易〕「門-閭堪レ—レ—」。
（穹蓋）あをぞら。○〔范成大〕「洪-覆等二—・—一」。

【蓋】カフ、ゴフ。胡臘切 合
㊀前條の㊀に同じ。○〔集韻〕「青-齊人謂二湔-席一曰二湔—一」。
㊁盍に通じ用ふ、なんぞ、ざる。○〔禮〕「子—レ言二子之志于公一」。

【蓌】サ。祖臥切 箇　サ、セ。側駕切 禡

サイ、セ。祖對切 隊
いつはる(詐)。○〔禮〕「介者不レ拜、爲二其拜而—一レ拜」。

【蓛】レキ、リヤク。郎狄切 錫
草木の疎なる貌にいふ字。

【蓍】シ。式之切 支
(い)蒿の屬、めどぎぐさ。○〔詩〕「浸二彼苞—一」。
(ろ)易占に用ふる具、其の數五十本あり、數へて易卦を變化す、おもにめどぎぐさの莖を以て作る。○〔易〕「—之德圓而神」。

【蓎】タウ、ダウ。徒郎切 陽
—蒙は、ねなしかづら、女蘿。

【蓧】テウ。都聊切 蕭
—蔛は、まこものみ、菱實。

【蓏】ラ。郎果切 哿
草に生ずる實、卽ち、核なきなりもの。○〔周〕「共二野果—之薦一」。
（果蓏）くだものとうりと。○〔周〕「而樹二之—・—一珍-異之物一」。
（蔬蓏）野菜とうりと。○〔唐〕「無二—・—宅-穀一」。

【蓒】ケン、コン。虛言切 元
かりがねさう。

【蓐】ジヨク、ニヨク。而蜀切 沃
㊀藉草、ふきぐさ、ふきわら。○〔周〕「除レ—釁レ廐」。「之席—捐レ之」。
㊁蔫席、こも、むしろ。○〔韓〕「籩-豆捐レ—」。
㊂藉くに用ふるものゝ泛稱、ふきもの、ふされ。○〔吳、註〕「爲作二厚—・—大レ被一」。
㊃あつし、(厚)。
㊄ふるき草のめばえ。「之—・—一」。
（茵蓐）ふきもの。○〔詩、疏〕「車-上又有二虎-皮文-茵一」。
（牀蓐）ふとね。○〔潘岳〕「寢二伏—・—一」。「年」。
（臥蓐）ふとねのうちにいぬ。○〔後漢〕「—レ—七年」。
（草蓐）くさもて作りたるふとね。○〔鹽鐵論〕「古者皮毛—・—」。
（薦蓐）ふきもの。○〔風俗通〕「厚二其—・—一」。
（虎蓐）とらの皮のふきもの。○〔玉篇〕「文-茵—・—」。

【蓑】サ。蘇和切 歌
㊀雨を辟くるに著用する草衣、みの。○〔詩〕「何レ—何レ笠」。
㊁おほふ、(覆)。○〔公羊〕「不レ—レ城也」。
（苫蓑）とまとみのと。○〔魏〕「于レ是以二—・—一覆レ之」。
（綠蓑）あをきみの。○〔范成大〕「風-雨一—・—」。
（短蓑）たけみじかきみの。○〔孟郊〕「—・—不レ怕レ雨」。
（被蓑）みのをきる。○〔管〕「—レ—以當二鎧-鑐一」。
（衣蓑）前に同じ。○〔許棨〕「見二釐只—レ—一」。
（長蓑）ながきみの。○〔儲光羲〕「—・—拔二雜穄一」。
（卷蓑）みのをまきくるむ。○〔陳造〕「—レ—背レ笠隨二漁-翁一」。

【蓑】サイ、セ。蘇回切 灰
華蘂の下垂せる貌にいふ字。○〔張衡〕「敷二華-蘂之—・—一」。

【蓓】ハイ、ベ。薄亥切 賄
㊀つぼみ、(蕾)、㊁蓓—は、一種の草。

【蓚】クワ、ケ。火媧切 麻
舛ひ離れる貌にいふ字。

【蓚】クワイ、ケ。苦乖切 佳

正しからず、ゆがむ。

【蒛】キョウ、ク。丘隴切 腫 欺用切 宋
ー蒛は、おにしろぐさ、蘭蒚。

【蓊】タフ、トフ。吐盍切 合
布を作るべき一種の草。

【䓘】糕に同じ。

【䓘】エウ。以紹切 篠
草の貌にいふ字。

十一畫

【蓧】テウ、デウ。徒弔切 嘯
草器、あじか。○〔論〕「以ㇾ杖荷ㇾー」。

【蓨】テウ。他凋切 蕭
ー蓨は、しぶくさ（苗）。

【蓨】テキ、チャク。他歷切 錫
前條を見よ。

【蓚】シウ、シユ。思留切 尤
よろこぶ（說）。

【蓩】バウ、モウ。武道切 晧
㊀蒼耳、おなもみ。㊁蕁蕭、うたところし。㊂むらがる（葆）、しげる（茂）。○〔魏武帝〕「鬱何ーー」。

【蓪】トウ、ツ。他紅切 東
一種の藥草、あけび。

【蔌】ソク。蘇谷切 屋
蔌ーは、一種の藥草。

【蓫】チク、ドク。直六切 屋 チウ、ヂユ。直救切 宥
一種の惡菜、しぶくさ、しのねぐさ。

【蓬】ホウ、ブ。薄紅切 東
㊀艾の一種、よもぎ、うたよもぎ。○〔詩〕「彼茁者ー」。
㊁直達せざるにいふ字。○〔莊〕「夫子猶有ニー之心一也夫」。
㊂轉々して處を定めざるにいふ字。○〔杜甫〕「飄々客子ー」。
㊃亂るゝにいふ字。○〔張楊〕「頭ーー不ㇾ暇ㇾ梳」。
㊄仙人の居所、よもぎがしま。○〔李白〕「躡背覩ニ方ーー」。
㊅こも、まこも（菰）。○〔鄭樵通志〕「菰曰ㇾー、今人謂ニ之茭一」。
㊆風の行く貌にいふ字。○〔莊〕「ーー然起ニ於北海一」。
㊇盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「其葉ーー」。
〔飛蓬〕風にとびちるよもぎ、又、みだれたるよもぎ。○〔詩〕「首如ニーー一」。
〔轉蓬〕飛びまろぶよもぎ。○〔曹植〕「ーー離ニ本根一」。
〔霜蓬〕しもをおびたるよもぎ。○〔蘇軾〕「意思蕭索如ニーー一」。
〔屏蓬〕異獸の名。○〔山海經〕「大荒之中有ㇾ獸、左右有ㇾ首、名曰ニーー一」。
〔枯蓬〕かれたるよもぎ。○〔駱文盛〕「不ㇾ勝ニ猜浪漂ニーー一」。

【蓬】ホウ、ブ。蒲貢切 送
草木の盛んなる貌にいふ字。

【蓭】庵に同じ。

【蓮】レン。靈年切 先
㊀芙蕖の實、はすのみ。○〔宋〕「華林池陵ー同ㇾ幹」。
㊁芙蕖、はちす、はす。○〔南〕「鑿ㇾ金爲ニーー花一以貼ㇾ地」。
〔碧蓮〕あをきいろのはす。○〔許渾〕「更開ニ三逕ーーー中」。
〔青蓮〕前に同じ。○〔梁簡文帝〕「ーー在ㇾ眸」。
〔池蓮〕いけに生じたるはす。○〔王融〕「ーー照ニ曉月一」。
〔芰蓮〕ひしとはすと。○〔南〕「湖裏殊富ニーー一」。
〔杜蓮〕かきつばたの異名。○〔本草〕「杜若一名ニーー一」。
〔新蓮〕あらたに生じたるはす。○〔孫登〕「ーー夾ㇾ岸紅」。
〔初蓮〕前に同じ。○〔庾信〕「ーー開ニ細房一」。
〔疎蓮〕まだらに生じたるはす。○〔徐悱〕「ーー久落ㇾ紅」。
〔枯蓮〕かれたるはす。○〔貢師泰〕「小艇收ニーー一」。
〔祥蓮〕めでたきはす。○〔柳宗元〕「ーー瑞木」。
〔瑞蓮〕前に同じ。○〔黄溍〕「雨面青蛾折ニーー一」。

【蓯】ソウ、ス。作孔切 董
㊀草木の茂れる貌にいふ字。㊁蓯ーは、すげぐさ。

【蓯】ショウ、シユ。七恭切 冬
ー蓉は、一種の藥草、きもらたけ。

【蓯】ショウ、シユ。荀勇切 腫
衝ーは、相入る貌にいふ語。○〔史〕「騷擾衝ーー」。

【蓰】シ。想氏切 紙 山宜切 支
㊀五倍。○〔孟〕「或相倍ー」。㊁はなる（離）。○〔韓愈〕「離ーー不ㇾ能ㇾ翽」。

【藫】タン、トン。他酣切 覃
濫ーは、うりづけ（瓜葅）。

【蓡】シン。式針切 侵

蒲蒻の類、がま。

【蓱】ヘイ、ビヤウ。薄經切 青
㊀萍に同じ、水中の浮草、うきくさ。○〔爾〕「萍ー」。㊁雨師、あめのかみ。○〔楚辭〕「ー號起ㇾ雨」。

【䕭】セン。將先切 先
色もて飾りたる紙。

【蓲】フ。芳無切 虞
花の開き敷く貌にいふ字。

【蓲】キウ、ク。去鳩切 尤
烏ーは、たぎ。○〔詩、釋文〕「亂江東呼爲ニ烏ーー」。

【蓲】蘊に同じ。○〔山海經〕「其木苦ー」。

【蓲】ウ。邕俱切 虞
一種の草。

【蓲】呴に同じ、あたゝむ。○〔揚雄〕「陽ーニ萬物一」。

【蒣】シャ、ゼ。似嗟切 麻
㊀ー菽は、ちがやのほ、茄穗。㊁葉の文の斜なる蒿、よもぎ。

【蒣】ヤ、エ。以蛇切 麻
蓄積、たくはふ、たくはへ。

【蒣】ト、ヅ。同都切 虞
禾穗、いねのほ。

【蓴】ジュン。常倫切 眞
㊀葉は鳧葵に似たる一種の菜、ぬなは、ぢゆんさい、水中に生じ其の滑かなる莖を食用とす。○〔世說〕「有二千里―羹一、但未レ下二鹽豉一」。
㊁叢り生ずる蒲。

【蓴】タン、ダン。徒官切 寒
草の叢生する貌にいふ字。

【蒆】セフ、ゼフ。疾葉切 葉
草を編みて戸を障ふるもの。

【蓶】井。愈水切 紙
㊀韭に似たる一種の菜。
㊁葨に同じ。○〔後漢〕「―扈蘣-葵」。

【蓷】タイ、テ。他回切 灰
茺蔚、めはじき、一名は、やくも、益母。○〔詩〕「中-谷有レ―」。

【蓹】䓿に同じ。

【蔲】コウ、ク。許候切 宥
荳―は、交趾に生ずる一種の草、づく、皮殼は小さく厚く核は石榴に似たり辛くて香し、其の實は藥用となすべし。○〔南方草木狀〕「荳――花、其花作レ穗嫩-葉卷レ之而生、花微-紅」。

【蓺】ゲイ。倪制切 霽
㊀うゝ（種）。○〔詩〕「―二之荏-菽一」。
㊁藝に通じ用ふ、わざ、みち。○〔漢〕「有二六――略一」。
〔材蓺〕才智藝能。○〔漢〕「長多二――一」。
〔通蓺〕學藝などに達す。○〔漢〕「雖二子-貢冉-有――」、
「―、干政-事一不レ能レ絶也」。
〔術蓺〕藝術。○〔列〕「魯之君子多二――一」。
〔手蓺〕てづから草木などをうゝ、又、てさきにてするわざ。○〔唐〕「――二松-柏一」。

【蓻】シフ。子入切 緝
㊀草の多く生ゆる貌にいふ字。
㊁茅の芽。

【蓻】デフ、チフ。諾叶切 葉
草生ぜず。

【蓻】蓻に同じ。

【蔀】ホウ、ブ。蒲口切 有
㊀光明を障へ曖くするに用ふる物、ひよけ、ぢさみ。○〔易〕「豐二其―一」。
㊁すべておかりを覆ふものゝ稱、おほひ。○〔李綱〕「更入二煩-惱―一」。

【蔀】ホ、ブ。伴姥切 麌
㊀薺の一種、なづな。
㊁古曆上の名稱、七十二歲。○〔漢〕「以二閏-餘一之歲一爲二―首一」。

【蓓】ハイ、ベ。部浼切 賄
黃―は、一種の草。

【蓖】キ。口已切 紙
馬之を食らへば人に馴るといふ一種の草。

【蓼】レウ。盧鳥切 篠
辛味ある一種の菜、たで。○〔詩〕「予又集二于―一」。
〔菅蓼〕たでをなむ、又、辛苦するにいふ語。○〔呉越春秋〕「臥則―レ之」。
〔水蓼〕たでのみづちに生ずるもの。○〔羅隱〕「――花紅稻-穗黃」。
〔甘蓼〕たでの異名。○〔本草〕「蓼-實一名二――一、一名二野-蓼一、一名二澤-蓼一」。
〔天蓼〕苦樂の意に用ふる語。○〔唐〕「與二士-卒一同二――一」。

【蓼】ラウ、ロウ。魯皓切 皓
もさむ（索）。○〔張衡〕「摎―泙-浪」。

【蓼】リク、ロク。力竹切 屋
草の長大なる貌にいふ字。○〔詩〕「――者莪」。

【蓼】リウ、ル。力糾切 有
引く。○〔司馬相如〕「糾――叫-慕」。

【蓽】ヒツ、ヒチ。壁吉切 質
㊀まめ（豆）。
㊁―見は、ぢのねぐさ、羊蹄。
㊂篳に同じ、いばら。○〔禮〕「―門圭-窬」。

【蓾】ロ、ル。郎古切 麌
蒯の類、あぶらがや。

【蓿】シユク、ソク。息逐切 屋
苜の字を見よ。

【蔁】シヤウ、サウ。諸良切 陽
――柳は、やまごばう、當陸。

【蔂】ラ。盧戈切 歌 ル井。倫追切 支
土を盛るに用ふる籠、ふご。○〔鹽鐵論〕「鼻-劓盈レ―」。

【蔀】キヨ、コ。喜語切 語
虎―は、一種の藥草、はみ、おにのやがら。

【蔃】キヤウ、ガウ。巨兩切 養
―茪は、ゆり、百合。

【蔄】茪に同じ。

【蔄】妍に同じ。○〔論衡〕「彤麗骨―」。

【蒱】ホ、ブ。蓬逋切 虞
㊀膊魚、ほしうを。㊁雉の臂の肉。

【蔆】リヨウ。力膺切 蒸
ひし（芰）、特に、其の實の外皮に兩角あるもの。○〔呂氏春秋〕「夏食レ―、冬食二橡-栗一」。

【菰】クワツ、クワチ。古活切 曷
――蔞は、きからすうり。○〔靈樞經〕「殼-實――蔞」。

【蔇】キ、居毅切 未 キ、巨至切 寘
㊀草の多き貌にいふ字。
㊁いたる（至）。○〔左〕「猶懼レ不レ―」。

【蔈】ヘウ。甫遙切 蕭
㊀苕の華の黃なるものゝ稱、たかむらさう。○〔爾〕「苕陵-苕、黃華―」。
㊁茅萑、ちがや、あし。○〔爾〕「―-荂荼」。

【蔈】ヘウ。匹沼切 篠
㊀草の盛んなる貌にいふ字。
㊁おつ（落）。

【蔈】ヘウ。卑妙切 嘯

穀の華の黃なるもの、稱、一說に、禾末、ほ、又、米の孚甲の芒、のぎ。○〔淮〕「秋分─定、─定而禾熟」。

【蒨】センス　相然切　先
草木の動く貌にいふ字。

【蓘】コン。古本切　阮
苗の根に土を加ふ、つちかふ。○〔左〕「是穮是─」。

【蔊】カン。呼旱切　旱
辛味甚だしき一種の菜、いぬからし。○〔本草〕「─味辛-辣如ニ火焊ヒ人」。

【蔋】テキ、ヂヤク。徒歷切　錫
旱氣甚だしきにいふ字。○〔詩〕「─ニ─山-川ニ」。

【蔋】セウ、ゼウ。茲消切　蕭　シュク、ソク。式竹切　屋　トク、ドク。徒沃切　沃
旱して山草枯れ絕えたること。

【脘】莞に同じ。

【蔌】ソク。桑谷切　屋
㊀蔬菜の總稱、な、あをもの、やさい、又、調理したる蔬菜、なのさかな。○〔詩〕「其─維何」。
㊁窶陋の貌にいふ字、いやし、やつ〳〵し。○〔詩〕「──方有レ穀」。
㊂物の聲にいふ字。○〔鮑昭〕「──風-威」。
〔蔬蔌〕野菜。○〔陳造〕「納ニ蔬──腸ニ」。
〔肴蔌〕さかなとつくりなど。○〔范成大〕「水-陸富ニ──ニ」。

【蔌】ソウ、ス。蘇后切　宥
前條の㊀に同じ。

【蔍】ロク。盧谷切　屋
㊀─蹄は、一種の草、いちやくさう。
㊁─葱は、萱草、わすれぐさ。

【麄】麤に同じ、あらし。○〔漢婁先生碑〕「─絡大-布之衣」。

【蓶】サイ、セ。蘇同切　灰
草木の華の垂るゝ貌にいふ字。

【蔎】セツ、ゼチ。舒列切　屑　サツ、サチ。桑割切　曷
㊀かうばし、(香)。○〔楚辭〕「懷ニ椒-聊之──ニ」。
㊁第三期に采りたる茶の葉芽、ちや。○〔茶經〕「一曰茶、二曰檟、三曰─、四曰茗五曰荈」。

【蔏】シヤウ、サウ。式陽切　陽
㊀─藋は、葉の大いなる藜の稱、おほあかざ。
㊁─蔞は、しろよもぎ、蔞蒿。
㊂─蓙は、いほすき、やまごばう、蓫薚。

【蔏】リク、ロク。力竹切　屋
前條の㊂を見よ。

【蔐】荻に同じ。○〔淮〕「─苗類レ藜而不レ可レ爲レ藜」。

【蔑】ベツ、メチ。莫結切　屑
㊀目に精光なし、視る力乏し、くらし。○〔晉〕「每怪ニ一-國──然無ヒ言」。
㊁こまか。
(い)精微、くはし。○〔書〕「茲廸レ彝教ニ文-王─-德ニ」。
(ろ)尾末、すゑ。○〔揚雄〕「視ニ日-月─而知ニ衆-星之─ニ」。
㊂けづる、(削)。○〔易〕「─レ貞凶」。
㊃なし、(無)。○〔詩〕「喪-亂─レ資」。
㊄すつ、(棄)。○〔國〕「不レ─ニ民功ニ」。
㊅輕易して無きが如くに視る、さげすむ、かろんず、あなどる、ないがしろにす。○〔史〕「侮ニ─神-祇ニ不レ祀」。
㊆滅に通じ用ふ。○〔晉〕「江-吳寂─」。
〔敖蔑〕おごりて他をあなどる。○〔王沇〕「─ニ─道-
審ニ。　「德ニ。
〔微蔑〕かすかなること。○〔春、疏〕「以ニ──精-妙之
〔輕蔑〕あなどりないがしろにす。○〔蘇軾〕「─ニ─臣下ニ」。
〔暴蔑〕無禮にあなどり犯す。○〔左〕「─ニ─其國ニ」。
〔陵蔑〕あなどりおかす。○〔左、疏〕「意─ニ─之ニ」。

【蔑】昧に同じ。○〔荀〕「楚人兵殆ニ于垂-沙ニ、唐─死」。

【焄】葷に同じ、氣の蒸す貌にいふ字。○〔禮〕「─-蒿悽-愴」。

【蔓】バン、マン。無販切　願
㊀草の枝莖の地にはえ物にまさふもの、卽ち葛瓜などの枝莖、つる。○〔詩〕「野有ニ─草ニ、零-露溥兮」。
㊁つるの枝莖を有する草、かづら。○〔酉陽雜俎〕「附-苔絡──」。
㊂延長す、のぶ。○〔漢〕「──日茂」。
㊃のびて廣きに及ぶ、ひろがる、はびこる。○〔後漢〕「蝗-蟲孳──」。
㊄纏絡す、まく、まさふ、からむ。○〔拾遺記〕「其支-體纏──、若ニ人懷ヒ袖」。
〔野蔓〕のはらに生じたるつるくさ。○〔梅堯臣〕「──擢レ石碧」。
〔滋蔓〕しげりはびこる。○〔杜甫〕「──匝ニ淸-池ニ」。
〔綿蔓〕ながくひく貌にいふ語。○〔潘岳〕「──紛-敷之麗」。
〔霜蔓〕しもをおびたるつる。○〔柳宗元〕「──縋ニ寒-瓜ニ」。
〔延蔓〕のびはびこる。○〔詩、箋〕「葛─ニ─於谷-中ニ」。
〔牛蔓〕あかねぐさの異名。○〔陸疏廣要〕「齊人謂ニ之茜ニ、徐州人謂ニ之──ニ」。
〔細蔓〕ほそきつる。○〔陸疏廣要〕「──被レ地」。
〔枯蔓〕生氣なきのつる。○〔戴復古〕「──柱ニ諫-
茲ニ。　「井」。
〔柔蔓〕やはらかなるつる。○〔元稹〕「──與レ之
〔翠蔓〕みどりのつるくさ。○〔皮日休〕「──擢-
搖-欲レ挂レ人」。
〔靑蔓〕前に同じ。○〔蔡襄〕「舊-樹絡ニ──ニ」。
〔綠蔓〕前に同じ。○〔司空曙〕「──雜ニ紅-英ニ」。
〔碧蔓〕前に同じ。○〔范成大〕「──凌ニ霜臥ニ軟-
沙ニ。　「─ニ。
〔纖蔓〕こまかきつるくさ。○〔文同〕「短-牆挂ニ─
〔長蔓〕ながきつる。○〔戴昺〕「瓜綠ニ茅-屋ニ抽ニ──
─ニ。
〔修蔓〕前に同じ、又、ながくのぶ。○〔朱熹〕「縱レ
轡路──」。
〔蘿蔓〕つた、つる。○〔盧綸〕「松高──輕」。
〔荒蔓〕みだれしげりたるつる。○〔朱慶餘〕「──
礙ニ靑-鉋ニ」。
〔菱蔓〕ひしぐさのつる。○〔溫庭均〕「錦-巾有レ淚
動ニ──ニ」。
〔新蔓〕あらたに生じたるつる。○〔元季川〕「綠-蘿
長ニ──ニ」。
〔垂蔓〕つるをたる、又、たれさがりたるつる。○〔僧道潛〕「──罥ニ高-垣ニ」。

【蔓】バン、マン。謨官切　寒
─菁は、かぶら。

【蔮】蔽に同じ。

【猗】イ。於其切　支
不茂る、しげる。

【⿱艹桼】シツ、シチ。親吉切 [質]
蒺に似たる一種の草。

【蔕】テイ、タイ。都計切 [霽]
㊀果蓏の託處、ほぞ、へた。○〔述異記〕「橘一—三十子」。「—」。
㊁花の託處、うてな。○〔左思〕「抗二白—」
〔紫蔕〕むらさき色をおびたる果實のへた。○〔鮑昭〕「白‐莖——」。
〔綠蔕〕あをきへた。○〔夏侯湛〕「按二翠等干——分」。
〔翠蔕〕前に同じ。○〔夏侯湛〕「綠‐芳——」。
〔隕蔕〕へたをおとす。○〔牛弘〕「繁霜—レ—」。
〔苦蔕〕にがきへた。○〔古詩〕「甘‐瓜抱二——一」。

【蔕】タイ。當蓋切 [泰]
㊀根本、もと。○〔晉〕「深レ根固レ—、則延‐祚無レ窮」。
㊁慸に同じ。○〔漢〕「細‐故——芥何足二以疑一」。
〔根蔕〕ねもと。○〔杜甫〕「舟‐楫無二——一」。
〔弱蔕〕ねもとのかたからざること。○〔古今注〕「楊‐揚‐圓‐葉——、微‐風大搖」。

【蒫】サ、ザ。才何切 [歌]
㊀あぶらがや、（蒯）。㊁楚葵、のぜり。

【蔖】ソ、ス。采古切 [麌]
草死す、かる。

【⿱艹彫】テウ。丁聊切 [蕭]
菰蔣、まこも。

【蔗】シヤ、セ。之夜切 [禡]
多く熱帶地方に生ずる一種の植物、さたうきび、高さ丈餘ありて莖に多量の甘汁を含む、しぼりて砂糖を製すべし。○〔本草〕「—有二三種一」。
〔啜蔗〕さたうぐさをくらふ。○〔蘇軾〕「老‐景漸‐閑如レ—レ—」。
〔食蔗〕前に同じ。○〔南康書〕「予之疾—レ—即愈」。
〔甘蔗〕さたうぐさ。○〔神異經〕「南‐方有二——之林一」。
〔都蔗〕前に同じ。○〔通雅〕「甘‐蔗亦曰二諸‐蔗一、曰二——一」。

【蔘】蓡に同じ、ぬく、そばだつ。○〔司馬相如〕「紛‐溶萷‐—」。

【蔘】サン、ソン。蘇含切 [覃]
たる、（垂）。○〔鶡冠子〕「白—二于下一、明起二于上一」。

【蔘】サン、セン。所斬切 [豏]
葦の初めて生じたるもの。

【⿱艹脣】シン、ジン。食倫切 [眞]
牛—は、一種の草、わのだいわう。

【蔙】セン、ゼン。隨戀切 [霰]
—蕧は、をぐるまさう。

【⿱艹頃】苘に同じ。

【蔚】ヰ。於胃切 [未]
㊀牡蒿、をとこよもぎ。○〔詩〕「匪レ莪伊—」。
㊁さかんなり。
(い)草木の茂れる貌にいふ字。○〔詩〕「薈兮—兮」。
(ろ)文章の深くして密なる貌にいふ字。○〔易〕「其文—矣」。
(は)文事の大いに行はるゝ貌にいふ字。○〔魏〕「儒‐風載—」。
㊂榛叢、蔭翳、くさむら、かげ。○〔淮〕「設レ—施レ伏」。
㊃明か。○〔易〕「君‐子豹‐變、其文—也」。
㊄文章、彩色、つや、あや。○〔許孟容〕「麟—鳳‐采自レ天而授」。
〔蔚蔚〕草木のさかんにしげる貌にいふ語。○〔洛陽名園記〕「林‐木——」。
〔蓊蔚〕前に同じ。○〔張衡〕「晻‐曖——」。
〔猗蔚〕前に同じ。○〔世說〕「條‐柯——」。
〔郁蔚〕特起の貌にいふ語。○〔魯靈光殿賦〕「下——以璀‐錯」。
〔幽蔚〕草木などのふかくしげること。○〔郭璞〕「——蘙‐薈」。
〔[illegible]蔚〕前に同じ。○〔江淹〕「被二菌‐蘚之——一」。
〔彬蔚〕文章の深密なる貌にいふ語。○〔陸機〕「頌二優‐游以——一」。
〔雄蔚〕詩文などの語句のつよくあやある貌にいふ語。○〔唐〕「屬レ辭——」。
〔藻蔚〕あやあること。○〔抱朴〕「華‐章——」。
〔炳蔚〕文采あること。○〔文心雕龍〕「虎‐豹以二——一凝レ姿」。
〔粲蔚〕前に同じ。○〔抱朴〕「入二宴華‐房之——一」。
〔煥蔚〕前に同じ。○〔郭璞〕「五‐彩——」。
〔彪蔚〕前に同じ。○〔文心雕龍〕「——以文二其響一」。
〔豐蔚〕草木のしげること、又、文辭のゆたかにあやあること。○〔何景明〕「膏‐腴——」。
〔攢蔚〕草木などのむらがりしげること。○〔水經、註〕「—二—川‐阜一」。
〔森蔚〕前に同じ。○〔韋夏卿〕「密‐林脩‐竹—二—其間一」。
〔藹蔚〕前に同じ。○〔張華〕「育二草木之——一」。
〔陰蔚〕樹木のしげりあふこと。○〔六一題跋〕「見二林‐樹——、池‐水窈‐然一」。
〔蔭蔚〕前に同じ。○〔西都賦〕「茂‐樹——」。
〔蒨蔚〕あを〳〵と草などのしげること。○〔水心題跋〕「葱‐秀——」。
〔鬱蔚〕前に同じ。○〔庾闡〕「—二—靈‐崖一」。
〔繁蔚〕前に同じ、又、文辭の多くあやある貌にいふ語。○〔沈約〕「辭‐翰——」。
〔芊蔚〕草のしげる貌にいふ語。○〔陳子昂〕「——何青‐々」。

【蔚】ウツ、チチ。紆物切 [物]
州の名。○〔綱目集覽〕「—州本代地」。

【蔛】コク。胡谷切 [屋]
一種の藥草、いはぐすり、いはどくさ、せきこく。

【蔡】サイ、セ。仄佳切 [佳]
くさびら、（蘖）。

【蔜】ガウ、ゴウ。五勞切 [豪] 魚到切 [號]
雞腹草、はこべら。

【蔝】ベイ、マイ。莫禮切 [薺]
一種の草、はゝこぐさ、おぎやう。

【蔞】ロウ。落侯切 [尤] ル。力朱切 [虞]
蒿の屬、しろよもぎ。○〔詩〕「言刈二其—一」。

【蔞】ル。力主切 [麌]
萬—は、車輪を正すもの。○〔周、註〕「等爲二萬—一以運二輪上一」。

【蔞】リウ、ル。力九切 [有]
—翣は、棺の車の牆飾。○〔禮〕「設二—翣一」。

【葍】菑に同じ、わざはひ。○〔漢〕「灑二沈—于豁瀆一」。

【蔟】ソク。千木切 [屋]
㊀蠶蔟、まぶし。○〔晉〕「修二成蠶—一」。
㊁す、（巢）。○〔王逸〕「鴟‐鴞棲二兮柴‐—一」。
㊂簇に同じ、あつまる、むらがる。○〔禮、註〕「陽‐氣大—」。

（拆蔟） かいこのすをわかつ。 ○〔陸游〕「戸々呉蠶――時」。
（上蔟） かひこのすにのぼる。 ○〔陸游〕「風暖繁催蠶――」。
（登蔟） 前に同じ。 ○〔謝翺〕「蘭膏照繭未――」。

【蔟】 ソウ、ス。 倉奏切 宥
太――は、律の名。 ○〔禮〕「律中二大――一」。

【蔟】 籍に同じ、やす。 ○〔張衡〕「瑇瑁不レ――」。

【蔠】 シウ、シユ。 職戎切 東
――葵は、一種の草、つるむらさき。

【蔡】 サイ。 倉大切 泰
㊀占卜するに其の甲を燒く龜。 ○〔淮〕「大――神――出二於溝一」。
㊁草芥、あくた。 ○〔王褒〕「纖以二兮微――一」。
（萃蔡） 衣服のすれあふ聲、又、衣服のひざの張る貌にいふ語。 ○〔陸游〕「涼飈生二――一」。
（蓍蔡） 靈龜。 ○〔九懷〕「――兮躊躇」。
（神蔡） 前に同じ。 ○〔梁簡文帝〕「――上二荷心一」。

【蔡】 サツ、サチ。 七曷切 曷
㊀味――は、人の名。 ○〔漢〕「味――爲二宛王一」。
㊁はなつ（放）。 ○〔左〕「殺二管叔一而――二蔡叔一」。

【蔢】 ハ、バ。 蒲波切 歌
草木の盛んなる貌にいふ字。

【蔢】 ハ、バ。 步臥切 箇
――蔄は、一種の藥草、はくか。

【蔣】 シヤウ、サウ。 卽良切 陽 卽兩切 養

まこも（菰）。 ○〔漢〕「――茅青蘋」。

【[illegible]】 リツ、リチ。 呂卹切 質
草の孚甲を出づるにいふ字、めざす。

【蔤】 ビツ、ミチ。 美筆切 質
荷本、はすのね。 ○〔何晏〕「茄――倒植」。

【蔥】 古文の葱の字。

【[illegible]】 イ。 弋支切 支
しぼむ（萎）。

【蔦】 テウ、デウ。都了切 篠 テウ。多嘯切 嘯
寄生の蔓草、つた。 ○〔詩〕「――與二女蘿一」。

【蔧】 セイ、セ。旋芮切 霽 スヰ、ズヰ。徐醉切 寘
はゝきぐさ（帚）。

【蔞】 ロウ、ル。 郞豆切 宥
――蘆は、一種の藥草、くろぐさ、ありぐさ。

【蔨】 キン、グン。渠殞切 軫 ケン、ゲン。渠篆切 銑
野鹿豆、のまめ、いぬぶんだう。

【[illegible]】 菌に同じ。

【蔩】 イン。 夷眞切 眞
王瓜、からすうり。

【蔪】 セン、ゼン。 疾染切 琰
草相包む、つゝむ。

【蔪】 サン、セン。 師銜切 咸
かる（芟）。 ○〔漢〕「――二去不義諸侯一而虛二其國一」。

【蔪】 セン、ソン。將廉切 鹽 サン、ゼン。鋤咸切 咸
麥の秀づる貌にいふ字。

【[illegible]】 ヒ。幷弭切 紙 ヘイ、バイ。傍禮切 薺 ヒ。必至切 寘
莞草の屬、纖細なるもの、ほそゐ。

【蔫】 エン。於乾切 先 エン、オン。依言切 元
㊀しぼむ（菸）。 ㊁あたらしからず、ふるぶ。 ㊂やぶる（餲）。

【蔫】 エン。 伊甸切 霰
臭草、くさきくさ。

【蕱】 サウ、セウ。 山巧切 巧
細き根の藕。

【蕱】 サク、ソク。 色角切 覺
㊀木に枝柯なくて長く殺げたるにいふ字。
㊁稍に同じ。

【蔬】 ショ、ソ。 所菹切 魚
食用とすべき草、あをもの、やさい、な。 ○〔國〕「能植二百穀百――一」。
（嘉蔬） よきつくりな。 ○〔郭璞〕「挺二自然之――一」。
（園蔬） そのに生じたるな。 ○〔方生〕「茹二彼――一」。
（畦蔬） うねのな。 ○〔杜甫〕「――繞二茅屋一」。
（野蔬） 野菜。 ○〔陸游〕「草具留レ僧只――」。
（氷蔬） こほりたる菜。 ○〔黃庭堅〕「水餅嚼二――一」。
（草蔬） あをもの。 ○〔後漢〕「自以二――一、與レ客同レ飯」。
（菜蔬） 前に同じ。 ○〔白居易〕「旱地荒園少二――一」。
（種蔬） 野菜をうゝ。 ○〔南〕「因留レ縣――以自給」。
（薦蔬） 青物を神などにそなへすゝむ。 ○〔宋〕「每歲春孟月――」。
（冬蔬） ふゆの季節に生ずるな。 ○〔唐〕「――皆盡」。
（嚼蔬） 野菜をくらふ。 ○〔抱朴〕「結レ褐――」。
（販蔬） なをあきなふ。 ○〔隋唐嘉話〕「而――一覽菜乎」。
（灌蔬） 野菜に水をそゝぎかく。 ○〔陸游〕「抱レ甕何妨日――」。
（家蔬） 自家にて作りたる菜。 ○〔劉長卿〕「留レ客饋二――一」。
（肴蔬） さかなと青物と。 ○〔蘇轍〕「――無二厚薄一」。
（豐蔬） おほいなるな。 ○〔李庾〕「當二――於中闈一」。
（魚蔬） さかなと野菜と。 ○〔韓維〕「饌不レ過二――一」。
（青蔬） あをな。 ○〔韓維〕「――不レ沒荒畦雪」。
（霜蔬） しもをおびたるな。 ○〔陳造〕「――入二破鐺一」。
（柔蔬） やはらかなるな。 ○〔劉子翬〕「傍舍植二――一」。
（美蔬） よきな。 ○〔陸游〕「香梗薦二――一」。

【蔬】 ショ、ソ。 爽擧切 御
こめつぶ（粒）。 ○〔莊〕「鼠壤有二餘――一」。

【蔭】 イン、オン。 於禁切 沁
㊀かげ。
（い）物におほはれて光のあたらぬところ、ひかげ、こかげ。 ○〔荀〕「樹成レ――而衆鳥息焉」。
（ろ）庇護、たすけ、おかげ。 ○〔易、註〕「爲二民覆――一」。
（は）父祖の遺勳又は門閥の餘榮によりて叙官の殊遇を受くること。 ○〔唐〕「以二世――一爲二郵尉一」。
（に）日晷、ひかげ。 ○〔左〕「趙孟視レ――」。

㊁おほふ。
(い)おほひをなす、かくす、さへぎる、かざす。○[呂氏春秋]「松-柏成而塗之人已—」。
(ろ)繁茂す、しげる。○[陸雲]「芳-條達—」。
(は)たすく、かばふ。○[南]「吾不レ能二爲レ汝—一レ政、各自努-力耳」。
(庇蔭) おほふ。○[左]「若去レ之、則本-根無レ所二—・—一矣」。「—」。
(美蔭) うるはしき日影。○[方岳]「戲-魚爭二—・—一」。
(茂蔭) しげりたるこかげ。○[詩、疏]「以下行-人之欲レ息二於—・—一、似中諸-侯願上レ朝二於有-德一」。
(涼蔭) すゞしきこかげ。○[晉]「冬有二溫-廬一、夏有二—・—一」。
(軍蔭) 父祖の戰功によりて特別の待遇をうくること。○[晉]「—・—易レ多」。
(藉蔭) 朝廷より庇蔭をうく。○[南]「常自矜二—・—之美一」。
(隨蔭) 父祖の官に應じて子孫を官に補す。○[周]「各—レ—敍-錄」。
(父蔭) ちゝの官吏たりしかげ。○[隋]「少以二—・—一、爲二太子親-衞一」。
(木蔭) こかげ。○[玉澗雜書]「—・—聽二禽-聲一」。
(堅蔭) 樹木などのしげりたるかげ。○[沈約]「—・—上翦茸」「—」。
(恩蔭) めぐみのなさけ。○[徐陵]「天-下蒙二其—・—一」。
(嘉蔭) よきかげ。○[蘇軾]「幽-人得二—・—一」。

【䕃】 イン、オン。於金切 〔侵〕
前條の㊀の(い)(ろ)に同じ、おほふ。○[班固]「茂-樹—・—蔚」。○

【蔮】 クワイ、ケ。古對切 〔隊〕
簪なき緇布の冠。○[後漢]「簪-蔮—、簪-珥」。

【䔡】 ギヨ、ゴ。牛居切 〔魚〕
のらえ(荏)。

【蔯】 チン。池隣切 〔眞〕
一種の草、いんちんよもぎ。

【葴】 シン。諸深切 〔侵〕
ほゝづき(酸-漿)。

【蕯】 サン、セン。所銜切 〔潛〕
其の狀笛に似たる一種の樂器、二孔ありて短し。

【蒘】 キヨ、ゴ。臼許切 〔語〕
白—は、田に糞するに適する一種の草。

【䓭】 サツ、セチ。初刮切 〔黠〕
—章は、草に住む一種の蟲、又、蛇の草中を行く響きにいふ語。

【蕬】 シ。心資切 〔支〕
—瓜は、へちま。

【蓌】 ス井、シ。遵爲切 〔支〕
くさびら(蕈)。

十二畫

【䓘】 カウ、コウ。古勞切 〔豪〕
葛の屬。

【藚】 トク、ドク。徒沃切 〔沃〕
水篇筑、うしぐさ、一說に、竹。

【蔽】 ヘイ、ヘ。必袂切 〔霽〕
㊀おほふ。
(い)つゝむ、かぶす。○[禮]「女子出レ門必擁二—蔽其面一」。
(ろ)障ふ。○[史]「項-伯亦拔レ劍起舞、常以レ身翼二—沛-公一」。
(は)翳す。○[晉]「西-風塵起、擧レ扇自—曰、元-規塵汚レ人」。
(に)隱す。○[禮]「罪無レ有二掩—一」。
(ほ)塞ぐ。○[呂氏春秋]「功-名—二天-地一」。
(へ)當つ。○[論]「一-言以—レ之」。
(と)くらます。○[左]「以二誣-道—一二諸-侯一」。
㊁ふせぎ、さゝへ、おほひ。○[史]「然則韓、魏、趙之南—也」。
㊂かき、ついたて屛風。○[鄭玄]「攝二束茅一以爲二屛—一」。
㊃事に通ぜざること、理に明かならざること。○[論]「女聞二六-言六—一乎」。
㊄斷ず、さだむ。○[左]「叔-魚—二罪邪-侯一」。
㊅微なる貌にいふ字。○[詩]「—-芾甘-棠」。
㊆博箸、すごろくのさい、ばくちのさい。○[楚辭]「菎—象-箸」。
(扞蔽) おほふ、又、おほひ。○[史]「趙之於二齊楚一—・—也」。
(屛蔽) 前に同じ。○[漢]「臣安幸得下爲二陛下一守レ藩、以レ身爲中—・—上」。
(障蔽) 前に同じ。○[禮、註]「四-面皆有二—・—一」。
(蒙蔽) おほひかくす、又、知識のあきらかならざること。○[元稹]「非—・—率皆此類」。
(藩蔽) まがき、おほひ。○[詩、疏]「維爲二—・—一」。
(翳蔽) おほふ。○[詩、箋]「相—・—也」。
(愚蔽) おろか。○[吳]「臣以二—・—一」。
(闇蔽) 前に同じ。○[吳]「受-土—・—」。
(隱蔽) かくしおほふ。○[國]「後無二—・—一」。
(障蔽) 前に同じ。○[漢]「相爲二—・—一」。
(干蔽) 犯しおほふこと。○[漢]「—二—・—陽明一」。
(欺蔽) たぶらかしかくす。○[漢]「則不二—・—一」。
(壅蔽) 聰明をおほひふさぐ。○[唐]「通二—・—之路一」。
(孤蔽) 他に輔けなく事情にくらし。○[潛夫論]「君-王—二—・—於上一」。

【黻】 フツ、ホチ。分弗切 〔物〕
風塵を禦ぐに設けたる車上のおほひ。○[周]「蒲—・—」。
(藻蔽) 水草の如きあを色の車旁のたれ。○[周]「藻-車—・—」。

【蔽】 ヘツ、ヘチ。匹蔑切 〔屑〕
わかつ(別)、一說に、うつ(擊)、はらふ、(拂)。○[史]「跪而—レ席」。

【䔬】 イ。羊吏切 〔寘〕
㊀いたちぐさ(虉)。㊁めあさ(苧)。

【蒪】 フ。方遇切 〔遇〕 フウ、俯九切 〔宥〕
華葉の布くにいふ字、ふく。

【蔾】 リ。力脂切 〔支〕 レイ、憐題切 ライ。切 〔齊〕
蒺—は、刺ある一種の草、はまびし。○[易]「據二于蒺—一」。

【薴】 デイ、ニヤウ。乃挺切 〔迥〕
㊀—薴は、のらえ(荏)。
㊁葶—は、一種の毒草、うたところし。

【蘄】 シ。息移切 〔支〕
其の花食らふべき一種の水草。

【蔿】 井。韋委切 〔紙〕
草、

【蘤】 クワ、ケ。呼瓜切 〔麻〕
かまびすし(譁)。

【蘬】 キ。驅爲切 〔支〕
わるがしこし(獪)。

【蔬】
蔬に同じ。

【艹+酤】コ、ク。古故切 遇 ㊀れかしたるにら(韭鬱)。㊁すづけ(醋葅)。

【蕀】キョク、ケキ。紀力切 職 ㊀顛—は、てんもんどう、すべろぐさ、すまろぐさ。㊁—蒬は、ひめはぎ。

【蕁】タン、ドン。徒含切 覃 ㊀葉は韭に似たる一種の草、やまし。㊁海藻の屬、もづく。㊂むす(蒸)。○[淮]「火上——水下流」。

【艹+嫂】サウ、ソウ。蘇老切 晧 —艹嫂は、はこべら。

【蓃】シウ、シユ。疎鳩切 尤 雞腸草、むらさきはこべ。

【艹+溲】シウ、シユ。所九切 有 白滓、おり。

【艹+富】フウ、フ。方副切 宥 菔の屬、ほそれだいこん。○[詩]「言采二其——一」。

【葍】フク、ホク。芳福切 屋 —葍は、一種の草。

【艹+揖】イフ。一入切 緝 —艹揖は、草の密き貌にいふ語。

【蕂】ショウ。詩證切 徑 苣—は、胡麻。

【艹+滿】蔳に同じ。

【蕃】ヘン、ハン。附袁切 元 ㊀しげる(茂)。○[詩]「——衍盈レ升」。㊁ふゆ(息)。○[左]「其子孫必—」。㊂藩に同じ。○[國]「以レ—爲レ軍」。㊃化外の國、えびす。○[周]「以封二——國一」。㊄鵰の別名、ふくろふ。○[山海經]「涿光之山、其鳥多レ—」。
(青蕃) あをくしげる。○(西征賦)「——蔚乎翠激」。
(蕃昌) まししげる。○(道德指歸論)「萬物——」「—」。

【菩】ホウ、ブ。歩鉤切 尤 つけもの(葅)。

【艹+登】トウ。都滕切 蒸 金—は、一種の草、さうろうばな。○[拾遺記]「砌下生二草三株一、狀若二金——一」。

【艹+然】ゼン、テン。如延切 先 野生の豆。

【艹+毛】ホウ、ブ。蒲蠓切 東 —艹毛は、草の亂るゝ貌にいふ語。○[潘岳]「蔚薈——菶」。

【蓩】ボウ、ム。莫候切 宥 一種の毒草。

【蓛】サイ、セ。取外切 泰 ショク、シキ。初力切 職 草。

【艹+毳】セイ、セ。初芮切 霽 草の出づる貌にいふ字。

【蕄】バウ、ミヤウ。莫耕切 庚 存在すると。

【艹+殽】カウ、ゲウ。胡茅切 肴 黃茅の根、あぶらがやのね、其の煎じたる汁を消渴病を治するに用ふ。

【艹+矞】キツ、キチ。居聿切 質 一種の菜、一說に、馬芹、うまぜり。

【蕅】藕に同じ。

【艹+舒】ショ、ソ。傷魚切 魚 —艹舒は、魚薺。

【艹+提】テイ、ダイ。田黎切 齊 一種の草。

【艹+提】タイ、デ。度皆切 佳 草を除く、のぞく、かる。

【蕆】テン。丑善切 銑 つぐ(敕)、さく(解)、そなふ(備)。○[左]「以—二陳事一」。

【蕇】テン。多殄切 銑 芥に似たる一種の草、はまがらし、いぬなづな。

【蕈】ジン。慈荏切 寑 徐心切 侵 木菌、地菌、きのこ、くさびら。

【艹+犂】レイ、ライ。憐題切 齊 新——は、漢時代の北方の小國の名。

【艹+猭】テン。寵戀切 霰 獸の草間を走るにいふ字、はしる。○[馬融]「獸不レ得レ—」。

【艹+勞】ラウ、ロウ。郎到切 號 くさぎる(薅)。

【艹+勞】ラウ、ロウ。[illegible]切 [illegible] 一種の野生の豆、まめ。

【艹+琴】キン、ゴン。巨金切 侵 キョウ、ゴウ。巨興切 蒸 一種の草、其の根は竹器の緣となすに用ふ、みくり(荊三稜)。

【蕉】セウ。卽消切 蕭 ㊀芭—は、一種の植物、ばせを、葉太だ長大にして莖も亦高し。○[南方草木狀]「甘——一名芭—、或曰二芭苴一、莖解散如レ絲、可三紡績爲二絺綌一、名二——葛一」。㊁あくた(芥)。○[莊]「澤若レ—」。㊂たきゞ、まき(薪)。○[列]「覆レ之以レ—」。㊃顦に通じ用ふ。○[左]「無レ棄二——萃一」。
(牙蕉) 甘蕉花の異名。○(本草)「甘蕉花大類二象牙一、故曰二——一」。
(繁蕉) しげりたるばせを。○(王融)「——不レ實」。
(綠蕉) あをくしたるばせを。○(黃克晦)「漁舍陰陰映二——一」。
(翠蕉) 前に同じ。○(楊萬里)「——自擁レ扇」。
(叢蕉) むらがりしげりたるばせを。○(高啓)「——倚二孤石一」。
(敗蕉) 葉のやぶれたるばせを。○(張時徹)「疾風掠二——一」。

【蕊】ズヰ。如壘切 [紙]
㊀鬚狀をなす花心、しべ、果蓏を結ぶの機關。○[屈平]「貫＝薜荔之落－－＿」。㊁花。○[郭璞]「翹-莖灑－－＿」。

【蕊】セン、ゼン。子褒切 [銑]
花などの聚まるにいふ字、あつまる。○[潘岳]「瓊-鈒入レ－－」。

【蕋】俗の蕊の字。

【蘲】ライ、レ。魯猥切 [灰]
艾に似たる一種の菜。

【蕍】ユ。羊朱切 [虞]
㊀おもだかの一種、なまゐ。㊁はな、(華)。

【蕎】ケウ。擧喬切 [蕭]
一種の藥草、はやひさぐさ、其の根は辛く苦し。○[爾]「－－邛-鉅」。

【蕎】ケウ、ゲウ。巨嬌切 [蕭]
其の莖弱く其の實に麥の麪の如き白粉ある一種の穀、そば。○[白居易]「－－麥鋪レ花白」。
[花蕎] そばの異名。○[本草]「蕎-麥名＝－－＿」。

【蕻】カウ、ゴウ。戸講切 [講]
葵に似たる一種の草。

【葇】ジウ、ニユ。忍九切 [有]
蘇に似たる一種の草。

【蕏】チヨ、ト。張如切 [魚]
莖－は、されかづら。

【䔹】スヰ、ズヰ。徐醉切 [紙]
菌に似たる一種の草。

【藬】タイ、デ。徒對切 [隊]
出－－は菰の上に生ふる菌、まこもたけ、蘧蔬。

【蕐】華に同じ。

【蘒】カン。胡安切 [寒]
－－蔣は、ほゝづき、かゞち。

【蕑】カン、ケン。古閑切 [刪]
㊀澤蘭(あらゝぎ)に似たる一種の草、ふぢばかま。○[荊州記]「士-女相與秉レ－而祓-除」。㊁一種の葛草、其の實は赤色にして梨に似たり。○[齊民要術]「－－子藤-生緣レ樹」。

【蕒】バイ、メ。莫蟹切 [蟹]
苦蕒、けしあざみ。○[晉]「－－菜生＝江-人吳-平家＿」。

【䕻】ヰ。尹捶切 [紙] スヰ、才規 ズヰ。切 [支]
㊀藍蓼の秀、あゐのほ。㊁草木の華の初出の貌にいふ字。㊂へた(蔕)。㊃菾－－は、はますげ。

【蕓】ウン、チン。王分切 [文]
㊀－－薹は、あぶらな。㊁一種の香草。

【蕔】ハウ、ボウ。博毛切 [豪]
㊀あるゝ(荒)。㊁菜。

【蕕】イウ、以周切 [尤] ユ。以九切 [有]
㊀水邊に生ずる一種の草。㊁臭氣ある一種の草。○[本草、註]「其氣瘧-臭故謂＝之－＿」。㊂臭氣、くさみ、くさし。○[左]「一-薰一－」。

【蕖】キヨ、ゴ。强魚切 [魚]
芙－は、はちす、はす。○[拾遺記]「丹-－駢-生如レ蓋」。
[荷蕖] はすの花。○[靈光殿賦]「反植＝－・－＿」。
[紅蕖] あかいろのはすの花。○[韋應物]「－・－綠-萍芳-意多」。
[白蕖] しろきはすの花。○[白居易]「水-花披＝－・－＿」。

【蕺】ケキ、キヤク。几劇切 [陌]
大－－は、一種の藥草、はやひさぐさ。

【蕗】ロ、ル。魯故切 [遇]
㊀蘩-蘦、つるむらさき。○[東方朔]「葛－－雜＝於叢-蒸＿兮」。㊁かんざう。○[急就篇、註]「甘-草一-名－－」。

【蕘】ゼウ、ジウ。如招切 [蕭]
㊀草薪を採るを、きこり、しばかり。○[左]「淫＝芻－者＿」。㊁きこる人、しばかる者。○[詩]「先-民有レ言、詢＝于芻－－＿」。㊂草薪、たきゞ、しば。○[元稹]「芻－－分＝棄-捐＿」。㊃一種の藥草、きのこがんぴ。○[本草、註]「－者饒也、其花繁-饒也」。
[薪蕘] たきゞぐさ。○[王琢]「但覺漏＝－・－＿」。

【蕘】ダウ、ヂウ。尼交切 [肴]
かぶら、(蕪)。○[揚雄]「陳、楚之郊謂＝之－＿」。豐＝魯、齊之郊謂＝之－＿」。

【蓛】譊に同じ。

【蔪】トン。都昆切 [元] タイ、都回 テ。切 [灰]
草の盛んなる貌にいふ字。

【蕙】ケイ、エ。胡桂切 [霽]
蘭の屬、一幹に數花を開き香氣は蘭に比べて稍薄し。○[屈平]「樹＝－之百-畝＿」。
[綠蕙] あをくしたるかをりぐさ。○[白居易]「－・－低-數-尺」。
[碧蕙] 前に同じ。○[杜甫]「－・－捐-微-芳＿」。
[蘭蕙] かをりぐさの名。○[後漢]「－・－化爲レ芻」。
[荃蕙] 前に同じ。○[屈平]「－・－化而爲レ茅」。
[蓀蕙] 前に同じ。○[曹植]「蘭-茝－・－之芳」。
[茝蕙] 前に同じ。○[宋玉]「秋蘭－・－」。
[蘅蕙] 前に同じ。○[謝朓]「－・－有-實」。
[芳蕙] かをりたかくにほふくさ。○[孟郊]「春-色捨＝－・－＿」。「－後レ時老」。
[霜蕙] しもをおびたるかをりぐさ。○[錢起]「－・－むらかりしげりたるかをりぐさ。○[陳高]「－・－散＝餘-馥＿」。
[叢蕙] むらがりしげりたるかをりぐさ。

【蕁】蕁に同じ。

【蘎】キ、ケ。居依切 [微]
茝－－は、一種の草。

【蕛】テイ、ダイ。田黎切 [齊]
地に布き生ずる雜草、太だ稗に似たり、いぬくろびえ。○[揚載]「不レ嚙隄-頭枯-菜－」。

【䔖】シフ。色入切 [緝]
㊀草の聲にいふ字。㊁香氣ある一種の草。

【蘉】蘉に通じ用ふ。

【蕜】ヒ。妃尾切 尾 父沸切 未
いたむ、かなしむ（悵）。

【蕝】セツ、子悅切 屑 セイ、祖芮切 霽 セチ。切 セ。切
茅を束ねて位次を表するに立つるもの。〇〔國〕「楚爲二荊蠻一置二茅蕝一」。
〔蕝蕝〕つかねたるちがやにて神酒などのうちにたつるもつ。〇〔宋松〕「纜滴叢祠蕝蕝」。

【蕞】サイ、ゼ。才外切 泰
一小さき貌にいふ字。〇〔左〕「蕞爾國」。
二聚まれる貌にいふ字。〇〔潘岳〕「蕞芮于城隅者、百不レ處レ一」。

【蕞】蕝に同じ。〇〔漢〕「與二其弟子百餘人一爲二綿蕞一」。

【蕍】萸に同じ。

【蕠】ヂヨ、ニヨ。女居切 魚
黏著す、ねばりつく。〇〔史〕「用二紵絮一斷二陳蕠一漆二其閒一」。

【蕠】ジヨ、ニヨ。人余切 魚
蕠藘は、あかね草。

【藹】アイ。於蓋切 泰
一おほふ（蓋）。二かすか（微）。三きよし（清）。

【蔶】シ。郎移切 支
水中に生ずる一種の菜。

【藒】藒に同じ。

【藒】アツ、アチ。予割切 曷

水中に生じて蕨に似たる一種の菜。

【蕆】セン、ゼン。豎兖切 銑
一種の草、此の草の生ずる處には魚なしといふ。

【蕡】フン、ボン。符分切 文
一草木實多し。〇〔詩〕「有レ蕡其實」。二麻子、あさのみ。〇〔儀〕「麻之有レ蕡者也」。三雜多の香草。四ゆみづる（弦）。

【蕢】キ、求位切 寘
𦸣草を入れ運ぶ器、あじか。〇〔論〕「有下荷レ蕢而過二孔氏之門一者上」。

【蕢】クワイ、ケ。苦怪切 卦
一赤根の菜、あかひえ。二由に通じ用ふ、つちくれ。〇〔禮〕「蕢桴而土鼓」。

【蕺】シフ、ジフ。秦入切 緝
菩。

【蕣】シユン、舒閏切 震 ジユン。切
むくげ（木槿）。〇〔王僧孺〕「菫蕣朝采」。
〔朱蕣〕あかき色せるむくげ。〇〔徐陵〕「綠鬟調二朱蕣一」。
〔朝蕣〕むくげ。〇〔元稹〕「朝蕣玉佩迎」。

【蘮】ケイ。居例切 霽 ゼイ、儒稅切
草の小さきものゝ稱。

【蕵】シン。疏臻切 眞
草の盛んなる貌にいふ字。

【蕤】スヰ。儒隹切 支
一草木の華の垂るゝ貌にいふ字、又、垂れたる華。〇〔陸機〕「播二芳蕤之馥馥一」。二緌に同じ、ひも、かざり。〇〔禮〕「緇布冠不レ蕤」。三やはらか（柔）。四つぐ（繼）。
〔瓊蕤〕たまの花。〇〔張說〕「玉蕤發二紫莖一」。
〔冠蕤〕かんむりのかざり。〇〔蘇軾〕「日紗冒首無二蕤蕤一」。
〔纓蕤〕かんむりのひも。〇〔張載〕「飄二纓蕤於軒冕一」。
〔垂蕤〕たれさがりたるはなぶさ、又、はなぶさをたるゝこと。〇〔牛弘〕「木槿垂レ蕤」。

【蕥】ガ、ゲ。語賈切 馬
秀でざる予穀、ゑひな。

【蕦】シユ、ス。鍚兪切 虞
蕵蕪の別名、すいば。

【蕛】リン。離珍切 眞
竹に似たる莖の中の實つる一種の草。

【蕧】フク、ボク。房六切 屋
たぐるま（盜庚）。

【蕨】ケツ、クワチ。居月切 月
野山に生ずる一種の菜、初生のものは葉なくて人の拳の如し、わらび。〇〔詩〕「言采二其蕨一」。
〔薇蕨〕ぜんまいとわらびと。〇〔劉琨〕「薇蕨安可レ食」。
〔紫蕨〕あかざとわらびと。〇〔韓愈〕「寧復茹二紫蕨一」。
〔擷蕨〕はそきわらび。〇〔梅堯臣〕「繇足如二擷蕨一」。
〔煑蕨〕わらびをにる。〇〔孫覿〕「烹レ魚煑レ蕨餉二春田一」。

【蕩】タウ、徒朗切 養 タウ。他浪切 漾 ダウ。切
一廣大なる貌にいふ字、ひろし、おほいなり。〇〔論〕「蕩蕩乎民無二能名一焉」。二平易なり、たひらか、やすし。〇〔楚辭〕「路蕩蕩其無レ人分」。三ゆるし、ゆるやか（緩）。〇〔漢〕「簡易佚蕩」。四放縱、ほしいまゝ。〇〔書〕「以レ蕩レ陵レ德」。五水勢の大いなる貌にいふ字。〇〔書〕「蕩蕩懷レ山襄レ陵」。六物事の廢壞したるにいふ字、やぶる、すたる。〇〔詩〕「蕩蕩上帝」。七穢垢害毒を去り除くにいふ字、はらふ、たひらぐ、あらふ。〇〔禮〕「蕩二天下之陰事一」。八うごく、うごかす（動）。〇〔荀〕「天下不レ能レ蕩」。九うつる、うつす（播）。〇〔書〕「蕩析離居」。十水を行る、水行く、そゝぐ。〇〔周〕「以レ溝蕩レ水」。
〔浩蕩〕ひろくおほいなること。〇〔沈約〕「何斯願之浩蕩」。
〔板蕩〕政事みだれやぶる。〇〔詩、序〕「天下蕩蕩無二綱紀文章一」。
〔搖蕩〕ゆりうごく。〇〔史〕「與レ波搖蕩」。
〔震蕩〕前に同じ。〇〔左〕「楚師輕窕易二震蕩一也」。
〔浦蕩〕任をのがれほしいまゝなること。〇〔漢〕「吉敢吏嗜レ酒數浦蕩」。
〔掃蕩〕はらひたひらぐ。〇〔晉〕「掃二蕩仇趾一」。
〔滌蕩〕けがれをすゝぎ去ること。〇〔晉〕「心滌蕩而無レ累」。
〔駘蕩〕廣くおほいなる貌、又、春色ののびやかなるにもいふ。〇〔阮籍〕「駘蕩梁二我心一」。
〔莽蕩〕くさはらの廣やかなること。〇〔班跳〕「野莽蕩條以迷二河洲一」。
〔飄蕩〕ゆれうごきて定まらず。〇〔李白〕「飄蕩」。
〔坦蕩〕たひらかなること。〇〔謝朓〕「陳侯立レ身何坦蕩」。

〔昊蕩〕前に同じ。〇〔晉〕「八表――」。
〔淸蕩〕きよらかにたひらか。〇〔晉〕「海内――」。
〔消蕩〕たひらぐ。〇〔後漢〕「殘醜――」。
〔平蕩〕前に同じ、又、水などのたひらかなること。〇〔晉〕「祖逖方欲レ――二寂一」。
〔泚蕩〕ゆれうごきてしづかならず。〇〔後漢〕「方今四海――」。
〔焚蕩〕やけてつく。〇〔漢〕「宮室――」。
〔燔蕩〕前に同じ。〇〔牛弘〕「一時――」。
〔播蕩〕にげうつる。〇〔後漢〕「周有二――之禍一」。
〔放蕩〕おこなひのほしいまゝなること。〇〔魏〕「而任俠――」。
〔遊蕩〕あそびにとろく。〇〔魏、註〕「――無レ度」。
〔撲蕩〕うちたひらぐこと。〇〔魏、註〕「弥レ兵――」。
〔虛蕩〕言語などの實なくして妄りにおほいなること。〇〔晉〕「談・析以二――一爲レ辯」。
〔誕蕩〕前に同じ。〇〔唐〕「性――無二禮檢一」。
〔豁蕩〕ひろくおほいなり。〇〔晉〕「逖性――」。
〔漂蕩〕水にひたしたゞよふ。〇〔南〕「嘗遇二水寶一財――者今年調・稅一」。
〔粉蕩〕性質の柔順ならずしておほいなること。〇〔唐〕「性――好下與二豪傑一游上」。
〔豪蕩〕氣質などのすぐれておほいなり。〇〔唐〕「少――不レ治二生貲一」。
〔輕蕩〕かろがろしくうごく。〇〔劉勰〕「其俗――而忘レ歸」。
〔潒蕩〕水などのそゝぎはびこるにいふ語。〇〔拾遺記〕「雖二波濤――一、其光不レ滅」。
〔恬蕩〕しづかにしてほしいまゝなり。〇〔張華〕「安・心――」。
〔扇蕩〕煽動す。〇〔傅亮〕「――二王畿一」。
〔簸蕩〕ふりうごかすとていたくゆれうごくにいふ語。〇〔許詢〕「來往同二――一」。
〔動蕩〕ゆれうごく。〇〔王安石〕「歸心――不レ可レ抑」。
〔紛蕩〕みだる。〇〔蘇轍〕「萃言久――」。
〔踈蕩〕あらけてこまやかならず。〇〔蘇轍〕「故北文――」。

【蕁】ソン。祖本切 阮
㊀聚叢す、あつまる、むらがる。〇〔左思〕「嘉・穎合レ穗、以――」。

㊁むらがる草。〇〔張衡〕「苯――蓬茸」。

【蕪】ブ、ム。武夫切 虞
㊀雜草生ひ茂る、あるゝ。〇〔國〕「田・疇荒――」。
㊁繁茂す、しげる。〇〔謝眺〕「上――兮蔭・景」。
㊂生ひ茂れる雜草、又、雜草生ひ茂れる地。〇〔許渾〕「鳥下二綠――一秦・苑夕」。
㊃治まらざること、亂雜なること。〇〔唐〕「揚二搉古・今一、擧レ要刪レ――」。
㊄のがる、(逋)。〇〔楚辭〕「孰兩東・門之可レ――」。
〔繁蕪〕文辭などの妄りにおほきに過ぎて簡明ならぬこと。〇〔後漢〕「刪二裁――一」。
〔榛蕪〕草などのきたなくしげること。〇〔元融〕「珍・條雜二――一」。
〔靑蕪〕あをあをとしげりたる草、又、其の場所をいふ。〇〔杜甫〕「整レ履歩二――一」。
〔蒼蕪〕前に同じ。〇〔儲光羲〕「九・逵合二――一」。
〔薇蕪〕かをりたかき草にて一に蘼蕪ともいふ。〇〔廣志〕「――香草魏武帝以藏二衣中一」。
〔蘼蕪〕かづらの一種。〇〔本草〕「千歲蘽一名二――一」。
〔疎蕪〕まばらに草の生じたるとにておもに秋の野原に用ふる語。〇〔謝眺〕「邑・里向二――一」。
〔野蕪〕のはらの草ふかきところ。〇〔元融〕「瀰・漫連二――一」。
〔黃蕪〕しもがれのあれぐさ。〇〔陳與義〕「――失二舊靑一」。
〔衰蕪〕前に同じ。〇〔劉基〕「廢・井――霜・後白」。
〔霜蕪〕しものふりかゝりたるくさはら。〇〔楊載〕「――滿地荒」。

【董】トウ、ツ。多動切 董 トウ、ヅ。徒紅切 東
㊀蕫――は、あぶらがや。
㊁藕根、はすのね。

【款】クワン。苦緩切 旱
――冬は、一種の草、ふき。

【蕬】シ。新茲切 支
菟――は、一種の藥草、ねなしかづら。

【蓭】アン、オン。郎感切 感
繁茂す、しげる。

【蕭】セウ。蘇彫切 蕭
㊀艾蒿、よもぎ。〇〔詩〕「彼采レ――兮」。
㊁物の聲にいふ字。〇〔詩〕「――馬鳴」。
㊂特に、風の聲にいふ字。〇〔史〕「風――兮易・水寒」。
㊃衆人の勞動する貌にいふ字、さわがし、いそがし。〇〔漢〕「――然煩・費」。
㊄深靜なる貌にいふ字、しづか、ふかし。〇〔淮〕「――條者形之君」。
㊅寂寥なる貌にいふ字、ものさびし、さびし。〇〔宋玉〕「――瑟兮草・木搖落而變・衰」。
〔颯蕭〕風ふく聲。〇〔元稹〕「――北・風起」。
〔艾蕭〕よもぎ草の一種。〇〔史〕「――成レ林」。
〔莞蕭〕前に同じ。〇〔劉基〕「江・蘺澤・蘭成二――一」。

【蕮】セキ、シャク。思積切 陌
車前草、おほばこ。

【蕜】ヒ。府尾切 尾
㊀一種の草。㊁猝かに相見ること。

【𦾔】ゼン、ナン。乳袞切 銑
紅藍草、くれなゐ。

【蓶】サフ、ソフ。悉盍切 合
草の聲にいふ字。

十三畫

【藘】キョ、ゴ。强魚切 魚
蘇に似たる一種の菜。

【藘】キョ、ゴ。其呂切 語
苦――は、けしなぐさ。

【蘦】レイ、リヤウ。郎丁切 靑
草零落す、かる。

【蕷】ヨ。羊洳切 御
薯――は、やまのいも。

【蕸】カ、ゲ。胡加切 麻
芙蕖の葉、はすのは。

【蕸】カ、ケ。居牙切 麻
未だ秀でざる葦。

【欂】ハク、ビヤク。滂革切 陌
――櫨は、壁閒の柱、かべつきのはしら。

【蕹】ヨウ、ユ。於容切 冬
㊀あつまる、あつむ、(萃)。
㊁落葵(つるむらさき)に似たる一種の草。

【蕺】シフ。阻立切 緝
其の葉蕎麥に似たる一種の菜、どくだみ、濕地に生ず。〇〔張衡〕「有二蓼――蘘・荷一」。

【蕻】コウ、グ。胡貢切 送
㊀草菜の心長し、ながし。㊁もゆ、(萌)。
㊂しげる、(茂)。

【蕼】シ。息利切 寘
㊀たがらし、(堇)。

㊁肆に同じ。○〔荀〕「祺-然ー-然」。

【蕂】ショウ。嗤承切　徑　胡麻、ごま。

【蕽】ドウ、ノウ。奴冬切　冬　蘆花、あしのはな。

【[illegible]】トウ、ヅ。徒口切　有　草にて編みたる坐具、しきもの。

【蕾】ライ、レ。落猥切　賄　花の將に開かんとするもの、つぼみ。○〔楊萬里〕「一-夜西-風開ニ瘦ーニ」。

〔蓓蕾〕はなのつぼみ。○〔梅堯臣〕「獵・々蕾・頭ー・ー風」。
〔花蕾〕前に同じ。○〔陸游〕「晨・露毎看ー・ー坼」。
〔破蕾〕花のつぼみをひらく。○〔陸游〕「梅初ーレー行汀・路ニ」。
〔梅蕾〕むめの花のつぼみ。○〔陸游〕「ー・ー意ニ先・香ニ」。
〔艷蕾〕うつくしき花のつぼみ。○〔翁卷〕「艷香ー・ー破ニ春・晴ニ」。
〔珠蕾〕たまの如き花のつぼみ。○〔王逸〕「朔・風吹レ寒ー・ー裂」。
〔玉蕾〕前に同じ。○〔苗濬〕「ー・ー珠・芽未レ足レ多」。

【[illegible]】クワイ、エ。胡罪切　賄　一種の草。

【[illegible]】クワイ、エ。胡隈切　灰　惡しき芋。

【薀】ヲン。烏渾切　元　一種の水草、も、みづくさ。○〔左〕「蘋・蘩ー-藻之菜」。

【薀】ウン、ヲン。紆粉切　吻　つむ、(積)。○〔左〕「芟ニ夷ーニ崇之ニ」。

【薀】ウン、ヲン。於問切　問　ならふ、(習)。

【薁】イク、オク。於六切　屋　車下李の屬、ゆすらうめ。○〔詩〕「六-月食ニ鬱及ーニ」。

【薁】アウ、オウ。於到切　號　一種の草。

【䕇】セン。祖衮切　銑　藘ーーは、ほそれだいこん。

【薂】ケキ、ギヤク。胡狄切　錫　蓮實、はすのみ。

【薚】チヤウ。仲良切　陽　雞ーーは、一種の菜、はこべら。

【薃】カウ、ゴウ。胡老切　皓　はますげ、(莎)。

【薄】ハク、バク。傍各切　藥

㊀草木の叢生したる地、くさむら。○〔淮〕「隱ニ於榛ー之中ニ」。
㊁すだれ、(簾)。○〔禮〕「帷ー之外不レ趨」。
㊂す、(簇)。○〔史〕「以レ織ニー-曲一爲レ生」。
㊃すべて竹葦などを編み織りたるものゝ稱。○〔荀〕「ー-器不レ成レ內」。
㊄うすし。
(い)表裏のへだたり少なし。○〔詩〕「如レ履ニー-氷ニ」。
(ろ)少なし。○〔易〕「德ー而位尊」。
(は)輕し。○〔周〕「四曰、ー-征」。
(に)賤し。○〔史〕「年少官ー」。
(ほ)豐かならず。○〔晉〕「俸-祿ー」。
(へ)淡し。○〔莊〕「魯-酒ー」。
(と)瘠せたり。○〔左〕「土ー而水淺」。
(ち)狹し。○〔史〕「此地狹ー」。
(り)愛情乏し。○〔史〕「商-君天-資刻-ー人也」。
(ぬ)動き易し。○〔唐〕「吾嘗器ニ樞不ニ浮ーー、今乃爾」。
(る)實意乏し。○〔潛夫論〕「情-實ー而辭-稱厚」。
㊅うすんず。
(い)輕んず、賤しむ。○〔左思〕「骨-肉還相ー」。
(ろ)嫌ふ。○〔漢〕「ーニ朕忘レ故」。
㊆うすからしむ、損す、うすくす。○〔呂氏春秋〕「ーニ滋-味ニ」。
㊇せまる。
(い)ちかづく、(近)。○〔左〕「ー而觀レ之」。
(ろ)つく、(附)。○〔莊〕「非レ謂ニ其ーレ之」。
(は)をかす、(侵)。○〔荀〕「寒-暑未レー而疾」。
㊈おほふ、(掩)。○〔書〕「外ーニ四-海ニ」。
㊉いたる、(至)。○〔史〕「終無レ所レー」。
⑪あつまる、(集)。○〔司馬相如〕「奄-ーニ水-渚ニ」。
⑫つとむ、(勉)。○〔揚雄〕「其鄙-語曰ニー-努、猶ニ勉-努一也」。
⑬少時、しばらく。○〔詩〕「ー澣ニ我衣ニ」。
⑭いさゝか、(聊)。○〔詩〕「ー言采レ之」。
⑮雲氣の日月の光明を被ふこと。○〔史〕「日-月ー-蝕」。
⑯廣大なる貌にいふ字。○〔荀〕「ーー之地」。
⑰疾驅する聲にいふ字。○〔詩〕「載驅ーー」。
⑱毫に通じ用ふ。○〔荀〕「湯以レー」。

〔履薄〕うすき氷をふむとて危きを冒すの義にいふ。○〔潘岳〕「如ニ臨レ深而ーレー」。
〔菲薄〕あつからず。○〔史〕「維德ー・ー」。
〔輕薄〕ものゝかろくしてあつからざること、又、人情の動きやすくうすきこと。○〔後漢〕「陷ニ爲天・下ー・ー子ニ」。
〔醲薄〕人情などのうすきこと。○〔漢〕「慜ニ世・俗之ー・ーニ」。
〔澆薄〕前に同じ。○〔後漢〕「常慨ニ時ー・ーニ」。
〔佻薄〕人の性情行爲などの操守なくして輕薄なること。○〔唐〕「言文・人多ー・ー」。
〔脆薄〕ものゝうすく堅固ならざること、又、人情などのうすきにいふ。○〔元稹〕「ー・ー河・氷安可レ越」。
〔林薄〕草木のむらがりしげること、又、其のところ。○〔唐〕「ー・ー叢・翳」。
〔叢薄〕くさむら。○〔唐〕「有レ虎出ニー・ー中ニ」。
〔廻薄〕めぐる。○〔張華〕「ー・ー不レ知レ窮」。
〔潰薄〕水の激してなみたつこと。○〔吳都賦〕「ー・ー沸騰」。
〔飛薄〕前に同じ。○〔江賦〕「聚波ー・ー」。
〔拙薄〕わざつたなくこゝろざしあつからざること。○〔何遜〕「ー・ー終難レ化」。
〔劣薄〕前に同じ。○〔權德輿〕「況臣ー・ー」。
〔疎薄〕こまやかにあつからざること、又、したしまざること。○〔史〕「居ニ縮栄高ー・ーニ之ニ」。
〔薄々〕うすき貌にいふ語、又、うすきものをうすしとてあつかふこと。○〔蘇軾〕「ー・ー酒勝ニ茶湯ニ」。
〔淺薄〕ものゝうすきこと、又、人情などの篤厚ならざること。○〔後漢〕「時・俗ー・ー」。
〔涼薄〕すたれ。○〔宋裴〕「海・風吹ニー・ーニ」。
〔褊薄〕人情などのせまきこと。○〔禮、疏〕「魏俗ー・ー」。
〔身薄〕室手にてせまること。○〔枚乘〕「袒・裼ー・ー」、
〔鮮薄〕すくなし。○〔禮、疏〕「其祭・品其ー・ー也」。
〔厚薄〕あつきとうすきと。○〔淮〕「豈其趨・捨ー・ー之勢異哉」。
〔瘠薄〕土地などのやせてひろからざること。○〔史〕「此地ー・ー」。
〔貧薄〕まづしきこと。○〔後漢〕「實歷ニ位過・郡ニ而愈ー・ー」。
〔儉薄〕儉約にしてゆたかならず。○〔南〕「人疑ニ其ー・ーニ」。
〔卑薄〕土地などのひきくやせたること。○〔海山記〕「臣木南・楚ー・ー之地」。
〔鄙薄〕いやしくゆたかならず。○〔馬融〕「曉・陋ー・ー、不レ足ニ觀者ニ」。

〔澤薄〕さまよひてやすからず。○〔蜀〕「―ㇾ―風波」。
〔窄薄〕むなしくしてあつからず。○〔梁簡文帝〕「臣本―・―」。「風」。
〔偕薄〕まことならざること　○〔晉〕「已聞―・―之」
〔旁薄〕あつまる。○〔旁〕「―・―爲ㇾ一」。
〔深薄〕ふかきふちとうすき氷との意に用ふる語。○〔詩〕「如ㇾ臨二―・―」。「雷」。
〔激薄〕ふれあつまる。○〔論衡〕「火―・―則爲ㇾ」
〔毀薄〕やぶれて全からず、又、そしる。○〔南〕「人倫―・―」。「―・―」。
〔陋薄〕いやしくしておほからず。○〔南〕「獻亦」
〔寡薄〕ものゝすくなきこと、又、德のすくなきにいふ語。○〔十六國春秋〕「朕雖二―・―」。
〔訾薄〕そしりてかろんず。○〔唐〕「爲ㇾ士類所二―・―」。
〔訕薄〕前に同じ。○〔唐〕「上書―ニ―朝政」。
〔畏薄〕おそれてきらふ。○〔唐〕「人―ニ―之」。
〔嘲薄〕あざけりかろんず。○〔唐〕「常世―ニ―之」。「肆」。
〔險薄〕心けはしくて德うすし。○〔唐〕「―・―自」
〔沾薄〕汁多くて味淡泊なり。○〔楚辭〕「不二―・―只」。
〔修薄〕ながきすだれ。○〔陸機〕「谷風拂二―・―」。
〔邪薄〕よこしまにして德のうすきこと。○〔柳宗元〕「貪冒苟諂―・―之夫」。
〔儒薄〕志つよからず德のうすきこと。○〔權德輿〕「―・―無ㇾ堪」。
〔愚薄〕おろかなり。○〔權德輿〕「以ㇾ臣―・―」。
〔嗔薄〕いかりあつまる。○〔元稹〕「龍蛇相―・―」。
〔墝薄〕土地のやす。○〔梁簡文〕「化二―・―」爲二膏腴一者」。

【薄】 欂に同じ、かべつきのはしら、壁柱。○〔爾〕「屋上―謂二之筄一」。

【蘀】 タク、ヂヤク。直格切 陌
葛の屬。

【薅】 カウ、コウ。呼毛切 豪
田草を拔き去る、ぬく、のぞく、くさぎる。○〔詩〕「以―二荼蓼一」。

【薆】 アイ。烏代切 隊
㊀かくす、(隱)、おほふ、(蔽)。○〔漢〕「昧二―于未中一」。
㊁草木の盛んなる貌にいふ字。○〔張衡〕「鬱蓊―薱」。
㊂かをる、かうばし、かをり、(香)。○〔江淹〕「道―二岷外一」。
〔蓊薆〕草などのさかんなる貌にいふ語。○〔司馬相如〕「觀二衆樹之―・―兮」。
〔掩薆〕おほひかくす。○〔魏武帝〕「日―・―而西移」。「萮」。
〔晻薆〕かをり、かうばし。○〔司馬相如〕「―・―咇」

【薘】 タン。唐干切 寒
草の地に蔓え布くにいふ字、はびこる、又、はえしく草。

【蘋】 ヒン、ホン。筆錦切 寑
ふぢ、(藤)。

【薇】 ビ、ミ。無非切 微
山に生ずる一種の菜、ぜんまい。○〔詩〕「言采二其―一」。
〔蕨薇〕わらびとぜんまいと。○〔詩〕「山有二―・―」。
〔薔薇〕いばら。○〔本草經〕「―・―不ㇾ二」。
〔雲薇〕菜の名。○〔拾遺記〕「於二金墉城一種二異菜一、名二―・―」。
〔白薇〕藥草の名。○〔吳均〕「商山饒二―・―」。

【薈】 ワイ、エ。烏外切 泰
㊀興こる貌にいふ字、さかんなり。○〔詩〕「―兮蔚兮」。
㊁しげる、(茂)。○〔郭璞〕「潛―・―葱龍」。
㊂さゝふ、(障)。○〔潘岳〕「翳―・―蓁茸」。
㊃榛叢、くさむら。○〔郭璞〕「近浮二遊於園―・―」。
〔霨薈〕雲のおこる貌にいふ語。○〔盧思道〕「雲將ㇾ卷二其―・―」。
〔鴻薈〕おほいなること。○〔爾、疏〕「蘙一名二―・―」、「―・―」。
本草謂二之菜芝」。
〔榛薈〕草などのしげりたる處。○〔韓維〕「出ㇾ門步二―・―」。
〔蔚薈〕樹木などの蔽ひしげりたること。○〔謝靈運〕「脩竹蔽以―・―」。「―・―」。
〔蓊薈〕草木などのしげりたること。○〔陸雲〕「脊丘」
〔叢薈〕くさむら。○〔郭璞〕「拔二文秀於―・―」。
〔芳薈〕香氣あるくさむら。○〔沈約〕「帷宮緣二―・―」。「林久―・―」。
〔穢薈〕きたなく草のしげりたること。○〔劉基〕「山」

【薊】 ケイ、カイ。吉詣切 霽
一種の草、あざみ、其の山中に生ずるものを朮さいひ、平地に生じて肥大なるものを馬薊さいふ。

【薉】 アイ、エ。於廢切 隊
穢に同じ。○〔荀〕「國之―・―孽也」。
〔草薉〕くさのきたなくしげれること。○〔周、註〕「學地塗泥多二―・―」。
〔榛薉〕きたなくしげりたる草。○〔柳宗元〕「刋二焚―・―」。
〔蕪薉〕草などのあれしげりたること。○〔文同〕「―・―殘二萬穴」。

【薚】 タウ、ダウ。徒良切 陽
莖蕮、ひきざくら、一名、にがにれ。

【薋】 シ、ジ。才資切 支
㊀草の多き貌にいふ字。「盈ㇾ室兮」。
㊁蒺蔾、はまびし。○〔屈平〕「―菉葹以」

【薌】 キヤウ、カウ。許良切 陽
㊀穀の氣、又、穀。○〔禮〕「黍曰二―・―合」。
㊁香氣、かをり、かうばし、又、かうばしき物。○〔荀〕「苓―以送ㇾ之」。
〔膻薌〕肉と穀と。○〔禮〕「亨二孰―・―」。
〔骨薌〕あぶらと香氣あるあはと。○〔謝眺〕「絹ㇾ景潔二―・―」。

【薌】 響に通じ用ふ、ひゞき。○〔揚雄〕「―昳肹兮以棍ㇾ根兮」。

【薍】 グワン、ゲン。五患切 諫
をぎ、(荻)。○〔唐〕「葭―阻奧」。

【薍】 ラン。盧玩切 翰
小蒜の根。

【薎】 ベツ、メチ。莫結切 屑
㊀飛揚する貌にいふ字。○〔史〕「―・―蠓踊躍」。「―・―縷」。
㊁ほそし、(細)。○〔馬融〕「蹉二纖根一、跋二」

【薏】 ヨク、於力切 職　イ。乙吏切 寘
イキ。切
芙蕖の實の中心、はすのなかみ。○〔爾〕「其中的、々中―」。

【薽】 ケイ、キヤウ。堅靈切 靑
藤の屬、其の纖緯をはたの經絲に用ふ。

【薐】 ロウ。盧登切 蒸
一種の菜、ほうれんさう。

【薑】 キヤウ、カウ。居良切 陽
辛味多くて香氣ある一種の菜、しやうが、はじかみ。○〔論〕「不ㇾ撤ㇾ―食」。
〔山薑〕はなめうが。○〔南方草木狀〕「―・―花字葉閒」。

【蔘】 シン、ソン。所金切 侵
人―は、一種の藥草、其の成長したるものゝ根は恰も人形の如し。○〔唐〕「太原府土貢人―」。

〔黄蔘〕藥草の名、人參。○〔本草〕「人・蔘在二五・蔘中一、色黄屬レ土、故有二｜・｜之名一」。
〔丹蔘〕人蔘の一種。○〔王十朋〕「白・朮・｜・｜」。
〔沙蔘〕前に同じ。○〔本草〕「｜・｜一名白｜、與二人・蔘玄蔘丹・蔘苦蔘一、是爲二五蔘一」。
〔苦蔘〕前に同じ。○〔梁宣帝〕「｜・｜酸・棗」。
〔紫團蔘〕人蔘の異名。○〔本草〕「人・蔘生二潞・州太・行・山上一、謂二之｜・｜・｜一」。

【蔘】セン、ソン。詩廉切 鹽 喪に用ふる蓆、志きもの。

【薔】ショク、シキ。所力切 職 澤に生ずる蓼、みづたで。

【薕】レン、ロン。力鹽切 鹽 ㊀萑の屬、細くして高きもの、すだれよし、ひめよし。㊁はじかみ(薑)。

【薖】クワ。苦禾切 歌 寛大なる貌にいふ字、一説に、饑うる意。○〔詩〕「碩人之｜」。

【⿱艹殿】テン、デン。堂練切 霰 ｜蒨は、一種の草、やにれ。

【薘】タツ、タチ。唐割切 曷 おほばこ(馬舃)。○〔謝朓〕「風振蕉｜裂」。

【薙】テイ、タイ。他計切 霽 シ、ジ。序姊切 紙 かる。(い)草を地に迫り芟る。○〔禮〕「燒｜行レ水」。(ろ)伐除す、のぞく、きる。○〔高力士傳〕「悉命翦二｜之一」。「草・木二。
〔芟薙〕草などを刈り除く。○〔高力士傳〕「｜・｜」。
〔耘薙〕前に同じ。○〔陳造〕「穀稗易二｜・｜一」。
〔刊薙〕前に同じ。○〔江淹〕「或致二｜・｜一」。
〔剗薙〕前に同じ。○〔柳經〕「｜・｜撤二藩垣一」。

【薚】タウ。吐郎切 陽 チヤウ、タウ。仲良切 漾 商陸、やまごばう、いほすき。

【薛】セツ、セチ。私列切 屑 はますげ(莎)、よもぎ(蒿)。○〔司馬相如〕「｜莎青蘋」。

【蔄】カ。許個切 箇 蔆｜は、一種の香草、はくか。

【薜】ヘイ、バイ。蒲計切 霽 ｜荔は、一種の蔓草、まさきのかづら、四時凋まず花さかずして實る。○〔屈平〕「被二｜・荔一兮帶二女・蘿一」。
〔蘿薜〕かづら。○〔高啓〕「茅屋三・間荷二｜・｜一」。

【薜】ハク、ヒヤク。博厄切 陌 ヘキ、ヒヤク。必益切 錫 ㊀當歸、やまぜり、おほぜり。㊁山中に生ずる麻、やまあさ。

【薜】ハク、ホク。彌角切 覺 陶器の破裂、われ。○〔周〕「凡陶旊之事、髻墾｜暴、不レ入レ市」。

【薜】僻に同じ、ひがむ。○〔漢〕「陋二三・神之阤｜一」。

【蘖】孽に同じ、ひこばえ、餘栫。○〔詩〕「包有二餘｜一」。

【薝】タン、トン。覩敢切 感 セン、ソン。之廉切 鹽 ㊀｜棘は、一種の木。○〔山海經〕「金谷之山是多二｜・棘一」。「匐冠二諸・香一」。㊁｜匐は、一種の花。○〔陸龜蒙〕「｜・｜

【⿱艹腱】ケン、コン。居言切 元 瓜の病。

【蕵】ソン。思渾切 元 烏｜は、蘘、｜蕪は、須。

【薟】蘞に同じ。

【薟】ケン、コン。虛嚴切 鹽 ㊀豨｜は、一種の藥草、めなもみ。㊁辛味、からみ。

【薟】ゲン、ゴン。魚占切 鹽 水中に自生する韮。

【⿱艹餡】餡に同じ、味の甘きに過ぐること。

【薠】ヘン、ハン。附袁切 元 莎に似たる一種の草。○〔張衡〕「蕨莩｜莞」。

【⿱艹騧】クワ、ゲ。胡瓜切 麻 周の穆王の川馬。○〔列〕「左服二｜騮一而右二騄・耳一」。

【⿱艹鉤】コウ、ク。居侯切 尤 ｜芰は、ひめあざみ。

【薡】テイ、チヤウ。都挺切 迥 ｜董は、あぶらがや。

【薢】カイ、ケ。古諧切 佳 皆買切 蟹 ㊂｜若は、一種の藥草、えびすぐさ。㊃水の旁に生ずる一種の草、葉はなまゐに似て小なり。㊄葬｜は、さころ。

【薣】コ、ク。果五切 麌 蘢｜は、紅草の一名、いぬたで。

【薤】カイ、ゲ。胡介切 卦 韭(にら)に似たる一種の葷菜、おほにら、らつきやう、鴻薈。○〔禮〕「切二蔥及｜一」。

【⿱艹蜀】ショク、ソク。殊玉切 沃 ｜葵は、からあふひ。

【薦】セン。作甸切 霰 ㊀くさよもぎ(蒿)。○〔爾〕「｜・黍蓬」。㊁茂草、志げれるくさ。○〔管〕「｜・草多レ衍」。㊂細草、こまかきくさ。○〔素問〕「其民不レ衣而褐レ｜」。㊃獸畜の食らふ草、まぐさの類。○〔莊〕「麋・鹿食レ｜」。㊄褥席、志きもの、こも、むしろ。○〔楚辭〕「薜・荔飾而陸・離｜」。㊅志きものと爲す、志く。○〔法苑珠林〕「白・茅以｜」。㊆すゝむ。(い)上に致す、そなふ、たてまつる。○〔易〕「殷二｜之上・帝一」。(ろ)撰び舉ぐ、あぐ。○〔後漢〕「馬・援竝レ｜之」。㊇供物、獻上品。○〔梁〕「修二行・潦之薄｜一」。㊈叙官、受封。○〔李陵〕「當下享二茅・土之｜一、受中千・乘之賞上」。㊉牲を供へずして祭ること。○〔穀梁〕「無レ牲而祭曰レ｜」。

（嘉薦）よきさかなのそなへもの。○〔儀〕「ー・ー令芳」。
（木薦）木のいたもて作りたる楯の如きもの。○〔漢〕「匈奴之革笥ー・ー、弗能支也」。
（新薦）あたらしきむしろ。○〔晉〕「乃撤所臥ー・ー」。
（席薦）むしろ。○〔韓〕「入則爲ー・ー」。
（寢薦）おほふことむしろの如くあたに敷くことをいふ。○〔史〕「飛鳥以其翼ー・ー之」。
（口薦）くちづからほめて推擧す。○〔漢〕「勝又ー・ー于上」。
（稱薦）人をほめて上にすゝむ。○〔漢〕「方進獨與長交ー・ー之」。
（褒薦）前に同じ。○〔晉〕「嚴並ー・ー之」。「凡」。
（捐薦）たきものをすて用ひず。○〔漢〕「ーレー去」
（供薦）神前などに食品をそなへすゝむ。○〔後漢〕「凡ー・ー新味」。
（登薦）前に同じ。○〔齊〕「ー・ー惟馨」。
（顯薦）あきらかにあげ進む。○〔後漢〕「ー・ー異節」。「士」。
（推薦）人を上にあげすゝむ。○〔北〕「ー・ー人」
（論薦）人をあげつらひて上にすゝむ。○〔南〕「凡所ー・ー」。
（該薦）前に同じ。○〔南〕「凡所ー・ー」。
（謬薦）人をみあやまりて上にすゝむ。○〔北〕「貴ー・ー」。
（豐薦）ゆたかなる神前などのそなへもの。○〔宋〕「精潔ー・ー」。
（蒲薦）がまのむしろ。○〔蘇軾〕「ー・ー松牀亦香滑」。

【薦】荐に同じ、あきりに、かされて。○〔左〕「ー爲敝邑不利」。

【薦】縉に通じ用ふ。○〔史〕「ー紳先生難言之」。

【艹+鳧】フ、ブ。防無切 虞 ー茈は、くろくわゐ。

【蘙】エイ。餘制切 霽

蘇に似たる一種の赤き草。

【薧】カウ、コウ。苦浩切 晧 ひもの。
(い)鮑魚、ほしうを。○〔周〕「辨魚物爲鱻ー」。
(ろ)乾物、ほしたるもの。○〔禮〕「菫荁枌榆免ー、滫瀡以滑之」。

【薨】コウ。呼肱切 蒸 公侯の死亡にいふ字、たはる。○〔春秋〕「公ー于臺下」。

【薨】クワウ。呼宏切 庚 おほし(衆)、又、さし(疾)。○〔詩〕「度之ー・ー」。

【薩】サツ、サチ。桑割切 曷 菩ー・ーは、普く衆生を濟度するの義、又、發心して佛道に入るの義、又、智慧了見したるの義。○〔金剛經、註〕「菩ー者梵語、唐言道心衆生、亦云覺有情」。
（布薩）梵語にて身口意を淨め如法に住して戒行を修することをいふ。○〔淨住子、序〕「再說禁戒、謂之ー・ー」。

【薪】シン。息鄰切 眞 ㊀燃料となす草木、たば、たきゞ。○〔詩〕「折ー如之何」。㊁燃料となす草木を采ることを、きこり、たばかり。○〔漢〕「罪人獄已決完、爲城旦舂、滿三歲爲鬼ー白粲」。
（伐薪）たきゞをきりとる。○〔禮〕「乃ーレー爲炭」。
（錯薪）まじりたるたきゞ。○〔詩〕「翹々ー・ー」。
（束薪）たばにつかねたるたきゞ。○〔詩〕「不流ー・ー」。
（負薪）たきゞをせなにおふ、又、其の者。○〔後漢〕「不逆ー・ー之語」。
（采薪）たきゞをとる。○〔淮〕「猶下ーレー者見一芥一掇之、見青葱則拔之」。「之役」。
（掇薪）前に同じ。○〔唐〕「毎灌畦ーレー以爲有生」
（抱薪）たきゞをかゝへもつ。○〔漢〕「如以湯止沸、ーレー救火」。
（積薪）(い)つみかさねたるたきゞ、又、たきゞをつむ。○〔漢〕「陛下用群臣、如ーレー耳」。(ろ)星の名。○〔晉〕「ー・ー一星在積水東北」。
（燃薪）たきゞをもやす。○〔唐〕「夜ーレー」。
（尺薪）わづかなるたきゞ。○〔李白〕「黃金買ー・ー」。
（芻薪）わらとたきゞと。○〔禮〕「ー・ー倍禾」。
（刈薪）たきゞをかりとる。○〔梅堯臣〕「ーレー向深谷」。「雨前」。
（拾薪）たきゞをひろひあつむ。○〔孟貫〕「ーレー山」
（鬻薪）たきゞをうる。○〔宋〕「家貧ーレー養母」。
（乾薪）かはきたるたきゞ。○〔陸游〕「槁竹ー・ー隔歲求」。

【艹+稕】シュン。之閏切 震 束稈、たばねわら。

【艹+賊】ソク、ゾク。昨側切 職 木ーーは、葉なくして節ある中空の莖のみ叢生する一種の草、とくさ。

【藑】ケイ、ギヤウ。渠營切 庚 草の旋る貌にいふ字。

【菌】キン。巨倫切 眞 地蕈の少なるもの、くさびら。

【蔽】フツ、ホチ。分物切 物 后の車の飾りとせる翟羽、きじのはね。

【[illegible]】シ。章移切 支 つけもの(菹)。

【蘒】キウ、ク。居求切 尤 草相繞り生ず。

【蔢】ハク、バク。蓬卜切 屋 ー蔄は、薄荷に同じ。

【艹+義】我に通じ用ふ。○〔野客叢書〕「魯峻碑又作蓼ー」。

十四畫

【薯】ショ、ゾ。常恕切 御 ー蕷は、やまのいも。

【薰】クン、コン。許云切 文 許運切 問 ㊀香氣ある草、かをりぐさ。○〔漢〕「ー以香自燒」。㊁香氣、かをり、にほひ。○〔法苑珠林〕「名香好ー遍布遠近」。㊂香氣を發するにいふ字、かをる、にほふ、かうばし。○〔謝超宗〕「桂尊既滌、瑤俎既ー」。㊃やく(灼)。○〔易〕「厲ー心」。㊄溫和なる貌にいふ字。○〔家語〕「南風之ー兮」。㊅勳に通じ用ふ、いさを。○〔漢夏承碑〕「帶ー著于王室」。㊆獯に通じ用ふ。○〔史〕「ー育戎狄」。
（嘉薰）よきかをりぐさ、又、よきかをり。○〔王融〕「香宇薦ー・ー」。「ー・ー」。
（蘭薰）かをりある草。○〔梁元帝〕「接膝對ー・ー」。
（餘薰）あまりのかをり。○〔蘇軾〕「帳空簟冷發ー・ー」。
（染薰）うつり香、又、かをりをそむ。○〔梁簡文帝〕「依蘭ーレー」。
（猗薰）あしきかをりの草とよきかをりの草と、又、あしきかをりとよきかをりと。○〔方夔〕「雜草收ー・ー」。

〔麝薰〕じやかうといふよきかをりのもの。○〔李商隱〕「——微度繡·芙蓉」。

【薱】タイ、デ。徒對切 [隊]
草木の盛んなる貌にいふ字、しげる、しげし。○〔張衡〕「鬱-蓊蔓——」。

【薲】ヒン、ビン。符眞切 [眞]
蘋に同じ。○〔酉陽雜俎〕「瓜-州飼レ馬以ニ——草一」。

【薳】井。韋委切 [紙]
草。

【薳】エン、ヲン。雨阮切 [阮]
——志は、一種の草、ひめはぎ。

【薴】ダウ、ニヤウ。女耕切 [庚]
㊀苧——は、草の亂るゝ貌にいふ語。
㊁薴——は、一種の藥草。

【薵】チウ、ヂユ。直由切 [尤]
㊀——蕣は、ねぎ。
㊁おほふ（覆）。

【薶】埋に同じ、うづむ。○〔淮〕「掩レ骼——レ胔」。

【薶】リ。陵之切 [支]
ふさぐ（塞）。

【薶】ワイ、エ。烏魁切 [灰]
けがる、けがす（汚）。○〔淮〕「鑒明者塵-垢弗レ能レ——」。

【蕄】莔の本字。

【薷】ジユ、ニユ。汝朱切 [虞]
木耳、きくらげ。

【藒】菜に同じ、いぬあららぎ。

【薸】ヘウ、ベウ。符消切 [蕭]
浮萍、うきくさ。○〔揚雄〕「江-東謂ニ浮-萍一曰レ——」。
〔馬薸〕うきくさの一種、一に紫薸ともいふ。○〔埤雅〕「生ニ道-旁淺-水中一、與レ萍雜、至レ秋則紫、俗謂ニ之——一」。

【薹】タイ、デ。徒哀切 [灰]
㊀薹——は、一種の菜、あぶらな。
㊁莎草、はますげ、すげ。○〔謝朓〕「——笠聚ニ東菑一」。

【䔲】カン。古旱切 [旱]
禾の莖、いねのくき。

【䕅】カン。居案切 [翰]
草。

【薺】セイ、在禮切 [薺]　ザイ。切　オ詣切 [霽]
甘味ある一種の菜、なづな。○〔詩〕「其甘如レ——」。
〔甘薺〕あまな。○〔徐鉉〕「——非ニ予匹一」。
〔春薺〕はるの季節に生ずるあまみある菜。○〔陸游〕「——忽已花」。
〔苦薺〕にがみある菜。○〔鮑昭〕「兎-絲-援ニ——一」。
〔甘心如薺〕心やすらかにして慈苦を感ぜざること。○〔南〕「今-日就レ戮、——レ——」。

【薺】シ、ジ。才資切 [支]
茨——は、逸詩中の一篇の名。○〔周〕「趨以ニ茨-——一」。

【藘】リン、ロン。力錦切 [寢]
莪蘿、つのよもぎ。

【藻】藻に同じ。

【藻】䕪に同じ、かすむ、こる。

【蘆】蕨に同じ。

【藖】シン。章隣切 [眞]　ケン。吉延切 [先]
——荊は、ゐのしりぐさ、はまにがな。

【藜】レフ。力協切 [葉]
草木の疏疎なる貌にいふ字、まばら。

【蔡】サツ、サチ。初八切 [黠]
㊀魚を殺すの毒ある一種の草。
㊁草芥、あくた。○〔韓愈〕「壽-養均ニ草-——一」。

【蔡】セイ、セ。初芮切 [霽]
草の地を汚すこと。

【薾】ジ、忍氏切 [紙]　ニ。切　デイ、奴禮切 [薺]　ナイ。切
華の盛んなるにいふ字。○〔詩〕「彼——維何」。

【薿】ギ。魚起切 [紙]　ギヨク、魚力切 [職]　ゲキ。切
しげる（茂）。○〔詩〕「黍-稷——」。

【縈】エイ、ヤウ。娟營切 [庚]
㊀めぐる（縈）。
㊁萎蕤、ゑみくさ。

【熒】ケイ、ギヤウ。戶扃切 [靑]
一種の藥草、ゑみくさ、委萎。

【藁】カウ、コウ。古老切 [皓]
㊀かる（枯）。○〔易林〕「中-吳不レ雨、傷レ風病——」。
㊁禾稈、わら。○〔史〕「席レ——請レ罪」。
㊂文書の原本、したがき。○〔宋〕「敏ニ于爲レ文、未ニ嘗屬レ——」。
㊃京師にある蠻夷の住處の稱。○〔漢〕「斬ニ郅-支及名-王以-下一、懸ニ頭——街一」。
〔奏藁〕上疏文のしたがき。○〔唐〕「取ニ——一焚レ之」。
〔芻藁〕わら、又、星の名。○〔後漢〕「其令ニ南-陽勿レ輸ニ今-年田-租——一」。
〔草藁〕くさとわらと、又、かきもののしたがき。○〔漢〕「——未レ上」。
〔縛藁〕わらをつかぬ。○〔唐〕「巡——レ——爲ニ人千-餘一」。
〔棄藁〕文章などのしたがきを保存せず。○〔北〕「成輙——レ——」。
〔遺藁〕作者の死にたるあとにのこりある詩文などの草稿。○〔宋〕「修得ニ唐-韓-愈——于廢-書-簏-中一」。

【藂】俗の叢の字。○〔漢〕「——棘棧-々」。

【藂】ソウ、ズ。粗送切 [送]
草の稚きにいふ字、わかし。

【蘄】蘄に同じ。

【蓼】蓼に同じ。

【蒿】ケウ。許嬌切 [蕭]
草の貌にいふ字。

【蒿】カウ、ケウ。許交切 [肴]
禾の肥ゆるに傷むこと。

【蒿】カウ、コウ。虛到切 [號]

暴に起こる貌にいふ字。○〔周〕「轂雖レ敝不レ—」。

【藃】カク。黑各切 藥
一木乾く、かわく。
二草の肥えたる貌にいふ字。

【藄】キ、ギ。渠之切 支
綦—は、蕨に似たる一種の山菜、ぜんまい。

【藇】ショ、ゾ。徐呂切 語
美しき貌にいふ字。○〔詩〕「釃レ酒有レ—」。

【藇】ヨ。余呂切 語
志げる、(蕃)。

【藇】ヨ。以諸切 魚
芧—は、一種の香草、かをりぐさ。

【藇】ヨ。羊洳切 御
藷—は、やまのいも。

【銚】エウ。餘招切 蕭 弋笑切 嘯
—茋は、羊桃、いらゝぐさ。

【蘳】ケイ、ケ。滑畦切 齊
—菇は、からすうり。

【藉】シヤ、ゼ。慈夜切 禡
一志く。
(い)志きものと爲す、志きものを設く。○〔易〕「—用二白-茅一」。
(ろ)演ぶ。○〔左〕「所下以—二寡-君之命一、結中二-國之好上」。
(は)少しく得る所あるにいふ字。○〔左〕「苟有三以—レ口而復二寡-君一」。
二志きもの、(席)。○〔禮〕「執レ玉其有レ—者則裼」。
三依託す、かゝる、よる。○〔莊〕「寓-言十-九—レ外論レ之」。
四貸助す、たすく、かす。○〔漢〕「以レ軀—レ友執レ仇也」。
五依る所、たより、たすけ。○〔韓琦〕「未三嘗有二因-緣攀-—一」。
六すゝむ。「樂」。
(い)たすけ侑む。○〔左〕「—レ之以レ樂」。
(ろ)貢獻す、たてまつる、みつぐ。○〔穀梁〕「其—二于成-周一以尊二天-王一」。
〔醞藉〕包容の意あること。○〔漢〕「廣-德爲レ人溫-雅有二—-—一」。
〔繅藉〕たまのしきもの。○〔陳倬傳〕「圭-璧—-—」。
〔枕藉〕まくらしきくこと、又、其のもの。○〔白居易〕「芳-草供二—-—一」。
〔慰藉〕なぐさめたすく。○〔後漢〕「所三以—二-—之一良厚」。
〔因藉〕身を依賴す。○〔唐〕「更相—-—」。
〔承藉〕うけ依る。○〔劇談錄〕「—二-—勳蔭一」。
〔權藉〕權力。○〔戰〕「夫—-—者萬物之率也」。

【藉】セキ、ジヤク。秦昔切 陌
一亂雜なる貌にいふ字、まじろ、みだる。○〔漢〕「口-語—-—」。
二井田の法にて中の公田を外周の八區の田を耕す八戸の家より力を協はせ耕作して租税さなすこと。○〔左〕「穀出不レ過レ—、以豐レ財也」。
三ふむ。
(い)足下にす。○〔荀〕「相與投二—之一」。
(ろ)凌ぐ。○〔莊〕「—二夫-子一者無レ毀」。
四なは、(繩)、又、つなぐ、(繫)。○〔莊〕「執レ斄之狗來レ—」。
〔踏藉〕ふむこと。○〔司馬相如〕「人臣之所二—-—一」。
〔狼藉〕ちらばりみだる。○〔史〕「杯-盤—-—」。
〔崩藉〕軍隊などのくづれたちてみだるゝこと。○〔後漢〕「追走之所二—-—一」。

【遝】タフ、ドフ。徒合切 合
菈—は、だいこん。

【蔳】セイ、シヤウ。杏盈切 庚
黃—は、ひじりぐさ。

【藸】チヨ、ド。直魚切 魚
薵—は、ねぎ、(蔥)。

【藊】ヘン。補典切 銑
莢の形扁き一種の豆、いんげんまめ。

【蔦】エン。與專切 先
—尾は、一種の草、いちはつ。

【藋】テウ、デウ。徒弔切 篠
一藋草、そくづ。○〔莊〕「夫逃二虛-空一者藜-藋柱二乎鼪-鼬之徑一」。
二すみれ、(菫)。○〔詩、疏〕「廣-雅云、菫—也、今三-輔之間言猶然」。
〔藜藋〕あかざ。○〔晉〕「而蓬蒿—-—並興」。
〔蓬藋〕よもぎとあかざのたぐひと。○〔陸龜蒙〕「誰能守二—-—一」。

【藋】タク、ドク。直角切 覺
蒴—は、一種の藥草。

【藋】テキ、ヂヤク。徒歷切 錫
灰—は、灰藋菜、あをあかざ。

【蕱】サウ、セウ。山巧切 巧

【暢】チヤウ。丑亮切 漾
草の長ずる貌にいふ字。

【凴】ヒヨウ、ビヨウ。皮孕切 徑
草の盛んなる貌にいふ字。
草茂る、志げる。

【蕩】タウ、ダウ。徒浪切 漾
蘭—は、一種の毒草、おにしろぐさ、はしりどころ。

【藍】ラン、ロン。魯甘切 覃
一あゐ。
(い)青色の染料に用ふる一種の草。○〔詩〕「終-朝采レ—」。
(ろ)濃青、あを。○〔唐〕「—-面鬼-色」。
二かんがみる、(鑑)。○〔大戴禮〕「—レ之以レ樂」。
三襤に同じ、ぼろ。○〔傳玄〕「整二此—-褸衣一」。
〔出藍〕弟子の師表よりすぐれまさるといふ語。○〔荀〕「青出二于藍一而青二於藍一」。
〔紅藍〕あかねぐさの異名。○〔史、註〕「茜音倩、一名二—-—一」。
〔黃藍〕前に同じ。○〔圖經本草〕「—-—其花紅-色、葉頗似レ藍」。
〔伽藍〕寺院。○〔魏〕「—-—淨-土」。
〔泊夫藍〕さふらんとてあかき花のさく藥草の名。○〔本草〕「番-紅花一名二—-—-—一」。

【餕】餕に同じ。○〔儀〕「命二嘗-食-—者一舉レ奠」。

【蘆】ロ、ル。落胡切 虞
—會は、一種の藥。

【藎】シン、ジン。徐刃切 震

㊀黄色の染料となす一種の草、かりやす。○〔本草〕「｜草一名黃草」。

㊁忠愛の情篤く進みて已まざるにいふ字、あつし、まこと。○〔詩〕「王之｜臣」。「滯抗絕」。

㊂遺餘、あまり、のこり。○〔馬融〕「｜｜」。

㊃薪の燃え餘れるもの、もえさし。○〔庾熙〕「秦晉之閒炊レ薪不レ盡曰レ｜」。○

〔忠藎〕忠義の篤きこと。○〔蜀、註〕「有二｜｜之效一」。

〔誠藎〕まことのこゝろあつきこと。○〔唐〕「汾陽事レ上｜｜」。

【藏】サウ、ザウ。昨郎切　陽

㊀をさむ。

(い)內に入る、入れ置く。○〔論〕「韞レ匵而｜レ諸」。

(ろ)かくす、(匿)。○〔漢〕「秦時焚レ書伏生壁二｜之一」。

(は)懷く。○〔國〕「｜レ怒以待レ之」。

(に)たくはふ、(畜)。○〔禮〕「｜二器于身一」。

㊁出でず、入る、あらはれず、かくる、ひそむ、をさまる。○〔呂氏春秋〕「殺乃｜」。

㊂をさめたるもの、たくはへ物。○〔史〕「厚積餘｜」。

〔潛藏〕ひそみかくる。○〔易〕「陽氣｜｜」。

〔退藏〕あらはれいでずしてしりぞきかくる。○〔李商隱〕「風雷起二｜｜一」。

〔歸藏〕殷のうらかたの名。○〔周〕「二曰二｜｜一」。

〔包藏〕つゝみかくす。○〔呂太一〕「｜二｜玉石一」。

〔行藏〕すゝみいでて事をなすと退いてかくると。○〔論〕「用レ之則｜、舍レ之則｜」。

〔收藏〕をさめたくはふ。○〔文子〕「｜｜畜積而不レ加レ富」。

〔斂藏〕前に同じ。○〔周〕「以レ時｜而｜レ之」。

〔珍藏〕たいせつにたくはふ。○〔後漢〕「疏叔｜｜」。

〔智藏〕前に同じ。○〔蘇軾〕「君富二記錄｜｜一」。

〔留藏〕とゞめをさめていださず。○〔唐〕「生平所レ得奉祿以分二宗親一無二｜｜一」。

〔秘藏〕ひめたくはふ。○〔劉歆〕「孝成皇帝乃陳二發｜｜一」。

〔密藏〕前に同じ。○〔南〕「可レ｜二｜之一」。

〔慢藏〕完全にたくはへず。○〔易〕「｜｜誨レ盜」。

〔閉藏〕あらはさずしてかくす。○〔元好問〕「老去聲名只｜｜」。

〔蘊藏〕つゝみたくはふ。○〔詩、序〕「｜｜在レ心、謂レ之爲レ志」。

〔含藏〕ふくみもつ。○〔周、註〕「損二其性之｜｜一」。

〔畜藏〕たくはふ。○〔左、註〕「奢侈者畏レ法、故｜｜」。

〔內藏〕おもてにあらはさずしてたくはふ。○〔淮〕「聖人｜｜」。

〔逃藏〕にげかくる。○〔爾、註〕「微謂二｜｜一也」。

〔遁藏〕前に同じ。○〔柳宗元〕「邪怪｜｜」。

〔埋藏〕地中にうづめをさむ。○〔拾遺記〕「後以二石匣一｜二｜之一」。

〔瘞藏〕前に同じ。○〔唐〕「見下人於二後園一有中所二｜｜一者上」。

〔深藏〕ふかくかくる、又、ふかくたくはふ。○〔淮〕「魚聞レ之而｜｜」。

〔錄藏〕かきとめてたくはふ。○〔漢〕「｜｜二於理官一」。

〔家藏〕家のうちにたくはふ。○〔唐〕「字述以二其｜｜國史百三十篇一上獻」。

〔積藏〕つみたくはふ。○〔管〕「則｜｜困窌之粟」。

〔蟄藏〕あなごもり。○〔淮〕「熊羆｜｜」。

〔幽藏〕ふかくかくる。○〔白虎通〕「鳳鳥｜｜」。

〔晦藏〕おのれの才學などをくらましかくす。○〔歐陽修〕「能自｜｜」。

〔韜藏〕前に同じ。○〔歐陽修〕「｜｜掩抑」。

【藏】サウ、ザウ。才浪切　漾

㊀物をさめ置く處、くら。○〔禮〕「謹二蓋｜｜一」。

㊁臟に通じ用ふ、はらわた。○〔周〕「參レ之以二九｜之動一」。

【⿱艹僕】ハク。匹各切　藥　ホク。普木切　屋

おつ、(落)。

【蔱】サツ、セチ。芻刮切　黠

草を除く、かる。

【藐】ベウ、メウ。亡沼切　蕭

㊀小なり、ちひさし。○〔左〕「以二是｜諸孤一、辱在二大夫一」。

㊁輕視す、かろんず。○〔孟〕「說二大人一則｜レ之」。

㊂視る容の好ましきにいふ字。○〔張衡〕「昭｜流眄」。

【藐】バク、モク。莫角切　覺

㊀紫色の染料となす一種の草、むらさきさう。○〔爾〕「｜茈草」。

㊁美し。○〔詩〕「既成｜｜」。

㊂入らざる貌にいふ字。○〔詩〕「聽レ我｜｜」。

㊃すゝむ、(漸)。

㊄ひろし、(廣)。

【藐】バウ、メウ。眉教切　效

前條の㊀に同じ。

【藑】ケイ、ギヤウ。渠營切　庚　セン、ゼン。詳兗切　銑

一種の香草。○〔屈平〕「索二｜茅一」。

【夢】ボウ、ム。莫紅切　東

㊀帯に爲る一種の草、はゝきぐさ。

㊁菑｜は、ひこばえ、(蘖)。

【藒】ケツ、ケチ。丘竭切　屑

｜車は、一種の香草。○〔屈平〕「畦二留夷與一レ｜車一」。

【⿱艹截】セツ、ゼチ。昨結切　屑

㊀一種の草。㊁をさむ、(治)。

【⿱艹塵】ロク。盧谷切　屋

地葈、くさびら。

十五畫

【藚】蕢に同じ。

【藕】ゴウ、グ。五口切　有

㊀芙蕖の根、はすのね。○〔古樂府〕「下有二竝根｜一」。

㊁芙蕖、はす、はちす。○〔左思〕「丹｜凌レ波而的皪」。

〔碧藕〕青き色のはすのね。○〔拾遺記〕「西王母來進二萬歲氷桃千年｜｜一」。

〔紅藕〕あかき色のはす。○〔白居易〕「｜｜花中泊二妓船一」。

〔菱藕〕ひしのみとはすのねと。○〔杜荀鶴〕「夜市賣二｜｜一」。

〔蓮藕〕はすのね、又、はすと其の根と。○〔曹鄴〕「｜｜同在レ泥」。

〔踏藕〕はすのねをふむ、又、其のねをさぐりふみてとる。○〔酉陽雜俎〕「以二｜｜一爲レ業」。

〔珍藕〕めづらしき蓮の根。○〔孫楚〕「含二｜｜之甘腴一」。

【蘸】サン、セン。莊陷切　陷

濕ふ貌にいふ字。

【⿱艹誰】スヰ。視隹切　支

草を入るゝ器。

【藖】ケン、カン。侯襉切　諫

菫草、すみれ。

【藖】カン、ゲン。何閑切　刪

㊀莖の餘りたる莖、くき。○〔元結〕「豈欲三草櫪中爭二食藖一與上レ｜」。

㊁かたし、(堅)。

【蓾】シ。醜止切 [紙]
馬ーーは、一種の草、すべりひゆ。

【蕻】キョウ、コウ。虚陵切 [蒸]
ーー蕻は、あぶらな。

【鬣】レフ。力渉切 [葉]
草動く、うごく。

【藗】ソク。桑谷切 [屋]
白茅の屬、ちがや。

【藘】リョ、ロ。力居切 [魚]
茹ーーは、一種の草、あかね。○〔詩〕「茹ーー在レ阪」。

【藤】シツ、シチ。息七切 [質]
芊ーーは、いのくづち。

【藪】フ。芳無切 [虞]
はな（華）。

【藙】ギ、ゲ。魚既切 [未]
煎茱萸、おほだら。○〔禮〕「三牲用レー」。

【蹄】テイ、ダイ。田黎切 [齊]
羊ーーは、一種の草、ぎしのねぐさ。

【藚】ゾク。似足切 [沃]
牛脣草、おもだか、なまゐ。○〔詩〕「彼汾一曲、言采ニ其ーー」。

【蘒】ハイ、ヘ。放吠切 [隊]
籧篨、たかむしろ。

【蕮】シャ、セ。洗野切 [馬]
澤ーーは、おもだか、なまゐ。

【藺】リョ、ロ。力居切 [魚]
菴ーーは、いぬよもぎ。

【蘭】エツ、エチ。弋雪切 [屑]
芹に似たる一種の草。

【藜】レイ、ライ。郎奚切 [齊]
莖葉は王芻（かりやす）に似たる一種の草、あかざ、其の葉は茹さし其の莖は杖さすべし。○〔漢〕「ーー藿之羹」。
〔配藜〕抜き離るゝこと。○〔揚雄〕「ーーーー四施」。
〔蒸藜〕あかざをむす。○〔王維〕「ーレーー炊レ黍餉ニ東菑ニ」。
〔杖藜〕あかざのみきをつゑつく。○〔杜甫〕「明日看レ雲還ーレー」。
〔藜莠〕あかざをもてあつものとす。○〔王褒〕「ーレー含レ藝者、不レ足ニ與論ニ太牢之滋味ニ」。
〔蓬藜〕よもぎとあかざと。○〔顏延之〕「幽門樹ニーーーー」。
〔蒿藜〕前に同じ。○〔杜甫〕「閑廬但ーーーー」。
〔蒺藜〕はまびし、いばら。○〔易〕「因ニ于石ニ據ニ于ーーーー」。

【藭】フ。甫無切 [虞]
地ーーは、其の莖苗を帚となす一種の草、はゝきぎ。

【藝】ゲイ。魚祭切 [霽]
㊀わざ。
（い）材能、はたらき。○〔書〕「多材多藝」「ーー」。
（ろ）學問、技術。○〔史〕「能通ニ一ーーー以上ニ者」。
㊁わざの長じたること。○〔論〕「求也ーー」。
㊂法準、のり。○〔左〕「貢レ之無レー」。
㊃準的、まと。○〔司馬相如〕「ー殪仆」。
㊄極度、きはまり。○〔國〕「貪欲無レー」。
㊅わかつ（分）。○〔家語〕「合ニ諸侯ニ而ーレ貢事レ禮也」。
㊆種樹す、うゝ。○〔書〕「蒙羽其ー」。
〔技藝〕わざ。○〔國〕「ーーーー畢給則賢」。
〔六藝〕禮樂射御書數の六つのわざ。○〔史〕「身通ニーーー者七十有二人」。
〔學藝〕まなびのわざ。○〔唐〕「帝爲レ人質仁寡ーー、善ニ騎射ニ」。
〔博藝〕もろもろひろくわざに通ず。○〔孫逖〕「既ーーーー而能レ文」「衆」。
〔文藝〕文學のわざ。○〔中論〕「脩德之士ーーー必」。
〔講藝〕學術などをあきらかにきはむ。○〔顏延之〕「ーーーー」「ーレー立レ言」。
〔種藝〕草木などをうゝること。○〔書、傳〕「二山已可ニーーーー」。
〔道藝〕道德學藝。○〔周〕「會ニ其什伍ニ、而教ニ之ーーーー」。
〔敗藝〕わざのよしあしをくらべはかること。○〔周〕「春合ニ諸學ニ、秋合ニ諸射ニ、以ーニ其ーー、進ニ退之ニ」。
〔才藝〕智能と技藝と。○〔後漢〕「毀ニーーー以敘ニ官宜ニ」。
〔經藝〕經學のわざ。○〔史〕「文侯受ニ子夏ーーーー」。
〔羣藝〕もろもろのわざ。○〔後漢〕「博通ニーーーー」。
〔武藝〕たけきわざ。○〔蜀〕「有ニーーー」氣力過レ人」。
〔遺藝〕故人のあとにのこされたるわざ。○〔蜀〕「尋ニ孔子之ーーーー」「ー」。
〔偉藝〕すぐれておほいなるわざ。○〔晉〕「高才ーーー」。
〔雄藝〕前に同じ。○〔晉〕「ーーー卓犖」。
〔修藝〕學問などををさめ習ふ。○〔晉〕「耽レ道ーレ」「之彥」。
〔篤藝〕藝術にこゝろざしあつし。○〔晉〕「ーーーー」。
〔耕藝〕農業。○〔晉〕「嘗以ニーーー爲レ事」。
〔耘藝〕前に同じ。○〔晉〕「今或盛ニ功于ーーー之辰ニ」「出甞流ニ」。
〔姿藝〕すがたとわざと。○〔輟耕錄〕「ーーーー超ニ」。
〔識藝〕識見と藝能と。○〔南〕「覽曰、ーーーー過レ臣甚遠」。
〔異藝〕めづらしきわざ。○〔北〕「徵ニ四方奇伎ーーー」「ーニ」。
〔絕藝〕すぐれたるわざ。○〔杜牧〕「ーーー如レ君天下少」「ーニ」。
〔射藝〕ゆみいるわざ。○〔唐官〕「孝對敏辯善ニーー士ーーー」。
〔墾藝〕田地をひらき穀樹などをうゝ。○〔唐〕「勸」
〔工藝〕たくみのわざ。○〔唐〕「本以ニーーーー進」。
〔詞藝〕詩文などのわざ。○〔宋〕「後進之有ニーーー者、必爲ニ稱揚ニ」。
〔較藝〕わざをたくらぶ。○〔符載〕「獻レ奇ーレー」。
〔壯藝〕さかんなるわざ。○〔陸機〕「覽ニーーーー」。
〔豐藝〕わざゆたかなること。○〔潘岳〕「多才ーーー」。
〔嘉藝〕よき技藝。○〔夏侯湛〕「覽ニーーー之機巧ニ」。
〔蘊藝〕わざを安りに外にあらはさず、又、其のわざ。○〔蘇廷〕「懷レ才ーレー」。

【蕲】サン、ザン。所斬切 [豏]
林木を芟る、かる。

【藥】セン、ゼン。疾染切 [琰]
林相苞む、つゝむ。

【蕼】テイ、タイ。丁計切 [齊]
果實の抵、へた、ほぞ。

【蕗】ラ、レ。呂下切 [馬]
㊀ーー蘀は、巾たらざる貌にいふ語。
㊁ーー苴は、泥の熟せざる貌にいふ語。

【藟】ルヰ。魯水切 [紙]
㊀一種の蔓草、あまちや、巨苽。○〔詩〕「葛ーー纍レ之」。
㊁かづら（藤）。○〔唐〕「攀レー而上」。
〔蘿藟〕かづら。○〔薛季宣〕「望夕攀ニーーーー」。

【藠】ケウ、ゲウ。胡了切 [篠]
薤の別名。

【藸】タ、テ。竹下切 [禡]
蕏の條を見よ。

【蘵】チ。展里切 [紙]

芋、たうのいも。

【藣】ヒ。逋眉切 [支]
草。

【藣】ヒ。彼義切 [寘]
㊀符廣(かれたいこかけ)の飾り。
㊁舞ふ者の執れる旄牛の尾。

【藤】トウ、ドウ。徒登切 [蒸]
蔓藟、かづら、ふぢ。○[北]「唯將二數人一攀レ一而上」。
〔寒藤〕葉をふるひたるふぢかづら。○[何遜]「千尺柱二一一」。
〔蒼藤〕あを／＼と葉のしげりたるふぢかづら。○[杜甫]「古木一一日月昏」。
〔青藤〕前に同じ。○[朱熹]「路入二一一古木間一」。
〔綠藤〕前に同じ。○[高啓]「一一倒拂風生レ絹」。
〔懸藤〕たかきところにかゝりたるふぢかづら。○[宋之問]「一一掃二澗一」。
〔垂藤〕たれさがりたるふぢかづら。○[劉長卿]「戸・牖一一合」。
〔荒藤〕みだれしげりたるかづら。○[何遜]「一一已上レ扉」。
〔亂藤〕前に同じ。○[盧綸]「一一高竹水・聲深」。

【藥】ヤク。以灼切 [藥]
㊀くすり。
(い)疾病を治するに用ひて効ある草。○[史]「嘗二百草一始有二醫一一」。
(ろ)疾病を治するに用ひて効あるもの。○[書]「若一弗二瞑眩一厥疾弗レ瘳」。
(は)用ひて病害を惹き起こすもの、どくやく。○[漢]「仰レ一而伏レ刃」。
㊁くすりを施して病ひを療す、いやす。○[詩]「不レ可二救一一」。
㊂かこひ(籞)。○[李正巳]「圜亭中一一闌」。
〔服藥〕くすりをのむ。○[宋]「嶺南風俗病者禱レ神不レ一レ一」。
〔飲藥〕前に同じ。○[禮]「君有レ疾一レ一、臣先嘗レ之」。
〔嘗藥〕前に同じ。○[晉]「一レ一無レ貝」。
〔勺藥〕一種の花卉、しやくやく。○[詩]「贈レ之以二芍一一」。
〔百藥〕もろ／＼のくすり。○[禮]「孟夏之月、聚二畜一一一」。
〔和藥〕くすりのなかに物をまず。○[唐]「帝乃自剪レ鬚以一レ一」。
〔饋藥〕くすりをおくる。○[論]「康子一レ一、拜而受レ之」。
〔仙藥〕神仙のくすり。○[華陽國志]「山有二一一一」。
〔神藥〕前に同じ。○[史]「方士徐市等求二一一一」。
〔採藥〕くすりのくさなどをとりあつむ。○[晉]「康嘗一レ一游二山澤一」。
〔丸藥〕まろめたるくすり、又、くすりをまろむ。○[晉]「使二婢一一一」。
〔賣藥〕うりぐすり、又、くすりをうる。○[後漢]「[illegible]中子楷家、貧一レ一給レ食」。
〔良藥〕よき效能あるくすり。○[晉]「一一效二于瘳一レ疾」。
〔善藥〕前に同じ。○[唐]「一一不レ可レ離レ手」。
〔擣藥〕くすりをつきくだく。○[杜甫]「一レ一兎長生」。
〔鍊藥〕くすりをねり合はす。○[陸龜蒙]「一レ一傳二丹鼎一」。
〔毒藥〕害毒をふくむくすり、又、五毒と五藥と。○[周]「聚二一一一以共二醫事一」。
〔瘖藥〕おしになるくすり。○[史]「去レ眼煇レ耳飲二一一一」。
〔奇藥〕めづらしきくすり。○[蘇軾]「千金得二一一一」。
〔珍藥〕前に同じ。○[論衡]「非下得二神草一一一食レ之而變化上也」。
〔粥藥〕かゆとくすりと。○[陳造]「不日扶レ衰惟一一」「石・鼉二」。
〔行藥〕養生のために歩行す。○[常建]「一一至二而遣」。
〔御藥〕帝王にすゝむるくすり。○[韓翃]「恭嘗二一一一」。
〔煮藥〕くすりをにる。○[唐]「元病、必親一レ一、嘗」。
〔煎藥〕前に同じ、又、にたるくすり。○[李中]「一一惟憂レ澀」。
〔傅藥〕くすりをぬりつくること。○[唐]「肅宗躬爲一レ一」。
〔靈藥〕靈妙なる效能あるくすり。○[李商隱]「姮娥應レ悔偸二一一一」。
〔妙藥〕前に同じ。○[沈約]「或得二一一一」。
〔儲藥〕つみたくはへたるくすり、又、くすりを儲藏す。○[蘇軾]「一一如二山丘一」。
〔不死藥〕服用するときは靈效ありてしなずと稱するくすり。○[史]「諸仙人及一一之一、皆在焉」。
〔長生藥〕服用する時はながいきすと稱するくすり。○[晉]「斷二穀餌一一一」。
〔長年藥〕前に同じ。○[王昌齡]「拜二受一一一」。
〔益壽藥〕前に同じ。○[史]「願請二延年一一一」。
〔墮胎藥〕胎兒をおろすくすり。○[南]「井服二一一一」。
〔辟瘴藥〕服用するときは瘴癘の惡氣にふるゝとも疾疫にかゝらざるくすり。○[宋]「賜二戎瀘軍民一一一」。
〔不龜手藥〕ひゞのきれざるくすり。○[莊]「宋人有下善爲二一一一之一一者上」。

【藥】シヤク。式灼切 [藥]
熱き貌にいふ字。○[張衡]「心灼一一如レ湯」。

【藥】リヤク。旅灼切 [藥]
勺一一は、いろ／＼の味を調和したる醯食、ひしほ。○[張衡]「以爲二勺一一一」。

【藦】バ、マ。莫臥切 [箇]
㊀一一訶は、一種の草。
㊁蘿一は、かゞいも。

【[illegible]】クワン、グワン。戸管切 [旱]
すげの類。

【藨】ヘウ。平表切 [篠]
㊀鹿藿、のまめ。○[張衡]「一苧蘋、莞」。
㊁蒯の屬、あぶらがや。

【藨】ヘウ、ベウ。蒲嬌切 [蕭]
㊀いちご(莓)。㊁ゑんどう(苕)。

【藨】ヘウ。悲嬌切 [蕭]
藨に同じ。○[柳宗元]「齊二藨一一」。

【藩】ハン、ホン。甫煩切 [元]
㊀まがき(籬)。○[易]「羝羊觸レ一」。
㊁さかひ(域)。○[莊]「吾願レ遊二于其一一」。
㊂おほひ(屏)。○[詩]「价人維一」。
㊃諸侯又は鎮臺などの如き一區劃の土地を撫御して君王國家のおほひたるものゝ稱。○[後漢]「驃騎將軍東平王蒼罷歸レ一」。
㊄轓に通じ用ふ。○[周]「漆車一蔽」。
〔守藩〕王室の藩屏たる諸侯の邦土をまもり保つ。○[漢]「臣幸爲二陛下一一レ一」。
〔雄藩〕すぐれたる王室の藩屏たるべき諸侯をいふ。○[舊唐]「皆號二一一一」。
〔墻藩〕まがき。○[甘泉賦]「電倏二忽于一一一」。
〔籬藩〕前に同じ。○[元稹]「四面無二一一一」。
〔外藩〕諸侯王の國。○[晉]「哀帝以二一一一援立」。
〔名藩〕なだかき諸侯のくに。○[晉]「各居二一一一」。
〔大藩〕おほいなる諸侯王のくに。○[舊唐]「交州一一、去レ京甚遠」。
〔鉅藩〕前に同じ。○[王十朋]「越爲二一一一」。
〔遠藩〕帝都を距ることちかゝらざる藩鎭。○[韋應物]「三載居二一一一」。
〔重藩〕權勢の輕からざる藩鎭。○[舊唐]「倚儒嫌レ處二一一一」。
〔強藩〕つよき藩鎭。○[唐]「一一悍將、皆欲レ悔レ過而效レ順」。
〔親藩〕王室に親近の關係ある諸侯王のくに。○[十六國春秋]「晉王明德一一、先帝所レ屬」。

【藩】ヘン、ホン。附袁切 [元]
苑一は、やまし、はなすげ。

【[illegible]】ケツ、ゲチ。胡結切 [屑]

龍ーーは、いぬたで、馬蓼。

【藪】　ソウ、ス。蘇后切　宥
㊀草木の交厠せる大澤、おごろ、さは、やぶ。○〔周〕「四曰、ーー牧」。
㊁物事の集合地。○〔江淹〕「因二此大ー 號一、蕩二其巣ーー一」。
㊂在野。○〔淮方生〕「辭レ朝歸レー」。
〔薹藪〕物を頭上にいたゞくにしくもの。○〔仏、註〕「以二ーー一薦レ之」。「人」。
〔山藪〕山岳と大澤と。○〔晉〕「ーー無二伐・檀之人一」。
〔原藪〕のはら。○〔家語〕「放二牛・馬于ーー一」。
〔林藪〕草木などの叢生したるはやしと澤とのこと。○〔晉〕「江・畏・倹之疇二詠ーー一」。
〔禽藪〕前に同じ。○〔易林〕「山・林ーー」。
〔淵藪〕ふちとさはとのことにて轉じて物のあつまり生ずるところたるをあらはすにかり用ふることあり。○〔魏〕博士者道之ーー」。
〔幽藪〕ふかき澤。○〔後漢〕「竄二跡ーー一」。「ー」。
〔靈藪〕神聖なる大澤。○〔嵩山記〕酒・神之ー！
〔神藪〕前に同じ。○〔摯虞〕「山包二ーー一」。
〔萊藪〕あれしげりたるさは。○〔張衡〕「廓二ーー一」。

【藪】　ソウ、ス。千候切　宥
轂の空壺の中、即ち、衆輻のあつまる所。○〔周〕「以二其圍之防一捎二其ー一」。

【潭】　タン、ドン。徒含切　覃
㊀水中の石などに生ずる苔、みづごけ。
㊁一種の海藻、もづく、海羅。

【蔭】　イン。以寢切　寢
ー湛は、水の動搖する貌にいふ語。

【蕢】　タイ、テ。他回切　灰
牛蘈、しのねぐさ。

【藭】　キウ、グ。渠弓切　東

【藰】　リウ、ル。力九切　有
苺ーーは、たんなかづら。

【藰】　リウ、ル。力求切　尤
章陸、やまごばう。

【藹】　（罫内見出し）
㊀ーー弋は、一種の草。
㊁衆聲の貌にいふ字。○〔司馬相如〕「ーー莅歔」。

【蘛】　カツ、ガチ。何葛切　曷
蘇に似たる一種の草、水中に生ず。

【蘘】　ダウ、ニヤウ。女庚切　庚　ジヤウ、ナウ。　如陽切　ダウ、ナウ。奴當切　陽
胖ーーは、縻纓などに爲る一種の草。

【藝】　ゲツ、ゲチ。魚揭切　屑
餘枿、ひこばえ。

【蘩】　ハン、ボン。房覽切　感
法、のり。

【藐】　バウ、ミヤウ。莫耕切　庚
屋上の瓦、やれがはら。

十六畫

【藶】　レキ、リヤク。郞擊切　錫
葶ーは、いぬなづな。

【蘏】　エイ、ヤウ。以成切　庚
菊の華。

【藃】　カウ、ゲウ。下巧切　巧　何交切　肴
㊀かぶれ（株・根）。㊁たけのこ（竹・筍）。

【藧】　ロウ、ル。落侯切　尤
㊂はすのね（藕・根）。
㊃弓角の接處、つぎめ。

【藲】　トク、ドク。徒谷切　屋
菰ーーは、からすうり、土瓜。

【蘈】　ショク、ゾク。殊玉切　沃
ー活は、しいうご。

【蘈】　（罫内見出し）
一種の菜。

【藤】　トウ、ドウ。徒登切　蒸
藤に同じ。

【藷】　ショ、ソ。章魚切　魚
㊀ー蔗は、さたうきび。○〔張衡〕「ーー蔗、蘘蟠」。
㊁ー蕻は、やまのいも。○〔山海經〕「其上多二ー蕻一」。

【藸】　チヨ、ト。陟魚切　魚
ー蕐は、一種の草。

【藸】　チヨ、ド。直魚切　魚
荎ーは、されかづら、びなんかづら。

【蕏】　タ、テ。陟加切　麻
ー菝は、亂るゝ草。

【蘫】　カン、ゴン。戸感切　感　胡紺切　勘
菡に同じ、つぼみ。

【藹】　アイ。于蓋切　泰
さかんなり。
（い）草木の繁茂せる貌にいふ字、しげる、しげし。○〔揚雄〕「鬱蕭・條其幽ーー」。
（ろ）賢士の盛んにして多き貌にいふ字、おほし。○〔詩〕「ーーー王多二吉士」。
〔晻藹〕樹木のしげれる貌にいふ語。○〔王安石〕「木・樹青ーー」。
〔薈藹〕おほくさかんなる貌にいふ語。○〔拾遺記〕「卿・雲ー二ー于蕤・薄一」。
〔蓊藹〕樹木などのさかんにしげる貌にいふ語。○〔潘岳〕「竹・木ーー」。
〔隱藹〕前に同じ。○〔郭璞〕「ーー水・松」。
〔黝藹〕前に同じ。○〔李華〕「穫・松ーー」。
〔薆藹〕前に同じ。○〔符載〕「杓・櫟ーー」。

【藹】　アイ、エ。倚亥切　賄
前條の（い）に同じ。

【藺】　リン。良刃切　震
㊀莞の屬。
㊁城上より石を落さすこと。○〔漢〕「具二ーー石一」。

【蔘】　サン、ソン。疏簪切　侵
禾の長き貌にいふ字。

【藻】　サウ、ソウ。子皓切　皓
㊀水底に生ずる草、も。○〔詩〕「于以采レー」。
㊁文章、あや。○〔陸機〕「先・王之盛ーー」。
㊂玉の下薦、しきもの。○〔禮、疏〕「凡執レ玉必有二其ー一」。
〔鳧藻〕喜悦、よろこび、かも鳥はも草を得ればよろこぶとの義より來たる。○〔後漢〕「有二ーー之士一」。
〔藍藻〕みづくさの名。○〔蜀都賦〕「雜以二ーー一」。
〔浮藻〕うきたるも。○〔陸機〕「ーー聯翩」。
〔文藻〕文章。○〔唐〕「有二ー智・數一」。
〔品藻〕こけの名にて一に品落と名づく、又、評論すること。○〔庾信〕「有下ーー二人・倫一之志上」。
〔盛藻〕さかんなる文詞。○〔陸機〕「作二文・賦一以述二先・王之ーー一」。

〔嘉藻〕よき文詞。○〔晉書〕「臣既玩ニ其ーーニ」。
〔麗藻〕うるはしき文詞。○〔李邢〕「ーー星鋪」。
〔蘋藻〕水中にしづみたるもと浮きたるもと。○〔張九齡〕「ーー生ニ南澗ニ」。
〔海藻〕うみのも。○〔博雅釋草〕「海蘿ーー也」。
〔牛藻〕一に馬藻と名づくるうき草にして葉のおほいなるもの。○〔爾〕「莙ーー」。
〔才藻〕才識文章。○〔宋〕「少有ニーーニ」。
〔辭藻〕詞文。○〔南〕「ーー艷發」。
〔翰藻〕前に同じ。○〔唐〕「百藥ーー沈鬱」。
〔萍藻〕うきくさ。○〔吳均〕「冬溫而育ニーーニ」。
〔奇藻〕めづらしきも。○〔李白〕「河陽富ニーーニ」。
〔綺藻〕うつくしき辭章。○〔十六國春秋〕「此文ーー淸麗」。
〔菁藻〕うき草の一種。○〔上林賦〕「唼ニ喋ーーニ」。
〔奮藻〕文辭をふるひあらはす。○〔寶紃〕「尤宜ニーーニ」。
〔翠藻〕みどり色のもぐさ。○〔王儉〕「靑萸結ニーーニ」。
〔碧藻〕前に同じ。○〔杜甫〕「ーー非レ不レ茂」。
〔弱藻〕つよからざるも。○〔沈約〕「曳ニ參差之ーーニ」。
〔粹藻〕純粹なるよき文辭。○〔許敬宗〕「ーー發ニ嘉猷ニ」。
〔唼藻〕もをついばみくらふ。○〔駱賓王〕「ーレーー滄江遠」。
〔豚藻〕前に同じ。○〔陸龜蒙〕「殰レ鱗ーレー作レ低昴ニ」。
〔密藻〕こまやかに茂りたるも。○〔杜甫〕「寒魚依ニーーニ」。
〔菱藻〕みづくさのひしとももと。○〔韋瓘〕「蔓ニ合ー」。

【藽】シン。初覲切 震
むくげ（槿）。

【䕳】ラウ、ロウ。盧皓切 皓 郎到切 號
乾したる梅實。○〔周〕「乾ー榛實」。

【藾】ライ。盧蓋切 泰
㊀蒿の屬、くさよもぎ。○〔爾〕「苹ー蕭」。
㊁おほふ、かげ（蔭）。○〔莊〕「隱將レ芘ニ其所レー」。

〔葑藾〕かぶらなとしろよもぎと。○〔魏文帝〕「ーー深奧」。
〔蒿藾〕よもぎ。○〔王安石〕「爭出臨ニーーニ」。

【藡】タク、ヂヤク。直格切 陌
ーー蔦は、なまゐ。

【藿】クワク。虛郭切 藥
㊀小赤、わかきまめ、一説に、豆葉、まめのは。○〔詩〕「食ニ我場ーニ」。
㊁一種の香草、かをりぐさ。○〔左思〕「草則ー蒳豆蔻」。

〔菽藿〕まめ。○〔韓〕「象箸玉杯、必不レ羹ニーーニ」。
〔藜藿〕あかざとまめと。○〔晉〕「ーー有ニ八珍之甘ニ」。
〔糲藿〕くろごめとまめと。○〔韓詩外傳〕「ーー之食未ニ嘗飽一也」。
〔鹿藿〕いぬぶんどう、のまめ。○〔爾〕「蔨ーー」。
〔庭藿〕にはに生じたるかをりぐさ。○〔南〕「想ニーー之餘馨ニ」。
〔葵藿〕まめのはをあつものとす。○〔淮〕「屠者ーレー」。
〔藝藿〕まめをうゑ。○〔謝朓〕「臨ニ南場一以ーレー」。
〔芳藿〕かをりぐさ。○〔鮑照〕「被ニ服纖羅ニ采ニーーニ」。

【藯】スヰ。選委切 紙
草木の花の貌にいふ字。○〔江總〕「銜レ花弄ニーー靡ニ」。

【蘀】タク。他各切 藥
脫落したる草木の皮葉、かれおちたるは、かれおちたるかば、おちば、かれかば。○〔詩〕「ー兮ー兮、風其吹レ汝」。

〔隕蘀〕草木の皮葉などのかれおつること。○〔詩〕「十月ーー」。
〔秋蘀〕あきのおちば。○〔晉〕「若ニ商風之隕ニーーニ」。
〔飛蘀〕とびちるおちば、又、落葉をとばす。○〔盧思道〕「故庭ーレー」。
〔輕蘀〕かろきおちば。○〔李綝〕「凛若ニ霜風隕ニーーニ」。
〔掃蘀〕おちばをはらふ。○〔鮑照〕「瓜田已ーレー」。

〔紫蘀〕未だ葉を解かざるあし。○〔西京雜記〕「葭蘆未レ解レ葉者謂ニ之ーーニ」。
〔枯蘀〕かれおつる草木の葉。○〔劉碁〕「ーー響ニ悲音ニ」。

【蘁】ゴ、グ。五故切 遇
さかふ、さかしま（逆）。○〔莊〕「使ニ人乃以レ心服而不ニ敢ー立ニ」。

【䔼】
蘁に同じ。

【蘂】ズヰ。如壘切 紙
花の內心、しべ。○〔南都賦〕「布ニ綠葉之萋々一、敷ニ華ー之蕤々ニ」。

〔落蘂〕おちちる花のしべ。○〔蕭瑱〕「ーー亂從レ風」。
〔花蘂〕はなのしべ。○〔李商隱〕「蝶銜ニーーニ」。
〔華蘂〕前に同じ。○〔南都賦〕「敷ニーー之蕤々ニ」。
〔金蘂〕菊の異名。○〔本草〕「菊一名ニーーニ」。
〔紅蘂〕あかきはなのしべ。○〔梁簡文帝〕「競ニーー之晨舒ニ」。
〔素蘂〕しろきはなのしべ。○〔沈約〕「銜ニーー於靑蹄ニ」。
〔雪蘂〕前に同じ。○〔白居易〕「ーー瓊葩滿院春」。
〔粉蘂〕こをふくみたる花しべ。○〔張說〕「ーー粘ニ莊籠ニ」。
〔麗蘂〕うつくしき花しべ。○〔孟郊〕「ーー惜未レ掃」。
〔飄蘂〕かぜにちりひるがへる花しべ。○〔呂溫〕「ーー雪飛」。
〔纖蘂〕はそき花しべ。○〔元稹〕「餘滴下ニーーニ」。

【蘝】ケン。居欠切 豔
其の根は、喉の痛みを治するに用ふる一種の藥草。

【𧅲】
薑の本字。

【薚】
蕁に同じ。

【蕁】シン、ジン。徐心切 侵
海蘿、うみも。

【蔹】セン、ゼン。徐鹽切 鹽
㊀一種の菜。○〔齊民要術〕「ー菜似ニ蓍・苙・菜ニ」。
㊁野に羅なり生ずる一種の惡草、其の枝葉を以て人の肌肉を拂へば瘡疱を成すといふ、いらくさ。○〔白居易〕「ーー草四時靑」。

【蘄】キ、ギ。渠之切 支
㊀蛇牀（はまにんじん）に似たる草、せんきうのなへ。○〔爾〕「ー茝蘼蕪」。
㊁馬銜、くつわ。○〔張衡〕「結レ駟方レー」。
㊂もとむ（求）。○〔莊〕「子惡乎知ニ夫死者不レ悔ニ其始之ーレ生」。

【蘄】キン、ゴン。渠斤切 文
山ーーは、おほぜり、やまぜり。

【䕯】セウ。子了切 篠
蘩菜に似たる一種の草。

【䔵】ハ、バ。蒲波切 歌
白蒿、しろよもぎ。

【蘅】カウ、ギヤウ。戶庚切 庚
杜ーーは、葵に似たる一種の香草かんあふひ。○〔曹植〕「結ニ春ーー以延佇」。

〔楚蘅〕杜蘅の別名。○〔廣雅〕「ーー杜蘅也」。
〔薇蘅〕やぶれがさと稱する草。○〔水經注〕「錫義山多生ニーー草一、其草有レ風不レ偃、無レ風獨搖」。

【藣】ヒヨウ、ビヨウ。皮冰切 蒸
草木の盛んなる貌にいふ字。

【蘆】ロ、ル。落胡切 虞
㊀葦の未だ穗なきものゝ稱、あし、よし。○〔尸子〕「鴈銜レー而捍レ網」。

㊁—肥、—菔は蕪根、すゞしろ、だいこん。〇〔爾雅〕「葖—肥」。

〔葭蘆〕あし。〇〔爾〕「——葭華」。

〔菼蘆〕前に同じ。〇〔史〕「蒹騶——」。

〔萑蘆〕前に同じ。〇蕉氏易林「揖二我——一」。

〔稀蘆〕ちゆろさうとて藥草の名。〇〔本草〕「——大葉小根相連多レ毛」。

〔岸蘆〕みづぎしに生じたるあし。〇〔鄭巣〕「過鴻宿二——一」。

〔碧蘆〕あをきあし。〇〔范成大〕「——青柳不レ宜レ霜」。

〔官養蘆〕朝廷、又、政府などの強梗なる臣下を制するの力なく却て之を用ふるをいふ譬語。〇〔晉〕「章謠曰、——家—レ化成レ荻、蘆生不レ止自成レ積、是時廣•衛竊據二廣州一、未レ能レ討、因而用レ之、是——之—也」。

【蘇】ソ、ス。素姑切 〔虞〕

㊀荏の屬、しそ、のらえ、其の味の辛きこと桂の如きより一に桂荏といふ。〇〔王褒〕「斷レ—切レ脯」。

㊁析きたる羽又は攢めたる絲などを物の飾りに下垂したるもの、稱、ふさ。〇〔梁簡文帝〕「金—翠幄」。

㊂いこふ、(息)。〇〔書〕「后來其—」。

㊃死して更に生く、よみがへる。〇〔戰〕「勃然乃—」。

㊄もとむ、(求)。〇〔淮〕「—二援世事一」。

㊅とる、(取)。〇〔屈平〕「—二糞壤一以充レ幃兮」。

㊆くさかる、(芟)。〇〔史〕「樵—後爨」。

㊇くさ、(草)。〇〔列〕「累塊積—」。

㊈寤む。〇〔楚辭〕「—レ世獨立」。

㊉氣の索くる貌にいふ字、又、恐懼する貌にいふ字、又、躁ぎ動く貌にいふ字。〇〔易〕「震——」。

〔樵蘇〕きをこり草をかる、又、其のもの。〇〔史〕「——後爨」。

〔落蘇〕なすびの異名。〇〔本草〕「茄子名二——一」。

〔薪蘇〕たき木とくさと。〇〔蕭遠〕「養採二——一」。

〔石蘇〕草の名。〇〔本草〕「石香葇一名二——一」。

〔紫蘇〕しそといふ草の名。〇〔本草〕「——一名二赤蘇一」。

【蘇】ソ、ス。蘇故切 〔遇〕

向かひ鬪ふ、むかふ。〇〔荀〕「—レ刃者死」。

【蘈】タイ、デ。杜回切 〔灰〕

牛—は、しのねぐさ。

【蘜】キク、コク。丘六切 〔屋〕

蘧—は、青黃色の華ある一種の草。

【[illegible]】レウ。落消切 〔蕭〕

草木の莖葉の疎なるにいふ字。

【蘉】バウ、マウ。莫朗切 〔陽〕 ボウ、モウ。彌登切 〔蒸〕

つとむ、(勉)。〇〔書〕「汝乃是不レ—」。

【蘊】ウン、チン。委粉切 〔吻〕

㊀つむ、(積)。〇〔詩〕「—隆蟲々」。

㊁をさむ、(藏)、又、つゝむ、(韞)、たくはふ、(蓄)。〇〔沈約〕「氣—二風雲一」。

㊂をさまる、(藏)、あつまる、(聚)。〇〔司馬相如〕「雜以二—藻一」。

㊃蓄積、たくはへ。〇〔歐陽修〕「粗窺二高——一」。

㊄藏韞、つゝみ。〇〔宋眞宗〕「琅函瑤—」。

㊅蘊奧、おくそこ。〇〔易〕「其易之—耶」。

㊆海藻、も。〇〔本草〕「海—鹹寒無レ毒」。

㊇蘊火の料につみたる草。〇〔漢〕「爇二—火一」。

㊈衆多なる貌にも又はあつまり茂れる貌にもいふ字。〇〔傅休奕〕「英——而金黃」。

〔底蘊〕奧そこ。〇〔唐〕「乃展二盡——一盡所レ隱」。

〔幽蘊〕おくふかきこと。〇〔謝惠連〕「近矚祛二——一」。

〔展蘊〕懷抱したる才學などをのべあらはす。〇〔元〕「宜下攄二清要一以—上所レ—」。

〔發蘊〕前に同じ。〇〔文中子〕「太初善—二其—一」。

〔紆蘊〕前に同じ。〇〔孫綽〕「何以—レ—」。

〔善蘊〕よくつゝみたくはふ。〇〔韋應物〕「——豈輕售」。

〔淹蘊〕つみたくはへてあらはさず。〇〔王令〕「爲レ學尚二——一」。

【蘊】チン。烏昆切 〔元〕

おぼし、(饒)。

【蘊】ウン、チン。紆云切 〔文〕

—淪は、小波、さゞなみ。

【蘋】ヒン、ビン。符眞切 〔眞〕

多くは清水に生ずる大いなる萍、かたばみも、うきくさ、白華を開く。〇〔詩〕「于以采レ—」。

〔青蘋〕あをき色をおびたるうきくさ。〇〔梁昭明太子〕「涼風起二——一」。

〔綠蘋〕前に同じ。〇〔溫庭筠〕「——池上暮方還」。

〔藻蘋〕水中に生ずる草のもとうきくさと。〇〔梁武帝〕「——相推移」。

〔流蘋〕水勢にながれ移るうきくさ。〇〔吳均〕「——方繞々」。

〔萍蘋〕うきくさ。〇〔孟郊〕「——一浪草」。

【蘔】シ。子智切 〔寘〕

㊀一種の草。㊁草積む。

【蘔】積に通じ用ふ。〇〔漢隸碑〕「—二萬世之基一」。

【蘌】ギヨ、ゴ。魚巨切 〔語〕

㊀茂り翳ふ、おほふ。㊁池水中に作られたる室、魚鳥を棲ますに用ふるもの、いけす、す。〇〔張衡〕「于レ東則拱池清—」。

【蘸】サク、ソク。側角切 〔覺〕

—葵毒は、とりかぶと、附子。

【[illegible]】コク。胡谷切 〔屋〕

水中に生ずる一種の菜。

【藩】ヘン、ボン。符袁切 〔元〕

莐—は、はなすげ。

【[illegible]】バウ、ミヤウ。謨耕切 〔庚〕

苕に似たる一種の草。

【[illegible]】ク、ゴ。郡羽切 〔麌〕

一種の草、一說に、木耳、きくらげ。

【[illegible]】ベツ、メチ。莫結切 〔屑〕

目に睛なきこと、一說に、瞡の僞字。

【[illegible]】バウ、ミヤウ。莫耕切 〔庚〕

屋上の瓦、やねがはら。

【蘢】古文の驥の字。〇〔穆天子傳〕「右驂赤——」。

【[illegible]】ケイ、キヤウ。古螢切 〔青〕

蘏に同じ。〇〔王應麟詩攷〕「衣レ錦尚レ—」。

十七畫

【蘖】ゲツ、ゲチ。魚列切 〔屑〕

斫木の殘餘、きりかぶ、又、きりかぶの肄生、ひこばえ。〇〔孟〕「非レ無二萌・ー之生一」。
(牙蘖) 木のめばえ。〇〔蘇軾〕「ー・ー已如レ臂」。
(枿蘖) 木のえだとめばえと。〇〔後漢〕「山陵・樹ー・ー皆諸二其散一」。
(修蘖) 前に同じ。〇〔王令〕「將レ根及レ株蔭二ー・ー一」。
(萌蘖) めばえ、なほ種子といふに同じ。〇〔魏〕「殘・狡背蘇二ー・ー一」。「ー一」。
(尺蘖) 僅にのびたるめばえ。〇〔新論〕「餘有二ー・
(倉蘖) 希ひそだてたるめばえへ。〇〔蔡邕〕「避二ー・ー之綠・英一」。「ー一」。
(纖蘖) かぼそきめばえ。〇〔傅亮〕「合・拱拴二于ー・
(葩蘖) 花びらと木のめばえと。〇〔韓愈〕「ー・ー相如出」。
(根蘖) もとゝなるもの。〇〔鄭解〕「一剗二其ー・ー一而殲二滅之一」。

【蘗】 櫱に同じ。〇〔鮑照〕「剉レー染二黄・絲一」。

【蘘】 ジヤウ、ナウ。汝陽切 陽
ー荷は、莖葉共に薑に似たる一種の草、めうが。〇〔司馬相如〕「茈・薑ー・荷」。

【蘙】 エイ、アイ。於計切 霽
草木繁茂して障をなす、しげる、おほふ。〇〔潘岳〕「ー薈・菶・茸」。

【蘚】 セン。息淺切 銑
こけ、(苔)。〇〔廣志〕「空・室無二人行一、則生二苔ー一」。
(員蘚) こけ。〇〔古今注〕「苔或紫或青、一名二ー・ー一」。
(宣蘚) 前に同じ。〇〔述異記〕「苔謂二之澤葵一、又名二青・苔一、亦呼爲二ー・ー一」。
(綠蘚) あをくしたるこけ。〇〔陸游〕「ー・ー封二苔・徑一」。
(宣蘚) 前に同じ。〇〔蘇軾〕「臥石蘚二ー・ー一」。
(碧蘚) 前に同じ。〇〔李商隱〕「白石巖扉ー・ー滋」。
(水蘚) うきくさ。〇〔本草〕「萍一名二水花一、一名二ー・ー一」。
(淨蘚) きよらかなるこけ。〇〔鄭巣〕「泉・瀑生二ー・ー一」。「ー一」。
(踏蘚) 踏蘚といふに同じ、こけをふむ。〇〔韋莊〕「ーレー青黏レ屐」。「可レ坐」。
(苹蘚) たけたるこけ。〇〔韓維〕「不レ踏二ー・ー一苔

【[illegible]】 イク、オク。余六切 屋
志げる、(茂)、又、花の開きたる貌にいふ字。〇〔述異記〕「異・考蘆ー・ー」。

【[illegible]】 薔に同じ。

【[illegible]】 テキ、ヂヤク。直炙切 陌
羊ー蹢は、れんげつゝじ。

【蘜】 菊に同じ。〇〔禮〕「ー有二黃華一」。

【蘝】 レン、ロン。力鹽切 鹽　レン。力驗切 豔
栝樓(きからすうり)に似たる一種の蔓草、やぶからし。〇〔詩〕「ー蔓二于野一」。

【蘞】 レン。力冉切 琰
㊀白ーは、一種の藥、やまかゞみ、びやくれん。㊁烏ー莓は、やぶからし。

【[illegible]】 ル。隴主切 麌
蔞ーは、はこべら、はこべ。

【[illegible]】 キク、コク。居六切 屋
からよもぎ(日精)。

【蘟】 イン、オン。倚謹切 吻

ー蕙は、蕨に似たる一種の菜。

【蘠】 シヤウ、ザウ。慈良切 陽
㊀ー蘼は、一種の草、すべろくさ、てんもんどう。㊁治ーは、からよもぎ、卽ち、菊。

【[illegible]】 蘠に同じ。

【蘡】 アウ、ヤウ。於莖切 庚
ー薁は、蒲萄に似たる一種の蔓草、えびづる。〇〔爾疏〕「大如二ー・子一」。

【藋】 タク、ドク。直角切 覺
蒴ーは、一種の藥草、そくづ。

【蘢】 ロウ、ル。盧紅切 東
㊀水葒草、おほけたで、いぬたで、馬蓼。〇〔管〕「其山之淺有二ー與一レ斥」。「ー」。
㊁蔽ふ貌にいふ字。〇〔漢〕「草・木蒙・ー」。

【蘢】 ロウ、ル。魯孔切 董
聚まれる貌にいふ字。〇〔淮〕「纚・紛ー・ー蓯」。

【[illegible]】 セン、ソン。思廉切 鹽
山韭、やまにら。

【[illegible]】 ソ、ズ。昨誤切 遇
魚醬、うをびしほ。

【蘣】 トウ、ツ。他貢切 送　天口切 有
㊀よし(好)。㊁禾の苗出づ。

【[illegible]】 ケツ、ゲチ。奚結切 屑
鳴ーーは、おほけたで。

【蘦】 レイ、リヤウ。郎丁切 青
甘草、一説に、苓に同じ。

【蘤】 井。韋委切 紙
花榮、はな。〇〔拾遺記〕「進二洞・淵紅・ー一」。
(含蘤) 花をふくみもつ。〇〔後漢〕「百草ーレー」。
(葩蘤) 花。〇〔隋〕「是貴・師加二ー・ー一耳」。
(花蘤) 前に同じ。〇〔舊唐〕「輕・蝓暫飛則ー・ー競・發」。「ー一」。
(雜蘤) いろくのはな。〇〔王儉〕「輕・風搖二ー・ー一散二芳・香一」。
(落蘤) おちちるはなびら。〇〔梁昭明太子〕「ー・ー
(珍蘤) めづらしき花。〇〔宋祁〕「ー・ー分二猜・賞一」。
(野蘤) のはらにさきたる花。〇〔陸游〕「ー・ー無レ風自・在香」。

【[illegible]】 カン。侯旰切 翰　河干切 寒
白ーは、一種の草。

【蘥】 ヤク。以灼切 藥
㊀燕麥、からすむぎ。㊁天ーは、おほけたで。

【蘧】 キヨ、ゴ。其遐切 御
形ある貌にいふ字、一説に、自得の貌にいふ字。〇〔莊〕「昔者莊・周夢爲二胡・蝶一、俄・然覺則ー・ー然周也」。

【蘧】 キヨ、ゴ。强魚切 魚
㊀前條に同じ。㊁ー麥は、なでしこ。㊂ー蔬は、まこもたけ。

【[illegible]】 コウ、ク。居候切 宥
蒿の類。

【蘨】 エウ。餘招切 蕭　イウ、ユ。夷周切 尤

草の盛んなる貌にいふ字。○〔書〕「厥草惟ー」。

【蘩】ヘン、バン。附袁切 元
ぇろよもぎ、皤蒿、春に生ず、食すべし。○〔詩〕「于以采ㇾー」。
〔蘩蘩〕うきくさとぇろよもぎと。○〔潘泥〕「ーーー登二二宮一」。
〔潔蘩〕きよきぇろよもぎ。○〔皇甫規〕「爰採二ー」。「ー一」。

【醜】シウ、シュ。昌九切 有
菝葀、さるさりいばら。

【蘪】ビ、ミ。武悲切 支
㊀ー蕪は、芎藭の苗、をんなかづらのなへ。○〔左〕「ー蕪布二濩于中-阿一」
㊁水に生ずる草、みづくさ。○〔爾〕「ー従ㇾ水生」。
㊂蕪穢す、ある。○〔揚雄〕「ー蕪也」。

【蘫】ラン、ロン。盧甘切 覃
㊀瓜菹、うりづけ。㊁水清し、きよし。

【蘬】キ。丘追切 支
㊀大蘢古、おほけたで、いぬたで。
㊁ふゆあふひ、(葵)。
㊂蘬蕢、なづなのみ。

【蘭】ラン。落干切 寒
㊀一莖に一花を開く香氣多き一種の草、ふぢばかま、あらゝぎ。○〔屈平〕「紉二秋ーー以爲ㇾ佩」。
㊁兵架、かたなかけ、やりかけ。○〔管〕「輕罪入ニーー盾鞈革二戟一」。
㊂横に通ずる血脈、よこすぢ。○〔史〕「以ㇾ陽入ニ陰-支ーー藏一者生」。

㊃浮浪なるさ、生處不明なるさ。○〔列〕「宋有二ーー子一」。
㊄欄に通じ用ふ、てすり、ぇきり。○〔後漢〕「徙二于馬ーー一」。
㊅斕に通じ用ふ、まだら、ぶち。○〔吳〕「黃-金車斑ーー耳」。「ーーー」。
〔隺蘭〕涙の流るゝ貌にいふ語。○〔淨〕「淚-泣流兮ーー」。
〔丸蘭〕茂密、ぇげる。○〔揚雄〕「萬-物ーーー」。
〔金蘭〕下に引く易の語より朋友の契深きをにいふ語。○〔易〕「二-人同ㇾ心其利斷ㇾー、同-心之言其臭如ㇾー」。
〔木蘭〕一種の香草、もくれんげ、いたび。○〔屈平〕「搴二阰之ーー一」。
〔芝蘭〕かをりぐさ。○〔家語〕「與二善-人一居、如ㇾ入二ーーー之室一」。「ー一」。
〔芳蘭〕前に同じ。○〔說苑〕「十-步之內、必有二ーー」。
〔叢蘭〕むらがりぇげれるかをりぐさ。○〔文子〕「ーー欲ㇾ茂、秋-風敗ㇾ之」。
〔蕙蘭〕かをりぐさ。○〔李商隱〕「淸-香披二ーーー一」。
〔墨蘭〕すみにてゑがきたるらん。○〔畫斷〕「趙-孟-堅ーーー最得二其妙一」。
〔庭蘭〕にはに生じたるかをりぐさ。○〔李白〕「摘二盡ーーー一不ㇾ見ㇾ君」。「風」。
〔紉蘭〕うつくしきかをりぐさ。○〔張纘〕「ーーー從ㇾ風」。
〔疎蘭〕まばらに生じたるかをぐさ。○〔唐太宗〕「ーーー尙染ㇾ烟」。
〔汀蘭〕みぎはに生じたるかをりぐさ。○〔范仲淹〕「岸-芷ーーー」。

【薊】ケイ。居例切 霽
ー蘀は芹に似たる一種の草。○〔王逸〕「ーー蘀兮青蔥」。

【蘙】ヨク、イキ。與職切 職
蘙翳。

【蘧】キョ、コ。臼許切 御
蕒ーは、けしあざみ。

【薿】ギ。魚矢切 紙

草の盛んなる貌にいふ字。

十八畫

【虈】ケウ、ゲウ。渠遙切 蕭
連ーは、一種の草、いたちぐさ、旱蓮子。

【藒】カツ、ガチ。胡八切 黠
䔛䓟、あさのくき。

【藒】カイ。居諧切 佳
皮さ穎さを去りたる禾藁、わら。

【蘱】ル井。力遂切 寘
㊀䔲蘱 ㊁ー芽は、あぶらがや。

【蘨】サフ、ゾフ。徂合切 合 セフ、ゾフ。在協切 葉
戸簾、いりぐちのすだれ。

【藂】ソウ、ズ。徂聰切 東
草の叢生する貌にいふ字。

【蘎】フク、ホク。芳六切 屋
通草、あけび。

【蘳】クワ、ゲ。胡瓦切 馬
㊀黃蘳、きいろなるはな。「ーー-熒」。
㊁花葉の貌にいふ字。○〔馬融〕「蘳-扈ー」。

【蘳】キ。許規切 支
果實、このみ。

【蘿】蘧に同じ。

【蘳】トウ、ツ。多動切 董
鼓の聲にいふ字。

【藷】諸、又、蒣に同じ。

【豐】ホウ、フ。敷空切 東
蕪菁、かぶら。

【蘴】菘に同じ。

【藏】ショク、シキ。質力切 職
黃蓀、いぬほゝづき。

【魏】ギ。虞貴切 未 二
草木の採りたるあさに更に生じたるもの、にどばえ。

【蘲】リ。陵之切 支
夫須、はますげ。

【蘜】キク、コク。居六切 屋
大蘜、おほふぢばかま。

【虆】蘗に同じ。

【蘀】タフ、デフ。直夾切 洽
花忽ち開く、ひらく。

十九畫

【蘸】サン、セン。莊陷切 陷
物を水に投ず、いろ、ひたす。○〔庾信〕「䉷ー二油-檀一」。

【蘼】リ。呂支切 支 レイ、ライ。郎計切 霽
草木の地に附著して生ずるにいふ字。

【蘿】蘪に通じ用ふ。

【蘹】クワイ、エ。乎乖切 佳

—香は、一種の草、くれのおも、うゐきやう。

【〓】ゼン、チン。如延切 [先] ㊀一種の草。㊁やく、(熱)。

【蘺】リ。呂支切 [支] ㊀蘼蕪、せんきうのなへ。○〔爾、註〕「楚謂二之—一、晉謂二之虈一、齊謂二之茝一」。㊁水稗、くさびえ。○〔淮〕「—先レ稻熟」。㊂まがき、かき、かこひ、(藩)。○〔漢〕「築二長城一而守二藩——一」。
〔杼蘺〕菊の異名。○〔詩、疏〕「白蒲一名二——一」。

【蘻】ケイ、カイ。古詣切 [霽] 狗毒、まちん。

【蘼】ビ、ミ。靡爲切 [支] 亡彼切 [紙] ㊀薔—は、てんもんどう。㊁—蕪は、芎藭の苗。

【蘽】ルヰ。力軌切 [紙] 一種の蔓、かづら。○〔爾〕「山—似レ葛」。

【蘵】ショク、シキ。賞職切 [職] 苦—は、苦參、くらゝ、一名は苦骨菜。

【蘔】テン。多年切 [先] 草の頭、いたゞき。

【蘾】クヮイ、エ。胡怪切 [卦] 烏蘾。

【〓】チョク、トク。厨玉切 [沃] ㊀蹢—は、つゝじ、杜鵑花。○〔韓愈〕「蹢—成レ山開不レ算」。㊂羊蹢—は、英光、えびすぐさ。

【蘿】ラ。魯何切 [歌] ㊀一種の蔓草、つた、かづら。○〔詩〕「蔦與二女—一、施二于松柏一」。㊁莪蒿、つのよもぎ。㊂—蔔は、すゞしろ、だいこん。
〔女蘿〕つたの種類。○〔名醫別錄〕「松蘿一名二——一」。
〔松蘿〕前に同じ。○〔本草〕「——一名二女蘿一」。
〔蔦蘿〕つた。○〔韓愈〕「林蘿當レ戸——暗」。
〔纖蘿〕ほそきつた。○〔陳〕「眇々——懸二孫松一以自發」。
〔青蘿〕あをきつた。○〔李白〕「——拂二行衣一」。
〔碧蘿〕前に同じ。○〔劉總〕「——附二于青松一、以茂二凌雲之葉一」。
〔綠蘿〕前に同じ。○〔曹植〕「——緣二于樹一」。
〔懸蘿〕たかくかゝりたるつた。○〔江總〕「古木懸二——一」。
〔長蘿〕ながきつた。○〔沈炯〕「——修竹」。
〔修蘿〕前に同じ。○〔王諶〕「披二林離之——一」。
〔藤蘿〕ふぢかづら。○〔張說〕「池水拂二——一」。
〔捫蘿〕つたをつかみひく。○〔孟浩然〕「—レ—亦踐レ苔」。
〔援蘿〕前に同じ。○〔王勃〕「—レ—窺二霧關一」。
〔牽蘿〕前に同じ。○〔梁昭明太子〕「—レ—下二石磴一」。
〔深蘿〕ふかくしげりたるつた。○〔方干〕「——難レ透レ日」。
〔幽蘿〕前に同じ。○〔李羣玉〕「蹤曉入二——一」。
〔蔓蘿〕つるづたのこと。○〔梅堯臣〕「牽纏如二——一」。

【〓】トウ。都鄧切 [徑] 懜—は、睡の覺めざる貌にいふ語。

【〓】トウ、ドウ。徒登切 [蒸] —瞢は、目の暗き貌にいふ語。

【〓】サン。則旰切 [翰] 牡—は、まさきのかづら。

【〓】サツ、サチ。子末切 [曷] 草木の叢生すると。

【〓】ラ。落戈切 [歌] ルヰ、リ。倫爲切 [支] 水旁に生じ葉は竹に似たる一種の菜。

【〓】ケン。吉典切 [銑] 紫萁、ぜんまい。

【〓】エイ、ヤウ。以成切 [庚] 菊花、かはらよもぎ。

二十畫

【虂】ロ、ル。洛故切 [遇] 蘩—は、蕤葵、つるむらさき。

廿一畫

【〓】ルヰ。力追切 [支] かづら、(蔓)。

【虆】ラ。盧戈切 [歌] —梩は、籠臿の屬、ふご。○〔詩、箋〕「築レ牆者捊二聚壤土一、盛レ之以レ—」。

【虇】ケン。去玩切 [翰] カン。去願切 [願] レン。連員切 [先] 萑葦の筍、あしのめ。

【虈】ケウ。許嬌切 [蕭] 白芷、よろひぐさ。○〔王逸〕「芳—兮挫二枯蘭一」。

【虉】ガク、ギャク。五革切 [陌] ゲキ、ギャク。五歷切 [錫] 綬に似たる一種の香草。

廿二畫

【〓】ダウ、ナウ。奴浪切 [漾] 草の貌にいふ字。

【〓】カイ、ケ。許亥切 [賄] 肉醬、しゝびしほ。

【〓】ソ、ズ。昨誤切 [遇] 魚醬、うをびしほ。

廿三畫

【虊】ラン。盧丸切 [寒] レン。閭員切 [先] レン、ラン。力卷切 [霰] —茆は、鳧葵、あさゞ。

【〓】ヤク。以灼切 [藥] 風の水を吹く貌にいふ字。

【〓】ケン。圭玄切 [先] 麥の莖。○〔潘岳〕「闢二問—葉一」。

廿四畫

【〓】ジヤウ、ナウ。如兩切 [養] 菜蘇、いぬあらゝぎ、又、蘇の小なるもの。

【〓】ジヤウ、ナウ。女亮切 [漾] 如陽切 [陽] 菹菜、つけもの、つけな。○〔齊民要術〕「乾菜及—菹」。

【〓】カン、コン。古禫切 [感]

一種の草。

【贛】コウ、ク。古送切 送
—實は、蕢苡の別名、はとむぎ。

廿五畫

【虋】ボン、モン。莫奔切 元
❶—冬は、すべるぐさ、てんもんどう、薔蘼。〇[山海經]「鮮-山其草多二—-冬一」。❷赤粱粟、もちあは。〇[爾]「—赤-苗」。

【虌】ヘツ、ベチ。幷列切 屑
わらび、(蕨)。

卅三畫

【麤】ソ、倉胡切 虞 ス。靑五切 麌
草履、わらぐつ。

虍部

【虍】コ、荒烏切 虞 ク。
—〔六書〕象二其文章屈曲一也。〔正譌〕
虎の文、あや。

二畫

【虎】コ、火古切 麌 ク。
—〔六書〕象二虎蹲而同顧之形一。〔正譌〕
❶其の牲猛烈なる一種の獸、とら。〇[詩]「匪ㇾ兕匪ㇾ—、率二彼曠-野一」。❷勇猛なるとにも猛惡なるとにも假りいふ字。〇[詩]「矯-々—-臣」。❸—-子は、便器、おまる。〇[西京雜記]「漢-朝以ㇾ玉爲二—-子一、以爲二便-器一」。❹琥に通じ用ふ。〇[吳、註]「—-魄不ㇾ取二腐-芥一」。

〔伏虎〕うつぶしをるとら。〇[韓詩外傳]「見二寢-石一以爲二—-—一」。
〔暴虎〕とらを手打ちにす、又、無謀の勇の義にいふ語。〇[詩]「不二敢—-—一」。
〔搏虎〕前に同じ。〇[孟]「晉人有二馮-婦者一、善—ㇾ—」。
〔虓虎〕怒りほゆるとら。〇[詩]「闞如二—-—一」。
〔猛虎〕あら〳〵しきとら。〇[漢]「—-—在二深-山一」。
〔畫虎〕繪にかきたるとら、又、とらを繪にかく。〇[後漢]「—ㇾ—不ㇾ成、反類ㇾ狗者也」。
〔逐虎〕とらを追ひはなす。〇[孟]「有ㇾ衆—ㇾ—」。
〔兕虎〕野牛に類したる獸ととらと、又、猛き者の義にいふ語。〇[西京賦]「威懾二—-—一」。
〔刺虎〕兵器もてとらを貫き殺す。〇[戰]「卞-莊-子欲ㇾ—ㇾ—」。
〔市虎〕市街の間にとら走る、即ち、あるまじきうはさにいふ語。〇[孔融]「三-人成二—-—一」。
〔養虎〕とらを飼畜す。〇[史]「—ㇾ—自遺ㇾ患也」。
〔餒虎〕空腹なるとら。〇[史]「以ㇾ肉投二—-—一」。
〔咋虎〕とらを嚙みくらふ。〇[漢]「孤-豚之—ㇾ—」。
〔射虎〕弓もてとらをい貫く。〇[吳]「乘ㇾ馬—ㇾ—」。
〔扼虎〕とらをおさへつく。〇[漢]「力—ㇾ—、射命-中」。
〔猛虎〕猛獸のとにいふ語。〇[後漢]「—-—爲ㇾ群」。
〔臥虎〕寢ねてをるとら。〇[西京雜記]「又見二—-射ㇾ之」。
〔縛虎〕繩もてとらをしばる。〇[李商隱]「莫ㇾ忘ㇾ—ㇾ—」。
〔格虎〕とらをてうちにす。〇[唐]「獵親—ㇾ—」。
〔騎虎〕とらにうちのる。〇[北]「握ㇾ蛇—ㇾ—」。
〔御虎〕とらを制馭す。〇[西京雜記]「制ㇾ蛇—ㇾ—」。
〔螭虎〕みづちとて龍の屬ととらと、即ち、猛き人にたぐへいふ語。〇[班固]「—-—之士」。
〔咆虎〕聲を放ちてほゆるとら。〇[張協]「—-—響二窮-山一」。
〔檻虎〕とらををりの中に入れおく。〇[漢]「圈ㇾ豹—ㇾ—」。
〔餓虎〕食に乏しきとら。〇[史]「以ㇾ肉委二—-—一」。
〔研虎〕刀もてとらを斬る。〇[魏]「奮ㇾ劍—ㇾ—」。
〔逸虎〕檻をぬけ出でたるとら。〇[傅休奕]「勢如二—-—一」。

三畫

【虖】ク、コ。匈于切 虞
虎吼ゆ、ほゆ。

【虐】ギヤク、ガク。魚約切 藥
❶きへたぐ。(い)苛酷なる事を施す。〇[書]「以敷二—于爾萬-方百-姓一」。(ろ)そこなふ、(殘)。〇[左]「陵二—神-主一」。❷苛酷なり、からし、むごし、あらし。〇[史、註]「政—而民愁也」。❸殘害、厄災、きへたげ、わざはひ、そこなひ。〇[書]「殷降二大—一」。

〔不虐〕苛酷なるとをせず。〇[書]「—ㇾ—無ㇾ告」。
〔代虐〕苛酷なるとと取りかへをなす。〇[書]「—ㇾ—以ㇾ寬」。
〔暴虐〕あらし殘ふ。〇[書]「敢行二—-—一」。
〔殘虐〕前に同じ。〇[唐]「—-—最甚」。
〔厲虐〕前に同じ。〇[書、傳]「我無二—-—殺ㇾ人之事一」。
〔報虐〕苛酷なるものに酬いをなす。〇[書]「—ㇾ—以ㇾ威」。
〔傲虐〕驕慢苛酷なると。〇[書]「—-—是作」。
〔驕虐〕前に同じ。〇[唐]「貪-淋—-—」。
〔威虐〕物をおどし殘ふ。〇[詩、疏]「急-疾而行二此—-—之法一」。
〔賊虐〕殘害。〇[書]「—二—諫-輔一」。「民一」。
〔害虐〕前に同じ。〇[書]「暴二殄天-物一、—二—烝-民一」。
〔邪虐〕正しからずして物を殘ふと。〇[書]「除二其—-—一」。
〔胥虐〕相殘ふとをなす。〇[書]「無二—-—一」。
〔五虐〕五つの苛酷なる罪、即ち、耳を截り鼻を截り足を截り陰を腐らし面に入れ墨する罪。〇[元稹]「正二五-刑一以去二—-—一」。
〔行虐〕苛酷なるとを施し爲す。〇[書、傳]「託二天以—二—於民一」。
〔方虐〕まさに殘ふとをなす。〇[詩]「天之—-—、無二然謔-々一」。
〔寇虐〕乱暴をなし物を殘ふ。〇[詩]「式遏二—-—一」。
〔酷虐〕慘害なると。〇[晉]「妃性—-—」。
〔苛虐〕前に同じ。〇[晉]「刑-政—-—、縱ㇾ情肆ㇾ欲」。
〔淫虐〕淫亂苛酷なると。〇[史]「維王—-—用自絕」。
〔除虐〕苛酷なるものを退け去る。〇[禮]「—二其—一」。
〔侵虐〕物を犯し殘ふ。〇[禮、疏]「—-—爲ㇾ甚」。
〔助虐〕苛酷なるものに力を假す。〇[爾、註]「樂ㇾ禍—ㇾ—」。
〔首虐〕巨魁となりて物を殘ふ。〇[史]「布常爲二—-—一」。
〔凶虐〕惡しくして物をそこなふ。〇[後漢]「勦二—-—兮藏二海-外一」。
〔貪虐〕利欲の念深くして苛酷なり。〇[宋]「詔察二諸-路監-司—-—者一」。
〔狂虐〕行ひ物くるはしくして苛酷なり。〇[南]「—-—」。
〔躁虐〕さわがしく苛酷なり。〇[南]「對者言二其—-—」、「蒼-梧-王—-—、左右不二自安一」。
〔肆虐〕恣にして殘ふ。〇[唐]「姦-臣—-—乎」。
〔殘虐〕殘ひをなす。〇[唐]「肆爲二—-—一」。
〔毒虐〕前に同じ。〇[龍城錄]「以二—-—一弄二正權一」。
〔戕虐〕みだりに殘害す。〇[唐]「喜二田-獵—-—一」。
〔亂虐〕亂暴苛酷なると。〇[易林]「—-—滋起」。
〔菑虐〕わざはひをなしそこなふ。〇[易林]「茲爲二—-—一」。
〔頑虐〕おろかにして殘惡なると。〇[獨孤受質]「智-光敵-狠—-—」。

【𧆛】虐に同じ。〇[漢魯君碑]「外撮二強—一」。

四畫

【虙】ヒツ、ビチ。房七切 質
愁ふる貌にいふ字。

【虒】シ。息移切 支
委—は、虎の角あるもの。「也」。
〔上虒〕亭の名。〇[水經、註]「斷-梁-城即—-—亭」。
〔下虒〕臺の名。〇[劉歆]「過二—-—一而歎-息兮、悲二平-公之作一ㇾ臺」。

【虒】テイ、ダイ。田黎切 齊

—奚は、縣の名。

【虒】 チ、ヂ。丈爾切 紙
虒——は、齊しからざるを、かたゝがひ。○〔司馬相如〕「傑-池虒——」。

【虓】 ガイ、魚肺切 隊 ゲイ。切 ゲ。牛例切 霽
虎の貌にいふ字。

【虓】 カウ、ケウ。許交切 肴
虎怒りて聲を發す、ほゆ、なく。○〔晉〕「戎年六-七歲、宣-武-場觀レ戲、猛-獸大-檻中、——怒震レ地」。
〔拙虓〕をゝしくほゆ。○〔韓愈〕「卜レ書過二——一」。
〔闞虓〕いかりさけぶ。○〔蘇轍〕「死-生不レ顧二——一」。
〔奮虓〕虎の如き勇氣をふるひたける。○〔風俗通〕「——二虎之勢一」。
〔呼虓〕聲をなしほゆ。○〔蘇舜欽〕「陰-霜策-々風「——」。

【虔】 ケン、ゲン。渠焉切 先
㊀虎の行く貌にいふ字、又、端正の貌にいふ字。
㊁かたし、（固）。○〔班固〕「——鞏勞-謙」。
㊂つゝしむ、（敬）。○〔國〕「小-采夕レ月、與二大-史司-載一、糾二——天-刑一」。
㊃まくらぎ、あて、（榿）。○〔詩〕「方斲是——」。
㊄めぐむ、（惠）。○〔張華〕「上——郊-祀一下惠二兆-民一」。
㊅ころす、（殺）。○〔左〕「——劉我邊-陲一」。
㊆强ひて取る、うばふ。○〔漢〕「撟——吏因乘レ勢以侵二烝-庶一」。
㊇すくなし、（小）。
〔矯虔〕詐りあざむきて殺す。○〔書〕「奪-攘——」。
〔貌虔〕容貌敬めり。○〔蘇軾〕「百-辟心非豈——」。
〔益虔〕いやましにつゝしむ。○〔元〕「不レ懈——」。
〔嚴虔〕おごそかにし敬む。○〔晉〕「惟公——」。
〔仰虔〕あをのき見つゝしむ。○〔晉〕「——二玄-象一」。
〔致虔〕敬ふことをなす。○〔宋〕「——二禋-祀一」。
〔恪虔〕敬みをなす。○〔宋〕「——夙-夜」。
〔恭虔〕前に同じ。○〔舊唐〕「常尅レ己以——」。
〔申虔〕かさねて敬む。○〔宋〕「奉レ將——」。
〔精虔〕くはしくえらび敬ひの意を表す。○〔宋〕「奠-獻——」。
〔寅虔〕つゝしみ敬ふ。○〔文心雕龍〕「——二於神-祇一」。
〔肅虔〕前に同じ。○〔陸雲〕「——二寢-廟一」。
〔敬虔〕前に同じ。○〔皮日休〕「爲レ之加二——一」。
〔虔々〕敬愼の貌にいふ語。○〔王禹偁〕「百-官供レ職以——」。

【虩】 ゲキ、ギヤク。魚戟切 陌
㊀虎の貌にいふ字。㊁こゑ、（聲）。

五畫

【盧】 ロ、ル。力胡切 虞
㊀はち、（飯-器）。㊁虎の文、あや。

【虓】 カフ、ゲフ。胡甲切 洽
さら、（虎）。

【虘】 ギ。魚既切 未
虎の息、いき。

【虖】 カフ、ゲフ。胡甲切 洽
虎の搏つを習ふにいふ字、ならふ。

【虢】 ギツ、魚迄切 物 ゴチ。切 ギ。魚既切 未
虎の貌にいふ字。

【處】 ショ、ソ。昌與切 語
㊀をる。
（い）やすんじ息ふ。○〔詩〕「莫二或遑——一」。
（ろ）とゞまり棲む。○〔莊〕「不レ可二以久——一」。
（は）位置に立つ、場所を占む。○〔史〕「人之賢不肖、譬如レ鼠矣、在レ所二自——耳」。
（に）仕へずして野に在るにいふ字。○〔易〕「或出或——」。
㊁をらしむ、おく。○〔國〕「擇二瘠-土一而——レ之」。
㊂とゞむ、とゞまる、止、又、やすんず、（安）。○〔詩〕「其後也——」。
㊃さだむ、さだまる、（定）。○〔國〕「蚤——レ之」。
㊄おもむく、（歸）。○〔左〕「各有レ攸レ——」。
㊅分別す、わかちきむ。○〔晉〕「——分既定」。
㊆制裁す、きりもりす。○〔晉〕「雖三——以二嚴-刑一」。
㊇居室、屋舍、又、身のおきどころ。○〔詩〕「于レ時——」。
〔出處〕出でて仕ふると退きて仕へずをると。○〔梅堯臣〕「因レ之論二——一」。
〔獨處〕羣を離れて己れのみをる。○〔宋玉〕「超-然——」。
〔來處〕きたりてをる。○〔詩〕「公-尸來燕——」。
〔燕處〕安んじをる。○〔禮〕「——則聽二雅-頌之音一」。
〔自處〕已れと已れの身を處置す。○〔史〕「在レ所二——耳」。
〔區處〕區分處置す。○〔梅堯臣〕「百-事由二——一」。
〔托處〕身を寄せおく。○〔漢〕「曾不レ得-聚-廬而——焉」。
〔巷處〕街衢の閒に身をおく。○〔韓愈〕「去レ位而——」。
〔信處〕やどりをる。○〔詩〕「于レ汝——」。
〔與處〕ともぐにをる。○〔詩〕「此邦之人、不レ可二——一」。
〔安處〕身心をやすんじをる。○〔詩〕「無二恒——一」。
〔定處〕處を一つにきめてをる。○〔詩〕「自レ西徂レ東、靡レ所二——一」。
〔移處〕場所をかへてをる。○〔詩、箋〕「今——二高-木一」。
〔逃處〕遁れて身をおく。○〔詩、疏〕「魚則能——二於深-淵一」。
〔居處〕家に身をおく。○〔禮〕「以レ之——有レ禮」。
〔偪處〕近づきをる。○〔左〕「實——」。
〔寢處〕やすみをる。○〔李尤〕「——和-歡」。
〔雜處〕入りまじりをる。○〔國〕「四-民者勿レ使二——一」。
〔懾處〕恐れてをる。○〔史〕「愁居——、不二敢動-搖一」。
〔審處〕詳細に處置す。○〔史〕「故定レ計——レ之」。
〔巖處〕岩穴の閒に身をおく、即ち、世累を避けて隱遁しをるにいふ語。○〔史〕「無二——奇-士之行一」。
〔隱處〕前に同じ。○〔東方朔〕「賢-士窮而——」。
〔遊處〕意にまかせ優遊す。○〔白居易〕「——遂「參-差」——兮」。
〔偸處〕遊惰す。○〔管〕「民——而不レ事二積-聚一」。
〔暴處〕雨露にさらされをる。○〔韓詩外傳〕「召-伯「暑——二——遠-野一」。
〔偶處〕相對しをる。○〔春秋繁露〕「令二吏-民夫-婦「偶——」。
〔特處〕ひとりをる。○〔楚辭〕「——兮煢-々」。
〔寡處〕やもめとなりてひとりをる。○〔易林〕「必——レ——無レ夫」。
〔擇處〕身の置き場所を撰定す。○〔說苑〕「君-子居——」。
〔幽處〕物たづかなる所に身をおく。○〔說苑〕「吾嘗——而深-思」。
〔窮處〕困窮しをる。○〔陸游〕「忽-々悲二——一」。
〔踈處〕妻なくして獨りをる。○〔司馬相如〕「——獨-居」。
〔異處〕別々になりをる。○〔雲笈〕「令二男-女——一」。

【處】 ショ、ソ。昌據切 御
位置、場所、ところ。○〔詩〕「爰レ居爰レ——」。

【虖】 コ、ク。荒鳥切 虞
㊀歎息の聲にいふ字、あゝ。○〔漢〕「嗚-——何施而臻レ此歟」。
㊁ほゆ、（哮）。
㊂水の名。○〔山海經〕「木-馬之水、東-北-流注二于——沱一」。

【虖】 コ、グ。後五切 麌
人の名。○〔莊〕「孔-子問二子-桑——一」。

【虖】 ク、コ。況于切 虞

㊀虎吼ゆ、ほゆ。
㊁古文の乎の字、や。○〔宣帝紀〕「書不レ云ー、鳳-皇來-儀、庶-尹允諧」。

【虙】フク、ボク。房六切 屋
㊀虎の貌にいふ字。㊁伏に通じ用ふ。○〔十六國春秋〕「梓-童太-守周ーー」。

六畫

【虛】キヨ、コ。朽居切 魚
㊀むなし。
(い)存するものなし。○〔莊〕「國爲ニーー厲一」。
(ろ)實てるものなし。○〔淮〕「川竭而谷ー」。
(は)畜へなし。○〔老〕「深-藏若レー」。
(に)備へなし。○〔史〕「衝ニ其方ー一」。
(ほ)能なし、用なし。○〔漢〕「抱レー求レ進」。
(へ)我なし、慾なし。○〔淮〕「恒ー而易レ足」。
(と)實なし、信なし。○〔史〕「名冠ニ諸-侯一不レー耳」。
(ち)弱し、衰へたり。○〔呂氏春秋〕「齊-國以ー」。
㊁內むなしきと、內むなしきもの、から、あき。○〔禮〕「執レー如レ執レ盈、入レー若レ有レ人」。
㊂孔竅、あな、すきま。○〔淮〕「若ニ循レーー而出-入一」。
㊃太空、そら、こくう。○〔抱朴〕「攬ニ六-翩凌レー之用一」。
㊄方位、むき、くらゐ。○〔易〕「周ニ流六ー一」。
㊅いたづらに、たゞに、むなしく。○〔司馬相如〕「星-流電-激兮不ニー發一」。
㊆ほしいまゝ(縱)。○〔大戴禮〕「ー-土之人大」。
㊇二十八宿の一、とみて。○〔書〕「星ー」。
㊈神氣足らざると、身體弱きと。○〔素問〕「此謂ニ五ーー一」。

〔盈虛〕充滿すると空虛なると。○〔晉〕「刻レ玉紀ニ其ーー一」。
〔充虛〕前に同じ。○〔楚辭〕「吸ニ沆-瀣一以ーー」。
〔容虛〕物なし、から。○〔史〕「徒ニ囹圄ーー一」。
〔淸虛〕淨潔にしてわだかまりなし。○〔漢〕「ーー澹泊」。
〔沖虛〕深く空し。○〔阮籍〕「養レ志在ニーー一」。
〔擣虛〕充實しをらざる所につけ入る。○〔劉因〕「奇-兵入ニーー一」。
〔乘虛〕前に同じ。○〔魏〕「ーレー迭出」。
〔集虛〕空なるところに寄りつどふ。○〔莊〕「惟道ーレー」。
〔太虛〕大ぞら。○〔宋玉〕「超ニ于ーー之域一」。
〔攻虛〕備へなきところを擊つ。○〔管〕「釋レ實而ーレー」。
〔不虛〕おだやかにしてわだかまりなし。○〔管〕「或以ニーー一、講ニ論七-主之道一」。
〔據虛〕空なるところにたてこもる。○〔管〕「若レーレー」。
〔中虛〕內部空なり。○〔鶡冠子〕「ーー外博」。
〔守虛〕虛無の道をとりまもる。○〔庾凱〕「幽人ーレー」。
〔馮虛〕大ぞらに身をもたす。○〔陸雲〕「雷ーレー以振レ庭」。
〔躡虛〕そらをあゆむ。○〔孫綽〕「應-眞飛レ錫以ーレー」。
〔履虛〕前に同じ。○〔列〕「ーレー乘レ風」。
〔碧虛〕あをぞら。○〔杜甫〕「寒-江動ニーー一」。
〔謙虛〕謙讓にしてわだかまりなし。○〔吳〕「朱-據ーー接レ士」。
〔深虛〕奧ふかくしてわだかまりなし。○〔南〕「氣-志聖-眷」。
〔崇虛〕高くて空し。○〔虞集〕「叨-宰還欲レ謝ニーー一」。
〔庸虛〕平凡にしてはたらきなし。○〔北〕「以ニ此ーー、慶-動聖-眷一」。
〔靜虛〕躁しからずむなし。○〔家語〕「德若ニ天-地一而ーー」。
〔排虛〕大ぞらをおしあく。○〔淮〕「鳥ーレー而飛」。
〔喜虛〕實なきことを好む。○〔說苑〕「ーレー不レ久」。
〔升虛〕空にのぼる。○〔劉向〕「ーレー凌レ冥」。
〔恬虛〕しづかにして空し。○〔嵇康〕「ーー樂レ古」。
〔廠虛〕空にひゞく。○〔唐太宗〕「猿啼自ーレー」。
〔襲虛〕人なき所を不意擊ちす。○〔郭英乂碑文〕「選ニ驍-騎一以ーレー」。
〔晴虛〕はれわたりたる大ぞら。○〔陸龜蒙〕「萬-仞倚ニーー一」。
〔廣虛〕ひろき大ぞら。○〔晉摯〕「長-軒邁ニーー一」。

【虜】ロ、ル。郎古切 麌
㊀生きながら捕らへ得、とりこにす、いけどる。○〔漢〕「可ニ襲ー一」。
㊁いけどりたる者、いけどり、とりこ。○〔公羊〕「此ー也」。
㊂奴隸、めしつかひ、ともべ。○〔史〕「嚴-家無ニ格ー一」。
㊃化外の民、えびす。○〔詩〕「執ニ醜-ー一」。
〔臣虜〕生得せられて服從す。○〔胡傳〕「身爲ニーー一」。
〔奴虜〕生得せられて召使はる。○〔史〕「齊俗賤ニーー一」。
〔僮虜〕前に同じ。○〔漢〕「雖レ爲ニーー一、猶亡ニ慍-色一」。
〔降虜〕降服したるいけどり。○〔漢〕「日-磾出ニ於ーー一」。
〔首虜〕首級と俘虜と。○〔漢〕「捕ニーー數-千一」。
〔勍虜〕勢はげしきえびす。○〔後漢〕「ーー兵盛、可ニ且閉一レ營」。
〔俘虜〕いけどり。○〔晉〕「幸哉遺-黎免ニーー一」。
〔敵虜〕かたきのえびす。○〔魏文帝〕「不レ戰屈ニーー一」。
〔蠻虜〕えびす。○〔魏明帝〕「伐ニ彼ーー一」。
〔係虜〕いけどり。○〔陸機〕「試ニ潛-涽於ーー一」。
〔亡虜〕遁逃したるとりこ。○〔宋薪耆歌〕「留-侯起ニーー一」。
〔守錢虜〕金錢をこよなきものに思ひて其の番をのみなす賤しき者。○〔後漢〕「否則ーーー耳」。

七畫

【䖐】ギン、ゴン。語斤切 文
虎の聲、こゑ。

【䖑】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
白き色の虎。

【䖒】キ、ケ。許羈切 支
古の陶器。

【䖅】レイ、リヤウ。郎丁切 青
虎の一種にて小さきもの。

【䖓】ダツ、ヂチ。女滑切 黠
虎の行く貌にいふ字。

【䖔】カン、コン。口敢切 感
虎の一種。

【䖘】カン、ゴン。戶感切 感
虎の聲、こゑ。

【䖗】カン、コン。呼濫切 勘
虎怒る、いかる。

【𧆮】コ、ク。古胡切 虞
いこふ(息)。

【虘】サ、ザ。昨何切 歌
虎の猛きにいふ字、たけし。

【虘】ソ、ズ。昨古切 麌
虎を生む、うむ。

【虞】グ、ゴ。遇俱切 虞
㊀はかる。
(い)おもんぱかる(慮)。○〔孟〕「有ニ不レー之譽一」。
(ろ)うれふ(憂)。○〔易〕「悔-吝憂ー」。
(は)そなふ(備)。○〔國〕「邢翟之ー」。
㊁うれひ、そなへ、おもんぱかり。○〔舊唐〕「內ーー外-備」。

㊂えらぶ、(擇)。
㊃のぞむ、(望)。
㊄專有す、たもつ、もっぱらにす。
㊅たすく、(助)。
㊆あやまる、(誤)。○〔詩〕「無レ貳無レ―」。
㊇やすんず、(安)。○〔國〕「―二於湛‐樂一」。
㊈たのしむ、(樂)。○〔漢〕「神夕奄―」。
㊉父母の埋葬を了へ歸りて殯宮にて其の精を祭ること。○〔公羊〕「―主」。
⑪山澤又は原野を掌る官。○〔易〕「卽レ鹿無レ―」。
⑫支那古代の聖君なる舜の朝の稱、舜の有虞氏と稱するによる。○〔書〕「唐―稽レ古」。

〔無虞〕そなふることなし、卽ち、安きにいふ語。○〔書〕「四方―レ―」。
〔不虞〕思ひもよらざること。○〔詩〕「用戒二―・―一」。
〔騶虞〕白虎黑文にして生きたるものを食らはずといへる獸の名、古支那に至聖の德あるもの世に出づれば之に應じて世にあらはるといひ傳ふ。○〔詩〕「于嗟乎―・―」。
〔野虞〕野をもるつかさ人。○〔禮〕「季‐春之月、命二―・―一毋レ伐二桑柘一」。
〔山虞〕山をもるつかさ人。○〔周〕「―・―掌二山‐林之政‐令一」。
〔招虞〕山澤を掌る官人を召びよす。○〔孟〕「―二―・人一以レ旌」。
〔驩虞〕たのしむ。○〔孟〕「覇‐者之民―・―如也」。
〔外虞〕とつ國に對するそなへ。○〔唐〕「寇‐掠―・―」。
〔多虞〕難事さはにあり。○〔左〕「以二晉‐國之―一」。
〔自虞〕己れと己れを思ひ度る。○〔戰〕「清‐淨貞‐正以―・―」。
〔近虞〕身にちかき難事。○〔唐〕「務二遠‐功一忽二―・―一」。
〔心虞〕心に思ひはかる。○〔韓顯宗〕「―・―二萬‐機一」。
〔寡虞〕思ひはかり少なし、卽ち、安きにいふ語。○〔陸機〕「封‐域―レ―」。
〔晏虞〕安泰なり。○〔謝靈運〕「主二寡‐內一而―・―」。

【虞】呉に通じ用ふ、かまびすし。
○〔史〕「不レ―不レ驁」。

【[illegible]】シウ、シュ。之戎切 [東]

文の赤黒き虎。

【[illegible]】カフ、ゲフ。胡夾切 [洽]
習るゝ貌にいふ字。

【號】カウ、ゴウ。胡刀切 [豪]
さけぶ。
(い)大聲に呼ぶ、よぶ、よばはる。○〔詩〕「式―式呼」。
(ろ)哭す、なげく。○〔易〕「先―咷而後笑」。
(は)雞の鳴くにいふ字、なく。○〔晉〕「雞始三―」。

〔永號〕久しき開呼ぶ。○〔詩〕「誰之―・―」。
〔鳴號〕なきさけぶ。○〔禮〕「―・―焉、噍々焉」。
〔烏號〕柘桑の枝をもて作りたる弓の名、柘桑の枝暢茂し烏その上に登るときは枝垂れ下がりて地上に着く烏乃ち飛び去らんとすれば枝後より擬きて烏を殺せり故をもてその名を得たりといふ。○〔家語〕「楚共‐王出‐遊亡二―・―之弓一」。
〔呼號〕呼ぶ。○〔漢〕「晝‐夜―・―、車‐騎滿レ門」。
〔怒號〕聲をはげましさけぶ、又、はげしく鳴く、さけぶ。○〔杜甫〕「八‐月秋高風―・―」。
〔[illegible]號〕おそれて鳴きさけぶ。○〔易〕「―二―莫夜一」。
〔叫號〕さけび呼ぶ。○〔詩〕「或不レ知―・―」。
〔吼號〕聲をあげさけぶ。○〔後漢〕「卒莫レ不二―・―一」。
〔晨號〕朝はやく鳴く。○〔七發〕「獨鵠―・―二乎其上一」。
〔噭號〕鳴きさけぶ。○〔柳宗元〕「衆鳥萃而―・―兮」。
〔[illegible]號〕呼びさけぶ。○〔柳宗元〕「―・―不レ聞」。
〔長號〕聲を久しくやめずなきさけぶ。○〔柳宗元〕「北‐向―・―、以レ首頓レ地」。
〔嘶號〕いなゝきさけぶ。○〔曹唐〕「逢二入相一骨強―・―」。
〔驚號〕愕きてさけぶ。○〔吳萊〕「北‐州縣見爭―・―」。
〔狂號〕物くるはしくなきさけぶ。○〔戴昺〕「―・―大自驚」。

【號】カウ、ゴウ。胡到切 [號]
㊀名稱、となへ。○〔周〕「掌レ辨二六―一」。
㊁諡名、おくりな。○〔周〕「詔二其―一」。
㊂命令、いひつけ、しめし。○〔易〕「渙二汗其大―一」。
㊃標記、しるし。
㊄符語、あひづ。○〔禮〕「殊二徽―一」。○〔宋〕「先得二賊軍―・―一、隨レ聲應レ之」。
㊅くちずさみ。○〔李商隱〕「柏‐臺成二口―一」。
㊆よぶ。
(い)となへとなす、名いふ。○〔北〕「自―二隱‐居一」。
(ろ)召す。○〔齊〕「使下周二游四‐方一、以召中―天‐下之賢‐士上」。

〔發號〕號令を出たす。○〔後漢〕「―・―響‐應」。
〔徽號〕旗じるし。○〔禮〕「易二服‐色一殊二―・―一」。
〔更號〕名稱をとりかふ。○〔韓愈〕「蘇‐李首―レ―」。
〔殊號〕特異なる名目、又、名目を異にす。○〔陸論〕「皆至‐德之―・―」。
〔嘉號〕善良なる名稱。○〔說苑〕「―・―布二于外一」。
〔顯號〕顯らかなる名稱、又、ほまれ。○〔司馬相如〕「遺二―・―于後‐世一」。
〔別號〕名目を異別にす、又、異別の名。○〔書、疏〕「異レ時而―レ―」。
〔追號〕死にたる後に名をつく。○〔唐〕「―二―天‐后一曰二大‐聖天‐后一」。
〔定號〕名稱をさだむ、又、さだまりたる名稱。○〔詩、疏〕「應二天‐命一―レ―也」。
〔國號〕くにの名稱。○〔詩、商頌、譜〕「―・―不レ改」。
〔美號〕嘉良なる名稱。○〔白虎通〕「必擇二天‐下之―・―一」。
〔名號〕名稱といふに同じ。○〔後漢〕「宜下改二―・―一以鎭中百‐姓上」。
〔僭號〕分を越えてつけたる名稱。○〔春秋、註〕「自去二其―・―一」。
〔改號〕名稱を變更す。○〔春秋、註〕「荊始―レ―曰レ楚」。
〔舞號〕雨ごひの祭りの名。○〔爾〕「―・―雩也」。
〔貶號〕階級の名稱を引き下ぐ。○〔史〕「更―レ―曰二服‐君一」。
〔賜號〕名稱を上よりたまはる。○〔史〕「―レ―爲二馬‐君一」。
〔錫號〕前に同じ。○〔史〕「―レ―舜二建百‐有‐餘‐國一」。
〔紀號〕名稱を書きしるす。○〔漢〕「刻レ石―レ―」。
〔尊號〕高貴なる名稱。○〔漢〕「獻二高‐美之―・―一」。
〔建號〕名稱を設けこしらふ。○〔漢〕「―二皇‐帝之―一」。
〔位號〕位階名稱。○〔漢〕「―・―已移二于天‐下一」。
〔假號〕名稱をいつはる、又、かりのとなへ。○〔晉子民〕「竊レ官―レ―」。
〔正號〕ことわりたゞしき名稱。○〔後漢〕「公者仁‐德之―・―」。
〔官號〕官職の名稱。○〔吳、註〕「或以二―・―一」。
〔舊號〕舊時の名稱。○〔後漢〕「皆卽―・―」。
〔稱號〕名目。○〔後漢〕「西向二帝‐城一而無二―・―一」。
〔諡號〕死にたる人に後よりおくる名稱、卽ち、おくり名。○〔晉〕「其―・―可レ知者十‐有‐四焉」。
〔年號〕年曆の名稱、卽ち、建元大化などいふ類。○〔唐〕「―・―元‐和」。
〔自號〕己れと己れに名を附す。○〔五〕「―・―劉山人」。

八畫

【[illegible]】コ、ク。荒胡切 [虞]
未だ見ざる貌にいふ字。

【虠】カウ、ケウ。古巧切 [巧]
虎の聲にいふ字。

【虡】キョ、ゴ。其呂切 [語]
鐘磬を懸くる柎、あし。○〔詩〕「―業維樅」。
〔設虡〕鐘をかくるものを据ゑつく。○〔詩〕「設レ業―レ―」。
〔簨虡〕鐘を懸くるための器。○〔周〕「梓‐人爲二―・―一」。
〔鐘虡〕かねを懸くるもの。○〔舊唐〕「―・―以二獸一」。
〔磬虡〕磬石を懸くるもの。○〔周〕「以爲二―・―一」。
〔玉虡〕玉にて飾りたる鐘を懸くるもの。○〔宋〕「―・―息‐節」。
〔瑤虡〕前に同じ。○〔屈平〕「簫‐鼓兮―・―」。

【[illegible]】ロ、ル。龍都切 [虞]
罏、[illegible]に同じ。

【虘】ソ、ズ。徂古切 [麌]

おほいなり、(大)。

【虘】 ソ、ズ。才布切 遇
且つ往く、ゆく。

九畫

【虢】 カク、キヤク。古伯切 陌
㊀虎の攫み裂きたる文。
㊁春秋時代の國の名、今の河南省開封府滎陽縣。○〔左〕「ー叔」。

【虣】 ハウ、ボウ。薄報切 號
をかす、(侵)、しへたぐ、(虐)、又、たけし、(猛)。○〔周、疏〕「司ーー主ニ在レ市ーー亂ニ」。

【⿸虍咸】 ガン、ゲン。魚咸切 咸
はなはだ力ある雄虎、をさら。

【⿰虎兌】 エツ、エチ。弋雪切 屑
虎睡る、ねむる。

十畫

【虤】 ガン、ゲン。五閑切 刪 ケン、ゲン。胡犬切 銑
虎怒る、いかる。

【⿸虍殹】 ケイ、カイ。詰計切 霽
獸の很りて動かざる貌にいふ字。

【䖘】 ト、ヅ。同都切 虞
烏ーは、とら、(虎)。○〔揚雄〕「虎或謂ニ烏ーー」。

【⿸虍叔】 シユク、ソク。所祿切 屋
虎行きて林に入るにいふ字、いる。

【⿰虎羌】 キヤウ、カウ。去良切 陽
虎の一種。

【⿰虎周】 シウ、シユ。織牛切 尤
虎の習る丶貌にいふ字。

【虥】 サン、ゼン。士限切 潸 昨閑切 刪 士諫切 諫
竊毛(あさきけ)の虎、一說に、やまねこ、(貓)。○〔韓愈〕「下言人-吏稀、唯足虥與レー」。

【虓】 ゲウ。牛召切 嘯
○〔韓愈〕「我ー虓は、安からざるを。亦平-行踏ー虓」。

【⿸虍古】 コ、ク。古胡切 虞
姑息す、しばらくいこふ。

【⿸虍且】 ソ、ズ。昨誤切 遇
ゆく、(往)。

【⿸虍棥】 ハン。布攀切 刪
虎の文。

【⿰豕虎】 チ、ヂ。直利切 寘
出だし用ふ。

十一畫

【虧】 キ。去爲切 支
かく、
(い)そこなふ、(損)。○〔淮〕「無ニ天-下ー不レーニ其性ニ」。「ー」。
(ろ)へる、へらす、(滅)。○〔史〕「月滿則
(は)やぶる、(毀)。○〔呂氏春秋〕「先-王之法ー矣」。
(に)やむ、(歇)。○〔屈平〕「其猶未レー」。
〔盈虧〕 滿つると缺くると。○〔裴說〕「一-歲幾ー-ー」。
〔蔽虧〕 掩はれ缺く。○〔上林賦〕「日-月ー-ー」。
〔漸虧〕 次第に缺け小さくなる。○〔詩、疏〕「縱レ此後ー-ー、至レ晦而盡」。
〔贊虧〕 餘分になると缺損すると。○〔揚雄〕「則不ニー-ー矣」。
〔覆虧〕 くつがへし缺く。○〔七發〕「ー-ーニ丘陵ニ」。
〔頽虧〕 くづれ缺く。○〔崔琦〕「漸已ー-ー」。
〔中虧〕 半途にして缺損す。○〔曹植〕「恐ニ往-惠之ー-ーニ」。
〔傾虧〕 かたぶき損ず。○〔謝靈運〕「棧-道ー-ー」。
〔光虧〕 照りひかると損ず。○〔耶律楚材〕「月滿必ー-ー」。
〔頓虧〕 にはかに缺け損ず。○〔列〕「一-形不ニー-ーニ」。
〔嫌虧〕 缺け損ずるとを忌みはゞかる。○〔論衡〕「不レーレー以來レ盈」。

【虨】 ハン、ヘン。方閑切 刪 ヒン、ホン。府巾切 眞
虎の文。

【⿸虍乞】 テイ、ダイ。杜兮切 齊
ふす、いぬ、(臥)。

【⿰虎虡】 カウ、ク。火紅切 東
烘に同じ。

十二畫

【⿰号⿸虍豆】 カウ、ゴウ。後倒切 號
土にてつくへたる鑿、つちのかま。

【⿸虍遂】 サク。昔各切 藥
虎の貌にいふ字。

【⿸虍⿰豕且】 ソ、ズ。坐五切 麌
粗に同じ。

【⿰豕虘】 ソ、ズ。才布切 遇
且つ往く、ゆく。

【⿰泉虎】 サク、シヤク。山責切 陌
虎の驚く貌にいふ字。

【虩】 ケキ、キヤク。迄逆切 陌
㊀恐懼す、おそる。
㊁はへとりぐも、(蠅-虎-蟲)。

【⿰兼虎】 カン、ゲン。戸監切 咸
虎の聲、こゑ。

十三畫

【⿰巢虎】 サク、シヤク。所責切 陌
虎の驚く貌にいふ字。

【⿰巢虎】 ケツ、ゲチ。顯結切 屑
虎の聲、こゑ。

十四畫

【⿱虤曰】 ギン。語巾切 眞 チツ。雉栗切 質
㊀兩虎の爭ふ聲にいふ字。
㊁口氣の出づるにいふ字。

【⿱毄虎】 カク、キヤク。古伯切 陌
虎の聲にいふ字。

【⿰單虎】 ケキ、キヤク。乞逆切 陌
おそる、(恐)。

十五畫

【⿸虍敫】 カク、キヤク。古核切 陌
虎の聲にいふ字、又、虎の物を搏ちて怒る貌にいふ字。

【⿸虍魯】 リヨ、ロ。兩擧切 語

細く切りたる肉。

【虢】カク、キャク。古核切 陌
虎の聲にいふ字。

十七畫

【[illegible]】チヨ、ド。丈呂切 語
うつは（器）。

二十畫

【虪】シユク、式竹切 イク、余六切 屋 ソク。オク。
色の黒き虎、くろとら。○[左思]「暴二彪—一」。

廿二畫

【[illegible]】トウ、徒登切 蒸 ドウ。トウ、徒冬切 冬 ヅ。
色の黒き虎、くろとら。

虫部

【虫】キ。許偉切 尾 〔說文一名蝮。〕
虺に同じ、まむし、又、鱗介の總名。

一畫

【[illegible]】アツ、エチ。乙黠切 黠
蟲の聲にいふ字。

二畫

【虮】キ。居夷切 支
㊀密—は、蟲の名。○[爾]「密-—繼-英」。㊁肌に通じ用ふ。

【虯】キウ、グ。渠幽切 尤
龍の子の角あるもの、みづち。○[楚辭]「焉有二—龍負レ熊以遊一」。
(潛虯) 池中にひそみかくれたるみづち。○[蜀都賦]「下二高鵠一出二—・—一」。
(蜿虯) わたかまれるみづち。○(孫惠)「蜿若二—・—一」。
(蛟虯) あまりよう。○(孟郊)「石・波怒二—・—一」。
(飛虯) とび翔けるみづち。○(陳子昂)「勢似二—・—卷レ海來一」。
(翔虯) 前に同じ。○(庾信)「—・—浚二九霄一」。
(驚虯) おどろきさわぐみづち。○(法書要錄)「類二—・—逸駿一」。「登・陽」。
(乘虯) みづちに打ちまたがる。○(王褒)「—レ—兮」。
(靈虯) 神妙なるみづち。○(曹植)「—・—游レ雖、不レ耻二汚泥一」。
(逸虯) 走り飛ぶみづち。○(陶潛)「—・—擾レ雲」。
(盤虯) わたかまれるみづち。○(郭璞)「—・—舞二雲・駱一」。「若二—・—一」。
(騰虯) 空をさして升登するみづち。○(曹植)「狀」「洞・庭」。
(彩虯) あやあるみづち。○(徐夤)「昇レ天駕二—・—一」。
(俯虯) たけ短からぬみづち。○(李白)「—・—橫二」
(蹲虯) うづくまれるみづち。○(符載)「根如二—・—一」。

【虬】ケウ、ゲウ。巨小切 篠
めぐる、まはる。○[王逸]「騰-蛇-蟉—而遶レ榱」。

【虰】タウ、チヤウ。宅耕切 庚
朾に同じ、—螘は、あり。

【虰】テイ、チヤウ。當經切 青
—蛵は、やんま、とんぼ。

【虰】テイ、チヤウ。癡貞切 庚
蟶に同じ。

【虱】蝨に同じ、しらみ。○[列]「俯而拾レ—」。

【[illegible]】ヂヨク、ニヨク。女力切 職
蟲の食ふ病。

三畫

【虳】クツ、九勿切 物 コチ。テキ、丁歷切 錫 チヤク。
ねずみ（鼠）。

【虴】タク、チヤク。陟格切 陌
いなご（蚱-蜢）。

【虴】サク、シヤク。側伯切 陌
—蜢は、ねぎむし。

【虵】俗の蛇の字。

【虶】ウ、ヲ。憶俱切 虞
蚨—は、蚰蜒の別名、げぢげぢ。○[揚雄]「蚰-蜒趙魏之閒謂二之蚨—一」。

【虷】カン、ガン。胡安切 寒
井の中に息む赤色の細蟲、ぼうふり。○[莊]「還二—蟹與二科-斗一莫二吾能若一也」。

【虷】カン。居寒切 寒
をかす（犯）。○[漢]「白-虹—レ日」。

【虸】シ。卽里切 紙
—蚄は、稼を害する蟲。○[齊民要術]「氾-勝之術曰、牽レ馬令下就二穀堆一食中數-口上、卽以二馬踐過一爲レ種、無二—・—蚄-蟲一也」。

【[illegible]】チウ、チユ。陟柳切 有
海に息む一種の蟲、其の形人に似たり。

【[illegible]】テン。丑善切 銑
蟲ののび行くにいふ字、ゆく、はふ。○[晉]「指-禿腐-骨不レ簡二—・停一」。

【虹】コウ、グ。戸公切 東
㊀太陽の光線の水氣に映りて弓形なる彩色の空中に見はれたるもの、にじ。○[禮]「季-春—始見、孟-冬—藏不レ見」。㊁草の名。○[拾遺記]「背-明-國有二—・—草一、花似二朝-虹之色一」。
(白虹) しろき色したるにじ。○(黃庭堅)「筆-端吐二—・—一」。「旆-芬」。
(雄虹) 色成鮮なるにじ。○(楚辭)「建二—・—之采一」。
(錦虹) あやありてにしきの如きにじ。○(曹植)「光-彩如二—・—一」。
(文虹) 前に同じ。○(傅休奕)「—・—覓レ天」。
(彩虹) 前に同じ。○(張協)「—・—綴二高雲一」。
(雰虹) にじ。○(虞羲)「—・—用二漣・漪一」。
(長虹) たけながくわたりたるにじ。○(湯縉)「—・—貫二白日一」。
(晚虹) 日ぐれ時にあらはるるにじ。○(梁簡文帝)「晴・天歇二—・—一」。
(丹虹) 赤き色のにじ。○(李嶠)「持・節曳二—・—一」。
(絳虹) 前に同じ、日の暮るる時に出づるにじ。○(初學記)「收二—・—於漢陰一」。
(宛虹) 屈曲せるにじ。○(上林賦)「—・—拖二於楯軒一」。
(攬虹) にじを手にとる。○(楚辭)「撮二青冥一而攄レ—」。
(直虹) すぐにひけるにじ。○(庾信)「—・—貫レ壘」。
(烱虹) 光りかがやけるにじ。○(梅堯臣)「文如二温-玉—・—光一」。
(跨虹) またがりわたれるにじ、即ち、橋のこと。○(庾信)「—・—連二絕岸一」。

【虹】カウ、ゴウ。胡江切 江
訌に同じ。○[詩]「彼童而角、實—二小子一」。

【虹】カウ、グ。胡貢切 送 相連らなる、つゞく。○〔枚乘〕「|ニ洞兮蒼天ニ」。

【虿】虹に同じ。○〔漢〕「暈、適、背、穴、抱珥、|、蜺」。

【虵】虹に同じ。○〔漢〕「沛·郡|」。

【虺】キ。許偉切 尾 ❶まむし、(蝮)。○〔詩〕「維|維蛇」。❷聲にいふ字。○〔詩〕「|·|其雷」。

〔王虺〕をろち、うはゞみ、大蛇。○〔楚辭〕「|·|騫只」。〔水虺〕みづへび。○〔述異記〕「|·|五百年爲「蛟」。〔蝮虺〕まむし。○〔國〕「|·|博三寸、首大如レ擘」。〔毒虺〕どくあるまむし。○〔唐〕「多ニ猛虎|·|ニ」。〔蟒虺〕おほいなるまむし、をろち。○〔陸希聲〕「無レ或下養ニ|·|蜂·蝪以護ニ巢窟上」。〔蛇虺〕へび。○〔元稹〕「|·|呑ニ鸞雀ニ」。

【虺】クワイ、エ。呼同切 灰 ❶かまびすし、(喧)。❷|隤は、やむ、(病)。○〔詩〕「我馬|·|隤」。

【虼】ゴツ、ゴチ。五忽切 月 蛤蟹、かに。

【虻】蝱に同じ。

【䖟】俗の蝱の字。

四畫

【蚄】ハウ。府良切 陽 蚜の字の條を見よ。

【蚅】アク、ヤク。於革切 陌 いもむし、(烏蠋)。

【蚆】ハ、へ。普巴切 麻 かひ、(貝)。○〔爾〕「|博而頯」。

【蚇】セキ、シャク。昌尺切 陌 |蠖は、しやくとりむし。

【蚉】蚊に同じ。

【蚊】ブン、モン。無分切 文 ぼうふりの羽化したる細蟲、か、飛びて人獸の肌膚を嚙み血を吸ふ。○〔莊〕「|·|蝱噆レ膚則通·昔不レ寐矣」。

【蚋】蜹の省き字。

【蚌】ハウ、ボウ。歩項切 講 ハウ、バウ。蒲浪切 漾 蜃の屬にて溝渠などに生ずる一種の介蟲、どぶがひ、はまぐり、其の介殼は粉となすべし。○〔左思〕「|·蛤珠·胎、與レ月虧全」。

〔剖蚌〕はまぐりをさきわる。○〔蜀〕「雨飲ニ璽レ石索レ玉|レ|求レ珠」。〔拌蚌〕前に同じ。○〔史〕「鑛レ石|レ|」。〔割蚌〕前に同じ。○〔陸倕〕「|レ|識レ珠」。〔老蚌〕たけたるはまぐり。○〔蘇軾〕「舊聞|·|生ニ明·珠ニ」。〔巨蚌〕大いなるはまぐり。○〔聞見雜錄〕「廣·東老·媼汲ニ江·邊·得ニ|·|ニ」。〔贏蚌〕はまぐりのたぐひ。○〔淮〕「明·月之珠、|·|之病而我之利也」。〔駁蚌〕またらなるはまぐり。○〔徐幹〕「|·|含瑤」。

【蚌】ハウ、ビヤウ。白猛切 梗 蠯に同じ。

【蚌】蜂に同じ。

【蚍】ヒ、ビ。房脂切 支 |蜉は、大いなる蟻、あり、おほあり。○〔爾疏〕「螘通名也、其大者別名ニ|蜉ニ」。

【蚍】ヒ、ビ。並弭切 紙 必至切 寘 |衃は、葵に似て其の色紫なる草、こあふひ。○〔爾〕「荍|衃」。

【蚐】キン。規倫切 眞 やすで、(馬蚿)。

【蚑】キ、ギ。巨支切 支 ❶蟲の行く貌にいふ字、はふ、ありく。○〔王褒〕「|行喘息」。❷長|は、あしたかぐも。○〔古今注〕「長|蠨蛸也、身小足長、故謂ニ長|ニ」。

〔蚑蚑〕蟲のはえゆく貌にいふ語。○〔漢〕「|·|脈々善緣レ壁」。

【蚑】キ。去冀切 寘 キ、ギ。渠羈切 支 前條の❶に同じ。

【宀+虫】ケン、ゴン。遶員切 先 蟲の火に入る貌にいふ字。

【虫止】チ。丑里切 紙 蟲伸び行く、はふ。

【蚓】イン。余忍切 軫 土中に生息し其の體圓く細長なる一種の蟲、みゝず、一名、曲蟺、土龍、又、其の呻吟する音聲淸きより歌女と稱す、其の老いたるものより採りたる白頸は藥用となすべし。○〔孟〕「|而後可者也」。

〔蚯蚓〕みゝず。○〔禮〕「孟·夏之月|·|出」。〔螼蚓〕前に同じ。○〔本草〕「蚯·蚓一名ニ|·|ニ」。〔寒蚓〕前に同じ。○〔蘇軾〕「暗·潮生ニ渚弔ニ|·|ニ」。〔蜜蚓〕前に同じ。○〔古今注〕「蚓一名ニ蜜·蟺ニ、一名ニ曲·蟺ニ、亦呼爲ニ|·|ニ」。〔附蚓〕前に同じ。○〔本草〕「蚯·蚓一名ニ|·|ニ」。〔紫蚓〕前に同じ。○〔楊萬里〕「只有ニ青·蛙|·|聲ニ」。

【蚔】キ、ギ。巨支切 支 ❶あをがへる、(鼃)。❷つちあぶ、(土蝱)。

【蚔】チ、ヂ。陳尼切 紙 蚳に同じ。

【蚕】テン。他典切 銑 みゝず。○〔爾〕「螼·蚓蜸|·|」。 俗に用ひて蠶の字となすはあし。

【蚖】ゲン、グワン。愚袁切 元 蠑|は、ゐもり。

【蚖】グワン。吾官切 寒 蝮の屬、くそへび、まむし。

【蚒】イン。余準切 軫 蠶の一種。

【虫丏】ベン、メン。武延切 先 蟬の一種、うまぜみ。

【蚗】ケツ、ケチ。古穴切 屑 蛁|は、なつぜみ、むぎわらぜみ。○〔博雅〕「蛁|·|蛪也」。

【蚗】エツ、エチ。於悅切 屑

蚴ー―は、みやまぜみ、一說に、龍の屬、みづち。

【蚘】イウ、ウ。于求切 ［尤］ 古昔の諸侯の稱號。

【蚘】クワイ、エ。戸恢切 ［灰］ 人の腸中に生ずる長き蟲、さなだむし。

【蚒】イ。於夷切 ［支］ 蛜に同じ。

【蚙】キン、ゴン。渠今切 ［侵］ 蟲の連らなり行き紆り行くものゝ稱。○［淮］「昌-羊去ニ蚤-虱一而來ニー-窮ニ」。

【蚙】ケン、ゴン。其淹切 ［鹽］ 蝦蟹の距、けづめ。

【蛈】シツ、シチ。資悉切 ［質］ 蛈蛚の別名、こほろぎ。

【蚚】キ、ゲ。渠希切 ［微］ クワイ、エ。胡隈切 ［灰］ 蠅の一種、よねむし、又、螳蜋、かまきり。

【蚛】チウ、ヂユ。直衆切 ［送］ 蟲の物を食らふにいふ字、くらふ。

【蚜】カ、ケ。火牙切 ［麻］ きしろ、(蟣)。○［黄山谷］「紅-螺ー-光按レ藍杵レ草」。

【蚝】シ。七吏切 ［寘］ 蛓に同じ、けむし。○［韓愈］「痒レ肌遭ニー-刺ニ」。

【蚞】ボク、モク。莫卜切 ［屋］ 蜓ーーは、なつぜみ、むぎわらぜみ。○［爾］「蜓-ー-螇-螰」。

【蚟】ワウ。雨方切 ［陽］ ー-蟓は、いさご。○［揚雄］「蜻-蛚南楚之閒謂ニ之ー-蟓ニ」。

【蚎】ヂク、ノク。女六切 ［屋］ ー-蚭は、げぢゝ。○［揚雄］「蚰-蜒北-燕謂ニ之ー-蚭ニ」。

【𧉮】ベウ、メウ。彌遙切 ［蕭］ 蠶の初めて生じたるもの。

【蚠】フン、ボン。符分切 ［文］ ㊀人の名。○［左］「劉-獻-公之庶-子伯ー」。㊁蚡に同じ。

【蚡】鼢に同じ。

【蚢】カウ、ガウ。胡郎切 ［陽］ カウ。苦浪切 ［漾］ 蠶の一種、蕭の葉を食らふもの。○［爾］「ー-蕭-繭」。

【蚢】カウ、ガウ。下黨切 ［養］ カウ。居郎切 ［陽］ 貝の大いなるもの、おほがひ。

【蚣】コウ、ク。古紅切 ［東］ 蜈ーーは、細長なる一種の蟲、むかで、川谷などに生じ春出でて冬隱る、節毎に足あり足はなはだ多し、二の鬚ありて尾は岐る。○［本草別錄］「蜈ーー生ニ大-吳川-谷ニ」。

【蚣】ショウ、シュ。思恭切 ［冬］ シウ、シュ。思融切 ［東］ ー-蝑は、はたおり。

【蚤】サウ、ソウ。子皓切 ［皓］ ㊀芥塵に生ずる一種の細蟲、のみ、人の皮膚を嚙みまたよく跳ぬ。○［續博物志］「土乾則生レー」。㊁早に通じ用ふ、つとに、はやし。○［孟］「ー起施従ニ良-人之所ニ之」。㊂爪に通じ用ふ、つめきる。○［禮］「不ニー-鬋ニ」。

【蚥】フ、ホ。方矩切 ［麌］ ㊀蜛ーーは、かまきりむし。㊁去ーーは、ひきがへる。

【蚦】ゼン、ネン。汝鹽切 ［鹽］ ダン、ナン。汝甘切 ［覃］ 一種の蛇、にしきへび、うはゞみ、牙はなはだ長く、尾圓く鱗なくして身に斑文あり、支那にては古昔其の膽を醫藥となせり。○［嵇康］「ー-蛇珍ニ於越-土ニ」。

【蚦】テン。他念切 ［豔］ ー-蛺は、獸の舌を吐く貌にいふ語。

【虫不】フウ、ブ。房尤切 ［尤］ ー-江は、一種の水蟲、蟹の如くにして蟹より小なりといふ。○［郭璞］「三-蠓ー-江」。

【蚧】カイ、ケ。居拜切 ［卦］ 介蟲の一種。○［大戴禮］「燕-雀入ニ於海ニ化而爲レー」。（蛤蚧）蟇の首、細き鱗にて長き尾のもの。○［陳孚］「龍-眼花開ーー鳴」。

【蚨】フ、ブ。防無切 ［虞］ 青ーーは、水蟲の一種、一名はー-蟬、南海に生ず、狀蟬の如し、子は草の葉の上に附著す、其の子を取れば母飛び來たる、其の母を殺して錢に塗り、子を以て貫に塗り、放てば自ら本の處に還るといふ。

【蚩】シ。赤之切 ［支］ ㊀蟲の一種。㊁ーー尤は、人の名、九黎の君。○［書］「ーー尤惟始作レ亂」。㊂あなどる(侮)。○［張衡］「ー-ニ眩邊-鄙ニ」。㊃おろか(騃)、みにくし(醜)。○［陸機］「妍ーー好-惡可ニ得而言ニ」。㊄敦厚なる貌にいふ字、あつし。○［詩］「氓之ーー」。

【蚳】チ。敕豸切 ［紙］ 蟲伸び行く、はふ。

【蚪】トウ、ツ。當口切 ［有］ 蝌の字を見るべし。

【蚥】フ、ホ。方矩切 ［麌］ 瓜の葉を食らふ蟲、うりばへ。

【虫丏】ベン、メン。彌延切 ［先］ 蟬の一種。

【肙】ケン。縈員切 ［先］ 小さき蟲、こむし、一說に、むなし(空)。

【蚭】ヂ、ニ。女夷切〔支〕 蚭—は、げぢぐ。○〔揚雄〕「蚰蜒、北燕謂二蚭——一」。

【蚮】トク。敵德切〔職〕 蛇及び蠆の毒。

【蚮】タイ。他代切〔隊〕 トク。惕得切〔職〕 おほねむし。○〔揚雄〕「蟒、宋魏之閒謂二之——一」。

【蚯】キウ、ク。去鳩切〔尤〕 みゝず。○〔禮〕「孟夏——蚓出」。

【⿱夗虫】蜿の字の省文。

【蚰】イウ、ユ。以周切〔尤〕 —蜒は、其の狀小さき蜈蚣の如くにて黃色細長なる蟲、げぢぐ。○〔王逸〕「巷有二兮——蜒一」。

【蚰】蟋に同じ。○〔爾雅疏〕「其大者謂二之馬——一」。

【蚱】サク、シヤク。側伯切〔陌〕 サ、ヤ。側駕切〔禡〕 ㊀蟬の一種、あきぜみ、七月頃に生ずるもの。㊁—蜢は、いなご。

【蚱】サ、ゼ。助駕切〔禡〕 鮓に同じ。

【蚲】ヘイ、ビヤウ。符兵切〔庚〕 小蟲、あぶ。○〔晉〕「漢制百官朝帶レ劒、晉始代レ之以レ木、貴者猶用二玉首一、賤者亦用レ—」。

【蚳】チ、ヂ。直尼切〔支〕 蟻の卵。○〔禮〕「服脩——醢」。

【蚔】シ。稱脂切〔支〕 蠪—は、一種の獸、九尾の狐に似たりといふ。○〔山海經〕「昆吾之山有レ獸焉、其狀如レ彘而有レ角、其音如レ號、名曰二蠪——一」。

【蚴】イウ、ウ。於糾切〔有〕 —蟉は、龍の貌にも又は龍の行く貌にもいふ語。○〔司馬相如〕「青龍——二蟉於東廂一」。

【蚴】イウ、ユ。於虯切〔尤〕 —蜕は、蜂の一種、ぢがばち。○〔揚雄〕「蜂之小者燕趙之閒、或謂二之——蜕一」。

【蚵】カ、ガ。胡歌切〔歌〕 —蠪は、さかげ（蜥蜴）。

【蚶】カン、コン。呼談切〔覃〕 ㊀一種の介蟲、あかゞひ。○〔郭璞〕「洪—専レ車」。㊁螺の小さきもの、にな。

【⿰虫台】タイ。土來切〔灰〕 貝の一種、くろがひ、ひめがひ。

【蚷】キヨ、コ。臼許切〔語〕 求於切〔魚〕 商—は、あまひこ、やすで。○〔莊〕「猶レ使二蚊負一レ山、商——馳レ河也」。

【蚸】レキ、リヤク。力的切〔錫〕 セキ、シヤク。昌石切〔陌〕 蟓—は、蜙蝑（はたおり）に似たる細長なる一種の蟲、はたく、ばッた、飛ぶ時に翅に聲あり。○〔爾〕「蟿螽蟓—」。

【蚹】フ、ボ。符遇切〔遇〕 ホク、ボク。步木切〔屋〕 蛇の腸の下の横鱗、蛇は之によりて匍匐すといふ。○〔莊〕「蛇——蜩翼」。

【蚻】サツ、サチ。側八切〔黠〕 蟬の一種にて小さきもの、なつぜみ、むぎわらぜみ。○〔孟郊〕「始去杏飛レ蜂、及レ歸柳嘶レ—」。

【蚼】コウ、ク。擧后切〔有〕 ㊀犬の一種にて人を食らふもの、ひさくひいぬ。㊁おほあり。

【蚼】ク、コ。恭于切〔虞〕 —蛘は、おほあり。○〔揚雄〕「蚍蜉、齊魯之閒、謂二之——蛘一」。

【蚼】ク、ゴ。權于切〔虞〕 蜂—は、原蠶（なつこ）のさなぎ。

【⿰虫同】裁に同じ。

【⿰虫出】セツ、セチ。職悅切〔屑〕 むし（蟲）。

【⿰虫出】クツ、コチ。曲勿切〔物〕 ゴツ、ゴチ。五忽切〔月〕 蛣—は、木中の蠹蟲、きくひむし。○〔爾〕「蝎蛣——」。

【⿰虫宂】ジヨウ、ニユ。乳勇切〔腫〕 小さき蟲行く、はふ。

【蚾】ハ。補火切〔哿〕 ㊀ひきがへる（蟾蜍）。㊁わらぢむし、おめむし（鼠蟲）。

【蚾】ヒ、ビ。蒲碑切〔支〕 むし（蟲）。

【⿰虫旦】ダツ、ナチ。奴曷切〔曷〕 ㊀さす（螫）。㊁いたむ（痛）。

【⿰虫旦】テツ、テチ。陟列切〔屑〕 人を傷くる蟲毒。○〔春秋疏〕「蠆長尾謂二之蠍一、毒傷レ人曰レ—」。

【⿱北虫】ホク。博墨切〔職〕 蟹に似て四足ある蟲。

【⿰虫戉】エツ、ヲチ。王伐切〔月〕 蟟—は、ごぶがひ（蚌）。

【蚿】ケン、ゲン。胡田切〔先〕 馬—は、百足に同じ、細長なる一種の蟲、やすで、をさむし、形は蚯蚓に似て色は黑色なり、これに觸るれば側臥して環の如し、故に刀環（たいこむし）ともいふ。○〔莊〕「—憐レ蛇」。

【蛀】シユ。之戍切〔遇〕 木蠹蟲、きくひむし。

【蛁】テウ。都僚切〔蕭〕 なつぜみ、むぎわらぜみ（蟪蛄）。

【[虫去]】キヨ、コ。羌舉切 [語]
——蚊は、ひきがへる。

【[虫去]】蜐に同じ。○〔郭璞〕「石——應レ節而揚レ葩」。

【蚤】俗の蚤の字。

【[虫布]】ホ、フ。博故切 [遇]
蟥——は、蜆に似たる一種の蟲。

【[瓜虫]】カ、ケ。古牙切 [麻]
米中の蟲、こめのむし。

【[虫図]】タフ、テフ。竹洽切 [洽]
斑身の小さき蟲。

【[虫石]】セキ、ジヤク。常隻切 [陌]
——蜋は、螳蜋の別名、かまきり。

【[虫石]】蟅に同じ。

【蛂】ヘツ、蒲結切 [屑] フツ、敷勿切 [物]
ヘイ、ベイ。駢迷切 [齊]
一種の甲蟲、こがねむし、綠色にして大いさ虎豆の如し。○〔爾〕「——蟥-蛢」。

【蛃】ヘイ、ヒヤウ。兵永切 [梗]
ハウ、ピヤウ。白猛切 [梗]
——魚は、衣又は書物などを食らふ蟲、しみ。

【[虫必]】ヒツ、ビチ。毗必切 [質]
黒き蜂、くろばち。

【[虫必]】ヒ、ビ。毗至切 [寘]
一種の蟲。

【蛄】コ、ク。古胡切 [虞]
㊀螻——は、土に穴して居る一種の蟲、けら、短き翅と四足とあり、雄は鳴き又は飛べども、雌は腹大きく羽小さくして飛ぶを能はずといふ、別名は、天螻又は仙蛄。○〔揚雄〕「螻-蟈謂二之螻——一」。
㊁蟪——は、蟬の一種、なつぜみ、むぎわらぜみ。○〔莊〕「蟪——不レ知二春-秋一」。
㊂——𧐛は、一種の蟲、よれむし。○〔揚雄〕「——𧐛謂二之强-蛘一」。

【蛅】ゼン、子ン。汝鹽切 [鹽]
——蟖は、けむし、いらむし、樹上に息み其の背毛にて人を刺す。○〔爾〕「螺——蟖」。

【[奴虫]】ド、ヌ。奴古切 [麌]
水——は、いさごむし。

【蛆】シヨ、ソ。子魚切 [魚]
㊀蝍——は、むかで。○〔莊〕「蝍——甘レ帶」。
㊁蠅の子、うじ、物敗臭すれば生ず。○〔北〕「曾拜レ官諸-賓悉集、邢-巒晩至、琛謂レ巒、何處放レ——來、今晩始顧」。
㊂水——は、ひろ、長さ一寸餘にして黒色なり、溪澗などに生ず。
（蟲蛆）うじむし。○〔韓愈〕「鞭レ背生二——一」。

【蛇】シヤ、ゼ。食遮切 ヤ、エ。以遮切 [麻]
㊀細長なる全身は細鱗にて被はれたる一種の毒蟲、へび、くちなは、ながむし。○〔左〕「內——與二外——一鬭」。○
㊁古昔支那にては、龍の屬となす。○〔書、傳〕「龍——之孼」。
㊂星の名。○〔左〕「——乘レ龍」。
（龍蛇）たつとへびと。○〔易〕「——之蟄以存レ身也」。
（虺蛇）へび。○〔淮〕「——可レ碾」。
（龜蛇）かめとへびと。○〔周〕「——爲レ旐」。
（羣蛇）むれはくのへび。○〔柳宗元〕「——輔レ龍以升二天-門一」。
（螣蛇）たつのたぐひ。○〔荀〕「——無レ足而飛」。
（靈蛇）靈妙なるへび。○〔說苑〕「——以レ神見レ曝」。
（神蛇）前に同じ。○〔淮〕「——能斷而復續」。
（脩蛇）おほへび。○〔淮〕「越人得二——一以爲二上肴一」。
（青蛇）いろのあをきへび。○〔五色線〕「孫-思-邈見下小——被上レ傷」。
（蝮蛇）まむし。○〔山海經〕「——色如二綬-文一」。
（玄蛇）くろきいろのへび。○〔山海經〕「黑-水之南有二——一食レ麈」。
（修蛇）ながきへび。○〔淮〕「斷二——于洞-庭一」。
（長蛇）前に同じ、又、へびの一種。○〔山海經〕「大-咸之山有レ蛇、名曰二——一」。
（異蛇）めづらしきへび。○〔柳宗元〕「永-州之野產二——一」。
（蚖蛇）とかげとへびと。○〔崔融〕「——可レ弁」。
（委蛇）どぢやうの異名。○〔莊〕「宜下棲二之深-林一、浮二之江-湖一、食レ之以二——一上」。
（雙蛇）ふたつのへび。○〔庾信〕「——結レ綬」。
（擊蛇）へびをうつ。○〔北〕「——之法當下先破上レ頭」。
（巨蛇）おほいなるへび。○〔舊唐〕「天寶中、洛-陽有二——一」。
（交蛇）交接せるへび。○〔宋〕「參-錯如二——一」。
（蠹蛇）木食のへび。○〔山海經〕「有二赤-蛇在二木-上一、名曰二——一」。
（蟒蛇）おろち。○〔本草〕「——目巨」。
（銀蛇）銀色をおびたる一種のへび。○〔本草〕「——亦名二錫蛇一」。
（蛟蛇）みづち。○〔陳與義〕「木-影雜二——一」。
（怪蛇）あやしきへび。○〔庾信〕「知レ埋二——一」。
（妖蛇）前に同じ。○〔元稹〕「劍拂二——裂一」。
（素蛇）白色のへび。○〔李德裕〕「而漢斷二——一」。
（兩頭蛇）兩端にあたまのあるへび。○〔嶺南異物志〕「韶-州多二——一」。
（岐首蛇）前に同じ。○〔爾〕「中有二——一焉」。
（越王蛇）前に同じ。○〔本草〕「兩-頭蛇一名二——一、會-稽人言、是越-王弦所レ化、故名」。

【蛇】イ。弋支切 [支]
㊀自得の貌にいふ字。○〔莊〕「與レ物委-——而同二其波一」。
㊁委曲（まがりしたがふ）の貌にいふ字。○〔詩〕「委-——巧-言」。
㊂蛇のうねり行く貌にいふ字。○〔史〕「委-——蒲-伏」。

【[虫尓]】テン、デン。徒典切 [銑]
やもり、（守-宮）。

【蛈】テツ、他結切 [屑] テイ、タイ。他計切 [霽]
——蝪は、つちぐも。

【蛉】レイ、リヤウ。郞丁切 [青]
㊀蜻——は、一種の飛蟲、かげろふ、とんぼ、六足四翼蟬の如し、蚊などを食らふ。○〔呂氏春秋〕「有下人好二蜻——一者上」。
㊁螟——は、くはむし、あをむし。○〔詩〕「螟——有レ子、蜾-蠃負レ之」。
（螻蛉）けらむし。○〔方言〕「螻-螲謂二之螻-蛄一、或謂二之——一」。

【[禾虫]】シヨ、ゾ。舒呂切 [語]
蝑——は、ねぎむし。

【蛋】タン、ダン。徒歎切 [翰]
㊀蜑に同じ。○〔柳宗元〕「胡-夷——蠻」

㊂鳥卵、たまご。〇〔字彙補〕「俗呼二鳥卵一爲レ━」。

六畫

【蛐】 キヨク、コク。區玉切 沃

━蟮は、みゝず。

【蛑】 ボウ、ム。莫浮切 尤

㊀蝤━は、一種の蟲、かざみ、がざめ、蟹に似て蟹より大いなり。〇〔續博物志〕「蝤━大有レ力」。「貊蟠蝤━」。

㊁いぼむしり、かまきり。〇〔爾〕「莫━

【蛒】 カク、キヤク。古伯切 陌

㊀蛭━は、げぢぐ、又、すくもむし。

㊁杜━は、けら。

【蚝】 シ。七賜切 寘

毛蟲、けむし、毒ありて人を刺す。〇〔王逸〕「━緣二兮我裳一」。

【蛕】 クワイ、エ。胡隈切 灰

腸中に生ずる長き蟲、さなだむし。〇〔柳宗元〕「俯━養レ心、短蟯穴レ胃」。

【蛫】 クワイ、エ。虎猥切 賄

一種の蟲。

【蜷】 ケン、カン。居倦切 霰

━蠋は、蜘蛛の別名、くも、又、すくもむし(蠐螬)。

【蜷】 ケン、クワン。居袁切 元

━蠋は、あしたかぐも(蛸蟰)。

【蚌】 バウ、ボウ。莫江切 江　ボウ、モウ。謨蓬切 東

━螻は、螻蛄の一種。

【蛖】 ハウ、ボウ。歩項切 講

蚌に同じ。

【蝮】 フウ、ブ。房久切 有

━螽は、いなご。

【蛙】 ワ、エ。烏瓜切 麻

㊀蝦蟆の屬、かはづ、かじか、かへる、其の背は青綠色にして嘴尖り腹細きを「あをがへる」といひ、其の背に黃路(きすぢ)あるを「さのさまがへる」といふ。〇〔漢〕「武帝元鼎五年秋、━與二蝦蟆一羣鬬」。

㊁みだり(淫)。〇〔漢〕「紫色━聲」。

(鳴蛙) なくかはづ。〇〔陸游〕「身似二━━一不レ鳴」。

(靈蛙) 神妙なるかはづ。〇〔周宣靈王廟誌〕「廟有二━━一」。

(泥蛙) どろのうちに生じたるかはづ。〇〔白居易〕「━━入レ戸跳」。

(羣蛙) おほくのかはづ。〇〔陸游〕「無ニ羣━━一繞レ舍鳴」。「━鳴」。

(蜩蛙) みゝずとかはづと。〇〔畢安卿〕「活水━

【鼃】

蛙の本字。

【鼁】 ケイ、ケ。苦圭切 齊

ぜんかつ(蠆)。

【蛓】 シ。七四切 寘

蜘蛛の一種。

【蛧】

蜩に同じ。

【蛚】 レツ、レチ。良薛切 屑

蟋━は、こほろぎ(蟋蟀)。〇〔酉陽雜俎〕「━屬卻行」。

【蛛】 チユ。陟輸切 虞

蜘━は、一種の蟲、くも、口より細き絲を吐きて物と物との閒に互し網を張る、若し小蟲などの網に觸るゝときは捕らへ食らふ、「つちぐも」「さゝぐも」などの種々あり。〇〔關尹子〕「聖人師二蜘━一立二網罟一」。

(餓蛛) うゑたるくも。〇〔李綱〕「睛二此━━網一」。

(詹蛛) のきばのくも。〇〔甘復〕「━━引レ絲長」。

【蛜】 イ。於脂切 支

━蝛は、おめむし、わらぢむし(鼠婦)。〇〔韓愈〕「破竈━蝛盈」。

【蚽】 ハイ、ヘ。普夬切 卦

蠓━は、小さき飛蟲。

【蛝】 カン、戸閒切 刪　ギン、魚巾切 眞　ゲン。ゴン。

あまひこ、やすで、(馬蚿)、一名は、をさむし(馬蠲蚼)、一說に、いなむし、(蝮蝺)、又おほあり(蚍蜉)。

【蛞】 クワツ、クワチ。苦括切 曷

㊀蝦蟇の子。

㊁━螻は、けら。

㊂━蝓は、なめくぢら。

【蛞】 クワツ、グワチ。胡括切 曷

㊀━蟲は、おたまじやくし。

【蛥】 セツ、ゼチ。食列切 屑

蛥に同じ。

【蛟】 カウ、ケウ。古肴切 肴

㊀龍の一種、みづち、其の狀蛇に似たり、四足ありて頸細く頸に白き嬰あり、其の大いなるは數圍に及び卵は一二石を入るべき甕の如く克く人を呑むといふ。〇〔禮〕「季夏命二漁師一伐レ━」。

㊁━羊は、羊に似て角なき一種の獸。

(刺蛟) みづちをさしころす。〇〔呂氏春秋〕「赴レ江━レ━殺レ之」。

(潛蛟) ふかくひそみかくれたるみづち。〇〔蘇軾〕「舞二幽壑之━━一」。

(虎蛟) 魚身蛇尾にて聲あり水中に棲息する獸の名。〇〔山海經〕「其中有二━━一」。

(黑蛟) くろきいろのみづち。〇〔杜甫〕「濤翻━━躍」。「兮」。

(水蛟) みづち。〇〔東方朔〕「從二━━一而爲レ徒」。

(素蛟) 白色・みづち。〇潘岳〕其蟲獸則━丹虬」。

(雄蛟) をのみづち。〇〔江淹〕「願二━━及二雌虺一」。

(龍蛟) たつとみづちと。〇〔蘇轍〕「爲レ我驅レ獸擾二━━一」。「逃」。

(猛蛟) たけきみづち。〇〔杜甫〕「━━突獸紛騰

【蚷】 キヤウ、カウ。曲王切 陽

おほえび(大蝦)。

【蚀】 シヨク、シキ。設職切 職

━蠼は、かはほり(仙鼠)。

【蛡】 ジ、ニ。仍吏切 寘

魚を釣る餌、ゑば、ゑ。

【蛎】 レイ、ライ。郞計切 霽

蛋の一種。

【蛠】 ヨク、逸職切 職　ク、况羽切 虞　イキ。コ。

㊀蟲の行く貌にいふ字。

㊁はち(蜂)。〇〔揚雄〕「━大蟰小」。

【蛔】 トウ、ヅ。徒紅切 東

むし、(蟲)。

【蛢】俗の蚪の字。

【蛣】キツ、去吉切 キチ。[質] ケツ、詰結切 ケチ。[屑] ケイ、吉詣切 カイ。[霽]
㊀──蝠は、きくひむし。
㊁──蜣は、くそむし、まろむし。
㊂──蟩は、井中の小蟲、ばうふり。
㊃璅──は、一種の蟲、長さ一寸餘、大いなるものは二三寸にして腹の中ににれのみの如き子蟹を有すといふ。○[郭璞]「───腹レ蟹」。

【蚐】シュン、ジュン。詳遵切 [眞] 蟲の一種。

【蟌】ソウ、ス。祖叢切 [東] 蟿──は、蟬に似たる蟲。

【蚼】コウ、ク。許后切 [有] 蚼に同じ、おほあり、(蚍蜉)。

【蛤】カフ、コフ。古沓切 [合]
㊀海中に生ずる一種の介蟲、はまぐり、蜃の小なるもの、蚌に似て蚌より圓し。○[禮]「雀入二大水一爲レ─」。
㊁──解は、ゐもりの鳴くもの。○[揚雄]「桂林之中、守宮大而能鳴、謂二之──解一」。
㊂蛙の一種、かじか。○[韓愈]「─即是蝦蟇、同レ實浪異レ名」。
(魁蛤) あかゞひ。○[說文]「───一名二復累一」。
(文蛤) はまぐり。○[張協]「───鳴二陰池一」。
(山蛤) やまがへる。○[本草]「在二山石中一藏蟄、似二蝦蟇一而大、黃色、能呑レ氣飮二風露一」。
(蝦蛤) 獸の名。○[司馬相如]「格二──一鋌二猛氏一」。
(蜃蛤) はまぐり。○[左]「魚鹽──」。
(蚌蛤) 前に同じ。○[家語]「──龜珠與レ月盈虛」。
(燒蛤) はまぐりをやく。○[左、註]「─レ─爲レ炭」。
(蜆蛤) しゞみとはまぐりと。○[北]「夏四月詔禁レ取二蜑蝦──之類一」。
(嗜蛤) はまぐりを食らふことを好む。○[酉陽雜俎]「隋帝─レ─」。
(花蛤) 介にあやあるはまぐりにて一に文蛤とも稱す。○[本草]「文蛤名二──一」。
(牡蛤) かきの異名。○[本草]「牡蠣名二──一」。
(素蛤) 白色のはまぐり。○[吳均]「打二──一而爲レ粉」。

【蛒】ガク。五各切 ハク。匹各切 [藥] 其の狀は蜥蜴(ゐもり)に似たる一種の蟲、わに、長さ一丈ありて、水に潛み人を呑めば浮び出づ。

【蛇】タ、デ。除駕切 [禡] 形は覆ひたる笠の如く、泛々として海に浮び水に隨ふもの、くらげ、水母。○[爾]「─生二東海一、正白濛々如レ沫」。

【蛥】セツ、ゼチ。食列切 [屑] ──蚗は、蟬の一種、なつぜみ、むぎわらぜみ。○[揚雄]「──蚗、齊謂二之螇蚗一、楚謂二之蟪蛄一」。
(蚼蛥) 龍に似て北の形の小さなるもの。○[博物志]「───其形似レ龍而小」。

【蠚】カク。黑各切 [藥] さす、(螫)。

【蛦】イ。以脂切 [支] テイ、田黎切 ダイ。[齊]
㊀螗──は、あきぜみ。
㊁蠮──は、きんけいてう。○[左思]「蠮──山棲」。

【蛧】バウ、マウ。文兩切 [養] ──蜽は、山川の精、木石の怪、すだま、狀は三歲の小兒の如く赤黑色にして耳長く目赤く好く人の聲をまねて人を惑はすといふ。○[張衡]「追二水豹一兮鞭二──蜽一」。

【〓】珧に同じ、いたらがい。

【蜫】コン。古渾切 [元] 蟲の總稱。

【蛨】バク、ミヤク。莫白切 [陌] 蚝──は、ねぎむし。

【〓】ユ。容朱切 [虞] くも、(蜘蛛)。

【螋】ス。雙雛切 [虞] 蠼──は、足多き一種の蟲、はさみむし。

【蛩】キョウ、グ。渠容切 [冬]
㊀一種の獸、狀馬の如しといふ。○[韓詩外傳]「西方有レ獸曰レ蟨、得二甘草一必銜以遺二──巨虛一」。
㊁いなご、(蝗)。○[淮]「飛─滿レ野」。
㊂蟬蛻、せみのぬけがら。○[說文]「秦謂二蟬蛻一爲レ─」。
㊃憂ひ思ふ貌にいふ字。○[劉向]「志───而懷顧兮」。
㊄蛬に同じ、こほろぎ。○[許渾]「陰壁夜多レ─」。
(鳴蛩) こほろぎ。○[錢起]「寒露滴二──一」。
(吟蛩) 前に同じ。○[埤雅]「蟋蟀隨レ陰迎レ陽、一名二──一」。
(亂蛩) あちこちにてなきたつるこほろぎ。○[范成大]「行々──聲」。
(潜蛩) かたちをかくしたるこほろぎ。○[張養浩]「───淺二兩語一」。

【蛬】キョウ、ク。古勇切 [腫]
㊀前條に同じ。
㊁げぢく、(百足)。○[爾]「蚰蜒、江東人呼レ─」。

【蛪】ケツ、ケチ。吉屑切 [屑] ──蚼は、蟬の一種にて小さきもの、もつくつくぼふし。

【蛪】ゲツ、ゲチ。魚列切 [屑] 蜺に同じ、にじ。○[史]「其─若類二闕旗一」。

【蛫】キ。過委切 [紙] 蟹の六足あるもの、一說に、わらぢむし、(鼠負)、又一說に、猿の一種。

【〓】フウ、フ。俯九切 [有] 蠶臥ぬ、いぬ。

【蛬】キョウ、居竦切 [腫] ク。居用切 [宋] 巨容切 [冬] 蟋蟀、きりぎりす、こほろぎ。○[揚雄]「蜻蛚、楚謂二之蟋蟀一、或謂二之─一」。
(潜蛬) かたちをかくしたるこほろぎ。○[韓愈會合聯句]「馴檀燭浮壺、幽響泄二──一」。
(吟蛬) こほろぎの異名。○[中華古今注]「蟋蟀一名二──一、一名蛬秋一」。

【蛭】シツ、之日切 シチ。チツ。陟栗切 [質] テツ、徒結切 デチ。[屑] テイ。竹例切 [霽]
水中に生ずる一種の蟲、ひる、人の體肉

などに附著して血を吸ふ。○〔劉向〕「楚惠-王食二寒-葅一而得レ一、因遂呑レ之、腹有レ疾而不レ能レ食」。
〔水蛭〕水中に生ずるひるといふ蟲。○〔博物志〕「一-一三-斷而成二三-物一」。
〔馬蛭〕おほいなる一種のひる。○〔本草〕「水-一大者名二馬-蜞一-一馬-蟥馬-鼈一」。
〔讙蛭〕奇獸の名。○〔山海經〕「一-一狀如レ狐而九-尾九-首虎-爪」。
〔草蛭〕深山などのくさはらに生ずるひる。○〔本草〕「生二深-山草-中一者爲二一-一一」。
〔泥蛭〕どろのうちに生ずるひる。○〔本草〕「一-一生二泥-中一」。
〔石蛭〕いしの上に生ずるひる。○〔本草〕「一-一生二石-上一」。

【⿱合虫】蛤に同じ。

【蚈】ケン。苦堅切 先
㊀ほたる、〔螢-火〕。○〔呂氏春秋〕「腐-草化爲二蚈-一一」。㊁やすで、〔馬-蠸〕。○〔淮〕「故良-將之卒若二蚈之足一」。

【蠚】カク。黑各切 藥 セキ、ジヤク。舒亦切 陌 テツ、テチ。知列切 屑
毒を螫す、さす。

七畫

【蛵】ケイ、キヤウ。呼刑切 青
虰一一は、蜻蛉の一種、やんま。○〔爾〕「虰-一負-勞」。

【⿰虫豖】クワイ、ケ。呼恢切 灰
㊀家の地を掘るにいふ字。㊁蝟の一種、はりねずみ。

【⿰虫豸】チ、ヂ。丈爾切 紙

多に同じ。○〔揚雄〕「用二解-一之貞一」。

【蛷】キウ、グ。巨鳩切 尤
㊀足多き一種の蟲、はさみむし。○〔韓愈〕「蛷-垣亂二一-蝶一」。㊁かさ、〔瘡〕。○〔淮〕「曹-氏之裂-布、一者貫レ之」。

【⿰虫朮】ク、コ。恭於切 魚
前條の㊀に同じ。

【蛸】サウ、セウ。所交切 肴
蠨一一は、蜘蛛の一種、あしたかぐも、長踦、小さくして脚長し、別名は、さゝがに。○〔詩〕「蠨-一當レ戶」。

【蛸】セウ。相邀切 蕭
螵一一は、(い)蟷螂の子、かまきりのたまご、おほぢがふぐり、一に蜱蛸。○〔爾、翼〕「螵-一所-在有レ之」。(ろ)烏賊の屬、いか。○〔爾〕「海-中烏-賊-魚背如二樗-蒲形一、亦有二螵-一之名一」。

【⿱沙虫】サ、セ。師加切 麻
莎に同じ、一-雞は、蟲の名。

【⿱沙虫】サ。心多切 歌
呼一は、病ひの名。

【⿰虫吾】ゴ、グ。五乎切 虞
㊀鼯に同じ、むさゝび。㊁むかで、〔蜈-蚣〕。

【蛹】ヨウ、ユ。余隴切 腫
蠶の繭の中に入りて化せるもの、さなぎ、更に化して蛾となる。○〔蔡邕〕「繭-中一兮蠶蠕-須」。

【蛺】ケフ。古協切 葉 カフ、ケフ。轄夾切 洽
一-蝶は、一種の飛蟲、かはひらこ、あげはのてふ。○〔本草〕「一-蝶輕-薄、夾-翅而飛」。

【蛻】セイ、ゼ。舒芮切 霽 タイ、テ。他外切 泰 タ。湯臥切 箇
㊀もぬく。(い)蛇蟬などの外皮の脫け化はるにいふ字。○〔夏侯湛〕「蟬-一龍-變」。(ろ)外にまさひたるものを脫け出づるにいふ字。○〔史〕「蟬二一于濁-穢一」。㊁もぬけたるを、もぬけたる皮、もぬけ、ぬけがら。○〔莊〕「予蜩-甲也、蛇-一也、似レ之非也」。
〔委蛻〕ぬけがら。○蘇軾「是身如二一-一一」。
〔蟬蛻〕せみのぬけがら、又、せみの如くからよりぬけいづ。○〔陸游〕「穿レ井拾二一-一一」。
〔神蛻〕神妙にかはる。○〔傅休奕〕「忽一-一而靈-變兮」。
〔靈蛻〕前に同じ。○〔郭璞〕「一-一乘レ烟」。

【蛻】セツ、セチ。輸爇切 屑
にしやどッち、〔復-蛸〕。

【蛻】エツ、エチ。欲雪切 屑
蚴一一は、ゐがばち、すがる。○〔揚雄〕「蠭或謂二之蚴-一一」。

【蛼】シヤ、セ。昌遮切 麻
蛝の如くにして大いなるもの。

【⿰虫希】キ、ケ。香依切 微

大毒ある一種の蟲。

【蛾】ガ。五何切 歌
㊀蠶の蛹の化して、翅を生じたるもの、かひこのてふ、其の形は黃蝶より小さく其の眉句曲して畫くが如し、よりて美人の眉などに譬へいふ。○〔大戴禮〕「食レ桑者有レ絲而一」。㊁俄に同じ、にはかに。○〔漢〕「孝-成班-倢-好帝即レ位選二入後-宮一、始爲二少-使一、一而大幸」。
〔影娥〕池の名。○〔三輔黃圖〕「一-一池武-帝鑿レ池以玩レ月、使二宮-人乘レ舟弄二月-影一」。
〔飛蛾〕ひとりむし。○〔鮑昭〕「一-一候レ明」。
〔白蛾〕しろきいろのかひこよりいでたるてふ。○〔漢〕「有二一-一羣-飛蔽レ日」。
〔蠶蛾〕かひこより化したるてふ。○〔廣志〕「有二一-一一、有二天-蛾一」。
〔文蛾〕かひこより化したるうつくしきてふ。○〔符子〕「猶二一-一去レ暗赴レ燈而死一也」。
〔野蛾〕てふ。○〔古今注〕「蛺-蝶一名二一-一一、一名二風-蝶一」。

【蛾】ギ。魚倚切 紙
㊀痒きを搔く、かく。㊁蟻に同じ。○〔禮〕「一-子時述レ之」。

【蛘】ヤウ。余兩切 養
蛾一一は、あり。○〔揚雄〕「蚍-蜉齊謂二之蛾-一一」。

【蝆】ヒ、ミ。綿婢切 紙
米の中に生ずる黑き甲ある小蟲、よねむし、又、蟷螂の稱、かまきり。○〔揚雄〕「蟷-螂或謂二之一-一、一-蛄-蟹謂二之强-一一」。

【蜀】ショク、ゾク。市玉切 沃
㊀蠶に似たる一種の蟲、いもむし。○

[淮]「蠶與レ—、狀相類、而愛・憎異也」。
㊁雞の大いなるもの、たうまる。○[韻會]「雞之大者謂二之—雞一」。
㊂獨立せる山。○[爾]「獨・山—」。
㊃祠に用ふる器。○[管]「抱レ—不レ言 而廟・堂既修」。「遷レ—」。
㊄四川省成都府の古稱。○[史]「不・韋
[蜀獸] 獸の名。○[郭璞]「—・—之獸、馬・質虎・文」。
[巴蜀] 漢時の益州、今の成都府。○[史]「南保二巴—・—一」。
[得隴望蜀] 欲望の限りなきといふ語。○[魏]「人・生苦レ無レ足、既—レ—復レ—レ—」。

【蜂】ホウ、フ。敷容切 冬
蠭に同じ、はち。○[爾、翼]「—種・類至多」。
[䗬蜂] ちひさきはち。○[莊]「—・—不レ能レ化二藿・蠋一」。
[壺蜂] はちのおほきくして蜜あるもの。○[方言]「—蜂大而蜜、謂二之—・—一、今・人亦呼爲二胡・蜂一」。
[蜜蜂] みつばち。○[杜甫]「花暖—・—喧」。
[土蜂] 土中に巣をいとなむおほばち。○[爾、註]「今江・東大・蠭在二地・中一作レ房者、爲二—・—一」即馬・蜂。
[木蜂] 土蜂に比すればすこしくちひさきはちにて樹木に巣をつくるもの。○[爾、註]「似二土・蜂一而小、在二樹・上一作レ房、江・東呼爲二—・—一」。
[養蜂] はちを飼ふ。○[鄒離子]「靈・丘丈人之—レ—也、園有レ廬」。

【蜁】セン、ゼン。似宣切 先
—・蝸は、にな。○[郭璞]「鸚・螺—・—蝸」。

【蜃】シン、ジン。時忍切 軫
㊀蛤の大いなるもの、おほはまぐり、はまぐり。○[禮]「雉入二大・水一爲レ—」。
㊁紅鬣ありて腰より以下の鱗はことごく逆なりといふ一種の蛟、みづち、所謂海市また蜃氣樓は此のみづちの吐ける氣によりて現るゝものといへり。○[漢]「海・旁—・氣象二樓・臺一」。
㊂樞路、ひつぎぐるま。○[周]「—・車」。
㊃祭肉を盛るに用ふる一種の器。○[莊]「以レ—盛レ溺」。
[蛟蜃] みづち。○[陸龜蒙]「—・—相啜撈」。
[文蜃] うつくしきおほはまぐり。○[逸周書]「且・歐—・—」。

【蜄】シン。之刃切 震
うごく、(動)。○[史]「辰者言二萬・物之—一也」。

【蜄】蜃に同じ、おほはまぐり。

【蜅】フ、ホ。方矩切 麌
小さき蟹、一說に、螯のある蟹。

【蜅】ホ、ブ。薄胡切 虞
はまぐり、(蛤)。

【蜆】ケン、ゲン。胡典切 銑 切胡千切 先
螠女。

【蜆】ケン。呼典切 銑
㊀しじみ、(小・蛤)。○[隋書]「好レ啖レ—、以二父諱顯一因呼レ—爲二扁・螺一」。
㊁湖の名。○[史]「三・江一、江東・南上七・十・里、自二—・湖一名曰二上・江一」。
[蝦蜆] 蝦としじみと。○[五燈會元]「採二—・—一以充二其腹一」。
[贏蜆] はまぐりとしじみと。○[梅堯臣]「—・—固無レ數」。

【䗛】テウ、デウ。徒聊切 蕭
—・鱅は、一種の水蟲。○[山海經]「獨・山末・塗之水、東・南流注二于沔一、其中多二—・鱅一、其狀如二黃・蛇一魚・翼出・入有レ光、見則其邑大旱」。

【蜇】テツ、テチ。陟列切 屑
さす、(螫)。○[柳宗元]「—レ吻裂レ鼻」。

【蜇】屑の韻の蜥に同じ。

【蜥】セツ、ゼチ。寺絶切 屑
鯯に同じ、江—は、蝤蛑(がざみ)に似たる魚。

【蜥】テイ、タイ。丁計切 霽
螮に同じ。

【蜈】ゴ、グ。五乎切 虞
—・蚣は、むかで、蚣の解に詳なり。

【蜐】ギフ、ゴフ。逆及切 緝
蟲の行く貌にいふ字。

【蛓】セキ、シヤク。先擊切 陌
蜥の字の條を見よ。

【赨】トウ、ヅ。徒冬切 冬　キウ、グ。胡弓切 東
赤き蟲、あかむし。

【𧊼】赨に同じ、—黃は、雄黃、うわう。○[揚雄]「—・黃疑レ金」。

【蜉】フウ、ブ。縛謀切 尤
㊀蚍—は、大いなる蟻、おほあり。○[韓愈]「蚍・—撼二大・樹一、可レ笑不二自量一」。
㊁—・蝣は、かげろふ、まろむしに似て身狹く長くして角あり、糞土に聚まり生じ朝に生じて暮に死ぬといへり。○[詩]「—・蝣之羽、衣・裳楚・々」。

【𧊕】カウ、コウ。口到切 號
きくひむし、(蝎)。

【蜊】リ。力脂切 支
蛤—は、東南の海中に生ずる一種の蟲、あまをぶれ、殼白く其の脣紫色にて大いさ二三寸あり。○[南]「不レ知二許事一、且食二蛤—・—一」。

【蜋】ラウ。魯當切 陽
蟷—は、螳螂の母、かまきり、前肢は斧の狀をなす。○[莊]「不レ知二夫蟷・—一乎」。
[石蜋] かまきりの異名。○[爾、註]「蟷・蜋有レ斧蟲、江・東呼爲二—・—一」。

【蜋】ラウ。呂張切 陽
蜣—は、まろむし、くそむし。

【蜍】ショ、ゾ。署魚切 魚
蟾—は、
(い)蚵蚾、ひきがへる、腹の下に丹書の八の文あり多く墻陰壁下に棲む、形大にして背の上にいぼ多し、行くを極めて遲く跳ね又は鳴くを能はず。○[爾翼]「蟾・—今之蚵・蚾」。
(ろ)月の異稱。○[後漢、註]「羿請二無死之藥于西・王・母一、姮・娥竊レ之以奔レ月、是爲二蟾・—一」。
(は)千歲の壽を保ちたるひきがへるの頭上に生ずといふ肉角。○[抱朴]「仙・藥一曰二蟾・—一、肉・芝也」。

【蜍】ヨ。羊諸切 魚
蟾―は、くも(蜘蛛)。○〔揚雄〕「北燕朝鮮洌水之間謂二之蟾―一」。
(蟾蜍) 蜘蛛の異名。○〔爾雅、翼〕「―・―蜘蛛別名」。

【蜌】ヘイ、バイ。部禮切 薺
蚌の長きもの、又、しじみ(小蛤)。○〔本草〕「馬刀一名―、生二江漢一長六七寸、食二其肉一似レ蚌」。

【⿱丞虫】コウ、グ。胡孔切 董
甲蟲の一種。

【⿰虫㐬】リウ、ル。力求切 尤
毒蛇の毒を草木の上に吐きたるを。

【蝣】イウ、ユ。夷周切 尤
蜉―は、ごもくあぶらむし。

【⿰虫耴】ゼウ、ヂフ。日涉切 葉
蟲の行く貌にいふ字。

【蜎】エン。於緣切 先
㊀蜎(いもむし)の貌にいふ字。○〔詩〕「―・―者蜎」。
㊁子々、ぼうふり。○〔爾雅〕「―蠉」。
㊂たわむ(撓)、又、ふるふ(掉)。○〔周禮〕「刺兵欲レ無レ―」。
㊃室内の深く廣きを。○〔漢〕「蜎―蠖濩之中」。

【蜎】ケン。休緣切 先
㊀人の名。○〔史〕「楚王問二于范―一」。
㊁娟に通じ用ふ。○〔楚辭〕「嗤蜎便―以增撓兮」。

【蜏】イウ、ウ。與久切 宥　息救切 宥　シウ、シユ。余救切
一種の水蟲、かげろふ、朝に生じ暮に死ぬるもの、狀蠶の蛾の如し、一名は孳母。

【蚳】チ、ヂ。直夷切 支
あり(蟻)。

【蜐】ケフ、コフ。居怯切 葉
石―は、蚌の屬、かめのて、海岸の石につきて生ず、形龜の脚の如くにて春雨を得れば華を生ず、其の華は草の華に似たり、一說に、蟹の螯の如くにて紫色なりといふ。○〔江淹〕「海人有レ食二石―一、一名二紫囂一」。

【蜑】タン、ダン。蕩旱切 旱
南方の蠻族、えびす。○〔韓愈〕「林蠻洞―」。

【蜒】エン。以然切 先
㊀蚰蜒の字の條を見よ。
㊁蝘―は、やもり。○〔揚雄〕「守宮謂二之蝘―一」。
㊂うね〳〵と長し、又、龍蛇などの狀にいふ字。○〔楚辭〕「蝘蛇―只」。
(蜿蜒) 龍蛇などのわだかまる貌にいふ語。○〔酉陽雜俎〕「海蠹―・―」。
(蜒々) 前に同じ。○〔韓愈〕「蜿々―・―」。

【蜓】テン、デン。徒典切 銑
蝘―は、やもり。○〔博物志〕「蝘―守宮以レ器養レ之、食以二朱砂一、體盡赤、重七斤、擣萬杵、以點二女人一、終身不レ滅、淫則點滅、故號二守宮一、漢武試レ之驗」。

【蜓】テイ、チヤウ。唐丁切 青
蜻―は、蜻蛉に同じ、とんばう。○〔博物志〕「埋二蜻―一于西向戶下一」。
(蜻蜓) とんばう。○〔國史補〕「久竹生二―・―一」。

【蜓】テイ、ヂヤウ。待鼎切 迥
―蚞は、蟬の一種、むぎわらぜみ。○〔爾雅〕「―蚞螇螰」。

【⿰虫弟】テイ、ダイ。田黎切 齊
蟬の一種。

【蜔】テン、デン。亭練切 霰
螺―は、堆漆(たかまきゑ)に金蠶の薄片を著けたるもの、かながひ。○〔帝京景物略〕「方信川二之堆漆螺―一」。

【⿰虫囷】ダフ、ヂフ。女洽切 洽
蟲の動く貌にいふ字。

八畫

【蜘】チ。陟離切 支
蛛の字を見よ。

【⿰虫妾】サフ、ソフ。作答切 合
蟲の多き貌にいふ字。

【蜙】ショウ、シユ。息恭切 冬　ソウ、ス。蘇叢切 東
―蝑、―蝑は、蝗の類、はたおり、きりぎりす、ぎッちよ、蟠蟀。○〔酉陽雜俎〕「―蝑股鳴」。

【蜚】ヒ。父沸切 未
㊀惡臭ある一種の小蟲、あぶらむし。○〔漢〕「有レ―有レ蜮」。
㊁いなむし(負蠜)。

【蜚】ヒ、ビ。匪微切 微
飛に通じ用ふ。○〔史〕「三年不レ―」。

【⿰虫空】コウ、ク。苦紅切 東
蟬蛻、うつせみ。

【蜛】キヨ、コ。九魚切 魚
―蠩は、一種の蟲、一頭にて尾數條あり、長さ二三尺にして左右に脚あり、狀蠶の如し。○〔郭璞〕「―蠩森衰以垂レ翅」。

【蜜】ビツ、ミチ。彌畢切 質
蠭の釀成したる甘味の液、はちみつ、みつ。○〔楚辭〕「瑤漿―勺」。
(飴蜜) あめとはちみつと。○〔禮〕「棗栗―・―以甘レ之」。
(崖蜜) (い)はちのかもしたるみつの崖岸などにあるもの。○〔本草〕「―・―在二高山巖石閒一」。(ろ)櫻桃の別名、ゆすらうめ。○〔陸士衡〕「宋蘭―・―」「瞬」。
(蠟蜜) みつをくらふ。○〔老學庵筆記〕「―レ―而―レ―後」。
(苦蜜) にがみあるはちみつ。○〔道師秀〕「山蜂成二―・―一」。
(成蜜) みつをつくりなす。○〔羅隱〕「採二得百花一」。
(採蜜) はちみつをとる。○〔謝靈運〕「六月―レ―」。
(山蜜) やまばちのつくりたるみつ。○〔本草〕「―・―多在二石中木上一」。
(巖蜜) 岩石の間につくりたるはちみつ。○〔本草〕「―・―出二南方巖嶺間一」。
(蜂蜜) はちみつ。○〔孟浩然〕「傍レ崖采二―・―一」。
(野蜜) 人の飼食せざる蜂のつくりたるみつ。○〔〕「渾二隨蜂收一―・―一」。

〔波羅蜜〕（い）一種の果。○〔本草〕「|・|・|梵語也、因二此果味甘一故借-用之」。（ろ）彼岸に到ると、生死を脱すると。○〔世説〕「般若|・|・|太」。

【蜞】キ、ギ。渠之切 支
蟚-|は、一種の小蟹、どろがに。○〔晉〕「初渡レ江見二蟚-|一、大喜曰、蟹有二八-足一、加以二二-螯一、烹レ之、既食、吐-下委-頓、方知レ非レ蟹」。
〔雷蜞〕一種の蟲。○〔酉陽雜俎〕「|・|大如レ蚓以レ物觸レ之乃蹙-縮圓-轉若レ鞠」。
〔馬蜞〕蛭のおほいなるものにて水中に棲息す。○〔爾、疏〕「此水-中蟲、喜入二人-肉一者、江東呼爲二馬-蜞一本-草謂二之水-蛭一、一名二|・|一、一名二馬-耆一」。

【蜛】蜝に同じ。

【蜉】フウ、ブ。房久切 有
鼠-|は、わらぢむし、おめむし。

【蜟】イク、ヨク　余六切 屋
復-|は、蟬の未だ蛻けざるもの、にしやごッち、にしごち。

【蜯】リク、ロク。力竹切 屋
魁-|は、うみがひ、あかゞひ、其の介圓く厚くして文あり。

【蜠】キン、渠殞切 軫　キン。去倫切 眞
グン。
貝の一種、介大にして汚く薄きもの。○〔爾〕「|大而險」。

【蜡】ショ、ソ。七慮切 御
蝍-胆、うじ。○〔周、註〕「|-骨-肉腐-臭、蠅-蟲所レ|也」。

【蜡】サ、ゼ。助駕切 禡
歲末の十二月に萬神を饗する祭事。○〔禮〕「仲-尼與二於|-賓一」。
〔大蜡〕十二月に行ふ祭りの名。○〔禮〕「|・|天-子之祭也」。

【蜡】シュク、ソク。子六切 屋
一種の蟲

【蜮】蜻に同じ、志ほから。

【蜢】バウ、ミヤウ。毋梗切 梗
㊀蚱-|は蝗の一種。○〔本草〕「蝗-蟲一-名蚱-|」。
㊁胡-|は、蝦蟆の一種。

【蜣】キヤウ、カウ。去羊切 陽
-|蜋は、糞を啖らふ蟲の名、まろむし、くそむし、好みて糞を取り推轉して丸さなすさいふ。○〔關尹子〕「|-蜋轉レ丸、々成而精二思之一」。

【蜮】イウ、ユ。羽求切 尤
くも、（蜘-蛛）。

【蜤】シ。息移切 支
-|螽は、はたおり、きりぐす。

【蜥】セキ、シヤク。先擊切 錫
-|蜴は、守宮の一種、さかげ。○〔漢〕「善緣レ壁是非二守-宮一即-|-蜴」。

【蜦】リ。良脂切 支　レイ、憐題切 齊　ライ。切
蛔蛤の字の條を見よ、又、蜊に同じ。

【蜨】チヨウ、トウ。丑升切 蒸
蛤の一種。

【蜦】リン。力迍切 眞
蝹-|は、行く貌にいふ語。○〔郭璞〕「神-蜧蝹-|以沈-遊」。

【蜦】リン。倫淩 眞　レイ、郎計 霽　ライ。切
大いなる蝦蟇、へびくひがへる、狀は蠻の如くにして蛇を食らふ。○〔本草〕「田-父一-名|」。

【蜧】レイ、ライ。郎計切 霽
㊀一種の神蛇、神泉の中に潛み、能く雲を興こし雨を降らすさいふ。○〔張景陽〕「黑-|-躍二重-淵一」。
㊁蜦に同じ、へびくひがへる。

【蜹】キ、ギ。渠綺切 紙
㊀せみ（蟬）。
㊁-|蛭は、獸の名、一に蟚蛭に作る。

【蜹】キ。丘奇切 支
くもの足の長きもの、あしたかぐも。

【蜨】セフ。蘇協 切　テフ、達協 デフ。切 葉
蛺-|は、てふ、かはびらこ。

【蜫】コ、ク。呼古切 麌
はひさりぐも、（蠅-虎）。

【蝀】ロク。盧谷切 屋
-|聽は、蜥蜴に似たる一種の蟲、きさかげ、樹上に棲む。

【蜩】テウ、デウ。徒聊切 蕭
せみ（蟬）。○〔詩〕「如レ|如レ螗」。
〔鳴蜩〕なきたつるせみ。○〔詩〕「五-月|・|」。
〔馬蜩〕おはせみ。○〔爾〕「蝒|・|」。
〔秋蜩〕あきせみ。○〔呉越春秋〕「聞二|・|之聲一」。
〔蜋蜩〕せみ。○〔方言〕「楚謂二蟬爲一レ蜩、宋衛謂二之螗蜩一、陳鄭謂二之|・|一」。
〔螗蜩〕前に同じ。○〔夏小正傳〕「|・|者蝘」。
〔蟬蜩〕前に同じ。○〔王球〕「凉樹沸二|・|一」。
〔寒蜩〕ひぐらしせみ。○〔范成大〕「忽有二|・|一抉書鳴」。「|」。
〔殘蜩〕をはりのせみ。○〔周伯琦〕「柳-槐鳴二|・|」。
〔瘖蜩〕なかざるせみ。○〔方言〕「寒-蟬、瘖|・|也」。

【蜩】テウ、デウ。徒弔切 嘯
-|蟉は、龍の首の動く貌にいふ語。○〔漢〕「|-蟉偃-蹇怵-奠以梁-倚」。

【蜪】タウ、トウ。土刀切 豪
㊀蝮-|は、蝗の子の翅未だ生ぜざるもの。○〔爾〕「蝝蝮-|」。
㊁一種の獸。○〔山海經〕「|-犬如レ犬青-色、食レ人從レ首始」。

【蜫】蚰に同じ。

【蜳】テン。他典切 銑
むし、（蟲）。

【蝫】タフ、ドフ。徒合切 合
蝫-|は、蟲の一種。

【蝬】サン、士板 潸　セン。切　士諫 切 諫
馬-|は、あまひこ、やすで、馬蚿。○〔爾〕「蚿馬-|」。

【蜙】セキ、シヤク。七迹切 陌
-|蜆は、あぶらむし、（肥蟚）。

【蜬】カン、ゴン。胡男切 覃
小さき贏、にな。○〔爾〕「贏小者|」。

【蛤】カン、ゴン。胡感切 感 胡紺切 勘 けむし(蛓)。○[爾]「一毛蠹」。

【蝠】クツ、コチ。區勿切 物 蛣一は、きくひむし。

【蜮】ヨク、井キ。雨逼切 職 コク。獲北切 職

㊀一種の怪蟲、形鼈に似て三足あり水中に棲息し人の影水中に映ずればこれを殺す、又、砂を含み射て人を傷くといふ、いさごむし、射影、射工、又、短狐。○[詩]「爲レ鬼爲レ一」。

㊁魖に通じ用ふ、おに。○[張衡]「況魃-一與ニ畢-方一」。

㊂惑亂す、まどはす。○[公羊]「一レ之猶レ言レ惑也」。

(螟蜮) いなむし。○[陶潛]「一一恣ニ中田ニ」。

(魃蜮) あらはるゝ時はひでりありといふ鬼物と沙をふくみて人を射る怪物と。○[呉萊]「一一弁猖狂」。

(狐蜮) 水中に棲息する怪物の名。○[儲光羲]「玄-武掃ニ一一ニ」。

(魖蜮) 小鬼の名。○[張衡]「況一一與ニ畢-方ニ」。

(含沙蜮) 沙をふくみて人を射る水中の怪物の名。○[白居易]「水有ニ一一一ニ」。

【蜮】蜮に同じ。○[春秋]「秋有レ一」。

【蜯】ハウ、ボウ。歩項切 講 蚌に同じ。○[班固]「隋侯之珠藏ニ於一一蛤ニ」。

【蝗】フウ、フ。扶久切 有 いなご(螽)。○[爾]「一一螽蠜」。

【蜰】ヒ、ビ。符非切 微 府尾切 尾 蠦一は、あぶらむし(負盤)。○[爾]「蜚蠦一」。

【蜰】ヒ。父沸切 未 一蟦は、神蛇。

【蜱】ヒ、ビ。符支切 支 ヘウ、ベウ。毗霄切 蕭 一蛸は、蟷蠰の子、おほぢがふぐり。○[爾]「不過蟷-蠰其子一蛸」。

【蜱】螵に同じ。

【蚑】シ。章移切 支 蜥蜴に似て人を嚙む一種の蟲。

【蛴】俗の蛴の字。

【蜲】井。鄔毀切 紙 一蝚は、わらぢむし、おめむし。

【蜲】井。於爲切 支 一蛇は、委蛇に同じ。○[傅毅]「一一蛇蚺-蟃」。

【蜳】トン、都昆切 元 テン。敕轉切 銑 蜳一は、氣の安く定まらざると、むなさわぎ。○[莊]「蜳一不レ得レ成」。

井ン。羽敏切 軫

【蜦】蜄に同じ。

【蜋】チヤウ、ヂヤウ。直良切 陽 一蝪は、げぢ〳〵。○[揚雄]「蛐-蜒謂ニ之一蝪ニ」。

【蜴】エキ、ヤク。羊益切 陌 蜥一は、とかげ、ゐもり。○[詩]「哀今之人胡爲ニ虺一ニ」。

(蜥蜴) とかげ。○[爾]「蠑螈一一」。

(易蜴) ゐもり。○[方言]「守宮秦晉西夏謂之守宮、其在ニ澤-中ニ者、謂ニ之一一ニ」。

(蛇蜴) 前に同じ。○[盧操餘]「一一出入、自聞十餘-步ニ」。

【蜴】セキ、シヤク。先的切 錫 脈一は、あざむく(欺-慢)。

【蜎】エン。縈切 先 イン。一均切 眞 蛸に同じ。

【蜎】クワン。古滿切 旱 雨に著きて下れる蟲。

【蛐】キク、ゴク。渠六切 屋 一蠪は、脰にて鳴く詹諸、かへる。

【蜘】キク、コク。丘六切 屋 みゝず(蛩-蟺)、一説に一蛾は、かま、ひきがへる。

【蜡】俗の蠅の字。○[圓覺經]「譬如ニ大-海不ニ讓ニ小-流一乃-至蚊-一及阿-修-羅飲ニ其水一者皆得ニ充-滿ニ」。

【蛃】ヘイ、ビヤウ。蒲經切 青 蟥一は、こがねむし。○[爾]「跂蟥一」。

【蜷】ケン、ゴン。巨員切 先 蟲の屈まり行く貌にいふ字。○[屈平]「一一局顧而不レ行」。

(連蜷)長く曲がれる貌にいふ語。○[揚雄]「蛟龍一ニ于東厓ニ兮」。

【蜸】ケン。牽繭切 銑 一蚕は、みゝず、(蛩-蟺)。○[爾]「螼-蚓一蚕」。

【蜹】ゼイ、而銳切 霽 ゼツ、如劣切 屑 か(蚊)。○[孟]「蠅一姑嘬レ之」。

【蜹】エイ、エ。以芮切 霽 毒を持てる一種の蛇。

【蜺】ゲイ、ガイ。五稽切 齊 霓に同じ、にじ。○[爾]「一爲ニ挈-貳ニ」。

(珥蜺) 虹。○[漢]「邪-氣一一數作」。

(陰蜺) 前に同じ。○[易林]「一一伏-藏」。

(暗蜺) 前に同じ。○[白虎通]「明者爲レ虹、一者爲レ一」。

(素蜺) 白蜺といふに同じ、志ろきにじ。○[荀勗]「懔-慨成ニ一一ニ」。

(雲蜺) にじ。○[儲光羲]「一-路在ニ一一ニ」。

(妖蜺) あやしきにじ。○[江淹]「一一將レ消」。

(了蜺) 首を延ばす貌にいふ語。○[王逸]「白-鹿一一於樽-檳ニ」。

【蜺】ゲツ、ゲチ。五結切 屑 蟬の一種、つく〳〵ぼふし。○[爾]「一寒-蜩」。

【蜻】セイ、シヤウ。杳盈切 庚 一蛚は、こほろぎ。○[張載]「俯聞一一蛚吟」。

【蜻】セイ、ジヤウ。疾正切 敬 慈盈切 庚

【蜻】セイ、シヤウ。此靜切 梗 むぎわらぜみ(蛩)。○[揚雄]「蟬有レ文者謂ニ之一一ニ」。

【蜻】セイ、シヤウ。倉經切 青

蛉と蜓との條を見よ、さんばう、さんぼ、かげろふ、やんま。○〔呂氏春秋〕「海上有下人好ニ——蛉一者上每レ朝居ニ海上ニ從遊、有ニ——蛉一至者數萬」。

【蜼】井。以醉切［寘］
猴の一種、くもざる、鼻は上に向き尾は四五尺にして端に岐あり、雨ふるときは樹に上り尾を以て鼻の孔を塞ぎ或は兩指を以て塞ぐといふ。○〔司馬相如〕「——獲飛鸓」。

【蜆】ケイ、キヤウ。呼鈴切［青］
乘り飛ぶ貌にいふ字。

【蜽】リヤウ、ラウ。良獎切［養］
蝄の字の條を見よ。

【蜾】クワ。古火切［哿］古禾切［歌］
——蠃は、蜂の一種にて小さし、すがる、ぢがばち、蒲盧。○〔揚雄〕「螟蛉之子殪而逢ニ——蠃一、祝レ之曰、類レ我類レ我久則肖レ之」。

【蜾】ラ。魯果切［哿］
蠃に通じ用ふ、かたつぶり。

【蜎】シヤウ。蚩良切［陽］
小さき蠃、にな。

【蜿】ワン。烏丸切［寒］
蟠——は、龍蛇の動くにいふ語。○〔徐陵〕「靑龍蟠——」。

【蜿】エン、チン。於袁切［元］
㊀龍の狀にいふ字。○〔張衡〕「海鱗變而成レ龍、狀——以蟠々」。㊁虎の行く貌にいふ字。○〔楚辭〕「虎豹——只」。㊂蛇の行くにいふ字、はふ。○〔易林〕「蛇行——蜒、不レ能レ上レ阪」。

【蜿】エン、チン。於阮切［阮］
——蟺は、みゝず（蚯蚓）。

【蜶】タン、トン。吐濫切［勘］
蜥——は、獸の舌を出だす貌にいふ語。

【蝀】トウ、ツ。德紅切［東］多貢切［送］覩動切［董］
蝃の字の條を見よ。

【蝁】アク。烏各切［藥］ヲ、ウ。烏路切［遇］
虺の一種。○〔爾〕「蛈——」。

【蝂】ハン、ヘン。布綰切［潸］
蝜の字を見よ。

【蝃】螮に同じ。○〔詩〕「——蝀在レ東、莫ニ之敢指一」。

【蝃】セツ、セチ。職悅切［屑］タツ、タチ。都括切［曷］
くも（蜘蛛）。○〔爾〕「江東呼ニ——蝥ニ」。

【蝄】蛧に同じ。

【赨】トウ、ヅ。徒冬切［冬］
赤き色、あかいろ。

【蜝】キ、ギ。渠脂切［支］
蛜——は、さそり、ぜんかつ。

【蝨】虱に同じ、しらみ。○〔王充論衡〕「蟣——閩虫皆食レ之」。

【蛪】ジ、ニ。而止切［紙］
小さき蟲、こむし。

【蜥】セキ、シヤク。先擊切［錫］
とかげ（蜥蜴）。

【虝】コ、ク。呼古切［麌］
大蛇の一種。

【蜤】蜥に同じ。○〔王逸〕「斥——蜴ニ」。

【蝅】蠶の省き字。

【蜋】リヤク、ラク。力約切［藥］
ごもくあぶらむし、蠊の字を見よ。

【蚕】蠶に同じ。

【虥】虦に同じ

九畫

【蝌】クワ。苦禾切［歌］
——蚪は、蝦蟇の子、頭は圓大にして尾細し、始めは尾ありて足なし、長大となりて足生じ、尾脱す、おたまじやくし。○〔本草〕「——蚪狀如ニ河豚ニ」。

【蝡】セン。尺袞切［銑］
蠕——は、動く蟲、一說に足なき蟲。

【蝡】スヰ。楚委切［紙］
蟲の動くにいふ字、うごく、うごめく。

【蝶】ボウ、ム。迷浮切［尤］
蟷——は、かざみ。

【蝍】ショク、シキ。子力切［職］
㊀——蛆は、むかで（蜈蚣）。○〔莊〕「——蛆甘レ帶」。㊁——蛉は、さんばう。○〔博雅〕「——蛉、倉螘也」。㊂——蝛は、しやくとりむし。○〔博雅〕「———尺蠖」。

【蝍】シツ、シチ。資悉切［質］
一種の飛蟲。

【蝎】カツ、カチ。胡葛切［曷］
㊀すくもむし（蝤蠐）。○〔爾〕「蝤蠐——」。㊁木の中に生じて內より木を食らふ一種の蟲、きくひむし、くはむし。○〔劉熙〕「身之有レ蠹如ニ樹之有レ——」。㊂餅の名。○〔釋名〕「餅名有ニ——餅ニ」。

【蝪】籀文の虹の字。

【蝏】テイ、チヤウ。唐丁切［青］
㊀螷——は、蛤の一種。㊁蜻——は、かげろふ、さんぼ。

【蝘】エウ。伊消切［蕭］
毒蛇の一種。

【蝐】瑁に同じ。

【蝑】ショ、ソ。相居切［魚］象呂切［語］
蜙——は、はたおり、ぎつちよ。○〔揚雄〕「舂黍謂ニ之蜙——ニ」。

【蝑】シヤ、セ。司夜切 [禡]
醃藏の蟹、志ほづけのかに。

【蝒】ベン、メン。武緣切 [先]
うまぜみ、(馬蜩)。

【⿰虫卻】キヤク、ガク。其虐切 [藥]
あぶら蟲の一種。

【蝓】ユ。羊朱切 [虞] イウ、ユ。夷周切 [尤]
㊀蛞｜は。
(い)でゞむし、かたつぶり、(蝸-牛)。〇[儀]「蠃-醢蝓-｜醢」。
(ろ)くも。〇[揚雄]「蜘-蛛謂二之蝓-｜一」。
㊁蛞｜は、なめくぢ。〇[本草]「蛞-｜生二大-山池-澤及陰-地沙-石垣-下一」。

【蝔】カイ。古諧切 [佳]
太さ筆の管の如く長さ三寸ばかりありて雨ふろに先だちて草木の下に藏ろさいふ一種の蟲。

【蝕】ショク、ジキ。乘力切 [職]
㊀日と月との間に交會せる地球の月影を蔽ふと、地球と日との間に交會せる月の日影を蔽ふと、其の狀の葉の蠹まれて次第に敗れ虧くるに似たるよりいふ。〇[晉]「謂二日-月之｜-｜一」。
㊁侵し蠹むと。〇[韓維]「歳久苔-蘚「｜-｜」」。
(日蝕) 太陽のかけてみゆると。〇[史]「春-秋二-百四-十-二-年之間、｜-｜三-十-六」。
(月蝕) 月形の一時かけてみゆると。〇[宋]「望則
(薄蝕) 日月の光りなきと其の形の毀るとをいふ。
〇[晉]「日-月無二｜-｜之變一」。
(震蝕) 地震と日月蝕と。〇[宋]「｜-｜之異、其存安在」。
(虧蝕) 日月のかけて一時全形をみる能はさるもの。〇[宋]「月在二外-道一先交後會者｜-｜」。
(剝蝕) むしばむと。〇[老學庵筆記]「漢-隷歳久、風-雨｜-｜」。
(蠹蝕) むしばむ。〇[梅堯臣]「精-鋼不二｜-｜一」。

【蝕】リヨク、リキ。六直切 [職]
谷の名。〇[漢]「從二杜-南一入二｜-中一」。

【⿰飠龍】
⿰飠龍に同じ。

【⿰虫星】セイ、シヤウ。桑經切 [青]
｜蜓は、やんま、さんばう。

【蝖】ケン、コン。許元切 [元]
ぢむし、(地-蠶)、すくもむし、(蠐-螬)。〇[韓詩外傳]「｜-｜飛蠕-動」。

【蝗】クワウ、ワウ。胡光切 [陽] カウ、ギヤウ。戸盲切 [庚] 戸孟切 [敬]
苗を食らひて災をなす蟲、いなご、いなむし。〇[後漢]「｜-蟲食-苛之所レ致也」。

【蝘】エン。於殄切 [銑] 隱幰切 [阮]
㊀蟬の一種、なつぜみ、むぎわらぜみ。〇[詩、傳]「螗-｜也」。
㊁｜蜓は、やもり、守宮。〇[揚雄]「執二｜-蜓一而嘲二龜-龍一不二亦病一乎」。

【⿰虫若】
蠚に同じ。〇[楚辭、註]「蠭蠆有二｜-毒一之蟲」。

【蝙】ヘン。布玄切 [先]
｜蝠は、かうむり、かはほり、多く黄昏に飛揚す、別名は、仙鼠、服翼。〇[焦氏]「｜-蝠夜藏不二敢晝行一」。

【鯿】ヘン、ベン。蒲眠切 [先]
魚の名。

【蚴】イウ、ユ。於糾切 [尤]
龍蛇の貌にいふ字。〇[司馬相如]「驂二赤-螭青-虬之｜-蟉蜿-蜒一」。

【蝚】ジウ、ニユ。如由切 [尤]
螻-蛄(けら)の一種。〇[爾]「｜-蠪-螻」。

【蝚】
獶、猱に同じ、また。〇[司馬相如]「蛭-蜩玃-｜」。

【⿱艹蝹】ハン、ボン。防鋄切 [鑑]
はち、(蜂)。

【蝛】井。於非切 [微]
蛜｜は、おめむし、わらぢむし。

【蝜】フウ、ブ。扶缶切 [有]
㊀蟠-｜は、わらぢむし、おめむし。
㊁｜-蝂-蟲は、大いさ蜆の如くにして毒ある一種の蟲。
㊂｜蝂は、一種の蟲。〇[柳宗元]「｜-｜蝂者善負小蟲也、行遇レ物輒取卬二其首一負レ之、雖二困-劇一不レ止」。

【蝝】エン。與專切 [先] 兪絹切 [霰]
㊀蝗の子の翅の未だ生ぜざるもの、冬に生じ寒に死ぬ。〇[左]「冬｜生」。
㊁おほあり、(蜉-蚍)。

【蝝】
蠉に同じ、ぼうふり。

【[illegible]】
蠡に同じ。

【⿰虫勇】
蛹に同じ。

【蝞】ビ、ミ。明祕切 [寘]
龜の殼中に生ずる蝦に似たる小蟲、又、之を食へば顏色に愛媚を生ずといふより愛媚の義にいふ字。〇[唐]「挾二｜-道一」。

【螋】シウ、シユ。所鳩切 [尤]
㊀蛷｜は、はさみむし。〇[博雅]「蛷-｜蠼-蛷」。
㊁蠼｜は、一種の怪蟲、いさごむしの類。〇[酉陽雜俎]「蠼-｜短-狐」。

【蝟】井。于貴切 [未]
鼠に似たる一種の蟲、はりねずみ、毛の端兩岐に分かる、物に觸るれば毛刺攢まり起つと矢の如し。〇[漢]「反者如二｜-毛一而起」。

【蝠】フク、ホク。方六切 [屋]
㊀蝙｜は、かはほり。〇[爾]「蝙-｜服-翼」。
㊁蝮に通じ用ふ、まむし。〇[後漢]「｜-二蛇其心一縱二毒不-辜一」。

【螔】シ。式支切 [支] 施智切 イ。羊至切 [寘]
蛞｜は、よねむし。〇[爾]「蛞-｜強-蛘」。

【蝡】ゼン、ナン。而袞切 [銑] ジユン、ニユン。乳尹切 [軫]
㊀うごめく、(動)。〇[淮]「蠉-飛-｜-動」。
㊁蛇の一種。〇[山海經]「南-海之内黒-水青-水之閒、有二赤-蛇一在二木-上一、名曰二｜-蛇一木-食」。

〔惼蠈〕うごめく。○〔莊〕「——之蟲、肖翹之物」。
〔蠈蠈〕むしのうごめく貌にいふ語。○〔洪希文〕「——吳蠶生」。

【蝢】ケツ、ゲチ。奚結切〔屑〕
肹——は、月支の國の名。

【蝣】イウ、ユ。以周切〔尤〕
蜉の字を見よ。

【蝤】シウ、ジユ。自秋切〔尤〕
——蠐は、木の中に生ずる蟲、きくひむし、すくもむし、潔くして白しよりて以て美人の頸に譬へていふ字。○〔詩〕「領如二——蠐一」。

【蝤】シウ、シユ。即由切〔尤〕
——蛑は、海邊に生ずる一種の蟲、蟹に似て蟹より大し、がざみ。

【蝣】イウ、ユ。以周切〔尤〕
蜉——は、むらがりあつまりて生ずる一種の蟲、ごもくあぶらむし。○〔漢〕「蜉——出以レ陰」。

【蝥】ボウ、ム。莫浮切〔尤〕
蝥を食らふ蟲、物の根を食ふ蟲、民財を冒し取れば生ずといへり。○〔詩〕「及二其——賊一」。

【蝥】バウ、メウ。謨交切〔肴〕
蟹——は、はんめう。

【蝥】ブ、ム。亡遇切〔遇〕
蠡の名。

【蝥】ブ、ム。武夫切〔虞〕

【蝃】
蠅——は、くも。

【蝶】セツ、ゼチ。昨結切〔屑〕
——蝮は、小さき蟲、こむし。

【蝦】カ、ゲ。胡加切〔麻〕
㊀——蟆は、かへる。○〔史〕「月爲レ刑而相佐、見レ食二于——蟆一」。
㊁——蟆護は、鳥の名、みぞごゐさぎ。○〔酉陽雜俎〕「南山下有レ鳥名二——蟆護一」。
㊂一種の車。○〔南〕「帝遣二劉勔一西討レ之、作二大——蟆車一載レ土、牛皮蒙レ之推以塞レ塹」。
㊃——蛤は、獸の名。○〔司馬相如〕「格二——蛤一」。「——委蛇」。
㊄鰕に通じ用ふ、えび。○〔張衡〕「駮——」「——」。
〔丹蝦〕あかき色のえび。○〔洞冥記〕「有二——一長十丈鬚長八尺」。
〔佳蝦〕よきえび。○〔十三州志〕「池多二名蝦——」。
〔魚蝦〕うをとえびと。○〔韓愈〕「——」。
〔乾蝦〕ほしえび。○〔歐陽修〕「枯魚雜二——一」。〔日異レ飯〕。
〔收蝦〕えびをとる。○〔劉基〕「守卒——レ——屋後池」。

【蝆】ハウ、ビヤウ。蒲幸切〔梗〕
——蜳は、蛤に似たる一種の介蟲、きやらがひ、さゝのはがひ。○〔本草〕「——蜳馬刀」。

【蝧】エイ、ヤウ。於驚切〔庚〕
蜂の一種

【蝨】シツ、シチ。所櫛切〔質〕
動物の膚皮の垢に生じて皮膚を嚙む一種の小蟲、志らみ。○〔漢〕「搏二牛之蝱一、不レ可二以破レ——」。
〔蟣蝨〕志らみ。○〔漢〕「介冑生二——一」。

【蝘】エン。以淺切〔銑〕
蝘——は、げぢく。

【蝘】エン。夷然切〔先〕
蜓に同じ。

【蝩】チヨウ、ヂユ。直容切〔冬〕
蠶の晩く生ずるもの。

【蝩】シヨウ、シユ。諸容切〔冬〕
おほねむし、いなご（蝗）。

【蝪】タウ。吐郎切〔陽〕
蛈——は、つちぐも（蛭蟷）。

【蝫】
蠐に同じ。

【蝬】ソウ、ス。子紅切〔東〕
三——は、蛤の一種。

【蝭】テイ、ダイ。杜奚切〔齊〕
——蟧は、蟬の一種、なつぜみ、むぎわらぜみ。○〔揚雄〕「蛁蟧自レ關而東謂二之虭蟧一或謂二之——蟧一」。

【蝭】シ、ジ。常支切〔支〕

〔捫蝨〕志らみをとる。○〔晉〕「——而言」。
〔蚤蝨〕のみと志らみと。○〔荊〕「乃著二——一蝸蝨蝦蟇等賦一」。
〔羣蝨〕ればくの志らみ。○〔阮籍大人先生傳〕「——動二於褌中一」。
〔搔蝨〕志らみによりてかゆきをかくこと。○〔易林〕「——レ——生レ愁」。
〔狗蝨〕胡麻の異名。○〔本草〕「胡麻一名二——一」。
〔嚼蝨〕志らみをかみくだく。○〔齊東野語〕「野老「——」」。
〔口中蝨〕つぶしやすき罪をあらはすに用ふる語。○〔韓〕「以臨二東陽一則邯鄲——也」。

芪に同じ、はなすげ。○〔爾〕「——母藥草知母也」。

【蝮】フク、ホク。芳福切〔屋〕
蛇の一種、まむし、形長からずして頭扁く口尖りて毒劇し。○〔漢〕「——蠚レ手則斬レ手、蠚レ足則斬レ足」。
〔蛇蝮〕へびとまむしと。○〔周、註〕「鄭司農云、地所レ生惡物害レ人者、若二——一之屬一」。
〔毒蝮〕まむし。○〔癸辛雜識〕「或爲二——一所レ噛」。

【蝛】カン、ケン。許成切〔咸〕
蛤に似たる一種の介蟲、介扁くして毛あり、おきあさり、あこやがひ。○〔本草〕「——蜓一名生蜓又名二——蛤一」。

【蝯】エン、ヲン。雨元切〔元〕
猴の一種、てながざる。○〔爾〕「猱——善援」。

【蝰】ケイ、ケ。苦圭切〔齊〕
㊀蠶の蛹、さなぎ。
㊁虺——は、ひばかり。○〔本草〕「青——郎竹根蛇」。

【蝱】バウ、ミヤウ。武庚切〔庚〕
㊀動物の皮膚を齧み血を吸ふ一種の飛蟲、あぶ。○〔漢〕「蚊——背見」。
㊁一種の鳥。○〔博物志〕「崇丘山有レ鳥、一足一翼、相得而飛名曰レ——、見則吉、良乘レ之壽千歲」。
㊂莔に通じ用ふ、はゝくり（貝母）。○〔詩〕「陟二彼阿丘一言采二其——一」。
〔搏蝱〕あぶをうちたゝく。○〔史〕「愛レ牛者——」「搏二——」。
〔蟁蝱〕蚊とあぶと。○〔進〕「而——適足二以翔一」。
〔飛蝱〕蜜蜂の如き狀をなせる蟲の名、又、箭の名。○〔方言〕「箭三鐮長尺六者、謂二之——一」。

〔牛蝨〕あぶの一種。○〔小草〕「蝱一種名二蜫蝱一、亦名二——一」。

【蝺】ク、遇俱切 虞 グ。ギョウ、魚容切 冬 ゴ。

蝺——は、蟬に似たる一種の蟲、ぉぼせんむし。○〔酉陽雜俎〕「蝺——形如レ蟬、其子如レ蝦、著二草葉一得二其子一則母飛來就レ之」。

【蝳】トク、ドク。徒沃切 沃

——蜍は、くも。○〔爾疏〕「鼅鼄北燕、朝鮮洌水之閒謂二之——蜍一」。

【蝳】瑇に同じ。

【蝟】井。于貴切 未

蛒——は、はたおり、ぎッちよ。

【蝝】セン、ゼン。疾緣切 先

かひ、（貝）。

【蝸】ケイ、キヤウ。古迥切 迥

——蟰は、蛙に似たる小さき蟲、之に觸るれば腹を脹らす、一名は、胮肛。

【颿】フウ、フ。房中切 東

蟲の窟、あな。

【蟌】ソウ、ス。倉紅切 東

とんぼう、とんぼ、（蜻蜓）。○〔淮〕「蝦蟆爲レ鶉、水蠆爲レ——」。

【蝴】コ、グ。洪吾切 虞

——蝶は、かはひらこ、こてふ。○〔莊〕「其葉爲二——蝶一」。

【蝵】ジウ、シユ。七由切 尤

蝵——は、くも、（蜘蛛）。

【蝶】テフ、デフ。徒協切 葉

蠐螬（すくもむし）などの羽化せるもの、かはひらこ、てふてふ、こてふ。○〔莊〕「莊周夢爲二蝴——一」。

〔蝴蝶〕こてふ。○〔歐陽修〕「毎レ到二花開一如二——一」。

〔風蝶〕前に同じ。○〔古今注〕「蛱蝶一名二——一」。

〔戲蝶〕あそびとぶてふ。○〔岑參〕「——遊蜂亂入レ房」。

〔蜂蝶〕はちとてふと。○〔杜甫〕「飛々——多」。

〔雙蝶〕ふたつのてふ。○〔陸游〕「風定草頭——飛」。

〔雨蝶〕前に同じ。○〔韓愈〕「——飛翻々」。

〔素蝶〕白色のてふ。○〔温子昇〕「——向レ林飛」。

〔粉蝶〕前に同じ。○〔杜甫〕「風輕——喜」。

〔野蝶〕のはらに飛ぶてふ。○〔司空曙〕「戀レ花同二——一」。

〔彩蝶〕うつくしきいろのてふ。○〔盧綸〕「——戲二芳圃一」。

〔黄蝶〕きいろのてふ。○〔王建〕「野花——領二春風一」。

〔孤蝶〕ともなきてふ。○〔陸游〕「翩々——弄二秋光一」。

〔異蝶〕めづらしきてふ。○〔皮日休〕「——時似レ錦」。

〔狂蝶〕くるひとぶてふ。○〔陸游〕「——入二晝帷一」。

【蝷】レキ、リヤク。郎擊切 錫

螇——は、はたはた、はたおり。○〔爾〕「蟿螽螇——」。

【蝙】ヘン、ベン。房連切 先

——蝠は、すなおらみ、あすべ。○〔博雅〕「沙蝨——蝠一」。

【蝯】コウ、グ。戸鉤切 尤

蝯——は、やもり。○〔揚雄〕「守宮東齊海岱謂二之蝯——一」。

【蝦】コウ、グ。下遘切 宥

龍に似たる一種の水蟲。

【蝸】クワ、ケ。吉華切 麻

㊀——牛は、かたつぶり、でゞむし、一名は、陵螺、頭の形は蛞蝓に似て背に殼を負ふ、其の殼は、小さくして螺の如し。○〔莊〕「有二國於——牛之左角一者上」。「蠻」。

㊁媧に通じ用ふ。○〔禮〕「女——之笙」。

〔蝸螺〕にな、小螺。○〔郭璞〕「蝸螺——」。

【蝀】レン。郎甸切 霰

赤——は、蛇の一種、やまかゞち。

【蝹】井ン。紆倫切 眞 エン。縈緣切 先 ウン、於云切 文 ナン。

㊀龍蛇の貌にいふ字。○〔韓愈〕「山磨レ電奕々、水淬レ龍——」。

㊁蛇龍の行く貌にいふ字。○〔郭璞〕「神蝘——蝹以沉游」。

【蝹】アウ、オウ。烏皓切 皓

猿に似たる一種の蟲。○〔述異記〕「若レ羊非レ羊若レ豬非レ豬二童子曰此名レ——、以二松柏一穿二其首一則死」。

【蝴】コ、グ。洪孤切 虞

蜂の一種。

【蝵】蝵に同じ。

【蝰】チヤク。敕略切 藥

蟲の毒、一說に、いたむ、（痛）。

【蝱】カウ、コウ。呼酷切 皓

蝱に同じ。

【螆】蜥に同じ。○〔博雅〕「蠪——蜴也」。

【蝺】ク、コ。果羽切 虞

好き貌にいふ字。○〔呂氏春秋〕「惠子之言、——焉美無レ所レ用」。

【蝺】ウ、ヲ。王矩切 麌

せむし、くゞせ。○〔宋玉〕「旁行——僂」。

【蝥】ボウ、ム。莫侯切 尤

くも、（蜘蛛）。

【蝥】ボウ、ム。莫候切 宥

はさみむし、（蛷螋）。

【蝥】蝥に同じ。

十畫

【螂】蜋に同じ。

【螃】ハウ、バウ。歩光切 陽

——蟹は、蟹の一種、ごろがに。

【螃】ハウ、バウ。北朗切 養

陸に居る蝦蟆、ひきがへる。

【螄】シ。疏夷切 支

にな、（螺）。

【螑】キウ、ク。居雄切 尤

一本、宮に作る。

守ーは、やもり。

【螅】蟋に同じ。○〔逸周書〕「小暑之日又五日ー蟀居レ壁」。

【蟘】トク、ドク。徒得切 職 苗の葉を食らふ蟲。

【⿰虫茸】ジョウ、ニュ。如容切 冬 蟲の行く貌にいふ字。

【螇】ケイ、ガイ。胡雞切 齊 ㊀ーー螰は、蟬の一種、なつぜみ、むぎわらぜみ。○〔鹽鐵論〕「諸生獨不レ見二季夏之ーー一乎、音聲入レ耳、秋風而聲無」。㊁蚸の字の條を見よ。

【螈】ゲン、グワン。愚袁切 元 ㊀蠑の字の條を見よ。㊁蠶の一種。○〔淮〕「ー蠶一歲再收、非レ不レ利也、然而王法禁レ之者、爲二其殘一レ桑」。

【螉】ヲウ、ウ。烏紅切 東 烏孔切 董 ㊀蠓ー、蠮ーは、すがる、おがばち、こしぼそばち、細腰蜂。○〔揚雄〕蠭、燕趙之閒謂二之蠓ーー一、其小者謂二之蠮ーー一。㊁牛馬などの皮中に生ずる一種の細蟲。○〔梁簡文帝〕「控弦因二鵠血一、挽繣用二牛ーー一」。

【⿰虫孫】ソン。蘇昆切 元 蚟ーは、こほろぎ、いとど。○〔揚雄〕「蜻蛚、南楚謂二之蚟ーー一」。

【蛢】ケイ。古熒切 齊 ㊀ほたる（螢火）。㊁かいこのてふ（蛾）。

【⿰虫扇】セン。式戰切 霰 蠅などの翅を搖かすにいふ字。

【蛬】キョウ、グ。渠容切 冬 こほろぎ（蟋蟀）。

【蠊】レン、ロン。力鹽切 鹽 カン、ゲン。胡讒切 咸 蜚の字の條を見よ。

【螊】蝛に同じ。

【⿰虫宿】シュク、ソク。所六切 屋 蝍ーは、しやくとりむし（尺蠖）。

【⿰虫屖】チ、ヂ。陳尼切 紙 ひる（蛭）。○〔逸詩〕「佞人如レー」。

【螌】ハン、ヘン。逋還切 刪 ー蝥は、一種の毒蟲、はんめう、足黃色にして斑文あり、腹は鳥の如くにして喙尖れり。○〔神農本草經〕「秋食二豆花一、爲二ー蝥一」。

【螌】ハン、バン。蒲官切 寒 ー負は、あぶらむし。

【融】ユウ、ユ。以戎切 東 ㊀さく（銷）。○〔孫綽〕「ー而爲二川瀆一」。㊁やはらぐ（和）。○〔左〕「其樂ーー」。㊂ながし（長）。○〔揚雄〕「宋衞荊吳之閒曰二ー駿一、者長大也」。㊃あきらか（明）。○〔詩〕「昭明有レー」。㊄ほがらか（朗）。○〔左〕「明而未レー」。㊅東北の風、うしとらのかぜ。○〔左、註〕「東北曰二ー風一」。

〔祝融〕火を司る神の名。○〔禮〕「其神ーー」。
〔顯融〕あきらかなること。○〔成公綏〕「明々ーー」。
〔春融〕春の氣のやはらかにほがらかなること。○〔羅隱〕「ーー只恐乾坤醉」。
〔沖融〕やはらぐこと。○〔杜甫〕「和氣日ーー」。

【螏】シツ、ジチ。昨悉切 質 ー蟄は、むかで。

【⿰虫盍】カフ、コフ。古盍切 合 ー踏は、こあぶ。

【螐】ヲ、ウ。汪胡切 虞 ー蠋は、いもむし。

【螑】キウ、ク。輕幼切 宥 赳ーは、龍の頸を伸べて行く貌にいふ語。○〔史〕「沛艾赳ーー」。

【⿰虫桀】ケツ、ケチ。丘傑切 屑 タク、チヤク。陟格切 陌 土ーは、つちいなご。○〔爾〕「似レ蝗而小、今謂二之土ーー一」。

【⿰虫貨】サ。蘇果切 哿 蛣の字の條を見よ。

【⿱寒虫】カン。侯旰切 翰 身體黑色にして頭赤き一種の小蟲、一名は、莎雞。○〔爾〕「ー天雞」。

【蝹】俗の蝹の字。

【⿰虫賣】トク、ドク。敵德切 屋 禾を食らふ蟲。

【⿰虫尃】ハク。補各切 藥 ㊀ー蟭は、蟷蜋の卵、おほぢがふぐり。㊁かに（蟹）。

【螓】シン。匠鄰切 眞 蟬の一種、むぎわらぜみ、なつぜみ、其の額は廣く方にしてみめ好きより美人などの額に譬へいふ字。○〔詩〕「ー首蛾眉」。

〔胡螓〕おはいなる蠅。○〔夢溪筆談〕「又北人謂二大蠅一爲二ーー一」。

【⿰虫業】ソク。作木切 屋 蟲の集まれる貌にいふ字。

【螔】イ。弋支切 支 蝓の字の條を見よ。

【螔】シ。相支切 支 ー蝬は、蜥蜴に似たる一種の水蟲、ゐもり。○〔揚雄〕「守宮在レ澤者、海岱之閒謂二之ー蝬一」。

【螕】ヘイ。邊兮切 齊 ㊀だに、うしぶらみ（牛蝨）。㊁蚍に通じ用ふ。○〔漢〕「劉歆以爲レ蝝、ー蠹之有レ翼者」。

【螖】クワツ、グワチ。戶八切 黠 蟹の一種、あしはらがに。○〔韓愈〕「水漉雜二鱣ーー一」。

【螖】コツ、コチ。吉忽切 月

螺の一種。

【⿰虫氣】キ、ケ。許既切 未 蜻に似たる一種の蟲。

【螗】タウ、ダウ。徒郎切 陽 蟬の屬、なつぜみ。○[詩]「如レ蜩如レ—」。

【螘】ギ。語綺切 紙 蟻に同じ、あり。○[爾]「蚍-蜉大-—」。
(打螘) あかきまだらあるおほありの名。○[爾]「蠪—-—」。
(飛螘) 翅ありて飛ぶあり。○[爾]「螱—-—」。
(蚓螘) みゝずとありと。○[韓]「雲-龍霧-霽、而龍-蛇與ニ—-—一同矣」。

【蟣】蟻に同じ。

【螚】ダイ、ナイ。奴代切 隊 あぶ、(蝱)。○[淮]「兎-齧爲レ—」。

【螚】俗の能の字、すッぽんの屬。

【螚】トク、ドク。匿德切 職 螚に同じ。

【⿰虫高】ケウ。居表切 篠 むし、(蟲)。

【蝎】カツ、ガチ。何葛切 曷 蝸-—は、目を搖かし舌を出だすさ。○[漢]「蛭-蝮蝸-—、容以骫-麗兮」。

【螛】カツ、ゲチ。下瞎切 黠 けら、(仙-姑)。

【螜】コク。胡谷切 屋 ㊀けら、(螻-姑)。○[爾]「—天-螻」。㊁螘—は、すくもむし、(蠐-螬)。

【螝】クヮイ、エ。胡對切 隊 蠶の蛹、さなぎ。○[爾]「—蛹」。

【螝】キ。基位切 寘 ㊀前條に同じ。㊁虺に通じ用ふ、まむし。○[柳宗元]「—-蠶已毒不ニ以外肆一」。

【螞】バ、メ。莫下切 馬 —-蟥は、うまびろ。

【螟】ベイ、ミヤウ。莫經切 青 苗の心を食らふ一種の蟲、くきむし、蚜蚄に似たれども頭赤からず。○[詩]「去ニ其—螣一及ニ其蟊賊一」。
(焦螟) 蚊のまつげに巣をつくると稱する極めてちひさき蟲の名。○[列]「東-海有レ蟲、名曰ニ—-—一」。
(蟲螟) いなむし。○[李德裕]「—-—不レ生、嘉-穀以成」。
(飛螟) 空中をとぶいなむし。○[庾信]「—-—出レ境」。

【螠】イ。於賜切 寘 —-女は小さき黑き一種の蟲、頭赤し。○[爾]「蜆—-女」。

【螡】蚊に同じ。

【螢】ケイ、ギヤウ。戸扃切 青 エイ、ヤウ。于平切 庚 夜閒に飛行する腹の下に光りある一種の蟲、ほたる、耀夜、夜光。○[晉]「家貧不ニ常得一レ油、夏-日則練-囊盛ニ數-十-—火一、以照レ書」。
(螢囊) ふくろにいれあるはたる、又、はたるをふくろにいる。○[宋登春]「學レ字夜—レ—」。
(聚螢) はたるをあつむ。○[梁元帝]「晉人—レ—」。
(流螢) とびまはるはたる。○[王筠]「—-—漸收レ火」。
(飛螢) 前に同じ。○[何遜]「臨-外隔ニ—-—一」。
(捕螢) はたるを捕らふ。○[高觀國]「—レ—涼-夜歌-々月」。
(疎螢) まばらにとびちるはたる。○[梁簡文帝]「—-—簞-上飛」。
(野螢) のはらをとぶはたる。○[吳均]「窓-上—-—飛」。
(新螢) はつはたる。○[賈島]「二-熟—-—報ニ秋-信一」。
(羣螢) おほくのはたる。○[張秀明]「聚ニ—-—一而燭レ卷」。
(孤螢) ひとつのはたる。○[司空圖]「—-—出ニ荒-地一」。
(高螢) たかくとぶはたる。○[李洞]「—-—映ニ鶴-身一」。
(凉螢) すゞかぜのふきたる時のはたる。○[范成大]「—-—不ニ復聚一」。

【螣】トウ、ドウ。徒登切 蒸 チン。呈稔切 寢 龍に似たる蛇、雲霧を興こして其の中に遊ぶさいふ。○[荀]「—-蛇無レ足而飛」。

【螣】トク、ドク。徒得切 職 タイ、ダイ。徒耐切 隊 蝗の一種にして葉を食らふ蟲、はくひむし。○[詩]「去ニ其螟—一」。

【螹】セイ。征例切 霽 蝗の子。

【螸】ユ。弋主切 麌 六斛四斗。○[莊]「—-斛不ニ敢入ニ于四-竟一」。

【蚪】トウ、ヅ。徒口切 有 おたまじやくし、(蝌-斗)。

【蠡】レイ、ライ。郎計切 霽 ラ。盧戈切 歌 わる、こはす、やぶる、(割-破)。

【蜭】カン、ゴン。胡紺切 勘 うりむし、(瓜-蟲)。

【蟗】シウ、シユ。此由切 尤 次—は、くも。

【螯】ガウ、ゴウ。五高切 豪 蟹の一種。

【蟉】リウ、ル。力求切 尤 むし、(蟲)。

十一畫

【⿰虫家】ガイ、ゲ。五介切 卦 草木の葉を食らふ蟲。

【⿰虫區】ク、コ。香句切 遇 ウ、ヲ。王遇切 遇 かへりたてのかひこ、(幺-蠶)。

【⿱旋虫】セン、ゼン。似宣切 先 蜁に同じ。

【⿰虫逐】チク、ドク。直六切 屋 馬—は、やすで。

【⿰虫欲】ユ。兪戌切 遇 螽の飛ぶ貌にいふ字。

【螫】セキ、シヤク。施隻切 陌 ㊀蟲刺して毒を致す、さす、轉じて、害毒を致すにいふ字。○[史]「蝮—レ手則斬レ手」。㊁いかる、(怒)。○[史]「—ニ將-軍一」。

㊂害毒、苦痛。○〔易林〕「招レ殃來レ―」。○〔詩〕「自求二――一」。
〔辛螫〕むしなどのさして毒をいたすこと。
〔蜂螫〕前に同じ。○〔博物志〕「無レ所二――一、噬二草木一以泄二其氣一」。
〔噬螫〕猛獸毒虫などのかみつくとさすと。○〔北史〕「不二復――一」。
〔猜螫〕蟲などのはしいまゝにさすこと。○〔梅堯臣〕「腹毒將二――一」。
〔遺螫〕餘毒といふに同じ。○〔陸游〕「至レ今有二――一」。

【螬】サウ、ザウ。昨勞切 豪
蠐―は、すくもむし、きりむし、ぢむし、ねきりむし、乳齊、地蠶、應條。○〔莊〕「烏足之根爲二蠐―一」。
〔蠐螬〕すくもむし。○〔方言〕「――謂二之蟦一」。

【螭】チ。丑知切 支
㊀龍の屬にて黃色なるもの、一説に、角なき龍、又一説に、龍の雌、みづち、あまりやう。○〔漢〕「蛟龍赤―」。
㊁魑に通じ用ふ、獸の形をなせる山神。○〔左〕「以禦二―魅一」。
㊂摛に通じ用ふ、のぶ、しく。○〔揚雄〕「麗靡―レ燭」。
〔蟠螭〕わだかまりたるみづち。○〔馮璧〕「偃蹇如二――一」。
〔盤螭〕前に同じ。○〔曹植〕「下有二――一」。
〔伏螭〕かくれひそみたるみづち。○〔南都賦〕「其水蟲則有二蠳龜鳴蛇潛龍――一」。
〔奔螭〕はしれるみづち。○〔景福殿賦〕「赫如二――一」。「遊」。
〔虯螭〕みづち。○〔抱朴〕「大川淪濊、則――翠」。
〔蛟螭〕前に同じ。○〔蘇軾〕「大鼎千石烹二――一」。
〔鯨螭〕くぢらとみづちと。○〔薛道衡〕「深浪駭二――一」。

【螮】テイ、タイ。都計切 霽
㊀―蝀は、にじ。○〔爾〕「―蝀虹」。

㊁蜘蛛、くも。○〔揚雄〕「蜘大―小虛」。

【螯】ガウ、ゴウ。五勞切 豪
㊀車―は、おほはまぐり、其の殼は紫色にして鮮明なること玉の如し。○〔梁元帝〕「車―味高二食部一、名陳二物志一」。
㊁蟹の首上にある鉞の如き肢、はさみ。○〔晉〕「左手持二酒杯一、右手持二蟹―一」。
〔持螯〕蟹のはさみを手にもつ。○〔汪元量〕「登レ樓呼レ酒更―レ―」。
〔烹螯〕かにのはさみをにる。○〔梅堯臣〕「案レ杯―二蟹―一」。

【螰】ロク。盧谷切 屋
螇―は、むぎわらぜみ、なつぜみ。○〔爾〕「蜓蚞螇―」。

【蚶】カン、ゴン。下瞰切 感 胡紺切 勘
うりむし、(瓜蟲)。○〔齊民要術〕「灸二蠸樹瓜田四角一去レ―」。

【蚶】カン、ゴン。胡甘切 覃
桑の葉上に棲む一種の蟲、くはむし。

【𧒽】ヨウ、ユ。餘封切 冬
倏―は、一種の毒蟲。○〔郭璞〕「倏―拂レ翼而掣レ耀」。

【螲】チツ。陟栗切 質
螻―は、けら。○〔揚雄〕「螻―謂二之螻蛄一」。

【螲】テツ、テチ。丁結切 屑
―蟷は、蜘蛛に似て穴の中に居るもの、つちぐも。

【螳】タウ、ダウ。徒郎切 陽
―螂は、かまきり、いぼむし、不肬、齕蛘。○〔禮〕「仲夏―螂生」。

【螴】チン。池鄰切 眞 丑刃切 震
螴蜳の字の條を見よ。

【螵】ヘウ、ベウ。撫招切 蕭
螵蛸の字の條を見よ。

【蚷】キヨ、ゴ。强魚切 魚
蟝の字の條を見よ。

【蔟】ソク。作木切 屋
蝦の頭の上の距、けづめ。

【螷】ヒ、ビ。頻彌切 支
蚌の狹くして長きもの。

【蠯】ハウ、ビヤウ。白猛切 梗
蚌に通じ用ふ。

【螸】ユ。羊朱切 虞 ヨク。兪玉切 沃
蜂腹の垂れ下がりたること。○〔爾〕「逢醜―」。

【螹】セン、ゼン。慈染切 琰 セン、ゼン。才廉切 鹽
螹䗑の字の條を見よ。

【螺】ラ。盧戈切 歌
蠃に同じ、にな、ほらがひ、にし。○〔拾遺記〕「舟形似レ―」。
〔靑螺〕あをいろのほらがひ。○〔桂海虞衡志〕「――狀如二田螺一」。
〔田螺〕たにし。○〔本草〕「――生二水田中及湖瀆岸側一」。
〔文螺〕あやあるほらがひ。○〔拾遺記〕「酌以二――之巵一」。「皷」。
〔吹螺〕ほらがひをふきならす。○〔南〕「―レ―鼓」。
〔法螺〕佛寺に用ふるほらがひ。○〔王勃〕「鳴二――一而再唱」。
〔紫螺〕むらさきいろのほらがひ。○〔山海經〕「其中多二――一」。
〔香螺〕丹螺ともなづくる一種のかひ。○〔西京雜記〕「其女弟上二――巵一」。
〔蜒螺〕かたつむりの異名。○〔古今注〕「蝸牛――也」。
〔蓼螺〕たでの如きから味をふくむ貝の名。○〔本草〕「――生二永嘉海中一」。

【蜙】ショウ、シユ。七恭切 冬 ソウ、ス。祖叢切 東
小さき蜂、ぢがばち。

【螻】ロウ、ル。落侯切 尤
螻蛄の字の條を見よ。

【螻】ル。龍珠切 虞
天―は、けら、すくもむし。○〔爾〕「蟄天―」。

【螻】ロウ、ル。盧侯切 宥
內病む、やむ。○〔周〕「馬黑脊而般臂―」。

【螼】キン。弃忍切 軫
みゝず、(蚓)。○〔爾〕「―蚓蜸蠶」。

【螽】シウ、シユ。職戎切 東
㊀いなご、いなむし、(蝗)。○〔爾〕「蛗―蠜」。
㊁―斯は、はたおり。○〔詩〕「―斯羽」、
〔草螽〕はたく。○〔爾〕「――負蠜」。

〔螽蝑〕 前に同じ。○〔爾〕「――蜙蝑」。「土蝶」。
〔土螽〕 つちいなご。○〔釋蟲、疏〕「――今謂之

【[虫康]】 カウ。苦岡切 陽
――蜙は、さんぼう。○〔揚雄〕「蜻-蛉淮-南人呼爲二――蜙一」。

【蜼】 雖に同じ、蟲の名。

【[虫舂]】 シヨウ、シユ。書容切 冬
――黍は、はたおり（蜙-蝑）。

【[虫魚]】 ギヨ、ゴ。牛居切 魚
しみ（蠹-魚）。

【[虫戚]】 セキ、シヤク。倉歷切 錫

シユク、ソク。七六切 屋
蟾蠩の異名。

【[虫覓]】 ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
蟚の字の條を見よ。

【[虫遲]】 チ、ヂ。直尼切 紙
蟲の子。

【螾】 イン。翼眞切 眞
❶つくつくぼうし（寒-螿）。❷みゝず（螾）。○〔賈誼〕「蝦與二蛭――一」。

【螾】 イン。羊進切 震
蚓に同じ、みゝず。○〔史〕「黃-龍地――」。

【螺】 蟟に同じ。

【螿】 シヤウ、サウ。即良切 陽
蟬の一種、つくつくぼうし。○〔方言、郭註〕「寒-蜩―也」。
〔蟪蛄〕 なきたつるつくつくぼうし。○〔皮日休〕「――褰-葉共翻-々」。

【蟀】 シユツ、シユチ。所律切 質
蟋――は、こほろぎ、きりぎりす、蝗に似て蝗より小さく色まくろにして光澤漆の如し。○〔詩〕「蟋――在レ堂、歲聿其莫」。

【蟦】 サク、シヤク。側革切　セキ、シヤク。資昔切
陌
小さき貝、こがひ。○〔爾〕「――小而橢」。

【蟁】 古文の蚊の字。○〔漢〕「聚――成レ雷」。

【蟂】 ケウ。古堯切 蕭
蛇の如くにて四足あり人を害する水蟲。○〔賈誼〕「偭二――獺一以隱、處兮」。

【[虫京]】 リヤク、ラク。力灼切 藥
蝨――は、ごもくあぶらむし、かげろふ。

【蟃】 バン、マン。無販切 願
❶蟃蛉蟲あをむし、くはむし。○〔詩、疏〕「俗謂二之桑――一」。
❷――蜒は、貍に似たる一種の獸。○〔司馬相如〕「――蜒大、獸似レ貍、長百尋」。

【蟄】 チフ、ヂフ。直立切　シフ。質入切 緝
❶靜處に藏伏す、かくろ。○〔易〕「龍-蛇之―以存レ身也」。「孫――」。
❷和ぎ集まる貌にいふ字。○〔詩〕「子-」
〔鷄蛩〕 節の名。○〔汲冢〕「――之日桃始華」。

【䗪】 シヤ、之夜切 禡　セキ、シヤク。之石切
陌 チヤク。張略切 藥
おめむし（鼠-婦）、あぶらむし（負-蠜）。――一に、蟅に作る。

【蟍】 ソク。蘇谷切 屋
蟍――は、一種の蟲。

【蟆】 バ、マ。莫霞切 麻
蝦――は、かへろ、蝦の字の條を見よ。○〔易〕「穴有二狐-鳥、坎生二蝦――一」。
〔蠻蟆〕 かへるの一種。○〔爾、註〕「――蛙類」。

【蟆】 バク、マク。末各切 藥
蚊の如き小さき蟲の名、聚まりて肌を齧みて痕を作す。

【蟇】 蟆に同じ。

【蟈】 カク、キヤク。古獲切 陌
螻――は、色青く小形にて長肢ある蛙。○〔禮〕「螻――鳴」。

【蟉】 リウ、力幽切 尤　キウ、渠尤切 尤
ル。 グ。
❶蟉――は、龍蛇の貌にいふ語。○〔司馬相如〕「蟉――蜿-蜒」。
❷蟉――は、蛇龍の行き動く貌にいふ語。○〔漢〕「青-龍蟉二――于東-廂一」。
〔蟉蟉〕 龍蛇などのわたかまるにいふ語。○〔韓愈遠遊聯句〕「鬼-魅暫出-沒、蛟-螭互――」。

【蟉】 レウ。力弔切 嘯
蜩の字の條を見よ。

【[虫習]】 シフ。席入切 緝
蟲の貌にいふ字。

【[虫習]】 イフ。弋入切 緝
――蝓は、ほたる（螢-火）。

【蟊】 ボウ、ム。謨蓬切 東
蝥に同じ。

【蟊】 ボウ、ム。謨蓬切 東
龜の兆に氣の澤はざるを。○〔書〕「圛曰レ―」。

【蟋】 シツ、シチ。息七切 質
蟀の字の條を見よ。

【[虫連]】 レン。陵延切 先
蜷――は、蟲の盤曲（わだかまる）貌にいふ語。

【[虫連]】 レン。力健切 願
赤――蛇は、やまかゞし。

【蟱】 ボウ、ム。亡遇切 遇
――蛛は、はさみむし。○〔博雅〕「蛛-蝥――蛛也」。

【蟌】 ソウ、ス。倉紅切 東
さんぼ（蜻-蛉）。○〔淮〕「水-蠆爲レ――」。

【蟌】 シ。七賜切 寘
けむし（毛-蟲）。

【[虫族]】 ソク。作木切 屋
蟲の集まる貌にいふ字。

【[虫憂]】 ボウ、ム。名侯切 尤
――蟌は、さんぼ。○〔淮〕「水-蠆爲二――蟌一」。

【𧒂】シウ、シユ。職戎切 [東]
螽に同じ、いなご。〇〔申培〕「—斯美二周室多一レ男之詩」。

【𧒂】シウ、シユ。之仲切 [送]
—蛉は、けら。〇〔揚雄〕「螻蛄謂二之—蛉一」。

【蟒】バウ、マウ。模朗切 [養] 母堂切 [陽]
最大の蛇、をろち、うはばみ。〇〔爾、註〕「—蛇最大者故曰二王蛇一」。
〔巨蟒〕をろち。〇〔方回〕「風腥——過」。「—こ。
〔修蟒〕たけながきをろち。〇〔蘇軾〕「徑轉如二—」
〔蟠蟒〕わだかまりたるをろち。〇〔桑欽〕「鳥獸有二鳳·鶴·鵲·烏·龍·虎·象·犀·獅·子·馬·牛·麋·駝·—·—·猿·猴·六·小·四·十·有·三一」。「林·書·黑」。
〔毒蟒〕どくあるをろち。〇〔劉克莊〕「———噴時」
〔怪蟒〕あやしきをろち。〇〔王閒〕「——呼二入姓一」

【蠎】猛に同じ。

【蟓】シヤウ、ザウ。徐兩切 [養]
シヤウ、サウ。式亮切 [漾]
かひこ（蠶）。〇〔爾〕「—桑繭」。

【蟔】ボク、モク。密北切 [職]
蟲の一種、いらむし。

【蠘】エツ、チチ。王伐切 [月]
蟚—、蟛—は、蟹の一種、あしはらがに。〇〔晉〕「或至二海邊一採二蟛—一以資レ養」。

【蠵】スヰ。津垂切 [寘]
—蠵は、瑇瑁の屬、ぶやうがくぼう、うみがめ。〇〔本草〕「—蠵生二海邊一」。

【蟴】シ。息移切 [支]
蛅—は、いらむし。〇〔爾〕「蟔蛅—」。

【蟗】シウ、シユ。七由切 [尤]
次—は、くも。〇〔爾〕「次—鼅鼄」。

【蟘】トク、ドク。徒得切 [職]
苗の葉を食らふ蟲。〇〔爾〕「食レ葉—」。

【蟙】シヨク、シキ。之翼切 [職]
㊀—蠌は、かはほり。〇〔爾〕「齊人謂二之—蠌一、或謂二之仙鼠一」。
㊁蟹の一種。〇〔本草〕「蟹殼闊而多レ黃者名レ—」。

【蟚】ハウ、ビヤウ。薄庚切 [庚]
—蜞は、ごろがに、—螖は、あしはらがに。

【蟜】ケウ。居夭切 [篠]
蟲。〇〔枚乘七發〕「蚑—蠖蟻開レ之挂レ喙而不レ能レ前」。
〔夭蟜〕(い)龍の貌にいふ語。〇〔王逸〕「旁——以横出」。(ろ)頻りに伸ぶ。〇〔漢〕「——才格」。

【蟜】ケウ、ゲウ。巨嬌切 [蕭]
龍—は、あり。
〔有蟜〕古の諸侯の名。〇〔國〕「少典娶二于有—氏一」。

【蟝】キヨ、ゴ。強魚切 [魚]
蠷に同じ。

【蝩】シヨウ、シユ。諸容切 [冬]
蝑—は、おほれむし、いなご。〇〔漢、註〕「師古曰、蝗今俗呼爲二蝑—一」。

【蟍】リ。良脂切 [支]
黎に同じ。

【蟞】ヘツ、ベチ。蒲結切 [屑]
—蜉は、あり。

【蟞】ヘツ、ヘチ。必結切 [屑]
㊀—蛈は、てふ。〇〔博雅〕「蛺蝶——蛈」。
㊁羌の名。〇〔後漢〕「羌斷尾摩—等」。

【蟟】レウ。落蕭切 [蕭]
むぎわらぜみ、なつぜみ。

【蟠】ヘン、バン。附袁切 [阮]
甕器の底に生ずる蟲、わらぢむし。〇〔爾〕「—鼠負」。

【蟠】ハン、バン。蒲官切 [寒]
—盤に通じ作る。
わだかまる。
(い)ふす（伏）、かゞむ（屈）まがる（曲）。〇〔揚雄〕「龍—二于泥一」。
(ろ)つむ（委）。〇〔禮〕「夫禮樂之極二乎天一而—二乎地一」。
〔泥蟠〕どろのなかにかゞむ。〇〔杜甫〕「高臥豈——」。
〔潛蟠〕ふしかゞむ。〇〔宋〕「——或躍レ淵」。
〔屈蟠〕かゞむ。〇〔歐陽修〕「古木參レ天枝——」。

【蟡】キ。過委切 [紙] 井。於爲切 [寘]
涸水の精、其の形は蛇の如くにて一頭兩身なるものをいふ。〇〔管〕「涸川之精者生二于—一」。

【蟢】キ。虛里切 [紙]
さゝがに、あしたかぐも（蠨蛸）。〇〔曹植〕「得レ—者莫レ不二訓而放一レ之、爲二其利一レ人也」。

【蟣】キ、擧豈切 [尾] ケ。居希切 [微]
蝨の子。〇〔沈約〕「蓄二素—于玄冑一」。

【蟣】キ、ゲ。渠希切 [微]
ひる（蛭）。〇〔爾〕「蛭—」。

【蟤】セン。莊緣切 [先]
龍蛇の自ら迫促する貌にいふ字、かゞまる、まがる、わだかまる。〇〔王逸〕「龍屈兮蜿—」。

【蟤】セン。茁撰切 [銑]
蟲の伸びざる貌にいふ字、かゞまる。

【𧓄】シン。即刃切 [震]
蛤の一種。

【蟥】クワウ、ワウ。胡光切 [陽]
㊀蟠—は、こがねむし。
㊁馬—は、ひる。

【蟦】ヒ、ビ。符非切 [微]
㊀くらげ（水母）。
㊁蠐蟦、すくもむし。

【蟦】ホン。逋昆切 [元]
かき（蠣）。

【蟧】ラウ、ロウ。魯刀切 [豪]
㊀螺の一種。〇〔爾〕「螖蠌小者—」。
㊁蝭—は、むぎわらぜみ、なつぜみ。〇〔揚雄〕「蛥蚗自レ關而東謂二之蝭—一」。
〔蚼蟧〕むぎわらぜみ。〇〔方言〕「蛥蚗自レ關而東、謂二之——一」。
〔蝒蟧〕あきぜみ。〇〔方言〕「——謂二之蓋蜩一」。
〔蟟蟧〕前に同じ。〇〔博雅〕「——蛁蟟也」。

【蟩】 蟨に同じ。

【蟨】 ケツ、クチ。居月切 [月]

獸の名。○〔爾〕「西方有比肩獸焉、與邛々岠虛比、爲邛々岠虛嚙甘草、卽有難、邛々岠虛負而走、其名謂之蟨」。

【蟨】 キ。居胃切 [未]

ねずみ(鼠)。

【蟩】 ケツ、クチ。居月切 [月]

━蛪は、井中の蟲。○〔晉〕「羽族翔林、蟩蛪赴瀉」。

【蠉】 クワン。古玩切 [翰]

にな(螺)。

【蟚】 ヨク、イキ。與職切 [職] イ。羊異切 [寘]

むし(蟲)。

【蟬】 クワ、ケ。戸花切 [麻]

大蛇、をろち。

【蟸】 サイ、セ。取外切 [泰] セイ、セ。此芮切 [霽]

むし(蟲)。

【螅】 ケイ、エ。胡桂切 [霽]

蛄の字の條を見よ。

【蟜】 イツ、イチ。餘律切 [質]

━蟥は、こがねむし。

【蠭】 ホウ、ブ。蒲蠓切 [東] 補孔切 [董]

蟲の亂れ飛ぶ貌にいふ字。

【蟞】 トン。他昆切 [元] テン。他典切 [銑]

蝸の字を見よ。

【蟫】 イン。餘針切 [侵] タン、ドン。徒南切 [覃]

衣書中に生ずる蟲、しみむし、しみ、きらむし、白魚。○〔爾〕「━始則黃色、既老則身有粉、視之如銀、故名白魚」。

【蟳】 シン、ジン。徐心切 [侵]

動く貌にいふ字。○〔後漢〕「蟳々━━」。

【蟬】 セン、ゼン。市連切 [先]

㊀復育(にしやどつち)の蛻けて翅を生じたるもの、せみ、春末より秋初の間多く樹陰にありて鳴く。○〔大戴禮〕「━飲而不食」。

㊁━嫣は、つらなる、つゞく。○〔漢〕「有周氏之━嫣兮、或鼻祖于汾隅」。

㊂車の名。○〔鹽鐵論〕「推車之━攫、負子之教也」。

㊃嬋に通じ用ふ、うつくし。○〔成公綏〕「蔭脩竹之━蜎」。

(鳴蟬) なくせみ。○〔杜甫〕「森木亂━━」。
(秋蟬) あきせみ。○〔范成大〕「落日━━滿四山」。
(蹉蟬) なかざるせみ。○〔本草〕「不鳴者曰━━」。
(亂蟬) いたくなきたつるせみ。○〔趙嘏〕「搖頸重入━━聲」。
(蝸蟬) せみ。○〔蘇轍〕「古木噪━━」。
(馬蟬) おほせみ。○〔爾註〕「蝦中最大者爲━━」。
(高蟬) たかきところにとまりてあるせみ。○〔晉〕「━━遠乎輕陰上」。
(蚱蟬) なかざるせみ。○〔本草〕「━━生楊柳上」。
(暗蟬) 前に同じ。○〔韓愈〕「━━終不鳴」。
(枯蟬) せみのぬけがら。○〔本草〕「蟬蛻釋名━━」。
(晝蟬) 日中になくせみ。○〔吳均〕「━━已傷念」。
(林蟬) はやしのうちにゐるせみ。○〔沈君攸〕「━━候節鳴」。
(涼蟬) すゞしげになくせみ。○〔江總〕「澗戸聽━━」。
(靑蟬) ひぐらしせみ。○〔李賀〕「━━獨噪日光斜」。
(噪蟬) 聲かまびすしくなくせみ。○〔趙嘏〕「━━亂日初曛」。

【蟺】 セン、ゼン。上演切 [銑]

蜿━━は、舞ひて盤曲する貌にいふ語、又、聳りたる蛟の形にいふ語。○〔王逸〕「乘六蛟兮蜿━」。

【蟓】 ショ、ゾ。舒呂切 [語]

蟠━━は、おめむし、わらぢむし。○〔本草〕「鼠婦一名蟠━」。

【螷】 チ、ウ。汪胡切 [虞]

甲蟲、こがねむし。

【蟿】 シ。七賜切 [寘]

さそり(蠍)。

【蟦】 ホク、ボク。蒲木切 [屋] ホウ、ブ。蒲候切 [宥] 縛謀切 [尤]

━蟦は、小さき蟲、こむし。

【蟤】 ホク、ボク。蒲沃切 [沃]

━蠃は、にな。

【蟥】 ハク、ホク。匹角切 [覺]

蛇の屬。

【蟒】 リン。良刃切 [震]

ほたる(螢火)。

【蟭】 セウ。郞消切 [蕭] シウ、シユ。將由切 [尤]

蟭━━は、おほぢがふぐり。

【蟮】 セン、ゼン。上演切 [銑]

みゝず(曲蟮)。

【蠀】 デイ、チウ。乃定切 [徑]

蟬に似たる一種の蟲。

【蟰】 蟰に同じ。

【蟯】 ゼウ、チウ。如招切 ゲウ。倪幺切 [蕭]

腸の中になりて病ひをなす短蟲、はらのむし。○〔史〕「━瘕爲病」。

【蟲】 漫に同じ。

【蟈】 シユク、ソク。子六切 [屋]

蝍━━は、むやくさりむし。

【蠨】 セウ。蘇凋切 [蕭] シユク、ソク。息逐切 [屋]

━蛸は、あしたかぐも。

【蟱】 ボウ、ム。迷浮切 [尤]

蛑━━は、くも。○〔本草〕「蜘蛛一名蛑━」。

【蟲】 チウ、ヂユ。直弓切 [東]

㊀足ある動物の總稱、むし。○〔大戴禮〕「二九十八、八主風、風主蟲、故蟲八月化也」。

㊁あつし(熱)。○〔詩〕「蘊隆━━」。

(華蟲) 雉の異名。○〔書〕「山龍━━」。
(草蟲) くさはらに棲むむし。○〔詩〕「喓々━━」。
(蟄蟲) あなをもれるむし。○〔禮〕「孟春之月、━━

—始振」。
〔昆蟲〕むし。○〔漢成帝紀〕「草木—、—、咸得₂其所₁」。
〔夏蟲〕なつのむし。○〔莊〕「—不₂可₃以語₂冰者、篤₂於時₁也」。
〔羽蟲〕鳥のこと。○〔關尹子〕「—盛者、毛蟲不₂育」。
〔廉蟲〕ちひさきむし。○〔列〕「江浦之閒生₂—」。
〔狡蟲〕わるづよき獸。○〔淮〕「—死、顓民生」。
〔吟蟲〕ふしをかしくなくむし。○〔梁簡文帝〕「—繞₂砌鳴」。
〔夜蟲〕よるのむし。○〔韋莊〕「詩₂擾吟₂—」。
〔怪蟲〕あやしきむし。○〔山海經〕「衆余之山、其中多₂怪蛇—」。
〔生蟲〕いきもの○〔竹書紀年〕「鳳凰不₂食₂—」。
〔陰蟲〕蝦蟆。○〔孫綽〕「—承₂澁」。
〔步屈蟲〕尺蠖の異名。○〔方言〕「尺蠖又名₂—」。
〔齊女蟲〕せみの異名。○〔事類賦〕「伊—之微—」。

【蟲】 蚰に同じ、むしばむ。

【蟲】 トウ、ヅ。徒冬切 冬
ふすぶ（薰）。○〔羣經音辨〕「蘊隆—」。

【蟳】 シン、ジン。徐林切 侵
かざみ、かざめ（蝤蛑）。

【蟸】 テン。寵戀切 霰
うさぎあみ（兎罝）。

【蠧】 ト、ツ。都故切 遇
木の中の蟲、きくひむし。

【蟨】 ケン、コン。況袁切 元
蟲の行くにいふ字、はふ、又、蟲のさぶにいふ字、さぶ。

【蟂】 サウ、セウ。蘇到切 號

ひぜんがさ（疥）。

【蠕】 蠕に同じ。○〔北涼錄〕「送₂女歸₂於蝚—」。

十三畫

【蟶】 テイ、チヤウ。丑貞切 庚
蚌の一種、まて。

【蟷】 タウ。都郞切 陽
㊀—螂は、かまきり、いぼむしり。○〔爾〕「不過—螂」。
㊁蟷—は、つちぐも。

【蠡】 蠡に同じ。○〔漢〕「谷蠡王亦作₂谷—」。

【蟺】 キヤウ、カウ。居良切 陽
蠶の白くなり死するにいふ字、しらこ。

【蟹】 カイ、ゲ。胡買切 蟹
八足にして二つの螯をもち仄行する蟲、かに。○〔周、註〕「仄行—屬」。
〔蝦蟹〕えびとかにと。○〔北〕「夏四月庚午、詔禁₂取₂—蜆蛤之類」。
〔嗜蟹〕かにをくふことを好む。○〔雜志〕「性—」。
〔乾蟹〕はしたるかに。○〔筆談〕「衆人家收得₂一—」。
〔糟蟹〕かすづけのかに。○〔楊萬里〕「江西趙漕子直餉₂—」。
〔魚蟹〕うをとかにと。○〔王安石〕「人閒—不₂論₂錢」也」。
〔蠏蟹〕ちひさきかに。○〔玉篇〕「䗉方武切、—」。
〔雄蟹〕をがに。○〔玉篇〕「䲆鱧—也」。
〔虎蟹〕虎の如きあやあるかに。○〔嶺表錄異〕「—殼上有₂虎斑₁」。
〔巨蟹〕おほいなるかに。○〔蟹譜〕「釋典云、十二星宮有₂—鷄」。
〔紫蟹〕むらさきいろをおびたるかに。○〔方岳〕「白魚如₂玉—肥」。
〔釣蟹〕つりあげたるかに、又、かにをつる。○〔方岳〕「舴舟容₂—」。
〔霜蟹〕ときのおくれる時節のかに。○〔蘇軾〕「—初有₂味」。
〔寄居蟹〕やどりがに。○〔本草〕「蟹居₂蚌腹₁者蟬奴也、又名₂—」。
〔香蟹〕酒の稱。○〔載莊〕「—且同斟」。

【蠢】 蛾に同じ。

【蟺】 セン、ゼン。常演切 銑
㊀蛩—は、みゝず。○〔博雅〕「蛩—引無也」。
㊁龍蛇のわだかまれる貌にいふ字。○〔嵇康〕「蛩—相糾」。

【蟺】 蟬に同じ。○〔賈誼〕「形氣轉續兮變化而₂—」。

【蟺】 タン、ダン。徒案切 翰
土蜂、ゆするはち。○〔本草〕「土蜂巴楚閒、呼爲₂—蜂₁」。

【蟺】 タ。唐何切 歌
蜥蜴に似たる水蟲。

【蟻】 ギ。魚倚切 紙
㊀春より秋にかけて食を貯へ冬は垤中に蟄する小蟲、あり。○〔晉〕「聞₂床下—動₁」。
㊁色の玄なること。○〔書〕「麻冕—裳」。
㊂酒膏、さけのあぶら。○〔張衡〕「浮—若₂萍」。
〔螻蟻〕あり。○〔史〕「何異₂—」。
〔貯蟻〕ありをたくはへをさむ。○南方草木狀「交趾人以₂席囊₂—」。
〔巨蟻〕おほいなるあり。○〔後趙錄〕「剖₂之有₂蟲如₂—」。
〔羣　〕おほくのあり。○〔沈亞之〕「若₂負₂垤之—

【蟼】 ケイ、キヤウ。居影切 梗　カ、古牙切 麻　ケ。切
蝦蟇。○〔急就篇、註〕「蝦蟇一名—、大蟆而短脚」。

【蟾】 セン、ソン。職廉切 鹽
㊀蚵蟆、ひきがへる、蜍の字の條を見よ。○〔抱朴〕「聚₂—爲₂戲」。
㊁月。○〔劉禹錫〕「聰—夜通」。

【螫】 ケイ、ガイ。詰計切 霽
—螽は、はたく。○〔爾〕「—螽蜙蜥」。

【蟼】 ケイ、カイ。吉詣切 霽
蛙の一種。

【蟺】 オク、イキ。於力切 職
小さき蜂。○〔博雅〕「蟺—也」。

【蟦】 シ。取私切 支
㊀蝎の化したるもの。㊁蚩に同じ。

【蟦】 蝍に同じ。

【蠁】 キヤウ、カウ。許兩切 養
㊀聲を知るといふ一種の蟲。
㊁肸—は、盛んに作る、おこる。○〔司馬相如〕「肸—布寫、晻薆咇茀」。
㊂—曶は、すみやか、はやし。○〔揚雄〕「昭光振耀—曶如₂神」。

【蠁】 キヤウ、カウ。許亮切 漾
㊀さなぎ（蛹）。○〔爾〕「國貉蟲—」。
㊁にしやごっち（土蛹）。

【蠂】セフ。失涉切 [葉] いなご、いなごむし、(蝗)。

【蠃】ラ。郎果切 [歌] ㊀蚌の屬、にな。○〔易〕「爲レ—爲レ蚌」。㊁魚の名。○〔山海經〕「濛‐水多二—魚一」。

【蠃】ラ。郎果切 [哿] 蜾—は、おほがばち。○〔詩〕「蜾—有レ子」。

【蠃】クワ、ケ。古火切 [哿] —輣は、喪服のさき乘る車。

【蟋】シツ、シチ。色櫛切 [質] —蟀は、こほろぎ、(促‐織)。

【蠅】ヨウ。余陵切 [蒸] ㊀蛆(うじ)の羽化したるもの、はへ。○〔詩〕「營‐々蒼—」。㊁—虎は、はへとりぐも、さらぐも、○〔古今注〕「—‐虎、蠅‐狐也、形似二蜘蛛一而色灰‐白、善捕レ—」。

(青蠅) あをばへ。○〔詩〕「營‐々—‐—」。

(飛蠅) とびさるはへ。○〔歐陽修〕名‐譽過レ耳如二—‐—一。

(逐蠅) はへをおひちらす。○〔魏〕「思悉‐怒 自起「—レ—」。

(晝蠅) ひるまあらはれいづるはへ。○〔韓愈〕「—‐—食‐案繁」。

(朝蠅) あさのうちのはへ。○〔韓愈〕「—‐—不レ須レ「驅」。

(撲蠅) はへをたゝく。○〔張耒〕「槃‐飧厭二—‐—一」。

【蝸】クワ。古臥切 [箇] 不—は、いぼむしり、かまきり。

【蠆】タイ。丑犗切 [卦] タツ、他達切 [曷] タチ。切 ㊀螫す蟲、はち、さそり、ぜんかつ、其の尾に芒ありて人を螫す。○〔魏〕「彭‐城夫‐人夜之レ厠、—螫二其手一」。㊁帶に通じ用ふ、さげ。○〔張衡〕「睚‐眦—芥」。

(蜂蠆) はち。○〔國〕「—‐—皆能害レ人」。

(蝮蠆) まむしとはちと。○〔揚固〕「汝非二—‐—一毒何厚兮」。

【蠣】蠇の本字、又、蠆に同じ。

【蠈】ソク、ゾク。疾則切 [屋] 禾の節を食らふ蟲。

【蠭】ヨウ、ユ。於容切 [冬] 蛘。

【蠉】ケン。許緣切 [先] 馨兗切 [銑] ㊀蟲の行く貌にいふ字、はふ。㊁孑孑、ぼうふり。○〔爾註〕「井‐中小‐赤‐蟲也、一‐名蜎、一‐名—」。

【蠊】レン、ロン。離鹽切 [鹽] 飛—は、つのむし、あぶらむし。

【蠞】ショク、シキ。所力切 [職] むし、(蟲)。

【蠋】チョク、直錄切 ショク、尺玉切 [沃] ドク。切 ソク。切 蠶に似たる蟲、いもむし。○〔詩〕「蜎‐々者—」。

(蠶蠋) かひこといもむしと。○〔管〕「欲レ小則化「如二—‐—一」。

(蠹蠋) まめのうちにゐるあをむし。○〔莊〕「奔‐蠭不レ能レ化二—‐—一」。

【蠌】タク。場伯切 [陌] タク、達各切 [藥] ダク。切 あしはらがに、(蟧)。○〔爾〕「蟧—小者蟧」。

【蝘】エン。以淺切 [銑] 蜓—は、蟲の形にいふ語。

【蠍】ケツ、ゲチ。許竭切 [屑] さそり、ぜんかつ、(主‐簿‐蟲)。○〔北〕「綽好取レ—將レ蛆混極レ樂」。

【蠱】螽に同じ、いなむし、いなご。

【蠽】螽に同じ。

【蠹】テン。知衍切 [銑] むし、(蟲)。

【蟒】蟒に同じ。

【蝒】ベン、メン。迷連切 [先] —蟧は、うまぜみ、(馬‐蜩)。

十四畫

【蠏】蟹の本字。

【蠐】セイ、ザイ。前西切 [齊] 蠐と蠐との字の條を見よ。

【蠕】クン、コン。許云切 [文] むし、(蟲)、一說に、蟲の暖きときに生じたるもの。

【蠖】井。以醉切 [寘] 蝱の小さきもの、こあぶ。○〔國〕「譬レ之如二牛‐馬處‐暑之既至、蝱—之既多、而不レ能レ掉二其尾一」。

【蠷】テン。澄延切 [先] 蠦—は、やもり。○〔揚雄〕「守‐宮秦晉謂二之蠦—一」。

【蠑】エイ、ヤウ。永兵切 [庚] —螈は、やもり。○〔揚雄〕「守‐宮南楚謂二之蛇‐醫一、或謂二之—‐螈一」。

【蠙】ヘン、部田切 [先] ヒン、符眞切 [眞] ベン。切 ビン。切 蚌の異名。○〔莊〕「得二水‐土之際一則爲二蛙—之衣一」。

【蠔】デイ、ニヤウ。乃挺切 [迥] 蛙に似たる蟲。

【蠓】ボウ、莫孔切 [董] ム。切 莫紅切 [東] ㊀蚋の如き亂飛する一種の小蟲、かつをむし。○〔列〕「春‐夏之月有二—‐蚋者一、因レ雨而生、見レ陽而死」。㊁—蠮は、はち。○〔揚雄〕蠭、燕趙之閒謂二之—‐蠮一。

【蠔】カウ、ゴウ。乎刀切 [豪] かき、(蠣)。○〔韓愈〕「—相黏爲レ山、百‐十各自生」。

【蠕】ゼン、ナン。而宣切 [先] 微しく動く、うごめく。○〔荀〕「端而言、—而動」。

【蠕】ジュ。汝朱切 [虞] 蟲の行く貌にいふ字、はふ。

【蠟】レフ。良涉切 [葉] 蟲の行く貌にいふ字、はふ。

【蠖】ワク。烏郭切 [藥] ㊀屈伸して行く一種の蟲、尺とりむし

むし、蝍蛾。○〔易〕「尺—之屈」。㊁—濩は、退き藏るゝ貌にいふ語。○〔揚雄〕「淵-蜎—濩之中」。㊂—略は、進み止まる貌にいふ語。○〔漢〕「—略委-麗」。

〔蚇蠖〕しやくとりむし。○〔爾〕「—、—也」。〔桑蠖〕くはのむし。○〔韓愈〕「—-—見二齒-指一」。〔溫蠖〕くらし、ちりはこり。○〔史〕「蒙二世之—-—一乎」。

【蠙】蠙の本字。

【蠗】タク、ドク。直角切 覺　㊀小さき蚻。㊁禺の一種。

【蠿】ケイ、カイ。吉詣切 霽　蟰の字を見よ。

【蝀】トウ、ツ。德紅切 東　蛞—は、おたまじやくし。

【蟫】タン、ダン。徒官切 寒　—魚は、すつぽん（鼈）。

【蠙】ヘン、ベン。部田切 先　ごぶがひのたま（蠙-珠）。

【蠘】セツ、ゼチ。疾屑切 屑　蟹の一種。○〔閩中海錯疏〕「—似レ蟹而大、殼-螯有二稜-鋸一」

十五畫

【蠚】カク。黑各切 チヤク。丑略切 藥　セキ、シヤク。施隻切 陌　カク、コク。呼酷切 沃　㊀さす、（螫）。○〔山海經〕「—レ木則枯」。㊁さす毒。○〔漢〕「蝮-蛇—生」。

【蠰】ヤウ。余兩切 養　蟲の名。

【蠛】ベツ、メチ。莫結切 屑　蠓の字を見よ。

【蠜】ヘン、パン。附袁切 元　㊀いなご、いなむし。㊁氣—は、へひりむし。

【蝏】テイ、ヂヤウ。特丁切 青　蠶の二眠。

【蠝】ル井。倫追切 賄　蠝に同じ。○〔漢〕「蛭獲飛—」。

【蠞】セツ、ゼチ。昨結切 屑　海中に生ずる蟹に似たる一種の蟲。

【蠟】ラフ、ロフ。盧盍切 合　㊀蜜滓、みつらふ、膏つよくして燃ゆ、燭を製し物に塗るなど其の用多し。○〔陸佃〕「蜂之化レ蜜、取二匽-豬之水一、注二之—-房一、而後成レ蜜」。㊁すべてみつらふの如き形質効用あるもの。○〔李時珍〕「煉-化成レ—」。㊂一種の樹、いぼた、其の樹に生じたる蟲の樹汁を食らひて吐きたる涎滓より「らふ」を取るよりいふ。○〔李時珍〕「—-樹四-時不レ凋」。㊃らふを塗る。○〔晉〕「孚性好レ屐、或有レ詣レ阮、正見二自—一レ屐」。㊄梅の一種、なんきんうめ。○〔蘇軾〕「蜜-蜂採レ花作二黃—一、黃—爲レ花亦其物」。㊅らふの燭、らふそく。○〔韓偓〕「已嫌「刻—春-宵短」」。

〔紅蠟〕あかきらふそく。○〔皮日休〕「夜-半醒來—-—短」。〔蜜蠟〕はちみつ。○〔宋〕「河南府貢二—-—蠟-器一」。〔芹蠟〕あぶらのある。○〔宋〕「澆以二—-—一」。〔脂蠟〕前に同じ。○〔潛夫論〕「知二—-—之可一レ明レ燈」。〔綠蠟〕あをきらふそく。○〔錢珝〕「冷-燭無レ烟—-—乾」。

【蠋】テキ、ヂヤク。直炙切 陌　—燭は、蟲の一種。

【蠦】リヨ、ロ。凌如切 魚　諸-蠦は、一種の蟲。

【蟔】ボク、モク。莫北切 屋　㊀かはほり（蝙-蝠）。㊁蟔に同じ。

【蠩】ショ、ソ。章恕切 御　シ。掌氏切 紙　一種の毒蟲。

【蠠】ビツ、ミチ。覓畢切 質　ビン、ミン。美隕切 軫　—沒は、つとむ。○〔爾〕「—-—、沒勉也」。

【蠡】レイ、ライ。盧啓切 薺　㊀木の心を齧む蟲。㊁彭—は、澤の名。○〔書〕「東匯澤爲二彭—一」。

【蠡】リ。鄰知切 支　官の名。○〔史〕「置二左-右賢-王左-右谷—一」。

【蠡】レイ、ライ。憐題切 齊　瓠瓢、ひさご。○〔漢〕「以レ—測レ海」。〔傾蠡〕ひさごをかたむく。○〔庾信〕「既—レ—而酌レ酒」。

【蠡】ラ。落戈切 歌　㊀前條に同じ。㊁行列の貌にいふ字、つらなる。○〔劉向〕「登二長-陵一而四-望兮、覽二芷-圃之—-—一」。㊂山の名。○〔揚雄〕「燒二螟-—一」。㊃螺に通じ用ふ、にら。○〔類篇〕「法二—-蚌一」。

【蠡】ラ。魯果切 哿　瘯—は、皮肥ゆ、こゆ、一說に、疥病、ひぜんがさ。○〔左〕「謂二其不一レ疾二瘯—一也」。

【蠡】レイ、ライ。郎計切 霽　わく、わかつ。○〔揚雄〕「參—分也」。

【蠢】シユン。尺尹切 軫　㊀蟲動く、うごめく、動き作る、おこる。○〔莊〕「—動而相使不二以爲一レ賜」。㊁不遜なるを。○〔詩〕「—爾蠻荊」。㊂無知にして事理を辨ぜざるを、おろか。○〔書〕「—茲有苗」。〔蠢々〕うごめく貌にいふ語。○〔郭璞〕「庶-物—-—」。〔[illegible]蠢〕くるしみうごめく。○〔盧照鄰〕「徒—二—於泥-沙一」。

【蠇】ライ。落蓋切 泰　毒蟲の名、さそり。○〔莊〕「其知憯二于—蠆之尾一」。

【蠇】厲に同じ、さ、さいし、あらさ。

【蠣】レイ。力制切 霽　海中に生ずる一種の介蟲、かき。○〔郭璞〕「玄—磈-磥而碨-硊」。〔炙蠣〕かきを火にあぶる。○〔齊民要術〕「—レ—似レ炙レ蚶」。

〔牡蠣〕かきの貝。○〔貢師泰〕「蟹・戸齊分——田」。〔石蠣〕えいのうを。○〔本草〕「海・鷂・魚一・名——」。

【蟊】バウ、メウ。謨交切 [肴] ——蟊は、ひぐらし、かなく〜ぜみ。○〔揚雄〕「蜩・螃謂二之——蟊二」。

【蝥】ボウ、ム。迷浮切 [尤] 蟊に同じ。

【蟈】ヨク、イキ。乙力切 [職] こばち（蠛）。

【蠕】ゼン、ナン。而兗切 [銑] 蟲の動く貌にいふ字、うごめく。

十六畫

【蠥】ゲツ、ゲチ。魚列切 [屑] ㊀うれひ（憂）。○〔楚辭〕「啓代レ益作レ后、卒-然離レ一」。㊁わざはひ、ものゝけ。○〔說文〕「禽-獸蟲-蝗之怪、謂二之——二」。

【蝷】レキ、リヤク。狼狄切 [錫] 野蠶、やままゆ。

【螈】ゲン、ガン。愚袁切 [元] 晩蠶、なつご。

【䘃】トク、ドク。奴勒切 [職] ㊀あぶ（虻）。㊁みつくち、いぐち（兔-缺）。

【䘃】ドウ、奴等 ノウ。切 [迥] ダイ、乃代 ナイ。切 [隊] 蚌の屬。

【蠦】ロ、ル。落胡切 [虞] ㊀——肥は、あぶらむし。㊁——蝘は、ゐもり。

【螣】トウ、ドウ。徒登切 [蒸] 禾の葉を食らふ蟲。

【螼】キン、休謹 コン。切 [吻] ケン、許偃 カン。切 [阮] みゝず（蚯-蚓）。

【蠽】セン、ゼン。昨仙切 [先] せみ。○〔揚雄〕「鳴-蟬謂二之——二」。

【蟽】タツ、タチ。他達切 [曷] ——蟄は、きくひむし。

【蠨】セウ。蘇彫切 [蕭] ——蛸は、あしたかぐも。

【蠵】井。夷隹 切 [支] 以醉 切 [寘] 肥——は、一種の蛇。○〔山海經〕「太-華之山有レ蛇焉、名曰二肥——一、六-足四-翼、見則天-下大旱」。

【蠩】ショ、ソ。章魚切 [魚] 蟾と蠩との字の條を見よ。〔蟾蠩〕ひきがへる。○〔春秋演孔圖〕「——月-精也」。〔蟾蜍〕前に同じ。○〔博物志〕「虹蠩一名二——二」。

【蠪】ロウ、ル。盧紅切 [東] ㊀赤駁の文ある蚍蜉、あかまだらのあり、いひあり。○〔爾〕「——虰-螘」。㊁——蛭は、獸の名。○〔山海經〕「鳧-麗之山有レ獸焉、其狀如レ狐而九-尾九-首虎-爪、名曰二——蛭一、其音如二嬰-兒一、是食レ人」。㊂蚗——は、みづち。○〔史〕「明-月之珠、出二于江-海一、藏二于蚌中一、蚗——伏レ之」。㊃鮭——は、神の名。○〔莊二〕「東-北-方之下者、倍-阿鮭——躍レ之」。

【蠭】ハウ、ボウ。蒲江切 [江] 姓。○〔荀〕「羿——門」。

【𧖥】蝨の本字。

【蠐】テイ、ダイ。田黎切 [齊] 苗を食らふ一種の蟲。

【蠙】ヒン、ビン。毗賓切 [眞] あぶらむし（負-盤）。

【蠢】シュン、ジュン。主尹切 [軫] 蠢——は、蟲行く、ありく、はふ。

【蠧】ト、ツ。都故切 [遇] ㊀蠹に同じ、きくひむし。㊁禾を食らふ蟲。

【蠠】螟に同じ。○〔管〕「山多二蟲-——二」。

【蠺】蠶に同じ、俗に省きて蚕に作る。

【蠫】リ。力器切 [寘] さく（割）。○〔荀〕「——二盤-盂一刎二牛-馬二」。

【蟳】セン、ソン。思廉切 [鹽] 蛤に似て扁き貝、あさり。

十七畫

【蠭】ホウ、フ。敷容切 [冬] ㊀人を螫す飛蟲、はち、其の種類多し。○〔左〕「——蠆有レ毒」。㊁旗の名。○〔左〕「獲二其——旗二」。㊂鋒に通じ用ふ、ほこさき。○〔漢〕「及二其——東-向可三以爭二天-下二」。

【蠮】エツ、エチ。烏結切 [屑] ——螉は、ながばち、土蜂。

【蠯】ハウ、蒲幸 ビヤウ。切 [梗] ヘイ、騈迷 ベイ。切 [齊] ヒ、符支 ビ。切 [支] 蚌の狹く長きもの、一說に、蛤。○〔周〕「祭-祀共二——蠃-蚳一以授二醢-人二」。

【蠶】サン、ゼン。鋤銜切 [咸] 蟹の屬。

【蠅】ヨウ、オウ。於陵切 [蒸] 蟬の一種、つくつくぼふし。

【蠕】蛉に同じ。

【蠘】キ。許羈切 [支] 一種の蟻、あり。

【蠰】シヤウ。式亮切 [漾] 師莊切 [陽] 長き角を有し體に白き點あり好んで桑樹を齧む一種の蟲、くはむし。○〔爾〕「——齧レ桑」。

【蠰】ジヤウ、ニヤウ。如兩切 [養] 蝗に似たる小さき蟲、つちいなご。○

[爾]「土-螽-|-谿」。

【蠰】ダウ、ナウ。奴當切　ジヤウ、ニヤウ。如陽切　陽
蠰|は、かまきり。

【蠱】コ、ク。公戸切　麌
㊀腹中の蟲。○[唐]「腹有レ|」。
㊁穀中の蟲。○[左]「穀之飛亦爲レ|」。
㊂まじなひに用ふるなどの蟲。○[通志六書略]「造レ|之法」。
㊃惡氣。○[史]「以レ狗禦レ|」。
㊄害毒。○[周]「掌レ除ニ毒|ニ」。
㊅ごくもん又ははりつけの刑に處せられたる罪人の鬼。○[說文]「梟-桀死之鬼亦爲レ|」。
㊆うたがふ(疑)、まどふ(惑)。○[左]「內熱惑|」。
㊇惑亂す、まどはす。○[左]「欲レ|ニ文-夫-人ニ」。
㊈易の卦、䷑ 巽下艮上　○[易]「|元亨」。
㊉こと(事)。○[易]「幹ニ父之|ニ」。
⑪禁呪、まじなひ、又、巫覡、みこ。○[漢]「典ニ治巫-|ニ」。
[毒蠱] 人を病害するもの。○[李孝]「窮-陬多ニ|-|ニ」。
[妖蠱] あやしきまどはしのわざ。○[阮籍]「|-|謟-媚生」。
[畜蠱] まじなひなどに用ふるむしを飼養すること。○[宋]「從ニ永-州諸-縣-民之|レ|者、三-百二十六-家於ニ縣之僻-處ニ」。

【蠱】冶に同じ、こぶ、うつくし。○[張衡]「妖|-蠱夫夏-姬」。

【螱】ヰ。紆胃切　未
翅ある螘、はあり。○[爾]「|-飛-螘」。

【虫燮】セフ。蘇協切　葉

蜨に同じ。

【虫龠】ヤク。弋灼切　藥
熠|は、ほたる(螢)。

【蠲】ケン。古玄切　先　ケイ、ケ。消畦切　齊
㊀馬|は、げぢぐ。○[禮]「腐-草爲レ|」。「|」。
㊁いさぎよし(潔)。○[周]「除ニ其不レ」。
㊂あきらか(明)。○[左]「惠-公|ニ其太-德ニ」。
㊃のぞく(除)。○[揚雄]「應レ時而|」。
㊄漿に蠲して瑩滑ならしめたる紙。○[唐太宗]「水搖文-|動」。
[吉蠲] きよきもの。○[詩]「|-|爲レ饎」。
[絜蠲] 神にそなふる米などのきよらかなること。○[揚雄]「我|孔|」。
[滌蠲] あらひきよむ。○[崔祐甫]「穆氏四子講藝記」「可ニ以|而|ニ」。
[豐蠲] まつりものなどのおほくしてきよらかなること。○[劉恭]「享-祀|-|」。

【虫營】エイ、ヤウ。余傾切　庚
|虹は、腸中の蟲。

【蝱】蟊に同じ。

【蠓】ボウ、ム。莫紅切　東
龜の兆、きざし。

【蠡】シ。郎移切　支
|-蠵は、うみがめ。

【蠳】エイ、ヤウ。於盈切　庚
一種の龜。○[張衡]「其水-蟲則有ニ|-|龜-鳴-蛇ニ」。

十八畫

【蠵】ケイ、ケ。戸圭切　齊　キ。匀規切　支
甲に文ある玳瑁に似たる一種の龜、うみがめ、しやうがくばう。○[揚雄]「拮ニ靈-|ニ」。
[鮮蠵] あたらしき肉のうみがめ。○[楚辭]「|-|甘-雞」。
[靈蠵] ふしぎなるうみがめ。○[爾、註]「靈-龜即今觜-蠵龜、一名ニ|-|ニ、能鳴」。
[煥蠵] 玳瑁に似たる龜にてあやあるもの、一說にはやまがめのおほいなるものゝ稱とす。○[孫綽]「|-|煥-爛以映-漂」。

【蠶】サン、ザン。昨含切　覃
㊀桑の葉を食らひ絲を吐く蟲、かひこ、蛻化して繭をつくり蛹となり更に羽化して繭を出で蛾となる、繭より絲を製すべし。○[淮]「|珥レ絲而商-絃絕」。
㊁かひこを飼養す。○[書]「桑-土既|」。
[勸蠶] かひこを養ふことをはげましすゝむ。○[宋]「扶-筐七-星盛ニ桑之器ニ主レ|レ|也」。
[原蠶] にどがひのかひこを養ふ。○[周]「禁ニ|-|ニ」。
[野蠶] 自然に生育したるかひこ。○[宋]「元-祐六-年、|-|成レ繭」。
[卒蠶] かひこをそだてあぐ。○[禮]「世-婦|レ|」。
[養蠶] かひこをそだつ。○[劉翊]「|レ|已成レ繭」。
[農蠶] 耕作のわざとかひこを養ふわざと。○[晉]「|-|之暇、訓ニ誘宗-族ニ」。
[耕蠶] 前に同じ。○[宋]「|-|樹-藝、各盡ニ其力ニ」。
[晚蠶] なつかひこ。○[許渾]「隣-上青-桑待ニ|-|ニ」。
[地蠶] すくもむしの異名。○[本草]「蠐-螬一名ニ|-|ニ」。
[埤蠶] 香の名。○[名香譜]「|-|香交趾所レ貢、唐宮中呼爲ニ瑞-龍-腦ニ」。
[簇蠶] むらがりあつまれるかひこ。○[白居易]「|-|北-堂前」。
[繭蠶] まゆをなしたるかひこ。○[杜牧]「|-|初引レ絲」。
[掃蠶] 初生のかひこをはきたつ。○[梅堯臣]「三-月將レ|レ|」。

【虫寧】デイ、ニヤウ。奴丁切　青　女正切　敬
けら、(螻-蛄)。

【蠷】ク、コ。其俱切　虞
|-螋は、はさみむし。

【蠸】ケン、ゴン。巨員切　先　クヮン。呼官切　寒
㊀うりばへ(守瓜)。○[莊]「瞀-芮生ニ乎腐-|ニ」。
㊁馬陸、やすで、あまひこ、一說に、大いに螫す、さす。

【蠸】クヮン。呼玩切　翰
大いなる鼈、おほすッぽん。

【魏虫】ギ。虞貴切　未
再蠶、にどめのかひこ、即ち、なつこ。

【蠹】ト、ツ。當故切　遇
㊀木の中に生じて其の木を食らふ蟲、きくひむし。○[呂氏春秋]「樹鬱則爲レ|」。
㊁衣書に生じて衣書を殘ふ蟲、しみ。○[徐陵]「辟レ惡生レ香聊防ニ羽-陵之|ニ」。
㊂物事を殘害せるもの。○[左]「國之|也」。
㊃蟲の殘食せるにいふ字、むしばむ、むしくひ。○[莊]「以爲ニ門-戸ニ則液-樠、以爲レ柱則|」。
㊄殘害す。○[戰]「擴レ韓|レ魏」。
㊅衣書を日光に暴らして其の中に生じたる蟲を去ること、むしぼし。○[穆天子傳]「天-子東-遊次ニ雀-梁ニ、|ニ書于羽-陵ニ」。

〔除蠹〕きくひむしをとりのぞく。○〔陸游〕「幽窗ーレー豚ニ椹牙ニ」。
〔國蠹〕國家を害毒するわろきもの。○〔白居易〕「蠹レ心除ニーーニ」。
〔桑蠹〕くはのむし。○〔爾〕「蝎ーー」。
〔毛蠹〕けむし。○〔爾〕「蛅ーー」。
〔邪蠹〕國家などを害する奸惡なる者。○〔後漢〕「開ニ萌ーーニ。「潛吏ーー」。
〔狡蠹〕わるぢゑありてものを害するもの。○〔舊唐〕
〔腐蠹〕物のくさるとむしのつきたると。○〔說苑〕「官無ニーー之藏ニ」。
〔汚蠹〕けがしそこなふ。○〔楊蘧〕「ーニーー時風ニ」。
〔書蠹〕書籍のかみなどをくふむし。○〔趙抃〕「雨久藏ニーーニ」。
〔粃蠹〕害毒をなすもの。○〔皇甫湜〕「除ニ政之ーー」。

【蝮】 フク、ホク。匹北切 屋 いなむし、いなご(蝗)。

【蠺】 蠶に同じ。

【蟇】 バク、マク。末各切 藥 かまきり(蟷螂)。

【蟆】 バク、ミヤク。莫格切 陌 小さき蚊。

【蠆】 タイ。丑犗切 卦 尾の下に毒ありて人を螫す海魚の名。

【蠘】 サウ、ザウ。從桑切 陽 石の高く險しき貌にいふ字。○〔揚雄〕「岬石ーー崔」。

十九畫

【蠬】 リ。呂支切 支 螭ーーは、角無き龍。

【蠣】 シ。所宜切 リ。呂支切 支

レイ、ライ。郎計切 霽 蚰蜒、けぢぐ。○〔揚雄〕「蚰蜒或謂ニ之蝦ーーニ」。

【蠚】 カツ、ゲチ。胡瞎切 黠 けら(螻蛄)。

【蠸】 セン。子兗切 銑 蟲食む、蟲食ひ創く、むしばむ。

【蠻】 バン、メン。莫還切 刪 南方の夷族、えびす。○〔唐〕「有ニ二十姓白ーー五姓烏ーーニ」。
〔綿蠻〕鳥のなく聲にいふ語。○〔詩〕「ーー黃鳥」。
〔南蠻〕南方のえびすの稱。○〔孟〕「今也ーー鴃舌之人」。
〔荊蠻〕前に同じ。○〔揚雄〕「蠢爾ーー」。
〔百蠻〕もろもろのえびす。○〔東都賦〕「外綏ニーーニ」。
〔羣蠻〕前に同じ。○〔左〕「庸人率ニーー以叛」。
〔遠蠻〕遠方のえびす。○〔宋〕「ーー悉歸懷」。

【蠢】 シユン。尺尹切 軫 ㊀いづ(出)。㊁おこる(作)。㊂動き搖ぐ貌にいふ字。

廿畫

【蜚】 ヒ。府尾切 尾 父沸切 未 あぶらむし(負蠜)。

【蠼】 キヤク、カク。厥縛切 藥 一種の猴、おほざる。○〔司馬相如〕「蛭ー蜩ー猱」。

【蠘】 テツ、テチ。陟劣切 屑 くも(蜘蛛)。

【蠍】 ケツ、ケチ、香謁切 屑 人を螫す蟲。

廿一畫

【蠽】 セツ、セチ。姊列切 屑 ㊀蟬の一種、色青くして小さきもの、ひぐらし。○〔爾〕「ー茅蜩」。㊁蛬に同じ、むぎわらぜみ。

【蠇】 蠣に同じ。

【蠾】 ショク、ソク。之欲切 沃 ㊀のみ(蚤)。㊁ーー蝓は、くも(鼅鼄)。○〔揚雄〕「鼅鼄、自レ關而東趙魏之間郊或謂ニ之ーー蝓ニ」。㊂蚕ーーは、すくもむし。

【蠮】 ヨウ、ユ。委勇切 腫 かひこ(蠶)。

【蠯】 蚍に同じ。

【蟫】 イン。余箴切 侵 しみ(白魚)。

廿二畫

【蜿】 ワン、エン。烏關切 刪 蠖ーーは、蟲の曲がり息する貌にいふ語。

【蠬】 リン。良刃切 震 ビン、ミン。眉貧切 眞 か(蟲)。

廿三畫

【蜆】 ケン。呼典切 銑 しじみ(小蛤)。

廿四畫

【蛉】 レイ、リヤク。郎丁切 青 ほたる(螢)。

血部

【血】 ケツ、ケチ。呼決切 屑 〔類篇〕祭所レ薦牲血、从レ皿一象ニ血形ニ。
㊀體內を循環して生存力の要素をなせる紅色液、ち、のり。○〔禮〕「飲ニ其ーー茹ニ其毛ニ」。㊁憂色、うれひ。○〔大戴禮〕「ー者猶レ」。㊂ちを塗る、ちぬる。○〔荀〕「兵不レーレ刃」。㊃染めて光彩を作す、そむ。○〔山海經〕「可ニ以ーレ玉」。
〔泣血〕聲をたてずしてかなしみなく。○〔李陵〕「此陵所ニ以仰レ天椎レ心而ーー也」。
〔流血〕ながれあふるるち、又、ちをいたす。○〔禮〕「ーレー不敢疾怨ニ」。
〔頸血〕くびよりながるるち。○〔史〕「相如請得下以ニーー濺ニ大王上矣」。
〔吮血〕ちをすふ。○〔唐〕「帝爲ーレー」。
〔青血〕いろのこきち。○〔穆天子傳〕「取ニ其ーー以飲ニ天子ニ」。「帶レ腥」。
〔瀝血〕ちをあたへらす。○〔郝經〕「赤吻ーレー猶」
〔盤血〕さらにもりたるち。○〔史〕「左手持ニーーニ」。
〔嘔血〕ちをはくこと。○〔後漢〕遂ーレー而斃」。
〔箴血〕肉をさしてちをいたす。○〔唐〕「自ーレー」。
〔久血〕ひさしくとしつきを經たるち。○〔淮〕「ーー爲レ燐」。
〔凝血〕かたまりのち。○博物志「狀如ニーーニ」。
〔出血〕ちをいだすと、ながれいづるち。○〔徐陵〕「割レ耳ーレー」。
〔丹血〕なまなましたるあかきち。○〔盧照隣〕「將軍ーー流」。
〔赤血〕前に同じ。○〔李白〕「羅袖灑ニーーニ」。
〔劍血〕つるぎにつきたるち。○〔戎昱〕「日暮歸來看ニーーニ」。

(飛血) とびちはしるち。○〔劉禹錫〕「――濺二林梢一」。
(腥血) なまぐさきち。○〔王建〕「能斷世間――味」。
(膏血) あぶらとちと。○〔皮日休〕「食二生人之――」。
(熱血) あたゝかなるち。○〔宋无〕「手殺降人呑二――一」。

【〓】 テイ、チヤウ。特丁切　ケイ、キヤウ。呼刑切 青 息を定む、

三畫

【衁】 クワウ、ワウ。呼光切 陽 ち(血)。○〔左〕「士刲レ羊亦無レ―也」。

【〓】 ケイ、ギヤウ。巨靈切 青 見るを定まる。

四畫

【衃】 ハイ、ヘ。芳杯切 灰 赤黒色をなしたる敗惡の凝血、くされち、こりち。○〔素問〕「赤如二―血一者死」。

【〓】 フウ、ブ。房尤切 尤 蚍―は、こあふひ(荍)。

【〓】 ケツ、ケチ。呼決切 屑 やぶる(破)。

【衄】 ヂク、ニク。女六切 屋 ㊀鼻孔より出づる血、はなぢ。○〔素問〕「脾移二熱于肝一則爲二驚―一」。㊁敗北す、挫く。○〔曹植〕「師徒小―」。
(折衄) くじけやぶる。○〔後漢〕「臣兵累見二――一」。
(挫衄) 前に同じ。○〔宋〕「未嘗――」。
(沮衄) 前に同じ。○〔晉〕「由是義衆――」。
(摧衄) にげやぶる。○〔晉〕「孫恩――歸レ海」。
(畏衄) おそれくじく。○〔晉〕「三軍――」。
(窮衄) やぶれくるしむ。○〔南〕「狡寇――」。
(敗衄) いくさにやぶる。○〔五〕「未嘗――」。

【衂】 俗の衄の字。

【〓】 クワウ、ワウ。呼光切 陽 血のむれに上るも。

五畫

【衅】 釁に同じ、ちぬる。○〔禮〕「車甲―而藏二之府庫一」。

六畫

【衆】 眾に同じ。

【衈】 ジ、ニ。仍吏切 寘 ㊀雞を殺す血祭、ちまつり。㊁耳の血。○〔禮〕「其―皆于二屋下一」。㊂ちぬる(釁)。○〔穀梁〕「以―レ社也」。

【衉】 カク、キヤク。乞格切 陌 血を嘔き出だす、はく。○〔國〕「吾伏レ弢―レ血」。

七畫

【〓】 バン、マン。母伴切 旱 血を塗る、ちぬる。

【〓】 サイ、セ。臧回切 灰　スヰ。津垂切　サ、ザ。臧戈切 歌　因 祖誅切 寘 赤子の陰具、まへのもの。○〔老〕「未レ知二牝牡之合一而―作精之至也」。

【〓】 デキ、ニヤク。乃歷切 錫 うれふ(憂)。

【〓】 盟の本字。

八畫

【〓】 カク、キヤク。古獲切 陌 犬の血。

【〓】 カン、コン。苦紺切　タン、ドン。徒濫切 勘 血の羹。○〔本草、註〕「宋時大宮作レ―、創二藕皮一落二其中一」。

【〓】 オウ、ウ。於口切 有 嘔に同じ。

【盟】 盟に同じ。

九畫

【〓】 シン。資辛切 眞 つば(氣液)。

【〓】 カク、キヤク。乞格切 陌 ㊀衉に同じ。㊁氣を吐く、はく。㊂叱る聲にいふ字。

十畫

【〓】 シヨウ。諸仍切 蒸 つけもの(菹)。

【〓】 キ、ケ。居依切 微 刲斷して血を出だす、さく、きる。

十一畫

【〓】 ヂヨク、ノク。乃伏切 屋 けがる、けがす(汙)。

【〓】 コ、ク。荒故切 遇 血汚る、けがる。

十二畫

【盩】 チウ、チユ、張流切 尤 引擊す、ひきうつ。

十三畫

【〓】 ドウ、ノウ。奴冬切 冬 腫血、うみ。

十四畫

【〓】 エフ。於葉切 葉 血。

【〓】 衄に同じ。

十五畫

【衊】 ベツ、メチ。莫結切 屑　バツ、マチ。莫葛切 曷　ベン、メン。暗見切 霰　バン、マン。謨官切 寒 ㊀けがす。(い)血に汚す、けがれたるものを塗る。○〔列女傳〕「糞穢―レ面」。(ろ)汙穢す、耻辱す。○〔漢〕「汙二―宗室一」。㊁鼻血、はなぢ。○〔素問、傳〕「衄―瞑目」。

十八畫

【衋】 キヨク、ケキ。許力切 職 傷痛す、いたむ。○〔書〕「民罔レ不二―傷心一」。

行部

【行】 カウ、ギヤウ。戶庚切 庚 ―說〔文〕从㆑彳从㆑亍。

㊀ゆく。
(い)あゆむ(歩)。○〔爾〕「堂-上謂㆓之ー㆒」。
(ろ)すゝむ(前)。○〔史〕「肉-袒膝-ー」。
(は)いたる(臻)。○〔後漢〕「吾不㆓西ー㆒、大-難不㆑解」。
(に)かへる(還)。○〔呂氏春秋〕「膠-鬲ー」。
(ほ)さる(去)。○〔左〕「告㆑之使㆑ー」。
(へ)うつる(移)。○〔素問〕「不㆑ー之氣」。
(と)ながる(流)。○〔孟〕「水逆-ー」。
(ち)めぐる(周)。○〔易〕「日-月運-ー」。
(り)ふ(歷)。○〔史〕「水-ー載㆑舟」。
㊁ゆかしむ、ゆかす、やる。○〔孟〕「激而ー㆑之、可㆑使㆑在㆑山」。
㊂おこなふ。
(い)なす(爲)。○〔論〕「吾無㆓所㆑ー而不㆒㆑與㆓二-三-子㆒」。
(ろ)もちふ(用)。○〔周〕「掌㆓ー㆑火之政-令㆒」。
(は)ほどこす、施。○〔公羊〕「ー㆓其意㆒也」。
㊃爲さる、用ひらる、施さる、おこなはる。○〔戰〕「說不㆑ー」。
㊄みち。
(い)道路。○〔詩〕「ー有㆓死-人㆒」。
(ろ)義理。○〔國〕「臣之ー也」。
(は)ゆくを。○〔老〕「千-里之ー」。
㊅旅行、旅裝、たび、たびしたく。○〔漢〕「趣治㆑ー」。
㊆語る。○〔爾、註〕「江-東通謂㆑語爲㆑ー」。
㊇堅牢ならず、もろし。○〔唐〕「器不㆓ー-窳㆒」。
㊈一種の書體、楷書よりは字畫くづれ草書よりは字畫おほきもの、ぎやうしよ。○〔宋〕「篆、隸、ー、草、飛-白」。
㊉曲引、うた。○〔漢〕「爲鼓㆓一-再ー㆒」。
⑪ゆきながら、ゆくゆく。○〔屈平〕「ー吟㆓澤-畔㆒」。
⑫幾もなく、やがて、ついて。○〔漢〕「大-尉ー至」。
⑬先づ、且く。○〔曹丕〕「ー復四-年」。
⑭支那古來の學說にて、天地の間に運りて停息せざる萬物成立の元氣。○〔漢〕「得㆓西-方金-ー之氣㆒」。

〔五行〕支那古來の學說にて萬物組成の元氣を五つに區別せし、木、火、土、金、水の稱。○〔書〕「在昔、鯀堙㆓洪-水㆒、汨㆓陳ー・ー㆒」。
〔旁行〕いづくまでもめぐりゆく。○〔易〕「ー・ー而不㆑流」。
〔宵行〕よるゆく、よあるき。○〔周〕「禁㆓ー・ー者夜-遊者㆒」。
〔夜行〕前に同じ。○〔禮〕「ー・ー以㆑燭」。
〔晨行〕あかつきにゆく。○〔周〕「禦㆓ー・ー者㆒」。
〔力行〕つとめおこなふ。○〔禮〕「ー・ー近㆓乎仁㆒」。
〔勉行〕前に同じ。○〔戰〕「子ー・ー矣」。
〔卻行〕あとずざりす。○〔史〕「擁㆑篲迎㆑門ー・ー」。
〔仄行〕よこさまにあゆみゆく。○〔史〕「ー・ー辟-讓」。
〔連行〕魚などのゆくが如くにつらなりてゆく。○〔周〕「ー・ー紆行」。
〔紆行〕うねりゆく。○〔周、註〕「ー・ー蛇-屬」。
〔陸行〕陸路をゆく。○〔史〕「ー・ー載㆑車」。
〔水行〕水上をゆく、又、みづながる。○〔韓偓〕「遠-田人靜聞㆓ー・ー㆒」。
〔泥行〕どろぢをゆく。○〔漢〕「ー・ー乘㆑橇」。
〔山行〕やまをゆく。○〔尸子〕「ー・ー乘㆑樏」。
〔横行〕おもふまゝにゆく。○〔史〕「ー・ー天-下㆒」。
〔倒行〕たゞしくおこなはずしてさかしまに事をなす。○〔史〕「故ー・ー而逆㆓施之㆒」。
〔膝行〕ひざにてゆく。○〔史〕「乃肉-袒ー・ー」。
〔微行〕しのびやかにゆく、しのびあるき。○〔漢武故事〕「帝爲㆓ー・ー㆒」。
〔一行〕ひとたびゆく、又、六ヶ月の稱。○〔異聞錄〕「三-月爲㆓一-時㆒、兩-時爲㆓ー・ー㆒」。
〔眞行〕行書の字體に眞書を兼ぬるものをいふ、又、楷書と行書と。○〔書斷〕「魏初有㆓鍾胡二-家㆒、爲㆓行-書之法㆒、兼㆑眞者爲㆓ー・ー㆒、帶㆑草者爲㆓草-行㆒」。
〔偕行〕ともぐにおこなふ、ともぐにゆく。○〔詩〕「修㆓我甲-兵㆒、與㆑子ー・ー」。
〔中行〕(い)みちのなかばまでゆく。○〔易〕「ー・ー獨復」。(ろ)たゞしきみち。○〔論〕「不㆑得㆓ー・ー㆒而與㆑之、必也狂狷乎」。
〔運行〕めぐりゆく。○〔易〕「日-月ー・ー」。
〔方行〕いづこまでもゆきわたる。○〔書〕「ー㆓ー天-下㆒」。
〔恭行〕つゝしみておこなふ。○〔書〕「ー㆓ー天-罰㆒」。
〔獨行〕ともなくひとりにてゆく。○〔盧綸〕「幽-人好㆓ー・ー㆒」。
〔單行〕前に同じ。○〔後漢〕「微-服ー・ー」。
〔憚行〕すゝみゆくをきらふ。○〔詩〕「豈敢ー㆑ー」。
〔同行〕つれだちてゆく。○〔詩〕「携㆑手ー・ー」。
〔師行〕軍伍のあゆみ。○〔詩、疏〕「ー・ー三-十-里」。
〔端行〕かたち直くあゆむ。○〔禮〕「ー・ー頤-溜」。
〔錯行〕まじはりめぐる。○〔禮〕「如㆓四-時之ー・ー㆒」。
〔並行〕ふたつながらおこなはる。○〔禮〕「道ー・ー而不㆓相悖㆒」。
〔直行〕たゞしくおこなふ、又、すぐにゆく。○〔史〕「屈-平正-道ー・ー」。
〔周行〕めぐりゆく。○〔左〕「穆-王欲㆑肆㆓其心㆒、ー㆓ー天-下㆒」。
〔公行〕おほやけにおこなはる。○〔左〕「盜-賊ー・ー」。
〔攝行〕かりにかねおこなふ。○〔家語〕「ー㆓ー相-事㆒」。
〔輔行〕たすけてとりおこなふ。○〔孟〕「王-驩爲㆓ー・ー㆒」。
〔逆行〕さかにゆく、又、さかにおこなふ。○〔孟〕「水ー・ー、謂㆓之洚-水㆒」。
〔徐行〕ゆるやかに去る。○〔戰〕「中-期ー・ー而去」。
〔流行〕ながれ去る、ゆきわたる、はやる。○〔孟〕「德之ー・ー、速㆓於置-郵而傳㆒㆑命」。
〔跣行〕はだしにてありく。○〔戰〕「衛-君ー・ー」。
〔蛇行〕うねりゆく。○〔戰〕「ー・ー匍伏」。
〔退行〕しりぞき去る。○〔史〕「熒-惑ー・ー」。
〔通行〕とほりゆく。○〔漢〕「ー・ー無㆑所㆑累」。
〔鼓行〕軍隊のつゞみをならし進むと。○〔漢〕「引㆑兵ー・ー而西」。
〔閒行〕しのびやかにありく。○〔漢〕「張-耳自㆑韓ー・ー歸㆑漢」。
〔修行〕をさめおこなふ。○〔漢〕「凡通㆓經-術㆒、固當㆑ー㆓ー先-王之道㆒」。
〔平行〕途上あだなどの難にいであはずして安全にゆく。○〔漢〕「ー・ー至㆓宛-城㆒」。
〔吉行〕軍旅などにあらざるめでたきたび。○〔漢〕「古者ー・ー、日五-十-里」。
〔冥行〕物を見ずしてゆく、理を知らずしておこなふ。○〔揚雄〕「擿㆑埴索㆑途ー・ー而已」。
〔羣行〕むらがりゆく。○〔韓愈〕「ー・ー無㆓後先㆒」。
〔衆行〕前に同じ。○〔瑞應圖〕「龍不㆓ー・ー㆒」。
〔星行〕夜のあけぬうちにゆく。○〔晉〕「ー・ー夜-歸」。
〔步行〕あゆむ。○〔管〕「ー・ー者雜㆓文-采㆒」。
〔飛行〕とび去る。○〔神仙傳〕「ー・ー作㆑聲」。
〔貫行〕つゞけて行ふ。○〔漢〕「以㆑次ー・ー」。
〔繁行〕なしはじむ、もくろむ。○〔公羊〕「公ー・ー、奈-何不㆓敢過㆓天-子㆒也」。
〔躬行〕實際におこなふ、おこなひにあらはす。○〔漢〕「不㆑言而ー・ー」。
〔衣繡夜行〕立身出世すとも鄕里の人に見さずば其のかひなき爲にいふ語。○〔史〕「富-貴不㆑歸㆓故-鄕㆒、如㆓ー㆑ー・ー・ー㆒、誰知㆑之者」。
〔衣繡晝行〕立身出世して鄕里に歸る義にいふ語。○〔魏〕「還㆓君本-州㆒、可㆑謂㆓ー・ー・ー・ー㆒」。
〔直情徑行〕こゝろを曲げずして其のまゝにおこなふ。○〔禮〕「有㆓ー㆑ー而ー・ー者㆒」。
〔特立獨行〕自家の所信により行爲して他に屈從せざること。○〔禮〕「其ー・ー・ー・ー有㆓如㆑此者㆒」。

【行】 カウ。寒岡切 陽

隊列、排列、つら、すぢ、ならび、なみ。○〔左〕「鄭-伯使㆘卒出㆑豭、ー出㆗雞-犬㆖」。
〔雁行〕かりの空中を飛べる行列、轉じて斜にならぶこと。○〔詩〕「兩-驂ー・ー」。
〔戎行〕軍隊の行列。○〔晉〕「拔㆓呂-蒙於ー・ー㆒」。
〔顔行〕前列。○〔管〕「士爭前-戰爲㆓ー・ー㆒」。
〔軍行〕軍隊の行列。○〔左〕「亦未㆑有㆓ー・ー㆒」。
〔前行〕前面の行列。○〔史〕「置㆓之ー・ー㆒」。
〔數行〕いくすぢ。○〔漢〕「泣ー・ー下」。
〔排行〕ならび。○〔陳與義〕「ー・ー立㆓曉-晴㆒」。
〔斷行〕列をきる。○〔唐太宗〕「迷-雲雁ー㆑ー」。
〔陣行〕陣の隊列。○〔揚巨源〕「魚-鱗羅㆓ー・ー㆒」。

【行】 カウ、ギヤウ。下孟切 敬

所爲、行迹、しわざ、ふるまひ、おこなひ。○〔周〕「敏-德以爲㆓ー本㆒」。

【行】カウ、ガウ。戸浪切　漾　下朗切　養

㊀序次、等輩、ついで、ともがら。○〔漢〕「漢天子我丈人―」。

㊁剛健なる貌にいふ字。○〔論〕「子路――如也」。

〔輩行〕ともがらのことにて同輩といふに同じ。○〔文天祥〕「二三―惟須レ酔」。

三畫

【衍】エン。以淺切　銑

㊀あふる、（溢）。○〔書、傳〕「至レ今―ニ於四海ニ」。

㊁ながる、（流）。○〔素問〕「水直―」。

㊂ひろがる、はびこる、ひろぐ、布く。○〔漢〕「離靡廣―」。

㊃廣大なり、ひろし、おほいなり、極まりなし。○〔莊〕「和レ之以ニ天倪一、因レ之以ニ曼―ニ」。

㊄平夷、たひらか。○〔左〕「井ニ―沃ニ」。

㊅放縱、ほしいまゝ。○〔詩〕「及レ爾游―」。

㊆美しき貌にいふ字。○〔詩〕「釃レ酒有レ―」。

㊇行く貌にいふ字。○〔謝朓〕「―――淸風瀾」。

㊈平地、廣澤。○〔楚辭〕「巡ニ陸夷之曲―ニ兮」。

㊉水中の洲。○〔穆天子傳〕「天子乃遂東征南絶ニ沙――ニ」。

⑪おほし、ゆたか、（饒）。○〔荀〕「仁人紬約暴人―」。

〔豐衍〕ゆたかなること。○〔舊唐〕「明寮――」。

〔饒衍〕前に同じ。○〔後漢〕「草木――」。

〔蕃衍〕さかんにしげる。○〔詩〕「――盈レ升」。

〔墳衍〕岡陵と平澤の地と。○〔潘岳〕「畫ニ――而分ニ畿」。

〔昭衍〕あきらかにうるはし。○〔漢〕「德星――」。

〔演衍〕はこ。○〔莊〕「盛以ニ――ニ」。

〔騈衍〕墨堆などの連らなる貌に用ふる語。○〔羽獵賦〕「――侈路」。

〔沃衍〕こえてたひらかなる土地。○〔詩、疏〕「平地――之土、宜レ生ニ草木ニ」。

〔肥衍〕前に同じ。○〔蘇舜欽〕「土壤頗――」。

〔廣衍〕ひろきこと。○〔漢〕「西河郡縣――」。

〔閎衍〕ひろくうるはしきこと。○〔漢〕「說爲ニ侈麗――之詞ニ」。

〔推衍〕おしひろぐ。○〔漢〕「次レ公―ニ―靈鐵之「讖ニ」。

〔登衍〕五穀などのさかんにみのる。○〔後漢〕「昔歲五穀――」。

〔流衍〕ひろくのべしく。○〔後漢〕「―ニ―四方ニ」。

〔羨衍〕みちあふる。○〔唐〕「若ニ貲貨――惡也」。

〔充衍〕前に同じ。○〔宋〕「中外府庫無レ不ニ―――ニ」。

〔敷衍〕しきひろぐ。○〔舊唐〕「―ニ―德音ニ」。

〔蔓衍〕しげくはびこる。○〔舊唐〕「――滋多」。

〔華衍〕うるはしくゆたかなり。○〔唐〕「朝夕供御務ニ――侈大、稱ニ后意ニ」。

〔奧衍〕おくふかくしてあさはかならず。「――閎深」。○〔唐〕「皆

〔富衍〕とみてゆたかなり。○宋「號稱ニ――ニ」。

〔平衍〕高低なくひろし。○〔蘇軾〕「泉旁地――」。

〔多衍〕おほくしげる。○〔管〕「篤草――」。

〔連衍〕つらなりしく。○〔水經、註〕「――相屬」。

〔曠衍〕ひろきこと。○〔劉歆〕「臨眺――」。

〔高衍〕たかきさかのこと。○〔揚雄〕「凌ニ――之嶠嶸ニ兮」。

〔由衍〕行く貌にいふ語。○〔馬融〕「――識レ道」。

〔普衍〕ひろくしきわたる。○〔潘岳〕「偉ニ玄澤之――ニ」。

〔愉衍〕よろこびたのしむ。○〔宋孝武帝〕「東レ姦好「――」。

〔紛衍〕みだれしげる。○〔韋應物〕「草木俱――」。

【衎】エン。夷然切　先

すゝむ、（進）。○〔周〕「掌ニ望祀望――ニ」。

【衎】カン。苦肝切　翰

㊀行き喜ぶ貌にいふ字、一說に、たのしむ、（樂）。○〔詩〕「君子有レ酒、嘉賓式燕以―」。「貌」。

㊁さだまる、（定）。○〔郭璞〕「――然安定

【衎】カン。苦旱切　旱

言を信にす、まことにす。

四畫

【衏】カウ　寒剛切　陽

人を樂ましむる貌にいふ字。

【衍】ケイ、ギヤウ。戸經切　靑

行く貌にいふ字。

【衙】ギヨ、ゴ。魚據切　御

はべる、（侍）。

五畫

【衕】レイ、リヤウ。郎丁切　靑

みち、（道）。

【衒】ケン、ゲン。熒絹切　霰　扃縣切　先

てらふ。

(い)己れと己れを媒介す、行きて賣る。○〔戰〕「舍レ媒而自―」。

(ろ)己れを衿り示す、ほこる。○〔舊唐〕「素衿―事多ニ專決ニ」。

〔誇衒〕ほこる。○〔文中子〕「不レ爲ニ――ニ」。

〔估衒〕すゝめ賣ること。○〔隋〕「―ニ―公王之間ニ」。

〔媒衒〕てらふ。○〔崔沔〕「安肯負ニ――之醜ニ、棄廉恥之規ニ」。

〔爭衒〕きそひほこること。○〔趙良器〕「指ニ奇文ニ而――」。

【術】シユツ　ジユチ。食律切　質

㊀わざ。

(い)學問、技藝。○〔禮〕、「古之學ニ――道ニ」。

(ろ)事業、作爲、しわざ、はたらき　○〔禮〕「營レ道同レ―」。

(は)巧智、權略、はかりごと、ちゑ。○〔人物志〕「思通ニ造化一、策略奇妙、是爲ニ――家ニ」。

㊁みち。

(い)由る所。○〔禮〕「心――形焉」。

(ろ)道理、のり。○〔晏〕「―有ニ條理ニ」。

(は)徑路、ちまた。○〔左思〕「當レ衢向レ―」。

(に)法律、おきて。○〔禮〕「有司正レ―也」。

(ほ)方法、てだて。○〔戰〕「臣有ニ百戰百勝之――ニ」。

㊂行政區劃の一名目。○〔管〕「里十爲レ―、―十爲レ州」。

㊃述に通じ用ふ、のぶ。○〔禮〕「―省レ之」。

㊄沭に通じ用ふ。○〔史〕「―陽侯

〔方術〕方士のわざ。○〔後漢〕「頗好ニ――ニ」。

〔儒術〕儒者のみち。○〔史〕「招ニ致――之士ニ」。

〔劍術〕つるぎを使用するわざ。○〔唐〕「――無レ前」。

〔道術〕道德學術。○〔漢〕「――缺廢」。

〔數術〕はかりごと。○〔後漢〕「――窮ニ天地ニ」。

〔藝術〕學藝などのわざ。○〔晉〕「――之興、由來尙矣」。

〔法術〕法律。○〔後漢〕「修ニ商鞅之――ニ兮」。

〔異術〕めづらしきわざ。○〔北〕「殊藝――」。

〔奇術〕前に同じ。○〔韓愈〕「悲哉無ニ――ニ」。

〔兵術〕戰ひのわざ、戰ひのみち。○〔北〕「呂望孫武之――」。「――」。

〔任術〕權術によりて事をなす。○〔陸機〕「棄レ道「―ニ其―ニ」。

〔卷術〕わざをかくしてあらはさず。○〔夢溪筆談〕

〔性術〕性質。○〔禮〕「聲音動靜――之變盡ニ於此ニ矣」。

〔學術〕學問藝術、又、わざを習ふ。○〔史〕「始嘗與ニ蘇秦ニ、俱事ニ鬼谷先生ニ―レ―」。

〔技術〕技藝。○〔漢〕「今其――眩昧」。

〔算術〕算法の藝術。○〔漢〕「其法在ニ――ニ」。

〔經術〕經學といふに同じ。○〔漢〕「尊ニ修――ニ」。

〔相術〕人相を觀るのみち。○〔漢〕「僕嘗受ニ―レ人之―ニ」。

〔政術〕まつりごとをなすてだて。○〔後漢〕「詔擧下明二ー・ー一、達二古今一、能直言極諫者、各一人上」。
〔古術〕むかしのわざ。○〔後漢〕「亦猶二ー・ー之不レ能レ下二通於今一也」。
〔上術〕よきてだて。○〔後漢〕「未レ聞二ー・ー一」。
〔讖術〕將來のことを知る一種のみち。○〔晉〕「世祖尤耽二ー・ー一」。
〔懷術〕てだてをこゝろのうちにいだく。○〔晉〕「君ーレー以御レ臣」。
〔占術〕うらかたのわざ。○〔後漢〕「文公以二ー・ー一馳レ名」。
〔巫術〕みこのわざ。○〔後漢〕「善二ー・ー一」。
〔挾術〕計畧をいだく。○〔蘇軾〕「甚矣歆之懷レ詐ーレー以欺二非君一也」。
〔智術〕智謀といふに同じ。○〔蜀〕「而ー・ー淺短」。
〔醫術〕疾病をいやす法。○〔晉〕「兼明二ー・ー一」。
〔秘術〕秘密のわざ。○〔晉〕「安危之ー・ー」。
〔顯術〕わざを世にあらはす。○〔晉〕醫和ー二ー於秦晉一。
〔衆術〕おほくのわざ。○〔晉〕「詳觀二ー・ー一」。
〔玄術〕ふかきみち。○〔晉〕二少學レ道妙二通ー・ー一。
〔針術〕はりを用ひて疾病をいやすわざ。○〔南〕「以レ善二ー・ー一深被二太武賞愛一」。
〔吏術〕役行の執るわざ。○〔南〕「尤長二ー・ー一」。
〔才術〕才智學藝。○〔唐〕二而以二德行ー・ー一播者、十不レ能レ一」。
〔書術〕文字をかくわざ。○〔唐〕「通二貫ー・ー一」。
〔他術〕はかのてだて。○〔唐〕「治亂之本、非レ有二ー・ー一」。
〔星術〕天文の學術。○〔五〕「傑黠下以二ー・ー一事上レ人」。
〔權術〕はかりごとのてだて。○〔宋〕「三代聖王有二至誠一而無二ー・ー一」。
〔妖術〕人をまどはす如きあやしきわざ。○〔元〕「以二ー・ー陰謀一聚レ衆」。
〔惑術〕人をまどはすわざ。○〔韓〕「天下之ー・ー也」。
〔危術〕やすからざるてだて。○〔淮〕「好レ勇ー・ー也」。

【術】

遂に同じ。○〔禮〕二ー有レ序」。

六畫

【衕】

トウ、ヅ。徒紅切　東

❶くだる、（下）。❷通衕、ちまた。

【衖】

巷に同じ。

【衚】

キヤク、ギヤク。巨略切　藥

うむ、（倦）。

【街】

カイ、ケ。古膎切　佳　キ。均窺切　支

四通の路、よつかどに通じたるみち、おほどほり、ちまた。○〔後漢〕「對レー爲レ宅」。

〔天街〕星の名。○〔史〕「昴・畢閒爲二ー・ー一」。
〔塡街〕ちまたに充滿す。○〔後漢〕「車・馬ーレー」。
〔充街〕前に同じ。○〔顔延之〕「市巷ーレー」。
〔開街〕ちまたをあらたにつくりひらく。○〔南〕「ーレー列レ門」。
〔市街〕まち。○〔白居易〕「ー・ー塵不レ到」。
〔雪街〕ゆきのふりつもりたるまち。○〔趙嘏〕「馬過二ー・ー一天未レ曙」。
〔御街〕禁街といふに同じ、禁苑中のみち。○〔李洞〕「二道蟬・聲噪二ー・ー一」。

【衙】

愆に同じ、あやまち。○〔漢靈〕國夫人碑」「操無二遺ー一」。

七畫

【衙】

ガ、ゲ。牛加切　麻

❶參集す、あつまる。○〔篇海〕「早・晚ー集也」。
❷吏員のあつまる所、やくば、やくしよ、廳府。○〔舊唐〕「入レー入レ閤」。

〔正衙〕役所。○〔舊唐〕「明道之西有二武・成・殿一、卽ー・ー聽政之所也」。
〔殿衙〕役所の稱。○〔朱熹〕「好趁二春風一入二ー・ー一」。
〔退衙〕役所を退出す。○〔白居易〕「ー・ー歸遲夜」。

【衘】

ギヨ、ゴ。語居切　魚

行く貌にも、又、疎遠なる貌にもいふ字。○〔宋玉〕「導二飛廉之ー・ー一」。

【衙】

禦に同じ、さゝむ、ふせぐ。

八畫

【衜】

衟に同じ。

九畫

【衚】

コ、ク。古孤切　虞

街道、おほぢ、ちまた。

【衛】

俗の衞の字。

【衞】

キン、コン。火禁切　沁

暗行の貌にいふ字。

【衎】

カン、ケン。許咸切　咸

開く貌にいふ字。

【衝】

シヨウ、シユ。尺容切　冬

❶通路、さほりみち。○〔史〕「陳・留天下之ー四・通五・達之郊也」。
❷つく、又、あたる。
（い）向かひて直前す、むかふ。○〔後漢〕「逆レ流而上直ー二浮橋一」。
（ろ）突擊す、つきあつ、つきあたる。○〔呂氏春秋〕「所レ擊無レ不レ碎、所レー無レ不レ陷」。
❸むかふ方、むかひ。○〔月令章句〕「常依二陰・雲一而晝見二于日ー・ー一」。
❹あたる處、つきあたり。○〔庾信〕「白・馬當二河ーー一」。
❺敵陣又は敵艦に向かひて突貫する兵車又は兵艦。○〔詩〕「以二爾鉤・援一與二爾臨ー一」。

〔中衝〕脈、又、手の中指の端。○〔素問〕「心出二于ー・ー一」。
〔折衝〕敵のほこさきをくじく。○〔晏子春秋〕「而ー二ー千里之外一」。
〔蒙衝〕生牛の皮をもてればひたるいくさぶねの名。○〔南〕「所レ乘者ー・ー小艦」。
〔渠衝〕あろぜめに用ふるおほいなるほこ。○〔荀〕「是ー・ー入レ穴而求レ利也」。
〔兵衝〕軍兵の突きかゝりきたるみち。○〔後漢〕「常爲二ー・ー一」。
〔街衝〕ちまた。○〔魏都賦〕「內則ー・ー輻・輳一」。
〔雲衝〕くものみちとて高きそらをいふ。○〔焼鵲〕「忽迴二ー・ー一起」。
〔臨衝〕臨車と衝車とのとにてともに戰爭に用ふる車。○〔詩〕「與二爾ー・ー一」。

【衝】

シヨウ、シユ。蠢勇切　腫

相入る貌にいふ字。○〔司馬相如〕「騷・擾ー・ー蓯」。

【衝】

シヨウ、シユ。衝用切　宋

要處、かなめ。○〔元稹〕「神・王守二要ー・ー一」。

【衞】

キ。許歸切　微

うつくし、よし、（美）。

十畫

【衛】

エイ、エ。于歲切　霽

❶防護す、まもる。○〔公羊〕「朋・友相ー」。
❷まもること、まもる者、まもり。○〔左〕「文・公之入也無レー」。
❸いとなむ、（營）。○〔國〕「有レ貨以ーレ身」。
❹邊圻の稱、ほとり、くにざかひ。○〔書〕「侯甸男采ー」。

〔武衞〕たけきまもり。○〔晉〕「二・百・重奮二ー・ー一」。
〔宿衞〕とのゐ。○〔周、註〕「ー二ー王・宮一者」。
〔營衞〕軍營の守護者。○〔史〕「ー・ー止レ噲」。
〔精衞〕鳥の名。○〔山海經〕「發・鳩之山有レ鳥、名曰二ー・ー一」。

〔防衛〕ふせぎまもる ○〔晉、疏〕「思ニ禁-道一以自一ニ-之ニ」。
〔捍衛〕前に同じ。○〔後漢〕「一ニ-一親-族ニ」。
〔扞衛〕前に同じ。○〔後漢〕「身自一-一」。
〔四衛〕四方の疆服以内の地をいふ。○〔禮、疏〕「若ニ一-一則華-裔」。
〔警衛〕非常をいましめ守る、又、其の者。○〔後漢〕「一-一不レ修、則患生ニ非-常ニ」。
〔守衛〕まもること、又、其の者。○〔晉〕「宮-省無ニ復一-一ニ」。
〔護衛〕前に同じ。○〔班固〕「或虚-設豫-備以自一-一」。
〔周衛〕周圍のまもり。○〔揚雄〕「國有ニ一-一ニ」。
〔兵衛〕守護のつはもの。○〔南〕「一-一皆散-走」。
〔屯衛〕たむろして守護すること、又、其の者。○〔史〕「盡徴ニ其材-士五-萬-人一爲ニ一-一ニ」。
〔自衛〕おのれみづからふせぎまもる。○〔漢〕「不レ堅ニ刃-斗ニ一-一ニ」。
〔陛衛〕王者のきざはしのもとを守護するもの。○〔後漢〕「而述盛陳ニ一-一以延ニ援入ニ」。
〔禁衛〕王宮の守護、又、其の者。○〔晉〕「其夜月正明而一-一嚴-警」。
〔迎衛〕いでむかへて守護す。○〔晉〕「疋遐遭ニ洲-兵ニ一-一、達ニ于長-安ニ」。
〔備衛〕不虞にそなへてまもること、又、其の者。○〔晉〕「將嚴設ニ一-一ニ」。
〔戍衛〕軍隊のまもり。○〔南海古蹟記〕「官置ニ一-一ニ」。
〔鎮衛〕おさへまもる。○〔晉〕「一ニ-一山-陵ニ」。
〔侍衛〕王者にちかづきて守護すること、又、其の者。○〔晉〕「百-官及一-一、莫レ不ニ散潰ニ」。
〔門衛〕門をまもる者。○〔南〕「諸一-一皆走」。
〔親衛〕王者の親兵。○〔北〕「以ニ一-一ニ從レ征」。
〔嚴衛〕まもりをきびしく備ふること。○〔唐〕「一レ一然後見」。

【衡】 カウ、ギヤウ。戸庚切 庚

㊀物を掛け權（おもり）に任かせて其の輕重をはかる具、はかりざを。○〔荀〕「一-一誠懸矣、則不レ可ニ欺以ニ輕-重ニ」。
㊁平正を持するもの。○〔荀〕「公-平者職之一也」。
㊂輕重を平正す、はかる。○〔漢〕「一ニ之於左-右ニ」。
㊃平正、たひらか、ひさし。○〔素問〕「胥-氣不レ一」。
㊄輕重を争ふ、あらそふ。○〔史〕「與ニ天-子ニ抗一-一」。
㊅渾天儀のよこぎ。○〔書〕「在ニ璿-璣玉一-一ニ」。
㊆勺柄の龍頭、えのかしら。○〔周〕「一四-寸」。
㊇欄楯、てすり。○〔漢〕「百-金之子不レ騎レ一」。
㊈横木、よこぎ。○〔詩〕「一-門之下可ニ以棲-遲ニ」。
㊉車軛、くびき。○〔論〕「則見ニ其倚ニ於一ニ」。
⑪冠を維持するもの、かうがい。○〔左〕「一-紞紘-綖」。
⑫眉と目との間。○〔蔡邕〕「揚レ一含レ笑」。
⑬横に同じ、よこ。○〔詩〕「一ニ從其畝ニ」。
⑭北斗七星の中位にある星。○〔漢〕「一-殷ニ南-斗ニ」。
⑮山林を掌る官の名。○〔周〕「虞一-作ニ山-澤之材ニ」。
⑯輔佐の顯官。○〔陸機〕「奕-世台-一」。
⑰蘅に通ず、かんあふひ。○〔司馬相如〕「有ニ惠-圃-一-蘭ニ」。
〔璇衡〕星の名、又、渾天儀。○〔楊愼〕「沖-霄紫-氣一-一北」。
〔平衡〕正しきはかりのさを。○〔韓偓〕「輕-重在ニ一-一ニ」。
〔權衡〕はかり。○〔呉越春秋〕「禹調ニ一-一ニ」。
〔提衡〕ひとし。○〔漢〕「相與一-一」。
〔銓衡〕はかり、又、ならべはかる。○〔後漢〕「平ニ一-一正ニ斗斛ニ」。
〔盱衡〕目をいからし眉をあぐること。○〔左思〕「一-一而語」。
〔持衡〕はかりのよこぎをもつ。○〔唐〕「天-下之勢猶レ一レ一」。
〔爭衡〕天下を取ることをあらそふ。○〔庾信〕「楚漢一レ一」。
〔門衡〕もんのよこぎ。○〔范成大〕「閽-魄縱ニ楚一-一ニ」。
〔鳥衡〕星の名。○〔史、註〕「熒-惑一-一皆南-方之宿」。
〔宰衡〕伊尹周公の故事にて國政を調理する宰相のこと。○〔蕭大圜〕「遇ニ一-一之勢ニ」。

【衜】 古文の道の字。

【衠】 シュン。朱倫切 眞
㊀まこと、（眞）。㊁たゞし、（正）。㊂雜りなきこと。

【衞】 衛に同じ。

【[illegible]】 ソ。桑故切 遇
きよし、（淨）。

十一畫

【[illegible]】 率に同じ、したがふ。○〔石鼓文〕「悉一ニ左-右ニ」。

【[illegible]】 帥に同じ、ひきゐる。

十二畫

【[illegible]】 衝の本字。○〔司馬相如〕「批レ巖一レ擁」。

十六畫

【[illegible]】 衢に同じ。○〔揚雄〕「一-周ニ九-路ニ」。

十八畫

【衢】 ク、ゴ。倶權切 虞
みち。
（い）四達の道、よつかどみち、ちまた。○〔左〕「尸ニ諸周-氏之一ニ」。
（ろ）岐路、えだみち、よこみち。○〔荀〕「行ニ一-道一者不レ至」。
〔天衢〕星の名。○〔晉〕「中-關爲ニ一-一ニ」。
〔路衢〕郭内のちまた。○〔公羊〕「致ニ乎一-一ニ」。
〔通衢〕四達のちまた。○〔宋〕「韶焚ニ交-趾所レ貢翠-羽于一-一ニ」。
〔康衢〕いつつじよつつじのちまた。○〔列〕「微-服游ニ于一-一ニ」。
〔雲衢〕空中。○〔路振〕「鼓ニ翼一-一ニ」。
〔長衢〕ながきまち。○〔左思〕「朱-輪竟ニ一-一ニ」。
〔修衢〕前に同じ。○〔沈約〕「[illegible]ニ一-一以騁レ力」。
〔皇衢〕おほいなるまちのこと。○〔吳師道〕「一-一坦蕩-々」。
〔街衢〕ちまた。○〔劉孝綽〕「一-一紛漠-々」。
〔四衢〕よつつじ、又、枝などの四出するさまに用ふることあり。○〔山海經〕「其枝一-一」。
〔郊衢〕城外のみち。○〔劉孝威〕「節-使滿ニ一-一ニ」。
〔廣衢〕ひろきみち。○〔楊羲臣〕「開レ池臨ニ一-一ニ」。
〔隘衢〕せまきみち。○〔元稹〕「隘-塵亦一-一」。

衣部（衤）

類篇「衣象ニ覆レ人之形ニ」

【衣】 イ、エ。於希切 微

㊀體軀に纏ひ寒暑を庇ふもの、きもの、ころも、特に、上部又は表面に著くるもの、うはぎ、かみぎ。○〔禮〕「一正-色」。
㊁物の面に纏ふものゝ泛稱。○〔晉〕「進ニ面一-一ニ」。
㊂服膺す、おこなふ。○〔書〕「一ニ德-言ニ」。
〔澣衣〕ころもをすゝぎあらふ。○〔詩〕「薄一我一ニ」。
〔袞衣〕帝王のころも。○〔詩〕「一-一繡-裳」。
〔錦衣〕にしきのころも。○〔禮〕「一-一以裼レ之」。
〔素衣〕しろきころも。○〔禮〕「大-夫士去レ國、一-一素-裳素-冠」。
〔白衣〕前に同じ。○〔禮〕「孟-秋之月、天-子衣ニ一-一服ニ白-玉ニ」。
〔燕衣〕平日燕居のときにきるきもの。○〔禮〕「一-一不レ踰ニ祭-服ニ」。
〔玄衣〕くろきうちにあかみをおびたるいろのころも。○〔禮〕「一-一而養レ老」。

（靑衣）あをきいろのころも。○〔禮〕「孟・春之月、天・子衣二ー・ー一服二蒼・玉一」。
（黑衣）くろきいろのころも。○〔禮〕「孟・冬之月、天・子衣二ー・ー一服二玄・玉一」。
（采衣）いろどりをほどこしたるころも。○〔杜甫〕「更覺ー・ー春」。
（惡衣）そまつなるころも。○〔論〕「士志レ於道、而恥二ー・ー惡・食一者、未レ足二與議一也」。
（雨衣）あめふりにきるころも、あまぎ。○〔許渾〕「自剪二靑・莎一織二ー・ー一」。
（解衣）ころもをぬぐ。○〔史〕「漢・王ーレー衣レ我」。
（脫衣）前に同じ。○〔國〕「ーレー就レ功」。
（攝衣）ころものみだれを整ふ。○〔史〕「沛・公起ーレー謝二食・其一」。
（朝衣）官職あるものゝ朝にいづるときつくるころも。○〔岑參〕「北・山疎・雨點二ー・ー一」。
（文衣）うつくしくあやあるころも。○〔史〕「皆衣二ー・ー一」。
（更衣）ころもをぬぎかふ。○〔高啓〕「ーレー直二夜・房一」。
（羽衣）鳥のはねをあみてつくりたるころも。○〔漢〕「五・利將・軍衣二ー・ー一」。
（繡衣）ぬひのあやあるころも。○〔庾信〕「旣乘二驄・馬一、仍被二ー・ー一」。
（牛衣）亂麻を編みて作りたるもの。○〔漢〕「妻曰、人當レ知レ足、獨不レ念二ー・ー中涕泣時一耶」。
（絳衣）あかきいろのころも。○〔後漢〕「及レ見二光・武ー・ー大・冠一」。
（儒衣）學者のきるころも。○〔後漢〕「染被二服ー・ー一」。
（曬衣）ころもを日光にほす。○〔儲光羲〕「喬・林時ーレー」。
（鐵衣）よろひ。○〔木蘭歌〕「寒・光照二ー・ー一」。
（征衣）たびにきるころも。○〔王安石〕「燈・火著二ー・ー一」。
（旅衣）前に同じ。○〔崔湜〕「淸・霜換二ー・ー一」。
（褰衣）ころもを手にてかゝぐ。○〔柳宗元〕「登レ樓獨ーレー」。
（敗衣）やぶれごろも。○〔司空曙〕「安レ貧著二ー・ー一」。
（弓衣）ゆみぶくろ。○〔詩、疏〕「櫜者ー・ー」。
（敝衣）前に同じ。○〔史〕「ー・ー閒・步」。
（重衣）ころもをかさぬ、又、ころものかさね。○〔孟郊〕「一・撫勝二ー・ー一」。
（禮衣）儀式に用ふるころも。○〔左、註〕「端・委ー・ー也」。

（紫衣）むらさきいろのころも。○〔管〕「桓公好服二ー・ー一」。
（好衣）うつくしきころも。○〔漢〕「ー・ー美・食」。
（絺衣）ほそき葛布のころも。○〔史〕「堯乃賜二舜ー・ー一與レ琴」。
（綺衣）あやぎぬのころも。○〔張文恭〕「淩霞曳二ー・ー一」。
（故衣）ふるきもの。○〔史〕「武・帝詔使下邢・夫・人衣二ー・ー一、獨・身來前上」。
（短衣）たけながからざるころも。○〔金樓子〕「寒・香不レ貪二尺・璧一而思二ー・ー一」。
（葛衣）くずぬのもて作りたるころも。○〔史〕「夏・日ー・ー」。
（鮮衣）あざやかなるころも。○〔梁昭明太子〕「光形飾レ體莫レ過二ー・ー一」。
（溫衣）あたゝかなるきもの。○〔後漢〕「ー・ー美・飯」。
（燎衣）ころもを火にあぶる。○〔後漢〕「光・武對レ竈ーレー」。
（遞衣）同一のころもをかはるぐ\きること。○〔後漢〕「同レ食ーレー」。
（襲衣）きぬおりのころも。○〔晉〕「皆以二ー・ー一爲二朝・服一」。
（複衣）ころもをかさねきる。○〔南〕「夏・月常ー・ー」。
（胞衣）えな。○〔南〕「敬・則生時ー・ー紫・色」。
（油衣）あまがッぱ。○〔隋〕「左・右進二ー・ー一」。
（端衣）正服。○〔庾信〕「ー・ー整・笏」。
（桂衣）みの。○〔江爲〕「春雨滿二ー・ー一」。
（林衣）このは。○〔宋之問〕「ー・ー掃レ地輕」。
（褻衣）はだつきのころも。○〔司馬相如〕「表・其ー・ー」。
（薄衣）あつからざるころも。○〔梁武帝〕「菲・食ー・ー」。
（浴衣）ゆあがりにきるころも。○〔孟浩然〕「泉・堂施二ー・ー一」。
（僧衣）出家のきるころも。○〔綦母潛〕「山・頭禪・室挂二ー・ー一」。
（臥衣）ねまき。○〔賈島〕「掃レ牀移二ー・ー一」。
（不勝衣）からだのかよわきとにてころものおもきにたふる能はざるをいふ。○〔禮〕「趙・文子退・然如ーレーレー」。
（無垢衣）僧侶のつくるけさの異名。○〔翻譯名集〕「袈裟一名二ー・ー・ー一、又名二離・塵・服一」。
（繒繪衣）あかきぬのころも。○〔史〕「爲二ー・ー・ー一」。
（鼃蠙衣）水中のあをごけ。○〔莊〕「ー・ーー之ー」。
（蝦蟇衣）車前草の異名。○〔本草〕「車・前・草釋・名ー・ー・ー、蝦・蟇喜藏二伏于下一、故江・東稱爲二ー・ー・ー一」。
（龍子衣）へびのぬけがらの異名。○〔本草〕「蛇・蛻一名二ー・ー・ー一」。
（只孫衣）一色のころもをいふ。○〔輟耕錄〕「元・制內・宴諸・臣皆賜二ー・ー・ー一」。

【衣】イ、エ。於旣切 未
著被す、きる、きす。○〔漢〕「身ー二弋・綈一」。

二畫

【衤了】レウ。盧鳥切 篠
校ーは、小さき脛衣、こもゝひき、こばかま。○〔皮日休〕「校ー漁・人服」。

【卒】ソツ、日沒切 月
ソチ。切
〔韻會〕古以二染衣一題識、故从二衣十一。
㊀徒步して軍に從ふもの、人に隷し事に給するもの、こもの、つかはれもの、あしがる、ゑもざむらひ。○〔左〕「鏤・身之ー」。
㊁軍隊編制の一名目。○〔周〕「四・兩爲レー、五ー爲レ旅」。
㊂にはか、あわつ、急遽。○〔史〕「不レ可二以應一レー」。

【卒】シュツ、シュチ。子聿切 質
㊀つく、つくす（盡）。○〔國〕「ーレ爵」。
㊁をふ（終）。○〔詩〕「畜レ我不レー」。
㊂をはる。
（い）終ほる。○〔史〕「語ー而單・于大怒」。
（ろ）士大夫の歿するにいふ字。○〔禮〕「大・夫曰レー、士曰二不・祿一、庶・人曰レ死」。

【卒】シュツ、ジュチ。昨律切 質
けはし、さかし（崔嵬）。○〔詩〕「漸・々之石惟其ー矣」。

【卒】サイ、セ。取內切 隊
副貳、そへ。○〔禮〕「諸・侯、卿、大・夫、士之庶・子之ー」。

三畫

【衤八】
襟に同じ。

【衤工】カウ、コウ。古雙切 江
衣の帶、おび。

【衦】カン。古旱切 旱 居案切 翰
衣を摩展す、なでのばす。

【衧】ウ、ヲ。雲俱切 虞
諸ーは、大掖の衣。

【衤弓】キウ、ク。居雄切 東
みごろ（裑）。

【表】ヘウ。陂矯切 篠
㊀外衣、うはぎ。○〔禮〕「ー裘不レ入二公・門一」。
㊁外衣を加ふ、きす、きる。○〔論〕「必ー而出レ之」。
㊂外面、そと、そこ、おもて。○〔書〕「方行二天・下一至二于海ー一」。
㊃あらはす。
（い）特にしるす。○〔書〕「ー二厥宅・里一」。
（ろ）明かにす。○〔禮〕「君・子ーレ微」。
㊄顯出す、あらはる。○〔左〕「以ー二東・海一」。
㊅しるし。
（い）標的、めあて、めじるし。○〔國〕「置二茅・蕝一設二望ー一」。
（ろ）外に見はれたるもの。○〔淮〕「能爲レー者」。

㊆日晷を度る槷、ひかげばしら。○〔史〕「立レ——下レ漏一」。
㊇儀型、模範、のり、みち。○〔淮〕「抱レ——懷レ繩一」。
㊈容儀、擧止、やうす、たちゐ。○〔南〕「姿——瓌麗」。
㊉君上に奉る書狀。○〔蔡邕〕「——者不二需頭一」。
⑪事件を列記して要を觀るに便ならしむるもの。○〔史〕「六國年——」。
⑫特異なると、又、拔き出でたる貌にいふ字、又、偉大なる貌にいふ字。○〔楚辭〕「——獨立二兮山之上一」。
〔四表〕四外といふに同じ、四方の義。○〔書〕「光二被——一」。「——之——也」。
〔民表〕人民の標準としてのツとるもの。○〔禮〕「是——」。
〔人表〕前に同じ。○〔杜甫〕「高視收二——一」。
〔師表〕のり。○〔史〕「民之——也」。
〔儀表〕前に同じ。○〔史〕「人主天下之——也」。
〔奇表〕めづらしき相貌。○〔後漢〕「固狀貌有二——一」。
〔江表〕楊子江の左岸一帶の地をいふ。○〔晉〕「此子復王二振于——一」。
〔八表〕八荒といふに同じ、遠きはて。○〔何承天〕「仁被二——一」。
〔物表〕物外といふに同じ、塵世萬物のほかをいふ。○〔南〕「栖二心——一」。
〔旌表〕忠孝など人にすぐれたる節操ある者を門閭などにあらはして褒賞す。○〔晉〕「宜レ在二——之例一」。
〔華表〕陵墓祠堂などの前にたてたるとりゐの如きもの。○〔李商隱〕「灞水橋邊倚二——一」。
〔抗表〕かみにまうしあぐるふみをたてまつると。○〔唐〕「寢疾——諫二太宗一」。
〔奉表〕前に同じ。○〔南〕「王侯朝臣皆——」。
〔上表〕前に同じ。○〔唐〕「每歲——」。
〔銅表〕銅標。○〔隋〕「祖暅造二八尺——一」。
〔雲表〕そら。○〔西京賦〕「承二——之清露一」。
〔章表〕あるしふだ。○〔顏延之〕「馳レ檄發二——一」。
〔扁表〕ふだをかけあらはす。○〔後漢〕「皆二——其門一以興二善行一」。
〔通表〕上疏の文を通達す。○〔晉〕「——二——京師一」。
〔模表〕模範、てはん。○〔晉〕「君以二道德一爲二世——一」。
〔塵表〕世俗のほか。○〔南〕「棲二心——一」。
〔露表〕あらはす。○〔晉〕「——二——其罪一」。
〔賀表〕奉祝の表文。○〔南〕「方鎭皆有二——一」。
〔意表〕おもひのほかなると。○〔宋〕「皆出二羣臣——一」。
〔門表〕家の名聲。○〔北〕「不レ須二——一」。「位」。
〔僞表〕いつはりて上疏す。○〔唐〕「后——求レ避レ位」。
〔擬表〕上疏の文篇をつくる。○〔唐〕「以レ鑑——」。
〔降表〕降參のかきつけ。○〔五〕「李昊事二王衍一爲二翰林學士一草二——一」。
〔草表〕上疏文をつくる。○〔宋〕「——二百官——一」。
〔宙表〕世の中。○〔宋明帝〕「——燭二威流一」。
〔碑表〕たていしのおもて。○〔任昉〕「——蕪滅」。
〔詞表〕ことばのそと。○〔許敬宗〕「理超二——一」。
〔表表〕おほいにすぐれたる貌にいふ語。○〔陳與義〕「頭角已——」。

【衩】 サイ、セ。楚懈切 [卦]

㊀えり、（衽）。㊁膝に及ぶ衣。㊂もすそ、すそ、（裙）。○〔李商隱〕「裙——芙蓉小」。

【衪】 タク、ダク。闥各切 [藥]

㊀衣を開く、ひらく。㊁——衫は、長じゆばん。

【袘】 イ。弋支切 [支] 演爾切 [紙]

㊀衣の緣、へり、ふち。㊁そで、（袖）。

【衼】 ヨク、イキ。與職切 [職]

㊀ひさ、ぎぬ、（衫）。㊁黑衣。

【衵】 シヤク、サク。之若切 [錫]

テキ、チヤク。都歷切 [錫]

——襢は、ひさへぎぬ、襌衣。

【袀】 ハウ、ベウ。皮教切 [效]

衣襟、えり。

【衫】 サン、セン。所銜切 [咸]

㊀小襦、ちひさくみじかきころも、一說に、單襦、ひさへのみじかきころも、又一說に、袖の端なき衣。○〔束皙〕「脅二汗——一以當レ熱」。㊁衣の通稱、きもの、ごろも。○〔唐〕「士人以二棠紵襴——一爲二上服一」。

【衩】 ハン、ヘン。普患切 [諫]

たすき、（襻）。

【衱】 テイ、タイ。他計切 [霽]

手にて取る。

四畫

【衭】 フ。甫無切 [虞]

㊀前襟、まへえり。㊁襆袴、はかま。㊂——襪は、つるぎぶくろ、劍衣。

【袞】 コン。古本切 [阮]

㊀龍の章ある天子の法服。○〔周〕「享二先王一則——冕」。㊁れんごろに說く貌にいふ字。○〔晉〕「——可レ聽」。

(袞服之圖)

〔玄袞〕みかどの著くるくろきいろごろも。○〔詩〕「——赤舄」。
〔龍袞〕みかどの著くるたつのあやあるころも。○〔禮〕「天子——」。○〔華袞〕みかどの著くるうつくしきころも。○〔穀梁序〕「有レ同二——之贈一」。
〔被袞〕たつのあやあるころもをきる。○〔禮〕「王——以象レ天」。
〔御袞〕みかどの著くるころも。○〔南〕「——垂旒」、

【袙】 トウ、ツ。當口切 [有]

衫の袖。

【袚】 ハツ、ハチ。普活切 [曷]

そで、たもと、（袂）。

【袚】 韨に同じ、蠻夷の服。

【袑】 テウ。都聊切 [蕭]

㊀棺の中に練を張ると。㊁死者の衣。㊂蠻夷の衣。

【衯】 フン、ボン。撫文切 [文]

長き衣の貌にいふ字、衣の大いなる貌にいふ字。○〔司馬相如〕「——裶裶」。

【袢】 ホン、ボン。步奔切 [元]

長くして好き貌にいふ字。

【衰】 スヰ。雙隹切 [支]

微弱す、減小す、殺耗す、よわる、へる、そぐ、おとろふ。○〔論〕「鳳兮鳳兮何德之——」。○
〔扶衰〕おとろへよわりたるをたすけおこす。○〔[illegible]〕「聖人救レ敗——」。
〔變衰〕もとのすがたかはりおとろふ。○〔九辯〕「草木搖落而——」。「以垂翅」。
〔森衰〕たるゝ貌にいふ語。○〔江賦〕「蜛蝫——」。
〔蕭衰〕おとろふ。○〔李商隱〕「不レ惜二——一」。
〔盛衰〕さかんなるとおとろふると。○〔雲笈七籤〕「手爲二人關一把二——一」。

【衰】シ。所危切 支
等を殺減す、へす、そぐ。○〔荀〕「相レ地而—レ征」。

【衰】サイ、セ。倉回切 灰
縗に同じ、喪の服。○〔禮〕「斬—括レ髮以レ麻」。
〔墨衰〕くろき喪服。○〔南〕「縞—・—來迎」。
〔綌衰〕あらきくずぬの〻喪服。○〔禮〕「縣子曰、—・—繐・裳非レ古也」。
〔錫衰〕ほそぬの〻喪服。○〔周〕「王爲二三公六卿一「—・—」。
〔繐衰〕十五升の布もて作りたる喪服にて三月目にきる服。○〔周〕「爲二諸侯一—・—」。

【衰】蓑に同じ、みの。○〔詩〕「荷レ—荷レ笠」。

【衲】ダフ、ノフ。奴荅切 合
㊀ぬふ、おぎなふ、(補)。㊁僧衣、ころも。○〔智度論〕「應レ著二—衣一」。㊂轉じて、僧侶の稱。○〔戴叔論〕「老—供二茶盌一」。
〔毳衲〕僧衣の名。○〔陸游〕「—・—年々補」。
〔敝衲〕やぶれごろも。○〔長阿含經〕「尊者迦葉著二—・—一」。
〔緋衲〕ひのころも。○〔魏〕「詔賜二—・—小口袴褶一具、紫衲大口袴褶一具一」。
〔梵衲〕僧侶。○〔王縉〕「—・—之行」。
〔老衲〕としたけたる僧。○〔戴叔倫〕「—・—供二茶盌一」。
〔寒衲〕さむさの時に服するころも。○〔鄭巣〕「坐レ石縫二—・—一」。
〔半衲〕たけの短きころも。○〔張耒〕「—・—遮レ背「午齋」。
〔野衲〕ゐなかの僧侶。○〔成廷珪〕「—・—下レ堂留二是生涯一」。
〔癡衲〕おろかなる沙門。○〔陶安〕「五百—・—岩穴藏」。

【衱】ケフ、コフ。居業切 葉
㊀もすそ、すそ、(裾)。○〔杜甫〕「珠壓二腰—一穩稱レ身」。㊁えり、(褗)。

【衳】ショウ、シュ。職容切 冬
ふどし、(褌)。

【衳】ショウ、シュ。取勇切 腫
㊀前條に同じ。㊁ふみづつみ、(帙)。

【⿰衤少】ヘウ。俾小切 篠
袖の端。

【衴】タン、トン。都感切 感
へり、ふち、(緣)、一説に、被のへり。

【⿰衤互】コ、グ。胡故切 遇
短き衣。

【衵】ジツ、ニチ。人質切 質
常に著る衣、ふだんぎ。

【衵】ヂツ、ニチ。尼質切 質
女人の膚に近く著くる衣、はだぎ、おゆばん。○〔左〕「皆衷二其—服一、以戲二于朝一」。

【⿱比衣】ヒ。補委切 支
衣の袖、そで。

【衶】チユウ、ヂユ。直勇切 腫
はかま、(袴)。

【衷】チウ、チユ。陟弓切 東
㊀うち。(い)衣中。○〔左〕「楚人—レ甲」。(ろ)褻衣、はだぎ、ふだんぎ。○〔穀梁〕「或—二其襦一」。(は)心に蘊める所、こゝろ、おもひ。○〔任昉〕「莫レ不レ總二制清—一」。㊁誠實、まごころ、まこと。○〔左〕「發レ命之不レ—」。㊂宜しきに適ふこと。○〔左〕「必度二于本末一而後立レ—焉」。㊃偏せざること。○〔國〕「齊明—正」。㊄善なること。○〔書〕「降二—于下民一」。
〔天衷〕上帝のこゝろ。○〔蔡邕〕「先生誕膺二—・—一」。
〔淵衷〕きよきこゝろ。○〔顏峻〕「享二此—・—一」。
〔宸衷〕帝王のこゝろ。○〔王安石〕「軒鶴動二—・—一」。
〔聖衷〕前に同じ。○〔張九齡〕「流二名盛一—・—一」。

【衷】チウ、チユ。陟仲切 送
あたる、(當)、又、かなふ、(適)。○〔史〕「折二—于夫子一」。

【衸】カイ、ゲ。胡介切 卦
㊀襋膝、はゞき、きやはん。㊁布衣の幅、はゞ。㊂衣の長き貌にいふ字。

【衹】キ、ギ。巨支切 支
—枝は、僧尼の法衣、けさ、けごろも。

【衹】シ。章移切 支
まさに、(適)。○〔漢〕「—如レ慰自明揚二主之過一」。

【衹】テイ、タイ。土禮切 薺
帛の丹黃色、かばいろ。

【衺】シヤ、ゼ。似嗟切 麻
斜に同じ、正しからざること、よこしま、なゝめ。○〔周〕「去二其淫怠與二其奇—一之民一」。
〔回衺〕よこしま。○〔宋〕「必實—・—」。
〔姦衺〕前に同じ。○〔宋〕「臣知二大姦—・—一、而禁不レ言、是負二陛下一也」。

【衻】ゼン、子ン。汝鹽切 デン、子ン。尼占切 鹽
㊀嫁する時の上衣、うはぎ。○〔禮〕「婦人復不レ以レ—」。㊁衣の緣、ふち、へり。○〔儀〕「純衣纁—」。㊂蔽膝、ひざかけ、まへだれ。○〔禮〕「稅衣纁—」。

【衻】襜、裧に同じ。

【衼】シ。章移切 支
衹の條を見よ。

【衽】ジン、ニン。汝鴆切 沁 忍甚切 寢
㊀衣襟、衣前、えり、おくみ。○〔禮〕「—當レ旁」。㊁臥席、ふされ、ねむしろ。○〔周〕「掌二王之燕衣服—席一」。㊂みごろ、(裑)。○〔博雅〕「—、裀、袾、衫、襑也」。㊃器具の用材の合際を連ねさむるために嵌入して釘の代はりに用ふるもの、其の形は兩頭廣くして中央小さし、ちぎり。○〔禮〕「棺束縮二衡三、—毎レ束一」。
〔牀衽〕牀席。○〔禮、註〕「安二定其—・—一」。
〔裀衽〕しとね。○〔說苑〕「左二—・—一右二朝服一」。
〔衾衽〕前に同じ。○王僧達「—・—長レ暖」。
〔左衽〕ころものえりをひだりまへにす、即ち夷人の衣服の着けかた。○〔論〕「微二管仲一吾其被レ髮—・—矣」。
〔斂衽〕えりをたゞしくして儀容を整ふ。○〔漢〕「楚必—・—而朝」。
〔接衽〕連衽といふに同じ、人のえりをつらねてならぶこと。○〔何遜〕「並—レ—以聞レ道」。

(懷衽) ふところ。○〔韓〕「出ニ其父・母ーー之中ニ」。
(攝衽) もすそのつまをかヽぐ。○〔管〕「ーレー盥・漱」。
(襃衽) 前に同じ。○〔王粲〕「ーレー顯レ從レ之」。

【衾】キン、コン。去金切 [侵]
寢臥の衣被、ふすま、よぎ。○〔詩〕「抱ニー與レ裯」。
(錦衾) にしきおりのふすま。○〔詩〕「ーー爛兮」。
(布衾) ぬのヽふすま。○〔漢〕「ーー疎食」。
(綾衾) あやぎぬのふすま。○〔韓愈〕「ーー夜直頻」。
(複衾) かさねぶすま。○〔漢〕「不幸死者、賜ニーー」。
(同衾) ふすまをともにす。○〔中論〕「苟失ニ其心、ーー爲レ遠」。
(單衾) ひとへのふすま。○〔韋應物〕「ーー自不レ暖」。
(輕衾) おもからざるふすま。○〔張華〕「ーー覆ニ空床ニ」。
(重衾) おもきぬのヽふすま。○〔張華〕「ーー無ニ暖氣ニ」。
(夏衾) なつのあつき時に用ふるふすま。○〔潘岳〕「始覺ーー單」。
(綺衾) あやぎぬのふすま。○〔雪賦〕「援ニーー坐ニ芳褥ニ」。
(孤衾) ひとりねのふすま。○〔柳惲〕「ーー引ニ思緒ニ」。
(芳衾) よきにほひのふすま。○〔伏知道〕「淚滴ニーーニ」。
(薄衾) うすきふすま。○〔張籍〕「ーー中夜涼」。
(破衾) やぶれぶすま。○〔陸游〕「悠々擁ニーーニ」。

【袀】キン、コン。居勻切 [眞]
㊀戎服、いくさぎもの。○〔左思〕「六軍ー服」。
㊁まじりなきこと、純一。○〔揚雄〕「陽氣ー睟清明」。

【衿】キン、コン。居吟切 [侵]
㊀小帶、こおび。○〔爾〕「ー謂ニ之袸ニ」。
㊁交領、えり。○〔詩〕「青々子ー」。
(青衿) あをきころものえりにて青年の意に用ふることあり。○〔朱熹〕「斷ニーー之疑問ニ」。
(沾衿) ころものえりを濕す。○〔家語〕「涕泣ーレー」。
(喉衿) のどもとの義にて土地などの要害のところにいふ語。○〔晉〕「四塞山河、有ニーー之勢ニ」。
(解衿) 容儀をたゞしくせずしてくつろぐにいふ語。○〔蘇軾〕「ーレー顧レ景各箕踞」。

【衿】キン、ゴン。巨禁切 [沁]
㊀むすぶ(結)。○〔禮〕「ーレ纓綦レ屨」。
㊁おふ(帶)。○〔漢〕「ーニ芰茄之綠衣ニ」。

【袁】エン、ヲン。雨元切 [元]
長き衣の貌にいふ字。

【䘢】ヂウ、ニユ。女九切 [有]
衣の耎かなること。

【袃】[illegible]に同じ、さげ。○〔鶡冠子〕「細故ー薊」。

【袂】ベイ、メ。彌獘切 [霽]
袖の下部の臂の屈伸を受くる所、そで、たもさ。○〔禮〕「以レー拘而退」。
(短袂) ながからざるたもと。○〔李白〕「長風入ニーーニ」。
(擧袂) たもとをたかくあぐ。○〔讖〕「ーレー成レ幕」。
(揚袂) 前に同じ。○〔曹植〕「或ーレー屢舞」。
(攘袂) たもとをかヽぐ。○〔晉〕「其人ーレー奮レ拳而往」。
(聯袂) たもとをつらぬ、又、相ともなふこと。○〔蘇轍〕「平時出處常ーレー」。
(奮袂) たもとをうちふる。○〔淮〕「ーレー執レ鋭」。
(揮袂) 前に同じ。○〔阮籍〕「ーレー撫ニ長劍ニ」。
(分袂) たがひにはなれわかる。○〔白居易〕「ーー二年勞ニ夢寐ニ」。
(把袂) たがひにちかづきあふ。○〔梁元帝〕「何時ーレー、共披ニ心腹ニ」。
(衣袂) ころものそで。○〔謝靈運〕「妻妾牽ニーーニ」。
(華袂) うつくしきそで。○〔後漢〕「振ニーーニ以逶迤」。
(香袂) よきかをりのそで。○〔李白〕「風飄ニーーニ空中擧」。
(襟袂) えりとそでと。○〔杜牧〕「ーー滿ニ行塵ニ」。
(行袂) たびごろものそで。○〔方干〕「密雪霑ニーーニ」。

【衧】キ。去冀切 [寘]
そで(袖)。

【[illegible]】テウ。丁聊切 [蕭]
棺衣、ひつぎかけ。

【[illegible]】キヨウ、ク。許容切 [冬]
長衣、ながきころも。

【[illegible]】レキ、リヤク。狼狄切 [錫]
急しく纏ふ、まとふ。

五畫

【袈】カ、ケ。古牙切 [麻]
ー裟は、僧尼の服、卽ち、三衣の通稱にて出世服、法衣、忍辱鎧等の別稱あり、けさ。○〔通鑑〕「武后賜ニ僧法朗等紫ーー裟ニ」。

【袉】タ、ダ。徒何切 [歌]
㊀すそ(裾)。㊁拖に同じ。㊂うつくし(美)。

【衪】タ。他可切 [哿]
㊀前條に同じ。㊁長く舒びたる貌にいふ字。

【[illegible]】ダ、子。女加切 [麻]
敝衣、やれごろも。

【[illegible]】チヨ、ト。展呂切 [語]
前條に同じ。

【袊】レイ、リヤウ。良郢切 [梗]
衣領、えり、一說に、嫁する時の上衣、うはぎ、一說に、下裳、もすそ、又一說に、繞裳、すそまはし。

【袷】褶に同じ。

【袋】タイ、ダイ。徒耐切 [隊]
囊の屬、ふくろ。○〔南〕「作ニ五ーー一盛レ之」。
(布袋) ぬのもてつくりたるふくろ。○〔隋〕「以ニーーニ貯レ之」。
(皮袋) けものなどの皮にてつくりたるふくろ。○〔酉陽雜俎〕「盛ニ於ーーニ」。
(劍袋) つるぎをいるヽふくろ。○〔奇堅志〕「乃一ーー也」。

【袌】抱に同じ。

【[illegible]】袍に同じ。

【袌】ハウ、ボウ。薄報切 [號]
ふくろ(囊)。○〔揚雄〕「襌衣有レー者」。

【[illegible]】ハウ、ベウ。披教切 [效]
衣の綏き貌にいふ字。

【袍】ハウ、ボウ。薄褒切 [豪]
㊀腰下に著けて跗に至れる服、なかまへかけ、なかしもぎ、又、一著にてかみぎさしもぎさを兼ねたる如くつくりたる緣ある內衣、したぎ、なかぎ。○〔後漢〕「周公抱ニ成王ニ宴居故施レー」。

㊁褻を褚ひたる衣、わたいれ、ぬのこ。○〔論〕「衣ニ敝縕—ニ。
㊂朝服の垂衣、うはぎ、○〔後漢〕「望ニ見后—衣疏麤一、反以爲ニ綺縠ニ。
㊃衣の前襟まへえり。○〔公羊〕「反レ袂拭レ面涙沾レ—」。
㊄褻衣、はだぎ、したぎ。○〔禮〕「—必有レ表」。

【袎】アウ、エウ。於教切 效
たび、(襪)、又たびの頸。

【⿰衤正】セイ、シヤウ。諸盈切 庚
—衳は、小兒の衣。

【⿰衤立】ラフ、ロフ。落合切 合
—褡は、衣敝る、やぶる、やる。

【袏】サ。子賀切 箇
㊀衣の包嚢、ふくろ、かくし ㊁襌衣、ひとへぎぬ。○〔揚雄〕「襌-衣有レ袌者謂ニ之—-衣ニ」。

【袐】ヒツ、ヒチ。壁吉切 質
さす、(刺)。

【⿱此衣】シ。爭義切 寘
衣の折りちゞめたる處、ひだ、又ちゞまり寄りたるすぢ、しわ。

【⿱此衣】シ。將支切 支
複襦、あはせ。

【⿱此衣】セイ、ザイ。才詣切 霽
衣の衿を交ふ。

【⿰衤此】シ。阻氏切 紙

㊁きがへ、(⿰衤卒) ㊂ぬひめ、(衣縫)。

【袑】セウ、ゼウ。市沼切 篠
㊀袴の上部、はかまのどう。○〔漢〕「褒-衣大—」。㊁衣襟、えり。

【袒】タン、ダン。徒旱切 旱
衣を免ぎて肩をあらはす、かたぬぐ。○〔禮〕「冠毋レ免、勞毋レ—」。
(肉袒) かたをぬぎてはだをあらはす。○〔左〕「鄭伯肉—牽レ羊以迎」。
(偏袒) かたはだをぬぐ。○〔杜甫〕「—ニ—右肩—露ニ雙脚ニ」。
(兩袒) 左右のかたをぬぐ。○〔事文類聚〕「其女—·—」。
(解袒) かたをぬぐ。○〔後漢〕「若乃—レ—登レ枝」。
(褰袒) はかまをかゝげかたをぬぐこと。○〔南〕「未ニ嘗—·—ニ」。
(鄙袒) はだぎのこと。○〔釋名〕「汗衣近レ身受ニ汗垢ニ之衣也、詩謂ニ之澤ニ受ニ汗澤ニ也、或曰ニ—·—、或曰ニ襜-袒ニ」。

【袒】テン、デン。丈莧切 霰
綻に同じ、さく、ほころぶ。

【袓】ショ、ゾ。慈呂切 語
好きと。

【⿰衤朮】シュツ、ジュチ。食律切 質
劍衣、つるぎぶくろ。

【袲】ア。烏可切 哿
㊀—袲は、衣の貌にいふ語。㊁弱き貌にいふ字、しなやか。

【袔】襭に同じ、そで、袖。

【袔】袴に同じ。

【袔】カ。口個切 箇
夾衣、あはせ。

【⿰衤穴】シュツ、ジュチ。食聿切 質
衣に開きたる孔。

【袕】ケツ、ゲチ。胡決切 屑
長き衣。

【⿰衤甲】カフ、ケフ。古狎切 洽
㊀みじかきころも、(襦)。㊁えり、(衿)。

【袖】シウ、ジュ。似祐切 宥
衣の手を被ふ所、そで。○〔後漢〕「城中好ニ大—ニ」。
(長袖) たけながきそで。○〔史〕「韓子稱、—·—善舞、多錢善賈」。
(修袖) 前に同じ。○〔張衡〕「—·—繚·繞而滿レ庭」。
(領袖) えりとそでと、又、轉じて人のかしらたるといふ。○〔晉〕「誠爲ニ後進—·—也」。
(廣袖) ひろく大いなるそで。○〔梁簡文帝〕「—·—拂ニ紅塵ニ」。
(翹袖) そでをあぐ。○〔西京雜記〕「能爲ニ—·—折腰之舞ニ」。
(舉袖) 前に同じ。○〔袁桷〕「—レ—殘花落」。
(羅袖) うすぎぬのそで。○〔司馬相如〕「—·—拂ニ臣衣ニ」。
(綺袖) あやぎぬのそで。○〔蔡邕〕「—·—丹裳」。
(芳袖) よき香氣をふくめるそで。○〔陸機〕「馥々「其—ニ。—·—揮」。
(把袖) そでをにぎりつかむ。○〔史〕「臣左手—ニ」。
(張袖) そでをはりひろぐ。○〔庾信〕「—レ—而舞」。
(褊袖) はだぎのそで。○〔唐〕「—·—不レ過ニ一尺五寸ニ」。
(闊袖) ひろきそで。○〔宋〕「使ニ倭人裁冠—·—、「—·—ニ敎ニ大儒戲於上前ニ」。
(褏袖) 前に同じ。○〔孔叢子〕「子高衣長裾振ニ—·—ニ」。
(容袖) つゝそで。○〔薩都剌〕「短衣—·—呼ニ郎君ニ」。
(攝袖) そでをはらふ。○〔曹植〕「—レ—見ニ湯子ニ」。
(皓袖) しろきそで。○〔陶潛〕「攝ニ——之縞紛ニ」。
(素袖) 前に同じ。○〔鮑照〕「朱脣動—·—舉」。

【袗】シン。章忍切 軫 之刃切 震
㊀玄色の服。㊁へり、(緣)。㊂單衣、ひとへぎぬ。○〔論〕「當レ暑—絺綌」。㊃畫のある衣。○〔孟〕「被ニ—衣ニ」。

【袗】シン。之人切 眞
衣の色を同じくすること。○〔儀〕「兄弟畢—玄」。

【袘】イ。以豉切 寘
㊀裳の下の緣、すそへり。○〔儀〕「纁裳緇—」。㊁衣袖、そで。○〔司馬相如〕「揚—戌削」。

【袙】ハ、ヘ。普駕切 禡
さばり、(帳)。

【袙】バツ、マチ。莫八切 黠
首に捲く飾り、はちまき。○〔後漢〕「爲ニ絳—ニ以表ニ貴賤ニ」。

【袚】フツ、ホチ。敷物切 物
㊀蠻夷の服、えびすごろも。㊁襆—は綫褓、こどものころも。

【袚】ハツ、ハチ。北末切 曷
前條の㊀に同じ。

【袚】ヒ。方未切 未
蔽膝、ひざかけ、まへだれ。

【袛】テイ、タイ。都奚切 齊

─襵は、はだぎ、短衣、汗襦 ○〔後漢〕「其貲藏惟有二布衾敝─ 襵鹽麥數斛一耳」。

【袜】バツ、マチ。莫撥切 曷
衣を束ぬるもの、おび、又、肚に紮くものゝはらおび。○〔隋煬帝〕「寶─楚宮腰」。

【袜】韤に同じ、きやはん。○〔漢雜事祕辛〕「約〔縑迫〕レ─」。

【衤叵】ハ。滂禾切 歌
衣の貌にいふ字。

【袝】フ、ボ。符遇切 遇
盛服、はれぎ。

【袞】衮に同じ。

【袟】チツ、ヂチ。直一切 質
㊀斂衣、つゝぎぶくろ。㊁袠に同じ、ふみぶくろ。㊂秩に通じ用ふ、ふち、ついで、ついづ。○〔杜甫〕「六宮戚─」。

【袠】チツ、ヂチ。直一切 質
㊀書衣、ふみぶくろ、志よもつづつみ。○〔後漢〕「吾綈──中有二先祖所一レ傳祕記一」。㊁刺す、ぬふ。○〔禮、疏〕「以レ針刺──而爲二鞶囊一」。㊂衣囊、ふくろ。○〔禮〕「施二鞶──一」。

【衤瓜】ク、コ。況于切 虞
大紹、(おほはぞ)の衣。

【衤冗】ジョウ、ニュ。戎用切 宋
長き衣。

【袢】ヘン、パン。附袁切 元
㊀無色の衣、むぢのころも。㊁暑時に著くる短衣。

【袢】ハン。普半切 翰
──迡は、盛服(はれぎ)せる貌にいふ語。

【衤尼】デイ、ナイ。年題切 齊
喪禮の時に著くる首飾、かみかざり。

【衤尼】ヂ、ニ。乃倚切 紙
綺──は、衣の好き貌にいふ語。

【袣】エイ。餘制切 霽
㊀長く被ふ、おほふ。㊁衣の長き貌にいふ字。

【袘】イ。羊至切 寘
そで(袖)。○〔司馬相如〕「曳二獨繭之褕──一」。

【袤】ボウ、ム。莫候切 宥
㊀衣の帶以上の稱。㊁ながさ(長)、又、たて(縱)。○〔張衡〕「量二徑輪一考二廣──一」。
(延袤) ながさ。○〔史〕「──萬餘里」。
(周袤) まはり。○〔漢〕「───數百里」。

【衣矛】ボウ、ム。迷浮切 尤
長き衣。

【袥】タク。他各切 藥
㊀骹膝、ひざかけ。㊁衣領を開く、ひらく、あく。㊂廣大なり、ひろし。○〔揚雄〕「天地開闢、宇宙──坦」。

【衤出】ダツ、ヂチ。女刮切 黠
下人の帶襦。

【衤出】衤屈に同じ。

【袧】コウ、ク。居侯切 尤
兩側に辟(ひだ)を付したる裳ある褻衣、又、兩側に辟(ひだ)を設くること。○〔儀〕「幅三──」。

【袧】コウ、ク。居候切 宥
ひだ(襞)。

【袨】ケン。黃絹切 霰
黑色の衣、くろぎぬ 古昔は、盛妝に用ふる好衣さしたりといふ。○〔鄒陽〕「──二服叢臺之下一者一旦成レ市」。

【袪】キョ、コ。去魚切 魚
㊀そで(袂)、一說に、ふところ(褱)。○〔詩〕「摻二執子之──一兮」。㊁袖の手の出入する所、そでぐち。○〔儀〕「──尺二寸」。
(齊袪) そでをひとしくそろへて容儀をたゞしくすること。○〔說苑〕「王北面正レ領──レ──」。
(分袪) たもとをわかつ、即ち、わかるゝことにいふ語。○〔盧思道〕「───俄易レ隔」。

【衣歷】レキ、リヤク。郎擊切 錫
纏ひ裹む、まとふ、つゝむ。

【袌】ハウ、ボウ。薄毛切 豪
長き襦。

【被】ヒ、ビ。皮義切 寘
㊀かうぶる、かうむる。
(い)上に覆ふ。○〔屈平〕「皐蘭──レ徑兮」。
(ろ)くはふ(加)。○〔漢〕「高祖──レ酒、夜徑二大澤中一」。
(は)著く、きる。○〔國〕「夫子──レ之」。
(に)おふ(負)。○〔後漢〕「──レ羽先登」。
(ほ)おぶ(帶)。○〔漢〕「國──レ邊匈奴數入」。
(へ)およぶ(及)。○〔書〕「光──二四表一」。
㊁かうむらしむ、かぶらす、くはふ、きす、おはす(㊀の條參照)。○〔詩〕「天──二爾祿一」。
㊂巾把、にぎり。○〔周〕「凡爲レ几之五二分其長一、以二其一一爲二之──一而圍レ之」。
㊃器具、うつは。○〔戰〕「械器──具」。
㊄かうぶる器具の物にいふ字。○〔史〕「甲楯五百──」。
㊅表面、おもて。○〔儀〕「緇レ──纁レ裏」。
(廣被) ひろくいづこまでもおはふ。○〔東京賦〕「惠風───」。
(溥被) 前に同じ。○〔元結樂歌〕「類二我聖德一兮──二──無レ方」。
(橫被) 前に同じ。○〔西都賦〕「──二──六合一」。
(通被) および及す。○〔後漢〕「書文之所二───一」。
(同被) ともにかうむる。○〔後漢〕「───二國恩一」。
(覆被) おはふ。○〔後漢〕「──二──遠方一」。
(遐被) 遠方までおよぶ。○〔晉〕「陛下雖二鴻澤──一」。
(蒙被) かうむる。○〔易林〕「──二──恩澤一」。

【被】ヒ、ビ。攀糜切 支
㊀披に通じ用ふ、ひらく。○〔漢〕「──二夫容之朱裳一」。

【被】ヒ、ビ。部靡切 紙
㊁淺娑の貌にいふ字、ひらひら。○〔屈平〕「靈衣兮──、玉佩兮陸離」。

❶寢臥の薇衣、よぎ、ふさく、ふすま。○〔傅玄〕「一雖レ溫無レ忘二人之寒一」。❷髮を編みたる首飾、かづら。○〔詩〕「一之僮々」。
〔布被〕ぬのゝふすま。○〔漢〕「然爲二一一一此詐也」。
〔繡被〕ぬひのあるよるのころも。○〔後漢〕「爵以二所レ乘太驛馬及一一衣物一賜レ之」。
〔同被〕ふすまをともにす。○〔後漢〕「兄弟一レ一」。
〔共被〕前に同じ。○〔晉〕「逖與二劉琨一一レ一同寢」。
〔錦被〕にしきおりのよるのもの。○〔晉〕「嘗送二一一」。「夢雖レ窮」。
〔香被〕よきかをりある寢衣。○〔王初〕「鄂君一一」。
〔溫被〕あたゝかなるふすま、又、ふすまをあたゝむ。○〔晉〕「冬則以レ身一レ一」。
〔大被〕おほいなるふすま。○〔宋書〕「一一竟レ牀」。
〔絳被〕赤色のふすま。○〔在窮記〕「送二四幅一一一一領一」。「一一」。
〔寒被〕ひやゝかなる夜具。○〔張耒〕「霜氣徹二一一」。

【袠】袟に同じ。

【[illegible]】育に同じ。○〔管〕「民之能樹二瓜瓠葷菜百果一、使二蕃一一者」。

六畫

【袱】フク、ボク。房六切 屋
包む巾、ふくさ。

【[illegible]】セキ、シャク。七迹切 陌
蔽膝、ひざかけ。

【袲】イ。戈支切 支
地の名。○〔春秋〕「公會二宋公衞侯陳侯于一一」。

【袲】シ。尺氏切 紙
衣の長くして好き貌にいふ字。

【袲】ダ、ナ。奴可切 哿
裒の字の條を見よ。

【袳】哆に同じ。

【袳】シ。昌里切 紙
衣張る、はる。

【袳】ケイ、カイ。遣禮切 薺
衣を開く、ひらく、あく。

【袳】タ。典可切 哿
❶衣弱かなると、ゑなやか、❷おほふ(被)。

【袴】コ、ク。苦故切 遇
兩股各別に跨がり著くる衣、はかま、脛衣。○〔論衡〕「趙武藏二于一一中一」。
〔弊袴〕やぶればかま。○〔韓〕「故藏二一一一」。
〔紈袴〕前に同じ。○〔蘇軾〕「勸ヨ我脫二一一一」。
〔褰袴〕前に同じ。○〔蘇轍〕「一一不レ敢レ股」。
〔補袴〕はたぎとはかまと。○〔南〕「每二冬月一常作二一一以賜二凍者一」。
〔衣袴〕ころもとはかまと。○〔漢〕「一一一皆裂」。
〔脫袴〕はかまをぬぐ。○〔陸〕「東陝一レ一插二青秧一」。
〔故袴〕ふるばかま。○〔列〕「象二吾一一一」。
〔寬袴〕ゆるくつくりたるはかま。○〔丁晉公談錄〕「一生好服二一一一」。「薄如レ雲」。
〔紗袴〕うすぎぬのはかま。○〔白居易〕「紡花一一一」。

【䘸】ショク、シキ。賞職切 職
よそほふ(裝)。

【袻】ジ、ニ。人之切 支
しわ、ちぢみ。

【袼】ラク。盧各切 藥
(see below)

【袼】カク。剛隺切 藥
襞一一は、小兒の次衣、よだれかけ。○〔揚雄〕「襞一一謂二之褊一」。
そで(袖)、たもと(袂)、又、袂の掖に當たるところ、わき。○〔禮〕「一之高下可二以運レ肘」。

【袽】ジョ、ニョ。女余切 魚
❶袾一一は、やれごろも(敝衣)。❷衣一一は、舟の漏りを塞ぐに用ふるもの。

【袽】ジョ、ニョ。人余切 魚
絲屑、いさくづ、いさわた。

【[illegible]】テイ、ダイ。田黎切 齊
襧襠。

【袾】チュ。陟輸切 虞
朱衣。

【袾】シュ。昌朱切 虞
❶衣身、みごろ。❷短衣。❸うつくし、よし(好佳)。「衣晃」。❹朱に通じ用ふ、あか。○〔荀〕「一綣」。

【袿】ケイ、ケ。古攜切 齊
婦人の上服、うはぎ。○〔後漢〕「一裳鮮明」。

【袿】キ。均窺切 支
衣袪、そで。○〔嵇康〕「微風動レ一」。

【袵】衽に同じ。

【袷】カフ、ケフ。訖洽切 洽

【袷】ケフ。居怯切 葉
❶表と裏とありて中に絮なき衣、あはせ、夾衣、複衣。○〔潘岳〕「御二一衣一」。❷衣の縫ひめ、一說に、えり(衿)。
曲がれる衣領、えり。○〔禮〕「不レ上二于一一、不レ下二于帶一」。

【袣】紲に同じ。

【[illegible]】カウ、ゲウ。下巧切 巧
ケウ。吉了切 篠　吉弔切 嘯
一一衭は、小袴、こばかま。

【[illegible]】シュ、ジュ。春遇切 遇
射一一は、服の身に稱ふと。

【袸】ソン、ゾン。徂昆切 元　徂悶切 願
セン、ゼン。在甸切 霰

【[illegible]】エキ、ヤク。夷益切 陌
衣の小帶。○〔爾〕「衿謂二之一一」。

【袹】バク、ミヤク。莫白切 陌
長き衣。
一腹は、腹にまき著くるもの、はらあて。○〔晉〕「著二布一一腹一」。

【袙】帕に同じ。

【袺】ケツ、キチ。吉屑切 屑　カツ、ケチ。訖黠切 黠
上衽を執る、つまさる。○〔詩〕「薄言一レ之」。

【[illegible]】タ。都果切 哿　都戈切 歌

衣━は、そで、（袖）。

【裀】イン。伊眞切 眞

㊀衣身、みごろ。○〔博雅〕「複・襂謂二之━一」。

㊁茵に通じ用ふ、ぶとん、ふきもの。○〔晉〕「見レ有二絳・蚊・帳━褥一」。

【裁】サイ、ザイ。昨哉切 灰

㊀たつ。

（い）布帛を剪り衣服を製す、ふたつ。○〔南〕「美・錦不レ宜二濫━一」。

（ろ）切斷す。○〔後漢〕「㓷二━繁・蕪一」。

㊁つくる、（製）。○〔崔駰〕「過二班倕一而━レ之」。

㊂たゞす、（制）。○〔戰〕「大・王━二其罪一」。

㊃みわく、（鑒）。○〔孔叢子〕「明・智者━レ之」。

㊄ほどよくす、（節）。○〔易〕「化而━レ之、謂二之變一」。

㊅はかる、（度）。○〔淮〕「取レ民則不レ━レ力」。

㊆制斷、はからひ、きりもり。○〔北〕「不レ事二檢━一」。「━一」。

㊇鑒識、みわけ。○〔後漢〕「獨持二風━一」。

㊈制型、さだめ、かた。○〔班固〕「取二殊━於八・都一」。

㊉布帛の斷片、きれ。○〔唐〕「衫・布一━」。

⑪わづか、（纔）。○〔漢〕「戸・口可二得而數一者、━什二・三一」。

〔奏裁〕かみに奏聞して處決す。○〔唐〕「大・事━・━」。

〔討裁〕あらべはかる。○〔唐〕「宰・府・杜二人━・━」。

〔總裁〕すべはかる。○〔宋〕「事多━・━而已」。

〔製裁〕つくると、又、つくりかた。○〔顏氏家訓〕「宜下以二古之━・━一爲上レ本、今之辭・調爲レ末」。

〔品裁〕わかちはかる。○〔王儉〕「至二於━・━、臧・否一、持レ所レ未レ鬧」。

〔剪裁〕きりたつ、又、きれなどをたちぬひす。○〔歐陽修〕「老手尚能工二━・━一」。「━・━」。

〔剸裁〕つるぎなどにてきる。○〔揚載〕「操レ刀自

〔自裁〕自殺に同じ。○〔漢〕「卒有二物・故一━・━」。

【裁】サイ、ザイ。昨代切 隊

前條の㊁と㊂とに同じ、たつ、つくる。○〔穀梁〕「準━靡レ定」。

【袀】シユン、ジユン。松倫切 眞

領端、えりさき。

【裂】レツ、レチ。良薛切 屑

㊀剪裁したる殘餘の布帛、きれ。

㊁さく。

（い）分破す、わる、やぶる、ちぎる。○〔禮〕「衣・裳綻━、紉レ箴請二補・綴一」。

（ろ）ほろぶ、ほろぼす、（滅）。○〔莊〕「治レ民焉勿二滅━一」

〔車裂〕くるまざきの刑におこなふ。○〔史〕「秦惠・王━二商・君一」。

〔凍裂〕こほりわる。○〔杜甫〕「青・門瓜・地新━」。

〔屠裂〕ほふりさく。○〔曹植〕「身雖二━・━一」。

〔擘裂〕前に同じ。○〔後漢〕「未レ被二━・━之誅一」。

〔分裂〕さきわかつ。○〔賈誼〕「━・━河・山一」。

〔決裂〕前に同じ。○〔戰〕「━二━諸侯一」。

〔剖裂〕前に同じ。○〔漢〕「于レ是━二━疆・土一」。

〔震裂〕地震にて地ふるひさく。○張衡〕「梟有二妖・星━・━之菑」。

〔拆裂〕地面などのさけわるゝこと。○〔柳宗元〕「其下━・━而爲レ壕」。

〔碎裂〕くだく。○〔續漢書〕「石━・━」。

〔抽裂〕ひきさく。○〔魏〕「━二━心・藏一」。

〔裂裂〕ひゞぎれ。○〔梁〕「手爲━・━」。「━・━」。

〔圮裂〕邦土などのやぶれさくること。○〔魏〕「五・方━・━」。

〔挽裂〕ひきさく。○〔莊〕「彼必齕・齧━・━」。

〔擘裂〕前に同じ。○〔明畧十七事〕「能━・━飛・躍而出」。「━」。

〔横裂〕よこさまにさけやぶる。○〔李昭〕「中斷━・

〔四分五裂〕いくつにもさけはなる。○〔戰〕「此━謂━・━・━・━之道也」。

【裂】厲に通じ用ふ。○〔禮〕「有レ緣飾レ之、則是鞶━輿」。

【䘵】ロウ、ル。盧紅切 東

もゝひき、（袴）、一說に、こしまき、（裙）、又一說に、ふどし、（襌）。

【䘵】トウ、ツ。吐孔切 董

衣の短かき袖、つゝそで。

【䘪】シウ、シユ。昌終切 東

裾の字の條を見よ。

【𧙫】ケン。古莧切 諫

古き衣、ふるぎ。

【𧚓】レイ。力祭切 霽

そこなふ、（殘）。○〔國〕「戎・車待二游・車之━一」。

【𧚓】裂に同じ、さく。○〔戰〕「車・甲羽・毛━敝」。

【裹】裹に同じ。

【𧙯】カン、ケン。古晏切 諫

古衣、ふるぎ。

【裹】レキ、リヤク。狼狄切 錫

纏ひ裹む、まさふ、つゝむ。

【𧛀】セン。照驗切 豔

衣引く、ひく。

【裷】エン、オン。於絹切 霰

衿袖、そで。

【䘼】ケン、コン。去遠切 阮

たび、（襪）。

【𧙕】ジウ、ニユ。如融切 東

戎衣、いくさぎもの。

【𧚞】俗の裹の字。○〔漢〕「爵三・級曰二簪━一」。

【裋】シユ、上主切 麌 シユ、殊遇切 遇 タン。襯綏切 旱

敝衣褐、やぶれごろも、一說に、豎人の衣る布の長襦。○〔史〕「寒者利二━褐一」。

【䙌】ボク、モク。莫六切 屋

衣のぬひめ、（衣・縫）。

【裌】袷に同じ。

【裌】カフ、ゲフ。檄頰切 洽

㊀えり、（衽）。㊁をさむ、（藏）。

【䘸】カン、ゲン。戸版切 潸

衣裾、よだれかけ。

【裍】コン。古本切 阮

㊀成就す、なる、なす。㊁絭束す、からぐ。

【䙉】ロウ、ル。盧貢切 送

衣の一襲、ひさかされ。

【裎】テイ、ヂヤウ。直貞切 庚

㊀衣帶せざるを、衣揚がりて赤體露はるゝを、すはだ、はだか。○〔戰〕「秦人捐ㇾ甲、徒━以趨ㇾ敵」。「━ニ」。
㊁佩帶、おび。○〔博雅〕「佩-紟謂ニ之━ニ」。
㊂一種の單衣、ひさへぎぬ。○〔揚雄〕「禪-衣無ㇾ裒者、謂ニ之━-衣ニ」。

〔裸裎〕はだをあらはす、はだか。○〔孟〕「雖ㇾ袒ニ裼━ヨ━於我側ニ」。

【裎】テイ、チヤウ。丑郢切 梗

深衣、志ろごろも。

【絛】ケイ、ガイ。胡計切 霽

おび、(帶)。

【裐】ケン。居緣切 先

せまし、(褊)。

【䘷】ガ。牛河切 歌

衣の盛んなる飾り。

【裏】リ。良士切 紙

外表の反、うち、うら、なか。○〔詩〕「綠-衣黃━」。

〔表裏〕そとゝうちと。○〔左〕「━ニ━山-河ニ」。
〔山裏〕やまのうち。○〔王康琚〕「絕ニ迹窮-━ニ━ニ」。
〔花裏〕はなのさきたるうち。○王融〕「━-━寄ニ春-蒲ニ」。「花━-━暗」。
〔塵裏〕ちりほこりのなか、世の中。○陳後主〕ニ柳-「似ㇾ束」。
〔內裏〕みかどのごてん。○〔舊唐〕「大-家但━-━坐」。
〔牆裏〕かきのうち。○〔周邦彥〕「━-━修-篁森」。
〔門裏〕門內に同じ。○〔王維〕「玉-閨青-━-━」。
〔治裏〕氣を道びくと、道家の養生法。○〔班固〕ニ單━-━而外凋兮」。
〔園裏〕そのゝうち。○〔遜〕「笑出春-━-━」。
〔閨裏〕ねやのうち。○〔李白〕「━-━佳人年十餘」。
〔心裏〕こゝろのうち。○〔吳融〕「━-━故-人來」。
〔袖裏〕そでのうち。○〔陸游〕「━-━宓-餘三-賦-草」。
〔屋裏〕いへのうち。○〔庾信〕「琴-聲偏ニ━-━ニ」。
〔禁裏〕王宮のうち。○〔王建〕「━-━春濃蝶自飛」。
〔竹裏〕たかやぶのなか。○〔李白〕「━-━無ㇾ人-聲ニ」。
〔客裏〕他鄉にあると。○〔姚燧〕「━-━三春尙-臘-衣」。
〔雨裏〕あめのふるうち。○〔張籍〕「偏當ニ━-━ニ聞」。
〔匣裏〕はこのなかのと。○〔儲張宗〕「━-━青萍未ㇾ受ㇾ恩」。
〔甕裏〕かめのなか。○〔白居易〕「━-━非ㇾ無ㇾ酒」。
〔奩裏〕さかづきのなか。○〔姚合〕「━-━移-橋-影ニ」。

【裡】俗の裏の字。

【䙃】シン。升人切 眞

衣身、みごろ。

【裉】ラウ。里黨切 養

衣敝る、やぶる、やる。

【裒】ホウ、薄侯切 尤 ヒウ、房尤切 ブ。 ブ。

㊀あつむ、あつまる、(聚)又、おほし、(多)。○〔詩〕「原-隰━兮、兄-弟求矣」。
㊁へる、へらす、(減)。○〔易〕「君-子以━ㇾ多益ㇾ寡」。

【裦】ハウ、ポウ。博毛切 豪

褒に同じ。

【裓】コク。古得切 職

衣━は、其の形は函の如くにて一の足あり、佛家の花を盛りて佛に擎ぐる器具。○〔柳宗元〕「蔑ニ衣━之賜ニ」。

【裓】カイ。居諧切 佳

令辟の堂涂、いしだたみのみち。

【裓】カイ、柯開切 灰 カツ、訖黠切 黠 ガイ。 ケチ。

一種の樂。○〔說文〕ニ「宗-廟奏ニ━-樂ニ」。

【裶】ヒ。方未切 未

衣の袖、そで。

【䘯】サウ、所交切 肴 セウ。千遙切 蕭 セウ。切

えり、(絍)。

【裖】シン。章忍切 軫

㊀袗に同じ、玄服、ぎしきのころも、はれぎ。
㊁砯致す、かさなりたゝむ。○〔漢〕「磐-石━-崖」。

【裔】エイ。餘制切 霽

㊀衣裾、すそ、もすそ。
㊁邊荒の地、かたほさり、くにざかひ、くにのはて、えびす。○〔史〕乃流ニ四凶-族ニ、遷ニ于四-━ニ」。
㊂邊涯、ほとり、さかひ、はて。○〔淮〕「江-溥海━」。
㊃末葉、後嗣、すゑ、つゞき、あとつぎ。○〔書〕「德垂ニ後━ニ」。
㊄行く貌にも羣がり行く貌にもいふ字。○〔司馬相如〕「般-乎━-━」。
㊅流るゝ貌にも飛び流るゝ貌にもいふ字。○〔漢〕ニ「沛先以ㇾ雨般━-━」。
㊆長くつゞく貌にも高低ある貌にもいふ字、又、ほしいまゝなる貌にもいふ字。○〔潘岳〕「泓-宏融-━」。

〔苗裔〕末裔といふに同じ、遠き子孫。○〔史〕ニ羽豈其━-━邪」。「━ニ」。
〔荒裔〕遠きはてのくに。○〔後漢〕「展ニ武乎━-━ニ」。
〔遐裔〕前に同じ。○〔李邴〕「聲-教洽ニ━-━ニ」。
〔邊裔〕前に同じ。○〔晉〕ニ「沽-嘯━-━」。
〔殊裔〕前に同じ。○〔晉〕「化協ニ━-━ニ」。
〔容裔〕ほしいまゝなる貌にいふ語。○〔王褒〕「憺-忽兮━-━」。
〔海裔〕うみのはての遠きくに。○〔宋〕「爰及ニ━-━ニ」。
〔八裔〕遠きはて。○李白〕「振ニ━-━ニ」。
〔餘裔〕末流。○〔朱熹〕「小-學之支-流━-━」。
〔冑裔〕後胤。○〔左〕ニ「男周之━-━也」。
〔遠裔〕前に同じ、又、えびすのくに。○〔曹松〕「━-━占ニ何星ニ」。
〔醜裔〕えびす。○〔馮萬石〕「蠢彼━-━」。
〔邊裔〕國境のはて。○〔北〕「書投之━-━ニ」。
〔蠻裔〕えびすのくに。○〔荀勗〕「━-━重-譯」。
〔融裔〕長き貌にいふ語。○〔潘岳〕「泓-宏━-━」。

【裕】ユ。羊戍切 遇

ゆたか。
(い)あり餘れると、不足なきと、多きを備はれると。○〔易〕「有ㇾ孚━」。
(ろ)寬大なると、ゆるやか。○〔書〕「━則乃以民寧」。
(は)緩舒なると、のびやか。○〔國〕「享-祀時至而布-施優━也」。

〔餘裕〕ゆるやかにゆたかなり。○〔孟〕豈不ニ綽-々然有ニ━-━ニ。
〔雅裕〕風雅にしてゆるやかなり。○〔唐〕「━-━有ㇾ名ニ于時ニ」。
〔溫裕〕やはらかにゆるやか。○〔南〕「總任━-━」。
〔和裕〕前に同じ。○〔唐〕「寬━-━喜ㇾ接ㇾ士」。
〔寬裕〕ひろくゆるやか。○〔禮〕「━-━溫-柔」。
〔廣裕〕前に同じ。○〔國〕「可ㇾ謂ニ━-━人-民ニ矣」。
〔弘裕〕前に同じ。○〔舊唐〕營-戎━-━」。
〔優裕〕ゆるやかなり。○〔蘇軾〕「袖-手頁━-━」。
〔閒裕〕前に同じ。○〔北〕ニ或-姿-制━-━」。
〔容裕〕こゝろなどのひろくゆるやかなると。○〔北〕寬-仁━-━」。

（恬裕）心の靜かにしてゆるやかなること。○〔北〕「此兒――有二我家風一」。
（饒裕）驕らずして心のゆるやかなること。○〔晉書〕「當二大――一」。
（威裕）きびしくたけきとゆるやかなると。○〔王僧孺〕「――竝行」。
（怡裕）たのしくのびやかなること。○〔庾信〕「晉躬「――」。
（裕々）心などのゆるやかなる貌にいふ語。○〔白居易〕「推二此自――一」。

【䘒】ベン、モン。歩遠切 阮
きもの（服）。

【䙡】キ、ギ。渠記切 寘
㊀つなぐ（繫）。㊁きれ（巾）。

【裗】リウ、ル。力求切 尤
㊀衣の縷、いさすぢ。
㊁袿衣の飾り、うはぎのかざり。

【䘾】シユン。七倫切 眞
袴の裥、もゝひきづつ。

【裘】キウ、グ。巨鳩切 尤
皮衣、かはごろも、けごろも。○〔詩〕「彼都人士、狐―黃々」。
（羔裘）こひつじのかはごろも。○〔詩〕「――如レ濡」。
（箕裘）下に引く例よりおやゆづりのわざの義にいふ語。○〔禮〕「良弓之子、必學レ爲レ―、良冶之子必學レ爲レ―」。
（弓裘）前に同じ。○〔高適〕「卿族嗣二――一」。
（貊裘）羔と狐との皮もて作りたる繡の衣をなせるころも。○〔禮〕「唯君有二――一」。
（褻裘）かはごろもをきる。○〔禮〕「――不レ入二公門一」。
（大裘）帝王の天を祀るときなどに服するかはごろも。○〔禮〕「――非レ古也」。
（良裘）善きかはごろも。○〔周〕「中秋獻二――一」。
（功裘）周の時代にありて卿大夫の服するかはごろも。○〔周〕「季秋獻二――一」。
（輕裘）おもからざるかはごろも。○〔晉〕「在レ軍――緩帶」。
（麑裘）しかのかはごろも。○〔史〕「冬日――」。
（貂裘）てんのかはごろも。○〔李白〕「淚滿黑――」。
（解裘）かはごろもをぬぐ。○〔職〕「見二其寒一、―レ―而衣レ之」。
（脫裘）前に同じ。○〔陸游〕「亦不レ須二――去換一レ酒」。
（敝裘）やぶれたるかはごろも。○〔岑參〕「青春換二――一」。
（反裘）かはごろもをうらがへしにす。○〔新序〕「魏文候出遊、見二路人――而負一レ芻」。
（索裘）かはごろもを得んことを求む。○〔揚雄〕「大寒而後―レ―、不二亦晚一乎」。
（皮裘）かはごろも。○〔詩疏〕「故爲二――一以助レ之」。
（名裘）なだかきかはごろも。○〔外國圖〕「毛民國出二――一」。
（珍裘）めづらしきかはごろも。○〔南〕「――繡服焚レ之如レ草」。
（美裘）うつくしきかはごろも。○〔新序〕「有二――一」。
（狐白裘）きつねの腋下のしろき皮もて作りたるかはごろも。○〔史〕「願得二君――一」。
（千金裘）價のたかきみごとなるかはごろも。○〔說苑〕「――之―、非二一狐之皮一也」。
（千鎰裘）前に同じ。○〔墨子〕「――之―非二一狐之白一」。

【裙】クン、ゴン。渠云切 文
㊀裙幅に連り接くもの、すそ、もすそ、下裳。○〔張華〕「羅―飄々」。
㊁身に近き衣、はだぎ。○〔史〕「取二親中―廁牏身自浣滌」。
㊂鼈の甲の邊、へり。○〔五代史補〕「鶩生二四掌一、鼈留二兩――一」。
（布裙）ぬのゝもすそ。○〔荆州記〕「劉盛公弊二練帽――一」。
（羅裙）うすぎぬのもすそ。○〔杜甫〕「憂草見二――一」。
（紅裙）くれなゐのもすそ、又、轉じて妓女の稱にもいふ語。○〔韓愈〕「誰能醉二――一」。
（縞裙）ねりぎぬのもすそ。○〔韓愈〕「――練帨無二等差一」。
（風裙）かぜにひるがへるもすそ。○〔陳造〕「落梅如レ雪點二――一」。
（皁裙）くろきもすそ、又、鸜鵒の異名。○〔詩疏〕「鸜鵒雀也、似レ鵲而大、長頸赤喙白身黑尾翅、一名二――一」。
（長裙）ながきもすそ。○〔舊唐〕「――廣袖」。
（禿裙）へりをつけざるもすそ。○〔續漢書〕「明德―レ―不レ施レ緣」。
（複裙）かさなりたるもすそ。○〔晉宋舊史〕「太皇太后有二細綷紗――一」。
（綷裙）あかきいろのもすそ。○〔楊炯〕「含綵鴛鴦滿二――一」。

【裚】セイ、サイ。子計切 霽
たつ、きる（斷）。○〔管〕「―レ領而刎レ頸」。

【裛】イフ、オフ。於汲切 緝
㊀衣香し、かうばし、又、かうばしき衣。○〔飛燕外傳〕「有二傾絕倒――衣一」。
㊁まとふ（纏）。○〔班固〕「―以二藻繡一」。

【裛】エフ、オフ。乙業切 葉
書囊、ふみづつみ。

【袩】テン、トン。丁兼切 鹽　セフ。郎涉切　テフ。的協切 葉
衣領、えり。

【袶】縫に同じ。

【補】ホ、フ。博古切 麌
㊀おぎなふ、おぎなひ。
(い)つくろふ、㊁に同じ。
(ろ)助く。○〔周〕「若國札喪、則令二賻―レ之」。
(は)官職に叙す。○〔後漢〕「選二―衆職一、當レ簡二天下之賢俊一」。
(に)益す。○〔漢〕「又將レ無二―與一」。
㊁つくろふ、つくろひ。
(い)衣服の破れを縫ひ完うす、つぎなほす。○〔呂氏春秋〕「田贊衣二―衣一」。
(ろ)物事の破れを修めなほす。○「仲山甫―レ之」。
（小補）わづかなるおぎなひ。○〔孟〕「豈曰二――一之哉」。
（寸補）前に同じ。○〔范梈〕「祿食無二――一」。
（毗補）たすけおぎなふ。○〔後漢〕「多レ所二――一」。
（匡補）前に同じ。○〔後漢〕「侍中當レ―二―國政一」。
（裨補）前に同じ。○〔吳〕「孤豈不レ樂二忠言一、以自――一耶」。
（修補）つくろひおぎなふ。○〔後漢〕「――二舊文一」。
（繕補）前に同じ。○〔唐〕「倣效諸子――二殘弊一」。
（銓補）えらべはかりておぎなふ。○〔北〕「其國子學生亦依レ舊――」。
（加補）おぎなふ。○〔北〕「名海具注――二日月一」。
（遷補）官をうつすと官をさづくると。○〔宋〕「以備二――一」。
（葺補）あつめおぎなふ。○〔宋〕「以稱下朝廷――二闕軼一、緝二熙彌文一之意上」。
（刪補）けづりたると足しおぎなふと。○〔宋〕「損益――」。
（塡補）かけたるをうづめおぎなふ。○〔元〕「從次「――」。
（完補）おちなく完全におぎなふ。○〔元好問〕「汲冢遺編要二――一」。

【裝】シヤウ、サウ。側羊切 陽
㊀よそほふ。
(い)服飾をさゝのへ容儀をかざるにいふ字、みじたくす。○〔後漢〕「夜分嚴二衣冠一待レ明」。
(ろ)齎品をまとめて行旅の備へをなすにいふ字、たびじたくす。○〔後漢〕「速―、妻子可レ全」。
(は)修飾す、さゝのふ、かざる。○〔北〕「密―二船艦一百餘艘一」。
(に)もたらす（齎）。○〔漢〕「重――寶」。

(ほ)たゝむ(疊)又、つゝむ(裹)。○〔孔璋〕「牒-訴倥-|二其懷一」。
㊁よそほひ。
(い)みじたく、たびじたく、したく。○〔戰〕「約レ車治レ|」。
(ろ)衣服、調度。○〔後漢〕「爲レ鬻二衣-|一買二產-業一」。
(は)つゝみ、にもつ。○〔漢〕「賜二嚢-中|一」。「腦-鐘|-口」。
(に)かざり、さいく。○〔南〕「金-|馬-戎裝」いくさのよそほひ。○〔唐〕「|-|克備」。
(促裝)よそほひをうながす。○〔謝靈運〕「|レ|返二荊-刺一」。
(輕裝)てがるきよそほひ。○〔梁〕「|-|赴二南-州一」。
(金裝)こがねもてよそほふ、又、甲冑などにてよそほふ。○〔李廓〕「|-|腰-帶重」。
(食裝)つゝみをおふ。○〔宋〕「一-驢|レ|」。
(密裝)しのびやかによそほひとゝのふ。○〔漢〕「|-治-行一」。
(行裝)たびのしたく。○〔漢〕「王-太后飭二|-|一」。
(急裝)にはかにしたくす。○〔漢〕「將-軍|-|因二天-時一誅二不-義一」。
(改裝)よそほひをかふ。○〔後漢〕「鼓-史何不レ|而輕敵進乎」。
(衣裝)着物などのと。○〔後漢〕「行-旅至レ夜聚二|-|一道-傍一日、以付二獎-公一」。
(船裝)ふねのかざり。○〔晉〕「|-|甚美」。
(飾裝)うつくしくかざりよそほふ、又、かざる。○〔孟浩然〕「|-|辭二故-里一」。
(束裝)よそほひをなす。○〔陸游〕「匆-々又|-|」。
(春裝)はるぎのしたく。○〔王士熙〕「海-邊候-吏促二|-|一」。
(寒裝)ふゆぎのしたく。○〔許渾〕「|-|疊二縕-袍一」、
(道裝)道家のよそほひ。○〔蘇軾〕「朱-雀橋-邊看二|-|一」。

【裢】セン。式連切 以然切 先 エン。
㊀車幌、ほろ。㊁きれ(巾)。

㊂帑|は、牛の領上の衣。

【裞】セイ、ゼイ。舒芮切 霽
㊀死者に贈る被衣。○〔漢〕「乃奉二百金|一」。
㊁日月を經過したる後に喪を聞きて忌服すると。○〔禮、註〕「日-月已過、乃聞レ喪而服曰レ|」。

【裟】サ、セ。師加切 麻
袈の條を見よ。

【裠】
裙に同じ。

【[衤+束]】サク、ソク。測角切 覺
短衣。

【衷】チウ、ウ。烏公切 東
衣、一說に、外國の衣。

【裓】カク、キャク。古伯切 陌
衣の前襟、えり。

八畫

【裦】フウ、ブ。房尤切 尤
あつむ、あつまる(裒)。

【[衤+全]】
衿に同じ。

【裧】セン、ソン。處占切 鹽
㊀褑緣、へり。○〔禮〕「其輤有レ|」。
㊁裳帷、たれぎぬ。○〔儀〕「婦車亦如レ之有レ|」。

【裧】セン。昌豔切 豔
衣を披く。

【裧】タン、トン。吐敢切 感
毳衣、けごろも。

【[衣+奚]】ケイ、カイ。遣禮切 薺
衣を開く、おびさく。

【裨】ヒ。府移切 支
㊀補益す、おぎなふ、ます、つくろふ。○〔國〕「所下以紀二綱齊-國一、|二輔先-君一而成中霸上」。
㊁くみす(與)、つく(附)。○〔韓愈〕「鉅足二相陪-|一」。
㊂輔佐、たすけ。○〔漢〕「梁爲二會-稽將一、籍爲二|-將一」。
㊃ちひさし(小)。○〔史〕「有二|-海一環レ之」。

【裩】
褌に同じ。

【[衤+松]】ショウ、シユ。取勇切 腫
㊀小袴、こばかま。㊁蔽膝、ひざかけ。

【裪】
陶に通ず。○〔左〕「秦復-|」。

【裪】タウ、ドウ。徒刀切 豪
衣袖、そで、一說に、袖褾、そでさき。

【[衤+彔]】ロク。盧谷切 屋
衣の聲にいふ字。

【[衤+肙]】エン。烏懸切 先
襟袖の曲がれる處。

【裬】リョウ。閭承切 蒸
馬の腹下の帶、はらおび。

【[衤+函]】カン、ゴン。胡南切 覃
そで(袖)。

【[衤+函]】カン、ゴン。胡坎切 感
耳を擁ふ巾。

【[衤+卒]】スヰ。七醉切 寘 サイ、徂賄切 賄 ゼ。
遊縫、ぬひめ。

【裮】シヤウ。蚩良切 陽
衣を著けて帶せざると、おびしろはだか。○〔屈平〕「何桀-紂之|-披」。

【裯】チウ、ヂユ。直由切 尤
禪被、ひとへぶすま、又、牀帳、とこのとばり。○〔詩〕「抱二衾與一レ|」。
(同裯)ふすまをおなじくしてふす。○〔韓愈〕「豈憶嘗|レ|」。

【裯】タウ、トウ。都勞切 豪
㊀祗-|は、あせゆばん。○〔後漢〕「唯有二布-衾敝祗-|一」。
㊁たもと(袂)。

【裯】チユ、ヂユ。直誅切 虞
禪衣、ひとへぎぬ。○〔宋玉〕「被二荷-|之晏-々一」。

【裰】タツ、タチ。丁括切 曷
破れ衣を補ひ縫ふ、つゞる。

【褾】ヘウ。方廟切 嘯 彼小切 篠
領巾、ひれ。

【裱】
褾に同じ。

【[衤+㒳]】ヘツ、ヘチ。方結切 屑
㊀袖袂、そで。㊁敝衣、やぶれごろも。

【掖】エキ、ヤク。羊益切 陌
衣の掖下、わき。

【裼】セキ、シヤク。之石切 陌
そで、(袖)。

【裲】リヤウ、ラウ。里養切 養
襠の字の條を見よ。

【裳】シヤウ、ジヤウ。市羊切 陽
㊀腰下を障蔽する服、はかま、も、もすそ、すそ。○〔詩〕「綠-衣黃-—」。
㊁堂々たる貌にいふ字。○〔詩〕「——者華」。
〔衣裳〕からだの上部にきるころもと下部につくるはかまと。○〔書〕「惟——在ㇾ笥」。
〔繡裳〕ぬひあるはかま。○〔詩〕「袞衣——」。
〔褰裳〕もすそをかゝげあぐ。○〔詩〕「—ㇾ—涉ㇾ溱」。
〔袿裳〕女のうはぎとはかまと。○〔後漢〕「——鮮-明」。
〔黼裳〕冕服のあやあるもすそ。○〔書〕「王麻-冕—-—」。
〔纁裳〕うすあか色のはかま。○〔周、詩〕「凡冕-服皆玄-衣—-—」。
〔玄裳〕くろきいろのすそ。○〔蘇軾〕「——縞-衣」。
〔緋裳〕あかきいろのはかま。○〔劉禹錫〕「衣ㇾ紫褰ニ——」。
〔袞裳〕かはごろものもすそ。○〔禮〕「袞-ｰ不ㇾ衣ニ——」。
〔素裳〕志ろきもすそ。○〔魏明帝樂府〕ニ玄-衣—-—」。「易ニ飄-颻ニ」。
〔羅裳〕うすぎぬのもすそ。○〔晉子夜歌〕「——」。

【裞】サイ、セ。祖對切 隊
㊀襌衣、ひとへぎぬ。㊁副衣、きがへ。

【𧙗】帢に同じ。

【裂】リ。良脂切 支
——襹は、衣敝ろ、やぶる。

【裴】ハイ、ベ。薄回切 灰
㊀長き衣の貌にいふ字。
㊁徘に通じ用ふ。○〔漢〕「——ニ回兩-渠閒ニ兮」。

【裴】ヒ、ビ。符非切 微
縣の名。

【緝】シフ。七入切 緝
㊀襟緣、えりのへり。㊁衣を縫ふ、ぬふ。

【褄】サフ、セフ。色甲切 洽
衱——は、衣敝ろ、やぶろ、やろ。

【裶】ヒ。芳非切 微
衣の長き貌にも衣を曳く貌にもいふ字。○〔司馬相如〕ニ「衯-々——」。

【㝮】セフ。七接切 葉
衣衿、えり。

【𧛞】エン、於袁切 元　ケン、去阮切 阮
オン。切　コン。切
㊀帊幞、かしらづつみ。○〔韓〕「因先以ニ其—ニ—麾ㇾ之」。
㊁袞に同じ。○〔荀〕「天-子袾——衣-冕」。

【褃】セン。倉甸切 霰
㊀ちゞむ、(縮)。
㊁美衣、うつくしきころも。

【裷】コウ、ク。苦紅切 東
衣袂、たもと。

【裶】ハウ、ヒヤウ。布梗切 梗
急ぐ貌にいふ字。

【綻】綻に同じ、ほころぶ、ほころび。○〔後漢〕「補ㇾ—決ㇾ壞」。

【裸】ラ。郎果切 哿
赤體、あかはだか、はだか。○〔左〕「欲ㇾ觀ニ其——ニ」。
〔袒裸〕はだぬぐとあかはだかになると。○〔宋〕「——肝-膽」。

【裺】エン。於檢切 琰
㊀へり、(緣)。㊁えり、(領)。
㊂——苑は、馬に飲ふ橐。

【裺】エン。於劒切 豔
㊀衣寬し、ひろし。㊁襦。

【裹】クワ。古火切 哿
㊀つゝむ、(包)。○〔詩〕「乃—ニ餱-糧ニ」。
㊁つゝむと、つゝみたる物、つゝみ。○〔仙苑編珠〕「左-右惟有ニ松-屑ニ——ニ」。
㊂ふさ、(房)。○〔宋玉〕「綠-葉紫——」。
㊃草の實。○〔郭璞〕「濯ㇾ穎散ㇾ—」。
㊄財貨、たから。○〔管〕「富ㇾ之以ニ國——ニ」。
〔纏裹〕まとひつゝむ。○〔黃庭堅〕「百-納自——」。
〔苞裹〕つゝむ。○〔莊〕「——六-極ニ」。
〔覆裹〕おほひつゝむ。○〔呉錄〕「冬-月枝-上——之ニ」。

【裻】トク。冬毒切 沃
衣の背縫、せぬひ。○〔史〕「顧ニ見其衣-—ニ」。
〔偏裻〕せぬひを中として左右相同じからざる戎衣。○〔國〕ニ衣ニ之——之衣ニ」。

【褚】イク、オク。余六切 屋
車覆、おほひ、車の闌幔、てすりかけ。

【裭】テウ。丁聊切 蕭
短衣。

【裷】エン、チン。委遠切 阮
㊀たび、(韤)。
㊁袖耑の屈みたる處、そでのはし。

【裼】セキ、シヤク。先擊切 錫
㊀上衣を免ぎて體を見はす、かたぬぐ、はだぬぐ。○〔孟〕「雖ニ袒ニ——裸ニ裎於我側ニ」。
㊁單裘、ひとへのかはごろも、其の上に他服を加ふるも必ず此のかはごろもを開き露はす禮となしたりき。○〔禮〕「裘之—也」。
〔倡裼〕かたはたをぬぐ。○〔新序〕「群臣皆——ㇾ推ㇾ車」。

【裼】テイ、タイ。他計切 霽
夜衣、ねまき、むつき。○〔詩〕「載衣ニ之——ニ」。

【製】セイ。征例切 霽
㊀たつ、志たつ、(裁)。○〔左〕「子有ニ美-錦ニ、不ㇾ使ニ人學ㇾ—」。
㊁つくる。
(い)こしらふ、(造)。○〔後漢〕「百-官備而不ㇾ—」。
(ろ)著作す。○〔杜甫〕「灑-落富ニ清-—ニ」。
㊂かたち。
(い)形式、かた。○〔漢〕「服ニ短-衣楚-—ニ」。
(ろ)姿儀、すがた。○〔唐〕「易-之既冠、碩-晳美ニ姿-—ニ」。
㊃衣服、ころも。○〔左〕「衣ニ貍-—ニ」。
㊄雨衣、あまぎ。○〔左〕「衣ㇾ—杖ㇾ戈」。

〔支製〕はすの纎緯にてつくりたる隱者の服。○〔孔稚珪〕「焚二——一而裂二荷衣一」。
〔述製〕文章をつくる。○〔梁元帝〕「曾無二——一」。
〔名製〕なたかき製作。○〔沈約〕「別裁諸篇並爲二——一」。
〔密製〕ひめてつくる。○〔唐〕「——二天子袞冕一」。
〔御製〕帝王のくりたるを。○〔五〕「至レ今汾晉之俗、往々能歌二其聲一、謂二之——一」。
〔聖製〕前に同じ。○〔宋〕「翌日寫二——詩數十章一以獻」。
〔暦製〕前に同じ。○〔客越志〕「皆出二理宗——一」。
〔新製〕あらたにつくる、又、あたらしくつくりたるかた。○〔陶潛「衣裳無二——一」。
〔工製〕工作。○〔聞見後錄〕「——精妙」。
〔形製〕かたちのつくりかた。○〔甲乙剩言〕「此杯——奇怪」。
〔織製〕おりてつくる。○〔劉溍〕「——精潔」。
〔野製〕みやびやかならざるつくり。○〔江總〕「——疎朴」。
〔巧製〕たくみにつくる。○〔徐陵「當今——」。
〔高製〕他人のつくりたるものを稱する語。○〔徐陵〕「請レ觀二——一」。
〔舊製〕むかしのつくりかた、又、むかしつくりたるもの。○〔杜甫〕「碑碣——存」。
〔古製〕前に同じ。○〔陸游二「衣冠——存」。

【褆】ゲイ、ガイ。五稽切 齊 ゲツ、ゲチ。研啓切 霽 倪結切 屑
衣纈、いさ、一說、袿衣の飾り。

【裿】キ。去倚切 紙
襜——は、はだぎ。

【椅】イ。隱綺切 紙
㊀——䘦は、衣の貌にいふ語。㊁よし、うつくし(好)。

【褃】クワン。古滿切 願
袴襱は、はかまのあし、もゝひきづつ。

【裾】キヨ、コ。九魚切 魚
㊀上衣の襟、うしろえり、すそ、もすそ。○〔孔叢子〕「衣二長——一」。
㊁ふところ(袍)。
㊂ふすま(被)。
㊃衣服の盛んなる貌にいふ字。○〔荀〕「由是——何也」。
〔曳裾〕もすそをながく地にひく。○〔杜甫〕「鄒生惜二——一」。「——」。
〔牽裾〕もすそを引く。○〔梁元帝〕「緻葉下——」。
〔衣裾〕もすそ。○〔杜甫〕「低佪入二——一」。
〔輕裾〕かろきもすそ。○〔韓愈〕「飄二——一翳二「如レ愁」。
〔華裾〕うつくしきもすそ。○〔李賀〕「——織レ翠青長袖一」。
〔翠裾〕みどりのいろのもすそ。○〔于武陵二「清風拂二——一」。
〔絕裾〕もすそをたちきる。○〔晉〕「嬌——レ——而去」。
〔裂裾〕もすそをさききる。○〔唐〕「——レ——錄二所レ遇風俗物産一」。
〔修裾〕長きもすそ。○〔拾遺記〕「長袖——」。
〔征裾〕たびごろものもすそ。○〔范成大〕「不レ堪レ廻レ首拂二——一」。

【裾】キヨ、コ。居御切 御
㊀倨に同じ、おごる。○〔漢〕「爲レ人廉——」。「——以驕驁兮」。
㊁項を直くするを。○〔漢二「低卬夭蟜」。

【祺】キ、ギ。渠記切 寘
㊀つなぐ(繫)。㊁きれ(巾)。

【裾】クツ、コチ。衢物切 物
半臂の短衣、そでなしばおり。○〔後漢〕「諸于繡——」。

【䘥】サン、ザン。昨干切 寒
——襦は、をさなごのゑきもの。

【褈】チヨウ、ヂユ。直容切 冬
㊀嬰兒の衣、ちごのころも。
㊁褌、ふごし。

【襡】繼に同じ。

【裹】セキ、シヤク。責尺切 陌
ふくろ(囊)。

【褰】シ。津私切 支
喪服。

【褘】ワイ、エ。烏魁切 灰
垢衣、あかつきごろも。

【褷】褷に同じ。

九畫

【褚】タ、ダ。徒臥切 箇
袂なき衣、そでなし。

【褍】シ。子絲切 支
そで(袂)。

【褶】シフ、ソフ。初戢切 緝
衣の重なる緣、ふたへべり。

【褸】サフ、セフ。測洽切 洽
——略は、束かぬる貌にいふ語。

【褄】幄に同じ。

【複】フク、ホク。方六切 屋
㊀裏ある衣、あはせ、又、綿を褚ひたる衣、わたいれ。○〔魏二「隨レ時單——」。
㊁かさぬ、かさなる(重)。○〔漢〕「自二——道一望見」。
㊂單一ならざるを、單一ならざるもの。○〔魏〕「學二以レ單攻一レ——」。
〔重複〕かさなる。○〔顏延之〕「河山信——」。
〔話複〕くりかへすこと。○〔宋濂〕「誨言甚——」。
〔萬複〕いくつもかさなる。○〔揮塵後錄〕「千巖——」。
〔廻複〕めぐりかさなる。○〔杜甫〕「雲氣莽以——」。「奏レ之」
〔繁複〕ゑげくかさなる。○〔秦觀〕「去二其——」。
〔持複〕ふたつのはこ。○〔魏文帝紀典論〕「余少曉二——一」。

【褆】シ。承紙切 紙
衣服の美しきをにも衣服の正しきをにもいふ字。

【褆】テイ、ダイ。杜奚切 齊
衣の厚き貌にいふ字。

【褈】チヨウ、ヂユ。直容切 冬
㊀かさぬ、かさなる(重)。
㊁增益す、ます。㊂あつし(厚)。

【褈】チヨウ、チユ。儲用切 宋
褶纏、きぬいさ。

【褊】ヘン。畢緬切 銑
(い)衣服の狹小なるにいふ字、ちひさし。○〔左〕「帶其——矣」。
(ろ)すべて廣からざるにいふ字。○〔孟〕「齊國雖二——小一」。
(は)性急なり、きばやし、むれせまし、せまし。○〔詩〕「維是——心」。
〔弁褊〕たかゝらずしてせばし。○〔元稹〕「叢纖——」。
〔剛褊〕つよく急なり。○〔蘇軾〕「——自用」。

〔含褊〕 然ふかくして心せばし。○〔北〕「然ー・ー矜・愎」。

【褊】 ヘン、ベン。蒲眠切 [先]
ー褼は、衣の貌にいふ語。

【褸】 エウ。伊消切 [蕭]
腰に纏ふ襟、こしおび。○〔晉〕「著レ衣者皆壓レー」。

【褆】 緹に同じ。

【褉】 テイ、タイ。他計切 [霽]
おぎなふ（補）。

【褋】 テフ、デフ。徒協切 [葉]
禪衣、ひとへぎぬ。○〔楚辭〕「遺ニ余ー於澧浦ニ」。

【裻】 トク。冬毒切 [沃]。タウ、ドウ。大到切 [號]
衣の躬縫、せぬひ。

【褔】 バウ、モウ。莫報切 [號]
小兒の頭衣、づきん。

【褫】 褫褫に同じ。

【褌】 コン。古渾切 [元]
腰閒に著くる褻衣 したおび、したもひき、ふどし、合襠。○〔晉〕「虱之處ニー中ニ」。
〔緋褌〕 あかきいろのふどし。○〔定命錄〕「著ニー・ー背負而出」。
〔紅褌〕 前に同じ。○〔南〕「著ニー・ーニ」。
〔敝褌〕 やぶれたるふどし。○〔北〕「至ニ死時ニ惟著ニー・ーニ」。
〔犢鼻褌〕 はたばかま。○〔史〕「相如身自著ニー・ー・ーニ」。

〔下腦褌〕 殺風景なるしわざにいふ。○〔李義山〕「殺風景一曰ニー・ー・ーニ」。

【褍】 タン。多官切 [寒]。タ。丁果切 [哿]
衣の正しき幅。

【褍】 トン、ドン。徒困切 [願]
衣長し。

【褔】 トツ、ドチ。陟沒切 [月]
襠なき禪、ふどし。

【褏】 シウ、ジユ。似救切 [宥]
袖に同じ。○〔詩〕「羔裘豹ー」。

【褎】 イウ、ユ。余救切 [宥]
㊀衣服の飾りの貌にいふ字。○〔詩〕「ー如ニ充耳ニ」。
㊁盛長す、のぶ。○〔詩〕「實種實ー」。
㊂すゝむ（進）。○〔漢〕「今子大夫ー然爲ニ擧首ニ」。

【襃】 褎に同じ。○〔漢〕「安樂ー・ー」。
〔斷褎〕 そでをたちきる。○〔漢〕「乃ーレー而起」。

【褔】 褊に同じ。

【褢】 ワイ、エ。烏恢切 [灰]
垢衣、よごれぎぬ。

【褓】 ハウ、ホウ。博抱切 [皓]
小兒に用ふる大藉、しきもの、おしめ、小兒に用ふる衣被、かいまき、むつき。○〔漢〕「曾孫雖レ在ニ繈ーニ」。
〔錦褓〕 にしきのきれにて作りたるむつき。○〔戴表元〕「ー・ー香爭羨」。

【褐】 カツ、ガチ。胡葛切 [曷]
㊀毛布の衣、けごろも。○〔詩〕「無レ衣無レー」。
㊁麤布の衣、あらぬの。○〔潘岳〕「被レー振レ裾」。
㊂縕衣、ぬのこ。○〔荀〕「衣則豎ーー不レ完ニ」。
㊃寒賤者。○〔左〕「余與ニー之父ー睨レ之」。
〔衣褐〕 あらぬのゝきものをきる。○〔孟〕「許子ー・ー」。
〔披褐〕 前に同じ。○〔陶潛〕「ー・ー欣自得」。
〔短褐〕 たけながからざるあらぬのゝきもの。○〔唐〕「出服ニー・ーニ」。
〔布褐〕 あらぬのゝきもの。○〔晉〕「ー・ー蔬食」。
〔鼲褐〕 前に同じ。○〔晉〕「常衣ニー・ーニ」。
〔服褐〕 あらぬのゝきものをかへぐ。○〔韓詩外傳〕「ーレー而過」。
〔毳褐〕 けごろも、又、いやしきもの。○〔因話錄〕「公好ニー・ー之夫ニ」。
〔毛褐〕 前に同じ。○〔曹植〕「予好ニー・ーニ」。
〔素褐〕 しろきあらぬのゝころも、又、いやしきもの。○〔馮方生七歌〕「反ニー・ー于丘園ニ」。
〔裘褐〕 かはごろも。○〔黃庭堅〕「負薪泣ニー・ーニ」。
〔皮褐〕 前に同じ。○〔曹植〕「ー・ー猶不レ全」。
〔敝褐〕 やぶれたるあらぬのゝころも。○〔晉〕「抱ニー・ー以終レ年」。
〔兎褐〕 うさぎのけごろも。○〔唐〕「上貢ニー・ーニ」。

【褑】 エン、チン。王眷切 [願]
佩衿、おび。○〔爾〕「佩衿謂ニ之ーニ」。

【褔】 フウ、フ。敷救切 [宥]
衣一副、ころもひとかされ。

【褕】 襟に同じ。

【褒】 ホウ、フ。補孔切 [董]
枲履、あさぐつ、一說に、小兒の皮履、かはぐつ。

【褕】 ユ。羊朱切 [虞]
㊀翟羽（きじのはね）にて衣を飾れるもの、はねかざり。
㊁襜ーは、裾の直なる禪衣、ひとへぎぬ。○〔張衡〕「美人贈レ我貂襜ー」。
㊂衣服美し、うつくし。○〔史〕「ー衣甘食」。
〔短褕〕 みじかきひとへごろも。○〔方言〕「襜褕江淮南楚謂ニ之童裕ニ、自レ關而西謂ニ之襜裕ニ、其短者謂ニ之ー・ーニ」。

【褕】 エウ。餘照切 [嘯]
ー狄は、雉雞の畫ある衣服、皇后の著用せるもの。○〔柳宗元〕「ー・ー狄亦被ニ恩光ニ」。

【褕】 トウ、ヅ。徒侯切 [尤]
㊀身に近き衣はだぎ。
㊁褑ーは、短袖の襦。

【褖】 タン、ダン。吐玩切 [翰]
赤き緣ある黑色の衣裳、袍の表に加へ著るもの。○〔儀〕「ー衣」。

【褼】 ソウ、ス。祖叢切 [東]
禪衣、ひとへぎぬ。

【褗】 エン、オン。於建切 [阮]
㊀衣領、えり。○〔爾、註〕「繡ニ刺黼文ー以ー領」。
㊁隱し蔽ふ、おほふ。

【䙁】 コ、グ。戶吳切 [虞]
衣の袘、わき。

【褛】 ケイ、ケ。睽桂切 [霽]

裙の分かれたるを。○［綱目集覽］即今四――袴」。

【褍】ゼン、ナン。而緣切 先
㊀衣を促ばめ縫ふ、いせる。㊁ぬのこ（褐）。

【褍】ゼン、ナン。乳兗切 銑
衣縐む、ちゞむ、ちゞまる。

【褍】ダン、ナン。乃管切 旱
短き襦。

【褆】セイ、シヤウ。桑經切 青
燐光の衣に著く貌にいふ字。

【褠】コウ、グ。胡溝切 尤
――褕は、小さき衫、こかたびら。

【褘】キ。許歸切 微
王后の祭服、王后の上服、翟雉の文あるもの。○［禮］「王后――衣」。

【褘】井。雨非切 微
㊀幃に同じ、にほひぶくろ、きんちやく、香纓。○［爾］「婦人之―謂二之縭一」。㊁蔽膝、ひざかけ。○［揚雄］江淮之閒謂二之―一、或謂二之被一、自レ關而東、謂二之蔽膝一」。㊂うつくし（美）。○［張衡］「侯其―而」。

【褘】委に通じ用ふ。○［王應麟］「―隋郎委蛇」

【循】シュン、ジュン。詳遵切 眞
ころも（衣）。

【褙】ハイ、ヘ。補妹切 隊
襦。

【褫】サン、セン。師銜切 咸
旗旒、はたあし。

【褫】チ。陟侈切 紙
紵――は、やれごろも（敝衣）。

【褽】褽の本字。

【褚】チヨ、ト。張呂切 語
㊀衣に綿を裝ふ、わたをいる、よそほふ。○［急就篇註］「―レ衣以レ綿曰レ複」。㊁綿をよそほひたる衣、わたいれ。○［漢］「上―五十衣」。「而―レ之」。○㊂たくはふ（蓄）。○［左］「取二我衣冠一而―レ之」。㊃棺を覆ふ物。○［禮］「――幕丹質」。㊄ふくろ（囊）。○［唐］「傾レ―濟レ之」。
［縕褚］貧賤の者の。するもの。○［任昉］「華與二――一」。「――同レ歸」。
［囊―］ふくろ。○［王安石］「只有三粉・壁歸二―一」
［彈褚］囊中のたからをつくす。○［唐］「弘禮―レ―爲治レ喪」。
［傾褚］前に同じ。○［唐］「―レ―以濟」。

【褚】シヤ、セ。止野切 馬
衣の赤きを。

【褶】裕に同じ、ふごし。

【褱】移に同じ。

【袧】コウ、ク。古口切 有
祭の服。

十畫

【褐】シウ、シュ。側救切 宥
衣伸びざるを、ちわ。

【褮】カイ、ゲ。戸佳切 佳
そで（袖）。

【褮】ケイ、ガイ。胡計切 霽
おび（帶）。

【褞】ウン、オン。於粉切 吻
㊀ころも（衣）。㊁うはぎ（袿）。

【褞】チン。烏昆切 元
褐衣、ぬのこ。○［王洗］「袞龍出二於――褐一」。

【褟】タフ、トフ。丁塔切 合
ころも（衣）。

【褕】チウ、ウ。烏公切 東
褸――は、衣の名。

【褷】チ、ヂ。陳尼切 支
ころも（衣）。

【褲】ハク、バク。伯各切 藥
㊀短袂のかたびら、又、襌衣、ひさへぎぬ。○［博物志］「羣行裸體無二衣―「―」。
㊁薄に同じ。

【褠】コウ、ク。古侯切 尤
㊀袖狹く直くして袂なき單衣、ひさへのつゝそで。○［吳註］「釋レ―著二袴褶一、執レ鞭詣二闕下一」。㊁臂衣、うでぬき。○［後漢］衣緣――」。㊂褶衣、あはせ。

【褔】カク、キヤク。克革切 陌
㊀裘の裏。㊁うすし（薄）。㊂つく（擣）。

【褯】サク、シヤク。昔各切 藥
衣の聲にいふ字。

【褯】シヤ、セ。詞夜切 禡
ころも（衣）。

【褽】井。於胃切 未
えり（衽）。

【褡】カフ、ケフ。克蓋切 洽
婦人の袍。

【褡】タフ、トフ。都合切 合
㊀褦――は、小さき被、こよぎ。㊁衣敝る、やる、やぶる。

【褭】褭に同じ、ふところ、いだく。○［漢］「―レ誠秉レ忠」。

【褣】ヨウ、ユ。餘封切 冬
襛――は襜褕。

【褱】袁に同じ、喪に著るころも。

【褵】レキ、リヤク。力狄切 錫
急しく纏ふ、まさふ。

【褸】帬に同じ。○［周］「然――紆―」。

【褹】サイ、セ。所拜切 卦
㊀衣の幅を削ぐ、そぐ。

㊁衣を斜に縫ふ、ぬふ。

【𧝐】　䙊に同じ、やぶる。

【䙊】　サツ、セチ。山戛切 黠
衣の縫ひ餘り。

【𧝓】　シ。霜夷切 支
褺——は、衣破る、やぶる。

【褥】　ジョク、ニク。而蜀切 沃
裀藉、しとね、しきもの。○〔後漢〕「布-衣皮——」。
〔芳褥〕　よきかをりあるしきもの。○〔王筠〕「大-婦留二——一」。
〔牀褥〕　しとね。○〔張衡〕「以二天-地一爲二——一」。
〔茵褥〕　しきもの。○〔魏〕「——不二緣-飾一」。
〔簟褥〕　前に同じ。○〔王隱晉書〕「牀-帳——」。
〔席褥〕　前に同じ。○〔却掃編〕「惟用二平-面——一」。
〔蒲褥〕　がまのむしろ。○〔南〕「贈以二——筍-蓆一」。
〔重褥〕　しきものをかさぬ。○〔家語〕「累レ裀——而坐」。
〔徹褥〕　しとねをのぞきさること。○〔孔平仲〕「—レ—去レ屏思二寢-眠一」。

【䙜】　ヂョク、ニク。奴沃切 沃
小兒の衣。

【𧝂】　シウ、シュ。承呪切 宥
えり、（衿）。

【䙚】　ダイ、ナイ。乃代切 隊
襶の字の條を見よ、

【褧】　ケイ、キヤウ。口迥切 迥
襌衣、ひとへ。○〔詩〕「衣レ錦——衣」

【𧝏】　サ。蘇可切 哿
衣の長き貌にいふ字

【𧝏】　サ、ゼ。鋤加切 麻
かたぬぐ。

【褩】　ハン。逋潘切 寒
衣の表、おもて。

【褪】　トン。吐困切 願
㊀衣を卸す、おろす。○〔桂安世〕「髻-雲鬆-嚲衣斜—」。
㊁色褪す、あす、さむ、おつ。○〔周邦彥〕「蝶-粉蜂-黃都—了」。

【褫】　チ、ヂ。池爾切 紙
はぐ、うばふ。
（い）著せるものを脱がし取る。○〔易〕「終-朝三—レ之」。
（ろ）奪ふ。○〔吳都賦〕「魄—氣懾」。○
〔攝褫〕　くじきうばふ。○〔王海〕「敵-胆——」。
〔偸褫〕　ぬすみうばふ。○〔王惲〕「野-猿——英-荷衣」。

【𧞟】　チ、ヂ。直吏切 寘
ぬぐ、（脫）、とく、（解）。○〔荀〕「極レ禮而—」。

【𧞟】　イ。演爾切 紙　シ。相支切 支
そふ、（副）。

【𧞟】　チ、ヂ。陳知切 支
㊀䙝衣、きもの。㊁毛氈、けむしろ。

【𧞀】　サウ。寫朗切 養
䙕——は、衣敝る、やぶる、やる。

【𧝈】　カツ、カチ。古喝切 曷
衣の上、又、衣の上に著くる羅。

【𧝔】　カイ、ケ。居拜切 卦
上衣、うはぎ。

【𧜗】　キク、許六　チク、丑六
コク。切　トク。切 屋
㊀たくはふ、（褚）。㊁うばふ、（褫）。
㊂をさむ、（藏）。

【褭】　デウ、テウ。乃鳥切 篠
組（くみいと）を馬に帶ばしむ、かざる。
○〔後漢、註〕「三爵曰二驂——一」。

【褮】　エイ、ヤウ。於營切 庚
鬼衣、死人のきもの。

【褮】　ゲイ、ギヤウ。元扃切 青
衣の穴、ころものあな。

【褮】　エイ、ヤウ。縈定切 徑
衣襉、ひだ。

【䙄】　襛に同じ。

【𧝋】　䙔に同じ。

【褯】　シヤ、ゼ。慈夜切 禡
小兒の衣、わらはべのころも。

【𧝞】　セキ、シヤク。祥亦切 陌
きもの、（藉）。

【褰】　ケン。丘虔切 先
㊀はかま、（袴）。○〔左〕「徵二—與レ襦」。
㊁かゝぐ、（搴）。○〔詩〕「—レ裳涉レ溱」。
㊂ちゞむ、（縮）。○〔司馬相如〕「襞-積——縐」。
〔高褰〕　たかくかゝぐ。○〔嵇康〕「組-幌——」。
〔周褰〕　あまねくかゝぐ。○〔謝朓〕「——-綺-帷一」。

【褱】　古文の懷の字。

【䙆】　ジョウ、ニュ。乳勇切 腫　ゼン、ナン。乳袞切 銑
羽獵の時に著くる韋袴、かはばかま。

十一畫

【褵】　リ。呂支切 支
にほひぶくろ、きんちやく、（褘）。○〔爾雅〕「婦-人之褘謂二之——一」。

【褶】　テフ、デフ。徒協切 葉
㊀襲衣、かされ。○〔儀〕「襚者以レ—」。
㊁袷衣、あはせ。○〔禮〕「—衣—衾」。

【褶】　シフ、ジフ。席入切 緝
袴—は、騎兵の著するはかま。○〔晉〕「弓-弩隊各五-十-人黑袴—」。

【𧞍】　オウ、烏侯切 尤　ウ。於口切 有
小兒の涎衣、よだれかけ。

【𧞍】　ウ、邕倶切 虞　オウ、烏候切 宥　シュ、春朱切 虞
絮頭衣、わたぼうし、わたづきん。

【𧞍】　ウ。委羽切 麌
枲にて編みたる衣。

【𧞄】　バン、マン。謨官切 寒
胡衣、えびすごろも。

【縰】シ。山宜切 支
毛羽の貌にいふ字。○[韓愈]「玄-花著二兩-眼一、視レ物隔二——纚一」。

【縱】ショウ、シュ。息拱切 腫
ソウ、ス。祖叢切 東
襌衣、ひとへぎぬ。

【褋】シツ、シチ。息七切 質
褋——は、ひざかけ。

【褸】ロウ、ル。落侯切 尤
えり、おくび、(衽)。○[博雅]「褙袹衽謂二之——一」。

【褸】ル、ロ。力主切 麌
衣壞る、やぶる、やる、やぶれを紩る、ぬふ、つゞる、又 其の衣帛、やれごろも、つゞりごろも、ぼろ、つゞれ。○[揚雄]「南-楚凡人貧衣-被醜-弊、或謂二之——裂一、或謂二襤——一」。

【[衤崩]】繃に同じ、小兒の衣、むつき。

【褹】ゲイ。魚祭切 霽

【[衤執]】ダイ、女介切 卦 ダツ、女黠切 黠
㊀複襦、かされおゆばん。㊁そで、たもと、(袂)。
紩布襦、つゞれぬのこ。

【褺】テフ、デフ。徒協切 葉
重衣、かさねごろも。

【褻】セツ、セチ。私列切 屑
㊀私服、ふだんぎ、又 褻衣、なかぎ。○[論]「紅紫不三以爲二——服一」。㊁けがる、けがす(穢)。○[呂靜]「——器也、穢-惡之穴也」。㊂媟に通じ用ふ、なる。○[南]「休若坐與レ沈——黷」。㊃衣の破壞の餘、やぶれぎれ、ぼろ。
(燕褻) 私服。○[詩、疏]「不レ得二——之服一」。
(私褻) 前に同じ。○[禮]「不下敢以二其——一事中上帝上」。

【襈】セン。相然切 先
褊——は衣の貌にいふ語。

【褽】井。於胃切 未
㊀衣袵、えり。㊁しく、(薦)。○[左]「寘二之新-簁一——レ之以二玄-纁一」。

【褾】ヘウ。方少切 篠
㊀袖端、そではし。㊁裘の飾り、かざり。

【褾】ヘウ。卑妙切 嘯
衣袂、そで、たもと。

【[衤卒]】シュツ、シュチ。所律切 質
裾——は、短き衣

【[衤盍]】カフ、コフ。苦盍切 合
前と後とへ當て著る衣、うちかけ。○[陸龜蒙]「纏レ肩繞レ脰、——合眩旋」。

【褿】サウ、ゾウ。昨勞切 豪
㊀すそ、(裾)。㊁ときもの、(褯)。㊂えり、おくび(衽)。㊃衣を浣ふを失す、あかつく、よごる。

【褿】セウ、ゼウ。慈焦切 蕭
㊀かたぬぐ、(袒)。㊁衣齊ひて好し。

【襀】セキ、シャク。資昔切 陌
衣の閒躡、ひだ。○[司馬相如]「襞——褰-縐」。

【襁】キヤウ、カウ。居兩切 養
小兒を絡ひ負ふ衣、むつき、せおひおび。○[漢]「曾-孫雖レ在二——褓一、猶坐收二繫郡-邸獄一」。

【[衤舂]】タウ、トウ。丑江切 江
短き敝衣。

【[衤鳥]】テウ。都了切 篠
短き衣。

【[殹衣]】エイ、アイ。煙奚切 齊
——袷は、次衣、よだれかけ。

【襂】シン。疏簪切 侵
羽毛の垂るゝ貌にいふ字。○[揚雄]「纚-虖——纚」。

【襂】サン、セン。師銜切 咸
旌旗の旒、はたあし。○[司馬相如]「垂-旬始以爲レ——」。

【[衤楚]】ショ、ソ。創擧切 御
美好なる貌にいふ字、よし、うつくし、又、あざやか(鮮)。

【[衤戚]】シュク、ソク。子六切 屋
好き衣、又、衣の鮮明なる貌にいふ字、あざやか。

【[衤庶]】セキ、シャク。之石切 陌
被袖、そで。

【褒】ハウ、ホウ。博毛切 豪
㊀美を奬揚す、ほむ。○[公羊]「曷-爲稱レ字——レ之也」。㊁大いなる裾。○[漢]「——衣博-帶」。
(飾褒) 善美をはめあぐ。○[家語]「其談-說足二以——榮-祿一也」。
(善褒) よきをほむ。○[晉]「——惡-貶則佳-法」。
(稱褒) はめそやす。○[司馬光]「曹偶相——」。
(旌褒) あらはしほむ。○[柳宗元]「宜下加二——一、合中于上-下上」。「——」。
(寵褒) いつくしみほむ。○[汪藻]「我何愛二予——」

【襃】ホウ、ブ。蒲侯切 尤
あつむ、あつまる(聚)。

【[衤速]】ソク。蘇谷切 屋
褖——は、衣の聲にいふ語。

【襄】シヤウ、サウ。息良切 陽
㊀衣を解きて耕すと。○[說文]「漢-令解レ衣而耕謂二之——一」。㊁上に同じ。(い)のぼる、あがる。○[書]「懷レ山——レ陵」。(ろ)かみ、うへ。○[書]「思三日贊二々——哉」。㊂はらふ(除)。○[詩]「牆有レ茨不レ可レ——」。㊃なす(成)。○[左]「雨不レ克レ——レ事」。㊄かへる(返)。○[陸機]「玉-衡運而回-——」。㊅のる、のりもの(駕)。○[詩]「兩-服上-

〔亂雲〕かつの如く亂くたちのぼる。○〔漢〕「雲起――」。
〔波瀾〕なみたつ。○〔水經、註〕「濤湧――」。

【縫】縫に同じ。

【䙦】ボウ、ム。謨蓬切〔東〕 襤褸衣、うちかけ。

【褔】褔に同じ。

【複】フク、ホク。方六切〔屋〕 褁衣、わたいれ。

【褡】タ、ダ。湯過切〔歌〕 袖なき衣、そでなし。

十二畫

【襆】幞に同じ。

【襈】セン、ゼン。士戀切〔霰〕 へり、ふち、(緣)。

【襈】ケン、ガン。渠眷切〔霰〕 褶を重ぬ。

【襀】カ。胡箇切〔箇〕 被袖、そで。

【襭】ケツ、ケチ。古穴切〔屑〕 そで、(袖)。

【襦】襦に同じ。○〔晉〕「羸疾無レ―」。

【䙞】トウ。都騰切〔蒸〕 毛帶、けおりのおび。○〔酉陽雜俎〕「得二一錦―一」。

【襉】カン、ケン 古莧切〔諫〕 すそ、(裙)、一說に、すその襞、ひだ。

【襊】サイ、セ。麤外切〔泰〕 衣の遊縫、ぬひ。○〔劉孝―〕「和二服兩―邊作二八――」。

【襊】サツ、サチ。麤括切〔曷〕 ㊀緇布冠、くろぬのゝかんむり。㊁衣領、えり。

【襘】テイ、タイ。他計切〔霽〕 補ひ綴る、つゞる

【襋】キョク、ケキ。訖力切〔職〕 衣領、えり。○〔詩〕「要レ之―レ之」。

【襀】ヒ。芳未切〔未〕 きもの、(服)。

【䙟】セウ。子小切〔篠〕 ぬぐふ、(拭)。

【䙖】チ。展几切〔紙〕 衣を紩す、さす、ぬふ。

【襫】ショク、シキ。賞職切〔職〕 よそほふ、(裝)。

【襴】井。雨非切〔微〕 羽鬼切〔尾〕 衣を重ぬ、かさぬ。

【襌】タン。多寒切〔寒〕 ㊀單衣、ひとへ。○〔禮〕「―爲レ裥」。㊁汗襦、はだぎ。○〔漢〕「衣二紗縠――衣一」。

【襶】タイ、テ。都回切〔灰〕 棺の覆ひ、おほひ。

【襍】雜に同じ。

【襎】ヘン、ホン。附袁切〔元〕 ―䙊は、はちまきぎれ、かしらづつみ

【襎】ハ。補過切〔箇〕 長き袂、そで、たもと。

【襪】タウ。待朗切〔養〕 かざり、(飾)。

【襏】ハツ、ハチ。北末切〔曷〕 ㊀雨衣、あまぎ。○〔管〕「身服二―襫一」。㊁長さ三尺ある衣。○〔劉禹錫〕「奪レ――而舞」。㊂蠻夸の服、えびすのきもの。
〔緼襏〕雨中などに被るみの。○〔礼〕「身衣二――」。
〔上襏〕うへにきるみの。○〔梅堯臣〕「――與二下襫一」。

【襴】ケツ、クワチ。居月切〔月〕 ㊀衣を揭げて渡る、わたる。㊁短き衣。

【橦】ショウ、シユ。昌容切〔冬〕 ―褣は、襜褕ひとへぎぬ。

【襱】褈に同じ。

【襩】タウ、ドウ。傳江切〔江〕 きもの、(衣)。

【襐】シヤウ、ザウ 徐兩切〔養〕 未だ笄冠せざる男女の耳の後に垂れ下ぐる首飾、あたまかざり。○〔唐〕「皆珠翠―飾」。

【𧝒】レキ、リヤク。狼狄切〔錫〕 急しく纏ふ、まとふ、まとひ裹む、つゝむ。

【襀】キ。丘愧切〔寘〕 ㊀ひも、紐。㊁衣の縁、いと。

【襀】績に同じ。

【襑】ジン。徐林切〔侵〕 衣博く大いなり、ひろし。

【褅】テイ、タイ。他計切〔霽〕 むつき、(褯)。

【襘】シヨウ、ソウ。子孕切〔徑〕 シヨウ、ゾウ。慈陵切〔蒸〕 汗襦、はだぎ。○〔揚雄〕「汗襦、江淮南楚之閒謂二之―一」。

【襘】ソウ。子鄧切〔徑〕 あはせ、(複)。

【襢】テン。陟扇切〔霰〕 知輦切〔銑〕 丹き穀の衣。○〔周〕「王后之六服、其一曰二―衣一」。

【䙡】クワウ、ワウ。戶盲切〔庚〕 ―襠は、こよぎ、小被。

【襒】ヘツ、ベチ。蒲結切 屑
衣を拂ふ、衣にて拂ふ、はらふ。○[史]「側-行-—レ席」。

【襓】ゼウ、子ウ。如招切 蕭
つるぎぶくろ、劍衣。○[禮]「加二夫-—一與レ劍」。

【衤虚】キヨ、ゴ。强魚切 魚
ひも、(繫)。

【衤菲】サフ、ソフ。悉盍切 合
—-拉は、衣敝る、やる、やぶる。

【敦衣】トン。都昆切 元
褚衣、わたいれ。

【衤襃】ハウ、ボウ。薄報切 號
㊀衣の前襟、まへえり、一説に、ふところ、(褒)。
㊁朝服の垂衣。

【衤着】チヨ、ト。知呂切 語
衣を裝ふ、よそほふ。

【褺】テフ、デフ。徒協切 葉
衣を重ぬ

十三畫

【衤褰】
褰に同じ。

【襖】アウ、オウ。烏皓切 晧
うはぎ、(袍)。○[韓愈]「破—請來綻」

【襗】タク、ダク。直各切 藥
褻衣、したおび、ふたもゝひき、したばかま。○[詩]「與レ子同レ—」。

【襗】エキ、ヤク。羊益切 陌
長襦、ながしゆばん。○[周註]「袍—之屬」。

【衤豦】キヨ、コ。居御切 御
ころも、(衣)。

【襘】クワイ、エ。口外切 泰
㊀帶の結び所、むすびめ、又、領の會ふ所、えりあひ。○[左]「衣有レ—」。
㊁衣の緩き帶。

【衤敫】カク、ギヤク。下革切 陌
衣領中の骨、えりしん。

【襙】サウ、ソウ。千到切 號
ころも、(衣)。

【衤督】トク。冬毒切 沃
衣の背縫、せぬひ。

【襚】スヰ、ズヰ。徐醉切 寘
㊀死者に衣服を遺ると、又、其の遺る衣服の稱。○[周]「受二其含—幣玉之事一」
㊁また、人に衣服を遺ると及び其の衣服にいふ字。○[西京雜記]「謹上二—三十條一、以陳二踴躍之心一」。
〔贈襚〕車馬衣服など死者におくるもの。○[晉]「遺襲、—-—之禮、一二博-陸-侯及安-平-獻-王故-事一」。
〔賵襚〕前に同じ。○[北]「勿レ受二—-—一」。
〔賻襚〕死者におくる貨財と衣服など。○[史]「死則不レ得二—-—一」。
〔衾襚〕死者にきするふとんきものなど。○[潘岳]「卿擬二—-—一」

【衤過】タ、テ。都下切 禡
㊀大いなる衣。㊁よし、(好)。

【衤葛】カツ、カチ。居曷切 曷
麤衣。

【襛】ヂヨウ、ニユ。女容切 冬
衣の厚き貌にいふ字。○[詩]「何彼—矣」。

【襜】セン、ソン。處占切 鹽 セン。昌豔切 豔
㊀前を蔽ふ衣、まへだれ。○[詩]「不レ盈二—-—一」。
㊁衣の掖下、わき。○[揚雄]「—謂二之「—被一」。
㊂さばり、(帷)。○[後漢]「赤-屛-泥-絳-—-絡」。
㊃整へる貌にいふ字。○[論]「衣前-後「—-如也」。
㊄動搖する貌にいふ字、ゆら〱。○[司馬相如]「擧二帷-幄之—-—一」。
〔布襜〕ぬのもて作りたる前を蔽ふもの。○晉「以—-作レ—」。
〔組襜〕まへかけにへりをとる。○[宋]「元-德-皇后嘗用二金-縷—レ—」。

【襝】
襜に同じ。

【衤斂】レン、ロン。離鹽切 鹽
衣の垂るゝ貌にいふ字。

【衤霝】レイ、リヤウ。郎丁切 青
衤靈に同じ。

【襞】ヘキ、ヒヤク。必益切 陌
㊀衣服を疊む、衣服を襞ぐ、たゝむ、まぐ。○[揚雄]「不レ如三—而幽二之離-房一」。
㊁衣服のたゝみまげたる處、ひだ。○[漢]「—-積褰-縐」。

【衤雍】ヨウ、ユ。於容切 冬
襪袎、くつたび。

【襟】キン、コン。居吟切 侵
㊀交衽、えり、えもん。○[屈平]「霑二余—之浪-々」。
㊁胸臆、むね、こゝろ。○[北]「虛-—善誘」。
〔麈襟〕世の中の俗慮。○[韓愈]「清-泉-潔二—-—一」。
〔披襟〕ころものえりをあけひろぐ、こゝろをうちあける。○[高僧傳]「王-遂—レ—解レ帶」。
〔開襟〕前に同じ。○[西征賦]「—二—平-淸-暑之館一」。
〔靈襟〕靈妙なるこゝろ。○[唐太宗]「眺-曠-散二—-—一」。
〔幽襟〕しづかなるこゝろ。○[唐明皇]「方-外-散二—-—一」。「載-除」。
〔分襟〕人にわかるゝこと。○[羅鄴]「折レ柳—レ—十-
〔煩襟〕わづらはしきおもひ。○[杜甫]「秀-氣-豁二—-—一」。
〔整襟〕ころもの襟を正して容儀をとゝのふること。○[陳傅良]「逢レ人强—レ—」。
〔正襟〕前に同じ。○[聞見錄]「晉-伯—レ—肅レ容」。
〔端襟〕前に同じ。○[王融]「—-—測二淵-海一」。
〔羅襟〕うすぎぬのえり。○[曹植]「淚下沾二—-—一」。
〔攬襟〕えりをはらふ。○[酒德頌]「奮レ袂—レ—」。
〔胸襟〕こゝろ。○[何承天]「[illegible]二—-—一」。
〔宸襟〕みかどのこゝろ。○[何遜]「—-—動二時-豫一」。
〔愁襟〕前に同じ。○[劉孝綽]「—-—借二岐-路一」。
〔 襟〕塞ふるこゝろ。○[陸龜蒙]「我有二—-—一無レ可レ那」
〔離襟〕わかれのおもひ。○[蕭彧]「光-徹二—-—一冷」。
〔扼襟〕えりもとをおさふ。○[周邦彥]「—レ—控-咽」、
〔懷襟〕ふところ。○[周砥]「秋-風-滿二—-—一」。

【臝】
祼に同じ、はだか。○[漢]「或白-晝使二—-伏一」。

【襠】襁に同じ。○〔易林〕「—褓孩孤」。

【襠】タウ。都郎切 陽
㊀裲—は、胷と背とに當て著くる衣服、うちかけ。○〔西京雜記〕「遺二飛燕金錯繡—一」。
㊁褻袴、またもゝひき、またおび、ふどし、特に、其の上部の稱。○〔阮籍〕「動不三敢出二褌—一」。
〔袴襠〕はたばかま。○〔北〕「跡二——一而不レ落。
〔錦襠〕にしきのはたばかま。○〔甘澤謠〕「見二婦人毆人——負レ嬰而汲一」。

【襡】ショク、ゾク。市玉切 沃
長襦、ながしたぎ、又、要衣、こしまき。○〔晉〕「妓女之徒服二袿—一炫二燭華一」。

【襡】トウ、ヅ。徒口切 有 タク、ドク。竹角切 覺
短き衣。

【襡】トウ、ツ。當口切 有
そで、(袖)。

【襡】トク、ドク。徒谷切 屋
つゝむ、ふくろ、(韜)。○〔禮〕「斂レ簟而—レ之」。

【襢】タン、ダン。徒旱切 旱
かたぬぐ、(裼)。○〔詩〕「—裼暴レ虎」。

【襢】テン。知演切 銑
物の上を障はざるにいふ字、あらはす。○〔禮〕「設レ牀—レ第」。

【襢】テン。陟扇切 霰
正白にして文采なき衣、○〔禮〕「一命—衣」。

【襢】セン、ゼン。時戰切 霰
上服を去る、うはぎをぬく。

【襢】セン。諸延切 先
旃に同じ。

【襢】テン。澄延切 先
ひさへ、(褌)。

十四畫

【⿰衤祭】ダツ、ネチ。女黠切 黠
奴人の衣、つかひをとこのころも。

【⿱齊衣】シ。即夷切 支
ぬふ、(緶)。

【⿰衤㥯】イン、オン。於靳切 問
㊀つゝむ、(裹)。㊁かゞむ、(鞏)。

【⿰衤與】ヨ。羊諸切 魚
衣の揚がる貌にいふ字。

【⿱斲衣】タク、竹角切 覺 トク。都木切 屋
㊀衣地に至る。㊁地に至れる長き衣。
㊂おぎなふ、(補)。

【⿰衤蒙】ボウ、ム。莫紅切 東
ころも、(衣)。

【⿱殸衣】コク。胡谷切 屋
衣の聲にいふ字。

【⿰衤夢】ボウ、ム。謨蓬切 冬
⿰衤蓋襠、うちかけ。

【襣】ヒ、ビ。毗至切 寘
ふどし、(褌)。○〔揚雄〕「無レ襇之袴、謂二之—一」。

【襤】ラン、ロン。魯甘切 覃
㊀緣なき衣。㊁褸の條を見よ。

【⿰衤熏】クン、コン。許云切 文
淺絳、うすあか、一說に、三たび染めたるあか。

【⿰衤蓋】カイ、ケ。居拜切 卦
上衣、うはぎ。

【襦】ジュ、ニュ。人朱切 虞
腰にまで及ぶ短衣。○〔禮〕「衣不二帛—袴一」。
〔珠襦〕たまをつらぬきて作りたる短衣。○〔漢〕太后被二——一。
〔袹襦〕はだぎ。○〔莊〕「未レ斗二——一」。
〔布襦〕ぬのゝ短衣。○〔東觀漢記〕「常衣二——一」。
〔纁襦〕くろきいろの短衣。○〔儀〕太夫與レ士射袒二——一。
〔綺襦〕うつくしき短衣。○〔陳琳〕「拂二——一而綏引」。
〔羅襦〕うすきぬの短衣。○〔謝朓〕「含レ笑解二——一」。
〔汗襦〕はだぎ。○〔方言〕——自レ關而東、謂二之甲襦一。
〔複襦〕あはせの短衣。○〔樂府孤兒行〕「冬無二——一」。

【襵】レフ。力協切 葉
衣を相著く、つく。

【⿰衤戠】シュク、ソク。子六切 屋
好き衣の貌にいふ字。

【⿰衤厤】シヤ、セ。子夜切 禡
小兒の帶。

【⿰衤睘】クヮ。古火切 箇
つゝむ、(包)。

【⿰衤熊】キウ、ク。匣東切 東
つよし、(强)。

十五畫

【襩】ショク、ゾク。市玉切 沃
襡に同じ。

【襩】トク、ドク。徒谷切 屋
ふくろ、(韜)。

【⿰衤麃】古文の表の字。

【⿰衤麃】ハウ、ホウ。博褒切 豪
長襦。

【襪】バツ、モチ。望發切 月
足衣、たび。○〔曹植〕「羅—生レ塵」。

【⿰衤歐】オウ、ウ。烏侯切 尤
涎衣、よだれかけ。

【⿱樊衣】ハン、ヘン。普患切 諫
襻に同じ。

【⿰衤截】セツ、セチ。子結切 屑
小さき衣。

【⿰衤赤】セキ、シヤク。施隻切 陌
襫の字の條を見よ。

【⿰衤罷】ヒ。彼爲切 支

もすそ、すそ、(裳)。

【襭】ケツ、ゲチ。胡結切 屑
衽を帶に扱む、衽にて物を扱む、つまばさむ。○[詩]「薄言—レ之」。

【⿰衤巤】ラフ、ロフ。力盍切 合
衣敝る、やる、やぶる。

【⿰衤巤】レフ。力涉切 葉
衣の貌にいふ字。

【⿰衤畾】ライ、レ。盧同切 灰
劍の飾り、かざり。

【襮】ハク。布各切 藥 ホク。逋沃切 沃
㊀ゑり、(領)。○[詩]「素-衣朱—」。
㊁おもて、(表)。○[班固]「修レ—而內逼」。

【⿰衤戠】織に同じ。

【⿴衣暴】ハウ、ボウ。薄報切 號
前襟、まへえり、一說に、ふところ、(懷)。

【⿰衤肅】シユク、ソク。子六切 屋
好衣の鮮明なるを。

十六畫

【⿰衤巂】襘に同じ。

【襯】シン。初覲切 震
㊀身に近き衣、はだぎ。○[禮]「取ニ名于—ニ—近レ尸也」。
㊁接近す。○[韓偓]「天—ニ樓-臺ニ籠ニ苑-外ニ」。「—ニ衆-僧ニ」。
㊂施與す、ほどこす。○[齊諧]「—ニ以

【襱】ロウ、ル。盧紅切 東
はかま、(袴)、又、其の兩股、あし。

【襱】リヨウ、リユ。良用切 宋
—緟は、衣の寬き貌にいふ語。

【⿰衤遺】井。夷隹切 支
ころも、(衣)。

【⿰衤遝】シフ。似入切 緝
⿰衤遝に同じ。

【襲】
㊀かされ。(い)衣をかされ著るを、かされぎ、又、其の衣。○[禮]「服之—也」。(ろ)上下の衣具はるを、そろひ、又、其の衣。○[通鑑]「衣ニ一—ニ」。
㊁おそふ。(い)かされを服す、よそほふ。○[司馬相如]「—ニ朝-服ニ」。(ろ)つぐ、(繼)、うく、(受)。○[左]「—ニ天-祿ニ」。(は)敵の備へざるを伐つ、うつ。○[孟]「—而取レ之」。
㊂あふ、あはす、(合)。○[周]「—ニ于休-祥ニ」。
㊃かさぬ、かさなる、(重)。○[易]「卜不レ—レ吉」。
㊄よる、(因)。○[禮]「卜-筮不ニ相—ニ」。
㊅いる、(入)。○[國]「使三晉—ニ於爾門ニ」。
〔掩襲〕敵軍の不意をそふ。○晉「—・—之計」。
〔雜襲〕おほくかさなる。○[漢]「魚-鱗—・—」。
〔踏襲〕あとをうけつぐ。○[金]「不レ—ニ—前人ニ」。
〔因襲〕よる。○[劉歆]「無レ所ニ—・—ニ」。
〔承襲〕前に同じ。○[宣和書譜]「隋-宗—ニ—太-宗之學ニ」。
〔積襲〕つみかさぬ。○[說苑]「—・—成レ山」。
〔疊襲〕かさなる貌にいふ語。○[潘岳]「溕-紆—・—」。
〔冒襲〕をかしつぐ。○[梁武帝]「—ニ—貝-家ニ」。
〔繼襲〕うけつぐ。○[庾信]「聽下以ニ支-子ニ—・—上」。
〔奔襲〕はせおそふ。○[樓鑰]「雨-陣還—・—」。
〔討襲〕不意に敵をうつ。○[劉希夷]「有レ事常—・—」。

【⿱毄衣】トク。都木切 屋
—⿱毄衣は、衣の聲にいふ語。

【⿱𣪊衣】ソク。蘇谷切 屋
前條を見よ、又、新衣の貌にいふ字。

【襰】ライ、レ。洛駭切 蟹
㊀懶に同じ、ころもやぶる。
㊁壞隳す、やぶる。○[元結]「祠之—兮渺何年」。

十七畫

【襳】セン、ソン。息廉切 鹽
㊀小さき襦。
㊁纖の字の條を見よ。
㊂袿衣に結ぶ長き帶。○[漢]「蜚—垂-髾」。

【襳】シン、ソン。所今切 侵
前條の㊀に同じ。

【襳】襂に同じ、はたあし。

【⿰衤巂】ケイ、ケ。元圭切 齊
一幅の巾、ひざはゞぎれ。

【⿰衤嬰】アウ、ヤウ。鷖迸切 敬
㊀錯綵、あや、まだら。○[郭璞]「—似ニ蘭-紅ニ」。
㊁裾襴、すそひだ。

【⿰衤嬰】アウ、ヤウ。於莖切 庚
前條の㊀に同じ。

【⿰衤褰】ケン。去乾切 先 九件切 銑
はかま、(袴)。

【襴】ラン。郎干切 寒
衣と裳と連らなれるもの。○[綱目集覽]「著ニ—及裾ニ」。

十八畫

【襵】セフ。之涉切 葉
衣をまげ詘む、かゞむ、又、かゞめたる所、ひだ。○[梁簡文帝]「駛-斗成ニ裙-—ニ」。

【襵】⿰巾既に同じ、えりさき。

【⿰衤爂】褾に同じ。

【⿰衤蹙】シユク、ソク。子六切 屋

【襶】タイ。丁代切 隊
㊀よし、(好)。㊁鮮明、あざやか。
褦—は、暑中は人々袒裸を樂しむ時なるに盛服して見ゆるを誚ふを、轉じて、事情に通ぜざるを、自づから熱に苦むを。○[程曉]「今-世褦—子、觸レ熱到ニ人-家ニ」。

十九畫

【⿰衤㬥】襮の本字。

【襸】サン。則旰切 翰
衣の好き貌にいふ字、うつくし、うるはし、又、其の衣。

【襹】シ。所宜切 支　所綺切 紙　所寄切 寘
纖襹は、毛羽の貌にいふ語。○〔張衡〕「被二毛-羽之纖-襹一」。

【襺】ケン。古典切 銑
纊（わた）を褚ひたる衣、わたいれ。○〔左〕「重レ襺衣レ裘」。

【襻】ハン、ヘン。普患切 諫
衣の繫、ころものひも。○〔庾信〕「褰-斜假レ襻」。

【⿰衤羅】ラ。郎佐切 箇　良何切 歌
婦人の上服、うはぎ。○〔宋王敬弘碑〕「著二青-紋袜-――一」。

【⿰衤藝】ゲイ。倪祭切 霽
たもと（袂）。○〔潘岳〕「掎レ裳連レ――」。

【襩】チヨウ、ヂユ。柱勇切 腫
襱に同じ、はかま。

【⿰衤離】
褷に同じ。

二十畫

【⿰衤騫】ケン。起延切 先
はかま（袴）。

廿一畫

【⿰衤朁】
襸の本字。

【⿰衤屬】ショク、ゾク。市玉切 沃
㊀長き襦、腰に連らなれる衣、衣と裳との上下連らなれるもの。㊁衣の貌にいふ字。㊂緣を施す、へりつく。

廿二畫

【⿰衤囊】ダウ、ナウ。乃浪切 漾
寬緩、ゆるし、ひろし。

廿四畫

【⿰衤靈】レイ、リヤウ。郎丁切 靑
衣の光。

襾部

【襾】ア、エ。衣嫁切 禡
〔六書正譌〕从レ一、从レ冂、从レ丨、上下覆レ之。
おほふ（覆）。

【西】セイ、サイ。先稽切 齊
㊀日没の方、にし、にしのかた。○〔漢〕「少-陰者――方」。㊁にしの方に往く、にしす。○〔漢〕「且布聞レ之、鼓-行而―耳」。
〔向西〕にしの方にむかふ。○〔張籍〕「野-水陰-雲盡―レ―」。
〔徂西〕にしの方にゆく。○〔詩〕「我征―レ―」。

【覀】ヤク、アク。乙却切 藥
平かに量る、はかる。

一畫

【襾】ベイ、ミヤウ。莫靈切 靑
おなじ、ひとし（同）。

二畫

【⿱覀儿】コ、ク。果五切 麌
兜に同じ、おほふ。

三畫

【⿱覀大】セン。相然切 先
高きに升る、のぼる。

【要】エウ。於霄切 蕭
㊀むすぶ、ちかふ（約）。○〔左〕「使二季路―レ我、吾無レ盟矣」。㊁約束、ちかひ、ちぎり。○〔論〕「久―不レ忘二平-生之言一」。㊂もとむ（求）。○〔孟〕「脩二其天-爵一以―二人-爵一」。㊃とる（取）。○〔淮〕「以―二飛-鳥一」。㊄あはす（會）。○〔禮〕「―二其節-奏一」。㊅おさふ（勒）、とゞむ（劫）、ひかへさす。○〔漢〕「皇-后固―」。㊆さへぎる（遮）、まつ（待）、まちぶせす。○〔孟〕「將二―而殺レ之」。㊇あきらかにす（察）、きはむ（効）、とりしらぶ。○〔周〕「異二其死-刑之罪一―レ之」。㊈こしおび（褄）。○〔詩〕「―レ之襋レ之」。㊉衞圻（きない）の外。○〔周〕「蠻-夷――服」。⑪腰に通じ用ふ、こし。○〔荀〕「詘レ―橈レ膕」。
〔固要〕きびしくさへぎりとゞむ。○〔漢〕「太-后―――乃止」。
〔月要〕ひとつき分の會計。○〔周〕「月-終則令二正―――」。
〔彊要〕ちひてさへぎる。○〔史〕「呂-澤――曰、爲二我畫一計」。

【要】エウ。於笑切 嘯
凡會、主約、かなめ、ちめくゝり、もと。○〔孝〕「先-王有二至-德―道一」。

【要】
腰、又偠に同じ。

四畫

【⿱覀犮】ハフ、オフ。過合切 合
おほふ（蓋）。

五畫

【⿱覀巷】
覂に同じ。

【覂】ホウ、フ。方勇切 腫　ホウ、ブ。房用切 宋
㊀くつがへる、くつがへす（覆）。○〔顏延之〕「馬無二―駕之軼一」。㊁とぼし（乏）。○〔唐〕「公-私――竭」。

【⿱覀之】ハン、ホン。補范切 豏
すつ（棄）。

六畫

【⿱覀圭】ケイ、エ。戸圭切 齊
いやし（鄙）。

【覃】タン、ドン。徒含切 覃
㊀およぶ、およぼす（及）、ひく、のぶ（延）。○〔詩〕「―及二鬼-方一」。㊁深くして廣し。○〔晉〕「―思二于大-玄一」。
〔普覃〕ひろくおよぶ。○〔常袞〕「霈-澤――」。
〔遙覃〕遠くまでおよぶ。○〔江淹〕「皇-心――」。
〔遐覃〕前に同じ。○〔駱賓王〕「妙-峉――」。
〔遠覃〕前に同じ。○〔中弘〕「帝-德――」。

【⿱覀早】エン、オン。余廉切 鹽
さし（利）。○〔詩〕「以二我―耜一」。

八畫

【⿱覀服】ホク、ボク。蒲北切　ヒヨク、ビキ。弼力切 職
みにくし（醜）、いやし（賤）、又、其の者。○〔揚雄〕「僮-―農-夫之醜-稱也」。

十一畫

【覊】エイ、エ。烏攜切 齊

行竃、もちありくかまど。

十二畫

【覆】フク、ホク。芳六切 屋

㊀くつがへる。
(い)倒れてうらがへる、たふろ、ひッくりかへる。○[管]「棟生レ橈不レ勝レ任則屋―」。
(ろ)やぶる、(敗)、又、ほろぶ、(滅)。○[禮]「毋下越二厥命一以自―上」。
㊁倒す、敗る、くつがへす。○[書]「顚二―厥德一」。
㊂かへる。
(い)ひろがへる、うらがへる。○[淮]「舟―乃見二善游一」。
(ろ)方向を轉ず。○[漢]「反―之國」。
㊃かへす。
(い)うらがへす。○[禮]「五―五反」。
(ろ)再び爲す、くりかへす。○[史]「欲レ反二―之一」。
㊄報知、志らせ。○[漢]「不レ從二中―一」。
㊅うらはらにて、うッてかはッて、かへッて。○[詩]「不レ懲二其心一、―怨二是正一」。
㊆詳かに察す、くりかへして志らぶ、つまびらかにす、みる。○[唐]「撿二―私隱一」。

(傾覆) くつがへる、くつがへす。○[漢]「作二爲權詐一以相―」。「―灾一」。
(蕩覆) 十分にみちてやぶる。○[晉]「深愼二―之―」。
(翻覆) 反對にかはる。○[唐]「我懼二其―也」。
(論覆) 志らべあきらかにす。○[吳]「―果然」。
(檢覆) 前に同じ。○[崔融]「則必―」。
(精覆) くはしく志らぶ。○[晉]「―二隱漏一」。
(較覆) くらべ志らぶ。○[唐]「糊レ名―」。
(鑰覆) てらしあはせて志らぶ。○[唐]「―二―圖書一」。
(偪覆) たふる。○[易林]「身傾―」。

【覆】フウ、フ。敷救切 宥

㊀おほふ。
(い)上にかゝり塞がる、上にかけ塞ぐ。○[禮]「天之所レ―、地之所レ載」。○[孟]「仁―二天下一」。
(ろ)布き及ぶ、布き及ぼす。
(は)被ろ、被す、かぶろ、かぶす。○[後漢]「使二黃門持レ被―レ豹」。
(に)庇護す、かばふ。○[荀]「以救二―之一」。
(ほ)隱蔽す、かくす。○[魏]「微過細故、當レ掩二―之一」。
㊁おほふもの、おほひ。○[漢]「使二數家財―一」。
㊂伏兵、ふせぜい。○[左]「爲二三―一以待レ之」。

(兼覆) つゝみおほふ。○[荀]「有二―之厚一而無二伐德之色一」。
(包覆) 前に同じ。○[蔡邕]「廣大寬裕足二以―一無方一」。
(洪覆) 天の稱、又、おほいにおほふ。○[張九齡]「―在二示夕一」。
(半覆) なかばおほふ。○[晉]「又中二分之一、前―二地上一」。
(蒙覆) おほふ。○[宋]「義取三―二其首一」。
(設覆) 兵を伏せおく。○[五]「以二衆一旅一―二于山下一以待レ之」。
(含覆) 包容す。○[宋]「―廣大」。
(蔭覆) ひかげとなりておほふ。○[西京雜記]「上枝―二數十畝一」。「―兮」。
(博覆) ひろくおほふ。○[魏文帝]「豈二弘蔭一而―」。
(溥覆) 前に同じ。○[曹植]「暢二沈陰一以―」。
(廣覆) 前に同じ。○[王粲]「仁恩―」。

十三畫

【覇】俗の霸の字。

【覈】カク、ギャク。下革切 陌

㊀而はれたる事實を驗考して明かならしむ、かんがふ、志らぶ。○[張衡]「何以―レ諸」。
㊁深刻、きびし、はげし。○[後漢]「峭―」。「―爲レ方」。
㊂果中の實、され。○[周]「其植物宜二―一」。

(綜覈) かねあきらかにす。○[漢]「―二名實一」。
(檢覈) 志らぶ。○[後漢]「―二其事一」。
(考覈) 前に同じ。○[晉]「―二舊文一」。
(校覈) 前に同じ。○[梁昭明太子]「―二仁義一」。
(精覈) 前に同じ。○[長笛賦]「―二術數一」。
(細覈) こまかにかんがふ。○[盧照鄰]「―五千文」。「―一」。
(審覈) あきらかに志らぶ。○[後漢]「雖レ不二―一其事一」。
(愼覈) つゝしみて志らぶ。○[後漢]「―二―一其事一」。「―微妙一」。
(窮覈) どこまでもおしきはめ志らぶ。○[隋]「―二―」。
(推覈) 前に同じ。○[唐]「―二詔獄一」。
(品覈) 區別をたて志らぶ。○[後漢]「―二公卿一」。
(研覈) 志らべかんがふ。○[東京賦]「―二是非一」。

【覈】ケツ、ゲチ。奚結切 屑

㊀むかふ、(邀)。
㊁かたむぎ。○[漢]「亦食二糠―一耳」。

【覈】ケウ。詰弔切 嘯

ほね、(骨)。

【覈】コク。枯沃切 沃

哀しみて發する聲にいふ字。

十七畫

【覊】羈の本字。

十九畫

【覊】前に同じ。

見部

【見】ケン。古甸切 霰 ―（文 从レ目从レ儿。

㊀みる。
(い)眼に映ず。○[漢]「夜―二大人長數丈一」。
(ろ)望む。○[漢]「天子自二帷中一望―焉」。
(は)知る。○[書]「灼―二三有俊心一」。
(に)會す、あふ。○[周]「春―曰レ朝」。
(ほ)顧る。○[漢]「未レ得二省―一」。
㊁みる所、知る所、理會、觀察。○[漢]「及二知―之所一レ不レ及」。

【見】ケン、ゲン。形甸切 霰

㊀長上に會す、まみゆ。○[儀]「某也、願レ―」。
㊁發露す、みゆ、あらはる。○[史]「情―勢屈」。
㊂顯出す、みす、あらはす。○[水經、註]「照二―人形一」。
㊃すゝむ。
(い)紹介してまみえしむ。○[左]「齊豹―二宗魯於公孟一」。
(ろ)上に奉る。○[漢]「不レ宜レ薦二―于宗廟一」。
㊄或る動作を他より受けたるを表す字、せらる、らる。○[史]「信而―レ疑、忠而―レ謗」。
㊅目前に存すると。○[史]「軍無二―糧一」。

(宴見) 帝王の閑宴の時にまみゆ。○[漢]「房嘗―「設」。
(瞻見) 前に同じ。○[晉]「毎二―一不レ食二太官所レ―」。
(管見) くだのあなよりみるとにて物の全體をあきらかにする能はざるにいふ語。○[晉]「此見―中窺レ豹、時―二一斑一」。
(寡見) 多くみざると。○[王褒]「―レ―尠レ聞」。
(陰見) 志のびやかにまみゆ。○[戰]「張孟談於レ是―二韓魏之君一」。
(深見) ふかくあきらかにさると。○[漢]「―二天命一」。

（引見）貴人の臣下などをひきちかづけてあふこと。○（陳）「即日―・―」。
（進見）すゝみまみゆ。○（後漢）「若二並時―・―一、則不二敢正坐一」。
（穴見）みることの廣からざるをいふ。○（後漢）「不二敢―・―一、有三所二興造一」。
（察見）あきらかに究めみる。○（後漢）「目有二―・―之明一」。
（親見）したしくみる。○（後漢）「傳聞不レ如二―・―一」。
（周見）あまねくみる。○（後漢）「―・―洽聞」。
（聞見）きくとみると。○（後漢）「常所二―・―一」。
（待見）面命をまつ。○（後漢）「豪人之室賓客―レ―而不二敢去一」。
（愚見）おのれのしるところを他人に對してへりくだり稱する語。○（晉）「敢陳二―・―一」。
（侍見）貴人にちかづきあふ。○（晉）「武帝曰、每二―・―一、未三嘗不二談二論人物及萬機得失一」。
（達見）事體を十分にきはめ識る。○（晉）「―・―明遠」。
（淺見）あさはかなる見識。○（晉）「敢以二―・―一」「引入―レ―●陳二寫愚情一」。
（賜見）帝王の臣下に拜謁をゆるさる。○（魏）「皆
（臥見）ふしながらみる、又、ねながら人にあふ。○（魏）汲拔儒可■―・―二衞青一。
（意見）かんがへ。○（舊唐）「上元元年天后上二―・―十二條一」。
（博見）ひろくものをみる。○（荀）「吾嘗跂而望、不レ如二登高之―・―一也」。
（召見）よびよせあふ。○（水經、註）「上―二―之一」。
（呼見）前に同じ。○（博物志）「親所二―・―一」。
（佇見）たゝずみてみる。○（李嶠）「―・―燕然上」。
（仰見）うへをみあぐ。○（楊萬里）「―・―雲衣側」。
（就見）ちかづきてみる。○（禮）「寡人如二―・―一者」。
（亟見）しばしばあふ。○（禮）「―・―日二朝夕一」「也」。
（倨見）たかぶりて人にあふ。○（史）「不レ宜二―・―長者一」。
（白見）上にいひたて薦擧す。○（漢）「―・―四人一」。
（御見）帝王にまみゆ。○（漢）「每レ當二―・―一、輒辭以レ疾」。
（自見）まのあたりみる。○（說苑）「不レ如二―・―之」。
（而見）前に同じ。○（吳、註）「自非二―・―一、口未二嘗言一レ之」。
（先見）事のいまだあらはれざる以前に事體をあきらかに知る。○（後漢）悔無二日磾―・―之明一、猶懷二老牛舐犢之愛一。
（豫見）前に同じ。○（後漢）「不レ可二―・―一」。
（百聞不如一見）きくと多からんよりひとたびにてもみれば事體をあきらかにするを得べきをいふ。○（漢）「―・―・―レ―・―・―一」。

【見】カン、ケン。居莧切 [諫]

㊀棺衣、ひつぎかけ。○（禮）「實二―閒一而後折入」。
㊁まじろ、まじふ、（雜）。○（禮）「―以二蕭光一」。

三畫

【⿱冃見】ボウ、ム。莫紅切 [東] ボク、モク。莫勒切 [屋] 謨沃切 [沃]

突前す、すゝむ。

【⿱冖見】バウ、モウ。莫報切 [號]

ふる、（觸）。

【⿱見廾】コク。口德切 [職]

みる、（見）。

四畫

【規】キ。居追切 [支]

㊀圓形を正す具、ぶんまはし。○（呂氏春秋）「欲レ知二方圓一、則必二―矩一」。
㊁圓形、まるがた、又、まるがたの物。○（屈平）「曲眉―只」。
㊂法度、のり。○（司馬相如）「創レ業垂レ統、爲二萬世―一」。
㊃のりに合ふにいふ字、正し。○（晉）「素德清―、足レ傳二于汗青一」。
㊄たゞす。
（い）圓形を正す、はかる。○（周）「―レ之以眂二其圓一」。
（ろ）のりに從はしむ。○（書）「官師相―」。
（は）諫む。○（呂氏春秋）「羣臣盡―」。
㊅はかる。
（い）㊄の（い）に同じ、たゞす。
（ろ）計ろ。○（左）「―求無レ度」。
㊆謀計、はかりごと。○（戰）「無二天下之―一」。
㊇ゑがく、（畫）。○（國）「―二其臂一以レ墨」。
㊈かぎる、（劃）。○（國）「―二方千里一以爲二甸服一」。
㊉のりとなす、のっとる、摹す。○（張衡）「―二遵王度一」。
⑪井田の四分の一。○（禮疏）「四―而當二一井一」。
⑫河豚の異名、ふぐ。○（沈括補筆談）「浙東人呼二河豚一爲二―魚一」。

（成規）正圓のかたちをなす。○（周）「天子之弓、合レ九而―レ―」。
（進規）たゞしきのりをすゝむ。○（左）「近臣――」。
（轉規）まろきものをまろばすとて勢のきはまらざるにいふ語。○（後漢）勢如二―・―一。
（忠規）忠諫といふに同じ。○（晉）「―・―匪レ競」。
（子規）ほとゝぎすといふ鳥の名。○（禽經）江左曰二―・―一、蜀右曰二杜宇一。
（半規）半圓のかたち。○（黃庭堅）新月吐二―・―一。
（明規）あきらかなるのり。○（阮瑀）「以二此篇―・―一」。
（箴規）いましめたゞす。○（孟浩然）「莫レ厭相―・―一」。
（家規）いへのおきて。○（韓愈）「幾能守二―・―一」。
（神規）神妙なるはかりごと。○（晉）「必能允二副―・―一」。
（世規）世の中の法度。○（列士傳）「執レ義可二以爲二―・―一」。
（宏規）おほいなるはかりごと。○（褚淵碑文）「仰二贊―・―一」。
（洪規）前に同じ。○（陸機）「―・―遠略」。
（獻規）はかりごとをたてまつる。○（陸機）「吐レ餐納二―・―之客一」。
（短規）おとりたるはかりごと。○（謝靈運）「謬二其―・―一」。
（英規）すぐれたるのり。○（江淹）「近覽二―・―一」。
（朝規）朝廷の法度。○（沈約）「必能學二―・―于邊鄙一」。

【規】ケイ、エ。惠圭切 [齊]

輪の一周、ひとめぐり、又、輪の轉ずる度合。○（禮）「立視二五―一」。

【規】キ。規恚切 [寘]

氣ぬけしたる貌にいふ字、驚き視る貌にもいふ字。○（莊）「―・―然自失也」。

【覑】ヘン。匹典切 [銑]

視る貌にいふ字。

【覒】バウ、モウ。莫到切 [號]

㊀さる、（耄）。㊁ながしめ、（眊）。

【覓】ベキ、ミヤク。莫狄切 [錫]

もとむ、（求）。○（魏）「―二索餘光一」。

【覔】俗の覓の字。

【梘】シ。七四切 [寘]

うかゞふ、のぞく。

【梘】シ。取私切 [支]

㊀盜み視る貌にいふ字、うかゞふ。㊁―食は、請はざるに來たると。

【⿰开見】ジ、ニ。如卑切 [支]

口を閉づる貌にいふ字。○（王延壽）「脣皺嚙以胹―」。

【⿰見毛】覒に同じ。

【硯】ケン、ゲン。何殄切 [銑]
大板、おほいた。

【覓】バク、マク。茫作切 [藥]
もとむ、(覔)。

五畫

【覕】ベツ、莫結 メチ。切 [屑] ヒン。必刃 切 [震]
㊀もとむ、(覓)。
㊁蔽はれて見えず、くらし。

【覕】ヘツ、ヘチ。匹蔑切 [屑]
㊀ちらとみる、(瞥)。
㊁さく、(割)。○〔莊〕「猶二一ーー一也」。

【覗】シ。式支切 [支]
㊀いざなふ、(誘)。㊁覘に同じ。

【覘】セウ、市沼 ゼウ。切 [篠] 時照 切 [嘯]
㊀みる、(見)。㊁めす、(召)。

【覘】ケウ。堅堯切 [蕭]
㊀みる、(覼)。㊁とほし、(遠)。

【覘】アク、ヤク。於革切 [陌]
㊀善く驚く、おどろく。
㊁視る貌にいふ字。

【覛】ベイ、メイ。莫兮切 [齊]
病人の視るにいふ字。

【覛】ベイ、莫兮 メイ。切 [齊] ベン、民堅 メン。切 [先]
前條に同じ。

【覕】テツ、大結 デチ。切 ケツ、虎結 ケチ。切 [屑]
みる、(見)。

【視】シ、時利 ジ。切 [寘] 承矢 切 [紙]
㊀みる。
(い)明かに見る。○〔易〕「眇能ー、跛能履」。
(ろ)明かに察す。○〔書〕「ーレ遠惟明」。○
(は)のぞむ、うかゞふ、みまもる。〔漢〕「莫レ不二竊ー一」。
(に)待遇す、あひしらふ。○〔左〕「善ーレ之」。
(ほ)事に當たる。○〔呂氏春秋〕「親往ーレ之」。
(へ)納む、いる。○〔禮〕「不レー二其饋一」。
(と)教ふ。○〔儀〕「遂ーレ之」。
㊁示す。○〔漢〕「ー三項羽無二東意一」。
㊂ならふ、(效)。○〔書〕「ー二乃烈祖一」。
㊃なぞらふ、(比)。○〔禮〕「公室ー二豐碑一」。

〔虎視〕とらものをみる、又、雄心をいだけるものゝみるにいふ字。○〔易〕「ー・ー眈々」。
〔明視〕兎の異名、又、あきらかにみる。○〔禮〕「凡祭二宗廟一之禮、兎曰二ー・ー一」。
〔瞻視〕みる。○〔論〕「尊二其ー・ー一」。
〔疾視〕にらみみる。○〔孟〕「夫撫レ劍ー・ー」。
〔仰視〕あふぎてたかきをみる。○〔史〕「見二蜚鴈一ー二ー之一」。「ー・ー」。
〔睇視〕またゝきもせずにみはる。○〔宋史〕「即仰レ屋ー・ー」。
〔直視〕前に同じ。○〔晉〕「醉而ー・ー」。
〔敬視〕みまはす。○〔 〕「必ー二ー之一」。
〔周視〕めぐりてみる。○〔禮〕「ー二ー原野一」。
〔熟視〕心をとめてよくみる。○〔史〕「熟二將軍ー・ーー」。
〔眄視〕ながしめにみる。○〔戰〕「馮レ几據レ杖、ー・ー指使、則厮役之人至」。「年」。
〔忤視〕もとりみる。○〔漢〕「目不二ー・ー一者數十年」。
〔闚視〕ならべみる。○〔舊唐〕「宰臣ー二ー可否一」。
〔養視〕そだてあしらふ。○〔後漢〕「南頓君ー・ー如レ子」。
〔臨視〕王者の臣下のもとにつきてみる。○〔漢〕「上親自ー二ー何病一」。
〔圜視〕とりかこみみる。○〔柳宗元〕「左右ー・ー」。

〔監視〕臨察す。○〔北〕「有司ー・ー」。
〔督視〕前に同じ。○〔唐〕「司農少卿ー・ー」。
〔覩視〕あきらかにみる。○〔漢〕「皇天所二ー・ー一」。
〔俯視〕うつむきて卑きをみる。○〔魏文帝〕「ー・ー清水波一」。
〔就視〕ちかづきてみる。○〔後漢〕「ー・ー乃笑」。
〔諦視〕あきらかによくみる。○〔魏、詿〕「卿仰ーニー之一」。
〔詳視〕前に同じ。○〔南〕「子良ー・ー、然底有レ字、彷彿可レ識」。
〔傲視〕おごりてあへしらふ。○〔舊唐〕「ー二ー百王一」。
〔倨視〕前に同じ。○〔金〕「ー二ー同列一」。
〔旁視〕かたはらをみる。○〔傳休奕〕「ー・ー如レ傾」。
〔側視〕前に同じ。○〔莊〕「危行ー・ー」。「篤」。
〔愛視〕いつくしみあへしらふ。○〔唐〕「ー・ー最篤」。
〔鷹視〕たかの如くめをひからしものをみる。○〔吳越春秋〕「ー・ー狼歩」。
〔檢視〕ならべみる。○〔金〕「令二工部官一員沿レ河ー・ー一」。「勞レ形」。
〔聽視〕きくとみると。○〔淮〕「任二耳目一以ー・ー者勞レ形」。
〔妄視〕淫視といふに同じ、みると正しからず。○〔淮〕「目ー・ー則淫」。
〔雄視〕他をおさめてみる、即ち、すぐれいでたるにいふ字。○〔宋〕「ー二ー百代一」。
〔力視〕つとめてみる。○〔道德指歸論〕「ー・ー損レ明」。
〔獨視〕おのれ一人にてみる。○〔中鑒〕「ー・ー者謂二之ー・ー一」。
〔麗視〕兩眼ともあきらかなるも眸子のみるところおなじからざるもの。○〔釋名〕「眸子明而不レ正、謂二之ー・ー一」。
〔瞋視〕いかりてみる。○〔畲郷〕「瞋以ー・ー」。
〔極視〕視力をつくしてみる。○〔神仙傳〕「不二ー・ー六言一」。
〔注視〕一方にめをそゝぎみる。○〔全唐詩話〕「貫ー・ー久レ之」。「之」。
〔凝視〕前に同じ。○〔霏雪錄〕「輒瞪目ー・ー久レ之」。
〔瞬視〕またゝきしてみる。○〔射經〕「目勿二ー・ー一」。
〔他視〕ほかをみる。○〔九經〕「靈不二ー・ー一」。
〔駭視〕おどろきみる。○〔楊修〕「觀者ー・ー而拭レ目」。「穷」。
〔延視〕うちみやる。○〔阮玉〕「望二余帷一ー・ー而」。
〔久視〕ながくみる、又、長生の義にいふ語。○〔老〕「長生ー・ー」。

【覘】シ。式支 切 スヰ。專垂 切 キ。匀規 切 [支]
㊀うかゞふ、(伺候)。
㊁覘ーは、へつらふ。

【覘】シ。息兹 切 相吏 切 [寘]
うかゞふ、(覰)。〔揚雄〕「凡相竊視自レ江而北謂二之ー一」。

【覘】テン。癡廉 切 [鹽] 敕豔 切 [豔]
うかゞふ。
(い)ひそかに視る。○〔左〕「使レーレ之」。
(ろ)探り察る。○〔唐〕「ー二候姦譎一」。
〔竊覘〕うかゞふ。○〔蘇軾〕「四方ー・ー不レ能レ得」。
〔密覘〕ひとしれずうかゞふ。○〔隋〕「毎令二人ー・ー京師消息一」。「ー・ー」。
〔盡覘〕すべてをうかゞふ。○〔王安石〕「瑣細得二ー・ー一」。

【覘】テン。丑琰切 [琰]
みる、(視)。

【覘】タン、トン。都含切 [覃]
㊀頰を緩くす。㊁首を擧ぐ。

【覘】シン。支忍切 [軫]
みる、(視)。

【覘】ビ、ミ。無沸切 [未]
みる、(見)。

六畫

【覘】チン。丑陸切 [沁]
みる、(視)。

【覛】ベキ、ミヤク。莫狄切 [錫]
衺視す、ながしめにみる、みる。○〔張衡〕「ー二往昔之遺館一」。

【覛】バク、ミャク。莫白切 陌
みる、（視）。○〔周〕「順レ時―レ土」。

【覓】覛に同じ。

【䙺】セキ、シャク。倉歷切 錫
覡の字の條を見よ。

【覜】テウ。他弔切 嘯
みる、まみゆ。
(い)天子に謁見す、めみえす。○〔左〕「享―有レ璋」。
(ろ)特に、諸侯大夫の衆く來たりて天子に謁見するにいふ字。○〔周〕「以―聘」。
〔徧覜〕帝王のあまねく侯伯などを引見するをいふ。○〔周〕「三歲―一」。
〔存覜〕王者の臣下を間隔引見するをいふ。○〔周〕「―――省・聘」。
〔聘覜〕王者の諸侯などを存問すること。○〔國〕「重爲二之皮幣一以聘―二于諸國一」。

【覜】眺に同じ、ながむ。○〔張衡〕「流二目―夫衡・阿一」。

【覟】シツ、シチ。職日切 質
みる、（視）。

【覙】覲に同じ。

【䚋】クワウ、ワウ。呼光切 陽
みる、（視）。

七畫

【覝】レン、ロン。力鹽切 鹽
察視す、みる。

【覞】エウ。弋笑切 セウ。昌召切 嘯
セキ、シャク。施石切 陌
併せ視る、普く視る、みる。○〔元包經〕「晉―二于醜一」。

【𧠿】カウ、コウ。古到切 號
久しく視る貌にいふ字。

【䙷】カク、キャク。赫格切 陌
みる、（見）。

【覟】シ。職吏切 寘
審かに視る、みる、つばらにす。

【覣】エフ。伊鳥切 篠
深く視る貌にいふ字。

【覠】ギン、ゴン。俱倫切 眞
大いに見る。

【𧠷】フウ、プ。披尤切 尤
みる、（視）。

【䚆】チン。丑林切 侵
私かに頭を出だして視る、うかゞふ。

【䚂】俗の覡の字。

【覡】ケキ、ギャク。胡狄切 錫
カク、ギャク。下革切 陌
神明に事へて人の吉凶などを豫言する男子、かんなぎ、みこ、みやつこ。○〔後漢〕「或信二巫―之言一」。
〔男覡〕をかんなぎ。○〔隋〕「―・―女・巫」。

八畫

【𧢆】ガイ。五溉切 隊
笑ひ視る、又、視る。

【䚍】睚に同じ。

【䚄】リョク、ロク。力玉切 沃
ロク。盧谷切 屋
㊀笑ひ視る。㊁共に視る。㊂眼曲がりて視るにいふ字。

【覢】睒に同じ。○〔公羊〕「―然公子陽生」。

【䙴】トウ、ツ。多貢切 送
視る貌にいふ字。

【䚁】睨に同じ。

【覣】井。於爲切 支
㊀好み視る。㊁いかる、（怒）。

【𧡕】ワ。烏禾切 歌
視る貌にいふ字。

【䚅】ライ。洛代切 隊
内に視る。

【覙】ライ。郎才切 灰
視る。

【覤】ケキ、キャク。迄逆切 錫
サク、シャク。色責切 陌
驚き懼るゝ貌にいふ字。○〔莊〕「―――然驚」。

【覥】靦に同じ。

【𧡪】セイ、ゼ。旋芮切 霽
破碎す、やぶる、くだく。

【𧡤】キウ、ク。居祐切 宥
衆の視るにいふ字。

九畫

【覦】ユ、羊朱切 虞 シュ、羊戍切 ス。從遇切 遇
下の上にむかひて希望するにいふ字、こひねがふ、のぞむ。○〔左〕「民無二―心一」。
〔覬覦〕こひねがひもとむ。○〔晉〕「下無二―・―之心一」。
〔闚覦〕前に同じ。○〔後漢〕「―二―神器一」。

【覧】俗の覽の字。

【𧡝】覸に同じ。

【䙴】コン。戶昆切 元
みる、（視）。

【䚃】セン。須兗切 銑
みる、（見）。

【䚒】シウ、ジュ。鋤救切 宥 鋤尤切 尤
悶え視る、みる。

【覑】ヘン、ベン。紕延切 先
斜めに視る。

【䙳】エイ、ヤウ。於境切 梗

みる（見）。

【覨】ガク、ギヤク。逆各切 藥 久しく視る、みる。

【覩】古文の睹の字。〇[易]「聖人作而萬物ー」。

【䙿】キ、ギ。渠追切 支 微 婬視す、みだりかはしきさまにてみる。

【覤】セイ、シヤウ。所景切 梗 ㊀瞯露る、あらはる。㊁審かに視る、みる。

【䚉】ケン。吉緣切 先 視る。

【題】テイ、ダイ。杜兮切 齊 大計切 霽 ㊀あきらか、あらはる（顯）。㊁みる（視）。

【覵】ケン、コン。火遠切 阮 逵員切 先 クワン。戸管切 旱 大いに視る、みる。

【親】シン。七人切 眞 七刃切 震 ㊀ゐたしむ。（い）愛す、いつくしむ。〇[孟]「ー二其兄之子一」。（ろ）近づく。〇[易]「本二乎天一者ーレ上」。（は）睦ぶ。〇[莊]「君子淡以ー、小人甘以絶」。㊁愛多し、近し、睦まし、ゐたし。〇[荀]「交ー而不レ比」。㊂姻戚、血屬、骨肉、えんつゞき、みより、うちは。〇[周]「以二陰禮一教レー、則民不レ怨」。㊃父母、おや。〇[孝]「夫孝始二于事ヒー」。㊄自家其の事に當たるにいふ字、まのあたりゐたしく、みづから。〇[禮]「世子ー齊玄而養」。

〔周親〕ちかきみより。〇[書]「雖レ有二ーー一、不レ如二仁人一」。

〔躬親〕おのれ、みづから。〇[詩]「弗レー弗レー」。

〔懿親〕よきしたしみ、又、よきみより。〇[左]「不レ廢二ーー一」。「其ー一」。

〔思親〕おやをゐたひおもふ。〇[家語]「食美者ー」

〔六親〕父母兄弟妻子をいふ、又、父、子、從父昆弟、從祖昆弟、曾祖昆弟、族昆弟をもいふ。〇[漢]「以奉二ーー一」。

〔尙親〕ちかきみよりを貴ぶ。〇[莊]「宗廟ーレー」。

〔習親〕なれちかづく。〇[韓]「昵近ーー」。

〔寧親〕おやをやすんず。〇[揚雄]孝莫レ大二於ーー」。

〔昔親〕おやにそむく、又、みよりのものにそむく。〇[王符]「一旦富貴、則ーレー損レ舊」。

〔親親〕みよりの者をゐたしむ。〇[禮]「所三以勸二ーレー也」。

〔和親〕やはらぎゐたしむ。〇[禮]「則莫レ不二ーー一」。

〔附親〕心をよせしたしむ。〇[禮]故樂者所下以合二和父子君臣一、ー附萬民上也」。

〔敬親〕おやをうやまふ。〇[孝經]「ーレー者不三敢慢二於人一」。

〔從親〕戰國の時に秦をのぞきて南北に列する諸侯の國を連和したること。〇[史]「連二六國一ーー」。

〔養親〕おやをやしなふ。〇[賈島]「攜レ妻去ーレー」。

〔頤親〕前に同じ。〇[傅玄]「以レ祿ーレー」。

〔睦親〕ちかきみより、又、ゐたしむこと。〇[晉]「元勳ーー」。

〔近親〕みより。〇[東觀漢記]「南陽帝鄕多二ーー一」。

〔貝親〕いつはりなきゐたしみ。〇[莊]「ーー未レ笑而和」。

〔易親〕ゐたしむにかたからず。〇[鶡冠子]「夫君子者、ーレー而難レ狎」。

〔陽親〕うはべのみのゐたしみ。〇[呂氏春秋]「ーー而陰疎」。

〔慈親〕いつくしみふかきおや。〇[呂氏春秋]「湯立爲二天子一、夏民大說、如レ得二ーー一」。

〔强親〕むりやりにゐたしむ。〇[淮]「ーー者雖レ笑不レ和」。

〔繼親〕まゝおや。〇[蔡邕]「ーー在レ堂」。

〔娛親〕おやをよろこばす。〇[曹植]「綵衣以ー」

〔老親〕ふけたるおや。〇[岑參]「知三君有二ーー一」。

〔嚴親〕きびしきおや。〇[司馬光]「痛昔侍二ーー一」。

〔葭莩親〕あつからざるゐたしみ。〇[漢]「群臣非レ有二ーーー之ー、鴻毛之重一」。

〔肺腑親〕極めてあつきゐたしみ。〇[劉愚]「西宗ーーー」。

〔魚水親〕離るべからざる交情。〇[杜甫]「自契ーーー」。

〔內疎外親〕心情ひやゝかにしてうはべのみにゐたしむ。〇[韓詩外傳]「挑二ーー而ーー一」。

【䚌】タン、トン。丁含切 覃 內に視る、みる、かへりみる。

【䚍】タン、ドン。徒感切 感 徐りに視る。

【䙶】キ。其季切 寘 みる（視）。

【䚔】ケイ、カイ。口計切 霽 ㊀みる（見）。㊁人を伺ふ、うかゞふ。㊂おそる（恐）。

【覚】サウ。少榜切 養 まこと（信）。

【䚗】ケイ、カイ。公帝切 霽 みる、（視）。

十畫

【覫】ハウ。普朗切 養 物を視る貌にいふ字、一說に、側より物を視る貌にいふ字、うかゞふ。

【䚜】ケン。古懸切 先 遠く視る、のぞむ、ながむ。

【䚠】ウン、チン。王問切 問 博く衆多のものを視る貌にいふ字。

【覨】トウ、ツ。當侯切 尤 目の垢に蔽はるゝにいふ字。

【覬】キ。几利切 寘 下より上にむかひて希望するにいふ字、ねがふ、こひねがふ、のぞむ。〇[左]「下無二ー・覦一」。

〔貪覬〕むさぼりねがふ。〇[後漢]「臣不三敢有二所ーー一」。「用一」。

〔陰覬〕ひそかに得んことをねがふ。〇[宋]「ーー二神功」。

〔妄覬〕非分をこひねがふ。〇[廖正]「敢ーー二于功名一」。

〔希覬〕こひねがひのぞむ。〇[冊府元龜]「不レ應二復有二分外ーー一」。

〔窺覬〕うかゞひねがふ。〇[歐陽修]「極二百端一而「ーー」

【覭】ベイ、ミヤウ。莫經切 青 小しく見る、一說に、暗き處にて密かに窺ふにいふ字、うかゞふ。

【覓】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫 ㊀小さき貌にいふ字。㊁微しく見る、うかゞふ。

【䚊】バク、ミヤク。莫獲切 陌 草木の叢生する貌にいふ字。

【覰】イウ、ユ。以周切 尤 深き處を下し視る、みおろす。

【覯】コウ、ク。古后切 [宥]
㊀遇見す、あふ、みる、であふ。○[詩]「我一二之子一」。
㊁なる、(成)。○[左]「其惡易レ一」。
〔塗覯〕みちにて選び見る。○[四子講德論]「嘗一一卒遇而以爲レ親者也」。
〔容覯〕たづねあふ。○[諸葛亮]「無レ緣二一一一」。
〔奇覯〕おもしろきであひ。○[張說]「不下同二一一一」作上」。

【覯】・顜に同じ。○[史]「一若二畫一一」。

【覬】キ、ギ。渠伊切 シ、ジ。市之切 [支]
みる、(視)。

十一畫

【𧢈】エイ、アイ。壹計切 [霽]
視る貌にいふ字。

【覰】ショ、ソ。七句切 [御] 千余切 [魚]
ひそかに伺視す、うかゞふ、ねらふ。○[唐]「北寇一レ邊」。

【覷】瞜に同じ。

【覼】ル。隴主切 [麌]
みる、(視)。

【𧢌】サン、セン。子鑑切 [陷]
㊀高危なる貌にいふ字、たかし。
㊁逞しき貌にいふ字、たくまし。

【覱】サン、セン。側銜切 [咸]
さく、(避)。

【覹】ヘウ。方小切 [篠] ヘウ、ベウ。紕招切 [嘯]
明かに察す、みる、あきらかにす。

【覿】セキ、シャク。七迹切 [陌]
みる、(覷)。

【覲】覲に同じ。

【𧢄】タウ、トウ。丑彤切 [江] 丑降切 [絳]
視るに明かならず、くらし、一説に、直視す、みつむ。

【覲】キン、ゴン。渠吝切 [震]
㊀天子に謁見す、まみゆ。○[禮]「見二天子一曰レ一」。
㊁羣臣に會見す、あふ。○[書]「日一二四岳羣牧一」。
〔入覲〕宮中にいりて帝王にまみゆ。○[詩]「韓侯一一」。
〔朝覲〕帝王にまみゆ。○[孟]「一一訟獄者」。

十二畫

【𧢦】リン。力刃切 [震]
㊀志たしむ、(親)。㊁みる、(視)。

【覿】セキ、ジャク。才的切 テキ、チャク。他歴切 [錫]
㊀目赤し。㊁遙かに視る貌にいふ字。

【覴】トウ。都滕切 [蒸]
久しく視る、みる、

【覴】トウ。丑證切 [徑]
直視す、みつむ。

【覵】カン、ケン。居莧切 [諫] カン、ゲン。何閒切 [刪]
㊀瞯に同じ。㊁まじふ、(雜)。

【覵】カン、ケン。古閑切 [刪] ヘン。方免切 [銑]
視る貌にいふ字。

【𧢐】エン。伊甸切 [霰]
うかゞふ、(窺)。

【覔】バイ、メ。莫佳切 [佳]
小しく視る。

【𧢣】タウ、ドウ。傳江切 [江]
視るに明かならず、くらし。

【𧢣】ダウ、ドウ。丈降切 [絳]
直視す、みつむ。

【覶】ラ。落戈切 [歌]
㊀好み視る。
㊁一ー縷は、こまか、一説に、次序、ついで。○[左思]「嗟難二得而一ー縷一」。

【覶】レン。力轉切 [銑]
視る貌にいふ字

【覽】カウ、コウ。古勞切 [豪]
みる、(見)。

【覾】シン、ソン。式荏切 [寢]
㊀深く視る。㊁下視す、みくだす。㊂ひそかに視る、うかゞふ。

十三畫

【覹】ビ、ミ。無非切 [微] 武悲切 [支]
うかゞふ、(伺)。

【覹】前條に同じ。

【覹】ビ、ミ。無尾切 [尾]
身隨ふ、志たがふ。

【斆見】譽に同じ。

【覺】カク、コク。古岳切 [覺]
㊀さとる。
(い)曉寤す、きづく、おぼゆ、志る。○[書]「厥德修罔レ一」。
(ろ)迷ひより知にかへる。○[論衡]「蹶然起坐、心一改悔」。
㊁さとす。
(い)さとらしむ、をしふ。○[孟]「予將下以二斯道一一中斯民上」。
(ろ)告ぐ。○[釋名]「自レ上敎レ下一曰レ告々一也」。
㊂理に達したるを、道を會得したるを、さとり。○[沈約]「標二情妙一一」。
㊃賢者、聖人、さとりのひらけたる人。○[孟]「使三先一覺二後一一」。
㊄佛陀の稱。○[舊唐]「自二一一王還謝一像法流行」。
㊅神靈の稱。○[揚雄]「妖先二靈一一」。
㊆發露す、あらはる。○[史]「事發一一夷三一族」。「宴」。
㊇明白にす、あらはす。○[左]「一一二報
㊈大いなり。○[詩]「有レ一其楹」。
㊉直し。○[左]「夫子一者也」。
〔大覺〕おほいにさとり知る。○[阿育王經]「如來一二一一于菩提樹下一」。
〔前覺〕さきにさとり知りたる者。○[顏欲]「翔心企二一一一」。
〔悟覺〕さとる。○[元稹]「一一一擇レ不レ惑」。
〔正覺〕佛理などをたゞしくさとる、又、其のもの、○[淨住子]「一一一自得」。
〔善覺〕善良に悟る。○[陶潛]「彼達人之一一一」。
〔至覺〕極めてふかくさとる、又、其のもの。○[僧智藏]「一一隨二物化一」。
〔警覺〕いましめさとる。○[眞德秀]「一念一一」。

【覺】カウ、ケウ。古孝切 [效]

㊀さむ。
(い)眠りより現にかへる。○〔莊〕「俄然―、則蘧々然周也」。
(ろ)現なり、眠りてあらず。○〔列〕「常―而不レ眠」。
㊁さめしむ、さます。○〔晉〕「中夜聞二荒雞鳴一、蹴レ琨―曰、此非二惡聲一也」。
㊂現實、うつゝ。○〔列〕「―之所レ見者爲レ妄」。

【⿰責見】シウ、シュ。七由切 尤
みる、(視)。

十五畫

【覽】ラン、ロン。盧敢切 感　盧瞰切 勘
みる、(觀)。○〔孔安國〕懼二―レ之者不レ一一。「―百氏」。

(周覽)あまねくみる、又、めぐり視る。○〔北〕「―二―古今一」。○〔漢〕「―」。
(博覽)あまねくみる。○〔東晳〕「―深識」。
(洽覽)前に同じ。○〔南〕「―二張經一」。
(徧覽)前に同じ。
(詳覽)あきらかにみる。○〔後漢〕「―二―羣言一」。
(辨覽)前に同じ。○〔唐〕「諫臣疏宜二―度可一レ」。
(玄覽)心を玄妙のうちにおきて萬事を覽知す。○〔老〕「滌二除―一能無レ疵」。
(校覽)ならべみる。○〔北〕「躬自―」。
(披覽)ひらきみる。〔薛逢〕「未レ暇二―」。
(畢覽)すべてをみる。○〔北〕「莫レ不二―」。
(兼覽)前に同じ。○〔春明退朝錄〕「―二―江山之勝一」。
(迴覽)ふりかへりみる。○〔五〕「―二―山川一」。
(叡覽)御覽といふに同じ、帝王の御めにいる。○〔幽閒鼓吹〕「此不レ足レ煩二―」。「劣」。○
(上覽)前に同じ。○〔詩話總龜〕「―以第二優」。
(閱覽)察見す。○〔宋〕「必通夕―」。
(强覽)みると多し。○〔宋〕「博學―」。
(照覽)あきらかにみる。○〔易林〕「―二―星辰一」。
(再覽)ひとたびみたるものをふたゝび視る。○〔列仙傳〕「―誦レ之不レ忘」。
(圓覽)ゆきわたりみる。○〔文心雕龍〕「觸レ物―」。「俗」。
(覗覽)うかゞひみる。○〔程史〕「―二―山川風俗一」。
(流覽)あちこちとめをとばしみる。○〔魏文帝〕「―二―觀四海一」。
(泛覽)前に同じ。○〔梁昭明太子〕「―二―辭林一」。
(熟覽)丁寧にみる。○〔王粲〕「―二―夫子詩一」。
(敬覽)つゝしみて視る。○〔蘇軾〕「新詩幸得二―」。
(游覽)あそびたのしみて觀る。○〔夏侯湛〕「臨二清池一以―」。
(俯覽)うつむきてみる。○〔張羽〕「―手中鏡」。
(眺覽)ながめのぞむ。○〔薛道衡〕「八維窮二―」。
(重覽)ひとたびみたるものをかさねて視る。○〔梁昭明太子〕「―二―來示一」。「原」。
(窺覽)のぞきみる。○〔袁映〕「陛下―二―萬化之原」。
(傍覽)かたはらよりみる。○〔沈約〕「外觀―」。
(矚覽)目をつけみる。○〔廬山道人〕「―無レ厭」。
(淸覽)きよらかなるながめ。○〔楊萬里〕「―且獨奇」。「遍」。
(臥覽)ふしながらみる。○〔宋之問〕「―皆已遍」。
(稽覽)かんがへみる。○〔權德輿〕「公―故志」。「所レ見」。
(躋覽)高き場所に登り視る。○〔吳均〕「―何所レ見」。
(細覽)こまやかにみる。○〔李中〕「圖經宜二―」。「―興亡」。
(察覽)あきらかにならべみる。○〔雲笈七籤〕「―」。

【⿰賓見】ヒン。必刃切 震　卑民切 眞
暫く見る、ちらりみる。

【⿰樊見】ヘン、ホン。附袁切 元　ハン。翻阮切 阮　ハン、バン。孚萬切 願
前條に同じ。

【⿰厲見】レイ。力制切 霽
疾視す、にらむ。

【⿰審見】審に同じ。

【覿】テキ、ヂヤク。徒歷切 錫
謁見す、面會す、まみゆ、あふ、みる。○〔易〕「三歲不レ―」。

十七畫

【覸】カン、ケン。苦閑切 刪　ケン。苦戰切 銑
很り視る、もとりみる。

【⿰龠見】エウ。弋笑切 嘯
誤り視る、みあやまる。

【⿰龠見】ヤク。以灼切 藥
㊀めくるめく、(眩)。
㊁視定まらず、みまよふ。

十八畫

【⿰歸見】キ、ギ。渠追切 支　クワイ、ケ。枯回切 灰
目を注ぎ視る、みつむ。

【⿱歸見】ギ。丘畏切 寘
㊀淫視す、たはれみる。
㊁瞶に同じ。

【⿰巂見】ゲイ、ゲ。五圭切 齊
みる、(視)。

【觀】クワン。古丸切 寒
㊀みる。
(い)あきらかに視る。○〔左〕「顏高之弓六鈞、皆取而傳―レ之」。
(ろ)あきらかに察す。○〔易〕「仰則―二象于天一、俯則―二法于地一」。
(は)望む、眺む。○〔史〕「諸將皆從二壁上一―レ之」。「何―」。
(に)鑑みる。○〔左〕「書而不レ法、後嗣何―」。
(ほ)遊ぶ。○〔孟〕「吾何修而可三以比二先王之―一」。
(へ)占ふ。○〔史〕「―成レ潢」。
(と)すべて視るとの常ならざるにいふ字。○〔穀梁〕「公―二魚于棠一」。
㊁あらはす、(顯)。○〔漢〕以―欲二天下一。

(臨觀)みおろすとみあぐると。○〔國〕「臺度二於―之高一」。「帝」。
(縱觀)ほしいまゝにみる。○〔史〕「―二―秦皇」。
(遊觀)あそびたのしみてみる。○〔四子講德論〕「―二―乎道德之域一」。
(旁觀)局にあたらずしてかたはらよりみる。○〔韓愈〕「巧匠―」。
(監觀)監察す。○〔詩〕「―二―四方一」。
(來觀)ちかづききたりて視る。○〔詩、箋〕「自二四方一―者」。「之」。
(薄觀)泊り視る。○〔左〕「欲下觀二其裸浴一而―上」。
(竝觀)ならびみる。○〔漢〕「吏民―」。
(列觀)前に同じ。○〔隋〕「陳氏諸將―二―于側一」。
(屬觀)めをつく。○〔後漢〕「坐者皆―レ―」。
(博觀)あまねく視る。○〔魏〕「但―二―書傳一」。
(借觀)他のものをかりてみる。○〔東都事畧〕「傳二于―一」。「―」。
(聚觀)むれあつまりて視る。○〔王炎〕「兒童喜―」。
(遠觀)はるかへだたりたるところをのぞみみる。○〔古今注〕「登レ之則可二―」。
(周觀)めぐりて視る。○〔水經、註〕「―二―天下一」。
(遐觀)遠きをみる。○〔馬融〕「―高蹈」。
(騁觀)あちこちと遠くめをはせのぞむ。○〔遐譏〕「―終日」。
(瞻觀)仰ぎ視る。○〔魏文帝〕「動見二―」。
(娛觀)たのしく游覽す。○〔七命〕「時―二―於林麓一」。「―」。
(陪觀)貴人にはべりみる。○〔李嶠〕「司馬扉―」。

【觀】勸に通じ用ふ、すゝむ。○〔漢〕「―二文王之德一」。

【觀】クワン。古玩切 翰
㊀あらはし示す、志めす。○〔書〕「予欲レ―二古人之象一」。
㊁外見、みえ。○〔韓〕「上用レ目則下飾レ

―」。

㊂儀容、かたちづくり。○〔禮〕「既服習二容―一玉聲乃出」。

㊃みろに足るべきもの、みもの。○〔司馬相如〕「皇々哉此天下之壯―也」。

㊄遊樂、あそび。○〔漢〕「樂―詭變」。

㊅宮門の左右の闕。○〔三輔黃圖〕「周置二兩―一、以表二宮門一」。

㊆樓臺、たかどの、ものみ。○〔後漢〕「繕二修樓―一、數年成」。

㊇道宮、卽ち、仙人道士の居處。○〔史〕「甘泉作二益延壽―一」。

㊈物事を分別思量する能力。○〔大藏法數〕「―者分別―察之心也」。

㊉あつし、(熱)。○〔周、註〕「今燕俗名二湯熱一爲レ―」。

(十一)多し。○〔詩〕「永―厥成」。

(十二)易の卦の名、☷☴坤下巽上。○〔易〕「―盥而不レ薦」。

(十三)鸛に通じ用ふ、かふのとり。○〔莊〕「―雀蚊虻」。

〔京觀〕死屍をつみかさね土を其の上にもりたるもの。○〔左〕「潘黨曰君盍下築二武軍一而收二晉尸一、以爲中京―上」。

〔東觀〕漢の時代の祕書監。○〔後漢〕「薦入二―・―一、爲二校書郎一」。

〔臺觀〕ものみだい。○〔魏〕「―・―是崇」。

〔舊觀〕もとのながめ、又、もとのたかどの。○〔袁桷〕「―・―丹青復」。

〔綺觀〕うつくしきたかどの。○〔宋〕「椒庭―・―」。

〔層觀〕かさなりたるものみ。○〔唐〕「帝卽二苑中一作二―・―一以望二昭陵一」。「構」。

〔複觀〕前に同じ。○〔張養浩〕「層樓―・―此誰

〔第觀〕邸宅樓觀。○〔後漢〕「大起二―・―一」。

〔邸觀〕前に同じ。○〔葉適〕「―・―角二奇致一」。

〔築觀〕ものみだいをつくる。○〔宋〕「穿レ池―レ―」。

〔寺觀〕佛寺と道宮と。○〔魏〕「資二營―・―一」。

〔飛觀〕たかき樓觀。○〔唐〕「崇・墉―・―相聯・屬」。

〔高觀〕前に同じ。○〔王粲〕「登二城隅之―・―一」。

〔崇觀〕前に同じ。○〔梁簡文帝〕「―・―岩嶢」。

〔傑觀〕すぐれておほいなる門觀。○〔艮嶽記〕「飛樓―・―」。

〔道觀〕道家の殿宅。○〔白居易〕「洸々―・―中」。

〔城觀〕城門。○〔張正見〕「揚臺出二―・―一」。

〔奇觀〕めづらしきみもの。○〔楊萬里〕「―・―初逢慰二道塗一」。「雲開」。

〔疊觀〕かさなりたるたかどの。○〔范梈〕「―・―凌」

〔偉觀〕おほいなるみもの。○〔蒲道源〕「陰闔陽開增二―・―一」。

十九畫

【⿰麗見】レイ、ライ。郎計切 霽　リ。力至切 寘

素め視る貌にいふ字、さがす。

【⿰麗見】シ。篩蟻切 紙　所寄切 寘

みろ、(視)。○〔左思〕「―二海陵之倉一則紅粟流衍」。

【⿰麗見】リ。鄰知切 支

察かに覗ろ、みろ。

二十畫

【⿰矍見】キャク、カク。乞約切 藥

視る貌にいふ字。

角部

【角】カク、コク。古岳切 覺　〔說文〕本作レ[illegible]

㊀牛羊などの頭上に生ずる骨の如き堅きもの、つの、又、蝸牛(かたつむり)などの頭上に生ずる獸のつのゝ狀をなせるものゝ稱。○〔禮〕「仲夏、鹿―解」。

㊁額の中央の骨の起こり昂がりたるもの。○〔後漢〕「隆準日―」。

㊂つのを材としたる弓、つのゆみ。○〔晉〕「杯中蛇卽―影也」。

㊃かど。
(い)廉隅、すみ。○〔易〕「晉二其―一」。
(ろ)芒端、さき。○〔詩傳〕「指二矢・鏃之―一爲レ棘」。

㊄つのさる。
(い)つのを執る。○〔左〕「晉人―レ之」。
(ろ)敵の前面を制するにいふ字。○〔魏〕「犄―赴援」。

㊅くらぶ。
(い)異同を試みる、はかる。○〔禮〕「仲春―二斗甬一」。
(ろ)勝負を爭ふ、きそふ。○〔漢〕「―二無用之虛文一」。

㊆兩髻の髮の囟(ひよめき)を夾みて結び合はせたるもの、あげまき、つのがみ。○〔禮〕「男―、女羈」。

㊇五音の一、陽氣發動の性にして木の聲なりといふ。○〔禮〕「孟春之月其音―」。

㊈軍中に用ふる一種の樂器、吹きて聲を出だすもの。○〔演繁露〕「帝命吹レ―爲二龍鳴一禦レ之」。

㊉四升入りの酒器、さかづき、つのさかづき。○〔禮〕「卑者擧レ―」。

(十一)量器、ます。○〔呂氏春秋〕「正二鈞石一齊二升―一」。

(十二)東方にある一の星宿、すぼし。○〔楚辭〕「―宿未レ旦」。

〔總角〕あげまき、こども、男女冠笄せざるうちは其の髮をすべあつめて結束し丱角をつくるよりいふ。○〔詩〕「―・―之宴」。

〔鹿角〕しかのつの。○〔禮〕「仲夏之月、―・―解、蟬始鳴」。

〔牛角〕うしのつの。○〔南〕「橫二繫―・―一」。

〔犀角〕さいといふけものゝつの。○〔後漢〕「獻二象牙―・―玳瑁一」。

〔戴角〕頭上につのあること。○〔史〕「自二含血―・―之・一見レ犯則校」。

〔一角〕獸の名、さい、又、一方のすみ、又、一本のつの。○〔史〕「冒頓開二―・―一」。

〔折角〕つのをゝる。○〔漢〕「朱雲―二其―一」。

〔日角〕ひたひの中央の骨の隆起したるところ。○〔後漢〕「光武隆準―・―」。

〔清角〕黃帝の琴の名、又、五音のうち東方にあてたる音聲。○〔列〕「雖二師曠之―・―、鄒衍之吹律一、無三以加二之」。

〔犢角〕こうしのつの。○〔後漢、註〕「―・―如二繭栗一、言レ小也」。

〔風角〕四方四隅の風をうかゞひて吉凶を占ふ術。○〔晉〕「尤善二―・―一」。

〔宮角〕五音のうち中央にあてたる聲と東方にあてたる聲と。○〔管〕「聽二―音一如二牛鳴二窌中一、―音如二雉登レ木以鳴一」。「―者上」。

〔蝸角〕かたつぶりのつの。○〔莊〕「有下國二于―一之左」

〔地角〕土地の一隅。○〔徐陵〕「―・―悠々」。

〔羊角〕ひつじのつの、又、旋風のこと。○〔莊〕「摶二扶搖―・―而上者九萬里」。

〔天角〕天の一隅といふに同じ。○〔陳造〕「娟月上二―・―一」。

〔頭角〕かしら。○〔韓愈〕「嶄然見二―・―一」。

〔擧角〕四升いりのさかづきをあぐ。○〔禮〕「卑者―レ―」。

〔圭角〕たまのかど、又、人の物言ひおわざなどのかどかどしきにいふ語。○〔蘇軾〕「雖二時出二―・―一」。

〔皮角〕かはとつのと。○〔周〕「凡屠者斂二其―・―筋骨一」。

〔石角〕いしのかど。○〔杜甫〕「―・―皆北向」。

〔眼角〕まなこのはし。○〔宋琬〕「―・―紅妝淺淡施」。

〔爪角〕つめとつのと。○〔韓〕「民知二虎兕之有二―・―也」。

〔芒角〕星の名、又、のぎ。○〔星經〕「河鼓三星有二―・―一」。

〔利角〕するどきつの。○〔譚子化書〕「麟有二―・―一」。

〔號角〕車營などにてあけがたにならすふきもの。○〔白居易〕「三聲―・―吹」。

〔勁角〕するどきつの。○〔李騫〕「―・―昭レ頭」。

〔軟角〕やはらかなるかど。○〔庾信〕「草麥生二―・―」

〔烏角〕頭巾の名。○〔杜甫〕「錦里先生―・―巾」。

〔樓角〕たかどのゝすみ。○〔梅堯臣〕「枯楊映二―・―」

ー」。
（稜角）とがりたるかど。○[梅堯臣]「水鳥立二ーー一」。
（城角）しろのすみ。○[李賀]「ーー栽二石榴一」。
（牆角）かきねのすみ。○[白居易]「前葉聚二ーー一」。
（塞角）邊城にてならすふ　もの。○[劉得仁]「羅袞聽二ーー一成」。
（纖角）ほそきつの。○[陸龜蒙]「細角ーー盡雕ー」。
（峰角）みねのかど。○[貫休]「ー月生二ーー一」。
（欄角）てすりのかど。○[梅堯臣]「蜻蜓立二ーー一」。
（屋角）やねのかど。○[陸游]「北斗挂二ーー一」。
（哀角）聲あはれにふきならすふきもの。○[張籍]「ーー未レ吹前」。

【角】ロク。盧谷切　屋　前條の㊀に同じ、つの。○[詩]「誰謂雀無レー」。

二畫

【觓】キウ、渠幽切　尤　キウ、吉酉切　有　グ。　ク。角の上がり曲がりたる貌にいふ字。○[左]「展二ー角一而知レ傷」。

【䚗】タ。丁戈切　歌　角の短き貌にいふ字。

【觔】筋に同じ。○[淮]「良馬可下以二形容ー骨一相上也」。

【觔】斤に通じ用ふ。○[舊唐]「得二鹽一十二ー一兩一」。

三畫

【觙】サ、初加切　麻　サイ、初佳切　佳　セ。　セ。かうがい、（觽）。

【䚝】觚、又、扛に同じ。

【䚚】シン。所巾切　キン。居銀切　眞　觙二十枚の稱。

四畫

【觕】ソ、ス。倉胡切　虞　麤大なり、あらし。○[呂氏春秋]「其器高以ー」。

【觕】ソ、ズ。徂古切　麌　㊀牛の角の直下に向かふにいふ字。㊁大略、あらまし、およそ、ほゞ。○[漢]「庶得二麤ー一」。

【觪】サウ、ジヤウ。鋤庚切　庚　衡に同じ。

【觕】觸に同じ。

【䚎】古文の觸の字。○[淮]「獸窮則ー」。

【觖】ケツ、古穴切　屑　ケチ。　キ。窺瑞切　寘　㊀望めるところに滿たざるにいふ字、かく、うらむ。○[史]「此尙ーー望」。㊁かゝぐ、（抉）。○[漢]「故欲三摘ー以揚二我惡一」。

【觖】キ。遺爾切　紙　ねがふ、（冀）。○[史]「爲二羣臣ー望一」。

【觖】ケイ、ケ。涓惠切　霽　舌頭の語。

【觗】シ。支義切　寘　㊁觶に同じ。㊀あふ、（合）。○[揚雄]「外ー二亢貞一」。

【𧢽】サク、ソク。士角切　覺　角の長き貌にいふ字。

【觥】カウ、コウ。古雙切　江　ショウ、シュ。諸容切　冬　角を擧ぐ、あぐ。

【䚩】グワ。五禾切　歌　つの、（角）。

【觤】キ、ギ。其利切　寘　つの、（角）。

【𧢼】摘、又、觶に同じ。

【䚝】タン、ドン。徒含切　覃　くらぶ、（角）、こゝろむ、（試）。

【觘】サウ、初教切　效　セウ。初交切　肴　角ヒ、つのさじ。

【𧢾】ハ、へ。普巴切　麻　牛の角と角との間闊し、ひろし、一説に、牛の角の張れるにいふ字、ひらく。

五畫

【䚡】ケン、ゴン。巨炎切　鹽　くちばし、（觜）。

【𧣍】キョ、ゴ。其呂切　語　㊀距に同じ、けづめ。㊁刃鋒の倒刺、さかのぼり、さかかぎ。○[張揖]「胡中有レー」。

【𧣍】キョ、コ。居御切　御　其の角の雞距に似たる一種の獸。

【䚙】シウ、ジュ。似秋切　尤　つの、（角）。

【觚】コ、ク。古乎切　虞　㊀酒爵、さかづき。○[周]「梓人爲二飲器一、ー三升」。㊁方正、たゞし。○[莊]「其ー而不レ堅也」。㊂方形、けた。○[史]「破レー爲レ圜」。㊃のり、（法）。○[揚雄]「占レ之以二其ー一」。㊄かど、（角）。○[漢]「爲二六ー一」。㊅劍柎、つか。○[新論]「提二劍鋒一而掉二劍ー一」。㊆文字を書する方形の木札、ふだ。○[陸機]「或操レー以率爾」。㊇瓠に通じ用ふ。○[司馬相如]「蓮藕ー盧」。

【䚉】牠に同じ。

【觛】タン、徒旱切　旱　ダン。　タン。得案切　翰　小觶、こさかづき。

【𧣾】アク、於角切　オク。　ダク、女角切　ノク。　覺　㊀弓を調ふ。㊁弓を摩る。㊂屋角、むねかど。

【䚡】シ。息恣切　寘　一種の飲酒の器。

【觜】スヰ。遵爲切　シ。卽移切　支　㊀鴟鳥の頭上の毛角、けづの。

㊁—觽は、西方の星宿、とろき。○〔禮〕「日—觽中」。㊂娵—は、一の星のやどり。○〔左〕「歲在二娵—之口一」。㊃觽に通じ用ふ。○〔後漢〕「甲二玳瑁一、戕二—觽一」。

【觜】シ。即委切 紙
くちばし、くちさき、(喙)。○〔潘岳〕「裂レ膝破レ—」。
〔爪觜〕つめとくちばしと。○〔韓〕「憐汝矜二—一」。
〔利觜〕するどきくちばし。○〔吳融〕「—二入人肉一」。—頭。
〔曲觜〕まがりたるくちばし。○〔孫楚〕「——短—」。
〔沙觜〕すなはらのかど。○〔李中〕「魚行二細浪一分二——一」。「—」。
〔猛觜〕つよきくちばし。○〔梅堯臣〕「朽蝎招二—」。

【觝】テイ、タイ。都禮切 薺
㊀ふろ、(觸)。○〔韓愈〕「—二排異端一」。㊁いたる、(至)。○〔嵇康〕「觸レ巖—レ隈」。
〔角觝〕戲の名、一に、觳觝または角觝に作る。○〔韻會〕「——戲名、六國時所レ造」。

【觗】シ。掌氏切 紙
抵に同じ。

六畫

【[角艮]】コン、ゴン。胡本切 阮
角。

【觟】クヮ、ゲ。下瓦切 馬
㊀角を生じたる牝牂羊、めひつじ。㊁角の貌にいふ字。㊂一種の矢。○〔西京雜記〕「以二—矢一射レ雉」。

【觟】獬に同じ。○〔漢〕「好レ服二——冠一」。

【觟】クヮ、ケ。香跨切 禡
徯徑、こみち、みち。○〔淮〕「觹レ—離レ跂」。

【衡】カウ、ギヤウ。何庚切 庚　サウ、ジヤウ。仕庚切 庚
牛の角の長く立てる貌にいふ字、又、角の長き貌にいふ字。

【觠】ケン、ゴン。巨員切 先　ケン、コン。居倦切 霰
角の曲がれるにいふ字、まがる、まぐ。○〔史〕「唯——角存」。

【觡】カク、キヤク。古百切 陌
麋(つやかは)なき堅質の角。○〔淮〕「別レ—伸レ鉤」。

【[角亘]】ケン、コン。況袁切 元　キ、ケ。許羈切 支
角ヒ、つのさじ。

【[角先]】セン。蘇典切 銑
つの、(角)。

【解】カイ、ケ。佳買切 蟹
〔説文〕从二刀判一牛角一。
㊀さく。
(い)肢體を判かつ、わかつ、わく。○〔莊〕「庖丁—レ牛」。
(ろ)離散す、ちらす、はなす、○〔漢〕「恐二天下之——也」。
(は)開す、へだつ。○〔淮〕「—二構人閉之事一」。
(に)開く。○〔後漢〕「巖城—レ扉」。
(ほ)脫す、ぬぐ、ぬがす。○〔禮〕「—レ履不二敢當一レ階」。
(へ)釋く、ほどく、はづす。○〔儀〕「—レ網」。
(と)和す、たひらぎをなす。○〔戰〕「不レ如二速—一レ周」。
(ち)緩む。○〔管〕「有二—舍一」。
(り)免す。○〔魏〕「請得レ—」。
(ぬ)說く、いひわけす。○〔史〕「船交二江中一、皆以レ風爲レ—」。
(る)詁義を講ず、わけをさく。○〔後漢〕「論二——經傳一」。
(を)達す、さほる さほす。○〔莊〕「爽—然四—」。
(わ)削る。○〔國〕「—二曹地一」。
(か)止む。○〔後漢〕「不レ可二卒—一」。
㊁樂曲の一節。○〔古今樂錄〕「傖歌以二一句一爲二一—一、中國以二一章一爲二——一」。
㊂戟の多き貌にいふ字。○〔揚雄〕「何戟——遭」。「南一」。
㊃易の卦名、☵☳ 坎下震上。○〔易〕「—利二西南一」。
〔枝解〕四支をきりはなす。○〔史〕「而卒——」。
〔兎解〕かはらの如くくだけちる。○〔漢〕「不レ在二——一」。
〔尸解〕道家にて行ふ術の名。○〔北〕「道士咸稱二其得二——仙道一」。
〔和解〕やはらぎとく。○〔周、註〕「共—二—之一」。
〔半解〕半分きりはなつ、又、なかば知る。○〔左、註〕「享則——其體一而薦レ之」。
〔難解〕とけやすからず、又、わかりがたきこと。○〔江淹〕「古者語質而—レ—」。
〔訓解〕よみと意義などの註釋。○〔史記集解序〕「兼二述——一」。
〔脫解〕ぬぎはなつ。○〔漢〕「乃—二—印綬一」。
〔分解〕ときわかつ。○〔後漢〕「后輒——」。
〔論解〕あげつらひてときあかす。○〔後漢〕「篤——經傳一」。
〔妙解〕神妙なるときあかし、又、ふしぎにさとり知る。○〔晉〕「—二—法理一」。
〔義解〕文詞などの意義のときあかし。○〔宋〕「作二老子訓傳及佛書——一」。

【解】カイ、ゲ。下買切 蟹
㊀さく。
(い)みづから離散す、はなる、ちる。○〔孔安國〕「逃レ難—散」。
(ろ)曉悟す、さとろ、志る。○〔禮〕「相說而以—」。
㊁足の跡、あしあと。○〔爾〕「麕其跡—」。
㊂嶰に通じ用ふ。○〔漢〕「取二竹—谷一」。
㊃澥に通じ用ふ。○〔漢〕「勃—之島」。
㊄蟹に同じ、かに。○〔呂氏春秋〕「大—陵魚」。
〔慧解〕さとし。○〔晉〕「其母——倍レ常」。
〔膽解〕前に同じ。○〔北〕「世隆惜——」。
〔深解〕おくそこまでもさとり知る。○〔眞德秀〕「雖レ未レ能二——其義一」。
〔精解〕くはしく知る。○〔南〕「——聲律一」。
〔明解〕さとり知る。○〔宋〕「使二之心通——一」。
〔曉解〕あきらかに知る。○〔左〕「——事務一」。

【解】カイ、ゲ。戸賣切 卦
㊀さく。
(い)剖判す、分散す、わく、わかつ、ちらす、はなす。○〔漢〕「皆衆理—也」。○〔後漢〕
(ろ)曉悟せしむ、さとす。「訓導譬—」。
㊁弓の接合せる中の材。○〔周〕「弓人爲レ弓、茭—中有レ變」。
㊂懈に同じ、おこたる。○〔詩〕「不レ—二于位一」。
㊃邂に同じ。○〔正字通〕「—后卽邂逅」。

【解】カイ、ケ。居拜切 卦
㊀廨に同じ、やくしよ。○〔商〕「百二其—舍一」。
㊁上聞に達せしむ、すゝむ。○〔國史補〕

「外-府レ試 而貢謂ニ之拔—ニ」。㊂官務の爲めに發遣す、やる。○〔職官誌〕「—發赴レ詮」。㊃—垢は、詭曲の辭、いつはり。○〔莊〕「—垢同-異」。

【觢】セイ。征例切 [霽]
㊀一角仰ぐ、つのたつ。㊁つのたつ牛。

【觤】キ。過委切 [紙]
角の齊しからざるもの。

【觡】ハ、バ。蒲巴切 [歌]
角の曲がれる貌にいふ字。

【觥】クワウ、ワウ。古横切 [庚]
㊀兕牛の角にてつくりたる大爵、つのさかづき。○〔詩〕「我姑酌ニ彼兕—ニ」。㊁大いなり。○〔揚雄〕「—羊之毅」。㊂鐘又は玉の聲にいふ字。○〔韓愈〕「杖撞ニ玉版ニ聲彭—」。㊃剛直なる貌にいふ字、つよし、なほし。○〔後漢〕「關-東——郭-子-横」。
〔兕觥〕兕牛のつのもてつくりたるさかづき。○〔詩〕「我姑酌ニ彼——ニ」。
〔巨觥〕おほいなるつのさかづき。○〔菊坡叢話〕「每レ罪罰ニ——ニ」。
〔銀觥〕ぎろかねのさかづき。○〔白居易〕「各揮ニ——ニ」。

七畫

【觪】觲に同じ。

【觨】コン、ゴン。胡本切 [阮]
牛の角の上の水。

【觿】キ。虚几切 [紙]
好き角。

【觓】サウ、セウ。山巧切 [巧]　所教切 [效]
角の開く貌にいふ字。

【觩】キウ、グ。渠幽切 [尤]
㊀角の曲がれる貌にいふ字。○〔詩〕「兕-觥其—」。㊁弓の健き貌にも、又は弦を急しく持つ貌にもいふ字。○〔詩〕「角-弓其—」。

【觲】セイ、シヤウ。思營切 [庚]
角弓の調ひて利なるを、角を使用するに便なるを。

【觷】コク。胡沃切 [沃]
象牙を治む、角を治む。

【觛】ギ。魚羈切 [支]
獸の角。

【觫】ソク。蘇谷切 [屋]
觳—は、死を懼るゝ貌にいふ語。○〔孟〕「其觳—」。

【觞】チ。丈爾切 [紙]
角端しからず。

【觢】觢に同じ。

八畫

【觜】䚗に同じ。○〔韓愈〕「把レ—相飮」。

【觬】ゲイ、ガイ。吾稽切 [齊]　吾禮切 [薺]
角正しからず、まがる。

【觯】ヘイ、ハイ。邊兮切 [齊]　ビ、ミ。賓彌切 [支]
角の横になりたる牛。

【觮】ロン、盧困切 [願]
丸を擊つて戯遊をなすを。

【觹】シウ、シユ。止尤切 [尤]
龍の角。

【觼】ケツ、ケチ。紀劣切 [屑]
角にて觸る、ふる。

【觪】ソツ、ゾチ。昨沒切 [月]
㊀角初て . す、つのはゆ。㊁はさむ（挾）。

【觭】キ。去奇切 [支]
㊀一角は低れ一角は豎てるもの。○〔爾〕「角一俯一仰—」。㊁う（得）。○〔周〕「二曰、—夢」。㊂片隻、ひさつ、かたく。○〔漢〕「匹-馬—輪」。

【觨】コン。胡本切 [阮]
角の圜き貌にいふ字、一說に、獸の角。

【觬】コン。胡昆切 [元]
角全し。

【觫】タイ、多改切 [賄]
角心、つのゝしん。

【觬】ダク、ノク。女角切 [覺]
にぎる（握）。

九畫

【觷】サイ。桑才切 [灰]　先代切 [隊]　シ、新慈切 [支]　サイ、セ。所佳切 [佳]
角の中にある堅質のもの、つのゝしん、又、骨の外皮の滑澤なるものゝ稱、つやかは。○〔史、索隱〕「牛-羊有レ—」。

【觻】テツ、テチ。丑列切 [屑]　レイ。丑例切　エイ。以制切 [霽]
髮を摘ふるにさす具、かうがい。○〔隋〕「天-子革-帶玉-鉤—」。

【觽】テイ、タイ。他計切 [霽]
ふる、（觸）、一說に、揥に通じ用ふ、かうがい。

【觛】ケン、クワン。況袁切 [元]
角を揮ふ、ふるふ。

【觶】シフ。阻立切 [緝]
㊀角の多き貌にいふ字。㊁角の聚まりて相觸れざる貌にいふ字。㊂角の堅き貌にいふ字。

【觰】タ、テ。陟加切 [麻]
㊀角の本の大いなるさころ、つのゝね。㊁角の上り張れる貌にも、角の上の長き貌にも、又、角の上の廣き貌にもいふ字。

【觰】タ、テ。展賈切 [馬]　陟嫁切 [禡]
觰—は、牛の角の上り張れる貌にいふ語。

〔觰〕 タ、テ。都賈切 〔馬〕 牛の角の横たはれる貌にいふ字。

〔⿰角咼〕 クワ、ケ。古瓦切 〔馬〕 前々條を見よ。

〔⿱局角〕 キヨク、コク。居玉切 〔沃〕 曲がれる角。

〔⿰角韋〕 ワク。屋號切 〔陌〕 雞の距に似たる角の稱。

〔⿰角酋〕 ジウ、ジュ。字秋切 〔尤〕 弋射の繳を卷き收むる具、いさまき。

〔⿰角畏〕 ワイ、烏賄切 〔賄〕 エ。烏回切 〔灰〕 角中ごろ曲がる、まがる。

〔觱〕 ヒツ、ヒチ。畢吉切 〔質〕 ⊖羌人の吹く角、えびすぶえ。○〔說文〕「羌-人吹角屠―、以驚レ馬」。⊜―發は、風寒きにいふ語。○〔詩〕「一之日―發」。㊂泉の沸き出づる貌にいふ字。○〔詩〕「―沸寒-泉」。

〔觱〕 ウツ、チチ。王勿切 〔物〕 前條の⊖に同じ。

〔⿰角是〕 テイ、ダイ。杜奚切 〔齊〕 ⊖かうがい、（鬠）。⊜角正しからず。

〔⿰角耑〕 タン。多官切 〔寒〕 角―は、豕に似たる一種の獸。○〔史〕「麒-麟角―」。

〔⿰角青〕 牝に同じ。

十畫

〔⿰角弱〕 ⿰角弱に同じ。

〔⿰角弱〕 ジヤク、ニヤク。日灼切 〔藥〕 弓偏りて弱し、よわし。

〔⿰角秦〕 シン、ジン。阻引切 〔軫〕 角の齊ひて多き貌にいふ字。

〔觲〕 セイ、シヤウ。息營切 〔庚〕 角弓の調ひて利なる貌にいふ字、さし。○〔詩〕「―・―角-弓」。

〔⿰角虒〕 チ。池爾切 〔紙〕 角の端正しからず、ねぢく、まがる。

〔⿰角虒〕 シ。尺里切 〔紙〕 ヒ。普弭切 〔紙〕 角傾く、かたぶく。

〔⿰角旁〕 ⿰酉旁に同じ。

〔觳〕 コク。胡谷切 〔屋〕 ⊖觳卮、つのさかづき、一說に、射具、ゆみいるだうぐ。⊜やじり、（鏃）。㊂つくす、（盡）。㊃うすし、（薄）。○〔管〕「剛而不レ―」。㊄觫の字の條を見よ。㊅一斗二升を受くる量器、一說に、三斗を受くる量器、轉じて、すべての量器にいふ、ます。○〔周〕「庾實ニ二―」。

〔觳〕 カク、コク。轄覺切 〔覺〕 ⊖弋射の繳を盛る器。「―ニ於此ニ」。⊜つくす、（盡）。○〔史〕「雖ニ監-門之養ニ不レ

㊂足跗、あしのかふ、又、足尖、あしのさき。○〔儀〕「長及レ―」。㊃獸の後足、あさあし。○〔儀〕「主-婦俎―折」。㊄脂を盛る器、あぶらいれ。㊅潤絕ゆ、かわく。○〔莊〕「其道大―」。㊆角に同じ、くらぶ、きそふ。○〔韓〕「強-弱不レ―レ力」。

〔⿰角氣〕 キ。許記切 〔寘〕 好き角。

〔⿰角桀〕 セツ、ゼチ。士列切 〔屑〕 皮を治む、なめす。

〔⿰角致〕 チ、ヂ。直利切 〔寘〕 履の底を刺す。

十一畫

〔⿰角國〕 摑、又、獲に同じ。

〔觴〕 シヤウ。式陽切 〔陽〕 ⊖酒卮の總名、さかづき。○〔左〕「奉レ―加レ璧以進」。⊜さかづきを行り酒を酌む、さかづきさす、さす。○〔左〕「―ニ曲-沃人ニ」。

〔濫觴〕 ものゝおこりはじめの喩に用ふる語。○〔家語〕「孔-子謂ニ子-路ニ曰、夫江始ニ于岷-山ニ、其源可ニ以―・―」。〔擧觴〕 さかづきをあぐ。○〔後漢〕「―ニ―御-坐前ニ」。〔壽觴〕 よろこびのさかづき。○〔宋〕「進-奉ニ―・―」。〔羽觴〕 さかづき。○〔張華〕「―・―波騰」。〔杯觴〕 前に同じ。○〔曹植〕「各盡ニ―・―ニ」。〔玉觴〕 たまのさかづき。○〔魏文帝〕「旨-酒盈ニ―・―」。〔流觴〕 水にうかぶさかづき、又、さかづきをながす。○〔荊楚歲時記〕「四-民竝出ニ水渚ニ爲ニ―・―曲-水之飲ニ」。

〔泛觴〕 前に同じ。○〔儲光羲〕「洛-東―レ―遊」。〔累觴〕 さかづきを飲みかさぬ。○〔陳傅良〕「―レ―以爲レ歡」。〔重觴〕 前に同じ。○〔陶潛〕「―レ―忽忘レ天」。〔盡觴〕 さかづきの酒をのみほす。○〔晉〕「遂[illegible]―レ―」。〔交觴〕 さかづきをとりかはす。○〔曹植〕「―レ―接ニ盃以致ニ殷-勤ニ」。〔提觴〕 さかづきをもつ。○〔韓〕「―レ―而起」。〔侑觴〕 さけをすゝむ。○〔齊東野語〕「奏レ伎―レ―」。〔離觴〕 ゑりきざみたるさかづき。○〔七啓〕「酌以ニ―・―ニ」。「此―ニ」。〔獻觴〕 さかづきをたてまつる。○〔劉楨〕「再-拜―・―」。〔空觴〕 さけのいりてあらざるさかづき。○〔韓維〕「終-日歎ニ―・―ニ」。〔行觴〕 さかづきをまはす、さかづきをさす。○〔禮〕「命レ酌曰、請―レ―。酌者曰諾」。

〔⿰角翏〕 リウ、ル。力求切 〔尤〕 ⊖正しからず。⊜觩―は、角の貌にいふ語。○〔揚雄〕「玄-瓚觩―」。

〔⿰角系〕 テイ、タイ。丁禮切 〔薺〕 ふる、（觸）。

十二畫

〔⿰角黃〕 觥の本字。

〔⿰角華〕 ケン。火全切 〔先〕 角の俯仰して齊しからざるにいふ字。

〔⿰角厥〕 ケツ、クワチ。居月切 〔月〕 角もて觸れて物を發く、あばく。

〔觶〕 シ。之義切 〔寘〕 章移切 〔支〕 酒器、さかづき、一說に、鄉飲酒の禮に用ふる角さかづき、一說に、中に酒の入れてなきさかづき、又、一說に、罰

さして飲ますろさかづき。○〔禮〕「尊者擧レ━」。
〔揚觶〕つのもておつらへたるさかづきを手にとる。○〔禮〕「盥・洗━レ━」。
〔觵觶〕つのゝさかづき。○〔干部〕「━・━交飛而取レ樂」。

【⿰角閒】ワク。王縛切 藥
絲を收め卷く具、いとまき。

【⿰角間】カン、ケン。居寬切 諫
雙べる角、一說に、いとまき。

【⿰角喬】ケウ。居天切 蕭
角正しからず、まがる、又、角の長き貌にいふ字、ながし、一說に、角の高き貌にいふ字、たかし。○〔揚雄〕「━其角」。

【⿰角喬】ケウ。祛嬌切 蕭
角の貌にいふ字。

十三畫

【觷】カク、胡角切 覺　オク、烏酷切 沃　ゴク。切　ヨク。切
樸の角を治む、みがく。

【⿰角睘】クワン、ケン。姑還切 刪
角の貌にいふ字。

【觸】ショク、ソク。尺玉切 沃
ふる。
(い)當たる、さはる。○〔莊〕「手之所レ━」。
(ろ)擊つ、衝く。○〔易〕「羝羊━レ藩」。
(は)犯す。○〔漢〕「去ニ禮儀ー━ニ刑法ー」。
(に)感ず。○〔宋〕「聲氣之所レ━」。
(ほ)汚す。○〔江淹〕「觚侵塵━」。
〔抵觸〕ふれをかす。○〔周、註〕「楅衡所ニ以令一レ不レ得レ━ニ━人ー」。
〔牴觸〕前に同じ。○〔中華古今注〕「羔羊好━ニ━牆垣ー」。
〔犯觸〕をかしさかふ。○〔論衡〕「大則謂ニ之━、━ニ歲月ー」。
〔擊觸〕ふれあたる。○〔温庭筠〕「劍珮相━━」。

【⿱毄角】ケキ、ギヤク。胡狄切 錫　カク、コク。古岳切 覺
杖策の頭に飾れる角、一說に、筴の本末を飾れる角。

【⿱敖角】ガウ、ゲウ。牛交切 肴
うつ、(擊)。

十四畫

【⿱疑角】ギ。魚其切 支　ギョク、魚力切 職　ゲキ。切
角の利き貌にいふ字。○〔楚辭〕「其角━━」。

【⿰角監】カン、ケン。古銜切 咸
つの、(角)。

十五畫

【⿰角廣】カウ、キヤウ。古猛切 梗
角にて刺す、さす。

【⿰角麃】鑣に同じ。

【⿰角麃】ヘウ。卑遙切 蕭
角の名。

【⿰角樂】ロク。盧谷切 屋
つの、(角)。

【⿰角樂】レキ、リヤク。力的切 錫
獸の角の鋒、つのさき。

【觼】ケツ、ケチ。古穴切 屑
物と物との閉を繫げる環形の金屬製のもの、又、篋箱などの鎖。○〔詩〕「鋈以━軜」。

十七畫

【⿰角毚】サン、ゼン。仕咸切 咸
角の貌にいふ字。

【⿰角燕】エン。伊甸切 霰
雋━は、一種の鳥。○〔呂氏春秋〕「肉美者雋━之翠者」。

十八畫

【觿】ケイ、懸圭切 齊　キ。許規切　スヰ。朱惟切 支
㊀骨角の尖の鋭くなれるもの、佩びてものゝ結びめを解く用に供するもの、つのぎり。○〔詩〕「童子佩レ━」。
㊁觜━は、星の名。

【⿰角巂】觿に同じ。

【⿰角雚】ケン、クワン。況袁切 元　セイ、セ。先芮切 霽
角を揮ふ貌にいふ字。

【⿰角黽】シ。將支切 支
觜に同じ。

十九畫

【⿰角麗】レイ、ライ。力兮切 齊
つの、(角)。

【⿰角麗】シ。所綺切 紙
わかつ、(分)。

言　部

【言】ゲン、ゴン。語軒切 元
㊀こと、ことば、ことのは。
(い)口より發する聲の思想をあらはす符號となるもの、即ち、口より發する意味ある聲。○〔書〕「詩言レ志、歌永レ━」。
(ろ)いふこと、語ること、述ぶること、口より發する意味ある聲によりて思想を述べあらはすこと。○〔易〕「庸━是信」。
(は)句。○〔左〕「夫子語ニ我九━ー」。
(に)字。○〔漢〕「固已誦ニ四十四萬━ー」。
㊁文詞、辭章。○〔禮〕「士載レ━」。
㊂謀議、はかりごと。○〔屈平〕「初既與レ余成レ━兮」。
㊃命令、いひつけ。○〔國〕「有レ不レ祀則修レ━」。
㊄いふ。
(い)ことばに發す、ことにあらはす。○〔孟〕「何曰ニ浩然之氣ー曰、難レ━也」。
(ろ)ことばを發す、くちをきく。○〔左〕「石不レ能レ━、或憑レ焉」。
(は)特に、語の字と區別して他のことばを受け應ふるにあらずして己れ單獨にことばを發するにい

ふ字。○〔禮〕「—而不レ語」。
❻無意味の助字。○〔易〕「田有レ禽利レ執—」。
❼われ、わが、（我）。○〔詩〕「—告二師-氏一」。
❽高大なる貌にいふ字。○〔詩〕「崇-墉—〻」。
❾一種の簫。○〔爾〕「大簫謂二之—一」。

〔正言〕たゞしきことば、又、まげずしていふ。○〔後漢〕「耳聞二—〻一」。
〔端言〕前に同じ。○〔史〕「不敢—二—其過一」。
〔愼言〕ことばをつゝしみてみだりにかたらず。○〔家語〕古之—レ—人也」。
〔盡言〕はゞからず十分にときつくしたることば、又、いひつくす。○〔國〕「惟善人能受二—〻一」。
〔食言〕いひたることにそむく。○〔書〕「朕不二—〻一」。
〔流言〕いひふらし、うわさ。○〔書〕「管-叔及其羣-弟乃—二—于國一」。
〔晤言〕相對してかたる。○〔詩〕「彼美淑-姬、可二與—〻一」。
〔訛言〕いつはりごと、又、なまり。○〔詩〕「民之—〻」。
〔儷言〕そらごと。○〔卵-元〕「矯-笑而—〻」。
〔疑言〕前に同じ。○〔漢〕「—〻不レ遽」。
〔碩言〕おほいなるはなし。○〔詩〕「蛇-々—〻」。
〔大言〕前に同じ。○〔禮〕「—〻入則望二大-利一」。
〔好言〕よきことば。○〔詩〕「—〻自レ口」。
〔無言〕ことばを發せず。○〔論〕「予欲レ—レ—」。
〔過言〕あやまりをいふ。○〔禮〕「君-子—〻、則民作レ辭」。
〔陳言〕ことばをのぶ、又、陳腐なる字句。○〔韓愈〕「惟—〻之務レ去」。
〔游言〕正しからざるみのなきはなし。○〔禮〕「大-人不レ倡二—〻一」。
〔惡言〕にくまれぐち、わるくち。○〔禮〕「—〻不レ出二于口一」。
〔造言〕うはさをつくりいだす。○〔周〕「七日二—〻之刑一」。
〔遺言〕さからふことば。○〔左〕「鄭-息有二—〻一」。
〔立言〕辭句をくみたつ。○〔左〕「其次有レ—レ—」。
〔直言〕忌憚なくありのまゝにいふ。○〔左〕「子好二—〻一」。
〔讒言〕そしりごと。○〔左〕「民無二—〻一」。
〔雅言〕つねにかたる、又、正しきはなし。○〔論〕「子所二—〻一」。

〔忠言〕まんせつなるはなし。○〔家語〕「—〻逆レ耳利二于行一」。
〔甘言〕よろこばしくきこゆるはなし。○〔戰〕「—〻疾也」。
〔苦言〕こゝろぐるしくきこゆるはなし。○〔戰〕「—〻藥也」。
〔藻言〕よき言葉。○〔老〕「—〻無二瑕-謫一」。
〔宣言〕前に同じ。○〔漢〕「今-日復聞二—〻一」。
〔嘉言〕前に同じ。○〔書〕「—〻罔レ攸レ伏」。
〔佳言〕前に同じ。○〔晉〕「吐二—〻一如レ鋸」。
〔宜言〕あきらかにのべいふ。○〔史〕「子營—〻」。
〔妄言〕いふべからざることばをみだりに發すること。○〔史〕「深-掩二其口一曰、毋二—〻一族矣」。
〔匿言〕非をたゞしいふ。○〔漢〕「無二能有所二—一〻一」。
〔寓言〕はかにかこつけたることば。○〔荘〕「以二—〻一爲レ廣」。
〔緒言〕發端のことば。○〔劉寔〕「—〻已勵-期-年政」。
〔方言〕一地方に行はるゝことば。○〔王維〕「入レ境聞二—〻一」。
〔憲言〕のりとすべきことば。○〔趙岐〕「是故垂二—〻一以貽二後-人一」。
〔奇言〕めづらしき意味のことば。○〔傅休奕〕「臨レ急吐二—〻一」。
〔俚言〕鄙俗なることば。○〔魏都賦〕「非二鄙—之—所二能具一」。
〔鄙言〕前に同じ。○〔南〕「昀-昭爲二文-章一、多二—〻累-句一」。
〔前言〕むかしのはなし、又、さきにかたりたるはなし。○〔易〕「君-子以多識二—〻往-行一」。
〔名言〕すぐれたるよきことば。○〔晉〕「天-下—〻也」。
〔讜言〕聲をはりあぐ。○〔晉〕「皐-陶拜-手稽-首—〻一日、念哉」。
〔羣言〕おほくの者のことば。○〔後漢〕「斟二酌—〻一」。
〔衆言〕前に同じ。○〔揚雄〕「—〻淆-亂」。「也」。
〔多言〕ことばおほし。○〔詩〕「人之—〻、亦可レ畏也」。
〔少言〕ことばすくなし。○〔後漢〕「光-武察二宮-勤-力—〻一」。
〔寡言〕前に同じ。○〔禮〕「必求二其寛-裕-慈-惠、温-良-恭-敬、愼而—〻者一」。
〔發言〕ことばをいだす。○〔詩〕「—〻盈レ庭」。
〔話言〕はなし。○〔李白〕「百-官接二—〻一」。
〔躬言〕いひたる如くおこなふ。○〔禮〕「修レ身—レ—、謂二之善-行一」。

〔忿言〕うらみいかりて發することば。○〔禮〕「—〻不レ反二于身一」。
〔約言〕ことばをつゞまやかにす。○〔禮〕「故君-子—レ—」。
〔僉言〕前に同じ。○〔化書〕「—于—可二以養一レ氣」。
〔遺言〕みまかりたる人のいひのこしたることば。○〔荀〕「不レ聞二先-王之—〻一」。
〔傳言〕ことづて。○〔史〕「亞-夫乃—〻開二壁門一」。
〔知言〕いふことをさる、又、道理をしりたるものゝことば。○〔左〕秦-伯以爲二—〻一」。
〔怨言〕うらみて發することば。○〔舊唐〕「因レ醉或有二—〻一」。
〔放言〕きまゝなることば、又、きまゝにものをいふ。○〔論〕「隱-居—〻」。
〔片言〕かたこと。○〔論〕「—〻可二以折一レ獄者、其由也與」。
〔妖言〕あやしきはなし。○〔元稹〕「小-覡又—〻」。
〔送言〕ことばをいひおくる。○〔史〕「仁-者—レ人以レ—」。
〔微言〕言葉をかづけものにして其の人のためになるやうにす。○〔荀〕「—レ人以レ—」。「樹-座一」。
〔狂言〕たはるゝことば。○〔杜牧〕「忽發二—〻一驚二—〻一」。
〔空言〕無實のことば ○〔史〕吾欲レ託二之—〻一」。
〔虛言〕前に同じ。○〔老〕「古之所レ謂、曲則全者、豈—〻哉」。「詳一」。
〔善言〕事情にくらきことば。○〔漢〕「—〻驅二忌-諱一」。
〔美言〕嘉言のと、又、滋美のことば。○〔漢〕「信二其—〻一」。
〔至言〕道にかなひたる極めて善きことば。○〔後漢〕「—〻數聞」。
〔格言〕前に同じ。○〔魏〕「此周-孔之—〻」。
〔徐言〕ゆるやかにものいふ。○〔後漢〕「乃—〻曰、爾二汝手一」。
〔溫言〕やはらかなることば。○〔後漢〕「假二借—〻一」。「—〻」。
〔辭言〕ことば。○〔後漢〕「—〻嫻-雅」。
〔鯁言〕剛直にかたる。○〔後漢〕「—〻直-議」。
〔豫言〕事のいまだあらはれざる以前にかたる。○〔後漢〕「夫未レ至—〻固常爲レ虛」。
〔極言〕はゞかりかくさずして十分にかたる。○〔後漢〕「—〻正-諫」。
〔苟言〕かろ〴〵しきことば。○〔後漢〕「—之罪」。
〔詭言〕ひじりのことば。○〔後漢〕「臣當レ受二—〻一」。
〔抗言〕屈撓せずさからひかたる。○〔北〕「—〻幽-遠」。○〔北〕「—〻酬-答」。

〔吐言〕ことばを發す。○〔晉〕「辈-賢—レ—」。
〔華言〕表面をかざりたることば。○〔晉〕「飾二—〻一以亂レ實」。
〔□言〕道家のものがたり。
〔猥言〕いやしき者のものがたり。○〔煮應物〕「猾-役猥二—〻一」。○〔新唐〕「陛下不レ廢二—〻一、則端-士寄-臣必當二自効一」。
〔偏言〕かたこと。○〔唐〕「勿レ—〻」。
〔從言〕へつらひのことば。○〔宋〕「—〻似レ忠」。
〔夸言〕事實にかなはざる誇大のはなし。○〔宋〕「兵事尙レ詭、此—〻耳」。
〔信言〕まことあることば。○〔老〕「—〻不レ美」。
〔飾言〕いつはりかざりたることば、又、ことばをうつくしくかざりていふ。○〔韓〕「則羣-臣莫レ敢—〻以悟レ主」。
〔舊言〕平生のことば。○〔荀〕「無二—〻一」。
〔迂言〕事情に通せざることば。○〔呂氏春秋〕「寡人以爲二—〻一也」。
〔疾言〕ときこと。○〔韓詩外傳〕「—〻則翕-々」。
〔粗言〕粗略なることば。○〔參同契〕「口無二—〻一」。
〔優言〕やさしきことば。○〔顏氏家訓〕「賜以二—〻一」。
〔誕言〕事實にすぎたる大言。○〔孫綽〕「攸二此—〻一」。「爲レ—〻」
〔佳言〕おちたることば。○〔夏侯湛〕「以二—〻一」。
〔雜言〕いろ〳〵まじりたるはなし。○〔陶潛〕「相見無二—〻一」。
〔藥言〕ためになることば。○〔唐〕「而濡二—〻一」。「之—一」。
〔長者言〕温厚なる有德の君子のことば。○〔陶潛〕「昔聞二—〻一」。

【言】ギン、ゴン。魚巾切 眞
誾に同じ、和ぎ敬む貌にいふ字。○〔禮〕「二-爵而—〻斯」。

【言】ケン、コン、去偃切 銑
脣の急しき貌にいふ字。

【言】前條に同じ。

二畫

【訂】テイ 他丁切 青　チヤウ 他頂切 徑

テイ、ヂヤウ。徒鼎切 迥
はかる。
(い)平かに議す。○〔詩、箋〕「以レ此ニ太王文王之道ニ」。
(ろ)比べあはす。○〔晉〕「亦足有レ所ニ—正ニ」。

【訂】 テイ、チヤウ。丁定切 徑
❶前條の(い)に同じ、はかる。○〔唐〕「—ニ千金ニ」。
❷文字の誤謬を正定す、たゞす。○〔康熙〕「正ニ定書籍ニ亦曰レ—」。
❸民に賦課すること。
❹とゞこほる（逗・遛）。

【訂】 テイ、チヤウ。唐丁切 青
❶前々條の(い)に同じ。「平ニ」。
❷ひさし（均）。○〔周、註〕「前後—其行」。

【訒】 ジヨウ、ニヨウ。如乘切 蒸　ジ、ニ。入之切 支
❶あつし（厚）。❷つく（就）。
❸かさぬ、かさなる（重）。

【訓】 ケン。呼淵切 先
こゑ（聲）。

【訃】 フ、ホ。芳遇切 遇
喪を告げ至る、つぐ、又、喪の報知、しらせ。○〔柳宗元〕「捧レ—哀號」。
(奔訃) 喪のつげに接して急ぎゆく。○〔宋〕「綸徒步—レ—千里餘」。「安」。
(傳訃) 喪のしらせをつたふ。○〔劉詵〕「—レ—始疑」。

【訄】 キウ、グ。渠鳩切 尤
❶せまる（迫）。❷やすし（安）。
❸はかる（謀）。

【訄】 カウ、コウ。苦刀切 豪
❶戲れ言ふ、たはむる。❷せまる（迫）。

【訄】 ダウ、ノウ。奴刀切 豪
たはむる（戲）。

【訅】 訄に同じ。

【訆】 ケウ。公弔切 篠
叫に同じ、よぶ、さけぶ、なく。○〔山海經〕「其音如レ—」。

【訇】 クワウ、ワウ。呼宏切 庚
驚き言ふ聲にいふ字、怒り叫ぶ聲にいふ字、大いなる聲にいふ字。○〔韓愈〕「—然震動」。
(砰訇) 水などの激する聲にいふ語。○〔沈炯〕「其水則—.—瀰泊」。
(隱訇) 鐘鼓の聲にいふ語。○〔東京賦〕「—.—軒礚「盛」—」。
(訇々) おほごゑの貌にいふ語。○〔揚炯〕「—ニ.—ニ」。

【訇】 詢に同じ。

【計】 ケイ、カイ。古詣切 霽
❶かぞふ（算）。○〔左〕「—ニ大數ニ」。
❷はかる（謀）。○〔史〕「會レ薛—レ事」。
❸算術。○〔禮〕「居ニ宿於外ニ學ニ書—ニ」。
❹出納の決算、かんぢやう。○〔周、註〕「主ニ天下之大—ニ」。
❺籌策、はかりごと。○〔史〕「—者事之機也」。
❻決算の帳簿、ちやうめん。○〔漢〕「受ニ—于甘泉宮ニ」。
(會計) あつめはかる、又、計算。○〔周〕「歲終則—ニ其政ニ」。
(歲計) 一年分の計算。○〔周、疏〕「—.—曰レ會」。
(日計) 一日分の計算。○〔後漢〕「—.—不レ足」。
(便計) 便宜のはかりごと。○〔戰〕「景鯉楚王所ニ甚愛ニ、不レ如レ留レ之以市ニ地、是—.—也」。
(畫計) はかりごとをさだむ。○〔史〕「爲レ我—.—」。
(祕計) 祕密のはかりごと。○〔漢〕「用ニ陳平—.—得レ出」。
(陰計) 前に同じ。○〔戰〕「爲レ公畫ニ—.—ニ」。
(密計) 前に同じ。○〔唐〕「所ニ與祕謀—.—甚多」。
(完計) まつたきはかりごと。○〔漢〕「非ニ—.—也」。
(正計) たゞしきはかりごと。○〔漢〕「非ニ其—.—也」。
(善計) よきはかりごと、又、算術をよくす。○〔後漢〕「勤長八尺三寸、八歲—レ—」。
(家計) くらしむき。○〔晉〕「吾—.—急」。
(任計) はかりごとにまかす。○〔荀〕「故明主—レ—不ニ信怨ニ」。
(忠計) しんせつなるはかりごと。○〔韓〕「必有ニ—.—者」。
(細計) こまやかにはかる。○〔劉勰〕「人有ニ—.—」。
(邊計) 國境についてのはかりごと。○〔高適〕「立談有ニ—.—」。
(謀計) はかりごと。○〔北〕「長ニ於—.—」。
(合計) あはせかぞふ。○〔周、註〕「—ニ.—其士之卒伍」。
(月計) ひとつきの計算。○〔周、疏〕「—.—曰レ要」。
(詳計) あきらかにはかる。○〔戰〕「願公之—.—而無レ與レ俗同也」。
(過計) あやまりのはかりごと、又、はかりごとをあやまる。○〔戰〕「君臣—レ—」。
(失計) 前に同じ。○〔宋〕「謂周之—.—未レ有下如ニ東遷之甚ニ者上」。
(深計) おくそこまではかる。○〔韓〕「—.—而不レ疑」。
(邪計) よこしまなるはかりごと。○〔後漢〕「防ニ其—.—」。
(良計) よきはかりごと。○〔魏〕「非ニ—.—也」。
(算計) かぞへはかる。○〔陸游〕「蜀估峽商工ニ—.—」。
(智計) さかしきはかりごと。○〔晉〕「當下以ニ歲月—.—上擒レ之」。
(詭計) いつはりのはかりごと。○〔晉〕「竟以ニ—.—一令ニ吳罷レ守」。
(生計) はかりごとを生ず、又、くらし。○〔白居易〕「約レ俸爲ニ—.—」。
(支計) 計算。○〔晉〕「專掌ニ軍國—.—」。
(鄙計) いやしきはかりごと、又、おのれの計謀を稱する謙辭。○〔晉〕「但劉豫州不レ用ニ—.—」。
(靈計) 靈妙なるはかりごと。○〔晉〕「寧ニ—.—千臨レ危ニ」。
(身計) おのれ一身上のはかりごと。○〔王禹偁〕「—.—頗悲涼」。
(愚計) おろかなるはかりごと、又、おのれの計謀を稱する謙辭。○〔白居易〕「—.—忽思ニ飛ニ短檄ニ」。
(良計) はかる。○〔韓〕「人主之所レ與—.—レ也」。
(權計) はかりごと。○〔韓〕「明レ于—.—」。
(術計) 前に同じ。○〔蔡邕〕「桑羊役ニ—.—ニ」。
(立計) はかりごとをくみたつ。○〔新語〕「懷ニ異虞ニ者、不レ可ニ以—レ—」。
(堅計) てがたく定まりたるはかりごと。○〔新語〕「內無ニ—.—」。
(活計) くらし。○〔白居易〕「無レ嫌ニ—.—貧ニ」。
(熟計) しらべはかる。○〔春濟紀聞〕「—.—其家事ニ」。
(短計) あさはかなるつたなきはかりごと。○〔鮑昭〕「窮途悔ニ—.—ニ」。
(百計) もろ〳〵のはかりごと。○〔張籍〕「從來—.—足レ爲—盡應レ休」。
(拙計) つたなきはかりごと。○〔晁補之〕「—.—安」。
(終身計) 一生のためのはかりごと。○〔管〕「一年之計莫レ如レ樹レ穀、十年之計莫レ如レ樹レ木、—.—之—莫レ如レ樹レ人」。
(太早計) はかりごとのはやきに失すること。○〔莊〕「且汝亦—.—.—」。
(自全計) おのれの身をやすらかに保つはかりごと。○〔南〕「潛爲ニ—.—.—ニ」。
(百全計) あやまちなききはめて完全なるはかりごと。○〔南〕「當レ思ニ—.—.—ニ」。
(萬全計) 前に同じ。○〔北〕「此—.—.—也」。

【計】 ケツ、ケチ。吉屑切 屑
はかる（畫）。

三畫

【訉】 ハン、ボン。扶泛切 陷
多言す、かしまし。

【訊】 シン。思晉切 震

一さふ。
(い)上より下に問ふ、たづぬ。○[公羊]「君嘗—レ臣」。
(ろ)罪を鞫す、志らぶ。○[後漢]「案二—諸-囚一」。
(は)訪問す、おさづる。○[後漢]「朝-夕問—」。
二いさむ、(諫)。○[詩]「歌以—レ之」。
三せむ、(讓)。○[國]「乃—二申-胥一」。
四つぐ、(告)。○[史]「—曰、巳矣」。
五言辭、ことば。○[詩]「執レ—獲レ醜」。
六音問、おとづれ。○[荀]「不レ可レ託レ—者歟」。
七をさむ、(治)。○[禮]「—レ疾以レ雅」。
八うごかす、(動)、又、ふるふ、(奮)。○[詩、傳]「羽成而振二—之一」。
九さし、(迅)。○[漢]「猋-駭雲—」。
(險訊)志らぶ。○[唐]「帝馳二遣御-史楊-瑑—…一」。
(芳訊)よきことば。○[顏延之]「君-子吐二—…一」。
(鞫訊)罪人を窮理す。○謝莊「立二—…之法一」。
(音訊)音問といふに同じ。○[元稹]「敵交—…少」。

【訉】謠、詐に同じ。○[詩]「莫二肯用—一」。

【訌】コウ、グ。戸工切 東 胡貢切 送 カウ、ゴウ。胡江切 江
爭ひ訟へ相陷れんとするにいふ字、内部に紛擾のおこるにいふ字、つひゆ、みだる、やぶる、うちわわれ、うちわけんくわ。○[唐]「外-阻内—」。

【訍】談に同じ。

【訍】サ、セ。初加切 麻
あばく、(訐)。

【訍】タ、テ。抽加切 麻
ひく、(拏)。

【訍】サイ、セ。楚懈切 卦
一うたがふ、(疑)。
二人の短を持す、そしろ。

【訆】叩に同じ、たゝく、さふ。

【訆】カ、ケ。虛加切 麻
わらふ、(笑)。

【討】タウ、トウ。他皓切 皓
一罪を治めて惡を絶つ、をさむ。○[左]「其君無下日不中—二國-人一而訓上レ之」。
二うつ。
(い)有罪のものを征伐す。○[書]「天—二有-罪一」。
(ろ)のぞく、(除)。○[公羊]「—レ賊之辭也」。
(は)攻む。○[左]「莒人來—」。
(に)誅殺す、ころす。○[禮]「畔者君—」。
三さる、(去)。○[禮]「有二順而—一」。
四たづね、(尋)、きはむ、(究)、もとむ、(求)、さぐる(探)。○[論]「世-叔—二論之一」。
五まじる、(雜)。○[詩、傳]「蒙—羽也」。
(征討)兵を出だし討伐す。○[左]「日尋二干戈一以相—…」。
(專討)おのれのまゝに誅伐す。○[公羊]「諸-侯不レ得二—…一」。
(探討)勝景などをさぐりたづぬ。○[沈佺期]「雲-霞絶二—…一」。
(幽討)前に同じ。○[杜甫]「脱レ身事二—…一」。
(致討)征伐をくはふ。○[左]「…國—レ…」。
(禽討)捕ふると殺すと。○[方回]「無レ非レ被二—…—一」。
(追討)にぐるをおひうつ。○[魏]「將二所領一—…「純等一」。
(尋討)たづねもとむ。○[魏]「足下脊不二—…禍-源一、克レ心罪レ己」。「—」。
(…討)とらへころす。○[後漢]「今若下二州-郡一—…」。
(掩討)敵の備へなきに乘じてうつ。○[魏]「—二…—逆-師一」「殺一」。
(勦討)勦伐す。○[魏]「招-濟-行—…大斬二首-級一」。
(邀討)敵の來たるをまちむかへてうつ。○[魏]「帝欲レ—二…之一」。
(鋤討)賊徒などをおさへうつ。○[魏]「大-祖欲下授二濟精-兵一以—上…之」。
(奮討)ふるひたちてうつ。○[蜀]「成-忠-義—…」。
(攻討)敵をせめうつ。○[吳]「…—一年破レ之」。
(赴討)でむきてうつ。○[吳]「周旋—…」。
(論討)論議して究む。○[北]「羣官可二與—…新-令一」。
(平討)うちたひらぐ。○[袁紹]「出レ兵—…」。
(夌討)前に同じ。○[王粲]「—二…暴-逆一」。
(搜討)さぐり求む。○[韓琦]「宜乎今日難二—…一」。

【訏】ク、コ。火羽切 麌
大いなり。○[詩]「川-澤—…」。

【訏】コ、ク。荒胡切 虞
口を張りて大いに鳴く、さけぶ、わめく、又、わめきさけぶ聲大いなり、かまびすし。○[詩]「實覃實—」。

【訏】ク、コ。況于切 虞
一前々條に同じ。二いつはる、(詭-僞)。三あゝ、(嗚-呼)。四まこと、(信)。五ほこる、(誇)。

【訐】ケツ、コチ。許謁切 月 ケツ、ケチ。居列切 屑
人の陰私(ないしやうごと)をあらはし攻む、面のあたりに其の人を擯斥し言ふ、あばく。○[論]「惡二—以爲レ直者一」。
(攻訐)人の惡をもとむると人のあしきをあばくと。○[漢]「惡二—以爲レ知者一、惡二—以代レ直者一」。
(告訐)人の惡をあばきて上につぐ。○[漢]「—…之俗易」。「—」。
(驕訐)おごりて人を面斥す。○[後漢]「言-辭—…」。
(非訐)そしりあばく。○[後漢]「汝-南范-滂等—二-朝-政一」。
(詆訐)前に同じ。○[李白]「莫二敢—…一」。
(剛訐)剛直にしてはゞからずあばきいふ。○[書]「其言—…不レ避二宰-相一」。
(峭訐)嚴厲にしてはゞからずあばく。○[沈光]「李-白既以二—…矯時之狀一、不レ得二大用一」。

【訐】ケイ。居例切 霽
一人の短を持す、相告げ斥く、そしる。
二直言す、ありのまゝにいふ。

【訑】イ、弋支切 支 タ。他可切 歌
淺はかなる心より自ら足れりとして他を輕んずる貌にいふ字。○[孟]「—…之聲-音、拒二人於千-里之外一」。

【訑】シ。商支切 支
多言す。

【訑】タ、ダ。湯何切 歌 待可切 哿
言正しからず、詐僞す、あざむく。○[楚辭]「或—…慢而不レ疑」。

【訑】誕に同じ、ほしいまゝ。○[莊]「天知二予僻-陋慢—…一」。

【𧥮】キ。馨夷切 支
一うめく、(吚)。二笑ふ聲、又、わらふ。

【訒】ジン、ニン。而振切 震 爾軫切 軫
一躓くを多し、難し、鈍し。○[論]「仁者其言也—」。
二いつくしむ、(仁)。

【訓】クン、コン。許運切 問

㊀をしへ。
(い)導諭、みちびき。○〔書〕「往敷ニ乃「―ニ。
(ろ)箴誡、いましめ。○〔魏〕「論ニ集往-世酒之敗レ徳、以爲ニ酒―ニ。
(は)法となすべきもの。○〔書〕「學ニ古―ニ。
㊁をしへを施す、をしふ、いましむ、みちびく。○〔書〕「以―ニ于王ニ。
㊂志たがふ、(順)。○〔書〕「皇-天用―ニ其道ニ。
㊃字句の意義を解釋す、とく、よむ。○〔字彙〕「順ニ其義ー以―レ之也」。
㊄字句の意義の解釋、わけ、よみ。○〔郭璞〕「所ニ以通ニ詁―之指ー歸ー也」。
〔敎訓〕をしへ、又、をしふ。○〔左〕「越十-年生-聚而十-年―ー」。「兮」。
〔玄訓〕ふかきをしへ。○〔張衡〕「仰ニ先-哲之―ー」
〔彝訓〕人道のをしへ。○〔謝朓〕「共中ニ―ー」。
〔典訓〕前に同じ。○〔孫楚〕「闡ニ揚―ー」。
〔丕訓〕おほいなるをしへ。○〔書〕「爾惟弘ニ周-公―ー」。
〔惠訓〕いつくしみをしふ。○〔左〕「―ー不レ倦者」。
〔導訓〕みちびきをしふ。○〔國〕「宣-王欲レ得ニ國-子之能ニ―ー諸-侯ー者ー」。
〔遺訓〕世をさりたる人ののこしおきたるをしへ。○〔謝靈運〕「仰ニ前-哲之―ー」。
〔家訓〕家庭のをしへ。○〔後漢〕「不レ盡ニ―ー」。
〔庭訓〕前に同じ。○〔晉〕「雖ニ子-孫班-白ニ而―ー愈峻」。
〔獎訓〕すゝめをしふ。○〔後漢〕「好ニ―ー士-類ニ」。
〔恩訓〕なさけぶかきをしへ。○〔後漢〕「追ニ-敬太后―ー」。
〔明訓〕あきらかなるをしへ。○〔後漢〕「府-君不レ希ニ孔-聖之―ー」。
〔注訓〕註解。○〔陶弘景〕「又無ニ―ー」。
〔調訓〕とゝのへをしふ。○〔後漢〕「―ニ―五-品ニ」。
〔高訓〕高尙なるをしへ。○〔後漢〕「誦ニ上-哲之―ー」。
〔內訓〕婦女のをしへ。○〔後漢〕「有レ助ニ―ー」。
〔塗訓〕前に同じ。○〔晉〕「有[illegible]ニ―ー」。
〔柔訓〕前に同じ。○〔韋昆〕「各稟ニ―ー」。
〔儀訓〕たゞしきをしへ。○〔後漢〕「少習ニ―ー」。
〔規訓〕前に同じ。○〔南〕「稟ニ其―ー」。
〔貽訓〕をしへをのちにのこす、又、のこしたるをしへ。○〔崔湜〕「懷レ壁常―レー」。
〔撫訓〕やすんじをしふ。○〔北〕「―ニ―諸弟ニ」。
〔恆訓〕さだまりたるをしへ。○〔晉〕「法有ニ―ー」。
〔音訓〕文字のよみかた。○〔晉〕「遍撰ニ正五-經―ー」。
〔傅訓〕孔孟のをしへ。○〔鮑昭〕「―ー毀-棄」。
〔師訓〕をしへびとのをしへ。○〔郭璞〕「―ー莫レ傳」。「―ーニ。
〔嚴訓〕きびしきをしへ。○〔盧師道〕「高-祖毎加ニ
〔慈訓〕いつくしみぶかきをしへとて母のをしへのこと。○〔謝朓〕「―ー早-違」。
〔淑訓〕婦女の善きをしへ。○〔襄陽國志〕亦有ニ―ー母-師之行ー者也」。
〔壺訓〕前に同じ。○〔陳子昂〕「崇-儀―ー」。
〔舊訓〕むかしのをしへ。○〔[illegible]暉〕「―ー不レ遵」。
〔聖訓〕ひじりのをしへ。○〔蔡邕〕「用レ之則行ニ―ー也」。「兮」。
〔謹訓〕誠のをしへ。○〔阮籍〕「諱ニ玄-眞之―ー」。
〔格訓〕至訓といふに同じ。○〔梁武帝〕「蓋先-聖之―ー」。
〔妙訓〕神妙なるをしへ。○〔沈約〕「弘宣ニ―ー」。
〔箴訓〕をしへのこと。○〔庾信〕「―ー有レ儀」。
〔戒訓〕前に同じ。○〔沈遼〕「尾-章示ニ―ー」。
〔善訓〕よきをしへ。○〔金顯宗〕「―ー懷ニ師-席ニ」。

〔巛言〕古文の訓の字。

〔訔〕闇に同じ、争ひ辯ずる貌にいふ字。○〔揚雄〕「何後-世之―ー也」。

〔訕〕サン、所晏切 諫　セン。所姦切 刪
他人の徳聲をそこなひ毁るを語る、そしる。○〔禮〕「有レ諫而無レー」。

〔訖〕キツ、コチ。居迄切 物
㊀をふ、をはる、(了)。○〔漢〕「語未レー」。
㊁つく、つくす、(盡)。○〔書〕「典レ獄非レ―ニ于威ニ。
㊂やむ、(止)。○〔穀梁〕「毋レ―レ糴」。
㊃つひに、(竟)。○〔漢〕「劉-歆―不レ告」。
㊄迄に同じ、およぶ、いたる。○〔漢〕「―レ今不レ改」。

〔託〕タク。他各切 藥
㊀憑依す、よる、よす、たのむ。○〔孟〕「士之不レ―ニ諸-侯ニ」。
㊁寄寓す、かゝりゐる。○〔李陵〕「遠―ニ異-國ニ、昔-人所レ悲」。
㊂委任す、まかす、ゆだぬ。○〔詩〕「可ニ以―ニ六-尺之孤ニ。
㊃辭を假る、かこつく。○〔穀梁〕「非レ可ニ詐-―而往ー也」。
㊄意を寓す、ほのめかす。○〔後漢〕「―以ニ他-辭ニ」。
〔假託〕かこつく。○〔宋〕「―ニ―聲-勢ニ」。
〔屬託〕依賴す。○〔漢〕「―ニ―邑子ニ」。
〔請託〕たのみ、又、こひ求む。○〔漢〕「以防ニ―ー」。
〔付託〕たのみ、又、たのむ。○〔諸葛亮〕「―ー不レ效」。
〔顧託〕前に同じ。○〔北〕「將レ受ニ―ー」。
〔寄託〕たのみ、又、たよる。○〔蜀〕「並受ニ―ー」。
〔依託〕たのむ、又、たよる。○〔李勃〕「臣敢―ニ―繹-史ニ」。
〔附託〕つきたよる。○〔晉〕「―ー者必達」。
〔結託〕固くむすびつきたよる。○〔北〕「深相―ー」。
〔矯託〕いつはりかこつく。○〔唐〕「今其―ー」。
〔受託〕依賴せらる。○〔柳宗元〕「爲レ累ニ―ー」。
〔承託〕前に同じ。○〔韓愈〕「能ニ―ニ子―ニ」。

〔託〕タ、テ。陟嫁切 禡
ほこる、(誇)。

〔記〕キ。居吏切 寘
㊀志るす。
(い)心に存して忘れず、志る、おぼゆ。○〔書〕「撻以―レ之」。
(ろ)書き載す、かく、のす。○〔唐〕「左有ニ―レ言之吏ニ」。
(は)あらはし述ぶ、分かち明らかにす。○〔國〕「昭ニ―其先-祖ニ」。
㊁載錄、文書、かきつけ、かきもの、ふみ。○〔文心雕龍〕「後-漢始有ニ公-府奏-―、―之言志」。
㊂事實を志るすを主とする文體。○〔史〕「著ニ災-異之―ニ」。
㊃文符、志るし。○〔後漢〕「府下ニ―案-老レ之、意封ニ還―ニ」。
〔視記〕視るとしるすと。○〔史〕「以ニ耳-目之所ニ―「―」。
〔彊記〕極めてよく志る。○〔史〕「淳于髡博聞―ー」。
〔著記〕かきしるす、又、其のもの。○〔漢〕「渉ニ獵―ー」。
〔筆記〕前に同じ。○〔王僧孺〕「―ー尤盡ニ典-實ニ」。
〔籍記〕簿書にかきしるす、又、文書。○〔漢〕「東-海郡-中賢-否皆―ニ―之」。
〔暗記〕そらんじ知る。○〔後漢〕「莫レ不ニ―ー」。
〔諳記〕前に同じ。○〔唐〕「無レ不ニ―ー」。
〔徧記〕あまねくおぼえしる。○〔北〕「[illegible]―ー」。
〔聞記〕きゝしる。○〔說苑〕「孔-子―ー不レ言」。
〔略記〕ひろくしるす。○〔左、序〕「必―ー而備ニ言之ニ」。
〔讖記〕將來のことをかきたるもの。○〔漢〕「君-眞好ニ天-文―ー」。
〔聰記〕きゝおぼえのよきこと。○〔北〕「―ー强-識」。
〔追記〕あとより當時の事おひてかく。○〔韓駒〕「―ニ―博-游一時一笑」。
〔舊記〕ふるきかきもの。○〔盧綸〕「圖-書無ニ―ー」。

〔記〕其に通じ用ふ、無意の助字。

〔訏〕ヲ。于戈切 歌
拒ぎ膺ふ、こばむ。

四畫

〔䛆〕シ。支義切 寘

㊀こゝろよし(快)。㊁知らず、くらし。

【𧦧】コ、グ。胡故切 遇
㊀志るす(誌)。㊁志たゝむ(認)。
㊂志かる(呵)。

【託】𧦧に同じ。

【訛】グヮ。五禾切 歌
㊀いつはろ(譌)、あやまろ(謬)。○[詩]「民之─言」。「─横興」。
㊁妖言、鄙語、うそ、なまり。○[吳]「妖─」。
㊂かはろ(化)。○[書]「平ニ秩南─ニ」。
㊃さむ(寤)うごく(動)。○[詩]「或寢或─」。
㊄一種の獸。○[神異經]「西南荒中出ニ─獸ニ」。
㊅蛇。○[埤雅]「恩平郡譜蛇謂ニ之─ニ」。
㊆野に燃ゆる火、のび。○[柳宗元]「─火亟生煅」。
(寢訛)いぬるとさむると。○[詩]「或─或─」。
(差訛)あやまり。○[韓愈]「毫釐盡備無ニ─·─ニ」。
(舛訛)前に同じ。○[隋]「─·─歸ㇾ正」。
(遷訛)うつりかはる。○[宋]「歲月─·─」。
(澆訛)輕薄にしてまことなし。○[晉]「叔代─·─」。
(辨訛)あやまりをあきらかにす。○[曾鞏]「正ㇾ謬─ㇾ─」。
(浮訛)信ずべからざるあやまり。○[史通]「猶時載ニ─·─ニ」。
(姦訛)よこしま。○[李嶠]「督ニ察─·─ニ」。
(披訛)あざむく。○[沈遘]「甘ニ事─·─ニ」。
(舊訛)もとのあやまり。○[朱熹]「終當ㇾ訂ニ─·─ニ」。

【⿰言乃】訒に同じ。

【⿰言月】グヮツ、ゲチ。五刮切 黠

ゲツ、ゲチ。魚厥切 月

いかろ(怒)、一說に、志かろ(訶)。

【訜】フン、ホン。敷文切 文
㊀─訟は、言語定まらず。㊁人知らず。

【⿰言斗】トウ、ツ。他口切 有
いざなふ(誘)。

【訝】カ、ゲ。五駕切 禡
㊀迎へて勞ふ、むかふ、ねぎらふ。○[儀]「─ニ賓于館ニ」。
㊁疑ひ怪む、いぶかる。○[呂氏春秋]「無ㇾ─無ㇾ訾」。
(猜訝)そねむ。○[韓愈]「睢盱互─·─」。
(嗟訝)なげく。○[元晁]「念ㇾ此常─·─」。
(謗訝)あやしみて詰責す。○[晁補之]「豈不ㇾ逢ニ─·─ニ」。
(深訝)いたくあやしむ。○[陳基]「素書─·─故人稀」。

【⿰言天】テン。他年切 先
志かる(訶)。

【訞】エウ。於喬切 蕭
㊀妖に同じ、わざはひ。○[大戴禮]「─孽數起」。
㊁巧に言ふあやしきを言ふ、いつはろ、あやまる。○[漢]「除ニ─言之辠ニ」。

【⿰言兮】エイ、アイ。烏奚切 齊
㊀まこと(誠)。㊁譥に同じ。

【⿰言兮】エイ、アイ。於禮切 薺 壹計切 霽
こたふ(譍)。

【⿰言兮】ケイ、ガイ。戸禮切 薺
誠に言ふ。

【訟】ショウ、ジュ。似用切 宋 詳容切 冬
㊀うッたふ、うッたへ。
(い)曲直を爭ひて其の批判を官司に求む、あらそふ、くじ、特に、獄の字に對して財に關してあらそふにいふ字。○[周]「有ニ獄─ニ者聽而斷ㇾ之」。
(ろ)上書して寃罪なることを申述す、まうしあぐ。○[漢]「吏民上書、寃ニ─莽ニ者以ㇾ百數」。
(は)曲直定まらずして互に議論す、いひあらそふ。○[後漢]「會禮之家、名爲ニ聚─ニ」。
㊁せむ(責)。○[論]「吾未ㇾ見下能見ニ其過ニ、而內自─者上也」。
㊂おほやけ(公)。○[史]「未ニ敢─ニ言誅ㇾ之」。
㊃易の卦の名、䷅ 坎下乾上 ○[易]「─有ㇾ孚窒」。
(聽訟)うッたへを裁判す。○[論]「─ㇾ─吾猶ㇾ人也」。
(辨訟)前に同じ。○[梁]「─ㇾ─如ㇾ神」。
(健訟)かちきにて妄りに爭ひうッたふ。○[易]「險而─·─」。
(爭訟)曲直をあらそひうッたふ。○[蘇軾]「但欣─·─少」。
(獄訟)罪のあらそひとたからのあらそひと。○[周]「凡諸侯之─·─、以ニ邦典ニ定ㇾ之」。
(止訟)うッたへをやむ。○[周]「以ニ質劑ニ結ㇾ信而─ㇾ─」。
(除訟)淫猥事件のうッたへ。○[周]「凡男女之─·─、聽ニ之于勝國之社ニ」。
(省訟)うッたへをすくなくす。○[魏]「息ㇾ奸─ㇾ─」。
(新訟)あらたにおこりたるうッたへ。○[隋]「受ニ領─·─ニ」。
(鬩訟)兄弟の爭訟。○[隋]「至ニ相─·─ニ」。
(折訟)うッたへを判決す。○[北]「─·─公正」。
(水訟)みづよりおこるうッたへ。○[宋]「─·─歲自」。
(滯訟)ひさしく判決せざるまゝとゞこほりたるうッたへ。○[陸機]「郡多ニ─·─ニ」。

【訟】ヨウ、ユ。餘封切 冬
㊀あらそふ(諍)。○[書]「嚚─可乎」。
㊁いろ(容)。○[史]「─止禁弗ㇾ予」。

【訠】矧に同じ。

【⿰言介】カイ、ゲ。下介切 卦
言ふを善し、よし。

【訡】吟に同じ。

【⿰言比】ヒ。匹婢切 紙 篇夷切 支
そなふ、そなはる(具)。

【訢】欣に同じ、よろこぶ、たのしむ。○[孟]「終身─然樂而忘ニ天下ニ」。

【訢】誾に同じ、和ぎ敬む貌にいふ字。○[漢]「僮僕─·─如也」。

【訢】キ。虛其切 支
むす(蒸)。○[禮]「天地─合、陰陽相得」。

【訣】ケツ、ケチ。古穴切 屑
㊀わかる、わかれ。
(い)離別の辭を述ぶるにいふ字、いさまごひす、いきわかれす、いさまごひ、いきわかれ。○[史]「東出ニ衞郭門ニ、與ニ其母ニ─」。
(ろ)死別の辭を述ぶるにいふ字、志にわかれす、いさまごひす、志にわかれ、いさまごひ。○[唐]「生死永─」。
㊁方術の要會、おくのて、おくぎ。○

〔列〕「衛人有下善レ數者上、以レ―喩二其子一」。

㊂怒訶す、いかる、しかる。

（生訣）いきわかれ。○〔後漢〕「援與二妻子一――」。
（辭訣）わかれのことば。○〔謝靈運〕「――未レ及レ終」。
（秘訣）秘密なる　。○〔李白〕「見レ我傳二―・―一」。
（神訣）神妙なる法。○〔李白〕「自言――不レ可レ求」。「―・―一」。
（色訣）采色の法。○〔酉陽雜俎〕「周長史善レ畫得二―・―一」。
（道訣）道家の秘法。○〔盧思道〕「尋レ思得二―・―一」。
（傳訣）秘法をつたふ。○〔蘇軾〕「丹青細字ロ―レ―」。
（妙訣）奇法。○〔葉適〕「欲レ度二世人一無二―・―一」。

【訣】ケイ、ケ。涓惠切 [霽]
さだむ、さだまる(決)。

【訥】ドツ、ノチ。內骨切 [月]
㊀言說敏捷ならず、おそし、にぶし、かたし。○〔論〕「君子欲下―二於言一而敏中於行上」。
㊁言語のかたくしてしぶるにいふ字。ごもる。○〔史〕「廣―口少レ言」。
（木訥）質樸にしてことばたくみならず。○〔論〕「剛毅――近レ仁」。
（質訥）前に同じ。○〔後漢〕「左右皆笑二其――一」。
（拙訥）辯說たくみならず。○〔謝靈運〕「――謝二浮名一」。

【訥】トツ、テチ。張滑切 [月]
言語辨ずるを得ず。

【訦】忱に同じ、まこと。

【訧】イウ、ウ。羽求切 [尤]
惡しき行爲、つみ、あやまち、とがめ。○〔詩〕「俾レ無レ―兮」。

【訨】シ。諸市切 [紙]
あばく(訐)。

【訾?】謠に同じ、うた、うたふ。○〔詩〕「我歌且―」。

【訩】キョウ、ク。許容切 [冬]
詾に同じ。○〔晉〕「天下――」。

【訪】ハウ。敷亮切 [漾]
㊀とふ、たづぬ。
(い)就きて問ふ、きく、たゞす。○〔書〕「王―二于箕子一」。
(ろ)汎く議す、はかる。○〔國〕「使レ―二物宜一」。
(は)索む、さがす。○〔晉〕「博―二遺書一」。
(に)會見す、音問す、まみゆ、おとづる。○〔五〕「今日見レ―不二其晚一邪」。
㊁まさに(方)。○〔漢〕「―以二呂氏故一、幾亂二天下一」。
（詢訪）とひはかる。○〔後漢〕「―二―公卿一」。
（顧訪）前に同じ。○〔後漢〕「―・―無二猜憚之心一」。
（咨訪）前に同じ。○〔吳〕「每レ有二大事一、必相―・―」。
（諏訪）前に同じ。○〔唐〕「多レ所二―・―一」。
（搜訪）さぐりもとめてとぶらふ。○〔晉〕「―二―賢才一」。
（尋訪）たづねもとむ。○〔晉〕「―二其父母一――得二李氏一」。
（歷訪）おちなくたづぬ。○〔南〕「常選二腹心左右一、―二―門里人士一」。
（檢訪）しらべとふ。○〔南〕「――果然」。
（往訪）でむきてたづね。○〔王逢〕「―二―趙松雪一」。

【⿰言卬】ガウ。魚向切 [漾]
やむ(止)。

【⿰言丑】ヂク、ノク。女六切 [屋]
はづ(慙)。

【⿰言日】クワ。古臥切 [箇]
おそし(遲)。

【⿰言毛】カウ、コウ。虚到切 [號]
まこと(信)。

【⿰言王】誑に同じ、あざむく。○〔北〕「除之才嘲二王昕姓一曰、有レ言則―、近レ犬則狂」。

【訫】信に同じ。

【訬】サウ、セウ。初交切 [肴] 楚教切 [效]　ベウ、メウ。亡沼切 [篠]
㊀かろし。
(い)志行沈著ならず、かろぐし、うすし。○〔南〕「輕―編急不レ能レ治レ事」。
(ろ)擧動敏捷なり、みがろし、すばやし。○〔淮〕「越人有二重遲者一、而人謂二之―一」。
㊁纖弱にして見めよきこと、しなやか。（〔張衡〕「舒二―婧之纖腰一」。
㊂みだる(擾)。㊃誇り語る、ほこる。
㊃わるがしこし(狡獪)。

【⿰言欠】イン、オン。于禁切 [沁]
嘀きて止まず、なく。

【⿰言欠】吅に同じ。

【設】セツ、セチ。式列切 [屑]
㊀まうく。
(い)陳ぬ。○〔詩〕「―二此旐一」。
(ろ)施す。○〔易〕「聖人―レ卦、以觀レ象」。
(は)立つ。○〔漢〕「高帝―レ之、以撫二四海一」。
(に)置く。○〔禮經解〕「規矩誠―、不レ可レ欺以二方圓一」。
㊁大いなり。○〔周〕「―二其後一」。
㊂假りまうけて說くさきに用ふる字、たとへば、もし。○〔戰〕「今王―爲レ不レ宜」。
㊃唐時代に突厥の別部の兵を掌れる部署の名。○〔唐〕「突厥署二子和一爲二屋利―一」。
（施設）まうく。○〔史〕「論二其行事所一―・―者上」。
（建設）おこしたつ。○〔漢〕「―・―藩屏一」。
（整設）たゞしくつらぬ。○〔禮〕「―二―于屛外一」。
（陳設）ならべつらぬ。○〔禮〕「―二其宗器一、―二其裳衣一」。「―一」。
（豫設）事にさきたちてまうく。○〔漢〕「大將不二――」。
（開設）あらたにまうく。○〔後漢〕「復令レ―・―屯田一、如二永元時事一」。
（頓設）にはかにたてまうく。○〔晉〕「不レ能二――一」。
（舒設）ゆるゆるならぶ。○〔袁宏〕旌旆作二――」。
（具設）そなはりならぶ。○〔崔沔〕「時膳――」。

【訯】サ、セ。所瓦切 [馬]
強ひて言語を事とす、しやべる。

【⿰言反】ヘン、ホン。甫遠切 [阮]
言は權道によりて行ひは正道に合すること。

【⿰言反】ハン、ホン。方願切 [願]
かまびすし(譊)。

【⿰言反】ハン。博漫切 [寒]
自ら矜る、ほこる。

【訰】シュン。之閏切 震
闇くして亂る、みだる。

【訰】シュン。宋倫切 眞
㊀亂れ言ふ貌にも心の亂るゝ貌にもいふ字。
㊁諄に同じ、ねんごろ。
㊂雜り亂るゝ貌にいふ字。

【訰】トン、ドン。徒渾切 元
多言す、ことば多し。

【許】キョ、コ。虛呂切 語
㊀ゆるす。
（い）任す、まかす。○〔史〕「老-母在、政身未ニ敢以一レ―人也」。
（ろ）諾す、うべなふ。○〔呂氏春秋〕「王-子―」。
（は）信ず、まことゝす。○〔孟〕「則王―レ之乎」。
（に）與みす。○〔書〕「爾之―レ我」。
（ほ）期す、あてにす。○〔孟〕「管-仲晏-子之功可ニ復―一乎」。
（へ）聽き從ふ。○〔史〕「唯上幸―」。
（と）宥む。○〔史〕「亦赦―」。
㊁すゝむ（進）。○〔詩〕「昭茲來―」。
㊂場處、ところ、もと。○〔謝元暉〕「頁-辰覓何―」。
㊃程度、ほど、ばかり。○〔古詩〕「相去復幾―」。
㊄此の、かく。○〔宋〕「吾頭-顱如レ―、報レ國無レ路」。
（何許）いづれのところといふ義。○〔晉〕「山公出ニ――一」。
（裁許）ゆるす。○〔漢〕「唯陛下――」。
（允許）前に同じ。○〔元稹〕「特賜――」。
（僞許）うはべのみゆるす。○〔南〕「帝――焉」。
（少許）すこしばかり。○〔陶潛〕「――便有レ餘」。
（聽許）ゆるす。○〔魏〕「不レ蒙ニ――一」。

【許】コ、ク。火五切 麌
衆人の共に力を用ふる聲にいふ字。○〔詩〕「伐レ木――」。
（邪許）きやりの聲。○〔淮〕「今夫擧ニ大-木一者、前呼ニ――一、後亦應レ之」。

【訡】イン、オン。于禁切 沁
謥―は、怒言す、いかる、しかる。

【訲】ホウ、フ。敷容切 冬
言端、ことばのはし。

【䛁】ゼン、子ン 汝閻切 鹽
多言す、しやべる、ことばおほし。○〔元包經〕「妄言――」。

【諵】喃に同じ。

【詢】キン。九峻切 震
欺言す、あざむく、うそつく。

【訜】ウン、チン。于分切 文
訜の字の條を見よ。

【訨】ジン、ニン。如林切 侵
おもふ（念）。

【訷】オク、イキ。於力切 職
こゝろよし（快）。

【詽】諺に同じ。○〔戰〕「出ニ――門一也」。

【訾】訾に同じ。

【詉】ダ、チ。女加切 麻
語の正しからざる貌にいふ字。

五畫

【訴】ソ、ス。桑故切 遇
うつたふ、うつたへ。
（い）公上に向かひて申述す、つぐ、まうしあげ。○〔北〕「伏―ニ闕-下一」。
（ろ）特に、寃枉をつぐるにいふ字。○〔後漢〕「擧レ首若レ欲ニ自―一」。
（は）毀り告ぐ、しこづる、さかしらごと。○〔左〕「―ニ公于晉-侯一」。
（讒訴）さかしらごと。○〔劉向〕「勉-強以從ニ王-事一則反見ニ憎――一」。
（仰訴）上にうつたふ。○〔魏〕「號-跳――」。
（枉訴）事實をまげてうつたふ。○〔晉〕「後ニ爲ニ兄所ニ――一」。
（嗚訴）かまびすしくうつたふ。○〔南〕「賓-客――皆歎-笑答レ之」。
（陳訴）言をのべうつたふ。○〔南〕「嫺-速以ニ情-事――」。
（申訴）前に同じ。○〔夫論〕「寃-民仰ニ希――一」。
（寃訴）枉屈をうつたふ。○〔舊唐〕「有ニ――者一」。
（密訴）ひそかにうつたふ。○〔唐〕「――諸朝一」。
（獄訴）罪のうつたへ。○〔唐〕「――衰-息」。
（號訴）さけびつぐ。○〔唐〕「無-量――曰、山林不レ乏、忍レ犯ニ吾壁-榭一耶」。
（先訴）はじめにうつたふ。○〔五〕「北-聽レ訟以ニ――者一爲レ直」。
（諮訴）とひはかりつぐ。○〔徐陵〕「――無レ因」。
（怨訴）うらみつぐ。○〔徐陵〕「非レ欲レ令ニ君作ニ――一」。
（哀訴）うれひかなしみてうつたふ。○〔杜甫〕「見ニ人慘-澹若ニ――一」。
（愁訴）前に同じ。○〔楊萬里〕「江山――爲レ泣」。
（嘲訴）あざけりつぐ。○〔石介〕「衆-鳥競――」。
（煩訴）煩雜なるつげごと。○〔蘇轍〕「清-談靜ニ――一」。

【訴】セキ、シヤク。昌石切 陌
前の（は）に同じ。

【訵】チ。丑飢切 寘
㊀陰に知る、しる。
㊁伺察す、うかゞふ。

【訵】呬に同じ。

【訶】カ。虎何切 歌
譴責す、怒言す、さかむ、せむ、しかる。○〔北〕「非レ欲レ詆ニ―古-人得-失一」。
（譴訶）せめしかる。○〔漢〕「――及ニ細-微一」。
（誅訶）前に同じ。○〔韓維〕「尙畏官-長來――」。
（詆訶）そしりせむ。○〔陳〕「未レ嘗ニ――作者一」。
（禁訶）とゞめしかる。○〔韓愈〕「驕不レ加ニ――一」。

【䛄】エン、チン。紆願切 願 於阮切 阮
㊀なぐさむ（慰）。㊁したがふ（從）。
㊂うらむ（懟）。

【䛅】カフ、ケフ。呼甲切 洽
㊀多言す。㊁語聲、はなしごゑ。

【評】嗑に同じ。

【䛆】チウ、ヂユ。直又切 宥
㊀のろふ（詶）。㊁いはふ（祝）。

【訷】伸に同じ。

【訸】和に同じ。

【訹】シユツ、シユチ。雪律切 質
いざなふ（誘）。○〔漢〕「―ニ邪-臣浮-說一」。

【詍】エン。以喘切 銑
㊀笑ふ貌にいふ字。㊁善く言ふ。

【診】シン。之忍切 軫 チン、ヂン。直刃切 震
みる。
(い)視る。○[後漢]「上方―-視」。
(ろ)かんがふ、(驗)。○[莊]「覺而―二其夢一」。
(は)血脈顔色を伺ひ病狀を察す。○[史]「―二切其脈一」。
〔往診〕醫士などの病人のもとにゆきて脈を候ふこと。○[史]「臣意未二―一時」。
〔求診〕疾病者の診察をこひもとむ。○[虞汝明]「渴二―-病-人―一」。
〔善診〕疾病をみわくるとたくみなるをいふ。○[盧碩]「醫―-―、則疾不二彌漸一」。

【[言尒]】俗の診の字。

【註】シュ。之戍切 チュ。中句切 遇
㊀訓詁の解釋、わけをとくこと。○[晉]「始欲レ―二莊-子一」。
㊁記す、しるす。○[穀梁]「―-事―二乎志一」。
〔旁註〕本文のかたはらにかきそへたる解釋。○[東觀餘論]「內-外二字本-行―-―」。
〔側註〕前に同じ。○[東觀餘論]「本皆―-―」。
〔解註〕訓釋。○[荀悅]「各爲二春-秋-左-氏-傳一作二―-―一」。

【証】セイ、シヤウ。之盛切 敬
いさむ、(諫)。○[戰]「士-尉以―二靖-郭-君一」。

【訸】呼に同じ、よぶ。

【訏】カウ、ゴウ。乎報切 號
あざむく、(欺)。

【訾】シ。蔣氏切 紙
㊀事に稱ふを思はざると、職を盡くすを圖らざると。○[爾]「翕-々―-―莫レ供レ職」。
㊁そしる、(毀)。○[禮]「不二苟―一」。
㊂にくむ、(惡)。○[管]「―レ食者不レ肥レ體」。
㊃ほしいまゝ、(恣)。○[荀]「以二不-俗一爲レ俗、離-蹤而跂―者也」。
〔詆訾〕そしる。○[漢]「大-抵―二-―聖-人一」。
〔毀訾〕前に同じ。○[管]「―二-―賢-者一之謂-訾」。
〔謗訾〕前に同じ。○[韓]「鄙人―-―」。
〔非訾〕前に同じ。○[白居易]「閒-人亦―-―」。
〔詬訾〕前に同じ。○[荊經]「千載貽二―-―一」。
〔沮訾〕はゞみそしる。○[唐]「爲二衆―-―一不レ得レ行」。

【訾】シ。郎支切 支
㊀おもふ、(思)。○[禮]「不レ―二重-器一」。
㊁はかる、(量)。○[漢]「擧二吳兵一以―二于漢一」。
㊂かぎる、(限)。○[管]「盡有二―-程事-律一」。
㊃病欲、きず。○[禮]「非二嘗之―一」。
㊄なに、なんぞ、(何)。○[揚雄]「謂レ何爲レ嘗、或謂二之―一」。
㊅呰に同じ、あゝ。○[漢]「―黄何其不二徠下一」。
㊆觜に通じ用ふ。○[康熙]「娵―-―北-方宿名、亦作二娵-觜一」。「郞」。
㊇貲に同じ、たから。○[漢]「以レ―爲レ郞」。

【訾】セイ、サイ。子禮切 薺
そしる、(誹)。

【訾】ソ、ス。宗吳切 虞
足―-―は、一種の獸。○[山海經]「見レ人則呼、其名足-―」。

【訿】訾に同じ。○[詩]「皐-々―-―」。

【詀】タン、テン。竹咸切 咸
㊀多言す、しやべる。
㊁たはむる、(謔)。
㊂語る聲はなしごゑ。

【詀】テン。他兼切 鹽
㊀―-讇は、ひく、(挐)。
㊁轉語す、いひまはす。
㊂巧に言ふ、うまくいふ。
㊃多言す、しやべる、ことばおほし。

【詀】タン、テン、陟陷切 陷
㊀和せざる貌にいふ字、やはらがず。
㊁誑を受く、たぶらかさる。

【詀】テフ。託協切 葉
㊀妄に言ふ。㊁佞言す、へつらふ。

【詀】セフ。叱涉切 葉
細語す、さゝやく。○[舊唐]「用二―-讇一爲二全-計一」。

【詁】コ、ク。果五切 遇
故言の意義を訓じ言ふにいふ字、とく、よむ、よみ、わけ。○[漢]「訓―通而已」。
〔解詁〕釋詁といふに同じ、ふるごとをときあかす。○[後漢]「休作二春-秋公-羊―-―一」。
〔訓詁〕古言のよみ。○[林景熙]「靡-靡亦或拘二―-―一」。

【誧】ホ、フ。普故切 遇
㊀いさむ、(諫)。
㊁布に通じ用ふ、しく。

【訉】ハン、ヘン。方凡切 咸
急言す、くちばやにいふ。

【詂】フ、ブ。符遇切 遇
言說の依るところあること。

【詃】ケン。古犬切 銑
㊀いざなふ、(誘)。㊁いつはる、(詐)。

【詄】テツ、デチ。徒結切 屑 イツ、イチ。弋質切 質
シ。矢利切 寘
㊀わする、(忘)。
㊁あやまる、(誤)。
㊂堅く清き狀にいふ字。○[漢]「天-門開―蕩-々」。

【詄】シ。矢利切 寘
こゝろざす、(志)。

【詄】セイ、ゼイ。時制切 霽
誓に通じ用ふ、ちかふ。

【詅】レイ、リヤウ。力丁切 青 力政切 敬
てらふ、(衒)、又、うる、(賣)。○[顏氏家訓]「江-南號爲二―-癡-符一」。

【[言厄]】アイ、エ。烏懈切 卦
聲の平かならざるにいふ字。

【詆】テイ、タイ。都禮切 薺 丁計切 霽
テイ、ダイ。田黎切 齊
㊀あばく、(訐)。○[宋]「面―二其短一」。
㊁しかる、(訶)。○[北]「更相訶―」。
㊂しふ、(誣)。○[漢]「除二誹-謗―-欺法一」。

四そしる、（毀）、はづかしむ、（辱）。○〔漢〕「巧言醜—・—」。
五要法、おくぎ。○〔淮〕「兵有三—・—二」。
〔巧詆〕たくみに志ふ。○〔漢〕「深・文—・—」。
〔深詆〕きびしくあばき志ふ。○〔漢〕「詆・文—・—」。
〔痛詆〕前に同じ。○〔史〕「以二深・文一—二—諸侯一」。
〔峻詆〕前に同じ。○〔宋〕「又面數二運・使深・文—・—一」。
〔靡詆〕いちくあばき志ふ。○〔漢〕「上疏—二—公・卿大臣一」。
〔排詆〕そしりはづかしむ。○〔北〕「性剛愎好—・—」。
〔毀詆〕前に同じ。○〔舊唐〕「好傳・罵—・—」。
〔顯詆〕あからさまにはづかしむ。○〔唐〕「后不レ平—二—之一」。
〔誣詆〕志ひそしる。○〔唐〕「數上・疏—・—」。
〔錄詆〕あばき志ふ。○〔唐〕「乘レ隙—・—」。
〔劾詆〕罪をあばきて上につぐ。○〔唐〕「惟—二—幸・臣一」。
〔醜詆〕そしる。○〔唐〕「數上・書—二—朝政一」。
〔面詆〕まのあたりそしる。○〔遼〕「必—二—之一」。

【詆】テキ、チヤク。他歷切 ［錫］
㊀ひがむ（僻）。㊁わるがしこし（獪）。

【⿰言民】ベン、メン。眠見切 ［霰］
誘ひ言ふ、くどく。

【詇】アウ。於亮切 ［漾］
知ろを早し、さとし。

【詇】アウ。於兩切 ［養］ エイ、ヤウ。於敬切 ［敬］
㊀前條に同じ。㊁つぐ（告）。㊂とふ（問）。

【詇】嗌に同じ。

【訲】ケイ、カイ。馨奚切 ［齊］
喜び笑ひて止まざる貌にいふ字。

【訳】シ。章移切 ［支］ 掌氏切 ［紙］
㊀さゝのふ（詞）。㊁いふ（謂）。

【詈】リ。力智切 ［寘］
惡言す、のゝしる、特に、其の人を正しく指さずしてのゝしるにいふ字。○〔禮〕「怒不レ至レ—」。
〔怨詈〕うらみ罵る。○〔書〕「小人—レ汝—レ汝」。
〔罵詈〕のゝしる。○〔史〕「—二—諸侯羣臣一如レ罵二奴耳一」。
〔詛詈〕のろひのゝしる。○〔書〕「—二—王師一」。
〔怒詈〕いかりのゝしる。○〔吳〕「動—二—統及其父操一」。
〔恚詈〕前に同じ。○〔宋〕「—・—形二于辭色一」。
〔肆詈〕こゝろのまゝにのゝしる。○〔南〕「—・—二上席一」。
〔訶詈〕志かりのゝしる。○〔魏〕「然—二—董・僕、晉雖二衷・寡一」。
〔詬詈〕はづかしめのゝしる。○〔魏〕「—・—無レ節」。
〔瞋詈〕めをいからしてのゝしる。○〔北齊〕「逆即「—・—」。
〔嘲詈〕あさけりのゝしる。○〔韓維〕「衆口沸二—・—一」。

【詉】呶に同じ、○〔舊唐〕「以二號—・—一爲二令・德一」。

【詉】ダ、ネ。女加切 ［麻］
㊀言の解すべからざるにいふ字。㊁語る貌にいふ字。㊂羞ぢ窮まる、はづ。

【詉】ド、ヌ。奴故切 ［遇］
惡しく言ふ、そしろ、のゝしる。

【詉】ダ、ネ。乃嫁切 ［禡］
いつはる（詐）。

【詊】ハン。普半切 ［翰］
巧に言ふ。

【⿰言戉】シ。七賜切 ［寘］ キ。奇寄切
はかる（謀）。

【⿰言号】号に同じ。

【詋】呪に同じ。

【詌】カン、コン。古暗切 ［勘］
口を閉づるを、默するを。○〔荀〕「無レ取レ—、—亂也」。

【詍】エイ。余制切 セイ、ゼイ。時制切 セツ、セチ。私列切 ［屑］
多言するにいふ字、ことばおほし、志やべる。○〔荀〕「辨二利・非一以言レ是則謂二之—一」。

【詎】キヨ、ゴ。其呂切 ［御］
㊀反語をなすに用ふる字、豈と意を同じくす、なんぞ、なんすれぞ。○〔後漢〕「天下—可三知而閉二長者一乎」。㊁やむ（止）。㊂いたる（至）。
〔庸詎〕なんぞ、なんすれぞ。○〔莊〕「—・—知二吾所レ謂大之非一レ人乎」。

【詏】アウ、エウ。於敎切 ［效］
さかふ（逆）。

【⿰言冉】ゼン、ネン。而豔切 ［豔］
言多くして盡きざるにいふ字。

【詑】訑に同じ。

【訑】詑に同じ。

【詐】サ、セ。側嫁切 ［禡］
㊀信實ならざる言行あるにいふ字、いつはる、いつはり。○〔說苑〕「巧—不レ如二拙・誠一」。
㊁いつはりを以て他を惑陷するにいふ字、あざむく、たぶらかす。○〔禮〕「知者—レ愚」。
㊂をはる（卒）。○〔公羊〕「—戰不レ日」。
〔行詐〕いつはりをおこなふ。○〔論〕「久矣哉由之行レ—也」。
〔愚詐〕おろかにして正直ならざること。○〔論〕「今之—也—而已矣」。「—・—哉」。
〔謀詐〕いつはりのはかりごと。○〔史〕「天下尤趨二—・—一」。
〔權詐〕前に同じ。○〔韓愈〕「世路多二—・—一」。
〔設詐〕いつはりのてだてをたくむ。○〔史〕「果—レ—誑二燕・趙一」。「中二」。
〔巧詐〕たくみにいつはる。○〔淮〕「—・—藏二於胸中二」。
〔夸詐〕いつはり。○〔漢〕「齊—・—多レ變」。
〔變詐〕前に同じ。○〔史〕「齊地多二—・—一」。
〔姦詐〕よこしま。○〔漢〕「作二爲—・—一」。
〔懷詐〕いつはりを心にもつ。○〔史〕「—レ—飾レ智」。
〔多詐〕いつはりすくなからず。○〔史〕「齊人—レ—而無二情・實一」。「策二者上」。
〔謫詐〕いつはる。○〔晉〕「將帥有レ欲レ溝二—・—之」。
〔詭詐〕前に同じ。○晉「遇二—・—一而取二寵・榮一」。
〔矯詐〕ためいつはる。○〔魏〕「內懷二—・—一」。
〔諂詐〕こびいつはる。○〔唐〕「居レ官—・—貪・濁」。

【詒】イ。與之切 ［支］
㊀あざむく（誑）。○〔徐幹〕「骨・肉相—、朋・友相詐」。
㊁他に遺る、おくる。○〔左〕「使レ—二子・產書一」。
㊂後に傳ふ、のこす。○〔詩〕「—二厥孫・謀一」。
四誒—は、疑ふ疾、又、懈り倦む貌にも、魂魄を失ひ氣ぬけする貌にもいふ語。○〔莊〕「誒—爲レ病數・日」。

【詒】イ。羊吏切 [寘]
おくる、(遺)、あたふ、(貺)。○〔左〕「無レ不ニ遺ー一也」。

【詒】タイ、デ。徒亥切 [賄]
あざむく(欺)。○〔列〕「狎-侮欺ーー」。

【詉】ド、ヌ。乃故切 [遇]
急しく惡言す、そしろ、のゝしろ。

【詓】キヨ、コ。口舉切 [語]
こゑ(聲)。○〔白虎通〕「臥之ーー」。

【詔】セウ。之少切 [嘯]
㊀贊け勵ます、敎へ導く、たすく、おしふ、みちびく、つぐ。○〔周〕「以ニ八-柄一ーレ王、馭ニ羣-臣一」。
㊁君王の命令、あふせ、みことのり。○〔漢〕「不レ聞ニ天-子ー一」。
㊂播告の文書、ふれ、ふれぶみ。○〔文心雕龍〕「三曰、ー-書ー-告」。
㊃南蠻の王號。○〔唐〕「渠-帥有レ六、自號ニ六ーー一」。

〔待詔〕帝王の命令をまつ、又、官の名。○〔漢〕「昨-聞レ狗不レーー」。
〔明詔〕あきらかなるみことのり。○〔董仲舒〕「陛-下發ニ德-音一、下ニーー一」。
〔矯詔〕みことのりなりといつはる。○〔漢〕「後果有レ告ニ矯ーレー開ニ宮-門一」「而已」。
〔拜詔〕みことのりをうく。○〔北齊〕「羣-吏ーレー」。
〔奉詔〕前に同じ。○〔史〕「然後ーレー」。
〔承詔〕前に同じ。○〔漢〕「持レ節ーレー入ニ北-軍一」。
〔制詔〕みことのり。○〔唐〕「言ニーー一者」。
〔璽詔〕みことのりの尊稱。○〔漢〕「奉ニ承太-后ーー一」。
〔玉詔〕前に同じ。○〔晉唐〕「ーーー新除沈-侍-郎」。
〔優詔〕てあつきみことのり。○〔後漢〕「ーー不レ聽」。
〔手詔〕帝王自筆のみことのり。○〔後漢〕「ーーー賜レ着」。
〔布詔〕みことのりをしく。○〔宋〕「ーニーー天-下一」。
〔發詔〕みことのりをいたす。○〔晉〕「ーレー擢ニ爲太-子洗-馬一」「勞」。
〔璽詔〕御印をおしたる詔書。○〔唐〕「降ニーー一」。
〔草詔〕詔書をつくる。○〔翰林志〕「學-士于ニ禁-中一ーレー」「切-至」。
〔嚴詔〕きびしきみことのり。○〔魏武帝〕「ーーー」。
〔垂詔〕みことのりをくだす。○〔曹植〕「願陛-下沛-然ーレー」。
〔恩詔〕なさけを加へたるみことのり。○〔羊祜〕「伏聞ニーー一」「ーーー一」。
〔擯詔〕賓主をみちびきたすくると。○〔禮〕「禮有ニーー一」。
〔尺一詔〕詔書のことにてむかしは一尺の板にみことのりを寫したるよりいふ。○〔呉均〕「手擧ニーーー一」。

【詔】セウ、ゼウ。市召切 [嘯]
賓と主との紹介者。○〔禮〕「有ニ擯-ー一」。

【詔】セウ。之遙切 [蕭]
みちびく(誘)。

【⿰言包】ハウ、ボウ。蒲褒切 [豪]
ー譗は、亂語す。

【⿰言弗】ヒ。方味切 [未]
㊀言急なり、ことばはやし。
㊁多言す、ことばおほし。

【訦】ケツ、ケチ。呼決切 [屑] ケツ、クワチ。許月切 [月]
いかる(怒)、しかる(呵)。

【評】ヘイ、ビヤウ。符兵切 [庚]
㊀はかる。(い)是非を論定す、あげつらふ。○〔新論〕「ー者所ニ以繩レ理也」。(ろ)品格を論定す、しなさだめす。○〔唐〕「互相譏ー」。
㊁しなさだめ、論定。○〔南〕「著ニ詩ー一」。
〔公評〕ただしき品論。○〔王休〕「ーー在レ人兮何恩何讐」。
〔細評〕こまかき品論。○〔范成大〕「新-詩莫ニーー一」「ーー」。
〔嘲評〕あざけり譏す。○〔范浚〕「詭-情懷レ祿遭ニーー一」。
〔苛評〕品論に酷なると、又、殘酷なるしなさだめ。○〔劉克莊〕「ーニ於ー一而議ニ於敎一」。
〔巽評〕めづらしき品論。○〔劉克莊〕「誰料槖-中有ニーー一」。
〔月旦評〕人物のしなさだめ。○〔後漢〕「好覈ニ論鄕-黨人-物一、毎-月輒更ニ其品-題一、故汝-南俗有ニーーー一焉」。

【詖】ヒ。彼義切 [寘]
㊀正しからず、ねぢく、かたよる、偏陂、佞邪。○〔孟〕「ー-辭知ニ其所レ蔽」。
㊁性質險凶にして言行慧敏なり、わるさかし、わるがしこし。○〔宋〕「以ニ傾ー-之行一、竊ニ忠-直之名一」。
〔險詖〕わるさとし。○〔宋〕「趙-資性ーー辯-給」。

【⿰言尼】デイ、ナイ。奴奚切 [齊]
人を呼ぶ、よぶ。

【⿰言尼】ヂ、ニ。女履切 [紙]
言ひて人に示す、つぐ。

【⿰言尼】デイ、ナイ。乃計切 [霽]
言通ぜず。

【詗】ケイ、キヤウ。火迥切 [迥]
㊀刺探す、伺候す、うかゞふ、さぐる。○〔唐〕「竊ニ一ー時-事一」。
㊁明悟す、知了す、さとる。
㊂もとむ(求)。

【詗】ケイ、キヤウ。虚政切 [敬]
前條の㊀に同じ。○〔漢〕「爲ニ中ーー長-安一」。

【詘】クツ、コチ。區勿切 [物]
㊀まぐ。
(い)屈曲す、かゞむ。○〔荀〕「ーニ五-指一而頓レ之」。
(ろ)伏從す、したがふ。○〔戰〕「ーニ敵-國一」。
(は)枉む。○〔呂氏春秋〕「宋-王因怒而ーニ殺之一」。
(に)縮む。○〔史〕「君-子ーニ於不レ知レ己、而信ニ於知レ己者一」。
(ほ)卷く。○〔禮〕「陳レ衣不レー」。
(へ)詰問す、さひつめる。○〔劉向〕「莫ニ能ーニ其辭一」。
(と)辭塞がる、さしつまる。○〔戰〕「於レ是魏-王聞ニ其言一也甚ー」。
㊁つく(盡)。○〔漢〕「微レ欲受レー」。
㊂絶え止む貌にいふ字。○〔禮〕「ー-然樂也」。
㊃喜びの情の外にあらはるゝ貌にいふ字。○〔禮〕「敬以ー」。
㊄かへりて(反)。○〔戰〕「ー令ニ韓-魏歸ニ帝重於秦一」。
〔充詘〕よろこびて節を失ふ貌にいふ語。○〔禮〕「不レーニー於富-貴一」。
〔俛詘〕かゞまりふす。○〔楚辭〕「ーーー以自抑」。
〔詰詘〕かゞまりてのびず。○〔王逸〕「思哽-噎兮ーー」。
〔抑詘〕おさへしりぞく。○〔荀悦〕「ーニー百-家一」。

【詘】黜に同じ、しりぞく。○〔戰〕「秦勢能ーレ之」。

【詘】 訥に同じ。

【詙】 ハツ、バチ。蒲八切 黠
人の名。○〔史〕「曰二聽——一」。

【詛】 ショ、ソ。莊助切 御　ス、ソ。遭遇切 遇
㊀のろふ。
(い)殃咎を加へんを神明に禱るにいふ字。○〔書〕「厥口——祝」。
(ろ)既往に生ぜし事の沮敗せんを求むるにいふ字。○〔周〕「掌二盟——之祝・號一」。
㊁怨謗す、うらむ、そしろ。○〔後漢〕「匈・詈腹——」。
〔怨詛〕うらみのろふ。○〔後漢〕「延既——」。

【詚】 タツ、タチ。當拔切 曷
兜——は、靜かならず。

【設】 タウ、トウ。土刀切 豪
㊀言語節あらず、みだる。
㊁往來して言ふ。
㊂小兒の語りて止まざるにいふ字。

【許】 忬に同じ。

【詒】 詒に同じ、又、貽に通じ用ふ。

【詞】 シ、ジ。似茲切 支
㊀告ぐ、說く、言ふ。○〔禮〕「其——二于賓一曰」。
㊁言語、字句、ことば。○〔公羊〕「春・秋之信・史也、其——則丘有レ罪焉爾」。
㊂詩文、辭章。○〔舊唐〕「——人稱首也」。
〔活詞〕はたらきあることば。○〔劉知幾〕「王・充門・聖人——、爲二自・己所・句一」。
〔祝詞〕よろこびのことば。○〔唐樂章〕「——以信」。
〔報詞〕こたへのことば。○〔白居易〕「經・年無二——一」。
〔恨詞〕うらみのことば。○〔朱熹〕「臨・人留二——一」。
〔雅詞〕正しきことば。○〔元好問〕「簾・下歌・舞盡——」。

【詉】 ダ、ヌ。女加切 麻
絲——は、語解せず、わからず。

六畫

【詠】 エイ、ヤウ。爲命切 敬
㊀言を永くす、聲を引く、ひく。○〔禮〕「歌——二其聲一也、舞動二其容一也」。
㊁うたふ。
(い)聲をひき調をなして詩歌を誦す。○〔禮〕「人喜則斯陶々斯——」。
(ろ)鳥の鳴くにいふ字。○〔陸機〕「耳悲——二時・禽一」。
(は)詩歌に作り述ぶ。○〔袁宏〕「君・臣之際頁可レ——矣」。
㊂うたふこと、うたふ詞章、うた。○〔劉向〕「雅・頌歌——以思二其德一」。
〔謠詠〕うたふ。○〔晉〕「百・姓——二——北殷・實一」。
〔談詠〕かたりうたふ。○〔蜀〕「——二——厥辭一」。
〔觴詠〕酒をのみてうたふ。○〔陳高〕「幽・情寄二——一」。
〔吟詠〕詩歌などをうたふ。○〔詩、譜〕「謳・歌——」。
〔詩詠〕詩歌などのこと。○〔南〕「所レ至輒爲二——一、以致二其意一」。
〔玩詠〕めでうたふ。○〔魏〕「皆爲二世所一——」。
〔愛詠〕前に同じ。○〔北〕「齊人——」。
〔賞詠〕前に同じ。○〔宣和畫譜〕「莫レ不二——一」。
〔遺詠〕古人のよみのこしたるうた。○〔白居易〕「——思二蘋・洲一」。
〔流詠〕ひろくつたへうたふ。○〔晉〕「謳・歌——」。
〔嘯詠〕うそぶきうたふ。○〔馬祖常〕「——參顯雄」。
〔諷詠〕なぞらへうたふ。○〔晉〕「故優・游——」。
〔高詠〕聲たかくうたふ、又、他人の歌をたふとびすゝるにいふ語。○〔江總〕「——二七・哀詩一」。
〔誦詠〕詩文などをそらんじうたふ。○〔晉〕「——不レ廢」。
〔賦詠〕詩歌などをつくる。○〔南〕「淸言——」。
〔傳詠〕各人の聞につたはりうたふ。○〔北〕「大爲二時・人——一」。
〔舞詠〕まひとうたと。○〔王儉〕「功昭二——一」。
〔短詠〕ながからざるうた。○〔梁簡文帝〕「時——」。
〔嗙詠〕はめうたふ。○〔徐簡〕「遠・近——」。
〔朗詠〕聲はがらかにうたふ。○〔高適〕「——臨二淸・秋一」。

【詡】 ク、コ。況羽切 麌
㊀あまねし、（遍）、やはらぐ、（和）。○〔禮〕「德發・揚——二萬・物一」。
㊁ほこる、（誇）、おほいなり、（大）。○〔漢〕「尙泰奢・麗誇——」。
㊂應對敏捷にして勇あると、言語明了にして意氣壯んなると。○〔禮〕「會・同主レ——」。

【詢】 シユン。相倫切 眞
㊀はかる、（謀）、とふ、（咨）。○〔書〕「——レ事考レ言」。
㊁まこと、（信）。○〔爾〕「信也、〔註〕「宋衞曰レ——」。
〔咨詢〕とひはかる。○〔詩〕「周爰——」。
〔博詢〕ひろくとひはかる。○〔後漢〕「——二可・否一」。
〔細詢〕こまかにとひはかる。○〔宋无〕「佳・音欽二——一」。

【詤】 クワウ、ワウ。呼光切 陽
夢言、ねごと。

【詤】 クワウ、ワウ。虎晃切 養
㊀前條に同じ。㊁ぼける、（怳）。

【詣】 ケイ、ガイ。五計切 霽
候を經て到る、漸を追ひて達す、ゆく、すゝむ、まふづ、いたる、又、學識才能の發達にもいふ字、いたる。○〔史〕「——二長・安一」。
〔馳詣〕はせいたる。○〔漢〕「——二闕・下一」。
〔奔詣〕前に同じ。○〔唐〕「寧——二行・在一」。
〔指詣〕往きいたる。○〔晉〕「鄕——、丞・相一」。
〔參詣〕前に同じ。○〔晉〕「咸躬往——」。
〔徑詣〕すぐにいたる。○〔晉〕「——二長・安一」。
〔前詣〕すゝみいたる。○〔晉〕「可下——二軒・下一使中侍・中宣・冊上」。
〔率詣〕輕率なること。○〔晉〕「其——如レ此」。
〔重詣〕ふたゝびゆく。○〔晉〕「遂不二——一」。
〔造詣〕學業深く入るにいふ語。○〔唐〕「咸——嶄・邃」。
〔險詣〕精神行爲などの溫和ならざること。○〔南〕「其——皆類レ此也」。
〔行詣〕すゝみゆく。○〔南〕「不レ妥——」。
〔尋詣〕たづねいたる。○〔北〕「親・朋——」。
〔識詣〕見識のこと。○〔唐〕「惟——魁・然有二國・鄰一」。
〔來詣〕きたる。○〔權神錄〕「——二——林一」。
〔競詣〕きそひいたる。○〔松江集〕「百・姓——レ拇」。
〔遊詣〕あそびにきたる。○〔陶潛〕「斑・白歡——」。
〔徵詣〕官にめされいたる。○〔梁簡〕「——二京・師一」。
〔精詣〕くはしく學業などのみちに入る。○〔劉克莊〕「蓋——不レ減二於楷・渠一」。

【詥】 カフ、コフ。侯閤切 合
㊀かなふ、（諧）。㊁會まり言ふ。

【詉】 ダ、ヌ。女加切 麻
ひく、（挐）。

【試】 シ。式吏切 寘

こゝろみる、こゝろみ。
(い)ためす、(驗)。○〔書〕「明—以レ功」。
(ろ)さぐる、(探)。○〔戰〕「臣請—レ之」。
(は)用ふ。○〔禮〕「刑不レ—而民咸服」。
〔面試〕まのあたりこゝろむ。○〔魏〕「願當二——一」。
〔講試〕究めさぐる。○〔史〕「未レ遑二——一」。
〔考試〕はかりこゝろむ。○〔禮、疏〕「視レ學謂二——一學者經業」。「罰」。
〔校試〕前に同じ。○〔唐〕「——不レ以レ實者皆有レ
〔嘗試〕こゝろむ。○〔孟〕「請——之」。
〔小試〕すこしくためす。○〔吳越春秋〕「兵法寧可二以——一耶」。
〔都試〕兵士などを檢閲す。○〔漢〕「及二——一講レ武」。
〔課試〕こゝろみためす。○〔魏〕「博士——」。
〔量試〕はかりためす。○〔後漢〕「——作レ堅」。
〔選試〕官にえらび用ふ。○〔後漢〕「天子每——」。
〔策試〕策問を發し士をこゝろむ。○〔後漢〕「舊事——博士」。
〔閱試〕しらべためす。○〔後漢〕「——音節」。
〔覈試〕前に同じ。○〔宋〕「朝廷每設——之法」。
〔謁試〕はかりためす。○〔齊〕「上輒令下兎于鄧林中——之上」。
〔按試〕前に同じ。○〔宋〕「立レ格——」。
〔覆試〕すでにこゝろみたるものを再びこゝろむ。○〔唐〕「——多不レ中」。
〔御試〕帝王みづからこゝろむ。○〔王禹偁〕「——拜二丹墀一」。

【訣】俗の詇の字。

【詍】諛に同じ。

【𧦝】シ。診視切 紙 あばく、(訐)。

【𧧀】キ。几利切 寘 あばく、(訐)。

【𧦷】ジン、ニン。如林切 侵 ㊀まこと、(信)。㊁おもふ、(念)。

㊂かまびすし、(譊)。㊃喉の聲にいふ字。㊄多言す、ことばおほし。

【詤】バウ、マウ。無放切 漾 あざむく、(誑)。

【𧦧】シ。疏吏切 寘 わする、(忘)。

【諌】古文の諫の字。

【詯】タイ、テ。都回切 灰 せむ、(譴)。

【詧】サツ、サチ。楚八切 黠 察す、みる、あきらかにす。○〔史〕「繆公與二由余一曲席而坐、問二其地形一與二兵勢一、盡詧而後、令下內史廖以二女樂二八一遺中戎王上」。

【詧】詧に同じ。

【詨】叫、嗃に同じ、さけぶ、よぶ。○〔北〕「忽聞二局上——然有一レ聲」。

【詩】シ。書之切 支 ㊀句の末に韻を履みて音樂にのぼせうたふ詞章。○〔周〕「教二六——一」。㊁音樂の調子をさゝのふる譜章。○〔荀〕「——者中聲之所レ止也」。㊂承け持つ、さゝぐ。○〔禮〕「寢門外——負レ之」。
〔矢詩〕志をのべいふ。○〔詩〕「——不レ多」。
〔陳詩〕前に同じ。○〔禮〕「命二太師——一」。
〔誦詩〕志をそらんじよむ。○〔禮〕「——三百」。
〔采詩〕志をとりあつむ。○〔漢〕「古有二——之官一」。
〔惡詩〕たくみならざるからうた。○〔唐國史補〕「德宗曰、此——何用レ進」。「——」。
〔新詩〕新作のからうた。○〔張華〕「貝朋貽二——一」。
〔舊詩〕むかしつくりたるからうた。○〔白居易〕「獨行吟二——一」。
〔六詩〕六種の體、即ち、賦比興の三體と風雅頌の三目とをいふ。○〔周〕「太師教二——一」。
〔好詩〕志をこのむ。○〔漢〕「燕趙間——」。
〔工詩〕志をたくみにつくる。○〔唐〕「王昌齡——」「昭二——一」。
〔嘉詩〕よくつくりたるからうた。○〔詩疏〕「二子——」。

【詩】誅に同じ。○〔荀〕「審二——商一」。

【詪】コン。口很切 コン、下懇切 ゴン。切 阮 ㊀もさる、(很)。㊁かたる、(語)。㊂語り難き貌にいふ字。

【詪】ケン、ゲン。胡典切 銑 爭語す、あらそふ。

【誃】タ。都唾切 箇 言葉もて相誇る、ほこる。

【託】タク、ダク。闥各切 藥 そしる、(毀)。

【詫】タ、テ。丑亞切 禡 ㊀あざむく、(誑)。○〔唐〕「思明—曰、朝義怯レ不レ能レ成二我事一」。㊁ほこる、(誇)。○〔宋〕「必列二歩騎一以自誇——」。

【詑】詫に同じ。

【𧧆】グワイ、ゲ。五咼切 佳 おこたる、(惰)。

【詬】コウ、許候切 宥 グ。切 コウ、胡口切 有 グ。切 ㊀恥辱す、はづかしむ。○〔禮〕「常以レ儒相—病」。「之不レ行」。㊁罵詈す、のゝしる。○〔左〕「曹人—レ之」。㊂怒言す、いかる。○〔唐〕「君雅—曰、反レ人欲レ殺レ我耳」。㊃恥辱、はづかしめ、はぢ。○〔屈平〕「忍レ尤而攘レ—」。㊄巧に言ふ、いひまはす。
〔眞詬〕志節なきこと。○〔漢〕「——亡レ節」。
〔答詬〕むちうちはづかしむ。○〔唐〕「敗——」。
〔威詬〕おどしのゝしる。○〔唐〕「——羣兇」。
〔讙詬〕かまびすしくのゝしる。○〔五〕「兩人遂相——」。
〔含詬〕恥辱を心にもつ。○〔路溫舒〕「國君含——」。
〔晉詬〕のゝしりせむ。○〔陸龜蒙〕「往々逢二——一」。
〔嘲詬〕あざけりのゝしる。○〔陸游〕「兩耳厭二——一」。
〔尤詬〕とがめはづかしむ。○〔倪瓚〕「尋避二——一」。

【詭】キ。過委切 紙 ㊀せむ、(責)。○〔漢〕「自—レ效レ功」。㊁いつはる、(詐)、あざむく、(欺)。○〔穀梁〕「——辭而出」。㊂あやし、(怪)。○〔莊〕「其名爲二弔——一」。㊃ことなり、(異)。○〔後漢〕「殊レ形—レ制」。㊄たがふ、(違)、又、もとる、(戾)。○〔漢〕「有レ所レ——二於天之理一與」。㊅そしる、(毀)。○〔後漢〕「固之序レ事不二激——一」。㊆妄なること。○〔詩〕「無レ縱二——一隨」。㊇正しからざること。○〔孟〕「爲レ之——遇」。㊈變化あること。○〔張衡〕「瑰異譎——」。
〔澆詭〕輕薄にしていつはる。○〔唐〕「——日滋」。
〔烱詭〕前に同じ。○〔元〕「而民情——」。
〔卓詭〕すぐれてことなる。○〔漢〕「此非言必——」。

一切·至當ニ神心ニ若と。「一ニ。

〔奇詭〕めづらしく他に異なる。○〔唐〕「謀有ニ一一ニ」。○〔異物志〕「形·醜一一」。

〔特詭〕いたく他に異なりてめづらし。

〔虚詭〕うそいつはり。○王僧孺「方知ニ一一」。

〔怪詭〕ふしぎなること。○〔殷成巳〕「百·態呈ニ一一ニ。

〔瑰詭〕ふしぎなること。○〔張種〕「峯崖刻·削窮ニ造化之一一ニ。

〔雄詭〕すぐれたること。○〔張九齡〕「天·骨一一」。

【詸】キク、許六切　チク、丑六切　コク。トク。屋

香を聞く貌にいふ字。

【詮】セン。此緣切　先

㊀事理の歸著、のり、道樞。○〔淮〕「發必中レ一、言必合レ數」。

㊁つぶさに事理を說く、とく、さとす。○〔晉〕「文·帝數與ニ一論」。

㊂えらぶ、（擇）。○〔吳越春秋〕「惟夫·子一ニ斯義一也」。

㊃そなふ、そなはる、（具）。

㊄たひらか、（平）。

〔言詮〕いひとく。○〔張說〕「心·黯豈一一」。

〔評詮〕擇びはかる。○〔袁楠〕「萌·鑑勞ニ一一ニ。

【詯】クワイ、エ。荒內切　隊

㊀膽氣滿つ、いさむ。

㊁市を休む、やすむ。

㊂胡市、えびすのいち。

㊃決めたる後悔ゆ、くゆ。

【詟】リヤク、ラク。離灼切　藥

歎美する言、ほめことば。

【詉】レイ。力制切　霽

言笑す、さゞめく。

【詸】セキ、ジヤク。前歷切　錫

人聲の絕えたるを、志づか、（靜）。

【詀】哂に同じ。

【詰】キツ、キチ。去吉切　質

㊀なじる。

（い）罪を問ふ、たゞす。○〔書〕「一ニ爾戎·兵ニ」。

（ろ）責め問ふ、せむ。○〔史〕「一レ弘」。

㊁つゝしむ、（謹）、いましむ、（禁）。○〔周〕「以一ニ邦·國ニ」。

㊂かゞむ、（屈）。○〔晉〕「不レ能レ數ニ其一屈ニ。

㊃誤りて詰に通じ用ふ。○〔左〕「一·朝「相見」。

〔辯詰〕せめなじる。○〔後漢〕「桓·帝使ニ中常·侍王·甫以レ次一一ニ「北寇ニ。

〔窮詰〕どこまでも責めなじる。○〔後漢〕「郎一ニ一一ニ。

〔究詰〕前に同じ。○〔唐〕「未ニ嘗一一ニ。

〔難詰〕ことむつかしくなじる。○〔北〕「隨レ事一一」。

〔訶詰〕ホかりなじる。○〔北〕「仲·文逐一ニ一杜·氏ニ。「之」。

〔密詰〕秘密に責めたゞす。○〔五〕「乃屏レ人一一」

〔面詰〕まのあたりなじる。○〔宋〕「必一ニ一之ニ。

〔彈詰〕他人のあやまちなどをたゞしなじる。○〔蘇轍〕「杜レ口謝ニ一一ニ。

【話】クワイ、エ。胡卦切　卦　クワ、ゲ。胡化切　禡

㊀はなす、かたる。

（い）語り聞かす、つぐ、いふ。○〔書〕「乃一ニ民之弗レ率」。

（ろ）互に語る。○〔世說〕「飮レ酒言一「一」。

㊁はなすを、はなす所、はなし、ものがたり、特に、其の善意なるものにいふ字。○〔左〕「著ニ之一言ニ。

㊂さゝのふ、（調）。

㊃はづ、（恥）。

㊄をさむ、（治）。

〔嘉話〕善言のこと。○〔張協〕「敬聽ニ一一ニ。

〔情話〕情實あるものがたり。○〔陶潛〕「悅ニ親戚之一一ニ。

〔談話〕ものがたる、又、ものがたり。○〔北齊〕「一坐無ニ復一一者ニ。

〔閑話〕のどやかなるはなし、又、靜にかたる。○〔陸游〕「一一更レ端茶蜜熟」。

〔靜話〕前に同じ。○〔白居易〕「一一開レ襟久」。

〔款話〕ホたしみかたる。○〔吳莘雜識〕「飮ニ與レ鄉一一一ニ。

〔良話〕よきはなし。○〔陶潛〕「一一易レ聞」。

〔佳話〕前に同じ。○〔晁補之〕「貧·卷開ニ一一ニ。

〔清話〕塵俗をはなれたるはなし。○〔岑參〕「一一一ニ。

〔燕話〕宴席のものがたり。○〔白居易〕「清·宵陪ニ病能除」。

〔面話〕相對してかたる。○〔賈島〕「相·思堪ニ一一ニ「央」。

〔對話〕前に同じ。○〔薩都刺〕「山·僧一一夜來レ一ニ。

〔細話〕ことこまかきはなし。○〔方千〕「論ニ君一一勝ニ家·書ニ。

〔淨話〕佛法のものがたり。○〔鄭谷〕「幾思レ聞ニ一「一ニ。

〔俗話〕世俗のものがたり。○〔杜荀鶴〕「洞·裏客來無ニ一一ニ。

〔舊話〕ふるきはなし。○〔劉克莊〕「涉レ世昏々忘ニ一一ニ。

【該】カイ、ケ。古哀切　灰

㊀そなふ、そなはる、（備）、のす、（載）、かぬ、（包）。○〔穀梁〕「此一之變而道レ之」。

㊁みな、（皆）、ことごとく、（盡）。○〔揚雄〕「萬·物一·兼」。

㊂物事の當然、あたる、あたりまへ。○〔正字通〕「事應レ如レ此曰レ一」。

㊃軍中の約束、ちぎり。

㊄さかんなり、（盛）。

〔兼該〕かねそなふ。○〔隋〕「理レ不ニ一一ニ。

〔備該〕前に同じ。○〔畫錄〕「一一妙·絕」。

〔遍該〕あまねくかぬ。○〔晉〕「一ニ一百·氏ニ。

〔淹該〕ことごくかぬ。○〔唐〕「啖·助一ニ一經·術ニ。

【詳】シヤウ、ザウ。似羊切　陽

㊀つまびらか。

（い）つぶさに語ること。○〔詩〕「中·冓之言、不レ可レ一也」。

（ろ）ことごとく明かなること、くはしく悉くしたること。○〔穀梁〕「一ニ其事ニ。

（は）周きを、備はれること、密なること。○〔荀〕「一則擧レ小」。

㊁あまねく、ことごとく、つまびらかに。○〔漢〕「一延ニ天·下方·聞之士ニ。

㊂よし。

（い）惡しからず。○〔易〕「不レ一也」。

（ろ）善く心を用ふるにいふ字。○〔公羊〕「不レ赦レ不レ一」。

（は）吉なり、めでたし。○〔左〕「一以事レ神」。

〔精詳〕ことこまかくつまびらかなること。○〔宋〕「最爲ニ一一ニ「禮ニ。

〔審詳〕つまびらかなり。○〔禮、疏〕「若能一ニ一於

〔寬詳〕ゆるやかにあきらかなること。○〔後漢〕「用レ心務在ニ一一ニ。

〔端詳〕たゞしく善し。○〔北〕「容·止一一」。

〔姸詳〕うつくしく善し。○〔曹植〕「行·婉·密而一一」。

〔沈詳〕おちつき靜にして善し。○〔神女賦〕「性一「一而不レ煩」。

【詳】佯に通じ用ふ、いつはる。○〔史〕「箕·子一·狂爲レ奴」。

【詴】ワイ、エ。烏回切　灰　クワイ、エ。戸賄切　賄

人を呼ぶ、よぶ、又、呼ぶ聲にもいふ字。

【詵】シン。所臻切　眞　セン。先見切　霰

㊀さふ、（問）。

㊁衆人言ふ、いふ。

㊂衆多、おほし、いろ〳〵。○[詩]「螽-斯羽——兮」。㊃和ぎ集まる貌にいふ字。○[陳]「後-進——」。

【訾】 啙に同じ。

【誎】 シ。七賜切 寘
其の過を數へ諫む、いさむ。

【詶】 シウ、ジユ。市流切 尤
答へ言ふ、いらふ、こたふ、いらへ、こたへ。○[後漢]「亦號-咷以——レ沓」。

【詶】 呪に同じ、のろふ。

【詷】 トウ、徒紅切 東　ヅ。杜孔切 董
共同、さも。○[古本、書]「在二夏-后一之——」。

【謥】 トウ、ヅ。徒弄切 送
謥——は、言の急なるにいふ語、くちはやし。○[後漢]「輕-澌謥——」。

【訹】 シユツ、シユチ。雪律切 質
㊀しづか、(靜)。㊁恤に同じ。

【𧦝】 チウ、チユ。陟由切 尤
多言す、しやべる、ことばおほし。

【詸】 謎に同じ。

【𧦧】 シ、ジ。疾置切 寘
なづく、(謚)。

【詹】 セン、ソン。職廉切 鹽
㊀多言す、ことばおほし、しやべる。○[莊]「大-言炎-々、小-言——」。㊁いたる、(至)。㊂たる、たす、(給)。○[詩]「晉-邦所レ——」。○[漢]「——事秦官」。㊃瞻に通じ用ふ、みる。○[史]「顧——二有-河一」。㊄蟾に通じ用ふ。○[淮]「月照二天-下一蝕二於——諸一」。㊅占に通じ用ふ。○[屈平]「往見二大-卜鄭——尹一」。

【詯】 キウ、グ。巨九切 有
そしる、(毀)。

【詺】 ベイ、ミヤウ。彌病切 敬
名目を附す、なづく。○[唐]「合二雜-家別-錄一註二——之一」。

【詽】 ケン。呼堅切 先
㊀あらそふ、(諍)。㊁かまびすし、(囂)。㊂しかる、(訶)。㊃いかる、(怒)。

【詽】 テン。地前切 先
訶る貌にいふ字。

【詽】 ガン、ゲン。牛閑切 刪
㊀うつたふ、(訟)。㊁あらそふ、(爭)。

【詻】 ガク、ギヤク。五陌切 陌
㊀論訟す、いひあらそふ。○[墨子]「分-議者延-々、支-苟者——」。㊁辭氣の厲しきにも、教令の嚴なるにもいふ字。○[禮]「言-容——」。

【詻】 リヤク、ラク。力灼切 藥
㊀こゑ、(聲)。㊁うつたふ、(咯)。

【詼】 クワイ、ケ。苦回切 灰
調戲す、譏嘲す、たはむる、あざける。○[漢]「枚-皐——笑類二俳-倡一」。(俳詼) 戲謔のこと。○[歐陽修]「如下褒-正-論-求中——上」。(嘲詼) あざけりたはむる。○[蘇軾]「——破二天-堅一」。(詭詼) いつはりたはむる。○[袁桷]「誅-夜說二——一」。

【詾】 キヨウ、ク。許容切 冬
さく、(說)、又、聲盈つ、みつ、又、うつたふ、(訟)、又、もろ〳〵の者言ふ、いふ。○[五]「聚而謀者——」。

【訩】 キヨウ、ク。許拱切 腫
もろ〳〵の言聲あるにいふ字、喧しく戾れる聲にいふ字、讙しく議する聲にいふ字、かまびすし、やかまし。○[荀]「以爲二——一」。

【詿】 クワイ、ケ。古賣切 卦
あやまる、(誤)、あざむく、(欺)。○[史]「——亂天-下一」。

【詿】 罣又課に同じ。

【誀】 ジ、ニ。仍吏切 寘　如之切 支
いざなふ、(誘)。

【誀】 恥に同じ。

【誁】 ハウ、ヒヤウ。補梗切 梗
㊀さく、(說)。㊁助け言ふ。

【誃】 シ。尺氏切 紙　チ、ヂ。直移切 支
哆に同じ、わかる、わく。

【誃】 タ、ダ。待可切 哿
詑に同じ、あざむく。

【誃】 シ。充豉切 寘
㊀大度あること。㊁よろこぶ、(慶)。

【誂】 テウ、デウ。徒了切 篠
㊀我に應ぜしめんと誘ひ說く、いどむ。○[史]「使三中-大-夫應-高——二膠-西王一」。㊁たはむる、(戲)、もてあそぶ、(弄)。○[呂氏春秋]「流-辟——越-慆-濫之音出」。㊂聲の淸らかにして暢びる貌にいふ字。○[楚辭]「聲噭——兮淸-和」。

【誂】 テウ。多嘯切 嘯
卒然、にはか。○[淮]「雖三——合二刃于天-下一」。

【誆】 キヤウ、渠放切 漾　ガウ。求往切 養
㊀あざむく、(誑)。㊁あやまる、(謬)。

【誄】 ルヰ。力軌切 紙
㊀死者生前の功德を稱述すること、又、其の文詞。○[左]「孔-丘卒、公——レ之」。㊁死者生前の功德を稱述して其の冥福を祈ること、又、其の文詞。○[論]「——曰、禱二爾上-下鬼-神一」。
(銘誄) しにたる者の功德などを記述したるもの。○[後漢]「周-禮盛-德有二——之文一」。
(哀誄) 死にたる者をかなしみて記述したるもの。○[晉]「尤善爲二——之文一」。

【誅】 チユ。陟輸切 虞
㊀罪惡あるものを殺戮す、ころす。○

〔禮〕「詰二—暴-慢一」。
㊁つみ、つみなふ（罰）。○〔禮〕「以レ足蹙二馬芻一有レ—」。
㊂罪人の血屬にもつみの及ぶこと。○〔周〕「若屋—則爲二明-竁一焉」。
㊃やぶる、きずつく（傷）。○〔易〕「明-夷—也」。
㊄うつ（伐）。○〔國〕「小-國敖大-國襲焉「曰レ—」。
㊅せむ（責）。○〔左〕「—求無レ時」。
㊆剪除す、のぞく。○〔國〕「以レ惠—レ怨」。
〔天誅〕公道至正の征伐。○〔漢〕「行二——一」。
〔行誅〕討伐をおこなふ。○〔後漢〕「以レ義—レ—」。
〔加誅〕前に同じ。○〔漢〕「不レ來且二興レ兵—レ—」。
〔懼誅〕殺されんことをおそる。○〔漢〕「横—レ—與二賓-客一亡入二海-中一」。
〔剗誅〕きびしき殺戮。○〔進〕「夫峭法——者非二霸-王之業一也」。

【誇】クワ、ケ。若瓜切 歌
㊀事を夸大に言ふ、ほこる、おごる。○〔史〕「多-言——嚴莫レ大二於此一矣」。
㊁大なり、ふとし、あらし。○〔漢〕「妾—布服糲-食」。
〔矜誇〕ほこる。○〔晉〕「驕-淫——」。
〔浮誇〕言語などのまことあらずして妄りにおほいなること。○〔韓愈〕「左氏——」。
〔喜誇〕大言をよろこぶ。○〔南〕「淑—レ—」。
〔陝誇〕をかしなのぎてほこる。○〔元好問〕「得-意未レ用二相——一」。

【誇】ク、コ。區遇切 遇
うたふ（歌）。

【誷】バウ、マウ。文紡切 養
しふ（誣）。

【訝】ガ、ゲ。語下切 禡
訝—は、言戾る、たがふ。

【誐】キ、ギ。具義切 寘
はかる（謀）。

【謅】サウ、セウ。楚絞切 巧
人を弄ぶ、からかふ。

七畫

【誋】キ、ギ。渠記切 寘
㊀こゞむ（禁）、いましむ（誡）。○〔淮〕「不レ可二以レ昭—一」。㊁まこと（信）。

【誌】シ。職吏切 寘
㊀記す、しるす。○〔唐〕「輒—二于心一」。
㊁標記、しるし。○〔荊楚歲時記〕「以レ血點レ衣以爲レ—」。
㊂史錄、又書、記事。○〔南〕「朝-堂榜—」。
㊃痣に通じ用ふ、あざ。○〔南〕「高-宗胛-上有二赤—一」。
〔碑誌〕いしぶみのしるし。○〔南〕「所レ著詩-頌—一等表凡二-百-餘-篇」。
〔墓誌〕はかいしにしるす文辭。○〔唐〕「自爲—「—」。
〔銘誌〕前に同じ。○〔唐〕「度臨レ終自爲二——一」。
〔地誌〕地理のことをしるしたるもの。○〔歐陽修〕「山-經——不レ可レ究」。

【認】ジン、ニン。而振切 震　ジョウ、ニョウ。而證切 徑
辨かち識る、みとむ、したゝむ。○〔關尹子〕「渾二人-我一同二天-地一、而彼私智—而已レ之」。
〔妄認〕みとむるとのたゞしからず。○〔晉〕「其人務自知二——一」。
〔錯認〕あやまりみとむ。○〔劉克莊〕「——是天-明」。
〔誤認〕前に同じ。○〔司馬光〕「往-來——白-公「家」。
〔識認〕みとむ。○〔文同〕「牛眼不二——一」。
〔諦認〕あきらかにみとむ。○〔馮盛〕「枚-數須二——一」。

【詘】ダウ、ノウ。奴刀切 豪
㊀よろこぶ（喜）。㊁なぞ（謎）。

【[言旱]】カン、ガン。下旱切 旱
多言す、大聲に言ふ、又厲しく言ふ。

【[言夾]】セン。失再切 琰
誘ひ言ふ、さそふ。

【[言夾]】ケフ。吉協切 葉
妄語す、多言す、うそつく、しやべる。○〔韓〕「世之愚-學、皆不レ知二治-亂之情一、譶—多誦二先-古之書一、以亂二當-世之治一」。

【誎】ソク。桑谷切 屋　ショク、七玉切 沃　ソク。切
㊀うながす（促）。㊁かざる（飾）。㊂てらふ（衒）。㊃したがふ（從）。

【詪】
朗に同じ。

【誏】ラウ。郎宕切 漾
㊀閑かに言ふ。㊁泛く言ふ。㊂たはむる（謔）。

【誐】
哦に通じ用ふ。

【誑】キヤウ、カウ。居況切 漾
いつはりを以て人を惑はす、あざむく、たぶらかす。○〔史〕「詐爲二漢-王一—レ楚」。
〔詭誑〕あざむく。○〔晉、傳〕「於下民無レ有二——幻-惑一也」。
〔謠誑〕前に同じ。○〔陸機〕「說而——」。

【[言豆]】トウ、ツ。丁豆切 宥
—譳は、言ふ能はず。○〔韓愈〕「後鈍—嗔—譳」。

【䛢】ト、ツ。同都切 虞
詢—は、言明了ならず。

【誒】キ。虛其切 支　イ。於記切 寘　カイ、ケ。呼圭切 齊　アイ。於代切 隊
㊀歎息の聲にいふ字、厭惡の聲にいふ字、然諾の聲にもいふ字、あゝ。○〔漢〕「勤—二厥生一」。
㊁しふ（强）、一說に、たのしむ（娛）。○〔屈平〕「——笑狂只」。

【誓】セイ、ゼイ。時制切 霽　セツ、ゼチ。食列切 屑
㊀ちかふ。
(い)戒め謹む。○〔禮〕「曲-藝皆—レ之」。
(ろ)命令を下す。○〔左〕「—二軍-旅一」。
(は)命令を承く。○〔周〕「—二于天-子一」。
(に)將來に違變なきを約す、ちぎる。○〔禮〕「約レ信曰レ—」。
㊁ちかひ。
(い)ちぎり、約束。○〔詩〕「信—旦-「々」。
(ろ)號令、訓戒、いひつけ、いましめ。○〔穀梁〕「誥—不レ及二五-帝一」。
〔盟誓〕ちかひ、又、ちかふ。○〔左〕「世有二——一相信也」。
〔約誓〕前に同じ。○〔詩、箋〕「執二其手一與レ之——」。
〔聽誓〕ちかひをきく。○〔周〕「群-吏—二—于前一」。
〔戒誓〕いましめ、又、いましむ。○〔晉、傳〕「——二「士-衆一」。
〔言誓〕ことばのちかひ。○〔左〕「——未レ就」。
〔結誓〕ちかひをむすぶ。○〔陶潛〕「歎二自往以——」。

（背誓）ちかひにそむく。○〔曹植〕「張陳ーレー」。

【誔】テイ、チヤウ。待鼎切 迥　徒徑切 徑

㊀あざむく（欺）。㊁いつはる（詭）。

【誕】タン、ダン。徒旱切 旱

㊀妄りに大言す、信實ならざる言をなす、いつはる。○〔書〕「乃諺既ー」。
㊁いつはりを以て人を惑はす、あざむく。○〔史〕「先-生得レ無レーレ之乎」。
㊂いつはり、うそ、そらごと。○〔說苑〕「多レー而寡レ信」。
㊃ほしいまゝ（放）。○〔左〕「子姑憂三子晳之欲二背ーー一」。
㊄大いなり。○〔書〕「ー敷二文德一」。
㊅ひろし（濶）。○〔詩〕「何ー之節兮」。
㊆そだつ（育）。○〔後漢〕「ーー致二十子一」。
㊇うまる（生）。○〔舊唐〕「上ーー日」。
㊈散馬、ひきうま。○〔唐〕「有二ーー馬六一」。

（欺誕）あざむく。○〔後漢〕「以相ーー也」。
（縱誕）妄りに大言をなしほしいまゝなること。○〔晉〕「酣縱ーー」。
（放誕）前に同じ。○〔晉〕「阮籍負レ才ーー」。
（怪誕）あやしきそらごと。○〔韓愈〕「却信靈仙非ニーーー」。
（妖誕）前に同じ。○〔宋〕「一切烹蕩ーー之說」。
（詭誕）ことばの實なきをいふ。○〔戰〕「類皆ーー無レ實」。
（虛誕）前に同じ。○〔左遊〕「ーー者獲レ罾」。
（誑誕）前に同じ。○〔白居易〕「徐福文成多ニーーー」。
（荒誕）前に同じ。○〔李白〕「陋ニ植王之ーーー」。
（妄誕）前に同じ。○〔梅堯臣〕「愚昧以レ之爲ニーーー」。
（迂誕）前に同じ。○〔晉〕「或荒外ーー之言」。
（敖誕）はこりてほしいまゝなること。○〔晉〕「恬性ーー」。
（矜誕）前に同じ。○〔晉〕「自ーー以重レ非貴一乎」。
（夸誕）前に同じ。○〔宋〕「邸性ーー」。
（諫誕）實直ならず。○〔南〕「延之ーー」。
（寬誕）ゆるやかにして嚴肅ならず。○〔北〕「未レ嘗見ニ其ーー之容一」。
（華誕）はなやかにして信實なし。○〔逸周書〕「心氣ーーー者、其聲流散」。
（多誕）そらごとおほし。○〔說苑〕「口銳者ーレー」。
（恢誕）妄りに大にして信なし。○〔王坦之〕「其義ーー」。
（閎誕）前に同じ。○〔郭璞〕「皆以ニ其ーー迂誇一、多ニ奇怪俶儻之言一、莫レ不レ疑焉」「事」。
（閑誕）しづかにゆるやかなり。○〔元稹〕「ーーー無ニ事」。
（降誕）帝王の子の生まるゝをいふ。○〔王建〕「妃子院中初ーー」。
（麤誕）粗放にしてまことなきこと。○〔朱熹〕「庸言戒ニーーー」。
（奇誕）めづらしきそらごと。○〔耶律楚材〕「君成ニ綺語壯ーーー」。

【誕】タン、デン。杜晏切 諫

ほしいまゝ（放）。

【⿰言求】キウ、ク。居祐切 宥

㊀とゞむ（禁）。㊁たすく、すくふ（助）。

【誖】ホツ、ポチ。蒲沒切 月　フツ、ポチ。分物切 物　ハイ、ベ。蒲昧切 隊

㊀惑亂す、まごはす、まどふ、みだる。○〔史〕「或ーー其心一」。
㊁さかふ（逆）、又、そむく（乖）。○〔漢〕「ーー大臣之節一」。
㊂くらし（惛）、又、おろか（癡）。○〔揚雄〕「微而見レ之明其ー乎」。
（驕誖）はこりて人にさかふ。○〔蔡襄〕「以珍ニ乎ーーー」。

【⿰言利】テン、ドン。持廉切 鹽

美くして利し。

【⿰言別】ヘツ、ヘチ。方別切 屑

㊁契を分かつ、わく。㊂理を析く、さく。

【謑】ケイ、ガイ。胡禮切 薺

まつ（待）。

【⿰言比】ヒ。匹夷切 支

錯謬す、あやまる。

【誘】イウ、ユ。與久切 有

いざなふ、さそふ。
(い)すゝむ（進）。○〔詩序〕「ーー二僖公一」。
(ろ)みちびく（導）。○〔書〕「大化ニーー我友邦君一」。
(は)をしふ（教）。○〔儀〕「ーレ射」。
(に)引きて我が意に應ぜしむ。○〔左〕「幣重而言甘ーレ我也」。

（誨誘）をしへみちびく。○〔北〕「ーニーー後進一」。
（訓誘）前に同じ。○〔晉〕「ーニーー宗族一」。
（開誘）前に同じ。○〔晉〕「ーニーー後進一」。
（誑誘）たぶらかす。○〔晉〕「ーニーー百姓一」。
（扇誘）そゝのかす。○〔南〕「更相ーー」。「ーー」。
（勸誘）すゝめみちびく。○〔劉子翬〕「汲ニ々于ーー一」。
（導誘）みちびきをしふ。○〔詩疏〕「敎訓者所ニ以ーーー人一」。
（慰誘）なぐさめみちびく。○〔後漢〕「ーニーー日南叛蠻一」。「ーー」。
（懷誘）なづけいざなふ。○〔後漢〕「財利之所ニーー」。
（恩誘）なさけを加へいざなふ。○〔後漢〕「既無ニ重賞以相ーー一」。「爲ニ己用一」。
（招誘）まねきいざなふ。○〔晉〕「或ーー安撫以」。

【誙】カウ、キヤウ。丘耕切 庚　ケイ、ギヤウ。下頂切 迥

㊀あらし（犺）。㊁言の確なること、たしか。

㊂死に趨く貌にいふ字。○〔莊〕「ーー然如レ將レ不レ得レ已」。

【詐】サ、ゼ。助駕切 禡　サク、ザク。疾各切 藥

慙ぢて語る。

【誼】ギ。儀寄切 寘　一に誼に作る。

㊀制裁の宜しきに適合せるにいふ字、よし、又、宜しき條理、みち。○〔漢〕「摩レ民以レー」。
㊁はかる（議）。○〔漢〕「論ーー考問」。

（禮誼）人のふみおこなふべきよろしきみち。○〔董仲舒〕「故民曉ニ于ーーー」。
（仁誼）完全なる德とよろしきみちと。○〔漢〕「賤ニーーー」。「ーー」。
（崇誼）よろしき者を尚ぶ。○〔漢〕「非レ所ニ以徵レ惡ーー示ニ四方一也」。
（高誼）高尚なるよろしきみち。○〔劉長卿〕「應レ物推ニーーー」。
（行誼）おこなひよろしきにあたる。○〔韓愈〕「主上嘉ニ其ーーー」。「ーレー」。
（秉誼）よろしきみちをとりおこなふ。○〔漢〕「守レ節ーー」。
（古誼）むかしのよろしきみち。○〔唐〕「收ニ宋ーーー」。
（道誼）人のふむべきみち。○〔戴復古〕「ーー無ニ窮達一」。

【⿰言宜】ギ。魚羈切 支

議に同じ。

【⿰言禿】トク。他谷切 屋

わるがしこし（狡猾）、一說に、相欺詆す、しふ。

【⿰言禾】タ。土禾切 歌

よこしまにいつはる（僻誕）。

【誚】古文の譙の字、せむ、ゐかる。○〔書〕「王亦未ニ敢ーレ公」。

（讓誚）責めゐかる。○〔南〕「范泰嘗衆中ーニーー鮮之一」。
（責誚）前に同じ。○〔南〕「備加ニーーー」。

〔詆詞〕せめそしる。○〔唐〕「其論著率一・一蕪穢」。
〔讒詞〕前に同じ。○〔宋〕「似レ涉二一・一二」。
〔嘲詞〕そしりあざける。○〔梁善錄〕「純事二一・一二」。
〔謗詞〕そしる、又、そしり。○〔曹毖〕「下使二愚臣・免二于一・一二」。

【諗】シン。千尋切 [侵]
㊀私かに語る、さゝやく。
㊁言を以て相侵す、せむ、そしる。

【誃】サ、セ。所化切 [禡]
㊀俊れたる言。㊁妄言、そらごと。

【語】ギョ、ゴ。魚擧切 [語]
㊀かたる。
(い)言を交午す、互に應答す、はなす。○〔禮〕「三年之喪言而不レ一」。
(ろ)說く、論す。○〔禮〕「一二于郊一者」。
(は)出世仕官の義にもいふ字。○〔晉〕「非レ有レ心二于一默一」。
㊁ことば。
(い)かたると、かたる所。○〔易〕「愼二言一一、節二飲食一」。
(ろ)成句、成言。○〔陸雲〕「雖レ有二一佳一一」。
㊂鳥蟲などの鳴き聲。○〔白居易〕「關々鶯一一花底滑」。
〔笑語〕わらひかたる。○〔禮〕「思二其一・一二」。
〔傳語〕ことばをつたふ。○〔元稹〕「一・一少年兒」。
〔偶語〕相對してかたる。○〔史〕「一二一詩書一者棄市二」。
〔耳語〕みゝにくちをよせてかたる。○〔史〕「臨安侯方與二程不識一一・一」。
〔飛語〕よからざる流言。○劉禹錫「曾遭二一・一十年謫」。
〔眼語〕めをはたらかしてことばにかへて意を通ずること。○〔五〕「天子與二宮人一一・一」。

〔目語〕前に同じ。○〔唐〕「済路一・一」。
〔屏語〕かたはらの人をしりぞけて秘密にかたる。○〔漢〕「入二帳中一一・一」。
〔閑語〕しづかにものがたる。○〔後漢〕「因留宿一一」。
〔靜語〕前に同じ。○〔白居易〕「閑宵一・一尋還悲」。
〔壯語〕雄壯なることば、又、つよげにかたる。○〔晉〕「彼不レ知レ懼而學二一・一二」。「一二」。
〔妄語〕いつはりのことば。○〔南〕「卿得二我一一・一」。
〔虛語〕前に同じ。○〔史〕「往一・一耳」。
〔空語〕前に同じ。○〔漢〕「王莽時、但崇二一・一二」。
〔流語〕世間につたはるうはさ。○〔元稹〕「一・一翻二波濤二」。
〔蠻語〕夷狄のことば。○〔杜甫〕「兒童解二一・一二」。
〔俳語〕ことばをあやる。○〔開元遺事〕「何二如此一・一花二」。
〔綺語〕うるはしき言語。○〔韓愈〕「一・一洗二晴雪二」。
〔軟語〕やはらかなることば。○〔杜甫〕「夜闌按二一・一二」。
〔默語〕かたらざるとかたると。○〔易〕「或一或一」。
〔晤語〕相見てかたる。○〔詩〕「可二與一・一二」。
〔深語〕おくそこまでかたる。○〔史〕「子楚引與坐一・一」。
〔談語〕ものがたる。○〔史〕「抵レ掌一・一」。
〔詩語〕しのことば。○〔漢〕「一・一足二以感レ心」。
〔繆語〕不實をかたる。○〔五〕「吾平生不レ爲二一・一二」。
〔俚語〕鄙俗の語言。○〔五〕「常爲二一・一二」。
〔鄙語〕前に同じ。○〔白居易〕「一・一不レ可レ棄」。
〔警語〕人を警動することば。○〔宋〕往々有二一・一二「也」。
〔憍語〕弱き說をなす。○〔宋〕「一・一沮レ軍、可レ斬」。
〔學語〕ことばをならふ。○〔陶潛〕「一レ一未レ成レ音」。「不レ通」。
〔文語〕文字言語。○〔論衡〕「故其一・一與レ俗相乖」。
〔爭語〕さからふことば。○〔急就篇〕「讒諛一・一」。
〔囈語〕ねごと、たはごと。○〔拾遺記〕「呂蒙一・一通二周易二」。
〔䆿語〕前に同じ。○〔馬融〕「愁醬喃々如二一・一二」。
〔佛語〕ほとけのことば。○〔淨住子〕「若違二一・一、必墮二惡道二」。
〔謾語〕いつはりのはなし。○〔聞見後錄〕「小子何得二一・一二」。
〔怒語〕はらたちてかたる。○〔蔡邕〕「嗟歎一・一、「與レ人相拒」。
〔寄語〕ことばをよせつたふ。○〔鮑昭〕「一・一後生子」。
〔艷語〕なまめかしきことば。○〔韓偓〕「一・一二」。
〔醉語〕酒にゑひて發することば。○〔盧思道〕「深情出二一・一近二天眞二」。
〔獨語〕きく者なきにかたるひとりごと。○〔白居易〕「獨行一・一曲江頭」。
〔立語〕たゝずみたちてかたる。○〔白居易〕「一・一花隄上」。
〔好語〕よきことば。○〔白居易〕「琴書傳二一・一二」。
〔美語〕前に同じ。○〔杜牧〕「誘以二一・一二」。
〔媚語〕こぶることば。○〔元稹〕「一・一嬌不レ聞」。
〔低語〕聲ひきくかたる。○〔曹松〕「青蛾一・一指二東方二」。「不レ通」。
〔情語〕なさけあることば。○〔梅堯臣〕「一・一既誰傳去」。
〔惡語〕わるくち。○〔蘇軾〕「門前一・一」。
〔古語〕むかしのことば。○〔蘇軾〕「一・一多二妙字二」。
〔老語〕としたけたる者のことば。○〔蘇軾〕「一・一二」。
〔奇語〕めづらしきことば。○〔朱熹〕「武夷兩日聽二一・一徒周諒」。
〔俊語〕すぐれたることば。○〔朱熹〕「一・一非二深々二」。
〔傑語〕前に同じ。○〔范成大〕「詩無二一・一慚二風物二」。
〔豪語〕豪壯なることば。○〔陸游〕「歐還二窮途一作二一・一二」。「一二」。
〔面語〕會ひてはなす。○〔唐〕「千里之外稱二對レ一二」。

【語】ギョ、ゴ。魚據切 [御]
かたる。
(い)告ぐ。○〔論〕「居吾一レ女」。
(ろ)敎ふ。○〔國〕「主亦有二以一レ肥」。

【誀】クワイ、エ。胡對切 [隊]
㊀市上の謠、まちうた。
㊁言長し、ながし。

【誁】ヘイ、ヒヤウ。匹丁切 [青]
いふ、ことば(言)。

【誗】チウ、チュ。丑鳩切 [尤]
一一譴は、決せざること。

【誢】ケン、ゲン。乎典切 [銑]
諍語す、あらそふ。

【誜】サ。蘇禾切 [歌]
㊀へつらふ(佞)。
㊁うごく、うごかす(動)。

【誚】サ、ザ。祖臥切 [箇]
言を以て人を折く、くじく。

【誠】セイ、ジヤウ。時征切 [庚]
㊀まこと。
(い)眞實無妄なること、公平無私なること。○〔中〕「一者天之道也」。
(ろ)恭敬純一なる心、邪曲隱掩なき情、まごころ。○〔魏〕「雖三交疎而吐二其一一」。
(は)事實、實情。○〔史〕「以レ嫗爲レ不レ一」。
㊁まことに。
(い)實に、げに。○〔孟〕「子一齊人也」。
(ろ)審かに。○〔禮經解〕「故衡一縣不レ可レ欺以二輕重二」。
〔精誠〕純粹に眞實なること。○〔後漢〕「各推二一・一二」。「年二」。
〔深誠〕前に同じ。○〔鮑昭〕「一・一洗レ志期二寥一・一二」。
〔純誠〕前に同じ。○〔曾鞏〕「交淡見二一・一二」。
〔欺誠〕眞實にしていつはりなきこと。○〔趙淑〕「惟思レ致二一・一二」。「兮」。
〔悃誠〕前に同じ。○〔劉向〕「思二忠正之一・一」。
〔允誠〕前に同じ。○〔竹書紀年〕「萬姓一・一」。
〔拙誠〕つたなきまことあること。○〔韓〕「巧詐不レ如二一・一二」。「以レ一」。
〔推誠〕眞實を他人に加ふ。○〔中說〕「周公一レ之」。
〔至誠〕極めて眞實なり。○〔禮〕「惟天下一・一爲二能盡二其性二」。

〔篤誠〕前に同じ。○〔左〕「明允――」。
〔表誠〕まことをあらはす。○〔宋〕「以質二―一」。
〔衷誠〕眞實なるこゝろ。○〔陳〕「盡二于――一者也」。
〔丹誠〕前に同じ。○〔白居易〕「願瀝二朱寶表一―・「―一」。
〔忠誠〕忠義高くまことあり。○〔徐陵〕「――貫二於日・月一」。「慇矣」。
〔端誠〕正しく眞實なり。○〔荀〕「上――則下原二―」。
〔陳誠〕まごころをのべあらはす。○〔董仲舒〕「故輒披二心―」。「盡二忠一―」。
〔竭誠〕まごころを十分につくす。○〔鄒陽〕「今臣――於木・朝之上一」。
〔独誠〕ねんごろなるまことと。○〔四子講徳論〕「陳二――耳」。
〔寡誠〕眞實すくなし。○〔魏文帝〕「多言――」。
〔効誠〕眞實をいたす。○〔嵆康論〕「各供二方物一以――」。
〔寸誠〕微誠といふが如し、わづかなるまことゝておのれのまことを謙する謙辭。○〔韓愈〕「終・年抱二――一」。

【誡】カイ、ケ。古拜切 卦

㊀いましむ。
(い)愼むべきを敎ふ。○〔易〕「小懲而大―」。
(ろ)愼む。○〔左〕「必不レ―」。
㊁いましむるを、いましむる所、いましめ、敎令、戒告。○〔史〕「宣二―大・僕一」。
〔家誡〕いへのいましめ。○〔唐〕「乃集二古・今――爲二屛・風一」。
〔箴誡〕いましめ。○〔隋〕「綜二――一以訓レ心」。

【誤】ゴ、グ。五故切 遇

㊀あやまる。
(い)差ひ失す、あやまつ、まちがふ。○〔漢〕「君何言之―」。
(ろ)まごふ、まどはす、(惑)。○〔荀〕「姦人之―二于亂・說一」。
㊁あやまり、あやまち、まちがひ。○「吳―二比闕鈌――一」。

〔詿誤〕まどはしあやまる。○〔漢〕「相食――二吏・民一」。
〔錯誤〕前に同じ。○〔唐〕「必愉人以レ此――二上・心一」。
〔謬誤〕あやまり。○〔吳〕「糾二擿――一」。
〔紕誤〕前に同じ。○〔李白〕流・俗多二――一」。
〔舛誤〕前に同じ。○〔隋〕「一無二――一」。
〔闕誤〕完全ならざるとあやまりと。○〔吳〕「其有二――一必知レ之」。
〔過誤〕まちがひ。○〔漢〕「蒙二――之寵一」。
〔脫誤〕文字などのぬけたるとあやまりたると。○〔後漢〕「輕二躁――一」。
〔壞誤〕やぶりあやまる。○〔後漢〕「傳相――」。

【誣】ブ、ム。武扶切 虞

(い)無きを有りとし有るを無しとしいつはり構ふるにいふ字。○〔易〕「―レ善之人」。
(ろ)いつはる、(詐)、あざむく、(欺)。○〔孟〕「邪・說―レ民」。
(は)けがす、(蔑)。○〔荀〕「不レ能而居レ之―也」。
(に)そしる、(謗)。○〔漢〕「吏・民未三敢―二明・府一也」。
(ほ)罪を無辜に加ふ、まぐ。○〔國〕「其刑矯―」。
〔矯誣〕ためいつはる。○〔書〕「――二上・天一」。
〔虛誣〕いつはり。○〔春秋、疏〕「譏二駁二――一」。
〔欺誣〕あざむきしふ。○〔荀〕「則所レ聞者、――詐・僞也」。
〔譏誣〕そしりしふ。○〔歐陽脩〕「――不レ須レ辨」。

【訣】ショク、ソク。七玉切 沃

言急なり、くちはやし。

【訶】カ。寒歌切 歌

衆の聲にいふ字、かまびすし。

【誥】カウ、コウ。古到切 號

㊀つぐ。
(い)上より下に敎へ曉すにいふ字、をしふ、さとす。○〔易〕「后以施レ命―二四・方一」。
(ろ)上より下に對して誓ひ戒しむるにいふ字、いましむ、ちかふ。○〔書、疏〕「皆有二言以―一示一」。
㊁上より下にくだせる訓戒、又は、命令、をしへ、さとし、いましめ、ちかひ、つげ。○〔穀梁〕「――誓不レ反二五・帝一」。
〔中誥〕訓戒をのぶ。○〔書〕「伊・尹―二――于王一」。
〔雅誥〕たゞしき訓戒。○〔李中〕「立・言成二――一」。
〔垂誥〕いましめをのこす。○〔北〕「故――」。
〔遺誥〕前に同じ、又、のちにのこしたる訓戒。○〔商允〕「尋二先・哲之――一」。

【誥】コク。姑沃切 沃

つぐ、(告)。

【諕】キツ、コチ。許訖切 物

㊀かたる、(語)。㊁かたる聲にいふ字。
㊂瞋りかたれる聲にいふ字。
㊃語るの難き貌にいふ字、にぶし。

【誒】キ、許豈切 尾
ケ。許几切 紙

かたる、(語)。

【誒】キ。虛器切 寘

かたる聲にいふ字。

【誒】キ、ケ。許旣切 未

語氣。

【誒】キン、コン。許斤切 眞

大言す、ほこる。

【諕】ケキ、キヤク。許激切 錫

㊀私かに訟ふ、あらそふ。
㊁うらむ(恨)。
㊂內心にて互に侮る、あなどりあふ。

【誧】ホ、フ。博孤切 虞

㊀おほいなり、(大)。
㊁相助く、たすけあふ。
㊂はかる、(謀)。㊃いさむ、(諫)。

【誧】ホ、フ。滂古切 麌

㊀前條に同じ。㊁大言す、ほこる。

【誧】ホ、フ。普故切 遇

はかる、(謀)。

【誦】ショウ、ジュ。似用切 宋

さなふ。
(い)文字に從ひて唱ふ、よむ。○〔史〕「―二習之一」。
(ろ)聲に節をつけてよむ、うたふ。○〔禮〕「春―夏絃」。
(は)言ふ、說く。○〔王融〕「進レ講―レ志」。「之」。
(に)怨謗す、そしる。○〔左〕「國・人―レ之」。
〔講誦〕書物などの義を究めとく。○〔史〕「魯・中諸・儒尙――」。
〔暗誦〕そらんず。○〔蜀〕「祗恐――無レ滯」。
〔記誦〕記臆暗誦。○〔禮〕「――之學」。
〔諷誦〕そらんじうたふ、又、そらんず。○〔漢〕「以二其――一、不三獨在二竹・帛一也」。
〔習誦〕ならひよむ。○〔漢〕「常――」。
〔讀誦〕文字をよむ。○〔漢〕「休・息輒――」。
〔精誦〕くはしくよむ。○〔後漢〕「閉レ廬――」。
〔寫誦〕うつしよむ。○〔周書〕「並―二――之一」。
〔一誦〕くりかへしよむ。○〔唐〕「一・覽至二千・言一輒――」。「戒一」。
〔傳誦〕つたへうたふ。○〔宋〕「時・人――以爲二勸・」
〔聞誦〕きゝつたへとなふ。○〔金〕「雖レ不二――一」。

(謠誦) うたふ。○〔元結〕「謳謠ニ―・―盤ニ」。
(謳誦) うたふ。○〔李嶠〕「登ㇾ原釆ニ―・―ニ」。
(絃誦) 琴を彈じ詩をうたふ。○〔廻賢〕「兵臨ニ魯-國ニ猶―・―」。

【誨】 クワイ、ケ。荒内切 隊

㊀をしふ。
(い)教訓す、さとす。○〔書〕「朝-夕納ㇾ―」。
(ろ)示導す、みちびく。○〔易〕「慢ㇾ藏―ㇾ盜」。
㊁をしふると、をしふる所、をしへ。○〔書〕「朝-夕納ㇾ―」。

(敎誨) をしふ、又、をしへ。○〔詩〕「―ニ―爾子ニ」。
(訓誨) 前に同じ。○〔舊唐〕「―ニ―子-弟ニ」。
(規誨) たゞしをしふ。○〔左〕「大-夫―・―」。
(雅誨) たゞしきをしへ。○〔後漢〕「希ニ李老之―・―ニ」。
(慰誨) なぐさめいましむ。○〔魏、註〕「輕ㇾ寵者―ニ―之ニ」。
(誡誨) いましめをしふ。○〔魏〕「賜ニ幹里書ニ―ニ―之ニ」。
(母誨) はゝの敎訓。○〔舊唐〕「有ㇾ違ニ―・―ニ」。
(勸誨) すゝめはげましてをしふ。○〔宋〕「渉所ㇾ至多起ニ學-館ニ―・―」。
(神誨) かみのをしへ。○〔逐〕「蘉受ニ―・―ニ」。
(承誨) をしへをうく。○〔孔叢子〕「幸今―ㇾ―」。
(篤誨) てあつきをしへ。○〔傅亮〕「敷ㇾ在銘ニ―・―ニ」。
(善誨) よきをしへ、又、よくをしふ。○〔蔡邕〕「惡則忠ニ告―ニ―之ニ」。
(胎誨) 胎中にあるときの母のをしへ。○〔魏文帝〕「東ニ賢-就之―・―ニ」。
(嘉誨) よきをしへ。○〔潘岳〕「敬納ニ―・―ニ」。
(仁誨) なさけぶかきよきをしへ。○〔陸雲〕「加承ニ―・―ニ」。
(慈誨) 前に同じ。○〔胡元龍〕「猜規悖ニ―・―ニ」。
(往誨) むかしのをしへ。○〔劉琨〕「探ニ納―・―ニ」。
(誘誨) すゝめいざなひをしふ。○〔曾鞏〕「凡欲ㇾ以―ニ―學-者ニ庶-幾于古ニ」。
(聖誨) 聖人のをしへ、又、帝王の訓戒を尊び稱する語。○〔呂光斧〕「被ニ―・―之丁-寧ニ」。
(高誨) 人の敎訓を稱する語。○〔元好問〕「―・―世所ㇾ聞」。

【誩】 ケイ、ギヤウ。渠慶切 敬 キヤウ、ガウ。其兩切 養 タン、トン。他紺切 勘

競ひ言ふ、あらそふ。

【說】 セツ、セチ。失爇切 屑

㊀さく。
(い)理義を解釋す、わく。○〔孟〕「博學而詳―ㇾ之」。
(ろ)解釋して訓ふ、つぐ。○〔淮〕「夷狄之國重ㇾ譯而至、非ニ戸辯而家―ㇾ之也」。
(は)論ず、談ず、意見を述ぶ、のぶ、いふ。○〔史〕「非ㇾ爲ㇾ人口吃不ㇾ能ニ道―ニ」。
㊁理義、解釋、談論、陳述、意見、又、其の言語、詞章。○〔易〕「原ㇾ始要ㇾ終、故知ニ死-生之―ニ」。
㊂鬼神にねがひ求むるにいふ字、いのる、のろふ、いのり、のろひ。○〔周〕「以ニ攻―ニ禬ㇾ之」。

(陳說) のぶ。○〔禮〕「請ㇾ―ニ―外-內之言ニ」。
(演說) 前に同じ。○〔書、疏〕「而―ニ―之ニ」。
(稱說) 前に同じ。○〔漢〕「因上書―・―」。
(塗說) 往來にていふ。○〔論〕「道聽而―・―」。
(姦說) 前に同じ。○〔齊〕「慮々―・―」。
(浮說) よりどころなき言論。○〔史〕「悅ニ一-邪臣―・―ニ」。
(漂說) 前に同じ。○〔漢〕「亡-命―・―」。
(譽說) 道理にあたらざる論述。○〔漢〕「皆―・―欺ㇾ天者也」。
(中說) いひとくこと。○〔後漢〕「重不ニ自―・―ニ」。
(異說) めづらしき論述。○〔魏〕「好覽ニ―・―ニ」。
(曲說) まがりたる言論、又、まげていひとく。○〔管〕「可ニ以―・―ニ」。
(謬說) あやまりの論述、又、詐りいふ。○〔莊〕「多-辭―・―」。
(繁說) 辯說多きこと。○〔墨子〕「辯者心辨而不ニ―・―ニ」。
(怪說) あやしき論述。○〔荀〕「治ニ―・―、玩ニ奇-辭ニ」。
(衆說) 衆くの者の論述。○〔揚雄〕「仰ニ聖人ニ而知ニ―・―之小ニ也」。
(辭說) 述言。○〔禮〕「祝-報―・―」。
(論說) あげつらひのぶ、又、其の言。○〔王褒〕「―・―無ㇾ疑」。
(辨說) 是非をわけとく。○〔禮〕「―・―得ニ其黨ニ」。
(解說) わけをいひとく、又、其のもの。○〔荀悅〕「―ニ―經-意ニ」。
(庸說) つねなみの論述。○〔戰〕「是―・―也」。
(細說) 小人のことば、又、こまかにいひとく。○〔史〕「而聽ニ―・―、欲ㇾ誅ニ有-功之人ニ」。
(開說) 言論をはじむ。○〔史〕「終莫ㇾ得ニ―・―ニ以爲ㇾ常」。
(雜說) いろいろの論述。○〔史〕「乃學ニ春-秋―・―ニ」。
(巧說) ことばたくみにのぶること。○〔漢〕「便-辭―・―」。
(談說) かたる、はなす。○〔漢〕「待ニ宴-見ニ―・―得-失ニ」。
(宜說) 前に同じ。○〔江總〕「顯-揚―・―」。
(諫說) ときいさむ。○〔史〕「其―・―㮣ニ晏-嬰之爲ㇾ人也」。
(詭說) いつはりの言論。○〔史〕「能設ニ―・―ニ」。
(經說) 經書の言論。○〔梁武帝〕「如ㇾ是者是―・―不ㇾ可ㇾ不ㇾ信」。
(小說) 稗史など。○〔隋〕「―・―者街-說巷-語也」。
(巷說) まちにつたはる言論。○〔曹植〕「街-談―・―必有ㇾ可ㇾ采」。
(傳說) いひつたへ、又、いひつたふ。○〔漢〕「下及ニ諸-子―・―ニ」。
(妄說) 理によらざる言論。○〔蘇軾〕「後-世徒―・―」。
(迂說) まことならざる言論。○〔錢超〕「莊-叟幾ニ―・―ニ」。
(僻說) まがりたる言論。○〔漢〕「詭-經―・―」。
(推說) おしひろげていひとく。○〔漢〕「―ニ―其意ニ」。
(高說) すぐれたる言論、又、他人の言論をたふとび稱する語。○〔後漢〕「引-文明者爲ニ―・―ニ」。
(管說) 見識のひろからざる言論。○〔魏〕「豈可ㇾ輕ニ薦ニ瞽-言ニ妄陳ニ―・―ニ」。
(妙說) 神妙なる論述。○〔曹植〕「文-人騁ニ其―・―兮」。
(譖說) 讒誣の言論。○〔魏〕「―・―旣行」。
(富說) ことばゆたかなる言論。○〔孔叢子〕「繁-詞―・―非ㇾ所ㇾ聽也」。
(他說) ほかの言論。○〔荀悅〕「皆附ニ正-義ニ無ニ―・―ニ」。
(百說) もろもろの論述。○〔江淹〕「旣遊ニ思兮―・―ニ」。
(奇說) めづらしき言論。○〔延賢〕「揚ㇾ眉吐ニ―・―ニ」。
(講說) いひとく。○〔文同〕「君能爲ㇾ我再―・―」。
(舊說) ふるき論述。○〔薛季宣〕「―・―今難ㇾ試」。
(從橫說) 戰國の世蘇秦張儀などの唱へたる合從連衡の言論。○〔戰〕「一―一―此其―何也」。

【說】 エツ、エチ。余輟切 屑

㊀悅に通じ用ふ、よろこぶ、たのしむ。○〔詩〕「我心則―」。
㊁同列の數、かず。○〔詩〕「與ㇾ子爲ㇾ―」。

【說】 ゼイ、ゼ。舒芮切 霽

㊀人を諭し誘ふ、さく。○〔孟〕「―ニ大-人ニ藐ㇾ之」。
㊁駕を稅く、やどる。○〔詩〕「召-伯所ㇾ―」。

【說】 タツ、タチ。他括切 曷

㊀脫に通じ用ふ、さく。○〔易〕「用ㇾ―ニ桎-梏ニ」。
㊁ゆるす(赦)。○〔詩〕「女覆―ㇾ之」。

【誇】 ワ。于戈切 歌

拒み譽ふ、うけがはず、こばむ。

【詤】

誣に通じ用ふ、一說に、誣の譌字。○〔呂氏春秋〕「無ㇾ由ㇾ接而言見ㇾ―」。

【誺】 チ。抽知切 支

智ならざると、おろか。

【詐】 サ、セ。側下切 禡 サ、ゼ。仕下切 馬

━訝は、もとれる言。

【誫】 シン。支信切 震

動く。○[列]「罪乎不━不レ止」。

【詗】 クワツ、ゲチ。何空切 月

かたくな(頑)。

八畫

【䛩】 謳又、啞に同じ。

【䛩】 カ、ケ。丘駕切 禡

━訝は言正しからざるを。

【誇】 キウ、ク。去仲切 送

❶多言す、ことば多し。

❷詾問す、とふ、たづぬ。

【誰】 スヰ、ズヰ。是推切 支

❶たれ、たそ。

(い)其の姓名を知らざる人の稱にいふ字、なにがし。○[老]「吾不レ知二━之子一」。

(ろ)此の人と指名せずして泛く人を指すの稱にいふ字。○[易]「又━咎」。

(は)其の人の姓名をたづね問ふにいふ字。○[漢]「問魏大將━」。

(に)多くの人の中にて指名し區別するをにいふ字。○[荘]「不レ至二乎孩而始━一「矣」。

❷發語に用ふる助字。○[詩]「━━昔然」

(何誰) たれぞ。○[郭璞]「借問此━━」。

【隮】 スヰ。雖遂切 寘 クワイ、呼回切 灰

毀謗す、そしろ。

【課】 クワ。苦臥切 箇

❶こゝろみる(試)。○[屈平]「但不レ━而行レ之」。

❷はかる(計)。○[史]「━二校人畜一「計一」。

❸ついづ(序)。○[後漢]「論二━殿最一」。

㈣きむ(程)。○[漢]「━二吏法一」。

❺おはす(負)。○[晉]「勸二━農桑一」。

❻考付、試驗、こゝろみ。○[孔德璋]「常綢二繆於結━一」。

❼程限、次序、ほど、ついで、きまり。○[隋]「百工作役並加二程━一」。

❽租稅、負擔、かゝりもの、わりあてもの。○[舊唐]「三日役、四日━」。

❾常業、ふごと、つとめ。○[唐]「稟史殘━請付二傅師一」。

(詩課) 作詩の課程。○[劉詵]「━━寄程應レ不レ減」。

(米課) こめのみつぎ。○[宋]「今若減二其━━一」。

(夫課) 夫役。○[宋]「━━又嚴」。

(租課) 租稅。○[宋]「欲二輕立一━━一」。「━」。

(責課) みつぎをきびしく督責す。○[宋]「不レ須レ━」

(鹽課) しほの課稅。○[宋]「本路━━、緡錢歲七十九萬」。

(茶課) ちやの課稅。○[宋]「得二━━四百萬緡」。

(精課) こまかに試みる。○[□邵]「━━二緇業一」。

(日課) ひゞの課程。○[陸游]「老人無二━━一」。

【課】 クワ。苦禾切 歌

❶差ふものに負はす、おはす。

❷のり(程)。

【誳】 クツ、コチ。區物切 物

❶非常なるを、あやしきを。○[左思]「━━詭之殊事」。

❷かゞむ(屈)。○[淮]「━レ寸而伸レ尺」。

❸もとる(佪)。

【䛳】 テン。他典切 銑

━譏は、言定まらざるを。

【謟】 タウ、トウ。太牢切 豪

❶往來の言。

❷小兒の未だ正しく言ふ能はざるを。

❸いはふ、のろふ(祝)。

㈣譢と謟との字の條を見よ。

【誴】 ソウ、ズ。藏宗切 冬

❶たのしむ(樂)。❷はかる(謀)。

【誵】 カウ、ゲウ。何交切 肴

言の恭謹ならざるを、ほしいまゝ。

【誃】 タ。土禾切 歌

退き言ふ。

【誼】 諠に同じ。

【誶】 スヰ。遂雖切 寘

❶せむ(讓)、のゝしる(罵)、はづかしむ(詬)。○[國]「吳王還レ自レ伐レ齊━二申胥一」。

❷つぐ(告)、とふ(問)、いさむ(諫)。○[荘]「察士無二淩━之事一則不レ樂」。○

【誶】 サイ、セ。蘇內切 隊

せむ(讓)、のゝしる(罵)。○[漢]「立而━語」。

【誶】 訊に通じ用ふ、つぐ。○[張衡]「妄━」。

【誶】 ジユツ、ジユチ。慈邺切 質

せむ(責)、のゝしる(罵)。○[列]「讒慆凌━」。

【誷】 バウ、マウ。文兩切 養

しふ(誣)。○[晉]「朋黨則誣━」。

【誸】 ケン、ゲン。胡千切 先

❶言急し、きびし。○[荘]「謀稽二乎━一」。

❷堅くして正し、たゞし。

【䛭】 カウ、ギヤウ。下孟切 カウ、キヤウ。許孟切 敬 虎梗切 梗

❶瞋語す、いかる、ほかる。

❷言直し、たゞし。

【䛭】 カウ、キヤウ。許孟切 敬 虎梗切 梗

前條の❶に同じ。

【䛭】 カウ、ギヤウ。下耿切 梗

言很る、もとる。

【誶】 䛭に同じ。

【誹】 ヒ。敷尾切 尾

そしる(毀)。○[史]「━謗者族」。

(怨誹) うらみそしる。○[史]「━━而不レ亂」。

(沮誹) 命令などをはゞみそしる。○[史]「廢格━━」。

【誹】 ヒ。匪微切 微 方未切 未

非とす、そしる。○[央]「不三入言二而腹━一」。

【誺】 チ。丑知切 支 丑吏切 寘

㊀知らざるを、答ふる能はざるを。○[揚雄]「不レ知也沅澧之間凡相問而不レ知答曰レ―」。「言相誣曰レ―」。
㊁相誣へ言ふ、ぶふ。○[正字通]「以レ

【諫】ライ。力代切 隊
あやまる、(誤)。

【謷】キウ、グ。其九切 有
そしる、(毀)。

【誻】タフ、ドフ。達合切 合
妄語す、いつはる、惡言す、そしる、多言す、ぶやべる。○[荀]「愚-者之言、――然而沸」。

【說】ダ、チ。女家切 麻
言語を以て他の事情を伺ふ、うかゞふ、ひく。

【說】ダイ、チ。女佳切 佳
詍――は、言正しからざるを。

【說】ゲイ、ガイ。研計切 霽
うかゞふ、(伺)。

【詎】キョ、コ。居御切 御
言に則あるにいふ字、たゞし。

【誾】ギン、ゴン。魚巾切 眞
和ぎ悅びて諍ふにいふ字、和ぎ敬む貌にいふ字、中正の貌にいふ字。○[論]「與二上大-夫一言、――如也」。

【調】テウ、デウ。徒遼切 蕭
㊀和合す、かなふ、あふ、あはす、やはらぐ、とゝのふ。○[詩]「弓-矢已―」。
㊁揉伏す、なつく。○[史]「―二馴-鳥-獸一」。
㊂あざける、(嘲)、たはむる、(啁)、又、あざむく、(欺)。○[世說]「王-亟-相每―レ之」。
㊃樹上の枝葉の搖動する貌にいふ字。○[莊]「而獨不レ見二之――之刁-々一乎」。
㊄官名。○[周]「――人掌下司二萬-民之難一而諧中-和之上」。
[和調] やはらぎ合ふ。○[史]「將-相――」。
[善調] よくとゝのふ。○[漢]「雖レ有二良-工一、不レ能二――一也」。
[煎調] 食物をあぶりなどして調理す。○[南]「皆手自――」。
[均調] 平調といふに同じ、とゝのふ。○[宋]「―二―天下一」。
[順調] たゞしくとゝのふ。○[雲笈七籤]「風-雨――」。

【調】テウ、デウ。徒弔切 嘯
㊀徵發す、選發す、令を下して斂む、もさむ、をさむ、とゝのふ。○[史]「下―二郡-縣一」。
㊁うつす、(遷)。○[漢]「―爲二隴-西都-尉一」。
㊂はかる、(度)、又、かぞふ、(算)。○[漢]「―立二城-邑一」。
㊃賦課、みつぎ、かゝりもの。○[北]「免二逋-征懸―一」。
㊄樂律の節曲、ふし、てうし、ぶらべ。○[晉]「笛有二定―一」。
㊅韻致、やうす、おもむき。○[晉]「才―秀出」。
㊆詩歌、うた。○[開天遺事]「李-白立進二淸-平―詞三-章一」。
[不調] 官を遷さず。○[漢]「有レ昭、功高―レ―」。
[風調] 韻致。○[白居易]「依-稀――似二文-君一」。
[才調] 前に同じ。○[杜甫]「靑-春動二――一」。
[易調] 音調をかふ。○[蘇軾]「在レ山琴―レ―」。
[息調] みつぎをとりたてざるを。○[吳]「勸以二施レ德緩レ刑、息レ賦―レ―」。
[雜調] いろ／＼のみつぎ。○[南]「別――四-千石」。
[公調] 稅賦。○[晉]「而綏二於――一」。
[課調] 年貢のわりあて。○[魏]「――所レ畢、儉有レ殊」。
[氣調] 人の氣風意思など。○[晉]「――英-遠」。
[租調] 租稅。○[歐陽修]「非二徒給二――一」。
[免調] みつぎをゆるしてとりたてざるを。○[唐]「有レ事而加レ役二十五日者、―レ―」。
[曲調] 音曲の詩歌。○[宋]「――之詞、至二於鄙-俚一」。
[水調] つやゝしきうた。○[杜牧]「誰家唱二――一」。
[變調] 音調をかへる。○[李頎]「幽-音―レ―忽飄-灑」。
[高調] 聲たかきぶらべ。○[白居易]「――秦-箏一-兩弄」。
[悲調] かなしげなる音調。○[謝靈運]「愴二晁-園之――一」。「―レ―」。
[罷調] 音樂のぶらべをやむ。○[江孝嗣]「鼎-球一

【調】チウ、チュ。張流切 尤
あした、(朝)。○[詩]「惄如二―飢一」。

【諢】コン。戶袞切 阮
㊀はかる、(謀)。㊁語明らかならず。

【諀】ヒ。匹婢切 紙 賓彌切 支
そしる、(訾)。

【諁】テツ、テチ。株劣切 屑
多言して止まず、かまびすし。

【諰】チ、ヂ。徒私切 支
言ひて懈らざるを。

【諂】テン。丑琰切 琰
へつらふ。
(い)人の意を迎へ言ふ、媚び從ひて語る、おこづる。○[莊]「希レ意道レ言謂二之―一」。
(ろ)卑屈にして他に追從す、媚びて逆はず、おもねる。○[史]「―諛取レ容」。
[讒諂] へつらひそしる。○[禮]「――之民有二比-黨而危レ之者一」。「―荷進一」。
[懷諂] へつらひの心をもつ。○[易、疏]「不レ敢―」。
[邪諂] こゝろたゞしからずしてへつらふ。○[易、疏]「不レ爲二――一」。
[姦諂] 前に同じ。○[北]「摘二發――一」。
[諛諂] へつらふ。○[梅堯臣]「八-事極二――一」。
[阿諂] 前に同じ。○[後漢]「論不二――一」。
[欺諂] あざむきへつらふ。○[後漢]「――無レ狀」。

【諞】ベン、メン。彌連切 先
㊀あざむく、(譣)。㊁わるがしこし、(慧-黠)。

【諄】シュン。章倫切 眞
くりかへして告げ曉すを、詳かに誨ふるを、れんごろ。○[詩]「誨レ爾――」。

【諄】ジュン。私閏切 震
㊀れんごろ。
(い)前條に同じ。○[左]「――焉如二八-九十耆一」。
(ろ)忠謹なるを、すなほに行ふを、まめやか。○[後漢]「勞レ心――」。
㊁疾惡す、にくむ。○[揚雄]「宋魯凡相惡謂二之―憎一」。
㊂たすく、(佐)。○[晉]「晉-孫-蒯-職以下―二趙-鞅一之故上」。

【諄】シュン、シュシ。主尹切 軫

前條の㊁に同じ。

【諃】チン。丑林切 侵
善く言ふ。

【⿰言制】セイ、セ。之勢切 霽
語正しからず、いつはる。

【諅】キ、ギ。渠記切 寘
㊀いむ(忌)。㊁こゝろざし(志)。

【諅】キ。居之切 支
はかる(謀)、一說に、いむ(忌)。○[石鮑子]「―三富貴在二其上一」。

【⿰言底】
詆に同じ。

【諆】キ。去其切 支
㊀あざむく(欺)。㊁はかる(謀)。

【諆】キ、ギ。渠之切 支
はかる(謀)。

【⿰言奄】エン。於劒切 豔
㊀あたふ(予)。㊁ひく(挐)。㊂かくす(匿)。㊃輕んじ言ふ、あなどる。㊄そしる(謗)。

【⿰言奄】エン、オン。衣廉切 鹽
―消は、克ち當たる。

【謍】アウ、オウ。烏刀切 豪
鴉の鳴くにいふ字。

【⿰言事】シ。側吏切 寘
言入る。

【⿰言臿】カフ、コフ。渴合切 合
――謔は、笑ひ語る、さゞめく。

【談】タン、ドン。徒甘切 覃
㊀言論す、かたる、はなす、ものがたる。○[戰]「抵レ掌而―」。
㊁戲調す、たはむる、あざける。○[詩]「不二敢戲―一」。
㊂はなすこと、はなす所、はなし、ものがたり。○[公羊]「注レ今以爲二美―一」。

(街談) まちのはなし。○[漢]「―・―巷語」。
(劇談) はげしくかたる。○[漢]「口吃不レ能二―・―一」。
(清談) 世俗をたちたるものがたり。○[宋]「世重二―・―一」。
(面談) あひ對してものがたる。○[陳子昂]「屬病不レ得二―・―一」。
(對談) 前に同じ。○[黃庭堅]「何時許二―・―一」。
(笑談) わらひてものがたる。○[張說]「―・―二平生一」。
(話談) ものがたる、又、ものがたり。○[四子講德論]「―・―于公卿之門一」。
(言談) はなし。○[禮]「―・―者仁之文也」。
(游談) 游說といふに同じ。○[戰]「是以外賓客―・―之士一」。
(深談) ふかくたちいりかたる。○[戰]「今外臣交淺而欲二―・―一可乎」。
(妄談) まことなきはなし、又、そらごとをかたる。○[文心雕龍]「況乎文士可二―・―一哉」。
(虛談) 前に同じ。○[後漢]「而信二此―・―一」。
(高談) 高尚なるはなし。○[後漢]「中庸―・―無レ據二天下一」。
(善談) よきものがたり、又、よくかたる。○[晉]「―・―名理一」。
(史談) 歷史のものがたり。○[宋]「庶免二―・―之譏一」。
(文談) 文學のはなし。○[梁]「灼々―・―」。
(時談) 當世のはなし。○[柳宗元]「夙治二―・―一」。
(極談) はゞからずおもひのまゝにかたる。○[老學庵筆記]「喜大罵―・―」。
(閑談) しづかにものがたる。○[韋莊]「絕倒―・―坐到レ明」。
(嘲談) あざけりかたる。○[宋]「時々雜二挑給―・―以資二嬉笑一」。
(說談) かたる。○[淮]「―・―者游二於辯一」。
(遍談) あまねくかたる。○[世說]「使二之―・―一」。
(發談) はなしだす。○[開天遺事]「方啓レ口―・―」。
(盛談) さかんにかたる。○[遯齋閑覽]「獨遊二一寺一謁レ客―・―二文史一」。
(華談) はなやかなるはなし。○[曹植]「刪二流俗之―・―一」。
(玄談) 玄妙なる黃老の道などのはなし。○[李白]「―・―又絕倒」。
(農談) 耕耘稼穡などのはなし。○[庾信]「―・―止二殺稼一」。
(雄談) すぐれたる辯舌。○[王勃]「―・―逸辯吐二滿腹之精神一」。
(縱談) きまゝにかたる。○[權德輿]「―・―窮二化元一」。
(樞談) 前に同じ。○[王惲]「他日儘―・―」。
(解頤談) おもしろきはなし。○[何子季]「臣無二―・―之―一」。
(逆耳談) 忠信なるはなし。○[李翰]「―・―之―容レ之者少」。

【諿】シフ。色入切 緝
多言す。

【諈】ツヰ。竹寘切 寘
㊀―諉は、煩しく重なる貌にいふ語、又、事の累り屬くこと。㊁よす(託)。

【諉】ヰ、ニ。女恚切 寘 ヰ。邕危切 支 弋睡切 紙
㊀相累係す、かゝる、わづらはす。○[漢]「執レ事不レ―レ上」。㊁よす、よる(託)。○[漢]「倘有レ可レ―者一」。

【⿰言典】トン。吐袞切 阮
很ろ貌にいふ字、もさる。

【諊】
鞠に同じ。

【⿰言彔】リヨク、ロク。力玉切 沃 ロク。盧谷切 屋
たはむる(謔)。

【請】セイ、シヤウ。七情切 庚 セイ、シヤウ。七井切 梗 セイ、ジヤウ。疾正切 敬
こふ。
(い)祈る。○[左]「余得レ―二於帝一」。
(ろ)願ふ。○[漢]「上書自―レ擊」。
(は)求む。○[禮]「墓地不レ―」。
(に)謁す。○[荀]「下不二私―一」。
(ほ)問ふ。○[禮]「―レ業則起」。
(へ)告ぐ。○[禮]「納レ徵―レ期」。
(と)受く。○[許棠]「印心誰受―」。

(奏請) かみに奏聞して乞ふ。○[漢]「有司―・―減二什三一」。
(造請) 到りて謁すること。○[漢]「此―・―諸公不レ避二寒暑一」。
(彊請) てづよく乞ひ求む。○[漢]「張良―・―」。
(聘請) 召し迎ふ。○[魏]「由レ是爲二諸王所一―・―」。
(辟請) 前に同じ。○[蜀、許]「諸公―・―」。
(禱請) 神などにいのる。○[後漢]「百姓耆老爲―・―」。
(祈請) 前に同じ。○[杜甫]「―・―走見黃」。
(懇請) ねんごろに乞ひ求む。○[宋]「―・―愈堅」。

【⿰言東】トウ、ツ。多動切 董
多言す、ことばおほし。

【諍】サウ、シヤウ。側迸切 敬
諫きて過失を救ひ正す、たゞす、いさむ、○[漢]「諫―卽見レ聽」。

〔廷諍〕朝中にていさかふ。○〔漢〕「于二面折一一一」、臣不レ如レ君」。
〔紛諍〕みだれあらそふ。○〔徐陵〕「善和二一一一」。
〔忿諍〕いかりあらそふ。○〔魏〕「與レ陣復致二一一」。
〔苦諍〕いたくいさめあらそふ。○〔唐〕「叩二延英一一」。

【諍】サウ、シヤウ。甾莖切 庚
あらそふ、うったふ（訟）。○〔後漢〕「平二理一一訟一」。

【諎】サク、シヤク。壯革切 陌
大聲、おほごゑ。

【諎】サク、ザク。疾各切 藥
酬ひ言ふ、こたふ。

【諎】サ。千過切 箇
おほくいふ（譗）。

【諎】サ、セ。側下切 馬
誘言す、いざなひいふ。

【諎】シヤ、セ。子夜切 禡
㊀なく（鳴）。㊁歎く聲。

【[言+奇]】キ。居宜切 支
語り戲る、たはむる。

【[言+奇]】キ。區里切 紙
妄語、いつはり。

【諏】シュ。子于切 虞
衆と議す、はかる。○〔儀〕「不レ一レ日」。
〔咨諏〕たづねはかる。○〔詩〕「周爰一一」。

【諐】籀文の愆の字、あやまる、あやまち。○〔漢〕「元-首無二失レ道之一一」。

【諑】タク、トク。竹角切 覺
志こづる、（譖）、うったふ（訴）、又、せむ（責）、又、そしる（毀）。○〔屈平〕「謠一謂予以善淫」。

【[言+罙]】セン、ゾン。時占切 鹽
言の實ならざるを、いつはり。

【諒】リヤウ、ラウ。力讓切 漾
㊀まこと。
（い）詐りなきを、信實。○〔禮〕「請二肄簡一一」。
（ろ）特に細小なるを拘泥する信實にいふ字。○〔論〕「豈若二匹-夫匹-婦之爲レ一也」。
（は）疑はざるを。○〔詩〕「不レ一レ人只」。
㊁照察す、志る、あきらかにす。○〔韓愈〕「惟吾子一察」。
㊂たすく（助）。
㊃實に、うたがひもなく、げに、まことに。○〔詩〕「一不二我知一」。

【諔】誄に同じ。

【諔】シュク、ソク。昌六切 屋
いつはる、（詭）。○〔莊〕「彼且レ蘄下以二一一詭幻-怪之名一聞上」。

【諓】セン、ゼン。慈善切 銑　前先切 先
㊀善、又、細小の善。○〔漢〕「說二一一之言一」。
㊁善く言ふ、巧に辯す、さく、一說に、たはむる（謔）。○〔國〕「又安知二一一者一乎」。
㊂媚び言ふ、へつらふ。○〔後漢〕「習二一一之辭一」。
㊃巧に譏す、志こづる。○〔劉向〕「譏-人一一一」。
㊄淺薄なる貌にいふ字、あさし。○〔公羊〕「惟一一善二竫-言一」。

【諃】カウ、ゴウ。乎刀切 豪
さけぶ、よぶ（號）。

【諕】カ、ケ。火訝切 禡
あざむく、たぶらかす（誑）。

【諕】謔に同じ。

【論】ロン。盧昆切 元　力困切 願
㊀理を思ふ、かんがふ、おもふ。○〔詩〕「於一二鼓-鐘一」。
㊁さく。
（い）序を追ひて述ぶ、のぶ。○〔史〕「請悉一二先-人所レ次舊-聞一」。
（ろ）解釋す、說明す、さきあかす。○〔書〕「一レ道經レ邦」。
（は）談ず、語る。○〔風賦〕「珍-怪奇-偉不レ可二稱-一一」。
㊂さだむ。
（い）事を議定す、はかる。○〔史〕「一レ功行レ封」。「一レ之」。
（ろ）罪を斷決す、さばく。○〔史〕「乃捕
㊃是非を評ふ、互に難詰す、あらそふ、あげつらふ。○〔吳註〕「與相反-覆究而一レ之」。
㊄さくと、さだむると、評ふと、又、其の意見、主旨、言語、文辭。○〔文心雕龍〕「羣一一立レ名始二于茲一」。
〔討論〕理をたずし究めて論議す。○〔論〕「世叔一一之」。
〔細論〕こまかに議す、又、こまかき議論。○〔杜甫〕「題レ詩好一一」。
〔目論〕外を見りて内をあきらかにせざる議論。○〔史〕「今王知二晉之失-計一、而不レ自知二越之過一、是一一也」。
〔異論〕論說をことにす、又、おなじからざる議論。○〔漢〕「今師異レ道、人一一一」。
〔確論〕うごきなき正しき議論。○〔魏〕「宣-尼一一」。
〔定論〕議論をさだむ、又、うごかざるたしかなる論說。○〔淮〕「士有二一一之一一」。
〔夸論〕夸大に過ぎ事實にあたらざる論議。○〔與習〕「彼豈盡-談一一一誣二晚世俗-哉」。
〔辯論〕言論といふに同じ。○〔禮〕「司-馬一二一一官-材一」。
〔談論〕前に同じ。○〔晉〕「浩爲二風-流一一一者所レ宗」。
〔議論〕前に同じ。○〔韓愈〕「一一不正有二經-據一」。
〔捕論〕とらへて罪を決す。○〔史〕「輒一二一之一」。
〔放論〕ほしいまゝに辯論す。○〔史〕「莊子散二道德一一一」。
〔爭論〕たがひにあらそひて辯論す。○〔史〕「一二一于惠-王之前一」。
〔謬論〕あやまりの議論。○〔歐陽修〕「何其一一一者歟」。
〔識論〕識議といふに同じ。○〔後漢〕「一二一經-理一」。
〔持論〕堅く心に守りたる一定の議論。○〔漢〕「洲-阜不レ根二一一一」。
〔奇論〕めづらしき議論。○〔漢〕「今未レ得三久聞二生之一一一也」。
〔高論〕俗に超えたる議論、又、他人の議論をあがめ稱するにいふ語。○〔漢〕「卑レ之毋二甚一一一」。
〔正論〕正しき議論。○〔漢〕「人-臣之誼宜直言一一一」。
〔讜論〕前に同じ。○〔宋〕「忠規一一」。
〔衆論〕おほくの者の論議。○〔後漢〕「陛-下當下班二布臣之所レ坐、以解中一一之疑上」。
〔抗論〕他に抵抗して論議す。○〔後漢〕「下則一二一當-世一」。
〔評論〕善惡是非を判別して議す。○〔魏〕「而未下嘗一二一時-事一、臧-否人-物上」。
〔時論〕當時の評議。○〔魏〕「一一以二林-師-摘-激一、欽レ致二之公-輔一」。
〔虛論〕いつはりの議論。○〔晉〕「浮-辭一一一不レ禁而自息矣」。

（駁論）辨駁の論議。○〔晉〕「萃-議――、多見ニ施-用ㇾ。
（陳論）のべ議す。○〔晉〕「唄所ニ――ㇾ。
（私論）おほやけならざる議論。○〔歐陽修〕「是彈-人之―・―」。
（鯁論）剛直なる議論。○〔宋〕「仲-淹爲ニ――ㇾ以「獻」。
（公論）公平なる議論。○〔元〕「御-史-臺是一-時―・―「―」。
（謀論）はかる。○〔論衡〕「筆能著ㇾ文、則心能―・――ㇾ。
（儁論）前に同じ。○〔文心雕龍〕「而非ニ刻-薄之「拔」。
（史論）歴史にかゝる評論。○〔徐鉉〕「――著宏・
（聳論）奇抜なる議論。○〔程史〕「時發ニ――ㇾ。
（薦論）人物をすゝめ議す。○〔范仲淹〕「多ㇾ所ニ―・―ㇾ。
（誹論）誹謗の議。○〔孔平仲〕「斧-鉞不ㇾ足ニ以禁ニ―・―ㇾ。
（佳論）よき議論。○〔文同〕「延-之吐ニ――ㇾ。
（切論）はゞからず論議す。○〔眞德秀〕「雖下危-言――、致與ニ小-人ニ忤上」。

【論】リン。龍春切 眞
條理、すぢ。○〔禮〕「必郎ニ天――ㇾ。

【謏】シウ、ジユ。承呪切 宥
口授す、さづく、くちうつし。○〔唐〕「得ニ其密-號――ニ諸-軍ㇾ。

【諘】ヘウ。彼小切 篠
ほむ、（讚）。

【諺】エン、チン。委遠切 阮
㊀なぐさむ、（慰）。㊁したがふ、（從）。

【諔】ショウ、シユ。昌容切 冬
むさぼる、（貪）。

【諗】シン。式荏切 寢
㊀思ひのたけを述ぶ、つぐ、又、はかる、（諫）、又、深く諫む、いさむ。○〔左〕「昔辛-伯――ニ周桓-公ㇾ。
㊁潛藏す、ひそむ、かくる。○〔家語〕「魚-鮪不ㇾ――」。
（密諗）秘密につぐ。○〔唐〕「密――日」。

【誣】ブ、ム。武扶切 虞
欺妄す、いつはる、あざむく。

【諺】ゲン。魚變切 霰
鬼の事を語ること。

【誷】バウ、マウ。未向切 漾
せむ、（責）。○〔揚雄〕「――ニ其戸ニ逃」。

【諙】クワイ、エ。呼怪切 卦
あやまる、（誤）。

【諼】ケン、コン。諠袁切 元
高き聲。

九畫

【謅】ダウ、ノウ。乃老切 皓
語りて相侮ること。

【諛】ユ。楊朱切 虞　愈戍切 遇
へつらふ、（諂）。○〔書〕「僕-臣―、厥君自聖」。
（面諛）おもねりへつらふ。○〔孟〕「與ニ讒-諂――之人ㇾ居」。
（阿諛）前に同じ。○〔史〕「然則怪-迂――苟-合之徒」。
（諂諛）前に同じ。○〔史〕「多――取ㇾ容矣」。
（善諛）たくみにへつらふ。○〔史〕「佞-巧――」。
（巧諛）前に同じ。○〔羅隱〕「而――常進」。
（從諛）へつらふ。○〔史〕「將ㇾ令――承ㇾ意、陷ニ主于不-義ㇾ乎」。

（恐諛）他の者をおそれてへつらふ。○〔漢〕「羣-臣――「耳」。
（譽諛）はめへつらふ。○〔漢〕「――之聲、日滿ニ于」。
（褒諛）前に同じ。○〔南齊〕「――爲ㇾ體」。
（傾諛）陰險にしてへつらふ。○〔唐〕「三-思性――」。

【謚】キヨク、ケキ。紀力切 職
にぶし、ごもる、（訥-言）。

【謏】タク、ダク。徒落切 藥
あざむく、（欺）。

【諜】テフ、デフ。徒叶切 葉
㊀密かに敵情を伺ふ、さぐる、うかゞふ。○〔左〕「使ニ伯-嘉―ㇾ之」。
㊁敵情をうかゞふ者、まはしもの、しのび、細作。○〔左〕「晉人獲ニ秦―ㇾ。
㊂牒に同じ、ふだ、きろく。○〔史〕「余讀ニ――記ㇾ。
㊃喋に同じ、ことばおほし。○〔史〕「豈斅ニ此嗇-夫――利-口捷-給ㇾ哉」。
（間諜）敵地にしのびこみて敵状をさぐる者。○〔史〕「謹ニ烽-火ㇾ多ニ――ㇾ。
（偵諜）前に同じ。○〔沈約〕「――不ニ敢東窺ㇾ。
（怪諜）ふしぎなることをしるしたる籍錄。○〔唐〕「自ニ古之粹-籍靈-符、絕-域之神-經――、盡馭ニ于此ニ二-書ㇾ矣」。
（瑞諜）めでたきしるし。○〔宋〕「――昭錫」。
（良諜）善良なるしのびの者。○〔袁淑〕「全ㇾ鄭實寄ニ「――」。
（貴諜）貴重なる籍錄。○〔徐陵〕「開ニ金-縢之――」。

【諜】セフ。悉協切 葉
言相次ぐ、ついづ。

【諔】コウ、グ。胡遘切 宥
言ふ貌にいふ字。

【誒】誒に同じ。

【諝】ショ、ソ。私呂切 語　相居切 魚
㊀知ること、哲きこと、又、才智。○〔陸機〕「謀無ㇾ遺ㇾ――」。
㊁いつはる、いつはり、（詐）。○〔淮〕「比-周朋-黨設ニ詐――ㇾ。

【諿】キン、ゴン。宜巾切 眞
かたくな、（頑）。

【諞】ヘン、ベン。部田切 先　ヘン。平兗切 銑
便巧にいふ、おやうずにいふ。○〔書〕「惟截-々善――言」。

【諟】シ、ジ。上紙切 紙
㊀たゞし、（正）、又、つまびらか、（諦）。○〔陳〕「研ニ覆古-今――ニ正文-字ㇾ。
㊁この、（是）。○〔書〕「顧ニ――天之明-命ㇾ。
（審諟）あきらかに正し。○〔白虎通〕「制-度――」。

【諟】諦に同じ。

【謥】俗の謥の字。

【諠】ケン、クワン。許元切 元
㊀諼に同じ、いつはる、わする。○〔大〕「遂不ㇾ可ㇾ――」。
㊁喧に同じ、かまびすし。○〔史〕「諸-侯――譁」。

【諠】ケン、コン。火遠切 阮
わする、（忘）。○〔班固〕「猶――已而遺ㇾ形」。

【謚】シ。神至切 イ。於賜切 寘

死者生前の行迹によりて名づくる追號、おくりな。○〔禮〕「死―周道也」。
〔賜諡〕おくりなを君よりあたふ。○〔周〕「小喪――」。
〔美諡〕よきおくりな。○〔班固〕「亡有二――一」。
〔令諡〕前に同じ。○〔漢〕「宜下加二其葬禮一賜中之――上」。
〔善諡〕前に同じ。○〔白虎通〕「故有二――一」。
〔制諡〕おくりなの法を定む。○〔蔡邕〕「昔在聖人之――也」。
〔定諡〕おくりなをさだむ。○〔宋〕「詔二大常一―レ―」。

【諢】ゴン。五困切 願
言を弄ぶこと、戲れの談話、はなし、たはむれ。○〔唐〕「思-明愛二優――一」。
〔打諢〕はなし、たはむれ。○〔宋〕「――得レ不二是黃幡綽一」。

【謏】セウ。先了切 篠 シウ、息有切 宥 シユ。切
㊀すこし(小)。㊁いざなふ(誘)。

【誜】ソウ、ス。蘇后切 有
㊀―誜は、誘ふ辭。㊁かげごと(私罵)。

【諤】ガク。五各切 藥
憚らずして直言す、たゞしくいふ。○〔史〕「不レ如二一士之――一」。
〔謇諤〕直言す。○〔晉〕「謀-言――」。
〔骾諤〕剛直に言論す。○〔唐〕「世-南――」。

【諣】クワイ、呼卦切 卦 クワ、火跨切 禡 ケ。切 ケ。切
疾く言ふ、はやごと。

【諣】クワ、ケ。公蛙切 麻
㊀おこたる(惰)。㊁わるがしこし(黠)。

【諑】セン・蒼甸切 霰
ちる(散)。

【諑】ケン。翾縣切 先
㊀相責む、せむ。㊁かぞふ(數)。

【諈】チヨウ、チユ。竹川切 宋
㊀言相觸る、ふる。㊁言謹みて重し、おもくし。

【謕】訴に同じ。○〔宋〕「―二愁-袷一兮鑑二戚-顏一」。

【諦】テイ、タイ。丁計切 霽
㊀明審、つまびらか、あきらか。○〔魏〕「君―視レ之勿レ譌也」。㊁眞實無妄、まこと。○〔法華經、科註〕「若見レ―則驚-悟」。
〔二諦〕佛家の眞諦俗諦をいふ、眞諦また第一義諦となづけ、俗諦また世諦となづく。○〔洛陽伽藍記、序〕「一-乘――之原」。
〔審諦〕あきらかなること。○〔岑參〕「言事皆――」。
〔詳諦〕前に同じ。○〔唐〕「甄レ品――」。

【諨】フク、ホク。方六切 屋
そなふ(備)。

【諧】カイ、ガイ。戸皆切 佳
㊀とゝのふ。(い)調和す、あふ、かなふ、やはらぐ。○〔書〕「八-音克―」。(ろ)平かに價を定む、價平かに定まる。○〔後漢〕「―レ價」。㊁言語の意淺くして俚俗にかなひ聞きておもしろく感ずること、おどけ、又、おどけを言ふ、おどける、たはむる。○〔晉〕「愷-之好二――謔一」。
〔和諧〕やはらぐ。○〔司馬相如〕「交レ情通レ意心――」。
〔詼諧〕滑稽の言をなしてたはぶる。○〔夏侯湛〕「故――以レ之」。
〔變諧〕調諧といふに同じ、やはらぎとゝのふ。○〔駱賓王〕「―二―元-氣一」。
〔歡諧〕よろこびやはらぐ。○〔顏氏家訓〕「竟-日――」「鮮」。
〔嘲諧〕あざけりたはぶる。○〔韓愈〕「――思遊

【諫】カン、古晏切 諫 ケン。居顏切 删
直言して人を悟す、他の非を正し告ぐ、たゞす、さとす、いさむ、いさめ。○〔書〕「后從レ―則聖」。
〔聽諫〕いさめをきゝ入る。○〔史〕「上不レ―レ―」。
〔譎諫〕直言せずしていさむ。○〔唐〕「相-如子雲爲二――之文一」。
〔顯諫〕あからさまにいさむ。○〔禮〕「不二――一」。
〔强諫〕てづよくいさむ。○〔左〕「懦而不レ能二――一」。
〔固諫〕前に同じ。○〔左〕「――不レ聽」。
〔極諫〕前に同じ。○〔史〕「擧二賢-良方-正直-言――者一」。
〔驟諫〕しばしばいさむ。○〔左〕「趙-宣-子――」。
〔箴諫〕いましめいさむ。○〔左〕「工誦二――一」。
〔拒諫〕いさめをふせぎとゞむ。○〔史〕「知足二以―レ―」。
〔直諫〕直言をもていさむ。○〔史〕「伍擧以二――一事二楚莊-王一」。
〔切諫〕痛切なるいさめ、又、きびしくいさむ。○〔史〕「明-主不レ惡二――一以博レ觀」。
〔至諫〕前に同じ。○〔後漢〕「忠-言――」。
〔正諫〕正直にいさむ。○〔漢〕「――似レ直」。
〔受諫〕いさめをうく。○〔禮〕「天-子齋-戒―レ―」。
〔容諫〕前に同じ。○〔唐〕「請レ帝納レ忠―レ―」。
〔諷諫〕直言せずなずらへいさむ。○〔蘇軾〕「非二獨――一」。
〔匡諫〕たゞしいさむ。○〔晉〕「――者少」。
〔規諫〕前に同じ。○〔國〕「而使二朝-夕――一」。
〔誦諫〕うたひいさむ。○〔國〕「使二工―二―於朝一」。
〔泣諫〕なきていさむ。○〔北〕「詰――」、「誹-謗一」。
〔忠諫〕心をつくしていさむ。○〔漢〕「――者謂ニク
〔苦諫〕きびしくいさむ。○〔後漢〕「巴-述上書――」「――」。
〔密諫〕しのびやかにいさむ。○〔北〕「後因二請-間一―」。

【謚】諡に同じ、きろく。

【諪】テイ、チヤウ。唐丁切 青
とゝのふ(調)。

【言剌】ラツ、ラチ。郎達切 曷
剌に作る、語る聲にいふ字。

【諮】咨に同じ、とふ、はかる。○〔左〕「來―二謀齊難一」。

【諯】ケン。翾縣切 セン。職緣切 先 テン、直碾切 霰 デン。尺絹切
かぞふ(數)、一說に、相讓む、せめあふ。○〔呂氏春秋〕「草―二大-月一」。

【諭】ユ。羊戍切 遇
㊀未だ悟らざるものに告げて悟らしむるにいふ字、さとす、さとし。○〔穀梁〕「修レ教明―國道也」。㊁未だ悟らざりしものゝ聞きて悟るにいふ字、さとる、さとり。○〔戰〕「寡-人―矣」。㊂他の物に比へ言ふにいふ字、たとふ、たとへ。○〔漢〕「追二傷屈-原一因以自―」。㊃明らか。○〔淮〕「所二以―レ褒也」。
〔慰諭〕なぐさめさとす。○〔五〕「使三人――二李-章一」。
〔敕諭〕帝王のつげさとし。○〔徐鉉〕「――分-明」。
〔詔諭〕前に同じ。○〔五〕「明-宗――不レ許」。
〔說諭〕よろこびさとる、又、ときさとす。○〔漢〕「明-勃敢不二――一」。

（譴諭）責めさとす。○〔漢〕「漢使二抄-何一—二—右-渠一」。
（譬諭）たとへをひきていふ。○〔荀〕「辯-説——」。
（宣諭）のべさとす。○〔北〕「上遣三不持レ節——一」。
（申諭）前に同じ。○〔鍾會〕「臣又手-書——」。
（褒諭）ほめさとす。○〔宋〕「詔—二—之一」。
（將諭）前に同じ。○〔元〕「爾其若得二睽——之言一」。
（開諭）ひらきつぐ。○〔元〕「——二—詔-書一」。
（誨諭）をしへさとす。○〔顏氏家訓〕「不レ如二寡妻之——一」。
（高諭）すぐれたるさとしとてれもに他の諭示を稱していふ。○〔束晳〕「未敢聞二子之——一」。

【諮】トウ、ツ。他口切　有
みちびく、（誘）。

【諰】シ。胥里切　紙
㊀おもふ、（思）、又言ひ且つ思ふ。
㊁直言す。
㊂懼るゝ貌にいふ字。○〔荀〕「——然常恐二天-下之一-合而軋一レ己」。

【諰】サイ。息改切　隊
かたる、（語）。

【諰】サイ、セ。所佳切　佳
㊀前條に同じ。
㊁語失す、かたりあやまる。

【諰】アイ。烏皆切　佳
彼れを呼ぶの稱に用ふる字。

【諻】毀又喤に同じ。

【諲】イン。於眞切　シン。之神切　眞
つゝしむ。

【諱】キ。許貴切　未
㊀いむ。
（い）隱して表せず。○〔公羊〕「大-惡—、小-惡書」。
（ろ）避けて犯さず。○〔戰〕「罰不レ—二强-大一」。
（は）憚りて言はず。○〔左〕「名終將レ—レ之」。
（に）おそる、（畏）。○〔史〕「擊-斷無レ—」。
㊁いめるを、いめる所、いみ。○〔禮〕「入レ門而問レ—」。
㊂死者の名、いみな。○〔左〕「周人以レ—事レ神」。
（不諱）死去。○〔後漢〕「如有二——一」。
（避諱）いみさくべき言をさかす。○〔晉〕「有下—二非—者上」。
（犯諱）前に同じ。○〔南〕「下官以二——一被レ代」。
（忌諱）いみさく。○〔漢〕「鄙人不レ知二——一」。
（匿諱）いみかくす。○〔史〕「大-將-軍—二—之一」。
（隱諱）前に同じ。○〔晉〕「匿レ有二——一」。
（藏諱）前に同じ。○〔法苑珠林〕「—二—罪-過一」。
（尊諱）たふとびいむ。○〔聞見後錄〕「—二—之一」。

【諳】アン、オン。烏含切　覃
そらんず。
（い）熟知す、熟聞す、熟練す、經歷す、志る、さとる、ふる、つまびらかにすれる。○〔晉〕「—二練舊-事一」。○〔後漢〕「皆—二其數一」。
（ろ）記憶す、志ろす、おぼゆ。○〔蜀〕「—誦無レ滯」。
（は）背誦す、そらよみす。
（熟諳）十分によく知ること。○〔杜荀鶴〕「—二—時-事-樂レ於貧」。
（詳諳）あきらかに知る。○〔賈島〕「尼-名未二——一」。

【諳】アン、オン。烏紺切　勘
前條の（は）に同じ。

【諮】トウ、ツ。他口切　有
言ひ悉くす、つまびらか。

【諴】カン、ゲン。胡嵒切　咸
㊀やはらぐ、（和）。○〔書〕「其不能—二于小-民一」。
㊁誠の感通するを。○〔書、傳〕「誠感レ物曰レ—」。
㊂たはむる、（調）。㊃いつはる、（詧）。
（至諴）極めて誠あること。○〔書〕「——感レ神」。

【諴】カン、コン。姑南切　覃
わらふ、（嗤）。

【諵】ダン、ナン。那含切　覃
聒しく語るにいふ字、語る聲にいふ字。

【諵】ダン、ナン。女咸切　咸
多言する貌にいふ字、べちやくい。○〔韓愈〕「論レ詩說レ賦相——」。

【諵】ダン、ナン。尼賺切　陷
—諛は、私かに詈るを、かげぐち。

【諶】シン、ジン。時任切　侵
㊀信實、まこと。○〔書〕「天難レ—、命靡レ常」。
㊁實に、げに、まことに。○〔屈平〕「—荏-弱而難レ持」。

【諫】諫に同じ。

【諟】チ。丑二切　寘
言語の緩き貌にいふ字。

【謌】カ、ケ。丘駕切　禡
—詬は、巧に言ふ。

【諹】ヤウ。余章切　陽
㊀ほむ、（譽）。㊁かまびすし、（讙）。

【諹】ヤウ。餘亮切　漾
㊀かまびすし、（讙）。㊁つゝしむ、（謹）。

【諷】フウ、フ。芬鳳切　送
㊀文字によらず記憶によりて誦する にいふ字、そらよみ、そらんず、うたふ。○〔漢〕「能—二書九-千-字以-上一、乃得レ爲レ吏」。
㊁あらはに言はずして諫む、譬へかこつけて曉らしむ、いさむ、たさふ、ほのめかす、をしふ、さとす。○〔史〕「優-孟常以二談-笑一——諫」。
（吟諷）うたふ、又、そらよみす。○〔梁〕「——常爲二口-實一」。
（傳諷）傳誦といふに同じ。○〔唐〕「人多——」。
（玩諷）愛玩して吟誦す。○〔唐〕「孜-々——」。
（嗟諷）ほめはやして誦讀す。○〔文心雕龍〕「會レ已則——」。
（箴諷）をしへたとふ。○〔唐〕「因レ文以寓二——一」。
（譏諷）そしりたとふ。○〔韓愈〕「占穎-脫含二——一」。
（微諷）幽微の諷刺。○〔顧英〕「譜-笑雜二——一」。
（朗諷）聲ほがらかにうたふ。○〔李東陽〕「高-吟——猾舌存」。

【諸】シヨ、ソ。章魚切　魚
㊀わかつ、（辯）。○〔爾〕「——便-々辯也」。
㊁凡衆のものを指すにいふ字、もろもろ、ものもの、いろいろ。○〔書〕「歷二試——艱一」。
㊂これ、この、（之）。○〔穀梁〕「迎者行見レ—、舍見レ—」。
㊃に、おいて、（於）。○〔禮〕「射求二正—一」
㊄や。

(い)語調をとゝのふるに用ふる字、○〔詩〕「日居月—」。○〔孟〕

(ろ)疑ひ問ふ意を表す字。「文王之囿、方七十里、有—」。

㊆字句に附け加ふる助字。○〔公羊〕「其—以病レ桓與」。

㊇つけもの、(菹)。○〔禮〕「桃—梅—」。

〔干諸〕貯く。○〔公羊〕「—ニ—其家ニ」。

〔圉諸〕齊の刑獄の地。○〔公羊〕「—・—者若然」。

〔蟾諸〕ひきがへる。○〔關〕「—・—似ニ蝦蟆ニ」。

〔方諸〕水を月よりとる鏡の如きもの。○〔晉〕「—・—可三以取ニ水于月ニ」。

〔扶諸〕白鹿の如くにして四つの角ありといふ獸の名。○〔山海經〕「敦岸山有レ獸焉、其狀如ニ白鹿、而四角名曰ニ—・—ニ」。

〔偏諸〕衣のへり。○〔賈誼〕「—・—緣」。

【諺】ゲン。魚變切　[霰]

㊀世俗に傳はる語、ことわざ、俚言。○〔左〕「—所レ謂老將レ至而耄及レ之者」。○

㊁さぶらふ、(弔)。○〔文心雕龍〕「喪言亦不レ及レ文、故弔亦稱レ—」。

〔野諺〕むらざとのことわざ。○〔史〕「—・—曰、前事之不レ忘、後事之師也」。

〔里諺〕前に同じ。○〔漢〕「—・—曰、欲レ投レ鼠而忌レ器」。

〔鄙諺〕鄙俗なることわざ。○〔文心雕龍〕「戲盤—・—」。

〔俗諺〕前に同じ。○〔魏〕「且—・—云」。

〔俚諺〕前に同じ。○〔韓琦〕「合ニ復著ニ—・—ニ」。

〔古諺〕ふるきことわざ。○〔譚苑醍醐〕「左傳脣亡齒寒蓋—・—也」。

【諺】ガン。魚旰切　[翰]

㊀[illegible]—は、自ら矜る。

㊁畔—は、たけし、つよし。

㊂叛—は、恭しからず。

【[illegible]】諳に同じ。

【諻】クワウ、ワウ。虎橫切　[陽]

喤に同じ、語る聲にいふ字、大いなる聲にいふ字。

【諼】ケン、コン。許元切　[元]

㊀いつはる、(詐)、あざむく、(欺)。○〔漢〕「虛造詐—之策」。

㊁わする、(忘)。○〔詩〕「終不レ可レ—」。

〔詐諼〕いつはり。○〔漢〕「及ニ邪人爲レ之、則上ニ—・—而棄ニ其信ニ」。

【[illegible]】シ。商支切　[支]

多言す、くちやかまし。

【[illegible]】イ。演爾切　[紙]

自得の語。

【諽】カク、キヤク。古覈切　[陌]　キョク、ケキ。訖力切　[職]

㊀かざる、(飾)。㊁あらたむ、(更)。

㊂つゝしむ、(謹)。

【諾】ダク、ナク。奴各切　[藥]

㊀應答(うけこたへ)の聲の調緩かにして意恭しからざるもの。○〔禮〕「父命呼、唯而不レ—」。

㊁うけがふ意をあらはす言にいふ字。○〔禮〕「大師曰、—」。

㊂承領す、ゆるす、うけがふ、うべなふ。○〔老〕「輕—必寡レ信」。

㊃斷末の意を表す字、のみ。○〔公羊〕「此奚斯之聲也—已」。

〔唯諾〕答ふる聲。○〔禮〕「必慎ニ—・—ニ」。

〔宿諾〕うけがひてそのまゝにすておくこと。○〔論〕「子路無レ—レ—」。

〔然諾〕うけゆるす。○〔唐〕「任ニ俠重ニ—・—ニ」。

〔許諾〕前に同じ。○〔史〕「項伯—・—」。

〔敬諾〕つゝしみて承領す。○〔穀梁〕「世子曰、—・—」。

〔應諾〕前に同じ。○〔史〕「張良曰、—・—」。

〔諾々〕人の言論にまたがふ貌にいふ語。○〔史〕「千人之—・—、不レ如ニ一士之諤々ニ」。

【諿】シフ。七入切　[緝]

㊀やはらぐ、(和)。㊁つまびらか、(辯)。

【諝】ショ、ソ。私呂切　[語]

謀慮あること、才智。○〔揚雄〕「予覆ニ夫—ニ」。

【[illegible]】サフ、セフ。側洽切　[洽]

㊀—[illegible]は、多言す。

㊁讒言、さかしらごと。

㊂—諜は、語り笑ふ貌にいふ語、一說に、言定まらず。

【謀】ボウ、ム。迷浮切　[尤]

㊀はかる

(い)難易を慮る、おもんばかる。「—」。○〔易〕「君子以作レ事—レ始」。

(ろ)難易を問ふ、とふ。○〔詩〕「周爰咨—」。

(は)すべて或る物事に對して心を用ふるにいふ字。○〔論〕「君子—レ道不レ—レ食」。

(に)少數の人と相議するにいふ字。○〔戰〕「可ニ與—一也」。

(ほ)はかりごとを立つ、はかりごとに陷らしめんとす。○〔左〕「貪必—レ之」。

㊁術策、手段、てだて、まかた、はかりごと。○〔書〕「爾有ニ嘉—嘉猷ニ」。

〔拙謀〕たくみならざるはかりごと。○〔韓愈〕「—一傷ニ巧詠ニ」。

〔善謀〕よきはかりごと。○〔左〕「軍之—・—也」。

〔寡謀〕はかりごと多からず。○〔左〕「輕則—レ—」。

〔遠謀〕永遠のはかりごと。○〔賈至〕「論レ遠無ニ—・—ニ」。

〔權謀〕權變のはかりごと。○〔王昌齡〕「以レ君寄ニ上施ニ—・—ニ」。

〔陰謀〕陰密のはかりごと。○〔史〕「我多ニ—・—ニ」。

〔詢謀〕とひはかる、又、はかりごとをとふ。○〔書〕「—・—僉同」。

〔非謀〕よきはかりごとにあらざること。○〔左〕「得ニ一夫一失ニ一國ニ—レ—也」。

〔軍謀〕いくさのはかりごと。○〔韓愈〕「皆以—・—攜ニ將帥ニ」。

〔策謀〕計略。○〔荀悅〕「有ニ—・—焉」。

〔合謀〕はかりごとをあはす。○〔戰〕「燕昭王與ニ秦楚三晉ニ—レ—以伐レ齊」。

〔通謀〕前に同じ。○〔淮〕「三國—レ—擒ニ智伯ニ」。

〔淺謀〕あさはかにはかる、又、ふかゝらざるはかりごと。○〔左〕「深思而—・—」。

〔詐謀〕いつはりのはかりごと。○〔左〕「晉ニ其—・—ニ」。

〔譎謀〕前に同じ。○〔史〕「漢既—・—會ニ信於陳ニ」。

〔老謀〕老熟なるはかりごと。○〔陳〕「既無ニ—・—ニ」。

〔深謀〕あさからざるはかりごと、又、おくそこまでふかくはかる。○〔戰〕「不レ可ニ與—・—ニ」。

〔勇謀〕たけきはかりごと。○〔後漢〕「參—・—不レ測」。

〔獻謀〕はかりごとを進む。○〔國〕「大夫種乃—レ—」。

〔計謀〕はかりごと。○〔史〕「盡蘇君之—・—」。

〔規謀〕前に同じ。○〔後漢、註〕「—・—弘遠」。

〔奇謀〕めづらしきはかりごと。○〔史〕「臣遊ニ—・—之士ニ」。

〔智謀〕さときはかりごと。○〔史〕「軍士有ニ—・—ニ」。

〔忠謀〕忠實なるはかりごと。○〔潘岳〕「讜言—・—」。

〔迴謀〕はかりごとをめぐらす。○〔後漢〕「—レ—誅ニ諸宦官ニ」。

〔騁謀〕前に同じ。○〔陸贄〕「智者—レ—」。

〔盡謀〕はかりごとのありたけをつくす。○〔後漢〕「竭レ忠—レ—」。

〔折謀〕挫謀といふに同じ、はかりごとを十分にめぐらし得ざること。○〔魏〕「淮南爲レ之—レ—」。

〔議謀〕はかる。○〔蜀〕「周羣爲ニ吏部尚書ニ、與レ靖共—・—」。

〔密謀〕秘密のはかりごと。○〔晉〕「常參ニ帷幄—・—ニ」。

〔秘謀〕前に同じ。○〔唐〕「預ニ奇計—・—ニ」。

〔弘謀〕ひろくおほいなるはかりごと。○〔晉〕「此先哲之—・—、百王之達制也」。

〔顔謀〕前に同じ。○〔于邵〕「――雲蓄」。

〔資謀〕はかりごとをたすく。○〔晉〕「神人――」。

〔宸謀〕皇帝のはかりごと。○〔宋〕「――已定」。

〔聖謀〕前に同じ。○〔宋〕「然後授以二――一」。

〔沂謀〕ふかきはかりごと。○〔忠經〕「夫忠者在二乎――潛運正レ國安一レ人」。

〔淵謀〕前に同じ。○〔張衡〕「獻二――于諸侯一」。

〔胥謀〕はかりごとを倂び用ふ。○〔趙充國〕「是以――而賤レ職」。

〔雄謀〕すぐれたるはかりごと。○〔陶翰〕「――呑二八荒一」。

〔英謀〕前に同じ。○〔錢珝〕「構レ實耀二――一」。

〔纖謀〕こまかきはかりごと。○〔皮日休〕「豈區々出二於――小智一、以著二其術一用レ爭二勝負一哉」。

【諛】諏に同じ、はかる。○〔揚雄〕「不レ咨不レ―」。

【諔】チ。丑二切 〔寘〕 わらふ、（笑）。

【謶】チ。展豸切 〔紙〕 いふ、（言）。

【謁】エツ、オチ。於歇切 〔月〕

㊀こふ、（請）。○〔左〕「宣子―二諸鄭伯一」。

㊁つぐ、（告）。○〔儀〕「乃―二關人一」。

㊂まうす、（白）。○〔戰〕「臣請―二其故一」。

㊃長上を訪ふ、請ひて見る、おさづる、まみゆ。○〔後漢〕「詣二河陽一―二見光武一」。

㊄詣れるを通告するに用ふる名刺、なふだ。○〔史〕「高祖乃紿爲レ―」。

〔典謁〕賓客告請のことをつかさどる。○〔禮〕「長日二能――一矣」。

〔請謁〕こひつぐ。○〔左〕「唯我鄭國之有二――一」。

〔迎謁〕いでむかひてまみゆ。○〔漢〕「宣帝幸二太子宮一受二――一」。

〔上謁〕姓名を通ず。○〔史〕「―レ―求レ見二蘇秦一」。

〔私謁〕おほやけならざる内密の面會。○〔史〕「門不レ受二――一」。

〔朝謁〕朝にいたり請告す。○〔魏〕「四時――」。

〔内謁〕姓名を通じいる。○〔漢〕「―レ―從入」。

〔女謁〕婦人のこひ。○〔說苑〕「――行邪」。

〔拜謁〕拜伏して上にまみゆ。○史「羣臣――稱レ臣」。

〔伏謁〕みをひれふしてまみゆ。○史「大夫皆――」。

〔入謁〕すゝみいりてまみゆ。○史「酈生至――」。

〔啓謁〕まうしつぐ。○〔北〕「諸有二――一、率多見レ從」。

【藹】アイ。於蓋切 〔泰〕 靄に同じ、くもろ。

【謂】井。于貴切 〔未〕

㊀いふ。

（い）告ぐ、語る。○〔詩〕「迨二其―一レ之」。

（ろ）稱す、說く。○〔詩〕「―二天蓋高一」。

㊁いふを、いひ。○〔論〕「其斯之―與」。

㊂いふべき理由、いはれ。○〔漢〕「姦レ法與レ盜々甚無レ―也」。

㊃勸め思ふ、つとむ、おもふ。○〔詩〕「心乎愛矣、遐不レ―矣」。

㊄思念、おもはく。○〔謝靈運〕「凡厥意―」。

【諄】俗の諄の字。

【諗】ハウ。芳妄切 〔漾〕 詢問す、とふ。

【謕】ド、ヌ。乃故切 〔遇〕 悪しく言ふ、そしろ、のゝしろ。

【詷】訶に同じ。

【諿】サイ、ザイ。在細切 〔霽〕 おほし、（多）。

【謄】トウ、ドウ。徒登切 〔蒸〕 書籍を傳鈔す、文書を移寫す、うつす。○〔元〕「―二錄試卷一、毎レ行移二文字一、皆用二朱書一」。

【謅】サウ、セウ。楚絞切 〔巧〕

㊀言を弄ぶと、はなし、おやれごと。

㊁聲。

㊂相擾る、なる。

㊃輕捷、はやし、すばやし。○〔馬融〕「輕――趫悍」。

【謅】シウ、ス。楚鳩切 〔尤〕 陰私（ひそか）に小言す、さゝやく、又、さゝやきて私に授く、さづく。

【謎】嗟に同じ。

【謎】サイ、セ。楚懈切 〔卦〕 異言。

【謎】サ。麁臥切 〔箇〕 あやまつ、あままち、（失）。

【謆】セン。式戰切 〔霰〕 言を以て人を惑はす、まどはす、おだつ。

【豈】ガイ。魚開切 〔灰〕 つゝしむ、（謹）。

【謝】訴に同じ、うったふ。○〔管〕「微賤者無レ所レ告―二―一」。

【謎】ショウ、ジョウ。石證切 〔徑〕 促り言ふ、せまる。

【謚】嗑に同じ。

【謇】ケン。九件切 〔銑〕

㊀言語するに難し、かたし、又、言語かたくして吃す、ごもる。○〔屈平〕「―吾法二夫前修一兮」。

㊁直言するを、枉げずして語るを。○〔後漢〕「膺納二――一、以開二四聰一」。

㊂忠實、まことさ。○〔魏〕「――諤足二以勵一レ物」。

〔謇謇〕正直をそこなふ。○〔晉〕「殘レ忠――」。

〔剛謇〕剛直にはゞからずして論議す。○〔北〕「由二是無二――之譽一」。

〔忠謇〕忠義にして直言するを。○〔唐〕「當今――貴重無レ踰レ徵」。

【暑】ハク、ボク。蒲角切 〔覺〕

㊀大いに呼びて自ら勉む、つとむ。

㊁大いに呼ぶ、よぶ、よばふ。

㊂聲。

【謈】ハウ、ボウ。薄皓切 〔皓〕 歩高切 〔豪〕 冤を白す、いひわけす、又、冤を痛みて發する聲にいふ字。○〔漢〕「郭舍人榜不レ勝レ痛呼レ―」。

【謉】愧又詭に同じ。

【謉】クワイ、エ。虎猥切 〔灰〕 哼――は、戲れ言ふ、たはむる。

【謉】タイ、テ。都罪切 〔賄〕 ――諱は、戲言、おやればなし。

【謉】タイ、デ。徒回切 〔灰〕 へりくだる、（謙）。

【謊】俗の謊の字。

【謋】クワク。虎伯切 陌
速かなる貌にいふ字。○〔莊〕「動レ力甚微、一一然已解」。

【謌】歌に同じ、うた、うたふ。○〔史〕「遷-騷弾レ劔而一」。

【諣】諮に同じ。

【謍】エイ、余傾 クワウ。虎横 ワウ、ヤウ。切 烏宏切 庚
小さき聲、こゑ。○〔馬融〕「錚-鐄一-嘀」。

【謍】クワウ、ガウ。呼宏切 庚
大いなる聲、おほごゑ。○〔班固〕「權-女謳鼓-吹震、聲激-越一厲レ天」。

【謍】譞に同じ。

【謎】ベイ、マイ。莫計切 霽
語辭を廻互（まはしたがへ）して意義を隱蔽し人をして其の解釋に迷はしむるもの、なぞ。○〔文心雕龍〕「君-子隱-化而爲二一-語一」。

【謏】セウ。先了切 篠 ソウ、蘇口切 有 ス。
㊀すくなし、すこし（小）。○〔禮〕「足三以一-聞一」。
㊁いざなふ、さそふ（誘）。○〔正字通〕「稗-官小-史曰二一-說一」。

【謏】ソウ、ス。先奏切 宥
諏一一は、怒り言ふ、ほかる。

【諔】シツ、シチ。秦悉切 質

㊀くるしむ（苦）。㊁そこなふ（毒）。
㊂語急なり、くちはやし。

【謐】ビツ、ミチ。彌必切 質
騷亂せざること、愼めること、靜か、安らか。○〔班固〕「內-外寂一一」。
（安謐）やすらかにおだやかなること。○〔後漢〕「以須二一一」。
（淸謐）きよらかにおだやかなること。○〔北〕「邊服一一」。
（澄謐）前に同じ。○〔丘遲〕「天-儀一一」。
（靜謐）おだやかなること。○〔揚雄〕「一-一依-巖-隈二」。
（恬謐）前に同じ。○〔歐陽詹〕「求二諮一-一則常樂」。
（曠謐）ひろやかに靜かなり。○〔王融〕「道-協一-一」。
（夷謐）やすくおだやかなること。○〔郝名遠〕「八-荒一-一」。

【諸】シ。處脂切 支
いかる（怒）、ほかる（訶）。

【謒】シヤウ、サウ。千羊切 陽
語ると輕し、くちがる。

【謑】ケイ、ガイ。胡禮切 薺
小人怒りて惡言するにいふ字、のゝしる、はづかしむ、はづかしめ、はぢ。○〔荀〕「無二廉-恥一而任二一-詢一謂二詈-辱一」。

【謑】ケイ、ガイ。弦雞切 齊
一-髁は、正しからざる貌にいふ語。○〔莊〕「一-髁無レ任而許二天-下之尙-賢一」。

【謑】カ、ケ。虛訝切 禡
怒り言ふ、のゝしる、そしる。

【謑】カイ、ゲ。下解切 卦
怒れる聲にいふ字。

【謕】キ、ケ。許旣切 未
悪氣、かたりぶり。

【謚】シヨウ。諸仍切 蒸
一-仍は、語煩はし、わづらはし。

【謓】嗔に同じ。

【謓】シン。之刃切 震
わらふ（笑）。

【謔】キヤク、カク。迄却切 藥
㊀戲れ言ふにいふ字、おどける、たはむる、おどけ、たはむれ。○〔詩〕「一-一浪笑-敖」。
㊁盛んにして烈しき貌にいふ字、はげし。○〔爾〕「一-一-嗃-々」。
㊂喜び樂しむにいふ字、たのしむ、よろこび。○〔詩〕「天之方虐、無二然一-一」。
（戲謔）たはむる。○〔詩〕「善一-一兮」。
（笑謔）わらひたはむる。○〔後漢〕「不レ喜二一-一」。
（醜謔）みぐるしきたはむれ。○〔魏〕「縱-共一-一」。
（諧謔）滑稽のものがたりなどしてたはむる。○〔晉〕「好一-一、人多愛二狎之一」。
（調謔）前に同じ。○〔孫楚〕「一-一之巨-觀也」。
（酣謔）酒を飮みたはむる。○〔晉〕「勤與一-一」。
（歡謔）よろこびたはむる。○〔郭璞〕「山-獐之歡見レ人一-一」。
（嘲謔）あざけりたはむる。○〔南〕「多被二一-一」。
（侮謔）あなどりたはむる。○〔桂苑叢談〕「常嗜レ酒一二一-時-謔一」。

【謯】謔に同じ。

【謕】テイ、タイ。天黎切 齊
㊀啼に同じ、なく。○〔漢〕「孤-子一-號」。
㊁語りて相誘ふ、さそふ。

【謕】シ。相支切 支
ねばく諫む、いさむ。

【謖】シユク、ソク。所六切 屋
㊀たつ（起）。○〔列〕「若二夫沒-人一則未三嘗見レ舟、而一操レ之者也」。
㊁翕め斂む、かきあはす。○〔後漢〕「公-子一-一然斂レ袂而興」。
㊂峻く挺出する貌にいふ字、ひいづ、ぬきんづ。○〔後漢〕「公-子一一如二勁-松下-風一」。

【謵】タフ、トフ。他盍切 合
一-嗑は、多言す。

【謳】トウ、ツ。丁候切 宥
一-講は、言ふ能はず。

【謗】ハウ。補浪切 漾
短惡を指し說くにいふ字、そしる、そしり。○〔左〕「羈-旅之臣、敢辱二高-位一、以速二官一一」。
（誹謗）そしる。○〔史〕「一-一者族」。
（毀謗）前に同じ。○〔後漢〕「而一-一布-流」。
（讒謗）前に同じ。○〔宋〕「語涉二一-一」。
（訕謗）前に同じ。○〔北〕「坐二一-一繫レ獄」。
（止謗）そしりをとゞめやむ。○〔說〕「一レ一莫レ如二自-修一」。
（息謗）前に同じ。○〔文中子〕「何以一レ一」。
（權謗）そしらる。○〔宿遷〕「一-一豈出レ人」。
（被謗）前に同じ。○〔史〕「忠而一レ一」。
（造謗）そしりをいたす。○〔史〕「率-臻下-以一「歌-謠一」。
（怨謗）うらみそしる。○〔漢〕「一-一之氣、發-于-一」。
（虛謗）事實によらずしてそしる。○〔劉孝綽〕「二縟-文一-一」。

(詆謗) 去へたけそしる。○〔白居易〕「觸レ事得二——」。
(毀謗) 前に同じ。○〔北〕「雖レ見二——、終不二自中二」。
(嘲謗) あざけりそしる。○〔宋〕「輕-俊喜二——」。
(羣謗) おほくの者のそしり。○〔郭璞〕「下所三以弭二息——二」。
(避謗) そしりを得るをきらひさく。○〔唐〕「又——不レ著レ書」。
(猜謗) いみそしる。○〔黄庭堅〕「漫默貰二——」。

【言馬】 バ、メ。莫駕切 禡
多言す。

【言犀】 チ、ヂ。直尼切 支 直利切 寘
言語の遲緩にして鈍きこと。○〔荀〕「衆-積——」。

【謙】 ケン。苦兼切 鹽
㊀易の卦の名、☶☷ 艮下坤上 ○〔易〕「—亨君-子有レ終」。㊁己を屈して他に下る、ゆづる、へりくだる。○〔易〕「天-道虧レ盈而益レ—」。㊂嗛に同じ、きらひ、うたがひ。○〔荀〕「信而不レ處レ—」。
(福謙) つゝしみゆづる者に幸福をさづく。○〔易〕「鬼-神害レ盈而—レ—」。
(好謙) へりくだるを愛す。○〔易〕「人-道惡レ盈而—レ—」。
(勞謙) 勞苦してへりくだる。○〔易〕「——君-子有二終-吉二」。
(謙々) 退讓恭敬の貌にいふ語。○〔易〕「——君-子用渉二大-川二」。
(履謙) 敬讓の徳をふみ行ふ。○〔後漢〕「當レ宇-積レ善-—レ—之祐二」。
(恭謙) うやまひつゝしみてへりくだる。○〔後漢〕「陛-下——克讓」。
(和謙) やはらぎゆづる。○〔易〕「——致レ樂」。
(卑謙) へりくだる。○〔劉克莊〕「聖-賢自牧極——」。
(柔謙) やはらかにへりくだる。○〔漢治〕「得二——于五-行二」。

【謙】 慊に同じ、あきたる、あきたらず。○〔禮〕「此之謂二自—二」。

【謚】 エキ、ヤク。伊昔切 陌
笑ふ貌にいふ字。

【講】 カウ、コウ。古項切 講
㊀とく。(い)和解す、たひらぐ。○〔戰〕「秦未二與レ魏—二」。(ろ)論告す、つぐ。○〔禮〕「—レ信修レ睦」。(は)明示す、あかす。○〔禮〕「—二於仁二」。㊁練習す、ならふ、ならはす。○〔周〕「—二馭-夫二」。「不レ—」。㊂討究す、ならぶ、きはむ。○〔國〕「物—」。㊃はかる(謀)。○〔左〕「—レ事不レ令」。㊄顜に通じ、川ふ、やはらぐ。○〔漢〕「蕭-何爲レ法—若二畫—二」。
(研講) 究めならぶ。○穀梁、序「—二—六-籍二」。
(勸講) 帝王などに文學の講義をすゝむることにて侍講といふが如し。○〔後漢〕「徵入——」。
(都講) 門生中のかしら。○〔後漢〕「爲二元——二」。
(聽講) 講義をきく。○〔梁〕「于二鍾山—レ—」。
(遞講) かはるがはる書物などの義を解說す。○〔梁〕「——經論二」。
(覆講) くりかへし講說す。○〔梁〕「晩而——」。
(代講) 人のかはりに講說す。○〔南〕「帝二少-琢——」。
(輟講) 講義をやむ。○〔南〕「虹管一日——」。
(開講) 講義をはじむ。○〔南〕「——日有二三-足-烏二」。
(進講) 君に講說をあげまゐらす。○〔元〕「請二于經-筵——」。

【講】 媾に同じ。○〔史〕「與レ魏—罷レ兵」。

【謜】 ゲン、グワン。魚怨切 願
徐かに語る。

【謜】 ゲン、グワン。愚袁切 元
㊀前條に同じ。㊁人の名。

【謜】 セン。此緣切 先
言語の和ぎ悅べること。

【謝】 シャ、セ。子夜切 禡
㊀ことわる。(い)請求を絶つ、ひきうけず。○〔史〕「—二絶賓-客二」。(ろ)辭告す、ことばをかく、つぐ。○〔漢〕「厮-養卒—二其舍二」。(は)過失をゆるされんことをこふ、わびす。○〔禮〕「從而—」。(に)致仕す、やくめをひく。○〔禮〕「大-夫七-十而致レ事若不レ得レ—、必賜二之几-杖二」。㊁辭し去る、さる。○〔屈平〕「願歲幷—與長友兮」。㊂退く、衰ふ、彫み落つ。○〔淮〕「若三春-秋有二代—二」。㊃恩德を受けてかたじけなき意を表すること、れい。○〔漢〕「其人來—」。㊄榭に同じ。○〔荀〕「臺—甚高」。㊅行くに頭仰げる一種の龜。○〔爾〕「仰者—」。
(遞謝) かはるがはるしりぞく。○〔東晳〕「四-時——」。
(固謝) いたくことわる。○〔史〕「重-耳——不二敢入二」。
(辭謝) ことわる。○〔史〕「代-王使二人——二」。
(報謝) 恩德にむくいれいをのぶ。○〔史〕「所三以不二——者」。
(伏謝) 身をひれふしてことわる。○〔史〕「辭——不レ受二」。
(跪謝) ひざまづきてわびす。○〔孔叢子〕「陳-王——」。
(陳謝) れいをのぶ、又、ことわりをいふ。○〔南〕「永-天幸、表——」。
(慙謝) こゝろにはぢてわびす。○〔南〕「倫之——」。
(追謝) あとよりわびす。○〔南〕「現—二—之二」。
(悔謝) あやまちをさとりてわびす。○〔魏〕「須二共——乃食」。
(懇謝) てあつくれいをのぶ。○〔舊唐〕「勤頓-首——」。
(深謝) いたくわびことわる。○〔蒲道源〕「—二—諸-侯-愧二不-能二」。
(驚謝) おどろきてわびす。○〔唐〕「工——」。
(厚謝) てあつくわびことわる。○〔唐〕「更爲二遜-言——」。
(賂謝) れい。○〔宋〕「不レ受二——」。
(凋謝) おちしりぞく。○〔韓愈〕「朋-交日——」。
(開謝) 花などのひらくとおつること。○〔馬臻〕「——幾-年春」。

【言素】 ソ、ス。先護切 遇
そらんず(諳)。

【言毘】 ヒ。篇夷切 支
叱る聲。

【謞】 カク、コク。許角切 覺
禍さなるを樂み虐ぐるを助くること。○〔爾〕「——崇二讒-慝一也」。

【謞】 嗃に同じ、よぶ、さけぶ。○〔管〕「若二——之靜二」。

【謟】 タウ、トウ。他刀切 豪 叨號切 號
うたがふ(疑)。○〔左〕「天-道不レ—、不レ貳二其命二」。

【謠】 エウ。餘招切 蕭
㊀樂曲に合はせず徒に聲に節をつけて誦す、うたふ。○〔詩〕「我歌且—」。㊁樂曲に合はせずにうたふこと、又、其の詞章、うた、郎ち、ひなうたの類。○

〔漢〕「孝武立二樂府一而采二歌謠一」。㊂そしる（毀）。○〔屈平〕「――諑謂、予以善淫」。「滿こ。

〔謳謠〕うた、又、うたふ。○〔唐明皇〕「藩鎮――」。
〔風謠〕諷戒のうた。○〔後漢〕「採二用――一」。
〔詩謠〕うた。○〔韓愈〕「且カ二新――一」。
〔民謠〕民間に傳播せるはやりうた。○〔王禹偁〕「若有二――起一」。
〔吟謠〕うたふ。○〔謝惠連〕「商羊自――」。
〔詠謠〕前に同じ。○〔元稹〕「開卷恣――」。
〔讙謠〕よろこびのうた、又、よろこびうたふ。○〔柳宗元〕「野夫――」。
〔閒謠〕しづかにうたふ。○〔陶潛〕「斂襟獨――」。

【䌛】繇、又、由に同じ。

【⿰言留】リウ、ル。力救切 宥 𥛚に同じ、いはふ。

【⿰言鬲】カク、キヤク。公核切 陌 ㊀さとし（慧）。㊁語相入れず、さかふ。

【誇】謣に同じ。

【誇】クワ、ケ。呼瓜切 麻 譁答の聲。

【⿰言昌】ケン。去演切 銑 小しく息ふ、いこふ。

【⿱差言】嗟の本字。

【⿰言䍃】詢に同じ。

【⿺鬼言】キ、ケ。居依切 微 いふ（言）。

【誖】ホツ、ボチ。蒲沒切 月

言亂る、みだる。

【⿰言宰】カ、ゲ。何駕切 禡 たぶらかす（誑）。

十一畫

【謣】ウ、ヲ。羽俱切 虞 妄言、いつはり。○〔揚雄〕「――言敗レ俗」。

【謣】ク、コ。匈于切 虞 ――輿は、重きを擧ぐるとき力を勸むるにうたふ歌、きやり、きやりうた。○〔呂氏春秋〕「今擧二大木一者前呼二輿――一、後亦應レ之」。

【謤】ヘウ。卑遙切 蕭 ㊀言止まる、やむ。㊁言輕きを、くちがる。

【謥】ソウ、ス。千弄切 送 詷の字の條を見よ。

【謦】ケイ、キヤウ。去挺切 迥 志はぶき（欬）、又、其の聲にいふ字。○〔北〕「――欬爲二洪鐘響一」。

【謦】ケイ、キヤウ。詰定切 徑 ――欬は、言笑す、さゞめく。

【謧】㊀リ。呂支切 支 ㊁レイ、ライ。郎奚切 齊 ㊂ラウ、レウ。力交切 肴 ㊀多言す、志やべる。㊁弄び言ふ、あざける、あなどる。

【⿰言鹵】ロ、ル。籠五切 麌 ――譁は、言の定まらざるを、たがふ。

【⿰言卣】古文の訊の字。

【⿰言堆】㊀タイ、テ。丁回切 灰 ㊁サイ、セ。倉回切 灰 ㊀さがむ（謫）。㊁おさす（落）。

【⿰言祭】セツ、セチ。千結切 屑 ㊀正しき言。㊁小語、さゝやき。

【謨】ボ、ム。莫胡切 虞 ㊀汎きにわたりて謀策を議し定むるにいふ字、はかる。○〔詩〕「訏――定レ命」。㊁汎きにわたりたる謀策、はかりごと。○〔周〕「以陳二天下之――一」。㊂詐欺、いつはる、いつはり。○〔爾〕「――者謀而不レ忠」。㊃なし（無）。○〔五〕「越人――レ信、未レ可二速攻一」。

〔聖謨〕極めてさときはかりごと、又、帝王の謀策。○〔書〕「――洋々」。
〔訏謨〕大いなるはかりごと。○〔詩〕「――定レ命」。
〔宏謨〕前に同じ。○〔袁宏〕「遂贊二――一匡二此頹一道一」。
〔廟謨〕朝廷のはかりごと。○〔後漢〕「明々――」。
〔朝謨〕前に同じ。○〔沈約〕「――謹肅」。
〔淵謨〕ふかきはかりごと。○〔後漢〕「元侯――」。
〔玄謨〕前に同じ。○〔晉〕「着創二――一」。
〔嘉謨〕よきはかりごと。○〔柳宗元〕「百辟贊二――一」。
〔令謨〕前に同じ。○〔魏武帝〕「士思二――一」。
〔良謨〕前に同じ。○〔盧諶〕「――莫レ陳」。
〔陳謨〕はかりごとをのぶ。○〔後漢〕「皐陶――レ而唐虞以興」。
〔奇謨〕めづらしきはかりごと。○〔晉〕「含二――一于朱府一」。
〔忠謨〕せつなるはかりごと。○〔晉〕「[illegible]運二――一」。
〔高謨〕すぐれたるはかりごと。○〔梁〕「雄畧――」。
〔英謨〕前に同じ。○〔陳〕「――雄算」。
〔雄謨〕前に同じ。○〔蘇頲〕「――電發」。
〔睿謨〕さときはかりごとにておもに帝王のはかりごとといふ語。○〔柳宗元〕「――洪運」。
〔宸謨〕帝王のはかりごと。○〔邵說〕「――獨斷」。
〔皇謨〕前に同じ。○〔王禹偁〕「粉二繪帝道一張二――一」。

【謩】謨に同じ。

【⿰言夾】サ、セ。初嫁切 禡 異なる言。

【⿰言商】シヤウ、サウ。尸羊切 陽 はかる（度）。○〔荀〕「――レ德而定レ位」。

【謫】タク、チヤク。陟革切 陌 ㊀せむ（責）、さがむ（咎）、つみす（罪）。○〔左〕「國子――レ我」。㊁罪過、せめ、さがめ、つみ。○〔老〕「善言無二瑕――一」。㊂常ならざる雲氣。○〔左〕「日始有レ――」。
〔遠謫〕官を貶として遠隔の地にうつす。○〔李白〕「我愁――夜郎去」。
〔譴謫〕とがめ。○〔韓愈〕「前年遭二――一」。

【謫】サク、シヤク。士革切 陌 責め怒る、いかる、せむ。

【謫】テキ、チヤク。丁歷切 錫 つみす（罰）。

【⿰言兄】ケイ、ギヤウ。渠慶切 徑 彊めて語る、かたる、一說に、おふ（逐）。

【⿰言竟】競に同じ。

【⿰言帶】㊀テイ、ダイ。大計切 霽 ㊁タイ。當蓋切 泰 あきらか（諦）。○〔揚雄〕「瘱――審也」。

【⿰言羕】ヤウ。弋亮切 漾

聲變す、かはる。

【謬】ビウ、ミウ。眉救切 宥

あやまる、あやまり。(い)みだる、(妄)、あざむく、(欺)、いつはる、(詐)。○〔書〕「繩レ愆糾レ―」。(ろ)あやまつ、(失)、たがふ、(差)。○〔漢〕「―以二千・里一」。

〔錯謬〕あやまりたがふ。○〔漢〕「陰・陽―・―」。
〔差謬〕前に同じ。○〔後漢〕「無レ有二―・―一」。
〔詭謬〕前に同じ。○〔晉〕「喪レ制―・―」。
〔淺謬〕前に同じ。○〔宋〕「曾無二―・―一」。
〔舛謬〕前に同じ。○〔梁〕「亦多二―・―一」。
〔迷謬〕まよひあやまる。○〔魏、誌〕「悔二往・者之―・―一」。
〔悖謬〕もとりみたる。○〔魏〕「浚汝・寫毀二龍疲老―・―一」。
〔偏謬〕不公平にして正しからず。○〔吳〕「上無二―・―之援一」。
〔誤謬〕あやまり。○〔吳〕「懼レ有二―・―一」。
〔訛謬〕前に同じ。○〔五〕「而雜以二―・―一」。
〔缺謬〕文書などのぬけたるとあやまりあると。○〔晉〕「便摘―・―一」。
〔遺謬〕あとにのこりたるあやまり。○〔宋〕「今魏晉―・―、猶布于民一」。
〔愆謬〕あやまり。○〔唐〕「一日糾二―・―不法數十事一」。
〔紛謬〕あやまりみだる。○〔道德指歸論〕「―・―二是非一」。
〔愚謬〕おろかにしてたゞしきをあやまる。○〔典論〕「古今―・―豈惟一人哉」。
〔僞謬〕いつはり。○〔晉公竟〕「黜二正―・―一」。

【誰】イ。以追切 支 サイ、セ。倉回切 灰 ソウ、ス。千侯切 尤

㊀つく、(就)。㊁せむ、(責)。

【謮】責、又、嘖に同じ。

【謯】シヨ、ソ。子余切 魚

たはむる、(謔)。

【謯】サ、セ。側下切 馬

―・訏は、詞る貌にいふ字、一說に、言戾る、もとる。

【謯】詛に同じ、のろふ。○〔漢〕「祝二―後・宮有レ身者王・美・人及鳳等一」。

【〓】〓に同じ。

【〓】バ、マ。莫臥切 箇

大を以て小に對するにいふ字、むかふ。

【〓】キ。几利切 寘

言語に次序なきを。

【〓】サ、セ。沙瓦切 馬

强ひて言語を事とするを、くちたゝく。

【〓】ロウ、ル。盧候切 宥

―・詬は、暴怒す、あれいかる。

【謰】レン。力延切 先 力展切 銑

―・謱は、言語亂れ挐く、みだる、もつる。○〔屈平〕「媒レ女詘兮―・謱」。

【謱】ロウ、ル。洛侯切 尤 郎口切 有

㊀前條を見よ。㊁つゝしむ、(謹)。

【謱】ル、ロ。力主切 麌

覼―・―は、委曲、こまか、つぶさ。

【謲】サン、ソン。倉南切 覃

―・譚は、怒り言ふ、いかる、しかる。

【謲】サン、ソン。七紺切 勘

㊀前條に同じ。㊁うかゞふ、(伺)。

【譖】シン、ソン。楚錦切 寑

陰かに讒る、そしる。

【謳】オウ、ウ。烏侯切 尤

㊀吟歌す、うたふ、特に衆人の聲を齊へてうたふにいふ字。○〔漢〕「―・歌思二東・歸一」。㊁うたふを、うたふ所、うた。○〔列〕「學二―於秦・靑一」。㊂嘔に同じ、嬰兒の語る聲にいふ字。

〔善謳〕よくうたふ。○〔孟〕「王豹處二於淇一、而河・西―・―」。
〔謠謳〕うた。○〔晉〕「並漢世街陌―・―」。
〔樵謳〕きこりのうた。○〔方回〕「謳・詠入二―・―一」。

【謳】ク、コ。匈于切 虞

㊀あたゝむ、(煦)。㊁於―は、化せんと欲する貌にいふ「語」。㊂歌ひて樂む、たのしむ。

【謴】コン。古本切 阮

語の不明なるを。

【〓】〓に同じ。

【〓】コン。古困切 願

言語を以て人を翫ぶ、たはむる、あざける、なぶる。

【謵】シフ。席入切 緝

㊀氣を失ひて言ふ、おそる。㊁習に同じ、ならふ、ならはす。○〔莊〕「復―・―不レ餽而忘レ人」。

【謵】セフ。叱涉切 テフ。丑涉切 緝

言正しからざるを、一說に、小語、さゝめごと。

【〓】サウ、セウ。楚交切 肴 楚教切 效

人に代はりて說く。

【〓】チツ。陟栗切 質

言に倫脊(すぢ)なきを。

【〓】詠に同じ。

【〓】シツ、ソチ。側乙切 質

謫の字の條を見よ。

【〓】バウ、マウ。巫放切 漾

相責む、せめあふ。

【謶】シヤク、サク。之若切 藥

㊀せむ、(謫)。㊁あざむく、(欺)。

【謶】シヤ、ソ。商署切 御

こひねがふ、(冀)。

【謶】嗻に同じ。

【謷】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪 ガウ、ゲウ。五交切 肴

㊀不肖、おろか。○〔呂氏春秋〕「―二醜先・王一」。㊁かまびすし。(い)他の話言を聽かずして妄語せる貌にいふ字、おろかなる言の煩ふべきにいふ字、わづらはし。○〔屈平〕「令・尹兮―・―」。(ろ)悲愁の聲の多きにいふ字、哭聲の止まざるにいふ字。○〔漢〕「天・下―・―然、陷レ刑者衆」。㊂大いなる貌にいふ字。○〔莊〕「―乎大哉」。㊃はなはだし、(甚)。○〔正字通〕「今楚・

黄入謂二事之共者一曰レ—」。

【謷】 傲に同じ、おごる。○〔唐〕「宿將暴—不レ循レ令者」。

【譈】 謷に同じ。○〔荀〕「歌謠—笑」。

【謽】 速に同じ。

【譖】 嘈に同じ。

【謹】 キン、コン。居隱切 吻

㊀つゝしむ。
(い)専一に守る。○〔荀〕「—二其所一レ聞」。
(ろ)重んず。○〔漢〕「擧二大事一不レ細—一」。
(は)潔くす。○〔屈平〕「—厚以爲レ豊」。
(に)嚴かにす。○〔禮〕「命二百官一—二蓋藏一」。
(ほ)自ら警む、うやうやしくす。○〔史〕「丞相醇—而已」。
㊁こゞむ（禁）。○〔荀〕「—二盜賊一」。

(孝謹) よく親に事へて恭敬なるをいふ。○〔梁〕「太子——天至」。
(醇謹) 純良にして恭敬なること。○〔史〕「——無レ他」。
(良謹) 前に同じ。○〔左、疏〕「篤者志性——交遊於密也」。
(忠謹) 忠節ありて恭敬なるをいふ。○〔漢〕「宿衛——」。
(勤謹) 勤勉にして恭敬なること。○〔宋〕「嘗誡二九祖書二——和緩四字一」。
(恪謹) つゝしむ。○〔金〕「——迎承」。
(慎謹) 前に同じ。○〔呂氏春秋〕「淳々乎——」。
(篤謹) 志あつく恭敬なること。○〔史〕「日以——匪レ有レ解」。
(恭謹) つゝしみうやまふ。○〔史〕「相國年老者—」。
(敬謹) 前に同じ。○〔董仲舒〕「甚——」。
(肅謹) 寡然正直にして恭敬なること。○〔史〕「皆娖々——備員而已」。
(柔謹) 温柔にしてつゝしみぶかきこと。○〔北〕「通性——」。
(和謹) 前に同じ。○〔南〕「謙貞正——」。
(温謹) 前に同じ。○〔北〕「光字景仁、性——」。

【謹】 墐に同じ。○〔禮〕「以二—塗一」。

【讋】 セフ。之渉切 葉

人の語を拾ふ、ひろひいふ。

【讋】 シフ。質入切 緝

多言なり、こゝはおほし。

【譯】 ヒツ、ヒチ。壁吉切 質

㊀つゝしむ（敬）。㊁こゞむ（蹕）。㊂おはろ（畢）。

【譩】 アン、オン。烏含切 覃

語の決まらざること。

【謻】 イ。余支切 支 / チ、ヂ。陳知切 支 / シ。敞尒切 紙

㊀別に建てられたる門堂臺榭。○〔晉〕「—門且空」。
㊁冰室、ひむろ。○〔張衡〕「—門曲榭」。

【謼】 古文の呼の字、よぶ、よばはる、さけぶ。○〔漢〕「仰レ天大—」。

【謼】 詨に同じ。○〔漢〕「——服謝レ罪」。

【譻】 エイ。烏奚切 齊

㊀こたへ（譍）。㊁うけこたへの聲にいふ字。㊂志かり（然）。㊃これ（是）。

【謽】 キヤウ、ガウ。巨兩切 養

詞の屈せざるにいふ字。

【譊】 讖に同じ。

【讆】 リ。陵之切 支

のゝしる（罵）。

【謰】 セフ。疾葉切 葉

多言す。

【謾】 バン、マン。毋官切 寒

㊀あざむく（欺）。○〔史〕「懾伏—欺以取レ容」。
㊁おこたる（怠）。○〔漢〕「婿—亡狀」。
㊂あなどる（侮）、又、そしる（毀）。○〔荀〕「背則—レ之」。
㊃なる（媟）、又、けがす（汚）。○〔漢〕「淳于長書有二詩—一」。
㊄汗漫、ひろし。○〔莊〕「太—、願聞二其要一」。

(欺謾) あざむく。○〔漢〕「務爲二——一」。
(詆謾) 前に同じ。○〔九章〕「或——而不レ疑」。
(誕謾) みだりに大言をはきいつはる。○〔史〕「不レ如二——一」。

【譠】 ベン、メン。彌延切 先

わるがしこし（慧黠）、一説に、あざむく（欺）、いつはる（詭）。○〔漢〕「——好謝レ蚡」。

【謾】 バン、メン。莫晏切 諫

誑言す、あざむく、たぶらかす。○〔漢〕「務爲二欺——一」。

【謾】 バン、メン。莫還切 刪

㊀さとし（慧）。㊁——台は、おそろ（懼）。

十二畫

【謿】 嘲に同じ、たはむる、あざける。○〔漢〕「或—レ雄以二玄尚白一」。

【譀】 カン、ゲン。下闞切 勘 / 午監切 咸

ほこる（誕）、又、たはむる（調）。○〔東觀漢記〕「雖二誇—一猶令二人熱一」。

【譀】 カン、ケン。許鑑切 勘 / カフ、ケフ。呼甲切 洽

叫—は、怒り言ふ、いかる、のゝしる。

【譈】 シウ、ジュ。子就切 宥

へつらふ（諛）。

【譁】 クワ、ゲ。呼瓜切 麻

㊀かまびすし（諠譊）。○〔書〕「嗟人無レ—聽レ命」。
㊁かはる（化）。○〔揚雄〕「—涅化也」。

(讙譁) かまびすし。○〔歐陽修〕「起坐而——者」。
(囂譁) 前に同じ。○〔韓愈〕「——所レ不レ及」。
(紛譁) さかんにかまびすし。○〔呉景奎〕「野人居處絶二——一」。

【譚】 タン、トン。他感切 感 / 他含切 覃

言の定まらざるにいふ字、たがふ。

【譂】 セン。齒善切 銑

妄言す、いつはる。

【譹】 カウ、ゴウ。胡到切 號

相欺く、あざむく。

【譮】 カ、ガ。何佐切 箇

響ふるの語。

【譃】 ク、コ。匈于切 虞

妄言す、いつはる、うそつく。

【譄】ソウ。咨騰切 蒸
言を加ふ、くはふ。

【譅】シフ。色入切 緝
❶—嚞は、言ひて止まず。
❷言はなはだ多し。
❸難吃す、ごもる、ともぶる。○〔東方朔〕「言-語訥—」。

【譅】腦に同じ。

【譆】キ。虛其切 支
痛みて呼ぶ聲にいふ字、愁ひ恨みて發する聲にいふ字、懼れて發する聲にいふ字、あ、あゝ。○〔史〕「𤴓-子召レ之曰、—吾有レ所レ見」。

【譩】噫に同じ。

【譮】クワイ、ゲ。胡對切 隊
❶中ごろ止む、やむ。○〔司馬法〕「師多則人—」。
❷かはる、（轉）。❸あざむく、（欺）。
❹さく、（譯）。❺つらぬ、つらなる、（列）。
❻覺悟す、さとる。
❼呼び聚む、あつむ。

【譤】謝の本字。

【譇】タ、テ。陟加切 麻
❶羞ぢつまりて言語もつる。
❷語りて止まず。
❸いかる、（怒）。❹語り競ふ、あらそふ。

【譇】シヤ、セ。詩車切 麻
—謶は、解せざること。

【訨】譅に同じ。

【䜌】レン。呂員切 先
❶みだる、（亂）。❷をさまる、（治）。
❸絕えず、つゞく。❹をさむ、（理）。
❺つなぐ、（繫）。

【䜌】ラン。落官切 寒
❶前條に同じ。❷孌に通じ用ふ、すぐ。

【譱】セン。旨善切 銑
正しき人の言、よきことば。

【譈】タイ、デ。徒對切 隊
うらむ、（怨）、又、にくむ、（惡）。○〔孟〕「凡民罔レ不レ—」。

【證】ショウ。諸應切 徑
❶たがひいつはりのなきを表明する標質、しようこ、しるし、あかし。○〔後漢〕「采ニ前-世成之事一以爲ニ—驗一」。
❷たがひいつはりなきを表明す、つぐ、あかす。○〔論〕「其父攘レ羊、而子—レ之」。
〔無證〕しるしなし。○〔傳燈錄〕「無-得—·—」。
〔文證〕文章のしるし。○〔禮、序〕「—·—詳-悉」。
〔詮證〕ときあかし。○〔孝、疏〕「前-儒—·—」。
〔中證〕明白なること。○〔後漢〕「罪無ニ—·—」。
〔辭證〕つぐることば。○〔後漢〕—·—明-審」。
〔明證〕あきらかなるしるし ○〔晉〕「不-偏之—·—也」。
〔典證〕ふるごとの證據。○〔晉〕「皆有ニ—·—」。
〔引證〕證據。○〔聞見後錄〕「學-者于レ文用ニ—·—、猶ニ訟-事之用ニ—·—也」。
〔根證〕議論などの道理の根原と證據と。○〔唐〕「—·—該-審」。
〔表證〕あらはれたるしるし。○〔論衡〕「此見ニ命之—·—、不レ見ニ性之符-驗一也」。 「—」こ。
〔古證〕むかしのしるし。○〔水經、註〕「全乖ニ—·—」。
〔誤證〕あやまりしるす。○〔水經、註〕「當是世-人—·—也」。
〔顯證〕あらはれたるしるし。○〔梁武帝〕「—·—」長-齡ニ」。
〔虛證〕事實なき證據。○〔沈佺期〕「事閒拾ニ—·—」。

【譊】ダウ、ヌウ。女交切 肴
❶恚り呼ぶ、聲高く噪ぐ、爭ひ語る亂れ鳴く、よばふ、のゝしる、さけぶ、さわぐ、かたる、なく。○〔蜀〕「光常—·—讙-咋」。
❷紛亂嘵吺の聲あるにいふ字、かまびすし。○〔揚雄〕「—·—者、天-下皆訟也」。
〔讙譊〕かまびすしく語る。○〔南〕「沈-湎—·—」。
〔嘵譊〕前に同じ、又、鳴く聲たかし。○〔孫逖〕「多-暇屏ニ—·—」。

【譊】憢に同じ、おそる。

【䜍】レウ。憐蕭切 蕭
巧に言ふ。

【譩】エイ、アイ。於計切 霽
つまびらか、あきらか、（諦）。

【譌】訛、譁、詭に同じ。

【譝】キフ、コフ。許及切 緝
疾く言ふを、はやくち、一說に、語る聲。

【譍】オウ。於證切 徑 於陵切 蒸
他の言に應じて返し言ふにいふ字、いらふ、こたふ、こたへ、いらへ。○〔蘇軾〕「車-馬敲レ門定不レ—」。

【誓】セイ、サイ。先齊切 齊
❶悲しめる聲、なきごゑ。
❷ふるふ、（振）。
❸うめく、をめく、（呻）。❹よし、（善）。
❺嘶に通じ用ふ、いなゝく。

【誓】シ。息移切 支
❶まこと、（諒）。❷聲の散るにいふ字。

【譎】ケツ、ケチ。古穴切 屑
❶詐欺す、いつはる、あざむく。○〔韓〕「—レ主便レ私」。
❷權謀、いつはり、はかりごと。○〔漢〕「權-—自-在」。
❸言ふの直接ならざるにいふ字、さほまはしにいふ。○〔詩、序〕「主レ文—·—諫」。
❹曲折す、まぐ、まがる。○〔漢〕「超ニ紆-—之淸-澄ニ」。
❺決に同じ、さだむ、さだまる。○〔荀〕「—レ德而定レ位」。
❻奇なると、美なると。○〔史〕「奇-物—詭-俶-儻窮レ變」。
〔奇譎〕權詐。○〔漢〕「所レ到輒出ニ—·—ニ」。
〔詭譎〕前に同じ。○〔陶弘景〕「—·—倜-儻」。
〔詐譎〕前に同じ。○〔劉向〕「棄ニ仁-義ニ而用ニ—·—ニ」。
〔機譎〕前に同じ。○〔唐〕「任ニ—·—爲レ政」。
〔誕譎〕大言をはきまことなきこと。○〔唐〕「—·—敢言」。
〔險譎〕陰險にしていつはり多し。○〔唐〕「性忌-刻—·—多-端」。
〔狡譎〕わるがしこくいつはり多きこと。○〔唐〕「伏-威—·—多レ算」。
〔智譎〕かしこくして權界あり。○〔唐〕「父迴-鶻有ニ—·—ニ」。
〔背譎〕そむきいつはる。○〔淮〕「君-臣乖-心、則—·—見ニ于天ニ」。
〔怪譎〕あやしげなり。○〔山海經〕「厥狀—·—」。
〔謬譎〕いつはる。○〔方言〕「—·—詐也」。「尙」。
〔辯譎〕詭辯のこと。○〔錄異記〕「以ニ—·—ニ相高-」
〔邪譎〕よこしまにして正言せず。○〔吳均〕「羣-閹恣ニ—·—ニ」。

【譊】ラウ、ロウ。郎刀切 豪
語る聲にいふ字。○〔書傳〕「――然作二大唐之歌一」。

【譊】ラウ、ロウ。郎到切 號
聲多し、かまびすし。

【譏】キ、ケ。居依切 微
❶そしる、(誹)。○〔班固〕「刺――貶二損當世一」。
❷せむ、(譴)。○〔公羊〕「何以書――」。
❸いさむ、(諫)。○〔屈平〕「殷有二惑婦一、何所レ――」。
❹呵察す、伺察す、うかゞひみる、さひたゞす。○〔禮〕「關執レ禁以――」。
❺きらふ、(嫌)。
〔罵譏〕譏めそしる。○〔韓愈〕、「翁・媼所二――一」。
〔嘲譏〕あざけりそしる。○〔蘇軾〕「嘻呼笑語相――」。
〔詬譏〕のゝしりそしる。○〔黃庭堅〕、謾言來――・「―」。
〔訶譏〕せめそしる。○〔梅堯臣〕「誰虞竊――」、
〔羣譏〕おほくの者のそしり。○〔賈奎〕「誇・詞速二――一」。

【譐】噂に同じ、かたる、うはさ。○〔魏〕「――諮明昏」。

【譒】ハツ、ホチ。方伐切 月
言を發す、いふ。

【譑】ケウ。居夭切 蕭
❶多く言ふ、しやべる、ことばおほし。
❷たゞす、(糾)。○〔荀〕「必有二貪・利糾――之名一」。

【譑】ケウ。吉了切 篠
前條の❷に同じ。

【譑】ケウ。丘召切 嘯
弄び言ふ、あざける、たはむる、なぶる。

【譒】ハ。補過切 箇 補禾切 歌
❶しく、(敷)。❷うたふ、(謠)。

【譀】ガン、ゲン。五咸切 咸
❶戲れ言ふ、たはむる。
❷やはらぐ、(和)。

【譓】ケイ、エ。胡桂切 霽
❶智謀多きを、辨かに察するを、つまびらか、あきらか。○〔晉〕「今陽子之情――」。
❷したがふ、(順)。○〔漢〕「義征レ不レ―」。

【譗】タク、チヤク。陟革切 陌
つみす、(罰)。

【譢】スヰ。雖遂切 寘
相毀る、そしりあふ。

【譆】キ。虛規切 支
❶前條に同じ。❷わづらはす、(諉)。

【譇】ダ。土禾切 歌
❶さとし、(慧)。❷退き言ふ。

【譔】セン。此緣切 先 須絹切 銑
事一に教ふ、なしふ、一說に、殊別に說く、さく、又一說に、善く言ふ、いふ。○〔禮〕「論二―其先祖之美一」。

【譔】サン、ゼン。雛晥切 潸
撰に同じ、のぶ、つくる、なす。○〔揚雄〕「訓二諸理一―二孝行一」。

【譔】セン、ザン。雛戀切 霰
❶前條に同じ。
❷そなふ、そなはる、(具)。○〔楚辭〕「歸徠聽二歌――只」。

【譌】ヲ、ウ。烏路切 遇　アク。遏鄂切 藥
❶そしる、(毀)。❷はづ、(恥)。
❸にくむ、(憎)。

【譕】古文の謨の字。○〔管〕「――臣者可二以遠擧一」。

【譖】シン、ソン。側禁切 沁
誣ひ加へて告ぐるにいふ字、うッたふ、そしる、しこづる、うッたへ、そしり、さかしらごと。○〔詩〕「――言則「―」」。
〔巧譖〕巧にそしりつぐ。○〔韓愈〕「遠出遭二――一」。
〔讒譖〕たくみしこづる。○〔左〕「士蔿与二羣公子一――二富子一而去レ之」。
〔浮譖〕無實の讒誣。○〔漢〕「蒙二受――一」。
〔毀譖〕そしりうッたふ。○〔漢〕「共――二―光一」。
〔構譖〕罪をかまへ讒誣す ○〔唐〕「李林甫數――」。
〔猜譖〕そねみそしる。○〔唐〕「――遐行」。「―」。
〔誣譖〕しこづりつぐ。○〔許棠〕「――遭二遐謫一」。
〔浸潤譖〕漸をおひて入るさかしらごと。○〔論〕「――之―」。

【譛】僭に同じ、いつはる。○〔詩〕「――レ始竟背」。

【譙】セウ、ゼウ。才肖切 嘯
しかる、(呵)、又、せむ、(責)。○〔史〕「子孫有二過失一、不二――讓一」。「之言」。
〔訴譙〕なじりしかる。○〔淨住子〕「今乍聞二――」

【譙】セウ、ゼウ。昨焦切 蕭
❶遠きを望み敵を候ふために門上にたてたる高樓、たかどの、ものみ。○〔史〕「與戰二――門之中一」。
❷敝れ裂けたる貌にいふ字。○〔詩〕「予羽――」。

【識】ショク、シキ。賞職切 職
❶しる。
(い)分別して審かに知る、みわく、みさむ、さとる。○〔詩〕「不レ―不レ知順二帝之則一」。
(ろ)交はり親む。○〔宋〕「端人正士多レ所二交―一」。
❷しるを、しる所、みわけ、みさめ、さとり、又、物事をみわけしる能力。○〔晉〕「擧世伏二其明―一」。
❸親交あるを、まじはり、ちかづき、又、其の人、しりあひ。○〔徐陵〕「依然舊―」。
❹絕對不滅なる人性の根原。○〔法華經、註〕「―是託胎、―分氣息」。
〔器識〕器量見識のこと。○〔晉〕「――弘曠」。
〔鑒識〕鑒定、即ち、みわけ。○〔晉〕「茂有二人倫――一」。
〔淺識〕ふかくしらざること。○〔北〕「王鮒――」。
〔達識〕極めて識見のあきらかなること。○〔北〕「高情――」。
〔至識〕道をしるとあきらかなるをいふ。○〔揚雄〕「多聞見而識二乎道一者――也」。
〔測識〕おしはかりみとむ。○〔孟郊〕「幾人能――」。
〔深識〕知ること多し。○〔國史補〕「可レ謂二――之士一」。
〔遠識〕遠大の見識。○〔晉〕「欽清談有二――一」。
〔博識〕ひろくものを知る。○〔晉〕「時人伏二其――一」。
〔敏識〕事理にさとく見識のあきらかなること。○〔賈至〕「――精達」。
〔智識〕智慧見識。○〔宋〕「而――恒出二長老上一」。

〔拔識〕多衆のなかよりみとめ志る。○〔子華子〕「—₂—俊·良₁」。
〔寡識〕知ること多からず。○〔東京賦〕「鄙-夫—·—」。
〔審識〕あきらかにみわく。○〔孫楚〕「—₂—安·危₁」。
〔玄識〕道を志ること深奥なり。○〔魏都賦〕「先-生—·—」。
〔眼識〕よしあしをみわくる鑒識。○〔梁簡文帝〕「—·—無ㇾ明」。
〔陋識〕せまき見識。○〔江淹〕「俯慚—·—₁」。

【識】
シ。職吏切 〔寘〕

㊀志るす。
（い）記臆す、おぼゆ。○〔論〕「爲₂多學而—ㇾ之者₁與」。
（ろ）記錄す、のす。○〔書〕「書用—哉」、○〔漢〕「不ㇾ可ㇾ不ㇾ—」。
（は）表す、あらはす。
㊁志るし。
（い）記號、おぼえ。○〔名畫記〕「二曰、圖ㇾ—、字-學是也」。
（ろ）標表、めじるし。○〔後漢〕「進-止皆有₂表—₁」。
㊂幟に同じ、はたじるし。○〔漢〕「旌-旗表—」。
㊃刻したる文字、特に、其の陰刻したるもの、即ち、字形の凹狀なるもの。○〔史〕「鼎文鏤無₂款—₁」。
〔標識〕めじるし。○〔宋〕「植ㇾ木繫ㇾ彩以爲₂—·—₁」。
〔紀識〕志るしあらはす。○〔釋名〕「紀記也、—₂—之₁也」。

【譚】
タン、ドン。徒含切 〔覃〕

㊀誕大なること、安縱なること、ほしいまま。○〔大戴禮〕「修ㇾ業居久而—」。
㊁附著す、つく。○〔成公綏〕「參—雲屬」。
㊂談に同じ、はなす、かたる、はなし。○〔魏〕「是老-生之常—」。
〔參譚〕絕えざる貌にいふ語。○〔琴賦〕「—·—繁促」。

【譠】
タン、ドン。徒感切 〔感〕

大いなり。

【譽】
嗟に同じ。○〔宋〕「—我白-髮」。

【謼】
コ、ク。呼公切 〔虞〕

罪惡、つみ。○〔繆襲〕「食ㇾ言乃厥—」。

十三畫

【譜】
ホ、フ。博古切 〔麌〕

㊀序を追ひて記し見はす、かきさむ、志るす。○〔史〕「自ㇾ殷以-前、諸-侯不ㇾ可₂得而—₁」。
㊁序を追ひてかきさめたる簿籍。○〔漢〕「著₂三-統歷—₁」。
〔樂譜〕音樂のことを志るしたるもの。○〔宋〕「宗-諤執₂—·—₁立-侍」。

【譈】
アウ、オウ。於到切 〔號〕

㊀つぐ、（告）、又、かたる、（語）。
㊁隱語、かくしことば、なぞ。

【譝】
ショウ、ジョウ。食陵切 〔蒸〕

㊀言語の質朴なること、すなほ。○〔子華子〕「—·—兮如ㇾ將ㇾ孩」。
㊁稱擧す、ほむ、あぐ。○〔左〕「—₂息-嬀₁以語」。

【譞】
ケン。許緣切 〔先〕

㊀智力、ちゑ、又、ちゑ多し、さとし。
㊁言多し、ことばおほし。

【譗】
セフ。失涉切 〔葉〕

失言す、いひあやまる。

【譃】
ズヰ。旬爲切 〔支〕

【譟】
言從ふ、つきいふ。

サウ、ソウ。先到切 〔號〕

㊀羣集して擾れ呼ぶ、さわぐ。○〔左〕「魏人—而還」。
㊁さわぎて煩はし、かまびすし。○〔周〕「車徒皆—」。
〔鼓譟〕つゞみをならして呼びさわぐ。○〔穀梁〕「齊人—·—而起」。
〔驚譟〕おどろきさわぐ。○〔後漢〕「民相—·—」。
〔叫譟〕さけびさわぐ。○〔後漢〕「鼙ㇾ鼓—·—」。
〔聚譟〕むらがりさけぶ。○〔宋〕「—₂—于馬-首₁」。
〔鼛譟〕前に同じ。○〔宋〕「—₂—州-門₁」。
〔譁譟〕かまびすしくさわぐ。○〔宋〕「士-卒—·—趣₂府-門₁」。
〔讙譟〕前に同じ。○〔韓愈〕「山-滲—·—猩-々游」。
〔怒譟〕いかりさわぐ。○〔宋〕「卒—·—持₂白-挺₁」。
〔嘶譟〕馬のさけびさわぐこと。○〔元稹〕「廟-中不ㇾ省聞₂—·—₁」。
〔狂譟〕くるひさわぐ。○〔王令〕「抵-觸-發₂—·—₁」。

【譪】
バイ、メ。莫敗切 〔卦〕

ほこる、（誕-誇）。

【譮】
カイ、ケ。許介切 〔卦〕

爭ひ怒る貌にいふ字。

【譠】
タン。他干切 〔寒〕

㊀あなどる、（謾）。㊁洊—は、顧す。
㊂ゆるし、（緩）。

【譠】
タン、知山切 〔刪〕 テン。抽延切
テン。切

〔先〕セン、時戰切 〔霰〕
ゼン。切

あざむく、（欺）。

【譡】
讜に同じ。

【譢】
クヮイ、ゲ。呼會切 〔泰〕

【譢】
聲又、衆の聲。

【譤】
スヰ。雖遂切 〔支〕

㊀せむ、（讓）。㊁いさむ、（諫）。
㊂つぐ、（告）。㊃さふ、（問）。

【譣】
セン、思廉切 〔鹽〕 ケン。虛檢切 〔琰〕
ソン。切

㊀憸利（わるざかし）なる佞人。
㊁かたむく、（詖）。
㊂姦言、さかしらごと。

【譣】
驗に同じ。

【譥】
ケキ、キヤク。吉歷切 〔錫〕

いつはる、（詐）。

【譥】
ケウ。吉弔切 〔嘯〕

㊀大いに呼ぶ、さけぶ。㊁痛みて發する聲。㊂いつはる、（訐）。

【警】
ケイ、キヤウ。居影切 〔梗〕

㊀いましむ。
（い）備ふ、守る、敬む。○〔韓〕「謹—₂敵-人₁」。
（ろ）敬ましむ、備へしむ、守らしむ。○〔周〕「—₂戒軍-吏₁」。
（は）さむ、さます、（寤）。○〔禮〕「所₂以—ㇾ衆也」。
（に）報ず、あひづす、志らす。○〔唐〕「三曰、—-鼓」。
（ほ）安んぜず、驚く。○〔歎逝賦〕「節循ㇾ虛而—-立」。
㊁いましめ。
（い）恭敬、つゝしみ。○〔王守仁〕「幽-獨怵-爾抱₂深—₁」。
（ろ）防禦、守備、そなへ、まもり。○〔後漢〕「罷₂關-徼之—₁、息₂兵-民之勞₁」。

（は）いましむる命令、いひつけ、又、いましむる報知、しらせ。○〔宋〕「臣在レ任已聞レ—」。
㊁貴顯の通行に道を淸めいましむると、さきばらひ、みちおさへ。○〔漢〕「出稱レ—、入言レ蹕」。「策」。
㊃敏捷なると。○〔陸機〕「一篇之—」。
〔烽警〕烽火のいましめ。○〔後漢〕「明二—燧之—」。
〔飛警〕さとし。○〔魏〕「太祖少—」。「—」。
〔聰警〕前に同じ。○〔南〕「幼—」。「—」。
〔備警〕いましめそなふ。○〔吳〕「皆乘レ城傳レ檄—」。
〔軍警〕いくさのいましめ。○〔晉〕「無二復—」。
〔戒警〕戒嚴といふに同じ。○〔齊〕「宮城—」。
〔邊警〕邊境のいましめ。○〔唐〕「臣以爲—鄙警—、不レ足レ憂」。
〔猜警〕そねみいましむ。○〔北〕「卿何—如レ是」。
〔昭警〕才智あきらかにしてさとし。○〔唐〕「天性—善二文章一」。
〔開警〕みちびきいましむ。○〔韓了翁〕「—二後學一」。
〔奇警〕めづらしくすぐる。○〔宋〕「弱歲—」。
〔風塵警〕いくさの警戒。○〔漢〕「邊境時有二—之—」。
〔羽書警〕前に同じ。○〔楊億〕「驛埸無二—之—」。

【譧】レン、ロン。離鹽切 〔鹽〕
言正しからず。

【譧】詁に同じ。

【譫】サフ、ソフ。咋答切 〔合〕
こゑ、おさ（聲）。

【譨】ドウ、ヌ。奴侯切 〔尤〕
多く言ふ、競ひ言ふ。○〔楚辭〕「羣司兮——」。

【譨】噥に同じ。

【譩】イ。於擬切 〔支〕
噫に同じ。

【譩】イ、於希切 〔微〕　エ。切　イ。於記切 〔寘〕
痛む聲。

【譩】イ。隱己切 〔紙〕
㊀うらむ（恨）。
㊁こたふ（讐）。

【譁】コン。古困切 〔願〕
人を摩づ、人を翫ぶ、なづ、もてあそぶ。

【譪】アイ。於蓋切 〔泰〕
心力を盡くすの美德あるを、正しきを、一說に、衆多、おほし。○〔詩〕「——王多二吉士一」。

【譾】セン。子淺切 〔銑〕
語煩はし、わづらはし、かまびすし。

【譫】セン、之廉切〔鹽〕　タフ、達合ソン。切　ドフ。切〔合〕
病により妄に多言するを、たはごと。○〔本草綱目〕「心病—妄煩亂」。

【譫】譂に同じ。

【譺】ガフ、ゲフ。五洽切 〔洽〕
語り笑ふ貌にいふ字。

【譬】ヒ。匹至切 〔寘〕
㊀他の物事を借りて匹へ說くにいふ字、たとふ。○〔孟〕「—若レ掘レ井」。
㊁たとふるを、たとふる所、たとへ。○〔詩〕「取レ—不レ遠」。○

㊂さとす、（曉）。○〔後漢〕「請往—二降之一」。「—」。
㊃さとる、（曉）。○〔後漢〕「聞レ之者未レ—」。
〔取譬〕たとへをひく。○〔論〕「能近—」。
〔率譬〕前に同じ。○〔魏〕「—レ—引レ類」。
〔引譬〕前に同じ。○〔淮〕「言二天地四時一、而不二—レ—援レ類一」。
〔假譬〕前に同じ。○〔淮〕「—レ—取レ象」。
〔慰譬〕なぐさめさとす。○〔後漢〕「竝——還二象故地一」。
〔諮譬〕諮服とたとへと。○〔何承天〕「——堅明」。
〔曉譬〕あきらかにさとす。○〔後漢〕「—二—曲直一」。

【譭】毀に同じ。

【譯】エキ、ヤク。夷益切 〔陌〕
（い）異邦の言文を解し陳ぶ、つたふ、のぶ、うつしいふ。○〔周、疏〕「重二九—一而朝」。
（ろ）義理を解說す、わけをさく。○〔潛夫論〕「聖人爲二天口一、賢人爲二聖—一」。
〔重譯〕外國のことばをいくつもかさねかへてつたふ。○〔史〕「—レ—請レ朝」。
〔累譯〕前に同じ。○〔漢、註〕「故—レ—而後通」。
〔遠譯〕遠き外國。○〔後漢〕「眇々——」。
〔詳譯〕あきらかに翻譯す。○〔元〕「汝其——以進」。「未レ能レ通」。
〔傳譯〕つたはりたる翻譯。○〔隋〕「其餘——、多最爲二近解一」。
〔翻譯〕他の國の言語を解しつたふ。○〔隋〕「——」

【譮】話に同じ。

【譮】クワイ、エ。黃外切 〔泰〕
さとる（悟）。

【譮】カイ、ケ。許介切 〔卦〕

㊀怒る聲にいふ字。
㊁氣の高き貌にいふ字。

【譟】クワ、ケ。古罵切 〔禡〕
㊀相誤る、あやまる。㊁あざむく（欺）。

【譢】譽の本字。

【響】キヤウ、カウ。許亮切 〔漾〕
㊀久しからず、しばらく。
㊁美言にあらざるを。㊂こたふ（答）。

【譱】古の善の字。○〔漢〕「安レ上治レ民莫レ—二於禮一」。

【議】ギ。宜寄切 〔寘〕
㊀事の宜しきを評し定む、はかる。○〔國〕「伯翳能—二百物一」。
㊁論ず。○〔荀〕「法而不レ—」。「—」。
㊂語る。○〔呂氏春秋〕「必當レ義然後—」。
㊃評ふ。○〔吳越春秋〕「子胥力二于戰伐一、死二于諫—一」。
㊄誹る。○〔史〕「入則心非、出則巷—」。
㊅えらぶ（擇）。○〔儀〕「乃—二侑于賓一」。
㊆意見、定評、言論、論說、謀計。○〔史〕「他如レ—」。
〔横議〕放縱なる評議、又、ほしいまゝに評論す。○〔孟〕「處士——」
〔建議〕議論をたて奏す。○〔南〕「所二——一」。
〔沮議〕謀議を沮止す。○〔王褒〕「二客雖二望レ—レ—、何傷」。「異向」。
〔講議〕講論といふに同じ。○〔後漢〕「—二——五經而自與上也」。
〔正議〕たゞしき謀議。○〔左〕「吾不レ可下以二——」
〔謀議〕はかり論ず、又、はかりごと。○〔史〕「——巡狩封禪事一」。
〔計議〕前に同じ。○〔史〕「故願大王審二定——一」。
〔圖議〕前に同じ。○〔史〕「入則與レ—二—國事一」。

〔論議〕評議といふに同じ。○〔史〕「與二十九人——」。
〔集議〕あつまりて評議す。○〔史〕「上令公卿列侯宗室——」。
〔會議〕前に同じ。○〔史〕「每朝——」。
〔奏議〕奏聞の議論、又、評論を上に奏上す。「——」。○〔漢〕「——可述」。
〔擅議〕ほしいまゝにはかりさだむ。○〔漢〕「不得——」。
〔持議〕持論といふに同じ、又、議論をかたくまもる。○〔宋〕「——不苟合」。
〔朝議〕朝廷の評議。○〔潘岳〕「——惟疑」。
〔誹議〕そしり論ず。○〔漢〕「下流多——」。
〔譏議〕前に同じ。○〔馮衍〕「——橫世」。
〔非議〕前に同じ。○〔漢〕「——詔書」。
〔邪議〕よこしまなる謀議。○〔漢〕「衆小在位而從邪——」。
〔衆議〕おほくの者の評論。○〔蔡邕〕「誠當博採——、從其安者」。
〔羣議〕前に同じ。○〔後漢〕「具以——質之」。
〔異議〕ことなりたる議論、又、議論をおなじうせず。○〔後漢〕「每有四方——、輒召入問籌策」。
〔直議〕正直に論議す。○〔韓〕「羣臣——于下」。
〔評議〕はかり論ず。○〔晉〕「共詳——」。
〔定議〕計議をさだむ。○〔晉〕「彪上疏——」。
〔談議〕談論といふに同じ。○〔晉〕「嘗與客——」。
〔辨議〕あきらかに論議す。○〔宋〕「明據經——」。
〔公議〕公平なる正論。○〔陸游〕「——在天下」。
〔讜議〕正直なる議論。○〔唐〕「時々——」。
〔協議〕ともぐにはかり論ず。○〔宋〕「搢紳——」。
〔深議〕十分に謀議す。○〔吳越春秋〕「願王請大夫種、與——」。
〔輿議〕おほくの者の議論。○〔陳璀〕「咨——于多方」。
〔嘉議〕善良なる計議。○〔上官儀〕「採公卿之——」。

【調】カ。許箇切　箇
怒る貌にいふ字。

【諴】キン、コン。火禁切　沁
㊀——許は、怒り言ふ。
㊁詩——は、言定まらず。

【譤】警に同じ。○〔鶡冠子〕「同知壹——」。

十四畫

【𧮫】セツ、セチ。千結切　屑
小語、さゝやき。

【譳】ドウ、ヌ。奴豆切　宥
譨の字の條を見よ。

【譀】ガン、ゴン。吾含切　覃
㊀慧からざると、おろか。
㊁戲弄して言ふ、たはむる。

【𧭈】ガフ、ゴフ。鄂合切　合
誸——は、笑語す、わらひかたろ、さゞめく。

【譴】ケン。去戰切　霰
㊀譴問す、しかる、せむ。○〔戰〕「大卜——之曰」。
㊁罪責、つみ。○〔詩〕「畏此——怒」。
〔斥譴〕しかりしりぞく。○〔後漢〕「一皆——」。
〔大譴〕おほいなるつみ。○〔北〕「臣有——」。
〔被譴〕責めたゞさる。○〔漢〕「煞數——」。
〔遇譴〕前に同じ。○〔魏〕「羣臣多以職事——」。
〔微譴〕すこしのつみ。○〔舊唐〕「五載貴妃以——送歸楊銛宅」。
〔怒譴〕いかり責む。○〔唐〕「終不——」。
〔呵譴〕責めしかる。○〔世說〕「公初不——」。
〔禍譴〕わざはひ。○〔溫子昇〕「呂霍之門、——所伏」。
〔罪譴〕つみ。○〔歐陽修〕「萬一免——」。

【讀】懟に同じ。

【譶】タフ、ドフ。徒合切　合
言疾し、聲多し、はやし、おほし。○〔嵆康〕「紛𧮫——以流漫」。

【讋】チフ、ヂフ。直立切　緝
讘——は、言ひて止まず、衆言みだれ雜ろ、かまびすし。○〔左思〕「澀——聚獶交貿相競」。

【譟】譟の本字。

【護】コ、ク。胡故切　遇
救助す、擁全す、すくふ、たすく、まつたうす、まもる。○〔史〕「以吏事——高祖」。
〔調護〕保助す。○〔史〕「幸卒——太子」。
〔救護〕すくひたすく。○〔張說〕「垂恩——」。
〔保護〕もりたすく。○〔北〕「先是文成以乳母常氏有——功」。
〔擁護〕前に同じ。○〔漢〕「郅支怨漢——呼韓邪而不助己」。
〔輔護〕前に同じ。○〔吳〕「所以供奉——」。
〔監護〕督察して擁全す。○〔後漢〕「詔使留屯長安、悉——諸將」。
〔衛護〕まもる。○〔後漢〕「將兵——之」。
〔守護〕前に同じ。○〔晉〕「恒自——」。
〔賑護〕にぎはしすくふ。○後漢〕「其務崇仁恕——」。
〔將護〕前に同じ。○〔吳〕「——六親」。
〔全護〕保全す。○〔北〕「——勳舊」。
〔療護〕醫護といふに同じ、疾病者を治療して救ふこと。○〔北〕「亦爲之——」。「——得免」。
〔匡護〕たすけすくふ。○〔隋〕「大將軍侯壽等——」。
〔庇護〕かばひたすく。○〔五〕「明宗爲——之」。
〔蔽護〕前に同じ。○〔五〕「毋常——之」。
〔統護〕すべまもる。○〔常〕「——戎師」。
〔總護〕前に同じ。○〔韋貫之〕「——諸將」。
〔慈護〕なさけぶかきこと。○〔顏延之〕「——之人」。

【謽】バウ、マウ。無放切　漾　武方切　陽
㊀責め望む、もとむ。㊁あざむく、(欺)。

【譸】チウ、チユ。張流切　尤
㊀のろふ、(詶)、あざむく、(誑)。○〔書〕「——張爲幻」。
㊁籌に通じ用ふ。○〔後漢〕「以謝——之」。
㊂輈に通じ用ふ。

【譅】タフ、トフ。他合切　合
㊀言語相及ぶ、かたる、はなす。
㊁妄語す、いつはる。
㊂言を以て人を探る、ためす。

【譹】カウ、ゴウ。乎刀切　豪　後到切　號
さけぶ、(號)。○〔莊〕「叫者——者」。

【譪】エイ。以芮切　霽
恨み言ふ。

【𧬘】ボウ、ム。謨蓬切　東
言明かならず。

【譺】ガイ、ゲ。五介切　卦
㊀おろか、(騃)。㊁いましむ、(誡)。
㊂あざむく、(欺)。

【譺】ギ。魚紀切　紙
㊀はかる、(議)。㊁あざむく、(欺)。
㊂たはむる(調)。

【䜧】ギヨク、ゲキ。鄂力切　職
齋(ものいみ)し敬む貌にいふ字。○〔史〕「齋戒以待——然」。

【譋】診に同じ。○〔鶡冠子〕「未見不得其——、而能除其疾」。

【𧬸】ベン、メン。民堅切　先

わるがしこし、(慧黠)。

【譨】ダウ、ニヤウ。尼耕切 庚

小さき聲。

【譳】侫に同じ。

【譻】アウ、ヤウ。烏莖切 庚

聲あるにいふ字、なる。○〔後漢〕「鳴ニ玉鑾之-ー」。

【𧮐】嘌に同じ。

【譼】監に同じ。

【𧭟】シウ、ジユ。鉏救切 宥

㊀のゝしる、(罵)。㊁惡しき貌にいふ字。㊂衆言集まる、あつまる。

【𧬳】ホク。普木切 屋

言を以て蔽ふ、いひかくす。

【譽】ヨ。羊茹切 御　羊諸切 魚

㊀善美なる聲聞、ほまれ。○〔易〕「无レ咎无レ-ー」。

㊁善美なりとし言ふ、たゝふ、ほむ。○〔禮〕「不ニ以レ口ーレ人」。

㊂たのしむ、(樂)。○〔詩〕「韓-姞燕ー」。

(毀譽) そしりとほまれと。○〔漢〕「ーー渾-亂」。

(謗譽) 前に同じ。○〔國〕「間ニーー于路ニ」。

誹譽 前に同じ。○〔晏子〕「ーー爲レ類」。

(咎譽) とがめとほまれと。○〔後漢〕「幸無ニーーー」。

(聲譽) ほまれ。○〔後漢〕「天下無レ□則足ニ以斷ニーーニ」。

(名譽) 前に同じ。○〔漢〕「亦欲ニ以行ニ陰德ー拊ニ循百姓ー、流ニーーー」。「ーニ」。

(顯譽) いちじるしきほまれ。○〔宋〕「所レ至無ニーー」。

(虛譽) たふときほまれ。○〔史〕「以求ニーーー」。

(虛譽) 實なきほまれ。○〔漢〕「無レ用ニ比-周之ーーニ」。

(華譽) 前に同じ。○〔後漢〕「察ニ浮-侈之ーーニ」。

(空譽) 前に同じ。○〔後漢〕ニーーー違レ實」。

(浮譽) 前に同じ。○〔宋〕「靖之ーー搖ニ流四海ニ」。

(薦譽) 上にすゝめほむ。○〔漢〕「更相ーーー」。

(稱譽) ほむ、又、ほまれ。○〔楊惲〕「尙何ーーー之有」。

(功譽) 功勞名譽。○〔晉〕「無ニ當時ーーー」。

(德譽) 德望。○〔魏〕「湛最有ニーーー」。

(溢譽) 實にすぎたるほまれ。○〔蜀〕「是以美聲ーー有レ過ニ其實ニ」。

(淑譽) 婦女の善德のほまれ。○〔晉〕「ーー騰ニ于區-域ニ」。

(高譽) なたかきほまれ。○〔晉〕「安-定皇甫謐有ニーーーニ」。

(美譽) よきほまれ。○〔陳陶〕「ーー動ニ丹靑ニ」。

(令譽) 前に同じ。○〔岑參〕「ーーー天下知」。

(膀譽) 膀直のほまれ。○〔宋〕「辭レ事而無ニーーーニ」。

(推譽) おしすゝめほむ。○〔宋〕「衆所ニーーーニ」。

(面譽) まのあたりほむ。○〔莊〕「好レ面ニーー人ー者、亦好ニ背而毀レ之」。

(歎譽) いたく稱美してほむ。○〔宋〕「韓-琦讀ニ其詩ニーーー之」。「之」。

(賞譽) よろこびてほむ。○〔宋〕「蘇-軾亦ーニーー有ニーーー」。

(文譽) 文章に巧妙なるほまれ。○〔宋〕「旣入ニ大-學ー有ニーーー」。

(雋譽) 俊邁のほまれ。○〔宋〕「弱-冠有ニーーーニ」。

(妄譽) ほむべからざるにほむ。○〔揚雄〕「ーー仁之賊也」。

(求譽) 買譽といふに同じ、ほめられんことをもとむ。○〔班固〕「不ニ徇レ名以ーレーニ」。

【譺】タイ。湯來切 灰

つまびらか、(諟)。

【𧮆】タン。土緩切 旱

詠ーーは、言ひ惑ふ、まどふ。

【䜂】譺に同じ。

【𧮳】セイ、ザイ。才詣切 霽

話ーーは、多言なるにいふ語。

【謍】エイ、ヤウ。于平切 庚

聲を發する貌にいふ字。○〔南〕「ーー然興歎」。

【𧮢】トウ、ドウ。徒能切 蒸

多く言ふ。

【𧭹】カク、キヤク。古伯切 陌

多く言ふ貌にいふ字。

十五畫

【譾】セン。子踐切 銑

淺薄、あさし。○〔史〕「能薄而材ー」。

【𧮙】リヨ、ロ。良據切 御

いつはる、(詐)。

【𧮠】サツ、サチ。桑葛切 曷

散言す、きまゝをいふ。

【𧮸】レフ、ロフ。力涉切 葉

多言す、しやべる。

【𧮣】チ。陳知切 支

言逸す、くちばしる。

【識】俗の識の字。

【𧮥】シヤ、セ。洗野切 馬

志を寫し告ぐ、かたる。

【𧮥】シヤ、セ。司夜切 禡

はなす、(話)。

【譿】譓に同じ、つまびらか。○〔國〕「今陽子之情ー」。

【𧮒】嘖に同じ。

【讀】トク、ドク。徒谷切 屋

よむ。

(い)他の言を抽き說く。○〔詩〕「中-冓之言不レ可レー」。

(ろ)文書を聲を立てゝ唱ふ。○〔禮〕「冬ーレ書、典-書者詔レ之」。

(再讀) ひとたびよみたるものをふたよむ。○〔宋〕「凡書皆一閱不ニーーニ」。「ーニ」。

(熟讀) こゝろをこめてよむ。○〔朱熹〕「書貴ニーーー之ニ」。

(誦讀) そらよみ。○〔漢〕「令ニ後宮貴-人左-右皆ーニーー之ニ」。

(諷讀) 前に同じ。○〔北〕「以ニーーー爲レ業」。

(覽讀) めをとほしよむ。○〔後漢〕ニ朕親自ーーー」。

(玩讀) たのしみよむ。○〔吳〕「乃自ーーー」。

(披讀) 書籍などをひらきよむ。○〔南〕ニ畫-夜ーーー」。

(跪讀) ひざまづきよむ。○〔唐〕「祭-祀則ーーニ祝-文ニ」。「書」。

(徧讀) あまねくよむ。○〔陸游〕「閉レ戶ーー家-藏」。

(講讀) 書籍の義を究めよむ。○〔蘇軾〕「何必讀ニーーーニ」。

(善讀) よくよむ。○〔宋〕ニ尤ーーニ春秋左-氏傳及西漢-書ニ」。「味」。

(細讀) 細密によむ。○〔陸游〕「舊-書ーーー猶多レ」。

(朗讀) 聲をたてゝよむ。○〔晉書〕「展レ卷自ーーー」。

(抽讀) ぬきいたしよむ。○〔李頻〕「架-書ーーー亂」。

(展讀) のべひらきてよむ。○〔秦觀〕「發レ函ーーー」。

(快讀) こゝちよくよむ。○〔陳造〕「ーニーー淸-篇ー病如レ掃」。

【讀】トウ、ヅ。大透切 宥

句の中に點をおろしてよむに便ならしむるを、よみきり。○〔增韻〕ニ語未レ絕而點分レ之以便ニ誦-詠ー、謂ニ之ーーニ」。

〔句讀〕文章語句のきれめとよみのきれめと。○〔朋天還中〕「毎與レ人談論、皆成ニ——」。

【讁】タク、チャク。陟革切 陌
㊀せむ、（責）、とがむ、（咎）。○〔詩〕「室人交偏—レ我」。
㊁咎罪、とが、つみ。○〔漢〕「發ニ天下七科—ニ」。
〔刑讁〕罪罰。○〔後漢〕「施ニ其——」。
〔討讁〕たゞしとがむ。○〔後漢〕「—ニ—物情」。
〔遷讁〕罪により官を貶して遠地にうつす。○〔蘇頌〕「舊史誤ニ——」。
〔竄讁〕前に同じ。○〔虞集〕「予厚精思于——之久」。
〔瑕讁〕きずありて完全ならず。○〔老〕「善言無ニ——」。
〔重讁〕おもきとがめ。○〔蘇欽舜〕「歲暮被ニ——」。
〔遐讁〕遠隔の地に貶竄す。○〔許棠〕「誣譖遭ニ——」。

【諕】クワク。郭獲切 陌
多言す。

【謈】ハウ、ヘウ。北教切 效
惡み怒る。

【謈】ハク、ホク。弼角切 覺
暴に同じ。

【譈】ラク。盧各切 藥
狂ひ言ふ。

【譞】ケン。火懸切 先
㊀流言す、いひふらす。
㊁もとむ、（求）。○〔管〕「——充言レ心也」。

【讚】俗の讚の字。

【譺】イク、オク。乙六切 屋
——詠は、香を聞く貌にいふ語。

【讄】誄に同じ。○〔字彙〕「古者卿大夫歿、則君命ニ有司、累ニ其功德、爲レ文以哀レ之曰レ—」。

【謍】アク、ヤク。乙革切 陌
こゑ、（聲）。

十六畫

【諂】テン。丑琰切 琰
諂に同じ、へつらふ、へつらひ。○〔禮〕「有レ頌而無レ—」。
〔佞諂〕こびへつらふ。○〔後漢〕「——日熾」。

【讇】エン。余廉切 鹽
恭しきに過ぐ、へつらふ。○〔禮〕「立容辨、卑無レ—」。

【譂】セン、ゼン。時占切 鹽
寱言、ねごと。

【讈】レキ、リヤク。狼狄切 錫
譺の字の條を見よ。

【讞】ケン、コン。許偃切 阮
——搏は、もとれること。

【讉】井。以隹切 支
㊀惡言を譯す、さく。
㊁せむ、（讓）。
㊂いかる、（怒）。

【讀】タイ、テ。通回切 灰
あざむく、（欺）。

【變】ヘン。秘戀切 霰
㊀かふ、かはる。
（い）うつす、うつる、（轉）。○〔易〕「乾道—化」。
（ろ）あらたむ、あらたまる、（改）。○〔戰〕「楚之計—矣」。
（は）うごかす、うごく、（動）。○〔禮〕「夫子疾病不レ可ニ以—一矣」。
㊁轉化、うつりかはり。○〔淮〕「五音之—不レ可ニ勝聽ニ」。「其中ニ」。
㊂奇異、ふしぎ。○〔張衡〕「盡ニ——態乎」。
㊃權略、はかりごと。○〔文中子〕「非ニ君子ニ不レ可ニ以語レ—」。
㊄災異、わざはひ。○〔漢〕「災——數見」。
㊅擾亂、みだれ。○〔後漢〕「卒然有ニ非常之——」。
㊆死喪、も。○〔穀梁〕「有レ—以聞」。
㊇妖怪、もののけ。○〔後漢〕「又多見ニ怪——」。
〔虎變〕とらの毛のあやの如くあきらかにかはる。○〔易〕「大人——」。
〔豹變〕へうの毛のあやの如くあきらかにかはる。○〔易〕「君子——」。
〔機變〕機略機變のこと。○〔孟〕「爲ニ——之巧ニ者」。
〔合變〕變化の機にかなふ。○〔史〕「不レ知レ—レ—也」。
〔天變〕天上にあらはるゝ災異。○〔漢〕「——見ニ于上」。「下ニ」。
〔地變〕地上にあらはるゝ災異。〔漢〕「——動ニ于」
〔通變〕變化の理に通達す。○〔崔駰〕「君子—レ—」。
〔事變〕事機の變化。○〔韓維〕「——何嘗有ニ定期ニ」。
〔權變〕權略。○〔後漢〕「公羊多任ニ于——ニ」。
〔移變〕うつりかはる、又、うつしうごかす。○〔後漢〕「愁困之民、足下以感ニ動天地ニ、—ニ——陰陽上矣」。
〔訞變〕わざはひの異變。○〔後漢〕「故屢出ニ——」。
〔周變〕めぐりかはる。○〔後漢〕「與レ時——」。
〔詭變〕いつはりかはる。○〔唐〕「——不レ窮」。
〔祥變〕めでたきしるし。○〔晉〕「——顯ニ乎天文ニ」。
〔應變〕事機の變化にあたる。○〔晉〕「—レ—無レ窮」。
〔禍變〕わざはひ。○〔唐〕「——之生在ニ人所レ忽」。
〔萬變〕多くかはる。○〔韓詩外傳〕「千擧——」。
〔百變〕前に同じ。○〔左氏兵略〕「用兵之法、一步——」。
〔千變〕前に同じ。○〔范成大〕「水狀日——」。
〔運變〕めぐりうごく。○〔顏延之〕「七寄——」。

【變】ヘン。平免切 銑
たゞし、（正）。○〔禮〕「大夫死ニ宗廟ニ謂ニ之——」。

【讍】カイ、ゲ。下介切 卦
いましむ、（誡）。

【讚】ヒン、ビン。毗賓切 眞
㊀たぐひ、（匹）。
㊁多言す。

【讋】セフ。之涉切 葉
㊀氣を失ふ、きぬけす。○〔漢〕「諸將——服」。
㊁おそる、（懼）。○〔後漢〕「莫レ不ニ陸——水慄ニ」。「之」。
㊂いむ、（忌）。○〔淮〕「故因ニ其資ニ以—レ」
〔震讋〕ふるひおそる。○〔漢〕「羣臣——」。
〔攝讋〕前に同じ。○〔漢〕「——者弗レ取」。「—」。
〔戰讋〕おのゝきおそる。○〔梁簡文帝〕「心顏——」。
〔竦讋〕おそる。○〔梁簡文帝〕「誠増ニ——」。
〔悸讋〕うれひとおそれと。○〔江淹〕「——交迫」、

【讋】タフ、ドフ。達合切 合
言止まず。

【讌】エン。於甸切 霰
㊀會合して語る、はなす、かたる。○〔戰〕「孟嘗君——坐」。
㊁醼に同じ、さかもり。○〔後漢〕「毎ニ——會而論難衎々」。
〔酬讌〕さかに酒宴をひらきたる者にむくいて酒宴を設く。○〔駱賓謙〕「次日客——」。

【讁】謫に同じ。

【讎】シウ、ジュ。市流切 尤

㊀こたふ、(答)。○[詩]「無ニ言不レ—」。㊁むくゆ、(報)。○[戰]「屬レ之—酢」。㊂つくのふ、(償)。○[魏]「隨レ價—レ直」。㊃うる、(售)。○[史]「酒—數倍」。㊄あたる、(當)。○[漢]「灌夫頗不レ—」。㊅ひとし、(等)。○[漢]「皆—有レ功」。㊆匹儔、たぐひ、ともがら。○[書]「王之—民」。㊇應驗、しるし。○[史]「其方盡多不レ—」。㊈怨仇、あだ、かたき。○[詩]「反以レ我爲レ—」。㊉原本と照合して誤謬を校正す、たゞす。○[左思]「—ニ校篆籀一」。⑪しげし、(稠)。○[書]「用又—斂」。

(寇讎) あた。○[左]「縣ニ軍實一而長ニ——一」。(寃讎) なかまのものと仇敵と。○[元稹]「不レ顧ニ—與一」。「也」。(復讎) かたきをとる。○[孟]「爲ニ匹夫匹婦一—レ—也」。(報讎) 前に同じ。○[戰]「吾其—ニ智氏之—一矣」。(避讎) あたをさけのがる。○[史]「殺レ人—レ—」。(世讎) よゝのかたき。○[宋]「舜臣對策論ニ金人——無レ可レ和之義一」。(校讎) かんがへしらぶ。○[宋]「皆自——」。(檢讎) 前に同じ。○[唐]「更相——」。(恩讎) なさけとあたと。○[韓愈]「往取ニ將相一酬ニ——一」。(敵讎) 仇敵。○[書]「相爲ニ——一」。「——」。(仇讎) 前に同じ。○[史]「相攻擊如ニ——一」。(私讎) おほやけならざる自己のあた。○[史]「以レ先ニ國家之急一、而後ニ私讎一也」。(怨讎) うらみにくみてあたとす。○[韓]「外無レ——于敵國一」。(執讎) あたをむすぶ。○[國]「而又與ニ大國一—レ—」。「也」。(深讎) あさからざるあた。○[戰]「齊秦之——」。(國讎) 國家の仇敵。○[徐陵]「爰淸ニ——一」。

【讆】エイ、エ。爲劌切 霽

㊀慧ならざる寢言、ねごと。㊁いつはり、(詐)。

【讇】カン、ゴン。呼含切 覃

めづ、(愛)。

【讖】シン、ソン。初覲切 震

のろふ、(訕)。

【譫】セン、ゼン。時扇切 霰

たゞし、(正)。

十七畫

【讁】エウ。弋照切 嘯

㊀あやまる、(誤)。㊁あやまり言ふ貌にいふ字。㊂かまびすし、(讙)。

【讒】サン、ゼン。士咸切 咸　士懺切 陷

惡言を構へ飾りて善を毀り能を害ふにいふ字、うったふ、そしる、しこづ、さかしらごと、ねぢけごと。○[書]「—說殄行」。

(信讒) みだりに人を讒害することばをまことゝしてきく。○[詩]「君子—レ—」。(聽讒) 前に同じ。○[詩、序]「獻公好レ—」—焉。(納讒) 前に同じ。○[漢]「晉獻被ニ—レ—之謗一」。(訴讒) そしりしこづ。○[蘇軾]「愼勿レ怨ニ——一」。(讒讒) 前に同じ。○[蘇軾]「永隔ニ二子一脫ニ——一」。(毀讒) 前に同じ。○[漢]「以爲且ニ復見ニ——一」。(懼讒) 讒言をおそる。○[詩、疏]「采葛—レ—也」。(被讒) そしらる。○[漢]「—レ—放逐」。(忠讒) 忠義なると善良を害すると。○[漢]「——進」。(近讒) 口語を以て人を害するを好みてちかづく。○[晏子]「—レ—好レ優」。

【譲】アウ、ヤウ。於莖切 庚

いかる、(怒)。

【讓】ジヤウ、ナウ。人樣切 漾

㊀詰責す、なじる、せむ。○[左]「公使レ—レ之」。㊁ゆづる。(い)謙下す、へりくだる。○[書]「允恭克—」。(ろ)推與す、あたふ。○[呂氏春秋]「堯以ニ天下一—レ舜」。(は)拒辭す、ことわる。○[屈平]「知ニ死不レ可レ—」。㊂手を平衡に擧げて禮を行ふこと。○[儀]「賓入レ門皇、升レ堂—」。

(恭讓) うやくしく謙退す。○[劉琨]「——之節、臣猶庶幾」。(辭讓) 謙遜してことわる。○[禮]「長者問、不ニ—而對、非レ禮也」。(揖讓) 揖禮をほどこし謙退す。○[論]「——而升」。(退讓) へりくだる。○[後漢]「旣無ニ長君——之風一」。(卑讓) 前に同じ。○[左]「忠信——之道也」。(敬讓) つゝしみへりくだる。○[孝]「先レ之以ニ——一」。(禮讓) 禮義によりたかぶらず。○[論]「能以ニ——一爲レ國乎何有」。(詰讓) 詰責す。○[史]「數使ニ使者——召ニ布」。(謙讓) へりくだりゆづる。○[杜牧]「誰識大君—」。(遜讓) 前に同じ。○[說苑]「恭敬——」。「—德」。(推讓) おしゆづる。○[史]「先ニ富有一而後——」。(責讓) たゞしせむ。○[後漢]「直前——」。(禪讓) 帝位を他姓にゆづる。○[後漢]「恥レ聞ニ——一」。(飾讓) 虛讓といふに同じ、うはべのみへりくだりゆづる。○[南]「劉湛不レ爲ニ——一」。(僞讓) 前に同じ。○[鮑昭]「不ニ敢——一」。(苦讓) いたく謙退す。○[北]「輒——不レ受」。(確讓) かたく謙退す。○[唐]「子儀——」。

【讔】イン、オン。倚謹切 吻

意義を隱くして諷り譬ふると、なぞかくしことば、庾語。○[呂氏春秋]「而好レ—」。

【讕】ラン。洛干切 寒　郞旰切 翰　魯旱切 旱

㊀誣罔す、あざむく、しふ。○[春秋繁露]「是非之情不レ可ニ以相—一」。㊁逸言す、くちばしる。○[唐]「亮—辭曰、四等畏レ死見レ誣耳」。

【讇】諂に同じ。

【讖】シン、ソン。楚蔭切 沁

㊀將來の効驗を說くこと、豫言。○[後漢]「光武善レ—」。㊁豫言の記錄。○[後漢]「臣不レ讀レ—」。

(圖讖) 將來の興廢徵兆などをかきたる書。○[後漢]「宣ニ布——於天下一」。(符讖) 前に同じ。○[宋]「秦ニ陳天文——」。(星讖) 天文と將來のこととをかきたる書とをいふ。○[晉]「禁ニ郡國一不レ得ニ私學——一」。(祕讖) 世にあらはれざる讖書。○[唐]「太宗得ニ——一」。「字—」。(宮讖) 讖書の言にあたる。○[冊府元龜]「帝嫌ニ—」。

十八畫

【讙】クワク、ガク。胡麥切 陌

クワ、ゲ。戶瓦切 馬

㊀言語の壯んなる貌にいふ字。㊁しばしば相怒る貌にいふ字。㊂疾く言ふ貌にいふ字。㊃ほこる、(誇)。

【讗】ケイ、ケ。懸恚切 霽

自伐す、ほこる。

【譶】 タフ、ドフ。徒盍切 [合]
㊀言語多し、ことばおほし。㊁語を忘る、わする。

【譩】 噫に同じ、あゝ、あ。○〔列〕「—吾與レ若玩二其文一也久矣」。

【讘】 セフ。之涉切 [葉]
多言す、又、詠の字の條を見よ。

【讘】 ゼフ、ヂフ。日涉切 [葉]
さゝやく。

【讙】 クワン。呼官切 [寒]
㊀かまびすし、(諠)なく、(鳴)。○〔荀〕「天-下應レ之如レ—」。「言々乃—」。㊁喜悅す、よろこぶ。○〔禮〕「三-年不レ—」。
〔衆讙〕 おほくの者の諠譁。○〔漢〕「養レ名顯レ行以—二—・—一」。
〔譟讙〕 かまびすし。○〔馬融〕「鄧-駭—・—」。
〔叫讙〕 よびさけぶ。○〔韓愈〕「提レ兵—・—」。

【讙】 ケン、クワン。況袁切 [元]
㊀驚き呼ぶ、さけぶ。㊁かまびすしき貌にいふ字。㊂せむ、(讓)。

【讙】 懽に同じ。

【譵】 タイ、徒回切 デ。クワイ、呼回切 ケ。[灰]
さわぐ、(譟)

十九畫

【⿱鑿言】 サク、ザク。疾各切 [藥]
のゝしる、(詈)。

【讚】 サン。則旰切 [諫]
㊀稱美す、ほむ。○〔後漢〕「進不レ黨二以—一レ己」。㊁稱美の辭、ほめことば。○〔後漢〕「子婦丁-氏作二大-家—一」。㊂たすく、(佐)。○〔潘岳〕「齊二響羣龍一、光二—納-言一」。㊃さく、(解)。○〔郭璞〕「—-諡所三以解二釋理-物一」。
〔圖讚〕 ゑがきてほむ。○〔晉〕「—二—自古聖-帝明-皇、忠-臣孝-子、烈-士貞-女一」。
〔書讚〕 ゑがきたるものを稱美す、又、ゑにともなひて稱美したることば。○〔晉〕「顧-愷-之作二—・—一」。「稱—」「替」。
〔研讚〕 あらべあきらかにす。○〔後漢〕「—・—勿」
〔褒讚〕 ほむ。○〔魏〕「下レ詔—・—」。
〔欣讚〕 よろこびてほむ。○〔齊〕「遙深—・—」。
〔稱讚〕 稱美といふに同じ。○〔南〕「皆鑒レ節—・—」。
〔成讚〕 さかんにほむ ○〔唐〕「皎—・—」。
〔唄讚〕 ほとけの德を稱美したるうた。○〔寺塔記〕「—・—未レ畢、滿-地現二舍-利一」。

二十畫

【讛】 囈に同じ。

【讜】 タウ。多朗切 [養] 他浪切 [漾]
正直なる言、道理の言、善言。○〔漢〕「今-日復聞二—-言一」。

【讝】 セン、ソン。之廉切 [鹽]
疾病にて發する寢語、ねごと。

【讝】 ダン、テン。女監切 [咸]
病者の發する自語、そらごと。

【⿰言矍】 クワク、カク。許縛切 [陌]
妄語す、いつはる。

【讞】 ゲツ、ゲチ。魚列切 [屑] ゲン。魚蹇切 [銑] 倪甸切 [霰]
㊀罪を議す、獄を評す、はかる。○〔漢〕「於二人-心一不レ厭者、輒—レ之」。㊁罪獄の疑はしきを問ふ、さふ。○〔後漢〕「欲レ避二請—之煩一」。

廿二畫

【讟】 トク、ドク。徒谷切 [屋]
痛み怨みて言ふ、にくむ、そしる。○〔左〕「民無二謗—一」。

谷部

【谷】 コク。古祿切 [屋] ヨク。余蜀切 [沃]
〔說文〕从二水半見一出二於口一。
㊀たに。(い)山閒の流水道、たにがは。○〔老〕「江-海所三以能爲二百—之王一」。(ろ)山地の陷入して空洞なる處、ほら。○〔老〕「曠兮其若レ—」。㊁窮困す、きはまる ○〔詩〕「進-退維—」。㊂やしなふ、(養)。○〔老〕「—-神不レ死」。㊃東方の風、こち。○〔詩〕「習-々—-風」。㊄竹の溝。○〔漢〕「取二竹之解—一」。㊅人の姓、北魏の—渾氏、又、吐—渾氏などの類。
〔幽谷〕 おくふかきたに。○〔詩〕「出レ自二—・—一遷二于喬-木一」。
〔深谷〕 前に同じ。○〔詩〕「—・—爲レ陵」。
〔窮谷〕 前に同じ。○〔選〕「材之所レ生、必深-山—・—」。
〔遠谷〕 前に同じ。○〔焚椒錄〕「常馳入二深-林—・—一」。
〔暘谷〕 日のいづと稱する處。○〔淮〕「日出二於—・—一」。
〔空谷〕 さびしきたに。○〔水經、註〕「—・—幽-深」
〔廣谷〕 ひろやかなるたに。○〔禮〕「—・—大-川」
〔谿谷〕 たに。○〔史〕「山-林—・—」。
〔峻谷〕 けはしきたに。○〔劉勰〕「臨二—・—一者必欲レ窮レ墟」、「縱二—・—一」。
〔昧谷〕 日の入ると稱する極西の處。○〔張衡〕「西
〔川谷〕 かはとたにと。○〔漢〕「—・—不レ塞」。
〔陵谷〕 をかとたにと。○〔後漢〕「—・—代處」。
〔澗谷〕 たにがは。○〔南〕「每レ經二—・—一必坐二臥其閒一」。
〔嵌谷〕 やまのはら。○〔武元衡〕「集二旅布—・—一」。

【谷】 ロク。盧谷切 [屋]
王の名。○〔史〕「置二左-右—-蠡-王一」。

【𧮫】 キヤク、カク。其虐切 [藥]
㊀口の上の阿。㊁笑ふ貌にいふ字。

二畫

【⿰谷九】 キウ、グ。巨鳩切 [尤]
⿰谷侵—は、亭の名。

三畫

【⿰谷千】 セン。蒼先切 [先] 倉甸切 [霰]
㊀山谷の青き貌にいふ字。㊁みち、(道)。

【⿰谷工】 カウ、コウ。古雙切 [江]
谷の名。

【谼】 コウ、グ。胡公切 [東]
大壑、たに。

四畫

【谹】 カウ、ギヤウ。戸萌切 [庚]
㊀谷中の響きにいふ字。㊁谷の空なるを、うつろ。

【谹】カウ、ギヤウ。戸萌切〔庚〕
㊀前條に同じ。
㊁大いなる聲。〇〔揚雄〕「隱々——」。
㊂ふかし(深)。〇〔漢〕「崇論——議」。

【谺】カ、ケ。許加切〔麻〕
谽——は、谷の大空なる貌にも谷の大いに開けたる貌にも谷の深き貌にもいふ語。〇〔漢〕「通谷豁兮谽——」。

【谻】キヤク、ガク。其虐切〔藥〕
足の踦なると、まがる。

【谻】ケキ、キヤク。奇逆切〔陌〕
㊀前條に同じ。
㊁うむ(倦)。〇〔漢〕「微レ——受レ詘」。

五畫

【谷甘】カン、コン。呼甘切〔覃〕
——閜は、陵谷の形にいふ語。〇〔杜甫〕「佗二袘光一而——閜」。

【㕡】シユン。私閏切〔震〕
地に坑坎を設く、川を深くし通す、ほる、さらふ。〇〔書〕「——二畎澮一距レ川」。

【睿】古文の叡の字。〇〔漢〕「思曰レ——、——作レ聖」。

六畫

【谷合】カフ、ゴフ。胡閤切〔合〕
兩山相合ふ、あふ。

【谼】コウ、グ。戸公切〔東〕
大いなる壑、たに。

七畫

【谷卒】ラウ、ロウ。郎刀切〔豪〕　レウ、落蕭切〔蕭〕
谷卑——は、深き谷の貌にも谷の空なる貌にもいふ語。〇〔張志和〕「鼓二谷卑——一而悲二咤颼飀一」。

【谽】カン、コン。火含切〔覃〕　カン、ケン。虛咸切〔咸〕
谷の空なる貌にも谷の大いに開けたる貌にも谷の深き貌にもいふ字。〇〔張衡〕「趨二——閜之洞穴一」。

八畫

【谷周】ケウ。馨幺切〔蕭〕
谷の大いなる貌にいふ字。

【谷商】セイ、ザイ。前西切〔齊〕
姓。〇〔列〕「——商爲レ右」。

【谷虎】カン、ケン。口陷切〔陷〕
虎の怒る貌にいふ字。

【谷空】コウ、ク。呼東切〔東〕
谷の空なる貌にいふ字。〇〔吳儆〕「——窒奧竇」。

【谷空】ロウ、ル。盧東切〔東〕
山谷の深き貌にも山谷の深く通れる貌にも山谷の長大なる貌にもいふ字。〇〔史〕「深山之——」。

【谷空】カウ、コウ。許江切〔江〕
山谷の空なる貌に、いふ字。

十畫

【谿】ケイ、カイ。苦兮切〔齊〕
通ずる所なき山中の瀆、川に注ぐ水の總稱、山より出でて川に注ぎ入る水、山閒を流るゝ水の源、たに、たにがは。〇〔左〕「澗——沼沚之毛」。

【豀】ケイ、ガイ。弦雞切〔齊〕
反戾す、もとる、又、むなし(空)。〇〔莊〕「婦姑勃レ——」。

【豁】クワツ、クワチ。呼括切〔曷〕
㊀むなし、うつろ(空虛)。〇〔史〕「谽谺——閜」。
㊁さほる、(疏)、ひらく、(開)、ほがらか、(敞)。〇〔漢〕「灑二沈菑於——瀆一」。
㊂大度量ある貌にいふ字、ひろし。〇〔漢〕「意——如也」。

(閒豁) 度量弘大なると、又ひろくひらく。〇〔晉〕「——勇壯」。「清川」。
(敞豁) たにまなどのひろきと。〇〔杜甫〕「——當二「淸川」。
(軒豁) 高く且廣し。〇〔王禹偁〕「茲樓最——」。
(恬豁) こゝろなどのやすらかにひろきと。〇〔晉〕「乃著二大酒容賦一、以表二——之懷一」。
(寥豁) ものさびし。〇〔張望〕「毀屋正——」。
(通豁) 氣質などのひろやかにして沈滯せざると。〇〔清異錄〕「裴師德位貴而性——」。
(疏豁) 疏通開豁の貌にいふ語。〇〔杜甫〕「高樓館二——一」。「——到二鴻冥一」。
(空豁) ほがらかにひろし。〇〔孔武仲〕「眼中——」。
(洞豁) 前に同じ。〇〔呂令問〕「公府——」。
(豁豁) ひろやかなる貌にいふ語。〇〔白居易〕「——開二淸襟一」。「——」。
(舒豁) のびやかにひろし。〇〔姚合〕「平生志——」。
(深豁) ふかく廣し。〇〔劉克莊〕「中洞旣——」。

十一畫

【豂】レウ。洛蕭切〔蕭〕
㊀ふかし(深)。
㊁むなし、うつろ(空)。
㊂うつろなる谷。

【谷尞】隙に同じ。

【谷曼】バン、母官切〔寒〕　マン。切　ベン、謨元切〔元〕　マン。切
欲の字の條を見よ。

十二畫

【谷皐】カウ、コウ。呼毛切〔豪〕
谺の字の條を見よ。

【谷勞】ラウ、ロウ。郎到切〔號〕
谷の空なる貌にいふ字。

【豃】カン、ケン。荒檻切〔豏〕
深き谷の貌にいふ字、ふかし、又、ひらく(開)。〇〔郭璞〕「——如二地裂一」。

【谷閒】澗に同じ、たに。〇〔郭璞〕「幽——積阻」。

十四畫

【谷睿】シユン。須閏切〔震〕
深き谷。

十五畫

【谷賣】古文の瀆の字。〇〔爾〕「山——無レ所レ通レ谿」。

十七畫

【豅】ロウ、ル。盧紅切〔東〕
山の深き貌にいふ字、やまふかし。

【豅】ロウ、ル。盧貢切〔送〕
水のあたりてめぐれる石。

【𧮰】谿に通じ用ふ。

廿四畫

【𧯈】レイ、リヤウ。郞丁切 青 巖穴、いはあな。

豆部

【豆】トウ、ヅ。徒候切 宥

㊀木にて造り物を盛りて神に供ふる一種の禮器、こしだか、たかつき。○〔書〕「執ニ籩一ニ。」

（圖のきつかた）

㊁梧器を盛るに用ふる一種の籠、わんかご。○〔揚雄〕「謂ニ梧-落一爲ニ一-籠ニ。」

㊂其の實は莢の內に包まれたる一種の穀、まめ。○〔禮〕「壺-中實ニ小一ニ。」

㊃量目の名。○〔說苑〕「十-六-黍爲ニ一-一、六-一爲ニ一-銖ニ。」

〔俎豆〕食物をもるうつは。○〔禮〕「簠-簋-一」。

〔豋豆〕わらぐさをこまかくきりまめとまぜたるものにて馬などに與ふる食物。○〔史〕「置ニ一-一其前ニ」。

〔薦豆〕食物をもりたるうつはを神前などにはこびすゝむ。○〔禮〕「夫人一」。

〔木豆〕木にてつくりたるもりもの。○〔爾〕「一-一謂ニ之豆ニ」。

〔竹豆〕たけにてつくりたるもりものにて籩と稱するもの。○〔爾〕「一-一謂ニ之㔸ニ」。

〔瓦豆〕かはらもてつくりたるもりもの。○〔 〕「咸備ニ一-一ニ」。○〔爾〕「一-一謂ニ之登ニ」。

〔菽豆〕まめ。○〔易林〕「且樹ニ一-一ニ」。

〔種豆〕まめをうゝ。○〔陶潛〕「一ニ一南山下ニ」。

〔蒭豆〕あはとまめと。○〔杜甫〕「國-馬竭ニ一-一ニ」。

〔登豆〕瓦もて作りたるもりものと木のもりものと。○宋ニ「一-一在レ列」。

〔芟豆〕まめを刈りとる。○〔陸天錫〕「去-來一レ一得ニ戈-鐵ニ」。

〔野豆〕野生のまめ。○〔高啓〕「壠陰一-一開」。

三畫

【𧯠】トウ、ツ。登口切 有 斗に同じ。○〔周〕「食ニ一-一肉、飲ニ一-一酒ニ」。

【豆】シウ、シユ。思留切 尤 羞に同じ、さかな。○〔周〕「凡祭-祀共ニ一-一脯ニ」。

【豇】カウ、コウ。古雙切 江 莢長くして子微しく曲がれる一種の蔓生の豆、さゝげ。○〔本草〕「一-一豆蔓-生、花紅-白ニ一-色」。

〔紅豆〕あかさゝげ。○〔吳端本草〕「一-一一名-蹊ニ」。

【豈】チユ。中句切 遇 シユ、上主切 麌 ジユ。切 樂を陳られ立ちて上より見る。

【豈】キ、ケ。袪俙切 尾 ㊀振旅の樂、かちどき。㊁ねがふ、(欲)。㊂のぼる、(登)。㊃反語をなして然るにあらざる意をなすとき用ふる字、なんぞ、かつて、いづくんぞ、なんすれぞ、あに、いかで。○〔書〕「怨一在レ明」。

【豈】愷に同じ。

四畫

【豉】シユ、ス。芻注切 遇 ㊀いさむ、(勇)。㊁なす、(爲)。

【豉】シ、ジ。是義切 寘 豆に塩を配せねかして味の成れるもの、みそ。○〔漢〕「樊-少-翁賣レ一」。

〔王豉〕草の名、玉札ともなづく。○〔本草釋名〕「地-楡一名ニ一-一ニ」。

〔麴豉〕みそ。○〔潛夫論〕「猶ニ眞-工之爲ニ一-一也」。

〔豆豉〕前に同じ。○〔齊民要術〕「香美乃勝ニ一-一ニ」。

五畫

【䜴】トウ、ツ。當侯切 尤 丁候切 宥 ㊀小しく裂く。㊁小しく穿つ。㊂さく、(割)。

【𧯷】豌に同じ。

【𧯷】ワン。一丸切 寒 ウツ、紆物チチ。切 物 豆飴、まめのあめ。

六畫

【豈】サイ。作代切 隊 みそ、(豉)。

【䜶】カウ、ゴウ。下江切 江 一-䜶は、さゝげ、豇豆。

【豢】ケン、カン。古倦切 霰 ケン、コン。窘遠切 元 黃豆、きろまめ。

【豊】古文の禮の字。

【䜸】トウ。都騰切 蒸 瓦の豆、たかつき。○〔詩〕「于レ豆于レ一」。

七畫

【䜹】シン。七林切 侵 ㊀野生の豆。㊁豆を幽す、ねかす。

【䜹】シン。七鴆切 沁 みそ、(豉)。

【䜺】シユク、ソク。初六切 屋 小豆、あづき。

【𧯺】テイ、チヤウ。中莖切 青 幕を設く、はる。

【豝】バイ、メ。武罪切 賄 豆の碎けたる萁、まめがら。

【𧯻】バイ、メ。謨杯切 灰 豆の萁の下葉。

八畫

【豌】ワン。烏丸切 寒 百穀の中にて最も先に登るといふ一種の豆、のらまめ、ゑんどう。○〔本草〕「一-一豆種出ニ西-胡ニ」。

【䝀】サク、シヤク。測革切 陌 磨豆、ひきたるまめ。○〔唐〕「日膳裁豆一-一而已」。

【䜻】萁に同じ。

【䜼】カン、ゴン。苦紺切 勘 豉の味厚し、あつし。

【豎】シユ、ジユ。上主切 麌 ㊀たつ、(立)。○〔後漢〕「槐-樹自拔倒一」。㊁たて、(縱)。○〔楞嚴經〕「人-天本一、畜-生本橫」。㊂たゞし、(貞)、なほし、(直)。○〔晉〕「直-一不レ斜」。

㊃未だ冠せざる童僕、わらはべ、こども。○〔列〕「請二揚子之─一」。
㊄內廷の小臣、左右の小吏。○〔左〕「遂使レ爲レ─」。
㊅短小なると、たけひくきと。○〔荀〕「衣則─褐不レ完」。
㊆卑鄙なると、いやしくおされると。○〔史〕「遂爲二─子之名一」。

（二豎）左傳にみえたる晉侯の故事より疾病の義に用ふる語。○〔左〕「晉侯病、求二醫于秦一、秦伯使二醫緩爲一レ之、未レ至、公夢疾爲二─・─子一曰、彼良醫也、懼傷レ我焉」。
（賈豎）商人のことにて其の豎といふはさげすみていふなり。○〔史〕「相・─多受二─・─金一」。
（牧豎）牛馬などを飼ふこども。○〔漢〕「童兒─・─莫二不二眩・燿一」。
（森豎）毛髮などの立つにいふ語。○〔唐〕「毛髮爲「─・─」。
（內豎）おくむきに仕ふるもの。○〔後漢〕「頗溺二于─・─一」。
（小豎）さげすみて他人を稱する語。○〔南〕「侯景─・─頗習二行陣一」。
（群豎）おほくのこどもともとていやしめていふ語。○〔後漢〕「─・─不レ從レ吾、而從二吾家奴一乎」。
（蒭豎）くさかるこども。○〔後漢〕「牧兒─・─至二于薪二刈其下一」。
（嬖豎）嬖愛の內豎。○〔晉〕「成都王穎─・─孟玖、譖二殺陸機一」。
（僕豎）しもべ。○〔晉〕「畜二─・─一」。
（賤豎）前に同じ。○〔唐〕「至二─・─一必許以二誠信一」。
（凶豎）兇惡なるともがら。○〔資治通鑑〕「北門南牙、同心協力、以誅二─・─一」。
（傑豎）すぐれて立つ。○〔水經、註〕「亭々─・─」。
（縱豎）たてに立つ。○〔沈約〕「既─・─而橫・構」。
（斜豎）なゝめに立つ。○〔梁簡文帝〕「崖・谿─・─」。
（閹豎）寺豎といふに同じ、宦者のこと。○〔庾信〕「名高二八俊一、傷二于─・─之輩一」。
（牛豎）うしかひのこども。○〔王安石〕「─・─歌二我傍一」。

【⿰豆或】井ク、チク。乙六切 屋
まめ、（豆）。

九畫

【䜵】巹に同じ。

【⿰豆攴】ボク、モク。莫卜切 屋　ボウ、ム。迷浮切 尤
豆秸、まめのくき、まめがら。

【⿱癶豆殳】トク、ドク。徒谷切 屋
豆の名。

【⿰豆兪】ユ。羊朱切 虞
變色の豆。

【⿰豆音】イン、オン。於金切 侵
豆を豉にねかす。

十畫

【豏】カン、ゴン。下斬切 豏
半生じたる豆。○〔李東陽〕「秋種南山─」。

【⿰豆兼】カン、ゴン。乎韽切 陷
餅中の豆。

【⿰豆留】リウ、ル。力求切 尤
豌豆。

【⿰豆翏】レウ。憐蕭切 蕭
まめ、（豆）。

【⿰豆勞】ラウ、ロウ。魯刀切 豪
一種の野生の豆、やぶまめ、（治豆）、のまめ、（鹿豆）、いぬぶんどう、（鹿藿）。

【⿰豆束】トウ、ツ。都籠切 東
○〔唐〕「頳二─豆一以食」。

鼓の聲にいふ字。

【⿰豆卑】ヘイ、バイ。駢迷切 齊
騎兵の用ふる鼓。

【⿰豆登】トウ。他登切 蒸
伸べて長くす、のぶ。

十一畫

【⿰豆婁】ロウ、ル。盧侯切 尤
一種の豆。

【⿰豆單】タン。他官切 寒
黃色、きいろ。

【豐】ホウ、フ。敷戎切 東
㊀豆に似て豆より卑く且大いなる一種の禮器。○〔儀〕「命二弟子一設レ─」。
㊁ゆたか。
（い）大いなると。○〔周〕「羽─則遲」。
（ろ）多きと。○〔書〕「無レ─二于昵一」。
（は）盛んなると。○〔國〕「不レ爲二─約擧一」。
（に）茂ると。○〔詩〕「在二彼─草一」。
（ほ）厚きと。○〔國〕「今晉侯不レ量二齊德之─否一」。
（へ）肥えたると。○〔宋玉〕「貌─盈以莊、姝兮」。
（と）善く熟すると。○〔詩〕「─年多レ黍多レ稌」。
（ち）盈ち足ると。○〔淮〕「歲登民─」。
㊂一種の席、むしろ。○〔書〕「敷二重─席一」。
㊃易の卦の名、☳☲（震上離下）。○〔易〕「─亨王假レ之勿レ憂」。

（隆豐）さかんなると。○〔後漢〕「寵貴─・─者」。
（極豐）きはめてゆたかにさかんなると。○〔易傳〕「─・─之道」。
（珍豐）珍異豐盛なると。○〔唐〕「輿・服・食・服、皆光・麗─・─」。
（厚豐）ゆたかなると。○〔唐〕「女福─・─」。
（豐々）多き貌にいふ字。○〔九辨〕「屢・翠・蓋之─・─」。

【⿰豆余】ヨ。以渠切 魚
はかる、（量）。

十二畫

【⿰豆眞】テン、デン。亭年切 先
鼓の聲にいふ字。

【⿰豆連】レン、ロン。離鹽切 鹽
鼓を擊つ、つゞみうつ。

十三畫

【⿰豆號】カウ、ゴウ。下老切 皓
土釜、つちのかま。

【⿰豆國】クワク、カク。古獲切 陌
鼓の聲にいふ字。

【⿱巤豆】レフ、ロウ。力協切 葉
鼓の聲にいふ字。

十四畫

【⿰豆聶】テフ、デフ。直涉切 葉
豆。

十五畫

【⿰豆幾】キ、ゲ。渠稀切 微
ちかし、ほとんど（幾）。

【豑】ガイ。魚開切 灰
㊀する、(嚊)。㊁ちばらく、(且)。㊂ねがふ、(欲)。㊃あやふし、(危)。

十七畫

【豓】レフ、ロフ。力涉切 葉
鼓の聲にいふ字。

十八畫

【豐】サウ、ソウ。所江切 江
䝤の字の條を見よ。

【䝤】レキ、リヤク。狼狄切 錫
鼓の聲にいふ字。

二十畫

【豔】豔に同じ。

【䝓】クン、コン。許云切 文
鼓鳴る、なる。

廿一畫

【豔】エン。以贍切 豔
㊀容色の豐滿好美なるにいふ字、いろよし、つやよし、うるはし、つやゝか、うつくし、みやびやか、あてやか。○〔左〕「美而—」。
㊁光彩、いろ、つや。○〔韓愈〕「光—萬丈長」。
㊂自ら放縱なる貌にいふ字、ほしいまま。○〔潘岳〕「汎-淫氾—」。
㊃楚の地の歌。○〔左思〕「荊—楚-舞」。
㊄歆羨す、むさぼる、うらやむ。○〔淮〕「獻-公—二驪-姬之美一」「—」。
〔豔々〕光彩の貌にいふ語。○〔韓愈〕「屋-角月——」。
〔逸豔〕文章などの勁拔にして光燄あること。○〔南〕「文-采——」「—」。
〔淫豔〕つやゝしく正しからず。○〔晉〕「雕-藻—」。
〔浮豔〕詩文などの語句の極めてかるぐしく沈重莊嚴ならざること。○〔陳〕「然傷二于——一」。
〔婉豔〕貞順にしてうつくし。○〔北〕「后德-色—」「——」。
〔綺豔〕うつくしくはなやかなること。○〔北〕「文-章—」。
〔嬖豔〕寵愛をうけたるうつくしき女の稱。○〔唐〕「是時後-庭多二——一」。
〔纖豔〕詩文などの語句の雄大ならずして纖麗なること。○〔陸游〕「何嘗掃二——一」。
〔絕豔〕すぐれてうつくしきこと。○〔陸游〕「西-郊梅-花矜二——一」。
〔鮮豔〕うつくしくあざやかなること。○〔瑯嬛記〕「天-然——」。
〔香豔〕にほひありてつやゝかなること。○〔許渾〕「梅含二——一吐二輕-風一」。
〔芳豔〕前に同じ。○〔白居易〕「衆-目悅二——一」。
〔澹豔〕淡泊にしてうつくし。○〔劉希夷〕「——烟-雨姿」。
〔冷豔〕ひやゝかにしてつやゝかなること。○〔丘爲〕「——全欺レ雪」「敵二——一」。
〔柔豔〕やはらかくつやゝかなること。○〔李白〕「芳草——」。
〔姸豔〕みやびやかにうつくし。○〔楊巨源〕「——照二江-明一」。
〔丹豔〕あかきひかり。○〔孟郊〕「寒-日吐二——一」。
〔絳豔〕前に同じ。○〔白居易〕「火-樹風來翻二——一」。
〔嬌豔〕なまめきてみやびやかなること。○〔王禕〕「二-八多二——一」。

廿二畫

【豅】トウ。他登切 蒸
ます、(益)。

豕部

【豕】シ。旋是切 紙 —〔説文〕象二毛足而後有一レ尾。
豬豨の總稱、ゐ、ぶた、ゐのこ。○〔周〕「—宜レ稷」。
〔鹿豕〕しかとゐのこと。○〔孟〕「與二——一遊」。
〔封豕〕星の名、又、おほいなるゐのこ、又、ものを貪害すること甚しきものゝ稱するにかり用ふる語。○〔唐〕「斬二長-蛇一、薦二——一」。
〔蛇豕〕へびとゐのこと、轉じて貪慾兇暴の賊徒などの義にいふ語。○〔隋〕「聚二徒百-萬一、惡成二——一」。
〔牧豕〕ゐのこを飼養す。○〔漢〕「家貧—二海-上一」。
〔羸豕〕弱きゐのこ。○〔易〕「——孚蹢-躅」。
〔牝豕〕めのゐのこ。○〔※林〕「——無レ猳」。
〔野豕〕野生のゐのこ。○〔北〕「高-祖嘗令三景-和射二——一」「少-牢一」。
〔羊豕〕ひつじとゐのこと。○〔儀、註〕「——曰二」
〔肥豕〕多肉のゐのこ。○〔汲冢周書〕「——必烹」。

一畫

【豖】チク、トク。丑六切 屋 チヨク、トク。丑玉切 沃
豕の足を絆されて行くにいふ字。

二畫

【豞】テイ、チヤウ。湯丁切 青 他定切 徑
豕の貌にいふ字。

三畫

【豝】カン。侯罕切 旱
豕の奔る貌にいふ字。

【豗】クワイ、エ。呼恢切 灰
㊀豬の地を穿つにいふ字、ほる。
㊁相擊つ、うつ。○〔木華〕「磊匒-々而相—」。
㊂閧ふ聲あるにいふ字、かまびすし。○〔李白〕「飛-湍瀑-流爭喧—」。
〔轟豗〕かまびすしく相豗擊す。○〔韓愈〕「——融-治」「—」。
〔排豗〕おしあひうちあふ。○〔黃庭堅〕「千-騎相——」。
〔驚豗〕おどろきてかまびすしく聲をいたす。○〔周霆震〕「千騎相——」。

【豛】チヨク、トク。丑玉切 沃
豕行く、ゆく。

【豜】クワイ、エ。呼同切 灰
ゐのこ、(豕)、一說に、豕の土を發くにいふ字、ほる。

四畫

【豰】コツ、グチ。呼骨切 月
豕の屬。

【豘】豚に同じ。

【豟】キウ、グ。胡弓切 東
豕の孤特なるにいふ字、ひさつ。

【豧】豢に同じ。

【豨】イウ、ウ。于求切 尤
ゐのこ、(豕)。

【豚】トン、ドン。徒渾切 元
小さき豕、豬の子、こゐのこ、こぶた、ぶた。○〔易〕「—魚吉」。
〔羔豚〕こひつじとゐのこと。○〔禮〕「春宜二——一」。
〔豭豚〕牡のゐのこ。○〔禮〕「凡宗-廟之器、其名者成、則釁レ之以二——一」。
〔雞豚〕にはとりとぶたと。○〔孟〕「——狗-彘之畜」「—」。
〔羊豚〕ひつじとぶたと。○〔後漢〕「豺-狼牧二——一」。

【豚】トン、ドン。杜本切 阮
踵を曳きて行く、ひきづる。○〔禮〕「圈-豚行不レ擧レ足」。

【豚】トン。都昆切 元
士ーーは、つみづち、ごへう。○〔魏〕「豚作ニ土ーーニ」。

【豛】エキ、ヤク。營隻切 陌
ゐのこ、（豬）一説に、齧むゐのこ。

【豜】俗の豣の字。

【豝】ハ、ヘ。伯加切 麻
㊀牝豕、めゐのこ、一説に、二歳の豕。○〔詩〕「壹-發五ーー」。
㊁大いなる豬。○〔何承天〕「漁-陽以ニ大-豬一爲レーー」。
㊂腊の屬、ほじし。○〔五〕「耶-律-德-光卒、契-丹破ニ其腹一、實レ之以レ鹽載レ之而走、晉人謂ニ之帝ーーー」。

【彖】シ。尺氏切 紙
ゐ、（豕）。

【㞙】シ。商支切 支
ゐ、（豕）。

五畫

【豞】コウ、ク。許候切 宥
豕の鳴くにいふ字。

【豞】カク、コク。黑角切 覺
豬の聲にいふ字、豕の怒れる聲にいふ字。○〔韓愈〕「怒-頰豕ーー」。

【豿】狗に同じ。

【豟】アク、ヤク。於革切 陌
極めて力ある豕、大いなる豕、一説に、丈五尺ある豕。

【豛】トク、都毒切 沃
椎にて物を撃つ、うつ、たゝく。

【豛】椓に同じ。

【豠】ショ、ゾ。疾余切 魚
豕の屬。

【𧱏】ボウ、ム。莫後切 有
一種の豕、一説に、牝豕、めゐ。

【𧰷】ガイ。五改切 賄
ーー豭は、ゐ。

【𧰲】レイ、リヤウ。郎丁切 青
豬ーーは、一種の藥草、はぎほど。

【象】シヤウ、ザウ。徐兩切 養
㊀熱地に產する巨獸、きさ、太だ長き屈伸自在なる鼻と長大なる牙とあり。○〔韓〕「人希レ見ニ生ーー一也、而得ニ死ーー之骨一、按ニ其圖一以想レ生也」。
㊁きさの牙、ざうげ、きさの骨、ざうこつ。○〔禮〕「笏諸-侯以レー、士竹-本」。
㊂かた。
（い）文章、あや。○〔易〕「在レ天爲レー」。
（ろ）占兆、うらかた。○〔史〕「兆有ニ口之ーー」。
（は）品形、かたち。○〔莊〕「凡有ニ貌-ー聲-色一者、皆物也」。
（に）貌姿、すがた。○〔戰〕「鑄ニ諸-侯之ーー」。
（ほ）狀勢、おもむき。○〔柳宗元〕「氣-ー萬-千」。
（へ）表にあらはれたるもの。○〔禮〕「聲者樂之ー也」。
（と）かたどり作りたるもの。○〔魏〕「身著ニ圖ーー一、名垂ニ後-世一」。
㊃のり。
（い）法準、おきて。○〔國〕「設レー以爲ニ民紀一」。
（ろ）道理、みち。○〔老〕「執ニ大ーー」。
㊄かたどる。
（い）其のかたちを爲す、其のかたちをうつす。○〔左、註〕「若ニ孔-子首ー尼-丘一」。
（ろ）意想す、おもふ。○〔曹植〕「遺-情想ーー、顧-望懷-愁」。
㊅のりと爲す、のりに從ふ、のっとる。○〔儀〕「繼レ世以立ニ諸-侯ーーレ賢也」。
㊆一種の酒器、きさのかたちを畫がけるもの、一説に、きさの骨にてよつらへたるもの。○〔左〕「犧ーー不レ出レ門一」。
㊇通譯、つうべん。○〔禮〕「南-方日レー」。
㊈擊刺の法にかたどりたる一種の舞。○〔禮〕「成-童舞レー」。
㊉佛教の別名。○〔玉史〕「正-法既沒、ー-教陵-夷」。
⑪祭禮に獅子などの假面を蒙りて游戲を行ふもの。○〔漢〕「郊-祭常從ニーー人四-人一」。

〔犧象〕周の世の酒器。○〔禮〕「ーー周-尊也」。
〔馴象〕かひならしたるざう。○〔漢〕「南-越獻ニーー、能-言-鳥一」。
〔巨象〕おほいなるざう。○〔魏〕「孫-權曾致ニーーー」。
〔駕象〕ざうにのる。○〔宋之問〕「ーーー法-王歸」。
〔野象〕人のやしなはざる野生のざう。○〔南〕「吳郡淮南有ニーー數-百一」。
〔戰象〕いくさに用ふるざう。○〔唐〕「有ニーー五-千一、象-背鑄以レ肉」。
〔圖象〕前に同じ。○〔洛陽伽藍記〕「王有ニーー七-百-頭一」。

【象】俗の象の字。

【豚】トク。都木切 屋
㊀ゐさらひ、しり、（臀）。
㊁尾下の竅、しりのあな。

【豚】タク、トク。竹角切 覺
㊀前條に同じ。
㊁こゆ、（肥）。

六畫

【豥】ガイ。牛蓋切 泰
をのゐ、（猳）一説に、三毛の豕、又一説に、老いたる豕。

【𧱂】セン。蕭前切 先
豕の類。

【豢】クワン、ゲン。胡貫切 諫
㊀やしなふ。
（い）穀を以て畜類を養ふ、かふ。○〔周〕「掌レ一ニ祭-祀之犬一」。
（ろ）利を以て誘ふ、いざなふ。○〔左〕「子-胥懼曰、是ーレ吳也」。
㊁穀食の畜卽ち犬豕の類。○〔禮〕「共ニ寢-廟之芻ーー」。
〔嘉豢〕よき犬豕。○〔晉〕「ーー孔時」。

【𧱍】トウ、ヅ。徒紅切 東
野彘、ゐのしし。

【豤】カン。空旱切 旱
ゐのこ、（豕）。

【𧱇】シ、ジ。序姉切 紙
豶豕、へのこきりたるゐのこ。

【豜】ケン。古賢切 先

大いなる豕、一說に、三歲の豕。○〔詩〕「獻二豜于公一」。

【豜】ケン。吉典切〔銑〕 ケン、ゲン。五甸切〔霰〕
絕れて力ある麏、くじか。

【豤】コン。康很切〔阮〕
㊀かむ、齧、一說に、豕の地をかむにいふ字、又、豕の食らふ貌にいふ字。
㊁齒の深く物に入るにいふ字。
㊂懇に通じ用ふ、ねんごろ、まこと。○〔漢〕「——數奸二死亡之誅一」。

【豲】コン。苦昆切〔元〕
㊀かむ（齧）。㊁へらす（滅）。

【⿰豕刪】サン。相干切〔寒〕
豕の名。

【豥】カイ、ガイ。戶來切〔灰〕
四蹄皆白き豕。

【豦】キョ、ゴ。强魚切〔魚〕
鬬ひて相解けず、一說に、封豕（おほゐのこ）の屬、又、一說に、虎の兩足を擧ぐるにいふ字。

【豦】キョ、コ。臼許切〔語〕
封豕、おほゐのこ。

【豦】キョ、コ。居御切〔御〕
一種の獸、玃の屬。

【豗】クワイ、ケ。呼恢切〔灰〕
豗に同じ、うつ。○〔李賀〕「莫レ受二俗物相塡——一」。

【豱】ヰツ、ヰチ。于律切〔質〕
ゐ（豬）。

七畫

【豧】フ、ホ。芳無切 ホ、フ。普胡切〔虞〕 ホウ、フ。匹候切〔宥〕
豕の息。

【豧】ホ、ブ。蒲故切〔遇〕
㊀ゐのこ（豕）。㊁ゐのこの聲。

【豙】ギ、ゲ。魚旣切〔未〕
豕の怒りて毛の豎つにいふ字、一說に、殘艾す、そこなふ、かる。

【⿰豕孝】カウ、ケウ。許敎切〔效〕
豕の走る貌にいふ字。

【⿰豕孝】
哮に同じ。

【⿰豕巵】シ。章移切〔支〕
丈五尺ある豕。

【豟】タク、トク。竹角切〔覺〕
山の名。

【豛】トウ、ツ。都豆切〔宥〕 タク、トク。竹角切〔覺〕
龍尾といふ星の別名。

【豨】キ、ケ。許豈切〔尾〕
㊀ゐのこ（豕）。○〔莊〕「監市履レ—」。
㊁豕の走るにいふ字、豕の走る聲にいふ字。○〔漢〕「王莽大募二天下四奴人奴一、名曰二豬突—勇一」。

【豨】キ、ケ。香依切〔微〕
前條の㊀に同じ。

【豩】ヒン。悲巾切〔眞〕
二つの豕、一說に、豕の羣を亂るにいふ字。

【豩】クヮン、ケン。呼關切〔刪〕
㊀前條に同じ。
㊁かたくな（頑）。○〔劉夢得〕「孟前膽不レ—」。

【豪】カウ、ゴウ。胡刀切〔豪〕
㊀豚に似たる一種の獸、やまあらし、脊の上に麤毫（あらげ）あり。○〔山海經〕「鹿臺之山、其獸多二白—一」。
㊁智能衆に拔く、すぐる、ひいづ、又、其の者。○〔孟〕「——傑之士」。
㊂任俠なるを、をとこだて、又、其の者。○〔史〕「平原君之遊、徒——擧耳」。
㊃つよし（彊）、たけし（健）、又、其の者。○〔漢〕「不レ得レ—二奪吾民一」。
㊄奢侈なるを、壯大なるを、又、其の者。○〔晉〕「性奢—務在二華侈一」。
㊅權力多きを、資產多きを、又、其の者。○〔後魏〕「郡中名—大姓」。
㊆帥長、かしら、をさ。○〔史〕「雁門馬邑—聶翁壹」。
㊇鯆に似たる一種の魚。○〔山海經〕「渠豬水中多二—魚一」。
㊈毫に通じ用ふ。○〔史〕「秋—皆高祖之力也」。

〔賢豪〕さとくすぐれたる者。○〔蘇軾〕「獨能容レ我眞——」。
〔人豪〕人間中の豪傑。○〔史〕「於二此時一不レ成二封侯之業一者、非二——一也」。
〔詩豪〕詩人中の秀でたる者。○〔元好問〕「平陽一邑多二——一」。
〔英豪〕すぐれたる人物。○〔李白〕「時淸不レ及——人」。
〔暴豪〕あら〳〵しく强きもの。○〔史〕「令レ與二——之徒一同レ類」。
〔富豪〕すぐれてとみたるもの。○〔漢〕「是時——皆爭匿レ財」。
〔時豪〕そのころのすぐれたる人物。○〔晉〕「爲二——所一レ抑」。
〔邊豪〕邊境にある豪傑。○〔唐〕「好結二納——爲二長雄一」。
〔勳豪〕功勞ある豪傑。○〔梁〕「猛士——」。
〔文豪〕文詞のすぐれたる者。○〔宋名臣言行錄〕「眞一代之——也」。
〔酒豪〕つよくすぐる。○〔鄒浩〕「勁鋒凜々方——」。
〔飮豪〕すぐれて酒をのむ者。○〔元淮〕「——惟[illegible]王喬乾」。

八畫

【⿰豕介】バイ、メ。暮拜切〔卦〕
頑にて惡性なるを、かたくな、ねぢけもの。

【⿰豕肙】
豜に同じ。○〔呂氏春秋〕「懼レ虎而刺レ—」。

【⿰豕屈】クツ、ゴチ。衢物切〔物〕 ケツ、ケチ。紀劣切〔屑〕 ケツ、クワチ。居月切〔月〕 テイ、テ。株衞切〔霽〕
豕の食らふに土を發くにいふ字、ほる、うがつ。

【⿰豕豕】クン、コン。居運切〔問〕
豕の食を求むるにいふ字。

【⿰豕宗】ソウ、ス。子宋切〔宋〕
牡豕、をゐのこ、一說に、豕の子、又一說に、生まれて六月なる豕の稱。

【豟】　カウ、コウ。曲江切　江
家の肉中空しきを。

九畫

【豫】　ヨ。羊洳切　御
㊀象の屬。
㊁やすんず（安）、たのしむ（佚）、よろこぶ（悅）、おこたる（怠）。○〔書〕「無二時一豫怠一」。
㊂あそぶ（遊）。○〔孟〕「一遊一豫爲二諸侯度一」。
㊃事あるに先だちて、かねて、あらかじめ。○〔易〕「君子思レ患而豫防レ之」。
㊄あらかじめ其の備へを爲すを、もとより定まりたるを。○〔中〕「凡事豫則立」。
㊅いとふ（厭）。○〔楚〕「行婞直而不レ豫」。
㊆參與す、くみす、あづかる。○〔後漢〕「亦來豫レ盟」。
〔猶豫〕二獸の名にて其の性疑ひ多きより借りて人の事にあたりて遲疑決せざる義にいふ。○〔孟〕「舜盡二事レ親之道一、而瞽瞍厎レ豫」。
〔逸豫〕おこたりあそぶ。○〔詩〕「爾公爾侯逸豫無レ期」。
〔戲豫〕前に同じ。○〔詩〕「無二敢戲豫一」。
〔暇豫〕ひまありてやすらかなると。○〔謝靈運〕「臥疾豐二暇豫一」。
〔閑豫〕前に同じ。○〔晉超居注〕「並從容閑豫」。
〔尤豫〕狐疑して定まらざると。○〔後漢〕「太后猶豫未レ忍」。
〔怡豫〕やすらかにたのしむ。○〔吳〕「何敢怡豫耶」。
・〔安豫〕前に同じ。○〔陸機〕「寤寐豐二安豫一」。
〔愷豫〕よろこびたのしむ。○〔摯虞〕「既愷豫而不レ偕」。
〔和豫〕やはらぎたのしむ。○〔莊〕「使二之和豫一、而不レ失二于兌一」。

【豫】　シヤ、セ。詞夜切　禡
官學、まなびどころ。○〔儀〕「豫則鉤二楹内一」。

【豫】　舒に同じ。

【獧】　ケン。去演切　銑
かむ（齧）。

【豍】　ヘン、ベン。毘連切　先
ゐのこ（豬）。

【豯】　ソウ、ス。千候切　宥
貙豕。

【豱】　クン、ゴン。俱運切　問
小さき野豕、こゐのしゝ。

【豱】　クン、コン。揮云切　文
ゐのこ（豕）。

【豬】　チヨ。陟魚切　魚
㊀一孔に三毛叢がり生じたる豕、豕の子、野生の豕、ゐのこ、ゐ、ゐのしゝ。○〔揚雄〕「見三墟有二虎牧一豬」。
㊁瀦に同じ、みづたまり。○〔書〕「大野既豬」。
〔墨豬〕文字の肉多く骨少なきをいふ。○〔謝道〕「我常大俗如二墨豬一」。
〔養豬〕ゐをやしなふ。○〔襄陽耆舊傳〕「乃於二橋東一大養レ豬」。
〔野豬〕ゐのしゝ。○〔淮〕「野豬聚二叢深山中一」。
〔豪豬〕やまあらし。○〔遼〕「適豪豬伏二叢莽一」。
〔山豬〕前に同じ。○〔桂海虞衡志〕「豪豬即豪豬」。
〔蒿豬〕前に同じ。○〔本草〕「山豬一名二蒿豬一」。
〔𧴌豬〕前に同じ。○〔駢雅〕「豪豬吳楚呼爲二𧴌豬一」。
〔猳豬〕をのゐのこ。○〔董仲舒〕「春旱求レ雨、取二三歲雄雞與二三歲猳豬一皆燔レ之」。
〔伏豬〕藥の名。○〔陶弘景〕「伏豬可二以療一レ風」。

【貒】　タン。他端切　寒
㊀家に似たる一種の野獸、まみ。○〔本草〕「貒團也、其狀團肥、即今豬貛」。
㊁野豬、ゐのしゝ。○〔李白〕「拳二封貒一」。

【豭】　カ、ケ。古牙切　麻
牡豕、をゐのこ。○〔左〕「卒出レ豭」。
〔寄豭〕他人の妻室に淫すると、有夫姦。○〔史〕「夫爲二寄豭一」。

【貐】　ユ。弋主切　麌
豪豬、やまあらし。○〔星禽圖〕「壁水貐豪豬」。

【𧱏】　タク、トク。竹角切　覺
ゆく（行）。

十畫

【豨】　キ、ケ。許既切　未
豕の息。

【豯】　ケイ、ガイ。胡雞切　齊
豨の子、一說に、生まれて三月を經たる豚。

【豰】　コク。呼木切　屋
㊀虎豹の屬にして一名は執夷、一說に身は貔に似て首は貍に似たる一種の獸にて一名は黃腰といふ。○〔張衡〕「獿豰狿」。
㊁豰豰、をゐのこ。

【豰】　カク、コク。黑角切　覺
前條の㊀に同じ。

【豰】　ハク、ボク。步角切　覺
小さき豚、こぶた。

【豰】　カク。黑各切　藥
家の聲にいふ字。

【豰】　トク。都木切　屋
物を動かす。

【豰】　コウ、ク。居候切　宥
食を啖らふ豬、ゐのこ。

【豩】　クワイ、エ。火怪切　卦
豩の字の條を見よ。

【貘】　ベイ、ミヤウ。莫經切　青　莫定切　徑
小豚、こゐのこ。

【豱】　ヲン、ウン。烏渾切　元
皮理のこまかく蹙める豕。

【豳】　ヒン。補巾切　眞
支那の陝西省鳳翔府に屬する地、古昔周の祖公劉の居處。○〔詩〕「篤公劉于レ豳斯館」。

【豳】　豩に同じ。○〔史〕「著二豳衣一」。

【貆】　クワン。胡官切　寒
㊀家の逸するにいふ字、はしる。
㊁豪豬、やまあらし。

十一畫

【𧳜】　ベキ、ミヤク。莫狄切　錫
頭の黑く體の白き豕。

【⿰豕㒼】パン、マン。莫干切［寒］家の屬。

【豴】テキ、チヤク。丁歷切［錫］家の蹄。

【豵】ソウ、ス。子紅切［東］ショウ、シュ。卽容切［冬］豚の兒の生まれて六月を經たるもの、一說に、一歲のもの、豵、又一說に、小さき豕。○〔詩〕「壹-發五―」。

【貗】リュ、ル。力朱切［虞］龍遇切［遇］ロウ、ル。落侯切［尤］子を求むる豬、一說に、牝豕、めゐのこ。

【⿰豕癸】クワイ、ケ。古懷切［佳］キ。丘愧切［寘］犬を逐ふ。

十二畫

【⿰豕隋】井。尹捶切［紙］匀規切［支］豶。

【⿰豕惰】タ、ダ。徒臥切［箇］家の名。

【⿰豕童】チヨウ、チユ。丑凶切［冬］形は豕に似たる土精、つちのばけもの。

【⿰豕粦】リン。力珍切［眞］見はるれば大風ありといふ⿰犭疑に似たる一種の獸。

【豶】フン、ボン。符分切［文］家の勢を去る、へのこきる、家の牙を除く、のぞく、又、きばさりたる豕、へのこきりたる豕。○〔易〕「―ニ豕之牙ニ」。

【⿰豕曾】ショウ、ゾウ。慈陵切［蒸］家の寢る所、をり。

【⿰豕壹】キ。許利切［寘］エイ、アイ。於計切［霽］家の息。

十三畫

【豰】コク。呼木切［屋］家の聲。

【⿰豕隨】スヰ、ズヰ。旬爲切［支］家の牝、めす。

十四畫

【⿰豕達】サフ、セフ。色甲切［洽］牝豕、めゐのこ、一說に、老いたるめゐのこ。

【⿰豕蒙】ボウ、ム。莫中切［東］家に似たる一種の獸。

【⿰豕絫】シユ、ス。崇芻切［虞］牝豕、めゐのこ、一說に、小さきめゐのこ。

十五畫

【⿰豕暴】ハク、ホク。弼角切［覺］小さき豕。

【⿰豕巤】レフ、ロフ。力涉切［緝］鬣に同じ、たてがみ、一說に、豕の長き毛。

十八畫

【貛】クワン。呼官切［寒］野豬、ゐのしゝ、一說に、牡狼、をのおほかみ。

【⿰豕聶】セフ。之涉切［葉］家の屬、一說に、家の別名。

豸部

【豸】チ。池爾切［紙］

㊀蟲に同じ、あしなきむし、はひむし、ながむし。○〔爾〕「有レ足謂二之蟲一、無レ足謂二之―一」。

㊁蟲などの背の高く長き貌にいふ字。○〔說文〕「獸長レ背行――然」。

㊂とく（解）。○〔左〕「使三郤子逞二其志一、庶有レ―乎」。

㊃漸次に平かなる貌にいふ字。○〔史〕「陂-池豸-―」。

㊄婀娜、たをやか。○〔張衡〕「增二嬋-娟一以跐――」。

〔豸々〕獸の背のたかくながき貌にいふ語。○〔說文〕「――然欲レ有レ所レ伺殺レ形」。

〔蟲豸〕むし。○〔吳〕「日-南-郡男-女倮-體、不三以爲二羞、由レ此言レ之、可レ謂二――一」。

〔花豸〕たまつどり、鵁鶄の異名。○〔採蘭雜志〕「鵁鶄一名二內-史一、一名二――一」。

【豸】タイ、デ。大蟹切［蟹］解―は、一種の神羊、能く曲直を分かつといふ。○〔史〕「弄二解―一」。

二畫

【⿰豸力】リヨク、リキ。林直切［職］遼東に產する犬の名。

三畫

【⿰豸乇】タク、チヤク。陟格切［陌］―貊は、驢を父とし牛を母とせる一種の獸。

【豹】ハウ、ヘウ。北教切［效］其の狀は虎に似て虎より小さく皮毛に圓き文ある一種の猛獸。○〔洞冥記〕「靑―出二浪-阪之山一、色如レ翠」。

〔赤豹〕毛色あかくして黑きあやある豹。○〔詩、傳〕「毛赤而文黑謂二之――一」。

〔虎豹〕とらとへうと、男子の稱に借りいふ語。○〔論〕「――之鞹猶二犬-羊之鞹一」。

〔文豹〕毛色のあやあるへう。○〔後漢〕「國多二――一」。

〔獺豹〕からしゝとへうと。○〔西都賦〕「挾二――一、拖二熊-螭一」。

〔白豹〕毛色しろくしてあやくろきへう。○〔詩、疏〕「毛白而文黑謂二之――一」。

〔水豹〕水中に生息する一種の獸、あざらし。○〔張衡〕「搤二――一」。

【豺】サイ、ザイ。士皆切［佳］狼の屬、やまいぬ、體細長くして毛深く其の足狗の如し、物を貪り殘ふ性あり。○〔詩〕「投二畀――虎一」。

〔捕豺〕やまいぬをうちとる。○〔埤雅〕「―レ―一購二錢百一」。

〔嘷豺〕ほゆるやまいぬ。○〔周邦彥〕「――常レ路」。

〔飢豺〕うゑたるやまいぬ。○〔張憲〕「白-晳――麏-麋驚」。

【豻】ガン。俄寒切〔寒〕
㊀狸に似たる一種の獸、一説に、狐に似たる野生の狗。○〔周〕「士以二三耦一射二ー侯一」。
㊁胡地の犬、えびすのいぬ。○〔禮〕「麛ー裘青ーー褎」。

【犴】ガン。五旰切〔翰〕
郷亭の囚人を繋留する所、ひとや。○〔漢〕「獄ーー不平之所レ致」。

四畫

【豽】貀に同じ。○〔晉〕「夫餘國出二善馬及貂ー一」。

【豼】貔に同じ。

【豲】グヮン。吾官切〔寒〕
貉の屬。

【貈】カク。曷各切〔藥〕
狐に似たる一種の獸。

【豝】ハ、ヘ。邦加切〔麻〕
獸の醜き貌にいふ字。

【豸木】貅に同じ。

【豣】ケン。古賢切〔先〕
大豕、おほゐのこ、一説に、二歳の豕。

五畫

【豾】貊に同じ。

【豿】コウ、ク。古厚切〔有〕
熊又虎の子の稱。

【豞】カク、コク。許角切〔覺〕
豕の聲にいふ字。

【豸左】サ。作可切〔哿〕
けもの（獸）。

【豸乍】タン、テン。中板切〔潸〕
はひむし（豸）。

【豸皮】ヒ。方味切〔未〕
前條に同じ。

【豸央】アウ。烏郎切〔陽〕
むじな（貉）。

【豸瓜】狐に同じ。

【豸冬】トウ、ツ。都宗切〔冬〕
頭に角ありて體は豹に似たる一種の獸。

【貀】ダツ、ヂチ。女滑切〔黠〕
前足なき一種の獸、一説に、其の狀狗に似て豹の如き文あり兩足にして角ある一種の獸、又一說に、其の狀は虎に似て其の色黑く前の兩足なき一種の獸、又一說に、其の狀は狸に似て色蒼黑く前足なき一種の獸、又一説に、其の狀は狐に似て狐より大きく長き尾ある一種の獸、又、一説に、其の狀は鹿の如く其の頭は狗の如き水中に棲む一種の獸、又、一説に、獸脚魚尾にして身に短き青白の毛ありて毛に黑點ある一種の獸にて方書にいへる膃肭臍（をットせい）は其の外腎なり。

【貁】イウ、ユ。余救切〔宥〕
鼠の屬、善く旋る性あり、一説に、猴に似たる一種の獸、鼻仰ぎて尾長し。○〔漢〕「蝯ー擬而不二敢下一」。

【貂】テウ。都聊切〔蕭〕
鼠の屬、體やゝ大いにして毛皮黃黑色なり、てん、ふるき、古昔は其の尾を冠に附けて首飾としたり。○〔後漢〕「ー尾爲レ飾」。
〔黑貂〕毛色のくろきてん。○〔戰〕「ーーー之裘敝」。
〔金貂〕きいろのてん。○〔漢〕「戴二ーー之飾一」。
〔黃貂〕前に同じ。○〔漢〕「孫更二漢家黑貂著一ーー」。
〔捕貂〕てんをうちとる。○〔北〕「習ーレー爲レ業」。
〔白貂〕しろきけいろのてん。○〔五代史附錄〕「臨レ訣脫二ーー裘一以衣二高祖一」。

【貃】貊に同じ。

【豸圣】キヨ、ゴ。彊魚切〔魚〕
たけし（猛）。

六畫

【豸冊】サン、セン。山閒切〔刪〕
わるづよし（惡健）、又、わるづよき犬。

【豜】豣に同じ。

【豸后】豿に同じ。

【豸缶】ヘウ。平表切〔篠〕

【貄】シ。息利切〔寘〕
羊に似たる一種の獸、善く睡るといふ。脩毫、ながきけ。○〔爾疏〕「ーー獸體多二長毛一」。

【豸多】イ。余支切〔支〕
犬に似たる一種の獸、赤き喙にて白き首。

【貅】キウ、ク。許尤切〔尤〕
一種の猛獸、古昔は兵戰に使用したりといふ。○〔史〕「教二熊羆貔ー貙虎一、以與二炎帝一戰二於阪泉之野一」。

【貆】クヮン。胡官切〔寒〕 ケン、カン。許元切〔元〕
貉の屬、一説に、貉の子、又一説に、まみ（貒）。○〔周〕「凡糞レ種鹹瀉用レー」。

【豸伏】フク、ボク。房六切〔屋〕
きつね（狐）。

【貇】豤に同じ。

【貈】カク、ガク。下各切〔藥〕
㊀むじな（貉）。㊁莫ーーは、いぼむしり。

【豸舟】貊に同じ。

【貉】カク。曷各切〔藥〕
狸に似たる一種の獸、むじな、頭も鋭り鼻もまた尖る、毛は深く厚くして其の色は斑なり、性善く睡るといふ。○〔周〕「ー踰レ汶則死」。
〔狐貉〕きつねとむじなと。○〔論〕「衣二敝縕袍一、與下衣二ーー一者上立而不レ恥者、其由也與」。

【貊】パク、ミヤク。莫白切〔陌〕

㊀北方の化外の民、えびす。○〔孟〕「子之道—道也」。㊁縮む。○〔爾、註〕「牽二縛縮三—之二。

【貉】禡に同じ、いくさまつり。○〔周〕「祭二表—一則爲レ位」。

【貊】バク、ミヤク。莫白切 陌

㊀北方の化外の民、えびす。○〔書〕「華夷蠻—」。㊁しづか（靜）。○〔詩〕「—二其德-音一」。㊂南地に產する驢の如き一種の獸、太だ力多しといふ。○〔後漢〕「哀牢夷出二—獸一」。

〔蠻貊〕えびす。○〔論〕「言忠信、行篤敬、雖二—·—之邦一行矣」。
〔九貊〕前に同じ。○〔禮〕「八蠻—·—」。
〔夠貊〕前に同じ。○〔後漢〕「—·—叛戾」。
〔戎貊〕前に同じ。○〔傅奕〕「再-擧珍二—·—一」。

【貄】シ。疎吏切 寘

鼠の屬。

【貗】トウ、ツ。他紅切 東

一種の獸。

七畫

【貋】豻に同じ。

【貌】バウ、メウ。莫教切 效

かたち。
（い）顏色、かほばせ。○〔楚辭〕「情與レ—其不レ變」。
（ろ）姿儀、すがた。○〔史〕「見二高-祖狀-—一、因重敬レ之」。
（は）擧止、ふるまひ。○〔論〕「—思レ恭」。
（に）外觀、みえ。○〔史〕「人—二榮-名一、豈有レ既乎」。
（ほ）狀態、形象、かた、ありさま、おもむき。○〔漢〕「人肖二天-地之—一、懷二五-常之性一」。

〔體貌〕すがたかたち。○〔詩、箋〕「—·—則顒-々-然敬-順」。
〔姿貌〕前に同じ。○〔後漢〕「擧—·—短-陋」。
〔軀貌〕前に同じ。○〔北齊〕「可レ謂レ有レ過二—·—之用一」。
〔容貌〕前に同じ。○〔禮〕「望二其—·—一、而民不レ生二慢-易焉」。
〔變貌〕つねのかたちをかふ。○〔禮〕「飲レ酒不レ至レ—·—」。
〔禮貌〕禮儀の容貌。○〔史〕「—之—誠深矣」。
〔形貌〕かたち。○〔漢〕「或—·—醜-惡亦是也」。
〔玉貌〕他人の容貌の尊稱に用ふる語。○〔史〕「今吾觀二先生之—·—一」。
〔鬼貌〕人のかたちのみにくきに借り用ふる語。○〔唐〕「—·—藍-色一」。
〔才貌〕才智と容貌と。⊙〔蔡邕別傳〕「二-人—·—甚類」。
〔器貌〕前に同じ。○〔李商隱〕「前-朝尙二—·—一」。
〔美貌〕うるはしきかたち。○〔李嘉祐〕「潘-郞—·—謝-公詩」。
〔面貌〕かほかたち。○〔史〕「不レ過レ欲三一見二吾—·—耳」。
〔顏貌〕前に同じ。○〔沈炯〕「思二我親-戚之—·—一」。
〔身貌〕すがた。○〔史〕「視二其—·—形-狀一、不レ足三以當二人主一矣」。
〔異貌〕めづらしきかたち。○〔後漢〕「吾聞賢-聖多有二—·—一」。
〔言貌〕言語と容貌と。○〔白居易〕「—·—甚奇-瓌」。
〔辭貌〕前に同じ。○〔後漢〕「爲レ人英—·—、有二俊-才一」。
〔風貌〕風采容貌。○〔白居易〕「明-妃—·—最娉-婷」。
〔影貌〕ひげかたち。○〔隋〕「及レ長—·—甚偉」。
〔色貌〕顏色容貌。○〔三水小牘〕「—·—甚峻」。
〔古貌〕むかしのかたち。○〔盧照鄰〕「帚-藏多二—·—一」。
〔老貌〕としたけたるすがた。○〔劉禹錫〕「—·—鏡-前悲」。
〔聲貌〕聲音と容貌と。○〔白居易〕「—·—俱如レ玉」。

【貌】バク、モク。莫角切 覺

㊀其の狀を寫し似す、かたどる。○〔唐〕「—二妃於別-殿一」。㊁邈に同じ、はるか。○〔韓愈〕「—·—上二天東一」。

【貍】リ。里之切 支

野棲する一種の小獸、たぬき、其の種類多し。○〔書〕「熊羆狐—織-皮」。

〔文貍〕あやあるたぬき。○〔莊〕「豐-狐—·—棲二于山-林一」。
〔風貍〕けものゝ名。○〔酉陽雜俎〕「南中有レ獸、名—·—、如レ狙眉長」。
〔家貍〕ねこの異名。○〔本草〕「猫-釋-名—·—、一名二烏-圓一」。
〔玉面貍〕一種の獸。○〔閩記〕「—·—、俗號二果-子-貍一」。

【貍】バイ、マイ。謨皆切 佳

埋に通じ用ふ、うづむ、うづまる。○〔周〕「以レ時籍二魚-鼈-龜-蜃凡—-物一」。

【貀】ウツ、チチ。紆勿切 物

くさし（臭）。○〔周〕「鳥皫-色而沙-鳴—」。

【貋】セウ。相邀切 蕭

こだま。

【貈】ヒ。貧悲切 支　ヒ、ビ。部鄙切 紙

貔に同じ。○〔揚雄〕「貔北-燕朝-鮮之閉謂二之—一」。

八畫

【貄】シ。息利切、キ、ギ。渠記切、イ。羊至切 寘　エイ。以制切 霽

貍の子。

【貎】ゲイ、ガイ。五稽切 齊

猊に同じ、一說に、麑に同じ。

【貚】タン、テウ。張貌切 效

ながむし（豸）。

【貗】ライ。落哀切 灰

貔。

【貅】リ。陵之切 支

たぬき（貍）。

【猗】イ。於宜切 支

牿犬、へのこきりたるいぬ。

【貏】ヒ。補靡切 紙

漸次に平かなる貌にいふ字。○〔史〕「陂-池—豸」。

九畫

【貓】ダウ、ノウ。奴皓切 皓

雌貉めむじな。

【貑】カ、ケ。古牙切 麻

㊀おぐま（羆）。㊁やまをとこ（玃）。

【貒】ゼウ、テウ。爾沼切 篠

くもざる（蒙-貴）。

【貒】タン。他貫切 [翰] 他官切 [寒]
一種の野獸、まみ、まみだぬき。○[楚辭]「——貉兮蟬々」。

【貐】猯に同じ。

【貗】井。于貴切 [未]
毛刺、はりねずみ。

【貅】イウ、ユ。夷周切 [尤]
㊀貜の屬。㊁良犬。

【貁】イウ、ユ。余救切 [宥]
猴に似たる一種の獸、鼻仰ぎて尾長し。

【貓】ベウ、メウ。武鑣切 [蕭]
善く鼠を捕らふる天性ある一種の獸、ねこ、其の眼睛時刻によりて變化す。○[禮]「迎レ—爲三其食二田鼠一」。
〔䝙猫〕虎の淺毛のもの。○[爾]「虦貓如二——」。食二虎豹一。
〔豬貓〕むしの名。○[本草]「——生二叢樹上一飛鳥也」。
〔跛貓〕あしなへたるねこ。○[東方朔]「將三以捕二鼠于深宮之中一、曾不レ如二——一」。

【貒】猿に同じ。

【貙】チヨウ、チユ。竹用切 [宋]
ちゝ、ち、(乳)。

十畫

【貔】ヒ、ビ。房脂切 [支]
一種の猛獸、豹の屬さいひ或は虎の屬ともいふ。○[書]、如レ虎如レ—」。
〔虎貔〕とらとらに似たるたけきけものと。○[李商隱]「四十萬衆貅二——一」。

【貕】ケイ、ゲイ。胡雞切 [齊]
豬子、ゐのこのこ。○[揚雄]「貕——蝳蟝」。

【貆】貆に同じ。

【貖】アク、ヤク。乙革切 [陌]
鼠の屬。

【貘】ダウ、ノウ。乃老切 [皓]
雌貀、めむじな。

【貔】ヒ、ビ。房脂切 [支]
たけし、(猛)。

十一畫

【貙】チ。抽知切 [支]
貅。○[周、註]「虎豹貔—」。

【貗】猯に同じ。

【貚】貚に同じ ○[揚雄]「——胡蜼」。
貜。

【貗】ク、其矩切 [麌] ル、龍珠切 [虞]
ゴ。切 ロ。切
貒子、まみのこ。

【貘】バク、ミヤク。莫白切 [陌]
熊に似たる一種の猛獸、其の齒太だ堅く銅鐵をも舐り食らふといふ。○[司馬相如]「貘旄——犛」。

【貗】貗に同じ。

【貙】チユ、ト。椿俱切 [虞]
㊀虎の屬、大いさは狗の如く文は貍の如し。○[爾]「—貗似レ貍」。
㊁江漢の閒に散在せし一部族の民。○[左思]「拍二——於莽草一」。
〔貙貙〕たけきけもの。○[吳越春秋]「勢如二——一」。

【貙】チヨ、ト。敕居切 [魚]
虎の大いなるものゝ稱。

【貘】シヤウ、サウ。疏兩切 [養]
一種の獸。○[揚雄]「鴻——貘乳」。

【貚】䝐に同じ。○[山海經]「黃帝生二禺——一」。

十二畫

【貗】ラウ、ロウ。盧皓切 [皓]
西南の夷の名。

【貗】レウ。憐蕭切 [蕭]
宵田、よひのかり。

【貚】嗥に同じ。

【貗】シウ、シユ。之戎切 [東]
頭に角ありて貌は豹に似たる一種の獸。

【貚】獱に同じ。

【貚】タン、ダン。徒干切 [寒] 徒案切 [翰]
テン、デン。徒年切 [先]

貙の屬。

十三畫

【貗】アイ、エ。於廢切 [隊]
蠻夷の人。

【貗】ヨウ、ユ。於容切 [冬]
猿に似たる一種の獸。

十四畫

【貗】バン、マン。門桓切 [寒]
獸の名。○[李白]「窮奇貙—」。

十五畫

【貗】タツ、タチ。他達切 [曷]
獺に同じ。

十八畫

【貛】クワン。呼官切 [寒] ケン、コン。逵員切 [先]
㊀狼の牡。㊁あなぐま、まみ、(貒)。

二十畫

【貜】クワク、ワク。王縛切 [藥]
色蒼黑なる一種の大猿、おほざる、やまさこ。○[爾、註]「貜—也、似二獼猴一而大」。

貝部

【貝】バイ。博蓋切 [泰]
㊀かひ。

(い)水中に棲みて身は介甲の中にある蟲の總稱、其の種類ははなはだ多し。〇[山海經]「其中多二文-—一」。

(ろ)かひの介甲、かひがら。〇[詩]「—-胄朱-綅」。

(は)貨泉、たから、貨錢の行はれざりし以前にはかひの介甲を貨錢として通用したり。〇[書]「具二乃—-玉一」。

㊁貨泉の單位を百八倍したるものゝ稱。〇[漢、註]「十-朋五-—」。

㊂錦の名。〇[書]「厥篚織-—」。

〔大貝〕かひの名、又、錦の名。〇[爾、註]「—-—如二車-渠一」。〔龜貝〕かめとかひと。〇[漢]「珠-玉—-—銀-錫之屬」。〔編貝〕あみつらねたるかひ。〇[漢]「齒若二—-—一」。〔珠貝〕眞珠がひ。〇[江淹]「—-—性明-潤」。〔蠡貝〕はらがひ。〇[唐]「—-—大者、可レ受二一-升一」。

二畫

【⿰貝卜】ハク、ホク。普角切 覺

㊀財を盜たす。㊁財を羨る、むさぼる。

【貞】テイ、チヤウ。知盈切 庚

㊀卜ひ問ふ、うらなふ、さふ。〇[周]「以二—來-歲之媺-惡一」。

㊁精神定まりて動き惑ふをなし、たゞし。〇[書]「一-人元-良萬-邦以—」。

〔居貞〕たゞしきをまもる。〇[易]「居レ—之吉」。〔守貞〕前に同じ。〇[張之象]「執二若如レ弦之—」。〔忠貞〕人に對し誠をつくして正しきこと。〇[書]「世篤二—-—一」。〔淸貞〕節操の潔白にして正しきこと。〇[晉]「—-—守レ道」。〔貞々〕正しき貌にいふ語。〇[揚雄]「僕禍—-—」。〔堅貞〕かたくかはらず。〇[白行簡]「ヨ乃—-—」。〔端貞〕たゞしきこと。〇[劉禹錫]「—-—理レ身」。

【貟】員に同じ。

【負】フウ、プ。房久切 有

㊀おふ。

(い)背に乘す、せおふ。〇[論]「襁二—其子一至矣」。

(ろ)背後にす。〇[禮]「天-子—二斧-依一南-鄕而立」。

(は)擔ふ、受く。〇[詩]「是任是—」。

(に)償はず。〇[漢]「—レ責數-鉅-萬」。

(ほ)恃む。〇[史]「—レ貴而好レ權」。

(へ)依る。〇[孟]「虎—レ嵎」。

㊁戰ひて敗る、角して劣る、やぶる、まく。〇[史]「無レ益二勝—之數一」。

㊂うれふ、(憂)。〇[後漢]「刺-史二-千-石不レ爲レ—」。

㊃はづ、(愧)。〇[後漢]「—-—無レ可レ言」。

㊄そむく。(い)違背す、たがふ。〇[史]「以—二於魏一」。(ろ)特に、恩を忘れ德にたがふにいふ字。〇[李陵]「陵雖レ—レ恩、漢亦—レ德」。

㊅うしなふ、(失)。〇[戰]「公—レ令」。

㊆老母の稱にいふ字。〇[史]「常從二王-媼武-—一貰レ酒」。

㊇貸りて未だ償はざるを、おひめ。〇[後漢]「典レ—者」。

㊈擔任、ひきうけ、せめ。〇[魏]「苟在二於免レ—」。

〔擔負〕になふ。〇[詩、箋]「謂レ—二—天之多-福一」。〔荷負〕前に同じ。〇[詩、疏]「能—二天之美-譽一也」。〔重負〕かろからざる荷。〇[穀梁]「民如レ釋二—-—」。〔襁負〕むつきにいれてせおふ。〇[論]「夫如レ是則四方之民、—二—其子一而至矣」。〔抱負〕いたくとおふと、又、轉じて心のうちのかんがへなどにもいふ。〇[後漢]「四-方學-士、莫レ不三—二—墳-策一、雲-會京-師上」。〔鼠負〕蟲の名。〇[爾]「蟠—-—」。〔自負〕おのれみづからをたのむ。〇[漢]「高-祖乃心獨喜—-—」。〔宿負〕ふるきおひめ。〇[晉]「逋-債—-—皆勿レ收」。〔愧負〕はづ。〇[蘇軾]「夢覺兩—-—」。〔矜負〕ほこりたのむ。〇[北]「常自—-—」。

【⿱夂貝】ハイ、ペ。簿回切 灰

河神の名。

三畫

【⿱小貝】サ。蘇果切 哿

貝介の聲。

【財】サイ、ザイ。昨哉切 灰

㊀人の寶さなす物品、たから、卽ち、金錢布帛米穀など。〇[書]「底二愼—-—賦一」。

㊁裁に通じ用ふ。〇[易]「以—二成天-地之道一」。

㊂材に通じ用ふ。〇[孟]「有二達レ—者一」。

㊃わづか、(纔)。〇[史]「遺二—足一」。

〔理財〕たからを整治す。〇[易]「—レ—正レ辭」。〔散財〕たからをわかちちらす。〇[書]「—二鹿-臺之—一」。〔貨財〕金錢など人のたからとするもの。〇[禮]「貧-者不下以二—-—一爲上レ禮」。〔阜財〕たからをゆたかにす、又、たからのゆたかなること。〇[南風歌]「南-風之時兮、可三以—二吾民之—一兮」。〔豐財〕前に同じ。〇[荀悅]「在レ上者先—二人—一」。〔送財〕たからを贈與す。〇[家語]「—レ人以レ—」。〔靡財〕つかひへらす。〇[漢]「—レ—單レ幣」。〔竊財〕たからをぬすむ。〇[左]「—二人之—一謂二之盜一」。〔多財〕たからおはし。〇[史]「使二爾—-—一、吾爲二爾宰一」。〔餘財〕たからをあましのこす、又、あまりのたから。〇[史]「身貧-鄙者—レ—」。〔貴財〕たからを尙ぶ。〇[漢]「—レ—賤レ義」。〔積財〕たからを貯ふ。〇[漢]「—レ—而不レ能レ賞」。〔聚財〕たからをあつむ。〇[梁]「不レ息レ費則無三以—レ—」。〔輕財〕たからをかろんず。〇[鹽鐵論]「重レ義而—レ—」。〔公財〕おほやけのたから。〇[韓]「以二—-—一分-施」。〔匱財〕たから缺乏す。〇[孔叢子]「臣—二於—一」。

【貢】コウ、ク。古送切 送

㊀つぐ、(告)。〇[易]「六-爻之義易以—」。

㊁功品產物を君上に獻ず、たてまつる、すゝむ、みつぐ。〇[國]「讓レ不レ—」。

㊂みつぐと、みつぐ物、みつぎ。〇[禮]「五-官致レ—日レ享」。

㊃たまふ、(賜)。㊄さほる、(通)。

〔奉貢〕みつぎものをさむ。〇[後漢]「重レ譯—レ—」。〔供貢〕前に同じ。〇[漢]「農不二—-—一」。〔納貢〕前に同じ。〇[晉]「九-服—レ—」。〔輸貢〕前に同じ。〇[遼]「吳越南唐、航レ海—レ—」。〔奇貢〕めづらしきものへみつぎ。〇[梁]「納二—-—於絕區一」。〔珍貢〕前に同じ。〇[拾遺錄]「殊-方—-—、府無二虛-日一」。〔租貢〕租稅とつみぎものと。〇[吳越春秋]「—-—繾給二宗-廟祭-祀之費一」。〔雜貢〕いろ〳〵のみつぎ。〇[陳陶]「—-—來山時」。〔外貢〕外國のみつぎ。〇[文同]「—-—入二中-原一」。

【貣】トク。他得切 職

㊀借用す、かる。〇[後漢]「—二得十-分之三一」。

㊁忒に同じ、たがふ。〇[史]「二衍-—」。

【⿰貝刃】ジン、ニン。而晉切 震

かたし、(牢)。

【貤】イ。以智切 寘　シ、ジ。神示切

⊖次第に重れ益す、次第に重なり益す、ます、かさなる、かさぬ、ついづ。○〔漢〕「無レ所二流―一」。

【貤】 イ。余支切 〔支〕

㊁ひく、のぶ、(延)。○〔史〕「―二丘-陵一」。

うつる、(移)。

四畫

【貥】 カウ、ガウ。戸郎切 〔陽〕

大いなる貝。

【貦】 グワン。五換切 〔翰〕

よし、(好)。

【貧】 ビン、ミン。眉貧切 〔眞〕

⊖もと、(本)。㊁かず、(算)。

㊂みつぎ、(税)。

【貧】 ヒン、ビン。符巾切 〔眞〕

⊖財貨乏し、資産少なし、まづし。○〔詩〕「終窶且―」。

㊁まづしき者、びんぼうにん。○〔漢〕「増レ財役レ―」。

〔恤貧〕まづしき者にめぐむ。○〔周〕「四曰二―・―一」。

〔振貧〕前に同じ。○〔漢〕「於レ是天-子遣レ使虚二郡-國倉-廩一以―レ―」。

〔居貧〕まづしきをまもる。○〔孟〕「辭レ富―レ―」。

〔患貧〕まづしきをなやむ。○〔史〕「尚猶―レ―」。

〔安貧〕心をまづしきにやすんじてうれへざること。○陶潛「―レ―守レ賤者」。

〔清貧〕まづしきこと。○〔杜甫〕「家-計復―・―」。

〔忘貧〕まづしきをこゝろにかけず。○〔文子〕「安レ德而―レ―也」。

〔窶貧〕財物空し。○〔詩〕「終―且―」。

〔賤貧〕貴からずしてまづしきこと。○〔盧綸〕「所レ交惟―・―」。

【貨】 クワ。呼臥切 〔箇〕

⊖たから。

(い)人生に需要ある物品、志なもの。

○〔易〕「聚二天-下之―一交-易而退」。

(ろ)有無を通じ賣買の媒介となるもの、かね、さつ、金錢、眞布。○〔周〕「六曰、―」。

㊁たからを贈る、まひなふ、又、たからを賣る、うる。○〔左〕「―二筮-史一」。

〔賂貨〕たからを貴ばず。○〔禮〕「―レ―而貴レ德」。

〔奇貨〕めづらしきたから。○〔研北雜誌〕「如レ得二―・―一」。

〔珍貨〕前に同じ。○〔後漢〕「多食二其―・―明璣翠羽犀象玳瑁之屬一」。「守也」。

〔良貨〕よきたから。○〔管〕「雖レ有二―・―一不レ能」

〔盜貨〕たからをぬすみとる。○〔中論〕「盜レ名不レ如レ―レ―」。「―一」。

〔聚貨〕たからをよせあつむ。○〔易〕「―二天-下之」

〔寶貨〕たから。○〔賈島〕「囊-中無二―・―一」。

〔晋貨〕たからを尚ぶ。○〔左〕「―レ―易レ士」。

〔貪貨〕たからを妄りに取らんことを欲す。○〔左〕「―レ―棄レ命」。

〔積貨〕たからをたくはふ。○〔管〕「府不レ―レ―」。

〔錢貨〕ぜにのこと。○〔漢〕「數改二―・―一」。

〔銀貨〕しろかねの貨幣。○〔漢〕「是―・―二-品」。

〔貝貨〕かひの貨幣。○〔漢〕「是爲二―・―五-品一」。

〔賊貨〕官のたからをぬすむ。○〔商〕「犯二―・―一」。

〔女貨〕をんなとたからと。○〔逸周書〕「―・―速レ禍」。

〔分貨〕たからをわかつ。○〔說苑〕「鮑子嘗與レ我臨レ財―レ―」。

〔齎貨〕たからをもちゆく。○〔王充〕「買人―レ―」。

〔輸貨〕たからをはこびおくる。○〔陳琳〕「―二―樓-門一」。

【販】 ハン、ホン。方願切 〔願〕

物品を買受し更に他に轉賣して利を得るにいふ字、あきなふ、あきなひ。○〔周〕「―-夫―-婦爲レ主」。

〔商販〕あきなふ、又、其の者。○〔酉陽雜俎〕「不レ尚二―・―一」。「―者一」。

〔沽販〕前に同じ。○〔魏〕「禁二飲レ酒雜-戲、棄レ本―・―」。

〔屠販〕肉をほふり賣る。○〔劉駰〕「樊-噲―・―之豎」。「―」。

〔負販〕物品をせおひてうる。○〔魏、誌〕「朱レ邦―・―」。

〔貿販〕賣買す。○〔晉〕「工-商―二―于道一」。

〔好販〕商賣をこのむ。○〔家語〕「子貢―・―」。

【貪】 タン、他含切 〔覃〕　トン。切　他紺切 〔勘〕

過度に欲す、太だ愛す、むさぼる。○〔詩〕「―-人敗レ類」。

〔强貪〕いたくむさぼる。○〔戰〕「今有二―・―之國一」。

〔忕貪〕たけくむさぼる。○荀「―・―而利」。

〔療貪〕貪慾を治療す。○〔東坡志林〕「飮二伯夷之盟-水一、可二以―一レ―」。

〔狼貪〕おほかみの如くいたくむさぼる。○〔韓愈〕「羊狠―・―」。

【貫】 クワン。古玩切 〔翰〕

⊖錢貝をつらぬき持つもの、さし、ぜにさし。○〔漢〕「京-師之錢累二百-鉅-萬一、―朽而不レ可レ校」。

㊁つらぬきとほりたるもの、すぢ、みち、條理、脈絡。○〔史〕「明二道-德之廣-崇治-亂之條―一」。

㊂つらぬく。

(い)うがつ、(穿)。○〔左〕「矢―二余手一及レ肘」。

(ろ)とほす、とほる、(通)。○〔論〕「吾道一以―レ之」。「不レ釋」。

(は)あつ、あたる、(中)。○〔儀〕「不レ―」

㊃かさなる、かさぬ、(累)。○〔屈平〕「―二薜-荔之落-蘂一」。

㊄名籍、にんべつ。○〔魏〕「其實-官正-職者、亦列二名―一」。

㊅ならふ、ならはす、(習)。○〔詩〕「三-歲―レ女」。「循舊―一」。

㊆習慣、ならひ、ならはせ。○〔漢〕「因二

〔魚貫〕魚をくしにさしつらぬきたるごとくひとりづつならぶ。○〔魏〕「將-士皆攀レ木緣レ崖―・―而進」。

〔綱貫〕條理。○〔魏〕「甚有二―・―一」。

〔體貫〕こどものとにいふ語。○〔庾信〕「鼓-鼙表二―・―之年一」。

〔洞貫〕ぬきうがつ。○〔吳〕「矢皆―・―」。

〔清貫〕侍從の官をいふ。○〔晉〕「共超二―・―一」。

〔流貫〕かねつらぬく。○〔唐〕「―二―羣-書一」。

〔包貫〕前に同じ。○〔唐〕「雖下―二―異-家一詳-博上」。

〔鄉貫〕鄉籍。○〔唐〕「以二―・―三-代名-諱一送二中-書門-下一」。

〔本貫〕前に同じ。○〔金〕「使レ還二―・―一」。

〔縮貫〕よこよりつらぬく。○〔唐〕「―・―二其營一」。

〔移貫〕本籍をうつす。○〔金〕「其先自二臨-潢―二―宛-平一」。

〔錢貫〕ぜにさし。○〔張鷟〕「子藏―・―朽」。

〔斜貫〕なゝめにうがつ。○〔北戸錄〕「―・―二一-竅一」。

〔通貫〕つらぬきとげる。○〔臨鷺錄〕「苦勞相―・―」。

【貫】 彎に同じ、ひく。○〔史〕「―レ弓執レ矢」。

【責】 サク、シャク。側革切 〔陌〕

⊖せむ。

(い)求む。○〔左〕「―二賂于鄭一」。

(ろ)非とす。○〔書〕「誕無二我―一」。

(は)せまる、(催)。○〔詩〕「―二衞-伯一也」。

(に)そしる、(刺)。○〔左〕「西-鄰―言」。

(ほ)志かる、(譙)。○〔後漢〕「褒―之科」。

(へ)たゞす、(問)。○〔史〕「簿二―條-侯一」。

(と)自身を訟ふ、おのれとおのれをさがむ。○〔漢〕「痛自刻―」。

㊁爲さゞるべからざる任務、受けざるべからざる負擔、せめ。○〔孟〕「有二言―一者」。

㊂とる、(取)。○〔戰〕「歸二其劍一而―二ソ」「金一」

(塞責) 責任をつくす。○〔漢〕「無ニ以報レ德ー」。

(疚責) まりぞけせむ。○〔左、註〕「不レ待ニー・ー一而自明也」。

(質責) あやまちなどをたゞしせむ。○〔史〕「ーニー湯于上前一」。

(督責) 正しせむ。○〔史〕「而行ニー・ー之術一者也」。○〔史〕「數

(譴責) まかりせむ。○〔唐〕「多レ所ニー・ー一」。

(黜責) まりぞけせむ。○〔後漢〕「輒譴ニ其父兄一、使レーニ・ー之一」。

(罰責) つみある者より物を求め取る。○〔後漢〕「輒相ーニ・ー生口牛馬一」。

(償責) 誅責をつくのふ。○〔唐〕「雖レ死不レ足レー」。「ー」。

(峻責) きびしく求む。○〔唐〕「乃ーニ・ー租調一」。

(笞責) むちうちせむ。○〔五〕「數加ニー・ー一」。

(重責) おもきせめ、又、おもくせむ。○〔抱朴子〕「以レ少凌レ長、則鄕黨加ニー・ー一」。

【責】 債に同じ、おひめ。○〔周〕「聽ニ稱ー一以ニ傳別一」。

【貯】 財に同じ。○〔李翕〕「ー容ニ車騎一」。

【貪】 ホン、モン・莫困切 願

財長す、ふゆ。

五畫

【貯】 チョ、ト。丁呂切 語

積み藏め備へ居くにいふ字、たくはふ、又、たくはふるを、たくはへ、たくはへたる物、たくはへ。○〔公羊〕「無ニー・粟一」。

(滿貯) 十分にたくはふ。○〔鄭俠〕「ーニー玉液清泠々」。「甚多」。

(糧貯) 糧食のたくはへ。○〔錄異記〕「京城ー・ー

(積貯) 金穀などをつみおく。○〔賈誼〕「夫ー・ー者、天下之大命也」。

【貰】 セイ。始制切 霽

㊀即時に價をつくのはずして其の物を求め取る、かる、又、即時に價を受けずして其の物を送り與ふ、かす。

㊁○〔史〕「常從ニ王媼武負一ーレ酒」。○〔漢〕「得レ見ニーー

㊂寬赦す、ゆるす。○〔漢〕「得レ見ニー・赦一」。

(除貰) おぎのる。○〔周、註〕「民無レ貸則ー・ー而予レ之」。

【貶】 ショ、疎阻切 ㊀ フ、方遇切 遇 ソ。切 ホ。切

財物を使用してトふにいふ字、うらなふ、粟を握りてトふの類なり。

【貱】 ヒ。彼義切 寘

㊀遂予す、あたふ。㊁ます、(益)。㊂次第、ついで。

【貲】 シ。卽移切 支

㊀財貨、たから。○〔論〕「與レ時轉ニ貨ー一」。

㊁たからを出だして罪を贖ふ、あがなふ。○〔說文〕「民不レ繇ー錢二十二」。

(高貲) 財貨多し。○〔漢〕「從ニ吏二千石ー・ー富人、及豪傑幷兼之家于諸陵一」。

(家貲) 家のたから。○〔唐〕「臣ー・ー不レ滿ニ千錢一」。

(傾貲) 貲財をいたしつくす。○〔唐〕「ーレー賑護「家累ニ萬金一」。無レ吝」。

(先貲) おやゆづりのたから。○〔列〕「藉ニ其ー・ー」、

【貳】 ジ、ニ。而至切 寘

㊀そふ。(い)つぐ、(副)。○〔書〕「ーレ公弘レ化」。(ろ)ます、(益)。○〔周〕「大祭三ー・ー」。

㊁そふろと、そへろもの、そへ、ひかへ。○〔禮〕「乘ニー・車一則式」。「ー」。

㊂二に同じ、ふたつ。○〔易〕「樽酒簋ー」。

㊃重ぬると。○〔禮〕「雖レー不レ辭」。

㊄再度。○〔家〕「行不レ過レー」。

㊅別異なると。○〔國〕「子盍ニ蚤自ー一」。

㊆倍くと。○〔荀〕「脩レ道而不レー」。

㊇兩屬せると。○〔左〕「命ニ西鄙北鄙ーニ於己一」。「君而ー」。

㊈二心あると、ふたごころ。○〔國〕「從レ心一」。

㊉分かつと。○〔左〕「王ーニ于虢一」。

⑪うたがふ、(疑)。○〔詩〕「勿レーニ爾心一」。「之ー也」。

⑫ならぶ、(竝)、たぐひ、(敵)。○〔左〕「君

⑬かはる、(代)。○〔左〕「其トーレ圉也」。

⑭變ず。○〔國〕「事成不レー」。

(㹠貳) 虹の異名。○〔爾〕「蜺爲ニー・ー一」。

(携貳) はなれてまたしまざると。○〔左〕「我德則睦、否則ー・ー」。

(儲貳) よつぎ。○〔晉〕「所下以重ニー・ー一異中正嫡上」。

(副貳) そふ。○〔晉、傳〕「ーニー三公一」。

(討貳) そむきたる者をうつ。○〔左〕「徵會ーレー」。

(伐貳) 前に同じ。○〔左〕「柔服而ーレー、德之次也」。「爲レーレー」。

(懷貳) ふたごころをいだく。○〔後漢〕「表大怒以

(離貳) はなれそむく。○〔後漢〕「義無ニー・ー一」。

(乖貳) 前に同じ。○〔晉〕「王敦既與ニ朝廷ー・ー」。

(間貳) 前に同じ。○〔北〕「不良之徒、坐生ニー・ー一」。

(疑貳) うたがふ。○〔晉〕「於レ是與レ溫頗有ニー・ー」。

(違貳) たがひそむく。○〔晉〕「宜ニ正義以伐ニー・ー一」。

(攜貳) あとつぎ。○〔管〕「ー・ー闕然」。

(猜貳) そねみうたがふ。○〔唐〕「ー・ー已結」。

(嫌貳) いみうたがふ。○〔元倉子〕「彼此ー・ー」。

(參貳) あづかる。○〔范仲淹〕「予ーニー國政一」。

(介貳) たすけそふ。○〔常袞〕「凡所ニー・ー一者有ニ卓絕之稱一」。

【貴】 キ。居胃切 未

㊀たふとし、たかし。(い)位高し。○〔易〕「ー・賤位矣」。(ろ)價多し。○〔漢〕「器苦惡賈ー」。

㊁たふとぶ。(い)上とし敬す。○〔禮〕「ーレ德而尚レ齒」。(ろ)欲す、ねがふ。○〔戰〕「ー下合ニ於秦一以伐上レ齊」。「ー下レ賤」。

㊂たふとき位、たふとき者。○〔易〕「以レ」

(富貴) たからとみ位たかし。○〔易〕「崇高莫レ大ニ乎ー・ー一」。

(豪貴) 猪の異名。○〔西場雜俎〕「猪一名ニー・ー一」。

(負貴) 地位の貴きをたのむ。○〔史〕「武安ー・ー而好レ權」。

(隆貴) 高く尊し。○〔史〕「其ー・ー如レ此」。

(印貴) 物價などのたかきにいふ語。○〔漢〕「萬物ー・ー」。

(翔貴) 前に同じ。○〔蔡襄〕「今歲穀ー・ー」。

(權貴) 勢力ありて地位尊し。○〔齊〕「三世不レ事ニー・ー一」。

(宿貴) ふるくよりたかき位にあるもの。○〔書〕「雖ニー・ー前望一、造詣不ニ敢干以レ私」。「ー・ー者」。

(顯貴) 人にまらるゝ高き位。○〔史〕「諸齊人以レ詩

(盛貴) 隆盛にして位たかし。○〔史〕「石氏九人爲ニ二千石一方ー・ー」。

(榮貴) 前に同じ。○〔杜甫〕「ー・ー如ニ糞土一」。

(尊貴) たふとし、又、其の者。○〔漢〕「日以ー・ー」。

(朝貴) 在朝の權貴。○〔齊〕「未ニ嘗詣ニー・ー一」。

(寵貴) いつくしみたふとぶ。○〔梁〕「欲レーニ・ー之一」。

(暴貴) にはかにたふとし。○〔邢侗〕「自笑年來身ー・ー」。

(矜貴) たふとき位をまめたるにほこる。○〔隋〕「時楊素特レオーレー」。

(至貴) 極めてたふとし。○〔隋〕「玉者ー・ー也」。

(窮貴) 前に同じ。○〔墨子〕「天子者天下之ー・ー也」。

【貧】 ヘン。披免切 銑

財長す、ふゆ。

【貯】 カン、コン。呼談切 覃

戲れに物を乞ふ、もさむ。

【貽】 カン、コン。呼紺切 勘

財を貪る、むさぼる。

【貶】 ヘン。方斂切 琰

㊀おさす。(い)減損す、へらす。○〔封禪文〕「天下之壯觀、王者之不ー業、不レ可レー也」。

(ろ)抑へ謫く、しりぞく。○〔公羊〕「何以不レ氏、―也」。
㊁おつ、(墜)。○〔詩〕「我位孔―」。
〔褒貶〕はむとれさへせむると。○〔春秋、序〕「春秋雖下以二一・字一爲中―・―上」。
〔抑貶〕おさへしりぞく。○〔漢〕「―二―尊・號一」。
〔損貶〕へらししりぞく。○〔唐〕「日・膳、豐・鮮兼二―・―一」。
〔顯貶〕いちじるしく貶謫す。○〔傳咸〕「宜下加二―・―、以隆中風・敎上」。
〔懲貶〕わるきをこらして官職などをおとす。○〔唐〕「粗示二―・―一」。「竝―・―」。
〔竄貶〕官職などをくだして遠地にしりぞく。○〔宋〕

【買】
バイ、メ。莫蟹切　蟹

かふ。
(い)價を出だして物を求め受く、かひとる。○〔周〕「聽二賣―一以二質劑一」。
(ろ)求め受く。○〔戰〕「所レ謂市レ怨而―レ禍者也」。
〔市買〕うるとかふと、又、かふ。○〔史〕「而―二―郡・縣器・物一」。
〔賤買〕やすくかふ。○〔史〕「―則―レ之」。
〔競買〕われおくれじときそひてかふ。○〔晉〕「人―レ之」。
〔爭買〕前に同じ。○〔眞仙通鑑〕「市・人―・―」。
〔貴買〕たかくかふ。○〔鄭谷〕「―二―琴・書一不レ惜レ錢」。
〔糴買〕米穀をかひ入ること。○〔韓詩外傳〕「不レ可二―・―而得一也」。

【貸】
タイ。他代切　隊

かす。
(い)假りに予へて用を盈たす。○〔左〕「盡二其家―一二於公一」。
(ろ)施す。○〔後漢〕「賑二―幷・州四・郡之貧・民一」。
(は)寛にす、ゆるす。○〔漢〕「縱・舍時有二大―・―一」。

〔賒貸〕おぎのる。○〔志〕「夫周禮有二―・―一」。
〔稟貸〕穀物などをほどこす。○〔漢〕「開二倉・庫一以―・―」。
〔假貸〕かす、又、かる。○〔後漢〕「無レ所二―・―一」。
〔逋貸〕租税などのいまだをさめざるもの。○〔漢〕「―・―未レ入者勿レ收」。
〔恩貸〕めぐみ。○〔後漢〕「不下敢□二餘・力一負中―・―上」。
〔寛貸〕非過などをきびしくたゞさず。○〔後漢〕「其餘務崇二―・―一」。
〔容貸〕つみなどをゆるやかにす。○〔後漢〕「無レ所二―・―一」。「甚衆」。
〔優貸〕特別にすぐれてあつかふ。○〔白居易〕「弘二―・―之恩一」。
〔原貸〕罪あるものなどをゆるす。○〔南唐〕「―・―
〔赦貸〕前に同じ。○〔宋〕「―二―脅・從一」。

【貸】
トク。他得切　職

㊀かる、(借)。○〔周〕「凡民之―者」。
㊁たがふ、(忒)。○〔禮〕「宿・離不レ―」。

【貝乍】
サク、ザク。在各切　藥

財貨、たから。

【貝生】
セイ、シヤウ。所敬切　敬

㊀たから、(財)。
㊁たからに富む、さむ。

【貝主】
チユ。中句切　遇

たから、(財)。

【貺】
キヤウ、カウ。許放切　養

賜與す、あたふ、たまふ、又、たまふもの、たまもの。○〔詩〕「中・心―レ之」。
〔私貺〕おほやけならざる賜與。○〔唐〕「公・事而當二―・―一」。
〔大貺〕おほいなるたまもの。○〔左〕「重拜二―・―一」。

【貝句】
コウ、ク。古候切　宥

㊀たす、(給)。
㊁をさむ、(治)。

【貝示】
シ、ジ。神至切　寘

しめす、(呈)。

【費】
ヒ。芳未切　未

㊀つひやす。
(い)財貨を用ひ散らす。○〔論〕「君子惠而不レ―」。
(ろ)損耗す、へらす。○〔呂氏春秋〕「―レ神傷レ魂」。
(は)使用す、つかふ。○〔韓愈〕「無下乃傷二于德一―中于辭上乎」。
㊁つひやされて缺乏す、つひゆ。○〔後漢〕「中・國虛―、邊・陲不レ寧」。
㊂つひえ。
(い)つひやす財貨。○〔呂氏春秋〕「非レ愛二其―一也」。
(ろ)用度、いりか。○〔史〕「將三用爲二夫・人麤・糲之―一」。
㊃惠む。○〔禮〕「口―而煩」。
㊄光れる貌にいふ字。○〔楚辭〕「―白・日些」。
〔辭費〕ことばみたりに多し。○〔禮〕「人不二―・―一」。
〔歲費〕一年の費用。○〔漢〕「―・―且二萬・々一」。
〔給費〕費用にあつ。○〔唐〕「晝採レ薪―レ―」。
〔煩費〕つひえ多し。○〔史〕「蕭・然―・―矣」。
〔經費〕さだまりたる費用。○〔史〕「不レ領二於天・子之―・―一」。
〔勞費〕力をつからしたからをつひやす。○〔漢〕「―・―無レ已」。
〔官費〕政府の費用。○〔宋〕「歲省二―・―數・十・萬一」。
〔國費〕國家の費用。○〔後漢〕「元・初中、復上二繼萬・疋一、以助二―・―一」。
〔邊費〕國境につかふ費用。○〔鹽鐵論〕「番レ貨長レ財、以佐二助―・―一」。
〔橫費〕みだらなる費用、又、むだにつひやす。○〔後漢〕「不二敢復有レ所一―・―一」。
〔淫費〕前に同じ。○〔後漢〕「世增二―・―一」。
〔浮費〕前に同じ。○〔晉〕「禁二―・―一」。
〔游費〕前に同じ。○〔晉〕「去二―・―一」。
〔浪費〕前に同じ。○〔楊萬里〕「賜金豈―・―」。
〔竭費〕費用をつかひつくす。○〔晉〕「窮レ奢―レ―」。
〔釀費〕酒をかもすつひえ。○〔唐〕「而―・―居二三之一一」。
〔冗費〕むだなる費用。○〔唐〕「承・詔罷二―・―一」。
〔鉅費〕多くのつひえ。○〔宋〕「縣・官有二―・―一」。
〔學費〕まなびの費用。○〔宋〕「以充二―・―一」。
〔工費〕工作の費用。○〔范成大〕「―・―蝟毛出」。
〔奢費〕おごりの費用。○〔潛夫論〕「以爲二―・―一而不レ作」。
〔衆費〕もろもろの費用。○〔梁武帝〕「此外―・―、一皆禁・絕」。
〔路費〕旅費のこと。○〔王禹偁〕「―・―無二百・錢一」。
〔匠費〕たくみにつかふ費用。○〔喬琳〕「出二家・財一以資二―・―一」。

【費】
フツ、分物切　物
ヒ。符味切　未

用度の廣きこと、一說に、もとる、(佹)。○〔禮〕「君・子之道、―而隱」。

【貼】
テフ。他協切　葉

㊀抵質となす、かたにおく、かたにさる。○〔南〕「身自販―」。
㊁つく。
(い)依附す、よりつく、よせつく。○〔涂渭〕「低・茅水・上―」。
(ろ)黏置す、ねばりつく、ねばしつく。○〔歐陽修〕「魚・皮裝―香・木鞘」。
〔揭貼〕はりつけかゝぐ。○〔宋〕「朕當下書二之屛・風一以レ時―・―上」。
〔熨貼〕ひのしとのりなどにて布帛などを整ふること。○〔方回〕「布・帛極二―・―一」。
〔補貼〕ものゝやぶれなどをつくろふこと。○〔方岳〕「身似二補・船一難二―・―一」。

【貝央】
アウ、ヤウ。於兩切　養

量の極限なきこと。

【貽】
イ。與之切　支

㊀歸遺す、おくる、のこす。○〔書〕「—二厥子孫一」。
㊁介の黑色なる一種の貝。○〔爾〕「—貝〔註〕黑色貝也」。

【貾】チ、ヂ。直尼切 支
黃白の文彩ある貝介、かひがら。

【貿】ボウ、ム。莫候切 宥
㊀かふ。
（い）互に交換す、とりかふ、かへあふ。○〔呂氏春秋〕「男女—レ功」。
（ろ）市賣す、かふ、うる、あきなふ。○〔詩〕「抱レ布—レ絲」。
㊁交互に亂雜す、いりかはる、かはる、みだる。○〔裴駰〕「是非相—」。
㊂目の明かならざる貌にいふ字。○〔禮〕「有二餓者一、蒙レ袂輯レ屨、—・—然來」。
〔賒貿〕安價にうる、又、安價に買ふ。○〔後漢〕「餘皆—・—與二民之貧羸者一」。
〔販貿〕あきなふ。○〔魏〕「—・—來往」。
〔詭貿〕いつはりかはる。○〔顧凱之〕「是以心顏—・—」。
〔交貿〕交互貿易す。○〔晉〕「雖レ有二—・—之名一」。

【⿱夘貝】貿に同じ。○〔柳宗元〕「帝以—レ嬪」。

【⿰貝玄】衒に同じ。

【賀】カ、ガ。胡佐切 箇
㊀よろこぶ、よろこび。
（い）禮物をすゝめて慶意を表するにいふ字、いはふ、いはひ。○〔禮〕「昏禮不レ—人之序也」。
（ろ）單に、慶意を陳述するにもいふ字。○〔戰〕「羣臣聞見者畢—」。
㊁くはふ、（加）。○〔儀〕「—レ之」。
㊂ねぎらふ、（勞）。○〔晏〕「景公迎而—レ之曰、善矣、子之治二東阿一也」。
㊃になふ、（擔）、おはす、（負）。○〔唐〕「羣臣皆—レ戟以待」。
〔承賀〕他の者よりよろこびをうく。○〔禮〕「士于二大夫一不レ—レ—」。
〔受賀〕前に同じ。○〔唐〕「今日受レ弔不レ—レ—」。
〔弔賀〕とぶらふといはふと。○〔左〕「諸侯相—・—也」。
〔朝賀〕諸侯羣臣などの帝王に朝覲して祝賀をのぶること。○〔韓愈〕「大開二明堂一受二—・—一」。
〔來賀〕ほかよりきたりてよろこびをのぶ。○〔左〕「今茲吾又將二—・—一」。
〔拜賀〕稽首して祝す。○〔漢〕「信再—・—曰、唯」。
〔上賀〕帝王などに對しよろこびをのぶ。○〔晉〕「羣臣將レ—レ—」。
〔陛賀〕皇居の陛下にきたりよろこびをのぶること。○〔魏〕「百辟—・—」。
〔表賀〕表をたてまつりてよろこびをのぶること。○〔舊唐〕「百官—・—」。
〔參賀〕朝にいでてよろこびをのぶ。○〔宋〕「皇太子朔望不レ受二宮僚—・—一」。

【⿰貝㐌】貤に同じ、かさぬ、ついづ、ひく。○〔左思〕「兼重レ性以—レ繆」。

【賁】ヒ。彼義切 寘
㊀易の卦名、䷕（離下艮上）。○〔易〕「—亨小利レ有レ攸レ往」。
㊁かざる、（飾）。○〔易〕「—二其趾一」。
㊂文飾、かざり、あや。○〔詩〕「—・—然來思」。
〔寵賁〕いつくしむ。○〔歐陽修〕「式垂二—・—一」。
〔褒賁〕ほむ。○〔歐陽修〕「—・—所レ及」。
〔顯賁〕あきらかにあらはす。○〔馬祖常〕「願宜レ有三以—二—・—之一」。

【賁】フン、ホン。符分切 文
㊀おほいなり、（大）。○〔詩〕「—鼓維鏞」。
㊁三箇の足ある龜。○〔爾〕「龜三足—」。

【賁】ホン。博昆切 元
勇力を以て事ふる者、つはもの、勇士。○〔周〕「旅—氏、掌下執二戈盾一夾二王車一而趨上」。
〔虎賁〕帝王をまもる軍士。○〔國〕「天子有二—・—習二武訓一」。

【賁】フン、ホン。父吻切 吻
㊀いきどほる、（憤）。○〔禮〕「粗厲猛起奮末廣—之音作、而民剛毅」。
㊁わく、うごもつ、（濆）。○〔穀梁〕「灑二酒於地一而地—」。
㊂—泉は、地の名。

【賁】フン、ホン。方問切 問
やぶる、（敗）。○〔禮〕「—軍之將」。

【賁】古文の班の字。

【賁】リク、ロク。力竹切 屋
—渾は、戎の一族。○〔公羊〕「楚子伐二—渾之戎一」。

【賁】ヒ、ビ。符非切 微
人の姓。○〔漢〕「中大夫—赫」。

【賁】ヘン、ハン。孚袁切 元
—禺は、番禺に同じ。

六畫

【賂】ロ、ル。洛故切 遇
㊀財物を遺與す、おくる、まひなふ。○〔詩〕「大—二南金一」。
㊁まひなふこと、まひなふ財物、まひなひ、おくりもの。○〔左〕「取レ—而還」。
〔受賂〕まひなひをうく。○〔漢〕「張武—二—金錢一」。
〔賄賂〕まひなひ。○〔春秋胡傳〕「—・—公行」。
〔賕賂〕前に同じ。○〔漢〕「遞相—・—」。
〔行賂〕まひなひをつかふ。○〔宋〕「諸—レ—獲レ薦者」。
〔緩賂〕おくりものゝおくれたること。○〔左〕「且レ謝—・—」。
〔重賂〕てあつくおくる、又、てあつきおくりもの。○〔左〕「晉郤犫使下與吾—二—秦一、以求上レ入」。
〔厚賂〕前に同じ。○〔左〕「楚子—・—レ之」。
〔責賂〕おくりものをいたすべきをせむ。○〔左〕「宋多—二—于鄭一」。
〔納賂〕まひなひをいる。○〔國〕「使レ—・—焉」。
〔寶賂〕貴重なるおくりもの。○〔漢〕「厚遺二武安侯—・—一」。
〔財賂〕たからのおくりもの。○〔荀〕「—・—將二甚厚一」。

【⿰貝句】ケイ、キヤウ。許營切 庚
たから、（貨）。

【⿰貝危】⿰貝爲に同じ。

【⿰貝危】グワ、ゲ。五寡切 馬
たから、（財）。

【賃】ヂン、ニン。女禁切 沁
㊀財を出だして他を假り役す、かる、やとふ。○〔通典〕「借二—公田一者、畝一斗」。
㊁財を受けて他の役に供す、かす、やとはる。○〔揚雄〕「徒行負—」。
㊂やとひの報酬、やとはれの給料。○〔韓愈〕「芻米僕—之資是急」。
㊃やとはれたる者、やとひ、やとはれ。○〔史〕「爲二人僕—一」。

〔傭資〕やとひびとゝなること。○〔史〕「時々間行ーー以給ニ衣食ニ」。

【賄】クワイ、ケ。呼罪切 賄 呼内切 隊
❶財貨の總名、たから。○〔詩〕「以ニ我ーニ遷」。
❷たからを贈與す、おくろ、まひなふ。○〔儀〕「ー以ニ束紡ニ」。

【賅】カイ。古哀切 灰
❶たす、たろ(贍)。❷常ならず、くし。

【資】シ。卽夷切 支
❶財貨、たから。○〔易〕「旅卽レ次懷ニ其ーニ」。
❷用度、齎裝、いりか、もちもの ○〔儀〕「問ニ幾月之ーニ」。
❸とろ(取)、もちふ(用)、よろ(託)。○〔易〕「萬物ー始」。
❹はかろ(謀)。○〔禮〕「先ーニ其言ニ拜、自獻ニ其身ニ、以成ニ其信ニ」。
❺たす(給)たすく(助) ○〔後漢〕「捃拾自ー」。
❻もたらす(齎)。○〔儀〕「ーニ黍于羊俎兩端ニ」。
❼材源、もと。○〔管〕「本ー少而末用多」。
❽藉助、たすけ。○〔老〕「不善人者善人之ー」。
❾託所、よりどころ。○〔淮〕「七尺之橈制ニ船之左右ニ者以レ水爲レー」。
❿材質、たち。○〔漢〕「以ニ負薪之ーニ、拔ニ于陪隷之中ニ」。
⓫地位、くらゐ。○〔唐〕「不レ得レ任ニ淸ーニ」。
〔脯資〕乾肉のもたらしもの。○〔左〕「唯是ーー餼牽竭矣」。
〔乏資〕たからのゆたかならざること。○〔漢〕「齊人甲生游ーレー」。
〔借資〕他をかりきたりてたすけとす。○〔韓〕「論ニ其所ニ受、則以爲レーレー」。
〔天資〕天性といふに同じ、生まれつきの性質などに用ふる語。○〔高適〕「戫儺乃ーー」。
〔馬資〕うまの給用。○〔陸贄〕「北償ニーーニ」。
〔故資〕もとよりの資財。○〔漢〕「因ニ秦之ーーニ」。
〔糧資〕食糧資財のこと。○〔後漢〕「營ニ求ーーニ」。
〔傾資〕資財をいだしつくす。○〔後漢〕「傾ーレー賑贍」。
〔多資〕たからゆたかなり。○〔後漢〕「人庶ーレー」。
〔軍資〕軍事の用度。○〔晉〕「外供ニーーニ」。
〔英資〕すぐれたる生まれつき。○〔班固〕「厥土塗泥而ーー挺特」。
〔門資〕家柄。○〔王沈〕「豈計ニーー之高卑、勢位之輕重ニ乎」。

【賘】チ、ヂ。丈里切 紙
財を畜ふ、たくはふ。

【賈】コ、ク。公戸切 麌
❶かふ。
(い)價を出だして物を受く。○〔韓〕「長袖善舞、多錢善ー」。
(ろ)求め受く。○〔國〕「謀ニ於衆ニ不ニ以ーレ好」。
❷うろ。
(い)價を受けて物を遣る。○〔論〕「求ニ善價ーレ諸」。
(ろ)欺く。○〔周書〕「極賞則ーニ其上ニ」。
❸財貨をうりかひするにいふ字、あきなふ、あきなひ。○〔史〕「貪ーー三レ之、廉ーー五レ之」。
❹あきなひを業となす者、あきうど。○〔史〕「富商大ーー」。
❺あきなふ物、あろもの。○〔詩〕「ー以不レ售」。
〔估賈〕あきうど。○〔周〕「六日ニーーニ、阜ニ通貨賄ニ」。
〔市賈〕前に同じ。○〔唐〕「招レ財納レ賄、若ニーー然」。
〔行賈〕各地をめぐりてあきなふ。○〔史〕「賈賃ーー徧郡國ニ」。
〔多賈〕たから多きあきうど。○〔漢〕「有レ學無レオ、猶ニーー操レ金不レ能ニ殖貨ニ」。
〔豪賈〕大商人。○〔宋〕「而ーー富家多不レ便」。

【[illegible]】リン。良紖切 軫
食を貪る、むさぼる。

【[illegible]】アイ、エ。烏邁切 卦
たくはふ(貯)。

【[illegible]】ケフ、コフ。虛業切 葉
たから(財)。

【賉】卹に同じ。

【賊】賊に同じ。

【賊】ソク、ゾク。昨則切 職
❶ぬすむ(盜)、おびやかす(劫)。○〔周〕「潛服ーレ器」。
❷そこなふ(殘)。○〔論〕「ーニ夫人之子ニ」。
❸しへたぐ(虐)。○〔周〕「ーレ賢害レ民則伐レ之」。
❹ころす(殺)。○〔呂氏春秋〕「沮嚳見レ之、不レ忍レー」。
❺ぬすみする者、ぬすびと。○〔晉〕「天下寧有ニ白頭ーニ乎」。
❻害惡をなすもの。○〔管〕「田中有レ木者、謂ニ之穀ーーニ」。
❼亂逆をなす者、不忠を企つる者。○〔唐〕「死爲レ鬼、以厲レー」。
❽苗の節を食らひ害する一種の蟲。○〔詩〕「去ニ其螟螣ニ、及ニ其蟊ーーニ」。
〔寇賊〕せめおびやかして人を殺しなどするもの。○〔史〕「六親相保、終無ニーーニ」。
〔殘賊〕人をそこなひころすこと、又、其の者。○〔詩〕「廢爲ニーーニ」。
〔蟊賊〕苗の根を食らふ蟲と苗の節食らふ蟲と、又、奸惡にして人を傷害する者にもいふ。○〔李白〕「ーー陷ニ忠讜ニ」。
〔國賊〕國家を傷害するもの。○〔後漢〕「元豈以ニ一子之命ニ而縱ニーーニ乎」。
〔民賊〕民をいためやぶるもの。○〔孟〕「今之所レ謂良臣、古之所レ謂ーー也」。
〔寬賊〕わるものをゆるやかにあしらふ。○〔荀〕「殺レ人者不レ死、是惠レ暴而ーレー也」。
〔烏賊〕いか。○〔海物名記〕「魚有ニーーニ」。
〔鈍賊〕にぶきぬすびと。○〔詩苑類格〕「偸レ語最ーーー」。
〔諜賊〕敵國よりしのび入りて軍の虛實などをうかがひさぐる者。
〔邦賊〕逆亂をなす者。○〔周〕「巡ニ邦國ニ搏ニーーニ」。
〔盜賊〕ぬすびと。○〔周〕「二曰ニーーニ」。○〔周〕「以除ニーーニ」。
〔討賊〕わるものを誅伐す。○〔左〕「亡不レ越レ竟、反不レーレー」。
〔擊賊〕前に同じ。○〔北齊〕「並堪レーレー」。
〔征賊〕前に同じ。○〔張翥〕「一朝ーレー輒破碎」。
〔戕賊〕ころしそこなふ。○〔韓琦〕「君子戒ニーーニ」。
〔禍賊〕そこなひやぶる。○〔漢〕「慓悍ーー」。
〔寡賊〕少數の盜賊。○〔漢〕「以ニ衆吏ニ捕ニーーニ」。
〔深賊〕おくそこに殘毒をふくむ。○〔漢〕「內ーー持ニ詭譎ニ」。
〔平賊〕賊徒をうちたひらぐ。○〔韓愈〕「敢請ニ相公ニーレー後」。
〔猾賊〕奸惡にして人をやぶりそこなふ者。○〔後漢〕「故ーー縱橫」。
〔老賊〕老獪なる賊徒。○〔吳〕「孤與ニーーニ、勢不ニ兩立ニ」。
〔黨賊〕わる者にくみす。○〔蜀〕註「ーレー求レ生」。
〔除賊〕わるものをのぞきさる。○〔王褒〕「保レ民者ーニ其ーニ」。
〔妖賊〕あやしきわるもの。○〔南〕「宋武旣累破ニーーニ」。
〔山賊〕やまごもりの盜賊。○〔南〕「臨海太守王琇驚駭、謂レ爲ニーーニ」。
〔抗賊〕賊徒をふせぐこと。○〔北〕「能ーレー者、唯尊會而已」。
〔讒賊〕そしりそこなふ。○〔劉向〕「來ニーー之口ニ」。
〔助賊〕わる者をたすく。○〔唐〕「是賜以ーレー也」。
〔汙賊〕行の正しからずしてぬすみなどするもの。○〔唐〕「詔書繋ニ羣臣之ーー者ニ」。
〔附賊〕こゝろまがりてわるし。○〔荀〕「ーー而不弟」。

〔毒賊〕いためそこなふ。○〔荀〕「愚則——而亂」。
〔鬭賊〕前に同じ。○〔晏子〕「執二其兵刀毒藥水火一、以交相——」。
〔劫賊〕かすめぬすむ者。○〔法苑珠林〕「猶如二——一」。
〔竊賊〕ぬすびと。○〔元稹〕「我非二——一、誰夜行」。
〔縛賊〕わる者をしばる。○〔李商隱〕「入レ秦——、獻二太廟一」。

【賑】シン、ジン。時忍切 [軫] しちもつ、（質）。

【賚】ライ。力改切 [賄] 積み聚む、たくはふ。

【賌】カイ。歌開切 [灰] かなめ（要）。○〔淮〕「刑德奇——之數」。

【[illegible]】ケウ。虛嬌切 [蕭] わづらふ、わづらはし（煩）。

七畫

【[illegible]】賄に同じ。

【[illegible]】カイ。古代切 [隊] カイ、ゲ。何邁切 [卦] 深くして堅きこと。

【[illegible]】サン、ザン。財干切 [寒] 物を害ひ財を貪ること。

【賏】エイ、ヤウ。於敬切 [敬] アウ、イヤウ。於莖切 [庚] 貝を連ねたる頸飾、くびかざり。

【[illegible]】イユン。須閏切 [震] ます（益）。

【賑】シン。章忍切 [軫] 財貨の豐かなるにいふ字、さむ、にぎはふ。○〔張衡〕「鄕邑殷——」。
〔隱賑〕富饒なること。○〔蜀都賦〕「居邑——」。

【賑】シン。章刃切 [震] 贍給す、たすく、たまふ、めぐむ、にぎはす。○〔史〕「虛二郡國倉廥一、以——二貧民一」。
〔施賑〕ものをほどこしすくふ。○〔後漢〕「責二其能——一也」。
〔贍賑〕前に同じ。○〔北〕「以相——」。
〔矜賑〕あはれみすくふ。○〔庾信〕「曲垂二——一」。

【賃】リン。良刃切 [震] ㊀むさぼる、（貪）。㊁かたし、（難）。

【賝】タツ、テチ。陟鎋切 [黠] たから、（貨）。

【賒】シヤ、セ。式車切 [麻] ㊀貰りて買ふ、おぎのる、又、貰して賣る、かす。○〔周〕「同レ貨而斂レ——」。㊁とほし、（遠）、又、おそし、（遲）。○〔王勃〕「城闕雖レ近、風雲尚——」。㊂奢に同じ、おごる、おごり。○〔後漢〕「楚々衣服、戒レ窮レ——」。
〔道賒〕みち遠し。○〔沈約〕「無レ謂二——一」。
〔年賒〕としつきのおもむろなること。○〔白居易〕「憂人厭二——一」。
〔貸賒〕おぎのる。○〔黃庭堅〕「忍レ窮禁二——一」。

【賗】ホ、ブ。蒲故切 [遇] 財を以て相酬ゆ、むくゆ。

【賓】ヒン。必鄰切 [眞] ㊀敬ひ待つべき客、まらうど。○〔儀〕「主人戒レ——」。㊁したがふ、（服）。○〔新序〕「先王所二以拱揖指揮而四海——一者」。㊂みちびく、（導）。○〔書〕「寅——出日」。
〔嘉賓〕よきまらうど。○〔詩〕「我有二旨酒一、以燕二樂——之心一」。
〔來賓〕きたること、又、きたり服從すること。○〔禮〕「鴻雁——」。
〔上賓〕上客といふに同じ。○〔漢〕「乘久爲二大國——一」。
〔雜賓〕いろいろの種類のまらうど。○〔晉〕「門無二——一」。
〔惡賓〕わるきまらうど。○〔西京雜記〕「寧逢二——一、不レ逢二故人一」。
〔序賓〕まらうどを次第す。○〔詩〕「——以レ賢」。
〔速賓〕まらうどをまねく。○〔禮〕「主人親——」。
〔招賓〕前に同じ。○〔林景熙〕「主人舉レ手——」。
〔迎賓〕まらうどのきたるをむかふ。○〔儀〕「冠之日、主人紒而——」。
〔訝賓〕君命をもて賓客を迎ふること。○〔儀〕「——二於館一」。「不レ𡨋焉」。
〔衆賓〕おほくのまらうど。○〔儀〕「——之席、皆」
〔霑賓〕前に同じ。○〔晉〕「不レ假二盧於——一」。
〔英賓〕才器のすぐれたる客。○〔李嶠〕「戎幕引二——一」。
〔凡賓〕凡庸の客。○〔李白〕「四海無二——一」。
〔呼賓〕まらうどをよびまねく。○〔白居易〕「上レ馬復レ——」。「——」。
〔俗賓〕俗客のこと。○〔尹延高〕「竟夕相歡無二——一」。

【賓】ヒン。必刃切 [震] しりぞく、すつ、（擯）。○〔書〕「予惟四方、罔レ假レ——」。

【賔】俗の賓の字。

【賕】キウ、グ。巨鳩切 [尤] 非理の請求を充たさんために貨財を贈與すること、まひなひ。○〔史〕「受レ——枉レ法」。

八畫

【[illegible]】紜に同じ。

【賙】シウ、シュ。職流切 [尤] 贍給す、たすく、たまふ、めぐむ、にぎはす。○〔周〕「使二之相——一」。

【賚】ライ。洛代切 [隊] 賜予す、たまふ、あたふ、たまふ、又、其の物、たまもの。○〔書〕「予其大——レ汝」。
〔錫賚〕たまふ、又、たまもの。○〔舊唐〕「——甚厚」。
〔賜賚〕前に同じ。○〔儲光羲〕「——難二具紀一」。
〔賞賚〕てがらなどをほめてものを賜ふ。○〔後漢〕「數蒙二——一」。
〔褒賚〕前に同じ。○〔北〕「以レ時——」。
〔惠賚〕めぐみたまふ。○〔宋〕「家戸蒙二——一」。
〔恩賚〕前に同じ。○〔宋〕「優加二——一」。
〔普賚〕あまねくたまふ。○〔梁〕「——二內外一」。
〔頒賚〕たまもの。○〔宋〕「歲時優加二——一」。
〔分賚〕わかちたまふ。○〔南〕「——二將士一」。
〔眷賚〕あつくあしらひて賞賜す。○〔北〕「——日隆」。
〔振賚〕にぎはしたまふ。○〔北〕「并加二——一」。
〔勞賚〕ねぎらふ。○〔北〕「——綏慰」。
〔犒賚〕戰士をねぎらひてものをたまふこと。○〔宋〕「利二——一」。
〔寵賚〕いつくしみてものを賜ふ。○〔宋〕「——甚厚」。
〔賻賚〕しにたる者のもとに贈るたまもの。○〔宋〕「——甚厚」。
〔祥賚〕めでたきたまもの。○〔沈約〕「頒二此——一」。

【[illegible]】賚に同じ。

【[illegible]】リヤウ、ラウ。呂張切 [陽] みつぎ、（賦）。

【賛】贊の省字。

【[illegible]】古文の商の字。

【賜】シ。斯義切 [寘]

㊀尊上より卑下に予ふ、あたふ、たまふ。○〔禮〕「大夫親—レ士」。○〔公羊〕
㊁惠施す、ほどこす、めぐむ。
「非レ相ニ爲—一」。
㊂たまもの、おくりもの。○〔國〕「報レ—以レ力」。
〔天賜〕天よりのたまもの。○〔左〕「子犯曰、——也」。「—」。
〔拜賜〕たまものをうけいたゞく。○〔禮〕「乘以—レ」
〔受賜〕前に同じ。○〔論〕「民到ニ于今一—ニ其—一」。
〔賞賜〕たまもの、又、てがらなどに對しはめて物を與ふること。○〔國〕「管子曰、勸レ之以ニ——一」。
〔褒賜〕前に同じ。○〔漢〕「此鼎殆周之所ニ以——大臣一」。
〔分賜〕ものをわかち與ふ。○〔蜀〕「—ニ—將士一」。
〔特賜〕特別にたまふ。○〔詩、疏〕「—レ汝以ニ大圭一」。
〔厚賜〕てあつきたまもの、又、あつく與ふ。○〔史〕「乃—ニ—田宅金錢一」。「士吏」。
〔勞賜〕ねぎらひて物をたまふ。○〔後漢〕「—ニ—
〔贈賜〕ものをおくり與ふ。○〔吳〕「饗宴——」。
〔遺賜〕前に同じ。○〔淨〕「—ニ—外家一」。
〔惠賜〕めぐみたまふ。○〔陳子昂〕「—ニ—禮物一」。
〔偏賜〕一同にたまふ。○〔左〕「—ニ大夫一」。
〔報賜〕たまものに對しむくゆ。○〔國〕「—レ—以レ力」。
〔散賜〕ちらしあたふ。○〔漢〕「—ニ—九族一」。
〔賑賜〕すくひたまふ。○〔魏〕「詔—ニ—河南七州戍兵一」。
〔寵賜〕いつくしみて物をたまふ。○〔魏、註〕「前後——、諸公莫レ及」。
〔嘉賜〕よきたまもの。○〔魏文帝〕「受ニ茲——一」。
〔寵賜〕たまもの。○〔唐〕「——有レ差」。「時來」。
〔恩賜〕めぐみあつきたまもの。○〔張籍〕「——併」。
〔給賜〕ものをたまふ。○〔宋〕「鴻臚寺卿掌ニ四夷朝貢宴勞——送迎之事一」。

【賝】チン。丑林切　〔侵〕
㊀たから、〔賨〕。㊁寶の色。

【[illegible]】チ。珍離切　〔支〕
財を以て質となすこと。

【[illegible]】キ、ギ。奇寄切　〔寘〕　巨綺切　〔紙〕
一種の貝の名。

【賞】シヤウ。書兩切　〔養〕
㊀功に報い賜ふ、たまふ。○〔周〕「誅ニ—之一」。
㊁貽與す、おくる、あたふ。○〔柳宗元〕「于ニ其往一也、—以ニ酒肉一」。
㊂すゝむ、〔勸〕。○〔戰〕「—ニ韓王一、以近ニ河外一」。
㊃たふとぶ、〔尙〕。○〔荀〕「—レ賢使レ能」。
㊄もてあそぶ、〔玩〕、よみす、〔嘉〕。○〔陶潛〕「奇文共欣—」。
㊅たまもの、おくりもの、又、稱美の意を表したる贈品。○〔書〕「—延ニ于世一」。
〔懋賞〕たまものをおほくす。○〔書〕「功懋—レ—」。
〔厚賞〕前に同じ、又、てあつき褒賜。○〔書〕「功多有ニ——一」。
〔重賞〕前に同じ。○〔後漢〕「——甘餌」。
〔爵賞〕敍爵と賞賜と。○〔史〕「軍功——、皆決ニ于外一」。
〔上賞〕第一等の賞賜。○〔戰〕「有下能面ニ折寡人一者上、受ニ——一」。
〔懸賞〕褒賜のものをさだめおく。○〔鹽鐵論〕「—レ—以待レ功」。
〔受賞〕褒賜をうく。○〔禰衡〕「故獻レ金者——」。
〔幽賞〕ふかく賞玩す。○〔李白〕「——未レ已」。
〔濫賞〕みだりに賞賜す。○〔書、疏〕「有ニ德不ニ——一」。
〔妄賞〕前に同じ。○〔漢〕「——以隨ニ喜意一」。
〔行賞〕よみし賜ふことをなす。○〔周、疏〕「春夏—レ—」。
〔授賞〕褒賞をあたふ。○〔公羊、註〕「明君見レ勞—レ—」。
〔褒賞〕はめよみして賜與す。○〔漢〕「—ニ—大臣一」。
〔恩賞〕特別の賞賜。○〔後漢〕「寵又曰以與ニ耿況一俱有ニ重功一、而——並薄上」。
〔軍賞〕戰功ある者に與ふる褒賞。○〔漢〕「——不レ踰レ月」。
〔明賞〕みだりに賞賜せず功勞に對して賜與を行ふこと。○〔韓〕「先王—レ—以勸レ之」。
〔游賞〕山川などにあそびて風景をめでもてあそぶこと。○〔王炎〕「杜門不ニ復省ニ——一」。
〔擢賞〕群衆の中よりぬきんでて賞賜す。○〔陳〕「即加ニ——一」。
〔嘉賞〕よみしはむ。○〔陳〕「甚見ニ——一」。
〔鑒賞〕いたくはむ。○〔舊唐〕「唯—ニ—倫一」。
〔激賞〕前に同じ。○〔唐詩紀事〕「上悅—ニ—之一」。
〔嗟賞〕歎美す。○〔唐〕「爲塤調——」。
〔歎賞〕前に同じ。○〔唐〕「帝—ニ—之一」。
〔欣賞〕前に同じ。○〔唐〕「李德裕尤——」。
〔旌賞〕あらはしはむ。○〔宋〕「並加ニ——一」。
〔探賞〕勝景をさぐりもてあそぶ。○〔梅堯臣〕「在昔——猶可レ數」。

【[illegible]】ワン。烏管切　〔旱〕
小しく財あること。

【[illegible]】キン。丘倫切　〔眞〕
一種の貝、蜠に同じ。

【賠】ハイ、ベ。薄回切　〔灰〕
補償の義の俗字、つくのふ。

【賟】テン。他典切　〔銑〕
さむ、〔富〕。

【賡】カウ、キヤウ。古行切　〔庚〕
つぐ、〔續〕。○〔書〕「乃—載歌」。
〔酬賡〕つぎむくゆ。○〔高啓〕「自吟自——」。

【[illegible]】キヨ、コ。九魚切　〔魚〕
うる、〔賣〕、一說に、たくはふ、〔貯〕。

【賖】シヤ、セ。式車切　〔麻〕
交へず、交はらず。

【賢】ケン、ゲン。戶田切　〔先〕
㊀才智多し、德行善し、かしこし。○〔易〕「可レ久則—人之德」。
㊁かしこき人。○〔書〕「野無ニ遺—一」。
㊂特に、聖人に比して其の次に位すべき才德あるにいふ字、又、其の才德ある人。○〔荀〕「可レ謂ニ—人一」。
㊃よし、〔善〕。○〔禮〕「獻ニ其—者於宗子一」。
㊄すぐる、まさる、〔勝〕。○〔禮〕「某—ニ於某一、幾千純」。
〔尙賢〕かしこき者を貴ぶ。○〔易〕「又以—レ—也」。
〔尊賢〕前に同じ。○〔管〕「—レ—授レ德」。
〔貴賢〕前に同じ。○〔荀〕「—レ—者覇」。
〔推賢〕まさりたる者をおしすゝむ。○〔書〕「—レ—讓レ能」、
〔進賢〕まさりたる者をかみにすゝむ。○〔漢〕「—レ—蒙ニ上賞一」。「爲レ長」。
〔選賢〕かしこき者をえらぶ。○〔管〕「四年—レ—以レ德」。
〔擇賢〕前に同じ。○〔左〕「年均—レ—」。
〔上賢〕(い)かしこき者を尙ぶ。○〔禮〕「—レ—以崇レ德」。(ろ)極めてかしこくまさりたるもの。○〔漢〕「成王有ニ——之材一」。
〔讓賢〕まさりたる者にゆづる。○〔禮〕「—ニ於—一」。
〔先賢〕むかしのまさりたるもの。○〔禮〕「祀ニ——於西學一」。
〔前賢〕前に同じ。○〔揚雄〕「勁欲レ追ニ——一」。
〔往賢〕前に同じ。○〔梁〕「——所レ同」。
〔賢々〕まさりたる者を優遇す。○〔論〕「—レ—易レ色」。
〔嫉賢〕かしこき者をねたむ。○〔國〕「專レ事—レ—」。
〔祿賢〕まさりたるものに俸祿を給與す。○〔忠經〕「——官レ能」。
〔高賢〕德たかくかしこきもの。○〔李白〕「薄俗棄ニ——一」。
〔一賢〕ひとりのかしこきもの。○〔漢〕「百萬之衆不レ如ニ——一」。
〔名賢〕なだかくすぐれたるもの。○〔後漢〕「樹ニ——良佐一」。
〔大賢〕おほいにまさりたるもの。○〔晉〕「[illegible]—多出ニ於山澤一」。

〔聖賢〕聖人と賢人と。○〔易〕「大亨以養ニーー一」。
〔任賢〕まさりたる者に委任す。○〔書〕「ーー勿レ貳」。
〔委賢〕前に同じ。○〔晉〕「官下ーレー任レ能、升中敬舊・齒上」。
〔自賢〕おのれみづからかしこしと信ずること。○〔列〕「治レ國之難、在ニ于知レ賢、而不レ在ニーー一」。
〔親賢〕かしこき者をしたしむ。○〔禮〕「ーレー而下ニ無レ能一」。
〔好賢〕まさりたる者をよみす。○〔後漢〕「ーレー愛レ士」。
〔興賢〕賢德ある者を擧用す。○〔晉〕「本以レーレー也」。
〔矜賢〕かしこきをほこる。○〔史〕「好レ聲ーレー」。
〔至賢〕極めてかしこし、又、其の者。○〔後漢〕「子路ーー猶有ニ伯寮之愬一」。「職」。
〔忠賢〕忠義あつくまさりたる者。○〔漢〕「ーー布レ職」。
〔致賢〕かしこき者をきたす。○〔夏侯湛〕「崇ニ沖讓一以ーレー」。
〔勝賢〕まさりたる者をまねき用ふ。○〔漢〕「皆自治レ民ーレー」。「之上」。
〔衆賢〕おほくのまさりたる者。○〔漢〕「寄ニ于ーー之上一」。
〔羣賢〕前に同じ。○〔漢〕「堯舜擧ニーー一、而命ニ之朝一」。「士」。
〔敬賢〕まさりたる者をうやまふ。○〔漢〕「ーレー下レ士」。
〔亢賢〕まことにまさりたる者。○〔漢〕「進ニーー一」。
〔顧賢〕かしこき者を養ふ。○〔漢〕「祿賜ーレー」。
〔英賢〕すぐれてまさりたる者。○〔後漢〕「遂交ニ結ーー一」。
〔俊賢〕前に同じ。○〔晉〕「ーー抗レ足」。「ーレー」。
〔旌賢〕まさりたる者をあらはす。○〔後漢〕「德以ーレー」。
〔進賢〕前に同じ。○〔陳〕「海內ーー」。「ーレー」。
〔用賢〕かしこき者を官に任ず。○〔後漢〕「莫レ重ーレー」。
〔登賢〕かしこき者をあげ用ふ。○〔後漢〕「急ニーー之擧一」。
〔擢賢〕まさりたる者をぬきんで用ふ。○〔後漢〕「ーーニ于衆愚之中一」。
〔寵賢〕かしこき者を愛す。○〔魏、註〕「褒レ忠ーレー」。

【賢】ケン、ゲン。下見切　霰

大穿、おほあな。○〔周〕「去レ一以爲レー」。

【賣】バイ、莫懈切　卦　バ、莫駕切　禡　メ。

うろ。
(い)値を受けて物を遣る、ひさぐ。○〔周〕「聽ニーー買一以ニ質劑一」。
(ろ)欺く。○〔史〕「自知レ見レー」。
(は)みかたの事情を敵に通ず。○〔戰〕「欲ニ秦趙之相ーー乎」。

〔略賣〕かすめうる。○〔史〕「家貧爲ニ人所ニーーー」。
〔鬻賣〕ひさぐ。○〔晉〕「更相ーー」。
〔沽賣〕前に同じ。○〔晉〕「ーニー水側一」。
〔衒賣〕うる。○〔後漢〕「ーニー什物一」。
〔估賣〕前に同じ。○〔楊維楨〕「官鑄黃金官ーー」。
〔販賣〕前に同じ。○〔南〕「列レ肆ーー」。

【賫】

賷に同じ。

【賨】ソウ、ズ。藏宗切　冬

南蠻の貢賦、みつぎ。○〔後漢〕「歲令ニ大人輸ニ布一疋小口二丈一、謂ニ之ーー布一」。

【賤】セン、ゼン。才線切　霰

㊀いやし。
(い)等低し、ひくし。○〔論〕「吾少也ー」。
(ろ)價少し、やすし。○〔漢〕「糴甚貴傷レ民、甚ー傷レ農」。
㊁いやしとなす、あなどる、いやしむ。○〔書〕「不下貴ニ異物一ー中用物上」。
㊂いやしき處、いやしきもの。○〔易〕「以レ貴下レー」。

〔貴賤〕たふときといやしきと。○〔易〕「列ニーー一者、存ニ乎位一」。「ネレーレー」。
〔傲賤〕いやしき者に對しおごる。○〔墨子〕「貴者ーー」。
〔貧賤〕たから乏しく身分いやしきこと。○〔禮〕「素ニーー一行ニ乎ーー一」。「ー」。
〔困賤〕困窮して貧賤なること。○〔後漢〕「君子ーー」。
〔窮賤〕前に同じ。○〔後漢〕「不レ遺ニーー一」。
〔卑賤〕位ひきく身分かろきこと。○〔韓詩外傳〕「ーー貧窮、非ニ士之恥一也」。
〔幽賤〕世にあらはれざるいやしき者。○〔後漢〕「朱買臣出ニ於ーー一」。
〔陋賤〕いやし。○〔晉〕「强以ニーー一、不レ能ニ榮レ親」。
〔豐賤〕物のゆたかにして價のやすきこと。○〔南〕「今米甚ーー、而人情更安」。
〔羇賤〕他鄕に在りていやしきこと。○〔王逢〕「少壯忘ニーー一」。

【賦】フ、ホ。方遇切　遇

㊀官府より財物を徵收すること、とりたて、みつぎ、又、其の徵收する財物、みつぎもの、とりたてもの。○〔書〕「厥ー惟上上錯」。
㊁官府より人民を使役すること、ぶやく、又、其の使役する人民、人夫、兵士。○〔國〕「悉帥ニ弊ーー一」。
㊂ぶやくに出でざる代はりにぶやくの雇錢を支拂ふこと、又、其の支拂ふ雇錢。○〔後漢〕「亦復ニ是歲更ーー一」。
㊃授予す、さづく、あたふ。○〔國〕「ーレ職任レ功」。
㊄取受す、とる、うく。○〔左〕「ー納以レ言」。
㊅しく、（布）くばる、（頒）。○〔詩〕「明命使レー」。
㊆詩歌を詠ず。○〔左〕「公入ー」。
㊇はかる、（量）。○〔爾〕「ー量也」。
㊈古代の詩の六義の一、心に感じたるを其のまゝ陳述すること。○〔詩、序〕「詩有ニ六義一、二曰、ー」。
㊉古詩の六義の中より變化して漢以後に創始せる一種の詞體。○〔班固〕「ー者、古詩之流」。
㊉㊀貢士。○〔漢〕「迺以ニ臣錯一充レー」。

〔丘賦〕一丘卽ち十六井中の民よりいたすみつぎ。○〔左〕「鄭子產作ニーー一」。
〔治賦〕賦稅を整理す。○〔論〕「可レ使レ治ニ其ー一也」。
〔奏賦〕詩賦をたてまつる。○〔漢〕「相如ーレー」。
〔獻賦〕前に同じ。○〔宋〕「勝仲獨ーレー」。
〔征賦〕政府にて取りたつるみつぎ。○〔莊〕「ーー不レ爲」。
〔稅賦〕みつぎ。○〔周、註〕「任レ地謂下任ニ土地一以起中ーー上也」。
〔租賦〕前に同じ。○〔史〕「令ニ吏卒得レ收ニーー一」。
〔享賦〕おもきみつぎ。○〔高啓〕「ーー山澤窮」。
〔逋賦〕いまだいたさゞるみつぎ。○〔宋〕「蠲ニ元豐六年以前ーー一」。
〔薄賦〕かろきみつぎ。○〔北〕「輕徭ーー」。
〔常賦〕きまりたるみつぎ。○〔唐〕「ーー之外、進奉不レ息」。
〔貴賦〕きびしくみつぎをせめとる。○〔唐〕「ーレー尤急」。「刑」。
〔蠲賦〕みつぎをとりたてざること。○〔元〕「ーレー詳レ刑」。

【賥】スヰ。雖遂切　寘

たから、（貨）。○〔韓〕「破レ家殘レー」。

【䝼】セイ、ジヤウ。疾正切　敬

たまふ、（賜）。

【䝼】セイ、ジヤウ。疾盈切　庚

賜ものを受く、たまはる。

【賧】

䝨に同じ。

【䝋】

賨に同じ。

【質】シツ、シチ。之日切　質

㊀もと。
(い)實體、まことのみ。○〔易〕「原レ始要レ終以爲レー也」。
(ろ)主本、もと。○〔禮〕「中正無レ邪、禮之ー也」。
(は)巧飾を加へざる原狀、きぢ、したぢ。○〔禮〕「大圭不レ磨、美ニ其ー一也」。
(に)成立せる根原、なりたち、もちまへ。○〔晉〕「蘭桂異レー」。
(ほ)稟性、天受、うまれつき。○〔禮〕「禮釋レ回增ニ美ーー一」。

(へ)基礎、いしずゑ。〇〔戰〕「以二鍊-銅一爲二柱ーー一」。
㊁まこと。
(い)質事。〇〔大戴禮〕「以二其ー一告」。
(ろ)誠信、まごころ。〇〔左〕「要-盟無レー」。
㊂淳樸、すなほ。〇〔陸雲〕「遺レ華反レー」。
㊃盟約、ちかひ。〇〔左〕「先-王與二吳-王一有レー」。
㊄驗券、てがた、あかし。〇〔周〕「大-市以レー、小-市以レ劑」。
㊅標的、めあて、まと。〇〔荀〕「ー-的張而弓-矢至」。
㊆斫櫍、きりだい。〇〔史〕「身伏二鈇-ー一」。
㊇弓跗、にぎり。〇〔公羊〕「弓繡レー」。
㊈さだむ(定)。〇〔家語〕「不二擧レ人以一レ事」。
㊉たひらぐ(平)、なす(成)。〇〔詩〕「虞芮ー二厥成一」。
⑪たゞす。
(い)當否を檢す、しらぶ。〇〔禮〕「君-子於二其所一レ尊弗二敢ー一」。
(ろ)是非を問ふ、とふ。〇〔太元〕「爰ー二其所一レ疑」。
⑫こたふ(對)。⊙〔禮〕「ー二君之前一」。
⑬たゞし(正)、なほし(直)、よし(善)。〇〔儀〕「ー明行レ事」。
〔白質〕しろきまとのはし、又、しろききたち。〇〔儀〕「天-子熊-侯ーー」。
〔赤質〕あかきいろのまとのはし、又、あかききたち。〇〔春秋繁露〕「故樂-器ーー」。
〔尙質〕質朴をたふとぶ。〇〔漢〕「殷因二於夏一ーレー」。
〔羊質〕弱き性質のと。〇〔後漢〕「ーー虎-皮」。
〔天質〕うまれつき。〇〔後漢〕「因二ーー之自-然一」。
〔抱質〕質朴なるこゝろをもつ。〇〔魏〕「偉-長懷レ文ーレー」。
〔心質〕こゝろだて。〇〔人物志〕「故ーー亮-直」。〇〔中論〕
〔浮質〕浮朴にして いつはりあらざると。「天-下ーー」。

〔纖質〕かぼそきたち。〇〔劉琨〕「操二彼ーー一、承二此衝-聽一」。
〔瑤質〕たまの如きうつくしきかたち。〇〔江淹〕「既翠-眉而ーー」。
〔美質〕よきうまれつき。〇〔漢〕「中有二顏-子之ーー一」。
〔淑質〕前に同じ。〇〔後漢〕「ーー貞亮」。
〔文質〕文華と朴質と。〇〔論〕「ーー彬-々然後君-子」。
〔直質〕正しきこゝろ。〇〔國〕「臣之子午有二ーー一而無二流-心一」。
〔柱質〕柱礎。〇〔戰〕「公-宮之室、皆以二鍊-銅一爲二ーー一」。
〔誠質〕まこと。〇〔孫楚〕「文-采繁而ーー薄」。
〔聖質〕大德のうまれつき、又、帝王の性質にも用ふる語。〇〔後漢〕「宜下簡二賢-輔一就中成ーー上」。
〔謹質〕つゝしみて正し。〇〔後漢〕「斤-々ーー」。
〔沉質〕おちつきてかろ〴〵しからざるうまれたち。〇〔後漢〕「密爲レ人ーー」。
〔資質〕うまれつき、又、もとよりのたち。〇〔董仲舒〕「ーー潤美」。
〔頑質〕かたくなるうまれたち。〇〔後漢〕「特以二ーー一見レ納二君-子一」。
〔賤質〕いやしきうまれたち。〇〔晉〕「摧二沙-礫之ーー一」。
〔異質〕めづらしきうまれたち。〇〔魏誌〕「高-才ーー」。
〔奇質〕前に同じ。〇〔宋〕「珙生有二ーー一」。
〔叡質〕帝王の德をいふ。〇〔晉〕「ーー彌光」。
〔才質〕才智氣質。〇〔晉〕「充女ーー令-淑」。
〔陋質〕いやしきうまれたち。〇〔曹植〕「以二才-薄之ーー一、奉二君-子之清-塵一」。
〔體質〕からだのたち。〇〔晉〕「保ーー豐-偉」。
〔容質〕かほかたち。〇〔晉〕「王-廣女ーー甚美」。
〔形質〕かたち。〇〔晉〕「自以二ーー一異レ衆」。
〔器質〕才器あるうまれつき。〇〔南〕「元-景寡二言-語一有二ーー一」。
〔剛質〕つよき性質。〇〔北〕「剛性ーー有二勇-力一」。
〔樸質〕かざりなく質朴なると。〇〔北〕「弟道-約ーー」。
〔訪質〕とひたゞす。〇〔北〕「多レ所二ーー一」。
〔咨質〕前に同じ。〇〔唐〕「學者有レ所二ーー一」。
〔氣質〕氣性。〇〔隋〕「重二乎ーー一」。
〔性質〕うまれつき。〇〔晉〕「ーー嚴-重」。

〔好質〕朴質なるをよろこぶ。〇〔韓〕「ーレー而惡レ飾」。
〔麗質〕うるはしきかたち。〇〔梁簡文帝〕「名-都多二ーー一」。
〔弱質〕つよからざるうまれたち。〇〔劉商〕「空悲ーー柔如レ水」。
〔靚質〕前に同じ。〇〔陳後主〕「新-妝ーー本傾レ城」。
〔廉質〕たゞしくして質朴なると。〇〔趙昌器〕「華二食-侈一爲二ーー一」。
〔瑞質〕めでたきかたち。〇〔梁德裕〕「彩-雲呈二ーー一」。
〔柔質〕やはらかによわ〴〵しげなるすがた。〇〔李中〕「ーー自多-情」。

【質】チ。陟利切 〔寘〕
約束の證として相手方に與ふるもの、しち、又、しちを與ふると、しちいれ。〇〔左〕「周鄭交ー」。

【質】シ。脂利切 〔寘〕
贄に同じ、にへ。〇〔孟〕「不二傳レー爲一レ臣」。
〔載質〕にへをのせゆく。〇〔孟〕「出レ疆必ーレー」。
〔用質〕にへをもちふ。〇〔左〕「又焉ーレー」。
〔抱質〕にへをもつと。〇〔戰〕「梁-王身ーレー執レ璧」。

【⿰貝厓】ガイ、ゲ。五介切 〔卦〕
人の名。

【⿱癶貝】ヒ。芳未切 〔未〕
賦斂、みつぎ。

九畫

【⿰貝寺】チ、ヂ。丈里切 〔寘〕
時に同じ。

【⿰貝耑】クヮン、グヮン。胡管切 タン。睹綏切 〔旱〕
小しく財あると。

【⿰貝胥】
⿰貝疋に同じ。

【賭】ト、ツ。當古切 〔麌〕
爭ふに或る物を勝者に歸するの約をなすにいふ字、かく、又、かけをなす遊戲、かけごと、かけもの。〇〔晉〕「ー二別-墅一勝レ之」。
〔決賭〕かけものゝとりやりを定む。〇〔晉〕「纔留與ーレー」。
〔交賭〕たがひにかけものす。〇〔南〕「齊高-帝使三思-莊與レ抗ーー一」。

【⿰貝舌】タフ、テフ。敕洽切 〔洽〕
博戲の一。

【⿰貝侯】コウ、グ。胡遘切 〔宥〕
㊀財を貪る貌にいふ字。
㊁支那の南海より出づる一種の貝。

【賮】ジン。徐刃切 〔震〕
會問するときに執れる財貨、意を將ふに用ある財貨、行を送くるに贈れる財貨、おくりもの、つかひもの、たから。〇〔顏延之〕「或蹈レ遠而納レー」。
〔蠻賮〕えびすのたから。〇〔玉海市舶錄〕「八ー之ー」。
〔良賮〕よきたから。〇〔梁元帝〕「獻二桂-條之ーー一」。
〔寶賮〕たから。〇〔江淹〕「邀二古-今之ーー一」。

【⿰貝孚】
⿰貝句に同じ。

【賰】シュン。式允切 〔軫〕
富有、とみ。

【賴】ライ。落蓋切 〔泰〕
㊀よる(憑)、たのむ(恃)。〇〔書〕「萬-生是ー」。
㊁う(得)。〇〔國〕「已ー二其地一」。「ー」、
㊂憑藉、たより。〇〔孟〕「富-歲子-弟多レ

㊃利益、まうけ。○「戰」「爲レ秦則不―」。
㊄仇讎、あだ。○〔揚雄〕「南-楚之外曰レ―、秦晉曰レ讎」。

〔無賴〕狡猾にしていつはり多きこと、又、其の者。○〔史〕「始大人常以二臣―・―不一レ能レ治二產-業一」。
〔恃賴〕恃りたのむ。○〔後漢〕「皆―二―之一」。
〔倚賴〕前に同じ。○〔唐〕「朕終始―・―、未レ可二以去一レ位」。
〔憑賴〕前に同じ。○〔南〕「甚見二―・―一」。
〔附賴〕前に同じ。○〔唐〕「爲二衆―・―一」。
〔嘉賴〕よみしたよる。○〔左〕「實―二―之一」。
〔忻賴〕よろこびてたのみとす。○〔魏〕「民以―・―」。
〔悦賴〕よろこびよみす。○〔唐〕「人皆―・―」。
〔屬賴〕またがひよる。○〔魏〕「則率土―・―」。
〔瞻賴〕前に同じ。○〔唐〕「百姓―・―」。
〔安賴〕心をやすんじてたのみとす。○〔唐〕「黎・黃―・―」。
〔委賴〕まかせたのむ。○〔宋〕「深所二―・―一」。

【[貝匽]】エン、オン。於幰切 阮　於建切 願
物相當たる、あたる。

【賱】ウン、チン。於粉切 吻　紆問切 問
富有、とみ。

【賲】ハウ、ボウ。博抱切 晧
㊀たもつ（有）。㊁こめぐら（粟-藏）。
㊂とりまぜて物を償ろ者。

【賳】サイ。子才切 灰
財貨、たから。

【[貝耎]】ゼン、ナン。而兗切 銑
小しく財有ること。

【[貝貞]】テイ、チヤウ。丑正切 敬
㊀賣りて不得なること、そん。
㊁うる（售）。

【[貝致]】チ。陟利切 寘
㊀にぎはふ、にぎはす（賑）。
㊁たからがひ（貝）。

【賵】ボウ、ブ。撫鳳切 送
死者に物を歸ろ、喪を助け物を贈ろ、おくろ、又、其の物、おくりもの。○〔春秋〕「惠-公仲-子之―」。
〔歸賵〕死者ある家に贈りものをつかはす。○〔公羊〕「至レ死乃來―レ―」。
〔賻賵〕前に同じ。○〔魏〕「咸―レ―、悉不レ受」。
〔贈賵〕死者ある家におくる貨財車馬などのおくりもの。○〔漢〕「―・―甚厚」。

【[方貝]】ヘウ。方廟切 嘯
布帛を散じて三軍に與ふ、ねぎらふ。

【[貝亭]】テイ、ヂヤウ。同丁切 青
[王貞][王吉]蟲の異名。

十畫

【[貝倉]】サウ。七浪切 漾
貨を積む、つむ、たくはふ。

【賷】齎に同じ、もたらす。○〔周〕「受二其將レ幣之―一」。

【[敝貝]】ヘイ、ベイ。毗祭切 霽
困惡、くるしみ。

【[貝圣]】カツ、ゲチ。胡瞎切 黠
囚はれて突き出づ、つきいづ。

【賸】ヨウ。以證切 徑
物の相増し加はるにいふ字、ます、一說に、物を副へ送るにいふ字、おくろ。

【賸】ショウ、ジョウ。實證切 徑
のぶ（長）、ます（益）、あまる（餘）。○〔唐〕「殘-膏―馥、沾二丐後-人一多矣」。
〔贅賸〕むだにつけくはふ。○〔元稹〕「於レ義咸爲二―・―一」。

【賹】アイ、エ。烏懈切 卦
人に物を寄す、おくろ。

【賺】タン、デン。直陷切 陷　レン、ロン。離鹽切 鹽
うろ（賣）、一說に、市物の實を失ふ、すかす。

【賻】フ、ブ。符遇切 遇
死者ある家族に貨財を贈くろ、財貨を贈りて喪を助く、おくろ、たすく、又、其の貨財、おくりもの。○〔儀〕「知レ死者贈、知レ生者―」。「有レ加」。
〔附賻〕喪をたすくるおくりもの。○〔北〕「故―・―」。
〔賵賻〕前に同じ。○〔唐〕「―・―加レ等」。
〔弔賻〕死をとむらひておくりものす。○〔歐陽修〕「相與―・―治二其喪一」。
〔賞賻〕死者のてがらをはめておくりものす。○〔宋〕「士死二攻-戰一、則―二―其家一」。

【[貝昏]】イ。與之切 支
㊀おくろ（遺）。㊁たまふ（貺）。

【購】コウ、ク。古候切 宥
㊀あがなふ。
（い）財を出だして物を求む、かふ。○〔史〕「將二西―於秦一」。
（ろ）賞を揭げて募る、つのる。○〔漢〕「乃多以レ金―二豨將一」。
㊁一種の草、しろよもぎ。○〔爾〕「―蒿蔞」。
〔博購〕ひろくあがなひもとむ。○〔唐〕「帝方―二王-羲之故-帖一」。

【賾】サク、シャク。士革切 陌
幽深にして見難し、おくふかし、又、おくふかき道理。○〔易〕「有三以見二天-下之―一」。
〔探賾〕幽玄の理をさぐりもとむ。○〔易〕「―レ―索レ隱」。
〔至賾〕極めて幽深なること。○〔易〕「言二天下之―一、而不レ可レ惡也」。
〔玄賾〕前に同じ。○〔晉〕「洪精・辯―・―」。
〔奧賾〕前に同じ。○〔許敬宗〕「參二三-才之―・―一」。
〔冥賾〕前に同じ。○〔世說、註〕「高-悟―・―」。
〔幽賾〕前に同じ。○〔盧諶〕「淸-義貫二―・―一」。
〔窮賾〕かすかなる理をいづこまでも探る。○〔潘尼〕「探レ幽―レ―」。「―・―」。
〔精賾〕こまかくかすかなること。○〔于頔〕「極レ理探二―・―一」。
〔幾賾〕幾微幽深なること。○〔王勃〕「思レ探二―・―一」。

【賽】サイ。先代切 隊
㊀神より福を受けたるに報じ祭るにいふ字、むくいまつる、おれいまつり。○〔史〕「禱―如二東-方一」。
㊁勝を誇りあふこと。○〔韓愈〕「―饌木-盤簇」。
〔報賽〕神恩に對し報祭す。○〔周、疏〕「―・―謂二之祠一」。
〔祠賽〕前に同じ。○〔周、疏〕「從レ禱乃―二―之一」。
〔答賽〕神にむくいまつる。○〔南〕「於二北-山廟一―・―」。
〔祈賽〕神にいのり福を請ふと福を得たるよりむくいまつること。○〔舊唐〕「先レ是嶽-廟爲二遠-近―・―一、有二錢數-百-萬一」。
〔告賽〕神につげまつる。○〔遼〕「春-秋―・―」。
〔秋賽〕あきの季節に行ふ報祭。○〔陸游〕「相喚-龍-祠作二―・―一」。

〔春賽〕はるの季節に行ふ報祭。○〔戴表元〕「聞說賽時ー・ー鼓」。

【殰】フン、ポン。符分切 文 大いなる頭。

【䝼】サ。先臥切 箇 ほれ、(骨)。

【䝾】ケフ、コフ。虛業切 業 たから、(財)。

【䞍】テイ、チヤウ。丑鄭切 敬 うろ、(賣)。

十一畫

【䝤】ラウ、レウ。力交切 肴 錢の廋語(かくしことば)、ぜに、かれ。

【䝯】イ。以睡切 寘 ㊀ます、(益)。㊁婏孳す、くみしひく。

【殯】ヒン。疋賓切 眞 みだれ飛ぶ。

【贂】シン、ソン。楚錦切 寢 かけ、(賭)。

【𧹓】ロウ、ル。盧候切 宥 賺ーーは、財を貪ること。

【䞁】ワン、エン。烏患切 諫 財貨を支ふ、さゝふ。

【頣】俗の頤の字。

【贄】シ。脂利切 寘 會見に執れる禮物、にへ。○〔左〕「男ゝ、大者玉-帛小者禽-鳥、以章レ物也」。

〔委贄〕にへをいたす。○〔國〕「ーレー爲レ臣」。
〔執贄〕にへをもたらす。○〔禮〕「ーレー以相見」。
〔交贄〕にへをとりかはす。○〔左〕「故周-鄭ーー」。
〔嘉贄〕よきにへ。○〔蔡邕〕「載納ニー・ーー」。
〔獻贄〕にへをたてまつる。○〔傳休奕〕「ーレー弄レ下」。
〔隹贄〕たまのにへ。○〔庾信〕「ー・ー盈レ庭」。

【𧹞】ゲツ、ゲチ。魚列切 屑 チフ。陟立切 緝 動かざる貌にいふ字。

【贅】セイ、セ。朱芮切 霽

㊀物を錢の質さなすこと、ましいれ、ましち。○〔漢〕「民待ニ賣レ爵ー子、以接ニ衣-食ー」。
㊁繫屬す、つく、つゞく。○〔詩〕「具ー卒荒」。
㊂體につきたる剩肉、こぶ。○〔集異記〕「鼻-端生レーー」。
㊃剩餘物、附屬物、あまりもの、つきもの、又、入家の女壻、いりむこ。○〔史〕「淳-于-髡者齊之ー壻」。
㊄あふ、(會)。○〔漢〕「毋ニー聚ー」。
㊅むだ。
(い)其の當を得ざること。○〔左〕「餘-食ー行ー」。
(ろ)言の煩冗なること、わづらはしきこと。○〔晉鑑〕「問レ一告レ二、謂ニ之ーー」。
㊆さだむ、(定)。㊇とる、(取)。㊈う、(得)。

〔出贅〕おのれの生まれたる家をいで他家のむことなること。○〔漢〕「貧子壯則ー・ー」。
〔附贅〕こぶ。○〔莊〕「彼以レ生爲ニー・ー縣疣ー」。
〔疣贅〕前に同じ。○〔杜甫〕「於レ時見ニー・ーー」。
〔瘤贅〕前に同じ。○〔唐〕「結爲ニー・ーー」。
〔句贅〕項椎の骨をいふ。○〔莊〕「ー・ー指レ天」。

【𧸯】ガウ、ゲウ。牛交切 肴 媚びざること。

【𧹙】ビツ、ミチ。美畢切 質 水の流るゝ貌にいふ字。

【𧸽】カイ、ケ。佳買切 卦 わづか、(纔-然)。

十二畫

【贆】ヘウ、甫遙切 蕭 陸地に居る貝の稱。

【𧹤】膹に同じ。

【䞅】キツ、ギチ。巨律切 質 かひ、(貝)。

【䞈】キ。居僞切 寘 ㊀たから、(資)。㊁かけ、(賭)。

【𧸬】貨に同じ。

【贇】イン。於倫切 眞 美好の貌にいふ字、よし、うつくし。

【䞄】ト、ツ。當孤切 虞 賭に勝つ、かつ。

【䞆】ゼン、ナン。而兗切 銑 小しく財あること。

【𧸸】幣に同じ。

【贈】ソウ、ゾウ。昨亙切 徑

㊀おくる。
(い)送與す、つかはす、やる。○〔詩〕「雜-佩以ーレ之」。
(ろ)財物を送與す、他の財物を增すの義。○〔詩〕「以ーニ申-伯ー」。
(は)言辭を送與す、他の行義を增すの義。○〔韓愈〕「故其ーレ行、不レ以レ頌而以レ規」。
(に)喪を助け死を送る、くやみにものをやる。○〔禮〕「主-人ー」。
(ほ)行くを送る、みおくる。○〔三輔黃圖〕「折レ柳ーレ別」。
(へ)送り去る、おひだす。○〔周〕「以ーニ惡-夢ー」。
(と)官位を追賜す。○〔後漢〕「薄-葬不レ受ニ爵ーーー」。
㊁おくること、おくるもの、おくりもの、せんべつ、みやげ、つかひもの。○〔穀梁、序〕「一-字褒-寵、踰ニ華-袞之ーー」。

〔持贈〕もちゆきておくり與ふ。○〔陶弘景〕「不レ堪レーニーー君ー」。
〔追贈〕すでにしにたる人に對し官位などをおくること。○〔後漢〕「帝下レ詔ー・ー」。
〔脫贈〕おくりもの。○〔南〕「百-城ー・ー、一無レ所レ受」。
〔貽贈〕しにたる人の家におくりものを與ふ。○〔五〕「官爲ー・ー」。
〔賝贈〕てあつきおくりもの。○〔陶潛〕「ー・ー竟莫レ酬」。
〔宸贈〕帝王よりのおくりもの。○〔許景先〕「ー・ー出車策」。
〔奇贈〕めづらしきおくりもの。○〔劉囚〕「金-掛臨行有ニー・ーー」。
〔遠贈〕とほくへおくる。○〔梅堯臣〕「ー・ー當時魚ー」。

【䞎】カン、ケン。火監切 陷 まひなひ、(賄)。

【贉】タン、ドン。徒感切 感 ㊀物を買ふに預め直錢を入れ置くこと、さきぜに、てつけ。

㊁書卷の首にある貼綾、はりぎぬ、〔玉池〕。○〔米芾書史〕「隋唐藏書皆金題錦—」。

【賰】チ。展几切 紙

財と物と相當たる、あたる

【贊】サン。則旰切 翰

㊀たすく（佐）。○〔書〕「益—于禹曰」。
㊁みちびく（導）。○〔國〕「內史—レ之」。
㊂すべて傍につきしたがひて事を成さしむるにいふ字。○〔書〕「—二—襄一哉」。
㊃ひかふ（扣）。○〔儀〕「總乘馬、二—人「—」。
㊄つぐ（告）。○〔史〕「徧—二賓客一」。
㊅とく（説）。○〔淮〕「—二傑俊一」。
㊆明かにす。○〔易〕「幽二—于神明一」。
㊇まみゆ（見）。○〔後漢〕「謁—不レ名」。
㊈すゝむ（進）。○〔漢〕「朔自—曰」。○〔袁宏〕
㊉人の美を稱述論評する辭。「復撰二序所レ懷爲二之—一」。

〔天贊〕上帝のたすけ。○〔吳〕「雖レ承二—一、實由二人力一也」。
〔翊贊〕輔佐す。○〔唐〕「帝以二—功一」。
〔翼贊〕前に同じ。○〔蜀〕「—二—王室一」。
〔泚贊〕前に同じ。○〔宋〕「—二—盛化一」。
〔參贊〕前に同じ。○〔南〕「欲下引二時賢一—中—大業上」。
〔扶贊〕前に同じ。○〔宋〕「—二—洪業一」。
〔攝贊〕たすく。○〔左〕「是—是—」。
〔輔贊〕前に同じ。○〔唐〕「—二—彌縫」。
〔敘贊〕ひろげたすく。○〔宋〕「—二—幽旨一」。
〔勸贊〕すゝめみちびく。○〔魏〕「—二—禪代之義一」。
〔光贊〕大業などを立派にたすくること。○〔晉〕「必能—二—大猷一」。「倫一」。
〔弘贊〕ひろくあきらかにす。○〔通典〕「—二—彝倫一」。

【賓】ヒン。必鄰切 眞

見えざる貌にいふ字。

【十三畫】

【贍】セン、ゼン。時豔切 豔

㊀財物を給して空乏を助く、たす、すくふ、にぎはす。○〔漢〕「收二—名士一」。
㊁たる。
（い）空乏を助け得。○〔孟〕「此惟救レ死而恐レ不レ—」。
（ろ）豐富なるにいふ字、ゆたか、とむ。○〔後漢〕「文—而事詳」。
㊂澹に同じ、やすし、やすんず。○〔史〕「澠レ洸—レ菑」。

〔優贍〕すぐれて多し。○〔後漢〕「人人有二—一之智一」。
〔豐贍〕ゆたかに多し。○〔後漢〕「倫悉簡二其—一者一、遣二還之一」。
〔饒贍〕前に同じ。○〔後漢〕「資産—一」。
〔賑贍〕にぎはす。○〔後漢〕「—二—孤寡一」。
〔貸贍〕前に同じ。○〔後漢〕「陛下誠宜下厲二被恩澤一、—中—元元上」。
〔賙贍〕前に同じ。○〔北〕「晉無二—之實一」。
〔郇贍〕前に同じ。○〔宋〕「申二—之恩一、用慰二泉壤一」。
〔美贍〕うるはしく多し。○〔晉〕「才藻—一」。
〔妍贍〕前に同じ。○〔晉〕「弘麗—一」。
〔辯贍〕辯舌の十分なること。○〔晉〕「及レ長—一、以二骨鯁一稱」。
〔雅贍〕正しく多し。○〔晉〕「文詞—一」。
〔富贍〕十分に足ること。○〔晉〕「皆精二覈是非一、而才章—一」。
〔流贍〕のびやかに多し。○〔南〕「才調—一」。
〔通贍〕前に同じ。○〔北〕「智謀—一」。
〔敏贍〕才智などのさとく多きに用ふる語。○〔隋〕「隋文帝聞二其—一」。
〔明贍〕あきらかにして多し。○〔周書〕「宇文慶和智略—一」。
〔清贍〕きよらかにして多し。○〔北〕「詞藻—一」。
〔該贍〕かね足る。○〔南〕「義理—一」。
〔雋贍〕才能學問などのすぐれて多きこと。○〔魏〕「才學—一」。
〔華贍〕はなやかにゆたかなること。○〔周書〕「文藻—一」。
〔拯贍〕救ひにぎはす。○〔北〕「開レ倉—一」。
〔雄贍〕雄健にしてゆたかなること。○〔庾肩吾〕「魏帝筆墨—一」。

【賺】タン、トン。佇陷切 陷

重れて價を支拂はしむ、眞實の價なき物を買はしむ、錯まり差はしむ、あやまる、すかす、だます。○〔梅堯臣〕「然諾豈誑—」。

【贚】レン、ロン。離鹽切 鹽

うる、（賣—賱）。

【贎】バン、マン。無販切 願

たから（貨）。

【贃】

贎に同じ。

【贌】セツ、セチ。相絕切 屑

草の名、ぼたん（鼠姑）。

【贏】エイ、ヤウ。以成切 庚

㊀ゆるむ（緩）。○〔詩〕「昭假無レ—」。
㊁みつ（滿）、あふる（溢）。○〔揚雄〕「方—則玄」。
㊂あます、あまる（餘）。○〔唐〕「量レ入計レ出分レ所レ—」。
㊃殘餘、あまり、のこり。○〔蘇軾〕「尚有二五升之—一」。
㊄利得、まうけ、とく。○〔左〕「賈而欲レ—而惡レ囂乎」。
㊅すぐ（過）。○〔周〕「矯レ幹欲下孰二於火一而無上レ—」。
㊆とく（解）。○〔禮〕「天地始肅、不レ可二以—一」。
㊇さかんなり（盛）。○〔淮〕「天地始肅不レ可二以—一」。「諸侯一」。
㊈うく（受）。○〔左〕「以二隸人之垣一—二諸侯一」。
㊉になふ（擔）。○〔漢〕「—二三日之糧一」。
⑪攻戰博簺に勝利を得たること、かち。○〔陸游〕「爭言鬪レ草—」。

〔餘贏〕買利などのあまり。○〔漢〕「畜二積—一」。
〔薄贏〕買利を取ることすくなきこと。○〔唐〕「—二其—一以濟二饑療一」。
〔輸贏〕まけかち。○〔元戲〕「似二博賭—一」。
〔豐贏〕ゆたかなる利益。○〔蔡襄〕「日二吾肆之—一」。

【贐】スヰ、ズヰ。除醉切 寘

おくりもの（賻）。

【十四畫】

【贐】ジン。除刃切 震

行く者に賄を贈ること、はなむけ、せんべつ。○〔孟〕「行者必以レ—」。

【贓】ラン、ロン。盧瞰切 勘

財を貪ること。

【贅】キヨ、コ。居御切 御

錢に質すること、しち、しちいれ。

【賸】ベン、メン。武延切 先

あたる（當）。

【贛】

灨に同じ。

【贓】サウ。則郎切 陽

私請の爲めの賄賂を受くること、盜品を藏匿すること、不正の手段にて物を得たること。○〔漢〕「其羞辱甚二於貪汙坐レ—」。

〔犯贓〕 官物を私する罪ををかす。○〔宋〕「奸吏—」—、百錢以上皆殺之」。〔盜贓〕 よこしまにして官物を私す。○〔唐〕盜贓馬都尉杜中立——」。

【贔】 ヒ。平秘切 寘

——屭は、

（い）壯んに力を用ふる貌にいふ語、みづから氣を作す貌にいふ語。○〔張衡〕「巨靈——屭」。

（ろ）蠵蠵の屬、おほがめ。○〔嶺南異物志〕「—屭作二係臂一」。

【贉】 テン、デン。直善切 銑

人の財物を謀り取る、はかる、かたる。

【贎】 コン。古困切 願

まろし（圓）。

十五畫

【𧸘】 トク、ドク。徒谷切 屋

卵未だ孵化せずして敗る、胎孕成り遂げず、やぶる。○〔淮〕「獸胎不レ—」。

【贖】 シヨク、ゾク。神蜀切 沃

あがなふ。

（い）物と物とを貿易す、かふ。○〔史〕「解二左驂一—レ之」。

（ろ）財を出だして罪を免かる。○〔書〕「金作二——刑一」。

〔助贖〕 救ひあがなふ。○〔唐〕「出二己錢——」。

〔極贖〕 前に同じ。○〔蘇武〕「幸賴二聖明遠垂一—」。

〔重贖〕 あつくあがなふ。○〔史〕「欲二——之一」。

〔厚贖〕 前に同じ。○〔魏〕「我家必——之」。

【贎】 レイ。力制切 霽

たから（貨）。

【贗】 ガン、ゲン。魚澗切 諫

眞の直なきと、にせ。○〔韓愈〕「居然見二眞——一」。

十六畫

【𧹈】 遺に同じ。

【贙】 ケン。黃練切 霰

㊀分別す、わかる、一說に、對爭す、あらそふ。○〔左思〕「蒹葭—蘿蒻森」。

㊁獷惡にして狗に似たる一種の獸。○〔爾〕「—有レ力」。

【𧹍】 シン。初覲切 震

㊀ぜに（錢）。㊁ほどこす（施）。

【𧹐】 リヨウ、リユ。良用切 宋

㊀まづし（貧）。㊁龍の貌にいふ字。

【𧹎】 トン。東本切 阮

異物を寄す、おくる。

十七畫

【贛】 コウ、ク。古送切 送 カウ、コウ。呼降切 絳

たまふ、たまもの（賜）。

【贑】 カン、コン。古禫切 感

江西省にある州の名、又、蠡湖に注ぐ水の名。○〔漢〕「豫章郡—」。

赤部

【赤】 セキ、シヤク。昌石切 陌

㊀朱色、あか。○〔禮〕「周人尚レ—」。

㊁朱色なり、あかし。○〔書〕「若レ保二——子一」。

㊂物盡きて空しきと。○〔漢〕「——地千里」。

㊃隱蔽せざると、本體を見すと。○〔後漢〕「推二——心於人腹中一」。

㊄捇に通じ用ふ、はらふ。○〔周〕「——犮氏」。

㊅幾甸、きない。○〔宋〕「及二畿——十九邑一」。

〔丹赤〕 あかし、又、まごころ。○〔陳〕「搯二——於印成」。

〔六赤〕 すごろくのさい。○〔李洞〕「———重新擲造次一」。

〔紅赤〕 あかし。○〔異苑〕「水色——」。

二畫

【赬】 テイ、チヤウ。癡貞切 庚

赤色、あか。

三畫

【赨】 コウ、グ。胡公切 東

皮肉腫れて赤し、あかし。

四畫

【赩】 シ。章移切 支

赩——は、面を飾るに用ふる一種の塗料、べに。

【赥】 ケキ、キヤク。許激切 錫

㊀笑ふ聲にいふ字。○〔元包經〕「言侃——」。「々笑——」。

㊁あか、あかし（赤）。

【赦】 シヤ、セ。始夜切 禡

罪過を舍いて責めず、ゆるす、なだむ。○〔書〕「罔レ有レ攸レ—」。

〔肆赦〕 罪囚などをはなちゆるす。○〔書〕「眚災——」。

〔免赦〕 前に同じ。○〔後漢〕「——二參刑一」。

〔原赦〕 前に同じ。○〔穀〕「不レ在二——之例一」。

〔寬赦〕 ゆるす。○〔史〕「上以二親故常——之一」。

〔大赦〕 天下の罪囚を悉く釋放するをいふ。○〔漢〕「——二天下一」。

〔裁赦〕 えらべゆるす。○〔漢〕「唯陛下——」。

〔誅赦〕 誅戮と赦免と。○〔晉〕「此爲政——之準式也」。「——」。

〔恩赦〕 なさけぶかき宥免。○〔韓愈〕「前日濁二——」。

〔擅赦〕 おのれのきまゝに囚人などをゆるす。○〔隋〕「酒酣、遂——二所部內獄囚一」。

【𧹞】 サク、シヤク。側革切 陌

馬を撃つ、うつ、たゝく。

五畫

【赧】 ダン、ナン。乃版切 潸

愧羞の情表れて面色赤きにいふ字、あからむ、はぢらふ。○〔孟〕「觀二其色一——然」。

〔愧赧〕 はぢて顏色のあかきと。○〔曹植〕「五情——」。

〔羞赧〕 前に同じ。○〔孫綽〕「感君不二——一」。

【赦】 赧に同じ。○〔吳質〕「——然汗下」。

【赧】 デン、チン。尼展切 銑

竇——は、笛の聲の緩き貌にいふ語。○〔馬融〕「𥳑圖竇——」。

六畫

【赨】 トウ、ヅ。徒冬切 冬

あか、あかし（赤）。○〔管〕「——黑秀」。

【𧹛】 イウ、ユ。余中切 東

一種のあかいろの蟲。

【赩】キョク、ケキ。許極切 職
㊀大赤の貌にいふ字、あかし。○〔左思〕「丹-砂-一-熾」。㊁草木なき貌にいふ字、むなし。○〔楚辭〕「北有二寒-山逴-龍一-一二」。㊂怒れる貌にいふ字。

七畫

【䞒】トウ、ヅ。杜孔切 董
赤色、あか。

【𧹛】カン、ゴン。呼含切 覃
赤色、あか。

【䞓】テイ、チヤウ。丑貞切 庚
赤色、あか。○〔儀〕「一レ末長終-幅」。

【𧹝】ビ、ミ。無匪切 尾
赤色、あか。

【赫】カク、キヤク。呼格切 陌
㊀赤色の貌にいふ字、あかし。○〔詩〕「一如二渥-赭一」。㊁盛んなる貌にいふ字、さかんなり。○〔詩〕「一-一明-々」。㊂光明が發する貌にいふ字、かゞやく、ひかる。○〔屈平〕「陟レ陞皇之一-戲」。㊃怒る貌にいふ字、發こる貌にいふ字。○〔詩〕「王一斯怒」。㊄熱氣の發するにいふ字、あつし、あぶる。○〔詩〕「一-一炎-々」。㊅あらはる、あらはす、あきらか、(顯)。○〔詩〕「以一二厥靈一」。
〔赫々〕さかんなる貌にいふ語。○〔詩〕「一-一師-尹、民具爾瞻」。
〔赫赫〕前に同じ。○〔後漢〕「威-權一-一、震二動郡-縣一」。
〔槀赫〕前に同じ。○〔張九齡〕「與レ世常一-一」。
〔烜赫〕前に同じ。○〔李白〕「一-一耀-旌-旗一」。
〔暵赫〕日光のさかんにあつきこと。○〔沈佺期〕「一-一多二瘵-疾一」。
〔災赫〕前に同じ。○〔李白〕「一-一五-月中」。
〔顯赫〕さかんにあきらかなる貌にいふ語。○〔後漢〕「馳二仁-聲之一-一二」。
〔隆赫〕たかくさかんなる貌にいふ語。○〔唐〕「位-望一-一」。
〔晉赫〕たふとくあらはる。○〔唐〕「一-一爲二冠-族一」。
〔震赫〕ふるひかゞやく。○〔唐〕「一二一中-外一」。
〔扇赫〕火光のさかんにかゞやくにいふ語。○〔列〕「一二一百-里一」。
〔暖赫〕日光のかゞやきてあつきこと。○〔繁欽〕「當二蒸-暑之一-一二」。
〔電赫〕いかづちの如くさかんにかゞやくこと。○〔幸蜀記〕「皇-威一-一」。
〔赩赫〕赤色の貌にいふ語。○〔射雉賦〕「摛二朱-冠之一-一」。
〔光赫〕ひかりかゞやく。○〔魏都賦〕「應二期-運一而一-一」。
〔輝赫〕前に同じ。○〔李白〕「冠蓋何一-一」。

【赫】嚇に同じ。○〔詩〕「反予來一」。

【赫】セキ、シヤク。施隻切 陌
はやし、すみやか、(迅)。

【赫】ケキ、キヤク。迄逆切 錫
薄小、うすし、すくなし。

九畫

【䞁】エン。因連切 先
赧の字の條を見よ。

【𧹼】キョク、ケキ。況逼切 職
絳色、あか。

【赬】テイ、チヤウ。丑貞切 庚
再染の赤色、あか。○〔詩〕「魴-魚一-尾」。
〔含赬〕あかきいろをふくむ。○〔江淹〕「暮-雲兮一レ一」。
〔發赬〕あかきいろをあらはす。○〔晁補之〕「往-々愧-汗面一レ一」。
〔微赬〕すこしくあかし。○〔陸游〕「酒潮二玉-頰一見二一-一二」。

【赭】シヤ、セ。章也切 馬
㊀赤色の土、あかつち。○〔漢〕「其土則丹-青一-堊」。㊁あか、あかし、(赤)。○〔漢〕「汗流一」。㊂物盡きて空しきこと、赤體を見すこと。○〔史〕「伐二湘-山樹一-一二其山一」。
〔丹赭〕あかつち。○〔詩、疏〕「其顏色赫-然而赤、如二厚-漬之一-一二」。
〔鈇赭〕罪人のこと。○〔宋、田叔一-一、志在二勇-戮一」。

【赮】霞に同じ。○〔漢〕「雷-電一-一-蚩」。

十畫

【䞶】タウ、ダウ。徒郎切 陽
㊀赤色、あか。㊁血の紫色なること。

【𧹲】コク。呼木切 屋
日出の赤きこと。

【䞮】クワン。胡管切 旱
㊀赤色、あか。㊁にごる、(濁)。

【䞲】カン。古案切 クワン。胡玩切 翰
大いに赤し。

【𧹸】キク、コク。許六切 屋
反絳、そめかへしのあか。

十一

【𧺃】キフ、コフ。許及切 緝
赤き貌にいふ字。

十四畫

【𧺝】ジユ。汝朱切 虞
火の色。

【𧺝】ユ。容朱切 虞
色落つ、あす。

【䞿】キョク、ケキ。呼逼切 職
赤色、あか。

走部

【走】ソウ、ス。子苟切 宥 〔説文〕从レ夭从レ止。
㊀はしる。(い)疾く趨る、あしはやくゆく、かける、はす。○〔史〕「飛-廉善一」。(ろ)さる、(去)。○〔儀〕「將レ一」。㊁はしらしむ、はしらす。○〔漢〕「一二馬章-臺衢一」。㊂やつこ、めしつかひ、(僕)。○〔司馬遷〕「太-史-公牛-馬-一」。
〔奔走〕はせまはる。○〔書〕「一-一事二厥考厥長一」。
〔下走〕下僕のこと、又、みづから謙遜して稱する語。○〔漢〕「一-一將-歸二延-陵之皋一」。
〔遠走〕とほくはしる。○〔後漢〕「寧能高-飛一-一不レ在二人間一乎」。
〔逐走〕にげはしるを追ふ。○〔詩、傳〕「追レ飛一レ一」。
〔驚走〕おどろきはしる。○〔詩、箋〕「一-一奔-突」。
〔趨走〕はしる。○〔戰〕「不-使-寢レ疾不レ能二一-一一」。
〔輕走〕かろがろしくはしる。○〔左、註〕「國-君一-一」。
〔僞走〕いつはりにげはしる。○〔左、註〕「楚-師一-一」。
〔退走〕しりぞきはしる。○〔穀梁、註〕「望-風一-一」。
〔疾走〕とくはしる。○〔蘇軾〕「世-上小兒誇二一-一一」。

（迅走）前に同じ。○〔晉〕「狒々如レ人、被髪──食レ人」。
（遁走）のがれはしる。○〔史〕「匈奴──」。
（亡走）前に同じ。○〔史〕「豐父──二鼓下一」。
（步走）あゆみにぐ。○〔史〕「羅身──」。
（驅走）かけはしる。○〔晉〕「──之人」。
（馳走）前に同じ。○〔晉〕「舂──逐二水草一而已」。
（狂走）くるひはしる。○〔唐〕「號呼──」。
（競走）かちを爭ひてはしる。○〔陶潛〕「乃與レ日──」。
（敗走）いくさなどにまけてにぐ。○〔宋〕「敵衆──」。
（保走）はだかにてはしる。○〔淮〕「譬猶下──而追二狂人一、盜レ財而予中乞者上」。
（跣走）はだしにてはしる。○〔淮〕「贏レ糧──」。
（却走）うしろの方にはしる。○〔說苑〕「則未レ有二異乎──而求三還二前人一也」。

【走】ソウ、ス。則候切 宥
㊀はしる。
（い）或る方向にむかひて疾く趨く、或る事情に促られて疾く趨く、おもむく。○〔書〕「駿奔──」。
（ろ）向ふ、赴く、むく。○〔史〕「此──二邯鄲一道也」。
（は）亡ぐ。○〔孟〕「棄レ甲曳レ兵而──」。
㊁はしらしむ、はしらす。○〔漢〕「──二章邯一」。

二畫

【赲】リヨク、リキ。六直切 職
──趨は、行く貌にいふ語。

【赳】キウ、ク。居黝切 有 居虬切 尤
體輕く力勁くして伎能ある貌にいふ字、果毅の貌にいふ字、武勇ある貌にいふ字、たけし、つよし、おもひきりよし。○〔詩〕「──武夫」。

【赳】キウ、ク。祈幼切 宥

──蟆は、龍の頭を伸べて行く貌にいふ語。○〔史〕「沛-艾──蟆佗以僊-儗」。

【赴】フ、ホ。芳遇切 遇
㊀おもむく。
（い）趨り至る、いたる。○〔陸機〕「奇-玩應レ響而──」。
（ろ）趨り就く、つく。○〔荀〕「蛾──二明-火一」。
㊁おもむき告ぐ、つぐ。○〔左〕「──以二庚戌一」。
（速赴）とくおもむく。○〔易、疏〕「則以二──一爲レ善」。
（嚮赴）むかひ趨る。○〔漢〕「趣レ時如二──一」。
（馳赴）とくはしりおもむく。○〔後漢〕「光武卽──レ之」。
（奔赴）前に同じ。○〔後漢〕「以二師喪一棄レ官──」。
（掩赴）敵の不意にいでおもむく。○〔後漢〕「──二其營一」。
（騰赴）のぼりおもむく。○〔後漢〕「衆皆應レ聲──」。
（爭赴）きそひおもむく。○〔後漢〕「莫レ不二──二北庭一」。
（電赴）とくはせむかふ。○〔晉〕「足下若能卷レ甲──」。
（徵赴）めしいだされて官におもむく。○〔北〕「──二晉陽一」。
（猋赴）おもむく。○〔本事詩〕「無レ不二──一」。
（畢赴）悉くいたる。○〔李百藥〕「同レ軌──」。

三畫

【趍】チ、ヂ。直知切 支
はしる（走）。

【赻】ショク、ソク。市玉切 沃
晉の時の四公子の名。

【赽】クツ、コチ。九勿切 物
踹に同じ、走る貌にいふ字。

【赶】ケン、ゴン。巨言切 元 ケツ、ゲチ。其月切 月
尾を擧げて走る、馬走る、はしる。

【赶】カン。古旱切 旱
はしる（趕）。

【𧺆】サイ。倉來切 灰
疑ひためらひて去るにいふ字、さる。

【赵】サイ、セ。初佳切 佳
㊀起ちて去る、さる。㊁起つ意にいふ字。

【赺】キツ、ギチ。其訖切 質
直に行く貌にいふ字。

【起】キ。墟里切 紙
㊀たつ。
（い）身をおこす。○〔禮〕「請レ業則──、請レ益則──」。
（ろ）行ふ、行はる。○〔禮〕「志-氣既──」。
（は）走る、飛ぶ。○〔呂氏春秋〕「兎──鳧擧」。
（に）おこり上がる。○〔宋玉〕「長-風至而波──」。
（ほ）豎立す。○〔素問〕「泝-然──二毫-毛一」。
（へ）扶持す。○〔國〕「世相──」。
（と）聳つ。○〔梁簡文帝〕「狀二龍-門之雙──一」。
㊁臥せるより立つ、おく、又、臥せるより立たしむ、おこす。○〔孟〕「雞鳴而──」。
㊂おこる、又、おこす。
（い）擧がる、又、擧ぐ。○〔戰〕「──二樗-里子於國一」。
（ろ）動く、又、動かす。○〔史〕「粗-厲猛──」。
（は）發作す。○〔禮〕「音之──」。
（に）高まる、又、高む。○〔北〕「上有二隱──字一」。
（ほ）奮興す。○〔鹽鐵論〕「莫レ不二興──一」。
（へ）事を廢せず、又、事を廢せしめず。○〔書〕「元-首──哉」。
（と）啓發す、ひらく。○〔論〕「──レ予者商也」。
（晏起）おそくおく。○〔禮〕「孺子早寢──」。
（蚤起）はやおきす。○〔李白〕「早-臥早-行君──」。
（蠭起）はちの如くむらがりおこる。○〔史〕「楚──之將、皆爭附レ君者」。
（塵起）ちりほこりたつ。○〔運命論〕「風驚──」。
（喚起）鳥の名、又、ねむりをよびさます。○〔韓愈〕「──纓-前曙」。
（四起）よもにおこる。○〔李陵〕「邊-聲──」。
（警起）いましめておこす。○〔周、註〕「呼レ旦以──二百-官一、使二夙-興一」。
（累起）かさなりておこる。○〔漢〕「──相-襲」。
（隆起）たかし、又、たかまる。○〔後漢〕「台-蓋──」。
（坐起）すわるとたつと。○〔蜀〕「每二──一歎二述足下一」。
（勃起）興こる。○〔隋〕「異二豐-沛之──一」。
（暴起）にはかにおこる。○〔易林〕「疾-風──」。
（扶起）倒れたる者などをたすけおこす。○〔舊唐〕「疏-趨而──」。
（迭起）かはるがはるおこる。○〔莊〕「四-時──」。
（飛起）とびたつ。○〔崔道融〕「見レ人懶二──一」。
（奮起）ふるひおこる。○〔洞天清錄〕「危-樓──」。
（般起）さかんにたつ。○〔馬融〕「──二乎北中一」。
（重起）かさなりたつ。○〔魏都賦〕「隆-廈──」。
（攢起）あつまりたつ。○〔夏侯湛〕「長-莖──」。
（峻起）たかくけはし。○〔郭璞〕「冠二崇-嶺一以──」。
（晨起）あさはやくおく。○〔溫庭筠〕「──動二征-鐸一」。
（曉起）前に同じ。○〔元稹〕「玉-人──」。
（睡起）めさめておく。○〔陸游〕「知是使-君初──」。
（吹起）風たつ。○〔李遠〕「秋-風──九-皐鶴」。
（紛起）みだれおこる。○〔歐陽修〕「異-說──」。

【趀】シツ、ジチ。才恤切 質
摧け走る、くだく、はしる。

【⿺走久】ケイ、ギヤウ。渠盈切 [庚]
獨り行く貌にいふ字。

【赸】サン、セン。之山切 [刪]
をどる(跳-躍)。

四畫

【赹】ケイ、ギヤウ。渠營切 [庚]
獨り行く、ゆく。

【⿺走日】ヰツ、ヰチ。于聿切 [質]
はしる(走)。

【⿺走乞】迄に同じ。

【⿺走今】趁に同じ。

【⿺走冘】タン、トン。他感切 [感]
——踔は、たちもとほる。

【⿺走乇】テキ、チヤク。丑亦切 [陌]
㊀こゆ(超)。㊁ゆく(行)。

【⿺走巿】ハツ、バチ。蒲撥切 [曷]
跡に同じ、行く貌にいふ字。

【⿺走帀】サフ、ソフ。子答切 [合]
㊀走る貌にいふ字。
㊁趀——は、急に走る貌にいふ語。

【⿺走殳】トウ、ツ。他候切 [宥]
はしる(走)。

【⿺走殳】エキ、ヤク。營隻切 [陌]
趞——は、走る貌にいふ語。

【⿺走从】ショウ、シュ。即容切 [冬]
急に行く、いそぐ。

【⿺走勼】キウ、グ。渠尤切 [尤]
足の伸びざるにいふ字、かゞむ。

【⿺走支】キ、ギ。巨支切 [支]
㊀大木に緣る、よる、一說に、行く貌にいふ字。㊁鹿の走るにいふ字。
㊂猱の木に升る貌にいふ字。

【⿺走支】キ。去彼切 [紙] 去智切 [寘]
行く。

【⿺走予】趣に同じ。○[石鼓文]「——六-馬」。

【趹】ケツ、ケチ。古穴切 [屑]
㊀ふむ(踶)。㊁さし(疾)。
㊂はしる(走)。

【趹】ケイ、ケ。涓惠切 [霽]
走る貌にいふ字。

【⿺走西】ヲ、ウ。汪胡切 [虞]
東夷の舞。

【赾】キン、コン。丘謹切 [吻]
㊀かたし、なやむ(難)。
㊁跛行の貌にいふ字、よろめく。
㊂行くに謹む貌にいふ字。
㊃つゝしむ(愼)。

【⿺走世】テイ、テ。丑世切 [霽]
こゆ(超)。

【⿺走氏】シ。斯爾切 [紙]
うつる(移)。

五畫

【趉】チュツ、チュチ。丑律切 [質]
㊀走る貌にいふ字。㊁走り出づ、いづ。

【趀】シ。取私切 [支]
にはか(倉-卒)。

【⿺走去】サツ、サチ。相活切 [曷] ソ、ス。素姑切 [虞]
走る貌にいふ字。

【趁】チン。丑刃切 [震]
㊀すゝみがたし(邅)。㊁おふ(逐)。

【趁】チン、ヂン。直珍切 [眞]
㊀こえふむ(越-履)。㊁さわぐ(躁)。

【趁】デン、テン。尼展切 [銑]
ふむ(踐)。

【趁】チン。知隣切 [眞]
——邅は、行きて進まざる貌にいふ語。

【趁】シン。止忍切 [軫]
はしる(走)。

【趁】デン、テン。乃殄切 [銑]
蹍に同じ、ふむ(蹈)。

【趂】趁に同じ。○[杜甫]「驅——制不レ禁」。
(遠趂) とほくおひおよぶ。○[杜甫]「花-底山-蜂——レ人」。

【趃】テツ、デチ。徒結切 [屑]
大いに走る、はしる。
(追趃) 逐ふ。○[文同]「爭-奪-遂——」。

【趃】トツ、ドチ。陁沒切 [月]
走る貌にいふ字。

【⿺走玉】ギョク、ゴク。魚曲切 [沃]
あしなへ(跛)。

【⿺走弗】フツ、ボチ。符弗切 [物] ヒ。芳未切 [未]
㊀走る貌にいふ字。㊁をどる(跳)。

【⿺走冋】ヨウ、ユ。於容切 [冬]
急に走る、かける。

【⿺走白】ハク、ヒヤク。匹陌切 [陌]
せまる(逼)、こゆ(越)。○[郭璞]「——漲截-洞」。

【⿺走巨】キヨ、コ。居許切 [語]
行く貌にいふ字。

【⿺走犮】ハツ、バチ。蒲撥切 [曷]
㊀行く貌にいふ字。
㊁魃に同じ、ひでり。

【⿺走玄】ケン、ゲン。胡千切 [先]
走る。

【⿺走石】セキ、シヤク。之石切 [陌]
ゆく(行)。

【⿺走旦】タン。他旱切 [旱]
ゆく(行)。

【趄】ショ、ソ。七余切 魚
趑—は、たちもとほる。○〔韓愈〕「足将ㇾ進而趑—」。

【超】テウ。勅宵切 蕭
㊀こゆ、こす。
(い)をどる、(跳)。○〔史〕「方投ㇾ石—距」。
(ろ)わたる、(渡)。○〔孟〕「挾二太-山一以—二北-海一」。
(は)すぐ、(過)。○〔左〕「—乘者三-百-乘」。
㊁こえいでたり、たかし、遠し。○〔屈平〕「寧—-然」。
〔超々〕卓越の貌にいふ語。○〔陶潛〕「—・—丈人、日-夕在ㇾ耘」。
〔高超〕すぐれて俗に卓絶す。○〔梁簡文帝〕「—・—七-花意」。
〔騰超〕のぼりをどる。○〔張華〕「—・—如二激-電一」。
〔飛超〕とびこゆ。○〔五燈會元〕「紅-霄—・—三-界外」。

【超】テウ。丑小切 篠
輕く走る貌にいふ字。

【超】テウ。他弔切 嘯
越に同じ、こゆ。

【趀】シ。雌氏切 紙　ショ、ソ。聴徂切 虞
淺瀨を渡る、わたる。

【趆】テイ、タイ。都奚切 齊　丁計切 霽
はしる、(趨)、又、走る貌にいふ字。

【趈】ハン。普伴切 緩
走る貌にいふ字。

【趇】シフ。私立切 緝
走る貌にいふ字。

【⿺走乍】サク。則各切 藥
走る貌にいふ字。

【⿺走世】テイ。丑例切 霽
㊀のぶ、(迣)。㊁こゆ、(踰)。

【⿺走占】タン、テン。知咸切 咸
㊀跕に同じ、坐立不動(すくばる)の貌にいふ字。
㊁馬の急ぎ行く貌にいふ字。○〔阮籍〕「—高躍而疾騖兮、至二北-辰一而放ㇾ之」。

【⿺走斥】シヤ、セ。車者切 馬
さゞまる、(距)。

【⿺走斥】シヤ、ゼ。充夜切 禡
㊀いかる、(怒)。㊁ひく、(牽)。
㊂あしたつ、(脚-立)。

【⿺走斥】タク、チヤク。恥格切 陌
前條の㊂に同じ。

【⿺走句】ク、コ。其倶切 虞
走り顧みる貌にいふ字。

【⿺走付】フ。芳武切 麌
㊀つかふ、(使)。㊁をさむ、(治)。
㊂ちかづく、(近)。㊃すこやか、(健)。

【⿺走句】ク、コ。顆羽切 麌
行く貌にいふ字。

【趉】クツ、コツ。九勿切 物
㊀走る、卒かに起ちて走る。
㊁つく、(衝)。

【趉】キツ、キチ。其律切 質
趯に同じ。

【趉】チツ、ヂチ。直律切 質　キツ、ゴチ。渠勿切 物　ケツ、グワチ。其月切 月
趐に同じ。

【⿺走丘】キウ、ク。丘救切 有
跛行す、ちんばひく。

【越】エツ、ヲチ。王伐切 月
㊀わたる、(度)、こゆ、(超)。○〔易〕「雜而不ㇾ—」。
㊁おつ、おとす、(墜)。○〔左〕「恐ㇾ隕二—於下一」。
㊂こゝに、(於)。○〔書〕「—有二雊雉一」。
㊃とほし、とほざく、(遠)。○〔書〕「予曷敢有ㇾ—二厥志一」。
㊄瑟の下面の孔。○〔儀〕「二-人皆左何ㇾ瑟、後ㇾ首挎ㇾ—」。
㊅ふむ、(躡)。○〔禮〕「—ㇾ紼而行ㇾ事」。
㊆つまづく、(蹷)。○〔禮、註〕「—之言蹷也」。
㊇ちる、ちらす、(散)。○〔左〕「風不ㇾ—而殺」。
㊈あぐ、あがる、(揚)。○〔國〕「使ㇾ—二于諸-侯一」。
㊉まはりとほし、(迂)。○〔國〕「—哉、臧-孫-氏之爲ㇾ政也」。
⑪うす、うしなふ、(失)。○〔淮〕「嗜ㇾ慾者使二人之氣—一」。
⑫國の名、今の浙江省寧波府の地。○〔左〕「盟二吳—一而還」。
⑬布の名。○〔後漢〕「白—三-千-端」。
〔發越〕發揚といふに同じ、おこりあらはる。○〔上林賦〕「察香—・—」。
〔顚越〕たふる。○〔史〕「且魏齊二-臂—・—矣」。
〔播越〕遷りこゆ。○〔左〕「茲不穀震-盪—・—」。
〔度越〕こゆ。○〔宋〕「—二—百-王一」。
〔超越〕前に同じ。○〔魏〕「常有下—二—江-湖一、吞二吳-會一之志上」。「也」。
〔踰越〕前に同じ。○〔禮、疏〕「禮不ㇾ—二—節-度一」。
〔清越〕聲などのきよらかに高きこと。○〔南〕「聲韻—・—」。
〔陵越〕おさへしのぐ。○〔禮、疏〕「互相—・—」。
〔散越〕ちる。○〔國〕「而亦不二—・—一」。
〔激越〕はげしくたかし。○〔蘇軾〕「—・—揚二乾坤一」。
〔違越〕そむきたがふ。○〔歐陽修〕「苟有二—・—一」。
〔乖越〕前に同じ。○〔北〕「對往々—・—」。
〔卓越〕こゆ、又、すぐれこゆ。○〔晉〕「猶未ㇾ獲ㇾ出二羣—・—之倫一」。
〔逸越〕前に同じ。○〔法書要錄〕「字之—・—不ㇾ過二此二-途一」。
〔淩越〕あふれあがる。○〔晉〕「—・—流-漫」。
〔飛越〕とびあがる。○〔晉〕「五-情—・—」。
〔僭越〕分をおかしこゆ。○〔北〕「宜ㇾ杜ㇾ漸防ㇾ萌、無二相—・—一」。
〔隔越〕へだたり遠し。○〔蔡琰〕「同-天—・—兮如二商-參一」。
〔跨越〕またがる、わたる。○〔梁沙〕「—二—古-今一」。
〔貫越〕たかくまさる。○〔法書要論〕「—二—羣品一」。
〔殊越〕特別に他にこゆ。○〔夢溪筆談〕「自ㇾ非二勳-德隆-重、蒼-脩—・—一、何以至ㇾ此」。
〔騰越〕のぼりあがる。○〔秦觀〕「勞無二馭者一氣—・—」。
〔秀越〕他にまさりたかし。○〔袁泉小品〕「茲山佳-麗—・—」。

【越】クワツ、グワチ。戸括切 曷
がまむしろ、(蒻-蒲)。○〔禮〕「—席疏-布」。

【⿺走目】趣に同じ。

六畫

【⿺走有】イウ、ウ。于救切 宥
はしる、(走)。

【趌】キツ、キチ。去吉切 質
㊀—趌は、怒り走る、はしる。㊁走る意にいふ字。

【趌】キツ、ギチ。巨乙切 質
直に行く、行く。

【趌】ケツ、ケチ。居列切 屑
—趚は、跳る貌にいふ語。

【䞦】カク、ギヤク。胡格切 陌
㊀—趚は、地に僵る、たふる。㊁狂ひ走る、はしる。

【𧺝】コウ、グ。胡遘切 宥
蹇行す、あしなへゆく。

【䞄】キ、ケ。香依切 微
走る貌にいふ字。

【䞈】ケン。虛欠切 豔
走る貌にいふ字。

【䞋】ハウ、ヒヤウ。北孟切 敬
走る。

【䞨】キ。丘弭切 紙
一足を擧ぐるを、ひさあし、半步。

【趍】俗の趨の字。

【趍】チ、ヂ。直離切 支
—趍は、ひさし(久)。

【趎】チユ、ヂユ。直誅切 シユ。春朱切 虞
チウ、ヂユ。陳留切 シウ、シユ。蚩周切 尤
人の名。○[莊]「南榮—」。

【趏】クワツ、ケチ。古滑切 黠
走る貌にいふ字。

【趏】クワツ、グワチ。戸括切 曷
越に同じ、がまむしろ。

【䞤】距に同じ。

【趚】セキ、シヤク。資昔切 陌
㊀足を側だて行くにいふ字、ぬきあし。○[詩]「不二敢不一レ—」。
㊁遯—は、行く貌にいふ語。

【䞜】チウ、チユ。張流切 尤
—遯は、行きて進まず、たゞずむ。

【䞕】ケツ、ケチ。許劣切 屑
㊀すゝむ(進)。
㊁とぶ(飛)、特に、衆鳥の叢がり飛ぶにいふ字。

【越】キツ、キチ。許聿切 質
走る。

【趑】シ。取私切 支
—趄は、行きて進まず、たゞずむ。

【趑】シ。七四切 寘
—趦は、行かざるを。

【䞚】ケツ、ケチ。詰結切 屑
跳る貌にいふ字。

【𧻓】カフ、ケフ。侯夾切 洽
㊀走る貌にいふ字。㊁あしなへ(跛)。

【䞢】バク、ミヤク。莫白切 陌
㊀こゆ(越)。㊁走る貌にいふ字。

【䞢】ハク、ヒヤク。普伯切 陌
風の水に入る貌にいふ字。

【趒】テウ、デウ。徒聊切 テウ。他雕切 蕭
こをどり(雀行)。

【趒】テウ。他弔切 嘯
こゆ(越)。

【趒】テウ。土了切 篠
をどる(躍)。

【䞠】エン、ヲン。雨元切 元
居を易ふ、かふ。

【䞘】キ、ギ。巨委切 紙
跪に同じ、ひざまづく。

【䞛】シヤウ、疾亮切 漾　ザウ。在兩切 養
行く貌にいふ字。

【趓】タ。丁果切 哿
なげうつ。○[元曲]「坐成二拋—一」。

【趔】レツ、レチ。力拽切 屑
—趄は、足進まざるを。

【䞘】ケイ、ケ。懸圭切 齊
走る。

七畫

【䞕】赶に同じ。

【趖】サ。蘇和切 歌
走る意にいふ字、又、疾く走る。

【䞴】グン、ゴン。牛吻切 吻
走る貌にいふ字。

【䞨】コク。胡谷切 屋
走る。

【趗】シヨク、ソク。七玉切 沃
㊀趗—は、局量の小なる貌にいふ語、せまし、又、跼りて小歩するにいふ語、せぐくまる。○[張衡]「狹三王之趗—一」。
㊁つらなる(連)。

【䞬】トウ、ツ。他候切 宥
㊀をどる(跳)。㊁すぐ(過)。

【䞹】キウ、グ。巨鳩切 尤
たがふ(違)。

【䞼】カイ、ガイ。戸來切 灰
留どまる意にいふ字、又、將に走らんとし意ありて留どまるにいふ字。

【䞼】クワイ、ケ。枯回切 灰
足を邪にするを。

【䞳】フ、ホ。芳遇切 遇
㊀つまづく(頓)。㊁たふる(僵)。

【䞶】シユン。七倫切 眞
脚を側だてゝ奔る、はしる。

【䞭】シウ、シュ。七溜切 宥
進む。

【𧼮】ト、ツ。通都切 虞
地に伏す、ふす、はらばふ。

【䞯】フ、ホ。芳遇切 遇
すみやか（疾）。

【䞯】フウ、ブ。房尤切 尤
行く貌にいふ字。

【䞶】ラウ。郎宕切 漾
ー趤は、逸遊す、あそぶ。

【䟄】サフ、セフ。所甲切 洽
疾く行く貌にいふ字。

【䞨】キ、ケ。香衣切 微
走る貌にいふ字。

【䞩】カク。香獲切 陌
急ぎ走る、はしる。

【䞟】コク。胡谷切 屋
たふる、たふす（倒）。

【䞯】ホ、フ。博孤切 虞
はふ（匍匐）。

【䞾】セイ、ゼイ。時制切 霽
こゆ（踰）。

【䟃】ケキ、ギヤク。刑狄切 錫
走る。

【𧼯】ヨウ、ユ。余隴切 腫
踊に同じ、をどる。

【趙】テウ、デウ。治小切 篠
㊀おもむく（趨）。㊁小邑の大國に朝事するにいふ字、つかふ。㊂わかし（少）。㊃ひさし（久）。㊄牀の前の横木。〇［揚雄］「牀・杠南楚之閒謂二之ー一」。㊅國の名、今の山西省平陽府ー城の地。〇［漢］「分レ晉得二ー國一」。

【趙】テウ、デウ。徒了切 篠
㊀さす（刺）。〇［詩］「其鎛斯ー」。㊁掉に同じ。〇［荀］「頭銛達而剽ーー繚耶」。

【𧺵】クワウ。口黄切 陽
趪に同じ、あわてゆく。

【趚】ソク。蘇谷切 屋
趢ーは、走る聲にいふ語。

【䟖】デツ、テチ。年謁切 月
行く。

【䞶】コウ、ク。呼后切 有
趨り行きて進まざる貌にいふ字。

八畫

【䞥】ギン、ゴン。牛錦切 寝
頭を低れて疾く行く、ゆく。

【趜】キク、ゴク。渠竹切 屋
㊀きはむ（窮）。㊁ー趜は、足伸びず。㊂鞠に通じ用ふ、つゝしむ。

【趜】キウ、グ。渠尤切 尤
掬に同じ。

【趏】ホク、ボク。蒲北切 職　ホウ、フ。匹候切 宥
㊀たふる（僵）。㊁つまづく（頓）。

【趏】フ、ホ。芳遇切 遇
仆に同じ。

【䟁】ケン。紀念切 豔
疾く行く、首を俯して疾く行く、はしる。

【䞝】アフ、オフ。烏合切 合
急に走る貌にいふ字。

【趃】ケン、ゲン。胡田切 先
急ぎ走る、はしる。

【䞰】クン、コン。丘粉切 吻　クツ、グチ。其述切 質
走る意にいふ字。

【䟗】シャク、サク。七雀切 陌
足輕く歩む、あゆむ、又、行く貌にいふ字。

【趞】セキ、シャク。七迹切 陌
趚に同じ、足をそばだて行く。

【趞】セキ、ジャク。秦昔切 陌
踖に同じ、ふむ（踐）。

【䞞】タウ、テウ。陟交切 肴
をどる（踉・定）。

【趨】タウ、テウ。竹教切 效
行くを正しからざるにいふ字。

【趟】タウ、チヤウ。竹盲切 庚　竹孟切 敬
をどる（躍）。〇［韓愈］「相殘雀豹ー」。

【䟾】ケツ、ケチ。紀列切 屑
こをどり（小跳）。

【䟾】テツ、テチ。殊劣切 屑
をどる（跳）。

【䞤】キヨク、ケキ。忽域切 職
物を盗みて走る、はしる。

【趠】タク、トク。敕角切 覺
さほし（遠）、一説に、あしなへ（蹇）。〇［晉］「ー不レ希二驟・䮐之蹤一」。

【趠】テウ。他弔切 嘯
趒に同じ、こゆ（越）。

【趠】タウ、テウ。敕教切 效　丑交切 肴
㊀行く貌にいふ字。㊁こゆ（越）。

【趠】タク、トク。竹角切 覺
疾く走る、はしる。

【趣】キン、渠忍切 軫　ギン。渠人切 眞
行く貌にいふ字。

【䞫】キン。去刃切 震
緩く行く貌にいふ字。

【趡】スヰ。千水切 紙 うごく(動)。

【趡】井。以水切 紙 踓に同じ、走る貌にいふ字。○〔史〕「蹇-蹏-躍騰而狂-」。

【[走東]】トウ、ツ。德紅切 東 狂ひ走る。

【[走夌]】リョウ、ロウ。力登切 蒸 こゆ(越)。

【[走昜]】テキ、チャク。他歷切 錫 [走昜]-は、狂ひ走る。

【[林走]】ラン、ロン。盧含切 覃 -趁は、走る貌にいふ語。

【[走弗]】フツ、ホチ。敷勿切 物 走る。

【[走屈]】クツ、渠勿切 物 ゴチ。切 ケツ、其月切 月 ケチ。切 趉に同じ、走る。

【[走豖]】チョク、トク。丑玉切 沃

チョウ、チユ。丑隴切 腫 趢-は、小兒の行くにふ語。

【趢】ロク。盧谷切 屋 趢と趗との字の條を見よ、

【趣】シュ、ス。七句切 遇 ㊀おもむく。

(い)向かふ所を定めて疾く行く、遠行して至る、はしる。○〔列〕「-走「也」。往-還」。
(ろ)向かふ。○〔易〕「變-通者-レ時者也」。
㊁おもむき。
(い)行ふ所、志す所。○〔列〕「觀二吾-一」。
(ろ)歸著の意義、わけ、むね。○〔孝、序〕「五-經之指-」。
(は)狀態、風致、やうす、ふぜい。○〔晉〕「識二琴-中-一」。

〔旨趣〕意義といふに同じ、ことのわけをいふ。○〔北〕「究二其--一」。
〔理趣〕前に同じ。○〔書、疏〕「而--終同」。
〔義趣〕前に同じ。○〔春秋序、疏〕「文-辭約-少則--「-也」。-繁-略」。
〔本趣〕本來の旨義。○〔晉〕「此亦籍之胸-懷-」。
〔志趣〕こゝろばせ。○〔晉〕「--不レ常」。
〔意趣〕前に同じ。○〔南〕「其--不レ常如レ是」。
〔情趣〕前に同じ。○〔齊〕「--相得」。
〔筆趣〕ふでのつかひぶり。○〔南〕「此字--翩々似二鳥之欲レ飛」。
〔高趣〕高尚なるおもむき。○〔南〕「少有二--一」。
〔異趣〕そのむきをことにす、又、めづらしきおもむき。○〔韋述〕「登-臨多--一」。
〔佳趣〕よきふぜい。○〔宋〕「敝-床疏-席、總是--「-一」。
〔深趣〕ふかきおもむき。○〔司空圖〕「深-僧有二--」。
〔景趣〕風景。○〔宋〕「--幽-絕」。
〔妙趣〕妙味。○〔陸游〕「個-中--眞堪レ語」。
〔雜趣〕鷲鳥の異名。○〔符瑞圖〕「--王-者有二德則見」。
〔風趣〕風致といふに同じ、おもむきあるをいふ。○〔古畫品錄〕「--巧-拔」。
〔巧趣〕たくみなる工風。○〔畫史〕「不レ襲二--一」。
〔美趣〕うるはしきおもむき。○〔諸葛亮〕「何指二千--一」。
〔同趣〕おなじきおもむき、又、おもむきを異にせざると。○〔袁宏〕「雅-致-レ-」。
〔表趣〕そのおもむきをあらはす。○〔謝靈運〕「呈レ美-レ-」。

〔善趣〕よきおもむき。○〔傳法正宗記〕「來世益得二--一也」。
〔奇趣〕めづらしきおもむき。○〔白居易〕「逸-韻諧二--一」。
〔雅趣〕風雅なるおもむき。〔江淹〕「保二自-然之「-一」。
〔有趣〕風致あると。○〔元稹〕「獨-醉亦--」。
〔眞趣〕まことのおもむき。○〔鄭谷〕「濟-泊生二--」。
〔閑趣〕しづかなるおもむき。○〔沈炯〕「衍-滯-庭之--具二春-物之芳-華一」。
〔權趣〕よろこばしきおもむき。○〔何遜〕「幽-居之--一」。
〔野趣〕ゐなかのおもむき。○〔韋述〕「自-然成二--「-深」。
〔新趣〕あたらしき風致。○〔武少儀〕「別成二--一」。
〔幽趣〕幽邃なるおもむき。○〔梅堯臣〕「種レ竹--一」。
〔興趣〕興味。○〔杜甫〕「--江-潮迴」。
〔舊趣〕もとのおもむき。○〔孟郊〕「視-聽改二--一」。
〔醉趣〕酒に醉ひたるこゝち。○〔司馬光〕「果使三屈-原知二--一」。

【趣】シュ、七逾切 虞 ス。切 ソウ、七口切 有 ス。切 馬を養ふ官。○〔詩〕「蹶維--馬」。

【趣】ショク、ソク。趨玉切 沃 ㊀せまる、うながす(促)。○〔禮〕「乃-刑-獄一」。㊁蹴小す、ちゞむ。○〔漢〕「局-效二轅-下駒一」。

【趣】シウ、側九切 有 ス。切 ソウ、将侯切 尤 ス。切 棷に同じ、夜の守りを戒むるに擊つ者。

【[走叜]】趨に同じ、すみやか。

【[走岩]】タウ、ダウ。大浪切 漾

【[走卑]】ヒ。補移切 支 [走卑]-は、逸遊す、あそぶ。

小歩す、こまたにありく。

【[走肴]】カウ、ゲウ。胡茅切 肴 走る貌にいふ字。

九畫

【趪】クワウ、ワウ。胡光切 陽 走る貌にいふ字。

【[走盾]】チュン。勅倫切 眞 走る貌にいふ字。

【[走曷]】ケツ、居竭切 月 ケチ。切 カツ、丘葛切 曷 カチ。切 怒り走る。

【[走重]】ショウ、シュ。昌用切 宋 揰-は、斜に行く。

【[走契]】テイ。丑例切 霽 ㊀超特す、こゆ、すぐる。㊁跇に同じ、たどる、こゆ。

【[走胃]】ウツ、ナチ。王勿切 物 あわたゞしく行く貌にいふ字。

【[走崔]】サイ、セ。且雷切 灰 進む貌にいふ字。

【[走夋]】シュク、ソク。所六切 屋 體伸びざるもの、くゞせ。

【[走叜]】シウ、シュ。所鳩切 尤 趁-は、進まず。

【[走叜]】シウ、シュ。所九切 有 走る貌にいふ字。

【⿺走夋】シウ、シュ。千繡切 [宥]
はしる(奔)。

【⿺走勇】ヨウ、ユ。與恐切 [腫]
行く。

【趥】シウ、七由シュ。切 [尤] ヨウ、于仲ユ。切 [送]
㊀行く貌にいふ字。㊁かちにてゆく(徒-行)。

【⿺走昜】タウ。吐郎切 [陽]
前み走る、すゝむ。

【⿺走兪】シュ。傷遇切 [遇]
㊀馬のこえ前むにいふ字、すゝむ。㊁馬の跳るにいふ字、をどる。

【⿺走兪】ユ。容朱切 [虞]
こえすゝむ(越-進)。

【趧】テイ、ダイ。杜奚切 [齊]
――婁は、四夷の舞。

【⿺走沓】俗の趿の字。

【⿺走臿】サフ、セフ。士洽切 [洽]
疾く行く、はしる。

【⿺走复】フク、ボク。房六切 [屋]
趙――は、小兒の手を以て地に據り行くにいふ語、はらばふ。

【⿺走畐】ヒョク、ヒキ。彌力切 [職]
走る。

【⿺走屏】趚に同じ。

【趙】テウ、デウ。直紹切 [篠]
掉に同じ、さす。

【⿺走庶】タク、チャク。丑格切 [陌]
㊀かたあし(跬-步)。㊁さゞまろ(距)。

【⿺走盎】フツ、符勿ボチ。切 [物] ハツ、北末ハチ。切 [曷]
走る貌にいふ字。

【⿺走侯】コウ、グ。何侯切 [尤]
跛へ行く。

十畫

【⿺走晏】エン、オン。於幰切 [阮]
煙の升るにいふ字、あがる。

【⿺走索】サク、シャク。色窄切 [陌]
たふる(僵)。

【⿺走虒】チ、直離ヂ。切 [支] テイ、待禮ダイ。切 [薺]
――隲は、薄、うすし。

【⿺走豈】カイ、ガイ。胡該切 [灰]
走る。

【⿺走烏】ヲ、安古ウ。切 [麌] 汪胡切 [虞]
輕く走る、はしる。

【⿺走骨】クヮツ、グヮチ。戸八切 [黠]
走る。

【⿺走眞】テン。都年切 [先]
走り頓く、つまづく。

【⿺走眞】テン、デン。堂練切 [霰]
走る。

【⿺走遙】エウ。餘招切 [蕭]
行く。

【⿺走蹇】ケン、コン。丘言切 [元]
走る貌にいふ字。

【⿺走寒】ケン。丘虔切 [先]
⿺走虔に同じ。

【⿺走虔】ケン、去乾カン。切 [先] カン、丘閑ケン。切 [刪]
㊀跛へ行く。㊁蹇足(あしなへ)の跟、くびす。

【⿺走疾】シツ、ジチ。昨悉切 [質]
あわて走る。

【趨】シュ、ス。七逾切 [虞]
㊀はしる。(い)足を疾めて行く、足を張りて歩む、おほあしにありく、はやあしにありく。○[禮]「帷-薄之外不レ――」。(ろ)歸向す、おもむく。○[史]「秦人皆――レ令」。㊁はやあし、おほあし(捷-步)。○[詩]「巧――蹌兮」。
[進趨] すゝみはしる。○[朱熹]「――極虔-恭」。
[疾趨] とくはしる。○[潛夫論]「遣-父――」。
[急趨] 前に同じ。○[舊唐]「――無二善-跡一」。
[迅趨] 前に同じ。○[抱朴子]「――之駿-足也」。
[翔趨] かけはしる。○[南齊]「教以二――一」。
[走趨] はしりおもむく。○[韓愈]「不レ利二――一」。
[奔趨] 前に同じ。○[韓愈]「叫-譟――」。
[赴趨] おもむき至る。○[姚燧]「必講二――一」。
[拜趨] 拜禮をなしはしりおもむく。○[隆都刺]「奉レ觴酌レ酒前――」。

【⿺走蜀】ショク、スク。趨玉切 [沃]
㊀はやし、すみやか(速)。○[禮]「衛音――數煩レ志」。㊁急にす、いそぐ、せまろ、うながす。○[禮]「乃命二有-司一、――レ民收-斂」。

【⿺走芻】ソウ、ス。此苟切 [宥]
趨馬或は――馬に作る。

【⿺走芻】シュ、ス。千句切 [遇]
ゆく(行)、又、すみやか(速)、速かに行く。○[詩]「巧――蹌兮」。

【⿺走臭】キウ、キユ。香仲切 [送]
㊀行く。㊁薨――は、疲れ行く貌にいふ語。

【⿺走差】シ。初緇切 [支]
走る。

【⿺走欮】キツ、コチ。欺訖切 [物]
走る貌にいふ字。

【⿺走敜】キン。居銙切 [眞]
走る。

【⿺走留】カイ、ガイ。戸來切 [灰]
留まる意にいふ字。

十一畫

【⿺走焉】エン、オン。隱幰切 [阮]
走る貌にいふ字。

【⿺走雀】ショ、慈呂ゾ。切 [語] セツ、前結ゼチ切 [屑]
斜に出で前む、すゝむ。

【趡】サイ、セ。倉同切 [灰] ㊀せまる(逼)。㊁——歩は、驢馬の後につくる具。

【⿺走巢】サウ、セウ。初交切 [肴] ㊀競ひ走る、はしる。㊁たつ(起)。

【⿺走章】シヤウ、サウ。之陽切 [陽] 走る。

【⿺走票】ヘウ、ベウ。撫招切 [蕭] 輕く行く。

【⿺走曼】ボン、モン。莫奔切 [元] バン、マン。謨官切 [寒] おそく行く。

【⿺走參】サン、ソン。倉含切 [覃] ——⿺走覃は、走る貌にいふ語。○〔左思〕「——⿺走覃狿-猭」。

【⿺走參】サフ、ソフ。七合切 [合] ㊀走る。㊁赴き會ふ、あふ。

【⿺走鹿】ロク。盧谷切 [屋] ——趚は、走る貌にいふ語。

【⿺走啇】セキ、シヤク。之石切 [陌] 走る貌にいふ字。

【⿺走宗】シユク、ソク。初六切 [屋] 直き貌にいふ字。

【⿺走責】セキ、シヤク。七迹切 [陌] にはか(倉-卒)、いそがはし(悤-遽)。

【⿺走責】サク、シヤク。查獲切 [陌] ㊀わるがしこき貌にいふ字。㊁急に走る、はしる。㊂走る貌にいふ字。

【⿺走覓】ベキ、ミヤク。莫狄切 [錫] ——⿺走易は、狂ひ走る貌にいふ語。

【⿺走斬】サン、ザン。咋濫切 [勘] セン、ゼン。慈冉切 [琰] ㊀すゝむ(進)。㊁久しからず。㊂疾く騰る、のぼる。

【⿺走畢】ヒツ、ヒチ。壁吉切 [質] 止む。

十二畫

【⿺走爲】クワ。五和切 [歌] つまづき行く。

【趧】チヨク、チキ。恥力切 [職] ㊀行く聲にいふ字。㊁行かざる貌にいふ字。㊂走る貌にいふ字。○〔石鼓文〕「其來——」。

【⿺走肅】シユク、ソク。所六切 [屋] 走る。

【⿺走厥】ケツ、クワチ。居月切 [月] ㊀たふる(蹶)。㊁はねおく(跳-起)。

【⿺走厥】クワイ、ケ。姑衛切 [霽] 蹶に同じ、たふる(僵)。

【⿺走前】セン、ゼン。隨戀切 [霰] 始めて走る意にいふ字。

【⿺走厤】レキ、リヤク。郎擊切 [錫] 速かに行く貌にいふ字。

【⿺走幾】キ、ケ。居依切 [微] 走る。

【⿺走矞】キツ、キチ。居律切 イツ、イチ。余律切 [質] 狂ひ走る。

【⿺走覃】タン、ドン。徒含切 [覃] ⿺走參の字の條を見よ。

【⿺走黃】クワウ、ワウ。胡光切 [陽] ㊀力を作す貌にいふ字。㊁武き貌にいふ字、又、張り設けたる貌にいふ字。○〔張衡〕「洪-鐘萬-鈞、猛-虡——」。

【⿺走黃】クワウ。姑黃切 [陽] 走る貌にいふ字。

【⿺走尞】レウ。落逍切 [蕭] 脚の長き貌にいふ字。

【⿺走喬】ケウ、ゲウ。巨嬌切 [蕭] ㊀木に緣りて走るの巧なるにいふ字、すばやし、みがるし。○〔張衡〕「非二都-盧之輕——一、孰能越而究レ升」。㊁たけし(健)。○〔顏延之〕「捷二——夫之敏-手一」。㊂行く、又、善く走る、又、足を擧ぐ。○〔元稹〕「往-々跳——騎不レ得」。

〔勇趫〕たけし。○〔金〕「其——如レ此」。

〔跳趫〕をどりはぬ。○〔元稹〕「往々——馬不レ得」。

【⿺走喬】テウ。丑小切 [篠] 輕く走る貌にいふ字。

【⿺走童】トウ、ヅ。徒孔切 [董] 走る。

【趞】シヤク、サク。七雀切 [藥] かろく行く、又、行く貌にいふ字。

【⿺走堯】ケウ。去遙切 [蕭] 丘召切 [嘯] ㊀輕く行く貌にいふ字、一說に、足を擧ぐ。㊁起こる。㊂高し。

【⿺走焦】エウ。弋照切 セウ、ゼウ。才肖切 [嘯] 奔走す、はしる。○〔漢〕「騰而狂——」。

【⿺走遝】サフ、ソフ。疾盍切 [合] 疾く走る貌にいふ字。

【⿺走戴】チツ、ヂチ。直質切 [質] 走る貌にいふ字。

十三畫

【⿺走亶】テン、デン。直連切 [先] ㊀すゝみがたし、行きなやむ。㊁移轉す、うつる。

【⿺走亶】テン、デン。丈善切 [銑] 移り行く、うつる、一說に、志たがふ、(循)。

【⿺走睘】ケン、コン。況袁切 [元] 許緣切 [先] ㊀疾し。㊁疾く行く。

【⿺走戠】チツ、ヂチ。直一切 [質] 走る。

【⿺走僉】キン。丘甚切 [寢]

首を低れて疾く趨る、はしる。

【趨】ショク、ソク。之欲切 沃
行く貌にいふ字、又、小兒の行く貌にいふ字。

【趨】ショク、ゾク。殊玉切 沃
跳る。

【遽】キョ、ゴ。强魚切 魚
㊀をかす(犯)。㊁小しく跳る。㊂小しく歩む。

【邀】ケウ。吉弔切 嘯
㊀またがふ(循)。㊁さかひ(境)。

【䞨】セン。職琰切 琰
前み趨る、疾く趨る、はしる。

【躄】ヘキ、ヒヤク。匹亦切 陌
走る貌にいふ字。

【𧾷】カン、コン。虎感切 感
走る貌にいふ字。

【趮】サウ、ソウ。則到切 號
㊀疾し。㊁躁に同じ。㊂ふる(掉)。○[周]「羽殺則―」。

十四畫

【𧾹】蹐に同じ

【𧾻】ヨ。以諸切 魚 演女切 御
安く行く。

【䟆】カク、キヤク。求獲切 陌

――趚は、足の長き貌にいふ語。

【趥】シユン、ジユン。詳遵切 キン。規倫切 眞
走る貌にいふ字。

【趯】ヤク。以灼切 藥
をどる(踊)。○[漢]「涌二―邪-陰二」。

【趯】テキ、チヤク。他歷切 錫
躍に同じ、跳る貌にいふ字。○[詩]「――阜-螽」。

十五畫

【𨇍】テン、デン。直連切 先
移る。

【邊】ヘン。卑眠切 先
㊀走る意にいふ字。㊁走り頓く、つまづく。

【𧽤】俗の趲の字。

【䞤】キツ、キチ。居質切 質 セツ、ゼチ。昨結切 屑
㊀走る意にいふ字。㊁斜に出で前む、すゝむ。

【𨅣】レキ、リヤク。狼擊切 錫

【䟐】シヤク、サク。書藥切 藥
動く、又、走る。○[石鼓文]「多-庶―――」。

【𨅿】キツ、キチ。居聿切 質 ケン。香兗切 銑
クワイ、ケ。許濊切 泰

【𨇊】エン。衣檢切 琰
走る意にいふ字。

【𧾘】トク、ドク。徒祿切 屋
走る。
獨行の貌にいふ字。○[石鼓文]「其來―――」。

十六畫

【𧾲】ケン、ゲン。許建切 願 ゴン、コン。五遠切 阮
走る意にいふ字。○[石鼓文]「――鋋-々」。

【𧿁】レキ、リヤク。狼擊切 錫
速かに行く貌にいふ字。

【𧿁】レキ、リヤク。令益切 陌

【𧾵】セン、ゼン。辭戀切 霰
――趚は、盜み行く、ひそかにゆく。

【𧾰】㊀走る。㊁大いなり。

十七畫

【𧾕】ヤク。以灼切 藥
行く貌にいふ字、又、躍に同じ。

【𧿂】レイ、リヤウ。郎丁切 青
犬の逐び走る貌にいふ字、はしる。

【𧾼】ケツ、ケチ。古屑切 屑
走る意にいふ字。

十八畫

【𧿃】ケン、ゴン。巨員切 先
脊を曲げて走る貌にいふ字、かゞみはしる。

【趯】クワン、ゲン。巨班切 刪

【𧿆】ヨク、イキ。與職切 職
傴行す、せぐくまる。
趨り進むに拱きたる手の端しき貌にいふ字。

【𧿅】ク、クワク。其俱切 虞 クワク、カク。局縛切 藥
㊀走り顧る貌にいふ字。㊁大いに走る、はしる

十九畫

【趲】サン、ザン。藏旱切 旱
散り走る、ちる。

【𧾪】ソ、ス。宗蘇切 虞
走る。

【趲】サン。則旰切 翰
逼りて走らしむ、はしらす。

二十畫

【𧾳】クワク、カク。居縛切 藥
大きく歩む、おほまたにありく。

廿一畫

【𧿇】シユ、ス。且兪切 虞
進む貌にいふ字。

足部

【足】ショク、ソク。卽玉切 沃　―說文在下M
㊀あし。
(い)動物の下肢、股と脛と及び蹠くるぶし以下との總稱。○[易]「震

爲レ—」

(ろ)踝より以下の稱。○〔史〕「漢-王傷レ胸、乃捫レ—曰、虜中二吾指一。」

(は)歩むこと、走ること。○〔史〕「高-材疾-—」。

(に)器物の下部につきて動物の下肢の狀をなすもの。○〔易〕「鼎折レ—」。

(ほ)下本、もと。○〔釋名〕「木以レ根爲レ—」。

㊁たる。

(い)富む、饒か、滿つ、止どまる　○〔老〕「知レ—不レ辱」。

(ろ)得。○〔禮〕「百-官皆—」。

(は)能ふ。○〔戰〕「可レ謂レ—レ使矣」。

(に)可なり。○〔國〕「不二吾—一也」。

〔鼎足〕かなへのあし。○〔史〕「三-河在二天-下之中一、若二—·—一」。

〔不足〕みたざること。○〔禮〕「恤二孤-獨一以逮二——一」。

〔手足〕てとあしと。○〔禮〕「若無レ禮則—·—無レ所レ錯」。

〔知足〕分にあまんじてたることをしる。○〔周〕「以二度數一レ節、則民—レ—」。

〔首足〕くびとあしと。○〔儀〕「父·子—·—也」。

〔頭足〕前に同じ。○〔異苑〕「—·—皆具」。

〔濯足〕あしをあらふ。○〔左思〕「—二—萬·里流一」。

〔洗足〕前に同じ。○〔史〕「使二兩·女·子—一レ—」。

〔蹈足〕あしをふむ。○〔史〕「張·良陳·平—二漢王—一」。

〔翹足〕あしをあぐ。○〔史〕「亡可二—レ—而待一」。

〔舉足〕前に同じ。○〔禮〕「一—レ—而不二敢忘一父·母一」。

〔趹足〕はやあし。○〔唐〕「皆募二—·—一」。

〔晃足〕ゆたかにたる。○〔漢〕「國·用—·—」。

〔豐足〕前に同じ。○〔晉、疏〕「令二民生·計温·厚、衣食—·—一」。

〔重足〕あしをかさぬとてからたをちゞむる貌に用ふる語。○〔漢〕「令二天-下—レ—而立、仄レ目而視一矣」。

〔蹻足〕あしをつまだつ。○〔蜀〕「功可二—レ—而待一矣」。

〔駿足〕駿馬のあし、轉じて英士の才力にかり用ふる語。○〔蜀〕「始當レ展二其—·—一耳」。

〔人足〕いづれの人も皆不足なくゆたかなるをいふ。○〔後漢〕「家給—·—」。

〔備足〕不足なく備具す。○〔後漢〕「寵佝文·武—·—」。

〔刖足〕あしをきる。○〔漢、註〕「—二其右—一」。

〔山足〕やまのすそ。○〔南〕「吾得レ歸二骨—·—一」。

〔聚足〕あしをよせあつむ。○〔禮〕「拾レ級—レ—」。

〔殷足〕ゆたかなること。○〔後漢〕「郡·內比·室—·—」。

〔給足〕不足なし。○〔後漢〕「百·姓—·—」。

〔跣足〕すはだし。○〔唐〕「—·—艸·食」。

〔躡足〕前に同じ。○〔論衡〕「—·—之吏、皆在二其上一」。

〔全足〕兩足の具備するをいふ。○〔莊〕「人以二其—·—、笑二吾不—·—一者衆矣」。

〔輕足〕あしかろくしてはやきこと、又、よき犬のことにもいふ。○〔心書〕「有下—·—善步、走如二奔·馬一者上」。

〔獨足〕一本のあし。○〔神仙傳〕「又多二—·—鬼一」。

〔具足〕そなはる。○洛陽伽藍記「像·相—·—」。

〔纏足〕布帛などにて足をまとひつゝむ、又、つゝみたるあし。○〔輟耕錄〕「婦·人之—·—起二于近·世一」。

〔赭足〕あかいろのあし。○〔栢靈寶〕「紅·腹—·—」。

〔素足〕白きあし。○〔王維〕「樵·女洗二—·—一」。

【足】シユ、ス。子句切 遇　シヨ、ソ。將豫切 御

㊀成る、過ぐ、たる。○〔論〕「巧-言令-色—-恭」。

㊁たす。

(い)たらざるをたらしむ、なす、そふ、ます。○〔漢〕「不レ待二臣音復謂而—一」。

(ろ)つちかふ(擁)。○〔管〕「春辟勿レ蒔、苗—レ本」。

二畫

【𧿶】タウ、チヤウ。丑庚切 庚

㊀行くこと遲き貌にいふ字。

㊁跉—は、行く貌にいふ語、又、脚の細長なるにいふ語、ながし。

【𧿶】テイ、チヤウ。丑貞切 庚

跉—は、行くことの正しからざること。

【𧿶】テイ、チヤウ。當經切 青

獨り行く、(ゆく)。

【𧿳】ケウ、ゲウ。巨幼切 嘯

㊀行くことの遲き貌にいふ字。

㊁蹊—は、蹻き行く貌にいふ語、行くことの正しからざる貌にいふ語。

【𧿒】フ、ホ。芳遇切 遇

趣き走る貌にいふ字。

【𧿒】ホク、ブク。鼻墨切 職

たふる、たふす(僵)。

三畫

【趵】ハク、ホク。北角切 覺

㊀撃つ。

㊁足にて撃ち聲をなすこと、あしびやうし。

【趵】ハウ、ヘウ。巴校切 效

跳る。○〔齊乘〕「濟-南有二—突-泉一」。

【𧿽】サク、ソク。測角切 覺

足の齊ふ貌にいふ字。

【𧿷】シヤク。職略切 藥

あしあと(跡)。

【𧿆】跀に同じ、あしきる。○〔韓愈〕「吚喲吅二冤—·—一」。

【𧿘】カン。居案切 翰　カン、ゲン。下晏切 諫

㊀からだ(體)。㊁脛の骨。

【𧿹】コ、ク。苦故切 遇

跨に同じ、また(股)。

【𧿿】チ、ウ　於故切 遇

うづくまる(踞)。

【𧿯】踑に同じ。○〔晉〕「—·—居」。

【𧿧】サ、セ。楚嫁切 禡

㊀えだみち(岐)。㊁ふむ(踏)。

【𧿲】シフ。先立切 緝

ひざまづく(膝-坐)。

【跁】ハウ、バウ。蒲郎切 陽

ふむ(跋)。

四畫

【趹】ケツ、ケチ。古穴切 屑

㊀馬の疾行する貌にいふ字、さし。○〔戰〕「探レ前—レ後」。

㊁はしる(奔)。○〔後漢〕「要レ—追レ蹤」。

【趹】ケイ、ケ。涓惠切 霽

㊀前條の解に同じ。

㊁ふむ(踶)。○〔淮〕「有二踶者—一」。

【𧿠】シ、ジ。承紙切 紙

㊀たちどまる(躊)。

㊁積み聚む、あつむ。

【趺】フ。甫無切 虞

㊀跗に同じ、あし、うてな、だい。○〔劉禹錫〕「螭-首龜-—」。

㊁地を下視するまでに體を屈して敬

するを。○〔釋名〕「拜二于丈夫一、爲レーー、ー然屈-折下二視地一也」。
㊁大坐す、あしをくみてすわる。○〔婆娑論〕「結-跏ー-坐」。
〔跏趺〕あしをくみすわる。○〔柳宗元〕「ーー便終レ夕」。
〔僧趺〕禪門にて行はるゝすわりかた。○〔蘇軾〕「終-朝危-坐學二ーー一」。
〔石趺〕いしのだい。○〔舊唐〕「其下ーー入レ地數-尺」。
〔重趺〕花のはぞをかさぬ。○〔貫師泰〕「牡-丹芍-藥等ーレー」。
〔絳趺〕赤色の花蕚。○〔溫庭筠〕「芳-蹊艷二ーー一」。

【跈】チン。丑甚切 [寑] 踸に同じ。○〔莊〕「吾以二一-足一ー-踔而行」。

【跉】シン、ソン。楚錦切 [寑] タン、トン。丑減切 [豏] ー-蹲は、行く貌にいふ語。

【⿰足冘】踸に同じ。○〔木華〕「ー-踔踸-瀁」。

【⿰足乎】コ、グ。胡故切 [遇] 膝を雙べて地に著くるを、ひざまづく。

【⿰足丑】ヂク、ニク。女六切 [屋] 行く。

【䟘】カウ、ガウ。胡朗切 [養] 脛を伸ばす、のばす、

【䟘】カウ。各朗切 [養] 踝（くるぶし）を撃つ、うつ、又、足を伸ばす、のばす。

【趼】跰に同じ。

【⿰足切】セツ、セチ。千結切 [屑] つまづく（跌）。

【⿰足化】グワ。五禾切 [歌] あしなへ（跛）。

【趽】ハウ、バウ。步光切 [陽] ハウ。甫妄切 [漾] ハウ、ビヤウ。蒲庚切 [庚] ㊀脛の曲がりたる馬。㊁曲がりたる足。

【趽】ハウ。府良切 [陽] ㊀脛の肉。㊁つまづく（蹳）。

【⿰足市】ハツ、バチ。蒲撥切 [曷] ヒ。方味切 [未] 急ぎ行く貌にいふ字、行く貌にいふ字、一說に、にはか（猝）。

【⿰足市】ハイ。博蓋切 [泰] 步み跋む、ふむ。

【⿰足内】ドツ、ノチ。奴骨切 [月] 足傷く、きづつく。

【⿰足内】ダフ、ノフ。諾盍切 [合] 衲に同じ、行く貌にいふ字。

【趾】シ。諸市切 [紙] あし、もと（足）。○〔易〕「賁二其ー一」。
〔玉趾〕たまのあしとて他人の足を尊稱していふ語。○〔左〕「寡-君聞下君親舉二ーー一、將上レ入二于敝-邑一」。
〔山趾〕山足といふに同じ、やまのふもとをいふ。○〔阮籍〕「去上二西ーー一」。
〔斷趾〕あしをたちきる。○〔唐〕「今復ーニ人ー一、吾不レ忍也」。
〔跂趾〕あしをそばだつ。○張衡「即ーレー而臚-情」。
〔丹趾〕あかきいろのあし。○〔鸚鵡賦〕「紺翠ーー」。
〔足趾〕あし。○〔吳都賦〕「ーー之所レ不レ蹈」。
〔林趾〕はやしのもと。○〔潘岳〕「落-英隕二ーー一」。
〔翹趾〕足をあぐること。○〔鮑照〕「ーニ孤ー一于林-眼二」。「婷二」。
〔修趾〕ながきあし。○〔舞鶴賦〕「頓二ーー一之洪-」。
〔聖趾〕ひじりのあと。○〔王勃〕「松-巒ーー餘」。

【趿】サフ、ソフ。蘇合切 [合] 足を進めて攝み取る、つまむ、とる。

【趿】シフ。七入切 [緝] ゆく（行）。

【⿰足殳】トウ、ツ。他候切 [宥] 自ら投ず、なぐ。

【⿰足升】ショウ。書蒸切 [蒸] 陞に同じ、のぼる。

【⿰足元】グワン。吾官切 [寒] 躦ーは、うづくまる（蹲）。

【跀】ゲツ、グワチ。魚厥切 [月] ゴツ、ゴチ。五忽切 [月] グワツ、グワチ。五括切 [曷] ㊀足を斷つ、あしきる。○〔韓〕「孔-子相レ衞、弟-子子-皐爲二獄-吏一、ー二人足一」。㊁器の正しからずして欹き邪なるを、いびつ。○〔周、註〕「髻讀爲レー」。

【⿰足分】フン、ホン。敷文切 [文] つまづく（蹷）。

【跁】ハ、ベ。傍下切 [馬] ー-跒は、行く貌にいふ語。○〔李建〕「ー-ー爲レ詩ー-ー書」。

【跁】ハ、ベ。蒲巴切 [麻] ー-跒は、蹲る。

【跁】ハ、ベ。白賀切 [箇] ㊀ー-跒は、身の丈の短き人、又、短き貌にいふ語。㊁俗に小兒の匍匐するにいふ字、はらばふ。

【跂】キ、ギ。巨支切 [支] ㊀指多きを、むつゆび。○〔莊〕「故合者不レ爲レ騈、而枝者不レ爲レー」。㊁蚑に同じ、はふ。㊂緩く走る、はしる。○〔漢〕「ー行畢逮」。
〔跂々〕行く貌にいふ語。○〔漢〕「ーー脈々」。

【跂】シ。章移切 [支] リ。犁尒切 [紙] 踶ーは、强ひて心力を用ふる貌にいふ字。○〔莊〕「踶ーー爲レ義」。

【跂】キ。丘弭切 [紙] 企に同じ、のぞむ、つまだつ、くはだつ。○〔詩〕「ー予望レ之」。
〔離跂〕はなれそむく、又、俗に違ひ自らいさぎよしとする貌にいふ語。○〔莊〕「而儒墨乃始ーニーー攘臂乎桎梏之間一」。
〔竦跂〕踵をあげてたつ。○〔崔瑗〕「ーー鳥峙」。

【跂】キ。去智切 [寘] 足を垂れて坐す、すわる、又、足を擧げて望む、のぞむ。

【跂】ケキ、キヤク。竭戟切 [陌] あし（足）。

【跨】ケイ、ガイ。胡雞切 齊
あと、（跡）。

【跂】シ。則支切 支
卻行す、すゝまざる。

【跅】タク、闥各ダク。切 藥 セキ、昌石シヤク。切
阳

五畫

【踀】ショク、ソク。且欲切 沃
蹴に同じ、ゆるむ。○〔漢〕「——弛之士」
促に同じ、せまる、すみやか。

【跆】タイ、ダイ。徒哀切 灰
㊀ふむ、（蹋）。○〔漢〕「與レ兵相——藉」。
㊁蹋——は、ふむ、又、手を連られて歌ふ。

【跋】ケツ、許月クワチ。切 エツ、王伐チチ。切 月
㊀輕し。㊁走る貌にいふ字。

【跇】エイ。以制切 霽
㊀のぶ、（迣）。㊁こゆ、（踰）。
㊂をどる、（跳）。
㊃わたる、（渡）。○〔漢〕「——二巒阬一」

【跇】テイ。丑例切 霽 セイ、時制ゼイ。切 霽
蹝に同じ。

【跮】テイ、タイ。丁計切 霽
ふむ、（蹋）。

【跃】チ。張尼切 支
つまづく、（跲）。

【跡】デン、チン。乃殄切 銑
跈に同じ。

【跈】デン、チン。乃殄切 銑
㊀蹨に同じ、ふむ。○〔莊〕「哽而不レ止則——」。
㊁おふ、（逐）。

【跈】チン。池鄰切 眞
趁に同じ。

【跈】テン、デン。徒典切 銑
さゞまる、（止）。

【跌】チツ。丑律切 質
獸の迹、けものゝあしあと。

【跍】ヘイ、バイ。蒲計切 霽
ける、（蹴）。

【跘】ヘツ、ベチ。蒲結切 屑
足にて撃つ、うつ。

【跡】ツヰ。追萃切 寘
逋に同じ、足前まず。

【跸】フツ、敷勿ホチ。切 物 ヒ。芳未切 未
㊀をごる、（跳）。
㊁急ぎ行く貌にいふ字。

【跉】レイ、リヤウ。呂貞切 庚
——跰は、行く貌にいふ字、又、かたより行く。

【跉】レイ、リヤウ。郎丁切 青
跰に同じ、徐行して正しからざる貌にいふ字。

【跑】ボウ、ム。謨蓬切 東
㊀まへがみ。
㊁草木茂る志げる、おほふ。

【跊】バイ、莫貝メ。切 泰 莫佩切 隊
ふむ、（踐）。

【跊】バツ、マチ。莫撥切 曷
行き過ぐ、すぐ。

【跋】ハツ、バチ。蒲撥切 曷
㊀ふむ。
（い）足を前めて蹴む、前にあるものを蹴む、ふまふ、こゆ。○〔詩〕「狼——二其胡一」。
（ろ）蹊遂（みち）に由らずして行く。○〔詩〕「大夫——渉」。
㊁もと。
（い）把處、にぎり。○〔禮〕「燭不レ見レ——」。
（ろ）基趾、もとゐ。○〔何晏〕「玉鳥承レ——」
㊂足後、くびす。○〔篇海〕「足後爲レ——」
㊃文書の末後に書したる文詞、おくがき。○〔夢溪筆談〕「題——多盈レ軸矣」。
〔跋踄〕 蹴こゆ。○〔李孝光〕「——黃塵下」。
〔䟦跋〕 はせこゆ。○〔何景明〕「頭顱——、而不レ任二其勞一」。

【跛】ハイ。博蓋切 泰
蹞に同じ。

【跛】俗の跛の字。

【跈】テン、デン。徒年切 先

【跲】カフ、ケフ。古狎切 洽
地を踏む聲にいふ字。

【跌】テツ、デチ。徒結切 屑
行く聲にいふ字。

【跌】
㊀こゆ、（越）、すぐ、（過）。○〔公羊〕「肆者何、——也」。
㊁たふる、（仆）、つまづく、（踢）。○〔漢〕「——而不レ振」。
㊂あやまつ、たがふ、（差）。○〔後漢〕「無レ有二差——一」。
㊃檢束なきを、ほしいまゝ。○〔後漢〕「——蕩放言」。
㊄疾く行く、はしろ。○〔淮〕「墨子——跪而趍二千里一」。
〔蹎跌〕 つまづきたふる。○〔荀〕「——碎折不レ待レ頃矣」。
〔蹉跌〕 前に同じ。○〔阮籍〕「——失レ迹」。
〔側跌〕 たふる。○〔易林〕「蹉蹠——」。
〔傾跌〕 前に同じ。○〔李德裕〕「㛊則——」
〔顚跌〕 前に同じ。○〔曾鞏〕「歷二忤大姦、——撼頓至二于七八一」。

【跌】トツ、ドチ。陁沒切 月
足傷く、きづつく。

【跍】コ、ク。苦胡切 虞
蹲る貌にいふ字。

【跎】タ、ダ。徒何切 歌
蹉——は、時を失ふにいふ語、足を失ふにいふ語、たがふ、つまづく。○〔楚辭〕「驥垂二兩耳一兮、中阪蹉——」。

【跑】跎に同じ。

【跟】ビン、ミン。武盡切 軫
獸の蹄甲、ひづめ。

【跟】ビン、ミン。眉貧切 眞

㊁疲れ行く。
㊂行くに跛へて躓る、うづくまる。

【⿰𧾷玉】ギョク、ゴク。虞欲切 沃
行くに正しからず。

【⿰𧾷去】ラ、レ。力者切 馬
身の就かざる貌にいふ字

【⿰𧾷去】キャク、カク。乞約切 藥
行きて進まず、たゞずむ。

【跏】カ、ケ。古牙切 麻
足を屈曲して坐す、あぐらくむ、あぐらかく。○〔婆娑論〕「結―趺‐坐」。

【⿰𧾷乏】ヒョウ、フ。方勇切 腫
反覆す、うらがへる。

【⿰𧾷乏】ハン、ホン。峯范切 范
まつ、〔候〕。

【跐】シ。雌氏切 紙
ふむ、〔蹈〕。○〔列〕「躇‐歩―‐蹈」。

【跐】シ。將此切 紙
行く貌にいふ字。

【跑】ハウ、ベウ。薄交切 肴
足にて地をかく、あがく、もがく。○〔臨安新志〕「是夜二‐虎―レ地作レ穴、泉‐水湧‐出、因號二虎―‐泉一」。

【跑】ハク、ボク。蒲角切 覺　ホク、ボク。滂沃切 沃
㊀蹴る。㊁をどる、〔趵〕。

【⿰𧾷可】カ、ケ。苦下切 馬

跑の字の條を見よ。

【⿰𧾷母】ボウ、モ。莫後切 宥
あしのおほゆび、おほゆび。

【跓】チュ、ヂュ。直主切 麌
足を停む、とゞむ、又、足正しからず、まがる。○〔楚辭〕「―‐竢兮須レ明」。

【跔】ク、コ。恭于切 虞
㊀手足の寒さに凍えかゞみて伸びざるにいふ字、かゞむ。
㊁跣―は、をどる、〔跳‐躍〕、一説に、偏足を擧ぐ、かたあしあぐ、又一説に、はだし、〔跣‐足〕。○〔史〕「跣―科‐頭」。

【跔】ク、コ。顆羽切 麌
趵に同じ、行く貌にいふ字。

【跕】テウ、デフ。他協切 葉
ふむ、〔履〕、一説に、跳りてふむにいふ字、又一説に、輕くふむにいふ字。○〔史〕「女‐子則鳴レ瑟―レ屣」。

【跕】テフ。丁協切 葉
墮落す、おつ、又一説に、徐に行く、ゆく。○〔後漢〕「仰視二飛‐鳥一、―‐―墮二水‐中一」。
〔蹶跕〕すたる。○〔沈遼〕「終‐身欲―‐―」。

【⿰𧾷出】クツ、コチ。九勿切 物
走る貌にいふ字。

【跖】セキ、シャク。之石切 陌
あしのうら、〔足‐下〕。○〔淮〕「善學者、若二齊‐王之食レ雞、必食二其―一」。

〔夷跖〕伯夷と盗跖と。○〔[illegible]〕「―‐―可レ同レ朝」。
〔蹻跖〕莊蹻と盗跖とにてともに古の盗賊のこと。○〔宋□〕「―‐―横‐行」。
〔顏跖〕顏回と盗跖と。○〔皮日休〕「既不レ辨二于―‐―一兮」。

【⿰𧾷尚】タウ、ヂヤウ。直庚切 庚

【⿰𧾷尚】シヤウ、サウ。式亮切 漾
たゞす、〔正〕。○〔周〕「維[illegible]―レ之」。

【⿰𧾷尚】シヤウ、サウ。昌兩切 漾
㊀ふむ、〔蹋〕。㊁けづめ、〔距〕。

【⿰𧾷丘】キウ、ク。丘救切 宥
行く。

【跼】キク、コク。居六切 屋
足。

【跗】フ。風無切 虞
あしのかふ、〔足‐背〕。○〔儀〕「乃屨、綦結二于―一連レ絇」。

【跗】フ、ボ。符遇切 遇
前條の解に同じ、又、柎に通ず、あし、うてな、だい。

【跘】ハン、バン。蒲官切 寒
蹣に同じ。

【跘】ハン、バン。蒲滿切 旱
足を交へて坐す、あぐらかく。

【跙】ショ、ゾ。牀所切 語
行きて進まず、ゆかざる、たちどまる。○〔揚雄〕「四‐馬―‐―」。
〔後跙〕あとしざりす。○〔周邦彥〕「却而―‐―」。

【跙】ショ、ソ。千余切 魚
趄に同じ。

【跙】シヤ、セ。淺野切 馬
蹴―は、足の利なるをあしきこと。

【跙】ショ、ソ。莊助切 御
行くに正しからず、一説に、馬蹄の病。

【跙】シヤ、セ。七夜切 禡
足を斜にして立つ、そばだつ。

【⿰𧾷瓜】クワ、ケ。姑華切 麻
足の理交、すぢ。

【跚】サン。蘇干切 寒
蹣―は、行きて進まず、跛へ行く、ちんばひく、ひよろつく、ゆかざる、たちもとほる。○〔寶泉〕「婆‐娑蹣―」。

【跛】ハ。布火切 哿
正しく行くを得ざるにいふ字、足のまがりて排きたるにいふ字、偏足の廢れたるにいふ字、あしなゆ、あしまがる、ちんばひく、びっこ、あしなへ、ちんば、又、其の不具者。○〔易〕「―能履」。
〔眇跛〕盲者とあしなへと。○〔北〕「路見二―‐―一」。
〔偏跛〕かたあしなへ。○〔管〕「足復―‐―」。
〔蹇跛〕あしなへ。○〔白居易〕「他時―‐―縱‐行」。

【跛】ヒ。彼義切 寘
一偏に任ずるにいふ字、かたくにまかす、かたよる、かたおち。○〔禮〕「立勿レ―」。

【跛】 ハ。傍禾切 歌

人の名。○〔類篇〕「楚有二遠ー一」。

【跜】 ヂ、ニ。女夷切 支

蹍ーは、蚪龍の動く貌にいふ語。○〔李尤〕「萬騎ーー以攫拏」。

【距】 キヨ、ゴ。其呂切 語

㊀鷄などの脛後にある爪、けづめ、かけづめ。○〔左〕「季氏介二其鷄一、郈氏爲二之金ー一」。
㊁到刺、さかはり。○〔增韻〕「刀鋒倒刺皆曰レー」。「海二」。
㊂いたす（致）。○〔書〕「決二九川一ー二四
㊃いたる（至）。○〔莊〕「ーレ陸而止」。
㊄たがふ（違）。○〔書〕「不レー二朕行一」。
㊅あたる（抗）。○〔詩〕「敢ー二大邦一」。
㊆一足正しく前面し其の後に接したる一足正しく側面して矩形をなしたるものにて其の前面したるものの稱。○〔儀〕「ー隨長武」。
㊇をどる（躍）、こゆ（超）。○〔左〕「ー躍三百」。
㊈さゝづ（閉）。○〔漢〕「尤善爲二鉤ー一以得二事情一」。
㊉大いなり。○〔淮〕「蹠ー者擧遠」。
⑪鬢の曲がれる頭。○〔釋名〕「鬢曲頭曰レー」。
⑫拒に通じ用ふ。
（い）よこぎ。○〔儀〕「長皆及二俎ーー一」、
（ろ）ふせぐ。○〔孟〕「ー二楊墨一」。

〔超距〕 をどり越ゆ。○〔史〕「方投レ石ーー」。
〔拔距〕 人連坐して堅く地に據るをぬき取る遊戲。○〔漢〕「投石ーー、絕二于等倫一」。
〔脫距〕 けづめをぬきさる。○〔韓愈〕「或ー二其ー一」。
〔銷距〕 けづめをけすとて兵を用ひざる義にいふ語。○〔史〕「今未レ能二ーー一」。
〔冠距〕 とりのとさかとけづめと。○〔劉𤚥〕「ーーー未レ成」。
〔爪距〕 つめとけづめと。○〔蘇軾〕「ーー漫槎牙」。
〔折距〕 けづめををる。〔易林〕「雞鬭ーレー」。
〔利距〕 するどきけづめ。○〔水經、註〕「ーー善鬭」。
〔長距〕 ながきけづめ。○〔西京雜記〕「ーー善鬭」。
〔觜距〕 くちばしとけづめと。○〔西京賦〕「羽族以二ーー一爲二刀鈹一」。
〔雙距〕 兩足のけづめ。○〔劉楨〕「ーー如二鋒芒一」。
〔筆距〕 筆鋒といふに同じ。○〔石介〕「ーー銛如レ麼」。

【𨀈】 ハ。普火切 哿

あしなへ（跛）。

【跈】

跈に同じ。

【跈】 デイ、ナイ。乃禮切 薺

脚破る、やぶる。

六畫

【跟】 コン。古痕切 元

足後の地に着く處の稱、くびす。○〔後漢〕「跕二焦原一而ー止」。

〔脚跟〕 あしのくびす。○〔朱、疏〕「踵ーーー也」。
〔肩跟〕 かたとくびすと。○〔蘇轍〕「俯仰舉二ーー一」。
〔、跟〕 たちさりたるあし、又、其の者。○〔易林〕「弱足ーー、不レ出二私門一」。

【跠】 イ。延知切 チ、陳尼切 ヂ。 支

うづくまる（踞）。

【跡】 セキ、シャク。資昔切 陌

迹に同じ、あと。○〔劉勰〕「畫レ空而尋レー」。

〔撿跡〕 あとをえらぶ。○〔顏氏家訓〕「ー二ー立身揚名一」。「在焉」。
〔掌跡〕 てのひらのあと。○〔述異記〕「其ーー猶
〔斧跡〕 おのもてきりたるあと。○〔水經、註〕「而ーー若レ新」。
〔蝸跡〕 蝸牛のはひたるあと。○〔酉陽雜俎〕「寢齋壁上ーー成二天字一」。
〔撫跡〕 前人ののこしたるものをなづ。○〔傅亮〕「ーーレ懷レ人」。「ー」。
〔藏跡〕 あとをかくす。○〔王令〕「宙車收レ轍雲ーレ」。
〔潛跡〕 前に同じ。○〔吳筠〕「ーレー依二遠岫一」。
〔去跡〕 たちさりたるあと。○〔劉長卿〕「飛鳥無二ーー一」。
〔萍跡〕 うきくさのあと。○〔車慇〕「十年羈泊如二ーー一」。「ー」。
〔傑跡〕 すぐれたる功業のあと。○〔韋璀〕「大農ーー
〔杖跡〕 つゑのあと。○〔薛能〕「行吟ーー稠」。

【跮】 キヤウ、カウ。曲王切 陽

いそぎ行く、いそぐ。

【跢】 タイ。當蓋切 泰

たふる（倒）、つまづく（蹷）。

【跢】 タ。丁佐切 箇

小兒の行くにいふ字。

【跢】 タ。當何切 歌

幼兒を携へ行くにいふ字。

【跢】 チ。陳知切 支 チツ。陟栗切 質

ー跌は、あしぶみす。

【跣】 セン。蘇典切 銑 ソン。蘇本切 阮

足の掩ふものなく著けたるものなくしてぢきに地に接するを、すあし、はだし。○〔禮〕「雞斯徒ーー」。

〔袒跣〕 はたぬぎとはだしと。○〔白居易〕「ーーー北窗下」。
〔跰跣〕 すあし。○〔後漢〕「寒者ーー」。
〔露跣〕 前に同じ。○〔顏氏家訓〕「皆詣レ闕三日ーー陳謝」。

【跣】 セン。蕭前切 先

蹁ーは、旋行の貌にいふ語、舞ふ容にいふ語。

【跤】 カウ、ケウ。口交切 肴

はぎ（脛）。

【跥】 タ。都果切 哿

行く貌にいふ字。

【跾】 カイ、ガイ。戶代切 隊

急ぎ行く、いそぐ。

【跦】 チユ。陟輸切 虞 チウ、張留切 尤 チユ。切

行く貌にいふ字、跳り行く貌にいふ字。○〔左〕「鸜鵒ーー」。

【跦】 チユ、ヂユ。重株切 虞

蹰に同じ。○〔成公綏〕「蹰ー步趾」。

【跧】 セン。莊緣切 先 シユン。將倫切 眞 ソン。租昆切 元

㊀ふむ、けろ（蹴）。㊁ひくし（卑）。
㊂かゞむ（拳）。㊃はらばふ（匍）。

〔跼跧〕 かゞむ。○〔范成大〕「百日蓬興困二ーー一」。

【跧】 サン、セン。阻頑切 刪

伏す。

【跌】 フク、ボク。房六切 屋

㊀行く貌にいふ字。
㊁手足を屈めて地に伏すにいふ字、ふす。○〔左思〕「魂褫氣懾而自踢ーー者」。

【跌】

匐に同じ。

【跨】クワ、ケ。苦化切〔禡〕
㊀またを張りて其の上を過ぐ、こゆ、わたる、またぐ。〇〔左〕「康王一レ之」。
㊁兩股の間、またぐら、また。〇〔漢〕「出二一下一」。
〔出跨〕またの下をくゞる。〇〔蘇軾〕「一レ一當二俛就一」。
〔飛跨〕とびこゆ。〇〔何遜〕「百丈沓矣以一一」。

【跨】コ、ク。苦故切〔遇〕
またがる。
(い)占據す、よる、うづくまる。〇〔國〕「不レ一二其國一」。
(ろ)またを張りて乘る、のる。〇〔史〕「一二野馬一」。
(は)彼此に亙る、わたる。〇〔後漢〕「飛梁石磴陵二一水道一」。
〔盜跨〕他人の馬などをぬすみのる。〇〔冷齋夜話〕「乃敢一二一吾騾一」。
〔游跨〕あそびつゞく。〇〔陸機〕「一二一三春一」。
〔夸跨〕かねまたがる。〇〔冊子良〕「而境壤一一」。
〔據跨〕馬などにのりまたがる。〇〔花浚〕「一二一八駿騾二東西一」。

【跨】クワ、ケ。苦瓜切〔麻〕
吳の人の坐するにいふ字、すわる、あぐらかく。

【跨】クワ、ケ。苦瓦切〔馬〕
蹡一一は、行きて進まざる貌にいふ語、たちもとほる。

【跨】カイ、ケ。枯買切〔蟹〕
蹡一一は、行く貌にいふ語。

【跭】シヤウ、ザウ。似羊切〔陽〕
趨り行く貌にいふ字。

【跍】クワツ、クワチ。苦括切〔曷〕
ふむ、ける（蹳）。

【跍】キツ、キチ。許吉切〔質〕
行く。

【跦】シユク、ソク。子六切〔屋〕
蹴に同じ。

【跧】ソン、ゾン。徂昆切〔元〕
蹲に同じ、うづくまる（蹾）。

【跗】トウ、ツ。他東切〔東〕
走る貌にいふ字。

【跤】ジヤク、ニヤク。而灼切〔藥〕
足下の文、あしのうらのすぢ。

【跫】ロツ、ロチ。勒沒切〔月〕
一蹝は、進まず、たゆたふ。

【跮】タク、ダク。達各切〔藥〕
蹝に同じ、跣足、はだし、一説に、乍ち進み乍ち卻く。

【跩】セイ、ゼイ。時制切〔霽〕
こゆ（踰）。

【跪】キ。去委切〔紙〕
㊀ひざまづく。
(い)兩膝を地に著けて腰と股とを伸ばしたるにいふ字、ひざつく。〇〔禮〕「授レ立不レ一」。
(ろ)ひざつきて拜禮を行ふにいふ字、をがむ。〇〔十六國春秋〕「爾拜爾一」。
㊁足。〇〔荀〕「蟹六一而二螯」。
〔長跪〕ひざまづく。〇〔蔡邕〕「傳レ餖復一一」。
〔膝跪〕ものをさゝげてひざまづく。〇〔蔡襲〕「環爵一一」。
〔超跪〕たちあがるとひざまづくと。〇〔李孝光〕「一一變化速」。

【跪】キ、ギ。巨委切〔紙〕
ひざまづく（跽）。

【跮】シヤ、セ。充夜切〔禡〕
岐道、えだみち。

【跫】キヨウ、グ。渠容切〔冬〕

【跫】キヨウ、ク。丘勇切〔腫〕
蹋む聲にいふ字、あしおと、一説に、喜ぶ貌にいふ字、又、一説に、行く人の貌にいふ字。〇〔莊〕「聞二人足音一一然而喜矣」。

【跬】キ。丘弭切〔紙〕　クワ、ケ。空媧切〔麻〕
一足を擧ぐるを、かたあし、半歩。〇〔禮〕「故君子一步而不レ忘レ孝」。

【跬】セツ、セチ。先結切〔屑〕
つかる（疲）、一説に、分外に力を用ふる貌にいふ字。〇〔莊〕「敝一譽二無用之言一」。

【跭】カウ、ゴウ。下江切〔江〕
一蹝は、豎立す、たつ、一説に、行きて進まず、たゆたふ。

【跮】チ。丑利切〔寘〕
一蹝は、乍ち前み乍ち退く、たちもとほる、一説に、忿戾す、いかりもとる。〇〔史〕「一一蹝轢轄容以委麗兮」。

【跮】チツ。丑栗切〔質〕　テツ、デチ。徒結切〔屑〕
あしあと（蹠）。

【跧】企に同じ。

【路】ロ、ル。洛故切〔遇〕
㊀みち。
(い)歩み適くべきすぢ。〇〔周〕「掌レ達二天下之道一一」。
(ろ)履み行ふべきすぢ。〇〔孟〕「義者人之正一也」。
(は)由る所、經る所。〇〔司馬遷〕「欲レ陳レ之而未レ有レ一」。
(に)方面。〇〔宋〕「荊湖北一一」。
(ほ)要處。〇〔孟〕「夫子當二一於齊一」。
(へ)條理、すぢ。〇〔玉海〕「有二筆力一有二筆一一」。
㊁おほいなり（大）。〇〔詩〕「厥聲載一」。
㊂王者の車。〇〔詩〕「殊二異乎公一一」。
㊃四面に皮を張りたる鼓。〇〔周〕「以二一鼓一」。
㊄一種の弓。〇〔史〕「一一弓乘矢」。
㊅傾き圮れたるにいふ字、城郭牆垣の頽破したるにいふ字、すたる。〇〔荀〕「田疇穢都邑一」。
㊆暴露するを、奔走するを。〇〔孟〕「是舍二天下一而一也」。
㊇輅に同じ。〇〔禮〕「乘二鸞一一」。
〔徑路〕こみち。〇〔易〕「艮爲レ山、爲二一一」、「爲小石一」。「之一一」。
〔王路〕帝王のおきて。〇〔書〕「無レ有レ作レ惡、遵二一一」。
〔大路〕ひろきみち。〇〔孟〕「夫道如二一一然」。
〔蹊路〕前に同じ。〇〔東都賦〕「披三條之一一」。
〔岐路〕道路にみつ。〇〔詩〕「厥聲一レ一」。
〔塞路〕前に同じ。〇〔漢〕「赭衣一レ一」。
〔盈路〕前に同じ。〇〔漢〕「戴負一一」。

（充路） 前に同じ。〇〔吳〕「姦-宄——」。
（滿路） 前に同じ。〇〔潘岳〕「公-私——」。
（賢路） かしこき者のすゝむみち。〇〔史〕「避二—-者—一」。
（失路） ゆくみちをあやまる、又、かりて出身のみちを失ふにもいふ。〇〔漢〕「—レ—者委二溝壑一」。
（世路） 世の中のこと、又、處世のみち。〇〔南〕「—-—方夷」。
（修路） 遠きみち。〇〔後漢〕「騁二騖騎于—-—一」。
（歧路） ちまた。〇〔後漢〕「楊-朱號二乎—-—一兮、墨-子泣二乎白-絲一」。〔嫌〕。
（街路） 前に同じ。〇〔白居易〕「—-—雖レ長君不レ」。
（讓路） おのれのゆく道を他人にゆづりてさきたたしむること。〇〔魏〕「其俗行者相逢、皆住—レ—」。
（覓路） みちをさがしもとむ。〇〔張謂〕「花-間—レ—鳥先知」。
（分路） みちを別にしてゆくこと。〇〔晉〕「中-丞與二洛-陽令一相遇、則—レ—而行」。
（岐路） えだみち。〇〔列〕「隣-人曰、多二—-—一」。
（客路） たびのみち。〇〔陶翰〕「—-—再經レ春」。
（熟路） なれたるみち。〇〔韓愈〕「若下駟-馬駕二輕-車一就二—-—一、而王-良造-父爲中之先-後上也」。
（通路） とほりみち。〇〔晉〕「北無二—-—一」。
（塗路） 道塗といふに同じ、みち。〇〔楊烱〕「—-—盈二千-里一」。
（直路） まがりなき道。〇〔常建〕「松-杉引二—-—一」。
（迂路） まはりみち。〇〔隋〕「—-—出二賀-蘭-山一」。
（異路） みちをことにす。〇〔詩、傳〕「男-女—レ—」。
（越路） みちをへたつ。〇〔禮〕「從二于先-生一、不二—レ—而與レ人言一」。
（遠路） 九達のみち。〇〔左〕「至二于—-—一」。
（陝路） 廣からざるみち。〇〔張協〕「—-—峭且深」。
（正路） たゞしきみち。〇〔孟〕「義人之—-—也」。
（間路） ちかみち、うらみち。〇〔史〕「從二—-—一絕二其輜重一」。〔看〕。
（開路） みちをあけ通ず。〇〔白居易〕「萬-人—レ—」。〔—一〕。
（遮路） みちをさへぎりおほふ。〇〔後漢〕「—レ—不レ得レ行」。
（險路） けはしきみち。〇〔後漢〕「羣-車方奔二乎—-—一」。
（言路） 建言者のすゝむべきみち。〇〔唐〕「陛-下啓二—-者—一」。
（鑿路） やまさかなどをほりてみちをつくる。〇〔魏〕「又從深二入險-阻一—レ—而前」。

（汲路） 水をくみとるみち。〇〔北〕「絕二其—-—一」。
（還路） かへりみち。〇〔謝靈運〕「—-—已絕」。
（歸路） 前に同じ。〇〔北〕「斷二其—-—一」。
（返路） 前に同じ。〇〔謝朓〕「終知—-—長」。
（要路） 要害にあたるみち。〇〔北〕「皆守二—-—一」。
（船路） ふねの通ずる水路。〇〔北〕「以塞二—-—一」。
（別路） みちをわかちゆく、又、わかれみち。〇〔徐陵〕「朱-鳶—-—遙」。
（行路） みちをあゆみ去る、又、途上を行く他人の義にもいふ。〇〔舊唐〕「皦レ物則骨-肉爲二—-—一」。
（讒路） 讒言のすゝむみち。〇〔唐〕「塞二—-—一」。
（海路） 海上舟船の通ずるみち。〇〔吳均〕「答-言—-—長」。〔之要〕。
（運路） 物をはこぶみち。〇〔宋〕「而眞-州當二—-—一」。
（饋路） 糧食をはこぶみち。〇〔宋〕「時鱗-州—-—猶未レ通」。〔不レ—レ—〕。
（門路） 道路の行く先をたづぬ。〇〔晏子〕「迷者不レ問レ路」。
（平路） 樹の名、又、平坦なる道路。〇〔白虎通〕「賢不-肖位不二相踰一、則—-—生二于庭一」。
（野路） のはらのこみち。〇〔論衡〕「縣-道不レ通二於野一、—-—不レ達二于邑一」。
（細路） ほそみち。〇〔宣和書譜〕「幽-溪—-—」。
（筆路） ふでのつかひぶり。〇〔續書品〕「—-—纖-弱」。
（故路） もとのみち。〇〔魏武帝〕「迷-惑失二—-—一」。
（危路） 危險なるみち。〇〔陸游〕「纔能脫二—-—一」。
（荒路） あれはてたるみち。〇〔王粲〕「悠々涉二—-—一」。
（磧路） いしはらのみち。〇〔鮑昭〕「—-—又羊腸」。
（征路） 旅行の時に往來する道路。〇〔鮑昭〕「鳴-雞戒二—-—一」。「廻細入レ雲」。
（絲路） いとの如き細きみち。〇〔歐陽修〕「—-—縈」。
（邪路） 正しからざるみち、よこみち。〇〔王建〕「—-—一誓不レ奔」。「—一」。
（戎路） いくさぐるま。〇〔唐〕「皆服二金-甲一乘二—-—一」。
（鸞路） 帝王の乘る車の名。〇〔禮〕「左-介乘二—-—一駕二蒼-龍一」。
（御路） 天子の車。〇〔宋之問〕「—-—廻二中-嶽一」。
（朱路） 帝王の乘る車の名、おもに上帝などを祭るときに用ふ。〇〔禮〕「左-王乘二—-—一駕二赤-騮一」。
（玉路） 帝王の乘る車の名。〇〔隋〕「十-二-輅、七日二—-—一」。
（金路） 前に同じ。〇〔舊唐〕「登-封、皇-帝出乘二玉-路一、還乘二—-—一」。

（象路） 前に同じ。〇〔隋〕「十-二-輅、十日二—-—一」。
（革路） 前に同じ、おもに兵を閱する時などに用ふ。〇〔隋〕「十-二-輅、十-一日二—-—一、以巡レ兵郎レ戎」。
（木路） 田獵などの時に王の乘る車。〇〔隋〕「十-二-輅、十-二日二—-—一、以田-獵行二鄉-畿一」。
（篳路） 柴車。〇〔左〕「—-—藍-縷以啓二山-林一」。

【路】 ラク。歷各切 〔藥〕
やらい、（落虎）、なはばり、（維-落）。〇〔漢〕「爾迺虎二—三-嫈一以爲二司-馬一」。

【踈】 ライ、レ。盧對切 〔隊〕
足跌く、つまづく。

【跰】 ハウ、ヒヤウ。北孟切 〔梗〕
散走す、ほとばしる。

【跰】 ヘン、ベン。部田切 〔先〕
胼に同じ。〇〔史〕「歲-星居レ戌、以二四-月一與二奎婁胄昴一晨出、曰二—-踵一」。

【跰】 ヘイ、ヒヤウ。必郢切 〔梗〕
足の立つ貌にいふ字。

【趼】 ケン。輕烟切 ゲン。五堅切 〔先〕 吾甸切 〔霰〕
獸の足の企つにいふ字、つまだつ、一說に、獸の蹄の平かなるにいふ字、たひらか。〇〔爾〕「騉蹄—善陞レ甗」。

【趼】 ケン。古典切 〔銑〕
皮起ころ、おころ又、たこ、（胝）、又、足の指のあかゞり。〇〔莊〕「百-里重—而不レ息」。

【趼】 ケン。經天切 〔先〕
久しく行きて足を傷ぶるにいふ字、いたむ。

【䟓】
趑に同じ。

【跱】 チ、ヂ。直里切 〔紙〕
㊀行きて進まず、たちもとほる、又、止どまる。
㊁そなふ、（具）。〇〔後漢〕「所レ經道-上郡-縣無レ得レ設二儲—一」。

【[illegible]】 ケツ、ケチ。詰結切 〔屑〕
跳る貌にいふ字。

【[illegible]】 シヨウ。之庱切 〔迥〕
あし、（足）。

【跲】 カフ、ケフ。古洽切 〔洽〕
つまづく、（躓）。〇〔禮〕「言前定則不レ—」。

【跲】 ケフ、コフ。居怯切 〔葉〕 キフ。訖立切 〔緝〕
かはる、（代）。

【跳】 テウ、デウ。田聊切 〔蕭〕
㊀躍り上がる、とびあがる、あがる、はぬ、をどる。〇〔莊〕「東-西—-梁」。
㊁をどらしむ、をどらす。〇〔漢〕「—レ身遯者」。
（距跳） けはぬ。〇〔易林〕「—-—爭-鬪」。
（高跳） たかくはねあがる。〇〔杜甫〕「虎-豹—-—以虛-擲」。
（飛跳） とびあがる。〇〔韓愈〕「—-—弄二藩-籬一」。

【跳】 タウ、ドウ。徒刀切 〔豪〕
逃に同じ、のがる。〇〔漢〕「漢-王—」。

【跳】 テウ、デウ。徒了切 〔篠〕
戰ひを挑む、いどむ。

【跳】テウ、デウ。徒弔切〔嘯〕行く貌にいふ字。

【跩】サツ、サチ。姉末切〔曷〕蹩―は、行く貌にいふ語。

【跒】クワ、ケ。古瓦切〔馬〕―踦は、行き跨ぐ貌にいふ語。

【跣】カウ。丘岡切〔陽〕―踔は、足を跡む、ふむ。

【跧】サイ、ザイ。昨宰切〔賄〕あし、（足）。

【跈】カン、ゲン。胡讒切〔咸〕行く貌にいふ字。

【跍】エン。烏玄切〔先〕つまづく、（躓）。○〔王延壽〕「競争レ飲而―馳」。

七畫

【跼】キョク、ゴク。渠玉切〔沃〕體のちゞまりて伸びざるにいふ字、かゞむ、ふす、せまる、せぐくまる。○〔史〕「騏驥之―躅不レ若ニ駑馬之安歩ニ」。

〔跼蹐〕かゞまる。○〔江淹〕「虎――而斂レ歩」。

〔跼蹋〕たちもとほる。○〔沈約〕「咏ニ歸歟ニ而―」「自――」。

〔跼跼〕かゞまりて伸びざること。○〔白居易〕「胡―」。

【跔】ク、ゴ。權倶切〔虞〕跔に同じ、かゞむ。

【跽】キ、ギ。暨几切〔紙〕長く跪く、ひざつく、ひざまづく。○〔史〕「項王按レ劒而―」。

【跾】シュク、ソク。式竹切〔屋〕㊀疾し。㊁長し。

【踌】チウ、チュ。丑鳩切〔尤〕足病む、やむ。

【跿】ト、ヅ。同都切〔虞〕―跔は、跣足、すあし、又、偏足を擧ぐ、かたあしをあぐ、又、跳躍す、をどる。○〔史〕「――跔科頭」。

【跧】セン、ゼン。隨戀切〔霰〕徐かに行く、ゆく。

【踀】シュク、ソク。初六切〔屋〕踧に同じ、齊謹の貌にいふ字、つゝしむ。

【踶】テイ、タイ。他兮切〔齊〕ふむ、（蹋）。

【跙】カン、ガン。下罕切〔旱〕偏足にて立つ、かたよりたつ。

【踁】ケイ、ギヤウ。形定切〔徑〕はぎ、（脛）。

【踁】カウ、キヤウ。丘耕切〔庚〕徑に同じ、石のおと。

【踐】セン。蘇前切〔先〕行く、ありく。

【踓】セン。尸連切〔先〕行く、ありく。

【踣】トン。佗恨切〔願〕ふむ、（蹋）。

【踬】シン。章刃切〔震〕之人切〔眞〕動く、はたらく。

【踂】デフ、チフ。尼輒切〔葉〕兩足の合ひて解けざるにいふ字、もつろ、もつれあし。○〔穀梁〕「兩足不レ能ニ相過一、齊謂ニ之〆、秦一楚謂ニ之――、衞謂ニ之輒ニ」。

【踃】セウ。先彫切〔蕭〕をどる、（跳）、うごく、（動）。○〔揚雄〕「舞節轉曲、――駭態レ聲」。

【踃】セウ。七肖切〔嘯〕足の筋のひきつる病。

【踁】カウ、ガウ。胡郎切〔陽〕カウ、キヤウ。居行切〔庚〕獸のあしあと。

【踈】キウ、グ。巨鳩切〔尤〕ふむ、（蹋）。

【踋】サ、ザ。祖臥切〔箇〕㊀詐り拜すること。㊁甲冑を著けたる士の拜すること。㊂躐―は、路を失ふ、ふみまよふ。

【踄】ハク、バク。旁各切〔藥〕ホ、ブ。蒲故切〔遇〕

【踥】テイ。丑例切〔霽〕ふむ、（蹈）。

【踥】ケイ。去例切〔霽〕をどる、（躍）、こゆ、（踰）。

【踶】テイ。丑例切〔霽〕あしなへ、（跛）。

【踕】セツ、ゼチ。似絶切〔屑〕一足にて行く。

【跻】キ、ギ。渠龜切〔支〕旋り倒る、たふる。

【踍】シン、ジン。鋤簪切〔侵〕㊀脛の肉。㊁曲がれる脛。㊂つまづく、（踕）。

【踆】シュン。七倫切〔眞〕蹏の蹟に水の停どまりたるにいふ字、たまりみづ。

【踆】ソン、ゾン。徂昆切〔元〕㊀竣に同じ、とゞまる、ふす、ゐりぞく、ゐざる。○〔張衡〕「已レ事而―」。㊁大いなる雀の容にいふ字。○〔張衡〕「大雀――」。

【踆】ソン。祖昆切〔元〕足を以て逆へ蹋む、ふむ。○〔公羊〕「祁彌明逆而―レ之」。

【踤】レツ、レチ。力輟切〔屑〕蹲に同じ、うづくまる。○〔莊〕「帥ニ弟子ニ而―ニ於穀水ニ」。

㊁蹶ーは、跳る貌にいふ語。
㊂こゆ、(踰)。

【⿰𧾷豆】トウ、ツ。當侯切 尤
跣く。

【⿰𧾷那】ダ、ナ。囊何切 歌
跣く。

【踇】ボウ、ム。莫厚切 有
行く貌にいふ字。

【⿰𧾷貝】ハイ。博蓋切 泰
㊀ふむ、(跋)、こゆ、(躐)。
㊁急ぎ行く貌にいふ字。

【⿰𧾷貝】ハイ、バイ。蒲蓋切 泰
蹞ーは、歩行正しからず。

【⿰𧾷余】ト、ヅ。徒故切 遇
足に履を穿たざるを、すあし。

【⿰𧾷余】タ、テ。宅下切 馬
行きて進まず、たちもとほる。

【⿰𧾷武】ブ、モ。罔甫切 麌
あしあと、(跡)。

【⿰𧾷見】ケン、ゲン。吾甸切 霰
行くを正しからず。

【⿰𧾷呈】テイ、チヤウ。馳貞切 庚
みちのり、(行-期)。

【⿰𧾷呈】ケイ、ギヤウ。形定切 徑
脛に同じ。

【踉】リヤウ、ラウ。呂張切 陽
をどる、(跳)。○〔莊〕「跳ニー乎井-幹之上ニ」。

【踉】ラウ。魯當切 陽 郎宕切 養
ー蹡は、行かんと欲する貌にいふ語、遽て行く貌にいふ語。

【踉】リヤウ、ラウ。力讓切 漾
ー蹡は、行くを迅からざるにいふ語、おそし。○〔潘岳〕「ー蹡而徐來」。

【⿰𧾷甫】ホ、フ。普胡切 麌
馬のふみたるあと、うまのあしあと。

【踊】ヨウ、ユ。余隴切 腫
㊀をどる。
(い)跳躍す、とびあがる、はねあがる。○〔詩〕「ー-躍用レ兵」。
(ろ)足を擧げ踏む、まひをどる。○〔揚炎〕「千人ー萬人賀」。
㊁あがる、のぼる、(上)。○〔公羊〕「ーニ于棓ニ而闚レ客」。
㊂刖られたる者の履。○〔左〕「屨賤ー貴」。
㊃あらかじめ、(豫)、すべて、(渾)。○〔公羊〕「晉之不レ言ニ出-入ー者、ー爲ニ文公ニ諱也」。
〔曲踊〕跳る。○〔左〕「ーー三百」。
〔獵踊〕をどりあがる、又、物價のたかくなるに用ふる語。○〔漢〕「穀粲ーー」。
〔辟踊〕かなしみてむねを拊ちをどりあがる。○〔禮〕「ーー哀之至也」。
〔袒踊〕はだをあらはしてをどりあがる。○〔隋〕「雖レ無ニ被-髮ーー、亦知ニ號-泣ニ」。
〔憤踊〕いかりてをどりあがる。○〔後漢〕「宿聞咸「ーー」。
〔號踊〕なきさけびてをどりあがる。○〔後漢〕「晝夜ーー不レ絶レ聲」。
〔喜踊〕よろこびてをどりはぬ。○〔呉〕「六宙ーー」。
〔抃踊〕拍手してよろこびをどる。○〔南〕「億兆ー「ー」。
〔飛踊〕とびはぬ。○〔陽〕「ーー超ニ敵-倫ニ」。

【⿰𧾷齊】キ。詰利切 寘
ふむ、(躋)。

【⿰𧾷兌】エツ、エチ。弋雪切 屑
楚(いばら)を歩む、ふむ。

【⿰𧾷告】テツ、デチ。徒結切 屑
あし、(足)。

【⿰𧾷乍】テウ、デウ。徒聊切 蕭
をどる、(跳-踉)。

八畫

【⿰𧾷府】俗の跗の字。

【踏】タフ、トフ。他合切 合
ふむ。
(い)足をあげ地に著く。○〔誠齊雜記〕「握レ臂遅ー」。
(ろ)物を足下におさふ、ふまふ、ふみつく。○〔汎池筆記〕「以レ足ーニ其頭ニ」。
(は)歩む。○〔書繼〕「ーレ青拾レ翠」。
(に)行く。○〔蔡邕〕「登ニー丹-墀ニ」。
〔蹴踏〕ふみつく。○〔杜甫〕「霜-蹄ーー長-楸間」。
〔踐踏〕前に同じ。○〔南〕「ーニー肴-饌ニ」。
〔騰踏〕たかくのぼりゆく。○〔蘇舜欽〕「煙-雲ーー去」。
〔勘踏〕検査のため實地をふむ。○〔元〕「不ニ以レ時ーーニ」。
〔扶踏〕手をとりたすけてあゆむ。○〔顧況〕「美-人ーー金-階月」。
〔亂踏〕はゞからずふみつく。○〔韓翃〕「紅-蹄ーー春-城雪」。

【⿰𧾷亞】ア、エ。倚下切 馬
行くを正しからざる貌にいふ字。

【⿰𧾷亞】ア、エ。於加切 麻
岐道、ふたまたみち。

【⿰𧾷叕】テツ、テチ。陟劣切 屑
をどる、(跳)。

【⿰𧾷叕】ケツ、ケチ。紀劣切 屑　テイ、テ。株衛切 霽
小しく跳る、こをどりす。

【⿰𧾷彔】ロク。盧谷切 屋　リヨク、ロク。龍玉切 沃
蹗に同じ、行く貌にいふ字、一説に、つつしむ、(恭)。

【⿰𧾷尚】シヤウ。齒兩切 養
うづくまる、(踞)。

【⿰𧾷直】チ、ヂ。直吏切 寘
立つ。

【踐】セン、ゼン。才線切 霰
㊀ふむ。
(い)履行す、ふみおこなふ。○〔禮〕「修レ身ーレ言」。
(ろ)足下に藉く、足下に抑ふ、ふみしく、ふみつく。○〔禮〕「毋レー履」。
(は)行く、歩む。○〔漢〕「深ーニ戎-馬之地ニ」。
(に)居る、登る。○〔鍾會〕「受レ命ーレ祚」。
㊁つらなる、(列)、又、つらなれる貌にいふ字。○〔詩〕「籩-豆有レー」。
〔徒踐〕はだし。○〔漢〕「或被-髮ーー」。

〔踐踐〕ふみかさなる。〇〔漢〕「餘騎相——爭二項王一」。
〔履踐〕ふむ。〇〔白虎通〕「可二——而行一」。
〔蹂踐〕ふみにじる。〇〔蜀、註〕「自相——」。
〔蹈踐〕前に同じ。〇〔魏收〕「劍騎之所二——一」。
〔騰踐〕のぼりふむ。〇〔後漢〕「走者相——」。
〔升踐〕たかきところにのぼり進む。〇〔後漢〕「——陛防一」。
〔登踐〕前に同じ。〇〔謝惠連〕「高・聚——」。
〔侵踐〕みだりに進みをかしてふみつく。〇〔北〕「不ㇾ得二——一」。
〔實踐〕眞正に行ふ。〇〔宋〕「眞見二——一」。
〔眞踐〕前に同じ。〇〔宋〕「故其學一以二——一實・履・爲ㇾ尙」。

【踐】セン、ゼン。慈演切　銑
㊀前條に同じ。
㊁善に同じ。〇〔禮〕「日而行ㇾ事則必——ㇾ之」。
㊂翦に通じ用ふ、きる。〇〔周〕「不ㇾ——二其類一也」。

【踑】キ、ギ。渠之切　支
迹に馴ふ、したがふ、ふむ。

【踑】キ、ギ。巨几切　紙
なげずわり、（長・踞）。〇〔劉伶〕「奮ㇾ髯——踞」。

【踛】ロツ、ロチ。勒沒切　月
——跺は、行きて進まず、たちもとほる。

【踜】レイ、ライ。郎計切　霽
ちんばひく。

【踒】ワ。烏禾切　歌　烏臥切　箇
つまづく、（跌）。

【踓】井。邕危切　支
足を折る。

【踒】ズ井。儒隹切　支
踊——は、兩足にて蹋む、ふむ、又、蹩は兩足にてふむより蹩の名をなす。

【踆】エン。以冉切　琰
疾く行く、疾く趨る、はしる。

【踓】井。以水切　紙
進に同じ、狂ひ走る、はしる。

【踧】シユク、ソク。七六切　屋
ふむ、（蹴）。

【踞】ク、コ。恭于切　虞
ひえかゞまる、（跔）。

【踔】タウ、テウ。丑教切　效
㊀はしる、（走）。〇〔漢〕「——天・蟜」。
㊁こゆ、（踰）。〇〔後漢〕「——二宇宙一而遺ㇾ俗兮」。
〔勇踔〕いさみ走る。〇〔釋道澄〕「不・隨・違——一」。
〔超踔〕たけく走る。〇〔何景明〕「衆——而便・捷兮」。

【踔】テウ。他弔切　嘯
懸投す、なげはなす。〇〔史〕「——二稀閉一」。

【踔】タク、トク。敕角切　覺
㊀はるか、（高・遠）。〇〔史〕「上谷至二遼東一——遠」。
㊁はるかに勝る、すぐる。〇〔漢〕「非ㇾ有二——絕之能一」。
㊂特止す、ひとりとゞまる、ひとりたつ。

〔踸踔〕（い）跛者の行く貌にいふ語。〇〔莊〕「吾以二一足一——而行」。「——而日卽」。
（ろ）遙かに昇ずる貌にいふ語。〇〔楚辭〕「馬・蘭——」
（は）常なし、定まらず。〇〔陸機〕「故——二於短・韻一」。
〔跉踔〕かたあしにて行く貌にいふ語。〇〔莊〕「吾以二一足一——而行」
〔卓踔〕高遠の貌にいふ語。〇〔李漢〕「汗・瀾——」。

【踔】テウ、デウ。徒了切　篠
路遠し。

【踔】テウ、デウ　徒弔切　嘯
遠く騰がる貌にいふ字。

【踔】チヤク。勅略切　藥
略——は、行く貌にいふ語。

【踕】セフ、ゼフ。疾葉切　葉
㊀足疾し。
㊁行く貌にいふ字。
㊂躞に同じ。

【踽】リヤウ、ラウ。良蔣切　養
うづくまる、（踞）。

【踖】セキ、シヤク。資昔切　陌
㊀長き脛にて行く、ゆく。
㊁踧——は、恭敬の貌にいふ語、うやうやし。〇〔論〕「踧——如」。
㊂さし、（敏）。〇〔詩〕「執ㇾ爨——」。
㊃ふむ、（躐）。〇〔禮〕「毋ㇾ——ㇾ席」。

【踖】シヤク、サク。七雀切　藥
㊀はす、（駁）又、行く貌にいふ字。
㊁——陵は、地の名。

【踐】テン。他典切　銑
行く迹、あと、又、行く貌にいふ字。

【踼】トク。多則切　職
行く貌にいふ字。

【踗】テフ、子フ。諾叶切　葉
行くを輕し。

【踨】
蹤に同じ。

【踘】キク、コク。居六切　屋
㊀ふむ、（蹋）。
㊁けまり、（鞠）。

【踙】チヨク、トク。丑玉切　沃
はしる、（走）。

【踢】タク、トク。竹角切　覺
なごる、（跳）。

【踘】シヨ、ソ。壯所切　語
馬の足の病。

【踠】コン。苦本切　阮
㊀ちもやけあし、（瘃足）
㊁あしあと、（迹）。

【踚】アフ、烏合　合　ヲフ、烏洽　洽
オフ。切　エフ。切
ちんば、（跛・病）。

【踢】チヤウ、ヂヤウ。直良切　陽
ひざまづきて拜す、ひざまづく。〇〔揚雄〕「跪謂二之——蹬一」。

【踚】リン。力迍切　眞
行く。

【踚】ロン。盧昆切　元
行く貌にいふ字。

【踀】クツ、コチ。九勿切 [物]
㊀膂力、ちから。㊁威力、いきほひ。㊂足の力強し、ふみはる力多し。

【踛】リク、ロク。力竹切 [屋]
足を翹げて跳る、あぐ、をどる、はぬ。○〔郭璞〕「蘡‐踶踛ニ於夕‐陽ニ」。

【踜】ロウ。魯鄧切 [徑]
――蹬は、行く貌にいふ語、又、馬の病。

【踜】ロウ。盧登切 [蒸]
㊀つまづく(蹶)。㊁――騰は、行く貌にいふ語。

【踜】チョウ、トウ。丑拯切 [迥]
止どまる。

【跰】
跰に同じ。

【踕】トツ、トチ。他骨切 [月]
㊀踬――は、行きて進まず。㊁ふむ(蹂)。

【𨂡】クワン、グワン。胡玩切 [翰]
㊀のがる(逃)。㊁たがふ(迭)。㊂めぐる(轉)。㊃あゆむ(步)。

【踝】クワ、ゲ。胡瓦切 [馬]
㊀脛の下部の内外に骨の高くあらはれたる處、くるぶし。○〔急就篇、註〕「―足之外也」。㊁くびす(跟)。○〔禮〕「負‐繩及レ―」。㊂堅き貌にいふ字、又、單獨なること。○〔釋名〕「其形――然」。
〔兩踝〕兩足のくびす。○〔晁補之〕「暫出刜ニ――ニ」。
〔沒踝〕くびすをかくす。○〔袁桷〕「重‐車――路莫レ尋」。

【踞】キョ、コ。居御切 [御] 斤於切 [魚]
㊀うづくまる。(い)膝をたてゝ坐す。○〔大戴禮〕「獨‐處而―」。(ろ)占坐す、よる。○〔左〕「皆―レ轉而鼓レ琴」。(は)獸の前足を直立して坐するにいふ字。○〔西京雜記〕「龍盤虎―」。㊁こしをかけ垂れたる足を地に著けて企てざるにいふ字、こしかく、かく。○〔漢〕「沛‐公方―レ牀」。
〔箕踞〕兩足をひろげのべて坐す。○〔韓〕「――以罵」。
〔夷踞〕前に同じ。○〔後漢〕「衆皆――相對」。
〔蹲踞〕うづくまる。○〔晉〕「――齧ニ胡‐餅ニ」。
〔虎踞〕とらの如くにうづくまる。○〔續博物志〕「其人――而麿‐趾‐地」。
〔盤踞〕わだかまる。○〔杜甫〕「落‐々――雖レ得レ

【𨁝】ヒ、ビ。扶沸切 [未]
あしきる、刖。○〔書〕「―罰五‐百」。

【踿】
蹝の古字、あしのはら。○〔漢〕「又著ニ――鰲ニ」。

【踟】チ、ヂ。直離切 [支]
――蹰は、行きて進まず、たちもとほる。○〔詩〕「搔レ首――蹰」。

【踠】エン、ヲン。委遠切 [阮]
體を屈む、かゞまる、かゞむ。○〔後漢〕「馬―ニ餘‐足ニ」。

【踠】ヲ。烏臥切 [箇]
踒に同じ、つまづく。

【踡】ケン、ゴン。巨員切 [先]
――跼は、伸びず、かゞまる、せぐくまる。○〔淮〕「――跼而諦、通‐夕不レ寐」。

【踢】テキ、チヤク。他歷切 [錫]
蹏――は、獸の名。

【踼】シヤク、サク。式灼切 チヤク。勅略切 [藥]
急遽なる貌にいふ字、驚動する貌にいふ字、あわたゞし。○〔漢〕「河‐靈矍‐―」。

【踣】ホク、ボク。蒲北切 [屋] ハイ、ベ。蒲枚切 〔仄〕 ホウ、ブ。蒲候切 [宥]
たふる、たふす(僵)。○〔周〕「凡殺レ人者、―ニ諸市ニ、肆レ之三‐日ニ」。
〔顚踣〕たふる。○〔北〕「無レ不ニ――ニ」。
〔僵踣〕前に同じ。○〔柳宗元〕「民‐氣不レ舒兮――頭‐頹」。
〔斃踣〕前に同じ。○〔司馬光〕「隕‐越――」。
〔躓踣〕つまづきたふる。○〔柳宗元〕「蹉‐行‐々ニ――兮」。

【踣】ホウ、フ。匹候切 [宥] フ、ホ。芳遇切 [遇]
仆に同じ。○〔莊〕「申‐徒‐狄因以―レ河」。

【踤】ソツ、ゾチ。昨沒切 [月]
ふる(觸)。○〔漢〕「帥レ軍―レ法」。

【踤】ソツ、ソチ。蒼沒切 [月]
猝に同じ、にはか。

【踤】スヰ、ズヰ。秦醉切 [寘]
あつまる(集)。○〔揚雄〕「鸞―ニ於林ニ」。

【踤】シユツ、ジユチ。慈䘏切 [質]
㊀おごろく(駭)。㊁おごろき踏む、ふむ。㊂くだく(摧)。

【𨁊】ヒ。補弭切 [紙]
髀に同じ、ふともゝ。

【𨁊】ハイ、ベ。薄佳切 [佳]
蹟――は、行き戻る、めぐりもとほる。

【𨁊】ヘン、ベン。蒲眠切 [先]
下廣し、ひろし。

【𨁊】ヒ、ビ。部弭切 [紙]
形の下の大いなるにいふ字。

【𨃙】ホウ、ボウ。蒲登切 [蒸]
走る。

【跱】チ、ヂ。直里切 [紙]
進み難し、かたし。

【踥】セフ、ソフ。七接切 [葉]
行く貌にいふ字、往來する貌にいふ字。○〔楚辭〕「衆―‐蹀而日進兮」。

【踦】キ。去奇切 [支]
㊀一足を缺くこと、片脚癈へたること、肢體の不具なること、あしなへ、ちんば、かたは、又、其のもの。○〔易林〕「兔跛鹿―」。
㊁偶はざること、偶はざるもの、ひとつ、かたし、かたわれ。○〔漢〕「亦狀ニ以復ニ鴈‐門之―ニ」。
㊂さがし、けはし、崎に同じ。○〔左〕「山‐阜猥‐積而―‐嶇」。
〔跐踦〕かたあしなへ。○〔淮〕「菅‐蒯――」。

【踦】キ、ギ。巨綺切 [紙]
足の脛、はぎ。○[爾]「左白—」。
(長踦) あしたかぐもの異名。○[爾、註]「小鼃・鼃長・脚者、一名蠨蛸、一名—々」。

【踦】キ。居綺切　イ。於義切 [寘]
㊀—閭は、門の一扇を閉ぢ一扇を開き一人門外に在り一人門内に在ること。○[公羊]「相與—閭而語」。
㊁よる、(倚)。○[韓]「强弱相—」。

【踦】ギ。語綺切 [紙]
ふる、(觸)、さす、(刺)。○[莊]「膝之所レ—」。

【踦】キ。居宜切 [支]
羇に同じ、旅寓。

【踧】テキ、ヂヤク。徒歷切 [錫]
平かにして行くに易し、たひらか、やすし。○[詩]「—々周道」。

【踧】シユク、ソク。子六切 [屋]
㊀踖の字の條を見よ。
㊁蹙に同じ。○[後漢]「黄門從官騶踧二—蕃一」。
(窘踧) 困窮す。○[晉]「公私—々」。
(蹁踧) ゆきつまる、又、ふむ、又、聚まる貌にいふ語。○[馬融]「—々攢仄」。
(踖踧) 行歩謹敬の貌にいふ語。○[文同]「行歩毎—々」。
(驪踧) おひつめる。○[孫綽]「頓二—一於窒荒之地一」。

【跡】ヘツ、ヘチ。必結切 [屑]
たどる、(跳)。

【蹄】テイ、タイ。典禮切 [薺]

行く。

【踩】キ、其規切 ギ。 [支]　レツ、力輟切 レチ。 [屑]
たどる、(跳)。

九畫

【踫】ハン、ベン。白銜切 [咸]
かちわたる、わたる、(涉)。

【踸】タン、テン。他晏切 [諫]
蹇—は、行く能はざると、こしぬけ。

【踰】ユ。容朱切 [虞]
㊀こゆ、こす。
(い)すぐ、(過)。○[淮]「志之所レ在—二于千里一」。
(ろ)わたる、(度)。○[左]「士—レ月外姻至」。
(は)のぼる、(驀)。○[素問]「—レ垣上レ屋」。
(に)跳る。○[張衡]「超—跳躍」。
(ほ)犯す。○[左]「以レ禮防レ民、猶或—レ之」。
㊁ますます、いよいよ。○[淮]「亂乃—甚」。
(竊踰) まのびやかに越ゆ。○[晉]「慕毋疾篤、乃—々汶氏城而徙還」。
(遠踰) はるかにすゝみこゆ。○[宋]「當年—々于兄一」。
(升踰) たかきをのぼりこゆ。○[論衡]「乃能—々」。

【踰】エウ。餘招切 [蕭]　チユ、椿俱切 [虞]
はるか、(遙)。

【踰】ユ。勇主切 [麌]
瘉に同じ。

【踱】タク、ダク。徒落切 [藥]
跣足にて地を蹋む、ふむ。

【踱】チヤク。勅略切 [藥]
躇に同じ。

【蹃】カ、ゲ。胡加切 [麻]
㊀足の履む所、あしあと。㊁脚の下。

【踤】ソウ、ス。側侯切 [宥]
ふむ、(蹋)。

【踀】ショク、シキ。子力切 [職]
せまる、(迫)。

【䠍】アク、オク。乙角切 [覺]
—蹢は、せまる、(迫)、一説に、小さき貌にいふ語。

【踲】
遯に同じ。

【𤼲】ブ、ム。亡遇切 [遇]
ひざまづく、(跪)。

【踳】シユン。尺尹切 [軫]
—駮は、そむく、(乖)、たがふ、(舛)、又、色雜りて同じからざるを、まだら。○[孝序]「—駮尤甚」。

【踳】セン。尺兗切 [銑]
舛に同じ。

【踴】
俗の踊の字。

【躓】チ。陟利切 [寘]
㊀ふむ、(蹋)。㊁つまづく、(跲)。

【踵】ショウ、シユ。之隴切 [腫]
㊀追後、脚跟、くびす、きびす、かゝと。○[莊]「汗流至レ—」。
㊁車後の軫を承くるもの。○[禮]「車輪曳レ—」。
㊂歩處、あと。○[左、註]「躡二楚—跡一」。
㊃ふむ。
(い)あとを追ふ。○[左]「吳—レ楚」。
(ろ)くびすを著く。○[魏收]「踊—而不レ驚」。
㊄いたる、(至)。○[孟]「—レ門而告二文公一」。
㊅よる、(因)。○[漢]「—レ秦而置二材官於軍國一」。
㊆つぐ。
(い)つゞく、(接)。○[漢]「—レ軍數十萬」。
(ろ)うく、(繼)。○[屈平]「及二前王之—武一」。
㊇しきりに、(頻)。○[莊]「—見二仲尼一」。
(繼踵) あとをつぐ。○[史]「言二從衡一者—レ—」。
(企踵) くびすをたつ。○[漢]「延レ頸—レ—」。
(還踵) くびすをめぐらす。○[漢]「不レ得レ—レ—而身爲レ禽」。
(集踵) 猿のあしの如くにたつ。○[高唐賦]「———漫衍」。
(踏踵) ふむ。○[張説]「椿褻迩—々」。
(擧踵) 足をあげてあゆむ。○[魏、註]「—レ—來附」。
(接踵) くびすをつらぬとて人の前レ相つぎすゝむにいふ語。○沈炯「英傑—レ—」。
(比踵) 前に同じ。○[皇甫湜]「文人—レ—」。

【蹱】ショウ、シユ。朱用切 [宋]
躘—は、行くを能はざる貌にいふ語。

【䠩】キ、ギ。其季切 [寘]
あし、(足)。

【䠩】キ、ギ。渠龜切 [支]
脛の肉、一説に、曲がれる脛。

【踶】テイ、ダイ。特計切 [霽]
ふむ、(蹋)、特に、小しくふむにいふ字。○[莊]「怒則分レ背相—」。

【踶】デイ、ダイ。田黎切 齊
蹏に同じ、獸の足。
【踶】チ。池爾切 紙
——跂は、力を用ふる貌にいふ語。○[莊]「——跂爲レ義」。
【踶】シ、ジ。上紙切 紙
牛の足を展ぶるにいふ字、のぶ。
【踻】髂に同じ、こしの骨。
【踽】キウ、ク。丘謬切 宥
蚪——は、行くこと正しからず。
【踾】ケキ、キヤク。苦鶪切 錫
うづくまる（踞）。
【踸】キウ、ク。丘救切 宥 ギウ、グ。牛救切 宥
跛行す、ちんばひく。
【踼】ケキ、キヤク。弃役切 陌
踧——は、屈申する貌にいふ語、のびかがみ。
【踷】タ、テ。展賈切 馬
なゝめに行く貌にいふ字。
【踹】テン。寵戀切 霰
行く。
【踸】チン。丑甚切 寢 切 癡林 侵
タン、テン。丑減切 豏
——踔は、(い)跛者の行く貌にいふ語、乍ち前み乍ち退くにいふ語、行きて進まざる貌にいふ語。〔[劉禹錫]「褱何罪而——踔」。(ろ)定まりなきこと、常なきこと。○[陸機]「故——于踔於短韻二」。(は)暴かに長ずる貌にいふ語。○[楚辭]「馬蘭——踔而日加」。

【踹】セン、ゼン。市兗切 銑 タン。都玩切 翰
くびす（跟）、又、ふむ（蹀）。○[淮]「——レ足而怒」。
【踺】タツ、タチ。他達切 曷
躂に同じ、跌く。
【踺】ケン、ゴン。渠建切 願
行く貌にいふ字。
【踻】クワ、ケ。古華切 麻
足の理文、すぢ、あや。
【踻】タ、ダ。徒禾切 歌
蝬——は、行き踏む貌にいふ語。
【跬】キ。丘弭切 紙
足を開く、ひらく。○[張衡]「——踽盤桓」。
【踓】ケイ、ケ。傾畦切 齊 ギ。五委切 紙
——踽は、物を搏つ貌にいふ語。
【踼】タウ、ダウ。徒郎切 陽 徒浪切 漾
頓き伏す、倒れて地を搶く、ふす、つまづく、たふる。○[左思]「魂褫氣懾而自——跌者」。

【踼】タウ。吐郎切 陽
跌——は、行くこと正しからず。
【踼】タウ。坦朗切 養
足を申べて伏臥す、ふす。
【踑】コ、グ。洪孤切 虞
膝を屈む、かゞむ。
【蹳】ハツ、ハチ。普活切 曷
足を以て草を蹋み夷ぐるにいふ字、ふみしく。
【踬】ガン、ゲン。語限切 潸
あと（跡）。
【踱】タク。他各切 藥
ゆるむ（弛）。
【踩】サイ。千來切 灰
急ぎ行く貌にいふ字。
【踃】シウ、シユ。雌由切 尤
㊀趙に同じ、行く貌にいふ字。㊁ふむ（藉）。
【蹙】シユク、ソク。七六切 屋
せまる（迫）。
【踳】トク、ドク。徒沃切 沃
行くこと正しからず。
【蹁】ヘン、ベン。毘連切 先
行く貌にいふ字。
【踶】テイ。丑例切 霽

【踴】コン。胡困切 願
趨に同じ、こゆ、すぐ、わたる。
行く、ありく。
【踽】ク、コ。驅雨切 麌
まばらになりて行く貌にいふ字、獨り行く貌にいふ字、親しき者なき貌にいふ字。○[詩]「獨行——」。
【踾】フク、ホク。方六切 屋
——踧は、聚まる貌にいふ語。○[馬融]「——踧攢仄」。
【踾】ヒヨク、ヒキ。筆力切 職
㊀——踧は、行き迫る、せまる。㊁地を踏む聲にいふ字。㊂ふむ（踏）。
【踧】シユク、ソク。子六切 屋
せまる（迫）、ちかし（近）。
【蹀】テフ、デフ。徒協切 葉
㊀ふむ（蹈）。○[淮]「足——二陽阿之舞一」。㊁行く貌にいふ字。○[楚辭]「衆踥——而日進兮」。
「上」。
（踥蹀）行く貌にいふ語。○[卓文君]「——御溝上」。
（蹀々）あゆむ貌にいふ語。○[范成大]「——恐顚墜二」。
（跌蹀）ふみつく。○[王源]「幾經——進邊壘」。
（騰蹀）のぼりゆく。○[王安石]「足駿方——」。
【蹁】ヘン、ベン。部田切 ヘン。布懸切 先
㊀歩行の正しからざること、ちどりあし、一說に、後足を拖く馬。○[晉]「可下聽二——輮一則駃上」。㊁——躚は、旋り行く貌にいふ語、舞ふ貌にいふ語。○[張衡]「蹴蹐——躚」。

㊂膝頭、ひざがしら。〇〔釋名〕「膝頭曰レ膞或曰レ―」。

【蹂】ジウ、ニユ。人又切　宥
疾く踐む、ふみにじる、ふみあらす、ふみしく、ふむ。〇〔史〕「餘騎相―踐」。
〔馳蹂〕馬をはせふみにじる。〇〔史〕「則候二秋熟一、以騎―二―而稼穡一耳」。
〔蹂蹂〕穀薬などを刈りとりふみつく。〇〔書〕「則劫執―・―恣レ所レ欲レ得」。
〔殘蹂〕そこねあらす。〇〔宋〕「經賊―・―二」。
〔踐蹂〕ふみつく。〇〔梅堯臣〕「芒縷資二―・―一」。
〔攻蹂〕せめあらす。〇〔宋〕「羣盜―・―無二全城一」。

【蹂】ジウ、ニユ。耳由切　尤
米を水に潤し踐むにいふ字、一説に、禾を踐みて穀を取るにいふ字。〇〔詩〕「或簸或―」。

【踖】ザヤク、ニヤク。女略切　藥
ダク、ニヤク。女白切　陌
足を蹈む貌にいふ字。

【踖】ジヤク、ニヤク。日灼切　藥
蹂む。

【踖】ジヤ、ゼ。爾者切　馬
蹠―は、小兒の始めて行く貌にいふ語。

【跰】ヘイ、ビヤウ。滂丁切　青
跉―は、行く貌にいふ語。

【踨】ソウ、ス。麤叢切　東
蹗―は、遽に行く、あわてゆく。

【蹅】サフ、セフ。測洽切　洽

足の動く貌にいふ字。

【蹄】テイ、ダイ。田黎切　齊
獸の足、あし、ひづめ。〇〔儀〕「其實特―豚、四鬄去レ―」。
〔馬蹄〕うまのひづめ。〇〔爾、疏〕「葉似レ葵、形如二―・―一」「而祝日」。
〔豚蹄〕ぶたのあし。〇〔史〕「操二―・―酒一盂一」。
〔駝蹄〕駱駝のあし。〇〔杜甫〕「勸レ客―・―羹」。
〔輪蹄〕車と馬と。〇〔歐陽修〕「擾々馳二―・―一」。〇
〔圓蹄〕圓蹄といふに同じ、まるがたのひづめ。〇〔西涼武昭王〕「一角―・―」。
〔枝蹄〕ひづめの牛の如くわかれたるもの。〇〔爾〕「騉・駼―・―」。
〔侯蹄〕あしなみをそろへること。〇〔穀梁〕「馬―・―闕二」。
〔□蹄〕やせ馬のあし。〇〔宋无〕「―・―生入二玉門一」。
〔躍蹄〕馬をはす。〇〔賈島〕「―レ―歸レ舂日」。

【蹄】テイ、ダイ。大計切　霽
ふむ、（躗）。

【蹝】躧に同じ、あしあと。

【踰】スヰ。雖遂切　寘
ふかし、（深）。

【踱】タク、チヤク。丑略切　藥
かちわたり、（行・涉）。

十畫

【蹉】タ、デ。直加切　麻
―跱は、行きて進み難き貌にいふ語、たゞずむ。

【蹞】趨に同じ。

【蹞】ギウ、ギユ。牛幼切　宥

跛行す、ちんばひく。

【踧】チク、トク。救六切　キク、コク。許六切　屋
あし、（足）。

【蹅】クワ、ケ。苦化切　禡
うづくまる、（踞）。

【蹁】ヘイ、ハイ。匹詣切　霽　篇迷切　齊
㊀ちんば、（踦）。㊁そろふ、（偶）。

【蹆】腿に同じ。

【蹡】ハウ、バウ。歩光切　陽　蒲浪切　漾
㊀踉―は、急ぎ行く、いそぐ。㊁行かんと欲する貌にいふ字。

【蹬】トウ、ドウ。徒登切　蒸
蹭―は、行く貌にいふ語。

【蹓】シウ、ス。側鳩切　尤
足、又、獸の足。

【蹇】ケン。居偃切　銑
㊀偏足の不具なること、偏足の不具なる者、あしなへ、ちんば。〇〔史〕「郤・克僂、而魯使―、衞使眇」。
㊁遲鈍なること、遲鈍なるもの。〇〔孔文仲〕「遲―者被レ退」。
㊂易の卦名、☵☶ 坎上艮下。〇〔易〕「―利二西南一」。
㊃險難あるにいふ字、なやむ、なやみ。〇〔易〕「王・臣―・―」。
㊄忠貞なること。〇〔漢〕「―・―無レ已」。
㊅おごる、（驕）。〇〔王褒〕「天・性驕―」。
㊆まがる、（屈）。〇〔潛夫論〕「苟爲二饒・辯屈―一」。

㊇ぬく、（拔）。〇〔管〕「毋二―レ華絕一レ芋」。
㊈停どまる。〇〔管〕「―・凝而爲レ人」。
㊉句調を助くる字。〇〔屈平〕「―將レ擔二兮壽・宮一」。
⑪みだる。〇〔博雅〕「―擾也」。
⑫寋に同じ、かゝぐ。〇〔莊〕「―レ裳躩「歩」。
〔偃蹇〕（い）おごりたかぶる貌にいふ。〇〔後漢〕「秦當逐―・―者、不レ旋踵矣」。（ろ）高き貌。〇〔屈平〕「望二瑤・臺之―・―一兮」。（は）衆盛の貌、又、舞ふ貌、又、委曲の貌。〇〔張衡〕「―・―列二於四衢一」。
〔驕蹇〕おごる。〇〔漢〕「―・―數不レ奉レ法」。
〔蹇蹇〕前に同じ。〇〔唐〕「益―・―求レ統二三川一」。
〔駑蹇〕わるき馬のあしなへ。〇〔漢〕「―・―之乘不レ騁二千里之塗一」。
〔市蹇〕險難のこと。〇〔秦嘉〕「居・世多二―・―一」。
〔剛蹇〕剛直にして屈せざること。〇〔魏〕「毛・玠徐奕以二―・―少一レ黨」。
〔遲蹇〕足のはやからざること、又、かりて才智の遲鈍なる者にもいふ。〇〔孔文仲〕「而―・―者被レ退」。
〔窮蹇〕困窮にして安からざること。〇〔蘇軾〕「詩・人例二―・―一」。

【踩】リツ、リチ。力質切　質
ふむ、（踐）。

【踏】タフ、トフ。他合切　合
㊀ふむ、（踐）。㊁たどる、（跳）。

【蹈】タウ、ドウ。徒到切　號
㊀ふむ。
（い）脚をあげ地に著く。〇〔禮〕「不レ知二手之舞レ之足之―一レ之」。
（ろ）足もとに壓す、足もとに藉く、ふみつく、ふみしく、ふまふ。〇〔潛夫論〕「蹂二―文・錦于泥・塗之中一」。
（は）行く。〇〔左〕「使二我高―・―一」。
（に）履行す、ふみおこなふ。〇〔穀梁〕「―レ道則未也」。

(ほ)踵ぐ。○唐ニ「襲ニ一前人ニ」。(へ)處る。○〔魏〕「跨ニ一漢南ニ」。
㊁悼に同じ、うごく、いたむ。○〔詩〕「上帝甚一」。
〔趾蹈〕至り踐む。○〔後漢〕「一一不レ息」。
〔履蹈〕ふむ。○〔禮〕「然後可ニ一一ニ」。
〔踐蹈〕前に同じ。○〔魏、註〕ニ一ニ一其上ニ。
〔陵蹈〕しのぎをかしてふみゆく。○〔魏、註〕「便放レ騎欲レ一ニ一之ニ」。
〔犯蹈〕前に同じ。○〔魏〕ニ一ニ一白刃ニ。

【蹉】サ。七何切 歌 シ。又宜切 支
㊀跎の字の條を見よ。
㊁つまづく(跌)。○〔漢〕「不ニ敢一跌ニ」。
㊂すぐ(過)。○〔張華〕「孟公結ニ重關一賓客不レ得レ一」。
〔日蹉〕日の西にかたぶくこと。○〔許渾〕「行ニ盡清溪一已一」。

【⿰𧾷窊】ワ、エ。烏化切 禡 烏瓦切 馬
力を用ひて踏む、ふみつく。

【蹊】ケイ、ガイ。胡雞切 齊
㊀徑路、こみち。○〔史〕「桃李不レ言、下自成レ一」。
㊁すぐ(徑)。○〔左〕「一ニ人之田ニ」。
〔山蹊〕やまのこみち。○〔顏延之〕「謁レ帝蒼一一」。
〔幽蹊〕おくぶかきこみち。○〔謝朓〕「艱得レ尋ニ一一ニ」。
〔疏蹊〕こみちを通ず。○〔七命〕「内無レ一レ一」。
〔求蹊〕こみちをたづねもとむ。○〔趙至〕「涉レ澤一レ一」。「一一一ニ」。
〔荒蹊〕あれはてたるこみち。○〔韋應物〕「園田掩ニ
〔霜蹊〕しものおりたるこみち。○〔上官昭容〕「危步下ニ一一ニ」。

【蹊】ケイ、ガイ。戶禮切 薺
徯に同じ、まつ。

【⿰𧾷䍃】エウ。餘招切 蕭 弋笑切 嘯
㊀をどる(跳)。㊁行步の貌にいふ字。

【躠】サツ、サチ。桑葛切 曷
跋一一は、行くを正しからず。

【⿰𧾷條】
跳に同じ。

【蹋】タフ、ドフ。徒合切 合
ふむ(踐)、ける(蹴)。○〔後漢〕「撞ニ一省闥ニ」。

【蹝】
跿に同じ。

【⿱般足】ハン、バン。蒲官切 寒
足を屈む、かゞむ。

【⿰𧾷敝】ハン、バン。蒲官切 寒
蹣に同じ。

【⿰𧾷唐】
俗の踼の字。

【蹌】シヤウ、サウ。七羊切 陽
㊀恐れ動きて趨走す、はしろ、うごく。○〔爾〕「一一動也」。
㊁巧に趨る貌にいふ字。○〔詩〕「巧趨一兮」。
㊂士大夫の威儀ある貌にいふ字。「一一」。○〔詩〕「一一濟々」。
㊃舞ふ貌にいふ字。○〔書〕「鳥獸一一」

【蹌】シヤウ、サウ。七亮切 漾
蹡に同じ。

【蹍】テン。知演切 銑
ふむ(蹈)。○〔莊〕「一ニ市人之足ニ」。

【蹍】
趁に同じ。

【⿺走婁】サク、ソク。側角切 覺
娕に同じ、謹む、一說に、善し。

【蹎】テン。都年切 先
つまづく(跋)。○〔漢〕「誠恐一旦一仆氣竭」。
〔蹎々〕つまづく貌にいふ語。○〔路史〕「瞑々一一」。

【⿰𧾷蚤】サウ、ソウ。先到切 號
をどる(跳)。

【⿰𧾷高】カウ、ケウ。口交切 肴
はぎ(脛)。

【⿰𧾷高】カウ、コウ。口到切 號
足前まず、しざる。

【蹏】テイ、ダイ。田黎切 齊
㊀あし(足)、ひづめ(蹄)。○〔漢〕「牧馬二百一一」。「連レ絏」。
㊁兎網、うさぎあみ。○〔左思〕「罠一一」
〔蒜蹏〕薄く小さき紙。○〔漢〕「一一書」。
〔䟣蹏〕わかれたるひづめ。○〔淮〕「牛一一而戴レ角」。
〔揚蹏〕馬などの足をはねあぐること。○〔淮〕「跳躍一一翹レ尾而走」。

【⿰𧾷桀】タク、チヤク。陟格切 陌
磔に同じ、ひらきはる。

【⿰𧾷茸】ジョウ、ニュ。如容切 冬
行く貌にいふ字。

【⿰𧾷茸】ジョウ、ニュ。乳勇切 腫
迹に同じ、行く。

【蹐】セキ、シヤク。資昔切 陌
小またに步むこと、足をつまだてかさぬること、ぬきあし、さしあし。○〔詩〕「謂ニ地蓋厚ニ不ニ敢不レ一」。
〔局蹐〕身をかゞめ足をしやめてありくこと。○〔詩〕「謂ニ天蓋高ニ、不ニ敢不レ一、謂ニ地蓋厚ニ不ニ敢不レ一」。
〔俯蹐〕前に同じ。○〔楊若虛〕「一ニ一玉陛ニ」。
〔躄蹐〕足をしやめて行く。○〔鮑昭〕「逢險一一」。

【⿰𧾷員】ケン、コン。況袁切 元
立つ。

十一畫

【⿰𧾷豖】チョク、ドク。厨玉切 沃
躅に同じ。

【⿰𧾷區】ク、コ。虧于切 虞
跛へ行く、ちんばびく。

【蹔】サン、ザン。藏濫切 勘
㊀暫に同じ、しばらく。○〔列〕「其法可ニ一行ニ於一國ニ」。
㊁疾く走る貌にいふ字。

【蹔】サン、ザン。財甘切 覃
さゞまる(住)。

【蹕】ヒツ、ヒチ。璧吉切 質
㊀君王の出で行くに道路を警戒し行く者を止どむること、みちおさへ、さきばらひ。○〔周〕「凡邦之事一」。
㊁また臣民の王宮に近づくを止どむることにもいふ字。○〔周〕「守ニ王之門外ニ且一」。

㊂轉じて君王の幽游行幸の義にいふ字。○〔唐〕「停ㇾ—臨‐視」。

（前蹕）帝王などのともさきにたちて行者をとゞめ道を淸むること。○〔周〕「王后之喪遷₌於宮中₁則——」。

（犯蹕）帝王のともさきをきることなどにいふ。○〔史〕「當₌此人——₁」。

（警蹕）王者などの出入に行人を警戒すること。○〔漢〕「出入——」。

（駐蹕）王者の一時車をとゞむること。○〔唐太宗〕「——撫₌田・畯₁」。

（止蹕）前に同じ。○〔水經、註〕「—₌—于此₁」。

（宮蹕）王者の車につき從ふこと。○〔宋〕「遂—ㇾ—如₌金・陵₁」。

（從蹕）前に同じ。○〔許善心〕「—ㇾ—度₌枌楡₁」。

（緩蹕）王者の車をゆるくすゝむること。○〔北〕「願——徐還以安₌物望₁」。

（鑾蹕）王者のゝりもの。○〔北〕「臣若陪₌隨—・—₁」。

（按蹕）王者の車をひかへとゞめて進めざること。○〔唐〕「—ㇾ—裴・回」。

（衛蹕）王者の車をまもる。○〔五〕「張・永・德以₌禁・兵₁—ㇾ—」。

（動蹕）王者の車を進め行く。○〔譚道衡〕「揚鑾——」。

【蹕】ヒ、ビ。毗至切 〔寘〕
㊀前條に同じ。
㊁偏足にて立つ、かたよる。○〔列女傳〕「立不ㇾ—」。

【踳】ショウ、シュ。最容切 〔冬〕
ふむ（蹋）。

【踼】俗の踼の字。

【蹆】トウ、ドウ。徒等切 〔徑〕
行く貌にいふ字。

【䟿】蹗に同じ。

【蹗】ロク。盧谷切 〔屋〕
行く貌にいふ字。

【蹽】リヤウ、ラウ。呂張切 〔陽〕
はしる（走）。

【蹘】ラウ、レウ。力交切 〔肴〕
はしる（走）、一說に、足相交はる、まじはる。

【蹙】シュク、ソク。子六切 〔屋〕
㊀せまる。
（い）ちゞむ（縮）。○〔詩〕「今也日—ㇾ國百里」。
（ろ）ちかづく（近）。○〔周〕「—₌於剴—₁而休₌於氣₁」。
（は）きはまる（急）。○〔後漢〕「羣・生危—」。
（に）おふ（迫）。○〔後漢〕「步騎驅—」。
（ほ）うながす（促）。○〔柳宗元〕「待₌人督責迫—₁」。
㊁しわをよせ縮む、しわより縮む、しかむ。○〔孟〕「疾ㇾ首—ㇾ額」。
㊂蹴に同じ、ふむ、ける。○〔禮〕「—₌路馬芻₁有ㇾ誅」。

（追蹙）おひつむ。○〔唐〕「騎・將劉・弘・基——」。

（窮蹙）せまりくるしむ。○〔梅堯臣〕「——令ㇾ素髮」。

（困蹙）前に同じ。○〔晉〕「使賊——」。

（窘蹙）前に同じ。○〔五〕「今梁・兵——」。

（紓蹙）のびちゞみ、又、轉じて遠近の義に用ふることあり。○〔金〕「圖₌厥——₁」。

（攣蹙）ちゞまりてのびず。○〔劉勰〕「梗楠——以成₌瀆・錦之瘤₁」。

【蹙】セキ、シャク。倉歷切 〔錫〕
㊀縮小せる貌にいふ字、ほそし、ちゞむ。○〔詩〕「——靡ㇾ所ㇾ騁」。
㊁きはまる（鞫）。○〔爾雅釋訓〕「速‐々——惟逑鞫也」。

【踧】蹙に同じ。○〔左〕「南國—」。

【䠣】サン、セン。楚限切 〔潸〕
馬に鞍及び其の他の具を飾らずして騎る、のる。

【䠖】セツ、セチ。倉結切 〔屑〕
行く。

【𨄽】ロウ、ル。郎候切 〔宥〕
蹋む。

【蹔】テフ、デフ。徒協切 〔葉〕
足を蹋む、ふむ、一說に、小步す、こまたにあゆむ。

【蹓】蹔に同じ。

【蹝】サイ、セ。倉回切 〔灰〕
蹝—は、急甚なり、きびし。

【踸】キ。居之切 〔支〕
もと（本）。

【𨇃】ヘウ、ベウ。撫招切 〔蕭〕 ヘウ。匹妙切 〔嘯〕
輕く行く。

【蹛】セイ、サイ。子禮切 〔薺〕
走る貌にいふ字。

【踾】ホク、ボク。蒲北切 〔職〕
俗の匐の字、ふす、はらばふ。

【𨆿】サイ、セ。七外切 〔泰〕
行く貌にいふ字。

【躁】サウ、ゾウ。鋤交切 〔肴〕
行くこと捷し。

【蹚】タウ。他郎切 〔陽〕
跌—は、行くこと正しからず。

【蹚】タウ、チヤウ。抽庚切 〔庚〕
けづめ（距）。

【踶】テイ、タイ。都計切 〔霽〕
人の姓。○〔漢〕「中‐常侍—惲」。

【踶】テイ。丑例切 〔霽〕 タイ。當蓋切 〔泰〕
踶に同じ、一足にて行く。

【蹛】タイ。當蓋切 〔泰〕 タ。當何切 〔歌〕
㊀ふむ（踶）。
㊁林木を繞らして祭ること。

【蹛】テイ、デイ。直例切 〔霽〕 タ。當何切 〔歌〕
㊀前條に同じ。
㊁たくはふ（貯）。○〔史〕「留——無ㇾ所ㇾ食」。

【蹛】タイ、ダイ。徒蓋切 〔泰〕
大いに過ぐ、すぐ。

【蹛】タン、トン。都甘切 〔覃〕
襜に同じ。

【蹛】テツ、デチ。徒結切 〔屑〕
跌に同じ。

【跱】セン。[illegible]究切 〔銑〕

㊀くびす（踵）。㊁ふくらはぎ（腓腸）。

【蹅】サ、ザ。昨何切　歌
㊀踼む聲にいふ字、あしおと。
㊁行きて序を失ふ、ふみちがふ。

【蹜】シュク、ソク。所六切　屋
足を擧ぐるの狹迫なるにいふ字、小またにちゞめ歩むにいふ字、せまる。○〔禮〕「擧レ前曳レ踵——如也」。

【蹝】シ。所綺切　紙
躧に同じ、わらぐつ。○〔孟〕「猶レ棄二敝——一」。

【蹞】跬に同じ。○〔荀〕「不レ積二——一
步一、無三以致二千里一」。

【蹟】セキ、シャク。資昔切　陌
迹に同じ、あと、志たがふ。○〔詩〕「念二彼不レ——」。
〔不蹟〕道にしたがはざること。○〔爾〕「不遹——也」。
〔畫蹟〕ゑのかたち。○〔酉陽雜俎〕「——拙俗」。
〔書蹟〕文字のかたち。○〔酉陽雜俎〕「——甚工」。
〔痕蹟〕ものゝあとかた。○〔揚言〕「可レ謂三鑿レ金縷レ爾而無二——一」。
〔史蹟〕史書の上にのこりたる者。○〔許翰〕「——既亡」。

【蹠】セキ、シャク。之石切　陌
㊀ふむ、あるく（跖）。○〔揚雄〕「楚曰レ——、自レ關而西、秦晉之閒曰レ跳」。
㊁ふむ（踐）。○〔史〕「被二堅甲一——二勁弩一」。
㊂ゆく（適）。○〔淮〕「自レ無——レ有」。
㊃跖に同じ、あしのうら。○〔戰〕「——穿膝暴」。

【蹠】ショ、ソ。章恕切　御
前條の㊃に同じ。

【蹠】シャク。職略切　藥
趵に同じ、あしあと。

【蹙】ソク。作木切　屋
足を曲ぐる貌にいふ字。

【蹡】シャウ、サウ。七羊切　陽
㊀行く貌にいふ字。○〔廣雅〕「從々——」。
㊁將に同じ、あつまる。○〔詩〕「磬筦——」。

【蹡】シャウ、サウ。七亮切　漾
蹌に同じ、行くを正しからざる貌にいふ字。

【䟴】ボウ、ム。莫鳳切　送
—趨は、疲行する貌にいふ語、つかれゆく。

【躅】テキ、直炙タク、チャク。切　治革チャク。切　陌
—躅は、足を住む、とゞむ、たゞずむ、跢跦す、たちもとほろ、靜かならず、さわぐ、跳踯す、をどろ、あしぶみす。○〔禮〕「——躅焉踟蹰焉」。

【蹢】テキ、チャク。都歷切　錫
㊀ひづめ、あし（蹄）。○〔詩〕「有レ豕白——」。
㊁なぐ（投）。○〔莊〕「齊人——二子於宋一者」。
〔四蹢〕四足のひづめ。○〔爾〕「馬——皆白」。

【蹣】ハン、バン。蒲官切　寒
蹣の字の條を見よ。

【蹣】バン、マン。母官切　寒
牆を踰ゆ、こゆ。

【蹤】ショウ、シュ。即容切　冬
あと（跡）。○〔漢〕「躡二三皇之高——一」。
〔事蹤〕ことがらのあと。○〔陸機〕「——簠跡、皆可二推較一」。
〔奇蹤〕めづらしきところ。○〔李白〕「山水多二——一」。
〔遐蹤〕むかしの事跡。○〔夏侯湛〕「爰想二——一」。
〔承蹤〕あとをうけつぐ。○〔傅咸〕「余——二先君之——一」。
〔繼蹤〕前に同じ。○〔唐〕「安足レ——二前烈一」。
〔遺蹤〕あとかた。○〔朱熹〕「井竈無二——一」。
〔舊蹤〕ふるきあしあと、又、もとのあとかた。○〔李白〕「還レ山迷二——一」。
〔故蹤〕前に同じ。○〔謝翱〕「牧羊尋二——一」。
〔逐蹤〕あしあとを尋ねて去りたるもののあとを追ふ。○〔漢、註〕「自有二——レ之犬一」。
〔休蹤〕よき功蹟。○〔張華〕「播二——一」。
〔曩蹤〕古人の功烈などをいふ。○〔陸雲〕「思レ齊二——一」。
〔停蹤〕あしをとゞむとて進み行かざること。○〔傅休奕〕「日月無二——一」。
〔履蹤〕ふみたるあとかた。○〔張鐨〕「身輕無二——一」。
〔筆蹤〕ふでのあと。○〔王禹偁〕「認得歐虞舊——」。
〔墨蹤〕前に同じ、又、すみのあと。○〔梅堯臣〕「年深粉剝見二——一」。

【蹥】レン。力延切　先
くびす（跟）。

【蹺】カウ。口湨切　漾
ほどばしる（跰）。

【蹗】リク。ロク。六竹切　屋
足を擧ぐ、あぐ。

【蹮】蹁に同じ。

十二畫

【蹊】レイ、ライ。郎奚切　齊
疾く行く貌にいふ字。

【蹨】デン、乃殄切　ゼン、人善切　銑
㊀ふむ（踐）。㊁つぐ（續）。㊂とる（執）。
㊃志む（緊）。㊄おふ（逐）。

【蹼】セン。息絹切　ケン、苦倦切　霰
ケン、區願切　グワン。切　願
獸の足に罥する網、あしわな、けものあみ。○〔逸周書〕「不レ卵不レ——、以成二鳥獸一」。

【蹾】テツ、デチ。直列切　屑
轍に同じ、あと。○〔列〕「絕レ塵弭レ——」。

【蹾】テツ、テチ。敕列切　屑
徹に同じ。

【蹕】タ。典可切　哿
小兒の行く態にいふ字。

【蹕】タ。丁賀切　箇
たふる（蹐）。

【蹩】ヘツ、ベチ。蒲結切　屑
㊀ふむ（踶）、一說に、あしなへ（跛）。
㊁旋り行く貌にいふ字、心力を用ふる貌にいふ字。○〔莊〕「——躃爲レ仁」。

【蹩】ヘツ、ヘチ。匹篾切　屑
足を反して踶む、ふむ。

【蹴】蹩に同じ。○〔張衡〕「——躃

蹁-蹮」。

【蹪】タイ、デ。杜回切〔灰〕 つまづく、(蹎)、又、たふる、(仆)。○〔淮〕「足—趎-蹈」。

【蹜】セウ。先弔切〔嘯〕 行く貌にいふ字。

【[足+爲]】グワ。吾禾切〔歌〕 吪に同じ、動く。

【[足+閒]】タン、トン。丑犯切〔豏〕 地を踏みて歌ふ、うたふ、ふむ。○〔揚雄〕「——二淒-秋一發二陽-春一」。

【蹫】キツ、キチ。訣律切〔質〕 ㊀狂ひ走る。㊁疲るゝ貌にいふ字。

【[足+最]】サイ。麤最切〔泰〕 行く貌にいふ字。

【蹬】トウ、ドウ。徒亙切〔徑〕 蹭—は、あし場を失ふ貌にいふ語、勢を失ふ貌にいふ語、ふみまよふ、ふしまろぶ、ふみはづす、さまよふ。○〔木華〕「或乃蹭二—窮-波一」。

【蹬】トウ。丁鄧切〔徑〕 ふむ、(履)。

【蹬】トウ。都騰切〔蒸〕 登に同じ、のぼる。

【[足+嵐]】ラン、ロン。盧含切〔覃〕 急ぎ行く、いそぐ。

【[足+須]】シュ、ス。詢趨切〔遇〕 走る。

【[足+智]】チ。陟利切〔寘〕 ㊀ふむ、(蹢)。㊁つまづく、(頓)。

【[足+尌]】シュ、ス。殊遇切〔遇〕 立つ。

【[足+尌]】チュ、ヂュ。重株切〔虞〕 蹰に同じ。

【蹹】タフ、ドフ。徒合切〔合〕 ㊀蹹—は、行き跨ぐ貌にいふ語。㊁かむ、(齧)。

【[足+朁]】サフ、ゾフ。徂合切〔合〕。サン、ゾン。祖含切〔覃〕 止まる。

【[足+替]】 蹈に同じ。

【蹭】ソウ。千鄧切〔徑〕 蹬の字の條を見よ。

【蹭】ショウ、ゾウ。慈陵切〔蒸〕 驓に同じ、馬の四足皆白きもの。

【[足+卷]】セン。蘇前切〔先〕 躚に同じ。

【蹯】ヘン、ハン。附袁切〔元〕 フン、ボン。符分切〔文〕 獸の足、獸の掌、あしのはら、てのはら。○〔左〕「食二熊—一」。○〔爾、疏〕「此四獸之類、皆有二—-—一」。〔掌蹯〕たなごころ。「秋-熊—-—」。〔柔蹯〕けものゝやはらかきたなごころ。○〔孔[illegible]〕

【躇】チョ、ヂョ。直魚切〔魚〕 跱—は、志ざる、たちもとほる。

【[足+屠]】チ、陳尼切〔支〕 タ、直加切〔麻〕 止まる。

【[足+尌]】 俗の躕の字。

【[足+散]】サン。蘇干切〔寒〕 セツ、ゼチ。徐列切〔屑〕 行く貌にいふ字。

【蹕】ヒツ、ヒチ。部密切〔質〕 走る。

【蹱】ショウ、シュ。職容切〔冬〕 チョウ、チュ。癡凶切〔腫〕 丑用切〔宋〕 ㊀行くを正しからざる貌にいふ字。㊁蹱—は、小兒の行くにいふ語、又、行く能はざる貌にいふ語。

【[足+啻]】 古文の蹢の字。

【蹲】ソン、ゾン。徂尊切〔元〕 うづくまる、(踞)。○〔莊〕「—二乎會-稽一」。〔夷蹲〕うづくまる。○〔王褒〕「入レ市不レ得二—-—旁-臥惡-言醜-詈一」。〔虎蹲〕とらの如くうづくまる、又、とらのうづくまること。○〔盧綸〕「人忽—-—獸人立」。

【蹲】シュン。七倫切〔眞〕 ㊀舞ふ貌にいふ字。○〔詩〕「—-—舞レ我」。㊁行くに節あるにいふ字。○〔漢〕「—-—如也」。

【蹲】ソン、ゾン。粗本切〔阮〕 聚む。○〔左〕「—レ甲而射レ之」。

【蹲】サン、ザン。徂丸切〔寒〕 躦に同じ。

【蹲】シュン。趣允切〔軫〕 —-循は、緩き意にいふ語。

【蹳】ハツ、ハチ。北末切〔曷〕 ゆく、(行)、ふむ、(跋)。○〔漢〕「常—二爾-兒一棄レ之」。

【[敖+足]】ガウ、ゴウ。吾毛切〔豪〕 螯に同じ、蟹のおほづめ。

【蹴】シュク、ソク。子六切〔屋〕 ㊀急に蹋む、ふむ、ける。○〔孟〕「—-爾而與レ之」。㊁つゝしむ、(敬)。○〔莊〕「子-産—-然」。〔怒蹴〕ちからをなしてける。○〔王渾〕「黑-浪—-—崙-嵒游」。〔亂蹴〕みたれける。○〔溫-賢〕「流-鶯—-—殘-紅」。

【蹵】 蹴に同じ。○〔史〕「—レ之以足」。

【[足+屬]】 俗の躅の字。

【[足+異]】チョク、チキ。蓄力切〔職〕 行く聲にいふ字、又、行かざる貌にいふ字。

【蹶】ケツ、コチ。居月切〔月〕 ケツ、ケチ。紀列切〔屑〕 ㊀つまづく。(い)失脚(ふみそこなひ)して僵る、ころぶ。○〔孟〕「—者趨者」。(ろ)顚覆す、くつがへる。○〔荀〕「國乃—」。(は)斃る。○〔戰〕「盡レ忠而身—」。

（に）失敗す、頓挫す、やぶる、くぢく。○〔後漢〕「並遭二屯――一」。
❷つまづかしむ、ころばす、くつがへす、たふす、敗る、挫く。○〔史〕「――二上將一」。
❸ぬく、（拔）。○〔賈誼〕「秦――二六國一」。
❹つく、つくす、（竭）。○〔漢〕「何得レ不レ――」。
❺足に力を用ひて抑ふ、ふむ。○〔史〕「材官――張」。
❻足に力を用ひて撞く、ける。○〔漢〕「――二浮糜一」。
❼をどる、はぬ、（跳）。○〔論衡〕「手不レ能レ搏足不レ能レ――」。
❽はしる、（走）、すみやか、（疾）。○〔國〕「――而趨レ之」。
❾體氣逆行の疾、即ち、脚氣病の類。○〔呂氏春秋〕「爲レ痿爲レ――」。
❿よし。○〔爾、訓詁〕「――嘉也」。
〔顚蹶〕たふる。○〔戰〕「――之請」。
〔蹢蹶〕前に同じ。○〔荀〕「遠者――而趨レ之」。
〔僵蹶〕前に同じ。○〔沈亞之〕「安有下擇二塗陛一而避中――上哉」。
〔驚蹶〕おどろきたふる。○〔僧貫休〕「戰馬時――」。
〔蹙蹶〕手にてうち足にてける。○〔論衡〕「則所二――一、無レ不二破折一」。
〔踔蹶〕前に同じ。○〔論衡〕「手不レ能レ――、足不レ能レ――」。
〔誤蹶〕あやまちてつまづく。○〔杜甫〕「當時歷塊――」。

【蹶】ケイ、ケ。居衛切 〔霽〕
❶驚起す、おどろきたつ、はれおく、さびたつ。○〔莊〕「成子――然而起」。
❷うごく、うごかす、（動）。○〔詩〕「――二厥生一」。○〔詩〕「――」。
❸さし、さとし、（敏）。○〔詩〕「良士――」。
❹急遽す、あわつ、あわたゞし。○〔禮〕「足毋レ――」。

【蹷】蹶に同じ。○〔左〕「是謂レ――二其本一」。
〔猖蹷〕たふる、又、くるひはぬ。○〔南〕「沈迷――以至二于此一」。
〔顚蹷〕おちたふる。○〔崔湜〕「伏獸逃奔而――」。

【蹸】リン。良刃切 〔震〕 離珍切 〔眞〕
❶行く貌にいふ字。❷きしる、（轢）。

【踏】踏に同じ。

【蹌】蹋に同じ。○〔左、註〕「斥候――伏」。

【蹺】ケウ。去堯切 〔蕭〕
蹻に同じ。

【蹻】キャク、其虐切 〔藥〕 ガク。 ケウ。去遙切 ゲウ。切 ケウ、巨嬌 〔蕭〕
高く足を擧ぐ、あぐ。○〔漢〕「可二――一レ足待一也」。

【蹻】ケウ。居夭切 〔蕭〕
❶武き貌にいふ字。○〔詩〕「――王之造」。
❷彊く盛んなるにいふ字。○〔詩〕「馬――」。○〔詩〕「其

【蹻】キャク、カク。居灼切 〔藥〕
❶走る貌にいふ字。
❷小人の志を得て驕れる貌にいふ字。○〔詩〕「小子――」。
❸かんじき、（屐）、わらぐつ、（鞋）、あしだ、（履）。○〔史〕「躡レ――擔レ簦」。
❹そり、（橇）。○〔抱朴〕「乘レ――周二流天下一」。
❺行くを疾き貌にいふ字、はやし。○〔呂氏春秋〕「――然不レ固」。
〔屐蹻〕一種のわらぐつをはく。○〔說苑〕「知二地道一者――」。
〔敝蹻〕やぶれたるわらぐつ。○〔蜀〕「猶下棄二――一而獲中珠玉上」。

【蹻】キョク、コク。拘玉切 〔沃〕
樸に同じ。

【蹼】ホク、ボク。博木切 〔屋〕
水鳥の脚指に連なる膜、みづかき。○〔爾〕「鳧鴈醜其足――」。

【蹺】ケウ、ゲウ。巨皎切 〔篠〕
行く。

【蹚】蹚に同じ、けづめ。

【躇】リク、ロク。力竹切 〔屋〕
あぐ、（翹）。

【蹢】テキ、チャク。他歷切 〔錫〕
つゝしむ、（謹）。

【蹵】キャク、乞逆切 〔藥〕 カク。 ガウ、五勞 ゴウ。切
〔豪〕歩む。

十三畫

【躁】サウ、ソウ。則到切 〔號〕
❶擾亂して治まらざるにいふ字、疾急にして靜かならざるにいふ字、うごく、みだる、さわぐ。○〔禮〕「掩レ身毋レ――」。
❷さわぎて平然たる所なし、さわがしく、きぜはし、あわたゞし。○〔荀〕「――者皆化而愨」。
〔浮躁〕かろぐしくさわぎて靜かならざること。○〔避暑錄話〕「鎮二服――一」。
〔輕躁〕前に同じ。○〔魏〕「――忿肆、自蹈二六禍一」。
〔煩躁〕さわぎみだれて簡ならざること。○〔易、疏〕「以二其――一故、其辭多也」。
〔偵躁〕正しきに出らずみだりに動くこと。○〔禮、疏〕「謂二靜退自居而躁レ常守レ正、不二――一也」。
〔果躁〕氣質のみだりにつよくせはしきこと。○〔吳「輕佻――」。
〔剛躁〕前に同じ。○〔北〕「演固子祖龍――、與二兄伯讓一訟二嫡庶一」。
〔勁躁〕前に同じ。○〔北〕「――之人、不レ顧二後患一」。
〔險躁〕心に陰惡をふくみて靜正ならざること。○〔南、邵陵少而――」。
〔矜躁〕はこりたかぶりて靜かならず。○〔南〕「紹叔性頗――」。
〔褊躁〕氣質の狹小にしてしづかならざるにいふ語。○〔北〕「天性――」。
〔忿躁〕いきどほりておちつかざること。○〔宋〕「殊――無二大臣體一」。
〔狷躁〕褊急にしてしづかならず。、湘山野錄〕「性多二――一」。
〔靜躁〕しづかなるとさわがしきと。○〔張華〕「――亦殊レ形」。

【躔】テン。他典切 エン。於殄切 〔銑〕
行く貌にいふ字。

【蹹】サフ、ソフ。悉合切 〔合〕
行く貌にいふ字。

【躒】キン、居吟切 〔侵〕 キン、巨禁 ゴン。切 コン。切 〔沁〕
すわる、ゐる、（坐）。

【躂】タツ、タチ。他達切 〔曷〕
つまづく、（跌）。

【躇】ショ、ソ。莊助切 〔御〕

跙に同じ行くを正しからず、一說に、馬蹄の痛み病めるにいふ字。

【躃】ヘキ、ヒヤク。必益切 【陌】
兩足の行步し能はざるを、こしぬけ、あしなへ、又、其の者。○〔禮〕「瘖聾跛ーー」。

【躃】ヘキ、ビヤク。毗亦切 【陌】
たふる、（倒）。

【躄】躃に同じ。○〔史〕「民家有ニーー者一」。
〔老躄〕としたけてあしなへたるもの。○〔唐〕「乃解ニ佩刀一、選ニーーー人一」。〔攣躄〕手のひきつれ足のなへること。○〔蓮社高賢傳〕「遂手足ーー」。

【蹖】タク、ダク。達各切 【藥】
すあし、（跣足）。

【蹞】キ。丘癸切 【紙】
足を擧ぐ、あぐ。

【蹃】タン、トン。丑犯切 【豏】
つまだつ、（跂）。

【躅】チヨク、トグ。廚玉切 【沃】
とゞまりて行かず、とゞまりて踏み擊つ、たゞずむ、たちもとほる、ふむ、あしぶみす、あしずり。○〔史〕「騏驥之躅ー不レ如ニ駑馬之安步一」。
〔躑躅〕（い）行きつもどりつすると、たちもとほる、又、とゞまりて足にて地を擊つと、あしぶみ、あしずり。○〔荀〕「ーー焉」。（ろ）木の名、つゝじ。○〔本草〕「山ーーー樹高三・四尺、花紅如レ血」。
〔蹢躅〕行く貌、又、行く能はざる貌にいふ語。○〔易〕「羸羊孚ニーー」。〔巡躅〕ぶらくとめぐり行く。○〔王融〕「ーー望ニ登平一」。

【躅】タク、ドク。直角切 【覺】
あと、（迹）。○〔漢〕「伏ニ孔周之軌ーー」。
〔芳躅〕よき行跡のこと。○〔史〕「俱嗣ニーーー」。〔軌躅〕車轍。○〔顏延之〕「窮ニ神人之ーーー」。〔鸞躅〕帝王のみくるまのあと。○〔褚淵〕「出陪ニーーー」。〔遺躅〕むかしのあと。○〔蘇軾〕「西諸訪ニーーー」。〔牛躅〕うしのひづめのあと。○〔新論〕「ーー之涔、不レ生ニ魴鱮一」。〔奇躅〕めづらしきおこなひのあと。○〔韓愈〕「東野縱ニーーー」。

【蹮】ケン、ゲン。扁縣切 【霰】
疾く跳る、おどる、一說に、いそぐ、（急）。

【躆】キヨ、コ。居御切 【御】
㊀據に同じ、よる。○〔漢〕「超ニ荒忽一而躆ニ顥蒼一也」。㊁動作す、たちはたらく、おこる。○〔揚雄〕「ーー戰嗜々」。

【躈】ケキ、キヤク。訖逆切 【陌】
躈に同じ。

【蹦】ハウ、ビヤウ。蒲迸切 【敬】
蹺ーは、地を蹈む聲にいふ語。

【蹭】セン。昌豔切 【豔】 處占切 【鹽】
馬の急ぎ行くにいふ字、はす、はしる。

【蹞】蹯に同じ、あしのはら、たなごころ。○〔呂氏春秋〕「臑ニ熊ーー」。

【躇】チヨ、長魚切 【魚】 ド。丈呂切 【語】
躊ーは、進みつ退きつす、住まりて行かず、疑ひて決せず、たちもとほる、ためらふ。○〔漢〕「哀褒回以躊ーー」。
〔躊躇〕ためらふ。○〔杜甫〕「臨眺獨ーー」。「ー」。〔踟躇〕前に同じ。○〔范成大〕「毎逢ニ總勝一卽ーー」。

【躇】チヤク、ヂヤク。勅略切 【藥】
遅て超ゆ、こゆ。○〔公羊〕「ーレ階而走」。

【躐】レフ、ロフ。力涉切 【葉】
躐に同じ、ふむ、こゆ。○〔禮〕「升レ席不レ由レ前爲レーレ席」。

【躛】クワイ、ケ。逵穢切 【隊】
小しく溺る、おぼる、一說に、うむ、（倦）。

【躈】ケウ。詰弔切 【嘯】
馬の尻の骨、一說に、馬の口。○〔史〕「馬蹄ー千」。

【蹙】ソク、ゾク。疾則切 【職】
踐み害す、そこなふ、ふむ。

【䠔】ス井。雖遂切 【寘】
深し。

【躉】トン。東本切 【阮】
おつ、（零）。

【蹬】トウ、ドウ。徒登切 【蒸】
蹭ーは、行く貌にいふ語。

十四畫

【躊】チウ、ヂユ。直由切 【尤】
躇の字の條を見よ。

【踁】ケイ、キヤウ。丘京切 【庚】 苦定切 【徑】
一足にて行く貌にいふ字。

【䠞】サク、ソク。測角切 【覺】
㊀行く、㊁行くを疾し。

【蹁】ヘン。卑眠切 【先】
行くを正しからず。

【躖】タン、ダン。杜管切 【旱】
㊀踐む處、あと。○〔楚辭〕「鹿蹊兮ーー」。㊁行くを速かなるにいふ字、すみやか、はやし。

【踖】セキ、ジヤク。秦昔切 【陌】 シヤ、ゼ。慈夜切 【禡】
踐む。

【躁】ソウ、才奏切 【宥】 ズ。才侯切 【尤】
醉ひ倒るゝ貌にいふ字。

【躋】セイ、サイ。祖稽切 【齊】 子計切 【霽】
のぼる、のぼす、（登）。○〔詩〕「道阻且ー」。
〔上躋〕たかきに登る。○〔高適〕「孤高宜ニーーー」。〔昇躋〕前に同じ。○〔孟郊〕「氣象皆ーー」。〔登躋〕前に同じ。○〔吳淑〕「三峽則山間ーー」。〔攀躋〕よぢのぼる。○〔岑參〕「不レ得ニ日ーーー」。

【蹼】ホク、ボク。博木切 【屋】
或は省きて蹼に作る、みづかき。

【躢】タフ、ドフ。達合切 【合】
蹹に同じ。

【躌】ブ、ム。文甫切 【麌】

ふむ、(踐)。

【蹝】ヒョウ、ピョウ。皮孕切 徑
——蹝は、地を蹋む聲にいふ語。

【[illegible]】チン。鄔本切 阮
穩に通じ作る、安し。

【躍】ヤク。以灼切 藥
㊀をどる、をどり。
(い)はね上がりて移る、はね、さびあがる。○〔詩〕「魚——二于淵一」。
(ろ)上がる、進む。○〔漢〕「物痛勝——」。
(は)越ゆ。○〔左〕「距——三-百」。
(に)心激動す。○〔梁簡文帝〕「微-心踈——」。
㊁をどらしむ、をどらす。○〔孟〕「搏而——レ之」。
㊂はやし、(迅)。○〔詩〕「————毚-兎」。
〔踊躍〕をどりはぬ。○〔詩〕「——用レ兵」。
〔高躍〕たかくはねをどりあがる。○〔戰〕「——而不二敢進一」。
〔鷂躍〕ふるひはぬ。○〔四子講德論〕「泉-魚——」。
〔雀躍〕こをどりしてよろこぶ。○〔上官儀〕「——無三以表二此誠一」。
〔忭躍〕よろこびてをどりあがる。○〔江淹〕「僧深「得レ解レ圜」——」。
〔喜躍〕前に同じ。○〔南〕「城-中文武——聲」。
〔欣躍〕前に同じ。○〔李嶠〕「孰不二——一」。
〔驚躍〕おそろきはぬ。○〔神女傳〕「馬聞レ言——振-迅而去」。
〔駭躍〕前に同じ。○〔呂温由〕「比-龜-猿之——一」。
〔壘躍〕なみなどのかさなり超ゆる貌にいふ語。○〔江賦〕「溯-淵——」「——」。
〔輾躍〕ころがりとぶ。○〔柳宗元〕「崩-石之所二——一」。
〔舞躍〕まひをどる ○〔柳宗元〕「下-民——」。
〔踏躍〕はぬ。○〔柳宗元〕「——二中-野一」。
〔馳躍〕はせのぼる。○〔吳萊〕「放-膽——」。

【躎】デン、チン。奴典切 銑
ふむ、(蹈)。

【[illegible]】ハ。普火切 哿
あしなへ、(跛)。

十五畫

【[illegible]】クワウ。苦謗切 養
はるか、(曠)。

【躐】レフ、ロフ。良渉切 葉
㊀ふむ、(踐)。○〔禮〕「登レ席不レ由レ前曰レ——レ席」。
㊁こゆ、(踰)。○〔禮〕「學不レ——レ等」。
㊂もつ、(持)。○〔後漢〕「——レ纓整レ襟」。
〔超躐〕こゆ。○〔王安石〕「或妄-走——」。

【躑】テキ、ヂヤク。直炙切 陌
——躅は、行きて進まず、往來して去らず、足にて地を擊つ、たちもとほる、たゞずむ、あしぶみす。○〔後漢〕「得下以二數-千——中-躅三-輔上」。
〔號躑〕さけびてをどりあがる。○〔汝隣穰雜志〕「——奔走——」。

【躒】レキ、リヤク。郎擊切 錫
[illegible]に同じ、うごく、うごかす。○〔大戴禮〕「騏-驥一——、不レ能二千-歩一」。

【躒】ラク、盧各切 藥 ラク、力角切 覺 ロク。切
超絶す、こゆ、すぐる。○〔班固〕「逴二——諸-夏一」。
〔卓躒〕超絶といふが如し、すぐれこゆ。○〔孔融〕「英-才——」。

【躒】ヤク。弋灼切 藥
すみやか、(迅)。

【[illegible]】ゼウ、ヂウ。爾紹切 篠
——躔は、足動く、うごく。

【躓】チ。陟利切 寘 シツ、職日切 質
つまづく。
(い)足物に礙はりて僵ろ、たふろ、ころぶ。○〔戰〕「佯——而覆レ之」。
(ろ)挫折す、失敗す。○〔南〕「自レ此淹二文-章——矣」。
〔倒躓〕たふれつまづく。○〔盧思道〕「溺二于——一」。
〔顚躓〕前に同じ、又、かりて失敗の義に用ふることあり。○〔唐彥謙〕「老-脚走——」。
〔頓躓〕前に同じ。○〔易林〕「——踏-險」。
〔困躓〕窮困に陥りてたつ能はざること。○〔唐〕「而牧——不二自振一」。

【躓】チ。張尼切 支
跮に同じ。○〔趙岐〕「禹-稷蹳——」。

【[illegible]】ハウ、ポウ。薄報切 號
行く貌にいふ字。

【[illegible]】トウ、ドウ。唐亙切 徑
㊀ふす、(臥)。㊁つかる、(極)。

【躔】テン、デン。直連切 先
㊀あさ。
(い)日月星の循行する軌道。○〔漢〕「——離弦-望」。
(ろ)踐行したる處。○〔爾〕「其迹——」。
㊁ふむ。
(い)軌道を循行す、めぐる。○〔揚雄〕「——、逡、循也」。
(ろ)踐行す、歷行す、ふる、ゆく。○〔左思〕「未レ知二英-雄之所一レ——」。○
〔升躔〕日のぼり運る。○〔宋〕「朝-景——」。
〔踐躔〕月日のあと。○〔盧肇〕「終-識二——之數一」。
〔順躔〕日月星辰などの運行正しくみだれざること。○〔劉基〕「七-曜——」。

【躔】テン、デン。丈善切 銑
移り行く、めぐる、(循)。

【[illegible]】ライ。落蓋切 泰
跛行の貌にいふ字、よろつく。

【躕】チユ、ヂユ。直誅切 虞
踟の字を見よ。

【躖】タン、ダン。徒玩切 翰
踐む處、あさ。

【躦】サ。作何切 歌
ふむ、(蹈)。

【[illegible]】チ。渉利切 寘
つまづく、(蹇)。

十六畫

【躘】リヨウ、力鍾切 冬 リユ、良用切 宋 [illegible]勇切 腫
——鍾は、小兒の行く貌にいふ語。

【躙】リン。良刃切 震
躙み轢る、ふむ、きしろ、ふみにじる。○〔禮註〕「馳善——レ人也」。

【[illegible]】ライ。落蓋切 泰
あしなへ、(跛)、一説に、——蹞は、邪に行く。

【躚】セン。蘇前切 先

旋り行く貌にいふ字、まふ、又、跛行の貌にいふ字、よろめく。○〔張衡〕「蹴-蹁-躚-蹁―」。
〔蹁々〕舞ふ貌にいふ語。○〔蜀都賦〕「翩――以裔々」。

【躘】リヨ、ロ。淩如切 魚
或は朧に作る、つたふ、（傳）、一説に、上より下に語を傳ふ。

【衛】エイ、于劌切 霽　クヮイ、火怪切 卦　エ。　ケ。
㊀まもろ、（衛）。
㊁あやまつ、（過）。○〔左〕「是―言也」。

【躒】レキ、リヤク。狼狄切 錫
經踐したる所、あさ。

【𨆪】朧に同じ。

【𨇂】ロウ、ル。盧東切 東
―𨇂は、行く貌にいふ語。

【蹻】ケイ、ケ。居衛切 霽
㊀―𣵠は、苦き棗。㊁たふろ、（僵）、一説に、をごろ、（跳）。

十七畫

【躝】ラン。落干切　タン。唐干切 寒
こゆ、（踰）。

【躚】セン。相然切 先
躚に同じ、まふ、よろめく。○〔莊〕「跰-―而鑑二於井一」。

【蹇】ケン。九件切 銑

【躦】サン、セン。又鑑切 陷
俗の蹇の字、ちんば。

【躞】セフ、ソフ。蘇協切 葉
行く貌にいふ字。
㊀蹀―は、連らなり行く貌にいふ語。
㊁卷軸の心。○〔朱芾〕「隋-唐藏-書皆金-題玉-―」。

【躙】タン、トン。丑犯切 豏
足を跂て望む、つまだつ。

【躟】ジヤウ、如陽切 陽　ナウ。汝兩切 養
劇しく惶ろ、こはがろ、又、疾く行く、いそぐ。○〔傳毅〕「攘-―就レ駕」。

【躍】ヤク。以灼切 藥
㊀のぼろ、（登）。㊁をごろ、（躍）。
㊂ふむ、（履）。㊃ゆく、（行）。

【躠】サツ、桑葛切 曷　サチ。　セツ、私列切 屑　セチ。
旋り行く貌にいふ字、心力を用ふろ貌にいふ字。○〔莊〕「蹩―爲レ仁」。

【躃】躄に同じ。○〔張衡〕「蹴-―蹁-躚」。

【𨇒】サン、ゼン。仕懺切 陷
行く貌にいふ字。

十八畫

【躝】ケツ、ケチ。居月切 月
蹶に同じ。

【躍】ケン、ゴン。巨員切 先

【躡】デフ、ヂフ。尼輒切 葉
脊を曲げて行く、せぐくまろ。
㊀ふむ。
（い）足下にす、ふまふ。○〔左思〕「出―二珠-履一」。
（ろ）至る。○〔淮〕「徑―レ都」。
（は）登る。○〔南〕「幽-峻登-―」。
（に）踵ぐ。○〔唐〕「勞-問相―」。
㊁急疾、すみやか、はやし。○〔曹植〕「忽―景而輕鶩」。
〔躡躡〕ふみいたる。○〔晉〕「―二―華-堂一」。
〔承躡〕うけつぎてふみおこなふ。○〔漢〕「―レ―二故-事一也」。
〔踏躡〕足にてふむ。○〔劉孝威〕「―-―珮-珠鳴」。

【躨】サウ、ソウ。所江切 江
跭―は、そびえ立つ。

【𨇤】躐に同じ。

【躢】タフ、ドフ。徒盍切 合
蹋に同じ、けろ、ふむ。○〔漢〕「去-病尙穿レ域―鞠」。

【躚】ヘン。畀眠切 先
足正しからず。

【躣】ク、ゴ。其俱切 虞
行く貌にいふ字。○〔楚辭〕「右二蒼-龍之―-―一」。

【蹟】シヤ、慈夜切 禡　ゼ。　セキ、秦昔切 陌　ジヤク。
ふむ、（踐）。○〔史〕「人-民之所二蹈-―一」。

十九畫

【躝】ビ、ミ。文彼切 紙
行く貌にいふ字。

【躪】レン、ロン。閭員切 先
―躪は、足の病ひ。

【躒】ラ。郎佐切 箇
―跐は、ふしまろぶ。

【躦】サン、ザン。徂丸切 寒
或は、蹲に作ろ、うづくまろ。

【躜】サ、ザ。才何切 歌
躦に同じ。

【躧】シ。所綺切 紙　リ。鄰知切 支　サイ、所蟹切 蟹　セ。
㊀舞ひ履む、ふむ、又、歩行す、あゆむ、又、徐行す、志づかにゆく。○〔謝朓〕「躑-躅―二曾-阿一」。
㊁草履、わらぐつ、特に、跟なき小履。○〔漢〕「彈レ弦跕レ―」。
㊂履を穿つに足指にのみかけて跟を著けざるにいふ字、ひつかけ。○〔漢〕「―レ履相迎」。

二十畫

【躨】キ、ギ。巨追切 支
―跜は、虯龍の動く貌にいふ語。

【躩】クワク。丘縛切 藥　ケキ、キヤク。驅碧切 陌
㊀足を盤らし辟くろと。○〔論〕「足―如也」。

㊀をどる（跳）。○〔淮〕「覓浴蠼ー」。
㊁行くを疾し。○〔莊〕「蹇レ裳ーー歩」。
〔蹻躍〕とびあがりをどる。○〔杜牧〕「ーー蚊龍爪尾長」。

【躪】 蹸に同じ、にじる、きしる。○〔漢〕「奔走相蹂ーー」。

廿一畫

【躅】 チョク、ドク。直錄切 沃
躅に同じ。

【躈】 ショク、ソク。珠玉切 沃
行くに謹む貌にいふ字。

【躖】 シュク、ソク。子六切 屋
せまる（迫）、いそぐ（急）、ちかし（近）。

廿二畫

【躚】 テフ、デフ。徒協切 葉
走る聲にいふ字。

身部

【身】 シン。失人切 眞 〔說文〕象二人之身一。
㊀み。
（い）四肢百骸の總稱、からだ、むくろ。○〔孝〕「ーー體髮膚」。
（ろ）自己、おのれ、われ、みづから。○〔易〕「撿レー若レ不レ及」。
（は）幹體、もと。○〔爾〕「樅松葉柏ー」。
㊁懷孕す、みおもになる、はらむ。○〔詩〕「大任有レー」。
〔存身〕からだをたもつ。○〔易〕「龍蛇之蟄以ーレ」ー也」。

〔保身〕前に同じ。○〔詩〕「既明且哲、以ー二其ー一」。
〔守身〕前に同じ。○〔孟〕「ーレー爲レ大」。
〔失身〕軀をほろぼす。○〔易〕「臣不レ密則ーレー」。
〔獻身〕からだをさゝげいたす。○〔鄴侯家傳〕「既ー二其ー一」。
〔致身〕前に同じ。○〔論〕「事レ君能ー二其ー一」。
〔修身〕身の行ひを正す。○〔禮〕「先ー二其ー一」。
〔潤身〕みに光彩を附く。○〔禮〕「德ーレー」。
〔亢身〕みを高き地位にあぐ。○〔左〕「吉不レ能ーレー」。
〔立身〕前に同じ。○〔孝〕「終二于ーレー一」。
〔藩身〕みをまもる。○〔左〕「胥以ーレー」。
〔衞身〕前に同じ。○〔淮〕「世治則以レ義ーレー」。
〔文身〕からだにいれずみをなす、又、いれずみをもてかざりたるからだ。○〔史〕「ーレー斷レ髮、以讓二季歷一」。
〔輕身〕からだをたいせつにせざること、又、からだのめかたをかろくす。○〔史〕「員乃學二辟レ穀導引ーー」。
〔漆身〕からだにうるしをぬる。○〔戰〕「ーレー爲レ厲」。
〔踝身〕からだに一物もつけず。○〔史〕「臣ーー來」。
〔跳身〕からだをはねをどらす。○〔漢〕「ーレー遁者莫レ不レ必給一」。
〔便身〕からだにたよりよし。○〔後漢〕「ーレー之物、「ー事レ之」。
〔傾身〕みにできうるだけをつくす。○〔漢〕「湯ーレ有レ似ーレー」。
〔理身〕みをさめとゝのふ。○〔後漢〕「爲レ國之道、「畫師一」。
〔前身〕前世のときのからだ。○〔王維〕「ーーー應二「ーー」。
〔外身〕みを度外にひやゝかなること。○〔老〕「聖人ー二其ー一而身存」。
〔殘身〕みをそばだつ。○〔淮〕「萬民莫レ不ニーレー而「視聽一」。
〔苦身〕からだをくるしむ。○〔列〕「ー二其ー一」。
〔累身〕みにわづらひをきたす。○〔列〕「子育之殖ーレー」。「ーー」。
〔謹身〕みをつゝしみたもつ。○〔素書〕「潔莫レ潔二于ーレー」。
〔危身〕みをあやふくす。○〔宋寧宗〕「爰取ニーレー奉レ上之義一」。
〔屈身〕へりくだる。○〔勸進表〕「故ー二其ー一以奉レ之」。
〔傷身〕からだをそこなふ。○〔養生論〕「一哀不レ足二以ーレー」。
〔挺身〕みをぬきいたす。○〔蘇軾〕「ーレー而鬭」。

〔法身〕ほとけの道をさとりたるからだ。○〔涅槃經〕「離レ無レ離レ有、所レ謂ーー」。
〔安身〕みを危くせざること。○〔易〕「君子ー二其ー一而後動」。
〔殺身〕みをそこなす、又、みよりおこる。○〔禮〕「仁者以レ財ーレー」。
〔藏身〕身體をあらはさず。○〔禮〕「故政者君之所二以ーーー也」。
〔庇身〕みを蔽ふ。○〔左〕「大官大邑、所二以ーーー也」。
〔敬身〕みをつゝしみてたいせつにす。○〔禮〕「ーレー爲レ大」。
〔潔身〕みをきよらかにし行をたかくす。○〔孟〕「歸ー二其ー一而已矣」。
〔端身〕みを正しくす。○〔家語〕「則可二以ーーー矣」。
〔出身〕みをおのれのものとせずして君主などに致す。○〔漢〕「已背レ親而ーレー」。
〔厲身〕みをはげます。○〔漢〕「士ーレー立レ名者多」。
〔勤身〕みをつとめはげます。○〔後漢〕「ーレー飾レ行」。
〔約身〕おのれのみを奉ずるにうすし。○〔後漢〕「孝文帝ーレー薄レ賦」。
〔寄身〕からだをほかに托す。○〔晉〕「ー二ー於清簡之宇一」。
〔頤身〕身體を養ふ。○〔晉〕「ー二ー器世一」。
〔完身〕みを完全にたもつ。○〔呂氏春秋〕「故凡能全レ國ーレー者」。
〔全身〕前に同じ。○〔漢武內傳〕「修二絕穀ーレー之術一」。
〔纖身〕ほそやかなるからだ。○〔陶潛〕「東二纖窕之ーーー」。「ー」。
〔潘身〕からだをあらふ。○〔白居易〕「熱者思レー」。
〔老身〕としふりたるからだ。○〔白居易〕「月下風前作二ーーー一」。
〔萍身〕うきくさの如くにあちこちにさまよへるからだ。○〔劉滄〕「ーー不レ定逐二波瀾一」。
〔羸身〕やせつかれたるからだ。○〔司空圖〕「淸溪一路照二ーーー」。

三畫

【躬】 ケン。其堅切 先
ー毒は、今の印度の古稱。○〔史〕「ーー毒國」。

【躬】 キウ、ク。居崇切 東
㊀躳に同じ、み、みづから。○〔書〕「惟尹ー克左二右厥辟一」。
㊁人體の形。○〔周〕「伯執二ー圭一」。
〔治躬〕みををさめとゝのふ。○〔禮〕「致レ禮以ーレー」。「氣」。
〔鞠躬〕みをかゞむ。○〔後漢〕「諸黃門ーーー屏」。
〔直躬〕みを正直にまもりてまげず。○〔論〕「吾黨有二ーレー者一」。
〔貫躬〕みのあやまちをせむ。○〔胡傳〕「引レ咎ーー」。
〔保躬〕みをたもつ。○〔唐〕「留二意於此一、足二以ーー矣」。
〔聖躬〕帝王のからだ。○〔唐明皇〕「湯泉發二ーーー」。
〔賤躬〕いやしき身。○〔鮑昭〕「契闊傷二ーーー」。
〔飭躬〕みを戒む。○〔高適〕「屬レ危能ーレー」。
〔孫躬〕おのれのわたくしをときちらす。○〔易〕「ー其ー无レ悔」。

【躭】 ロウ。力登切 蒸
み（身）。

四畫

【躰】 サウ、セウ。山巧切 巧
體の長き貌にいふ字。

【躰】 セツ、セチ。私列切 屑
つかふ（使）。

【躯】 ヒ、ピ。房脂切 支
躸ーは、體の柔かなること。

【躰】 シ。章移切 支
肢に同じ、からだ。

【躭】 俗の耽の字。

五畫

【躳】 爐に同じ。

【𨈖】ハツ、バチ。蒲末切 曷 行くを急なるにいふ字、はしる。

【𨈡】シ。章移切 支 肢に同じ。

【躰】俗の體の字。

【𨈱】チユ、ヂユ。重主切 麌 身の直き貌にいふ字。

【𨈨】チン。凝隣切 眞 走る貌にいふ字。

【𨈹】シン、ソン。側詵切 吻 身端し、たゞし。

【躯】俗の軀の字。

【𨉀】ブ、ホ。符遇切 遇 ―軀は、衣を著す、きる、又、衣服身に稱ふ、かなふ。

【䠶】射に同じ。

【𨈜】チヨウ、チユ。勅龍切 冬 身直し、なほし。

六畫

【䠷】テウ。土了切 篠 他弔切 嘯 身の長き貌にいふ字。

【䠳】トウ、ツ。吐孔切 董 身端しからず、みをくづす、ねぢく。

【𨉖】クワ、ケ。枯瓜切 麻 ―䠷は、體の柔かなるを、しなやか、一説に、體のしなやかなるを誇る、ほこる。

【𨉊】俗の骸の字。

【躱】タ。丁果切 哿 み、みづから、（身）。

七畫

【𨉁】テイ、チヤウ。他頂切 迥 身の長く直なるにいふ字、たけたかし。

【躳】キウ、ク。居戎切 東 み、みづから、（身）。（説文）从レ身从レ呂。

【躴】ラウ。魯當切 陽 ―躴は、身のたけ長き貌にいふ語。

八畫

【躻】キウ、ク。去仲切 送 ㊀つかふ、（使役）。㊁躬を曲ぐ、かゞむ。

【躶】ラ。郎果切 哿 赤體を露出するを、はだぬぎ、あかはだか。○（史）「―而佐刺レ船」。

【躷】矮に同じ、一説に、坐倚の貌にいふ字。

【𨉷】キ。居宜切 支 ㊀み（身）。㊁身の單なる貌にいふ字、ひとり。㊂かたく、ひとつ（隻）。

【躹】キク、コク。居六切 屋 躬をかゞむ、せぐくまる。

九畫

【𨊈】チヨウ、チユ。柱用切 宋 はらむ、（娠）。

【躽】エン。於殄切 銑 ㊀身を曲ぐ、かゞむ。㊁腹をふくらす。

【𨊊】エン、オン。隱幰切 阮 くゞせ（傴）。

【𨊥】シユ、ス。傷遇切 遇 射の字の條を見よ。

【𨊂】カ、ケ。虛加切 麻 身の傴す貌にいふ字。

【𨊛】クワウ、ワウ。胡光切 陽 ―樂は、鐘の聲。

十畫

【𨊻】カイ、ガイ。戶來切 灰 躴―は、體の長き貌にいふ語。

【𨊹】タウ。他曠切 養 シン。七甚切 沁 弱し。

十一畫

【𨋀】クワク、コク。古獲切 陌 ―軀は、はだか（倮）。

【躿】カウ。苦岡切 陽 躴―は、たけたかし。

【軀】ク、コ。豈俱切 虞 身體、からだ、むくろ、み。○（漢）「用ニ不レ訾之―ニ」。
（捐軀）いのちをすつ。○（晉）「―ニ―九原ニ」。
（棄軀）前に同じ。○（朱熹）「―レ―慚ニ國士ニ」。
（微軀）いやしきからだとておのれの躬を稱する謙辭。○（杜甫）「―・―此外更何求」。
（賤軀）前に同じ。○（李陵）「送レ子以ニ―・―ニ」。
（鄙軀）前に同じ。○（列女傳）「妾願以ニ―・―ニ易ニ父之死ニ」。
（輕軀）おもからざるからだ。○（拾遺記）「豈非ニ細骨―・―ニ、那得ニ百琲眞珠ニ」。
（形軀）からだ。○（韓愈）「大者殘ニ―・―ニ」。
（忘軀）からだを心にかけず。○（韓愈）「貪レ食以―レ―」「走ニ世塵ニ」。
（頑軀）おろかなるからだ。○（蘇軾）「七尺―・―」。
（投軀）躬をなげいだす。○（李白）「―レ―寄ニ天下ニ」。
（安軀）からだをやすらかにす。○（神異經）「食レ之可ニ以―レ―益ニ氣力ニ」。
（危軀）身をあやふきにおく。○（曹植）「烈士甘ニ―・―以成レ仁」。
（神軀）かみのかたち、又、神靈なるからだ。○（嵇康）「潛龍育ニ―・―ニ」。

【軁】ロウ、ル。郎侯切 尤 くゞせ（傴）。

【軁】ル、ロ。隴主切 麌 龍遇切 遇 僂に同じ、せむし。

十二畫

【軂】ラウ、ロウ。郎到切 號 ―軂は、身の長き貌にいふ語。

【𨋩】ゼン、ナン。而兗切 銑 軟に同じ。

【軃】タ。他果切 哿

㊀廣くして厚し。㊁垂れ下がる。

【軄】俗の職の字。

十三畫

【軆】體に同じ。

【⿰身亶】セン。旨善切 銑
㊀はだか（倮）。㊁體搖く、ゆるぐ、ふるふ。

【⿰身詹】タン、トン。丁含切 覃
好む、翫ぶ。

十四畫

【⿰身寧】デイ、ニヤウ。奴頂切 迥
あか（垢）。

【軇】タウ、ドウ。大到切 號
軂の字の條を見よ。

【⿰身監】ラン、ロン。盧甘切 覃
―軂は、身の長き貌にいふ語。

十六畫

【⿰身歷】レキ、リヤク。狼狄切 錫
⿰身畐―は、はだか（倮）。

【⿰身龍】ロウ、ル。盧孔切 董
―⿰身同は、身端しからず、身をくづす、みだる。

十八畫

【⿰身毚】ザン、ゼン。鋤咸切 咸
⿰身監―は、たけたかし。

二十畫

【⿰身賣】ギヨク、ゴク。魚欲切 沃
たから（寶）。

車部

【車】キヨ、コ。九魚切 魚
くるま。
（い）人又は物を載せ牽き行くに便ならしむるために箱輿に輪を裝置したるものゝ其の種類構造の異同に關せず之を泛稱していふ字。○〔古史考〕「黃帝作レ―、引レ重致レ遠、少昊時加レ牛、禹時奚仲爲二車正一加レ馬」。
（ろ）すべて輪を裝置したるものゝ其の種類構造の異同に關せず之を泛稱していふ字。○〔南〕「火舫水―」。

【車】シヤ、セ。昌遮切 麻
㊀輪を裝置して人或は物を載せ牽き行くもの及びすべて輪を裝置したるものゝ各部局を總括していふ字、くるま。○〔詩〕「有レ女同レ―」。
㊁齒牙の下骨、はどこ。○〔左〕「輔―相依」。

〔後車〕そへぐるま。○〔孟〕「―――數十乘」。
〔倅車〕前に同じ。○〔周〕「大師令三有爵者乘二王之―――一」。
〔屬車〕前に同じ。○〔漢〕「―――在レ後」。
〔副車〕前に同じ。○〔晉〕「屬車一日二―――一」。
〔脂車〕くるまにあぶらをぬる。○〔詩〕「遑レ―二爾―一」。
〔臨車〕敵陣をつく爲につくりたるくるま。○〔詩、傳〕「―――衝車也」。

〔檀車〕民より徵發したる役車。○〔詩〕「―――幝々」。
〔田車〕かりに用ふるくるま。○〔詩〕「―――旣好」。
〔棧車〕竹木のくるま、又、柩車のとにもいふ。○〔周〕「―――欲レ弇」。
〔飾車〕かざりぐるま。○〔帝王世紀〕「不レ得レ乘二―――騈馬一」。
〔路車〕むかし諸侯などの乘る車の名。○〔詩〕「―――有レ奭」。
〔公車〕官府のくるま、又、漢の時代の官署の名。○〔詩〕「―――千乘」。
〔輶車〕輕便なるくるま。○〔詩〕「―――鸞鑣」。
〔安車〕坐乘のくるまにて婦人などの乘るくるま。○〔禮〕「適二四方一乘二―――一」。
〔兵車〕たゝかひに用ふるくるま。○〔禮〕「―――不レ式」。
〔武車〕前に同じ。○〔禮〕「―――綏レ旌」。
〔貳車〕朝祀の時のそへぐるま。○〔禮〕乘二―――一則式」。
〔佐車〕戎獵の時のそへぐるま。○〔周〕「田僕掌二―――之政一」。
〔德車〕乘車のこと。○〔禮〕「―――結レ旌」。
〔客車〕まらうどの乘りたるくるま。○〔禮〕「―――不レ入二大門一」。
〔鸞車〕帝舜の乘車。○〔禮〕「―――有虞氏之路也」。
〔素車〕塗りかざらざるくるま。○〔後漢〕「移レ時見レ有二―――白馬號哭而來一」。
〔墨車〕畫かざるくるま。○〔儀〕「侯氏乘二―――一」。
〔翟車〕やまどりの羽をもてかざりあるくるまにて周にては后のいでて桑をつむ時にのり唐にては皇后歸寧の時にのるものといふ。○〔周〕「―――貝面」。
〔輕車〕おもからざるくるま、又、むかしのいくさぐるま。○〔後漢〕「―――古之戰車也」。
〔戎車〕皇帝出征のときにのるくるま。○〔晉〕「―――駕二四馬一」。
〔軘車〕兵車の名。○〔左〕「使二―――一逆レ之」。
〔軺車〕一馬にてひく輕きくるまの名。○〔史〕「朱家乘二―――一之二洛陽一」。
〔牛車〕うしにひかするくるま。○〔史〕「載以二―――一」。
〔墜車〕くるまの上より落つ。○〔史〕「佯醉―レ―」。
〔輜車〕にもつぐるま。○〔史〕「居二―――中一、坐爲二計謀一」。
〔單車〕ひとつのくるま。○〔史〕「今―――來代レ之、何如哉」。
〔綠車〕皇帝の孫の乘るくるまにて一に皇孫車ともいふ。○〔後漢〕「皇孫―――以從」。

〔雲車〕（い）くものくるま。○〔博物志〕「西王母乘二紫―――一來」。
（ろ）樓車のとにて雲といふは其の高きより名づく。○〔後漢〕「―――十餘丈、瞰二臨城中一」。
〔蒲車〕がまをもて車輪をつゝみてひゞきをふせぎたるくるま。○〔皮日休〕「未レ遣二―――一問二幽隱一」。
〔鹿車〕せまくちひさき車にて一鹿をいるゝに足るよりなづく、又、しかにひかするくるま。○〔皮日休〕「村邊買二―――一」。
〔馬車〕うまにひかするくるま。○〔後漢〕「賈人不レ得レ乘二―――一」。
〔輓車〕くるまをひく。○〔後漢〕「自在二輓中一―」。
〔前車〕さきに進むくるま。○〔韓詩外傳〕「―――覆、後車戒」。
〔檻車〕車上に欄檻を施し猛獸を格する用に供するもの、又、罪人を囚禁するくるま。○〔長楊賦〕「載以二―――一」。
〔大車〕おほいなるくるま、又、大夫の乘るくるまとも平地に載任の車ともいふ。○〔易〕「―――以載」。
〔輦車〕くるまをひく、又、羊車ともいふ一種の車。○〔魏〕「劉義隆賜以二―――一」。
〔奇車〕奇邪不正のくるま。○〔禮〕「國君不レ乘二―――一」。
〔王車〕帝王の乘るくるま。○〔周〕「王巡守則夾二―――一」。
〔羊車〕宮中に用ふるひきぐるまにて輦車ともいふ。○〔晉〕「―――一名二輦車一」。
〔察車〕くるまのよしあしをしらべみる。○〔周〕「是故―レ―自レ輪始」。
〔傳車〕驛傳のくるま。○〔史〕「條侯乘二―――一」。
〔挽車〕くるまをおしやる。○〔易林〕「―レ―上レ山」。
〔都車〕都邑の兵車。○〔左〕「陽虎戒二―――一」。
〔巢車〕車上にやぐらをつくりたるもの。○〔左〕「楚子登二―――一以望二晉軍一」。
〔棄車〕くるまをすてさる。○〔左〕「―レ―而走レ林」。
〔樓車〕やぐらのつきたるくるま。○〔左〕「登二諸―――一使レ呼二宋人一而告レ之」。
〔侵車〕敵地をおかしうつためのくるま。○〔穀梁〕「―――東至レ海」。
〔搖車〕草の名、俗に翹搖車といふ。○〔爾〕「柱夫―――」。
〔式車〕車上のよこぎに手をかけて禮をなす。○〔漢〕「改レ容―レ―」。
〔藩車〕車の屏蔽あるもの。○〔漢〕「司馬陳豪劾奏陳遵乘二―――一入二閭巷一」。

〔駐車〕くるまをとゞめてすゝまず。○〔魏〕「—レ—與語甚悅」。
〔停車〕前に同じ。○〔杜牧〕「—レ—坐愛楓林晚」。
〔羸車〕堅固ならざるくるま。○〔盧綸〕「傭服柴二——一」。
〔攀車〕くるまに手をかけ引く。○〔後漢〕「吏民—レ—請レ之」。
〔從車〕かりの時に用ふる帝王のくるま。○〔晉〕「——鑾二四馬一、天子校獵所レ乘」。
〔翳車〕蔽蓋を設けざるくるま。○〔南〕「或乘二——一」。
〔糧車〕兵食をはこぶくるま。○〔唐〕「行儉詐爲二——三百乘一」。
〔空車〕からぐるま。○〔遼〕「若二——一走二峻阪一」。
〔固車〕強固につくりたるくるま。○〔墨〕「乘二良馬——一、可二以速至一」。
〔堅車〕前に同じ。○〔墨〕「——良馬不レ知レ貫也」。
〔馳車〕くるまをはしらす、はするくるま。○〔孫〕「——千駟」。
〔奔車〕はしるくるま。○〔韓〕「——之上無二仲尼一」。
〔鳳車〕帝王のくるま、又、蝶の異名。○〔古今注〕「蛺蝶一名二——一」。
〔衆車〕おほくのくるま。○〔甘泉賦〕「陳二——一于東阬一兮」。
〔遮車〕くるまの進行をさへぎりとゞむ。○〔梁簡文帝〕「衛卒—レ—」。
〔豐車〕おほいなるくるま。○〔王安石〕「——肥馬識二豪傑一」。

一畫

【軋】アツ、エチ。於黠切 黠　アン、エン。臂眼切 潸

㊀きしろ。
(い)車輪の物の上をすり行きて聲あるにいふ字。○〔六書故〕「車載レ重踐—有レ聲也」。
(ろ)物と物とすれあふにいふ字、すれあひて聲あるにいふ字。○〔劉機〕「天地—二萬物苗一」。
(は)勢を爭ひて相傾くるにいふ字。
㊁古昔の刑の一、くるまにて骨節をきしり碎くこと。○〔莊〕「名也者相—也」。○〔漢〕「罪小者—、大者死」。
㊂—芴は、緻密なること、こまか。○〔漢〕「縝紛—芴」。
㊃—忽は、長く遠き貌にいふ語。○〔漢〕「清風—忽」。
〔柍軋〕(い)遠く相映ずる貌、又、際涯なきにいふ語。○〔漢〕「忽——而無レ垠」。
(ろ)激騰の聲にいふ語。○〔元稹〕「——潭發池[illegible]搖」。
〔鴉軋〕ものゝふれ激する聲にいふ語。○〔汪遵〕「竹門——爲レ風開」。
〔軋々〕きしる。○〔溫庭筠〕「——搖二槳聲一」。
〔咿軋〕前に同じ。○〔陸游〕「——櫓聲隔二短牆一」。
〔嘔軋〕前に同じ。○〔薛逢〕「櫓聲——中流渡」。
〔侵軋〕をかしあたる。○〔唐〕「無二能——一者一」。

二畫

【⿰車㔾】ハン、ホン。父錽切 豏

軓に同じ、ゑきみのまへ、(軾前)。

【⿰車丁】テイ、チヤウ。剔鈴切 青

車停まる、とゞまる。

【軌】キ。居洧切 紙

㊀車轍、あと、わだち。○〔孟〕「城門之—」。
㊁車軸、轊頭、よこがみ、ちくさき。○〔禮〕「其在レ車、左執レ轡、右受レ爵、祭二左右—范一乃飲」。
㊂みち。
(い)一定の法則、のり。○〔左〕「講レ事以度レ—」。
(ろ)一定の循路、ゆきみち。○〔淮〕「五星循レ—」。
㊃みちに循行す、したがふ。○〔漢〕「諸侯—レ道」。
㊄宄に通じ用ふ。○〔左〕「亂在レ外爲レ姦、在レ內爲レ—、御レ姦以レ德、御レ—以レ刑」。
㊅簋に同じ。○〔古文儀〕「黍稷六—」。
〔車軌〕くるまのあと。○〔魏〕「足跡——」。
〔同軌〕くるまの跡をおなじくす、又、のりをひとしくす。○〔鄧〕「可下與二劉謝一——上」。
〔共軌〕前に同じ。○〔隋〕「六合八紘同レ文—レ—神功也」。
〔一軌〕前に同じ。○〔北〕「祥越—レ—」。
〔禦軌〕みだれたる心をいだく者をふせぎとゞむ。○〔國〕「—レ—以レ德」。
〔方軌〕車軸をならぶ。○〔史〕「車不レ得—レ—」。
〔先軌〕祖先の法則。○〔易、註〕「能承二——一、堪二其任一者也」。
〔儀軌〕法則。○〔蜀〕「撫二百姓一示二——一」。
〔繼軌〕前人のあとをつぐ。○〔晉〕「四聖—レ—」。
〔遐軌〕むかしのみち。○〔晉〕「遵二許郭之——一」。
〔物軌〕ものゝ法則。○〔管〕「泚レ事則爲二——一」。
〔異軌〕くるまのみちをことにす、又、法を同じうせざること。○〔隋〕「殷周所二以—レ—」。
〔日軌〕太陽の軌道。
〔正軌〕たゞしきのり、又、のりをたゞしくす。○〔五〕「黃道者——也」。○〔潛夫論〕「明君臨衆必以—レ—」。
〔範軌〕模範法則。○〔張載〕「行爲二——一」。
〔懿軌〕善美なるのり。○〔傅亮〕「仰二前修之——一」。
〔高軌〕高尚なるみち。○〔孫綽〕「思レ齊二——一」。
〔徐軌〕車をゆるやかにすゝむ。○〔江淹〕「大軍—レ—」。
〔洪軌〕おほいなるのり。○〔陶弘景〕「事遵二——一」。

【⿰車丩】キウ、ク。居求切 尤

車のうしろ、よこぎの長さ。

【⿰車丩】キウ、ク、己幼切 宥

車のうしろのよこぎの上の幹。

【軍】クン、コン。拘云切 文

㊀いくさ。
(い)兵士部署上の名稱、周にては一萬二千五百人を定めとせり、もろ〱。○〔周〕「五師爲レ—」。
(ろ)兵士、陣隊。○〔史〕「水上—、皆殊死戰」。
(は)戰鬪、兵事。○〔管〕「試二之於—一、而有レ功者擧レ之」。
㊁師を屯す、ぢんどろ、たむろす。○〔左〕「—二於瑕一以待レ之」。
〔治軍〕軍隊を整へをさむ。○〔吳〕「凡制レ國——」。
〔六軍〕帝王の軍隊をいふ、周の制にては一軍は一萬二千五百人なり。○〔後漢〕「親勒二——一」。
〔三軍〕周の時代にては大諸侯の國よりいだす制度にて總數は三萬七千五百人なり、又、轉じて國家全般の兵のことに用ふる語。○〔李陵〕「義勇冠二——一」。
〔一軍〕周の時代にては小諸侯のいだす軍隊にて一萬二千五百人あり、又、全軍の意にも用ふることあり。○〔史〕「——皆驚」。
〔將軍〕軍職の名、又、兵を統率する者。○〔漢〕「漢王以爲二大——一」。
〔前軍〕軍職の名、又、先鋒の軍隊。○〔舊唐〕「我故職在二——一」。
〔護軍〕軍職の名。○〔漢〕「元始元年、更名二——一」。
〔却軍〕軍隊をあとへしりぞく。○〔史〕「爲—レ—五十里」。
〔從軍〕軍隊にしたがひたゝかひにいづ。○〔孟浩然〕「王粲始—レ—」。
〔整軍〕軍隊をとゝのへそなふ。○〔左〕「子姑—レ—而經二武乎一」。
〔還軍〕軍隊をひきかへす。○〔史〕「—二—霸上一」。
〔止軍〕軍隊をとゞむ。○〔史〕「至二陽夏南一——」。
〔留軍〕前に同じ。○〔史〕「魏王使下人止二晉鄙一——壁上レ鄴」。
〔勞軍〕軍隊の者をねぎらふ。○〔史〕「詐以二十二牛一—レ—」。
〔益軍〕戰士のかずをます。○〔史〕「荊聞二王翦——而來一」。
〔水軍〕ふないくさに從ふもの。○〔吳〕「今治二——八十萬衆一」。
〔舟軍〕前に同じ。○〔晉〕「以二——一入レ淮」。
〔單軍〕援助なき孤立の軍隊。○〔晉〕「地非二重險一、非レ可二——獨能保一レ固」。
〔麾軍〕戰士を指麾す。○〔梁〕「執二白角如意一——」。

〔親軍〕帝王の親兵。○〔書〕「詔₂諸-王-閣₁一一₁」。
〔司軍〕いくさのことをつかさどる。○〔金〕「兵-馬-司及宅一ㇾ一者」。
〔全軍〕軍實戰士を失はざること、又、すべての軍隊をいふ。○〔孫〕「一ㇾ一爲ㇾ上」。

【軌】リツ、リチ。力質切 [質]
㊀纑（あさいと）を刷ふ具。
㊁いろどろ、（彩）。

三畫

【軎】エイ、于劌切　セイ、祥歲切 [霽]
エ。切　セ。切
車軸の頭、ちくがしら。

【軏】ゲツ、グヮチ。魚厥切　ゴツ、ゴチ。五忽切 [月]
轅の端の衡（くびき）を持する木、よこがみ。○〔論〕「小-車無ㇾ一」。
〔輗軏〕車の大小のくびき、又、かりて大小の義に用ふる語。○〔韓愈〕「粗識₂輗一一₁」。

【軐】セン。先見切 [霰]
轉一一は、車の迹。

【軐】シン。之刃切 [震]
くるま（車）。

【𨊶】俗の釭の字。

【軑】テイ、ダイ。大計切 [霽]
㊀車轄、そこかりも。○〔楚辭〕「齊₂玉一一而竝馳」。「謂ㇾ輪曰ㇾ一」。
㊁車輪、くるま。○〔揚雄〕「轊楚之閒、

【軚】タイ、ダイ。度柰切 [泰]
地の名。○〔漢〕「江-夏-郡有₂一一縣₁」。

【軒】ケン、コン。虛言切 [元]
㊀車の兩旁に轓（おほひ）ありて轅曲がりたる車、大夫の乘るべきもの。○〔左〕「鶴有₂乘ㇾ一者₁」。
㊁轉じて、車の通稱。○〔江淹〕「朱一一繡-軸」。
㊂たかし、かろし。
（い）車の前むに前輕くして高きにいふ字。○〔詩〕「如ㇾ一如ㇾ輊」。
（ろ）物事の高きにも輕きにもいふ字。○〔後漢〕「不ㇾ能ㇾ令₂人一一₁」。
㊃檐宇の末、のき、ひさし。○〔左思〕「周-一中ㇾ天」。
㊄轉じて家。○〔蘇轍〕「我亦一一容ㇾ膝住」。
㊅長廊の牕、など、又、牕ある長廊、ほそどの。○〔張衡〕「承₂倒-景₁而開ㇾ一」。
㊆檻闌、おばしま、又、おばしまの板。○〔江淹〕「月上ㇾ一而飛ㇾ光」。
㊇擧がる、擧ぐ。○〔木華〕「翔-霧連ㇾ一」。
㊈笑ふ貌にいふ字。○〔天祿外史〕「一一然仰笑」。
㊉舞ふ貌にいふ字。○〔淮〕「一一然迎ㇾ風而舞」。
⑪自得の貌にいふ字。○〔唐〕「一一自-得」。
〔魚軒〕大夫の乘るくるま。○〔左〕「夫-人一一一」。
〔戎軒〕いくさぐるま。○〔隋〕「一一大-擧」。
〔輶軒〕輕車。○〔隋〕「一一出使」。
〔高軒〕たかきのき。○〔蜀都賦〕「開₂一一₁以臨ㇾ山」。
〔層軒〕かさなりたるのき。○〔陸游〕「一一倚₂碧-空₁」。
〔雕軒〕彫刻を加へたるのき、うつくしき宮殿などのこと。○〔陸雲〕「陪₂武臣於一一₁」。
〔騰軒〕家ののきにのぼる、又、かりてたかき地位に登るにいふ。○〔韓愈〕「不₂自求₁一一」。
〔皇軒〕禁宮ののき。○〔李嶠〕「喜氣繞₂一一₁」。
〔飛軒〕そびえてたかきのき。○〔劉琨〕「俯-仰御₂一一₁」。
〔彤軒〕丹飾ののき。○〔七啓〕「一一紫-柱」。
〔朋軒〕のきをてらす。○〔嵇康〕「朗-月一ㇾ一」。
〔瓊軒〕たまにてかざりたるうつくしきのき。○〔沈炯〕「一一雲-構」。「開」。
〔茅軒〕かやぶきの家。○〔周朴〕「松-店一一向ㇾ水長-坂」。
〔小軒〕ちひさなる家。○〔李嶠〕「一一但共處₂闌干₁」。
〔山軒〕やまにある家。○〔釋皎然〕「一一日-色在₂

【𨊻】ケン、コン。許建切 [願]
大きく切りたる肉。○〔禮〕「麋-鹿田-豕麕皆有ㇾ一」。

【軒】ケン、コン。許偃切 [阮]
車の軾。

【䡅】カン。呼旱切 [旱]
罕に通じ用ふ。

【軕】シュン。束倫切 [眞]
轂約、こしきしばり、一說に、柩を載する車、ひつぎぐるま。

【軐】軛に同じ。○〔周〕「祭ㇾ一」。

【軔】ジン、ニン。而振切 [震]
㊀車輪の轉するを礙むる木、くるまのとめぎ。○〔詩〕「動ㇾ一則泥陷」。
㊁凡て物の行くを止どむるものにいふ字。○〔後漢〕「光-武嘗欲₂出-遊₁、剛-諫不ㇾ聽、遂以ㇾ頭一₂乘-輿輪₁」。
㊂仞に同じ、ひろ。○〔孟〕「掘ㇾ井九一一」。
〔發軔〕とめぎを去りて車を行る、啓行す、しゆつたつす。○〔屈平〕「朝一₂一于天-津₁」。

四畫

【軨】ヨウ、ユ。餘封切 [冬]

【𨊾】輅に同じ、車の行く貌にいふ字。

【軖】キヤウ、ガウ。巨王切 [陽]
㊀紡車、いとよりぐるま、一說に、一輪の車。
㊁車戻る、もどろ。

【軓】シン。息林切 [侵]

【軗】シュ、ジュ。上𤨏切 [虞]
車軥の心木、卽ち、軶を制するもの。

【軘】トン、ドン。徒渾切 [元]
車の竿。
兵車、いくさぐるま。○〔左〕「使₂一一車逆₁ㇾ之」。

【較】較に同じ。

【軛】カウ。苦朗切 [養]
あげこし。

【軏】カウ。口浪切 [漾]
車の軌、わだち。

【軛】アク、ヤク。於革切 [陌]
轅の端の横木、くびき、卽ち、車を牽く牛馬の領に駕するもの。○〔周、註〕「兩一一之閒」。

【㺹】ヘン、ホン。府遠切 [阮]
車のへりに塵泥を屛蔽するに設けたるもの、くるまのおほひ。

【軜】ダフ、ノフ。奴荅切 [合]
驂馬（そへうま）の內轡、うちたづな、軾

の前に繋くるもの。○〔詩〕「塗以二䑺——一」。

【軝】キ、ギ。巨支切 [支] 旁に出でたる轂の端、こしきのはし。○〔詩〕「約——錯-衡」。

【軞】バウ、モウ。莫袍切 [豪] きみのくるま、(公-車)。○〔詩、箋〕「注二君之——車一」。

【軟】俗の輭の字。

【軏】ゲツ、グワチ。魚厥切 [月] 車のよこづか、(釭)。

【𨊾】ハ、ヘ。邦加切 [麻] 兵車、いくさぐるま。

【軠】ザン、ニン。尼心切 [侵] いさゝりぐるま、(紡-車)。

【軡】キン、ゴン。渠今切 [侵] 地の名。

【軡】ケン、ゴン。其淹切 [鹽] ——中は、黔中に同じ。

【䡊】ケン、ゲン。胡犬切 [銑] くるまのかさぼね、(車-弓)。

【䡍】フ。奉扶切 [虞] くさび、(轄)。

五畫

【軥】ク、ゴ。其俱切 [虞] 下に曲がれる軶、くびき。○〔左〕「射二兩——一而還」。

【軥】コウ、ク。古侯切 [尤] ㊀車の心木。㊁夏の代の輅、くるま。

【軥】コウ、ク。古候切 [宥] ㊀——𨍏は、輓車、ひきぐるま。㊁くびき、(軶)。○〔漢〕「不レ過二——牛一」。

【軦】キヤウ、カウ。許放切 [漾] 黃——は、蟲の名。○〔莊〕「黃——生二於九-猷一」。

【軧】テイ、タイ。典禮切 [薺] 大車の後、うしろ。

【軧】チ、ヂ。陳尼切 [支] 車の兩尾。

【軧】チ、ヂ。展几切 [紙] 大車後れ至る、おくる。

【軨】レイ、リヤウ。郎丁切 [青] ㊀車の轖(はこ)の閒にある横木、よこぎ、軾の上にありて立乗るとき還りかゝるもの。○〔楚辭〕「倚二結——一兮大-息」。㊁車の轄(くさび)の頭にある革、かは。○〔禮〕「展レ——效レ駕」。㊂一種の獵車、其の前頭に曲がれる高大なる横木あり其の中に立ちて禽獸を射格す。○〔漢〕「以二——車一奉三迎曾-孫一」。「——軒一」。㊃櫺に通じ用ふ、れんぢ。○〔揚雄〕「據二——一」。

(軨々) 獸の名。○〔山海經〕「空-桑之山有レ獸、狀如レ牛而虎文、其音如レ欽、其名曰二——一」。

【䡏】コウ。苦肱切 [蒸] 軾の中。

【軩】タイ、デ。徒亥切 [蟹] 車平かならず、かたむく。

【軪】アウ、エウ。於交切 [肴] ——軋は、奇なる貌にいふ語、又、車の聲にいふ語。

【軪】アウ、エウ。於教切 [效] 機を有する車。

【軫】シン。止忍切 [軫] ㊀車の伏兔(とこしばり)の上に加へたる横木、よこぎ。○〔周〕「車——四-尺」。㊁輿輅、くるま。㊂めぐる、(轉)、うごく、(動)。○〔漢〕「來——倘-適」。○〔揚雄〕「——二轉其道一」。㊃衆くして盛んなるにいふ字、おほし、さかんなり。○〔淮〕「士-卒殷——」。㊄かくる、(隱)。○〔楚辭〕「心鬱-結而紆-——」。㊅まがる、(曲)。○〔後漢〕「路紆——而多レ艱」。㊆いたむ、(痛)。○〔楚辭〕「出二國-門一而——懷」。㊇二十八宿の一、みつうち。○〔史、註〕「——與レ巽同レ位」。㊈琴の下にありて絃を轉ずる用をなすもの。○〔魏〕「須二施レ——如レ琴」。

(庇軫) 弓の長さ四尺なるをいふ。○〔周〕「四-尺謂二之——一」。

(發軫) 車をいたす。○〔齊〕「——既殊」。

(接軫) 車後の横木の連接するとにて車のいくつもつゞくをいふ。○〔洛陽伽藍記〕「雲車—レ—」。

(軫々) さかんなる貌にいふ語。○〔史〕「軫者言二萬-物益大而——然一」。

(鸞軫) 帝王の乗る車。○〔唐〕「漢-帝——、鳳-編二五-嶽一」。

(停軫) 車をとゞむ。○〔魏〕「大-宜—レ—」。

(朱軫) ことのまたの絃を轉ずるもの。○〔張銑〕「瑟-堂無レ事調二——一」。

(彫軫) 彫刻を加へかざりたる車。○〔王符〕「天-子乘二碧-瑤之——一」。

【𨋍】俗の軫の字。

【軬】ヘン、バン。扶晚切 [阮] 車の雨水をふせぐ藩、くるまのおほひ。

【軬】ホン、ボン。歩本切 [阮] 車上の篷、とま。

【軭】キヤウ、カウ。去王切　キヤウ、ガウ。巨王切 [陽] 車戻る、もどる。

【䡓】ハツ、ハチ。普八切 [黠] 車の破るゝ聲にいふ字。

【軮】アウ。倚朗切 [養] ㊀軋る聲にいふ字。㊁遠く相映ずる貌にいふ字。

【軮】フク、ボク。房六切 [屋] 縣の名。○〔後漢〕「浚-儀公-主適二——侯一」。

【軯】ハウ、ヒヤウ。披耕切 [庚] ㊀車の行く聲にいふ字、又、鐘鼓の聲にいふ字。○〔張衡〕「——磕隱-訇」。㊁雷の聲にいふ字。○〔張衡〕「豐-隆——其震-霆兮」。

【輂】俗の翬の字。

【䡅】キョウ、ク。居竦切 腫
㊀おほわ、（輞）。㊁きしろ、（轢）。

【軿】拳に同じ。

【軱】コ、ク。古胡切 虞
おほぼね、（盤骨）。○〔莊〕「技經ニ肯‐綮一之未レ嘗、而況大‐‐乎」。

【軲】コ、ク。苦胡切 虞
くるま、（車）。

【軳】ハウ、ベウ。薄交切 肴
㊀もさろ、（戾）。㊁車の横木。

【軤】碑に同じ。

【䡨】チユ、ツ。中句切 遇
車の駐まるにいふ字、とゞまる。

【軮】ギヤウ、ガウ。魚向切 漾
かご、（轎）。

【䡩】リウ、ル。力久切 有
柩を載する車、ひつぎぐるま、又、喪の車の飾り、くるまかざり。

【軪】タ、ダ。徒何切 歌
車疾く馳す、はす。

【軵】ジヨウ、ニユ。而隴切 腫
輕き車。○〔漢〕「再‐三發レ‐」。

【軵】ホ、フ。斐古切 麌
おす、（推）。○〔淮〕「‐車奉レ饟一」。

【軵】ジヨウ、ニユ。人冬切 冬
おす、（擠）。○〔淮〕「相戲以レ刃者、太‐祖‐二其肘一」。

【軞】ビン、ミン。莫斌切 眞
㊀とこしばり、（伏‐兔）。㊁おほわ、（輞）。

【軛】ヂ、ニ。柅夷切 支
しきみ、（軾）。

【軝】サ、セ。側駕切 禡
車裂く、さく。

【軷】ハツ、バチ。蒲撥切 曷　ハイ、バイ。蒲蓋切 泰
啓行（でたち）に際し道祖神を祭りて途上の無難を禱ること。○〔詩〕「取レ羝以‐」。
〔祖軷〕行道の神を祭ること。○〔梅堯臣〕「‐‐‐山‐川濶」。

【軥】テン、デン。亭年切 先
車の衆き聲にいふ字、さゞろく。

【軸】チク、ヂク。直六切 屋
㊀轂を貫きて輪を持つ横木、よこがみ。○〔史〕「吾馬病、車‐折」。
㊁經絲を持つ織具、よこまき。○〔詩〕「杼‐‐其空」。
㊂圖書の卷、まきもの。○〔南〕「見二卷‐‐一未二必多一レ僕」。
㊃まきものをまき持つ心。○〔唐〕「白‐牙‐、紅‐牙籤」。
㊄まきものゝ數にいふ字。○〔韓愈〕「鄴‐侯家多レ書、插レ架三‐萬‐‐」。
㊅旋運輪轉するものゝ中心を貫きたるものゝ稱、しんぎ。○〔袁宏〕「茲廻二乾‐‐一」。
㊆樞要の地位。○〔漢〕「當レ‐處レ中」。
㊇病みて行く能はざるにいふ字、盤桓（めぐりく）して行かざるにいふ字。○〔詩〕「碩‐人之‐」。
〔折軸〕車輪を支持するよこぎををる。○〔戰〕「羣‐輕‐レ‐」。
〔卷軸〕まきものゝ中心、又、まきもの。○〔錢起〕「新‐詩添二‐‐‐一」。
〔坤軸〕地の中心。○〔杜甫〕「殺‐氣南‐行動二‐‐‐一」。
〔地軸〕前に同じ。○〔鮑昭〕「下‐淚二‐‐‐一」。
〔厚軸〕前に同じ。○〔薛逢〕「聲疑‐‐擢」。
〔衡軸〕くるまのよこぎ、又、かりて樞要なる場處の義に用ふる語。○〔北〕「雖既當二‐‐‐一」。
〔樞軸〕樞要の地位。○〔南〕「志在二‐‐‐一」。
〔轅軸〕車のながえとよこぎと。○〔遼〕「時梁人遣レ使求二‐‐‐一」。
〔標軸〕卷物などの標裝と中心のぢくと。○〔歷代名畫記〕「書‐畫以二‐‐‐一買レ害」。
〔掛軸〕書畫などのかけもの。○〔思陵書畫記〕「唐五‐代皇‐朝等名‐畫‐‐‐」。
〔資軸〕みごとなるまきもの。○〔徐陵〕「寡彼二‐‐‐一」。

【輾】デン、チン。尼展切 銑
きしろ、（轢）。

【軹】シ。諸氏切 紙
㊀轊頭、よこがみのさき。○〔周〕「祭二兩‐‐一」。
㊁ふたまた、（岐）。○〔爾〕「北‐方有二‐‐首蛇一」。
㊂只に同じ、字句に添へ加ふる助字。○〔莊〕「許‐由曰、而奚來爲‐」。
㊃一種の藥、いたちぐさ。○〔本草〕「連‐翹一‐名‐」。
〔戾軹〕弓のたけ六尺なるものをいふ。○〔周〕「弓長六‐尺謂二之‐‐‐一」。

【軺】エウ。餘招切　セウ、ゼウ。時饒切　テウ。丁聊切 蕭
小車、をぐるま、又、四方に向かひて遠きを望む車、ものみぐるま。○〔漢〕「駕二‐‐封‐傳一」。
〔軒軺〕たけたかきくるま。○〔北〕「父‐子並乘二‐‐‐一」。
〔傳軺〕ものみぐるまをとゞむ。○〔宋之問〕「‐レ‐一望レ家」。
〔使軺〕使者の乘るくるま。○〔王惲〕「孤‐忠耀二‐‐‐一」。

【軳】ハウ、ヘウ。披敎切 效
石を飛ばす車。

【軻】カ。苦何切 歌　枯我切 哿　口箇切 箇
㊀車の軸を接ぐこと。
㊁轗‐、又、轁‐は、車行の不利なること、轉じて人の志を得ざること、ふしあはせ。○〔楚辭〕「轁‐‐留‐滯」。
〔丘軻〕孔子と孟子と。○〔韓愈〕「柄二用儒‐術一崇二‐‐‐一」。

【軼】イツ、イチ。夷質切 質
㊀後より前に出づ、いづ、こす。○〔楚辭〕「‐二迅‐風于淸‐源一」。
㊁すぐ、（過）、つく、（突）。○〔後漢〕「‐二范‐蠡之絕‐迹一」。「也」。
㊂をかす、（侵）。○〔左〕「懼三其侵二‐我一」。
㊃逸に通じ用ふ。○〔史〕「賭二‐‐詩一可レ異焉」。
㊄ちろ、（散）。○〔史〕「其‐‐乃時‐々見二于他‐說一」。
㊅溢に通じ用ふ、あふる。○〔漢〕「‐爲レ榮」。
〔飆軼〕はちの如くすぐるとてときとをいふ。○〔漢〕「飈‐駭‐‐‐」。

〔超軼〕車越していづること。○〔荘〕「夫子ー・ー絕-塵、而回瞠二若乎後一矣」。
〔樂軼〕安樂に逍遊す。○〔史〕「士卒ー・ー」。
〔突軼〕衝きをかすこと。○〔金〕「彼屢ー二・ー吾圉一」。
〔衝軼〕前に同じ。○〔韓琦〕「山・麋ー・ー犯二勁-矢一」。
〔奔軼〕驅突す。○〔元〕「絕二其ー・ー一」。
〔亡軼〕ちり失ふ。○〔東觀餘論〕「今江南二-閣亦復ー・ー」。
〔跨軼〕こゆること。○〔故宮題跋〕「ー二・ー百王一」。
〔踰軼〕あそひいづ。○〔王粲〕「遞相ー・ー」。
〔貫軼〕つらぬきいづ。○〔袁淑〕「ー二・ー商・周之舊-文一」。
〔冠軼〕すぐれひいづ。○〔呂溫〕「ー二・ー富-倫一」。

【軼】テツ、デチ。徒結切 屑
㊀前條に同じ。
㊁迭に同じ、たがひに。○〔史〕「ー輿ー廢」。
㊂轍に通じ用ふ、わだち。

六畫

【軾】ショク、シキ。賞職切 職
㊀車轎の前にある横木、しきみ、車中にて敬禮を行ふに之を撫し伏するに設く。○〔左〕「折レー」。
㊁しきみに伏して敬禮をなす。○〔後漢〕「ー二幹-馬一」。
〔馮軾〕車前の式によるとて即ち車に乘ること。○〔史〕「ー・ー結レ靷」。
〔折軾〕車前の式をきる。○〔左〕「叔山冉搏レ人以投、中レ車ーレー」。
〔據軾〕車前の式によりかゝる。○〔荘〕「ーレー低レ頭」。
〔拊軾〕車前のよこぎをなづ。○〔說苑〕「齊宣王ーレー曰、寡人有レ過」。
〔撫軾〕前に同じ。○〔王褒〕「ーレー歎兮作レ詩」。
〔前軾〕くるまのまへのよこぎ。○〔謝惠連〕「推レ劍憑二ー・ー一」。
〔霑軾〕車前のよこぎをぬらす。○〔江淹〕「横レ玉拄而ー・ー」。

【軿】俗の輧の字。

【輀】ジ、ニ。如之切 支
喪の車。

【輁】キョウ、グ。渠容切 冬　キョウ、ク。居竦切 腫
ひつぎ車に載せたる棺を支へ持つ、長牀の如き形をなせるもの、其の桯(よこぎ)の前後を穿ちて車の軸に關す。○〔儀〕「侇-牀ー-軸」。

【輂】キョク、コク。居玉切 沃
㊀馬に駕する大車、くるま。○〔周〕「正三治其徒-役與二其ー-輦一」。
㊁土を搬ぶ器、ふご。○〔漢〕「陳二畚-ー一」。

【⿴行車】ケン。古縣切 先
車搖く。

【輥】コン、ゴン。戸昆切 元
車の前の飾り。

【⿰車夅】カウ、コウ。虛江切 江
うつ(擊)。

【⿰車兆】テウ。他彫切 蕭
うすし(愉)。

【⿱丞車】ショウ、ソウ。之陵切 蒸
後より登る輜車、こぐるま。

【較】カク、コク。古岳切 覺
㊀車上の兩旁の植木の上にありて軾より高き横木、車に立乘して憑りかゝるに設けたるもの。○〔詩〕「猗二重-ー一兮」。
㊁車箱、にばこ。○〔後漢〕「金-簿繆-龍爲二輿倚ーー一」。
㊂角に通じ用ふ、きそふ、くらぶ。○〔孟〕「魯人獵ー」。

【較】カウ、ケウ。古孝切 效
㊀校に通じ用ふ、しらぶ、くらぶ、はかる。○〔史〕「大-車不レー不レ能レ載」。
㊁梗概、おほむね、あらまし、ほゞ。○〔嵇康〕「斯其大ーー」。
㊂等しからざること、ちがひ。○〔劉勰〕「不レ能レ無二抄-撮之ー一」。
㊃少しく度のちがひあるを表す字、やや。○〔杜甫〕「春寒花ー遲」。
㊄著明なる貌にいふ字、いちじるし。○〔漢〕「ーー然甚明」。
〔大較〕おほむねと訓む、大略といふに同じ。○〔養、疏〕「但舉二其ー・ー一」。
〔訾較〕はかりくらぶ。○〔白居易〕「ー二・ー天-下事一」。

【⿰車色】ショク、シキ。殺測切 職
車の轉り戻るにいふ字。

【⿰車彡】ケイ、カイ。康禮切 薺
㊀さゝはる(礙)。㊁いたる(至)。

【⿰車旬】クヮウ。呼宏切 庚
羣る車の聲にいふ字、とゞろく。

【⿰車旬】輞に同じ。

【輅】ロ、ル。洛故切 遇
㊀天子の御車、みくるま。○〔禮〕「乘二戎ーー一」。
㊁車の轅縛(ながえしばり)、之に靷(ひきつな)をつけて輓く。○〔儀〕「賓奉レ幣當二前-ー一致レ命」。
㊂大いなり。○〔後漢〕「禮下二公-門一式二ー-馬一」。
〔大輅〕王者の乘るおほぐるま。○〔書〕「ー・ー在二賓-階一」。
〔綴輅〕金路のことにて王者の車の名。○〔隋〕「金-輅案二尚-書一郎ー・ー也」。
〔次輅〕木路のことにて王者の車の名。○〔隋〕「木-輅案二尚-書一郎ー・ー也」。
〔棧輅〕臥車のこと。○〔西都賦〕「于レ是後-宮乘二ー・ー一登二龍-舟一」。
〔蒼輅〕隋の時代にては帝王の昊天上帝を祠るときに乘る車をいふ。○〔隋〕「皇-帝之輅十-有-二-等、一曰二ー・ー一」。
〔翟輅〕皇后の乘る車の名。○〔隋〕「皇-后之車十-二-等、三曰二ー・ー一」。
〔翠輅〕前に同じ。○〔隋〕「皇-后之車十-二-等、四曰二ー・ー一、以從二皇-帝一見二賓-客一」。
〔雕輅〕前に同じ。○〔隋〕「皇-后之車十-二-等、五曰二ー・ー一」。
〔篆輅〕前に同じ。○〔隋〕「皇-后之車十-二-等、六曰二ー・ー一、以臨二諸-道-法-門一」。
〔車輅〕くるま。○〔宋〕「太-僕-寺掌二ー・ー廐-牧之令一」。
〔副輅〕そへぐるま。○〔宋〕「北-階-輅及ー・ー制、多仍二唐-舊一」。

【輅】ラク。歷各切　カク。轄各切 藥
車前にある横木、二人之を輓き三人之を推して車を行る。○〔史〕「脫二輓-ーー」。

【輅】ガ、ゲ。魚駕切 禡
むかふ(迎)。○〔左〕「ー二秦-伯一將レ止レ之」。

【輆】カイ、ケ。苦亥切 賄
平かならず。

【輆】カイ、ケ。口溉切 隊
ー-沐は、國の名。

【輇】セン、ゼン。市緣切 先

(一)車の下にある庳き輪、一說に、輻なき輪、卽ち、直木をたゞちに輪さなしたるもの。
(二)銓に通じ用ふ、はかる。〇〔莊〕「——才」「諷·說之徒」。
(三)輲に同じ。

【輇】チユン。敕倫切 眞
輴に同じ、こしきしばり。

【⿰車曳】エイ。以制切 霽
死者に車馬を贈るを。

【⿰車次】シ。七四切 寘
纂を以て車を飾るにいふ字、うるしぬり。

【輈】チウ、チユ。張流切 尤
(一)車轅、ながえ。〇〔詩〕「五·楘梁——」。
(二)——張は、彊梁なる貌にいふ語、てづよし。〇〔後漢〕「汝今——張怙二汝兄一耶」。
〔鞬輈〕車のながえをつかぬ。〇〔政論〕「方將下拑レ勒——レ以救上レ之」。
〔鉤輈〕鷓鴣の鳴く聲にいふ語。〇〔李德裕〕「鵁鶄起兮——」。
〔雙輈〕車の二本のながえ。〇〔劉琨〕「駭·騆推二——一」。
〔華輈〕うつくしき車のながえ、又、轉じてうつくしき車の義に用ふ。〇〔皮日休〕「不レ獻——小」。
〔摧輈〕車轅をくだく。〇〔王維〕「何路不レ——レ」。
〔停輈〕くるまをとゞむ。〇〔蘇軾〕「老·氏舊——レ」。

【載】サイ。作代切 隊
(一)のす。
(い)乘りてあらしむ。〇〔易〕「大·車以——」。
(ろ)うく、(承)、たふ、(勝)。〇〔易〕「君·子以厚レ德——レ物」。
(は)記錄す、志るす。〇〔書〕「丕視レ工——」。
(二)のる、(乘)。〇〔晉〕「同——卽去」。
(三)なす、(成)、つぐ、(續)。〇〔書〕「乃賡——レ歌」。
(四)おこなふ、(行)。〇〔書〕「——二采々一」。
(五)みつ、(滿)。〇〔詩〕「厥聲——レ路」。
(六)かざる、(飾)。〇〔淮〕「——以二銀·錫一」。
(七)こと、(事)。〇〔書〕「有二能奮レ庸、熙二帝之——一」。
(八)はじむ、はじめ、(始)。〇〔詩〕「春·日——陽」。
(九)すなはち、(則)。〇〔詩〕「——戢二干·戈一」。
(十)まつる、(祀)。〇〔國〕「授二公·子——璧一」。
(十一)知あり、志る。〇〔詩〕「文·王始——」。
(十二)文辭、ふみ。〇〔周〕「作二盟·詛之——一」。
(十三)典籍、志よもつ。〇〔張衡〕「多識二前·世之——一」。
(十四)天文。〇〔國〕「司二——糾一」。
〔倒載〕さかしまにのす。〇〔禮〕「——二干戈一」。
〔持載〕うけのす。〇〔禮〕「辟如下天·地之無レ不二——一、無上レ不二覆·幬一」。
〔覆載〕おほひつゝむとうけのするを。〇〔禮〕「天之所レ——、地之所レ——」。
〔盟載〕盟約の文辭。〇〔周〕「司·盟掌二——之法一」。
〔重載〕おもきをもつ。〇〔王粲〕「安得レ浮二——一」。
〔負載〕おひのす。〇〔禮、疏〕「所三以——二於物一」。
〔收載〕とりをさめてのす。〇〔史〕「隊·公常下——二——之一」。
〔戰載〕前に同じ。〇〔班固〕「——連二百兩一」。
〔詒載〕あざむきたぶらかして車などにのす。〇〔史〕「——行二東市一」。
〔偏載〕あまねくなにものにてものする。〇〔史〕「地不二——一」。
〔溥載〕前に同じ。〇〔陸雲〕「養二厚·德之——一」「兮」。
〔刊載〕文字をふたなどにきざみのす。〇〔拾遺錄〕「——二于寶·牒一」。「所二——一」。
〔逃載〕書物などに言をのべのす。〇〔後漢〕「多レ——」。
〔紿載〕ふねにつみのす。〇〔晉〕「——而歸」。
〔目載〕おちなくかきのす。〇〔李白〕「皆列二名碑·陰一、此不二——一」。
〔兼載〕あはせのす。〇〔晉〕「故能——二萬·物一」。
〔寫載〕うつし記す。〇〔王延壽〕「——二其狀一」。
〔畢載〕すべてを記載す。〇〔晉摯〕「無レ不二——一」。
〔舟載〕ふねにのす。〇〔黃庭堅〕「——二諸·友長周·旋」。

【載】サイ、セ。作亥切 賄
さし、(歲)。〇〔書〕「朕在レ位七·十——」。

【載】タイ。都代切 隊
戴に通じ用ふ、いたゞく。〇〔詩〕「——レ弁俅·々」。

【載】サイ、ザイ。昨代切 隊
舟車にて運ぶ、はこぶ、のす。〇〔詩〕「其車既——」。

【⿰車冰】ヒヨウ、ビヨウ。蒲應切 徑
車の聲にいふ字、さゞろく。

【輊】チ。知義切 寘
おもし、ひくし。
(い)車の前の重くして低きにいふ字。〇〔詩〕「如レ軒如レ——」。
(ろ)物事の重きにも低きにもいふ字。〇〔後漢〕「不レ能レ令レ——」。

七畫

【⿱艹車】サウ、ザウ。徂浪切 漾
車を修む、かざる。

【輍】ヨク。余蜀切 沃
車のさゝきみ。

【輎】サウ、セウ。所交切 肴
兵車、いくさぐるま。

【⿰車甸】テン、デン。徒年切 先
車の聲にいふ字。〇〔左思〕「振·旅——」。

【⿰車身】テン、デン。徒年切 先
喜び動く貌にいふ字。〇〔呂氏春秋〕「天·子——厥·々、莫レ不二載·悅一」。

【輐】クワン、グワン。戸管切 旱
形のまゝに截るを、まろぎり。〇〔莊〕「椎·拍——斷」。

【輐】グワン。五換切 旱
けづりて圭角を去る、まろくす、けづる、かどとる。

【輑】キン、コン。去倫切 眞
車の軸の相連らなるにいふ字、つらなる。〇〔張衡〕「隄·塍相——」。

【輑】ギン、牛隕切 軫 グン、牛吻切 吻 ゴン。切 ゴン。切
車の前の横木。

【輒】テフ。陟葉切 葉
(一)車の兩輢、わきぎ。
(二)もッぱら、(專)。
(三)事每に然る意を表す字、すなはち。〇〔漢〕「五嫁而夫——死」。
(四)兩足をふみ出す能はざる疾。〇〔穀梁〕「楚謂二之踂一、衞謂二之——一」。
(五)直立して動かざるを。〇〔莊〕「——然忘三吾有二四·肢形·體一」。
〔專輒〕もッぱらなるを。〇〔晉〕「甘受二——之罪一」。

【輓】ベン、無遠切 阮 マン。切 バン、無販切 願 マン。切

或は挽に作る、車を前より引く、ひく。○〔左〕「或—レ之、或推レ之」。

【輬】ラウ。魯當切 陽 兵車、いくさぐるま。

【軝】シ。章移切 支 車の器。

【輔】フ、ホ。父雨切 麌

㊀頰骨、上頷、ほゝぼね、うはあご。○〔易〕「咸二其—頰舌一」。

㊁車の兩旁を夾む木、そへぎ、車の解脫を防ぐために設く。○〔詩〕「無レ棄二爾—一」。

㊂たすく。

(い)傍より補ひ益す、力を添へて成さしむ。○〔易〕「—二相天・地之宜一」。

(ろ)或る物を借りて或る事を行ふにいふ字。○〔周〕「以二旌・節一—レ令」。

㊃たすけ。

(い)たすくるを、たすくる者、すけ。○〔書〕「爲二四—一」。「—・行二」。

(ろ)副介、そへ。○〔戰〕「王令二向・壽—一」。

(は)冢宰。○〔後漢〕「稱爲二良—一」。

㊄親しみ附く貌にいふ字。○〔荀〕「—・然」。「其—一」。

㊅府史、胥徒、こやくにん。○〔周〕「置二—一」。

〔諫輔〕君をいさめたすくる者。○〔晉〕「既ニ虚—・—一」。

〔龍輔〕王の名。○〔左〕「公使レ獻二—・—於齊侯一」。

〔夾輔〕たすくること。○〔左〕「五侯九伯汝實征レ之、以—二—周室一」。

〔挾輔〕前に同じ。○〔後漢〕「宜レ還二本朝一、—二—王室上」。

〔三輔〕(い)三人の輔佐。○〔戰〕「湯有二—・—一」。(ろ)右扶風と左馮翊と京兆の尹との三官をいふ、又、關中の稱。○〔雍顥〕「山勢雄二—・—一」。

〔公輔〕三公輔相の官位、又、其の者。○〔漢〕「歷二三世一居二—・—位一」。

〔台輔〕前に同じ。○〔後漢〕「詢二謀—・—一」。

〔鼎輔〕前に同じ。○〔魏〕「成至二—・—一」。

〔靨輔〕ゑくぼ。○〔王粲〕「—・—奇牙」。

〔匡輔〕たゞしたすく。○〔晉〕「盡二—・—之節一」。

〔口輔〕くちもと。○〔詩、傳〕「倩好二—・—一」。

〔賢輔〕かしこき輔佐の人。○〔後漢〕「梁・商稱爲二—・—一」。

〔頰輔〕頰面のはゝ。○〔黃庭堅〕「小兒豐二—・—一」。

〔藩輔〕侯伯など王室の藩屛輔翼たるものをいふ。○〔漢〕「世爲二漢—・—一」。

〔內輔〕うちうちのたすけ。○〔後漢〕「必有二—・—一」。

〔宰輔〕天子の輔佐。○〔後漢〕「—・—五世、莫レ非二公侯一」。

〔元輔〕前に同じ。○〔晉〕「—・—賢明」。

〔翼輔〕たすく。○〔晉〕「—二—朕躬一」。「—也」。

〔鯁輔〕剛直なる輔佐。○〔魏〕「是則具臣非二—・—一」。

〔英輔〕すぐれたる輔相。○〔晉〕「—・—翠・賛」。

〔雋輔〕前に同じ。○〔王獻之〕「賢大・晉之—・—」。

〔后輔〕君主の輔相。○〔晉〕「卿終當レ爲二—・—一」。

〔卿輔〕卿相の位、又、其のもの。○〔晉〕「入作二—・—一」。

〔戚輔〕帝室の外戚と輔相と。○〔北〕「雖二舊臣—・—一、莫二能逮一レ之」。

〔王輔〕王者の輔佐。○〔論衡〕「因爲二—・—一」。

〔衞輔〕まもりたすく。○〔陶弘景〕「若欲レ—二—我躬一」。

【輗】バウ、メウ。莫敎切 效

㊀車を引く。㊁軛の心木。

【䡵】セイ、シヤウ。息營切 庚 くるま(車)。

【𨌄】ショ、ゾ。詳余切 魚 車の欄。

【輕】ケイ、キヤウ。丘正切 敬 思慮沉著ならずして急疾に事に趨くにいふ字、かろはづみ、かろんぐへし。○〔左〕「絞小而—、—則寡レ謀」。

〔剽輕〕性行の輕疾にして綏和ならざること。○〔漢〕「夫刑楚—・—好レ作レ亂」。

【輕】ケイ、キヤウ。去盈切 庚

㊀かろし。

(い)めかた多からず。○〔屈平〕「千鈞爲レ—」。

(ろ)細し。○〔淮〕「有二—罪一者」。

(は)易し、てがるし。○〔南〕「出・入—・單」。

(に)少し。○〔北〕「部・曲—・少」。

(ほ)薄し。○〔潛夫論〕「—・薄・傲・慢」。

(へ)利し。○〔戰〕「—・車銳・騎」。

(と)低し、いやし。○〔南〕「恨二君貧—一」。

㊁かろきもの。○〔後漢〕「遺レ—」。

㊂侮りてかろしさなす、かろんず。○〔左〕「不レ可二以—一」。

〔羣輕〕おほくのめかたかろきもの。○〔史〕「—・—折レ軸」。

〔叢輕〕前に同じ。○〔漢〕「—・—折レ軸」。

〔從輕〕かろきにしたがひよる。○〔說苑〕「罰—レ—」。

〔淸輕〕きよくかろし。○〔列〕「—・—者上爲レ天」。

八畫

【輖】シウ、シユ。職流切 尤 車の前の重くして低きにいふ字、おもし、ひくし、さがる。○〔儀〕「志・矢一乘、軒—中」。

【輗】ゲイ、五稽切 齊 ガイ。切 ギ。牛肌切 支 大車の衡(くびき)を持つ轅の端、ながえのはし。○〔論〕「大・車無レ—」。

〔車輗〕車の轅端。○〔韓〕「不レ如下爲二—・—一者巧上也」。

【輗】ゲイ、ガイ。五計切 霽 楔—は車の名。

【輘】リヨウ、ロウ。力承切 蒸 きしる(轢)、ふむ(踐)。○〔漢〕「—二轢宗室一」。

【輘】ロウ。魯登切 蒸 車の聲にいふ字。○〔韓愈〕「—・—輷・掉二狂・車一」。

【輘】ロウ。郎鄧切 徑 よこがみ(軸)。

【輙】俗の輒の字。

【輚】サン、仕限切 潸 ゼン。仕諫切 諫 ねぐるま(臥車)、いくさぐるま(兵車)。○〔班固〕「乘二—・輅一」。

【輒】輙に同じ。

【輛】リヤウ、ラウ。里奬切 養 兩に同じ、のろ、ならぶ、又、車の數。

【䡢】サウ、シヤウ。甾莖切 庚 車の聲にいふ字。

【䡜】リク、ロク。力竹切 屋 ㊀よこがみ(軸)。㊁轆—は、車の箱。

【輐】エン、於袁切 元 ウン、於云切 文 チン。切 チン。切 大車の後の壓すにいふ字。

【輼】ウン、チン。於粉切 吻 轒—は、車の名。

【⿱乘車】 ショウ、ジョウ。神陵切 [蒸]
一乘の車。

【⿱乘車】 ショウ、ジョウ。實證切 [徑]
副車、そへぐるま。

【⿰王軍】 フク、ボク。房六切 [屋] ホウ、ブ。蒲蒙切 [東]
車の欄の間にある弩を盛る皮篋、かはのはこ。○〔張衡〕「━━弩重旃」。

【輜】 シ。則持切 [支]
㊀後におほひある車、ほろぐるま ○〔列女傳〕「乘二安車━輧一」。
㊁裝重を載する車、くらぐるま、にぐるま。○〔漢〕「擊二━━重一」。
〔雲輜〕 おほくのにぐるま。○〔後漢〕「━━蔽レ路」。
〔盈輜〕 にぐるまのうちに充滿す。○〔沈約〕「素簡日━レ━」。

【輺】 シ。側吏切 [寘]
輜の轂の中に入りあるもの。

【輂】 キョク、コク。居玉切 [沃]
㊀直き轅の車。
㊁つちぐるま、(土轝)。

【⿰車畀】 ヘイ、ハイ。匹計切 [霽]
━輗は、車の名。

【輝】 キ。許歸切 [微]
煇に同じ、ひかり、かゞやき、ひかる、かゞやく。○〔後漢〕「虹蜺揚レ━」。
〔光輝〕 ひかりかゞやく。○〔班固〕「蒸湑廟之━━」。
〔玉輝〕 たまのひかり、又、たまの如くにてる。○〔晉〕「━━氷潔」。
〔伏輝〕 ひかりをかくす。○〔古三墳〕「地月━レ━」。
〔潛輝〕 前に同じ。○〔文心雕龍〕「━━二鬱浦一」。
〔孚輝〕 ひかりをきそふ。○〔集異記〕「與レ月━レ━」。
〔洪輝〕 おほいなるひかり。○〔典引〕「揚二━━一奮二景炎一」。
〔明輝〕 あきらかなるひかり。○〔鸚鵡賦〕「合二火德之━━一」。
〔吐輝〕 ひかりをいだす。○〔商逵珠〕「不レ能レ━レ━」。
〔發輝〕 前に同じ。○〔潘岳〕「散レ璞━レ━」。
〔素輝〕 しろきひかり。○〔陸機〕「淸露墜二━━一」。
〔瓊輝〕 たまのひかり。○〔陸雲〕「━━四灼」。
〔烈輝〕 はげしきひかり。○〔傅休奕〕「苞二玄黃之━━一」。
〔澄輝〕 きよらかなるひかり。○〔月賦〕「降二━━之靄々一」。
〔慶輝〕 めでたきひかり。○〔虞通之〕「━━旁レ燭」。
〔紅輝〕 くれなゐのひかり。○〔崔融〕「日抱二━━一」。
〔映輝〕 てらしうつる。○〔陸倕〕「━二━湖山一」。

【輞】 バウ、マウ。文兩切 [養]
車輪の外周をつゝむもの、くるまのは、おほわ、たが。○〔漢〕「天子獵車重━、縵編繆龍繞レ之」。
〔輪輞〕 車輪のたが。○〔拾遺記〕「車皆鏤金爲二━━一」。
〔車輞〕 前に同じ。○〔陸游〕「藍水似二━━一」。

【輟】 テツ、テチ。陟劣切 [屑]
とゞむ、とゞまる、(止)、やむ、(已)。○〔論〕「擾而不レ━」。
〔作輟〕 おこりとをはりと。○〔法言〕「觀レ人者審二其━━一而已矣」。

【⿰車奄】 アフ、オフ。烏合切 [合]
車の具。

【⿰車尚】 タウ、ダウ。徒郎切 [陽]
鐵の軸。

【⿰車悤】 轗に同じ。

【輠】 クワ。胡火切 [哿]
車の軸にあぶらさす膏を盛る器、あぶらいれ、行くに軸の膏竭きて滑かならざるをあるための用意に車に載せ行く。○〔韻會〕「如レ炙二━器一」。
〔炙輠〕 談論盡きずして趣味長きにいふ語。○〔韻會〕「齊人淳于髡爲二━━一」。

【輠】 クワ、ゲ。胡瓦切 [馬] クワイ、ケ。火猥切 [賄]
車輪を廻轉す、めぐらす、まはす。○〔禮〕「叔孫武叔朝見下輪人以二其杖一關レ轂而━上レ輪」。

【輡】 カン、コン。苦感切 [感]
軻の字の條を見よ。

【⿰車卷】 ケン、クワン。居卷切 [霰]
車を牽く、ひく。

【⿰車卓】 タウ、テウ。丑敎切 [效]
くるまのかさぼね、(車弓)。

【⿰車沓】 タフ、トフ。他合切 [合]
車釭、かりも、よこづか。

【輢】 イ。於綺切 [紙]
車の旁。

【輢】 キ。奇寄切 イ。於戲切 [寘]
車旁に兵器を挿む處。

【輤】 輎に同じ。

【輣】 ハウ、ビヤウ。蒲庚切 [庚]
㊀兵車、いくさぐるま。○〔史〕「作二━車一」。
㊁樓車、やぐらぐるま、○〔後漢〕「轒━撞レ城」。
〔衝輣〕 車上にやぐらなどを設けたるものにて敵の城をつくに用ふる車。○〔漢〕「━━閑々」。
〔雲輣〕 樓車のこと。○〔沈約〕「━━俯レ闕」。

【輤】 セン。倉甸切 [霰]
棺を載する車の蓋、ひつぎぐるまのかさ。○〔禮〕「諸侯之━有レ裧」。

【輥】 コン。古本切 [阮]
車轂の齊等なるにいふ字、ひとし、又、車輪の速かに轉ずるにいふ字、めぐる。○〔周〕「望二其轂一欲二其━一」。

【輦】 レン。力展切 [銑]
㊀人の輓き行く車、てごし、てぐるま。○〔詩〕「我任我━」。
㊁輓運す、ひきはこぶ、ひく。○〔左〕「南宮萬以二乘車一━二其母一」。
〔輓輦〕 くるまをひく。○〔詩、疏〕「徒行━レ━者與二車上御レ馬者一」。
〔同輦〕 てぐるまに同乘す。○〔漢〕「入則侍レ帝━━」。
〔京輦〕 みやこ、京師。○〔陳〕「子弟生二長━━一」。
〔邠輦〕 前に同じ。○〔唐〕「━━駭驚」。
〔舊輦〕 もとのくるま。○〔晉〕「復二京都━━一」。
〔步輦〕 人の步行してひく車。○〔晉〕「乘二━━一從」、
〔鳳輦〕 王者をのするてぐるま。○〔隋煬帝〕「擧霞乘二━━一」。
〔乘輦〕 くるまにのる。○〔魏文帝〕「━レ━夜行遊」。
〔驢輦〕 うさぎ馬にてひかするくるま。○〔後漢〕「更用二━━一」。
〔雕輦〕 雕刻を加へたるうつくしき車。○〔晉〕「乘以二━━一」。
〔駐輦〕 くるまをとゞむ。○〔唐〕「帝━レ━」。
〔停輦〕 前に同じ。○〔唐太宗〕「東觀還━━」。
〔玉輦〕 たまをもてかざりたるくるま。○〔潘岳〕「天子乃御二━━一」。
〔瑤輦〕 前に同じ。○〔江淹〕「━━之所二周通一」。
〔帝輦〕 帝王のくるまにつきしたがふ。○〔賈至〕「━━上林中」。

【輎】カウ、キヤウ。口莖切 庚
車の鞭。

【軿】ヘイ、ビヤウ。旁丁切 青
四方に蔽屏(おほひ)ある車、婦人の乘るもの。〇〔後漢〕「皇-太-后出非二法-駕一則乘二紫-罽-軿-車一」。
(蔽軿) おほひある車。〇〔晉〕「漢世貴二―・―一」。
(玉軿) たまをちりばめ四面に屏蔽ある車。〇〔梁簡文帝〕「紅-光隨二―・―一」。
(軨軿) てすりある車。〇〔楊載〕「北-帝翔二―・―一」。

【輧】ハウ、ヒヤウ。披庚切 庚
ヘン、ベン。部田切 先
車馬の聲にいふ字。

【輨】クワン。古滿切 旱
轂の端の鐵、かりも、くつがれ。

【輩】ハイ、へ。補妹切 隊　俗に、輩に省き作る。
一衆車の列をなすこと。〇〔六書故〕「車以二列分一爲レ輩」。
二ともがら。
(い)等類、たぐひ、やから。〇〔史〕「使-者十-輩來」。
(ろ)班比、あひて、ならび。〇〔吳〕「當-今無レ輩」。
(は)行次、つら、ついで。〇〔論、註〕「前-輩-後-輩」。
三くらぶ、(比)、ならぶ、(班)。〇〔後漢〕「輩二前-世趙-張一」。
(羣輩) おほくのともがら。〇〔爾、疏〕「異二乎―・―一者名レ激」。
(等輩) おなじきなかま。〇〔後漢〕「―・―笑レ之」。
(流輩) 前に同じ。〇〔北〕「顧二其―・―一皆爲二大-將一」。
(儕輩) 前に同じ。〇〔齊〕「―・―莫三與爲二レ比」。
(黨輩) 前に同じ。〇〔顏延之〕「唱二羣於―・―之閒一」。
(儕輩) 前に同じ。〇〔隋〕「―・―莫二與爲レ比」。
(疇輩) 前に同じ。〇〔後漢〕「其―・―十-餘-人皆死」。
(曹輩) 前に同じ。〇〔南〕「―・―皆敬レ之」。
(倫輩) 前に同じ。〇〔禮、疏〕「如二其親-疏―・―之喪一」。
(鼠輩) ねずみの如きたぐひとていやしめていふ語。〇〔舊唐〕「那二茲―・―一」。
(奴輩) しもべどもとていやしめていふ語。〇〔晉〕「祟乃歎曰、―・―利二吾家-財一」。
(兒輩) 小兒等といふに同じ。〇〔戴復古〕「―・―欲レ知二當-日事一」。
(我輩) 吾輩に同じ、われわれどもとて他に對しおのれを稱する語。〇〔晉〕「正在二―・―一」。
(卿輩) おほくのなかまの人をさす語にて公等といふに同じ。〇晉「然足レ容二―・―數-百-人一」。
(先輩) 先進のともがら。〇〔隋〕「與二諸―・―陳-宗・尹-孟・冀-等一、共成二光-武本-紀一」。
(汝輩) なおちらと譯す、おのれよりめしたのともがらを稱する語。〇〔宋〕「―・―可レ師レ之」。
(爾輩) 前に同じ。〇〔宋〕「―・―何至レ是」。
(凡輩) すぐれざるつねなみのやから。〇〔後漢〕「豈與二此外-戚―・―耽レ榮好レ位者一、同レ日而論哉」。
(庸輩) 前に同じ。〇〔宋〕「不レ樂下與二―・―一接上」。
(俗輩) 前に同じ。〇〔戴復古〕「―・―衆-多吾輩少」。

【輪】リン。龍椿切 眞
一わ。
(い)車軸を貫き廻旋して用をなせる平圓形の具、特に、其の輻(や)あるものゝ稱。〇〔周〕「察二車自レ輪始一」。
(ろ)平圓形をなせるものゝ稱。〇〔梁簡文帝〕「圓―既照レ水」。
二わを裝置し廻旋して用をなす器具の稱、くるま。〇〔郭璞〕「揮二―於懸-碕一」。
三車を數ふるにいふ字。〇〔南〕「車至二二-十-―一」。
四南北の方、即ち、縱。〇〔周〕「九-州之地-域、廣-―之數」。
五高大なる貌にいふ字。〇〔禮〕「美哉―焉」。
六屈曲す、まがる。〇〔左思〕「―-囷蚪-蟠」。
七廻旋す、めぐる。〇〔獨狐及〕「六-趣―-轉」。
八くるまのわを作くる者。〇〔孟〕「梓-匠―-輿」。
(車輪) くるまのわ。〇〔魏〕「―・―爲レ之摧」。
(扣輪) くるまのわをたゝく。〇〔孟〕「抽レ矢―レ―去二其金一」。
(蒲輪) がまもてつゝみたる車のわ。〇〔漢〕「安-車―・―」。
(朱輪) あかいろにてぬりたる車のわ。〇〔漢〕「乘二―・―華-轂-者三-十-三-人」。
(斲輪) くるまのわをつくる。〇〔莊〕「輪-扁―二―於堂下一」。
(徑輪) 地形のすぐなるとめぐりたると。〇〔西京賦〕「量二―・―一、考二廣-袤一」。
(月輪) つき。〇〔杜甫〕「下-堋明-―・―」。
(征輪) 遠行のくるま。〇〔王維〕「含レ悽動二―・―一」。
(日輪) 太陽。〇〔韓愈〕「溟-波銜二―・―一」。
(奔輪) とくはするくるま。〇〔蘇軾〕「老來光景似二―・―一」。
(臥輪) よこにふせたるくるま。〇〔史、肅〕「身似二―・―無レ使-倆一」。
(御輪) 車をあしらふ、又、帝王の車。〇〔詩、箋〕「壻―レ―三-周」。
(持輪) 車のわをもちて動搖せしめざること。〇〔周〕「車止則―レ―」。
(轉輪) 車の輪の運轉をとゞむ。〇〔後漢〕「遂以レ頭―二乘-輿―一」。
(漆輪) うるしぬりの車輪。〇〔南〕「後又加二―・―車劍-履上-殿一」。
(轞輪) 輻なき車輪。〇〔尚書大傳〕「致-仕乘-車以二―・―一」。
(揉輪) くるまのわをためてつくる。〇〔管〕「朝―レ―而夕欲レ乘レ車」。
(鐵輪) くろがねをもて作りたる車輪。〇〔拾遺記〕「以レ―爲二車―一」。
(摧輪) わをくだきやぶる。〇〔新論〕「―レ―則無三以行二舟」。
(護輪) 車輪をまもりて破損せしめず。〇〔馮衍〕「乘レ車必―レ―」。
(偏輪) ひとつの車輪。〇〔魏文帝〕「―・―不レ行」。
(珠輪) たまのわ、月の異名にも用ふ。〇〔劉鑠〕「月沈二江-底―・―淨」。
(玉輪) 前に同じ。〇〔李商隱〕「昨-夜―・―明」。
(覆輪) 車をくつがへす。〇〔白居易〕「羊-腸易レ―レ―」。

【輫】ハイ、ベ。非皆切 佳　ハイ、ベ。蒲廻切 灰
車箱。

【[車+隹]】タイ、テ。地回切 灰
車の盛んなる貌にいふ字。

【輬】リヤウ、ラウ。呂張切 陽
轀―は、臥息するを得る車、喪屍を載する車、旁に開閉すべき牕を設く。〇〔韻會〕「轀―本安-車」。

【[車+冝]】[車+立]に同じ。

【輡】カウ、キヤウ。丘耕切 庚
―-輘は、車の聲にいふ語。

九畫

【輭】ゼン、ナン。而兗切 銑
一やはらか、(柔)。〇〔後漢〕「安-車―-輪」。
二よわし、(弱)。〇〔史〕「妻-子―-弱」。
(罷輭) やみつかれて弱し。〇〔金〕「防-河卒多老-幼―・―、不レ勝二執-役之人一」。
(羸輭) 前に同じ。〇〔潛夫論〕「必使二老小―・―居二其中-央一」。
(輕輭) かろくやはらかなるをいふ。〇〔高啓〕「柳-絲―・―小-桃香」。
(清輭) きよらかにやはらかなり。〇〔僧惠洪〕「明-音―・―近二京-畿一」。
(柔輭) やはらかなり。〇〔南〕「其後身-體―・―」。
(細輭) ほそくやはらかなり。〇〔拾遺記〕「―・―可レ縈」。

（甘輭）味あまくやはらかなり。○〔拾遺記〕「此水-｜-」。
（芳輭）香氣ありてやはらかなり。○〔徐陵〕「加以五-鹽具足、七-菜-｜-」。
（溫輭）あたゝかくやはらかなり。○〔元稹〕「木-棉-｜-當₂綿衣₁」。
（婉輭）柔順なり。○〔杜牧〕「好-風初-｜-」。
（嬌輭）なまめきてやはらかなり。○〔蘇軾〕「吳-音-｜-帶₂兒-癡₁」。

【輡】カウ、キヤウ。丘耕切〔庚〕
車堅し、かたし。

【輅】カク、ギヤク。胡格切〔陌〕
輓く車の胸に當たる横木。

【輮】ジウ、人九切〔有〕 ニユ。而由切〔尤〕
㊀車輞、おほわ。○〔周〕「行₂澤者反-｜、行₂山者仄-｜-」。
㊁揉に通じ用ふ、たむ。「矯-｜-」。
㊂蹂に同じ、ふむ。○〔易〕「坎爲₂-｜-」。

【輆】カイ。戸皆切〔佳〕
車に登る、のぼる。

【輚】ソウ、作孔切〔董〕 ス。祖叢切〔東〕
㊀わ（輪）。㊁輻の轂の中に入ると。

【輟】輟に同じ。

【輶】シウ、シユ。七留切〔尤〕
くるまのや（輻）。

【輯】シフ、ジフ。秦入切〔緝〕
㊀やはらぐ。
（い）車輿の諸材の適合にいふ字。○〔六書故〕「合レ材爲レ車、咸相得謂₂之-｜-」。
（ろ）人心の和睦にいふ字。○〔書〕「-｜-₂寧爾邦-家₁」。
（は）言辭の和好にいふ字。○〔詩〕「辭之-矣」。
（に）顏色の柔和にいふ字。○〔詩〕「-｜-₂柔爾顏₁」。
㊁をさむ、をさまる（斂）。○〔禮〕「蒙レ袂-レ屨」。「國₁」。
㊂あつむ、あつまる（集）。○〔漢〕「-｜-₂萬-國₁」。
（統輯）すべあつむ。○〔漢〕「-｜-₂羣-元₁」。
（安輯）やはらぐ。○〔漢〕「同-｜-之₁」。
（和輯）前に同じ。○〔漢〕「使レ-｜-₂百-姓₁」。
（寧輯）前に同じ。○〔宋〕「誑-民₂-｜-₁」。
（懷輯）なつけあつむ。○〔漢〕「-｜-₂死-士₁久矣」。
（撫輯）なでやはらぐ。○〔宋〕「-｜-有レ方」。
（綴輯）つゞりあつむ。○〔漢〕「-｜-₂所-聞₁」。
（招輯）まねきあつむ。○〔宋〕「京-能-｜-₂流-民₁」。
（補輯）おぎなひあつむ。○〔江總〕「門-人-｜-」。
（收輯）とりあつむ。○〔朱熹〕「故-敢-｜-₂遺-文₁」。

【輯】揖に通じ用ふ。○〔國〕「-｜-₂大-夫₁就レ車」。

【輶】ビン、ミン。武盡切〔軫〕
車の伏兎（とこしばり）の下の革。

【輧】俗の軿の字。

【輻】ヘン。婢善切〔銑〕

【輰】ヤウ。與章切〔陽〕
小さき車、をぐるま。-｜-輚は、車。

【輱】カン、ゲン。胡讒切〔咸〕
車の聲にいふ字。

【輲】セン、ゼン。市緣切〔先〕
輻のなき車。

【輲】セン、ゼン。豎兗切〔銑〕
柩を載する車、ひつぎぐるま。

【輥】コン、ゴン。戸昆切〔元〕
㊀くびきのまがり（軛-軥）。
㊁かへる（還）。㊂車相避く、さく。

【輝】軒に同じ。

【輳】ソウ、ス。倉奏切〔宥〕
車の輻の轂を共にするにいふ字、轉じて物事の處を共にするにいふ字、あつまる。○〔史〕「四-通輻-｜-」。

【輂】ボク、モク。莫卜切〔屋〕
ながえ（轅）。

【輚】タク、ダク。徒落切〔藥〕
-｜-輅は、めぐる。

【輴】チユン。丑倫切〔眞〕
㊀柩を載する車、ひつぎぐるま。○〔禮〕「菆₂塗龍-｜-₁」。
㊁泥上を行くに乘る具、そり、板にて作り其の狀箕の如し、泥上をすべらし行る。○〔書、註〕「泥乘レ-｜-」。

【輎】シヨ、ソ。寫與切〔語〕
車の下。

【輵】カツ、カチ。古達切〔曷〕
㊀轇-｜-は、
（い）鋒戟の形にいふ語。○〔張衡〕「關-戟轇-｜-」。
（ろ）馳驅する貌にも車馬の喧雜する貌にもいふ語、かけまはろ、かまびすし。○〔揚雄〕「縱-橫轇-｜-」。
㊁車の聲にいふ字。○〔揚雄〕「皇-車幽-｜-」。

【輵】アツ、エチ。乙轄切〔黠〕
前條の㊁に同じ。

【輵】アツ、アチ。阿葛切〔曷〕
-｜-轄は、轉り搖ぐ貌にいふ語、目を搖かし舌を吐く貌にいふ語。○〔史〕「踁-躨-｜-轄」。

【輶】イウ、以周切〔尤〕 ユ。與九切〔有〕 余救切〔宥〕
㊀輕車、かろきくろま。○〔詩〕「-｜-車鸞-鑣」。
㊁かろし（輕）。○〔詩〕「德-｜-如レ毛」。

【輷】クワウ、キヤウ。呼宏切〔庚〕
車の聲にいふ字。○〔史〕「-｜-｜-殷-々」。
（輘輷）車の聲の大いなるにいふ語。○〔王褒〕「-｜-佚-豫」。

【輸】シユ、ス。式朱切〔虞〕
㊀おくる。
（い）貨物を積み送る、うつす、はこぶ。○〔左〕「秦於レ是乎-｜-₂粟於晉₁」。
（ろ）致す。○〔戰〕「-｜-₂西-周之情于東-周₁」。
㊁つくす（盡）。○〔左〕「魏-絳請下施-舍-｜-₂積-聚₁以貸上」。
㊂やぶる（墮）。○〔詩〕「載-｜-₂爾載₁」。
㊃まく（負）。○〔元稹〕「似₃博賭₂-｜-贏₁」。

〔均輸〕官の名。○〔漢〕「大司農屬官有二ー・ー令・丞一」。
〔交輸〕ころものうしろのたるゝもの。○〔漢〕「曲裾後垂二ー・ー一」。
〔輓輸〕車もておくりはこぶ。○〔漢〕「轉レ粟ー・ー」。
〔流輸〕をちこちに物をおくりはこぶ。○〔鄒陽〕「轉粟ー・ー、千里不レ絶」。
〔代輸〕他人にかはりて租稅などをいたす。○〔南〕「悉以ー二貧人一ーレ租」。
〔罄輸〕つくしいたす。○〔舊唐〕「使下其負二戴元天一、ー・ー臣節上」。
〔運輸〕ものをおくりはこぶ。○〔司馬相如〕「又擅爲二轉粟ー・ー一」。
〔陸輸〕陸上の運送。○〔歐陽修〕「ー・ー動盈レ車」。

【輸】シユ、ス。傷遇切　遇
㊀つみおくる貨物、おくりもの、にもつ。○〔韻會〕「有二委ー之官一」。㊁經脈の穴。○〔史〕「五藏之ー」。

【輹】フク、ホク。方六切　屋
車軸の縛、ちくゑばり、とこゑばり。○〔易〕「輿脫レー」。

【輻】輻の本字。

【輻】フク、ホク。方六切　屋
車輪の輞より轂にあつまりたる材、や、くるまのや。○〔詩〕「員二于爾ー一」。
〔輪輻〕くるまのや。○〔周〕「ー・ー三十以象二日・月一也」。
〔車輻〕前に同じ。○〔漢〕「斬二ー・ー一而持レ之」。
〔折輻〕くるまのやをゝる。○〔易林〕「重載ーレー」。

【輂】ショ、ソ。專於切　魚
㊀くるま（車）。㊁檋に同じ。

十畫

【⿰車旁】棚に同じ。

【橾】サウ。窠朗切　養

おほわ（輞）。

【⿰車尃】ハク。伯各切　藥
車の下のなは。

【⿱冒車】キヨク、コク。几足切　沃
直き轅の縛、ながえゑばり。

【⿰車盍】カフ、コフ。口盍切　合
㊀くるま（車）。㊁車の聲にいふ字。

【輾】テン。知演切　銑
半轉す、めぐる、まろぶ。○〔詩〕「ー・轉反側」。

【輾】デン、チン。尼展切　銑
きしろ（轢）。

【輾】デン、チン。女箭切　霰
水車、みづぐるま。

【輿】ヨ。以諸切　魚
㊀車の物を載する部分、卽ち、輢軸の上に板などを加へたる所、くるまのやかた、くるまのそこ。○〔後漢〕「上古聖人觀二轉蓬一始爲レ輪、轉行不レ可レ載、因レ物生レ智、後爲二之ー一」。
㊁くるま（車）。○〔易〕「日閑二ー衞一」。
㊂ものを載せて行ふもの。○〔左〕「敬禮之ー也」。
㊃地道、又、大地、卽ち萬物を載するものゝ義。○〔易〕「坤爲二大ー一」。
㊄車を作くる者。○〔孟〕「梓匠、輪ー」。
㊅のす（載）、おふ（負）。○〔戰〕「百人ーレ瓢而趨」。
㊆賤胥、こもの、つかはれもの。○〔漢〕「廝ー之卒」。
㊇衆多、おほし、もろもろ。○〔左〕「無レ令三ー師淹二於君地一」。
〔權輿〕衡を造るに權より始め車を造るに輿より始むるよりすべて物のはじめにいふ語。○〔後漢〕「百穀ー・ー」。
〔乘輿〕帝王のみくるま、又、天子の車馬衣服器械百物をもいふ。○〔孟〕「今ー・ー已駕矣」。
〔堪輿〕天地の總名。○〔淮〕「ー・ー行レ雄以知レ雌」。
〔鑾輿〕王者のくるま。○〔豆盧復〕「春色待二ー・ー一」。
〔宸輿〕前に同じ。○〔王維〕「羽・貫奉二ー・ー一」。
〔連輿〕くるま又はこしなどをならべつゞく。○〔魏文帝〕「行則ーレー」。
〔編輿〕竹をあみてつくりたるこし。○〔公羊、註〕「竹籃一名二ー・ー一」。
〔雲母輿〕きらゝをぬりこめたる帝王の車。○〔晉〕「方自帥二萬騎一、奉二ー・ー一及雄旗之飾一、衞レ帝而進」。

【輿】ヨ。羊茹切　御
兩手にて擧ぐる車、てごし、こし。○〔晉〕「乘二籃ー一」。
〔籃輿〕竹をあみてつくり人をのするかご。○〔權德輿〕「逢迎只是坐二ー・ー一」。
〔竹輿〕前に同じ。○〔范成大〕「ー・ー伊軋走二長街一」。
〔肩輿〕かたにてかつぐこし。○〔李紳〕「自緣二多病一喜二ー・ー一」。
〔神輿〕かみをのするこし。○〔宋〕「史奉二ー・ー一行」。
〔錦輿〕にしきおりなどにてかざりたるこし。○〔元稹〕「公子文衣護二ー・ー一」。

【⿰車國】コツ、ゴチ。胡骨切　月
物を轉ずる軸、よこがみ。

【⿰車唐】タウ、ダウ。徒郎切　陽
ー輹は、いくさぐるま。

【⿰車具】カウ、キヤウ。丘耕切　庚
車堅し、かたし。

【轀】ヲン。烏渾切　元
轒の字を見よ。

【轀】ウン、ヲン。於云切　文
轒ーは、匈奴の車。

【⿱𤇾車】ケイ、ギヤウ。渠營切　庚
車のおほわ、一說に、一輪車、かたはぐるま。

【⿰車鬼】クヮイ、エ。戸賄切　賄
めぐる（轉）。

【轂】コク。古祿切　屋
㊀車輪の中にありて軸其の中を貫き輻其の外に輳まれるもの、こしき。○〔周〕「ー以利レ轉」。
㊁車の義にいふ字。○〔楚辭〕「選二署衆神一以並レー」。
〔綰轂〕くるまのやのこしきにあつまれるが如くにすべくゝれること。○〔史〕「ー二ー其口一」。
〔暢轂〕ながきこしき。○〔詩〕「文茵ー・ー」。
〔長轂〕前に同じ、又、こしきをながくす。○〔周〕「行レ山者欲レーー」。
〔擊轂〕車のこしきをうちあつ。○〔蘇軾〕「並驅無レーレー」。
〔華轂〕うつくしき車のこしき。○〔漢〕「乘二朱輪ー・ー一者」。
〔推轂〕人を推擧すること。○〔史〕「ー二ー趙綰一爲二御史大夫一」。
〔轉轂〕車をめぐらしうつすこと。○〔魏〕「連列而後ーレー」。
〔接轂〕こしきを接すとて車の相ちかづきならぶをいふ。○〔漢〕「門車常ーレー」。
〔輦轂〕帝都の義。○〔晉〕「不レ離二ー・ー一」。
〔方轂〕こしきを並ぶとて車をならぶるにもいふ語。○〔魏文帝〕「戎車ーレー」。
〔輪轂〕車のわとこしきと。○〔晉〕「以二絲漆一畫二ー・ー一」。
〔飛轂〕車をはす。○〔唐〕「ーレー轉レ帰」。
〔輳轂〕車輻のこしきにあつまること。○〔參同契〕「如二輻之ーレー、水之朝宗一」。

〔遊轂〕あそびぐるま。〇〔秦觀〕「誤躡ニ——一柳花中一」。

【轀】ヰ、安古切 圔。ウ。汪胡切 虞

車の心木。

【轃】シン。側詵切 眞

㊀臻に同じ、いたる。〇〔漢〕「四極爰—」。

㊁大車の簀、ゆか。

【轄】カツ、ゲチ。胡瞎切 黠

㊀車の聲にいふ字。

㊁轂を貫きたる軸の端にある鍵、かりも、くさび、輪の解脱を制するもの。〇〔左〕巾車脂—」。

㊂轉じて、物事の主管にいふ字。〇〔宋〕「置ニ兩總——一」。

〔管轄〕すべつかさどる。〇〔六帖〕「居ニ——之司一」。

〔樞轄〕樞要の場所をいふ。〇〔文心雕龍〕「雅文之——也」。

〔輪轄〕車のわとくさびと。〇〔嵇康〕「轅軸——不レ可ニ一乏一於輿一也」。

【轄】クワイ、ケ。苦會切 泰

車の聲にいふ字。

【轄】カツ、カチ。何葛切 曷

軋の字の條を見よ。

【轅】エン、チン。雨元切 元

轉の左右より車の前面に出でたる材、ながえ、其の端頭の横木を衡(くびき)といひ牛馬に駕す。〇〔左〕「軍行右レ—」「之」。

〔折轅〕車のながえををる。〇〔戰〕「今—レ—而炊レ之」。

〔摧轅〕前に同じ、〇〔中論〕「至レ于覆レ車而—レ—」。

〔攀轅〕車のながえに手をかく。〇〔華陽國志〕「吏民塞レ路—レ—」。

〔方轅〕車のながえをならぶ。〇〔西京賦〕「—レ—接レ軫」。

〔車轅〕くるまのながえ。〇〔國〕「夫郤氏有ニ——一之難一」。

〔斷轅〕車のながえをきる、又、たちぎれたるながえ。〇〔杜甫〕「摧折如ニ——一」。

〔丹轅〕あかくぬりたる車のながえ。〇〔雲笈七籤〕「——紫轡」。

【轅】エン。于眷切 霰

地の名。〇〔左〕「取ニ犂及—一」。

【輂】サイ、士佳切 佳。ゼ。シ。千杏切 支

㊀連らなる車。

㊁車をあさゑざりさせて堂前に抵るにいふ字、ゑざる、ゑりぞく。〇〔張衡〕「皇輿夙駕—ニ于東階一」。

【轘】カウ、キヤウ。口莖切 庚

カン、ケン。丘閑切 刪

車のひゞき。

【轃】シン。止忍切 軫

軫に同じ。

【轔】ケキ、キヤク。奇逆切 陌

車の轢、ちくゑばり。

【轕】セン。式戰切 霰

くるま。

十一畫

【轒】ホウ、ブ。蒲蒙切 東

車の聲にいふ字。

【幔】バン、マン。無販切 願

車の衣蓋、きぬがさ。

【幔】バン、マン。莫半切 翰

戰車の矢を遮る被、おほひ。

【轈】シウ、シュ。息流切 尤

—轈は、喪を載する車。

【縱】ショウ、シュ。即容切 冬

車の跡、あと。

【轗】ソウ、ス。倉紅切 東

四人を載する檻車、をりぐるま。

【轆】ロク。盧谷切 屋

㊀轆—は、

(い)車の軌道、わだち。〇〔蘇軾〕「門前轆—想ニ君車一」。

(ろ)縲車、ぬきがぶり。〇〔揚雄〕「縲車、趙魏之閒謂ニ之轆——一」。

㊁ながえゑばり、(棨)。

〔轆々〕くるまのあとの貌にいふ語。〇〔元好問〕「白沙漫々車——」。

【轇】カウ、ケウ。古爻切 肴

轕の字の條を見よ。

【轄】カウ、キヤウ。口莖切 庚

車堅し、かたし。

【轄】カウ、キヤウ。苦杏切 梗

車の聲にいふ字。

【轈】サウ、セウ。鉏交切 肴

敵を望むに用ふる高き兵車。

【轉】テン。陟兗切 銑

㊀遷移す、うつる、かはる。〇〔左〕「勞—

罷死—」。

㊁ころぶ、まろぶ。

(い)輾してまた輾す、ころがる。〇〔詩〕「輾—反側」。

(ろ)仆る。〇〔國〕「將レ—ニ於溝壑一」。

㊂めぐる。

(い)圓く動く、まはる。〇〔周〕「以爲レ利レ—」。

(ろ)まはりて故に復る。〇〔後漢〕「廻—數周」。

(は)循環して窮まらざるにいふ字。〇〔揚雄〕軫ニ——其道一」。

〔旋轉〕めぐる、まろぶ。〇〔北〕「—・—而下」。

〔運轉〕うつす、めぐる。〇〔莊〕「意者其—・—而不レ能ニ自止一邪」。

〔變轉〕かはりめぐる。〇〔易、疏〕「陰陽—・—」。

〔移轉〕うつす。〇〔白居易〕「—・—就レ松來」。

〔遷轉〕前に同じ。〇〔魏、誌〕「於レ是吏恐ニ其—・—」「甚」。

〔轉々〕うつりめぐる貌にいふ語。〇〔漢〕「—・—益也」。

〔內轉〕內官の職にうつる。〇〔晉〕「常望ニ—・—一」。

〔圓轉〕まろびめぐる。〇〔晉〕「鷄子—・—不レ止」。

〔循轉〕めぐりゆく。〇〔隋〕「—・—無レ窮」。

〔升轉〕官職などをのぼりうつる。〇〔宋〕「往々超躐—・—」。

〔倒轉〕さかしまにめぐる。〇〔拾遺記〕「蟾兎爲レ之—・—」。

【轉】テン。知戀切 霰

㊀遷移せしむ、うつす、かふ。〇〔漢〕「—レ粟輓輸以爲ニ之備一」。

㊁まろばしむ、ころばしむ、まろばす、ころばす。〇〔詩〕「我心匪レ石不レ可レ—」。

㊂めぐらしむ、めぐらす。〇〔禮、疏〕「戻ニ—之一」。

㊃車上の衣裝、きぬぶくろ、にもつ。〇〔左〕「踞レ—而鼓レ琴」。

〔漕轉〕はこびうつす。〇〔史〕「孝惠高后時、—山東粟、以給ニ中都官一」。

【⿰車害】 轄に同じ。

【⿰車康】 カウ。口岡切 [陽] 死人を送る紙簍、はりかご。

十二畫

【⿰車登】 トウ。台鄧切 [徑] くるまかざり、(車-羽)。

【轍】 テツ、デチ。直列切 [屑] 迹軌、あと、わだち、のり、みち。○〔莊〕「當ニ車—一」。

（改轍）車の通過のみちをかふ。○〔傅亮〕「躓ニ前軌之既覆一、忘ニ—ニ于後乘一」。
（易轍）前に同じ。○〔晉〕「愛ニ—・—之勤一」。
（危轍）あやふきくるまのあと。○〔陸厥〕「榮・車畏ニ—・—一」。
（故轍）もと通過したる車のあと、又、かりてもとよりのわざなどにもいふ。○〔陶潛〕「量レ力守ニ—・—一」。
（軌轍）車轍のと、又、轉じて法則の義に用ふる語。○〔溫庭筠〕「後・塵遵ニ—・—一」。
（異轍）車の進むみちをことにす、又、かりてものゝ方法などを殊にするにもいふ語。○〔陸機〕「百・行—レ—」。
（殊轍）前に同じ。○〔王僧達〕「顯・軌莫レ—レ—」。
（一轍）車のあとを殊にせざると、又、行爲をおなじうするの義にもかり用ふるとあり。○〔盧諶〕「萬・途—レ—」。
（同轍）前に同じ。○〔王建〕「孔・門忝ニ—・—一」。
（明轍）德あきらかなるものゝ行ひたるあとかた。○〔沈佺期〕「誰能繼ニ—・—一」。

【⿰車彭】 ハウ、ビヤウ。蒲庚切 [庚] 車の聲にいふ字。

【⿰車單】 サン、ゼン。仕山切 [删] 車輞、おほわ。

【⿰車單】 タン。多寒切 [寒] —轉は、車の名。

【⿰車單】 セン、ゼン。時連切 [先] —轉は、車の輞。

【⿰車黃】 クワウ。古皇切 [陽] 車の下の横木。

【⿰車閒】 カン、ケン。居晏切 [諫] 車の釭と軸との閒に在りて相摩るゝを防ぐもの、へだて。

【⿰車堯】 ケウ。古弔切 [嘯] 車のぢくさき、よこがみのさき。

【轎】 ケウ、ゲウ。巨嬌切 [蕭] 人の舁き行く小さき車、やまかご、たけごし、あげごし。○〔漢〕「輿—而隃レ嶺」。

【轎】 ケウ、ゲウ。渠廟切 [嘯] ㊀ひつぎ車。㊁あげごし、(軸)。

【⿰車斯】 シ。相支切 [支] 輪の類。

【⿰車辱】 輮に同じ。○〔左〕「寢ニ于——車一」。

【⿰車衺】 ダ、ナ。乃可切 [哿] 乃箇切 [箇] くるまのぢくさき、(⿰車堯)。

【⿰車童】 ショウ、シュ。尺容切 [冬] タウ、ドウ。直降切 [絳] 陣を陷るゝ車。

【⿰車菆】 サウ、ソウ。子皓切 [皓] 倉刀切 [豪] ソウ、ズ。徂動切 [董] 車の飾り。

【轐】 ホク、ボク。博木切 [屋] 蒲沃切 [沃] 車の伏兔、とこしばり。

【轑】 ラウ、ロウ。盧皓切 [皓] ㊀や、(輻)。㊁よこがみ、(軸)。㊂車のかさぼね、(蓋-弓)。㊃橑に通じ用ふ、たるき。○〔漢〕「得ニ之殿-屋重—中一」。

【轑】 ラウ、ロウ。郎刀切 [豪] たわむ、(撓)、又、きしろ、(轢)。○〔漢〕「陽爲ニ羹盡—レ釜」。

【轑】 レウ。憐蕭切 [蕭] —陽は、楚の邑の名。○〔左〕「圍ニ伯嬴于—陽一」。

【轑】 レウ。朗鳥切 [篠] 火を放つ、やく。○〔漢〕「爇ニ—天-下一」。

【轒】 フン、ボン。符分切 [文] ㊀—輼は、いくさぐるま、(兵-車)。㊁—轀は、匈奴の車。㊂車の穹窿、かさのほね。

【轓】 ヘン、ホン。孚袁切 ハン、ホン。甫煩切 [元] ㊀車の蔽屛、おほひ、塵泥を翳ふために設く。○〔漢〕「吏二千石車朱ニ兩—一、千-石至ニ六-百-石一朱ニ左—一」。㊁車の大箱、にばこ。○〔集韻〕「輫—車箱」。

（車轓）くるまのおほひ。○〔後漢〕「始詔ニ六-百-石以-上施ニ—・—一」。

【轓】 ヘン、ハン。甫遠切 [阮] 軓に同じ。

【轔】 リン。力珍切 [眞] ㊀車のきしりて聲あるにいふ字、ころく。○〔楚辭〕「乘レ龍兮——一」。㊁殷盛なる貌にいふ字、さかんなり。○〔揚雄〕「振殷——而軍-裝」。㊂かどぐち、(戶-限)。○〔淮〕「亡レ馬不レ發ニ戶—一」。

【轔】 リン。良刃切 [震] 良忍切 [軫] きしろ、(轢)。○〔子虛賦〕「掩レ兔—レ鹿」。
（蹂轔）あしとくるまにてふみつけにす。○〔後漢〕「—・—濊・貊一」。

十三畫

【⿰車逢】 ホウ、ブ。蒲蒙切 [東] 車蓬、さま。

【⿰車當】 タウ。都郎切 [陽] 車のゆか。

【轕】 カツ、カチ。居曷切 [曷] 轇の字の條を見よ。

【轖】 ショク、シキ。所力切 [職] ㊀車の藉(しきもの)の交錯するにいふ字、まじる。㊁車の軨(てすり)を覆ふ重革の護、おほひのかは。「結—一」。㊂氣結ぶ、むすぼる。○〔枚乘〕「中若ニ—

【轗】 カン、コン。苦感切 [感] 苦紺切 [勘]

輌の字の條を見よ。

【轘】クワン、ゲン。胡慣切 諫 胡關切 删 車を用ひて人體を裂くを、くるまざき。○〔左〕「齊人—ニ高・渠・彌一」。

【䡵】スヰ、ズヰ。徐醉切 寘 車の飾り。

【𨏉】キョ、ゴ。強於切 魚 おほわ（輞）。

【𨏶】レン、ロン。力鹽切 鹽 おほわ（輞）。

【轙】ギ。魚倚切 紙 ❶轡の貫くに設けたる軛上の環、くびきのわ。❷僕人の駕を整へて發するを待つこと。○〔漢〕「靈禋・々象ニ輿—一」。

【𨎽】ラン、ロン。盧感切 感 軺——は、轗軻に同じ。

【轚】ケキ、キヤク。古歷切 錫 ケイ、カイ。吉計切 霽 ❶車の轄の相擊つにいふ字、うつ。❷舟車の次序を立てゝ行くにいふ字、ゆく。❸かゝる（挂）。○〔穀梁〕「御—者」。

十四畫

【轛】タイ、ツヰ。都內切 隊 追萃切 寘 車上に竪立する二本の材、上に軾（よこぎ）をわたす。○〔周〕「參ニ分軹圍一去レ一、以爲ニ—圍一」。

【𨐆】イン、オン。於謹切 吻 ❶車の聲にいふ字。❷車の轉ずるにいふ字、めぐる。

【𥴧】セン、サン。所眷切 霰 所員切 先 車の軸を治す、つくろふ。

【轝】輿に同じ。

【轞】カン、ゲン。胡黤切 豏 ❶車の行きて聲あるにいふ字、さゞろく。❷四人を載する車、めしうごぐるま。○〔漢〕「——車輿レ王詣ニ長・安一」。❸車上に檻欄を設けたる車、猛獸を格つに使用す。

【𨏗】前條に同じ。○〔左思〕「出レ車——」。

【𨏥】カイ。丘蓋切 泰 車の聲にいふ字。

【𨐈】俗の轄の字。

【轟】クワウ、カウ。呼宏切 庚 呼孟切 敬 ❶羣車の聲にいふ字、大いなる聲にいふ字。○〔文天祥〕「烈・々——」。❷群車の聲の聞こゆるにいふ字、大いなる聲の聞こゆるにいふ字、とゞろく。○〔元稹〕「雷—電烻」。

〔𩃥轟〕かまびすし。○〔韓愈〕「讀・歌——」。
〔喧轟〕前に同じ。○〔歐陽修〕「雷・軸遂——」。
〔砰轟〕波浪または太鼓などの聲にいふ語。○〔元稹〕「夕・鼓已——」。

十五畫

【𨏖】輊に同じ。

【䡾】ラク。盧各切 藥 車の轉ずる聲にいふ字。

【𨏾】轣に同じ。

【轠】ライ、レ。魯回切 灰 ——轤は、車の屬、又、絶えざる貌にいふ語。○〔揚雄〕「繽・紛往・來——轤不レ絶」。

【轡】ヒ。兵媚切 寘 馬の銜（くつばみ）を頭に繫ぎ執りて馬を制御するもの、くつわづら、たづな。○〔詩〕「執レ—如レ組」。

〔攬轡〕くつわづらを取りて馬を馭す。○〔後漢〕「登レ車——」。
〔控轡〕前に同じ。○〔呂氏春秋〕「約ニ容之一而以—ニ其—一」。
〔操轡〕前に同じ。○〔後漢〕「躬自—レ—、驅馳周旋」。
〔按轡〕くつわづらをひかふ。○〔史〕「于レ是天・子乃—レ—徐行」。
〔頓轡〕くつわづらをとゞむとて馬をひかへとゞむること。○〔陸機〕「—レ—倚ニ高巖一」。
〔秉轡〕前に同じ。○〔籍田賦〕「太・僕—レ—」。
〔連轡〕馬をならべ驅る。○〔張說〕「—レ—入ニ龍樓一」。
〔方轡〕前に同じ。○〔晉〕「佞・人—レ—」。
〔並轡〕前に同じ。○〔人物志〕「是故—レ—爭レ先、而不レ能ニ相擊一」。
〔柔轡〕やはらかなるくつわづら、又、ゆるやかに馬を御す。○〔唐太宗〕「豎輿總——」。
〔急轡〕きびしくくつばみをひくこと。○〔淮〕「——敗・策者、非ニ千・里之御一也」。
〔策轡〕むちとくつわづらと。○〔譚子〕「忘ニ——一然後知ニ馭之道一」。
〔金轡〕こがねのくつわづら。○〔唐彥謙〕「驕過ニ玉・樓——響」。
〔騁轡〕馬をはす。○〔魏文帝〕「—レ—迴レ埒」。
〔停轡〕馬をとゞむ。○〔梁簡文帝〕「—レ—仲・長園」。
〔返轡〕馬を歸路におく。○〔李子卿〕「迴レ鑾—レ—」。

【轢】レキ、リヤク。郎擊切 錫 ラク。盧各切 藥 ラツ、ラチ。郎達切 曷 ふむ、きしろ（軋）。○〔漢〕「陵ニ—邊・吏一」。

〔刻轢〕しのぎをかす。○〔漢〕「——ニ宗・室一」。
〔轥轢〕車などにてふみにじること、又、轉じて人のたがひにふれをかしてむつまじからざるにいふ語。○〔上林賦〕「徒車之所ニ——一」。
〔蹂轢〕車にてふみにじる。○〔晉〕「——ニ沙・漠一」。
〔轔轢〕車などにてふみあらす、又、かりて他のものををかしあらす義に用ふ。○〔隋〕「今復——ニ太史一」。

十六畫

【轣】レキ、リヤク。郎狄切 錫 轆の字を見よ。

【𨍏】琕に同じ。○〔後漢〕「置ニ—耒・耜之箙一」。

【轤】ロ、ル。落胡切 虞 ❶轆——は、くるまぎ、圓轉木。○〔張籍〕「橫架ニ轆——一牽ニ素綆一」。❷轠——は、絶えざる貌にいふ語。○〔揚雄〕「轠——不レ絶」。

【𨎹】ロウ、ル。盧紅切 東 ❶軸頭、ぢくさき。❷轅の上。

【𨐅】輊に同じ。○〔潘岳〕「如レ—如レ軒」。

十七畫

【𨐋】轙に同じ。○〔淮〕「税ニ其—一」。

【⿰車韱】サン、セン。所咸切 咸
車の聲にいふ字。

【⿰車霝】軨に同じ。

【⿰車薄】ハク、バク。蒲莫切 陌
車の飾り。

十八畫

【⿰車巂】ケイ、エ。玄圭切 齊
車輪の一周轉、ひさまはり。

【⿰車聶】カク、キヤク。古伯切 陌
かさなる（複）。

十九畫

【⿰車䜌】レン、ラン。閭員切 先
つゞる（綴）。

【⿰車贊】轒に同じ。

二十畫

【⿰車獻】ゲツ、ゲチ。魚列切 屑
車の物を高く載せて行く貌にいふ字。○〔左思〕「四-門——」。

【⿰車矍】キヤク、カク。九縛切 藥
車の輞。

【轥】リン。良刃切 震
きしろ（轢）。○〔司馬相如〕「所ニ——轢ニ」。

廿二畫

【⿰車疊】テフ、デフ。徒協切 葉
車の聲にいふ字。

辛部

【辛】シン。息鄰切 眞
㊀暦數上の名稱なる十干の一、かのと。○〔爾〕「太-歳在レ—曰ニ重-光、月在レ—曰レ塞」。
㊁あたらし（新）。○〔史〕「言ニ萬-物之「——生ニ」。
㊂からし。
（い）薑などを食らふに舌を刺すが如き味あるにいふ字。○〔禮〕「其味—」。
（ろ）痛むべし、いたし、くるし、むごし。○〔李白〕「自レ口多ニ艱——ニ」。○〔宋〕「葷——不レ入レ口者十-載」。—大-雩」。
㊃からき味、からみ。
〔上辛〕月の最初のかのとの日。○〔左〕「秋 七-月——
〔苦辛〕（い）草の名。○〔山海經〕「陽-華之山、其草多ニ——ニ」。
（ろ）くるしみいたむ。○〔杜甫〕「役-々常——」。
〔少辛〕細辛とも名づくる草。○〔山海經〕「上多ニ——ニ」。「古多ニ——ニ」。
〔艱辛〕いたみなやみて安からざること。○〔李白〕「自レ——ニ」。
〔酸辛〕前に同じ。○〔孟郊〕「耿-々含ニ——ニ」。
〔悲辛〕かなしみいたむ。○〔韓愈〕「叫-嘯成ニ——ニ」。
〔愁辛〕前に同じ。○〔杜甫〕「相遇益——」。

【䇂】ケン。去堅切 先
つみ（辠）。

一畫

【辛】辛の本字。

五畫

【辜】コ、ク。古乎切 虞
㊀つみ（罪）。○〔書〕「與ニ其殺ニ不——寧失ニ不-經ニ」。
㊁かならず（必）。○〔漢〕「陽-氣洗レ物——絜レ之」。
㊂はりつけ（磔）。○〔周〕「以ニ疈——祭ニ四-方百-物ニ」。
㊃さまたぐ（障）。○〔後漢〕「豪-右—權」。
㊄ほゞ、あらまし（略）。○〔孝、註〕「——較猶ニ梗-概ニ也」。
〔速辜〕罪をまねきもとむ。○〔書〕「惟民自レ——」。
〔無辜〕罪なき者。○〔十六國春秋〕「不レ殺ニ——ニ」。
〔恤辜〕あはれみをもて罪を決す。○〔沈佺期〕「伏-庭幸レ—」。
〔伏辜〕罪の判決に服す。○〔詩〕「既—ニ其—ニ」。
〔蒙辜〕つみとがを得。○〔漢〕「百-姓—レ—」。
〔罪辜〕つみ。○〔後漢〕「不レ服ニ——ニ」。
〔深辜〕あさからざる罪。○〔吳越春秋〕「大-王赦ニ其——ニ」。

六畫

【辞】俗の辭の字。

【⿰多辛】シン。疏臻切 眞
多し。

【辢】サツ、サチ。桑割切 曷
からし（辛）。

【辟】ヘキ、ヒヤク。必益切 陌
㊀きみ。
（い）天子諸侯の稱。○〔書〕「克ニ左-右—厥—ニ」。
（ろ）天の敬稱、あめ。○〔詩〕「蕩-々上-帝、下-民之—」。
（は）妻より夫の稱にいふ字、つま。○〔禮〕「妻祭レ夫曰ニ皇——ニ」。
㊁のり（法）。○〔書〕「越ニ尹-人ニ祇レ—」。
㊂あきらか（明）。○〔禮〕「對-揚以——レ之」。
㊃めす（徵）。○〔後漢〕「前-後九—ニ公-府ニ皆不レ就」。
㊄星の名。○〔禮〕「仲-冬之月、日在レ斗、昏東——中」。
〔徵辟〕官吏に登用せんがためにめす。○〔晉〕「三-—七——皆不レ就」。
〔招辟〕前に同じ。○〔蔡邕〕「前-後——使ニ人曉-「諭ニ」。
〔召辟〕前に同じ。○〔宣和書譜〕「不レ應ニ——ニ」。
〔羣辟〕おほくの君。○〔書〕「六-服——」。
〔百辟〕もろ〳〵のきみ。○〔詩〕「——其刑レ之」。
〔禮辟〕禮を具へて徵招す。○〔後漢〕「數以ニ——不レ能レ致」。
〔后辟〕君のこと。○〔東都賦〕「紛ニ綸——ニ」。
〔應辟〕めしに應じて官吏となる。○〔劉基〕「——レ—思レ濟レ世」。

【辟】ヘキ、ヒヤク。普擊切 錫
㊀かたよる（偏）、よこしま（邪）。○〔禮〕「非——之心無ニ自入ニ也」。
㊁かたむく（傾）、そばだつ（側）。○〔禮〕「——レ咡詔レ之」。
㊂誠實少なし、うすし、かろし。○〔論〕「師也—」。
㊃空名ありて事實の存せざること。○〔周〕「凡失ニ財-物ニ——名者」。「—」。
㊄つみ、つみす（刑）。○〔書〕「—以止レ—」。
㊅ひらく。
（い）開墾す、たがへす。○〔孟〕「—ニ土-地ニ」。
（ろ）行人を除ふ、はらふ。○〔周〕「王燕-出-入則前-驅而—」。
（は）驚き退く、避け開く、しりぞく、しざる。○〔史〕「人-馬俱驚—易ニ數-里」。
㊆はげます（勵）。○〔程顥〕「學要ニ鞭-—近-裏ニ」。
㊇擗に通ず、むねうつ。○〔禮〕「—踊ニ」。
㊈躄に通ず、あしなへ。○〔賈誼〕「非ニ亶倒-懸而已ニ又類レ—」。
㊉霹に通ず。○〔漢〕「——歷夜明」。
〔大辟〕おもきつみ。○〔書〕「——疑赦」。
〔便辟〕威儀習熟せるも誠實を缺くこと、又、其の者。○〔論〕友ニ——ニ」。

〔黥辟〕いれずみの刑に處せらるべきつみ。○〔書〕「———疑赦」。
〔劓辟〕はなきりの刑に處せらるべきつみ。○〔書〕「———疑赦」。
〔剕辟〕あしきりの刑に處せらるべきつみ。○〔書〕「———疑赦」。
〔宮辟〕かくしどころに施さるべきつみ。○〔書〕「———疑赦」。
〔重辟〕おもき刑戮。○〔陳〕「將レ陷二——一」。
〔常辟〕定まりたるおきて。○〔魏〕「國有二——一」。
〔綱辟〕法綱のこと。○〔齊〕「——徒峻」。
〔皇辟〕妻の夫を祭るときに呼ぶの稱。○〔禮〕「夫曰二——一」。
〔刑辟〕刑戮のこと。○〔世說〕「皇-陶造二——之制一」。
〔憲辟〕おきて。○〔齊〕「肅二明——一」。
〔斷辟〕つみを決定す。○〔北堂書鈔〕「決レ訟—レ—」。

【辟】ヒ、ビ。毗義切　〔寘〕
避に同じ。○〔詩〕「宛-然左—」。

【辟】ヘイ、ハイ。匹計切　〔霽〕
睥に同じ、にらむ。○〔史〕「—二睨兩-宮閒一」。

【辟】ヒ。匹智切　〔寘〕
譬に同じ、たとふ、たとへ。○〔禮〕「君-子之道、—則坊與」。

【辟】ハク、ヒヤク。博厄切　〔陌〕
㊀聶切す、うすくきる。○〔禮〕「腐爲二—雞一」。「三不レ—」。
㊁擘に同じ、さく、つんざく。○〔禮〕「爲レ

【辟】ベイ、マイ。莫禮切　〔薺〕
弭に同じ。○〔禮〕「有二由——一焉」。

【辟】ヒ、ビ。頻彌切　〔支〕
紕に同じ、帶の緣の飾り、へり、かざり。○〔禮〕「天-子素-帶朱-裏終——」。

【辟】ヘイ、ヒヤウ。必郢切　〔梗〕
のぞく、（除）。○〔莊〕「至-信—レ金」。

七畫

【辠】古文の罪の字。

【辡】ヘン、ベン。符蹇切　〔銑〕
罪人相訟ふ、うつたふ。

【辢】ラツ、ラチ。郎曷切　〔曷〕
辛甚し、からし。○〔齊民要術〕「薑辛桂—」。「———」。
〔辛辢〕味からし。○〔酉陽雜俎〕「形似二獼-椒一、至
〔剛辢〕をかすべからざる風姿あるにいふ語。○〔周權〕「——長斷萬-里心」。
〔毒辢〕害毒あるからきもの。○〔雲笈〕「口不レ欲レ嘗二——之味一」。「衣後」。
〔香辢〕香氣はげしくあること。○〔韓偓〕「———更-

【辣】前條に同じ。

八畫

【〓】ゲイ。倪制切　〔霽〕
㊀をさむ、（治）、さばく、（理）。
㊁やすし、（安）。

【辤】辭に同じ。○〔魏〕「絕-妙好-—」。

九畫

【辥】セツ、セチ。私列切　〔屑〕
つみ、（辠）。

【辦】ヘン、ベン。皮莧切　〔諫〕
力を致す、ものを具ふ、つとむ、そなふ。○〔史〕「爲レ主—」。

〔精辦〕純潔におちなく具ふ。○〔晉〕「具二數-人之饌一、甚——」。
〔難辦〕そなふることやすからざ。○〔顏氏家訓〕「家貧燭—レ—」。
〔整辦〕たゞしく具備す。○〔南〕「內-外——」。
〔密辦〕志のびやかに具ふ。○〔魏〕「難二以——一」。
〔咄嗟辦〕瞬間に備具す。○〔晉〕「——便—」。
〔多々益辦〕おほきほど力を致し易きの意。○〔漢〕「如レ臣———耳」。

【辧】辦に同じ。

【辨】ヘン、ベン。皮莧切　〔諫〕　婢免切　〔銑〕
㊀わかつ。（い）區二す、わく。○〔左〕「男-女—レ姓」。（ろ）識別す、わきまふ。○〔禮〕「論—、然後使レ之」。
㊁わかちがつく、わかる。○〔易、疏〕「分-—處」。
㊂かはる、かふ、（變）。○〔莊〕「御二六-氣之—一」。
㊃區別、識別、わかち。○〔鮑昭〕「漢-律故-誤之—」。
㊄分明にして疑惑なきこと。○〔周〕「六曰、廉—」。
㊅牀の足と第（すのこ）との閒の處、卽ち牀の足も牀の身との分かるゝ處。○〔易〕「剝レ牀以レ—」。
㊆をさむ、（治）。○〔荀〕「城-郭不レ—」。
㊇たゞす、（正）。○〔周〕「以—二其陰-陽一」。
㊈そなふ、いたす、（辦）。○〔周〕「以—二民器一」。
㊉非地の數にいふ字。○〔禮〕「京-陵之地九-夫爲レ—、九—而當二一-井一」。
〔明辨〕あきらかに判別す。○〔禮〕「——レ之」。
〔審辨〕前に同じ。○〔蔡邕〕「——眞-僞一」。
〔論辨〕よしあしをはかり判かつ。○〔禮〕「——然後使レ之」。「—一」。
〔分辨〕つまびらかに分別す。○〔徐積〕「客-主莫二—一
〔治辨〕整理分別す。○〔韓詩外傳〕「禮者——之極也」。
〔強辨〕きはめてよくわきまふ。○〔後漢〕「文-札——」。
〔察辨〕あきらかに判別す。○〔南〕「——涇-渭一」。
〔精辨〕精密にわきまふ。○〔常袞〕「——郡-務一」。

【辨】ヘン。卑見切　〔霰〕
㊀徧に通じ用ふ、あまねし。○〔史〕「萬-民和-喜瑞-應—至」。
㊁華の中の斷ゆるにいふ字、○〔爾〕「華中絕謂二之—一」。

【辨】貶に通じ用ふ。○〔禮〕「立-容—卑無レ諂」。

【辝】シ、ジ。象齒切　〔紙〕
すきのさき、（耒-耑）。

【〓】コ、ク。苦故切　〔遇〕
茱萸を搗きくだきたるもの、味辛くしてにがし。

十畫

【〓】ヘキ、ヒヤク。必益切　〔陌〕
をさむ、（治）。

【〓】ケン、コン。苦兼切　〔鹽〕
なやむ、（艱）。

十一畫

【辬】ハン、ヘン。布還切　〔刪〕
まだら、（駁）。

【〓】ヒン。悲巾切　〔眞〕
まだら、（駁）。

【辦】　ヘン、ベン。皮莧切　䜊

兩股の閒、うちもゝ、また。

十二畫

【辭】　シ、ジ。似茲切　支

㊀ことば。
（い）陳說、論述。○〔易〕「修レ—立二其誠一」。
（ろ）訴訟、諍議、うったへ、あらそひ。○〔書〕「明二清于單一—一」。
（は）言語、文詞。○〔荀〕「—合二於說一」。
㊁つぐ（告）。○〔禮〕「使三人—二於狐突一」。
㊂さく（說）。○〔禮〕「仁者之過易レ—」。
㊃こふ（請）。○〔國〕「大夫—レ之」。
㊄ことわる。
（い）卻けて受けず。○〔中〕「爵祿可レ—」。
（ろ）他へ讓る。○〔漢〕「溫顏遜—」。
（は）ことばをかく、つげおく。○〔楚辭〕「出不レ—」。
（に）かへし遣る。○〔呂氏春秋〕「田駢聽レ之畢而—レ之」。

（玩辭）言辭をあじはふ。○〔易〕「而—二其—一」。
（浮辭）まことならざることば。○〔後漢〕「閒者奏頗多二—・—一」。
（遊辭）前に同じ。○〔左〕「今信二其—・—偽詐一」。
（屬辭）言辭文詞をつゞること。○〔禮〕「—レ—比レ事」。
（詭辭）いつはりのことば、又、ことばをいつはる。○〔舊唐〕「必能頌レ旨—レ—」。
（文辭）文詞といふに同じ。○〔史〕「約二其—・—一」。
（兩辭）原被の雙方互ひ訟ふることば。○〔書〕「聽二獄之—・—一」。
（詖辭）偏詖のことば。○〔孟〕「—・—知二其所一レ蔽」。
（淫辭）正しからざることば。○〔孟〕「—・—知二其所一レ陷」。
（邪辭）よこしまなることば。○〔孟〕「—・—知二其所一レ離」。
（遁辭）にげことば。○〔孟〕「—・—知二其所一レ窮」。
（疊辭）うるはしきことば。○〔漢〕「—・—自照」。

（一辭）一の言辭、又、ことばを均しくす。○〔史〕「不レ能レ贊二—・—一」。
（卑辭）ことばをひくめてたかぶらざること。○〔史〕「齊懼必—レ—重レ幣以事レ秦」。
（碎辭）こまぐしき文詞のこと。○〔漢〕「煩言—・—」。
（婉辭）やはらかなることば、又、ことばをやはらかに用ふ。○〔淮〕「卑レ禮—レ—以接レ之」。
（詐辭）まことなきことば。○〔鶡冠子〕「—・—者狙レ物者也」。
（吐辭）文詞をかきあらはす。○〔韓愈〕「—レ—爲レ經」。
（正辭）たゞしきことば、又、言詞を貝正にす。○〔秦誓〕「直レ道—レ—」。
（勞辭）ねぎらひのことば。○〔詩、疏〕「六章皆—・—也」。
（傳辭）ことばをつたへ告ぐ。○〔禮、疏〕「擯者—二—于天子一」。
（訓辭）敎訓のことば。○左「加レ之以二—・—一」。
（禮辭）禮式に用ふることば。○左「以爲二—・—一」。
（失辭）言詞をあやまる。○〔左〕「行人—レ—」。
（同辭）言詞をひとしくす。○〔後漢〕「不レ謀—レ—」。
（辯辭）辯說よきこと。○〔史〕「宰予利口—・—」。
（僞辭）まことならざる言詞。○〔漢〕「故刪二其—・—一」。
（置辭）ことばを發して語ること。○〔漢〕「勃恐不レ知レ—レ—」。
（便辭）口巧者なる言詞。○〔漢〕「—・—巧說」。
（謙辭）謙遜のことば。○〔後漢〕「深執二—・—一」。
（誕辭）妄誕不實の言詞。○〔後漢〕「以二柱下一爲二—・—一」。
（音辭）音吐辭理のこと。○〔晉〕「—・—清暢」。
（華辭）はなやかなることば。○〔南〕「慰祖口吃無二—・—一」。
（晉辭）理にくらきことば。○〔後漢〕「舉陳二—・—一」。
（俚辭）鄙俗のことば。○〔唐〕「必歌二—・—一」。
（交辭）ことばをまじへて相語ること。○〔孔叢子〕「—二—于漂女一」。
（接辭）人に近づきて其の語りぐさをきく。○〔漢〕「今乃承レ顏—レ—」。
（溫辭）やさしきことば。○〔新論〕「—・—一灑」。
（飾辭）言詞をよそはひかざりて用ふること。○〔論衡〕「非二苟調レ文—レ—爲二奇偉之觀一也」。
（肥辭）豐富なる言詞。○〔文心雕龍〕「瘠義—・—」。
（偉辭）すぐれたる言詞。○〔文心雕龍〕「自鑄二—・—一」。

（駁辭）純粹ならざる言詞。○史通「竹簡書多二—・—一」。
（虛辭）實なきことば。○〔歐陽〕「此不レ可下以二—・—一借上也」。
（飫辭）へつらひのことば。○〔劉向〕「即臨二夫讒人之—・—一」。
（讜辭）正しき善きことば。○〔典引〕「旣感二羣后之—・—一」。
（休辭）よき言詞。○〔蔡邕〕「辱二此—・—一」。
（嘉辭）前に同じ。○宋玉「陳二—・—一而云對兮」。
（言辭）ことば。○〔吳質〕「—・—漏渫」。
（甘辭）甘言といふに同じ。○〔杜預〕「—・—卑レ體」。
（瑰辭）おほいにすぐれたる言辭。○〔張九齡〕「義磊—・—」。
（怪辭）奇異の言辭。○〔韓愈〕「—・—驚レ衆謗不レ已」。
（片辭）かたきれのことば。○〔柳宗元〕「立二—・—一而不レ遺」。
（頌辭）功德を賞美したる言詞。○〔柳宗元〕「世有二—・—一」。
（雄辭）すぐれておほいなる言辭。○〔韓愈〕「援二—・—一于章句一」。
（折辭）人のことばをくじく。○〔大戴禮〕「不レ—レ—」。

【辮】　ヘン。補典切　銑

㊀うれふ（憂）。㊁すみやか（急）。

【辥】　クワク。呼麥切　陌

からし（辣）。

十三畫

【辮】　ヘン、ベン。婢典切　銑

交へ織る、くむ、まさふ。○〔張衡〕「—二貞亮一以爲レ鞶兮、雜二技藝一以爲レ珩」。

（辮髮）くみたる頭髮をときほどく。○〔唐〕「皆爭—レ—易レ服」。
（弛辮）前に同じ。○〔唐〕「大小可汗相次東レ手—レ—」。
（髫辮）幼少のときのかみかたち、轉じて幼少者たるをあらはすに用ふる語。○〔謝靈運〕「發二于—・—一」。

十四畫

【辯】　ヘン、ベン。皮免切　銑

㊀辨別す、わかつ、わかる。○〔易〕「君子以—二上下一定二民志一」。
㊁詳審、つまびらか。○〔周〕「—レ方正レ位」。
㊂明慧、あきらか。○〔易〕「明—晢也」。
㊃言說の巧みなるにいふ字。○〔禮〕「言僞而—」。
㊄爭ひ論ず、あらそふ。○〔禮〕「不レ慢不レ爭則遠二於—一矣」。
㊅をさむ（治）。○〔書〕「勿レ—乃司」。
㊆さとす（諭）、さく（說）。○〔禮〕「其過失可二微—一而不レ可二面數一也」。
㊇たゞす（正）。○〔禮〕「有司弗レ—」。

（好辯）論辯することをよろこぶ。○〔孟〕「予豈—レ—哉」。
（廷辯）朝中にて論說す。○〔宋〕大事則—・—」。
（口辯）言語たくみにして快利なり。○〔史〕「蘇有二—・—一」。
（浮辯）實なき言論。○〔漢〕「率多二—・—一」。
（譎辯）譎詐の辯說。○史「設二—・—於懷王之寵姬鄭袖一」。
（必辯）こゝろあきらかなり。○〔後漢〕「口訥—レ—」。
（逸辯）すぐれて言論に巧みなり。○〔魏〕「辭才—・—」。
（雄辯）辯論談說のすぐれまさりたること。○〔杜甫〕「高談—・—驚二四筵一」。
（大辯）おほいに辯論のすぐれたること。○〔老〕「—・—若レ訥」。
（分辯）篤に分別す。○〔易、疏〕「初能—・—道理」。
（明辯）分明詳審なり。○〔禮、疏〕「辭理—・—」。
（弘辯）辯論博大なり。○〔戰〕「天下駿雄—・—之士也」。
（博辯）前に同じ。○〔韓愈〕「必有二奇能—・—之士一」。
（宏辯）前に同じ。○〔蘇轍〕「聽二其議論—・—一」。
（辭辯）言論のこと。○〔王融〕「聊用二—・—一」。
（精辯）あきらかにこまかくゆきとゞきたる口辯。○〔漢〕「—・—論議」。
（文辯）文章と辯論と。○〔漢〕「皆以二—・—一著レ名」。
（才辯）才氣ある辯口。○〔後漢〕少有二—・—一」。

（佞辯）たちまさりたる辯口。○〔南〕「一・一善ニ言論ニ」。
（機辯）變化妙運の辯說。○〔晉〕「識悟一・一」。
（馳辯）縱橫に言說をはす。○〔答賓戲〕「一・一如ニ春波ニ」。
（聰辯）さとくして言論に巧みなり。○〔北〕「一・一强識」。
（剛辯）剛儁明辯なり。○〔北〕「一・一之才」。
（强辯）前に同じ。○〔北〕「諸・傾服ニ其一・一ニ」。
（警辯）機敏警拔の辯口。○〔唐〕「一・一好談・諧」。
（談辯）談論のこと、又、はなしかたる。○〔唐〕「一・一可レ喜」。
（論辯）あげつらふ、又、談論。○〔元〕「掀髯一・一」。
（任辯）辯口よきにまかすこと。○〔韓〕「一レ一之失也」。
（巧辯）談論のたくみなること。○〔淮〕「鄧析一・一而亂レ法」。「一」。
（豐辯）辯說ゆたかなり。○〔西京雜記〕「婁護一・」
（筆辯）ふでのうへの辯論。○〔論衡〕「一・一以ニ挾・露ニ爲レ通」。「一難レ捨」。
（邪辯）正しからざる辯說。○〔淨住子〕「佛言一・」
（曲辯）前に同じ。○〔潘尼〕「一・一雲沸」。
（佞辯）口巧者にしておもねること。○〔潘尼〕「好ニ是一・一ニ」。
（覈辯）しらべて明察にす。○〔謝莊〕「親臨一・一」。
（英辯）すぐれたる辯說。○〔陸雲〕「劉・生吐ニ一・一ニ」。

【辯】ヘン、ベン。比薦切　霰
徧に通じ用ふ、あまねし。○〔禮〕「其治一者其禮具」。

【辯】ヘイ、ビヤウ。符兵切　庚
平に通じ用ふ、ひさし。○〔史〕「一ニ秩東作ニ」。

【辯】ヘツ、ヘチ。筆別切　屑
貶と同じ。○〔周〕「荒一之法」。

辰部

【辰】シン、ジン。植鄰切　眞
㊀十二支の一、たつ。○〔左〕「太歲在レ一」。
㊁十二支の稱、えと。○〔周〕「十有二一之號」。
㊂日月星の交會。○〔書〕「曆象ニ日・月星一ニ」。
㊃北極星、又、大火星。○〔左〕「主レ一」。
㊄日月星の稱。○〔張衡〕「建ニ一・旒之太常ニ」。
㊅日。○〔左〕「浹一之間」。
㊆とき（時）。○〔詩〕「我生不レ一」。
（大辰）星の名。○〔公羊〕「一・一者何、大・火也」。
（吉辰）吉日のこと。○〔儀〕「令・月一・一始加ニ元服ニ」。
（靈辰）前に同じ。○〔李嶠〕「七・日最一・一」。
（三辰）日月星のこと。○〔左〕「一・一旂旗」。
（浹辰）十二日の間をいふ。○〔左〕「一・一之間而楚克ニ其三都ニ」。「一」。
（北辰）北極の樞星をいふ。○〔爾〕「北・極謂ニ之一・一」。
（良辰）佳辰ともいふ、よき日、又、よき時のこと、又、春のこと。○〔論衡〕「作レ車不レ求ニ一・一ニ」。
（嘉辰）前に同じ。○〔王褒〕「命纓應ニ一・一ニ」。
（芳辰）春の時節のこと。○〔李嶠〕「絲レ芳擧ニ一・一ニ」。
（凄辰）霜辰ともいふ、秋の季節を稱する語。○〔梁元帝〕「秋日ニ白・藏時ニ、日ニ一・一、日ニ霜辰ニ」。
（儀辰）北辰にたぐひす。○〔顏延之〕「一レ一作レ貳」。
（測辰）時をはかる。○〔陸雲〕「揆レ景一レ一」。
（考辰）前に同じ。○〔陸倕〕「一レ一正レ晷」。
（剛辰）剛日のこと。○〔蘇軾〕「一・一日・月明」。
（十二辰）子より亥にいたる次第をいふ。○〔周、疏〕「一・一有一・一謂ニ子丑寅卯之等ニ」。

三畫

【辱】ジョク、ニク。而蜀切　沃
㊀はぢを受けしむ、はぢしむ、けがす、はづかしむ。○〔禮〕「孝子不レ登レ危、懼レ一レ親」。
㊁はづかしめらる、けがる。○〔左〕「使ニ吾子一ニ在ニ塗泥ニ久矣」。
㊂分外の好意を受けたるにいふ字、即ち、受けたるものをはづかしむるさ謙遜すとの義、かたじけなし。○〔禮〕「君言至、則主人出拜ニ君言之一ニ」。
㊃かゞむ（屈）。○〔呂氏春秋〕「不レ足ニ以一ニ令尹ニ」。
㊄汙恥、はぢ、けがれ、はづかしめ。○〔史〕「幽・囚受レ一」。
（榮辱）さかえあらはるゝとけがれ屈すること。○〔易〕「樞・機之發、一・一之主也」。
（寵辱）前に同じ。○〔老〕「何謂ニ一・一若レ驚」。
（恥辱）はぢ、又、はづかしむ。○〔論〕「恭近ニ于禮ニ遠ニ一・一也」。「焉」。
（媿辱）前に同じ。○〔漢〕「先ニ行・誼ニ而黜ニ一・一」。
（忍辱）屈辱をしのびて受く。○〔李陵〕「故每攝レ臂一レ一」。
（守辱）汚下をたもちて寵榮を欲せず。○〔老〕「知ニ其榮ニ、一ニ其一ニ」。
（招辱）はぢをまねく。○〔揚雄〕「貌輕一レ一」。
（勞辱）くるしく劣りたるわざ、又、けがしつかちす。○〔法書要錄〕「加以ニ一・一使レ類ニ久・蟄ニ」。
（憒辱）みだれけがる。○〔詩、箋〕「衣之不レ澣、則一・一無ニ照・察ニ」。
（惡辱）けがれ屈することをきらふ。○〔孟〕「今一レ一而居ニ不・仁ニ」。
（憂辱）くるしみけがれてさかえざること。○〔孟〕「終・身一・一以陷ニ于死亡ニ」。
（折辱）くぢけ屈すること、又、くじきはづかしむ。○〔北〕「乃於ニ衆・中ニ一ニ一之ニ」。「之風損」。○
（挫辱）前に同じ。○〔後漢〕「夫人・情一・一則義・節」
（廢辱）官職などの位をやめしりぞく。○〔史〕「觀ニ所ニ以得ニ尊・寵ニ、及所ニ以一・一ニ」。
（困辱）窮困してさかえず。○〔史〕「乃自令ニ一・一至レ此」。「也」。
（窮辱）前に同じ。○〔說苑〕「讒・諛者一・一之舍」
（謬辱）はづかしむ。○〔史〕「故一・一以懲レ後」。
（小辱）わづかなるはぢ。○〔史〕「今見ニ一・一而欲レ死ニ一・吏ニ乎」。
（侵辱）をかしはづかしむ。○〔漢〕「吏稍一ニ一之ニ」。
（陵辱）前に同じ。○〔石崇〕「父・子見ニ一・一ニ」。
（屈辱）身をけがしまげて服從す。○〔李康〕「一ニ一于公・卿之門ニ」。
（笞辱）むちうちはづかしむ。○〔漢〕「未ニ嘗一ニ人ニ」。
（謾辱）前に同じ。○〔晉〕「數一ニ一之ニ」。
（詈辱）のゝしりはづかしむ。○〔魏〕「呂・布欲レ使ニ煥作レ書一ニ一劉・備ニ」。
（罵辱）前に同じ。○〔晉〕「輒見ニ一・一ニ」。
（詬辱）前に同じ。○〔五〕「每一ニ一航ニ」。
（訶辱）しかりはづかしむ。○〔晉〕「若非・理得レ之、則切・勵一・一、還ニ其所ニ饋ニ」。
（讁辱）前に同じ。○〔南〕「每先呵ニ責一ニ一之ニ」。
（詆辱）そしりはづかしむ。○〔宋〕「排・擯一・一」。

【農】ドウ、ノウ。奴冬切　冬
㊀耕種の業。○〔左〕「其庶・人力ニ于一・穡ニ」。
㊁耕種を業とする人。○〔論〕「吾不レ若ニ老一ニ」。
（惰農）をこたれる農民。○〔書〕「一・一自安」。
（癡農）前に同じ。○〔芥隱筆記〕「一・一亂レ田」。
（妨農）耕作のさまたげす。○〔杜甫〕「久・雨不レ一レ一」。
（三農）平地の農、山の農、澤の農をいふ。○〔周〕「一・一生ニ九・穀ニ」。
（力農）耕作につとむ。○〔漢武帝〕「方・今之務在ニ於一・一ニ」。
（傷農）耕作に從事する民をそこなふ。○〔漢〕「甚眩一レ一」。「輟レ耕」、
（良農）善良なる農夫。○〔荀〕「一・一不レ爲ニ水・旱ニ」
（善農）前に同じ。○〔東觀漢記〕「樊重・世一・一」。

七畫

【䢅】シン、ジン。食鄰切　眞
つと、あさまだき（昧爽）。

八畫

【䢆】ジョウ、ニュ。而隴切　腫
不肖、おろか。

十二畫

【䢇】シン　止忍切　軫　チ。丑饑切

図 チン。丑忍切 軫 一に輾に作る、笑ふ貌にいふ字。○［莊］「桓公—然而笑」。

【⿰多辰】 ヂヨウ、ノウ。女容切 冬 おほし（多）。○［崔駰］「紛—塞レ路」。

【⿰多辰】 ドウ、ヌ。奴動切 董 ⿰多辰—は、多き貌にいふ語。

十三畫

【⿸辰會】 クワイ、エ。呼外切 泰 日月の合宿、やどり。

十四畫

【⿱臼農】 古文の農の字。

辵部（⻌）

【辵】 チヤク。勅略切 藥 〔六書正譌〕从レ彳从レ止。 ㊀乍ち行き乍ち止まる、たゞずむ。㊁道に循ひて疾行す、はしる。㊂躇に通じ用ふ、こゆ。

二畫

【辸】 ジヨウ、ニヨウ。如乘切 蒸 ㊀ゆく（往）。㊁およぶ（及）。

三畫

【⿺辶卜】 フ、ホ。斐父切 麌 ㊀やすんず（安）、したがふ（循）、なづ、（撫）。㊁のがる（逃）。

【达】 テイ、タイ。他計切 霽 すべる、なめらか（滑）。○［王褒］「其妙聲、則清淨厭瘱順叙卑—」。

【达】 タツ、タチ。他達切 曷 達に同じ、のがる（逃）、一説に、行きて遇はず。

【达】 タツ、ダチ。陁葛切 曷 さほる（通）、一説に、たがひに（迭）。

【辿】 テン。丑延切 先 緩く歩む、あゆむ、たどる。

【⿺辶丌】 キ。居吏切 寘 荐にものを上に進む、すゝむ。

【迀】 カン。古寒切 寒 すゝむ（進）。

【迁】 俗の遷の字。

【迂】 ウ、チ。羽俱切 虞 ㊀さほし、まはりどほし。(い)路遠し。○［史］「北渡—兮浚流難」。(ろ)事鈍し。○［後漢］「其言甚—、其効甚近」。㊁まがる。(い)直ならざるにいふ字、くねる、れぢく。○［國］「不レ度而—求」。(ろ)屈す、かゞまる。○［管］「民—則流レ之」。㊂まがらしむ、まぐ。○［書］「—ニ乃心ニ」。㊃さほまはし、さほまはり、又、其の路。○［宋］「捨レ遥而就レ—」。㊄ひろし（廣）、おほいなり（大）。○［關尹子］「勿下以ニ—漫ニ曰中道廣上」。㊅やゝ（頁）。○［漢］「—久大醉而還」。

〔怪迂〕あやしくたゞしからず。○〔史〕「海上燕齊—之方士」。「—ニ」。
〔透迂〕なゝめにまがる。○〔李德裕〕「若ニ天漢之—」。
〔迴迂〕まはりくどく敏捷ならず。○〔陳師道〕「臨レ事—種々遲」。
〔疎迂〕おほまかにして精密ならず。○〔王晁〕「客計轉—」。

【迃】 迂の本字。○［國］「見ニ其語—ニ」。

【迄】 キツ、キチ。許訖切 質 ㊀およぶ、いたる（至）。○［詩］「以—ニ于今ニ」。㊁をはる、つひに（竟）。○［後漢］「才疏意廣、—無ニ成功ニ」。

【迅】 シン。息進切 シユン。須閏切 震 ㊀疾急なり、はやし、すみやか、とし。○［楚辭］「羌—高而難レ當」。「—」。㊁狼の子。○［爾］「狼其子獥、絶有レ力—」。

〔輕迅〕みがるにして疾し。○〔傅休奕〕「—省莫レ如レ鷹」。
〔勁迅〕するどくとし。○〔唐〕「爲ニ文章ニ—有ニ—」。
〔趫迅〕前に同じ。○〔褚白馬賦〕「軍獸—」。
〔激迅〕いたくはやし。○〔應瑒〕「睃ニ—而難退」。
〔奮迅〕ふるひたちて勢はげし。○〔後漢〕「—ニ—拔ニ超莽月之間ニ」。
〔振迅〕前に同じ。○〔鮑照〕「—鴻鶴」。

【迆】 イ。移爾切 紙 ㊀なゝめに行く、ゆく。○［書］「東—北會」。㊁なゝめに連らなる、つらなる。「邐—沙丘」。○［爾］㊂なゝめに倚す、たてかく。○［周］「戈柲六尺有六寸、既建而—」。

〔邐迆〕つらなりつゞく貌にいふ語。○〔阮籍〕「—漫衍」。
〔陂迆〕前に同じ。○〔西京賦〕「瀰漫—」。
〔瀰迆〕ひろくつらなる。○〔范成大〕「至レ縣乃—」。「—」。
〔迆々〕つらなる貌にいふ語。○〔袁桷〕「雲葉白—」。
〔演迆〕ひろくめぐる。○〔選〕「—ニ—城中ニ」。
〔坦迆〕高低なくつらなる。○〔世說〕「何其—」。

【迤】 イ。弋支切 支 なゝめに行く。

四畫

【迊】 サフ、ソフ。子答切 合 帀に同じ、めぐる、まはる。

【⿺辶市】 ハツ、バチ。北末切 曷 ㊀急ぎ走る、はしる。㊁前み頓く、つまづく。㊂にはか（猝）。㊃行く貌にいふ字。

【⿺辶市】 ハツ、ハチ。普活切 曷 にはか（猝）。

【迋】 ワウ。于放切 キヤウ、ガウ。俱往切 養 曲王切 陽 ㊀ゆく（往）。○［左］「君使ニ子展—勞ニ于東門之外ニ」。㊁たぶらかす、あざむく（欺）。○［詩］「人實—レ女」。㊂おそる（恐）。○［左］「子無ニ我—ニ」。

【⿺辶夬】 ケツ、ケチ。火決切 屑 はしる（走）。

【⿺辶支】 キ。去智切 寘 遺爾切 紙

さく、(避)。

【⿺辶勿】ブツ、文弗切 物 モチ。 コツ、呼骨切 月 コチ。
とほし、(遠)。

【⿺辶方】ハウ、バウ。防岡切 養
急ぎ行く、はしる。

【⿺辶日】チツ。陟栗切 質
ちかし、(近)。

【⿺辶弔】テキ、チヤク。丁歴切 錫
テウ。多嘯切 嘯
いたる、(至)。

【⿺辶月】トツ、トチ。他沒切 月
誑誘の貌にいふ字、わるがしこし。

【迍】チユン。陟綸切 眞 トン、ドン。
徒渾切 元
たちもとほる、(邅)。○[白居易]「賢者獨賤ーー」。

【迎】ゲイ、ギヤウ。語京切 庚
むかふ。
(い)來たれるを受け接す、うく、まちうく。○[淮]「不レ將不レー」。
(ろ)未來を推算す、かぞふ。○[史]「ーレ日推レ策」。
(送迎) 去るをおくると來たるをむかふると。○[晉]「吾ーーー不レ出レ門」。
(歡迎) よろこびていでむかふ。○[陶潛]「僮僕ーー」。
(逢迎) むかへあふ。○[王維]「終日有ニーーニ」。
(拜迎) 拜禮を行ひてむかふ。○[禮]「不ニ敢ーー拜送ニ」。
(郊迎) まちはづれまでいでむかふ。○[史]「蜀太守以下ーー」。
(馳迎) はせむかふ。○[後漢]「ーーニ道路ニ」。

【迎】ゲイ、ギヤウ。魚敬切 敬
未だ來たらざるを來たらしむべく爲すにいふ字、むかふ。○[詩]「親ーニ于渭ニ」。

【运】ウン、チン。羽粉切 吻
走る貌にいふ字。

【⿺辶公】ショウ、シユ。七恭切 冬
うつる、うつす、(遷)。

【近】キン、コン。其謹切 吻
㊀ちかし。
(い)へだたり少なし。○[晉]「陳ニ説ー代事ー若レ指ニ諸掌ニ」。
(ろ)たがひ少なし。○[爾、序]「莫レーニ於爾雅ニ」。
(は)親し。○[唐]「姻ーー人懼ニ其威ニ」。
(に)及ばんさするにいふ字。○[論、註]「言レーレ道」。
(ほ)目前なるにいふ字。○[易]「ー取ニ諸身ニ」。
(へ)けだかゝらず、あさはかなり。○[唐]「語言俚ー」。
(と)寵を受けて君王に親しきにいふ字。○[劉敞]「毋レ篤ニ于嬖ーー之寵ニ」。
(ち)位高くして君王に逼れるにいふ字。○[易]「二多レ譽、四多レ懼、ー也」。
㊁そば、かたはら、左右、てぢかき處。○[舊唐]「取ニ側ーー三十戸ニ」。
㊂ちかき時、ちかごろ。○[晉]「相見在レー」。
㊃ちかきにあるもの、したしきもの。○[左]「親レ親暱レー」。
(遠近) とほしとちかしと。○[陶潛]「緣レ溪行忘ニ路之ーーニ」。
(側近) 遠からざる場所。○[舊唐]「本州取ニーー三十戸ニ、以供ニ灑掃ニ」。
(權近) 勢位たかく王者に侍する者。○[唐]「ーー側レ目」。
(修近) ちかきところをおさめととのふ。○[管]「召レ遠在レ修レー」。
(正近) 前に同じ。○[新語]「平レ遠者必ーレー」。
(察近) ちかきところをあきらかにする。○[呂氏春秋]「ーレー所ニ以知レ遠也」。
(寧近) ちかきところの者をやすんず。○[新語]「附レ遠ーレー」。
(輕近) ちかきを重んぜず。○[顏氏家訓]「重レ遙ーレー」。
(賤近) 前に同じ。○[魏文帝]「常人貴レ遠ーレー」。
(瑣近) 微細にして高遠ならざること。○[杜預]「則情趣ーー」。
(淺近) あさはかなり。○[杜預]「雖ニーー亦復名家」。
(接近) 遠く隔離せず。○[向秀]「居止ーー」。
(卑近) 高遠ならず。○[陸游]「學不レ過ニーーニ」。
(貴近) 位高く王者にちかづく者。○[唐]「太宗以爲レ不レ阿ニーーニ」。
(嬖近) そばづかひなどのこと。○[劉敞]「毋レ篤ニーー之寵ニ」。

【近】キン、ゴン。巨靳切 問
ちかづく。
(い)附く。○[爾、疏]「謂ニ傅ー也」。
(ろ)親しむ。○[書]「民可レー」。
(は)迫る。○[呂氏春秋]「水不レ可ニ得ーニ」。
(昵近) したしみちかづく。○[韓]「ーー習親」。
(媟近) なれちかづく。○[詩、序]「ーニーー小人ニ」。
(狎近) 前に同じ。○[韓偓]「燕佚氷猾雜ニーーニ」。
(安近) 安心してちかづく。○[漢]「甚ーー焉」。
(親近) したしみちかづく。○[漢]「故ーニーー生ニ」。

【近】キ。居吏切 寘
助字。○[詩]「往ー王舅」。

【⿺辶尤】イウ、ウ。于求切 尤
經過す、すぐ。

【迒】カウ、ガウ。胡郎切 陽
獸の迹、けものゝあしあと、又、兎の道、うさぎみち。○[張衡]「結レ罝百里ー杜蹊塞」。

【迒】カウ、ゴウ。胡江切 江
車の迹、わだち。

【迓】ガ、ゲ。五駕切 禡
相迎ふ、むかふ。○[書]「予ー續ニ乃命于天ニ」。
(敬迓) つゝしみうやまひて迎ふ。○[書]「ーー天威ニ」。
(邂迓) むかへ逢ふ。○[秦觀]「翁媼相ーー」。
(郊迓) まちはづれまでいでむかふ。○[唐]「凱還則ーー」。

【⿺辶止】シ。想氏切 紙
うつる、うつす(徙)。

【返】ヘン、ホン。甫遠切 阮
㊀かへる。
(い)もとへ戻る。○[孟]「從レ流上、而忘レー、謂ニ之流ニ」。
(ろ)また來たる。○[史]「知ニ公子恨レ之復ーーニ」。
(は)去る、退く。○[禮]「孔子先ー」。
㊁かへらしむ、かへす。○[漢]「ーニ之于天ニ」。
㊂回數、たび。○[漢]「伐レ宛再ー」。
(旋返) たちかへる。○[陳琳]「惆悵忘ニーーニ」。
(還返) 前に同じ。○[黃庭堅]「及レ思ニーーニ」。

【迕】ゴ、五故切 遇 グ。 阮古切 麌

㊀あふ(遇)。○[後漢]「王甫時出與レ蕃相—」。
㊁さかふ(逆)、たがふ(違)。○[王褒]「氣旁—以飛-射」。
㊂まじろ(錯)。○[宋玉]「迴-穴錯—」。

五畫

【辶半】ハン、パン。薄半切 [翰] さる(去)。

【辶㕣】エン。以喘切 [銑] ゆく(行)。

【辶且】ソ、ズ。昨胡切 [虞] ゆく(徂)。

【迠】セフ、ソフ。尺渉切 [葉] ゆく(行)。

【辶尼】デイ、ナイ。奴計切 [霽] ちかし(近)。

【迡】遲に同じ。○[揚雄]「徘-徊招-搖靈迡—兮」。

【迟】ケキ、キヤク。苦席切 [陌] 曲がり行く。

【迒】ジヨウ、ニユ。乳勇切 [腫] ゆく(行)。

【迢】テウ、デウ。徒聊切 [蕭] はるか(遰)、又、たかし(高)。○[古詩]「—・—牽-牛-星」。

【迣】古文の迾の字、さへぎる。○[漢]「男-女遮—」。

【迣】テイ。丑制切 [霽] こゆ(超)。○[漢]「體容-與—二萬-里一」。

【迤】イ。演爾切 [紙] 池に同じ、つらなる。○[賓晃]「知二羣-阜之—-邐一」。

【迤】イ。余支切 [支] 委—は、自得の貌にいふ語。

【迱】タ、ダ。唐何切 [歌] 透—は、なゝめに行く貌にいふ語。○[晉]「錦-障透—」。

【迥】ケイ、ギヤウ。戸頂切 [迥]
㊀寥遠、とほし、はるか。○[庾信]「陵-原地—」。
㊁ひかる(光)、かゞやく(輝)。「—兮」。
(修迥) 長遠なること。○[登樓賦]「路透-迤而—・—」。
(遐迥) はるかに遠し。○[楚辭]「道—・—兮阻-歎」。
(迸迥) 前に同じ。○[西征賦]「何相越之—・—」。
(幽迥) おくふかくはるかなること。○[孫綽]「其路—・—」。

【辶术】古文の遂の字。

【辶术】ツ井。追萃切 [寘] 足すゝまず。

【辶囚】シウ、ジユ。徐由切 [尤] 拘留す、とゞむ、さらふ。

【迦】カ、居牙切 [麻] カ。居伽切 [歌] ケ。釋—は、佛陀の名。○[文中子]「齋-戒修而梁-國亡、非二釋—之罪一也」。

【迦】邂に通じ用ふ。○[揚雄]「迦レ父—逅」。

【迧】陳に同じ、つらぬ。○[石鼓文]「—レ禽奉レ雉」。

【迨】タイ、デ。徒亥切 [賄] 逮に同じ、およぶ。○[詩]「—二其今一兮」。

【辶戉】エツ、チチ。王伐切 [月] ㊀こゆ(踰)。㊁走散す、にぐ。

【迩】邇に同じ。

【辶氐】テイ、都禮切 [薺] タイ。丁計切 [霽] おどろく(驚-駭)。

【迪】テキ、ヂヤク。徒歷切 [錫]
㊀ふむ(蹈)。○[書]「允—二厥德一」。
㊁すゝむ(進)。○[荀]「弗レ求弗レ—」。
㊂みち(道)。○[書]「惠レ—吉」。
㊃みちびく(導)。○[書]「啓二—後-人一」。
㊄いたる(至)。○[漢]「漢—二于秦一、有レ革有レ因」。
㊅たゞす(正)。○[揚雄]「東-齊青-徐閒、相正謂二之由—一」。

【迫】ハク、ヒヤク。博白切 [陌]
㊀すみやか、きびし(急)。○[晉]「欲下以二卒—一試上レ之」。
㊁せまる。
(い)近づく。○[楚辭]「望二崦-嵫一而未レ—」。
(ろ)窘む。○[楚辭]「悲二時-俗之—-阨一兮」。
(は)促る。○[後漢]「地-勢局—」。
(に)縮む。○[史]「陰—而不レ能レ蒸」。
(ほ)急ぐ。○[漢]「外—二公-事一」。
(倉迫) ゆるやかならざること。○[杜陽雜編]「擧止—・—」。
(逼迫) おひせまる。○[後漢]「常—二—之一」。
(惶迫) おそれて心の靜かならざること。○[後漢]「昆弟賓-客皆—・—伏レ地」。
(脅迫) おびやかす。○[後漢]「衆-等爲二畜-卓所一—・—一」。
(窘迫) くるしみておだやかならず。○[晉]「城-中—・—」。
(逼迫) せまる。○[晉]「邪-孽—・—、催レ臣上レ道」。
(督迫) うながしせむ。○[宋]「而—・—賓由郡-守一」。
(催迫) 前に同じ。○[陶潛]「四-時相—・—」。
(蹙迫) ちゞむ。○[文心雕龍]「—二—和-氣一」。
(焦迫) いらちておだやかならず。○[鮑昭]「心計—・—」。
(侵迫) をかしちかづく。○[歐陽修]「風-埃共—・—」。

【迭】テツ、デチ。徒結切 [屑]
㊀彼れ此れ相更はる、かはる、たがふ。○[詩]「日居月諸、胡—而微」。
㊁かはりあひて、かはるぐ、たがひに。○[易]「—用二柔-剛一」。
(更迭) 交替といふに同じ、いりかはる。○[詩、疏]「列-宿—・—而見」。

【迭】イツ、イチ。夷質切 [質]
㊀軼に通じ用ふ、をかす、つく。○[左]「—二我殺地一」。
㊁逸に通じ用ふ、にぐ、はなる。○[家語]「馬將レ—」。

【迮】サク、シヤク。側柏切 [陌] 蹙迫す、ちゞむ、せまる。○[後漢]「鄰-舍比-隣、共相壓—」。

【述】シユツ、ジユチ。食律切 [質]

㊁のぶ、
(い)由り行ふ、したがふ。○〔中〕「父作レ之、子—レ之」。
(ろ)したがひ傳ふ、つぐ、つぎて明かにす、をさむ。○〔禮〕「識二禮樂之文一者能—」。
(は)說く、告ぐ。○〔梁〕「抵レ掌可レ—」。
(に)事を志す、言を纂む、あらはす。○〔漢〕「殷周之盛、詩書所レ—」。
㊂通天冠の稱、古昔王子の著せしもの。○〔禮〕「知レ天者冠レ—」。
〔著述〕文字をかきつらねてのべあらはす。○〔後漢〕「覃二思——一」。
〔稱述〕となへのぶ。○〔唐〕「所二以冒レ死——一」。
〔贊述〕ほめあらはす。○〔隋煬帝〕「遠難二——一」。
〔頌述〕前に同じ。○〔班固〕「覺得下——功德上言二封禪事一」。
〔修述〕をさめのぶ。○〔後漢〕「——二舊業一」。
〔祖述〕おほもとゝしてのべあらはす。○〔禮〕「仲尼——二堯舜一」。
〔撰述〕えらびあらはす。○〔晉〕「凡所二——一百餘萬言」。
〔奉述〕うけつぐ。○〔北〕「——二先志一」。
〔陳述〕のぶ。○〔五〕「獨建前自——」。
〔考述〕しらべのぶ。○〔五〕「烏足二以——一哉」。
〔纂述〕あつめのぶ。○〔宋〕「尤好二——一」。
〔續述〕前に同じ。○〔容齋隨筆〕「嘗以二手帖一論二——之要一」。
〔紹述〕つぎしたがふ。○〔宋〕「於レ是專以二——一爲二國是一」。
〔敷述〕あきらかにのべあらはす。○〔蔡邕〕「苟不二——一」。
〔宣述〕のべあらはす。○〔謝靈運〕「豈淺思膚學所二能——一」。

【迱】タ、ダ。徒何切 歌
逶—は、行く貌にいふ語。

【迤】イ。余支切 支
委蛇の蛇に同じ。

六畫

【迴】クワイ、エ、胡瑰切 灰
囘に同じ。

【迴】クワイ、エ。胡對切 隊
まがる(曲)。

【迎】イン、オン。於忍切 軫
はしる(走)。

【迵】トウ、ヅ。徒弄切 送
すぐ(過)。○〔史〕「診二其脈一、曰二—風一」。

【迵】トウ、ヅ。徒東切 東
とほる、とほす(達)。○〔揚雄〕「中冥獨達、——不レ屈」。

【逌】イウ、ウ。于救切 宥
行く貌にいふ字。

【迂】ウ、チ。羽倶切 虞
窓—は、ゆか(牀)。

【逝】セイ、ゼイ。時制切 霽
こゆ(踰)。

【迷】ベイ、メイ。莫兮切 齊
㊀まよふ、まよひ。
(い)惑ひて従ふ所を知らざるにいふ字、まどふ。○〔詩〕「俾二民不一レ—」。
(ろ)心の亂れ昏むにいふ字。○〔書〕「昏—不レ恭」。
(は)分明ならざるにいふ字、定まらざるにいふ字。○〔文心雕龍〕「俗鑒之—者」。
㊁まよはしむ、まごはす、まよはす。○〔易林〕「巧聲—レ耳」。
〔瞀迷〕心智あきらかならずしてまよふ。○〔東方朔〕「志——而不レ知レ路」。
〔沈迷〕ふかくまよふ。○〔藝文類聚〕「—二——遠路一」。

【[illegible]】カイ、ゲ。戸愛切 隊
はしる(走)。

【迸】
逬に同じ。

【迹】セキ、シャク。資昔切 陌
㊀あと。
(い)踐みたる足の痕、あしあと。○〔漢〕「擬レ足而投レ—」。
(ろ)歩みし處。○〔左〕「茫々禹—」。
(は)あゆみ、ゆきゝ。○〔司馬相如〕「人—罕レ到」。
(に)ゆくへ、ゆくて。○〔劉向〕「躡レ—縱レ轢」。
(ほ)行爲、おこなひ。○〔楚辭〕「見二伯夷之放—一」。
(へ)事業、わざ。○〔書〕「肇基二王—一」。
(と)功績、いさを。○〔後漢〕「有二治—一」。
(ち)名聞、きこえ。○〔漢〕「匿二名—一避二權勢一」。
(り)遺留せるもの。○〔莊〕「六經先王之陳—也」。
(ぬ)遺留せる形。○〔北〕「筆—未レ工」。
(る)由りしたがふべき物事、卽ち、道理故例など。○〔書〕「爾乃邁レ—自レ身」。
(を)すべて形の見るべきものゝ稱。○〔淮〕「循レ—者非二能生一レ—者一也」。
㊁あとに由る、したがふ。○〔漢〕「深—二其道一而務修二其本一」。
㊂あとを追ふ、たづぬ。○〔後漢〕「漢有二—射一」。
㊃事實に由りて考ふ、かんがふ。○〔漢〕「—二漢功臣一」。
〔遺迹〕前人ののこしたるあと。○〔王粲〕「先民——、來世之矩」。
〔馬迹〕むまのあしあと。○〔左〕「皆必有二車轍——一焉」。
〔鳥迹〕とりのあしあと。○〔孟〕「獸蹄——之道交二于中國一」。
〔軌迹〕車のあと、又、正しきのり。○〔漢〕「遵二商周之——一」。
〔行迹〕おこなひのあと、又、人のゆきたるあと。○〔後漢〕「考二列——一」。
〔歛迹〕かたちをあらはさゞること。○〔後漢〕「皆屛レ氣—レ—」。
〔屛迹〕前に同じ。○〔言行錄〕「豪猾—レ—」。
〔轍迹〕車のあとかた。○〔老〕「善行無二——一」。
〔霸迹〕覇者の功業。○〔聖主得賢臣頌〕「必樹二——一」。
〔遐迹〕遠きむかしのあと。○〔揚雄〕「軼二五帝之——一兮」。
〔前迹〕むかしのあと。○〔柳宗元〕「惟恐踵二——一」。
〔蹤迹〕あしあと、又、かりてものゝあとかたにもいふ語。○〔李白〕「一去無二——一」。
〔履迹〕くつのあと。○〔岑參〕「綠苔生二——一」。
〔勝迹〕すぐれたる風景。○〔孟浩然〕「江山留二——一」。
〔風迹〕風化のあと。○〔後漢〕「頗欲下厲二——一取中士心上」。
〔舊迹〕むかしのあと。○〔後漢〕「按二秦——一」。
〔茂迹〕功業の見るべきもののあるさかんなるあと。○〔晉〕「嘉懿——」。
〔勳迹〕いさを。○〔晉〕「家君——如レ此」。
〔超迹〕衆人にたちこえたるおこなひ。○〔汎淹〕「——絕二塵網一」。

【迺】ゼン、ナン。乳兗切 銑
行くと遲し。

【迋】ヤウ。與章切 陽
たちもとほる貌にいふ字。

【迺】乃に同じ、すなはち、なんぢ、はじめ。○〔詩〕「―立二皐門一」。

【逕】シ。處脂切 支 走る貌にいふ字。

【迻】イ。弋支切 支 移に同じ、うつる、うつす。○〔楚辭〕「㞕懲艾而不レ―」。

【迼】ケツ、ケチ。居列切 屑 をどる（跳）。

【迨】カフ、コフ。侯閤切 合 ㊀いりまじる（雜）。㊁行きて相及ぶ、おひつく。

【追】ツ井。陟佳切 支 おふ。
（い）あとより送る、みおくる。○〔詩〕「薄言―レ之」。
（ろ）あとを蹤む、おひかく。○〔漢〕「公無レ所レ―、―レ信詐也」。
（は）あとに附く、したがふ。○〔晉〕「心慕手―」。
（に）逐斥す、おひはらふ、おひのく。○〔左〕「―二我于濟西一」。
（ほ）およぶ（及）。○〔書〕「雖レ悔可レ―」。
（へ）すくふ（救）。○〔論〕「猶可レ―」。
（と）既往に遡るにいふ字、さかのぼる。○〔左〕「―二念前勳一」。
（ち）非を遂ぐるにいふ字、さぐ。○〔漢〕「茲謂二―非一」。
〔追逐〕おひおよぶ。○〔王逸琴〕「寒來暑往難二―」。
〔追遠〕いづくこまでもとおひしたがふ。○〔朱熹〕「追頌方―」。

【追】タイ、テ。都雷切 灰 ㊀玉石を治す、みがく。○〔詩〕「―琢其章」。㊁つりがねのひも（鐘紐）。○〔孟〕「以二―蠡一」。

【追】スヰ、ズヰ。旬爲切 支 隨に通じ用ふ、したがふ。○〔楚辭〕「背二繩墨一以―レ曲兮」。

【迾】レツ、レチ。良薛切 屑 レイ。力制切 霽 ㊀さへぎる（遮）。㊁とゞむ（遏）。○〔後漢〕「張レ弓帶レ鞬、遮二―出入一」。

【迿】シュン。私閏切 震 シュン、ジュン。松倫切 眞 ケン。許縣切 先 ㊀表を出だして辭す、ことわる。㊁さきだつ、さきんず（先）。○〔公羊〕「朋友相衞而不二相―一」。

【退】タイ、テ。吐內切 隊 ㊀しりぞく。
（い）後へ引く、後へ引かしむ、ひく、ひかす。○〔左〕「―二一舍一而原降」。
（ろ）おる、おろす、おつ、おさす。○〔漢〕「多所二貶―一」。
（は）しざる、さく。○〔儀〕「賓少―」。
（に）ことわる、受けず。○〔徐陵〕「不レ能二辭―一」。
（ほ）官をことわりて野におる、隱れて世に出でず。○〔蔡邕〕「功遂身―」。
（へ）罷む。○〔論衡〕「廢―者」。
（と）遠ざく、遠ざかる。○〔拾遺記〕「稍見二離―一」。
（ち）まかる。○〔詩〕「大夫夙―」。
（り）挫く。○〔魏註〕存義之國、喪二於懦―一」。
（ぬ）去る。○〔禮〕「君―」。
（る）謙遜す、へりくだる。○〔禮〕「恭敬撙節―讓」。
（を）返る。○〔漢〕「臨レ淵羨レ魚不レ如二―而結一レ網」。
（わ）舍つ。○〔禮〕「―レ人以レ禮」。
（か）減ず。○〔周〕「進二―之一」。
㊁和柔なる貌にいふ字。○〔禮〕「其中―然如レ不レ勝レ衣」。
〔靜退〕しづかに正しきを守りて躁進せざること。○〔晉〕「性―不レ競」。
〔恭退〕前に同じ。○〔舊唐〕「性―無競」。
〔沉退〕前に同じ。○〔晉〕「性―不レ慕二榮利一」。
〔謙退〕ゆづりてたかぶらず。○〔史〕「君子以二―爲一レ禮」。
〔沖退〕前に同じ。○〔柳宗元〕「以二―之志一」。
〔淸退〕身をきよらかにして躁進せず。○〔南〕「常世服二其―一」。
〔嗜退〕しりぞきゆづることを好む。○〔長編〕「池獨―レ―」。
〔引退〕ひきしりぞく。○〔謝莊〕「未レ追二―一」。
〔勇退〕身をひくに果決なり。○〔戴復古〕「急流―有二何難一」。
〔進退〕すゝみいづるとひきしりぞくと。○〔易〕「變化者―之象也」。
〔隱退〕世をのがれかくれてすゝみいでず。○〔南〕「―不レ受二徵辟一」。
〔卻退〕しりぞく。○〔漢〕「遷延―」。
〔屛退〕しりぞき去る。○〔隋〕「惡心―」。
〔斥退〕官職に在る者などをやめしりぞく。○〔周、疏〕「謂下有レ罪則―二之一、有レ賢則擧而貫上レ之」。
〔罷退〕前に同じ。○〔魏〕「皆―二之一」。
〔黜退〕官等などをさげしりぞく。○〔魏武帝〕「亦將二―令一レ就二初服一」。
〔貶退〕前に同じ。○〔漢〕「多レ所二―一」。
〔斥退〕しりぞけさる。○〔後漢〕「徵過―」。
〔抑退〕おさへつけてすゝめず。○〔魏〕「㞕レ不二―一」。
〔遁退〕のがれさる ○〔魏〕「七月敗皆―」
〔縮退〕勢力しゞまりてしりぞき去る。○〔吳〕「奇遯―」。
〔奔退〕はしりしりぞく。○〔晉〕「―百里」。
〔廉退〕正直寡欲にして競進せざること。○〔北〕「常慕二―一」。「―寡欲」。
〔貞退〕正しく靜かにしてたかぶらず。○〔舊唐〕「性

【退】トン。吐困切 願 褪に同じ、おつ、さむ。○〔王建〕「肉色―紅嬌」。

【淢】キツ、クチ。況出切 質 衆人の走る貌にいふ字。

【送】ソウ、ス。蘇弄切 送 ㊀おくる。
（い）行かしむ、やる。○〔詩〕「遠―二于野一」。
（ろ）行く者に隨ふ、したがふ、みおくる。○〔詩〕「我―二舅氏一」。
（は）ものを致す、いたす、つかはす、やる。○〔儀〕「公拜―レ醴」。
（に）行く者に餞す、はなむけす。○〔史〕「―レ人以レ財」。
㊁みおくり、はなむけ、おくりもの。○〔漢〕「師友之―」。
㊂罪人の相牽引せるにいふ字、ひく。○〔漢〕「迺徵二諸犯一、令二相引一數千人、名二株―徒一」。
㊃脩を放ちやりて彄（ゆはず）を向け返すにいふ字、かへす、一說に、禽を捕らふるにいふ字、さらふ、又一說に、馬を騁するにいふ字、はす。○〔詩〕「抑縱―忌」。
〔目送〕めもてみおくる。○〔漢〕「常―二之一」。
〔裝送〕よそほひやる。○〔後漢〕「―資賄甚盛」。

（餞送）たびにいづる者をおくる。○〔唐〕「皇-太-子百官——」。
（賸送）前に同じ。○〔梁〕「—・— 一無レ所レ取」。
（褁送）つゝみこみておくりやる。○〔晉、疏〕「此物必須二— —一」。
（贈送）物をおくりやる。○〔漢〕「—・—甚盛」。
（郊送）まちはづれまでいでおくる。○〔呂氏春秋〕「而親—二—之一」。
（厚送）てあつくれくりやる。○〔漢〕「— —レ之」。
（傳送）驛傳もておくりやる。○〔史〕「檻-車—・—」。
（轉送）あちこちとはこびおくる。○〔漢〕「—二—其家一」。
（輓送）車をひきてみおくる。○〔後漢〕「門-生—・—」。
（資送）資給しておくりやること。○〔晉〕「—・—同二于所-生一」。
（衛送）警護の兵士などをつけておくりやる。○〔魏〕「給二羽-林—・—」。
（輸送）車などによりてはこびおくる。○〔南〕「竝不二—・—一」。
（運送）前に同じ。○〔北〕「—・—不レ絕」。
（集送）聚りてたびにいづる者をおくる。○〔曹植〕「親-昵並—・—」。

【逹】イツ、イチ。餘律切　質
㊀分布す、くばる。㊁行く貌にいふ字。

【适】クワツ、クワチ。古活切　曷
すみやか、とし、はやし、（疾）。

【逃】タウ、ドウ。徒刀切　豪
のがる。
（い）奔り匿る、にぐ。○〔書〕「乃惟四-方多-罪逋—」。
（ろ）避け去る、さく。○〔史〕「季-札讓—去」。
（は）脫し去る、まぬかる。○〔史〕「項-羽圍二成-皐一漢-王—」。
（に）情實を匿す、かくす。○〔荀、註〕「隱二—其情一也」。
（ほ）睛轉す、まじろく。○〔孟〕「不二目—一」。
（逋逃）にげ去る。○〔書〕「臣-妾—・—」。
（遁逃）前に同じ。○〔賈誼〕「九-國之師—・—而不二敢進一」。
（深逃）いたくのがれ避くること。○〔晉〕「遂—・—絕レ迹」。

【逢】ハウ、ボウ。薄江切　江
人の姓。○〔孟〕「—-蒙學二射於羿一」。

【逅】コウ、グ。胡遘切　宥　很口切　有
邂—は、期せずして相會するにいふ字、たまさかであふ。○〔詩〕「邂-—相遇」。

【逅】コウ、グ。下溝切　尤
邂—は、うち解けて悦ぶ貌にいふ語、又固からざる貌にいふ語。

【逆】ケキ、ギヤク。宜戟切　陌
㊀さかふ、もさろ。
（い）順はず。○〔書〕「有三言—二于汝心一」。
（ろ）亂る。○〔淮〕「—-氣戾-物」。
（は）反く。○〔國〕「未レ退而—レ之」。
（に）すぢみち順序に違背せるにいふ字、たがふ。○〔荀〕「言辯而—」。
㊁罪惡、よこしま、つみ、又、罪惡ある者。○〔左〕「所レ謂六—也」。
㊂體氣常にもさりて上にのみ奔り手足寒かなるにいふ字、のぼす、のぼせ。○〔素問〕「實而—則死」。
㊃すぢみち順序の顚倒せるを、さかしま、さかさ、さかさ。○〔史〕「倒-行—-施」。
㊄むかふ。
（い）迎へ來たす。○〔書〕「—二天-命一」。
（ろ）受く。○〔儀〕「衆-介皆—レ命不レ辭一」。
（は）來たれるを拒ぐ。○〔國〕「—レ秦」。
（に）受けたる事を鉤考す、かんがふ。○〔周〕「以—二羣-吏之徵-令一」。
（ほ）あらかじめ度る、未來を推す、はかる。○〔論〕「不レ—レ詐」。
㊅もりぞく、（卻）。○〔周〕「—レ牆六-分」。
㊆事に先だちて、あらかじめ。○〔諸葛亮〕「不レ可二—睹一」。
㊇書を上ること、事を奏すること。○〔周〕「待二諸-臣之復、萬-民之—一」。
（復逆）帝王に事を奏請すると王命を迎へ受くると。○〔周〕「大-僕掌二諸-侯之—・—」。
（效逆）不順なることをいたす。○〔左〕「去レ順—レ—、所二以速一禍也」。
（六逆）六つのもとりたることにて解は例に詳なり。○〔左〕「賤妨レ貴、少陵レ長、遠間レ親、新閒レ舊、小加レ大、淫破レ義、所レ謂—・—也」。
（橫逆）みだりにもとりさかふ。○〔孟〕「其待レ我以二—・—一」。
（順逆）理にしたがひて正しきと理にもとりて正しからざると。○〔杜甫〕「天-地有二—・—一」。
（舛逆）たがひもとる。○〔漢〕「本-末—・—」。
（錯逆）前に同じ。○後漢〕「時-氣—・—」。
（莫逆）さかふと絕えてなきをいふ、又、極めてしたしき交りをいふ。○〔莊〕「四-人相視而笑、—レ—二于心一、遂相與友」。
（伐逆）もとりみだる者を討伐す。○〔管〕「—レ—不レ伐レ順」。
（背逆）理にもとること、又、もとるものに反對す。○〔列〕「不レ知レ—レ—、不レ知レ向レ順」。
（暴逆）橫暴にして順ならざること、又、其の者。○〔史〕「武殄二—・—一」。
（畔逆）そむきさかふ。○〔史〕「孝-景用二其計一、而六-國—・—」。
（悖逆）理にもとりて正しからざるをいふ。○〔史〕「于レ是有二—・—詐-僞之心一」。
（掃逆）逆賊をうちはらふ。○〔宋〕「掃レ難—レ—」。
（忤逆）もとりさかふ。○〔陳〕「何得下見二佛-說一而信-順、在二我語一而—・—上」。
（惡逆）君父にあだする如き極めてもとりたると、又、其の者。○〔佛國記〕「雖二復謀-爲二—・—一」。
（凶逆）前に同じ。○〔陳琳〕「掃二除—・—一」。
（醜逆）極めてあしき賊徒を稱していふ。○〔唐創業起居注〕「俾-除二—・—一」。
（反逆）國家の主權者にそむきて亂をなすと、又、其の者。○〔通典〕「一曰、—・—」。

【[illegible]】
恢に同じ、おほいなり。○〔成湯靈臺碑〕「—踐二帝-丘一」。

七畫

【退】ハイ、バイ。蒲邁切　卦
やぶる、（壞）、又、敗れ走る、にぐ。

【逋】ホ、フ。博孤切　虞
㊀のがる。
（い）逃亡す、にぐ、かくる。○〔書〕「予伐二殷—-播臣一」。
（ろ）にげかくれて課稅を官に納めざるにいふ字、かく、おふ。○後漢〕「僞二春-陵-侯家一訟二—-租一」。
㊁課稅の負欠、みしん、おひめ。○〔後漢〕「洗二雪百-年之—-負一」。
（負逋）官に對するおひめのこと。○〔韓愈〕「於レ是免二屬-州—・—之緡-錢廿-有四-萬、米三-萬二-千-斛一」。
（流逋）あちこちとにげのがる、又、其の者。○〔韓愈〕「—・—四歸」。
（亡逋）にげのがる、又、其の者。○〔蘇軾〕「作-詩火-急追二—・—一」。
（酒逋）さけの負債。○〔陸游〕「秋-穫先令レ入二—・—一」。

【逌】イウ、ユ。于求切　尤
㊀氣の行く貌にいふ字。
㊁笑ふ貌にいふ字、顏色の舒かなる貌にいふ字、又、くつろぎたる貌にいふ字。○〔班固〕「主-人—-爾而笑」。
㊂古文の由の字、よる、より。○〔班固〕「栗取二弔於—一吉兮」。

㊃攸に同じ、ところ。○〔漢〕「彝倫｜レ敍」。

【逍】セウ。相邀切 蕭

｜遙は、たちもとほるを、ぶらつくを、あそぶを、あそびて自適なるを、外物と浮沈して天性を損せざるを。○〔莊〕「｜遙乎寢二臥其下一」。

【退】古文の退の字。○〔國〕「求レ｜而逆レ之」。

【透】トウ、ツ、他候切 宥

㊀をどろ、（跳）、すぐ、（過）。○〔謝靈運〕「飛泳騁｜」。
㊁通徹す、すく、すかす、とほる、とほす。○〔杜甫〕「不二必盧｜一」。
㊂おどろく、（驚）。○〔左思〕「驚｜沸亂」。

【逐】チク、ヂク。直六切 屋

㊀おふ。
（い）おひかく、（追）。○〔左〕「視聃｜レ之」。
（ろ）かる、（驅）。○〔水經、註〕「不レ｜自還」。
（は）とりぞく、（斥）。○〔史〕「北｜二戎人一」。
（に）はなつ、（放）。○〔漢〕「出二｜義帝一」。
（ほ）きそふ、（競）。○〔左〕「諸侯｜進」。
（へ）はす、（馳）。○〔易〕「良馬｜」。
（と）したがふ、（從）。○〔楚辭〕「乘二白黿一兮｜二文魚一」。
（ち）求む。○〔國〕「厭レ遠｜レ邇」。
（り）心の外物に奪れて流蕩するにいふ字。○〔荀〕「所三以爲二不レ｜者一」。
㊁疾く馳する貌にいふ字、心煩はしき貌にいふ字、又、敦實なる貌にいふ字。○〔易〕「其欲｜｜」。

〔馳逐〕はせおふ。○〔漢〕「｜二｜猛獸一」。
〔角逐〕爭ひきそふ。○〔戰〕「以與レ秦｜｜」。
〔斥逐〕おひとりぞく。○〔史〕「西北｜二｜匈奴一」。
〔放逐〕おひはなつ。○〔史〕「｜二｜義帝而自立一」。
〔徙逐〕うつしはなつと。○〔漢〕「皆王諸將善地一、而｜二｜故主一」。
〔誅逐〕罪ある者を責めてはなつ。○〔漢〕「晁錯｜二｜亂臣一」。
〔驅逐〕おひとりぞく。○〔後漢〕「詔二州郡一不レ得レ迫二脅｜二｜長吏一」。
〔競逐〕われおとらじときそふ。○〔後漢〕「豪傑｜｜」。
〔討逐〕うちとりぞく。○〔後漢〕「準二臨將レ兵｜｜」。
〔追逐〕あとをおひまじはる、又、おひはす。○〔宋〕「與二京師少年一｜｜」。
〔隨逐〕前に同じ。○〔南〕「常相｜｜」。
〔遠逐〕と𨗈くまでおふ。○〔北〕「我亦｜｜」。
〔爭逐〕きそひおふ。○〔宋〕「大船與二柴車一｜｜」。
〔排逐〕おしたしおひはらふ。○〔柳宗元〕「遂｜｜而委レ之」。

【遯】トン、ドン。同門切 元

豚に同じ。○〔山海經〕「苦山有レ獸焉、名曰二山膏一、其狀如レ｜」。

【逐】チウ、ヂュ。直祐切 宥

はしる、（奔）。○〔山海經〕「夸父與レ日｜」。

【逑】キウ、グ。巨鳩切 尤

㊀斂聚す、あつむ、あつまる。○〔詩〕「以爲二民｜一」。
㊁仇匹、たぐひ、つれ、つれあひ、めをと。○〔詩〕「君子好｜」。
㊂絿に同じ、せまる。○〔爾〕「惟二｜鞠一」。

〔好逑〕よき匹偶。○〔詩〕「君子｜｜」。
〔搜逑〕匹偶をさぐりもとむ。○〔甘泉賦〕「搜｜索レ耦」。

【逕】カウ、キヤウ。古行切 庚

うさぎみち、（兎徑）。

【途】ト、ヅ。同都切 虞

みち、ゆきみち、みちすぢ、（道路）。○〔國〕「司空視レ｜」。

【逕】ケイ、キヤウ。古定切 徑

㊀こみち、ちかみち、みち、（徑）。○〔杜牧〕「小山嵴｜」。
㊁さし、（疾）、ちかし、（近）、すぐなり、（直）。○〔文心雕龍〕「事略而意｜」。
㊂いたる、（至）、すぐ、（過）。○〔水經、註〕「東｜二馬邑縣故城南一」。

〔門逕〕門前のこみち。○〔范成大〕「｜｜久蕪荒」。
〔禪逕〕佛寺のうちのこみち。○〔王融〕「｜｜開淸」。
〔修逕〕ながきこみち。○〔玉僧傳〕「交枝隱二｜｜一」。
〔柳逕〕やなぎのしげれるこみち。○〔庾綽〕「｜｜和風起」。

【逓】キン。許忍切 軫

はしる、（迎）。

【逖】テキ、チヤク。他歷切 錫

㊀とほし、（遠）。○〔書〕「移二爾遐｜一」。
㊁接近せず、とほざく、とほざかる。○〔書〕「離二｜爾土一」。
㊂利を欲する貌にいふ字。○〔楚辭〕「悼二來者之｜｜一」。
㊃借りて惕に作る、をそる。○〔易〕「血去｜出」。

〔離逖〕とほざく。○〔晉〕「｜二｜骨肉一」。
〔疏逖〕疏遠にす、又、疏遠の者。○〔言樂歌〕「｜｜思二自親一」。

【逗】トウ、田候切 宥　ヅ。チュ、持遇切 遇　ヅ。キ。去智切 寘

㊀止住す、とゞまる、すむ。○〔後漢〕「｜二華陰之湍渚一」。
㊁曲がり行きて避く、まがる、さく。○〔漢〕「｜撓當レ斬」。
㊂投合す、とゞまりあふ、とまりあはす。○〔杜甫〕「遠｜二錦江波一」。

【逘】キ、ケ。魚幾切 尾

すゝむ、（進）。

【逘】シ、ジ。牀史切 紙

竢に同じ、まつ。

【這】ゲン。魚變切 霰

㊀むかふ、（迎）。○〔毛晃〕「｜乃迎也」。
㊁この、（此）。○〔南〕「｜賊誤レ我」。

【迎】テフ、丁協切 葉　トフ。ソウ、千后切 有　ス。シユ、七庾切 麌　ス。

｜遝は、走る貌にいふ語。

【通】トウ、ツ。他紅切 東

㊀とほる。
（い）とゞく、およぶ、いたる。○〔易〕「｜二神明之德一」。
（ろ）つらぬく、（洞）。○〔朱熹〕「脈絡貫｜」。
（は）透る、すく。○〔杜陽雜編〕「表裏瑩｜」。
（に）徧くゆきわたれるにいふ字。○〔禮〕「知レ類｜達」。
（ほ）故障なく行はるゝにいふ字。○〔易〕「不レ出二戶庭一知二｜塞一」。
（へ）平かに暢ぶ、のぶ。○〔爾〕「四時和爲二｜正一」。
（と）過經す、ふる。○〔漢〕「略二｜夜郎僰中一」。

㈡さほらしむ、とほす（㈠の條參照）。○〔周〕「開二—道-路一」。
㈢陳述す、のぶ。○〔漢〕「先-生—二正-言一」。
㈣開置す、ひらく、まうく。○〔漢〕「—二三-吏官一」。
㈤往來す、ゆきゝす、ゆきかふ、かよふ。○〔賈誼〕「舟-楫所レ—」。
㈥かよはしむ、かよはす。○〔漢〕「剖レ符—レ使」。
㈦交好す、まじはる。○〔漢〕「非二長-者一勿二與—一」。
㈧物事に明曉なると。○〔家語〕「聽-明知—」。
㈨物事に礙滯なきと。○〔梁〕「賓-客睿—」。
㈩身顯はるゝと、志達すると。○〔莊〕「不レ榮レ—」。
(十一)一般、不變。○〔漢〕「五者天-下之—道也」。
(十二)總括、ゐめくゝり。○〔禮〕「三-十-年之—」。
(十三)みな、すべて、あまねく。○〔禮註〕「—計三-十-年」。
(十四)己が配匹ならざる人と色情の關係を結ぶを、旁淫。○〔史〕「竊私—二呂-不-韋一」。
(十五)文書の首尾完結したるもの〻稱。○〔後漢〕「政-論一—」。
(十六)物の色の純なるにいふ字、ひさいろ。○〔周〕「—帛爲レ旃」。
(十七)井田上の一區劃の名。○〔漢〕「方-里爲レ井、井十爲レ—」。
(十八)うまのくそ、（馬-矢）。○〔後漢〕「傅以二馬—一」。
(十九)一のあひづの下に衆のもの〻同じゐわざをなすにいふ字。○〔周〕「以二金-鐸一—レ鼓」。
（變通）變化に妙にして通達す。○〔易〕「——配二四-時一」。
（感通）知覺に感徹す。○〔韓愈〕「豈非二正-直一能——」。
（疏通）さはりなくとほる、又、ものを分別するの意にもいふ語。○〔禮〕「——知レ遠」。
（皐通）さかんにかよはす。○〔周〕「——貨-賄一」。
（貫通）つらぬき通徹す。○〔朱熹〕「脈-絡——」。
（玄通）深妙幽遠なる理に通達す。○〔老〕「微-妙——」。
（窮通）身の窮困と發達と。○〔莊〕「子-貢曰、古之得レ道者—亦樂、—亦樂」。
（博通）ひろくものに達す。○〔劉向〕「屈-原有二——之智、清-潔之行一」。
（多通）前に同じ。○〔後漢〕「諸-儒皆服二其——一」。
（遐通）とほくまでとほる。○〔曹植〕「皇-敎——」。
（交通）まじはりかよふ。○〔韓愈〕「精-誠忽——」。
（流通）かよひとほる。○〔三〕「血-脈——」。
（該通）あちこちにかね達すると。○〔北〕「學-業——」。
（靈通）甘草の異名。○〔記事珠〕「甘草一名二——一」。
（均通）不平なく正しくかよふ。○〔阮籍〕「陰-陽調-達——」。
（融通）とほりかよふ。○〔任昉〕「表-裏——」。

【逛】キヤウ、カウ。居往切 〔養〕
走る貌にいふ字。

【迋】キヤウ、カウ。古況切 〔漾〕
あざむく、（欺）。

【逜】ゴ、グ。五故切 〔遇〕
さます、（寤）。

【逜】ゴ、グ。阮古切 〔麌〕
すぐ、（過）。

【逝】セイ、ゼイ。時制切 〔霽〕
㈠ゆく。
(い)さる、（去）。○〔詩〕「—將去レ女」。
(ろ)ほろぶ、（亡）。○〔漢〕「長—者魂-魄」。
㈡發語の端に用ふる字、こゝに。○〔詩〕「—不二古-處一」。
（遠逝）とほく去る。○〔後漢〕「故爰レ名——」。
（遐逝）前に同じ。○〔魏文帝〕「經二扶-桑一而——」。
（長逝）前に同じ。○〔曹植〕「——入二君懷一」。
（高逝）たかく去る。○〔盧思道〕「行離-々而——」。
（流逝）ながれゆく。○〔詩、疏〕「如二川之——一」。
（徂逝）ゆき去る。○〔蔡邕〕「景-命——」。
（遷逝）うつり去る。○〔蘇軾〕「平生親友半——」。

【逞】テイ、チヤウ。丑郢切 〔梗〕
㈠心に滿足せるにいふ字、とほる、たくまし、こゝろよし。○〔左〕「不レ—二于許-君一」。
㈡たくましくす。
(い)滿足を得、こゝろよくす、さほす。○〔左〕「不レ克レ—二志於我一」。
(ろ)極盡す、つくす、きはむ。○〔左〕「不レ可二億—一」。
(は)自ら矜る、ほこる。○〔蘇軾〕「其意驕—」。
(に)患ひを解く。○〔左〕「可二以—一」。
㈢たゞし、（檢）。○〔宋〕「一-夫不レ—」。
㈣さし、（疾）。○〔揚雄〕「東-齊海-岱之閒、疾行曰レ速、楚曰レ—」。
（不逞）おこなひを檢束せざると、又、其の者。○〔左〕「故五-族聚二群——之人一、因二公-子之徒一以作レ亂」。
（勁逞）つよくとし。○〔梁簡文帝〕「負二茲——一」。
（橫逞）心のまゝ充分につくす。○〔程嘉燧〕「風-靡——士-夫逕」。

【逞】エイ、イヤウ。怡成切 〔庚〕
盈に同じ、人の名。

【速】ソク。蘇谷切 〔屋〕
㈠さし、すみやか、はやし、せはし、（急）。○〔孟〕「可二以—一則—」。
㈡まれく、めす、（召）。○〔詩〕「以—二諸-父一」。
㈢親しみ近づかざる貌にいふ字。○〔楚辭〕「——而不二語親一」。
㈣いやし、（陋）。○〔後漢〕「——方レ轂」。
㈤鹿の足迹、ゐかのあしあと。
（不速）はやからず、又、まねかず。○〔易〕「有二—レ—之客三-人一來」。
（遲速）おそきとはやきと。○〔左〕「剛-柔——」。
（神速）ふしぎにはやし。○〔史〕「以爲二——一」。
（拙速）たくみならざるもすみやかなると。○〔晉〕「兵聞二——一」。
（疾速）はやし。○〔白居易〕「——如レ過レ隙」。
（迅速）前に同じ。○〔北〕「爲レ文——」。
（捷速）前に同じ。○〔南〕「其——如レ此」。
（急速）せはしくしてゆるやかならざると。○〔晉〕「吳-俗——不レ能二持-久一」。
（輕速）かろぐしくせはしきと。○〔晉〕「舉-動——無二大-臣之節一」。
（敏速）はやくして遲鈍ならざると。○〔晉〕「機-悟——」。
（機速）前に同じ。○〔南〕「時服二其——一」。
（嚴速）おごそかにしてはやし。○〔晉〕「呼-召——」。
（妙速）巧妙にしてはやし。○〔晉〕「推二其——一」。
（贍速）ゆたかにしてはやし。○〔南〕「知レ禮、爲レ文——」。

【造】サウ、ザウ。昨早切 〔晧〕
㈠つくる。
(い)作爲す、なす。○〔書〕「弗三—レ哲迪二民康一」。
(ろ)製作す、こしらふ。○〔禮〕「不レ得レ—二車-馬一」。
(は)建設す、たつ。○〔漢〕「乃欲下以二新——未レ集之越一屈中强于此上」。
(に)虛構す、いつはる。○〔周〕「—言之刑」。
(ほ)創始す、はじむ。○〔呂氏春秋〕「文-王—レ之而未レ遂」。
㈡はじめ、はじめて、（始）。○〔書〕「—攻自二鳴-條一」。
（天造）自然につくられたるにいふ語。○〔艮嶽記〕「功奪二——一」。

〔俊造〕士の秀拔なるものをいふ。○〔皮日休〕「―悉爲ㇾ吏」。
〔再造〕すでにやぶれたるを新にたてなほす。○〔唐〕「國家―――卿力也」。
〔興造〕あらたにおこしたつ。○〔漢〕「每ㇾ有ㇾ所ㇾ――、必欲ㇾ依ㇾ古」。
〔濫造〕はじめたつ。○〔魏、誌〕「是以――大業」。
〔修造〕つくろひつくる。○〔北〕「凡所ㇾ――、不ㇾ得ㇾ已而爲ㇾ之」。
〔繕造〕前に同じ。○〔沈仁傑〕「――兵器」。
〔營造〕いとなみつくる。○〔陳〕「各肆――」。
〔改造〕つくりなほす。○〔宋〕「請ㇾ――新曆」。
〔制造〕製作す。○〔李程〕「絕役心于――」。
〔製造〕前に同じ。○〔徐陵〕「――華燈」。

【造】サウ、ソウ。七到切 號
㊀成就す、なる、なす。○〔詩〕「小子有ㇾ―」。
㊁いたる。
(い)來たる。○〔書〕「其有衆咸―」。
(ろ)適く。○〔莊〕「愛ㇾ已而―ㇾ愛」。
(は)進む。○〔孟〕「深―ㇾ之以ㇾ道」。
㊂いろ、（納）。○〔禮〕「大盤―ㇾ冰」。
㊃ならぶ、（比）。○〔詩〕「―ㇾ舟爲ㇾ梁」。
㊄こはか、（猝）。○〔大戴禮〕「――然失ㇾ容」。
㊅祈禱の祭り。○〔周〕「掌二六祈一、二曰―」。
㊆卜占するに荊を燒き龜を灼く處。○〔史〕「卜先以―灼鑽」。
〔兩造〕罪人と訟人と。○〔書〕「――具備」。
〔躬造〕身みづからいたる。○〔晉〕「帝乃使ㇾ導――逸門」。
〔爭造〕われおくれじときそひ至る。○〔徐陵〕「――稱榮」。
〔登造〕のぼり至る。○〔韓愈〕「懸士日――」。

【造】サウ、ソウ。倉刀切 豪
すゝむ、（進）。

【逡】シユン。七倫切 眞
㊀しざる。
(い)次第に卻退するにいふ字、しりぞく、あとしざり。○〔漢〕「有ㇾ功者上、無ㇾ功者下、則羣臣―」。
(ろ)はぢらひて前むを難むにいふ字。○〔漢〕「―遁有ㇾ恥」。○〔揚雄〕「日運爲ㇾ―」。
㊁月の運行、みち。○〔揚雄〕「日運爲ㇾ纏、月運爲ㇾ―」。
㊂踆に通じ用ふ。○〔戰〕「東郭―者海內之狡兔也」。

【逡】シユン。須閏切 震
駿に通じ用ふ、さし。○〔禮〕「執二遵豆一―奔走」。

【逢】ホウ、ブ。符容切 冬
㊀會遇す、でくはす、いであふ、あふ。○〔左〕「不ㇾ―二不若一」。
㊁むかふ。
(い)迎ふ。○〔揚雄〕「自ㇾ關而西、或曰ㇾ迎或曰ㇾ―」。
(ろ)あらかじめ數ふ、うらなひ試みる。○〔漢〕「―占射覆」。
㊂おほひなり、（大）。○〔禮〕「衣二―掖之衣一」。
㊄縫に通じ用ふ。○〔禮〕「深衣―ㇾ齊「倍ㇾ要」。
〔迎逢〕むかへあふ。○〔杜甫〕「―笑喜――」。
〔馬逢〕藥の名。○〔本草〕「――藥名、味辛無ㇾ毒」。
〔遭逢〕遭遇といふに同じ、あふ。○〔范雲〕「――聖明后」。

【逢】ホウ、ブ。蒲蒙切 東
㊀鼓の聲にいふ字。○〔詩〕「鼉鼓――」。
㊁熢に同じ、のろし。○〔司馬相如〕「大漢之德、―涌原泉」。

【連】レン。力延切 先
㊀つらなる、つらぬ。
(い)あふ、あはす、（合）。○〔孟〕「―二諸侯一者次ㇾ之」。
(ろ)つく、（屬）。○〔國〕「雲―二徒州一」。
(は)つゞく、（續）。○〔班固〕「絡以編―」。
(に)つぐ、（接）。○〔鹽鐵論〕「接―相「因」。
(ほ)およぶ、およぼす、（及）。○〔舊唐〕「關―追擾、有ㇾ妨二農務一」。
㊁まがる、まぐ、（曲）。○〔張衡〕「蛾眉―卷」。
㊂つらなる貌にいふ字、絕えざる貌にいふ字。○〔詩〕「執ㇾ訊――」。
㊃姻戚、えんつゞき、えんしや。○〔史〕「入―」「及二蒼梧秦王一有ㇾ―」。
㊄夥伴、くみ、つれ。○〔孟浩然〕「官喜故―」。
㊅黏（もち）にて鳥を捕らふるを。○〔淮〕「―二鳥于百仞之上一」。
㊆未だ鍊らざる鉛。○〔史〕「出二―錫一」。
㊇つゞきて、しきりに。○〔史〕「因―與ㇾ漢戰」。
㊈周の制に十ヶ國をつらねての稱。○〔禮〕「十國以爲ㇾ―、―有ㇾ帥」。
〔綿連〕つらなる。○〔李紳〕「江雲斷續草――」。
〔留連〕とゞまりて歸らず。○〔梁元帝〕「何處不二――一」。
〔結連〕むすびあはす。○〔元〕「母子以ㇾ稆相――」。
〔牽連〕ひきつゞく。○〔橋簡賓案〕「事或――」。
〔駒連〕前に同じ。○〔阮籍〕「延蔓相――」。
〔綴連〕つゞりつゞく。○〔魏〕「多裁割――」。
〔鞘連〕まじはりつゞく。○〔鹽鐵論〕「闢道――足以游觀」。

【連】レン。力展切 銑
なやむ、（難）、又、おそし、（久）。○〔易〕「往來―」。

【連】レン。連彥切 霰
あらふ、（洗）。○〔禮〕「―用ㇾ湯」。

【連】ラン。郎旰切 翰
――石は、山の名。○〔淮〕「日至二――石一」。

【迯】サ。蘇箇切 箇
邏――は、吐蕃の地の名。○〔高適〕「西看二邏――一」。

【逓】テイ、ヂヤウ。徒丁切 青
草の遞。

【迵】ケイ、キヤウ。滑熒切 青
俗の迥の字、とほし、（遠）。

八畫

【逨】ライ。落哀切 灰
㊀きたる、（來）。㊁いたる、（至）。㊂つく、（就）。

【逨】ライ。洛代切 隊
つかる、（勞）。

【逩】ホン。逋悶切 願
はしる、（走）。

【逯】リヨク、ロク。力玉切 沃
㊀おほし。○〔博雅〕「―――衆也」。
㊁行くに謹む貌にいふ字。○〔說文〕「行謹――」。
㊂爲すをなき貌にいふ字。○〔淮〕「――然而來」。

【逪】サク。倉各切 藥
㊀まじはる、（交）。㊁みだる、（亂）。㊂そむく、（背）。

【逫】ケツ、ケチ。吉穴切 屑
さほし、(遏)。

【⿺辶叕】チユツ、チユチ。竹律切 質
はしる、(趨)。

【迸】ハウ、ヒヤウ。比諍切 敬
㊀ちる、はしる。
(い)逸走す、走散す、のがる、にぐ。○[後漢]「人-庶奔ー」。
(ろ)涌き散る、とばしる、ほどばしる。○[潘岳]「涙横ー而沾レ衣」。
㊁ちらしむ、はしらしむ、さばす、ちらす、はしらす。○[五]「擊而ーレ之」。
㊂併に同じ、つかふ。

【迸】屛に同じ、しりぞく。○[大]「ー二諸四-夷一」。

【逭】クワン。胡玩切 翰
のがる、(逃)。○[書]「自作孼不レ可レー」。

【逭】クワン。古緩切 旱
㊀のがる、(逃)。㊁かふ、(易)。㊂めぐる、(轉)。㊃あゆむ、(歩)。㊄行く。㊅たがひに、(迭)。

【逮】タイ、ダイ。徒戴切 隊
㊀およぶ、(及)。○[易]「水-火相ー」。
㊁おふ、(追)。○[漢]「ーー繫」。
(逮逮)つみつらなりおよぶ。○[北]「事相ー・ー」。
(傳逮)前に同じ。○[後漢]「ー二ー爲-承一」。
(染逮)前に同じ。○[後漢]「多見二ー・ー一」。
(及逮)およぶ。○[魏]「不二相ー・ー一耳」。
(追逮)おひおよぶ。○[宋]「爲二縣無二ー・ー一」。
(咨逮)たづね問ふ。○[唐]「朝-廷典-章多レ所二ー・ー一」。
(訪逮)前に同じ。○[晉]「ー二ー侍-臣一」。
(詢逮)前に同じ。○[唐]「朝-夕ー・ー」。

【逮】迨に同じ。

【逮】テイ、ダイ。大計切 霽
安和の貌にいふ字。○[禮]「威-儀ー・ー」。

【遊】俗の遊の字。

【⿺辶㸒】イン。夷針切 侵
すぐ、(過)。

【⿺辶𣶒】エン。烏玄切 先
行く貌にいふ字。

【⿺辶疌】セフ、ゼフ。疾捷切 葉
疾く走る、はしる。

【週】周に同じ。

【逃】逃に同じ。

【⿺辶卸】ガ、ゲ。五價切 禡
むかふ。

【進】シン。即刃切 震
すゝむ。
(い)登る。○[禮]「三-揖而ー」。
(ろ)前む。○[禮]「趨而ー」。
(は)登す、前ます。○[書]「登二ーー厥民一」。
(に)行く、行る。○[周]「ー而眡レ之」。
(ほ)推擧す、陞敍す、のぼす、あぐ。○[禮]「ー二ー達之一」。
(へ)官に仕ふ。○[荀]「君-子ー則能益二上之譽一」。
(と)爵祿を受く。○[禮]「升二之司-馬一曰二ー-士一」。
(ち)益す。○[周]「ー二-退之一」。
(り)近づく。○[禮]「引而ーレ之」。
(ぬ)勉む。○[易]「ーレ德修レ業」。
(る)善に就く。○[公羊]「漸ー也」。
(を)獻ず、致す。○[史]「奉二銅-盤一而ー二之楚-王一」。
(知進)すゝむことをのみ志る。○[易]「ーーー而不レ知レ退」。
(趨進)はしりすゝむ。○[論]「ーー翼-如也」。
(特進)三公の次なる位の稱號。○[後漢]「賜二諸-侯王-公將-軍ー・ー一」。
(仕進)官につかへすゝむ。○[後漢]「未レ遑二ー・ー之事一」。
(頓進)にはかにすゝむ。○[晉]「智-力不レ可二ー「ー一」。
(先進)さきにすゝみのぼる、又、さきにすゝみたる者。○[論]「ー二ー于禮-樂一野-人也」。
(後進)あとよりすゝみきたる、又、其の者。○[後漢]「好レ士喜誘二益ー・ー一」。
(誘進)ひきのぼす。○[史]「ー・ー以二仁-義一」。
(引進)前に同じ。○[南]「有二高-才多被ー・ー一」。
(迭進)更代してすゝむ。○[漢]「當二是時一ーー相毀」。
(拔進)羣衆のうちよりぬきんでてすゝめのぼす。○[漢]「ー二ー英-雋一」。
(抽進)前に同じ。○[南]「後-蒙二ー・ー一」。
(急進)いそぎすゝむ。○[後漢]「仕不二ー・ー一」。
(寵進)いつくしみのぼす。○[後漢]「ー二ー儒-雅一」。
(奬進)すゝめのぼす。○[後漢]「多レ所二ー・ー一」。
(疾進)とくすゝむ。○[魏]「今ー・ー出二其不-意一」。
(推進)他人をおしすゝむ。○[吳]「多レ所二ー・ー一」。
(輕進)かろ〴〵しくすゝむ。○[晉]「時大-臣皆以爲レ未レ可二ー・ー一」。
(懸進)深く敵地にすゝみいる。○[晉]「官-軍ー・ー」。
(普進)あまねくすゝめのぼす。○[北]「ー二ー一-階一」。
(供進)帝王の御膳に薦む。○[白居易]「本是吳-州ー・ー薦」。
(勇進)いさみてすゝむ。○[舊唐]「ー・ー者但欲「凌人」。
(嗜進)すゝみのぼることを好む。○[唐]「宗-元少-時ー・ー」。
(妄進)前後をはからずみだりにすゝむ。○[唐]「由是ー・ー者少衰」。
(薦進)すゝむ、又、のぼせすゝむ。○[唐]「ー二幽-隱一」。
(孤進)他の者と比周せずおのれひとりにてすゝむ。○[唐]「未レ嘗ー二ー・ー自樹-立一」。
(偕進)他の者と同じくすゝむ。○[唐]「與二諸-儒一ー・ー」。
(榮進)高き官位にのぼる。○[宋]「ー・ー素定」。
(强進)つとめしひてすゝむ。○[晉]「不二ー・ー一」。
(爭進)われおくれじときそひすゝむ。○[晉]「與レ死抉レ傷ー・ー而不レ止」。
(競進)前に同じ。○[屈平]「衆皆ー・ー以貪-婪「兮」。
(奮進)ふるひいさみてすゝむ。○[曹植]「願二輕-騎而ー・ー兮「ー」。
(躁進)いらだちてすゝむ。○[余靖]「行-人多ー・ー」。

【進】シン、ジン。慈忍切 軫
盡に同じ、つく、つくす。○[列]「竭二聰-明一ー二智-力一」。

【進】ジン。徐刃切 震
贐に同じ、おくりもの、はなむけ。○[史]「蕭-何爲二主-吏一主レー」。

【進】餕に同じ、くひのこし。○[禮]「百-官ー徹レ之」。

【⿺辶亞】ア、エ。衣嫁切 禡
つぐ、(次)、又、次第して行く、ゆく。

【逳】イク、オク。余六切 屋
㊀めぐる、(轉)。㊁ゆく、(行)。㊂あゆむ、(歩)。

【逴】タク、トク。勅角切 覺　チヤク。丑略切 藥

㊀さほし、はるか、(遠)。○〔史〕「—行殊遠」。
㊁すぐ、こゆ、(超)。○〔班固〕「—二蹤諸夏一」。
㊂ちんば、あしなへ、(蹇)。○〔揚雄〕「自レ關而西、秦晉之閒、凡蹇者謂二之—一」。
〔逴々〕はるかに遠き貌にいふ語。○〔宋玉〕「春秋—々而日高兮」。

【逵】キ、ギ。渠追切 支
九條に通ずる路、九軌を方ぶべき路、おほぢ、おほどほり、みち。○〔左〕「入及二大—一」。
〔通逵〕街道。○〔謝靈運〕「軒-蓋飾二通—一」。
〔長逵〕ながきみち。○〔常建〕「軒蓋擬二長—一」。
〔康逵〕五達のみちと九達のみちと。○〔李華〕「騁二於康—一」。

【逶】井。於爲切 支
斜に行く貌にいふ字。○〔漢〕「逝-旗—-蛇」。

【逿】古文の逖の字。○〔詩〕「用—二蠻-方一」。

【逸】イツ、イチ。夷質切 質
㊀あやまつ、あやまる、(過)。○〔書〕「天-吏—レ德」。
㊁うす、うしなふ、(失)。○〔史〕「親二—詩一」。
㊂過失、あやまり、あやまち、まくじり。○〔書〕「予亦拙-謀、作二乃—一」。
㊃はしる。
(い)疾く走る、かく。○〔莊〕「奔—絕-塵」。
(ろ)放れ走る、はなる、そる。○〔左〕「馬—不レ能レ止」。
㊄のがる、(遁)。○〔左〕「隋-侯—」。
㊅にぐ、(亡)。○〔國〕「—二逃於褒一」。
㊆かくる、(隱)。○〔論〕「擧二—-民一」。
㊇はなつ、(縱)。○〔左〕「乃—二楚-囚一」。
㊈放縱、ほしいまゝ、きまゝ。○〔南〕「性致二狂—一」。
㊉安閒、やすらか。○〔呂氏春秋〕「國治身—」。
⑪淫蕩、みだら。○〔國〕「不レ樂二—聲一」。
⑫寬緩、ゆるやか。○〔後漢〕「蕩—簡-易」。
⑬超越す、すぐる、こゆ。○〔南〕「言-行超—」。
⑭疾急なり、さし、はやし。○〔舞賦〕「良-駿—足」。
⑮心氣はげしくて物事に激す、はやる。○〔高適〕「氣雄而—」。
⑯賢者、隱君子。○〔北〕「探レ覽探レ—」。
⑰往來の次序ある貌にいふ字。○〔詩〕「擧レ疇——」。
〔擧逸〕すぐれたる者をあげ用ふ、又、世をのがれかくるゝ者をあげ用ふること。○〔南〕「—レ—拔レ才」。
〔隱逸〕世をのがれかくる、又、其の者。○〔嵆康〕「巖-穴多二——一」。
〔遯逸〕前に同じ。○〔晉〕「志存二——一」。
〔雅逸〕みやびやかにすぐれたること。○〔魏〕「才-藻——」。
〔横逸〕はしいまゝなること。○〔晉〕「—二—宇-宙一」。
〔放逸〕前に同じ。○〔後漢〕「乘二——一而赴二東-縛一」。
〔縱逸〕前に同じ。○〔張華〕「——常不レ禁」。
〔縱逸〕こえすぐる。○〔宣和畫譜〕「天-然——」。
〔淫逸〕みだらなること。○〔史〕「所下以養二行-義一而防中——上也」。
〔疏逸〕おほまかにしてかゝはらず。○〔後漢〕「——二人-閒之事一」。
〔俊逸〕すぐれまさる、又、其の者。○〔晉〕「營二求——一」。
〔秀逸〕前に同じ。○〔晉〕「天才——」。
〔卓逸〕前に同じ。○〔蔡邕〕「——不-羣」。
〔奇逸〕めづらしくすぐれたること、又、其のもの。○〔魏〕「——卓-犖」。
〔跌逸〕たかぶりてきまゝなること。○〔魏、誌〕「恃レ才——」。
〔矜逸〕前に同じ。○〔圖繪寶鑑〕「雖二放-縱——一、往-々失二于卑-儒一」。
〔越逸〕とびはしる。○〔北〕「獸多——」。
〔驚逸〕おどろきはしり去る。○〔晉〕「廐-馬——」。
〔遒逸〕つよくすぐる。○〔南〕「辭-理——」。
〔贍逸〕文章などのゆたかにして俗にこえたること。○〔南〕「鮑-昭文-辭——」。
〔富逸〕(い)前に同じ。○〔北〕「文-章——」。(ろ)とみて安樂なること。○〔後漢〕「遁居レ家——」。
〔爽逸〕さわやかにして俗にこえたること。○〔南〕「氣-調——」。
〔麗逸〕うるはしくすぐる。○〔南〕「文-辭甚——」。
〔逃逸〕にげのがる。○〔北〕「懼レ罰——」。
〔恣逸〕はしいまゝなること。○〔北〕「使二殘-虐——一」。
〔高逸〕けたかく俗にはなる。○〔宣和畫譜〕「風-氣——」。
〔亡逸〕はろびうす。○〔北〕「考二正——一」。
〔焚逸〕やけうす。○〔唐〕「圖-典——」。
〔迅逸〕はやくはしる。○〔雲笈七籤〕「疾-筆——」。
〔無逸〕佚遊安樂するなし。○〔晉〕「嗚-呼君-子所二其——一」。
〔勞逸〕勞苦と逸樂と。○〔左〕「而與レ之——」。
〔樂逸〕たのしみあそぶ、又、安佚をたのしむ。○〔韓〕「惡レ勞而—レ—」。
〔遊逸〕あそびたのしむ。○〔北〕「飲-酒——不レ擇二交-友一」。
〔優逸〕優遊逸樂す。○〔後漢〕「百-姓——忘レ戰日-久」。
〔閒逸〕ゐづかにやすらかなり。○〔南〕「常栖二——一」。

九畫

【逼】ヒヨク、ヒキ。彼側切 職
せまる。
(い)近づく。○〔南〕「魏-軍懼レ有レ伏不二敢—一」。
(ろ)侵す。○〔後漢〕「漸相攻—」。
(は)急ぐ。○〔梁武帝〕「勢危事—」。
(に)せばむ、せばまる。○〔山川攷〕「岸狹勢—」。
(ほ)縮む。○〔阮籍〕「睽畏—」。
(へ)驅る。○〔隋〕「不レ得三輒有二驅—一」。
〔遄逼〕すゝみちかづく。○〔後漢〕「漢乘レ利—-—二成-都一」。
〔脅逼〕おびやかしせまる。○〔李賀〕「兇-威屠——」。

【逽】ザヤク、ニヤク。女略切 藥
㊀はしる、(走)。㊁すゝむ、(先)。

【逾】ユ。羊朱切 虞
㊀こゆ、こす。
(い)わたる、(度)。○〔書〕「—二于洛一」。
(ろ)すぐ、(過)。○〔漢〕「亡レ—二老-臣一」。
(は)すゝむ、(進)。○〔書〕「日-月—邁」。
㊁ます〳〵、いよ〳〵。○〔淮〕「亂乃—甚」。

【逿】タウ、ダウ。徒浪切 漾
㊀すぐ、(過)。
㊁據を失ひて倒る、たふる。○〔漢〕「陽醉—レ地」。
㊂うごかす、(盪)。○〔史〕「重-陽者—二心-主一」。

【逷】タウ、ダウ。徒郎切 陽
つく、(突)。○〔張衡〕「爛-熳麗-靡、藐以迭—」。

【遈】セフ。先頰切 葉
迺—は、走る貌にいふ語。

【遈】エフ。於葉切 葉
前に頓す、つまづく。

【遈】ツ井。追萃切 寘
迹に同じ。

【逌】攸に同じ、ところ。○〔漢〕「萬-國—レ平」。

【遁】トン、ドン。徒困切 願 徒本切 阮

のがる。
（い）うつる、（遷）。○〔史〕「漢兵—保二鞏洛一」。
（ろ）にぐ、（逃）。○〔左〕「曳レ柴而—」。
（は）かくる、（隱）。○〔詩〕「勉二爾—志一」。「梧一」。
（に）さる、（去）。○〔後漢〕「南—二蒼梧一」。
（ほ）さく、（避）。○〔後漢〕「上下相—」。
（偪遁）おそれにぐ。○〔魏〕「賊徒—」。
（駭遁）おどろきてにぐ。○〔宋〕「賊—」。
（竄遁）前に同じ。○〔韓愈〕「影沈潭底龍—」。
（敗遁）たゝかひやぶれてにげ去る。○〔水經、註〕「田布—」。
（逋遁）にげのがる。○〔陳琳〕「晨夜—」。

【遁】シュン。七倫切　眞
㊀巡に同じ。○〔漢〕「逡—有レ恥」。
㊁逡に同じ。○〔漢〕「—巡不二敢進一」。

【逯】古文の遁の字。○〔漢〕「—逃竄伏」。

【逯】テン。丑緝切　霰
動く。

【遥】テン。丑展切　銑
㊀行く。㊁安かに歩む。

【遂】ス井、ズ井。徐醉切　寘
㊀さぐ。
（い）あまねく達す、さほる、さほす。○〔禮〕「慶賜—行、毋レ有レ不レ當」。
（ろ）進む。○〔易〕「不レ能レ—」。
（は）事の志に從ふにいふ字、なる。○〔禮〕「百事乃—」。
（に）名位成達す。○〔史〕「官遊不レ—、而來過レ我」。
（ほ）成し竟ふ、なす。○〔易〕「無レ攸レ—」。
（へ）をふ、をはる、（竟）。○〔漢〕「事レ魏不レ—」。
（と）つく、つくす、（盡）。○〔禮〕「闔而勿レ—」。「—」。
（ち）生育す、そだつ。○〔漢〕「根荄以—」。
㊁充備す、みつ、そなはる。○〔禮〕「節文終—也」。
㊂かなふ、（稱）。○〔詩〕「不レ—二其媾一」。
㊃或る事に因りて他の事に及ぶの意を表す字、つひに。○〔春秋〕「侵レ蔡、蔡々潰、—伐レ楚」。
㊄舒肆（のびやか）なる貌にいふ字。○〔詩〕「容兮—兮」。
㊅したがふ、（順）。○〔國〕「以—二八風一」。
㊆よる、（因）。○〔荀〕「小事殆二乎—一」。
㊇田間の溝、こみぞ。○〔周〕「夫間有レ—、—上有レ徑」。
㊈國の名。○〔春秋〕「齊人滅レ—」。
㊉郊外、ちろそと、くろわそと。○〔周、註〕「掌二六—一」。
（遂々）隨行の貌、又、物のさかんに興こる貌、又、物の生出する貌にいふ語。○〔禮〕「陶々—」。
（名遂）名譽たかくあがる。○〔老〕「功成—身退天之道」。
（歸遂）郊外の地なり。○〔西京賦〕「周觀二—一」。
（功遂）功名の成るをいふ。○〔漢〕「—身退天之道也」。
（陶遂）植物などの暢びはゆるにいふ語。○〔後漢〕「粳稻—」。
（茂遂）物のさかんにおこり生ずること。○〔宋〕「物性—」。
（豐遂）前に同じ。○〔蔡邕〕「羣生—」。
（事遂）わざの成ること。○〔老〕「功成—」。
（成遂）とぐること。○〔文子〕「不レ能二—一」。
（生遂）生育す。○〔宋書〕「動植各—」。

【遃】ゲン。魚蹇切　願
行く貌にいふ字。

【遃】ガン。魚旰切　翰
あそぶ、（遨）。

【遐】カ、ケ。古牙切　麻
—互は、左右より相制すること。

【遐】カ、ケ。居迓切　禡
—栘は、蒺藜（はまびし）の如き木。

【遄】セン、ゼン。市緣切　先
往來の頻繁なるにも疾速なるにもいふ字、ちばしく、さし、すみやか。○〔易〕「已事—往」。

【遅】遲に同じ。

【遇】グ、ゴ。牛具切　遇
㊀あふ、であふ。
（い）途上にて相見る。○〔春秋〕「宋公衞公—二于垂一」。
（ろ）期せずして相會す。○〔莊〕「萬世之後、一—二聖人一」。
（は）求めずして至る、作さずして成る。○〔列〕「生之難レ—」。
（に）身用ひらる、説聽かる。○〔史〕「無レ所レ—」。
（ほ）合す。○〔戰〕「王何不下與二寡人一—上」。
（へ）敵す。○〔戰〕「以與レ王—」。
（と）當たる。○〔荀〕「無下用二吾之所レ短、—中人之所上レ長」。
㊁接待す、まつ、まじはる、あひしらふ、もてなす。○〔漢〕「—レ我厚」。
㊂ちあはせ、なり、ちほ。○〔袁宏〕「千載一—」。
㊃あひしらひ、もてなし。○〔諸葛亮〕「追二先帝之殊—一」。
㊄たりにであひて、たまく。○〔爾、註〕「—爾相值遇」。
（詭遇）横に物を射ること。○〔孟〕「爲二之—一、一朝而獲レ十」。「孟」。
（寵遇）いつくしみて待遇す。○〔後漢〕「—甚」
（恩遇）前に同じ。○〔後漢〕「—甚厚」。
（遭遇）であふ。○〔漢〕「—二—時變一」。
（遂遇）前に同じ。○〔李白〕「忽此相—」。
（會遇）前に同じ。○〔姚系〕「—更何時」。
（値遇）前に同じ。○〔爾、註〕「遇爾相—」。
（遭遇）前同じ。○〔李百藥〕「—二—與王之遇一」。
（厚遇）てあつくあひしらふ。○〔史〕「漢王—レ之」。
（善遇）前に同じ。○〔史〕「不レ如二因—レ之」。
（接遇）まじはりあふ。○〔史〕「出則—二—賓客一」。
（客遇）賓客の禮をもて接待す。○〔漢〕「縉路而畢于—二—緒一」。
（顧遇）めをかけてあひしらふ。○〔宋〕「出二入兩朝一被二—一」。
（眷遇）前に同じ。○〔宋〕「英宗—二—尭俞一」。
（待遇）あひしらふ。○〔南〕「—甚厚」。
（禮遇）禮を加へてあひしらふ。○〔晉〕「—甚重」。
（親遇）ちたしみあひしらふ。○〔晉〕「並爲二帝所—此」。
（崇遇）うやまひあひしらふ。○〔晉〕「其—如レ—」。
（敬遇）前に同じ。○〔北〕「—不レ虧」。
（賞遇）よみしあひしらふ。○〔宋〕「—甚厚」。
（知遇）人となりをよくちりてあひしらふ。○〔南〕「深被二—一」。
（器遇）才器ありとしてあひしらふ。○〔北〕「深見二—一」。

【遇】ゴウ、グ。五口切　有
偶に同じ　○〔史〕「氣相—者使二卑勝レ高」。

【遇】ギョウ、グ。魚容切　冬
地の名、○〔史〕「戰二曲—東一」。

【遈】ショク、ジキ。常職切　職

流れ行く貌にいふ字。

【逌】 偵に同じ。

【遊】 イウ、ユ。夷周切 尤

㊀あそぶ。
(い)逸樂す、たのしむ。○〔書〕「盤——無レ度」。
(ろ)すべて物を玩びて情に適ふにいふ字。○〔詩〕「背來—」。
(は)出づ、行く。○〔戰〕「王資ニ臣萬金一而—」。
(に)他鄕の客となる。○〔戰〕「王獨不レ聞ニ吳人之—レ楚者一乎」。
(ほ)縱る、散る。○〔易〕「——魂爲レ變」。
(へ)官に仕へず、職に就かず。○〔周〕「國子存ニ——倅一」。
(と)無事閑散なるにいふ字。○〔禮〕「息焉—焉」。
(ち)係累なきにいふ字、自適せるにいふ字。○〔莊〕「—ニ乎四海之外一」。
(り)交好す、まじはる。○〔漢〕「與ニ英俊一竝—」。

㊁あそび。
(い)なぐさみ、ものみ、であるき。○〔史〕「爲ニ周道—一」。
(ろ)客旅、たび。○〔謝靈運〕「幷奔ニ千里—一」。
(は)閑散、無位、無職、ひま。○〔周〕「貴—子弟」。

㊂交好、まじはり、よしみ。○〔南〕「號曰ニ龍門之—一」。
㊃ひまの人。○〔左、註〕「禁ニ末——一」。
㊄まじはる人、とも。○〔禮〕「交——稱ニ其信一也」。

〔優遊〕 ゆるやかにあそぶ。○〔書〕「惟——是好」。
〔佚遊〕 前に同じ。○〔國〕「五・侯・子以ニ聊・馬聲色——一相高」。
〔遨遊〕 あそぶ。○〔詩〕「以—以—」。
〔出遊〕 家をいであそぶ。○〔史〕「——數歲大困而歸」。
〔夜遊〕 夜中の出遊。○〔周〕「禁ニ宵行者——者一」。
〔同遊〕 ともにあそぶ。○〔國〕「少——」。
〔好遊〕 あそびを嗜む。○〔孟〕「子—レ—乎」。
〔客遊〕 他鄕に客となりあそぶ。○〔孟浩然〕「迷レ邦倦ニ——一」。
〔宦遊〕 官吏となりて他鄕にくらす。○〔蘇軾〕「——豈不レ好」。
〔倦遊〕 あそびにうむ。○〔何遜〕「我本——客」。
〔山遊〕 やまあそび。○〔謝靈運〕「杖ニ桂策一以——」。
〔舊遊〕 むかしのあそび。○〔李白〕「長歎懷ニ——一」。
〔交遊〕 まじはりあそぶ、又、友人のこと。○〔禮〕「——稱ニ其信一也」。
〔末遊〕 末技遊食の者。○〔左〕「闕所ニ以禁ニ絕——一」。
〔賓遊〕 賓客交友をいふ。○〔晉〕「門絕ニ——一」。
〔羣遊〕 むらがりあそぶ。○〔張說〕「——樂事多」。
〔貧遊〕 まづしきときのまじはり。○〔鮑昭〕「——不レ可レ忘」。
〔久遊〕 ひさしきあそび。○〔李白〕「薄遊成ニ——一」。
〔漫遊〕 ところ定めず心のまゝにあそぶ。○〔元結〕「——無ニ遠近一」。
〔歡遊〕 よろこびあそぶ。○〔白居易〕「去歲——何處去」。

【逜】 シユ、ス。殊句切 遇

はしる（走）。

【運】 ウン、オン。禹慍切 問

㊀めぐる。
(い)轉ず、まはる。○〔易〕「日月——行」。
(ろ)行く。○〔書〕「帝德廣—」。
(は)動く。○〔莊〕「海—則將レ徙ニ南溟一」。

㊁めぐらす。
(い)めぐらしむ、まはす、行る、動かす。
(ろ)用ふ。○〔史〕「—ニ籌策帷帳中一」。○〔禮〕「君子欠伸—レ笏」。

㊂移徙す、うつる、うつす。○〔周書〕「民—ニ於下一」。
㊃轉輸す、はこぶ。○〔國〕「欲下因ニ所レ過水一浮レ船—も糧上」。
㊄天體の周轉、みち。○〔渾天儀〕「天——如ニ車轂一」。
㊅天命の契機、まはりあはせ。○〔史〕「漢承ニ堯—一」。
㊆人事の機會、とき、なり。○〔晉〕「世—垂レ平」。
㊇五行の流轉、ゑやう。○〔陳〕「木——火德」。
㊈物品の轉輸、おくり、はこび。○〔晉〕「停ニ一年之—一」。
㊉地の南北。○〔國〕「廣—百里」。

〔海運〕 (い)海上の運漕。○〔元〕「——自ニ世祖用ニ伯顏之言一」。(ろ)海の氣のうつり動くこと。○〔莊〕「——則將レ徙ニ於南溟一」。
〔四運〕 四時の運行をいふ。○〔陸機〕「——循環轉」。
〔世運〕 世上の氣運。○〔劉因〕「吾係ニ關——一」。
〔興運〕 運命をおこす。○〔晉〕帝王—レ—、必俟ニ股肱之力一」。
〔開運〕 氣運をひらく。○〔薛道衡〕「自ニ我——一」。
〔啓運〕 前に同じ。○〔陸機〕「洪業—レ—」。
〔漕運〕 水上にて物をはこびおくる。○〔隋〕「——四百里」。
〔征運〕 征行運漕をいふ。○〔北〕「七州之人既有ニ——之勞一」。
〔餽運〕 糧食の運漕。○〔唐〕「靜請ニ開ニ屯田太原、以省ニ——一」。
〔餉運〕 前に同じ。○〔宋〕「疏ニ漕河一廢ニ三堰一以便ニ——一」。
〔水運〕 水上の運漕。○〔宋〕「省ニ使——一」。
〔搬運〕 はこぶ。○〔夢溪筆談〕「省ニ數十郡——之勞一」。
〔代運〕 かはりうつる。○〔魏文帝〕「四時邁而—」。
〔武運〕 武道の運氣。○〔謝朓〕「寧——之方昌一」。
〔聖運〕 帝王の運氣。○〔白居易〕「啓ニ一千年之——一」。
〔帝運〕 前に同じ。○〔袁桷〕「——昌ニ文統一」。
〔否運〕 衰頽の氣運。○〔張九齡〕「——爭ニ三國一」。
〔頹運〕 前に同じ。○〔李白〕「赤伏起ニ——一」。
〔文運〕 文德の氣運。○〔袁桷〕「清寧關ニ——一」。
〔混一運〕 天下を一統するの運氣。○〔隋〕「屬ニ當——之—一」。
〔三五運〕 三皇五帝の運德。○〔風俗通〕「天人道備、而——之—興矣」。
〔升平運〕 太平の氣運。○〔梁武帝〕「——之—此焉復始」。

【遌】 ガク。五閣切 藥

はからず相見る、あふ。

【遻】 ゴ、グ。五故切 遇

迕に同じ、あふ。○〔班固〕「乘レ高而—レ神」。

【遍】 徧に同じ。○〔梁〕「朝成暮—」。

〔優遍〕 てあつくあまねし。○〔梁武帝〕「每使ニ——一」。

【過】 クワ。古臥切 箇

㊀すぐ。
(い)超越す、こゆ、こす。○〔禮〕「—レ之者俯而就レ之」。
(ろ)勝越す、すぐる、まさる。○〔呂氏春秋〕「以爲造父不レ—」。

㊁超越せしむ、すごす。○〔易〕「範ニ圍天地之化一而不レ—」。

㊂あやまつ、あやまる。
(い)度を失しなふ、事を誤る、あやまち。○〔呂氏春秋〕「故論不レ—」。
(ろ)法を犯すの故意なくて法を犯すの行爲あるにいふ字。○〔呂氏春秋〕「—而殺ニ傷人一」。

㊃あやまち。
(い)失誤、あやまり。○〔孟〕「聖人且有レ—與」。
(ろ)故意なきの犯罪。○〔書〕「宥レ—無レ大」。
(は)罪愆、とが。○〔周〕「八日誅、以馭ニ其—一」。

㊄さがむ、せむ(責)。○〔史〕「聞二將-軍有レ意レ督二ーー之一」。
(大過)(い)易の卦の名、☱☴ 巽下兌上 ○〔易〕「ーー棟橈利レ有レ攸レ往亨」。
(ろ)おほいなるあやまち。○(論)「可三以無二ーー一矣」。
(小過)(い)易の卦の名、☶☳ 艮下震上 ○〔易〕「ーー亨利レ貞」。
(ろ)ちひさきあやまち。○(論)「赦二ーー一」。
(補過)あやまちをおぎなひたゞす。○(易)「無レ咎者善ーレー也」。
(宥過)あやまちをゆるして責めず。○(管)「罰レ罪ーレー以懲レ之」。
(赦過)前に同じ。○(易)「君-子以ーレー宥レ罪」。
(改過)あやまちをあらためてふたゝびせず。○(書)「ーレー不レ吝」。
(悔過)あやまちをくやむ。○陳琳「懷レ恩ーレー、委レ質還-降」。
(罪過)つみとあやまちと。○(周)「凡萬-民之有二ーー一」。
(謝過)あやまちをわぶ。○(左)「趙-孟召二絳-縣人一而ーレー焉」。
(寡過)あやまちをおはからしめず。○(論)「夫-子欲レー二其ー一而未レ能也」。
(督過)あやまちをたゞしせむ、又、とがむ。○(戰)「唯大-王有レ意レ督二ーー之一」。
(白過)あきらかにあらはれたるあやまち。○(漢)「竊恐陛-下舍二昭-々之ーー一、忽二天-地之明-戒一」。
(遏過)あやまちをとゞむ。○(漢)「ーレー者謂二之妖-言一」。
(止過)前に同じ。○(商)「以禁レ姦ーレー也」。
(蔽過)あやまちをかくす。○(史)「ー二人之ー一」。
(隆過)たかくすぐ。○(後漢)「寵-祿ーー」。
(優過)てあつくすぐ。○(後漢)「誠爲二ーー一」。
(懲過)あやまちを責めこらす。○(劉勰)「賞以勸レ功、罰以ーレー」。
(不貳過)あやまちをかさねてなさず。○(論)「不レ遷レ怒、ーレーレー」。

【過】クヮ。古禾切 歌

㊀すぐ、よぎる。
(い)經歷す、ふ、こほる。○〔書〕「東ー二洛汭一、北ー二洚-水一」。
(ろ)訪問す、おとづる。○〔戰〕「至不レ得二復ー一」。
㊁國の名。○〔左〕「處二澆于ー一」。
㊂澗の名。○〔詩〕「遡二其ー-澗一」。
㊃人の姓。○〔後漢〕「ー-晏之徒」。
(經過)とほりすぐ。○(庾信)「漢-使絕二ーー一」。
(頻過)しば〳〵よぎる。○(李嶠)「ーー二洛-水陽一」。
(再過)ひとたびよぎりたる場所をかさねて通過す。○(岑參)「關-門路ーー」。
(傳過)一に、過所といふ、關門又は津渡などの通行の符信。○(釋名)「過-所至二關-津一以示也、或曰二ーー一也」。

【遏】アツ、アチ。烏割切 曷

㊀逆へて絕止す、やむ、たつ、とゞむ。○〔易〕「君-子以ーレ惡揚レ善」。
㊁およぶ(逮)。○〔揚雄〕「東-齊曰レー言二相及一也」。
(夭遏)とゞめさへぎる。○(淮)「莫二能ーー一」。
(擁遏)おさへとゞむ。○(史)「ー二ーー鬼-神一」。
(防遏)ふせぎとゞむ。○(後漢)「ー二ーー他-兵一」。
(禁遏)いましめ止どむ。○(唐)「若不三卽加二ーー一」。
(止遏)さへぎりとゞむ。○(晉)「而爲二顧-榮所一ーー」。
(遮遏)前に同じ。○(易林)「ー二ーー我前一」。
(鎭遏)しづめとゞむ。○(陳)「隨機ーー」。
(綏遏)やすらかにしづむ。○(魏)「ー二ーー寇-楚一」。
(靜遏)しづかにしづむ。○(北)「ー二ーー外-內一」。
(嚴遏)きびしく禁絕す。○(北)「ー二ーー奸-非一」。
(檢遏)しらべおさふ。○(唐)「督二諸-道兵一ーー」。
(斷遏)たちきりさへぎる。○(陸雲)「ー二ーー海-浦一」。
(抑遏)おさへとゞむ。○(陳造)「義-敢與ーー」。

【遐】カ、ゲ。胡加切 麻

㊀とほし、はるか(遠)。○〔書〕「若二陟レー必自レ邇」。
㊁何に通じ用ふ、なんぞ、いづくんぞ。○〔詩〕「ー不レ謂矣」。
(幽遐)ふかくはるかなり。○(南)「必書二ーー一」。
(荒遐)いたくはるかなり。○(北)「北至二幽-都ーー之表一」。
(邇遐)近きと遠きと。○(金)「ーー屬レ望」。
(正遐)遠きをたゞす。○(韋孟)「ーレー由レ近」。

【遑】クヮウ、ヮウ。胡光切 陽

心に閑暇あること、いとま、ひま。○〔詩〕「不レー二啓-處一」。

【迊】サフ、セフ。測洽切 洽

行く貌にいふ字。

【遒】シウ、シユ。自秋切 尤

㊀せまる(迫)。○〔楚辭〕「分レ曹並進、ー相迫些」。
㊁つく(盡)、たちまち(忽)。○〔楚辭〕「歲忽-々而ー盡兮」。
㊂かたし(固)。○〔詩〕「四-國是ー」。
㊃あつまる(聚)。○〔詩〕「百-祿是ー」。
㊄をはる(終)。○〔詩〕「似二先-公之ー一矣」。
㊅たけし(健)、つよし(勁)。○〔鮑昭〕「獵-々晚-風ー」。
(警遒)奇警にして遒勁なり。○(詩品)「往-々ーー」。
(逼遒)せまりてゆるやかならず。○(阮籍)「人-情自ーー」。

【遚】シウ、シユ。雌由切 尤

行く貌にいふ字。

【道】タウ、ドウ。徒皓切 皓

㊀みち。
(い)通行の徑路。○〔詩〕「周ー如レ砥」。
(ろ)履行の理義。○〔書〕「ー心惟微」。
(は)施行の方法。○〔史〕「此危ーー也」。
(に)由る所、經る所。○〔左〕「假二ー于虞一以伐レ虢」。
(ほ)行くこと、經ること。○〔左〕「不レ如二小決使一レー」。
(へ)禮樂、刑政。○〔詩〕「顧瞻二周ー一」。
(と)才藝、技術。○〔周〕「有レー者」。
(ち)敎義、學問。○〔史〕「上好二仙ー一」。
(り)原理、妙用。○〔易〕「一-陰一-陽謂二之ー一」。
(ぬ)方面、むき。○〔史〕「北ー姚-氏」。
(る)貫條、すぢ。○〔宋〕「析爲二ーー一」。
㊁したがふ(順)。○〔書〕「九-河既ー」。
㊂老子を祖とせる一種の敎方。○〔唐〕「詭爲二ーー士一」。
㊃國の名。○〔左〕「江黃ー柏」。
(乾道)易の謂ふ所の至健の德。○(易)「ーー變-化各正二性-命一」。
(失道)路をあやまりうしなふ、又、道理をうしなふ。○(老)「ーレー而後有レ德」。
(中道)みちにあたる、又、中正のみち、又、道路の中央にすゝむ。○(禮)「爲二人子一者、行不レーレー」。
(神道)至妙なる神の理、又、神廟などにいたるべき道路。○(後漢)「慈少有二ーー一」。
(同道)行く所のみちを異にせず、又、人のおこなひ由る所の理を異にせず。○(孟)「三-子者不レーレー」。
(反道)理にそむきてみちに由らず。○(書)「ーレー敗レ德」。
(通道)いづれにも通ぜざるとなき仁義のみち、又、道路を達す、又、通達の道路。○(史)「披レ山ーレー」。
(常道)一定不動の正しきみち。○(戰)「聖-人之ーー也」。
(古道)ふるき道路、又、むかしに行はれたるみち。○(史)「志二ー之ー一」。
(知道)道理をあきらかにしる、又、あゆみ行く路をしる。○(禮)「人不レ學不レーレー」。
(食道)(い)正しきみちを行ふを業とす。○(管)「君-子ー二于ー一」。
(ろ)食糧を通ずるみち。○(戰)「韓絕二ーー一」。
(左道)正しからざる邪敎などのみち。○(五)「陳俗好二淫-祠ーー一」。
(邪道)前に同じ。○(漢)「行二ーー枉之一」。
(正道)たゞしきみち。○(宋)「以二ーー一自持」。
(至道)極めて善きみち、又、みちに達す。○(禮)「雖レ有二ーー一、弗レ學不レ知二其善一也」。
(夾道)道路の兩側にあること。○(周)「ーレー而蹕」。

〔善道〕よきみち、又、みちをよく守る。○〔論〕「守レ死―レ―」。
〔守道〕道德をよくまもりたもつ。○〔左〕「仲尼曰、―レ―不レ如レ守レ官、君子韙レ之」。
〔聞道〕（い）人のふみおこなふべきみちの理をきく。○〔論〕「朝―レ―、夕死可矣」。（ろ）聞說といふにおなじくきくならくと訓じ、詩歌などの語に用ふるとあり。○〔鄭谷〕「―・―漁家酒初熟」。
〔直道〕すぐなるみち、又、みちを正しくして枉げず。○〔論〕「―レ―而事レ人」。
〔枉道〕守るべきみちを屈すること、又、まがれるみち。○〔杜甫〕「―・―祇ニ從入一」。
〔得道〕よきみちの德をそなふ。○〔孟〕「―レ―者多レ助」。
〔當道〕正しきみちにあたりよる、又、道路にあたる。○〔孟〕「務下引ニ其君一以―レ―志中於仁上而已矣」。
〔馳道〕輦道ともいふ帝王の行く道路。○〔史〕「治ニ―・―一」。
〔閣道〕かけはしのみち。○〔史〕「周馳爲ニ―・―一」。
〔甬道〕前に同じ。○〔淮〕「―・―相連」。
〔複道〕前に同じ。○〔漢〕「從ニ―・―一望ニ見諸將一」。
〔間道〕ぬけみち。○〔史〕「使下布等先從ニ―・―一破中關下軍上」。
〔遮道〕道路をさへぎりて通過せしめず。○〔漢〕「遂―レ―急攻レ陵」。
〔軌道〕日月星などの通過するみち、又、たゞしきみちにしたがひ行ふ。○〔後漢〕「然後諸侯―レ―」。
〔異道〕道路を別にす、行ふ所のみちをことにす、又、めづらしきみち。○〔漢〕「今師―レ―」。
〔市道〕まちのこと、又、利を貪り義をかへりみざる市人のみち。○〔史〕「夫天下以ニ―・―一交レ君」。
〔饟道〕糧餉のみち。○〔史〕「絕ニ―・―一」。
〔糧道〕前に同じ。○〔史〕「絕ニ其―・―一」。
〔祖道〕たびだちのまつり。○〔漢〕「設ニ―・―一供ニ帳東都門外一」。
〔黃道〕光道ともいふ、天動說の日軌のこと、又、かりて帝王のすゝむみちにもいふ。○〔宋之問〕「淸蹕喧ニ―・―一」。
〔赤道〕地球の中央をめぐらしたる太陽の光線直下の線をいふ、されども支那天文學の天動說にては諸天體の腹を紘帶する線をいふ。○〔後漢〕「―・―帶ニ天之腹一、去レ極九十一度十分之五」。

〔問道〕みちのいかなるものなるかをたづぬ。○〔漢〕「承レ師―レ―」。
〔明道〕みちの理をあきらかにす。○〔漢〕「―ニ其―一不レ計ニ其功一」。
〔轉道〕糧食などの轉運のみち。○〔漢〕「而發人反絕ニ―・―一」。
〔運道〕前に同じ。○〔後漢〕「先レ是―・―艱險」。
〔淸道〕帝王などの外に出づるときのつゆばらひをいふ、又、濁りなきあきらかなる理。○〔淮〕「聖人守ニ―・―一」。
〔孔道〕（い）ひろき道路。○〔漢〕「不レ當ニ―・―一」。（ろ）孔子のみち。○〔韓愈〕「―・―以明」。
〔詭道〕たゞしき理にもとる又、變詐のみち。○〔宋〕「任レ術而―レ―」。
〔御道〕帝王の通路。○〔宋〕「往ニ來―・―一」。
〔遠道〕はるかなる通路。○〔李白〕「著レ鞭跨レ馬涉ニ―・―一」。
〔姦道〕不正なるみち。○〔荀〕「說ニ事失レ中、謂ニ之―・―一」。
〔改道〕行ふ所のみちを變易す。○〔白虎通〕「王者有ニ―レ―之文一」。
〔變道〕前に同じ。○〔漢〕「亡ニ―レ―之實一」。
〔坤道〕易に謂ふ所の柔順の德をいふ。○〔易〕「―・―其順乎」。
〔王道〕善德もて下に臨むみち。○〔書〕「―・―蕩々」。
〔悖道〕みちにもとる。○〔書〕「實―ニ天―一」。
〔行道〕道路をあゆみすぐ、又、みちをおこなふ。○「―・―之人不レ受」。
〔祭道〕道路をまもる神をまつる。○〔詩、疏〕「道祭謂レ―ニ―神一」。
〔大道〕人の由るべきおほいなるみち。○〔史〕「然合ニ於―・―一」。
〔父道〕人のちゝたるものゝ行ふみち。○〔禮〕「天子修ニ男教一―・―也」。
〔母道〕人のはゝたるものゝ行ふみち。○〔禮〕「后修ニ女順一―・―也」。
〔順道〕道理にしたがひてそむかざること。○〔禮〕「皆承レ天―レ―」。
〔率道〕前に同じ。○〔左〕「況其―レ―、其何敢之有」。
〔循道〕前に同じ。○〔宋〕「―レ―進レ仁」。
〔陽道〕天道剛健のみち。○〔禮〕「天子理ニ―・―一」。
〔學道〕みちををさめならふ。○〔論〕「君子―レ―則愛レ人」。
〔修道〕みちををさめ行ふ、又、道路を修理す。○〔北〕「有司奏請レ―レ―」。

〔達道〕みちにいたる、又、いづれにも通ずる理。○〔中〕「和也者天下之―・―也」。
〔傳道〕みちをつたへさづく、又、傳說のこと。○〔周〕「誦ニ四方之―・―一」。
〔無道〕道理によらざること、又、稱說することなし。○〔孟〕「仲尼之徒―下―ニ桓文之事一者上」。
〔斯道〕仁義のみち。○〔孟〕「予將下以ニ―・―一覺中斯民上也」。
〔交道〕道路に交錯す、又、道をもて相まじはる。○〔宋〕「親朋皆絕ニ―・―一」。
〔君道〕人のきみとなりてかみに立つみち。○〔孟〕「欲レ爲レ君盡ニ―・―一」。
〔孝道〕父祖に事ふる善きみち。○〔史〕「陛下永思ニ―・―一」。
〔游道〕まじはり。○〔史〕「―・―日廣」。
〔帝道〕盛德の帝王の行ふみち。○〔史〕「吾說レ公以ニ―・―一」。
〔霸道〕德と力とを併用する霸者のみち。○〔史〕「吾說レ公以ニ―・―一」。
〔故道〕ふるき道路、又、もとの通路。○〔漢〕「從ニ―・―一出襲レ雍」。
〔聖道〕ひじりのみち。○〔漢〕「秉ニ執―・―一」。
〔立道〕みちをおこし定む。○〔漢〕「聖人法レ天而―レ―」。
〔嘉道〕仁義などの如きよきみち。○〔漢〕「陛下有ニ明德―・―一」。
〔秉道〕たゞしき理をとりおこなふ。○〔宋〕「―レ―疾レ邪」。
〔分道〕行く所のみちを異にす。○〔漢〕「五將軍―レ―出」。
〔識道〕いつはりなきみち。○〔漢〕「言下有ニ―・―一天輔上レ之也」。
〔絕道〕通路をたちきりて通せざらしむ。○〔漢〕「急―レ―聚レ兵自守」。
〔蔽道〕道路一面に充實す。○〔北〕「赭衣―レ―」。
〔政道〕政事のみち。○〔後漢〕「―・―或レ虧」。
〔師道〕敎師たるべきものゝ守るみち。○〔後漢〕「―・―日微」。
〔佛道〕ほとけのみち。○〔南〕「晚乃篤ニ信―・―一」。
〔技道〕正しき大道にあらずしてもろ〳〵のこまかき藝術などをいふ。○〔蜀、註〕「楚將子發好ニ求―・―之士一」。
〔抱道〕心中にみちをたもつ。○〔魏〕「―レ―懷レ眞」。
〔懷道〕前に同じ。○〔南〕「亭―レ―好レ古」。
〔汲道〕水をくみとる通路。○〔魏〕「郃絕ニ其―・―一大破レ之」。

〔上道〕途にいづ。○〔晉〕「催ニ臣―・―一」。
〔隧道〕はかみち。○〔南〕「宋長寧陵―・―出ニ第前路上一」。
〔雅道〕正しきみち。○〔盧照隣〕「―・―今復存」。
〔倍道〕兼道といふに均し、二日の行程を一日にて通過すること。○〔南〕「必晝夜―レ―」。
〔妖道〕あやしきみち。○〔南〕「挾ニ―・―一聚レ衆」。
〔法道〕理にのつとる。○〔宋〕「體レ天―レ―」。
〔溢道〕道路にみちあふる。○〔宋〕「觀者―レ―」。
〔講道〕道理を講究す。○〔宋〕「居レ家―レ―」。
〔尊道〕理をたふとぶ。○〔晉〕「―レ―而賤レ物」。
〔穰道〕道德にゆたかなること。○〔陸賈〕「―レ―者衆歸レ之」。
〔習道〕道理をならひみがく。○〔中論〕「人雖レ有ニ美質一、而不レ―レ―、則不レ爲ニ君子一」。
〔貧道〕みちにゆたかならざる意にて道士沙門などの他人に對して自己を表する謙辭。○〔世說〕「―・―重ニ其神駿一」。
〔磴道〕石のたゝみつみたる通路。○〔李白〕「―・―緣ニ太行一」。
〔險道〕けはしき道路。○〔李德裕〕「―・―傾仄」。
〔街道〕ひろきまちのみち。○〔張舜民〕「鑼鼓塡ニ―・―一」。

【道】タウ、ドウ。大到切 號

㊀いふ、（言）。○〔孝〕「非ニ先王之法言一不ニ敢―一」。
㊁よる、（由）。○〔中〕「尊ニ德性一而―ニ問學一」。
㊂より、（從）。○〔漢〕「諸使者―ニ長安一來」。
㊃をさむ、（治）。○〔論〕「―ニ千乘之國一」。
㊄みちびく、（導）。○〔論〕「―レ之以レ德」。
㊅みちびき、てびき、あんない。○〔左〕「請君釋ニ憾于宋一、敝邑爲レ―」。
〔敎道〕をしへみちびく。○〔南〕「以ニ仁義一―・―」。
〔倡道〕さきたちてみちびく。○〔禮、註〕「先倡ニ―・―也」。
〔善道〕よくみちびく。○〔論〕「忠告而―レ―之」。

【達】タツ、ダチ。陀葛切 曷

㊀さほる。

(い)いたろ、およぶ、とゞく。○〔國〕「奔而易レ―」。
(ろ)貫く。○〔進〕「蹠―レ膝」。
(は)曉ろ。○〔論〕「樊遲未レ―」。
(に)蒸す。○〔素問〕「蒼氣―」。
(ほ)暢ぶ。○〔吳越春秋〕「非二暢―之兆一」。
(へ)おふ(生)。○〔詩〕「驛々其―」。
(と)さぐ(遂)。○〔詩〕「勿レ遂勿レ―」。
(ち)凝滯なきにいふ字。○〔論〕「在レ邦必―、在レ家必―」。
㊁とほらしむ、とほす(㊀の條參照)。○〔國〕「寡人其―二王於甬句東一」。
㊂身顯はるゝこと、志成ること。○〔孟〕「―則兼善二天下一」。
㊃すゝむ(薦)。○〔禮〕「推レ賢而進二―之一」。
㊄あまねく(遍)。○〔書〕「―二觀于新邑營一」。
㊅みな(皆)。○〔禮〕「君子―亹々」。
㊆よろし(宜)。○〔詩〕「受二小國一是―、受二大國一是―」。
㊇決行す、さだむ。○〔周〕「小事則專―」。
㊈相將ろ、おくろ。○〔周〕「―レ之以レ節」。
㊉物事に明曉なること。○〔漢〕「聽―有レ才」。
⑪物事に凝滯なきこと。○〔莊〕「―者知二通爲レ一」。
⑫一般、不變。○〔中〕「天下之―道」。
⑬賢者、君子、すぐれたる人。○〔晉〕「先―宿德」。
⑭夾室、かたはらのへや。○〔禮〕「天子之閣、左―五、右―五」。
⑮窻牖、まど。○〔禮〕「刮楹―鄉」。
⑯小羊、こひつじ。○〔詩〕「先生如レ―」。
〔特達〕特別にすぐれたるをいふ。○〔南〕「聰警―・―」。
〔通達〕とほりいたる。○〔周〕「凡―二―于天下一者」。
〔四達〕よもに通ず。○〔禮〕「―・―而不レ悖」。
〔豁達〕こゝろなどのひろくとほりて偏狹ならざること。○〔南〕「―・―大度」。
〔濶達〕前に同じ。○〔後漢〕「―・―多二大節一」。
〔曠達〕前に同じ。○〔晉〕「時人貴二其―・―一」。
〔閎達〕前に同じ。○〔晉〕「明識―・―」。
〔恢達〕前に同じ。○〔北〕「劉子仲哲性―・―」。
〔薦達〕他人を官職などに推擧するをいふ。○〔後漢〕「在位多レ所二―・―一」。
〔推達〕前に同じ。○〔後漢〕「自相―・―」。
〔練達〕ことがらになれ通ずるをいふ。○〔後漢〕「―二―事體一」。
〔聞達〕名譽顯達をいふ。○〔南〕「不レ求二―・―一」。
〔任達〕性情にまかせて物にかゝはらざること。○〔晉〕「咸―・―不レ拘」。
〔放達〕前に同じ。○〔晉〕「深以二―・―一爲レ非レ道」。
〔早達〕はやき顯達をいふ。○〔李白〕「―・―勝二晩遇一」。
〔晩達〕老年の顯達。○〔陳師道〕「人生―・―有レ如レ此」。
〔榮達〕さかえあらはる。○〔亢倉子〕「―・―則以レ道自正」。
〔敏達〕さとくして通ぜざるなきをいふ。○〔北〕「悟性―・―」。
〔疏達〕あらくとほりて苛細ならず。○〔蘇軾〕「公性―・―不レ疑」。
〔燥達〕かわきかよふ。○〔周、疏〕「春陽時陽氣―・―」。
〔上達〕上さにすゝむ。○〔論〕「君子―・―」。
〔窮達〕困屈の境遇と顯榮の境遇と。○〔孟〕「故士―不レ失レ義、―不レ離レ道」。
〔條達〕のびやかに通ず。○〔淮〕「淸明―・―者、易之義也」。
〔明達〕性情などのさとくあきらかにして事理に通ずるをいふ。○〔漢〕「而性―・―好レ謀能斷」。
〔曆達〕前に同じ。○〔陸機論〕「聰明―・―」。
〔亮達〕前に同じ。○〔後漢〕「聰明―・―」。
〔博達〕學藝などにひろく通じ涉る。○〔漢〕「―・―善屬レ文」。
〔口達〕ことばをもて意を通達す。○〔後漢〕「―二―至誠一」。
〔綜達〕あまねくすべ達す。○〔後漢〕「―二―經學一」。
〔閑達〕ならひ通ず。○〔後漢〕「―二―故事一」。
〔高達〕俗にすぐれたかくいたる。○〔後漢〕「才既―・―」。
〔英達〕人の性質などのいたくすぐれまさりたるをいふ。○〔吳、註〕「亦―・―夙成」。
〔邁達〕前に同じ。○〔晉〕「惟公―・―沖虛」。
〔秀達〕前に同じ。○〔劉峻〕「英髦―・―」。
〔俊達〕前に同じ。○〔杜牧〕「足下性―・―堅明」。
〔導達〕みちびきいたす。○〔白居易〕「―二―文泰一」。
〔朗達〕心情の淸明にして事物に拘はらざること。○〔晉〕「王侯神情―・―」。
〔調達〕とゝのひ通ず。○〔阮籍〕「陰陽―・―」。
〔稱達〕ほめすゝむ。○〔晉〕「每相―・―」。
〔器達〕才識のまさりたること。○〔晉〕「―・―之士、皆器二重之一」。
〔舒達〕のびやかに生ず。○〔戴昺〕「擴根既―・―」。
〔晉達〕身分のたかくすゝむこと。○〔鄭谷〕「主人貪二―・―一」。
〔顯達〕前に同じ。○〔魏武帝〕「非下敢希二望高位一、庶中幾―・―上」。
〔洞達〕さはりなく通ず。○〔酉陽雜俎〕「目可レ―二―陰陽一」。
〔望達〕上進をねがふ。○〔陳子昂〕「官不レ―レ―」。
〔超達〕俗にすぐる。○〔李山甫〕「知君―・―悟二空旨一」。
〔騰達〕のぼりあがる。○〔劉基〕「陰氣方―・―」。
〔約而達〕つゞまやかなれども意の通ずること。○〔禮〕「其言也、―・―」。
〔要而達〕前に同じ。○〔論衡〕「辯士之言、―・―」。

【達】タツ、タチ。他達切 〔曷〕

㊀行きて過ぎざるにいふ字。
㊁ほしいまゝ(放・恣)。○〔詩〕「挑兮―兮」。

【違】井。羽非切 〔微〕

㊀背く、從はず、もとる、たがふ。○〔左〕「且其―者、不レ過二數人一」。
㊁さる。
(い)はなる(離)、とほざかる(遠)。○〔國〕「天威不レ―レ顏咫尺」。
(ろ)さく(避)。○〔左〕「―二齊難一」。
(は)にぐ(奔)。○〔左〕「凡諸侯之大夫―」。
(に)さらしむ、はなす、とほざく。○〔論〕「棄而―レ之」。
㊂邪惡、よこしま。○〔左〕「昭レ德塞レ―」。
㊃過失、あやまち。○〔後漢〕「有二―失一則劾奏」。
㊄怨みを畜ふ、うらむ。○〔書〕「厥心―怨」。
〔依違〕一に猗違に作る、より且たがふ、卽ち、心のしかと定まらぬこと。○〔漢〕「―・―以惟」。
〔弼違〕みちにそむけるを匡救してたゞしきやうにたすく。○〔抱朴〕「匡レ過―レ―者」。
〔正違〕前に同じ。○〔左〕「―二其―一而治二其煩一」。
〔繩違〕法にたがひ道にそむけるをたゞす。○〔晉〕「雅直レ法―レ―」。
〔彈違〕前に同じ。○〔晉〕「擧レ善―レ―」。
〔睽違〕たがひはなる。○〔何遜〕「鳥裏就二―・―一」。
〔乖違〕前に同じ。○〔陶潛〕「風水互―・―」。
〔重違〕たがふことをはゞかる。○〔謝承〕「朝廷―レ―二其志一」。

【⿺辶⿱日夂】古文の退の字。

【遝】タフ、ドフ。徒合切 〔合〕

行き立つ、たつ。

十畫

【遘】コウ、ク。古候切 〔宥〕

相會す、あふ。○〔書〕「無レ有レ―二自疾一」。
〔啓遘〕ひらきあふ。○〔宋〕「太祖文皇帝―二―泰運一」。
〔嬰遘〕かゝりあふ。○〔鮑昭〕「―二―愍悼一」。

【⿺辶倉】サウ。七浪切 〔漾〕

すぐ(過)。

【遙】エウ。餘招切 〔蕭〕

とほし、はるか(遠)。○〔禮〕「千里而―」。

〔遒遙〕 徜徉といふに同じ、たちもとほる、又、意にまかせてあそぶ。○〔潘岳〕「修-日requests-月、携レ手ーー」。

〔遙々〕 はるかなる貌 又、はるかに行く貌にいふ語。○〔左〕「遠哉ーー」。

〔翺遙〕 かろ〴〵とあがる貌にいふ語。○〔南都賦〕「ーー遷-延」。

〔縣遙〕 はるかなること。○〔嵇康〕「其報ーー」。

〔遼遙〕 遠くはるかなること。○〔阮籍〕「釋二ーー之潮-度一兮」。

〔迢遙〕 前に同じ、又、たかくはるかなり。○〔江淹〕「ーー衡レ山」。

【遚】 シウ、シユ。初救切 宥

とゞまる、すゝまず

【遛】 リウ、ル。力求切 尤

逗ーは、進まず、とゞまる。

【遜】 ソン。蘇困切 願

㊀したがふ、（順）。○〔書〕「五-品不レー」。

㊁みづから恭しくして他にしたがふ、へりくだる。○〔書〕「惟學ーレ志」。

㊂たのれはのがれて他を推す、ゆづる。○〔書、序〕「將レー二于位一」。

㊃のがる、にぐ、（遁）。○〔書〕「吾家耄ー二于荒一」。

〔敬遜〕 うやまひゆづる。○〔漢〕「郅-王温-恭ーー」。

〔恭遜〕 前に同じ。○〔唐〕「以二ーー一著レ名」。

〔謙遜〕 へりくだる。○〔漢〕「尤ーー下レ士」。

〔揖遜〕 揖禮をなしてへりくだる。○〔中論〕「垂拱ーー而海-内平矣」。

【遧】 チク、トク。丑六切 屋

行く貌にいふ字。

【遟】 遲に同じ。

【遝】 タフ、ドフ。徒合切 合

雜はり臻る、あつまる、かさなる。○〔曹植〕「衆-靈雜-遝」。「至」。

〔紛遝〕 まじはりあつまること。○〔李濂〕「ーー四」

〔追遝〕 およびとゞく。○〔方言〕「ーー及也、東齊曰レ追、關之東-西曰レ遝」。

〔瀄遝〕 繁沸の聲湧起の貌にいふ語。○〔笙賦〕二又ーー而繁-沸」。

〔合遝〕 あつまる、又、盛んにして多き貌にいふ語。○〔王褒〕「瑳ーー」。

〔駁遝〕 壯んに奮ふこと。○〔陸機〕「以ーー」。

【遞】 テイ、ダイ。徒禮切 薺　大計切 霽

㊀たがひに閒厠して相代はる、かはる。○〔易、疏〕「切-摩更ー」。

㊁相かはりて、たがひに、かはる〴〵。○〔呂氏春秋〕「詐-術ー用」。

㊂傳驛、つぎば、しゆくば。○〔元〕「定二賦-租一立二站ー一」。

㊃傳驛の發送に用ふる人夫車馬。○〔宋〕「發二馬ー一上レ之」。

㊄はるか、（迢）。○〔水經、註〕「迢ー相望」。

〔更遞〕 かはる〴〵更迭す。○〔易、疏〕「故剛-柔共相切-摩ーー變-化也」。

〔郵遞〕 驛傳のこと。○〔劉克莊〕「傷-心ーー裏」。

〔馬遞〕 うまつぎ。○〔宋〕「發二ーー一上レ之」。

〔歩遞〕 宿驛などにて交代する飛脚。○〔宋〕「又役レ民爲二ーー一」。

【遰】 タイ。當泰切 泰

㊀つく、（著）。○〔晉〕「偏-枯握ー」。

㊁めぐる、（繞）。○〔漢〕「絳-侯依二諸-將之ー一、據二相扶之勢一」。

【遲】 籒文の遲の字。

【遠】 エン、チン。雲阮切 阮　ー俗に、遠に作る。

㊀とほし、はるか。

（い）へだたり多し。○〔詩〕「道之云ー」。

（ろ）みち長し。○〔後漢〕「糧少入ー」。

（は）時久し。○〔呂氏春秋〕「音-樂之所二由來一者ー矣」。

（に）あまねし、ひろし。○〔書〕「汝丕ー惟二商耇-成一」。

（ほ）あさはかならず、おくふかし。○〔史〕「老-子深ー」。

（へ）極まりなし。○〔南〕「靈-化悠ー」。

（と）及び易からず。○〔國〕「言無レー」。

（ち）疏なり、うとし。○〔史〕「廢二公-族疏ー者一」。

（り）迂なり、まはりどほし。○〔北〕「濶ー不レ施用一」。

㊁とほきもの、とほき所。○〔禮〕「愼レ終追レー」。

〔致遠〕 とほきをきはむ、又、とほきにおくる、又、とほきにいたる。○〔易〕「鉤レ深ーレー」。

〔幽遠〕 あさはかならず。○〔後漢〕「聖-言ーー」。

〔玄遠〕 前に同じ。○〔晉〕「然發言ーー」。

〔弘遠〕 ひろやかにして淺近ならず。○〔晉〕「雅-量ーー」。

〔遐遠〕 はるかにとほし。○〔漢〕「海-濱ーー」。

〔迴遠〕 前に同じ。○〔王粲〕「雖二楚魏絕-遠、山-河ーー一」。

〔遼遠〕 前に同じ。○〔左〕「楚-師ーー」。

〔迢遠〕 前に同じ。○〔孟雲卿〕「君行本ーー」。

〔凝遠〕 性情風采などの嚴整にしてあさはかならざるにいふ語。○〔唐〕「風-度ーー」。

〔濶遠〕 ひろくとほし。○〔後漢〕「以二邊-塞ーー一」。

〔廓遠〕 前に同じ。○〔嵇康〕「天-地ーー」。

〔淸遠〕 きよらかにして淺薄卑近ならず。○〔晉〕「思-心ーー」。

〔柔遠〕 遠隔の地にあるものをなづけやはらぐ。○〔晉〕「ーレー能レ邇」。

〔懷遠〕 前に同じ。○〔左〕「ーレー以レ德」。

〔視遠〕 眼をとほきところにつくると、又、とほきをみる。○〔國〕「晉厲-公ーー步高」。

〔永遠〕 あひたのながくひさしきをいふ。○〔晉〕「弗ニーー念二天-威一」。

〔久遠〕 前に同じ。○〔孟〕「舜禹益相去ーー」。

〔極遠〕 とほきをきはむ、又、いたくとほし。○〔禮〕「窮レ高ーレー」。

〔行遠〕 すゝみゆくとほし、又、近からざるところにゆく。○〔禮〕「辟如二ーレー必自レ邇」。

〔長遠〕 間隔距離のながくとほきをいふ。○〔張九齡〕「馬旣ーー」。

〔脩遠〕 前に同じ。○〔朱熹〕「路ーー而爲窮」。

〔鄙遠〕 邊僻にして近からず。○〔左〕「鄙二鄙國一以二ーー君知二其難一也」。

〔僻遠〕 前に同じ。○〔史〕「秦-穆-公ーー不レ與二中-國一會-盟上」。

〔恤遠〕 とほきところに在るものをあはれむ。○〔左〕「焉能ーレー」。

〔望遠〕 とほきをのぞみみる。○〔韓愈〕「升レ高而ーレー」。

〔高遠〕 卑近ならず。○〔北〕「歎二其ーー一」。

〔崇遠〕 前に同じ。○〔晉〕「天-道ーー」。

〔四遠〕 四方遠隔のところ。○〔南〕「然宜二布ー於ーー一」。

〔踈遠〕 道のはるかなるにいふ語。○〔史〕「燕-地ーー」。

〔貫遠〕 みにちかゝらざるものをたふとぶ。○〔漢〕「凡人賤レ近而ーレー」。

〔隱遠〕 あさはかにあらはならず。○〔後漢〕「斯-道ーー玄-奧」。

〔奧遠〕 前に同じ。○〔魏〕「聖-明ーー」。

〔險遠〕 みちのけはしくしてとほきをいふ。○〔宋〕「雖二蛇-竄ーー一、亦綏-視徐-按」。

〔明遠〕 明白深遠なり。○〔宋〕「張-守旅レ事ーー」。

〔博遠〕 博大深遠なること。○〔晉〕「理-思ーー」。

〔恢遠〕 前に同じ。○〔北〕「才-識ーー」。

〔荒遠〕 僻遠のところをいふ。○〔南〕「神-武方招二懷ーー一」。

〔遐遠〕 とほき邊陲のところ。○〔陳琳〕「恐ーー州-郡過-聽而給-與」。

〔沈遠〕 思慮などのふかくあさはかならざること。○〔北〕「烈-氣-果ーー」。

〔淵遠〕 前に同じ。○〔頭陁寺碑文〕「理-懷ーー」。

〔英遠〕 すぐれて遠大なること。○〔北〕「志-氣ーー」。

〔隔遠〕 あひたのちかゝらざること。○〔唐〕「今江-都ーー」。

〔綏遠〕 とほきところをやすんず。○〔宋〕「以爲朝-廷寄以二ーー一」。

【遠】 エン、チン。于願切 願

㊀さほざく。
（い）さほきにやる。○〔孟〕「驅二虎豹犀一—レ之」。
（ろ）狎れず。○〔論〕「敬二鬼神一而—レ之」。
（は）疏んず。○〔左〕「諸侯—レ己」。
㊁近づかず、とほくなる、さほざかる。○〔詩〕「其人則—」。

〔黜遠〕 おりぞけとほざく。○〔左〕「是以上下有レ禮、而讒慝—・—」。
〔敬遠〕 うやまひてちかづけず。○〔論〕「—二鬼神一而—レ之」。
〔疎遠〕 またしみちかづかず。○〔李德裕〕「便僻者—二—之一」。
〔放遠〕 はなちとほざく。○〔王逵〕「—二—邪佞一」。

【遡】 ソ、ス。桑故切 遇 ——溯に同じ。
㊀水流に逆ひて上る、さかのぼる。○〔詩〕「——洄從レ之」。
㊁水流に順ひて下る、くだる。○〔詩〕「——遊從レ之」。
㊂むかふ、（嚮）さかふ、（逆）。○〔詩〕「—二其過潤一」。
㊃愬に通じ作る、うッたふ。○〔戰〕「衛君跣行告二—于魏一」。

【遝】 タフ、トフ。吐盍切 合
㊀穩かに行く貌にいふ字。
㊁事を謹まざること。

【遣】 ケン。去演切 銑
（い）はなつ、（縱）。○〔後漢〕「平二—四徒一」。
（ろ）おくる、（送）。○〔儀〕「書—二于策一」。
（は）おふ、（逐）。○〔左〕「醉而—レ之」。
（に）行かしむ、つかはす。○〔漢〕「—二歸故郡一」。

〔消遣〕 せけんのことなどの思慮をはなちけす。○〔鄭谷〕「此際離—二—・—一」。
〔發遣〕 いたしつかはす。○〔後漢〕「—下—邊人在二內郡一者上」。
〔謝遣〕 ことわりやる。○〔後漢〕「乃—二—賓客一」。
〔休遣〕 はなちいこはす。○〔後漢〕「輙—二—徒繋一」。
〔縱遣〕 はなちやる。○〔後漢〕「超—二—之一」。
〔放遣〕 前に同じ。○〔後漢〕「—二—之一」。
〔罷遣〕 職をやめはなつ。○〔後漢〕「康至皆—・—」。
〔黜遣〕 しりぞけはなつ。○〔後漢〕「丞便—・—」。
〔斥遣〕 前に同じ。○〔韓愈〕「—二—浮華一」。
〔裝遣〕 よそほひつかはす。○〔後漢〕「—・—甚盛」。
〔原遣〕 罪囚などを赦しはなつ。○〔江淹〕「一皆—・—」。
〔勞遣〕 ねぎらひつかはす。○〔北〕「—二—之一」。
〔殷遣〕 てあつくおくりつかはす。○〔舊唐〕「備二百禮一以—・—」。
〔擇遣〕 えらびつかはす。○〔蘇軾〕「朝廷—下—大臣爲二蜀人所一レ愛信一者上」。

【遣】 ケン。去戰切 霰
埋葬に際して君王より下賜あること。○〔禮〕「—車一乘」。

【道】 古文の道の字。

【遚】 シウ、シユ。七溜切 宥
すゝむ、（進）。

【遰】 ハウ、ヒヤウ。悲萠切 庚
かすか、（幽）。

十一畫

【遦】 クワン。古翫切 翰
㊀ならふ、（習）。㊁ゆく、（行）。

【遧】 シヤウ。諸良切 陽
㊀週——は、さく、（迕）。
㊁章に同じ、あきらか。○〔大戴禮〕「斯庶嬪—」。

【遨】 ガウ、ゴウ。五勞切 豪
あそぶ、（遊）。○〔後漢〕「聊逍遙兮——嬉」。

【遛】 レウ。力弔切 嘯
ゆく、（往）。

【遮】 古文の遙の字。○〔漢〕「—輿遐擧」。

【適】 セキ、シヤク。施隻切 陌
㊀ゆく。
（い）いたる、（至）。○〔詩〕「—二子之館一兮」。「—」。
（ろ）おもむく、（歸）。○〔左〕「民知レ所レ—」。
（は）とつぐ、（嫁）。○〔潘岳〕「—レ人而所天又殞」。
㊁したがふ、（從）。○〔書〕「惟我事不二貳—一」。
㊂かなふ。
（い）和ぐ、調ふ。○〔呂氏春秋〕「其風雨則不レ—」。
（ろ）相當たる。○〔漢〕「馬不レ—レ士」。
（は）相合す。○〔詩〕「—二我願一兮」。
㊃快樂、自得。○〔莊〕「—二人之—一」。
㊄よろしきこと、おだやかなること、其の當を得たること。○〔荀〕「瑕—並見」。
㊅程度、ほど、ころあひ。○〔柳宗元〕「不レ知二辛鹹之節—一」。
㊆まさに。
（い）偶然に、ふと、たまく。○〔書〕「乃惟眚災—爾」。
（ろ）常にかくありて、つれに。○〔賈誼〕「以レ是爲二—然一耳」。

〔大適〕 （ら）いぬなづなともはまがらしともいふ草の異名。○〔爾、疏〕葶一名二亭歷一、一名二—・—一。
（ろ）おはいにたのしむこと。○〔宋〕「毎レ醉則—・—」。
〔順適〕 したがひてさからはざること。○〔史〕「舜—不レ失二子道一」。
〔自適〕 みづから安便なりとす。○〔漢〕「以二漁釣一—・—」。
〔戲適〕 心のまゝにあそびたのしむ。○〔南〕「子孫任二其—・—一」。「自—・—」。
〔閒適〕 しづかにたのしむ。○〔葛長庚〕「醒來渝レ茗—・—」。
〔曠適〕 こゝろひろく自得す。○〔宋〕「意甚—・—」。
〔心適〕 こゝろ自得す。○〔白居易〕「—・—忘二是非一」。
〔意適〕 前に同じ。○〔蘇軾〕「—・—忽忘レ返」。
〔和適〕 やはらぎかなふ。○〔長孫佐輔〕「神體自—・—」。「—」。
〔均適〕 たゞしくかなふ。○〔雜事秘辛〕「位置—・—」。
〔佳適〕 よきたのしみ。○〔山家清供〕「眞—・—也」。
〔偕適〕 相ともにかなふ。○〔沈約〕「道有二—・—一」。
〔妙適〕 たへなるたのしみ。○〔王勃〕「諧二野人之—・—一」。「—・—一」。
〔歡適〕 よろこびたのしむ。○〔白居易〕「次要二心—・—一」。
〔娛適〕 前に同じ。○〔蔡襄〕「佳人足二—・—一」。
〔快適〕 こゝろよくたのしむ。○〔蘇舜欽〕「所レ覽輙—・—」。
〔酣適〕 酒に醉ひたのしむ。○〔蘇軾〕「—・—之味、乃過二於客一」。「—・—」。
〔舒適〕 のびやかに自得す。○〔蘇軾〕「其人安恬—・—」。
〔暢適〕 前に同じ。○〔陸游〕「讀書取二—・—一」。
〔清適〕 こゝろきよらかにたのしむ。○〔黃鎭成〕「今日稍—・—」。

【適】 テキ、チヤク。都歷切 錫
㊀嫡嗣、あとゝり、よつぎ。○〔詩〕「天位殷—」。
㊁上位、かみ。○〔禮〕「—士二廟」。
㊂正位、おもて。○〔禮〕「哭二之—室一」。
㊃主なるもの、專一なるもの。○〔詩〕「誰—爲レ容」。
㊄驚く貌にいふ字。○〔莊〕「——然驚」。

〔嗣適〕 よつぎのこと。○〔左〕「君之—・—」。

〔立適〕よつぎをたてること。○〔公羊〕「—レ—以ニ長者ニ」。

【適】テキ、ヂヤク。杜歴切 錫
敵に同じ。○〔禮〕「莫ニ敢—ニ之義也」。

【適】タク、チヤク。陟革切 陌
謫に同じ、せむ。○〔詩〕「室人交偏—レ我」。

【遝】サフ、ソフ。千合切 合
㊀滲出す、にじみいづ。
㊁ゆく（行）、はしる（走）。

【遫】チヨク、チキ。恥力切 職
はる（張）、ひらく（開）。

【遬】ソク。桑谷切 屋 蘇木切 沃
㊀ちゞむ（蹙）。○〔禮〕「見ニ所レ尊者ー齊ー」。「——ニ」。
㊁すみやか、とし（疾）。○〔淮〕「欲ニ疾以—」。
〔僕遬〕凡庸にして短小なる貌にいふ語。○〔漢〕「——不足」敷。

【[辶+責]】迹に同じ。

【遭】サウ、ソウ。作曹切 豪
㊀あふ。
（い）期せずして會合す、であふ。○〔禮〕「—ニ先生於道ニ」。
（ろ）遶り行きて相會す、めぐりあふ。○〔詩〕「—ニ我乎猺之間ニ」。
㊁めぐる（巡）。○〔劉禹錫〕「山圍ニ故國ー周—在」。

【[辶+參]】サン、ソン。子感切 感
さほし（遠）。

【遟】チ。知意切 寘
行く貌にいふ字。

【[辶+羕]】ヤウ。餘亮切 漾
走る。

【[辶+我]】我に同じ。○〔石鼓文〕「—車既攻」。

【遚】シ。初里切 紙
ちかし（近）。

【[辶+從]】シヨウ、シユ。七恭切 冬
緩く歩む、おそし。

【遮】シヤ、セ。止奢切 麻
さへぎる。
（い）制し過ごむ、とゞむ。○〔呂氏春秋〕「子不レ—ニ乎親ニ」。
（ろ）横ぎり斷つ、たつ。○〔史〕「三-老董-公—說ニ漢-王ニ」。
（は）要劫す、まちぶせす。○〔後漢〕「伏-兵—-擊」。
（に）隔て支ふ、さゝふ。○〔白居易〕「翠-屏—ニ獨-影ニ」。
（ほ）掩蔽す、おほふ。○〔後漢〕「—-迥出-入」。
〔周遮〕言語の多き貌にいふ語。○〔白居易〕「—-—說-話長」。
〔蔽遮〕おほひさへぎる。○〔宋〕「以ニ睢-陽ー—ニ-—江-淮ニ」。

【[辶+豚]】遁の本字、のがる。○〔書〕「我不レ顧ニ行—ニ」。
〔逐遯〕にぐるをおふ。○〔管〕「退レ亡—レ—若ニ飄-風ニ」。

〔亂遯〕兵士などの隊伍をみたしてにげ去ること。○〔後漢〕「永-軍—-—沒-溺」。
〔甘遯〕のがれかくるを不可なりとせず。○〔宋璟〕「而——」。「——ニ岩-穴ニ」。
〔深遯〕おくふかくにげのがる。○〔鄗順〕「豺-虎避—」。

【遰】テイ、ダイ。特計切 霽
㊀さる（去）、さく（避）、ゆく（往）。○〔夏小正〕「九-月—ニ鴻-雁ニ」。
㊁はるか（迢）。

【遰】セイ、ゼイ。征例切 霽
㊀逝に同じ。○〔史〕「鳳漂-々其高—」。
㊁さや（鞞）。○〔禮〕「右佩ニ管-—ニ」。

【遰】タイ。當蓋切 泰
つらなる（連）。

【遱】ロウ、ル。洛侯切 尤
絕えざる貌にいふ字、つらなる。

【遪】キウ、ク。居右切 宥
謹み行く。

【遲】チ、ヂ。直尼切 支
㊀急迫ならず、ゆるし、ゆるやか。○〔禮〕「威-儀—-—」。
㊁おそし。
（い）早からず、すみやかならず。○〔禮〕「來何—也」。
（ろ）鈍し、のろし。○〔史〕「見レ事—」。
（は）久し。○〔史〕「變ニ其俗ー、革ニ其禮ー、喪三-年然後除レ之、故—」。
（に）晩し。○〔楚辭〕「恐ニ美-人之—-暮ニ」。
㊂おそくなる、おくるゝ。○〔南〕「稽-—不レ進」。

〔委遲〕廻りて遠き貌にいふ語。○〔詩〕「周-道——」。
〔棲遲〕休息す、いこふ。○〔詩〕「可ニ以—-—ニ」。
〔陵遲〕丘陵の形勢漸くゆるやかなるにて轉じてものゝ漸く衰頽するの意をあらはすに用ふる語。○〔淮〕「山—-—故能高」。
〔淹遲〕兵學上の語にて敵のちかづきせまるもうごかざるをいふ。○〔兵略〕「敵迫而不レ動、名レ之曰ニ—-—ニ」。
〔舒遲〕ゆるやかなること。○〔禮〕「君-子之容—-—」。
〔稽遲〕とゞまりてゆかず。○〔南〕「宜—-—不レ進」。
〔工遲〕たくみなれどもすみやかならざること。○〔舊唐〕「不レ貴ニ—-—ニ」。
〔巧遲〕前に同じ。○〔李衛公問答〕「不レ聞ニ—-—ニ」。
〔淹遲〕ゆるやかにして急疾ならざること。○〔西京雜記〕「相-如製-作—-—」。

【遲】チ、ヂ。直利切 寘
㊀まつ（待）。○〔後漢〕「朕思ニ—ニ直-士ニ」。
㊁すなはち（乃）。○〔史〕「—令ニ韓魏歸ニ帝重ニ于齊ニ」。

【遳】サ。七禾切 歌
㊀行く貌にいふ字。
㊁—脆は、急躁なる貌にいふ語、せはし、さわぐ。（〔左思〕「鼻-貫—-脆」。

十二畫

【[辶+無]】ブ、ム。罔甫切 麌
あさ（迹）。

【[辶+焦]】セウ。子小切 篠
走る貌にいふ字。

【[辶+象]】シヤウ、ザウ。徐兩切 養
行く貌にいふ字。

【遴】リン。良刃切 震

㊀かたし(難)。○〔漢〕「誠難三以忍二不レ可二以一一」。
㊁むさぼる(貪)。○〔漢〕「晚節一、惟恐レ不レ足二于財一」。

【遴】レイ、リヤウ。離呈切 庚
えらぶ(選)。

【遵】シュン。將倫切 眞
したがふ。
(い)よる(循)。○〔詩〕「一二彼汝墳一」。
(ろ)行ふ、習ふ、法とる。○〔禮〕「大夫有二一者一、則入レ門左」。
〔遵遵〕のべしたがふ。○〔後漢〕「景帝能一二一孝道一」。
〔奉遵〕うけしたがふ。○〔後漢〕「一二一法度一」。
〔率遵〕したがふ。○〔水經、註〕「一二一舊制一」。

【[illegible]】サフ、ゼフ。士洽切 洽
行書の貌にいふ字。

【遶】ゼウ、而沼切 篠 セウ、寔照切 嘯
圍繞す、かこむ、めぐる、めぐらす。○〔五〕「電光來一」。

【遷】セン。七然切 先
㊀うつる。
(い)下きを去りて高きにゆく、のぼる。○〔詩〕「一二于喬木一」。
(ろ)此れを去りて彼れに之く、ゆく。○〔易〕「見レ善則一」。
(は)移轉す、うごく。○〔左〕「一一夕三一」。
(に)變易す、かはる。○〔張衡〕「俗一一渝」。
(ほ)離散す、はなる。○〔國〕「成而不レ一」。
(へ)退却す、しりぞく。○〔宋玉〕「一一延引レ身」。
㊁うつす。
(い)うつらしむ、のぼす、うごかす、かふ、はなす、しりぞく(㊀の條參照)。○〔禮〕「坐而一レ之」。
(ろ)交易す、さりかへる。○〔書〕「一二有・無一」。
(は)放逐す、おふ、はなつ。○〔書〕「何一二乎有苗一」。
㊂國都の移轉。○〔左〕「季文子如レ晉、賀レ一也」。
〔左遷〕官等を降貶す。○〔史〕「此一一也」。
〔超遷〕こえのぼす、こえうつる。○〔漢〕「今陛下以二嗇夫口辯一、而一二一之一」。
〔躐遷〕前に同じ。○〔老學庵筆記〕「輒一二一數官一」。
〔播遷〕うつること。○〔韋嗣立〕「相逢共一一」。
〔東遷〕ひがしの方にうつる。○〔左〕「我周之一一」。
〔富遷〕官等をのぼせうつすにあたる。○〔後漢〕「功滿一レ一」。
〔下遷〕官等の下位にうつること。○〔唐〕「愈既才高、數黜レ官、又一一」。
〔重遷〕うつることをはゞかる。○〔漢〕「安レ土一レ一」。
〔累遷〕官職のかさねてのぼりうつること。○〔漢〕「一二一諫大夫丞相司直一」。
〔轉遷〕かはりうつる。○〔王粲〕「循二秩自二百石一一一而至二於公一也」。
〔迭遷〕かはるぐうつす。○〔宋〕「其餘四廟親盡「一一」。
〔升遷〕のぼりうつる。○〔宋〕「以レ次一一」。
〔內遷〕內官にうつる。○〔宋〕「故恣不レ願二一一一」。
〔美遷〕よき官にうつる。○〔齊〕「故得二一一一」。
〔優遷〕前に同じ。○〔宋〕「乃無二一一非レ制也」。
〔斡遷〕めぐりうつる。○〔盧諶〕「知二時運之一一一」。

【[illegible]】
遷の本字。

【選】セン。先兗切 銑
簡擇す、よる、えらぶ。○〔詩〕「威儀棣棣不レ可レ一」。
〔博選〕ひろく擇ぶ。○〔戰〕「王誠一一二國中之賢者一」。
〔公選〕たゞしくえらぶ。○〔漢〕「郡國諸侯一二一賢良修絜博習之士一」。
〔精選〕あきらかにくはしくえらぶ。○〔晉〕「一二一賓友一」。
〔清選〕前に同じ。○〔晉〕「一二一官屬一」。
〔詳選〕前に同じ。○〔後漢〕「詔二有司一一二一郎官一」。「往」。
〔少選〕しばらくのあひだをいふ。○〔晉〕「一一復」
〔掄選〕はかりえらぶ。○〔九國志〕「一一有レ序」。
〔簡選〕前に同じ。○〔後漢〕「一二一良吏一」。
〔招選〕まねきえらぶ。○〔漢〕「一二一茂異一」。
〔妙選〕よきえらび。○〔南〕「時人以爲二一一一」。
〔美選〕前に同じ。○〔南〕「誠一一也」。
〔良選〕前に同じ。○〔北〕「實當時之一一也」。
〔嘉選〕前に同じ。○〔沈約〕「允膺二一一一」。
〔更選〕あらためえらぶ。○〔後漢〕「吏如二斑超一何故不レ遣而一一乎」。「淸平」。
〔察選〕あきらかにみわけえらぶ。○〔後漢〕「一一一」
〔辟選〕官職にめしえらぶ。○〔蔡邕〕「凡所二一一升二諸帝朝一者」。
〔徵選〕前に同じ。○〔吳〕「一一者不レ由二其道一」。
〔搜選〕さぐりえらぶ。○〔後漢〕「太子官屬宜レ一二一令德一」。
〔膺選〕えらびにあたる。○〔晉〕「以二名家一レ一」。
〔當選〕前に同じ。○〔唐〕「人人自謂一レ一」。
〔別選〕特別にえらぶ。○〔書〕「一一二善射者一」。
〔拔選〕すぐれたるものを羣衆中よりぬきえらぶ。○〔唐〕「勞二神于一一一」。
〔愼選〕えらびに注意しおろそかにせず。○〔宋〕「當二一二其一一以見二朕意一」。
〔蒐選〕あつめえらぶ。○〔李蕭〕「文・固侔二一一一」。
〔俊選〕すぐれたるもの、よりぬき。○〔梁元帝〕「揚二王庭之一一一」。
〔殊選〕特選といふに同じ、特別の選擇。○〔蘇軾〕「皆人臣之一一」。

【選】セン。思絹切 霰
㊀えらびて官職に任ず、えらぶ、あぐ。○〔禮〕「論二秀士一升二之司徒一、曰二一士一」。
㊁環舞す、めぐりまふ。○詩一「舞則一兮」。
〔鄉選〕一鄉中で官吏にえらびはかる。○〔魏〕「雖曰二一一高第一、猶是郡吏耳」。
〔魁選〕第一等の秀士に論選す。○〔宋〕「同試二博學宏詞科一、中二一一一」。
〔擧選〕秀才進士などにあぐること。○〔韓愈〕「半世遑遑就二一一一」。

【選】サン。思管切 旱
かぞふ(算)。○〔書〕「世一二爾勞一」。

【選】サツ、セチ。數滑切 黠
金一一は、銖兩の名。○〔漢〕「甫・刑之屬、小過赦、薄罪贖、有二金一一之品一」。

【選】
萬に同じ。○〔山海經〕「五億十一一九千八百步」。

【選】
巽に同じ、よわし。○〔後漢〕「一一懦之思、知レ非二國典一」。

【[illegible]】チュウ、耻仲切 送 シュウ、チュ。
チュ。切 昌中切 東
のがる(逸)。

【遹】イツ、イチ。餘律切 質
㊀したがふ(循)、のぶ(述)。○〔書〕「祇一二乃文考一」。
㊁發語に用ふる字、こゝに。○〔詩〕「一駿有レ聲」。
〔律遹〕のぶ。○〔國〕「一一述也」。

【遹】シュツ、ジュツ。食律切 質
よこしま(邪)。○〔詩〕「謀猶回一」。

【遺】ヰ。以追切 支

㊀すつ、(棄)。○〔易〕「不二遐―一」。
㊁すたる、(廢)。○〔呂氏春秋〕「觀-樂無レ―」。
㊂わする、(忘)。○〔詩〕「棄レ予如レ―」。
㊃うす、うしなふ、(失)。○〔漢〕「功不レ―」。
㊄ぬく、ぬかる、(脫)。○〔武帝內傳〕「無二一-字―-落一」。「而―レ泣」。
㊅おつ、おとす、(落)。○〔楚辭〕「目眇-々
㊆とゞまる、(留)、のこる、(餘)。○〔禮〕「有二―音一者矣」。
㊇とゞむ、(留)、のこす、(餘)。○〔書〕「寧-王―二我大寶-龜一」。
㊈ておち、ぬかり、すたり、又、あまり、のこり。○〔史〕「拾レ―補レ過」。
㊉いばり、(便-旋)。○〔漢〕「小―二殿-上一」。
⑪なゝめに行く。○〔戰〕「出二――之門一」。
〔孑遺〕のこしとゞむ。○〔詩〕「靡レ有二―-―一」。
〔賸遺〕のこれのこる。○〔漢〕「靡レ有二―-―一矣」。
〔滯遺〕とゞこほりとゞまる。○〔王播碑〕「物無二―-―一」。

【遺】 井。以醉切 〔寘〕
贈投す、やる、つかはす、おくる。○〔左〕「詩以―レ之」。

【遺】 ス井、ズ井。旬爲切 〔支〕
隨に同じ、したがふ、へりくだる。○〔詩〕「莫二肯下―-―一」。

【[illegible]】 ヘン。布千切 〔支〕
繩墨を振ふにいふ字、一說に、行くを絕えざるにいふ字。

【遻】 ゴ、グ。五故切 〔遇〕
たまく、會遇す、みる、あふ。○〔楚辭〕「重-華不レ可レ―兮」。

【遌】 ガク。逆各切 〔藥〕
㊀愕に同じ、おどろく。㊁噩に同じ、あふ、さからふ。㊂ふる、(觸)。○〔馬融〕「掌-距劫―」。

【遼】 レウ。落蕭切 〔蕭〕
さほし、はるか、(遠)。○〔楚辭〕「山修-遠其―-―兮」。
〔迥遼〕遙遠の貌にいふ語。○〔陸雲〕「望二故-疇之―-―兮」。
〔阻遼〕へだたりはるかなり。○〔傅亮〕「怨二故-鄕之―-―一」。
〔廣遼〕ひろやかにはるかなり。○〔雲笈七籤〕「風生二―-―一」。

【[illegible]】 井。以委切 〔紙〕
逶に同じ。○〔漢逢盛碑〕「當-遂―-迤」。

十三畫

【遽】 キョ、ゴ。其據切 〔御〕
㊀急疾、卒然、すみやか、にはか、さし、あわたゞし、いそがし。○〔左〕「―見レ之」。㊁あわつ。(い)急卒なる擧措をなす。○〔後漢〕「未三嘗疾-言―-色一」。(ろ)驚愕して擧措を失す、をのゝく、おそる、くるしむ、あわてまごふ、うろつく。○〔左〕「豈不二―止一」。㊂驛遽、たゆくつぎ、たゆくば。○〔列〕「使二―-人謂一レ之」。㊃驛遽よりつぎたつる車馬人夫。○〔左〕「且使三―告二于鄭一」。
〔乘遽〕驛車にのる。○〔左〕「―レ―而至」。
〔卒遽〕急遽といふに同じ、にはかなること。○〔漢〕「御-史大-夫―-―不レ能二辯-知一」。
〔忽遽〕前に同じ。○〔南〕「實爲二―-―一」。
〔淩遽〕ふるひおそる。○〔淮〕「虎豹之―-―」。
〔怖遽〕をのゝきおそる。○〔魏、註〕「豐―-―氣索」。
〔惶遽〕前に同じ。○〔吳、註〕「―-―無二以自明一」。
〔怱遽〕怱卒急遽なること。○〔南〕「―-―而罷」。

【遽】 キョ、求於切 〔魚〕 ク、權倶切 〔虞〕
―麥は、なでしこ。

【遾】 セイ、ゼイ。時制切 〔霽〕
㊀およぶ、(逮)。㊁さほし、(遠)。

【避】 ヒ、ビ。毗義切 〔寘〕
さく。(い)迴り去る、ひきかへす。○〔史〕「望二見廉-頗一、引レ車―-匿」。(ろ)隱遁す、のがる。○〔後漢〕「―レ地教-授」。(は)退く。○〔呂氏春秋〕「―レ席再-拜」。(に)違ふ。○〔國〕「無二乃實有一レ所レ―」。(ほ)免る。○〔呂氏春秋〕「以―レ死」。(へ)憚る。○〔漢〕「廣在レ軍匈-奴號曰二飛-將-軍一、―レ之」
〔回避〕さく。○〔漢〕「無レ所二―-―一」。
〔逃避〕のがれさく。○〔詩、疏〕「無レ所二―-―一」。
〔遁避〕前に同じ。○〔唐彥謙〕「―-―亦無レ術」。
〔辭避〕ことわりのがる。○〔宋〕「吾受二君-命一、未二嘗―-―一」。
〔退避〕しりぞきのがる。○〔漢〕「會乞二骸-骨一欲二―-―之一」。
〔畏避〕おそれさく。○〔漢〕「自二郡-吏一以-下皆―-―一」。
〔隱避〕のがれかくる。○〔後漢〕「―-―林-藪一」。
〔遜避〕へりくだりさく。○〔余靖〕「無レ從二―-―一」。
〔忌避〕いみはゞかりてさくること。○〔魏〕「無レ所二―-―一」。
〔憚避〕前に同じ。○〔唐〕「施-々無二―-―一」。
〔走避〕はせさく。○〔唐〕「觀二其―-―一則樂」。
〔旋避〕めぐる。○〔裴度〕「神-魚鼓-舞而―-―」。

【[illegible]】 クワイ、エ。胡外切 〔泰〕
めぐる、(匝)。

【[illegible]】 セン。七漸切 〔琰〕
近づかんと欲する貌にいふ字。

【[illegible]】 セン、ゼン。時豔切 〔豔〕
速かに行く貌にいふ字。

【[illegible]】 セン、似面切 〔霰〕 ゼン。切 エン。以然切 〔先〕
㊀行く貌にいふ字。㊁さへぎる、(遮)、うつる、(移)。

【邀】 エウ。于宵切 〔蕭〕
むかふ。(い)まちうく、(遮)。○〔晉〕「王-弘令下潛故-人賷二酒于半-道一―上レ之」。(ろ)まねく、(招)。○〔李白〕「擧レ杯―二明-月一」。(は)もとむ、(要)。○〔唐〕「重―レ之」。
〔招邀〕まねく。○〔李白〕「―-―靑雲客」。
〔遮邀〕さへぎりむかふ。○〔舊唐〕「莫二敢―-―一」。
〔固邀〕かたくさへぎる。○〔元〕「―-―與宿」。

【邁】 バイ、マイ。莫敗切 〔卦〕
㊀ゆく。(い)遠きに行く。○〔詩〕「行―靡-々」。(ろ)巡行す、めぐる。○〔詩〕「時―二其邦一」。(は)去る。○〔詩〕「從二公于―一」。(に)すぐ、㊁の(い)(ろ)に同じ。㊁すぐ。(い)過ぐ。○〔詩〕「後予―焉」。(ろ)老ゆ。○〔後漢〕「年-齒之不レ―」。(は)超す、すぐる。○〔魏〕「三-王可レ―、五-帝可レ越」。㊂勇往す、力行す、つとむ。○〔書〕「―種レ德」。

四顧みざる貌にいふ字。○〔詩〕「視レ我ーー」。

（衰邁）老衰のこと。○〔杜甫〕「ーー久ニ風塵ニ」。

（朽邁）前に同じ。○〔晉〕「臣雖ニーー、敢忘ニ前言ニ」。

（儁邁）まさりすぐる。○〔晉〕「神情ーー」。

（深邁）前に同じ。○〔北〕「主上天姿ーー」。

（俊邁）前に同じ。○〔宋〕「辭氣ーー」。

（英邁）前に同じ。○〔宋〕「高明ーー」。

（豪邁）前に同じ。○〔宋〕「氣節ーー」。

（流邁）すぎ去る。○〔韋曜〕「古之志士悼ニ年齒之ーーニ」。

（陵邁）他をおかしこのぎて勇往す。○〔晉〕「ーー超越」。

（爽邁）心性などのあきらかにすぐれたること。○〔晉〕「ーー不羣」。

（騁邁）はせゆく。○〔晉〕「水陸ーー」。

（馳邁）前に同じ。○〔高唐賦〕「安奔走而ーー」。

（抗邁）他と抗敵してくだらず。○〔晉〕「才氣ーー」。

（高邁）俗にすぐれこえたること。○〔晉〕「楷風神ーー」。

（矜邁）ほこりおごる。○〔晉〕「厚自ーー」。

（傲邁）前に同じ。○〔晉〕「神氣ーー」。

（迅邁）とく往く。○〔晉〕「日月ーー」。

（閑邁）ひろくすぐる。○〔宋〕「才略ーー」。

（超邁）こえすぐる。○〔梁〕「ーーニ今古ニ」。

（放邁）ほしいまゝにしてかゝはらず。○〔北〕「ーー自高」。

（瑰邁）めづらしくすぐる。○〔唐〕「ーー奇古」。

（敏邁）聰達にしてすぐる。○〔東軒筆錄〕「才力ーー」。

（迴邁）めぐりゆく。○〔陸雲〕「日月ーー」。

（逝邁）遠くゆく。○〔潘岳〕「辭ニ京華ニ兮ーー」。

【𨘷】サク、ザク。在各切 藥

鑿に同じ。

【蕩】タウ、ダウ。徒郞切 陽

すぐ（過）。

【邂】カイ、ゲ。胡懈切 卦

逅の字の條を見よ。

【邂】カイ、ゲ。下買切 蟹 戸佳切 佳

ー逅は、悅ぶ貌にいふ語。

【邃】スヰ。雖遂切 寘

深遠なり、ふかし、とほし、おくふかし。○〔禮〕「十有二旒前後ー延」。

（深邃）深遠なること。○〔梁簡文帝〕「壽門ーー」。

（幽邃）前に同じ。○〔誠齋雜記〕「東南入レ洞ーー莫レ測」。

（祕邃）前に同じ。○〔于鄴〕「林塘ーー」。

（冲邃）ふかし。○〔晉〕「道德ーー」。

（閑邃）擧動などのしづかにして輕卒ならざること、又、屋宇の深遠にしてしづかなるにもいふ。○〔魏〕「擧止ーー」。

（沈邃）性質識量などのあさはかならずして深遠なるにいふ語。○〔唐〕「ーー有ニ器局ニ」。

（崇邃）崇高深遠なること。○〔唐〕「陛下獻ニーーニ」。

（高邃）前に同じ。○〔李賀〕「蟬子鳴ニーーニ」。

（淸邃）きよらかにふかし。○〔元〕「孟頫詩文ーー奇逸」。

（神邃）邃妙深遠なること。○〔拾遺記〕「頗參ニーーニ」。

（嶮邃）けはしくふかし。○〔水經註〕「澗狹甚ーー」。

（杳邃）深奧なること。○〔水經註〕「四周ーー」。

（靜邃）しづかにしておくふかし。○〔梅堯臣〕「ーー無塵地」。

【還】クワン、ゲン。戸關切 刪

㊀かへる。

（い）復歸す、もとにたちかへる、もとにもどる、もとにをさまる、もとの如くになる。○〔史〕「臣固知ニ公子之ーーニ」。

（ろ）退く。○〔儀〕「主人答拜ー」。

（は）顧みる。○〔左〕「無レ所ニーー忌ニ」。

（に）回る、めぐる。○〔穆天子傳〕「河水之所ニ南ーーニ」。

（ほ）歸路に就く、故棲に戻る、もどる。○〔陶潛〕「鳥倦レ飛而知レー」。

㊁かへす。

（い）かへらしむ（㊀の條參照）。○〔莊〕「巨魚無レ所レーニ其體ニ」。

（ろ）故主に致す。○〔周〕「ーーレ圭」。

（は）償ふ。○〔吳〕「後豪富相ー」。

（に）眼睛を反轉す、みまはす。○〔國〕「視無レー」。

㊂環に同じ、めぐる、めぐらす。○〔漢〕「ーレ廬樹レ桑」。

㊃かへりて、ふたゝび、また。○〔荀〕「王業ー起」。

（生還）いきてかへりきたる。○〔劉長卿〕「誰料得ニーーニ」。

（往還）ゆき去るとかへりきたると。○〔劉長卿〕「田家或ーー」。

（徵還）政府より官吏の地方にある者をよびかへすこと。○〔後漢〕「ーーニ京師ニ」。

（外還）そとよりかへりきたる。○〔南〕「ーー見レ之」。

【還】セン、ゼン。似宣切 先

㊀旋に同じ、めぐる、めぐらす。○〔禮〕「五行四時十二月、ー相ニ爲本ー也」。

㊁便捷の貌にいふ字、さとし、はやし、すばやし。○〔詩〕「子之ー兮」。

㊂すなはち（卽）。○〔漢〕「此皆可レ使ニー至而立效ニ」。

（周還）まろくめぐる。○〔禮〕「ーー中レ規」。

（折還）をれめぐる。○〔禮〕「ーー中レ矩」。

【還】クワン、ゲン。胡慣切 諫

めぐる（繞）、かこむ（圍）。○〔司馬相如〕「旋ニーー乎後宮ニ」。

【邅】テン。張連切 先

行くを難んじ進まざる貌にいふ字、たちもとほる、ゆきなやむ。○〔易〕「屯如ー如」。

（回邅）たちもとほる。○〔梁簡文帝〕「此地獨ーー」。

【邅】テン、デン。持碾切 霰

めぐる（轉）、又、おふ（逐）。○〔屈平〕「ー吾道ニ夫崑崙ニ」。

【邅】セン、ゼン。除善切 銑

うつる（移）、又、めぐる（循）。

【[illegible]】テキ、ヂヤク。徒歷切 錫　ライ、レイ。力罪切 賄　トク、ドク。徒沃切 沃

あめ（雨）、又、あめ降る貌にいふ字。

【邆】トウ、ドウ。徒登切 蒸

ー賧詔は、六詔の一。○〔唐〕「六詔、四曰、ー賧詔」。

【邎】イウ、ユ。以周切 尤

貴き玉。

十四畫

【邇】ジ、ニ。兒氏切 紙

ちかし、ちかづく（近）。○〔書〕「柔レ遠能レー」。

（發邇）ちかきよりおこる。○〔易〕「行ーニ乎ー見ニ乎遠ニ」。

（柔邇）ちかきをやすんず。○〔晉〕「可ニ以ーー」。

（鎭邇）前に同じ。○〔陸機〕「柔レ遠ーレー」。

（遠邇）とほきと近きと。○〔書〕「無レ有ニーーニ」。

（遐邇）前に同じ。○〔晉〕「ーー寧泰」。

（嚮邇）むかひちかづく。○〔左〕「不レ可ニーーニ」。

【[illegible]】クワイ、エ。黃外切 泰　カイ、ガイ。下蓋切 泰　ケン、ゲン。形電切 霰

違ふをなきにいふ字。

【邂】テキ、チヤク。他歷切 錫
たどる、(躍)。

【遷】サフ、セフ。色洽切 洽
疾く行く。

【邈】バク、ミヤク。莫角切 覺
㊀渺遠、とほし、はるか。○〔屈平〕「一不レ可レ慕也」。
㊁もだえうれふる貌にいふ字。○〔爾、註〕「一一憂悶」。
㊂輕視する貌にいふ字、あなどる、さのぐ、かろんず。○〔陸機〕「振レ景拔レ迹、顧一二同列一」。
(懸邈) はるかにかけへだたる。○〔晉〕「而位邈一一」。
(悠邈) 極めてはるかなり。○〔嵇康〕「千里既一一」。
(絕邈) 前に同じ。○〔王粲〕「楚々一一」。
(宏邈) ひろく遠し。○〔晉〕「安平風度一一」。
(曠邈) 前に同じ。○〔楊炯〕「佇二閒庭之一一一」。
(綿邈) ながくはるかなり。○〔晉〕「年代一一」。
(淵邈) 深遠なること。○〔阮籍〕「弘修一一晉」。
(沖邈) 前に同じ。○〔梁武帝〕「雅量一一」。
(高邈) 高尙深遠なること。○〔王禹偁〕「安得レ成二一一一」。
(崇邈) 前に同じ。○〔張華〕「抗二行一一一」。
(遐邈) はるかなり。○〔法苑珠林〕「聖德一一」。
(遼邈) 前に同じ。○〔陸游〕「山川一一敝二衣裘一」。
(邃邈) 前に同じ。○〔殷羽〕「爲レ君拂二一一一」。
(隆邈) 隆盛にして長久なり。○〔沈約〕「寶祚一一」。
(淸邈) きよらかにはるかなり。○〔沈約〕「道風一一」。
(澄邈) 前に同じ。○〔雲笈七籤〕「心胖一一」。

十五畫

【遺】トク、ドク。徒谷切 屋
㊀ならふ、(慣)。㊁なる、(媟)。㊂かふ、(易)。㊃しばしば、(數)。

【邊】ヘン。卑眠切 先
㊀ほとり。
(い)境域、さかひ、くにざかひ。○〔左〕「搖二蕩我一疆一」。
(ろ)遠鄙、かたほとり、ゐなか。○〔禮〕「其在二一邑一」。
(は)近傍、そば、あたり。○〔晉〕「不レ聞下從二日一一來上」。
(に)偏側、かたはら、かたそば。○〔禮〕「不二以一坐一」。
(ほ)際限、かぎり、はて。○〔齊〕「無レ始「無レ一」。
(へ)畔涯、きし。○〔郭璞〕「生二于河一一」。
㊁相接す、つゞく。○〔史〕「齊一レ楚」。
(道邊) みちのほとり。○〔晉〕「樹在二一一而多レ子、必苦李也」。
(水邊) みづぎし。○〔杜甫〕「長安一一多二麗人一」。
(籬邊) まがきのかたはら。○〔杜甫〕「一一老却陶潛菊」。
(池邊) いけのほとり。○〔賈島〕「鳥宿二一一樹一」。
(四邊) 四方のほとり。○〔張謂〕「官舍一一多レ種レ竹」。
(待邊) 國境の地にありてまつ。○〔漢〕「天子自將レ一一」。
(守邊) 國境をまもりたもつ。○〔後漢〕「一レ一之術」。
(保邊) 前に同じ。○〔舊唐〕「練レ卒一レ一」。
(近邊) 國境にちかづく。○〔漢〕「不二敢一レ一」。
(備邊) 國境にそなふ。○〔後漢〕「以二一北一一」。
(綏邊) 邊境の地をやすんず。○〔吳〕「一レ一撫レ裔」。
(靜邊) 前に同じ。○〔晉〕「毎欲二深レ根固レ本一レ一寧レ國」。
(寧邊) 前に同じ。○〔北齊〕「靜レ境一レ一」。
(靖邊) 前に同じ。○〔白居易〕「一一之要」。
(岸邊) きしべ。○〔姚合〕「洛水寒光出二一一一」。
(捍邊) 國境をふせぎまもる。○〔宋〕「而損レ睚一レ一」。
(赴邊) 邊境の地におもむく。○〔北齊〕「及二隨レ父一レ一」。
(馭邊) 邊境の地をしずめ治む。○〔北〕「善二於一一」。
(鎭邊) 前に同じ。○〔舊唐〕「爲レ我一レ一」。

【邋】レフ、ロフ。良涉切 葉
㊀くじく、(擸)。㊁ゆく、(邁)。㊂旌旗の動搖する貌にいふ字。○〔石鼓文〕「一一員斿」。

【邌】ラフ、ロフ。盧遝切 合
一邌は、行く貌にいふ語。

【邌】レイ、ライ。郞奚切 齊
おそし、(徐)、又、徐行する貌にいふ字。

十六畫

【邍】ゲン、グワン。愚袁切 元
廣平なる原野、はら。○〔周〕「一師掌二四方之地名一」。

【邎】邍の本字。○〔後漢〕「一二名賢之高風一」。

【邐】レキ、リヤク。狼狄切 錫
ちかし、(近)。

十七畫

【䢞】イウ、ユ。以周切 尤 エウ。餘招切 蕭
疾く行く。

【邎】ヤク。以斫切 藥
はるか、(逴)。

十八畫

【𨘥】ヨク、エキ、與職切 職
疾く趨る、はしる。

【𨙀】ゼフ、子フ。而涉切 葉
行く貌にいふ字。

【邁】チユ、ツ。中句切 遇 チヨウ、チユ。丑凶切 冬
㊀行かず、とゞまる。
㊁馬の行かざる貌にいふ字。

十九

【邏】ラ。郞佐切 箇 郞可切 哿 何歌切 歌
㊀めぐる。
(い)巡行して偵察す、みまはる。○〔晉〕「宜二遠偵一一」。
(ろ)山色の環繞するにいふ字。○〔杜甫〕「春山紫一長」。
㊁游兵、游偵、みまはり、しのび。○〔晉〕「戍一一減二半分一以墾レ田」。
(搜邏) さぐる。○〔蘇舜欽〕「胸中强一一」。
(夜邏) よるの游偵。○〔葉適〕「一一無二驚音一」。
(偵邏) しのびめぐりて敵狀をさぐるもの。○〔後漢〕「爲二郡縣一一耳目一」。
(游邏) 敵狀偵察の兵。○〔宋〕「一一退走」。
(候邏) 前に同じ。○〔唐〕「一一不レ知」。
(烽邏) 敵兵に對する烽火と偵察と。○〔唐〕「乃嚴二一一一」。
(衙邏) ちまたをみまはる兵士。○〔宋〕「一一不レ能レ制」。
(覘邏) 敵狀をうかがひさぐる、又、其の者。○〔遼〕「更迭一一」。
(警邏) 警備のため巡偵す、又、其の者。○〔元〕「一二一釣魚山一」。

【邐】リ。力紙切 紙
連延す、つらなる、つゞく、めぐる。○〔梁簡文帝〕「迤一觀二鴻翼一」。

二十畫

【𨙻】ワク。王縛切 藥

㊀行きて住どまらざるにいふ字。㊁めぐる、(周旋)。

邑部(阝)

【邑】イフ、オフ。乙及切 [緝]
㊀人の聚會して住める地、大いなる聚落、むら、おほむら。○[周]「掌ㇾ比ニ其—之衆寡ニ」。㊁君王の宮居なき都會、みやこ。○[爾]「—外謂ニ之郊ニ」。㊂大夫の采地、ちぎやうしよ。○[周]「以ニ家—之田ニ任ニ稍地ニ」。㊃くに。(い)君王の直隸地、卽ち、畿甸。○[書]「率割ニ夏—ニ」。(ろ)諸侯の食封地、卽ち、侯國。○[詩]「作ニ—于豐ニ」。㊄悒に同じ、うれふ。○[史]「安能——待ニ數-百-年ニ」。
(於邑) 悲みて氣逆ひ結ぼれ下らざるにいふ字、むせぶ。○[楚辭]「——而不ㇾ可ㇾ止」。
(大邑) 廣大なる都邑。○[書]「今朕作ニ——于玆洛ニ」。
(食邑) 采邑といふに同じ、ちぎやうの土地。○[漢]「下乃——」。
(皇邑) 帝都のこと。○[魏、詰]「淸-晨發ニ——ニ」。
(井邑) 村落都邑のこと。○[五]「——凋零」。
(都邑) みやこ、又、都會の地。○[禮]「仲-秋之月、可ㇾ以築ニ城-郭ニ建ニ——ニ」。
(立邑) むらをたて設く。○[禮]「置ㇾ都—ㇾ—」。
(敝邑) 自國を他に對して稱する謙辭。○[左]「以ニ——之爲ニ盟-主ニ」。
(宗邑) 宗廟所在の地。○[左]「——無ㇾ主」。
(村邑) 大小の村落。○[南]「所ㇾ經——恣ニ行暴-害ニ」。
(爵邑) 官位と采邑と。○[史]「然大-王能饒ㇾ人以ニ——ニ」。
(通邑) 四方に通ずる都會の地。○[溫庭筠]「勝-地當ニ——ニ」。
(城邑) 城市都邑。○[漢]「以ニ天-下——ニ封ニ功-臣ニ何不ㇾ服」。
(京邑) みやこ。○[北]「——憚ㇾ之」。
(邊邑) 國境のむら。○[李白]「——無ニ遺-堵ニ」。
(湯沐邑) 皇帝諸侯などの沐浴の料に備ふる直隸の采地。○[史]「其以ㇾ沛爲ニ朕———ニ」。
(朝宿邑) 皇帝より諸侯の大功ある者に對し入朝の際宿泊に供するために京郊のうちに賜はる采地。○[公羊]「天-子之郊諸-侯皆有ニ———ニ」。

【邑】アフ、オフ。遏合切 [合]
人の意を迎へ合はす、おもねる。○[漢]「以ㇾ智阿ニ—人-主ニ與倶上-下」。○

二畫

【⿰十阝】シフ、ジフ。是執切 [緝]
—邡は、蜀にある縣の名。

三畫

【邔】キ、墟里切 [紙] ギ。渠記切 [寘]
縣の名、今の襄州府。○[後漢]「爲ニ—侯ニ」。

【邕】ヨウ、ユ。於容切 [冬]
㊀四方に水めぐれる地、又、四方に水めぐる。○[說文]「邑四-方有ㇾ水、自—ニ城地ニ者是也」。㊁壅に同じ、ふさぐ。○[漢]「—ニ河-水ニ不ㇾ流」。㊂雍に同じ、やはらぐ。○[晉]「閨-門——穆」。
(邕々) やはらぐ貌にいふ語。○[傅咸]「音——而有ㇾ序」。

【邗】カン。胡安切 [寒]
吳の地の名。○[左]「吳城ㇾ—溝通ニ江淮ニ」。

【邗】カン。居寒切 [寒]
越の別名。

【邘】ウ、ヲ。羽倶切 [虞]
㊀周の武王の子の封ぜられたる國の名。○[史]「明-年伐ㇾ—」。㊁地の名。○[左]「王取ニ鄔劉蔿—之田于鄭ニ」。

【邙】バウ、マウ。莫郎切 [陽]
河南省河南府の北に橫たはれる山の名、貴人名士の墳墓多し、卽ち、北—山。○[韓愈]「居ニ嵩—瀍穀之閒ニ」。

【邛】キョウ、グ。渠容切 [冬]
㊀地の名、又、水の名。㊁丘の名。○[詩]「—有ニ旨-苕ニ」。㊂つかる、(勞)、やむ、(病)。○[詩]「我視ニ謀-猶ニ亦孔之—」。

四畫

【邞】フ、ホ。甫無切 [虞]
琅琊郡にある地の名。

【⿰巿阝】ハイ。普蓋切 [泰]
沛に同じ。

【邠】ヒン。府巾切 [眞]
㊀豳に同じ、古昔周の大王の國、今の陝西省の西安府の北にあり。○[孟]「大-王居ㇾ—」。㊁彬に同じ、文ある貌にいふ字。○[揚雄]「斐-如—-如」。

【⿰支阝】
岐に同じ。○[漢]「大-王建ニ國於—-梁ニ」。

【⿰支阝】シ。章移切 [支]
義陽にある邑の名。

【邡】ハウ。府良切 [陽]
⿰十阝—は、蜀の縣の名。○[後漢]「拜ニ什-—令ニ」。

【邡】ハウ。敷亮切 [漾]
訪に通じ用ふ。○[穀梁]「—ㇾ公也」。

【邢】ケイ、ギヤウ。戸經切 [靑]
周公の子の封ぜられたる國、今の直隸省順德府。○[左]「鄭人—人」。

【邢】カウ、キヤウ。古幸切 [梗]
河東にある鄉の名。○[史]「祖-乙遷ニ于—ニ」。

【那】ダ、ナ。諾何切 [歌]
㊀なに、なんぞ、(何)。○[左]「棄ㇾ甲則—」。㊁おほし、(多)。○[詩]「受ㇾ福不ㇾ—」。㊂安き貌にいふ字。○[詩]「有ニ—其居ニ」。
(禪那) 佛語にて寂照不二の義を表す。○[王安石]「曾習ニ——ニ閒ニ色-空ニ」。
(伽那) 象の異名。○[北戶錄]「象一名ニ——ニ」。
(阿那) 一に婀娜につくる、たをやかなる貌にいふ語。○[焦仲卿]「——隨ㇾ風轉」。
(刹那) 時の極めてすくなきをいふ。○[蘇軾]「一劫七日、——三-世」。

【那】ダ、ナ。奴可切 [哿]
なに、(何)。○[玉篇]「俗言ニ—事ニ」。

【那】ダ、ナ。奴箇切 [箇]
句に添ふる助字。○[後漢]「公是韓-伯-休—」。

【邢】邢の本字。

【邡】キン、コン。許斤切 文　ケン、コン。虛言切 元
さなり(鄰)。

【䢵】鄖に同じ。○[左]「若-敖娶二於一-一」。

【邥】シン。式任切 寝
地の名。○[北]「敗二戎于一-垂一」。

【邦】ハウ、ホウ。博江切 江
くに。
(い)大國。○[周]「治二一-國一」。
(ろ)諸侯の封土。○[書]「乃命二諸-王一-一之蔡一」。
〔建邦〕くにをたておく。○(書)「昔先-王一レ一啓レ土」。
〔經邦〕邦國を經理す。○(書)「論レ道一レ一」。
〔舊邦〕ふるくつたはりたるくに。○(詩)「周雖二一-一一」。
〔興邦〕國運を隆盛ならしむ。○(論)「一-言可二以一レ一」。
〔萬邦〕おほくのくに。○(書)「協二和一-一一」。
〔庶邦〕もろもろのくに。○(書)「一-一冢-君暨二百-工一、受二命于國一」。
〔保邦〕くにをまもりたつ。○(書)「一二一于未レ危」。

【邧】ゲン、グヮン。愚袁切 元　虞遠切 阮
秦の邑の名。○[左]「晉-侯代レ秦圍二一-新-城一」。

【邨】村に同じ、むら。

【邪】ジヤ、ゼ。似嗟切 麻
㊀不正直、姦佞、私曲、僞僻、よこしま、ねぢけ、わだかまり、いつはり。○[易]「閑レ一存二其誠一」。
㊁傾けると、斜なると、横に通ずると。○[釋名]「其文欹一一」。
㊂小人、兇者、不正の徒。○[史]「誅レ暴禁レ一」。
㊃惡熱を發せしむると、又、其の氣。○[素問]「皮-毛先受二一-氣一」。
〔去邪〕よこしまなるものをとりぞけさる。○(書)「一レ一勿レ疑」。
〔正邪〕たゞしきとたゞしからざると、又、たゞしからざるをたゞす。○(左)「刑以一レ一」。
〔塞邪〕よこしまをふせぎとゞむ。○(淮)「不レ足二以禁レ姦一レ一」。
〔止邪〕前に同じ。○(史)「禁レ姦一レ一」。
〔禁邪〕前に同じ。○(史)「誅レ暴一レ一」。
〔奇邪〕正しからぬ。○禮「雖レ有二一-一一」。
〔除邪〕よこしまなるものをのぞき去る。○(國)「湯以レ寬治レ民、而一二其一一」。
〔掩邪〕不正をおほひかくす。○(戰)「一二人之一一」。
〔姦邪〕よこしま、又、其の者。○(史)「設二刀-鋸一以禁二一-一一」。
〔讒邪〕よこしまにして善能をそしる、又、其の者。○(漢)「來二一-一之口一」。
〔纖邪〕すこしのよこしま。○(漢)「一-介之一」。
〔氛邪〕わるき妖氣の氣。○(漢)「一-一歲增」。
〔佞邪〕へつらひねぢけてよこしまなると、又、其の者。○(杜篤)「一-一之臣不レ列二於朝一」。
〔諂邪〕前に同じ。○(後漢)「而納二王-游-翁一-一之說一」。
〔羣邪〕おほくのよこしまなる者。○(後漢)「孤二立一-一之間一」。
〔違邪〕よこしまをはなる。○(後漢)「家知二一レ一歸レ正之路一」。
〔懷邪〕よこしまのこゝろをいだく。○(後漢)「一レ一之臣」。
〔挾邪〕前に同じ。○(蜀)「或一レ一以干レ榮」。
〔傾邪〕たゞしからざると。○(後漢)「事レ君無二一-一之謀一」。
〔彈邪〕よこしまなる者をとがめたゞす。○(魏、註)「一レ一以矯レ俗」。
〔伐邪〕よこしまなる者を討つ。○(晉)「執レ正一レ一」。
〔凶邪〕姦惡不正のもの。○(韓愈)「中-丞黙二一-一」。
〔忠邪〕忠義の者とよこしまなる者と。○(舊唐)「卜-一既辨」。
〔疵邪〕よこしまなる者をたすく。○(宋)「嫉レ正而一-一」。
〔匡邪〕まがれるを正す。○(文子)「一レ一以爲レ正」。

【邪】ヤ、エ。余遮切 麻
疑ひ問ふ意を表す字、か、や。○[莊]「父一母一、天乎、人乎」。
〔瑯邪〕今の山東省沂州府の舊稱。○(孟)「南放二於一-一一」。
〔莫邪〕古昔の名劍。○(戰)「雖二干-將一-一一、非レ得二人-力一則不レ能二割-劌一」。
〔耆邪〕椰子、やし。○(司馬相如)「留-落一-一」。
〔汙邪〕下地の田。○(史)「一-一滿レ車」。
〔呼韓邪〕匈奴の王の名。○(漢)「一-一-一單于來-朝」。

【邪】ヨ。羊諸切 魚
餘に同じ、あまり。○[史]「歸二一於終一」。

【邪】シヤ、ゼ。時遮切 麻
歸一一は、瑞氣。○[史]「如レ星非レ星、如レ雲非レ雲、名曰二歸一一一」。

【邪】サ。子可切 哿
ひだり(左)。○[漢]「一與二蕭-愼一爲レ鄰」。

【邫】古文の邦の字。○[洞靈經]「有二一-國一者」。

五畫

【邯】カン、ガン。胡安切 寒
㊀一-鄲は、戰國時代の趙の都、今の直隸省、廣平府の一縣、卽ち、一-山のつくる處の義。○[戰]「迎二戰一-鄲之下一」。
㊁甘肅省西寧府にある水の稱。○[後漢]「侯-霸復上置二東-西一-屯-田五-部一」。

【邯】カン、ゴン。胡甘切 覃
訷-一は漢の縣の名、樂浪郡にあり。

【邯】カン、ゴン。戶感切 感
一-淡は、里の名、豐かに盛んなる義。○[漢]「爲二一-淡里附-城一」。

【邰】タイ。土來切 灰
周の祖先后稷の封ぜられたる國、今の陝西省、西安府武功縣の五丈原なりといふ、一說に、同省鳳翔府郿縣の五丈原なりともいへり。○[詩]「卽二有一-家-室一」。

【邮】郵に同じ。

【邲】ヒツ、ビチ。毘必切 質
春秋時代の鄭の國の地名。○[左]「戰二于一-一」。

【邲】ヒ、ビ。兵媚切 寘
よし、うるはし(好)。

【邳】ヒ。貧悲切 支
地の名。

【邴】ヘイ、ビヤウ。兵永切 梗
㊀宋の下邑。
㊁鄭の地の名。○[左]「使二宛來歸一レ一」。
㊂丙に通じ作る、人の姓。
㊃和適の貌にいふ字。○[莊]「一-一乎其似レ喜乎」。

【郉】ヘイ、ヒヤウ。陂病切 敬　人の姓。○〔左〕「ー・洩爲レ右」。

【邵】セウ、ゼウ。時照切 嘯　❶邑の名。○〔左〕「戍二郟ーー一」。❷人の姓、召に通じ用ふ。○〔史〕「周ーー呂・望之功」。

【邶】ハイ、ベ。蒲昧切 隊　河南省衛輝府（古の朝歌）の北半の古稱。○〔詩、序〕「武・王克レ商、分二朝・歌一而・北謂二之ー一」。

【邶】ハイ、ヘ。補昧切 隊　齊の地の名。○〔左〕「齊與二晏・子ー・殿其鄙六・十一」。

【邸】テイ、タイ。都禮切 薺　❶諸侯王又は郡國の官屬吏員のやどるに設置せる京師の宿舍、やど。○〔漢〕「至レー而議レ之」。❷第宅、やしき。○〔南〕「以二北ーー一爲二建・章・宮一、南・第爲二長・楊・宮一」。❸逆旅、はたごや。○〔宋〕「因留二客・ーー」。❹そこ（底）。○〔爾〕「ー謂二之柢一」。❺もと（本）。○〔周〕「四・圭有レー、以祀レ天旅二上・帝一」。❻屛風。○〔周〕「張二氈・案一設二皇ーーー」。❼いたる（至）。○〔史〕「西ーー二瓠・口一」。❽ふる（觸）。○〔宋玉〕「ー二萼・葉一而振レ氣」。

（圭邸）圭璧のねもと。○〔周〕「兩・ーー有レー」。
（客邸）旅舍のこと。○〔戴士元〕「ーー又寒・食」。
（治邸）客舍をいとなみつくる。○〔史〕「其令諸・侯各ーニ泰・山下一」。
（築邸）前に同じ。○〔史〕「ーニ于長・安一」。
（立邸）前に同じ。○〔南〕「于二餘姚一ーレー」。
（設邸）前に同じ。○〔宋〕「ーニー京・師一」。
（官邸）官舍のこと。○〔後漢〕「爲設ニー・ー一」。
（舊邸）もとのやしき。○〔北〕「止二於ー・ー一」。
（列邸）列侯の邸舍。○〔宋〕「陛・下起レ自ニー・ー一」。
（龍邸）皇帝の宿舍。○〔元〕「爰從ニー・ー之潜一」。
（京邸）郡國朝宿のたびや。○〔說文〕「郡・國朝・宿舍在レー者、謂二之ー一」。
（御邸）帝王の宮邸。○〔鮑照〕「傾ニー・ー之粟一」。
（儲邸）府藏のこと。○〔王融〕「盈二衍ー・ー一」。
（峻邸）たかくそびゆる邸舍。○〔元稹〕「ー・ー儼相望」。
（蠻夷邸）外國の使臣などの爲めに京師に設けたる客舍。○〔漢〕「縣ニー・ー・ー門一」。

六畫

【邸】チ、ザ。陳知切 支　物の量。○〔周〕「絲三ーー」。

【邽】ケイ、ケ。古攜切 齊　漢の時代の縣の名、上ーーは、今の甘肅省秦州府に屬し、下ーーは、今の陝西省鳳翔府に屬せり。

【巷】カウ、コウ。呼絳切 絳　巷に同じ、里中の道、みち、こみち。

【邾】チユ。陟輸切 虞　晉の附庸國、卽ち、山東省兗州府の鄒縣。○〔春秋〕「公及二ー儀・父一盟二于蔑一」。

【邿】シ。書之切 支　❶春秋の時代の附庸國。○〔春秋〕「夏取レー」。❷山の名。○〔左〕「魏・絳欒・盈以二下・軍一克レー」。

【郁】イク、オク。於六切 屋　文章文物の盛んなる貌にいふ字。○〔史〕「其色ー・ー、其德嶷・々」。

（淑郁）香氣のさかんなること。○〔上林賦〕「酷・烈ー・ー」。
（芳郁）前に同じ。○〔宋〕「嘉・薦ー・ー」。
（馥郁）前に同じ。○〔遼〕「ー・ー久レ之」。
（芬郁）前に同じ。○〔梁昭明太子〕「名・香晚ー・ー」。
（紛郁）さかんにうつくしくあやある貌にいふ語。○〔宋〕「卿・雲ー・ー」。
（鬱郁）あやのさかんなる貌にいふ語。○〔梁簡文帝〕「覩二雲・龍之ー・ー一」。

【郃】カフ、コフ。侯閤切 合　ー・陽は、陝西省同州府の一縣、もと洽水流れ通じたりしが、其の流れ絶えたるより洽を郃となしたりといふ。○〔詩〕「在二ー之陽一」。

【郈】キ。過委切 紙　陸ーーは、山の名。○〔山海經〕「陸ーー之山」。

【郤】ケキ、キヤク。乞逆切 陌　郤に同じ。○〔莊〕「若二白・駒之過一ーー」。

【郅】シツ、シチ。職日切　チツ。陟栗切 質　❶いたる（至）。○〔史〕「文・王改レ制、爰周ーレ隆」。❷のぼる（登）。○〔揚雄〕「晉衛謂レ登曰レー」。

【郅】キツ、キチ。激質切 質　ー・偈は、竿杠の狀にいふ語。○〔揚雄〕「夭何旟・旐ー・偈之旖・旎也」。

【郇】シユン。相倫切 眞 諄　❶春秋の時代に晉の地にありし國の名。○〔詩〕「ー伯勞レ之」。❷陝西省にありし地名。○〔左〕「退二軍于ー一」。

【郇】クヮン、ゲン。戸關切 刪　人の姓。

【郲】ライ、レ。盧對切 隊　落猥切 賄　ー・陽は、縣の名。

【郈】コウ、グ。胡口切 有　胡溝切 尤　胡茂切 宥　晉の邑の名、今の山東省沂州府城の東にあり。○〔左〕「帥レ師圍レー」。

【邢】邢の本字。

【郊】カウ、ケウ。古肴切 肴　❶國外、邑外、郭外、くにそさ、むらそと、くるわそさ、ゐなか。○〔周〕「近ーー遠ーー」。❷境眕、さかひ。○〔戰〕「邯・鄲之ーー」。❸人家稀にて田野多き地、ゐなか、はら。○〔謝眺〕「當二春ーー一而徑平」。❹天地の祭祀、まつり。○〔康熙〕「故謂レ祀二天・地一爲レー」。

（四郊）都邑外の四方の野をいふ。○〔禮〕「ー・ー多レ壘」。
（近郊）邑外五十里までの地をいふ。○〔周〕「ー・ー十一」。
（遠郊）邑外五十里以上百里までの地をいふ。○〔周〕「ー・ー二十而三」。
（農郊）耕作をほどこしたる郊野。○〔上林賦〕「悉爲ニー・ー一」。
（禘郊）王者の大祭の名にて祖先のまつりと天地のまつりとをいふ。○〔國〕「天・子ー・ー之事、必自射二其牲一」。
（適郊）邑外の地卽ちゐなかに往く。○〔左〕「賓・孟ーレー」。
（出郊）前に同じ。○〔宋〕「一・日冒レ雪ー・ー」。
（大郊）王者の天をまつる名。○〔家語〕「魯無二冬・至ー・ー之事一」。

(天郊) 前に同じ。○〔後漢〕「正-月ーー夕牲」。
(地郊) 王者の地をまつる名。○〔晉〕「ーー所レ祭、曰二皇-地之祇一」。
(帝郊) 帝鄉といふに同じ、天上のと。○〔蘇軾〕「黃-龍遊二ーー一」。
(廣郊) ひろき郊野。○〔梁簡文帝〕「ーー彌-澤」。
(芳郊) 春ののはら。○〔王勃〕「ーー花-柳遍」。
(荒郊) あれはてたるさびしきのはら。○〔陸龜蒙〕「離-外是ーー」。

七畫

【郔】 エン。以然切 ［先］
㊀春秋時代の鄭の北地。○〔左〕「伐二鄭及ー一」。
㊁楚の地。○〔左〕「楚左-尹子-重侵レ宋、王待二諸ー一」。

【郕】 セイ、ジャウ。是征切 ［庚］
㊀春秋時代の國の名、後に魯の屬地となる。○〔左〕「衞師入レー」。
㊁鄭の地の名。○〔左〕「王與二鄭-人之田、溫、原、隰、ー一」。

【𨛬】 ト、ヅ。同都他 ［虞］ ジョ、ニョ。似魚切 ［魚］
邾の下邑。

【郖】 トウ、ヅ。當侯切 ［尤］
弘農縣の地名。

【郖】 トウ、ヅ。大透切 ［宥］
㊀前條に同じ。
㊁津の名。○〔魏〕「從二ー-津一渡」。

【郗】 チ。袖遲切 ［支］
㊀周の邑。㊁人の姓。

【郗】 キ、ケ。香依切 ［微］
節骨の閒、ふしあひ。

【䢅】 シン、ジン。植鄰切 ［眞］
國の名。○〔路史〕「苑-丘西-南四-十-里、有二ー-亭一」。

【郩】 サウ、セウ。所敎切 ［效］
畿甸の大夫の食邑。

【郚】 ゴ、グ。五乎切 ［虞］
㊀紀侯の邑の名。○〔春秋〕「遷二紀、郱、鄑、ー一」。
㊁魯の邑。○〔左〕「城レー」。

【郚】 ギョ、ゴ。牛居切 ［魚］
ー-鄉は、漢の縣の名。○〔漢〕「ーー鄉-侯閎」。

【郶】 邳に同じ。

【郛】 フ。芳無切 ［虞］
城郭、くるわ。○〔左〕「邾人鄭人伐レ宋入二其ー一」。

【郜】 カウ、コウ。古到切 ［號］ コク。姑沃切 ［沃］
㊀周の文王の子の封ぜられし國の名。山東省の中なりといふ。○〔左〕「ー、雍、曹、滕」。
㊁宋の邑。○〔春秋〕「辛-未取レー」。
㊂晉の邑。○〔左〕「焚二我箕、ー一」。

【郝】 カク。呵各切 ［藥］
㊀右扶風の鄠の盩厔の鄉の名。
㊁商の帝乙の末裔の姓。

【郝】 セキ、シャク。施隻切 ［陌］
㊀人の姓。○〔漢〕「衆-利-侯ーー賢」。
㊁人の名。○〔史〕「使三趙ーー約二事于秦一」。
㊂土を耕し解き散す、たがやす。

【郞】 ラウ。魯當切 ［陽］
㊀魯の亭の名。○〔春秋〕「費-伯帥レ師城レー」。
㊁官曹、つかさ、やくにん。○〔韻會〕「其諸-曹直曰レー」。
㊂男子の稱、をとこ、をのこ。○〔唐〕「僕閱レ人多矣、無下如二此ー一者上」。
㊃婦より夫の稱にいふ字、をっと、つま。○〔晉〕「天-壤之閒、乃有二王ーー一」。
㊄婢僕より主人の稱にいふ字。○〔唐〕「君非二其家-奴一何ー之云」。
㊅廊に通ず。○〔史〕「陛-下築二ーー臺一、恐二其不一レ高」。
(漁郞) 捕魚を業とする男。○〔許渾〕「却伴二ーー一把二釣-竿一」。
(檀郞) 婦のをっとを稱する語、又、僕の主人を稱するにもいふ。○〔李賀〕「ーー謝レ女眠二何處一」。
(遊冶郞) あそびにふけるのらくら者。○〔李白〕「岸-上誰家ーーー」。

【郟】 カフ、ケフ。古洽切 ［洽］
㊀ー鄏は、周の成王の鼎を定めたる處、今の河南省河南府の中なり。○〔左〕「成-王定二鼎于ー鄏一」。
㊁門外の室。○〔大戴禮〕「雍-人割二雞屋-下一、當二門ー-室一」。

【郠】 カウ、キヤウ。古杏切 ［梗］
莒の邑。○〔左〕「伐レ莒取レー」。

【郡】 グン、ゴン。渠運切 ［問］
人の羣衆せる場所の義、周以後の行政區劃の一、こほり、周にては縣の下に屬し四ーを一縣となすの定めなりしが、秦の天下を區劃して、三十六ーとなしゝより縣はーの下に屬するとなりぬ、隋唐以後廢置一ならざりしが宋と元とが府を州の下に設け、明の州を府に屬せしより遂に其の稱絕えぬ。○〔左〕「上-大-夫受レ縣、下-大-夫受レー」。
(邊郡) 邊境の郡をいふ。○〔漢〕「有二郡-徼一者、曰二ーー一」。
(舉郡) 郡の全部をいふ。○〔後漢〕「ーー莫レ不レ」「敢レ操」。
(荒郡) さびしくあれたる郡。○〔晉〕「凡ーー之人」「不レ眠」。
(拒郡) 郡によりて拒守す。○〔華陽國志〕「ーレー」。
(遐郡) 僻遠の郡。○〔宋之問〕「徒-緣レ滯二ーー一」。
(僻郡) 前に同じ。○〔蔡襄〕「海-隅ーー誰與語」。

【郢】 エイ、ヤウ。以整切 ［敬］
㊀春秋戰國時代の楚の都、今の湖北省荊州府。○〔公羊〕「南ーー之與レ鄭相去數-十-里」。
㊁節氣の名。○〔管〕「十-二-小-ー、十-二-中-ー」。

【郣】 ホツ、ボチ。蒲沒切 ［月］
㊀渤に同じ、海の名。
㊁地の隆起せる所の稱。

【郤】 ケキ、キヤク。綺戟切 ［陌］
㊀あふぐ(仰)。○〔儀〕「贊啓レ會ー二于敦南一」。
㊁閒隙、すきま、あひだ、ひま。○〔禮〕「諸-侯相二見ー-地一曰レ會」。
㊂怨隙、ひま、なかたがひ。○〔史〕「令二將-軍與レ臣有一レー」。
㊃骨と肉との交。○〔莊〕「批二大ーー導二大-窾一」。
(內郤) うちうちの怨隙。○〔史〕「多二ーー一」。
(無郤) 空隙なく完全なるをいふ。○〔莊〕「其神ーー」。

八畫

【郍】タウ。多朗切 [養]

㊀住居地、なりばしよ、一說に、五百家の稱。

㊁一聚落の長、をさ、かしら。

【⿱非邑】ハイ、蒲回切 [灰] ヒ、符非切 [微]

㊀郷の名。㊁人の姓。

【部】ホ、ブ。裴古切 [麌]

㊀總督す、すぶ。○[漢]「一二十三州一」。

㊁つかさ。

(い)總督、とりしまり。○[後漢]「柱-天都一一」。

(ろ)官署、やくしよ。○[後漢]「召詣二校-書一一、除二蘭-臺令-史一」。

㊂わかる、わかつ、(分)。○[荀]「一二發於天-地之開一」。

㊃ぶわけ。

(い)曲伍、くみ。○[漢]「行無二一-曲一」。

(ろ)區分、こわけ。○[史]「分二其天-一一」。

㊄ぶわけを敷ふるにいふ字。○[魏]「譯二出新-經十-四-一一」。

㊅星の名。○[晉]「北-斗七-星十日二一-星一、亦曰レ應主レ兵」。

㊆蓋斗、かさのろくろ。○[周]「輪-人爲レ蓋、一長二一-尺」。

㊇棓に同じ、大いなる杖。○[淮]「羿死二桃-一一」。

(善部) よきくみ。○[漢]「或行レ錢得二一-一一」。

(分部) くみをわかつ、又、わかつ。○[隋]「一二一-題目一、頗有二次序一」。

(諸部) 部曲にいたる。○[史]「急一レ一如レ書」。

(營部) 陳營部伍のこと。○[後漢]「休止不レ結二一-一一」。

(戸部) 官署の名、職掌例に循なり。○[唐]「一-一尚書一人、侍郎二人、掌二天下土-地人-民錢-穀之政、貢-賦之差一」。

(禮部) 前に同じ。○[唐]「一-一尚書一人、侍郎一人、掌二禮-義祭-享貢-擧之政一」。

(兵部) 前に同し。○[唐]「一-一尚書一人、侍郎二人、掌二武-選地-圖車-馬甲-械之政一」。

(刑部) 前に同じ。○[唐]「一-一尚書一人、侍郎一人、掌二律令刑-法徒-隸按-覆讞-禁之政一」。

(工部) 前に同じ。○[唐]「一-一尚書一人、侍郎一人、掌二山-澤屯-田工-匠諸-司公-廨紙-筆-墨之事一」。

【郶】ホウ、ブ。蒲口切 [有]

一-一婁は、小阜。○[左]「一-一婁無二松-柏一」。

【郪】セイ、サイ。七稽切 [齊]

㊀一-丘は、齊の地。○[春秋]「盟二于一-丘一」。

㊁新一は、魏の地。○[史]「說二魏-王一曰、大-王之地、南有二新-一一」。

【郪】シ。取私切 [支]

漢の廣漢郡の縣の名、今の四川省潼州府射洪縣。

【⿰奄阝】エン。衣檢切 [琰]

商一一は、周公旦に亡ぼされし國の名。

【郫】ヒ、符羈切 [支] ハイ、薄佳切 [佳]

㊀一一邵は、晉の邑。○[左]「齊代レ晉戍二一-邵一」。

㊁蜀郡の縣の名。○[漢]「遡二江-上一處二岷-山之陽一、曰レ一」。

【郭】クワク。古博切 [藥]

㊀都邑の周邊を圍繞せる壁壘、くるわ。○[孟]「三-里之城七-里之一」。

㊁すべて一區劃のもの丶外圍の稱、かこひ。○[揚雄]「天-地之爲二萬-物一一」。

(城郭) しろのくるわ。○[國]「淸-風至而修二一-一宮室一」。

(俠郭) 大郭ともいふ城外のおほくるわ。○[公羊]「郭者何、一-一也」。

(郛郭) 前に同じ。○[周、疏]「郭謂二一-一一」。

(負郭) 城外の土地。○[史]「使二吾有二洛-陽一-一田二-頃一」。

(周郭) 周圍の輪郭。○[漢]「肉-好皆有二一-一一」。

(輪郭) 前に同じ。○[魏]「肉-好無二一-一一」。

(踰郭) 城のくるわをこゆ。○[韓]「因一レ一而入」。

(鐵郭) くろがねのくるわとて堅固なる城郭をいふ。○[易林]「金-城一-一」。

(驛郭) 都市のくるわ。○[謝惠連]「味-爽辭二一-一「後」。

(繞郭) 城郭の周圍。○[元稹]「一-一烟-嵐新-雨」。

【郯】タン、ドン。徒甘切 [覃]

少昊氏の後裔の封ぜられし國。○[春秋]「平二莒及一一」。

【郰】シウ、シユ。側救切 [宥]

魯の下邑、即ち、孔子の出生地、今の山東省州兗府鄒縣に屬す。○[左]「一-一人紇」。

【郱】ヘイ、ビヤウ。薄經切 [靑]

紀の地の名。○[春秋]「遷二紀、一、鄑、郚一」。

【郲】ライ、レ。落哀切 [灰]

地の名。

【郲】ライ、レ。落猥切 [賄]

鄎一一は、平かならざる貌にいふ語。

【郳】ゲイ、ガイ。五稽切 [齊]

魯の附庸國。○[春秋]「秋一黎-來來-朝」。

【郴】チン。丑林切 [侵]

桂陽縣の州名、今の湖南省の一州。○[漢]「追二殺之一-縣一」。

【郵】イウ、ウ。于求切 [尤]

㊀文書又は命令を傳達する人馬を交代せしむるために遠近を度りて設置したる亭舍、しゆくば、つぎば。○[禮]「桓亭一-表」。

㊁しゆくばより傳達用につぎたつる人馬、又、つぎたてたる人馬によりて傳達すること、ひさつぎ、うまつぎ、一說に、ひさつぎの特稱、又一說に、うまつぎにて疾馳兼行すること。○[晉]「殷-洪-喬不レ爲二致レ書一-一」。

㊂田畯相連らなる處に人民の耕作を監督する人の出張所として設けたる亭舍、はたけなかのいへ。○[禮]「一表-畷」。

㊃過咎、とが、あやまち。○[漢]「以顯二朕一一」。

㊄最一、すぐれたること。○[列]「迷之一-者」。

(置郵) 驛傳のこと。○[孟]「德之流-行速二于一-一而傳レ命」。

(山郵) 山村のうまつぎ。○[王維]「野-店發二一-一」。

(邊郵) 邊境の亭驛。○[耿湋]「落-日一-一靜」。

(官郵) 政府の飛脚。○[黃庭堅]「革-囊走二一-一一」。

【⿸虍巴】鄠に同じ。○[西京雜記]「抱レ杜含レ一」。

九畫

【⿰多邕】ヲウ、烏孔切 [董] イウ、於容切 [冬]

盛んに多き貌にいふ字。

【郼】イ、エ。於希切 [微]

殷の國。○[呂氏春秋]「親レ一如レ夏」。

【都】ト、ツ。當孤切 [虞]

㊀天子の宮居の所在地、みやこ。○〔周〕「四-縣爲レー」。
㊁諸侯の子弟の封邑地、くに。○〔左〕「大-ー不レ過二參レ國之一一」。
㊂卿大夫の采地、ちぎやうしよ。○〔禮〕「ー-成不レ過二百-雉一」。
㊃民衆の聚まり住める地。○〔戰〕「不レ若三因而賂二一-名-ー一」。
㊄あつまる、(聚)。○〔釋名〕「言三蟲-鳥之所二ー-聚一也」。
㊅すぶ、(總)。○〔曹丕〕「頃撰二遺-文一ー爲二一-集一」。
㊆をる、(居)。○〔東方朔〕「身ー二卿-相之位一」。
㊇盛んなり、美なり、姣雅なり、うつくし、みめよし、さかんなり、みやびやか。○〔詩〕「洵美且ー」。
㊈歎美する聲にいふ字、あゝ。○〔書〕「皐-陶曰、ー」。
〔舊都〕もとのみやこ。○〔曹植〕「信ー-ー之可レ懷」。
〔故都〕前に同じ。○〔史〕「韓-王成因二ー-ー一都二陽-翟一」。
〔成都〕(い)都會の地をなす。○〔史〕「三-年ーレー」。(ろ)四川省の一府。○〔史〕「臨二ー-ー一爲二富-人一」。
〔甚都〕いたく美麗なること。○〔漢〕「閑-雅ー-ー」。
〔嫺都〕みやびやかなること。○〔上林賦〕「妖-冶ー-ー」。
〔京都〕王城の地をいふ。○〔王縉〕「莫下將二邊-地一比中ー-ー上」。
〔皇都〕前に同じ。○〔釋齊己〕「新-詩聲-價滿二ー-ー一」。
〔帝都〕前に同じ。○〔李白〕「日-本晁-卿辭二ー-ー一」。
〔改都〕みやこを變更す。○〔左、疏〕「文-王ー二ー于豐一」。
〔徙都〕前に同じ。○〔史〕「自二岐-下一ー二ー豐一」。
〔山都〕狒々の異名、又、神の名、又、地名。○〔述異記〕「南-康有レ神、曰二ー-ー一、形如レ人、長二-丈餘」。
〔麗都〕うるはし。○〔戰〕「妻-子衣-服ー-ー」。

【都】チョ、ト。張如切 魚
豬に通じ用ふ、みづたまり。○〔史〕「大-野既ー」、

【鄢】エン、オン。於建切 願
鄢に同じ。

【郿】ビ、ミ。武悲切 支 明祕切 寘
㊀陝西省鳳翔府の一縣。○〔詩〕「王餞二于ー一」。
㊁魯の地名。○〔左〕「冬築レー」。

【鄀】ジャク、ニャク。而灼切 藥
春秋時代に秦と楚との界にありし小國。○〔左〕「秦晉伐レー」。

【鄂】ガク。五各切 藥
㊀殷朝の一國。○〔史〕「以二西-伯九-侯ー-侯一爲二三-公一」。
㊁春秋戰國の楚の地名、今の湖北省武昌府。○〔史〕「中-子紅爲二ー-王一」。
㊂春秋の晉の別邑。○〔左〕「納二于ー一」。
㊃外に見はるゝ貌にいふ字。○〔詩〕「ー不二韡-々一」。
㊄厲しく辨ず、あらそふ。○〔大戴禮〕「君-子出レ言以二ー-ー一」。
㊅かぎり、(垠)。○〔揚雄〕「紛被-麗其亡レー」。
㊆ひたひ、(額)。○〔釋名〕「額ー也有二垠-ー一也」。
㊇諤に通じ用ふ、たゞし。○〔史〕「不レ聞二周-舍之ー-ー一」。
㊈愕に通じ用ふ、おどろく。○〔史〕「彖ー不レ懌」。
㊉噩に通じ用ふ。○〔史〕「太-歲在レ酉曰二作-ー一」。
⑪獸の杙格、やらい。○〔國〕「設二穽-ー一」。

【鄃】シュ。式朱切 ユ。庾娛切 虞
漢の縣の名。○〔史〕「其奉-邑食レー」。

【鄄】ケン。古縣切 セン。諸延切 先 シン。之人切 眞
㊀衞の地、今の山東省曹州府に屬す。○〔春秋〕「會二齊-侯宋-公衞-侯鄭-伯于ー一」。
㊁周の邑。○〔左〕「盟二于ー一而入」。

【鄅】ウ、ヰ。王矩切 ク、コ。果羽切 麌
春秋の國の名、今の山東省沂州府の中なりといふ。○〔左〕「邾人入レー」。

【鄆】ウン、ヰン。王問切 問 于分切 文
㊀莒の別邑の名。○〔春秋〕「楚遂入レー」。
㊁魯の邑の名。○〔春秋〕「公還待二于ー一」。

【鄇】コウ、グ。胡遘切 宥 戸鉤切 尤
地の名。○〔左〕「爭二ー田一」。

【鄈】キ、ギ。渠追切 支
地の名。

十畫

【鄋】シウ、シュ。所鳩切 尤 サウ、ソウ。蘇騷切 豪
北方の長狄の國。○〔左〕「ー-瞞侵レ齊」。

【鄍】ベイ、ミヤウ。莫經切 青
虞の邑の名。○〔左〕「伐二ー三-門一」。

【鄎】ショク、シキ。相即切 職
地の名。○〔春秋〕「師二于ー一」。

【鄏】ジョク、ニョク。而蜀切 沃
陝の字を見よ。

【鄐】チク、トク。丑六切 キク、コク。許竹切 屋
晉の郱侯の邑。○〔左〕「晉人與二之ー一」。

【鄑】シ。即移切 支 シン。即刃切 震
㊀紀の邑の名。○〔春秋〕「齊師遷二紀、郱、ー、郚一」。
㊁宋魯の閒の地。○〔春秋〕「破二宋師于ー一」。

【鄒】シウ、シュ。鄒尤切 尤
魯の縣の名、本の邾の國、今の山東省兗州府に屬す、有名なる孟軻の故國地。○〔孟〕「孟-子居レー」。

【鄹】シュ、ジュ。從娶切 遇
人の名。○〔史〕「如二顏-濁-ー之徒一」。

【鄔】ヲ、ウ。安古切 麌 哀都切 虞 ヨ。依倨切 御
㊀縣の名。○〔左〕「取二ー劉蔿邘之田一」。
㊁晉の地の名。○〔左〕「爲二ー大-夫一」。

【鄉】キヤウ、ガウ。許良切 陽
㊀古昔の行政上の一區劃、一萬二千五百戸ある地の稱。○〔漢〕「五-家爲レ鄰、五-鄰爲レ里、四-里爲レ族、五-族爲レ黨、五-黨爲レ州、五-州爲レー」。
㊁邑里、むら、さと。○〔大戴禮〕「使下是長二ー-邑一而治中父-子上」。
㊂故地、ふるさと。○〔謝靈運〕「思レ反レー而有レ歎」。
㊃場所、ところ。○〔莊〕「無-何-有之ー、廣-莫之野」。
㊄方向、むき。○〔荀〕「四-時易レー」。

（射鄉）鄉射と鄉飲酒とをいふ。○〔禮〕「—·—之禮所ニ以仁ニ鄉‐黨一也」。「—」ニ。

（故鄉）ふるさと。○〔史〕「威加ニ海內一兮歸ニ—·

（舊鄉）前に同じ。○〔沈佺期〕「回ν首思ニ—·—一」。

（帝鄉）上帝のいますところ、即ち、天上のこと、又、帝王たるものゝ起こりたる鄉里。○〔後漢〕「南陽—·多ニ近‐親一」。

（還鄉）鄉里にかへる。○〔南〕「鄉‐衣ν錦—ν—」。

（思鄉）懷鄉といふに同じ、ふるさとをしたひおもふ。○〔柳宗元〕「洛‐陽城‐下—·—之夢」。

（憶鄉）前に同じ。○〔曹鄴〕「征‐人合ν—ν—」。

（他鄉）おのれの生まれざる鄉里。○〔杜甫〕「春‐色是—·—」。

（異鄉）前に同じ、又、さとを異にす。○〔許渾〕「休ν誦「—·—吟」。

（殊鄉）前に同じ。○〔王勃〕「穀ニ仙‐鶴于—·—一」。

（寒鄉）氣候の寒冷なるさと。○〔詩、疏〕「—·—率早寒、北方是也」。

（熱鄉）氣候のさむからざるさと。○〔詩、疏〕「—·—率晚寒、南方是也」。

（遠鄉）はるかなる地方。○〔禮〕「—·—皆至」。

（擇鄉）さとのよしあしを選ぶ。○〔荀〕「君‐子居必—ν—」。

（去鄉）ふるさとをたちのく。○〔鮑照〕「—·—三‐十「歲」。

【鄉】キヤウ、カウ。許兩切 養

㊀響に同じ、ひゞき。○〔漢〕「如ニ影—之應ニ形‐聲一」。

㊁饗に通じ用ふ。○〔漢〕「專—獨美ニ其「福一」。

【鄉】キヤウ、カウ。許亮切 漾

㊀嚮に同じ、むかふ。○〔禮〕「則必—ニ長‐者所ν視」。

㊁兩階の間。○〔爾〕「兩‐階間謂ニ之—一」。

㊂まど（牖）。○〔禮〕「刮‐楹達ν—」。

㊃むかし（昔）、さきに（曩）。○〔論〕「—也吾見ニ於夫‐子一而問ν知」。

【鄖】ウン、チン。于分切 文　—略して、郧に作る。

湖北省漢陽府。○〔左〕「—人軍ニ於蒲‐騷一」。

【郻】ワイ、ヱ。烏賄切 賄

—·郲は、平かならざる貌にいふ語。

【鄗】カウ、ゴウ。胡老切 皓

㊀晉の邑の名、今の直隸省趙州府の高邑縣。○〔左〕「國‐夏伐ν晉、取ニ邢、任、欒、—一」。

㊁鎬に通じ用ふ、周の武王の邑を作し處、今の陝西省西安府長安縣に屬す。○〔後漢〕「西顧ニ酆、—一」。

【鄗】カウ、ケウ。口交切 肴　カク。呼各切 藥　カウ、コウ。虛到切 號

滎陽縣にある水の名。○〔左〕「晉師在ニ敖、—之閒一」。

【鄗】カウ、ケウ。居囂切 肴

地の名、一に、郊に作る。○〔史〕「取ニ王‐官及—一」。

十一畫

【䣙】ハイ、ベ。薄回切　クワイ、ヱ。枯回切 灰　ホウ。普等切 迥

㊀國の名。㊁鄉の名。

【鄘】ヨウ、ユ。餘封切 冬

㊀南夷の國の名。

㊁殷の紂王の畿內の地の名、今の河南省衞輝府に屬するいふ。

【鄙】ヒ。方美切 紙

㊀公卿大夫の采地又は王の子弟の食封の畿內にあるもの、ちぎやうしよ。○〔周〕「以ニ八‐則一治ニ都—一」。

㊁周の行政上の一區劃、五百家ある地の稱、こむら。○〔周〕「遂‐人掌ν治ニ縣—形‐體之法一」。

㊂邊界、邊邑、かたほとり、くにざかひ、かたゐなか、ゐなか、ばすゑ。○〔左〕「大‐叔命ニ西—北—一貳ニ於己一」。

㊃いやし。

（い）器量狹小なり、せまし、ちひさし。○〔孟〕「—夫寬」。

（ろ）志な劣れり。○〔潛夫論〕「性之賢—不ニ必世‐俗一」。

（は）みぶん低し。○〔呂氏春秋〕「魯之—家也」。

（に）みやびやかならず、俗なり。○〔大戴禮〕「—語曰、不ν習爲ν吏」。

（ほ）財に吝なり、志わし。○〔詩、序〕「在ν位貪—」。

（へ）物事に通達せざること。○〔漢〕「或仁、或—」。

㊄いやしきもの。○〔潛夫論〕「賞ν—以招ν賢」。

㊅いやしむ。

（い）いやしとなす。○〔左〕「—ν我也」。

（ろ）恥辱となす。○〔史〕「君‐子所ν—」。

㊆文飾なきこと、志つぼく、朴野。○〔淮〕「常大ニ于—一」。

（四鄙）四方の邊鄙をいふ。○〔唐〕「—·—附‐悅」。

（陋鄙）いやしくしてあやなきこと。○〔北〕「言甚—·—」。

（野鄙）前に同じ、又、ゐなか。○〔周〕「—·—之委‐積「以待ニ羈‐旅一」。

（愚鄙）いやしくおろかなること、又、自己の才能を他人に對し稱する謙辭に用ふ。○〔唐〕「冀得ν効ニ—·—」「—」ニ。

（頑鄙）前に同じ。○〔陸雲〕「今我—·—」。

（寒鄙）微賤なること、又、其の者。○〔劉詵〕「風‐流益自愧ニ—·—一」。

（微鄙）前に同じ、又、寒村邊鄙の國を稱する語。○〔吳越春秋〕「君‐主自陳、越‐國—·—」。

（廉鄙）正直潔白の者と貪慾の者と。○〔新語〕「—·—異ν科」。

（樸鄙）あやなくいやしきこと。○〔莊〕「而—·—之心、至ν今未ν去」。

（邊鄙）邊境のゐなか。○〔應瑒〕「固衞ニ—·—一」。

（卑鄙）いやし。○〔諸葛亮〕「先‐帝不ν以ニ臣—·—一」。

（郊鄙）城下と邊村と。○〔梁昭明太子〕「光照ニ—·—」。

（昧鄙）おろか。○〔盧綸〕「豸‐齡誠—·—」。

【鄚】バク、マク。末各切 藥

直隸省河間府任丘縣の故名。○〔史〕「燕—·易」。

【鄛】サウ、セウ。鉏交切 肴

南陽の棘陽の鄉の名。○〔後漢〕「鄭‐衆封ニ—‐鄉‐侯一」。

【鄜】フ。芳無切 虞

陝西省の一州の名。○〔史〕「初爲ニ—時一」。

【鄝】レウ。盧鳥切 篠

春秋時代の國の名、今の河南省の中にありといふ。○〔左〕「楚人滅ニ舒‐—一」。

【鄞】ギン、ゴン。語巾切 眞

浙江省寧波府の一縣。○〔後漢郡國志〕「—章‐安故治」。

【鄟】セン。職緣切 先　タン、ダン。度官切 寒　セン、ゼン。市兗切 銑

春秋の附庸國の名。○〔春秋〕「取ν—」。

【郲】リ。鄰其切 支

巍—は、山の險怪の狀にいふ語、けはし。○〔枚乘〕「岏‐嵷巍—」。

【鄠】コ、ク。侯古切 麌

漢の右扶風に屬せし縣の名、今の陝西省西安府の一縣。

【鄡】ケウ。苦幺切 蕭
鉅鹿郡の縣の名、今の直隷省保定付の中なりといふ。○[後漢]「繫二銅-馬于ーニ。」

【鄢】エン。於乾切 先
莒の地の名、今の山東省沂州府の中。○[左]「如レ莒及二ー陵ニ。」

【鄢】エン、オン。於幰切 阮
古昔の鄭の地の名、今の河南省開封府のー陵縣。○[左]「鄭-伯克二段于ーニ。」

【鄢】エン、オン。於建切 願
古昔の楚の地名、今の湖北省襄陽府の宜城縣。○[路史]「楚之ーー都」。

【鄣】シヤウ、サウ。諸良切 陽
㊀紀の附庸國。○[春秋]「齊人降レー」。
㊁莒の邑。○[左]「莒-子奔二紀ーニ。」

【鄣】シヤウ、サウ。之亮切 漾
障に同じ。○[漢]「居二ーー閒ニ。」

【鄤】バン、マン。莫半切 翰　ベン、マン。模元切 元　謨官切 寒
鄭の地の名。○[左]「使三東-鄙覆二諸ーニ。」

十二畫

【鄦】キヨ、コ。虚呂切 語
春秋の國、許に同じ、今の河南省許州府の地。○[史]「ー-公惡二鄭于楚ニ。」

【鄧】トウ、ドウ。徒亙切 徑
㊀春秋の國名、今の河南省南陽府の一州。○[春秋]「ー-侯離-吾來-朝」。
㊁魯の地。○[春秋]「齊-侯鄭-伯盟二于ーニ。」
㊂蔡の地、今の河南省汝寧府新蔡縣の中にあり。○[春秋]「蔡-侯鄭-伯會二于ーニ。」

【鄨】ヘイ、ヘ。必袂切 霽　ヘツ、ヘチ。必列切 屑
㊀縣の名。㊁水の名。

【鄩】ジン。徐林切 侵
㊀斟ーは、今の山東省登州府蓬萊縣にありし國。○[左]「寒-浞使三澆用レ師滅二斟-灌及斟ーー氏ニ。」
㊁周の邑の名。○[左]「郊ー潰」。

【鄪】ヒ、ピ。兵媚切 寘
魯の邑の名。○[史]「以二汶-陽ーニ。」

【鄫】ショウ、ゾウ。疾陵切 蒸
㊀山東省にありし春秋時代の小國の名。○[春秋]「ー-子來朝」。
㊁鄭の地。○[春秋]「次二于ーニ。」

【鄬】井。王嬀切　キ。吁爲切 支
鄭の地の名。○[春秋]「公會二晉-侯宋-公陳-侯衞-侯曹-伯莒-子邾-子于ーニ。」
井。羽委切 紙

【鄭】テイ、ヂヤウ。直正切 敬
㊀春秋時代の國の名、今の河南省開封府の一州。○[春秋]「ー-伯克二段于鄢ニ。」
㊁ーー重は、殷勤なること、ねもごろ。○[漢]「非下皇-天所三以ー-重降二符-命一之意上。」

【鄮】ボウ、ム。莫候切 宥
今の浙江省寧波府の慈谿の奉化。○[漢]「ー-縣屬二會-稽-郡ニ。」

【鄯】セン、ゼン。時戰切 霰　常演切 銑
ー善は、西域の國の名。○[漢]「ー-善-國、本名二樓-蘭ニ。」

【鄰】リン。力珍切 眞
㊀周時代の行政區劃の起點。○[周]「五-家爲レー、五ーー爲レ里」。
㊁となり。
(い)相連接せる家、相比近せる舍。○[韓]「疑二ーー人之父ニ。」
(ろ)相連接しもしくは相比近せる邑里州國。○[書]「睦二乃四ーーニ。」
(は)相連接せるもの、相比近せるもの、きんじよ、ならび。○[淮]「與レ德爲レー」。
㊂相連接す、相比近す、ならぶ、つゞく、ちかづく、となる。○[韓]「有下與二悍-者一ー上」。
㊃左右の輔弼、たすけ。○[書]「臣哉ー哉」。
㊄衆車の聲にいふ字、とどろく。○[詩]「有レ車ーーー」。
㊅水勢の旋れるにいふ字、めぐる。○[郭璞]「溜ーー淵ーー」。
〔比鄰〕接近のところ。○[王勃]「天-涯若二ーーニ。」
〔鄰々〕一に轔々につくる、衆車の聲。○[詩]「有レ車ーーー」。
〔善鄰〕よきとなり、又、となりにまたしむ。○[左]「親レ仁ーレー、國之寶也」。「道也」。
〔卹鄰〕比近をめぐみすくふ。○[左]「救レ災ーレー」
〔怒鄰〕となりのものをいからす。○[左]「ーレー不義」。「ーレー」。
〔擇鄰〕比近を選ぶ。○[景福殿賦]「傳二孟-母之

【鄰】リン。良刃切 震
やぶる(敝)、うごく(動)。○[周]「輪雖レ敝不レー二于鑿ニ。」

【鄱】ハ、バ。蒲波切 歌
ー陽は、もとの豫章縣、今の江西省饒州府の一縣、又、湖の名。

【鄱】ヒ、ピ。蒲糜切 支
魯の地の名。

【鄱】ハン、バン。蒲官切 寒
趙の地の名。

【鄲】タン。都寒切 寒
邯の字の條を見よ。

【鄲】タ。當何切 歌
漢の侯國の名。○[史]「封二周-隱一爲二ー-侯ニ。」

十三畫

【鄓】オウ、ウ。烏貢切 送
くさし(臭)。

【鄳】バウ、ミヤウ。武庚切 庚　莫杏切 梗
河南省にある地の故名。○[史]「塞二ー-阨一。」

【鄴】ゲフ、ゴウ。魚怯切［葉］ 河南省彰德府の故名。〇〔魏〕「公之圍レ—也」。

【鄵】サウ、ソウ。七到切［號］ 倉刀切［豪］ セウ。千遙切［蕭］ サン、ソン。倉含切［覃］ 鄵の地の名。〇〔春秋〕「卒二于—一」。

【鄶】クワイ、ケ。古外切［泰］ 河南省にありし春秋時代の小國の名。〇〔左〕「葬二之—城之下一」。

【鄷】酆に同じ。

十四畫

【⿰壽阝】シウ、ジユ。市流切 チウ、ヂユ。直留切［尤］ 蜀の地の名。

【⿰壽阝】シウ、ジユ。是酉切［有］ 蜀の水の名。

【⿰⿰木耤阝】セキ、ジヤク。秦昔切［陌］ サク、ザク。疾各切［藥］ 地の名、俗に略して⿰木阝、⿰甚阝に作る。

【鄸】ボウ、モウ。莫中切［東］ 莫鳳切［送］ 彌登切［蒸］ 曹の邑の名。〇〔春秋〕「自レ—出二奔宋一」。

【鄹】郰に同じ。〇〔論〕「—人之子」。

十五畫

【鄻】レン。力展切［銑］ 周の邑の名。〇〔左〕「入二于—一」。

【⿰羹阝】ラウ。盧當切［陽］ 不—は、邑の名、羹に通じ作る。

【鄽】テン、デン。直連切［先］ 廛に同じ、みせ。〇〔漢、註〕「市—之人」。〔通鄽〕四方に通ずるまちのみせ。〇〔王褒〕「九市之—・—」。〔隘鄽〕せまきみせ、又、市店にあふる。〇〔元稹〕「——亦隘レ鄽」。

【鄾】イウ、ウ。烏求切［尤］ 鄧國の地の名。〇〔左〕「南鄧鄙—人」。

十六畫

【鄿】キ、ケ。居希切［微］ 沛郡の地名。〇〔漢〕「沛郡有二—縣一」。

【⿰燕阝】エン。因蓮切［先］ 邑の名。

【⿰燕阝】エン。于殄切［銑］ 伊甸切［霰］ 人の名。〇〔左〕「齊人立二敬仲之曾孫—一」。

【⿰毚阝】サン、ゼン。士咸切［咸］ 宋の地の名。〇〔左〕「—殷之邑」。

十七畫

【酃】レイ、リヤウ。郎丁切［青］ 湖南省衡州府の縣の名。〇〔漢〕「長沙國有二—縣一」。

十八畫

【酄】クワン。呼官切［寒］ 魯の下邑の名。〇〔左〕「鄆、—、龜陰之田」。

【酄】ケン、クワン。驅圓切［先］ 鄉の名。

【酅】ケイ、エ。玄圭切［齊］ ㊀紀の邑の名。〇〔春秋〕「紀季以レ—入二于齊一」。㊁齊の地の名。〇〔春秋〕「追二齊師一至レ—」。㊂丘陵の險阻、さか。〇〔左〕「背レ—而舍」。

十九畫

【酆】ホウ、フ。敷空切［東］ ㊀陝西省西安府鄠縣なる周の文王の都せし處。〇〔左〕「有二—宮之朝一」。㊁國の名。〇〔左〕「畢、原、—、郇、文之昭也」。㊂水の名。〇〔後漢〕「西顧二—、鄗一」。

【酇】サン。作管切［旱］ ㊀あつまる、むらがる、(聚)。〇〔禮、註〕「有二—列之處一」。㊁周の時代の行政區劃の一、百家の地の稱、むら。〇〔周〕「四—里爲レ—」。

【酇】サン。子旰切［翰］ サン、ザン。在丸切［寒］ 南陽の縣の名、漢の蕭何の封ぜられたる地。〇〔漢〕「封爲二—侯一」。

【酇】サ、ザ。才何切［歌］ ㊀縣の名。〇〔漢〕「沛郡有二—縣一」。㊁醝に通じ用ふ。〇〔周、註〕「如二今之—白一也」。

【酈】リ。呂支切［支］ 魯の地の名。〇〔春秋〕「敗二莒于—一」。

【酈】レキ、リヤク。郎擊切［錫］ 南陽の鄧州の地。〇〔漢〕「攻二析—一」。

酉部

【酉】イウ、ユ。與九切［有］ ㊀成熟す、みのる。㊁あく、(飽)。㊂おゆ、(老)。㊃さり。
(い)十二支の一、律にては南呂にあたり、節にては仲秋にあたる。〇〔史〕「於二十二子一爲レ—」。
(ろ)西方、にし。〇〔淮〕「招搖指レ—、天下皆秋」。
(は)午後五時より七時まで。〇〔宋〕「自レ午至レ—、猶可二三百里一」。

二畫

【酊】テイ、チヤウ。都挺切［迥］ 酩—は、甚しく醉ふ、ゑふ。〇〔襄陽兒童歌〕「酩—無レ所レ知」。

【酋】シウ、ジユ。慈秋切［尤］ ㊀時を經る遠し、ひさし、又、ひさしきを經たる酒、ふるざけ。〇〔周、註〕「—久白酒」。㊁うむ、(熟)。〇〔揚雄〕「趙魏之閒、大熟曰レ爛、氣熟曰レ糦、久熟曰レ—、穀熟曰レ酷、熟其通語也」。㊂酒を司どる官。〇〔禮〕「仲冬之月乃命二大—一」。㊃にし、(西)、なつ、(夏)、あつむ、(聚)、なる、

（就）。○〔揚雄〕「―西-方也、夏也、物皆成レ象而就也、〔註〕―聚也、物已成-就可二蓄-聚一也」。

㊄をはる（終）。○〔詩〕「似二先-公一―矣」。

㊅すぐる（雄）。○〔漢〕「説-難既―、其身迺四」。

㊆雄長、かしら、をさ。○〔左思〕「儋-耳黑-齒之―、金-鄰象-郡之渠」。

㊇長さ二丈ある矛。○〔周〕「――矛常有四-尺」。

㊈發語の聲にいふ字。

〔大酋〕（い）酒官の長。○〔禮〕「――監レ之」。（ろ）戎狄などの部落のかしら。○〔宋〕「斬二阿-汝及――二-十-八-人一」。

〔氐酋〕西方夷族のかしら。○〔北〕「詔以二――楊-定一爲二陰-平-王一」。

〔羌酋〕前に同じ。○〔宋〕「――數-百-人哭レ之如レ父」。

〔蕃酋〕蠻夷のかしら。○〔宋〕「――與-家作レ亂」。

〔悍酋〕わるづよき頭帥。○〔宋〕「有二――一臨レ陣甚武」。

三畫

【酌】シャク、サク。之若切　藥

㊀くむ。

（い）酒を盛り觴を行る、そゝぐ、つぐ、しやくをなす、さかづきをさす、さけをのむ、さかもりをなす。○〔孟〕「―則誰先、曰、先―二鄉-人一」。

（ろ）挹取す、くみだす、くみわく。○〔莊〕「―レ焉而不レ竭」。

（は）善を擇び取る、よりとる。○〔禮〕「上―二民-言一、則下天二上施一」。

（に）彼れ此れを參照す、てらしあはす。○〔周〕「後-王斟―」。

㊁杯爵、さかづき。○〔屈平〕「華―既陳」。「―」。

㊂行觴、さかもり。○〔李白〕「別-酒寒-

㊃酒。○〔水經、註〕「最佳-―」。

〔斟酌〕くみとる、又、轉じてはかりくらべて益をとるにいふ語。○〔國〕「而後王――焉」。

〔清酌〕宗廟の祭に酒を稱する語、又、きよらかなるさかもり。○〔禮〕「凡祭二宗-廟一之禮、酒曰二――一」。

〔參酌〕はかりてよきを擇びとる。○〔後漢〕「――二秦法一」。

〔品酌〕前に同じ。○〔文心雕龍〕「――二事-例一」。

〔觴酌〕さけをくむ。○〔韓〕「――有レ衆」。

〔獨酌〕ともなくひとりにて酒をのむ。○〔南〕「有レ時――」。

〔盃酌〕さかづき。○〔南〕「不レ念二――之水一」。

〔樽酌〕酒をもるもの。○〔新序〕「願請二君之――一」。

〔對酌〕さしむかひにて酒をのむ。○〔李白〕「兩人――、山花開」。

〔挹酌〕くみとる。○〔潘岳〕「所下以二――洪-流一、含中咀英-芳上者」。

〔晩酌〕夜分のさかもり。○〔李白〕「――東-窓下」。

〔離酌〕わかれのさかもり。○〔白居易〕「樓-中別-曲催二――一」。

【酖】ヨク、エキ。與職切　職

酒の色にいふ字。

【酞】タイ、ダイ。待戴切　隊

甛に同じ、あまし。

【配】ハイ、ヘ。傍佩切　隊

㊀酒の色にいふ字。

㊁あふ、たぐふ。

（い）匹對す、つゐをなす、たぐひす、ならぶ、あたる。○〔易〕「廣-大―二天-地一、變-通―二四-時一」。

（ろ）夫婦となる、つれあふ。○〔易〕「婦者―レ己而爲レ德」。

㊂匹對、つゐ、たぐひ。○〔張衡〕「推二光-武一以爲レ―」。

㊃夫婦、つま、めをと、つれあひ。○〔詩〕「天立二厥―一、受レ命既固」。

㊄たぐはしむ、あはす、つゐをなす、あつめあはす。○〔儀、註〕「猶未下以二某妃一―中某氏上」。

㊅すゝむ（侑）。○〔易〕「以―二祖-考一」。

㊆頒賦す、わりあつ、くばる。○〔舊唐〕「令下所-在州-縣寫-本散中―鄉-村上」。

㊇流刑に處す、ながす。○〔五代會要〕「刺レ面―二華-州一」。

㊈流刑、しまながし、又、しまながしの囚隷、やつこ、つみびと。○〔宋〕「詔免二嶺-南流―一荷レ校執レ役」。

㊉隷屬さす、つく。○〔金〕「乞與二本-州司-縣一均爲二差―一」。

〔匹配〕相對偶す。○〔易、疏〕「天-地――、則能成二品-物一」。

〔分配〕くばる。○〔左、註〕「――二四-方一」。

〔定配〕いつもきめてわりあつ。○〔宋〕「以二大-祖一――」。

〔迭配〕更迭してわりあつること。○〔宋〕「並以二四-祖――」。

【酎】チウ、ヂユ。除柳切　宥

㊀三たび重ねて釀したる酒、こきさけ。○〔禮〕「孟-夏之月天-子飲レ―」。

㊁こきさけの釀成せるにいふ字。○〔史〕「高-廟―奏二武-德文-始五-行舞一」。

㊂漢の時に宗廟の大祀の費を幇助するために諸侯より獻金すると、宗廟の大祀には天子日にこきさけを飲みながら其の獻金を受けられたるよりいふ。○〔史、註〕「―二黃-金於漢-廟一」。

【酏】イ。弋支切　支

㊀甜くて清みたる米酒、すみざけ、又、米を去りたる清粥、すみがゆ　○〔禮〕「黍―」。

㊁すみざけ又はすみがゆの米。○〔周、註〕「以二酒――爲レ餅」。「餅―」。

㊂稻餅、こめのもち。○〔禮〕「羞-糗-粉-

〔饘酏〕厚粥と薄粥と。○〔禮〕「――酒-醴」。

〔醴酏〕あまざけとすみざけと　○〔禮〕「漿-酒――」

【酐】カウ。呼朗切　養

にがき酒。

【酑】ウ、チ。羽倶切　虞

のむ（飲）。

【酒】シウ、シユ。子酉切　有

㊀米麴（かうぢ）を釀し成したる飲料、さけ。○〔漢〕「―百-藥之長」。

㊁さけを飲むと、觴を行ると、さかもり。○〔戰〕「―酣起前」。

〔樽酒〕さかだるのさけ。○〔宋〕「――斯盈」。

〔飲酒〕さけをのむ。○〔詩〕「豈樂二――一」。

〔傾酒〕前に同じ。○〔李白〕「見レ客但――」。

〔嗜酒〕さけを飲むを好む。○〔史〕「荊-軻――」。

〔幸酒〕前に同じ。○〔漢〕「其後――樂二燕-樂一」。

〔湎酒〕さけにふける。○〔書〕「罔二敢―于――一」。

〔淫酒〕前に同じ。○〔晉〕「曜少而――」。

〔樂酒〕さけを飲むをよろこぶ。○〔孟〕「――無レ厭」。

〔旨酒〕美味なるさけ。○〔詩〕「我有二――一」。

〔釃酒〕さけをわかちつぐ。○〔宋〕「釃レ牛――犒レ之」。

〔清酒〕すみたるさけ。○〔詩〕「――百-壺」。

〔澄酒〕前に同じ。○〔家語〕「――在レ下」。

〔酤酒〕ひとよざけ、又、買るさけ、又、さけを買ふ、又、さけをうる。○〔漢〕「大-酺五-日民得二――一」。

〔觴酒〕さかづきのさけ。○〔禮〕「――豆肉」。

〔卮酒〕前に同じ。○〔史〕「――安足レ辭」。

〔杯酒〕前に同じ。○〔漢〕「未下嘗銜二――一、接中殷-勤之歡上」。

〔醴酒〕あまざけ。○〔禮〕「始飲レ酒者、先銘二――一」、

（公酒）郷射飲酒の禮などすべて公事あるときに用ふるさけ。○〔周〕「凡爲二―・―一者、亦如レ之」。
（中酒）飲酒のなかば。○〔左、思〕「―・―而作」。
（祭酒）むかし禮食には祖先を祭り飲酒にも席の長尊一人の祭にあたるものありこれを稱していふ、又、後代には轉じて官名となれり。○〔史〕「而荀卿三爲二―・―一焉」。
（法酒）禮法によりて酌むさけにて禮酌といふに同じ。○〔史〕「復置二―・―一」。
（使酒）酒氣をかりてきまゝにふるまふ。○〔史〕「―レ―不レ好二面諛一」。
（載酒）さけをもちゆく。○〔王維〕「淮・王―レ―過」。
（齊酒）前に同じ。○〔晉〕「乃―レ―携レ琴造焉」。
（勸酒）さけをすゝめのます。○〔庾信〕「隔レ花遙―レ―」。
（詩酒）詩をつくり酒をのむこと。○〔南〕「―・―自適」。
（澠酒）さけをこす。○〔張籍〕「―レ―及二花・時一」。
（文酒）文をつくり酒を酌む。○〔南〕「―・―賞・會」。
（濁酒）にごりざけ。○〔陶潛〕「―・―半・壺」。
（天酒）甘露の異名。○〔瑞應圖〕「甘・露美・露也、神・靈之精、仁・瑞之澤、其凝如レ脂、其甘如レ飴、一名二膏・露一、一名二―・―一」。
（止酒）さけをやめてのまず。○〔高談〕「淵・明方―レ―」。
（殘酒）のみあまりのさけ。○〔皮日休〕「安得二瑤・池飲二―・―一」。
（縱酒）さけをきまゝにのむ。○〔書、疏〕「―レ―荒・迷」。
（鬯酒）くろきびにてさけをかもし香草を和したるもの。○〔左、疏〕「故執二其―・―一以對レ神」。
（秬酒）前に同じ。○〔禮、註〕「鬯―・―也」。
（醉酒）さけによふ。○〔詩〕「旣―以―」。
（牲酒）いけにへとさけと。○〔宋〕「―・―嘉・旨」。
（美酒）佳酒といふに同じ、よきさけ。○〔禮〕「湛二諸―・―一」。
（好酒）前に同じ、又さけをこのむ。○〔鮑昭〕「―・―多二芳・氣一」。
（秩酒）老臣に對し帝王より常にたまはるさけ。○〔周〕「凡有二―・―一者、以二書・契一授レ之」。
（共酒）さけを供給す、又、さけをおなじく飲むこと。○〔周〕「凡事―レ―而入二于酒・府一」。
（釀酒）かもしつくりたるさけ、又、さけをつくる。○〔陸游〕「滚・傾家―・―」。
（醇酒）まぜもののなきさけ。○〔史〕「陳人使三婦・人飲二之―・―一」。

（侍酒）さけのむ者のかたはらにはべる。○〔史〕「趙・王―レ―」。
（置酒）酒宴をひらく。○〔史〕「始・皇―二―咸・陽・宮一」。
（藏酒）貯藏のさけ、又、さけを貯藏す。○〔史〕「富・人―レ―、至二萬・餘石一」。
（佐酒）酒席に侍してさけを行ふをたすく。○〔漢〕「悉召二故・人父・老子・弟一―レ―」。
（賣酒）さけをあきなふ。○〔王褒〕「―レ―七・條・衢」。
（麥酒）むぎを醸してかもしたるさけ。○〔後漢〕「冉與二弟協一步齊二―・―一于道側一」。
（奉酒）さけをさゝげたてまつる。○〔後漢〕「―レ―上レ壽」。
（獻酒）前に同じ。○〔傅休奕〕「三・朝―レ―」。
（酌酒）さけをつぐ。○〔後漢〕「諸・侯―レ―相賀」。
（斟酒）前に同じ。○〔鮑昭〕「獻至獨―レ―」。
（捐酒）さけをすつ。○〔晉〕「妻―レ―毀レ器曰、非二攝生之道一」。
（節酒）さけを適度にのみて强飮せず。○〔晉〕「―レ―愼レ言」。
（溫酒）あたゝめたるさけ、又、さけをあたゝむ。○〔晉〕「屑・炭和作二獸・形一以―レ―」。
（荒酒）さけにすさむ。○〔晉〕「―・―縱・獵不二復設一レ備」。
（飫酒）前に同じ。○〔王維〕「其性頗―レ―」。
（聲酒）音樂とさけと。○〔北〕「唯以二―・―一自娛」。
（藥酒）くすりざけ。○〔荀悅〕「―・―有レ治レ病」。
（珍酒）めづらしきさけ。○〔張載〕「未レ聞二―・―一出二于湘東一」。
（名酒）なだかきよきさけ。○〔陶潛〕「偶有二―・―一」。
（別酒）わかれにくむさけ。○梁武帝「綴・客來二―・―一」。
（離酒）前に同じ。○〔宋之問〕「强飲―・前之―」。
（甜酒）甘味あるさけ。○〔白居易〕「戸大嫌二―・―一」。
（惡酒）よろしからざるさけ。○〔蘇軾〕「―・―如二惡・人一」。
（黑黍酒）くろきびもてつくりたるさけ。○〔詩、箋〕「秬・鬯―・―・―也」。

【酡】酡に同じ。

四畫

【酳】・イン。余刃切 震
少しく飲む。

【⿰戈酉】クヮ。古禾切 歌
酒の色にいふ字。

【⿰酉屯】チュン、ヂュン。直倫切 眞
㊀うるはし（美）。㊁よき酒。

【⿰酉不】醅に同じ。

【⿰酉勿】ブン、モン。文運切 問
酒器、さかづき。

【酓】エン。於琰切 琰　於念切 豔　タン、徒南切　ドン。　カン、呼含切　コン。覃
㊀やまぐは（檿）。○〔史〕「其篚―・―絲」。
㊁酒の味の苦きにいふ字、にがし。

【酓】エン。於豔切 豔
酒の量に盈つるにいふ字、みつ。

【酓】飲に同じ。

【⿰酉今】エン。於琰切 琰　イン。於林切 侵
さけ、（酒）。

【酔】俗の醉の字。

【⿰酉丏】湎に同じ。

【酕】バウ、モウ。莫袍切 豪
極醉したる貌にいふ字、ゑふ。

【酖】タン、トン。丁含切 覃
㊀酒を嗜む、酒を樂しむ、ふける。
㊁たのしむ（樂）。○〔徐鉉〕「―・―・―然安且樂也」。

【酖】チン、ヂン。直禁切 沁
鴆に通じ用ふ。○〔左〕「使二鍼季―一レ之」。

【酗】ク、コ。香句切 遇
酒に醉ひて怒る、醉ひて常を失ふ、くるふ。○〔書〕「我用沈二―于酒一」。

【⿰火酉】シウ、ジュ。似由切 尤
酒の色。

【⿰酉巿】ハツ、ハチ。普活切 曷
㊀酒の色。㊁酒の氣。

【酘】トウ、田候切 宥　ヅ。大透切 宥
酒を再び醸すこと。○〔抱朴〕「猶下一―・―之酒不上レ可三以方二九・醞之醇一」。

【⿰酉支】リ。呂支切 支
乳腐る。

【⿰酉氏】シ。章移切 支
腐れたる乳。

五畫

【酦】ハツ、バチ。蒲撥切 曷
酒の氣。

【⿰酉瓜】コ、ク。攻乎切 虞
酒爵、さかづき。

【⿰酉冬】トウ、ヅ。徒冬切 冬
酒醋の敗せるにいふ字、くさる。

【⿰酉且】ス、ソ。叢無切 虞
―・釀は、美漿の屬　○〔王褒〕「住二―一」

醶ニ。

【酟】テン、トン。他兼切　鹽
羹に和す、まじふ。○〔張協〕「燀以ニ秋橙一、―以ニ春梅ニ。」

【酠】カ、ケ。苦下切　馬
苦き酒。

【⿰酉令】醽に同じ。

【⿰酉氐】醍に同じ。

【⿰酉句】ク、コ。香遇切　遇
くるふ、(酗)。○〔漢〕「數醉―ニ美人ニ。」

【⿰酉此】シ。此移切　支
かす、(糟)。

【酡】タ、ダ。徒何切　歌
醉氣發して顏の赤くなりたるにいふ字、あからむ、ゑふ。○〔楚辭〕「美人既醉、朱顏―些」。
〔微酡〕すこしくゑふ。○〔宋濂〕「先生酒―」。

【酡】タ、ダ。徒可切　哿
將に醉はんとす、ゑひかゝる。

【⿰酉㐌】酡に同じ。

【酢】ソ、ス。倉故切　遇
㊀味の酸き漿、す。○〔隋〕「寧飲ニ三升―ニ、不レ見ニ崔弘度ニ。」
㊁すし、(酸)。○〔急就篇〕「酸、鹹、―、淡、辨ニ濁清ニ。」

【酢】サク、ザク。在各切　藥
㊀むくゆ、(酬)。○〔詩〕「君子有レ酒酌言―レ之」。
㊁こしき、(甑)。○〔揚雄〕「甑自レ關而東謂ニ之甗一、或謂ニ之―鎦ニ。」

【酣】カン、ゴン。胡甘切　覃
㊀酒を酌み觴を行りて樂しむ、たのしむ。○〔呂氏春秋〕「相與飲レ酒―」。
㊁たけなは。
(い)行觴已に坐客に洽きを、酒興まさに發するの時なるを、なかば、まなか。○〔戰〕「平原君乃置レ酒、酒―起前、以ニ千金ニ爲ニ魯連壽ニ。」
(ろ)物事の已に盛りて未だ衰へざる時の稱、まさかり。○〔淮〕「戰―日暮」。
〔酒酣〕さかもりなかばなるをいふ。○〔史〕「――高祖擊レ筑」。
〔宴酣〕前に同じ。○〔宋之問〕「――詩布レ澤」。
〔睡酣〕ねむりなかばなるをいふ。○〔李頎〕「春山―正―」。
〔樂酣〕たのしみのたけなはなると。○〔史〕「於レ是酒中――天子芒然而思」。
〔興酣〕前に同じ。○〔李白〕「――落レ筆搖ニ五嶽ニ」。
〔長酣〕さけをながくのみて樂しむ。○〔高允〕「縱ニ――以爲ニ高達ニ。」
〔沈酣〕酒に醉ふ。○〔宣和畫譜〕「必待ニ――之後ニ。」
〔善酣〕よく酒に醉ひてたのしむ。○〔陶潛〕「孟生――不レ愆ニ其意ニ。」
〔酣々〕ものゝさかりをいふ。○〔崔融〕「桃李正――」。

【酣】カン、コン。呼紺切　勘
酒を飲みて未だ盡きざるにいふ字。

【⿱弁酉】ハン。芳萬切　願　翻阮切　阮
㊀酒疾く熟す、はやくなる。
㊁一宿酒、ひさよざけ。
㊂米を擇ばずして釀す、かもす。

【酤】コ、ク。古乎切　虞
㊀釀してより一夜を經て熟せる酒、ひさよざけ、一宿酒。○〔謝靈運〕「酎ニ芳――ニ奏ニ繁絃ニ。」
㊁酒を賣る、うる。○〔史〕「周丘者下邳人、亡ニ命吳ニ――レ酒無レ行」。
㊂酒を買ふ、かふ。○〔史〕「高祖每レ―、留飲レ酒、讎數倍」。
〔榷酤〕官府の酒を專賣して其の利益を獨占すること、さけのためうり。○〔漢〕「初―レ―」。
〔賒酤〕さけをかけにてかふ。○〔吳〕「居レ貧好―、―」。
〔清酤〕すみたるひとよざけ。○〔曹植〕「――盈レ爵」。「―然」。
〔香酤〕かをりよきひとよざけ。○〔林逋〕「水壑――」。

【酤】コ、ク。侯古切　麌
㊀前條の㊀に同じ、ひさよざけ。○〔詩〕「既載ニ清―ニ。」
㊁酒を賣る、うる。

【酤】コ、ク。古慕切　遇
㊀うる、(賣)。㊁ころ、(略)。

【⿰酉必】ヒツ、ビチ。毗必切　質
酒を飲み盡くす、のみつくす。

【⿰酉包】ハウ、ベウ。皮敎切　效
㊀酒氣の顏色にあらはるゝにいふ字、ゑふ。○〔楚辭註〕「美人醉―則面著ニ赤色ニ而鮮好也」。
㊁面の上の瘡、もがさ。

【⿰酉夬】醯に同じ。○〔淮〕「清―之美」。

【酥】ソ、ス。孫租切　虞
牛羊の乳を以て作りたる漿、酪の上部に一重の凝りをなせるもの、ちゝ。○〔臞仙神隱書〕「以レ乳入レ釜、煎ニ二三沸ニ、傾ニ入盆內ニ、冷定待ニ面結ニ皮、取レ皮再煎、油出去レ滓、入ニ鍋內ニ、卽成ニ―油ニ。」

【⿰酉白】粕に同じ。○〔理學彙編〕「古人之糟―」。

六畫

【⿰酉兌】俗の醯の字。

【⿰酉耳】ジ、ヂ。仍吏切ニ。女利切ニ。　寘
重釀の酒、一說に、重ねて釀す。

【酧】俗の酬の字。

【酨】ダイ、ダイ。徒戴切　サイ。作代切　隊　スヰ。將遂切　寘
米を釋きたる汁、こめしろ、又酢漿、こんず。○〔漢〕「醋―灰炭」。

【⿰酉舌】クワツ、グワチ。戶括切　曷
未だまざる酒、もろみざけ。○〔抱朴〕「偏嗜ニ酸―甜ニ者、莫ニ能賞ニ其味ニ也」。

【⿰酉舌】甜に同じ、あまし。

【⿰酉朱】ショ、ソ。專於切　魚
㊀くむ、(酌)。㊁もろみ、(醅)。

【酩】メイ、ミヤウ。莫迥切　迥
㊀―酊は、甚しく醉ふ、ゑふ。○〔晉〕「―酊無レ所レ知」。
㊁粳米及び麥を煮てつくりたる飲料、あまざけ。○〔漢〕「食レ肉而飲レ―」。

【酪】ラク。盧各切 藥
㊀乳汁を煮沸してつくりたる漿、ちゝしろ、飲用して最も滋養の効ありとす。○〔李陵〕「羶肉―漿、以充二飢渴一」。
㊁酢漿、こんず。○〔禮〕「無二醴―一不レ能レ食」。
㊂果實などを煮蒸してつくりたる漿、あんずさけの類。○〔漢〕「敎二民煮レ木爲レ―」」
〔乾酪〕ちしるを精製し乾かし曝らして塊となしたるもの。○〔元飮膳正要〕「又――法」。
〔醴酪〕乳漿のこと、又、あまみある一種のさけ。○〔禮〕「以爲二――一」。
〔羊酪〕ひつじの乳を製したるみつ。○〔世說〕「武子前置二數斛――一」。「但美二
〔湩酪〕乳汁のこと。○〔史〕「以示レ不レ如二――之」。
〔乳酪〕前に同じ。○〔北〕「――將レ出」。
〔飮酪〕乳汁をのむ。○〔漢〕「食レ肉而―レ―」。
〔肉酪〕鳥獸などのにくと乳汁と。○〔北〕「惟食二――一」。
〔酒酪〕酒と乳汁と。○〔唐〕「――異饌」。
〔馬酪〕うまの乳汁。○〔唐〕「諸部食二肉及――一」。
〔糖酪〕あまき乳汁。○〔摭言〕「和以二――一」。
〔甘酪〕前に同じ。○〔劍俠傳〕「沃以二――一」。
〔盛酪〕乳汁をもる。○〔吳萊〕「―レ―添二祭擅一」。

【酪】ロ、ル。魯故切 遇
醴の屬、あまざけ。

【䤃】ゼン、子ン。而琰切 琰
醰―は、味の薄きにいふ語、うすし。

【䤃】ダン、ノン。奴紺切 勘
あく、（餇）。

【䤃】ダン、ノン。乃感切 感
ひしほ、（醬）。

【醛】セツ、セチ。昌悅切 屑
醎葅、しほづけ。

【酬】シウ、市流チウ、陳留ジユ。切ヂユ。切 尤
むくゆ、むくい。
(い)賓より受けたる觴を賓に返し重ねて酒を侑む、さす、すゝむ。○〔儀〕「主人實レ觶―レ賓」。
(ろ)客を饗して更に貨財を送るにいふ字。○〔儀〕「主人―レ賓、束帛儷皮」。
(は)すべて受けたるに對して返報ずるにいふ字。○〔易〕「可二與―酢一」。
(に)また或るものをつかはして厚意を表すにいふ字。○〔唐〕「吾恨レ無二官―レ公」。「――」
〔對酬〕むかひてさけをすゝむ。○〔蘇軾〕「即亦無二――」
〔侑酬〕酒食をすゝむ。○〔儀〕「乃升二長賓一―二―之」。「之」。
〔厚酬〕てあつく酒幣をもてむくゆ。○〔左〕「――」。
〔重酬〕前に同じ。○〔左〕「――之」。
〔餉酬〕酒食財貨などを贈りておくゆ。○〔唐〕「以二金繒一相――」。
〔勸酬〕さけをすゝめむくゆ。○〔宋〕「親爲二――一」。
〔唱酬〕詩歌などをつくりて他人にしめし又他人の作に對しておくゆること。○〔宋〕「皆與――相往來」。
〔和酬〕他人の作りたる詩歌の意に和しつぎておくりおくゆること。○〔王禹偁〕「調高誰――」。
〔賡酬〕前に同じ。○〔張耒〕「――終日自忘レ饑」。

【酭】イウ、ウ。尤救切 宥
酒を酬ゆ、むくゆ、すゝむ。○〔韓愈〕「惟用贊二報―一」。

【酮】トウ、徒揔チヨウ、傳容ヅ。切ヂユ。切 董 冬

㊂酒壞ろ、くさろ。㊁す、（酢）。

【酮】トウ、ヅ。徒東切 東
うまのちゝ、（酪）、一說に、す、（酢）。

【醃】グワイ、ゲ。五回切 灰
醉へる貌にいふ字。

【酸】カウ、ゲウ。胡茅切 肴
うろ、（沽）。

【西匽】ヂ、ニ。女利切 寘
こきさけ、（重酒）。

【酦】ハツ、ホチ。房越切 月
かもす、（釀）。

七畫

【䣓】ケン。古懸切 先
孔より酒を下す、こす。

【醒】ゲイ、ギヤウ。五鼎切 迥
さむ、（醒）。

【酲】テイ、ヂヤウ。直貞切 庚
㊀醉ひの解けがたきこと、ゑひ病めること、わるゑひ、さかやまひ、ふつかゑひ。○〔詩〕「憂心如レ―」。
㊁ながし、（長）。
〔朝酲〕夜飮のすぎたるよりあさのこゝちあしきをいふ。○〔梁元帝〕「竹葉解二――一」。
〔解酲〕飮酒のためのあしきこゝちをのぞきさる。○〔後漢〕「猶二―レ―一當レ以レ酒也」。
〔餘酲〕前に同じ。○〔白居易〕「―レ―數鈎レ鱸」。
〔煩酲〕飮酒のためのあしきこゝちをいふ。○〔劉攽〕「澡雪滌二――一」。
〔帶酲〕さけのためのあしきこゝちをふくむ。○〔李百藥〕「劉君恆―レ―」。
〔酒酲〕さけをすごしたるためのあしきこゝちをいふ。○〔鄭谷〕「步二野風淸一散二――一」。

【醒】テイ、チヤウ。癡貞切 庚
やむ、（病）。

【酳】イン。羊晉切 震
㊀酒にて口を漱ぐにいふ字、すゝぐ。○〔禮〕「執レ爵而―」。
㊁尸に酒を獻ずること。○〔儀〕「―レ尸」。

【酴】ト、ヅ。同都切 虞
㊀酒母、さけのもと。
㊁滓を去らずして飮む麥酒、もろみざけ、にごりざけ。
㊂―醾は、重釀の酒、かさねてかもしたるさけ。○〔輦下歲時記〕「寒食賜二宰臣以下―醾酒一」。

【酵】カウ、ケウ。古孝切 效
㊀酒母、もと、又、酒滓、かす。○〔金〕「定二糟―錢一」。
㊁酒氣の發作すること。○〔韋巨源〕「籠蒸饅頭發―浮起者」。
〔酒酵〕さけのかす。○〔癸辛雜識〕「遂以二――」作レ湯飮レ之而愈」。

【䤈】バイ、メ。謨杯切 灰
酒母、もろみ。

【酷】コク。苦沃切 沃
㊀酒味の濃厚なるにいふ字、こし、あつし、又香氣の醲冽なるにいふ字、はげし。○〔史〕「――烈淑郁」。
㊁穀の熟するにいふ字。○〔揚雄〕「自レ河以北趙魏之閒、穀熟曰レ―」。

❸むごし、からし。
(い)くろしめ、虐ぐるにいふ字。〇[史]「離二秦之一ー一」。
(ろ)過度にきびし。〇[潜夫論]「姦-究繁-多、則吏安能無二嚴-ー一」。
(は)身心をいたむるにいふ字、つらし、くるし。〇[晉]「幼丁二艱-ー一」。
㊃はなはだし、(甚)。〇[晉]「ー似二其舅一」。
㊄痛恨、苦痛、いたみ、うらみ。〇[顏延之]「銜レー茹レ恨」。
〔殘酷〕いたく暴虐なること。〇[詩、箋]「不レ爲二ー-ー一」。
〔暴酷〕前に同じ。〇[漢]「刑-罰ー-ー」。「者一」。
〔慘酷〕前に同じ。〇[揚雄]「摘二秦-政ー-ー一尤煩」。
〔憯酷〕前に同じ。〇[漢]「又好用二ー-ー之吏一」。
〔楷酷〕前に同じ。〇[唐]「時-吏ー-ー」。
〔殘酷〕刑政などのいたくきびしきにいふ語。〇[漢]「畏レ非自重、而都獨先二ー-ー一」。
〔峻酷〕前に同じ。〇[宋]「上以二繼-和ー-ー一」。
〔苛酷〕煩苛にしてきびしきこと。〇[後漢]「既有二天-下一而政-令ー-ー」。
〔怨酷〕いたみうらむ。〇[庾闡]「率-土ー-ー」。
〔冤酷〕つみなきに刑禍にかゝりていたましきをいふ。〇[魏]「吳人傷二子-胥之ー-ー一」。
〔枉酷〕前に同じ。〇[晉]「一-旦ー-ー天下傷焉」。
〔禍酷〕わざはひ。〇[庾闡]「離二其ー-ー一」。

【酷】カク。黑各切　[藥]

ふへたぐ、(虐)。

【酸】サン。素官切　[寒]

㊀す、(醋)。〇[枚乘]「糅以二芳-ー一」。
㊁すの味なり、すし。〇[禮]「其味ー」。
㊂進まんさして進みがたきにいふ字、堪へんさして堪へがたきにいふ字、つらし。〇[嵇康]「自致二力所レ難、臨レ文情辛-ー」。
㊃悲しむ、痛む。〇[宋玉]「寒-心ー-鼻」。
㊄寒素なり、さむし。〇[蘇軾]「豪-氣一-洗儒-生ー」。
〔辛酸〕からきとすきと、又、轉じて艱苦悲痛の義にいふ語。〇[魏、註]「坎-軻多二ー-ー一」。
〔甘酸〕あまきとすきと、又、あまみのうちにすみをふくみたるにもいふ。〇[梁]「旨-酒貿二其ー-ー一」。
〔哀酸〕かなしみいたむ。〇[魏、註]「晝-夜ー-ー」。
〔悲酸〕前に同じ。〇[張雨]「喜極重二ー-ー一」。
〔慘酸〕すみあるをこのまず。〇[論衡]「ーレー而沃レ之以レ酸」。

【酹】ライ、郞外切　[泰]　ラツ、盧活切　ラチ。ライ、盧對切　[隊]　ルヰ。力遂切　[寘]　[曷]

酒を地に沃ぎて神を祭るにいふ字、まつる、そゝぐ。〇[後漢]「不下以二斗-酒隻-雞一過相沃ー-ー上」。

【酣】カン、コン。呼含切　[覃]

㊀酒の色。㊁面の赤き色。

【酺】ホ、薄乎切　[虞]　プ。蒲故切　[遇]

㊀會聚して酒を飲み歡樂す、たのしむ。〇[史]「天-下大ー」。
㊁官より人民に會聚して酒を飲み樂しむを許すと、又、官より其の酒食を賜はると。〇[漢]「ー五-日」。
㊂災害を及ぼす神。〇[周]「春-秋祭-ー亦如レ之」。
〔大酺〕帝王より天下のものに酒食をおほいに賜はるをいふ。〇[漢]「令二天-下ー-ー一」。
〔賜酺〕前に同じ。〇[唐]「王-者ーレー」。
〔醧酺〕酒を飲む。〇[丘遲]「ー-ー卒レ歲」。

八畫

【醇】リヤウ、力讓切　[漾]　ラウ。呂張切　[陽]

㊀雜りたる味、まじりあぢ。
㊁こんず、(漿)。〇[周、註]「六-清、水、漿、醴、ー、醫、酏」。

【醀】醨に同じ。

【醊】タウ、ドウ。徒刀切　[豪]

酕ーは、醉ひたる貌にいふ語。〇[晁補之]「有レ時醉ー-ー」。

【醅】ハイ、ヘ。匹回切　[灰]

㊀醉飽す、ゑひあく。
㊁未だ漉さゞる酒、もろみざけ。〇[杜甫]「尊-酒家貧只舊ー」。
㊂重ねて釀す、かもす。〇[李白]「恰似蒲-萄初醱-ー」。
〔玉醅〕もろみざけ。〇[陸游]「自洗二銀-壺一試二ー-ー一」。
〔綠醅〕ふるきもろみざけ。〇[白居易]「唯將二ー-ー酒一」。
〔新醅〕新釀のもろみざけ。〇[陸游]「一-笑擧二ー-ー一」。

【醅】フウ、匹尤切　[尤]　ホウ、普后切　[有]　フ。フ。

前條の㊀に同じ。

【醆】サン、阻限切　[潸]　セン。旨善切　[銑]　セン。

㊀さかづき、(爵)。〇[西疇常言]「非二燭後二不レ擧レー」。
㊁微しく淸める濁酒、うすゞみのにごりざけ。〇[禮]「醴-ー在レ戶」。

【醇】シュン、ジュン。常倫切　[眞]

㊀酒味濃厚なり、こし、又、濃厚なる酒、こきさけ。〇[後漢]「乃益釀二ー-酒一」。
㊁純淸、專一、まじりけなし、もッぱらなり。〇[嵇康]「神-氣以二ー-白一獨著」。
㊂あつし、(厚)。〇[老]「其政悶-々其民ー-ー」。
㊃くはし、(精)。〇[易]「天-地絪-縕、萬-物化-ー」。

【醀】スヰ。位錐切　[支]

肉を和したる酒、しゝむらざけ。

【醋】スヰ。之瑞切　[寘]

やむ、(病)。

【醁】リヨク、力玉切　[沃]　ロク。ロク。盧谷切　[屋]

美酒、よきさけ。〇[抱朴]「寒-泉甘二於醽-ー一」。
〔芳醁〕かうばしきよきさけ。〇[王融]「蒸-肴ー-ー」。

【醃】エン。於念切　[琰]

にがし、(苦)。

【醂】ラン、ロン。盧感切　[感]

㊀桃菹、もゝのつけもの。
㊁藏柹、ほしがき。

【醆】テン。他典切　[銑]

濃厚なる酒、こきさけ。

【醬】セイ。征例切　[霽]

魚子醬、うをびしほ。

【醃】エン、於嚴切　[鹽]　オン。アン、烏紺切　[勘]　オン。

㊀鹽漬魚、しほづけのうを。
㊁漬藏物、つけもの。

【醔】チ。陟離切　[支]

醬に同じ。

【醍】テイ、タイ。他禮切　[薺]

㊄謹重なるにいふ字、つゝしむ、うや〱し。〇〔漢〕「ーー謹無ㇾ他」。
㊅全體一色、ひといろ。〇〔食貨志〕「天子不ㇾ能ㇾ具二ー駟一」。
〔淸醇〕きよらかにしてまじりなき酒、又、淸粹なること。〇〔琴賦〕「旨酒ーー」。
〔醇々〕淳樸にして輕薄ならざる貌にいふ語。〇〔老〕「其民ーー」。
〔芳醇〕かうばしく精粹なるさけ。〇〔張華〕「此酒「復ーー」。
〔醲醇〕まぜものなききさけ。〇〔潘尼〕「旨酒ーー」。
〔貞醇〕たゞしく眞粹なること。〇〔韋應物〕「稟ㇾ度自「ーー」。

【⿰酉炎】タン、ドン。徒甘切 [覃]
酒醋の味薄し、うすし。

【⿰酉炎】タン、ドン。杜覽切 [感]
うすきさけ（醽）。

【⿰酉宜】ベキ、ミヤク。眉覓切 [錫]
酪滓、さけのかす。

【⿰酉宜】イン、オン。於金切 [侵] アン、オン。於南切 [覃]
酒の聲にいふ字。

【醉】スヰ。將遂切 [寘] 精隹切 [支]
㊀ゑふ。
（い）酒を飲みて酣樂の情催すにいふ字。〇〔詩〕「既ー既飽」。
（ろ）酒を飲みて心身の狂ふにいふ字。〇〔詩〕「憂心如ㇾー」。
㊁ゑふに至らしむ、ゑはす。〇〔詩〕「ーㇾ之以ㇾ酒」。
㊂心和ぎ神全きにいふ字。〇〔淮〕「通二大和一者、惛若二純ーー一而甘臥以遊二其中一、不ㇾ知二其所ㇾ由」。
〔心醉〕こゝろの恍惚たるをいふ。〇〔晉〕「見ㇾ咸ーー」。
〔徑醉〕たゞちにゑふ。〇〔史〕「不ㇾ過二一斗一ーー矣」。
〔宿醉〕ふつかゑひ。〇〔沈佺期〕「定是風光牽二ーー一」。
〔冒醉〕ゑひをもとむ。〇〔李白〕「ーㇾー入二新豐一」。
〔飲醉〕酒をのみてゑふ。〇〔史〕「以爲漢兵不ㇾ能ㇾ至ㇾ此ーー」。
〔大醉〕いたくゑふ。〇〔唐〕「俄ーー」。
〔洪醉〕前に同じ。〇〔南〕「ーー之後、有ㇾ得有ㇾ失」。
〔沈醉〕ゑひのあさからざること。〇〔晉〕「率常ーー」。
〔泥醉〕前に同じ。〇〔陸游〕「ーー醒常少」。
〔酣醉〕酒に醉ふ。〇〔晉〕「皆以二ーー一獲ㇾ免」。
〔荒醉〕いたくみだれゑふ。〇〔晉〕「ーー失ㇾ儀」。
〔狂醉〕前に同じ。〇〔李中〕「ーー養二天眞一」。
〔昏醉〕知覺なきほどゑふ。〇〔晉〕「昵ーー斧免」。
〔歡醉〕よろこびゑふ。〇〔列仙傳〕「劇談ーー」。
〔長醉〕いつまでもゑひてさめず。〇〔李白〕「但願ーー不ㇾ用ㇾ醒」。
〔放醉〕おもひのまゝにゑふ。〇〔白居易〕「尋ㇾ春ーー尚二粗豪一」。
〔微醉〕すこしのゑひ。〇〔李商隱〕「小亭閒眠ーー消」。
〔爛醉〕十分にゑふ。〇〔陸游〕「狂吟ーー君無ㇾ笑」。

【醊】テツ、テチ。陟劣切 [屑] テイ、テ。陟衛切 [霽]
諸神の祭座を連綴し設けて地に酒を沃ぎて祭事を行ふこと。〇〔史〕「其下四方地曰二ー食一」。

【⿰酉盂】ウ、ヲ。憶俱切 [虞]
㊀さかもり（宴）。
㊁日始めて旦するを、あかつき。

【醋】サク、ザク。在各切 [藥]
客より主人に酬するにいふ字、むくゆ、さす。〇〔儀〕「祝酌受ㇾ尸、尸ー二主人一」。

【醋】ソ、ス。倉故切 [遇]
す（酢）。

九畫

【⿰酉甚】イン。余箴切　シン、ジン。時任切　チン、ヂン。持林切 [侵]
㊀かうぢ（麴）。㊁ねかす（幽）。

【⿰酉某】バイ、メ。莫杯切 [灰]
醋の別名、す。

【⿰酉音】イン、オン。於金切 [侵]
醉ひたる聲にいふ字。

【⿰酉音】アン、オン。烏含切 [覃]
ゑふ（醉）。

【⿰酉音】イン、オン。於禁切 [沁]
㊀物を釀す氣。
㊁漬藏（つけをさめ）し揜覆（おほひ）して氣を泄らさゞるを、つけこみ。

【醍】テイ、タイ。他禮切 [薺]
成熟したる酒の發せる赤紅色、あか、又、赤紅色を有する淸酒、すみざけ。〇〔禮〕「粢ー在ㇾ堂」。

【醍】テイ、ダイ。田黎切 [齊]
ーー醐は、酥の上に浮べる油の如きもの、卽ち、酪の精液、味甘くして最も滋養の効ありといふ、轉じて佛性の義にいふ。〇〔本草綱目〕「從二熟酥一出二ーー醐一」。

【⿰酉軍】コン。胡本切 [阮] ウン、チン。王問切 [問]
醞酒を沃ぐ、そゝぐ。

【醎】俗の鹹の字、しほからし。〇〔戰〕「調二乎醎ーー一」。

【醏】ト、ツ。當孤切 [虞]
ひしほ（醬）。

【醘】カイ、ケ。許亥切 [賄]
酒器、さかづき。

【⿰酉面】湎に同じ。〇〔淮〕「沈ーー酖ー荒」。

【醐】コ、グ。戶吳切 [虞]
醍の字の條を見よ。

【醔】ボウ、ム。莫候切 [宥] ボ、ム。莫胡切 [虞] フウ、ブ。迷浮切 [尤]
ー䤈は、にれびしほ（楡醬）。

【䤈】トウ、ヅ。田候切 [宥] 度侯切 [尤] ト、ヅ。同都切 [虞]
㊀前條を見よ。㊁醲ーは、美味。
㊂天の酒。

【⿰酉悤】ソウ、ス。麤叢切 [東]
にごりざけ（醪）。

【醑】ショ、ソ。私呂切 [語]
沛酒、したみざけ、又、美酒、よきさけ。〇〔庾信〕「中山ー淸」。
〔酣醑〕酒にゑふ。〇〔沈約〕「終ーー」。
〔歡醑〕よろこびのよきさけ。〇〔沈約〕「幸承二ーー芳宴一」。
〔醐醑〕よきかをりある酒。〇〔唐高宗〕「ーー中二ー餘一」。
〔薄醑〕したみざけ。〇〔王勃〕「託二深悲於ーー一」。
〔淸醑〕前に同じ。〇〔蘇轍〕「病後不ㇾ勝二ーー釀一」。

（粗醑）はしいひとえたみざけと。○〔柳宗元〕「雜-豚-－-－」。
（美醑）よきさけ。○〔戴良〕「－-－溢二流霞一」。

【醒】セイ、シャウ。先青切 青 ／ 蘇挺切 迥 ／ 息正切 徑
さむ。
（い）醉ひの解けたるにいふ字。○〔左〕「－以レ戈逐二子犯一」。
（ろ）醉ひてあらざるにいふ字。○〔屈平〕「我獨－」。
（は）夢覺むるにもいふ字。○〔韓愈〕「朝-曦入レ牖來、鳥喚昏不レ－」。
（酒醒）ゑひのとけ散ずると。○〔杜牧〕「－-－孤-枕雁來初」。
（夢醒）ねむりさむ。○〔朱熹〕「午-－-酒-能-－」。

【醒】セイ、シャウ。子淸切 庚
星の名。○〔孫氏瑞應圖〕「大-－-景-星也」。

【⿰酉南】ダン、ナン。乃感切 感
⊖肉を煮る、にる。⊜あつもの、（臑）。

【⿰酉矣】キ。居誄切 紙
すみざけ、（醷）。

【酤】コ、ク。荒故切 遇
醢に同じ、韭、鬱、にらをれかしたるもの、一說に、つけもの、（菹）。

【醓】タン、トン。他感切 感
⊖ちの志ほから、（血-醢）。⊜ひしほ、（醬）。⊜肉醬、志〻びしほ。○〔周〕「深-蒲-－-醢」。⊞こきさけ、（醲）。⊞すし、（酸）。

【⿱秋酉】シウ、シユ。將由切 尤

酒をつかさどる官。

【醙】シウ、シユ。所鳩切 尤 ／ 息九切 有
白酒、志ろざけ、一說に、黍酒、きびざけ。○〔儀〕「－-黍淸皆兩壺」。

【⿰酉⿱兮皿】キ、ケ。虛宜切 支
醯に同じ、す。○〔唐〕「以レ－灌レ鼻」。
（瑣醯）すを吸ひて顏をしかむると。○〔王延壽〕「以－-－」。

【⿰酉茶】セツ、セチ。朱劣切 屑
鹹菹、つけな。

十畫

【醘】カフ、コフ。克盍切 合
酒器、さかづき。

【⿰酉桑】サウ。息郎切 陽
乳酒、ち〻ざけ。

【⿰酉𥁑】ビツ、ミチ。迷必切 質
⊖酒を飲みつくす、のみほす。⊜ひしほ、（醬）。

【醚】ビ、ミ。莫兮切 支
ゑふ、（醉）。

【⿰車⿱𠆢酉】カン。侯旰切 翰
清酒、すみざけ。

【⿰酉茸】ジョウ、ニユ。而容切 冬
⊖さけ、（酒）。⊜重釀の酒。

【⿰酉茸】ヂ、ニ。女利切 寘
こきさけ、（重-釀）。

【⿰酉豈】ガイ、ゲ。五對切 隊
醉ひだる貌にいふ字。

【醛】セツ、セチ。測劣切 屑
酒味變す、くさる。

【⿰酉家】ボウ、ム。莫紅切 東
麴衣、かうぢのはな。

【⿱殸酉】コク。胡谷切 屋
濁酒、にごりざけ。

【⿰酉鬲】レキ、リヤク。郎擊切 錫
酒を漉す、こす、志たむ。

【醜】シウ、ス。齒九切 有
⊖あし。
（い）惡さすべし、きらふべし。○〔詩〕「日有レ食レ之、亦孔之－」。
（ろ）穢らはし、はづべし。○〔隋〕「蒸-淫-－-穢」。
（は）貌惡し、みめわろし、みにくし。○〔漢〕「或形-貌-－-惡」。
⊜にくむ。
（い）忌む、きらふ。○〔史〕「既－二有-夏一」。
（ろ）互に睦ましからざるにいふ字。○〔戰〕「又身自－二於秦一」。
（は）はづ、（羞）。○〔史〕「寡-人甚－レ之」。
⊜恥辱、汙穢、はぢ、けがれ。○〔戰〕「皆有二詬-－大-誹一」。
⊞兇惡者。○〔晉〕「羣-－破-滅」。
⊞みめあしき人。○〔文心雕龍〕「里-－捧レ心」。
⊕たぐひ、（類）。○〔易〕「夫征不三復離二羣-－一也」。
⊕もろ〻、（衆）。○〔詩〕「執レ訊獲レ－」。
⊕くらぶ、（比）。○〔禮〕「比レ物－レ類」。
⊕ひさし、（同）。○〔孟〕「地－民齊」。
⊕鼈竅、すっぽんの志りのあな。○〔禮〕「鼈去レ－」。
（戎醜）えびすのともがら。○〔詩〕「－-－攸レ行」。
（小醜）あしき德なきもの。○〔周〕「沉-田-－-－」。
（好醜）かほよきとみにくきと。○〔列〕「賢-愚-－-－」。
（妍醜）前に同じ。○〔周曇〕「能知-賢-賄移二－-－一」。「果」。
（肥醜）肉こえてみにくし。○〔後漢〕「狀-－-－而」。
（殘醜）うちもらされたるあしきともがら。○〔後漢〕「－-－消-蕩」。
（餘醜）前に同じ。○〔諸葛亮〕「殘-類-－-－」。
（凶醜）奸惡なるともがら。○〔南〕「豈有下取二媚－-－以求上レ全乎」。
（麤醜）みにくし。○〔魏〕「貉-容-貌-－-－無二威-儀一」。
（短醜）たけたか〻らずしてみにくし。○〔南〕「體-形-貌-－-－」。
（壯醜）つよげにしてみにくし。○〔南〕「容-貌-－-－」。
（黑醜）くろくみにくし。○〔易林〕「深-目-－-－」。
（奇醜）つねなみならずみにくし。○〔老學菴筆記〕「貿-方-面-狀-貌-－-－」。

【醝】サ、ザ。才何切 歌
白酒、志ろざけ。○〔周、釋文〕「卽今之白-－-酒也」。

【醝】サ。此我切 哿
山-－は、栗の名。

【⿰酉冥】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
乾酪、ほしち〻。

【醞】ウン、オン。於問切 問 ／ 於粉切 吻
⊖酒を釀す、かもす。○〔張衡〕「酒則九-－、甘-醴、十-旬兼-淸」。
⊜釀成したる酒。○〔王僧達〕「春-－時-獻-斛」。

㊂溫に同じ、含蓄の意、おくゆかし、ふさやか。○〔北〕「容-止—-藉」。

【醟】エイ、爲命　ケイ、休正　ヤウ。切　キヤウ。切　敬

エイ、于營　ヤウ。切　庚

酒に醉ひて常を失しなふ、ゑひあやまつ、ゑひくるふ。○〔抱朴〕「酗—者」。

〔昏醟〕酒にゑひてくるひみだるゝこと。○〔晉〕「—-—尤甚」。

〔酣醟〕前に同じ。○〔沈約〕「—ニ—于酒ニ」。

〔淫醟〕酒色に迷ひくるふ。○〔漢〕「中山—-—」。

【⿰酉旁】ハウ、バウ。博旁切　陽

杯上に酒を加ふること。

【醠】アウ。烏浪切　漾　切烏朗　養

濁酒、にごりざけ。

【醡】サ、側架　セ。切　禡　サイ、側賣　セ。切　卦

㊀酒をゑむる具、さけこし。

㊁油をゑむる具、あぶらしめ。

【醢】カイ。呼改切　賄

㊀乾肉を坐みて麴と鹽とを雜ぜ之を美酒に漬してならしたるもの、ゑしびしほ、ゑほから、肉醬、肉汁。○〔詩〕「醓—以薦」。

㊁にろ、（烹）。○〔史〕「吾將レ使下秦-王烹中-—梁-王上」。

〔醓醢〕肉醬のこと。○〔詩〕「—-—以薦」。

〔醯醢〕前に同じ。○〔禮〕「—-—處レ內」。

〔魚醢〕さかなのゑほにひたしたるもの。○〔禮〕「糜-膏—-—」。

〔脯醢〕乾肉と肉醬と。○〔禮〕「大夫聘-禮以ニ—-—ニ」。

〔菹醢〕すにつけたる菜とゑゝびしほと。○〔漢〕「敵請ニ—-—之罪ニ」。

【⿰酉或】イク、オク。乙六切　屋

面の黄色なるにいふ字。

【⿱医酉】イ。於其切　支

さけ、（酒）。○〔周、註〕「水、醬、醴、涼、—、酏」。

十一畫

【⿰酉卑】ヘイ、バイ。蒲計切　霽

楡（にれ）を擣きてつくりたる醬、にれびしほ。

【⿰酉莫】ボ、ム。莫胡切　虞

美醬。

【⿰酉頁】コウ、ク。呼孔切　董

醉ひて顚頓するにいふ字、ゑひたふる。○〔王延壽〕「—酾-酌以迷-醉」。

【⿰酉㒼】ベイ、莫兮　マイ。切　齊　バン、謨官　マン　切　寒

醬に生じたる白色のもの、かび。

【⿰酉曼】⿰酉㒼に同じ。

【⿰酉責】サイ、セ。所賣切　卦

酒を釃す、こす。

【⿰酉責】サ、セ。側駕切　禡

酢に同じ、さけこし。

【醥】ヘウ。敷沼切　篠

すみざけ、（淸-酒）。○〔左思〕「觴以ニ淸-—ニ、鮮以ニ紫-鱗ニ」。

【醦】サン、センン。所斬切　豏

す、（酢）。

【醦】シン。初朕切　寑

㊀前條に同じ。㊁甚しく醉ふ、ゑふ。

【醦】セン。初斂切　豔

すし、（酢）。

【醧】ヨ、依據　オ。切　御　オウ、烏侯　ウ。切　尤

㊀私の燕飮、うちわのさかもり、わたくしのさかもり。○〔左〕「愔-々—-醼、酣-湑無レ譁」。

㊁飮み能ふ者は飮み、飮み能はぬ者は已め、杯杓を各自の酒量に任せて强ひざること。○〔韓詩外傳〕「飮-酒之—」。

【醧】オウ、ウ。於侯切　尤

酒の味和ぐにいふ字。

【醨】リ。呂支切　支

味の淡泊なる酒、うすきさけ、又、醇味を去りたる殘酒、ゑろ。○〔屈平〕「何不下餔ニ其糟ニ而歠中其—上」。

〔醇醨〕こきさけとうすきさけと。○〔王禹偁〕「傾-酌任ニ—-—ニ」。

〔薄醨〕うすきさけ。○〔李洞〕「一-盞—-—酒」。

【⿰酉昜】・觴に同じ。

【⿰酉巢】サウ、セウ。士孝切　效

ゑふ、（醉）。

【醩】籀文の糟の字。○〔漢〕「—-截灰-炭」。

【醪】ラウ、ロウ。魯刀切　豪

未だ泲まずして汁滓相混ずる酒、にごりざけ、（濁-酒）。○〔史〕「置ニ二-石醇-—ニ」。

〔精醪〕はしひとにごりざけと。○〔漢〕「大-將-軍使ニ長-史持ニ—-—遺上レ廣」。

〔濁醪〕にごりざけ。○〔杜甫〕「—-—有ニ妙-理ニ」。

〔濃醪〕こきにごりざけ。○〔羅隱〕「百-壺—-—成ニ別-夢ニ」。

〔酒醪〕すみざけとにごりざけと。○〔揚雄〕「—-—「不レ入」、

〔甘醪〕あまきにごりざけ。○〔魏文帝〕「大-酋奉ニ—-—ニ」。

〔積醪〕さけをあつむ。○〔晉〕「—-—爲レ沼」。

〔淸醪〕すみたるさけ。○〔司馬光〕「—-—迎レ壯熱」。

〔澄醪〕前に同じ。○〔劉琨〕「—-—覆レ觴」。

〔芳醪〕香醪といふに同じ、かをりたかき濁酒。○〔李商隱〕「一-醆—-—不レ得レ嘗」。

【醫】イ。於其切　支

㊀疾病を療治すること。○〔國〕「—レ國」。

㊁疾病を療治することを業となす者、くすし、いしや。○〔禮〕「—不ニ三-世一、不レ服ニ其藥ニ」。

〔疾醫〕病を療治する者。○〔周〕「—-—掌レ養ニ萬民之疾-病ニ」。

〔獸醫〕牛馬など家畜の疾病を療する人。○〔周〕「—-—掌下療ニ獸-病一、療中獸瘍上」。

〔巫醫〕みことくすしと。○〔論〕「人而無レ恆、不レ可ニ以作ニ—-—ニ」。

〔良醫〕よきくすし。○〔左〕「知レ爲ニ—-—ニ」。

〔善醫〕前に同じ。○〔韓愈〕「—-—者不レ視ニ人之瘠-肥ニ」。

〔牛醫〕うしのくすし。○〔後漢〕「汝復從ニ—-—兒來耶」。

〔馬醫〕うまのくすし。○〔漢〕「張-里以ニ—-—ニ而「擊レ鍾」。

〔衆醫〕おほくのくすし。○〔史〕「—-—不レ知、以爲ニ大-蠱ニ」。

〔名醫〕なだかきくすし。○〔漢〕「昭-帝末徵ニ天-下「—-—ニ」。

〔高醫〕前に同じ。○〔唐〕「遂爲ニ—-—ニ」。

〔大醫〕すぐれたるくすし。○〔後漢〕「大-官—-—相ニ望于道ニ」。

【醫】イ。隱綺切　紙

一種の飲料、のみもの、一説に、梅漿、うめざけ、又一説に、淸醴、あまざけ。○〔周〕「辨二四-飮之物一二曰、―」。

【䣽】チ。陟離切 支
さけ、（酒）。

【醬】シヤウ、サウ。子亮切 漾
麥麪豆米などを罨（ねか）して黃色さなしたるものに鹽を加へてならしたるもの、ひしほ、みそ、これに或は肉を和し或は菜を漬けなどす。○〔禮〕「醯―處レ內」。
〔肉醬〕ししびしほ。○〔周、註〕「醢、醓―也」。
〔美醬〕よきひしほ。○〔唐〕「有二――一乎」。
〔豉醬〕まめのしほづけ。○〔譚子〕「有下攜二――一若二蜻蛉一者上」。

【醶】デン、乃玷切 琰　テン。奴店切 豔
きゆ、（消）。

十二畫

【䤎】キツ、キチ。居律切 質
ひしほ（醬）。

【䣱】ケツ、ケチ。古穴切 屑
蚌醬、かひのひしほ。

【䤏】ヒ、ビ。符鄙切 紙
㊀おほふ（覆）。㊁酒の色、いろ。

【醭】ホク、ボク。博木切 屋
酒醬に生じたる白色のもの、かび。○〔廣韻〕「醋生二白―一」。

【䤐】シン。子朕切 寑　七稔切 沁

㊀酒を飲む。㊁少しく甜し、あまし。㊂うまし（美）。

【醠】ワウ。烏浪切 漾
もろみざけ。

【䤅】タン。都艱切 寒
にごりざけ。

【䤍】レウ。盧鳥切 篠
すみざけ。

【䤉】セン。旨善切 銑
にがきさけ。

【䤒】キ、ケ。其既切 未
秫酒、あはざけ。

【䤒】キ、ケ。擧豈切 尾
酒浮、さけのうはずみ。

【䤔】キヨウ、ク。古勇切 腫
鹹菹、しほづけ。

【醮】セウ。子肖切 嘯
㊀酒を供へて神を祭ること。○〔漢〕「或言、益-州有二金-馬碧-雞之神一、可二―祭而致一」。
㊁冠娶の禮祭、其の主たる者は他の酌を受けて返酬をなさゞるを例とす。○〔禮〕「―二於客-位一」。
㊂つくす、つく（盡）。○〔荀〕「利-爵之不レ―也」。
㊃壇を設けて祈禱すること。○〔徽考寶籙〕「宮設レ―、一日親臨レ之」。
〔冠醮〕かんむりのきぞめの禮を行ふときの祭り。○〔禮〕「有二――一無二冠醴一」。
〔再醮〕ふたゝび行ふ冠娶の禮祭、又、轉じて再嫁の義に用ふる語。○〔北齊〕「一門女不二――一」。

【醮】セウ、ゼウ。昨焦切 蕭
憔に同じ、やつる、かじく。○〔莊〕「滿-心戚―」。

【醪】ラウ、ロウ。郎刀切 豪
にごりざけ（濁-酒）。

【䤫】クワ、ケ。呼瓜切 麻
こきさけ（醇-酒）。

【䤪】サイ、セ。楚快切 卦
ひしほ（醬）。

【醯】ケイ、カイ。呼雞切 齊　キ。馨夷切 支
㊀す、ずし（酸）。○〔禮〕「―醬處レ內」。
㊁汁多き醢、しほから。○〔釋名〕「―、瀋也」。
㊂傒―は、あやふし。○〔揚雄〕「倚レ物而危、謂二之傒―一」。
〔注醯〕すをつぎそゝぐ。○〔唐〕「皆―二―於鼻一」。
〔醯醢〕すとしほとすと。○〔韓愈〕「妙不レ調二――一」。

【醧】イウ、ユ。與九切 有
さけ、（酒）。

【䤗】カン、ケン。古莧切 諫
しほはゆし（鹹）。

【醰】タン、ドン。徒紺切 勘
㊀酒の苦き味、にがみ。㊁酒の味の變はりやすきにいふ字。

【醰】タン、ドン。徒南切 覃
㊀味厚し、味長し、あぢよし、あまし、うまし。○〔王褒〕「良――而有レ味」、㊁醇美。○〔左思〕「宅二心―粹一」。

【醱】ハツ、ハチ。北末切 曷
重醸す、かされかもす、かもす。○〔李白〕「恰似二蒲-萄初―醅一」。

十三畫

【䤙】
醽の俗字。

【䤛】コク。胡谷切 屋
にごりざけ。

【䤝】ボウ、ム。莫紅切 東
にごりざけ。

【醲】ヂヨウ、ニユ。女容切 冬
㊀味の濃厚なる酒、こきさけ。○〔張衡〕「蒲-陶―醽」。
㊁濃に同じ、こし、あつし、こまやか。○〔後漢〕「明-主―二于用一レ賞、約二于用一レ刑」。
〔醲醴〕うすからざる酒、又、淳厚の義に用ふる語。○〔仲長統〕「――之化旣泱」。

【醳】エキ、ヤク。羊益切　セキ、シヤク。思積切 陌
㊀昔酒、ふるきさけ、苦酒、にがきさけ、一説に、醇酒、こきさけ、又一説に、冬釀して春成れる酒、としこしのさけ。○〔左思〕「有レ―順レ時」。
㊁酒食もて兵士を養ふ、ねぎらふ、やしなふ。○〔史〕「百-里之內牛-酒日至、以饗二士大夫一―レ兵」。
〔飄醳〕さかづきにつぎたるにがきさけ。○〔劉季緒〕「淹-留寄二――一」。

〔新醳〕あたらしきさけ。○〔周、疏〕「事酒爲ニ—・—ニ」。
〔淸醳〕すみたるさけ。○〔陳造〕「—・—聆ニ鄒・琴ニ」。

【醳】セキ、シャク。施隻切［陌］
㊀古文の釋の字。○〔史〕「執ニ張・儀ニ掠ニ笞數・百不レ服—レ之」。
㊁ひたす、(漬)。

【醴】レイ、ライ。盧啓切［薺］
㊀釀してより一宿にして成熟せる甜味の酒、ひとよざけ、あまざけ。○〔詩〕「且以酌レ—」。
㊁泉の美なるを、潤ひの嘉きと。○〔禮〕「出ニ—泉ニ」。
㊂禮に通じ用ふ。○〔禮〕「世子生、宰—レ負レ子、賜ニ之束・帛ニ」。
〔甘醴〕あまきさけ。○〔劉楨〕「金・罍含ニ—・—ニ」。
〔芳醴〕かをりたかきあまざけ。○〔洛陽伽藍記〕「—・—盈レ罍」。
〔牲醴〕いけにへとあまざけと。○〔袁凱〕「歲・時具ニ—・—ニ」。
〔醇醴〕醇酒と醴酒と。○〔列仙傳〕「—・—殊レ味」。

【䤖】ハウ、ヘウ。疋貌切［巧］
面のくさ、にきび。

【醵】キャク、ガク。其虐切［藥］　キョ、ゴ。其據切［御］　キョ、ゴ。强魚切［魚］
費用を出だしあひて飲食するを、會合して飲食するを、又、其の費用飲食。○〔禮〕「周・禮其猶レ—與」。

【䤗】セン。旨善切［銑］
苦き酒、にがざけ。

【醶】ゲン。魚窆切［豔］　サン、セン。初檻切　ラン、レン。力減切［豏］　ラン、ロン。盧感切［感］
す、すし、(酢)。

【醶】カン、ケン。虛咸切［咸］
しほはゆし、(鹵)。

【醷】オク、エキ。於力切［職］　イ。於擬切［紙］
濁漿、にごりざけ、梅漿、うめず。○〔禮〕「漿・水—濫」。

【醷】アイ、エ。烏懈切［卦］　タン、トン。他感切［感］
喑—は、聚まりたる氣の貌にいふ語。○〔莊〕「生・者喑—物也」。

【䣷】シヤウ、ジヤウ。市羊切［陽］
なむ、(嘗)。

【䤃】カン、コン。古禫切［感］
鹹味、しほはゆし。

十四畫

【䣿】ショ、ゾ。徐呂切［語］　ヨ。演女切
㊀美なる貌にいふ字。㊁美酒、よきさけ。

【䤓】ボウ、モウ。謨蓬切［東］
㊀かうぢのはな。㊁細き屑、くづ。

【䤄】セイ、ザイ。才詣切［霽］
㊀ひしほ、(醬)。㊁しほはゆし、(鹹)。

【𨣑】セン、ゼン。慈冉切［琰］　サン、ソン。子敢切［感］
味うすし、一に曰ふ、ひしほ、(醬)。

【醹】ジュ、ニュ。而主切［麌］　人朱切［虞］
濃厚なる酒、こきさけ、又、酒濃厚なり、あつし。○〔詩〕「酒・醴維—」。

【醺】クン、コン。許云切［文］
㊀酒氣の體に浹きにいふ字、ゑふ、又、ゑひて和悅するにいふ字、たのしむ。○〔宋〕「微—卽止」。
㊁ゑひに至らしむ、ゑはす。○〔蘇軾〕「但願不レ爲ニ世所レ—」。
〔餘醺〕さめのこりのゑひ。○〔陸龜蒙〕「聊以送ニ—・—ニ」。
〔醺々〕ゑひてよろこぶ貌にいふ語。○〔岑參〕「欲レ別醉—・—」。

【䤙】ラン、ロン。盧瞰切［勘］　魯敢切［感］
觴を泛ぶ、うかぶ。

【醻】シウ、ジュ。市流切［尤］
㊀酬に同じ、むくゆ、すゝむ。○〔詩〕「鐘・鼓既設、一・朝—レ之」。
㊁めぐる、(周)。
〔獻醻〕主客たがひに酒を酌む。○〔詩〕「—・—交・錯」。

【醻】シウ、ジュ。承呪切［有］
むくゆ、(報)。

【醻】タウ、ドウ。大到切［號］
美き酒の名。

【𨣁】サ、ザ。才何切［歌］
しほはゆし(鹹)。

十五畫

【䤕】カク。黑各切［藥］
す、(醋)。

【䤕】カク、コク。黑角切［覺］
㊀前條に同じ。㊁苦酒、にがざけ。

【𨣍】ハウ、ボウ。薄報切［號］
ひとよざけ、一宿酒。

【𨣻】ベキ、ミヤク。莫狄切［錫］
—醿は、乾酪。

【䤌】バツ、マチ。莫葛切［曷］　ベツ、メチ。莫結切［屑］
ひしほ、(醬)。

【𨡼】俗の醶の字。

十六畫

【醼】宴に同じ。

【𨣳】レキ、リヤク。狼狄切［錫］
酒を下す、こす。

【醂】ラン、ロン。盧敢切［感］
すし、(醋)。

【𨣨】エン、オン。一鹽切［鹽］
怒を含む、ふづくむ。

【醲】ソウ、ス。倉紅切［東］
—醲は、にごりざけ。

十七畫

【醽】レイ、リヤウ。郞丁切［靑］
淥酒、こしざけ、又、美酒、よきさけ。○〔抱朴〕「寒・泉旨ニ於—・—醁ニ」。

【䤁】カン、コン。古禫切［感］　タン、ドン。徒紺切［勘］
酒の味の浸淫するにいふ字、しみこむ。

【醾】ビ、ミ。忙皮切 支
酴—は、滓を去らざる麥酒、にごりざけ、一說に、重釀の酒。

【釀】ヂヤウ、ニヤウ。女亮切 漾
㊀かもす。
(い)米麴に水を和して酒を熟成す、さけをつくる。○〔史〕「多—レ酒」。
(ろ)熟成す、なす。○〔淮〕「以相嘔-咐醞—、而成二育萬-物一」。
㊁酒。○〔世說〕「劉-惔曰、見二何-次-道飲一、使下人欲上レ傾二家—一」。
㊂切りて雜じふ、又、其の食品。○〔禮〕「鶉-羹雞-羹鴽—之蓼」。
〔醞釀〕さけをつくる。○〔後漢〕「布禁レ酒而卿等—・—」。
〔冬釀〕ふゆの季節にさけをつくる、又、ふゆつくりたる酒。○〔齊民要術〕「—・—十五日熟」。
〔春釀〕はるつくりたる酒、又、はるの季節に酒をつくる。○〔孟貫〕「石-泉—・—酒」。
〔野釀〕村家にてつくりたる酒。○〔文同〕「山-肴與二—・—一」。
〔村釀〕前に同じ。○〔陸游〕「細傾二—・—一聽二新-蛙一」。
〔自釀〕自家につくりたる酒、又、自家にて酒をかもす。○〔世說〕「當種レ秋—・—」。
〔造釀〕酒をつくる。○〔張載〕「—・—在レ秋」。
〔嘉釀〕佳釀といふに同じ、よきさけ。○〔范成大〕「亥-益—・—漲二愁-城一」。

【醽】ベイ、マイ。緜批切 齊
かうじ、(麴-糵)。

【醶】サン、初減切 豏　セン。七漸切 琰
初斂切 豔
すすし、(酢)。

【醿】醾に同じ。

十八畫

【釁】キン。虛振切 震
㊀牲の血を器に塗りて神を祭るにいふ字、ちぬる、ちまつり。○〔禮〕「成レ廟則—レ之」。
㊁罪過、つみ。○〔左〕「觀レ—而動」。
㊂瑕隙、ひま、すきま。○〔左〕「雖有レ—不レ可レ失也」。
㊃兆候、きざし。○〔陸機〕「天厭二覇-德一、黃-祚告レ—」。
㊄香を塗る、香にて薰ぶ、ぬる、ふすぶ。○〔國〕「三二—三三浴之一」。
㊅うごく、(動)。○〔左〕「—二於勇一」。
㊆獸の奮迅動作するを。○〔爾〕「獸曰レ—」。
〔妖釁〕あやしき凶兆。○〔春秋、疏〕「是—・—之「先徵」。
〔間釁〕すきまの乘ずべきをうかゞふ。○〔東京賦〕「巨-猾—レ—」。
〔開釁〕前に同じ。○〔魏〕「是以觀レ兵以—二其—一」。
〔待釁〕前に同じ。○〔曹植〕「東有二—・—之吳一」。
〔乘釁〕すきあるにつけ入る。○〔後漢〕「必破二長-安一飲二—レ—枡二歸中一」。
〔摘釁〕きずをひろひたす。○〔後漢〕「抉レ瑕—レ—」。
〔疵釁〕きずありてよからさると、又、人のつみとがあるにもいふ。○〔魏、註〕「苟有二—・—一、刑-罰可也」。
〔瑕釁〕前に同じ、又、罅隙の義にもいふ語。○〔玩璃〕「或起二—・—一」。
〔罪釁〕つみあやまち。○〔北〕「故嶪-遜—・—得レ不「聞」。
〔過釁〕前に同じ。○〔馬融〕「固之—・—、事合詠「—」。
〔奸釁〕わるたくみとつみと。○〔王粲〕「—・—並作」。
〔垢釁〕けがれときずと。○〔劉弇〕「鍷-滌無二—・—一」。

【釂】セウ。子肖切 嘯
爵の酒を飲み盡くす、つくす、のみほす。○〔禮〕「長-者擧未レ—、少-者不二敢飲一」。

十九畫

【釃】シ。想里切 紙　所宜切 支　ショ、ソ。所葅切 魚　シ。所寄切 寘
㊀酒を筐にて漉す、こす、したむ。○〔詩〕「—レ酒有レ藇」。
㊁わかつ(分)。○〔漢〕「—二二-渠一以引二其河一」。

【醨】リ。呂支切 支
水を以て醨をしぼる、しぼる。

二十畫

【釅】ゲン。魚欠切 豔
㊀す、(酢)。㊁こきさけ、(釀)。

廿一畫

【醽】レキ、リヤク。郞擊切 錫　レイ、ライ。憐題切 齊
里弟切 薺
—醧は、酪滓、ちゝのかす。

釆部

【釆】ヘン、ベン。蒲莧切 諫
辨別す、わかつ、わかる。
〔說文〕獸指爪分別一。

一畫

【采】サイ、セイ。倉宰切 賄
㊀さる。
(い)捋取す、てにさる。○〔詩〕「—二—卷-耳一」。
(ろ)擇取す、えらぶ。○〔史〕「—二上-古帝位-號一」。
㊁彩色、いろ、いろどり。○〔書〕「以二五-—一彰二施于五-色一」。
㊂文章、あや、もやう。○〔左〕「分二之—・—物一」。
㊃華飾、さいく、かざり。○〔漢〕「禮失而「—」。
㊄風度、やうす、かたち。○〔漢〕「想二聞其風—一」。
㊅事業、こと、わざ。○「事」。
㊆官職、つかさ、やくめ。○〔史〕「展レ—錯レ若二予—一」。○〔書〕「疇咨レ」。
㊇食邑、ちぎやうしよ。○〔禮〕「大-夫有レ—、以處二其子-孫一」。
㊈墓地、はかば。○〔揚雄〕「謂二之墳一、謂二之—一」。
㊉幣帛、ぬさ。○〔史〕「贊レ—」。
⑪盛んなる貌にいふ字、多き貌にいふ字。○〔詩〕「蒹-葭—・—」。
⑫櫟木、くぬぎ。○〔史〕「—椽不レ刮」。
〔服采〕たちて事務を執る官吏。○〔晉〕「服-休—・—」。
〔納采〕昏儀の采擇の禮をいふ。○〔漢〕「詔二有-司一爲二皇-帝一、—二—安-漢-公莽之女一」。
〔樵采〕たきゞをとる。○〔魏略〕「出-行—・—」。
〔探采〕さぐりもとむ。○〔隋〕「—二—前代一」。
〔爭采〕きそひてとる。○〔袁宏〕「—・—二松-竹一」。

【采】サイ。倉代切 隊
㊀前條の㊆㊇に同じ。○〔孟、註〕「所レ受二—・—地一之制」。
㊁菜に同じ。○〔周〕「春入レ學舍レ—合「舞」。

【釆】ソウ、シュ。子荷切 有
採取す、さる。

四畫

【宷】ベイ、マイ。莫兮切 齊
深く入る、いる、はいる。

【宷】ビ、ミ。武移切 支
あみ、(罟)。

【𨤓】ケン、グワン。渠卷切 霰
飯を摶る、にぎる、まろむ。

五畫

【釉】イウ、ユ。余救切 宥
物の光澤、ひかり、つや。

八畫

【䅖】アフ、オフ。烏合切 合
ゑ(繪)。

九畫

【粪】フン、ホン。方問切 問
弃除す、はらふ。

十畫

【糞】フン、ホン。方問切 問
はらふ(掃)。

十三畫

【釋】セキ、シャク。賞隻切 陌
一 さく。
(い)處理す、處理成る、をさむ、をさまる、さばく。○〔呂氏春秋〕「太子不二肯自ー一」。
(ろ)講明す、分疏す、わけをいふ、ときあかす、いひわく。○〔國〕「使三行人奚斯ー二言於齊一」。
(は)明了す、曉悟す、さとる、しる、わかる。○〔國〕「惑不レー」。
(に)はづす、はづる、ぬぐ、ぬがす、ほどく。○〔儀〕「主人ーレ服」。
(ほ)消散す、きゆ、とろく、ちる、けす、とろかす、ちらす、とかす。○〔老〕「若二冰之將一レー」。
(へ)緩む。○〔列〕「心凝形ー」。
二 はなつ。
(い)舍放す、ゆるす。○〔書〕「開二ー無辜一」。
(ろ)發射す、いる。○〔書〕「省二括于度一則ー」。
三 すつ。
(い)捨つ。○〔淮〕「ーレ難而攻レ易」。
(ろ)廢す。○〔書〕「ーレ茲在レ茲」。
(は)去る。○〔禮〕「禮ーレ回」。
四 おく。
(い)置く。○〔禮〕「ー二奠于學一」。
(ろ)遺す。○〔儀〕「ー二三个一」。
五 したがふ(服)。○〔爾疏〕「ー者、ー二去怨恨一而服也」。
六 うるほふ、うるほす(潤)。○〔禮〕「ー而煮レ之」。○〔詩〕「ーレ之叟々」。
七 米を淅ふ、あらふ、とぐ。
八 講明、分疏、ときあかし。○〔魏〕「作二字ーー一」。
(氷釋) こほりの如くとけちる。○〔漢〕「骨肉ーー」。
(消釋) とけきゆ。○〔禮〕「氷凍ーー」。
(散釋) とく。○〔後漢〕「事遂ーー」。
(辭釋) いひとく。○〔晉〕「觸レ類ーー」。
(剖釋) わかちとく。○〔陳〕「岑之敬ーー縱橫」。
(解釋) 前に同じ。○〔太眞外傳〕「ーー春風無限恨」。
(舒釋) のびやかにひらく。○〔張說〕「舉心ーー」。
(慰釋) 心情のむすぼれをときなぐさむ。○〔蘇轍〕「以自ーー」。
(融釋) 解きほどく。○〔葉適〕「又能ー二ー衆疑一」。

【懌】エキ、ヤク。羊益切 陌
懌に同じ、よろこぶ。○〔嵇康〕「康樂者聞レ之則歛愉懽ーー」。

十五畫

【穬】クヮウ。古曠切 漾
飾色、かざりいろ、うはいろ。

里部

【里】リ。良已切 紙
一 住處、鄕邑、さと、むら、ゐどころ。○〔詩〕「無レ踰二我ー一」。
二 二十五家の稱。○〔周〕「五家爲レ鄰、五鄰爲レー」。
三 路程、みちのり。○〔戰〕「行二百ー一者半二于九十一」。
四 うれふ(憂)。○〔詩〕「瞻二卬昊天一云如何ー」。
五 すでに(已)。○〔周〕「ー爲レ式」。
(田里) むらざと。○〔禮〕「ーー不レ粥」。
(閭里) さと。○〔史〕「與二ーー一浮沈」。
(隣里) 五家の組合と二十五家の組合と、又、轉じて近隣の場所にも近隣の者にもいふ語。○〔王維〕「斗酒呼二ーー一」。
(鄕里) (い)むらざと、又、ふるさと。○〔周〕「一命齒二于ーー一」。
(ろ)をツとの妻を稱する語。○〔南〕「我不レ忍レ令二ーー落二他處一」。
(廛里) まち。○〔西京賦〕「ーー端直」。
(市里) 前に同じ。○〔魏〕「無レ不レ游二行ーー一」。
(道里) みちのり。○〔漢〕「ーー遼遠」。
(窮里) 里中の極隱の處。○〔漢〕「長安少年數人會二ーー空舍一」。
(邑里) むらざと。○〔謝朓〕「ーー向二疎蕪一」。
(故里) ふるさと。○〔白居易〕「二疏返二ーー一」。
(墟里) あれすたれたるさと。○〔晁補之〕「牛羊散二ーー一」。

二畫

【重】チョウ、柱用切 宋　ヂユ。柱勇切 腫
一 おもし。
(い)めかた多し。○〔左〕「輦ー如レ役」。
(ろ)大いなり。○〔呂氏春秋〕「天下ー物也」。
(は)甚し。○〔戰〕「今富摯能、而公ー不二相善一也」。
(に)深し。○〔呂氏春秋〕「君其ー圖レ之」。
(ほ)おもんずべし、たふとぶべし、たふとし。○〔戰〕「地廣而益ー」。
(へ)おごそかなり、おちつきたり、おもくし。○〔論〕「不レー則不レ威」。
二 厚し、こし。○〔呂氏春秋〕「烈味ー酒」。
三 緩し、のろし。○〔荀〕「卑溼ー遲」。
四 貞し。○〔淮〕「商朴女ー」。
五 すなほ、まめやか。○〔國〕「而大志ー」。
六 もの〻めかた、おもさ、又、おもき物。○〔淮〕「舉レー勸レ力之歌也」。
七 おもんず。
(い)難んず、はゞかる。○〔漢〕「ー二自切責一レ之」。○〔史〕「ー二自刑以絕一レ從」。
(ろ)愛む。
(は)たふとぶ、四に同じ。
八 たふとぶ、おもんず。
(い)ねもころにあつかふ、たいせつにす。○〔戰〕「ー而使レ之」。
(ろ)尊敬す、うやまふ。○〔禮〕「ー二其國一也」。
(は)おもさなす、第一とす。○〔禮〕「不レーレ辭」。
九 更に爲す、ふたゝび行ふ、くりかへす、かさぬ。○〔左〕「武不レ可レー」。
十 行く者の資裝、にもつ、こにだ。○〔戰〕「軍ーー踵二高宛一」。
(持重) つゝしみてかろ〲しくせず。○〔舊唐〕「將帥當二ーー一」。
(愼重) 前に同じ。○〔五〕「當時稱二其ーー一」。
(嚴重) おごそかにおも〳〵しげなり。○〔後漢〕「安爲レ人ーー有レ威」。

〔感重〕　前に同じ。○〔魏〕「甚有二——一」。
〔雅重〕　たゞしくおもくしげなること。○〔晉諸公贊〕「以二——一稱」。
〔方重〕　前に同じ。○〔後漢〕「擧-動——」。
〔端重〕　前に同じ。○〔周必大〕「豪-勁——」。
〔志重〕　こゝろざしかろからず。○〔禮〕「——則亦重」。
〔寬重〕　性質などのゆるやかにおもくしげなるにいふ語。○〔家語〕「資-質——」。
〔厚重〕　性質などの溫厚にしてかろ〳〵しからざること。○〔史〕「周-勃——少レ文」。
〔陰重〕　愼密なること。○〔史〕「爲レ人——不レ泄」。
〔累重〕　妻子家屬のこと、又、わづらひかろからず。○〔漢〕「有二——一敢從者一詣二田所一」。
〔內重〕　こゝろおもくしげなること。○〔後漢〕「形性沈-毅——」。
〔沈重〕　おちつきておも〴〵しきこと。○〔陶弘景〕「——樹レ志」。
〔樸重〕　質朴なること。○〔唐〕「崇-文性——寡-言」。
〔質重〕　前に同じ。○〔五〕「爲レ人——」。
〔輜重〕　にもつ。○〔史〕「自二開-道一絕二其——一」。
〔糧重〕　食糧輜重のこと。○〔史〕「——不レ與焉」。
〔食重〕　前に同じ。○〔史〕「將二——萬-餘-人一」。
〔後重〕　隊列のしりへにある輜重のこと。○〔漢〕「頗完二盜——一」。
〔輕重〕　おもさ。○〔左〕「楚-子問二鼎之大-小——一」。「焉」。
〔顯重〕　名あらはれ位たふとし。○〔魏〕「而卿父-子並——」。
〔苛重〕　きびしくおもし。○〔唐〕「斂-取——」。
〔倚重〕　ちからとしておもんず。○〔唐〕「帝——二之一」。

【重】　チョウ、ヂュ。直容切　冬

❶複疊す、かさなる。○〔易〕「九-三——剛而不レ中」。
❷累積す、かさぬ。○〔詩〕「祇自—兮」。
❸穀物の後に熟するもの、おくて。○〔詩〕「黍-稷—穋」。
㊃おほし、（多）。○〔左〕「—二備-器一」。
㊄喪に神を依するに木にて作りたる長さ三尺ばかりのもの、かたしろ。○〔禮〕「—主-道也」。
〔重々〕　かさなる。○〔張說〕「偃-蓋——拂二瑞-雲一」。
〔九重〕　上帝の在すそら、又、轉じて帝王の宮闕を稱するにもいふ。○〔韓愈〕「一-封朝-奏——天」。
〔積重〕　つみかさなる。○〔景福殿賦〕「于レ是關-栖——」。
〔疊重〕　かさなる、又、かさぬ。○〔楊萬里〕「半-淡半-濃山——」。「葉——」。
〔數重〕　いくへにもかさなる。○〔貫休〕「寂-寞門-扃——」。
〔幾重〕　前に同じ。○〔賈島〕「雲-山路——」。
〔千重〕　おほくかさなる。○〔張說〕「縱-觀人——」。
〔萬重〕　前に同じ。○〔駱賓王〕「青-山幾——」。

【重】　トウ、ヅ。徒紅切　東

❶童に同じ、わらはべ。○〔禮〕「與二其鄰—汪-踦一往皆死焉」。
❷種に同じ、穀の名。

【重】　シウ、シュ。之仲切　送

湩に同じ、ちしる、乳汁。○〔漢〕「不レ如二—-酪之便-美一」。

四畫

【野】　ヤ、エ。羊者切　馬

❶郊外、あろそと、さとはづれ、ゐなか。○〔詩〕「叔適レ—」。
❷王城外の稱。○〔周〕「掌二邦之—一」。
❸特に王城を去る二百里より三百里までの間の稱。○〔周〕「縣-士掌レ—」。
㊃平原遠く開けたる地、田畝廣く亙れる處、のはら。○〔戰〕「沃-—千-里」。
㊄民間。○〔晉〕「朝-—淸-晏」。
㊅場所。○〔淮〕「遊二霄-霓之—一」。
㊆星宿を漢土にわりあてたるものゝ稱。○〔張衡〕「七-宿晝レ—」。
㊇かざらざること、ありのまゝなること、朴質。○〔論〕「質勝レ文則—」。
㊈いやし。
（い）みやびやかならず、禮文なし。○〔禮〕「故騷-々-爾則—」。
（ろ）理に達せず、俗を離れず。○〔論〕「—哉由也」。
㊉馴れ服せざること、反き違ふこと、非望を企つること。○〔左〕「狼-子有二—-心一」。
〔大野〕　おほいなるの、又、雲の名。○〔書〕「——既豬」。
〔荒野〕　遠きゐなか、又、あれの。○〔魏〕「——無レ虞」。
〔桑野〕　くはの生じたるのはら、又、東の方位。○〔淮〕「日至二於——一」。
〔原野〕　のはら。○〔禮〕「周二-視——一」。
〔經野〕　田野を經理す。○〔周〕「體レ國—レ—」。
〔廣野〕　ひろきのはら。○〔史〕「——氣成二宮-闕一」。
〔四野〕　四方郊外の地。○〔漢〕「——風起」。
〔樸野〕　質朴にして禮文なし。○〔宋〕「外示二——一」。
〔質野〕　前に同じ。○〔避暑錄話〕「狀極——」。
〔僻野〕　郊外僻陬の地。○〔沈約〕「傍二——一抵二荒-郊一」。
〔荒野〕　前に同じ。○〔詩〕「王二于——一」。「——」。
〔略野〕　郊外の地をせめとる。○〔任昉〕「攻レ城—レ—」。
〔中野〕　野中といふに同じ、のはらのうちをいふ。○〔易〕「葬二之——一」。
〔在野〕　ゐなかにあり、又、民間の義に用ふる語。○〔孟〕「—レ—日二草-莽之臣一」。
〔山野〕　やまとのはらと、又、ゐなかの義にも用ふ。○〔宋〕「而敘二——草-木水-石穀-稼之事一」。
〔鄙野〕　いやしく禮文なきこと、又、ゐなかの土地。○〔戰〕「士生二乎——一」。
〔草野〕　前に同じ。○〔史〕「明日二——一而倨-侮一」。
〔薇野〕　のはら一面にみつ。○〔後漢〕「旗-幟—レ—」。
〔淹野〕　前に同じ。○〔水經、註〕「彌レ原—レ—」。
〔燎野〕　のはらをやく。○〔後漢〕「卒能—レ—」。
〔磽野〕　やせたる田野。○〔晉〕「如下農-者之殖二——一、旱-年之望中豐-穰上」。「芳-樽一」。
〔田野〕　たはたのと、又、ゐなか。○〔李白〕「——醉二」。
〔郊野〕　まちはづれのはら。○〔宋〕「獨酌二——一」。
〔墟野〕　まちとゐなかと。○〔唐〕「出二入——一」。
〔諫野〕　精ならずして禮文なきこと。○〔圖畫見聞誌〕「渚止——」。
〔匿野〕　ゐなかにかくる。○〔魏文帝〕「昔柏-成子-高辭二夏-禹一而—レ—」。
〔凉野〕　冬のはら。○〔顏延之〕「嘷-風振二——一」。
〔列野〕　のはらにならぶ。○〔梁簡文帝〕「六-戎—レ—」。
〔平野〕　たひらかなるのはら。○〔梁簡文帝〕「逕-々——」。
〔霜野〕　しものおりたるのはら。○〔李商隱〕「——物-皆乾」。
〔豐野〕　五穀などのゆたかに生じたるの。○〔鄭谷〕「——暫停レ氷」。
〔村野〕　むらざと。○〔杜甫〕「未レ覺——醜」。

【野】　ショ、ソ。承與切　語

墅に同じ、田廬。

【野】　ヨ。演女切　語

郊外、さとはづれ。

【㙒】　バイ、メ。謨皆切　佳

すくなし、（少）。

五畫

【㙶】

古文の量の字

【量】　リヤウ。力讓切　漾

❶斗斛、ます。○〔書〕「同二律-度—-衡一」。
❷ますにてはかる容積、ますめ、はかり。○〔漢〕「—者龠、合、升、斗、斛、也」。
❸輕重、長短、多少、容積、めかた、ながさ、かず、かさ。○〔周〕「辨二其物之﨟-惡與二其數—一」。
㊃物事を容受する心性のかぎり、物事を擔當する才能のほど、どりやう、きりやう。○〔程子遺書〕「或問、—可レ學乎」。
㊄分限、かぎり。○〔禮〕「月以爲レ—」。
㊅節制、ほど。○〔論〕「惟酒無レ—、不レ及レ亂」。

㊆つまびらか、（密）。○〔禮〕「—而后入」。
㊇緉に通じ用ふ、そろひのくつ、雙屬。○〔世說〕「未㆑知㆔能著㆓幾—屐㆒」。
〔權量〕はかりとますと。○〔論〕「謹㆓—・—㆒」。
〔碩量〕おほいなる器量。○〔晉〕「宣・帝以㆓雄・才—・—㆒應㆑時而仕」。
〔大量〕前に同じ。○〔南〕「上少有㆓—・—㆒」。
〔本量〕もとよりさだまりたる分量。○〔晉〕「滯極㆓—・—㆒而止」。「寬」。
〔酒量〕さけの分量。○〔范成大〕「年少王・孫—・—」。
〔器量〕才器度量をいふ。○〔北〕「莊少有㆓—・—㆒」。
〔才量〕前に同じ。○〔晉〕「—・—過㆑人」。
〔度量〕ものさしとますと、又、思慮深くよくはかりいるゝをいふ。○〔周〕「一㆓其—・—㆒」。
〔德量〕とくあつく思慮あさからず。○〔後漢〕「—・—緒・謀」。「—・—」。
〔思量〕思慮ふかくよくはかる。○〔蜀〕「黃・權弘雅
〔遠量〕遠大のおもんぱかりをそなふ。○〔魏、註〕「嘉少有㆓—・—㆒」。「—・—㆒」。
〔殊量〕すぐれたる器量。○〔蜀〕「劉・備以㆑亮有㆓
〔偉量〕前に同じ。○〔晉〕「英・姿—・—」。
〔雅量〕たゞしき度量。○〔吳、註〕「—・—高・致」。
〔識量〕見識あり思慮あさからず。○〔晉〕「明・悟有㆓—・—㆒」。
〔分量〕分限のこと。○〔宋〕「—・—已過」。
〔氣量〕志氣あること。○〔宋〕「蒙正—・—我不㆑如」。
〔弘量〕おほいなる度量。○〔管、註〕「言㆘人無㆓—・—㆒、但有㆓小謹㆒、不㆑能㆓大立㆒也」。
〔過量〕分限をすごす。○〔諸葛亮〕「受㆑恩—・—」。
〔踰量〕前に同じ。○〔陸機〕「惡㆓寵祿之—㆑—」。

【量】リヤウ。呂張切　陽

はかる。
（い）ますめかさを試みる。○〔列仙傳〕「授㆑之以㆓升・斗㆒、俾㆓自—㆒」。
（ろ）かけめを試みる。○〔馮衍〕「棄㆓衡・石㆒而意—兮」。「—」。
（は）ながさを試みる。○〔漢〕「石稱丈—」。
（に）かずを試みる。○〔楚辭〕「苦㆓稱—之不㆒㆑審兮」。
（ほ）ほどをはからふ、かぎりを定む。○〔左〕「—㆑力而行㆑之」。
（へ）思ひ及ぼす、考へ分く。○〔後漢〕「考—隱括」。
〔斗量〕ますもてはかるとて數のおほきにいふ語。○〔吳〕「如㆓臣之比㆒車載—・—不㆑可㆑勝㆑數」。
〔斟量〕はかる。○〔韓愈〕「事々相—・—」。
〔裁量〕前に同じ。○〔後漢〕「其多㆑所㆓—・—㆒、若㆑此」。
〔測量〕前に同じ。○〔韋莊〕「天・心詎—・—」。
〔料量〕前に同じ。○〔白居易〕「時來不㆓—・—㆒」。
〔打量〕はかりあらふ。○〔宋〕「幷行㆓—・—㆒」。

十一畫

【釐】リ。里之切　支

㊀をさむ（治）。○〔書〕「允—㆓百工㆒、庶績咸熙」。「—㆒」。
㊁すぢ、みち（理）。○〔揚雄〕「提㆓地—㆒」。
㊂さいはひ（福）。○〔揚雄〕「逆㆓—三神㆒者」。
㊃氂に同じ、極めて小なる數位の稱。○〔漢〕「正㆓其本㆒萬事理、失㆓之毫—㆒差以㆓千里㆒」。
㊄ふたつ、たぐひ（耦）。○〔揚雄〕「陳楚之閒、凡人獸乳而雙產謂㆓之—孳㆒」。
㊅たまふ（賜）、あたふ（予）。○〔詩〕「其僕維何、—㆓爾女士㆒」。
㊆山の名。○〔山海經〕「—・—山」。
㊇嫠に同じ、やもめ。○〔韓詩外傳〕「鄰之—婦」。
〔保釐〕まもりをさむ。○〔書〕「命㆓畢公㆒—㆓—東郊㆒」。「—・—」。
〔[illegible]釐〕高峻の貌にいふ語。○〔靈光殿賦〕「前岁

【釐】キ。虛其切　支

㊀さいはひ（福）。○〔漢〕「祠官祝㆑—」。
㊁ひもろぎ（福胙）。○〔漢〕「上方受㆓—宣室㆒」。
㊂僖に同じ。○〔史〕「齊—公與戰㆓於齊郊㆒」。
㊃人の姓。○〔史〕「爲㆓—姓㆒」。
〔福釐〕さいはひ。○〔沈約〕「其德不㆑從受㆓—㆒」。「—㆒」。
〔鴻釐〕おほいなるさいはひ。○〔揚雄〕「秬・鬯降㆓—

【釐】タイ。土來切　灰

地の名、邰に同じ。

【釐】ライ。郎才切　灰

㊀棶に同じ。○〔漢〕「賂㆓我—麰㆒」。
㊁萊に同じ。○〔戰〕「齊伐㆓—莒㆒」。

【[illegible]】セフ。蘇協切　葉

きる（斬）。

十四畫

【[illegible]】シフ。子入切　緝

類を相重ぬ、かさぬ。

金部

【金】キン、コン。居音切　侵

㊀かね。
（い）五行の一。○〔書〕「五行四曰、—」。
（ろ）こがね、しろかね、銅、鐵などの鑛物。○〔易〕「其利斷㆑—」。
（は）樂の八音の一、卽ち、鐘鎛などの樂器、又、其の樂器より發する聲の稱。○〔左〕「—奏起㆓于下㆒」。
（に）兵器、やり、かたな、はもの。○〔禮〕「衽㆓—革㆒」。
（ほ）すべて鑛物を以て質となしたる器の稱、かなもの。○〔呂氏春秋〕「功績銘㆓乎—石㆒」。
（へ）黃色なる一種の金屬、こがね、わうごん、金屬の中にて最も重んぜらるゝもの。○〔唐〕「貢㆘鏤㆓—銀㆒器㆖」。
（と）泉貨、ぜに。○〔戰〕「位高而多㆑—」。
㊁貨錢の數位、時によりて一定せず、また異同あり、秦にては或は萬錢といひ或は二十四兩といひ或は十兩といひ、漢にては或は十六兩といひ或は二千五百文といへり。○〔莊〕「請買㆓其方百—㆒」。
㊂秋氣、又、西方。○〔張衡〕「橫㆓西洫㆒而絕㆓—・—㆒」。
㊃黃色、きいろ、こがねいろ。○〔漢〕「—芝九莖」。
㊄堅固なること。○〔賈誼〕「—城千里」。
㊅是非を決すること。○〔論語摘輔象〕「風后受㆓—法㆒」。
〔黃金〕こがね。○〔易〕「噬㆓乾肉㆒得㆓—・—㆒」。
〔白金〕しろかね。○〔唐〕「出㆓—・—㆒曰、幸君以㆑此爲㆓我葬㆒」。「—㆒」。
〔赤金〕あかゞね。○〔山海經〕「岐山其陽多㆓—・—㆒」。
〔鑄金〕かねをいる。○〔魏〕「必令㆓手—㆒㆓人㆒」。
〔銷金〕とかしたるかね、又、かねをとかす。○〔淮〕「—・—在㆑鑪」。
〔爍金〕前に同じ。○〔周〕「—㆑—以爲㆑刃」。
〔耀金〕前に同じ。○〔漢〕「後世—㆑—爲㆑刃」。
〔予金〕かねをあたふ。○〔史〕「—㆓十・—㆒」。
〔萬金〕おほくのかね。○〔史〕「富商大賈、財或累㆓—・—㆒」。
〔亡金〕かねを失ふ。○〔漢〕「前郎—㆑—者大慙」。
〔得金〕かねを手にいる。○〔關尹子〕「破㆑礦—㆑—」。
〔懷金〕かねをもつ。○〔後漢〕「—㆓十斤㆒以遺㆓震㆒」。
〔投金〕かねをなげすつ。○〔吳越春秋〕「乃—㆓—水中㆒而去」。
〔渾金〕まじりあるかね。○〔晉〕「如㆓璞玉—・—㆒」。
〔鈍金〕鋭利ならざるかね。○〔荀〕「—・—必將㆘待㆓礱厲㆒然後利㆖」。

〔泥金〕細粉にしたるこがね。○〔盧氏雜記〕「唐進士及第、以ニ—·—書帖附ʟ家」。
〔柔金〕やはらかなるかね、又、かねをやはらかにす。○〔書、疏〕「錫所ニ以—ʟ—也」。
〔擊金〕かねをうちならす。○〔周、註〕「金奏—ʟ—以爲ニ奏樂之節ニ」。
〔美金〕よきかね。○〔國〕「—·—以鑄ニ劒·戟ニ」。
〔利金〕かねをとくす、又、鋭利なるかね。○〔戰〕「堅·箭—·—」。
〔罰金〕(い)太白星の異名。○〔史、註〕「七星各有ʟ所ʟ主、第七曰ニ—·—ʟ、謂ニ太白ニ也」。(ろ)罪あるもの、政府へ納むるかね。○〔漢〕「此人犯ʟ蹕當ニ—·—ニ」。
〔受金〕かねをもらひうく。○〔史〕「平—ニ諸·將—ニ」。
〔齎金〕かねをもちゆく。○〔韓詩外傳〕「楚·王使ニ使·者—ニ—百·鎰ʟ造ʟ門」。
〔捐金〕かねをすつ。○〔後漢〕「乃—ニ—于野ニ」。
〔雕金〕かねにゑりつく。○〔南〕「—ʟ—鏤ʟ寶」。
〔純金〕まじりもののなきこがね。○〔南〕「常遣ニ扶·南·王—·—五·十人食·器ニ」。
〔積金〕かねをつみかさぬ。○〔論衡〕「—ʟ—累ʟ玉」。
〔淘金〕こがねを水によなげてとる。○〔許渾〕「蠻·女半—ʟ—」。
〔汰金〕前に同じ。○〔韓偓〕「敏手何妨誤ニ—·—ニ」。
〔銅金〕あかゞね。○〔管〕「上有ニ磁·石ニ者、其下有ニ—·—ニ」。
〔鉒金〕あらがね。○〔管〕「上有ニ丹·砂ニ者、其下有ニ—·—ニ」。
〔劉金〕かねをたちきる。○〔淮〕「工·匠不ʟ能ʟ—ʟ—者」。
〔愛金〕かねををしむ。○〔淮〕「不ʟ大ニ鐘·鼎ニ者、非ʟ—ʟ—也」。
〔鏽金〕かねをほりきざむ。○〔拾遺記〕「研ʟ玉—·—」。
〔掘金〕地をほりてかねをとる。○〔述異記〕「令ニ人—·—」。
〔貯金〕かねをたくはふ、又、たくはへのかね。○〔錄異記〕「—·—多則草·木焦·枯」。
〔鍎金〕前に同じ。○〔玉海〕「庫中所ʟ—·—、至ニ八十·萬·兩ニ」。
〔醵金〕酒かふかねをあつむ。○〔輟耕錄〕「隣·里—ʟ—」。
〔謝金〕謝禮のかね。○〔李紳〕「談·笑—·—何所ʟ媿」。
〔笑靨金〕菊の花の異名。○〔藥譜〕「菊·花名ニ—·—·—ニ」。

【金】キン、ゴン。巨禁切 沁 つぐむ、(噤)。○〔荀〕「—ʟ口閉ʟ舌」。

二畫

【鈚】ヒ。匹犁切 支 や、(箭)。

【釕】テウ。都了切 篠 —·鈌は、帶の飾り。

【釖】刀に同じ。

【釗】セウ。止遙切 蕭 ㊀けづる、(刓)。㊁とほし、(遠)。㊂弩のはじき。㊃つとむ、(勉)。㊄みる、(見)。○〔汲冢周書〕「—ニ我周·王ニ」。

【釗】ケウ。古堯切 蕭 ㊀前條に同じ。㊁周の康王の名。

【釘】テイ、チヤウ。當經切 青 ㊀鍊鉼の黃金、おほばんのこがね。㊁多くは鐵にて製し一端を尖らして材と材とを打ちつくるに用ふるもの、くぎ。○〔晉〕「以ニ所ʟ貯竹·頭ニ作ʟ—裝ʟ船」。㊂鈴—は、矛の名。
〔拔釘〕くぎをぬきとる。○〔五〕「眼·中—ʟ—豈不ʟ樂哉」。
〔銀釘〕しろかねのくぎ。○〔唐〕「加ニ之—·—ニ」。
〔朽釘〕くちたるくぎ。○〔寺塔記〕「嚞ニ一·物ニ如ニ—·—ニ」。

【釘】テイ、チヤウ。都挺切 迥 ㊀前條の㊀に同じ。㊁人の名。○〔漢〕「有ニ利·侯劉·—ニ」。

【釘】テイ、チヤウ。丁定切 徑 ㊀前條に同じ。㊁くぎを物に打ち入る、くぎうつ。

【釘】レイ、リヤウ。郎丁切 青 撞—は、うつ。

【釙】ハク、ホク。匹角切 覺 ちがね、あらがね。

【釚】キウ、ク。巨鳩切 尤 弩牙、いしゆみのは。

【釛】コク。胡刻切 職 ハツ、ベチ。博拔切 黠 こがね、(金)。

【釜】フ、ホ。扶雨切 麌 ㊀炊煮に用ふる一種の器、まろがなへ、かま。○〔詩〕「維錡維—」。㊁量の名、六斗四升。○〔論〕「與ニ之—ニ」。

【釡】釜の省字。

【針】シン。之林切 侵 俗の鍼の字。○〔易、疏〕「磁·石引ʟ—」。
〔棘針〕いばらのはり。○〔晉〕「以ニ—·—ニ釘ニ其心ニ」。
〔鈿針〕婦人の頭髮をかざるもの。○〔唐〕「歲七·月獻ニ—·—ニ」。
〔玄針〕蝦蟇の子の異名。○〔古今注〕「蝦·蟇子曰ニ科斗、一曰ニ—·—ニ」。
〔懸針〕書法の名。○〔法書要錄〕「善ニ—·—垂·露之法ニ」。
〔藏針〕はりをかくす。○〔名山記〕「明·瑩不ʟ可ʟ—ʟ—」。

【針】シン。之任切 沁 ㊀ぬふ、(縫)。㊁さす、(刺)。

【釞】チフ。陟立切 緝 ㊀鐵の器。㊁さし、(銛)。

【釟】ハツ、ヘチ。布拔切 黠 きたふ、(治)。

【金】古文の金の字。

三畫

【釣】テウ。多嘯切 嘯 つる、つり。(い)魚を鉤にかけ取る。○〔淮〕「詹·公—ニ千·歲之鯉ニ」。(ろ)魚を鉤にかけ取らんと試みる。○〔呂氏春秋〕「大·公—ニ于滋·泉ニ」。(は)誘ひ取る、とろ。○〔淮〕「虞·君好ʟ寶而晉·獻以ニ璧·馬ニ、—ʟ之」。
〔漁釣〕魚を捕らへつりす。○〔後漢〕「常—ニ—于澤·水ニ」。
〔弋釣〕いぐるみもて鳥を捕らへつりをたれて魚を捕らふ。○〔晉〕「惟以ニ—·—ʟ爲ʟ事」。
〔屠釣〕けものをころすと魚をつると。○〔宋〕「—·—卑·事也」。
〔耕釣〕田をたがへすと魚をつると。○〔孟浩然〕「—·—方自逸」。
〔好釣〕魚をつることをこのむ。○〔南〕「性—ʟ—」。
〔下釣〕魚をとらんとてつりばりを水中にいる。○〔王績〕「東·川聊—ʟ—」。
〔垂釣〕前に同じ。○〔梁昭明太子〕「莊·周—ニ—於濠ニ」。
〔朋釣〕ともづかにつりをなす。○〔劉兼〕「因憶故·園—·—處」。
〔上釣〕つりばりにかゝる。○〔戴表元〕「還有ニ魚·見—ʟ—來ニ」。

【釤】サン、セン。所鑒切 陷 大鎌、おほがま。○〔抱朴〕「推ニ黃·鉞ニ以適ニ—·鎌之持ニ」。

【釤】セン、ソン。思廉切 鹽 刀の名。

【釤】サン、ゼン。師咸切 咸
人の名、人の姓。

【釥】セウ。親小切 篠
❶美金、よきかね。❷うつくし(好)、きよし(淨)。

【釥】セウ。親小切 篠
さし(利)。

【釦】コウ、ク。苦厚切 有
❶金銀を以て器物の口縁を飾ること、めッき、いッかけ。○[後漢]「其蜀漢一一器、九-帶、佩-刀並、不二復調一」。❷ちりばむ(鏤)。○[班固]「玄-墀一-砌」。❸讙呼す、どよむ、さわぐ、一說に、金器を叩く、ならす。○[國]「三-軍皆譁-一」。

【釦】コウ、ク。丘堠切 宥
❶前條に同じ。❷俗に衣の紐にいふ字、ぼたん。

【釧】セン。尺絹切 霰
臂環、うでわ。○[何偃]「珍-玉、名-一」。
[玉釧] たまのうでわ　○[南]「臂有二一-一」。
[寶釧] みごとなるうでわ。○[梁簡文帝]「開レ函脫二一-一」。
[釵釧] かんざしとうでわと。○[杜甫]「家貧賣二一-一」「一」。
[金釧] こがねのうでわ。○[徐賢妃]「腕搖一-一響」。
[銀釧] しろかねのうでわ。○[白居易]「皓-腕肥來一-一窄」。
[腕釧] うでわ。○[全唐詩話]「郎今之一-一也」。

【釧】セン。昌緣切 先
車のかなもの。

【釨】ケツ、ケチ。居列切 屑
ほこ(戟)。

【釨】シ。祖似切 紙
こはし(剛)。

【釩】ハン、ホン。峰范切 豏
❶はらふ(拂)。❷うつは(器)。

【釩】ハン、ホン。孚梵切 陷
さかづき(杯)。

【釪】ウ、チ。羽俱切 虞
❶一種の樂器、形鐘の如くにて鼓に和するために叩くもの。❷いしづき(鐏)。○[揚雄]「鐏謂二之一一、或謂二之鐓一」。❸僧家の飯器、はち。○[世說新語]「自是鉢一-後-王何人也」。

【釫】クワ、ゲ。戶花切 シヤ、ゼ。時遮切 麻
兩刃の臿、もろはのすき。

【釫】コ、ク。洪孤切 オ、ウ。哀都切 虞
塗工の用具、こて(泥鏝)。

【釬】カン。侯旰切 翰
❶兩の腕を被ふ鎧、こて。❷金鐵の類を相附著せしむるに用ふる一種の藥。○[正字通]「玉-石刀-柄之類、一-藥加二銀一-分一、其中永不レ脫」。❸弓の兩端にある弦をかくるもの。○[管]「弛レ弓脫レ一」。

【釬】カン。居寒切 寒
きびし(急)。○[莊]「有二緩而一一」。

【釭】カウ、古雙切 江 コウ、姑冬切 冬 コウ。切 ク。切
❶車轂の中にある中空の鐵具、かりも。○[博雅]「鍋、鋧、一也、謂二車-轂中鐵一」。❷あぶらざら、ひともし(鐙) 轉じて、燈火。○[謝脁]「蘭-一當二夜明一」。
[金釭] こがねのわ、又、こがねのあぶらざら。○[王超]「一-一莫レ齊」。
[冬釭] 冬夜の燈釭。○[江淹]「一-一凝兮夜何長」。
[寒釭] 前に同じ。○[陸游]「悠-然殘-夢對二一-一」「一」。
[殘釭] のこんのともしび。○[蘇軾]「閉レ門孤-枕對二一-一」「碧」。
[曉釭] よあけの燈釭。○[李長吉]「一-一屛-中」。
[殘釭] 前に同じ。○[白居易]「一-一耿二殘-焰一」。

【釭】コウ、ク。古紅切 東
箭鏃、やじり。

【釮】セイ、ザイ。前西切 齊
さし(利)。

【釶】
俗の鉈の字。

【釰】ジツ、ニチ。入質切 質
にぶし(鈍)。

【釱】テイ、ダイ。特計切 霽
鐵鉗、あしかせ。○[史]「敢私鑄二鐵-器一煮レ鹽者一二左-趾一」。

【釱】タイ、ダイ。徒蓋切 タイ、ダイ。他蓋切 泰
❶前條に同じ。❷車轄、くさび。○[漢]「肆二土一一二而下馳」。

【釲】シ、ジ。象齒切 紙
鋁に同じ、あらがれ。

【釳】キツ、ギツ、許訖 切 ゴチ。切 魚訖 コチ。切 質
❶方一は、乘輿(おめしぐるま)の馬の頭上に施すかざり。○[張衡]「方-一左-纛」。❷鐵の孔、あな。

【釴】ヨク、イキ。與職切 職
鼎の車。

【釵】サイ、セ。楚佳切 佳
婦人の首飾なる岐笄、かんざし。○[司馬相如]「玉-一挂二臣-冠一」。
[金釵] こがねのかんざし。○[晉]「三-品以-上服二一-一」。
[攫釵] かんざしをつかみとる。○[宋]「白-晝一二婦-人金-一於市一」。
[翠釵] 翡翠のかんざし。○[幽怪錄]「明-旦拾二得一-一數-隻一」。
[寶釵] みごとなるかんざし。○[秦嘉]「今致二一-一一-雙一」。

【釶】
鍦に同じ、ほこ。○[荀]「宛鉅-鐵一」。

【鈂】
鑿に同じ、器のひも。

四畫

【釽】ヘキ、ヒヤク。匹歷切 錫
❶木を裁したる器、きのうつは。○[左思]「一-一摫錐呈」。❷きる、けづる(斲)。○[揚雄]「斲也、晉魏之閒謂二之一-一一」。❸劒鋒、つるぎのにえ。○[越絕書]「觀二其一一、爛如二列-星之行一」。

【釽】ハク、ヒヤク。匹麥切 陌
❶前條に同じ。

㊁やぶる(破)。○〔漢〕「鍛一一析一亂而已」。

【鋣】ヤ、エ。以遮切 麻
鏌一は、呉の神劍の名。

【釳】釳の本字。

【釿】キン。宜引切 軫
きる(斷)。

【釿】キン、コン。擧欣切 文
斤に同じ、てをの、きる。○〔莊〕「一鋸制焉」。

【釿】ギン、ゴン。魚斤切 文
木材の面を平かにする具、かんな、又、かんなを用ひて、木材の面を平かにす、けづる。○〔釋名〕「用レ此一レ之」。

【釿】ギン、ゴン。疑巾切 眞 一圻、垠に作る。
器の鍔、へり。

【鈀】ハ、ヘ。伯加切 麻
㊀兵車、侯車、いくさぐるま、ものみぐるま ○〔司馬法〕「晨夜內二一一車一」。㊁くろがね(鐵)。㊂鉏の屬、まぐは。

【鈀】ハ、ヘ。普巴切 麻
かぶらや(鏑)。○〔揚雄〕「或謂二之鉀一或謂二之一一」。

【鈁】ハウ。府良切 陽
㊀さかつぼ(罍)。㊁鑊の屬。

【鈂】チン、ザン。直深切 侵 シン、ジン。時任切 沁
鐵の杵、鐵の簸、きれ、くじ。

【鈂】シン、ジン。昨淫切 侵
㊀前條に同じ。㊁たがやす(耕)。

【鈂】チン。知鴆切 沁
おもし(重)。

【鈄】トウ、ツ。天口切 有 トウ、ヅ。徒口切 有
㊀人の姓。㊁俗の鋀の字。

【鈕】チウ、チユ。勅九切 有
杻に同じ、てかせ。

【鈅】ゲツ、グワチ。魚厥切 月
兵器、はもの。

【鈆】エン。與專切 先
鉛に同じ。○〔淮〕「一不レ可二以爲一レ刀」。

【鈆】ショウ、シユ。職容切 冬
くろがね(鐵)。

【釒卬】キウ、ク。去宮切 東
うでわ(釧)。

【鈇】フ、ホ。甫無切 虞 匪父切 麌
をの(斧)。○〔禮〕「諸侯賜二弓矢一然後征、賜二一鉞一然後殺」。

【鈉】タフ、ノフ。諾荅切 合
打鐵、かなづち。

【鈉】ゼイ、ネ。而銳切 霽
木の端を銳がらして鑿に入るゝもの、せん。

【鈊】シン。思枕切 侵
金の名。

【鈊】シン。七枕切 沁
さし(利)。

【鈋】グワ。五禾切 歌
けづる(削)、まろくす(圜)。

【鈌】エツ、エチ。於決切 屑
さす(刺)。

【鈌】ケツ、ケチ。古穴切 屑
㊀とる(取)。㊁缺に通じ用ふ。○〔史〕「貫二列一一之倒景一兮」。

【鈍】トン、ドン。徒困切 願
にぶし。
(い)鋒芒銳利ならず、するどからず。○〔漢〕「莫邪爲レ一兮」。
(ろ)行動敏捷ならず、のろし。○〔漢〕「吶二一于辭一」。
(は)性情明敏ならず、かたくな、おろか。○〔史〕「頑一嗜レ利者」。
〔磨鈍〕にぶきをみがく。○〔漢〕「高祖所二以厲一世一・一也」。
〔遲鈍〕おろかにして敏捷ならず。○〔吳〕「初吾憂二其一・一一」。
〔魯鈍〕前に同じ。○〔晉〕「何爾一・一之甚也」。
〔駑鈍〕前に同じ、又、馬の駛走せざるもの。○〔元稹〕「自愍二一・一之姿一」。
〔朽鈍〕資性などの敏ならざるに用ふる語。○〔王粲〕「頑利二一・一資一」。
〔愚鈍〕おろかなること。○〔元結〕「僻居養二一・一一」。
〔頑鈍〕前に同じ。○〔史〕「士之一・一嗜レ利無恥者、亦多歸レ漢」。
〔闇鈍〕前に同じ。○〔魏武帝〕「以二一・一之才一承二明・々之政一」。
〔蠢鈍〕前に同じ。○〔易林〕「蠢・老一・一」。
〔疑鈍〕前に同じ、のろし。○〔歐陽修〕「而今一・一若二寒蠅一」。
〔利鈍〕銳利なると銳利ならざると。○〔吳、註〕「兵有二一・一一」。
〔銛鈍〕前に同じ。○〔顧況〕「不下以二一割一均中其一・一上」。
〔鄙鈍〕いやしくおろかなること。○〔韓愈〕「愈少一」

【鈎】俗の鉤の字。

【鈏】イン。余忍切 軫
すゞ(錫)。

【鈏】シン、ジン。時刃切 イン。羊晉切 震
すゞ(錫)。

【鈐】ケン、ゴン。巨淹切 鹽
㊀一鏞は、大犁、おほすき、一說に、耜の類、からすき。㊁車轄、くさび。㊂ぢやう(鏁)。○〔爾、序〕「六藝之一一鍵」。
〔鈐鈐〕星の名。○〔漢〕「一一天子之御也」。

【鈐】キン、ゴン。巨巾切 眞
矛の柄。○〔揚雄〕「矛其柄謂二之一一」。

【鈐】カン、ゴン。胡南切 覃 シン。千尋切 侵
あしかせ(鈦)。

【鈑】ハン。補綰切 潸
㊀鉼金、おほばんきん。○〔周〕「祭二五帝一供二金一一」。㊁版に同じ。○〔莊〕「金一六弢」。

【鈒】サフ、ソフ。蘇合切 合

㊀てほこ、(鋋)。○〔陸雲〕「擧レ━成レ雲、下レ━成レ雨」。㊁鏤む。○〔六書故〕「細鏃金銀爲レ文、日二━鏤一」。

【鈒】シフ。色立切 キフ、迄及切 コフ。緝
ほこ、(戟)、てほこ、(鋋)。

【鈔】サウ、セウ。楚交切 肴
㊀とる、(取)、かすむ、(略)。○〔後漢〕「尅會二期日一攻二━郡縣一」。
㊁謄寫す、かきうつす。○〔抱朴〕「余令レ━略二━金丹之部一」。
㊂拔錄す、ぬきがきす。○〔郡齋讀書誌〕「溫公自━二纂通鑑之要一」。
㊃謄寫、拔錄、うつし、ぬきがき。○〔隋〕「天文集要━二卷」。
㊄つよし、(強)。
〔寇鈔〕せめかすむ。○〔後漢〕「不レ爲二━━一」。
〔劫鈔〕おびやかしかすむ。○〔吳〕「負レ阻━━」。
〔暴鈔〕あらしかすむ。○〔唐〕「所在━━」。
〔盜鈔〕ぬすみとる。○〔唐〕「喜二━━一」。

【鈔】サウ、セウ。初敎切 效
㊀かすむ、(掠)。○〔周、註〕「烏鳶喜二━盜一便汙レ人」。
㊁紙幣、さへい、さつ。○〔正字通〕「諸路置二交━庫官一」。
㊂官符、きッて、あかし。○〔韻會定正〕「官收レ物而給二印信文一憑━也、卽、今━關」。
㊃杪に同じ、すゑ、こまか。○〔管〕「斂行二於━一」。
〔銀鈔〕ぎんふだのとにて銀會ともいふ。○〔通鑑節要〕「元武宗頒二行至大━━一」。
〔楮鈔〕紙幣をつくる。○〔枝山野記〕「洪武初━」。
〔昏鈔〕ふるびたる紙幣にて弊會ともいふ。○〔續綱目〕「張養浩檢二庫中未レ毀━━一」。

【鈔】セウ。齒紹切 篠
取る。

【鈕】ヂウ、ニユ。女九切 有
器具の把鼻、つまみ、さッて。○〔楚辭〕「遺二失兮━樞一」。
〔龜鈕〕かめのかたちをきざみたるつまみ。○〔漢官儀〕「丞相黃金━━、文曰レ章」。
〔虎鈕〕とらのかたちをきざみたるつまみ。○〔獨斷〕「皇帝六璽皆玉螭━━」。

【鈕】チウ、チユ。勅九切 有
杻に同じ、かせ。

【鈗】井ン。余準切 軫 エイ、エ。兪芮切 霽 タイ、デ。杜外切 泰
侍臣の執れる兵器、つはもの。

【鈘】ギ。語綺切 紙
敲に同じ、かま。

【鈙】キン、ゴン。渠金切 侵 巨禁切 沁
もつ、(持)。

【鈚】ヒ、ビ。房脂切 支
㊀くろがね、(鐵)。㊁犁錧、すきのは。
㊂箭の名。○〔杜甫〕「長━及二狡兔一」。

【鈚】ヘイ。篇迷切 齊
一種の箭。○〔揚雄〕「箭鏃廣長而薄鎌謂二之━一」。

【鈛】鍋に同じ。

【鈜】クワウ、グワウ。戶萠切 庚
金、又、鐘鼓の聲にいふ字。

【鈞】キン。居勻切 眞
㊀重量三十斤の稱。○〔書〕「關石和━」。
㊁陶人(すゑものつくり)の模の下に用ふる輪器、すゑものつくりのわ。○〔漢〕「猶二泥在一━之上一」。
㊂化するを、造るを、又、物事の樞機。○〔梁〕「鎔━所レ被」。
㊃ひとし。
(い)彼れと此れと輕重異ならず。○〔詩〕「四鍭既━」。
(ろ)同じ。○〔左〕「善━從レ衆」。
㊄ひとしからしむ、ひとしくす、ととのふ。○〔左〕「多レ鼓━レ聲」。
㊅一種の音樂。○〔李漢〕「鏘然而韶━鳴」。
〔大鈞〕造化、あめ。○〔漢〕「━━播レ物」。
〔洪鈞〕前に同じ。○〔杜甫〕「一氣轉二━━一」。
〔千鈞〕めかたの極めておもきをあらはす語。○〔漢〕「以二一縷之任一、係二━━之重一」。
〔萬鈞〕前に同じ。○〔至言〕「━━之所レ壓」。
〔陶鈞〕すゑものぐるま、又、轉じて政の樞機にいふ。○〔鄒谷〕「誰不レ秉二━━一」。
〔國鈞〕國家の樞機。○〔白居易〕「如何秉二━━一」。
〔運鈞〕ろくろ。○〔管〕「猶立二朝夕於━━之上一」。

【鈠】エキ、ヤク。營隻切 陌
㊀うつは、(器)。㊁小さき矛。

五畫

【鉴】シ。卽移切 支
━鉀は、なの、(斧)。

【鈮】檷に同じ、いとまきのあし。

【鈯】トツ、ドチ。陀骨切 月
㊀にぶし、(鈍)。㊁小さき刃、こがたな。

【鈯】掘に同じ、ほる。○〔荀〕「━二入之墓一」。

【鈱】ビン、ミン。彌鄰切 眞
㊀鐵葉、てつのうすいた。㊁算稅、ぜにさし。

【鉚】古文の鑛の字。○〔李時珍〕「此乃波斯國銀━也」。

【鈳】ア。烏何切 歌 倚可切 哿
小さき釜。

【鈴】レイ、リヤウ。郞丁切 靑
㊀金にてつくりたる中空圓形の器、すず、中に銅の珠を入る、振り動かして鳴らす。○〔左〕「錫鸞和━昭二其聲一也」。
㊁物の鳴る聲にいふ字。○〔漢〕「丙戌地大動━━然」。
〔說鈴〕大雅に合はざる小說。○〔揚雄〕「好レ說而不レ見二諸仲尼一━━也」。
〔和鈴〕すず。○〔詩〕「━━央々」。
〔鸞鈴〕前に同じ。○〔王融〕「日聞二━━一」。
〔鳴鈴〕すずをならす。○〔周〕「━レ━以應二雞人一」。
〔金鈴〕(い)こがねのすず。○〔周、註〕「皆以レ━爲レ━」。(ろ)花の名。○〔夢華錄〕「菊黃色而圓曰二━━一」。
〔搖鈴〕すずをうごかしならす。○〔北〕「━レ━自別」。
〔撼鈴〕前に同じ。○〔顧況〕「一絃一絃如レ━レ━」。
〔風鈴〕かぜにふれて音を發するすず。○〔竹坡詩話〕「時聞二━━鏗然有一レ聲」。

〔鏍鉿〕前に同じ、又、すゞ。○〔孟郊〕「風-音酸ニ一-一ニ。」
〔門鈴〕門戸につけたるすゞ。○〔張籍〕「無ニ吏擾ニ「一-一ニ。

【鈵】ヘイ、ヒヤウ。彼病切 敬 補永切 梗
かたし、(固)。

【鈶】シ、ジ。詳里切 紙
㊀矛の屬。㊁あらがね、(鋌)。

【鉛】イ。盈之切 支
すきのさき、(耒-耑)。

【鉛】シ、ジ。詳茲切 支
鎌の柄、え。

【鈷】コ、ク。公戸切 麌
かま、(鏟)。

【鈷】コ、ク。洪孤切 虞
黍稷を盛る器の名、瑚に同じ。

【鈷】コ、ク。古慕切 遇
たつ、きる、(斷)。

【鈸】ハツ、バチ。蒲撥切 曷
すゞ、(鈴)。

【鈹】ヒ。敷羈切 支
㊀大いなる針、おほはり。㊁つるぎ、(劍)。○〔左〕「以レ一殺ニ諸盧-門ニ。」㊂鈹に同じ。○〔史〕「長-一都-尉」。㊃披に同じ。○〔荀〕「吏謹將レ之無ニ一-滑ニ。」

【鈺】ギヨク、ゴク。五錄切 沃

【鉥】セイ、ザイ。徂奚切 齊
㊀たから、(寶)。㊁堅き金。

【鉐】シ、ジ。象齒切 紙
とし、(利)。

【鈼】サク、ザク。在各切 藥
あらがね、(鋌)。

【鈽】ホ、フ。博孤切 虞
㊀かま、(釜)。㊁せいろう、(鈔)。㊂こしき、(甑)。

【鈿】テン、デン。待年切 先 堂練切 霰
金版、かねのいた。

㊀華の形を模造したる婦人の首飾、かんざし。○〔庾肩吾〕「誰忍去ニ金一一ニ。」㊁蚌の介甲にて器具を飾れるもの、かながひ、あをがひざいく。○〔唐〕「以ニ寶一一爲ニ井-幹ニ。」
〔芳鈿〕はながたのかんざし。○〔庾肩吾〕「一-一繫ニ石-榴ニ。」
〔金鈿〕こがねのかんざし。○〔白居易〕「一-一羅ニ桃-李ニ。」
〔碎鈿〕くだけたるかんざし。○〔鄭谷〕「破-容一-一不レ足レ拾」。

【鉀】カフ、ケフ。古狎切 洽
甲に同じ、よろひ、(鎧)。○〔晉載記〕「姚-弋-仲貫レ一上レ馬」。

【鉀】カフ、コフ。轄臘切 合
一-鑪は、箭の名。○〔揚雄〕「箭其小而長、中穿ニ二-孔一者謂ニ之一-鑪ニ。」

【鉉】バン、モン。亡范切 𨺰

鋄に同じ、馬の首の飾。

【鈴】ハン、ホン。孚梵切 陷
釩に同じ、さかづき。

【鉁】珍に同じ。

【鉃】シ。疎士切 紙
㊀かれのわ、(鐶)。㊁さす、(刺)。

【鉃】シ、ジ。善指切 紙
箭頭、やのさき。

【鉄】鏃に同じ。

【鉄】古文の鉄の字、鐵の俗字さなすは僞なり。

【鉅】キヨ、ゴ。其呂切 語
㊀剛鐵、かたきくろがね、又、大いに剛し、かたし、こはし。○〔史〕「宛之一-一鐵」。㊁尊者の通稱。○〔李賀〕「文-章一-一公」。㊂つりばり、(鉤)。○〔潘岳〕「弛ニ靑-鯤於網一-一ニ。」㊃巨に同じ、おほいなり。○〔史〕「宜ニ一者一ニ、宜ニ小者小ニ。」㊄詎に同じ、なんぞ、いづくんぞ。○〔戰〕「臣以爲ニ王一速忘ニ矣」。㊅遽に同じ、にはか。○〔荀〕「是豈一知ニ見レ侮之爲ニ不-辱ニ哉」。
〔剛鉅〕かたきくろがね。○〔史、註〕「大-一曰レ一、堅-鐵也」。
〔呂鉅〕矜驕の貌にいふ語。○〔莊〕「一-命而一-一」。
〔最鉅〕極めておほいなり。○〔韓愈〕「爲レ物一-一」。
〔細鉅〕こまかなるとおほいなると。○〔韓愈〕「無レ異ニ一-一ニ。」
〔纖鉅〕前に同じ。○〔周邦彥〕「稱ニ量一-一ニ。」

【鉆】テン、トン。勅淹切 鹽
㊀鐵鉗、かなばさみ。㊁車にあぶらさすもの。

【鉆】ケン、ゴン。巨淹切 鹽
㊀器の兩頭のあひめ又は廉角を鐵片を用ひて錮めたるものゝ稱、かひれ。○〔正字通〕「凡器兩-頭交-合、用ニ鐵-片一錮レ之、或轉-角處、鐵-片兩-頭拘ニ-定之一、皆曰レ一-一」。㊁鉗持す、はさむ。○〔周、註〕「一レ箭具」。㊂一種の刑具。○〔後漢〕「一-一鑽之屬慘-苦無レ極」。

【鉆】テフ。託協切 葉
物を貼著す、はりつく。

【鉆】チン。知林切 侵 テン、トン。於知廉切
鉗持す、はさむ。

【鈐】キン、ゴン。渠金切 侵 鹽

【鉆】鍤に同じ、さし。○〔揚雄〕「筆不レ一而獨加ニ諸砥ニ。」

【鉇】俗の鉈の字。

【鉈】シヤ、ゼ。食遮切 麻 シ。式支切 支
短き矛。

【鉉】ケン、ゲン。戸畎切 銑
㊀鼎の耳に貫きたる金具、之を持ちて鼎を扛ぐ、かなへのみゝづる。○〔易〕「六-五鼎黃-耳金一一、利レ貞」。㊁鼎を王位に譬へて國の樞要に參する大官、卽ち、卿相に借りいふ字。○

〔徐陵〕「秩踰二三一一一」
〔玉鉉〕たまもてつくりたる鼎のみゝ。○〔易〕「鼎一一大吉、无レ不レ利」。
〔台鉉〕三公の位。○〔陳〕「初世祖嘗夢三昭達升二于一一一」。
〔槐鉉〕前に同じ。○〔江淹〕「一一之任」。
〔鼎鉉〕かなへのみゝ、又、かりて三公の位の義にもいふ。○〔潘尼〕「弱冠步二一一一」。

【鉉】ケイ、キヤウ。涓熒切 [青]
クワン、ケン。居閑切 [刪]
扃に通じ用ふ。○〔儀〕「設二一一鼎一」。

【鉊】セウ。止搖切 [蕭]
大鎌、かま。○〔管〕「懷二一一銛一」。

【鉋】ハウ、ベウ。皮敎切 [效]
㊀木を平かにする器、かんな、木匡（きのわく）の中に鐵刃を裝置したるもの。
㊁馬を搔く具。

【鉋】ハウ、ベウ。薄交切 [肴]
一一刷は、はけ。

【鉋】ハク、ボク。弼角切 [覺]
杵の頸。

【鋅】古文の矛の字。○〔王褒〕「倚二盾曳一レ一一」。

【鉌】クワ、ワ。戶戈切 [歌]
一一鑾は、すゞ。

【鉍】ヒ、兵媚切 [寘] ヒツ、壁吉切 [質]
ビ。ヒチ。
柲に同じ、矛の柄。

【鉍】ヒツ、ビチ。薄必切 [質]
㊀前條に同じ。㊁たぐひ、（偶）。

【鉎】セイ、所庚切 [庚] シヤウ。切 桑經切 [青]
さび、（鏉）。

【鉏】シヨ、ゾ。士魚切 [魚]
㊀穢を去り田を治むる農具、くは。○〔漢〕「秦人借二父耰一一一、慮有二德色一」。
㊁すく。
（い）田を治め穢草を去る、たがへす。○〔漢〕「非二其種一者、一而去レ之」。
（ろ）誅し去る、ころす。○〔韓詩外傳〕「衆之所二誅一一一」。

【鉏】ソ、ス。宗蘇切 [虞]
祭に用ふる藉、しきもの。

【鉏】サ、ゼ。鋤加切 [麻]
一一牙は、物の旁に出でたるもの。○〔周〕「二一一璋皆有二一一牙之飾一」。

【鉏】シヨ、ゾ。牀呂切 [語]
一一鋙は、相距みて相入れざるを、くひちがひ。○〔楚辭〕「吾固知二其一一鋙而難レ入」。

【鉏】シヨ、ゾ。牀據切 [御]
耡に同じ、藉稅、みつぎ。

【鉐】セキ、ジヤク。常隻切 [陌]
鍮一一は、しんちう。

【鉑】ハク、バク。白各切 [藥]
金屬を錘きのべて薄くしたるもの、はく。

【鉒】チユ、中句切 シユ、朱戍切 [遇]
ツ。ス。
㊀葬送の具。㊁おく、（置）。
㊂彈碁（こはじき）の類の遊戲。○〔淮〕「以レ瓦一者全、以レ金一者跋、以レ玉一者發」。
㊃あらがね、（丱）。○〔管〕「其下有二一一銀一」。

【鉓】チヨク、チキ。蓄力切 [職]
かざる、（飾）。

【鉔】サフ、ソフ。作荅切 [合]
巧機（さいく）を施して轉旋するも傾倒せざる香爐、まはりかうろ、香毬。○〔司馬相如〕「金一一熏レ香」。

【鉅】ハ。傍禾切 [歌]
一一鑼は、銅の器。

【鉖】トウ、ヅ。徒冬切 [冬]
つりばり、（釣）。

【鉗】ゼン、ネン。而琰切 [琰]
くろがね、（鐵）。

【鉗】ケン、ゴン。巨淹切 [鹽]
㊀罪人猛獸などの頸をしめ束ぬる鐵具、くびがね、くびかせ。○〔後漢〕「弛二解一一衣一」。
㊁かなばさみ、（鉆）。○〔後漢、註〕「如二一之能鉆一レ物」。
㊂劫束す、しむ、はさむ、とづ。○〔莊〕「口一而不レ欲レ言」。
㊃他を忌み害すること。○〔後漢〕「性一一忌」。
㊄殘ひ罵ること。○〔揚雄〕「凡人殘罵謂二之一一」。
㊅妄行して誠實なきこと。○〔家語〕「無レ取二一一一」。

【鉗】ガン、ゴン。五甘切 [覃]
やいば、（刃）。

【鉘】フツ、ホチ。浮勿切 [物]
かざる、（飾）。

【鉙】タイ、テ。知駭切 [蟹]
こがね、（金）。

【鉚】リウ、ル。力九切 [有]
美なる金。

【鉛】エン。與專切 [先]
㊀熔解し易き一種の鑛物、なまり。○〔書〕「一一松怪石」。
㊁なまりより製したる顏料、おしろい。○〔曹植〕「一一華勿レ御」。
㊂したがふ、（循）。○〔荀〕「一レ之重レ之」。
〔銀鉛〕しろかねとなまりと。○〔華陽國志〕「出二銀一一白銅雜藥一」。
〔粧鉛〕おしろいをつけよそほふ。○〔林下詩談〕「一一一點レ黛拂二輕紅一」。

【鉜】フウ、ブ。縛謀切 [尤]
㊀籢飾、かどみばこのかざり。
㊁一一鏂は、おほくぎ。

【鉝】リフ。力入切 [緝]
食器。

【鉞】エツ、チチ。王伐切 [月]
㊀大いなる斧、まさかり、征討主將の威信を表するために執れるもの。○〔書〕「王左杖二黃一一一」。

㊁星の名。○〔史〕「東井爲二水事一、其西曲星曰レ―」。
〔玄鉞〕くろがねのまさかり。○〔盧旦〕「纛若レ執―・―」。
〔秉鉞〕まさかりをもつ。○〔周〕「右―レ―」。
〔執鉞〕前に同じ。○〔書〕「一人冕―レ―」。
〔把鉞〕前に同じ。○〔史〕「湯自―レ―以伐二昆吾一」。
〔鈇鉞〕斧とまさかりと。○〔禮〕「不レ怒而民威二于―・―一」。
〔杖鉞〕まさかりをつゑつく。○〔漢〕「把レ旄―レ―」。
〔授鉞〕まさかりをあたへさづく。○〔晃〕「而周武―レ―」。
〔黻鉞〕くろがねのまさかり、又、星の名。○〔宋〕「參宿十星一曰二―・―一」。
〔天鉞〕まさかりのおほいなるものにて八斤のおもさあるもの、又、星の名。○〔晉〕「天狼三星在二北斗杓東一、一曰二―・―一、天之武備也」。
〔大鉞〕おほまさかり。○〔史〕「周公旦把二―・―一」。
〔朱鉞〕あかくぬりたるまさかり。○〔漢〕「左建二―・―一」。
〔旄鉞〕はたとまさかりとにてともに大將の秉るもの。○〔蜀註〕「今授二之以―・―之重一」。
〔旌鉞〕前に同じ。○〔虞世南〕「或書二之―・―一」。

【鉟】ヒ。敷悲切（支）
刃（は）ある戈。○〔韓愈〕「何當鑄二鉅―・―一」。

【鉠】アウ。於良切（陽）　エイ、ヤウ。於驚切（庚）
鈴の聲にいふ字。○〔張衡〕「和鈴―・―」。

【鉡】ハン、バン。部滿切（旱）
すき、（鍫）。

【鉢】ハツ、ハチ。北末切（曷）
僧家の食器。○〔蘇軾〕「吾法以二瓦鐵一食二此―一非レ法」。
〔衣鉢〕佛家に其の開祖なる釋迦より傳はりたる袈裟と食器とありて、道統を紹ぐ者の信として相付受するの例なりき、達磨例によりて之を受け、後携へて梁に來たり武帝に見え遂に嵩山の少林寺に隱れしが其の法を慧可に傳へし時にまた其の信として例の袈裟と食器とを傳へたりき、よりて物事の相傳の義にいふ語。（〔古今名賢集〕「此傳二老夫之―・―一耳」。
〔瓶鉢〕こがめとはちと。○〔劉長卿〕「唯將二舊―・―一」。
〔銅鉢〕あかゞねのはち。○〔南〕「共打二―・―一」。
〔玉鉢〕たまのはち。○〔北〕「彭城王韶家有二―・―一」。
〔持鉢〕はちを手にもつ。○〔許彦周詩話〕「熙載披衲―レ―」。
〔金鉢〕こがねのはち。○〔隋〕「―・―一、實以二金―一」。
〔銀鉢〕しろかねのはち。○〔二石僧事〕「以二澄生所レ服金杖―・―一內二棺中一」。
〔泥鉢〕泥鉢といふに同じ、すやきのはち。○〔周書〕「得二―・―錫杖各一一」。「―・―處」。
〔捧鉢〕はちをさゝげもつ。○〔水經註〕「四天王」。
〔擲鉢〕はちをなげすつること。○〔三昧經〕「菩薩―二―於空中一自然飛來」。
〔佛鉢〕釋迦のもちたるはち。○〔水經註〕「佛圖日、―・―青玉也」。「―」。
〔洗鉢〕はちをあらひきよむ。○〔摭言〕「隨レ僧―レ―」。
〔食鉢〕食物をいるゝはち。○〔演繁露〕「今僧家名二其―・―一爲二鉢」。「―一」。
〔鐵鉢〕くろがねのはち。○〔僧貫休〕「惟擎二―・―一」。
〔杖鉢〕錫杖と食鉢とにてともに沙門のうつは。○〔李嶠〕「荊南旋二―・―一」。
〔瓷鉢〕やきものゝはち。○〔耶律楚材〕「纍々山果盈二―・―一」。
〔托鉢〕僧侶の俗家にいたり食を乞ふこと。○〔僧惟則〕「―・―歸來レ餘」。
〔盂鉢〕はち。○〔王逢〕「―・―躬自鬻」。
〔瓠鉢〕ひさごの鉢。○〔吳鼎芳〕「香饌傳二―・―一」。
〔飯鉢〕めしばち。○〔張憲〕「―・―繫二郎瓢一」。
〔優曇鉢〕無花果の別名。○〔法華經〕「如二―・―花一、時一現耳」。

【鉣】ケフ、コフ。居怯切（葉）
組帶鐵、おびがね。

【鉤】コウ、ク。古侯切（尤）
㊀劍の屬、敵をひきかけ殺すに用ふる武器。○〔漢〕「鑄二作刀、劍、―、鐔一」。
㊁劍の頭につけたる環。○〔戰〕「無二―、竿、蒙須之便一」。
㊂緡（つりいと）の端につけて魚を釣るに用ふる具、つりばり。○〔莊〕「任公子爲二大―巨緇一」。
㊃帶につけたる金具、おびかけ、かけあはして帶をさめしむるもの。○〔孟〕「豈謂二一―金一」。
㊄禾を刈る鎌、かま。○〔漢〕「賊棄二弓弩一而持二鉏―一」。
㊅凡て物をかけとめ又はかきよするに用ふる曲がれるもの、かぎ。○〔隋〕「以レ銀爲二幔―一」。
㊆彎曲せる一種の劍。○〔吳越春秋〕「吳作レ―者衆」。
㊇かく。
（い）ひきかく、又、かけつるす。○〔左〕「或以レ戟―レ之」。
（ろ）潛伏せる義理事情を窮むるにいふ字、ひきだす。○〔易〕「―レ深致レ遠」。
（は）誘致す、おびきよす、さそひだす、いたす。○〔漢〕「盡皆―校發二其姦臧一」。
㊈めぐる、（繞）。○〔儀〕「豫則―二楹內一」。
㊉かゞむ、（屈）。○〔戰〕「弓撥矢―」。
⑪ひく、（牽）。○〔後漢〕「皆爲二―黨一下レ獄」。
⑫とゞむ、（留）。○〔漢〕「使三吏―二止丞相掾史一」。
⑬圓規、まるきのり、ぶんまはし。○〔漢〕「帶二―矩一而佩レ衡兮」。
⑭一種の車。○〔禮〕「―車夏后氏之路也」。
⑮車の心木。○〔周〕「以鑿二其―一」。
⑯一種の遊戲。○〔李商隱〕「隔レ座送レ―春酒暖」。
⑰鬮に同じ、くじ。○〔荀〕「探レ籌投レ―」。
〔帶鉤〕おびがね。○〔史〕「射中二小白―・―一」。
〔中鉤〕おびがねにいあつ、又、ぶんまはしにあたる、又、つりばりにかゝる。○〔韓愈〕「有レ似二魚―・―一」。
〔懸鉤〕地名、又、まがりかねをかく。○〔康庭芝〕「[illegible]外似レ―・―」。
〔銀鉤〕しろかねのつりばり、又、しろかねのかぎ。○〔劉孝威〕「―・―翡翠竿」。
〔沈鉤〕水中のつりばり、又、つりばりを水中にいる。○〔張正見〕「觸レ餌避二―・―一」。
〔呑鉤〕つりばりをのみこむ。○〔化書〕「魚可レ使二之―・―一」。
〔簾鉤〕すだれかけ。○〔杜甫〕「落日在二―・―一」。
〔釣鉤〕つりばり。○〔陳師道〕「連レ筒下二―・―一」。
〔案鉤〕鳥の名。○〔山海經〕「碑山有レ鳥焉、其狀如レ梟而鼠尾、善登レ木、其名曰二―・―一」。
〔刈鉤〕くさかりがま。○〔方言〕「―・―江淮陳楚之閒、謂二之鉊一、或謂二之鐹一」。
〔垂鉤〕つりばりをたれて魚を釣る。○〔杜牧〕「晩步見二―・―一」。
〔簷鉤〕かどかけ。○〔古樂府〕「桂枝爲二―・―一」。
〔銛鉤〕鋭利なるつりばり。○〔李羣玉〕「觸レ口是―・―」。
〔交鉤〕語りて止まざること。○〔歐陽修〕「異日設二

【鉤】ク、ゴ。權俱切（虞）
―町は、西南の夷國の名。○〔漢〕「爲二―町王一」。

【鉤】コウ、ク。居候切（宥）
梯の端にかぎをつけかけ引きて城に上る具、かぎばしご。○〔詩〕「以二爾―援一」。

【鉥】シュツ、ジュチ。食聿切（質）
㊀長き鍼、はり。○〔管〕「一女必有二一鍼一―一」。

㊁みちびく、(導)。○[國]「子盍レ入乎、吾請爲レ子—」。

【銶】シュツ、ジュチ。雪聿切 質
いざなふ(誘)。

【鈅】ハツ、ヘチ。百轄切 黠
金の類、かれ。

【鉦】セイ、シヤウ。諸盈切 庚
㊀鐃の類、かね、鼓聲を止ごむるに鳴らすもの。○[詩]「—人伐レ鼓」。㊁鐘の體の正處。○[周]「鳧氏爲レ鍾、鼓上謂二之—一」。
(銅鉦) あかゞねのどら。○(蘇軾)「樹頭初日挂二銅—一」。
(鼉鉦) どらがねをうちならす。○(詩、疏)「則有二鉦人一、—レ—以靜レ之」。
(叩鉦) 前に同じ。○(七命)「—レ—數校」。
(鼓鉦) たいことどらと。○(朱熹)「軍家候二—・—一」。

【鉧】鏻に同じ。○[范成大]「鈷—熨斗也」。

【鉩】デフ、チフ。諸叶切 葉
㊀たゞし(正)。㊁小さき箱。

六畫

【鈲】ライ。來改切 賄
絲を連られて釣る、つる。

【鉵】トウ、ヅ。徒冬切 冬
㊀耜の屬。㊁鉏の大いなる貌にいふ字。

【鉶】ケイ、ギヤウ。缺經切 青
羹(あつもの)を盛る兩耳三足の祭器、まつりのうつは。○[漢]「堯舜飯二土—一、歠二土—一」。

(鉶之圖)

【鍒】タ。丁果切 哿
かく(鈌)。

【鍒】タ、都唾切 箇
きる(剉)。

【銾】コウ、グ。戸公切 東
弩牙、いしゆみのは。

【鉸】カウ、ケウ。古巧切 巧 古肴切 肴
㊀釘—は、物に挿入したる金具、かなぐ、かなもの。○[釋名]「齊謂二之鏃一、關西謂二之釘—一」。㊁はさみ(剪刀)。○[李賀]「細束二龍髯一、—刀翦」。

【鉸】カウ、ケウ。居效切 效
金を以て器を飾る、かざる、又、其の裝飾、かざり。○[顏延之]「寶—星纏」。

【鉹】シ。尺氏切 紙 賞是切 紙 イ。余支切 支
㊀こしき(甑)。㊁小刀、こがたな。

【鉺】ジ、ニ。而至切 寘
かぎ(鉤)。○[韓愈]「脩箭裊二金—一」。

【鉻】ラク。歷各切 藥
そる(鬄)。

【鉻】カク、キヤク。古伯切 陌
かぎ(鉤)。

【鉼】俗の鉼の字。

【鉽】ショク、シキ。賞職切 職
かなへ(鼎)。

【鉾】ボウ、ム。迷浮切 尤
㊀古文の矛の字、ほこ。㊁劍の端、ほこさき。

【鉿】カフ、ケフ。古洽切 洽
物の聲にいふ字。○[揚雄]「陽氣扶レ物鑽乎堅、—然有レ穿」。

【鉿】カフ、コフ。古沓切 合
あらがね(鋌)。

【銀】ギン、ゴン。語巾切 眞
㊀白色を帶びたる一種の金屬、しろかね。○[漢]「它—一流直レ千」。㊁しろかねにてつくりたるもの。○[論衡]「懷レ—紆レ紫」。㊂垠に同じ、かぎり。○[荀]「守二其—一」。㊃廉鍔、ときやいば。○[大戴禮]「—手如レ斷、是卜商之行也」。㊄みがく(研)。○[黃香]「眄二旭歷一而銳—」。
(金銀) こがねとしろかねと。○(列)「構以二—・—一」。
(水銀) みづがね。○(施肩吾)「青玉盤中瀉二—・—一」。
(白銀) しろかね。○(史)「皆以二黃金—・—一爲二宮闕一」。
(熟銀) 精製のしろかね。○(庾信)「鉛消似二—・—一」。
(鎔銀) しろかねをとかす。○(劉禹錫)「層波萬頃如レ—レ—」。
(賦銀) 税金のこと。○(賈師泰)「—・—日急家日貧」。

【銂】シウ、シユ。職流切 尤
金刀。

【銃】ジウ、ニユ。充仲切 送
シュク、ソク。昌六切 屋
斧穿、をのゝえのあな。
(鳥銃) てつぱう。○(武備要畧)「皆以二此銃一穿レ林打レ鳥、故名曰二—・—一」。
(火銃) 前に同じ。○(訓蒙字會)「俗呼二—・—一又曰二銃筒一」。

【銅】トウ、ドウ。徒紅切 東
㊀赤色をなせる一種の金、あかゞね。○[漢]「凡律度量用レ—者」。㊁あかゞねにてつくりたるもの。○[揚雄]「五兩之綸、半通之—」。㊂洞に通じ用ふ。○[山海經]「—庭之山」。
(赤銅) あかゞね、又、あかゞねのうちに少量のこがねを混合して製したるかね。○(山海經)「𤁋谷山多二—・—一」。
(鍊銅) ねりきたへたるあかゞね。○(史)「宮宇之堂、皆以二—・—一爲レ柱」。
(採銅) あかゞねを鑛山よりとる。○(唐)「元和中、歲—二—二十六萬有奇一」。
(鑄銅) あかゞねをいる。○(庾信)「南極則—レ—爲レ柱」。

【銆】バク、ミヤク。莫白切 陌
—刀は、兵器。

【鉇】キ。過委切 紙
臿の屬、すき、一說に、ひかりある鐵。

【鉇】ギ、ゲ。魚豈切 尾

鋸の齒を捩らすに用ふるもの、のこぎりのはふり。

【銇】ライ、レ。盧對切 隊
㊀きり、（鑽）。㊁版を平かにする具、かんな。

【銈】ケイ、カイ。古奚切 齊
金圭。

【銉】イツ、イチ。餘律切 質
はり、（針）。

【鉥】シユツ、シユチ。辛律切 質
㊀鋸の聲にいふ字。㊁鉥—は、鎖鈕、かけがね。

【銋】ジン、ニン。如林切 侵
㊀ぬる、（濡）。㊁かゞむ、（桊）。

【銋】ヂン、ニン。尼凜切 寑
鑸—は、聲の進まざる貌にいふ語。○[王褒]「行鑸—而龢囉」。

【銌】ソン、ゾン。徂悶切 願
きる、（鑽）。

【銍】チツ。陟栗切 質
㊀禾を穫るに用ふる短き鎌、いねかりがま。○[釋名]「—穫レ黍鐵也」。㊁かる、（穫）。○[詩]「奄觀二——艾一」。㊂刈りたる禾穗、いなぼ。○[書]「二—百-里納レ—」。

【銎】キヨウ、ク。曲恭切 冬
㊀斤斧の柄を受くる穿孔、をのゝあな、あな。○[六韜]「大-柯斧—長八-寸」。㊁矛刃の下口。○[揚雄]「般謂二之—一」。㊂物を撃つ貌にいふ字。㊃おそる、（懼）。

【銏】サン、セン。所諫切 諫
サク、シヤク。楚革切 陌
鐵の器。

【銐】セイ。尺制切　テイ、デイ。徒例切 霽
艸を除くに用ふる器、くさかりがま。

【銐】セイ、ザイ。才詣切　レイ。力制切 霽
さし、（利）。

【銑】セン。穌典切 銑
㊀最も光澤ある金の稱。㊁小さき鑿のみ。㊂寒き貌にいふ字、さむし、又、みづそゝぐ、（灑）。○[晉]「—者寒甚矣」。㊃鐘の兩角。○[周]「鳧-氏爲レ鐘、兩-欒謂二之—一」。㊄金を以て弓を飾る、かざる。

【銒】ケイ、ギヤウ。后經切 青
鐘に似て頸の長きもの、一に曰ふ酒器。

【銒】ケン。經天切 先
人の名。○[荀]「墨-翟宋—也」。

【銓】セン。此緣切 先
㊀權衡、はかり。○[漢]「考レ量以レ—」。㊁はかる、（量）、ついづ、（次）。○[爾、註]「—二量輕-重一」。㊂木を平かにする器。
[執銓] はかり定むることを行ふ。○[王儉]「—レ—以平」。

【鉶】クヮイ、エ。呼內切 隊
かなもの。

【鈐】ケン、ゴン。丘廉切 鹽
曲頭の鑿のみ。

【銔】ヒ。攀悲切 支
靈-姑—は、旗の名。○[左]「公卜レ使下王-黑以二靈-姑——一率上吉」。

【銕】古文の鐵の字。

【銕】テイ、ダイ。杜奚切 齊
鐵の名。

【銖】シユ、ジユ。市朱切 虞
㊀量の名、兩の二十四分の一。○[禮]「雖三分レ國如二錙—一」。㊁にぶし、（鈍）。○[淮]「其兵-戈—而無レ刃」。
[分銖] すくなき分量にいふ語。○[史]「善二市-買一爭二——一」。
[毛銖] 前に同じ。○[晉]「所レ得未二——一」。

【銗】コウ、グ。胡溝切 尤
頸鉗、くびわ。

【銘】ベイ、ミヤウ。忙經切 青
㊀しるす、（記）。○[禮、註]「—二其器一」。㊁金石の刻文。○[禮]「湯之盤之—曰」。㊂死者の名を旗にしるせるもの。○[周]「設レ熬置レ—」。㊃自警の詞、いましめ。○[宋]「作二宗-室坐-右—一」。
[鼎銘] かなへの銘文。○[禮]「夫—有レ—」。
[鏡銘] かゞみの銘文。○[太公陰謀]「武-王——」。
[盤銘] 前に同じ。○[大戴禮]「武-王——見二諸前-盧爾後一」。
[篆銘] 篆文の字體もてしるしたる記銘。○[梁]「有二——一」。
[刀銘] 刀劍の銘文。○[陳]「嘗使レ製二——一」。
[碑銘] いしぶみのしるし。○[魏]「更建二——一」。
[刻銘] 銘文をゑる、又、ゑりきざみたるしるし。○[宋]「泰-山有二唐明-皇——一」「詠」。
[箴銘] いましめの銘記。○[文心雕龍]「——碑」。

【銙】クヮ、ケ。苦瓦切 馬
クヮイ、ケ。枯買切 蟹
帶の金具、かなぐ。○[唐]「玉-工爲レ帝作レ帶、誤毀二——一」。

【銚】エウ。以招切 蕭
㊀中に物を入れて溫むる器、中に物を入れて燒く器、なべ、かま、又、小さき釜の柄あり口あるもの、てうし。○[遵生八牋]「當下以二銀——一煮上」。㊁—銚は、わん、（盂）。㊂分別して節制（ほどよく）するの貌にいふ字。○[馬融]「㨗-櫟——憺」。㊃田器、すき。

【銚】セウ、テウ。千遙切　テウ。他彫切 蕭
すき、（臿）、又、かる、（刈）、けづる、（削）。○[莊]「—鎒于レ是乎始修」。
[把銚] すきをもつ。○[戰]「無二—レ—推レ耨之勞一、而有二積-粟之實一」。

【銚】テウ、デウ。徒弔切 嘯
物を燒く器。

【銚】エウ。弋笑切 嘯
銚に同じ。

【銚】テウ、デウ。田聊切 蕭

長き矛。○〔呂氏春秋〕「長—利-兵」。

【銛】 セン、ソン。息廉切 鹽

㊀鍤の屬、すき。㊁とし、（利）、するどし、（鋭）。○〔漢〕「莫-邪爲レ鈍兮、鉛-刀爲レ—」。㊂擲げつけて魚を捕らふる鐵具、もり。

〔內銛〕中心の鋭利なること。○〔魏〕「何-平-叔外　而—」。

〔鋒銛〕ほこさき、又、ほこさきするどし。○〔論衡〕「或爲二—・—一」。

【銛】 セン、ゼン。習琰切 琰

臿の屬、すき。

【銛】 テン。他玷切 琰

㊀なの、（鏄）。㊁きる、（斷）。㊂とる、（取）。

【銜】 カン、ケン。戸監切 咸

㊀馬の口に含ませ馬を御するに用ふる具、くつわ、くつばみ、之に轡をつく。○〔漢〕「利二其—策一」。

㊁ふくむ。

（い）物を口中に持つ。○〔詩、箋〕「初無二行-陳—-枚之事一」。

（ろ）命を奉けて事を行ふにいふ字。○〔禮〕「—二君命一而使」。

（は）憾む、ねにもつ。○〔漢〕「景-帝心—レ之」。

（に）物を中に入るゝにもいふ字。○〔李覯〕「前-山日半—」。

（ほ）感ず。○〔管〕「令出而民—レ之」。

㊂官吏の位階、くらゐ。○〔白居易〕「十-年不レ改舊-官—」。

〔嚼銜〕くつばみ。○〔淮〕「嚼-諫者人-臣之—・—也」。

〔譙銜〕前に同じ。○〔楚辭〕「斷二—・—一以馳-騖「兮」。

〔駘銜〕くつばみをはづす。○〔後漢〕「馬—二其—一」。

〔密銜〕こゝろのうちでうらむ。○〔南〕「然—レ之」。

〔深銜〕ふかくうらむ。○〔舊唐〕「藝—レ之」。

〔放銜〕くつばみをはなつ。○〔易林〕「—レ—垂レ轡」。

〔入銜〕人參の異名。○〔本草〕「人-參一名二—・—一、其成有二階-級-故名」。

〔弛銜〕くつわをゆるぶ。○〔崔駰〕「—レ—縱レ策」。

〔縱銜〕前に同じ。○〔傅休奕〕「—レ—斯逝」。

〔新銜〕あたらしき官位。○〔元稹〕「顔-永授二—・—一」。

〔轉銜〕官職をうつす。○〔顧雲〕「許以二—・—一」。

〔羈銜〕たづなとくつわと。○〔韓維〕「常苦世-累爲二—・—一」。「復脫」。

〔鞍銜〕くらとくつわと。○〔秦觀〕「—・—不レ施轠

【鉥】 キウ、ク。虛尤切 尤

長き針。

【銀】 ギン、ゴン。宜斤切 文

馬を飾る器。

【銷】 鋗に同じ。

【銡】 キツ、キチ。古乞切 質

きしろ、（軋）。○〔錢氏桑海遺錄、序〕「機-械軋—」。

七畫

【鋡】 サン、ゼン。鋤銜切 咸

鑱に同じ。

【銲】 釬に同じ。

【鋭】 エイ、エ。以芮切 霽

㊀鋒芒、圭角、あらはれたるかど、するどき處、きッさき、ほさき、さき。○〔老〕「挫二其—一」。

㊁さきの細小なるにいふ字、とがる

○〔爾〕「再-成—-上爲二融-丘一」。

㊂するどし。

（い）さがりて纖し、ほそし。○〔老〕「揣而—レ之」。

（ろ）利捷なり、すばやし、さとし。○〔漢〕「王—欲レ發」。

（は）精練なり、くはし、ねれたり、よりすぐる。○〔左〕「我以二—-師一」。○〔書〕「一-人冕執レ—」。

㊃矛の屬、はもの、きれもの。

㊄するどきもの、するどき兵、するどき勢。○〔漢〕「吳必盡レ—攻レ之」。

㊅細小、ちひさし。○〔左〕「不二亦—一乎」。

〔追銳〕すゝむとはやし。○〔孟〕「其——者其退速」。

〔精銳〕強くするどし。○〔後漢〕「擁二—・—之衆一」。

〔勁銳〕前に同じ。○〔新論〕「—・—之質較-然易レ見」。「遻兮」。

〔折銳〕さきをくじく。○〔劉向〕「—レ—摧レ矜凝氾・

〔鑱銳〕わるくするどし。○〔唐〕「突-厥—・—」。

〔圓銳〕まろくさきのとがりたるをいふ。○〔爾、註〕「角—・—」。

〔輕銳〕つはものなどの輕捷にしてするどき者をいふ。○〔戰〕「趙-王出二—・—以寇二其後一」。

〔甚銳〕いたくするどし。○〔後漢〕「其鋒—・—」。

〔極銳〕前に同じ。○〔魏、註〕「研-精—・—」。

〔驍銳〕強猛にしてするどし。○〔唐〕「智-與少—・—」。

〔猛銳〕前に同じ。○〔晉〕「高-祖樂二其—・—一」。

〔剛銳〕前に同じ。○〔北〕「蘊二—・—之氣一」。

〔勇銳〕前に同じ。○〔南〕「徒-黨—・—」。

〔果銳〕果決にして意氣するどし。○〔蜀〕「孫-德—・—」。

〔養銳〕鋭氣をやしなひつむ。○〔晉〕「後閉レ關—・—伺レ隙而動」。

〔蓄銳〕前に同じ。○〔杜甫〕「—レ—伺二俱發一」。

〔明銳〕さとくとし。○〔唐〕「機-辯—・—」。

〔敏銳〕前に同じ。○〔唐〕「藨—・—有二文-辭一」。

〔聰銳〕前に同じ。○〔法苑珠林〕「—・—神-異」。

〔完銳〕具備して鋭利なること。○〔唐〕「器-用—・—」。

〔悍銳〕たけくつよし。○〔唐〕「尤—・—」。

〔豪銳〕すぐれてつよし。○〔唐〕「乃先藉二—・—ィ「—之卒」、檢者一」。

〔陷銳〕つよき敵をくだきおとしいる。○〔韓〕「—・

〔長銳〕かたちながくしてさきとがる。○〔急就篇、註〕「鏒有二數-種葉一、—・—而薄」。

〔意銳〕こゝろするどし。○〔人物志〕「辯煩而—・—」。

〔盛銳〕するどくさかんなると、又其の者。○〔人物志〕「下二其—・—一」。「—一」。

〔利銳〕するどし。○〔人物志〕「以二推-讓一爲二—・

〔銛銳〕前に同じ。○〔杜甫〕「四-猛佗—二・—乎其間一」。「黄-㮣」。

〔尖銳〕さきはそくとがる。

〔細銳〕ほそくとがる。○〔爾、翼〕「首—・—色

〔纖銳〕前に同じ。○〔爾、翼〕「似二芹-葉一—・—」。

〔芒銳〕のぎさき。○〔唐太宗〕「耳-根—・—」。○〔李遐〕「㼓-玉無二—・—一」。

【鋭】 タイ、デ。徒外切 泰

矛の屬。

【鋭】 エツ、エチ。弋雪切 屑

銚—は、わん、（盂）。

【鋬】 セイ、ゼイ。時制切 霽

エイ、エ。以芮切

ヘイ、パイ。蒲計切

ケイ、ケ。吉曳切 霽

㊀車の樘結。㊁銅の五色を生じたるもの。

【鋥】 テイ、デイ。直例切 霽

小車の耳鉤。

【銔】 鋥に同じ。

【鋗】 カウ、キヤウ。口莖切 庚

㊀うつ、つく、（撞）。㊁物の聲にいふ字。

【鋤】 サ。素何切 歌

サ、セ。師加切 麻

—鑼は、どらの類。

【銶】キウ、グ。巨鳩切 [尤]
鑿の屬、のみ。○[詩]「又缺ニ我ー一」。

【銷】セウ。相邀切 [蕭]
㊀とく。
(い)鎔解す、とかす、さく、さらかす、さらく。○[史]「收ニ天下之兵一聚ニ之咸陽一、ー以爲ニ鍾鐻一」。
(ろ)ちる、ちらす(散)、つく、つくす(盡)、きゆ、けす(滅)。○[漢]「胥以レ明自ー」。
㊁ちひさし(小)。○[莊]「其聲ー」。
㊂生鐵、なまがね。○[淮]「羊頭之ー」。
㊃すき(鍤)。○[淮]「剞劂ー鋸」。
[魂銷] たましひきゆ。○[何遜]「ーー彩已去」。
[虹銷] にじきゆ。○[王勃]「ーー雨霽」。
[靡銷] いつぶす。○[史]「皆ーニーー之一」。
[燈銷] ともしびきゆ。○[李頻]「吟庭夜ーー」。

【銸】テフ。涉葉切 [葉]
はさむ、かなばさみ(鉆)。○[後漢]「如ニ鉗之能ーレ物」。

【銸】デフ、ヂフ。昵輒切 [葉]
鑷に同じ、けぬき、はさむ。

【銹】シウ、シユ。息救切 [宥]
鐵に衣を生ず、さび。

【鋬】サウ、ザウ。在朗切 [養]
鈴の聲にいふ字。

【銼】サ、ザ。昨禾切 [歌] ソク、ゾク。昨木切 [屋]
かま(鍑)。

【銼】サ。寸臥切 [箇]
㊀かま(釜)。○[杜甫]「土ー冷ニ疎煙一」。
㊁挫に同じ。○[史]「兵ー二藍田一」。

【銽】カツ、カチ。古刹切 [黠]
きる(斷)。

【銾】コウ、グ。胡孔切 [董]
鐘の聲にいふ字。

【銿】トウ、ヅ。徒口切 [有]
鐘、又、鏞に同じ。

【鋀】トウ、ヅ。徒口切 [有]
酒の器。

【鋀】トウ、ツ。託侯切 [尤]
鍮に同じ、ちんちう。

【鋁】
鑢に同じ、やすり。○[博雅]「ー謂ニ之錯一」。

【鋂】バイ、メ。莫杯切 [灰]
一つの大いなる環の二つの小なる環を貫きたる鎖、くさり、子母環。○[詩]「盧重ーー」。

【鋃】ラウ。魯當切 [陽]
㊀ー鐺は、くさり。㊁鐘の聲にいふ字。

【鋄】ハン、モン。亡范切 [豏]
馬の首飾。○[張衡]「金ー鏤錫」。

【鋍】ラウ、ロウ。魯刀切 [豪]
㊀ー鑪は、かぶらや(鏑)。
㊁鐒ーは、銅の器。

【鋅】シ。祖似切 [紙]
こはし(剛)。

【鉓】ショク、シキ。賞職切 [職]
よそほふ(粧)。

【鋆】イン。羊倫切 [眞]
こがね(金)。

【鋇】ハイ。布蓋切 [泰]
あらがね(鋌)。

【鋈】ヲク。烏酷切 [沃] アク。屋郭切 [藥]
或る金屬を質とし其の表面に他の金屬を灌沃したるもの、いっかけ、めっき。○[詩]「陰靷ー續」。

【鋉】ソク。桑谷切 [屋]
かね(金)。

【鋊】ヨク。余足切 [沃]
㊀銅屑、あかゞねのこな。○[漢]「姦或盜摩ニ錢質一以取レー」。
㊁炭鉤、ひかき、又、鼎鉤、かなへかき。
㊂磨礱す、する。○[五音譜]「今俗謂ニ磨光一曰ニ磨ーー一」。

【鋊】ヨウ、ユ。餘封切 [冬]
鉤ーは炭を取る器、ひかき。

【鋋】セン、ゼン。市連切 エン。以然切 [先]
㊀柄は鐵なる短き矛、こぼこ、てぼこ。○[漢]「此矛ーー之地」。
㊁ほこにて刺す、さす。○[漢]「ーニ猛氏一」。
[矛鋋] こぼこ。○[宋]「長戈ーー」。
[戈鋋] 前に同じ。○[舊唐]「ーー皷鞞」。
[殳鋋] つゑぼことこぼこと。○[權德輿]「ーー方啓レ路」。
[鎧鋋] よろひとほこと。○[杜甫]「羌兵助ニーー一」。

【鋌】テイ、ヂヤウ。徒鼎切 [迥]
㊀銅鐵の樸、あらがね。○[南]「嗣子驃不慧、見ニ內庫金ーー一問ニ左右一、此可レ食否」。
㊁箭の足の稾中に入るもの、やのこみ。○[周]「冶氏爲ニ殺矢一刃長寸圍寸、ー十レ之」。
㊂つく(盡)。○[揚雄]「物空盡日レー」。
㊃鐵銅の稱、くろがね、あかゞね。○[張協]「耶谿之ー、赤山之精」。

【鋌】テイ、チヤウ。他頂切 [迥]
㊀疾く走る貌にいふ字。○[左]「ー而走レ險、急何能擇」。
㊁前條の㊁に同じ。

【鋍】ホツ、ボチ。蒲沒切 [月]
鸋に同じ。

【鋎】クワン、ゲン。戶版切 [潸]
かたな(刀)。

【鋏】ケフ。吉叶切 [葉]
㊀冶器の鑄型(いかた)を夾み持つもの、はさみ、又、すべて火熱あるものを夾み持つものゝ稱。○[庾信]「鐵ー染ニ浮煙一」。
㊁刀身劍鋒の兵器、つるぎ。○[戰]「長ー歸來乎」。
㊂劍把、つか。○[莊]「韓魏爲レー」。
[短鋏] みじかきつるぎ。○[張協]「亦有ニーー一」。
[彈鋏] つるぎのつかをうちたゝく、又、馮驩の故事より主人に諷して達をもとむるをいふ。○[陶弘景]「復憫ニーレー求ロ通」。

〔矛鋏〕 はことつるぎと。 ○〔左思〕「毛-羣以ニ齒・角一爲ニ——一」。
〔劍鋏〕 つるぎのつか。 ○〔沈遼〕「煙-嵐生ニ——一」。

【鋐】 クワウ、グワウ。 戸萌切 庚
うつは、（器）。

【鉟】 セフ、ゼフ。 時攝切 葉
金飾、かなものゝかざり。

【鋈】 キフ。 居立切 緝
鋤の屬。

【鋑】 古文の鐫の字。

【鋑】 サン。 七丸切 寒
かたな、（刀）。

【鋑】 セン、ソン。 將廉切 鹽
きり、（錐）。

【鋒】 ホウ、フ。 敷容切 冬　本、鏠に作る。
㊀ほさき。
（い）兵器の刄端、ほこさき、きッさき。 ○〔莊〕「以ニ智-勇之士一爲レ——」。
（ろ）軍隊の先列、さきて。 ○〔漢〕「布爲ニ前——一」。「潁」。
（は）尖端、圭角、さき。 ○〔晉〕「抽レ——擢レ」
（に）銳き勢、物に當たるの氣。 ○〔晉〕「機-警有レ——」。
㊁兵器、つるぎ、ほこ。 ○〔史〕「天-下精-銳持レ——」。
〔前鋒〕 先陣のこと。 ○〔史〕「大-王宜下悉ニ淮-南之衆一、身自將レ之、爲中楚-軍——上」。
〔先鋒〕 前に同じ。 ○〔五〕「史-建-瑭爲ニ晉-兵——一」。
〔軍鋒〕 いくさのさきて。 ○〔史〕「布常爲ニ——一」。
〔戰鋒〕 たゝかひのほこさき。 ○〔漢〕「漢-兵遠-鬪、窮-寇——不レ可レ當也」。
〔爭鋒〕 ほこさきをあらそふ。 ○〔史〕「吳-楚兵銳甚、難ニ與——一」。
〔鍼鋒〕 はりのさき。 ○〔莊、註〕「離-朱見ニ千-里——一」。
〔蚤鋒〕 わるものゝはこさき。 ○〔後漢〕「屢折ニ——一」。
〔挫鋒〕 はこさきをくじく。 ○〔陸機〕「喪レ氣——レ」。
〔折鋒〕 前に同じ。 ○〔王嘉〕「當レ値ニ卯-金——ニ其——一」。
〔攢鋒〕 はこさきをあつむ。 ○〔顏延之〕「——レ成レ林」。
〔筆鋒〕 ふでさき。 ○〔姚合〕「寒-天挫ニ——一」。
〔劍鋒〕 つるぎのさき。 ○楊萬里〕「下レ筆縱-橫——有レ——」。「——レ之旁ニ」。
〔交鋒〕 はこをまじへてたゝかふ。 ○〔陸機〕「戰無ニ——一」。
〔利鋒〕 銳鋒といふに同じ、するどきはこ、又、するどきはこさき。 ○〔韓詩外傳〕「仁-人之兵銳居則若ニ莫-邪之——一」。
〔戈鋒〕 はこのさき。 ○〔庾肩吾〕「駐-日遂ニ——一」。

【銸】 テン、トン。 癡廉切 鹽
するどし、（銳）。

【鉶】 ケイ、ギヤウ。 乎經切 青
鉶に同じ、祭器、

【鋔】 バン、メン。 亡返切 潸
ひく、（引）。

【鈠】 エキ、ヤク。 營隻切 陌
小さき矛。

【銡】 シ。 職吏切 寘
志るす、（銘）、

【鋖】 シ。 息移切 支
木を平かにする器、かんな。

【鋗】 ケン。 火懸切 霰
㊀小盆、こばち。 ㊁足なき鐺、かなへ。
㊂銅銚、おかどれのてうし。
㊃玉の聲にいふ字。 ○〔漢〕「展レ詩應レ律——玉鳴」。
㊄殿中の掃除人、さうぢにん。 ○〔史〕「王行過ニ其故——人一」。

【鋗】 ケン、ゲン。 胡吠切 銑
玉の聲にいふ字。

【鋗】 セン、ゼン。 隨戀切 霰
車鐶、くるまのくわん。

【鋘】 クワ、ゲ。 戸花切 麻
兩刄臿、もろはのすき。 ○〔後漢〕「燒ニ——斧一」。

【鋘】 コ、ク。 洪孤切 虞
塗工の具、こて、（泥-鏝）。

【鋘】 ゴ、グ。 五乎切 虞
鋘——は、山の名。

【鋙】 ギヨ、ゴ。 魚巨切 語
㊀鉏の字の條を見よ、くひちがひ。
㊁樂器。 ㊂安からざる貌にいふ字。

【鋙】 ギヨ、ゴ。 語居切 魚
鋤の屬。

【鋙】 ゴ、グ。 訛胡切 虞
錕——は、山の名。 ○〔列〕「琨——之劍」。

【鋚】 テウ、デウ。 田聊切 蕭
鐵、一說に、轡首銅、たづなのさきがね。

【錠】 サク、ソク。 士角切 覺
足鈴、あしかせ、あしのほだし、又、あしかせを施す、ほだす。 ○〔韓愈〕「青-雲路難レ近、黃-鶴足仍——」。

【錠】 サク、ソク。 測角切 覺
くは、（鋤）。

【鋝】 レツ、レチ。 力輟切　セツ、セチ。 所劣切 屑
秤目の名、三兩の稱。 ○〔周〕「戈-戟皆重三——」。

【鋞】 ケイ、ギヤウ。 戸經切 青　カウ、ギヤウ。 下梗切 梗
中に物を入れて溫むる器、なべ。

【鋞】 ケイ、ギヤウ。 形定切 徑　胡項切 迥
長鍾、ながきつぼ。

【鋞】 カウ、ギヤウ。 何耕切 庚
くさり、（鏁）。

【鋟】 セン、ソン。 千廉切 鹽　シン。 七稔切 沁
きざむ、（刻）。 ○〔公羊〕「——ニ其板一」。

【鋟】 シン。 子朕切 寢　千尋切 侵
きり、（錐）。

【鋟】 セン、ソン。 子廉切 鹽
するどし、（銳）。

【鋠】 シン、ジン。 時刃切 震
圓鐵。

【鋡】 カン、ゴン。 胡男切 覃
㊀うく、（受）。 ㊁いる、（容）。 ㊂もる、（盛）、

㊃ーー鐯は、おほすき。

【鋣】釾に同じ。○〔後漢〕「求ニ鏌ー於明-智一」。

【鋤】ジョ、ゾ。士魚切 魚
㊀穢を去り田を治むるに用ふる一種の農具、くは、すき。○〔左〕「藉ニ丘-子ー撃レ之」。
㊁すく。
(い)穢を去り田を治む。○〔楚辭〕「寧誅ニーー草-茅一以力-耕乎」。
(ろ)誅去す。○〔子華〕「誅ニーー醜-厲一」。
〔耰鋤〕すき。○〔東方朔〕「釋ニ其ーー一而下レ㳟」。
〔荷鋤〕すきをになふ。○〔梅堯臣〕「ーレー理ニ南畝一」「人」。
〔把鋤〕すきをにぎりもつ。○〔蘇軾〕「誰知ーレー」。
〔春鋤〕しらさぎといふ鳥の異名。○〔爾〕「鷺ー・ー」。
〔耘鋤〕田をたがやし穢草などを除き去る、又、かりて國土を平げ賊徒を誅鋤するの義にも用ふ。○〔漢〕「ーニー海內一」。
〔犁鋤〕すき、又、惡草をすきのぞく。○〔韓愈〕「起レ身自ー・ー」。
〔耕鋤〕田をたがやしすく。○〔杜荀鶴〕「不レ知穡-古勝ニー・ー一」。

【鋤】ショ、ゾ。牀所切 御
鉏に同じ、ーーは、くひちがひ。

【錎】ダン、ナン。奴敢切 感
ーー鐵は、銀を打つ具。

【鋞】ケイ、ギヤウ。乎經切 青
金を治る、いる。

【鋥】タウ、ヂヤウ。除更切 庚
磨ーは、劍の光をすり出だす、とぐ。

【鋦】キヨク、コク。居玉切 沃
鐵を以て物を縛す、しばる。

【鋧】ケン、ゲン。胡典切 銑
小さき鑿、又、小さき矛。

【鋩】バウ、マウ。無方切 陽
ほこさき、きッさき、(鋒)。○〔左思〕「雄-戟耀ーー」。
〔鋒鋩〕ほこさき。○〔孟郊〕「可レ以耀ニー・ー一」。
〔劍鋩〕つるぎのさき。○〔柳宗元〕「海-畔尖-峯似ニー・ー一」。
〔戟鋩〕ほこのさき。○〔裴度〕「劍-鍔銷ー・ー爵」。
〔刃鋩〕刀劍などのはさき。○〔歐陽修〕「器不ニー・ーーニ銛」。
〔寒鋩〕氷の如きほこさき。○〔王安石〕「照-影ー・ー」。

【鋪】ホ、フ。普胡切 虞
㊀門首に裝置して環を銜み持つ金具、くわんのかなもの。○〔漢〕「排ニ玉-戶一而颺ニ金-ー一兮」。
㊁つらぬ、つらなる、(陳)、しく、(布)。○〔詩〕「ーニ敦淮-濆一」。
㊂やむ、(病)。○〔詩〕「淮-夷來ー」。
㊃あまねし、(徧)。○〔詩〕「淪-胥以ー」。
㊄黍稷を盛る祭器、其の形は簠の如くにて外圓なるを異なりとす。○〔正字通〕「周劉-公ー」。
〔金鋪〕こがねのくわんのかなもの。○〔宋〕「ー・ー玉-戶」。
〔銀鋪〕しろかねのくわんのかなもの。○〔景福殿賦〕「青-瑣ー・ー」。
〔豆鋪〕粢盛をいるゝ器。○〔博古圖〕「簠-簋ー・ー同ニ篇一-類一」。
〔雲鋪〕くもの如くつらぬ。○〔庾信〕「陣-氣ー・ー」。
〔門鋪〕もんのくわんのかなもの。○〔李賀〕「ー・ー綴ニ白-銅一」「徑」。
〔密鋪〕すきまなく布く。○〔楊萬里〕「石-子ー・ー」。

【鋪】フ、ホ。芳無切 虞
㊀つらぬ、(陳)、まうく、(設)。
㊁とゞまる、(止)。
㊂もとむ、(索)。
㊃揄ーは、敲ふを、又、ほそげ、(義)。

【鋪】ホ、フ。普故切 遇
㊀門首に著くるくわんのかなもの。
㊁賈肆、あきうごみせ、みせ。○〔資暇集〕「市-肆中、筐-筥等鱗ニ次其物一以鬻者、曰ニ星-貨ーー一」。

【鋫】リ。亘脂切 支
黑き金。

【鋚】イウ、ユ。以周切 尤
鐵、一說に、轡首銅、はなづらかざり。○〔石鼓文〕「ー勒-ー々」。

八畫

【鋷】サイ、セ。祖誨切 隊
錐の屬、きり。

【鋸】キヨ、コ。居御切 御
木石を解截するに用ふる具、鐵葉に一は左し一は右せる齟齬(くひちがひ)の齒を設け推引して木石を解截す、又、のこぎりを用ひて解截す。○〔漢〕「奈何令ニ刀-ー之餘薦ニ天-下之豪-傑一哉」。
〔刀鋸〕かたなとのこぎりと。○〔國〕「中-刑用ニー・ー一」。
〔析鋸〕てをのとのこぎりと。○〔莊〕「ー・ー制レ焉」。
〔鐵鋸〕のこぎり。○〔南越志〕「縣-魚左-右如ニー・ー一」。
〔剞鋸〕こがたなとのこぎりと。○〔淮〕「公-輸王-ー無レ所レ錯ニ其剞-劂ー・ー一」。

【鋹】チヤウ。丑兩切 養
とし、(利)。

【鋺】エン、ヲン。於遠切 阮
はかり、(秤)。

【鋺】エン、ヲン。謁言切 元
鋤の頭の曲がれる鐵。

【鋻】ケン。古甸切 霰
つよし、(剛)、又、剛鐵。

【鋻】ケン。古賢切 先
㊀前條に同じ。
㊁刀刃を淬ぎて堅くす、ねる。
㊂たゞし、(直)。○〔元包經〕「艾ーー之詰」。

【鋼】カウ。古郎切 陽 古浪切 漾
煅鍊を經たる鐵、ねりがね、はがね。○〔魏文帝樂府〕「羊-頭之ーー」。
〔鍊鋼〕ねりがねともはがねともいふ。○〔傅休奕〕「爪似ニー・ー一」。
〔純鋼〕よきはがね。○〔夢溪筆談〕「至レ累レ鍛而斤兩不レ減則ー・ー也」。
〔精鋼〕前に同じ。○〔晁補之〕「ー・ー試ニ九-火一」。
〔眞鋼〕前に同じ。○〔本草〕「ー・ー是精-鐵百-煉至ニ斤-兩不レ耗者」。
〔銛鋼〕するどきはがね。○〔李觀〕「ー・ー之利-器」。

【鋽】テウ、デウ。徒弔切 嘯
㊀物を燒く器。
㊁未だ鍊らざる鐵。

【鋾】タウ、ドウ。徒刀切 豪
かねのかたまり、(鋌)。

【鋿】シヤウ、ザウ。市羊切 陽
㊀みがく、(磨)。
㊁車輪を繞れる鐵。

【錀】リン。力迍切 [眞]
こがね、(金)。

【錀】フン、ホン。府文切 [文]
兔奄(うさぎあみ)のかなもの。

【錁】クワ、ケ。苦瓦切 [馬]
帶の金具。

【錁】クワ。古火切 [哿]
車に膏さす器。

【錂】リヨウ、ロウ。力膺切 [蒸]
金の名。

【⿰金夜】ヤ、エ。黄謝切 シヤ、ゼ。慈夜切 [禡]
かゞみ、(鏡)。

【鐆】ヒ。攀糜切 [支]
くは、(鉏)。

【鎏】前條に同じ。

【錄】リヨク、ロク。力玉切 [沃]
㊀金色、かれのいろ、又、貝文、かひのあや。
㊁鈔寫す、かきぬく、うつす。○〔王均〕「躬自抄—」。
㊂とる、(取)。○〔公羊〕「—二伯-姬一也」。
㊃志るす。
(い)記載す、かきのす、かきとむ。○〔公羊〕「—レ內而略レ外」。
(ろ)明旌す、あらはす。○〔禮〕「愛レ之斯—レ之矣」。
㊄齒序す、ついづ、よはひす。○〔國〕「今大-國越—」。
㊅總領す、とりまとむ、すぶ。○〔漢〕「大ニ—于君一」。
㊆檢束す、とりしまる、たゞす。○〔荀〕「程レ役而不レ—」。
㊇記載、謄寫、典籍、かきしるし、かきぬき、きろく。○〔周〕「奠ニ其—一」。
㊈綠に同じ、劒の名。○〔荀〕「文-王之—」。

〔總錄〕統錄といふに同じ、すぶること。○〔後漢〕「皆令レ—ニ・—之一」。
〔大錄〕前に同じ。○〔書、傳〕納レ舜使レ—ニ—萬-機之政一。
〔領錄〕前に同じ。○〔通考〕「—ニ—天-下事一」。
〔實錄〕正實なる記錄。○〔曹植〕「采ニ庶-官之—・—一」。
〔天錄〕名を圖書にあらはすが如きをいふ。○〔後漢〕「貧賤無ニ—・—一」。
〔簿錄〕帳簿記錄。○〔北〕「—・—並歸ニ天-府一」。
〔歷錄〕あやのかたち。○〔詩、傳〕「梁—・—也」。
〔存錄〕上の臣下のものを愛撫してとりあつかふにいふ語。○〔後漢〕「又異レ—ニ—大-臣寃-死-者子-孫一」。
〔詳錄〕あきらかに記す、又、こまかくしるしたるふみ。○〔公羊、註〕「故—・—ニ其禮一」。
〔納錄〕諫言などをいれもちふるにいふ語。○〔後漢〕「多見ニ—・—一」。
〔捕錄〕とらへたゞすこと。○〔後漢〕「不ニ復—・—一」。
〔讖錄〕對來の興亡などをしるしたるふみ。○〔後漢〕「亦無ニ—・—一」。
〔著錄〕籍錄にしるすこと。○〔後漢〕「—・—且萬-人一」。
〔旌錄〕旌賞采錄す。○〔顏延之〕「—ニ—舊-勳一」。
〔紀錄〕かきしるす、又、其のもの。○〔魏〕「良史—・—必不レ墜ニ于地一矣」。
〔防錄〕檢束して自由ならしめざるにいふ語。○〔晉〕「嚴加ニ—・—一」。
〔撰錄〕文書などをつくりしるす、又、其のもの。○〔南〕「大-小悉—・—」。
〔褒錄〕賞錄といふに同じ、よき言行ある者をめでしるしおく。○〔北〕「時蒙ニ—・—一」。
〔詮錄〕人のよしあしをはかりて官職にえらぶこと。○〔唐〕「林甫隨レ才—・—」。
〔述錄〕のべしるす。○〔蔡邕〕「—ニ—高-行一」。
〔輯錄〕あつめしるす。○〔朱熹〕「而凡石-氏之所ニ—・—一」。

【錄】ロク。盧谷切 [屋]
㊀凡庸の貌にいふ字。○〔史〕「公等—・—」。
㊁衆に循ふ貌にいふ字。○〔漢〕「此特帝在、卽—・—」。

【錄】リヨ、ロ。良據切 [御]
情狀を省察す、とりしらぶ、かへりみる。○〔漢〕「—ニ囚-徒一」。

【鑗】鑗に同じ、又、黎に作る。

【⿰金豖】タク、トク。竹角切 [覺]
うつ、(擊)。

【⿰金芮】ゼイ、子。儒說切 [霽]
するどし、(銳)。

【⿰金芮】テツ、テチ。株劣切 [屑]
策耑の鐵、むちさきのかね。

【錆】シヤウ、サウ。千羊切 [陽]
くはし、(精)。

【錇】ホウ、ブ。蒲侯切 ヒウ、フ。房尤切 [尤]
—・鏂は、釘の名、のしかたは。

【錈】ケン、クワン。窘遠切 [阮] 驅圓切 [先]
金の屈するにいふ字、まがる。○〔呂氏春秋〕「柔則—、堅則折」。

【錉】ビン、ミン。武巾切 [眞]
㊀すぎはひ、(業)。
㊁ぜにさし、(鍲)。
㊂みつぎ、(稅)。

【⿰金宕】タウ。他浪切 [漾]
木を治する器、のこぎり。

【錊】サイ、セ。予對切 [隊]
れる、きたふ、(鍊)。

【錊】ソク。將毒切 [沃]
人の姓。

【錋】ハウ、ビヤウ。蒲庚切 [庚]
兵器。

【錌】ガン。五旰切 [翰]
柔き鐵、ねばかれ。

【錍】ヒ。府移切 [支]
㊀をの、(斧)。㊁すき、(銛)。

【錍】ヘイ、ハイ。篇迷切 [齊]
一種の箭鏃、やのね、すかしのや。○〔揚雄〕「凡箭-鏃胡-合嬴者、廣長而薄鐮謂ニ之—一」。

【錍】ヒ、ビ。頻脂切 [支]
犂錍、すき、一說に、箭の名。

【⿰金帚】サウ、ソウ。先到切 [號]
碎鐵、かねのこ。

【錎】カン、ゴン。戶韽切 [陷]
車鐶、くるまのくわん、一說に、連鐶、くさり。

【錎】カン、コン。古暗切 勘
鑪の屬。

【鋡】陷に同じ。○〔莊〕「―沒而下」。

【錏】ア、エ。烏牙切 麻
頸鎧、えこころ。

【錏】ア、エ。衣駕切 禡
剛鐵を柔くす。

【錎】カン、ゴン。胡男切 覃
よろひ（鎧）。

【錎】カン、ゲン。胡讒切 咸
㊀はこ（匱）。㊁さかづき（杯）。

【錐】ス井。朱惟切 支
㊀小さき穴を穿つに用ふるさきの鋭れる具、はり、きり。○〔左〕「―刀之末將ㇾ盡爭ㇾ之」。
㊁鏃は金にて箭（やがら）に羽をつけたる矢、や。○〔淮〕「疾如ㇾ――矢ㇾ」。
〔立錐〕さきのとがりたるはりをたつ、借りてわづかばかりの間地の義にいふ語。○〔漢〕「貧者無ㇾ――之地ㇾ」。
〔置錐〕前に同じ。○〔韓詩外傳〕「窮巷陋室無ㇾ――之地ㇾ」。
〔利錐〕するどきはり。○〔皮日休〕析齏―如ㇾ―」。
〔鍼錐〕はり。○〔張養浩〕「毋詭無ㇾ――ㇾ」。
〔銛錐〕するどききり。○〔柳宗元〕「礙玉――作ㇾ妙形ㇾ」。
〔磨錐〕はりをみがく。○〔元稹〕「磨ㇾ劍莫ㇾ―ㇾ―」。

【錑】ライ、レ。盧對切 隊
版を平かにする具、かんな。

【錑】ライ、レ。盧回切 灰
きる（鑽）。

【錒】ア。於河切 歌
――錒は、釜の屬。

【錔】タフ、トフ。他荅切 合
金を以て物の表を冒ふにいふ字、つゝむ、きせがね。○〔史、註〕「以ㇾ金―ㇾ距」。

【錕】コン。古渾切 元
――錕は、劍に作るべき鐵。○〔列〕「――錕之劍」。

【錕】コン。古本切 阮　ゼン、如延切 先　子ン。切
車釭、かりも。

【鉼】ヘイ、ヒヤウ。必郢切 梗
㊀一種の通貨、おほばん、金銀を餅の如くにつくれるもの。○〔王暉〕「賜ㇾ與金――ㇾ」。
㊁かま（釜）。○〔揚雄〕「鍑北燕朝鮮洌水之閒、或謂ㇾ之鉼ㇾ或謂ㇾ之―ㇾ」。

【鉼】ヘイ、ヒヤウ。旁經切 青
漢の侯國の名。

【鉼】ヘイ、ヒヤウ。卑正切 敬
かま（釜）。

【鋈】トク。冬毒切 沃
纏舌、たづなのわ。

【錗】ヂ、ニ。女恚切 寘
側だつ意にいふ字、そばだつ。

【錗】ツ井。竹瑞切 寘
錘に同じ。

【錗】イ。弋睡切 寘
かく（懸）。

【錘】ス井、ズ井。直垂切 支
㊀八銖の重さの稱、一說に、十二兩の重さの稱。○〔淮〕「割ㇾ國之錙――ㇾ」。
㊁稱權、はかりのおもり、おもり。○〔博雅〕「權謂ㇾ之―ㇾ」。
㊂垂に同じ。○〔揚雄〕「―以ㇾ玉環ㇾ」。
〔鉛錘〕なまりのおもり。○〔王褒〕「――內藏」。

【錘】ツ井。馳僞切 寘
前條の㊁に同じ。○〔周、註〕「以爲ㇾ稱―ㇾ」。

【錘】チ。竹恚切 寘
前條に同じ、一說に、側だつ意にいふ字。

【錘】ス井、ズ井。之瑞切 寘　主藥切 紙
物を鍛へ成す器。○〔莊〕「在ㇾ爐――之閒ㇾ耳」。

【錙】シ。側持切 支
六兩の重さの稱、一說に、八兩の重さの稱。○〔淮〕「割ㇾ國之――錘ㇾ」。

【錚】サウ、シヤウ。側莖切 庚
㊀金の聲にいふ字。○〔潘岳〕「銜牙――鎗」。「鐺」。
㊁かね（鉦）。○〔東觀漢記〕「鼓吹――」。
〔錚々〕かねの聲に用ふる語、又、後漢の光武帝の鐵中の錚々といふ語より來たりてすぐれたる人物の意をあらはすに用ふるとあり。○〔晉陽中語〕「鐵中――漢惠帝」。
〔鏦錚〕かねの聲にいふ語。○〔歐陽修〕「―鏦――錚金鐵皆鳴」。
〔鏗錚〕金聲玉聲などに用ふる語。○〔白居易〕「跳ㇾ珠撼ㇾ玉何――」。

【錛】ホン。逋昆切 元
木を平かにする器、かんな。

【錜】デフ、子フ。奴協切 葉
㊀小釵、かんざし。○〔孔煒七引〕「長袖隨ㇾ腕而遺ㇾ耀、紫――承ㇾ鬢而騁ㇾ輝」。
㊁小さき頭の釘、くぎ。

【錝】ソウ、ズ。祖紅切 東　子宋切 宋
金毛。

【錞】ジユン。常倫切 眞　トン。都昆切 元
一種の樂器、鼓に和しならすもの。○〔周〕「以ㇾ金――和ㇾ鼓」。

（錞之圖）

【錞】タイ、デ。徒對切 隊　徒猥切 賄
いしづき（鐏）。○〔詩〕「厹矛鋈――」。

【錞】タ、ダ。徒臥切 箇
㊀殯を覆ふもの、かりもがりのおほひ。
㊁依附す、つく。○〔山海經〕「是――ㇾ于北海ㇾ」。

【錟】タン、ドン。徒甘切 覃　セン、ゼン。疾染切 琰

長き矛。

【錟】セン、ソン。思廉切 鹽
銛に同じ、さし、(利)。○〔史〕「非レ——於句-戟長-鎩一也」。

【錟】エン。以冉切 琰
利き刃。○〔史〕「——戈在レ後」。

【錠】テイ、チヤウ。丁定切 徑
テン、デン。堂練切 霰
足ある鐙、たかつき、熟物を神に薦むる器。○〔博古圖〕「漢虹-燭——」。

【錠】テイ、ヂヤウ。徒徑切 徑
㊀前條に同じ。㊁錫の屬。
㊂通貨の銀片。○〔洞天淸錄〕「一-幅梅價不レ下二百-十——一」。
〔銀錠〕ぎんのいたがね。○〔傾蒙〕「如二——狀一」。

【錡】キ、ギ。渠綺切 紙
三足ある釜、かま。○〔左〕「筐-筥——釜」。

【錡】ギ。魚綺切 紙
㊀前條に同じ。㊁人の姓。
㊂兵器架、はものかけ。○〔張衡〕「武-庫禁-兵設在二蘭——一」。
㊃欹つ。○〔漢〕「岩陁 ——」。
〔木錡〕兵器をかけおくもの。○〔金〕「植以二——一」。
〔崎錡〕安からざる貌にいふ語。○〔陸機〕「固——之難レ便」。

【錡】キ、ギ。渠羈切 支
鑿の屬、又 釜の屬。○〔詩〕「又欽二我——一」。

【鈯】クツ、コチ。曲勿切 物

——銭は、かけがれ、(鎖-鈕)、一説に、未だ錬らざる金。

【錢】セン、ゼン。昨先切 先
㊀銅を冶て此に一定の價格を付し物の賣買の媒として通用するもの、かれ、ぜに、貨泉、古昔は、平圓形にして内に方形の孔ある製に定まりたり。○〔漢〕「不レ持二——一」。
㊁人の姓。
〔連錢〕(い)鷗鴿の異名、一に錢母ともいふ。○〔詩、疏〕「脊令雌-渠大如二鷃雀一、頸-下黑如二——一、故杜-陽人謂二之——一是也」。(ろ)馬のかざり、又、馬のあやのいしがきの如くなるをいふ。○〔梁元帝〕「金-絡鐵——」。
〔金錢〕貨幣とぜにと、又、黄金のぜに。○〔史〕「而龜-貝——刀-布之幣興焉」。
〔禁錢〕帝王のおてもとぜに。○〔史〕「出二——一以振二元-々一」。
〔繦錢〕つなぎぜに。○〔史〕「買人——皆有レ差」。
〔餐錢〕王者より臣下に賜はる廚膳料のぜにをいふ。○〔舊唐〕「——已多」。
〔鑄錢〕ぜにをふく。○〔北〕「以二歷-山之金一——」。
〔莢錢〕ぜにの名、かたち楡莢に似たるよりなづく。○〔漢〕「更令二民鑄一——一」。「盡」。
〔俸錢〕俸祿のぜに。○〔杜甫〕「——時散二弟-子一」。
〔意錢〕ぜにうちのあそびのとにて詬億とも射意とも又は射數ともいふ。○〔張仲素〕「席-上——來」。
〔攤錢〕前に同じ。○〔杜甫〕「白-晝——高-浪中」。
〔得錢〕ぜにを手に入る。○〔晉〕「錢本糞-土、故將レ——而夢レ穢」。
〔楡錢〕にれのみの異名。○〔本草〕「未レ生レ葉時、枝-條間先生二楡莢一、形-狀似レ錢而小、色白成レ串、俗呼二——一」。
〔大錢〕おほぜに。○〔國〕「景-王二-十-一-年、將レ鑄二——一」。
〔藏錢〕ぜにを貯ふ、又、貯藏のぜに。○〔後漢〕「出二濯-龍-中——一還レ之」。
〔更錢〕ぜにをあらためいる。○〔史〕「議二——レ造レ幣以贍レ用」。

〔銅錢〕あかゞねのぜに、どうくわ。○〔史〕「——識曰二半-兩一」。「郡-鬮二——一」。
〔母錢〕元金に使用のぜに、もときん。○〔宋〕「州-
〔息錢〕利子のぜに。○〔史〕「得二——十-萬一」。
〔餘錢〕つかひあまりのぜに。○〔史〕「與二巫-祝一共分二其——一持歸」。
〔僞錢〕にせのぜに。○〔漢〕「——不レ讐」。
〔姦錢〕あしきぜに。○〔漢〕「——日多」。
〔慳錢〕前に同じ。○〔鶴林玉露〕「今江-湖間、俗-語謂二錢之薄-惡者一曰二——一」。
〔濫錢〕前に同じ。○〔通鑑〕「自二孝-建一以-來、民-間盜二-鑄——一」。
〔輕錢〕めかたかろきぜに。○〔漢〕「或用二——一」。
〔口錢〕人頭の稅錢。○〔漢〕「算二——一起二武-帝一」。
〔庫錢〕官府のくらに貯へたるぜに。○〔後漢〕「乃更以二——三-十-萬一賜レ意」。
〔齎錢〕ぜにをもたらしおくる。○〔後漢〕「故-吏一二一百-萬一遺レ之」。
〔給錢〕賜給のぜに、又、ぜにを給與す。○〔南〕「一二一十-萬米百-斛一」。
〔銀錢〕ちろかねもてつくりたるぜに、ぎんくわ。○〔後漢〕「——十當二金-錢一一」。
〔天錢〕星の名。○〔晉〕「北-落-門西-北有二十-星一、曰二——一」。
〔用錢〕ぜにを使用す。○〔晉〕「一レ一非二徒豐レ國」。
〔遺錢〕おちたるぜに。○〔邴原別傳〕「原嘗行得二——一」。
〔積錢〕ぜにをつみ貯ふ。○〔晉〕「一レ一數-千-萬」。
〔斂錢〕ぜにを納る。○〔晉〕「王-敦等一レ一爲レ婚」。
〔市錢〕ぜにを買ふ。○〔晉〕「石-勒出二公-絹一一レ一」。
〔散錢〕ぜにをまきちらす。○〔晉〕「蒙-遜升二南-景-門一、一レ一以賜二百-姓一」。
〔古錢〕むかしのぜに。○〔南〕「專用二——一」。
〔新錢〕あらたに鑄たるぜに。○舊唐〕「初鑄二——一」。
〔異錢〕かはりぜに。○〔南〕「上得二——一」。
〔賚錢〕ぜにを賜與す。○〔南〕「各一二一二-千一」。
〔埋錢〕ぜにを土中にうづむ。○〔魏〕「一二一數-百斛一」。
〔女錢〕錢の內郭なきもの。○〔隋〕「梁武-帝別鑄二「——一」。
〔鎔錢〕ぜにをいつぶす。○〔隋〕「私-家多一レ一」。
〔銷錢〕前に同じ。○〔舊唐〕「市-井逐レ利者、一二一一-緡一」。

〔本錢〕もときんのぜに。○〔舊唐〕「各與二——一千-貫一」。
〔軍錢〕いくさに用ふるぜに。○〔五〕「求レ幾二——一」。
〔錫錢〕すゞもてつくりたるぜに。○〔宋〕「大-觀六-年、廢二——一」。
〔壁錢〕一に壁繭ともいふ、蜘蛛に似たる蟲の名。○〔本草〕「——蟲似二蜘-蛛一」。
〔綠錢〕一に苔錢ともいふ、こけの異名。○〔古今注〕「室空無二人行一、則生二苔-蘚一、或靑或紫、一名二——一」。
〔醵錢〕さかもりのためにぜにをあつむ。○〔燕翼貽謀錄〕「一二一於曲江一」。
〔半兩錢〕半兩のおもさあるぜに。○〔史〕「今——法重二四-銖一」。
〔三銖錢〕三銖のおもさあるぜに其の他四銖五銖などの錢ありいづれもおもさより名づけたるなり。○〔史〕「令二縣-官銷二半-兩錢一更鑄二——一」。

【錢】セン。即踐切 銑
すき、(銚)。○〔詩〕「庤二乃——鎛一」。

【錢】セン、ゼン。在演切 銑
㊀前條に同じ。
㊁盞に通ず、酒器、さかづき。○〔續鐘鼎銘〕「有二雀——一」。

【錍】ヒ。父尾切 尾
小丁、こくぎ。

【錍】ヒ、ヘ。匹依切 微
はり、(鍼)。○〔素問、註〕「以二——鍼一代レ之」。

【錟】エフ、於業 葉 エン。衣檢 琰
オフ。切 切
田を治むる器、すき。

【錌】アン、オン。烏含切 覃
物を溫むる器。

【錣】テツ、テチ。株劣切 [屑]
クワツ、ゲチ。下刮切 [黠]
策端につけある鐵針、むちさきのはり、一說に、杖末の鐵鋒、つゑのさきがね。○〔列〕「――上貫レ頤」。

【錣】テイ、テ。株衛切 [霽]
一はり、（針）。二おくろ、（鈍）。三羊車の御者の執るむち。端につけある長さ半分ばかりのはり。四そろばん、（籌）。○〔管〕「且君引レ――量レ用」。

【錤】キ。居之切 [支]
鎡――は、すき、（鉏）。

【錥】イク、オク。余六切 [屋]
鋗――は、物を温むる器、おほがま。

【錦】キン、コン。居飲切 [寢]
一雜色の織文ある帛、あやおり、にしき。○〔左〕「子有二美――一」。
二あやおりの帛にてしたてたる衣。○〔詩〕「衣レ――褧衣」。
三あやの美なるをにいふ字。○〔柳宗元〕「――心繡口」。
〔美錦〕うつくしきにしき。○〔左〕「子有二――一」。
〔文錦〕あやあるにしき。○〔淮〕「管子――也」。
〔素錦〕しろぢのにしき。○〔杜甫〕「諸花張二――一」。
〔鋪錦〕にしきをつらぬ。○〔南〕「君詩若レ――」。
〔紅錦〕あかぢのにしき。○〔李白〕「青黛畫眉――靴」。
〔綠錦〕きぬとにしきおりと。○〔周書〕「并遺二――一」。
〔番錦〕異國のにしきおり。○〔陸游〕「――製二詩・露一」。
〔紫錦〕むらさきぢのにしき。○〔武帝內傳〕「盛以二――之囊一」。
〔舒錦〕にしきおりをひらきのぶ。○〔鍾榮詩品〕「潘岳詩爛若レ――」。
〔翠錦〕みどりぢのにしき。○〔蘇軾〕「金鞍冒二――一」。

【錧】クワン。古滿切 [旱]
轄に同じ、くさび。○〔孟、題辭〕「五經之――鎋」。

【錧】クワン。古玩切 [翰]
一前條に同じ。二田器、すき、又、犁刃、すきのは。

【錨】ベウ、メウ。武瀌切 [蕭]
船を動搖せしめざるために船に繫げる索に結びて水中に投ずる器、いかり。○〔焦竑〕「船上鐵猫曰レ――」。

【錪】テン。他殄切 [銑]
かま、（鋪）。

【錪】トン。吐袞切 [阮]
おもり、（錘）。

【錫】セキ、シャク。先擊切 [錫]
一銀色をなす一種の金屬、すゞ。○〔詩〕「如レ金如レ――」。
二あかゞね。○〔博雅〕「赤銅謂二之――一」。
三たまふ、たまもの、（賜）。○〔左〕「王使三榮叔來――二桓公命一」。
四道士僧侶の用ふる一種の杖、しやくぢやう。○〔柳宗元〕「杖レ――東顧」。
〔九錫〕帝王より大功勞あるか特別の權力ある臣下を優遇せらるゝ時に賜はるもの。○〔公羊、疏〕「禮有二――一、一日二車馬一、二日二衣服一、三日二樂則一、四日二朱戶一、五日二納陛一、六日二虎賁一、七日二弓矢一、八日二鈇鉞一、九日二秬鬯一」。
〔飛錫〕錫は僧侶の杖にして僧の遊方をいふ。○〔裴休〕「――」。○〔錢起〕「――離レ鄕久」。
〔挂錫〕僧の一處に留まるをいふ。「十年棲二蜀水一」。
〔瓶錫〕僧の水を貯へて手をきよむるために用ふるかめと錫杖と。○〔李郢〕「獨攜二――一向二天台一」。
〔銀錫〕しろかねとすゞと。○〔史〕「而少府多二――一」。
〔銅錫〕あかゞねとすゞと。○〔漢〕「不レ得下以二金銀――一爲上レ飾」。
〔寵錫〕めでたまふと、又、特別にてあつきたまもの。○〔張九齡〕「――從二仙禁一」。
〔恩錫〕前に同じ。○〔隋〕「――甚厚」。
〔優錫〕前に同じ。○〔隋〕「屢加二――一」。
〔褒錫〕めでたまふと。○〔唐〕「前詔――」。
〔賞錫〕前に同じ。○〔魏〕「于レ是有レ所二――一」。
〔賚錫〕たまもの。○〔唐〕「――豐饒」。
〔赤錫〕赤銅のと。○〔山海經〕「其下多二――一」。
〔杖錫〕錫杖をつゑつき携ふ。○〔柳宗元〕「――東顧」。
〔犒錫〕軍隊の勞をねぎらひものをたまふ。○〔南唐近事〕「――不レ至」。
〔珍錫〕めづらしきみごとなるたまもの。○〔劉孝威〕「俯垂二――一」。
〔追錫〕この世を去りたる者にたまふ。○〔權德輿〕「――司空」。

【錫】シ。斯義切 [寘]
あたふ、（予）。

【錫】セキ、シャク。思積切 [陌]
滑かなる一種の細布、ほそぬの。○〔史〕「被二阿――一」。

【錫】テキ、チャク。他歷切 [錫]
テイ、ダイ。大計切 [霽]
そへがみ、かつら、（髢）。

【⿱制金】セイ。尺制切 [霽]
草を除く器、かま。

【錬】トウ。都籠切 [東]
――鏅は、轄軑のかりも、一說に、田器すきのは。

【錭】タウ、ドウ。徒刀切　タウ、ドウ。都勞切 [豪]
にぶし、（鈍）。

【錭】
雕に同じ。○〔荀〕「――琢刻鏤」。

【錮】コ、ク。古慕切 [遇]
一隙を塞ぐ、ふさぐ。○〔漢〕「雖レ――二南山一猶有レ隙」。
二かたし、（固）。○〔方言、註〕「――謂二堅固一」。
三繫ぎ止む、つなぐ。○〔左〕「子反請以二重幣一――レ之」。
四久しく癒えざる疾、ぢびやう。○〔漢〕「失レ今不レ治、必爲二――疾一」。
〔禁錮〕繫ぎとゞむ。○〔後漢〕「遂令レ――二之一」。
〔廢錮〕官をやめ禁錮す。○〔漢〕「皆免二――一」。

【錯】サク。倉各切 [藥]
一かざる。
（い）金を涂る、ぬる。○〔漢〕「以二黃金一――二其文一」。
（ろ）畫く、鏤む。○〔詩〕「簟茀――衡」。
二磨鑢、やすり。○〔書〕「錫貢二磬――一」。
三厲石、あらと。○〔詩〕「他山之石、可二以爲一レ――」。
四磨す、治む。○〔王延壽〕「鉤――矩成」。
五まじる、まず、（雜）。○〔書〕「厥賦惟上上――」。
六みだる、（亂）。○〔書、序〕「――亂磨滅」。
七まじはる、まじふ、（交）。○〔易〕「――二綜其數一」。
八邪行、すぢかひ、なゝめ。○〔禮〕「不

—則隨」。
㊈そむく、たがふ。
（い）常を失ふ、理を誤る、あやまつ、あやまる。○〔楚辭〕「心爲兮隔—」。
（ろ）牴牾して合はず。○〔漢〕「與二仲舒一—」。「——行二」。
㊉たがひに（迭）。○〔禮〕「如二四時之——行二」。
⑪敬愼の貌にいふ字、つゝしむ。○〔易〕「履——然」。
⑫高峻なる貌にいふ字、たかし。○〔馬融〕「嵎嵉——崔」。「—」。

（交錯）まじる、又、まじりみたる。○〔詩〕「獻酬——」。
（疑錯）たがひあふ、まりて信ずべからざること。○〔春秋、序〕「其有二——一則備論而闕レ之」。
（盤錯）まじりみたる、又、轉じて事の紛雜して處理しがたきことにもいふ。○〔曹植〕「剖二散——一」。
（礱錯）といしとやすりと、又、とぎみがく。○〔陳師道〕「——加二璀璨一」。
（璀錯）衆盛の貌にいふ語。○〔張載〕「玩二卉木之——一」。「——」。
（謬錯）あやまり。○〔蘇軾〕「我衰臨レ政多二——一」。
（迷錯）まよひみたる。○〔李商隱〕「觸レ事——」。
（差錯）たがひそむく。○〔周、疏〕「使レ不二——一」。
（舛錯）前に同じ。○〔阮籍〕「陰陽有二——一」。
（乖錯）前に同じ。○〔吳〕「威柄不レ專、則其事——」。
（紛錯）まじりみたる。○〔穀梁、序〕「是非——」。
（參錯）前に同じ。○〔史、註〕「——變易不レ可二以年記一」。
（糾錯）前に同じ。○〔崔駰〕「生滋——」。
（間錯）まざる。○〔古器評〕「聲、金銀——、細若二絲縷一」。
（駁錯）前に同じ。○〔晉〕「事體——」。
（倒錯）上下轉倒してたゞしからぬ。○〔史、註〕「——二於此一」。
（溷錯）亂雜なること。○〔後漢〕「事類——」。
（合錯）まじはりあふ。○〔論衡〕「骨肉精神——相持」。「有二疾癘一兮」。
（攙錯）みたれて正しからず。○〔張衡〕「六氣——」。
（煩錯）煩雜なること。○〔曹植〕「何余心之——」。
（星錯）ほしの如くまじる。○〔陸雲〕「八荒——」。

【錯】ソ、ス。倉故切　遇
㊀おく。
（い）安んず。○〔楚辭〕「各有レ所レ—兮」。
（ろ）設く。○〔史〕「展レ采—レ事」。
（は）施す。○〔禮〕「擧而—レ之」。
（に）すゑ置く。○〔易〕「—二之地一」。
（ほ）廢す、止む。○〔史〕「秦魏之交可レ—矣」。
㊁うろたへる、あわつ、（倉卒）。○〔後漢〕「二人—愕」。「—」。
㊂ほろぶ（滅）。○〔揚雄〕「滅也、周秦曰レ—」。
㊃醋に同じ。○〔管〕「置醬—食二」。

【錯】サク。七藥切　藥
物のきめの麤きにいふ字、きめあらし。

【銍】チツ。陟栗切　質
かる（刈）。

九畫

【鍇】カイ、ケ。苦駭切　蟹　古諧切　佳
㊀金の屬、一說に、精鐵。○〔左思〕「銅—之垠」。
㊁かたし。○〔博雅〕「—堅也」。

【鍈】エイ、ヤウ。於驚切　庚
鈴の聲にいふ字。

【鍉】テイ、タイ。都奚切　齊
きッさき、ほこさき（鋒）。

【鍉】テイ、ダイ。田黎切　齊
血を歃る器。

【鍉】シ、ジ。常支切　支
㊀鑰（ちやう）を啓くもの、かぎ。○〔正字通〕「—以啓レ鑰」。
㊁匙に同じ、さじ。○〔後漢〕「奉レ馬操レ刀奉レ盤錯レ—遂割レ牲而盟」。

【鍉】テキ、チヤク。丁歷切　錫
㊀鏑に同じ、やじり。○〔漢〕「銷二鋒—」「——二」。
㊁唾器、つばきつぼ。

【鍊】レン。郎甸切　霰
㊀ねる。
（い）金屬を煎冶して精熟ならしむ。○〔皇極經世〕「金百—然後精、人亦如レ此」。
（ろ）すべて物事をして精熟ならしむるにいふ字。○〔劉勰〕「鑽二—其性一」。
（は）巧に罪案を構成するにいふ字。
㊁精金。○〔漢〕「鍛——而周二內之一」。○〔王褒〕「精——藏二於鑛鏷一」。
㊂精熟す、ねれる。○〔淮〕「——土生レ木、——木生レ火」。

（冶鍊）きたひねる。○〔唐〕「帝問二神仙——法一」。
（修鍊）ねりをさむ。○〔宋〕「勤行——」。
（陶鍊）よなげねる。○〔化書〕「——二五行一火之道也」。
（砥鍊）とぎきたふ。○〔潘尼〕「——二兵械一」。
（研鍊）みがききたふ。○〔方干〕「——十年情」。

【鍊】カン、ケン。居晏切　諫
車の軸の鐵。

【鍋】クワ。古禾切　歌　公禍切　箇
㊀車釭、かりも。○〔揚雄〕「車釭、齊燕海岱之閒、謂二之——一」。
㊁膏を盛る器、あぶらさし。○〔揚雄〕「自レ關而西盛レ膏　乃謂二之—一」。
㊂物を溫むる器、かま、なべ。○〔正字通〕「俗謂レ釜爲レ—」。

（銷鍋）食物をにるなべ。○〔古器評〕「刀斗如二——而無レ緣」。「泉沸」。
（盈鍋）なべのうちに充滿す。○〔陸龜蒙〕「—レ—玉」。
（茶鍋）茶をにるなべ。○〔李洞〕「江色映二——一」。

【鍋】クワ。古火切　哿
刈鉤、かま。

【鍐】ソウ、ス。千候切　宥
槍の屬、やり。

【鍈】ゼン、ナン。人絹切　霰
柔き銀。

【鍍】ト、ツ。徒故切　遇　同都切　虞
金を物の面に沃ぎ飾る、かざる、又、其のかざりたるもの、きせ、めッき。○〔韻會〕「猶下今人以レ銀爲レ質、金—二其外一、共名爲上レ—」。

【鍎】トツ、ドチ。陀骨切　月
やり（槍）。

【鍝】エン、オン。隱憾切　阮
㧞に同じ、みつばのほこ。

【鍏】イ。雨非切　微　イ。于鬼切　尾
すき（臿）。

【鍐】ソウ、ス。祖叢切　東
馬頭につくる冠。○〔蔡邕〕「金—者馬冠」。

【鍑】フウ、フ。方副切　宥　フク、ホク。方六切　屋

口のすぼめる釜、かま。〇〔漢〕「鬴━━薪炭」。

【鍒】 ジウ、ニユ。耳由切 尤
やはらかき鐵。

【鍐】 シウ、所鳩切 尤。シユ、雙雛切 虞。シユ。切 ス。切
きざむ、（刻）、ちりばむ、（鏤）。〇〔爾、註〕「刻二鏤物一爲レ━」。
（雕鍐）ちりばむ。〇〔冊瑚詩話〕「破碎━━爲レ下」。

【鍓】 シフ。籍入切 緝
いたがね（鍱）。

【鍔】 ガク。五閣切 藥
㊀刀刃は、一説に、劍端、さき、又一説に、刃旁、わき。〇〔漢〕「底二厲鋒━━一」。
㊁堮に同じ、きは。〇〔張衡〕「前‐後無レ有二垠━━一」。
㊂高き貌にいふ字。〇〔張衡〕「增‐桴重‐棼━━列々」。
（劍鍔）つるぎの鋒刃。〇〔吳均〕「蓮花穿二━━一」。
（鉅鍔）前に同じ。〇〔列〕「━━搖‐屈而體無レ痕」。
（霜鍔）しろくひかりて鋭利なる鋒刃。〇〔晉〕「━━氷凝」。
（氷鍔）前に同じ。〇〔梁簡文帝〕「━━含レ采」。
（垠鍔）ものゝはてかぎりをいふ。〇〔西京賦〕「前‐後無レ有二━━一」。
（寶鍔）みごとなるやいば。〇〔顧雲〕「霜‐鋒━━或未レ易レ知」。
（銛鍔）鋭利なるやいば。〇〔金厚載〕「劍レ犀莫レ比二其━━一」。「采」。
（礪鍔）刀刃をとぐ。〇〔楊基〕「淬レ鋒━レ━期二再

【鍖】 チン。丑甚切 寝
━鉎は、聲の進まざる貌にいふ語、こゑたゝず。〇〔王褒〕「行━鉎而鉥‐𠹌」。

【鍖】 チン。知林切 侵
木を斫る質、まくらぎ、だい。〇〔漢、註〕「質謂レ━」。

【鍗】 テイ、ダイ。田黎切 齊
釜の屬。

【鍘】 サツ、サチ。士戛切 曷
草を刈る、かる。

【鍙】 コク。呼木切 屋
まろがね（鋃）。

【鍚】 ヤウ。與章切 陽
㊀馬の額に加ふる金具。〇〔詩〕「鉤‐膺鏤━」。
㊁盾の背後の金飾、たてかざり。〇〔禮〕「朱‐干設レ━諸‐侯之僭‐禮也」。

【鍛】 タン。丁貫切 翰
㊀きたふ。
（い）金屬を打椎して精熟ならしむ。〇〔書〕「━二乃戈‐矛一」。
（ろ）すべて物事を精熟ならしむるにいふ字、ねる。〇〔儀〕「━而勿レ灰」。
（は）巧に罪案を構成するにいふ字。〇〔唐〕「爲奔‐走椎━詔レ獄」。
㊁打椎す、うつ、たゝく。〇〔莊〕「取レ石來━レ之」。
㊂うちて薑桂を加へたる脯、ほじし。〇〔穀梁〕「棗栗━脩」。「取レ━」。
㊃厲石、といし、あらと。〇〔詩〕「取レ厲
㊄一種の矢。〇〔淮〕「輣‐車━矢」。
（好鍛）鐵をきたふることをこのむ。〇〔晉〕「康性絕‐巧而━レ━」。

【鍜】 カ、ケ。乎加切 麻
（鍛鍜）かなものをいつぶしきたふ。〇〔拾遺記〕「言其━━之盛一也」。
鍜━は、ぢころ、頸鎧。〇〔韓翃〕「明‐光細甲照二鍜━一」。

【鍝】 グ、ゴ。元倶切 虞
㊀のこぎり、（鋸）。
㊁鐻━は、耳を穿つ金飾、みゝかざり。〇〔杜篤〕「椎‐結左‐袵鐻━之君」。

【鍞】 カウ、キヤウ。丘耕切 庚
鏗に同じ、物の聲にいふ字。

【鍟】 セイ、シヤウ。桑經切 青
鐵衣、さび。

【鍠】 クワウ、ワウ。乎光切 陽
呼横切 庚
㊀鐘鼓の聲にいふ字。〇〔漢〕「━━鎗々」。
㊁鐵鉞、まさかり、をの。〇〔古今注〕「秦改二鐵‐鉞一爲レ━」。
㊂一種の兵器。〇〔開元禮儀〕「━彤如レ劍而三‐刃」。
（鎗鍠）ものゝ聲にいふ語。〇〔枚乘〕「━━啾‐唧」。
（渾鍠）前に同じ。〇〔歐陽修〕「震‐越━━」。
（鏗鍠）前に同じ。〇〔歐陽修〕「━━間二鏞‐笙一」。
（儀鍠）斧のたぐひにて帝王諸王公主などの儀仗に用ふるもの。〇〔玉海〕「━━鉞属、秦漢有レ之、唐用爲儀‐仗一」。

【鍡】 ワイ、エ。烏賄切 賄
━鑸は、平かならず。

【鍢】 鍑に同じ。

【鍣】 セウ。之遙切 テウ、デウ 田聊切 蕭
きり、（錐）。

【鍤】 サフ、セフ。楚洽切 洽
㊀衣を郭くはる鍼、はり。
㊁地に挿し土を起こす農具、すき。〇〔史〕「舉レ━如レ雲」。
（杖鍤）すきをつゑつく。〇〔戰〕「立則━レ━」。
（荷鍤）すきをになふ。〇〔晉〕「使二人━レ━而隨レ之」。
（利鍤）ときすき、又、すきをするどくす。〇〔晉〕「乃密市二━━一」。
（畚鍤）もツことすきと。〇〔晉〕「━━相尋」。
（耒鍤）すき。〇〔韓〕「身執二━━一以爲二民先一」。
（鉏鍤）前に同じ。〇〔張耒〕「飢‐寒不二自勤二━━一」。
（執鍤）すきをもつ。〇〔鹽鐵論〕「秉レ耒━レ━」。
（揮鍤）すきをふるひうごかす。〇〔陸機〕「━レ━同二于雲‐雨一」。
（縱鍤）すきを手よりはなつこと。〇〔謝惠連〕「━レ━䞋‐涵」。

【鍱】 テフ。丑輒切 葉
衣を綴る針、はり。

【鍥】 ケツ、苦結切 屑。ケイ、詰計切 霽。ケチ。カイ。切
㊀かま、（鎌）。〇〔揚雄〕「或謂二之鎌一、或謂二之━一」。
㊁きざむ、（刻）。〇〔左〕「盡借二邑‐人之車一━二其軸一、麻約而歸レ之」。
㊂斷絕す、きる、たつ。〇〔戰〕「━二朝涉之脛一」。
㊃刻酷、むごし。〇〔後漢〕「寬二━‐薄之禁一」。

【鍦】 シヤ、時遮切 麻。シ。中支切 支。ゼ。切
短矛、こぼこ。〇〔左思〕「藏二━於人一」。

【鍧】クワウ、ワウ。呼橫切［庚］
鏗ーーは、鐘鼓の聲の相雜はれるにいふ語。〇〔班固〕「鐘鼓鏗ーー」。

【鍨】キ、ギ。渠龜切［支］ 求位切［寘］
はもの、(兵)。

【鍩】テン。他點切［琰］
取る。

【鍪】ボウ、ム。莫浮切［尤］
㊀首鎧、かぶと。〇〔戰〕「甲盾鞮ーー」。㊁冠卷、かむりまき。〇〔荀〕「冠有レー而無レ縦」。
〔兜鍪〕かぶと。〇〔唐〕「仁貴脱ニーー一見レ之」。

【鍪】ボウ、ム。莫候切［宥］
かま、(釜)。

【⿰金斫】キン、コン。居銀切［眞］
木を斫る器。

【⿰金斫】ギン、ゴン。語謹切［吻］
㊀ひさし、(齊)。㊁たつ、(斷)。

【鍫】セウ。七遙切［蕭］
すき、(臿)。〇〔揚雄〕「臿ー也、江淮南楚之閒謂ニ之臿ニ」。

【鍬】
鍫に同じ。

【鍭】コウ、ク。乎鉤切［尤］ コウ、グ。胡遘切［宥］
㊀金鏃翦羽の矢。〇〔詩〕「四ーー既鈞」。㊁やじり、(鏃)。〇〔班固〕「列レ刃鑽レー」。
〔後鍭〕やじり。〇〔列〕「善射者能令ニーーー中ニ前括ニ」。

【鍮】トウ、ツ。託侯切［尤］
一種の金屬、しんちう。〇〔本草〕「ーー石可ニ引上ニ」。

【鍯】ソウ、ス。麤叢切［東］ 損動切［董］
木の中を穿ち通ずる大鑿、又、物の中を貫き通じたるもの。〇〔馬融〕「ーー硐穎墜ニ」。

【⿰金肯】タ、ダ。徒果切［哿］ タイ、デ。徒猥切［賄］
㊀車轄、くさび。㊁犁錧、すきのは。

【鍰】クワン、ゲン。戸關切［删］ 胡慣切［諫］ エン、ワン。王眷切［霰］
㊀重さ六兩の稱。〇〔書〕「其罰百ーー」。㊁環に同じ。〇〔漢〕「宮門銅ーー」。

【鍱】エフ。與涉切 セフ、ゼフ。實攝切［葉］
銅鐵を椎鍛して薄片となしたるもの、いたがね。

【鍱】ケフ。虛涉切 テフ、デフ。徒協切［葉］
㊀あらがね、(鋌)。㊁かれのわ、(鐶)。

【鍲】ビン、ミン。武巾切［眞］
緡に同じ、ぜにさし。

【鍳】
鑑に同じ。

【鍴】タン。多官切［寒］
きり、(鑽)。

【鍵】ケン、ゴン。渠偃切［阮］
㊀かなへのみゝわ、(鉉)、一說に、くさび、(轄)。㊁開閉する器に裝置してしまりする金具、其の筒に挿入して用をなすもの、かぎ。〇〔周〕「掌レ授ニ管ーーニ」。㊂さく、(析)。〇〔揚雄〕「枏ーー挈契」。
〔開鍵〕門戸のかんぬきとかぎとにてしのしまりをいふ。〇〔南〕「善閉無ニーーーニ」。
〔扃鍵〕前に同じ。〇〔唐〕「ーーー牢謹」。

【鍵】ケン。其輦切［銑］ 九件切［霰］
前條の㊁に同じ。

【鍶】シヨウ、シュ。息恭切［冬］
鐵の器。

【鍷】ケイ、ケ。傾畦切［齊］
けづる、(鏟)。

【鍸】コ、グ。洪孤切［虞］
㊀糊に通じ用ふ。㊁黍稷を盛る祭器。〇〔揚雄〕「ー珍膳寧ーー」。

【鍹】セン。荀緣切［先］
すき、(銚)。

【⿰金県】ケウ。堅堯切［蕭］
戟の屬。

【鍺】タ。丁果切［哿］
車鐗、軸のすれがね。

【⿰金突】トツ、ドチ。陁沒切［月］
やり、ほこ、(槍)。

【鍻】ケツ、ケチ。居謁切［月］
金を以て飾りたる皷。

【鍼】シン。職深切［侵］
㊀はり。(い)布帛を縫ふに用ふる小さくして尖れるもの、ぬひばり。〇〔漢〕「以ニ鐵ーーニ」。(ろ)ぬひばりの狀をなせる醫療の具、身體の病める處をさして療するに用ふ。〇〔論衡〕「一ー寸之ー、一丸之艾」。㊁さす、はりさす。(い)はりを物に刺す。〇〔漢〕「ーレ之」。(ろ)身體の病める處にはりを刺す、醫療の一方。〇〔方書〕「善ニーー術ニ」。㊂人の名。〇〔左〕「ーー尹固與レ王同レ舟」。
〔曲鍼〕まがりたるはり。〇〔吳〕「磁石不レ受ニーーニ」。
〔直鍼〕すぐなるはり。〇〔楚辭〕「以ニーーー而爲レ鈎兮、又何魚之能得」。
〔鐵鍼〕くろがねのはり。〇〔漢〕「以ニーーー鍼レ之」。
〔良鍼〕よきはり。〇〔魏〕「誠可レ謂ニ苦藥ーーー」。
〔施鍼〕針術を身體におこなふ。〇〔宋〕「克明ーレー而步履如レ初」。

【鍼】ケン、ゴン。巨鹽切［鹽］
㊀針を以て物を撚す、さほす。㊁人の名。〇〔左〕「陳ー弓」。

【⿰金荅】タフ、トフ。德盍切［合］
かぎ、(鉤)。

【⿱朔金】サク、ソク。色角切［覺］
かれのわ、(鐶)。

【鍾】シヨウ、シュ。職容切［冬］
㊀壺の屬、つぼ、又、酒器、さかづき。〇〔孔叢子〕「堯舜千ーー」。㊁あつむ。

(い)聚む。○〔周〕「—而藏レ之」。(ろ)天より賦予す、あつたまふ。○〔左〕「天—ニ美於是ニ」。
㊂あつまる。(い)聚まる。○〔晉〕「情之所レ—」。(ろ)天の賦予を受く、たまはる、あたる。○〔曹植〕「未レ知ニ命所レ—」。
㊃かさぬ、かさなる。○〔周、註〕「—重也」。
㊄量の名、六斛四斗、一說に、八斛、又一說に、十斛。○〔左〕「餼ニ國人粟ニ戶一—」。
㊅鍾に通じ用ふ。○〔周〕「黃—」。
〔釜鍾〕ますの名。○〔左〕「齊舊四量、豆・區—・—」。
〔龍鍾〕竹の名、又、老病の貌にいふ語。○〔劉[illegible]錄〕「見ニ我—・—相嚴耳」。
〔特鍾〕特別にすぐれたるうまれつき。○〔嵇康〕「推至人—・—純美」。
〔青鍾〕鳥の名。○〔嫏嬛記〕「西王母有ニ三鳥、一曰ニ—・—ニ」。
〔搖鍾〕たまのさかづき。○〔張詠〕「玉顏醉ニ—・—」。

【鍾】ショウ、シュ。朱川切〔宋〕
酒器、一に曰ふ樂器。

【鎦】鎦の本字。

【鎀】シウ、シユ。宿由切〔尤〕
あらがね、(鋌)。

【鎁】ヤ、エ。以遮切〔麻〕
釾に同じ。

十畫

【鎈】サ。相可切〔哿〕
金の光。

【鎈】サ、セ。初牙切〔麻〕
錢の異名。

【鎉】タフ、トフ。都合切〔合〕
かぎ、(鉤)。

【鎊】ハウ。鋪郎切〔陽〕
けづる、(削)。

【鎋】カツ、ゲチ。胡八切〔黠〕
轄に同じ、軸頭の鐵、くさび、其の車を制するの具なるより、轉じて、物事を制するの要にいふ字。○〔孝經鉤命決〕「孝道者萬世之桎—」。

【鎌】レン、ロン。力鹽切〔鹽〕
鉤狀をなし彎りて薄き一種の刃器、かま、物を刈るに用ふ。○〔鮑照〕「腰レ—刈ニ葵藿ニ」。
〔磨鎌〕かまをとぐ、又、とぎたるかま。○〔韓愈〕「新月似ニ—・—ニ」。
〔腰鎌〕かまをこしにさしはさむ、又、腰間に插たへたるかま。○〔王昌齡〕「—レ—欲ニ何之ニ」。
〔短鎌〕みじかきかま。○〔書、疏〕「銍穫レ禾—・—也」。
〔鉤鎌〕草などを刈るかま。○〔論衡〕「—・—斬刈」。
〔執鎌〕手にかまをもつ。○〔春秋繁露〕「—レ—則芟」。

【鎍】サク、ザク。昔各切〔藥〕
鐵の繩、なは。

【鎍】サク、シャク。色窄切〔陌〕
鐵の串、かなぐし。

【鎎】キ、ケ。許既切〔未〕　カイ、ケ。口切
或は愾に作る、いかる、(怒)。

【鎏】リウ、ル。力求切〔尤〕
㊀美金、うるはしきこがね。
㊁冕の飾りなる垂玉、かんむりのかざりだま。

【鍛】タン。丁貫切〔翰〕
鐵を打つ、きたふ、一に曰ふかなづち、(鎚)。

【鎐】ソク。作木切〔屋〕
人の姓。

【鎐】エウ。餘招切〔蕭〕
酒の器、さかづき。

【鎑】エフ。于劫切〔葉〕
鐵の器。

【鎑】タフ、トフ。他盍切〔合〕
—鑢は、やすり。

【鎑】カフ、コフ。谷盍切〔合〕
—鉼は、物を溫むる器、なべ。

【鎑】ゲフ、ゴフ。魚怯切〔葉〕
鞍韉(したぐら)の貌にいふ字。

【鎒】ドウ、ヌ。奴豆切〔宥〕
耨に同じ。

【鎒】カウ、コウ。呼高切〔豪〕
㊀田草を耨る農器、くは。○〔戰〕「操ニ銚—ニ」。
㊁草を除く、くさぎる。○〔淮〕「治レ國者若レ—レ田、去ニ害レ苗者ニ而已」。

【鎓】ヲウ、ウ。烏公切〔東〕
すき、(鍬)。

【鍡】ガイ、ゲ。五罪切〔賄〕
かねのかたまり、(金塊)。

【鍒】クワン、ケン。古頑切〔刪〕
犂釬、すきのは。

【鎔】ヨウ、ユ。余封切〔冬〕
㊀鑄冶の模形、いがた。○〔漢〕「冶—炊レ炭」。
㊁いる、(鑄)、とく、(銷)。○〔徐陵〕「金膏未レ—」。
〔范鎔〕かねをとかしいがたにいること。○〔唐〕「掌ニ—・—金・銀・銅・錫ニ」。
〔鑄鎔〕いけす。○〔范仲淹〕「六・經方—・—」。

【鋾】タウ、トウ。吐刀切〔豪〕
はこ、(函)。

【鎕】タウ、ダウ。徒郎切〔陽〕
—鍗は、赤き珠。

【鍥】ケツ、ゲチ。詰結切〔屑〕
鐫刻す、きざむ。○〔淮〕「鐫レ岩—ニ金玉ニ」。

【鍥】ケツ、ケチ。吉屑切〔屑〕
鍥に同じ、かま。

【鎖】サ。蘇果切〔哿〕　或は、鏁に作る。
㊀開閉する器に裝置してしまりするに用ふる金具の鍵を受くるもの、かけがね、ぢやう。○〔西陽雜俎〕「扃—甚固」。
㊁鐶と鐶と相拱して連條をなせるもの、くさり、琅璫。○〔晉〕「以ニ鐵—・—横截レ之」。

㊂掩閉す、さづ、さざす。〔宋〕「緘ー甚謹」。
㊃繫ぎ止む。○〔東方朔〕「不レ可レ使ニ塵-綱名-韁拘ーーニ」。
㊄自由を得しめざるもの。○〔淨住子〕「去レ枷脫レー」。
㊅要處。○〔宋〕「北-門ー-鑰」。
〔鐵鎖〕くろがねのくさり。○〔晉〕「並以ニー・ー横截レ之」。
〔金鎖〕こがねのくさり。○〔北〕「唯ー・ー非ニ王賜ー不レ得ニ服-用ニ」。
〔解鎖〕くさりをときはなつ。○〔北〕「ーレー付レ館」。
〔長鎖〕たけながきくさり。○〔北〕「皆截ニー・ーニ」。
〔枷鎖〕くびかせとくさりと。○〔北〕「獄無ニー・ーニ」。
〔拘鎖〕留置してくさりをもてつなぎおく。○〔宋〕「法無ニー・ー之條ニ」。
〔緘鎖〕封緘してかたくとざす。○〔宋〕「ー・ー甚謹」。
〔封鎖〕前に同じ。○〔歐陽修〕「躬親入レ櫃ー・ー」。
〔靡鎖〕くさりをつなぐ。○〔水經、註〕「ーレー之跡」。
〔扃鎖〕でうまへ。○〔酉陽雜俎〕「ー・ー甚固」。
〔羈鎖〕はだしのくさり。○〔柳宗元〕「神紓屛ニー・ーニ」。
〔關鎖〕門のしまり。○〔韓翃〕「ー・ー於レ此開」。
〔閉鎖〕とざす。○〔杜牧〕「重-門ー・ー青-山晚」。
〔魚鎖〕魚形のぢやうまへ。○〔張說〕「署-戶扃ニー・ーニ」。
〔細鎖〕そばきくさり。○〔薩都剌〕「狀-頭ー・ー懸ニ金-鐺ニ」。

【鎗】サウ、シヤウ。楚庚切 庚
㊀鐘の聲にいふ字。○〔後漢〕「鍠-々ー・ー」。
㊁鼎の類、三足ある鬴、かま、かなへ。
㊂酒器。○〔正韻〕「遺ニ何-默一以ニ徐-景-山酒ー・ーニ」。
〔酒鎗〕さけをいるゝうつは。○〔劉禹錫〕「流-塵-暗ニー・ーニ」。

【鎗】サウ、ジヤウ。鋤庚切 庚
鐘の聲にいふ字。

【鎗】シヤウ、サウ。千羊切 陽
㊀鏘に同じ、聲にいふ字。○〔潘岳〕「衝-牙鏘ー・ー」。
㊁鶬に通じ用ふ、金の飾りの貌にいふ字。

【鎘】レキ、リヤク。郎擊切 錫
鬲に同じ、鼎の屬。

【鎕】テイ、ダイ。杜兮切 齊
器の名、一に曰ふ釜の屬、或は鍗に作る。

【鏔】テン。丑展切 銑 抽延切 先
物を伸ばして長からしむるにいふ字、ひきながむ。

【鎙】サク、ソク。所角切 覺
槊に同じ、ほこ。

【鎟】サウ、ソウ。蘇遭切 豪
ー鏬は、銅の器。

【鎚】ツ井、ヅ井。直追切 支
㊀金槌、かなづち。○〔抱朴〕「以ニ鐵ー鍛」。
㊁おもり、(錘)。
〔秤鎚〕はかりのおもり。○〔山堂肆考〕「大-夫-人怒擧ニー・ー擲レ之」。
〔鉗鎚〕かなものをきたふる時に用ふるはさみがねとつちと。○〔張憲〕「手作ニー・ー股毇レ礪」。

【鎚】タイ、テ。都回切 灰
玉を治む、きたふ。

【鎚】ツ井、ヅ井。直類切 寘
半熟の好銅。

【鎝】コウ、ク。居侯切 尤
璺下(うねじた)の水流を受くる處、みぞ。

【鍺】キ、ギ。渠脂切 支
軸を衞る鐵、まきがね。

【鎛】ハク。補各切 藥
㊀鐘笱の上の飾り、かねかけのかざり、一說に、懸鐘の横木、かねかけのよこぎ。○〔玉篇〕「ー-鱗獸似レ人」。
㊁小さき鐘。○〔左〕「及ニ其ー-磬ニ」。
㊂田器、すき、くは。○〔詩〕「庤ニ乃錢ーニ」。
〔銚鎛〕すきとくはとの類にてともに耕作に用ふる器具。○〔馬祖常〕「ー・ー毎親荷」。
〔耨鎛〕草などを刈りのぞくこぐは。○〔魏、註〕「釋ニ北ー・ーニ」。
〔鏞鎛〕大小のつりがね。○〔周、註〕「金ー・ー也」。
〔鼓鎛〕つゝみとかねと。○〔周、疏〕「凡縣者通有ニー・ーニ」。

【鎝】サフ、ソフ。悉合切 合
㊀ちりばむ、(鏤)。
㊁土を發する器、すき。

【鎞】ヘイ、ハイ。邊兮切 齊
㊀髮を櫛けづる具、くし。○〔杜甫〕「耳-聾須レ畫レ字、短-髮不レ勝レー」。
㊁鏃に似たる小刀、かねべら、物の表を刮げ掠むるに用ふ。○〔杜甫〕「金-ー刮ニ眼-膜ニ」。
㊂一種の箭、鏃の廣く薄くして廉れるもの。○〔揚雄〕「謂ニ之鉀ー、或謂ニ之ーニ」。
〔玉鎞〕たまのくし。○〔黃庭堅〕「新-月天-涯掛ニー・ーニ」。
〔金鎞〕かんざし。○〔皮日休〕「ー・ー離-鏤費ニ深-功ニ」。

【鎞】ヒ、ビ。頻脂切 支
犂錍、すきのは、一に曰ふ箭の名。

【鎵】ボウ、謨蓬切 東 蒙弄切 送 ム。
すきのは、(鏊)。

【鎟】サウ。寫朗切 養
鈴の聲にいふ字。

【鎖】サ。桑何切 歌
鈔に同じ。

【鍼】イク、オク。於六切 屋
物を溫むる器。

【鏂】
剛に同じ。

【鎡】シ、ジ。子之切 支
ー基は、くは。○〔孟〕「雖レ有ニー基ニ」。

【鎢】ヲ、ウ。哀都切 虞
ー錥は、小さき釜、即ち、物を入れて溫むるに用ふるもの。○〔晉〕「釜-甑銚-槃ーー錥皆民-閒之急-用也」。

【鎣】エイ、ヤウ。烏定切 徑
㊀金器を磨して光澤を生ぜしむる器。
㊁かざる、(飾)。
㊂みがく、(磨)。

【鎣】エイ、ヤウ。余傾切 庚
釆鐵、ひかるてつ。

【鎣】ケイ、キヤウ。懸扃切 靑
みがく、(磨)。

【鎣】ケイ、キヤウ。吠迥切 [迥] エイ、ヤウ。於丁切 [靑] アウ、ヤウ。烏莖切 [庚] 金にてつくりたる冶器、いがた。

【鎤】クワウ、ワウ。虎晃切 [養] 鐘の聲にいふ字。

【⿰金疾】シツ、ジチ。昨悉切 [質] ―鑠は、鐵鑣、むち。

【鋚】テウ、デウ。田聊切 [蕭] 金石。

【鎦】リウ、ル。力求切 [尤] ころす(殺)。

【鎦】リウ、ル。力救切 [宥] かま(釜)。

【鎧】カイ、ケ。苦亥切 [賄] カイ。丘蓋切 [泰] 戰時に著くる衣、よろひ、金又は革などにてつくる。○〔雲笈軒轅記〕「蚩尤始作二――甲兜-鍪一」。

〔弩鎧〕おほゆみとよろひと。○〔漢〕「禁レ民不レ得レ挾二――一」。
〔鐵鎧〕くろがねのよろひ。○〔北〕「周保-定元-年遣レ使賚二犀-甲――一」。
〔首鎧〕くびにつくるよろひ、即ち、かぶと。○〔晉、疏〕「兜-鍪――也」。
〔玄鎧〕くろきいろのよろひ。○〔蜀、註〕「――五-千-領」。
〔玉鎧〕たまのよろひ。○〔宋〕「得二――一」。
〔犀鎧〕犀革のよろひ。○〔宋〕「甾-脊二―皮―一斡二短-兵一」。
〔紙鎧〕かみもてつくりたるよろひ。○〔唐〕「襞レ―「篋レ―」。
〔御鎧〕帝王のよろひ。○〔北〕「大-千常-將二――一」。
〔甲鎧〕よろひ。○〔晉書〕「歲-造二――具-裝一」。
〔繕鎧〕よろひをつくろふ。○〔唐〕「於レ是―レ―厲レ兵」。
〔馬鎧〕馬につくるよろひ。○〔宋〕「具-裝――也」。
〔弊鎧〕やれたるよろひ。○〔高啓〕「―――蟣-蝨生」。

【⿰金隼】シユン。聳尹切 [軫] 金の萌の生ずるにいふ字。

【⿰金隺】カク、ゴク。逆角切 [覺] 大椎、おほがなづち。

【鎩】サイ、セ。所拜切 [卦] サツ、サチ。所八切 [黠] セツ、セチ。式列切 [屑] ㊀鐔ある劍、つるぎ、一說に、長き矛、ほこ。○〔賈誼〕「非レ銛二於句-戟長―一」。㊁そこなふ(殘)、きる(剪)。○〔左思〕「鳥―レ翮」。

【⿰金殺】セイ。所例切 [霽] 戟の屬。

【鈒】シフ。色入切 [緝] てぼこ(鋋)。

【錯】ソ、ス。倉故切 [遇] 金をもて塗る。

【鎪】ソウ、ス。先侯切 [尤] ㊀きざむ(刻)、ちりばむ(鏤)。○〔左思〕「木無二彫―一」。㊁鐵の蝕するにいふ字、さび。

【鎪】シウ、ス。疎鳩切 [尤] きざむ(鏤)、一に曰ふ金の飾り。

【鎬】カウ、コウ。平老切 [皓] ㊀周の武王の都せし處、今の陝西省西安府長安縣の中さいふ。○〔詩〕「―――京辟-雍」。㊁周の北方の地名。○〔詩〕「侵二―一及二方一」。㊂物を溫むる器、なべ。㊃光顯昭明なる貌にいふ字、ひかる、あきらか、かゞやく。○〔何晏〕「其華-表則――鑠-々」。

【鋀】トウ、ヅ。大口切 [有] 酒の器。

【鎭】チン。陟刃切 [震] ㊀しづむ。
(い)重きをくはふ。○〔國〕「爲二摯-幣瑞-節一―レ之」。
(ろ)おす(壓)。○〔楚辭、註〕「以二白-玉一―二坐-席一」。
(は)おさふ(按)。○〔漢〕「又重二―一之二」。
(に)やすんず(安)。○〔左〕「善―二撫之一」。
(ほ)とゞむ(止)。○〔楚辭〕「覽二民-尤一以自―」。
㊁やすまる、さゞまる、をさまる、しづまる。○〔王思廉〕「常宜二――靜一」。
㊂おさへ。
(い)おし、おもし。○〔楚辭〕「白-玉爲レ―」。
(ろ)山の重大なるもの丶稱、即ち、地德をしづむるもの丶義。○〔周〕「山―曰二會-稽一」。
(は)屯營、守備、藩封、即ち、地方をまもりしづむるもの丶義。○〔晉〕「至レ―未レ幾」。
(に)すべて物事をさりしづむるもの丶稱。○〔魏〕「公―-州―」。

〔四鎭〕(い)揚州の會稽、靑州の沂山、幽州の醫無閭、冀州の霍山の四大山をいふ。○〔舊書〕「開-元十年、封二――神一爲レ公」。(ろ)四つの藩鎭のこと。○〔杜甫〕「――富二精-銳一」。
〔外鎭〕地方鎭撫の役所。○〔晉〕「欲レ出二雄――一」。
〔國鎭〕くにのおさへ。○〔徐彥伯〕「維貿―之―」。
〔山鎭〕每州名山の大いなるものを其の州の鎭となして地德を安んずるもの。○〔周〕「東-南曰二揚州一其――曰二會-稽一」。
〔重鎭〕おもし、又、おさへ、又、地方藩鎭などのおもきおさへ。○〔晉〕「爲二方――一」。
〔留鎭〕藩鎭にとゞまる、又、とゞまりてしづめ守ること。○〔後漢〕「識常――二京-師一」。
〔臥鎭〕病の床にふしながらしづめまもる。○〔魏〕「故煩二卿――之一」。
〔後鎭〕いくさのあとぞなへ。○〔蜀〕「階-下宜レ爲二――一」。
〔州鎭〕くにのおさへ。○〔吳、註〕「實爲二――一」。
〔至鎭〕到鎭ともいふ、州の軍屯にいたる。○〔晉〕「旣―レ―」。
〔撫鎭〕鎭撫といふに同じ、おさへしづむ。○〔北〕「以―二―之一」。
〔軍鎭〕軍隊のおさへ。○〔白居易〕「――國藩維」。
〔節鎭〕節度使の幕府。○〔宋〕「彥-超自二――一來朝」。
〔藩鎭〕王室の藩屏たるべき地方の軍鎭をいふ。○〔蘇軾〕「――強二於河-北一」。
〔要鎭〕たいせつなるおさへどころ。○〔溫子昇〕「不-城國之――」。
〔邊鎭〕邊境の軍屯。○〔張說〕「――戍-歇連-夜動」。
〔雄鎭〕すぐれてつよき藩鎭。○〔白居易〕「浙右推二――一」。

【鎭】チン。短隣切 [眞] ㊀寶器。○〔周〕「國之玉―」。㊁壓迫す、おしせまる、おす。○〔周〕「是陽失二其所一而―レ陰」。㊂まもる(戍)。

【鎭】テン、デン。亭田切 [先] 塡に同じ、ふさぐ、ふさがる。○〔國〕「譬レ之如レ室、旣―二其隙一」。

【鎮】俗の鎭の字。

【鎯】ラ。朗可切 哿
——鉤。

【鎰】イツ、イチ。夷質切 質
金の數位の名目、二十兩、一說に、三十兩、又一說に、二十四兩。○〔孟〕「雖二萬——一」。

【⿰金巧】カウ、ゴウ。下江切 江
酒の器、さかづき。

【⿰金笍】ゼイ、ゼ。除芮切 霽
㊀曲がれる刀。㊁削りたる竹。

十一畫

【鏀】ロ、ル。郎古切 麌
㊀かま、(釜)。㊁刀の柄。

【鏁】サ。損果切 哿
鎖に同じ、くさり、ぢやう。○〔潘岳〕「罥以二鐵——一」。

【鏂】オウ、ウ。烏侯切 尤
——鉦は、門鋪、もんのかなもの、一說に、鉦鍐、ゑころ。

【鏂】コウ、ク。墟侯切 尤
けづる、(剾)。

【鏃】ソク。作木切 屋 サク、ゾク。測角切 覺 ソウ、ス。千侯切 尤 ——或は、鉄に作る。
箭端の利器、やじり。○〔賈誼〕「亡二矢遺——一」。
〔遺鏃〕やのねを失なふ、又、のこりたるやのね。○〔史〕「秦無二亡矢——之費一」。
〔沒鏃〕箭のねをうづむ。○〔史〕「中レ石——」。
〔亡鏃〕箭の根を失なふ、又、やのねのなきこと。○〔漢〕「中不レ能レ入、與二——一同」。
〔矢鏃〕やのね。○〔蜀〕「——有レ毒」。
〔箭鏃〕前に同じ。○〔白居易〕「摩レ弓拭二——一」。
〔剛鏃〕するどき箭のね。○〔左思〕「——潤、霜刃染」。
〔利鏃〕前に同じ。○〔李華〕「——入レ骨」。
〔金鏃〕かねのやのね。○〔王建〕「骨銷——在」。
〔鐵鏃〕くろがねのやのね。○〔魏〕「或——、或骨鏃」。
〔礪鏃〕箭のねをとぐ。○〔五〕「嗣源悩レ鍛——」。
〔磨鏃〕前に同じ。○〔李山甫〕「十年——レ事二鋒鋌一」。
〔放鏃〕箭をはなつ。○〔夏侯湛〕「視二毫末一而——」。

【鏃】ソク、ゾク。咋木切 屋
鉎に同じ。

【鏃】サク、ソク。測角切 覺
すき、(鋤)。

【⿰金莽】バウ、マウ。謨朗切 養 ボ、ム。滿補切 麌
鈷——は、物を溫むる器。

【鋺】エン、ヲン。於袁切 元
鋤の頭の鐵。

【鏄】タン、ダン。徒官切 寒
鐵の塊、くろがねのかたまり。

【鏅】シウ、シュ。思留切 尤
あらがね、(鋌)。

【鏅】シウ、シュ。息救切 宥
きたふ、(鍛)。

【鏆】クワン。古玩切 翰

㊀うがつ、(穿)。㊁鐶手、てまき。

【鏇】セン、ゼン。辭戀切 霰
㊀圜鑪、まろきろ。㊁軸を轉じて物を裁る器。㊂湯の中に入れて酒を溫むる器、かんなべ。㊃銅錫盤、かなだらひ。

【鏇】セン、ゼン。似宣切 先
轆轤、ろくろ。

【鏈】レン。力延切 先
㊀銅の屬。㊁鈆鑛、なまりのあらがね。㊂鋃鐺、くさり。

【鏈】テン。抽延切 先
前條に同じ、一說に、あらがね、(鋌)。

【鏉】シウ、シュ。所右切 宥 ソウ、ス。蘇奏切 宥
㊀さし、(利)。㊁鐓衣、さび。

【鏉】ソウ、ス。速侯切 尤 ソク。蘇谷切 屋
ゑる、ほる、(彫)。

【鏊】ガウ、ゴウ。五到切 號 ゲウ。牛召切 嘯
餅を燒く器、やきなべ。

【鏊】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪
釜の屬。

【鏋】バン、マン。莫旱切 旱
こがね、(金)。

【鏌】バク、マク。慕各切 藥
——鋣は、古の劍の名。○〔莊〕「我且三必爲二——鋣一」。

【鏍】鍽に同じ。

【鏎】ヒツ、ヒチ。卑吉切 質
ふだ、(簡)。

【鏏】エイ、エ。于歲切 セイ、セ。祥歲切 ケイ、エ。胡桂切 霽
三足にして耳ある銅器、かなへ。

【鏐】リウ、ル。力幽切 キウ、グ。渠幽切 尤 リウ、ル。力救切 宥
美なる黃金、ゑまわうごん、紫磨金。○〔詩、箋〕「鐐琫而——珌」。
〔精鏐〕純粹のうつくしきこがね。○〔孔武仲〕「溜知是——」。

【鏐】レウ。憐蕭切 蕭
白金、ゑろがね。

【鏑】テキ、チヤク。都歷切 錫
㊀矢鏠、やじり。○〔史〕「銷二鋒——一」。㊁一種の箭、かぶらや、其のやじりを射て鳴るべくつくる。○〔史〕「作二爲鳴——一」。
〔鋒鏑〕ほことやじりと。○〔史〕「銷二——一、鑄爲二金人十二一」。
〔飛鏑〕飛箭といふに同じ、とびゆくや。○〔曹植〕「手按二——一」。
〔矢鏑〕箭鏑ともいふ、やじり。○〔隋〕「骨爲二——一」。
〔銷鏑〕やじりをいつぶす。○〔潘尼〕「——爲レ耒」。

【⿰金責】鑄に同じ。

【鏒】サン、ソン。思感切 感
鐵器の貌にいふ字。

【鎀】セウ。千遙切 [蕭]
衣を縫ふ、ぬふ。

【鏒】サン、ソン。七勘切 [勘]
すき、(鍬)。

【鏕】俗の鐶の字。

【鏿】ハウ、ヒヤウ。披庚切 [庚]
金を鍊る、ねる。

【鏓】ソウ、ス。倉紅切 [東]　一俗に、鏓に作る。
鏓ーは、かれのこゑ、一説に、木を平かにするに用ふ大鑿、おほのみ。

【鏂】トウ、ヅ。大透切　ロウ、ル。郎豆切 [宥]
鏉ーは、鐵のさび。

【鏔】イ。以脂切 [支]
ほこ、(戟)。

【鏔】イン。夷眞切 [眞]
矛戟、ほこ。

【鏖】アウ、オウ。於刀切 [豪]
㊀盡く殺すを、多く殺すを、みなごろし。○〔漢〕「合二短-兵一ー二皐-蘭下一」。
㊁銅盆、あかゞれのはち。

【鏖】ヘウ。悲嬌切 [蕭]
津の名。

【鏗】カウ、キヤウ。口莖切 [庚]
㊀金石の聲にいふ字。○〔禮〕「鐘-聲ー」。
㊁琴の聲にいふ字。○〔論〕「鼓レ瑟希ー爾」。

㊂うつ、(撞)。○〔楚辭〕「ーレ鐘搖レ簴」。
〔鏗鏗〕聲音に用ふる語。○〔後漢〕「說レ經ーー楊子行」。

【鏘】シヤウ、サウ。七羊切 [陽]　サウ、シヤウ。初耕切 [庚]
㊀玉の聲にいふ字、樂の聲にいふ字、物の鳴る聲にいふ字。○〔詩〕「八-鸞ーー」。「閣之ーーー」。
㊁高き貌にいふ字。○〔後漢〕「躡二高-ーー一」。
〔鏘鏘〕金玉などの聲にも樂の聲にもいふ語。○〔禮〕「君-子之聽レ音、非レ聽二其ーー一而已上也」。
〔淒鏘〕笙管などの聲にもきよらかなる風の音にもいふ語。○〔沈約〕「ーー笙-管遒」。

【鏙】サイ、セ。七回切 [灰]　七罪切 [賄]
まじはる、(錯)、又、文采ある貌にいふ字。○〔郭璞〕「鱗-甲ー-錯」。

【鏚】セキ、シヤク。倉歷切 [錫]
戚に同じ、をの、まさかり。○〔淮〕「干-ー羽-旄」。

【鏛】シヤウ、ザウ。辰羊切 [陽]
みがく、(磨)、一說に、車輪に繞らしたる鐵。

【鏜】タウ、土郎切 [陽]
㊀鐘鼓の聲にいふ字。○〔詩〕「擊レ鼓其ー」。
㊁鐵を以て物を貫く、つらぬく。
〔鏜々〕鐘鼓の聲にいふ語。○〔虞世基〕「振二鏖-鼓之ーー一」。

【鏝】バン、マン。母官切 [寒]　莫半切 [翰]
泥工(さかん)の壁を塗るに用ふる具、こて、鐵杇。○〔爾〕「ー謂二之杇一」。
〔手鏝〕かべぬりのこてをもつ。○〔韓愈〕「ーレー衣-食三-十年」。
〔操鏝〕前に同じ。○〔韓愈〕「吾ーレー以入二富-貴之家一有レ年矣」。

【鏞】ヨウ、ユ。余封切 [冬]
大いなる鐘。○〔書〕「笙ー以閒」。

【鏟】サン、セン。初限切 [潸]　初諫切 [諫]
㊀木を平にする鐵器、かんな。
㊁剗に同じ、けづる。○〔唐〕「埋レ光ーレ采」。
㊂いたがね、(鏶)。
㊃產に同じ。○〔鮑昭〕「ー二利銅-山一」。

【鏇】セン。旬善切 [銑]
くじ、(鑯)。

【鏠】ホウ、フ。敷容切 [冬]　一或は、鋒に作る。
㊀兵耑、きッさき、はさき。○〔漢〕「變-詐ーー出莫二能窮者一」。
㊁旗の名。○〔漢〕「爲二泰-乙ー-旗一」。

【鏡】ケイ、キヤウ。居慶切 [敬]
㊀物の姿形をうつして見るに用ふる器、かゞみ。○〔漢〕「清-水明-ー、不レ可三以レ形逃二」。
㊁照らす、鑑みる。○〔呂氏春秋〕「孰二當レ可而ー一」。
㊂明かにす、察す。○〔漢〕「深說二經-義一、明二ー聖-法一」。
〔窺鏡〕かゞみにてらしみる。○〔戰〕「朝-服衣-冠ーレー」。
〔照鏡〕前に同じ。○〔李白〕「山-人不レーレー」。
〔向鏡〕前に同じ。○〔梁簡文帝〕「正レ衣還ーレー」。
〔淸鏡〕前に同じ。○〔陳造〕「毎レ臨二ーー一笑二顏一」。
〔撲鏡〕かゞみをうちつく。○〔魏〕「輒ー二ー於地一」。
〔懸鏡〕かゞみをかく。○〔晉〕「燃レ燈ー二ー于山-穴中一爲二光-明一」。
〔掛鏡〕前に同じ。○〔駱賓王〕「石明如レーレー」。
〔玉鏡〕たまのかゞみ。○〔南〕「得二ーー一及竹-簡古-書一」。
〔鑑鏡〕前に同じ。○〔劉勰〕「不レ照二于鑠-金一而燭二于ーー一者」。
〔破鏡〕かゞみをわる、又、やれかゞみ。○〔神異經〕「昔有二夫-婦一、相別ーレー、各執二其半一」。「水一、
〔寶鏡〕みごとなるかゞみ。○〔李白〕「ーー似二空-中有二紅-蟹-子一、小如レ豆」。
〔海鏡〕介蟲の名。○〔嶺表錄異記〕「ーー如レ蚌、
〔鐵鏡〕くろがねのかゞみ。○〔九國志〕「蜀-王宗-壽得二ーー一」。
〔磨鏡〕かゞみをみがく。○〔陸游〕「粉-綿ーレー不レ忍レ照」。
〔皎鏡〕しろきかゞみ。○〔謝朓〕「明月流二ーー一」。
〔塵鏡〕ちりにけがれたるかゞみ。○〔梁邵陵王〕「ーー朝-々掩」。「暉一。
〔氷鏡〕月の異名。○〔孔平仲〕「團-々ーー吐二清-
〔反鏡〕かゞみのうらをいたす。○〔晉〕「是猶二ーレー而索レ照、登レ木而下上釣」。
〔古鏡〕ふるかゞみ。○〔杜甫〕「暗-塵生二ーー一」。
〔圓鏡〕まるがたのかゞみ。○〔蕭都刺〕「皓-月飛二ーー一」。
〔粧鏡〕よそほひのときに用ふるかゞみ。○〔杜牧〕「明-星熒-々開二ーー一也」。

【鏢】ヘウ、ベウ。撫招切 [蕭]
刀の鞘の末にある銅、こじり。

【鏢】ヘウ。卑遙切 [蕭]
鏉に同じ、刀の鋒、きッさき。

【鏂】カウ、ク。墟侯切 [尤]
鏂に同じ、けづる、(剜)。

【鏑】ギヨ、ゴ。魚擧切 [語]
樂器、一說に、白錫、すゞ。

【鋙】ギョ、ゴ。牛居切 魚
鉏—は、機の具、一説に、釜の屬。

【鏤】ロウ、ル。盧候切 宥
㊀剛鐵、こはきくろがね。○〔書〕「璆鐵銀—」。㊁かま（釜）。○〔揚雄〕「鍑、江淮陳楚之閒、或謂二之—一」。㊂文飾を刻み施す、ゑる、ちりばむ。○〔左〕「器不二彤—一」。「鑿—山一」。○㊃疏通す、とほす、ひらく。○〔漢〕「—二
〔刻鏤〕ゑる。○〔禮〕「器不二—一」。
〔雕鏤〕前に同じ。○〔國〕「不レ聞下其以二土木之崇高—一爲上美」。
〔鏞鏤〕前に同じ。○〔蘇軾〕「頑質謝二—一」。
〔丹鏤〕あかくぬりてちりばむ。○〔呉〕「雕-刻—一」。
〔錯鏤〕まじへてちりばむ。○〔梁〕「金銀—一」。

【鏤】ル、ロ。力朱切 虞
屬—は、劍の名。○〔史〕「賜二子胥屬—之劍一」。

【鏥】シウ、シユ。息救切 宥
銹に同じ。

【鏦】ショウ、シユ。七恭切 冬
㊀ほこ（矛）、一説に、小さき矟。○〔揚雄〕「或謂二之鏦一、或謂二之—一」。㊁撞刺す、つきさす、さす。○〔漢〕「欲二—レ嘉以レ矛」。

【鏦】サウ、ソウ。楚江切 江
つく、うつ（撞）。○〔後漢〕「—二特-肩一」。

【鏧】ロウ、ル。盧冬切 冬
鼓の聲にいふ字。

【鏩】サン、ゾン。藏濫切 感 セン、ゼン。慈染切 琰 サン、ゼン。士咸切 咸 サン、ゾン。財甘切 覃
㊀石を鑴る、ゑる。㊁小さき鑿のみ。

【鏩】セン、ゼン。疾染切 琰
㊀鋭進する貌にいふ字。○〔揚雄〕「鋭—一」。㊁火炎の燃え上がるにいふ字。○〔揚雄〕「挫二厥—一」。

【鏪】サウ、ゾウ。財勞切 豪
うがつ（穿）。

【鍔】
鍔に同じ。○〔呉越春秋〕「—中缺者」。

【錞】シン、ソン。是閏切 文
ひくし（低）。

【鍪】ボウ、ム。迷浮切 尤
首鎧、かぶと。○〔後漢〕「紹脫二兜—一抵レ地」。

【鏄】
鑮の字の譌り。○〔左思〕「槈—栗—發」。

十二畫

【鏳】サウ、ジヤウ。士耕切 庚
—鎗は玉の聲にいふ語。

【鏳】サウ、シヤウ。初耕切 庚
金の聲にいふ字。

【鏴】ロ、ル。力故切 遇
こがねもて飾れる車、金路。

【鏵】クワ、ゲ。戶花切 麻
すき（鍫）、特に、地を剗り坎を爲すに用ふるもの。○〔淮南註〕「臿—也」。

【鏅】タ、ダ。徒果切 哿
鈴—は、おほすき。

【鏅】タイ、デ。杜罪切 賄
鍊—は、軑輨、車のくさび。

【鏅】タ。都果切 哿
車の轄の頭。

【鏶】シフ、ジフ。秦入切 緝 セフ。七接切 葉
いたがね（鍱）。

【鏷】ホク、ボク。蒲沃切 沃
生鐵、あらがね。

【鏸】ケイ、エ。胡桂切 霽
するどし（鋭）、一説に、三つかどのほこ。

【鏸】セイ、ゼ。旋芮切 霽
大鼎、おほがなへ。

【鏸】エイ、エ。兪芮切 霽
侍臣の執るほこ。

【鏹】キヤウ、カウ。居兩切 養
錢貫、ぜにさし。○〔左思〕「藏—巨-萬」。

【鏺】ハツ、ハチ。普活切 曷
㊀草を刈る具、かま、兩刃木柄のもの。㊁かる（刈）。○〔韓愈〕「—二廣-濟一」。

【鏺】ハツ、バチ。北末切 曷
かま（鎌）。

【鏻】リン。力珍切 眞 良刃切 震 レイ、リヤウ。郎丁切 青
强健の貌にいふ字、つよし。

【鏼】サク、シヤク。所革切 陌
鐵槍、やり。

【鏽】シウ、シユ。息救切 宥 シユク、ソク。息六切 屋
—本、銹に作る。
鐵生衣、さび。○〔正字通〕「鏡—鏡上綠也」。

【鏾】サン。蘇旱切 旱 先旰切 翰
いしゆみ（弩）、一説に、雄雞の勢を去りたるにいふ字。

【鐰】サウ、シヤウ。楚耕切 庚
鐘の聲にいふ字。

【鏫】ショク、ゾク。須玉切 沃
こがね（金）。

【鐝】ケツ、コチ。其月切 月
みがく（磨）。

【鐀】
匱に同じ、はこ、くしげ。○〔漢〕「紬二石-室金—之書一」。

【鐁】シ。息移切 支
木を平かにする器、かんな。

【鐂】　鎦の本字。

【鐃】　ダウ、子ウ。女交切　[肴]
㊀軍中に用ふる小鉦、かれ、どら、鼓うつを止どむるに、うちならすもの。○[周禮]「以金—止鼓」。
㊁奏樂に用ふる小鉦、樂のをはりにうちならすもの。○[禮、註]「—聲爲陰」。
㊂譊に通じ用ふ、さわがし。○[後漢]「今年尚可、後年—」。
[鐃鈸]　さらのたぐひ。○[詩、疏]「則——相類、俱將以鉦名之」。

【鐃】　ダウ、子ウ。女敎切　[效]
橈に同じ、たわむ。○[莊]「萬物無足以—心者」。

【鐄】　クワウ、ワウ。戶盲切　[庚]
㊀鐘の聲にいふ字、一說に、大いなる鐘。
㊁物の聲にいふ字。○[馬融]「鏘—瞽嗃」。
㊂かま、(鎌)。

【鐅】　ヘツ、ヘチ。芳滅切　[屑]
鐅刃、すきのは。○[方言、註]「呼鐅刃爲—」。

【鏾】　鐅に用じ。

【鑭】　ラン、ロン。盧含切　[覃]
—鑭は、馬の口中の鐵、くつばみ。

【隧】　スヰ、ズヰ。除醉切　[寘]

【鐇】　ヘン、ボン。附袁切　[元]
日光を受けて火を取る鏡。

㊂うつ、(椎)、きろ、(錐)。○[後漢]「—二—鑼株-林ニ」。㊁廣刃の斧、をの。

【鐈】　ケウ、ゲウ。巨嬌切　[蕭]　渠廟切　[嘯]
鼎に似て長き足ある器、物を溫むるに用ふるもの。

【鐉】　セン。此緣切　[先]
門戶の樞を鉤くるもの、かぎ、一說に、門戶を治むる器。

【鉞】　俗の鉞の字。

【鐊】　ヤウ。與章切　[陽]
馬頭の飾り、おもがい、一說に、車輪の鐵、わがれ、一說に、錫に同じ。○[急就篇]「鞍鑣—」。

【鐋】　タウ。他浪切　[漾]
木を治むる器、かんな。

【鐌】　シヤウ、ザウ。似兩切　[養]
㊀器の鈕、つまみ、さッて。㊁錦の名。

【鐗】　ゼン、ナン。人絹切　[霰]
まろかれ、(銀)。

【鐍】　ケツ、ケチ。古穴切　[屑]
㊀觼に同じ、舌ある環。○[後漢]「得施玉鐶—」。
㊁日旁の氣氣。○[史、註]「有氣刺日爲—」。
㊂かけがね、(紐)、ぢやう、(鎖)。○[莊]「固扃——」。
㊃樞要。○[李嶠]「扣一儀之—鑰」。

【鐍】　井ツ、井チ。允律切　[質]

きり、(錐)。

【鐞】　コ、ク。古胡切　[虞]
鏃—は、矢の名。

【鐎】　セウ。卽消切　[蕭]
物を溫むる器、なべ、三足にして柄さ流(くち)さあるもの。○[周、註]「煮之—中」。
[銅鐎]　あかがねのなべ。○[漢、註]「刀斗以—作—」。

【鐎】　セウ、ゼウ。昨焦切　[蕭]
銚に似て物を溫むる器。

【鐎】　シウ、シユ。卽由切　[尤]
釜の屬。

【鐏】　ソン、ゾン。徂寸切　[願]　サン。祖管切　[旱]
㊀槍矛などの柲の下端を包みたる金、いしづき。○[禮]「進戈者前其—」。
㊁撞く。○[釋名]「有所—入也」。

【鐐】　レウ。洛簫切　[蕭]
㊀美しき銀。○[何晏]「—質輪菌」。
㊁孔ある爐。

【鐐】　レウ。力弔切　[嘯]　ラウ、ロウ。郞到切　[號]
美しき金。

【鐄】　鉶に同じ。○[晉]「公主夫人五——」。

【鐑】　ケツ、ケチ。吉屑切　[屑]
鍥に同じ。

【鐓】　クワン。口煥切　[翰]　苦管切　[旱]
鐵を燒きて物を炙るにいふ字、あぶろ、鐵を燒きて物に識すにいふ字、やきいん。

【鐓】　タイ、デ。杜對切　[隊]　杜罪切　[賄]　タン。都玩切　[翰]　トン。都昆切　[元]
矛の下の銅鐏、いしづき。○[禮]「進矛戟者前其—」。

【鐓】　タイ、テ。都回切　[灰]
下がり垂る、たろ、一說に、千斤の椎、おほづち。

【鐔】　シン、ジン。徐林切　イン。夷針切　[侵]　タン、ドン。徒含切　[覃]
㊀劍鼻、ふちかしら、又、劍口、つば、又、劍珥、つるぎのわがれ。○[莊]「周宋爲—」。
㊁小さき劍。○[漢]「鑄作刀劍鉤—」。
[劍鐔]　つるぎのつばもと。○[陸機賛]「黃金飾——」。

【鐔】　タン、ドン。徒感切　[感]
前條の㊀に同じ。

【鐔】　シン、ジン。尋浸切　[沁]
刀の本。

【鐔】　タク、ダク。達各切　[藥]
劍の珥、わがれ。

【鐏】　サン、ビン。士山切　[刪]　シン。側詵切

[眞] セン、ゼン。士連切 [先]
小鑿のみ。

【鑐】シュ、ズ。詢趨切 [虞]
鎖牝、ぢやう。

【鐖】キ、ケ。居依切 [微]
❶鉤の逆鐖、さかばり、かゝり。○〔集韻〕「無レ—之鉤不レ可ニ以得レ魚」。❷彈き發つ機、はじき。○〔淮〕「工-匠之爲ニ連——ニ」。

【鐖】キ、渠希切 [微] ガイ。魚開切 [灰]
大鐮、おほがま。

【鐗】カン、ケン。古莧切 [諫]
車軸の鐵、おほひがれ。

【鐟】古文の錯の字。

【鐟】ソ、ス。扦五切 [麌]
やすり、(鋁)。

【鏑】鏑に同じ。

【鐘】ショウ、シュ。職容切 [冬]
內部を下方と空虛にしてつきうちて聲をなす樂器、つりがね、かね。○〔詩〕「——鼓樂レ之」。
(林鐘) 百鐘ともいふ音律の名、六月に配す。○〔禮〕「律中ニ——ニ」。
(應鐘) 音律の名、十月に配す。○〔禮〕「律中ニ——ニ」。
(夾鐘) 音律の名、二月に配す。○〔禮〕「律中ニ——ニ」。
(黃鐘) 音律の名、十一月に配す。○〔禮〕「律中ニ——ニ」。
(撞鐘) つりがねをつきならす。○〔韓愈〕「——吹レ螺鬧ニ宮-庭ニ」。
(疑鐘) 前に同じ。○〔楚辭〕「——搖レ簴」。
(五鐘) いつゝの樂鐘、卽ち靑鐘、赤鐘、黃鐘、景鐘、黑鐘をいふ。○〔管〕「黃-帝以ニ其緩-急ー作ニ五-聲ー、以正ニ——ニ」。
(擊鐘) つりがねをうちならす。○〔庾信〕「南-鄰聽レ——」。
(搯鐘) 前に同じ。○〔貢奎〕「——擊レ鼓兩-岩開」。
(巨鐘) おほつりがね。○〔淮〕「撞ニ——ニ」。
(洪鐘) 前に同じ。○〔溫庭筠〕「談-柄發ニ——ニ」。
(鴻鐘) 前に同じ。○〔揚雄〕「撞ニ——ー建ニ九-斿ニ」。
(劁鐘) つりがねをうつ、又、つりがねを硏る。○〔說苑〕「——不レ錚」。
(鼎鐘) かなへとつりがねと。○〔司馬相如〕「銘ニ功鐘ニ——ニ」。
(晨鐘) よあけにうちならすかね。○〔庾信〕「山-寺響ニ——ニ」。
(朝鐘) 前に同じ。○〔王褒〕「虛-谷應ニ——ニ」。
(曙鐘) 前に同じ。○〔駱賓王〕「風-霜入ニ——ニ」。
(暮鐘) ひぐれにうちならすかね。○〔杜甫〕「衣-冠起ニ——ニ」。
(昏鐘) 前に同じ。○〔張九成〕「——發ニ林-杪ニ」。
(古鐘) むかしのつりがね。○〔宋〕「豫-章獲ニ——ニ」。
(梵鐘) 佛寺のつりがね。○〔奕皇〕「半-樹殘-陽又——」。

【鑈】チ。展几切 [紙]
うがつ、(鑽)。

【鐙】トウ。都滕切 [蒸]
❶燭錠、ひともし、轉じて燈火。○〔楚辭〕「華——錯些」。❷瓦登、やきものゝたかつき。○〔儀〕「實ニ于——ニ」。

【鐙】トウ。都鄧切 [徑]
❶馬鞍の兩旁につけて跨がりのれる人の足をかくる具、あぶみ。○〔韓偓〕「和-裙穿ニ玉——ニ」。❷豆の下の跗、たかつきのだい。○〔禮〕「執レ——」。
(雕鐙) ゑりきざみたるあぶみ。○〔李白〕「龍-駒——白-玉鞍」。
(銀鐙) しろかねのあぶみ。○〔王志堅〕「只敎ヨ——露ニ雙-弓ニ」。「馬——穩」。
(銜鐙) くつわとあぶみと。○〔白居易〕「嫋嫋騎ニ善——」。
(跨鐙) あぶみにまたがりのる。○〔張塞〕「一-婦——如ニ習-騎ニ」。

【鐚】錏に同じ。

【鐛】エイ、ヤウ。於敬切 [敬]
あく、(飽)。

【⿱執金】シ。脂利切 [寘]
❶羊箠、むち、其の端に鐵あり。❷田器、すき。

【⿱執金】セツ、セチ。私列切 [屑] ヘイ、バイ。蒲計切 [霽]
テフ。丁協切 [葉]
❶つち、(椎)。❷田器、すき。

【⿱執金】シフ。之入切 [緝]
前々條の❶に同じ。

【鏊】鐓に同じ。

十三畫

【⿰金彖】鑿に同じ。

【鏕】アウ、於刀切 [豪] イク、オク。乙六切 [屋]
本、鐭に作る。
❶物を溫むる器、かま、一說に、銅の器。❷肉を煮る器。

【⿰金虜】ロ、ル。郎古切 [麌]
❶膠を煎る器。❷刀の柄。

【鐫】セン。子全切 [先]
❶木を穿つのみ。❷いしづき、(鐏)。❸うがつ、(鑽)、きる、(斲)、うつ、(椓)、ほる、(鑿)、ゑる、(刻)。○〔漢〕「可ニ——廣レ之」。❹ゑりぞく、(謫)。○〔正字通〕「中-外-官降レ級曰ニ——級ニ」。
(雕鐫) ゑる。○〔舊唐〕「粟-粒無ニ——之跡ニ」。
(刻鐫) きざむ。○〔魏文帝〕「是—是—」。

【鐫】セン、ソン。將廉切 [鹽]
きり、(錐)。

【鐫】セン。子兗切 [銑]
うがつ、(鑿)。

【鐬】クワイ、エ。呼外切 [泰]
❶鈴の聲にいふ字。❷さかんなり、(盛)。

【鐭】イク、オク。乙六切 [屋] アウ、オウ。烏到切 [號]
物を溫むる器。

【鐮】鎌に同じ。

【鐯】チヤク。張略切 シヤク。職略切 [藥]
おほくは、くは、(钁)。

【鐰】セウ。七遙切 [蕭]
鍫に同じ。

【鐰】サウ、ソウ。先到切 [號]
❶金鐵の剛きにいふ字、こはし。❷かわく、(燥)。

【鐰】サウ、ザウ。財勞切 [豪]
鐵の脆くして折るゝにいふ字、もろ。

【鐙】俗の鐙の字。

【⿰金亶】センヽ。旨善切 [銑] うつ（擊）、さく（割）。

【⿰金亶】セン。式戰切 [霰] 築つ、むちうつ。

【⿰金會】クワク、カク。古獲切 [陌] 鐵の器。

【鐱】センヽ、ソン。千廉切 [鹽] すき、（臿）。

【鐱】ケン、ゲン。渠驗切 [豔] こがね（金）。

【⿰金敫】ケウ。吉了切 [篠] ‐‐耳は、さッて。

【⿰金巻】俗の鑴の字。

【鐲】タク、ドク。直角切 [覺] 軍中に用ふる鉦、かれ、鼓聲を節するにうちならすもの。○［周］「以二金‐一節レ鼓」。

【鐲】ショク、ゾク。市玉切 [沃] 物を溫る器、鎢錥。

【鐲】チョク、トク。陟玉切 [沃] 劚に同じ。

【⿰金剽】ヘウ。异遙切 [蕭] 刀鋒、きッさき。○［後漢］「爲二‐‐口之飾一」。

【⿰金蔦】鑶に同じ。

【鐳】ライ、レ。魯回切 [灰] ❶かめ（瓶）、つぼ（壺）。○［潘岳］「寘二罍、‐缾、甀一以偵レ之」。❷‐‐柚は、大橘、たちばな。

【鍻】エツ、オチ。於歇切 [月] 鐵を以て揭ぐ。

【鍼】シン。職任切 [沁] ぬふ（縫）、さす（刺）。

【鐴】ヘキ、ヒヤク。必益切 [陌] 必歷切 [錫] 犂耳、からすきのみゝ。

【鐴】ヘイ、バイ。蒲計切 [霽] 刀を研く、とぐ。

【鐊】俗の鏝の字。

【鐵】テツ、テチ。天結切 [屑] ❶黑色を帶ぶる一種の金、くろがね。○［書］「厥貢、璆、‐、銀、鏤、砮、磬」。❷くろがねにてつくりたる器、かなもの、はもの。○［李陵］「兵盡矢窮、人無二尺‐一」。❸黑き色。○［禮］「駕二‐驪一」。❹堅硬なるを。○［皮日休］「‐‐心石腸」。

（鹽鐵）しほとくろがねと。○［史］「領二‐‐事一」。
（消鐵）くろがねをいる。○［埤雅］「汲能‐レ‐爲レ水」。
（鍱鐵）前に同じ。○［淮］「‐レ‐而爲レ刃」。
（索鐵）くろがねをなはによる。○［淮］「‐レ‐歙レ金」。
（尺鐵）みじかきはもの。○［李陵］「人無二‐‐一」。
（生鐵）きたへざるくろがね。○［詩、疏］「堅‐色如二‐‐一」。
（冶鐵）くろがねをねる。○［詩、疏］「鍛者‐レ‐」。
（良鐵）よき質のくろがね。○［後漢］「精‐金‐‐皆爲二賊有一」。
（販鐵）くろがねをあきなふ。○［晉］「乃‐二‐於鄴市中一」。
（碧鐵）あをみをふくみたるくろがね。○［山海經］「玉山其下多二‐‐一」。
（賤鐵）くろがねをおもんぜず。○［江淹］「古貴レ銅‐レ‐」。
（精鐵）よきくろがね。○［蘇軾］「地既産二‐‐一」。

【鐡】テツ、デチ。徒結切 [屑] ときくろがね、はもの。

【鐶】クワン、ゲン。戸關切 [刪] 圜郭圜空にして物を貫き又は相繫ぎ能ふ金屬製のもの、かれのわ、たまき、わ。○［揚雄］「鍾以二玉‐一」。

（金鐶）こがねのゆびわ、又、かねのたまき。○［唐］「日獻二‐‐一」。
（指鐶）ゆびわ。○［晉］「同心‐‐爲レ聘」。
（銅鐶）あかゞねのたまき。○［酉陽雜俎］「蹄下貫二‐‐一」。
（鎖鐶）くさり。○［洛陽伽藍記］「金爲二‐‐一」。

【鐶】セン、ゼン。隨戀切 [霰] 車のくわん。

【鍱】テフ、デフ。徒協切 [葉] あらがね（鋌）。

【鐷】ケフ、コフ。虛涉切 [葉] あらがね（鋌）、又、かねのわ（鐶）。

【鏧】ロウ、ル。力冬切 [冬] 魯宋切 [宋] セキ、シヤク。七役切 [陌] 鼓の聲にいふ字。○［史］「鏗‐鎗鎝‐‐」。

【鐸】タク、ダク。待各切 [藥] 古昔に敎令を宣告するにはじまりさなはりさに振りならせし大鈴、おほすゞ、文事には木舌のものを用ひ武事には金舌のものを用ふ。○［書］「以二木‐一徇二于路一」。

（鐸之圖）

（執鐸）おほすゞをもつ。○［周］「兩司馬‐レ‐」。
（振鐸）おほすゞをふりならす。○［周］「司馬‐レ‐」。
（金鐸）おほすゞのと。○［周］「以二‐‐一通レ鼓」。
（鼓鐸）つゞみとおほすゞと。○［周］「旗二其‐‐旗物兵器一」。
（鳴鐸）すゞをならす、又、なるすゞ。○［高啓］「行人早起車‐レ‐」。
（鈴鐸）すゞ。○［唐］「‐‐聲レ耳、鐘鼓駭レ心」。
（鉦鐸）軍陣中に用ふるどらがねとすゞと。○［周、註］「謂二‐‐之屬一」。
（鏑鐸）つりがねとすゞと。○［拾遺記］「可レ爲二‐‐一」。

【鍋】クワ。古火切 [哿] かま（刈‐鉤）。

【鍋】クワ。古禾切 [歌] 古臥切 [箇] 釭、車のかりも。

【鋻】鑒に同じ。

【鐺】タウ。都郎切 [陽] 鋃‐‐は、（い）鐶と鐶と相貫きて連係をなしたるもの、くさり。○［六書故］「鋃‐、‐之爲レ物、連‐牽而重」。（ろ）重くして容易に擧げ難きこと。○［六書故］「故俗以二困レ重不レ可レ擧爲二鋃‐‐一」。

【鐺】タウ。他郎切 [陽]
鏜に同じ、鼓の聲にいふ字。○〔史〕「鏗-鎗-—-鼞」。

【鐺】サウ、シヤウ。楚庚切 [庚]
釜の屬、足ある鬴、酒を溫むる三足の器、なべ、あしがなへ。○〔宋〕「鼎——猶有レ耳」。
〔鐵鐺〕てつなべ。○〔談藪〕「以二——一溫レ之」。
〔茶鐺〕ちやをにるなべ。○〔馬戴〕「竹-筒斜引入二——一」。
〔空鐺〕からなべ。○〔林寬〕「迸-落打二——一」。
〔土鐺〕どなべ。○〔陸游〕「——爭響茶-爽-茶」。
〔藥鐺〕くすりをにるなべ。○〔陸游〕「自撥二破-爐一候二——一」。
〔破鐺〕われなべ。○〔張羽〕「茶香出二——一」。
〔折脚鐺〕あしをれなべ。○〔蘇軾〕「———邊煨二淡-粥一」。

【鏍】ラ。力戈切 [歌]
銼——は、小さき釜。

【鑤】ハク、ボク。弼角切 [覺]
杵頭、きねのくび。

【鐻】キヨ、ゴ。其呂切 [語]
虡に同じ、鐘鼓の 、かれかけ又はたいこかけのあし。○〔史〕「收二天-下兵一聚二之咸-陽一、銷以爲二鐘——一」。
〔鑄鐻〕樂器に用ふるかねをいる。○〔賈誼〕「銷レ鋒—レ—以弱二天下之民一」。

【鐻】キヨ、コ。居御切 [御]
夾鐘に似たる一種の樂器、木を削りて造る。○〔莊〕「梓-慶削レ木爲レ—、—成、見者驚猶二鬼-神一」。

【鐻】キヨ、コ。求於切 [魚]
金銀の器の名。○〔左思〕「——耳之傑」。

【鐼】クン、コン。火運切 [問] フン、ポン。符分切 [文]
鐵の屬。

【鐼】ホン。逋昆切 [元]
木を平かにする器、かんな。

十四畫

【鑁】ボウ、モウ。武亙切 [徑] ボウ、ム。莫鳳切 [送]
かれのわ(鐶)、又、重なる鐶。

【鑂】クン、コン。呼運切 [問]
金の色の淺はるにいふ字、かはる。

【鑢】リヨ、ロ。良據切 [御]
やすり(錯)。○〔周、註〕「摩——之器」。

【鑢】リヨ、ロ。凌如切 [魚]
矛の柄を受くる處。

【鑃】テウ、デウ。徒弔切 [嘯]
物を燒く器。

【鑄】シユ、ス。之戍切 [遇] シウ、シユ。照秀切 [宥]
いる。
(い)金を銷かし模型に入れて器物を成すにいふ字。○〔左〕「—レ鼎象レ物」。
(ろ)感化して才德を成さしむるにいふ字。○〔揚雄〕「孔-子—二顏-回一矣」。
〔冶鑄〕金鐵のたぐひをいる。○〔史〕「——煮鹽」。
〔盜鑄〕官の許可なきに貨をひそかにいる。○〔漢〕「五-年夏四-月除二——錢-令一」。
〔姦鑄〕前に同じ。○〔漢〕「民多二——一」。
〔放鑄〕とりしまりなく心のまゝに錢などをいる。○〔漢〕「使二民——一」。
〔改鑄〕これまでのものといかふ。○〔後漢〕「宜レ—二—大-錢一」。
〔陶鑄〕德をもて化するにいふ語。○〔北〕「—二—一萬生一」。
〔新鑄〕あらたにいる。○〔隋〕「非二——一二種之錢一」。
〔鎔鑄〕かなものをいる、又、轉じて人をあらため化するにもいふ語。○〔杜弼〕「可下以——二—性-靈一弘中風-教上」。

【鑅】クワウ、ワウ。胡盲切 [庚]
鐘の聲にいふ字。

【鐭】ヨ。羊茹切 [御]
かんざし(鈿)。

【鑆】ツヰ、ヅヰ。直類切 [寘]
半熟の銅。

【鑈】デフ、ヂフ。奴協切 [葉]
㊀たゞし(正)。㊁鑷に同じ。

【鑈】デイ、ナイ。奴禮切 [薺] ヂ、ニ。乃里切 [紙]
檷に同じ、絲を絡ふ具、いとまき。

【鑖】ビ、ミ。無非切 [微]
物を懸くる鉤、かぎ。

【鑦】ケン。呼典切 [銑]
けづる(削)。

【鑉】タフ、トフ。託盍切 カフ、コフ。轄臘切 [合]
——鑪は、箭。

【鑊】クワク。胡郭切 [藥]
足なき大鼎、かなへ、肉又は魚腊などを煮るに用ひしもの、又、古の極刑として罪囚を煮殺すにも用ひしといふ。○〔周〕「掌レ共二鼎——一」。
〔鐵鑊〕くろがねのかなへ。○〔南〕「以二大——一盛レ油煎二殺之一」。
〔鉅鑊〕おほがなへ。○〔徐積〕「——大-鼎烹二牛-羊一」。
〔湯鑊〕ゆをわかしたるかなへ、又、かまうでの刑罰にもいふ。○〔史〕「請就二——一」。
〔斧鑊〕をのとかなへとにて斬罪とかまうでとの刑をいふ。○〔徐陵〕「甘從二——一」。
〔沸鑊〕湯のにえたぎりたるかなへ。○〔文同〕「大-暑若二——一」。

【鑋】ケイ、キヤウ。苦定切 [徑] 牽正切 [敬] 去挺切 [迥]
一足にて行く。

【鑋】ケイ、キヤウ。去盈切 [庚]
㊀前條に同じ。㊁たつ、きる(斷)。

【鑌】ヒン。必鄰切 [眞]
はがね。

【鑍】エイ、ヤウ。伊盈切 [庚]
鈁に同じ。

【鐀】キ。求位切 [寘]
はこ(匣)。

【鑏】ダウ、ニヤウ。女耕切 [庚]
刀の柄。

【鑏】デイ、ニヤウ。乃挺切 [迥]
刀の柄の入る處。

【鑐】シユ、ス。相兪切 [虞]
ちやう(鎖-牝)。

【鑐】ジュ、ニュ。汝朱切 虞
金鐵の銷けて流るゝに至れるにいふ字、さく。

【鑐】ジウ、ニュ。而由切 尤
鍒に同じ、柔き鐵。

【鑑】カン、ケン。革懺切 陷 古銜切 咸
㊀古昔、月光をうつし受けて其れより明水を取るに用ひしさいふ鏡、みづさりかゞみ、方諸。○〔周〕「以レ―取二明-水於月一」。
㊁かゞみ。
(い)影をうつし觀る器。○〔左〕「王以二后之鞶―一予レ之」。
(ろ)かんがみる法戒、いましめ、のり、てほん。○〔唐〕「號二千-秋-金-―-錄一」。
㊂みる。
(い)うつし觀る、てらす。○〔國〕「無レ―二于水一」。
(ろ)てらし考ふ、かんがふ、かんがみる。○〔諸葛亮〕「魏不レ審―一」。
(は)みわく、ゑる、察す。○〔後漢〕「其獎-拔人-士皆如レ所レ―」。
㊃觀察、識別、みわけ、かんがへ。○〔宋〕「未レ亮二于高―一」。
〔龜鑑〕いましめ。○〔蘇軾〕「實治-亂之―-―」。
〔古鑑〕むかしのかゞみ。○〔梅堯臣〕「―-―得二荒-塚一」。
〔明鑑〕あきらかなるかゞみ、又、あきらかなるかんがみ。○〔唐〕「―-―所二以照一レ形」。
〔靈鑑〕神妙なる鑑察のとにておもに帝王の鑑識を稱するに用ふ。○〔李德裕〕「是負二―-―一」。
〔皇鑑〕おはいなるひかりにも帝王の鑑識にもいふ語。○〔宋〕「追二溷―-―一」。
〔深鑑〕ふかくかんがみる。○〔陳〕「―-―二物-情一」。
〔臨鑑〕かゞみにむかふ。○〔五〕「常―レ―以自奇」。
〔精鑑〕くはしき觀察。○〔宋〕「人服二其―-―一」。
〔前鑑〕むかしのいましめ。○〔申鑒〕「―-―既明」。

【鑑】カン、ゲン。胡暫切 鑑
大口の甑に似たる陶器、氷を盛るに用ふるもの、こほりつぼ。○〔周〕「春始治レ―」。

【鑑】カン、ゲン。胡懺切 陷
鑒に同じ。

【鑒】鑑に同じ。○〔詩〕「我心匪レ―」。
〔識鑒〕よしあしをあきらかに察知す。○〔陳〕「以二―-―一知レ名」。
〔神鑒〕靈妙なる鑒識のとにておもに帝王の鑒識を稱するに用ふ。○〔郭璞〕「陛下少留二―-―一」。
〔扉鑒〕ふかくあきらかなる鑒識。○〔宋〕「―-―通-遠」。
〔總鑒〕あまねくすべてのよしあしを察知す。○〔齊〕「―-―盡二人-靈一」。
〔省鑒〕かへりみ察す。○〔梁〕「試加二―-―一」。
〔智鑒〕さとくして善く物情を察知す。○〔南〕「聰-明有二―-―一」。
〔窮鑒〕いづこまでもおしきはめて察す。○〔周書〕「―二―隱-伏一」。
〔品鑒〕人物の高下などを分別して察す。○〔唐〕「既主レ選無二―-―才一」。
〔虛鑒〕目の神の異名。○〔酉陽雜俎〕「目神曰二―-―一」。
〔寂鑒〕しづかにあきらかなるとと。○〔顏觀之〕「沖-神―-―」。
〔鏡鑒〕かゞみ。○〔袁淑〕「以二往-古一爲二―-―一」。
〔宸鑒〕帝王の鑒識。○〔袁淑〕「上說二―-―一」。
〔卓鑒〕すぐれたる鑒識。○〔任昉〕「―-―內朗」。

【鏩】俗の鏨の字。

【鐕】サン、ソン。則參切 覃
㊀蓋(かさ)なき釘、くぎ。○〔禮〕「用二雜-金―一」。㊁つゞる、(綴)。㊂みがく、(磨)。

【鐕】シン、ソン。緇岑切 侵
物を綴り著くるもの。

【鐕】サン、ゾン。徂感切 感
㊀物を綴る、つゞる。㊁攢に通じ用ふ、あつまる、あつむ。○〔班固〕「列レ刃―レ鏃」。

【鐵】古文の鐵の字。

十五畫

【鑕】シツ、シチ。之日切 質
鐵質砧、かなしき、かなさこ、又、をの、(斧)。○〔公羊〕「負二羈-縶一執二鈇―一」。
〔鐵鑕〕星の名、又、てつの斧。○〔晉〕「―-―星主二誅-斬一」。

【䥯】ヒ。彼爲切 支
㊀耜の屬。㊁たがやす、(耕)。

【䥯】ハイ、ベ。薄蟹切 ハイ、ヘ。補買切 蟹
大いなる鐵杖。

【䥯】ハ、ベ。步化切 禡
たがやす、(耕)。

【鑖】ベツ、メチ。莫結切 屑
あらがね、(鐵)。

【鑖】ベイ、マイ。彌計切 霽
小さき釜。

【鑗】レイ、ライ。郎兮切 齊 リ。力脂切 支
㊀金の屬。㊁はぐ、(剝)。

【鑘】ライ、レ。魯回切 灰
㊀劍の首飾、ふちかしら。㊁櫑に同じ、酒樽。

【鑘】ライ、レ。落猥切 賄
鐶―は、平かならざると。

【鏑】テキ、チヤク。丁歷切 錫
龍鎖。

【鑙】ケイ、カイ。古奚切 齊 遺禮切 薺
かたし、(堅)。

【鑚】俗の鑽の字。

【鑛】クワウ。古猛切 梗
金璞、あらがね。○〔王褒〕「精-鍊藏二於―-朴一」。

【鑳】テン。呈延切 先
―-釧は、うでわ。

【鏠】ホウ、ブ。蒲蒙切 東
かぶさ。

【鑞】ラフ、ロフ。盧盍切 合
すゞ、(錫)。

【鑟】トク、ドク。徒谷切 屋
印の匱、いんのはこ。

【鑝】バウ、ミヤウ。武庚切 庚
さかす、(銷)。

【鑈】シヤ、セ。洗野切 馬
範金、いがた。

【鑠】シヤク。式灼切 藥

㊀さかす、けす。
(い)熱を加へて金を熔かす、さらかす、さろかす。○〔史〕「衆口—レ金」。
(ろ)銷散す、さく、ちらす。○〔孟〕「非ニ由レ外—ㇾ我也」。
㊁さくろ、さく。
(い)熱を受けて金熔く、さらく、さろく。○〔史、註〕「金—」。
(ろ)銷散す、ちろ。○〔戰〕「韓-氏—」。
㊂うつくし、(美)。○〔詩〕「於—王-師」。
㊃光顯昭明、あきらか、ひかろ、かゞやく。○〔何晏〕「鎬-々—々」。
㊄する、(摩)。○〔韓愈〕「日消月—」。
〔矍鑠〕 勇健なる貌にいふ語。○〔後漢〕「—々哉是翁也」。
〔銷鑠〕 かねをわかしけす。○〔宋之問〕「—々黄-金忽—々」。
〔鎔鑠〕 前に同じ。○〔宋〕「鎰—々盡其精液矣」。
〔景鑠〕 おほいなる美德。○〔東都賦〕「敷ニ鴻-藻-信ニ—々」。
〔懿鑠〕 前に同じ、又、うるはしくかゞやく。○〔蔡邕〕「—々之美」。
〔謗鑠〕 そしりごと。○〔唐〕「卿累負ニ—々何耶」。
〔陶鑠〕 よなげけす。○〔嵇康〕「夫元氣—々衆生禀焉」。
〔鑠鑠〕 ひかりあきらかなる貌にいふ語。○〔景福殿賦〕「𦕈華表則鎬-々—々」。
〔瑰鑠〕 めづらしくうるはし。○〔陸雲〕「兄徃日文雖ニ多—々」。
〔燔鑠〕 やきけす。○〔夏侯湛〕「火-石之所ニ—々」。
〔錬鑠〕 かねをぬりとらかす。○〔七命〕「乃—乃—」。
〔閃鑠〕 ひらめきひかる。○〔劉基〕「—々動ニ崖-嶠」。「—」。
〔爍鑠〕 やきとらかす。○〔通德文錄序〕「金-石—」。

【鑠】 ヤク。弋灼切 藥
㊀前條の㊁に同じ。
㊁やく、(焫)。○〔莊〕「—ニ絶竽-瑟」。

【鑠】 レキ、リヤク。狼狄切 錫

鼎の屬。

【鑡】 サク、ソク。測角切 覺
鉼—は、おほばん。

【鑢】 リヨ、ロ。 良據切 御 或は、鋁に作る。
㊀金類を磨するに用ふろ具、やすり、又、やすりを以て磨す、みがく、きろ。○〔詩、箋〕「尚可ニ磨—而平」。
㊁をさむ、(治)。○〔揚雄〕「躬自—」。

【鑣】 ヘウ。補嬌切 蕭
㊀馬勒(くつばみ)の兩旁につくろ鐵器、くつわかゞみ、くつわ。○〔曹植〕「玄-駟藹-々揚レ—漂レ沫」。
㊁盛んなる貌にいふ字。○〔詩〕「朱-幩—々」。
〔連鑣〕 くつわをつらねならぶとて馬をならべかる。○〔晉〕「肴-駟—レ—」。
〔金鑣〕 こがねのくつわ。○〔金〕「—々玉絡非レ所レ願也」。
〔玉鑣〕 たまのくつわ。○〔宋樂章〕「—々息レ節」。
〔龍鑣〕 馬のくつわ。○〔謝朓〕「—々蹀夯玉-鸞整」。
〔華鑣〕 うつくしきくつわ。○〔韓愈〕「清-塗振ニ—」。
〔朱鑣〕 あかきいろのくつわ。○〔潘岳〕「—々既揚」。
〔停鑣〕 馬をとゞむ。○〔許棠〕「無レ處ニ暫—ㇾ—」。
〔驪鑣〕 馬をかりすゝむ。○〔王僧孺〕「疏レ足念レ遠莫レ若レ—レ—」。

【鑄】 俗の鑄の字。

十六畫

【鐃】 ケウ。呼鳥切 篠 テウ。他弔切 嘯
鐵の文、くろがれのあや。

【鑩】 鎘に同じ、かま。○〔吳越春秋〕

「見ニ爾—-蒸而不ㇾ炊」。

【鑨】 ロウ。盧東切 東
うつは。

【鑒】 キヤウ、ガウ。巨兩切 養
鉛の屬、なまり。

【鑵】 俗の鑊の字。

【鑩】 ガク。五閣切 藥
物を懸くろ鉤、つりかぎ。

【鑪】 ロ、ル。洛乎切 虞
㊀火牀、火函、火を貯へ置くもの、ひごこ、ひばち、ゐろり。○〔左〕「郲莊-公廢ニ于—-炭」。
㊁酒家の酒を酤ろ處、さけうりば、古昔は其の處をゐろりの如くに構へありしよりいふ。○〔漢〕「令ニ文-君當ㇾ—」。
㊂香を薰ずる器、かうろ。○〔陶弘景〕「金—颺レ薰」。「子-期-氏」。
㊃鑢に通じ用ふ。○〔左〕「—-金初官ニ于金—」。

【鑚】 ボウ、モウ。母互切 徑
かれのわ、(環)。

【鑰】 梚に同じ。○〔子夏易傳〕「繫ニ于金—」。

【鐓】 タイ、デ。徒對切 隊
矛戟の柄の下の銅、いしづき。

【鐏】 トン。都昆切 元 一本、鐏に作る。
樂器。

【鑝】 サツ、セチ。槎轄切 黠
草を斷る刀。

十七畫

【鑭】 ラン。郎旰切 翰
金の光る貌にいふ字、ひかりかゞやく。

【鑮】 ハク。匹各切 藥
㊀大いなる鐘、かれ。○〔儀〕「其南—」。
㊁鎛に同じ、すき。○〔釋名〕「—亦鋤類也」。
〔鼓鑮〕 つゞみとおほつりがねと。○〔儀、註〕「奏-樂以ニ—々爲レ節」。

【鑮】 ハク、バク。補各切 藥
十二辰の頭の鈴鐘、さけいのりんがれ。

【鑯】 セン、ゾン。子廉切 鹽
㊀するどし、さがろ、(銳)。○〔爾〕「言ニ—-峻」。
㊁鐵器、一に日ふ、のみ、(鐫)。

【鑯】 セン、ソン。千廉切 鹽
きざむ、(刻)。

【鑰】 ヤク。以灼切 藥
㊀門戸などのたまりをなすに裝置したる金具、ぢやう、かぎ。○〔抱朴〕「堅ニ玉—於命-門」。
㊁樞要。○〔李嶠〕「扣ニ二-儀之鐍—」。
㊂閉鎖す、とづ、さざす。○〔唐〕「生-平所ニ緘—者」。
㊃いる、(入)。○〔淮〕「排ニ閶-闔—ニ天-門」。
〔關鑰〕 門のかんぬきとぢやうとのとにて門のたまりをいふ。○〔南〕「—々甚嚴」。

(門鑰) 門戸のしまり。○[元好問]「元-光以-後—-—賁」。
(扃鑰) 前に同じ。○[唐]「不レ爲二牆-垣—-—一」。
(金鑰) かねのぢやう。○[唐]「閤上二—-—一」。
(鎖鑰) 門戸のしまり。○[韓愈]「洞門無二—-—一」。
(魚鑰) えびぢやう。○[梁簡文帝]「多門掩二—-—一」。
(秘鑰) おほくのかぎ。○[續世説]「性各自緊二—-—一」。
(牡鑰) かぎ。○[蘇軾]「西-園—-—夜沈-々」。
(管鑰) 前に同じ。○[禮、註]「—-—捷レ鑰器也」。
(宮鑰) 宮門のしまり。○[白居易]「鑑重移二—-—一」。
(禁鑰) 前に同じ。○[范成大]「—-—通二三-鼓一」。
(車鑰) くらのかぎ。○[宋]「大-王遣レ我來索二軍-資—-—一」。

【鑱】 サン、ゼン。士銜切 咸
㈠端の鋭りて刺すに用ふる具、はり、きり。○[史]「—-石-橋-引」。㈡犂鐵、すきのは。○[杜甫]「長-—長-—白-木柄」。㈢さす(刺)。○[韓愈]「九-疑—レ天荒二是-非一」。㈣ほる(劚)。○[宋郊]「鐫-—物-象危」。㈤藥鼎、くすりなべ。○[抱朴]「何須二乎—-鼎一哉」。
(天鑱) 自然にほれてある。○[歐陽修]「—-—鬼-劂兮壁二立千-嶂一」。
(藥鑱) くすりなべ。○[陸游]「—-—丹-爐老二青-

【鑱】 サン、ゼン。士鑯切 陷
土を刺す具。

【鑲】 ジヤウ、ニヤウ。汝羊切 陽
㈠鑄型を作るに金を鑄こむ箇處を空虛にするため繩などを以て坏胎(なかみ)となし鑄型の固まりたるを候ひて之を引き拔く其の引き拔く坏胎の稱にいふ字。

㈥兩頭に鉤ありて或は引きよせ或は推しやるの用をなす一種の兵器。

【鑋】 ビ、ミ。武移切 支
かま、(鎌)。

【鐽】 鍦に同じ。

【鐻】 簴に同じ。

十八畫

【鏩】 サツ、セチ。査鎋切 黠
㈠草を切る、くさかる。㈡草を切る器、かま。

【鑴】 ケイ、エ。戸圭切 齊
㈠はち、ほさぎ(瓽)。㈡大いなる鐘。㈢太陽の旁に氣のめぐれるを。○[周]「一曰祲、二曰象、三曰—」。㈣おくる(餽)。

【鑴】 キ。許規切 支
㈠大いなる鐘。㈡鼎の屬、一に曰ふ太陽の旁の氣。

【鑴】 スヰ。宣爲切 支
太陽の旁の氣。

【鑴】 ケイ、エ。涓畦切 齊
きり、(錐)。

【鑵】 クワン。古玩切 翰
水を汲む器、つるべ。

【鑃】 鉵に同じ、おほすき。

【鑶】 サウ、ザウ。茲郎切 陽

鈴の聲にいふ字。

【鑷】 デフ、ヂフ。尼輒切 葉
㈠物をはさみて拔き取るに用ふる具、くぎぬき、けぬき。○[雲仙雜記]「王-僧-虔晩-年惡二白-髮一、—日對レ客、左-右進二銅-—-—一」。㈡はさみて拔き取ること。○[韋莊]「朝-々—復生」。㈢首飾、かんざし。○[崔瑗]「三-珠璜-釵、—-—髮鑽レ瑩」。
(釵鑷) かんざし。○[南]「而后林-帷陳二古-舊—-—十-餘-枚一」。
(休鑷) けぬきもて毛をぬくことをやむ。○[杜甫]「—レ—鬢-毛班」。

【鑘】 ライ、レ。洛猥切 賄
鍡—は、平かならず。

【鑉】 タフ、トフ。託合切 合
物の墮つる聲にいふ字。

【鑹】 サン。七亂切 翰
小さき矟、こぼこ。

【鑺】 ク、コ。其倶切 虞
兵器、戟の屬。—或は、戵に作る。

【鑳】 ケン。古典切 銑
兵器。

十九畫

【鑢】 バ、マ。莫羅切 歌
こがね、(金)。

【鐢】 ハン。普諫切 諫
俗の襻の字。

【鑼】 ラ。魯何切 歌
銅にて作りたる盆の如き器にて打ち鳴らすもの、どら。○[元]「鳴レ—擊レ鼓」。

【鑽】 サン。借官切 寒
㈠物を穿つ器、たがね、のみの類。㈡臏刑、あしきる。○[漢]「其次用二—鑿一」。㈢きる。(い)斬る。○[漢、註]「—二去其臏-骨一」。(ろ)深く入る。○[論]「—レ之彌堅」。㈣さす。(い)さす、(刺)。○[爾]「櫨-梨曰レ—レ之」。(ろ)必ず入る。○[班固]「必—二孝-公一」。㈤矛刃、ほこさき、やじり。○[史]「施レ—如二蠆-蠭一」。
(雕鑽) ゑりうがつ。○[蘇軾]「挾レ策事二—-—一」。
(研鑽) みがきをさむ。○[樓鑰]「問-學加二—-—一」。

【鑚】 サン。子算切 翰
物を穿つ器。

【鑾】 ラン。落官切 寒
㈡君王の御車の馬鑣につきたる鈴、すず。○[齊]「鳴二靑-—于東-郊一」。㈢轉じて、君王の車駕。○[李賀]「隨レ—鳴二玉-珂一」。
(華鑾) うつくしきくるまのすゞ、又、轉じて帝王などのみくるまのことにもいふ。○[謝靈運]「遲二—-—之凱-旋一」。
(後鑾) しづ〳〵とすゝむ車のすゞ。○[王融]「—-—警レ節」。
(停鑾) みくるまをとどむ。○[鄭義眞]「豐-野暫—-—」。
(駐鑾) 前に同じ。○[王逐]「五-色雲-中儀二—-—一」。
(迴鑾) みくるまをめぐらす。○[唐太宗]「—レ—游二禪-地一」。

〔凊鑿〕 みくるま。〇〔張九齡〕「羣-臣陪二――一」。
〔陪鑿〕 みくるまに扈從す。〇〔韋嗣立〕「扈レ蹕――滑-潞傍」。

【鑿】 サク、ザク。在各切 藥

㊀物を穿つに用ふる一種の刃器、のみ。〇〔古史考〕「孟-莊-子作レ―」。
㊁うがつ。
（い）穿つ、ほる、あなあく。〇〔詩〕「―レ冰冲-々」。
（ろ）義理に合ふをを求めずして妄りに臆測するにいふ字。〇〔孟〕「爲二其―一也」。
㊂開疏す、ひらく。〇〔漢〕「然鑿―-空」。
㊃造意す、つくろ、もくろむ。〇〔公羊〕「―二「公―行也」」。
㊄黥刑、いれずみ。〇〔漢〕「其次用二鑽-―一」。

〔穿鑿〕 うがつ。〇〔漢〕「以レ意――」。
〔斲鑿〕 きりうがつ。〇〔蕭子良〕「民-間鐫多――」。
〔巨鑿〕 おほのみ。〇〔唐〕「忽夢下人持二――一、破二其心-內一若上レ剟焉」。
〔熏鑿〕 火をもていぶすとあなをほりうがつと。〇〔莊〕「以避二――之患一」。
〔疏鑿〕 きりひらきほる。〇〔杜甫〕「池-館皆――」。
〔開鑿〕 前に同じ。〇〔周、註〕「山-林之阻、則――之」。
〔洞鑿〕 ほらあな。〇〔李白〕「搜-索逵二――一」。
〔空鑿〕 前に同じ。〇〔江淹〕「巖-岏兮――」。
〔刳鑿〕 けづりうがつ。〇〔易、疏〕「舟必用二大-木一――其中一」。
〔斧鑿〕 をのとのみと。〇〔韓愈〕「徒觀二――痕一」。
〔鋸鑿〕 のこぎりとのみと。〇〔晉〕「錘-鉗――」。
〔槌鑿〕 つちとのみと。〇〔新論〕「魏-文好二――之聲一」。「爲レ之」。
〔剡鑿〕 きざみうがつ。〇〔廣川書跋〕「故悉――」。
〔耕鑿〕 田地をたがへしひらく。〇〔高適〕「一-身與二――一」。
〔墾鑿〕 きりひらく。〇〔柳宗元〕「―二―墝-鹵一」。

【鑿】 サク。則落切 藥

㊀鮮明なる貌にいふ字。〇〔詩〕「白-石――」。
㊁米を搗きて白くす、しらぐ。〇〔左〕「粢-食不レ―」。

【鑿】 ソク、ゾク。昨木切 屋

花葉を鏤むるにいふ字、ほる。

【鑿】 サウ、ザウ。在到切 號

穿穴、あな。〇〔漢〕「羊入二其―一」。

【䥯】 ヒ。彼爲切 支

耜の屬。

【鑹】 ラ。魯戈切 歌

小さき釜、物を溫むる器。

二十畫

【鐓】 タイ、テ。都回切 灰

下がり垂る、一に曰ふ、千斤のおほいなる椎。

【钀】 ゲツ、ゲチ。魚列切 屑

馬の勒の旁の鐵、くつわのかゞみ。

【钀】 ギ。魚羈切 支 語綺切 紙

轙に同じ、車の衡の轡を載するもの。

【钁】 クワク。居縛切 藥

大いなる鉏、くは。〇〔淮〕「負二―一臿二」。
〔鍬钁〕 すき。〇〔指月錄〕「大-衆各備二――一剗レ草一」。
〔犁钁〕 前に同じ。〇〔曾鞏〕「寧無レ擬二――一」。
〔荷钁〕 すきをになふ。〇〔周砥〕「――穿レ雲得二茯苓一」。

廿一畫

【钃】 ショク、殊玉切 チョク、陟玉切 ゾク。トク。 沃

くは、（鉏）、又、のぞく、（除）。〇〔荀〕「所レ謂以二狐-父之戈一―二牛-矢一也」。

長部

【長】 チヤウ、ヂヤウ。直良切 陽

㊀ながし。
（い）短からず。〇〔漢〕「尺有レ所レ短、寸有レ所レ―」。
（ろ）たけたかし。〇〔淮〕「東-方之人「―」」。
（は）近からず、とほし。〇〔詩〕「順二彼―-道一」。
（に）あさはかならず、おくふかし。〇〔左〕「心甚―」。
（ほ）かはるをなし、つれ、ざこしなへ。〇〔陶潛〕「門雖レ設而―關」。
（へ）久し。〇〔詩〕「―發二其祥一」。
（と）大いなり。〇〔世說新語補〕「願乘二―風一破二萬-里浪一」。
（ち）のび引けるにいふ字、つゞきて絕えざるにいふ字。〇〔禮〕「―言レ之」。
㊁善きを、まされるを、すぐれたるを。〇〔戰〕「誦二足-下之―一」。
㊂さしはさむ、（挾）。
〔夜長〕 やぶんながし。〇〔隋〕「昨-宵恨二――不一レ能二早見二公面一」。
〔晝長〕 ひるまひさし。〇〔書、疏〕「――六-十-刻」。
〔日長〕 前に同じ、又、時日久し。〇〔晉〕「臣盡二節於陛-下一之――」。
〔短長〕 おとれるとまされると、又、たけひくきとながきと、又、みじかきとひさしきと。〇〔左〕「淸-濁大-小、――徐-疾、以相濟也」。
〔山長〕 やまたかし。〇〔許渾〕「――水遠無二消息一」。
〔優長〕 すぐれてよし。〇〔唐〕「又舉二文-藝――、賢-良方-正科一」。
〔寸長〕 わづかの善。〇〔宋〕「不レ遺二――一」。
〔取長〕 まさりたるをとり用ふ。〇〔潛夫論〕「智-者棄レ短―レ―以致二其功一」。
〔太長〕 いたくながし。〇〔玉海〕「縱置レ之――」。
〔路長〕 みち遠し。〇〔元結〕「不レ念二歸-――一」。
〔修長〕 ながし。〇〔詩、疏〕「形容――而又廣-大」。
〔薄長〕 おほいにしてたけながし。〇〔詩〕「旣―旣「―」」。
〔博長〕 前に同じ。〇〔春秋繁露〕「文-王形-體――」。
〔陜長〕 ひろからずしてながし。〇〔詩、疏〕「言二其――之意一也」。
〔延長〕 ひさしきにわたる。〇〔詩、疏〕「年-世――」。
〔身長〕 からだのたけ。〇〔家語〕「――九-尺」。
〔久長〕 ひさし。〇〔史〕「故鑿-昌――」。
〔悠長〕 前に同じ。〇〔裴子野〕「夜――而難レ曙」。
〔永長〕 前に同じ。〇〔方言〕「施二於――一、謂二之永一」。
〔深長〕 あさはかならずしてふかし。〇〔北〕「學-業「――」」。
〔比長〕 ひさしきをくらぶ。〇〔後漢〕「是以流-光與二天-地一レ――」。
〔細長〕 ほそながし。〇〔南方草木狀〕「水-松葉如レ檜而――」。
〔瘦長〕 肉やせてたけながし。〇〔夢溪筆談〕「凡小-篆喜二――一而―一」。
〔宏長〕 弘大なると。〇〔柳宗元〕「智-謀――」。

【長】 チヤウ。展兩切 養

㊀孟始、はじめ、もと。〇〔易〕「元者善之―也」。
㊁かしら。
（い）先頭、さき。〇〔國〕「吳晉爭レ―」。
（ろ）嫡首、そうりやう。〇〔荀〕「隨二其―-子一」。
（は）首領、統御者、をさ。〇〔戰〕「君―レ「齊」」。
㊂成人、おさな。〇〔公羊〕「―而卑」。
㊃高齒、としかさ。〇〔書〕「立レ敬惟―」。
㊄老年、としより。〇〔國〕「齊-侯―矣」。

❻高位、尊上、うへ。○[書]「立二五-―一」。
❼諸侯、覇伯、采邑の主、縣令、刺史、大守、官曹のかしら。○[周]「立二其―一」。
❽すゝむ(進)。○[易]「君-子道―、小-人道消」。
❾ます(益)。○[國]「不二月―一」。
❿つむ(積)。○[國]「唯―二舊-怨一」。
⓫さかんなり(盛)。○[呂氏春秋]「此神-農所二以―一」。
⓬そだつ。
(い)生育す、おふ、おひたつ、のぶ。○[孟]「苟得二其道一、無二物不一レ―」。
(ろ)養育す、やしなふ、おほしそだつ、のばす。○[漢]「以二生-育養―一爲レ事」。
(は)敎誨して倦まざるにいふ字、みちびく、をしふ。○[詩]「克―克君」。

〔亭長〕行旅宿館のをさ。○[易、疏]「惟隊-居爲二泗-水―・―一」。
〔長長〕としたけたる者を優待す。○[禮]「上―レ―而民興レ弟」。
〔官長〕つかさのをさ。○[左]「凡大-―之―皆民-譽也」。
〔助長〕たすけそだつ。○[孟]「勿二―・―一」。「―」。
〔君長〕えびすの部落のかしら。○[史]「諸-蠻―・
〔養長〕そだつ。○[漢]「陽常居二大-夏一而以二生-育―・―一爲レ事」。
〔家長〕いへのをさ。○[晉]「慈有レ處レ家得二罪于―・―一而可レ爲也」。
〔賓長〕賓客中のをさ。○[周、疏]「―・―獻レ尸」。
〔師長〕軍隊中のかしら。○[列]「其國無二―・―一」。
〔少長〕すこしくとしたけたると、又、をさなきものとおとなと。○[史]「且以二―・―一先立二武-臣一爲レ王」。
〔翼長〕たすけてそだつ、又、つばさ生じそだつ。○[左]「余―而―レ之」。
〔讓長〕長者にへりくだりてゆづる。○[史]「民-俗皆―レ―」。
〔隊長〕隊伍のかしら。○[史]「各爲二―・―一」。
〔生長〕そだつ。○[漢]「猶下―二―于齊一不上レ能レ不二齊-言一也」。
〔偸長〕偸盜のかしら。○[漢]「―・―曰、今一-旦召レ詣レ府」。
〔督長〕えびす盜賊などのかしら。○[漢]「求二問長-安父-老偸-盜―・―數-人居一」。
〔魁長〕前に同じ。○[後漢]「然北-地-渠―・―未レ有-聞焉」。
〔渠長〕前に同じ。○[唐]「縛二其―・―一」。
〔兵長〕つはものゝをさ。○[後漢]「是以―・―渠-率各生二孤-疑一」。
〔任長〕をさにまかす。○[後漢]「家-事―レ―」。
〔齒長〕としたけたると。○[後漢]「以レ―則―」。
〔消長〕へりおとろふるとましさかんなると。○[後漢]「闕-猶-無二益―・―一」。
〔廢長〕としたけたるものをやめとりのぞく。○[晉]「―レ―立レ少」。
〔雄長〕つよくすぐれたるかしら。○[陳]「退足下以固二強江-外一―・―偏-隅上」。
〔鬱長〕おれそだつ。○[北]「言二蒸-氣―・―非レ有二根-種一」。
〔宗長〕一族中のをさ。○[隋]「並令レ爲二其―・―一」。
〔茂長〕草木などしげりそだつ。○[呂氏春秋]「集二於樹-木一與爲二―・―一」。
〔怒長〕植物などのにはかに芽をいだし生長するにいふ語。○[意林]「芽-筍―・―」。

【長】　チヤウ、ヂヤウ。直亮切 [漾]
❶ながきさみじかきさの度、たけ、ながさ。○[國]「人・―之極幾何」。
❷あまる(餘)、おほし(多)。○[論]「―二一-身一有-半」。
❸むだ(冗)、あまり(剩)。○[陸機]「無レ取二乎冗―一」。
〔侈長〕過分におほし。○[後漢]「不レ得二―・―一」。
〔汎長〕さかんに水ましあふる。○[南]「時夏-水―・―」。

二畫

【⿰镸兀】　コン。丘敦切 [元]
―-屯は、醜き牛の貌にいふ語。○[淮]「―-屯犂-牛」。

三畫

【镹】　キウ、ク。己有切 [有]
ながし(長)。

四畫

【⿰镸殳】　タン、ダン。杜翫切 [翰]
なぐ(投)。

【⿰镸公】　ショウ、シュ。詳容切 [冬]
ながし(長)。

【⿰镸攵】　ヤウ。以長切 [養]　タン、ダン。徒亂切 [翰]
あぐ(舉)。

【镺】　アウ、オウ。烏浩切 [皓]　烏到切 [號]
ながし(長)。○[左思]「爾乃地-勢坱-圠、卉-木―-蔓」。

五畫

【⿰镸毛】　髦に同じ。

【⿰镸出】　タウ、トウ。都到切 [號]
長き貌にいふ字。

【⿰镸幼】　エウ。伊鳥切 [篠]
―-⿰镸朱は、長くして勁からざると。

六畫

【⿰镸犮】　髮に同じ。○[郭忠恕]「鶴-―半-生」。

【⿰镸朱】　デウ、テウ。乃了切 [篠]
❶⿰镸幼―は、長くして勁からざると。
❷沙行に用ふるはきもの。○[淮]「水-行用レ舟沙-行用レ―」。

七畫

【⿰镸兆】　ダウ、ノウ。乃老切 [皓]　タウ、ドウ。徒到切 [號]
镺―は、長き貌にいふ語。

【⿰镸开】　ゲツ、ゲチ。魚列切 [屑]
ながし(長)。

【⿰镸桼】　シ。七四切 [寘]
漆を塗りたる器、ぬりもの。

【⿰镸赤】　デウ、テウ。奴鳥切 [篠]
⿰镸朱に同じ。

八畫

【⿰镸宗】　ショウ、シュ。將容切 [冬]
亂髮、みだれがみ。

【⿰镸隹】　チュツ、チュチ。竹律切 [質]
さもにたり、ほのか、(髣)。

【⿰镸垂】　タ、ダ。吐火切 [哿]
❶好き髮の貌にいふ字、かみうるはし、
❷鬌に同じ。

【⿰镸岸】　ガン。魚肝切 [翰]
おほいなり。

【⿰镸畀】　ヘイ、ハイ。必迷切 [齊]
冠の飾り。

【⿰镸爭】　タウ、チヤウ。除庚切 [庚]
髮の亂れたる貌にいふ字。

九畫

【⿰镸省】　セイ、シヤウ。所景切 [梗]

長き貌にいふ字。

【鬉】 髹に同じ。

【鬋】 タ。都果切 哿
つく、（盡）。

十畫

【鬄】 テキ、チャク。他歷切 錫
㊀うれふ、（憂）。○〔揚雄〕「兼-貝以レ役、往益來レ一」。
㊁のぞく、（除）。○〔揚雄〕「陽-氣傷一、陰無レ救レ瘣、物則平-易」。

【鬇】 ヨウ、ユ。餘封切 冬
かざる、（飾）。

【鬈】 古文の嗟の字。○〔揚雄〕「哭-泣之一-資」。

十一畫

【鬍】 ガウ、ゴウ。午刀切 豪
長くして大いなる貌にいふ字。

【鬆】 ソウ、ス。倉紅切 東
髮の亂れたる貌にいふ字、もつれ。

【鬘】 鬘に同じ。

十二畫

【鬏】 レウ。朗鳥切 篠
ながし、（長）。

【鬐】 レウ。憐蕭切 蕭
細くして長し、ほそながし。

【鬑】 ケウ、ゲウ。巨天切 篠
ながし、（長）。

【鬚】 ラウ、ロウ。郎刀切 蕭
長き貌にいふ字。

【鬠】 ソウ。咨登切 蒸
髮を編む繩。

十三畫

【鬟】 ヂョウ、ノウ。女容切 冬
おほし、（多）。

十四畫

【鬡】 ダウ、ニヤウ。女耕切 庚
髮亂る、かみみだる。

【鬣】 ビ、ミ。民卑切 支
長くして久し。

十五畫

【鬤】 嗟に同じ。

十六畫

【鬢】 デウ、テウ。奴弔切 嘯
柔らかく長し。

【鬣】 チョウ、チュ。丑容切 冬
なほし、（直）。

門部（門）

【門】 ボン、モン。謨奔切 元 （說文）从二二戶一。象形。
㊀外郭に設けたる出入の所、かど。○〔楚辭〕「君之一以九-重」。
㊁すべて物事の出入經由する所の稱、でぐち、いりぐち。○〔荀〕「其莫レ知二一一」。
㊂師の敎へを受くるところ。○〔易〕「同レ一曰レ朋」。
㊃家族、家格、いへ、いへがら。○〔後漢〕「權一請-託」。
㊄正適、よつぎ。○〔周〕「皆謂二之一子一」。
㊅かどを攻む、もんをせむ。○〔左〕「一二於東-閭一」。

〔守門〕 邸門のでいりぐちを護衞す。○〔禮〕「閽-者一レ一之賤-者也」。
〔應門〕 王宮の正門の名。○〔書〕「王出在二一一之內一」。
〔里門〕 ひとむら區域にたてられたるでいりぐち。○〔陸游〕「一一不レ須レ高」。
〔皐門〕 王宮の郭門、又、諸侯の宮邸の外門。○〔詩〕「廼立二一一一」。
〔衡門〕 衡木もてつくりたるでいりぐちにて賤者のかど。○〔詩〕「一一之下可二以棲遲一」。
〔迎門〕 かどぐちにいでて他人のきたるをむかふ。○〔儀〕「主人玄-端、一二于一-外一」。
〔國門〕 周時代の司門の官名、又、くにの區域のでいりぐち。○〔周〕「擊二于一一一使レ養レ之」。
〔寢門〕 寢宮のでいりぐち。○〔禮〕「客至二于一一一」。
〔旌門〕 はたもてつくりたるでいりぐち、又、門闕にあらはす。○〔周〕「爲二帷-宮一設二一一一」。
〔轅門〕 行陣屯營のでいりぐちにて車のながえをたてつらねてつくりたるもん。○〔周〕「設二車-宮一一一」。
〔棘門〕 地名、又、戟をたてつらねてつくりたるでいりぐち。○〔周、註〕「鄭司-農云、一一以レ戟爲レ門」。
〔監門〕 もんばん。○〔周〕「祭-祀之牛-牲繫焉、一一養レ之」。
〔篳門〕 よばの門にて貧者の居をいふ。○〔左〕「一一閨-竇之人」。
〔柴門〕 前に同じ。○〔後漢〕「于レ是一一絕二賓-客一」。
〔除門〕 門庭を掃除す。○〔國〕「門-尹一レ一」。
〔倚門〕 かどぐちにからだをよせかく。○〔戰〕「則吾一レ一而望」。
〔私門〕 私家といふに同じ。○〔戰〕「塞二一一之請一」。
〔將門〕 將帥の家がら。○〔史〕「文聞一一必有將」。
〔席門〕 むしろもてつくりたる貧者の門。○〔南〕「一一常掩」。「一一一」。
〔寒門〕 山の名、又、賤者の家がら。○〔南〕「遊二出一一」。
〔杜門〕 門をふさぐとて外人と交通せざるに用ふる語。○〔史〕「公-子虔一レ一不レ出、已八-年矣」。
〔市門〕 まちのでいりぐち。○〔史〕「布二咸-陽一一一」。
〔天門〕 (い)上帝のいます所の天上の門戶。○〔史〕「蒼-帝行レ德、一一爲レ之開」。(ろ)日月の出入する所、又、天上の戌亥の間。○〔後漢〕「神在二一一一、出-入候-聽」。(は)山の名、又、塔の頂上をもいふ。○〔古今詩話〕「俗言二塔-頂一爲二一一一」。
〔闔門〕 かどぐちに充滿す。○〔史〕「賓-客一レ一」。
〔滿門〕 前に同じ。○〔漢〕「賓-客一レ一」。
〔端門〕 王城の正門。○〔漢〕「謁者持レ戟衞二一一一」。
〔高門〕 地名、又、漢の未央宮の中にありたる殿の名、又、たけたかきもん、又、もんをたかくす。○〔漢〕「謡入請レ間見二一一一」。
〔玉門〕 敦煌郡の西界にある關門の名、又、玉にて飾りたるもん。○〔後漢〕「但願生入二一一關一」。
〔期門〕 勇士の稱。○〔後漢〕「自二一一羽-林之士一、悉令レ通二孝-經章-句一」。
〔黃門〕 すべて禁門は黃色の闥を設くるよりなづく、又、官の名、又、俗に婦を娶るも終身嗣育なきものを稱していふ語。○〔漢〕「龍二一一乘-輿狗-馬一」。
〔橋門〕 國學のもんをいふ。○〔後漢〕「圜二一一一而觀-聽者」。
〔勢門〕 政柄をとる勢力家のこと。○〔舊唐〕「一一子-弟交相酬-酢」。
〔荊門〕 山の名、又、いばらの門。○〔陸游〕「麻縄二滿-籍一一作レ一」。「一二其一一」。
〔閉門〕 かどぐちをあけず、又、口をふさぐ。○〔老〕「塞二其一一」。
〔塞門〕 かどぐちをふさぐ。○〔吳〕「孫-權恨レ之一二一一」。
〔德門〕 とくをつみたる家。○〔孟郊〕「重-榮萃二一一」。
〔一門〕 ひとつのかど、又、一家族。○〔淮〕「百-事之根皆出二一一一」。
〔道門〕 道德のうち。○〔易林〕「遊二-戲一一一」。
〔牙門〕 將軍本營のもん。○〔英雄記〕「拔二其一一一」。

〔候門〕かどぐちにまつ。○〔陶潛〕「稚子—レ—」。
〔素門〕官位名望なき家がら。○〔任昉〕「臣—・—凡流」。
〔沙門〕佛の道を奉ずる僧。○〔瑞應經〕「—・—之爲レ道、舍二妻子一捐二愛欲一也」。
〔桑門〕前に同じ。○〔北〕「光獨曰、見二—・—一」。
〔出門〕家をいで外にゆく。○〔易〕「—レ—同レ人」。
〔風門〕かぜのいづるところ。○〔鮑照〕「既類二—・—礎一」。
〔畢門〕王城路寢門の別名。○〔書〕「立二於—・—之內一」。
〔壘門〕軍營のでいりぐち。○〔詩、疏〕「軍門曰レ和、今謂二之—・—一」。
〔軍門〕前に同じ。○〔史〕「于レ是張良至二—・—一」。
〔和門〕前に同じ、又、軍旗の義にいふ。○〔韓琦〕「晉整二—・—一出二近郊一」。
〔庫門〕くらのいりぐち、又、王宮雉門の外にある門の名。○〔白居易〕「香開酒—・—」。
〔闔門〕門をとざす。○〔後漢〕「—レ—靜居」。
〔閨門〕寢所のいりぐち。○〔禮〕「—・—之內戲而不レ歎」。
〔關門〕門をとざす、又、土地ざかひのもん。○〔杜淹〕「—・—共レ月對」。
〔禰門〕祭門ともいふ禰廟の門。○〔儀〕「筮二于—・—一」。
〔入門〕門のなかにすゝみいる。○〔儀〕「主人揖—レ—右」。
〔雉門〕王宮の門の名。○〔春秋〕「新作二—・—及兩觀一」。
〔法門〕佛法のみち。○〔舊唐〕「顏文銳二意于—・—一」。
〔夾門〕もんの左右にあると。○〔後漢〕「—レ—而伏」。
〔造門〕もんのもとにいたる。○〔史〕「自—レ—追二壁一者因謝焉」。
〔到門〕前に同じ。○〔後漢〕「不三敢復乘レ車—ト—」。
〔詣門〕前に同じ。○〔劉基〕「—レ—謁二朱亥一」。
〔叩門〕かどぐちをたゝきておとづる。○〔陶潛〕「—レ—拙二言辭一」。
〔欵門〕前に同じ。○〔晏子〕「前驅—レ—」。
〔譙門〕門上に高樓をつくりて望むべからしめたるもの。○〔陸游〕「—・—初報鼓三通」。
〔巢門〕前に同じ、又、地名。○〔呂氏春秋〕「乃入二—・—遂有レ夏」。
〔邑門〕村落のでいりぐち。○〔後漢〕「—・—不レ閉」。
〔水門〕みづをみちびきていりぐちをつけたるところ。○〔後漢〕「萬爲開二—・—一」。
〔盛門〕盛大なる家がら。○〔陸機〕「—・—無二再入一」。
〔突門〕城を守るためのもん。○〔後漢〕「將レ令レ守二—・—一」。
〔姦門〕よこしまのみち。○〔後漢〕「開二長—・—一」。
〔儒門〕學者の家がら、又、學者。○〔後漢〕「中世—・—」。
〔師門〕教師のかど、又、星の名。○〔論衡〕「不レ入二—・—、無二緒傳之教一」。
〔豪門〕豪富の家。○〔晉〕「且勿三復取二—・—子弟一」。
〔衰門〕おちぶれたる家がら。○〔干逖〕「—・—少二兄弟一」。
〔貴門〕高位の家がら。○〔南〕「不下爲二—・—一屈上レ意」。
〔勳門〕國家に功勞ある家がら。○〔南〕「君以二一世—・—、而傲二天下國士一」。
〔興門〕繁昌の家。○〔隋〕「—・—之男」。
〔攀門〕城柵などの門をせめとる。○〔舊唐〕「賊急—レ—」。
〔衙門〕政廳のでいりぐち。○〔舊唐〕「—・—未レ開」。
〔闇門〕そとべにあらはれざるでいりぐち。○〔陸游〕「騎馬出二—・—一」。
〔鐵門〕くろがねにてつくりたるもん。○〔蘇軾〕「蒸レ土爲レ城—作レ—」。
〔梵門〕佛寺のもん。○〔李嶠〕「薰修入二於—・—一」。
〔名門〕なだかき家がら。○〔李商隱〕「敘二漢代—・—一」。

一畫

【閁】バツ、メチ。莫轄切 〔黠〕
なゝめに視る、にらむ。

【閄】カツ、カチ。呼八切 〔黠〕
なゝめに視る、のぞく。

【閂】サン、セン。數還切 〔刪〕
門の橫關、くわんのき。

二畫

【𨳇】キウ、ク。居尤切 〔尤〕
うったふ（訟）。

【𨳈】キ。居里切 〔紙〕

かど。

【閃】セン。失冉切 〔琰〕　子豔切 〔豔〕
說文 从二人在二門中一。
㊀門を出づる貌にいふ字、又、うかゞふ（闚）。○〔魏略〕「嘗自于二牆壁門一闚—・—」。
㊁彈避す、おごろきさく、さく。○〔禮、註〕「淰之言—也」。
㊂暫く見ゆ、動きひろがへる、ちらつく、ひらめく。○〔木華〕「蝄像暫曉而—屍」。
㊃ひらめかしむ、ひらめかす。○〔李咸用〕「風—二雁行一疎又密」。
㊄動く貌にいふ字、ひらく。○〔古詩〕「寒鴉—・—前山去」。
㊅傾き佞ふ貌にいふ字、へつらふ。○〔後漢〕「榮納由二於—・—檢一」。
〔騰閃〕はねあがりうごく。○〔韓愈〕「幽歡工—・—」。
〔颭閃〕風をうけてひらめく。○〔元稹〕「—・—才人袖」。
〔倏閃〕たちまちにひらめく。○〔元稹〕「—・—案前燈」。
〔廻閃〕めぐりうごく。○〔梅堯臣〕「曲折競—・—」。

【閅】チン、ヂン。直刃切 〔震〕
のぼる（登）。

【閄】クワク、キャク。和馘切 〔陌〕
身を隱し忽ち出でて人を驚かす聲にいふ字。

三畫

【𨳌】チュ。丑注切 〔遇〕
直ちに開く、ひらく。

【閈】カン。侯旰切 〔翰〕
㊀さとのもん（閭）。○〔左〕「高二其—閎一」。
㊁轉じて、邑里。○〔唐〕「陳亡歸二鄉—・—一」。
㊂かき（垣）。○〔張衡〕「—庭詭異」。
㊃さづ（閉）。
〔同閈〕閭里をひとしくす。○〔南〕「列レ門—レ—焉」。
〔里閈〕さとのもん、又、むらざと。○〔後漢〕「與二光武一同二—・—一」。
〔閭閈〕前に同じ。○〔南〕「—・—鄙人」。
〔邑閈〕前に同じ。○〔唐〕「未レ幾—・—如レ初」。
〔廛閈〕まちのもん、又、まち。○〔唐〕「疏二析—・—一」。
〔關閈〕關門のと。○〔晉〕「—・—不レ開」。
〔城閈〕市街のと。○〔鄭俠〕「鍾子處二—・—一」。

【閉】ヘイ、ハイ。博計切 〔霽〕　ヘツ、ヘチ。方結切 〔屑〕
㊀門戸のしまりをなすために裝置したる具、ちやう。○〔禮〕「修二鍵—一」。
㊁さづ、とざす。
（い）門戸のしまりをなす、ちやうをおろす、しむ、門戸しまりつく、ちやうおろ、しまる。○〔左〕「門已—矣」。
（ろ）おほふ、おほはろ（掩）。○〔書〕「予不三敢—二于天降威用一」。
（は）ふさぐ、ふさがる（塞）。○〔易〕「天地—」。
（に）をさむ、をさまる（藏）。○〔淮〕「萬物—藏」。
㊂弓檠、ゆみだめ、ゆだめ。○〔詩〕「竹—緄縢」。
㊃盛んなる貌にいふ字。○〔博雅〕「——勃々、盛也」。
〔重閉〕きびしくとぢふさぐ。○〔禮〕「必—・—」。
〔啓閉〕ひらくととづると。○〔周〕「閽人以レ時—・—」。
〔開閉〕前に同じ。○〔易、疏〕「—・—相循」。
〔塞閉〕ふさぐ。○〔左〕「勿レ使下有レ所レ—・—湫底上以露中其體上」。
〔幽閉〕ふかくとづ、又、婦人の淫刑。○〔書、傳〕「男子割レ勢、婦人—・—」。

(涷閉) こほりとづ。○[禮]「孟-冬行二春令一、則一一不レ密」。
(凝閉) 前に同じ。○[庾信]「去-冬一一」。
(隱閉) かくれていでず。○[後漢]「輙一一不レ出」。
(潛閉) 前に同じ。○[後漢]「鴻一一著二書十餘篇一」。
(掩閉) おほひとづ。○[後漢]「毋去便自一一」。
(藏閉) かくす。○[晉]「一皆一一」。
(鬱閉) 川流などのふさがりとゞまりて流れざるをいふ。○[晉]「通二一一塡二津梁一」。
(杜閉) ふさぐ。○[劉向]「一二一彝-柾之門一」。
(噤閉) くちをつぐむ。○[劉向]「口一一而不レ言」。
(偃閉) ふさぎおほふ。○[顏延之]「一二一武術一」。

【⿵門夂】 チン、トン。丑禁切 [沁]
門より出入する貌にいふ字、ではいりす。

【⿵門乞】 ゴツ、五忽 ゴチ。切 コツ、胡骨 グチ。切 [月]
さづ、(括)、一說に、もとる、(婞-很)。

【⿵門凸】 テイ、チヤウ。他項切 [迥]
門上の關、くわんのき、とざし。

四畫

【⿵門元】 クワン。古滿切 [旱]
くさり、(鏈)。

【閦】 ショウ、シュ。職容切 [冬]
門の外の方に開くにいふ字、ひらく。

【⿵門屯】 トン、ドン。徒渾切 [元]
門に滿つ、みつ。

【開】 カイ。苦哀切 [灰]
ひらく。
(い)閉ぢたるものをあく、閉ぢたるものあく。○[老]「善閉者無二關-鍵一而不レ可レ一」。
(ろ)張る。○[莊]「一レ口而笑者」。
(は)通ず。○[易、疏]「令下使二一一通一爲上レ亨」。
(に)釋く。○[書]「一二釋無-辜一」。
(ほ)發す。○[禮]「一而勿レ達」。
(へ)陳ぶ。○[漢]「一二陳其端一」。
(と)啓く(智識にいふ)。○[禮]「或一レ予」。
(ち)闢く(土地にいふ)。○[戰]「秦一二阡-陌一」、
(り)はじむ、はじまる、(始)。○[戰]「一二罪於魏一」。
(ぬ)おこす、おこる、(興)。○[荀]「一二其源一」。
(る)花さく。○[梁簡文帝]「桃-花含レ雨一」。
(洞開) 門闔などをひろ〴〵とひらくにいふ語。○[宋]「令レ一二一諸-門一」。
(廓開) 前に同じ。○[西京賦]「爾乃一二一九-市一」。
(廣開) てびろくはじめおこす。○[漢]「一一獻-替路一」。
(闢開) きそひひらく。○[蘇軾]「雪-白鷺-黃也一一」。

【閞】 ケン。輕煙切 [先]
山の名、通じて汧に作る。

【⿵門内】 ズ井、ニ。而睡切 [寘]
内に入る、いる。

【⿵門分】 フン、ホン。敷文切 [文]
闕に同じ。

【⿵門兮】 ケイ、ガイ。胡計切 [霽]
門扉、とびら。

【⿵門及】 キフ、コフ。許及切 [緝]
さわがし、(鬧)。

【閕】 カイ、胡介 ケ。切 [卦] ケイ、胡計 ガイ。切 [霽]
門扇、とびら。

【閌】 カウ。口浪 切 [漾] 丘岡 切 [陽]
㊀高き門の貌にいふ字、又、盛んなる貌にいふ字。○[漢]「一閬-々其寥-廓兮」。
㊁伉に同じ。○[左思]「高-門有レ一」。

【閍】 ハウ、甫盲 ヒヤウ。切 [庚] ハウ、分房 バウ。切 [陽] ベン、名延 メン。切 [先]
㊀宮中の門、又、巷の門。
㊁廟門の名。

【閎】 クワウ、ガウ。戸萌切 [庚]
㊀巷頭の門、ちまたのいりぐち。○[左]「乘レ鞶而入二于一一」。
㊁天上の門。○[漢]「騰二九一一」。
㊂門。○[左]「高二其閈一一」。
㊃門扉を止ざむる門旁の長杙、くひ。○[爾、註]「一長杙卽門-橜」。
㊄ひろし、(寬)。○[禮]「其器圜以一」。
㊅むなし、(虛)。○[莊]「彷-徨-乎馮一大-知入焉、而不レ知二其所レ窮」。
㊆おほいなり、(大)。○[楚辭]「曾一一以迫レ身」。
㊇ふかし、(深)。○[史]「一一廓深-遠」。
㊈敦美なり、あつし、うつくし。○[揚雄]「大-圈一一」。
(深閎) ふかくればいなること。○[柳宗元]「前若茫-洋一一」。
(魁閎) おほいなること。○[韓愈]「枯-槁沈-溺一一一宦-通之士」。

【⿵門丁】 テイ、チヤウ。他項切 [迥]
門上の關、とざし。

【閏】 ジュン、ニュン。如順切 [震]
㊀暦術上にて、一年十二ヶ月の餘分の日子を積みて一ヶ月となせるものの稱、うるふ、三年に一囘五年に二囘、十九年に七囘ありて其の餘分盡く。○[史]「黃-帝起二消-息一正二一一餘一」。
㊁餘分。○[漢]「餘-分一一位」。
㊂正統ならざる天位。○[司馬光]「謂レ秦爲レ一」。
(桀閏) 家さかえ財あまりあること。○[玉箱雜記]「必有二一一一桑富-貴」。
(再閏) にどうるふ月のあること。○[易]「五-歲一一」。
(立閏) うるふ月をさだむ。○[後漢]「一レ一定レ時以成二歲-功一」。
(正閏) うるふなきとしとうるふあるとしと、又、王者の正統と正しからざる王統とにもいふ。○[賈至]「一一一更王」。

【閖】 ヂウ、女九 ニユ。切 [有] ダフ、女洽 ナフ。切 [洽]
門關、くわんのき、とざし。

【閐】 サン、ソン。蘇紺切 [勘]
ふた、(覆-蓋)。

【閑】 カン、ゲン。戸閒切 [刪]
㊀ふせぐ、(防)。○[易]「一レ邪存二其誠一」。
㊁とづ、(閉)。○[易]「日一二輿-衛一也」。
㊂さへぎる、(闌)。○[國]「遠備一レ之」。
㊃のり、(法)、しきり、(限)。○[論]「大-德不レ踰レ一」。
㊄馬闌、をり。○[漢]「龍-馬一一駒」。
㊅梐枑、こまよせ。○[周]「舍則守二王一一」。
㊆おほいなり、(大)。○[詩]「旅-楹有レ一」。
㊇男女の別なく往來する貌にいふ字。○[詩]「桑-者一一一兮」。
㊈ならふ、(習)。○[詩]「遊二于北-園一、四-馬既一」。

㊉動搖す、ゆらゆらす、うごく。○〔詩〕「臨-衝——」。⑪閒に同じ、ひま、しづか。○〔韓愈〕「投レ—置レ散」。

〔帝閑〕王者の馬を養ふ所。○〔蘇軾〕「看下賜二飛-龍一出上——」。

〔御閑〕前に同じ。○〔陳孚〕「百-萬貔-貅羅二——一」。

〔佶閑〕馬などの壯健にしてなれなること。○〔詩〕「旣—且—」。

〔廐閑〕うまや。○〔魏〕「仍主二——一」。

〔給閑〕うまやに對し草などを供給す。○〔唐〕「初稅レ草以—諸—一」。

〔寬閑〕ひろびろとしてしづかなること。○〔韓愈〕「耕二於——之野一」。

【閒】カン、ケン。古閑切　刪

㊀あひだ。

(い)なか、(中)。○〔莊〕「將レ處二夫材不-材之—一」。

(ろ)うち、(裏)。○〔莊〕「攘二臂于其—一」。

(は)すきま、(隙)。○〔史〕「何足レ置二齒-牙之—一」。

(に)あひま、(際)。○〔禮〕「天-地之—也」。

㊁いる、(容)。○〔禮〕「遠-近—二三-席一」。

㊂えらぶ、(簡)。○〔釋名〕「—簡也、事-功簡-省也」。

㊃車のくさびの聲にいふ字。○〔詩〕「—關車之舝兮」。

㊄分別ある貌にいふ字。○〔莊〕「小-知——」。「音」。

〔桑閒〕くはの木のあいだ。○〔禮〕「——濮-上之音」。

〔居閒〕兩者のあひだにたちて盡力す。○〔漢〕「邑中賢-豪—レ—以二十-萬一」。

〔俗閒〕世俗のうち。○〔漢〕「浮二湛——一」。

〔人閒〕前に同じ。○〔史〕「願棄二——事一」。

〔兵閒〕戰爭のなか。○〔後漢〕「初帝在二——一」。

〔田閒〕たのあひだ。○〔後漢〕「每-歲農-時、輒載二酒-肴於——一」。

〔隙閒〕かはのうち。○〔唐〕「帝嘗見二——一」。

〔林閒〕はやしのなか。○〔梁元帝〕「——花欲レ然」。

〔脈閒〕わきのした。○〔盧洪〕「拂-々淸-風生二——一」。

【閒】カン、ゲン。何艱切　刪

㊀やすんず、(安)、やすむ、(息)。○〔國〕「可二以少—一」。

㊁しづか、(靜)、ゆるやか、(寬)。○〔史〕「雍-容—雅」。

㊂ひま。

(い)無事、てすき。○〔左〕「以—二敝-邑一」。

(ろ)無職、あそび。○〔周〕「九日二——民一」。「居」。

(は)休息、やすみ。○〔禮〕「孔子——居」。

(に)寬裕、くつろぎ。○〔文心雕龍〕「復」。

(ほ)空隙、すきま。○〔禮〕「少——願有レ弄二—於才-鋒一」。

㊃ちかごろ、(近)。○〔左〕「—蒙二甲-胄一」。

〔幽閒〕おくゆかしくしづかなること。○〔詩、傳〕「是——貞-靜之善-女」。「事」。

〔心閒〕こゝろやすらかなること。○〔韓愈〕「——無レ事」。

〔等閒〕はなれておなしきこと。○〔孟郊〕「官-情惟—之女一」。

〔貞閒〕たゞしくしづかなること。○〔北〕「妙二簡——一」。

〔優閒〕ゆるゆるとしづかなること。○〔唐〕「南-陽故-人並以二——一自保」。「——」。

〔舒閒〕のびやかにしてせまらざること。○〔唐〕「入頗らかにる。

〔退閒〕すゝんで勤務に服せず身をしりぞきてやすらかにる。○〔宋〕「晚——者十-四-年」。

〔餘閒〕あまりのひま。○〔上林賦〕「朕以二覽-聽—餘—一」。

〔安閒〕しづかにやすらかなること。○〔歐陽修〕「又愛二其俗之——一」。

【閒】カン、ケン。古莧切　諫

㊀あひ、あひだ。

(い)距離、差違、へだたり、ちがひ。○〔淮〕「醜-美有レ—」。

(ろ)混厠、まじり。○〔詩、傳〕「綠—色」。

(は)ひま、㊁の(い)に同じ。

㊁ひま。

(い)空隙、あひ、すきま。○〔莊〕「彼節者有レ—」。「多レ—」。

(ろ)怨隙、なかたがひ。○〔左〕「君-臣狡乘レ—相詿-誤耳」。

(は)際會、をり、しほ。○〔後漢〕「故狂-

㊂少時、しばらく。○〔列〕「立有レ—」。

㊃陰私、ひそか。○〔史〕「請—行言レ之」。

㊄かふ、かはる、(代)。○〔詩〕「皇以—レ之」。

㊅うかゞふ、ねらふ、(俔)。○〔國〕「齊人—二晉之禍一」。

㊆そしる、(誹)。○〔論〕「人不レ—二於其父-母昆-弟之言一」。

㊇まじふ、まじはる、(厠)。○〔左〕「遠—レ親、新—レ舊」。「以—」。

㊈たがふ、たがひに、(迭)。○〔書〕「笙-鏞以—」。

㊉へだつ。

(い)あひを置く。○〔漢〕「—レ歲而給」。

(ろ)はなす、遠ざく。○〔史〕「讒-人—レ之」。

(は)なかたがひを作さしむ。○〔左〕「甚二—王-室一」。

⑪へだたる、(隔)、はなる、(離)。○〔晉〕「且夫—二父之愛一而嘉二其貺一」。

⑫あづかる、(與)。○〔左〕「肉-食者謀レ之又何—焉」。「—」。

⑬いゆ、(瘳)。○〔禮〕「旬有-二-日乃—」。

〔有閒〕(い)やまひいゆ。○〔左〕「晉-侯—レ—」。(ろ)しばらくあひだあること、又、あきまあること。○〔莊〕「彼節者—レ—」。「左-衛大-將-軍一」。

〔少閒〕疾病すこしくいゆ。○〔五〕「疾——以爲二

〔反閒〕敵の隙によりて計謀を用ひ敵をおろかにすること。○〔周、註〕「備二姦-人內-賊及——一」。

〔病閒〕やまひいゆ。○〔論〕「——日、久矣哉由之行レ詐也」。

〔請閒〕すきのまをこひて奏言などすること。○〔漢〕「通奏レ事因—レ—」。

〔離閒〕なかしきなかをとこづりなどして交情をあしからしむ。○〔顏氏家訓〕「—二—骨-肉一」。

〔多閒〕交際のしたしからず隙あるをいふ。○〔左〕「故君-臣—レ—」。

〔讒閒〕交友君臣のあひだなどをそしりてへだつること。○〔晉〕「——因レ之而進」。

〔游閒〕游說して離閒を行ふ。○〔史〕「大-抵爲二其主一—二—於秦一耳」。「—」。

〔伺閒〕すきまをつけねらふ。○〔孔叢子〕「日-夜—二—於殷一」。

〔行閒〕離の計策をおこなふ。○〔五〕「嘗使二諜-者

【閒】カン、ゲン。賈限切　潸

㊀河—は、趙の地の名。○〔戰〕「割二河-—以事レ秦」。

㊁うかゞふ、(覵)。

【閒】カツ、ゲチ。下瞎切　黠

かはる、(代)。

【間】俗の閒の字。

【関】ケツ、ケチ。呼決切　屑

闕——は、門に戸なきこと。

【閔】ビン、ミン。眉隕切　軫

〔說文〕弔者在レ門也。

㊀やむ、やまし、(病)。○〔禮〕「不レ—二有-司一」。

㊁傷み念ふ、いたむ、あはれむ。○〔詩、序〕「婦-人能—二其君-子一」。

㊂つとむ、(勉)。○〔書〕「予惟用—二于天越民一」。

㊃地の名。○〔穀梁〕「伐レ宋圍レ—」。

㊄人の姓。○〔韻會〕「孔-子弟-子—-損」。

㊅人の名。○〔漢〕「鄗-鄉-侯—」。

〔親閔〕うれへにあふ。○〔詩〕「—レ—既多」。

〔憂閔〕うれへいたむ。○〔詩、疏〕「我心則—二—其亡一」。

（借閔）いたみをしむ。○[漢]「此乃有識者之所ニ――一」。

閔 ビン、ミン。眉貧切 [眞] ㊀うれふ(病)。○[詩]「恩レ斯勤レ斯、鬻レ子之―レ斯」。㊁秋の天。

閇 カ、ケ。虚加切 [麻] 門閉づ、とづ。

閕 ガ、ゲ。魚駕切 [禡] 開裂す、さく、又、空虚、うつろ。○[司馬相如]「谽-呀豁-―」。

闢 ヘキ、ヒヤク。便亦切 [陌] ひらく(開)。

閅 フン、ホン。芳文切 [文] 火の氣にいふ字、ほのほ。

五畫

𨴀 チユ。丑注切 [遇] 直ちに開く、ひらく。

𨳿 タウ、ダウ。大浪切 [漾] 門を開かざるにいふ字、とづ。

閘 アフ、エフ。烏甲切 [洽] 開閉し得る門。

閘 カフ、コフ。古盍切 [合] ㊀時々開閉する水門。㊁門を閉づ、とづ。

閙 ダウ、ヂウ。奴敎切 [效] 鬧に同じ。

𨳾 サン、セン。側銜切 [咸] 立ちて待つ、まつ。

閛 デイ、ナイ。奴禮切 [薺] おろか、おとる(劣)。

閛 ハウ、ヒヤウ。披庚切 [庚] 戸を闔づる聲にいふ字。○[揚雄]「開レ之廓-然見ニ四-海一、閉レ之―-然不レ覩ニ其裡一」。

閛 ハウ、ヒヤウ。巨迸切 [迥] 門の開閉、あけたて。

閍 ハウ、ヒヤウ。普耕切 [庚] 門を開閉する聲にいふ字。

閪 イ。余支切 [支] 門白、くろゝ、とざし。

閚 テン、トン。癡廉切 [鹽] 小しく門を開きて候ふ、外を候ひ望む、うかゞふ。○[潘岳]「闚ニ―鑷・葉一」。

𨳲 タン。黨旱切 [旱] ㊀とざし(扂)。㊁くわんのき(關)。㊂門の旁に在る橛、くひ、扉を止どむるに用ふるもの。

閞 關の略字。

閲 ケイ、カイ。古奚切 [齊] 門白、くろゝ。

闞 カン、ゴン。戸感切 [感] かご(門)。

閜 カ、ケ。火下切 [馬] ㊀ひらく(開)、さく(裂)、又、空虚、うつろ。○[史]「谽-呀豁-―」。㊁大杯、さかづき。○[揚雄]「―栖也、其大者謂ニ之――一」。

閜 ア。倚可切 [哿] 門傾く、かたぶく、又、傾き敵ろ、さゝふ、又、相扶持す、よる。○[史]「阮-衡――-砢」。

閝 レイ、リヤウ。郎丁切 [青] 門の上の窓、きりまど。

閞 ヘン、バン。皮變切 [霰] ハン、バン。符萬切 [願] 門の欂櫨、ますがた。○[爾]「―謂ニ之槉一」。

閟 ヒ。兵媚切 [寘] ㊀とづ、とざす(閉)、轉じて、物の隱れて發せざるにも物を隱して發せざるにもいふ字。○[詩]「視ニ爾不レ臧、我思不レ―」。㊁幽深なり、くらし、ふかし、おくふかし、又、神。○[詩]「―宮有レ侐」。㊂つゝしむ(愼)。○[書]「天―ニ毖我成-功所一」。

（永閟）ひさしくとぢてあかず。○[梁]「傷ニ聖-㚑之――一」。
（潛閟）あらはれず。○[水經、註]「地-理――」。
（幽閟）ふかくとざす。○[元稹]「依-然復――」。
（深閟）前に同じ。○[黄滔]「石-林路――」。
（隱閟）あらはれずしてかすかなること。○[韋承慶]「潛ニ九-重一兮―而―」。

閉 ケイ、カイ。呼計切 [霽] 門扉、とびら。

𨳿 扃に同じ、くわんのき。

六畫

閡 ガイ、ゲ。五漑切 [隊] ㊀外より閉づ、とづ、とざす。○[左]「寒-暑隔ニ―於邃-宇一」。「進則―レ山」。㊁とゞまる(止)。○[易、註]「退則困レ險

閡 ガイ、ゲ。五改切 [賄] 藏め塞ぐ、ふさぐ。○[漢]「該ニ-藏萬-物一而雜-陽――種」。

閡 コク。紇則切 [職] とゞこほる(礙)。

閡 カイ、ケ。苦亥切 [賄] ひらく(開)。

閛 ハウ、ヒヤウ。披耕切 [庚] 扉を閉づる聲にいふ字。

閰 カツ、ガチ。胡八切 [黠] 門を開閉する聲にいふ字。

閛 ボウ、ム。莫侯切 [尤] ひらく(開)。

閾 キヨク、ケキ。許逼切 [職] 門阻つ、へだつ。

𨳿 ソウ、ス。先摠切 [董] 門白、くろゝ。

閊 シン。所進切 [震]

㊀澀りて滑かならざる貌にいふ字、しぶる、きしむ。㊁門を守る、まもる。

【閾】キヤウ、カウ。祛王切 陽
キヨク、コク。丘玉切 沃
門の閫閾の木。

【関】俗の關の字。

【開】開の本字。

【閴】キヨク、ケキ。況逼切 職
侐に同じ、しづか。

【閣】カク。古洛切 藥

㊀門扉を止どめさゞる長杙、くわんのき。○〔爾〕「所≡以止≡扉謂≡之——≡」。
㊁樓觀、たかどの。○〔淮〕「接-屋連-—」。
㊂宮殿、ごてん。○〔正字通〕「紫-宸便-殿也、謂≡之——≡」。
㊃禁省、やくしよ。○〔魏〕「取≡宿-衞之臣≡、留≡秘——之吏≡」。
㊄棧道、棧陛、かけはし、はし。○〔後漢〕「棧——絕-敗」。
㊅庖廚、くりや。○〔禮〕「天-子—」。
㊆食庋、ぜんだな。○〔禮〕「大-夫七-十而有レ—」。
㊇庋格、おきだな、又、おきだなありて物を藏むる所、ものおき。○〔晉〕「東≡之高——≡」。
㊈端直なる貌にいふ字、なほし。○〔詩〕「約レ之——」。
㊉蛙の鳴く聲にいふ字、又、羣言の道を害するにいふ字。○〔韓愈〕「蛙-黽鳴無レ謂、———祇亂レ人」。
〔連閣〕ならびたるたかどの、又、たかどのをつらぬ。○〔後漢〕「——臨レ道」。

〔臺閣〕うてなとたかどのと、又、天下の政事を調理する役所。○〔後漢〕「事歸≡——≡」。
〔金閣〕こがねもてかざりたるたかどの。○〔舞鶴賦〕「舞≡飛-容于——≡」。
〔煖閣〕火をたきてあたゝめたるたかどの。○〔白居易〕「——春初入」。
〔複閣〕かさなりたるたかどの。○〔景福殿賦〕「——重-闕」。
〔重閣〕前に同じ。○〔李尤〕「上承≡——≡」。
〔層閣〕前に同じ。○〔蘇頲〕「——有≡餘-淸≡」。
〔舞閣〕まひどの。○〔何晏〕「——思≡陽-春≡」。
〔綺閣〕うつくしきたかどの。○〔唐太宗〕「——黼≡公-侯≡」。
〔山閣〕やまのなかにつくりたるたかどの。○〔蘇軾〕「——醒時月照レ牀」。
〔樓閣〕たかどの。○〔西京雜記〕「——臺-榭」。
〔飛閣〕かけはし。○〔洛陽伽藍記〕「重-樓——」。
〔曲閣〕すぐならざる複道。○〔張說〕「連-廊——」。
〔谷閣〕たにまに架したるかけはし。○〔蜀〕「爲≡遣≡張-魯-爲≡督-義司-馬≡、往≡漢-中≡斷≡絕——≡」。
〔上閣〕たかどのにのぼる。○〔魏、註〕「家-人諸-姊皆—レ—觀レ之」。
〔橋閣〕川流深谷などに架したるはし。○〔魏〕「——破-壞」。
〔殿閣〕ひらどのとたかどのとこと。○〔三輔黃圖〕「未-央-宮有≡——三-十-有-二≡」。
〔霤閣〕わたりどの。○〔華陽國好賢志〕「每升≡降趨≡翔——之下≡」。
〔闕閣〕門觀のこと。○〔洛陽伽藍記〕「見≡其——華-美≡」。
〔禪閣〕佛堂のこと。○〔洛陽伽藍記〕「——虛-靜」。
〔佛閣〕前に同じ。○〔白居易〕「——正嵓-嶤」。
〔梵閣〕前に同じ。○〔白居易〕「——暮-燈時」。
〔觀閣〕ものみたいとたかどのこと。○〔梁孝元帝〕「——相通」。
〔史閣〕歷史の書を藏する所、又、史書を編纂する所。○〔杜甫〕「——行-人在」。
〔珠閣〕たまもてかざりたるたかどの。○〔李白〕「玉-樓——不≡獨-棲≡」。
〔階閣〕きざはし。○〔梁簡文帝〕「——彤-丹」。
〔峻閣〕たかき樓觀。○〔劉基〕「重-樓——拓≡鉛-槧≡」。
〔危閣〕前に同じ。○〔劉長卿〕「隱-々見≡——≡」。
〔池閣〕いけのみぎはのたかどの。○〔李白〕「觴≡淸-冷之——≡」。
〔傑閣〕おほいなるたかどの。○〔韓愈〕「隆-樓——傑-嵬高」。

【閤】カフ、コフ。古沓切 合

㊀門旁の戸、內中の小門、くゞりど、こもん。○〔漢〕「出≡入閨——≡」。
㊁房室宮殿。○〔齊〕「國-王居≡重——≡」。
㊂禁省、やくしよ。○〔唐〕「牽≡諫-官—伏レ—」。
〔後閤〕室後のこもん。○〔晉〕「乃開≡——≡」。
〔閉閤〕ねやのくちの小門をとざす。○〔漢〕「—レ—思レ過」。
〔開閤〕房內の小門をひらく。○〔王昌齡〕「—レ—延≡淸-風≡」。
〔閣閤〕かはづのなく聲にいふ語。○〔陸游〕「荒-池昏-夜蛙——」。
〔迎閤〕おくのいりくちにいでむかふ。○〔後漢〕「至≡當≡—レ—握レ手交レ歡並坐≡」。
〔中閤〕內中の小門。○〔後漢〕「卓使≡布守≡——≡」。
〔內閤〕前に同じ。○〔北〕「嘗晝入≡——≡」。
〔宮閤〕後宮の小門、又、後宮內のことにもいふ。○〔張說〕「決≡事——≡」。
〔房閤〕おくむきのでいりぐちのもん。○〔南〕「諸-——已閉」。
〔幽閤〕さびしきこもん。○〔武平一妾薄命〕「——禽-雀噪」。

【闋】ケツ、ケチ。苦穴切 屑
㊀むなし（空）。
㊁—闃は門戸なきこと。

【[illegible]】ギ。魚爲切 支　キ。古委切 紙
門危し。

【[illegible]】サン、セン。所晏切 諫
竹木を編みて造りたるかき、まがき。

【[illegible]】カン、ゲン。胡簡切 潸
門の閾、しきみ。

【閥】バツ、ボチ。房越切 月

㊀功績、功狀、いさを、くらゐ。○〔史〕「人-臣功有≡五-品≡、明≡其等≡曰レ—、積レ日曰レ閱」。
㊁家格、門地、いへがら。○〔唐〕「子-孫衆-盛、實爲≡名——≡」。
㊂左方の門柱、はしら。○〔家語〕「不レ踰レ—」。
〔官閥〕官位の品等。○〔後漢〕「不レ稱≡——≡」。
〔門閥〕家がら。○〔唐〕「盧立≡——≡」。
〔軍閥〕いくさの功狀。○〔唐〕「錄≡——≡」。
〔勳閥〕王事に功勞ある家がら。○〔宋〕「挺≡少起、——≡」。
〔家閥〕家の功狀。○〔唐〕「孫-琢以≡——≡擢≡累義-昌平-盧鎭-海三-節-度-使≡」。
〔積閥〕功勞をつみかさぬ。○〔唐〕「獻-誠子愬—レ—亦至≡夏-州節-度-使≡」。
〔功閥〕功狀のこと。○〔蔡襄〕「述≡其——之最≡」。

【[illegible]】シ、ジ。時吏切 寘
寺に同じ。

【閦】シユク、ソク。初六切 屋
㊀おほし、もろ〳〵（衆）。
㊁阿—は佛の名。

【[illegible]】シユク、ソク。初六切 屋
おほし、もろ〳〵（衆）。

【閧】コウ、胡貢切 送　カウ、ゴウ。胡絳切 絳
㊀兵の鬭ふにいふ字、たゝかふ、又、たゝかふ聲、さき、さきのこゑ。○〔孟〕「鄒與レ魯—」。
㊁里の中の道。

【閨】ケイ、ケ。古攜切 齊
㊀特立の戸、卽ち通常の門の外に壁などを穿ちて設けたる小戸、ちひさきでいりぐち、古昔は其の形を下は圜

く下は方にして圭に似たるが定めなりきさいふ。○〔左〕「華門—竇之人」。
㊀内中の小門、宮中の小門、こもん。○〔南〕「毎レ夜刺レ—」。
㊁房室、特に婦女の居る房室、へや、ねや。○〔李白〕「安得レ念ニ春——ニ」。
(蘭閨) よきかをりあるへや。○〔劉刪〕「粧罷出ニ——ニ」。
(香閨) 前に同じ。○〔韋莊〕「誰在ニ舊——ニ」。
(深閨) 婦女などの居るおくふかきへや、又、ねやのと。○〔潘登〕「——少婦思ニ征戍ニ」。
(幽閨) 前に同じ。○〔女孝經〕「理ニ於——ニ不レ通ニ於外ニ」。
(天閨) 帝王の配をいふ。○〔宋〕「正ニ位——ニ」。
(空閨) さびしきねや。○〔薛道衡〕「風月守ニ——ニ」「紱帳ニ」。
(寒閨) ひやゝかなるへや。○〔梁武帝〕「——動ニ
(秋閨) さびしき秋の季節のねや。○〔江洪〕「泥在ニ——內ニ」。
(紅閨) あかきいろもてぬりかざりたるねや。○〔王諲〕「君不レ見——少女端正時」。

〓 クワツ、ケチ。苦滑切 [黠]
大いに門を開く貌にいふ字、ひらく。

〓 テツ、丁結切 [屑] シツ、職日切 [質]
テチ。　　　ジチ。
門が閉づ、さゞづ。

閩 ビン、武巾切 [眞] ブン、無分切
ミン。　　　モン。
[文] バン、謨官切 [寒]
マン。
㊀東越の別名、今の福建省の故稱。○〔史〕「——越王無諸」。
㊁古の鳥を養ふ官。○〔周〕「——隷掌下役ニ畜ニ養鳥一而阜ニ蕃教ニ擾之甲」。

〓 ダン、ナン。那含切 [覃]
門人がごもり。

〓 リン。良忍切 [軫]
火の貌にいふ字。

七畫

〓 チク、トク。勅六切 [屋]
もろ／＼(衆)。

閫 コン。苦本切 [阮] 苦悶切 [願]
門限、門橛、志きみ、くひ、又、內外の區限にいふ字。○〔史〕「—以內者寡人制レ之」。
(天閫) 天門の志きみ。○〔漢〕「——決兮地垠開」。
(出閫) 門のそとにいづ。○〔後漢〕「內無ニ——之言ニ」。
(門閫) かどの志きみ。○〔梅堯臣〕「——未ニ嘗履ニ」。

閬 ラウ。來宕切 [漾]
むなし。
(い)空虛なり、うつろ。○〔漢〕「閌——其寥廓兮」。
(ろ)空曠なり、ひろし。○〔莊〕「胞有ニ重——ニ、心有ニ天遊ニ」。
(土閬) 城郭外のからはり。○〔管〕「城外謂ニ之郭ニ、郭外謂ニ之——ニ」。
(崑閬) 崑崙山。○〔鮑昭〕「望ニ——ニ而揚レ音」。

閬 ラウ。里黨切 [養]
㊀爣——は、寬くして明かなる貌にいふ語、ほがらか。○〔王延壽〕「鴻爣炾以爣——」。
㊁人の名。○〔史〕「釐王子惠王——立」。

閬 リヤウ、ラウ。里養切 [養]
蛃に同じ。○〔史〕「蘷罔——」。

閬 ラウ。魯當切 [陽]
門の高きにいふ字、明かにして大いなるにいふ字、高くして大いなる貌にいふ字、たかし、おほいなり、ほがらか。○〔後漢〕「集ニ大微之——ニ」。

閬 タウ、ダウ。徒郎切 [陽]
高き門。

〓 ホ、フ。博古切 [麌]
門。

閭 リヨ、ロ。力居切 [魚]
㊀里門、さとのもん、轉じて、巷里、さと。○〔戰〕「齊桓公宮中女市女——七百」。
㊁周代の制度にて二十五家の稱。○〔禮〕「與ニ其得ニ罪於鄉黨州——ニ」。
㊂一角にして蹄分かれ驢馬に似たる獸の名。○〔山海經〕「縣雍之山其獸多ニ——麋ニ」。
(門閭) でいりぐちの門。○〔禮〕「仲夏——毋レ閉」。
(比閭) 五家の組合と二十五家の組合と。○〔周〕「令ニ五家爲レ比、使ニ之相保ニ、五比爲レ—、使ニ之相授ニ」。
(踦閭) 道にあたる門の一扇はひらき一扇は閉ぢて一人は外にあり一人は內にあるをいふ。○〔公羊〕「二大夫出相與——而語」。
(倚閭) 里門にからだをよせかく。○〔戰〕「則吾—レ—而望」。
(表閭) 里門に特行あるものゝ名をかきあらはして賞美す。○〔後漢〕「刻レ石—レ—」。
(旌閭) 前に同じ。○〔唐〕「—其—ニ」。「—ニ」。
(里閭) むらの門、又、むらざと。○〔唐〕「孝聞ニ——」。
(邑閭) 前に同じ。○〔周〕「而懸ニ於——ニ」。
(鄉閭) 前に同じ。○〔管〕「修ニ——之什伍ニ」。
(異閭) 居を殊にす。○〔韓愈〕「所レ入遂—レ—」。
(衝閭) まちのもん、又、まち。○〔戰〕「使ニ鄭周之女、粉レ白墨レ黑立ニ于——ニ」。
(坊閭) 前に同じ。○〔唐〕「剽ニ剟——ニ」。
(閈閭) 船のへさき。○〔方言〕「船首謂ニ之——ニ」。
(田閭) 村落。○〔白樂天〕「豐歲閑ニ——ニ」。
(飛閭) 船の屋根。○〔明元傳信記〕「今江東呼ニ船屋一爲ニ——ニ」。

〓 コク。胡沃切 [沃]
門を開閉する聲にいふ字。

〓 ヨウ、ユ。余腫切 [腫]
門に入る、とほる、くゞる。

〓 クワク、カク。呼麥切 [陌]
㊀門を開閉する聲にいふ字。
㊁門を開く、ひらく。

閮 テイ、チヤウ。唐丁切 [青]
門の中。

閮 テイ、ヂヤウ。待鼎切 [迥]
門の外に啓らくにいふ字、ひらく。

〓 サ、セ。所稼切 [禡]
ひらく(開)。

〓 キク、コク。居六切 [屋]
㊀さへぎる(閑)、さゞづ(閉)。
㊁兩手にて物を捧ぐ、さゝぐ。

閱 エツ、エチ。弋雪切 [屑]
㊀けみす。
(い)ひさつぐに數ふ、つまびらかに察す、かぞふ、みろ、志らぶ、あらたむ。○〔後漢〕「明ニ版籍一以相數——」。
(ろ)えらぶ(簡)。○〔書〕「克—ニ乃邑一謀レ介」。
(は)ふる(歷)。○〔漢〕「——ニ天下之義理一多矣」。

㊁車馬軍實をあらたむること、兵士の訓練を行ふこと。○〔周〕「致二大━一」。
㊂事功の經歷を重ねたること、てがら。○〔史〕「積レ日曰レ━」。
㊃家格、門地、いへがら。○〔漢〕「不レ繫二閥━一」。
㊄いろ（容）。○〔詩〕「我躬不レ━」。
㊅あたふ（稟）。○〔老〕「自レ古及レ今其名不レ去、以━二衆甫一」。
㊆賣買上の價を減ずること。○〔荀〕「銀價不レ爲二折━一、不レ市」。
㊇長く直くして屋際にまでとほりたる桷、たるき。○〔爾〕「桷直而遂謂二之━一」。
（伐閱）經歷功勞。○〔漢〕「又無二━━功勞一」。
（銳閱）年數をしらぶ。○〔隋〕「大索━━」。
（門閱）門地功勞。○〔唐〕卿固素有二━━一哉」。
（簡閱）えらぶ。○〔歐陽修〕「將由二━━之不一レ精」。
（校閱）はかりけみす。○〔魏〕「━二━守宰一」。
（陳閱）ならべしらぶ。○〔魏〕「━二━皮肉一」。
（鳩閱）あつめしらぶ。○〔魏〕「親其━二━史篇一、訪二購經論一」。
（披閱）ひらきしらぶ。○〔唐〕「━━皆遍」。
（敦閱）てあつくしらぶ。○〔潘尼〕「━━二古訓一」。
（擴閱）深く究めしらぶ。○〔梁昭明太子〕「━二━六經一」。
（探閱）さぐりもとめてけみす。○〔李羣玉〕「玉籍恣━━」。
（省閱）けみしみる。○〔蘇軾〕「當レ置二座右一以時━━」。

【閦】シユク、ソク。昌六切 屋
佛の名。

【門+癸】ケツ、ケチ。苦穴切 屑
門戸なきにいふ字。

八畫

【閵】リン。良刃切 震　レン。郎甸切 霰
㊀鳥の名。○〔說文〕「━似二雉鴝一而黃」。
㊁ふむ（踐）。○〔漢〕「所二━轢一」。

【門+非】ヒ、ビ。乎微切 微
扉に同じ。

【門+豖】トク。都木切 屋　タク、竹角切 覺　トク。切
水の名。○〔山海經〕「━水出焉」。

【門+豕】シ。詩止切 紙
門。

【門+官】クワン、グワン。胡官切 寒
㊀深閨、おくのしまりぐち。
㊁ごてんのもん（闌）。

【閶】シヤウ、サウ。尺量切 陽
㊀いざなふ、みちびく。○〔史〕「━者倡也」。
㊁天上の門。○〔漢〕「游二━闔一」。

【闛】タウ。他郎切 陽
鼓の聲にいふ字。○〔司馬法〕「不レ過二━━一」。

【閷】殺に同じ。

【門+法】クワツ、クワチ。苦活切 曷
さほし（遠）、ひろし（廣）。

【門+幸】ギヨ、ゴ。偶擧切 語
小さき門。

【閫】コン。苦本切 阮
宮中の門。

【門+戔】セツ、士列切 屑　ゼチ。切　サツ、查鎋切 黠　セチ。切
城門の版、いた。

【閹】エン、英廉切 鹽　オン。切　エン。衣檢切 琰
㊀宮門の開閉を掌る賤者、宮廷に奉仕する小臣、君主に近侍せる小吏、もんばん、こもの、そばづかひ、古昔は男の勢なくして精の閉づる者を用ひしといふ。○〔漢〕「━尹之告」。
㊁陽氣の盛んなること。○〔管〕「行二夏政一━」。
（小閹）閹豎、卽ち、宮中につかふる宦者。○〔國史補〕「上命二━━一排二出之一」。

【門+委】井。於委切 紙
門高し。

【閜】ア。烏可切 哿
門傾く、かたぶく。

【閿】ブン、モン。無分切 文
目を低れて視る、みる。

【門+咅】フウ、フ。敷救切 宥
門を開く、あく。

【門+沾】セン、ソン。蚩占切 鹽
う（護）。

【門+奇】キ、ケ。虛宜切 支
━━虛は、壁隙、かべのすきま。

【門+奇】キ、ギ。渠羈切 支
㊀かつ（克）。㊁しるし（信）。
㊂きる（截）。

【閻】エン、オン。余廉切 鹽
㊀里中の門、又、里中。○〔史〕「莊生雖レ居二窮━一」。
㊁ちまた（巷）。○〔博雅〕「━謂二之衖一」。
㊂開く。○〔揚雄〕「━苦開也東齊開レ戶謂二之━苦一」。
（食閻）傍よりすゝめいさなふこと、他より事をしむくること。○〔揚雄〕「南楚、凡己不レ欲レ喜而傍人說レ之、不レ欲レ怒而旁人怒レ之、謂二之━━一、或謂二之慫慂一」。
（閭閻）邑里のこと。○〔史〕「守二━━一者、食二梁肉一」。

【閻】セン、徐廉切 鹽　ゼン。切　エン。以冉切 琰
㊀鬼━は、地名。○〔左〕「戰二於鬼━一」。
㊁晉の地名。○〔左〕「爭二━田一」。

【閻】エン。以贍切 豔
㊀好くして長し、みめよし、ながし。
㊁衣の長き貌にいふ字。○〔史〕「眇━易」。
㊂美しき色にいふ字、うるはし。

【閼】アツ、アチ。烏割切 曷
㊀とどむ、とどまる（止）、ふさぐ、ふさがる（塞）。○〔漢〕「今臣雍━不レ得レ聞」。
㊁人の名。
（擁閼）ふさぎとどむ。○〔史〕「又━━不レ通」。
（夭閼）おさへふさぐ、又、夭折して長せず。○〔劉峻〕「━━紛綸」。
（單閼）太歲卯の方にあるとし。○〔淮〕「━━之歲」。
（提閼）水流をせきとむるところ。○〔漢〕「超二水門━━一」。
（淤閼）水流のふさがりて通ぜざること。○〔唐〕「久━━」。
（塡閼）水のみちつかへて流れざること。○〔楊侃〕「利二其━━一」。
（抑閼）おさへふさぐ。○〔蔡邕〕「風━━而播レ駭」。

【閼】ヨ、オ。依倨切 御

――輿は、ゆるやかなる貌にいふ語。○[漢]「窮-元――-輿」。

【閼】エン。烏前切 先　――氏は、匈奴にて皇后の號、又、匈奴にて妻の稱。○[史]「後有二所レ愛――氏一」。

【閡】ガイ、ゲ。五愛切 隊　木を以て門を遮る、やらいをなす。

【閽】コン。呼昆切 元　㊀門の開閉を主どる賤隷、特に宮門を守る者、もんばん。○[禮]「――者守レ門之賤-者也」。㊁宮門、ごてんのもん。○[正字通]「詣レ闕自愬者、曰レ叩レ―」。
[帝閽]帝王の禁門。○[舊唐]「―・―九-重」。
[內閽]宮中の門を守る者。○[舊唐]「―・―八-人」。
[守閽]前に同じ、又、禁門を守衛す。○[劉基]「梁-棟玉-殿虎―レ―」。

【閾】ヨク、于逼 キヨク、忽域切 職　イキ。切 ケキ。切　門下の横木の內外の限をなすもの、しきみ、門限、轉じて、內外の區限にいふ字。○[論]「不レ履レ―」。
[踰閾]門のしきみをふみてそとにいづること。○[左]「見二兄-弟一不レ―レ―」。
[履閾]門のしきみの上をふむ。○[論]「行不レ―レ―」。
[踐閾]前に同じ。○[禮]「不レ―レ―」。
[柣閾]門のしきみ。○[爾]「―謂二之―一」。
[閫閾]前に同じ。○[劉峻]「踏二其――一」。
[門閾]前に同じ。○[權德輿]「涉二――一而躋二堂-皇一」。
[闔閾]闔門のこと。○[潘尼]「內-諮二――一」。
[城閾]城門のこと。○[曹植]「仰-瞻二――一」。
[闈閾]宮門の中。○[江淹]「晉-薦二――一」。
[戸閾]門戸のしきみ。○[貢師泰]「或限-若二―・―一」。

【閿】ブン、モン。無分切 文　閺に同じ。

【閧】カウ、ゴウ。胡降切 絳　㊀ちまた、(陌)。㊁そなはる、(備)。

【閍】ハウ、ボウ。博毛切 豪　褒讃す、ほむ。

【閧】コウ、ク。匣紅切 東　たゝかふ、(鬪)。○[呂氏春秋]「相與私-―」。

【閑】カン、ゲン。何閒切 刪　ならふ、(習)、のっとる、(法)。

【閜】コ、ク。公戸切 麌　獨扉の門、かたとびらのかど。

九畫

【閼】アツ、エチ。乙鎋切 黠　門を開閉する聲にいふ字、又、門扉の開くにいふ字、ひらく。○[韓愈]「抉レ門呀-拗――」。

【闄】エイ、於迎 庚 イン。於吾 軫 ヤウ。切 切　門の中。

【闍】セイ、シヤウ。所景切 梗　禁署、やくしよ。

【闃】ケキ、苦臭 クワク、求獲 陌 キヤク。切 カク。切　居る人なくして靜かなるにいふ字、しづか、ひっそり。○[易]「―其无レ人」。
[寥闃]さびしくしづかなるをいふ。○[杜甫]「人-閒夜―・―」。

[虛閼]前に同じ。○[房千里]「視二其門一、夜寂-寥――」。
[空闃]前に同じ。○[唐次]「變二今辰之――一」。
[幽闃]前に同じ。○[曹伯啓]「南-塘――似二山-林一」。

【闋】ケツ、ケチ。苦穴切 屑　門戸なし、かどぐちなし。

【闄】エウ。於小切 篠　へだつ、(隔)、さへぎる、(遮)。

【閛】カウ。呼郎切 陽　㊀ひらく、(開)。㊁かうばし、(香)。

【閺】ブン、モン。無分切 文　目を低れて視る、みる。

【闟】ユ。羊朱切 虞　うかゞふ、(窺)、のぞむ、(望)。○[左思]「距二遠-關一以闚――」。

【闆】クワ、ケ。空媧切 麻　クワイ、ケ。苦乖切 佳　ひらく、(開)。

【闖】チユン。敕尹切 軫　中門。

【閭】ハン、ヘン。匹限切 潸　門中を視る、うかゞふ。

【闇】アン、オン。烏紺切 勘　㊀とざ、(閉)。○[論衡]「其爲二閉――一甚矣」。㊁くらし。
(い)ひかりなし、あかりなし。○[後漢]「陰――連-日」。
(ろ)明かならず。○[莊]「受二其黮-――一」。
(は)知すくなし。○[易、疏]「微-昧――弱」。
㊂くらがらしむ、おほふ、くらます、又、くらくなる、かくろ、くもろ、くらむ。○[韓]「陰二――其主一」。
㊃くらがり、やみ。○[禮]「孝-子不レ服レ―」。
㊄夜。○[禮]「祭二其――一」。
㊅日月の蝕。○[周]「五曰、―」。
㊆愚昧、おろか。○[易、疏]「明者不レ諮二於――一」。
[幽闇]くらし、又、其のところ。○[後漢]「臥二於――一」。
[狂闇]狂直にして暗愚なること。○[後漢]「臣東野―――」。
[頑闇]固陋にしておろかなること。○[後漢]「臣山-藪――」。
[鄙闇]いやしくおろかなること。○[後漢]「況我――之世一」。
[昏闇]あきらかならず。○[後漢]「吾生二於――一」。「光武」。
[愚闇]暗愚なること。○[淨住子]「――滅則慧」。
[尫闇]柔弱にしておろかなること、又、其の者。○[晉]「顧二茲――一」。
[懦闇]前に同じ。○[韓]「君―而―」。
[退闇]おろかなる者をしりぞく。○[魏]「升レ明―レ―」。
[微闇]うすぐらし。○[北]「室-中――」。
[至闇]極めてくらし。○[荀]「其忠-意――也」。
[淺闇]あさはかにしてあきらかならず。○[論衡]「無二――之毀一」。
[昭闇]くらきをあきらかにす、又、おろかなる心をさとくあきらかならしむ。○[傳毅]「誰-能――」。
[駑闇]才智劣りてあきらかならず。○[荀勗]「非二臣――所一レ宜レ忝-竊一」。

【闇】アン、オン。鄔感切 感　隱晦の貌にいふ字、くらし。○[禮]「――然而日章」。

【闇】アン、エン。乙減切　豏
隙暗、くらし。

【闇】イン、オン。於錦切　寑
大水の至るにいふ字。

【闇】イン、オン。於金切　侵
だまる（默）。
〔諒闇〕王者の冢宰に信任して默して言はず喪を治むるをいふ。○〔禮〕「高宗——三年」。

【闇】アン、オン。烏南切　覃
喪のいほり。

【⿵門畐】ヘキ、ヒヤク。匹亦切　陌
ふさぐ（塞）。

【⿵門貝】ケツ、ゲチ。胡結切　屑
門を開閉する聲にいふ字。

【⿵門若】ザヤク、ニヤク。女略切　藥
ひく（牽）。

【闈】井。羽非切　キ。吁韋切　微
㊀宮中の小門、こもん。○〔史〕「攻ニ—與ニ大-門一」。
㊁宮中。○〔後漢〕「正ニ位宮—一」。
〔禁闈〕王宮の門、又、王宮のうち。○〔後漢〕「在ニ—一有ニ密-靜之風一」。
〔皋闈〕前に同じ。○〔宋〕「禮-容塞ニ——一」。
〔端闈〕前に同じ。○〔張衡〕「立ニ金-人于——一」。
〔宮闈〕前に同じ。○〔晉〕「陰-教洽ニ于——一」。
〔庭闈〕前に同じ。○〔張九齡〕「從レ此拜ニ——一」。
〔掖闈〕前に同じ。○〔盧藏用〕「東-西——備ニ忠-誠之美一」。
〔門闈〕宮中のでいりぐちのもん、又、東南を門と稱し西北を闈と稱す。○〔班固〕「入ニ侍-君之——一」。
〔彤闈〕あかくぬりたる宮門。○〔庾信〕「交-戟映ニ——一」。
〔重闈〕いくへにもかさなりたる宮門。○〔景福殿賦〕「複-閣——」。
〔壼闈〕宮中の門、又、內廷中のこと。○〔荀勗〕「內-訓隆ニ——一」。
〔東闈〕東宮の門、一に儲闈ともいふ。○〔白居易〕「願-盼入ニ——一」。

【⿵門致】チ、ヂ。直利切　寘
緻の義に同じ。○〔揚雄〕「—無レ閉」。

【⿵門限】カン、ゲン。下簡切　潸
門のきざみ。

【闉】イン。於眞切　眞
㊀城門外の副城、ついぢ、之に循ひ曲がりて城門に入る、又、城內の重門、もん。○〔詩〕「出ニ其——闍一」
㊁ふさぐ（塞）。○〔周〕「掌-蜃掌下斂ニ互-物蜃-物一、以共中——壙之蜃上」。
㊂まがる（曲）。○〔莊〕「——肢支-離」。
〔城闉〕城中の重門　○〔鮑照〕「驅レ馬越ニ——一」。
〔重闉〕前に同じ　○〔楊炯〕「烽-火集ニ——一」。
〔乘闉〕城門の上にのぼる。○〔尉繚子〕「—レ—發レ機」。
〔登闉〕前に同じ。○〔顏延之〕「—レ—訪ニ川-陸一」。
〔郊闉〕城郭の門、○〔楊嗣復〕「旌-旆出ニ——一」。
〔帝闉〕王城の門。○〔蘇軾〕「香-火通ニ——一」。

【闊】クワツ、クワチ。苦活切　曷
コツ、クチ。苦滑切　月
㊀あらし（疏）。○〔漢〕「方-略疏—」。
㊁さほし（遠）。○〔淮〕「迴——泳レ末」。
㊂ひろし（廣）。○〔南〕「埛-的太—」。
㊃ゆるし（寬）。○〔漢〕「—ニ其租-賦一」。
㊄てがるし（簡）。○〔後漢〕「文-禮簡—」。
㊅うさし。
（い）まはりどほし（迂）。○〔後漢〕「迂-—不レ審」。
（ろ）久しく相見ざるにいふ字、ひさし。○〔後漢〕「閉何—」。
㊆そむく（乖）さほざかる（隔）。○〔詩〕「于嗟—兮」。
㊇つさめくるしむ（勤-苦）。○〔詩〕「死-生契-—」。

【闋】ケツ、ケチ。傾雪切　屑
㊀事已みて門を閉づるにいふ字、轉じて物事の訖止せるにいふ字、やむ、をはる。○〔後漢〕「不レ—ニ時-月一」。
㊁特に、音樂の終訖にいふ字、をはる。○〔禮〕「以ニ樂—一」。
㊂やすむ（息）。○〔詩〕「君-子若届、俾ニ民-心—一」。
㊃つく（盡）。○〔漢〕「物-物卬レ市、日—亡レ儲」。
㊄むなし（空）。○〔莊〕「瞻ニ彼—者一、虛-室生レ白」。
〔宴闋〕酒宴やむ。○〔曹松〕「——銀-瓶一-半敲」。

【闋】ケイ、ケ。睽桂切　霽
やむ（止）。○〔禮〕「卒レ爵而樂—」。

【⿵門建】ケン、巨展切　銑　ケン、其偃切　阮
ゲン。切　コン。切
門を拒ぐ木、くわんのき。

【⿵門重】クツ、コチ。許勿切　物
小さき門。

【闌】ラン。洛干切　寒
㊀さへぎる（遮）。○〔戰〕「有ニ河-山以—之一」。
㊁やらい、てすり、おばしま、らんかん、ふきり。○〔史〕「門-—之廝」。
㊂兵架、やりかけ、かたなかけ、○〔左註〕「車-上兵-—」。
㊃たけなは。
（い）晩きを、なかばすぎ。○〔文選〕「白-露凝兮歲將レ—」。
（ろ）盡きなんさするを、をはり。○〔蔡琰〕「更深夜—」。
（は）稀なるを、まばら。○〔古辭〕「拭レ眼瞻ニ星—一」。
（に）色の褪めたるを、華の衰へたるを。○〔李頎〕「無レ令ニ芳-草—一」。
（ほ）集會の坐客半は散じ去りたるを。○〔史〕「酒—」。
㊄みだり（妄）。○〔史〕「文-吏繩以爲ニ—ニ出財-物於邊-關一」。
㊅符傳（わりふ）なくして門關などに出入するを。○〔漢〕「—ニ入尚-方掖-門一」。
㊆手鐲の類、うでわ。○〔元氏掖庭記〕「日-日人獻ニ翠-腕—一」。
〔宴闌〕さかもりたけなはなること。○〔虞世南〕「高-—將レ—」。

【闌】ラン。郞旰切　翰
彰に同じ、あや（文）。

【闍】ト、ツ。當孤切　虞
城門外の臺、うてな、城上の重門、もん。○〔詩〕「出ニ其闉—一」。
〔城闍〕前に同じ。○〔周伯琦〕「書-閣壓ニ——一」。

【閉】ヘイ、ハイ。博計切　霽
㊀さざし、さぼそ（扃）。
㊁門のいりくち。

十一畫

【闒】タフ、テフ。託甲切　洽

鐘鼓の聲にいふ字。

【⿵門晏】エン。伊甸切 [霰] おそし(晩)。

【⿵門益】アイ、エ。烏懈切 [卦] さわがし(閙)。

【闐】テン、デン。待年切 [先] ㊀盛んなり。○[博雅]「—-—盛也」。㊁鼓の聲にいふ字、車馬の聲にいふ字、羣がり行く聲にいふ字。○[左思]「車-馬雷駭、轟-轟—-—」。㊂みつ(滿)。○[史]「賓-客—レ門」。
〔喧闐〕聲のかまびすしくみつること。○[皮日休]「其聲亦—-—」。
〔駢闐〕前に同じ。○[孟郊]「漢-棧罷二—-—一」。

【⿵門貴】キ。九利切 [寘] —-池は、地の名。○[漢]「至二—-池西一」。

【⿵門話】タ、テ。陟駕切 [禡] 爵を箕く、おく、一説に、こらす(懲)。

【闑】ゲツ、ゲチ。魚列切 [屑] ケイ、ケ。九芮切 [霽] キ。居胃切 [寘] 門中の梱、志きみ、轉じて內外の志きりの義にもいふ字。○[漢]「—以-內、寡-人制レ之」。
〔門闑〕もんの志きみ。○[皮日休]「縱-橫礙二—-—一」。
〔闞闑〕前に同じ。○[梅堯臣]「若二登履一乎—-—一」。
〔拂闑〕もんの志きみのちりはこりをはらひとる。○[禮]「君入レ門、介—レ—」。
〔根闑〕門のくさびと門の志きみと。○[李翺]「中-貫當二—-—一」。

【闒】タフ、ドフ。徒盍切 [合] ㊀樓上の戸、やぐらのいりぐち、一説に、門樓の屋、やぐらのやれ。○[司馬法]「鼓-聲不レ過レ—」。㊁ささむら。○[博雅]「—里也」。

【闒】タフ、託盍 トフ。切 ラフ、力盍 ロフ。切 [合] —-茸は、(い)下賤、いやし。○[漢]「在二—-茸之中一」。(ろ)駑頓、にぶし。○[楚辭]「雜三斑-駁與二—-茸一」。

【闒】タフ、トフ。託合切 [合] 鐺—は、鐘鼓の聲にいふ語。

【闓】カイ、ケ。苦亥切 [賄] ㊀ひらく(闢)、さく(解)。○[漢]「今欲三與レ漢—二大-關一」。㊁おもふ(欲)。

【闓】カイ、丘哀 ケ。切 [灰] カイ。丘蓋 切 [泰] ㊀弓を射る時に右手の指に掛けて弦を持する具、ゆがけ。㊁あきらか(明)。

【闔】カフ、ゴフ。胡臘切 [合] ㊀門の雙扇、とびら。○[禮]「修二—-扇一」。㊁とづ(閉)。○[易]「—レ戸謂二之坤一」。㊂さま(苫)。○[周]「茨-牆則剪—」。㊃總合す、すべあはす、すぶ。○[漢]「今或至二—-郡而不レ薦二一-人一」。㊄天上の門。○[漢]「游二閶—一」。㊅なんぞ、ざる(盍)。○[莊]「—胡嘗視二其良、既爲二秋-柏之實一」。
〔開闔〕あけひろぐると閉づると。○[老]「天-門—-—能無レ雌」。
〔闢闔〕前に同じ。○[林俊]「乾坤互—-—」。
〔戸闔〕門戸とざされたること、又、門扇のこと。○[唐]「—-—不レ閉」。
〔門闔〕前に同じ。○[公羊]「齒著二乎—-—一」。
〔閶闔〕天門のこと。○[屈平]「倚二—-—一而望レ予」。
〔排闔〕門扇をひらく。○[禮]「—レ—說二屨於戸-內一者」。
〔披闔〕前に同じ。○[唐]「—レ—不レ設レ備」。
〔城闔〕志ろの門。○[唐]「—-—外卽戰-場」。
〔閭闔〕風のこと。○[王僧孺]「—-—始吹」。

【⿵門焦】ケウ。馨幺切 [蕭] 門の大いに開けたるにいふ字。

【⿵門倉】シヤウ、サウ。七羊切 [陽] 門を開閉する聲の和かなるにいふ字。

【⿵門烏】ヲ、ウ。烏古切 [麌] 門。

【闕】ケツ、クヮチ。袪月切 [月] ㊀宮城の標表(志るし)として宮門外の兩旁に設けられたる兩個の臺、上に樓觀を作る、門觀、象魏。○[詩]「挑兮達兮、在二城—一兮」。㊁門。○[淮]「天-阿者羣-神之—」。㊂宮城、朝廷。○[漢]「長-戟指レ—」。㊃かく。(い)少くす。○[左]「欲レ—二剪我公-室一」。(ろ)供へず。○[左]「—而爲レ罪」。(は)毀る。○[呂氏春秋]「子弗二敢—一」。(に)除く。○[周]「亡者—レ之」。(ほ)足らず備はらず。○[呂氏春秋]「其所二以知識一甚—」。(へ)合はず。○[漢]「圍レ城爲二之—一」。(と)竭きて空しきにいふ字。○[禮]「三-五而—」。(ち)過つ。○[詩]「袞-職有レ—」。㊄かけ。(い)空隙、すき。○[左]「以當二其—一」。(ろ)過疵、きず。○[左]「謀レ事補レ—」。㊅—-翟一に—-狄は、羽飾ある后衣。○[周]「褕-狄—-狄」。㊆距—は、良劒の名。○[荀]「鉅—辟閭」。㊇玄—は、北極の山の名。○[漢]「遺二屯-騎於玄—一」。㊈塞の名。㊉人の姓。
〔游闕〕游車の闕車を補ふもの。○[左]「楚-子使二潘-黨率二—-—四十乘一、從二唐-叔一、以爲二左-拒一、以從二上-軍一」。
〔宮闕〕王宮の門觀、又、王宮のこと。○[史]「原-野氣成二—-—一」。
〔朝闕〕前に同じ。○[李中]「懶-慣辭二—-—一」。
〔宮闕〕前に同じ。○[歐陽修]「雖レ云レ侍二—-—一」。
〔宸闕〕前に同じ。○[蔡襄]「拜二恩—-—一」。
〔天闕〕上帝の宮門、又、星の名、又、帝王の宮闕。○[史]「兩-河—-—閒爲二關-梁一」。
〔鳳闕〕むかしの宮闕の名、後世帝王の宮闕を稱するに用ふる語。○[漢]「左二—-—一、右二神-明一」。
〔觀闕〕宮城などの門觀。○[王勃]「—-—長安近」。
〔門闕〕前に同じ。○[易]「良爲レ山、爲二徑-路一、爲二小-石一、爲二—-—一」。
〔詣闕〕王宮にいたる。○[漢]「—レ—上レ書」。
〔魏闕〕王者の門。○[莊]「心居二—-—之下一」。
〔絳闕〕あかくねりたる王宮の門觀。○[文心雕龍]「敷二奏—-—一」。
〔朱闕〕前に同じ。○[吳都賦]「—-—雙立」。
〔丹闕〕前に同じ。○[唐太宗]「爽-氣浮二—-—一」。
〔亡闕〕うしなひて備はらぬ。○[舊唐]「實多レ所二—-—一」。
〔趨闕〕王宮にいたる。○[韓愈]「閒-道—レ—」。
〔赴闕〕前に同じ。○[晉]「老-幼—レ—」。
〔殘闕〕くづれかけてそなはらず。○[後漢]「前-義理—-—」。
〔頽闕〕前に同じ。○[蘇過]「塞二牆-垣之—-—一」。
〔犯闕〕宮闕にあたす。○[五]「契-丹—レ—」。

（崇闕）高大なる門觀。○〔繁欽〕「築二雙圓之――一」。
（京闕）みやこの王宮。○〔李白〕「我浮二黃河一去二――一」。
（荒闕）くづれかけてそなはらず。○〔陸機〕「制度――」。
（睽闕）はなれそむく。○〔陳子昂〕「――且會」。
（壞闕）かけたるを補ひみたす。○〔韓愈〕「選二大夫士之子弟未レ爵命一者、以塞二員――一」。

【闕】ケツ、クワチ。其月切 月
ほる（掘）、うがつ（穿）。○〔左〕「―レ地及レ泉」。

【闛】タウ、ダウ。徒郎切 陽
高き門。

【闖】チン、トン。丑禁切 沁 チン。丑甚切 寢 癡林切 侵
〔説文〕馬出レ門貌、从二馬在一レ門中一。
❶頭を出だす貌にいふ字。○〔公羊〕「開レ之則――然公子陽生也」。
❷うかゞふ（覘）。○〔韓愈〕「儒門雖二大啓一、姦首不レ敢――」。

【［門孫］】セン。之兗切 銑
門を開閉するにきしらざるを。

【［隹門］】シユン。子閏切 震
すぐる（英）。

【闋】ケツ、ケチ。苦穴切 屑
さゞまる（止）、をはる（終）。

十一畫

【闙】ケイ、カイ。康禮切 薺
門を開く、ひらく。

【闘】トウ、ツ。都豆切 宥
俗の門の字。

【闘】トウ、ヅ。大透切 宥
よぶ（呼）。

【闚】キ。去隨切 支 窺睡切 寘
〔説文〕謂二傾レ頭門中視一也、从二門規一、讀若レ聲。
小しく視る、竊かに觀る、うかゞふ、のぞく。○〔易〕「―觀利二女貞一」。

【闛】タウ、ダウ。徒郎切 陽
盛んなる貌にいふ字。

【闛】タウ。吐郎切 陽
鼓の聲にいふ字。○〔漢〕「鏗鎗――鞈」。

【閶】シヤウ、サウ。蚩良切 陽
天の門。○〔漢〕「西馳二――闔一」。

【［門孰］】
塾に同じ。

【關】クワン、ケン。古還切 刪
❶門戸をとざし持つ横木、くわんのき、さざし、門牡、門の要會。○〔老〕「善者無二鍵――一而不レ可レ開」。
❷閉塞す、さゞつ、ふさぐ、さざす。○〔淮〕「城郭不レ――」。
❸國境に設けたる門、行旅物貨の出入をとりしまるに設く、せき、せきしよ、又、渡津、宿驛其の他要害の處に出入をとりしまるに設けたる門の稱。○〔易〕「至日閉レ――」。
❹墓門、はかのもん。○〔周〕「及レ墓、嘑レ啓レ――陣レ車」。
❺出入を司どる處。○〔素問〕「腎者胃之――」。
❻要會、界限、しめくゝり、しきり。○〔錢起〕「一擧過二賢――一」。
❼戾機、からくり。○〔後漢〕「施レ――設レ機」。
❽さほる（通）。○〔書〕「――石和鈞」。
❾つらぬく（貫）。○〔漢〕「括レ髮―レ械」。
❿あづかる（與）。○〔穀梁註〕「――二與婚事一」。
⓫かゝる（係）。○〔易註〕「不レ――二六二之義一」。
⓬いる（入）。○〔書傳〕「盡――二於律一」。
⓭わたる（涉）。○〔漢〕「升少好レ學多二――覽一」。
⓮うがつ（穿）。○〔禮〕「―レ轂而轢レ輪者」。
⓯よる（由）。○〔漢〕「大學者賢士之所レ――也」。
⓰もさむ（索）。○〔史〕「因レ巫爲二主人――飲食一」。
⓱まうす（白）。○〔漢〕「進退得レ――二其忠一」。
⓲腹中に呼吸する氣のをさまるところ、臍に近しといふ。○〔荀悅中鑒〕「鄰レ臍三寸謂二之――一、――二藏呼吸一以受二四氣一」。
⓳寸口（みやくどころ）と尺澤の間さ。○〔史〕「少陽初――一分」。
⓴鳥の鳴く聲にいふ字。○〔詩〕「――雎鳩」。
（間關）（い）路のけはしくしてめぐりめぐれる貌にいふ語、又、人の幾たびとなく艱難に會ふにいふ語。○〔後漢〕「越二河冀――一」。（ろ）車のくさびの聲にいふ語。○〔詩〕「――車之牽兮」。
（門關）司門司關の職、又、もんをとざす、又、もんとせきと。○〔周〕「――用二符節一」。
（抱關）門のばんにん。○〔孟〕「――撃柝」。
（輕關）せきの税をおもくとりたてず。○〔國〕「――易レ道」。
（距關）關門を塞ぎて出入せしめず。○〔史〕「―レ―毋レ內」。
（超關）門のくわんのきをあぐ。○〔唐〕「――拔山」。
（機關）からくり。○〔鬼谷子〕「口者――也」。
（天關）星の名。○〔星經〕「牽牛神一名二――一」。
（鄉關）ふるさと。○〔張説〕「何處是――」。
（僻關）僻門といふに同じ、學者のなかま。○〔黃庭堅〕「結髮闕二――一」。
（古關）むかしのせき。○〔陸游〕「雲重――傳二夜柝一」。
（塞關）國ざかひのせき。○〔左〕「孟仲之子殺二諸――之外一」。
（內關）からだの內部。○〔中論〕「猶二――之疾一」。
（五關）からだのうちの耳目舌鼻身をいふ。○〔新論〕「先敵二――一」。
（扃關）門戸のくわんのき。○〔白居易〕「門戶無二――一」。
（荒關）あれくづれたるせき。○〔許棠〕「――無二守吏一」。

【闗】ワン、エン。烏關切 刪
弓を彎く、ひきしぼる、ひく。○〔孟〕「越人―レ弓而射レ之」。

【闞】カン、コン。苦濫切 勘
のぞむ（望）。

【［門翏］】ケウ。古了切 篠
等を降殺す、そぐ、くだす。

【闑】ゲツ、ゲチ。魚列切 屑
門のくひ。

十二畫

【［門畫］】クワク、カク。忽麥切 陌
❶開く。❷物を破る、やぶる。

【［門壹］】エツ、エチ。一結切 屑
ふさぐ（塞）。

【［門爲］】井。章委切 紙
ひらく（開）。○〔國〕「―レ門與レ之言皆不レ踰レ閾」。

【［門爲］】クワイ、ケ。枯懷切 佳 クワ、

ケ。空媧切 〔麻〕
門の邪なること。

【⿵門黑】ゴク。五克切 〔職〕
とづ（閉）。

【⿵門黃】クワウ、ワウ。枯光切 〔陽〕 シウ、シユ。比終切 〔東〕
門の闕、とざし。

【闞】カン、コン。苦濫切 〔勘〕
㊀のぞむ（望）、みる（視）。○〔嵇康〕「俯二ー海-湄一」。
㊁魯の邑の名。○〔左〕「叔-孫昭-子如ㇾー」。
〔窺闞〕うかゞひのぞむ。○〔韓愈〕「毎下窺二屋山一ーー上」。

【⿵門虓】カン、コン。虎檻切 〔豏〕
虎の吼ゆる聲にいふ字、虎の怒れる貌にいふ字。○〔詩〕「ー如二虓-虎一」。
〔闞々〕たけき貌、又、虎のほゆる聲にいふ語。○〔獨孤及〕「吼怒ーー」「順二爵-制一」。
〔哮闞〕獸のいかりほゆるにいふ語。○〔晉〕「ーーー」

【⿵門敢】カン、ゲン。胡監切 〔陷〕 カン、コン。虎覽切 〔感〕
犬の聲にいふ字、又、獸の怒れる聲にいふ字。

【⿵門華】クワ、ケ。呼瓜切 〔麻〕
門を開く。

【⿵門焦】セウ。茲消切 〔蕭〕
水中に生ずる一種の木、色黑くして文あり、卽ち、烏文木（こくたん）の類。○〔王會編〕「夷用二ー-木一」。

【闟】キフ、コフ。許及切 シフ。色入切 〔緝〕
㊀てぼこ（鋋）。○〔史〕「執二ー-戟一者」。
㊁はこ（函）。○〔漢〕「鳳-凰ー-戟」。
㊂住立する貌にいふ字、たゞずむ。○〔管〕「ー-然止瞋-然視」。
㊃安定の意にいふ字、やすむ。○〔史〕「ー-然更始」。
㊄さゞ（闔）。○〔韓愈〕「ーーー屋摧ㇾ霤」。

【闒】タフ、トフ。敵盍切 〔合〕
㊀谷の名、地の名。
㊁ー茸は、あしくおさろ、いやし（猥-劣）。○〔司馬遷〕「在二ー-茸之中一」。

【闠】クワイ、エ。胡對切 〔隊〕 キ。求位切 〔寘〕
㊀市の外門、轉じて市。○〔張衡〕「通ㇾ闤帶ㇾー」。
㊁みち。○〔博雅〕「闤、ー、道也」。
〔闤闠〕市の門、又、まち。○〔唐〕「周二旋ー-ー一」。
〔囂闠〕繁華なるまち。○〔義井記〕「化二ー-ー一爲二闠-敝一」。
〔煩闠〕わづらはしきまち。○〔文同〕「抱ㇾ病出二ー-ー一」。
〔茈闠〕市街。○〔晁補之〕「腳嬾厭二ー-ー一」。

【闡】セン。昌善切 〔銑〕 セン。稱延切 〔先〕
ひらく。
（い）開く、あく。○〔漢〕「紹ㇾ天ー-繹者」。
（ろ）あらはす、あらはる（顯）、あきらか（明）。○〔易〕「微ㇾ顯ーㇾ幽」。
（は）おほいなり（大）。○〔書傳〕「當三ー二大周-公之大-訓一」。
（に）ひろむ、ひろまる（廣）。○〔史〕「ー二幷天-下一」。
〔光闡〕あきらかにあらはす。○〔晉〕「ー二ー徽-風一」。
〔翼闡〕たすけてひらきあらはす。○〔晉〕「其塗可三ー而ー一」。
〔丕闡〕おほいにあきらかなり。○〔宋〕「顯-明ーー」。
〔昭闡〕あきらかにあらはる。○〔宋〕「于ㇾ時ーーー」。
〔恢闡〕おほいにひろむ。○〔夏侯湛〕「用ーニー我令-業一」。
〔禎闡〕めでたき祥瑞。○〔謝莊〕「彰二江-關之ーー一」。
〔朗闡〕ひらきひろむ。○〔梁簡文帝〕「ーニー佛-寺一」。
〔遐闡〕遠大なること。○〔牛弘〕「今皇-猷ーーー」。

【闚】ケイ、ケ。口圭切 〔齊〕
小しく視る、うかゞふ。

【闉】イン。伊申切 〔眞〕
重なる門。

十三畫

【闧】ス井。夕醉切 〔寘〕
門の偏、もんのかたく。

【⿵門暑】カウ、コウ。呼 切 〔絳〕
直視す、みつむ。

【闢】ヘキ、ビヤク。房益切 〔陌〕
亦、辟に作る。
ひらく。
（い）開く。○〔易〕「其動也ー」。
（ろ）避く。○〔周〕「凡外-內命-夫命-婦、出-入則爲二之ー一」。
〔翕闢〕閉づるとひらくと。○〔易〕「夫坤其靜也翕、其動也ー」。
〔闔闢〕前に同じ。○〔易〕「一-闔一-ー謂二之變一」。
〔開闢〕ひらく。○〔劇秦美新〕「ー-ー以來未二之聞一也」。
〔墾闢〕土地の荒蕪をきりひらく。○〔後漢〕「由ㇾ是ー-ー倍多」。
〔疏闢〕水のながれをひらき通ず。○〔元〕「兩經二ー-ー一」。
〔洞闢〕ひろぐとひらく。○〔三朝聖政錄〕「令下ー二-ー諸-門一、無上ㇾ有二壅-蔽一」。
〔廣闢〕前に同じ。〔李濬〕「四-門ーー」。
〔排闢〕おしやりてひらく。○〔聞見後錄〕「孟-子ー而ーㇾ之、可ㇾ謂ㇾ醇矣」。
〔判闢〕わかれひらく。○〔王績〕「兩-儀ーー」。
〔軒闢〕狹小ならず。○〔蘇舜欽〕「公-樑-度ーー」。
〔剪闢〕くさむらなどをきりひらく。○〔陸游〕「ー二ー荊-榛一盡」。

【⿵門辟】ヘキ、ヒヤク。匹辟切 〔陌〕
ながる（流）。○〔爾〕「溪ーー流-川」。

【⿵門璽】テン。澄運切 〔先〕
市の門。

【⿵門盍】サフ、ソフ。悉盍切 〔合〕
とづ（閉）。

【闣】タウ。丁浪切 〔漾〕
うかゞふ（闚）。

【闣】タウ。他郎切 〔陽〕
㊀鼓の聲にいふ字。
㊁盛んなる貌にいふ字。

【⿵門詹】エン、オン。余廉切 〔鹽〕
廟の門。

【⿵門詹】ケン。丘檢切 〔琰〕
門屋、やれ。

【⿵門詹】セン。昌豔切 〔豔〕
視る貌にいふ字。

【⿵門詹】ケン。去劍切 〔豔〕
小しく戸を開く、うかゞふ。

【⿵門鄉】キヤウ、カウ。許亮切 〔漾〕
㊀門の響。㊁門の頭、ほとり。

㊂廂の區、まど。㊃兩階の閒。○〔左〕「肅肅階―」。

【闀】キヤウ、カウ。許兩切 [養]
前條の㊀の解に同じ。

【闤】クワン、戶關切　ワン、烏還切 [刪]　ゲン。エン。
㊀市の門、轉じて市。○〔張衡〕「通レ―帶レ闠」。㊁みち（道）。○〔博雅〕「―闠、道也」。
〔通闤〕まちのかき、又、まち。○〔蘇軾〕「飛宇臨ニ―・―ニ」。
〔鄽闤〕まち。○〔李白〕「萬商羅ニ―・―ニ」。
〔市闤〕前に同じ。○〔王惲〕「最好風烟近ニ―・―ニ」。

【⿵門昷】ヲン。烏昆切 [元]
門の扇、とびら。

【闥】タツ、タチ。他達切 [曷]
㊀門內、又、門屏。○〔詩〕「彼姝者子、在ニ我―ニ兮」。㊁宮中の小門、轉じて、宮中。○〔漢〕「不レ出ニ房―ニ」。
〔禁闥〕王宮の門、又、王宮のうちをもいふ。○〔漢〕「出ニ入―・―ニ」。
〔黃闥〕前に同じ。○〔後漢、註〕「禁門曰ニ―・―ニ」。
〔紫闥〕前に同じ。○〔陳〕「神飛ニ―・―ニ」。
〔帝闥〕前に同じ。○〔潘岳〕「入ニ侍―・―ニ」。
〔宮闥〕前に同じ。○〔後漢〕「布ニ滿―・―ニ」。
〔皇闥〕前に同じ。○〔曹嘉〕「入侍ニ于―・―ニ」。
〔階闥〕帝王の宮中をいふ。○〔崔駰〕「入司ニ―・―ニ」。
〔閨闥〕閨閣のと。○〔魏文帝〕「嬖風靡ニ于―・―ニ」。
〔門闥〕宮中の大小の門。○〔班固〕「―・―洞開」。
〔側闥〕側面の小門。○〔後漢〕「張讓等率ニ常侍敵十人ニ、持レ兵竊自ニ―・―ニ入伏ニ省中ニ」。
〔闈闥〕王宮中の小門、又、王宮のうちのとにもいふ。○〔三輔黃圖〕「―・―宮中小門也」。
〔殿闥〕前に同じ。○〔潘尼〕「徘ニ徊―・―ニ」。

【⿵門建】ケン、ゴン。巨偃切 [阮]
門を拒ぐ木、くわんのき。○〔西京賦〕「上ニ飛―ニ而仰觀」。

【⿵門睪】エキ、ヤク。余益切 [陌]
門を開く、ひらく。

十四畫

【⿵門廌】セン、ゼン。在甸切 [霰]
門次、かどなみ。

【⿵門爾】ビ、綿婢切 [紙]　デイ、乃禮切　ナイ。[薺]
ミ。
せまし（褊狹）、一に曰ふ、よわし（弱）。

【⿵門黑】クツ、コチ。詐勿切 [物]
小さき門。

十六畫

【⿵門歷】レキ、リヤク。狼狄切 [錫]
開らく。

十七畫

【⿵門霝】レイ、リヤウ。郎丁切 [青]
門の上の小窗、こまど。

【⿵門縣】セン。旨沇切　ケン。擊兗切 [銑]
門を開閉するにきしらざると、一に曰ふ縷の十絃なるにいふ字。

【⿵門龠】ヤク。以灼切 [藥]
とざし、くわんのき。

十九畫

【⿵門䜌】ラン。洛干切 [寒]
妾に宮掖に入るを、みだりに入る。

阜部（阝）

【阜】フウ、ブ。房九切 [有]
㊀をか。（い）大陸、くが。○〔爾〕「大陸曰レ―」。（ろ）土山、つちやま。○〔詩〕「如レ山如レ―」。㊁おほいなり（大）。○〔書〕「―成ニ兆民ニ」。㊂こゆ（肥）。○〔詩〕「駟鐵孔―」。㊃さかんなり（盛）。○〔詩〕「火烈具―」。㊄おほし（多）。○〔詩〕「爾殽既―」。㊅長ず。○〔國〕「助ニ生―ニ也」。㊆山の名。
〔山阜〕やまとをかと。○〔孫綽〕「結而爲ニ―・―ニ」。
〔堆阜〕こだかきつちやま。○〔唐〕「地不レ和、―・―出」。
〔昌阜〕さかえてさかんなり。○〔左〕「韓氏其―ニ于晉ニ乎」。「若矣」。
〔繁阜〕前に同じ。○〔晉〕「又生育―・―之道自」
〔蕃阜〕前に同じ。○〔宋〕「百物―・―」。
〔殷阜〕前に同じ。○〔晉〕「草樹―・―」。
〔岡阜〕こやま、をか。○〔夏侯湛〕「覓歷ニ―・―ニ」。
〔丘阜〕前に同じ。○〔淮〕「故―・―不レ能レ生ニ雲雨ニ」。
〔高阜〕たかき岡。○〔宋〕「敵分ニ二冢ニ據ニ―・―ニ」。
〔長阜〕ながくつづきたる岡。○〔孫綽〕「帶ニ―・―倚ニ茂林ニ」。
〔香阜〕香界ともいふ、佛寺のと。○〔江總〕「息レ舟候ニ―・―ニ」。

【阝】偏旁の阜の字。

二畫

【⿰阝十】シフ。寔入切 [緝]
―邡は、漢の縣の名。

【⿰阝刀】テウ。都聊切 [蕭]
山の穴。

【阞】ロク。盧則切 [職]
㊀地の脈、すぢ。○〔周〕「凡溝逆ニ地―ニ、謂ニ之不行ニ」。㊁餘數、のこり、又、分數、はした。○〔周〕「以ニ其國之―ニ爲ニ之藏ニ」。

三畫

【阠】シン。息晉切 [震]　踈臻切 [眞]
陵の名、をか。

【阡】セン。倉先切 [先]　倉甸切 [霰]
㊀田間の南北の通路、みち、一說に、東西の通路。○〔史〕「開ニ―陌ニ」。㊁墓の道。○〔杜甫〕「新―絳水遙」。㊂芊に同じ、密茂せる貌にいふ字。○〔楚辭〕「遠望兮―眠」。
〔陌阡〕田間のみち。○〔曹植〕「不レ識―與レ―」。
〔荒阡〕あれはてたる田間のみち。○〔沈約〕「―・―亦交互」。
〔古阡〕ふるくよりある田間のみち。○〔劉長卿〕「秋草蕃花覆ニ―・―ニ」。

【阢】ゴツ、ゴチ。五忽切 [月]　ギ。語韋切 [微]
土を戴ける石山。

【⿰阝几】グワイ、ゲ。五回切 [灰]
けはし、たかし（崔）。

【阣】ギツ、ゴチ。魚乙切 [質]
屹に同じ、山の貌にいふ字。

【阣】カイ。居代切 [隊]
けはし、さがし（陵）。

【阤】チ、ヂ。丈爾切 [紙]

㊀少しく崩る、くづろ、又、やぶる、(毀)、又、おつ、(落)。○[周]「聚不二崩一、而物有レ所レ歸」。㊁きし、(崖)、さか、(阪)。○[周]「輪已庫則於レ馬終古登レ―也」。

【阤】シ。施是切 紙　タ、待可 ダ。切 哿　やぶる、(壞)。○[後漢]「綱紀頽―」。

【阤】イ。演爾切 紙　陁に同じ。

【阤】タ、ダ。唐何切 歌　陀に同じ。○[史]「登二陂―之長阪一」。

四畫

【阪】キフ。訖立切 緝　階等、はしごのきだ、級に通じ作る。

【陎】俗の陰の字。

【阦】俗の陽の字。

【阧】トウ、ツ。當口切 有　崖壁の峭絶なるにいふ字、けはし、そばだつ。

【阨】アイ、エ。烏懈切 卦　㊀隘に同じ、せまし。○[左思]「邦有二湫―一而跧跼」。㊁隘道、せまきみち。○[史]「閉レ關據レ―」。

【阨】アク、ヤク。乙革切 陌　阸に同じ。○[孟]「―窮而不レ憫」。

【阩】ショウ。書蒸切 蒸　のぼろ、のぼす、(登)。

【阪】ハン、ホン。甫遠切 阮　㊀澤障、山脅、地勢傾きて險しき處、つつみ、さか。○[詩]「瞻二彼―田一」。㊁反に同じ、そむく。○[荀]「―二爲先聖一」。

(峻阪) けはしきさか。○[漢]「帝馳下二―一」。

(嶒阪) 前に同じ。○[新論]「下二―一而不二跌墜一者」。

(升阪) さかにあがり行く。○[詩、箋]「言二其雖レ至「如レ―一」。

(上阪) 前に同じ。○[窩戚]「黃犢―レ―且休息」。

(山阪) やまのけはしきところ、やまさか。○[詩、疏]「與二友生一伐二木於―一」。

【阪】ハン、ベン。部版切 潸　つゝみ、(陂)。

【陔】カイ、ケ。火哀切 灰　敠―は笑ふ聲にいふ語。

【阫】ハイ、ベ。蒲枚切 灰　かき、(牆)。

【阬】カウ、キヤウ。客庚切 庚　㊀大いなる岡。㊁あな、(坎)、いけ、(池)、ほり、(塹)、たに、(壑)、すべて地のほれてうつろなる處の稱。○[莊]「在レ―滿レ―」。㊂ほれてうつろなる處に入るゝを、あなにす。○[史]「秦王之二邯鄲一、諸嘗與二王生一趙時母家一、有二仇怨一皆―レ之」。

(金阬) こがねのあらがねをほりとるあな。○[唐]「弛二邑州―禁一」。

(瀋阬) みぞ。○[法苑珠林]「無レ有二―一」。

【阬】カウ。居郎切 陽　たか、(阜)、一說に、うみ、(海)。○[揚雄]「陳二衆車於東―一」。

【阬】カウ。苦浪切 漾　㊀門。㊁あな、(坑)。

【阭】イン。余準切 軫　たかし、(高)。

【阭】セン、粗兗 ゼン。切　エン。以轉切 銑　たかし、(高)。

【阭】アイ、旅罪 エ。切 賄

【阥】ヒヨク、ヘキ。芳逼切 職　地裂く、さく。

【陕】ケツ、ケチ。古穴切 屑　陵阜の突、あな。

【阮】ゲン、ゴン。虞遠切 阮　山の名、關の名、國の名、人の姓。

【阮】ゲン、グワン。愚袁切 元　古の原の字。

【阯】シ。諸氏切 紙　もとゐ、(基)。○[漢]「頗立二產業基―一」。

【阰】ヒ、房脂 ビ。切 支　婢吏 切 寘　南楚の山の名。○[屈平]「朝搴二―之木蘭一兮」。

【阤】ショ、ソ。象呂切 語　東西の牆、かき。

【阱】セイ、疾郢 ジヨウ。切 梗　疾政 切 敬　穽に同じ、あな、おとしあな。○[周]「塞レ―杜レ擭」。

【防】ハウ、バウ。扶方切 陽　㊀つゝみ、(隄)。○[左]「町二原―一」。㊁志きり、(限)。○[穀梁]「艾レ蘭以爲レ―」。㊂ついたて、(屏)。○[顏延之]「踟蹰清―密」。㊃物事をふせぐに設けたるものゝ稱、そなへ、おほひ、まもり、さゝへ、ふせぎ。○[戰]「有二長城鉅―一、足二以爲レ塞」。㊄ふせぐ。(い)さゝふ、(障)。○[國]「不レ―レ川」。(ろ)おほふ、(蔽)。○[楚辭]「上葳蕤而―レ露」。(は)まもる、(衞)。○[淮]「陰以―レ雨」。(に)そなふ、(備)。○[易]「豫―レ之」。(ほ)さゝむ、(禁)。○[禮]「與レ知レ―」。㊅たぐひ、(比)、一說に、あたる、(當)。○[詩]「百夫之―」。㊆房に通じ用ふ。○[漢]「生二殿―內中一」。

(豫防) 災害などの起こらぬやうに前よりふせぐ。○[易]「君子以思レ患而―二―之一」。

(隄防) 土を築きて水を防ぐもの、つゝみ。○[禮]「修二利―一」。

(雍防) ふさぐ、とゞむ。○[漢]「―二―百川」。

(邊防) 國境のかため。○[唐]「―之制」。

(漏防) 水のもれいづるつゝみ。○[論衡]「救二―一者」。

(遏防) ふせぐ、又、ふせぎ。○[晉]「宜レ示レ有二―一」。

(關防) 關門、せきしよ。○[韓愈]「蜀險豁二―一」。

(法防) 法律禁令のと。○[後漢]「――繁多」。

(重防) たいせつなる防禦。○[續漢書]「國之―」。

(猜防) 相和せず、そねみて警備す。○[晉]「其相―如レ此」。

〔屯防〕軍隊をあつめとゞめて敵を禦ぐ。〇〔唐〕「超於過將之——者」。

【防】 ハウ、バウ。符況切 漾
坊に同じ。

【阤】 チ、ヂ。直尼切 支
さか（陵-阪）。

【阳】 陽に同じ。

【阴】 陰に同じ。

五畫

【⿰阝句】 ク、コ。況羽切 麌
はなる（離）。

【⿰阝玄】 ケン、ゲン。戸吠切 銑
あな（坑）。

【⿰阝壬】 テイ、チヤウ。丑貞切 庚
㊀をか（丘）。㊁のむ（吞）。

【⿰阝叵】 ハ、バ。蒲禾切 歌
陂に同じ。

【阨】 アク、ヤク。於革切 陌
㊀ふさがる（塞）、かぎる（限）、へだたる、（阻）、さまたぐ（礙）、又、險艱の地。〇〔史〕「乘二其——塞地-利一」。
㊁あやふし（危）、せまる（迫）、なやむ、（艱）、又、困難の事。〇〔漢〕「百-姓仍遭二凶——一」。
〔阻阨〕山水などのけはしくへだたること。〇〔潘尼〕「巽二山-河之——一」。
〔隘阨〕狹きこと。〇〔蜀〕「——不レ當レ拒」。
〔狹阨〕けはしくせまきこと。〇〔唐〕「且地——」。
〔險阨〕（い）山路などのせまりたるをいふ。〇〔釋名〕「所-在之地——」。（ろ）人氣などのゆるやかならざること。〇〔馬衍〕「悲二世俗之——一」。

【阸】 アイ、エ。烏懈切 卦
けはし（險）、ふさがる（塞）、へだたる、（阻）、せまし（狹）、又、險阻の地。〇〔史〕「擁二兵阻——一」。

【阹】 キヨ、コ。去魚切 魚
山谷に依りてつくりたる牛馬の圈、をり。〇〔司馬相如〕「江-河爲レ——」。

【阺】 テイ、タイ。丁禮切 薺
㊀さか（阪）、をか（陵）。〇〔後漢〕「復助レ躡拒二隴——一」。
㊁山の傍の堆くして墮落せんとするにいふ字。〇〔揚雄〕「響若二——隤一」。

【⿰阝氏】 チ、ヂ。直梨切 支
㊀をか（陵）、さか（阪）。㊁をさむ（理）。㊂くだる（下）。

【阺】 テイ、タイ。丁計切 霽
さか（阪）。

【阻】 ショ、ソ。側呂切 語
㊀けはし（險）、かたし（難）。〇〔易〕「德-行恆簡、以知レ——」。
㊁へだつ、へだたる（隔）。〇〔詩〕「道——且長」。
㊂なやむ、なやます（艱）。〇〔書〕「黎-民——レ饑」。
㊃やむ、さゞむ（止）。〇〔呂氏春秋〕「故非レ之弗二爲——一」。
㊄はゞむ（沮）。〇〔子華〕「氣——而志奪」。
㊅うたがふ（疑）。〇〔左〕「狂-夫——レ之」。
㊆よる（依）。〇〔呂氏春秋〕「——レ邱而保レ威」。
㊇たのむ（恃）。〇〔左〕「——レ兵安レ忍」。
㊈要害地、難所、又、困難場、難事。〇〔詩〕「罙二入其——一」。
㊉さきり、かぎり、へだて、さまたげ。〇〔漢〕「南-山天-下之——也」。
〔險阻〕なやみ、又、けはし。〇〔晉〕「地-形——」。
〔深阻〕極めてさがしきこと、又、いたくへだたりたること。〇〔杜甫〕「乾-坤此——」。
〔遐阻〕遠くへだたれること。〇〔晉〕「道路——」。
〔天阻〕天然の險阻。〇〔南〕「潼-關——」。
〔猜阻〕うたがひ、又、疑ふこと。〇〔陸游〕「大-度——」。
〔疑阻〕前に同じ。〇〔陸贄〕「人懷二——一」。
〔妨阻〕さまたげ、障害。〇〔九經〕「及レ有二——一、無二復動-移一」。
〔峻阻〕たかくけはし。〇〔劉歆〕「高-蹈——」。
〔嶮阻〕前に同じ。〇〔魏文帝〕「仰二高-岡之——一」。
〔艱阻〕くるしみ、なやみ。〇〔梁武帝〕「人-事——」。

【阻】 ショ、ゾ。莊助切 御
行くを正しからず。

【阼】 ソ、ズ。昨誤切 遇　サク、ザク。疾各切 藥
㊀祭祀の主人たる者の其の場に臨むに升り行く階、堂の東方に設けられしものをいふ。〇〔禮〕「踐レ——臨二祭-祀一」。
㊁天子の即位して祭祀を行ふに東階より升らるゝより寶位の義にいふ字。〇〔韓愈〕「皇-帝即レ——」。
〔涖阼〕帝王の位にのぞみ君主の事を行ふ。〇〔禮〕「成-王幼不レ能レ——」。

【阽】 エン、オン。余廉切 鹽
あやふし（危）。〇〔漢〕「安有下爲二天-下——危一者如中是」。

【阽】 テン。都念切 琰
くだす、くだる（下）、おとす、おつ（墮）。〇〔屈平〕「——二余身一而危-死兮、覽二余初一其猶未レ悔」。

【阾】 レイ、リヤウ。力井切 梗
古文の嶺の字。

【阿】 ア。於何切 歌
㊀大陵、をか。〇〔司馬相如〕「順レ——而下」。
㊁曲隅、くま。〇〔楚辭〕「陽之——」。
㊂水崖、きし。〇〔穆天子傳〕「天-子飲二河-水之——一」。
㊃基趾、もと。〇〔張衡〕「流-目眺二夫衡-——一」。
㊄かたく～の高きこと。〇〔詩〕「陟二彼——-丘一」。
㊅よる（倚）。〇〔書〕「不レ惠二——衡一」。
㊆むれ（棟）、のき（簷）。〇〔儀〕「賓升二西-階一、當レ——東-面致レ命」。
㊇美なる貌にいふ字。〇〔詩〕「隰-桑有レ——」。
㊈媚び従ふ、曲げて比す、よたがふ、くみす、おもねる。〇〔左〕「——二下-執-事一」。
㊉ちかし（近）。〇〔史、註〕「——近也」。
（十一）細繒、きぬ。〇〔淮〕「著二——-錫一」。
（十二）呵に通じ用ふ。〇〔老〕「唯之與レ——、相去幾何」。
〔中阿〕丘陵の中。〇〔周〕「菁-々者莪、在二彼——一」。
〔四阿〕四柱の屋、あづまや。〇〔周〕「殷人——重-屋」。
〔太阿〕劍の名。〇〔戰〕「常-淵——」。
〔山阿〕山のくま、山の曲がり入りたる處。〇〔楚辭〕「採二薇——一」。
〔巖阿〕巖の曲がり入りたる處。〇〔晉〕「養二粹——一」。
〔偏阿〕正しからずかたよること。〇〔後漢〕「司-察——」。
〔迎阿〕人の心をむかふ。〇〔唐〕「卒-——」。

（氷阿）みぎは。○〔穆天子傳〕「天子飮ニ於河ー之ーニ」。
（潤阿）たにの曲がりたる處。○〔馬相如〕「尋レ員「入ニーーニ」。
（孄阿）月の神、一に曰ふ古の御を善くしたりし人の名。○〔司馬相如〕「ーー爲レ御」。
（陪阿）鬼の名。○〔釋文〕「ーー神名也」。
（谿阿）たにがはのきし。○〔沈炯〕「百丈之石枕ニーーニ」。

【阿】ア。倚可切 哿
猗に同じ、柔き貌にいふ字。○〔詩〕「ー儺其枝」。

【阿】チク。烏谷切 屋
人を呼ぶに冠らせ用ふる字。○〔古詩〕「家中有ニー誰ニ」。

【阿】アツ、アチ。阿葛切 曷
ー難は、有名なる佛弟子。

【陀】タ、ダ。徒何切 歌
陂ーは、平かならざる貌にいふ語、けはし、又、衰なる貌にいふ語、かたむく。○〔司馬相如〕「登ニ陂ーー之長阪ー兮」。
（頭陀）梵語にして斗擻と譯す、僧侶の修行のこと、又、直に僧侶のことにもいふ語。○〔皇甫冉〕「江草伴ニーーニ」。
（伽陀）梵語にして諷頌と譯す、佛家の讚美歌の如きもの。○〔范成大〕「元無ニ祕密ニ可ニーーニ」。
（曼陀）曼陀羅の略、梵語にて道意、又、自華と譯す、佛家淨土の圖を曼陀羅と稱し、淨土にて常に天よりふらす花を曼陀羅華といふ。○〔蘇軾〕「天雨ニーー服ニ玉盤ニ」。
（佛陀）梵語にて覺者と譯す、ほとけ。○〔范成大〕「ーー入ニ三昧ニ」。
（透陀）斜めなること。○〔韓愈〕「ーー結糾」。

【陀】チ、ヂ。直尼切 支
崖際、きし。○〔司馬相如〕「巖ーー甗錡」。

【陀】タ、ダ。待可切 哿
阤に同じ、やぶる。○〔淮〕「岸崝者必ー」。

【阤】俗の陀の字。

【阤】イ。演爾切 紙
なゝめなる貌にいふ字。

【阮】キク、コク。居六切 屋
きし、（岸）。

【阮】ワイ、エ。烏同切 灰
隈に同じ。

【陂】ヒ。彼爲切 支
㊀ためいけ、（池）。○〔禮〕「毋レ漉ニーー池ニ」。
㊁つゝみ、（障）。○〔書〕「九澤既ー」。
㊂はた、（傍）。○〔漢〕「洒ニ路ーーニ」。
（荒陂）あれはてたるつゝみ、又、あれたるいけ。○〔李白〕「馬首迷ニーーニ」。
（蒼陂）水のあをくとしたるいけ。○〔杜甫〕「高臺面ニーーニ」。○

【陂】ヒ、ビ。蒲麋切 支
ー池は、旁の頽るゝ貌にいふ語。

【陂】ハ。逋禾切 歌
㊀ー陁は、衰ふること。㊁山坡、さか。

【陂】ハ、バ。蒲波切 歌
㊀ー陀は、平かならざる貌にいふ語、なゝめなる貌にいふ語。
㊁さか、（阪）。

【陂】ヒ。彼義切 寘
かたむく、（傾）、なゝめ、よこしま、（邪）。○〔周〕「ー聲散」。
（險陂）さかしくよこしまなること。○〔漢〕「懷ニ險ーー之聚ニ」。
（夷陂）たひらかなると平かならざると。○〔謝莊〕「夫ーー相因」。

【附】フ、ボ。符遇切 遇
つく。
（い）著く。○〔易〕「山ー于地ニ」。
（ろ）寄る。○〔戰〕「吾一擧名實ー」。
（は）託す。○〔後漢〕「更相佐ー」。
（に）近づく。○〔淮〕「ーレ耳之言、聞ニ於千里ニ」。
（ほ）益す。○〔孟〕「ーレ之以ニ韓魏之家ニ」。
（へ）從ふ。○〔淮〕「百姓ー」。
（さ）加ふ。○〔國〕「ーレ之以ニ令名ニ」。
（ち）親しむ。○〔司馬相如〕「以ーニ夷狄ニ」。
（り）屬す。○〔禮〕「ーニ於諸侯ニ」。
（ぬ）施す。○〔禮〕「ー從レ輕」。
（る）つけて祭る。○〔禮〕「大夫ーニ于士ニ」。
（衆附）萃ひ著く。○〔後漢〕「莫レ不ニーーニ」。
（阿附）諂ひ著く。○〔後漢〕「陵後以レーニー官宦ニ」。
（內附）服屬す。○〔後漢〕「納賀ーー」。
（來附）萃ひ來たり屬すること。○〔陸機〕「荷レ策ーー」。
（朋附）朋黨をなして相結託す。○〔李鼎〕「外絕ニーー之黨ニ」。
（依附）寄りちかづく。○〔北〕「甚相ーー」。
（倚附）前に同じ。○〔晉、疏〕「ーニー法制ニ」。
（親附）親しみ著く。○〔史〕「內ーニー百姓ニ」。
（降附）降參して屈從す。○〔後漢〕「多來ーー」。
（懷附）なつく。○〔後漢〕「士兵ーー」。
（攀附）長上の力にすがる、よぢすがる。○〔舊唐〕「ーニー明主ニ」。
（歸附）來たり從ふ。○〔後漢〕「賓客多ーー」。
（新附）あらたに從す。○〔後漢〕「鎭ニ撫ーー將兵ニ」。
（藩附）藩屬となる。○〔隋〕「永爲ニーーニ」。
（和附）是非を究めず人と同意す。○〔韓愈〕「萬口ーー」。
（蟻附）ありの如く羣をなしてよりちかづく。○〔諸葛亮〕「望レ風ーー」。
（招附）招き寄す。○〔宋〕「朝廷重在ニーーニ」。
（翕附）つきしたがふ。○〔元〕「無レ所ニーーニ」。
（便附）たよりしたがふ。○〔唐〕「衆頗ーー」。
（媚附）こびへつらひて附託す。○〔唐〕「溫者ーニーー之ニ」。
（驩附）よろこびしたひて服從す。○〔唐〕「故軍中「ーー」。
（比附）附會す、又、ちかづきしたしむ。○〔晉、疏〕「ーー以斷ニ其罪ニ」。
（感附）仁德などに心をうごかして慕ひしたがふ。○〔唐〕「故夷夏ーー」。
（畏附）おそれて服從す。○〔唐〕「沙陀ーー」。
（承附）人の心を迎へうけて服順すること。○〔後漢〕「每相ーー」。

【附】ホウ、ブ。薄口切 有
㊀培、塿、峿に同じ「ーー」。
㊁胕に通じ用ふ。○〔漢〕「臣幸託ニ肺ー」。

【附】フ。芳無切 虞
古の孚の字、卵孚、たまごかへる。

六畫

【陏】帥に同じ。

【陊】タ、ダ。徒可切 麻
やぶる、（壞）、おつ、（落）、くづる、（崩）。○〔子遜〕「巖上石盤欲レー」。

【陊】チ。池爾切 紙
くづる、（崩）。

【陋】ロウ、ル。盧候切 宥

㈠せまし。
(い)狹小なり、ほそし。○〔論〕「在二―巷一」。
(ろ)見聞の博からざるにいふ字、器量の廣からざるにいふ字。○〔禮〕「獨學而無レ友、則孤―而寡―聞」。
㈡いやし。
(い)容貌の劣れるにいふ字、みにくし。○〔唐〕「貌―心險」。
(ろ)すべて物事のいやしむべくみやびやかならざるにいふ字。○〔潘尼〕「義近辭―」。
㈢ひくし。
(い)たけ短し、みじかし。○〔後漢〕「常自恥二短―一」。
(ろ)地位賤し、いやし。○〔曹植〕「呂尚處二屠-釣一至―也」。
㈣疎惡なり、あらし、あし。○〔宋〕「衣-裘器-服皆擇二其―一」。
〔側陋〕せばし、又、いやしき者の居る處。○〔東京賦〕「招二有-道于――一」。
〔孤陋〕廣く交はらずして見聞のせばきこと。○〔王十朋〕「離-索恐二――一」。
〔鄙陋〕いやし。○〔五〕「所レ爲――」。
〔褊陋〕廣からざること。○〔漢〕「臣等聞學――」。
〔薄陋〕(い)疎惡なること。○〔五〕「見二卜耕-器――一」。
(ろ)いやしきこと。○〔郤詵〕「臣等――」。
〔淺陋〕思慮の足らざること、又、文章などの意義の深からざること。○〔漢〕「此臣――之罪也」。
〔凡陋〕凡庸なること。○〔晉〕「――小-臣」。
〔狹陋〕せまし。○〔梁〕「宅-巷――」。
〔寒陋〕貧賤なること。○〔北齊〕「門-旅――」。
〔尫陋〕身體の弱きこと。○〔晉〕「尫自以二――一不レ肯レ行」。
〔褻陋〕小さきこと。○〔隋〕「貌多――」。
〔野陋〕いやし。○〔梁簡文帝〕「僕雖二――一」。
〔朴陋〕かざりなくみにくし。○〔尙書故實〕「――人不レ生レ敬」。
〔固陋〕かたくなにして見識のせまきこと。○〔上林賦〕「鄙-人――」。
〔愚陋〕おろかなること。○〔韓愈〕「臣受レ性――」。
〔卑陋〕身分のいやしきこと、又、家屋などのそまつなること。○〔宋〕「第-室――」。「―過-甚」。
〔貧陋〕まづしくいやし。○〔宋〕「初高-祖微時――」。
〔闇陋〕心智などの明かならず狹小なるをいふ。○〔後漢〕「朕以二――一、奉二承大-業一」。

【陌】ハク、ヒヤク。莫白切 陌

㈠田間東西の通路、みち。○〔史〕「開二阡―一」。
㈡市中の街路、まち。○〔後漢〕「塡二接街―一」。
㈢帕に通じ用ふ、はちまき。○〔釋名〕「綃-頭或曰二―頭一」。
㈣百に通じ用ふ。○〔夢溪筆談〕「今數レ錢百-錢、謂二之―一、借二―字一用レ之」。
〔綺陌〕美麗なる道路。○〔王維〕「花明――春」。
〔繡陌〕前に同じ。○〔陳暄〕「長-安開二――一」。
〔御陌〕天子の通過し給ふ道。○〔徐彥伯〕「――開二函-次一」。
〔郊陌〕野路のみち。○〔孟郊〕「――絕二行-人一」。
〔畎陌〕あぜみち。○〔任豫〕「――修-通」。
〔塍陌〕前に同じ。○〔徐勉〕「――交-通」。
〔巷陌〕まちのみち。○〔朱淑眞〕「――風輕燕-々飛」。

【䧆】コウ、ク。戸公切 東　古送切 送

從――は、山の名。

【⿰阝光】クワウ、ワウ。姑黃切 陽

みち、(陌)。

【降】カウ、コウ。下江切 江

㈠鳥の死ぬるにいふ字、おつ。○〔禮〕「羽-鳥曰レ―」。
㈡くだる。
(い)下ろ、おろ、おつ。○〔書〕「―レ丘宅レ土」。
(ろ)敵に伏從す、したがふ。○〔左〕「鄬―二于齊師一」。
(は)おちつく、さがる、伏す。○〔詩〕「我心則―」。
㈢くだらしむ、くだす。○〔國〕「王―二翟-師一」。
〔心降〕心のやすまること。○〔詩〕「我―則―」。
〔乞降〕降參を申し入る。○〔唐〕「投レ戈―レ―」。
〔脅降〕威して降參せしむ。○〔韓愈〕「城陷賊以レ刃――」。
〔歸降〕歸服して降參す。○〔溫庭筠〕「今-日欲二――一」。

【降】カウ、コウ。古巷切 絳

㈠くだる、おろ、さがる。
(い)下に之く。○〔禮〕「升―上-下」。
(ろ)低きに歸す。○〔北〕「―爲レ公」。
(は)空より落つ、ふる。○〔淮〕「甘-雨時―」。
(に)後に及ぶ。○〔梁昭明太子〕「自レ茲以―」。
(ほ)物事の上天又は君王よりの人間又は臣下に到來せるにいふ字。○〔左〕「饑-饉荐―」。
(へ)滅す。○〔南〕「優-量減―」。
㈡くだらしむ、おろす、さぐ、くだす(㈠の條參照)。○〔論〕「不レ―二其志一」。
〔陟降〕のぼりくだり、又、あがりさがり。○〔詩〕「文-王――」。
〔陞降〕前に同じ。○〔歐陽修〕「――而相推」。
〔登降〕前に同じ。○〔左〕「――有レ數」。
〔下降〕くだる。○〔禮〕「天-氣――」。
〔貶降〕官等をくだす。○〔後漢〕「順-朝無二――之文一」。
〔減降〕輕減す。○〔北〕「所レ經―二―罪-人一」。
〔蠲降〕租稅などの負擔をのぞきへらすこと。○〔南〕「―二―租-調一」。

【陎】シュ、ス。市朱切 虞

―陾は、縣の名。

【⿰阝朶】タ、ダ。徒果切 哿

あづち、(射-垜)。㈡堂塾、もんべや。

【⿰阝朶】タ。丁戈切 歌

小堆、つみつち、又、あづち、(陊-堆)。

【⿰阝朶】タ。丁果切 哿

小崖、きし。

【⿰阝自】タイ、デ。徒罪切 賄

たかし、(高)。

【限】カン、ゲン。下簡切 潸

㈠かぎり。
(い)へだて、さゝへ、(阻)。○〔史〕「西有二濁-河之―一」。
(ろ)さかひ、しきり、(界)。○〔釋名〕「使レ不レ得レ出二疆――一」。
(は)ほど、しな、(度)。○〔史〕「無二―度一」。
(に)きめ、さだめ、又、はて。○〔晉〕「六-年之―」。
(ほ)なか、(中)、かなめ、(要)。○〔易〕「艮二其―一」。
㈡かぎりをなす、へだつ、さかふ、はかる、きむ、そろふ、かぎる。○〔郭璞〕「天―二內-外一」。
㈢門檻、しきみ。○〔法書要錄〕「爲二鐵-門―一」。
〔門限〕門のしきみ。○〔禮、註〕「閾――也」。
〔酒限〕飲酒の定量。○〔晉〕「侃每レ飲レ―有二定―一」。
〔戶限〕戶のしきみ。○〔晉〕「還レ內過二――一、心甚」。
〔無限〕極度のなきこと。○〔梁武帝〕「連-山去――」。
〔程限〕程度、かぎり。○〔謝承後漢書〕「不レ滿二――一」。
〔齊限〕前に同じ。○〔晉〕「費-用無二復――一」。
〔準限〕標準、程度。○〔左、疏〕「立二其――一」。
〔節限〕よきほどにかぎりをつく、又、かぎり。○〔晉〕「拙有二――一」。
〔定限〕さだまりのかぎり。○〔石林詩話〕「文-字工無二復――一」。

〔量限〕分量程度。○〔北〕「各有二—・—一」。
〔越限〕程度のそとにいづ。○〔釋名〕「不敢—・—也」。
〔阻限〕へだて、又、へだつ。○〔王粲〕「河山—・—」。
〔涯限〕かぎり。○〔王僧孺〕「遂無二—・—一」。
〔期限〕さだまりのかぎり。○〔劉孝威〕「乘レ嘽無二—・—一」。
〔界限〕疆界、さかひ。○〔韓愈〕「地寥迷二—・—一」。

【限】ゴン。魚懇切　願
切急なる意にいふ字、きびし。

【限】コン、ゴン。胡艮切　阮
かぎる、（限）。

【哄】コウ、グ。戶工切　東
あな、（坑）。

【陑】ジ、ニ。如之切　支
地の名。○〔書、序〕「升レ自レ—」。

【陒】キ。過委切　紙
毀垣、やぶれがき。

【陒】キ、ケ。虛宜切　支
❶けはし、（險）。○〔漢〕「業因レ是而抵レ—」。
❷やぶる、（毀）。

【陓】ウ、懚俱チ、汪胡チ。切ウ。切　虞
楊—は、藪の名。

【陈】イ、エ。於希切　微
さか、（阪）。

【陔】カイ、ケ。古哀切　灰
❶きだはし、（階）、かされ、（重）、をか、（隴）。
○〔漢〕「放二亳-忌泰-一壇三—」。
❷上天の階級。○〔淮〕「期二九—之上一」。
❸燕飲のをはりに奏したる一種の樂。○〔儀〕「賓出奏レ—」。

【陗】ケン。乎畎切　銑
あな、（坑）。

【陝】陽に同じ。

【除】陰に同じ。

七　畫

【陖】シュン。私閏切　震
けはし、（險）、たかし、（高）。○〔司馬相如〕「徑レ—赴レ險」。

【陗】セウ。士宵切　嘯
❶けはし、（陖）。❷かくる、（隱）。
❸きびし、（急）。

【陯】トン。他根切　元
あな、（阬）。

【陘】ケイ、ギヤウ。戶經切　青
❶山地の絕坑、あな、又、山の長く延いて忽ち斷絕せる處、きれ。○〔爾〕「山絕—」。
❷かぎり、（限）。○〔水經、註〕「山-上有レ石銘-題言二冀-州北-界一、故世謂二之石-銘—一」。
❸さか、（阪）。○〔韓愈〕「華-山窮二絕-—一」。
❹地の名。❺山の名。❻人の名。

【陘】ケイ、キヤウ。古定切　徑

【陙】シン、ジン。食倫切　眞
隘き道。○〔左〕「塞二海—一」。

【陂】カウ、コウ。古到切　號
大いなる阜、をか。

【陜】カフ、ケフ。侯夾切　洽
陿に同じ、せまし。○〔司馬相如〕「邇—游レ原」。

【陡】ハウ、バウ。符方切　陽
防に同じ。

【陝】小さき阜、をか。

【陝】セン。失冉切　琰
古の虢の國、今の河南省の一州。○〔公羊〕「自レ—而東者周-公主レ之、自レ—而西者召-公主レ之」。

【陚】ブ、ム。方遇切　遇
小さき阜、をか。

【陚】ブ、ム。罔甫切　麌
平原、はら。

【陞】ショウ。識蒸切　蒸
のぼる、のぼす、（登）。○〔爾〕「素二—龍於天—一」。

【陛】ヘイ、傍禮バイ。切ヒ、兒意ビ。切　霽
❶きだはし。
（い）高きに登る階。○〔楚辭〕「學レ傑陛レ—」。
（ろ）君王のゐます宮殿の階。○〔戰〕「秦舞-陽奉二地-圖匣一、以レ次進至レ—」。
❷衆多層次の意にいふ語。○〔韓愈〕「躐-々—・—、實取實似」。
〔堂陛〕正寢ときざはしと。○〔晉〕「增レ—及レ—」。
〔丹陛〕赤くぬりたるきざはしとて朝廷のきざはしのこと。○〔岑參〕「聯-步趨二—・—一」。
〔朱陛〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「—・—煌-々」。
〔飛陛〕高ききざはし。○〔曹植〕「—・—陵レ虛」。
〔階陛〕きざはし。○〔溫庭筠〕「幽-石歸二—・—一」。
〔殿陛〕宮殿のきざはし。○〔後漢〕「還宿二—・—一」。
〔宮陛〕前に同じ。○〔鮑昭〕「—・—留二前-制一」。
〔玉陛〕たまのきざはしとて宮殿のきざはしをいふ。○〔韋莊〕「一-身朝二—・—一」。
〔瓊陛〕前に同じ。○〔劉基〕「側レ身俯-伏當二—・—一」。
〔天陛〕皇宮のきざはし。○〔王庭珪〕「此去飛-騰翻二—・—一」。
〔禁陛〕前に同じ。○〔白居易〕「翔二集—・—一」。

【陟】チョク、チキ。竹力切　職
❶のぼる、のぼす、（陞）。○〔書〕「汝—二帝-位一」。
❷すゝむ、（進）。○〔書〕「三-考黜二—幽-明一」。
❸たかし、（高）。○〔爾〕「山三-襲—」。
〔進陟〕すゝめのぼす。○〔北〕「何足三以曆二—・—之報一」。
〔濫陟〕のぼすべからざる者をのぼす。○〔宋〕「寧無二—・—枉-黜之失一邪」。
〔登陟〕のぼりすゝむ。○〔揚雄〕「—二—帝-位一」。
〔昇陟〕前に同じ。○〔水經、註〕多泛レ舟—・—」。
〔仰陟〕あふぎのぼる。○〔陸機〕「—・—三高-山盤一」。
〔降陟〕くだるとのぼると。○〔陸雲〕「—・—在レ天」

【陟】トク。的則切　職
う、（得）。○〔周〕「大-卜掌三三-夢之法一、一曰致-夢、二曰觭-夢、三曰咸—」。

【俔】ケン。胡典切　銑
かぎる、（限）。

【陠】ホ、フ。普胡切 虞
なゝめ、(衺)。

【陠】ホ、フ。博孤切 虞 普故切 遇
㊀庯に同じ。㊁なゝめ、(衺)。

【陠】ホ、プ。蒲故切 遇
舍の下。

【阝豆】トウ、ツ。丁候切 宥
たかし、(峻)。

【陡】トウ、ツ。當口切 有
㊀阧に同じ。○[杜甫]「—上振二孤-影一」。㊁にはか、(頓)。

【院】エン、ヰン。王眷切 霰 クワン、グワン。胡官切 寒 エン、ヰン。委遠切 阮
㊀屋舍の周圍の垣墻、ついぢ、かき、又、垣墻を周らしたる屋舍。○[唐]「作二五-王—一」。
㊁官廨、やくしよ。○[唐]「絢爲二翰-林-學-士一夜對二禁-中一燭盡以二金-蓮-花-炬一送二歸—一」。
㊂浮屠の居所、てら。○[傳燈錄]「老-僧分二半—一、與レ汝同住」。
㊃道士の居所。○[白樂天]「看レ—止留雙-白-鶴」。
㊄學者の居所。○[方隅勝略]「白-鹿書-—在二廬-山一」。
(道院) 道者の居る所。○[王禹偁]「——風-淸响二藥-籠一」。
(禪院) 僧の居る所、てら。○[續釋常談]「官與二賓-客一遊二天-台——一」。
(僧院) 前に同じ。○[陸游]「——陳-鐘出二林-岫一」。
(尼院) 女僧の居る所、あまでら。○[白居易]「——佛-庭寛有レ餘」。
(淨院) 佛寺、てら。○[姚合]「——焚レ香猶受-持」。
(諫院) 諫官の役所。○[周必大]「復置二——一」。
(經院) 經書を講ずる所。○[高啓]「——葉深秋-講散」。
(禁院) 禁中の宮殿。○[李賀]「——懸レ簾隔二御-光一」。

【陣】チン、ヂン。直刃切 震
㊀軍兵の隊列、つら。○[呂氏春秋]「以爲二前—一」。
㊁隊列の布設、そなへ。○[史]「乃使二萬-人先行、出背レ水—一」。
㊂戰事、兵法、いくさ。○[論]「問二—于孔-子一」。
㊃すべて物事の隊列及び其の布設。○[王勃]「雁-—驚レ寒、聲斷二衡-陽之浦一」。
(陷陣) 敵軍の陣立を擊ちやぶる。○[史]「—レ—却レ敵」。
(破陣) 前に同じ。○[庾信]「先-登—レ—」。
(摧陣) 前に同じ。○[邢邵]「—二蚩-尤之—一」。
(軍陣) いくさのそなへたて。○[漢]「則畫レ地爲——一」。
(戰陣) 前に同じ。○[韓]「境-内敎二——一閱二士-卒一」。
(我陣) 前に同じ。○[蜀]「——整-齊」。
(八陣) 諸葛亮の作りたるいくさの備へたて。○[蜀]「推二演兵-法一作二——-圖一」。
(臨陣) いくさばにいづ。○[南]「親—レ—督-戰」。
(文陣) 文事を戰陣に見たてゝいふ語。○[玉堂遺事]「張-九-齡爲二——-雄-帥一」。
(筆陣) 前に同じ。○[蘇軾]「猶能整二——一」。
(奇陣) めづらしき戰陣。○[史]「李-牧多爲二——一」。
(堅陣) 破りがたき堅固なる陣たて。○[晉]「前-後屢陷二——一」。
(强陣) 前に同じ。○[徐陵]「野無二——一」。
(布陣) 軍隊列をつらぬ。○[駱賓王]「連レ營——」「之——」。
(對陣) 備をたて敵陣と對抗す。○[宋]「惟世-忠與レ——」。
(完陣) 備への完全なる隊伍。○[邢邵]「野無二——一」。

【阣】イフ、オフ。乙及切 緝
—隘は、せまし。

【除】チョ、ヂョ。直魚切 魚
㊀宮殿の陛、きだはし。○[班固]「玉-—彤-庭」。
㊁門と屏との間、には。○[漢]「扶レ輦下レ—」。
㊂のぞく。
(い)去る。○[書]「—レ惡務レ本」。
(ろ)誅す。○[周]「以—レ慝」。
(は)芟る。○[左]「蔓-草猶不レ可レ—」。
(に)掃ふ、淸む。○[左]「振二—火-災一」。
(ほ)愈ゆ。○[揚雄]「病愈者或謂二之—一」。
㊃算法の一、或る數を以て或る數を分割するにいふ字、わる、わりざん。○[漢]「法—レ之」。
㊄をさむ、(治)。○[易]「君-子以—二戎-器一戒二不-虞一」。
㊅ひらく、(開)。○[史]「請得レ—レ宮」。
㊆官に拜すること。○[史]「諸買二武-功爵一、官-首者試補レ吏先—」。
㊇地を掃ひたる祭場、まつりのには。○[左]「使二諸-侯日-中造二於—一」。
㊈かはる、(易)。○[孟浩然]「靑-陽逼二歲-—一」。
(掃除) 塵埃を掃ひきよむ。○[史]「趙王——自迎」。
(糞除) 前に同じ。○[國]「——而已」。
(祓除) けがれわざはひなどをはらひきよむること。○[國]「敬二共——一」。
(滌除) すゝぎきよむ。○[魏]「實始發二夷——一兮」。
(階除) きざはし。○[登樓賦]「循二——一而下降之一」。
(丹除) あかくぬりたる殿陛。○[錢起]「地闢近二——一」。
(修除) 修治掃除す、又、樓にのぼるながききだはし。○[西都賦]「——飛-閣」。
(驅除) 逐ひのぞく。○[范成大]「煩下將二殘-暑一——上」。
(蠲除) 賦税などをのぞきて徵收せざること、のぞく。○[晉]「皆——之」。
(拜除) 官に拜す。○[後漢]「刺-史太-守以-下——京-師一」。
(屏除) のぞきひらく。○[易林]「辟-患——」。
(淸除) 拂ひきよむ。○[魏]「—二—羣-穢一」。
(邊除) はらひのぞく。○[吳]「宿-惡——」。
(刋除) きり去る。○[宋]「花-草惡自——」。
(剪除) 前に同じ。○[張蒼崑]「荊-棘胸-中有二——一」。

【除】ヨ。羊諸切 魚
四月のこと。○[詩]「日-月方—」。

【除】チョ、ト。遲倨切 御
のぞく、さる、(去)、ひらく、(開)。○[詩]「日-月其—」。

【阝產】
産に同じ。

【陃】
陋の本字。

【陘】セフ。叱涉切 葉
能く行く。

八畫

【阝定】
古文の隄の字。

【陪】ハイ、ベ。薄回切 灰
㊀重なる土、一說に、みつ、(滿)。○[左]「殖有二—鼎一」。
㊁くはふ、くはゝる、(加)。
㊂ます、(益)。○[左]「分二之土-田——敦一」。
㊃かさぬ、かさなる、(重)。○[國]「士有二—乘一」。
㊄たすく、(輔)。○[史]「以—レ朕」。
㊅うしろに隨伴す、そばに厠貳す、ふたがふ、さもなふ、ついづ、つきしたがふ、はべる。○[淮]「積-聲—レ後」。
㊆さも、そへ、たすけ。○[詩]「爾德不—

明以ニ無レ—無ヒ卿ー。

㈧朝す。○〔爾、註〕「—レ位爲レ朝」。

㈨臣下の臣下、卽ち天子に對して諸侯の大夫など、またげらい。○〔禮〕「—臣敢辭」。

〔追陪〕後に附き隨ふ。○〔韓愈〕「終日——」。

〔舊陪〕昔隨從したること。○〔李紳〕「虞陪想ニ——ニ」。

〔曾陪〕前に同じ。○〔白居易〕「——西省與ニ南宮ニ」。

〔參陪〕隨從す。○〔杜牧〕「何時得ニ——ニ」。

〔家陪〕家臣、めしつかひ。○〔張衡〕「翠鐃狹ニ乎——ニ」。

〔遊陪〕めうへの人に隨ひ遊ぶ。○〔高適〕「何意忝ニ——ニ」。

【陫】ハイ、ベ。蒲枚切 灰

山の名。

【陫】ヒ。浮鬼切 尾

いやし、（陋）。

【陫】ヒ。父沸切 未

かくろ、（隱）。

【陰】隮に同じ。

【陘】セウ。之少切 篠

㊀耕すに臿にて下の壚土（くろつち）を浚へ出だすにいふ字、一說に、休田を耕すにいふ字。

㊁つゝみ、（隄）、又、さかひ、（界）。

【陬】ソウ、ス。子侯切 尤

㊀すみ、（隅）。○〔戰〕「康王之時、有レ雀生ニ鸇于城之—ニ」。

㊁正月の稱。○〔史〕「孟—殄滅」。

㊂聚まり居る、あつまる。

〔邊陬〕邊鄙、遠く都を離れたる所、かたゐなか。○〔唐〕「身播ニ——ニ」。

〔荒陬〕前に同じ。○〔李覯〕「無ニ之居ニ——ニ」。

〔鼻陬〕愧づる貌にいふ語。○〔莊〕「子貢——」。

〔山陬〕山の隅。○〔張說〕「登降閣——」。

〔海陬〕うみべのこと。○〔韓愈〕「侶ニ蟲蛇於——ニ」。

〔蠻陬〕蠻夷の住する地。○〔晉〕「——來格」。

〔夷陬〕前に同じ。○〔崔琰〕「——蠻落相連接」。

〔庭陬〕にはの隅。○〔蔡邕〕「——有ニ苦榴ニ」。

〔遐陬〕遠く王城を離れたる地。○〔謝靈運〕「外濟ニ——ニ」。

〔窮陬〕前に同じ。○〔蔡邕〕「異域——」。

【陬】シウ、ス。側鳩切 尤

㊀すみ、（隅）。

㊁郰に同じ。○〔史〕「孔子生ニ魯昌平鄉—邑ニ」。

【陭】イ。於離切 支 於希切 微 於義切 キ。奇寄切 寘

㊀—氏縣は、地の名。

㊁崎に同じ。○〔史〕「——嶇而不レ安」。

【陭】イ。隱綺切 紙

まがれるきし。

【陮】タイ、テ。都猥切 賄

—隗は、高し、平かならず。

【⿰阝來】ライ。郎才切 灰

㊀きだはし、（階）。㊁永き貌にいふ字。

【⿰阝朋】ホウ、ボウ。悲朋切 蒸

古の崩の字。

【陯】ロン。盧昆切 元 リン、力春切 眞

おちいる、（陷）。

【陯】ロン。盧困切 願

あな、（陷）。

【陰】イン、オン。於今切 侵

㊀支那の易學上の用語にて萬物化育の元氣判かれて相反對の性德を有する二樣の氣となれるものゝ一、卽ち靜かなると、形なきと、闇きと、下れると、伏すると、藏まると、柔なるとなどの性德の稱にて轉じて其の性德を具するものゝ稱にいひ、地、月、秋、冬、西、北、又は、臣、妻、女などの稱となす。○〔易〕「—雖ニ有レ美含レ之、以從ニ王事一、弗ニ敢成一地道也、妻道也、臣道也」。

㊁男女の交情、なからひ。○〔周〕「以ニ—禮一敎レ親則民不レ怨」。

㊂雲の光を掩ふにいふ字、くもる、くもり。○〔詩〕「以—以雨」。

㊃水の物に通ずるにいふ字、しめる、しめり。○〔呂氏春秋〕「下得レ—」。

㊄山の北、きた。○〔書〕「至ニ于華—ニ」。

㊅水の南、みなみ。○〔漢〕「河東郡汾—縣」。

㊆かげ。

（い）ものかげ、こかげ、光のあたらざる處。○〔晉〕「高蟬處ニ乎高—ニ」。

（ろ）晷影、ひかげ。○〔晉〕「大禹惜ニ寸—ニ」。

（は）背後、うしろ。○〔集古錄〕「余家所レ錄漢碑—題名頗多」。

㊇夜、暮、闇。○〔呂氏春秋〕「審ニ堂下之—ニ」。

㊈淺黑、あさぐろ。○〔爾〕「—白雜毛」。

㊉おほひ、（蔭）。○〔詩〕「—靷鋈續」。

⑪水の稱。○〔張衡〕「—池幽流」。

⑫ひそか、（私）。○〔戰〕「齊秦之交—合」。

⑬おほふ、（覆）。○〔漢〕「慶——」。

⑭男子の勢、へのこ。○〔史〕「私求ニ大—人嫪毐一爲ニ舍人一」。

⑮つる、（鶴）。○〔逸周〕「皡上張ニ赤奕——羽ニ」。

〔分陰〕一分の光陰、極てすこしの時をいふ。○〔晉〕「至ニ於衆人一當レ惜ニ——ニ」。

〔凌陰〕ひむろ、氷室。○〔詩〕「三之日納ニ于——」。

〔輕陰〕天氣のすこし曇りたること、うすぐもり。○〔王筠〕「紫殿納ニ——ニ」。

〔薄陰〕前に同じ、又、陰にせまる。○〔陸機〕「鮮雲垂ニ——ニ」。

〔樹陰〕樹木のかげ。○〔北〕「隨ニ——ニ諷誦」。

〔積陰〕天の曇りて久しく晴れざること、陰氣のかさんになること。○〔蘇軾〕「素月流レ天掃ニ——ニ」。

〔夕陰〕ゆふぐれ、たそがれ。○〔祖詠〕「庭昏未ニ——ニ」。

〔淪陰〕日沒したるあとの赤黃氣をいふ。○〔陵陽子〕「秋食ニ——ニ」。

〔碑陰〕碑背、石碑のうら。○〔蘇軾〕「作レ名爭欲レ刻ニ——ニ」。

〔月陰〕月影、つきかげ。○〔江淹〕「圓園明——」。

〔秋陰〕秋のくもり。○〔韓愈〕「——欲ニ—日ニ」。

〔春陰〕春のくもり、花ぐもり。○〔常建〕「郊野浮ニ——ニ」。

〔歲陰〕年の暮れ。○〔庾信〕「年華改ニ——ニ」。

〔光陰〕歲月、ひま、とき。○〔張九齡〕「眇々惜ニ——ニ」。

〔綠陰〕若葉のかげ。○〔韓偓〕「明月池塘是——」。

〔獨陰〕純陰にして乾德なきこと。○〔梁〕「毅——不レ生」。

〔連陰〕連日くもる。○〔漢〕「——不レ雨」。

〔至陰〕陰氣の極まれるをいふ。○〔莊〕「——肅々」。

〔收陰〕織女神の名。○〔荊楚歲時記〕「織女神名ニ——ニ」。

〔茂陰〕樹木などのしげりたるかげ。○〔何劭〕「舉レ爵——下」。

〔繁陰〕前に同じ。○〔歐陽修〕「佳木秀而——」。

〔湖陰〕みづうみの南。○〔陸雲〕「子居ニ五——ニ」。

〔川陰〕かはの南。○〔陸游〕「殘雲漠々半ニ——ニ」。

〔暮陰〕夕日かげ。○〔謝莊〕「輕霞澄ニ——ニ」。

〔簷陰〕のきばのかげ。○〔薛道衡〕「——翻ニ細柳ニ」。

〔芳陰〕　花のかげ。○〔孫逖〕「歌・舞向二一一一」。
〔翠陰〕　樹の葉などのみどりのかげ。○〔馬戴〕「玉・樓含二一一」。
〔碧陰〕　前に同じ。○〔朱熹〕「一一生二夕・涼一」。

【陰】　アン、オン。烏含切　〔覃〕
本、闇に作る、喪の廬、いほり。○〔論〕「諒一三年不レ言」。

【陰】　イン、オン。於禁切　〔沁〕
㊀おほはる、（覆）、かくる、（藏）。○〔禮〕「骨・肉斃二于下一、一爲二野・土一」。
㊁おほふ、（覆）、かくす、（藏）。○〔詩〕「既之一レ女、反予來赫」。

【陦】　フウ、ブ。房久切　〔有〕
盛んなり。

【陦】　フウ、フ。扶富切　〔宥〕
兩阜の閒。

【陱】　キク、コク。居六切　〔屋〕
㊀やしなふ、（養）。㊁みつ、（盈）。

【陲】　ス井、ズ井。是爲切　〔支〕
㊀ほとり、（邊）、さかひ、（疆）。○〔史〕「連二兵於邊一一」。㊁あやふし、（危）。

【陬】　シウ、シユ。職流切　〔尤〕
大いなる阜の貌にいふ字。

【陰】　デン、テン。奴店切　〔琰〕
岸上にて遇ふ。

【陳】　チン、ヂン。直珍切　〔眞〕
㊀つらぬ、つらなる、ならぶ、（列）。○〔詩〕「一一レ饋八・簋一」。
㊁しく、（布）。○〔荀〕「鑽レ龜一レ卦」。
㊂のぶ、（述）。○〔國〕「相一以切」。
㊃はる、（張）。○〔禮〕「不レ欲レ一」。
㊄ふるし、（故）。○〔史〕「一・一相因」。
㊅ひさし、（久）。○〔書〕「一二于茲一」。
㊆おほし、（衆）。
㊇つら、なみ、列次。○〔史〕「充二下一一一」。
㊈堂下より門に至る徑、みち、卽ち、賓來たり主迎へて相ならぶ處。○〔詩〕「彼何人斯、胡逝二我一一」。
㊉春秋時代の國の名、舜の後裔の封ぜられし地、今の河南省の一府。○〔廣韻〕「楚滅レ一爲レ縣」。

〔橫陳〕　よこさまにつらなる、又、よこたはる。○〔司馬相如〕「玉・體一一」。「實一・一」。
〔敷陳〕　しきつらぬ、又、のぶ。○〔謝靈運〕「析レ理一・一」。
〔錯陳〕　まじりならぶ。○〔王粲〕「劍・弩一・一」。
〔羅陳〕　ならびつらなる。○〔韓愈〕「南・北爭一・一」。
〔列陳〕　前に同じ。○〔韓愈〕「有・抱不二一・一一」。
〔開陳〕　ときのぶ。○〔漢〕「一二一共第一」。
〔雙陳〕　ふたつならぶ。○〔鮑昭〕「角・枕已一・一」。
〔鋪陳〕　つらねのぶ、又、しきならぶ。○〔白居易〕「六・義互一・一」。

【陳】　チン、ヂン。直刃切　〔震〕
陣に同じ。○〔周〕「如二戰之一一」。○〔周〕「及レ戰一レ一」。
〔巡陳〕　軍伍列陣をめぐりみること。
〔方陳〕　方形の陣だて。○〔國〕「以二萬・人一爲二一・一一」。
〔圓陳〕　圓形の陣たて。○〔漢〕「而爲二一・一一外嚮一」。
〔置陳〕　陣列をたてさだむ。○〔漢〕「一レ一如二項・籍軍一」。「一・一一」。
〔營陳〕　屯營列陳。○〔漢〕「程・不・識正二部・曲行・伍」。
〔兩陳〕　敵と味方との陣〻。○〔漢〕「一・一相近」。
〔行陳〕　（い）軍陣を巡行す。○〔漢〕「自將二萬・餘・人一一レ一」。（ろ）行伍部陣。○〔王命論〕「擧二韓・信于一一一」。
〔部陳〕　軍の部曲營　。○〔後漢〕「案二行一・一一」。

【陚】　古文の域の字。

【陵】　セン、ゼン。慈衍切　〔銑〕
水中の阜、をか。

【陴】　ヒ、ビ。符支切　〔支〕
城上の女牆、ひめがき、ついぢ。○〔左〕「閉レ門登レ一」。
〔守陴〕　城上のかきにのりて城を守る。○〔左〕「一者皆哭」。
〔城陴〕　城上のかき。○〔晁補之〕「據二一之一一」。

【陫】　ヒ。賓彌切　〔支〕　ハイ、薄街切　〔佳〕　ベイ。切
裨に同じ、たすく、接ぎ益す、ます。

【陵】　リヨウ。力膺切　〔蒸〕
㊀大いなる阜、をか。○〔書〕「懷レ山襄レ一」。
㊁つか、（冢）。○〔國〕「一爲二之終一」。
㊂天子の冢、みさゝぎ。○〔水經、註〕「秦名二天・子冢一曰レ山、漢曰レ一」。
㊃しのぐ。
（い）かろんず、（逊）、あなどる、（侮）。○〔周〕「犯レ令一レ政」。「一一」。
（ろ）をかす、（犯）。○〔禮〕「不二相侵・一」。
（は）こゆ、（躐）。○〔禮〕「不レ一レ節」。
（に）のぼる、（升）。○〔張衡〕「一二重・巘一」。
（ほ）ふ、（歷）。○〔史〕「一レ水徑レ地」。
㊄おそる、（慄）。㊅はす、（馳）。
㊆にらぐ、（淬）。○〔荀〕「兵・刃不レ待レ一而勁」。
㊇けはし、（峻）。○〔荀〕「凡節・奏欲レ一、而生・民欲レ寬」。
㊈鯪に同じ。○〔楚辭〕「一・魚何所」。
㊉次第に低くなると、次第に衰ふると。○〔荀〕「何則一・遲」。
〔丘陵〕　をか。○〔孟〕「爲レ高必因二一・一一」。
〔岡陵〕　前に同じ。○〔蘇軾〕「有レ似二修・蟒横二一・一一」。
〔山陵〕　やまとをかと。○〔禮〕「可二以升二一・一一」。○〔易〕「升二其一一」。
〔高陵〕　地の名、又、たかきをか。
〔京陵〕　極めて高き地とおほいなるをかと、又、地の名。○〔左〕「鳩二藪・澤一、辨二一・一一」。
〔頽陵〕　頽廢す。○〔後漢〕「漸至二一・一一」。
〔堙陵〕　おとろふ。○〔唐〕「日以一・一」。
〔巡陵〕　天子の諸陵に巡幸すると。○〔李白〕「一二一于鶉・首之野一」。
〔崇陵〕　高き高阜。○〔王建〕「山・川晴・處見二一・一一」。

【陶】　タウ、ドウ。徒刀切　〔豪〕
㊀丘の上に更に丘あるものゝ稱、をか。○〔爾〕「再成爲二一・丘一」。
㊁土を燒きて器をつくると、するゑ、やき。○〔呂氏春秋〕「一二于河・濱一」。
㊂土を燒きてつくりたる器、やきもの、するもの。○〔詩〕「一・復一・穴」。
㊃造ると、化すると。○〔莊〕「猶將レ一二鑄堯舜一者也」。
㊄養ふと、正すと。○〔太元元攡〕「資二一虛・無一」。
㊅心に悅びを感じて未だ外に發せざるにいふ字、よろこぶ。○〔禮〕「一則斯咏」。
㊆心の憂ひの未だ解けざるにいふ字、うれふ。○〔書〕「鬱・一乎予心」。
㊇のぶ、（暢）。○〔後漢〕「穊・稻一・遂」。
㊈頑嚚（かたくな）の貌にいふ字、其の情を隱匿するにいふ字。○〔荀〕「一・誕突・盜」。
㊉鞠に通じ用ふ。○〔左〕「韓・人爲二阜・一一」。「一一」。
⑪裪に通じ用ふ。○〔左〕「使レ爲二君復・一一」。

【陶】　エウ。餘昭切　〔蕭〕
㊀和ぎ樂しむ貌にいふ字。○〔詩〕「君・子一・一」。

㊁相隨ひ行く貌にいふ字。○〔禮〕「――遂々、如レ將レ復入一然」。

【陶】タウ、ドウ。大到切 號

驅り逐ふ貌にいふ字。○〔詩〕「駟介――」。

【陿】サク、シャク。色窄切 陌

碎けたる石の隕つる聲にいふ字。

【陷】カン、ケン。戸韽切 陷

㊀おちいる、おつ。
(い)地下に入る、あなに墜つ、おちこむ。○〔禮〕「毋レ使二其首―一焉」。
(ろ)沒入す、おづむ、はまる。○〔符子〕「蹈レ流而不レ―」。「不レ振」。
(は)隤下す、くづる。○〔國〕「上―而
(に)物事の少けて足らざる處あるにいふ字。○〔淮〕「滿如レ―」。
(ほ)過つにいふ字、又、罪に罹るにいふ字。○〔後漢〕「自―二重刑一」。
(へ)攻め下されたるにいふ字、くだる。○〔魏〕「城―紹生二執洪一」。
㊁おさしいる、おさす。
(い)おちいらしむ、おさしこむ、おづむ、はむ、くづす、かく(㊀の條の(い)より(に)まで參照)。○〔家語〕「設レ穽而―レ之」。
(ろ)過ちおくじらしむ、罪に罹からしむ。○〔史〕「欲レ―レ之」。
(は)攻め下す。○〔史〕「戰常―レ堅」。
㊂阬坑、おちいりたる處、あな、くぼみ、おさしあな。○〔淮〕「汙-壑穽―」。
〔排陷〕おし退けて罪におとしいる。○〔漢〕「亦何――之恨哉」。
〔擠陷〕前に同じ。○〔唐〕「相―二―之一」。
〔擠陷〕かまへて罪なき者に罪を被らす。○〔後漢〕「共―二―太子一」。
〔摧陷〕くだきやぶる、又、くだけおつること。○〔南〕「所レ至無レ不二――一」。
〔譏陷〕あしざまにそしりて罪におとす。○〔後漢〕「共―二―大尉楊震一」。
〔凌陷〕をかしあなどる。○〔魏、註〕「爲二庸人之所一――一」。
〔破陷〕城柵などを攻めおとす。○〔魏、誌〕「應レ時――」。
〔攻陷〕前に同じ。○〔晉〕「胡-烈―二―歸城一」。
〔誣陷〕罪なき者を罪ある如くいつはりおひて罪におとしいる。○〔晉〕「―二―太子一」。
〔圍陷〕城壘などを攻めかこみてうちやぶる。○〔晉〕「―二―郴城一」。
〔淪陷〕おとろへおづみて隆盛ならざること。○〔唐〕「――如レ此、豈非レ命歟」。
〔中陷〕罪にあておとす。○〔晉〕「多レ所二――一」。
〔潰陷〕くづれやぶる。○〔宋〕「卽-時――」。
〔坑陷〕地面のくぼみおちいりたるあな。○〔唐〕「凡――井穴皆有レ標」。
〔欲陷〕前に同じ。○〔呂氏春秋〕「門中有二――一」。
〔傾陷〕くつがへしくづす。○〔宋〕「則―二―安石一」。
〔枉陷〕法をまげて罪におとす。○〔宋〕「遂使三良民―二―刑辟一」。
〔冤陷〕無實の罪を負はしめて罰す。○〔宋〕「―二―無辜一」。
〔隕陷〕穴などにおちいる。○〔淮〕「先者――」。
〔墜陷〕前に同じ。○〔易林〕「―二―井池一」。

【陸】リク、ロク。力竹切 屋

㊀くが、をか。
(い)高くして平かなる地。○〔易〕「鴻漸二于―一」。
(ろ)水ならざる路、歩むべき地。○〔周〕「作レ車以行レ―」。
㊁たごろ(跳)。○〔揚雄〕「飛蒙-茸而走―梁」。
㊂祿に通じ用ふ。○〔後漢〕「今更共――」。
〔北陸〕星の名、又、北方のくがち。○〔後漢〕「日行二――一」。「馳二――一」。
〔西陸〕星の名、又、西方のくがち。○〔張協〕「白日
〔平陸〕地名、又、高低なきくが。○〔盧諶〕「――引二長――一」。
〔水陸〕みづとくがと。○〔晉〕「襄陽――之衝」。
〔雙陸〕すごろくといふ遊戲。○〔高啓〕「後庭――誰行レ簺」。
〔廣陸〕ひろやかなる土地。○〔夏侯湛〕「嬉二于爽塏之――一」。
〔魁陸〕おほはまぐり。○〔本草〕「魁蛤一名二――一」。
〔棲陸〕くがにすむ。○〔詩、疏〕「鶴―二于―一」。
〔登陸〕くがにあがる。○〔孫綽〕「――則有二四明天臺一」。
〔薰陸〕乳香とも稱す、焚きて香氣を發するもの。○〔五〕「日焚二龍腦――諸香數斤一」。
〔海陸〕うみとくがと。○〔洛陽伽藍記〕「――珍羞」。

【𨺅】フウ、ブ。房九切 有

㊀兩阜の閒。
㊁さかんなり(盛)。

【陞】ショウ。書蒸切 蒸 一本、昇に作る。

日の升るにいふ字。

九畫

【陻】イン。於眞切 眞

ふさぐ、ふさがる(塞)。○〔書〕「鯀―二洪水一」。

【陼】ショ、ソ。章與切 語

小洲、なぎさ。○〔國〕「黿-鼉之與同レ―」。

【陼】ト、ツ。當古切 麌

㊀水中の高き處。㊁堵に同じ、かき。

【陽】ヤウ。與章切 陽

㊀支那の易學上の語、陰の反、卽ち顯れたると、開けたると、升れると、剛なると、仁な　となどの性德あるものにて天、外、上、春、夏、東、南などの稱にいひ、又、君、男、夫などの稱にいふ字(陰の字の㊀の條を參照)。○〔楚辭〕「陰―易レ位」。
㊁ひ(日)。○〔詩〕「匪レ―不レ晞」。
㊂日の照す處、ひなた、ひむき。○〔穀梁〕「日之所レ照曰二之―一」。
㊃十月、かみなづき。○〔詩〕「歲亦―止」。
㊄水の北。○〔詩〕「在二洽之―一」。
㊅山の南。○〔周〕「刊二―木一」。
㊆あきらか(明)。○〔詩〕「我朱孔―」。
㊇きよし(淸)。○〔周〕「欲二赤-黑而―聲一」。
㊈あたゝか(溫)。○〔張衡〕「春-日載―」。
㊉おほやけ(公)。○〔大戴禮〕「考二其陰――一」。
⑪文章ある貌にいふ字。○〔詩〕「龍-旂――」。
⑫心を用ふる所なき貌にいふ字。○〔詩〕「君-子――」。
⑬佯に同じ、うはべ、いつはり、あらはに。○〔禮〕「―若レ善レ之」。
〔太陽〕(い)日輪のこと。○〔唐〕「猶三孤-星之望二――一」。
(ろ)夏のこと。○〔獨斷〕「冬爲二太陰一、夏爲二――一」。
〔朝陽〕あさひ、又、山のひんがしにもいふ。○〔詩〕「于二彼――一」。
〔夕陽〕ゆふひ、又、山のにしをもいふ。○〔韓偓〕「山高水濶――遲」。
〔青陽〕地の名、又、殿の名、又、春のこと。○〔爾〕「春爲二――一」。
〔昭陽〕太歲癸にあるをいふ、又、地の名。○〔庾信〕「歲次二――一」。
〔極陽〕十月のみづのとにあたりたる月。○〔爾、疏〕「十月得レ癸則曰二――一」。
〔秋陽〕あきのひかげ。○〔孟〕「――以暴レ之」。
〔炎陽〕夏の日、又、夏の時節。○〔曹植〕「在二――之中夏一」。
〔孟陽〕正月のこと。○〔梁元帝纂要〕「正月爲二――一」。
〔仲陽〕二月のこと。○〔梁元帝纂要〕「二月爲二――一」。
〔艷陽〕晩春の時節。○〔張九齡〕「還遇二――時一」。
〔九陽〕(い)日のこと、又、日の出づる處。○〔後漢〕「――代レ燭」。

(ろ)山の名、又、陽氣の極粹なるにも九天のはてにもいふ。○〔琴賦〕「旦晞二幹于｜｜一」。

〔春陽〕はるのひかげ、又、春の時節。○〔晉〕「經二｜｜一而自喜。」

〔重陽〕(い)九月九日。○〔杜牧〕「｜｜酒百缸」。(ろ)積陽を天と爲し天に九重あるより天のことにいふ語。○〔屈平〕「集二｜｜一入二帝宮一兮」。

〔天陽〕日のこと。○〔韓愈〕「｜｜熙二四海一」。

〔清陽〕聲音などの濁らずしてたかきにいふ語、又、地名。○〔周〕「其聲｜｜而遠聞」。

〔殘陽〕ゆふひ。○〔羅隱〕「鳥噪二｜｜一草蔓レ庭」。

〔斜陽〕前に同じ。○〔劉滄〕「雁叫二｜｜一背二寒雲一」。

〔開陽〕星の名、又、地名。○〔漢〕魁第六星曰二｜｜一。

〔鳴陽〕猶々の異名、又、國の名。○〔羽獵賦〕「蹈二飛豹一、羂二｜｜一」。「｜一」。

〔精陽〕六月のこと。○〔梁元帝纂要〕「六月爲二｜｜一」。

〔霜陽〕なつのひ。○〔杜甫〕「｜｜化爲レ霜」。

〔悠陽〕日の入る貌にいふ語。○〔秋興賦〕「日｜｜而浸微」。「落一」。

〔頹陽〕ひぐれの日。○〔王泠然〕「望二｜｜一之初」。

〔晩陽〕前に同じ。○〔錢起〕「微雨侵二｜｜一」。

【陽】チヤウ、ヂヤウ。直良切 陽
われ（予）。○〔詩〕「｜如レ之何」。

【陾】ジヨウ、如乘ニヨウ。切 蒸　ジ、如之ニ。切 支
牆を築く聲にいふ字、又、おほし（衆）。○〔詩〕「捄レ之｜｜」。

【陾】ドウ、ヌ。乃后切 宥
おほし（衆）。

【陿】陜に同じ。○〔漢〕「郡國或磽｜｜」。

【陙】シユン、ジユン。食尹切 軫
きだはし（階）。

【隁】エン、オン。於建切 願
本、堰に作り、亦隁に作る。

【隁】エン、オン。隱𢡟切 阮
さか、つゝみ（阪）。

【隄】ヒヨク、ベキ。彌力切 職
㊀くづるゝ山。㊁山陊つ、くづる。

【隊】タン。都玩切 翰
けはし、さかし（險）。

【陰】陰に同じ。

【隔】ヒヨク、ヘキ。芳逼切 職
陜に同じ。

【隗】エン。以轉切 銑
高き貌にいふ字、たかし。

【隃】シユ、傷遇ス。切 遇　式朱切 虞
㊀西｜は、地の名。㊁こゆ（越）。

【隃】ユ。羊朱切 虞
㊀人の名。○〔史〕「子毀｜立」。㊁逾に同じ。○〔左〕「｜レ隱而待レ之」。

【隃】エウ。餘招切 蕭
遙に同じ、はるか、とほし。○〔漢〕「｜謂レ布、何苦而反」。

【陵】ソウ、ス。蘇后切 有
あな（阬）。

【隄】テイ、タイ。都兮切 齊
堤に同じ、きし、つゝみ。○〔禮〕「修二利｜防一」。

〔御隄〕禁苑中のつゝみ。○〔皇甫沖〕「曉色曈曨照二｜｜一」。「上二｜｜一」。

〔柳隄〕柳のあるつゝみ。○〔溫庭筠〕「不レ語垂レ鞭上二｜｜一」。

〔楊隄〕前に同じ。○〔許渾〕「｜｜惜レ別春潮晩」。

〔隋隄〕隋の煬帝の築きたるつゝみ。○〔吳融〕「｜風物已淒涼」。

〔碧隄〕草木などのあをくとしげりたるつゝみ。○〔謝脁〕「瀾光媚二｜｜一」。「乃悉｜レ｜」。

〔乘隄〕つゝみの上にのぼる。○〔王沉魏書〕「伏兵」

【隊】テン、持兗デン。切 銑　タン、徒玩ダン。切 翰
(い)道の邊の庳垣、ひめがき。(ろ)家舍の周圍の牆垣、ついぢ。

【隅】グ、ゴ。遇倶切 虞
㊀すみ。「｜」。
(い)陬側、かたすみ。○〔禮〕「摳レ衣趨レ｜」。
(ろ)部分。○〔荀〕「安知二廉恥｜積一」。
(は)方角。○〔淮〕「經二營四｜一」。
㊁きし（崖）、ほとり（邊）。○〔呂氏春秋〕「齊之海｜」。
㊂かたはら（旁）。○〔楚辭〕「我之｜」。
㊃かど。
(い)端角、ではな。○〔詩〕「止二于丘｜一」。
(ろ)威廉、いつ。○〔詩〕「維德之｜」。

〔海隅〕うみべの僻陬。○〔書〕「至二于｜｜蒼生一」。

〔城隅〕まちのすみ。○〔詩〕「俟二我于｜｜一」。

〔廉隅〕物のかど、すみ。○〔南〕「不レ事二｜｜小節一」。

〔一隅〕一方のすみ。○〔論〕「擧二｜｜一不下以二三隅一反上」。

〔四隅〕よすみ。○〔左思〕「擧レ翮觸二｜｜一」。

〔坐隅〕坐席のすみ。○〔北〕「不レ意二陞復在二｜｜一」。

〔庭隅〕にはのすみ。○〔杜甫〕「夜月滿二｜｜一」。

〔邊隅〕邊境のくに。○〔蘇軾〕「談笑安二｜｜一」。

〔端隅〕物のはしとすみと。○〔李光朝〕「南極北極正二其｜｜一」。

【隅】ガク。逆各切 藥

【隆】リウ、リユ。力中切 東
阜の貌にいふ字。
㊀中央の高きと、なかだか。○〔爾〕「宛中｜」。
㊁さかんなり（盛）。○〔禮〕「道｜則從而｜」。
㊂おほし（多）。○〔禮〕「頒レ禽｜二諸長者一」。
㊃たふさし（尊）。○〔史〕「方二｜貴一用レ事」。
㊄たかし（高）。○〔史〕「｜準而日角」。
㊅ゆたか（豐）。○〔荀〕「以二｜殺一爲レ要」。
㊆長ず。○〔漢〕「臣莽夙夜｜二就孺子一」。
㊇あつし（厚）。○〔後漢〕「使二後世不レ見二｜薄進退之隙一」。
㊈雷の聲にいふ字。○〔漢〕「｜｜如二雷聲一」。
㊉窿に同じ。○〔司馬相如〕「穹｜雲撓」。

〔豐隆〕いかづち（雷師）とも、又、雨師ともいふ。○〔淮〕「季春三月、｜｜乃出」。

〔高隆〕たかし。○〔淮〕「雖二｜｜一、世不レ能レ貴」。

〔夷隆〕低きと高きと、又、盛んなると衰ふると。○〔兩都賦〕「道有二｜｜一」。

〔汚隆〕前に同じ。○〔庾信〕「人道亦｜｜」。

〔協隆〕やはらぎて盛んなると。○〔張華〕「王道｜｜」。「等」。

〔窊隆〕くぼきとたかきと。○〔吳都賦〕「｜｜異」。

〔瀉隆〕高大の貌にいふ語。○〔吳都賦〕「洲渚｜｜」。

〔熙隆〕さかんなると。○〔潘岳〕「奕葉｜｜」。

〔長隆〕ますくさかんなると。○〔牛弘〕「福祚｜｜」。

〔至隆〕極めてさかんなると。○〔七啓〕「此霸道之｜｜」。

〔優隆〕ゆたかにしてうすからず。○〔宋〕「務致二｜｜一」。

【隇】井。於非切 微
｜陝は、險阻なること。

【隈】 ワイ、エ。烏恢切 灰 烏繢切 隊

㊀くま。
(い)水の岸に曲がり入りたる處。○〔淮〕「曲―深潭」。
(ろ)山の内に曲がり入りたる處。○〔管〕「大山之―奚有ニ於深一」。
(は)隱れてあらはれざる處、いりこみたるところ。○〔左〕「過ニ析――一」。
㊁方隅、すま。○〔魏都賦〕「考ニ之四――一」。
㊂股閒、また。○〔莊〕「奎蹄曲―」。
㊃弓の曲がれる處、とりうち、弓淵。○〔儀〕「大射正執レ弓以レ袂順ニ左右――一」。

〔山隈〕やまのがけぎは。○〔曹植〕「緣ニ―之―一」。
〔巖隈〕岩のがけ。○〔皮日休〕「隨任ニ――曲」。
〔澗隈〕たにがはのくま。○〔張羽〕「結レ屋臨ニ――一」。

【隉】 ゲツ、ゲチ。五結切 屑

㊀あやふし(危)、あし(凶)。○〔書〕「邦之杌―」。
㊁法度、のり。○〔說文〕「說―法度也」。

【隊】 タイ、デ。徒對切 隊

陣列の部分の稱、くみ、わかち。○〔司馬相如〕「車按レ行、騎就レ―」。

〔馬隊〕騎兵の部隊。○〔陶潛〕「――非ニ講肆一」。
〔騎隊〕前に同じ。○〔晉〕「――五在レ左」。「死」。
〔前隊〕軍の先頭に進む隊伍。○〔舊唐〕「――皆
〔部隊〕軍の部曲隊伍のこと。○〔宋〕「――相應」。
〔校隊〕隊伍を案檢す。○〔後漢〕「―レ―案レ部」。
〔象隊〕象を隊列に編みたるもの。○〔舊唐〕「與ニ鄰國戰、則――在レ前」。
〔武隊〕歩兵の隊伍。○〔金〕「神勇――七百人」。
〔伏隊〕儀仗の隊列。○〔宋〕「在ニ――後一」。
〔全隊〕一隊のこらずをいふ。○〔宋〕「其法――馳レ馬」。
〔結隊〕隊伍をくみたつ。○〔宋〕「―レ―並依ニ李靖法一」。
〔疏隊〕隊列を密集せざること。○〔淮〕「寧子―レ―而壘レ之」。
〔後隊〕あとぞなへの隊列。○〔唐堯臣〕「兵吏擁ニ――一」。
〔魚隊〕游魚のむれ。○〔陸龜蒙〕「――破ニ泓澄一」。

【隊】 ツヰ、ヅヰ。直類切 寘

おつ、おとす。○〔禮〕「上如レ抗下如レ―」。

【隊】 スヰ、ズヰ。徐醉切 寘

㊀くみ(部)。○〔漢〕「分爲ニ六尉六――一」。
㊁隧に同じ。○〔穆天子傳〕「鉼山之―」。

【隊】 タイ、デ。杜罪切 賄

むれ(羣)。

【隋】 タ、ダ。徒果切 哿

㊀肉を裂く、さく。㊁おつ(落)。
㊂祭りの餘物を埋む、うづむ。
㊃圜くして長き形にいふ字、橢圓。○〔詩〕「―銎曰レ斧」。
㊄垂れ下がる、たる。○〔史〕「廷藩西有ニ――星五一」。
㊅おこたる(懈)。

【隋】 スヰ、ズヰ。旬爲切 支

㊀春秋の國の名。○〔戰〕「珍寶――珠」。
㊁紀元千二百四十九年より千二百七十八年まで支那を支配せし朝の名。○〔轉注古音〕「楊堅改レ隨爲レ―」。
㊂肉を裂く、さく。

【隋】 スヰ。宣隹切 キ。猻規切 支

㊀祭りの食。
㊁血を荐む、ちぬる。○〔周〕「贊レ―」。
㊂やぶる。○〔晉〕「―ニ其前言一」。

【隋】 タ。土禾切 歌

中高く四方の下きと、なかだか。

【隋】 キ。呼恚切 寘 スヰ。思累切 紙

神前にて灌ぐに用ふる器の名。○〔周〕「既祭則藏ニ其―與ニ其服一」。

【隌】 アン、オン。烏感切 感 イン、オン。於金切 侵 於禁切 沁

くらし(闇)。

【隍】 クワウ、ワウ。胡光切 陽 エイ、ヤウ。爲命切 敬

水なき城池、城下の坑、からほり。○〔易〕「城復ニ于―一」。

〔城隍〕しろのからほり。○〔梁〕「修ニ――一爲ニ備禦一」。
〔陴隍〕しろのかきとほりと。○〔唐〕「治ニ――一」。
〔濠隍〕城池のこと。○〔金〕「納ニ之――一」。
〔池隍〕前に同じ。○〔李綱〕「蜂棄縁ニ――一」。
〔深隍〕あさからざる城池。○〔薛道衡〕「徽道度ニ――一」。
〔幽隍〕前に同じ。○〔水經、註〕「――邃密」。

【階】 カイ。古諧切 佳

㊀きざはし(陛)。○〔書〕「舞ニ干羽于兩―一」。
㊁はしご(梯)。○〔禮〕「狄人設レ―」
㊂きだ(級)。○〔水經、註〕「壁岸無レ―」。
㊃物事の由る所。○〔詩〕「誰生ニ厲―一」。
㊄上り進む、すゝむ。○〔禮〕「不レ得レ―レ主」。
㊅等位、しな。○〔唐〕「有レ勳有レ―」。

〔亂階〕みだれのもと。○〔詩〕「職爲ニ――一」。
〔陟階〕きざはし。○〔禮〕「升降不レ由ニ――一」。
〔台階〕三公の位。○〔杜甫〕「――翊戴全」。
〔庭階〕にはのきざはし。○〔晉〕「欲レ使ニ其生ニ於――一耳」。
〔土階〕つちをもりてきづきたるきだはし。○〔墨〕「――三等」。
〔貴階〕高き位。○〔白居易〕「自ニ五品一以上、謂ニ之――一」。
〔得階〕道を失はざること。○〔左〕「既登而求ニ――一者智人也」。
〔歷階〕一段のきだはしに片足づつのせて進む。○〔史〕「毛遂按レ劍――而上」。
〔石階〕いしだん。○〔白居易〕「――桂柱竹編牆」。
〔苔階〕こけのむしたるきざはし。○〔李紳〕「――泉滿溜レ缺」。
〔賓階〕賓の升降するきだはし。○〔唐六典〕「春升ニ――一」。「―斜壁」。
〔崖階〕がけみちののぼりたん。○〔梁簡文帝〕「――」
〔荒階〕あれはてたるきざはし。○〔杜甫〕「――生ニ草茅一」。
〔塵階〕ちりはこりあるきだはし。○〔韓愈〕「爲レ余掃ニ――一」。
〔殿階〕宮殿のきざはし。○〔元稹〕「――龍旂日」。

【䧁】 ケン。去衍切 銑

――商は、小塊、小さきつちくれ。

【隑】 カイ、ケ。居拜切 卦

堺に同じ、さかひ(境)。

【陮】 サフ、セフ。倉夾切 洽

崨嶫の峻狹なるにいふ字、けはし。○〔張融〕「幽崖陮――」。

十畫

【隗】

陒、又陮に同じ。

【隑】 カイ。柯開切 灰

㊀はしご(梯)。○〔方言、註〕「―レ物而登」。

㊁ー-企は、つまだつ、又、脚躄へて行く能はざる貌にいふ語。○〔揚雄〕「ー-ー企立也、東-齊海-岱北-燕之郊、委-痿謂二之ー-ー企一」。
㊂ながし、(脩)。

【隑】キ、ゲ。渠希切 微
曲がれる岸、きし。○〔史〕「曲-江之ー-ー州」。

【隑】カイ、巨代切 隊 カイ、ゲ。五亥切 賄
㊀はしご、(梯)。㊁さか、(陭)。

【隒】ゲン。魚檢切 琰
㊀山岸、水岸、きし。○〔郭璞〕「厓ー-ー爲レ之泐-嵺」。
㊁方形、けた。

【⿰阝旁】ハウ、バウ。蒲浪切 漾
かたはら、(傍)、ちかし、(近)。

【⿰阝旁】ハウ、ビヤウ。蒲庚切 庚
車の聲にいふ字。

【隚】タウ、ダウ。徒郎切 陽
つゝみ、(隄)。

【⿰阝匪】
腓に同じ。

【隟】
隍に同じ。

【隓】キ。許規切 支
すたる、(廢)、やぶる、(毀)、そこなふ、(損)。

【隋】タ、ダ。杜果切 哿
陊に同じ。

【⿰阝沓】タフ、トフ。託合切 合
ひくし、(墊)。

【⿰阝馬】バ、メ。莫駕切 禡
㊀ます、(益)。㊁たくみ、(巧)。

【⿰阝馬】フウ、ブ。房久切 有
㊀馬の盛んなるにいふ字。
㊁ます、(益)。

【隔】カク、キヤク。古核切 陌
㊀へだつ。
(い)障塞す、ふさぐ、しきる、せく、ささふ、さへぎる。○〔史〕「防二ー內-外一」。
(ろ)遠ざく。○〔晉〕「被二疎ー-ー一」。
㊁障塞せらる、ふさがる、せかる、遠ざかる、へだたる。○〔韓愈〕「日ー之疏」。
㊂へだて、しきり。○〔戰〕「秦無二韓魏之ー一」。
㊃あはひ、へだたり。○〔唐〕「無二九-重」
〔杜隔〕ふさぐ、又、ふさがりへたたる。○〔後漢〕「ーー不レ得レ通」。
〔分隔〕わけへだつること。○〔後漢〕「ー二ーー其間一」。
〔塹隔〕うとんじてちかづけず。○〔登樓賦〕「悲二舊鄉之ー-ー一兮」。
〔悠隔〕遠くかけへたたること。○〔晉〕「江-山ー-ー」。
〔修隔〕前に同じ。○〔蔡邕〕「山-川ー-ー」。
〔懸隔〕前に同じ。○〔陳琳〕「東-西ー-ー」。
〔曠隔〕前に同じ。○〔傅休奕〕「參-辰ー-ー曾無レ緣」。
〔遼隔〕前に同じ。○〔潘岳〕「眷二故-鄉之ー-ー一」。
〔幽隔〕前に同じ。○〔趙景眞〕「山-川ー-ー」。
〔遠隔〕前に同じ。○〔李白〕「雲-陽一去已ー-ー」。
〔永隔〕ながらく接近せず。○〔鸚鵡賦〕「痛二母-子之ー-ー一」。
〔離隔〕はなしへたつ、又、はなる。○〔陶潛〕「ー-ー復何有」。
〔乖隔〕はなれそむきて合一せず。○〔韓愈〕「分-離ー-ー」。
〔間隔〕へたたる、又、離れへたたる。○〔陶潛〕「遂與二外-人一ー-ー」。

【隕】井ン、ウン。于敏切 軫 ウン、チン。王問切 問 井ン。于倫切 眞
㊀おつ、おとす、(墜)。○〔易〕「有レー自レ天」。
㊁うす、うしなふ、(失)。○〔孟〕「亦不レー二厥問一」。
㊂やぶる、(壞)。○〔淮〕「景-公-臺ー」。
〔失隕〕うしなふ。○〔左〕「弗二敢ー-ー一」。
〔夙隕〕花などの早く凋み落つること。○〔殷仲文〕「浮-榮甘二ー-ー一」。
〔飛隕〕飛び落つ。○〔應貞〕「屏-側爲レ之ー-ー」。
〔沉隕〕くだり落つ。○〔曹植〕「其ー-ー而重レ辱」。

【隕】エン、チン。王權切 先
ひとし、(均)。○〔詩〕「幅ー既長」。

【隖】ヲ、ウ。安古切 麌
㊀塢に同じ、村の小堤、つゝみ、こざて。○〔樹萱錄〕「花-ー藥-畦」。
㊁こじろ、(庫-城)、とりで、(壁-壘)。○〔後漢〕「卓築二萬-歲ー一積二金-穀一爲二三-十年儲一」。
〔村隖〕村落の障塞。○〔庾信〕「依-稀映二ー-ー一」。
〔城隖〕志ろの壁壘。○〔後漢〕「築二ー-ー一」。
〔壁隖〕前に同じ。○〔晉〕「修二ー-ー一」。
〔烟隖〕雲烟にこめられたる村落。○〔王禹偁〕「水-村ー-ー是魚-鄉」。

【隖】ヲ、ウ。烏故切 遇
さゝふ、(障)。

【隗】グワイ、ゲ。五賄切 賄
けはし、たかし。○〔揚雄〕「峻嵲ー-ー虖其相嬰」。

【陸】
瘞に同じ。

【隘】アイ、エ。烏懈切 卦
㊀せまき路、けはしき地。○〔戰〕「塞二阨ー一」。
㊁せまし、(陜)。○〔詩〕「置二之ー-巷一」。
㊂いやし、(陋)。○〔禮〕「君-子以爲レー矣」。
㊃きびし、(急)。○〔荀〕「致二貪ー-ー一」。
〔阸隘〕狹きこと。○〔詩、註〕「魏-地ー-ー」。
〔湫隘〕地の卑濕にして狹きこと。○〔元好問〕「城-以苦二ー-ー一」。
〔險隘〕險阻にしてせばし。○〔屈平〕「山-林ー-ー」。
〔危隘〕前に同じ。○〔戰〕「攻二ー-ー之塞一」。
〔褊隘〕性質などの褊狹にして寛大ならざること。○〔南〕「弘性ー-ー」。
〔峻隘〕山徑などの高くけはしくして坦平ならざること、又、性質などのきびしくして寛大ならざるにもいふ。○〔晉〕「王-恭卑性ー-ー」。
〔狷隘〕狷介にして寛容の量なきこと。○〔南〕「性甚ー-ー」。
〔塡隘〕物の積ち塞がりて通せまきこと。○〔唐〕「門-巷ー-ー」。
〔困隘〕艱苦のこと。○〔新序〕「常思二ー-ー之時一」。

【隘】アク、ヤク。乙革切 陌
阨に同じ、ふさぐ。○〔戰〕「太-子辭二於齊-王一而歸、齊-王ーレ之」。

【隙】ケキ、キヤク。綺戟切 陌 キヤク。綺略切 藥
㊀ひま。
(い)物の間の透きたる處、すきま、すき、穿穴、裂孔。○〔禮〕「若二駟之過一レー」。
(ろ)間際、あはひ。○〔史〕「居二雍ー一」。
(は)閒暇、てすき。○〔左〕「皆於二農-ー一以講レ事」。
(に)怨仇、なかたがひ。○〔史〕「與二沛-公一有レー」。
(ほ)敵爭、あらそひ。○〔漢〕「開二邊-ー一」。
(へ)機會、をり。○〔漢〕「窺レ閒伺レー」。

㊁つゞく、(際)。○〔漢〕「北—二烏丸夫餘一」。
(駒隙) 駒の壁隙をすぐると、即ち、光陰の移ること速かなるに喩へていふ語。○〔袁褒〕「—·—漫拘-攣」。
(乗隙) おこたりて備なきあひだ。○〔蜀〕「伺二其—·—一」。
(穴隙) 壁ぎはのあな。○〔孟〕「鑽二—·—一相窺」。
(突隙) 煙突のあな。○〔韓〕「以二—·—之煙一焚」。
(有隙) 相和せずして仲のあしきこと。○〔史〕「今將軍與レ臣—レ—」。
(決隙) 壁のさけあな。○〔史〕「譬猶下騁二六·驥一過中「—·—上也」。
(荒隙) 土地のあれはてゝ耕作を加へざる處。○〔宋〕「厥土多二—·—一」。
(披隙) すきあるにつけいる。○〔唐〕「鑿レ空—レ—」。
(牆隙) 垣のすきあな。○〔淮〕「—之壞也於レ—」。
(空隙) すきま。○〔江淹〕「曜靈指二—·—一」。
(間隙) すきま、又、ひま。○〔李白〕「農人之—·—」。
(仇隙) 仲らひ惡しきこと。○〔蘇軾〕「西·羌解二—·—一」。
(嫌隙) 前に同じ。○〔華陽國志〕「—·—始構」。
(怨隙) 前に同じ。○〔抱朴〕「密結二—·—一」。
(忿隙) 前に同じ。○〔唐〕「—·—得レ解」。
(猜隙) 前に同じ。○〔宋〕「—·—漸生」。
(罅隙) すきま。○〔清異錄〕「密了無二—·—一」。
(寸隙) すこしのあな、又、すこしのひま。○〔薛蕙〕「—」。「勞生無二—·—一」。
(塞隙) すきまをふさぐ。○〔春秋繁露〕「絕レ原—レ—」。
(爭隙) あらそひ慍りて相和せず。○〔東觀漢記〕「中一」。「—·—省·息」。
(壁隙) かべのすきま。○〔集異志〕「在二於—·—一」。
(孔隙) あな。○〔姚合〕「—·—若二琢·磨一」。
(竅隙) 前に同じ。○〔梅堯臣〕「寒·浪漱二—·—一」。

【𨻵】 コ、ク。綺路切 遇
ひま、すきま。○〔韓〕「牆之壞也、必通レ—」。

【𨼍】 ライ、レ。力罪切 賄
おほくのこいし、(磊)。

【𨻶】 シュツ、シュチ。雪律切 質

くづる、(頽)。

【陪】 ハイ、ベ。薄回切 灰
陪に同じ。

十一畫

【𨻐】
𨺩に同じ。

【𨼆】
墟に同じ。

【𨼒】 エン、オン。於建切 願
隁に同じ。○〔後漢〕「僞立レ—」。

【隝】
鄔に同じ。

【𨼀】 サン、セン。士陷切 陷
あな、(陷)。

【𨻒】 サイ、セ。倉回切 灰
崩隤す、くづる。

【𨻒】 スヰ。遵綏切 支
高く大いなる貌にいふ字。

【陮】 タイ、デ。杜罪切 賄
陮に同じ。

【隙】
俗の隙の字。

【𨼅】 カウ。苦岡切 陽
むなし、(虚)。

【隰】
隰に同じ。

【隚】 タウ、ダウ。徒郎切 陽
殿基、いしずゑ。

【際】 セイ、サイ。子例切 霽
㊀あひ。
(い)ものとものとの閒、あはひ、あひだ。○〔易〕「天·地—也」。
(ろ)合會、あひめ。○〔漢〕「詩有二五·—一」。
(は)機會、をり、ころ。○〔淮〕「解二—天·地一」。
㊁ほとり、(邊)。○〔易〕「天—翔也」。
㊂きは、(畔)。○〔晉〕「端—不レ可二得見一」。
㊃かぎり、(限)。○〔莊〕「與レ物無レ—」。
㊄かた、(方)。○〔晉〕「鼓二洪·流于八·—一」。
㊅つゞく、(接)。○〔爾〕「—、接、翜、捷也」。
㊆まじはる、(交)。○〔唐〕「不レ諧二—人·事一」。
㊇あふ、(會)。○〔淮〕「與レ道爲レ—」。
㊈いたる、(至)。○〔呂氏春秋〕「奇·怪之所レ—」。
(交際) まじはる、まじはり。○〔易、疏〕「兩相—·—」。
(雲際) くもぎは。○〔陳子昂〕「古·木生二—·—一」。
(日際) 太陽のほとり。○〔何遜〕「—·—斂二烟·霞一」。
(涯際) はて、かぎり。○〔庾信〕「烟·霞之—·—莫レ尋」。
(垠際) 前に同じ。○〔晉〕「欲二浩·々而無二—·—一」。
(邊際) はて、ほとり。○〔孟浩然〕「水·國無二—·—一」。
(分際) わけめ。○〔史〕「明二天·人之—·—一」。
(水際) みづのほとり。○〔酉陽雜俎〕「竹·間—·—多二牡·丹一」。
(海際) うみのほとり。○〔吳均〕「白·雲浮二—·—一」。
(極際) 物のきはまり、はて。○〔庾信〕「本無二—·—一」。

【障】 シヤウ、サウ。之亮切 漾 諸良切 陽
㊀かゝふ、(擁)、おほふ、(蔽)、ふせぐ、(防)、さへぎる、さゝふ。○〔呂氏春秋〕「不レ能レ—」。
㊁ふさぐ、(壅)、さかふ、(界)、へだつ、(隔)、ふさぐ、かぎる。○〔呂氏春秋〕「—二其源一」。
㊂おほはる、さゝはる、へだたる、ふさがる。○〔管〕「令而不レ行謂二之—一」。
㊃あぜみち、(畛)、つゝみ、(隄)。○〔漢〕「陂—卑·下」。「亭—·—一」。
㊄とりで、(堡)、まもり、(衞)。○〔史〕「築二—〔唐〕二「金·雞大—·—」。
㊅かきつ、いち、又、ついたて、屏風。○〔史〕「築二—」。○
㊆さかひ、ふきり、へだて、かぎり。○〔後漢〕「陵レ海越レ—」。
㊇おほひ、さゝへ、さはり。○〔晉〕「吾有二慾—·—一」。
(屏障) 屏風ついたてなどすべて內外のへだてとなる扞蔽をいふ。○〔晉〕「壞二府·舍—·—一」。
(保障) 扞蔽たるべきまもり。○〔國〕「抑爲二—·—」「十·里一」。
(步障) 幕ばりのかこひ。○〔晉〕「崇作二錦—·—五·十·里一」。
(肉障) 人を列ねて屏風に代へたるもの、即ち、肉屏風のこと。○〔開天遺事〕「楊·國·忠冬·月選二婢·妾肥·大者一、行二·列于前一、令レ遮レ風、謂二之—·—一」。
(堤障) 水勢をふせぐ堤防のこと。○〔宋〕「修二—·—一」。
(藩障) 扞蔽たるべき城寨など。○〔晉〕「樹二—·—一」。
(土障) つちを築きてつくりたる屏障。○〔南〕「牀·頭有二—·—一」。
(邊障) 邊境の城寨。○〔韓琦〕「一來二—·—地一」。
(堡障) 城寨。○〔遼〕「請レ建二—·—三、烽·臺十一」。
(罪障) 佛家の語にてあしき所行より生ずるつみのさはり。○〔梁武帝〕「凡啾レ肉者、是大—·—」。
(業障) 惡行のさはり。○〔蘇軾〕「猶當レ洗二—·—一」。
(綺障) きぬばりのついたて、屏風步障などをいふ。
(錦障) にしきの屏風ついたて步障などをいふ。○〔董思恭〕「珠·軒明二—·—一」。○〔元好問〕「—·—三·百·里」。
(守障) 城寨を衞る。○〔梁簡文帝〕「常勞二—·—之民一」。

【隤】 ケイ、キヤウ。去營切 庚 犬穎切 梗

㊀かたむく、(仄)。㊁あやふし、(危)。㊂ふす、(伏)。㊃そばだつ、(欹)。

【⿰阝婁】ロウ、ル。落侯切 [尤] 朗口切 [有] ル、ロ。力主切 [麌] 縣の名。

【隝】タウ、トウ。覩老切 [晧] 水中の山、しま。

【隝】テウ。丁了切 [篠] ㊀鳥に同じ。○〔後漢〕「化我ーー梟哺二」。㊁前條に同じ。「所ー生二」。

【⿰阝庸】ヨウ、ユ。餘封切 [冬] 墉に同じ、城牆、かき。

【⿰阝區】ク、コ。豈俱切 [虞] そばだつ、(敧)、又、安からざる貌にいふ字、あやふし。○〔漢〕「至二嶇陁ー—河ー洛之閒二」。

【⿰阝區】オウ、ウ。烏侯切 [尤] ーー嵜は、深く下れる貌にいふ語。

【⿰阝坒】ヘイ、ハイ。邊兮切 [齊] ヒ、ビ。部比切 [支] 罪人を拘ふる所、ひとや。

【隞】ガウ、ゴウ。牛刀切 [豪] 地の名。〔史〕「仲ー丁遷二于ー二」。

【隟】古文の隙の字。○〔管〕「則ー不レ計」。

十二畫

【⿰阝無】ブ、ム。武扶切 [虞] 弘農の陝の東陬。

【⿰阝菐】ホク、ボク。博木切 [屋] 彭ーーは、蠻夷の國の名。

【⿰阝皐】カウ、ゴウ。胡刀切 [豪] ㊀たに、(壑)。㊁城の下の道。

【⿰阝爲】キ。許爲切 [支] 于偽切 [寘] ヰ。于軌切 [紙] 鄭の地にある阪。

【⿰阝絕】セツ、ゼチ。子悅切 [屑] へだつ、(隔)。

【⿰阝需】ジ、ニ。如之切 [支] けはし、(險)。

【隣】俗の鄰の字。

【⿰阝晉】シン、ジン。士禁切 [沁] おちいる、(隳)。

【隤】タイ、デ。杜回切 [灰] ㊀くだす、くだる、(降)。○〔揚雄〕「發レ祥ーレ祉」。㊁壞れて隊下す、くづる、又、壞りて隊下せしむ、くづす。○〔司馬相如〕「ーレ牆塡レ塹」。㊂柔き貌にいふ字。○〔易〕「夫坤ー然示二人簡一矣」。「順矣」。㊃順ふ貌にいふ字。○〔禮註〕「ー然」。

〔虺隤〕馬の疲れ病むにいふ語。○〔詩〕「我馬ーー」。

〔隆隤〕水の平らかならざるにいふ語。○〔木華〕「𨻶ー沙迭而ーー」。

〔阪隤〕くづれおつ。○〔盧貞〕「壁岸爲之ーー」。

〔崔隤〕つまづく。○〔漢〕「日ーー」。

【隫】頽に同じ。

【隥】トウ。都鄧切 [徑] ㊀險阪、けはしきさか。○〔穆天子傳〕「天子南還、升二於長ー松之ーー二」。㊁梯階、きだ。○〔李百藥〕「玄ー武疏二遙ーー二」。㊂あふぐ、(仰)。

【⿰阝尋】ジン。徐林切 [侵] 小さき阜、をか。

十三畫

【⿰阝楚】ショ、ソ。刱所切 [語] さか、(阪)。

【⿰阝豦】キョ、コ。求於切 [魚] きだはし、(階)。

【⿰阝義】ギ。語綺切 [紙] 巇に同じ。

【⿰阝業】ゲフ、ゴフ。魚怯切 [葉] けはし、(險)、あやふし、(危)。

【⿰阝業】ヒフ、ホフ。北及切 [緝] 匡の嶮しき貌にいふ字。

【⿰阝解】カイ、ゲ。胡買切 [蟹] 小溪、ちひさきたに。

【⿰阝辟】ヘイ、ハイ。普米切 [薺] ヒ、ビ。避支切 [支]

ーー埤は、女牆、ひめがき。

【⿰阝卷】ケン、コン。共偃切 [阮] おごる、(倨)。

【⿰阝詹】セン。昌豔切 [豔] サン、ゼン。仕陷切 [陷] おちいる、(陷)。

【隧】スヰ、ズヰ。徐醉切 [寘] ㊀墓道、はかみち、つかみち、すべて地を穿ちたる通路の稱、あなみち。○〔左〕「闕レ地及レ泉、ー而相見」。㊁徑路、みち、こみち。○〔詩〕「大ー風有レー」。㊂めぐる、(轉)、まはる、(回)。○〔莊〕「若二磨ー石之ーー」。

〔門隧〕門の出入のみち。○〔禮〕「出ー入不レ當二ーー二」。

〔丘隧〕つかと墓道と。○〔周〕「以レ度爲二ーーー二」。

〔埏隧〕はかみち。○〔潘岳〕「ーー既開」。

〔墓隧〕前に同じ。○〔水經、註〕「列二於ーーー二」。

〔蹊隧〕山あひなどのほそみち。○〔莊〕「山無二ーー二」。

〔阨隧〕阨隔のみち。○〔管〕「諸侯之ーー也」。

〔出隧〕菌の一種。○〔爾〕「ーー蘧蔬」。

〔障隧〕塞上險要の處に築きたる城のみち。○〔班彪〕「登二ーー而遙望兮」。

【隧】ツヰ、ヅヰ。直類切 [寘] 墜に同じ、おつ、おとす。○〔漢〕「ヌレー如レ髮」。

【隧】スヰ。雖遂切 [寘] 邃に同じ、おくふかし。○〔周〕「以爲レー」。

【隨】スヰ、ズヰ。旬爲切 [支] ㊁したがふ。

(い)つく、(從)。○〔詩〕「無レ縱二詭——一」。
(ろ)よる、(順)。○〔書〕「——レ山刊レ木」。
㊀易の卦の名、☱☳（震下兌上）。○〔易〕「——元亨」。
㊁あし、(趾)。○〔易〕「艮二其腓一、不レ拯二其—一」。
㊃正しく前面に向かひたる前足に後足の正しく横に接せるものゝ稱。○〔禮〕「其間容レ弓、距レ—長武」。
〔肩隨〕人の後よりなゝめにつき從ひ行く。○〔李白〕「厲行叅二——一」。
〔追隨〕逐ひ從ふ。○〔杜甫〕「從レ此數——一」。
〔委隨〕(い)柔順溫和なること。○〔後漢〕「仁厚——」。(ろ)屈節する能はず。○〔七發〕「四支——」。(は)道路の迂遠なるにいふ語。○〔王逸〕「望二舊邦一兮路——」。
〔羣隨〕むらがりてつきしたがふ。○〔王令〕「遇レ叅還——」。

【隨】サ、ザ。旬禾切 歌
人の名。○〔論〕「季—、季騧」。

【隨】橢に通じ用ふ。○〔淮〕「有レ所レ—」。

【隩】アウ、オウ。烏到切 號
㊀くま、(隈)。○〔爾〕「呼爲二浦——一」。
㊁かくす、かくろ、(隱)。○〔莊〕「弱二於德一、强二於物一、其塗—矣」。
〔隈隩〕みづぎし。○〔張融〕「——之窮」。
〔隅隩〕くま、すみ。○〔邢邵〕「御游二——一」。

【隩】イク、オク。於六切 屋
㊀澳に同じ、くま。○〔廣韻〕「水內曰レ—」。
㊁居るべき土。○〔書〕「四—既宅」。
㊂いへ、(室)、一説に、あたゝか、(煖)。○〔書〕「厥民—」。

【⿰阝豤】コン。口很切 阮
おそし、(遲)。

【險】ケン。虛檢切 琰
㊀けはし、あやふし。
(い)行くに危し、さがし、たかし。○〔漢〕「巴·蜀道—」。
(ろ)爲すに危し、なやまし、むつかし。○〔易、註〕「大亨則無レ—」。
(は)性情の邪惡にして危害多きにいふ字、よこしま、あし。○〔書〕「起レ信—膚」。
㊁けはしき處、あやふき事、よこしまなる者。○〔史〕「在レ德不レ在レ—」。
㊂やぶる、(傷)。○〔周〕「疢·疾—レ中」。
㊃ひらたくひろし、(偏·弇)。○〔周〕「—聲斂」。
㊄くぼくしてうすし、(汙·薄)。○〔爾〕「蝈大而—」。
〔天險〕そら高し、又、地の天然にけはしきこと。○〔潘岳〕「晉二——之襟帶一」。
〔設險〕けはしき場處をつくる。○〔博物志〕「侯·王—レ—」。
〔絕險〕極めて險阻なるところ。○〔詩〕「終踰二——一」。
〔夷險〕地の平夷のところと險阻のところと。○〔晉〕「分二——一」。
〔釋險〕危難をさる。○〔易、註〕「解レ難—レ—」。
〔隘險〕土地狹くして平坦ならず。○〔詩、疏〕「地又——而多二樹木一」。
〔守險〕險阻を守備す。○〔左〕「莫レ如レ—レ—」。
〔恃險〕地の險阻にして敵の攻め難きをきづよく賴むこと。○〔國〕「鄧·仲—レ—」。
〔怙險〕前に同じ。○〔晉〕「—レ—鴟·張」。
〔憑險〕前に同じ。○〔唐〕「—レ—恃レ遠」。
〔距險〕險阻を占めて防ぐ。○〔史〕「秦·兵尚衆—レ—」。
〔履險〕けはしき地を踰えゆく。○〔戰〕「—レ—乘レ危」。
〔阻險〕山川陵谷などのけはしきところ。○〔隋〕「地有二——一」。
〔窮險〕上地窮僻にして險阻なること。○〔史〕「然地亦——」。
〔佞險〕人と爲り口巧者にして邪惡なること。○〔後漢〕「以二——一自進」。
〔姦險〕奸惡なること。○〔蜀〕「聞二諸——一」。
〔鹽險〕性質のあらくしく邪惡なること。○〔晉〕「——不レ修二細行一」。
〔危險〕あやふくして安からず。○〔魏武帝〕「兵中所二以爲一——一者」。
〔屯險〕世の中の險惡にして平らかならざるにいふ語。○〔南〕「見二世路——一」。
〔保險〕けはしきところをたち守る。○〔隋〕「—レ—爲レ盜」。
〔艱險〕危難のこと。○〔魏徵〕「豈不レ憚二——一」。
〔冒險〕危難を憚からずして凌ぎ行ふ。○〔北〕「元·康—レ—求レ得之」。
〔輕險〕輕薄にして奸惡なること。○〔北〕「浮華——之徒」。
〔浮險〕前に同じ。○〔唐〕「性——尚豪侈」。
〔佻險〕前に同じ。○〔唐〕「尤——」。
〔兇險〕わるづよくよこしまなること、又、其の者。○〔舊唐〕「但結二連于——一」。
〔詭險〕奸詐にして正直ならざること。○〔唐〕「其猜姦——」。
〔猜險〕他人をそねみ忌みて邪惡なる心あること。○〔宋〕「性極——」。
〔奇險〕奇異にして平易ならず。○〔宋〕「務爲二——一」。
〔峻險〕高くしてけはし。○〔西京賦〕「修路——」。

【險】サン、セン。所斬切 豏
なやむ、(艱)。

【險】ケン。希見切 霰
けはし、(峻)。

【險】ケン。巨險切 琰
儉に同じ。

【險】ガン、ゲン。魚銜切 咸
巖に同じ。○〔史〕「得二說於傅—中一」。

【隫】フン、ボン。符分切 文
墳に同じ。

【⿰阝婁】セフ、ソフ。叱涉切 葉
女子の姿にいふ字、又、媚ぶ。

十四畫

【隭】陑に同じ。

【⿰阝厭】エフ。益涉切 葉
けはし、(險)。

【隮】セイ、サイ。祖稽切 齊
㊀のぼる、のぼす、(登)。○〔書〕「由二賓階一—」。
㊁たちのぼる氣。○〔詩〕「朝—二于西一」。
㊂にじ、(虹)。○〔周〕「十·煇九曰、—」。

【隮】シ、ツ。津私切 支
㊀前條の㊁に同じ。○〔詩〕「南·山朝—」。
㊁おつ、おとす、(墜)。○〔書〕「無レ指二告予顚—一」。

【隊】隊に同じ。

【⿰阝豪】カウ、ゴウ。胡刀切 豪
隍に同じ。

【隰】シフ、ジフ。似入切 緝
㊀低くして濕りたる地、はら、さは。○〔詩〕「山有レ榛、—有レ苓」。
㊁新に發したる田。○〔詩〕「徂レ—徂レ畛」。
㊂水邊、ほとり。○〔左〕「逐二翼·侯于汾·—一」。
〔原隰〕のはらの低く平らかなる濕地。○〔詩〕「于二彼——一」。
〔廣隰〕ひろやかなる下濕の地。○〔潘尼〕「綠蘇被二——一」。
〔下隰〕低くくぼめりたるはら。○〔蘇軾〕「——種二秔·稌一」。
〔蔽隰〕低下なるのはら一面をおほひかくす。○〔世說〕「旌·旗——」。

〔平隱〕廣くたひらかなるのはち。○〔趙至〕「肆二目一一一二。
〔险隱〕をかとさはど。○〔趙至〕「一一相望」。

【隱】イン、オン。於謹切 㢮

㊀かくる。
(い)逃ろ。○〔易〕「龍德而—者也」。
(ろ)去る。○〔禮〕「大道既—」。
(は)見えず。○〔易〕「巽稱而—」。
(に)顯れず。○〔禮〕「—而顯」。
(ほ)潛む。○〔爾、註〕「潛二—水底一」。「五刃二」。
㊁かくす。
(い)かくれてあらしむ。○〔國〕「—二「—」二
(ろ)蔽ふ。○〔呂氏春秋〕「弗レ能レ—「犯」。矣」。
(は)諱む。○〔禮〕「事レ親有レ—而無レ
(に)私す。○〔論〕「吾無レ—二乎爾一」。
㊂かくれたる處、みそかなると、かげ、志のび。○〔禮〕「不レ以二—疾一」。
㊃かくれたる事理、おほやけならざる情實。○〔易〕「探レ頤索レ—」。
㊄かくれて仕へざる人士。○〔宋〕「謂二之溥-陽之三—一二。
㊅意義をかくしたる言語、なぞ、かくしことば。○〔史〕「喜レ—」。
㊆ふす、(伏)。○〔禮〕「—辟而後屨」。
㊇うらなふ、(占)、はかる、(度)、おもふ、(思)。○〔後漢〕「—視幽-心、勿レ取二浮-華一」。
㊈安定、やすらか、志づか、おだやか。○〔後漢〕「篤-行—約」。
㊉いたむ、(痛)。○〔詩〕「姑有二—憂一」。
⑪うれふ、(憂)。○〔荀〕「—一—兮其恐二人之不レ當」。
⑫やむ、(病)。○〔莊〕「相結以—」。
⑬窮困の民。○〔唐〕「卹レ—撫レ鰥」。
⑭盛んなる貌にいふ字、又、多き貌にいふ字。○〔司馬相如〕「湛-々—一—」
⑮大いなる聲にいふ字、怒れる聲にいふ字。○〔晉〕「—一—有レ聲」。
⑯短牆、ひくきかき。○〔左〕「踰レ—而待レ之」。
⑰よる、(倚)。○〔孟〕「—レ几而臥」。
⑱きづく、(築)。○〔漢〕「厚築二其外一、—以二金-椎一」。
⑲琴の上飾、ことのかざり。○〔枚乘〕「孤-子之鉤以爲レ—」。

〔探隱〕幽微なるものを探りもとむ。○〔曹植〕「—レ—拯レ沈」。
〔大隱〕すぐれたる眞の隱遁者。○〔王康琚〕「—一—「隱二朝-希一」。
〔民隱〕人民のまづしく困しみ痛むもの。○〔東京賦〕「勤二恤—一—一」。
〔離隱〕かくれ場をはなれ世間にいづると。○〔易、註〕「出レ潛—レ—」。「雖二—一—一」。
〔幽隱〕世をのがれ深くかくる。○〔禮、疏〕「君-子身
〔蔽隱〕おほひかくす、又、おほはれかくる。○〔史〕「有レ能而不二敢—一—一」。
〔逃隱〕にげかくる。○〔左〕「無レ所二—一—一」。
〔伏隱〕ひそみかくる。○〔左〕「盜-賊—一—」。
〔陰隱〕かくしてあらはさず、又、あらはれず。○〔左〕「—一—爲レ惡也」。
〔祕隱〕前に同じ。○〔舊唐〕「所レ爲—一—」。
〔深隱〕おくふかくしてあらはれぬ。○〔爾、疏〕「最爲二—一—一」。「也」。
〔惻隱〕憐れみいたむ。○〔孟〕「—一—之心、仁之端
〔卑隱〕ひくゝしてあらはれざる地位。○〔史〕「君-子處二—一—一」。
〔朝隱〕隱退の心をもて仕官せる義。○〔夏侯湛〕「染二迹—一—一」。
〔吏隱〕前に同じ。○〔宋之問〕「—一—隱二朝-市一」。
〔卹隱〕貧困者などをあはれみ救ふ。○〔晉〕「以二—一—爲レ急」。「—一」
〔辟隱〕いみはゞかりてかくす。○〔北〕「愼勿二—一—一」。
〔匿隱〕志りぞきかくる、又、かくす。○〔南〕「昏無二—一—一」。「—二」。
〔姦隱〕邪惡にして明白ならぬ。○〔隋〕「民多二—一—一」。
〔懸隱〕はぢらひて事實をかくし蔽ふ。○〔舊唐〕「無レ所二—一—一」。「—二」。
〔痛隱〕いたみかなしむ。○〔唐〕「怡-然不レ爲二—一—一
〔哀隱〕なげきいたむ。○〔唐〕「行-路無二—一—者一」。
〔韜隱〕つゝみかくす。○〔劉勰〕「能—二—其實一」。
〔逸隱〕世俗を避けかくる、又、其の者。○〔諸葛亮〕「提二拔—一—一」。
〔訇隱〕波濤などのさかんなる聲にいふ語。○〔蘇彥〕「—一—鎭二宇-宙一」。
〔硼隱〕つゞみなどの聲にいふ語。「靈-鼓之—一—兮」。○〔魏文帝〕「伐二
〔退隱〕朝を志りぞきて野にかくるゝと。○〔劉滄〕「—二—衡-門-與レ俗疎」。

【隱】イン。於刃切 震
よる、(據)。○〔禮〕「其高可レ—」。

十五畫

【隫】トク、ドク。徒谷切 屋
瀆に同じ、みぞ。

【隫】トウ、ヅ。徒弄切 送
洞に同じ、とほす、ほがらか。

【隳】キ。許規切 支
隓に同じ、やぶる。○〔左〕「或戰或—」。

【隊】隆に同じ。

十六畫

【隢】デウ、ヂウ。乃了切 篠
偃し低るゝ貌にいふ字。

【隫】古文の濱の字。

【隴】リヨウ、リユ。小踵切 腫
㊀漢の天水郡今の甘肅省鞏昌府にある大阪。○〔史〕「文-公踰レ—」。
㊁陝西省鳳翔府に屬する州。○〔廣韻〕「漢汧-縣後-魏置二東秦-州一、改爲二—州一」。
㊂丘壟、をか。○〔列〕「逆二之—端一」。
㊃壟畝、はた。○〔史〕「起二—畝之閒一」。

十七畫

【巇】キ、ケ。許羈切 支
㊀けはし、(嶮)。㊁やぶる、(毀)。

【隵】サン、ゼン。仕懺切 陷
おちいる、(陷)。

十八畫

【隬】ヂフ、ニフ。昵立切 緝
隉—は、狹き貌にいふ語。

【䧢】コン、ゴン。胡本切 阮
大いなる阜、をか。

廿四畫

【隱】レイ、リヤウ。郎丁切 靑
隱鱗、すき。

隶部

【隶】タイ、デ。徒耐切 隊
〔說文〕从レ又从二尾省一、从レ又持レ尾者、从レ後及レ之也。
㊀およぶ、(及)。㊁あたふ、(與)。

【隶】イ。羊至切 寘
㊀前條に同じ。㊁もと、(本)。

【隶】シ、ジ。神至切 寘
あまり、(餘)。

【隶】テイ、ダイ。大計切 霽
狐の子。

【隶】 タイ、テ 蕩亥切 賄
逮に同じ。

七畫

【𨽸】 シ。息利切 寘
㊀つらぬ、(陳)。㊁つひに、(遂)。㊂ゆゑ、(故)。

八畫

【肆】 肆に同じ。

【隸】 隷に同じ。

九畫

【𨽻】 タイ、徒亥切 賄 デ。徒耐切 隊
およぶ(及)。

【隷】 レイ、ライ。郎計切 霽
㊀附屬者、てした、したつかさ、ども。○〔後漢〕「各有ㇾ配━━」。㊁賤役者、つかはれもの、めしつかひ、しもべ。○〔左〕「阜━之事」。㊂徒役者、ちようえきにん、つみびと、つみんど。○〔儀〕「━人涅ㇾ厠」。㊃つく。(い)附屬す、したがふ。○〔晉〕「割ニ此三郡ㇾ配ニ━益州」。(ろ)從役す、つかふ。○〔左〕「士有ニ━子弟」。㊄けみす、(閱)。○〔史〕「闕東吏━ニ郡國出ニ入闕ㇾ者ヿ」。㊅一種の書體、もと賤役者にも書するを得しむる義より出づ、或は盱陽の小篆を變じて創作したりといふ、或は程邈獄中にて創作したりといひ、或古昔にては今の楷書體を指していひしが、歐陽修の集古錄に八分を指していひしより今にては誤りて八分の稱ともなす。○〔晉〕「━書者篆之捷也」。
〔罪隷〕つみを犯し奴隷とせられし者。○〔周〕「━━百有二十人」。
〔輿隷〕しもべ。○〔方回〕「━━知ニ周孔」。
〔奴隷〕前に同じ。○〔韓愈〕「━━亦知ニ其清明」。
〔僕隷〕前に同じ。○〔書、傳〕「士以ㇾ爭友━━自匡正」。
〔僮隷〕前に同じ。○〔後漢〕「課ニ役━━」。
〔徒隷〕前に同じ。○〔柳宗元〕「其執ㇾ役者爲ニ━━」。
〔臺隷〕前に同じ。○〔歐陽脩〕「牧圉━━」。
〔陪隷〕前に同じ。○、後漢〕「拔ニ於━━之中」。
〔賤隷〕前に同じ。○〔北〕「以充ニ━━」。
〔女隷〕女のめしつかひ、はしため。○〔晉〕「選ニ闕人及━━有ニ聰識ㇾ者ヿ」。
〔奚隷〕男女の奴。○〔周〕「凡━━聚而出入者」。
〔草隷〕草書と隷書との字體。○〔南〕「尤工ニ━━」。
〔楷隷〕楷書と隷書との字體。○〔南〕「尤工ニ━━」。
〔篆隷〕篆書と隷書と。○〔宋〕「飲善ニ━━」。
〔厮隷〕めしつかひ、しもべ。○〔南〕「雜ニ於━━」。
〔附隷〕隷屬す、又、其の者。○〔北〕「賓客━━」。
〔俘隷〕俘虜を奴としたる者。○〔北〕「毋乃━━」。
〔私隷〕公役に給せざる私家のしもべ。○〔急就篇〕「奴婢━━」。
〔庖隷〕食物を料理せしむるめしつかひ。○〔陳遺〕「━━具易ㇾ供」。

【隸】 リ。力智切 寘
つく、(附)。

【𨽿】 レツ、レチ。力結切 屑
やっこ、(僕)。

十二畫

【𨾂】 タイ、デ。徒亥切 賄
及ぶ。

隹部

【隹】 ス井。職追切 支 〔文說〕象形。
㊀短き尾の鳥の總名、とり。㊁崔に同じ、高大なる貌にいふ字。

【隹】 ス井。祖誄切 紙 シ。諸鬼切 尾 サイ、セ。祖猥切 賄
崔に同じ、山の貌にいふ字。○〔莊〕「山林之畏━」。

二畫

【㕴】 鳩に同じ。

【𨾅】 鳿に同じ。

【隺】 コク。胡沃切 沃
高く至る、いたる。

【隺】 カク、コク。克角切 覺
心志の高きにいふ字、たかし。

【隺】 カク。曷各切 藥
鳥の高く飛ぶにいふ字、たかし。

【隻】 セキ、シヤク。之石切 陌 〔文說〕从ニ又持ニ隹、持ニ一隹ヿ曰ㇾ隻。
ひとつ、(單)、かたわれ、(奇)。○〔後漢〕「得ニ━鳧ニ」。

【𨾊】 鳰に同じ。

【隼】 シユン、ジユン。息允切 軫
鶻鶚の屬、はやぶさ、たか、飛ぶこと急疾にして性猛し。○〔詩〕「鴥彼飛━、其飛戾ㇾ天」。
〔鷹隼〕鷙鳥の名、たか。○〔漢〕「立秋而━━擊」。
〔翔隼〕空中を飛翔する一種のたか。○〔潘岳〕「濕有ニ━━」。
〔蒼隼〕一種のたか、○〔趙壹〕「前見ニ━━」。
〔鶻隼〕前に同じ。○張融〕「━━飛而未ㇾ半」。
〔畫隼〕はやぶさをゑがきうつす。○〔詩疏廣要〕「━ㇾ━以象ニ其威」。
〔鷙隼〕つよきはやぶさ。○〔劉孝威〕「猾鷩━━何由逐」。
〔旟隼〕はやぶさを畫きたるはた。○〔王褒〕「━━當ㇾ朝立」。

三畫

【𨾏】 カン。居寒切 寒
かり、(隨陽鳥)。

【𨾎】 ヨク、エキ。與職切 職
飛鳥を繳射すること、いぐるみ。

【𨾐】 コウ、グ。戸工切 東 戸孔切 董
㊀鳥肥ゆ。㊁やとふ、(傭)。

【雌】 雌に同じ。

【雀】 シヤク、サク。卽略切 藥
㊀一種の小鳥、すゞめ、行くに躍る。○〔詩〕「誰謂━無ㇾ角」。㊁小躍りすること。○〔戰〕「━立不ㇾ轉」。㊂すゞめの頭の色、すゞめいろ。○〔書〕「二人━弁」。
〔燕雀〕つばめとすゞめと、又、ともに鳥の極めて小さなるものなるより借りて小量の人物に喩へて用ふる語。○〔漢〕「嗟乎鳳・凰安與ニ━━ㇾ爲ㇾ羣」。
〔孔雀〕尾の長く極めてうつくしき鳥の名、くじやく。○〔說苑〕「君子愛ㇾ口、━━愛ㇾ羽」。
〔羅雀〕あみをはりて雀を捕ふること。○〔蘇軾〕「門前可ㇾ━ㇾ━」。
〔異雀〕めづらしきすゞめ。○〔唐〕「有ニ━━鳴ニ集庭樹」。

〔鸛雀〕鴻に似ておほいなる水鳥、おほとり。○〔元稹〕「有レ鳥有レ鳥如ニ——ニ」。
〔貞雀〕すゞめたかのことにて百鵲ともいふ。○〔爾雅〕「鷚——」。
〔楚雀〕倉庚ともいふ、てうせんうぐひす。○〔方言〕「或謂ニ之黄鳥一、或謂ニ之——ニ」。
〔桃雀〕みそさゞいの異名、俗に巧婦と稱す。○〔易林〕「——竊レ脂、巣ニ于小枝ニ」。

【陮】隝に同じ。

四畫

【雂】カウ。胡郎切 陽
飛びて高下す、とびあがりとびくだる。

【雁】ガン、ゲン。魚宴切 諫
鴈に同じ、かり、隨陽鳥。○〔詩〕「雝雝鳴——」。

【⿰支隹】シ。章移切 支
一鳷に同じ。二——度は、はかる。

【⿰今隹】ケン、ゴン。巨淹切 鹽　キン、ゴン。巨金切 侵

【⿰今隹】カン、コン。枯含切 覃
一種の鳥の名、しぎ。

【⿰今隹】ガン、ゴン。五甘切 覃
人の名。

【踓】⿰足鳥に同じ。

【⿰冘隹】鴆に同じ。

【⿱隹夫】キ、ギ。渠龜切 支
かへりみる、（顧）。

【⿰牛隹】鴾に同じ。

【⿰夫隹】キ。均窺切 支
子——は、ほさゝぎす。

【⿰夫隹】フ。風無切 虞
鳺に同じ。

【⿰九隹】鳩に同じ。

【雄】イウ、ウ。羽弓切 東
一雌に對して子兒を生ずる種子を有するものゝ稱、をす、を、をん。○〔詩〕「——雉于飛」。
二勢盛んなり、又、勢盛んなるもの。○〔楚辭〕「——赫々」。
三武勇あり、又、武勇あるもの。○〔左〕「寡人之——也」。
四傑出す、すぐる、又、傑出せるもの。○〔人物志〕「韓信是——」。
五首長、をさ、かしら。○〔戰〕「陳ニ六——之利害ニ」。
〔姦雄〕他にすぐれて奸智ある人。○〔家語〕「少正卯人之——也」。
〔兩雄〕二人の豪傑。○〔史〕「——不ニ並立ニ」。
〔梟雄〕わるづよき豪傑。○〔三國〕「劉備——之姿」。
〔英雄〕才武絶倫の者。○〔魏〕「天下——惟使君與レ操耳」。
〔羣雄〕多くのすぐれたる人物。○〔穆護〕「羣ニ虎鯨鯢驪ニ——ニ」。
〔豪雄〕勇武なる人。○〔李白〕「所レ交盡——」。
〔文雄〕文章に秀でたる人。○〔唐玄宗〕「是爲ニ——ニ」。
〔才雄〕才氣拔羣の者。○〔盧照鄰〕「結レ交盡——ニ」。
〔詞雄〕詞賦に長じたる人。○〔沈全期〕「公理擯ニ——ニ」。
〔雌雄〕鳥のめすとをすと、又、弱きものと强きものとの意に用ふることあり。○〔詩〕「誰知ニ鳥之——ニ」。
〔傑雄〕剛勇拔羣の者。○〔張說〕「共許ニ——自出レ羣」。
〔眞雄〕眞實の英雄。○〔李山甫〕「何者是——」。
〔決雌雄〕かちまけをさだむ。○〔史〕「挑レ戰——ニ——」。

【雅】ア、エ。烏加切 麻
みやまがらす、（楚烏）、やまがらす、（鸒）。

【雅】ガ、ゲ。五下切 馬
一詩の六義の一、正しくして後世の法となすべきものゝ義。○〔周〕「日——、日頌」。
二たゞしき樂、たゞしき歌、たゞしき聲。○〔荀〕「不ニ敢亂レ——」。
三たゞしき言、たゞしき道、たゞしき義。○〔史〕「救レ弊興レ——」。「——言ニ」。
四たゞし、（正）、つね、（常）。○〔論〕「子所ニ——言ニ」。
五嫻麗、優閑、鄙俗ならず、みやびやか、すさやか、ゆるやか、けだかし、おくゆかし。○〔史〕「從ニ車騎ニ雍容閑——甚都」。
六もとより、（素）。○〔史〕「張耳——遊」。
七一種の樂器、狀は漆筩の如くにして口弇く大さ二圍長さ五尺六寸、羊の韋にて鞔ふ。○〔周〕「應——」。
八さかづき、（酒器）。○〔東觀漢記〕「上ニ——壽ニ」。
〔儒雅〕正しき道の學問、又、其の學者。○〔晉、序〕「旁求ニ——ニ」。
〔風雅〕詩の國風と二雅と、又正しくみやびやかなること。○〔李白〕「季葉輕ニ——ニ」。
〔文雅〕文章詩賦などの正しきみち。○〔吳〕「——是貴」。
〔舒雅〕ゆるやかにして亂れざること。○〔魏〕「容歩——」。
〔博雅〕學ひろく道正し。○〔王逸〕「——好レ古」。
〔弘雅〕ゆるやかにして正し。○〔宋〕「有ニ——之美ニ」。
〔通雅〕物事にゆきわたりて正し。○〔北〕「識具——」。
〔淵雅〕沈重にして雅量あり。○〔魏〕「高尙——」。
〔沈雅〕前に同じ。○〔晉〕「——有ニ大量ニ」。
〔方雅〕正しくのりあり。○〔晉〕「澹退——」。
〔詳雅〕あざやかにみやびやかなること。○〔晉〕「風——」。
〔典雅〕正しきこと。○〔魏文帝〕「辭義——」。
〔端雅〕前に同じ。○〔晉〕「姿性——」。
〔清雅〕俗氣を脫せること。○〔南〕「風神——」。
〔高雅〕正しく高尙なり。○〔晉〕「器宇——」。
〔敦雅〕質朴にして俗ならず。○〔蜀〕「雍容——」。
〔都雅〕みやびやかなること。○〔吳〕「儀貌——」。
〔和雅〕性質などの溫和にして鄙野ならざるにいふ語。○〔宋〕「琰性——」。
〔溫雅〕前に同じ。○〔南〕「通和——」。
〔寬雅〕性質などのゆるやかにして俗ならざること。○〔南〕「以ニ——見レ知。
〔淡雅〕淡泊にして俗ならざること。○〔隋〕「有ニ——之風ニ」。
〔嫺雅〕おごそかにして正し。○〔杜甫〕「論ニ仁義則弘詳而——」。
〔麗雅〕うつくしくみやびやかなり。○〔文心雕龍〕「文辭——」。
〔古雅〕古色を帶びて鄙俗ならず。○〔法書要錄〕「——有レ餘」。
〔姸雅〕うつくしく俗氣なきこと。○〔埤雅〕「華淨——」。

【集】シフ、ジフ。秦入切 緝
一あつまる。
（い）羣をなす鳥の木上にあるにいふ字。○〔詩〕「——ニ于灌木ニ」。
（ろ）聚合す、會同す、あふ、よりあふ、よりあつまる。○〔史〕「雲——響應」。
（は）齊一に歸す、ひとしくなる。○〔漢〕「動靜不レ——」。
（に）雜はる、又、積もる。○〔孟〕「——義所レ生」。
二あつまらしむ、あはす、よす、ひとしくす、まじふ、つむ、あつむ。○〔後漢〕「收ニ——降卒ニ」。
三なる、なす、（就）。○〔書〕「大統未レ——」。
四とゞまる、（止）。○〔國〕「——ニ於苑ニ」。
五いたる、（至）。○〔左〕「不ニ其——ヒ亡」。
六もろ〳〵、（衆）。○〔史〕「鱗——仰レ流」。

❼やすんず、(安)。○〔史〕「安ニーー百姓ニ」。
❽やはらぐ、(和)。○〔史〕「武庚未レー」。
❾邊境の壘壁、とりで。○〔左〕「險ニ其走ーー」。
❿詩文論説などをあつめたるもの。○〔隋〕「詩ー五十卷」。
〔翔集〕鳥などの飛びきたりてあつまること。○〔晉〕「鳥獸ーー」。
〔雨集〕あめのふりきたる如く多くあつまる。○〔後漢〕「飛矢ーー」。
〔烏集〕舊故に因らずして烏鳥の如く暴にあつまること、又、其の集合のむれにいふ語。○〔史〕「英俊ーー」。
〔雲集〕くもの如く物の多く聚ること。○〔後漢〕「賢俊ーー」。
〔鱗集〕多くあつまるにいふ語。○〔潘尼〕「握レ權則赴者ーー」。
〔鴆集〕あつむ。○〔南〕「ーニー傳記ニ」。
〔四集〕四方よりあつまりきたる。○〔後漢〕「士馬ーー」。
〔叢集〕むらがりあつまる。○〔嵇康〕「ーー累積」。
〔羣集〕前に同じ。○〔詩、箋〕「ーニー君之朝ニ」。
〔會集〕よりあつまる。○〔李尤〕「東流ーー」。
〔聚集〕前に同じ。○〔左、疏〕「旦夕ーー」。
〔和集〕やはらぎあつまる。○〔史〕「百姓ーー」。
〔撰集〕事實を集めしるす。○〔後漢〕「令ニ班固ーニー共事ニ」。
〔驅集〕かりあつむ。○〔後漢〕「ーニー烏合之衆ニ」。
〔招集〕よびあつむ。○〔後漢〕「ーニー豪傑ニ」。
〔收集〕とりあつむ。○〔後漢〕「ーニー明智ニ」。
〔綴集〕かきつゞりあつむ。○〔後漢〕「ーニー所聞ニ」。
〔綏集〕やすんじあつむ。○〔後漢〕「ーニー諸國ニ」。
〔撫集〕前に同じ。○〔晉〕「足能ーニー本部ニ」。
〔抄集〕詩文などを拔きだして集む、又、其のもの。○〔魏〕「ーニー諸家兵法ニ」。
〔搜集〕さがしあつむ。○〔南〕「ーニー遐記ニ」。
〔懷集〕なつけあつむ。○〔阮瑀〕「ーニー異類ニ」。

【⿰氐隹】 シ。昌耳切 紙
めどり、めんどり、(雌)。

【⿰氐隹】 キ、ギ。翹移切 支

にはとり、(雞)。

【雇】 コ、ク。侯古切 麌
鳸に同じ。

【雇】 コ、ク。古慕切 遇
やとふ、(傭)。

五畫

【帷】 カウ、ガウ。胡廣切 漾
田器。

【雺】 鶩に同じ。

【雉】 チ、ヂ。丈几切 紙
㊀山に棲める毛羽うるはしき一種の鳥、きじ、きゞす。○〔周〕「六摯、士執レー」。
㊁城牆の尺度、高さ一丈長さ三丈の稱。○〔左〕「都城過ニ百ーー」。
㊂城牆、しろ、かき。○〔晉〕「欲レ藉ニ於臺ーー」。
㊃をさむ。○〔揚雄〕「ー理也」。
㊄公宮の南門。○〔春秋〕「ー門及兩觀災」。
〔雄雉〕をのきじ。○〔詩〕「ーー于飛」。
〔雌雉〕めすきじ。○〔論〕「山梁ーー」。
〔馴雉〕人になれたるきじ。○〔陸游〕「ーー毎依レ人」。
〔城雉〕しろ。○〔北〕「據ニ華山ー以爲ニーー」。
〔山雉〕やまどり。○〔爾〕「鷂ーー」。

【雉】 シ、ジ。序姉切 紙
兕に同じ。

【雉】 イ。演爾切 紙
縣の名。

【雉】 カイ、ケ。口駭切 蟹
猚ーーは、人の身のたけの短きこと。

【雉】 チ、ヂ。直利切 寘
野雞、きじ。

【⿰夭隹】 テツ、デチ。徒結切 屑
鴩に同じ。

【⿰古隹】 鴣に同じ。

【⿰号隹】 鴞に同じ。

【⿰𧾷隹】 シ。處脂切 支
鴟に同じ、とび。

【雊】 コウ、ク。古候切 宥 吉侯切 尤 ク、ゴ。倶遇切 遇
〔説文〕雉鳴而雊ニ其頸一、从レ隹从レ句。
雉の鳴くにいふ字、なく。○〔禮〕「雉ー雞乳」。

【睢】 鴡に同じ。

【⿰扌隹】 鴂に同じ。

【⿰犮隹】 ハツ、バチ。蒲撥切 曷
鴔に同じ、梟に似たる一種の鳥。

【雋】 セン、ゼン。徂兗切 銑
㊀肥肉、こえたるしゝ、又、味の甘美なること。○〔漢〕「曰ニーー永ニ」。
㊁縣の名。
㊂人の姓。

【雋】 セン。子兗切 銑
肥ゆ。

【雋】 スヰ。將遂切 寘
檇に同じ。

【雋】 儁に通じ用ふ。○〔漢〕「進ニ用英ーー」。

【雁】 ヨウ、オウ。於陵切 蒸
たか、(鷹)。

【雌】 シ。七移切 支 セイ、サイ。千西切 齊
㊀雄に配して兒子の種子を雄より受け之を生出するもの、め、めす、めん。○〔詩〕「以ー以雄」。
㊁雄の反にて勢鈍きこと、武勇なきこと、劣れること、又、其の者。○〔史〕「決ニーー雄ニ」。

【雍】 ヨウ、ユ。於容切 冬
㊀やはらぐ、(和)。○〔書〕「黎民於變ーー」。
㊁四方を水のとりまけること。○〔水經〕「四方有レ水曰レー」。
〔熙雍〕やはらぎかなふ。○〔何承天〕「百姓ーー」。
〔咸雍〕悉く和諧す。○〔張華〕「率土ーー」。
〔雞雍〕雞頭の實の異名。○〔本草〕「芡實一名ニーー」。

【雍】 ヨウ、ユ。委勇切 腫
㊀隄防にて水を止どむ、ふさぐ。○〔周〕「ーー氏」。
㊁たすく、(祐)、一説に、あつむ、(聚)。○〔揚雄〕「ーニ神休ニ」。

【雍】 ヨウ、ユ。於用切 宋
㊀九州の一、今の陝西省西安府一帶の稱。○〔書〕「黑水西河惟ー州」。
㊁國の名。○〔左〕「郜、ー、曹、滕」。

【雎】 ショ、ソ。七余切 魚

㊀一種の鳥、みさご。○〔詩〕「關々—鳩」。㊁次—は、行くに雖む、志ざる。

【䧺】雄に同じ。

六畫

【誰】鴿に同じ。

【婎】ヨク。余蜀切 沃 鵒に同じ。

【𨾏】ジョ、ニョ。人諸切 魚 かやくき（鴽母）、うづら（鶉）。

【雃】ケン。苦堅切 先 ㊀いしたゝき（石鳥）、一名、せきれい、（雝䳼）、一名、にはくなぶり（精列）。㊁人の名。

【雁】ガン。俄寒切 寒 カウ、キヤウ。丘耕切 庚 —䳭は、せきれい。

【雓】カク、ギヤク。逆革切 陌 ごゐさぎ（鵁鶄）。

【姓】鴳に同じ。

【䧿】毬に同じ。

【翟】鸐に同じ。

【雔】鴽に同じ。

【弓隹】鴺に同じ。

【杂隹】俗の雜の字。

【隽】スヰ。朱惟切 支 小鳥。

【危隹】鵭に同じ。

【雒】ラク。盧各切 藥 ㊀みゝづく（鵋䳜）。㊁身黒くして鬣白き馬、かはらげ。○〔詩〕「有驒有—」。㊂洛に通じ用ふ。○〔周〕「豫州其水榮—」。㊃絡に通じ用ふ、おもがい。○〔莊〕「刻レ之—レ之」。㊄額に同じ。○〔漢〕「増二封龍—侯一」。

【兆隹】テウ。他弔切 嘯 頭を低れて聽く、きく。

【雗】本、鷮に作る。

【隺】キク、コク。居六切 屋 鵴に同じ。

【弱隹】ヤク。余略切 藥 棋の心中の一子、なかて。○〔馬融〕「横—行陣亂、敵心駭惶、迫兼二碁—一、頽二棄其裝一」。

七畫

【任隹】ジン、ニン。如林切 侵 やつがしら、くそとび（戴勝鳥）。

【雓】鵻に同じ。

【告隹】鵠に同じ。

【豸隹】スヰ。千水切 紙 細き頸、ほそくび。

【肙隹】鵑に同じ。

【余隹】ヨ。以諸切 魚 蜀雞の子、大にはとりのひな。

【希隹】鵗に同じ。

【秃隹】鵚に同じ。

【髟隹】バウ、モウ。名項切 講 さび（鵃鳥）。

八畫

【垂隹】スヰ、ズヰ。是僞切 寘 ㊀さび（鴟）。㊁みやまがらす、はしぶとがらす（雅烏）。

【錐】スヰ、ズヰ。是爲切 支 子—は、ほとゝぎす。

【享隹】鶉に同じ。

【奄隹】鵪に同じ。

【其隹】䳢に同じ。

【卑隹】鵯に同じ。

【綿隹】鵗に同じ。

【𨿅】俗の鵰の字。

【昔隹】鵲に同じ。

【萬隹】𪇰に同じ。

【離】鶺に同じ。

【隺】ヰ。余雖切 支 飛ぶ貌にいふ字。

【秋隹】鶖に同じ。

【壽隹】シウ、ジュ。市流切 尤 雙鳥。

【翟】レイ、ライ。郎奚切 齊 黄—は、ちようせんうぐひす。

【扁隹】鶣に同じ。

【雕】テウ。都僚切 蕭 ㊀わし（鷲）。○〔史〕「匈奴射—者也」。㊁章明なる貌、あきらか。○〔荀〕「—爲縣二貴爵重賞於其前一」。㊂文飾を刻制す、ほる、ゑる、ちりばむ。○〔孟〕「必使二玉人—二琢之一」。

【畾隹】鸓に同じ。

【鹿隹】鹿に同じ。

九畫

【重隹】ショウ、ジュ。充隴切 腫 ソウ、ス。蚩工切 東 ㊀すゞめ（雀）。㊁小鳥の飛ぶにいふ字、さぶ。

【癸隹】鶏に同じ。

【敄隹】ブ、ム。亡遇切 遇 ㊀雀の子。㊁雛の雛。

【酉隹】鷄に同じ。

【雛】鶵に同じ。

【⿱秋隹】シウ、シユ。七由切 尤
㊀雛の雛。㊁雅の雛。

【⿰耎隹】ゼン、ネン。儒轉切 銑　ジユン、ニユン。濡純切 震　ゼン、ネン。而宣切 先
にはとり、(鷄)。

【雖】スヰ。宣隹切 支
㊀狀は蜥蜴に似たる一種の大蟲。
㊁いへども、ども。
(い)上を翻して下に接するときに用ふる字。○〔禮〕「―二微レ晉而已一、天下其孰能當レ之」。
(ろ)かりて說くさきに用ふる字。○〔儀〕「―レ請レ退可也」。
㊂おす、(推)。○〔吳〕「吾―レ之不レ能」。
㊃一種の獸、かゝりざる。○〔于逖〕「傳弘業宰二天台縣一、有三人獵得二一獸一、形如レ豕、仰鼻長尾有レ岐、謂二之怪一、弘業識レ之曰、其名―、非レ怪也」。

【⿰具隹】鵙に同じ。

十畫

【⿰隺隹】鶴に同じ。

【雗】カン。侯幹切 翰　カン、ガン。何干切 寒
きじ、(雉)。

【雘】ワク。烏郭切 藥
丹土の善なるもの、即ち赤色のあざやかなる丹土、しんしや。○〔山海經〕「雞山其下多二丹―一」。
〔青雘〕青きいろどり、又、空青のこと。○〔山海經〕「青丘之山、多出二―・―一」。

【雘】コ、ウ。瑚故切 遇
あかし、(丹)。

【雙】サウ、ソウ。所江切 江　〔說文〕隹二枚也、从レ雔、又持レ之
㊀ふたつ、そろひ、(兩)。○〔儀〕「凡獻執二―一」。
㊁ならぶ、たぐひ、(偶)。○〔詩〕「冠緌―止」。
〔雙雙〕ふたつづつ、ひとそろひづつ。○〔李商隱〕「鸞鳳各―・―」。
〔無雙〕ならぶものなし。○〔史〕「國士―・―」。
〔少雙〕ならぶもの多からず。○〔漢〕「天下―レ―」。
〔一雙〕ひとそろひ。○〔後漢〕「黃龍―・―」。
〔無等雙〕ならぶものなし。○〔黃庭堅〕「國器―二―・―一」。

【雙】サウ、ソウ。朔降切 絳
たぐひ、(偶)。

【⿰骨隹】テウ。丁澆切 蕭
鵰の屬、みさご。

【⿰倉隹】サウ。七岡切 陽
鶬に同じ。

【雚】クワン。工換切 翰
㊀一種の水鳥、あまさぎ。○〔詩〕「―鳴二于垤一」。
㊁草の名、かゞみぐさ。○〔爾〕「―、芄蘭」。

【雚】クワン。古丸切 寒
芄。

【雛】ス。仕于切 虞
㊀ひな。
(い)雛の子、ひよこ。○〔孟〕「力不レ能レ勝二一匹―一」。
(ろ)すべて幼小なるものゝ稱。○〔晉〕「鳳皇將二九―一」。
㊁ひなを伏くと、ひなを伴なふと。○〔禮〕「不レ食二―鼈一」。
〔鳳雛〕鳳のひな、英才に喩へていふ語。○〔蜀、註〕「此間自有二伏龍―・―一」。
〔龍雛〕たけのこ、(筍)。○〔蘇軾〕「森來相與護二―・―一」。
〔僧雛〕小坊主。○〔黃庭堅〕「―・―手二金鑰一」。

【雛】シユ、ス。從遇切 遇
顏濁―は、孔子の弟子。

【雜】サフ、ザフ。徂合切 合
㊀まじる、まじはる。
(い)相合す、あふ。○〔易〕「天地之―也」。
(ろ)相會す、あつまる。○〔呂氏春秋〕「四方來―」。
(は)紛亂す、いりみだる。○〔後漢〕「上下僭―」。
(に)相厠す、はさまる。○〔楚辭〕「來―陳些」。
㊁まじらしむ、あはす、あつむ、いれみだす、はさむ(㊀の條參照すべし)、まず、まじふ。○〔周〕「―二五色一」。
㊂多端、おほし。○〔荀〕「―能旁魄」。
㊃煩數、くだくだし。○〔宋〕「不レ堪レ―」。
㊄細碎、こまかし。○〔易〕「其稱レ名也、―而不レ越」。
㊅斑駁、まだら。○〔淮〕「貂裘而―」。
㊆相偶はざるにいふ字。○〔儀〕「―裳」。
㊇純ならず、精ならず。○〔荀〕「―布與レ錦」。
㊈まじりて、まじへて、倶に、みな。○〔國〕「―受二其刑一」。
㊉かざる、かざり、(飾)。○〔禮〕「―帶君朱綠」。
⑪めぐる、めぐり、(匝)。○〔呂氏春秋〕「圜周復―」。
〔流雜〕流民などの入りまじること。○〔齊〕「―・―繁廣」。
〔參雜〕まじりあふこと。○〔後漢〕「―二―霸軌一」。
〔紛雜〕いりみだれて正しからず。○〔梁〕「篇卷―・―」。
〔糅雜〕まじる。○〔世說〕「不二相―・―一」。
〔繁雜〕事多くいりまじる。○〔隋〕「職務―・―」。
〔混雜〕入りまじりて別ちがたきこと。○〔陳後主〕「水霧涯―・―」。
〔塵雜〕世の中のくさぐさ。○〔張籍〕「讀レ書避二―・―一」。
〔异雜〕高尙醇一ならず。○〔春秋、杜預序疏〕「疑語―・―」。
〔煩雜〕わづらはしくまじりあり。○〔晉〕「患二前代律令本注―・―一」。
〔擾雜〕みだす、又、みだる。○〔後漢〕「―二―北風一」。
〔糾雜〕もつれみだる。○〔宋〕「刑政―・―」。
〔舛雜〕いりまじりみだれて正しからず。○〔沈約〕「繁蕪―・―」。
〔荒雜〕あれみだれて正しからず。○〔唐〕「班序―・―」。
〔尨雜〕粗大にして精純ならず。○〔歐陽修〕「―・―不二全純一」。
〔粗雜〕精良ならぬ。○〔唐〕「惟―・―苦窳而已」。
〔侵雜〕分限をおかしみだす。○〔尹文子〕「不二相―・―一」。
〔浮雜〕輕薄にして濫雜なり。○〔抱朴〕「―・―之交」。
〔嘈雜〕聲かまびすしくいりみだる。○〔范〕「管絃―・―」。
〔錯雜〕いりまじる。○〔王褒〕「緯靡―・―」。
〔殽雜〕前に同じ。○〔于邵〕「紛然―・―」。
〔亂雜〕みだれまじる。○〔梁簡文帝〕「明金―・―」。
〔蕪雜〕繁雜にして精純ならぬ。○〔盧藏用〕「常恨二國史―・―一」。
〔濫雜〕みだれて正しからず。○〔杜氏通典〕「用レ人―・―」。
〔宂雜〕むだなるもの。○〔圖繪寶鑑〕「重複―・―」。

【雝】ヨウ、ユ。於容切 冬

やはらぐ。
(い)雁の和ぐ聲にいふ字。○〔詩〕「――鳴雁」。
(ろ)和ぐ。○〔詩〕「曷不二肅―一」。

【雝】ヨウ、ユ。尹竦切 腫
おほふ、(蔽)。○〔詩〕「無レ將二大車一、維塵―兮」。

【⿰邑隹】ヨウ、ユ。於用切 宋
雝に同じ。

【雞】ケイ、古兮カイ。切 齊 ―一に、鷄に作る。
司晨鳥、にはとり、くだかけ。○〔書〕「牝―莫レ晨」。
〔蜀雞〕ねぐらにあるにはとり。○〔劉孝威〕「―――識レ將レ曙」。
〔莎雞〕蝗に似たる蟲の名、はたおり、天雞、梭雞、酸雞などの異名あり。○〔詩〕「六月――振レ羽」。
〔天雞〕前に同じ、又、星の名。○〔晉〕「箕四星、一曰二――一」。
〔鬬雞〕にはとりをたゝかはす、又、けあひどり。○〔五〕「亞次――小兒耳」。
〔醯雞〕酒より生ずる小蟲の名。○〔列〕「――生二乎酒一」。
〔伏雞〕卵をいだきゐるにはとり。○〔公羊、註〕「―――搏レ狸」。
〔野雞〕雉の異名。○〔埤雅〕「――鳴レ陰」。

【巂】ケイ、エ。戸圭切 齊
㊀――周は、ほとゝぎす、子規。
㊁輪轉の度、又、車輪の一周轉。○〔禮〕「立視二五―一」。

【巂】キ。均窺切 支
雉に同じ。

【嶲】スヰ。息委切 紙
郡の名。○〔漢〕「越――郡」。

【巂】セン。粗袞切 銑
地の名、或は酇に作る。

【雋】セン。子泉切 先
ちりばむ、(鑽鏤)。

十一畫

【⿱⿰方矢隹】⿱⿰方矢鳥に同じ。

【⿰翏隹】リウ、ル。力救切 宥
大いなる雛、一説に、晩く生まれたる雉の子。

【⿰從隹】ショウ、ジュ。牆容切 冬
にはとり、(雞)。

【⿰區隹】オウ、ウ。於侯切 宥
鳥の聲にいふ字。

【離】リ。呂支切 支
㊀鸝に同じ。○〔詩、傳〕「倉庚――黄也」。
㊁はなる、はなす。
(い)ちる、ちらす、(散)。○〔呂氏春秋〕「―則復合」。
(ろ)わかる、わかつ、(分)。○〔列〕「形―名―也」。
(は)さほざかる、さほざく、(遠)。○〔易〕「非レ―レ羣也」。「心二。
(に)去る。○〔淮〕「欲レ―二其童蒙之心一」。
(ほ)違ふ。○〔管〕「不レ能レ―也」。
(へ)開く。○〔張衡〕「―二朱脣一而微笑兮」。
(と)畔く。○〔國〕「邇者騷―」。
(ち)割ぐ。○〔儀〕「―レ肺」。
㊂易の卦の名、☲☲ 離下離上。○〔易〕「―利レ貞」。
㊃南。○〔算經〕「夏至從レ―」。
㊄あきらか、(明)。○〔大戴禮〕「―二顯先帝之光耀一」。
㊅つく、(麗)。○〔張衡〕「孰能―」。
㊆つらぬ、つらなる、(陳)。○〔左〕「設レ衛―レ服」。
㊇つら、(列)。○〔管〕「昭穆之―」。
㊈ふたつ、(兩)。○〔禮〕「―坐―立」。
㊉かゝる。
(い)遭ふ。○〔淮〕「―者必病」。
(ろ)獵す。○〔儀〕「―二維綱一」。
⑪すぐ、(過)、ふ、(歷)。○〔戰〕「我―二兩周一」。
⑫親しまざる貌にいふ字、遠ざかる貌にいふ字。○〔荀〕「―――然」。
⑬さくろ貌にいふ字、ちらばる貌にいふ字。○〔楚辭〕「心―――兮」。
⑭垂るゝ貌にいふ字、おほふ貌にいふ字、又、善き貌にいふ字。○〔詩〕「其實――」。
⑮蘼蕪、せんきうのなへ。○〔屈平〕「扈二江――與二辟芷一兮」。
⑯山梨、やまなし。○〔司馬相如〕「櫱―朱楊」。
⑰芍藥、かほよぐさ。○〔埤雅〕「芍藥――草也」。
⑱藩蔽、かき、かこひ。○〔國〕「聽二命於藩―之外一」。
⑲大琴。○〔爾〕「大琴謂二之―一」。
〔仳離〕わかる。○〔詩〕「有レ女――」。
〔流離〕(い)鳥の名。○〔詩〕「―――之子」。(ろ)其所を得ずして流浪す。○〔前漢郊祀歌〕「闕二――一」。(は)琉璃のこと。○〔漢〕「罽賓國出二――一」。
〔支離〕(い)陣の名。○〔左〕「爲二――之卒一」。(ろ)てあしなどを切りたる者、かたは。○〔莊〕「―二―其形一」。(は)遠なりつゞく。○〔魏都賦〕「朱桷森布而――」。
〔侏離〕蠻夷の語聲。○〔後漢〕「語言――」。
〔纖離〕古の良馬の名。○〔荀〕「――綠耳、古之良馬也」。
〔陸離〕衆き貌、一に美好の貌、又、分散するともいふ。○〔屈平〕「長二余佩之――一」。
〔別離〕おもに人のわかれはなるゝにいふ、わかれ、わかる。○〔杜甫〕「愁來賦二――一」。
〔長離〕神の名、一説に、靈鳥とも、又、星の名ともいふ。○〔司馬相如〕「前二――一而後二矞皇一」。
〔披離〕四方に散ずる貌にいふ語。○〔吳均〕「細葉能――」。
〔分離〕わかる、はなる。○〔李白〕「萊夔皆二――一」。
〔乖離〕はなれたがひてあはず。○〔韓愈〕「大義常二――一」。
〔合離〕あふとはなるゝと、又、草の名、又、木の名。○〔戰〕「――之相續」。
〔散離〕はなれちる。○〔後漢〕「騶樸――」。
〔遼離〕たがひはなれてあはず。○〔周伯琦〕「九載――得二遠沓一」。
〔睽離〕前に同じ。○〔陸游〕「寄レ書誰與敍二――一」。

【離】チ。抽知切 支
螭に通じ用ふ、みづち。○〔史〕「如レ豺如レ―」。

【離】リ。𪓐尒切 紙
――跂は、臂を攘ふ貌にいふ語。

【離】リ。力智切 寘
去る、はなる、はなす。○〔書〕「畔レ官―レ次」。

【離】レイ、ライ。郎計切 霽
㊀儷に同じ、たぐひ、ならぶ。○〔禮〕「宿―不レ貸」。
㊁荔に同じ。○〔司馬相如〕「答遝―支」。

【⿰酓隹】アン、オン。烏含切 覃
鵪に同じ、うづら。

【難】ダン、ナン。那干切 [寒]

㊀容易ならざるにいふ字、むつかし、かたし。○[國]「善之—哉」。○[書]「惟帝其—之」。
㊁かたしとなす、かたんず。○[書]「—ー」。○[禮]「苦ニ其—ー」。
㊂かたきこと、かたき所。
㊃とり(鳥)。

〔艱難〕なやみありて容易ならず。○[書]「先知稼穡之—ー」。
〔急難〕さしせまりたる難事。○[高適]「賢兄救ニ—ー」。
〔多難〕むつかしきとおほし。○[老]「多易必—ー」。
〔奇難〕めづらしくむつかし。○[唐]「有ニ—ー字ー」。
〔阻難〕けはしくしてたひらかならず。○[陸機]「山川—且—」。
〔險難〕前に同じ。○[陸機]「人道—而—」。

㊇詰問、とひ。○[唐]「發ニ十—ー詰レ之」。
㊈易からず、かたし。○[公羊]「其言レ入何—焉」。

〔多難〕すくなからざるうれひ。○[南]「實聚—ー」。
〔臨難〕急難にせまる。○[禮]「—レ—毋ニ苟免ー」。
〔釋難〕困難をかりのぞく。○[戰]「排レ患—レ—」。
〔搆難〕和睦せずして互にこばみせむ。○[戰]「秦趙—レ—而天下皆悅」。
〔論難〕辯じなじる。○[後漢]「—ニ—於前ー」。
〔辯難〕前に同じ。○[後漢]「互相—ー」。
〔內難〕うちうちのなやみと國家の內亂などにいふ語。○[宋]「—ー得レ弭」。
〔靖難〕國家の危難をたひらげさだむ。○[後漢]「氣志在ニ—ーー」。
〔戡難〕前に同じ。○[高適]「愧レ無ニ—ー策ー」。
〔定難〕前に同じ。○[方干]「—レ—在ニ朝略ー」。
〔濟難〕前に同じ。○[書]「扶レ顚—レ—」。
〔患難〕うれひ。○[後漢]「自謂無ニ復—ーー」。
〔冦難〕あたのうれひ。○[漢]「則有ニ—ーー」。
〔發難〕兵亂をおこす。○[漢]「天下初—レ—」。
〔家難〕家にかゝる患難。○[史]「悲ニ彼—ーー」。
〔救難〕患をすくふ。○[史]「—ニ紛糾之—ー」。
〔匡難〕前に同じ。○[晉]「志レ世—ー」。
〔脫難〕危きうれへをのがる。○[史]「又與之—レ—ー」。
〔危難〕あやふきうれひ。○[史]「—ー在ニ三月之內ー」。
〔禍難〕わざはひ。○[韓]「夫智者知ニ—ー之地而辟レ之者也」。
〔厄難〕前に同じ。○[易林]「蹊—ーー」。
〔大難〕世の中のおほいなる禍患。○[魏]「今天下—ー已除」。
〔國難〕國家のうれへ、卽ち、戰亂などをいふ。○[魏]「初興ニ—ーー」。
〔兵難〕戰爭のなやみ。○[魏、註]「殷有ニ—ーー」。
〔嘲難〕あざけりなじる。○[吳、註]「相對—ー」。
〔屯難〕なやみ。○[唐]「—ー未レ靖」。
〔外難〕そとよりきたれるうれひ。○[管]「則宜レ有ニ—ーー」。
〔死難〕國家の難事にいのちをすつ。○[唐]「無レ伏節—レ—者」。
〔憂難〕患苦。○[抱朴]「遭ニ—ー而不レ變者」。

【難】ダ、ナ。曩何切 [歌]

㊀儺に同じ、おにやらひ。○[禮]「季春命レ國—」。
㊁盛んなる貌にいふ字。○[詩]「其葉有レ—」。

【難】ダ、ナ。乃可切 [哿]

懐に同じ。

【難】ダン、ナン。乃旦切 [翰]

㊀うれふ(患)、くるしむ(苦)。○[左]「以—レ之」。
㊁はゞむ、こばむ(拒)。○[書]「惇レ德允レ元而—ニ任人ー」。
㊂せむ(責)、なじる(詰)。○[孟]「於ニ禽獸ー又何—焉」。
㊃患苦、うれひ。○[易]「以ニ儉德ー辟レ—」。
㊄人の名。○[左]「—也牧レ子」。
㊅仇敵、あだ。○[戰]「與レ秦爲レ—」。
㊆兵亂、みだれ。○[公羊]「請レ作レ—」。

【雓】ショウ、ジュ。疾容切 [冬]

にはとり(雞)。

十二畫

【⿰就隹】鷲に同じ。

【⿰散隹】サン。蘇旰切 [翰] 穎旱切 [旱]

㊀糸を著けて鳥を射ること、いぐるみ。
㊁飛散す、ちる、さばしる。

【⿰咢隹】鶚に同じ。

【⿱敄隹】鶩に同じ。

【⿰朁隹】シン、ジン。子心切 [侵] 子鴆切 [沁]

にはとり(雞)。

十三畫

【⿰亶隹】鸇に同じ。

【⿱𦥯隹】カク、ゴク。胡角切 アク、オク。乙角切 [覺]

鷽に同じ。

【⿰阝巂】スヰ。山垂切 キ。勻規切 [支]

こぶ(飛)。

【雞】鷄に同じ。

【⿰合隹】鴿に同じ。

【⿰鬲隹】鷊に同じ。

【⿱路隹】鷺に同じ。

十四畫

【⿰賓隹】ヒン。必鄰切 [眞]

小き雀。

【⿱瞿隹】鸜に同じ。

十五畫

【⿰黎隹】レイ、ライ。郎兮切 [齊] リ。巨脂切 [支]

鵹に同じ。

十六畫

【雥】サフ、ゾフ。徂合切 [合]

羣る。○[許善心]「嘉皃—集」。

【⿰盧隹】鸕に同じ。

二十畫

【雧】集に同じ。○[屈平]「—ニ芙蓉ー以爲レ裳」。

雨部

【雨】ウ、ヲ。王矩切 [麌] ヨ、ウ。歐許切 [語]

〔說文〕一象レ天、冂象レ雲、水霝ニ其閒ー也。

雲氣の冷え水となりて滴り降るもの、あめ。○[易]「雲行—施、品物流レ形」。

〔霖雨〕ながあめ。○[爾]「三日已往爲ニ—ーー」。
〔長雨〕前に同じ。○[蔡邕]「聽ニ—ー之霖々ー」。
〔好雨〕ほどよき時にふるあめ。○[徐璣]「昨夜新雷催ニ—ーー」。
〔時雨〕前に同じ。○[禮]「天降ニ—ーー」。
〔甘雨〕人の望みたる時にふるあめ。○[詩]「以祈ニ—ーー」。
〔如雨〕多きことに喩へていふ語。○[詩]「其從—ー」。
〔零雨〕徐かにふる雨。○[詩]「—ー其濛」。
〔膏雨〕穀物を肥す雨。○[左]「如ニ百穀之仰ニ—ーー」。
〔苦雨〕人を苦しましむる雨、ながあめ。○[禮]「—ー數來」。
〔淫雨〕霽れざる雨、ながあめ。○[禮]「—ー早降」。

〔梅雨〕五月雨、さみだれ。○〔鄭谷〕「｜｜豊渓深」。
〔白雨〕夏時俄かにふりだし、俄かにはるゝあめ、ゆふだち。○〔蘇軾〕「｜｜跳レ珠亂入レ船」。
〔紅雨〕くれなゐの雨、又、落花に喩へていふ語。○〔蘇軾〕「紛々墮二｜｜一」。
〔諫雨〕ばら〱とふる雨。○〔司空圖〕「｜｜相過」。
〔澤雨〕萬物を潤す雨。○〔王融〕「｜｜散二雲花一」。
〔法雨〕教法の人を利するは雨の物を潤すが如しといふよりいふ。○〔蘇軾〕「｜｜洗二浮埃一」。
〔細雨〕こまかくふるあめ。○〔梁簡文帝〕「｜｜雜二冷風一」。
〔暮雨〕夕雨といふに同じ、ゆふぐれにふりだしたる雨。○〔盧照鄰〕「江前飛二｜｜一」。
〔凍雨〕前に同じ。○〔梁昭明太子〕「｜｜洗二梅樹之中一」。
〔暴雨〕烈しくふる雨。○〔禮〕「猋風｜｜」。
〔積雨〕ながあめ。○〔宋〕「｜｜傷レ蠶」。
〔膏雨〕恩惠に喩へていふ語、めぐみ。○〔宋〕「誕受二｜｜一」。
〔風雨〕あめかぜ。○〔易〕「潤レ之以二｜｜一」。
〔雷雨〕かみなりとあめと。○〔易〕「天地解而｜｜作」。
〔靈雨〕善きあめ。○〔詩〕「｜｜既零」。
〔雲雨〕くもとあめと。○〔詩、傳〕「山出二｜｜一」。
〔下雨〕あめをふらす。○〔孟〕「沛然｜レ｜」。
〔沐雨〕あめを冒ししのぎて東西に奔走すること。○〔北齊〕「｜レ｜櫛レ風」。
〔飛雨〕風のために吹きみだされてふるあめ。○〔謝朓〕「朔風吹二｜｜一」。
〔快雨〕ひでりつゞきの時などに急にふりきたりて人を喜ばしむるあめ。○〔魏〕「覺成二｜｜一」。
〔微雨〕こまかきあめ。○〔陶潛〕「｜｜從レ東來」。
〔春雨〕はるさめ。○〔陸游〕「小樓一夜聽二｜｜一」。
〔驟雨〕急にふり出す雨、にはかあめ。○〔老〕「｜｜不レ終レ日」。
〔駛雨〕前に同じ。○〔元好問〕「｜｜東南來」。
〔急雨〕前に同じ。○〔曹松〕「｜｜洗二荒壁一」。
〔片雨〕一方にのみふる雨。○〔岑參〕「江村｜｜外」。
〔簷雨〕のきばに滴る雨。○〔張耒〕「｜｜瀟々到二夜闌一」。
〔猛雨〕烈しくふる雨。○〔溫庭筠〕「夜聞二｜｜判二花盡一」。
〔甚雨〕前に同じ。○〔禮〕「若有二疾風迅雷｜｜一」。
〔疾雨〕前に同じ。○〔韓詩外傳〕「迅雷｜｜」。
〔瑞雨〕よろこぶべきよきあめ。○〔南〕「上二｜｜頌一」。
〔宿雨〕日をかさねてふりたるあめ。○〔李嶠〕「大江開二｜｜一」。

【雨】ウ、チ。王遇切 〔遇〕
㊀あめ雪などの下るにいふ字、あめふる、ふる。○〔詩〕「｜二我公田一」。
㊁あめ雪などを下す、ふらす。○〔詩〕「｜レ雪其雱」。

二畫

【⿱雨丁】ダウ、チヤウ。敕庚切 〔庚〕
あめふる（雨）。

三畫

【雩】ウ、チ。羽俱切 〔虞〕
夏日に雨をふらさんと天に請ふ祭、あまごひ。○〔禮〕「仲夏大｜」。

【雩】ウ、羽俱ク、況于チ、汪胡ウ。切 コ。切 〔虞〕　キヨ、休居コ。切 〔魚〕
｜婁は、地の名。

【雩】ウ、チ。王遇切 〔遇〕
にじ（虹）。○〔爾〕「螮蝀謂二之｜一」。

【⿱雨于】雩に同じ。

【⿱雨彡】サン、桑感ソン。切 〔感〕　サン、所咸セン。切 〔咸〕
小雨、こさめ。

【⿱雨女】レイ、リヤウ。力丁切 〔青〕
女の字、をんなのあざな。

【雪】セツ、セチ。相絶切 〔屑〕
㊀空中の水氣の寒氣に逢ひ凍りて地上にふるもの、純白にして形は六出なり、ゆき。○〔詩〕「雨レ｜其雱」。
㊁白きことに借りいふ字。○〔白居易〕「星々愁二鬢｜一」。
㊂はらふ（除）、すゝぐ（洗）。○〔莊〕「澡二｜而精神一」。
㊃のごふ（拭）。○〔家語〕「以レ黍｜レ桃」。
〔積雪〕ふりつもりたる雪、又、ながくふりたる雪。○〔晉〕「後正會｜｜始晴」。
〔尺雪〕一尺あまりもふりつもりたる雪。○〔晉〕「平地｜｜」。
〔瑞雪〕めでたきしるしとしてふりたるゆき。○〔舊唐〕「以爲二｜｜一」。
〔殘雪〕消えのこりのゆき。○〔杜審言〕「梅花落處疑二｜｜一」。
〔香雪〕芳香ある白き花を雪に見立てゝいふ語。○〔韓偓〕「正憐｜｜飛千片」。
〔如雪〕色の白きにいふ語。○〔詩〕「麻衣｜レ｜」。
〔宿雪〕日を經て消えざる雪。○〔後漢〕「冬無二｜｜一」。
〔玉雪〕清らかにして鮮かなるに喩へていふ語。○〔韓愈〕「肌膚｜｜」。
〔吹雪〕雪の風を帶びてふること、ゆきふゞき。○〔戴嵩〕「晩至如二｜｜一」。
〔狂雪〕風に吹かれてくるひ舞ふゆき。○〔李嶠〕「｜｜隨レ風撲レ馬飛」。
〔白雪〕しらゆき。○〔孟〕「｜｜之白猶二白玉之白一與」。
〔皓雪〕前に同じ。○〔元稹〕「｜｜紛二滿庭一」。
〔霜雪〕しもとゆきと。○〔史〕「冒二｜｜一」。
〔飛雪〕風にちりみだるゝゆき。○〔謝朓〕「｜｜天山來」。
〔清雪〕拭ひきよむ。○〔後漢〕「未レ能レ｜二國恥一」。
〔洗雪〕前に同じ。○〔後漢〕「｜二｜百年之逋負一」。
〔流雪〕前に同じ。○〔唐〕「乃詔｜｜」。
〔報雪〕うけたるはづかしめなどをむくいきよむ。○〔魏〕「有二｜｜之心一」。
〔申雪〕冤をのべ辱をすゝぐ。○〔北〕「多二｜｜一」。
〔原雪〕罪過をゆるし潔白の身となす。○〔唐〕「雖レ被二｜｜一、而子孫殆盡」。
〔急雪〕はげしくふるゆき。○〔杜甫〕「｜｜舞二廻風一」。
〔鬢雪〕鬢の毛の白くなりたるにいふ語。○〔白居易〕「星々愁二｜｜一」。
〔勁雪〕消え難き雪。○〔劉商〕「｜｜殘霜君試看」。
〔梨雪〕なしの花の白きにいふ語。○〔柳貫〕「故園｜｜想二繽紛一」。
〔曉雪〕よあけがたのゆき。○〔溫庭筠〕「猿蘭參差殘二｜｜一」。
〔深雪〕ふかくふりつもりたるゆき。○〔方干〕「｜｜移レ軍夜」。
〔暝雪〕夜中にふる雪。○〔方干〕「｜｜細聲積」。
〔初雪〕はつゆき。○〔薛能〕「｜｜灑二嵩高一」。
〔蘆雪〕あしの花のしろきにいふ語。○〔王貞臣〕「一枝｜｜印二波心一」。
〔密雪〕すきまもなくこまやかにふるゆき。○〔梅堯臣〕「｜｜夜來積」。

四畫

【⿱雨勿】コツ、コチ。呼骨切 〔月〕
かみなり（雷）。

【⿱雨夬】サイ、セ。所介切 〔卦〕
雨疾し、とし。

【⿱雨及】シフ。色立切 〔緝〕
雨の聲にいふ字。

【⿱雨屯】トン、ドン。徒渾切 〔元〕
大雨、おほあめ。

【⿱雨殳】セン、將廉ソン。切 〔鹽〕　サン、師咸セン。切 〔咸〕
小雨の貌にいふ字。

【⿱雨毛】ボク、モク。莫卜切 〔屋〕
鳥の羽の光澤、つや。

【⿱雨不】フウ、匹九フ。切 〔有〕　房尤切 〔尤〕
きり（霧）。

【霂】フ、ホ。芳賦切 遇
雨止まず。

【雺】霧に同じ。

【雯】ブン、モン。無分切 文
雲の章をなすを、あや。〇〔古三墳〕「日‐雲赤‐曇、月‐雲素‐｜」。

【雰】フン、ホン。敷文切 文
❶霧氣、きり。〇〔郭璞〕「祝‐融炎‐｜」。❷雪のふる貌にいふ字。〇〔詩〕「雨‐雪｜‐｜」。❸しも（霜）。〇〔釋名〕「潤‐氣著二草‐木一遇レ寒凍、色白曰レ｜」。
〔濃雰〕濃密なる霧氣。〇〔中山王〕「薄‐霧‐｜‐｜」。
〔霧雰〕きりのこと。〇〔尹樞〕「如レ排二｜‐｜一」。「｜」。
〔暮雰〕ひぐれに生ずるもや。〇〔王仲雩〕「朝雨‐｜」。
〔霜雰〕しもときりと。〇〔梁元帝〕「｜‐｜當レ夜來」。

【雰】フン、ホン。符分切 文
祥氣。

【〓】エイ、ヤウ。烏迥切 迥 于平切 庚
深き池。

【雱】ハウ。普郎切 陽
雪の盛んなる貌にいふ字。〇〔詩〕「雨レ雪其｜」。

【雱】ハウ、バウ。敷方切 陽
❶雱‐｜は、雪の貌にいふ語。❷本、滂に作る、あめそゝぐ（沛）。

【〓】シン。七鴆切 沁
雲行く、ゆく。

【雲】ウン、チン。王分切 文 〔說文〕从二雨云一、象二雲回轉形一。
❶蒸氣の冷えあつまりて空中に浮び漂ふもの、くも。〇〔易〕「｜行雨施」。❷高きと又は高き所の義に借りいふ字。〇〔後漢〕「｜‐車十‐餘丈、瞰二臨城‐中一」。
〔景雲〕めでたきくも。〇〔晉〕「｜‐｜太平之應」。
〔卿雲〕前に同じ。〇〔史〕「蕭索輪囷是謂二｜‐｜一」。
〔瑞雲〕前に同じ。〇〔盧綸〕「空中指二｜‐｜一」。
〔祥雲〕前に同じ。〇〔庾信〕「｜‐｜入レ境」。
〔同雲〕雪を帶びたるくも、ゆきぞら。〇〔詩〕「上天｜‐｜」。
〔白雲〕しらくも。〇〔詩〕「英‐々｜‐｜」。
〔浮雲〕うきぐも。〇〔論〕「於レ我如二｜‐｜一」。
〔青雲〕あをぞら、又、高位高官に喩へていふ語。「｜之氣」。〇〔史〕「非レ附二｜‐｜之士一」。
〔凌雲〕雲をつき天にのぼる。〇〔史〕「飄‐々有二｜‐｜一」。
〔鮮雲〕あざやかなるくも。〇〔陸機〕「｜‐｜垂二薄陰一」。
〔夏雲〕なつぞらのくも。〇〔顧愷之〕「｜‐｜多二奇‐峯一」。
〔野雲〕のはらを蔽ふくも。〇〔杜甫〕「｜‐｜低レ度レ水」。
〔沈雲〕容易にちらざる重きくも。〇〔呉均〕「｜‐｜隱二喬‐木一」。
〔盛雲〕さかんにむらがるくも。〇〔韓〕「有二｜‐｜濃‐霧之勢一」。
〔油雲〕あまぐも。〇〔陸機〕「｜‐｜翳二高‐岑一」。
〔頽雲〕くづれぐも。〇〔傅休奕〕「隆若二｜‐｜一」。
〔崩雲〕前に同じ。〇〔木華〕「｜‐｜泄レ雨」。「堂」。
〔濃雲〕あつきくも。〇梁簡文帝〕「｜‐｜垂二晝‐陰一」。
〔斷雲〕ちぎれぐも。〇〔朱超〕「孤‐生如二｜‐｜一」。
〔薄雲〕うすぐも。〇〔何遜〕「｜‐｜巖‐際出」。
〔橫雲〕橫にたなびきたるくも。〇〔錢起〕「｜‐｜嶺‐外千‐重樹」。「｜‐｜」。
〔絳雲〕朱色を帶びたるくも。〇〔庾信〕「南‐宮生二｜‐｜一」。
〔熱雲〕暑熱を含みたる雲。〇〔杜甫〕「｜‐｜初集レ黑」。「流」。
〔河雲〕あまのがは、天河。〇〔盧綸〕「｜‐｜凝不レ流」。
〔稻雲〕稻を雲に見立てゝいふ語。〇〔范成大〕「天‐末｜‐｜黃」。
〔積雲〕層雲といふに同じ、あつまりかさなりたるくも。〇〔王褒〕「鬱乎似二｜‐｜一」。
〔煙雲〕けむりとくもと。〇〔西都賦〕「｜‐｜相連」。
〔風雲〕かぜと雲氣と、又、乘ずべき變化の機運に喩へていふ語。〇〔史〕「其乘二｜‐｜一而上レ天」。
〔玄雲〕くろきいろのくも。〇〔蘇軾〕「紫‐潭出二｜‐｜一」。
〔陰雲〕あまぐも。〇〔韓愈〕「｜‐｜已垂二于四‐野一」。
〔流雲〕ちりゆくくも。〇〔韋應物〕「｜‐｜吐二華‐月一」。
〔叢雲〕むらがりかさなりたるくも、むらくも。〇〔李嶠〕「山類二｜‐｜起一」。「｜‐｜」。
〔殘雲〕ちりのこりたるくも。〇〔孟浩然〕「嵩‐嶂有二｜‐｜一」。
〔奇雲〕めづらしきくも。〇〔李白〕「奇‐峯出二｜‐｜一」。「｜垂」。
〔凍雲〕冬のそらのくも。〇〔冠準〕「暮‐天寥‐落｜‐｜」。

五畫

【雴】チフ。丑入切 リフ。力入切 緝
大雨、おほあめ、あめ。

【雵】アウ。倚朗切 養 於良切 陽
白き雲の貌にいふ字。

【零】レイ、リヤウ。郎丁切 青
❶殘雨。❷徐かにふる雨。❸おつ（落）。〇〔禮〕「草木‐｜落」。❹ふる（雨）。〇〔詩〕「靈‐雨既‐｜」。❺餘數、はした、あまり。〇〔字彙〕「凡數之‐｜餘也」。❻苓に通じ用ふ。〇〔莊〕「豕‐｜也」。
〔凋零〕花などのしぼみ落つること。〇〔蘇檢〕「海‐棠千‐樹已｜‐｜」。
〔飄零〕樹葉などすべてものゝ風に吹き落とされちるにいふ語。〇〔雪賦〕「從レ風｜‐｜」。
〔蜚零〕つちばちの異名。〇〔本草〕「土‐蜂一名二｜‐｜一」。「｜‐｜」。
〔霄零〕霜雪などのふるにいふ語。〇〔論衡〕「雪‐霜｜‐｜」。
〔隕零〕葉などの落つるにいふ語。〇〔李充〕「孰不二｜‐｜一」。
〔鏗零〕玉などのふれて發する音にいふ語。〇〔紫微夫人〕「玉‐佩何｜‐｜」。

【零】レン。靈年切 先
先‐｜は、西方の羌、えびす。〇〔漢〕「先‐零豪‐言」。

【零】レイ、リヤウ。郎定切 徑
おつ（落）。

【〓】エイ、アイ。於罽切 霽
大いなる露。

【〓】アイ、エ。烏懈切 卦
きり（霧）。

【〓】トウ、ツ。都宗切 冬
雨の貌にいふ字。

【雷】ライ、レ。魯同切 灰 〔說文〕从二雨畾一聲、象二回轉形一。
❶空中の陰陽電氣の相觸るゝにより發する烈しき響、いかづち、なるかみ、かみなり。〇〔禮〕「｜乃發レ聲」。❷さゞろき響く大いなる聲に借りいふ字。〇〔進〕「衆‐呼成レ｜」。❸漢の侯國の名。❹州の名。❺人の名。
〔疾雷〕とくなるいかづち。〇〔韓偓〕「陳‐雨從レ東送二｜‐｜一」。「變」。
〔迅雷〕はげしきかみなり。〇〔論〕「｜‐｜風烈必變」。
〔驚雷〕はげしき音のかみなり。〇〔傅休奕〕「｜‐｜奮兮震二萬‐里一」。「｜‐｜」。
〔小雷〕ちひさき音のかみなり。〇〔高適〕「殘雨擁二陰送二｜‐｜一」。
〔晚雷〕ゆふぐれに鳴るかみなり。〇〔杜審言〕「雲‐」
〔蚊雷〕蚊の集まりて鳴くおとにいふ語。〇〔漢〕「湖‐聲遙聽訝二｜‐｜一」。「白晝」。
〔濤雷〕浪の鳴るおとにいふ語。〇〔蘇軾〕「｜‐｜殷」。
〔車雷〕車の轟きひゞくにいふ語。〇〔韓琦〕「｜‐｜晴起曲江隈」。「如レ｜」。
〔鼾雷〕いびきの高きにいふ語。〇〔黃庭堅〕「鼻‐｜」

〔隱雷〕 腹のすきて鳴るおと。○〔韓琦〕「詩腸日午―――轉」。

〔霆雷〕 いかづち。○〔梁〕「――赫於萬里」。

〔殷雷〕 盛んになりとゞろくいかづち。○〔詩〕「――其在南山之陽」。

〔避雷〕 なるかみの災をよく。○〔孟奧〕「有白石室、名――臺」。

【雷】 纍に同じ。○〔國〕「方――氏之甥」。

【雷】 ライ、レ。盧對切 隊

㊀石を推して高きより下す、ころばす。○〔周註〕「槍―椎椁之屬」。
㊁鼓を擊つこと。○〔古樂府〕「官家出遊―大鼓」。

【雷】 ル井。魯水切 紙

前條の㊀に同じ。

【雸】 ガン、ゴン。五甘切 覃

しも（霜）。

【⿱雨犮】 フツ、ボチ。分物切 物

雨ふる貌にいふ字。

【雹】 ハク、ボク。蒲角切 覺　ホク、ボク。蒲沃切 沃

雨の凍りてふれるもの、ひさめ、あられ（雨冰）。○〔禮〕「仲夏行冬令、則―凍傷穀」。

〔霜雹〕 しもとおほあられと。○〔楊萬里〕「聊以護――」。

〔霰雹〕 あられ。○〔李咸用〕「更深――増」。

〔飛雹〕 はげしくとびちるおほあられ。○〔元好問〕「雷公怒擊散――」。

〔雨雹〕 おほあられをふらす。○〔左〕「大―」。

〔降雹〕 前に同じ。○〔舊長安〕「驅風―」。

【⿱雨弗】 フツ、ホチ。敷勿切 物

【雺】 ボウ、ム。莫紅切 東

雲の貌にいふ字。

蒸氣濕りて地に近づき空闇きこと、きり、くもり。○〔爾〕「天氣下地氣不應曰―」。

【雺】 ボウ、ム。莫綜切 宋　莫候切 宥

霧に同じ。

【雺】 ブ、ム。亡遇切 遇

霧に同じ、きり。

【⿱雨乍】 サク、シャク。側格切 陌

雨ふる貌にいふ字。

【⿱雨出】 ホツ、ホチ。普沒切 月

雲の起こる貌にいふ字。

【電】 テン、デン。堂練切 霰

空中の陰陽兩氣の相激する際に發閃する光、いなづま、いなびかり。○〔春秋〕「大雨震―」。

〔閃電〕 ひらめくいなづま。○〔隋〕「稱爲――」。

〔耀電〕 前に同じ。○〔文心雕龍〕「震雷始于――」。

〔迅電〕 はやきいなづま。○〔六韜〕「――不及」。

〔逐電〕 はするとはやきにいふ語。○〔劉瓛〕「追風――」。

〔瑞電〕 めでたきしるしのいなづま。○〔三教論衡〕「――繞樞」。

【⿱雨石】 タウ、ダウ。徒浪切 漾

洞屋、ほらあな。

六畫

【⿱雨來】 シン、ジン。鉏箴切 侵　ガイ、ゲ。擬皆切 佳　ギン、ゴン。魚音切 侵

霖雨、ながあめ。

【⿱雨来】 ガイ、ゲ。五佳切 佳

雨の聲にいふ字。

【⿱雨次】 シ、ジ。才資切 紙

㊀大雨、おほあめ。㊁雨の聲にいふ字。

【⿱雨合】 カフ、ケフ。侯夾切 洽

㊀洽に同じ、あまねし。
㊁うるほふ（濕）。

【⿱雨各】 ラク。盧各切 藥

雨零つ、おつ、ふる。

【⿱雨舟】 クワイ、エ。胡卦切 卦

海の舩。

【⿱雨夷】 テイ、ダイ。杜奚切 齊

㊀霽るゝ雲。㊁雨止む、はる。

【⿱雨因】 イン。於刃切 震

氣の流行するにいふ字。

【⿱雨羽】 ウ、ヲ。王矩切 麌　王遇切 遇

水の音にいふ字、又、羽の聲にいふ字。

【⿱雨并】 ハウ、ヒヤウ。北諍切 梗

雷の聲にいふ字。

【⿱雨回】 古文の雷の字。

【⿱雨污】 ウ、ヲ。憶俱切 虞

雨ふる貌にいふ字。

【⿱雨冊】 サク、シャク。色責切 陌

あられ（霰）。

【⿱雨兆】 テウ、デウ。徒弔切 嘯

くらし（幽冥）。○〔王逸〕「闇晴―兮靡睹」。

【⿱雨兆】 タク、ヂヤク。直格切 陌

高く峻しき貌にいふ字。○〔淮〕「上遊於霄―之野」。

【需】 シュ、ジュ。詢趨切 虞

㊀易の卦名、☵☰（坎上乾下）。○〔易〕「―有孚」。「元亨」。
㊁まつ（待）。○〔易〕「―于郊」。
㊂ためらふ（疑）。○〔左〕「―事之賊」。
㊃もとむ（索）。○〔姚燧〕「中夜有―」。

〔軍需〕 軍事の需用。○〔十六國春秋〕「課農桑以供――」。

〔百需〕 もろ〳〵の需用。○〔宋〕「公卿――」。

【需】 ジュ、ニュ。汝朱切 虞

韋の柔滑なる貌にいふ字、やはらか。○〔戰〕「其―弱者來使則必聽之」。

【需】 ダン、ナン。奴亂切 翰

よわし（弱）。○〔周〕「馬不契―」。

【需】 ゼン、ナン。乳袞切 銑

軟に同じ、やはらか。○〔周〕「欲其柔滑而腥脂之則―」。

【⿱雨肙】 セツ、セチ。先結切 屑

ゆき（雪）。

【⿱雨処】 處に同じ。○〔漢楚相孫君碑〕「―幽―」。

【霂】ボク、モク。莫卜切 屋
霢―は、こさめ。

【⿱雨孚】フウ、プ。縛謀切 尤
雪ふる貌にいふ字。

【霃】チン、ヂン。直深切 侵
久しく陰る、くもる。

【霋】エキ、ヤク。營隻切 陌
大雨、おほあめ。

【⿱雨束】サク、シャク。色責切 陌
小雨の零つる貌にいふ字、こさめふる。

【⿱雨見】セン。蘇甸切 霰
冰雪雜はり下れるもの、あられ。○[爾]「雨―爲二霄-雪一」。

【霄】セウ。相邀切 蕭
㊀冰雪雜はり下る、あられ。○[爾]「雨-霓爲二―-雪一」。
㊁上天の雲氣。○[揚雄]「騰二清―一而軼二浮-景一」。
㊂高峻の貌にいふ字、たかし。○[淮]「蕭-條―-靡」。
㊃天上、そら。○[孫器之]「絳-雲在レ―」。
(陵霄)（い）花の名、のうぜんかづら。○[本草圖經]「――花多生二山中一」。（ろ）おほぞらにのぼる。○[淮]「乘レ雲―レ―」。
(雲霄) おほぞら。○[晉]「翺二翔―-―一」。
(九霄) 前に同じ。○[孫綽]「志逸二―-―一」。
(鵬霄) 前に同じ。○[李嶠]「御レ氣―-―近」。
(紫霄) 前に同じ、又、かりて宮禁のうちにいふ語。○[鮑照]「表二裏―-―一」。
(丹霄) 前に同じ。○[梁武帝]「青-城接二―-―一」。
(清霄) すみわたりたるそら。○[張載]「翾二縞羽於―-―一」。
(晴霄) 前に同じ。○[陳慥]「白塔昇二―-―一」。
(層霄) 高きそら。○[杜牧]「萬-岫過二―-―一」。
(遐霄) 遠きそら。○[舊唐]「―-―已曠」。
(遠霄) 前に同じ。○[牟融]「白雲行二―-―一」。
(碧霄) あをぞら。○[李白]「登レ崩宴二―-―一」。
(青霄) 前に同じ。○[徐陵]「氣涌二―-―一」。

【霄】セウ。仙妙切 嘯
肖に同じ。

【⿱雨耴】テフ。丑輒切 葉
―霎は、小雨。

【⿱雨更】カウ、キヤウ。古杏切 梗
雲の貌にいふ字、くもたなびく。

【⿱雨弄】ロウ。盧冬切 冬
雨の聲にいふ字。

【⿱雨甹】ヘイ、ヒヤウ。滂丁切 青
雨ふる貌にいふ字。

【霅】タフ、デフ。丈甲切 洽
㊀震電の貌にいふ字。
㊁衆言あるにいふ字、衆聲あるにいふ字、かまびすし。
㊂あめふる、(雨)。○[後漢馬融廣成頌]「―-爾雹落」。
㊃人の姓。

【霅】カフ、ゲフ。胡甲切 洽
㊀衆言あるにいふ字、かまびすし。
㊁光る貌にいふ字。○[班固]「煜二―-―其閃一」。
(煜霅) ひかる貌にいふ語。○[漢]「―二―-―其閃-者」。
(鳥霅) 走ると疾き貌にいふ語。○[左思]「―-―驚-捷」。

【霅】イフ、オフ。域及切 緝
―霰は、雨の聲にいふ語。

【霅】サフ、ソフ。蘇合切 合
雨の聲にいふ字。

【霅】セフ、ソフ。之渉切 葉
震電の貌にいふ字。

【霅】サフ、セフ。色甲切 洽
ちる、(散)。○[揚雄]「―-然陽開」。

【⿱雨君】ギン、ゴン。牛尹切 軫
あめ、(雨)。

【⿱雨延】エン。延面切 霰
雲の貌にいふ字。

【霆】テイ、チヤウ。特丁切 青
㊀雷の餘聲、いかづち、一說に疾雷、ときいかづち。○[易]「鼓レ之以二雷-―一」。
㊁いなびかり、(電)。○[穀梁]「電―也」。
(疾霆) ときいかづち。○[後漢]「暴-風―-―」。
(驚霆) はげしきいかづち。○[梅堯臣]「所レ向若二―-―一」。
(威霆) きびしきいかづちとて威力に喩へていふ語。○[後漢]「―-―行二乎鬼區一」。
(震霆) いなびかり、又、いかづちといなびかりと。○[長楊賦]「聲如二―-―一」。
(奔霆) ときいなびかり。○[蘇軾]「徑二度萬里一如二「―-―一」。

【霆】テイ、チヤウ。他頂切 迥
迅雷、いかづち。

【霆】テイ、ヂヤウ。徒徑切 徑
いかづち、(雷)。

【震】シン。章刃切 震
㊀いかづち、(雷)。○[詩]「爗-々―-電」。
㊁易の卦、☳☳（震下震上）。○[易]「萬-物出二乎―一」。
㊂ふるふ。
（い）いかづちの激聲にいふ字、いかづちの擊下にいふ字。○[左]「―二夷-伯之廟一」。
（ろ）うごく、うごかす、(動)。○[書]「―二驚朕師一」。
（は）おそる、(懼)。○[易]「洊-雷―、君-子以恐-懼修-省」。
（に）おどろく、(驚)、をのゝく、(戰)。○[楚辭]「宮-庭―-驚」。
（ほ）をどす、(威)、いかる、(怒)。○[詩]「王奮二厥武一如レ―如レ怒」。
（へ）たかぶる、(矜)。○[公羊]「桓-公―而矜レ之」。
（と）おこる、おこす、(起)。○[易、傳]「―起也」。
（ち）威力の振張にいふ字。○[國]「君之武―」。
㊃はらむ、(娠)。○[詩]「載―載夙」。
㊄ふるふ貌にいふ字。○[後漢]「―二于雷-霆一」。
㊅光明なる貌にいふ字。○[西都賦]「―-―爚-々」。「―-―塡-々」。
㊆盛んなる貌にいふ字。○[藉田賦]
(雷震) いかづち。○[晉]「畏レ之如二―-―一」。
(地震) 地のふるひ動くこと、ぢしん。○[左]「春-秋書二―-―五」。
(懼震) おそれふること。○[漢]「萬夷慴-伏莫レ不二「―-―一」。
(竦震) 前に同じ。○[後漢]「自-然―-―」。

【震】
娠に同じ。

【⿱雨巿】ハイ。普蓋切 泰

㊀大雨、おほあめ、又、雨の多き貌にいふ字。○〔風俗通〕「大-雨灃-ー」。㊁水の流るゝ貌にいふ字、又、澤多き貌にいふ字。○〔獨孤及〕「雲-雨流-ー」。㊂物の興こる聲にいふ字。○〔宋玉〕「雲興、聲之ーー」。
〔雰霈〕雨多き貌にいふ語。○〔劉禹錫〕「入-關已ーー」。
〔甘霈〕望ましき時にふる雨。○〔沈頊〕「喜ニーー之流-滋ニ」。
〔恩霈〕君などの恩惠を雨に喩へていふ語。○〔張貝器〕「ーー及ニ殊-方ニ」。

【霉】バイ、メ。莫裴切 灰 つゆのあめ（梅-雨）。

【⿱雨沒】ボツ、モチ。名勃切 月 雨下る、ふる。

【⿱雨夋】スヰ。宣隹切 支 小雨の貌にいふ字、こさめふる。

八畫

【⿱雨垂】タ。都果切 哿 雲の簇がらざるを。

【⿱雨申】電の本字。

【⿱雨戔】サン、セン。所咸切 咸 微雨、ぬかあめ、又、雨の貌にいふ字。

【⿱雨戔】セン、ソン。子廉切 鹽 ひたす（漬）。

【霋】セイ、サイ。七稽切 齊 ㊀はる（霽）。㊁雲の行く貌にいふ字。

【⿱雨忽】コチ、コチ。呼骨切 月

あめふる、又、雨の貌にいふ字。

【⿱雨牀】シヤウ、サウ。仕莊切 陽 急雨、にはかあめ。

【⿱雨疌】セフ。息葉切 葉 雪ふる貌にいふ字。

【⿱雨析】サク、シヤク。山責切 陌 ㊀あめ（雨）。㊁あられ（霰）。

【⿱雨析】セキ、シヤク。先的切 錫 ㊀小雨、こさめ。㊁霰ふる貌にいふ字。

【⿱雨奄】アン、オン。烏感切 感 雲氣、又、雲氣の盛んなるを。

【⿱雨奄】エン。衣檢切 琰 雲の狀にいふ字。

【⿱雨周】シウ、シユ。職由切 尤 雲雨の貌にいふ字。

【⿱雨重】タン、ダン。徒官切 寒 露多し。

【霍】クワク、ワク。虚郭切 藥 ㊀猝遽、急疾、にはか、とし。○〔枚乘〕「ー-然病巳」。㊁釋け散る貌にいふ字。○〔荀子〕「ー-焉離耳」。㊂盛んなる貌にいふ字。○〔琴賦〕「ー-濩紛-葩」。㊃大山の小山を繞れる稱。○〔爾〕「大-山宮ニ小-山ーー」。㊄衡山の別名。○〔爾〕「ーー山南-嶽」。㊅國の名。○〔左〕「滅レー」。㊆邑の名。○〔公羊〕「會ニ于ーニ」。㊇藿に通じ用ふ、まめのは。○〔漢〕「漿-酒ー-肉」。
〔揮霍〕疾き貌にいふ語。○〔陸機〕「紛-紜ーー」。
〔智霍〕前に同じ、又一説に、開き合ふ貌にいふ語。○〔揚雄〕「翕-赫ーー」。

【⿱雨隺】ラク。歷各切 藥 一種の草、ゑるをはら。

【⿱雨隹】サ。山寡切 哿 ーー人は、地の名。○〔史〕「降ニ下ーー人ニ」。

【霎】サフ、山洽切 洽 セフ。子葉切 葉 小雨、こさめ、又、雨の聲にいふ字。○〔孟郊〕「昨-夜一ーー雨」。
〔霎々〕雨の聲にいふ語。○〔韓琦〕「忍寒ーー風」。

【⿱雨妾】サフ、ソフ。悉合切 合 雪に同じ。

【霏】ヒ。芳非切 微 ㊀雪ふる貌にいふ字。○〔詩〕「雨-雪ーー」。㊁すべて細碎（こまか）なるものゝ數多く下れる貌にいふ字。○〔晉〕「木-屑ーー不レ絶」。㊂雲の起これる貌にいふ字、雲の飛ぶ貌にいふ字。○〔揚雄〕「雲ーー而來迎」。㊃烟のたなびく貌にいふ字、氛の立ちのぼる貌にいふ字。○〔晉〕「烟ー霧結」。㊄きり、もや（霧）。○〔歐陽修〕「日出而林ーー開」。
〔烟霏〕けむり飛ぶ、又、烟の如くに飛散す。○〔劉峻〕「ーー雨散」。
〔夕霏〕ゆふがすみ、ゆふぎり。○〔劉孝綽〕「遠-帶望ニーーニ」。
〔飄霏〕雲などのかろく飛びちるにいふ語。○〔顧彥〕「輕-雲ーー」。
〔晨霏〕あさぎり。○〔洪邁〕「ーー夕-露」。
〔水霏〕水面を蔽ふもや。○〔文同〕「暝-寒生ニーーニ」。

【⿱雨朋】ホウ。北朋切 蒸 ㊀大雨、おほあめ。㊁くらし（懜）。○〔乾坤鑿度〕「氣-分萬-ー」。

【⿱雨青】セイ、シヤウ。親盈切 庚 女神の名。

【⿱雨泫】ケン、ゲン。胡畎切 銑 露の貌にいふ字。

【⿱雨泓】ワウ、ヲウ。烏宏切 庚 幽深なる貌にいふ字、おくふかし。○〔王延壽〕「ー寥-窲以崢-嶸」。

【霑】テン、トン。張廉切 鹽 うるほふ、うるほす。（い）ぬるゝ、ぬらす（濡）、ゑめる、ゑめす（漬）。○〔禮〕「雨ーレ服」。（ろ）仁惠を受く、仁惠を布く。○〔揚雄〕「仁ー而恩洽」。
〔普霑〕偏くうるほす。○〔高僧傳〕「大雨ーー」。
〔潤霑〕うるほふ。○〔東波〕「花-枝ーー紅-杏雨」。

【霒】古文の陰の字。

【霓】ゲイ、ガイ。五雞切 齊 五計切 霽 ゲツ、ゲチ。五結切 屑 蜺に同じ、にじ。○〔孟〕「若ニ大-旱之望ニ雲-ーニ」。

〔帶霓〕高き貌にいふ語。○〔張衡〕「直ーー以高居」。
〔白霓〕白色の虹。○〔列〕「化爲二ーー一」。
〔素霓〕前に同じ。○〔魏文帝〕「白施若二ーー一」。
〔澗霓〕溪谷の間に現はれたるにじ。○〔揚泳〕「行-々踊二ーー一」。
〔絳霓〕赤色の虹。○〔江淹〕「親弄二ーー一」。
〔紅霓〕前に同じ。○〔七啓〕「慷慨則氣成二ーー一」。
〔斷霓〕中途にきれたるにじ。○〔蘇過〕「ーー飲レ海」。

【霔】シユ、ス。之戍切 遇
ーー霖は、ながあめ。

【⿰雲屯】トン、ドン。徒昆切 元
雲の大いなる貌にいふ字。

【霖】リン。力尋切 侵
㊀三日以上ふりつゞく雨、ながあめ、久雨。○〔書〕「用レ汝作二ーー雨一」。㊁あめのふりつゞく貌にいふ字。○〔蔡邕〕「懸二長-雨之ーー一」。
〔愁霖〕ながあめ。○〔朱熹〕「ーー隔二秋-容一」。
〔陰霖〕前に同じ。○〔水經、註〕「ーー不レ溢」。
〔洪霖〕前に同じ。○〔曹毗〕「ーー彌二旬-日一」。
〔鬱霖〕前に同じ。○〔林寛〕「ーー翳二日-月一」。
〔連霖〕前に同じ。○〔張羽〕「ーー啓二秋-期一」。
〔秋霖〕あきの季節にふりつゞく雨。○〔賈島〕「孤-燭坐二ーー一」。
〔春霖〕春雨の久しくはれざるをいふ。○〔韓崢〕「ーー絕レ未レ通」。「時-雨」。
〔梅霖〕さみだれ、梅雨。○〔盧璘〕「不レ道ーー是」
〔甘霖〕このましき時にふる雨。○〔桑悅〕「ーー被二郊-原一」。「ー」。
〔膏霖〕田野をこやす雨。○〔張宇〕「永-夕悵二ーー一」。
〔沃霖〕前に同じ。○〔梅堯臣〕「烈-野無二ーー一」。
〔霖々〕雨のふる貌にいふ語。○〔繆襲〕「雨ーー而又隤」。

【⿱雨泣】ラフ、ロフ。落合切 合
雨の聲にいふ字。

【⿱雨斤】霼に同じ。

【⿰雲內】タイ、デ。徒奈切 隊
雲の状にいふ字。

九畫

【⿱雨禹】ウ、チ。王矩切 麌
雨の聲、又、雨ふる貌にいふ字。

【⿱雨禹】コ、ク。火五切 麌 ク、コ。呼句切 遇
あめ（雨）。

【⿱雨禹】ウ、チ。王遇切 遇
㊀のぶ（舒）。㊁雨ふる貌にいふ字。

【⿱雨染】ゼン、チン。而琰切 琰 而豔切 豔
うろほす、うろほふ（沾）。

【⿱雨洼】ワ、ヱ。烏瓜切 麻
蹄の涔、たまりみづ。

【⿰雲犮】ハツ、バチ。蒲撥切 曷
雲のたつ貌にいふ字。

【⿰雲代】タイ、ダイ。徒耐切 隊
雲のたなびく貌にいふ字。

【霙】エイ、ヤウ。於驚切 庚
雨雪雜はり下れるもの、みぞれ、あられ。○〔蘇軾〕「晩-雨纖-々、變二玉ーー一」。

【雵】アウ、ヤウ、於良切 陽
白き雲の貌にいふ字。

【⿱雨曷】靄に同じ。○〔謝惠連〕「連-氤累-ー」。

【霅】サフ、セフ。側洽切 タフ、テフ。竹洽切 洽
大雨、おほあめ。

【⿱雨侯】コウ、グ。胡溝切 尤
雨。

【⿱雨甚】タン、ドン。徒感切 感
ーー䨴は、雲の貌にいふ語。

【⿱雨革】ハク。匹各切 藥 カク、キヤク。古核切 陌
㊀雨革を濡す、ぬらす。㊁雨。

【⿱雨砏】フン、ホン。芳文切 文
㊀きり（霧）。㊁雪ふる貌にいふ字。

【霜】サウ。所莊切 陽 色壯切 漾
㊀露の凝りて白くなれるもの、しも。○〔易〕「履レー堅-氷至」。「三-千ーー」。㊁年を歷ること。○〔李白〕「陛-下之壽」。㊂毛髮などの白きにいふ字。○〔李白〕「不レ知明-鏡裏何處得二秋-ーー一」。
〔肅霜〕きびしきしも。○〔詩〕「九-月ーー」。
〔嚴霜〕前に同じ。○〔漢〕「成二ーー之誅一」。
〔繁霜〕深くれくしも。○〔詩〕「正-月ーー」。
〔風霜〕かぜとしもと。○〔後漢〕「ーー以別二草-木性一」。
〔朝霜〕あさがたのしも。○〔左思〕「白-露爲二ーー一」。
〔曉霜〕前に同じ。○〔謝靈運〕「ーー楓-葉丹」。
〔晨霜〕前に同じ。○〔王融〕「朏-々ーー結」。
〔寒霜〕さむげなるしも。○〔鮑照〕「冬-夏二ー」「凍」。
「ー」。
〔清霜〕きよらかなるしも。○〔杜甫〕「ーー大」
〔平霜〕うすしも。○〔梁簡文帝〕「ーー中-夜下」。
〔微霜〕前に同じ。○〔謝莊〕「ーー霑二人衣一」。
〔薄霜〕前に同じ。○〔沈佺期〕「ーー沾二上-路一」。
〔鬢霜〕鬢髮の白きをしもに見立てゝいふ語。○〔蘇軾〕「ーー未レ易レ掃」。
〔隕霜〕しものおくこと。○〔春秋〕「十-月ーー」。
〔降霜〕前に同じ。○〔漢〕「抵レ冬ーー」。「晩-雲」。
〔早霜〕季節よりはやくおくしも。○〔易林〕「ーー」

【霝】レイ、リヤウ。郎丁切 青
㊀おつ、ふる（零）。○〔詩〕「ーー雨其濛」。㊁靈に通じ用ふ。○〔石鼓文〕「ーー雨奔[illegible]」。

【霞】カ、ゲ。胡加切 麻
㊀日光の雲氣に薄りて赤色の空にたなびくもの、あさやけ、ゆふやけ、かすみ。○〔張衡〕「掃二朝ーー一」。㊁遐に通じ用ふ、はるか。○〔楚辭〕「載二營-魄一而登ーー」。㊂蝦に通じ用ふ、えび。○〔吳越春秋〕「啄レー矯二兮翩雲-間一」。
〔雲霞〕くものと。○〔南〕「何患レ不レ出二ーー之上一」。
〔彩霞〕うつくしきいろの雲氣。○〔江淹〕「見二ーー之夕-照一」。
〔流霞〕おほぞらにたなびきわたる雲氣。○〔舊唐〕「ーー成レ彩」。
〔丹霞〕日旁のあかきいろの雲氣。○〔江淹〕「ーー蔽二陽景一」。
〔赤霞〕前に同じ。○〔薩都剌〕「落-日奇-峯挂二ーー一」。
〔彤霞〕前に同じ。○〔劉珍〕「ーー逼二綺寮一」。
〔緒霞〕前に同じ。○〔宋孝武帝〕「ーー照二桑-榆一」。
〔紅霞〕前に同じ。○〔江淹〕「ーー旦-夕生」。
〔晨霞〕あかつきにたなびく赤雲の気、あさがすみ。○〔雲笈七籤〕「吸二引ーー一」。
〔曉霞〕前に同じ。○〔李商隱〕「心-身待二ーー一」。
〔暮霞〕ゆふがすみ。○〔江淹〕「晻-藹生二ーー一」。
〔夕霞〕前に同じ。○〔唐太宗〕「霜-天散二ーー一」。
〔綺霞〕うつくしき色の彤雲。○〔梁昭明太子〕「ーー映レ水」。

（中霞）ゆふやけの雲氣。○〔鮑・義〕「落日—・—明」。

【霼】キ。詡鬼切 尾
雷の聲にいふ字。

【霠】イン、オン。於金切 侵
雲の日を覆ふにいふ字、くもろ、くもり。○〔宋玉〕「露—・—曀而莫レ達」。

【⿱雨迪】テキ、ヂャク。徒歷切 錫
雨ふる。

【⿱雨⿺辶田】トク、ドク。徒沃切 沃
雨ふる貌にいふ字。

十畫

【⿱雨豩】チウ、ウ。鄔孔切 董
雲のたなびく貌にいふ字。

【⿱雨函】カン、ゴン。胡男切 覃
久雨、ながあめ。

【⿱雨眞】シ。即夷切　シ、ジ。才私切 支
雨の聲にいふ字。

【⿱雨陣】チン、ヂン。直吝切 震
くも、（雲）。

【霡】ハク、ミャク。莫獲切 陌　ベキ、ミャク。莫狄切 錫
—霂は、小雨、こさめ、又、こさめの降る貌にいふ語。○〔詩〕「益レ之以二—霂一」。

【⿱雨脈】霡の本字。

【⿱雨蒦】クヮク、カク。胡郭切 藥
霰—は、大雨、おほあめ。

【⿱雨隻】セキ、シャク。之石切 陌
㊀前條に同じ。㊁隻に同じ。

【⿱雨差】サ、ザ。才何切 歌
雨の聲にいふ字。

【霶】雱に同じ。

【⿱雨豈】皚に同じ。

【霣】井ン。于敏切 軫
㊀かみなり、（雷）。㊁雷起こりて雨ふるにいふ字、ふりだす。㊂雲の轉り起こるにいふ字、おこる。㊃隕に同じ、おつ、おとす。○〔公羊〕「夜—中星—如レ雨」。

【⿱雨貝】コン。公渾切 元　ウン、チン。王問切 問
いかづち、（雷）。

【⿱雨追】ツ井。陟誰切　イ。延知切 支　タイ、デ。徒回切 灰
㊀かくろ、（隱）。㊁いかづち、（雷）。

【⿰雨眞】テン、デン。多年切 先
雨の聲にいふ字、一說に、雨甚し。

【霤】リウ、ル。力救切 宥
㊀屋上より流るゝ雨水、あまだれ、あまだり。○〔束皙〕「濛・々甘—」。㊁あまだりの承器、あまだりうけ。○〔左思〕「玉・堂對レ—」。㊂屋宇、のき。○〔楚辭〕「觀絕—只」。㊃宧房、へや。○〔禮〕「其祀中—」。㊄溜に通じ用ふ、したゝり。○〔漢〕「泰—山之—穿レ石」。

（修霤）ながき雨、又、うけとひ。○〔陸機〕「豐注溢二—・—一」。
（長霤）前に同じ。○〔潘尼〕「聽二—・—之涔・々一」。

【䨨】レン、ロン。離鹽切 鹽　ラン、ロン。盧含切 覃
久雨、ながあめ。

【⿱雨冓】コウ、ク。居候切 宥
大雨、おほあめ。

【⿱雨豙】ボウ、モウ。蒙弄切 送
雷の聲にいふ字。

【⿱雨埋】霾に同じ。

【⿱雨夆】ホウ、ブ。並馮切 東
雨の聲にいふ字。

十一畫

【⿱雨彬】ヒン。府巾切 眞
玉の光れる色にいふ字。

【⿱雨莫】バク、マク。末各切 藥
雨のふる貌にいふ字。

【霧】ブ、ム。亡遇切 遇　ボウ、ム。謨蓬切 東　蒙弄切 送
きり。
（い）たちのぼる水氣の陰鬱し地面を覆ひて晦きもの、きり。○〔禮〕「氛—冥・々」。
（ろ）飛遊せる水氣。○〔沈約〕「呑レ雲而吐レ—」。

（薄霧）うすきり、うすぎり。○〔沈約〕「朝吐二輕烟—・—一」。
（輕霧）前に同じ。○〔江總〕「翠・蓋乘二—・—一」。
（曉霧）あけがたのきり。○〔姚合〕「—・—和二香氣一」。
（朝霧）前に同じ。○〔江淹〕「—・—方卷」。
（晨霧）前に同じ。○〔梁簡文帝〕「雜二霏・々之—・—一」。「蔽・露天一」。
（暝霧）暮れ方のきり、ゆふぎり。○〔鮑昭〕「—・—」。
（塵霧）塵埃のきりの如く立て籠むると、ちりけむり。○〔吳均〕「九・達—・—寒」。
（毒霧）毒氣を含めるきり。○〔宋〕「—・—昏・寒」。
（蒸霧）前に同じ。○〔沈佺期〕「火・雲蒸二—・—一」。
（斷霧）たちきれたるきり。○〔駱賓王〕「林・臨宿二—・—一」。
（瑞霧）めでたききりとて禁闕などに立つきりにいふ語。○〔蘇轍〕「—・—霏・々著二禁槐一」。
（祥霧）前に同じ。○〔范雲〕「終・朝吐二—・—一」。
（夕霧）ゆふぎり。○〔王褒〕「—・—掩二山・根一」。
（宿霧）前晩より立てるきり。○〔陶潛〕「朝・霞開二—・—一」。
（香霧）香氣を含めるきり、おもに花などにいふ。○〔張泌〕「花蕊二□・樓一—・—細」。
（雨霧）あめときりと。○〔西京雜記〕「噴・嗽爲二—・—一」。
（黑霧）黑くくらきゝり。○〔前趙錄〕「—・—四・塞」。
（雲霧）くもときりと。○〔南〕「常隱二—・—一」。
（黃霧）黃色のきり。○〔漢〕「—・—四・塞」。
（妖霧）妖氣のきり。○〔元稹〕「—・—毒・濛・々」。
（密霧）すきまもなく深くとぢこめたるきり。○〔鮑昭〕「—・—冥二下・溪一」。
（濃霧）前に同じ。○〔韓〕「有二濃・雲—・—之勢一」。
（鬱霧）前に同じ。○〔吳〕「—・—冥二其上一」。
（深霧）前に同じ。○〔張融〕「夜樹二—・—一」。

【⿱雨尉】井。紆胃切 未
雲の起こる貌にいふ字。

【⿱雨郭】クヮク。苦郭切 藥
雨止み雲消ゆる貌にいふ字、はる、又、

雪の消ゆるにいふ字、とく、又、開朗の貌にいふ字、ほがらか。○〔淮〕「道始ニ於虚‐‐ニ」。

【霏】ビ。非尾切 尾
雲の貌にいふ字。

【⿱雨婁】ル、ロ。朧主切 麌
雨ふる貌にいふ字。

【⿱雨責】サク、シャク。側革切 陌
雨ふる貌にいふ字。

【⿱雨教】ホツ、ボチ。薄没切 月
雲の貌にいふ字。

【⿱雨淋】霖に同じ。

【⿱雨埶】テン。都念切 㮇 テフ、トフ。的協切 葉
㊀さむし、(寒)。㊁早き霜。

【⿱雨執】チフ。陟立切 緝
少しく濕ふ、しめる。

【⿱雨肙】霄に同じ。

【⿱雨彗】雪の本字。○〔埤雅〕「雪从レ彗、蓋雪雨之可レ掃者也、亦能淨ニ坋‐穢一若レ彗」。

【⿱雨莽】バウ、マウ。母朗切 養
雲の色にいふ字。

【⿱雨淫】イン。餘針切 侵
十日以上の久雨、ながあめ。○〔淮〕「沐ニ浴‐‐雨ニ」。

（陰霪） ながあめ。○〔賈島〕「‐‐一以掃」。
（霖霪） 前に同じ。○〔鮑昭〕「驛雨夏‐‐」。

【⿱雨專】タン、ダン。度官切 寒 セン、ゼン。堅兗切 銑
露の貌にいふ字。

【⿱雨宗】サウ、ソウ。仕巷切 絳
雨ふる貌にいふ字。

【⿱雨鹿】ロク。盧谷切 屋
大雨、おほあめ、又、暴雨、にはかあめ。

【⿱雨習】シフ。先立切 緝
㊀雨ふる貌にいふ字。㊁奚‐‐は、東北の夷の名。

【霫】シフ、ジフ。似入切 緝
㊀雪‐‐は、大雨、おほあめ。㊁白‐‐は、北狄の國の名。

【霶】ハウ。普郎切 陽
‐‐霈は、大雨、おほあめ。

【⿱雨部】蔀に同じ。○〔乾坤鑿度〕「一‐烝之‐」。

十二畫

【⿱雨黽】黤に通じ用ふ。

【⿱雨蝩】チウ、チュ 陟弓切 東
氣の往來するを。○〔素問〕「陰‐陽‐‐‐」。

【⿱雨湳】ダン、ナン。尼咸切 咸
どろ、(泥)、ぬかるみ、(淖)。

【⿱雨湛】タン、ドン。徒感切 感
‐‐䨴は、繁き雲、又、露の垂るゝ貌にいふ語。○〔左思〕「宵‐露‐‐䨴」。

【⿱雨湛】タン、ドン。徒濫切 勘
雲の貌にいふ字。

【⿱雨登】トウ。臺隥切 徑
大雨、おほあめ。

【⿱雨隋】タ。吐臥切 箇
雨の下る貌にいふ字、ふる。

【⿱雨澤】ハク。匹各切 藥
㊀あめ、(雨)。㊁陂澤、さは。

【⿱雨㪚】霰に同じ。

【⿱雨雲】タイ、デ。杜外切 泰
雲の貌にいふ字。

【⿱雨𢿱】霰の本字。

【霰】セン。蘇甸切 霰
雨こほり氷片となりて降れるもの、あられ、みぞれ。○〔詩〕「如ニ彼雨レ雪、先集維‐」。
（霜霰） しもとあられと。○〔隋煬帝〕「‐‐落兮山谷寒」。「‐ニ。
（微霰） すこしくふるあられ。○〔蘇軾〕「日暮集ニ‐
（輕霰） 前に同じ。○〔劉約〕「雲車委ニ‐‐ニ。
（薄霰） 前に同じ。○〔陸游〕「濃霜‐‐不レ可レ得」。
（風霰） かぜを帶びてふるあられ。○〔白居易〕「‐‐夜紛々」。
（漂霰） ふりちるあられ。○〔枚乘〕「烈風‐‐」。
（流霰） 前に同じ。○〔劉鑠〕「臨レ風傷ニ‐‐ニ」。
（雹霰） あられ。○〔王逸〕「‐‐兮霏々」。
（馳霰） 風にとびちるあられ。○〔鮑昭〕「飛霙‐‐」。
（曉霰） あけがたにふるあられ。○〔梁簡文帝〕「‐‐飛ニ銀鑠ニ」。
（驚霰） にはかに降り出だすあられ。○〔梅堯臣〕「‐‐夜將レ集」。
（急霰） 前に同じ。○〔蘇軾〕「‐‐初鳴レ瓦」。
（霏霰） ふるあられ。○〔蔡襄〕「陌頭‐‐與レ風俱」。
（亂霰） みだれ落つるあられ。○〔張雨〕「容幽‐‐鳴」。

【⿱雨單】ワン、エン。烏關切 刪
人の名。

【⿱雨衆】シウ、シュ。職戎切 東
小雨、こさめ。

【霱】イツ、イチ。餘律切 質
卿雲、めでたきくも、又、三色のくも。

【露】ロ、ル。洛故切 遇
㊀水氣の凝りて珠の如き津となれるもの、つゆ。○〔禮〕「孟‐秋白‐‐降」。
㊁うるほす、うるほふ、(潤)。○〔漢〕「覆ニ‐萬‐民ニ」。
㊂あらはる、あらはす。
(い)外表に出見す、外表に出見せしむ。○〔禮〕「庶‐物‐‐生」。
(ろ)おほひなし、かこひなし。○〔荀〕「都‐邑‐‐」。
㊃外に在り、外に置く、さろ、さらす。○〔戰〕「見ニ齊之罷‐‐ニ」。
（膏露） 萬物を潤すよきつゆ。○〔禮〕「天降ニ‐‐ニ」。
（甘露） 甘味をおびたるつゆ、又、よきつゆ。○〔戰〕「‐‐降、風雨時」。
（披露） ひらきあらはす。○〔後漢〕「‐‐ニ肝‐膽ニ」。
（漏露） 秘密などの外に漏れあらはるゝこと。○〔後漢〕「事遂‐‐」。
（零露） おつるつゆ。○〔詩〕「‐‐溥兮」。
（泫露） 前に同じ。○〔王維〕「‐‐蒼茫濕」。

〔霜露〕しもとつゆと。○〔禮〕「ーー既降」。
〔暴露〕風雨にさらさる。○〔戰〕「是故終身ーニ於外ニ」。
〔繁露〕前に同じ。○〔杜甫〕「ーー晴壁外」。
〔朝露〕あしたのつゆ。○〔史〕「危若ニーーニ」。
〔曉露〕前に同じ。○〔宋文帝〕「階上ーー潔」。
〔月露〕つきあきらかなるときのつゆ。○〔鮑昭〕「ーー依レ草白」。
〔草露〕くさはらにおりたるつゆ。○〔王粲〕「ーー霑ニ我衣ニ」。
〔沐露〕つゆにうたる。○〔任昉〕「櫛レ風ーレー」。
〔祥露〕めでたきつゆ。○〔江總〕「ーー薛氣富」。
〔瑞露〕前に同じ。○〔孟郊〕「ーー青松繁」。
〔雨露〕あめとつゆと。○〔禮〕「ーー既濡」。
〔風露〕かぜとつゆと。○〔陶潛〕「淒々ーー交」。
〔清露〕きよらかなるつゆ。○〔隋〕「晨沐ーーー」。
〔塵露〕微少のことに喩へていふ語。○〔舊唐〕「竭ニーー之微ニ」。「ー肝膈ニ」。
〔陳露〕意中のことをのべあらはす。○〔吳〕「ーニ懇識ニ」。
〔罄露〕のこりなくあらはす。○〔餘題〕「ーニー后土爲レ之ーー」。
〔泄露〕もらしあらはす、もれあらはる。○〔符載〕
〔玉露〕つゆ。○〔杜甫〕「清談ーー繁」。
〔珠露〕前に同じ。○〔陳後主〕「泗浦如ニーーニ」。
〔矜露〕ほこりがにあらはしてつゝみかくさず。○〔元〕「不レ喜ニーーニ」。
〔表露〕あらはす。○〔嵆康〕「ーニー心誠ニ」。
〔含露〕つゆをふくみもつ。○〔潘岳〕「綠葵ーレー」。
〔浩露〕盛んなるつゆ。○〔王融〕「ーー零ニ中宵ニ」。
〔溫露〕ゑげきつゆ。○〔傅休奕〕「ーー沾ニ我裳ニ」。
〔溽露〕前に同じ。○〔謝莊〕「ーー飛レ甘」。
〔湛露〕前に同じ。○〔潘岳〕「若ニーー之晞ニ朝陽ニ」。
〔瀼露〕前に同じ。○〔柳宗元〕「清冷集ニーーニ」。
〔銀露〕月光に映じたるつゆ。○〔呂令問〕「ーー自圓」。

【霳】リウ、リユ 力中切 東
雲師、あめのかみ。

【霫】シン、ジン。鋤針切 侵
㊀雨の聲にいふ字、又、雨ふること。
㊁霫ーーは、ながあめ、〔霖〕。

【霫】シン、ジン。時樢切 沁
雨ふる貌にいふ字。

【霴】
靆に同じ。

【覆】フク 芳福切 屋
水を覆す、こぼす。

【霴】
靆に同じ。

【霜】サウ。色莊切 陽
孀に同じ、霜の物を枯らすにいふ字、からす。

十三畫

【霵】シフ、ゾフ 助急切 緝
衆聲の疾き貌にいふ字。○〔王褒〕「嘈ー嘩ー霵ー」。

【霵】シフ。仕戢切 緝
㊀暴雨の貌にいふ字。
㊁雨下る、あめふる。
㊂雨の聲にいふ字。

【霰】セン、子廉切 鹽 レン。力驗切 豔
サン、莊陷切 陷 セン。子豔切 豔
小雨、こさめ。

【霰】サン、セン。子鑑切 陷
物を水に入るゝこと。

【震】ドウ、奴冬切 冬 ヂョウ、尼容切 ノウ。ニユ。
露多し、ゑげし。

【䨲】
靆に同じ。

【霪】ハク。匹各切 藥
大雨、おほあめ。

【霫】クワイ、エ。黃外切 泰
あめ、〔雨〕。

【霫】ワイ、エ。烏外切 泰
小さき雲。

【霼】シ。郎夷切 支
雨の聲にいふ字。

【霫】
前條に同じ。

【霏】ヨウ、ユ。委勇切 腫
雲の氣。

【霶】
滂に同じ。

【霮】サフ、ソフ。悉盍切 合
雨降る。

【霷】ヤウ。余章切 陽
十月の稱。

【霸】ハク、ヒヤク。普伯切 陌
魄に同じ、月體に黑點あること。○〔漢〕「死ーー朔也」。

【霸】ハ、ヘ。必駕切 禡
㊀諸侯の首長、はたがしら、特に王に對して、文德を主とせず武力を主とするの義あり。○〔孟〕「以レ力假レ仁者ーー」。
㊁首長、かしら。○〔文心雕龍〕「文采必ーー」。
㊂州の名。○〔韻會〕「秦上谷郡地唐置ニーー州ニ」。
㊃渭水の一支流。○〔史〕「軍ニーー上ニ」。
〔王霸〕王業と霸業と。○〔孟〕「大則以ー、小則以ー」。
〔五霸〕春秋の時代に權勢を振ひたる五諸侯、即ち齊桓、晉文、秦穆、宋襄、楚莊をいふ。○〔孟〕「ーーーー者三王之罪人也」。
〔爭霸〕諸侯の中にありて兵強く權盛んなること、又、其の人。○〔史〕「可ニ以ーー天下ニ」。
〔英霸〕人にすぐれたること。○〔蜀〕「ーーー之器」。
〔雄霸〕人にすぐれてかしらたつ。○〔晉〕「有ニーーー之風ニ」。
〔偏霸〕偏地のはたがしら。○〔南越志〕「知ニ非ーーー之氣ニ」。

【霹】ヘキ、ヒヤク。匹擊切 錫 匹辟切 陌
ーー靂は、急擊せる雷、ときいかづち、疾雷。○〔爾雅註〕「雷之急擊爲ニーー靂ニ」。

【霺】ビ、ミ。無非切 微
小雨、こさめ。

十四畫

【霼】キ、虛豈切 尾 ケ。許既切 未
霼ーーは、雲の貌にいふ語、審かならざる貌にいふ語。○〔木華〕「霼霼ニーー其形ニ」。

【霽】セイ、サイ。子計切 霽
㊀はる。
（い）雲霧散ず、雨雪止む。○〔淮〕「霜雪不レー」。
（ろ）散り止む。○〔穆耕錄〕「怒容未レー」。
㊁はれしむ、はらす。○〔漢〕「ーニ威嚴ニ」。
〔曉霽〕あけがたより雨のはるゝこと。○〔崔國輔〕「ーー南軒開」。

〔晨霽〕前に同じ。○〔韋應物〕「――澄二景光一」。
〔晚霽〕暮方の雨あがり、ゆふやけ。○〔宋之問〕「――江天好」。
〔夕霽〕前に同じ。○〔沈佺期〕「紺園澄二――一」。
〔秋霽〕秋のころ天氣のよく晴るゝこと。○〔儲光羲〕「城池――空二」。
〔澄霽〕天氣の澄みわたりて能く晴れたること。○〔謝靈運〕「時霓夕――」。「日」。
〔淸霽〕前に同じ。○〔黃鎭成〕「更約秋風――」。
〔林霽〕林の雨の晴るゝこと。○〔皮日休〕「――遶二東風開一――一」。
〔暖霽〕晴れてあたゝかなること。○〔許宗魯〕「安得二――一」。
〔開霽〕雨雪などのやみ天氣のはれわたりたること。○〔南〕「至」是――」。
〔烘霽〕日光のやくが如くてりかゝやきたる天氣にいふ語。○〔馮子振〕「或器二――之器粟一」。

【⿱雨酸】サン。素官切 寒
小雨、こさめ。

【⿱雨囟】レイ、リヤウ。力丁切 青
天――は、人の頂骨。

【⿱雨兔】ドウ、ヌ。奴鉤切 尤
兎の子。○〔韓愈〕「明-眎八-世孫―」。

【⿱雨免】ベン、マン。無販切 願
人の姓。

【⿱雨見】キ。虚器切 寘 カン、ケン。丘閑切 刪
雨を見て止まる、あまやどり。

【⿱雨見】キ、ケ。香依切 微
雨の止む貌にいふ字。

【⿱雨對】タイ、デ。徒對切 隊
黮――は、雲の黑き貌にいふ語、雲の狀にいふ語。

【⿱雨漫】バン、マン。謾官切 寒
露の濃かなる貌にいふ字。

【⿱雨漫】バン、マン。莫半切 翰
雲の貌にいふ字。

【霾】バイ、メイ。莫皆切 佳
大風の塵土を揚げ雨らし物色の晦きにいふ字、つちふる、つちぐもり。○〔詩〕「終-風且―」。
〔雲霾〕雲ふかく陰晦なること。○〔江總〕「虚-守宿二――一」。
〔陰霾〕そらなどの土色を帶びてうすぐらきこと。○〔盧照鄰〕「野――而自晦」。「無二――一」。
〔氛霾〕うすぐらくすまざる氣。○〔元好問〕「四-望

【⿱雨脊】雺、霧に同じ。

【霿】ボウ、ム。莫候切 宥
鄙吝、やぶさか。○〔漢〕「―恒風若」。

【霥】ボウ、モウ。莫紅切 東
微雨、ぬかあめ。

【⿱雨圖】ハウ、ホウ。普袍切 豪
雪ふる貌にいふ字。

【⿱雨甄】レフ。力協切 葉
小雨、こさめ。

【⿱雨⿰冊寺】レイ、リヤウ。力丁切 青
そら、(空)。

十五畫

【霮】タン、ドン。徒紺切 勘
久雨、ながあめ。

【⿱雨潸】サン、セン。所板切 潸
雨ふる貌にいふ字。

【靁】雷に同じ。○〔詩〕「殷其―」。

【靁】リウ、ル。力救切 宥
龜の名。

十六畫

【⿱雨敫】霰に同じ。

【⿱雨濈】シフ。側立切 緝
戢に同じ。

【靂】レキ、リヤク。郎撃切 錫
霹の條を見よ。

【靃】クワク、ワク。呼郭切 藥
鳥の飛ぶ聲にいふ字、はおと。

【靃】スヰ。息委切 紙
㊀――靡は、草の弱き貌にいふ語、草の風に隨ふ貌にいふ語。○〔楚辭〕「薠-草――靡」。㊁細き貌にいふ字。㊂雲。

【靄】アイ。於蓋切 泰 アイ。依亥切 賄 アツ、アチ。於葛切 曷
㊀雲の貌にいふ字、雲の集まる貌にいふ字、あつまる、たなびく ○〔陶潛〕「停-雲――」。㊁たなびきあつまる氛氣。○〔謝靈運〕「連レ氛累レ―」。
〔埃靄〕ちりけむりの立ちて雲の如きをいふ。○〔晉〕「混二光-耀于――一者」。
〔沓靄〕深きもや。○〔儲光羲〕「――泊-滿晉」。
〔深靄〕前に同じ。○〔陸雲〕「形雲起而――」。
〔靑靄〕あをみを帶びたるもや。○〔江淹〕「虛-堂起-――一」。
〔蒼靄〕前に同じ。○〔曾鞏〕「冉-々――積」。
〔烟靄〕もや。○〔杜甫〕「側レ身下二――一」。
〔宿靄〕前夜よりあるもや。○〔韓愈〕「廓-然吹二――一」。「―天時陰」。
〔翳靄〕もやのくらく立ち籠めたること。○〔李顒〕「―
〔晻靄〕前に同じ。○〔徐陵〕「山-澤――」。
〔彩靄〕うつくしき色の雲のあつまり。○〔沈約〕「朋霞泛二――一」。
〔朝靄〕あさぎり。○〔江淹〕「――方巻」。
〔曉靄〕前に同じ。○〔徐彥伯〕「靑-潭――飛二仙蹕一」。
〔遙靄〕遠きところに立ちたるもや。○〔皇甫涍〕「――引二諫-磬一」。
〔遠靄〕前に同じ。○〔張九齡〕「――千-巖台」。
〔林靄〕はやしにたちたるもや。○〔韋應物〕「朗-月分二――一」。
〔山靄〕やまのもや。○〔戎昱〕「――生二朝-雨一」。
〔暮靄〕ひぐれに立つもや。○〔杜牧〕「――生二深-樹一」。
〔晚靄〕前に同じ。○〔裴廸〕「薜-荔成レ帷――多」。
〔夕靄〕前に同じ。○〔李頎〕「――垂二陰-野一」。
〔野靄〕のはらのきり。○〔岑參〕「――晴拂レ枕」。
〔香靄〕燒香のけむり、又、花のかすみの如く聚まりたなびきたるにもいふ。○〔劉基〕「――微-々引二漏-聲一」。「――泊-城山」。
〔淺靄〕微靄といふに同じ、うすきもや。○〔何中〕
〔淡靄〕前に同じ。○〔陸游〕「――輕-颺入二夏-初一」。
〔川靄〕かはぎり。○〔陸游〕「――林-鹿翠欲レ浮」。
〔江靄〕前に同じ。○〔謝翺〕「――雜二朝-曛一」。
〔茶靄〕茶をにる烟。○〔林逋〕「穿-々――出二松-梢一」。

【靅】ヒ。芳味切 未 ハイ、ヘ。滂佩切 隊
靅――は、雲の盛んなる貌にも雲の布く貌にもいふ語、さかんなり、たなびく。○〔木華〕「靅――雲布」。

【⿱雨滲】サン、ゼン。阻讖切 陷

水。

【⿱雨瀸】セン、ソン。将廉切 [鹽]
霯に同じ、こさめ。

【靆】タイ、徒耐切 [隊] デ。蕩亥切 [賄]
靉ーは、
(い)雲の狀にいふ語、雲の盛んなる貌にいふ語、さかんなり、たなびく、又、明かならざる貌にいふ字、くらし、雲の日を覆ふ貌にいふ字、くもり。○〔潘尼〕「朝-雲靉ー」。
(ろ)眼鏡、めがね。○〔洞天淸錄〕「靉-ー老-人不ㇾ辨ニ細-書一以ㇾ此掩ㇾ目則明」。

【靇】ロウ、ル。盧東切 [東]
雷の聲にいふ字。

【靈】レイ、リヤウ。郎丁切 [靑]
㊀鬼神、かみ。○〔楚辭〕「ー皇-々兮既降」。
㊁たま、たましひ。
(い)萬有の精氣。○〔書〕「惟人萬-物之ー」。
(ろ)人身の精氣。○〔莊〕「不ㇾ可ㇾ入ニ於ーー府ニ」。
(は)精誠、まごころ。○〔楚辭〕「横ニ大-江一兮揚ㇾー」。
㊂命數、いのち。○〔揚雄〕「竊ニ國-ーー」。
㊃禔善、よし。○〔詩〕「ー雨既零」。
㊄神妙、不可思議、くしび。○〔史〕「生而神ーー」。
㊅昭明、あきらか。○〔莊〕「終-身不ㇾーー」。
㊆稜威、いつ、いきほひ。○〔國〕「若以ニ君之ーニ」。
㊇寵福、いつくしみ、さきはひ。○〔後漢〕「寵-ー顯-赫」。「蕃-祉ニ」。
㊈天地人の稱。○〔班固〕「荅ニ三ーー之
㊉日月星の稱。○〔揚雄〕「獵ニ三ーー之流ニ」。
⑪くしびなるもの、すぐれてよきもの。○〔禮〕「何謂ニ四ーー、麟鳳龜龍」。
⑫巫覡、みこ、かんなぎ。○〔楚辭〕「思ニーー保兮賢姱ニ」。

(人靈) 人間のこと。○〔書〕「惟ー萬-物之ー」。
(芻靈) 祭の日に茅を束ねて人馬などの形を造りて葬むるときに用ふるもの。○〔禮〕「塗車ーーー」。
(悤靈) 輜重車の名。○〔左〕「載ニーーー寢ニ于其中一而逃」。
(五靈) 麟鳳龜龍白虎をいふ。○〔何承天〕「ーーー命ㇾ件」。
(萬靈) よろづのかみ、又、もろもろの民。○〔史〕「黃-帝接ニーーー明-廷ニ」。
(百靈) 前に同じ。○〔庾信〕「ーーー咸仰ㇾ德」。
(曜靈) 太陽のこと。○〔魏、註〕「ーーー施ㇾ光」。
(陽靈) 前に同じ、又、宮の名。○〔吳均〕「ーーー辭ニ重-暉ニ」。
(皇靈) 上帝のみたま、又、帝王の神靈。○〔曹植〕「ーーー感-應」。
(性靈) 精氣のこと。○〔陶弘景〕「任ニーーー而往」。
(上靈) 上帝のみたま。○〔齊〕「恭事ニーーーニ」。
(帝靈) 前に同じ。○〔秦嘉〕「ーーー無ニ私-親ニ」。
(昀靈) 前に同じ。○〔北〕「ーーー隆ㇾ祜」。
(仙靈) 神仙のこと。○〔鮑照〕「結ㇾ友事ニーーーニ」。
(英靈) すぐれたること、又、其の者。○〔隋〕「此河-朔之ーーー也」。
(冥靈) 木の名。○〔列〕「荊之南有ニーーー者、以ニ五-百-歲一爲ㇾ春、以ニ五-百-歲一爲ㇾ秋」。
(河靈) 河の神。○〔梁簡文帝〕「長-夜從ニーーーニ」。
(山靈) やまの神。○〔梁昇卿〕「ーーー獻ニ壽長ニ」。
(至靈) 極めて神智の明かなること。○〔書、疏〕「天子必當ニーーーニ」。
(不靈) 神聖ならず、さとからず。○〔史〕「龜藏則不ㇾーー」。
(威靈) 威光勢力などにいふ語。○〔吳〕「廣耀ニーーーニ」。
(光靈) 靈魂を尊崇していふ語。○〔後漢〕「明-德盛者ーーー遠也」。
(明靈) 前に同じ。○〔魏〕「祖-宗ーーー」。
(含靈) 人類のこと、又、總て性情を有するものを籠めていふ語。○〔晉〕「道濟ニーーーニ」。
(肇靈) 前に同じ。○〔潘尼〕「ーーー感ニ韶-運ニ」。
(生靈) 前に同じ。○〔南〕「道庇ニーーーニ」。
(情靈) 心性のこと。○〔沈約〕「ーーー淺-弱」。
(心靈) 前に同じ。○〔隋〕「導ニ達ーーーニ」。
(民靈) 人民のこと。○〔宋〕「化洽ニーーーニ」。
(廟靈) 先祖の神靈。○〔鄭谷〕「ーーー安ニ國-步ニ」。
(炳靈) 靈威をあきらかにあらはす。○〔水經、註〕「江-漢ーㇾー」。
(月靈) 月輪のこと。○〔齊〕「ーーー誕ㇾ慶」。
(尊靈) たふときみたま、又、みたまをたふとぶ。○〔齊〕「祭實ーㇾー」。
(嚴靈) おごそかなるみたま。○〔齊〕「肇祀ニーーーニ」。
(坤靈) 陰の精氣、又、地のかみ。○〔宋〕「山-嶽河-瀆皆ーー之ー」。
(淑靈) 善きたましひ、善き神、又、善き德にもいふ。○〔孔融〕「應ニ天ーーーニ」。
(資靈) 天よりうけたる心。○〔謝偃〕「ーーー傑-秀」。
(祖靈) 祖先のみたま。○〔蔡邕〕「承ニ彼ーーーニ」。
(乾靈) 陽の精氣、又、天のかみ。○〔曹植〕「世-祖體ニーーー之休-德ニ」。
(海靈) うみの神。○〔魯靈光殿賦〕「山-神ーーー」。
(衆靈) おほくの神、又、もろもろの民にもいふ。○〔楊炯〕「ーーー咸至」。
(淸靈) 濁りなき精氣。○〔陸雲〕「稟ニ乾-元之ーーーニ」。
(祥靈) めでたき神。○〔郭璞〕「ーーー表ㇾ瑞」。
(粹靈) 淸粹の氣、又、淸粹善良なること。○〔元稹〕「公受ニ天-地ーーーニ」。

十七畫

【⿱雨鮮】シ。息移切 [支] サ。蘇禾切 [歌]
小雨、こさめ。

【⿱雨鮮】⿱雨鮮に同じ。

【⿱雨襄】ジヤウ、ニヤウ。汝陽切 ダウ、ナウ。奴當切 [陽]
露の盛んなる貌にいふ字。

【⿱雨鐵】サン、セン。所咸切 [咸] セン、ソン。思廉切 [鹽]
微雨、ぬかあめ。

【⿱雨鐵】セン、ソン。子廉切 [鹽]
ひたす（漬）。

【⿱雨隱】イン、オン。倚謹切 [吻]
雲の貌にいふ字。

【靉】アイ、エイ。烏代切 [隊] イ、エ。於既切 [未]
靆の字の條を見よ、たなびく、くらし。○〔潘尼〕「朝-雲ーー靆」。
(曖靉) うすぐらし。○〔僧寒山〕「室-中雖ニーーーニ」。
(微靉) うすぐもり。○〔吳澄〕「淡-泊散ニーーーニ」。
(靉々) 雲の靉く貌にも竹樹などの雲の如く高く蔽ふ貌にもいふ語。○〔顧瑛〕「ーーー排ニ空-靑ニ」。

【⿱雨⿰云愛】イ、エ。隱豈切 [尾]
靉の字の條を見よ。

【⿱雨⿰云愛】アイ、エ。依亥切 [賄]
雲の盛んなる貌にいふ字。

【⿱雨濯】タク、ドク。直角切 [覺]
大雨、おほあめ。

【⿱雨⿰革奇】俗の霸の字。

十八畫

【⿱雨雙】サウ、ソウ。疎江切 [江]
雨ふる貌にいふ字。

【靊】ホウ、フ。敷馮切 [東]
霳の字を見よ。

【⿱雨農】⿱雨惡に同じ。

【霾】バイ、メイ。明排切 [佳]
風ふきて土を雨らす、つちふる。

十九畫

【[illegible]】シユク、ソク。式竹切 屋
——昱は、疾き貌にいふ語。○[木華]「——昱絶-電」。

【靂】レキ、リヤク。郎狄切 錫
霖——は、雨止まざる貌にいふ語。

【霵】シフ。七入切 緝
雨ふる貌にいふ字。

廿八畫

【䨺】タイ、デ。徒罪切 賄
雲の貌にいふ字。

卅一畫

【靐】ヒヨウ、ビヨウ。皮證切 徑
雷の聲にいふ字。

青　部

【青】セイ、シヤウ。倉經切 青
㊀七色の一、晴れたる日の空の如き色、あを。○[荀]「—出二於藍一」。
㊁あをの色なり、あをし。○[書]「厥土—黎」。
㊂春、東。○[楚辭]「—春受レ謝」。
㊃九州の一、今の山東省濟南府一帶の地。○[書]「海-岱是—州」。
㊄翠鷸、やませみ。○[禮]「前有レ水則載二—旌一」。
㊅竹の皮。○[後漢]「殺二—簡一以寫二經-書一」。
㊆茂盛せる貌にいふ字、しげる。○[詩]「綠-竹——」。
㊇一種の礦物、ろくしやう、あを色を施す料となるもの。○[山海經、註]「善—曰レ雘」。
㊈あを色をなせるもの。○[晉]「紆レ—拖レ紫」。
(丹青) あか色とあを色と、又、繪の具の色にも彩色を施したる繪畫にもいふ。○[漢]「——所レ畫」。
(汗青) 竹皮に汗すとの義より書籍のことにいふ。○[文天祥]「留二取丹-心一照二——一」。
(空青) 藥の名、銅精より生ずるもの。○[庾辛玉冊]「——陰-石也」。
(葱青) (い)樹木などのあをあをとしたること。○[沈約]「林-薄杳——」。(ろ)葱の葉をいふ。○[本草]「葱初生曰二葱-針一、葉曰二——一」。
(遙青) 遠くに見ゆる山のこと。○[孟郊]「開レ窓納二——一」。
(純青) 極めてあをき色。○[洞天清錄]「——如レ鋪レ翠」。
(碧青) 銅より生ずる繪の具にして極めてあをき色をあらはすもの。○[齊]「——一千二百斤」。
(祿青) 前に同じ、又、綠青に作る。○[桂海虞衡志]「——銅之苗也」。
(曾青) 藥の名。○[淮南萬畢術]「取二——十斤一燒レ之」。
(扁青) 前に同じ。○[本草]「——一名二石-青一」。
(女青) 木の名、蛇啣根のこと。○[本草]「——一名二雀-瓢一」。
(男青) 木の名。○[爾雅]「——女-青皆木名」。
(田青) 水田中に生ずる螺螄の異名。○[水族加恩簿]「惟爾——」。
(水青) 草の名、一名鼠尾といふ。○[本草]「烏-草一名二——一、以二穗-形一命レ名」。
(翠青) 蒼青といふに同じ、あをあをしたる色。○[傅休奕]「葉-蕣-々兮——」。
(葉青) 前に同じ。○[岑參]「——天-際峰」。
(深青) あをいろの極めてこきにいふ。○[蘇軾]「梨-花淡白柳——」。
(淡青) うすあをき色。○[范成大]「——山-色深-黃稻」。
(踏青) 上巳の曲水の宴、又、春さきの野邊の散步にもいふ。○[劉商]「——看レ竹共二佳-期一」。

三畫

【[illegible]】セイ、ジヤウ。疾郢切 梗
㊀淸く飾る、かざる。
㊁—[illegible]は、けれりもの、毛布。

【晴】エイ、ヤウ。於丁切 青
小詰、さゝめごと。

【晴】セイ、ジヤウ。慈盈切 庚
情に同じ。○[史]「—文俱盡」。

五畫

【靖】セイ、ジヤウ。疾郢切 梗
㊀はかる(謀)。○[書]「自作弗レ—」。
㊁おもふ(思)。○[揚雄]「—思也、東齊海-岱之閒曰レ—」。
㊂をさむ(治)。○[詩]「俾二予—レ之」。
㊃やはらぐ(和)、やすんず(安)。○[詩]「肆其—レ之」。
㊄しづむ、しづか(靜)。○[晉]「南-州寧-—」。
㊅きよし、いさぎよし(淸)。○[書]「自—人自獻二于先-王一」。
㊆細き貌にいふ字。○[山海經]「有二小-人國一、曰二—-人一」。
(淸靖) しづかにやすらかなること。○[北]「——寡レ事」。
(安靖) やすらかにをさむ、又、やすし。○[左]「—二—北國-家一」。
(綏靖) 前に同じ。○[吳]「—二—四方一」。
(寧靖) 前に同じ。○[蜀]「—二—聖-朝一」。
(恬靖) やすらかに靜かなり。○[宋]「天-性——」。
(閑靖) 前に同じ。○[陶潛]「——少レ言」。
(箇靖) 前に同じ。○[南]「惟——爲レ心」。
(底靖) 定めをさむ。○[元稹]「內以—二—中-原一」。
(嘉靖) よく理めやすんぞ。○[書]「—二—殷-邦一」。

【靖】セイ、ジヤウ。疾正切 敬
㊀前條に同じ。㊁たる(足)。

六畫

【靗】テイ、チヤウ。丑鄭切 敬
㊀偵に作る、うかゞふ。㊁とく(譯)。

【靗】タウ、チヤウ。抽庚切 庚
正しく視る、みる、一說に、深き意。

【靗】テイ、チヤウ。癡貞切 庚
正しく見る、みる。

【靗】テイ、チヤウ。丑鄭切 敬
㊀うかゞふ(覗)。㊁前條に同じ。

七畫

【靘】セイ、シヤウ。千定切 徑
靑黑色、あをぐろ。○[李華]「玄-猨啼深——」。
(靘艶) あをぐろき色。○[郝經]「與二世閒一——」。

【靚】セイ、ジヤウ。疾正切 敬
㊀めす(召)。
㊁粉黛を施し裝ひ飾る、かざる、けしやう。○[司馬相如]「—莊刻飾」。
(妝靚) よそほふ。○[韓愈]「桃-李晨—」。

【靚】セイ、ジヤウ。疾郢切 梗
㊀婦女の容の徐かなるにいふ字、しとやか。○[貫師泰]「意-態閑且—」。
㊁靜に同じ。○[賈誼]「若二深-淵之—一」。

八畫

【[illegible]】セイ、シヤウ。千定切 徑
冷寒、ひやゝか。

【靛】テン、デン。堂練切 霰
藍を以て染む、あゐぞめ、又、あゐぞめの色、あゐ。○[本草]「藍-質浮二水-面一者爲二—花一」。

〔莊靜〕おごそかにしてしづやかなること。〇〔宋〕「以一一」。
〔閑靜〕しづやかなること。〇〔貫師泰〕「韋態一且一」。

【靜】セイ、ジヤウ、疾郢切 梗　疾正切 敬

㊀しづか。
(い)不動、うごかず。〇〔易〕「至一而德方」。
(ろ)安和、やすらか、おだやか。〇〔詩〕「一言思ㇾ之」。
(は)貞淑、しとやか、たゞし。〇〔詩〕「一女其姝」。
(に)言なきこと。〇〔國〕「吾其一也」。
(ほ)聲なきこと。〇〔楚辭〕「一閒安也」。
(へ)澄めること。〇〔莊〕「水一則明燭ニ鬚眉ニ」。
㊁しづかならしむ、しづかとなる、やすんず、やはらぐ、しづむ、しづまる。〇〔左〕「綏ニ一諸侯ニ」。
㊂淸潔、きよし、いさぎよし。〇〔詩〕「籩豆一嘉」。
㊃淸潔にす、きよむ。〇〔國〕「一ニ其巾冪ニ」。
㊄いこふ、やすむ(息)。〇〔禮〕「百官一ㇾ事毋ㇾ刑」。

〔淸靜〕しづかなること。〇〔史〕「一一自正」。
〔鎭靜〕しづめやすんず。〇〔晉〕「一ニ一羣庶ニ」。
〔綏靜〕前に同じ。〇〔左〕「一ニ一諸侯ニ」。
〔湛靜〕しづかにしてたゞやかなること。〇〔漢〕「一一安靜」。
〔淵靜〕前に同じ。〇〔莊〕「一一而百姓定」。
〔玄靜〕前に同じ。〇〔晉〕「萬國一一」。
〔恬靜〕やすらかにしづかなり。〇〔晉〕「性一一不ㇾ妄交游ニ」。
〔退靜〕競進せずしてやすらかなり。〇〔南〕「外雖ニ一一ニ」。
〔動靜〕うごくとしづかなると、又、人の進退擧止をいふ。〇〔易〕「一一有ㇾ常」。
〔躁靜〕前に同じ。〇〔潘岳〕「庸詎識ニ其一一ニ」。
〔安靜〕おだやかなること。〇〔後漢〕「一一之吏」。
〔寧靜〕前に同じ。〇〔後漢〕「一一無ㇾ爲」。
〔平靜〕前に同じ。〇〔後漢〕「宜ㇾ須ニ一一ー更議ニ其事ニ」。
〔簡靜〕ゆるやかなること。〇〔北〕「爲ㇾ政一一」。
〔寬靜〕前に同じ。〇〔禮〕「一而一」。「尙ㇾ寬」。
〔愼靜〕謹愼にして安和なること。〇〔禮〕「一一而一」。
〔謹靜〕前に同じ。〇〔戰〕「莫ㇾ如ニ一一ニ」。
〔密靜〕愼密にして躁急ならず。〇〔後漢〕「有ニ一一之風ニ」。「一一」。
〔虛靜〕虛心無爲にして安和なること。〇〔漢〕「明聖一一」。
〔冲靜〕前に同じ。〇〔蔡邕〕「伏ニ一一以臨ㇾ民」。
〔貞靜〕女德のたゞしくおだやかなるにいふ語。〇〔後漢〕「淸閑一一」。
〔隱靜〕しづかに世を遁れ居る。〇〔南〕「故不ㇾ能ニ久事ニ一一ニ」。「一」。
〔肅靜〕嚴肅に整ひしづかなること。〇〔北〕「一方一一」。
〔寂靜〕ひろ／＼とさびしくしづかなること。〇〔北〕「至ニ郭外一一處ニ」。「一」。
〔端靜〕たゞしくしづかなること。〇〔北〕「志意一一」。
〔絕靜〕俗をはなれてしづかなること。〇〔唐〕「離ㇾ俗一一乎」。
〔澹靜〕淡泊にしてやすらかなること。〇〔莊〕「一而一一」。
〔和靜〕やはらぎてやすらかなること。〇〔莊〕「陰陽一一」。
〔閑靜〕しづかなること。〇〔韓〕「曠野一一」。
〔喧靜〕かまびすしきとしづかなること。〇〔杜甫〕「一一不ㇾ同ㇾ科」。

九畫

【靚】シン。七信切 震
ひやゝか(寒)。

十畫

【靝】古文の天の字。

【䨓】アフ、オフ。乙盍切 合
いろどり(飾-采)。

十三畫

【靟】シツ、シチ。所櫛切 質
青くして赤き色にいふ字。

十四畫

【䨼】コ、ク。胡誤切 遇
靑(ろくしやう)の屬、黝(あかつち)の屬。〇〔山海經〕「其陰多ニ靑一一ニ」。

非　部

【非】ヒ。甫微切 微　〔說文〕从ニ飛下翄、取ニ其相背ニ。

㊀たがふ(違)。〇〔禮〕「一一禮也」。
㊁不是、あし。〇〔易〕「察ニ是與ㇾ一一」。
㊂不眞、いつはり。〇〔淮〕「其守ㇾ節一一也」。「有ㇾ一一」。
㊃隱惡、つみ。〇〔漢〕「憪然念ニ外人之一一」。
㊄そしる(訾)。〇〔孝〕「一ニ聖人一者無ㇾ法」。
㊅せむ(責)。〇〔漢〕「一ㇾ我」。
㊆とがむ(咎)。〇〔呂氏春秋〕「莫ㇾ不ㇾ一ニ令尹ニ」。
㊇否定の意を表す字、ず、あらず、否定すべき意の語句の上に置く。〇〔史〕「爲ニ畔逆ニ以憂ニ太后ニ、一ニ長策一也」。

〔心非〕心中に是とせず。〇〔史〕「入則一、出則巷議」。「以一一」。
〔飾非〕是ならざるをつくろひかざる。〇〔莊〕「辯足ニ以飾ㇾ一」。
〔嫁非〕あしきしわざなどを他人の所爲なりとす。〇〔唐〕「無ㇾ所ㇾ一ㇾ一」。
〔養非〕あしきを增長す。〇〔鶡冠子〕「一ㇾ一長ㇾ失」。
〔匿非〕あしき所爲をつゝみかくす。〇〔穀梁、序〕「故附ㇾ勢一ㇾ一者」。
〔百非〕いろ／＼のよからざること。〇〔家語〕「夫子見ニ人一善ニ、忘ニ其一一ニ」。「一」。
〔禁非〕あしきをとゞむ。〇〔莊〕「孔丘能止ㇾ暴一ㇾ一」。
〔褒非〕よこしまにして正しからず、又、其の者。〇〔後漢〕「明ニ于發ㇾ摘一一ニ」。
〔是非〕よきとあしきと、よしあし。〇〔莊〕「例惡之一一」。
〔負非〕そむく、たがふ。〇〔後漢〕「一ニ一于世ニ」。
〔淫非〕みだりがはしきこと。〇〔晉〕「使ニ民妨ニ由ニ接於一一之地ニ」。「一一」。
〔前非〕もとなしたるあしきこと。〇〔崔駰〕「事往覺ニ一ㇾ一而後ㇾ是」。
〔先非〕前に同じ、又、あしきをさきとす。〇〔辨命論〕
〔似而非〕其のさまの是なるに似たるが如きも其の實はよからざること。〇〔莊〕「一ㇾ之一一也」。

【非】ヒ。妃尾切 尾
本、誹に作る、そしる。〇〔史〕「一一謗不ㇾ治」。

三畫

【奜】ハイ、ベ。蒲罪切 賄
おほいなり(大)。

【𩇕】ヒ。非尾切 尾
㊀わかつ、わかる(別)。
㊁鳥の名、山梟。

【𩇕】ヒ。平秘切 寘　攀悲切 支
梟の如き一種の鳥。

【𩇗】ヒ、ビ。扶沸切 未
かくる(隱)。

【啡】ハイ、ヘ。鋪枚切 灰
唾る聲にいふ字、ねいき、いびき。

【啡】ハイ、ベ。蒲皆切 佳
ふく(吹)。

【啡】ハイ、ヘ。匹愷切 賄
唾を出す聲にいふ字、つばはく。

【啡】ハイ、ヘ。滂佩切 隊
㊀臥し息ふ、いこふ。㊁吐く聲にいふ字。

【厞】ヒ、ビ。符沸切 未
㊀かくる、(隱)。㊁いやし、(陋)。

四畫

【斐】ヒ。芳輝切 微
かろし、(輕)。

【裴】ヒ。父沸切 未
ちり、(塵)。

【棐】ヒ。方未切 未
手を覆す、かへす。

【蜚】ヒ。匪微切 微
㊀細き毛。㊁みだる、(紛)。

【悲】ヒ、ビ。切 符非切 微 平秘切 寘
蠹——は、鳥の名。

【琵】ヒ。匹寐切 寘
わかる、(別)。

【乖】サフ、ゾフ。疾盍切 合
あし、(惡)。

五畫

【韭】古文の師の字。

七畫

【菲】苦に同じ。○〔山海經〕「大——之山」。

【靠】カウ、コウ。苦到切 號
㊀たがふ、(違)。㊁よる、(倚)、つく、(附)。

【靠】コク。姑沃切 沃
㊀前條に同じ。㊁つらなる、(連)。

【菲】靠に同じ。

【賁】ヒ。平秘切 寘
さかんなり、(壯)。

十一畫

【靡】ビ、ミ。文被切 紙
㊀なびく。
(い)傾き偃す、ふす。○〔左〕「望二其旗一—」。
(ろ)伏し從ふ、ゐたがふ。「從レ風而—」。
㊁なびかしむ、ふす、ゐたがふ。○〔荀〕「燕〔荀〕「—レ之偃レ之」。
㊂奢侈、をごり。○〔周〕「以二政-令一禁二物—一而均レ市」。
㊃私小、ちひさし。○〔揚雄〕「私-小也、「秦晉曰レ—」。
㊄細好、ゐなやか、きめこまか。○〔司馬相如〕「—二曼美三色於後一」。
㊅華美、はなやか、うつくし。○〔吳都賦〕「有二任-俠之—一」。
㊆なし、(無)。○〔書〕「命—レ常」。
㊇つみ、(罪-累)。○〔詩〕「無レ封二—于爾邦一」。「—」。
㊈なびく貌にいふ字。○〔書〕「商俗——「—」。
㊉遲き貌にいふ字。○〔詩〕「行-邁——「施——」。
⑪連らなる貌にいふ字。○〔史〕「登降——」。
⑫正しきを失ふ貌にいふ字。○〔史〕「—一。「斂-望—-徙」。
⑬きし、(崖)。○〔司馬相如〕「均二樂江-—一」。
⑭蘼の屬。○〔禮〕「——草死」。
(骨靡)相隨ひて坐する輕刑の名、又、其の囚徒。○〔史〕「説爲二——一」。
(披靡)なびくこと。○〔史〕「漢-軍皆——」。
(風靡)なびき偃す。○〔後漢〕「百-姓——」。
(侈靡)分に過ぎたるをごり。○〔史〕「言二淫-樂一而顯二——一」。
(奔靡)前に同じ。○〔南〕「窮二極——一」。
(綺靡)華美なること。○〔梁〕「彌尚二——一」。
(雕靡)うつくしき細工。○〔南〕「窮二極——一」。
(猗靡)相隨ふ貌にいふ語。○〔史〕「扶-與——」。
(委靡)振はざること。○〔韓愈〕「頹-墮——」。
(淫靡)浮逸侈靡にしてみだらなること。○〔漢〕「議者以爲二——不-急一」。
(妍靡)うつくしきこと。○〔南〕「作レ辭必——」。
(浮靡)正雅ならずして細巧なること。○〔唐〕「——相矜」。
(摧靡)くじけなびく。○〔舊唐〕「無レ不二——一」。
(妖靡)うつくしき淫猥のものなどにいふ語。○〔列〕「——盈レ庭」。
(迤靡)なゝめに長く延きたる貌にいふ語。○〔甘泉賦〕「——乎連-屬」。
(纖靡)細小なること、又、細好なること。○〔論衡〕「—一大如二黍-粟一」。
(草靡)草の風になびきふすとてなびき從ふ意にいふ語。○〔梁簡文帝〕「十方——」。
(妙靡)妙麗といふに同じ。○〔王融〕「傳二——于帝江一」。
(江靡)江の崖、かはぎし。○〔上林賦〕「的二皪—「—一」。
(麗靡)美麗なること。○〔後漢〕「窮二極——一」。
(邐靡)連續して絕えざるにいふ語。○〔上林賦〕「——廣-衍」。

【靡】ビ、ミ。忙皮切 支
㊀ちる、ちらす、(散)、わかつ、わかる、(分)。○〔易〕「我有二好-爵一、吾與レ爾—レ之」。
㊁ほろぼす、ほろぶ、(滅)。○〔漢〕「連二日-夜——盡」。
㊂へらす、へる、(損)。○〔國〕「—二王躬一「身一」。
㊃蘼に同じ。○〔揚雄〕「精二瓊—與二秋-菊一」。

【靡】バ、マ。眉波切 歌
㊀—-䩭は、山の名。○〔荀〕「至二於—-䩭之下一」。
㊁ちる、ちらす、(散)。
㊂摩切す、する。○〔莊〕「與レ物相刃相「—」。

【靡】バ、メ。莫加切 麻
收——は、縣の名。

【靡】ビ。靡詖切 寘
ふす、(偃)、ひく、(曳)、ちる、ちらす、(散)。○〔揚雄〕「犂二風寔—」。

十二畫

【㲠】ヒ。芳非切 微
㊀細き毛。㊁みだる、(紛)。

面部

【面】ベン、メン。彌箭切 霰
〔說文〕从二百、象二人面形一。
㊀おもて。
(い)顏の前部、卽ち、眉目鼻口のある處、つら、かほ、かほばせ、かんばせ。○〔左〕「以レ袂掩レ—而死」。
(ろ)前頭、まへ。○〔儀〕「覆レ之—レ葉」。
(は)外表、そとがは、そとづら。○〔韓愈〕「微-瀾動二水——一」。
(に)かほに擬しつくりてかほに著くるもの、おもがた。○〔晉〕「用二鐵——一自衞」。
㊁眼前、目下、まのあたり ○〔書〕「汝無三—從退有二後-言一」。
㊂みる、まみゆ、(見)。○〔禮〕「夫爲二人子一者、出必告、反必—」。

㊃むかふ、むく、(向)。○〔書〕「不レ學牆｜」。
㊄方角、かた、むき。○〔書〕「大輅在ニ賓階｜ニ」。
㊅そむく、(背)。○〔史〕「馬童｜レ之」。
〔南面〕みなみむき、又、君主の朝にある南方に面し臣下は北面するより君主の位にあるをあらはす語に用ふ。○〔易〕「聖人｜｜而聽」。
〔私面〕私覿といふに同じ、おほやけの會見にあらずしてわたくしの面接をいふ。○〔左〕「以ニ其乘馬八匹ニ｜｜見ニ子皮ニ」。
〔方面〕かくばりたる面貌、又、一方面のこと。○〔後漢〕「專ニ命｜｜ニ」。
〔半面〕かほの半分。○〔南〕「必爲ニ｜｜妝ニ以俟」。
〔對面〕かほをあはす。○〔唐〕「猶ニ｜レ｜語ニ」。
〔顏面〕かほのこと。○〔蘇軾〕「塵土汙ニ｜｜ニ」。
〔識面〕かほをみしる。○〔五〕「人罕レ｜ニ其｜ニ」。
〔仰面〕おもてを擧げてのぞむこと。○〔南〕「百姓咸｜レ｜目レ之」。「稱」。
〔醜面〕あしきかほ。○〔論衡〕「或以ニ｜｜惡色ニ」。
〔照面〕かほをてらしうつす。○〔廣志〕「白玉美者、可ニ以｜ニ｜」。
〔剃面〕かほをそる。○〔顏氏家訓〕「貴遊子弟無レ不ニ熏レ衣｜レ｜、傅レ粉施レ朱」。
〔素面〕紅粉をよそはざるかほ、すがほ。○〔太眞外傳〕「常｜｜朝レ天」。
〔磨面〕かほをみがく。○〔雲仙雜記〕「信レ手｜レ｜」。
〔笑面〕わらひがほ。○〔李白騷〕「千金｜・裏｜」。
〔瘦面〕やせおとろへたるかほ。○〔陸游〕「其奈｜｜無ニ光輝ニ」。
〔嬌面〕なまめきたるかほ。○〔劉希夷〕「願爲ニ明鏡ニ分ニ｜｜ニ」。
〔池面〕いけのおも。○〔白居易〕「低風洗ニ｜｜ニ」。
〔四面〕四方といふに同じ。○〔蘇軾〕「青山開ニ｜｜ニ」。
〔見面〕かほをみる。○〔漢〕「或莫レ｜ニ其｜ニ」。
〔玉面〕玉の如くうつくしきかほばせ。○〔宋之問〕「｜｜紅斑本姓秦」。
〔唾面〕面に唾をはきかく。○〔識〕「老婦必｜ニ其」「｜ニ」。
〔便面〕扇の類。○〔漢〕「自以ニ｜｜ニ拊レ馬」。
〔屛面〕前に同じ。○〔漢〕「李常騶ニ雲母｜｜ニ」。
〔北面〕南より北に向くこと、きたむき。○〔漢〕「自執レ總｜｜備ニ弟子禮ニ」。

〔白面〕少年などのなまじろきかほ。○〔杜甫〕「用上諸家｜｜郎」。
〔鐵面〕氣後れする色なきこと、おくめんなきこと。○〔宋〕「京師目爲ニ｜｜御史ニ」。
〔假面〕人の面の形を木などにて作りたるもの。○〔隋書佳話〕「乃著ニ｜｜ニ以對レ敵」。
〔月面〕うつくしく月の如く光りあるかほ。○〔宋濂〕「歌扇但疑遮ニ｜｜ニ」。「春啼」。
〔背面〕面を後に向く。○〔蘇軾〕「何曾｜｜傷レ」。
〔皮面〕面の皮をはぎとる。○〔戰〕「因自｜レ｜抉レ眼屠レ腸遂以死」。
〔垢面〕垢づきたるかほ。○〔漢〕「亂首｜｜」。
〔黥面〕かほに入れ墨す。○〔漢〕「不ニ以レ黥｜ニ其｜ニ」。
〔文面〕前に同じ。○〔唐〕「｜｜濮俗鏤レ面以レ靑涅レ之」。
〔黼面〕額に細花紋を着く。○〔白居易〕「｜｜誰家婢」。「｜」。
〔韜面〕かほをつゝみおほふ。○〔後漢〕「以レ被｜レ｜」。
〔露面〕面をむきだしにす。○〔晉〕「采ニ擇良家子女ニ｜｜入レ殿」。
〔毀面〕面に傷をつく。○〔晉〕「此婦｜レ｜自誓」。
〔金面〕金色のかほ。○〔晉〕「｜｜丹脣」。
〔羞面〕はづかしげを帶びたるかほ。○〔南〕「｜・｜見レ人」。
〔鬚面〕ひげの多くはへたるかほ。○〔北〕「曹身長九尺、｜｜甚雄」。
〔馬面〕馬の如きかほつき、うまづら。○〔北〕「光｜｜彪身」。
〔黃面〕きいろのかほ。○〔唐〕「｜｜兒敢爾」。
〔黛面〕まゆずみしたるかほ。○〔唐〕「斷髮｜｜」。
〔赭面〕面色のあかきこと、あからがほ。○〔唐〕「國人｜｜」。
〔皙面〕いろしろきかほ。○〔唐〕「｜｜綠瞳」。
〔圓面〕まるがたのかほ。○〔河圖〕「赤帝｜｜」。
〔扁面〕ひらたきかほ。○〔河圖〕「白帝｜｜」。
〔八面〕八方面。○〔風俗通義〕「雷鼓｜｜」。
〔皺面〕皺のよりたるかほ。○〔陸游〕「｜｜朱鉛太不レ宜」。
〔粧面〕粉白を施したるかほ。○〔李嶠〕「｜｜迴ニ青鏡ニ」。
〔鏡面〕かゞみのおもて。○〔韓愈〕「｜｜生ニ痱瘡ニ」。
〔面面〕各方面のこと。○〔韓愈〕「｜｜看ニ芙蓉ニ」。

〔滿面〕かほ一ぱい。○〔韓愈〕「風霜｜｜無ニ人識ニ」。
〔雪面〕雪の如き白きかほ。○〔楊炎〕「｜｜淡眉天上女」。
〔花面〕花の如きうつくしきかほばせ。○〔劉禹錫〕「｜｜了頭十三四」。
〔醉面〕酒に酔ひたるかほ。○〔葛長庚〕「風吹ニ｜｜ニ涼」。
〔塵面〕ちりによごれたるかほ。○〔楊萬里〕「｜｜我自知」。
〔藍面〕靑きかほいろ。○〔郝經〕「盧杞｜｜不ニ敢望ニ」。
〔土面〕つちいろのかほ。○〔葛長庚〕「灰頭｜｜無ニ人識ニ」。
〔粉面〕おしろいなどにて志ろく粧ひたるかほ。○〔睦暢〕「｜｜仙郎選ニ聖朝ニ」。

三畫

【靬】カン。古旱切 旱 居案切 翰
面の黑き氣あること、すゝけがほ、くろし。

四畫

【靶】ハ、ヘ。披巴切 麻
黃色のかほ。

【靲】カン、ケン。許咸切 咸
㊀頭を出だす貌にいふ語。㊁小さき頭。

【靵】ヂク、ニク。女六切 屋
はづ(慙)、一說に、忸の僞字。

【⿰面丰】ハウ、ホウ。匹降切 絳
面腫る、はる。

【⿰面冘】タン、トン。丁紺切 勘
頑劣なる貌にいふ字、にぶし。

五畫

【⿰面比】シ、ジ。是義切 寘
｜⿰面宜は、面の貌にいふ語。

【⿰面且】靦に同じ。

【⿰面巧】サウ、セウ。楚絞切 巧
⿰面幼｜は、面の曲がれること。

【⿰面幼】アウ、エウ。於絞切 巧
前條を見よ。

【⿰面幼】イウ、ウ。於九切 有
｜⿰面奥は、面醜し、みにくし。

【⿰面皮】デン、ヂン。尼展切 銑
ゆるし、(寬)。

【⿰面末】バイ、メ。莫佩切 隊
面の貌にいふ字。

【⿰面包】ハウ、ベウ。防教切 效
面の瘡、もがさ。

【⿰面乍】サン、セン。側板切 潸
｜⿰面參は、老ゆ、又、面の皺、又、慙色。

【⿰面占】タン、テン。竹咸切 咸
｜靲は、小さき頭、又、頭を出だす貌にいふ語。

【⿰面占】テン、トン。丁兼切 鹽
｜⿰面音は、面陋し、いやし。

六畫

【⿰面舌】クヮツ、グヮチ、戶括切 曷
面小さし、又、短きかほ。

【⿰面并】ヘイ、ヒヤウ。必郢切 梗 疋丁切 靑

面色の黃なる貌にいふ字、きいろ。

【⿰面台】タイ、テ。都回切 灰
酟の字の條を見よ。

七畫

【⿰面每】クワイ、エ。呼內切 隊
面の肉多きにいふ字、おもぶくら。

【⿰面巠】ケイ、キヤウ。許令切 敬
⿰面冘—は、頑劣なる貌にいふ語。

【⿰面惄】デキ、ニヤク。乃歷切 錫
愁ふる面。

【⿰面含】カン、コン。火含切 覃
面赤し。

【⿰面足】シユク、ソク。初六切 屋
ひさし、(齊)。

【⿰面夋】サ、セ。數瓦切 馬
面醜し、みにくし。

【⿰面甫】フ、ホ。扶雨切 麌　フ、ポ。符遇切 遇
ほゝ、ほゝぼね、(頰骨)。○〔楚辭〕「⿰面甫—奇牙」。

【靦】テン。他典切 銑 〔說文〕从面見。
㊀まのあたり人を見る貌にいふ字。○〔詩〕「有—面目」。
㊁面目の貌にいふ字。○〔國〕「余雖—然而人面哉」。
㊂面色の慙づる貌にいふ字、はづ。○〔李嶠〕「鞠躬自—」「且—且—」。
〔慙靦〕はづる心のかほにあらはるゝこと。○〔江淹〕
〔愧靦〕前に同じ。○〔蘇轍〕「公私—」。

【⿰面免】バン、マン。母伴切 旱　謨官切 寒
面を塗る。

八畫

【⿰面官】ワン、エン。烏患切 諫
面の曲がれる貌にいふ字、ゑやくしがほ。

【⿰面宛】エン、チン。委遠切 阮
眉目の閒の美しき貌にいふ字、面色の柔和なる貌にいふ字。

【⿰面宛】ワツ、ワチ。烏括切 曷
目を開く貌にいふ字。

【⿰面宜】ギ。宜奇切 支
⿰面比—は、面の貌にいふ語。

【⿰面周】テウ、デウ。徒弔切 嘯
ならふ、(習)。

【⿰面奄】アン、エン。烏咸切 咸
面の黑子、ほくろ。

九畫

【⿱亠面】サン。蘇貫切 翰
面博し、ひらおもて。

【⿰面面】ベン、メン。美辨切 銑
⿰面冘—は、かたくなにおされるかほ。

【⿰面音】アン、オン。烏感切 感
—⿰面參は、憂ひ感む容にいふ語、うれふ。

【⿱⿰臣𠂉面】ラン、ロン。魯甘切 覃
—⿱斬面は、面の長き貌にいふ語。

【⿰面奈】ダン、ナン。奴板切 潸
赧に同じ、はづ。

十畫

【⿰面臭】キウ、ク。去久切 有
面醜し。

【⿰面冥】ベン、メン。莫甸切 霰
—炫は、ちのあせ、(血)。

十一畫

【⿱斬面】サン、ゾン。咋三切 覃　サン、ゼン。鋤銜切 咸　子鑒切 陷
⿱⿰臣𠂉面—は、面の長き貌にいふ語。

【⿰面麻】バ、マ。母果切 哿
㊀面の青き貌にいふ字。㊁はづ、(慙)。

【⿰面參】サン、ソン。七感切 感
⿰面音の字を見よ。

【⿱面女】チユツ、チユチ。竹律切 質
面短し。

十二畫

【⿰面單】テン。他典切 銑
面の黃色なるにいふ字。

【⿱猒面】靨に同じ。

【⿰面焦】セウ。卽消切 蕭
面色焦枯す、やつろ、かじく。○〔楚辭〕「顏色—顇」。

【⿰面焦】セウ。子肖切 嘯
面に光澤なし。

【⿰面尞】レウ。力小切 篠
面の白き貌にいふ字。

【⿰耑面】セン、ゼン。荀緣切 先　タン、ダン。徒玩切 翰
圓き面、まるがほ。

【靧】クワイ、エ。荒內切 隊
頮に同じ、面を洗ふ、あらふ。○〔禮〕「沐レ稷而—レ粱」。

【⿰面然】デン、テン。乃殄切 銑
靦—は、わかき顏色。

十三畫

【⿰面亶】靦に同じ。

十四畫

【⿰氵⿱斬面】セン、ゼン。子冉切 琰
色弱し、よわし。

【靨】エフ。於協切 葉
笑ふ時に頰にあらはるゝくぼみ、ゑくぼ。○〔楚辭〕「—輔奇牙」。
〔笑靨〕ゑくぼ。○〔韋莊〕「西子去時遺—」。
〔嬌靨〕いろけあるゑくぼ。○〔梁簡文帝〕「夢笑開—」「——」。
〔兩靨〕兩方のゑくぼ。○〔徐陵〕「北地燕脂偏開—」。
〔片靨〕前に同じ。○〔溫庭筠〕「欲綻似含—」
笑上。
〔歡靨〕よろこばしげなるゑくぼ。○〔傅休奕〕「巧笑露—」。

〔貧醫〕みごとなるゑくぼ。〇〔杜甫〕「野-花留二—-—一」。

十五畫

【⿰面蔑】ベツ、メチ。莫結切 屑 ㊀面小さし、こがほ。㊁ちひさし、(小)。

十七畫

【⿰面韱】セン。子豔切 豔 面の貌にいふ字。

十九畫

【⿰面羅】ラ。郎可切 哿 𩈹—は、慙づ、はぢらふ。

【⿰面靡】𩈹に同じ。

革部

【革】カク、キヤク。古覈切 陌 ㊀毛を去りたる獸皮、かは、つくりかは。〇〔詩〕「羔-羊之—」。㊁膚の厚皮、あつかは。〇〔禮〕「膚-—充-盈」。㊂あらたむ、あらたまる、(改)、かふ、かはる、(更)。〇〔易〕「天-地—而四-時成」。㊃轡の把るところの餘ありて外に垂るゝもの、轡首。〇〔詩〕「鞗-—冲-冲」。㊄甲胄の屬、古昔はつくりかはにてつくりたりき。〇〔禮〕「袵二金-—一」。㊅つゞみ、(鼓)、ふりつゞみ、(鼗)。〇〔周〕「金、石、土、—、絲、木、匏、竹」。㊆おゆ、(老)。〇〔揚雄〕「—老也、南-楚江湘之閒代-語也」。㊇易の卦の名、☲☱(離下兌上)。〇〔易〕「—己日乃孚」。〔兵革〕兵戈甲胄の屬、又、いくさ。〇〔禮〕「—-—不起」。

〔甲革〕革の甲、かはよろひ。〇〔周〕「王-弓弧-弓、以授下射二甲-革椹質一者上」。〔修革〕改め正す。〇〔後漢〕「許以—-—」。〔刷革〕刷り改む。〇〔文心雕龍〕「理宜二—-—一」。〔鎔革〕あらたむ。〇〔北〕「一皆—-—」。〔剏革〕あらたに事を創めおこしふるき法を改む。〇〔隋〕「多レ所二—-—一」。〔皮革〕かはとつくりかはと。〇〔周〕「以レ時獻二其珍-異—-—一」。「—-—者也」。〔變革〕かへあらたむ。〇〔禮〕「此其所レ得二與レ民—-—」。〔堅革〕かたきかは、又、かたきかはのよろひ。〇〔史〕「—-—利-兵」。〔韋革〕なめしがは。〇〔漢、註〕「以二—-—一爲二夾-兜一」。〔矯革〕あしきをためなほしあらたむ。〇〔後漢〕「差可二—-—一」。〔檢革〕しらべ改む。〇〔唐〕「—二—-—其弊一」。

【革】キョク、ケキ。訖力切 職 きびし、すみやか、(急)。〇〔禮〕「夫-子之病—矣」、

二畫

【靪】テイ、チヤウ。當經切 青 テイ、都挺切 迥 テイ、タイ。丁定切 徑 丁計切 霽 おぎなふ、(補)。

三畫

【靫】サイ、ゼ。楚佳切 佳 サ、セ。初牙切 麻 サツ、セチ。初刮切 黠 箭室、やいれ、うつぼ。〇〔元稹〕「千—-—鳴-鏑發二胡-弓一」。〔箭靫〕矢をいるるうつは、うつぼ。〇〔賈島〕「壓-埃獵二—-—一」。〔鞲靫〕前に同じ。〇〔劉郁〕「白-羽攢二—-—一」。

【靬】ケン、コン。居言切 元 カン。丘寒切 寒 ㊀ほしがは、(乾-革)。㊁ゆみぶくろ、(弓-衣)。

【靬】カン、ケン。居閑切 刪 黎—は、西域の國の名。〇〔漢〕「黎-—眩-人」。

【靬】ケン、ゲン。渠焉切 先 驪—は、縣の名。

【靬】カン。苦旰切 翰 ㊀矢を盛る器、やいれ。㊁馬の被る具。

【靭】韌に同じ。

【⿰革乞】コツ、コチ。呼骨切 月 急しく縛す、しめくくる。

【⿰革乞】ケキ、キヤク。紀彳切 陌 親に同じ。

【⿰革丸】キ。居僞切 寘 つくりかは、(革)。

【靮】テキ、チヤク。丁歷切 錫 馬を制御する羈絆、ほだし、おもづら、むながい。〇〔禮〕「執二羈—一而從」。〔執靮〕おもづらをもつ。〇〔禮〕「爲則—レ—」。

【靯】ト、ヅ。徒古切 麌 ㊀鞲靫の別名、うつぼ。㊁車中の薦、しきもの。

【⿰革于】ウ、チ。羽俱切 虞 ㊀轄の內にめぐらしたる韠、かは。㊁はらおび、(鞶)。

四畫

【⿰革亏】靬の本字。

【靲】キン、ゴン。巨今切 侵 ケン、コン。其淹切 鹽 かはぐつ、(鞮)。

【靲】キン、ゴン。巨禁切 沁 物を束ぬる韋、なめしがは。

【靲】カン、コン。其闇切 勘 たけのかは、(箜)。〇〔禮〕「冪用二疏-布一久レ之繫用レ—」。

【⿰革介】カツ、カチ。古八切 黠 皮履、ねたぐつ。

【⿰革欠】ケキ、キヤク。居逆切 陌 くら、(鞍)。

【⿰革丏】𩋈に同じ。

【靳】キン、コン。居近切 問 ㊀馬の胷に當つる羈革、むながひ、當膺。〇〔左〕「如二驂之—一」。「—也」。㊁かたし、(固)。〇〔徐鍇〕「—二制其行一」。㊂いやしむ、(吝)、はづかしむ、(辱)、にくむ、(惡)。〇〔左〕「宋-公—レ之」。㊃とる、(取)。〇〔孔叢子〕「—取也」。〔咨靳〕おちうちはづかしむること。〇〔唐〕「時-々遭二—-—一」。〔褒靳〕ふれをかしてはづかしむ。〇〔唐〕「雖レ褒亦疾二其—-—一也」。〔嗤靳〕はづかしめて冷笑す。〇〔唐〕「搢-紳共—二—-—之一」。

【靴】クワ、ケ。呼肥切 麻

鞾に同じ、かはぐつ、くつ。○〔隋〕「惟褶服以ㇾ—」。

【⿰革勾】キ、ギ。巨支切 支
轂の飾、こしきかざり。

【靵】紐に同じ。

【⿰革尹】ケン、ゲン。琱吠切 銑
㊀車弓、くるまのかさぼね、おほひ。㊁軛を縛するもの、くびきしばり。

【靶】ハ、ヘ。必駕切 禡
㊀轡革、たづな。○〔漢〕「王良執ㇾ—」。㊁おほふ、おほひ（覆）。○〔爾、註〕「以ㇾ韋—ㇾ車軾ㇾ」。
〔撲靶〕くつわづらをもつ。○〔閻寛〕「山靈——」。

【靷】イン。羊晉切 震 余忍切
チン、ヂン。丈忍切 軫
牛馬の胸に約して車を引く革、ひきがは、むながい。○〔詩〕「陰——鋈續」。
〔皮靷〕軸を引く皮のむながい。○〔詩、疏〕「又有ㇾ——」。
〔車靷〕くるまを引くむながい。○〔汝南先賢傳〕「憲乃當ㇾ車拔ㇾ佩刀以斷ㇾ——」。
〔靳靷〕むながい。○〔鹽鐵篇、註〕「—驂馬之帶也、—謂ㇾ當ㇾ胸者ㇾ也」。
〔纏靷〕車を引く牛馬の背につくるはたしと胸につくるむながいと。○〔韓愈〕「予時張ㇾ軍嚴ㇾ——」。

【⿰革殳】タ、ダ。徒果切 哿
履跟の緣、かゝとのへり。

【⿰革殳】⿰革參に同じ。

【⿰革厷】鞃に同じ。

【⿰革丰】ホウ、フ。敷容切 冬
鞍の飾り。

【⿰革支】古文の鼓の字。

【⿰革毛】⿰革茸に同じ。

【⿰革比】⿰革必に同じ。

【靸】サフ、蘇合切 合 シフ。息入切 緝
ソフ。切
小兒の履、くつ、一說に、底深き履、ふかぐつ。○〔譚子化書序〕「杖—而去」。
〔草靸〕くさをあみてつくりたるくつ。○〔杜荀鶴〕「——無ㇾ學心地聞」。
〔藥靸〕わらぐつをうちすつ。○〔皮日休〕「遺ㇾ之如ㇾ——」。
〔履靸〕くつ。○〔春渚紀聞〕「有ㇾ食ㇾ牛肉ㇾ及著ㇾ牛皮——ㇾ過者ㇾ」。
〔蒲靸〕がまをあみて作りたるくつ。○〔九國志〕「江南李昇常履ㇾ——ㇾ」。

【⿰革卬】ガウ。五剛切 陽
——角は、鞮の屬、かはぐつ、一說に、いとぐつ（絲履）。

【⿰革仰】ギヤウ、ガウ。語兩切 養
くつ（履）。

【⿰革氏】キ、ギ。巨支切 支
轂飾、こしきかざり。

【⿰革少】サ、セ。師加切 麻
⿰革盍——は、かはぐつ（鞾）。

【⿰革少】サ。桑何切 歌
——鞄は、一種の樂器。

【⿰革玄】ケン、ゲン。戶畎切 銑
刀鞘、さや。

【⿰革氐】テイ、都計切 霽 都黎切 齊
タイ。切
革履、かはぐつ。

【⿰革巨】キヨ、ゴ。其呂切 語
したぐら（鞁）。

【⿰革尼】デイ、ナイ。乃禮切 薺
㊀轡の垂るゝ貌にいふ字。㊁やはらか（輭）。

【⿰革它】タ、ダ。徒何切 歌
鞍の緖、しりがい。

【⿰革施】前條に同じ。

【⿰革末】バツ、マチ。莫撥切 曷
——鞨は、北土の蕃人の名。

【靻】ソ、ス。總古切 麌
おもがい（鞨）。○〔淮〕「——轎蹻蓋」。

【⿰革申】シン。升人切 眞
おほおび（大帶）。

【靼】タツ、當割切 曷 セツ、之列切 屑
タチ。切 セチ。切
なめしがは（柔革）。

【靼】タン。黨旱切 旱
㊀前條に同じ。㊁韃——は、北方の種族の名。

【⿰革必】ヒツ、ビチ。毗必切 質
車の束、つかね。

【⿰革必】ヒ、ビ。毗至切 寘
車の革。

【⿰革必】ヒ、ビ。兵媚切 寘
轡に同じ。

【靽】ハン。博漫切 翰
絆に同じ、きづな、ほだし。

【⿰革由】胄に同じ。○〔荀〕「冠ㇾ—帶ㇾ劍」。

【⿰革弗】フツ、ホチ。分物切 物
輿の後の革。

【⿰革世】エイ。以制切 霽
㊀喪に贈る馬鞍、くら。㊁⿰革句——は、駻馬の鞍。

【⿰革世】ケイ、ケ。許厲切 霽
喪に贈る車馬。

【⿰革世】セツ、セチ。私列切 屑
たづな（韁革）。○〔儀〕「干笮革——」。

【靿】アウ、エウ。於教切 效
かはぐつ（靴）。○〔隋〕「長——靴」。

【鞀】タウ、ドウ。徒刀切 豪
鞉に同じ、ふりつゞみ、鼓の如くにて小さく柄あり旁耳あり柄を持ち搖かせば旁耳おのづから擊ち鳴らす。○〔禮〕「命ㇾ樂師修ㇾ——鞞鼓ㇾ」。

【⿰革甲】カフ、ゲフ。胡甲切 [洽]
—鞢は、花の相次ぎ比ぶ貌にいふ語。○〔何晏〕「紅葩——鞢」。

【⿰革瓜】ハウ、ベウ。歩包切 [肴]
柔革の工人、なめしがはし。

【⿰革占】テフ。他協切 [葉]
❶鞍飾、くらのかはかざり。❷—鞢は、馬具。

【⿰革句】ク、ゴ。權俱切 [虞]
❶兵器。❷鞲の字の條を見よ。

【鞁】ヒ、ビ。平祕切 [寘]
❶ひきづな（靷）。○〔國〕「吾兩—將レ絕」。❷馬に裝束す、きす、かざる。○〔廣韻〕「裝束—レ馬」。

【⿰革白】ハク、ヒヤク。匹革切 [陌]
しづか（靜）。

【⿰革宛】エン、オン。於阮切 [阮]
くつ（履）。

【鞂】カツ、ケチ。古黠切 [黠]
藁の席、わらむしろ。○〔禮〕「藁—之設」。

【鞃】コウ。丘弘切 [蒸]
車の軾、おしまづき。

【⿰革厷】コウ、ゴウ。胡肱切 [蒸] キウ、ク。兵弓切 [東]
軾の中の靶革、かはおほひ。

【鞄】ハク、ホク。匹角切 [覺] ホク、ボク。蒲沃切 [沃] ハウ、ベウ。蒲交切 [肴] 蒲巧切 [巧] 防教切 [效]
柔革の工人、なめしがはし。

【⿰革令】レイ、リヤウ。郎丁切 [靑]
羊の子。

【⿰革外】バツ、マチ。亡八切 [黠]
皮韈、かはぐつ。

【鞅】アウ、ヤウ。於兩切 [養]
❶牛馬の喉下に絡ふ羈絆、むながい、頸靼。○〔左〕「抽レ劍斷レ—」。❷羈絆、ほだし。○〔晉〕「野逸所ニ以就レ—」。❸つよし（强）。❹快に通じ作る、うらむ。○〔史〕「居常——」。❺になふ（荷）。○〔詩〕「王事—掌」。
〔彭鞅〕盛んなる貌にいふ語。○〔吳都賦〕「國有ニ——而顚・敬ニ」。
〔羈鞅〕ほだし、きづな。○〔王維〕「客・世無ニ——ニ」。
〔塵鞅〕うき世の羈絆。○〔白居易〕「未レ能レ脫ニ——ニ」。
〔世鞅〕前に同じ。○〔王禕〕「不レ受ニ——羈ニ」。
〔朱鞅〕あかきたづな。○〔薛昭蘊〕「盡是繡鞍——」。
〔馬鞅〕うまのきづな。○〔後漢〕「章前投ニ佩刀ニ絕ニ——ニ」。
〔輪鞅〕車馬のと。○〔陶潛〕「窮巷寡ニ——ニ」。

【鞅】アウ。於良切 [陽]
❶前條の❷に同じ。❷—罔は、たのみなきさま。

【⿱由革】チウ、ヂユ。直祐切 [宥]
かぶと（兜鍪）。

六畫

【⿰革耳】ジヨウ、ニユ。而容切 [冬]
毳飾、けのかざり。

【⿰革羊】ヤウ。餘兩切 [養]
革を治む、なめす。

【⿰革曳】エイ。以制切 [霽] ケイ、カイ。許罽切 [霽]
喪に贈る車馬。

【⿰革夸】クワ、ケ。苦瓦切 [馬] クワイ、ケ。枯買切 [蟹]
帶具、おびかざり。

【⿰革夸】コ、ク。苦故切 [遇]
はゞき（脛衣）。

【⿰革交】ケウ。古弔切 [嘯]
ふくろ（囊）。

【⿰革卬】イン。伊刃切 [震]
足ある木履、ぼくり、あしだ。

【⿰革并】ヘイ、ヒヤウ。布項切 [迥]
皮帶、かはおび。

【鞇】イン。於眞切 [眞]
車中の席、しきもの。○〔韓詩外傳〕「重—而坐」。

【⿰革夷】イ。延知切 [支]
なめしがは（韋）。

【⿰革夷】テイ、タイ。他計切 [霽]
馬の鞁具、くらしき。

【⿰革同】トウ、ヅ。徒東切 [東]
鞁具の飾、うつぼかざり。

【鞈】カフ、ケフ。古洽切 [洽] カフ、コフ。葛合切 [合]
❶ふくろ（囊）。❷堅き貌にいふ字。○〔荀〕「—如ニ金石ニ」。❸胸に當てゝ兵を禦ぐ革具、むねあて。○〔管〕「闟・盾、—・韋」。

【鞈】サフ、ソフ。悉合切 [合]
靸に同じ。

【鞈】タフ、トフ。託合切 [合]
鏜鼓の聲にいふ字。○〔淮〕「若ニ聲之與レ響、若ニ鏜之與レ—」。

【鞉】タウ、ドウ。徒刀切 [豪]
こつゞみ（鼗）。

【⿰革伏】フク、ボク。房六切 [屋] ヒ、ビ。皮祕切 [寘]
鞴に同じ。

【⿰革各】ラク。盧各切 [藥]
物を卷き束ぬる生革、きがは。

【鞊】キツ、キチ。激質切 [質]
むながい（鞅）。

【⿰革危】キ。古委切 [紙]
❶角の齊はざるさま、かたつの。❷したぐら（韉）。

【⿰革朶】タ、ダ。徒果切 [哿]
履跟の緣、かゝとのへり。

【鞋】カイ、ゲ。戸佳切 [佳] アイ、エ。雄皆切 [佳]
鞵に同じ、一種の履、くつ、其の上部を

縮め結びて足に著く、卽ち、わらんぢの類。○〔宋〕「賜以錢――」。〔麻鞋〕あさをあみて作りたるくつ。○〔中華古今注〕「周文王以麻爲之、名曰――」〔絲鞋〕いとをあみて作りたるくつ。○〔老學菴筆記〕「惟臨朝服――」。

【鞋】ケイ、エ。懸圭切 齊
ひも、いと。（系）。

【鞋】クワ、ケ。公蛙切 麻
車上の系、ひも。

【鞌】アン。烏寒切 寒
物をのする爲めに牛馬の脊上に置く具、くら。○〔漢〕「投―高如城者數所」。

【鞍】前條に同じ。○〔漢〕「下馬解―」。

【鞊】シ。脂利切 寘　切軫視 紙
蓋杠の絲、きぬがさのひも。

【鞎】コン。平恩切　ゴン。五根切　ケン、コン。居言切 元　コン、ゴン。戸衮切 阮　古恨切 願
車の前にある革飾、かざりがは。

【鞓】鞊に同じ。

【鞏】キヨウ、ク。居竦切 腫
㊀韋を以て束ぬ、つかぬ。○〔易〕「―用黃牛之革」。
㊁かたし、（固）。○〔詩〕「藐々昊天、無不克―」。
㊂いろ、（煎）。○〔揚雄〕「―火乾也」。

【鞅】アウ、ヤウ。於兩切 養
㊀つとむ、（强）。㊁になふ、（荷）。
㊂むながい、（頸靼）。

七畫

【鞛】韸に同じ。

【鞓】鞮に同じ。

【鞓】テイ、チヤウ。他丁切 靑
㊀皮帶、かはおび。
㊁いんのひも、（系綬）。

【鞈】カフ、ケフ。古洽切 洽
鞮の屬、かはぐつ。

【鞈】カフ、コフ。葛合切 合
韐に同じ。

【鞁】トウ、ヅ。田候切 宥
車のうはしき。

【鞔】バン、マン。母官切 寒　ベン、モン。武遠切 阮
くつ、（履）、くつのから、（履殼）。○〔呂氏春秋〕「南家工人也、爲―者也」。

【鞔】ボン、モン。母本切 阮
もだゆ、（懣）。○〔呂氏春秋〕「胃充則中大―」。

【鞘】セイ。征例切 霽
刀鞘、さや。

【鞢】ト、ツ。他胡切 虞
鞢―は、わらぐつ、（屧）。

【鞕】ガウ、ギヤウ。五更切 庚　魚孟切 梗
かたし、（堅）。

【鞙】ケツ、ケチ。虎結切 屑　ケキ、キヤク。紀彳切 陌　キヨク、コク。訖力切 職
きびしく繋ぐ、一説に、牛の脛を繋ぐ、つなぐ、きびし、（急）。

【鞮】タン、ダン。徒旱切 旱
馬帶、はらおび。

【鞮】テン。抽延切 先
かはぐつ、（鞮）。

【鞴】ホ、ブ。薄故切 遇　ボ、ム。伴姥切 麌
くつ、（鞁）。

【鞔】タイ、デ。杜外切 泰
つくのふ、おぎなふ、（補）。

【鞖】サ。素何切 歌
―鞄は、一種の樂器、又、馬の尾。

【鞖】サ、セ。所加切 麻
鞈―は、かはぐつ、（鞻履）。

【鞖】韉に同じ。

【鞕】サク、セキ。山責切 陌
かたし、（堅硬）。

【鞞】ヘイ、バイ。步禮切 薺
くつ、（鞋）。

【鞗】テウ、デウ。徒聊切 蕭
たづな、（轡）。○〔詩〕「―革沖々」。

【鞘】サウ、セウ。所交切 肴
㊀馬鞭の頭、むちさき。○〔晉〕「長―馬鞭」。
㊁鞍の前後の兩輪につくる紐、ちほで。○〔博雅〕「韉謂之―」。
〔鞭鞘〕むち。○〔韓偓〕「――風冷柳烟輕」。〔鳴鞘〕音を發するむち。○〔李白〕「金鞭拂雪揮――」。

【鞘】セウ。私妙切 嘯
刀室、さや。○〔詩〕「―琫有珌」。

【鞙】ケン、ゲン。戸吠切 銑
㊀車の軛を縛せる革、くびきちばり。
㊁韉―は、刀の鞘。「璲」。
㊂玉の貌にいふ字。○〔詩〕「――佩」

【鞙】ケン。葵兗切 銑
大車のくびきちばり。

【鞙】ケン。古懸切 先
㊀馬の尾。㊁馬の勒、くつわ。

【鞏】韸に同じ。

【鞊】ケツ、ケチ。呼決切 屑
急しく繋ぐ、つなぐ。

八畫

【鞜】セキ、シヤク。思積切 陌
くつ、（履）。

【鞋】サイ、セ。所蟹切 蟹
韉に同じ。

【⿰革徙】 シ。所綺切 [紙] ⿰革徙に同じ。

【鞚】 コウ、ク。苦貢切 [送] 馬勒、くつわ。○〔隋〕「因捉二馬鞚一」。〔飛鞚〕 馬をはす。○〔陸游〕「中使傳宣騎鞚」。〔穩鞚〕 くつわづるをとき去る。○〔夏侯湛〕「馬鞚」「安騎穩馬」。〔放鞚〕 くつわづらをひかず。○〔白居易〕「鞚一體以長鬐」。〔羅鞚〕 きづな。○〔秦觀〕「垂耳受羅鞚」。〔施鞚〕 くつわづらをつくること。○〔陸游〕「赤手騎鯨不施鞚」。

【⿰革長】 チヤウ。丑亮切 [漾] ゆみぶくろ、ゆぶくろ(弓衣)。

【⿰革叕】 テツ、テチ。陟劣切 [屑] 車の具。

【⿰革宛】 エン、於袁切 [元] ヲン。阜 於阮切 [阮] 韈に同じ、物を量る具。

【⿰革宛】 ウン、ヲン。於云切 [文] 輐に同じ。

【⿰革非】 ハイ、ベ。蒲賣切 [卦] 火を吹く具、ふいがう。

【鞀】 エウ。餘招切 [蕭] つゞみ(鼓)。

【鞀】 タウ、ドウ。徒刀切 [豪] 鼓の木、一說に、陶に同じ。

【⿰革官】 クワン。古滿切 [旱] 車のかは具。

【⿰革取】 シウ、シュ。楚九切 [有] つかぬ(束)。

【⿰革忝】 タツ、タチ。他達切 [曷] うつ(打)。

【⿰革兩】 緉に同じ。

【⿱臤革】 カン、ケン。丘閑切 [刪] ㊀かたし(堅)。○〔博雅〕「⿱臤革、固確也」。㊁堅き物を破る聲にいふ字。

【⿰革㡀】 ヘツ、ヘチ。方結切 [屑] 刀鞘の飾り、さやかざり、又、珌に作る。

【⿰革𡿺】 ダウ、ノウ。奴到切 [號] 優皮、ゆるきかは。

【⿰革或】 ヨク、キヨク、越逼切 忽域切 ヰキ。ケキ。 [職] イク、乙六切 オク。 [屋] 羔裘の縫、かはごろものぬひめ。

【⿰革奄】 アフ、オフ。烏合切 [合] ㊀車の具。㊁—皷は、小兒の履。

【⿰革奄】 エフ、オフ。於業切 [葉] 前條の㊁に同じ。

【鞛】 ホウ、フ。補孔切 [董] 琫に同じ、佩刀の鞘の上の飾。

【⿰革戔】 韉に同じ。

【⿰革易】 エキ、ヤク。夷益切 [陌] 素履、しろきくつ。

【⿰革咅】 ホウ、フ。補孔切 [董] 琫に同じ。○〔左〕「藻率鞞鞛」。

【⿰革奇】 古文の羈の字。○〔後漢〕「依二羈氏—中一」。

【鞜】 タフ、トフ。他合切 [合] かはぐつ(鞮)。○〔揚雄〕「革鞜不穿」。

【鞉】 セウ。思彫切 [蕭] おほふ(蔽)。

【鞝】 シヤウ、サウ。諸兩切 [養] 扇安皮、あふり。

【⿰革屈】 クツ、ゴチ。渠勿切 [物] 倔に同じ。

【⿰革念】 デフ、子フ。奴協切 [葉] たけず、すだれ(簿)。

【鞞】 ヘイ、ヒヤウ。幷頂切 [迥] ヒ。幷弭切 [紙] 刀室、さや。○〔詩〕「鞞琫有珌」。

【鞞】 ヒ。府移切 [支] 牛鞞は縣の名。

【鞞】 ヒ、ビ。蒲糜切 [支] 郫に同じ。

【鞞】 ヘイ、バイ。部迷切 [齊] 鼙に同じ。○〔禮〕「修鞀鞞鼓」。

【⿰革夌】 韝に同じ。

【⿰革桼】 俗の韎の字。

【⿰革朋】 ヒヨウ、ホウ。悲陵切 [蒸] 車の靳、ひきがは。

【鞟】 鞹に同じ。○〔淮〕「剝牛皮鞟」。

【鞠】 キク、コク。居六切 [屋] ㊀球狀をなせる玩弄用のもの、まり、けまり、毬子。○〔戰〕「六博蹹鞠」。㊁そだつ(生)、やしなふ(養)。○〔詩〕「母兮鞠我」。㊂わかし(稚)。○〔書〕「無遺鞠子羞」。㊃事情を推究す、おす、きはむ、とりしらぶ、たゞす。○〔書〕「爾惟自鞠自苦」。㊄みつ(盈)。○〔詩〕「降此鞠訩」。㊅つぐ(告)。○〔詩〕「陳師鞠旅」。㊆まろく體を屈す、かゞむ。○〔禮〕「執圭入門鞠躬焉、如恐失之」。㊇菊に通じ用ふ、かはらよもぎ。○〔禮〕「鞠有黃華」。㊈麴の花の如き色、始生の桑葉の如き色。○〔禮〕「天子乃薦鞠衣於先帝」。「壓」。㊉かうぢ(酒母)。○〔周、註〕「如鞠塵」。〔育鞠〕 そだてやしなふ。○〔晉〕「胎鞠之新降」。〔蹋鞠〕 足にて蹴るまり、けまり。○〔傅休奕〕「漢武帝好蹋鞠」。〔撫鞠〕 なでやしなふ。○〔潘岳〕「劬勞撫鞠」。〔曲鞠〕 こまかに聞ひ極むること。○〔張融〕「欲必曲鞠其辭」。

【鞠】 キウ、ク。丘弓切 [東] 芎に同じ、鞠藭は、たんなかつら。○〔左〕「有山鞠藭乎」。

九畫

【鞢】 セフ。蘇協切 [葉]

㊀鞊——は、馬の鞍下にしく具、くらしき。
㊁弓を射るとき右手の指に掛けて弦を持するもの、ゆがけ。

【⿰革复】鞴と箙とに同じ。

【⿰革复】フウ、ブ。扶富切 [有] 彀に同じ。

【⿰革面】ベン、メン。彌兗切 [銑] 馬の勒靼、おもがい。

【⿰革面】ベン、メン。彌箭切 [霰] 馬の面に當つるはながは、轡の皮。

【⿰革亟】キョク、ケキ。紀力切 [職] ㊀きびし、(急)。㊁皮の堅き貌にいふ字、かたし。

【⿰革咠】シフ。卽入切 [緝] くびきしばり、(車-鞧)。

【鞣】ジウ、ニユ。耳由切 [尤] ㊀乾革、かわきたるかは、又、熟皮、なめしがは。㊁やはらか、(耎)。

【鞣】ジウ、ニユ。忍九切 [有] ザウ、ニユ。女救切 [宥] 柔き皮。

【⿰革室】シツ、シチ。式質切 [質] 刀鞘、さや。

【鞤】ハウ。博旁切 [陽] 鞋の革皮、くつのかは。

【⿰革宣】ケン、コン。虛願切 [願] かはぐつ。

【⿰革帝】テイ、ダイ。杜奚切 [齊] つれ、(常)。

【⿰革胃】イツ、イチ。右律切 [質] 皮の器。

【⿰革叚】カ、ゲ。胡加切 [麻] 履の跟、かゝと。

【⿰革段】⿰革叚に同じ。

【⿰革皆】カイ、ゲ。戶皆切 [佳] くつ、(履)。

【⿰革皆】カイ、ケ。口戒切 [卦] 一種の鼓。

【⿰革畐】フク、ホク。方六切 [屋] かはおび、(革-帶)。

【⿰革致】チ、ヂ。直利切 [寘] 履の底、そこ。

【鞥】アフ、オフ。烏合切 [合] ㊀かはぐつわ、(革-轡)。㊁角を裹む皮。

【鞥】オウ。一憎切 [蒸] 馬の轡、くつわ。

【鞦】シウ、シユ。七由切 [尤] ㊀牛馬の尾にかくる羈、しりがき、しりがい。○[東晳]「結二斷-緶一而作レ——」。㊁尾。○[潘岳]「靑——莎-靡」。
〔馬鞦〕うまのしりがい。○[蘇軾]「瑤琴繫二——一」。
〔轡鞦〕うまにつくるくつわとしりがいと。○[黃庭堅]「同-時解二——一」。

【鞧】鞦に同じ。

【鞨】カツ、ガチ。胡葛切 [曷] ㊀北方の蕃人の名、又、其の地より出づる一種の寶石。○[唐]「黑-水靺——」。㊁かはぐつ。

【鞨】セツ、ゼチ。食列切 [屑] 皮を治む、なめす。

【鞨】バツ、マチ。莫轄切 [曷] ——巾は、かしらづつみ、帕頭。○[列]「——巾而裘」。

【⿰革苨】デイ、ナイ。奴禮切 [薺] ⿰革豊——は、柔き貌にいふ語。

【⿰革俞】ユ、ヨ。羊朱切 [虞] あまり、(餘)、

【⿰革俞】⿰巾俞に同じ。

【⿰革俞】シユ、ス。傷遇切 [遇] ㊀さや、(⿰革玆)。㊁あまり、(餘)。㊂やはらぐ、(和)。

【⿰革度】ト、ツ。當孤切 [虞] ㊀皮を析く具。㊁牛の船を引くこと。

【⿰革削】セウ。息妙切 [嘯] 刀の鞘。

【⿰革削】サウ、セウ。所交切 [肴] むち、(鞭)。

【鞪】ボク、モク。莫卜切 [屋] ㊀車の軸のしばり、とこしばり。㊁曲がれる轅のしばり、ながえしばり。

【鞪】バク、ボク。墨角切 [覺] ながえしばり、(輈-束)。

【鞪】ボウ、ム。莫浮切 [尤] かぶと、(首-鎧)。○[漢]「被-甲鞮-——」。

【⿰革昜】ヤウ。與章切 [陽] 馬頭の上の靼、おもがい。

【鞫】キク、コク。居六切 [屋] ㊀罪人を究問す、とひつむ、きはむ、とりしらぶ。○[史]「訊——報-論」。㊁きはまる、(窮)。○[詩]「昔育恐育——、及レ爾顚-覆」。㊂水外、みづぎは。○[詩]「芮——之卽」。
〔育鞫〕罪をしらべてそひたゞす。○[唐]「——得レ情」。
〔窮鞫〕前に同じ。○[北]「付レ帰——」。
〔逮鞫〕捕へて問ひ糾す。○[宋]「不レ宜二——一」。
〔親鞫〕罪人の糾問を親らす。○[白居易]「縲-囚毎——」。
〔案鞫〕罪の有無をしらぶ。○[宋]「——得レ實」。

【鞔】バン、マン。莫管切 [旱] ——鞋は、くつ、(履)。

【⿰革交】ソウ、ス。速侯切 [尤] 軟き皮、なめしがは。

【⿰革封】ホウ、フ。方奉切 [腫] 車邊の皮。

【鞬】ケン、コン。居言切 元
弓矢を戢むる器、馬上につけて弓矢を盛る器、ゆぶくろ、やぶくろ。○〔左〕「左執二鞭・弭一、右屬二櫜—一」。
〔弓鞬〕ゆみぶくろ。○〔詩、疏〕「其皮以爲二—・—一」「—レ—」。
〔佩鞬〕ゆみぶくろを腰につく。○〔李商隱〕「挿レ羽矢股」。
〔腰鞬〕前に同じ。○〔舊唐〕「擐レ戟—レ—」。

【鞬】ケン、ゴン。巨偃切 阮
かはぶくろ、（韜）。○〔元稹〕「文・皇—二櫜干・戈一」。

【⿰革胡】コ、ク。洪孤切 虞
—簏は、やいれ、やなぐひ。

【⿰革叟】ソウ、ス。作弄切 送
遽に馬に駕すること。

【鞭】ヘン、ベン。卑連切 先
㊀箠策、むち。○〔左〕「左執二—・弭一」。
㊁むちうつ。
(い)むちを加ふ、うつ。○〔史〕「—二草木一」。
(ろ)うちて驅る。○〔廼賢〕「驅—復恩—々」。
(は)はげまし進む。○〔韓愈〕「古・心雖二白—一」。
〔執鞭〕むちをもて馬を御すること。○〔史〕「余雖レ爲二之—レ—一所レ欣・慕・焉」。
〔長鞭〕ながきむち。○〔張華〕「—・—施二象・牙一」。
〔蒲鞭〕がまのむち。○〔後漢〕「但用二—・—一罰レ之」。
〔投鞭〕むちをなげすつ。○〔晉〕「—レ—於江一」。
〔箸鞭〕むちを馬にあつ。○〔高適〕「—レ—驅二馳馬一」。
〔舉鞭〕馬をかるにいふ語。○〔北〕「覇業可二—レ—一而成」。
〔揚鞭〕前に同じ。○〔溫庭筠〕「岸・上—レ—烟・草迷」。
〔停鞭〕馬のあゆみをとゞむ。○〔高適〕「—レ—惜二舊・游一」。
〔馬鞭〕うまをかるに用ふるむち、又、草の名。○〔隋〕「高・祖以二—・—一南指云」。
〔撾鞭〕むちをうちふる。○〔蔡邕〕「—レ—而定」。
〔捍鞭〕前に同じ。○〔李白〕「雙々—レ—行」。

【⿰革紂】チウ、ヂユ。丈九切 有
紂に同じ、しりがい。

【韗】ウン、王問切 問　チン。王分切 文　ケン。虛縣切 先
鼓を治する工、かはゝり。

【鞮】テイ、都兮切 タイ。　テイ、田黎切 ダイ。 齊
韋革にてつくりたる履、かはぐつ。○〔戰〕「甲・盾—鍪」。

【⿰革皀】ハウ、ホウ。蒲告切 號
皮を持つ。

十畫

【⿰革蚩】テイ、チヤウ。丑郢切 梗　チ、ヂ。直几切 紙
騎馬の具。

【⿰革䖝】テン。丑善切 銑
㊀前條に同じ。㊁絲を收むる器。

【⿰革鬼】クワイ、ヱ。戸恢切 灰
あらぬの、（鬼・布）。

【⿰革兒】キ。求位切 寘
馬の韁、たづな。

【鞱】韜に同じ。

【⿰革芻】シウ、シユ。初九切 有
鞩に同じ。

【⿰革芻】シウ、シユ。甾尤切 尤
革の文の蹙むにいふ字、ちゞむ、しわ。

【⿰革叟】シウ、シユ。速侯切 尤
軟き皮。

【⿰革貞】サ。損果切 哿
革のくさり。

【⿰革弱】タフ、トフ。吐盍切 合
兵器。

【⿰革索】サク。昔各切 藥
かはぐつ、（履）。

【鞲】コウ、ク。恪侯切 尤
ゆごて、（臂・捍）。

【⿰革旁】鞶に同じ。

【⿰革秦】タツ、タチ。他達切 曷
うつ、（打）。

【⿰革茸】ジヨウ、ニユ。而隴切 腫　而容切 冬　而用切 宋
鞍飾、くらのかざり。

【鞈】タフ、トフ。託合切 合
㊀兵器。㊁鞺—は、鐘鼓の聲にいふ語。

【鞷】ガク、ギヤク。五陌切 陌
履頭、くつさき。

【鞷】カク、ギヤク。下革切 陌
おぎなふ、（補）。

【⿰革殼】カク、コク。許角切 覺
きびしく束ぬ、つかぬ。○〔唐〕「作二鋏・籠一—二四首一加以レ楔」。

【⿰革邕】⿰革雍に同じ。

【⿰革貢】コウ、ク。古孔切 董
きがは、（生・皮）。

【⿰革盍】カフ、ケフ。古狎切 洽
—靸は、くつ。

【⿰革盍】カフ、コフ。古盍切 合
かはぐつ、（靸・革・履）。

【⿰革甫】韍紱に同じ。

【鞴】ホ、ブ。蒲故切 遇
—靫は、箭を盛る器、うつぼ。

【⿰革畚】鞴に同じ、俗の鞴の字。

【鞵】カイ、戸佳切 エ。　アイ、雄皆切 ゲ。 佳
革鞮、かはぐつ、底は麻枲なるかはぐつ、鞋に同じ。○〔淮〕「文・句疏・短之—」。
〔鞍鞵〕かはぐつ。○〔中華古今注〕「—・—蓋古之履也」。
〔草鞵〕くさぐつ。○〔張誌〕「雲・居山・客—爲レ—」。
〔芒鞵〕前に同じ。○〔陳師道〕「—・—竹・杖最關レ身」。
〔華鞵〕たけのかはにてあみたるくつ。○〔張籍〕「楚・—結成レ—」。

【⿰革翁】ヲウ、ウ。烏紅切 東
かはぐつ、（靴・鞠）。

【⿰革尃】ハク。補各切 藥

車下の索、とこしばり。

【⿰革尃】ハク。方縛切〔藥〕 車の上の嚢。

【⿰革尃】ホウ、ブ。蒲候切〔宥〕 車の軛を裹む革。

【⿰革尃】⿰革复に同じ。

【鞶】ハン、パン。薄官切〔寒〕 ㊀大帶、おほおび。○〔易〕「或賜二之——帶一」。㊁小囊、こぶくろ。○〔禮〕「男——革、女——絲」。〔施鞶〕おほおびをからだにつくること。○〔儀〕「庶母及二門内一施レ——」。〔衿鞶〕小帶と帶と。○〔儀〕「視二諸——一」。

【⿰革罙】鞈に同じ。

【⿰革宛】エン、ヲン。於袁切〔元〕 於阮切〔阮〕 物を量る具、かはのかめ、一に曰ふ井の水を汲むもの、つるべ。

十一畫

【⿰革徙】シ。所綺切〔紙〕 所寄切〔寘〕 サイ、セ。所蟹切〔蟹〕 かはぐつ（革履）。

【鞸】韠韍に同じ。

【鞹】クワク。苦郭切〔藥〕 毛を去りたる皮、つくりかは。○〔論〕「虎豹之——」。又、鞟に作る。〔辟鞹〕あかうるのつくりがは。○〔揚雄〕「玄——之——」。〔朱鞹〕朱もてぬりたるつくりがは。○〔詩〕「簟茀——」。〔韗鞹〕かはぐつとつくりがはと。○〔唐〕「——」。〔皮鞹〕革のこと。○〔淮〕「剝二牛——一」。

【⿰革莫】バク、マク。末各切〔藥〕 鞊——は、くつ（履）。

【⿰革庸】ショウ、シユ。蜀庸切〔冬〕 ㊀乾したる革、ほしかは。㊁船を淺き水の中に引くこと。

【⿰革崔】サイ、セ。素回切〔灰〕 鞍の皮。

【鞺】鼞に同じ。

【⿰革責】サク、シヤク。側格切〔陌〕 こまか（微）。

【韸】ホウ、ブ。符容切〔冬〕 ㊀鼓の聲にいふ字。㊁被ひ縫ふ、ぬふ。

【⿰革虒】篪に同じ。

【⿰革章】シヤウ、サウ。諸良切〔陽〕 ㊀——泥は、鞍飾、あふり。㊁したぐら（馬韉）。

【⿰革區】オウ、ウ。於候切〔宥〕 ウ、チ。憶倶切〔虞〕 ㊀えびすのほこ（胡矛）。㊁胡人の鞬、やいれ。

【⿰革庶】シヤ、セ。之夜切〔禡〕 石——は、藥草、一名は、ひとつば（石韋）。

【⿰革蜀】ショク、ソク。松玉切〔沃〕 かはぐつ（鞮）。

【⿰革蜀】サク、ゾク。仕角切〔覺〕 くつ（履）。

【⿰革甄】ケン。古田切〔先〕 陶師の用ふる所のもの。

【⿰革參】サン、セン。所銜切〔咸〕 セン、ソン。思廉切〔鹽〕 ㊀はたのあし（旌旒）。㊁鞍の⿰革參の垂る丶貌にいふ字。

【鞻】ロウ、ル。洛侯切〔尤〕 郎豆切〔宥〕 ク、ゴ。倶遇切〔遇〕 ル、ロ。龍遇切 ㊀鞮——氏は、四夷の樂を掌る官。㊁くつ（屨）。

【⿰革徙】シ。所倚切〔紙〕 革履、かはぐつ。

十二畫

【⿰革賁】フン、ボン。符分切〔文〕 つゞみ（鼓）。

【鞼】キ。求位切〔寘〕 クワイ、ケ。公回切〔灰〕 胡對切〔隊〕 ㊀繡文ある革、ぬひあるかは、又、楯の綴革、とぢかは。○〔國〕「——盾一戟」。㊁をる（折）。○〔淮〕「强而不レ——」。

【⿰革賁】アイ、エ。曰内切〔隊〕 たづな（韁）、一に曰ふ、繡章。

【⿰革買】バイ、メ。莫佳切〔佳〕 かはわらじ（鞋）、又、——鞵は、くつ（履）。

【⿰革宦】クワン。古緩切〔旱〕 車の鞁具、かはぐ。

【⿰革僕】ボク、モク。博木切〔屋〕 封曲切〔沃〕 ㊀牛頭を絡ふ縄、はなづな。㊁髪を絡ふこと。

【⿰革需】ドウ、ヌ。奴侯切〔尤〕 胡羊、ひつじ。

【⿰革赫】カク、キヤク。古核切〔陌〕 キヨク、ケキ。訖力切〔職〕 ㊀たづな（靶）、たづなのさき（轡首）。㊁くつわ（勒）。

【⿰革童】トウ、ヅ。徒紅切〔東〕 靫具の飾り、うつぼのかざり。

【鞽】ケウ。丘祅切〔蕭〕 橇に同じ。

【鞽】キヤク、カク。訖約切〔藥〕 屩に同じ。

【⿰革舄】セキ、シヤク。思積切〔陌〕 くつ（履）、舄、又、⿰革昔に作る。

【鞾】クワ、ケ。呼肥切〔麻〕 革にてつくりたる履、かはぐつ、くつ、古昔多くは其の戎服して騎馬するときに穿ちたり。○〔晉〕「嘗有レ人著レ——騎レ驢、至二兆門外一」。〔弗鞾〕かはもて作りたるくつ。○〔唐〕「烏——」。〔短鞾〕たけながからざるかはぐつ。○〔劉迎〕「尖帽——安得レ豪」。

〔皁鞾〕くろかはのくつ。○〔元〕「木・笏――」。
〔素鞾〕そめざるかはぐつ。○〔元〕「朱・帶――」。
〔繡鞾〕ぬひのほどこしてあるかはぐつ。○〔急就篇〕「若二今靷――一」。
〔尖頭鞾〕あしさきのとがりて細きかはぐつ。○〔北俗錄〕「皆著二――一」。

【⿰革敦】トン。都昆切 元
胡人の酒器。

【⿰革爲】鞾に同じ。

【鞿】キ、ケ。居依切 微
㊀韁の馬口にあるもの、くつばみ、又、馬を繫ぐ絆、きづな、又、馬の絡頭、おもがひ。○〔漢〕「是猶三以レ――而御二駻突一」。
㊁束縛制御を受くるを。○〔屈平〕「以――羈兮」。
〔羈鞿〕馬足のはたしとおもがいと。○〔黄庭堅〕「漫止無二――一」。
〔獮鞿〕馬のはたしづな。○〔任昉〕「散誕――外」。
〔絆鞿〕前に同じ。○〔戴表元〕「馬負遭二――一」。
〔脫鞿〕羈絆をのがる。○〔陸游〕「丈・夫本・願二世・――一」。

十三畫

【⿰革雍】ヨウ、ユ。於容切 冬
くつ(鞾)。

【鞠】キク。驅匊切 屋　一本、麴・鞠に作る。
かうぢ。

【⿰革亶】古文の靼の字。

【⿰革意】ヨク、オク。於力切 職
㊀履の下を五綵の糸にてかざれる者。
㊁履頭の飾り、くつさきのかざり。

【⿰革旁】ハウ、ホウ。布江切 江
くつ(鞋)。

【韉】セン。將先切 先
韀に同じ、したぐら、あふり。

【韁】キヤウ、カウ。居良切 陽
㊀馬を制し止どむる絆、つな、きづな、はづな。○〔晉〕「百・姓歌曰、青・々御・路楊、白・馬紫・遊――」。
㊁束縛制御に用ふるもの。○〔漢〕「繫二名・聲之――・鎖一」。
〔紅韁〕あかいろのたづな。○〔馬戴〕「――跑二駿・馬一」。
〔飛韁〕馬を疾く驅る。○〔李東陽〕「游・騎――レ――不レ動レ塵」。

【鞴】ヒ、ビ。平祕切 寘　フク、ボク。房六切 屋
本、箙に同じ、徒歩者の帶ぶる箭を盛る韋囊。

【⿰革蒲】ホ、ブ。薄故切 遇
――靫は、箭を盛るもの、うつぼ。

【韂】セン。昌豔切 豔　又、韂に作る。
馬の障泥、あふり。

【韣】ショク、シキ。殊玉切 沃
本、韣に作る、ゆぶくろ。○〔戰〕「因罷レ兵倒レ――而去」。

【⿰革嗇】ショク、シキ。所力切 職
轖に同じ。

【⿰革豊】テイ、タイ。他禮切 薺
やはらか(軟)。

【韃】タツ、タチ。他達切 曷
躂に同じ。

【⿰革遂】繸に同じ。

【鞨】カツ、ガチ。胡葛切 曷
靺――は、蕃人の名。

【⿰革睪】タク、ダク。徒落切 藥
蘀の字を見よ。

【⿰革解】カイ、ゲ。下買切 蟹
くびきしばり(⿰革咠)。

十四畫

【⿰革需】ジュ、ニュ。而庾切 麌
かはぐつ(鞋)。

【⿰革爾】デイ、ナイ。乃禮切 薺
轡の垂るゝにいふ字、たる。

【⿰革聚】シウ、シュ。側救切 宥
したぐら(鞁)。

【⿰革匱】韇に同じ。

【⿰革遣】ケン。去戰切 霰
こしおび(腰・帶)、かはおび(韋・帶)。

【⿰革僕】ホク、フク。逋玉切 沃
牛首を絡ふもの、はなづら。

【韄】アク、ヤク。乙白切　クワク、ワク。胡陌切 陌
㊀佩刀の絲、かたなのさげを。
㊁束縛す、つかぬ。○〔莊〕「夫外――者」。
㊂しばる(縛)。
㊃刀の靶中の韋、つかどは。

【⿰革護】コ、グ。胡誤切 遇
㊀佩刀の絲、さげを。
㊁佩刀の飾り、かたなかざり。
㊂佩刀、かたな。

【韅】ケン。乎典切 銑
絡頭より馬背に及ぶ革、絡頭より馬腹に著くる革。○〔荀〕「寢・兕持・虎蛟・――絲・末彌・龍所三以養二威一」。

【⿰革翟】ラク、ロク。力角切 覺　又、䪚に作る。
――鞁は、堅き皮。

十五畫

【韆】セン。七然切 先
鞦――は、繩を垂下し之に乘じて遊戲するもの、なはあそび、ぶらんこ、繩戲。○〔開天遺事〕「競堅二鞦――一令二宮・嬪戲一」。

【⿰革爾】シ。章移切 支
したぐら(皮・鞁)。

【韇】トク、ドク。徒谷切 屋
著筴を藏むる器、めどぎびつ、めどぎづつ、又、箭弓を藏むる箙、ゆみやのつつ。○〔儀〕「抽上レ――」。

【⿰革巤】レフ、ロフ。良涉切 葉
おもがい(馬・鞰)。

【韈】ベツ、モチ。望發切 月　一本、韤に作る。
足衣、したぐつ、たび。○〔韓〕「文・王――繫解、因自結」。

【⿰革⿱⺮匊】 本、鞠に作る。

【⿰革憲】 韗に同じ。

【⿰革龍】 ロウ、ル。盧紅切 東 絡頭、おもがい。

【鞼】 井。以貴切 未 なは、（繘-繩）。

十七畫

【韉】 セン。則前切 先 鞍下の被、したぐら。○〔北〕「織レ草爲レ―」。
(蒲韉) がまむしろの鞍。○〔唐〕「以ニ―・―ニ乘レ牛」。
(錦韉) にしき織りのしたぐら。○〔開元天寶遺事〕「―」、「飾以ニ―・―金絡ニ」。
(馬韉) うまのしたぐら。○〔海錄碎事〕「坐ニ於―・
(皮韉) かはもて作りたるしたぐら。○〔宋〕「乘ニ白・―・―ニ」。
(緗韉) ぬひとりぎぬのしたぐら。○〔周必大〕「飾ニ―・―ニ而華レ駿」。
(虎韉) とらの皮のしたぐら。○〔歐陽修〕「常跨破ニ―・―ニ」。
(破韉) やれたるしたぐら。○〔梅堯臣〕「昔同騎ニ「―・―ニ」。
(鞍韉) くらとしたぐらと。○〔木蘭辭〕「西市買ニ―・―ニ」。

【⿰革溥】 ハク、バク。傍各切 藥 ホ、ブ。伴姥切 麌 ㊀靯―は、車中の重薦、しきもの。㊁―・鞢は、履中の藉、くつわら。

【⿰革薄】 ホウ、ブ。蒲候切 宥 車の軛を裹む革、くびきがは。

【⿰革蹇】 鞬に同じ。

【⿰革毚】 サン、鋤咸切 咸 ゼン。仕懺切 陷 馬韉、したぐら。

【⿰革毚】 セン、ソン。思廉切 鹽 旌旗の末、はたのあし。

【⿰革闌】 ラン。落干切 寒 弩矢を盛る器、えびら。

十八畫

【⿰革雋】 ス井。山垂切 支 ㊀たれひも、（綏）、一說に、むち、（鞘）。㊁垂るゝ貌にいふ字。

【⿰革雟】 サイ、セ。蘇回切 灰 韋の邊の帶、くらおび。

【⿰革屬】 ショク、ゾク。神蜀切 沃 かはぐつ、（鞮）。

十九畫

【⿰革贊】 韅に同じ。

【⿰革麗】 躧、又、蹝に同じ。

【⿰革麗】 サイ、セ。所蟹切 蟹 くつ、（履）。

廿一畫

【韊】 ラン。力丹切 寒 弩弓を藏むる箙、えびら。○〔史〕「平原君負ニ―矢一、爲ニ公子先引ニ」。

廿三畫

【⿰革顯】 韅に同じ。

廿四畫

【⿰革棘】 カク、キヤク。古伯切 陌 くつわ、（靶・勒）。

廿九畫

【⿰革爨】 サン。借官切 寒 車のながえしばり。

韋部

【韋】 井。宇非切 微 〔說文〕从レ舛口聲。 ㊀そむく、（背）。○〔說文〕「可ニ以束ニ枉・戾相―・背ニ」。㊁なめしがは、（柔・皮）。○〔周〕「凡兵・事―・弁服」。㊂圍に通じ用ふ、かこひ。○〔漢〕「大・風拔ニ甘・泉時・中大・木十―以・上ニ」。
(依韋) やはらぎかなふ。○〔漢〕「五・音六・律不ニ相―・―ニ」。
(韎韋) あか色のかはもて作りたる戎服のひざかけ。○〔左〕「有ニ―・―之跗・注ニ」。「―ニ」。
(脂韋) 佞諛なること。○〔韓愈〕「行・々正・直愼ニ―・

三畫

【韋】 クワイ、エ。胡隈切 灰 本、回に作る。

【韌】 ジン、ニン。而進切 震 柔かにして固きこと、しなやか。○〔皇甫崧〕「蔓―時縈」。

四畫

【⿰韋犬】 ヒ。平祕切 寘 車の軾、しきみ。

【⿰韋内】 ダフ、ノフ。奴荅切 合 やはらか、（耎）。

【⿰韋支】 井。羽非切 微 もとる、（戾）。

【⿰韋支】 キ。吁韋切 微 ―愇は、そむく。

【⿰韋爻】 カウ、ゲウ。胡茅切 肴 囊―は、かはぶくろ。

五畫

【⿰韋及】 サフ、ソフ。蘇合切 合 シフ。先立切 緝 小兒の履、くつ。

【⿰韋必】 ヒ、ビ。兵媚切 寘 ヘイ、ヘ。邊惠切 霽 ヘツ、ヘチ。必結切 屑 ゆみだめ、ゆだめ、（弓・檠）。

【⿰韋包】 ハウ、ベウ。步交切 肴 むなし、（空・虛）。

【⿰韋包】 ハウ、ベウ。步巧切 巧 本、鞄に作る。

【⿰韋包】 ハウ、ベウ。皮敎切 效 かはなめし、かはた、（柔・皮・工）。

【⿰韋戉】 エツ、ヲチ。王伐切 月 斧衣、をのぶくろ。

【⿰韋斥】 タク、チヤク。丑格切 陌 刀の把中の韋、つかがは。

【⿰韋它】 タ、ダ。唐河切 歌

皮を帖りたる履。

【韍】フツ、ホチ。分勿切 [物] ㊀ひざかけ(韠)。○[禮]「一-命緼-」。㊁くみいと(組)。○[漢]「奉ニ上璽-一」。(緣韍) みどりの色にそめたる膝かけ。○[漢]「-受。--袞・冕衣・裳」。

【韍】フツ、ハチ。方末切 [曷] ひざかけ(蔽膝)。

【韍】フツ、ホチ。分物切 [物] 棺を引く繩、ひつぎなは。

【韎】坯に同じ。

【韎】シユ、ス。之戍切 [遇] ㊀皮袴、かはもゝひき。㊁戎服の蔽膝、ひざかけ。

【韎】バイ、メ。莫佩切 [隊] 莫拜切 [卦] キ、ケ。居氣切 [未] バツ、マチ。莫轄切 [曷] ㊀茅蒐染の韋、あかねぞめのかは。○[詩]「-韐有レ奭」。㊁東夷の樂の名。○[周]「-師掌レ教ニ--樂ニ」。

【韎】韤に同じ。

【韘】テフ。的協切 [葉] --韘は、帶ぶる具。

六畫

【韋艮】コン。口恩切 [元] つかぬ(束)。

【韋曳】ケイ。許罽切 [霽]

もとろ(纏)。

【韋交】カウ、ケウ。居肴切 [肴] ふくろ(囊)。

【韏】ケン、クヮン。區願切 [願] 己袁切 [元] 逵眷切 [霰] 古轉切 [銑] ㊀わかつ(分)。㊁かゞむ(詘)、まがる(曲)。㊂車上に用ふる皮。

【韏】ケン、コン。九遠切 [阮] かゞむ(屈)。

【韋伏】フク、ボク。房六切 [屋] ヒ、ビ。皮祕切 [寘] しきみ(軾)。

【韋亘】ケン、コン。虛願切 [願] 鼓を作る工、つゞみつくり。

【韐】カフ、ケフ。古洽切 [洽] 韎-は、韋のひざかけ(蔽膝)。

【韐】カフ、コフ。葛合切 [合] 韎--は、韋の蔽膝、ひざかけ、略して-の一字となすあり。○[儀]「設ニ-帶ニ」。

七畫

【韋束】韤に同じ。

【韋甫】フ、ボ。扶雨切 [麌] ㊀車下の輔、とこしばり。㊁こしまき(尻-衣)。㊂ふごし(帓)。

【韒】鞘に同じ。

【韋夾】韐に同じ。

八畫

【韋卷】ケン、クヮン。去願切 [願] ㊀まがる(曲)。㊁韡縫、ぬひめ。

【韋或】ヨク、井キ。越逼切 [職] 俗の緎の字。

【韋宛】鞔に同じ。

【韋非】ハイ、ベ。蒲拜切 [卦] 火を吹く革囊、ふいがう。

【韋它】乾に同じ。

【韋匊】キク、ゴク。巨竹切 [屋] つゝむ(裹)。

【韓】カン、ガン。胡安切 [寒] 井の垣、ゐげた。

【韔】チヤウ、タウ。丑亮切 リヤウ、ラウ。力讓切 [漾] ゆみぶくろ(弓-衣)。○[詩]「虎-鏤-膺」。(櫜韔) ゆみぶくろ。○[禮]「軍有レ憂則--哭ニ于庫・門之外ニ」。(弓韔) 前に同じ。○[陸游]「佩-玉韔ニ--」。

【韋沓】タフ、トフ。託合切 [合] ゆがけ(指-衣)。

【韋包】ハウ、ベウ。蒲交切 [肴] やはらか(柔)。

九畫

【韋复】フウ、ブ。扶富切 [宥]

㊀皮の衣。㊁車の軛、くびき。

【韋爰】韗に同じ。

【韋宣】韗に同じ。

【韋柔】ジウ、ニユ。忍九切 [有] しなやか(韌)。

【韋叚】カ、ケ。乎加切 [麻] くつ(履)、叉、くつの後帖、うしろばり。

【韋段】タン、ダン。徒玩切 [翰] 徒管切 [旱] 履跟の後帖、うしろばり。

【韋兌】ゼン、ナン。乳兗切 [銑] なめしがは(柔-皮)。

【韗】ウン、チン。王問切 [問] ㊀韗に同じ、かはつくり、つゞみつくり(攻-皮-工)。㊁かはぐつ(靴)。

【韗】クン、コン。吁運切 [問] ケン、カン。虛願切 [願] かはつくり(攻-皮-工)。

【韘】セフ、ソフ。失涉切 [葉] ㊀ゆがけ(射-決)。○[詩]「童-子佩レ-」。㊁韂-は、帶の具。

【韙】井。于鬼切 [尾] 愇に通じ作る。よし(是)。○[後漢]「五--咸備」。(不韙) よからざること。○[東京賦]「罔レ有ニ--」。(昭韙) よきをあきらかにす。○[漢]「-レ-見レ戒」。

【韙】前條に同じ。

【𩏁】井。羽非切 微 なゝめ(衺)。

【𩎖】鞕に同じ。

【𩎗】韜に同じ。

十畫

【𩎝】ハク。匹各切 薬 へキ、ヒヤク。平碧切 陌

【韛】フウ、ブ。扶富切 宥 くびきつゝみ(軶-裹)。

【𩎟】こしまき(尻-衣)。

【𩎢】井。于非切 微 つかれ(束)。

【𩎣】韇に同じ。

【韓】韓の本字。

【𩏄】タフ、トフ。都盍切 合 ㊀あつし(熱)。㊁皮衣、かはごろも。

【韛】ハイ、べ。步拜切 卦 火を吹き熾こす韋嚢、ふいがう。○〔癸七籤〕「入レ鍋鼓レ之二-千ー-ー」。○〔北〕

〔皮韛〕風を起こし火を吹く具、ふいがう。「以ーー吹レ之」。

【韛】フク、ボク。房六切 屋 箙に同じ。

【𩏂】タフ、トフ。都合切 合

【韐】カツ、ゲチ。下瞎切 黠 皮指、ゆがけ。

【𩎦】鞨に同じ

【韜】タウ、トウ。土刀切 豪 ㊀ゆみぶくろ(弓-衣)、つるぎぶくろ(劒-衣)、又、すべて物をつゝむ衣、ふくろ。○〔詩、傳〕「櫜—也」。○〔庾信〕「侍二戎ーー于武-帳一」。㊁兵法の秘訣。㊂ひろし(寛)。㊃つゝむ(裹)、をさむ(藏)。○〔詩、疏〕「納二弓於衣一、謂二之ー-弓一」。

〔六韜〕太公の作りたる文韜、武韜、龍韜、虎韜、豹韜、犬韜の兵法書。○〔隋〕「太-公ーー五-卷」。

〔劒韜〕つるぎぶくろ。○〔貫師泰〕「ー-ー龍-尾匣」。

〔橐韜〕ふくろ、又、弓劒などのふくろ、又、つゝむ。○〔周、註〕「蓮-芡之實有ニーーー」。

【𩎿】タウ、トウ。叨号切 號 ゆごて(臂-衣)。

【韝】コウ、ク。古侯切 尤 ゆがけ(射-決)、うでぬき(臂-捍)。○〔史〕「袒二ー-蔽一」。

〔臂韝〕ひぢあて。○〔杜甫〕「覓-珠絡二ー-ー一」。

〔韋韝〕かはのひぢあて。○〔李陵〕「ー-ー毳-幙」。

〔射韝〕ゆがけ。○〔儀、註〕「遂ーー-也、以レ韋爲レ之」。

【韞】チン。烏渾切 元 ㊀赤と黄との閒色、かきいろ。㊁つゝむ(裹)。㊂ゆみぶくろ(韣)。

【韞】ウン、オン。于粉切 吻 をさむ、かくす(藏)。○〔論〕「ーーレ匱而藏諸」。

【𩏑】鞴に同じ。

十一畫

【𩏋】サイ、セ。素回切 灰 韃鞍、くら。

【𩏏】サウ、ゼウ。鋤交切 肴 つかぬ(束)。

【韠】ヒツ、ヒチ。卑吉切 質 韋の蔽膝、ひざかけ。○〔詩〕「庶見二素-ーー兮」。

〔爵韠〕祭を助け行ふ官人の著るまへだれ。○〔儀〕「緇-帶ーー-ー」。

〔緇韠〕くろき色のまへだれ。○〔儀〕「緇-帶ー-ー」。

【韢】スヰ、ズヰ。徐醉切 寘 嚢の紐の名。

十二畫

【𩏕】タウ、チヤウ。豬孟切 梗 皮を張る、はる。

【𩏠】キ、ギ。巨貴切 未 つむぐ(緝)。

【𩏡】クワイ、胡對切 隊 エ。キ。求位切 寘 ぬひはくしたるかはぶくろ、(繡-韋-嚢)。

【𩏗】ヘン、ホン。孚袁切 元 ㊀むらがる(羣)。㊁平方形の韋。㊂韋にて裹みたるもの、かはづつみ。

【𩏒】キ、吁爲切 支 なめしがは(柔-皮)。

【韟】カウ、コウ。居勞切 豪 ゆみぶくろ。

【韡】井。羽鬼切 尾 華の盛んなる貌にいふ字、光明ある貌にいふ字、さかんなり、あきらか。○〔詩〕「棠-棣之華、鄂不二ー-ー一」。

〔斐韡〕うつくしくひかる。○〔嵇康〕「ー-ー奐-爛」。

〔曄韡〕ひかりかゞやく。○〔應瑒〕「ー二-ー於廊-廟一」。

〔𩏉韡〕前に同じ。○〔夏侯湛〕「爍-爛ー-ー」。

【𩏘】ケイ、胡計切 セイ、此芮切 霽 ガイ。セ。 嚢の紐、一説に、䌖を盛る嚢、くびぶくろ。

【韢】スヰ、ズヰ。徐醉切 寘 嚢の紐、一説に、虎の頭を盛る䪱。

十三畫

【𩏝】ヨウ、ユ。於容切 冬 韉に同じ。

【𩏟】ケン、虛嚴切 鹽 コン。切 ケン。虛檢切 琰 ふすま、よぎ(被)。

【韂】セン、ソン。處占切 鹽 おほひ(屛)。

【𩏞】エン。余廉切 鹽 衣蔽ふ、おほふ。

【韂】セン。昌豔切 豔 ㊀鞍の小さき障泥、あふり。㊁ひざかけ、まへだれ(韍)。

【韣】トク、ドク。徒谷切 屋 ショク、ソク。之欲切 沃 ゆみぶくろ、ゆぶくろ（韜）。○〔禮〕「帶以二弓ーー一」。

【⿰韋睪】タク、ヂャク。直格切 陌 ーー韄は刀の靶韋、かたなのかざりかは。

十四畫

【韄】ワク、一虢切 陌 ⿰韋睪の條を見よ。

【⿰韋豪】⿰韋甫に同じ。

【⿰韋尃】⿰韋薄に同じ。

【⿰韋㬎】⿰韋㬎に同じ。

【⿰韋匱】⿰韋匱に同じ。

十五畫

【韤】ベツ、モチ。望發切 月 たび（足-衣）。○〔史〕「王-生曰、吾ー解」。〔解韤〕足衣をときさる。○〔左、註〕「古者見レ君ー」ー」。「ーーー」。〔履韤〕くつとくつしたと。○〔皮日休〕「終-身無ニーー」。〔羅韤〕うすぎぬのしたぐつ。○〔洛神賦〕「ーー生レ塵」。

十六畫

【韥】トク、ドク。徒谷切 屋 ㊀やづつ（箭-箙）。㊁ゆみぶくろ（弓-衣）。

【⿰韋鬱】ウツ、チチ。紆勿切 物 芳ばしき草。

十七畫

【⿰韋薄】ホ、フ。布古切 麌 輔に同じ。

【⿰韋薄】ハク、バク。傍各切 藥 ー⿰韋余は、わらぐつ（屨）。

十八畫

【⿺韋隻】シウ、シユ。即由切 尤 ゼウ。慈消切 蕭 収め束ぬ、つかぬ。

【⿺韋隻】シウ、ジユ。字秋切 尤 あつまる（聚）、一説に、ほそし（細）。

【⿺韋隻】セウ。子肖切 嘯 物を収め束ぬ、つかぬ。

十九畫

【⿱䜌韋】ケン、クワン。居願切 願 なめしがは（柔-韋）。

二十畫

【⿰韋矍】キヤク、カク。厥縛切 藥 ⿰韋睪ーは、刀の靶の韋、かは。

韭部

【韭】キウ、ク。擧有切 有 一種の葷菜、にら。○〔儀〕「ーー菹」。〔鹿韭〕牡丹の異名。○〔本草〕「牡丹一名二百-兩金二、一名二鼠姑一、一名二ーー一」。〔高韭〕草の名、天門冬、麥門冬、愛韭、馬韭、羊韭等の異名あり。○〔本草〕麥-門冬一名二ーー一。〔山韭〕草の名、韭の山中に生ずるもの、やまにら。○〔爾〕「蘇ーー」。

四畫

【韮】前條に同じ。○〔世說新語〕「ー菹」。

六畫

【⿱夭韭】サフ、ゾフ。才盍切 合 あし（惡）。

【⿹𢦏韭】韱に同じ。

七畫

【⿱攸韭】カイ、ゲ。胡介切 卦 僁に同じ、せまし（陋）、一説に、すみやか（速）。

八畫

【⿰韭攴】サフ、ソフ。私盍切 合 ー鼓は、起こるを。

【韱】セン、ソン。息廉切 鹽 ㊀やまにら（山-韭）。㊁ほそし（細）。

十畫

【韲】齏に同じ。

【⿰口韲】カイ、ゲ。下介切 卦 死人を送る歌。

【⿰木韲】セイ、サイ。祖雞切 齊 醯醬に和する細切の菜蔬、きざみたるつけな、きざみな。○〔楚辭〕「懲二熱-羹一而吹レー兮、何不レ變二此志一」。

【⿱次韭】セイ、サイ。牋西切 齊 ㊀前條に同じ、きざみたるつけな、きざみな。○〔鄭康成〕「細-切ー」。㊁やはらぐ（和）。○〔列〕「君-子之人、若二儒-墨-者師一、故以二是-非一相ー也、而況今之人乎」。㊂うれふ（患）。○〔莊〕「使三人輕二乎貴-老一、而ー二其所一レ患」。

十一畫

【⿰阝⿱豕韭】タイ、デ。徒對切 隊 きざめるつけな（韲-菹）。

十二畫

【⿰韭番】ハン、ボン。附袁切 元 こひろ（小-蒜）、やまゆり、（百-合-蒜）、さゆり（蒜-腦）。

【⿰番韭】前條に同じ。

十四畫

【䪥】カイ、ゲ。胡介切 卦 ㊀韭に似たる一種の菜、おほにら、らつきよ。○〔禮〕「脂用レ葱、膏用レー」。㊁せまし（狹）。○〔揚雄〕「何文肆而質ー」。

音部

【音】イン、オン。於今切 侵 ㊀耳官にひゞき聞こゆるもの、おと、ね、こゑ。○〔淮〕「清-水ー小」。

㊁聲文、ふし、てうし、ひゞき、れいろ。○〔禮〕「審レ聲以知レ—」。
㊂讀聲、よみごゑ。○〔顏延之〕「此字何—」。
㊃聲樂、おんがく。○〔禮〕「治世之—」。
㊄詞章、言語。○〔陸機〕「或寄ニ辭於瘁—」。
㊅傳信、おとづれ。○〔陸機〕「歸-雲難レ寄レ—」。

〔翰音〕にはとりのこゑ、翰は長きなり鷄肥大なれば其の音長しそれより鷄のこゑにいふ。○〔易〕「—・—登ニ于天ニ」。
〔八音〕絲竹金石匏土革木のこゑ。○〔書〕「—・—克諧」。
〔嗜音〕音樂をこのむ。○〔書〕「甘レ酒—レ—」。
〔徽音〕琴のふし、又、善美のこゑ。○〔楊方〕「因レ風吐ニ—・—ニ」。
〔德音〕仁德あるこゑ。○〔漢〕「吐ニ—・—ニ」。
〔好音〕こゑをよくす、又、よきこゑ。○〔詩〕「懷ニ—・—ニ」。
〔聲音〕音樂のこと、又、こゑ。○〔禮〕「—・—之道」。
〔鄭音〕鄭國の音樂にて極めて淫猥なるもの。○〔史〕「—・—興-起」。
〔溺音〕人の心志をみたす音曲。○〔文心雕龍〕「—・—騰-沸」。
〔知音〕(い)音をあきらかにする。○〔禮〕「知レ聲而不レ知レ—者」。(ろ)列子の書に伯牙の琴を鼓するに當たりて鍾子期といふ者能く伯牙の志を知りたり子期の死ぬるや伯牙音を知る者なしとて絃を絕ちたる故事あるより心を知りあひたる親密の友などのことにいふ語。○〔李頎〕「我亦爾—・—」。
〔孤音〕ひとりのこゑ。○〔後漢〕「—・—少レ和」。
〔韶音〕虞舜の音樂。○〔史〕「聞ニ—・—ニ」。
〔足音〕あしおと。○〔莊〕「聞ニ人之—・—ニ」。
〔佳音〕よきこゑ。○〔李白〕「新-鶯有ニ—・—ニ」。
〔淸音〕濁りなきこゑ。○〔淮〕「響不下爲ニ—・—一濁上」。
〔邪音〕正しからざるこゑ。○〔劉勰〕「—・—不レ入」。
〔哀音〕かなしげなるこゑ。○〔杜甫〕「—・—何動レ人」。
〔石音〕磬石のおと、又、他の石より發するおと。○〔書、疏〕「—・—屬レ角」。
〔管音〕笛のこえ。○〔後漢、註〕「—・—調則律曆正」。
〔新音〕あたらしきふしの音樂。○〔後漢〕「—・—代起」。
〔至音〕極めてたくみなる音樂。○〔後漢〕「—・—不レ合ニ衆・聽ニ」。
〔殊音〕めづらしき音曲。○〔後漢〕「—・—異-節之伎」。
〔琴音〕ことのねいろ。○〔後漢、註〕「—・—調則四-海合」。
〔言音〕かたることゑ。○〔南〕「—・—甚楚」。
〔蠻音〕えびすのこゑ。○〔北齊〕「俠猾帶ニ—・—ニ」。
〔革音〕獸のつくりかはもて作りたる鼓などのおと。○〔握奇經〕「—・—五」。
〔詭音〕なまりあるこゑ。○〔秦觀〕「鴃·舌足ニ—・—ニ」。
〔唄音〕佛經を誦すること。○〔姚崇〕「松·關掩ニ—・—ニ」。
〔花音〕はなのたより。○〔陸龜蒙〕「—・—長作ニ嫁·愁媒ニ」。
〔愁音〕うれひのこゑ。○〔高適〕「聯·雁飛ニ—・—ニ」。

【音】イン、オン。於禁切 沁 蔭に通じ用ふ、かげ。○〔左〕「鹿之死不レ擇レ—」。

二畫

【訌】コウ、グ。戸公切 東 大いなる聲にいふ字。

四畫

【訑】チ、ヂ。直離切 支 咸—は、黃帝の樂の名。

【韴】サフ、ゾフ。徂合切 合 斷るゝ聲にいふ字。

【韽】ギン、ゴン。魚音切 侵 吟に同じ。

【韵】韻に同じ。

五畫

【韍】フツ、ホチ。敷弗切 物 樂の聲の忽ち息む貌にいふ字。

【韸】ホウ、ブ。蒲逢切 東 屋の響、やなり。

【韶】セウ、ゼウ。時饒切 蕭 ㊀虞舜の樂。○〔書〕「簫—九成」。㊁つぐ(繼)。○〔禮、註〕「—之爲レ言紹也」。㊂うつくし(美)。○〔唐〕「—光開ニ令序ニ」。
〔鳳韶〕韶を奏して鳳凰來儀したりといふより韶樂のことにいふ。○〔丁鶴年〕「—・—九·奏賀·金縣」。
〔儀韶〕前に同じ。○〔張蘊〕「—・—下ニ鳳凰ニ」。
〔虞韶〕虞舜の樂。○〔陳陶〕「—・—九奏音猶在」。

【韷】ラク、リヤク。力號切 陌 聲の煩閙なるにいふ字、かまびすし、わづらはし。

六畫

【韾】イン、オン。於禁切 沁 —喑は、平かならざる聲にいふ語。

【韹】ハク、ホク。北角切 覺 手足の指節鳴る、ふしなる。

【韺】コウ、ク。呼東切 東 —訌は、大いなる聲にいふ語。

【韼】シュク、ソク。子六切 屋 樂の器を懸くるものゝ斷るゝ貌にいふ字。

七畫

【韽】響に同じ。

【韽】アン、オン。烏含切 覃 聲ひくし、こゞゑ。

【韸】ホウ、ブ。薄紅切 東 ㊀やはらぐ(和)。㊁鼓の聲にいふ字。

【韹】カウ、ギヤウ。戸耕切 庚 莖に同じ、六—は、樂の名

【韷】ホツ、ホチ。普沒切 月 物を按ずる聲にいふ字。

八畫

【韸】ハウ、ホウ。匹江切 江 鼓の聲にいふ字。

【韽】デフ、ネフ。奴協切 葉 聲絕ゆ、聲止む。

九畫

【韹】クワウ、ワウ。胡盲切 庚 樂の聲にいふ字。

【韹】クワウ、ワウ。胡光切 陽 樂の鐘の聲にいふ字。

【韹】アウ、ヤウ。於莖切 庚 銅の器の聲にいふ字。

【韺】アウ、ヤウ。於驚切 庚 帝嚳の樂の名。

十畫

【韶】シウ、シュ。楚九切 有 衆の聲にいふ字、どよめく。

【[illegible]】ソウ、ズ。初口切 [宥]
樂の美なる音にいふ字。

【[illegible]】トウ、ヅ。徒弄切 [送]
鐘の聲にいふ字。

【[illegible]】エイ、ヤウ。於營切 [庚]
物の聲にいふ字。

【[illegible]】アウ、ヤウ。於莖切　サウ、シヤウ。初耕切 [庚]
をめく、(呻)。

【[illegible]】エイ、ヤウ。烏熒切 [庚]
小さき聲にいふ字。

【韻】ウン、王問切 [問]　イン。爲鎭切 [震]
㊀聲音の同和、同聲の應響、音聲の末調、こゑ、ね、てうし、ひゞき。○[晉]「凡音・聲之體、務在レ和、—益則加レ倍、損則減レ半」。
㊁支那の文字を其のひゞきにより一百六に類別せるもの丶稱、卽ち上平聲に、東、冬、江、支、微、魚、虞、齊、佳、灰、眞、文、元、寒、刪の十五、下平聲に、先、蕭、肴、豪、歌、麻、陽、庚、靑、蒸、尤、侵、覃、鹽、咸の十五、上聲に、董、腫、講、紙、尾、語、麌、薺、蟹、賄、軫、吻、阮、旱、潸、銑、篠、巧、晧、哿、馬、養、梗、迥、有、寢、感、琰、豏の二十九、去聲に、送、宋、絳、寘、未、御、遇、霽、泰、卦、隊、震、問、願、翰、諫、霰、嘯、效、號、箇、禡、漾、敬、徑、宥、沁、勘、豔、陷の三十、入聲には屋、沃、覺、質、物、月、曷、黠、屑、藥、陌、錫、職、緝、合、葉、洽の十七、上古には此の類別を設けざりしといふ。○[南]「將二平、上、去、入、四・聲一、以レ此制レ—」。
㊂風度、趣致、やうす、おもむき。○[唐]「但以二器—一自高」。
㊃詩賦歌曲、○[文賦]「或託二言於短—一」

(遠韻)(い)古人の風度。○[晉]「雅有二—・—一」。
(ろ)遠きところまでひゞくこゑ。○[朱熹]「高蟬多二—・—一」。
(風韻)(い)風雅のおもむき。○[五]「愛二其—・—一」。
(ろ)風のふくおと。○[柳子厚]「—・—碎二枯菅一」。
(次韻)他の詩の韻字と同音を用ひて詩を作る。○[元稹]「—・—千言曾報答」。
(和韻)他の詩の意に和し同韻を用ひて詩を作くる。
○[文心雕龍]「氣力窮二于—・—一」。「—一」。
(疊韻)同韻を重ねて用ふること。○[南]「磔・礪爲二—・
(强韻)詩を作るに難き韻字。○[陸游]「詩才退後愁二—・—一」。
(險韻)前に同じ。○[金]「尤工二—・—一」。
(磬韻)磬石のねと。○[方干]「—・—遠二鴻・船一」。
(鶯韻)鶯の聲。○[顧野王]「風輕—・—緩」。
(琴韻)琴のね。○[劉禕之]「—・—動二流・波一」。
(操韻)節操のこと。○[宋]「—・—高・潔」。
(雅韻)(い)おもむきの俗ならざること。○[宋]「自・然有二—・—一」。
(ろ)たゞしき音曲。○[蔡邕]「—・—乃揚」。
(神韻)高尚なる風度、卽ちけだかきやうす。○[宋]「—・—沖・簡」。「—一」。
(俗韻)高尚ならざる音。○[白居易]「古・琴無二—・—一」。
(淸韻)濁らざる音。○[曹植]「聆二雅・琴之—・—一」。
(氣韻)(い)氣力、いきほひ。○[捫蝨新話]「文・章以レ氣爲レ主、—・—不レ足、雖レ有二辭藻一、要非二佳・作一也」。
(ろ)おもむき。○[文同]「—・—頗不レ俗」。
(松韻)松風のおと。○[白居易]「—・—徒煩レ聽」。
(泉韻)水の流るゝおと。○[孟郊]「激レ石—・—淸」。
(詞韻)ことばづかひ。○[齊]「—・—如レ流」。
(音韻)おと。○[白居易]「楚・絲—・—淸」。

十一畫

【[illegible]】[illegible]に同じ。

【韽】アン、恩甘 オン。切 [覃]　イン、於金 オン。切 [侵]　エン、衣廉 オン。切 [鹽]　アン、烏感 オン。切 [感]　烏紺切 [勘]　於陷切 [陷]
聲の下くして徹れるにいふ字、聲の小さくして成らざるにいふ字、ひくし、ほそし。○[周]「微・聲—」。
(韽々)聲の細き貌にいふ語。○[蘇軾]「鐘・鼓已—・—」。

十二畫

【韾】イン、挹淫 オン。切 [侵]　烏含切 [覃]
聲和ぐ、やはらぐ。

【[illegible]】響に同じ。○[字彙]「有レ—在レ坐」。

十三畫

【[illegible]】タク、ドク。直角切 [覺]
聾—は、耳志ひ。

【[illegible]】ゲフ、ゴフ。逆怯切 [葉]
なりもの、(樂)。

【[illegible]】イ、エ。於希切 [微]
痛む聲にいふ字。

【響】キヤウ、カウ。許兩切 [養]
㊀ひゞき。
(い)聲に應じて聞こゆるもの、傳はり聞こゆる聲、こゑ、おと。○[書]「影惟—」。
(ろ)聲韻、聲聞、てうし、きこえ。○[南]「絕レ唱高レ蹤久無二嗣—一」。
㊁ひゞきを發す、ひゞく、又、ひゞきを發せしむ、ひゞかす。○[南]「震二—山・谷一」。

(婚響)美人の聲などにいふ語。○[丘巨源]「雲・閨—・—徹」。
(鼓響)つゞみのおと。○[梁簡文帝]「葉・門之下—・—獨傳」。「—一」。
(潺響)溪水の流るゝおと。○[李嶠]「落・泉奔二—・—一」。
(妙響)たへなるねと。○[梁簡文帝]「鳴二渚・梁之—・—一」。「山・來」。
(樹響)風の樹を吹くひゞき。○[吳均]「—・—決レ
(釧響)かんざしの搖きて鳴るひゞき。○[劉孝儀]「顯・袗—・—傳」。
(管響)ふえのひゞき。○[陳後主]「野・變添二—・—一」。「—一」。
(騁響)馬のひづめのおと。○[江總]「曲・澗停二—・—一」。「遥・林」。
(弓響)ゆみづるのおと。○[隋煬帝]「山・盧—・—徹」。
(鼾響)鼾睡のおと、いびき。○[杜易簡]「—・—徹二
(鼗響)ふりつゞみのおと。○[李嶠]「舜日諧二—・—一」。「分・楓」。
(屐響)下駄のおと。○[李商隱]「洞・中—・—省」。
(錫響)僧侶の持ち居る錫杖のひゞき。○[許渾]「—・—二—・—一窣山一」。
(吟響)詩を吟ずるこゑ。○[梅堯臣]「徒說—・—如二秋・蟲一」。「夕鳴」。
(簷響)のきばの雨だりのおと。○[朱熹]「—・—通・還疑瀨・竹鳴」。
(沸響)湯などの煮えかへるおと。○[高啓]「—・—
(美響)よきひゞきにもよきおとにもいふ。○[胡宗仁]「黃鳥弄二—・—一」。
(餘響)のこりのひゞき。○[博物志]「—・—遶レ梁」。
(淸響)きよらかなるひゞき。○[水經註]「恒有二—・—一」。
(奇響)めづらしきひゞき、又、すぐれたるおと。○[孟浩然]「松・泉多二—・—一」。
(音響)おとゝひゞきと。○[傅休奕]「—・—相和」。
(悲響)かなしげなるおと。○[武元衡]「瑤・琴激二—・—一」。
(悲響)前に同じ。○[魏文帝]「—・—有二餘・音一」。
(奇響)めづらしきおと。○[范成大]「窍・水受二—・—一」。「雨」。
(湍響)急流のひゞき。○[吳融]「—・—忽高何處

〔影響〕かげとひゞきと、又、物のさしひゞき、即ち關係にいふ語。○〔後漢〕「敏二于━━一」。

【⿰音贛】コウ、ク。古弄切 送
たまふ（賜）。

十四畫

【頀】コ、グ。胡誤切 虞
大━は、湯の樂の名。

【⿰音毄】キヤウ、カウ。許姜切 陽
うつ（擊）。

廿四畫

【⿰音靈】レイ、リヤウ。郎丁切 青
おと（音）。

頁部

【頁】ケツ、ゲチ。奚結切 屑　〔說文〕从レ百从レ儿。
かしら、かうべ（頭）。

二畫

【頂】テイ、チヤウ。都挺切 迥
いたゞき（頭）。○〔易〕「過涉滅レ━」。
〔絕頂〕山などの極めて高き處をいふ。○〔王褒〕「山・容臨二━━一」。
〔露頂〕頭上をつゝまず。○〔李白〕「━レ━灑二松・風一」。「━・━」。
〔山頂〕やまの最も高き處。○〔武元衡〕「征途出二━・━一」。
〔銳頂〕とがりたるいたゞき。○〔沈約〕「━━之君」。
〔尖頂〕前に同じ。○〔岑參〕「━・━坐二鸛・鵲一」。
〔圓頂〕まるきいたゞき、又、頭髮を剃りたる出家にもいふ。○〔張適〕「━・━圖二松石一」。
〔峭頂〕けはしき山のいたゞき。○〔白居易〕「━・━高危矣」。

【⿰冘頁】イウ、ウ。尤救切 宥
頭顫ふ、ふるふ。

【⿰兀頁】ゲウ。牛召切 嘯
あをむく。

【頃】ケイ、キヤウ。去穎切 梗
❶田百畝の稱。○〔後漢〕「叔度汪・々若二千━波一」。❷少時、しばらく。○〔禮〕「小者至二於燕・雀一、猶有二啁・噍之━一焉」。❸比時、このごろ。○〔十七帖〕「━積・雪凝・寒」。
〔俄頃〕少時の間、しばらく。○〔晉〕「━・━輙去」。
〔有頃〕久しからざる間をいふ。○〔史〕「━レ━而病」。
〔食頃〕食時のころ。○〔史〕「出如二━・━一」。
〔半頃〕五十畝の田をいふ。○〔陸龜蒙〕「百・樹鷄・桑━・━廡」。
〔少頃〕すこしの時の間。○〔陸佃〕「━・━百變」。
〔電頃〕いなびかりの閃めく間、即ち、極めてわづかなる時期をいふ。○〔馬明生〕「萬紀如二━・━一」。
〔彈指頃〕ゆびをはじく間とて極めてすこしの時期にいふ語。○〔曹學佺〕「半百已過━・━・━」。

【頃】ケイ、キヤウ。去營切 庚
傾に同じ、かたぶく。○〔詩〕「不レ盈二━・筐一」。

【頃】キ。犬蘂切 紙
跬に同じ。○〔禮〕「君子━步而弗二敢忘一レ孝」。

【頄】キウ、グ。巨鳩切 尤
頰の間の骨、つらぼね、面顴。○〔易〕「壯二于━一」。

【頄】キ、ギ。渠追切 支
❶前條に同じ。❷ つし（厚）。

【⿰几頁】キ。居逵切 支　キ、ケ。琴威切 微　キン。匿倫切 眞
ほゝぼれ（顴骨）。

三畫

【⿰又頁】サイ、セ。楚佳切 佳　サ、セ。初加切 麻
頷━は、ほゝげた（頤・傍）。

【⿰幺頁】エウ。於宵切 蕭
頭の小さき貌にいふ字。

【⿰己頁】カイ、ケ。己亥切 賄
頰の下、おとがひ。

【⿰巳頁】
俗の孩の字。

【項】カウ、ゴウ。胡講切 講
❶頭後の枕を受くる處、うなじ。○〔儀〕「緇・布・冠缺レ━」。❷冠の後。○〔儀〕「賓右・手執レ━」。❸おほいなり（大）。○〔詩〕「四・牡━・領」。
〔强項〕うなじをさげず、轉じて剛直にして威に屈せざるにもいふ。○〔後漢〕「卿━・━、眞楊・震子・孫」。
〔曲項〕なはからざるうなじ、又、くびをまぐ。○〔駱賓王〕「━レ━向レ天歌」。
〔党項〕西羌の別種族の名。○〔唐〕「━・━寇レ邊」。
〔縮項〕くびをちゞむ。○〔唐〕「皆━レ━不二敢息一」。

【⿰乇頁】トク、徒谷切 屋　タク、徒落切 藥
━顱は、かうべぼね。

【⿰乇頁】タク。闥各切 藥
あたま（腦・膟）。

【⿰乇頁】タク、チヤク。丑格切 陌
あたまのはち（腦・蓋）。

【⿰兀頁】ゴツ、ゴチ。五忽切 月
本髡に作る、髮を去る刑。

【⿰丩頁】コウ、グ。渠公切 東
かほ（面・上）。

【⿰乞頁】コン。苦本切 阮　ケツ、コチ。丘謁切 月
はげあたま（禿）。

【⿰乙頁】コツ、コチ。苦骨切 月
❶白き禿。❷頰の旁の骨、ほゝぼれ。

【⿰弓頁】ク、コ。匈于切 虞
頷━は、頭の動く貌にいふ語。

【順】ジユン。食閏切 震
❶したがふ。
（い）よる（循）。○〔詩〕「四・國━レ之」。
（ろ）ならふ（倣）。○〔儀〕「大・射・正執レ弓、以レ袂━二左右隈一」。
（は）やはらぐ（和）。○〔易〕「豫━以動」。
（に）逆はず。○〔論〕「六・十而耳━」。
（ほ）うく（承）。○〔呂氏春秋〕「上不レ━レ天」。
（へ）ついづ（叙）。○〔爾〕「舒、業、━也」。
❷しりぞく（退）。○〔小爾〕「━退也」。
❸すなほ、やさし、やはらか。○〔易、註〕「謂二心━一」「━一」。
❹光澤好き目。○〔揚雄〕「目好謂二之」
❺したがひ事ふるの道、又、つきしたがふ者、やさしき者。○〔王粲〕「去レ暴擧レ━」。
〔柔順〕ものやはらかなること。○〔易〕「━・━利レ貞」。
〔和順〕をりあひてさからはぬこと。○〔禮〕「━・━積二中一」。

〔遜順〕物やさしくすなほなること。○〔後漢〕「弘少而ー・ー」。「之」。
〔孝順〕能く父母に事ふること。○〔國〕「ー・ー以納」
〔婉順〕婦人の氣質の柔和なること。○〔蔡邕〕「仁孝ー・ー」。
〔恭順〕一意主君などの命に順ふこと。○〔白居易〕「ー・ー發ニ至誠ー」。
〔逆順〕理にそむくと理にしたがふと。○〔晉〕「事有ニー而ー」。ー・ーニ」。
〔敬順〕うやまひつゝしみて從順なること。○〔左〕「弟ー・ーニ」。
〔信順〕まごころもてしたがふ。○〔韓〕「中・外ー・ー」。
〔附順〕つきしたがふ。○〔漢〕「ー・ー者拔・擢」。
〔從順〕したがひてそむかざること。○〔韓愈〕「無レ不ニー・ーニ」。
〔女順〕婦女の守るべき柔順のをしへ。○〔禮〕「後聽ニー・ーニ」。
〔婦順〕前に同じ。○〔禮〕「明ニ章ー・ーニ」。
〔六順〕解は下文の例に詳かなり。○〔左〕「君義、臣行、父慈、子孝、兄愛、弟敬、所レ謂ー・ー也」。
〔健順〕強健の德と柔順の德と。○〔權德輿〕「故體備ニー・ーニ、是爲ニ全・德ニ」。
〔歸順〕亂臣などの朝命に順ふこと。○〔杜甫〕「寇盜方ー・ー」。
〔忠順〕まごころを盡くして和順なること。○〔禮〕「孝弟ー・ー之行立」。
〔誹順〕へりくだりてさからはざること。○〔晉〕「ー・ーニ」。「ー・ー之道」。
〔承順〕うけしたがひてそむかず。○〔禮〕「民莫レ不ニー・ーニ」。
〔將順〕前に同じ。○〔孝〕「ー・ー共美ニ」。
〔奉順〕前に同じ。○〔漢〕「ー・ー天德ニ」。
〔奨順〕前に同じ。○〔左〕「ー・ー天法ニ」。

【頑】クワン、グワン。胡官切 寒
㊀たま、(丸)。㊁あたま、(頂-顚)。

【頇】カン。許干切 寒
大いなる面の貌にいふ字、おほがほ。

【頎】ガン。五旰切 翰
㊀頭に髮なし、かぶろ。㊁頭の後に缺くこと。

【頢】カツ、ガチ。五割切 曷　カン。丘寒切 寒
髮なし、かぶろ。

【須】シユ、ス。鍚俞切 虞　〔說文註〕頁首也、彡毛飾也。
㊀頤下の毛、ひげ。○〔易〕「賁ニ其ーニ」。
㊁まつ。
(い)待つ、まちうく。○〔易〕「歸-妹以「ー」。
(ろ)遲くす、緩くす。○〔左〕「子不ニ少ーニ衆懼盡」。
(は)よる、(資)、もちふ、(用)。○〔爾〕「所レー如レ此」。
(に)止ごまる。○〔書、序〕「ーニ于洛-汭ニ」。
㊂少時、しばらく。○〔荀〕「不レ待レー」。
㊃一種の菜。○〔爾〕「ー蕵-蕪」。
〔斯須〕しばしの間、しばらく。○〔禮〕「禮-樂不レ可ニー・ー去レ身」。
〔資須〕とりて用ふ。○〔晉〕「皆相ー・ー」。
〔軍須〕軍に用ふるもの。○〔唐〕「ー・ー期-會爲レ急」。
〔兵須〕前に同じ。○〔唐〕「ー・ー彩・繇」。
〔夫須〕草の名、すげ、はますげ。○〔爾〕「臺ー・ー」。

【頒】ハン、ヘン。逋還切 刪
まだら、(斑)。○〔禮〕「勿大-夫以ニ魚-ー文-竹ニ」。

【頉】イ。與之切 支
㊀やしなふ、(養)。㊁おとがひ、(頷)。

四畫

【頊】キヨク、ゴク。許玉切 沃
㊀頭の謹む貌にいふ字。○〔說文〕「頭ー・ー」。
㊁自失する貌にいふ字。○〔莊〕「ー-然不ニ自-得ニ」。

【頍】ホウ、フ。補孔切 董　ハウ、ホウ。補講切 講
耳の本、みゝのれ。

【頏】ケワ。五果切 哿
頪に同じ。

【頓】タン、トン。都感切 感　都紺切 勘
しづか、(靜)。

【頔】ガウ。五剛切 陽
顱ー・ーは、あたま。

【頏】
頭を擧ぐ、あぐ。

【頒】
頷に同じ。○〔史〕「鬚-顆髭ー」。

【頷】カン、コン。口含切 覃　丘凡切 咸
みにくし、(醜)。

【頌】ヨウ、ユ。餘封切 冬
㊀かたち、(貌)。○〔漢〕「ー-禮甚嚴」。
㊁ゆるす、(容)。○〔漢〕「當ニ鞠-繫ー者ーニ繫之ニ」。
㊂おほやけ、(公)。○〔漢〕「ー共禁不レ與」。

【頌】ショウ、ジユ。似用切 宋
㊀稱述す、ほむ、たゝふ。○〔禮〕「ー而無レ諂」。
㊁稱述の詞、ほめことば。○〔漢〕「爲ニ聖-主ー得ニ賢-臣ーニ」。
㊂占兆の詞、うらかたのことば。○〔周〕「其ー皆千-有-二-百」。
㊃磬の名。○〔儀〕西-階之西、ー-磬」。
㊄琴の名。○〔左〕「以自爲ニ櫬與ニーー琴ニ」。
〔善頌〕善き讚辭。○〔禮〕「謂ニ之ー・ー善-禱ニ」。
〔廟頌〕廟前にて奏する頌德の樂歌。○〔後漢〕「ー・ー未レ立」。
〔推頌〕推尊稱揚すること。○〔韓愈〕「大-學諸-生ー・ー不ニ敢與-藩齒ニ」。
〔偈頌〕頌德歌の一種、偈は梵語の伽陀の略にして頌の義なりとぞ。○〔晉〕「凡觀-國之主必有ニ贊-德-經-中ー・ー皆其式也」。
〔詩頌〕はめたゝへたる歌。○〔禮〕「絃ニ歌ー・ーニ」。
〔歌頌〕前に同じ。○〔左〕「爲ニ之ー・ー曰、至矣哉」。
〔詠頌〕盛德成功などを詩歌に作りてうたひほむること。○〔漢〕「ーニ・ー共美ニ」。
〔褒頌〕褒美稱述す。○〔論衡〕「ー・ー紀-載」。
〔稱頌〕前に同じ。○〔魏〕「語レ州ー・ー焉」。

【頙】サク、シヤク。楚革切 陌
たゞし、(正)。

【頜】コツ、コチ。苦骨切 月
はげ、(禿)。

【頠】クワイ、ケ。沽罪切 賄　コン。苦本切 阮
頰の高き貌にいふ字。

【頣】コン。擧很切 阮
頰の後、ほゝぼれ。

【頩】ハイ、ベ。薄皆切 佳　蒲枚切 灰
曲がれる頤、おとがひ。

【頯】ハイ。礙皆切 佳
大いなる面の貌にいふ字。

【頍】キ。丘弭切 紙
頭を擧ぐ、あふぐ。○〔詩〕「有レー者弁」。

【頍】ケン。犬縣切 霰
前條に同じ、一說に頭小にして鋭ろ、とがる。

【頍】ギ。五委切 紙
弁の貌にいふ字。

【頎】キ、ゲ。渠希切 微
長くして好き貌にいふ字、たけたかし、ながし、すなやか。○〔詩〕「碩人其ー」。

【頎】コン。口很切 阮
㊀ゆきとゞく、（至）、一説に、惻隱の貌にいふ字、いたまし。○〔禮〕「稽顙而後拜、ーー乎其至也」。㊁すこし、（少・小）。○〔周、註〕「哨與レー、皆少・小之義」。

【頏】カウ、ガウ。胡郎切 陽
鳥の飛び下るゝにいふ字、くだる。○〔詩〕「燕々于飛、頡之ー之」。

【頏】カウ。居郎切 陽
人の頸、くび。

【頏】カウ、ガウ。戸朗切 養
吭に同じ、物の聲にいふ字。

【頏】カウ。口朗切 養　苦浪切 漾
のんど、（咽）。

【頏】カウ、ガウ。下浪切 漾
鳥の咽。

【頣】イン。余準切 軫　イ。於夷切 支
面目の正しからざる貌にいふ字、面ゆがむ。

【預】ヨ。羊洳切 御
ー豫に同じ。
㊀事に先だちて、あらかじめ、又、あらかじめ備はること、そなへ。○〔晉〕「宜レ有ニ備ーー」。㊁たのしむ、（佚）、あそぶ、（遊）。○〔白居易〕「虎丘時游ーー」。㊂あづかる、（參）、かゝはる、（干）、かゝる、（及）。○〔世說〕「仲容己ーレ之」。
〔參預〕事にあづかる。○〔晉〕「毎ーーー焉」。
〔干預〕前に同じ。○〔晉〕「好ーニーー人事一」。

【頑】グワン、ゲン。五還切 刪
㊀まろきのさき、（梱頭）。㊁固陋なること、貪慾なること、德義に暗きこと、愚にして才智啓けざること、おろか、にぶし、かたくな。○〔書〕「父ー母嚚」。
〔癡頑〕おろかにして理を覺らぬこと。○〔五〕「無才無德ーー老子」。
〔踈頑〕物事におろそかにしてさとからず。○〔柳宗元〕「蘄散任ニーーこ。「骨尚ーー」。
〔堅頑〕かたくなにして通せず。○〔方岳〕「自憐詩
〔駑頑〕おろかにしてにぶし。○〔蘇軾〕「奇·姿挽·德寄ニーーこ。「ー不·聰」。
〔冥頑〕事理にくらくおろかなること。○〔韓愈〕「ー
〔昏頑〕前に同じ。○〔蘇軾〕「嗟我ーー晩聞レ道」、
〔傲頑〕かたくなにして驕慢なること。○〔元稹〕「科儀懲ニーーこ。
〔驕頑〕前に同じ。○〔元稹〕「先來閒ニーーこ。
〔強頑〕かたくなゝること、又、其の者。○〔晉鞏〕「明心懾ニーーこ。

【頄】イウ、ユ。于救切 宥
㊀ふるふ、（顫）。㊁やむ、（病）。

【頕】シン、ソン。章荏切 寢
㊀うなじ、（項）。㊁頭を垂るゝ貌にいふ字。

【頕】タン、トン。都感切 感
顪ーーは、みにくし、（醜）。

【頕】タン、トン。丁紺切 勘
ーー顉は、癡かなる貌にいふ語。

【頙】ガウ、ゴウ。五老切 皓
顥ーーは、大いなる頭。

【頒】フン、ボン。符分切 文
魚の大首、おほあたま、又、衆き貌にいふ字、おほし。○〔詩〕「魚在在レ藻、有ニ頒其首一」。

【頒】ハン、ヘン。布還切 刪
㊀わかつ。
（い）班布す、班賜す、しく、くばる。○〔禮〕「ーニ度量一而天下大服」。
（ろ）區分す、わく。○〔書〕「乃惟孺子、ーニ朕不レ暇」。
㊁頷の兩旁、びんづら、びん。○〔正韻〕「頒兩旁曰レー」。
㊂斑雜、まだら。○〔孟〕「ー白者」。

【頞】ヲツ、ボツ。烏沒切　莫勃切 月　ヲチ、モチ。切
頭を水中に入る、しづむ。

【頓】トン。都困切 願
㊀首を下げて拜す、ぬかづく。○〔周〕「二曰、ー首」。
㊁つまづく。
（い）たふる、（僵）。○〔易林〕「蹪ー傷レ頤」。
（ろ）くじく、（挫）。○〔左〕「甲兵不レー」。
㊂やぶる、（壞）。○〔國〕「王幾レー乎」。
㊃つかる、（罷）。○〔魏〕「士馬疲ー」。
㊄くるしむ、（困）。○〔管〕「ー卒倦怠」。
㊅とゝのふ、（整）。○〔陸機〕「ーレ網探レ淵」。
㊆とゞまる、とゞむ、（止）。○〔陸機〕「ーレ轡倚ニ高巖一」。
㊇やどる、やどす（舍）。○〔史〕「三日三夜不ニー舍一」。
㊈すつ、（捨）。○〔曹植〕「ーレ綱縱レ網」。
㊉すたる、（廢）。○〔漢〕「綱紀廢ー」。
⑪にはか、（遽）。○〔列〕「一氣不ニ一盡一一形不ニー虧一」。
⑫たくはへ、（貯）。○〔唐〕「器用庖ー」。
⑬たび、（次）。○〔世說〕「欲レ乞ニ一ー食一」。
⑭宿舍、屯營、やどり、たむろ。○〔陳〕「徙レー對レ之」。
⑮一次の食、いちどのしよくじ。○〔釋氏通鑑〕「須レ食ニ一ー一」。
⑯宿食の所、貯食の所、とまりてしよくじするところ、しよくもつのたくはへどころ。○〔陳〕「置レー以居レ之」。
〔整頓〕とゝのへさだむ、とゝのひさだまる。○〔後漢〕「ーー灑掃」。「而反」。
〔挫頓〕挫け傷つく。○〔晉〕「以ニ瓦石一投レ之、ーー
〔頓々〕一次の食ごとにといふ意に用ふる語。○〔杜甫〕「ーー食ニ黃魚一」。
〔猗頓〕古の富豪の名。○〔史〕「陶朱ーー之富」。
〔廢頓〕すたれやぶる。○〔漢〕「綱紀ーー」。
〔荒頓〕前に同じ。○〔傅亮〕「靈廟ーー」。
〔掣頓〕制御す。○〔鹽鐵論〕「吏捕索ーー」。
〔止頓〕軍隊などの一處にとゞまるにいふ語。○〔吳〕「ーー便立ニ軍市一」。
〔虛頓〕氣力などのいたく衰弱したるにいふ語。○〔魏〕「氣力ーー」。
〔毀頓〕破壞したること。○〔韓愈〕「祠宇ーー」。
〔蹶頓〕馬などの脚をかゞめて進み動かざるにいふ語。○〔晉〕「無レ故ーー」。
〔營頓〕行軍に兵糧などを貯ふる處。○〔齊〕「立ニーー」。
〔號頓〕號哭して地に倒るゝこと、なきつぶる。○〔陳〕「ーニー於地一」。
〔顚頓〕くつがへりたふる。○〔韓愈〕「ーー狼狽」。
〔仆頓〕たふるゝこと。○〔論衡〕「猶有ニーー之禍一」。

〔寢頓〕すたれやむ。○〔皇甫謐〕「風・雅ーー」。
〔沈頓〕氣力などのたゞみてひきたゝざるにいふ語。○〔權德輿〕「ーー逾レ月」。
〔困頓〕(い)つかれたること。○〔韓偓〕「歸臥ニーーー眠」。
(ろ)困窮に陷りて談達せざるにいふ語。○〔燕翼〕「ーニ・ー風・塵ニ」。
〔之頓〕軍旅などのゆたかならずして疲れたること。○〔唐〕「步・馬ーー」。
〔挫頓〕くたけやぶる。○〔易林〕「蹈・踣ーー」。
〔摧頓〕前に同じ。○〔論衡〕「人不ニーーニ」。
〔倒頓〕たふる、又、大袴の異名。○〔揚雄〕「汇・湘之閒、大袴謂ニ之ーーニ」。
〔擻頓〕うごきたふる。○〔庾信〕「或ーーニ于風・烟ニ」。

【頓】トン、ドン。徒困切 [願] にぶし(鈍)。○〔漢〕「芒・刃不レー」。
〔頑頓〕かたくなにしておろかなること。○〔漢〕「ーー亡レ恥」。
〔遲頓〕おろかなること。○〔漢〕「ーー不レ及レ事」。
〔愚頓〕前に同じ。○〔魏〕「質ーー」。

【頓】トツ、トチ。當沒切 [月] 冒ーは、漢の高祖時代の匈奴の單于の名。○〔漢〕「單・于太・子曰ニ冒ーニ」。

【頊】ウ、ヲ。王矩切 [麌] 孔子の頭。

五畫

【頔】テキ、ヂヤク。徒歷切 [錫] うつくし(好)。

【䪌】シヨ、ソ。子余切 [魚] おとがひ(頷)。

【䪘】タン。儻旱切 [旱] 平かなる面、ひらがほ。

【𩑓】古の髪の字。

【𩑠】コウ、ク。呼漏切 [宥] ㊀つとむ(勤)。㊁ー顳は、老人の稱、としより。

【頣】ピン、ミン。武巾切 [眞] つよし(强)、又、彊き頭。

【䪹】ヒ。敷悲切 [支] ハイ、ヘイ。蘗皆切 [佳] 大いなる面、おほがほ。

【頧】ハイ、ベ。步皆切 [佳] 蒲枚切 [灰] 曲がれる頤の貌にいふ字、まがれるおとがひ。

【頕】タン、トン。都甘切 [覃] たれほゝ(緩・頰)。

【頕】テン。都念切 [豔] 垂るゝ首。

【𩑩】イウ、ウ。于救切 [宥] 顫ふ疾。

【頖】ハン。普半切 [翰] 泮に同じ。○〔禮〕「諸・侯曰ニー宮ニ」。

【𩑏】ケン。丘檢切 [琰] ー頷は、平かならざること。

【𩑗】アウ、エウ。於教切 [效] 頸の自由にならざること。

【𩑶】ヒ、ミ。無沸切 [未] まのあたり(面・前)。

【頶】コ、ク。戶吳切 [虞] 胡に同じ、たれにく。

【頶】コ、ク。空胡切 [虞] あごのつがひ(頷・車)。

【䪹】バツ、マチ。莫撥切 [曷] ー顯は、すこやか(健)、一說に、平面、ひらがほ。

【䪵】カ。虛我切 タ。待可切 [哿] カ。虎何切 [歌] 頭を傾けて視る貌にいふ字。

【𩑔】ケン、ゲン。胡滑切 [黠] 頸の後。

【𩑢】カフ、コフ。古盍切 [合] あご、(車・頷・骨)。

【𩑳】ゼン、ヂン。汝鹽切 [鹽] 髯に同じ、頰の須、ほゝひげ。○〔莊〕「黑・色而ー」。

【𩑺】フク、ボク。符逼切 [職] 髪の白き貌にいふ字。

【頋】俗の顧の字。

【𩑹】ハ、バ。滂禾切 ハ。普禾切 [歌] 頭偏る、かたよる。

【䪸】顓に同じ。

【𩑰】ヘン、ベン。皮變切 [霰] ㊀冠の名。㊁冠ノ大いなる貌にいふ字。

【𩑱】ハン、ボン。扶晚切 [阮] 髪なきこと、かぶろ、はげ。

【頗】ハ、バ。滂禾切 [歌] 偏頗、不公平、かたよる、よこしま、かたおち。○〔書〕「無レ偏無レー」。
〔險頗〕公平ならざること。○〔詩、序〕「無ニーー・私謁之心ニ」。
〔雨頗〕あめふる度數の多きこと。○〔論衡〕「ーー・流湛之兆」。

【頗】ハ。普火切 [哿] すこぶる。(い)少しくかたよりて、やゝ、○〔史〕「有ニー可レ采者ニ」。(ろ)多くかたよりて、はなはだ。○〔史〕「ー用レ術」。

【頗】ハ。普過切 [箇] かたよる(偏)、一說に、疑ふ辭。

【𩑬】セツ、セチ。職悅切 [屑] 面上の秀骨、ほゝぼね、顴頰。○〔玉篇〕「漢高・祖隆ー・龍・顏」。

【𩑭】シユツ、シユチ。之出切 [質] 頭の貌にいふ字。

【𩑮】コツ、コチ。古忽切 [月] つらぼね(面・顴)。

【頣】テイ、タイ。都黎切 齊
頭の垂れ下がれる貌にいふ字。

【頶】カウ、ゴウ。胡到切 號
白首の人、ちらがあたまのひと。

【顊】シン。止忍切 軫
㊀—鱗は、事を愼む。㊁はづ、(慙)。

【頿】シン。章刃切 震
—顃は、前條に同じ、又、頭に髮少なきもの。

【領】レイ、リヤウ。良郢切 梗
㊀頸項、うなじ、くび。○〔詩〕「交-々桑-扈、有ニ鶯其—ー」。
㊁えり。「挈ニ裘—ー」。○〔荀〕「若
(い)衣服のくびを圍む處。
(ろ)衣服を數ふるにいふ字。○〔宋〕「雜-衣千—ー」。「之節ニ」。
㊂をさむ、(理)。○〔禮〕「—ニ父-子君-臣
㊃すぶ、(統)。○〔漢〕「總ニ—庶-職ニ」。
㊄ちるす、(錄)。○〔劉公幹〕「沈-速滯——書」。
㊅うく、(受)。○〔深雪偶談〕「寶—懸-悟」。
㊆意趣、おもむき。○〔漢〕「不レ能レ得ニ月-支要—ー」。
㊇要本、かなめ。○〔晉〕「紘——不レ振」。
㊈雄長、をさ。○〔隋〕「陰求ニ將-—ー」。
㊉嶺に通じ用ふ、みね、山道。○〔漢〕「輿-轎而踰レ—」。
〔要領〕物事の大切なるところ、要契。○〔李商隱〕「全ニ——以從ニ前-人ニ」。
〔引領〕首を引き伸ばすと、待ち或は望むなどにいふ語。○〔左〕「景-公—レ—西-望」。
〔首領〕(い)くび、あたま。○〔左〕「獲下保ニ——ー」以沒於地上。
(ろ)部落或は團隊のおもたちたる人、かしら。○〔隋〕「黔-安——」。「職ニ」。
〔總領〕統轄すると、すべくゝる。○〔漢〕「—ニ—衆-
〔簿領〕張簿の記錄。○〔隋〕「無レ勞ニ躬親——ー」。
〔將領〕ひきゐる、又、將帥のと。○〔隋〕「陰求ニ——ー」。
〔管領〕取締り支配す。○〔後漢〕「—ユ—其事ニ」。
〔統領〕前に同じ。○〔蜀〕「—ニ—胥-州ニ」。
〔項領〕くび、又、おほいなるくび。○〔詩〕「四-牡——」。
〔交領〕衣のえり。○〔晉〕「加ニ乎——之上ニ」。
〔正領〕えりをたゞす。○〔淮〕「—レ—而誦レ之」。
〔綱領〕物事の大體のおほづなにも文章などの主要なる本領にもいふ。○〔魏〕「所-在摻ニ——ー」。
〔頭領〕あたま、又、おほくの者のつかさ。○〔宋〕「必貫ニ——ー」。
〔頸領〕首のと。○〔莊〕「上斬ニ——ー」。「—」。
〔酋領〕夷狄の部落などのかしら。○〔宋〕「腹-心—」

【頙】サク、シヤク。初責切 陌
たゞし、(正)。

【顃】カン、コン。苦感切 感
顲の疾。

六畫

【頮】クワイ、エ。呼內切 隊
おほがしら、(大-首)。

【頪】ライ、レ。落猥切 賄 盧隊切 隊
頭正しからず、かたむく。

【頧】シ。昌旨切 紙
大いなる面、かほ。

【頣】コン。古恨切 願 テン。多殄切
ケン。旱典切 銑
顲の後。

【頤】コン。古本切 阮
頫高し。

【頜】カフ、コフ。古沓切 合
㊀頤傍の骨、耳下の骨、おとがひ。○〔揚雄〕「稽-顙樹レ—」。
㊁—車は、あごのつがひ。

【頷】カン、ゴン。胡感切 感
おとがひ、(頤)。

【頷】カン、ゴン。胡南切 覃
頷に同じ、黃なる面。

【頲】凶に同じ。

【頭】キヤウ、カウ。曲王切 陽
まぶち、(目-匡)。

【頦】カウ、ケウ。口交切 肴
媚びず、なまめかず。

【頦】カウ、ケウ。苦絞切 巧
薄く媚ぶ。

【顧】顧に同じ。

【頬】コウ、ク。虎孔切 董
たちぐらみ、(頭-昏)。

【頧】ヒ、ピ。眦至切 寘
㊀かしら、(首)。
㊁犬初生の子、いぬころ。

【頦】タ。丁可切 哿
醜き貌にいふ字。

【頞】アツ、アチ。阿割切 曷
はなすぢ、はなばしら、(鼻-莖)。○〔孟〕「疾レ首蹙レ—而相告」。
〔縮頞〕はなばしらをちはむ。○〔呂氏春秋〕「——而食レ之」。
〔幽頞〕獸の名、其の狀猴に似たりといふ。○〔山海經〕「邊-春之山、有レ獸焉、其狀如レ禺、而文レ身善笑、見レ人則臥、名曰ニ——ー」。

【頞】アン。烏旰切 翰
人の名。○〔史〕「秦時常——」。

【頟】ガク、ギヤク。五陌切 陌
㊀額に同じ、ひたひ、かぎり。○〔揚雄〕「—顙也、中-夏謂ニ之—ー」。
㊁休息せざる貌にいふ字、又、車を推す聲にいふ字。○〔書〕「罔ニ晝-夜——」。

【頭】ドウ、ヌ。奴兜切 尤
顬—は、面ゆがむ。

【頢】ゲツ、ゲチ。五舌切 屑
みにくし、(醜)。

【頩】ハク。匹各切 藥
面の大いなる貌にいふ字。

【頩】ガク。逆各切 藥
顎に同じ、おごそか、(恭-嚴)。

【頠】グワイ、ゲ。五罪切 賄 同 ギ。魚毀切 紙
㊀ならふ、(閑-習)。㊁しづか、(靜)。
㊂かしら、(頭)。

【頡】ケツ、ゲチ。胡結切 屑

㊀直項、すぐなるうなじ。㊁飛び上がる、あがる。〇〔詩〕「燕-々于飛、頡—之頏之」。㊂人の名。〇〔左〕「從-者頡—」。

【頡】カツ、ケチ。古黠切 黠
㊀する、きしる（轢）。㊁へらす（減-尅）、かすめのぞく（掠-除）。〇〔唐〕「盜二—資-糧一」。

【頢】クワツ、クワチ。古活切 曷
㊀短き面の貌にいふ字。㊁小さき頭の貌にいふ字。

【頣】シン。式忍切 軫
目を擧げて人を視る貌にいふ字。

【頤】イ。與之切 支
㊀おとがひ（頤）。〇〔禮〕「—霤垂-拱」。㊁易の卦名、☶☳（震下艮上）。〇〔易〕「—貞吉」。㊂ふかし（深）。〇〔小爾〕「—深也」。㊃語調を助くるに用ふる字。〇〔史〕「夥—涉之爲レ王」。

（朶頤）食らはんと欲する貌にいふ語、又、物をかむにもいふ。〇〔易〕「觀二我——一」。
（期頤）老いたること。〇〔禮〕「百年曰二——一」。
（拄頤）をとがひを支ふ。〇〔戰〕「修-劍拄レ—」。
（解頤）いたく笑ふ。〇〔蘇過〕「同レ途欣——」。
（方頤）おとがひの廣くそげざるをいふ。〇〔三〕「孫-權生而——大-口」。
（廣頤）前に同じ。〇〔唐〕「方類——」。
（垂頤）食らはんと欲する貌にいふ語。〇〔歐陽修〕「流レ涎尙—レ—」。

【頥】俗の頤の字。

【頦】カイ、ガイ。戸來切 灰 下改切 賄
頤の下、あご。〇〔韓愈〕「我手承レ—時拄レ座」。

【頦】カイ、ガイ。柯開切 灰
みにくし（醜）。

【頦】カイ、ケ。古亥切 賄
㊀前條に同じ。㊁ほゝ（頰）。

【⿰彳頁】ゲン。倪霰切 霰
⿰彳頁—は、かほよし（姣）。

【頧】タイ、テ。都回切 灰
毋—は冠の名。

【頧】タイ、テ。都罪切 賄
頭の正しからざる貌にいふ字。

【⿰犭頁】ヘン。紕延切 ケン。許縁切 先
頭姸し、うつくし。

【頨】ウ、チ。王矩切 麌
㊀前條に同じ。㊁孔子の頭。

【⿰犭頁】ヘン。卑見切 霰
—頨は、かほよし（姣）。

【⿰同頁】トウ、ツ。他孔切 董
直き項、うなじ。

【頩】ヘイ、ヒヤウ。普丁切 青
㊀怒りて面色の青き貌にいふ字。〇〔宋玉〕「—薄怒以自持兮」。㊁氣の盛んなる貌にいふ字。〇〔楚辭〕「玉-色—以滿レ顏」。

【頩】ヘイ、ヒヤウ。匹迥切 迥
㊀淺き青色、はなだいろ。㊁容を斂むるを、かたちづくり。

【頪】ライ、レ。力外切 泰 盧對切 隊
㊀とし（疾）。㊁曉し難し、にぶし。㊂鮮白なる貌にいふ字。

【頫】フ、ホ。方矩切 麌 ベン、メン。靡卷切 銑
頭を低る、うつぶす、ふす、うなだる。〇〔揚雄〕「人面—」。

【頫】テウ。他弔切 嘯
みる。
（い）大夫の衆來して天子に謁見するにいふ字、まみゆ。〇〔周〕「——聘」。
（ろ）天子の使臣の諸侯を訪問するにいふ字、とふ。〇〔周、疏〕「存—省聘問臣之禮」。
（は）察し視る、あきらかにみる。〇〔張衡〕「流-目—二乎衡-阿一」。

【頫】タウ、トウ。他刀切 豪
てあらふ（盥）。

【⿰充頁】ショウ、シュ。尺勇切 腫
みつ（充）。

【⿰光頁】頫に同じ。

【⿰木頁】戚に同じ、—施は、せむし。

七畫

【⿰辰頁】シン。之刃切 震
㊀頭動く。㊁古文の脣の字。

【頄】キウ、グ。巨鳩切 尤
㊀冠りの飾りの貌にいふ字、又、恭順の貌にいふ字。㊁いただく（戴）。

【⿰歹頁】タツ、タチ。丑刮切 黠
㊀小さき頭、こあたま、一說に、面の短き貌にいふ字。㊁强き貌にいふ字。

【⿰今頁】シン。七稔切 キン。丘甚切 寑

【頷】カン、コン。丘凡切 咸
—顑は、醜き貌にいふ語。

【⿸广頁】ケン。丘檢切 琰
—顩は、面の平かならざるにいふ語。

【⿰我頁】ガ。五何切 歌
㊀ひとし（齊）。㊁なゝめ（衺）。

【⿰我頁】ガ。五可切 哿
㊀弁を側だつ、そばだつ、かたぶく。㊁俄に同じ、にはか。

【⿰困頁】コン。苦昆切 元 苦本切 阮
㊀髮なし、かぶろ、はげ。㊁みゝのあな（耳-門）。

【⿰采頁】サン、ソン。蘇紺切 勘
頢—は、頭を搖かす貌にいふ語。

【頢】クワツ、クワチ。下括切 カツ、ガチ。牙葛切 曷
短き面。

【⿰冒頁】バイ、メ。莫佩切 クワイ、ケ。呼內切 隊
くらし（昧）。

【頏】 コウ、グ。戸孔切 董

頭直し、なほし。

【頳】 セイ、ジヤウ。是征切 ケイ、ギヤウ。渠京切 庚

㊀くび(頸)。㊁うなじ(項)。

【頭】 トウ、ヅ。度侯切 尤

㊀かしら。
(い)頸喉より上部の稱、かうべ、あたま。〇〔史〕「搖レ―而歌」。
(ろ)毛髮、かみ。〇〔晉〕「汙レ服失レ冠、蓬―僵臥」。
(は)上部、うへ、いたゞき。〇〔列仙傳〕「至時、果乘二白鶴一駐二山―一」。
(に)先端、はし、さき。〇〔晉〕「以二百錢一挂二杖―一」。
(ほ)始緒、はじめ、こぐち。〇〔唐〕「年―月尾」。
(へ)魁長、をさ。〇〔唐〕「以二彊幹者一爲二番―一」。
㊁人を數ふるにいふ字。〇〔春秋元命苞〕「九―紀」。
㊂かうべある動物を數ふるにもいふ字。〇〔舒頤〕「横斜體態百―殊」。

〔低頭〕首をたれさぐ。〇〔後漢〕「無二乃欲一―――就レ之乎」。
〔烏頭〕藥草の菫の異名。〇〔本草〕「――與二附子一同レ根」。
〔蒼頭〕(い)青色のはちまきをしたる士卒。〇〔戰〕「武力二十餘萬、――二十萬」。
(ろ)奴隷、めしつかひ。〇〔漢〕「――盧兒」。
〔焦頭〕かしらをやきたゞらす。〇〔漢〕「――爛額爲二上客一耶」。
〔岳頭〕やまの頂上。〇〔白居易〕「尋レ寺到二――一」。
〔舩頭〕ふねのへさき、又、漕戰の監督者。〇〔唐〕「初州縣取二富人一督二漕輓一、謂二之――一」。
〔白頭〕しらがあたま。〇〔史〕「――如レ新」。
〔黄頭〕黄色の帽を冠るもの。〇〔漢〕「遣二濯林――一循レ江而下」。
〔搖頭〕あたまをかく、又、かんざし。〇〔後漢〕「―」―弄レ姿」。
〔竹頭〕竹のきりはし。〇〔晉〕「木屑及――」。
〔纏頭〕舞妓などに當坐の賞として與ふるもの、はな。〇〔舊唐〕「爲二子儀――之資一」。
〔點頭〕承諾の意をあらはすに頭を前方にすこしくさぐること、うなづく。〇〔中吳紀聞〕「石皆爲二――一」。
〔竿頭〕さをのはし。〇〔吳融〕「百尺――五兩斜」。
〔渡頭〕ふなわたしあるところ、わたしば。〇〔張九齡〕「千殲咽二――一」。
〔津頭〕前に同じ。〇〔李賀〕「――送レ別唱二流水一」。
〔心頭〕こゝろざし、こゝろ。〇〔杜荀鶴〕「一時和雨到二――一」。
〔叩頭〕罪を謝するときなどに頭を以て地を叩くこと。〇〔後漢〕「昆輒向レ火――」。
〔亂頭〕あたまをとりみだす。〇〔世說〕「粗服――」。
〔蓬頭〕前に同じ、蓬の生ひのびたるやうに髮の亂れ居ること。〇〔晉〕「――僵臥」。「食二怕――一」。
〔露頭〕脫帽して頭をむき出す。〇〔馮道〕「夜溷二三一角」。
〔圓頭〕まろやかなるあたま。〇〔說苑〕「――一降兵二」。
〔陣頭〕軍陣のさきて。〇〔王建〕「――多是用」。

【頮】 クワイ、ケ。荒內切 隊

靧に同じ、面を洗ふ、あらふ。〇〔書〕「王乃洮二―水一」。

【頯】 クワイ、ケ。苦對切 隊

㊀太だ質朴なる貌にいふ字。〇〔莊〕「其容寂、其頯――然」。
㊁高く露れて美を發する貌にいふ字。〇〔莊〕「而頯――然」。

【頍】 キ。居洧切 紙

㊀小さき頭、こあたま。〇〔爾〕「博而―」。
㊁面骨、つらぼれ。㊂あつし(厚)。

【頄】 キ、ギ。渠追切 支

つらぼれ(權)、ほゝぼれ(頰骨)。

【頯】 キウ、グ。渠尤切 尤

頄に同じ、ほゝぼれ(頰骨)。

【顊】 シヤ、セ。昌遮切 麻

牙の下の骨、はごし。

【頵】 シン、ソン。七稔切 寢

いやし(陋)。

【頰】 ケフ、ゴフ。古協切 葉

面の旁、ほゝ。〇〔易〕「咸二其輔―舌一」。

〔緩頰〕ゆるゆるとたづかにかたりて譬喩を引くこと。〇〔史〕「――往說豹」。
〔拄頰〕ほゝをさゝふ。〇〔韓愈〕「人愁方―レ―」。
〔兩頰〕雙頰ともいふ、左右のほゝ。〇〔蘇軾〕「但見――生二微渦一」。「眉青」。
〔紅頰〕ほゝのあかきこと。〇〔韓愈〕「白咽――長眉――」。
〔豐頰〕ほゝの肉のゆたかなるをいふ。〇〔韓愈〕「曲眉――」。
〔曼頰〕うるはしきほゝ。〇〔淮〕「――皓齒」。
〔方頰〕ほゝのそげずしてかくばりたるをいふ。〇〔梁〕「――豐下」。
〔口頰〕くちもと、又、辯舌の義にもいふ。〇〔高啓〕「書生只辯弄二――一」。
〔赤頰〕あかきほゝ、又、鶴の異名。〇〔正字通〕「――鶴別名」。
〔批頰〕ほゝをうつ、又、やつがしらと稱する鳥の別名。〇〔王安石〕「藉レ草聽二――一」。「―」。
〔鬚頰〕ひげの生じたるほゝ。〇〔周昂〕「淸水落二―」。

【頢】 ラツ、ラチ。盧活切 曷

――頢は、面みにくし。

【頾】 ゼン、子ン。汝鹽切 鹽

髯に同じ、ほゝひげ。

【頿】 前條に同じ。

【顉】 シン、ヅン。士痒切 寢

【頷】 シン、ジン。寺鴆切 沁 シン。鋤簪切 侵

醜き貌にいふ字、みにくし。

【頫】 フ、ホ。扶雨切 麌

頫―は、首を俯す。

ほゝぼれ(頰骨)。

【顉】 ギン、ゴン。宜禁切 沁

頷―は、首の動くにいふ語、かしらふる。

【頏】 コウ、ク。呼公切 東

頭の悶ゆる貌にいふ語、かしらいたむ。

【頲】 テイ、チヤウ。他鼎切 迥

狹き頭の直きにいふ字、又、正直なるにいふ字、なほし、たゞし。〇〔爾〕「梏梗較―」。

【𩒎】 テイ、チヤウ。湯丁切 青

狹き頭の貌にいふ字。

【顁】 キ、ケ。香依切 微

――顁は、頭の動く貌にいふ語。

【頳】 テイ、チヤウ。丑盈切 庚

經に同じ、あかし。〇〔詩〕「魴魚―尾」。

〔酔頳〕顏色などの赤きにいふ語。〇〔陳造〕「得下以殺二吾顏之――一、息中勞虚之怦々上」。「――」。
〔微頳〕すこしく赤し。〇〔陸游〕「酒潮二玉頰一見二――一」。
〔深頳〕赤色のうすからざるをいふ。〇〔馬定國〕「高殿旭日吐二――一」。「―」。
〔含頳〕赤色をおびたること。〇〔江淹〕「霧雲兮―」。

【頴】 俗の穎の字。

【頶】 コ、ク。訛胡切 虞

大頭、おほあたま。

【⿰尨頁】　バウ、モウ。莫江切　江
あたま、(頭)。

【頵】　ヰン、ウン。於倫切　キン、コン。君筠切　眞
大頭、おほあたま。

【頵】　キン、グン。巨隕切　軫
頭の貌にいふ字。

【⿰告頁】　コク。胡沃切　沃
鼻の高き貌にいふ字。

【頷】　カン、ゴン。胡感切　感
㊀面の黄色なるにいふ字、又、飽かざる貌にいふ字。○〔屈平〕「長顑―亦何傷」。
㊁口中の下骨、あぎと、あご、おとがひ。○〔漢〕「虎-頭燕-―」。
〔豐頷〕おとがひの肉ゆたかにしてそげてあらず。○〔元〕「廣-顙―-―」「豐-髯ニ」。
〔滿頷〕おとがひ一面のと。○〔白居易〕「―-―白ニ」。

【頜】　ガン、ゴン。五感切　感
頭を搖かし低ろ、うなづく。○〔左〕「衞-侯入、逆ニ于門一者―レ之而巳」。

【頷】　カン、ゴン。胡男切　覃
面色の黄なるにいふ字。

【⿰[?]頁】　サ、セ。數瓦切　馬
みにくし、(醜)。

【頺】
頹に同じ。

【頹】　テイ、タイ。天黎切　齊

頿―は、頭正しからざると。

【頸】　ケイ、キヤウ。居郢切　梗　ケイ、ギヤウ。巨成切　庚
くび。
(い)頭と體とをつゞくる處、卽ち、頭莖、特に前面の稱。○〔禮〕「頭―必中」。
(ろ)物の頭莖の狀をなせる部分の稱。○〔禮〕「韠其―五-寸」。
〔短頸〕くびながからず。○〔淮〕「鳧-形―-―」。
〔延頸〕くびをのばす、遠く望む貌にいふ語。○〔史〕「―レ―而鳴」。
〔刎頸〕くびをきりはなつ、又、極めてあつき交りにいふ語。○〔史〕「爲ニ―-―之交ニ」。
〔長頸〕くびながし。○〔呉越春秋〕「―-―烏喙」。
〔頭頸〕くび。○〔禮〕「―-―必中」。
〔伸頸〕くびをながくのばす。○〔宋〕「―レ―就レ刃」。
〔駢頸〕くびをつらねならぶ。○〔揚先〕「―レ―就レ戮」。

【䫉】
貌に同じ。○〔漢〕「八肴ニ天-地之―ニ」。

【頹】　タイ、デ。杜回切　灰
㊀頹下、おとがひ。
㊁禿首、はげ、かぶろ。
㊂吹き下ろ暴風、はやて、つじかぜ、おろし。○〔詩〕「維風乃―」。
㊃墜下す、おつ、おとす。○〔阮籍〕「星-辰隕兮日-月―」。
㊄くづる。
(い)破壞しおつ。○〔禮〕「泰-山其―乎」。
(ろ)次第に下ろ。○〔嵇康〕「榮-進之心日―」。
(は)物事の衰退して振はざるにいふ字。○〔世說〕「此時風-範不レ得レ不ニ小―ニ」。
㊅くづれしむ、くづす。○〔漢〕「―ニ其土ニ」。
㊆物事に遜はざる貌にいふ字。○〔禮〕「―-乎其順也」。
㊇いだく、おもふ、(懷)。○〔司馬相如〕「遂―思而就レ牀」。
㊈水の下り流るゝにいふ字、ながる。○〔史〕「水―以絕ニ商-顏ニ」。
〔顚頹〕ころびおつ。○〔柳宗元〕「履-蹈―-―」。
〔救頹〕老頹を救療す。○〔謝靈運〕「採レ藥―レ―」。

【頮】
頮の字の譌。

【頻】　ヒン、ビン。符眞切　眞
㊀すみやか、(急)。○〔詩〕「國-步斯―」。
㊁ならぶ、(並)。○〔國〕「羣-神―行」。
㊂くり返すとのすみやかなるにいふ字、ならびつゞきて作るにいふ字、しきり。○〔列〕「汝何往-來之―」。
㊃きし、(厓)ほとり、(濱)。○〔詩〕「池之竭矣、不レ云レ自レ―」。
㊄顰に同じ、ひそむ。○〔易〕「―復厲无レ咎」。

【⿰[?]頁】　ハイ、ベ。蒲枚切　灰
曲がれる頭。

【⿰[?]頁】　ホウ、フ。普溝切　尤
鬢短くして白きと。

八畫

【頿】　シ。卽移切　支
口の上のひげ、うはひげ、くちひげ。

【⿰[?]頁】
頿に同じ。○〔左〕「生而有レ―」。

【顀】　ツヰ、ヅヰ。直追切　支
㊀でびたひ、(出-額)。
㊁項―は、まくらぼね。

【顁】　テイ、チヤウ。丁定切　徑
ひたひ、(題)。

【頲】　テイ、チヤウ。都挺切　迥
項に同じ。

【⿰委頁】　ヰ。邕危切　支
したがふ、(隨)。

【⿰[?]頁】　タイ、デ。徒回切　灰
下り墜つ、おつ。

【⿰卑頁】　ヘイ、ハイ。匹米切　薺　ヒ。普弭切　紙
首を傾く、かたぶく。

【⿰[?]頁】　ヘツ、ベチ。蒲結切　屑
―顙は、短き貌にいふ語。

【頼】　ライ。力載切　隊
―蒙は、おほふ。

【顂】　ライ。郎才切　灰
―髗は、頭の長き貌にいふ語。

【⿰[?]頁】　セイ、ジヤウ。疾政切　敬
㊀好き貌にいふ字、うつくし。
㊁はやしかた、(樂-工)、わざをぎ、(倡-優)、まなだまつかひ、(弄-人)。

【⿰[?]頁】　セイ、ジヤウ。疾郢切　梗
顯―は、好き貌にいふ語。

【顃】タン、徒甘 ドン。切 [覃] エン、余廉 オン。切 [鹽]
面ながし、おもなが。

【顄】カン、胡感 ゴン。切 [感] 胡男 切 [覃]
頷に同じ、おとがひ、あぎと。○[漢]「侈-口蹙—」。

【䪜】セツ、ゼチ。職說切 [屑]
頭みじかし。

【頜】カン、ケン。口咸切 [咸]
鴿に同じ、ひよくのとり。

【䫏】キ。去其切 [支]
みにくし（醜）。

【頿】キ。居隨 切 [支] 已恚 切 [寘]
❶小さき頭。❷かぎる（畫）。

【顅】前條に同じ。

【顧】カン、苦閑 ケン。切 [刪] ケン。居研 切 [先] ケウ、戸弔 ゲウ。切 [篠]
❶鬢の毛の少なきこと、うすびん。❷長き脰の貌にいふ字、ながし。○[禮]「數-目—脰」。

【顥】カウ、コウ。古老切 [皓]
かしら（頭）。

【顲】リン、犁針 ロン。切 [侵] 力鴆 切 [沁]
—顩は、首を俯す。

【𩓐】須に同じ。

【顆】クヮ。苦果切 [哿]
❶小さき頭。
❷圜き物を數ふるにいふ字、つぶ。○[六書故]「以レ—計」。
❸堁に同じ、つちくれ。○[漢]「使ニ其從-世曾不ㇾ得ニ蓬—蔽レ家而托ㇾ葬」。
〔熟顆〕うみたる果實などのつぶ。○[范成大]「麥-頭——巳如レ珠」。

【顆】クヮン。苦緩切 [旱]
—冬は、草の名、ふき。

【𩓥】ガン。魚肝切 [翰]
ひたひ（額）。

【䫑】イ。於宜切 [支]
うつくし（好）。

【頋】グツ、ゴチ。魚屈切 [物]
—頞は、面の短き貌にいふ語。

【顡】ギ。魚羈切 [支]
眉目。

【顇】スヰ、ズヰ。秦醉切 [寘]
やつる（顦）、やむ（病）。○[揚雄]「慶ニ夭-—而喪レ榮」。

【䫄】シュツ、ジュチ。昨律切 [質]
顣—は、面の短き貌にいふ語。

【䪵】セイ、シヤウ。子盈切 [庚]
顴—は、頭。

【頭】トウ、ツ。常侯切 [尤]
顣—は、面のゆがむこと。

【頸】オ、ウ。於五切 [麌]

首巾、かしらづつみ。

【䫜】ロク。盧谷 切 [屋] ドウ、奴鉤 ヌ。切 [尤]
うなじ（項）。

【䫶】ケン、ゲン。胡典切 [銑]
つゞる（綴）。

【䫷】ケイ、口迥 キヤウ。切 [迥] 涓熒 切 [青]
❶苧に似たる一種の植物にて皮は布と作すべきもの。○[禮]「如ニ三-年之喪一、則既—其練-祥皆行」。
❷ひとへぎぬ（襌）。○[儀]「女從-者畢袗レ玄、纚笄被ニ—黼一在ニ其後一」。

【𩓞】顢の本字。

【顢】ボン、モン。莫奔切 [元]
頭を繫ぎ殟ゆ、もだゆ。

【頷】ガン、ゴン。五感切 [感]
頭を低る、うなだる。○[左]「—レ之而已」。

【顉】頷に同じ。

【䫲】キン、コン。去金切 [侵]
曲がれる頤の貌にいふ字、ゐやくむ。○[漢]「—頤折-頞」。

【䫴】ケン、ゴン。逵員切 [先]
まがりづの（曲-角）。

【𩓕】タイ、デ。杜懷切 [佳]
頭脉る、くびぼれたがふ。

【頪】シ。秦李切 [寘]
惡き貌にいふ字。

【顛】イ 余其切 [支]
おとがひ（頤）。○[韓]「銳貫レ—」。

九畫

【䫷】グヮイ、ゲ。五恠切 [卦]
かしらおほひ。

【䫿】クヮイ、エ。荒內切 [隊]
❶面の肥えたる貌にいふ字。
❷頮に同じ、面を洗ふ、あらふ。

【䫗】ケイ、ガイ。胡計切 [霽]
人を伺ふ、うかゞふ、一說に、恐る。

【䫔】ケツ、ケチ。苦結切 [屑]
顢—は、短き貌にいふ語。

【䫘】サイ。蘇來切 [灰]
煩頷、あぎと、あぎ。○[南]「曝レ—之魚」。

【䫟】トン、ドン。徒困切 [願]
—頓は、はげ（禿）。

【顮】エン、雲阮 ヂン。切 [阮] ゲン、五遠 ゴン。切 [阮] エン、于元 ヂン。切 [元] 虞怨 切 [願]
面正しからざること。

【䫒】テツ、テチ。丁結切 [屑]
—䫫は、小さき頭の貌にいふ語。

【䫌】チン。丑甚切 [寑]
—䫫は、慄劣の貌にいふ語。

【䫈】シン。昌枕切 寢
よわし、（弱）。

【頣】シン、ジン。時鴆切 沁
頭の貌にいふ字、一說に、よわし、（弱）。

【䫚】カ、ゲ。胡加切 麻
言語度なきと、そらごと。

【頢】カツ、ガチ。胡葛切 曷
㊀健康の貌にいふ字、すこやか。㊁頢——は、聲を揚げて言ふと、又鼻さ面さ平かなるを、ひらがほ、一說に、たけし、（健）。

【𩓢】カツ、カチ。丘葛切 曷
鬠禿ぐ、はげ。

【頡】ケツ、ケチ。吉屑切 屑
頭の小さき貌にいふ字。

【題】テイ、ダイ。杜溪切 齊
㊀ひたひ、（額）。○〔禮〕「雕レ—交レ趾」。㊁かしら、（頭）。○〔孟〕「榱—數-尺」。㊂表標、志るし。○〔晉〕「欲レ墾二荒-田一、先立二表—一、經レ年無レ主、然後力-作」。㊃書籍の名號、な。○〔貞觀故事〕「皆講二「五-經—」二」。㊄述作の準的、だい。○〔燃藜餘筆〕「分レ—賦レ詩」。㊅品藻、志ながら。○〔晉〕「甄二拔人-物一、各爲二—目一」。㊆品評、志なさだめ。○〔李白〕「一-經品—、便作二佳-士一」。㊇試問、とひ。○〔唐國史補〕「換二試-—一」。㊈述作。○〔樊晃〕「皆公之戲—劇-論」。㊉卷頭に志るしたる文字。○〔米芾〕「散レ金購取重跋—」。⑪揭げ志るしたる文詞。○〔庚谿詩話〕「毘-陵薦-福-寺紅-梅-閣、士大-夫多レ留レ—」。⑫志るす、（識）。○〔世說〕「—二一鳳字一」。

（琁題）たるきのさきの玉のかざり。○〔甘泉賦〕「—-—玉-英」。
（玉題）前に同じ。○〔蜀都賦〕「—-—相暉」。
（頷題）ひたひ。○〔爾、疏〕「—-—皆謂レ額也」。
（署題）かきしるして其の名號をあきらかにしたるもの。○〔岑參〕「相憶在二—-—一」。
（破題）詩文などのはじめの句。○〔六一居士詩話〕「—-—兩-句已道二盡河-豚佳-處一」。
（平題）かぶらや、鏑。○〔方言〕「箭小而長、中穿二二孔一者、謂二之鉀-鑪一、三-鐮長六-尺者、謂二之飛-寅一、凮者謂二之—-—一」。
（御題）天子の書かれたる題字。○〔張蠙〕「壁-上新-—」。
（著題）詩文などの題意を離れざると。○〔滄浪詩話〕「詩不二必太—一レ—」。
（省題）唐より後の進士を試みる詩。○〔雪叢說〕「—-—詩考官以二古-人詩-句一命レ題」。
（議題）詩文などの題を定むる相談をすると。○〔棐發得〕「帝命二吾-儕一作二來歲狀-元賦一當レ—レ—」。

【題】テイ、ダイ。獨計切 霽
みる、（視）。○〔詩〕「—二彼脊-令一」。

【頩】ヘイ、ハイ。匹計切 霽
頭を傾くる貌にいふ字。

【額】ガク、ギヤク。五陌切 陌
㊀髮下眉上、ひたひ。○〔孟〕「疾レ首蹙レ—」。㊁堺鄂、制限、かぎり、さだめ、たか。○〔宋〕「所レ收日—」。㊂門頭欐上などに揭ぐる題識。○〔捫蝨新話〕「前-世牌-—」。

（廣額）ひたひのひろきと。○〔呂氏春秋〕「椎顙—-—」。
（豐額）前に同じ。○〔五〕「—-—駢-齒」。
（馬額）うまのひたひ、又、桑の根の地上にあらはれたるものにもいふ。○〔本草〕「桑-根見二地-上一者名二—-—一」、「有レ毒殺レ人」。
（篆額）石碑の一部に篆書もて志るしたる題字。○〔舊唐〕「李-陽冰—-—」。
（方額）かくばりたるひたひ。○〔唐〕「—-—廣頤」。
（租額）租稅のたか。○〔唐〕「不レ鐲二減—-—一」。
（定額）きまりたるたか。○〔五〕「租有二—-—一」。
（兵額）兵のさだまりたるたか。○〔宋〕「立二—-—一」。
（稅額）稅納のたか。○〔宋〕「逃-山—-—」。
（扁額）板又は紙などに書畫を志るし室內門戶などに揭ぐるもの。○〔程史〕「有二富-民捐レ貲爲二—-—一」。

【頟】俗の額の字。

【頯】キ。其季切 寘
大いなる口。

【𩓺】クワ、ケ。姑華切 麻
短頭、みじかきあたま。

【顎】ガク。五閣切 藥
㊀面の高き貌にいふ字。㊁恭嚴、うやうやし、おごそか。

【顏】ガン、ゲン。五姦切 刪
（い）眉目の閒。○〔詩〕「揚且之—也」。（ろ）ひたひ、（額）。○〔史〕「隆-準龍-—」。（は）面容、つら、つらがまへ、つらつき、かほいろ、かんばせ、かほばせ。○〔史〕「曷-鼻巨-肩魋-—蹙-齃膝-攣」。○かほ。

（厚顏）恥を恥と思はぬと、あつかまし。○〔北山移文〕「豈可レ使二芳杜—-—辟二荔蒙一レ恥」。
（天顏）帝王のかんばせ。○〔朱放〕「咫-尺二—-—一」。
（聖顏）前に同じ。○〔杜甫〕「認得—-—遙望見」。
（龍顏）前に同じ。○〔王建〕「三-封手跪獻二—-—一」。
（溫顏）顏色を和ぐると、柔和なるかはばせ。○〔漢〕「—-—遜-辭」。
（和顏）前に同じ。○〔名臣言行錄〕「—-—溫-語」。
（彊顏）厚顏といふに同じ、あつかまし。○〔漢〕「言不レ辱者所レ謂—-—耳」。
（犯顏）人を諫むる時などにその顏色に頓着せざると。○〔唐〕「每—レ—追-諫」。
（解顏）かはを和げて笑ふ。○〔列〕「夫-子始一—レ—而笑」。
（開顏）前に同じ。○〔李白〕「—レ—酌二美-酒一」。
（奴顏）奴隷の主人に對する時の顏つき。○〔抱朴〕「—-—婢-膝」。
（朱顏）酒に醉ひて赤くなりたるかほ。○〔楚辭〕「美-人旣醉—-—酡些」。
（素顏）志ろきかほ。○〔李白〕「青-紙凋二—-—一」。
（玉顏）玉の如きうつくしきかほ。○〔曹植〕「發二西-施之—-—一」。
（紅顏）赤味を帶びて美麗なるかほ。○〔楊炯〕「別-淚損二—-—一」。
（秀顏）美麗なるかほ。○〔傅休奕〕「—-—如二玉-瑋一」。
（悴顏）衰へつかれたるかんばせ。○〔劉伶〕「陳レ醴發二—-—一」。
（赧顏）羞を帶びたるかほ。○〔陶潛〕「道勝無二—-—一」。
（笑顏）笑ひがほ。○〔劉禹錫〕「高-堂開二—-—一」。
（頹顏）顏色の衰へたると。○〔歐陽修〕「青-春終不レ換二—-—一」。
（衰顏）前に同じ。○〔盧綸〕「秋-草對二—-—一」。
（容顏）かほかたち。○〔李白〕「方瞳好—-—」。
（懽顏）よろこびのあらはれたるかほ。○〔杜甫〕「天下寒-士皆—-—」。
（孱顏）山の高き貌にいふ語。○〔歐陽修〕「翠-空更—-—」。
（花顏）花の如きうつくしきかほ。○〔李白〕「後-宮嬋-娟多二—-—一」。
（苦顏）面白からざるかほいろ。○〔李白〕「思レ歸多二—-—一」。
（破顏）顏を和げて少しく笑ふ。○〔盧綸〕「逢レ人強—-—」。
（塵顏）ちり垢つきたるかほ。○〔李白〕「且得レ洗二—-—一」。
（嬌顏）うつくしきかんばせ。○〔李康成〕「—-—千-歲笑-容花」。
（別顏）離別を惜む時のかんばせ。○〔孟郊〕「酒-花薰二—-—一」。

（承顏） 人のかほつきを見てさからはざること。○〔漢〕「今乃—ㇾ—接ㇾ辭」。
（童顏） こどもの如きかほ、をさながほ。○〔孟浩然〕「——若可ㇾ駐、何惜醉二流霞一」。
（正顏） 顏色をたゞして謹嚴を表す。○〔新書〕「孔子—ㇾ—擧ㇾ杖」。
（赬顏） あかいろをおびたるかほ。○〔李賀〕「千歲無二——一」。「荊寶一」。
（麗顏） うるはしきかんばせ。○〔劉義恭〕「——邁二—映長川一」。
（瑤顏） 玉の如くうつくしきかほ。○〔劉義恭〕「——」
（憂顏） うれひをふくみたるかほ。○〔鮑照〕「涯ㇾ酒邊二——一」。
（愁顏） 前に同じ。○〔李白〕「投壺破二——一」。
（靦顏） 恥ぢたるかほつき。○〔李甫〕「野人曠蕩無二——一」。「散二——一」。
（醉顏） 酒に醉ひたるかほいろ。○〔白居易〕「春寒——」。
（酡顏） 前に同じ。○〔姚鉉〕「須臾高歌半——」。
（稚顏） をさながほ。○〔孟郊〕「——能幾日」。

【⿰革頁】 ハク。匹各切 藥
面の大いなる貌にいふ字、ふさし。

【顛】 顛、又顚に同じ。

【⿰昆頁】 コン。呼昆切 元
一くらし（聱）。二やむ（病）。
三未だ名を立てずして死ぬること。

【⿰孱頁】 サン、ゼン。雛睆切 潸 セン。雛戀切 霰
ソン。蘇困切 願
そなふ（具）。

【⿰侯頁】 コウ、グ。戸鉤切 尤
一—頭は、言の正しからざること。
二頭の字を見よ。

【顐】 ゴン。五困切 願
一頵—は、はげあたま（禿）。
二諢に同じ、たはむればなし。○〔唐〕「諧臣—官」。

【顐】 コン、ゴン。戸昆切 元
頵—は、禿げて髪なきこと。

【⿰幽頁】 アウ、エウ。於交切 肴
頭の凹める貌にいふ字、くぼし、又、大いなる首にて深き目の貌にいふ字。○〔王延壽〕「—顤顟而睽睢」。

【顑】 カン、コン。苦感切 感
饑ゑたる貌にいふ字、痩せたる貌にいふ字、饑ゑて面色の黃ばみたる貌にいふ字。○〔韓愈〕「欲下以二金帛一酬上學室常—頷」。

【顩】 ガン、ゴン。玉陷切 陷
長き面。

【⿰厰頁】 カン、コン。苦紺切 勘
食に飽かず、うゝ。

【顒】 ギョウ、グ。魚容切 冬
一大いなる頭、おほあたま。
二仰ぐ貌にいふ字、あをのく、又、嚴正なる貌にいふ字、おごそか、又、溫和なる貌にいふ字、おだやか、又、敬順なる貌にいふ字、うやうやし。○〔詩〕「——卬々」。
三壯大なる貌にいふ字、さかんなり。○〔詩〕「四牡修廣、其大有ㇾ—」。

【顓】 セン。職緣切 先
一頭容の謹める貌にいふ字、うやうやし。「古」。
二おろか（蒙）。○〔歐陽修〕「性—而嗜ㇾ古」。
三專に通じ用ふ、もッぱら、ひとり。○〔史〕「客愚無知、—妄言輕ㇾ威」。
四圓き貌にいふ字、まろし、一說に、區々の貌にいふ字、こまし。○〔漢〕「——獨居二—海之中一」。

【頏】 カウ、ガウ。何朗切 養
飛び上がり飛び下ること。

【⿰丕頁】 ヒ、ビ。滂基切 支
短き鬢の拔く貌にいふ字、ちろ、ちらばる。

十畫

【⿰羔頁】 ケウ。火幺切 蕭 馨叫切 嘯
大いなる頭、

【⿰羔頁】 ケウ。去遙切 蕭
額の大いなる貌にいふ字。

【⿰羔頁】 殞に同じ。

【⿰員頁】 コン、ゴン。胡本切 阮 胡昆切 元 ウン、チン。云粉切 吻
面の圓きこと、まるがほ。

【顗】 ギ、ゲ。魚豈切 尾 ガイ、ゲ。五亥切 賄
一しづか（靜）、やすし（靖）。
二たのしむ（樂）。
三謹莊なる貌にいふ字、うやうやし。

【⿰丕頁】 ヒ、ビ。符悲切 支
短き鬢髮の貌にいふ字。

【⿰翁頁】 チウ、ウ。烏紅切 東
翁に同じ、鳥の頸、又、頸の毛。

【⿰翁頁】 チウ、ウ。鄔孔切 董
—尢は、屈强の貌にいふ語、つよし。

【⿰兼頁】 ガン、ゲン。五咸切 咸
頰ながし、おもなが。

【⿰兼頁】 ゲン、ゴン。牛廉切 鹽
顲—は、醜き貌にいふ語。

【⿰兼頁】 カン、コン。丘檻切 豏 口陷切 陷
長き面の貌にいふ字、おもなが。

【⿰虒頁】 シ。息移切 支
一—顊は、頭の正しからざること。
二好き貌にいふ字。

【顉】 キン、コン。丘禁切 沁
首動く、うなづく。

【顄】 カン、ゴン。胡男切 覃 戸感切 感
一おとがひ（頤）。
二—淡は、水の搖く貌にいふ語。○〔馬融〕「——淡湧流」。

【願】 ゲン、グワン。魚怨切 願
一大いなる頭、おほあたま。
二ねがふ。
(い)おもふ（欲）。○〔書〕「敬修二其可ㇾ—」。
(ろ)のぞむ（望）。○〔禮〕「不ㇾ—二于大家一」。
(は)うらやむ（羨）、ほたふ（慕）。○〔禮〕「國人稱—肰曰、幸哉有ㇾ子如ㇾ此」。
(に)いのる（祈）。○〔搜采異聞〕「及ㇾ還ㇾ家賽—」。

㊂ねがふこと、ねがふ所ねがひ。○〔史〕「以求レ通二子之一一」。
㊃つねに、ここに(毎)。○〔詩〕「一二言思レ子、中心養-養」。
〔巨願〕弘大なるねがひ。○〔宋之問〕「發二無邊之一一」。
〔弘願〕前に同じ。○〔李遜〕「發二一一心」。
〔誠願〕信實なるねがひ。○〔宋〕「公-私一一」。
〔懇願〕前に同じ。○〔邵雍〕「唯一一以朝レ天」。
〔發願〕ねがひを起こす。○〔淨住子〕「同-向一一」。
〔福願〕幸福をうくるねがひ。○〔雲笈〕「但乞二一一」。
〔禮願〕神佛などを禮拜して祈りねがふ。○〔雲笈〕「二讃施二一一」。
〔誓願〕神佛などにちかひを立てねがふ。○〔法華經〕「我本立二一一」。
〔私願〕おほやけならざる自分一己のねがひ。○〔荀爽〕「內合二一一」。
〔冥願〕死後のねがひ。○〔陳子昂〕「乞遂二一一」。
〔大願〕おほいなる覬望。○〔左〕「則余一人有二一一矣」。
〔上願〕最上の覬望。○〔史〕「臣之一一」。
〔至願〕切なるねがひ。○〔後漢〕「誠不レ勝二一一」。
〔良願〕よきのぞみ。○〔陸雲〕「一一乃從」。
〔嘉願〕前に同じ。○〔南〕「副二率-土之一一」。
〔素願〕平生よりのねがひ。○〔晉〕「乞如二一一」。
〔常願〕前に同じ。○〔後漢〕「失二其一一」。
〔覬願〕のぞみのこと、又、のぞむ。○〔吳〕「穉-年之一一」。
〔本願〕本來の覬望。○〔白居易〕「必果二一一」。
〔鄙願〕おのれのねがひを稱する謙辭。○〔晉〕「斯吾之一一也」。
〔微願〕前に同じ。○〔李嶠〕「庶二一一之逢レ時」。
〔歸願〕かへりたきのぞみ。○〔宋〕「咸有二一一」。
〔志願〕こころののぞみ。○〔金〕「一一異矣」。
〔遠願〕遠大の覬望。○〔鮑照〕「衰-暮謝二一一」。
〔祈願〕神佛などにいのりねがふ。○〔梁武帝〕「若以二不殺一一一」。
〔衆願〕おほくの者のねがひ。○〔李嶠〕「俯二順一一」。
〔宿願〕久しき以前よりのねがひ。○〔李白〕「孤二負一一」。

【願】ゲン、ゴン。五遠切 [阮]

面の短き貌にいふ字。

【顙】サウ。蘇朗切 [養] 蘇郎切 [陽]
ひたひ(額)。○〔易〕「爲二的一一」。
〔廣顙〕ひろやかなるひたひ。○〔五〕「一一隆準」。
〔潤顙〕前に同じ。○〔蔡邕〕「修-臚一一善-應-對」。
〔博顙〕前に同じ。○〔易林〕「龍-角一一」。
〔[illegible]顙〕前に同じ。○〔吳越春秋〕「一一而深-目」。
〔稽顙〕ひたひを地につく、ぬかづく。○〔禮〕「一一而後拜」。
〔方顙〕ひたひのかくばりたること。○〔五〕「一一烏喙」。
〔頭顙〕あたまのこと。○〔後漢〕「一一墮レ地」。
〔隆顙〕ひたひの肉たかく起こりたるをいふ。○〔孔叢〕「河-目而一一」。
〔龍顙〕前に同じ。○〔晉〕「一一大-鼻」。

【頯】ケイ、ガイ。弦雞切 [齊]
頭の正しからざること。

【顩】キン。丘甚切 [寑]
頷に同じ、醜き貌にいふ字。

【顭】ベイ、ミヤウ。莫經切 [青]
眉目の閒、ひたひ。

【顚】テン。都年切 [先]
㊀いただき。
(い)頭上、あたま。○〔國〕「班二序一毛一」。
(ろ)額上、ひたひ。○〔詩〕「有レ馬白-一」。
(は)物の最高處、てっぺん。○〔蘇軾〕「山有レ時而童-一」。
㊁もと(本)、さき(先)。○〔陸機〕「恆操レ末以繞レ一」。
㊂さかしまにす、さかしま(倒)。○〔楚辭〕「一レ衣以爲レ裳」。
㊃くつがへる、くつがへす(覆)。○〔荀〕「以相一-倒」。
㊄たふる、たふす(仆)。○〔論〕「一-沛必於レ是」。
㊅おつ、おとす(墜)。○〔書〕「告二予一-隮二」。
㊆まよふ(迷)。○〔莊〕「一二冥乎富-貴之地一」。
㊇癲に同じ、くるふ、きちがひ。○〔唐〕「世號二張一一」。
㊈もっぱら(專一)。○〔莊〕「至-德之世、其行塡-塡其視一-一」。
〔華顚〕老人のかしら、又、老人のことにいふ語。○〔蘇軾〕「新-詩妙語慰二一一」。
〔頊顚〕つまづきたふる。○〔易林〕「一一躓レ足」。
〔樹顚〕木の最もたかきところ。○〔杜甫〕「黃-鵝在二一一」。
〔詩顚〕詩の爲に狂人の如くなること。○〔賈至〕「一一名過二草-書顚一」。
〔狂顚〕氣のくるひたること、きちがひ。○〔張籍〕「對レ花歌-詠似二一一」。
〔酒顚〕酒に心を奪はるること。○〔王建〕「傷二瘦花-枝一爲二一一」。
〔倒顚〕くつがへす、さかしまにす。○〔歐陽修〕「我衣裳二一一」。
〔傾顚〕かたぶきくつがへる。○〔梅堯臣〕「皆-榜雨棧猛二一一」。
〔隕顚〕たふれおつ。○〔舊唐〕「懼レ此一一」。

【顛】テン、デン。亭年切 [先]
㊀憂ひ思ふ貌にいふ字。○〔禮〕「喪-容纍-纍色-容一一」。
㊁闐に通じ用ふ、ふさぐ、ふさがる。○〔禮〕「盛レ氣一-實揚-休」。

【顛】テン。典因切 [眞]
いただき(頂)。○〔司馬相如〕「偃二蹇杪-一一」。

【顛】テン。他甸切 [霰]
塡に同じ。

【顛】俗の顚の字。

【顭】ベツ、メチ。莫結切 [屑]
さびあがる(頡)。

【顡】ガイ、ゲ。五罪切 [賄] キ。丘其切 [支]
㊀頭正しからず。
㊁大いなる貌にいふ字。

【顜】カウ、古項切 [講] コウ。 カク、乾岳切 [覺] コク。
あきらか(明)、やはらぐ(和)、なほし(直)。○〔史〕「蕭-何爲レ法、一若二畫-一一」。

【顝】コツ、コチ。苦骨切 [月]
㊀大いなり。㊁大いなる頭。㊂ふる(抵-觸)。㊃みにくし(醜)。㊄獨處の貌にいふ字。○〔張衡〕「一-羈-旅而無レ友兮、余安能二乎留一レ玆」。

【顝】クワイ、ケ。口猥切 [賄]
首の大骨、くびぼね。

【顝】クワ、ケ。口瓦切 [馬]
くるぶし(髁)。

【顝】クワイ、ケ。口回切 [灰]
大いなる頭。

【顅】カフ、コフ。古盍切 [合]
頷の車骨、つがひぼね。

【顅】カイ。丘蓋切 [泰]
頭の骨の貌にいふ字。

【頭】トウ、ツ。當侯切 [尤]
頭一は、面ゆがむこと、しやくしがほ。

【類】ル井。力遂切 寘 〔說文〕種類相似、唯犬爲レ甚、从レ犬頪聲。

㊀よし、(善)。○〔詩〕「克明克—」。
㊁のり、(法)。○〔楚辭〕「吾將ニ以爲レ—兮」。
㊂ためし、(例)。○〔史〕「吾將ニ以爲レ—」。
㊃こと、(事)。○〔淮〕「以レ—而取レ之」。
㊄かたち、(形)。○〔淮〕「未レ有レ—也」。
㊅たぐひ。
(い)種族、たれ、やから。○〔史〕「先-祖者—之本也」。
(ろ)同等、なみ、ともがら。○〔列〕「負レ—反レ倫」。
(は)品別、しな、わかち。○〔荀〕「壹ニ統—ニ」。
(に)比較、くらべ、てりあはせ。○〔禮〕「知レ—通-達」。
(ほ)庶衆、もろもろ。○〔淮〕「浸-想宵-—」。
㊆にる、(似)。○〔國〕「—レ有ニ太憂ニ」。
㊇かたどる、(象)。○〔呂氏春秋〕「梁-下—レ有レ人」。
㊈なむ、(並)、したがふ、(隨)、くらぶ、(比)。○〔左〕「—レ能而使レ之」。
㊉大概、おほむね。○〔史〕「—多ニ成由等ニ」。
⑪師旅の止まる處にて行ふ室內の祭事。○〔詩〕「是—是禡」。
⑫行く時に頭の左邊に卑く下がれる龜。○〔爾〕「龜左-倪-不—」。
⑬獸の名。○〔山海經〕「亶-爰之山有レ獸焉、其狀如レ貍而有レ髦、其名曰レ—、自爲ニ牝-牡ニ食者不レ妒」。

〔庶類〕いろいろのもの、萬物といふが如し。○〔魏〕「東-作方興—-—萌-動」。
〔萬類〕前に同じ。○〔陸機〕「海-物錯ニ—-—ニ」。
〔不類〕善からざること。○〔詩〕「威儀—-—」。
〔比類〕たくらぶ。○〔禮、疏〕「—-—以成ニ其行ニ」。
〔醜類〕朝命などに叛き、又、種々の惡事をはたらく徒類。○〔左〕「—-—惡-物」。
〔遺類〕征伐などせられて後にのこり居るもの、打ち餘されもの。○〔後漢〕「所レ過無ニ復—-—ニ」。
〔分類〕それぞれの區別。○〔書、序〕「別-生ニ—-—ニ」。
〔品類〕いろいろの物。○〔王羲之〕「俯察ニ—-—之盛ニ」。
〔朋類〕朋友、同儕。○〔魏〕「不レ能レ協ニ同—-—ニ」。
〔儕類〕同輩のこと。○〔晉〕「—-—以レ此少レ之」。
〔儔類〕前に同じ。○〔阮籍〕「自傷レ非ニ—-—ニ」。
〔酷類〕太だしく似て居ること。○〔晁補之〕「秀-才—-—東-野貧ニ」。
〔凶類〕奸惡のともがら。○〔晉〕「殲-ニ殄—-—ニ」。
〔姻類〕婚姻を通じたる間柄のもの。○〔魏〕「崇-敬篤ニ于—-—ニ」。
〔親類〕近親の間柄、みより。○〔魏〕「內-外—-—莫レ有ニ求者ニ」。
〔名類〕名目。○〔唐〕「—-—頗多」。
〔生類〕天地間に生をうけたるすべてのもの。○〔東京賦〕「常畏ニ—-—之殄ニ也」。
〔同類〕たぐひを異にせず、なかま。○〔孟〕「聖-人與レ我—レ—者」。
〔善類〕善良なるともがら。○〔子華子〕「旌ニ—-—ニ」。
〔出類〕たぐひの者よりすぐれまさる。○〔孟〕「—ニ於其—ニ」。
〔異類〕種類の同じからざるもの、又、たぐひを同じうせず。○〔國〕「異レ德則—レ—」。
〔殊類〕前に同じ。○〔南〕「—レ—同レ規」。
〔噍類〕人畜などのたぐひ。○〔漢〕「屢-城無ニ—-—ニ」。
〔種類〕たぐひ。○〔論衡〕「殆無ニ—-—ニ」。
〔族類〕同じやからのなかま。○〔左〕「非ニ我—-—ニ」。
〔似類〕肖似す、にる。○論「事相—-—」。
〔人類〕人のこと。○〔莊〕「—-—恐レ之」。
〔譬類〕譬喩。○〔後漢〕「言-語多好ニ—-—ニ」。
〔黨類〕なかま。○〔後漢〕「惡ニ傷—-—ニ」。
〔植類〕植物。○〔竹譜〕「—-—之中」。
〔動類〕動物。○〔謝靈運〕「—-—亦繁」。
〔毛類〕獸類。（〔曹植〕「野無ニ—-—ニ」。

【頪】ライ、レイ。盧對切 隊
かたよる、(偏)。○〔左〕「刑之頗—」。

【𩔈】ベイ、マイ。緜批切 齊
—頤は、頭の垂るゝ貌にいふ語。

【顫】セン。諸延切 先
ひたひ、(額)。○〔揚雄〕「—、頟、顏、額也」。

【頤】イ。以之切 支
㊀やしなふ、(養)。
㊁輔車の骨、つらがまちのほね。

十二畫

【頙】サク、シヤク。側革切 陌
—頙は、頭正しからざる貌にいふ語。

【顤】ガウ、ゴウ。五勞切 豪 五到切 號
高く大いなり、たかし、ふとし。

【顲】ラン、ロン。盧含切 覃
—顲は、首を俯する貌にいふ語。

【䫩】サン、ソン。桑感切 感
頭を搖かすこと。

【𩕗】バ、マ。莫霞切 麻
—𩕗は、語り難し、ことどもる。

【𩔰】前條に同じ。

【顟】レウ。力弔切 篠 力嘲切 蕭
—顟は、頭の長き貌にいふ語。

【顟】レウ 憐蕭切 蕭
高鼻深目の貌にいふ字。

【𩖄】サウ。疎兩切 養
みにくし、(醜)。

【顠】ヘウ。婢小字 篠 匹妙切 嘯
髮白し。

【顠】ヘウ、紕招切 蕭 匹沼切 篠
鬡に同じ、髮の亂るゝ貌にいふ字 ○〔楚辭〕「—鬡白」。

【顡】ギ、ゲ。魚既切 未 グワイ、ゲ。五恠切 卦
癡—は、聽明ならざること。

【䫈】タイ、テ。他恠切 卦
顔惡し、みにくし。

【顡】タイ、テ。迍恠切 卦 ガイ、ゲ。五罪切 賄
㊀頭を擊つ聲にいふ字。
㊁聉—は、志なきこと。

【顢】バン、マン。母官切 寒
—頇は、大いなる面。

【𩓿】チウ、ウ。烏侯切 尤
—顬は、面ゆがむこと、しやくしがほ。

【顊】ヒ。府移切 支
㊀須髮の半白なること。
㊁髯の貌にいふ字。

【䫫】髏に同じ。

【顣】シユク、ソク。子六切 屋 セキ、シヤク。倉歷切 錫
面を促む、しかむ。○〔孟〕「已頻-—曰、惡用ニ是鶂-々者ニ爲哉」。

【䫣】顱に同じ。

【𩔨】コク。曉谷切 屋
さいはひ、(祿)。

十三畫

【䪷】コウ、ク。呼孔切 董
肥えたる貌にいふ字。

【䫂】セン。旨善切 銑
人を倨り視る、みさぐ。

【𩕄】シン、ソン。所錦切 寢
𩕄—は、懦弱なる貌にいふ語、よわし。

【顥】カウ、ゴウ。古老切 皓
廣大なる貌にいふ字。

【𩕯】カウ、ゴウ。胡刀切 豪
𩕯—は、大いなる面の貌にいふ語。

【顤】カウ、ケウ。許交切 肴 ゲウ。五聊切 蕭 五弔切 嘯
面の高き貌にいふ字、高く長き頭の貌にいふ字、首を擧ぐる貌にいふ字、又、たかし(高)。○[王延壽]「嶢—顟而睽唯」。

【䪻】ハ、バ。薄波切 歌
㊀皤に同じ、しろし。
㊁勇み舞ふ貌にいふ字。

【𩕳】ヘン、バン。符袁切 元
白き喙、くちばし。

【𩕾】シン、ソン。章荏切 寢
㊀頭を低るゝ貌にいふ字。
㊁頭鋭りて長し。

【𩔳】シン、ソン。七稔切 寢
よわくおさろ(懦劣)。

【䫌】クワイ、エ。戸賄切 賄
頭の貌にいふ字。

【䫏】クワイ、エ。胡對切 隊
髪なき貌にいふ字。

【䫐】サン、ゾン。常含切 覃
顙—は、首を俯する貌にいふ語。

【顡】顙に同じ。

【顥】カウ、ゴウ。胡老切 皓
㊀白き貌にいふ字、光る貌にいふ字。○[楚辭]「天白—-—」。
㊁おほいなり(大)。○[班固]「—-氣之清-英」。
㊂天邊の浩氣。○[盧肇]「列-刹映ニ乎霄——ニ」。
㊃西、又、秋。○[漢]「西-—沆-碭」。

【𩖍】ヘン、ボン。符袁切 元
大いに醜き貌にいふ字、みにくし。

【𩕲】リン。良忍切 軫
㊀事を愼む、つゝしむ。
㊁頭に髪少なし、うすし。

【𩕴】セン。須緣切 先
圓き面、まるがほ。

【顦】セウ、ゼウ。昨焦切 蕭
憂ひ又は瘦せて容色のかはれるにいふ字、やつる。○[屈平]「顏-色—-顇」。

【顧】コ、ク。古慕切 遇 公戸切 麌
㊀かへりみる。
(い)首を廻らし見る、ふりむく。○[論]「不ニ內—ニ」。
(ろ)旋視す、みまはす、みまはる。○[詩]「—レ我復レ我」。
(は)反省す、たちかへる、(過ぎにし事に、吾が身に)。○[書]「—ニ乃德ニ」。
(に)おもふ、(念)。○[詩]「不レ—ニ其後ニ」。
(ほ)いつくしむ、(眷)。○[詩]「屢—ニ爾僕ニ」。
㊁かへる(反)。○[呂氏春秋]「子以レ死爲レ—」。
㊂うらはらにて、かへりて。○[史]「—不レ易耶」。
㊃たゞ(但)。○[禮]「上有ニ大-澤ー則惠必及レ下、—上先下後耳」。
㊄雇に同じ、むくゆ、やとひ。○[漢]「斂ニ民財ー以—ニ其功ニ」。
㊅ひく(引)。○[後漢]「郭-林-宗-范-滂等爲ニ八—ー言能以ニ德-行ー引レ人者也」。

〔狼顧〕狼の性能く後を見るよりみかへるとにいふ。○[史]「燕猶—-—而不レ能レ支」。
〔指顧〕ゆびさしみる。○[東都賦]「—-—倏-忽」。
〔反顧〕後をみかへる。○[北]「令ニ人無ニ—-—憂ニ」。
〔八顧〕漢の靈帝の時、時人郭泰范滂等八人を稱していふ、德行を以て能く人を導くの意なりとぞ。○[張說]「天-下謂ニ之—-—ニ」。
〔四顧〕(い)四方を見まはすと。○[莊]「爲レ之—-—、爲レ之躊-躇」。
(ろ)四方、あちらこちら。○[古詩]「—-—何茫-々」。
〔懷顧〕したひおもふ。○[詩]「茫-々—-—」。
〔枉顧〕自分より目上の人の尋ね來るにいふ語。○[袁士元]「—-—問-勞長-者車」。
〔左顧〕(い)前に同じ、古は長者右に居り、少者左に居る、故に長者の少者を顧みるをいふ。○[漢]「子-高乃幸—-—存-恤」。
(ろ)左方を視る、ひだりわきにみると。○[古樂府]「入レ門時—-—」。「—ニ」。
〔盼顧〕かへりみる。○[許由箕山歌]「誰不ニ—-—」。
〔瞻顧〕かへりみる。○[後漢]「互相—-—」。
〔睠顧〕前に同じ。○[史]「—ニ—楚-國ニ」。
〔思顧〕おもふと。○[漢]「—ニ—舊-恩ニ」。
〔寵顧〕目上などのあつきいつくしみをいふ。○[宋]「—-—方隆」。
〔愛顧〕前に同じ。○[楊修]「—-—之隆」。
〔仰顧〕高きを仰ぎみる。○[江淹]「崩-壁—-—」。
〔後顧〕うしろみる。○[元稹]「—-—前-瞻高-樹枝」。

十三畫

【𩖄】ガフ、ゴフ。五盍切 合
歜—は、首の動く貌にいふ語。

【顩】ゲン。魚檢切 琰
㊀齒の整はざる貌にいふ字、たがふ。
㊁狹き面にて頤の鋭りたる貌にいふ字、さがりがほ。

【𩖃】ケン、丘檢切 琰
面の平かならざると。

【𩖂】カン、コン。呼濫切 勘
癡かなる貌にいふ字。

【顉】チン、ドン。直稔切 寢 キン、コン。丘甚切 寢 カン、コン。丘凡切 咸
—頤は、醜し。

【𩕼】顑に同じ。

【顑】カン、ゴン。胡紺切 勘
顑—は、頭面の平かならざると。

【𩕿】カン、ゴン。胡紺切 勘
火氣に臨む、ひにあたる。

【𩖆】トク、ドク。徒谷切 屋

——顤は、頭の骨。

【⿰禁頁】 キン、ゴン。渠飲切 [寑] ケイ、ギヤウ。渠領切 [梗]

㊀顤——は、懦劣なるを。㊁いかる、(怒)。

【⿰禁頁】 イン、オン。于禁切 [沁]

——顩は、切齒して怒る貌にいふ語。

【顪】 クワイ、ケ。許穢切 [隊]

ほゝ、(頰)、又、頤の下の毛。○〔莊〕「接二其鬚一、壓二其——一」。

【顫】 セン。之膳切 [霰]

㊀頭正しからざるにいふ字、ねじく、まがる。
㊁手足の寒さに感じて動くにいふ字、ふるふ、わなゝく。

【⿰亶頁】 セン。尸連切 [先]

氣臭をかぐに審かなるを。○〔莊〕「鼻徹爲レ——」。

【⿰嗇頁】 ショク、シキ。所力切 [職]

ほゝ、(頰)。

【⿰敖頁】 ガウ、ゴウ。五高切 [豪]

高し。

【⿰亶頁】 タン、トン。亭紺切 [勘]

——顲は、頭の貌にいふ語。

十四畫

【顬】 ジユ、ニユ。人朱切 [虞]

顳——は、耳の穴の動くを。

【⿰盍頁】 カイ。丘蓋切 [泰]

頭の骨の貌にいふ字。

【⿰壽頁】 タウ、トウ。都牢切 [豪]

——顢は、大いなる面の貌にいふ語。

【⿰夢頁】 コウ。呼肱切 ボウ、モウ。彌登切 [蒸]

くらし、(惛)。

【⿰臱頁】 ベン、メン。武延切 [先]

㊀ひさつ、(隻)。㊁ふたご、(孿)。
㊂うつくし、(美)。

【⿰蒙頁】 ボウ、モウ。母摠切 [董]

——顭は、頭昏む、くらむ、まよふ。

【⿰旖頁】 イ。於離切 [支]

睇眄(うつくしきめ)の貌にいふ字、美容の貌にいふ字。

【⿰寧頁】 デイ、チイ。乃挺切 [迥]

いたゞき、(頂)。

【⿰賓頁】 ヒン。必鄰切 [眞]

いきごほる、(憤懣)。

【顯】 ケン、ゲン。呼典切 [銑]

㊀あきらか。
(い)光明、ひかり。○〔詩〕「有周不レ——」。
(ろ)著明、いちじろし。○〔揚雄〕「上罔レ——二於羲皇一」。
(は)分明、あざやか。○〔詩〕「無レ曰レ不レ——」。
(に)公然、おもてむき。○〔國〕「不二敢——然布レ幣行ヒ禮」「諫一」。
(ほ)露出、むきだし。○〔禮〕「不二——
(へ)すべて能く見聞認知せらるゝにいふ字。○〔書〕「天有二——道一」。
㊁あらはる。
(い)あきらかになる、みゆ、きこゆ、しらる。○〔史〕「名——二諸侯一」。
(ろ)榮達す。○〔孟〕「未下嘗有二——者一來上」。
㊂あらはれしむ、あらはす。○〔孝〕「——二父母一」。
㊃あきらかなる物事、あらはれたる位地。○〔潘岳〕「防レ微側レ——」。
㊄あらはに、(陽)。○〔韓〕「——爲二名高一」。

〔尊顯〕 位貴く名著る、又、たふとびあらはす。「——」。○〔漢〕「吾能——二之一」。
〔通顯〕 位高く名望の著るゝを。○〔北〕「位望——」。
〔高顯〕 たかくあらはる。○〔杜篤〕「——弘麗」。
〔表顯〕 あらはす。○〔後漢〕「——二儒術一」。
〔旌顯〕 前に同じ。○〔後漢〕「宜レ褒二——一」。
〔隱顯〕 かくるとあらはると。○〔北〕「——二人間一」。
〔晦顯〕 前に同じ。○〔歐陽修〕「其世次——」。
〔顯々〕 德などの著明なる貌にいふ語。○〔詩〕「——令德」。
〔富顯〕 とみさかゆると。○〔漢〕「——二于世一」。
〔昭顯〕 あきらかにあらはる、又、あきらかにあらはす。○〔漢〕「——二天地一」。
〔彰顯〕 前に同じ。○〔後漢〕「不レ欲レ——二其名一」。
〔褒顯〕 稱譽しあらはす。○〔後漢〕「——二儒術一」。
〔榮顯〕 家さかえて名望あらはるゝを。○〔隋〕「——二一時一」。
〔赫顯〕 いちじるしくあらはる。○〔宋〕「撫二——」「惡一」。
〔明顯〕 あきらかにあらはる。○〔淨住子〕「卓然——」。
〔清顯〕 高きくらゐ。○〔蜀〕「歷二職——一」。
〔標顯〕 示しあらはす。○〔唐〕「乃著二白衣一自——」。
〔貴顯〕 高き位に在る人。○〔南〕「外戚——」。
〔隆顯〕 位高くして名の世にあらはるゝを。○〔南〕「昆弟——」。

【顯】 ケン、ゲン。曉見切 [霰]

みる、(覿)。

【⿰訔頁】 ヘイ、ビヤウ。皮名切 [庚]

言多し。

【⿰粦頁】 リン。力忍切 [軫]

頭髮少なき貌にいふ字。

十五畫

【⿰嚴頁】 ゲン、ゴン。魚怨切 [願]

㊀いたゞき、(顚・頂)。㊁古の願の字。

【顩】 ゲン。魚檢切 [琰]

平かならざる貌にいふ字。

【⿰樊頁】 ヘン、ボン。附袁切 [元] フン、ボン。符分切 [文] ヘン、ホン。翻阮切 [阮]

大いに醜き貌にいふ字。

【顰】 ヒン、ビン。毗賓切 [眞]

憂愁して額を蹙む、しかむ、ひそむ。○〔駱賓王〕「愁眉柳葉——」。
〔效顰〕 まねひて眞似をす。○〔文心雕龍〕「——之心」。
〔嬌顰〕 美人の眉を蹙むるを。○〔梁簡文帝〕「映鏡學二——一」。

【顎】 ガク。五各切 [藥]

つゝしむ、(嚴・敬)。

【⿰齒頁】 クワツ、ゲチ。五戞切 [黠]

——齾は、齟齬するを、くひちがふ。

十六畫

【⿰噩頁】 顎に同じ。

【顉】キン、コン。欽錦切 寢　ケン、コン。丘廉切 鹽
顉—は、醜し。

【顩】ケン。魚檢切 琰
顩—は、面の平かならざること。

【顱】ロ、ル。落胡切 虞
頭骨、かうべ、あたま。○〔抱朴〕「淳于能解レ—」。
〔圓顱〕まろきあたま。○〔南〕「方趾——」。
〔頭顱〕あたま。○〔陳造〕「每レ臨二清鏡一笑二——一」。
〔的顱〕馬のあたまの毛の白きまだら。○〔晉〕「亮所レ乘馬有二——一」。
〔盆顱〕されかうべ。○〔博雅〕「——謂二之髑髏一」。

【顲】ラン、ロン。盧感切 感
面の痩せたる貌にいふ字。

【顲】リン、ロン 力稔切 寢
色を作す貌にいふ字。

【顲】ラン、ロン。郎紺切 勘
面色の黃なる貌にいふ字。

【顟】カウ、ケウ。口交切 肴
面の平かならざること。

十七畫

【⿰薨頁】コウ。呼肱切 蒸
くらし、(惛)。

【⿰霝頁】レイ、リヤウ。郎丁切 青
面の痩せたること。

【⿰毚頁】サン、セン。初銜切 咸
〔⿰毚頁⿰毚頁〕—は、頭の貌にいふ語。

【⿰毚頁】サン、ゼン。仕儳切 陷
頭長し、ながし。

【⿰嬰頁】エイ、ヤウ。於郢切 梗
頸の瘤、こぶ。

十八畫

【顳】ゼフ、ヂフ。而涉切 葉
㊀耳前、みゝたびら。
㊁—顬は、鬢の骨。
㊂—顬は、耳前の動くこと。

【顴】ケン、ゴン。巨員切 先
ほゝぼね、(頄)、つらがまちのほね、(輔骨)。○〔北〕「長-頸高—」。
〔頰顴〕ほゝぼね。○〔陸游〕「面瘦漸生雙——」。

【⿱頁夏】ヒ、ビ。皮媚切 寘
まゆ、(眉)。

風部

【風】フウ、フ　方戎切 東
㊀大氣の動搖せるもの、かぜ。○〔莊〕「大-塊噫-氣其名爲レ—」。
㊁かぜ起こる、かぜたつ、かぜふく。○〔詩〕「終—且暴」。
㊂かぜに乘ず、かぜに中つ、すゞむ、さらす。○〔論〕「浴二乎沂一—二乎舞-雩一詠而歸」。
㊃散す。○〔易〕「—以散レ之」。
㊄放佚す、はなる。○〔書〕「馬-牛其—」。
㊅牝牡相誘ふこと。○〔左〕「—馬-牛不二相及一」。
㊆疾きこと。○〔左〕「免レ胄而趨—」。
㊇傳はること。○〔唐〕「託以二—聞一」。
㊈敎化、をしへ。○〔書〕「咸仰二朕德一、時乃—」。
㊉慣習、ならはし。○〔禮〕「移レ—易レ俗天下皆寧」。
⑪けしき、おもむき、やうす、ありさま。○〔史〕「有二國-士之—一」。
⑫四肢などのひきつる疾。○〔左〕「—淫末-疾」。
⑬狂疾、きちがひ　○〔神異經〕「一-名狂、一-名顚、一-名狷、一-名—」。
⑭地方の詩歌音曲、うた、ふし。○〔山海經〕「始作二樂—一」。
〔國風〕邦國の風俗、又、諸國に謳誦されたる詩。○〔張九齡〕「陳詩問二——一」。
〔谷風〕ひがしかぜ、東風。○〔詩〕「習-々——」。
〔涼風〕きたかぜ、北風、又、すゞしきかぜ。○〔爾〕「北-風謂二之——一」。
〔凱風〕みなみかぜ、南風。○〔詩〕「——自レ南」。
〔泰風〕にしかぜ、西風。○〔爾〕「西-風謂二之——一」。
〔飄風〕つじかぜ。○〔詩〕「——自レ南」。
〔廻風〕前に同じ。○〔楚辭〕「悲二——之搖レ蕙兮」。
〔旋風〕前に同じ。○〔高適〕「一-日千-里如二——一」。
〔晨風〕(い)鶉の異名、たか。○〔詩〕「鴥彼——」。(ろ)あかつきのかぜ。○〔書〕「帶二——一而更輕」。
〔曉風〕前の(ろ)に同じ。○〔唐明皇〕「雞-聲逐二——一」。
〔暗風〕前に同じ。○〔江淹〕「戾-々——急」。
〔且風〕前に同じ。○〔周捨〕「透-遙乘二——一」。
〔溫風〕あたゝかなるかぜ。○〔禮〕「季-夏之月、——始至」。
〔暖風〕前に同じ。○〔呂氏春秋〕「季-秋行二春令一則——至」。
〔盲風〕疾風、ときかぜ。○〔禮〕「仲-秋——至」。
〔颶風〕前に同じ。○〔江淹〕「戾-々——擧」。
〔扶風〕前に同じ。○〔淮〕「疾-風曰二——一」。
〔迅風〕前に同じ。○〔張衡〕「翼二——一以揚レ聲」。
〔暴風〕あらきかぜ。○〔禮〕「孟-冬行二夏-令一、則國多二——一」。
〔飈風〕前に同じ。○〔爾〕「暴風從レ下上曰二——一」。
〔猋風〕前に同じ。○〔漢〕「至如二——一」。「——」。
〔狂風〕前に同じ。○〔杜甫〕「霹-靂閃-雨聲二——一」。
〔頹風〕(い)前に同じ。○〔爾〕「暴-風從レ上下曰二——一」。(ろ)くづれみだれたる風俗。○〔桓溫〕「鎭二-靜——一」。
〔霾風〕つちをふらすかぜ。○〔爾〕「風而雨レ土曰二——一」。
〔曀風〕くもりてふくかぜ。○〔爾〕「陰而風爲二——一」。
〔光風〕雨後日いでて風ふき草木皆ひかりあるをいふ、又、うまごやしといふ草の異名。○〔楚辭〕「——轉レ蕙」。
〔猛風〕つよきかぜ。○〔廣雅〕「——大風也」。
〔大風〕前に同じ。○〔漢高祖〕「——起兮雲飛揚」。
〔剛風〕前に同じ。○〔顧瑛〕「棲-鶻欲レ去引二——一」。
〔颲風〕前に同じ。○〔梁元帝纂要〕「猛-風曰二——一」。
〔勁風〕前に同じ。○〔張正見〕「深-松有二——一」。
〔屏風〕(い)ついたて、べうぶ。○〔漢〕「威頭將二——一」。(ろ)草の名、水葵。○〔楚辭〕「——紫-莖」。
〔仁風〕仁德のこと。○〔唐太宗〕「敭二——于區-外一」。
〔條風〕東北方より吹き來るかぜ。○〔史〕「——居二東-北一、主レ出二萬-物一」。
〔古風〕(い)古法といふに同じ、むかしのかた。○〔杜甫〕「論レ兵邁二——一」。(ろ)古體の詩。○〔杜甫〕「李白有二——五-十-七-首一」。
〔御風〕かぜに乘る。○〔莊〕「列-子——而行」。
〔順風〕おひてかぜ。○〔王褒〕「叙-乎如下鴻-毛之遇二——一」。
〔冷風〕ひやゝかなるかぜ。○〔王融〕「清-畝——」。
〔暄風〕はるかぜ。○〔梁元帝纂要〕「春-風曰二——一陽-風一」。
〔商風〕あきかぜ。○〔梁元帝纂要〕「秋-風曰二——一素-風淒-風高-風一」。
〔陰風〕冬のかぜ。○〔梁元帝纂要〕「冬-風曰二嚴-風哀-風一」。
〔勵風〕極めてよわきかぜ。○〔梁元帝纂要〕「微-風曰二——一」。
〔微風〕前に同じ。○〔杜甫〕「——燕-子斜」。
〔眠風〕さゝやかなるかぜ。○〔梁元帝纂要〕「小-風曰二——一」。

(隙風) すきあなより吹き來るさゝやかなるかせ。○〔梁元帝纂要〕「小風從ㇾ孔來曰二——一」。
(颶風) 海中の大風、羊角風ともいふ、はやて。○〔張衡〕「大鯨吹ㇾ浪鼓二——一」。
(錬風) 颶風の起こるさきに吹くかせ。○〔嶺南志〕「颶風將ㇾ發、有二微風細雨一、先緩後急、謂二之——一」。
(舊風) むかしのふり。○〔皇甫謐〕「俗有二——一」。
(悲風) さびしくさむけにふくかせ。○〔李陵〕「但聞二——蕭條之聲一」。
(景風) 南方のかせ。○〔史〕「南方——夏至至」。
(眞風) いつはりなき德風。○〔潘岳〕「——既散」。
(英風) すぐれたる德風。○〔孔稚珪〕「張二——于海甸一」。「——秀ㇾ世」。
(道風) 道德のとゝ、れもに道家にいふ。○〔任昉〕「——
(瑞風) めでたきかせ。○〔袁爽〕「朱旗轉二——一」。
(祥風) 前に同じ。○〔闔丘歌〕「乘二春氣一御二——一」。
(晩風) 日暮のかせ。○〔李白〕「蓮舟颺二——一」。
(輕風) 微風といふに同じ、よわきかせ。○〔杜甫〕「——生ㇾ浪遲」。
(細風) 前に同じ。○〔杜甫〕「春臺引二——一」。
(師風) 師の德にも師のさまにもいふ。○〔北齊〕「可ㇾ謂ㇾ遊得二——一」。
(相風) 風の方向を知る具、かざみ。○〔述征記〕「有二——銅烏一」。
(懷風) うまごやしといふ草の異名。○〔西京雜記〕「苜蓿一名二——一、茂陵人謂二之連枝草一」。
(濕風) 濕氣をふくみたるかせ。○〔庾肩吾〕「——含二酒氣一」。
(背風) おひかせ。○〔庾信〕「烏巢喜二——一」。
(野風) のはらをふくかせ。○〔上官儀〕「蟬噪——秋」。
(少女風) あめまへのかせ。○〔魏註〕「樹上已有二——微一」。
(黃雀風) 六月中に吹く東南のかせ。○〔五雜組〕「六月中有二東南風一、謂二之———一」。
(鯉魚風) あきのかせ。○〔五雜組〕「李賀詩、門外流水江陵道、鯉魚風起芙蓉老、———乃九月風也」。
(石尤風) 一に石郵風に作る、海中の暴風、はやて。○〔五雜組〕「海風謂二之颶風一、以二其具二四方之風一、郎———四面斷二行旅一者也、相傳石氏女嫁爲二尤郎婦一、尤出不ㇾ歸、妻憶之至ㇾ死。曰、吾當ㇾ作二大風一爲二天下婦人一阻二商旅一也、故名二——一云」。
(四面風) 東西南北一時に起こるかせ。○〔子夜歌〕「招取———」。
(扶搖風) あらきかせ。○〔爾雅〕「暴風從ㇾ下上亦曰二———一」。
(結繩風) 太古のさま。○〔陸游〕「深村人有二——一」。
(明庶風) 東方のかせ。○〔史〕「———居二東南一」。
(淸明風) 東南方のかせ。○〔史〕「———居二東方一、衆物盡出也」。
(閶闔風) 西方のかせ。○〔史〕「西方———秋分至」。
(不周風) 西北方のかせ。○〔史〕「西北方———立冬至」。
(廣莫風) 北方のかせ。○〔史〕「北方———冬至至」。

【風】 フウ、フ。方鳳切 送
諷に同じ、さとす、ほのめかす。○〔詩、序〕「下以ㇾ—刺ㇾ上」。

【凬】 古文の風の字。○〔正字通〕「—从二天气形一、从二日中出一气成ㇾ風」。

二畫

【⿰風刀】 タウ、テウ。勑交切 肴
—⿰風高は、風の吹く貌にいふ語、又、熱き風。

三畫

【⿰風勺】 飊に同じ。

【⿰風勺】 ホウ、薄紅切 東 フウ、フ。歩留切 尤
風の貌にいふ字。

【⿰風凡】 前條に同じ。

【⿰風工】 コウ、グ。戸公切 東
一 風の聲にいふ字。二 大風。

【⿰風勺】 ラウ、レウ。力交切 肴
風の聲にいふ字。

四畫

【⿰尢風】 クワウ、ガウ。乎萌切 庚
大風。

【⿰風厷】 前條に同じ。

【⿰風厷】 コウ。呼弘切 蒸
飋に同じ。

【⿰風日】 イツ、イチ。於筆切 質
大風。○〔庾闡〕「迴—泱漭」。
(𩗗颭) とくふく風の聲にいふ語。○〔王勃〕「臨二風—颭之——一」。

【颫】 フ、ブ。防無切 虞
一 —⿰風劦は、上より吹く風、ふきおろし。二 大風。

【⿰風屯】 トン、ドン。徒渾切 元
風。

【⿰風少】 サウ、セウ。楚交切 肴
風起こる、おこる。

【⿰風夬】 ケツ、ケチ。呼決切 屑
風。

【⿰風今】 カン、コン。姑南切 覃
風。

【颬】 カ、ケ。許加切 麻
一 風の貌にいふ字。二 口を開き氣を吐く貌にいふ字。○〔張衡〕「舍利——化爲二仙車一」。

【⿰風乇】 ハウ、ホウ。普袍切 豪
輕き貌にいふ字。

【⿰風火】 フウ、フ。非鳳切 送
たく、(焚)。

【⿰風冈】 バウ、マウ。微昉切 養
たてにふくかぜ、(經風)。

五畫

【⿰風必】 ヘツ、ヘチ。普蔑切 屑
小風の貌にいふ字、そよかぜ。

【⿰風必】 颮、又、飃に同じ。

【⿰風卯】 リウ、ル。力久切 有
一 風の聲にいふ字。二 ⿰風劦——は、はるかぜ、(緒風)。

【⿰風令】 レイ、リヤウ。郎丁切 青
寒き風。

【⿰風召】 テウ。敕宵切 蕭
涼しき風、淸き風。

【颭】 セン。占琰切 琰
風吹きて浪動く、なみたつ、又、すべて風の物を動かすにも物の風に動くにもいふ字、うごく、うごかす。○〔柳宗元〕「驚風亂—芙蓉水」。

【⿰風幼】 イウ、於柳切 有 ウ。於蚪切 尤
一 風の聲にいふ字。

㊁——颲は、はろかぜ(猪-風)。

【⿺風术】ケツ、ケチ。許劣切 屑　シュツ、ジュチ。雪律切 質
小風の貌にいふ字、そよかぜ。

【⿺風它】イ。弋支切 支
風旋同す、めぐる、又、旋同風、つむじ。○〔廣韻〕「小ニ—於地一」

【⿺風出】クツ、コチ。曲勿切 物
風。

【⿺風号】カウ、ゴウ。乎刀切 豪
風の聲にいふ字。

【⿺風戉】ケツ、コチ。許月切 月
風。

【⿺風尼】イ。羊脂切 支
㊀大風、おほかぜ。㊁風反ろ。

【颮】ヘウ。卑遙切 蕭
飆に同じ、あらし、(暴-風)。○〔班固〕「風-—雷-激」。

【颮】ハウ、ベウ。薄交切 肴
風の聲にいふ字。

【颮】ハウ、ベウ。皮教切 效
風の貌にいふ字。

【颮】ハク、ホク。匹角切 覺
衆多の貌にいふ字、おほし。○〔班固〕「——紛-々」。

【⿺風乇】ハク、ホク。弼角切 覺
物の空より墮つる貌にいふ字。

【⿺風甘】カン、ゴン。戸紺切 勘
㊀風の定まる貌にいふ字。㊁風の聲にいふ字。

【⿺風永】コウ、グ。戸孔切 董
風の貌にいふ字。

【颯】サフ、ソフ。蘇合切 合　ソク。蘇谷切 屋
㊀翔風、はやて。㊁風の聲にいふ字。○〔宋玉〕「有レ風——然至」。㊂衰へたる貌にいふ字。○〔杜甫〕「白-首—凄其」。㊃盛んなる貌にいふ字。○〔顏延之〕「賓-御紛——沓」。
〔颯颯〕風の聲にいふ語。○〔呂同〕「——無レ所ニ於散ニ」。
〔衰颯〕さびしくおとろへたること。○〔張九齡〕「庭-樹日——」。
〔蕭颯〕さびしき風の聲にいふ語。○〔陳後主〕「寒-氣尚——」。
〔颯纚〕あめかせなどの疾き貌にいふ語。○〔江總〕「雨鳴、林而——」。

【⿰立風】リフ。力入切 緝
——飂は、大風。

【⿺風弗】フツ、ホチ。分物切 物
小風、そよかぜ、一説に、疾風、ときかぜ。

【颰】ハツ、バチ。蒲撥切 曷　ハツ、ホチ。方伐切 月
疾き風。

【⿺風立】
颯に同じ。

【⿺風㠯】イ。延知切 支
微風、そよかぜ。

六畫

【⿺風共】コウ。呼東切 東
風の聲にいふ字。

【颲】レツ、レチ。良薛切 屑
勢の猛惡なる風、はやて、又、風雨の暴かに至るを、あらし。

【⿺風劦】レイ、ライ。郎計切 霽
はやて(急-風)。○〔郭璞〕「廣-莫—而氣整」。

【⿺風戌】キツ、キチ。許聿切 質
小風の貌にいふ字、そよぐ。

【⿺風休】キウ、ク。許鳩切 尤
——瑟は、風の聲にいふ語。

【⿺風彡】ヘウ。布遙切 蕭
つじかぜ(狂-風)。

【颳】クワツ、ケチ。古滑切 黠
あらきかぜ(惡-風)。

【⿺風吉】キツ、キチ。閑吉切 質
風の貌にいふ字。

【⿺風舟】
古の帆の字、亦、𩙪に作る。

【⿺風劦】ケフ。檄頰切 葉
風調ふ。

【⿺風劦】レフ。力協切 葉

七畫

【⿺風孛】ホツ、ボチ。薄沒切 月
風の貌にいふ字。

【⿺風利】リツ、リチ。力質切 質　リ。力至切 寘
颲——は、暴風、あらきかぜ、又、風雨にはかに至れるを、あらし。

【⿰女風】ダイ、ヂ。奴罪切 賄
風の動く貌にいふ字。

【⿰兒風】エン。以絹切 霰
㊀穀物を揚ぐるを、もみをひあぐ。㊁小風、そよかぜ。

【⿺風兌】タイ、テ。都外切 泰
小風、そよかぜ。

【⿺風求】キウ、グ。渠尤切 尤
小風、そよかぜ。

【⿺風赤】クワク、カク。呼麥切 陌
熱き風。

【⿺風夾】サフ、セフ。所甲切 洽
風疾し、とし。

【⿺風良】
𩗴に同じ。

【⿺風貝】
颶の字の譌り。

【⿺風尾】ビ、ミ。武斐切 尾
風の物を偃するにいふ字、ふきたふす。

【⿺風定】セン、ゼン。旬宣切 先

つじかぜ。
【𩗴】テツ、テチ。勅列切 屑
―颲は、風。
【𩗬】イウ、ユ。夷周切 尤
―颼は、風の聲にいふ語。
【颵】サウ、セウ。所交切 肴 セウ。思邀切 蕭
風の聲にいふ字。
【𩗺】サツ、サチ。桑葛切 曷
颾――は、風。

八畫

【𩘀】ロウ。盧登切 蒸
―𩗲は、大風。
【𩘋】フウ、フ。匹尤切 尤
風の吹く貌にいふ字。
【𩘌】リウ、ル。力求切 尤 力九切 有
風の行く聲にいふ字。
【𩘎】コツ、コチ。呼骨切 月 クツ、コチ。許物切 物
疾き風の貌にいふ字、とし。
【𩘐】シウ、シユ。職救切 宥 タウ、テウ。陟交切 肴
風の貌にいふ字。
【𩘂】ヘイ、ベイ。駢迷切 齊
風。
【𩙈】リヤウ、ラウ。呂張切 陽 力仗切 養
涼に同じ、すゞかぜ、すゞし。

【𩘑】レイ、ライ。郎計切 霽
颼――は、風の聲にいふ語。
【䬍】クワク、カク。古獲切 陌
―颰は、赤氣熱風の怪。
【𩘓】キヨク、ケキ。忽域切 職
風の貌にいふ字。
【䬏】ワイ、ヱ。烏恢切 灰
風の低く吹く貌にいふ字、ひくし。
【𩘕】スヰ、ズヰ。是爲切 支
風の物を偃する貌にいふ字、なびかす。
【𩘗】セキ、シヤク。先的切 錫
風の聲にいふ字。
【𩘘】箏に同じ。
【𩘙】セフ。息葉切 葉
風ふく貌にいふ字。
【𩘚】ホウ、ブ。蒲蠓切 董
風の起こる貌にいふ字。
【𩘛】タウ、チヤウ。竹更切 庚
風の聲にいふ字。
【𩘜】セイ、セ。須銳切 霽
やぶる(破)。
【颶】ク、グ。忌遇切 遇
支那の南海々上に夏秋の際起これる大風、つむじ。〇[投荒雜錄]「嶺南諸郡皆有二―風一」。

【𩘝】フウ、ブ。裴負切 有
風のそよぐ貌にいふ字。
【䬐】ズヰ、ニ。人垂切 支
風の緩き貌にいふ字。〇[郭璞]「徐而不レ―、疾而不レ猛」。
【䬓】エン、オン。翁軒切 元
―颰は、奄忽に同じ、たちまち
【䬒】ヘウ。布消切 蕭
くるふかぜ(狂風)。

九畫

【𩘧】カイ、ケイ。古諧切 佳
はやて(疾風)。
【颸】シ。楚持切 支
風涼し、すゞし、又、涼風、すゞかぜ。〇[左思]「翼二―風之飀々一」。
〔涼颸〕すゞかぜ。〇[潘岳]「――自レ遠集」。
〔寒颸〕さむかぜ。〇[朱熹]凌亂起二――一。
〔薄颸〕そよかぜ。〇[陸機]「高樹吹二――一」。
〔細颸〕前に同じ。〇[賈島]「高杉韻二――一」。
〔輕颸〕前に同じ。〇[朱熹]「疎樹含二――一」。
〔微颸〕前に同じ。〇[袁凱]「――度二鐃阿一」。
〔颸々〕風雨の聲にも風の聲にもいふ語。〇[王禹偁]「風雨夜――」「送レ清」。
〔金颸〕あきかぜ、秋風。〇[甘子布光賦]「――
【𩘤】颸に同じ。
【𩘫】クワウ、カウ。呼宏切 庚
風の聲にいふ字。
【𩘬】イウ、ユ。於虬切 尤
風の聲にいふ字。
【𩘭】ラツ、ラチ。郎達切 曷
風の貌にいふ字。
【䬘】ヰ。于鬼切 尾 于歸切 微
大風の貌にいふ字。〇[郭璞]「長風―以增扇」。
【䬗】コウ、グ。胡溝切 尤 下遘切 宥
風の貌にいふ字、かぜふく。
【𩘮】シウ、シユ。所鳩切 尤
―瑟は、風の聲にいふ語。
【𩘯】エン。以轉切 銑
小さき風の貌にいふ字、そよふくかぜ。
【𩘰】ヰ。于貴切 未 ウツ、ヲチ。王勿切 物
大風。
【𩘱】エフ。弋涉切 葉
風の動く貌にいふ字、そよぐ。
【𩘲】シウ、シユ。所鳩切 尤 所九切 有 セウ。先彫切 蕭
風の貌にいふ字。〇[張正元]「―飀凄清」。
【𩘴】アン。烏幹切 翰
―颮は、颼風。〇[沈佺期]「―颮紫二海若一」。
【𩘵】ユ。芋劬切 虞
颾―は、前條に同じ。

【颶】エイ、ヤウ。於丙切 梗 於驚切 庚
高く吹く風。

【䬞】カウ、コウ。可講切 講 可降切 絳
ふきみだるゝかぜ、(亂-風)。

【颺】ヤウ。與章切 陽 餘亮切 漾
㊀あがる。(い)吹き上がる、吹かれ上がる。○[宋玉]「激--熛-怒」。(ろ)起こる。○[宋玉]「上則波-」。(は)顯はる。○[左]「予少不レ-」。(に)飛び去る。○[魏]「譬如レ養レ鷹、饑則爲レ用、飽則-去」。(ほ)舟の徐行するにいふ字。○[陶潛]「舟遙-々以輕-」。(へ)聲音の高きにいふ字。○[文心雕龍]「聲-不レ還」。
㊁あがらしむ、ふきあぐ、おこす、あらはす、とばす、こゑをはりあぐ、あぐ、(㊀の條參照)。○[書]「時而-レ之」。
(簸颺) 糠粃をあげ去る。○[晉]「-レ之-レ之、糠粃在レ前」。
(高颺) たかく飛び去る。○[晉]「飽便--」。
(騰颺) 前に同じ。○[異苑]「升レ鵠而--」。
(飄颺) かぜにひるがへりあがる。○[宋子侯]「花落何---」。
(激颺) 物にふれてはねあがる。○[風賦]「--熛-怒」。
(飛颺) とびあがる。○[異苑]「翻-然--」。

【䫻】颺に同じ。

【颤】セン。子泉切 先
風動く、かぜそよぐ。

【颫】イウ、ユ。以周切 尤
風。

十畫

【颻】エウ。餘昭切 蕭
上行の風、ふきのぼるかぜ、又、風に吹かれ動く、あがる。○[左思]「與レ風---」。
(颻々) かぜの行く貌にいふ語。○[嵆立之]「颻-々--颻」。

【䬙】エウ。弋笑切 嘯
風の高く吹く貌にいふ字。

【䬅】タウ、ダウ。徒郎切 陽
風の貌にいふ字。

【颼】颼に同じ。○[趙壹]「啾-々--」。
(颼颼) 風の貌にも其の聲にもいふ語。○[李羣玉]「龍-鶯鳳-尾亂---」。
(蕭颼) 風の聲にいふ語。○[周繇]「含レ風自--」。

【颽】凱に同じ、南風。

【䬒】サク。昔各切 藥 サク、シャク。色窄切 陌
風の聲にいふ字。

【飆】ヘウ、ベウ。撫招切 蕭
㊀風吹く。㊁はやて(疾-風)、つむじかぜ(迴-風)。

【飃】リツ、リチ。力質切 質
㊀風。㊁ふきぶり(暴-風-雨)。

【䬘】カウ、ケウ。許交切 肴
颮--は、風の吹く貌にいふ語、又、熱き風。

【颾】サウ、ソウ。蘇遭切 豪
風の聲にいふ字。○[虞集]「八-月草白風颼--」。

【䬊】颾に同じ。

【颿】ハン、ボン。扶泛切 陷
馬の疾く走るにいふ字、風吹きて船進むにいふ字、はしる。○[博雅]「--走也」。

【颿】ヘン、ボン。扶嚴切 鹽
舟船の帆、ほ。○[左思]「樓-船擧レ-而過レ肆」。

【颵】ス、ソ。生句切 遇
風の聲にいふ字。

十一畫

【䫿】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪
風の聲にいふ字。

【𩙣】ヒツ、ヒチ。壁吉切 質
㊀風吼ゆ、かぜなる。㊁寒き氣。

【飁】シフ、ジフ。似入切 緝
颯--は、大風。

【䬍】シュク、ソク。息六切 屋
風吼ゆ。

【䬃】シュツ、シュチ 朔律切 質
風の聲にいふ字。

【飂】リウ、ル。力求切 尤
レウ。憐蕭切 蕭
高く吹く風の貌にいふ字。○[淮]「至-陰--」。

【飂】リウ、ル。力救切 宥 リク、ロク。力竹切 屋
㊀前條に同じ。㊁國の名。㊂人の姓。

【䬌】ヘウ。匹妙切 嘯
風の貌にいふ字。

【飃】ヘウ、ベウ。撫招切 蕭
旋風、つむじかぜ。

【飄】ヘウ。卑遙切 蕭
㊀旋風、つむじ。○[詩]「匪二風--一兮」。㊁疾風、はやて。○[漢]「--至風起」。㊂旋る、疾し。○[呂氏春秋]「不レ可二以--一矣」。

【飄】ヘウ、ベウ。符宵切 蕭
㊀前條に同じ。○[詩]「--風發-々」。㊁ひるがへる。(い)吹かれ搖く、吹かれ飛ぶ。○[張衡]「蜺-旌--兮飛-揚」。(ろ)落下す、おつ。○[莊]「不レ怨二--瓦一」。㊂吹く、ひるがへす。○[曹植]「驚-風--二白-日一」。㊃ひるがへる貌にいふ字、ひらく。○[張衡]「雨-雪--」。㊄飛ぶ貌にいふ字、颺がる貌にいふ字。○[文選]「雁--而南飛」。㊅物に著せざる貌にいふ字、處定まらざる貌にいふ字、さまよふ、たゞよふ。○[杜甫]「----遠白二流-沙一至」。㊆風の吹く貌にいふ字。○[陶潛]「風----而吹レ衣」。

〔孤飄〕たすけなくおちぶる。○〔北〕「ーー坎壈未レ有ニ仕路一」。
〔流飄〕よるべなくさまよふこと。○〔鸚鵡賦〕「ーー萬里」。
〔淪飄〕おちぶれて發達せず。○〔謝靈運〕「ーー薄ニ許京一」。
〔急飄〕疾きかぜ。○〔沈遵〕「時怪ーー愁未レ已」。

【⿰風烏】カウ、ケウ。呼交切 肴
⿰風高に同じ、風。

【⿰風曹】ウツ、チチ。王物切 物
風の聲にいふ字。

十二畫

【⿰翏風】俗の飂の字。

【⿰風肅】シユク、ソク。息逐切 屋
風の聲にいふ字。

【⿰風貴】タイ、デ。徒回切 灰
頹に同じ、おろし。○〔爾〕「焚輪謂ニ之ーー一」。

【⿰風矞】イツ、イチ。餘律切 質
飆に作る、はやて（急風）。

【飀】リウ、ル。力求切 尤
風の聲にいふ字。○〔張正元〕「飂ーー凄清」。

【⿰風登】タウ、チヤウ。中莖切 庚
ー⿰風太は、風の聲にいふ語。

【⿰風黃】クワウ、ワウ。戸盲切 庚
暴風、あらきかぜ、のわき。○〔韓愈〕「龍駕聞ニ敲ーー一」。

【⿰棠風】タウ、チヤウ。竹盲切 庚
⿰風黃ーは、くろふかぜ（狂風）。

【飆】ヘウ。卑遙切 蕭
㊀扶搖風、暴風、つむじかぜ、あらきかぜ、おほかぜ。○〔陳子昂〕「盲ーー忽號怒」。
㊁風。○〔晉〕「落葉俟ニ微ーー一以隕」。
〔商飆〕あきかぜ。○〔梁簡文帝〕「景落ーー靜」。
〔涼飆〕すずしきかぜ。○〔杜甫〕「ーー振ニ南岳一」。
〔寒飆〕さむきかぜ。○〔謝朓〕「四面ーー擧」。
〔迅飆〕疾き風。○〔盧諶〕「中原厲ニーー一」。
〔驚飆〕前に同じ。○〔南都賦〕「足逸ニーー一」。
〔駭飆〕前に同じ。○〔上林賦〕「凌ニ驚風一歷ニーー一」。
〔獰飆〕あらきかぜ。○〔韓愈〕「ーー攪ニ空衢一」。
〔狂飆〕前に同じ。○〔陸雲〕「ーー起而妄駭」。
〔清飆〕きよらかなる風。○〔嘯賦〕「ーー振ニ乎喬木一」。
〔輕飆〕そよかぜ。○〔王褒〕「ーー颯々涼」。
〔晨飆〕あさがたのかぜ。○〔許敬宗〕「蕙帳ーー動」。
〔暑飆〕前に同じ。○〔劉永之〕「雪色征袍拂ニーー一」。
〔回飆〕つじかぜ。○〔曹植〕「何意ーー擧」。
〔旋飆〕前に同じ。○〔宋璟〕「霓旌豹飾凌ニーー一」。
〔朱飆〕夏のあつきかぜ。○〔抱朴〕「ーー鑠レ金」。
〔炎飆〕前に同じ。○〔王褒〕「ーー謝レ節」。
〔秋飆〕あきかぜ。○〔顏延之〕「ーー冬未レ至」。
〔洪飆〕おほかぜ。○〔袁宏〕「ーー扇レ海」。
〔洪飆〕あらき風の聲。○〔庾肩吾〕「ーー颶風鳴」。
〔朔飆〕あらききたかぜ。○〔何遜〕「ーー吹ニ宿莽一」。

【⿰焱風】前條に同じ。

【飉】レウ。落蕭切 蕭
風。

十三畫

【飋】シツ、シチ。所櫛切 質
秋風。

十四畫

【⿰風壽】チウ、ヂユ。直由切 尤
風涼し、すずし、涼風、すずかぜ。

【⿰風壽】タウ、ドウ。徒刀切 豪
大風。

十五畫

【⿰風巤】レフ。力涉切 葉
風の聲にいふ字。

【⿰風劉】リウ、ル。力求切 尤
風の行く聲にいふ字。○〔左思〕「翼ニ颸風之ーー一」。

【⿰風劉】飀に同じ。

十六畫

【⿰風歷】レキ、リヤク。狼狄切 錫
⿰風斯ーは、風の聲にいふ語。

十七畫

【⿰燮風】セウ。蘇刁切 蕭
北風、きたかぜ、又、涼風、すずしきかぜ。

【⿰風薨】コウ。呼肱切 蒸 クワウ、ワウ。呼宏切 庚
大風。

【⿰燮風】セフ。悉協切 葉
風の貌にいふ字。

十八畫

【⿰雚風】古文の風の字。○〔周〕「祀ニーー師一」。

【⿰聶風】セフ。失涉切 葉
風の貌にいふ字。

【飍】キウ、ク。香幽切 フウ、フ。必幽切 尤
㊀おほかぜ（驚風）。
㊁驚き走る貌にいふ字。

飛部

【飛】ヒ。甫微切 微
〔說〕上旁飞者、〔註〕象ニ鳥頸一。
㊀とぶ。
（い）空を翔る、空を行く。○〔詩〕「燕々于ー」。
（ろ）颺がる。○〔史〕「大風起兮雲ー揚」。
（は）超ゆ。○〔淮〕「使レ行ニーー揚一」。
（に）散る。○〔論衡〕「精魂ー散」。
（ほ）飄る。○〔後漢〕「屋瓦皆ー」。
（へ）意外に至る。○〔鬼谷〕「ー而箝レ之」。
（と）急疾に行く。○〔晉〕「名レ軻曰ニーー馬一」。
（ち）無根にして傳はる。○〔唐〕「爲ニーー語所レ陷」。
㊁とばしむ、とばす、（㊀の條參照）。○〔晉〕「ーニ檄三輔一」。
㊂とぶ鳥、とぶ蟲。○〔韓詩外傳〕「蜎ー蠕動」。
㊃疾馳する馬などにもいふ字。○〔司馬相如〕「騁ニ六ーー一」。
㊄屋宇などの高くそばだちたるにいふ字。○〔何晏〕「ー宇承レ霓」。
〔奮飛〕鳥の翅を振ひて飛ぶこと。○〔詩〕「不レ能ニーー一」。
〔雄飛〕勢さかんに奮起すること。○〔後漢〕「大丈夫當ニーー一」。
〔高飛〕（い）そらたかくとぶ。○〔詩〕「有レ鳥ーー」。

(ろ)白楊の異名。○〔齊民要術〕「白楊一名ニ——・——」。
〔翾飛〕すこしくとぶ。○〔李嶠〕「——自同ニ乎燕・雀ニ」。
〔孤飛〕鳥などの一羽にてとぶこと。○〔雪賦〕「瞻ニ雲・鴈之——ニ」。
〔羣飛〕むれとぶ。○〔射雉賦〕「樂ニ羽・族之——ニ」。
〔翰飛〕鳥などの高くとぶこと。○〔詩〕「——戾レ天」。
〔桑飛〕みそさゞいといふ鳥の異名。○〔方言〕「——・謂ニ鷦鷯ニ」。
〔駢飛〕ならびてとぶ。○〔北〕「兩・鳳——」。
〔雙飛〕前に同じ。○〔九國志〕「鳥・鵲——」。
〔輕飛〕輕獸と飛禽と。○〔何承天〕「高・步退ニ——ニ」。

【⿰爿飛】古文の飛の字。

八畫

【⿱雨飛】古文の霏の字。○〔揚雄〕「雪——而來迎」。

九畫

【⿱者飛】翥に同じ。

十畫

【⿰倝飛】翰に同じ。

【⿱高飛】ギウ、ク。魚救切 宥 飛ぶ。

十二畫

【⿱飛異】籀文の翼の字。

【飜】ハン、ホン。孚袁切 元 ひろがへる、ひろがへす、(翻)。○〔王粲〕「孰能飛——」。

十三畫

【⿰亶飛】ケン。虛延切 先 飛ぶ。

【⿰睘飛】クワン、ゲン。戶關切 刪 飛び繞る貌にいふ字。

食部

【食】ショク、ジキ。乘力切 職 —〔說文〕一米。

㊀飯、食、糧、穀、饌など即ちくらふものゝ總稱、くひもの。○〔詩〕「子有ニ酒——ニ」。
㊁くひものをくらふを、志よくじ、又、日々さだめの志よくじ、け、めし。○〔論〕「發レ憤忘レ——」。
㊂生計、すぎはひ。○〔漢〕「趨ニ末——ニ」。
㊃祭祀、まつり。○〔禮〕「薦ニ其時——ニ」。
㊄秩祿、ふち、ちぎやう。○〔禮〕「寧使ニ人浮ニ乎——ニ」。
㊅はむ、くふ、くらふ。
(い)囓む。○〔春秋〕「鼷・鼠——ニ郊・牛之角ニ」。
(ろ)囓みて嚥み下す。○〔禮〕「雖レ有ニ嘉・肴ニ弗レ——不レ知ニ其旨ニ也」。
(は)志よくじを爲す。○〔事文類聚〕「願東・家——而西・家宿」。
(に)くひものと爲す。○〔左〕「易レ子而——レ之」。
(ほ)生活を爲す、くらす。○〔後漢〕「遊——者衆」。
(へ)養はる。○〔戰〕「願寄ニ——門・下ニ」。
(と)祭らる。○〔後漢〕「死當ニ廟——ニ」。
(ち)ふちを受く。○〔詩〕「彼君・子兮不ニ素——ニ兮」。
(り)乳を呑む。○〔莊〕「適見ニ㹠・子——ニ於其死・母ニ」。
(ぬ)言ひて行はず、いつはり。○〔書〕「朕不レ——レ言」。
(る)飲むにもいふ字。○〔漢〕「定・國——レ酒至ニ數・石ニ不レ亂」。
㊆まどはす、(惑)。○〔管〕「明・君在レ上、便・嬖不レ能レ——ニ其意ニ」。
㊇けす、(消)。○〔左〕「後雖レ悔レ之不レ可レ——已」。
㊈侵蝕す、きずつく、むしばむ、かく。○〔書〕「乃卜ニ澗・水東瀍・水西ニ惟洛——」。
㊉日月の蝕。○〔易〕「月盈則——」。
⑪川ふ。○〔戰〕「——ニ高・麗ニ」。
⑫墾耕、たがやし。○〔禮〕「不——之地」。

〔耳食〕聞ける所に拘泥して觀察を誤れること。○〔史〕「學・者牽ニ于所レ聞、見ニ秦在ニ帝・位ニ日淺ト、不レ察ニ其終・始ニ、因擧而笑レ之、不ニ敢道ニ、此與ニ以レ——無レ異」。
〔目食〕飲食物にいろいろのかざりを施し案上をかざること。○〔宋〕「飲・食所ニ以爲ヒ味也、適レ口斯善矣、世・人取ニ果・餌ニ刻ニ鏤之ニ朱ニ綠之ニ以爲ニ槃・案觀ニ、豈非ニ以レ——ニ乎」。
〔大食〕アラビヤ國の古名。○〔康熙〕「——國名在ニ西・域波・斯・國西ニ、都ニ婆・羅・門ニ」。
〔鮮食〕よき食物、又、よきものを食らふ。○〔文中子〕「士有ニ靡・衣——ニ」。
〔美食〕前に同じ。○〔後漢〕「君欲レ得ニ——耳」。
〔糲食〕粗なるものを食らふ、又、そまつなる食物。○〔王安石〕「未ニ敢厭ニ——ニ」。
〔玉食〕珍味を食らふこと、又、珍味の食物。○〔書〕「惟辟——」。
〔退食〕朝より私宅にひきさがりて食すること。○〔詩〕「——ニ自公」。
〔侑食〕尊む所の人にはんべりて食らふ。○〔禮〕「凡——不レ盡レ食」。
〔火食〕火にあぶりにたきして食らふ。○〔禮〕「有ニ不ニ——者矣」。
〔粒食〕穀物を食らふ。○〔禮〕「有ニ不ニ——者矣」。
〔強食〕志ひて食らふ。○〔周〕「強・飲——」。
〔稍食〕祿廩のこと。○〔周〕「均ニ其——ニ」。
〔血食〕祭らるゝこと。○〔史〕「至レ今——ニ天下ニ」。
〔旣食〕食物を糊にす。○〔左〕「——レ省レ用」。
〔蓐食〕志づかに食膳に對せずしとねの中にて食事をす。○〔左〕「秣レ馬——」。

〔肉食〕美食す。○〔左〕「——者鄙未レ能ニ遠謀ニ」。
〔糧食〕かてのこと。○〔左〕「——將レ盡」。
〔旰食〕日中の勉强はげしく日くれて食事すること。○〔何遜〕「——思レ治」。
〔多食〕分量おほく食らふ。○〔論〕「不ニ——ニ」。
〔飽食〕あくほどくらふ。○〔論〕「——終・日」。
〔傳食〕到る處食ひまはる。○〔孟〕「以——于諸・侯ニ」。
〔甘食〕うまくくらふ、又、うまき食物。○〔孟〕「饑・者——」。
〔寄食〕人の食客となること。○〔戰〕「願——ニ門・下ニ」。
〔寓食〕前に同じ。○〔南〕「——ニ邢・池人李方家ニ」。
〔蠶食〕かひこの桑を食らふ如くに土地などを次第に侵略すること。○〔史〕「稍——ニ諸・侯ニ」。
〔廩食〕上よりの給米。○〔漢〕「——不レ至」。
〔餐食〕食事のこと。○〔漢〕「強ニ——ニ」。
〔徒食〕はたらかずして生活す。○〔管〕「有ニ無・積而——者ニ」。
〔坐食〕前に同じ。○〔吳〕「——者萬・有・餘・人」。
〔寢食〕ねむりと食事と。○〔蜀〕「欣・然獨笑以忘ニ——ニ」。
〔眠食〕前に同じ。○〔南〕「行・坐——手不レ釋レ卷」。
〔寒食〕冬至より一百五日の後疾風甚雨ある節の稱にて此の日は火を斷ち冷食すといふ。○〔沈佺期〕「馬・上逢ニ——ニ」。
〔伴食〕官にあるも自ら職責を斷行する能はず事ごとに同僚が推讓するもの。○〔唐〕「開・元三・年、與ニ姚・崇ニ對ニ掌樞・密ニ、自以爲ニ吏・道不レ及レ崇、每レ事推ニ讓之ニ、時・人謂ニ之——宰・相ニ」。
〔嘗食〕食らふによりでのみす。○〔管〕「——者不レ能レ肥ニ其體ニ」。
〔約食〕食物をひかへて十分にくらはず。○〔劉陽〕「臣・妾爲レ之——レ饑・死者多」。
〔節食〕前に同じ。○〔魏〕「其俗——レ好治ニ官・室ニ」。
〔旅食〕他鄉にてくらす。○〔載復古〕「——思ニ鄕・味ニ」。
〔飯食〕めし。○〔高適〕「所レ思強ニ——ニ」。
〔絕食〕食物をたちてくらはず。○〔陸贄〕「因レ噎而——」。
〔月食〕太陰蝕。○〔詩〕「彼——而——」。
〔日食〕太陽蝕。○〔禮〕「——則天・子素・服而修ニ六・官之職ニ」。
〔御食〕帝王の食膳。○〔北〕「給ニ——ニ」。
〔侍食〕尊長者にはんべりて食らふ。○〔禮〕「——ニ于長・者ニ」。
〔惡食〕そまつなる食物。○〔論〕「恥ニ惡・衣——ニ者」。

（菲食）前に同じ。○〔梁武帝〕「―・―蓮衣」。
（乞食）食を他人に乞ひもとむ、又、其の者。○〔史〕「中道―レ―」。
（丐食）前に同じ。○〔晉〕「常―レ―誦レ詩」。
（會食）衆人の一處にあつまり食らふこと。○〔史〕「今日破レ趙―・―」。
（衣食）衣服と食物と。○〔史〕「傭・債以給二―・―一」。
（過食）過境の糧食。○〔漢〕「―・―足三以支二五・歲一」。
（祿食）俸給、又、俸祿をうけて生活す。○〔陸游〕「―・―妻・子樂」。
（對食）（い）宮人の自ら相與に夫婦となる者を稱す。○〔漢〕「房與レ宮―・―」。
（ろ）食事にむかふ。○〔陸游〕「―レ―每三・嚬」。
（漁食）食を侵奪して自から給すること。○〔漢〕「―二―閭・里一」。
（啜食）食らふ。○〔蜀、註〕「所二―・―一不レ至二數・升一」。
（羨食）あまりたる食物。○〔唐〕「宜有二―・―一」。
（傭食）人にやとはれて生活す。○〔五〕「與二其母一―二―蕭縣人劉・榮家一」。
（行食）はたらかずして生活す、又、食膳をはこびなどす。○〔孔平仲〕「侍レ膳―レ―皆宮妓」。

【食】シ、ジ。祥吏切　寘
㊀めし、（飯）。○〔禮〕「―居二人之左一」。
㊁かて、（糧）。○〔周〕「廩・人賙二賜稍―一」。
㊂食を與ふ、生を養ふ、くはす、やしなふ。○〔左〕「穀也―レ子」。

【食】イ、羊吏切　寘
人の名、審―其、酈―其など。

【⿱亼皀】食の本字。
（說文）从レ皀、亼亼香字、米之氣味也。

【⿱人艮】俗の食の字。

二畫

【⿰食乙】饐に同じ。

二畫

【⿰食刀】饕に同じ。

【⿰食又】ギョ、ゴ。牛據切　御
酒食もて客を送ること、はなむけ。

【飡】俗の飱の字。

【飢】キ。居夷切　支
㊀うゝ、うゑ。
（い）食物足らず。○〔詩〕「載渴載―」。
（ろ）五穀登らず。○〔爾〕「仍―爲レ荐」。
㊁うゑしむ、うやす。○〔孟〕「由レ己―レ之」。
（朝飢）あさがたの空腹。○〔李白〕「此席忘二―・―一」。
（調飢）前に同じ。○〔詩〕「惄如二―・―一」。
（療飢）空腹をいやしすくふ。○〔王融〕「―レ―不レ期二于鼎・食一」。
（凍飢）寒氣にこゞゆると食にうゝると。○〔漢〕「士・卒―・―」。

【飣】テイ、チヤウ。丁定切　徑
食を貯ふ、たくはふ。○〔玉海〕「―・―而不レ食」。

【飤】シ、ジ。祥吏切　寘
かて、（糧）、又、くらはす、（食）。○〔東方朔〕「子・推自剖而―レ君兮、德日忘而怨深」。

【⿰食卜】飤に同じ。

三畫

【飥】タ、チヤク。他各切　藥
餅の屬。○〔齊民要術〕「麥・麪堪レ作二餅―・―一」。

【⿱弁食】イ。延知切　支
かゆ、（粥）。

【⿰食勺】ヤツ。乙却切　藥
食を節すること。

【⿰食乞】キ。去訖切　未
はらはる。

【⿰食乞】キツ、キチ。許訖切　質
あく、（飽）。

【⿸尸食】古文の饡の字、又、饘に同じ。

【⿰食也】チ、ヂ。陳知切　支
あめ、（飴）。

【飦】饘、又、饘に同じ。

【飦】カン。居寒切　寒
ほしいひ、（燥・飯）。

【飧】ソン。思渾切　元
㊀飯に飲（のみもの）を沃ぐこと、ちやづけ、ゆるかけ。○〔禮〕「不二敢―一」。○〔周〕「致レ―如二致・積之禮一」。
㊁食事、供食、めし、ゆたく。
㊂煮物、熟食、にたるくひもの。○〔詩〕「有二饛簋―一」。
㊃夕食、ゆふめし。○〔周〕「賓・賜之―・牽」。
㊄小飯、あひのめし。○〔史〕「將レ傳レ―」。
（素飧）功勞なくして祿を食むこと。○〔詩〕「彼君・子兮、不二―・―一兮」。
（饔飧）朝食と晩食と。○〔孟〕「―・―而治」。
（盤飧）盤にもりたる食物。○〔左〕「乃饋二―・―一寘レ璧焉」。
（朝飧）あさの食事。○〔杜甫〕「―・―是草・根」。
（晨飧）前に同じ。○〔陸游〕「―・―赤・米炊」。

【⿰食乇】飩に同じ。

【⿰食刃】ヂウ、ニユ。女救切　宥
まじりめし、（雜・飯）。

四畫

【飩】トン、ドン。徒渾切　元
餛―は、むしもち、餡（あん）又は肉を屑（こゞめ）の末又は麪（むぎこ）などにつゝみて蒸したるもの。○〔食物志〕「餛―或作二餫―一」。

【飩】チユン。屯閏切　震
こきあぢはひ、（厚・味）。

【⿰食丑】ヂウ、女九切　有　ニユ。切　女救切　宥
まじりめし、（雜・飯）。

【飪】ジン、如甚切　寢　ニン。切　如鴆切　沁
大いに熟す、にる、又、にたる食物。○〔論〕「失レ―不レ食」。
（烹飪）食をにる、又、にたるもの。○〔孫逖〕「蔬・食以其同二―・―一」。
（饔飪）あつもの。○〔儀〕「―・―寳レ鼎陳二于門・外一」。

【飫】ヨ、チ。依倨切　御
㊀あく、（饜）。○〔詩〕「儐二爾籩・豆一、飲・酒之―」。
㊁立禮の宴、たちてなすさかもり。○〔周〕「武・王克レ殷作二―・歌一」。
㊂燕會、さかもり。○〔柳宗元〕「飲―饌・饋」。「膳、加レ膳則―・賜」。
㊃たまふ、（賜）。○〔左〕「將レ賞爲レ之加レ―」。
（飽飫）充分に食らひてはらのふくるゝこと。○〔後漢〕「諸得二―・―一」。
（酣飫）充分に飲みあくほど食らふこと。○〔唐〕「爲二「―・―一」。

【⿰食冗】ジヨウ、ニユ。而勇切　腫

【⿰食殳】トウ、ツ。都豆切　宥
くらふ、はむ、（食）。

餖に同じ、たくはふ。

【⿰飠殳】セツ、セチ。式列切 屑

飲食を陳らぬ、つらぬ。

【⿰飠元】グワン。吾官切 寒 ゲン、グワン・愚袁切 元

こなもち、もち（餌）。

【⿰飠九】キウ、ク・居又切 宥

あく（飽）。

【飬】

養に同じ。

【飭】チヨク、チキ。恥力切 職

㊀つゝしむ（謹）。○〔禮〕「再始以著レ往、復亂以ーレ歸」。

㊁をさむ、をさまる（治）。○〔易〕「蠱則ー也」。

㊂つとむ（勤）。○〔周〕「百工ー化ニ八ー材ー」。

㊃とゝのふ（整）。○〔詩〕「我車既ー」。

㊄たゞし、たゞす（正）。○〔漢〕「ーレ躬齋戒」。

㊅勑に同じ、いましむ。○〔國〕「ーニ其子弟一、相語以レ事」。

〔匡飭〕正し整ふ。○〔史〕「ーニーー異俗一」。

〔整飭〕前に同じ。○〔唐〕「志行ーー」。

〔修飭〕つゝしみをさめて正す。○〔後漢〕「內自ーー」。

〔具飭〕整備す。○〔禮〕「ーニー衣裳一」。

〔謹飭〕愼重なること。○〔南〕「臨レ事ーー」。

〔譑飭〕敬懼卑遜にして謹愼なること。○〔唐〕「循々ーー」。

〔嚴飭〕肅嚴にして謹愼なること。○〔宋〕「治レ家ーー」。

〔戒飭〕いましめ整ふ。○〔宋〕「ーニー將士一」。

〔約飭〕つゞまやかにひきしむ。○〔蘇軾〕「家人自ーー」。

【⿰飠內】ダフ、ノフ。奴盍切 合

【飲】イン、オン。於錦切 寑

食らふ貌にいふ字。

㊀のむ。

（い）水などを口より腹に下し入る。○〔韓〕「渴者適ーレ之則生」。

（ろ）酒を酌む、觴を行る、さけをのむ、さかもりをなす。○〔南〕「呼相與酣ーー」。

㊁のむべきもの、卽ち、水、酒など、のみもの。○〔周〕「四ーー之物」。

㊂酌酒行觴、さかもり。○〔戰〕「張レ樂設レー」。

㊃そゝぐ（漱）。○〔儀〕「賓坐祭、遂ー奠ニ於豐上一」。

㊄かくろ、かくす（隱）。○〔後漢〕「邕上レ疏曰、臣一入ニ牢獄一、當レ爲ニ楚毒所一レ迫、趣以ニーー章一、辭情何緣復聞」。

〔牛飲〕牛の水を飲むが如くに大飲す。○〔史〕「ーー者三千餘人」。

〔痛飲〕いたく酒を飲む。○〔杜甫〕「ーーー眞吾師」。

〔淺飲〕淺酌といふに同じ、多く飲まざること。○〔薛能〕「ーーー無レ由致ニ宿酲一」。「共樂」。

〔縱飲〕思ふまゝに飲む。○〔杜甫〕「ーーー久拚人」。

〔劇飲〕はげしく酒をのむ。○〔南〕「更ーー至レ夜」。

〔豪飲〕前に同じ。○〔金〕「劇談ーー」。

〔侍飲〕尊長者にはんべりて酒をのむ。○〔韓〕「ーニーー于長者一」。

〔肆飲〕はゞかる所なくきまゝにのむ。○〔魏〕「ーー終レ日」。

〔對飲〕相むかひて酒をのむ。○〔晉〕「文季與ーー竟レ日」。「別」。

〔悵飲〕祖道の酒をのむ。○〔李白〕「ーー與レ君」。

〔狂飲〕くるひたはむれていたく酒をのむ。○〔蘇舜欽〕「放歌ーー不レ知レ曉」。

〔爛飲〕さかんに酒をのむ。○〔吳師道〕「歌愈ニ別離一」。「ーー狂」。

〔浩飲〕前に同じ。○〔黃庚〕「劇談ーー不レ知レ醉」。

〔洪飲〕前に同じ。○〔李中〕「ーー花開數十場」。

【飲】イン、オン。於禁切 沁

㊀のみものを與へてのましむ、のます。○〔禮〕「酌而ーニ寡人一」。

㊁牛馬に水をのましむ、みづかふ。○〔左〕「成人伐下齊師之ーニ馬于淄一者上」。

【飯】ヘン、ハン。扶晚切 阮

㊀めしを食らふ、くらふ、くふ。○〔禮〕「ーレ黍毋レ以レ箸」。

㊁めしを食らはしむ、くらはす、くはす。○〔史〕「見ニ信飢一、ーレ信」。

㊂常食、たよくじ、け、めし。○〔世說〕「日中忘レー」。

㊃大擘指の本、おやゆびのもと。○〔儀〕「設レ決麗ニ于擘一、自レー持レ之」。「之」。

〔强飯〕たひてめしをくふ。○〔史〕「行矣ーー勉レ」。

〔加飯〕おほいにめしを食らふ。○〔禮〕「毋ニーー一」。

〔多飯〕多量にめしをくふ。○〔淮〕「近數倉者、不ニ爲レ之ーー」。

〔餐飯〕めしをくふ。○〔杜審言〕「雅歌而ーー」。

〔晚飯〕ばんめしをくふ。○〔顧瑛〕「ーー粑樓前ー」。

〔飽飯〕充分にめしをくふ。○〔朱熹〕「明朝須ニーーー」。「寒」。

〔曉飯〕あさはやく食事す。○〔岑參〕「ーー湖山」。

〔餒飯〕啜餖のこと。○〔國〕「謬有レ之、ーー不レ及ニ壺飧一」。

【飯】ハン、符萬切 願　ハン、符諫切 諫　バン。切　ベン。切

五穀を炊ぎたる食物、めし、いひ。○〔禮〕「毋レ摶レー」。

〔麥飯〕むぎめし。○〔後漢〕「異進ニーー菟肩一」。

〔蔬飯〕野菜などのそまつなるめし。○〔吳〕「求レ視ニーー一」。

〔菜飯〕前に同じ。○〔蘇轍〕「每逝ーー分ニ齋鉢一」。

〔啖飯〕めしをくらふ。○〔陸游〕「飯能ーレー勝ニ張著一」。

〔喫飯〕前に同じ。○〔五〕「常與レ汝ーニーー處一」。

〔蜜飯〕蜂みつを混和したるいひ。○〔蠟上記〕「常食ニーー一」。

〔美飯〕みごとなるめし。○〔後漢〕「溫衣ーー」。

〔乾飯〕はしいひ。○〔後漢〕「常食ニーー茹菜一」。

〔炊飯〕いひをかしぐ。○〔晉〕「家人ーレー」。

〔糯飯〕くろごめいひ。○〔南〕「性豆羹ーー而已」。

〔米飯〕こめのめし。○〔海槎餘錄〕「舟人以ニーーー頻々投レ之」。

〔羹飯〕あつものといひと。○〔韓愈〕「鋪レ床拂レ席置ニーー一」。

〔糗飯〕はしいひ。○〔李賢〕「藜羹ーー」。

〔冷飯〕さめたるいひ。○〔陸游〕「ーー雜ニ砂礫一」。

【飰】

俗の飯の字。

【飱】

俗の飧の字。

【飻】テツ、テチ。他結切 屑

食を貪る、むさぼる。

五畫

【⿰飠氐】テイ、ダイ、杜奚切 齊

人に寄食す、ゐさふらふす。

【⿰飠古】

餬に同じ。

【⿰飠主】シユ、ス。朱戍切 遇

ゑば（餌）。

【⿰飠圭】

麮に同じ。

【⿰飠央】ヤウ、於兩切 養　アウ。切　於亮切 漾　エイ、ヤウ。切　於慶切 梗

あく（飽）、みつ（滿）。

【飴】イ。與之切 支

㊀米の蘗（もやし）と煎りたる秫とにてつくりたる甘味あればきもの、あめ。○〔詩〕「菫荼如レー」。

㊁あまき味あること、あまみ。○〔周〕「共ニーー鹽一」。

【飴】シ、ジ。祥吏切 寘 くらはす、(食)。○〔晉〕「以二私米一作二饘粥一以―二餓者一」。

【飠以】古文の飴の字。

【飠正】セイ、シヤウ。諸成切 庚 ――餅は、もち。

【飠戹】アク、ヤク。於革切 陌 飢うる貌にいふ字。

【飵】サク、ザク。在各切 藥 相調げて食らふ、くらふ。○〔揚雄〕「凡陳楚之郊、相謁而飧、或曰レ―」。

【飵】サク、シヤク。側格切 陌 ソ、ズ。存故切 遇 むしいひ、(餾)。

【飠付】ホウ、ブ。蒲侯切 尤 饇―は、食らふ。

【飠占】デン、ネン。奴兼切 ゼン、ネン。尼占切 鹽 麥を食らふ、くらふ。

【飠召】セウ、寔照切 嘯 小しく食ふ。

【飠本】ホン、ボン。部本切 阮 粗食、そまつなるくひもの。

【飠乞】古文の饑の字、又、愁に同じ。

【飠尼】ヂ、ニ。女夷切 支 ゑば、(餌)。

【餴】フン、ホン。方文切 文 饙に同じ、むしいひ、(蒸飯)。

【飠冋】ケイ、キヤウ。古迥切 迥 あく、(飽)。

【飶】ヒツ、ビチ。毗必切 質 ヘツ、ベチ。蒲結切 屑 かうばし、(芬香)。

【飠且】シヤ、セ。茲也切 馬 食に味なし、まづし。

【飠且】シヨ、ソ。臻魚切 魚 饛―は、食に味なし、まづし。

【飠句】コウ、ク。居侯切 尤 牛の食に飽くにいふ字。

【飠甲】カフ、ケフ。訖洽切 洽 もち、(餅)。

【飠弁】俗の飯の字。

【夗食】ウツ、ヲチ。紆物切 物 エツ、ヲチ。於月切 月 飴に豆を和したるもの。

【号食】饕に同じ。

【飠甘】カン、コン。沽三切 覃 ゑば、(餌)。

【飠卯】リウ、ル。力九切 有 ゑば、(餌)。

【飠半】ハン、バン。博管切 旱 屑米の餅、こごめもち。○〔南〕「以二五・色一―飴レ之」。

【此食】シ、ジ。疾移切 支 食を嫌ふ貌にいふ字。

【此食】シ、ジ。才資切 紙 あく、(飫)。

【此食】シ。蔣氏切 紙 惡しき食。○〔管〕「―食不レ肥」。

【飻】饕の本字。

【飠尓】俗の飻の字。

【飼】シ、ジ。祥吏切 寘 畜類に食を與ふ、かふ、やしなふ。○〔北〕「付レ民養―」。

【飠末】バツ、マチ。莫撥切 曷 秣に同じ、まぐさ。

【飽】ハウ、ヘウ。博巧切 巧 ㊀みつ、(滿)。○〔左、註〕「其氣盈―」。㊁あく。(い)腹に滿つ。○〔詩〕「既醉既―」。(ろ)食足る。○〔孟〕「樂歲終身―」。(は)滿ち足る。○〔陸機〕「耳―二從諛之說一」。㊂あかしむ、あかす。○〔詩〕「既―以レ德」。
(宿飽) くひもたれ。○〔史〕「師不二―一」。
(溫飽) あたゝかに食おはきと。○〔後漢〕「下求二―一」。
(醉飽) 酒にゑひ食にあく。○〔後漢〕「莫レ不二―一」。
(饑飽) うゝるとあくと。○〔北〕「同二其―・―一」。
(饒飽) 食物ゆたかにあく。○〔易林〕「可二以―・―一」。
(厭飽) 食にあく。○〔易林〕「疾至可二以―・―一」。

【飠旡】キ、ケ。許既切 未 あく、(飫)。

【飾】シヨク、シキ。賞職切 職 ㊀かざる。(い)穢れたるを拭ひ淸む、のごふ。○〔周〕「―二其牛牲一」。(ろ)質上に文采を加ふ、物の外觀を好くす。○〔史〕「以二珠玉一―レ之」。(は)覆ふ。○〔禮〕「―二羔鷹一者」。(に)修む。○〔穀梁〕「小邑必―レ城而請レ罪」。(ほ)裝ふ。○〔史〕「粉二―之一」。(へ)人爲を加ふ。○〔淮〕「其事素而不レ―」。(と)內實の非なるに外面を是なるが如くにす。○〔呂氏春秋〕「情者不レ―」。㊁かざり。(い)かざると、かざりたるもの。○〔禮〕「文采節奏聲之―也」。(ろ)袖の緣。○〔詩〕「羔裘豹―」。(は)馬の纓。○〔莊〕「有二橛―之患一」。
(文飾) あやどりかざる。○〔禮〕「不二―・―一也」。
(絢飾) 前に同じ。○〔唐〕「―二―其政一」。
(修飾) とゝのへかざる。○〔論〕「行人子羽―二―之」。
(鑿飾) 前に同じ。○〔李尤〕「―二―容顏一」。
(緣飾) つくろひかざる。○〔史〕「又―・―以二儒術一」。
(粉飾) 白粉などをぬりてよそほふ、又、かざる。○〔史〕「共―二―之一」。
(矯飾) いつはりかざる。○〔後漢〕「俗吏―二―外貌一」。
(靚飾) よそほひかざる。○〔王安石〕「―・―出二重廉一」。
(瓌飾) 立派によそほふ、又、立派なるよそほひ。○〔史〕「―・―入レ朝」。
(雕飾) ゑりきざみてかざる。○〔晉〕「昔日貫二―・―一」。
(裝飾) よそほふ、又、よそほひ。○〔齊〕「早起―・―」。

（服飾）戎服を着く。○〔禮〕「天子乃―-―」。
（服飾）衣服のかざり。○〔周〕「設二其―-―一」。
（盛飾）盛飾のこと、又、首飾ともいふ。○〔急就篇〕「―-―刻-畫無二等-雙一」。
（華飾）うつくしきかざり。○〔後漢〕「斥二去―-―一」。
（麗飾）前に同じ。○〔後漢〕「去二后-宮之―-―一」。
（美飾）前に同じ。○〔酉陽雜俎〕「以爲二―-―一」。
（鮮飾）前に同じ。○〔魏武帝〕「孤不レ好二―-―一」。
（侈飾）奢侈のよそほひ。○〔後漢〕「多好二―-―一」。
（外飾）表面をかざる。○〔唐〕「雖二動-止無二―-―一」。
（面飾）顏面のよそほひ。○〔酉陽雜俎〕「今婦-人―-―」。

【餄】レイ、リヤウ。郎丁切 [青]
こなもち（餻）。○〔揚雄〕「餌謂二之餻一、或謂二之―一」。

【⿱此食】スヰ。子尉切 [支]
装飾す、よそほふ、かざる。

六畫

【餀】カイ、ケ。呼艾切 [泰]　ケイ、ケ。許罽切 [霽]
食物腐りて臭し、くさし。

【⿰飠⿱巛凵】ダウ、ノウ。奴倒切 [號]
めし、いひ（熟食）。

【餁】飪に同じ。

【餩】カイ、ケ。古哀切 [灰]
あめ（飴）。

【餩】アイ、エ。於戒切 [卦]
㊀食の氣の通ずること、おくび。㊁餲に同じ、腐りたる飯。

【餂】古文の餂の字。

【餂】テン。他典切 [銑]　他念切 [豔]
鉤け取る、とる。○〔孟〕「是以レ言―レ之」。

【餃】カウ、ケウ。居效切 [效]
あめ（飴）。

【餄】カフ、ケフ。古洽切 [洽]
もち（餅）、こなもち（餌）。

【餅】俗の餅の字。

【䬲】エウ。餘昭切 [蕭]
こなもち（餌食）。

【餇】トウ、ドウ。徒紅切 [東]
くひもの（食）。

【⿰飠艮】ゴン。五恨切 [願]
うゑ（餒）。

【餈】シ、ジ。疾資切 [支]
稻米を蒸しつきて餅せたるもの、むしもち、こめのもち。○〔周〕「羞-籩之實、糗-餌粉―」。

【⿰飠多】シヤ、セ。書冶切 [馬]
餂に同じ、あく。

【⿰飠多】ダ、チ。女下切 [馬]
あく（饜）。

【餉】シヤウ、サウ。式亮切 [漾]　始兩切 [養]　尺羊切 [陽]
㊀食を送致す、おくる。○〔書、註〕「農-民―二于田一者」。
㊁おくる食、かれいひ。○〔書、註〕「奪二其―一」。
㊂旣に通じ用ふ、おくる。○〔魏〕「以二所レ著典-論及詩-賦一―二孫-權一」。
（轉餉）糧食を轉運す。○〔漢〕「老-弱罷二―-―一」。
（饋餉）食物のおくりもの。○〔吳〕「故-吏―-―」。
（糧餉）糧食のこと。○〔史〕「老弱轉二―-―一」。
（晩餉）ばんめし。○〔陸游〕「野-店籠-橋供二―-―一」。
（午餉）ひるめし。○〔陸游〕「米-糊-解-包供二―-―一」。
（軍餉）兵糧。○〔馮惟健〕「指二揮―-―一收二夜-郎一」。

【⿰飠至】チツ。陟栗切 [質]
地の名、一に曰ふ、禾を刈る人。○〔史〕「臣常遊困二于齊一、乞二食―-人一」。

【⿰飠⿱山口】バン、モン。謨敢切 [感]
兒に哺む、はぐくむ。

【⿰飠羊】ヤウ。余亮切 [漾]
もち、ゑば（餌）。

【養】ヤウ。餘兩切 [養]
㊀やしなふ。
（い）生長せしむ、おほしたつ、そだつ。○〔管〕「地生二―萬-物一」。
（ろ）餒ゑざらしむ、健かならしむ。○〔孟〕「我善―二吾浩-然之氣一」。
（は）哺乳す、はぐくむ、ちのます。○〔荀〕「不レ能レ―レ之」。
（に）給賑す、まかなふ、にぎはす。○〔荀〕「―-略而動-罕」。
（ほ）飼畜す、かふ。○〔魏〕「馴二―大-鳥一」。
（へ）懷柔す、なつく。○〔魏〕「陰―二奸-徒一」。
（と）治む。○〔周〕「―二其病一」。
（ち）敎ふ。○〔禮〕「以―レ之」。
㊁やしなふこと、やしなふに効あること、やしなひ。○〔白虎通〕「衞二其―一」。
㊂隱す。○〔大戴禮〕「―レ之」。
㊃取る。○〔詩〕「於鑠王-師、遵―時-晦」。
㊄憂ふ。○〔詩〕「中-心―-―」。
㊅使役者、炊烹者、ゐもべ、まかなひかた。○〔公羊〕「厮-役扈―」。
㊆癢に同じ。○〔荀〕「疾―滄-熱滑-輕-重以二形-體一異」。
（負養）荷物などを負ふ者と炊事の役に服する者と。○〔史〕「而罰-徒―-―在二其中一矣」。
（厮養）薪を刈りて防を爲す者と炊事の役に服する者と。○〔史〕「有二―-―卒一」。「[illegible]―-―」。
（畜養）かひやしなふ、おもに家畜などにいふ。○〔漢〕
（飼養）前に同じ。○〔元〕「敎レ之―-―」。
（部養）弟子の爲めに食を造るまかなひかた。○〔漢〕「嘗爲二弟-子―-―一」。「―」。
（育養）やしなひそだつ。○〔阮籍〕「何依-恃以―」。
（鞠養）前に同じ。○〔顏氏家訓〕「恭-兄―-―」。
（燕養）平生用ふる所の供養。○〔儀〕「―-―饋-羞」。「―」。
（乳養）ちゝをのませてそだつ。○〔後漢〕「母自―-―」。
（收養）ひきとりてそだつ。○〔漢〕「―二―掖-庭一」。
（視養）めをかけてそだつ。○〔唐〕「善―二―之一」。
（抱養）たきかゝへしてそだつ。○〔管〕「傅-太后―二―之一」。「何人」。
（牧養）やしなひそだつ。○〔管〕「其所二―-―一者殺」。
（廚養）まかなひかた。○〔說苑〕「嬰非二君之―-―臣一也」。
（罔養）依違として斷行せざること。○〔後漢〕「更共―-―以崇二虐-名一」。
（恩養）いつくしみそだつ。○〔後漢〕「―-―加レ篤」。
（撫養）前に同じ。○〔李密〕「躬親―-―」。
（愛養）前に同じ。○〔老〕「―二養萬-物一」。「弟」。
（優養）てあつくやしなふ。○〔後漢〕「―二―母一」。
（哺養）食物をかみくだきて嬰兒などをやしなひそだつ。○〔後漢〕「親自―-―」。「共識-心と」。
（卹養）めぐみやしなふ。○〔陳〕「宜レ加二―-―一答」。
（涵養）容れそだつ。○〔陳〕「孰非二―-―一」。
（容養）前に同じ。○〔周〕「萬-物得二其―-―一焉」。
（馴養）ならしやしなふ。○〔盧思道〕「野人―-―」。
（恬養）恬淡の道をもて自ら其の身性をやしなふ。

○〔盛見聞誌〕「瘦・退——」。

〔長養〕そだつること。○〔仲長統〕「——子・孫」。

〔頤養〕くすりを服して身をすこやかにそだつ。○〔顏延之〕「頤二就——一」。

〔滋養〕うるほふしそだつ。○〔葛長庚〕「——其根・核」。「深・沈」。

〔培養〕つちかひそだつ。○〔朱熹〕「新・知——轉」

【養】ヤウ。餘亮切 漾

下より供へて上をやしなふにいふ字、やしなふ、やしなひ。○〔禮〕「收二祿秩之不レ當、供——之不レ宜者一」。

【餋】ゲン、グヮン。倶願切 願　ケン、クヮン。古倦切 霰　九遠切 阮

まつり（祭）。

【餌】ジ、ニ。忍止切 紙　而至切 寘

一屑米（こゞめ）を粉となし溲（これ）れて擣めて蒸したるもの、こなもち、こごめもち、だんご、もち。○〔楚辭〕「粔籹蜜——」。

二糝食、こながき。○〔禮〕「合以爲レ——」。

三ゑ、ゑば、ゑじき。

（い）魚を飼ひ又は誘ふに用ふる食。○〔莊〕「五十犗以爲レ——」。

（ろ）鳥獸蟲魚の類に啗らはす食の稱。○〔戰〕「虎者戾・蟲、人者甘——」。

（は）欲望を充たすもの。○〔後漢〕「爲二吏——一」。

（に）他の欲望を充たして之を誘ふに用ふるもの、卽ち爵祿城地など。○〔漢〕「五——三表」。

四ゑばを啗らはす、利を以て誘ふ、くらはす、いざなふ、ゑばす。○〔戰〕「我以二宜陽一——レ王」。「給二」。

五食物、くひもの。○〔唐〕「藥——不二自

六獸肉の筋腱、すぢ。○〔禮〕「去二其——一。執出レ之、去二其皺一柔二其肉一」。

【⿰飠去】シ、ジ。神至切 寘

粧ひ飾る、よそほふ。

【⿰飠尼】餛に同じ。

【⿰飠伎】テイ、ダイ。徒兮切 齊

寄食す、ゐさふらふす。

【⿰飠卂】シン。心晉切 震

くろごめのいひ（烏飯）。○〔本草〕「——飯法」

七畫

【⿰飠肙】エン。烏縣切 霰

あく（厭）。○〔賈思勰〕「飽食不レ——」。

【⿰飠守】酧に同じ。

【⿰飠孚】古文の飽の字。

【餐】サン。七安切 寒

一飲食す、のみくひす、のみくらふ。○〔詩〕「不二素——一兮」。

二廚膳、飲食物。○〔漢〕「賜二——錢一」。

三小飯、あひのこよくじ。○〔漢〕「令三其裨將傳レ——」。

四さろ（採）、又、ほむ（美）。○〔王儉〕「——二興・誦于丘・里一」。

〔加餐〕食物を多量に用ふること。○〔後漢〕「君師愼レ疾——」。

〔晨餐〕あさの食物。○〔東晳〕「潔二爾——一」。

〔佳餐〕善き食物。○〔耶律楚材〕「滯二留遐域一得二——一」。

〔常餐〕平常の食物。○〔方干〕「藥・苗高潔備二——一」。

【飱】ソン。蘇昆切 元

飧に同じ、ゆふめし。

【餐】サン。蒼案切 翰

もち（餅）。

【⿰飠兌】セイ、ゼ。舒芮切 霽　ズヰ、ニ。儒垂切 支　キ。翾規切 支

すこしくすゝる（小餟）。

【⿰飠兌】スヰ。式瑞切 寘

小祭。

【⿰飠兌】ライ、レ。郞外切 泰

門の祭。

【餑】ホツ、ボチ。蒲沒切 月

一麪——は、むぎもち。二ながし（長）。

【餒】ダイ、ヌ。奴罪切 賄

一うゝ（饑）。○〔左〕「吾有レ——而已」。

二魚肉腐爛す、たゞろ、あざる。○〔爾〕「魚謂二之——一」。

〔凍餒〕こゞゆるとうゝること。○〔孟〕「文王之民、無二——之老者一」。

〔寒餒〕前に同じ。○〔北齊〕「妻・子不レ免二——一」。

〔乏餒〕食物のゆたかならずしてうゝること。○〔漢〕「振二——一」。

〔豐餒〕食物のゆたかなると乏しきと。○〔魏〕「有二玆——一」。

〔困餒〕困窮してうゝ。○〔金〕「坐二視——一」。

〔懸餒〕いたく困苦してうゝ。○〔孫綽〕「拯二其——一」。

〔饑餒〕食乏しくうゝ。○〔孟郊〕「豚殷甚——」。

〔貧餒〕まづしく食物の乏しきこと。○〔宋〕「家本——」。

【⿰飠弟】テイ、ダイ。杜奚切 齊

餺——は、もち（餌）。

【⿰飠免】エン、於袁切 元　ベン、バン。武遠切 阮

食を貪る、むさぼる。

【⿰飠尾】ビ、ミ。無匪切 尾

一くひあまり（食餘）。二すこし（微）。

【⿰飠尾】ビ、ミ。明祕切 寘　無沸切 未

かゆ（饘）。

【⿰飠末】バツ、マチ。莫撥切 曷

粖に同じ、かゆ（糜）。

【餓】ガ。五箇切 箇

一うゝ、うゑ。

（い）食の腹に足らざるにいふ字。○〔禮〕「昔衞國凶、飢、夫子爲レ粥與二國之——者一」。

（ろ）食乏しくして困むにいふ字。○〔淮〕「無二一月之——一」。

二うゑしむ、うやす。○〔孟〕「——二其體・膚一」。

〔饑餓〕食の足らざること。○〔孟〕「——不レ能レ出二門一」。

〔凍餓〕寒さに困むと食に乏しきと。○〔孟〕「父・母——」。

〔寒餓〕前に同じ。○〔蘇軾〕「秀・句出二——一」。

〔流餓〕食を得ずして流浪するもの。○〔說苑〕「國無二——之民一」。

〔殍餓〕食を得ずしてうゑ死ぬるもの。○〔梅堯臣〕「中・州無二——一」。

〔窮餓〕貧困にして食を得ざること。○〔韓愈〕「天・子閔二——一」。

【⿰飠迅】シン。思晉切 震

烏飯、又、青精飯、其の炊き方に數說あり、一說に、飯を藥草の汁に溲して曝したるもの、又、一說に南天燭の

莖葉を擣きたる汁に糯米を漬し九たび蒸し九たび曝して米粒緊小珠の如くなれるもの、之を嚢にして遠方に適くに堪ふ、又、一説に桝或は楊桐などの葉を以て飯の色を染めたるもの、又一説に、楓或は烏桕の葉にて染めたる飯。

【⿰食良】ラウ。魯堂切 陽
あつもの(羹)。

【⿱折食】セイ。征例切 霽　セツ、セチ。之列切 屑
臭敗したる味、すえる。

【⿱攸食】シウ、シユ。思留切 尤　息有切 有
半ば蒸したる飯、むしいひ。

【餔】ホ、フ。博孤切 虞
㊀申時の食、ゆふめし。○〔呂氏春秋〕「咲至レ｜」。㊁くらふ(食)。○〔楚辭〕「｜ニ其糟一而啜ニ其醨ニ」。
(餔餟) 飯食のこと。○〔後漢〕「壟・餟｜・｜」。

【餔】ホ、ブ。蒲故切 遇
㊀餔｜は、もち(餌)。㊁餳の濁りたるもの、にごりあめ。

【餔】ホ、フ。博故切 遇
食を與ふ、やしなふ、くらはす。○〔史〕「老-父請レ歠因｜レ之」。

【餕】シユン、ジユン。子峻切 震　セン、ザン。疾眷切 霰
㊀熟食、めし、にもの。○〔公羊〕「｜-饔未レ就」。㊁食餘、くひのこり。○〔禮〕「既食ニ恆-｜ニ。「｜」。㊂食餘を食ひ盡すこと。○〔禮〕「日-中而｜」。
(餘餕) くひのこし。○〔王令〕「愛レ弟忘ニ｜・｜ニ」。

【⿰食志】シ、ジ。而志切 寘
くひもの。

【⿰食甬】ヨウ、ユ。尹竦切 冬
餚に同じ、くひもの。

【⿰食邑】イフ、オフ。於汲切 緝　イツ、イチ。億姑切 質
㊀うるほふ(濕)。㊁くさし(臭)。

【⿰食巴】エフ、オフ。又業切 葉
すえくさし(饐-臭)。

【⿰食丮】サイ。作代切 隊
㊀はじめ(始)。㊁食を設くるを、したく。

【餖】トウ、ヅ。田候切 宥
飣｜は、食を貯ふるを、又、殽を陳らぬるを、又、文詞の因襲案積にもいふ語。○〔韓愈〕「肴-核分ニ飣｜ニ」。

【餗】ソク。桑谷切 屋　サク、ソク。測角切 覺
かなへのもりもの(實-鼎)。○〔易〕「鼎折レ足、覆ニ公｜ニ」。
(鼎餗) かなへのもりもの、又、易の故事より台輔の任務の義に用ふる語。○〔傅咸〕「安能任ニ｜・｜ニ」。

【⿰食呈】テイ、チヤウ。丑正切 敬
おくる(饋)。

【⿰食皃】バウ、メウ。眉教切 效
あく、あきもだゆ、(飽-飫)。

【餘】ヨ。以諸切 魚
㊀あまり。
(い)衆多。○〔呂氏春秋〕「亦無レ使レ有レ｜」。
(ろ)過度。○〔荀〕「不レ求ニ其｜ニ」。
(は)殘り。○〔周〕「幣｜之賦」。
(に)零數、はした。○〔晉〕「一-月不レ盡爲ニ月｜ニ」。
(ほ)以外、ほか。○〔左〕「宦ニ其｜-子ニ」。
(へ)末後、すゑ、のち。○〔南〕「備ニ嗚-盜淺-術之｜ニ」。
(と)およそを擧げてはしたを略するときに用ふる字。○〔張華〕「食-客三-千｜」。
㊁あまりあり、あまる、又、あまりあらしむ、あます。○〔戰〕「煖-衣｜-食」。
(餕餘) 食物のあまりたるもの、くひのこし。○〔禮〕「｜・｜不レ祭」。
(王餘) 魚の名、ひらめ。○〔爾、註〕「比-目-魚江-東呼爲ニ｜・｜ニ」。
(遺餘) のこりもの。○〔法苑珠林〕「散-壞無ニ｜・｜ニ」。
(殘餘) 前に同じ。○〔歐陽修〕「狼-藉烏-鳥爭ニ｜・｜ニ」。
(閏餘) うるふづき。○〔楮翔〕「今-年有ニ｜・｜ニ」。
(盈餘) みちあまるもの。○〔後漢〕「求ニ｜・｜ニ但自苦耳」。
(三餘) 冬は歲の餘りもの、夜は日の餘りもの、陰雨は時の餘りもの。○〔蘇軾〕「此生有レ味在ニ｜・｜ニ」。
(刑餘) 一度刑に觸れたること。○〔春秋繁露〕「｜・｜-戮-民」。
(雨餘) 雨ふりのあと、あめあがり。○〔梁簡文帝〕「｜・｜雲稍薄」。
(春餘) 春の末。○〔任昉〕「麗-景屬ニ｜・｜ニ」。
(俸餘) 俸給ののこり。○〔唐〕「斥ニ｜・｜ニ以給ニ貧-窮ニ」。
(公餘) 公務の餘暇。○〔王禹偁〕「｜・｜多愛レ入ニ山-林ニ」。
(紆餘) 紆回してすぐならざること。○〔上林賦〕「｜・｜-逶-迤」。
(唾餘) 唾の嗽めたる後。○〔黄庭堅〕「｜・｜番-味在ニ胸-中ニ」。
(旬餘) 十日あまり。○〔史〕「毋レ束｜・｜」。
(羨餘) あまりたるもの。○〔宋〕「進ニ爲｜・｜ニ」。
(豐餘) ゆたかにあまる、又、ゆたかなるあまりもの。○〔唐〕「常-饌｜・｜」。

【餩】井ク、チク。烏域切 職
うゝ、(飢)。

八畫

【鬻】キク、コク。居六切 屋
かゆ、(饘)。

【⿸厂食】
饡、又、纘、又、饘に同じ。

【餚】
肴に同じ。

【⿰食彔】ロク。力谷切 屋
くひもの、(食)。

【⿰食匋】タウ、ドウ。徒刀切 豪
ゑば、(餌)。

【餛】コン、ゴン。戶昆切 元
飩の字の條を見よ。

【餳】セイ、ジヤウ。徐盈切 庚
あめ、(飴)。

【⿰食念】ジン、ニン。如甚切 寢
㊀あく、(飽)。㊁飪に同じ。

【⿰食念】デフ、テフ。諸叶切 葉
もち、(餅)。○〔雲溪友議〕「陳-黏-餤-饠古-｜-頭」。

【餜】クワ。古火切 哿
もち、(餅)。

【餕】シ、ジ。什吏切 寘
食を嗜む、すく。

【餓】ツヰ。竹恚切 寘
うゝ、(飢)。

【餕】リョウ。力膺切 蒸　ロウ。盧登切
ソウ。子孕切 徑
馬の多く穀を食らひて氣流れ出づると、馬汗をかく。

【餬】コ、ク。洪孤切 虞
もち、(餅)。

【餬】コ、グ。古慕切 遇
かゆ、(饘)。

【餝】飾に同じ。

【餽】ク、コ。衢遇切 遇
寒ーーは、餅の屬。

【餞】セン、ゼン。慈演切 銑　子賤切 霰
㊀おくる、みおくる。
(い)酒食を供へて行者を送る。○[詩]「飲ニ一于禰一」。
(ろ)すべて禮を供へて行者を送るにいふ字。○[書]「分命ニ仲-和一、宅レ西曰ニ昧-谷一、寅ー二納-日一」。
㊁みおくる禮、みおくりの宴、みおくりに進むる禮物、みおくり、わかれのさかづき、はなむけ。○[晉]「別ニ一東-堂一」。
〔追餞〕去りたる者の後をおひゆきて送別の宴を設く。○[宋]「ーー至ニ十-里一」。
〔贈餞〕送別のおくりもの。○[國]「賓-禮ーー」。
〔親餞〕天子自ら出御ありて征行の者を見送る。○[晉]「帝ーニーー于郊一」。
〔臨餞〕前に同じ。○[北]「車-駕ーー」。
〔祖餞〕旅立つ者に對し道祖神を祭り途上の安全を祈りて見送る。○[南]「朝-廷無ニーー者一」。
〔宴餞〕酒宴を張りて見送る。○[梁簡文帝]「ーーー臨ニ葬-地一」。
〔勝餞〕てあつき送別の宴。○[王勃]「躬逢ニーー」。
〔郊餞〕郊外に出でて見送る。○[顏延之]「ーーー有ニ壇一」。
〔偉餞〕盛大なる送別の宴。○[王勃]「幸承ニ恩于ーー」。

【餟】テイ、テ。陟衛切 霽　テツ、テチ。陟劣切 屑
諸神の祭座を聯續して設け酒を酹ぎ祭るにいふ字、まつり、まつる。○[史]「其下四-方地爲ニ一-食一」。

【錯】ソ、ズ。昨故切 遇
相謁げ食ふ、くらふ。

【餋】ケン、クワン。古倦切 霰
さけさかな、(饌)。

【餅】ヘイ、ヒヤウ。必郢切 梗
㊀(むぎのこ)を溲(これ)れて作りたるくひもの、むぎこのもち、もち。○[揚雄]「ーー謂ニ之飥一」。
㊁麪をこれ合はす、あはす。○[釋名]「ーレ之」。
〔畫餅〕ゑがきたるもちとて實用なきをあらはす語。○[魏]「名如ニーレ地作ガー、不レ可レ啖也」。「糖饆」。
〔麥餅〕むぎこもてつくりたるもち。○[齊]「ーーー」
〔籠餅〕饅頭のこととも麪を煮たるものともいふ。○[俗游雜錄]「唐人呼ニ饅-頭-爲ニーー」、亦名ニ湯餅一」。
〔硬餅〕かたきもち。○[韓愈]「大肉ーー如ニ刀-截一」。

【餥】ダク、ニヤク。尼戹切 陌

【饀】カン、ゲン。胡鑑切 陷
㊀炙餅餌、やきもち。
㊁小兒の懶惰なるを、なまけ。
米麪の食物の中を空虛にしてそこに入れたる雜味、あん。○[歐陽修]「不レ知ニー从ヒ臽」。

【餢】シ。莊持切 支
かゆ、(饘)。

【餉】餉に同じ、かて。○[漢]「賜ニ給公-田一爲ニ雇-耕-傭-賃種ーー一」。

【餢】ホウ、プ。薄口切 有
麪に發酵(もと)を入れねかして浮起せしめ之を炊ぎてこしらへたる餅。○[齊民要術]「有ニー-飾一」。

【餣】エフ、オフ。於業切 葉
もち、(餈)、こなもち、(餌)。○[揚雄]「餌謂ニ之餻一、或謂ニ之ーー」。

【餤】タン、ドン。徒甘切 覃　エン、オン。余廉切 鹽
すゝむ、(進)。○[詩]「盜-言孔甘亂是以ー」。

【餤】タン、ドン。杜覽切 感
㊀啖に同じ、くらふ、くらはす。
㊁薄き餅を以て肉を卷きたるもの。

【餤】タン、ドン。徒濫切 勘
くらふ、くらはす、(啗)。○[史]「以レ齊ーニ天-下一」。

【餩】餥に同じ。

【餥】ヒ。府尾切 尾　甫微切 微
方未切 未

【餦】チヤウ。陟良切 陽
㊀ほしいひ、(餱)。
㊁くらふ、(食)。
ー餭は、あめ、(餳)、こもち、(餌)。○[楚辭]「粔-籹蜜-餌有ニー-餭一些」。

【餲】エツ、エチ。一結切 屑
或は、噎に作る。
喉にふさがりて下らず、むせぶ。○[楚辭]「仰長-嘆兮氣ーー結」。

【餳】脠に同じ。

【餧】ヰ。於僞切 紙
㊀くはす、(食)、かふ、(飼)。○[禮]「ーレ獸之藥」。
㊁いひ、(飯)、くひもの、(食)。○[楚辭]「鳳亦不ニ貪レー而妄食一」。

【餧】ダイ、ナ。奴罪切 賄
餒に同じ、うゝ、あざる。○[漢]「振ニ之ーー」。
〔羸餧〕つかれうゝ。○[國]「民之ーー」。
〔萎餧〕前に同じ。○[魏]「民-人ーー」。
〔窮餧〕困窮して食物ゆたかならず。○[晉]「甚ーー」。

【館】クワン。古玩切 翰　古緩切 旱
㊀假寓の屋舍、やど、やどや、たち、たて、やかた。○[詩]「適ニ子之ー一兮」。
㊁廨署、學校、官舍など人の常住せざる屋舍の稱。○[後漢]「府-署第ーー、碁ニ列於都-鄙一」。
㊂寓舍す、又、寓舍せしむ。○[詩]「于レ豳斯ー」。
㊃菹を承くるもの。○[周]「道-布菹-

（舊館）ふるきやかた。○〔王勃〕「得二仙人之——一」。
（客館）賓客のとまりや。○〔左〕「禮二公使レ視二——一」。
（賓館）前に同じ。○〔許渾〕「——有レ魚爲レ客久」。
（舍館）とまりや。○〔孟〕「——未レ定」。「—舍ニ」。
（捐館）諸侯などの死にたること。○〔史〕「奉陽君—ニ」。
（祕館）養靈室のこと。○〔漢〕「春幸二——一」。
（寶館）前に同じ。○〔曹植〕「親桑二——一」。
（燠館）温室のこと。○〔唐〕「——涼臺」。
（孤館）ひとつや。○〔宋之問〕「驅馬留二——一」。
（公館）奉官の館舍。○〔禮〕「——復」。
（大館）宏大なるやかた。○〔白居易〕「——居二中央一」。
（第館）官有の邸宅。○〔後漢〕「府署——」。
（陋館）狹小なるやかた。○〔南〕「逍二遙——一」。
（麗館）うるはしきやかた。○〔李尤〕「燦爛——」。
（榮館）前に同じ。○〔劉楨〕「——寄二流波一」。
（空館）人なきやかた。○〔潘岳〕「——闃其無レ人」。
（旅館）旅人の宿舍。○〔岑參〕「不レ渉向二——一」。
（閎館）ひろやかなるやかた。○〔梁昭明太子〕「憩二諸——一」。
（學館）學校のこと。○〔楊載〕「——尚寧崇」。
（僧館）荒館といふに同じ、僧寺のこと。○〔王安石〕「數騎午飯投二——一」。
（驛館）驛亭の旅舍。○〔貫師泰〕「——到レ時逢ニ」
（瑤館）珠玉もてかざりたる美麗なるやかたにて珠館又は瑤臺といふに同じ。○〔蘇軾〕「逍二遙——一員塌レ燄」。

【飫】　飫に同じ。○〔後漢〕「——賜犒レ功」。

【餩】　オク。愛黑切 職　㊀むせぶ（噎）。㊁噎ぶ聲にいふ字。

【饢】　ダウ、ニヤウ。乃網切 養　㊀ちかし（近）。㊁たちまち（忽）。㊂咫尺に見る、まぢかにみる。

【⿰食崇】　ホウ、フ。餠弓切 東　——饛は、食を貪る、むさぼる。

【餾】　糒に同じ。

九畫

【餪】　ダン、ナン。乃管切 旱　女の嫁せし後三日めに食をおくるにいふ字、おくる。

【餪】　ダン、ナン。奴亂切 翰　女の嫁せし後三日めの酒宴、さかもり。

【餫】　ウン、チン。禹慍切 問　糧を運び致す、おくる。○〔左〕「晉荀首如レ齊逆レ女、宣伯—二諸穀一」。

【餫】　コン、ゴン。戸昆切 元　餛に通じ用ふ。

【餬】　コ、ウ。戸吳切 虞　㊀かゆ（饘）。○〔爾疏〕「—、饘、鬻、糜、相類之物也」。㊁貧しく生活す。○〔左〕「以—二余口一」。㊂人に寄食す。○〔左〕「—二其口於四方一」。

【⿰食科】　クワ。苦禾切 歌　—斗は、こなもち。

【餭】　クワウ、ワウ。胡光切　ワウ。于方切 陽　㊀乾餭、かわきあめ、又粔籹、おこし。㊁餦—は、あめ（餳）、もち（餌）。

【⿰食叜】　シウ、シユ。所鳩切 尤　餿に同じ、飯濕熱のために壞る、すゆ。

【⿰食建】　ケン、コン。居言切 元　セン。諸延切 先　かゆ（粥）。

【⿰食畐】　ヒヨク、ヘキ。芳逼切 職　あく（飽）。

【⿰食有】　ス井。息委切 紙　イ。尹捶切 支　㊀豆の粉を砂糖に雜へたるもの、きなこ。㊁あめ（餹餳）。

【⿰食甚】　カン、コン。口敢切 感　うゝ（飢）。

【⿰食复】　フク、ホク。方六切 屋　くひもの、くらふ（食）。

【⿰食勇】　ヨウ、ユ。尹竦切 腫　くひもの、くらふ（食）。

【餮】　テツ、テチ。他結切 屑　テン、デン。徒典切 銑　飻に同じ、食を貪る、むさぼる。○〔左〕「縉雲氏有二不才子一、貪二於飲食一、冒二於貨賄一、天下謂二之饕—一」。

【⿰食彖】　クワイ、ケ。許濊切 隊　飯くさし。

【⿰食兪】　トウ、ツ。他口切 有　もち（餅）。

【⿰食柔】　ジウ、ニユ。如又切 有　むしいひ（餾）。

【⿰食柔】　ヂウ、ニユ。女救切 宥　まぜめし（雜飯）。

【餰】　セン。諸延切 先　ケン、コン。居言切 元　セン。旨善切 銑　饘に同じ。○〔荀〕「酒醴—鬻」。

【⿱夭食】　エウ。於喬切 蕭　あめ（餳）。

【⿰食英】　エイ、ヤウ。於丙切 梗　㊀こなもち（餌）。㊁あく（飽）。

【⿰食英】　ヤウ、アウ。倚兩切 養　みつ（滿）。

【餱】　コウ、グ。戸鉤切 尤　ほしいひ、かれいひ（乾食）。○〔詩〕「迺裹二—糧一」。

【餲】　エイ。於例切 霽　アイ、エ。於邁切 卦　アツ、アチ。烏葛切 曷　飯の穢臭あるにいふ字、くさし、すゆ。○〔論〕「食饐而—」。

【⿱叨食】　饕に同じ。

【⿰食巺】　饌に同じ。

【餳】　タウ、ダウ。徒郎切 陽　米を煮て爛らしたる甜味あるもの、ぢろあめ、あめ。○〔劉禹錫〕「今賣レ—者」。

【⿰食保】　飽に同じ。○〔路史〕「有二不レ能レ—者一」。

【⿰食奔】　フン、ホン。甫云切 文

米を一たび蒸し熟し更に水を沃ぎて二たび蒸すにいふ字、むす、又、其のむしたる飯、めし。○〔詩〕「挹レ彼注レ茲、可三以一レ饎」。

【饙】 餴に同じ。

【饙】 ゲン、ゴン。五健切 〔願〕 あめ、（飴）。

【餴】 フン、ホン。甫文切 〔文〕 いひ、（飯）。

【餬】 コ、ウ。皇盧切 〔虞〕 ㊀かゆ、（糜）。㊁寄食す。

十畫

【餹】 タウ、ダウ、徒郎切 〔陽〕 あめ、（餳）。○〔揚雄〕「餳謂二之一一」。「也」。（乾餹）かたきあめ。○〔釋文〕「餳又音唐、即一一」

【饈】 俗の嗜の字。

【饘】 テン。丑展切 〔銑〕 長き味。

【餲】 カツ、ゲチ。胡瞎切 〔黠〕 あく、（飽）。

【餻】 ヤウ。餘亮切 〔漾〕 こなもち、（餌）。

【餺】 ハク。複各切 〔藥〕 一飥は、餅の屬、うんどん。

【鎌】 レン。良冉切 〔琰〕 力鹽切 〔鹽〕 ㊀小しく食らふ、くらふ。㊁小飯、あひのおよくじ。㊂いさぎよし、（廉-潔）。

【鎌】 餡に同じ。

【鎌】 ケン。苦簟切 〔琰〕 飽かず、くひたらず、うゝ。

【餽】 エン、チン。於袁切 〔元〕 むさぼる、（貪）。

【餻】 カウ、コウ。古勞切 〔豪〕 こなもち、（餌）。○〔揚雄〕「餌謂二之一一」。

【鎬】 犒に同じ。

【餹】 サウ。千剛切 〔陽〕 くひもの、（食）。

【餂】 サフ、セフ。測洽切 〔洽〕 こなもち、（餌）。

【饃】 キウ、ク。去久切 〔有〕 食物腐る、すゆ。

【餽】 ショク、シキ。悉卽切 〔職〕 ㊀いき、（氣-息）。㊁くらふ、（食）。㊂ながし、（長）。

【饘】 ケン。去演切 〔銑〕 ㊀ねばる、（黏）。㊁にぎる、（搏）。㊂ひもち、（乾-餌）。

【餶】 ラ。來可切 〔哿〕 あく、（飽）。

【饑】 キ、ケ。許旣切 〔未〕 ㊀食料又は生牲を致すにいふ字、おくる。○〔儀〕「一レ之以二其禮一」。㊁おくる禾米。○〔周〕「廩-人獻レ一」。㊂おくる食料。○〔國〕「公與二之一一」。㊃おくる芻秣。○〔國〕「馬一一不レ過二根-莠一」。㊄おくる生牲。○〔論〕「告-朔之一-羊」。

（饔餼）大禮におくる殺牲と生牲と。○〔儀〕「君使三卿韋弁歸二一一五牢一」。

（常食）さだまりたる饋餉。○〔禮〕「皆有二一一一」。

（饋餼）食物のおくりもの。○〔晉〕毎レ有二一一一」。

（牢餼）みごとなる食物のおくりもの。○〔宋〕「供-張一一一」。

（生餼）いきたる牛羊などの食用に供すべきもの。○〔宋〕又明-日賜二一一一」。

（軍餼）軍用の食物。○〔楊-夔〕「軍-須一一一」。

【餳】 タフ、トフ。都盍切 〔合〕 一餉は、食らふ。

【餸】 ソ、ス。蘇故切 〔遇〕 膳に葷を用ひざると。

【餽】 キ。求位切 〔寘〕 おくる。

（い）かれいひす、（饋）。○〔漢〕「千-里負-擔一レ饟」。

（ろ）やる、（貽）。○〔孟〕「一二兼-金一一百一」。

（恭餽）つゝしみうやまひて食をすゝむ。○〔朱熹〕「女一一一」。「塡-咽」。

（餘餽）食物をはこびおくる。○〔張耒〕「一一日

【餾】 リウ、力救切 〔宥〕 力求切 〔尤〕 飯の氣蒸す、米を蒸す、むす、又、蒸し熟したる飯、めし。

【饐】 ゴン。五困切 〔願〕 ㊀相謁げて麥を食らふ、くらふ。㊁あく、（飽）。㊂あざる、（饐）

【餿】 餕に同じ。

【鎚】 タイ、テ。都回切 〔灰〕 もち、（蒸餅）。○〔李蕁〕「拈レ一舐レ指不レ知レ休」。

【餡】 饕、又、麴に同じ。

【餡】 カン、コン。苦紺切 〔勘〕 味甘きに過ぐると、あまし。

【饔】 俗の齋の字。

【饁】 エフ。筠輒切 〔葉〕 田に饋る食、かれいひ、又、食を饋る、かれいひす。○〔詩〕「一二彼南-畝一」。

【餽】 クワ、ケ。果騧切 〔麻〕 食を消化す、こなす。

【餮】 漿に同じ。○〔莊〕「五一一先饋」。

十一畫

【饑】 キヤウ、ガウ。巨兩切 〔養〕 硬食、こはめし。

【饄】 餹に同じ。

【饟】 タク、チヤク。陟革切 〔陌〕 日月の蝕。

【饞】 サン、ソン。桑感切 〔感〕 ㊀こながき、（糝）。㊁つぶ、（粒）。㊂かす、（滓）。

【𩝐】シン、ソン。楚錦切 寑
沙の雜りある食物。

【𩝐】サン、ソン。七紺切 勘
參に同じ、鼓の曲。

【䭐】バ、マ。莫婆切 歌
⊖小兒に哺す、はぐくむ。⊜くひもの（食）。

【𩟇】糜に同じ。

【饅】バン、マン。母官切 寒
—頭は、屑麪（こむぎこ）に發酵（もと）をいれねかして浮起したるを餅して蒸したるもの。○〔事物紀原〕「諸-葛-亮南-征將レ渡二瀘-水一、土-俗殺レ人首以祭レ神、亮令下以二羊豕一代、取レ麪畫二人-頭一祭上レ之、—-頭名始レ此」。

【餳】餹、又、餔に同じ。

【饆】ヒツ、ヒチ。卑吉切 質
—饠は、餅の屬にして麪を用ひて爲り中に餡あるもの。○〔資暇集〕「蕃-中畢氏羅-氏好二食此味一、因名二畢-羅一、後-人加二食旁一爲二饆-饠一」。

【𩟕】サウ、ゾウ。昨糟切 豪
餡を食らふ、くらふ。

【𩞀】サイ、セ。蘇回切 灰
めし（飯）。

【𩟂】サウ、ゾウ。士江切 江
食を欲す、むさぼる。

【饇】ヨ、オ。依據切 御　ウ、ヲ。衣遇切 遇　オウ、ウ。於口切 有
飫に同じ、あく。○〔詩〕「如レ食宜レ—」。

【饏】サン、ザン。子敢切 感　咋濫切 勘
灠—は、味なし、まづし。

【𩞬】セン、ゼン。子冉切 琰
嘗め食らふ、なむ、一説に、—儳は、味うすし。

【䬲】チク、トク。佇六切 屋
⊖食らふ貌にいふ字。⊜もち（餅）。

【䭗】ショ、ソ。章恕切 御
⊖豕の食。⊜かゆ（糜）。

【䬬】ソウ、ズ。鋤功切 東
饞—は、食を貪る、むさぼる。

【饈】シウ、ス。思留切 尤
進獻す、滋味を致す、すゝむ、そなふ、又、すゝめそなふる食物。

【䭇】キ、ケ。居氣切 未
生ものゝ食を饋る、おくる。

【䭒】ショウ、シュ。昌容切 冬
多く食らふ、むさぼる。

【饉】キン、ゴン。渠遴切 震
菜穀の空乏なるにいふ字、うゝ、うゑ。○〔論〕「因レ之以二飢—一」。
〔凶饉〕年凶にして穀菜なきこと。○〔後漢〕「—-—流-亡」。
〔歉饉〕前に同じ。○〔唐〕「歲—-—」。
〔荒饉〕前に同じ。○〔唐〕「隋-末—-—」。
〔飢饉〕うゝ。○〔班彪〕「夫—二—流-隷一」。
〔疲饉〕つかれうゝ。○〔後漢〕「兵-人—-—」。
〔餒饉〕食に乏しくうゝること。○〔韋承慶〕惟憂二—-—一。

【䭄】饉に同じ。

【𩞬】饏に同じ。

十二畫

【饊】サン。蘇旱切 旱
稻米に餳を和して熬りたるもの、おこし。

【𩟗】俗の饕の字。

【䭘】エイ、ヤウ。於丙切 梗　於慶切 敬
⊖もち（餌）。⊜あく（飽）。

【䭚】トン。都昆切 元
食を貪る、むさぼる。

【饋】キ。求位切 寘
⊖おくる。
（い）食を致す、かれいひす。○〔左〕「—レ之」。
（ろ）物を致す、やる。○〔左〕「往—二之馬一」。
⊜尊上に致す、すゝむ。○〔淮〕「浣而後—」。
⊜食事、めし、け。○〔淮〕「一—而十起」。
㊃くひもの、かれいひ、おくりもの、そなへもの。○〔詩、箋〕「設レ—勸レ之」。
〔餉饋〕かれいひ。○〔史〕「給二—-—一」。
〔饌饋〕飯食を具ふ。○〔儀〕「弟-子—-—」。
〔野饋〕田に在る者にをくる食物。○〔左、註〕「—-—曰レ餽」。
〔糧饋〕糧餉のこと。○〔漢〕「不レ足二于—-—一」。
〔羊饋〕ひつじのそなへもの。○〔國〕「大-夫有二—-—一」。
〔獻饋〕物品食物などの贈りもの。○〔唐〕「四-方—-—不レ及レ門」。
〔薄饋〕てうすき食物のそなへもの。○〔東晳〕「敬薦二—-—一」。
〔厚饋〕ゆたかなる食物のおくりもの。○〔陶潛〕「—-—吾不レ酬」。

【䭔】タイ、デ。徒回切 灰
餢—は、米の屑を蜜に和して蒸したるもの、くわし。

【饄】タウ、チヤウ。丑庚切 庚
—䬢は、あく（飽）。

【䭤】シン。子朕切 寑
⊖濕ひ上に通す、うるほふ。⊜うまし（美味）。

【䭥】シヤウ、サウ。書兩切 養
ひろめし（晝食）。

【饌】サン、ゼン。雛綰切 潸　ハン、バン。扶萬切 願　セン、ゼン。士戀切 霰
⊖酒食を具ふ、そなふ。○〔周、疏〕「—二陳具三設之二」。
⊜具ふる酒食、そなへもの。○〔儀〕「膳-宰具二官-—于寢-東一」。
〔盛饌〕立派に陳設したる飯食。○〔論〕「有二—-—一必變レ色而作」。
〔異饌〕めづらしき飯食。○〔揚雄〕「嗜二乎—-—一」。
〔珍饌〕前に同じ。○〔晉〕「四-方—-—」。
〔玉饌〕みごとなる飯食。○〔左思〕「珠-服—-—」。
〔華饌〕前に同じ。○〔杜甫〕「置レ酒張レ燈促二—-—一」。
〔美饌〕前に同じ。○〔吳〕「餓-者不レ待二—-—一而後飽」。
〔佳饌〕前に同じ。○〔法書要錄〕「設二—-—一」。

(頭饌) 尋長に詣むる飯食。○〔後漢〕「身執二―・―一」。

(常饌) 平常の飯食。○〔梁〕「改二―・―一爲二小食一」。

(具饌) 飯食を陳らね設けてすゝむ。○〔北齊〕「相率―レ―」。

(飯饌) 肉をそへたる飯食。○〔南〕「妻叡綏市二―・―一」。

(奇饌) 珍奇なる食物。○〔神仙傳〕「宴・會―・―」。

(豐饌) ゆたかにそなふる飯食。○〔駱賓王〕「―・―引二中・廚一」。

(清饌) きよらかなる飯食。○〔徐賁〕「時尋二新筍一供二―・―一」。

(午饌) ひるめし。○〔皮日休〕「爲レ予備二―・―一」。

(甘饌) 味あまき飯食。○〔梅堯臣〕「―・―香脆與レ君游」。

【⿱厤食】 レキ、リヤク。令益切 [陌]

―鏑は、食らふに箸をつけあふこと。

【⿰食黃】 クワウ、ワウ。胡光切 [陽]

かゆ、(糜)。

【饍】 膳に同じ。

【饎】 シ。昌志切 [寘] キ。虛其切 [支]

❶酒食。○〔爾、註〕「猶三今云二―・饌一」。❷きび、(黍・稷)。○〔儀〕「主・婦視レ―、爨二于西・堂下一」。

【饏】 タン、ドン。杜覽切 [感]

食に味なし、あぢなし。

【⿰食童】 タウ、トウ。宅江切 [江]

❶喫らふ貌にいふ字。❷むさぼりくらふ。

【饐】 イ。乙冀切 [寘] エイ。於例切 [霽]

食腐る、すゆ。○〔爾〕「食―謂二之餲一」。

【饐】 エツ、一結切 [屑] イツ、益悉切 イチ。[質]

飯のどに窒がる、むせぶ。

【饑】 キ、ケ。紀衣切 [微]

飢に同じ、うゝ、うゑ。○〔左〕「晉―」。

(大饑) 穀物みのらずして食物の乏しきこと。○〔穀梁〕「五・穀不レ升爲二―・―一」。

(兵饑) 戰亂のために五穀乏しきこと。○〔後漢〕「公・卿多遇二―・―一」。

(荒饑) 穀熟せずしていたくうゝ。○〔後漢〕「人・士―・―」。

【⿰食登】 トウ。都騰切 [蒸] 丁鄧切 [徑]

祭の食。

【饒】 ゼウ、如招切 [蕭] ネウ。人要切 [嘯]

❶ゆたか。

(い)多し。○〔漢〕「貲・用益―」。

(ろ)厚し。○〔江淹〕「顧二僕・御一而情―」。

(は)飽つること。○〔後漢〕「租・入之―」。

(に)餘りあること。○〔諸葛亮〕「子・孫衣・食自有二餘―一」。

(ほ)寛大。○〔書、疏〕「寛―之道」。

(へ)肥沃。○〔韓〕「肥―之地」。

(と)富有。○〔晉〕「總二山・海之―一」。

❷ゆたかならしむ、ゆたかにす。○〔漢〕「―レ人以二爵・邑一」。

❸ます、(益)。○〔舊唐〕「有二加―法行一」。

❹ゆるす、(恕)。○〔杜甫〕「日・月不二相―一」。

(寛饒) ゆたかなること。○〔田況〕「下・民―・―」。

(肥饒) 地味の肥えて穀のゆたかにみのる土地にいふ語。○〔史〕「地―・―可二都以覇一」。

(沃饒) 前に同じ。○〔左〕「―・―而多レ鹽」。

(廣饒) 土地ひろくしてこゆ。○〔詩、箋〕「齊・地―・―」。

(優饒) すぐれてゆたかなり。○〔漢樂府〕「我入以―・―」。

(豐饒) 穀物などのゆたかに多きこと。○〔蔡邕〕「儲・粟―・―」。

(富饒) とみさかえてゆたかなり。○〔蜀〕「國以―・―」。

(苕饒) はゝきぐさのこと。○〔詩、疏〕「苕―・―也」。

【⿰食肅】 鱐に同じ。○〔淳化帖〕「得二―・魚一付レ廚」。

【饄】 タウ、チヤウ。丑庚切 [庚]

食が病ふ、うれふ。

十三畫

【⿰食會】 クワイ、ケ。古外切 [泰]

食らふ。

【⿰食蜀】 トク、ドク。徒谷切 [屋]

かゆ、(粥)。

【⿰食感】 カン、コン。呼紺切 [勘]

食に飽かず、うゝ。

【⿰食雍】 ヨウ、ユ。委勇切 [腫]

食腐る、すゆ。

【饔】 ヨウ、ユ。於容切 [冬] 於用切 [宋]

❶熟食、にたるもの、さかな、めし。○〔詩〕「有二母之尸レ―」。❷食事、めし、け、特に朝食、あさめし、あさげ。○〔孟〕「―・飧而治」。❸割烹煎和の總稱、れうり。○〔國〕「佐レ―者得レ嘗」。❹殺したる牲。○〔儀〕「君使三卿韋・弁歸二―・餼五・牢一」。

【⿰食睘】 エン。與縣切 [霰]

あく、(饜・飽)。

【⿰食過】 クワ。古臥切 [箇]

くらふ、(食)。

【⿰食零】 レイ、リヤウ。郎丁切 [青]

食に飽く、あく。

【⿰食熙】 饎に同じ。○〔周〕「―・―人」。

【⿰食睪】 エキ、ヤク。夷益切 [陌]

❶祭の翌日の祭事。❷飯腐る、すゆ。

【⿰食僉】 レン。力驗切 [豔] 良冉切 [琰]

食に味なし、あぢなし。

【⿰食奧】 アウ、オウ。烏到切 [號]

ねたむ、そねむ、(妬)。

【⿰食當】 タウ。都郎切 [陽] 丁浪切 [漾]

食を與ふ、あたふ。

【饕】 タウ、トウ。土刀切 [豪]

財貨を貪る、飲食を貪る、むさぼる。○〔左〕「天・下之民以比二三・凶一、謂二之―・餮一」。

(老饕) 老いて貪る心深し。○〔蘇軾〕「養二吾之―・―一」。

(吏饕) 官吏の人民より財を貪り取ること。○〔黄庭堅〕「惸・獨困二―・―一」。

(餮饕) 食物を貪ること財物を貪ること。○〔朱松〕「幾何非二―・―一」。

【⿰食葉】 エフ。與涉切 [葉]

餅の屬。

【⿰食兼】 ケン。苦簟切 [琰]

❶食に飽かず、一説に、足らず。❷いのる、(祈)。

【⿰食蜀】 イ。於利切 [寘]

あく、(飽)。

【饖】アイ。於廢切 [隊] イ。乙冀切 [寘]
飯腐る、飯臭し、すゆ、くさし。

【饗】キヤウ、カウ。許兩切 [養]
㊀酒食を設けて人を待つ、酒宴を張りて人を勞ふ、もてなす、ねぎらふ、さかもり。○[詩]「一朝—レ之」。
㊁酒食を供へて神を祭る。○[禮]「大—其王事歟」。
㊂獻ず、侑む。○[國]「王—レ醴」。
㊃飲む、食らふ。○[淮]「先祭而後—」。
㊄うく。
（い）受く、當たる。○[左]「—二大利一」。
（ろ）神の祭りを受納ありて福を降さるゝにいふ字、又もてなしに應じて酒食に就くにいふ字。○[詩]「既右二—之一」。
㊅酒食。○[國]「宰夫供レ—」。
㊆響に通じ用ふ、ひびき。○[漢]「五音六律依レ—」。
（宴饗）酒食を設けて賓客をもてなす。○[晉]「—有レ樂」。
（養饗）神をまつる祝辭。○[漢]「其——日」。
（禮饗）盛禮を設けて賓客をもてなす。○[後漢]「——畢」。
（尊饗）たふとびて酒食をもて人を勞ふ。○[後漢]「考——」。「—二—國老一」。
（降饗）神靈のくだりて祭をうくること。○[晉]「祖——朝廢」。
（祭饗）まつりのこと。○[晉]「
（祠饗）前に同じ。○[唐]「爲二——費一」。

【饗】キヤウ、カウ。虚良切 [陽]
前條の㊄に同じ、うく。○[漢]「關二流離一抑二不祥一賓二百寮山河一—」。

【𩟔】ダウ、ノウ。女江切 [江]
饘——は、食を強ふること。

【饘】セン。諸延切 [先] 旨善切 [銑]

かゆ、（糜）、特に其の厚きもの。○[禮]「——」。「—粥」。
（梁饘）こめのあつがゆ。○[王安石]「巾・蒲稻・飯隨二——一」。
（餅饘）かゆ。○[北]「——不レ繼」。
（麥饘）むぎのかゆ。○[皮日休]「朝食有二——一」。
（羹饘）あつものとかゆと。○[耶律楚材]「旦夕充二——一」。

【𩜶】饘に同じ。

【饙】フン、ホン。方文切 [文]
半蒸飯、なまむしのいひ、又、飯を蒸す、むす。○[爾註]「呼二餈飯一爲レ—」。

【饡】サン。子旦切 [翰]
羹を飯に和するを、ゐるかけめし。

【䭡】カン。許讚切 [翰]
未だ熟せざる食、なまにえのめし。

十四畫

【𩞳】チン。烏恨切 [願]
㊀——饐は、相謁して麥を食ふ、くらふ。
㊁——饐は、食に飽かんとす、むさぼる。

【䪝】ワク。烏郭切 クワク、ワク。黃郭切 [藥]
タク、チヤク。恥格切 [陌]
味薄し、うすし。○[集韻]「肥而不—」。

【𩟨】サツ、セチ。初戛切 [黠]
食を添ふ、そふ。

【饎】ホツ、ボチ。蒲突切 [月]
——饇は、飽くこと。

【𩞤】ダウ、ニヤウ。女耕切 [庚]

㊁充實す、みつ。
㊂くらふ、（食）。
【饋】ケン。去演切 [銑]
㊀——饘は、食を強ふること。

【饛】ボウ、ム。莫紅切 [東]
㊀ほしむぎもち、（乾麪餅）、一説に、ひぐわし、（乾餌）。
㊁かむ、（嚼）。
㊂にぎる、（摶）。
㊃ねばる、（黏）。
器に盛り滿つる貌にいふ字。○[詩]「有二—簋飧一」。

【饜】エン。於豔切 [豔] 一鹽切 [鹽]
あく、（飽）、たる、（足）。○[孟]「—二酒食一而後反」。

【饖】セツ、ゼチ。昨結切 [屑]
食らふ。

【饌】セン、ゼン。士戀切 [霰]
饌の本字。

【饘】テン。株戀切 [霰]
おくる、（饋）。

【饙】ケン、カン。逵眷切 [霰]
くらふ、くひもの。

【饛】饎に同じ。

十五畫

【饁】ヲイ、エ。鄔賄切 [賄]
はく、（吐）。

【饖】セツ、ゼチ。昨結切 [屑]
くらふ、（食）。

【饑】シヤク、サク。式灼切 [藥]
けす、（銷爍）。

【𩟐】カク。呼各切 [藥]
羹臛、あつもの。

十六畫

【饡】ロウ、ル。盧紅切 [東]
もち、（餅）。

【饙】クワイ、エ。胡怪切 [卦]
食壞る、すゆ。

【𩟾】カク。黑各切 [藥]
羹臛、あつもの。

十七畫

【饞】サン、セン。楚鑑切 [陷]
食を貪る、むさぼる。

【䭦】ビ、ミ。毋彼切 [紙]
小兒に哺む、はぐくむ。

【饞】サン、ゼン。士咸切 [咸]
むさぼる、（饕）。○[易林]「舌—二於腹一」。
（貪饞）むさぼる。○[韓愈]「爲レ利而止眞——」。
（老饞）としたけて慾深きこと。○[陸游]「——自レ憐筆力短」。

【饟】餉に同じ。○[詩]「其—伊黍」。
（餽饟）かれいひのこと。○[史]「給二——一」。
（漕饟）運食の糧食。○[唐]「——漂沒」。

十八畫

【𩠅】ス井。山垂切 [支]

くらふ、（餟）。

【饚】セイ、セ。舒芮切　エイ、エ。於芮切 [霽]　ズヰ、ニ。儒垂切　キ。翾規切 [支]
㊀前條に同じ。㊁餟に同じ。

【饚】ケイ、エ。戸圭切 [齊]
おくろ、（餽）。

【𩟧】饔の本字。

【𩟐】カク。呼各切 [藥]
あつもの、（羹）。

十九畫

【饠】ラ。魯河切 [歌]
もち、（餅）。

【饡】サン。則旰切 [翰]
羹を飯に和すること、志るかけ、志るかけめし。○〔楚辭〕「時混々兮澆ー」。

【饝】バ、マ。莫婆切 [歌]
㊀小兒に哺む、はぐくむ。㊁食らふ貌にいふ字。

首部

【首】シウ、シュ。書久切 [有]
㊀かしら。
(い)かうべ、（頭）。○〔易〕「乾爲レー」。
(ろ)かみ、（髮）。○〔李陵〕「丁年奉レ使、皓ー而歸」。
(は)はじめ、（始）。○〔公羊〕「ー、時過則書」。
(に)まへ、さき、（前）。○〔左、註〕「疏ニ行ーー一」。
(ほ)をさ、（長）、かしら、（魁）。○〔禮〕「毋レ爲ニ戎ーー不ニ亦善一乎」、「功ーー一」。
(へ)第一、最先。○〔魏武帝〕「慮レ爲ニ
(と)つか、（拊）。○〔禮〕「進レ劒者左レー」。
(ち)いしづき、（鐏）。○〔周〕「以爲ニー圍一」。
㊁本要、かなめ。○〔書〕「羣言之ー」。
㊂あらはす、（表）。○〔禮〕「ー二其內一」。
㊃もとづく、（本）。○〔禮〕「不レー二其義一」。
㊄踏雪馬、よしろうま。○〔爾〕「馬四蹢皆白ー」。
〔白首〕しらがあたま。○〔史〕「至ニー・ー一無ニ所レ遇者一」。
〔黔首〕人民のこと、人民は冠せずして黑頭をあらはし居るよりいふ。○〔史〕「更名レ民曰ニー・ー一」。
〔稽首〕拜して頭を地にまで下ぐ。○〔禮〕「再拜・ー・ー」。
〔頓首〕頭を以て地を叩きておぎすること。○〔左〕「九ー・ー而坐」。
〔空首〕拜して頭を手の所まで下ぐ。○〔周〕「三曰、ー・ー」。
〔匕首〕鍔なき短刀、あひくち。○〔史〕「以ニー・ー一刺ニ王僚一」。
〔反首〕頭髮の亂れて垂れさがれること。○〔左〕「晉大夫ー・ー拔舍從レ之」。
〔貍首〕樂章の名。○〔周〕「諸侯以ニー・ー一爲レ節」。
〔亂首〕亂賊の魁帥。○〔漢〕「而爲ニー・ー一矣」。
〔鷁首〕鷁といふ大鳥の象を船首に畫きたる船。○〔陳後主〕「常隨ー・ー舫」。
〔梟首〕うち首をさらす。○〔崔寔〕「黥、劓、斷趾、斷舌、ー・ー」。
〔功首〕てがらの第一たるもの。○〔魏武帝〕「慮爲ニー・ー一」。
〔陣首〕戰陣のさきて。○〔顏延之〕「接レ鏑赴ニー・ー一」。
〔元首〕(い)君主のこと。○〔書〕「ー・ー明哉」。(ろ)始めのこと。○〔晉〕「更以ニ十一月朔旦冬至一爲ニー・ー一」。
〔濡首〕易の故事よりいたく酒に醉ひて節を知らざるにいふ語。○〔晉〕「然亦是ー・ー之誠也」。
〔屈首〕くびをさげかゞむ。○〔史〕「ー・ー受レ書」。
〔俛首〕前に同じ。○〔淮〕「ー・ー其ー」。
〔抑首〕前に同じ。○〔漢〕「皆伏ー・ー」。
〔冠首〕他の者の上にたつこと。○〔漢〕「被爲ニー・ー一」。
〔碎首〕くびをくだくとて生命を失ふにいふ語。○〔漢〕「ーレー不レ恨」。
〔尼首〕あたまの尼丘山のかたちに似て中くぼく四方の高きをいふ。○〔後漢〕「爲レ人ー・ー方面」。
〔翹首〕首をあげて望みまつ。○〔韓愈〕「ー・ー望ニ太平一」。
〔化首〕變化のはじめ。○〔道德指歸論〕「動爲ニー・ー一」。
〔稱首〕となへのはじめ。○〔司馬相如〕「常爲ニー・ー一者用レ此」。
〔巖首〕くびをうちきる。○〔陳琳〕「克俊ーレー」。
〔頒首〕おほいなるくび。○〔詩〕「有ニー其ー一」。
〔甲首〕かぶとをかむりたる戰士。○〔左〕「ー・ー三百」。
〔盟首〕ちかひの書の章首に載する者。○〔左〕「閒ニー・ー一焉」。
〔年首〕としのはじめ。○〔史〕「以ニ冬十月一爲ニー・ー一」。
〔青首〕あをきくび、又、あをくびと稱する鳥のこと。○〔史〕「蒼楚韓衛皆ー・ー也」。
〔鋪首〕門につくるくぎかくし。○〔傅毅〕「ー・ー炳以焜煌」。
〔抗首〕くびをたれずしてあぐること。○〔漢〕「ー・ー而請」。
〔懸首〕くびにいれずみをほどこす。○〔王褒〕「剪髮ー・ー」。

【首】シウ、シュ。舒救切 [宥]
㊀罪を自白す、まうす、つぐ。○〔漢〕「驕嫚不レー」。
㊁したがふ、（服）。○〔後漢〕「雖レ有ニ降ーー昏莫ニ懲革一」。
㊂むかふ、（向）。○〔戰〕「以ニ秦之彊ーレ之者」。
〔自首〕おのれの罪咎を自ら陳べ告ぐること。○〔後漢〕「以レ狀ー・ー」。
〔相首〕たがひに向かひあふ。○〔宋玉〕「中若ニー・ー一」。
〔歸首〕降服すること。○〔後漢〕「自歸ー・ー」。

【𦣻】古の首の字、巛は髮に象る。

二畫

【馗】キ、ギ。渠龜切 [支]　キウ、グ。渠鳩切 [尤]
㊀ほゝぼね、（面頰骨）。
㊁逵に同じ、八達の道。
㊂夔に同じ。○〔廣成子傳〕「蚩尤飛レ空走以ニー牛皮一爲レ鼓、九擊而止レ之、尤不レ能ニ飛走一遂殺レ之」。
〔鍾馗〕(い)志ようき、世俗の傳へてえやみを祓ふ神とす、其の出處異說多し、一說に、唐の玄宗の開元年間に疾（わらはやみ）に侵され大鬼の小鬼を制すると夢みければ、吳道子に命じて其の像を畫かし之をー・ーと呼びたりと、又、一說に、同じく玄宗の夢に藍袍を著けし鬼の見れて臣は終南山の進士のー・ーといふ者にて天下の虛耗（わらはやみ）の孽を除くといひしかば吳道子に命じて其の像を畫かせたりと、又一說に、六朝の時に已に其の名ありたと。○〔正字通〕「人之名ニー・ー一不レ一」。(ろ)椎の異名、つち。○〔周、註〕「齊人謂レ椎爲ニ終葵一、葵馗聲相近、即ー・ー也」。
〔野馗〕のはらのみち。○〔顏延之〕「ー・ー風馳」。

五畫

【𩠐】古文の髮の字。

六畫

【𩠤】カイ、ゲ。戸該切 [灰]
かしら、（首）。

八畫

【馘】クワク、コク。古獲切 [陌]
㊀耳を截る、首を斷つ、くびきる、みゝきる。○〔詩〕「收ー安々」。
㊁截りたる耳、斷ちたる首。○〔禮〕「以ニ訊ーー一告」。
〔俘馘〕とりことと首級と。○〔左〕「示ニ之ー・ー一」。
〔斬馘〕敵の首をきる。○〔陸游〕「提レ戈ー・ー」。
〔劓馘〕はなきるとみゝきること。○〔蘇舜欽〕「其餘ー・ー放レ之去」。
〔鏖馘〕戰ひていたく敵を斬りまくり首級を獲ること。○〔唐〕「ー・ー多」。

【𩠲】キョク、ケキ。呼臭切 [職]

おもて（面）。○〔莊〕「槁項黃―」。

九畫

【〓】シウ、シユ。書久切 有
人の初めて產みたる子、うひご。

十畫

【〓】フツ、ホチ。敷勿切 物
婦人の首飾、かみかざり。

十一畫

【〓】俗の馘の字。

十八畫

【〓】セン。主兗切 銑　タン、ダン。徒官切 寒　セン。職緣切 先　止元切 元
きる（截）、たつ（斷）。

香　部

【香】キヤウ、カウ。許良切 陽
㊀鼻に嗅ぎて知る氣、にほひ、かをり、か、特に其の好きものにいふ字。○〔詩〕「有二飶其―一」。○〔禮〕「中央土、其臭―」。
㊁にほひ好し、かうばし。
㊂衣に入れ又は身に佩び又は薰きなどするかうばしき料、にほひもの。○〔陳〕「燒レ―正坐」。
（馨香）かうばしきかをり。○〔書〕「至治―・―」。
（芬香）前に同じ。○〔周、註〕「―・―條二暢於上下一也」。
（羶香）なまぐさきかをり、又、羊と牛との肉。○〔周〕「辨二腥・臊・―・―之不レ可レ食者一」。
（沉香）一に蜜水香とも名づくる香の名。○〔南越志〕「交趾蜜香樹、彼人取レ之、先斷二其積年老木根一、經レ年皮幹俱朽爛、木心與二枝節一不レ壞、堅黑沈二水中一即―・―也」。
（密香）香の名。○〔本草〕「―・―生二交州一、大樹節如二沉香一」。
（檀香）香の名。○〔本草〕「―・―有二數種一、黃白紫之異、今人盛用レ之」。
（麝香）麝獸よりとりたる香の名。○〔本草〕「―・―有二三等一、第一生香、名二遺香一、乃麝自剔出者、其次臍香、其三心結香、又有二一種水麝一、其香更奇」。
（焚香）香をたく。○〔北〕「洗レ手―・―」。
（芳香）（い）かうばしきかをり。○〔秦嘉〕「―・―去二垢穢一」。
（ろ）藥草の名。○〔本草〕「白芷一名二―・―一」。
（荷香）はすの花のかをり。○〔梁元帝〕「―・―入レ衣」。
（酒香）さけのかをり。○〔白居易〕「魚鮮飯細―・―濃」。
（花香）はなのかをり。○〔王勃〕「―・―染二別衣一」。
（異香）めづらしきかをり。○〔史〕「―・―發越」。
（奇香）前に同じ。○〔晁率齋筆記〕「嘗以二―・―一丸一與二莊姬一藏二手篋一」。
（清香）きよらかなるかをり。○〔謝靈運〕「怨二―・―之難一レ留」。
（聞香）かをりをかぐ。○〔劉綏〕「―・―知二異香一」。
（餘香）あとにのこりたるかをり。○〔西京雜記〕「―・―百日不レ歇」。
（行香）香をたき手を爇るにも香の粉末を身にふりかくるにもいふ。○〔西溪叢語〕「―・―起二於後魏及江左齊梁間一」。
（古香）ふるくさきかをり。○〔洞天清錄〕「有二一種―・―一」。
（丁香）丁子香ともいふ香の名。○〔本草〕「―・―一名二丁子香一、生二東海及崑崙國一、二月三月花開、紫白色、至二七月一方始成レ實、小者爲二―・―一」。
（嬌香）なまめきたるかをり。○〔梁武帝〕「―・―承レ靈發」。
（裾香）もすそのかをり。○〔劉潛〕「迴レ履―・―散」。
（幽香）おくゆかしきかをり。○〔孟遲〕「風・蘭舞二―・―一」。
（暗香）やみにきく花のかをり、おもに梅の香にいふ語。○〔林逋〕「―・―浮動月黃昏」。
（蘇合香）香の名。○〔本草〕「―・―・―出二中臺川谷一」。
（薰陸香）香の名、一に多伽羅香といふ。○〔本草〕「―・―・―一名二馬尾香一、一名二摩勒香一、佛書謂二之天澤香一」。
（返魂香）爇ずる時は死者の靈魂を烟中に見るとを得べしと稱する香の名。○〔王禹偁〕「仙家重二蘇―・―・―一」。
（安息香）香の名。○〔香錄〕「―・―・―此乃樹脂、不レ宜レ於レ燒一、而能發二衆香一、故取以和レ香、今有二如レ餳者一、謂二之安息油一」。

四畫

【〓】ヘツ、ベチ。步結切 屑
かうばし（香）。

【〓】カン、ゴン。胡男切 覃
かうばし（香）。

【〓】カン、コン。呼含切 覃
小しく香し、かうばし。

【〓】〓に同じ。

五畫

【〓】カウ。呼郎切 陽
氣の病、いきのやまひ。

【馛】ハツ、バチ。蒲撥切 曷
大いに香ばし、かうばし、又、香氣、にほひ。

【〓】ヘツ、ヘチ。匹蔑切 屑
かうばし（香）。

【馜】ヂ、ニ。乃倚切 紙
〓―は、香ばし。

【馝】ヘツ、ベチ。蒲結切 屑　ヒツ、ビチ。毗必切 質
大いに香ばし、かうばし。○〔博雅〕「―、馞香也」。

七畫

【馞】ホツ、ボチ。蒲沒切 月
大いに香ばし、かうばし。○〔博雅〕「馝―香也」。

【〓】ホツ、ホチ。普沒切 月
香ばしき貌といふ字。

【〓】ト、ツ。陀胡切 虞
かうばし（香）。

【馠】カン、コン。火含切 覃
かうばし（香）。

八畫

【〓】ホウ、ブ。蒲蠓切 董
香氣の盛んなるにいふ字、かうばし。

【〓】ヘツ、ベチ。蒲結切 屑
小しく香ばし。

【馡】ヒ。甫微切 微
かうばし（香）。

【馢】セン。將先切 先
一種の香木の名。○〔香譜〕「―香、沈香同類」。

【〓】イ。隱倚切 紙
―馜は、香ばし。

【馣】アン、オン。烏含切 覃　エン、衣檢切 琰　アフ、オフ。遏合切 合
かうばし（香）。

九畫

【馤】アイ。於蓋切 泰 於代切 隊 かをり、（香）。○〔韓愈〕「遥-蘭鎖二晩-―一」。

【馥】フク、ボク。房六切 屋
㊀かをり。
（い）芳氣、にほひ、か。○〔洛陽伽藍記〕「流レ香吐レ―」。
（ろ）德化、聲聞。○〔江淹〕「凝レ華重レ―、貝在二闕-西之彦一」。
㊁かうばし、又、かをる。
（い）か好し、又、かを發す。○〔嵇康〕「―・―蕙-芳」。
（ろ）德化、聲聞の傳はるにいふ字。○〔江淹〕「譽―二區-中一」。
〔芳馥〕かうばし。○〔拾遺記〕「異香―・―」。
〔馥々〕かうばしき貌にいふ語。○〔嵇康〕「―・―蕙-芳」。
〔香馥〕かをり。○〔徐陵〕「尋二―・―一以生レ心」。

【馥】ヒョク、ヘキ。符逼切 職 物の鏃に中たれる聲にいふ字。○〔潘岳〕「―・―爲中レ鏑」。

【⿱耂香】キヤウ、カウ。火亮切 陽 大いに香し。

【馛】フウ、ブ。步因切 尤 かうばし、（香）。

【⿰香幽】キウ、ク。香幽切 尤 かをり、（香・氣）。

十畫

【⿰香翁】ヲウ、ウ。鄔孔切 董 かうばし、（香）。

【馦】ケン。許兼切 鹽
㊀香味。㊁かうばし、（香）。

【⿰香害】カツ、カチ。許葛切 曷 香氣、かをり。

【⿰香吉】カイ。呼蓋切 泰 にほふ、くさし、（臭）。

【馧】ウン、ヲン。於云切 文 かうばし、（香）。

【⿰香𥁕】ヲツ、ヲチ。烏沒切 月 大いに香ばし。

【⿰香旁】ハウ、ビヤウ。薄庚切 庚 大いに香ばし。

十一畫

【馨】ケイ、キヤウ。呼刑切 青
㊀かうばし、かをる。
（い）芳氣の遠きに及ぶにいふ字、にほふ。○〔詩〕「爾殺既―」。
（ろ）德化聲聞の傳はるにいふ字。○〔書〕「明-德惟―」。
㊁かをり。
（い）遠きに及ぶ芳氣、にほひ、か。○〔嵇康〕「無レ―無レ臭」。
（ろ）德化、聲聞。○〔晉〕「垂二―千-祀一」。
〔芬馨〕かをり。○〔蘇武〕「―・―良-夜發」。
〔潔馨〕きよらかにかうばし。○〔戴復古〕「飮-食烝-炮貴―・―一」。

【馨】ケイ、キヤウ。虛映切 敬 語を助くるに用ふる字。○〔世說〕「王-朗之雪-中詣二王-螭一、持二其臂一、螭曰、冷如二鬼-手一―、强來捉二人臂一」。
〔寧馨〕俗語にて是の如しといふに同じ。○〔劉禹錫〕「幾人雄-猛得二―・―一」。

十二畫

【馩】フン、ボン。符文切 文 香氣、かをり。

【⿰香覃】タン、ドン。徒含切 覃 馩―は、香氣、かをり。

十四畫

【⿰香蓋】アイ。於蓋切 泰 かうばし、（香）。

【馪】ヒン、ビン。紕民切 眞 香氣の盛んなる貌にいふ字。

十八畫

【[illegible]】ギ。虞貴切 未 阿―は、藥の名。

【馫】キヨウ、コウ。虛陵切 蒸 香氣。

馬部

【馬】バ、メ。莫下切 馬 ボ、ム。滿補切 麌
〔說文〕象二馬頭髦尾四足之形一。
㊀家畜の一、うま。○〔周〕「掌二王―一、辨二六―之屬一」。
㊁投壺の勝算、かずとり、○〔禮〕「爲二勝者一立レ―、一―從二二―一、三―既立、請レ慶二多―一」。
〔司馬〕官の名。○〔書〕「―・―掌二邦政一、統二六師一、平二邦國一」。
〔野馬〕晴好の日にきらきらと田野に浮ぶ氣、かげろふ。○〔莊〕「―・―也、塵埃也、生-物之以レ息相吹也」。
〔陽馬〕屋根の四隅に出でたる長桁、なかゆた。○〔何晏〕「承以二―・―一、按以二圓-方一」。
〔竈馬〕蟲の名、いとど。○〔酉陽雜俎〕「狀似二促織一、好穴二竈-旁一、今俗呼二竈-雞一」。
〔行馬〕こまよせ。○〔晉〕「門施二―・―一」。
〔汗馬〕（い）刀を戰事に致すこと。○〔史〕「―・―之勞」。（ろ）良馬。○〔徐悱〕「―・―躍二銀-鞍一」。
〔牝馬〕めうま。○〔易〕「利二―・―之貞一」。
〔乘馬〕うまにのる、又、のりうまにも車につくる四馬にもいふ。○〔詩〕「―・―在レ廐」。
〔良馬〕よきうま。○〔易〕「乾爲二―・―一」。
〔善馬〕前に同じ。○〔史〕「宛有二―・―一」。
〔老馬〕たけたるうま。○〔詩〕「―・―反爲レ駒」。
〔駑馬〕最もおとりたるうま。○〔禮〕「凶-年則乘二―・―一」。
〔劣馬〕前に同じ。○〔張蠙〕「―・―再尋商-嶺路」。
〔戎馬〕軍用に使ふうま。○〔老〕「―・―生二於郊一」。
〔罷馬〕前に同じ。○〔漢〕「保二養―・―一」。
〔駁馬〕前に同じ。○〔陳子昂〕「黃-金裝二―・―一」。
〔種馬〕母に似たる上善のうま。○〔周〕「―・―一-物」。「廐」。
〔班馬〕列にわかるゝうま。○〔左〕「有二―・―之」
〔怒馬〕うまの肥壯にして其の氣の憤怒するもの。「―」。○〔左〕「林-楚―・―及レ衢而騁」。
〔樸馬〕うまの馴落せざるもの。○〔左〕「素-車―・―」。
〔肥馬〕肥大なるうま。○〔論〕「乘二―・―一衣二輕-裘一」。
〔文馬〕うつくしきうま。○〔家語〕「―・―四-十」。
〔傳馬〕驛傳に使用するうま。○〔漢〕「以補二邊郡三-輔―・―一」。「郊一」。
〔驛馬〕前に同じ。○〔漢〕「常置二―・―一長-安諸
〔鞍馬〕くらつきのうま。○〔李白〕「―・―如二飛-龍一」。〔漢〕「各騎二―・―一」。
〔竹馬〕小兒の遊戲に使用するたけうま。○〔後漢〕
〔驃馬〕あしげうま。○〔後漢〕常乘二―・―一」。
〔髦馬〕前に同じ。○〔晉〕「乘二―・―一」。
〔流馬〕糧食を輸送せんために諸葛亮の制作したる一種の車なれども其の形狀は詳かならず、○〔蜀〕「木-牛―・―」。
〔駒馬〕こうまとうまと。○〔隸〕「陸-斷二―・―一」。

(迅馬) とくはするうま。○〔劉峻〕「―・―晨・颯」。
(瘠馬) やせうま。○〔易〕「乾爲二―・―一」。「趨」。
(駑馬) 淺黄色のうま。○〔西京雜記〕〔有下獻二―・―上者と〕、
(蹇馬) あしきうま。○〔周〕「納二―・―一」。
(馭馬) 羈馬のこと。○〔周〕「―・―一・圉」。
(駿馬) すぐれてよきうま。○〔戰〕「君之―・―盈二外廐一」。
(駙馬) 官の名に駙馬都尉あり、公主の夫たるもの必ず其の官に拜するより、女婿のことにもいふ。○〔白居易〕「戚・里誇爲二賢・―・―一」。
(鐵馬) (い)軍馬のこと。○〔陸倕〕「―・―千羣」。(ろ)ふうりんのこと。○〔温庭筠〕「風弄二簷・鐵―・―一」。
(騂馬) あかうま。○〔漢〕「南・方盡―・―」。「―一」。
(弓馬) 射術と馬術と。○〔後漢〕「便習二―・―一」。
(赤馬) あかうま、又、走舸のことにもいふ。○〔古今注〕「孫・權時名レ舸爲二―・―一」。
(健馬) すこやかなるうま。○〔唐〕「山・東・西二―・―」
(驢馬) うさぎうま。○〔世說〕「醫言二―・―一」。
(賓馬) 馬の子。○〔逸周書〕「―・―不レ馳」。
(方馬) 練馬のこと。○〔孫〕「―・―理レ輪」。「木」。
(狂馬) たけりくるへるうま。○〔淮〕「―・―不レ觸」
(蚰馬) おはぜみの異名。○〔揚雄〕「蟬大者謂二之蟧或謂二之―・―一」。
(疲馬) つかれたるうま。○〔風俗通〕「―・―不レ渡二溜一」。「復食」。
(庸馬) つねなみのうま。○〔劉陽〕「―・―垂レ頭不レ」
(凡馬) 前に同じ。○〔杜甫〕「一・洗萬・古・―・―空」。
(征馬) たびに用ふるうま。○〔江淹〕「驅二―・―一而不レ顧」。
(猛馬) たけきうま。○〔李商隱〕「―・―氣信栗」。
(鈍馬) おそきうま。○〔蘇軾〕「如レ騎二―・―一」。
(新馬) 名劍。○〔庾信〕「先求二―・―一逐請二魚・文一」。
(簷馬) ふうりん、風鈴。○〔史蘄〕「―・―丁・東」。
(塞翁馬) 禍福常なきの故事。○〔淮〕「塞上叟馬、無レ故亡、人皆弔、父曰此何遽不レ爲レ福乎、其馬將二駿馬一歸、人皆賀叟曰、此何遽不レ爲レ禍乎」。
(千里馬) 一日に千里の遠きを馳するといふ駿馬。○〔史〕「伐二大・宛一得二―・―・―一」。
(戴星馬) 馬の前額に白毛あるもの。○〔爾、註〕「―・―・―也」。
(赭白馬) あかげとしろげと雜りたるうま。○〔爾、註〕「卽今之―・―・―」。
(汗血馬) 一日千里を馳せ日中に血をあせするを稱するよきうま。○〔漢〕「獲二―・―・―一來」。
(連錢馬) まろき灰色の斑毛あるうま、あしげうま。○〔吳均〕「紫・鞚―・―・―」。

一畫

【馬】ボ、ム。米普切 [麌]
馬の行く貌にいふ字。

二畫

【馬八】ハツ、ハチ。博拔切 [黠]
八歲の馬。

【馭】ギヨ、ゴ。牛倨切 [御]
御に同じ、つかふ、をさむ、はべる、すゝむ。○〔周〕「―夫掌レ―二貳・車從・車使・車一、分二公・馬一而駕二治之一」。
(撫馭) 能く人を愛撫して使ふこと。○〔南〕「善―・―得二人死・力一」。
(援馭) 人を使ふこと。○〔南〕「―・―自下」。
(經馭) 能く部下を御すること。○〔北〕「―二―・―一軍・衆一」。「馳・騁」。
(騎馭) 馬を使ふこと。○〔南〕「招二聚文・武士二―・―」
(總馭) 統御すること。○〔隋〕「―二―・―一藩・部一」。
(統馭) 前に同じ。○〔李德裕〕「夙推二―・―之才一」。
(羅馭) 馬を使ふこと、それより名將などの羣雄を自在に使ふにいふ語。○〔杜甫〕「―・―必英・雄」。
(控馭) 控制してすべ治む。○〔庾信〕「―・―五・十・州」。「―・―」。
(善馭) 極めてたくみに馬を使ふこと。○〔史〕「造・父」
(弛馭) 馬を御することをおこたる、又、轉じて國家などを治むる術の嚴ならざるにいふ語。○〔晉〕「晉・圖―・―」。「―萬・方一」。
(臨馭) 高き位地にありて下を治む。○〔南〕「―二―・―一」。
(失馭) 馬を御する法をあやまる、又、轉じて國家などの統御をあやまるにもいふ。○〔舊唐〕「隋・氏―レ―」。

【馯】クワン、ゲン。戸關切 [刪]　ケン。胡畎切 [銑]
一歲の馬。

【扌馬】前條に同じ。

【馮】ヒヨウ、ピヨウ。扶冰切 [蒸]
㊀馬の疾行するにいふ字、はやくはす。○〔蘇轍〕「駿・馬七・尺行―・―」。
㊁のる、(乘)、のぼる、(登)、しのぐ、(陵)。○〔易〕「包レ荒用二―河一」。
㊂牆を堅むる聲にいふ字。○〔詩〕「削屢―・―」。
㊃よる、(依)。○〔詩〕「有レ―有レ翼」。
㊄いかる、(怒)。○〔左〕「今君奮焉震・電―・怒」。
㊅たのむ、(恃)。○〔史〕「衆・庶―レ生」。
㊆ほこる、(矜)。○〔莊〕「侅二溺於―・氣一」。
㊇不滿の意にいふ字、あきたらず。○〔張衡〕「心猶―而未レ攄」。
㊈盛んなる貌にいふ字。○〔漢〕「―・―翼・々」。

【馮】ハウ、ヒヤウ。披耕切 [庚]
大いなる貌にいふ字、虛しき貌にいふ字。○〔莊〕「彷二徨乎―・閎一」。

【馮】ヘイ、ビヤウ。皮命切 [敬]
よる、(據)。

【馮】フン、ホン。父吻切 [吻]
憤に同じ、もだゆ。

【馬】古の馬の字。○〔路史〕「趙・奢封二―・服・君一」。

三畫

【馯】カン。侯旰切 [翰]
駻に同じ、はねうま。

【馯】カン、ケン。丘姦切 [刪]
馬の青黑き色、あをぐろ。

【馯】カン。河干切 [寒]
東夷の別種の名。

【馬凡】ハウ、ボウ。博考切 [皓]
あしげうま、(驄馬)。

【馰】テキ、チヤク。都歷切 [錫]
―顙は、白額の馬、うびたひ、ひたひじろ、一說に、駿馬、すぐれうま。○〔爾〕「―・顙白・顚」。

【馱】タ、ダ。徒何切 [歌]　唐佐切 [箇]　タイ、ダイ。徒蓋切 [泰]
馬及び他の畜產に物を負はするにいふ字、おはす、のす。○〔李白〕「吳・姬十・五細・馬―」。

【馬凡】ヘン、ボン。符炎切 [鹽]
馬の行く貌にいふ字。

【馲】タク、チヤク。陟格切 [陌]
―騙は、らば、牡驢牝馬と接して生じたるもの、一說に牡驢と牝牛と接して生じたるもの。

【馲】ラク。盧落切 [藥]　タク、ダク。闥各切　ワク。屋郭切 [藥]
―駝は、らくだ。

【馳】チ、ヂ。陳知切 [支]

はす。
(い)疾走す、はしる、かける。○〔莊〕「夫子—亦—」。
(ろ)疾驅す、はしらす、かる。○〔禮〕「入レ國不レ—」。
(は)行く、行る。○〔後漢〕「—二志於伊吾之北一」。
(に)競ふ。○〔新論〕「與レ時競—」。
(ほ)布く。○〔韓詩外傳〕「其名聲—二于後世一」。

〔鶩馳〕車馬をはすること。○〔漢〕「四馬——」。
〔驅馳〕前に同じ、又、轉じて世の中にはたらきまはるの義にいふ。○〔論衡〕「隨レ世——」。
〔箭馳〕飛箭の如く疾くはす。○〔張九齡〕「——入二紛冤一」。
〔爭馳〕きそひてはす。○〔常建〕「漢卒猶——」。
〔競馳〕前に同じ。○〔蜀都賦〕「犀象——」。
〔奔馳〕疾くはしる。○〔後漢〕「赤車——」。
〔飇馳〕はやての如くはす。○〔晉〕「虎嘯——」。
〔匹馳〕相ならびてはす。○〔吳越春秋〕「夫驥不レ可二與——一」。「——而不レ顧」。
〔高馳〕世の風潮を追はざること。○〔九章〕「吾方——」。
〔周馳〕物のめぐりをはせめぐる。○〔七發〕「—二—乎蘭澤一」。「禁一」。
〔飛馳〕とびはしる。○〔朱熹〕「夢想——不二自」

【馳】タ、ダ。唐何切 歌
はしる、(走)。

【馴】シュン、詳遵切 ジュン。 井ン。兪倫切 眞
㊀柔順、やはらか、すなほ。○〔列〕「無下不二柔——一者上」。
㊁よし、(善)。○〔史〕「皆有二——行一」。
㊂したがふ、(從)。○〔太元〕「—レ幽推レ曆」。
㊃なる。
(い)馬の柔順なるにいふ字、物の親しみ從ふにいふ字。○〔莊、註〕「與レ物無レ害、故物—也」。
(ろ)漸を以て至る。○〔易〕「—二致其道一至二堅氷一」。
(は)練熟す。○〔史〕「其文不二雅——一、薦紳先生難レ言レ之」。「鳥獸一」。
㊄なれしむ、ならす。○〔家語〕「擾二——」。

〔調馴〕ならし親ましむ。○〔史〕「—二—鳥獸一」。
〔敎馴〕敎へならす。○〔漢〕「——服習」。

【馴】古の訓の字。○〔史〕「列侯亦無レ由レ敎二—其民一」。

【馵】俗の馵の字。

【馵】シュ、之戍切 遇 ショク、ス。 ソク。朱欲切 沃
㊀足の白き馬、あしじろうま。○〔詩〕「駕二我騏—一」。
㊁馬の足を繫ぐ、ほだす。○〔易、傳〕「爲二—足一」。

四畫

【駃】キ、巨支切 ギ。 シ。章移切 支
馬彊し、つよし。

【駃】シ。施智切 寘
馬の病ひ。

【駑】ヒ。甫賁切 寘 ハイ、ヘ。
方肺切 隊
馬走る、かける。

【駍】ハイ。普蓋切 泰
馬の壯んなる貌にいふ字。

【駉】獅に同じ。

【馶】キン、ゴン。許覲切 震
馬の重さ。

【馸】キン、コン。居掀切 文
車の中の馬。

【馹】ジツ、ニチ。人質切 質
驛傳、つぎうま、てんま。○〔左〕「楚子乘レ—、會二師于臨品一」。

【馺】サフ、ソフ。蘇合切 合
馬の行きて相及ぶにいふ字、おひかく、又、馬の行く貌にいふ字、かける、又、車騎の疾きにいふ字、とし。○〔揚雄〕「輕先二疾雷一而—二遺風一」。

〔馺々〕馬の疾くはする貌にいふ語。○〔方言、註〕「——疾貌也」。

【駊】カイ、ケ。古拜切 卦
馬の尾を結ぶこと。

【馻】イン。余準切 軫 エン。以轉切 銑
シュン、ジュン。松倫切 眞

【馲】バウ、モウ。謨袍切 豪 レフ、
逆に刺す毛ある馬、さかげのうま。○〔爾〕「逆毛居—」。
ロフ。力涉切 葉
㊀車の鬉、おほひ。㊁馬の長き毛。

【駇】ブン、モン。無分切 文
毛色の純ならざる馬、ぶちうま。

【馽】チフ。陟立切 緝 シュツ、ジュチ。
食律切 質 タフ、トフ。德合切 合
馬の足を絆す、ほだす、又、馬の足をほだすもの、ほだし。○〔韓愈〕「天脫二——羈一」。

【駄】タン、トン。丁紺切 勘
㊀馬の步み前むにいふ字、すゝみよる。
㊁馬の睡る貌にいふ字。

【駁】フ、ホ。扶雨切 麌
牡馬、をうま。

【馿】俗の驢の字。

【駁】ハク、北角切 覺 ホク。切
—駮に同じ。
㊀色の純一ならざること、ぶち、まだら。○〔詩〕「皇——其馬」。
㊁ぶち馬、まだら馬。○〔淮〕「驪—不レ入レ牲」。
㊂物事の純正ならざるにいふ字、まじる、みだる、たがふ。○〔莊〕「其道舛—」。
㊃理に合はざるを改正す、是非を論列すたゞす。○〔魏〕「彈二—公卿一」。
㊄赤き李子、あかすもゝ。○〔爾〕「—赤李」。

〔斑駁〕彩色まじはりてまだらなること。○〔後漢〕「非常——」。
〔詭駁〕そしりて辯難す。○〔後漢〕「互相——」。
〔辯駁〕辯難してよしあしを論ず。○〔晉〕「論議——」。
〔辨駁〕是非を論列す。○〔唐〕「人或——」。
〔論駁〕あげつらひのぶ。○〔顏師古〕「衆說——互執レ所レ見」。
〔斑駁〕あかきまだら。○〔郭璞〕「壁立——」。

【駒】ガウ。五剛切 陽
㊀馬の怒る貌にいふ字、たける。
㊁千里の駒。㊂白き腹の馬。

【駒】ガウ。五朗切 養 五浪切 漾
㊀馬の頭を搖かすにいふ字、うごかす。

㈡馬驚く、おどろく。

【駈】ガウ。五葉切　蕭

駒に同じ。

【馲】ハウ、ボウ。博抱切　皓

黒白雜毛の馬、くろあしげ、烏驄。○〔爾〕「驪白雜毛―」。

【馻】フン、ホン。敷文切　文

馬の疾行する貌にいふ字。

【駃】ケツ、ケチ。古穴切　屑

―騠は、疾走する良馬、おほうま、一說に、馬の父にして驘の母なる子。○〔古今注〕「曹眞有二―馬一」。

【駃】クワイ、ケ。苦夬切　卦

快に同じ、はやし。○〔酉陽雜俎〕「河水色渾―流」。

【駁】サ。桑何切　歌

駊―は、馬の行く貌にいふ語。

【駈】古文の騏の字。

五畫

【駈】驅に同じ。

【駉】ケイ、キヤウ。古螢切　青

駫に同じ、馬の肥えて壯盛なる貌にいふ字、たくまし。○〔詩〕「――牡馬、在二坰之野一」。

【駊】ハ。布火切　哿

―騀は、（い）馬の頭を搖かすにいふ字、馬の惡行にいふ字、くびふる、はぬ。○〔杜甫〕「庭空四馬入、――騀揚二旆旌一」。

（ろ）高大なる貌にいふ語。○〔揚雄〕「崇二丘陵之―騀一」。

【駎】トツ、トチ。當沒切　月

騁―は、獸の名。

【駃】イツ、イチ。夷質切　質　テツ、デチ。

徒結切　屑

【駒】エウ。伊鳥切　篠

㈠馬疾く走る、かける。㈡まるし、（徵）。

【駕】エン、ヲン。於元切　元

そへうま、（馬驂）。

【駍】ハン、バン。博慢切　諫

面の汚れたる馬。

【駓】―騂は、馬の行くこと。

【駢】ヒ、ビ。平悲切　支

馬の名。

【駓】ハウ、ヒヤウ。披耕切　庚

軯に同じ。○〔揚雄〕「聲―隱而歷レ鐘」。

【駎】チウ、ヂユ。直祐切　宥

馬競ひ馳す、はす。

【駢】俗の騈の字。

【駯】バツ、マチ。莫撥切　曷

馬の走る貌にいふ字。

【駏】俗の駊の字。

【駏】キヨ、コ。臼許切　語

騾馬に似て騾馬より小なるもの、牡馬牝騾に接して生ずといふ。○〔唐〕「從二小奚童一騎二―驉一」。

【駑】フン、ホン。芳問切　問

馬走る、かける。

【駐】チユ。中句切　遇

㈠とゞまる。

（い）車馬停止す、たちどまる。○〔漢〕「早駕久―」。

（ろ）物事の停止にいふ字。○〔蔣防〕「希二曠々而常―一」。

㈡とゞまらしむ、とゞむ。○〔吳註〕「所二能廻―一哉」。

〔屯駐〕軍隊などの一處に滯留すること。○〔宋〕「所在――」。

〔留駐〕前に同じ。○〔劍俠傳〕「不二敢――一」。

【駇】ハツ、バチ。蒲撥切　曷

―騺は、蕃地の馬。

【駑】ド、ヌ。乃都切　虞

㈠馬の下鈍なるにいふ字、にぶし、又、下鈍なる馬、にぶきうま。○〔曹植〕「殺レ―養レ虎」。

㈡才の下鈍なること、にぶし、又、鈍劣なる者、にぶきもの。○〔史〕「相如雖レ―、獨畏二廉將軍一哉」。

〔罷駑〕疲れたる下劣なる馬、又、かりて自己の庸劣なるを稱するに用ふる謙辭にもいふ。○〔漢〕「飭雖二―・―一」。「―」。

〔愚駑〕おろかに劣りたること。○〔潛衍〕「衍材素―・

〔駑蹇〕弱く劣りたるうま。○〔劉輯〕「以二駑・鈍錯二―・―一」。

【駒】ク、コ。舉朱切　虞　俱遇切　遇

二歲の馬、五尺以上六尺以下の馬、こま、こうま。○〔周〕「攻レ―」。

〔株駒〕枯樹の本、くひ。○〔列〕「若二橛―・―一」。

〔騂駒〕黑きたてがみある赤き色のこま。○〔史〕「其牲用二――黃牛羝羊各一一」。

〔草駒〕放たれてくさはらに在るこま。○〔淮〕「夫馬之爲二――一之時」。「―一」。

〔異駒〕すぐれたるこま。○〔唐〕「數奏二應犬―

〔玄駒〕ありの異名。○〔大戴禮〕「蟻曰二――一」。

〔春駒〕かはびらこの異名。○〔採蘭雜志〕「蛺蝶一名二――一」。

〔隙駒〕光陰の迅速なるは白駒の壁隙を過ぐるが如しといふより光陰のとにいふ語。○〔朱熹〕「競レ辰須レ念――馳」。

〔龍駒〕すぐれたるこうま、又、すぐれたる英才のとにもいふ。○〔晉〕「此兒若非二――一、當二是鳳雛一」。

【駓】ヒ。敷悲切　支

㈠走る貌にいふ字。○〔楚辭〕「逐レ人――些」。

㈡黃白雜毛の馬、しらかげうま、桃花馬。○〔詩〕「有レ騅有レ―」。

【駔】サウ。子朗切　養

㈠馬壯んなり、馬駿なり、さかんなり、するどし、又、壯馬、駿馬。○〔左思〕「冀馬塡レ廄而―駿」。

㈡ふとし、あらし、（麤）。○〔爾〕「奘―也」。

㈢狡捷なる牙儈、わるがしこきなかがひ、すあひ。○〔呂氏春秋〕「段干木晉國之大―」。

【駔】ソ、ス。徂古切　麌

組に同じ。○〔周〕「―圭璋璧琮琥璜之渠眉一」。

【駔】ソ、ズ。聽徂切 虞
馬壯んなるを、さかんなり。

【駔】ショ、ゾ。牀魚切 魚
人の名、「公子―」。

【駒】カツ、古達 曷 カチ。切　ケツ、居謁 コチ。切 月
馬の足疾し、はす。

【駕】カ、古訝 禡 ケ。切　居牙 切 麻
㊀馬の車軛の中にあるを、又車軛につけたる馬。○〔魏〕「初制三二―之法二」。
㊁つかふ。
（い）車に乘り軛馬を馭す、軛馬を馭し車を行る、のる、ゆく、あつかふ。○〔禮〕「君車將ㇾ―」。
（ろ）人を制御するにもいふ字。○〔吳〕「―二御英雄二」。
㊂車乘、のりもの。○〔後漢〕「天子出有二大―一、有二法―一、有二小―一」。
㊃車馬を具ふ、くるまにうまをつく、そなふ、したくをなす。○〔漢〕「詔二賢士大夫一能從ㇾ我游者郡守身勸爲二之―一遣詣二丞相一」。
㊄あがる、あぐ、（騰）。○〔揚雄〕「仲尼―說者也、如將三復―二其所一ㇾ說莫ㇾ若ㇾ使二諸儒金口而木舌一」。
㊅のる、のす、（乘）、くはふ、くはゝる、（加）。○〔淮〕「大構―興二宮室一」。
㊆しのぐ、（陵）。○〔左〕「子木之信稱二於諸侯一、猶詐ㇾ晉而―焉」。
（小駕）天子ののりものゝ名。○〔丁謂〕「備二―一而六龍集」。
（鶴駕）太子ののりもの。○〔列仙傳〕「王子喬周靈王太子晉也、吹ㇾ笙作二鳳鳴一、後於二緱氏山一、乘二白鶴一而去、故太子之駕曰二―一」。
（儲駕）前に同じ。○〔王履貞〕「―戾止」。
（秋駕）善く馬を御する術をいふ。○〔淮〕「尹需學ㇾ御、三年而無ㇾ得、私自苦痛、常寢想ㇾ之、中夜乃夢受二―於師一」。
（枉駕）のりものを人のもとにすゝむ。○〔蜀〕「將軍宜二ㇾ―顧ㇾ之」。
（凌駕）おしのぐ。○〔宋〕「用相―」。
（車駕）天子の乘車をいふ、又、車と軛中の馬とのこと。○〔漢〕「―西都二長安一」。
（法駕）天子ののりもの。○〔漢〕「奉二天子―一」。
（大駕）前に同じ。○〔後漢〕「乘輿―」。
（龍駕）前に同じ。○〔隋〕「飾二―一矯二鳳旂一」。
（宸駕）前に同じ。○〔李貞〕「鳳輦騰二―一」。
（輿駕）前に同じ。○〔杜審言〕「―還二京邑一」。
（鑾駕）前に同じ。○〔崔損〕「―西巡」。
（聖駕）前に同じ。○〔魏〕「―淸道」。
（鳳駕）前に同じ。○〔武三思〕「―臨二香地一」。
（駐駕）天子ののりものをとゞむ。○〔後漢〕「公府―ㇾ―廳自歲」。
（停駕）前に同じ。○〔魏〕「―ㇾ―親朋」。
（從駕）天子のみゆきにつきしたがふ。○〔後漢〕「―ㇾ―南郊二」。

【駐】俗の驅の字、又驅に作る。

【駭】ケン、胡涓 先 ゲン。切　熒絹 切 霰
㊀一歲の馬　㊁黑き色の馬。

【駖】レイ、リヤウ。郞丁切 靑
―蓋は、車騎の聲にいふ語。

【駖】ラウ、リヤウ。力耕切 庚
馬の衆き聲にいふ字。

【駗】シン。章忍 軫 チン。知鄰 切　切 眞
馬の重荷を載せて行くに難むにいふ字、とゞまる。

【駗】リン。力珍切 眞
馬の色にいふ字。

【駖】俗の駗の字。

【駘】タイ、徒哀 デ。切 灰　徒亥 切 賄
㊀馬の銜を脫するにいふ字、はづる、はなる。○〔崔寔〕「馬―二其銜一」。
㊁駑下にぶし。○〔米芾〕「色妙才―」。
㊂にぶき馬、にぶき者。○〔楚辭〕「策二駑―一而取ㇾ路」。
㊃―蕩は、曠遠なる貌にいふ語、光景の舒放なる貌にいふ語、廣大なる貌にいふ語、むなし、ひろし、のびやか。○〔夏侯湛〕「蕩―儒林」。
（哀駘）醜き貌にいふ語。○〔莊〕「衞有二惡人一曰二―一」。
（羸駘）つかれたる駑馬。○〔庾信〕「先嫩二于―一屯二」。

【駘】跆に同じ。○〔史〕「兵相―藉」。

【駙】フ、ホ。符遇切 遇
そへうま、（副馬）、一說に、ちかづく、（近）、一說に、疾し。○〔漢〕「―以二一馬一」。

【駚】アウ、ヤウ。於兩切 養
㊀―驡は、馬の貌にいふ語。
㊁―犖は、獸の跳り踏みて自から撲つをいふ。「つと」。

【駛】シ。疏事 寘 切　師止 切 紙
とし、はやし、（疾）。○〔益部耆舊傳〕「君馬何―」。
（淸駛）水流のきよらかにして疾きこと。「溪亦―」。
（奔駛）流水奔馬などの極めて疾くはするにいふ語。○〔韓愈〕「南防二」。○〔洛陽名園記〕「湍瀑則―」。
（迅駛）極めてとし。○〔蘇軾〕「―不三復容二遮」。

【駜】ヒツ、毗必 質 ビチ。切　ヒ、毗至 ビ。切 寘
馬の肥えて壯んなる貌にいふ字、馬の肥えて彊き貌にいふ字、馬の飽く貌にもいふ字。○〔詩〕「有ㇾ―有ㇾ―、―彼乘黃」。

【駝】タ、ダ。徒何切 歌
㊀駱―は、背上に肉鞍（こぶ）ある一種の獸、らくだ。○〔漢〕「鄯善國多二駝―一」。
㊁くゞせ、せむし、（背傴）。○〔莊註〕「他與ㇾ―同言二背傴一也」。
㊂畜類に物を負はす、おはす、のす。○〔柳宗元郭槖駝傳、註〕「人背―不ㇾ能ㇾ仰」。
（槖駝）駱駝の異名、又、背傴のことにもいふ。○〔史〕「燕代―良馬」。
（一封駝）背上隆起の肉の一峰なる駱駝。○〔李商隱〕「取ㇾ酒―」。
（獨峰駝）前に同じ。○〔唐〕「其獸―」。

【駞】前條に同じ。

【駟】シ。息利 寘 切　シツ、息七 シチ。切 質
㊀一乘の車に四頭つけたる馬。○〔詩〕「載驂載―」。「終朝―乘」。
㊁四頭の馬にて牽く車。○〔左〕「富父終甥―乘」。
㊂四つの龍。○〔漢〕「木寓龍一―」。
（俊駟）兵車に駕する駟馬。○〔詩〕「―孔羣」。
（逸駟）放逸なる四馬。○〔晉〕「執二朽轡一以御二―一」。
（天駟）星の名。○〔星經〕「房四星一名二天旗一、二名二―一、三名二天龍一、四名二天馬一」。
（房駟）星の名。○〔玉海〕「―之精」。
（良駟）車に駕する善良なる四馬。○〔述征記〕「策二我―一」。
（騂駟）あかいろの四馬。○〔易林〕「―奔走」。
（介駟）戎車に駕する甲をつけたる四馬。○〔劉琨〕「―將ㇾ動」。
（飛駟）疾くはする四馬。○〔郭璞〕「歎二―之過ㇾ戶」。
（瘦駟）やせつかれたる四馬。○〔易林〕「朽輿―」。
（羸駟）前に同じ。○〔梅堯臣〕「―嘶二寒草一」。
（文駟）うつくしき四馬。○〔顏延之〕「―列二乎華廏一」。
（華駟）前に同じ。○〔李郢〕「駱々―客」。

【駠】リウ、ル。力由切 尤
白き腹の馬。

【駘】古文の駕の字。○〔石鼓文〕「—言卣-逌」。

【⿰馬禹】駘に同じ。○〔考古圖寅簋銘〕「——軒朱-輦」。

六畫

【駵】駠に同じ。

【駡】罵の本字。

【⿰亻馬】キウ、ク。許尤切 尤
駿馬。

【騈】俗の駢の字。

【⿰馬巟】クワウ、ワウ。呼光切 陽
馬奔る、はしる。

【駣】タウ、ドウ。徒刀切 豪 徒皓切 皓 テウ、デウ。治小切 篠 大到切 號
四歲の馬、一說に、三歲の馬。○〔周〕「敎レ——攻レ駒」。

【駤】チ。陟利切 寘
㊀騺—は、馬の躊躇して前まざるにいふ字、とゞまる。
㊁高くして大いなる馬。
㊂むさぼる。○〔淮〕「胡-人有ニ知レ利者一、而人謂ニ之—ニ」。

【駛】シ。疎吏切 寘
駛に同じ、はやし。○〔杜甫〕「湱-湱石-開溜、汩-汩松-上—」。

【獁】ク、コ。其俱切 虞
後足の白き馬。

【⿰馬吉】キツ、キチ。喫吉切 質
馬の色。

【馲】驝に同じ。

【駥】ジウ、ニユ。如融切 東
㊀長八尺の馬、勁き馬。㊁たけし、(雄)。

【駴】シウ、シユ。息弓切 東
細き毛。

【⿰馬臾】ユ、ヨ。容朱切 虞
とし、(疾)。

【⿱敄馬】俗の騖の字。

【駧】トウ、ヅ。徒弄切 送
㊀馬疾く走る、馬を馳せ去る、かける、はす。「化」。
㊁うごく、(動)。○〔易乾鑿度〕「駓——元-」

【駨】シユン。相倫切 眞
騂—は、馬の走る貌にいふ語。

【駽】ケン。翾縣切 霰
青驪の馬、くろみどりのうま。

【⿰馬百】バク、ミヤク。莫白切 陌
馲—は、らば。

【駩】セン。此緣切 先
黑き脣の白馬。

【⿰馬多】馳に同じ。

【⿰馬舟】チウ、チユ。張流切 尤
—駿は、蕃地の大馬、

【駪】シン。所臻切 眞
馬の衆き貌にいふ字、物の多き貌にいふ字、おほし。○〔詩〕「———征-夫」。

【駫】駉に同じ。

【⿰馬白】キウ、グ。巨九切 有
八歲の馬。

【⿰馬㕣】俗の騊の字。

【駬】ジ、ニ。而止切 紙
騄—は、周の穆王の馬の名。

【駭】カイ、ケ。侯楷切 駭
㊀おどろく。
(い)驚き起つ、驚き動く。○〔公羊〕「皆色-然而—」。「大—」。
(ろ)驚き亂る、さわぐ。○〔戰〕「國-人
㊁おどろかしむ、おどろかす。○〔呂氏春秋〕「鳴將レ—レ人」。
㊂ちる、ちらす、(散)。○〔陸機〕「三-后始基、世-武不レ承、協-風旁—、天-晷仰レ澄」。

(傾駭)いたくおどろく。○〔史〕「—ニ—之ニ」。
(沮駭)さまたぐ。○〔唐〕「—ニ—朝-謀ニ」。
(驚駭)おそろく。○〔魏〕「諸-侯——」。
(眙駭)驚き視る。○〔唐〕「衆——不レ及レ救」。
(騷駭)おどろき起ちてはす。○〔魏〕「衆-人——」。
(奔駭)前に同じ。○〔晉〕「羣-羊——」。
(嘆駭)驚き嗟歎す。○唐「緩-等——」。
(震駭)ふるひあがりて驚く。○〔唐〕「州-人——」。
(惶駭)驚き恐るゝこと。○〔晉〕「莫レ不ニ——ニ」。
(慚駭)前に同じ。○〔唐〕「——撫レ情」。
(怔駭)前に同じ。○〔宋〕「賓-佐——」。
(怖駭)前に同じ。○〔司馬相如〕「踏-手——」。
(振駭)ふるへあがりて驚き起つ、又、波のいたく湧きおこるにもいふ。○〔晉〕「風-浪——」。
(危駭)こゝろやすからず驚きあやぶむこと。○〔晉〕「人-情——」。
(歡駭)驚きよろこぶ。○〔唐〕「左-右——」。

【駮】ハク、ボク。北角切 覺
㊀馬に似たる虎豹を食らふ獸の名。○〔詩〕「隰有ニ六——ニ」。
㊁駁に同じ。○〔漢〕「文-書盈ニ於几-閣一、典-者不レ能ニ遍睹一、是以郡-國承-用者—」。
(六駮)獸の名。○〔詩〕「隰有ニ——ニ」。
(馴駮)よくなれたるまだら馬。○〔司馬相如〕「擾ニ——之駟ニ」。

【駯】シユ、ス。章俱切 虞
口の黑き馬、くちぐろ。

【⿰馬衣】リヨ、ロ。力居切 魚 良倨切 御
ゆくつぎうま、(傳馬)、はやうま、(遽馬)。○〔唐會要〕「驛-傳日ニ使——ニ」。

【⿰耒馬】シユ、ジユ。時俱切 虞
朱き色。

【⿰馬匡】キヤウ、カウ。去王切 陽
馬の耳曲がる。

【駰】イン。於巾切 眞
白き雜毛ある淺黑き馬、どろあしげ、泥驄馬。○〔詩〕「吾馬維—」。

【駱】ラク。盧各切 藥

㊀黒き鬣ある白馬、かはらけうま。○[詩]「嘽-々-―-馬」。
㊁落に通じ用ふ。○[史]「大-荒-―歲、「歲-陰在レ巳」。

【駱】輅に同じ。○[史]「非-子爲二周大-―-―」。

【駱】駕に同じ。

【鴷】レツ、レチ。良薛切 屑 次第して馳す、はす。

【鴷】レイ。力制切 霽 ㊀前條に同じ。㊁なる、(馴)。

【駉】前條に同じ。

【駪】駪に同じ。

七畫

【駱】リン。良刃切 震 牝馬、めうま。

【駳】タン、ダン。徒亶切 旱 ―馬は、ひきうま、散馬。

【駴】カイ、ケ。侯楷切 蟹 居拜切 卦 ㊀鼓を雷撃す、どろ〳〵うつ、うつ。○[周]「鼓皆―、車-徒皆噪」。㊁駭に同じ、おどろく、おどろかす。○[莊]「聖-人之所三以―二天-下一」。

【駵】リウ、ル。力求切 尤 黒き鬣の赤馬、くりげうま。○[詩]「騏-―是中」。
(黃駵) くりげうま。○[禮]「駕二―-―一」。

【駶】キョク、ゴク。渠玉切 沃 馬立ちて定まらざるを、あがく。

【騀】キ、ケ。許旣切 未 馬の走る貌にいふ字、はしる。

【駬】デフ、ヂフ。尼輒切 葉 馬疾く行く、はす。

【駓】ヒ。普悲切 支 駓に同じ、馬行く。

【駓】ヒ、ビ。補美切 紙 ―騃は、獸の行くを。

【駷】ショウ、シュ。息拱切 腫 ソウ、ス。蘇后切 有 馬銜を搖かし走るにいふ字、はす、一説に、騁の字の義に同じ。○[公羊]「陽-越下取レ策、臨-南―レ馬而由二孟-氏一」。

【駸】シン。七林切 侵 楚錦切 寢 馬の行く貌にいふ字、はしる。○[詩]「載驟―-―」。

【騋】ライ、レ。郎外切 泰 斑白の馬、まだらうま。

【騋】ラ。盧臥切 箇 ラツ、ラチ。盧活切 曷 ―歲は、穀の名。

【駹】バウ、モウ。莫江切 江 ㊀黒白の毛ある馬、まだらうま 面顙の白き馬、つきびたひ、ひたひじろ、一説に、あをうま、青馬。○[漢]「東-方盡―」。「―可也」。
㊁雜色のもの、まだらもの。○[周]「用レ

【駺】ラウ。魯當切 リヤウ、ラウ。呂張切 陽 尾の白き馬。

【駹】ホ、ブ。薄故切 遇 馬の步を習はすにいふ字、あゆます。

【騂】カン。侯旰切 翰 人を突く馬、あらうま、一説に、高さ六尺の馬。○[韓]「無二轡-策一御二―-―馬一」。

【駿】ギフ、ゴフ。逆及切 緝 馬の行く貌にいふ字。

【鶩】駁に同じ。

【鳿】駁に同じ。

【騂】ホツ、ボチ。薄沒切 月 ハク、ボク。薄角切 覺 角ありて牛の如き尾の馬。○[郭璞]「―馬騰レ波以嘘レ蹀」。

【駼】ト、ヅ。同都切 虞 ㊀駒―は、良馬の名。㊁騊―は、牛の如き蹄ある馬。

【駽】ケン、クワン。火元切 元 ケン。熒絹切 霰 胡縣切 銑 くろみどりうま、(青-驪)。○[詩]「駜彼乘―-―」。

【駾】タイ、テ。他外切 泰 馬の行く貌にいふ字、又、たけり突く、つく。○[詩]「混-夷―矣」。

【駿】シュン。子峻切 震 ㊀馬の美稱、すぐれうま。○[博物志]「周穆-王欲下驅二八―一周中-行天-下上」。
㊁おほいなり、(大)。○[詩]「爲二下-國―-厖一」。「發二爾私一」。
㊂すみやか、はやし、(迅-速)。○[詩]「―
㊃俊に同じ、すぐる、すぐれたるもの。○[史]「誹レ―疑レ桀」。
㊄峻に通じ用ふ、けはし、たかし、きびし。○[詩]「崧-高維嶽、―極二于天一」。
(良駿) すぐれたるよき馬。○[中論]「不レ爲二―-―一」。
(逸駿) 前に同じ。○[辨亡論]「亘象―-―」。
(桀駿) すぐれたる人物。○[進]「置二―-―以爲レ將」。
(奇駿) めづらしくすぐれたる馬。○[傳休奕]「何逸羣之―-―」。「―-―一」。
(神駿) いたくすぐれたる馬の稱。○[世說]「重二其―-―一」。
(龍駿) 前に同じ。○[抱朴]「蒙二―-―之價一」。
(精駿) 疾く馳するよき良馬。○[吳]「所レ乘馬―-―」。
(勁駿) 前に同じ、又、筆力などのつよくすぐれたるにもいふ。○[南]「筆-力―-―」。
(駑駿) 劣りたる馬とすぐれたる馬と。○[東方朔]「―-―雜而不レ分兮」。
(奔駿) 疾く馳する良馬。○[崔駰]「東-州―-―」。

【騀】ガ。五可切 哿 牛河切 歌 騀の字の條を見よ。

【騁】テイ、チヤウ。丑郢切 梗 はす、(馳)。○[莊]「時―而要二其宿一」。
(馳騁) 馬をはす。○[考工記]「終-日―-―」。
(驅騁) 前に同じ、又、人をおひつかふ義にもいふ。○[孟]「―-―田-獵」。

（紲騁）前に同じ。○（聖主得賢臣頌）「ーー馳騖」。

【騂】セイ、シヤウ。息營切（庚）
㊀赤黄色の馬。○（詩）「有レー有レ騏」。㊁赤色の牲。○（書）「文王ーー牛一、武王ーー牛一」。㊂赤色。○（周）「凡糞レ種ーー剛用レ牛」。㊃弓の調和せる貌にいふ字。○（詩）「ーー角弓」。

【騃】ガイ、ゲ。五駭切（蟹）
㊀おろか、（癡）。○（漢）「内實ー不レ曉ニ政事ニ」。㊁勇ましく馬行く、すゝむ。
（愚騃）おろかなること、又、其の者。○（北）「阿倪ーー」。
（朴騃）鄙野にしておろかなること、又、其の者。○（抱朴）「篤ニ田舍ーーニ」。
（貪騃）強慾にしておろかなること。○（獨孤及）「ーー遷レ善」。
（鄙騃）身分賤しくしておろかなるもの。○（馬融）「ーー譾謭」。
（拙騃）つたなくにぶし。○（抱朴）「以ニ切-磋之至-言ニ爲ニーーニ」。

【騃】シ、ジ。牀史切　チ、ヂ。丈里切（紙）
駓ーは、獸の行く貌にいふ語。○（張衡）「羣-獸駓ー」。

【⿰馬囪】驄の本字。

【騀】ガ。五何切（哿）
馬行く、すゝむ。

【⿰馬元】タン、トン。丁紺切（勘）
冠前による。

【騘】俗の驄の字。

【⿰馬兔】ト、ツ。土故切（遇）
騊ーは、良馬。

【騄】リョク、ロク。力玉切（沃）
ー耳は、駿馬。

【騅】スヰ。職追切（支）
蒼白雜毛の馬、あしげ。○（詩）「有レー有レ駓」。

【⿰馬卓】タク、トク。竹角切（覺）
ー騺は、馬前まざる貌にいふ語。

【騇】シヤ、始夜切（禡）　セ。書冶切（馬）
めうま、（牝馬）。

【⿰馬沓】タフ、ドフ。徒合切（合）
馺ーは、馬の行く貌にいふ語。

【⿰馬卒】スヰ。七醉切（寘）
うまのくちとり、うまおひ、まご、（馬卒）。

【⿰馬坴】リク、ロク。力竹切（屋）
たけきうま、（健馬）。

【駢】ヘン、ベン。部田切（先）　ヘイ、ビヤウ。旁經切（青）
㊀ならぶ。（い）二馬を駕す。○（書、傳）「乘ニ飾-車ーー馬ニ」。（ろ）陳列す、比鄰す、さなる。○（張衡）「夾ニ蓬-萊ニ而ーー羅」。「則党ーー」。
㊁朋比す、くむ。○（管）「入則乘-等、出
㊂ならび、なみ、となり、くみ。○（史）「以ニーー隣ー從」。㊃贅物の旁に出づること、又、旁出の贅物、むだもの。○（莊）「ーー拇枝-指出ニ乎性ニ哉」。㊄駢に同じ。○（左）「聞ニ其ーー脅ニ」。

【⿰馬典】エン。烏前切（先）
馬の行く貌にいふ字。

【⿰馬去】ケフ、コフ。苦劫切（葉）
馬前まず、とゞまる。

【⿰馬宛】涴に同じ。

【⿱明馬】ベイ、ミヤウ。靡京切（庚）　眉永切（梗）
あせうま、（汗馬）。

【騉】コン。古渾切（元）
ー蹄は、馬の名。

【⿰主馬】チユ。株遇切（遇）
馬行かず、すゝまず。

【⿰垂馬】スヰ。醉綏切（紙）
小なる貌にいふ字。

【⿰馬垂】スヰ。子垂切（支）　之壘切（紙）
㊀馬の小なる貌にいふ字。㊁重騎。

【⿰馬皁】フウ、ブ。扶缶切（有）
馬盛んなり、さかんなり、一說に、益す。

【⿸尸馬】クツ、コチ。曲物切（物）
ー産は、良馬。

【⿰馬叕】テツ、テチ。株劣切（屑）
白額の馬、うびたひ。

【騊】タウ、ドウ。徒刀切（豪）
ー駼は、良馬の名。

【騋】ライ。落哀切（灰）　洛代切（隊）
高さ七尺以上の馬。○（詩）「ーー牝三千」。

【⿰馬岸】ガン。五旰切（翰）
㊀騂ーは、馬の行く貌にいふ字。㊁額より脣まで白き馬、ひたひじろ。

【⿰馬岸】ガン、ゲン。魚澗切（諫）
馬の首。

【⿰馬空】カウ、コウ。枯江切（江）
馬の行く貌にいふ字。

【騌】俗の騣の字。

【騍】クワ。苦臥切（箇）
めうま、（牝馬）。

【騎】キ、ギ。渠羈切（支）
馬に跨がる、またがる、のる。○（史）「常ーレ之」。
（善騎）たくみに馬にのる。○（淮）「ーー者墮」。
（累騎）一馬に前後して二人相乘ること。○（晉）「與レ婢ーー而還」。

【騎】キ。奇寄切（寘）
㊀馬にのれる兵、馬にのれる人、うまのり、きへい。○（禮）「前有ニ車ーーニ」。
㊁きへい、うまのりののれる馬、のりうま、うま。○（庾信）「連ニーー長-楊ニ」。

八畫

㊂きへい、うまのり、又、のりうまの數にいふ字。○〔史〕「乃有二二十八——一」。

〔車騎〕(い)馬を駕してひかしむる車、又、戎車の義にもいふ。○〔禮〕「前有二——一」。(ろ)星の名。○〔星經〕「——三星在二騎官南一、主二車騎行軍之事一」。

〔誘騎〕敵をさそふ馬軍。○〔史〕「見レ虜以爲二——一」。

〔驍騎〕馬軍の稱、又、たけき馬軍。○〔東都賦〕「——電鶩」。

〔邏騎〕巡視偵察の騎卒。○〔唐〕「爲二——一所レ困」。

〔羅騎〕行列の騎卒。○〔漢〕「從車——」。

〔突騎〕馬軍の稱。○〔後漢〕「呉漢將二——一來會二清陽一」。

〔戰騎〕前に同じ。○〔魏〕「我以二——一蹂レ之」。

〔飛騎〕前に同じ。○〔唐〕「雖二七營——一」。

〔獷騎〕前に同じ。○〔唐〕「府兵後廢而爲二——一」。

〔虎騎〕前に同じ。○〔魏〕「乃縱二——一夾擊」。

〔隻騎〕一騎のこと。○〔徐陵〕「——無レ還」。

〔獨騎〕前に同じ。○〔史〕「脫レ身——」。　「之」。

〔羈騎〕前に同じ。○〔後漢〕「檀石槐——追二擊」

〔候騎〕ものみの騎士。○〔史〕「——至二雍甘泉一」。

〔探騎〕前に同じ。○〔曹松〕「時平無二——一」。

〔從騎〕ともの騎士。○〔史〕「——皆竊罵二侯生一」。

〔輕騎〕輕裝の馬軍。○〔史〕「選二——二千人一」。

〔壯騎〕つよき騎士。○〔史〕「——數百」。

〔勁騎〕前に同じ。○〔北〕「高昂率二——一」。

〔緹騎〕赤衣をきたる禁軍馬隊の名。○〔後漢〕「——二百人」。

〔羽騎〕禁軍羽林の騎兵。○〔張衡〕「——電騖」。

〔胡騎〕えびすの馬隊。○〔晉〕「嘗爲二——一所レ圍數逼」。

〔追騎〕おひての騎士。○〔史〕「射二殺——一」。

〔尾騎〕前に同じ。○〔唐〕「——數百不二敢近一」。

〔梟騎〕たけき馬隊。○〔漢〕「——助レ漢」。

〔偟騎〕前に同じ。○〔魏、註〕「公孫瓚有二——數千一」。

〔游騎〕游擊の騎兵、又、馬隊の稱。○〔隋〕「改二舊驍騎一曰二雲騎一、曰二——一」。

〔良騎〕よき騎士。○〔後漢〕「——野合」。

〔精騎〕つよくすぐれたる馬隊。○〔後漢〕「——輕行」。

〔步騎〕步兵と馬隊と。○〔唐〕「爲二——六軍營域一」。

〔卒騎〕士卒の乘る馬。○〔呉〕「凡畜二——一豈有「方乎」。

【騏】キ、ギ。渠之切 [支]

毛の文の博棊(すごろくのこま)に似たる青驪、くろみどりのこま。○〔詩〕「駕二我——一」。

〔白騏〕白鯉。○〔古今注〕兗州人呼二白鯉一爲二——一」。

【騃】ゲイ、ガイ。五奚切 [齊]

小さき馬。

【騐】俗の驗の字。

【駴】ヨク、井キ。雨逼切　キヨク、ケキ。忽域切 [職]

驅——は、馬の走る貌にいふ語。

【䮚】ロウ。郎鄧切 [徑]

——驓は、馬の病ひ。

【䮚】餧に同じ。

【騑】ヒ。甫微切 [微]

㊀驂馬のなかにて左右にある兩馬の稱、そへうま。○〔禮、註〕「兩馬夾レ轅名二服馬一、兩邊名二騑馬一」。

㊁馬行きて止まらざる貌にいふ字。○〔詩〕「四牡——」。

㊂三歲の馬。○〔本草〕「馬三歲曰レ——」。

〔騑騑〕車に駕する四馬の中の兩邊にあるもの、そへうま。○〔蔡邕〕「——如レ舞」。

九畫

【⿰馬𡿺】ダウ、ノウ。乃老切 [皓]

褭——は、馬の名。

【⿰馬亭】タウ、ヂヤウ。除庚切 [庚]

馬住まる貌にいふ字、とゞまる。

【⿰馬臿】サフ、ゼフ。實洽切 [洽]

馬行く、馬⿰馬臿る、ゆく、はしる。

【⿰馬枼】エフ。弋涉切 [葉]

馬の輕く行く貌にいふ字。

【騕】エウ。伊鳥切 [篠]

——褭は、良馬。○〔司馬相如〕「買二——褭一」。

【⿰馬禺】ギヨウ、グ。魚容切 [冬]

顒に同じ、大いなる貌にいふ字。

【⿰馬軍】コン、ゴン。戶昆切 [元]

——騱は、野馬。

【騖】ブ、ム。亡遇切 [遇]

亂馳す、かけまはる、かけまはす、はす。○〔淮〕「——悅忽」。

〔馳騖〕はす、又、はせまはる。○〔史〕「此布衣——之時」。

〔騁騖〕前に同じ。○〔後漢〕「——乎其中一」。

〔電騖〕いかづちの如く疾くはす。○〔後漢〕「驍騎——」。

〔競騖〕きそひて馳す。○〔張衡〕「車騎——」。

〔騰騖〕疾くのぼりあがる。○〔十洲記〕「蛟龍——」。

〔徛騖〕疾く馳す。○〔劉向〕「背二玉門一而——兮」。

〔駈騖〕前に同じ。○〔李尤〕「——馳逐」。

〔迅騖〕前に同じ。○〔夏侯湛〕「播二華化一以——」。

〔星騖〕星のとぶが如くに疾くはす。○〔傅休奕〕「電發——」。

【⿰馬敄】前條に同じ。

【騗】ヘン。匹戰切 [霰]

躍りて馬に乘る、とびのる。

【騘】驄に同じ。

【騙】騗に同じ、俗に、たばかる。

【⿰馬罙】タン、トン。他紺切 [勘]

馬前に步む、すゝむ。

【⿰馬春】シユン。尺尹切 [軫]

㊀雜文の馬、まだらうま。

㊁鈍下の馬、にぶきうま。

【騚】セン、ゼン。昨先切 [先]

四蹄皆白き馬。

【⿰馬皆】カイ。戶皆切 [佳]

馬和ぐ、なる。

【騛】ヒ。甫微切 [微]

㊀——兔は、古の駿馬。㊁逸足の馬。

【⿰宣馬】セン。須緣切 [先]

——騶は、馬の名。

【騜】クワウ、ワウ。胡光切 [陽]

黃白色の馬、ゑろかげ。

【騝】ケン、ゲン。渠焉切 [先]　ケン、コン。居言切 [元]

黃脊の騮馬、きなるせのくりげ。

【騪】シウ、シユ。所鳩切 [尤]　ソウ、ス。蘇后切 [有]

㊀駙——は、蕃中の大馬。

㊁馬の銜を搖かして走る、はしる。

【騞】テキ、チヤク。土益切 [陌] クワク、カク。霍虢切 バク、ミヤク。莫白切
㊀行きて止まらず、はしる。㊁牛を解く聲にいふ字。○[莊]「奏レ刀——然」。

【騟】ユ。羊朱切 [虞]
紫色の馬。

【騠】テイ、ダイ。杜奚切 [齊]
駃の條を見よ。

【⿰馬帝】俗の騠の字。

【⿰馬段】タン、ダン。徒玩切 [翰]
款——は、馬の緩く行くを。

【騢】カ、ゲ。胡加切 [麻]
赭白色の雜毛ある馬、まだらうま。○[爾]「彤-白雜-毛——」。

【騣】ソウ、ス。子紅切 [東]
鬣、たてがみ。○[杜甫]「隅-目青-熒夾-鏡懸、肉——碨-礧連-錢動」。

【⿰馬复】ヒツ、ビチ。簿必切 [質]
駜に同じ、馬の肥えて壯んなる貌にいふ字、馬食に飽く貌にいふ字。

【⿰馬复】駁に同じ。

【騤】キ、ギ。渠追切 [支]
馬の行くに威儀ある貌にいふ字、たけし、又、強めて息まざる貌にいふ字、つとむ。○[詩]「四-牡——」。

【⿰馬⿱癶夫】ケツ、ケチ。古穴切 [屑]
——驢は、背に同毛あるを。

【⿰馬臿】サフ、ゼフ。士洽切 [洽]
はしる、(騤)、又、馬の行く貌にいふ字。

【騥】ジウ、ニユ。耳由切 [尤]
美鬣の靑驪。

【⿰而馬】サ、セ。所瓦切 [馬]
言ふ所の當たらざるを、そらごと、いつはり。

【媽】カン、ケン。諸閑切 [刪]
馬の步みを習ふにいふ字、ならふ。

【騧】クワ、ケ。古華切 [麻]
喙の黑き黃馬。○[詩]「——驪是驂」。
(騧騮) はりきりたる黃馬。○[成廷珪]「白-鼻——-紫-綺-裘」。
(騧騮) くりげ馬。○[高啓]「靑-海異-種多二——一」。

【駸】騣に同じ。

【⿰馬臿】騒に同じ。

十畫

【騩】キ。俱位切 [寘] 居追切 [支]
淺黑色の馬、くろくりげ。○[漢儀]「乘二——馬一自レ府歸」。

【騩】キ。居韋切 [支]
山の名。○[漢]「大——山」。

【騪】シウ、シユ。疎鳩切 [尤]
㊀蕃中の大馬。㊁さがす、もとむ、(搜)。

【騫】ケン。丘乾切 [先] ケン、コン。怯建切 [願]
㊀かく、(虧)。○[詩]「不レ——不レ崩」。㊁馬の腹の病ひ。㊂輕儇躁進の貌にいふ字、かろがろし、さわがし。○[柳宗元]「沓-沓——」。

【騫】ケン。九件切 [銑]
にぶきうま、おそきうま。

【⿰馬桑】サウ。蘇郎切 [陽]
黃色白尾の馬。

【⿰馬桑】サウ。寫朗切 [養]
騯——は、馬の貌にいふ語。

【騣】駸の本字。

【騬】ショウ、ジョウ。食陵切 [蒸] 石證切 [徑]
馬の勢を割く、へのこきる、又、其の馬。○[周註]「攻レ特謂レ——レ之」。

【⿰馬氣】キ、ケ。許既切 [未]
馬走る、はしる。

【⿰馬唐】タウ、ダウ。徒郎切 [陽]
馬の色。

【⿰馬耆】キ、ゲ。渠宜切 [支]
馬の項の上のたてがみ。

【⿰馬隺】カク、ガク。下各切 [藥] ガク、ゴク。逆角切 [覺] クワク。忽郭切 [藥]

【⿰馬冡】ボウ、モウ。莫紅切 [東] 蒙弄切 [送]
馬の白き額、ひたひじろ。

驢の子。

【⿰馬眞】テン。都年切 [先]
馬の白き額、うびたひ。

【⿰馬鬲】レキ、リヤク。郎擊切 [錫]
馬の色。

【騭】シツ、シチ。職日切 [質] チョク、チキ。竹力切 [職]
㊀牡馬、をうま。○[爾]「牡曰レ——」。㊁のぼる、(陟)。○[爾]「——陞也」。㊂さだむ、(定)。○[書]「陰二——下民一」。

【⿰馬舀】タウ、トウ。土刀切 [豪]
馬の行く貌にいふ字。

【⿰馬旅】リヨ、ロ。良倨切 [御]
つぎうま、(傳-馬)、はやおひ、(急-遞)。

【⿰馬展】テン。陟扇切 [霰]
馬の土に轉び臥すにいふ字、まろぶ。

【⿰馬𥁕】ヲン。烏渾切 [元]
——驪は、駿馬。

【騮】リウ、ル。力求切 [尤]
毛尾黑き赤馬、かげ、くりげ。○[杜陽雜編]「一號二如-意——一」。
(騂騮) あかくりげの馬。○[晉]「夫——不レ總レ轡」、
(紫騮) 前に同じ。○楊炯「金鞭控二——一」。
(金騮) くりげ馬。○[韋莊]「——掉レ尾橫レ鞭望」、

【騯】ハウ、ビヤウ。蒲庚切 [庚]

馬行く貌にいふ字、又、壯盛の貌にいふ字。〇〔詩〕「四-牡―-―」。

【騯】ハウ、歩光切 [陽]　バウ。逋朗切 [養]
馬盛んなる貌にいふ字。

【騰】トウ、ドウ。徒登切 [蒸]
㊀のぼる、のぼす、(升)。〇〔淮〕「蹈ニ―昆崙ニ」。
㊁あがる、あぐ、(擧)。〇〔史〕「亢-鳥―而「一止」。
㊂のる、のす、(乘)。〇〔楚辭〕「―ニ驢-羸一以馳-逐」。
㊃躍る。〇〔韓愈〕「馬―ニ于槽ニ」。
㊄超ゆ。〇〔張衡〕「乃奮レ翅而―驤」。
㊅馳す。〇〔楚辭〕「目―レ光些」。
㊆傳ふ。〇〔淮〕「子-產―レ辭」。
㊇しゆくつぎうま、(傳)、一説に、へのこきりたるうま、(犗-馬)。
㊈媵に通じ用ふ、おくる。〇〔儀〕「衆-人―レ羞者、盡レ階不レ升レ堂、授以レ羞降出」。
〔沸騰〕わきあがる、〇〔詩〕「百-川―-―」。
〔上騰〕のぼる。〇〔禮〕「地-氣―-―」。「令」。
〔蜚騰〕とびあがる。〇〔楚辭〕「吾令ニ鳳-皇―-―」。
〔奔騰〕はせのぼる。〇〔蘇軾〕「―-―過ニ佛-脚ニ」。
〔騫騰〕翔け揚がること。〇〔劉永之〕「逸-思―-―八-極雲」。
〔喧騰〕評判の高きこと。〇〔舊唐〕「―ニ―于常代ニ」。
〔滔騰〕水の溢れて陸などにあがること。〇〔淮〕「―ニ―太荒之野ニ」。
〔蒸騰〕蒸發す。〇〔元稹〕「川-澤方―-―」。
〔龍騰〕龍の如く勢ひさかんにのぼる、又、英雄などの興起するさまにいふ語。〇〔揚雄〕「漢-祖―ニ―豐-沛ニ」。
〔超騰〕飛び超ゆ。〇〔劉琨〕「―-―絕レ阪」。
〔噴騰〕水などのふきあがるにいふ語。〇〔王潭〕「蛟-蜧鼓-怒以―-―」。
〔升騰〕をどりあがる、又、のぼりあがる。〇〔後漢〕「踴-躍―-―」。
〔暫騰〕たちまちにをどりあがる。〇〔史〕「暫―-―而上」。
〔翹騰〕高くそばだちあがる。〇〔張耒〕「秀-尾―-―」。
〔踔騰〕はす。〇〔韓愈〕「人-馬何―-―」。
〔宣騰〕上意などをのべつたふ。〇〔晉〕「―ニ―詔-旨ニ」。
〔歡騰〕よろこびてをどりあがる。〇〔玉海〕「諸軍―-―」。
〔浮騰〕からだを輕くうかしをどること。〇〔舞賦〕「―-―累レ跪」。

【騱】ケイ、カイ。堅奚切 [齊]
前足の白きうま。〇〔爾〕「前-足皆白―」。

【騲】サウ、ソウ。釆老切 [皓]
牝畜の通稱、めす。〇〔顏氏家訓〕「今以ニ詩-傳ニ良-馬一通ニ於牧―一、恐失ニ毛-氏意ニ」。

【⿰馬豈】キ。九利切 [寘]
㊀驥に同じ、千里の馬。
㊁冀に通じ用ふ、こひねがふ。〇〔禮、註〕「大-夫勤ニ于朝一、州-里―ニ于邑ニ」。

【⿰馬高】ケウ。居喬切 [蕭]
高さ六尺の馬。

【⿱高馬】アウ、オウ。烏高切 [豪]
馬の行く貌にいふ字。

【騳】トク、ドク。徒鹿切 [屋]
馬走る、はしる。

【⿱鳥馬】ゴウ、グ。五豆切 [宥]
馳するに齊しからず、亂れ走る。

【⿰馬害】カツ、ケチ。丘瞎切 [黠]
まだらうま、ぶちうま、(駁-馬)。

【騴】アン、エン。於諫切 [諫]
尾の本の白き馬。

【騵】ゲン、グヮン。愚袁切 [元]
白腹の騂馬、かげうま。〇〔詩〕「四-―彭-々」。

【⿰倝馬】カン。侯旰切 [翰]
毛の長き馬。

【⿰倝馬】カン、ガン。胡安切 [寒]
駮―は、蕃中の大馬。

【騶】シウ、ス。側鳩切 [尤]
㊀―虞は、尾は身より長き獸にして生草を履まず自死の肉を食らひ至德の感應によりて見はるといふ靈獸の名。〇〔詩〕「于嗟乎―-虞」。
㊁廄御、うまかひ。〇〔禮〕「季-秋天-子敎ニ於田-獵一、命ニ僕及七―一咸駕」。
㊂騎士、うまのり。〇〔後漢〕「爲ニ左-―ニ」。
㊃騎馬、のりうま。〇〔孔德璋〕「鳴―-―入レ谷」。
㊄菆に同じ、善き矢。〇〔漢〕「材-官―-―發、矢-道同レ的」。
㊅趨に同じ、はしる。〇〔荀〕「步中ニ武-象一、―中ニ韶-濩一以養レ耳」。
〔羣騶〕おはくの厩御の馬。〇〔謝觀〕「出ニ―-―於紫-陌ニ」。
〔廐騶〕騎士のこと、〇〔後漢〕「左-右―-―」。
〔彤騶〕御殿のくりげ馬。〇〔褚亮〕「―-―出ニ禁中ニ」。
〔緋騶〕前に同じ。〇〔通典〕「―-―淸レ路」。

【騶】ソウ、ズ。才候切 [宥]
驟に同じ。〇〔禮〕「車驅而―」。

【⿰馬宰】サイ、セ。子亥切 [賄]
雜毛騘色の馬、あしげうま。

【騖】ブ、ム。亡遇切 [遇]
はす、(馳)、かける、(驅)。

【⿰馬耋】テフ、トフ。他協切 [葉]
赤黑色の馬。

【⿰馬骨】コツ、コチ。古忽切 [月]
―⿰馬出は、獸の名。

【⿰馬師】シ。霜夷切 [支]
野馬。

【騽】タフ、トフ。士盍切 [合]
驪―は、馬進まざること。

【騷】サウ、ソウ。蘇遭切 [豪]　セウ。先彫切 [蕭]
㊀擾動す、擾動せしむ、うごく、うごかす、みだる、さわぐ、さわがす。〇〔詩〕「徐-方繹-―」。
㊁あしなへ、(跛)。〇〔揚雄〕「吳楚偏-蹇曰レ―」。
㊂うれふ、(愁)。〇〔國〕「遭者―-離」。
㊃戰國時代、楚の屈平の放逐せられて忠憤の情に堪へず忠姦正邪を物に喩へて有名なる離騷の賦を作りしにちなみて、後世其の賦及び屈平の他の作と楚人宋玉の屈平に倣ひたる詞賦及び其の詞體の稱にいふ字。〇〔杜牧〕「雖ニ奴-僕命レ―可也」。
㊄轉じて隱遁して詩賦を作るをなどにいふ字。〇〔李白〕「哀-怨起ニ―人ニ」。
㊅急疾の貌にいふ字、擾動の貌にいふ字、にはか、さわがし、あわたゞし。〇〔禮〕「―-―爾則野」。
㊆さぶし、すゞし、(凄-涼)。〇〔歐陽修〕「君-謨今已白-刀―」。

㊇風の勁き貌にいふ字、風の吹く聲にいふ字。○〔張衡〕「拂ニ穹-岫之——ニ」。
〔風騷〕詩賦のことにも風流韻事にもいふ。○〔高適〕「秋-興引ニ——ニ」。
〔蕭騷〕なにとなくものさびしく荒涼なること。○〔韋莊〕「滿-庭風-雨竹——」。
〔罷騷〕おどろきさわぎて安からざること。○〔王安石〕「尙傳邊-塞敢——」。
〔震騷〕おそれさわぐ。○〔唐〕「淮-汴——」。

【騷】サウ、ソウ。蘇老切 晧　先到切 號
掃に通じ用ふ、はらふ。○〔史〕「大-王宜レ——ニ淮-南之兵ニ」。

【〓】騮に同じ。

【騸】セン。式戰切 霰
㊀勢を割く、へのこきる。○〔肘後經〕「——馬宦-牛」。
㊁樹を接ぐこと、つぎ木。○〔月令廣義〕「有ニ——樹法ニ」。

【騹】驪に同じ。○〔荀〕「驊-騮-——-驥」。

【〓】騮に同じ。

【騬】ショウ、ゾウ。食陵切 蒸
勢を割きたる馬。

十一畫

【〓】ロウ、ル。郎侯切 尤
大なる騾馬。

【〓】驢に同じ。

【騺】チ。陟利切 寘
㊀馬很る、もとる、一說に、馬の重きに苦しむ貌にいふ字、一說に、馬脚の曲がるにいふ字、又、馬重くして泥に陷る貌にいふ字。○〔史〕「惠-公馬——而不レ能レ行」。
㊀——曼は、馬の遲く鈍き貌にいふ語、一說に、馬旁より出づ。

【騿】ショウ、シュ。書容切 冬
にぶきうま、（駑-馬）。

【騻】シャウ、サウ。所兩切 養　色莊切 陽
驌——は、古の良馬。

【〓】リ。鄰知切 支
驢馬の子。

【〓】瞧に同じ。

【〓】サン、セン。所簡切 潸
馬の名。

【騼】ロク。盧谷切 屋
騀——は、馬の屬、一說に、野馬。

【騽】イフ。爲立切 緝　シフ。席入切 緝
㊀黄脊の驪馬、かげ。
㊁豪骭の馬、ながきけずれのうま。

【〓】エイ、アイ。煙奚切 齊
黑色の馬、くろうま。

【騾】ラ。落戈切 歌
驘に同じ、らば。○〔神仙別傳〕「乘ニ靑——ニ」。
〔駁騾〕まだらのらば。○〔洞冥記〕「修-彌國獻ニ——ニ」。
〔駝騾〕らくだとらばと。○〔魏〕「有ニ好-馬——ニ」。

【〓】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
㊀くせわろきうま、はれうま、人を嚙む馬。
㊁馬驚き視る、おどろく。

【驀】バク、ミヤク。莫白切 陌
のる、（騎）、こゆ、（超）。○〔李賀〕「煙-底——波乘ニ一-葉ニ」。

【驀】バ、メ。莫駕切 禡
のぼる、（登）。

【〓】バク、ミヤク。莫獲切 陌
驊——は、騾馬の屬。

【驁】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪　魚到切 號
㊀駿馬、よきうま。○〔呂氏春秋〕「良-馬不レ期ニ乎驥——ニ」。
㊁おごる。
（い）馬の柔順ならざるにいふ字、人の不遜なるにいふ字。○〔漢〕「諸-公稍自引而怠——」。
（ろ）輕んじて受けず、かろんず。○〔呂氏春秋〕「士——ニ祿-爵ニ」。
〔倔驁〕不屈にしてたけきこと。○〔韓愈〕「受-材實——」。
〔驕驁〕たけくすぐれたる馬、又、おごりて柔順ならざること。○〔漢〕「卒多——」。
〔悍驁〕わるづよし。○〔魏、註〕「其性——」。
〔桀驁〕前に同じ。○〔唐〕「稍——」。「而——」。
〔怠驁〕おごりて勤勉ならざる。○〔漢〕「諸-公稍自引而——」。

【驁】ゲウ。牛召切 嘯
驕——は、馬の行く貌にいふ語。

【〓】驁に同じ。

【驂】サン、ソン。倉含切 覃
㊀車に駕する三頭の馬、又、そへうま、騑馬。○〔儀〕「以ニ左——出」。
㊁部者の尊者に陪して同車すること、車駕に尊者は左に居り御者は中に居り車の傾かざるために更に一人の者をして右に居らしむるを古昔の乘車の法となしたるよりいふ。○〔左〕「使ニ職——乘ニ」。
〔兩驂〕車に駕したる服馬の外にそへたる兩馬の稱。○〔詩〕「——如レ舞」。
〔劇驂〕七達の道路。○〔爾〕「七達謂ニ之——ニ」。
〔騑驂〕服馬の左右のそへうま。○〔晉〕「左-右——」。
〔龍驂〕すぐれたるそへ馬。○〔魏〕「鳳-服——」。
〔征驂〕遠行の車に駕したる馬。○〔王勃〕「長-路曉而——動」。
〔疲驂〕つかれたるそへ馬。○〔謝朓〕「——良-夜返」。
〔羸驂〕前に同じ。○〔楊巨源〕「——苦遲々」。

【驃】ヘウ、ベウ。毗召切 嘯
㊀白き色を發せる黄馬、しらかげ、一說に、白き髦尾の馬。
㊁馬の疾行する貌にいふ字、はす、とし。
㊂つよし、いさむ、（驍-勇）。

【驃】ヘウ、ベウ。卑笑切 嘯
黄色馬。○〔岑參〕「君家赤——畫不レ得」。

【驄】ソウ、ス。倉紅切 東
蔥青馬、荏鐵馬、あをうま、あしげ。○〔後漢〕「常乘ニ——馬ニ」。

【驅】ク、コ。豈俱切 虞　區遇切 遇　キウ、ク。祛尤切 尤
かる。
（い）おふ、（逐）。○〔禮〕「——レ獸毋レ害ニ五-穀ニ」。
（ろ）はす、（馳）。○〔易〕「王用三——失ニ前-禽ニ」。

（馳驅）馬をはす。○〔詩〕「無二敢——一」。
（疾驅）とく馬をはしらす。○〔唐〕「爾敢——耶」。
（競驅）さきを爭ひて馬をはしらす。○〔後漢〕「不レ得下與二諸王車騎一——上」。
（前驅）行列のさきども、さきのり。○〔詩〕「爲レ王——」。
（先驅）前に同じ、又、軍の先鋒にもいふ。○〔史〕「百夫荷レ罕旗以——」。「齊」。
（長驅）遠く敵を追ひ行く。○〔戰〕「——至」。
（安驅）ゆる〳〵と馬をかる。○〔九歌〕「撫二余馬一兮——」。

【⿰馬啇】タク、チヤク。陟革切 陌　—駿は、騾馬の屬。

【⿰馬逐】チク、ドク。直六切 屋　羣馬相追ふ、おふ。

【⿰馬犁】⿰馬犂に同じ。

十二畫

【驈】井ツ、餘律切　シユツ、食聿切　キツ、戸橘切　井チ。ジユチ。ギチ。切 質　跨の白き馬。○〔詩〕「有レ—有レ騜」。

【⿰馬閒】カン、ゲン。戸閒切 刪　一目の白き馬。

【⿰馬闌】前條に同じ。

【驉】キヨ、コ。朽居切 魚　駏—は、騾馬に似たる一種の獸。

【驊】クワ、ゲ。戸花切 麻　—騮は、駿馬。

【驋】ハツ、ハチ。北末切 曷

㊀馬走る、はしる。㊁馬怒る、いかる。㊂馬首を搖かす、かしらふる。

【⿰馬黄】騜に同じ。

【驌】シユク、ソク。息逐切 屋　—驦は、古の良馬。

【驍】ケウ。古堯切 蕭　㊀勇健、たけし、つよし。○〔宋孝武帝〕「羣-政遷二——氣一」。㊁良馬。㊂投壺の技にて壺に投げ入れたる矢の躍り出でて地に墮ちざるを、投壺の技の最もすぐれたる伎倆なりとす。○〔西京雜記〕「郭-舍-人能二投-壺一、箭七-十-餘-—」。
（驍々）たけくいさむ貌にいふ語。○〔陸雲〕「—-—征-邁」。

【⿰馬犂】レイ、ライ。郎奚切 齊　桃—は、つきげうま。

【⿰馬黎】リ。良脂切 支　騑—は、馬に似たる獸の名。

【⿰馬桀】⿰馬棐に同じ。

【驎】リン。里刃切 震　力珍切 眞　㊀黑き脣の馬。㊁斑文ある馬、まだらうま。

【驏】サン、ゼン。鉏版切 潸　馬に鞍を施さゞるを、はだかうま。○〔令狐楚〕「少-小邊-州慣二放-狂一、——騎蕃-馬射二黃-羊一」。

【驐】トン。都昆切 元　畜類の勢を去るにいふ字、へのこきる。

【⿰馬番】ヘン、ボン。附袁切 元　生養せるもの丶蕃ゆるにいふ字、ふゆ、そだつ。

【⿰馬畱】騮に同じ。

【⿰馬登】トウ、ドウ。徒亙切 徑　トウ。他登切 蒸　㊀行きて倒れんと欲す、たふれかゝる。㊁駿—は、馬の病ひ。

【⿰馬喜】キヨク、ケキ。迄力切 職　馬走る、かける。

【⿰馬寒】カン。河干切 寒　馬多き貌にいふ字。

【⿰馬童】トウ、ドウ。徒東切 東　馬の名、一說に、小さき馬。

【驒】タ、唐何切 ダ。切 歌　タン、徒干切 ダン。切 寒　テイ、都黎切 タイ。切 齊　㊀—騱は、野馬。㊁鬣の黑き白馬、一說に、連錢驄、あしげ。○〔詩〕「有レ—有レ駱」。

【驒】テン。都年切 先　—騱は、馬に似て小さき一種の獸。

【驓】シヨウ、疾陵切 ゾウ。切 蒸　ソウ、昨亙切 ゾウ。切 徑　膝の下の白き馬、あしぶち。

【驔】テン、徒玷切 デン。切 琰　タン、徒含切 ドン。切 覃　黃なる脊の驪馬、くろくりげ、一說に、脛の毛の白き馬　○〔詩〕「有レ—有レ魚」。

【⿰馬幾】キ、ゲ。巨希切 微　うま、（馬）。

【⿰馬喪】サウ。息郎切 陽　尾の白き馬。

【⿰馬喪】サウ。師莊切 陽　騯—は、淺黃色の馬。

【驕】ケウ。舉喬切 蕭　㊀馬のたけ六尺あるにいふ字、又、壯んなる貌にいふ字。○〔詩〕「四-牡有レ—」。㊁おごる。（い）馬控制に從はず。○〔崔國輔〕「白-馬—不レ行」。（ろ）馴れず。○〔周書〕「譬若二畋-犬—一用逐レ禽」。（は）慢る、輕んず。○〔戰〕「勝而不レ—」。（に）矜る、高ぶる。○〔呂氏春秋〕「—二得レ道之人一」。（ほ）無禮、放縱、ぶしつけ、ほしいまゝ。○〔孝〕「在レ上不レ—」。（へ）禁ずべからざる勢あるにいふ字。○〔莊〕「僨—而不レ可レ係者其惟人-心乎」。㊂寵す。○〔戰〕「—二張-儀一以二五-國一」。
（矜驕）たかぶりほこる。○〔潘岳〕「害盈田ニ——」。
（驕々）盛んなる貌にいふ語。○〔詩〕「無レ田二甫-田一、維莠——」。
（狠驕）おごりて君命に戾る。○〔唐〕「諸-將——」。
（悍驕）人氣あらくして從順ならぬ。○〔韓愈〕「河-北——」。

【驕】ケウ。嬌廟切 嘯

馬の行く貌にいふ字、又、ほしいまゝ、(縱-恣)。○〔史〕「天-蟜-椐以ー-驁兮」。

〔驕〕ケウ。虛嬌切 蕭
獢に同じ、短き喙の犬。○〔詩〕「載ニ獫歇ーこ」。

〔䮪〕騷に同じ。

〔䮶〕レフ、ロフ。良涉切 葉
ふむ、(踐)。

十三畫

〔䮽〕ヨ、オ。以諸切 魚 羊洳切 御
馬徐かにして疾し。

〔䮷〕トク、ドク。徒谷切 屋 ソク。仕足切 沃
一 馬の行く貌にいふ字。
二 驍ーは、野馬。
三 將軍の牙旗、たいしやうのはた。○〔宋〕「殿-廷立レ仗、每レ隊旗二、角-觿赤-熊兒太-平馴-犀鵝-鸞驃-ー騶-牙」。

〔䮲〕アク、オク。於角切 カク、コク。古岳切 覺 チク。烏酷切 沃
馬徐かにして疾く行く、一說に、馬の腹の下鳴るにいふ字。

〔驖〕テツ、テチ。他結切 屑
赤黑色の馬、くろくりげ。○〔詩〕「駟ー孔阜」。

〔驗〕ゲン。魚窆切 豔
一 しるし。
(い)證信、あかし。○〔史〕「何以爲レー」。
(ろ)効能、きゝめ。○〔謝靈運〕「藥ー者疾易レ痊」。
(は)兆候、きざし。○〔蔡邕〕「太-平之萌、昭-ー已著」。
(に)成績、いさを。○〔呂氏春秋〕「以ーニ其辭こ」。
(ほ)應報、むくい。○〔論衡〕「將レ有ニ雲-雨之ーこ」。
(へ)未來を預定すべき相。○〔唐〕「龍-瞳鳳-頸極-貴ー也」。
二 しるしを考視するにいふ字、しらぶ、ためす、こゝろみる、しらべ、ためし、こゝろみ。○〔漢〕「即ー問」。

(案驗) 徵證をしらぶ。○〔漢〕「皆勿ニー・ーこ」。
(檢驗) 前に同じ。○〔晉〕「ー・ー果然」。
(左驗) 證據、しるし。○〔漢〕「ー・ー明-白」。
(符驗) 前に同じ。○〔晉〕「皆ー・ー」。
(參驗) しらぶ。○〔戰〕「而ーニー之こ」。
(占驗) 卜占にあらはれたるしるし。○〔漢〕「各有ニ ー・ーこ」。「餘-事こ」。
(筮驗) 前に同じ。○〔晉〕「璞撰ニ前-後ー・ー六-十-ー-事こ」。
(察驗) しらべ考ふ。○〔亢倉子〕「ーニー近習こ」。
(考驗) 前に同じ。○〔晉〕「ーニー天-狀こ」。
(顯驗) 明驗といふに同じ、あきらかなる徵證。○〔後漢〕「多有ニー・ーこ」。○「ーこ」。
(該驗) かねあはせてしらぶ。○〔宋〕「咸加ニー・ー」。
(覆驗) ひとたびしらべたるとをしらべなほす。○〔唐〕「敕-醫與ニ大-理少-卿張-德裕侍-御-史劉-憲ー・ー」。
(瑞驗) めでたきしるし。○〔皇甫汸〕「表ニー・ーニ云」。
(辨驗) 判別してしらぶ。○〔圖繪寶鑑〕「多令ニー・ーこ」。
(試驗) こゝろみしらぶ。○〔劉迎〕「ー・ー頗爲レ大」。
(奇驗) ふしぎなるしるし。○〔劇談錄〕「吉-凶屢有ニー・ーこ」。
(靈驗) 神佛などのあらはすめづらしきしるし。○〔荆州記〕「宮-亭湖神有ニー・ーこ」。
(測驗) 天文地理などをはかりしらぶ。○〔齊東野語〕「以備ニー・ーこ」。
(實驗) まことのしらべ。○〔顏氏家訓〕「皆ー・ー也」。
(徵驗) 徵證、しるし。○〔錄異記〕「頗有ニー・ーこ」。
(諸驗) 前に同じ。○〔白虎通〕「揆ニ星辰之ー・ーこ」。

〔驘〕ラ。落戈切 歌
牝馬と牡驢との接して生ずるもの、らば。○〔楚辭〕「同ニ駕ー與ニ桀-駔一兮」。
(驢驘) うさぎうまとらばと。○〔劉向〕「騰ニー・ー以馳-逐」。

〔驙〕テン。知連切 先 タン、ダン。徒干切 寒
一 邅に同じ、なやむ。二 黑き脊の白馬。

〔驙〕タン。他干切 寒
騏驎。

〔驙〕テン。陟扇切 霰
馬臥す、ふす。

〔䮹〕ワイ、エ。於廢切 隊
ー驍は、馬怒ること。

〔䮹〕ケイ、ケ。姑衞切 霽
性の惡しき馬、はねうま。

〔䮷〕シフ。仕戢切 緝
馬の行く貌にいふ字。

〔驚〕ケイ、キヤウ。擧卿切 庚
一 おどろく。
(い)馬の懼れて擾ぐにいふ字。○〔左〕「慶-氏之馬善ー」。
(ろ)意外の感にうたる、突然の怖れに擾ぐ。○〔史〕「一-軍皆ー」。
(は)物事の急に擾ぎ起つにいふ字。○〔張融〕「波-色還ー」。
二 おどろかしむ、おどろかす。○〔詩〕「震ニ一ー徐-方こ」。

(震驚) いたく懼る。○〔楚辭〕「宮-庭ー・ー」。
(陽驚) うはべにおどろきをよそほふ。○〔漢〕「郎ー・ー」。

〔驛〕エキ、ヤク。羊益切 陌
一 行旅の宿り又は舟車人馬をつぎたつるために設置したる亭舍、しゆく、ば、ふなつぎ、うまやど、しゆく、やどり。○〔唐〕「迎ニ於長-樂ーこ」。
二 しゆくばよりつぎたつる舟車人馬。○〔唐〕「歲-時聽ニ給レー省ヒ家」。
三 つぐ、つたふ、(譯)。○〔正字通〕「人曰下ーニ其聲ー而吟ゆ之」。
四 苗の生ずる貌にいふ字。○〔詩〕「ーー其達」。
五 氣の連屬せざること。○〔書〕「曰雨、曰霽、曰蒙、曰ー、曰克」。

(傳驛) うまつぎば、うまやど。○〔唐〕「報-部掌ニー・ーこ」。
(水驛) 舟をつぐところ、ふなつぎば。○〔會要〕「停ニー・ーこ」。
(津驛) 前に同じ。○〔錢起〕「夜-火臨ニー・ーこ」。
(飛驛) つぎうまをはしらす。○〔會要〕「太-子請ニー・ー表ニ起-居こ」。
(駱驛) 絡繹といふに同じ、人馬の往來絶えざること。○〔後漢〕「ー・ー不レ絕」。
(馬驛) つぎうま。○〔孫逖〕「置レ騎爲ニー・ーこ」。
(荒驛) あれたる傳舍。○〔林景熙〕「ー・ー台-州路」。
(捉驛) 州縣の富人官命をうけて郵遞をあつかふ者。○〔唐〕「初州-縣取ニ富-人一、督ニ酒-醼一、謂ニ之船-頭一、主ニ郵遞一、謂ニ之ー・ーこ」。

〔驜〕ゲフ、ゴフ。魚怯切 葉
壯んなる貌にいふ字、又、馬の高くして大いなる貌にいふ字。

十四畫

〔驞〕奔に同じ。

【驝】駝に同じ。

【⿰馬壽】タウ、都老切 晧 トウ。刀號切 號 馬の祭り。

【⿸虍騰】トウ、ドウ。徒登切 蒸 黒き虎。

【⿰馬巽】驥に同じ。

【⿰馬監】カン、戸監切 陷 ゴン。戸黤切 豏 馬走る。

【驞】ヒン、ビン。紕民切 眞 ——駍は、衆の聲にいふ語。○〔揚雄〕「——駍論磕」。

【驟】シウ、鉏祐切 宥 ソウ、才候切 ジユ。ズ。

㊀はす。(い)疾歩す、はしる。○〔詩〕「載—駸駸」。(ろ)疾歩せしむ、はしらす。○〔莊〕「馳レ之——レ之」。

㊁急疾、とく、にはか、すみやか。○〔老〕「—雨不レ終レ日」。

㊂しばしば（數）。○〔左〕「晉能—來」。

〔馳驟〕馬などのすこしくはするを馳せずしてすこしくはやく歩むと、又、極めて疾くはするにもいふ。○〔宋〕「——殿庭」。

〔奔驟〕前に同じ。○〔舞賦〕「——相及」。

〔決驟〕疾く奔る。○〔莊〕「麋鹿見レ之——」。

十五畫

【⿰馬臺】駘に同じ。

【⿰馬樂】レキ、リヤク。郎笛切 錫 馬の色。

【⿰馬樊】ヘン、ボン。符袁切 元 ——駐は、とゞまる。

【⿰馬巤】レフ、ロフ。力涉切 葉 馬行く。

【⿰馬巤】ラフ、ロフ。力盍切 合 ——騸は、馬進まざること。

【⿰馬廣】クワウ。古黃切 陽 閱——は、回毛の脊に在る馬。

【⿰馬夐】ケイ、キヤウ。呼正切 敬 馬怒る、いかる。

【⿰馬麃】ヘウ。卑遙切 蕭 鑣に同じ、くつばみ、くつわ。○〔王元長〕「燭龍導二輕——一」。

【⿰馬黎】レイ、郎奚切 齊 ライ。リ。良脂切 支 駣——は、馬の屬。

十六畫

【驠】エン。伊甸切 銑 烏前切 先 白き尻の馬。

【驡】龐に同じ。

【驡】リヨウ、リユ。良用切 腫 重く騎る。

【⿱龍馬】リヨウ、リユ。力鍾切 冬 のうま（野馬）。

【⿱龍馬】サウ。子朗切 養

【驢】リヨ、ロ。力居切 魚 ——騠は、良馬。

馬に似て小さき一種の獸、うさぎうま、耳長くして頬もまた長し。○〔吳〕「面長似レ—」。

〔蹇驢〕あしなへのうさぎ馬、又、かりてつかひみちなきおろかなる人物のことにもいふ。○〔抱朴〕「所レ論薦則——」。

〔罷驢〕疲れたるうさぎ馬。○〔史〕「騏驥不レ能レ與二——爲一レ駟」。

〔海驢〕海獸の名、あじか、うみをそともいふ。○〔本草綱目〕「——出二海島中一、入レ水不レ濡」。

〔騾驢〕らばとうさぎ馬と。○〔梅堯臣〕「又與二——走二長陌一」。

【⿰馬雋】俗の驨の字。

【⿰馬霍】カク、古岳切 覺 カク。コク。切 曷各切 藥 白き額の馬、ひたひじろ。

【⿰馬騰】トウ、ドウ。徒登切 蒸 馬躍る、をどる。

十七畫

【⿰馬櫜】驝に同じ。

【驤】ジヤウ、ナウ。息良切 陽

㊀後右足白き馬。○〔爾〕「後右足白—」。

㊁あがる。(い)馬首昂がる、のる。○〔六書故〕「馬行迅疾首騰—」。(ろ)遠く擧がる。○〔蜀〕「龍—虎視」。

㊂馳す、躍る。○〔張衡〕「奮レ超而騰—」。

【驥】キ、九利切 寘

㊀千里の馬、駿足の馬。○〔戰〕「竝レ—而走者五里而罷」。

㊁才能俊れたる者の稱にいふ字。○〔白帖〕「劉正兄弟二人、時號二兩——一」。

〔附驥〕すぐれたる人物に附隨す。○〔史〕「—二——尾一而行益顯」。

〔展驥〕駿足をのぶること、卽ちすぐれたるオ力をあるだけのばしはたらかすにいふ語。○〔蜀〕「始當レ—其——足一耳」。

〔渴驥〕のどかわきたる駿馬。○〔唐〕「——奔レ泉」。

〔駑驥〕劣りたる馬と駿馬と。○〔孔叢子〕「——同レ轅」。「聞——老始成」。

〔良驥〕すぐれたるはやあしのよき馬。○〔杜甫〕「吾前に同じ。○〔識〕「——哮壯之時」。

〔駿驥〕前に同じ。○〔齊〕「賓客二——一」。

〔逸驥〕前に同じ。○〔傳休奕〕「——千里」。

〔神驥〕前に同じ。○〔李賀〕「新栽養二——一」。

〔馳驥〕はする駿馬。○〔劉孝綽〕「懸帆似二——一」。

〔奔驥〕前に同じ。○〔陸雲〕「——服レ路」。

〔病驥〕やみつかれたる駿馬。○〔張耒〕「我詩如二——一」。

【驦】シヤウ、サウ。色莊切 陽 驌——は、良馬。○〔郭璞〕「驌——軒レ髮」。

【⿰馬鞠】キク、ゴク。渠竹切 屋 馬躍る、はぬ、をどる。

【⿰馬鞠】キク、コク。居六切 屋 脊の曲がりたる馬。

【⿰馬蹇】俗の蹇の字。

【⿰馬騰】トウ、ドウ。徒登切 蒸

㊀奔る、躍る。㊁むなし（虛）。

㊂わたる（度）。

十八畫

【驨】ケイ、エ。戸圭切 齊

所兩切 養

馬に似て一角ある獸。

【馬耴】デフ、ノフ。呢輒切 葉
馬疾く步む、はしる。○[晉載記]隴上歌「—‐—驄文‐馬鐵‐鍛‐鞍」。

【馬瞿】ク、ゴ。權俱切 虞
馬行く。

【驩】クワン。呼官切 寒
㊀馬の和樂する貌にいふ字。
㊁歡に同じ、よろこぶ。○[孟]「—‐—虞‐如也」。

十九畫

【驪】リ。呂支切 支　レイ、郎奚切 ライ。切 齊
㊀純黑色の馬、くろうま。○[詩]「四—濟‐濟」。
㊁兩馬を車に駕す、ならぶ。○[後漢]「光‐武北‐征時、軍‐食急‐之、寇‐恂以二輦車—駕一、轉‐輸前‐後不レ絕」。
[驊驪] あか馬とくろ馬と。○[易林]「—‐—同レカ」。
[騮驪] あをかげ馬とくろ馬と。○[詩]「—‐—是くろうま。○[禮]「天‐子駕二—‐—一」。[驪]。
[鐵驪] 前に同じ。○[史]「北‐方畜—‐—」。
[烏驪]
[溫驪] 溫は一に流に作る、又、竊黧ともいふ、うすあを馬とくろ馬と。○[史]「得二驥—‐—驊‐騮騄耳之駟一」。
[漢驪] うさぎ馬の異名。○[何承天]「驪一名二—‐—一」。

【馬遲】チ、ヂ。陳尼切 支
—‐軒は、縣の名。

二十畫

【驫】フウ、フ。甫休切 尤　ヘウ。卑遙切 蕭 ・ シフ。仕戢切 緝
衆馬の走る貌にいふ字、はしる。○[左思]「—‐—蹴‐齧‐齒」。

廿四畫

【馬馬馬馬】シン。所臻切 眞
衆馬の行く貌にいふ字、衆くして盛んなる貌にいふ字。○[逸周書]「—‐—疑沮レ事」。

【馬馬馬馬】シフ。仕戢切 緝
木の盛んなる貌にいふ字。

骨部

【骨】コツ、コチ。古忽切 月
㊀ほれ。
(い)動物の肉中にありて身體を支撐する堅き物質のもの。○[周]「以レ酸養レ—」。
(ろ)ほれの相貌、ほれぐみ、ほれがら。○[漢]「有二封‐侯—一」。
(は)かばれのほればかりとなれるもの。○[左]「生レ死而肉レ—」。
(に)からだ、むくろ、かばれ。○[晉]「流レ血積レ—」。
(ほ)ものゝ中につゝまれてものを支撐するをほれの肉に於けるが如きものゝ稱。○[博物志]「石爲二之—一」。
㊁風度。○[石門題跋]「讀レ之凜‐然如レ見二其道—一」。
㊂極致。○[文心雕龍]「有二移‐檄之—一焉」。
㊃意氣。○[詩品]「眞—凌レ霜」。
㊄主旨。○[文心雕龍]「無レ—之徵也」。
㊅人の義にいふ字。○[晉]「下無二怨‐—一」。
[筋骨] すぢとほれと。○[周]「皮‐毛—‐—」。
[白骨] 古へのつかざるほねがら。○[鹽鐵論]「歸‐骼能レ肉二—‐—一」。
[枯骨] 前に同じ。○[蜀]「家中—‐—」。
[買骨] 涓人の死馬の骨を五百金もて買ひたりといふ故事より俊士を求むるに急なるの意にいふ語。○[皇甫謐]「貝‐駿充‐廏、遑‐懷二—‐—之謀一」。
[仙骨] 仙人の骨格。○[神仙傳]「子有二—‐—一」。
[風骨] 風采骨格のこと。○[南]「—‐—奇‐偉」。
[骸骨] 人のほねがら。○[北]「所在掩二—‐—一」。
[朽骨] くされたるほね。○[晉]「育二豐肌于—‐—一」。
[腐骨] 前に同じ。○[搜神記]「—‐—歿‐肉」。
[奇骨] つねなみならざるほね。○[晉]「此兒有二—‐—一」。
[額骨] ひたひのほね。○[南]「—‐—益大」。「—一」。
[喉骨] のどぼね。○[宋]「—‐—高者」。
[弱骨] かぼそきほね。○[西京雜記]「—‐—豐‐肌」。
[苦骨] くらゝぐさの異名。○[本草]「苦‐參一名二—‐—一」。
[氣骨] 氣力のこと。○[南]「—‐—似レ我」。
[玉骨] 美人のほねなどにいふ語。○[竹坡詩話]「氷‐肌—‐—淸無レ汗」。
[肌骨] はだとほねと。○[歐陽修]「砭二人—‐—一」。
[解骨] 力をつくさゞること。○[國]「忠‐臣—レ—」。
[後骨] 頭後のほね。○[唐]「—‐—不レ隆」。
[凡骨] つねなみのからだ。○[蘇軾]「欲レ換二—‐—一無二金‐丹一」。
[異骨] めづらしきほね。○[神仙傳]「仙‐人者面「生二—‐—一」。
[英骨] すぐれたるもののからだ。○[梅堯臣]「從レ此埋二—‐—一」。
[戶骨] なきがら。○[搜神記]「願以二—‐—一」。
[俠骨] 俠氣のこと。○[李賀]「長聞二—‐—香一」。
[病骨] 病身のこと。○[李賀]「—‐—猶能在二人‐間一」。

一畫

【骨弋】ヨク、エキ。與職切 職
小さき骨、こぼれ。

二畫

【骨丁】テイ、チヤウ。湯丁切 靑
腨の骨、すねぼれ。

【骨几】ケイ、カイ。堅溪切 齊
はだ、(肌)。○[列]「—‐骨無レ碼」。

【骨力】コツ、コチ。苦骨切 月　クワツ、ケチ。口滑切 黠
つとむ、(力)、はたらく、(作)。

三畫

【骫】井。於詭切 紙
㊀骨の曲がれるにいふ字、まがる、又、まぐ、(曲)、まがる、(紆)。○[漢]「—二天‐下正‐法一」。「所レ—」。
㊁あつむ、あつまる、(鍾)。○[揚雄]「禍—」。
[撓骫] ため曲ぐ。○[唐]「—二朝‐法一」。
[茂骫] 樹木茂盛の貌とも枝條わだかまる貌ともいふ。○[楚辭]「林‐木—‐—」。
[委骫] 婉り戾る。○[上林賦]「崔‐錯—‐—」。
[盤骫] 前に同じ。○[庾闡]「紆‐餘—‐—」。

【骨舌】クワツ、グワチ。戶八切 黠
骨を治むる聲にいふ字。

【骬】ウ、オ。羽俱切 虞
髃—は、かたぼれ、(肩‐骨)。○[靈樞經]「缺‐盆以‐下至二髃—一長九‐寸」。

【骭】カン。古案切 翰　カン、ゲン。下晏切 諫 下簡切 潸
㊀はぎ、(脛)すねぼれ、(骸)。○[甯戚飯牛歌]「短‐布單‐衣適至レ—」。「—」。
㊁わき、あばら(脅)。○[劉勰]「顱‐項骿‐

〔露骭〕脚脛をあらはして蔽はさること。○〔唐〕「衎-袴ーレー」。

【骮】ヨク、イキ。與職切 [職]
㊀肩の骨、かたぼれ。㊁小さき骨、こぼれ。

【⿰骨亐】骬に同じ。

四畫

【⿰骨巴】ハ、ヘ。必駕切 [禡]
㊀つか（杷）。㊁さじのえ（枋）。

【⿰骨支】キ、ギ。渠羈切 [支]
跂に同じ、緩く走る。

【⿰骨及】サフ、ソフ。悉合切 [合]
ーー髞は、首の動く貌にいふ語。

【⿰骨爻】骹に同じ。

【⿰骨牙】ガ、ゲ。五加切 [麻]
こしぼれ（骼）。

【⿰骨元】グワン。五丸切 [寒]
ひざぼれ（髑）、一説に、こしぼれ（骼）。

【骯】カウ、ガウ。胡郎切 [陽]
髒の字を見よ。

【⿰骨欠】アツ、アチ。烏八切 [黠]
咽中の息利ならず、いきづかへ。

【⿰骨少】セン。息淺切 [銑]
すくなし（少）。

【⿰骨參】サン、ソン。桑感切 [感]
骨輕し、小さき骨。

【骰】トウ、ヅ。度侯切 [尤]
博陸の釆、すごろくのさい。○〔溫庭筠〕「玲-瓏ーー子安ニ紅-豆ニ」。

【⿰骨殳】股に同じ。

【骱】カツ、ケチ。古黠切 [黠] カツ、ガチ。胡葛切 [曷] カイ、ゲ。下介切 [卦]
⿰骨戔ーーは、小さき骨、一説に、かたし（堅）。

五畫

【⿰骨玄】コン。古本切 [阮]
㊀⿰骨系に同じ。㊁細き骨、ほそぼれ。

【⿰骨化】クワ、ケ。去靴切 [麻]
㊀手足の疾む貌にいふ字。㊁肶ーーは、手足の曲がれる疾。

【⿱屵骨】カツ、ガチ。牙葛切 [曷]
⿰骨犮ーーは、骨の高き貌にいふ語、ほれだか。

【⿰骨斥】キウ、グ。巨戎切 [東]
ちすぢ、みやく（脈）。

【⿰骨失】テツ、デチ。徒結切 [屑]
骨差ふ、たがふ。

【骲】ハク、ボク。蒲角切 [覺] ハウ、ベウ。薄巧切 ガウ、ゲウ。五巧切 [巧] ホク、ボク。普木切 [屋]
㊀骨鏃、ほれのやじり。○〔通鑑〕「更以ニーー箭一射ニ其膞ニ」。㊁うつ（擊）。

【⿰骨可】カ。苦何切 [歌]
ひざぼれ（膝-骨）。

【⿰骨可】カ、ケ。丘駕切 [禡]
こしぼれ（腰-骨）。

【⿰骨犮】ハツ、バチ。蒲撥切 カツ、カチ。苦葛切 [曷] ハイ、ヘ。房廢切 [隊]
㊀かたぼれ（肩-膞）。㊁ー⿱屵骨は、骨の高き貌にいふ語。

【⿰骨尻】カウ、コウ。口刀切 [豪]
脊梁の盡くる處、しりぼれ。

【骳】ヒ、ビ。平義切 [寘] ビ、ミ。母被切 [紙]
骫ーーは、脛曲がる、かゞまる、まがる。

【骴】シ、ジ。疾移切 [支] 疾智切 [寘] 將此切 [紙] サイ、セ。仕懈切 [卦]
鳥獸の殘骨、死人の骨。○〔周〕「蜡-氏掌レ除レーー」。

【⿰骨必】バツ、マチ。莫八切 [黠]
ー⿰骨舌は、さゝはる。

【⿰骨令】レイ、リヤウ。郎丁切 [青]
ほれ（骲-骨）。

【骵】俗の體の字。

【⿰骨骨】コツ、クチ。苦骨切 [月]
窟に同じ、いはや。○〔漢〕「西厭ニ月-ーーニ」。

【⿰骨骨】トツ、トチ。當沒切 [月]
鳥の聲にて預め吉凶を知ること

【⿰骨号】エウ。以沼切 [篠]
㊀かたぼれ（肩-骨）。㊁あばらぼれ（脅-骨）。

【骶】テイ、タイ。都計切 [霽] 典禮切 [薺]
せ（脊）、しり（臀）。

【骷】コ、ク。空胡切 [虞]
かいがねぼれ（髆-骪）。

【⿰骨今】カン。居案切 [翰]
からだ（體）。

【⿰骨出】骴に同じ。

六畫

【⿰骨舌】クワツ、クワチ。古活切 [曷]
髂に同じ、ほれのはし、こしぼれ。

【⿰骨舌】クワツ、グワチ。戶八切 [黠]
⿰骨必ーーは、さゝはる。

【骸】カイ、ガイ。戶皆切 [佳]
㊀ほれ、からだ、むくろ、かばね（骨）。○〔左〕「折レーー以爨」。㊁はぎぼれ（脛-骨）。○〔素問〕「治ニ其ーー關ニ」。

〔筋骸〕すぢとほねと。○〔禮〕「ーー之束」。
〔形骸〕からだ。○〔淮〕「豈獨ーー有ニ瘖-聾ニ哉」。
〔⿰骨區骸〕前に同じ。○〔蘇舜欽〕「奈ニ何此ーーニ」。
〔乞骸〕骸骨を乞ふとて君に致仕をもとむること。○〔歐陽修〕「何時ーニ殘ーーニ」。
〔窮骸〕困窮者のといふ語。○〔南〕「豈伊ーー被レ德」。
〔煖骸〕からだをあたゝむ。○〔呂氏春秋〕「逸レ身ーレー」。

〔衰骸〕衰弱したるからだ。○〔張耒〕「微-功聊販助二—-—一」。

〔羸骸〕つかれたる弱きからだ。○〔杜甫〕「—-—將二何適一」。

【骸】カイ、ガイ。柯開切 灰

【䯊】カイ、ゲイ。戸皆切 佳

胲に同じ、足の大指。

【䯅】クワウ。苦光切 陽

ほれ、(骨)。

【骯】カウ、ギヤウ。戸庚切 庚

❶こしぼれ、(骻)。❷—髖は、もゝのほれ、(股-骨)。

【䯃】タイ、テ。都回切 灰

牛の脊の骨。

【骪】グワ、ゲ。五瓜切 麻

骨起ころ。

【骹】カウ、口交切 肴 ケウ。カウ、下巧切 ゲウ。巧 後敎切 效

䯫—は、ほれ、(骼-骨)。

❶脛骨の足に近き細きところ、あしくびはぎ、又、すべてあしくびの狀をなせるものゝ稱。○〔周〕「參二-分其股圍一、去レ一以爲二—圍一」。❷固き手足。○〔周、註〕「齊人名二手-足堅一爲レ—」。❸膝下、ひざした。○〔爾〕「馬四—皆白驓」。❹矛刃、やいば。○〔揚雄〕「—謂二之釜一」。

〔靑骹〕青き脛の鷹。○〔西京賦〕「—-—摯二于韝-下一」。

〔手骹〕はこのやいば。○〔揚雄〕「凡—-—細如二雁-脛一者」。

【骹】カウ、ケウ。虛交切 肴

髇に同じ、かぶらや、(鳴-鏑)。

【䯓】ケイ、ケ。苦圭切 齊

❶肩の骨。❷六畜の頭中の骨。

【骺】コウ、グ。戸鉤切 尤 居候切 宥

骨の端、一說に、骨の鏃。

【䯆】バイ、マイ。謨杯切 灰 莫代切 隊

せにく、背肉。

【骻】クワ、ケ。苦化切 禡

腰骨、こしぼれ、又、股間、また。○〔唐〕「有二從レ戎缺—-—之服一」。

【骻】踝に同じ。

【骼】カク、キヤク。古伯切 陌

禽獸の骨、死への骨、枯骨、露骨、ほれ、されぼれ。○〔禮〕「掩レ—薶レ胔」。

〔背骼〕骸骨のこと。○〔應璩〕「—-—在レ淳」。

〔筋骼〕すぢとほねと。○〔唐〕「—-—壯-大」。

〔骸骼〕なきがら。○〔唐〕「將-士—-—」。

【骼】カク。剛鶴切 藥

牲の後脛の骨。○〔儀〕「擧二—及獸魚一如レ初」。

七畫

【䯮】腦に同じ。

【䯂】テイ、チヤウ。湯丁切 靑

髐—は、長き骨の貌にいふ語。

【骹】カウ、ケウ。虛交切 肴

髇に同じ、かぶらや。○〔唐〕「貫二—-矢一」。

【䯧】ラウ。魯當切 陽

【䯗】ヘイ、バイ。傍禮切 薺

❶骹—は、ひざぼれ。❷股骨、股肉、また。

䏶に同じ、もゝ。〔韓愈〕「髮二其肉-皮一通二—-臀一」。

【䯨】頷に同じ。

【骽】腿に同じ、もゝ。

【䯒】ケイ、キヤウ。呼經切 靑

れほ、(骨)。

【䯚】クワン、グワン。胡玩切 翰

❶ひざぼれ、(膝-骨)。❷垸に同じ。

【䯙】ヘイ、ビヤウ。傍丁切 靑

肋骨、あばらぼれ。

【䯝】フ、ホ。匪父切 麌

ひざぼれ、(骻)。

【䯝】髆に同じ。

【䯥】エウ。以沼切 ケウ、ゲウ。胡了切 セウ、ゼウ。子小切 篠

脅骨、わきぼれ、一說に、肩骨、かたぼれ。○〔詩傳〕「達二於右—一」。

【骾】カウ、キヤウ。古杏切 梗

食らひし骨の咽の中に留どまるにいふ字、ほれたつ、轉じて人のかどだちて流俗に從はざるにいふ字。○〔晉〕「骨—不レ同二於物一」。

〔剛骾〕氣風のつよくして柔順卑屈ならざること。○〔晉〕「性—-—無レ所二屈撓一」。

【髺】クワツ、クワチ。古活切 曷

骨の端。

八畫

【䯤】シヤ、セ。詩車切 麻

ほれ、(骨)。

【䯞】ヨ、オ。於許切 語

肩の骨、かたぼれ。

【骿】ヘン、ベン。部田切 先

肋骨連合して一となれるを、いちまいあばら、骿脅。○〔國〕「聞二其—-骨一」。

【髀】ヒ。拜弭切 紙 母婢切 支 ヘイ、バイ。傍禮切 薺

もゝ、(股)。○〔禮〕「毋レ厭レ—」。

〔拊髀〕股をうちたゝく。○〔漢〕「廼—レ—」。

〔搏髀〕前に同じ。○〔鼓表元〕「—レ—不レ覺長咨嗟」。

〔拍髀〕前に同じ。○〔後漢〕「所二以—レ—仰レ天而笑一者也」。

〔股髀〕もゝ全體のこと。○〔儀〕「—-—不レ升」。

〔腰髀〕こしともゝと。○〔說苑〕「寡人有二—-—之病一」。

【髀】前條に同じ。

【䯈】キ、ギ。巨綺切 紙

小さき骨、こぼれ。

【䯛】ワン。烏貫切 翰

ひざぼね、(膝骨)。○[唐]ニ截ニ左ーーニ。

【⿰骨隋】髖に同じ。○[素問]ニ「ー骨之充也」。

【⿰骨空】カウ、コウ。苦江切 江
髇ーーは、尻の骨。

【⿰骨易】テキ、チヤク。他歷切 錫
タク、チヤク。丑格切 陌
骨の閒の黃汁。

【⿰骨昜】セキ、シヤク。思積切 錫
胯の骨の閒。

【⿰骨垂】スヰ、ズヰ。樹僞切 寘
器を漆する前にぬるもの、ぬりものゝしたぢ。

【⿰骨叕】テツ、テチ。知劣切 屑
ほれつぎ、(續骨)。

【⿰骨卒】ソツ、ゾチ。昨沒切 月
こぼれ、(小骨)。

【髁】クワ。苦臥切 箇 苦果切 哿
苦禾切 歌
もゝのほれ、(髀骨)、ひざのほれ、(膝骨)。

【髁】クワ、ケ。苦瓦切 馬 クワイ、ケ。苦會切 泰
誤ーーは、正しからざる貌にいふ語。○[莊]「誤ーー無レ任」。

【⿰骨夌】リヨウ、ロウ。盧登切 蒸
骨の高き貌にいふ字。

【⿰骨兒】キ、ギ。語支切 支
骨の貌にいふ字。

九畫

【⿰骨青】髖に同じ。

【⿰骨省】セイ、シヤウ。所景切 梗
瘠に同じ、やす。

【⿰骨度】ド、ヅ。動五切 麌
かしらぼね、(顱)。

【⿰骨扁】ヘン、ベン。薄玄切 先 婢典切 銑
骨の偏り生じたる貌にいふ字。

【⿰骨皆】腊に同じ、やす。

【骼】カ、ケ。枯駕切 禡
腰の骨、こしぼね。○[漢]「折レ骨拉レー」。

【⿰骨叚】前條に同じ。

【⿰骨咼】クワ、ケ。苦瓜切 麻
㊀額上の骨。㊁ー骫は、髂上の骨。

【⿰骨彖】タイ、デ。徒對切 隊
骫ーーは、愚かなる貌にいふ語。

【⿰骨曷】カツ、ガチ。胡葛切 曷 ケツ、ケチ。許歇切 月
カイ。許代切 隊
ー骬は、肩の骨。

【⿰骨重】シヨウ、ジユ。豎勇切 腫
脛邪氣のために腫る、あしはる、かつけ。

【⿰骨咸】ガン、ゲン。魚咸切 咸
髛ーーは、骨の高き貌にいふ語。

【髃】グ、ゴ。遇俱切 虞 ゴウ、グ。五口切 有
グワイ、ゲ。吾回切 灰 ゴウ、グ。五公切 東
腢に同じ、かたさき。○[詩]「達ニ於布ーーニ。

十畫

【⿰骨食】饕に同じ。

【髆】ハク。補各切 藥
かたぼね、かいがね、(肩甲)。○[夢遊錄]「擊レー拊レ髀」。

【⿰骨追】ツヰ、ヅヰ。傳追切 支
項の後の骨。

【髇】カウ、ケウ。許交切 肴
かぶらや、(鏑箭)。

【⿰骨鬼】クワイ、ケ。苦外切 泰
ー髓は、愚かなる貌にいふ語。

【⿰骨豈】ガイ。魚開切 灰
頪ーーは、頭の長き貌にいふ語。

【髈】ハウ。匹朗切 養
もゝ、(股)、一說に、わき、(脅)。

【髈】ハウ、バウ。步光切 陽
膀に同じ、ゆばりぶくろ。

【⿰骨昷】アウ、オウ。烏皓切 晧
㊀骨を藏む、かくす。㊁腰骨、こしぼれ

【⿰骨害】カイ、ガイ。下蓋切 泰
ほれ、(骨)。

【⿰骨皃】髀に同じ。

【⿰骨兼】ケン。吉念切 豔
瘦せたる貌にいふ字。

【⿰骨隺】ハク、ホク。北角切 カク、コク。訖岳切 覺
骨の端、一說に、骨堅く白し。

【⿰骨差】骴に同じ。○[呂氏春秋]「揜レ骼薶レー」。

【⿰骨差】サ。倉何切 歌
牙骨を治む、みがく、とぐ、(磋)。

【⿰骨冐】古文の體の字。

十一畫

【髍】バ、マ。莫波切 歌
身支半ば意の如くならざるやまひ、ちゆうふう、(偏病)。

【⿰骨齊】前條に同じ。

【⿰骨齊】臍に同じ。○[漢]「又況幺ーー尙不レ及ニ數ー子ニ。

【⿰骨虎】キヨク、コク。許玉切 沃
顱に同じ、あたまのほれ。

【⿰骨票】ヘウ。卑遙切 蕭
體の壯なるを、すこやか。

【⿱敖骨】ガウ、ゴウ。五勞切 豪　蟹の大脚、かにのはさみ。

【⿰骨逢】ホウ、ブ。扶用切 宋　㊀龜を灼きて生ずるひゞ。㊁胷前の骨の會合する處。

【⿰骨區】シュ。昌朱切 虞　軀に同じ、からだ、み。

【髎】レウ。落蕭切 蕭　力弔切 嘯　ラウ、レウ。力交切 肴　こしぼれ(髖)、一說に、馬の胯の上の骨。

【⿰骨莽】バウ、マウ。母朗切 養　骯―は、體の肥ゆるを。

【⿰骨國】膕に同じ、足のひきかゞみ。

【髏】ロウ、ル。落侯切 尤　髑―は、皮肉の脱落したる頃顱、あたまのほね、されかうべ。○〔列〕「見二百-歲髑―一」。

十二畫

【⿰骨厥】ケツ、コチ。居月切 月　⿰月厥に同じ、ゐさらひのほね(臀-骨)。

【⿰骨貴】キ。丘愧切 未　膝と脛との間の骨。

【⿰骨蕢】クワイ、ケ。古對切 隊　頭の骨の貌にいふ字。

【⿰骨童】タウ、トウ。宅江切 江

―骻は、尻の骨。

【髐】カウ、虛交切 肴　ケウ。馨幺切 蕭　㊀ほれの箭。㊁白骨の貌にいふ字。○〔莊〕「莊-子之レ楚見二空髑-髏―然有一レ形」。

【⿰骨菐】ハク、ホク。匹角切 覺　骨の箭。

十三畫

【⿸殿骨】⿰骨厥に同じ。

【⿸殿骨】臀に同じ、むれ。

【⿸殿骨】トン、ドン。徒渾切 元　しり(臀)。

【髑】トク、ドク。徒谷切 屋　髏の條を見よ。

【⿰骨欿】カン、ケン。丘銜切 咸　―⿰骨咸は、骨の高き貌にいふ語。

【⿰骨意】肊に同じ。

【髒】サウ。子朗切 養　㊀骯―は、體の胖えたるを　㊁抗―は、婞直の貌にいふ語、もとりてなほし、かどだつ。○後漢」「抗―倚二門-邊一」。

【⿰骨會】クワイ、ケ。古外切 泰　髮を會はせ束ぬるに用ふる骨にてつくりたるもの、もとゆひ。○〔儀、註〕「沛-國人謂二反-紒一爲レ―」。

【⿰骨業】ガフ、ゴフ。五盍切 合　骼―は、首の動く貌にいふ語。

【⿰骨霝】レイ、リヤウ。郎丁切 青　―骽は、骨の貌にいふ語。

【⿰骨差】髓に同じ。○〔漢〕「鶴―毒-冒」。

【髓】スヰ、ズヰ。悉委切 紙　㊀骨中の脂、骨中の心。○〔史〕「其在二骨―一、司-命無レ奈二之何一」。㊁すべてもの丶中心にある脂の稱。○〔徐陵〕「食二餌芝―一」。㊂中心、要極。○〔文心雕龍〕「極二文-章之骨―一」。

【⿰骨辟】ヒ、ビ。卑義切 寘　ヘキ、ヒヤク。必益切 陌　ゆはず(弓-弭)。

【體】テイ、タイ。他禮切 薺　㊀四肢と首と身幹との總稱、み、からだ。○〔禮〕「父-母之遺―」。㊁四肢、てあし。○〔穀梁〕「大-夫國―也」。㊂脊膂臂臑の屬、即ち、からだの各部の稱。○〔周〕「分二―名肉-物一」。㊃根、莖、幹。○〔禮〕「無レ以二下―一」。㊄かたち。
(い)形狀、なり、さま。○〔易〕「神無レ方而易無レ―」。
(ろ)容姿、すがた、やうす。○〔北〕「姿-―雄-偉」。
(は)裁制、かた。○〔南〕「―裁明-密」。
(に)兆象、うらかた。○〔周〕「君占レ―」。
㊅もと。
(い)本性、もちまへ。○〔呂氏春秋〕「其欲一―」。
(ろ)眞要、くゝり。○〔晉〕「錄二其根-―一」。
㊆理實、ことわり。○〔書〕「辭尚二―要一」。
㊇道法、のり。○〔揚雄〕「大哉―乎」。
㊈行爲、おこなひ。○〔呂氏春秋〕「師-徒同レ―」。
㊉一致、順序、ひとつ、ついで。○〔禮〕「官得二其―一」。
⑪牲肉、いけにへ。○〔儀〕「載レ―進レ奏」。
⑫子孫、血統。○〔儀〕「正二―于上一」。
⑬かたちづくる(形)。○〔詩〕「方苞方―」。
⑭わく(分)。○〔周〕「―レ國經レ野」。
⑮のっとる(法)。○〔淮〕「―二太一一」。
⑯そだつ(生)。○〔禮〕「―レ物而不レ可レ遺」。
⑰したしむ(親)。○〔禮〕「就レ賢―レ遠」。
⑱よる(依)。○〔管〕「君―レ法而立矣」。
⑲まじはる(接)。○〔禮〕「―二羣-臣一也」。
⑳むすぶ(結)。○〔禮〕「―二異-姓一也」。
㉑おこなふ(行)。○〔淮〕「以レ身―レ之」。
㉒とく(解)。○〔家語〕「―二其犬豕牛羊一」。

〔四體〕からだ。○〔禮〕「――既正」。
〔身體〕前に同じ。○〔孝〕「――髮膚」。
〔肢體〕前に同じ。○〔後漢〕「雖レ沒二――一」。
〔大體〕(い)おほいなるかたち。○〔淮〕「小-形不レ足以包二――一也」。(ろ)おほぐくり、又、おほよその意にいふ語。○〔史〕「然未レ睹二――一」。
〔解體〕おこたりゆるぶ。○〔左〕「其誰不二――一」。
〔繼體〕先祖のあとをつぐ。○〔漢〕「――之君」。
〔玉體〕(い)王者貴人のからだを稱するに用ふる語。○〔漢〕「敢以二爽脆之――一」。(ろ)うつくしき美人のからだ。○〔傅休奕〕「――映二羅裳一」。
〔國體〕國の政治風俗などのさま。○〔漢〕「通二達――一」。
〔常體〕つねのさま。○〔後漢〕「出-身之――」。

【裸體】はだか。○〔吳〕「男-女ーー」。
【治體】政治のさま。○〔曾鞏〕「足三以謀ニーー一」。
【風體】かぜのさま、又、ものゝなりかたち。○〔左、疏〕「ーー一也」。
【異體】かたちを同じくせず、又、おなじからざるさま。○〔晉〕「ーレー同レ勢」。
【萬體】よろづのかたち。○〔禮、疏〕「物雖ニーー一」。
【正體】たゞしきさま。○〔文中子〕「近二乎ーー一」。
【雅體】前に同じ。○〔北〕「並存ニーー一」。
【容體】すがた、かたち。○〔禮〕「正ニーー一」。
【形體】なりかたち。○〔漢〕「破ニ-壞ーー一」。
【往體】弓のそとがはにそりたるところ。○〔周〕「ーー多」。
【來體】弓のうちがはにそりたるところ。○〔周〕「ーー寡」。
【安體】からだをやすらかにす。○〔班固〕「ーレー定レ神-遂ニ消-息一」。
【具體】全體を備具す。○〔孟〕「冉-牛閔-子顏-淵則ーレー而微」。
【備體】前に同じ。○〔晉〕「ーレー者寡」。
【卑體】謙讓して容體を尊大にせず。○〔漢〕「ーレー下レ士」。
【肆體】からだを意のまゝにあつかふ。○〔漢〕「天-子從-容ーー、甚安-近焉」。
【偉體】おほいなるからだ。○〔後漢〕「秉有ニーー一」。
【儀體】禮義のさま、又、風姿のこと。○〔南〕「善ニーー一」。
【政體】政治のさま。○〔晉〕「該ニ-覈ーー一」。
【書體】文字のかたち。○〔晉〕「ーー散-瘦」。
【字體】前に同じ。○〔南〕「微-變ニーー一」。
【文體】文章のかきぶり。○〔晉〕「ーー混-漫」。
【今體】いまやうぶり。○〔舊唐〕「自レ是始爲ニーー章-奏一」。
【古體】むかしのふり。○〔南〕「尤好ニーー一」。
【愛體】いのちを惜みてからだを重んず。○〔南〕「竃レ驅ーレー」。
【具體】まことのかたち。○〔後畫錄〕「得ニ其ーー一」。
【姿體】すがた、かたち。○〔北〕「ーー雄-異」。
【適體】からだにかなふ。○〔北〕「衣不レ過レーレー」。
【道體】みちのかたち。○〔道德指歸論〕「ーー虛-無」。
【疲體】つかれたるからだ、又、からだをつからす。○〔舊唐〕「勞レ神ーレー」。○「之」。
【近體】ちかきころのふり。○〔金〕「多以ニーー一爲」。
【肥體】からだをこやす、又、肥えたるからだ。○〔管〕「背-食省不ニーー一」。
【全體】全身のこと。○〔劉克莊〕「山晴ーー出」。
【雜體】まじりたるかたち。○〔皮日休〕「近-代作ニーー一」。

【骨啻】ヨク、イキ。乙力切 職
胸の骨。

十四畫

【骨㬎】ガン、ゴン。五紺切 勘
首の骨の高き貌にいふ字。

【骨絲】キフ、コフ。乞及切 緝
ほじし、(胸-脯)一說に、ほす、(乾)。

【骨蒦】クワク、ワク。胡郭切 藥
㊀骨の聲にいふ字、ほねなる。㊁美肉。

【骨麽】バ、マ。母果切 哿
漏病、あなぢのやまひ。

【髕】ヒン、ビン。毗忍切 軫
膝蓋骨、ひざさら、又、ひざさらを去る、あしきる。○〔史〕「司-馬喜ー二脚於宋一」。

十五畫

【髖】クワン。苦官切 寒
髀上、股間、髑骨、また、もゝのうへ、こしぼね。○〔賈誼〕「ーー髀之所」。

【骨竟】コン。苦昆切 元
からだ、(體)、ゐさらひ、(臀)。

【骨齒】カツ、ガチ。胡八切 黠
骨を嚙む聲にいふ字。

【骨蔑】バツ、マツ。莫撥切 曷　莫八切 黠
㊀骨堅し、かたし。㊁ー骼は、小さき骨、こぼれ。

十六畫

【髗】顱に同じ、かうべ。

【骨隨】髓に同じ。

【骨歷】レキ、リヤク。狼敵切 錫
骨の病ひ。

十八畫

【骨雚】ケン、コン。逵員切 先
顴に同じ、ほゝぼね。○〔類篇〕「輔-骨曰レー」。

十九畫

【骨䜌】レン。閭員切 先
體のかゞむ病ひ。

高部

【高】カウ、コウ。古勞切 豪 〔說文〕象二臺觀高之形一从二冂口一。
㊀たかし。
(い)上に位す。○〔禮〕「天ー地下」。
(ろ)上へ長し。○〔詩〕「崧ー維嶽」。
(は)上へ遠し。○〔楚辭〕「天ー而氣淸」。
(に)上へ厚し。○〔爾〕「絕ー爲二之京一」。
(ほ)尊し。○〔戰〕「位ー而多レ金」。
(へ)大いなり。○〔戰〕「志ー而揚」。
(と)俗ならず、けだかし。○〔宋玉〕「其曲彌ー、其和彌寡」。
(ち)長ず、多し。○〔新序〕「春-秋ー矣」。
(り)著はる、勝る。○〔史〕「功ー如レ此」。
(ぬ)揚がる、騰る。○〔漢〕「尻益ー」。
㊁たふとぶ、(尊)。○〔呂氏春秋〕「天下愈ーレ之」。
㊂みづからたかしとす、たかぶる。○〔唐〕「以二勳-力一相ー」。
㊃たかき處、たかき位、たかき德、たかきおこなひ、たかきもの。○〔禮〕「不レ登レー」。
㊄隱君子。○〔南〕「世謂二之阿-氏三-ー一」。
【特高】すぐれてたかし。○〔唐〕「勳名ーー者」。
【養高】高尙なる德をそだてたもつ。○〔任華〕「ーー兼二養-閑一」。
【淸高】氣品のたかく貪濁ならざること。○〔晉〕「大-人ーー」。
【亢高】たかくあがりたること。○〔淮〕「厲-節ーー」。
【隆高】前に同じ。○〔曹植〕「ーー貫二雲-霓一」。
【卑高】ひくきとたかきと。○〔易〕「ーー以陳」。
【尊高】たかくたふとき位。○〔易、疏〕「處二于ーー一」。
【崇高】たかきこと。○〔易〕「ーー莫レ大二乎富-貴一」。
【升高】たかきに登りすゝむ。○〔書〕「若ニーレー必自レ下」。
【矜高】たかぶりほこる。○〔晉〕「ーー浮-誕」。
【貞高】婦女のたゞしく高尙なる節操。○〔晉〕「破ニーー之節一何也」。
【澄高】月などの高くすみわたるにも氣品などの淸らかに高尙なるにもいふ語。○〔陶潛〕「靜-月ーー」。

【高】カウ、コウ。居号切 號
高低の程、たかさ。○〔左、註〕「ーー一-丈」。

二畫

【𩫏】ケイ、キヤウ。犬穎切 梗　棄挺切 迥　傾覓切 徑
小さき堂、瓜屋、こいへ。

三畫

【高又】古文の敲の字。

【𩫏】カク。黑各切［藥］大いなり。

四畫

【𩫖】バウ、モウ。莫告切［號］毹—は、つよき毛。

【髚】ケウ。苦弔切［嘯］高し。

【亮】カウ、ケウ。虛交切［肴］かまびすし、（讙）。

五畫

【髛】カウ、コウ。苦刀切［豪］あきらか、（明）。

【㙮】塔に同じ。

七畫

【豪】カウ、コウ。乎刀切［豪］やまあらし。

【𩫧】クワク。古博切［藥］㊀はかる、（度）。㊁くるわ、（郭）。

八畫

【𩫱】ケウ。輕皎切［篠］たかし、（高）。

九畫

【𩫵】カウ、苦浩切［皓］コウ。苦到切［號］—顉は、大いなる頭。

十畫

【𩬀】ケツ、傾雪切［屑］エツ、一決切［屑］ケチ。エチ。かく、（欿）。

十一畫

【𩫼】サウ、ゼウ。鋤交切［肴］㊀高き足、たかあし。㊁高き貌にいふ字、たかし。

十二畫

【髝】ラウ、郎到切［號］ロウ。魯刀切［豪］—髞は、䮢急なる貌にも、又、高き貌にもいふ語。

【𩬄】顊に同じ。

十三畫

【髞】サウ、ソウ。蘇到切［號］髝の字を見よ

十四畫

【𩬅】隉に同じ

十五畫

【𩬆】堵に同じ。

十七畫

【𩬇】樓に同じ。

【𩬈】古文の墉の字。

十八畫

【𩬉】タ。丁可切［哿］

廿一畫

【𩬊】㊀ひろし、（廣）。㊁垂れ下がる貌にいふ字。

髟部

【𩬌】ケウ。許饒切［蕭］かまびすし、（喧）。

【髟】ヘウ。甫遙切［蕭］フウ、甫幽切［尤］ヘウ。匹妙切［嘯］フ。㊀長髮の垂下する貌にいふ字、かみたる、みだる。○［潘岳］「斑-鬢—以承レ弁兮」。㊁—䰅は、羽旋の飛び揚がる貌にいふ語。○［後漢］「羽-毛紛其—䰅」。

【彡】サン、セン。所銜切［咸］屋翼、のき。

二畫

【髮】セン、ソン。息廉切［鹽］好き髮の貌にいふ字。

【髳】ダイ、囊來切［灰］ドウ、奴登切［蒸］ナイ。ノウ。髮—は、髮の亂るゝと。

【髡】キク、コク。居六切［屋］髡に同じ、亂髮、みだれがみ。

【髠】俗の髡の字。

三畫

【髡】コン。苦昆切［元］コツ、去骨切［月］コチ。㊀髮を去る、そる。○［周］「—者使レ守レ積」。㊁枝を去る、きる。○［齊民要術］「種ニ柳千-樹ニ足レ柴、歲可レ—三-百-樹ニ」

【髢】テイ、他計切［霽］セキ、思積切［陌］タイ。シヤク。少き髮に他の髮を添へ益すもの、かつら、かもじ、そへがみ。○［禮］「斂レ髮母レ—」。
〔施髢〕あたまにそへがみを加ふ。○［莊］「禿而—」「—兮」。
〔珍髢〕みごとなるそへがみ。○［漢］「賓-娵-姞之—」。

四畫

【髤】カイ、ケ。古拜切［卦］もとどり、髻、又、髻を覆ふ巾、かみかけ。

【髾】サウ、ジヤウ。山庚切［庚］—髿は、亂髮の貌にいふ語。

【髵】ダイ、ヌイ。奴對切［隊］髽—は、髮の亂れたると。

【髣】ハウ。妃兩切［養］髴の字を見よ。

【髤】キウ、許尤切［尤］シ。七四切［寘］ク。㊀赤多く黑少き色。○［周］「—飾」。㊁漆を物に塗る、うるしぬる。○［漢］「殿-上—漆」。

【髬】ヒ、ビ。貧悲切［支］髮を被りて走る、はしる。

【髮】ハイ、ヘ。鋪杯切［灰］㊀前條に同じ。㊁—髿は、鬤の多きと。

【髴】フ、ホ。峯甫切［麌］

かみのけ、(髮)。

【髯】ゼン、子ン。汝鹽切 鹽 而豔切 豔
頰に在る毛、ほゝひげ、あごひげ、ひげ。〇[漢]「美ニ須—ニ」。
(鬚髯) くちひげとおとがひのひげと。〇[史]「其人岩深-眼多ニ—・—ニ」。
(美髯) うつくしきひげ。〇[范成大]「蒂-邊樓-上—・—翁」。
(疎髯) まばらにして密ならざるほゝひげ。〇[元]「-秀-眉—・—」。
(赤髯) あかひげ。〇[蘇軾]「—・—碧-眼老-鮮-卑」。
(皓髯) 白きひげ。〇[劉禹錫]「蒼-眉—・—」。
(雪髯) 前に同じ。〇[白居易]「氷-池霜-竹—・—翁」。
(霜髯) 前に同じ。〇[許渾]「雪-頂—・—虎-豹-茵」。
(素髯) 前に同じ。〇[韋莊]「—・—靑-骨舊-風-姿」。
(綠髯) くろぐろとつやあるひげ。〇[劉威]「—・—長占鏡-中春」。
(衰髯) 年たけてつやなきひげ 〇[李中]「雪-鬢—・—白-布袍」。

【[髟疌]】セツ、セチ。子列切 屑
束れたる髮少し、かみすくなし。

【髦】バウ、モウ。莫袍切 豪
㊀幼小なる者の髮を剪りて眉のあたりまで垂れたるもの、たれがみ、さげがみ、古は之を以て子の親に事ふる禮となし長大に至るも、尙之を存して兩邊に垂著せしめたりといふ。〇[詩]「髧彼兩—」。
㊁毛中の長毫、ながげ。〇[韓愈]「取ニ其—ニ」。
㊂すぐる、(俊)。〇[詩]「烝ニ我—・士ニ」。
㊃すぐれたる人。〇[後漢]「時—允集」。
㊄馬鬣、たてがみ。〇[儀]「馬不レ齊レ—」。
㊅旄に同じ。〇[史]「取ニ其花馬斄僮—・牛ニ」。
㊆丘の名。〇[爾]「前高曰ニ—丘ニ」。
㊇かまきり、(螳-蜋)。〇[揚雄]「螳-蜋謂ニ之—ニ」。
(儁髦) すぐれたる賢士。〇[李德裕]「吾儕並—・—」。
(才髦) 前に同じ。〇[白帖]「薦ニ追—・—ニ」。
(英髦) 前に同じ。〇[王紹之]「世載ニ—・—ニ」。
(賢髦) 前に同じ。〇[李曉]「左右環-列俱—・—」。
(朱髦) あかきいろの馬のたてがみ。〇[魏畧]「大-秦多ニ白-馬—・—ニ」。
(馬髦) うまのたてがみ。〇[周、註]「立ニ—・—上ニ」。
(弁髦) 童子のきりかみとなる時に弁冠を三たび頭上に加ふる禮ありて其の弁冠は禮終はれば之を捐つるものとせり。〇[左]「豈如ニ—・—ニ而因以斃レ之」。

【髳】ボウ、ム。迷浮切 尤
西夷の別名。〇[詩]「如レ蠻如レ—」。

【髧】タン、ドン。徒感切 感
髮の垂るゝにいふ字。〇[詩]「—彼兩髦」。

【[髟巴]】ハ、ヘ。拔巴切 麻
髻の貌にいふ字。

【[髟巴]】ハ、ベ。步化切 禡
—鬖は、髮の亂るゝ貌にいふ語。

【[髟丈]】チヤウ、ヂヤウ。直良切 陽
もとどり、(髻)。

五畫

【[髟占]】テン、トン。丁兼切 鹽
㊀もとどり、(髻)。
㊁—鬑は、髮の疏薄なる貌にいふ語、「かみうすし」。

【[髟令]】レイ、リヤウ。郎丁切 靑
疏髮、まばらのかみ、かみうすし。

【髫】テウ、デウ。徒聊切 蕭
小兒の項後に垂るゝ髮、たれがみ、うなゐ。〇[後漢]「—髮厲レ志」。
(垂髫) 小兒のたれがみのことにて轉じて小兒のことにもいふ。〇[魏]「—・—執レ簡」。
(髫髻) 前に同じ。〇[周伯琦]「擊-壤唱ニ—・—ニ」。
(蝸髻) 小兒の髻。〇[古今注]「—・—謂ニ小-兒髻如ニ蝸也」。

【[髟㐱]】シン。止忍切 震
長き白髮。

【[髟幼]】エウ。伊鳥切 篠
長く勁からざる髮、よわきかみ。

【[髟尒]】
髵に同じ。

【髬】ヒ。敷悲切 支
—髵は、猛獸の鬣を振ふ貌にいふ語。〇[張衡]「其猛-毅—髵」。

【[髟开]】ガツ、ガチ。牙割切 曷
㊀鬄餘の髮、かりのこりのかみ。
㊁小兒の髮。

【髭】シ。卽移切 支
口上の須毛、うはひげ、くちひげ、ひげ。〇[左]「生而有レ—」。
(霜髭) 白毛のくちひげ。〇[吳融]「向レ日剃ニ—・—ニ」。
(素髭) 前に同じ。〇[鮑昭]「忽有ニ白-髮—・—生ニ」。
(白髭) 前に同じ。〇[元好問]「淸-鏡不-明見ニ—・—ニ」。 「類晉祠-空」。
(美髭) うつくしきくちひげ。〇[李商隱]「—・—終

【髮】ハツ、ホチ。方伐切 月
㊀頭上の毛、かみ、け。〇[素問]「腎之華在レ—」。
㊁毛。〇[莊]「窮—之北」。
(寡髮) かみのけのうすきこと。〇[易]「爲ニ—・—ニ」。
(黃髮) 老人のかみ、又、老人のことにもいふ。〇[詩「—・—臺背」。
(黑髮) くろかみ。〇[神仙傳]「—・—更生」。
(沐髮) かみをあらふ、又、あらひがみ。〇[左]「—・—
如レ此種-々矣」。
(被髮) 髮を結ばずしてふりみだしたること。〇[禮]「—・—文-身」。
(卷髮) ちゞれがみ。〇[詩]「—・—如レ蠆」。
(束髮) かみをすべつかぬ。〇[漢]「—レ—修レ學」。
(剪髮) かみをきりて結ばざること。〇[史]「—レ—文レ身」。
(斷髮) 前に同じ。〇[左]「—レ—文レ身」。
(結髮) かみを結ぶ、又、元服すること。〇[史]「臣—・—而與ニ匈-奴ニ戰」。
(石髮) みづごけの異名。〇[爾、註]「水-苔也 一名ニ—・—ニ」。
(怒髮) 逆立ちたるかみ。〇[史]「—・—上衝レ冠」。
(壯髮) 額前にあたりて侵下して[illegible]ずる毛にて俗に圭頭と稱す。〇[漢]「額-上有ニ—・—ニ」。
(散髮) ちらしがみ。〇[後漢]「—レ—絕レ世」。
(鵠髮) 霜髮といふに同じ、しらが、白髮。〇[後漢]「太-儀—・—」。
(素髮) 前に同じ 〇[韋應物]「兩-鬢生ニ—・—ニ」。
(鶴髮) 前に同じ。〇[杜甫]「淸-秋—・—翁」。
(皓髮) 前に同じ。〇[後漢]「龐眉—・—」。
(理髮) かみをそろへとゝのふ。〇[晉]「値ニ其—・—ニ」。
(毫髮) ほそき毛とかみと、極めて細小のことにいふ語。〇[論衡]「無ニ細大—・—之斷ニ」。
(美髮) よきかみのけ。〇[後漢]「方-口—・—」。
(頭髮) かみのけ。〇[史]「—・—上指」。 「白」。
(鬚髮) くちひげとかみのけと。〇[史]「—・—盡
(鬒髮) 前に同じ。〇[陳師道]「—・—雜レ藏レ身」。
(亂髮) かみをふりみだす、又、みだれがみ。〇[後漢]「入則—レ—壞レ形」。
(蓬髮) 前に同じ。〇[郭璞]「—・—虎-顏」。
(露髮) 頭にかぶりものをつけざること。〇[唐]「—・—徒-跣」。

〔辮髮〕かみのけを絲と共にくみてうしろへ垂れさげたるをいふ。○〔晉〕「--縈レ後」。
〔直髮〕すぐなるかみのけ。○〔南〕「--委レ地」。
〔剃髮〕かみのけをそる。○〔宋〕「--爲二沙-門一」。
〔落髮〕前に同じ。○〔五〕「乃--爲レ僧」。
〔髫髮〕幼兒のこと。○〔庾信〕「--不レ驚」。
〔翠髮〕くろぐとつやある頭髮。○〔王勃〕「--娥-眉」。
〔綠髮〕前に同じ。○〔李白〕「中有二--翁一」。
〔疎髮〕うすくまばらなるかみのけ。○〔權德輿〕「--應レ成レ素」。
〔童髮〕小兒のたれがみ。○〔柳宗元〕「--毀-服」。

【⿱髟付】フ。甫無切 虞

【⿱髟甘】ケン、コン。其淹切 鹽
㊀むすぶ（結）㊁たぶさ、もとゞり（髻）。

【⿱髟甘】カン、コン。古暗切 勘
刑人の髮を剔りて爲りたる髮、かもじ。

【⿱髟卭】キョウ、グ。渠匃切 冬
靑紺色の髮、くろかみ。

【髥】俗の髯の字。○〔漢〕「奮レ髥抵レ几」。
髮亂る。

【⿱髟克】キク、コク。居六切 屋
亂髮、みだれがみ。

【⿱髟丙】仿に同じ。

【⿱髟丙】ヘイ、ヒヤウ。陂病切 敬
毛粗し、あらげ。

【⿱髟旨】鬐に同じ。○〔北〕「女-官偏--髻」。

【⿱髟乍】サ、セ。側駕切 禡
毛多し、けぶかし。

【髱】ハウ、ベウ。皮教切 效
鬢の多き貌にいふ字。

【髲】ヒ、ビ。平義切 寘
そへがみ、かつら（髢）。○〔儀、註〕「古者剔二賤-者刑-者之髮一以被二婦-人之紒一爲レ飾、因名二--髲鬄一焉」。

【髳】髦に同じ。

【髳】ボウ、ム。莫紅切 東
䰕--は、草木の叢茸蒙荅するをいふ、ふけ、はびこる。○〔爾〕「䰕--茀-離也」。

【⿱髟台】タイ。土來切 灰
--髢は、婦人の僞髻、かりもとゞり。

【髴】フツ、ホチ。敷勿切 物
髣--は、さもにたり（若-似）。○〔後漢〕「以二至-人之髣--一」。

【髴】フツ、ボチ。分物切 物
婦人の首飾、かみかざり。

【⿱髟弗】ヒ。芳味切 未
髮の亂れたる貌にいふ字。

六畫

【髵】ジ、ニ。如之切 支
㊀頰の毛。㊁毛の多き貌にいふ字。

【髶】ジョウ、ニユ。如容切 冬
髶髮、みだれがみ。○〔張衡〕「--髦被レ繡」。

【⿱髟耳】ジ、ニ。而至切 寘
髮の飾りを去る。

【⿱髟巩】キョウ、グ。渠容切 冬
--鬆は、髮亂る。

【⿱髟戎】シウ、シユ。息融切 東
㊀細き髮。㊁--毲は、けおり（毳-布）。

【⿱髟兆】タウ、ドウ。杜皓切 皓
髮長し、ながし。

【⿱髟兆】タウ、ドウ。大到切 號
ながし（長）。

【⿱髟曲】キョク、コク。區玉切 沃
曲髮は、ちゞれげ、まげ。

【⿱髟冎】タイ、テ。陟賄切 賄
假髻、かりもとゞり。

【髸】キョウ、ク。居容切 冬
--鬆は、髮の亂れたる貌にいふ語。

【髹】キウ、ク。許尤切 尤
鬃に同じ。

【⿱髟次】シ。七四切 寘
かつら、かみかざり（首-飾）。

【⿱髟凶】ダウ、ノウ。乃老切 皓
髮の貌にいふ字。

【⿱髟犮】ハツ、ハチ。北末切 曷
女の大髻。

【⿱髟匡】キヤウ、カウ。去王切 陽
--鬤は、亂髮、みだれがみ。

【⿱髟旨】チ。都禮切 薺
㊀たてがみ（鬣）。㊁美しき髮。

【髺】クワツ、クワチ。古活切 曷
㊀髮を括す、かみゆふ。○〔儀〕「主-人--髮袒」。㊁器具の正しからずしてゆがみたるをいび、いびつ。○〔周〕「凡陶-旊之事、--、墾、薜、暴不レ入レ市」。

【⿱髟朶】タ。都果切 哿
㊀髮垂る、たる。㊁剃餘の髮、そりのこし。

【髻】ケイ、カイ。古詣切 霽
㊀髮を總束したる處、たぶさ、もとゞり。○〔魏、註〕「擘二髮--一以レ巾拭レ面」。㊁束結したる髮、むすびがみ、かみ。○〔潘岳〕「垂レ髫總レ--」。
〔高髻〕髮をたかく結びたること。○〔後漢〕「城-中好二--一」。
〔義髻〕いれげの結髮。○〔唐〕「--拋二河裏一」。
〔墜髻〕もとゞりを結ぶ。○〔唐〕「男-子--」。
〔解髻〕もとゞりをときほどく。○〔五〕「卸--斷髮」。

【⿱髟吉】キツ、キチ。喫吉切 質
竈の神。○〔莊〕「竈有レ--」。

【⿱髟呆】ハウ、ホウ。補抱切 皓

もとゞり、(髻)、一説に、未だ長からざる髮。

七 畫

【⿱髟里】リ。里之切 支 ㊀髮—は、毛髮立つ、けたつ。㊁髮卷く、まく、ちゞる。

【⿱髟夆】ホウ、ブ。薄紅切 東 —髮は、髮の亂るゝ貌にいふ語。

【⿱髟局】キョク、ゴク。渠玉切 沃 ちゞれ髮。

【⿱髟困】コン、ゴン。吾昆切 元 髮を翦る。

【⿱髟夾】レフ、ロフ。力協切 葉 髮の疎らなる貌にいふ字、うすし。

【⿱髟男】ソウ、ス。子紅切 東 毛亂る、みだる。

【⿱髟芝】セン、ソン。息廉切 鹽 かみのけ、(髮)。

【⿱髟曼】サン、セン。所銜切 咸 垂るゝ貌にいふ字。

【⿱髟坐】サ、セ。莊華切 麻 髮を結ぶ、かみゆふ。○〔儀〕「婦-人—二于室一」。

【⿱髟安】ワ。烏果切 哿 好き髻。

【⿱髟家】シ。詩止切 紙 もとどり、(髻)。

【⿱髟条】デウ、子ウ。奴了切 篠 髮—は、長きこと。

【⿱髟尨】バウ、モウ。莫江切 江 ㊀毛着し、あなし。㊁髮亂る、みだる。

【⿱髟肖】サウ、セウ。所交切 肴 所教切 效 髮尾、かみさき。○〔史〕「蜚レ纖垂レ—」。

【⿱髟省】サウ、セウ。山巧切 巧 毛髮長し。

【⿱髟沙】サ、セ。所加切 麻 サ。蘇禾切 歌 髮の垂るゝ貌にいふ字。○〔郭璞〕「綠-苔鬖—乎硏-上一」。

【鬀】テイ、タイ。他計切 霽 髮を剃る、そる。

【⿱髟酉】シウ、シュ。字由切 尤 髮。

八 畫

【⿱髟昏】髻の本字。

【鬃】ソウ、ス。藏宗切 冬 サウ、ゾウ。士江切 江 ㊀高髻、もとゞり。㊁馬鬣、たてがみ。

【鬅】ホウ、ボウ。步崩切 蒸 —鬙は、髮を被ること、みだれがみ、さわきがみ。

【⿱髟周】テウ、デウ。徒聊切 蕭 シウ、シュ。職救切 宥 チウ、ヂウ。陳留切 尤 髮多し。

【⿱髟禺】テウ。都聊切 蕭 小兒の留髮、かみどめ。

【⿱髟卒】ソツ、ゾチ。昨沒切 月 もとゞり(髻)。

【⿱髟卒】サイ、セ。摧內切 隊 —髮は、髮の亂るゝこと。

【⿱髟委】ワ、隖果切 哿 —髻は、髮の貌にいふ語。

【⿱髟草】タク、トク。倒角切 覺 ながし、(長)。

【⿱髟彔】ヒ。芳未切 未 ホク、ボク。博木切 屋 ㊀みだれがみ、(鬔)。㊁忽ち見ゆ。

【⿱髟肩】カン、ケン。丘顏切 刪 少き髮。

【⿱髟采】サイ。倉宰切 賄 倉代切 隊 ㊀かうべづつみ、(絡-頭)。㊁もとゞり、(髻)。

【⿱髟昔】セキ、シヤク。思積切 陌 かみ、(髮)。

【⿱髟岸】ガン。魚幹切 翰 ながし、(長)。

【鬄】テイ、タイ。他計切 霽 セキ、シヤク。思積切 陌 テキ、チヤク。他歷切 錫 ㊀かつら、(髲)。○〔儀、註〕「因名二髲—一」。㊁そる、(剃)。○〔漢〕「其次—二毛-髮一嬰二金-鐵一受レ辱」。㊂剔に同じ、のぞく、なさむ。○〔釋文〕「韓-詩作レ—除也」。㊃さく、(解)。○〔儀〕「其實特-豚四—去レ蹄」。

【⿱髟隶】肆に同じ、つらぬ。

【⿱髟咅】ホウ、薄侯切 尤 フ。芳無切 虞 斐父切 麌 髮の貌にいふ字、一説に好き髮。

【⿱髟咅】ホウ、フ。普后切 有 髮の短き貌にいふ字。

【⿱髟音】髮に同じ。

【鬆】ソウ、ス。私崇切 冬 蘇叢切 東 髼—は、髮の亂るゝこと。

【鬆】ショウ、シュ。昔恭切 冬 髲—は、髮の亂るゝこと。

【鬆】ソウ、ス。蘇弄切 送 鬃—は、髮の貌にいふ語。

【⿱髟沓】タフ、ドフ。達合切 合 かみ、(髮)。

【⿱髟臽】カン、ゴン。戶感切 感 髮の短き貌にいふ字。

【⿱髟垂】ツ井、ヅ井。傳追切 支
髾に同じ、たれがみ。

【鬇】サウ、シヤウ。鋤庚切 タウ、チヤウ。中莖切 庚

【鬈】ケン、ゴン。巨員切 先
——鬈は、毛髮の亂るゝ貌にいふ語。
㊀髮好し、かみうるはし。○〔詩〕「其人美且——」。
㊁曲髮、ちゞれがみ、まげがみ。○〔禮〕「燕則——首」。

【⿱髟并】ヘイ。邊迷切 齊
冠の飾り。

【⿱髟長】ケン、ゴン。巨員切 先
髮好し、うるはし。

【⿱髟東】トウ、ツ。多貢切 送
——鬆は、髮の貌にいふ語。

【⿱髟鬲】鬝に同じ。

【⿱髟兩】リヤウ、ラウ。力掌切 養
かみのけ（髮）。

九畫

【鬉】ソウ、ス。子紅切 東
髮亂る、みだる。

【⿱髟畐】フウ、フ。數救切 宥
かりもとゞり（假髻）。

【⿱髟並】ハウ、ビヤウ。蒲庚切 庚 ハウ、バウ。北朋切 蒸 蒲浪切 漾 蒲光切 陽
——鬇は、髮の亂るゝ貌にいふ語。

【⿱髟思】サイ、ザイ。桑才切 灰 シ。相咨切 支
㊀かみすくなし（小髮）。
㊁髮——は、鬚多し。

【⿱髟客】カク、キヤク。乞格切 陌
髮甚だ長し。

【⿱髟敄】バウ、モウ。謨袍切 豪 ボウ、ム。莫浮切 尤
髮眉に至る、まへがみたる、ぬかがみ。

【⿱髟晉】ザツ、チチ。而轄切 黠
細き毛、ほそげ。

【⿱髟悤】ソウ、ス。子紅切 東
㊀鬉に同じ、たてがみ。
㊁髮を束ぬるきぬ。

【⿱髟悤】ソウ、ス。作孔切 董
あげまき。

【⿱髟悤】ソウ。蘇宗切 冬
鬆に同じ。

【⿱髟契】カツ、恪八切 ガツ、午轄切 カチ。切 ゲチ。切 黠
鬠に同じ、かぶろ。

【⿱髟曷】カツ、ケチ。許鎋切 黠
鬠に同じ、かぶろ。

【⿱髟変】鬚に同じ。

【⿱髟頁】須に同じ。

【⿱髟毳】キウ、ク。許尤切 尤
龍車の飾り、みくるまのかざり。

【⿱髟柔】ジウ、ニユ。耳由切 尤
㊀馬の繁鬣、たてがみ。
㊁黃髮、きばめる志らが。

【鬊】シユン、舒閏切 ジユン。尺尹切 震 軫
ぬけげ、（隋髮）、みだれがみ（亂髮）。○〔禮〕「君大夫——爪實二手綠中一」。

【⿱髟參】ダ、チ。乃亞切 禡
髿——は、髮の亂るゝ貌にいふ語。

【鬋】セン。子仙切 先
びん、（鬢）、又、鬢の垂るゝ貌にいふ字。○〔楚辭〕「盛——不レ同レ制」。

【鬋】セン。即淺切 作甸切 銑 霰
髮を剔り治む、かみきる。○〔禮〕「不レ蚤——」。

【鬌】タ。丁果切 哿 ツ井、ヅ井。直垂切 支
鬍規切 支
小兒の剪髮、きりがみ、剃餘の髮、そりのこしのかみ、一説に、髮美し、うるはし。○〔禮〕「翦髮曰レ——」。

【⿱髟酋】シウ、シユ。將由切 尤
そへがみ、かづら（髲）。

十畫

【⿱髟豈】ガイ。魚開切 灰
長き貌にいふ字。

【⿱髟竝】髭の本字。

【⿱髟高】カウ、コウ。呼高切 豪
髮の貌にいふ字。

【⿱髟茸】ジヨウ、ニユ。如容切 冬
鬤に同じ、みだれがみ。

【⿱髟蚤】サウ、ソウ。蘇遭切 豪
髮の貌にいふ字。

【⿱髟索】サク、シヤク。色窄切 陌
髮の竪つ貌にいふ字、かみたつ。

【⿱髟剔】テキ、チヤク。他歷切 錫 セキ、シヤク。旋隻切 陌
髮を剃る、そる。

【⿱髟害】カツ、ケチ。許轄切 黠
——鬜は、かぶろ（禿）。

【鬐】キ、ギ。渠脂切 支
㊀馬鬣、魚肢、たてがみ、ひれ。○〔莊〕「揚而奮レ——」。
㊁毛落つ、おつ。○〔揚雄〕「——尾稍盡」「也」

【⿱髟狸】リ。鄰知切 支
髮卷くと。

【⿱髟函】ヘイ、ビヤウ。筆命切 敬
毛相、けのすがた。

【⿱髟容】ヨウ、ユ。餘封切 冬
㊀髮の長き貌にいふ字。
㊁かざる（飾）。

【⿱髟差】サ。想可切 哿 スヰ。楚委切 紙 髮好し、うるはし。

【⿱髟差】サ、ザ。昨何切 歌 ㊀多き貌にいふ字。㊁なげく、(嗟)。

【鬑】レン、ロン。勒兼切 鹽 鬑垂る、一説に、長き貌にいふ字。

【⿱髟般】ハン、バン。薄官切 寒 薄半切 翰 補滿切 旱 髮を屈め束ねたるもの、つかねがみ。

【⿱髟般】ハン、ヘン。布還切 刪 髮半ば白し、まだらあたま。○[柳宗元]「虞-童髮未レ―」。

【⿱髟尃】ハク。伯各切 藥 ㊀⿱髟夌―は、かづら、そへがみ。㊁かみ(髮)。

【鬒】シン。止忍切 軫 之刃切 震 髮稠し、髮黑し、髮美し、こし、くろし、うつくし。○[詩]「―髮如レ雲」。

【⿱髟眞】前に同じ。

十一畫

【⿱髟敖】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪 髮の貌にいふ字。

【鬔】髼に同じ。

【⿱髟從】ショウ、シュ。七恭切 冬 髿―は、髮の亂るゝ貌にいふ語。

【⿱髟從】ソウ、ス。祖動切 董 ㊀馬の鬣。㊁―角は、あげまき。

【⿱髟悤】鬆に同じ。

【⿱髟桼】髹、髤に同じ。

【⿱髟莫】バ、メ。莫駕切 禡 バク、マク。末各切 藥 はちまき(袜額)。○[張衡]「朱―鬟髽」。

【⿱髟春】タウ、トウ。株江切 江 ―鬞は、亂れ髮。

【⿱髟票】顠に同じ、髮の白き貌にいふ字。

【鬕】ヘウ、ベウ。紕招切 蕭 亂れ髮。

【⿱髟票】ヘツ、ベチ。鋪結切 屑 髮の貌にいふ字。

【⿱髟崔】サイ、セ。蘇回切 灰 髮の亂れ垂るゝ貌にいふ字。

【⿱髟崔】サイ、セ。取猥切 賄 毛髮の貌にいふ字。

【⿱髟殹】エイ、アイ。煙奚切 齊 黑髮、くろかみ。

【鬖】サン、ソン。蘇甘切 覃 シン。疏簪切 侵 サン、セン。師咸切 咸 サン、ソン。所斬切 豏 蘇暫切 勘 毛の垂るゝ貌にいふ字、髮の亂れたる貌にいふ字。○[東觀餘錄]「紅-羽―-―-然」。

【⿱髟欶】ソウ、ス。速侯切 尤 ㊀鬖―は、白頭の人、志らがあたまのひさ。㊁―鬖は、髮の亂れたるを、みだれが「み。

【⿱髟兜】トウ、ツ。當侯切 尤 前條を見よ。

【⿱髟累】ラ。郎何切 歌 髮稠し、あつし。

【鬗】バン、マン。無販切 願 母官切 寒 長き貌にいふ字、ながし。○[漢]「―長馳」。

【鬘】バン、メン。莫還切 刪 一種の首飾、かづら、かみかざり、又一種の纓絡、くびかざり。○[白居易]「貫レ雹爲二華―一」。

【鬘】バン、マン。謨官切 寒 髮の美しき貌にいふ字。

【⿱髟旁】髼に同じ。

十二畫

【⿱髟賁】ヒ。兵媚切 寘 ㊀―鬢は、鬢の多き貌にいふ語。㊁かみ(髮)。

【⿱髟尊】ソン、スン。子寸切 願 項上髮なきを、かぶろ、はげ。

【⿱髟畐】⿱髟畐に同じ。

【⿱髟堯】ダウ、子ウ。女教切 效 鬡の多き貌にいふ字。

【⿱髟登】トウ。都騰切 蒸 タイ。當來切 灰 ―鬅は、毛の亂れたる貌にいふ語。

【⿱髟貴】キ。丘媿切 寘 もとどり(髻)。

【⿱髟戠】ショク、シキ。賞力切 職 髮垢づく。

【鬙】ソウ。蘇增切 蒸 ㊀鬅―は、髮の短きを。㊁髮亂る、みだる。

【⿱髟最】サツ、サチ。麤括切 曷 もとどり(髻)。

【鬚】シュ、ス。相俞切 虞 くちひげ(須)。○[三國]「黃―兒竟太奇也」。

(龍鬚) 草の名、石龍芻の異名。○[南]「山多二――檉・柏一」。

(好鬚) うつくしきよきひげ。○[唐]「唯稱二綽――一」。

(美鬚) 前に同じ。○[舊唐]「長大――」。

(虎鬚) とらのひげ、又、草の名。○[本草]「沙參一名二――一、又燈・心草一、一名二――草一」。

(頭鬚) あたまのけとひげと。○[後漢]「――爲白」。

(饒鬚) ひげ多し。○[蜀]「其人――」。

(霜鬚) 志らがのひげ。○[李中]「莫レ嘆有二――一」。

(鐵鬚) ひげのと。○[白居易]「頷下――半是絲」。

(垂鬚) たれさがりたるひげ。○[李洞]「――長似レ髮」。

〔苔⿱髟尞〕樹石などにたれさがれるこけ。〇〔范大成〕「又有二－－一」。

【⿱髟尞】レウ。落蕭切 蕭
細く長し。

【⿱髟戟】ケキ、キヤク。九劇切 陌
くちひげ、又、くちひげの貌にいふ字。

【⿱髟發】ハツ、ハチ。北末切 曷
－鬡は、鬡毛の多きこと。

【⿱髟鼠】鬣の字の省文。

【⿱髟最】ソウ、ゾウ。徂聰切 東
毛髪聚まり生ず。

【鬝】カン、ケン。苦閑切　サン、ゼン。鉏山切 删　カツ、カチ。恪八切 黠　丘曷切 曷
鬝禿、頭瘡、はげ、かさ。〇〔韓愈〕「或赤若二禿－－一」。

十三畫

【⿱髟美】ホク、ボク。博木切 屋
髯鬚の貌にいふ字。

【⿱髟敫】カウ、ゲウ。魚敎切 效
髻高し、もとゞりたかし。

【⿱髟虜】ロ、ル。郎古切 麌
㊀たてがみ（鬣）。㊁かみのけ（髪）。

【⿱髟葛】鬣に同じ。

【鬞】ヂヨウ、ニユ。女容切 冬　ダウ、ノウ。濃江切 江　ドウ、ノウ。奴凍切 送
㊀亂髪、みだれがみ。㊁毛多し。㊂髪長し。

【鬖】サン。蒼案切 翰
髪の光澤、つや。

【鬟】クワン、ゲン。戸關切 删
㊀總髻、わげ。〇〔庾信〕「花－－醉顔纈」。㊁山の色に喩へていふ字。〇〔虞集詩〕「窻中遠黛曉千－」。

【鬠】クワツ、クワチ。古活切 曷　クワイ、ケ。古外切 泰
髻に同じ。〇〔儀〕「－笄用レ桑」。

十四畫

【⿱髟齊】セイ、ザイ。在禮切 薺　子計切 霽　セツ、セチ。姊列切 屑
㊀小髻を束ぬ、かみゆふ。㊁小にして高きもとゞり。

【⿱髟壽】チウ、ヂユ。陳留切 尤
髪多し。

【⿱髟監】ラン、ロン。魯甘切 覃　盧瞰切 勘
髪長し、髪多し、ながし、あつし、又、髻鬟の疎なる貌にいふ字、うすし。〇〔韓維〕「白龍垂レ鬢正－－鬖」。

【⿱髟蒙】ボウ、モウ。莫紅切 東
馬の垂るゝ鬣。

【鬡】ダウ、ニヤウ。女耕切 庚
鬡－－は、髪の亂るゝ貌にいふ語。

【鬢】ヒン、ビン。必刃切 震
額の旁の髪、びんづら、びん。〇〔國〕「美－長－大則賢」。

【⿱髟爾】デイ、ナイ。奴禮切 薺
鬖に同じ、髪の貌にいふ字。

十五畫

【⿱髟截】鬣の本字。

【⿱髟旁】ベン、メン。莫賢切 先
㊀髪の貌にいふ字。㊁眉を描くに用ふる燒煙、まゆずみ。

【鬣】レフ、ロフ。良渉切 葉
㊀かみ（髪）、又、かみの貌にいふ字。〇〔説文〕「髪－－也」。㊁ひげ（須）。〇〔左〕「使二長－－者相一」。㊂馬の頸毛、たてがみ。〇〔禮〕「夏后氏駱馬黑－」。㊃箒端、はゝきのはし。〇〔禮〕「拚レ席不レ以レ－」。㊄魚肢、ひれ。〇〔吳均〕「洞庭紫－之魚」。㊅松葉、まつば。〇〔酉陽雜俎〕「有二五－七－者一」。
〔剛鬣〕家の異名、又、参鬣ともいふ。〇〔禮〕「家曰二－－一」。
〔長鬣〕ながきひげ、又、ながきたてがみ。〇〔左〕「－－者三人」。
〔蕃鬣〕赤色のたてがみ。〇〔禮〕「周人黄馬－－」。
〔豬鬣〕おはゐのこのたてげ。〇〔北〕「臂毛逆如二－－一」。
〔鬃鬣〕馬のたてがみ。〇〔曹唐〕「欲下將二－－一重裁剪上」。

【⿱髟枼】エフ。弋渉切 葉
箒の端。

【⿱髟暴】ホク、ボク。歩木切 屋
⿱髟非に同じ。

【⿱髟悉】タウ、トウ。陟降切 江
－鬡は、髪の亂るゝ貌にいふ語。

【⿱髟贊】サン。作旰切 翰
髪の光澤、つや。

【⿱髟贊】サン。作旱切 旱
まめやかなる貌にいふ字。

【⿱髟贊】サツ、サチ。子末切 曷
毛多し。

十六畫

【⿱髟盧】リヨ、ロ。力居切 魚　ロ、ル。落胡切 虞
㊀たてがみ（鬣）。㊂毛。㊁鬡－－は、鬣の起つ貌にいふ語。

【⿱髟歷】レキ、リヤク。狼狄切 錫
髪の疎なる貌にいふ字。

十七畫

【鬤】ジヤウ、ナウ。汝陽切 陽　汝兩切 養
亂髪、みだれがみ、又、毛の亂れたる貌にいふ字。〇〔楚辭〕「被レ髪－只」。

【⿱髟襄】鬡に同じ。

【⿱髟韱】鬣に同じ。〇〔張衡〕「朱鬘－－鬡」。

【⿱髟霝】レイ、リヤウ。郎丁切 青
髪のまばらなること。

【⿱髟毚】サン、ゼン。仕懺切 陷
かみ（髪）。

鬥部

【鬥】 トウ、ツ。都豆切 宥 カク、コク。克角切 覺 —(說文)「兩士相對、兵杖在レ後、象二鬥之形一。」たゝかふ、(鬭)。

四畫

【𩰊】 ヘン、ベン。皮變切 霰 うつ、(擊)。

【𩰋】 ケン、ゲン。胡涓切 先 力士の力を試みる錘、おもり。

五畫

【鬧】 ダウ、ヌウ。奴教切 效 衆くして擾る、靜かならず、さわがし、さわぐ、みだる。○(柳宗元)「以召レ一取レ怒乎」。

(浩鬧) いたくさわがしきこと。○(夢華錄)「繁盛一一」。

(喧鬧) かまびすしくさわがし。○(皮日休)「一一當ニ九·市一」。

(熱鬧) 雜沓して靜かならず。○(白居易)「一·一漸知レ隨レ念盡」。「一一」。

(衆鬧) おほくの者の喧囂。○(劉基)「一·蘖起ニ一·一」。

(怒鬧) 喧しく狂ひさわぐ。○(歐陽修)「洶·々若ニ一·一」。

六畫

【鬨】 コウ、胡貢切 送 カウ、胡絳切 絳 グ。ゴウ。切

㊀たゝかふ、(鬭)。○(孟)「鄒與レ魯一」。

㊁鬭ふ聲、とき、又、鬧ぐ聲、おほごゑ。○(朱熹)「高·言喧一」。

(笑鬨) わらひて大聲を發す。○(岑安卿)「煮レ賓宜ニ一·一」。

(屯鬨) 羣聚してときの聲をあぐ。○(名山記)「若ニ萬·軍一·一」。

八畫

【鬩】 ケキ、ギヤク。許激切 錫 カク、キヤク。郝陌切 陌

㊀互に訟ふ、互に佷る、相怨恨す、もとる、うッたふ、せめく。○(詩)「兄-弟一レ牆」。

㊁鬩に通じ用ふ、ひッそり。○(易)「一其无レ人」。

(讒鬩) 他人のそしりを聞きて兄弟などの相もとり違ふこと。○(國)「兄·弟一·一」。

(鬩鬩) 兄弟の相怨みて爭ひあふにいふ語。○(隋)「兄·弟敦相一·一」。

(忿鬩) 兄弟などのなかむつまじからず相恨みもとること。○(魏)「頗相一·一」。

(離鬩) 交りむつまじからずして別れ〳〵となりて相怨みせめく。○(唐)「親昔一·一」。

(訟鬩) 相怨みてあしざまに告げあふこと。○(魏)「一·一徹ニ于公·庭一」。

十畫

【𩰖】 鬨に同じ。○(呂氏春秋)「相與私一」。

【鬪】 俗の鬭の字。

十一畫

【鬬】 隸の鬭の字。

【𩰠】 リウ、ル。力求切 尤 くびりころす、くゝる、(絞)。

【𩰠】 ケウ。古了切 篠 レキ、リヤク。狠狄切 錫 喪の降殺にいふ字、そぐ。

十二畫

【𩰫】 ヒン。匹賓切 眞 たゝかふ、(鬭)。

【鬫】 カン、ケン。火斬切 豏 たけきもの奮怒す、いかりて聲を發す、いかる、さけぶ、ほゆ。○(詩)「一如ニ虓·虎一」。

(虓鬫) 虎などのたけく怒りわめく聲、又、勇者の猛烈なる威勢にもいふ。○(班固)「七·雄一·一」。

(鬫々) 虎などの吼怒の聲にいふ語、又、たけき威容にもいふ。○(周、註)「軍·旅之容、一·一仰·々」。

(哮鬫) 虎などのたけくわめくこと。○(陸機)「一·一之羣風驅」。

【𩰬】 カン、コン。許鑒切 感 獸の怒れる聲にいふ字。

【𩰭】 鬫の本字。

十四畫

【𩰮】 鬭に同じ。

【鬭】 トウ、都豆切 宥 ツ。切 當侯切 尤 相擊つ、相爭ふ、あらそふ、たゝかふ、あらそひ、たゝかひ。○(禮)「遇ニ諸市·朝一、不レ反レ兵而一」。

(健鬭) けなげに戰ふ。○(後漢)「諸·將非レ不ニ一·一」。

(結鬭) 交戰すること。○(戰)「一ニ一·一於高·唐之上一」。

(轉鬭) 各所をめぐり戰ふ。○(史)「一·一逐レ北」。

(衆鬭) 多くの人と共に戰ふこと。○(史)「怯ニ於一·一」。

(酣鬭) 盛んに戰ふ。○(唐)「中ニ流·矢一·一不レ解」。

(爭鬭) あらそひ、又、たゝかひあらそふ。○(王褒)「勿下與ニ隣·里一一·一上」。「一一」。

(戰鬭) たゝかひ、又、たゝかふ。○(左)「怒有ニ一·

(遠鬭) 遠く本國をはなれて戰ふ。○(史)「去レ國一·一」。

(決鬭) いのちがけに奮戰して雌雄を決すること。○(設)「欲下待ニ明·日一·一上」。

(挌鬭) うちあひたゝかふ。○(唐)「與ニ軍·人一·一」。

(私鬭) おほやけならざる各自のたゝかひ。○(史)「爲ニ一·一者」。「一一也」。

(力鬭) はげみて戰ふ。○(陳)「諸·軍須ニ爲レ孤一·一」。

(苦鬭) いたくはねをりて戰ふ、又、困難なるたゝかひ。○(隋)「一·一不レ息」。

(殊鬭) 去にものぐるひとなりて戰ふ。○(唐)「窮·討一·一」。

(鏖鬭) 苦戰していたく敵をうちころす。○(唐)「一·一尤力」。

(奮鬭) 勇をふるひ力戰す。○(宋)「金·人操ニ短·兵一·一」。

【𩰿】 デイ、ナイ。奴禮切 薺 智少く力劣る、おろか。

【𩱀】 ビ、ミ。綿婢切 支 ㊀前條に同じ。㊁せまし、(褊-狹)。

十七畫

【鬮】 キウ、ク。居求切 尤 吉酉切 有 鬭ひて取る、さる。

十八畫

【𩱁】 フン、ボン。撫文切 文 たゝかふ、あらそふ、みだれあふ。

鬯部

【鬯】 チヤウ。丑亮切 漾 ㊀一種の香草、にほひぐさ、又、之を黑黍に合はせ釀して宗廟に奉ずる酒。○(詩)「秬-一一-卣」。

㊁韔に同じ、ゆみぶくろ。○〔詩〕「抑—レ弓忌」。
㊂暢に同じ、のぶ。○〔漢〕「草・木—茂」。

〔秬鬯〕黑黍もて酒をかもし香草を加へたるものにていはひの時にすゝむるもの。○〔周〕「鬯人掌下共ニ—・—一而飾上レ之」。
〔鬱鬯〕蘭の如き香草にて秬酒に混ずるもの。○〔周〕「和二—・—一以實レ彝」。
〔祼鬯〕神を祭るときに灌ぐ香草を混和したる酒。○〔書、傳〕「—・—告レ神」。
〔介鬯〕王の臨弔の副となり鬯酒を神前にすゝむる者。○〔周〕「凡王臨弔共二—・—一」。
〔條鬯〕暢達すること。○〔白虎通〕「芳香—・—」。

五畫

【⿰鬯疋】糈に同じ、かて。

【⿰鬯史】シ　爽士切　紙
よきにほひ、（美・香）。

六畫

【⿰鬯吏】シ。疎吏切　寘
はげし、（烈）。

十畫

【⿰鬯巨】キョ、ゴ。其呂切　語
くろきび、（黑・黍）。

十八畫

【鬰】ウツ、チチ。紆物切　物
芳艸、かをりぐさ。

十九畫

【鬱】ウツ、チチ。紆物切　物　｜俗に、欝に作る。
㊀しげる、（茂）、むらがる、（叢）、つむ、（積）。○〔詩〕「—彼北・林」。
㊁憤ろ、怨む、憂ふ、心思結ぼる。○〔書〕「—・陶乎予心」。
㊂舒びず、揚がらず、屈して發せず。○〔周〕「鐘弇則—」。
㊃ふさぐ、ふさがる、（塞）。○〔管〕「—レ令而不レ出者幽二其君一也」。
㊄とゞむ、（沈）、とゞこほる、（滯）。○〔左〕「—・湮不レ育」。
㊅腐臭、くさし、くさる。○〔禮〕「鳥皫・色而沙・鳴—」。「苣二」。
㊆香ばし。○〔劉孝標〕「言—二郁於蘭」。
㊇蒸す。○〔木華〕「時—・律其如レ烟」。
㊈起こる。○〔枚乘〕「—・結之輪・菌」。
㊉盛んなる貌にいふ字。○〔漢〕「玄・靈決—」。
（十一）盛氣。○〔爾〕「—氣也」。
（十二）ながし、そだつ。○〔廣韻〕「—長也」。
（十三）くらし、かすか、れかす。○〔廣韻〕「—幽也」。「萸二」。
（十四）棣の屬、にはうめ。○〔詩〕「食二—一及」。
（十五）蘭の如き一種の草、其の用は鬯の如し。○〔周〕「和二—・鬯一以實レ彝而陳レ之」。

〔鬱々〕（い）志氣の結び積みて暢びざる貌にいふ語。○〔漢〕「安能—・—久居レ此乎」。（ろ）氣のさかんに積む貌にいふ語。○〔後漢〕「氣佳哉、—・—葱・々・然」。（は）樹木などのさかんに茂りたる貌にいふ語。○〔謝朓〕「—・—西・陵柳」。
〔壹鬱〕氣の閉ぢ塞がるにいふ語。○〔漢〕「子獨—・—其誰語」。「—・—」。
〔怫鬱〕憂ひて樂まざるにいふ語。○〔易林〕「心・中—・—」。
〔蓊鬱〕草木の盛んに茂る貌、又、雲霧などの盛んに積む貌にもいふ語。○〔魏文帝〕「喈二玄・雲之—・—一」。「—・—之思」。
〔沈鬱〕氣の深くとゞみて輕浮ならざること。○〔劉歆〕「—・—」。
〔蒸鬱〕氣の散せずしてむしあつきこと。○〔蘇軾〕「煩・暑避二—・—一」。
〔芬鬱〕香氣のさかんなるにいふ語。○〔枚乘〕「猴・芳—・—」。
〔紆鬱〕氣の結ぼれて散せざるにいふ語。○〔陸機〕「—・—游・子情」。
〔幽鬱〕氣の深く積みて舒暢せざるにいふ語、又、草木などの深く茂りたる貌にもいふ語。○〔柳宗元〕「舒二泄—・—一」。
〔翳鬱〕樹木などのくらく茂りたるにいふ語。○〔黄庭經〕「—・—導レ煙主二濁・猜一」。
〔泱鬱〕盛んなる貌にいふ語。○〔漢〕「玄・雲—・—」。
〔隆鬱〕前に同じ。○〔陳子昂〕「山・川—・—」。
〔春鬱〕心の憂へ結ぼるゝこと。○〔管〕「—・—生レ疾」。
〔暑鬱〕暑氣むしあつきこと。○〔抱朴〕「—・—陰・隆」。
〔勃鬱〕氣のさかんに積む貌にいふ語。○〔陳造〕「—・—詩・情隊二三・尺一」。
〔堙鬱〕滯り積みて散せざること。○〔柳宗元〕「—・—洶・湧」。
〔陶鬱〕氣の結ぼれつみて散せざること。○〔摯虞〕「感二溽暑之—・—一兮」。
〔哀鬱〕かなしみて心の結ぼれたること。○〔石崇〕「—・—傷二五・内一」。
〔炎鬱〕むしあつきこと。○〔駱賓王〕「晩・夏—・—」。
〔陰鬱〕くもりてむしあつし。○〔元稹〕「蒸・瘴—・—」。
〔深鬱〕草木などの深く茂りたること。○〔王逢〕「別・業自—・—」。
〔窈鬱〕樹木などの深く茂り翳ふにいふ語。○〔沈約〕「—・—敞二園・林一」。
〔蔭鬱〕前に同じ。○〔韓愈〕「—・—增二埋・翳一」。
〔蓊鬱〕草木のさかんに茂れる貌にいふ語。○〔李賀〕「翳二—・—一其蒼・々」。

鬲部

【鬲】レキ、リヤク。郎擊切　錫
㊀脚曲がれる鼎、脚の間の濶き鼎、脚の中空なる鼎、かなへ。○〔周〕「—・實五・觳」。「之—二」。
㊁かま、（鍑）。○〔揚雄〕「鍑吳・揚之閒謂二—」。

〔釜鬲〕釜のたぐひ、一種のかま。○〔南〕「大則—・—」。「養レ食」
〔尻鬲〕すやきのかまの足あるもの。○〔說苑〕「—・—」。
〔鐺鬲〕かなへの如くあしあるなべ、かまのたぐひ。○〔唐〕「金・銀—・—野・服」。
〔鼎鬲〕かなへと足のひろき一種のかなへと。○〔鄭杓〕「皆・刀—・—」。「鬲—・—」。
〔贅鬲〕貫通なる一種のかなへ。○〔元好問〕「深・々」

【鬲】カク、キャク。各核切　陌
㊀瓦瓶、もたひ。○〔禮〕「陶・人出二重—一」。「—」。
㊁搹に同じ、にぎり。
㊂隔に同じ、へだつ、へだたり。○〔儀〕「苴・經大—」。○〔漢〕「—二閉門・戸一」。

【鬲】アク、ヤク。乙革切　陌
軛に同じ、くびき。○〔周〕「凡爲レ轅—長六・尺」。

三畫

【⿰鬲寸】クヮ。古禾切　ラ。盧戈切　歌
つちがま、（土・釜）。

四畫

【⿰鬲支】ギ。魚綺切　紙
三足の鍑、かま、一説に、米を漉ぐ器、こめざき。

【⿰鬲文】ブン、モン。無文切　文
なづ、（摩）。

【⿰鬲戈】鍋に同じ。

五畫

【⿰鬲瓦】レキ、リヤク。狼狄切　錫
鬲に同じ。

【⿰鬲占】糊に同じ。

六畫

【鬳】ケン、コン。倶願切　願

鼎の屬。

【⿱羊鬲】シヤウ。式羊切 陽
鬺に同じ、にる（煮）。

【⿰弓鬲】レキ、リヤク。狼狄切 錫　ヒ。父沸切 未
あしがなへ（歷）。

【⿰鬲圭】ケイ。戶圭切 齊
窐に同じ、こしきの下のあな。

【⿰鬲而】ジ、ニ。如之切 支
胹に同じ、にる。○［揚雄］「秦晉之郊、謂レ熟日レ—」。

【⿰鬲亥】ガイ。魚開切 灰
かたきむぎ（麧）、一說に、粥中の塊。

七畫

【鬴】フ、ホ。扶雨切 麌　レキ、リヤク。狼狄切 錫
鍑の屬、かま。○［周］「四—上也」。

【⿰鬲巠】ケイ、キヤウ。古定切 徑
へだつ（隔）。

八畫

【⿰鬲孛】ヒ。芳味切 未
沸に同じ、わく、わかす。○［楚辭］「氣涫—其若レ波」。

【鬵】セン、ゾン。昨鹽切 鹽　ジン。徐林切
とど、繙岑切 侵
㊀かま（釜）。○［詩］「漑ニ之釜—ニ」。
㊁こしき（甑）。○［揚雄］「甑自レ關而東、謂ニ之甗ニ、或謂ニ之—ニ」。
㊂さし（疾）。

【⿱㚘鬲】俗の鬵の字。

九畫

【⿰鬲耎】ジ、ニ。人移切 支　ザイ、ナイ。汝來切 灰
骨ある醢、ほしから。

【鬷】ソウ、ス。子紅切 東
㊀釜の屬。
㊁もろ／＼（數）。○［詩］「越以レ—邁」。
㊂すぶ（總）。○［詩］「—假無レ言」。

【鬷】ソウ、ス。作孔切 董
草の名。○［爾］「素-華軌-—」。

【鬷】ソウ、ス。作弄切 送
漢の侯國の名。

十畫

【⿰鬲鬲】レキ、リヤク。郎狄切 錫
滓を去る、こす。

【鬸】リウ、ル。力救切 宥
こしき（甑）。

十一畫

【⿱⿲弓古弓鬲】餬に通じ作る、かゆ。

【鬹】キ。居隋切 支
三足の釜。

【鬹】ケイ。懸圭切 齊
かま（鑊）。

【⿱敖鬲】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪
いる（乾-煎）。

【鬺】シヤウ。式羊切 陽
にる（飪）。○［史］「皆嘗ニ亨—上-帝鬼-神ニ」。

十二畫

【⿱⿲弓而弓鬲】ジ、ニ。仍吏切 寘
こごめもち（粉-餅）。

【⿱厤鬲】レキ、リヤク。狼狄切 錫
鬲に同じ。

【⿰鬲曾】ショウ、ソウ。子孕切 徑　郎凌切 蒸
甑に同じ、鬵の屬、こしき。

【鬻】シユク、ソク。之六切 屋　ビ、ミ。忙皮切 支
—俗に、粥に作る。
涼糜、ゆるきかゆ。○［周］「—ニ餘-飯ニ」。

【鬻】イク、オク。余六切 屋
㊀うる。
（い）ひさぐ（賣）。○［禮］「田-里不レ—」。
（ろ）てらふ（衒）。○［漢］「自衒—者」。
（は）欺く。○［戰］「—ニ五-國ニ」。
（に）嫁す。○［禮］「請レ—ニ庶-弟之母ニ」。
㊁やしなふ（養）。○［莊］「四者天—也」。
㊂そだつ（生）。○［禮］「毛者孕—」。
（自鬻）自れの身を賣りて人に使はるゝこと。○［王褒］「百-里-奚—-—」。
（售鬻）ひさぐこと。○［晉］「朝-廷詔聽ニ相—-—ニ」。
（酤鬻）前に同じ。○［晉］「使ニ姬人—-—身自貿-易ニ」。
（販鬻）前に同じ。○［唐］「—ニ—官-爵ニ」。

【⿱⿲弓匊弓鬲】キク、コク。居六切 屋
をさなし（稚）、一說に、やしなふ（養）、○［詩］「—-子之閔斯」。

十三畫

【⿱⿲弓虍弓鬲】鬻に同じ。

【⿰鬲酉】醯に同じ。

【⿰鬲裘】カク、キヤク。楷革切 陌　ケキ、キヤク。吉歷切 錫
裘の裏。

【⿱⿲弓孛弓鬲】ホツ、ボチ。蒲沒切 月
釜の沸え湯。

【⿰鬲嵏】鬷に同じ。

【⿱⿲弓辰弓鬲】ジヨク、ニク。而蜀切 沃
大いなる鼎、おほがなへ。

十四畫

【⿱⿲弓侃弓鬲】ケン、コン。居言切 元　セン。諸延切 先
かゆ（鬻）。

十五畫

【⿱⿲弓者弓鬲】シヨ、ソ。章與切 語
煮に同じ、にる、にゆ。○［周］「—レ鹽以待ニ戒-令ニ」。

十六畫

【⿱⿲弓芻弓鬲】サウ、セウ。初爪切 巧
煼に同じ、いる（熬）。

【⿱⿲弓羔弓鬲】カウ、キヤウ。古行切 庚
篆書に羹に作る、あつもの。

十七畫

【⿱⿲弓速弓鬲】ソク。桑谷切 屋

或は餗に作る、鼎の實。

【⿱⿲弓林弓鬲】リン。犂針切 侵
淋に同じ、水を沃ぐ。

十八畫

【⿱⿲弓曾弓鬲】ショウ、ソウ。子孕切 徑
⿰鬲曾に作る、炊ぐ器。

二十畫

【⿱⿲弓翟弓鬲】ヤク。以灼切 藥
肉及び菜を湯に浸す、ゆびく、ゆがく。

廿一畫

【⿱⿲弓囂弓鬲】ケウ。許嬌切 蕭
炊氣の貌にいふ字、むす、ゆげ。

鬼部

【鬼】キ。居偉切 紙 〔說文〕人所レ歸爲レ鬼、从レ人象二鬼頭一。
㊀おに。
(い)死者の精靈、たま、たましひ、幽魂。○〔易〕「是故知二——神之情狀一」。
(ろ)祭祀せる幽魂、かみ。○〔禮〕「列二於——神一」。
(は)賊害をなす陰氣又は其の現體、もの丶け、ばけもの。○〔詩〕「爲レ——爲レ蜮」。
(に)人類以上の靈あるもの、冥々の裡に存して不可思議の力あるもの。○〔漢〕「化若レ——」。
(ほ)冥々の裡に存して人に禍難を齎らすもの。○〔易林〕「貧——守レ門」。
(へ)想像上の一種の生物、人の體をなし額に雙角あり面貌獰惡髁體にして虎皮を褌とす。○〔唐逸史〕「明皇晝夢二——藍袍一」。
㊁さとし(慧)。○〔揚雄〕「虔、儇、慧也、自レ關而東、趙魏之閒、謂二之黠一或謂二之——一」。
㊂とほし(遠)。○〔詩〕「覃二及——方一」。

〔厲鬼〕疫病をつかさどるおに。○〔左〕「其何——也」。
〔靈鬼〕ふしぎなるおに。○〔關尹〕「心蔽二吉凶一者、——攝レ之」。
〔狼鬼〕ばかの精魂。○〔白澤圖〕「丘墓之精、名曰二——一」。
〔烏鬼〕猪の異名。○〔漫叟詩話〕「川人嗜二猪肉一、家々養レ猪、每呼レ猪作二——聲一、故謂二之烏鬼一」。
〔窮鬼〕貧困をつかさどるおに。○〔韓愈〕「三二揖——二」。
〔強鬼〕つよきおに。○〔禮〕「殤——也」。
〔恨鬼〕うらみをふくむ幽靈。○〔晉〕「長爲二——一」。
〔新鬼〕ちかごろ死にたるもの丶幽靈。○〔左〕「吾見二——大故鬼小一」。
〔瘧鬼〕おこりの疫鬼。○〔搜神記〕「一居二江水一爲二——一」。
〔人鬼〕人の死にたるもの丶靈魂。○〔周〕「掌レ建二邦之天神——地示之禮一」。
〔愚鬼〕おろかにして靈ならざる精魂。○〔後漢〕「死爲二——一」。
〔敝鬼〕ものをやぶりそこなふ幽靈。○〔後漢〕「死

三畫

【⿱宀鬼】鬽に同じ。

【鬽】ビ、ミ。明祕切 寘
老いたる精物、こだま、ばけもの。○〔周〕「致二地示物——一」。

【⿺鬼冋】ワイ、エ。鄔賄切 賄
——耟は、いしぢ、墝埆。

【尵】ワイ、エ。烏績切 隊
熱病。

四畫

【鬾】キ、ギ。渠羈切 支 巨綺切 紙 奇寄切 寘
鬼の服、一說に、小兒の鬼。○〔韓詩外傳〕「逢二士女——服一」。

【魹】カウ、コウ。虛到切 號
えやみのかみ(虛耗)。

【鬿】キ、ゲ。渠希切 微
㊀——雀は、一種の鳥。○〔山海經〕「北號之山有レ鳥、狀如レ雞而白首鼠足而虎爪、其名曰二——雀一」。
㊁——堆は、一種の奇獸。○〔楚辭〕「——堆爲處」。
㊂九——は、北斗九星。○〔楚辭〕「九——與二六神一」。

【⿰化鬼】クワ、ケ。呼覇切 禡
ばける(變)。

【魁】クワイ、ケ。苦回切 灰
㊀かしら。
(い)をさ(帥)。○〔書〕「殲二厥渠——一」。
(ろ)おも(主)。○〔禮〕「不レ爲レ——」。
(は)第一、さきがけ。○〔漢〕「原涉爲レ——」。
㊁おほいなり(大)、すぐる(雄)。○〔史〕「始以二薛公一爲二——然一」。
㊂やすし(安)。○〔莊〕「猶之——然」。
㊃芋根、おやいも。○〔廣志〕「——大子多」。
㊄北斗の第一星。○〔後漢〕「——方杓」。
㊅はまぐり(蜃蛤)。○〔儀〕「素積白屨以レ——柎レ之」。
㊆小阜。○〔周〕「以爲二——陵一」。
㊇塊に同じ。○〔漢〕「——然無レ徒」。
㊈科に同じ。○〔後漢〕「大率皆——頭露紒」。

〔里魁〕村里のをさ。○〔後漢〕「里有二——一」。
〔黨魁〕徒黨のかしら。○〔唐〕「故時號二——一」。
〔俠魁〕俠客のかしら。○〔漢〕「閭里之——、原涉爲レ——」。
〔八魁〕星の名。○〔星經〕「——在二北落東一」。
〔怪魁〕奇怪なるもの丶かしら。○〔陸龜蒙〕「吾爲二——一」。

【魁】クワイ、ケ。苦猥切 賄
——瘣は、大枝の節の盤結すると。

【魂】コン、ゴン。戶昆切 元
㊀陽の精氣、性情の精氣、心の精爽、たましひ。○〔易〕「遊——爲レ變」。
㊁多き貌にいふ字。○〔揚雄〕「——萬物」。
㊂光氣の盛り燿く貌にいふ字。○〔山海經〕「其氣——」。

〔日魂〕太陽の氣。○〔參同契〕「陽神——」。
〔驚魂〕神氣をおどろかす。○〔拾遺記〕「莫レ不レ動レ心——」。
〔淸魂〕きよらかなるたましひ。○〔甘泉賦〕「澄レ心——」。
〔別魂〕からだを離れたるたましひ、又、別離のときのこゝろ。○〔崔塗〕「多少——招不レ得」。
〔離魂〕前に同じ。○〔韋莊〕「——漸逐二杜鵑一飛」。
〔斷魂〕心をいたむ。○〔韋莊〕「自是春愁正——」。
〔傷魂〕前に同じ。○〔呂氏春秋〕「費レ神——」。
〔心魂〕たましひ。○〔徐照〕「——遠相隨」。
〔神魂〕前に同じ。○〔漁樵對問〕「氣行則——交」。
〔靈魂〕前に同じ。○〔東方朔〕「——屈而偃蹇」。
〔營魂〕前に同じ。○〔謝靈運〕「得二以慰——一」。
〔氷魂〕梅花のとにいふ語。○〔宋之問〕「玉雪爲レ骨——爲レ——」。
〔怯魂〕弱きたましひ。○〔貝半千〕「褱葦無二——一」。
〔旅魂〕たびにあるときのこゝろ。○〔杜甫〕「宏山獨夜——驚」。
〔羈魂〕前に同じ。○〔戴叔倫〕「——慾似レ絕」。
〔英魂〕英雄の精魄。○〔賈彥璋〕「——此池銷」。

（蜀魂）杜鵑の異名。○〔李中〕「一・一啼處酒初醒」。

【[illegible]】 前條に同じ。

五畫

【䰠】 シン、ジン。失人切 眞 神。○〔山海經〕「多ニ僕纍蒲盧一一」。

【⿰巾鬼】 カフ、ケフ。古洽切 洽 竊鬼。

【⿺鬼占】 リツ、リチ。劣戌切 質 ころす（殺）。

【魃】 ハツ、バチ。蒲撥切 曷 旱鬼、ひでりのかみ、又、暑旱、ひでり。○〔詩〕「旱一爲レ虐」。
（暑魃）なつのひでりがみ、又、暑中のひでり。○〔范成大〕「一・一方肆行」。「一ニ。
（炎魃）前に同じ。○〔劉克莊〕「六丁白晝誅ニ一・

【⿺鬼令】 レイ、リヤウ。郎丁切 靑 鬼。

【魄】 ハク、ヒヤク 普伯切 陌
㊀陰の神氣、形體の精氣、心の精爽、たましひ。○〔禮〕「一者鬼之盛也」。
㊁形體、からだ、かたち。○〔國〕「其一兆ニ乎民一乎」。
㊂すきま、ひま。○〔爾〕「一閒也」。
㊃檀に似たる大木、がまずみ。○〔爾〕「一欆-櫨」。
㊄月の輪廓の光なき處。○〔書〕「惟一月壬-辰旁-死一」。
㊅月影 ○〔駱賓王〕「露-巖淪ニ曉一一ニ」。
（死魄）陰暦の朔日のこと。○〔唐〕「凡月朔而未見曰ニ一・一ニ」。

（形魄）からだ。○〔禮〕「一・一歸ニ於地ニ」。「也」。
（精魄）前に同じ。○〔中論〕「夫形體者、人之一・一
（僧魄）前に同じ。○〔禮〕「一・一則降」。
（月魄）太陰の神にも月のことにもいふ。○〔參同契〕「陰・神一・一」。
（[illegible]魄）魂魄のこと。○〔江淹〕「傷ニ一・一之已盡ニ」。
（斷魄）前に同じ。○〔謝莊〕「散ニ一・一于天・潯ニ」。
（魂魄）前に同じ、又、たましひとからだとにもいふ。○〔左〕「心之精爽是謂ニ一・一ニ」。「龍ニ」。
（地魄）地の神、又、地のこと。○〔呂巖〕「一・一産ニ靑・
（心魄）こゝろ。○〔李白〕「我欲ニ因レ之壯ニ一・一ニ」。
（生魄）生靈のこと、又、十五日の月のこと。○〔韓偓〕「一・一隨レ君君豈知」。
（虎魄）樹脂のながく地中に埋もれて石と化したるもの。○〔吳、註〕「僕聞一・一不レ取ニ腐芥ニ」。
（蟾魄）月のこと。○〔歲華紀麗〕「桃・眉一・一」。
（素魄）前に同じ。○〔宋武帝〕「月・羽皎ニ一・一ニ」。
（桂魄）前に同じ。○〔王維〕「一・一初生秋露微」。
（藍魄）前に同じ。○〔權德輿〕「一・一流ニ霜空ニ」。
（厲魄）あしきたましひ。○〔臨尹〕「一・一爲レ愚」。
（曜魄）北極星。○〔尙書大傳〕「北・辰謂ニ之一・一ニ」。
（初魄）三日の月。○〔王褒〕「一・一似ニ蛾眉ニ」。
（半魄）半圓形の月。○〔張子容〕「一・一落ニ銀・鈎ニ」。
（險魄）險惡なるたましひ。○〔柳宗元〕「死爲ニ一・一兮生爲ニ貪・夫ニ」。
（羇魄）旅中のからだ。○〔盧仝〕「海・月護ニ一・一ニ」。
（杜魄）杜鵑の異名。○〔武元衡〕「擧・射山・中一・一哀」。
（蜀魄）前に同じ。○〔李商隱〕「一・一有ニ餘・冤ニ」。

【魄】 ハク、バク。白各切 藥
㊀物の聲にいふ字、特に、其の安定の意あるにいふ字。○〔史〕「其聲一・一云」。
㊁粕に同じ、かす。○〔莊〕「古・人之糟一・一已夫」。
㊂薄に同じ ○〔史〕「旁一四塞」。

【魄】 タク。他各切 藥 落一一は、業を失ひて倚處なきこと、志行の衰惡せるを、おちぶれる。○〔史〕「家貧落一一」。

【魅】 ビ、ミ。明祕切 寘
㊀異氣、怪精、ものゝけ、ばけもの。○〔後漢〕「死・老一一、能損ニ我曹員・數一否」。
㊁人を惑害す、みいる、ばかす。○〔孔叢〕「容・媚諂一一」。
（鬼魅）おにとばけものと。○〔易、疏〕「一・一盈レ車」。
（木魅）老木の精。○〔洞天淸錄〕「山・精一・一」。
（魑魅）山林より生ずるばけもの。○〔左〕「一・一罔・兩」。「于墠壇ニ」。
（物魅）ものゝ怪精、ばけもの。○〔周、註〕「致ニ一・一
（衆魅）もろ〳〵のばけもの。○〔後漢〕「能劾・百鬼一・一令ニ自縛ニ」。
（射魅）怪物をはらふ爲に臂に掛くるもの。○〔急就篇、註〕「一・一以ニ金・玉及桃・木一、刻而爲レ之、其上有レ銘、而旁穿レ孔、系以ニ綵・絲一、用係レ臂焉、亦所ニ以逐ニ精・魅一也」。
（精魅）物のすだま。○〔拾遺記〕「或ニ此一・一之「物ニ」。
（山魅）やまのばけもの。○〔李涉〕「水・晙一・一多精・神ニ」。
（蠱魅）みいればかすこと。○〔玄中記〕「善一・一使「人迷・惑失レ智」。
（魍魅）水中の怪精。○〔韓愈〕「一・一暫出・沒ニ」。
（野魅）のはらのばけもの。○〔劉禹錫〕「一・一眞・形出」。「走參・差」。
（陰魅）よるあらはるゝばけもの。○〔元稹〕「一・一
（魈魅）一本あしのばけもの。○〔王守仁〕「一・一遊兮犨跳・嘯」。

【⿺鬼失】 チ。丑吏切 寘 抽知切 支 チツ。敕栗切 質 えやみのかみ（厲鬼）、一說に、螭魅の類、すだま。

【⿰失鬼】 前條に同じ。

【魆】 クツ、コチ。許屈切 物 ㊀いつはる（譎）。㊁にはか（猝）。

【⿺鬼勿】 チク。知畜切 屋

鬼の頭。

六畫

【⿺鬼韋】 キ、ギ。俱位切 寘 大いに視る貌にいふ字。

【⿰有鬼】 チク。于目切 屋 かたち（貌）。

【⿺鬼至】 チ。丑知切 支 すだま（魅）。

【[illegible]】 魅に同じ。○〔山海經〕「剛・山多ニ神一一ニ」。

七畫

【⿺鬼巠】 エイ、ヤウ。煙涬切 迥 まじなひ（巫厭）。

【魈】 セウ。相邀切 蕭 獨足の山精、すだま。○〔抱朴〕「山・精、形如ニ小・兒一、獨・足向レ後、夜喜犯レ人、名曰レ一、呼ニ其名一則不レ能レ犯」。

【⿰豸鬼】 テン、ダン。杜衎切 銑 醜き貌にいふ字。

【⿺鬼里】 リ。良以切 紙 惡鬼。

【⿰孝鬼】 ガウ、ゲウ。五敎切 效 みにくし（醜）。

【⿺鬼兌】 タイ、テ。吐內切 隊 チ。他漬切 寘 熱病、ひのやまひ。

八畫

【⿰鬼兜】トウ、ヅ。都籠切 東 ❶醜き貌にいふ字。❷鬼人を殺す。

【⿰鬼奄】エン。於贍切 豔 汚し觸ろ、けがす。

【⿰鬼奇】キ、ギ。渠羈切 支 魌に同じ、童鬼、こおに。

【⿰鬼長】ラウ。耶宕切 漾 江鬼の醜き貌にいふ字。

【魊】ヨク、井キ。雨逼切 職 ❶小兒の鬼。❷いさごむし(短-狐)。

【⿱或鬼】コク。胡國切 職 ❶前條の❶に同じ。❷鬼――は、つむじかぜ(旋-風)、一說に、鬼の風に因りて人を伺ふを。

【⿰鬼咸】䰽に同じ。

【⿰鬼隹】タイ、デ。杜回切 灰 あやぐま(赤-熊)。○[爾]「―如二小-熊一」。

【魋】ツヰ、ヅヰ。傳追切 支 椎頭髻、さいづちまげ。○[漢]「――結箕-踞」。

【⿰鬼蜀】トク。丁木切 屋 醜き頭。

【魌】キ。去其切 支 ❶みにくし(醜)。❷―頭は、まよけ。

【魓】ヘイ、ハイ。匹米切 薺 ❶みにくし(醜)。❷妖魅、まもの。

【⿰鬼虎】コ、ウ。荒烏切 虞 鬼の貌にいふ字。

【⿱雨鬼】ケキ、キヤク。古歷切 錫 雨鬼、あめのかみ。

【魍】蛧に同じ。

【魎】蜽に同じ。

【魏】ギ。魚貴切 未 ❶たかし(高)。○[淮]「―闕之高」。❷地の名、又、人の姓。○[徐鉉]「以爲二―國之―一」。

【魏】ギ。語韋切 微 グワイ、吾回切 灰 ゲ。切 ❶おほいなり(大)。○[莊]「―――乎其終則復始也」。❷小さくして形を成せるにいふ字、ほそし。○[揚雄]「凡細而有レ容謂二之―一」。

九畫

【⿰鬼臭】ケキ、キヤク。古役切 陌 おづか(靜)。

【⿰鬼集】サフ、ゼフ。士甲切 洽 みにくし(醜)。

【⿰鬼者】シヤ、セ。昌者切 馬 ⿰鬼都に同じ、みにくし。

【⿰鬼都】ト、ツ。東徒切 虞 山の鬼。

【⿰鬼苗】ベウ、メウ。眉鑣切 蕭 蠱鬼、まじもの。

十畫

【⿱幾鬼】キ、ゲ。渠希切 微 魕に同じ、南方の鬼。

十一畫

【魑】螭に同じ。○[左]「――魅罔兩」。

【魔】バ、マ。莫波切 歌 人に障害をなす鬼類、心を惱亂せしむろ害物。○[法華經]「我墮二疑-網一、故謂二是―所レ爲」。
(天魔) 能く人を迷はす天上の狂鬼。○[蘇軾]「外道――猶奏レ樂」。
(詩魔) 作詩の念をおこさしむる鬼。○[滄浪詩話]「即有二下劣――一」。
(諸魔) もろもろの鬼。○[瀛府經]「百億――」。
(衆魔) 羣魔といふに同じ、おほくの鬼。○[岑参]「――不敢窺二」。
(妖魔) あしき鬼。○[歐陽修]「古鑑照二――一」。
(惡魔) 前に同じ。○[法苑珠林]「――波旬」。

【⿰鬼難】ダ、ナ。諸何切 歌 ダウ、ナウ。尼交切 肴 ダン、ナン。乃旦切 翰 ダ、ナ。乃箇切 箇 ❶疫癘の鬼を敺る、おにやらひ。❷鬼を見て驚く、おびゆ。

十二畫

【⿰鬼登】トウ、ドウ。徒登切 蒸 空中の鬼。

【⿰鬼奢】シヤ、セ。齒者切 馬 醜――は、みにくし。

【⿰鬼焦】サウ、セウ。楚交切 肴 ❶疾き貌にいふ字、一說に、つよし(健)。❷剽輕にして害を爲す鬼。

【⿰鬼堯】サウ、セウ。士絞切 巧 初交切 肴 わるがしこし(黠)。

【⿰鬼矞】キツ、キチ。其律切 質 狂鬼、きちがひおに、一說に、頭なき鬼。

【⿰鬼彌】前條に同じ。

【⿰鬼婁】ラウ、レウ。來孝切 效 おどろく(驚)。

【魕】キ、ゲ。渠希切 微 舉豈切 尾 南方の鬼。

【魖】キョ、コ。朽居切 魚 えやみのおに(耗-鬼)。○[漢]「捎二夔-魖一」。

十三畫

【⿰鬼睪】エキ、ヤク。羊益切 陌 鬼の使。

十四畫

【⿰鬼賓】ヒン、ビン。符眞切 眞 鬼の貌にいふ字。

【⿰鬼疑】ギ。魚記切 寘 ギ、ゲ。魚既切 未 ❶おそる(恐)。❷まさふ(纏)。

【魗】シウ、シユ。昌九切 有 市流切 尤

すつ、(棄)、にくむ、(惡)。○〔詩〕「無二我一一兮一」。

【䰸】ジユ、ニユ。人朱切 虞 ドウ、ヌ。奴鉤切 乃豆切 宥 尤

【䰹】サツ、サチ。初八切 黠
鬼の聲にいふ字。

羅—は、國の名。

【魘】エン。於琰切 琰 エフ。於協切 葉
夢中に驚く、睡中に怖る、おそはる、おそふ。○〔權德輿〕「寢有レ—」。
〔發魘〕夢におそはる。○〔梅堯臣〕「夜深忽—」。

十五畫

【魑】テキ、ヂヤク。徒歷切 錫
みにくし、(醜)。

【䰺】ライ、レ。盧回切 灰
雷鬼。

十七畫

【䰻】レイ、リヤウ。郎丁切 青
神の名。

【魕】ク、コ。其俱切 虞
つぐ、(亞)。

魚部

【魚】ギヨ、ゴ。牛居切 魚 〔說文〕本作㒷、水蟲也。象形。
㊀水中に棲み鰭にて泳ぐ動物の總名、うを、いを。○〔史〕「白—躍入二王舟中一」。
㊁うをの皮。○〔詩〕「—弭—服」。
㊂有位有官者の佩ぶるうをの形をなせる物、おびもの。○〔唐〕「初罷二龜袋一、復給以レ—」。
㊃兩目白き馬。○〔詩〕「有レ驔有レ—」。
㊄吾に同じ。○〔列〕「姬—語レ女」。
〔嘉魚〕魚の名、鱒の狀に似て脂多しといふ。○〔詩〕「南有二—一」。
〔鉅魚〕おほいなるうを。○〔漢〕「海致二——一」。
〔京魚〕前に同じ。○〔羽獵賦〕「乘二巨鱗一騎二—」「—一」。
〔鰒魚〕あはび。○〔皮日休〕「且向二仄南一閒二——一」。
〔木魚〕木もて魚のかたちを造り叩きて音を發する具。○〔朱熹〕「粥飯何時共二——一」。
〔釜魚〕釜の中に在る魚、久しからずして烹られて死ぬるに喩へていふ語。○〔杜甫〕「——猾悶息」。
〔枯魚〕ほしたるうを、ひもの。○〔家語〕「——銜レ索」。
〔乾魚〕前に同じ。○〔史〕「用二——一」。
〔游魚〕およぐうを。○〔陶潛〕「臨レ水愧二——一」。
〔鯈魚〕小魚の名、はえ。○〔山海經〕「中多二——一」。
〔魯魚〕二字相似たるより往々寫し誤るとありそれより文字の誤りのとにいふ。○〔抱朴〕「諺曰、書三寫—爲レ—、虛爲レ虎」。
〔金魚〕黃金もて作りたるうをの狀をなしたるもの、又、こがねいろの魚。○〔合璧事類〕「——墜レ地」。
〔玉魚〕魚の名、又、玉もて作りたるうを。○〔天寶遺事〕「刻二——一含レ之」。
〔文魚〕うつくしきうを。○〔屈平〕「乘二白黿一兮逐二——一」。
〔潛魚〕水ふかくひそみかくるゝうを。○〔蒙宏〕「—「—擇レ淵」。
〔奇魚〕めづらしきうを。○〔山海經〕「怪獸——」。
〔肥魚〕こえたるうを。○〔新序〕「庖有二——一」。
〔天魚〕星の名。○〔甘石星經〕「——一星在二尾河中一」。
〔衣魚〕(い)衣帛書紙などの中に生ずる蟲の名。○〔本草〕「——生二久藏衣帛及書紙中一」。
(ろ)有位者の佩ぶる金玉などもて作りたる魚形のものを身につくるとと。○〔舊庭堅〕「三品——入」。
〔蠹魚〕前の(い)の與に同じ。○〔陸游〕「剩二探芸香一看二——一」。
〔打魚〕魚を捕ふること。○〔汪元量〕「半揭二篷窓一」。
〔板魚〕ひらめ、鰈の屬。○〔北戶錄〕「比目魚南越志謂二之——一」。
〔比目魚〕前に同じ。○〔漢〕「東海致二——之—一」。
〔吞舟魚〕おほいなる魚のこと。○〔漢〕「豈能…二——之巨—一」。
〔鹹水魚〕海中に生ずるうを。○〔曹植〕「——之—不レ游二於江一」。
〔淡水魚〕かみづに生ずるうを。○〔曹植〕「——之「—不レ入二于海一」。
〔緣木求魚〕決して得べからざる義にいふ語。○〔孟〕「猶二—レ—而—レ—也」。
〔上山求魚〕前に同じ。○〔易林〕「—レ——レ—、入レ水捕レ兎」。

二畫

【魛】アツ、エチ。烏黠切 黠
魪—は、身尾共に鮎に似たる一種の魚、背は靑く腹は黃なり、腮の下に二の橫骨ありて兩の須あり、ぎゞ、げばち。○〔本草〕「黃顙魚一名魪—」。

【魛】タウ、トウ。都牢切 豪
鱴—は、刀形をなせる一種の魚、えつ、だつ。

【魝】セウ。先鳥切 レウ。朗鳥切 篠
はえ、(鰷)。

【魜】ジン、ニン。而眞切 眞
魚の名。○〔南〕「鰷—鰈鰯」。

【魝】ケツ、ケチ。吉屑切 屑
魚を治む、きる。

【魝】ケイ、カイ。吉詣切 霽
とく、(解)。

三畫

【魥】ギヨ、ゴ。偶擧切 語
いけす、(籞)。

【魟】
鯀に同じ。

【魟】コウ、ク。沽紅切 東
鱖—は、形は蟹に似て食らふべき一種の蟲。

【魟】コウ、グ。戶公切 東
㊀一種の魚、みごひ、黃白の二種あり、鱗無く頭尖り身は槲の葉の如く口は頷の下に在りて耳眼の後にあり尾の長さ一尺末に三つの刺ありて毒を含むといふ。
㊁魚肥ゆ、ふさる。

【魟】カウ、コウ。古雙切 江
前條の㊁に同じ。

【魠】タク。他各切 藥
黃頰魚、たら。○〔漢〕「鰅鰫鰬—」。

【䰾】
鮀に同じ。

【魡】テキ、チヤク。丁歷切 錫
䰿に同じ、魚を繫ぐ。

【魡】テウ。多嘯切 嘯
餌をもて魚を取る、つる。○〔莊〕「—二魚閒處一」。

【魦】セウ。私兆切 篠
細き魚。

【䰲】キツ、コチ。居乙切 質
魚およぐ。

四畫

【䰴】ギウ、ゴ。語求切 尤　ヰ。於鬼切 尾
魚の名、鮪の類。

【魣】鱮に同じ。

【魥】ガフ、ゴフ。吾合切 合
魚の名、こち。

【魼】ケフ、コフ。去劫切 葉
魚を竹に貫き乾したるもの、ほしうを。

【魦】鯊に同じ、さめ、すなふき。○〔後漢〕「鰋鯉鱨―」。

【䰷】カフ、コフ。黒盍切 合
魶―は、魚の名。

【䰷】サフ、ソフ。作答切 合
魚の口の動く貌にいふ字。

【䰳】ハウ、ボウ。部項切 講
㊀蜯に同じ、蚌の屬。㊁珧に同じ、美しき珠。

【䲺】コウ、ク。古紅切 東　トウ、ツ。甕公切 東
䰼の字の條を見よ。

【䰸】鱵の省字、いか。

【魧】カウ。居郎切 陽　カウ、ガウ。下朗切 養
㊀大いなる貝。㊁魚の脊。

【魨】トン、ドン。徒渾切 元
一種の魚、ふぐ、背青く腹白し、物觸るれば怒りを發す、其の肝は毒を致す。○〔本草集解〕「河―狀如二科斗一」。

【魾】ハイ、ヘ。鋪枚切 灰
未だ漬けざる魚鱶、きりみ。

【魩】バツ、マチ。莫撥切 曷
魚の尾。

【䰻】ボク、モク。莫卜切 屋
魪の一名。

【䰼】鯕に同じ。

【魪】カイ、ケ。居拜切 卦
兩―は、かれひ、比目魚。○〔左思〕「罩二兩―一」。

【魰】ギヨ、ゴ。牛居切 魚　牛據切 御
漁に同じ、すなどり。○〔張衡〕「逞二欲畋―一」。

【魫】シン。式荏切 寑　チン、ヂン。持林切 侵
魚の子。

【䰯】魷に同じ。

【魬】ハン、ベン。部板切 潸
魚の名、一說に、かれひ、比目魚。

【鮇】フ。風無切 虞
魚の名。

【魭】黿に同じ、おほうみがめ。

【魭】グワン。五管切 旱　五換切 翰
――斷は、圭角無き貌にいふ語、まろし、かどなし。○〔莊〕「而不レ免二於――斷一」。

【魮】ヒ、ピ。頻脂切 支
絮―は、一種の魚、身は鍾鈸の如く鳥首魚尾音は磬石の聲の如しといふ。○〔山海經〕「濫水西流注二于漢水一、多二絮―之魚一」。

【魮】ヒ、ビ。補履切 紙
魚の名、尾に毒ありとぞ。

【魫】シン。章荏切 寑
魚の首の骨。

【魿】シン、ジン。才淫切 侵　食荏切 寑
サン、ソン。徂感切 感
つけうを、(鮺)、一說に、小魚の羹。

【魯】ロ、ル。郞古切 麌
㊀にぶし、おろか、(遲・鈍)、まつぼく、すなほ、(樸・直)。○〔論〕「參也―」。
㊁春秋時代の國の名、今の山東省の曲阜を治所とせり。○〔詩 譜〕「―者少昊摯墟也」。
(愚魯) おろかなること。○〔蘇軾〕「東方書生多二―一」。
(椎魯) 愚にして變通の才なきこと。○〔蘇軾〕「皆―無二能爲者一」。
(頑魯) 前に同じ。○〔晉〕「――之質」。
(淳魯) 樸直にしてオを衒はさること。○〔蘇轍〕「後生守二――一」。
(朴魯) 前に同じ。○〔宋〕「――純直」。

【魰】ブン、モン。無分切 文
細鱗花文ある一種の魚、一說に、とびのうを、文鰩魚。

【䱁】コク。胡谷切 屋
斗魚。

【𩵼】ワウ。雨方切 陽
―鮪は、ふび。○〔釋文〕「鮪似レ鱣、大名二―鮪一」。

【魱】コ、グ。洪孤切 虞
當―は、一種の海魚、鯿に似て大鱗あり、肥えて美し、肉に小骨多し、ひらこのしろ、ひら。

【魱】鱯に同じ。

【魲】俗の鱸の字。

【魳】鰤に同じ。

【䰽】ハイ。博蓋切 泰
ふぐ、(鯸鮐)。○〔山海經〕「敦水東流注二于鴈門之水一、其中多二――之魚一、食レ之殺レ人」。

【魴】ハウ、バウ。符方切 陽
一種の魚、おしきうを、身廣くして薄く肉少し、鱗細かく色青白し、味美なり。○〔詩〕「――魚赬尾」。

【魵】フン、ボン。撫吻切 吻　符分切 文
えび、(鰕)。

【魵】鰓に同じ。

【魶】ダフ、ナフ。奴盍切 合

さんせうを（鯢）、なまづ（鯷）。○〔益部方物略〕「―魚出二溪谷及雅江一」。

【鮺】魦に同じ。○〔石鼓文〕「溝-々又―」。

【⿰魚午】コ、グ。我古切 麌　鱸の別種、身圓く厚く短かくつまり味豐かなり。

五畫

【魺】カ、ガ。胡歌切 歌　ぎゞ（魠）。

【魺】カ。賈我切 哿　つけうを（鮓）。

【⿰魚丙】へイ、ビヤウ。補永切 梗　はまぐり（蚌）。

【⿰魚丙】ハウ、ビヤウ。白猛切 梗　蟲の名。

【魻】カフ、ケフ。轄甲切 洽　――鰈は、鱗のならびて衆多なる貌にも裝飾の重なれる貌にもいふ語。○〔潘岳〕「―鰈參-差」。

【魼】キヨ、コ。丘於切 魚　タフ、トフ。吐盍切 合　ケフ、コフ。乞業切 葉　かれひ（比-目-魚）。○〔漢〕「禺-々-―鰨」。

【魽】カン、ゴン。胡甘切 覃　蚌の屬、はまぐり。

【魾】ヒ、ビ。貧悲切 支　㊀大鱯。㊁魴、もだま。

【魿】レイ、リヤウ。郎丁切 青　離貞切 庚　蟲の連なり行きめぐり行くものゝ稱。

【魿】鱗に同じ。

【鮀】タ、ダ。唐何切 歌　すなふき（吹-沙小-魚）。○〔本草圖經〕「―魚生二湖-畔土-窟中一」。

【⿰魚㐌】鮀の俗字。

【⿰魚央】アウ、ヤウ。於良切 陽　[illegible]の字の條を見よ。

【鮁】ハツ、バチ。北末切 曷　魚の游ぐ貌にも魚の躍る貌にも魚の尾を掉ふ貌にもいふ字。

【鮁】ハイ、ベ。符廢切 隊　魚の名。

【鮂】シウ、ジユ。徐由切 尤　はえ、はや（鰷）。○〔爾〕「―黑鰦」。

【鮄】フツ、ボチ。符勿切 物　海魚。

【鮅】ヒツ、ビチ。簿必切 質　㊀はらか、ます（鱒）。○〔爾〕「―一名鱒」。㊁石―は、一種の魚の名、谷川に產し、形はえに似て狹く長く、大いなるは八九寸あり、鱗細く口大きく觜尖り能く蟲を捕り食らふ、かはむつ、むつ。

【鮏】鯹に同じ。

【⿰魚氏】シ。處脂切 支　ぎゞ（魠）。

【⿰魚夅】ケウ。祈姚切 蕭　みごひ（陽-鱎）。○〔荀〕「鰷―者、浮-陽之魚也」。

【⿰魚幼】イウ、ウ。於柳切 有　於虬切 尤　エウ。伊堯切 蕭　イク、オク。乙六切 屋　口濶く頭大きく尾は岐れ色黃黑にして斑ある一種の魚、だぼはぜ、かじかの類。○〔正字通〕「―爲二鯆屬一、生二溪-澗中一、狀似二吹-沙-魚一」。

【鮆】セイ、ザイ。在禮切 薺　シ。將支切 支　淺氏切 紙　子智切 寘　才豉切 遇　㊀身狹く薄くして頭長く恰も刀の形をなせる一種の魚、えつ、刀魚。○〔史〕「鮐―千斤」。㊁みじかし（短）。○〔揚雄〕「江-湖之會、凡物生而不二長-大一、亦謂二之―一」。

【⿰魚此】鮆に同じ。

【⿰魚此】シ。蔣氏切 紙　魚の名、身の狀鰷の如くにして赤き鱗あり。○〔山海經〕「汾-水多二―魚一」。

【⿰魚夭】シン。式荏切 寢　大魚。

【⿰魚末】鱴に同じ。

【鮇】ビ、ミ。無沸切 未　長身細鱗にして肉の白き一種の魚、いはな、嘉魚。

【鮈】コ、ク。恭于切 虞　鯢―は、魚の名。

【鮈】コウ、ク。擧后切 有　鯷―は、魚の名。

【⿰魚布】ホ、フ。博孤切 虞　普故切 遇　いるか（江-豚）。

【鮉】鯛に同じ。

【鮊】ハク、ビヤク。薄陌切 陌　ハ、ベ。步化切 禡　みごひ（鱎）。

【鮋】イウ、ユ。夷周切 尤　鯝に同じ、はえ。○〔郭璞〕「鯝鯈鰷―」。

【鮌】鯀に同じ。○〔國〕「變二―禹之功一」。

【鮎】デン、ネン。奴兼切 鹽　なまづ（鯷）。○〔爾〕「―別-名鯷」。

【鮍】ヒ、ビ。攀糜切 支　鰟魚。

【鮏】セイ、シヤウ。桑經切 青　㊀なまぐさし（魚-臭）。㊁一種の魚、さけ。

【⿰魚且】鱓に同じ。○〔山海經〕「其中

多レ—」。

【鮐】タイ。土來切 灰　イ、盈之切 支
㊀一種の魚、其の狀は科斗に似て腹は白く背上は青黑にして黃なる文あり、ふぐ、河豚。○〔漢〕「—鮆千斤」。
㊁老人の稱、其の肌肉消瘠にして皮膚にふぐの斑文の如きものあらはるるよりいふ。○〔揚雄〕「—老也、秦晉之郊、陳兗之會曰二耇—一」。

【鮑】ハウ、ベウ。薄巧切 巧
㊀鹽漬の魚、腐臭の魚、膊開の魚、しほづけうを、くさりうを、ひらきうを。○〔家語〕「如レ入二—魚之肆一」。
㊁鞄に同じ。○〔周〕「攻レ皮之工函—」。

【鮒】フ、ホ。符遇切 遇　ブ、ポ。逢逋切 虞
一種の川魚、ふな。○〔儀〕「魚用レ—」。
〔轍鮒〕車轍の中に苦み居る鮒、人の窮困に處るに喩へていふ語。○〔莊〕「車—之中有二—魚一」。
〔涸鮒〕水のかれたるあとに居る鮒、人の處を得ずして窮するに喩へていふ語。○〔庾信〕「——當レ思レ水」。

【鮓】サ、セ。側下切 馬
魚を鹽米などに漬けたるもの、つけうを、すし。○〔釋名〕「—滓也、以二鹽米一釀レ之如レ葅」。

【鮓】サ、ゼ。助駕切 禡
一種の海產物、くらげ。○〔博物志〕「東海有レ物狀如二凝血一、從廣方員、名曰二—魚一、無二頭目處所一、內無レ藏、衆蝦附レ之」。

【鮇】古文の鮨の字。

【⿰魚出】トツ、ドチ。土乙切 質
かむ（嚙）。

【⿰魚且】ショ、ソ。子余切 魚
鱓魚の屬、うなぎ。○〔山海經〕「女戚操二魚—一」。

【⿰魚冄】ゼン、ネン。而琰切 琰
魚の名。

六畫

【鮚】キツ、ゴチ。極乙切 質　ケツ、ケチ。吉屑切 屑
はまぐり（蚌）。○〔漢律〕「會稽郡獻二—醬一」。

【鮚】鮒に同じ。

【⿰魚充】鱐に同じ、ほしうを。

【鮛】シュク、ソク。式竹切 屋
鮪の小なるもの、こしび。○〔爾雅註〕「大者名二王鮪一、小者名レ—」。

【⿰魚舟】シウ、シュ。之由切 尤
魚の名。○〔山海經〕「英鞮之山涴水出焉、是多二—魚一」。

【鮜】コウ、グ。下遘切 宥
鯸。

【鮝】俗の鯗の字。

【⿰魚虫】キ。吁鬼切 尾
㊀みごひの赤き尾のもの、一說に、みごひの雄。
㊁すッぽん（黿）。

【鮞】ジ、ニ。人之切 支　ジュク、ニク。如六切 屋
㊀魚の子の未だ魚とならざるもの、はらゝご。○〔國〕「魚禁二鯤—一」。
㊁一種の魚。○〔呂氏春秋〕「魚之美者、洞庭之鱄、東海之—」。

【⿰魚米】ベイ、マイ。莫禮切 薺
魚の子、はらゝご。○〔古今注〕「魚子曰レ鯤、亦曰レ鯢、亦曰レ—、言如レ散二稻米一」。

【⿰魚血】ジク、ニク。而六切 屋
ケキ、キヤク。呼臭切 職
魚の子。

【鮠】クワイ、ゲ。五同切 灰
鮎に似て大いなる一種の魚、口小さく色白し、背に肉の鬐あり、一說に、鮧の小さきもの、こなまづ、又、一說に鮧魚の口小さく背黃に腹白きもの。

【鮡】テウ、デウ。直紹切 篠　タウ、ドウ。田聊切 蕭
エウ。餘招切 蕭　タウ、ドウ。杜皓切 皓
鮎に似て白色なる一種の魚、一說に、鮠の小さきもの。

【⿰魚共】キヨウ、ク。居悚切 腫
うをのこ（鯤）、又鯷の子。

【鮢】シュ。鍾輸切 虞
魚の名。○〔山海經〕「—鱅似レ蝦無レ足」。

【鮣】イン。伊刃切 震
身の長さ三尺許りありて鱗無く四方印の如しといふ一種の魚。○〔左思〕「—龜鱕䱜」。

【鮤】レツ、レチ。良薛切 屑　レイ。力制切 霽
えつ（鱭魚）。○〔爾〕「—鱴刀」。

【⿰魚寺】鯡に同じ。

【鮥】ラク。歷各切 藥　カク。剛鶴切 藥
クワイ、エ。戶賄切 賄
しび、まぐろ。○〔爾〕「—鮛鮪」。

【鮦】トウ、ヅ。徒東切 東　チヨウ、ヂュ。直隴切 腫　傭容切 冬
一種の魚。○〔爾〕「鰹大—、小者鯢」。

【鮦】チウ、ヂュ。丈九切 有
—陽は、縣の名。

【鮧】イ。以知切 支　テイ、ダイ。杜奚切 齊
㊀鮧—は、鹽につけたる魚の腸、しほから。
㊁一種の魚、なまづ、口方に頭大きく尾小し、身は滑かにして鱗無し。○〔本草〕「—魚卽鯷也」。

【鮨】シ。蒸夷切 支
㊀魚の脂醬、しゝびしほ。
㊁魚の名、しび。

【鮨】キ、ギ。渠伊切 支
つけうを（鮓）。

【鮨】ケイ、カイ。研計切 霽

魚の名、首大きく其の音嬰兒の如く之を食すれば狂を已むとぞ。○[山海經]「諸-懷之水、西-流注二于囂-水一、其中多二—-魚一」。

【鮩】ハウ、ビヤウ。蒲猛切 梗 ヘイ、ビヤウ。部迥切 迥 ヒツ、ビチ。薄必切 質
白魚の別名、みごひ。

【鮧】イ。盈之切 支
鮧—は、ふぐ(河-豚)。

【鮪】ヰ。羽軌切 尾 イウ、ウ。云九切 有
魚の名、色青黑く頭小さくして嘴尖り口は頷の下に在り、しび、まぐろ、かぢき。○[詩]「鱣-—發-々」。

【鮫】カウ、ケウ。居肴切 肴
長大なる一種の魚、さめ、目青く頰赤く背上に鬣あり腹下に翅あり子は胎生にして子其の母の口より自由に腹に出入す、皮は厚く上に沙の如きもの著けり、用ひて刀劍の鞘柄などの飾となし、又、材角を磨り治むるに用ふ。○[荀]「楚人—革犀-兕以爲レ甲」。
(舟鮫) 官の名。○[左]「澤之萑-蒲—-—守レ之」。

【魱】
鮔に同じ。○[史]「—-鰽-蝚-離」。

【⿰魚吳】ク、ゴ。元俱切 ゴ、グ。訛胡切 虞
五矩切 麌
鮈—は、一種の魚。

【鮬】ホ、ブ。蒲故切 遇 コ、ク。空胡切 虞 ヒ、ビ。貧悲切 支 クワ、ケ。楷瓜切 麻
鰏—は、一種の小さき魚、鮒の子に似て黑し、たなご、にがぶな。○[爾]「鱊—鱖-鯞」。

【鮬】コ、ク。苦故切 遇
藏けたる魚子、しほから。

【鮭】ケイ、ケ。涓畦切 齊
ふぐ(河-豚)。○[論衡]「—肝死レ人」。

【鮭】カイ、ゲ。戸佳切 佳
調理したる魚菜の總稱、さかな。○[世說]「庾-杲之清-貧、毎-食三-韭、任-昉戲レ之曰、誰謂二庾-郎貧一、毎-食—-—菜常有二二-十-七-種一」。

【鮭】アイ、エ。烏媧切 麻
—-鼃は、神の名。

【鮭】クワ、ゲ。戸瓦切 馬
楚の冠の名。

【鮮】セン。相然切 先
㊀生魚、生肉、生食、なまうを、なまにく、なまもの。○[禮]「冬宜二—-羽一」。
㊁あらた(新)、なま(生)。○[書]「曁レ益播-奏二庶艱レ食—-食一」。
㊂よし(善)、みめよし(好)。○[詩]「籧-篨不レ—」。
㊃明潔、あきらか、いさぎよし、あざやか。○[易]「爲二蕃—一」。
(朝鮮) 國の名、卽ち、韓國。○[風俗通]「封二箕-子於—-—一」。
(芳鮮) 善き生魚にも鳥獸などのあたらしき肉にもいふ。○[傅毅]「酌二旨-酒一割二—-—一」。
(羣鮮) 種々の生肉。○[杜預]「貢二飛-禽之—-—一」。
(澄鮮) きよらかにすみたること。○[謝靈運]「空-水共—-—」。
(明鮮) 淸くあざやかなること。○[宋]「素-羽—-—」。
(肥鮮) こえたるよき肉。○[北]「—-—不レ食」。
(生鮮) 魚などのいきいきしたること。○[搜神記]「—-—可レ愛」。「—-—一」。
(嘉鮮) よき生魚。○[沈約]「碧-鱗朱-尾獻二—-—
(珍鮮) めづらしくあたらしきよき肉。○[權德輿]「雜-黍-肴—-—」。
(新鮮) あたらしきこと、又、其のもの。○[李咸用]「傾レ筐短-甑蒸二—-—一」。「—-—」。
(精鮮) あざやかにうつくし。○[蘇轍]二文-彩自
(纖鮮) 小鮮といふに同じ、こまかき魚。○[文同]「淸-淺多二—-—一」。

【鮮】セン。息淺切 銑
㊀つく(盡)。○[易]「君-子之道—矣」。
㊁すくなし。
(い)寡し。○[左]「—-食而寢」。
(ろ)乏し。○[書]「惠二—鰥-寡一」。
(は)罕なり。○[禮]「中-庸民—レ能久矣」。
㊂大いなる山。○[詩]「度二其—-原一」。
㊃誤りて獻に通じ用ふ、たてまつる。○[禮]「天-子乃—レ羔開レ冰」。
(淺鮮) 寡少なること。○[史]「至—-—矣」。

【鮯】カフ、コフ。葛合切 合
一種の魚。○[山海經]「深-澤有レ魚、其狀如レ鯉、而六-足鳥-尾名曰二—-—之魚一」。

【⿱如魚】ジヨ、ニヨ。人諸切 魚
魤の字の條を見よ。

【⿰魚多】音未だ詳かならず。
鮛の字の條を見よ。

【⿰魚宅】タ、テ。陟駕切 禡
㊀蛇に同じ。㊁つけうを(鮓)。

七畫

【鮵】タツ、ダチ。徒活切 曷
鱧の小さきもの。○[爾]「鰹大鮦、小者—」。

【鮶】クン、コン。拘云切 文
水—は、蟲の名。

【⿰魚殳】エキ、ヤク。營隻切 陌
魚の名、其の狀は鮎の如しといふ。

【⿰魚狄】テキ、チヤク。亭歷切 錫
馬—は、一種の魚、頰の肉麤くして美しとぞ。

【⿰魚巠】ケイ、ギヤウ。渠成切 庚 胡項切 迥
魴の一名、おしきうを。

【鮷】テイ、ダイ。田黎切 齊 大計切 霽
大鮎、おほなまづ。○[左思]「—-鱧鯋-鱨」。

【鮸】ベン、メン。美辨切 銑 武遠切 阮
一種の魚、にべ、いしもち、石頭魚、形はみごひの如く身扁くして細き鱗ありて頭の中に白き石二つあり、腹の内のうきぶくろは用ひて膠を製すべし。

【鮹】サウ、セウ。師交切 肴 セウ。思邀切 蕭
一種の魚、腹は馬鞭に似尾に兩岐ありて鞭鞘の如しといふ。

【鮺】 サ、セ。側下切 [馬]
つけうを、(藏-魚)。

【鮻】 魦に同じ。○[山海經]「姑-射-山有二—-魚一」。

【鯰】 鰺に同じ、つけうを。

【鮾】 ダイ、ヌ。奴罪切 [賄]
魚敗る、あざる。

【鮃】 フ。芳無切 [虞]
いるか、(江-豚)。

【鯆】 フウ、ブ。縛謀切 [尤]
蘆—は、鰡𩹄(かざみ)に似て細き文ある一種の魚。

【鮿】 テフ。陟渉切 [葉]
㊀婢—は、たなご、青衣魚。
㊁ひらきうを、(膊-魚)、又、志ほびきうを、(鹽-魚)。○[漢]「—-鮑千鈞」。

【鯯】 セツ、ゼチ。似絶切 [屑]
㊀魟の字の條を見よ。
㊁鮅—は、鰡鮮に似たる魚の名。

【鯀】 コン。古本切 [阮]
大魚。

【鯐】 エフ、乙業 [葉] イノ。憶笈
オフ。切　切 [緝]
志ほうを、(鮑)。

【鯠】 ラウ。盧當切 [陽]
鰽の字の條を見よ。

【鯁】 カウ、キヤウ。古杏切 [梗]
㊀魚骨、ほね。○[儀、註]「乾-魚近レ腴多二骨—一」。
㊁骨の喉にさはること。○[漢]「祝—在レ後」。
㊂梗に同じ、ふさがる。○[後漢]「至レ今爲レ—」。
㊃正直、たゞし。○[北]「剛—自立」。
(骨鯁) 忠直にして柔佞ならざること、又、其の者。○[史]「內空無二—-—之臣一」。
(忠鯁) 前に同じ。○[北]「立-言—-—」。
(誠鯁) 前に同じ。○[唐]「歎二其—-—一」。
(强鯁) 剛强不屈なること、又、其の者。○[唐]「居-易執-論—-—」。
(高鯁) 氣質などの高尙にして正直なること、又、其の者。○[唐]「性—-—不レ耐レ浮二沈於時一」。
(峭鯁) 性質などの嚴厲剛直なること。○[唐]「弱性—-—」。

【鯅】 テイ、ヂヤウ。唐丁切 [靑]
㊀鱘に同じ、ぎゞ、(䱂)。
㊁鯔の異名、ぼら。○[異魚圖贊]「鯔-魚極肦、一-鯁千-頭、名曰二跳—一」。

【鯅】 テイ、チヤウ。他頂切 [迥]
全魚の醬、志ほから。

【鯂】 ソ、ス。孫租切 [虞]
よみがへる、(蘇-生)。

【鯅】 セン。式連 テン。抽延
　　　　切　　　　切 [先]
シン、矢忍
ジン。切 [軫]
魚醬、ひしほ。

【鯆】 ホ、奔模 [虞]　普胡
フ。切　　　切 [麌]
江豚の別名、いるか。

【鯇】 クワン、戸板 [潸] コン、胡本
ゲン。切　　　ゴン。切
[阮] クワン、戸管 [旱] 胡玩
グワン。切　　切 [翰]
一種の魚、鱒に似て大いなり、江湖の閒に生ず、膾はなはだ苦し、あめのうを。

【鰷】 イウ、夷周 [尤] チウ、直由
ユ。切　　　ヂユ。切 [尤]
テウ、田聊
デウ。切 [蕭]
鮋に同じ、一種の小魚、はえ、(參-條-魚)。○[莊]「—-魚出-游」。

【鯈】 鰷に同じ。○[莊]「食二之鰌-—一」。

【鯉】 リ。良以切 [紙]
淡水に產する一種の魚、こひ、大いなるは五六尺に至る、脊の旁の鱗は頭より尾までに一䘵に三十六片ありて其の上に小さき黑點文あり、赤白黃の三種あり、神變し能く山湖を飛越すといひ傳へり。○[詩]「豈其食レ魚必河之—」。
(雙鯉) てがみ、書札、古人の手紙は封じたる𩺰鯉魚の形を爲したるより名づく。○[古樂府]「客從二遠方一來、遺レ我—-—魚」。
(赤鯉) ひごひ。○[古今注]「兗-州人呼二—-—一爲二「赤-驥一」。
(蘋鯉) 前に同じ。○[白居易]「—-—跳復沉」。
(紅鯉) 前に同じ。○[白居易]「炊レ稻烹二—-—一」。
(健鯉) いきいきしたるつよきこひ。○[余靖]「—-—呑二香-釣一」。
(鮮鯉) いきたるこひ。○[七發]「—-—之鱠」。

【鯆】 ボウ、ム。莫浮切 [尤]
鰕に似たる一種の小魚、こにべ、黃花魚、黃靈魚。

【鯆】 バイ、メ。謨杯切 [灰]
魚の行く貌にいふ字。

【鯴】 鰡に同じ。

【鰲】 サン。千安切 [寒]
鰶に同じ、はえの別名。

【鯊】 サ、師加 [麻] 所嫁
セ。切　　　切 [禡]
㊀はぜに似たる一種の小魚、すなふき、頭は方にして細く尖り、皮は黃にして黑き斑紋あり、常に水底に沈み口を張りて沙を吹く、吹沙小魚。○[詩]「魚麗二于罶一鱨—」。
㊁ふかざめ、(鮫)。○[馬定國]「利-劒靑-—定」。

【魦】 前條に同じ。

【鯙】 キヤウ、ガウ。渠王切 [陽]
大魚。

【鯾】 ギフ、ゴフ。逆及切 [緝]
魚衆し。

【八畫】

【鯆】 魴に同じ。

【鯙】 䱙に同じ、うをあみ。

【鯔】 シ。莊持切 [支]
㊀江海の淺水中に生ずる一種の魚、ぼら、身圓く頭ひらたし色黑く腹のみは白し。○[本草]「—-魚似レ鯉」。
㊁鯢に似たる一種の海產動物、さゞ。○[左思]「鮫—琵-琶」。

【鯕】キ、キ。渠之切 [支]
おしきうを、(鯿)。

【鯖】セイ、シヤウ。諸成切 [庚]
煑魚、煎肉、すべて調理したる魚類肉類の稱、さかな。○「西京雜記」「婁護遊ニ五侯之門一、毎旦五侯餽ニ餉之一、婁合レ所レ餉爲レ一世稱ニ五侯鯖一」。

【鯖】セイ、シヤウ。倉經切 [青]
⊖鯇に似たる一種の魚、さば、鱗甚だ細かく色青し。○「本草圖經」「青魚古作ニ一字一」。
⊜鰐魚の屬。○「左思」「黿-鼉-一-鰐」。

【鯗】シヤウ、サウ。息兩切 [養]
ひうを、(乾-魚-腊)。○「吳地記」「思ニ海-中所レ食魚一、所-司云、暴乾矣、索食レ之甚美、因書ニ美下魚一爲ニ一字一」。

【鮒】鮒に同じ。

【鯘】ダイ、ネ。弩罪切 [賄]
魚敗る、くさる。

【鮛】鯸に同じ。○「論衡」「鯸-一殺レ人」。

【鯌】シヤク、サク。七約切 サク、シヤク。倉各切 [藥]
さめ、(鮫)。○「本草」「郎裝ニ刀-靶一一一魚皮也」。

【鯙】ハイ、ベ。薄佳切 [佳] ヒ、ビ。班糜切 [支] 匹寐切 [寘]

まごひ、○「博雅」「黑-鯉謂ニ之一一」。

【鯚】キ。居悸切 [寘]
喙鋭く鱗細き一種の魚。

【鯠】ダイ、ナイ。奴帶切 [泰]
鰶-一は、このしろ。

【鯛】テウ。丁聊切 [蕭]
⊖魚の名。⊜骨の耑の脆きもの。

【鯜】セフ、ソフ。七接切 [葉]
魚の名、たなご。

【鯛】ホウ。匹亙切 [徑]
一種の魚、形河豚に似て小さく、大いさ三四寸に過ぎず、背青く斑文あり鱗無く尾岐かれず腹白く刺あり、すゞめうを、すゞめふぐ。

【鯺】キョ、コ。居御切 [御]
一種の魚、形は石首魚(にべ)に似て三つの牙あり鐵鋸の如し、一說に石首魚の雌なりと。

【鮔】鯺に同じ。

【鯿】ヘツ、ヘチ。必結切 [屑]
魚の泳ぎ行く貌にいふ字。

【鯝】コ、ク。古暮切 [遇]
魚腸、魚胃、はらわた。○「類篇」「杭越之閒謂ニ魚-胃一爲レ一一」。
(黄鯝) 魚の名、狀白魚に似て長さは一尺許にして身は扁くして細き鱗あり腸腹に脂多し。

【鯼】鰿に同じ。

【鯼】フン、ホン。芳問切 [問] ホン、ボン。普悶切 [願]
魚の小さき者、一說に、魚の名。

【鯞】シウ、シユ。之九切 [有]
鱖-一は、一種の小魚、たなご。○「爾」「鱊-鮬鱖-一」。

【鰊】トウ、ツ。德紅切 [東]
鯉に似たる一種の魚。○「郭璞」「鰿-一鯠鮐」。

【鯀】クワ、ゲ。戶瓦切 [馬]
なまづ、(鮎)。

【鯯】キク、コク。居六切 [屋] キョク、コク。區玉切 [沃]
いろか、(鱄)。

【鯠】ライ。郎才切 [灰]
⊖うなぎ、(鰻)。⊜鯬-一は、おほなまづ、(鮧)。

【鯆】俗の鮒の字。

【鯡】ヒ。方未切 [未]
魚の子、一說に、海魚の名。

【鮌】鯀に同じ。

【鯢】ゲイ、ガイ。五稽切 [齊]
⊖山谷の中に生ずる一種の動物、形はなまづに似て四脚長尾あり、大いなるは七八尺に及び、背の皮はいぼがへるの背の如く黑き斑あり、項の邊には疣多く聲は小兒の啼くが如し、さんせうのうを、古昔は鯨の雌なりといへり。○「爾」「一一大者謂ニ之鰕一」。⊜小魚、こざかな。○「莊」「趣ニ灌-瀆一守ニ一-鮒一」。

【鯣】エキ、ヤク。夷益切 [陌]
鱺-一は、魚の名。

【䰳】アク。遏鄂切 [藥]
蛇の如き魚。

【鯤】コン。公渾切 [元]
⊖魚の子。○「國」「魚禁ニ一-鮞一」。⊜大魚、一說に、鯨。○「莊」「北-冥有レ魚其名爲レ一」。

【鯥】リク、ロク。力竹切 [屋]
其の狀牛の如く、蛇尾にして翼ありといふ一種の動物。○「郭璞」「鯥-一踦ニ躅於垠-埆一」。

【鯖】サウ、シヤウ。側莖切 [庚]
魚の名、別名は、竹丁。

【鯙】シユツ、シユチ。即律切 [質]
はえ、(鯈)、一說に、鮪の別名。

【鮨】カン、ケン。乎韽切 [陷] ケン。吉念切 [豔] タウ、トウ。他刀切 [豪]
魚の名。

【鯦】キウ、グ。巨九切 [有] 巨救切 [宥]
ひらこのしろ、(當-魱)。

【鰌】シウ、ジユ。徐由切 [尤]

魚の名、鯿に似て大いなる鱗あり、肥えて美し、鯁多し。

【鮥】アイ、エ。倚亥切 [蟹]
まぐろ、(叔鮪)。

【鯧】シヤウ、サウ。尺良切 [陽]
—鯸は、魚の名、まながつを、鯿に似て頭上突き起こりて背に連なる㒵圓く肉厚し。

【鯨】ケイ、ギヤウ。渠京切 [庚]　キヤウ、ガウ。渠良切 [陽]
古昔は魚の屬となしたる最大なる一種の動物、くぢら、身の長さ數丈に及び、鱗毛無く形肥え圓くして頂の上頸の前に孔あり、潮を吹きて呼吸す。○[左]「取二其—鯢一」。
(長鯨) おほくぢら。○[吳都賦]「——吞航」。
(修鯨) 前に同じ。○[許敬宗]「長策挫二——一」。
(巨鯨) 前に同じ。○[抱朴]「見二——一而知二寸介之細一」。

【鯩】リン。龍春切 [眞]
魚の名、其の狀鮒の如くにして黑き文あり。○[山海經]「來需之水多二——魚一」。

【鯪】リヨウ、ロウ。閭承切 [蒸]
—魚は、—に—鯉ともいふ、鯉に似たる一種の動物、せんざんかふ、四足ありて背は三角菱にて覆はる、其の皮を穿山甲といひ、又、之を藥用として石—といふ。○[楚辭]「——魚何所」。

【鯫】ソウ、ス。將侯切　シウ、ジユ。七尤切 [尤]　シユ、ス。七逾切 [虞]　セン。七演切 [銑]
㊀白魚、みごひ、一說に、雜小魚、ざこ、又、一說に、䱅魚、ひらきうを。○[史]「—千石」。
㊁小人の貌にいふ字、又、自己の謙稱。○[史]「—生說レ我」。

【鯯】セイ。征例切 [霽]
㊀醬に爲るに適する一種の魚。○[異魚圖贊]「——魚之味其美在レ額」。
㊁鰶に同じ、このしろ。

【鯬】リ。良脂切 [支]　レイ、ライ。郎奚切 [齊]
鯠の字の條を見よ。

【鯭】蜢に同じ。

【魚亞】ア、エ。於加切 [麻]
—鮻は、小さき鹹魚、ぎゞ。

【鯮】鯼に同じ。○[陳藏器本草]「—魚多食宜レ人」。

九畫

【鯶】鯇に同じ。

【鯷】テイ、ダイ。大計切 [霽]　田黎切 [齊]　シ、ジ。是義切 [寘]　上紙切 [紙]
なまづ、(鮧)。○[戰]「—冠秫縫」。

【鯸】コウ、グ。胡溝切 [尤]
ふぐ、(河魨)。

【魚耶】ヤ、エ。以遮切 [麻]

蛇に似て長さ一丈ばかりありといふ一種の魚。

【鯹】鮏に同じ、なまぐさし。

【魚奏】ソウ、ス。千候切 [宥]
—鯦は、蚌の屬。

【鯺】鱪に同じ。

【魚胃】井。于貴切 [未]
一種の魚。○[山海經]「樂游之山桃水有二—魚一」。

【魚亙】コウ。古恆切 [蒸]
えび、(鮪)。○[漢]「—鰽漸離」。

【鯼】ソウ、ス。子紅切 [東]
いしもち、にべ、(石首魚)。○[郭璞]「—鮆順レ時而往還」。

【鯽】セキ、シヤク。資昔切 [陌]　シヨク、シキ。子力切 [職]
ふな、(鮒)。○[杜甫]「鮮—銀絲膾」。

【鯽】鰂に同じ。

【鯾】ヘン、ベン。卑連切 [先]
おしきうを、(魴)。○[山海經]「大—居二海中一」。

【鯿】ヘン、ベン。卑連切 [先]　ハン、ヘン。布還切 [刪]
おしきうを、(魴)。○[宋玉]「忠不レ出二乎鮒—一」。

【鰂】ソク。疾則切 [職]

鰞—は、一種の海棲動物、いか、狀は囊の如くにして八足あり、背上にたゞ兩頭尖れる一骨ありて其の色白くして脆し、之を海鰾鮹(いかのかふ)といふ、黑魚、墨魚。

【魚契】ガク、ギヤク。五陌切 [陌]
鰏—は、魚の名。

【鰅】ギヨウ、グ。魚容切 [冬]　ク、ゴ。遇俱切 [虞]
ぎゞ、(鮠)。○[漢]「—鰫鰬魠」。

【鰆】シユン。樞倫切 [眞]
海魚の名。

【鰇】ジウ、ニユ。而由切 [尤]
するめ、いか。

【魚亭】テイ、ヂヤウ。唐丁切 [庚]
ぎゞ、(鮠)。

【鰈】タフ、トフ。吐盍切 [合]　テフ、デフ。達協切 [葉]
身扁き一種の魚、ひらめ、かれひ、比目魚、板魚、王餘魚、婢屣魚、奴屩魚。○[爾雅]「東方有二比目魚一不レ比不レ行、其名謂二之—一」。

【鰈】鯜に同じ、たなご。

【鰈】サフ、ゼフ。實洽切 [洽]
鯽の字の條を見よ。

【鰉】クワウ、ワウ。胡光切 [陽]
鱑に同じ、鱣の名。

【鰋】エン、オン。隱幰切 [阮]

なまづ、(鮎)。○〔詩〕「魚麗二于罶一——鯉」。

【鯡】ヒ。甫微切 微
鯡に似たる一種の魚。

【⿰魚重】鮦に同じ。

【鰌】シウ、シユ。此由切 尤
㊀鰻に似たる一種の魚、全身滑かにして握り難し、下き田淺き沼などに生じて泥中に潛む、どぢやう。○〔莊〕「—然乎哉」。
㊁海——は、
(い)くぢら(鯨)。○〔水經〕「海——魚長數千里、穴二居海底一」。
(ろ)兵船の名。○〔宋〕「官軍以二海——船一衝二敵軍一」。「後」。
㊂踏に同じ、ふむ。○〔荀〕「大燕—二吾」

【鰍】鰌に同じ。

【鰎】ケン、コン。紀偃切 阮
鹽を微用したる鮑魚、しほづけ。

【鯷】テイ、ダイ。田黎切 齊
にんぎよ。

【鯷】テイ、タイ。丁計切 霽
大いなる鯷。

【鰐】ガク。五各切 藥
熱帶の地に産する一種の猛惡なる動物、わに、其の形は蜥蜴に似て長さ數丈に及び四足ありて全身甲に覆はる、尾と喙と共に長し。○〔左思〕「黿鼉鮪——」。

【鰑】ヤウ。余章切 陽
あかうなぎ。

【鰒】フク、ボク。房六切 屋　ハク、ボク。弼角切 覺
蛤に似たる一種の介蟲、殼偏くして蓋無く海中の石に貼著す、あはび、石決明。○〔後漢〕「詣レ闕上二言獻一——魚一」。

【鮁】ハ、ベ。白駕切 禡　蒲巴切 麻
鮊に同じ、海魚。

【鰓】サイ。桑才切 灰
㊀魚の頰中の骨、えら、あぎと。○〔宋〕「裴二鏤魚——中骨一號二魚媚子一」。
㊁懼るゝ貌にいふ字。○〔後漢〕「———常恐」。

【鰔】カン、ケン。居咸切 咸　カン、コン。古禫切 感　古斬切 豏
鰜に同じ、黃頰魚。

【鰕】カ、ゲ。何加切 麻
㊀鯢魚、鯢魚、さんせうのうを、めくぢら、とど。○〔爾〕「鯢大者謂二之——」。
㊁蝦に同じ、えび。○〔急就篇、註〕「今之海——」。

【鰭】鰭に同じ。

【⿰魚叟】鯁の本字。

【鯶】カン。侯幹切 翰
鯇の字を見よ。

【鰗】コ、グ。洪孤切 虞

ふぐ、(河-豚)。

十畫

【鰜】ケン、コン。堅嫌切 鹽　カン、ゲン。胡讒切 咸
㊀かれひ(比-目-魚)。㊁にしん(鰊)。

【鰜】ケン。吉念切 豔
大いにして青き一種の魚。

【鱄】鯆に同じ、いるか。

【鰝】カウ、ゴウ。胡老切 皓　カク。黑各切 藥
大いなるえび。○〔爾〕「—大鰕」。

【⿰魚翁】ヲウ、ウ。烏公切 東
魚の名。○〔本草〕「漳州海中有二海——魚一」。

【鰞】ヲ、ウ。哀都切 虞
—鰂は、いか。

【⿰魚郎】鯨に同じ。

【鱭】セイ、サイ。前西切 齊
漢水より出づる鯉に似たる小魚。

【⿰魚唐】タウ、ダウ。徒郎切 陽
ぎぎ、(魤)。

【⿰魚鬼】ヰ。於鬼切 尾
鬼頭魚、はりせんぼん。

【鰟】魴に同じ。

【鰠】サウ、ソウ。蘇遭切 豪
魚の名。

【⿰魚鬲】カク、キャク。古伯切 陌
ぎぎ、(魤)。

【⿰魚鬲】レキ、リヤク。來的切 錫
鯠の字を見よ。

【鰢】バ、メ。母下切 馬
水馬、うみえび。

【鰣】シ、ジ。市之切 支
魴に似たる一種の魚、ひらこのしろ、肉肥えて美なり。

【⿰魚攵】ギョ、ゴ。牛居切 魚　魚據切 御
漁に同じ。○〔周〕「掌二以レ時—爲レ梁」。

【鰤】シ。霜夷切 支
老魚、一説に、毒ある魚。

【鰥】クワン、ゲン。姑頑切 刪
㊀一種の大魚。○〔詩〕「其魚魴—」。
㊁無妻の男子、やもを。○〔書〕「有レ—在レ下曰二虞舜一」。
㊂愁悒して寢に就くも目を閉ぢて寐ぬる能はざる貌にいふ字。○〔釋名〕「目恆———然」。
㊃瘝に同じ、やむ。○〔爾〕「—病也」。
(貧窮)老いて妻なく貧しきもの。○〔魏〕「賜二北鎮人———無レ妻者一」。

【鰥】鯤に同じ、魚の子。

【鰥】クワン、ゲン。古幻切 諫
視る貌にいふ字、みる。

【鰦】シ。津之切 支

はえ、（白-條-魚）。○〔六書故〕「今之鰷-淡水中者、長不レ踰レ尺、摶-身椎-首而肥、俗謂ニ之ー一、海亦有レ之」。

【鯫】シウ、シユ。疎鳩切 尤 緇に同じ、まりがい。○〔周〕「必ー一ニ其牛-後ニ」。

【鰧】トウ、ドウ。徒登切 蒸 身蒼く尾赤き一種の魚。○〔山海經〕「合-水多ニー-魚一、狀如レ鱖」。

【鰧】チン、ヂン。直稔切 寢 鰕に似て赤き文ある一種の魚。

【鰨】タフ、トフ。託盍切 合 さんせうのうを、（鯢-魚）。○〔漢〕「禺-々鮭ー」。

【鰨】テフ、デフ。達協切 葉 かれひ、（比-目-魚）。

【魶】ダフ、ノフ。奴答切 合 鼈に似て甲無く尾ありて足無き動物、口は腹の下にあり。

【鰩】エウ。餘招切 蕭 一種の魚、身の長さ尺許にして形はすばしりの如し、兩脇の鰭は鳥の翼に似て能く海上を直進飛行す、背は蒼く首白く喙赤し、とびのうを、飛魚。○〔呂氏春秋〕「雚-水之魚名曰レー其狀若レ鯉而有レ翼」。

【鮺】サ、セ。側下切 馬 つけうを、（藏-魚）。○〔周、註〕「若ニ荊-州

之ー-魚ニ。

【鱧】ガイ。魚開切 灰 鯢ーは、ながかに、（雄-蟹）。

【䱻】クワツ、グワチ。戸八切 黠 身蛇の如くにして四つの足ありといふ動物。○〔郭璞〕「ー鰊鰧鮋」。

【鰪】カフ、コフ。谷盍切 アフ、オフ。安盍切 合 ー鰨は、鰿（ふな）に似て小さき一種の魚、まながつを。

【鰫】ヨウ、ユ。余封切 冬 尹竦切 腫 鱅に同じ。

【鰿】セキ、シヤク。資昔切 陌 ふな、（鮒）。

【鰬】ケン、ゲン。渠焉切 先 うみへび、（鱓）。○〔史〕「鰅鱅ー魠」。

【鰭】キ、ギ。渠脂切 支 ㊀魚の脊上の鬣、ひれ。○〔史〕「揵レー掉レ尾」。㊁鮨に同じ、つけうを。
（鱗鰭）うろことひれと。○〔水經、註〕「ーー首-尾」。
（修鰭）ながきひれ ○〔郝經〕「雄-鯨偃ニーーニ」。
（鼓鰭）ひれに力をいれて水をきる。○〔符子〕「奮レ鱗ー」。「ーレー」。
（軒鰭）ひれを振ひたつること。○〔前趙錄〕「ーレー躍」

【䱼】テン。知演切 銑 セン。之膳切 霰 一種の魚。○〔臨海異物志〕「ー魚如レ指、長七-八-寸、但有ニ脊-骨一、宜レ作レ羹」。

【鮩】鯾に同じ、おしきうを。○〔石鼓文〕「黃-帛其ー」。

【鰛】音詳かならず。馬鮫（さはら）に似て小なる魚。

【鮺】鮺に同じ。

【鯖】セイ、シヤウ。諸成切 庚 醋にて魚を煮るを、すいり。

十一畫

【鰱】レン。陵延切 先 たなご、（鱮）。○〔郭璞〕「鯪鯉鰱ー」。

【鰲】ガウ、ゴウ。牛刀切 豪 魚の名、一說に、俗の鼇の字。

【鱋】ロウ、郎侯切 尤 ル。力朱切 虞 こひ、（鯉）、又、にしん、（大-青-魚）。

【鰷】トウ、ドウ。徒登切 蒸 鰧に同じ。○〔郭璞〕「䱻鰊ー鮋」。

【鰳】ロク。歷得切 職 一種の魚、ひら、狀は鰣魚の如くにして首小さく鱗細かし、腹の下にかたき刺あり。○〔正字通〕「乾曰ニー-鯗ニ」。

【鰴】キ。吁章切 微 魚の大きくして力多きもの丶稱。

【䲒】ヂヨク、ニキ。昵力切 職 鯇に似て小さき一種の魚。

【鰶】セイ。子例切 霽 このしろ、（鯯）。

【鰷】テウ、田聊切 蕭 セウ。先了切 篠 はえ、（鯈）。○〔詩〕「ー鱨鰋鯉」。

【鰲】シ。脂利切 支 魚の名。○〔山海經〕「嵎-山江-水出焉、其中多ニー-魚ニ」。

【鰵】鰻に同じ。

【鰸】ク、コ。豈倶切 ウ、ヲ。邕倶切 虞 委羽切 麌 魚の名、蝦に似て足無し、長さ寸許ありて釵の股の如し。

【鰹】ケン。經天切 先 鮦の大いなるもの。

【䲋】シン。疏臻切 眞 魚の尾長し。○〔詩〕「有ニー其尾ニ」。

【鰄】井。紆貴切 未 蛇に似たる一種の魚。

【鰺】鱢の字の譌り。

【鰻】バン、謨官切 寒 マン。無販切 願 形は鱓の如くにて鱗甲なき一種の魚、うなぎ。○〔本草〕「ーー-鱺似レ鱓而腹大」。

【鰼】シフ。席入切 緝 どぢやう、（鰌）。○〔爾、疏〕「ーー一-名鰌、穴ニ於泥-中ニ」。

【鰽】シウ、ジユ。徐由切 尤

鮥に同じ、形は鯿に似て鱗大いなり、肉肥えて美しく鯁多し。○〔異物志〕「——魚——鳥所レ化」。

【鰾】ヘウ、ベウ。婢少切〔篠〕 ㊀魚胞、いをのふえ、うきぶくろ。○〔集韻〕「魚——可レ作レ膠」。㊁鱁鮧の別名、にべ。

【鰿】セキ、シヤク。資昔切〔陌〕 サク、シヤク。側革切〔陌〕 ㊀蟦に同じ、小さき貝。○〔爾〕「貝小者——」。㊁ふな(鯽)。○〔楚辭〕「煎レ——臛レ雀」。

【鰟】鯿に同じ。○〔石鼓文〕「又——又鮊」。

【鱀】キ、ゲ。其既切〔未〕 キ、ギ。巨至切〔寘〕 鯖の屬、さめ、腹大きく喙小さく銳く長き齒列らなり生ず、鼻は額の上に在り能く聲を發す大いなるものは丈餘に至る、能く細魚を取りて食らふ。○〔爾〕「——是鱁」。

【鱀】前條に同じ。

【鱁】チク、ドク。直六切〔屋〕 ㊀鮧の字の條を見よ。㊁鱁に同じ。

【鱂】シヤウ、サウ。卽良切〔陽〕 鰪——は、なまがつを。

【鱃】シウ、シユ。雌由切〔尤〕 こひ(鯉)、一說に、どぢやう(鰌)、又一說に、鯆。

【鱢】サウ、ソウ。子晧切〔晧〕 サ。損果切〔哿〕 狀鯉に似て雞の足の如きものある一種の魚といふ。○〔山海經〕「多二——魚一」。

【鱳】サウ、ゼウ。鋤交切〔肴〕 魚の子。

【鱄】セン。職緣切〔先〕 魚の大いなるものゝ稱。○〔儀〕「——鮒九、腊」。

【鱄】タン、ダン。徒官切〔寒〕 セン、ゼン。主兗切〔銑〕 一種の魚にて其の狀鮒に似て彘の尾の如きものあり其の音豚の如しといふ。○〔山海經〕「黑水南流注二于海一其中多二——魚一」。

【鱄】レン、ラン。龍眷切〔霰〕 人の名。○〔左〕「吾不レ獲二——也使レ主二社稷一」。

【鱅】シヨウ、ジユ。常容切 ヨウ、ユ。余封切〔冬〕 鰱に似て黑き一種の魚。○〔史〕「鰅——鰬魠」。

【鰵】ビン、ミン。眉殞切〔軫〕 鰲身にて鱸に類し首に石ありて口大いなる一種の魚。

【䲅】キ。居爲切〔支〕

ふぐ(河豚)。

【鱆】シヤウ、サウ。照昌切〔陽〕 たこ、一名は、望潮魚。

十二畫

【鱉】鼈に同じ、すつぽん。○〔莊〕「東海之——」。

【鱊】ヰツ、ヰチ。餘律切 シユツ、ジユチ。食聿切〔質〕 コツ、クチ。古滑切〔月〕 ケツ、ケチ。古穴切〔屑〕 鯚の字の條を見よ。

【鱋】キヨ、コ。丘於切〔魚〕 魼に同じ、かれひ。○〔史〕「禺々——魶」。

【鰐】俗の鱷の字。

【䲉】シ。相支切〔支〕 魚の名、一說に、鮪の別名。

【鰖】タ。他果切〔哿〕 キ。翾規切〔支〕 魚の子の巳に生まれたるもの。

【鰖】ヰ。以水切〔紙〕 蟹の子。

【鰖】タ、ダ。徒臥切〔箇〕 ㊀前々條に同じ。㊁魚の鱗を去れるもの。

【鱘】シン、ジン。鋤針切〔侵〕 魚の名、一說に、つけうを(鱵)。

【鱕】俗の鱏の字。

【鱓】サン、ゼン。雛睆切〔潸〕 骨無き一種の魚。

【鱌】シヤウ、ザウ。似兩切〔養〕 魟に似て鼻の長き一種の魚。

【鱍】鮁に同じ。

【鰯】俗の鰯の字。

【鱎】ケウ。居夭切〔篠〕 白魚の別名、みごひ。○〔說苑〕「迎而吸レ之者陽——也」。

【鱏】ジン。徐林切〔侵〕 頷下に口ある一種の魚、かぢき、かぢさほし。○〔後漢〕「魴鱮——鯿」。

【鱐】シユク、ソク。息六切〔屋〕

シウ、シユ。思留切〔尤〕 ひうを(乾魚)。○〔禮〕「夏宜二腒——一」。

【鱑】クワウ、ワウ。胡光切〔陽〕 魚の名。

【鰞】キ。許爲切 ヰ。于嬀切〔支〕 大魚、おほうを。

【鱒】ソン、ゾン。才本切〔阮〕 セン、ザン。士晩切〔阮〕 テン。杜兗切〔銑〕 鯶魚に似たる一種の魚、鱗甚だ細かく眼赤し、ます、あかめうを。○〔詩〕「九罭之魚——魴」。

【鱒】ソン、ゾン。徂悶切〔願〕

魚泥中に入る。

【𩸞】 俗の鰻の字。

【𩻔】 鮦に同じ。

【鱹】 クワン。苦緩切 [旱] 魚の名。

【𩻛】 クワン。苦喚切 [翰] 魚綱に觸る。

【鱓】 セン、ゼン。上演切 [銑] 魚の名、蛇に似て體に鱗無くぬめり有り、夏淺水の泥窟の中に生ず、うみへび。○〔淮〕「蛇—著レ泥」。

【鱓】 鼉に同じ。○〔史〕「黿—與處」。

【鱔】 セン、ゼン。上演切 [銑] 鱓に同じ。

【鱕】 ハン、バン。方煩切 [元] 鼻の前に横骨ありて斤斧の形を成せる一種の魚、かのざめ。○〔左思〕「鯽龜—鰭」。

【鱖】 ケイ、姑衞切 [霽] エ。　ケツ、居月切 [月] コチ。　エツ、於月切 [月] チチ。　キ。居逵切 [微] 鱖の字の條を見よ。

【鱗】 リン。離珍切 [眞] ㊀魚蛇などの皮の上に附著せる小さく薄くして堅きもの、いろこ、うろこ。○〔周〕「宜二於—物一」。㊁うろこある動物、特に、魚の類。○〔禮〕「其蟲—」。

(逆鱗) 龍の喉下にさかうろこ有り之にふるゝ者ある時は怒りて其の者を殺すといふより人主は龍に比しあれば帝王の怒りに喩へていふ語。○〔史〕「人主亦有二——一」。
(恬鱗) やすらかなる魚。○〔晉〕「川無二——一」。
(枯鱗) 乾魚のこと。○〔晉〕「咳-唾足二以活一——一」。
(伏鱗) 水中に深く潛み居る魚。○〔子華〕「飛-翼——」。
(潛鱗) 前に同じ。○〔孫逖〕「還見レ躍二——一」。
(窮鱗) 魚に喩へて人の窮困し居るにいふ語。○〔劉長卿〕「滄-海一——」。
(細鱗) こまかきうろこ、又、小魚。○〔蘇軾〕「巨-口——」。
(巨鱗) おほいなるうろこ、又、大魚。○〔羽獵賦〕「—乘二——一」。
(驚鱗) おどろきてちかづかならざる魚。○〔柳宗元〕「瀰-急——奔」。
(活鱗) いきたる魚。○〔白居易〕「萬-里無二——一」。
(常鱗) 凡鱗といふに同じ、つねなみの魚。○〔韓愈〕「——凡-介」。
(六々鱗) 鯉魚の稱、頭より尾まで一條に三十六枚のうろこあるよりいふ。○〔陸游〕「秋-江———」。
(吞舟鱗) 大魚。○〔黃庭堅〕「或登二——之一」。
(橫海鱗) 前に同じ、又、かりて大人物の意に用ふるとあり。○〔李白〕「難レ容———」。

【鮾】 ダイ、チ。諸毎切 [賄] やぶろ(敗)。

【鱳】 クワ。古火切 [哿] 魚の名。○〔張融〕「鯀鯈—鯖」。

十三畫

【鱝】 フン、ボン。房問切 [問] 一種の魚、形は大いなる荷の葉の如く口は腹の下に在り目は額の上に在り尾長くして節あり能く人を螫す。

【鱞】 鰥に同じ。○〔楚辭〕「父何以—」。

【鱸】 ロ、ル。郎古切 [麌] 魚の名。

【𩻵】 ギ。魚羇切 [支] 魚の子。

【䲒】 カイ、ゲ。胡買切 [蟹] ㊀蟹に同じ。㊁鮦。

【鱟】 コウ、胡遘切 [宥] ヨク。烏酷切 [沃] アク、オク。乙角切 [覺] 蟹の一種、色青黑し、長さ五六尺に達するものあり、短き十二本の足を具ふ、かぶとがに。○〔左思〕「乘二—黿鼉一」。

【䲆】 ジョウ、ニュ。而用切 [宋] 鮐魚、さめ。

【鱠】 膾に同じ。○〔博物志〕「食二魚—一」。

【鱡】 鰂に同じ。

【鱢】 サウ、ソウ。蘇遭切 [豪] なまぐさし(鮏-臭)。

【鱣】 テン。張連切 [先] タン、唐干切 [寒] ダン。鱏に似たる一種の大魚、口は頷下にあり鱗なくして甲あり、肉の黃なるより江東にては黃魚と稱す。○〔漢〕「橫二江-湖一之—鯨」。

【鱣】 セン、ゼン。上演切 [銑] 鱓に同じ。○〔後漢〕「銜二三—魚一」。

【鱤】 カン、コン。古禫切 [感] 黃頰魚。○〔山海經〕「減-水多二—魚一」。

【鱜】 アウ、於到切 [號] オウ。イウ、於九切 [有] ウ。どぢやう(鰌)。

【𩼝】 ゲン。魚檢切 [琰] ゲン、牛廉切 [鹽] ゴン。㊀—鯛は、魚の名。㊁—喁は、魚の口の動く貌にいふ語。

【鱷】 ケイ、ギヤウ。渠京切 [庚] キヤウ、ガウ。巨良切 [陽] 鯨に同じ。○〔漢〕「取二其—鯢一」。

【鱦】 ショウ、ソウ。神陵切 [蒸] ヨウ、オウ。以證切 [徑] 小魚、又、魚子。○〔家語〕「魚之大者名爲レ鱒、吾大-夫愛レ之、其小者名レ—、吾大-夫欲レ長レ之」。

【𩽘】 バウ、ミヤウ。莫幸切 [梗] 蛙の屬。

【鱧】 レイ、ライ。盧啓切 [薺] 鱺に同じ、うなぎ。○〔詩〕「魚麗二于罶一、魴—」。

【䲞】 ラ。落戈切 [歌] ル井。倫爲切 [支] 魚の名。

【鱳】 ゲフ、ゴフ。魚怯切 [葉] 魚の盛んなるにいふ字。

【鱨】シヤウ、ザウ。市羊切〔陽〕
黃頰魚の別名。○〔詩〕「魚麗二于罶一—鯊」。

【魚普】ホ、フ。普姑切〔虞〕
いるか(江豚)。○〔顧野王〕「—魚一名江豚、見レ風則湧」。

【魚嗇】シヤウ、ザウ。從將切〔陽〕
魚の名。○〔閩中海錯疏〕「黃—鬣黃色」。

十四畫

【魚聚】ソウ、ジユ。徐后切〔有〕
みごひ(白魚)。

【鱬】ジユ、ニユ。人朱切〔虞〕
魚身人面のものなりといふ。

【魚賓】ヘン。卑眠切〔先〕 ヒン。卑民切〔眞〕
鯿に同じ。

【魚壽】チウ、ヂユ。陳留切〔尤〕
魚の大いなるもの。○〔家語〕「魚之大者名爲レ—」。

【鱭】鮆に同じ。

【鱮】シヨ、ゾ。象呂切〔語〕
たなご(鰱)。○〔詩〕「其魚魴—」。

【鱮】ヨ。羊諸切〔魚〕
鱮—は、魚の名。

【鱯】コ、グ。胡故切〔遇〕 クワ、ゲ。胡化切〔禡〕

【魚霍】クワク、ガク。胡陌切〔陌〕
鮎の屬。○〔山海經〕「其中有二—黽一」。

【漁】ギヨ、ゴ。語居切〔魚〕
魚を捕らふ、すなどる。

十五畫

【魚節】セツ、セチ。子結切〔屑〕
魚の名。

【魚黎】リ。力脂切〔支〕
うなぎ(鰻)。

【魚樂】ラク。歷各切〔藥〕 ロク。盧谷切〔屋〕
魚の名。

【魚樂】レキ、リヤク。狼狄切〔錫〕
鯿に同じ。

【鱴】ベツ、メチ。莫結切〔屑〕
㊀えつ(鮆魚)。○〔爾〕「鮤—刀」。
㊁含漿の屬、ごぶがひ。○〔周、註〕「貍物亦謂二之—刀一」。

【鱵】シン。職深切〔侵〕
針鮆魚、さより。

【鱶】鯗に同じ。

【魚麃】ヘウ。卑謠切〔蕭〕
魚の子のやゝ長じたるもの。

十六畫

【鱷】ガク。逆各切〔藥〕
鰐に同じ、わに。○〔唐〕「惡溪有二—魚一」。

【鱸】ロ、ル。落胡切〔虞〕
巨口細鱗なる一種の魚、すゞき、吳の松江の產最も佳なりといふ。○〔後漢〕「所レ少吳松江之—魚耳」。

【魚歷】レキ、リヤク。郎擊切〔錫〕
ぎゞ(鮠)。

十七畫

【鱛】鰕に同じ、ゑび。

【魚薄】ハク、バク。傍各切〔藥〕
鯉に似たる一目の魚。

十八畫

【魚巂】イ。匀規切〔支〕 ケイ、エ。戶圭切〔齊〕
龜の屬。

【鱹】クワン。古玩切〔翰〕
人の名。○〔左〕「—鱗爲二司徒一」。

十九畫

【鱺】レイ。郎奚切〔齊〕 ライ。盧啓切〔薺〕 リ。鄰知切〔支〕
うなぎ。○〔爾、註〕「呼二小—一爲レ鯢」。

二十畫

【魚黨】タウ。丁滂切〔養〕
—魟は、一種の魚。

廿二畫

【鱻】セン。相然切〔先〕
鮮に同じ。○〔周〕「其死生—薨之物」。

【鱻】セン。息淺切〔銑〕
すくなし(少)。

鳥部

【鳥】テウ。都了切〔篠〕
二翼二脚なる動物、とり、特に其の尾の長きものゝ稱。○〔書〕「—獸孳尾」。

(飛鳥) そらとぶとり。○〔史〕「——以二其翼一覆二薦之一」。
(陽鳥) 陽に隨ふとり、卽ち鴻鴈などの類。○〔書〕「——攸レ居」。
(黃鳥) 鶯の異名。○〔詩〕「——于飛」。
(白鳥) (い)しろきいろの鳥、又、鷺のことにもいふ。○〔詩〕「——翯々」。(ろ)蟲の名、か、蚊蚋。○〔杜甫〕「江湖多二——一」。
(猛鳥) たけき鳥、卽ち、鷹隼などの屬。○〔周、註〕「取二——一者、或以レ媼誘而致レ之」。
(鷙鳥) 前に同じ。○〔史〕「——之羣也」。
(獵鳥) 前に同じ。○〔老〕「——不レ搏」。
(丹鳥) (い)鳳凰のこと。○〔魏、註〕「——銜レ書」。(ろ)螢の異名。○〔古今注〕「螢一名二——一、一名二夜光一」。
(朱鳥) あかきいろのとり、又、南方七宿の名。○〔史〕「南宮——」。
(海鳥) うみに棲息するとり。○〔爾、疏〕「爰居——也」。
(瑞鳥) めでたきとり、卽ち鳳凰の屬をいふ。○〔禽經〕「鸞——也、一曰二雞趣一」。
(祥鳥) 前に同じ。○〔阮籍〕「——翠嬉」。
(高鳥) そらたかく飛ぶとり。○〔史〕「——盡良弓藏」。
(烏鳥) からす。○〔管〕「——之狡」。
(孝鳥) 前に同じ。○〔古今注〕「烏一名二——一、又名二玄鳥一」。
(寒鳥) 冬のとり。○〔梁元帝〕「冬鳥曰二——一、又曰二寒禽一」。
(卵鳥) 鷄鶩などの屬にて其の卵の用ふべきとり。○〔周〕「共二——一」。
(楊鳥) 鳥の名、みさごの異名。○〔爾〕「——白鷢」。
(怪鳥) あやしきとり。○〔神仙傳〕「有二——一止二屋上一者」。

〔禽鳥〕とりのこと。○〔國〕「玉-帛――」。
〔翠鳥〕鳥の名、五色の羽を備へたりといふ。○〔漢〕「拂ニ――一揃〔鳳・皇〕ニ」。
〔鴕鳥〕鳥の名、熱帶地方に棲息するとり。○〔陳蕃傳〕「――如ニ鴕生ニ西-戎ニ」。「與・皇ニ」。
〔巽鳥〕めづらしきとり。○〔後漢〕「今――翔ニ于
〔奇鳥〕前に同じ。○〔阮籍〕「林-中有ニ――」。
〔野鳥〕野生のとり。○〔華應物〕「――上ニ禪-牀ニ」。
〔乙鳥〕燕の異名。○〔本草〕「燕一名ニ――ニ」。
〔好鳥〕うつくしきとり。○〔曹植〕「――鳴ニ高-枝ニ」。
〔獨鳥〕一羽の鳥。○〔劉長卿〕「――背レ人飛」。
〔同心鳥〕一種のめでたきとりの名。○〔宋〕「――一王-者德及ニ遐-方ニ、四-夷合-同則至」。
〔能言鳥〕鸚鵡のこと。○〔張說〕「鷄羨――」。
〔百舌鳥〕とりの名、もず。○〔益部方物記〕「――一綠-衣紺-尾」。「一也」。
〔反舌鳥〕前に同じ。○〔易緯通封〕「百-舌者――」。
〔子嶲鳥〕杜鵑の異名。○〔李白〕「誰忍――」。
〔同力鳥〕番鳥、鴆の異名。○〔本草〕「鴆一名ニ――」。

【島】島に同じ。○〔書〕「――夷皮-服」。

【鳥】シヤク、サク。子削切 藥
鷲――は、縣の名。○〔漢〕「武-威-郡鷲――縣」。

一畫

【鳦】イツ、於筆 質 イツ、乙黠 黠
イチ。切 エチ。切
つばめ(燕)。○〔史、註〕「呑ニ――子一而生ニ大-業ニ」。

二畫

【鳥了】ケウ。古幺切 蕭
ふくろふ(惡-鳥)。

【鳥七】シツ、シチ。尺栗切 質
鳥の聲にいふ字。

【鳬】フ、ブ。防無切 虞
脚指に幕蹼(みづかき)ある一種の鳥かも。○〔詩〕「弋ニ――與レ雁」。
〔家鳬〕家鴨ともいふ、あひる。○〔本草〕「鶩一名ニ――」。
〔信鳬〕鳥の名、鷗の一種。○〔本草〕「又海-中一種、隨レ潮往-來、謂ニ之――」。
〔野鳬〕鳥の名、こがも。○〔方言〕「――甚小」。

【鳧】前條に同じ。○〔歐陽通〕「魚貫―集」。

【鳨】リヨク、リキ。林直切 職
鳬に似て小さき鳥、一説に、鴆の別名。

【鳩】キウ、ク。居求切 尤
㊀山雀に似て小さく尾の短き一種の鳥、きじばと、ばと。○〔詩〕維―居レ之」。「澤ニ」。
㊁あつむ、あつまろ(聚)。○〔左〕「―ニ藪-
㊂やすし、やすんず(安)。○〔左〕「致使ニ晉無レ―乎」。
〔鶻鳩〕魚を食らふ小鳥の名、みさご。○〔詩〕「關-々――」。
〔鳲鳩〕鳥の名、ふゝどり、布穀、桑鳩などの異名あり。○〔詩〕「――在レ桑」。
〔爽鳩〕鷹の異名。○〔左、註〕「――鷹也」。
〔班鳩〕班鳩又は鶻鳩ともいふ、あゆきかけばと、としよりこい。○〔埤雅〕「――性食ニ桑椹ニ」。
〔鵃鳩〕小鳩。○〔莊〕「蜩與ニ――」。
〔蒙鳩〕みそさゞいの異名。○〔荀〕「南-方有レ鳥焉、名曰ニ――」。「之鳥白ニ、
〔鵴鳩〕鳥の名、くろもぞ。○〔本草〕「――江-東謂ニ

【鳩】キウ、グ。渠尤切 尤
道に同じ、食らふ可き土菌、くさびら。

【鳭】テウ。都聊切 蕭
――鷯は、よしはらすゞめ、よしきり。○〔爾〕「――鷯剖葦」。

【鳭】鵰に同じ。

【鳭】タウ、テウ。陟交切 肴
――鷯は、てうせんうぐひす。

【鳪】ボク、博木 屋 ハク、北角 覺
モク。切 ホク。切
きじ、(雉)。

【鳥乂】[illegible]に同じ。

【鳩】キウ、ク。居求切 尤
やまばと、(鶌)。

【鳥厂】鴈に同じ。○〔廣雅〕「倉-鶊―也」。

三畫

【鳱】カン。古寒切 寒
――鵲は、かさゝぎ、(鵲)。

【鳱】鴈に同じ。○〔鹽鐵論〕「鳱-々―鳴―」。

【鳱】鷽に同じ。○〔淮〕「――鳴不レ鳴」。

【鳱】鳱に同じ。

【䲦】テイ、大計 霽 タイ、徒蓋 泰
ダイ。切 ダイ。切
鳥の名。○〔山海經〕「首-山机-谷多ニ――鳥ニ」。

【鳥土】ト、ヅ。動五切 麌
――鵑は、ほとゝぎす。

【鳥丸】クワン、グワン。胡官切 寒
――鷯は、鳥の喙にて蛇の尾ある一種の動物なりといふ。

【鳥小】雀に同じ。

【鳲】シ。式之切 支
――鳩は、ふゝどり、別名は、つゝどり、むぎうらし、なはしろどり、すみたどり、布穀、穫穀、擊穀、桑鳩。○詩〕「――鳩在レ桑」。

【鳥工】コウ、戸工 東 戸孔 董
グ。切 切
肥大なる一種の鳥、ひしくひ、おほとり。○〔司馬相如〕「――鸕鶿鴇」。

【鳥勺】ハウ、ヘウ。布效切 效
とき、(鴇)。

【鳳】ホウ、フ。馮貢切 送
至德の瑞應として現はるといふ神鳥の雄、梧桐にあらざれば棲まず竹實にあらざれば食らはず醴泉にあらざれば飲まず、身に五色を備へ聲は五音に中たり飛べば羣鳥之に從ふといふ。○〔禮〕「――凰來-儀」。
〔鸞鳳〕神鳥の名、又、君子の德ある者の稱に託し用ふることあり。○〔後漢〕「枳-棘非ニ――所レ棲」。
〔綵鳳〕うつくしき色をそなへたる瑞鳥。○〔謝朓〕「――鳴ニ朝-陽ニ」。
〔瑞鳳〕めでたきしるしとしてあらはるゝ神鳥。○〔蘇瓊〕「――飛來隨ニ帝輦ニ」。
〔神鳳〕前に同じ。○〔拾遺記〕孔-子相レ魯之時、有ニ――游集ニ。
〔祥鳳〕前に同じ。○〔淮〕「――至」。「徵ニ」。
〔靈鳳〕前に同じ。○〔江淹〕「――銜レ書集ニ紫

〔神鳳〕前に同じ。○〔張率〕「――且來儀」。

【鳴】ベイ、ミヤウ。武兵切 庚
㊀なく。(い)鳥の聲を發するにいふ字。○〔詩〕「鳳凰―矣于彼高岡」。(ろ)すべて生物の聲を發するにいふ字。○〔易〕「其於馬也爲善―」。
㊁なる。(い)生命なき物の聲をなすにいふ字。○〔禮〕「叩之以大則大―」。(ろ)言ふ。○〔韓愈〕「其善―者」。(は)聞こゆ。○〔元〕「以文章――江東」。
㊂なかしむ、ならしむ、なかす、ならす。○〔韓愈〕「不―其善鳴者」。
〔哀鳴〕聲かなしげになく。○〔詩〕「――嗸嗸」。
〔悲鳴〕前に同じ。○〔李陵〕「牧馬――」。
〔嚶鳴〕鳥のさへづりなく聲にいふ語。○〔歐陽修〕「衆鳥皆――」。
〔飛鳴〕空をとびてなく。○〔李白〕「句句欲――」。
〔和鳴〕鳥のなきかはすこと。○〔左〕「――鏘鏘」。

【鳴】ベイ、ミヤウ。眉病切 敬
鳥相呼ぶ、なく、よぶ。○〔曹植〕「―儔嘯匹侶」。

【鳯】鳺に同じ。○〔班固〕「鶚鶂―鴃」。

【鳶】エン。與專切 エン。于權切 先
鴟の類、とび。○〔詩〕「―飛戾天」。
〔風鳶〕いかのぼり。○〔唐〕「俾急以紙爲――」。
〔紙鳶〕前に同じ。○〔獨異志〕「簡文縛――飛空」。

【鳶】隿に通じ用ふ。

【鳦】鳦に同じ。○〔漢〕「隼即今之―」。

四畫

【鴟】キ、巨支切 シ。章移切 支
㊀雉の別名。㊁にはとり、(雞)。㊂かり、(鴈)。

【鵣】鴟に同じ。

【鳷】シ。章移切 支
はいたか。

【鴟】シ、ジ。常支切 支
鴡鶥、こたか。

【鳸】コ、グ。後五切 麌
鳸雀、ふなしうづら。○〔爾雅註〕「諸―皆因其毛色音聲爲名」。

【鴄】ヒフ。平立切 キフ。居立切 緝
鴄鴔、きくいただき、やつがしら。

【𩿧】カイ、ケ。古拜切 卦
すずめ、(雀)。

【鳹】ケン、ゴン。巨淹切 鹽 キン、ゴン。渠金切 侵
㊀句喙鳥、くちばしのまがれるとり。
㊁鳥の食を喙むにいふ字、ついばむ。

【鳺】フ。甫無切 虞
鳺鳩、おゆずかけばと。

【鳺】キ。均窺切 支
子―は、ほとゝぎす。

【鳻】フン、ホン。府文切 文
鳥の聚まる貌にいふ字、一説に、飛ぶ貌にいふ字。

【鳻】ハン、ヘン。布還切 刪
大鳩。○〔揚雄〕「其大者謂之―鳩」。

【鳼】ブン、モン。無分切 文 ビン、ミン。眉貧切 眞
鷚の子。○〔爾雅註〕「鷚之雛名―」。

【鴔】キフ。其立切 緝
鵖―は、小鳥。

【鵂】キウ、ク。虛尤切 尤
怪鳥。

【鴉】俗の鴉の字。

【鶻】コツ、ゴチ。胡骨切 月
鷹の屬。

【鳾】セキ、シャク。思積切 陌
水鳥。

【䲰】ウン、チン。王問切 問
鳥に似たる一種の鳥、又、鴆の別名。

【𪀔】シン。胥林切 侵
黑色なる一種の鳥。

【鴋】ハウ。妃兩切 養 ハウ、バウ。符方切 陽
みぞごゐさぎ、(澤虞)。

【鴋】ハウ、バウ。符良切 陽
鸐―は、鳥の名。

【鴁】鵁に同じ。

【𩿪】コウ、ク。沽紅切 東
鷹に似たる一種の小さき鳥。

【鴓】シウ、シユ。思融切 東
爵鱥、えっさい。

【鳿】ギヨク、ゴク。魚欲切 沃
鴨に似て大いなる一種の鳥。○〔司馬相如〕「鵁鶄鶩―」。

【鴀】フウ、甫鳩切 尤 フ。方久切 有
おゆずかけばと、(鴀鳩)、やつがしら、(戴勝)。

【鴁】エウ。於喬切 蕭
―鶹は、鳥の名。

【鴩】鵝に同じ

【鵩】フ、ポ。扶雨切 麌
―鵋は、くじやく、(越鳥)。

【鴂】ケツ、ケチ。古穴切 屑
㊀みそさざい、(巧婦)、たくみどり、(工雀)。
㊁鴟の類。
〔鵋鴂〕鳥の名、ふくろふ。○〔爾〕「鵋鴟――」。

【鴂】ケイ、ケ。涓惠切 霽
鸐―は、ほとゝぎす。

【鴃】ケキ、ギヤク。扃闃切 錫
鵙に同じ、もず、博勞鳥。○〔孟〕「南蠻―舌之人」。

【鴄】 ヒツ、ヒチ。僻吉切 質
あひる、(鶩)、かも、(鴨)。

【鴆】 チン、直禁 沁 タン、徒南 覃
ヂン。切 ドン。切
㊀一種の毒鳥、人その羽を浸したる酒を飲めば死ぬといふ。〇〔楚辭〕「令二—爲一レ媒」。
㊁前述の鳥の羽を浸しゝ酒、又、其の酒を飲ましめて毒害すると。〇〔國〕「使二醫—一レ之」。
〔仰鴆〕 死をはからんとて鴆酒を飲むと。〇〔唐〕「仰—レ—死」。

【鴤】 チウ、ヂユ。直衆切 送
鷄—は、むさゝび(飛鸓)。

【鴧】
翃に同じ、とびくだる。

【鴇】 ハウ、ボウ。博抱切 晧
㊀鴈の屬、のがん、後に趾(つめ)なく毛に文あり。〇〔詩〕「肅-々—-羽」。
㊁鴇に同じ、くろあしげ。〇〔詩〕「叔于レ田乘二乘—一」。

【䳄】 バウ、モウ。莫到切 號
鳥の輕き毛、うぶげ。

【鴈】 ガン、ゲン。五晏切 諫
㊀一種の鳥、かり、暖氣を追ひて去來し、羣がり飛ぶさきは斜行をなす、故に他と斜行をなすにも去來恆なきにも假りいふ、一名は、隨陽鳥。〇〔周〕「—北鄕」。
㊁贗に通じ用ふ、にせ。〇〔韓〕「齊伐レ魯、索二讒-鼎一、魯以二其—一往、齊人曰、—也、魯人曰、眞也」。
〔鳧鴈〕 かもとかりと。〇〔詩〕「弋二—與一レ—」。
〔鵝鴈〕 鵞の異名。〇〔習〕「—-—鶖也、一日二蒼-鵝一」。
〔赤鴈〕 朱鴈ともいふ、あかき色のかり。〇〔史〕「行二幸東-海一獲二—-—一」。
〔來鴈〕 北地よりうつり來たるかり。〇〔陶潛〕「—-—有二餘-聲一」。
〔旅鴈〕 征鴈といふに同じ、遠き處にうつり飛ぶかり。〇〔梁武帝〕「—-—啼而哀-々」。
〔天鴈〕 一種の流星の名。〇〔晉〕「流-星有二靑-光一、長二-三-丈、名曰二—-—一」。
〔地鴈〕 前に同じ。〇〔晉〕「流-星色靑-赤小者名曰二—-—一、其所レ墜者起レ兵」。

【鳹】 キン。呼鄰切 眞
—鶴は、小さき鳥。

【䲿】 シヤウ、サウ。千羊切 陽
鳥獸の食を求むる聲にいふ字。

【鴉】 ア、エ。於加切 麻
鳥の族、はしぶさがらす、からす、古昔は之を以て吉凶をトしまた南方の人は之を惡めりといふ。〇〔本草〕「烏—大-嘴而性貪」。
〔暮鴉〕 昏鴉、夕鴉、晩鴉などと同じくひぐれのからすをいふ。〇〔高適〕「門-柳蕭-々噪二—-—一」。
〔金鴉〕 太陽のと。〇〔韓愈〕「—-—既騰翥」。
〔赤鴉〕 前に同じ。〇〔蕭爽中〕「—-—飛二海-宸一」。
〔曉鴉〕 曙鴉、晨鴉、早鴉などと同じくあけがたのからすをいふ。〇〔陸游〕「窓-明送二—-—一」。
〔歸鴉〕 ねぐらにかへるからす。〇〔陸游〕「林昏殘-角促二—-—一」。
〔鳴鴉〕 啼鴉といふに同じ、なき聲をたつるからす。〇〔陸游〕「—-—冒レ雨飛」。
〔雛鴉〕 ひなのからす。〇〔張耒〕「屋-頭—-—失二其母一」。
〔高鴉〕 そらたかく飛ぶからす。〇〔司空圖〕「—-—隔レ谷見」。
〔群鴉〕 おほくのからす。〇〔王偁〕「—-—結レ陣飛」。

【鴉】
雅に同じ。

【鴊】 セイ、シヤウ。諸成切 庚
たか、(鷂、鵰)。〇〔揚雄〕「齊晉閒謂二題-肩一爲二—-鳥一」。

【䲲】 キウ、ク。胡弓切 東
鳥の父、雄、を、一に曰ふ武き稱。

【鴋】 ハウ。數房切 陽
雄に同じ、鶅—は、鳥の名。

【鳻】 フン、ボン。撫文切 文
翁に同じ、飛ぶ貌にいふ字。

【鳼】 フン、ホン。非文切 文
鳥の聚まる貌にいふ字。

【鳻】 ハン、兵攣 元 フン、扶云 文
ヘン。切 ボン。切
大いなる鳩。

【鴞】 ケウ。古堯切 蕭
不孝鳥、ふくろふ。

【鴞】
鴞に同じ。

【鳶】
雀に同じ。

五畫

【鴀】 ヒ、ビ。符悲切 支
みさご、(鶚)。

【鴠】 カン、コン。古暗切 勘
鳥の聲にいふ字。

【䲻】 ケン。胡消 エン。悦全 先
切 切
つばめ、(玄-鳥)。

【鴏】 トク、ドク。徒得切 職
鴨の屬。

【鴘】 サク、シヤク。側革切 陌
鴘—は、あひる、(鴚)。

【鴐】 カ、ケ。古牙切 麻
鴚鳥、野鴚、がてう、のがり。〇〔司馬相如〕「—-—鵝-鴇」。

【鴩】
鶅に同じ。

【鴒】 レイ、リヤウ。郎丁切 靑
鶺—また鵬—は、頸下に黑き連錢の文ある一種の小鳥、せきれい、いしたゝき、みちをしへどり。〇〔爾〕「鵬-—雝-渠」。

【鴸】 トウ、ツ。天口切 宥
鳧に似たる黑色の鳥、くろがも、かはらがらす。

【鴸】 トウ、ヅ。徒口切 宥
水鳥の名。

【鴓】 ビツ、美畢 質 ベツ、莫結 屑
ミチ。切 メチ。切
鵲に似たる一種の鳥。

【鴓】 ヒツ、ビチ。滂宓切 質
鷩—は、鳥の名。

【鴔】 ヒフ、ホフ。逼急切 緝
鵖—は、一種の小鳥、形は燕に似て色黑く尾長くして岐れ頭に黃色の羽あり、やつがしら、きくいたゞき、まぐそとび。〇〔爾〕「鵖—-—戴-勝」。

【鴕】タ、ダ。唐何切 歌
熱帶地に棲む一種の鳥、だてう、脚太く頸長く高さ八九尺ありて其の頸と臂と蹄との槖駝に似たりといふより名づく、大馬爵。○〔本草〕「――鳥如レ駝生二西-戎一」。

【鴖】ビン、武巾切 眞 ミン。 ブン、無分切 文 モン。
――母は、かすひどり。

【䳭】セキ、ジヤク。常隻切 陌
にはくなぶり、せきれい、いしたゝき、(雝-渠)。

【䳭】ダウ、トウ。都老切 晧
磟――は、石を懸くる貌にいふ語。

【䲨】カウ、ケウ。苦絞切 巧
みそさゞい、さゞき(鷦-鷯)。

【鳲】鶯に同じ。

【𪀦】バツ、マチ。莫栝切 曷
――鴇は、かも、あひる。

【鴗】リフ。力入切 緝
かはせみ(天-狗)。

【鴘】ヘン。被免切 銑 翻阮切 阮
二歳の鷹、わかたか、たかゝへり、もろかへり。○〔西陽雜俎〕「鷙色黃、一-變爲二靑――一、又、一-變爲二白――一」。

【鴙】雉、又、鶻に同じ。

【䳓】サツ、サチ。側八切 黠

㊀鳥の雜毛の色。㊁百舌に似たる一種の鳥。

【䳆】鸍に同じ。

【䳊】ハツ、バチ。蒲撥切 曷
梟に似たる鳥。

【䳊】ハツ、ハチ。北末切 曷
雉に似たる鳥。

【鳭】テウ。丁聊切 蕭
㊀――鶴は、よしきり。㊁鳥の聲にいふ字。

【鳭】テウ、デウ。田聊切 蕭
――鶴は、鳥の尾の翹毛、あげは。

【鳭】ケウ。呼幺切 蕭
羽の貌にいふ字。

【鴚】カ。古俄切 歌 カ、ケ。居牙切 麻
がてう、(舒-鴈)。

【𪀗】エン、ヲン。委遠切 阮
鵷に同じ、鳳の屬。

【鴛】エン、ヲン。於袁切 元 ヲン、ウン。烏渾切 元
毛色麗しく雌雄相離れざる一種の水鳥、をし、をしどり、匹鳥、特に其の雄の稱。○〔埤雅〕「――好二內-思一」。

【鴜】シ。卽夷切 支
魚虎(かはせみ)に似て蒼黑色なる一種の水鳥。

【鴜】前條に同じ。○〔司馬相如〕「鷀――鴟-鷗」。

【鴜】雌に同じ。

【䳌】シ。諸氏切 紙 キ。頸尒切 紙
――鳩は、鳥の如き鳥。

【䳌】シ。支義切 寘
鳥の聲にいふ字。

【𪁑】䳌に同じ。

【䳙】ハク、ビヤク。薄陌切 陌
――郁は、鳥の名。

【鴝】ク、コ。其倶切 虞
――鵒は、形は百舌(もづ)に似て頭に幘ある一種の鳥、はゝてう、其の舌端を剪りて圓くし語を教ふれば能く人言をなすといふ。

【鴝】コウ、ク。古侯切 尤
鴝鶹。

【鴝】コウ、ク。居候切 宥
鳥の聲にいふ字、又、雉鳴く。

【鴞】ケウ。于嬌切 蕭
梟に同じ、ふくろふ。○〔詩〕「有レ――萃レ止」。
(鴟鴞) 鳥の名、ふくろふ。○〔揚雄〕「今子乃以二―――而笑二鳳-凰一」。
(鴞鵩) 前に同じ。○〔本草〕「鴞亦名二――一」。

【鳺】フ。甫無切 虞
鳥の名。

【鴟】シ。處脂切 支
㊀鳥の子を捉り食らふ一種の惡鳥、ふくろふ。○〔詩〕「爲レ梟爲レ――」。○〔蘇軾〕㊁酒を盛る一種の瓶、かめ。「金-錢百-萬酒千――」。

【鴠】タン。得案切 翰 黨旱切 旱
鶡――は、晝夜鳴く一種の鳥。

【鴡】シヨ、ソ。七余切 魚
鶚の類、みさご。○〔爾〕「――鳩――王」。

【䳇】ブ、ム。文甫切 麌 ボウ、ム。莫後切 有
鸚――は、(い)能く人の言語をまねする一種の鳥、あうむ。○〔正字通〕「鸚――能言鳥有二綠-色紫赤-色白-色五-色數-種一」。(ろ)刺桐(はりぎり)の花。○〔彭綱〕「露出二幾-枝一紅-鸚――一」。

【鴢】エウ。烏皎切 篠 アウ、エウ。於絞切 巧 於交切 肴 イウ、ウ。伊謬切 宥
鳧に似たる一種の鳥、あをさぎ、魚鵁。○〔山海經〕「靑-要之山、有レ鳥名レ――」。

【鴣】コ、ク。古胡切 虞
鷓――は、多く古の越地に棲めりといふ一種の鳥、をやこ、形は班鳩(をゆずかけばと)に似て臆前に白き圓き點文あり、多くは對して啼き常に日に向かひて飛びまた常に南に向かふといへり、別名は懷南、逐影。○〔李白〕「只今惟有二鷓――飛一」。

【鴤】シウ、シユ。職戎切 東
鳧に似て小さき一種の水鳥。

【鴤】トウ、ツ。都宗切 冬 かひつぶり。

【鳺】セキ、シャク。昌石切 陌 小雀。

【鴥】イツ、イチ。以出切 質 イク、オク。于六切 屋 ウツ、オチ。王勿切 物 鳥のはやく飛ぶにいふ字、とぶ、はやし。○〔詩〕「―彼晨風」。

【鴦】ヤウ、アウ。於良切 陽 ㊀匹鳥の雌、めすのをしどり、鴛の字の條を見よ。○〔詩〕「鴛―于飛」。㊁屋瓦の名。○〔蘇軾〕「瓦弄二寒・蟾一―臥レ月」。

【鴧】ジョウ、ニュ。戎用切 宋 鴧の飛ぶ貌にいふ字。

【鴨】アフ、エフ。烏甲切 洽 鳧の屬、舒緩にして飛ぶ能はず、かも、あひる、あひがも、舒鳧。○〔禽經〕「―鳴呷-々」。「―爲レ鶩」。
〔家鴨〕人家にて飼ふかも、あひる。○〔埤雅〕「―・
〔鳧鴨〕野生のかもと家畜のかもと、又、大小のかもをもいふ。○〔孔武仲〕「或面二荒陂一看二―・―一」。
〔土鴨〕青蛙に似て腹の大いなる一種のかへる。○〔陳彥〕「淺深―・―肥」。
〔水鴨〕かも。○〔急就篇、註〕「鳧者水中之鳥、今所レ謂―・―者也」。「―」。
〔黃鴨〕をしどりの異名。○〔本草〕「鴛・鴦一名二―・―一」。

【鴈】鷹、鴘に同じ。

【鴪】イウ、ユ。于周切 尤 鼯鼠、むさゝび。

【䳂】テウ。丁聊切 蕭 熟視す、みる。

六畫

【鵄】シ。充尸切 紙 さび、（鳶）。○〔晉〕「―二跱一-城一」。

【鴁】イ。弋支切 支 衆鳥の總名。

【䳧】トウ、ヅ。徒冬切 冬 チウ、ヂュ。直衆切 送 山雞に似たる一種の鳥。

【鴺】エイ。餘制切 霽 むさゝび（飛-生）。

【䳚】タイ、テ。都回切 灰 雀の屬。

【鶖】シウ、シュ。七由切 尤 禿鶖、しまつどり。

【䳘】キ。過委切 ギ。五委切 紙 ㊀鸛―は、ほとゝぎす。㊁布穀、くわっこうどり。

【鴌】シヤウ、サウ。疾亮切 漾 みそさゞい（巧-婦）。

【鴮】キ、ウ。哀都切 コ、ク。荒胡切 虞 荒故切 遇 ―鸅は、鵜胡の別名、がらんてう、又一名は、なッてう、淘河。

【鴯】ジ、ニ。如之切 支 鷾―は、つばめ、玄鳥。○〔莊〕「鳥莫レ智二於鷾―一」。

【鴰】クワツ、クワチ。古活切 曷 鶬―は、まなづる。○〔班固〕「鶬―・鳵・鶂」。

【鴱】ガイ。五蓋切 泰 みそさゞい（巧-婦）。

【鶻】俗の鶻の字。

【䳒】シウ、シュ。息弓切 東 鷲に同じ、鷹に似て小さき一種の鳥、能く雀を捕らふ。

【鴲】シ。旨夸切 紙 小青雀、しめ、しとゝ。

【鴲】シ。至几切 紙 未だ毛の生ぜざる鳥鷇、ひな。

【鴲】シ。指利切 寘 雀の聲にいふ字。

【鵼】キョウ、グ。渠容切 冬 水鳥。

【鴳】アン、エン。於澗切 諫 ふなしうづら（鴈）。○〔呂氏春秋〕「有レ菟生レ雉、雉亦生レ―」。

【䳛】アン。於寒切 寒 鳥の聲にいふ字。

【鴴】カウ、ギヤウ。戸庚切 庚 戸孟切 敬 すゞめ（荒-鳥）。

【鴵】ケウ。古幺切 蕭 不孝鳥、ふくろふ。

【䳨】クワウ、ワウ。呼光切 陽 すゞめ（雀）。

【鴶】カツ、ケチ。古黠切 黠 キツ、キチ。激質切 質 ―鵴は、ふゝどり、布穀鳥。○〔爾〕「鳲―・鵴」。

【鴄】クワイ、エ。戸回切 灰 鳥の名、五色の文あり長さ一尺のもの。

【鴷】レツ、レチ。良薛切 屑 喙にて樹を斲り蟲を食らふ一種の鳥、けらつゝき、きつゝき、たくみどり、斲木鳥。○〔埤雅〕「―善爲二禁・法一」。

【鴸】シュ、ス。章俱切 虞 鴟に似たる一種の鳥。

【䳟】キョウ、ク。九容切 冬 雉に似たる一種の鳥。

【鴭】キウ、ク。其九切 有 鳩に似て冠ある一種の鳥。

【鳽】ガク、ギヤク。五革切 陌 ケン。古賢切 ゲン。倪堅切 先 カウ、キヤウ。丘耕切 庚 ごゐさぎ（鵁鶄）。

【䳄】 飛に同じ、ひしたゝき、せきれい。

【鴴】 古文の鶴の字。

【鴝】 シュン、ジュン。詳遵切 眞 みそさゞい（鷦-鷯）。

【鴹】 ヤウ。與章切 陽 一種の鳥。○〔呂氏春秋、註〕「鴛-鴹青-州謂二之ー-ー一」。

【鴹】 シヤウ、ザウ。徐羊切 陽 翔に同じ、かける。○〔漢〕「聲-氣遠-條鳳-鳥ー」。

【䳇】 ク、ゴ。權俱切 虞 左足の白き鳥。

【䳈】 コウ、グ。戸鉤切 尤 猴に同じ、はね、羽本、一說に、羽の初めて生ずる貌にいふ字。

【鴶】 ケイ、古惠切 霽 ケツ、古穴切 屑 ケ。ケチ。 ケン。吉典切 銑 キ。居悸切 寘 鶷ーーは、たをさどり、ほとゝぎす、子規。○〔揚雄〕「恐二鶷ーー之將一レ鳴」。

【䳀】 テイ、ダイ。杜兮切 齊 ㊀ーー胡は、がらんてう（洿-澤）。「䳀-䳀」。㊁やまどり（山-雞）。○〔左思〕「鷩ー山」

【䳕】 イ。以脂切 紙 延知切 支 ーー鶬は、もみ、むさゝび（飛-生）。

【鵴】 キク、ゴク。巨六切 屋 ふゝどり（鳲-鳩）。

【鴻】 コウ、グ。戸工切 東 ㊀鴈の屬、はくてう、ひしくひ、おほさり、雁より大きく毛色純白にして頸長く其の肉美なり。○〔易〕「ー漸二于陸一」。㊁おほいなり（洪）。○〔史〕「禹抑二ーー水一」。㊂混沌たるを、茫漠なるを。○〔孝經援神契〕「天-度罷ーー孳-萠」。㊃おほいなる功德、おほいなる事業。○〔揚雄〕「勒レ崇垂レー」「ーー一」。㊄洪水、おほみづ。○〔楚辭〕「不レ堪二汨-ー一」。㊅一種の旗、ひしくひの飛ぶに列をなすの義に取るといふ。○〔禮〕「載二飛ーー一」。㊆ひさし（備）。○〔周〕「梓-人爲二筍-簴一、小-首而長摶-身而ー」。㊇つよし（强）。○〔周〕「矢-人橈レ之以眡二其ー-殺之稱一」。
〔甕鴻〕 蜹に似たる小蟲の名、蠛蠓。○〔史〕「ーー滿レ野」。
〔九鴻〕 九方のこと。○〔鶡冠子〕「天有二ーー一、地有二「九-州一」。
〔高鴻〕 そらたかく飛ぶおほかり。○〔仲長統〕「釣二游-鯉一弋二ーー一」。
〔小鴻〕 白色にして梟の如きとり。○〔禽經〕「ーーー如レ梟白-色」。
〔嘶鴻〕 啼くかり。○〔馬臻〕「ーー入二幽-耳一」。

【鴻】 コウ、グ。胡孔切 董 澒に同じ。○〔揚雄〕「ー-絧緁-獵」。

【鴻】 コウ、グ。胡貢切 送 寀遠なる貌にいふ字、連次せる貌にいふ字、おくふかし、つゞく。○〔淮〕「與二天-地一ーー洞」。

【鴜】 シ。七四切 寘 鶺鴒、みゝづく。

【鵅】 タク、ヂヤク。場伯切 陌 ーー鵅は、毛に五色を備ふる一種の鳥。

【鴙】 チヨク、チキ。恥力切 職 鵗ーーは、をしどり。

【鴧】 井ク、オク。乙六切 屋 一種の鳥。

【鴧】 イウ、ウ。云九切 有 白鶾、ゐらきじ。

【鵅】 ラク。盧各切 藥 一種の水鳥、形は鴟に似て頸短く腹と翅とは紫白にて背上は綠色なりといふ。

【鵅】 カク、キヤク。古伯切 陌 みゝづく（鵋-鵙）。

【鴽】 ジヨ、ニヨ。人諸切 魚 いへばと（鴿）、かやくき（鴾-母）、ふなしうづら（鶕）。○〔儀〕「雉-兎鶉ーー」。○

【鴾】 ボウ、ム。莫浮切 尤 ー-母は、かやくき、ふなしうづら。○〔爾註〕「鴽也、青-州人呼曰二ーー-母一」。

【鴿】 カフ、コフ。古沓切 合 鳩の屬、いへばと、はと。○〔陸佃〕「ー性喜レ合」。
〔鵓鴿〕 きじばと、いへばと。〔詩、疏〕「ーー燕雀」。
〔野鴿〕 のばと。○〔陸游〕「ーー翔二深-竇一」。
〔珠鴿〕 瓜の名。○〔杜甫〕「傾-筐ーー靑」。

【鵀】 ジン、如林切 侵 ニン。汝鴆切 沁 戴勝鳥、やつがしら、きくいたゞき、又、其の頭上の文毛、はなかづら。○〔揚雄〕「自レ關而西謂二之戴ーー一、或謂二之戴-頒一、或謂二之戴-勝一、東-齊吳-揚之閒謂二之ーー一」。

【鳶】 エン、チン。于權切 先 とび（鳶）。○〔漢〕「ー鵲遭レ害」。

【鵁】 カウ、ケウ。古肴切 肴 ー-鶄は、鵁に似て脚高く毛の冠ある一種の鳥、ごゐさぎ、又、ほしごゐさぎ、みぞごゐさぎなどの種類あり、一說に鵁に似て脚高く嘴丹く項に紅毛の冠ある鳥の名。○〔司馬相如〕「ー-鶄鵁-目」。
〔鵁鶄〕 魚鵁ともいふ一種のさぎ。○〔爾〕「鵁ーー」。

【鵂】 キウ、許由切 尤 グ。巨救切 宥 晝は深林に潛み夜に出遊する一種の鳥、みゝづく、このはづく、怪鴟。○〔莊〕「鴟ーー夜撮レ蚤察二毫-末一」。

【鵃】 チウ、張流切 尤 チユ。切 セウ。止遙切 蕭

【鵃】 タウ、陟交切 肴 テウ。切 鶻ーーは、かむりどり、一名、あさなきどり（鶻-鳩）。

【鳭】 テウ。丁了切 篠 ー-鳭は、船の長き貌にいふ語。

【鳪】 ラウ、ロウ。力到切 皓

う、ゑまつどり、禿鶖。

【鵂】鶖に同じ。

【鵄】鴟に同じ。○[淮]「—鴟能致ㇾ鳥」。

七畫

【鵊】カフ、ケフ。古洽切 洽 ほとゝぎす（杜鵑）。

【鵥】鷙に同じ。

【鵥】セツ、セチ。之列切 屑 鳥撃つ。

【鵋】キ、ギ。渠記切 寘 —鶀は、ふくろふ、みゝづく（鵂鶹）。

【鵌】ト、同都切 虞 ヨ。羊諸切 魚 鼠と同穴に棲むといふ一種の鳥。○[爾、註]「鳥鼠同ㇾ穴、其鳥爲ㇾ—、其鼠爲ㇾ鼵」。

【鶪】キョク、居玉切 沃 コク。居六切 屋 鳥の名。

【鴭】キウ、グ。巨九切 有 百舌鳥、もず。

【鵍】鸛に同じ。

【鵣】鵍に同じ。

【鵏】ホ、フ。博孤切 虞 —叔は、鳥の名。

【鵏】ホ、ブ。薄故切 遇 —鼓鳥は、ほとゝぎす。

【鵏】ホ、ブ。滂模切 虞 がてう（鵝）。

【鵏】ホ、ブ。蓬逋切 虞 鳥の臂前、むなさき。

【鵀】シン、ジン。鋤簪切 侵 小鳥。

【鵐】ブ、ム。武夫切 虞 雀の屬。

【鵹】鸝に同じ。

【鵑】ケン。古懸切 先 杜—は、
(い)形は雀鷂（つみ）に似たる一種の鳥、ほとゝぎす、色は慘黑にして口赤く頭に小さき冠あり、春暮より啼きはじめて秋末に止む、夜啼きて旦に達す、其の聲哀切なり、蟲蠹を食らふ、自ら巣を爲る能はず、其の異名多し、たをさごり、たうゑどり、ゑでのたをさ、盤鵑、鶗鴂、買鵤、子規、謝豹、怨鳥。○[邵氏聞見錄]「聞二杜——聲一」。
(ろ)一種の花、さつきつゝじ、やまつつじ、山石榴、山躑躅、映山紅。○[李白]「宣-城還見杜——花」。

【䳑】エツ、エチ。弋雪切 屑 水鳥。

【鵒】ヨク。余蜀切 沃 鴝の字を見よ。

【鵓】ホツ、ボチ。蒲沒切 月 —鳩、—鴣は、いへばと、勃姑、步姑、又、鴿の聲。○[李時珍]「鴿性易ㇾ合、故名、—者其聲也」。

【鸏】バウ、モウ。莫項切 講 ボウ、ム。莫湩切 腫 バウ、マウ。母朋切 蒸 —鷗は、鷹に似て白き一種の鳥。

【鵔】シュン。私閏切 震 —鸃は、山雞に似て小さき一種の鳥、きんけい、錦雞。○[南越志]「增-城-縣多二—鸃一」。

【鵕】前條に同じ。

【鵖】ヘフ、ホフ。彼及切 緝 ケフ。居輒切 ヘウ。北涉切 葉 鴔の字を見よ。

【鵩】フウ、縛謀切 尤 フ。芳無切 虞 おゆずかけばと。

【䳘】ラウ、ロウ。郎刀切 豪 鵰—は、羽に錦文ある一種の鳥。

【鵟】ヨク。烏酷切 沃 ワク。屋郭切 藥 水鳥。

【鴹】ワウ。烏光切 陽 雉。

【䳶】ゴ、グ。五乎切 虞 或は鼯に作る、むさゝび。

【鵗】キ、ケ。香衣切 微 チ。展几切 紙 北方の雉、きじ。

【鷖】イ。烏而切 支 鳥鳴く。

【鵘】クン、ゴン。具運切 問 キン、グン。巨隕切 軫 尾の無き雞。

【鵈】デフ、チフ。尼輒切 葉 鳥飛ぶ。

【鵎】エキ、ヤク。營隻切 陌 小鳩、こばと。

【鵙】ケキ、キヤク。扃闃切 錫 伯勞鳥、もず、其の聲の嗅々と聞こゆるより名づくといふ、別名は、伯趙、姑惡、苦鷃。○[禮]「—始鳴」。

【鵚】トク。他谷切 屋 —鶖は、鶖の頭の禿せるよりいふ、う、ゑまつどり。

【䳸】ラウ。魯當切 陽 きじばと（鳩）。

【鵜】テイ、ダイ。杜奚切 齊 鵜鶘、がらんてう、う、みづこゐさぎ、なッてう、淘河、形は鶚の如くにて大きく、喙の長さ一尺餘ありて口中正赤なり、頷下に大いさ數升を容るゝ

囊の如きものありといふ。○〔詩〕「維━在レ梁」。

【鵝】ガ。五何切［歌］㊀雁の屬、がてう、首長く脰長く額は瘤の如し、眼緣にして喙黃なり、舒雁。○〔嶺南志〕「━腹毳毛」。㊁隊陣の名。○〔左〕「其御願レ爲レ━」。〔白鵝〕まろきがてう。○〔抱朴〕「但見二━頭━━立二幕上一」。〔鸛鵝〕軍陣の名。○〔蘇軾〕「詩壇欲レ斂━━軍」。〔鴐鵝〕野生のがてう。○〔廣志〕「━━野鵝」。〔野鵝〕前に同じ。○〔本草〕「━━大二於鴈一」。

【䳘】前條に同じ。

【鵞】前條に同じ。

【鵛】ケイ、キヤウ。呼頂切［迥］鵛━は、鷺に似たる一種の水鳥。

【鵟】キヤウ、ガウ。巨王切［陽］鵰の屬、よたか。

【鳱】カン。苦旰切［旱］カツ、カチ。苦曷切［曷］カイ。苦蓋切［泰］━鵲は、一種の鳥、やまどり。

【鵠】コク、ゴク。胡沃切［沃］㊀一種の水鳥、くゞひ、はくてう、おほとり、雁より大きく羽毛白くして澤あり、其の翔るを極めて高しといふ、天鵝。○〔漢〕「黃━一擧」。「━」。㊁はくてうの聲。○〔顏師古〕「其聲━━」。㊂おほいなり、(大)。○〔呂氏春秋〕「━━乎其羞レ用二智・慮一也」。㊃象牙の細工。○〔爾〕「象謂二之━一」。㊄企立、つまだち。○〔後漢〕「瞻・望━立」。㊅毛の白きこと。○〔後漢〕「大・儀━━髮」。〔鴻鵠〕おほいなる鳥の名、おほとり、はくてう、又、かりて大人物の義に用ふるとあり。○〔史〕「燕・雀安知二━━之志一哉」。〔黃鵠〕鳥の名、はくてう。○〔戰〕「━━因レ是以遊二乎江・海一」。〔白鵠〕前に同じ。○〔列〕「巨・蒐・氏乃獻二━━之血一以飲レ王」。〔丹鵠〕あかきおほとり。○〔述異記〕「青・鳳━━」。

【鵠】コク。姑沃切［沃］的の正中、まと、ほし。○〔禮〕「循レ聲而發、不レ失二正━一」。〔正鵠〕射的のほし。○〔禮〕「發而不レ失二━━一者、其唯賢者乎」。〔侯鵠〕まとゝほしと。○〔周〕「王大射則共二虎━熊・侯豹・侯設二其━一」。

【鵡】ブ、ム。文甫切［麌］䳇に同じ。○〔禮〕「鸚━能言、不レ離二飛・鳥一」。

【鴻】鴻に同じ。

【鳫】ガン、ゲン。五諫切［諫］ひしくひ、がん、(鴻)。

【鴳】アン、エン。烏諫切［諫］鴳雀、ふなしうづら。

【鴇】ハウ、ホウ。博稿切［皓］大鳥。

【鶙】テイ、タイ。他兮切［齊］たか、(鷹)。

【鷐】シン。章忍切［軫］鷺羣り飛ぶ。

【鴈】鷊に同じ。

八畫

【鵦】ロク。盧谷切［屋］鳥の雜毛の色。

【鵤】シヤウ、サウ。菌兩切［養］鳥の名。

【鷙】シ。之利切［寘］猛き鳥。

【鶣】ベン、メン。莫堅切［先］鶯の語るにいふ字、うぐひすのさへづること。

【䳜】ソツ、ソチ。蘇骨切［月］鶻━は、鳥の名。

【鶖】シウ、シユ。思融切［東］鷂の屬、はいたか。

【鵧】ヘイ、ビヤウ。歩丁切［青］卑盈切［庚］ハイ、ベ。蒲街切［佳］ヒ、ビ。貧悲切［支］ハイ、ヘ。補買切［蟹］ハ、ベ。蒲巴切［麻］ヒ、ビ。房脂切［紙］鶌鳩、もず。

【鵨】ショ、ソ。失余切［魚］鳧に似たる一種の鳥。

【鵩】フク、ボク。房六切［屋］鴞に似たる一種の不祥の鳥、みゝづく、山鴞。○〔周、註〕「天・鳥惡・聲之鳥、若二鴞━━一」。

【鵪】鶕に同じ。○〔周〕「鴽━也」。

【䳝】ホウ、フ。補孔切［董］鳥の亂れ飛ぶ貌にいふ字。

【鵫】タウ、テウ。都教切［效］タク、ドク。直角切［覺］白雉、しらきじ。

【鶾】鵫に同じ。

【鵬】ホウ、ボウ。蒲登切［蒸］想像上の大鳥、おほとり。○〔莊〕「━之徙二於南溟一、水擊三千里」。

【䳟】ベイ、ミヤウ。武兵切［庚］鷦━は、鳳に似たる南方の神鳥。

【鵭】キン、ゴン。巨金切［侵］━鷸は、しぎ。

【鵮】カン、ケン。苦咸切［咸］タン、テン。竹咸切［咸］鳥物を喙む、ついばむ。

【鵯】ヒツ、ヒチ。譬吉切［質］ヒ。府移切［支］鴉烏、はしぶとがらす、ひえどり、みやまがらす。○〔爾、註〕「鴉・烏也、小而多・羣、腹下白、江・東亦呼爲二━烏一」。

【䳺】前條に同じ。

【鵰】テウ。都聊切［蕭］胡地の鷲鳥、わし、くまたか、みさご、形は鷹に似て大なり、尾長く翅短く全

身土黄色なり。○[李時珍]「青ーー最後者、謂二之海-東-青一」。

【鵱】リク、ロク。力竹切 屋
のがん(野-鵝)。

【鵲】シャク、サク。七雀切 藥
形は鴉に似たる一種の鳥、かさゝぎ、尾長く觜尖り爪黑く背綠に腹白く上下に飛びて鳴く、子を生めば巢を捨てゝ去るといふ、異名は、神女、芻尼。○[詩]「ーー之彊-々」。
[喜鵲] 鳥の名、かさゝぎ。○[桑蠶]「寂-々西-軒ーー聲」。
[乾鵲] 前に同じ。○[西京雜記]「ーーー噪而行-人至」。
[烏鵲] 前に同じ、又、からすとかさゝぎと。○[莊]「ーーー之巢、可攀-援而窺」。
[乳鵲] 雛をやしなふかさゝぎ。○[庾信]「ーーー同」。
[扁鵲] 春秋時代の良醫の名。○[史]「ーーー者勃-海-郡鄚人也」。
[宋鵲] 宋の良犬。○[曹植]「韓-盧ーー」。
[山鵲] をながどり、譽。○[爾、疏]「ーー説-文云、知-來-事-鳥也」。
[剛鵲] かひならしたるかさゝぎ。○[拾遺記]「有獻-ーー」。

【鵑】ケン。古賢切 先
鵜-ーは、鵑の屬、一に曰ふ、鷹。

【鶍】イ。弋睡切 寘
小鳩、こばと。

【鵴】キク、コク。居六切 屋
鳲-ーは、ふゝどり、くわッこう、(布-穀)。

【鳷】シ。章移切 支
一足の鳥。

【鵵】ト、ツ。湯故切 遇 ト、ヅ。大胡切 虞
みゝづくに似て小さき一種の鳥、このはづく、夜出でて他の鳥を侵害す。○[爾]「萑老ーー」。

【鴖】ビン、ミン。武巾切 真
翠に似て赤き足ある一種の鳥。

【鷞】シャウ、サウ。蚩良切 陽
鷫-ーは、鳳凰の屬。

【鸘】
鷞に同じ。○[宋]「鷫-ー數-萬」。

【鵷】エン、ヲン。於袁切 元
ー-雛は、鳳の屬。○[莊]「南-方有レ鳥、其名ー-雛」。

【⿰炎鳥】エン、オン。弋占切 鹽
ー-離は、怪鳥。

【⿰或鳥】ヨク、ヰキ。雨逼切　キヨク、ケキ。忽域切　コク。穫北切 職
鶝-ーは、きくいたゞき、やつがしら、(戴-勝)。

【⿰垂鳥】スヰ、ズヰ。是爲切 支
とび(鴟)。

【⿰垂鳥】スヰ、ズヰ。樹僞切 寘
鴟の別名。

【鴸】チユ。株遇切 遇
鳥飛ばず。

【鵹】リ。呂支切 支　良脂切 紙
レイ、ライ。憐題切 齊
鸝に同じ、てうせんうぐひす、倉庚。○[爾]「ー-楚-雀」。

【鵺】ヤ、エ。羊謝切 禡
雉に似たりといふ一種の鳥、ぬえ。○[山海經]「單-張-山有レ鳥、如レ雉文-首、白-翼黄-足、名曰二白-ーー一、食レ之已二嗌-痛一」。

【⿰鳥隹】スヰ。職追切 支
小鳩。

【鵻】
前條に同じ。

【鵼】コウ、ク。苦紅切 東
怪鳥、ぬえ。

【鵽】タツ、タチ。丁括切 曷　タツ、テチ。丁滑切 黠
北部砂漠の地に産する一種の小鳥、大いさは鴿の如く形は雌雉の如くにて岐かれたる尾あり、えびすすゞめ、たどり。

【鶤】コン。古渾切 元
大なる雞、たうまる。○[楚辭]「ー-雞啁-哳而悲-鳴」。

【鴕】
駝に同じ。

【鴀】フウ、ブ。房缶切 有
みそさゞい。

【鵿】ショウ。識蒸切 蒸
あぐ、あがる(騰)。

【鶀】キ、ギ。渠之切 支
小さき雁。○[史]「射二ー-雁一」。

【鶀】キ。去其切 支
鵋-ーは、みゝづく。

【⿰鳥具】
鶀に同じ。

【鳶】エン。夷然切 先
㊀とび(鴟)。㊁とぶ(飛)、かける(翔)。

【鵛】ケイ、キヤウ。擧卿切 庚
羌-ーは、鳥の名。

【鶃】ゲキ、ギヤク。五歷切 錫
ゲイ、ガイ。研奚切 齊
鷁に同じ。○[莊]「ーー之相視」。

【鶂】ゲキ、ギヤク。五歷切 錫
ゲイ、ガイ。研奚切 齊
㊀前條に同じ。㊁鵝鳥の鳴く聲にいふ字。○[孟]「是ーーー者」。

【鶄】セイ、シヤウ。子盈切 庚
鶄の字を見よ。

【鶄】セイ、シヤウ。倉經切 青
ー-鶄は、南海に出づる一種の鳥。○[韓愈]「浮-迹侶二鷗ーー一」。

【鶅】シ。側持切 支　側吏切 寘
㊀東方の雉。㊁みゝづく。○[爾]「ー-鴝-軌」。

【鷩】ヘツ、ヘチ。幷列切 屑

鵂鶹、みゝづく、ふくろふ。

【鶆】ライ、レ。落哀切 灰
たか、(鷹)。

【鶇】トウ、ツ。徳紅切 東
美形の貌にいふ字。

【鶈】セイ、サイ。千西切 齊
——鸔は、東裔鳥。

【鶉】シュン、ジュン。常倫切 眞
㊀原野に棲む一種の鳥、うづら、大いさは雞の雛の如く頭細く尾短し、毛色に斑點あり、俗に其の性淳(すなほ)にして前に草の横たはれるあるも避けて行くより名づくといふ。○[陸佃]「—無二常居一有二常匹一」。㊁うづらの尾の禿せるより衣の短結にいふ字。○[廣集]「山-童衣百—」。㊂醇に同じ。○[揚雄]「春-木之芚兮援二我手一之—兮」。

【鶉】トン。都昆切 元　タン、ダン。徒官切 寒
前條の㊀に同じ。

【鶊】カウ、キヤウ。古行切 庚
鶬—は、一種の鳥、てうせんうぐひす、鶬鶊より大きく毛は黄色にして羽及び尾は黑色相閒れり、雌雄雙び飛び鳴く音は機を織るが如し、鶯黃。○[阮籍]「鶬—振レ羽」。

【鶋】キヨ、コ。九魚切 魚
鶢—は、はしぶとがらす。

【鶌】クツ、コチ。九勿切 物
——鳩は、あさなきどり。

【鳽】ケイ、カイ。古禮切 薺
鳧に似たる鳥。

【⿰享鳥】シ。昌脂切 紙
鶉に同じ。

【鴟】
鳶鳥、とび。

【⿰岨鳥】ショ、ソ。七余切 魚
㊀——鳩は、みさご。㊁岨に同じ、いしやま。

九畫

【鶒】セキ、シャク。昌尺切 陌
鷘に同じ。○[謝靈運]「莫レ麗二於鸂—一」。

【⿰宣鳥】ケン、コン。況袁切 元　セン、ゼン。須緣切 先
鴝—は、小鳥。

【⿰鳥侯】コウ、グ。胡溝切 尤
わし、(雕)。○[揚雄]「鸑—鴝-鶚」。

【⿰皇鳥】
凰に同じ。○[揚雄]「鸑-⿰鳥侯鴝-—」。

【鵜】
俗の鶗の字。

【⿰盆鳥】ホン、ボン。步奔切 元
——鳩は、かむりごり。

【鶖】シウ、シュ。雌由切 尤
大いなる一種の水鳥、う、ふまつごり、青黄色にして頸長く目赤く頭頸に毛なく項皮は紅色にして鶴の項の如し、其の喙は深黃色にして扁く直く長さ尺餘あり、別名は、扶老、禿秋。○[詩]「有レ—在レ梁」。

【鶗】テイ、ダイ。杜兮切 齊　大計切 霽
㊀——肩は、たか。㊁——鴂は、ほとゝぎす。

【⿰鳥是】
鶗に同じ。

【⿰要鳥】エウ。於霄切 蕭
山雞に似たる一種の鳥。

【鶘】コ、ウ。洪孤切 虞
鵜—は、一種の水鳥、がらんてう、なッてう。○[莊]「魚不レ畏レ網而畏二鵜—一」。

【鷚】リウ、ル。力求切 尤
水鳥。

【鶚】ガク。五各切 藥
鷹鸇の屬、みさご、魚鷹、鵰鷄、下窟鳥等の別名あり、又、其の水上に翔り魚を扇ぎ浮かしめて擊ち食らふより沸波の名あり。○[漢]「不レ如二一—一」。

【⿰复鳥】フク、ボク。房六切 屋　ハク、ボク。弼角切 覺
きくいたゞき、やつがしら、(戴-勝)。

【⿰癸鳥】キ、ギ。渠追切 支
小鳩、こばと。

【鶛】カイ、ケイ。古諧切 佳
鶛の雄、をうづら。

【⿰臭鳥】ケツ、ケチ。古屑切 屑
鳧の屬。

【鶜】バウ、メウ。莫交切 肴
狂茅鴟、まぐそだか。

【鶂】セキ、シャク。資昔切 陌　シヨク、シキ。子力切 職
鷁に同じ。○[漢]「辟若二—鶬一」。

【鶝】フク、ホク。方六切 屋　ヒヨク、ヒキ。筆力切 職
鵖—は、やつがしら。

【⿰契鳥】ケツ、ケチ。古節切 屑　カツ、ケチ。訖黠切 黠
——鸊は、鳧の屬。○[張衡]「—鶂鷊鷁」。

【⿰耎鳥】ジュン、ニュン。濡純切 眞
雛の晩く生まるゝもの。

【鶞】チュン。丑倫切 眞
鶬—は、かやくき。

【⿰㚇鳥】ソウ、ス。祖叢切 東
足を斂む。

【鶟】トツ、ドチ。陀骨切 月
——鸞は、雛に似て青身白頭の鳥。

【鶠】エン、オン。於幰切 阮
鳳皇。○[爾]「—鳳其雌皇」。

【鸇】セン。之然切 先

――鳥は、山の名。

【䳌】鶡に同じ。

【鶡】カツ、ガチ。胡割切 曷 ㊀雉に似たる一種の鳥、やまどり、色黃黑にして首は褐色なり、毛角あり冠あり、性勇敢にして鬪へば死ぬまで止めずといふ。○〔列〕「以二鶡――一爲二旗幟一」。㊁やまどりの勇敢なるにあやかりて其の尾を飾りとなせる武士の冠、又、勇退さの義より隱士の冠にも飾りとす。○〔後漢〕「虎賁皆――冠」。㊂――旦は、夜鳴きて旦を求むといふ鳥の名。○〔禮〕「――旦不レ鳴」。

【鳻】フン、ホン。敷文切 文 鳻に通じ用ふ。○〔漢〕「――雀飛集二丞相府一」。

【鶮】カク。曷各切 藥 鶴に同じ。

【鶍】ヤウ。余章切 陽 エイ、ヤウ。怡成切 庚 白鷹、みさご。

【鶢】エン、ヲン。于元切 元 ――居は、一種の海鳥。

【鶣】ヘン。紕延切 先 輕き貌にいふ字。○〔傅毅〕「――飄燕居」。

【鶤】ウン、ヲン。王問切 問 大いなる雞、たうまる。○〔揚雄〕「――雞朝飛」。

【鶤】コン。古渾切 元 鵾に同じ。○〔淮〕「軼二――雞於姑-餘一」。

【鶥】ビ、ミ。武悲切 支 ――鶘は、まなづる。

【鶘】コ、ウ。洪孤切 虞 鵜――は、鳥の名。

【䳮】バイ、ベ。謀杯切 灰 禽を誘ひ取るに用ふる鳥、をとり。

【鶓】ベウ、メウ。亡沼切 篠 彌遙切 蕭 みそさゞい（巧-婦）。

【䳶】バウ、モウ。莫報切 號 鶓鵲の屬。○〔山海經〕「有レ鳥人面名曰二䳶――一」。

【驀】バク、ミヤク。莫白切 陌 鳥の驚き視る貌にいふ字。○〔潘岳〕「無レ見白――」。

【鶨】テン。丑絹切 霰 トン、ドン。徒困切 願 タン。吐玩切 翰 あほうどり。

【鶝】フウ、ブ。房九切 有 フ、ボ。奉甫切 麌 はいたか（鷂）。

【鶩】ボク、モク。莫卜切 屋 ブ、ム。亡遇切 遇 ㊀人家に畜ふ飛ぶ能はざる鳧、あひる、舒鳧、家鴨。○〔後漢〕「刻レ鵠不レ成尙類レ―」。㊁亂れ馳す、はす。○〔楚辭〕「鸞騁―二兮江-皐一」。〔頒鶩〕鴨の一種。○〔上林賦〕「――庸-渠」。〔野鶩〕かも。○〔蘇軾〕「家雞――同登レ俎」。〔鳧鶩〕前に同じ。○〔李尤〕「以代二――一」。

【鷆】チヨウ、ヂユ。直容切 冬 ――鷆は、鳥の名。

【鶔】シヨウ、シユ。蠢勇切 腫 雛の飛ぶ貌にいふ字、一說に、すゞめ、（雀）。

【䳜】鴂の本字。

【鶀】キ、ギ。翹移切 支 翠に似て赤き喙ある一種の鳥。

【鶕】鵗に同じ。

十畫

【鶩】俗の鶩の字。

【鶬】サウ。七岡切 陽 大いさ鶴の如き一種の水鳥、まなづる、青蒼色のものあり灰色のものありて頸長く脚高く兩頰紅なり、別名は、麋鴰。○〔司馬相如〕「雙――下」。

【鶬】シヤウ、サウ。千羊切 陽 ㊀和ぐ聲にいふ字。○〔詩〕「八-鸞――」。㊁金飾の貌にいふ字。○〔詩〕「鞗-革有レ―」。

【鶭】ハウ。妣兩切 養 おすめどり、（澤-虞）、みぞごゐさぎ、（姑-澤-鳥）、ひのくちまもり、（護-田-鳥）。

【鶮】鵠に同じ。

【鶮】コク、ゴク。胡沃切 沃 邑の名。

【鸎】鶯の本字。

【鶯】アウ、ヤウ。烏莖切 庚 ㊀鶬鶊、てうせん、うぐひす、うぐひす、別名は、黃鸝、商倉、黧黃、鸝鶹、黃袍、搏黍、黃鳥、金衣公子。○〔梁〕「早-雁初――」。㊁鳥の羽の文、あや。○〔詩〕「有二――其羽一」。
〔黃鶯〕鳥の名、うぐひす。○〔王維〕「――弄不レ足」。
〔殘鶯〕春すぎてまた鳴きをるうぐひす。○〔李頎〕「御-苑聽二――一」。
〔晚鶯〕晚春のうぐひす。○〔柳宗元〕「――啼二遠-林一」。
〔曙鶯〕晨鶯、曉鶯、朝鶯などといふに同じ、あけがたのうぐひす。○〔李頎〕「東-林――滿」。
〔籠鶯〕かごの中にこめられたる黃鳥。○〔白居易〕「――悔レ出レ谷」。

【䳵】シヨク、シキ。相卽切 職 鳥食らふ、ついばむ。

【鷐】シン。之隣切 眞 章刃切 震 鷺の別名。○〔左思〕「――鷺鶬-鶊」。

【鷛】ヨウ、ユ。餘封切 冬 ――鷝は、さやつきどり。

【鶅】鵗に同じ。

【鶱】ケン、コン。虛言切 元 飛ぶ貌にいふ字、かける、とぶ。○〔沈約〕「將二――復斂一翮」。

【鵥】ハン、バン。薄官切 寒
——鶻は、鳥の名。

【鶳】シ。霜夷切 支
鶳に同じ、鳥の名。

【鶴】カク。下各切 藥
㊀一種の水鳥、つる、頸長く脚高く丹頂白身頸と翅さきは黑し、多く夜半に鳴く其の壽甚だ長しといふ。○〔易〕「鳴ㇾ鶴在ㇾ陰、其子和ㇾ之」。
㊁左右の翼を張る陣列。○〔莊〕「無ㇾ盛ニ鶴列於麗譙之閒一」。
㊂鋤の頭。○〔逸雅〕「鋤助也、齊人謂ニ其頭一曰ㇾ鶴」。
㊃翯に同じ、羽毛の白きにいふ字。○〔孟〕「白鳥鶴鶴」。
〔玄鶴〕くろき色のつる。○〔古今注〕「鶴千歲則變ㇾ蒼、又二千歲則變ㇾ黑、所ㇾ謂玄鶴也」。
〔翔鶴〕空中を飛ぶつる。○〔薛道衡〕「翔鶴下ニ伊川一」。
〔飛鶴〕前に同じ。○〔李白〕「嬌女愛ニ飛鶴一」。
〔瑞鶴〕めでたきあるしのつる。○〔宋〕「是時所在言ニ瑞鶴一」。
〔孤鶴〕獨鶴といふに同じ、ともなきつる。○〔隋煬帝〕「孤鶴近追ㇾ羣」。
〔皓鶴〕白鶴のこと。○〔謝景運〕「皓鶴奪ㇾ鮮」。
〔素鶴〕前に同じ。○〔周興嗣〕「渚前養ニ素鶴一」。

【鶵】
雛に同じ。

【[illegible]】タフ、ドフ。徒盍切 合
[illegible]——は、鳥飛ぶさま。

【鶶】タウ、ダウ。徒郎切 陽
——鷵は、わかたか。○〔爾〕「鷵——鶶」。

【鶷】カツ、ゲチ。胡瞎切 黠

——[illegible]は、雛鴿に似たる一種の小さき鳥、灰黑色にして微しく斑點あり、喙は尖りて黑し、行くに頭を俯す、つぐみ、反舌鳥。○〔謝靈運〕「——[illegible]綬章」。

【[illegible]】サツ、セチ。山戛切 黠
鳥飛ぶ疾し、はやし。

【鶸】ジヤク、ニヤク。而灼切 藥
崑鳥、たうまる。

【鵧】ヘイ。匹迷切 齊
——[illegible]は鳥の名。

【鶹】リウ、ル。力求切 尤
——鷅は、ふくろふ、鵂——は、みゝづく。

【鵏】フ、ポ。奉甫切 麌
——[illegible]は、くじやく。

【鶺】セキ、シヤク。子席切 陌
鴒の字を見よ。

【鶻】コツ、コチ。古忽切 月
クワツ、グワチ。戶八切 黠
山雀に似て小さき一種の鳥、かむりどり、あさなきどり、靑黑色にして尾短し、鶻鵃鳥。○〔張衡〕「——嘲春鳴」。

【鶻】コツ、グチ。胡骨切 月
鷹の屬、くまたか、はやぶさ。○〔唐〕「犬馬鷹——」。
〔回鶻〕西域の部落の名、匈奴の族より出で元魏の時高車部と號し隋には韋紇といひ、又、回紇といふ唐の德宗の時請ひて鶻の字に改む。○〔唐〕「建中元年請易ニ回紇曰ニ回鶻一」。
〔海鶻〕越人水戰に用ふる舟の名。○〔類說〕「越人水戰有ニ海鶻一」。
〔義鶻〕くまたか。○〔杜甫〕「聊爲ニ義鶻行一」。

【鶼】ケン。古甜切 鹽
比翼の鳥。

【鶽】シユン。思尹切 軫
はやぶさ、(隼)、わし、(雕)。○〔山海經〕「開明南有ㇾ——」。

【鶾】カン。侯幹切 翰 カン、ガン。胡安切 寒
㊀きんけいてう、(錦雞)。○〔爾、註〕「——雞赤羽」。
㊁翰に同じ。○〔說文〕「——音赤羽」。

【鶿】シ、ジ。疾之切 支
鸕——は、一種の水鳥、形は鴉に似て色深黑なり喙は曲がれるを鉤の如し、う、うのとり、ゑまつどり、水老鴉、慈老人、善く魚を捕らふるより烏鬼といふ。○〔夔州圖經〕「鸕——捕ㇾ魚」。

【鷀】
前條に同じ。

【鷁】ゲキ、ギヤク。五歷切 錫
㊀鷺に似て大いなる一種の水鳥。○〔春秋〕「六——退飛」。
㊁また其の水鳥の象を船首に書きたる船。○〔謝靈運〕「泛ㇾ——兮游ニ蘭池一」。
〔畫鷁〕鷁鳥を船首に畫きて飾りとするより船のことにいふ語。○〔皮日休〕「天上搖ニ畫鷁一」。
〔文鷁〕前に同じ。○〔司馬相如〕「浮ニ文鷁一揚ニ旌枻一」。
〔彩鷁〕前に同じ。○〔劉孝綽〕「釣舟畫ニ彩鷁一」。
〔修鷁〕たけたかき鷁鳥。○〔沈約〕「修鷁短鳧」。

【鷂】エウ。弋照切 嘯
一種の鷙鳥、はしたか、はいたか、はやぶさ、鷂負雀。○〔列〕「久復爲ㇾ——」。

【鷂】エウ。餘招切 蕭
五色の雉、きじ。

【鷃】アン、エン。烏澗切 諫
鴳に同じ、かやくき、(鴽)、ふなしうづら、(鶉)。○〔禮〕「雉兔鶉——」。

【鷄】ケイ、カイ。古奚切 齊
時を知る家禽、にはとり、くだかけ、翰音、性勇敢なり、其の種類多く、長尾鷄(をながどり)食鷄(ちごり)長鳴鷄(ながなきどり)矮鷄(ちやぼ)鶤鷄(たうまる)等あり。○〔詩〕「女曰——鳴」。
〔火鷄〕駝鳥の屬、ひくひどり。○〔洞冥記〕「滿剌伽國有ニ火鷄一」。
〔秧鷄〕夏秋の間田澤などに居て鳴く水鳥、くひな。○〔本草〕「秧鷄大如ニ小鷄一」。
〔竹鷄〕竹林の間に棲む鳥。○〔洞冥記〕「竹鷄似ニ鵲鳩一」。
〔醯鷄〕酒に生ずる蟲、かつをむし。○〔莊〕「猶ニ醯鷄一」。
〔樹鷄〕きのこ、菌。○〔黃庭堅〕「況乃桑鵞與ニ樹鷄一」。
〔辟鷄〕うすくきりたる菹、つけもの。○〔禮〕「麋爲ニ辟鷄一」。

【鷛】ヨウ、ユ。於容切 冬
——渠は、せきれい。

【鷅】リツ、リチ。力質切 質
鶹——は、ふくろふ、(梟)。

【鷏】テン、デン。徒年切 先 シン。之人切 眞
黃白の雜文ありて聲は鴿に似たる一種の鳥、かすひ、蚊母、吐蚊鳥、蟁母。

【鷇】コウ、ク。苦候切 宥 コ、ク。古慕切 遇 ——（說文）从ㇾ鳥在二殼中一。
㊀鳥の子の將に卵を出でんとするもの、未だ自ら啄むを得ずして親鳥に哺まるゝもの、たまご、ひな、ひよこ、特に燕雀などの類にいふ。〇〔國〕「鳥翼ニ——卵ニ」。
㊁はぐくむ、（哺）。〇〔揚雄〕「風胎雨——」。
〔鵰鷇〕わしのひな。〇〔抱朴〕「——有二淩虛之貌一」。
〔雛鷇〕ひなどり。〇〔管〕「不ㇾ擿二——一」。
〔麛鷇〕鹿の子と鳥のひなと。〇〔鹽鐵論〕「罝掩捕二——一」。

【鷈】テイ、タイ。土雞切 齊
鷿——は、にほとり、かいつぶり、むぐり、小さき野鳧に似て蒼白の文あり、脚と尾と近接して陸行する能はず、水鶩、鸊鷉。〇〔馬融〕「鷺・雁鷿——」。

【鷉】前條に同じ。

【鷊】ゲキ、ギヤク。五歷切 錫
㊀一種の鳥、頭は雉に似て體に眞珠の點文あり、頸に嗉囊ありて中に肉綬を藏む、淸明の天氣に日に向ひて之を擺ぐるに先づ項上に兩の翠角を出だし徐に項下の肉綬を舒ぶ采色煥爛たり、とちめんてう、からくんてう、綬鳥、吐綬、功曹、錦囊、辟株、眞珠雞。〇〔埤雅〕「——綬鳥」。
㊁一種の小草。〇〔詩〕「邛有二旨——一」。

【⿰頁鳥】コウ、ク。古送切 送
鳥食を讓る。

【⿰麸鳥】⿰戉鳥に同じ。

【鷎】ケウ。古幺切 蕭
ふくろふ、（不孝鳥）。

十一畫

【鷐】シン。植鄰切 眞
——風は、はやぶさ。

【⿱從鳥】ショウ、ジュ。牆容切 冬
にはとり（雞）。

【⿱規鳥】キ。古隨切 支
ほとゝぎす（子規）。

【鷶】バイ、メ。莫佳切 佳
㊀かり、（雁）。㊁すゞめ、（雀）。

【⿰啇鳥】テキ、チヤク。都歷切 錫
タク、チヤク。陟革切 陌
雉の屬、愚かなる鳥。

【⿰商鳥】シヤウ、サウ。式羊切 陽
鳥の名。

【鴗】キフ。極入切 リフ。力入切 緝
小さき黑き一種の鳥、くろもず。

【鷒】タン、ダン。度官切 寒 セン。朱遄切 先
鸛——は、こふのとり。〇〔郭璞〕「鸛——之鳥」。

【鷓】シヤ、セ。之夜切 禡
鴣の字の條を見よ。

【⿱敏鳥】ビン。美隕切 軫
みさご、（鶚）。

【⿰習鳥】シフ、ジフ。似入切 緝
鳩——は、鳥の名。

【鸇】セン。息連切 先
鶴に似て碧色なる一種の鳥。

【⿰常鳥】シヤウ、ザウ。市羊切 陽
⿰重鳥——は、鳥の名。

【⿰鳥寇】コウ、ク。丘候切 宥
㊀⿰豖鳥鳩、えびすすゞめ。㊁鴨の屬。

【鶞】ショウ、シュ。書容切 冬
ふゝどり（布穀）。

【鷔】ガウ、ゴウ。五勞切 豪
不祥の鳥　〇〔郭璞〕「⿰乃鳥——鷗鴃」。

【鷔】ガウ、ゴウ。五到切 號 ギウ、グ。倪虯切 尤
——魚は、さびのうを。

【鷕】エウ。以沼切 ケウ、ゲウ。胡了切 篠
イ。羊水切 紙
雉鳴く、なく。〇〔詩〕「有ㇾ——雉鳴」。

【⿰口鳥】前條に同じ。

【鷇】コウ、ク。丘候切 宥 コク。空谷切 屋
鳥の卵。〇〔韓愈〕「盤・肴饋二禽——一」。

【⿰酓鳥】アン、オン。烏含切 覃
——鶉は、ふなしうづら。

【⿰臭鳥】ケツ、ケチ。古屑切 屑
⿰契鳥に同じ。

【⿰隽鳥】ケイ、カイ。古禮切 薺
鴉に同じ、亦鳧の屬。

【鷖】エイ、アイ。烏雞切 齊
㊀鳧の屬、かもめ、全身蒼色にして好みて水上に浮び羣飛して鳴き潮に隨ひて往來す、別名は、信鳧、水鴞。〇〔詩〕「鳧——在ㇾ涇」。
㊁鳳凰の別名。〇〔屈平〕「以乘ㇾ——」。
〔浮鷖〕かもめのこと。〇〔埤雅〕「鳧好ㇾ沒、鷖好ㇾ浮、故曰二——一」。

【鷖】エイ、アイ。一計切 霽
青黑色、あをぐろ。〇〔周〕「彫ㇾ面——總」。

【鷗】オウ、ウ。烏侯切 イウ、ウ。於求切 尤
かもめ、（鷖）。〇〔李時珍〕「——者浮二水上一輕漾如ㇾ漚」。
〔海鷗〕海上のかもめ。〇〔謝靈運〕「——時出沒」。
〔信鷗〕一種のかもめ。〇〔海物異名記〕「鷗之別類隨ㇾ潮往來者曰二——一」。
〔洛鷗〕汀鷗といふに同じ、みぎはに居るかもめ。〇〔張耒〕「蘋・葭風定——閒」。
〔閒鷗〕しづかなるかもめ。〇〔鄭元祐〕「詩・盟從ㇾ此負二——一」。
〔銀鷗〕白きいろのかもめ。〇〔李紳〕「雪鷺——左右來」。

【鷗】ク、コ。虧于切 虞
水鳥。

【⿰𦰩鳥】ダン、ナン。那干切 寒 カン。許旱切 旱
㊀鳥。㊁人の姓。

【⿰𦰩鳥】ダン、ナン。乃旦切 翰
へだつ、（阻）。

【鷘】 チヨク、チキ。恥力切 職 鸂―は、をしどり。

【𪆫】 シヤウ、サウ。諸良切 陽 ―渠は、くひな、水鷄。

【鷙】 シ。脂利切 寘 ㊀疾癘猛烈なる鳥、他鳥をうちて餌となす鳥、あらごり、卽ち、鷹鸇の類。○〔王逸〕「―執也、謂三能執二伏衆鳥一、鷹鸇之類」。㊁疾癘猛烈なるにいふ字、あらし、とし、はげし、たけし。○〔禮〕「鷹隼蚤―」。㊂うつ（擊）。○〔後漢〕「湯武善御レ衆故無二忿―之師一」。「―曼」。㊃ふる（抵）。○〔莊〕「馬知介倪闉扼

〔驁鷙〕 たけきこと。○〔唐〕「―ー驍レ兵」。
〔勇鷙〕 前に同じ。○〔後漢〕「其人―ー有二智謀一」。
〔剛鷙〕 强くたけきこと。○〔晉〕「―ー之鳥來集」。
〔虎鷙〕 とらとあらどりと、又、猛きこと。○〔戰〕「―ー之士」。
〔沈鷙〕 沈重にしてたけきこと。○〔唐〕「―ー有レ守」。
〔猜鷙〕 猜忌にしてわるづよきこと。○〔唐〕「―ー好レ兵」。
〔羣鷙〕 猛鳥の衆鳥を羣つにいふ語。○〔張華〕「鷹隼始―ー」。
〔忍鷙〕 あはれみなくたけきこと。○〔晁補之〕「雄猜「―ー」。

【鷙】 チツ。陟栗切 質 ㊀行ひの平かならざること。○〔莊〕「喬詰卓―」。㊁うたがふ（疑）。○〔管〕「下愈覆―而不二聽從一」。

【鷙】 セツ、之列 屑 セチ。切 チツ。勅質 質 切 チ。陟利切 寘

【䴩】 鳥擊つ、うつ。

【䴩】 ヘウ。匹沼切 篠 鳥の毛色の變はろにいふ字、かはる。

【䴩】 ヘウ。撫招切 蕭 鳥の輕く飛ぶ貌にいふ語。

【𪆽】 ソツ、ソチ。蘇骨切 月 鶻―は、ゐゆずかけばと。

【鷚】 リウ、力救 宥 切 ル。切 力求 尤 フウ、迷浮 ム。切 キウ、渠幽 尤 レウ。切 憐蕭 蕭 グ。 大いさ鷃雀（ふなしうづら）の如く色は鶉に似て其の鳴く聲高く韻多き一種の鳥、ひばり、告天鳥。○〔張協〕「丹穴之―」。

【鷛】 ヨウ、ユ。餘封切 冬 ―鷞は、形は鴨に似て足は鷄に似たる一種の鳥。○〔司馬相如〕「煩鶩―鷞」。

【鷜】 ロウ、落侯 尤 ル。切 ル。力朱 虞 切 かり、（野鵝）。

【鷜】 ル、ロ。隴主切 麌 鸀―は、くわっこうどり、（郭公）。

【鷝】 ヒツ、ヒチ。必吉切 質 ―鵖は、鳥の名。

【𪇆】 サン、昨甘 覃 ゾン。切 サン、仕成 咸 ゼン。切 仕懺切 陷 わし、（鷲）。

【鷞】 シヤウ、サウ。所莊切 陽 鷫―は、西方の神鳥、長頸綠色雁に似て皮は裘につくるべしといふ。○〔史〕「以二鷫―裘一貰レ酒」。

【鷞】 シヤウ、サウ。踈兩切 養 ―鳩は、たか（鷹）。

【鷟】 サク、ゾク。仕角切 覺 紫色の鳳。

【𩿑】 鷗の本字。○〔山海經〕「衣レ魚食レ―」。

【䳯】 チヨウ、チユ。丑凶切 冬 鳥行かず。

【鷏】 テン。通堅切 先 あひる、（鴨）。

十二畫

【鵹】 鸍に同じ。

【鷡】 ブ、ム。武夫切 虞 かやくき、ふなしうづら、（鴽）。

【䳾】 トウ。都騰切 蒸 ―鷄は、秧雞に同じ、おほくひな。○〔本草〕「―鷄大如レ雞、長脚紅冠雄色褐雌稍小、色斑、秋月卽無レ聲」。

【鷢】 ケツ、コチ。居月切 月 王鵙、楊鳥、みさご。○〔韓愈〕「飄然逐二鷹―一」。

【鷣】 イン。餘針 侵 切 エウ。弋炤 嘯 切

【鷤】 タン、ダン。徒干切 寒 はいだか、（鷂）。

【鷤】 テイ、ダイ。杜奚切 齊 雉の子。

【鷤】 テイ、ダイ。特計切 霽 ―鴂は、ほとゝぎす、（子規）。○〔揚雄〕「恐二―鴂之將一レ鳴矣」。

【鷤】 ふゝごり、（布穀）。

【鷥】 シ。新茲切 支 鷺の頭上の毛、さぎ。

【𪇋】 ジヨ、ソ。商居切 魚 あひる、（鶩）。

【䴙】 鸊に同じ。

【鷦】 セウ。卽消切 蕭 ―鷯は、さゞき、みそさゞい、たくみどり、桃蟲、巧雀、女匠、蠟雀、巧女、黃雀、黃脰雀。○〔說苑〕「―鷯巢二於葦苕一」。

【鷧】 イ。乙冀切 未 鸕鷀、うのとり。

【鷨】 鷂の本字。

【鷨】 クワ、戶花 麻 ゲ。切 胡化 禡 切 ふゝごり。

【𪇂】 トウ、ヅ。徒紅切 東 鸏の字を見よ。

【⿰惡鳥】アク。遏各切 藥 水――鳥。

【鸆】グ、牛具切 遇 ゴ。遇俱切 虞 ――鼠は、鳥の名。

【⿰象鳥】シヤウ、ザウ。似兩切 養 ――鶅は、鸑鷟の別名。

【⿱敝鳥】鷩に同じ。

【鷩】ヘツ、幷列切 屑 ヘチ。ヘイ、必袂切 霽 ヘ。ヒ。必至切 寘 山雞に似て小さき一種の鳥、冠背の毛は黃にして腹下は赤く頸は綠にて鮮明なり、きんけいてう、赤雉、錦雞、鵕鸃。〇[張衡]「飛-凫棲-―」。

【鷫】シユク、ソク。息逐切 屋 鷞の字を見よ。

【鷬】クワウ、ワウ。胡光切 陽 うぐひす。

【⿰口鳥】コウ、ク。呼侯切 尤 青色にして鵁鶄に似たる一種の鳥。

【⿰舟鳥】シヨウ。詩證切 徑 きくいたゞき、やつがしら(戴勝)。

【⿱厤鳥】レキ、リヤク。郎擊切 錫 鷹に似て大いなる一種の鳥。

【鷣】シン。杳林切 侵 晉鷄、たうまる。

【鵋】キ。去其切 支 鵋――は、みゝづく(鵂鶹)。

【鷍】ダウ、チウ。女交切 肴 鸋――は、てうせんうぐひす。

【鷮】ケウ。擧喬切 蕭 雉の屬、おほやまどり、尾甚だ長く走りつゝ鳴く。〇[詩]「有レ集維―」。

【鷯】レウ。洛蕭切 蕭 鷯の字を見よ。

【鷯】レウ。力照切 嘯 ――鶉は、うづら。

【鷰】燕に同じ。

【鷎】カウ、古勞切 豪 コウ。古老切 皓 ――鳴は、ぶゆずかけばさ(鵁鶄)。

【鷲】シウ、ジユ。疾僦切 宥 羽族中にて最も鷙き一種の鳥、わし。〇[本草]「―、悍多レ力、盤二旋空-中一、無二細不一レ覩」。

【鷳】カン、ゲン。戸閒切 删 白鷳、しらきじ、形は山雞に似て質白く章黑く尾の長さ三四尺あり、距さ觜さは純丹にてまゝ靑黑のものあり。〇[宋]「以二拄-杖一逐レ―」。

【鷴】俗の鷳の字。

【⿰舜鳥】シユン。輸閏切 震 ――は、鳥の名。

【⿱隋鳥】イ。以追切 支 鳥飛ぶ、とぶ。

【鷵】ト、ヅ。同都切 虞 鷵――は、わかたか。

【⿱習鳥】シユク、ソク。之六切 屋 ぶゆずかけばさ。

【鷈】シ。息移切 支 みやまがらす、はしぶさがらす(鴉烏)。

【鷶】バイ、メ。莫蟹切 蟹 ――鵤は、ほとゝぎす(子嶲)。

【鸈】キヨ、ゴ。强魚切 魚 鸈――は、せきれいにはくなぶり。

【鷷】シユン、ジユジ。將倫切 眞 西方の雉の名。

【鷷】ソン、ゾン。徂昆切 元 蹲に通じ用ふ、うづくまる。

【鷸】イツ、イチ。餘律切 質 ㊀鷸の如き一種の鳥、しぎ、色蒼く喙長し。〇[戰]「――蚌相持」。㊁翠鳥の別名、かはせみ。〇[左]「好レ聚二――冠一」。㊂疾く飛ぶ貌にいふ字。〇[木華]「――如二鷩-凫之失一レ侶」。

【鷸】シユツ、ジユチ。食律切 質 はしたか、はいだか(鷂)。

【鷻】タン、ダン。度官切 寒 わし(雕)、一說に、さび(鳶)。〇[詩]「非レ―非レ鳶」。

【鷹】ヨウ、オウ。於陵切 蒸 獵に使用する一種の鷙鳥、あらとり、たか、題肩、征鳥、爽鳩等の異名あり。〇[詩]「時維―揚」。

(蒼鷹) 鳥の名、たか。〇[戰]「――擊二于殿上一」。〇[晉]「時有二――一」。
(野鷹) 人に飼畜せられざるたか、のたか。
(饑鷹) 空腹のたか。〇[杜甫]「――未レ飽レ肉」。
(名鷹) すぐれたるなたかきたか。〇[南]「多聚二――快犬一」。
(虎鷹) 虎豹の如き猛獸をつかむと稱するおほいなるたか。〇[廣志]「――能飛捕二虎豹一」。
(黃鷹) 一歲のたか。〇[廣志]「一歲曰二――一」。
(鴘鷹) 二歲のたか。〇[廣志]「二歲曰二――一」、
(青鷹) 鴘鷹ともいふ、三歲のたか。〇[廣志]「三歲曰二――一」。
(角鷹) おほたか。〇[本草]「鷹以レ膺擊、故謂二之鷹一、北頂有二毛角一、故曰二――一」。
(雀鷹) たかの異名。〇[詩疏]「齊人謂二之擊征一、或謂二之題肩一、或謂二之――一」。
(隼鷹) はやぶさ。〇[李充]「――匿レ爪」。
(奇鷹) めづらしきたか。〇[祭毬]「南山有二――一、「立二垂枝一」。
(勁鷹) つよきたか。〇[蔣子萬機論]「――不レ
(雛鷹) くまたか。〇[揚雄]「――高翔」。
(魚鷹) みさごと稱する鳥の異名。〇[元]「俄有二――一、羣飛啄二食之一」。

【鷺】ロ、ル。洛故切 遇 ㊀一種の水鳥、しらさぎ、さぎ、林に棲み水に食らひ羣飛して序を成す、喙脚長く毛色白くして雪の如し、頭頂背に皆長き翰毛あり、別名は絲禽、屬

玉、又、淺水に歩み自ら低昂するさまの舂くが如く鋤くが如き狀なるより舂鋤ともいふ。○〔禽經〕「—飛則露」。
㊁古昔舞をなす者の持ちて指麾するに用ひしもの、さぎの羽にてつくりしといふ。○〔詩〕「振-々—」。
〔飛鷺〕そらとぶさぎ。○〔杜甫〕「浴-鳧—-—晩悠-々」。
〔翔鷺〕前に同じ。○〔隋〕「又使二—-—于其上一」。
〔雪鷺〕しらさぎ。○〔李紳〕「—-—銀-鷴左-右來」。
〔眠鷺〕睡鷺といふに同じ、ねむりたるさぎ。○〔皮日休〕「細-雨闌-珊—-—覺」。

【⿰賁鳥】ホン、博昆 ポン。切 元 フン、符分 ポン。切 文
鳥の名。

【鸔】ホク、ボク。蒲沃切 沃
—鷚は、鳥の名。

【⿰菐鳥】ホク、ポク。普木切 屋
善く占ふといふ一種の鳥。

【⿰鳥焦】鷦の本字。

【⿰雋鳥】鷦に同じ。

【⿰菟鳥】ト、ツ。通路切 遇
毛角ある一種の鳥、このはづく、みゝづく。

【鷇】コウ、ク。苦候切 宥
ひな、(鶵)。

【⿱舂鳥】ショウ、シュ。書容切 冬
鸀—は、ふゝどり。

【⿰絲鳥】擷に同じ。

十三畫

【鷽】アク、オク。於角切 覺
鵲に似て文彩ある一種の鳥、尾長く觜と脚と赤し、さんじやく、をながどり。○〔爾〕「—山-鵲」。

【鷽】カク、胡覺 ゴク。切 覺 ヨク、烏酷 オク。切 沃 クワツ、戸八 ガチ。切 黠
小鳩。○〔莊〕「蜩與二—-鳩一笑レ之」。

【⿰農鳥】ドウ、女冬 ノウ。切 冬 ダウ、濃江 ノウ。切 江
ひしくひがん、(鴻)。

【⿰葛鳥】アツ、乙鍇 エチ。切 カツ、午鍇 ケツ。切 黠 カイ。居太 切 泰
鶷—は、伯勞(もず)に似て小さき一種の鳥。

【⿰零鳥】レイ、リヤウ。郎丁切 青
鶴の別名、一說に、脊鴒の別名。

【鶹】リウ、ル。力求切 尤
—鵂は、むさゝび、(飛-鼺)。

【鷾】イ。於記切 寘
—鴯は、つばめ、(燕)。○〔莊〕「莫レ知二於—-鴯一」。

【⿰賈鳥】カ、ケ。擧雅切 馬
鷹の屬。

【⿰鳥巂】キ。居爲切 支
子—は、ほとゝぎす。○〔揚雄〕「貊-貕螗-蛺子—-呼焉」。

【鷿】ヘキ、ヒヤク。普擊切 錫 ハク、ヒヤク。博厄切 陌
鸊の字の條を見よ。

【鸀】ショク、ゾク。殊玉切 沃 タク、ドク。直角切 覺
一種の山鳥。

【鸀】トク、ドク。徒谷切 屋
—[illegible]は、さやつきどり。

【鸀】ショク、ソク。樞玉切 沃
㊀山鳥の别種。
㊁—鳿は、狀鴨の如くにして大いなる一種の鳥、長頸赤目斑觜にして毛は紫紺色なりといふ。

【⿰葵鳥】キ、ギ。渠惟切 支
小鳩。

【鸁】ラ。落戈 切 歌 魯果 切 哿
㊀果—は、みそさゞき、(桑-飛)。
㊁須—は、にほどり、(鸊-鷉)。

【鸂】ケイ、カイ。苦兮切 齊
—鷘は、をしどり。○〔埤雅〕「—-鷘五-色、尾如二船舵一」。

【鸃】ギ。魚羈切 支
鵔—は、きんけいてう、(鷩-雉)。

【⿰鉏鳥】ショ、ソ。士魚切 魚
⿱舂鳥—は、しらさぎ。

【䴉】クワン、ゲン。胡關切 刪 セン、ゼン。旬宣切 先
—目は、ほしごゐさぎ、大さ鷺の如くにして尾短かく目深し、目の旁の毛長くして旋る。○〔史〕「鵁-鶄—-目」。

【䴉】ケン、コン。許元切 元
繞り飛ぶ、とぶ。○〔揚雄〕「朱-鳥—-—」。

【鸄】ケキ、古歷 キヤク。切 錫 ケウ、古弔 切 嘯 吉了 切 篠 堅堯 切 蕭
わかたか、(鷂-鷹)。○〔酉陽雜俎〕「—色黃、一-變爲二青-鵃一」。

【⿰過鳥】クワ。古禾切 歌
—鸁は、たくみどり。

【鸅】タク、ヂヤク。場伯切 陌
㊀鴺—は、がらんてう。
㊁—鸆は、みぞごゐ。

【鸆】グ、ゴ。遇倶切 虞
鸅—は、みぞごゐさぎ、一名は、ひのくちまもり、(烱-澤)。

【鸓】俗の鼺の字。

【鸇】セン。諸延 切 先 ケン。稽延 切
あらとり、はやぶさ、(晨-風)。○〔陸機〕「—似レ鷂黃-色、燕-頷勾-喙、嚮レ風搖レ翮乃因レ風急疾二擊鳩鴿燕雀一食レ之」。

【鸈】ゲフ、ゴフ。魚怯切 葉

人の吉凶を知るといふ一種の鳥。

【鸉】ヤウ。與章切 陽　みさご、うをたか(白-鷢)。

【[illegible]】・鷢に同じ。○[樊宗師]「提ㇾ鷢挈ㇾ—」。

【鷔】コウ、ク。許候切 宥　——鶇は、かも、(野-鴨)。

十四畫

【鸋】デイ、奴丁切 青　ニヤウ。乃定切 徑　ふなしうづらのこ(鴽-子)。

【鶄】セイ、ジヤウ。杳盈切 庚　せきれい(雝-渠)。

【鸍】シ。式支切 ビ、亡支切 ミ。支　鴨に似て小さき鳥、たかべ、こがも、尾長く背の上に文あり、沈鳧、水鴒。

【⿰夢鳥】ボウ、ム。莫風切 東　くそとび。

【[illegible]】鷲に同じ。

【⿰賓鳥】ヒン、ビン。紕民切 眞　飛ぶ貌にいふ字。

【鸎】アウ、ヤウ。汙莖切 庚　黃鸝、うぐひす、てうせんうぐひす。○[禽經]「——鳴嚶々」。

【鸏】ボウ、モウ。莫紅切 東　㊀水鳥の雛の未だ毛を生ぜざるもの。㊁——鶲は、九眞交趾より出づる一種の鳥、ほうでん、大いさ孔雀の如し、喙の長さ尺許あり。○[笠眞羅浮山疏]「——鶲不ㇾ食ㇾ魚止㗫ニ木葉ニ。」

【⿰蒙鳥】バウ、モウ。莫江切 江　鳩の屬。

【⿰監鳥】ラン、ロン。魯甘切 覃　——鶫は、くわっこうどり(郭-公)。

【鷇】コク。古祿切 屋　ふゝどり(布-穀)。

【⿰壽鳥】チウ、ヂユ。直由切 尤　南方の雉の名。○[淮]「貝-帶鷄-—」。

【⿰壽鳥】タウ、ドウ。徒刀切 豪　——河は、がらんてう。

【鸐】テキ、チヤク。亭歷切 錫　タク、ドク。直角切 覺　山雉、やまどり、卽ち、鸐の小さきもの。○[李時珍]「—居ニ山林ニ」。

【鸑】ガク、ゴク。五角切 覺　——鷟は、鳳の屬、神鳥。○[張說]「鳴——改ㇾ號」。

【鸒】ヨ。以諸切 魚　はしぶと(卑-居)、やまがらす(鵶-烏)。○[詩]「弁彼—斯」。

【鸆】ヨウ、ユ。影雄切 東　せきれい。

十五畫

【⿰蔡鳥】サイ。倉大切 泰　きじばと(鳩)。

【⿰翏鳥】リウ、ル。力求切 尤　鷚卵、あひるのたまご。

【鸔】ホク、蒲木 屋 ボク。切　ハク、北角 覺 ホク。切　鴨に似たる一種の水鳥、頸短く腹翅紫白にして背上綠色なり。

【⿰樂鳥】ラク。盧各切 藥　赤き首の鷹。

【⿰截鳥】セツ、セチ。子結切 屑　小さき鷄、こにはとり、ちやぼ。

【⿰鳥箴】シン。職深切 侵　——鴜は、魚虎(かはせみ)に似て黑色なる一種の水鳥。

【⿰蔑鳥】ベツ、メチ。莫結切 屑　みそさゞき(工-雀)、一說に、たくみどり(巧-婦)。

【⿸廣鳥】クワウ。古晃切 養　——鴠は、鳳の屬。

【⿰鳥辥】ゲツ、ゲチ。魚列切 屑　鶒——は、鳧の屬。

【⿰虜鳥】鷲に同じ。

【⿰巤鳥】ラフ、ロフ。盧盍切 合　——鷚は、飛び起つ貌にいふ語。

【鸓】ルヰ。力軌切 紙　力追切 支　ライ、盧回切 灰　狀は、蝙蝠に似て大いさ鳩の如き一種の動物、肉翅あれどもたゞ飛び下り能ふのみ、もゝんぐわ、むさゝび、のぶすま、飛生、鼯鼠。○[李時珍]「飛不ㇾ能ㇾ上易ㇾ至ニ偏墜ニ故謂ニ之—ニ。」

十六畫

【鸕】ロ、洛乎切 虞 ル。切　リヨ、淩如切 魚 ロ。切　鷀の字の條を見よ。

【⿰享鳥】クワク、ワク。光鑊切 藥　——公は、くわっこうどり。

【鸖】鶴に同じ。○[史]「懿-公好ㇾ—」。

【⿰籍鳥】鶉に同じ。

【⿰瞢鳥】ボウ、モウ。亡五切 徑　䳟——は、くそとび。

【鸗】リヨウ、リユ。力鍾切 冬　ロウ、ル。盧紅切 東　かも(鴨)。○[史]「羅—也」。

【⿰翯鳥】カク、ギヤク。下革切 陌　䳒——は、鳥の名。

【⿰龠鳥】アン、オン。烏含切 覃

｜鶤は、ふなしうづら。

十七畫

【⿰薨鳥】 コウ。呼宏切 蒸 水の名。

【鸘】 俗の鷞の字。○[禽經]「｜飛則霜」。

【鸙】 ヤク。以灼切 藥 ひばり、(鷚)。

【鸚】 アウ、ヤウ。烏莖切 庚 ㊀｜鵡は、あうむ。○[禮]「｜鵡能言不レ離二飛鳥一」。㊁一種の螺、あうむがひ。○[郭璞]「｜｜螺旋蝸」。

十八畫

【⿰巂鳥】 ケイ、ゲ。戸圭切 齊 子｜は、ほとゝぎす。

【鸛】 クワン。古玩切 翰 呼官切 寒 鶴の屬、鳴かずしてたゞ喙を撃ち聲をなす、こうのとり、こう、こうづる、おほとりぐろ、負釜、黑尻、背竈、皁裙。○[詩]「｜鳴二于垤一」。

【鸜】 鸜に同じ。○[公羊]「｜｜鴝來巢」。

【鸜】 鴝に同じ。○[春秋]「｜｜鴝來巢」。

【⿰熏鳥】 クン、コン。許運切 問 惟鳥。

【鸃】 イ。於宜切 支 かも、(鳧)。

十九畫

【鸝】 リ。呂支切 支 レイ、ライ。郷題切 齊 黃｜は、てうせんうぐひす、(倉庚)。○[高隱外書]「春日攜二雙柑斗酒一徑聽二黃｜聲一」。

【鸞】 ラン。落官切 寒 ㊀鳳凰の族、雞身赤毛、色五采を備へ聲五音に中たるもの、一說に、鳳の青色の多きもの。○[李賀]「銅鏡立二青｜一」。㊁すゞ、(鈴)。○[詩]「執二其｜刀一」。㊂特に、車駕の鑣につけたる鈴。○[左]「錫｜和鈴」。

廿二畫

【⿰權鳥】 ケン、ゴン。巨員切 先 鸜鴿、ひえどり。

鹵部

【鹵】 ロ、ル。郎古切 麌 ㊀鹹澤、鹹地、鹹土、しほさは、しほち、しほつち。○[書、傳]「其地變爲レ｜」。㊁西方の鹹地。○[班固]「經二磧｜一」。㊂天然の鹽分鹹氣、しほ、しほけ。○[漢、註]「鹹｜之田」。㊃土地に草木を生ぜざるもの。○[唐]「地瘠｜｜」。㊄不毛の地、やせち、あれち。○[唐]「遠在二荒｜一」。㊅かなろ、かなり。○[廣雅]「｜薰也」。㊆櫓に通じ用ふ、たて。○[漢]「流血漂レ｜」。㊇擄に通じ用ふ、かすむ。○[漢]「得二｜掠一」。○[漢]「毋レ

(剛鹵) しほつち、鹹土。○[易]「其於レ地也爲二｜

｜一」。

(斥鹵) 前に同じ。○[史]「厥田｜｜」。

(舄鹵) 前に同じ。○[史]「地｜｜」。

(淳鹵) 埆薄にして五穀を生せざる土地。○[左]「表二｜｜一」。

(澤鹵) さはのしほけを含みたるところ。○[史、註]「｜｜之地」。「｜」。

(土鹵) 草の名、かんあふひの異名。○[爾]「杜｜」。

(沙鹵) しほけを含みたるすな地。○[北]「地多｜｜少二水草一」。

(鹽鹵) 西方鹹地のしほ、又、しほけ。○[史]「山西食二｜｜一」。

(荒鹵) 遠方のあれち。○[唐]「臣遠在二｜｜一」。

(莽鹵) かろぐしくあつかふ。○[莊]「昔予爲二禾耕一、而｜二｜之一」。

【鹵】 ロ、ル。龍都切 虞 鑪に同じ。○[道樞]「鼎｜天地之象」。

三畫

【⿱鹵土】 鹵に同じ。

四畫

【⿰鹵亢】 カウ。各朗切 養 鹽澤、しほさは。

【⿰鹵今】 キヨウ、コウ。居陵切 蒸 ㊀にがし、(苦)。㊁あはれむ、(哀)。

五畫

【⿰鹵占】 タン、テン。陟陷切 陷 鹹多し、しほからし。

【⿰鹵占】 タン、テン。竹咸切 咸 鹹味、しほ。

【⿰矛鹵】 キヨウ、コウ。居陵切 蒸 大いなり。

【⿰鹵令】 レイ、リヤウ。郎丁切 青 しほ、(鹽)。

七畫

【⿰鹵肖】 セウ。相邀切 蕭 仙妙切 嘯 鹽を煎る、しほいる。

八畫

【⿰鹵臽】 カン、ケン。公陷切 陷 鹹味、しほけ。

【⿰鹵臽】 カン、ケン。古塹切 勘 ｜鹽は、味なきもの。

【⿰鹵臽】 カン、ケン。居咸切 咸 古斬切 豏 しほはゆし、(鹹)。

【⿰鹵炎】 タン、トン。吐濫切 勘 味なし、あはし。

【⿰鹵昌】 シヤウ、サウ。齒長切 陽 しほづけ、(鹵漬)。

【塩】 鹽に同じ。

九畫

【⿰鹵畏】 アイ、エ。烏乖切 佳 しほ、(鹽)。

【鹹】 カン、ケン。胡嵒切 咸 古斬切 豏

㊂鹽味、しほけ。○〔周〕「以レ—養レ脈」。㊁しほけあり、しほはゆし、又、しほけ多し、にがし。○〔素問〕「鹽之味—者」。

【⿰鹵奏】ソウ、ス。倉奏切［宥］
しほ、（鹽）。

【⿰鹵甚】カン、コン。苦紺切［勘］
鹹味厚し、しほはゆし、にがし。

【⿰鹵扁】ヘン、ベン。薄泫切［銑］
しほ、（鹽）。

十畫

【⿰鹵鬼】クワイ、エ。乎乖切［佳］
鱴に同じ

【⿰鹵鬼】アイ、エ。乙皆切［佳］
しほ、（鹽）。

【盬】コ、ク。公土切［虞］
鹽に同じ、しほ。

【鹺】サ、ザ。昨何切［歌］　シ、ジ。仕知切［支］
鹽味多し、しほはゆし、にがし。○〔禮、註〕「大-鹹若レ—」。

【鹻】カン、ケン。古斬切［豏］
凝著せる鹵、しほ。

【⿱⿰鹵因皿】チン。烏渾切［元］
しほ、（鹽）。

十二畫

【⿰鹵敢】カン、コン。古覽切［勘］　口敢切［感］
味太だ鹹し、にがし。

【⿰鹵最】サイ。楚大切［泰］
㊀ひしほ、（醬）。㊁しほ、（鹽）。

【⿰鹵矞】キツ、キチ。巨聿切［質］
ひしほ、（醬）。

十三畫

【鹼】ゲン、ゴン。魚占切［鹽］
しほ、（鹵）。

【鹼】セン、七廉切［鹽］　カン、古斬切［豏］ソン。切　ケン。切
㊀鹽の和したる水、しほみづ。㊁灰を漉したる水、あく。

【⿰鹵感】カン、コン。古禫切［感］
しほけ、（鹹-味）。

【⿰鹵感】カン、コン。古覽切［勘］
㊀苦し。㊁味なし。

【鹽】エン、オン。余廉切［鹽］
天然に結晶し又は人工によりて結晶されたる白色鹹味の粉末、特に海水を煮てつくる多し、しほ　○〔周〕「掌ニ—之政-令ニ」。

（形鹽）しほをもりかためて虎などの形を作りたるもの。○〔左〕「槑白——」。
（苦鹽）山西の鹽池よりいづるしほにてつぶをなして其の味尤も鹹苦なりといふ。○〔周〕「祭-祀共ニ其——散鹽ニ」。
（散鹽）末鹽のことにて海水を煮てなるもの。○〔本草〕「——即末鹽」。
（顆鹽）つぶをなしたるしほ即ち苦鹽のこと。○〔名勝志〕「山西解州鹽池、得ニ南風ニ、水化而成レ鹽、謂ニ之——ニ」。
（飴鹽）飴を雜和したるしほ、一説には戎地よりいづるしほにて甘美の味あるものともいふ。○〔周〕「王之膳-羞共ニ——ニ」。
（戎鹽）蠻夷のしほ。○〔本草〕「——味苦臭、是海潮水澆ニ山石ニ、經レ久鹽凝ニ著石ニ、北海者靑、南海者赤」。
（魚鹽）魚類と海鹽と。○〔周〕「幽州其利——」。
（米鹽）こめとしほと、又、細碎なる事にもいふ。○〔史〕「其治——」。
（海鹽）海水を煮てつくれるしほ。○〔史〕「吳東有ニ——之饒ニ」。
（石鹽）（い）石の如くかたまりたるしほ。○〔南〕「出ニ蒲桃酒——ニ」。（ろ）礜石の異名。○〔本草〕「礜石一名ニ——ニ」。（は）木の名。○〔蘇軾〕「獨有ニ——木ニ」。
（鹽鹽）しほのこと。○〔史〕「猗頓用ニ——起」。
（陽鹽）牛の兩賺の上。○〔齊賊〕「——飲レ得レ膚」。

【鹽】エン。以贍切［豔］
㊀しほに漬す、つく。○〔禮〕「屑ニ桂與レ薑、以漉ニ諸上ニ而—レ之」。㊁豔に通じ用ふ。○〔禮〕「—ニ諸-利ニ」。㊂歌曲、ふし。○〔古樂府〕「昔-々—」、神-雀—」。

十四畫

【⿰鹵齊】セイ、ザイ。才詣切［霽］
しほはゆし、（鹹）。

【⿰鹵翟】テキ、チヤク。亭歷切［錫］
しほはゆし、（鹹）。

【⿰鹵監】カン　コン。貢暫切［勘］
しほはゆし、（鹹）。

【⿰鹵監】タン、トン。吐濫切［勘］
⿰鹵䍜——は、味なし。

十五畫

【⿰鹵襄】クワイ、エ。戸乖切［佳］
⿰鹵䍜——。

鹿部

【鹿】ロク。盧谷切［屋］
㊀古昔は仙獸としたる一種の獸、牡は枝多き雙角を有す、か、しか、さをしか。○〔詩〕「呦-々—鳴」。㊁天下を掌握する權位の稱、即ち英雄の驅逐して獲んと爭ふ目的物。○〔晉〕「人希ニ逐レ—之圖ニ」。㊂麓に通じ用ふ、ふもと。○〔國〕「瞻ニ彼旱——ニ」。㊃錄又は祿に通じ用ふ。○〔漢〕「——未レ有ニ奇-節ニ」。㊄方形の米廩、こめぐら。○〔國〕「囷-—空-虛」。

（牝鹿）めじか。○〔詩〕「——攸レ伏」。
（衡鹿）官名。○〔左〕「山林之木、——守レ之」。
（野鹿）野生のしか。○〔莊〕「下如ニ——ニ」。
（蕉鹿）列子に鹿を斃して隍中に藏し蕉葉を以て之を覆ひ其の藏したる所を忘れたるより遂に夢中の事なりと思ひたる故事あり、それより夢のことにいふ。○〔貫師泰〕「世-事同ニ——ニ」。
（驚鹿）駭鹿といふに同じ、物におどろきたるしか。○〔劉禹錫〕「——時踴跳」。
（奔鹿）疾くはしるしか。○〔晉〕「走及ニ——ニ」。
（走鹿）前に同じ。○〔杜甫〕「——無ニ反-顧ニ」。
（麑鹿）鹿の子、こじか。○〔白虎通〕「古以ニ——ニ」。
（駿鹿）—に祇馬に作る、馬の屬。○〔廣雅〕「——馬屬」。

二畫

【麀】イウ、ウ。於虯切［尤］
牝鹿、めじか。○〔詩〕「——鹿-麌-々」。

【麁】 俗の麤の字。○〔公羊〕「用意尙麁」。
（精麁）こまかきとあらきと。○〔禮〕「布帛精麁」。
（疏麁）あら〳〵しくしてこまやかならず。○〔後漢〕「布衣疏麁」。
（縗麁）きめあらき布の喪服。○〔舊唐〕「縗麁之中」。
（麁々）あら〳〵しくして細密ならず。○〔蘇軾〕「麁々布勝ㇾ無ㇾ裳」。
（豪麁）おほきくあら〳〵しくして微細ならず。○〔沈周〕「風清渾不ㇾ帶ニ豪麁ニ」。

二畫

【麂】 キ。居履切 紙
麞より小さくして長牙ある一種の獸。○〔本草、註〕「麂麞屬」。

【麂】 前條に同じ。

三畫

【麀】 シ、ジ。詳里切 紙 キ。擧履切 紙
二歳の鹿。○〔揚雄〕「麀麂不ㇾ行」。

【麂】 クワン、グワン。胡官切 寒
一歳の鹿。

四畫

【䴠】 アウ、烏皓切 皓 エウ。於兆切 篠
麑の子。○〔國〕「長ニ麑䴠ニ」。

【麃】 ハウ、ベウ。薄交切 肴
麢の屬、おほしか。○〔史〕「若ㇾ麃然」。

【麃】 ヘウ。悲嬌切 蕭
一武き貌にいふ字。○〔詩〕「駟介麃麃」。
二くさぎる（耘）。○〔詩〕「緜緜其麃」。

【麃】 ヘウ、ベウ。滂表切 篠
鳥の毛色變はる、かはる。○〔禮〕「鳥麃色而沙鳴」。

【麃】 ヘウ、ベウ。蒲沼切 篠 蒲嬌切 蕭
きいちご（苺）。○〔爾〕「藨麃」。

【麎】 麒に同じ。

【麀】 ヒ、ビ。房脂切 支
鹿に似たる獸。

五畫

【麆】 サツ、サチ。蒼曷切 曷
鹿の貌にいふ字。

【麁】 俗の麤の字。

【麅】 麃に同じ。

【麅】 ハウ、ベウ。蒲交切 肴
麃に同じ、鹿の屬。

【麆】 ショ、ゾ。牀據切 御 千余切 魚
麢の子、くじかの子。

【麇】 キン、居筠切 眞 クン、コン。拘云切 文
一のろ（麞）。○〔左〕「有ニ介麇一焉」。
二國の名。○〔左〕「麇子逃歸」。
三地の名。○〔左〕「吳師居ㇾ麇」。

【麇】 クン、ゴン。渠云切 文
むらがる（羣）。○〔左〕「求ニ諸侯一麇至」。

【麇】 クン、コン。丘粉切 吻
束縛す、たばる。○〔左〕「羅無ㇾ勇麇ㇾ之」。

【麈】 サウ、シヤウ。所庚切 庚
一鹿に似たる獸。二大いさ兎の如き獸の名。三二歳の鹿。

【麏】 麕に同じ、なじか。○〔中山王〕「麏宗驥旅」。

【麇】 ホン、ボン。部本切 阮
牝麋、めじか。

【麈】 シユ、ス。之庾切 麌
麋の屬、大いなる鹿、おほしか、羣鹿之に從ひ其の尾の轉ずるを見て往くと傳ふ、よりて晉以後より清談をなす人など其の尾を柄にすげて執り揮へり、之を「たゆび」「ほッす」といふ。○〔司馬相如〕「沈牛麈麋」。
（玉麈）玉を以て柄を飾りたる拂子。○〔蘇軾〕「談鋒如ㇾ雲玉麈」。
（僧麈）僧の用ふる拂子。○〔蘇軾〕「清談對ニ僧麈ニ」。
（談麈）對談するに握る拂子。○〔黃庭堅〕「每來捉ニ談麈ニ」。

六畫

【麠】 クワン、グワン。胡官切 寒
鹿に似たる一種の獸。

【麕】 イン。於眞切 眞
牝鹿、めじか。

【麛】 ケイ、ケ。古攜切 齊
鹿の屬。

【麂】 キ。居履切 紙
大麋大麃、のろ、なれしか。○〔山海經〕「其獸多ニ麢麂ニ」。

【麉】 ケン。古賢切 ゲン。倪堅切 先 ケン。詰戰切 霰 ケイ、キヤウ。詰定切 徑
力の卓絕したる鹿。○〔爾〕「鹿其跡速、絕有ㇾ力麉」。

【麗】 前條に同じ。

【麛】 ビ、武移切 支 ベイ、ミヤウ。忙經切 靑
縣の名。○〔漢〕「交趾郡麛泠縣」。

【麋】 ビ、ミ。武悲切 支
一鹿の屬にて水牛に似たるもの、なれしか。○〔周〕「冬獻ㇾ麋」。
二ほさり、みぎは（湄）。○〔詩〕「居ニ河之麋ニ」。
三眉に同じ、まゆ。○〔荀〕「伊尹之狀無ニ須麋ニ」。
四蘪に通じ用ふ。○〔楚辭〕「秋蘭兮麋蕪」。
（山麋）やまにすむなれしか。○〔陳陶〕「山麋憶ニ廟堂ニ」。
（巨麋）おほいなるなれしか。○〔獨孤及〕「巨麋如ㇾ牛」。
（野麋）野生のなれしか。○〔賈島〕「別有ニ野麋人不ㇾ見」。

【麐】 リン、力近切 吻 リン。力珍切 眞
麒麟、きりん。

七畫

【麌】 ゴ、グ。虞矩切 麌 五乎切 虞 ギヨ、ゴ。牛居切 魚
一牡鹿、牡麕、をじか、をのろ。○〔陳師道〕「麀麌顧ニ其子ニ」。

㊁羣れ聚まる貌にいふ字。○〔詩〕「麀鹿——」。

【⿸鹿夋】サン。蘇官切 寒
獅子の別名。

【⿸鹿充】・リウ、ル。力求切 尤
鹿の屬。

【麎】シン、植鄰切 眞　ジン。是忍切 軫
シ、ジ。常支切 支
牝麋めのなれしか。

【⿸鹿巠】ゲイ、ギヤウ。五到切 齊
鹿。

【麏】キン、クン。居筠切 眞
鹿の屬。

【⿸鹿廷】テイ、チヤウ。他頂切 迥
鹿の走る貌にいふ字。

【⿸鹿孝】カウ、ゲウ。下巧切 巧
瑞獸。

【麐】麟に同じ。

【麆】ショ、ソ。牀據切 御
鹿の子、かのこ。

【⿸鹿各】麐に同じ。

【⿸鹿與】ヨ。以於切 魚
山の驢。

【⿸鹿取】シユ、ス。此主切 麌
小鹿、こじか。

【麖】ケイ、キヤウ。居卿切 庚
麠に同じ。○〔山海經〕「尸山獸多レ—」。

【⿸鹿昆】コン。古渾切 元
鹿の屬。

【⿸鹿委】井。於爲切 支
貯藏せる鹿肉、美味なる鹿肉、しかのかこひしゝ、あじよきしかしゝ。○〔鄭康成〕「今益州有二鹿——一」。

【⿸鹿垂】ス井。職追切 支
一歲の鹿。○〔揚雄〕「—麈不レ行」。

【麑】ゲイ、五鷄切 齊　ガイ。切　ベイ、綿批切　マイ。切
㊀猊に同じ、しゝ。○〔爾〕「狻——如二虥猫一」。㊁鹿子、かのこ。○〔論〕「素衣——裘」。

【麒】キ、ギ。渠之切 支
麟の牝。○〔郭璞〕「——似レ麟而無レ角」。

【麓】ロク。盧谷切 屋
㊀山の足、ふもと、ふもとにある林、はやし。○〔詩〕「瞻二彼旱——一」。㊁山林を守る吏。○〔國〕「——不レ聞」。㊂しるす（錄）。○〔書〕「納二于大——一」。
〔林麓〕平地のはやしと山足のはやし。○〔禮〕「——川澤」。
〔山麓〕山足の竹木のしげりたる處。○〔杜甫〕「亭午下二——一」。
〔翠麓〕あを〱と竹木のしげりたる山足のはやし。○〔蘇軾〕「坡陀——橫」。
〔蒼麓〕前に同じ。○〔宋松〕「行穿二——一瞰二平岡一」。

【麔】キウ、ク。其九切 有　カウ、コウ。居勞切 豪　ケウ、ゲウ。巨天切 蕭　ヘウ、ベウ。被表切 篠
牡麋をじか。○〔爾〕「——䴦短脰」。

【麕】キン、クン。居筠切 眞
鹿の屬、のろ、性怯にして水を飲むに影を見れば駭き奔るほどなりといふ。○〔詩〕「野有二死——一」。

【麇】キン、クン。苦隕切 軫
しばる（束縛）。

【麗】レイ、ライ。郎計切 霽
㊀旅行す、つらなりゆく。○〔司馬相如〕「蠖略委——」。㊁施行す、ほどこしおこなふ。○〔書〕「不レ克レ開二于民之——一」。㊂つく。
（い）連らなる。○〔易〕「——澤兌」。
（ろ）著く。○〔左〕「射レ麋—レ龜」。
（は）附く。○〔易〕「日月——二乎天一」。
（に）繫ぐ。○〔禮〕「——二于碑一」。
（ほ）加ふ。○〔儀〕「——二于擘一」。
㊃ふたつ（兩）、つゐ（耦）、ならぶ（偶）。○〔史〕「——皮爲レ禮」。
㊄かず（數）。○〔詩〕「其——不レ億」。
㊅うるはし。
（い）うつくし（美）。○〔戰〕「佳——人之所レ出也」。
（ろ）よし（好）。○〔張衡〕「既姱——而鮮レ雙兮」。
（は）華綺、はなやか、きらびやか。○〔書〕「敝レ化奢——」。
（に）鮮潔、いさぎよし、あざやか。○〔後漢〕「淸——之志」。
（ほ）光華、かゞやく、ひかる。○〔揚雄〕「——二萬世一」。「——」。
㊆欐に同じ、やのむれ。○〔列〕「居則連レ—」。
〔美麗〕うつくし。○〔漢〕「爲レ人——」。
〔華麗〕うつくしくはなやかなること。○〔魏、註〕「不レ尙二——一」。
〔靡麗〕前に同じ。○〔後漢〕「紛華——」。
〔綺麗〕前に同じ。○〔晉〕「窮二極——一」。
〔佼麗〕かほよくうつくし。○〔風俗通義〕「君雖二——一好帶二長劍一」。
〔遒麗〕文字などのうつくしく力あるにいふ語。○〔南〕「文甚——」。
〔艷麗〕みやびやかにしてうつくし。○〔南〕「采二其尤——者一」。
〔梁麗〕車の名。○〔莊〕「——可二以衝一レ城」。
〔浮麗〕うはべのうつくしくはなやかなること。○〔亢倉〕「貪濁——之材至」。
〔巨麗〕巨大にして立派なること。○〔上林賦〕「君未レ覩二夫——一也」。
〔醜麗〕醜惡と美麗と。○〔高適〕「與レ世同二——一」。
〔咲麗〕容貌などのうるはしきにいふ語。○〔戰〕「形貌——」。「——」。
〔閎麗〕ひろやかにして立派なること。○〔史〕「觀崇——」。
〔弘麗〕前に同じ。○〔漢〕「——溫雅」。
〔敞麗〕前に同じ。○傅休奕〕「嘉二麗庭之——一」。
〔盛麗〕さかんに立派なること。○〔史〕「紛華——」。
〔壯麗〕前に同じ。○〔漢〕「見二其——一」。
〔奇麗〕いたくうるはし。○〔漢〕「——紛華」。
〔妙麗〕前に同じ。○〔漢〕「——善舞」。
〔珍麗〕前に同じ。○〔後漢〕「忽二道德之——一兮」。
〔純麗〕精好にしてはでやかなること。○〔漢〕「——之物」。
〔精麗〕前に同じ。○〔南〕「帝惡二其——一」。
〔侈麗〕おほいにうるはし。○〔漢〕「——閎衍」。
〔極麗〕いたくうるはし、又、美麗をきはめつくす。○〔漢〕「——窮レ妙——」。
〔溫麗〕溫和にしてうるはし。○〔後漢〕「詞必——」。
〔淸麗〕きよらかにうつくし。○〔南〕「居宇——」。
〔偉麗〕すぐれてうつくし。○〔後漢〕「容儀——」。
〔淫麗〕淫靡にしてはなやかなり。○〔後漢〕「——之詞」。

〔曼麗〕うるはし　○〔後漢〕「―・―之容」。
〔婉麗〕前に同じ。○〔晉〕「姿・容―・―」。「―」。
〔嚴麗〕おごそかにうつくし。○〔後漢〕「玉・堂―・―」。
〔崇麗〕高大美麗なること。○〔晉〕「館・宇―・―」。
〔整麗〕たゞしくうつくし。○〔八王故事〕「容・貌―・―」。
〔典麗〕前に同じ。○〔南〕「詞・並―・―」。
〔㛹麗〕前に同じ。○〔南〕「風・儀―・―」。
〔粲麗〕あざやかにうつくし。○〔晉〕「―・―盈レ目」。
〔鮮麗〕前に同じ。○〔南〕「車・服―・―」。
〔豪麗〕おほいにはでやかなること。○〔南〕「性―・―」。
〔贍麗〕ゆたかにしてうるはし。○〔南〕「文・甚―・―」。
〔富麗〕前に同じ。○〔柳宗元〕「宏・大―・―」。
〔豐麗〕前に同じ。○〔陸雲〕「不レ宜レ使レ至二―・―一」。
〔哀麗〕悲哀の意を含みてうるはしき文字などにいふ。○〔南〕「文・甚―・―」。
〔雅麗〕正しくうるはしきこと。○〔南〕「辭・並―・―」。
〔瓌麗〕すぐれてうつくし。○〔南〕「姿・表―・―」。
〔秀麗〕前に同じ。○〔南〕「此・地・山・川―・―」。
〔絕麗〕前に同じ。○〔揚雄〕「沈・博―・―之文」。
〔英麗〕前に同じ。○〔陳子昂〕「何・雲・木之―・―」。
〔琱麗〕琱は一に雕に作る、こまかくゑりきざみありてうるはし。○〔北〕「―・―之物」。
〔緜麗〕詳密にしてうるはし。○〔書〕「文・詞―・―」。
〔縟麗〕前に同じ。○〔太眞外傳〕「綵・縟―・―」。
〔纖麗〕かよわくうつくし。○〔宣和畫譜〕「―・―消レ之」。「殊レ形」。
〔怪麗〕めづらしくうつくし。○〔拾遺錄〕「―・―」。
〔配麗〕配偶のこと。○〔雜事秘辛〕「不レ有二―・―一」。
〔妖麗〕つやゝかにうつくし。○〔拾遺記〕「粧・飾―・―」。
〔妍麗〕前に同じ。○〔洛陽花木記〕「繁・盛―・―」。
〔驕麗〕おごりてはなやかなり。○〔拾遺記〕「以二―・―相誇一」。
〔朗麗〕あきらかにうるはし。○〔姚遂〕「三光―・―」。
〔明麗〕前に同じ。○〔碧雞漫志〕「景・色―・―」。
〔暉麗〕てりかゞやく。○〔詩品〕「―・―萬有一」。
〔流麗〕のびやかにうるはし。○〔蘇軾〕「端・莊雜二―・―一」。
〔駢麗〕對句を用ふる一種の文體。○〔揮塵三錄〕「不レ習二―・―一」。
〔顯麗〕いちじるしく立派なり。○〔曹植〕「覽二宮・宇之―・―一」。
〔晴麗〕そらのはれてあきらかなること。○〔周必大〕「江・山倚二―・―一」。
〔魚麗〕陣の名。○〔左〕「爲二―・―之陣一」。
〔高麗〕むかし朝鮮の一邦國、こま。○〔魏〕「―・句・―在二遼・東之東一」。

【麗】リ。呂支切 支　レイ、憐題切 齊
㊀はなる、（離）。○〔釋名〕「―離也、言一目視レ天、一目視レ地、目明分離、所レ視不レ同也」。㊁山の名。○〔史〕「―・山之徒也」。㊂鸝に同じ。○〔張衡〕「―・黃嚶々」。

【麗】レイ、ライ。里弟切 薺
彭―は澤の名。

【麗】リ。力智切 寘
うるはし（美）。

【麗】シ。山宜切 支
さく（析）。

【麗】レキ、リヤク。郎狄切 錫
縣の名。

九畫

【麘】キヤウ、カウ。虛良切 陽
麝―は、麝香に同じ。

【麙】カン、五咸切 咸　ケン、ゴン。其淹切 鹽
㊀角細く形大いなる山羊、やぎ。○〔揚雄〕「―・羊野・麋」。㊁力ある獸。○〔爾〕「絕有レ力―」。

【麚】カ、ケ。古牙切 麻
牡鹿、をじか。○〔馬融〕「特―昏・麀」。

【⿸鹿者】ショ、ソ。專於切 魚
鹿の類。

【⿸鹿耎】ダン、ナン。奴亂切 翰
かのこ（鹿・麛）。

【麛】ベイ、メイ。莫兮切 齊
㊀鹿子、かのこ。○〔禮〕「―・裘」。㊁凡て獸の初生のものにいふ字。○〔禮〕「春田士不レ取二―・卵一」。

十畫

【⿸鹿迷】ベイ、メイ。緜批切 齊
㊀鹿の跡、あしあと。㊁鹿の媒、をとり。

【麜】リツ、リチ。力質切 質
牝麐、めのろ。

【⿱丽鹿】古文の麗の字。

【麝】シヤ、ゼ。神夜切 禡　セキ、ジヤク。食亦切 陌
㊀臍のあたりに香料を有する一種の獸、おや、小麋の如き形にして虎豹の如き文あり、一名は、射父。○〔字彙〕「―退レ香」。㊁おやの臍のあたりにある香料。○〔退齋閒錄〕「或佩レ―」。
〔蘭麝〕香の名。○〔晉〕「嵒蘊二―・―一」。
〔沉麝〕前に同じ。○〔蘇軾〕「―・―不レ燒金・鴨冷」。
〔腦麝〕前に同じ。○〔香譜〕「―・―諸・香」。
〔龍麝〕前に同じ。○〔清異錄〕「紙・閒密貯二―・―香・末一」。
〔水麝〕前に同じ。○〔王安石〕「深・荷―・―焚」。

【⿸鹿跉】レイ、リヤウ。力丁切 青
鹿。

十一畫

【⿸鹿畢】ヒツ、ヒチ。壁吉切 質
鹿の子。

【⿸鹿速】ソク。桑谷切 屋
鹿の迹。

【⿸鹿票】ヘウ、ベウ。眦招切 蕭
鹿の屬。

【麞】シヤウ、サウ。諸良切 蕭
麋の屬、のろ、形は小さき鹿の如くにて毛色美し。○〔南〕「平・澤中逐レ―」。

十二畫

【麟】リン。力珍切 眞
㊀身は麕の如く尾は牛の如く額は狼の如く蹄は狼に似たる一種の獸、たけはなはだ高くして頭に肉角あり、又、支那古代の想像上の一種の神獸、聖人出で王道行はるれば見はると謂ひ傳へり。○〔司馬相如〕「射レ麋脚レ―」。㊁燐に通じ用ふ、あきらか。○〔揚雄〕「炳・炳―・―」。
〔麒麟〕神獸の名。○〔禮〕「鳳・凰―・―」。
〔祥麟〕めでたきしるしとして世にあらはるゝ神獸。○〔玉海〕「以爲二―・―一」。

【⿰鹿菐】ホク、ボク。步木切 屋
鹿相隨ふ、つれゆく。

【⿸鹿絹】ビ、ミ。門皮切 支

鹿。

十三畫

【⿸鹿令】レイ、リヤウ。郎丁切 青
大羊。

【麠】ケイ、キヤウ。擧卿切 庚
大鹿。

【⿸鹿臭】麞に同じ。

【⿸鹿彔】ロク。力谷切 屋
天—は、獸の名。○〔宋〕「天—者、純—靈之獸」。

十四畫

【麡】セイ、徂奚切 齊 サイ、十皆切 佳
ザイ。切 ゼイ。切
形は鹿に似て角は前に向かひたる一種の獸。

【⿸鹿與】ショ。ヨ。羊茹切 御 以諸切 魚
ソ。象呂切 語
鹿に似て大いなる獸。

【⿸鹿需】ジュ、人朱切 虞 ドウ、奴侯切 尤
ニュ。切 ヌ。切
ダン、奴亂切 翰
ナン。切
鹿の子、かのこ。

十七畫

【麢】レイ、リヤウ。郎丁切 青
角の細く體大いなる羊、おほひつじ。○〔山海經〕「旄-毛—麢」。

二十畫

【麣】ガン、ゲン。五咸切 咸
山羊。

廿二畫

【麤】ソ、ス。倉胡切 虞
㊀行きて超かに遠し、とほし。
㊁あらし。
(い)くはしからず、こまやかならず。○〔公羊〕「用レ意尙—」。
(ろ)きめこまかならず、なめらかならず。○〔史〕「上-膚黄—」。
(は)ざつなり、そまつなり。○〔後漢〕「袍-衣疏—」。「奕性—」。
(に)はげし、あらくし。○〔晉〕「謝-亡之徵」。
(ほ)うとし(疏)。○〔禮〕「—而翹レ之」。
(へ)あらまし(略)。○〔史〕「—₂述存-
㊂ふさし、おほいなり(大)。○〔禮〕「其器高以—」。
㊃大概、ほゞ。○〔宋〕「城-郭—全」。
㊄麻履、あさざうり。○〔急就篇、註〕「—者麻枲雜-履之名也」。
㊅くろごめ(糲)。○〔左〕「—則有レ之」。

麥部

【麥】バク、ミヤク。莫獲切 陌
キヨク、ゴク。訖力切 職
五穀の一、芒ある穀、むぎ。○〔禮〕「孟-夏—秋至」。
(宿麥) むぎのこと、冬に種ゑ歳を經て熟するよりいふ。○〔漢〕「勸₂民種₁—·—₁」。
(蕎麥) そば、又荍麥ともなづく。○〔後山齋叢〕「—·—不レ實」。
(雀麥) すゞめむぎ。○〔爾〕「蘥—·—」。
(燕麥) 前に同じ、又、からすむぎともいふ。○〔太平御覽〕「道-邊—·—」。
(蘧麥) とこなつ、なでしこの異名。○〔爾〕「大-菊—·—」。
(瞿麥) なでしこ。○〔李德裕〕「定-伴₂于—·—₁」。
(菽麥) まめとむぎと。○〔詩〕「禾-麻—·—」。
(熟麥) みのりたるむぎ。○〔後漢〕「大收₂—·—₁」。
(野麥) 自然生のむぎ。○〔穆天子傳〕「爰有₂—·—₁」。「—·—西」。
(秀麥) 生長したるむぎ。○〔林景熙〕「家在₂春-風—·—₁」。
(枯麥) かれむぎ。○〔杜甫〕「哀-號待₂—·—₁」。
(稻麥) いねとむぎと。○〔周〕「其穀宜₂—·—₁」。
(禾麥) 前に同じ。○〔易林〕「傷₂我—·—₁」。
(大麥) おほむぎ。○〔後漢〕「—·—數斛」。
(小麥) こむぎ。○〔後漢〕「—·—青-々」。
(䅈麥) おほむぎに似たる一種のむぎ。○〔廣志〕「—似₂大-麥₁」。
(保麥) はだかむぎ。○〔齊民要術〕「大-麥爲₂五-穀長₁、即今—·—也」。
(晩麥) おそまきのむぎ。○〔薛逢〕「—·—芒乾風似レ秋」。
(粉麥) 粉末にしたるむぎ。○〔宋祁〕「—·—白如レ玉」。
(翠麥) あをあをとあげりたるむぎ。○〔劉基〕「—·—黄-花夾₂路岐₁」。
(陳麥) ふるむぎ。○〔升菴文集〕「—·—化爲レ蝶」。

【麦】俗の麥の字。

三畫

【⿰麥弋】ヨク、イキ。與職切 職
麥の殼の破れ碎けたるもの、むぎかす。

【⿰麥才】サイ、ザイ。昨哉切 灰
かうち(麴)。

【⿰麥乇】タク、ダク。闥各切 藥
餺—は、餠の屬。

【⿰麥山】サン、セン。所宴切 諫
かうち、又、むぎのぬか。

四畫

【麧】コツ、下沒切 月 ケツ、奚結切 屑
ゴチ。切 ゲチ。切
麥の糠の中の破れざる粒、又、くづ(糏)。

【⿰麥内】ダフ、ノフ。奴荅切 合
—劑。

【⿰麥反】キヨ、コ。求於切 魚
みのらざる麥、むぎのまひな。

【麨】セウ、ゼウ。尺沼切 篠
米麥を熬り之を磨して屑末となせるもの、むぎこがし、こがし。○〔佛國記〕「授₂—蜜₁處」。

【⿰麥气】麧の本字。

【⿰麥勿】コツ、コチ。呼骨切 月
餠の屬、むぎのこもち。

【⿰麥比】ヒ、ビ。符支切 支
むぎこがし(糗)。

【⿰麥斗】トウ、ツ。當口切 有
むぎ(麥)。

【麩】フ。芳無切 虞
小麥の屑皮、むぎのふすま。

【⿰麥夬】ゲツ、ゲチ。倪結切 屑
クワイ、ケ。去穢切 隊
もやし、かうち(糵)。○〔周、註〕「名₂麴—₁曰レ媒」。

【麥屯】トン、ドン。徒渾切 元
餫ーーは、こなもち(餌)。

【麪】ベン、メン。彌箭切 霰
麥を粉末とせしもの、むぎこ。○〔東晳〕「重羅之ー、塵飛雪白」。
〔新麪〕しんむぎのこ。○〔陸游〕「五月ーー成」。
〔麥麪〕むぎのこ。○〔戴復古〕「ーー不療饑」。
〔麪粥〕むぎこのかゆ。○〔齊民要術〕「ーー別作糧」。

【麥斤】ケイ、カイ。堅溪切 齊
むぎもち。

五畫

【麥它】タ。湯河切 歌
もち(餅)。

【麬】俗の麩の字。

【麥末】バツ、マチ。莫撥切 曷
むぎのふすま(麩)、むぎこ(麪)、こめのこ(粖)。

【麭】ハウ、ヘウ。披教切 效
こなもち(餌)。

【麥巨】キョ、コ。臼許切 語
くわし(蜜餌)。

【麥禾】麴に同じ。

【麥主】トウ、ツ。天口切 有
もち(餅)。

【麥穴】クワツ、グワチ。戸八切 黠
かうぢ(麴)。

【麥占】黏に同じ。

【麥占】デン、チン。尼占切 鹽
青ーーは、藥草。

【麮】キョ、コ。丘據切 御　羌擧切 語
麥汁、麥粥、麥飯、熬麥、むぎしろ、むぎかゆ、むぎめし、いりむぎ。○〔荀〕「與ニ之麥ーー」。

六畫

【麥并】ヘイ、ヒヤウ。必郢切 梗
索餅、もち。

【麥同】トウ、ツ。吐孔切 董
餅の屬。

【麯】キク、コク。丘竹切 屋
麴に同じ、かうぢ。○〔劉伶〕「枕レー藉レ糟」。

【麥各】カク、キヤク。古伯切 陌
麥の碎けたるもの、くだけむぎ、むぎぬか。

【麥𠂤】タイ、テ。都回切 灰
もち(餠)。

【麰】ボウ、ム。莫浮切 尤
㊀一種の麥、飯とすべく酢とすべくまた其の糵は飴とすべし、おほむぎ、大麥、穬麥。○〔詩〕「貽ニ我來ーー」。㊁にたるむぎ(麧)、又、かうぢ(麴)。○〔釋名〕「ーー齲也、煮熟亦齲壞也」。

七畫

【麥肙】ケン。圭懸切 先
麥莖、麥稾、むぎわら。

【麥夆】ホウ、ブ。蒲蒙切 東
㊀煮麴、かうぢ。㊁熬麥、いりむぎ。

【麨】サ、セ。師加切 麻
麥を碎く。

【麥肖】麨に同じ。

【麥孛】ホツ、ボチ。薄沒切 月
屑麥、むぎこ。

【麥見】カン、ゲン。胡諫切 諫
麥屑、むぎこ。

【麥利】リ。良脂切 支
麥酒、むぎざけ。

【麥完】コン、ゴン。戸昆切 元
麥麴、むぎかうぢ。○〔酒經〕「女ーー甜醹」。

【麥完】クワン、ゲン。戸版切 潸
コン、ゴン。戸兗切 阮
黃蒸䴷むぎかうぢの類。

【麥完】クワン、グワン。胡官切 寒
女麴、ひめかうぢ、一にむぎかうぢ、黃子。

【麥孚】麩に同じ。

【麥守】ラ。盧臥切 箇
粟の粥、あはがゆ。○〔齊民要術〕「有ニーー麪粥法ニ」。

八畫

【麥果】クワ。古火切 哿　クワ、ゲ。胡瓦切 馬
かうぢ(麴)、ひめかうぢ(䴷)。

【麥果】ラ。魯果切 哿
麪の名。

【麥匋】タウ、ドウ。徒刀切 豪
こなもち(餌)。

【麥昆】コン、ゴン。胡昆切 元
かたむぎ、つぶむぎ、まろむぎ(未破麥)。

【麥侖】糒に同じほしいひ。

【麥念】デフ、チフ。諾叶切 葉
ーー頭、むぎかた。

【麥其】キ、ギ。渠之切 支
餅の屬。

【麥困】キン、グン。巨隕切 軫
餅の屬。

【麳】ライ。落哀切 灰　リヨク、リキ。六直切 職
小麥、こむぎ。

【麥來】リ。陵之切 支
むぎ(麥)。

【⿰麥空】コク。呼木切 屋
むぎ、(麥)。
【⿰麥咅】ホウ、蒲口切 有 ブ。ホツ、薄沒切 月 ボチ。
―麩は、餅。
【⿱黎麥】リ。力脂切 支
むぎいひ、むぎこがし。
【⿰麥彔】ロク。盧谷切 屋
⿰麥彔―は、煑たる餅。
【⿰麥夜】ヤ、エ。夤謝切 禡
むぎのひぬか、(麧-麥-皮)。
【⿰麥戔】サン、初限切 潸 セン。初諫切 諫
むぎ、(麥)。
【⿰麥卑】ヒ、ビ。符支切 支
かうぢ、(麴)、むぎもち、(麪-餅)。
【麴】キク、ゴク。丘六切 屋
㊀酒を釀す原料、即ち、米麥を幽鬱(れかし)して朽敗し衣(はな)を生ぜしめたるもの、さけのもと、かうぢ、酒母、麴糵。 ○〔書〕「若作二酒醴一爾惟―糵」。
㊁黃桑色、かうぢいろ。 ○〔禮〕「天子乃薦二―衣于先帝一」。
㊂かびこのえびら、箔。 ○〔揚雄〕「薄謂二之笛一或謂二之―一」。
(糟麴) さけのかすと酒母と。 ○〔陸游〕「枕二藉―一與ゞ―」。
(酒麴) さけのもと。 ○〔五〕「麴-糵―一」。
【⿰麥勿】麥に同じ。
【⿰麥隹】セウ。尺少切 篠
むぎこがし、(糗)、かて、(糧)。

九畫

【⿰麥咼】サ。蘇臥切 箇
⿰麥咼―は、あはがゆ、(粟-粥)。
【⿰麥科】クヮ。苦禾切 歌
―斗は、科斗(おたまじやくし)の形をなしたる餌、こなもち。
【⿰麥負】フ、ボ。房故切 遇
麥の再生するもの、ひつじばえ。
【麵】俗の麪の字。 ○〔齊〕「太廟四時祭薦二宣皇帝―起餅一」。
【⿰麥酋】セウ。尺沼切 篠
むぎこがし、(糗)。
【⿰麥胡】俗の黏の字。
【⿱敄麥】麰に同じ、おほむぎ。 ○〔後漢〕「玄秬黃―」
【⿱敄麥】ボウ、ム。莫後切 有
麥。
【⿰麥⿱巛良】サク。心作切 藥
乾餅、かわきたるもち。

十畫

【⿰麥屈】ソツ、ソチ。蘇骨切 月
麥屑、むぎのこ。
【⿰麥屑】セツ、セチ。先結切 屑
春餘、つきあまり。
【⿰麥差】サ、昨何切 歌 ザ。シ。阻氏切 紙
㊀麥を礦る、麥を擣つ、する、うつ。
㊁穀麥の淨きにいふ字、きよし。
【⿰麥家】ボウ、モウ。莫紅切 東
㊀有衣麴、女麴、はなかうぢ、ひめかうぢ。
㊁こめのこ、(糏)。
【⿰麥昷】ウン、ヲン。紆問切 問
かうぢ、(麴)。
【⿰麥索】サク。昔各切 藥
⿰麥索―は、まがりもち。
【⿰麥貨】サ。蘇果切 哿
麥の覈き屑 麥の麤き屑、むぎのふすま、むぎのこ。
【⿰麥貨】サ、蘇臥切 箇
麵の精ならざるもの、むぎのひきわり。
【⿱殼麥】コク。空谷切 屋
かうぢ、(麴)。
【⿰麥尃】ハク、バク。白各切 藥
―飥は、餅。

十一畫

【⿰麥婁】ロウ、ル。郎口切 有
⿰麥婁―は、糉餅、まがりもち。
【⿰麥莫】バク、マク。末各切 藥
―麱は、ひぬか、(麧-皮)。
【⿰麥連】レン。力展切 銑
⿰麥善の字の條を見よ。
【⿰麥旋】セン、ゼン。隨戀切 霰
むぎ、(麥)。
【⿰麥將】シヤウ、サウ。七亮切 漾
麪腐る、くさる。
【⿰麥曼】バン、マン。謨官切 寒
―頭は、まんぢう。
【⿰麥啇】テキ、ヂヤク。直隻切 陌
むぎのこ、(粖)。
【⿰麥啇】テキ、ヂヤク。徒歷切 錫 タク、チヤク 陟革切 陌
むぎのふすま、(麩)。
【⿱敖麥】ガウ、ゴウ。五牢切 豪
いろ、(煎)、かわかす、(曝)。
【⿰麥畢】饆に同じ。
【⿰麥蒙】ボウ、ム。莫宮切 東
むぎのこ、(糏)一說に、かうぢ、(麴)。

十二畫

【⿰麥替】テイ、タイ。他計切 霽
麪に滌ぐ、そゝぐ。
【⿰麥隋】スヰ。選委切 紙
㊀あめ、(糖-餳)。㊁もち、(餅)。
【⿰麥粦】レン。落賢切 先

麴の字を見よ。

【⿰麥覃】タン、ドン。徒含切〔覃〕醰に同じ、うまし。

【⿰麥善】セン、ゼン。常演切〔銑〕——麴は、新しき大麥の屑の餅、もんむぎもち。

【⿰麥黃】クワウ、キヤウ。古猛切〔梗〕大麥、おほむぎ、一說に、麥麩、ふすま。○〔晉〕「沉臣糠——糅二之雖-胡一」。

【⿰麥黃】クワウ、ワウ。胡光切〔陽〕麴塵、かうぢばな。

十三畫

【⿰麥遽】キヨ、コ。求於切〔魚〕㊀こむぎ（小麥）。㊁なでしこ（瞿麥）。

【⿰麥蜀】トク、ドク。徒谷切〔屋〕——麳は、煮たる餅。

【⿰麥睘】クワン、ゲン。胡關切〔刪〕㊀もち（餅）。㊁おこし（粔籹）。

【⿰麥睘】クワン、ゲン。戸版切〔潸〕きいろのもち。

十五畫

【⿰麥喿】サウ、ソウ。蘇到切〔號〕乾麴。

【⿰麥廣】クワウ、キヤウ。古猛切〔梗〕大麥。

十六畫

【⿰麥龍】ロウ。盧東切〔東〕餅の屬。

十七畫

【⿰麥蘖】ゲツ、ゲチ。魚列切〔屑〕むぎのもやし（櫱）。

【⿰麥薄】ハク、バク。白各切〔藥〕もち（餅）。

十八畫

【⿰麥豐】フウ、フ。敷戎切〔東〕フウ、ブ。撫鳳切〔送〕撫勇切〔腫〕煮麥、熬麥、にむぎ、いりむぎ。

十九畫

【⿰麥羅】饠に同じ。

二十畫

【⿱鑿麥】サク。卽各切〔藥〕麥の屑を蒸したるもの、むしもち。

麻　部

【麻】バ、マ。莫遐切〔麻〕㊀皮は績ぎて絲とすべく織りて布となすべく實は食とすべき一種の植物、あさ。○〔詩〕「蓺レ——如レ之何」。㊁あさ皮、あさ絲、あさ布、あさ衣。○〔論〕「——冕禮也」。㊂五穀の一、ごま、其の實より油をしぼるべし。○〔禮〕「食二——與一レ犬」。㊃ふりつゞみ。○〔爾〕「大-鼗曰二之——一」。㊄唐（李氏）の代に中書にて綸命を書するにあさにてすきたる黃と白との紙を用ひし（後に黃なるものは中書の專用となり、白きものは翰林の專用となれり）より轉じて、綸命の稱。○〔宋〕「弘-景草レ——」。㊅痲に同じ、なゆ、しびれ。○〔朱熹〕「手-足頑——」。㊆あさを治む。○〔李白〕「九-州治二蠶-——一」。

（漚麻）あさを水にひたす。○〔詩〕「可三以——一」。
（絲麻）きぬいとにあさいと。○〔周〕「治二——一」。
（白麻）唐の代中書にて黃白の二麻を用ひて綸命をつくり、其の後には翰林は專ら白麻を掌り中書は獨り黃麻を用ひたり、故に王者の綸命の義にもいふ。○〔唐〕「皆用二——一」。
（胡麻）ごまのこと。○〔劉長卿〕「惟有二——一」。
（升麻）藥草の名。○〔本草〕「——生二益-州山-谷一」。
（天麻）前に同じ。○〔本草〕「——卽赤-箭」。
（山麻）やまあさ。○〔江均〕「緣-澗採二——一」。
（雄麻）をあさ、けむし。○〔儀、註〕「枲是——」。
（牡麻）前に同じ。○〔儀〕「——者枲-麻也」。
（脂麻）ごまの異名。○〔本草〕「胡-麻一名二——一」。
（疏麻）神麻のこと。○〔楚辭〕「折二——一兮瑤-華一」。
（苴麻）あさの實あるもの、苧麻ともいふ。○〔夢溪筆談〕「有レ實爲二——一」。

三畫

【⿸麻勺】シヤク。尸灼切〔藥〕病を治む、いやす。

【麽】バ、マ。亡果切〔哿〕眉波切〔歌〕ビ、ミ。忙皮切〔支〕細小、こまか、ほそし。○〔郭璞〕「麽形惟——」。

（么麽）細小なること、ちひさし。○〔陸游〕「蜾蠃——」。
（細麽）微細なること、こまか。○〔蘇軾〕「結-束入二——一」。
（眇麽）微少なること、すくなし。○〔王令〕「氣-力兩——」。

四畫

【⿸麻非】ビ、ミ。靡爲切〔支〕ちる、ちらす（散）。

【⿸麻分】フン、ホン。父吻切〔吻〕わかつ、わかる（分）。

【⿸麻攵】サン、ソン。蘇含切〔覃〕㊀いとふ（厭）。㊁すつ（舍）。

【⿸麻夾】糜に同じ、たゞる。

【⿸麻曆】レキ、リヤク。狼擊切〔錫〕こよみ。

【⿸麻日】ビ、ミ。忙皮切〔支〕日光。

【⿸麻支】サン、ソン。蘇含切〔覃〕いとふ（厭）。

【麾】キ。許爲切〔支〕㊀旌旗の屬、將帥の軍を指揮するに執れるもの、牙營に衆の表標のために樹つるもの、さしづばた、あひづばた。○〔周〕「建二大——一以田、以封二蕃國一」。㊁さしまねく。（い）はたを以て軍衆の向かふ所を示す、しめす。○〔史〕「莊-王自手レ旗——レ軍引レ兵去」。

(ろ)指役す、さしづす、げぢす。○[書]「右秉ニ白-旄一以—」。(は)指招す、まねく、よぶ。○[詩]「—レ之以レ肱」。

㊂こゝろよし、(快)。○[禮]「祭-祀不レ—レ蚤」。

〔指麾〕さしづす。○[韓愈]「笑-語—-—」。
〔招麾〕さしまねく。○[荀]「呂-尙—-—殷民懷」。
〔戎麾〕軍旗のこと、又、轉じて軍隊のことにもいふ。○[晉]「推ニ誠將-相一、以總ニ—-—ニ」。
〔旌麾〕はたのこと。○[江總]「南-館列ニ—-—ニ」。
〔節麾〕大將のしるしばた。○[王安石]「兼-兩-鎭之—-—ニ」。
〔大麾〕おほいなるはた、又、旗の名。○[周]「木路建ニ—-—ニ」。

【麾】キ。呼恚切 寘
前條の㊀に同じ。○[左]「周—而呼」。

五畫

【⿸麻夗】エン、チン。於阮切 阮
麻叢る、ゑげる。

【⿸麻电】キ。許爲切 支
旌——は、はた。

【⿸麻本】ホン、ボン。部本切 阮
あさがら(麻-蒸)。

【⿸麻臭】キウ、グ。丘九切 有
麻。

六畫

【⿸麻多】バ、マ。忙果切 哿
去る。

【⿰麻朱】チュ。陟輸切 虞
あさのみ、([illegible])。

七畫

【⿸麻流】リウ、ル。力求切 尤
あさ、(麻)。

八畫

【⿸麻沃】ヨク、オク。烏酷切 沃
纑の未だ練らざるもの、あさを。

【⿰麻易】セキ、シヤク。先擊切 錫
細布、ほそぬの。

【⿸麻取】シウ、ス。側鳩切 尤
あさがら、をがら(麻-莖)。○[楚辭]「菎-蕗雜ニ於—-蒸一兮」。

【⿸麻林】ビ、ミ。眉几切 紙
深し。

九畫

【⿸麻香】ドン、ノン。奴昆切 元
かぐはし(香)。

【⿸麻俞】トウ、ヅ。度侯切 尤
檾の屬、いちびあさ。

【⿰後麻】コク。空谷切 屋
纑未だ練らざる、あさ、を。

十畫

【⿸麻奥】[illegible]に同じ、たどる、うむ、やぶる。

十二畫

【⿸麻黍】ビ。靡爲切 支
きび、(穄)。○[呂氏春秋]「陽-山之—」。

【⿸麻垂】キ。許爲切 支
はた、(麾)。

【⿸麻賁】ヒ、ビ。房未切 未
亂麻、みだれあさ、又、破れたる麻衣。○[列]「宋國有ニ田-夫一、常衣レ—」。

十三畫

【⿸麻蕡】フン、ボン。符分切 文　ヒ、ビ。扶沸切 未
㊀子實のある麻。○[淮]「—不レ類レ布、而可ニ以爲一レ布」。
㊁あさのみ、(枲-實)。○[禮]「麻之有レ—者也」。

【⿰麻賣】前條に同じ。

二十畫

【⿸麻鑿】サク。倉各切 藥
ごま、(油-麻)。

黃　部

【黃】クワウ、ワウ。乎光切 陽
㊀五色の一、き、きいろ、土の色とし中央の色とす。○[易]「—-裳元-吉」。
㊁きいろを帶ぶ、きばむ。○[禮]「草-木—-落」。
㊂老人の毛髮きいろなること。○[詩]「遐不ニ—-耉ニ」。
㊃黃金、こがね。○[韓]「不三飾以ニ銀-—ニ」。
㊄きいろきもの。○[詩]「充レ耳以レ—乎而」。
㊅さほひめ、だいわう、いわう、うわう、ゐわうなどの略稱。○[唐]「朱—不レ去レ手」。
㊆きいろのまされる騂馬。○[詩]「有レ驪有レ—」。
㊇幼嬰、いとけなし。○[唐開元志]「凡男女始生爲レ—」。
㊈皮膚きいろに變ずる病、わうだん。○[爾]「虺-隤—病」。
㊉支那上古の聖天子軒轅氏の稱、又、之を祖とせる神仙養生の教方。○[韓愈]「—ニ老子漢ニ」。

〔鶖黃〕鳥の名、てうせんうぐひす。○[晉]「夫欣ニ—-—之音ニ」。
〔大黃〕(い)弩の名。○[漢]「廣身自以ニ—-—射ニ其裨-將ニ」。(ろ)藥草の名。○[博雅]「黃-良—-—也」。
〔地黃〕藥草の名。○[博雅]「地-髓—-—也」。
〔倉黃〕急遽失　の貌にいふ語。○[風土記]「犬皆—-—吠-噬」。
〔玄黃〕天の色と地の色と。○[易]「夫—-—者天-地之色也」。
〔銀黃〕白銀と黃金と。○[韓]「不ニ斷以ニ—-—ニ」。
〔流黃〕(い)あや、絹。○[古詩]「少-婦織ニ—-—ニ」。(ろ)會稽郡より產出する供御の竹簟の名。○[唐詩]「珍簟冷ニ—-—ニ」。
〔中黃〕(い)中央、又、星の名。○[王勃]「辨ニ—-—之府ニ」。(ろ)天子の內藏、おくら。○[後漢]「生ニ—-—藏-宅ニ」。
〔雌黃〕礦物の名、硫黃と砒素との混合物にして繪の具又は藥に用ふ、又、樹脂より製する草雌黃といふものあり繪の具に用ふ。○[水經、註]「銅-鐵及—-—」。
〔雄黃〕礦物の名、石黃ともなづく。○[演繁露]「故塗以ニ—-—ニ」。
〔松黃〕松の花。○[本草]「松-花名ニ—-—ニ」。
〔緗黃〕日のくれがた、黃昏。○[江淹]「思ニ—-—而不レ禁」。
〔昏黃〕前に同じ。○[韓偓]「烟-月愁ニ—-—ニ」。
〔黃々〕きいろなる貌にいふ語。○[詩]「狐-裘—-—」、
〔麻黃〕草の名。○[博雅]「龍-沙—-—也」。
〔淺黃〕うすき黃色。○[劉禹錫]「販-樹深-紅出ニ—-—ニ」。

〔訾黄〕一に乘黄となづく龍翼にして馬身の神獸なりといふ。○〔漢〕「ーー其何不ニ來下一」。
〔騰黄〕神馬の名。○〔抱朴〕「ーー之馬、吉光之獸」。
〔純黄〕まじりなききいろ。○〔鍾會〕「ーー不レ雜」。
〔帖黄〕押黄ともいふ、古の引黄のことにて唐の制に詔勅に更改あれば黄紙を貼附して其の表章に事目を擧げて前の封皮に見はす之れを引黄といふ、後世は貼黄となして黄紙を用ひず。○〔國史補〕「黄勅既行下有ニ小異同一曰ニーー一」。

四畫

【黅】キン、コン。居吟切 侵 黄色。

【黆】クワウ、ワウ。姑黄切 陽 武勇の貌にいふ字。○〔班固〕「ーーー將軍威蓋不レ當」。

【⿰黄亢】カウ。苦浪切 漾 黄色。

【⿰月黄】タン。他官切 寒 黄色。

【⿰黄屯】トン、ドン。徒渾切 元 黄色。

五畫

【黇】テン、他兼切 鹽 セン。將先切 先 トン。切 黄色、黄白色、きいろ、たまごいろ。

【⿰黄斤】タク、チャク。恥格切 藥 黄色。

【黈】トウ、ツ。天口切 有 ㊀黄色。○〔穀梁〕「大夫倉、士ー」。

㊁冕の前の纊、みゝだま、みゝふさぎ、きいろの綿をまろめ組みて之を冕に懸け兩耳のあたりに垂る。○〔漢〕「ーー纊充耳、所ニ以塞一レ聽」。
㊂のぶ、〔演〕。○〔馬融〕「六器者猶レ以ニ二皇聖哲ーー益一」。

六畫

【⿰黄有】井。榮美切 紙 黄色。

【⿰黄有】クワイ、エ。虎猥切 賄 古對切 隊 青黄色。

【⿰黄丞】ショウ、ソウ。諸應切 徑 青黄色。

【黊】ケイ、エ。戸圭切 齊 黄色の鮮明なるにいふ字。

【黊】クワ、ゲ。胡瓦切 馬 クワイ、エ。胡卦切 卦 黊ーは黄色。

【⿰黄充】シウ、シュ。昌終切 東 黄色。

【⿰黄舌】テン。他年切 先 黄白色。

【⿰光黄】クワウ。苦晃切 養 爌に同じ。

七畫

【⿰黄夾】ケン。許兼切 鹽

【⿰黄赤】テン、デン。直廉切 鹽 ㊀赤黄色、かばいろ。㊁黄色。

八畫

【⿰享黄】トン。他昆切 元 タン。他端切 寒 黄色。

【⿰黄或】⿰黄有に同じ。

【⿰黄或】イ。養里切 紙 黄病、わうれつびやう、わうだん。

【⿰黄昔】シャク、サク。七略切 藥 皮の淡黄色、うすきいろ。

【⿰黄定】テン、トン。張廉切 鹽 黄色。

【⿰黄戔】セン。將先切 先 黄色。

【⿰黄炎】テン、デン。特廉切 鹽 黄色。

【⿰黄隹】曜に同じ。

【⿰黄享】トン。他根切 元 黄色。

【⿰尢黄】クワウ、ワウ。胡光切 陽 膭に同じ、はれやまひ。

九畫

【⿰黄耑】タン。他耑切 寒 黄黑色。

【⿰皇黄】クワウ、ワウ。戸盲切 庚 藤の屬、織物となすべきもの。

【⿰黄頁】ウン、チン。云粉切 吻 面色急に黄色となるにいふ字、きばむ。

【⿰黄軍】輝に同じ。

十畫

【⿰⿱士黄殳】クワウ、ワウ。胡光切 陽 卵中の黄なるもの、きみ。

十一畫

【⿰黄翏】ラウ、盧皓切 晧 ロウ。郎到切 號 黄色。

十二畫

【⿰黄單】セン。昌善切 銑 黄色。

【⿰黄惑】クワイ、ケ。古對切 隊 病む貌にいふ字。

【⿰華黄】クワウ、ワウ。胡光切 陽 火の貌にいふ字。

十三畫

【黌】クワウ、ワウ。戸盲切 庚 學舍、まなびごころ。○〔後漢〕「更修ニーー宇一」。

【⿰黄豊】シャク、サク。七略切 藥 皮の淡黄なるを、うすきいろ。

黍 部

【黍】 シヨ、ソ。舒呂切 語

㊀穀類の一、苗は蘆に似て高さ丈餘あり、穗は黑く實は淡黃なり、きみ、きび、其の實に黏分あるものは、もちきび。○〔禮〕「一一曰ニ薌合ー」。㊁古昔は輕重を量るにきびの粒を單位としたるより、極めて少なき重さにいふ字。○〔漢〕「權ニ輕重ー者不レ失ニ一一絫ー」。

〔禾黍〕 いねときびと。○〔漢〕「長我一一」。
〔角黍〕 菰葉を以て黏米粟棗などをつゝみてむしたるもの、一種のちまき。○〔王仲周〕「楚俗遺風素傳ニ一一ー」。
〔蕃黍〕 もちきびの異名。○〔古今注〕「禾之黏者爲レ黍、亦謂ニ之穄ー、亦曰ニ一一ー」。
〔黑黍〕 くろきび。○〔爾〕「秬一一」。
〔鉅黍〕 弓の名。〔荀〕「繁弱一一古之良弓」。
〔委黍〕 蟲の名、おめむし、わらぢむし、又、蓬の名。○〔莊〕「蜉蝣一一」。

三畫

【⿰黍女】 ジヨ、ニヨ。人渚切 チヨ、ト^。碾與切 語

ねばる、ねやす、(黏)。

【⿰黍刃】 ヂツ、ニチ。尼質切 質 ジン、ニン。而振切 眞

㊀ねばる、(黏)。㊁のり、(膠)。

【黎】 レイ、ライ。郞奚切 齊 リ。良脂切 支

㊀履のさいくに用ふる黍黏、くつのり、もちきびのり。㊁衆庶、もろもろ、たみ。○〔詩〕「羣一一「百姓」。㊂黧に同じ、くろし。○〔書〕「厥土靑一」。㊃邌に同じ、ころほひ、ころ。○〔史〕「一一明圍ニ宛城ー」。㊄瓈に同じ。○〔梁四公記〕「賣ニ碧頗一鏡ー」。㊅藜に同じ。○〔左〕「據ニ蒺一一ー」。

〔懸黎〕 玉の名。○〔戰〕「梁有ニ一一ー」。
〔黔黎〕 たみぐさ、庶民。○〔蘇軾〕「雖レ過爲ニ一一ー」。
〔庶黎〕 前に同じ。○〔崔駰〕「淑雨施ニ于一一ー」。
〔遺黎〕 前代の民。○〔李行言〕「周德眷ニ一一ー」。
〔遠黎〕 遠國のたみ。○〔杜甫〕「嘉謨及ニ一一ー」。

【⿰黍勿】 前條に同じ。

四畫

【⿰黍兮】 レイ、ライ。郞奚切 齊

もろもろ、(衆)。

【⿰黍日】 ヂツ、ニチ。尼質切 ジツ、ニチ。人質切 質

ねばる、ねばす、(黏)。

【⿰黍丑】 ヂウ、ニユ。女九切 有

ねばる、ねやす、(黏)。

【⿰黍互】 コ、ウ。胡故切 遇

のり、(黏)。

【⿰黍斤】 キン、コン。居隱切 吻 キン、ゴン。渠巾切 眞

ねばる、ねやす、(黏)。

五畫

【⿰黍包】 ハウ、ハウ。披教切 效

黍豉皮、きびみそのかは。

【⿱奴黍】 ダ、チ。女下切 馬

黏著す、ねばりつく、ねばしつく。

【⿰黍尼】 デイ、ナイ。乃禮切 薺

ねばる、(黏)。

【黏】 デン、チン。女廉切 鹽

㊀相著く、つく。○〔禮、疏〕「須相一著」。㊁やはらかにして物に著く、ねばりあるもの稠くなる、ねばりを有す、ねばる。○〔白居易〕「泥一雪滑足力不レ堪」。㊂ねばらしむ、ねやす。○〔齧耕錄〕「爲ニ膏澤所レ一ー」。㊃かゆ、(粥)、のり、(糊)、もち、(糯)、きびかうぢ、(黍麴)。○〔晉〕「飯一一粒」。㊄ねばるを、ねばる力、ねばり、又、ねばりありて着きやすし、ねばし。○〔戰〕「膠漆至一也」。

【⿰黍必】 ヘツ、ベチ。蒲結切 屑 ヒツ、ビチ。蒲必切 質

かうばし、(香)。

【⿰黍古】 コ、ウ。戶吳切 虞

かゆ、のり、(糊)。

【⿰黍⿰力女】 リ。力其切 支

心ほる、(恍)。

六畫

【⿰黍朱】 チユ。陟輸切 虞

ねばる、ねやす、(黏)。

【⿰黍多】 ダ、チ。女下切 馬 女加切 麻

黏り著く、ねばる、つく。

八畫

【⿰黍東】 トウ、ツ。多動切 董

攡一は、上らざる意にいふ語。

【⿰黍卷】 ケン、コン。去阮切 阮

㊀ひろし、(博)。㊁ねばる、(黏)。㊂こ、(粉)。

【⿰黍奉】 ホウ フ。方奉切 腫

麥を颺ぐ、ひろ。

【⿰黍居】 キヨ、コ。居御切 御

㊀きび、(黍)。㊁ねばる、ねばす、(黏)。

【⿱臤黍】 ケン。輕甸切 霰 乞憐切 先 牟典切 銑

【⿰黍卑】 ヒ。拜彌切 支 ハイ、ヘ。旁卦切 卦

くろきび、(穈)、もちきび、(穄)。

黍の屬、ひえ

九畫

【⿰黍⿱占心】 デン、チン。尼占切 鹽

心の物事に著するにいふ字、つく。

【⿰黍畐】 ホク、ボク。蒲北切 職

黍禾や豆の潰れし下葉を治め去るにいふ字、又、黍豆の別名。

【⿰黍畐】 ヒヨク、ヒキ。彌力切 職

㊀前條に同じ。㊁ねばる、(黏)。

【⿰黍昜】 サイ、セ。所賣切 卦

黏ばらざる貌にいふ字。

【⿰黍昜】

曬に同じ、さらす。

【⿰黍奓】 タ、テ。陟加切 麻 竹下切 馬 陟稼切 禡

黏る貌にいふ字。

【⿰黍胡】 黏に同じ。

十畫

【⿰黍兼】 レン。勒兼切 鹽
禾黍の疎なる貌にいふ字、まばら。

【⿰黍舀】 タウ、トウ。土皓切 皓
蜀黍、たうもろこし。

【⿰黍匿】 ヂヨク、ニク。昵力切 職
ねばる(黏)。

【黐】 チ。丑知切 支
鳥を捕らふるに用ふる黏、もち、とりもち。

十一畫

【⿰黍連】 レン。力展切 銑 陵延切 先
禾を糅る、もみする。

【⿰黍麻】 バ、マ。謨加切 麻
もちきび(穄)。

【⿰黍啇】 タク、チヤク。陟革切 テキ、チヤク。竹益切 陌
㊀のり、(黏-飯)。㊁黏る貌にいふ字、ねばる。㊂ひろし、(博)。

十三畫

【⿰黍農】 ドウ、ノウ。乃董切 董
㊀果子の總名。㊁耕種す、たつくる。

十六畫

【⿰黍遺】 井。延知切 支
黏る貌にいふ字。

十七畫

【⿰黍龍】 ロウ、ル。力董切 董
黏る貌にいふ字。

黑部

【黑】 コク。呼北切 職
㊀五色の一、くろ、火のふすべたる色、晦冥なる色。○〔禮〕「夏-后-氏尙レー」。
㊁くろし。
(い)くろ色なり。○〔書〕「厥土ー墳」。
(ろ)晦冥なり、くらし。○〔漢〕「日ー大-風起」。
㊂くろくなる、くろくなす、くろむ。○〔魏、註〕「池-水盡ー」。
㊃くろきもの。○〔漢〕「得レー者斫ニ文-吏」。
㊄きび、(黍)。○〔周〕「其實豐-蕡白-ー」。
㊅羊、豕。○〔詩〕「以ニ其騂-ー」。

〔黧黑〕 きいろを含みたる黑き色にいふ語。○〔戰〕「面目ー・ー」。
〔醜黑〕 みめあしく色くろし。○〔後漢〕「ー而ー」。
〔曛黑〕 日の入りてくらきとき。○〔舊唐〕「時已ー・ー」。
〔昏黑〕 前に同じ。○〔白居易〕「語レ別至ニー・ー」。
〔黯黑〕 色のくろきにいふ語。○〔韓詩外傳〕「顏色ー・ー」。
〔黲黑〕 前に同じ。○〔宋〕「鬢-髮ー・ー」。
〔青黑〕 青色と黑色と、又、あをぐろし。○〔詩、疏〕「鮪-魚形似レ鱣而ー・ー」。
〔正黑〕 まじりなき黑色。○〔晉〕「氣皆ー・ー」。
〔純黑〕 前に同じ。○〔詩、疏〕「其色ー・ー」。
〔赤黑〕 赤色と黑色と、又、あかぐろし。○〔左〕「吾見ニー・ー之祲ニ」。
〔淺黑〕 うすぐろし。○〔周、註〕「黝ー・ー也」。
〔蒼黑〕 あをぐろし。○〔史〕「蛇行而ー・ー」。
〔窈黑〕 洞谷などのふかくして黑くなりをるにいふ語。○〔晉〕「俯察ニ千仞之深谷ニ而ー・ー」。
〔深黑〕 前に同じ。○〔秦觀〕「窅-然ー・ー」。
〔塵黑〕 ちりほこりをうけて黑くなりをること。○〔齊〕「几-案ー・ー」。
〔黴黑〕 あかつきてくろし。○〔淮〕「舜ー・ー」。
〔陰黑〕 うすぐらし。○〔張祜〕「古槐ー・ー」。
〔漆黑〕 うるしの如くにくろきこと。○〔楊萬里〕「去年中秋天ー・ー」。

【⿱罒炎】 黑の本字。
〔說文〕从ニ炎上出ニ囪。

一畫

【⿰黑乙】 イ、於既切 未 イ、於記切 寘 アイ、英皆切 佳 エ。 アン、於閑切 刪 エン。 アツ、乙黠切 黠 エツ、エチ。
深黑。○〔韓愈〕「ー味就レ滅」。

二畫

【⿰黑卜】 𪐗に同じ。

【⿰黑刂】 古文の黥の字。

三畫

【⿰黑干】 カン。古旱切 旱
奸に同じ、面黑し、くろし。

【⿰黑大】 タイ、ダイ。徒蓋切 泰
黑き跡、くろ。

【⿰黑乇】 ト、ツ。都故切 遇
深黑色にいふ字、くろし。

【⿰黑勺】 テキ、チヤク。丁歷切 錫 シヤク、サク。職略切 藥
㊀婦人の面の飾りとして黑子をつくるに用ふるもの、ほくろ、おきずみ、まゆずみ、きはずみ。○〔集韻〕「婦-人以レー點ニ頰-上ニ」。
㊁たつのひげ。○〔廣韻〕「龍-須謂ニ之ーニ」。

【黓】 ヨク、イキ。與職切 職
くろし、(黑)。

【⿰黑丸】 クワン、グワン。胡玩切 翰
かきこはし、かきしず、(皰-皯)。

四畫

【黔】 ケン、ゴン。巨淹切 鹽
㊀くろし、(黎)。○〔戰〕「扶ニ社-稷ー安ニー-首ニ」。
㊁鈐に通じ用ふ。○〔易〕「艮爲ニー-喙之屬ニ」。

【黔】 キン、ゴン。巨金切 侵
ー-羸は、神の名。

【黕】 タン、トン。都感切 感 チン。陟甚切 寢
㊀滓垢、汙濁、黑染、あか、けがれ、しみ。○〔楚辭〕「或ーー點而汙レ之」。
㊁黑き貌にいふ字。○〔潘岳〕「翠-幕ー以雲-布」。

【⿰黑旡】 キ、ケ。許既切 未
黑き貌にいふ字、物の生ずる貌にいふ字。○〔左思〕「萬-物蠢-生、芒-々ーー」。

【⿰黑尤】 籒文の肬の字。

【〓】　ケン。吉典切　[銑]

㊀皮黑し、くろし。㊁しわ（皮-皺）。

【黗】　トン。他衮切　[阮]　他昆切　[元]

にごろ（濁）、くろし（黑）。

【默】　ボク、モク。亡北切　[職]

㊀犬の暫く人を逐ふにいふ字、おふ。
㊁しづか。
（い）言語なきこと、聲音絕えたること、ひッそりとしたること。○〔莊〕「至-道之極昏-々——」。
（ろ）煩語せざること、多言せざること。○〔晉〕「統靜——有₂遠-志₁」。
（は）諒闇（きちう）の禮を守ること。○〔國〕「於₂是乎三-年——以思₁ㇾ道」。
（に）聞こえず、顯れず。○〔傅亮〕「顯-—之際」。
㊂しづかにす、もだす、だまる、しづまる。○〔易〕「或—或語」。

【〓】　タイ。他蓋切　[泰]

太だ黑し。

【黖】　カウ。虛郞切　[陽]

黑き貌にいふ字。

【〓】　ショ、ゾ。上與切　[語]

黑し。

【〓】　默に同じ。

【〓】　黑に同じ。

■五　畫■

【黚】　ケン、ゴン。巨淹切　[鹽]　キン、ゴン。巨金切　[侵]　カン、コン。古暗切　[勘]

黑し。

【黛】　タイ、デ。徒耐切　[隊]

㊀まゆ。
（い）眉毛を去りて其の處に眉のさまを畫くに用ふる黑色のもの、まゆがき、まゆずみ。○〔楚辭〕「粉-白—-黑」。
（ろ）まゆずみにて畫ける眉、かきまゆ。○〔梁元帝〕「怨——舒還斂」。
㊁青黑色。○〔黃庭堅〕「山潑ㇾ—、水挼ㇾ藍」。

〔粉黛〕　おしろいとまゆずみと。○〔隋〕「盛₂——₁而執₂干-戈₁」。
〔鉛黛〕　前に同じ。○〔劉勰〕「夫——所₂以飾ㇾ容」。
〔紅黛〕　べにとまゆずみと。○〔劉勰〕「——飾ㇾ容」。
〔翠黛〕　みどりのまゆずみ、又、山などのあをぐろき色にもいふ語。○〔杜甫〕「燕-姬——愁」。
〔眉黛〕　まゆずみ。○〔沈約〕「試ㇾ黛—-閒—」。
〔青黛〕　空青に似て一層色の深きもの。○〔隋〕「朱-砂——」。
〔深黛〕　こきまゆずみ。○〔蔣子顯〕「——輕-紅點₂花-色₁」。
〔薄黛〕　うすきまゆずみ。○〔劉孝綽〕「——銷將ㇾ盡」。
〔昂黛〕　額上に高く點じたるまゆずみ。○〔白居易〕「——內-人粧」。

【黜】　チュツ、チュチ。丑律切　[質]

しりぞく。
（い）擯す。○〔書〕「—₂陟幽-明₁」。
（ろ）退く。○〔莊〕「君將ㇾ—₂嗜-欲₁」。
（は）逐ふ。○〔公羊〕「—ㇾ公者非₂吾意₁也」。
（に）去る。○〔國〕「以揚₂沈-伏₁而—₂「散-越₁」。
（ほ）放つ。○〔左〕「使ㇾ無₂—-嫚₁」。
（へ）廢す。○〔國〕「公將ㇾ—₂太-子申-生₁」。
（と）滅す。○〔左〕「—₂其事₁」。
（ち）絕つ。○〔書、序〕「將ㇾ—ㇾ殷」。

〔譴黜〕　呵責してしりぞく。○〔唐〕「欲ㇾ加₂——₁」。
〔降黜〕　官位などの等級をおとしさぐ。○〔書〕「—₂—夏命₁」。
〔放黜〕　はなちしりぞく。○〔書〕「—₂—師-保₁」。
〔罷黜〕　やめしりぞく。○〔漢〕「卓-然—₂—百-家₁」。
〔廢黜〕　前に同じ。○〔漢〕「卒用——」。「家₁」。
〔抑黜〕　おさへしりぞけて用ひず。○〔漢〕「—₂—百-家₁」。
〔削黜〕　官爵などを貶下するにいふ語。○〔漢〕「輕₂茲——₁」。
〔滅黜〕　前に同じ。○〔漢〕「—₂—其官₁」。
〔貶黜〕　前に同じ。○〔漢〕「自傷ㇾ—₂—父爵₁」。
〔糾黜〕　罪過ある者をたゞしてしりぞく。○〔後漢〕「—₂—邪-惡」。
〔免黜〕　職務にある者をやめしりぞくるにいふ語。○〔後漢〕「——者三-百-餘-人」。
〔斥黜〕　しりぞけて用ひず。○〔後漢〕「—₂—佞-邪₁」。
〔屛黜〕　前に同じ。○〔北〕「—₂—浮-詞₁」。
〔裁黜〕　人のよしあしなどを鑒別してしりぞく。○〔後漢〕「其爲₂邕所₂——₁」。
〔杜黜〕　忠賢などの進路をとぢふさぎてしりぞく。○〔後漢〕「—₂—忠-功₁」。
〔斥黜〕　いちじるしき貶下。○〔晉〕「宜ㇾ加₂——₁以肅₂朝-倫₁」。
〔譴黜〕　罪過などをせめて官位などの等級をおとすこと。○〔唐〕「少加₂——₁」「——」。
〔竄黜〕　官位をおとし遠き處に放つ。○〔宋〕「彈-緻

【〓】　バイ、メ。莫佩切　[隊]

淺黑、あさぐろ。

【〓】　バイ、マイ。莫貝切　[泰]

深黑色、くろ。

【〓】　タツ、タチ。當割切　[曷]

黑くして豔あること、くろびかり。

【〓】　シン。之刃切　[震]

黑し。

【〓】　俗の〓の字。

【黈】　チュ、ツ。知庾切　[麌]

文句の點、筆畫の點。○〔衞常、書勢〕「〓—點-黼」。

【黝】　イウ、ウ。於糾切　[有]

㊀黑色の微しく青色を帶びたるにいふ字、あをぐろ、あをぐろし。○〔周〕「陰-祀用₂—-牲₁」。
㊁ぬる（塗）。○〔禮〕「天-子諸-侯之楹—-堊」。
㊂—-糾は、特出せる貌にいふ語。○〔王延壽〕「互—-糾而搏-負」。

〔黝々〕　あをぐろき色の貌にいふ語。○〔任昉〕「——桑柘繁」。
〔昏黝〕　ひぐれとなりて暗黑なること。○〔魏了翁〕「白-晝變₂——₁」。

【黟】　イ。於脂切　[支]

縣の名。○〔漢〕「丹-陽-郡—-縣」。

【〓】　エウ。一笑切　[嘯]

黑色を用ひて地を塗る、ぬる。

【點】　テン。多忝切　[琰]

㊀細小なる痕迹、ちよぼ、ぼち、ほし。○〔詩、疏〕「其白-質如ㇾ玉、紫—爲ㇾ文」。
㊁文辭のくぎり又は物事のしるしなどにしるす小標、くぎり、しるし。○〔宋〕、凡所ㇾ讀無ㇾ不ㇾ加₂標—₁。
㊂一處に打著したる筆迹。○〔王羲之〕「每ㇾ作₂——₁、如₂高-峯墜₁ㇾ石」。
㊃零滴、しづく。○〔陸游〕「雨—隨₂車-軸₁」。
㊄落片、ひら。○〔杜甫〕「風飄₂萬—₁正愁ㇾ人」。

㊅小存在、一著處。○〔五燈會元〕「法-師講ニ無-窮經-論ー、這一ー尙不ニ奈何ニ。
㊆文字の抹消、字句の訂正、けし、なほし。○〔後漢〕「攬レ筆而作レ文、無レ加レー。」
㊇汚垢、過疵、けがれ、きず。○〔劉孝儀〕「百-行無レー」。
㊈漏刻（みづどけい）の時を數ふるに用ふる字。○〔韓愈〕「鷄三-號更五-ー」。
㊉ぽちをゑるす、ゑるしをつく、てんをうつ。○〔王羲之〕「安ーニ其點一、須ニ空-中遙擲レ筆作ㇾ之」。
⑪物のてんをうちたるが如き情態をなすにいふ字。○〔庾信〕「連-珠疎-ー」。
⑫注ぐ。○〔梁簡文帝〕「露ー蜜-飴ニ」。
⑬檢す。○〔唐〕「ーニ檢兵-馬一-萬三-千ニ」。
⑭汚す。○〔司馬遷〕「適足ニ以發レ笑而自ーニ耳」。
⑮指す。○〔白居易〕「指ー之下」。
⑯著す、○〔史達祖〕「蔌-々吳-鹽輕ー」。
⑰畫く。○〔南〕「眉-目如レー」。
⑱燈に火を傳ふ、ともす。○〔岑參〕「火ー伊-陽村」。
⑲諾して頭を下ぐ、うなづく。○〔中吳紀聞〕「石皆爲ニーー頭ニ」。

〔點々〕　點をうちたる如くぽちくとちりあるヽと。○〔庾信〕「ーー遠-空排」。
〔絳點〕　あかきゑるし。○〔白居易〕「百-枝ーーー燈熖-々」。
〔血點〕　ちのあと。○〔陸游〕「ーー斑-々新報レ仇」。
〔漏點〕　みづもり時計の水のぽちくとたるヽと。○〔辛棄疾〕「莫下向ニ樓-頭ニ聽中ーーー上」。

【點】　セン。之廉切　[鹽]
人の名、豐ー、鮑ー。

【點】　タ。丁賀切　[箇]
草の葉壞る、やぶる。○〔齊民要術〕「故-墟種レ廁、有ニーー葉天-折之患ニ」。

六畫

【𪐴】　ケン。古典切　[銑]
黑皺、くろしわ。

【𪐴】　ケン、ゲン。胡典切　[銑]
黑き貌にいふ字。

【𪐴】　テン。多殄切　[銑]
黑色、くろ。

【黴】　ハウ、ホウ。匹江切　[江]
黑き貌にいふ字、くろし。

【黣】　クワイ、エ。呼恢切　[灰]
淺黑色、あさぐろ。

【黟】　エイ、烏雞切　[齊]　イ。於脂切　[支]　アイ。
㊀こくたん（黑-木）。㊁くろし（黑）。

【黝】　前條に同じ。

【黜】　ウツ、チチ。於勿切　[物]
㊀くろし（黑）。㊁ふかし（深）。

【黝】　サツ、セチ。初轄切　[黠]
くろし（黑）。

【𪐛】　シヤ、ゼ。徐野切　[馬]
漫汙、けがれ。

【黲】　サン。相干切　[寒]

㸊ーは、下の色。

【黛】　サイ。作代切　[隊]
黑染、くろぞめ。

【黠】　カツ、ガチ。胡八切　[黠]
㊀質堅くして色黑し、かたし、くろし。○〔晉〕「愷-之體-中癡ーー各半」。
㊁慧敏なり、さとし、さかし。
㊂惡才あり、わるがしこし。○〔戰〕「山-澤之獸、無レーニ于麋ニ」。
㊃さとき人、わるがしこき者。○〔皇甫湜〕「彈レ豪糾レー」。

〔桀黠〕　わる智慧あるヽと。○〔史〕「ーー奴-人之所レ患也」。
〔捷黠〕　すばやくさかし。○〔錢、註〕「正-鴟者鳥之ーー者」。
〔姦黠〕　奸惡にしてさかし、又、其の者。○〔北〕「引ニ致ーーニ」。「ーー游-蕩」。
〔狎黠〕　輕薄にして奸才あり、又、其の者。○〔後漢〕「冒-頓ーー」。
〔凶黠〕　奸凶にして惡才あり、又、其の者。○〔後漢〕
〔狡黠〕　わるかしこし。○〔魏〕「姜-維ーー」。
〔慧黠〕　さかし。○〔北〕「ーー善彈ニ琵琶ニ」。
〔警黠〕　敏警なるヽと。○〔南〕「性甚ーー」。
〔敏黠〕　前に同じ。○〔遼〕「性雖ニーーニ」。
〔豪黠〕　すぐれてさかし、又、其の者。○〔唐〕「此輩皆鄉-縣ーー」。「詔-令ニ」。
〔陰黠〕　陰險にしてさかし。○〔唐〕「ーー善宣ニ納」
〔健黠〕　さかしく柔順ならざるヽと、又、其の者。○〔唐〕「至ニーーニ未ニ嘗曲レ法假ㇾ之」。

【黸】　ロ、ル。力姑切　[虞]
黑ぬりの弓。

七畫

【黢】　シュツ、シュチ。促律切　[質]
くろし（黑）。

【䨼】　ケン、ゲン。倪甸切　[霰]

墨を濡す、すみする。

【䵝】　バウ、モウ。莫江切　[江]
くらし（冥-暗）、わたくし（私）。

【黫】　バン、モン。亡范切　[豏]
くらし（暗）。

【䵷】　セウ。七肖切　[嘯]
ー䵷は、面の點、あざ、ほくろ。

【黵】　ラツ、ラチ。盧活切　[曷]
くろし（黑）。

【䵥】　ヨク、愈玉切　[沃]
黑き貌にいふ字。

【黣】　バイ、メ。武罪切　[賄]
面上又は皮膚の黑氣あるにいふ字、すすくろし。○〔列〕「肌-色皯ーー」。

【黧】　レイ、ライ。力奚切　[齊]
まだら（斑）。

八畫

【黗】　トン。暾頓切　[願]
ー黮は、事に堪へざるを、おろか。

【黮】　コン。古困切　[願]
㊀純黑、まくろ。㊁忘失す、わする。㊂黗ーは、おろか。

【黤】　アン、於檻切　[豏]　アン、烏感切　[感]　エン。切　オン。切
青黑、あをぐろ。

【黤】　エン。衣檢切　[琰]

【黮】タン、ドン。徒感切 感
雲黑し、くろくも。

【⿰黑彔】黷に同じ。

【䵣】コン。虎本切 阮
くろし、(黑)。

【⿰黑奔】ホン。逋昆切 元
くろし。

【⿰黑妾】セフ。七接切 葉
綵壞る、いさみだる。

【黥】ケイ、ギヤウ。渠京切 庚
面の墨刑、いれずみ。○[書]「爰始淫爲ニ劓刵椓一ニ」。
〔墨黥〕いれずみ。○[漢]「一・一之罪」。

【⿰黑柰】俗の黷の字。

【黅】キン、居吟切 侵　カン、古咸切 咸　コン。ケン。
淺黃色、あさぎいろ。

【⿱窘黑】クン、コン。許云切 文
もゝいろ、(淺絳)。

【⿱宛黑】黦に同じ。

【黦】ウツ、ヲチ。紆物切 物
黃黑色、きくろ。

【⿰黑宛】エツ、オチ。於謁切 月
變色す、いろかはる、あす。○[韋莊]「淚霑紅袖一」。

【⿰黑來】ライ、レ。落哀切 灰
一䵢は、大いに黑し。

【⿰黑來】リ。鄰知切 支　ライ。洛代切 隊
赤黑色、あかぐろ。

【⿰黑知】チ。展豸切 紙
字畫の點、句絶の點。○[梁武帝]「一一黈點黝」。

【黧】レイ、ライ。郎奚切 齊　リ。良脂切 支　ライ、レ。力皆切 佳
くろし、(黑)。○[戰]「一・牛之黃也」。
〔黧黧〕黑き色。○[徐渭]「覓忌赤地混・一・一ニ」。

【⿰黑沓】タフ、ドフ。徒合切 合
㊀くろし、くろ、(黑)。
㊁みだりにしげる、(猥茸)。

【黨】タウ。多朗切 養
㊀周の行政區劃にて五百家の稱。○[周]「掌ニ其一之政令政治ニ」。
㊁鄕里、むら、さと。○[屈平]「惟此一人其獨異」。
㊂朋輩、一類、歸趨共に同じき羣、意氣互ひに通ずる衆、ともがら、なかま、むれ、くみ、とも。○[左]「里丕之一」。
㊃親族、姻統、ちつゞき、みより、えんじや。○[禮]「睦ニ于父母之一ニ」。
㊄阿附す、おもねる、つく。○[國]「比而不レ一」。「君子不レ一」。
㊅相助けて非を匿す、たすく。○[論]
㊆かたよる、(偏)。○[書]「無レ偏無レ一」。
㊇たぐふ、(比)、ちたしむ、(親)。○[荀]「順ニ禮義一ニ學者ニ」。
㊈まじはる、(交)。○[後漢]「無レ所ニ交一一ニ」。
㊉かされて、(累)、ちきりに、(頻)。○[荀]「怪星之一見」。
⑪ちる、(知)、さとる、(悟)。○[揚雄]「楚謂ニ之一一或曰レ曉、齊宋之閒謂ニ之哲ニ」。「博而一正」。
⑫讜に同じ、うつくし、よし。○[荀]
⑬儻に同じ、こひねがふ、もし。○[漢]「一可レ得レ見乎」。
⑭こころ、(所)、とき、(時)。○[公羊]「往一」。
〔偏黨〕かたよる。○[前秦錄]「叙無ニ一・一ニ」。
〔吾黨〕自己の黨與を指していふ語。○[論]「一一之小子狂簡」。
〔鄕黨〕鄕里のこと、一萬二千五百戶を鄕といひ五百戶を黨といふ。○[論]「一・一稱レ弟焉」。
〔朋黨〕彼此の別をたて互に相結びたる黨類、又、たがひにくみあひてなかまとなること。○[史]「禁ニ一一以勵ニ百姓ニ」。
〔比黨〕互になかまを結び相比周すること、又、其のやから。○[管]「辟ニ一・一ニ」。
〔樹黨〕黨徒をたて結ぶこと。○[宋]「挾朋一レ一」。
〔植黨〕前に同じ。○[唐]「懷レ姦一レ一」。
〔結黨〕前に同じ。○[張衡]「一レ一連レ羣」。
〔阿黨〕たがひにおもねりて相結合す、又、其のやから。○[禮]「是察ニ一・一ニ」。「一ニ」。
〔徒黨〕徒類のこと、ともがら。○[中論]「率ニ其一一」。
〔魁黨〕賊徒などのかしらぶん。○[後漢]「斂ニ其一一六百餘人ニ」。
〔儕黨〕朋輩のこと。○[後漢]「不レ交ニ一・一ニ」。
〔凶黨〕兇惡者のともがら。○[陳]「預在ニ一・一ニ」。
〔內黨〕內部の黨援。○[韓]「一・一外援」。
〔强黨〕つよき黨類。○[新序]「以結ニ一・一ニ」。

【黨】シヤウ、サウ。止兩切 養
人の姓。○[左]「臨ニ一氏ニ」。

【⿰黑或】ヨク、于逼切　キヨク、況逼切　イキ。ケキ。職　イク、乙六切 屋　オク。
羔裘の縫、ぬひめ。

【⿰黑者】シヤ、セ。之夜切 禡
くろし、(黑)。

【⿰黑曷】エツ、オチ。於謁切 月
色變はる。

【⿰黑枼】レフ。盧協切 葉
竹の裡のくろみ。

【⿰黑枼】テフ。的協切 葉
たみ、(黔首)。

【⿰黑柰】サツ、サチ。初八切 黠
くろし、(黑)。

【黫】アン、烏閑切 刪　エン。イン。於仁切 眞
くろし、(黑)。○[史]「一然黑色甚明」。

【⿰黑展】テン、デン。堂練切 霰
かす、おり、(淀)。

【⿱冕黑】バン、メン。莫還切 刪
車輪を畫く、ゑがく。

【⿰黑亭】チヨウ、ヂヨウ。丈證切 徑
雲の色にいふ字。

【黬】ガン、ゲン。五咸切 咸
釜の底の黑、なべずみ。

【黬】アン、乙減切 豏　エン。アン、鄔感切 感　オン。
㊀直に聚まる氣、又、黑くして分別すべからざること。○[莊]「有レ生一」。
㊁きずあと、(痕)。

九畫

【黤】エン 衣檢切 琰
中黑。

【黊】エイ、ヱ。烏圭切 齊
けがる(汚)。

【黭】アン、オン。烏感切 感 エン。衣檢切
イン、オン。於錦切 寢
黑色の貌にいふ字、くろし、又、卒かに至る貌にいふ字、にはか。○〔荀〕「━然而雷擊之」。

【䵎】デン、ナン。乃玷切 琰
字畫の點。

【䵐】ル井。力遂切 寘
くろし(黑)。

【䵘】ヤウ。餘亮切 漾 シヤウ、サウ。
式羊切 陽

【䵵】瞳に同じ。
赤黑し。

【黗】タン、トン。他感切 感 他紺切 勘
チン。陟甚切 沁
くろし(黑)、くらし(闇)、にごる(濁)。○〔莊〕「受二其━闇一」。
黗々) 雲などの黑き貌にいふ語。○〔東哲〕「━━重雲」。
黗黕) 前に同じ。○〔張說〕「氣滃靄以━━」。
(黤黕) 前に同じ。○〔謝偃〕「結二━━之愁雲一」。
(黯黕) 暗黑にしてあきらかならざる貌にいふ語。○〔楚辭〕「尙━━而不レ瑕」。

【黕】チン、ヂン。直稔切 寑
けがる(汚)。

【黮】セン、ゼン。時染切 琰
くろし(黑)、又、甚に同じ。○〔詩〕「食二我桑━一」。

【䶂】ヘイ、ビヤウ。薄經切 青
ヘイ、ヒヤウ。博名切 庚

【䵈】チク。烏谷切 屋 アク、オク。乙角切 覺
黑き色の飾。
墨刑、いれずみ。

【黯】アン、エン。乙減切 豏 アン、オン。鄔感切 感
アン、エン。乙咸切 咸
㊀くろし(黑)、くらし(暗)。○〔家語〕「━然而黑」。
㊁別離を傷む貌にいふ字、かなし。○〔江淹〕「━然鎖レ魂」。
(黯々) 暗黑の貌にいふ語。○〔陳琳〕「━━天路陰」。
(黯黮) 雲氣などのうすぐらくあきらかならざるにいふ語。○〔錢起〕「掃二乾坤之━━一」。

【䵣】黰に同じ。

【䵝】グワイ、ゲ。牛會切 泰
虎。

十畫

【䵏】ジヨク、ニク。如欲切 沃
あかつく(垢黑)。

【䵋】シ。子之切 支

【𪑨】ハン、バン。薄官切 寒
㊀深黑色、くろ。㊁くろぞめ(染黑)。
━━䵚は、下色。

【䵆】ボク、モク。莫北切 職
くろし(黑)。

【黰】シン。章刃切 震
黑髮美し、うつくし、くろし、又、美しき黑髮、くろかみ。○〔左〕「昔有仍氏生レ女、━黑而甚美」。

【䵤】アン、エン。烏閑切 刪
黑き染色、くろ。

【䵒】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
㊀くらし(闇)。
㊁草木叢がる、むらがる。

【黱】タイ、デ。徒耐切 隊
黛に同じ、まゆずみ、かきまゆ、こきあを。○〔杜甫〕「━色參レ天二千尺一」。

【䵭】チン、ヂン。直稔切 寑
黑色。

十一畫

【黲】サン、ソン。七感切 感
うすぐろし(淺靑黑)、くらし(黯)。○〔文選〕「茫茫宇宙、上━下黷」。
(暗黲) うすぐらし、又、くろし。○〔酉陽雜俎〕「仍帶二━━一」。

【黪】サン、ソン。倉敢切 感
日の暗色にいふ字。

【䵢】ロク。盧谷切 屋
䵢━は、黑く垢つく。

【黳】エイ、アイ。烏雞切 齊
くろし(黑)、又、小黑、黑子、ぼち、ほくろ。○〔酉陽雜俎〕「色若レ━」。

【䵷】セキ、シヤク。倉歷切 錫 七迹切 陌
━䵒は、色敗る、くろむ。

【䵛】チヨウ、チユ。丑凶切 冬
穴の中の闇黑なるにいふ字、くらし、又、中くらき穴、あな。

【黸】ロ、ル。龍都切 虞
黑き弓。

【䵩】リ。鄰知切 支
赤黑色、あかぐろ。

【黴】ビ、ミ。武悲切 支
㊀垢つく、黑し、すゝく、くろし。○〔淮〕「舜━黑」。
㊁物の雨に中りて靑黑くなれるを、かび。
㊂やぶる(敗)。

【黴】バイ、メ。莫佩切 隊 莫貝切 泰
筆を點ず、くだす、おとす。

【䵘】シヤウ、サウ。式羊切 陽
赤黑き色、ぐりいろ。

【䵝】イ。羊利切 寘
黃白し、かきいろ。

十二畫

【⿰黑登】チョウ、ヂョウ。丈證切 [徑] 米黑み壞ろ、くさろ。

【⿰黑最】サツ、サチ。麤括切 [曷] くろし、(黑)。

【⿰糸黑】俗の纇の字。

【⿰黑彖】タイ、デ。徒對切 [隊] 雲たなびく。

【⿰黑惠】バツ、マチ。莫八切 [黠] バイ、メ。暮拜切 [卦] くろし、(黑)。

【⿰黑雲】アン、エン。乙減切 [豏] 雲暗し。

【⿰黑喜】キョク、ケキ。詐極切 [職] 赤黑き色。

【⿰黑喜】キ。虛其切 [支] 黑色。

【⿰黑喜】セキ、シヤク。施隻切 [陌] 物の色にいふ字、一說に、赤き色にいふ字。

【⿰黑曾】ソウ、ゾウ。昨亘切 [徑] ㊀奸——は、ひび。㊁面黑し。

【⿰黑敢】アン、於檻切 [豏] エン。切 アン、烏敢切 [感] オン。切 エン、於琰切 [琰] エン、乙鹽切 [鹽] オン。切

【⿰黑隶】タイ、デ。徒對切 [隊] わするゝ(忘)。

【⿰黑業】ホク、ボク。普木切 [屋] ㊀撲——は、黑し。㊁䵟に同じ。

【⿰黑鬼】ウツ、ヲチ。於物切 [物] ㊀くらし、(暗)。㊁うすぐろし、(淺-黑)。黃黑色。

十三畫

【黵】タン、トン。當敢切 [感] ㊀けがろ、(汚)、あかつく、(垢)。㊁ゑどろ、(塗)、㊂墨刑、いれずみ。○〔梁律〕「除二—面之刑一」。

【⿰黑詹】セン。止染切 [琰] くろし、(黑)。

【⿰黑歲】クワツ、クワチ。呼括切 [曷] くろし、(黑)。

【⿰黑萬】バイ、メ。莫敗切 [卦] —䵮は、黑き貌にいふ語。

【⿰黑僉】ケン。居奄切 [琰] くろし、(黑)。

【⿰黑農】ヂョウ、ニュ。女容切 [冬] くろし、(黑)。

【⿰黑禽】キン、ゴン。渠金切 [先] 黃色、きいろ。

【⿰黑喿】セウ。千遙切 [蕭] 雨の爲めに黴壞ろ、あさいたむ。

【⿰黑會】アイ、エ。惡外切 [泰] クワイ、ケ。

火夬切 [卦] あさぐろ、(淺-黑)。

【⿰黑黽】ヨウ、オウ。以證切 [徑] ㊀面黑し、くろし。㊁面の黑子、ほくろ。

【⿰黑黽】ソウ、ゾウ。昨亘切 [徑] かほくろし、(奸-䵳)。○〔佛書〕「顏-色端-妙無二諸奸-—一」。

【⿰黑禁】キン、ゴン。巨金切 [侵] 黃黑色、ちやいろ。

十四畫

【⿰黑賁】䵹に同じ。

【⿰黑臺】タイ。丁來切 [灰] 丁代切 [隊] くろし、(黑)。

【⿱纂黑】サツ、セチ。初刮切 [黠] くろし、(黑)、一說に、短き貌にいふ字。

【黶】エン。於琰切 [琰] アン、乙減切 [豏] エン。切 黑子、黑痕、ほくろ、くろきあと。○〔抱朴〕「拔レ毛紫レ—」。

十五畫

【⿰黑咸】カン、古咸切 [咸] ケン。切 シン。諸深切 [侵] 面黑し。

【黧】レイ、ライ。憐題切 [齊] 蒼白の雜色、あをじろ。

【黷】トク、ドク。徒谷切 [屋] ㊀けがる。(い)あかつく、(垢)、くろむ、(黑)。○〔左思〕「林-木爲レ之潤-—」。(ろ)にごろ、(濁)、みだろ、(亂)。○〔孔德璋〕「或先貞而後—」。(は)はづかしめを蒙ろ、はづべきとを爲す。○〔史〕「雖レ無二皎-々清-節一、亦無二穢-—之節一」。(に)ぶばく作して物事敝惡に至ろ。○〔公羊〕「丞則—」。㊁けがす。(い)けがれしむ、あかつく、くろむ、にごす、はづかしむ、ぶばくす、みだす。○〔荀勗〕「爲二百-吏所一レ—」。(ろ)なる、(媟)。○〔漢〕「以レ故得レ媟二—貴-幸一」。(は)あなどろ、(慢)。○〔漢〕「敬而不レ—」。㊂けがるゝを、あかはづかしめ。○〔傅亮〕「下招二私-—一」。

【黤】アン、エン。於檻切 [豏] 青黑き色、あをぐろ。

十六畫

【⿰黑籐】トウ、徒登切 [蒸] ドウ。切 トウ、徒紅切 [東] ヅ。切 黑し。

【⿰黑歷】レキ、リヤク。狼狄切 [錫] 黑し。

【黸】ロ、ル。落乎切 [虞] くろし、(黑)。○〔揚雄〕「彤弓—矢」。

十七畫

【⿰黑襄】ヂヤウ、ナウ。女兩切 [養] くろし、(黑)。

【黬】サン、ゼン。鋤咸切 咸 文書の誤字を刊る、けづる。

黹部

【黹】チ。陟几切 紙 ㊀縫紩す、ぬふ、さす。○〔爾、註〕「今-人呼レ縫二紩衣一爲レ「-」」。㊁刺繡、ぬひ。○〔爾、疏〕「黹-黻絺-繡爲レ」

四畫

【黺】フン、ホン。方吻切 吻 いろどり、(粉)。○〔說文〕「袞-衣山-龍華-蟲-畫」。

五畫

【黻】フツ、ポチ。分勿切 物 ㊀古昔の禮衣に施したる一種の繡文、あや、ぬひ、半黑半靑なる色を以て兩の巳の字の相背ける形をぬひいだせるもの。○〔詩〕「-衣繡-裳」。㊁兩の巳の字の相背ける形のぬひを施せる禮衣。○〔禮〕「諸-侯黼、大-夫-」。㊂韋韠、まへだれ、ひざかけ。○〔左〕「袞-冕-珽」。〔黼黻〕白と黑との色ある斧の形の如きあやと黑と靑との色ある兩の巳の字の相背くが如きぬひあやをいふ。○〔左〕「火-龍-、昭二其文一也」。

六畫

【⿰黹米】綵に同じ。

七畫

【黼】フ、ホ。方矩切 麌 ㊀古昔の禮衣に施したる一種の繡文、あや、ぬひ、半黑半白なる斧の形をぬひだせるもの。○〔禮〕「-黻文-章」。㊁斧の形のぬひを施せる衣。○〔禮〕「諸-侯-、大-夫黻」。〔黼黻〕黑白のあやいともて斧の形のぬひをほどこす。○〔詩、疏〕「諸-侯-レ-」。〔刺黼〕前に同じ。○〔詩、疏〕「絹-上-レ-」。

八畫

【䵺】サイ、セ。子對切 隊 五采を繪ける繒の色。

九畫

【⿱敃黹】ベン、メン。民堅切 先 ぬふ、(黹-緶)。

【⿱敃黹】ヘン。方千切 先 さす、ぬふ、(紩)。

【⿰黹扁】ヘン、ベン。婢典切 銑 履の底、くつぞこ。

十一畫

【⿰黹虘】ショ、ソ。創擧切 語 五采の鮮かなると、あざやか。○〔詩〕「衣-裳-・-」。

黽部

【黽】バウ、ミヤウ、莫杏切 梗 〔說文〕从レ它象形。蛙の屬、かへる、あをがへる。○〔埤雅〕「-善怒」。〔鼃黽〕あをがへるの一種。○〔周〕「掌レ去二-・-一」。〔耿黽〕水に居るあをがへる。○〔爾、註〕「-・-也、似二靑-蛙一大-腹、一名二土-鴨一」。〔水黽〕前に同じ。○〔本草〕「-・-有レ毒」。〔求黽〕一種の竹。○〔管〕「-・-將-檀」。

【黽】ビン、ミン。武盡切 軫 つとむ、(勉)。○〔孫季昭〕「蛙-・-之行勉-強自力、故曰二-勉一」。

【黽】バウ、ミヤウ。眉耕切 庚 地の名。○〔史〕「-隘之塞」。

【黽】ベン、メン。彌兗切 銑 -池は、縣の名。○〔漢〕「有二-池-縣一」。

【黾】俗の黽の字。

四畫

【黿】ゲン、グワン。愚袁切 元

グワン。五丸切 寒 ㊀おほすっぽん、(大-鼈)。○〔左〕「獻二-於鄭靈-公一」。㊁ゐもり、(蜥-蜴)。○〔史〕「化爲二玄-一」。〔天黿〕星のやどりの名。○〔國〕「武-王伐レ殷、星在二-・-一」。〔海黿〕うみがめ。○〔臨雅〕「-・-大一-畝、重千鈞」。〔蛟黿〕みづちと一種のかめと。○〔范仲淹〕「-・-出-沒多」。

【⿱艹黽】蚪に同じ。

五畫

【⿰冄黽】ダン、ナン。汝甘切 覃 龜の甲の邊、へり。

【鼀】シュク、ソク。七宿切 屋 ひきがへる、ひき、(蟾-諸)。

【⿱央黽】アウ。於郞切 陽 龍の屬。○〔郭璞〕「鮪-・-鼉-鼉」。

【⿸广黽】ハ。補火切 哿 ひき、(蟾-蜍)。

【鼁】キョ、コ。丘据切 御 口擧切 語 --䵷は、ひきがへる、(蟾-蠩)。

【⿰句黽】ク、コ。其俱切 虞 䵷の屬。

【⿰句黽】コウ、ク。居侯切 尤 ㊀--䵷は、龜に似たる一種の水蟲。㊁小さき蠵蠩、うみがめ。

【鼂】テウ、デウ。直遙切 蕭 匽-は、蟲の名。

【鼂】テウ。陟遙切 蕭 朝に同じ。○〔楚辭〕「甲之-吾以行」。

六畫

【⿱奄黽】シュク、ソク。七宿切 屋 ひき、(蟾-諸)。

【⿰圭黽】ア、エ。烏瓜切 麻 ㊀古文の蛙の字。○〔周〕「掌レ去二-黽一」。㊁樂聲の淫猥なると。○〔漢〕「紫-色-・-聲」。

【鼃】前條に同じ。

【鼄】チュ。陟輸切 虞

鼅ー、ー蝥は、くも。○〔爾雅、註〕「今江東呼二鼅-蝥一、在二地-中一布レ網者土-鼅、絡二幕草-上一者草-鼅-ー」。

七畫

【⿸辰黽】シン、ジン。時刃切 震　是忍切 軫
おほはまぐり（大-蛤）。

八畫

【鼅】チ。陟離切 支
鼅鼄の字の條を見よ。
俗に蜘に作る。

【⿱冖黽】ベイ、マイ。莫兮切 齊
鼃の字の條を見よ。

九畫

【⿰曷黽】カツ、カチ。丘葛切 曷
蛙の類、一に曰ふ、蛙の聲にいふ字。

【⿰秋黽】シウ、シユ。七由切 尤
鼀に同じ。

【⿰酋黽】シウ、シユ。七由切 尤
鼀ーは、ひき（蟾-諸）。

十畫

【⿰奚黽】ケイ、ガイ。胡雞切 齊
水蟲、かめのたぐひ。

【鼆】バウ、ミヤウ。亡耿切 梗
句ーーは、魯の邑。○〔左〕「ー入門二於句ー一」。

【鼆】バウ、ミヤウ。武庚切 庚
くらし、（冥）。

【鼇】ガウ、ゴウ。五牢切 豪
海中の大鼈、おほすッぽん。○〔史〕「斷二ー足一以立二四極一」。
〔巨鼇〕おほいなるうみがめ。○〔列〕「ーー十五」。
〔神鼇〕靈鼇といふに同じ、神妙なるおほがめ。○〔隋〕「ーー負レ山」。

十一畫

【⿸麻黽】バ、マ。莫霞切 麻
鼂ーは、龜の屬にして海邊の沙中に生ずるもの、一説に、海鯨くぢら。

【[illegible]】鼈の本字。

【鼈】ヘツ、ヘチ。拜列切 屑
俗に、鱉に作る。
㊀龜の屬、形圓く脊穹く周に帬あり、すッぽん、どろがめ、神守、河伯從事。○〔淮〕「ー無レ耳而目不レ可レ瞥」。㊁わらび（蕨）。○〔詩、傳〕「蕨ー也、其初生時似二ー脚一」。
〔魚鼈〕うをとすッぽんと。○〔禮〕「水潦則ーー不レ大」。
〔天鼈〕星の名。○〔星經〕「ーー十五星在二斗南一」。
〔納鼈〕足なくして頭尾の縮まらざる一種のすッぽん。○〔本草、註〕「鼈無レ足而頭尾不レ縮者、名曰二ーー一」。

十二畫

【鼉】タ、ダ。徒何切 歌　タン、ダン。唐干切 寒　セン、ゼン。時戰切 霰
鱓に同じ、蜥蜴に似て長さ丈餘にして鐵の如き甲あり。○〔禮〕「季夏天子命二漁師一伐レ蛟取レー」。

十三畫

【⿰亶黽】テン。多年切 先
ー鼊は、あをがへるの類。

【鼊】ヘキ、ヒヤク。比激切 錫
蠵ーは、龜の屬、ひれに指爪なく甲に珠文ありて瑇瑁に似たり。

十四畫

【⿰齊黽】シ。式支切 支
鼀ーは、蟾諸、ひき。

鼎部

【鼎】テイ、チヤウ。都挺切 迥
㊀かなへ。
（い）物を烹飪するに用ふる三足兩耳の金器。○〔禮〕「引二重ーー」。不レ程二其力一。
（ろ）古昔の極刑に處したる罪人を烹殺するに用ひし三足兩耳の金器。○〔史〕「見レ虜赴レー」。
（は）夏の禹の九牧の金を集めて九箇のかなへを鑄て之を王位承傳の寶器となす、夏亡びて殷の有となり殷亡びて周の有となり周また亡ぶるに及びて秦の有となりしより轉じて、王位帝業の稱にいふ字。○〔後漢〕「闚レ圖訊レー」。
（に）かなへの三足は三公に象りたるより相位の稱にいふ字。○〔後漢〕「位登二台ー一」。
㊁易の卦の名、☲☴ 離上巽下。○〔易〕「ー元亨吉」。

（鼎之圖）

㊂まさに（方）、あたる（當）。○〔漢〕「天子春秋ー盛」。
㊃のぶ（舒）、ゆるやか（寬）。○〔禮〕「喪事ーー爾則小人」。「謂二之ーー一」。
㊄舟を維ぐ、つなぐ。○〔揚雄〕「維レ之
〔鍾鼎〕つりがねとかなへと。○〔舊唐〕「既勒二銘於ーー一」。
〔擧鼎〕かなへをもちあぐ。○〔史〕「ーレー絕レ臏」。
〔扛鼎〕前に同じ。○〔漢〕「力能レーー」。
〔定鼎〕周の成王殷の九鼎を郟鄏に遷し周業を大成したりしより後世帝業を定むるをいふ。○〔徐陵〕「ーーーー之業居レ多」。
〔問鼎〕王位を窺窬するを。○〔左〕「定王使二王孫滿勞二楚子一、楚子ーー之大小輕重焉」。
〔叅鼎〕三公の位をいふ。○〔後漢〕「位登二ーー一」。
〔稷鼎〕前に同じ。○〔後漢〕「越登二ーー之任一」。
〔寶鼎〕貴重なるかなへ。○〔史〕「黃帝作二ーーー三一」。
〔龜鼎〕國の守器たれば帝位に喩へていふ。○〔後漢〕「因レ之遂遷二ーー一」。

【⿵門鼎】俗の鼎の字。

二畫

【鼏】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫
㊀樽を覆ふに用ふる疏巾、ふきん。○〔禮〕「犧尊疏布ー」。
㊁鼎を蓋ふに用ふる編茅、かなへのおほひ。○〔儀〕「設二扃ー一」。
㊂勢なく精の閉づる宮人。○〔廣雅〕「ー、慢閹也」。

【鼐】ダイ、ナイ。奴代切 隊　ダイ、ナイ。奴亥切　ドウ、ノウ。寧鄧切 徑
大いなる鼎、おほがなへ。○〔詩〕「ーー鼎及鼒」。

【鼏】ベキ、ミヤク。莫狄切 錫

鼎の耳に貫きて鼎を擧ぐる木、さしがね。○〔周〕「容二大―一二」。

三畫

【鼒】 シ。子之切 支 サイ、ザイ。昨哉切 灰 サイ。作代切 隊 上すぼまりて口狹き一種の小鼎。○〔詩〕「鼐鼎及―」。

【鼑】 テイ、チヤウ。都挺切 迥 ―瞳は、ありづか、(蟻-封)。

【〓】 カン。古刊切 寒 かなへ(鼎)。

十一畫

【〓】 セイ、サイ。祥歳切 霽 小さき鼎。○〔淮〕「―在二其閒一」。

【〓】 シヤウ、サウ。式羊切 陽 にる(煮)。

鼓部

【鼓】 コ、ク。工戸切 麌 ㊀面に革を張りたる樂器、つゞみ、古昔は春分の音にして羣樂の首たるものさし、其の腔を瓦にてつくりたりといふ。○〔周〕「―・―人掌二六―一」。㊁ます(斛)。○〔荀〕「瓜桃棗李一―本數以二盆―一」。

(鐘鼓) つきがねとつゞみと、二者ともに樂器の主たるもの。○〔詩〕「―・―旣設」。

(量鼓) 量の名。○〔禮〕「獻ㇾ米者執二―・―一」。

(懸鼓) つゞみかけをたてゝかくるつゞみ。○〔禮〕「廟ㇾ堂之下、―・―在ㇾ西」。

(土鼓) つちをかためて作りたるつゞみ ○〔禮〕「蕢桴而―・―」。

(敗鼓) やれつゞみ。○〔韓愈〕「―・―之皮」。

(楹鼓) 柱をもて鼓腹を貫きて樹つるつゞみ。○〔禮〕「殷―・―」。

(鞞鼓) 軍隊に用ふるつゞみ。○〔吳〕「―・―金鐸」。

(旂鼓) 軍の耳目たるはたとつゞみと。○〔周〕「―・―兵革」。

(旌鼓) 前に同じ。○〔魏〕「多二其―・―一」。

(路鼓) 四面のつゞみ。○〔周〕「王執二―・―一」。

(晉鼓) 兩面のつゞみ。○〔周、註〕「晉―・―長六尺六寸、金作而後奏、故欲二其遒一也」。

(雷鼓) 八面のつゞみ。○〔周、註〕「―・―八面鼓也、祀二天神一則鼓ㇾ之」。

(靈鼓) 六面のつゞみ。○〔周、註〕「―・―六面鼓也、祀二地祇一則鼓ㇾ之」。

(金鼓) かねとつゞみと。○〔左〕「―・―以ㇾ聲ㇾ氣也」。

(枹鼓) 鼓をうつばちとつゞみと。○〔國〕「執二―・―一于軍門一」。

(河鼓) 牽牛星のこと。○〔爾〕「―・―謂二之牽牛一」。

(天鼓) (い)星の名。○〔史〕「―・―有ㇾ音、如ㇾ雷非ㇾ雷」。(ろ)雷のこと。○〔雲仙雜記〕「雷曰二―・―一」。

(諫鼓) 君をいさめんとする者の爲めに備へられたるつゞみ。○〔淮〕「堯置二敢・―之―一」。

(樓鼓) やぐらにかけ備へたるつゞみ。○〔陸游〕「―・―一聲中日又斜」。

(更鼓) 鳴らして時刻を告ぐるつゞみ。○〔東軒筆錄〕「―・―分明」。

(羯鼓) 夷狄のつゞみの名。○〔李商隱〕「―・―聲高衆樂停」。

(鉦鼓) 軍中などに用ふるどらがねとつゞみと。○〔漢〕「―・―之教」。「―・―」。

(銅鼓) あかゞねもて作りたるつゞみ。○〔晉〕「賓二貫」

(漏鼓) 時刻を告ぐるつゞみ。○〔唐〕「霽二―・―一而閉」。「―・―」。

(曉鼓) よあけを報ずるつゞみ。○〔五〕「京城以爲二

〔路鼓之圖〕

(急鼓) 聲せはしくうちならすつゞみ。○〔楊萬里〕「―・―狡・鉦動ㇾ地呼」。

(雅鼓) 舞者の迅疾を節するために鳴らすつゞみ。○〔宋〕「以二舞者迅疾一、以ㇾ雅節ㇾ之、故曰二―・―一」。

【鼔】 コ、ク。公戸切 麌 ㊀鼓を擊つ、つゞみうつ。○〔左〕「公將ㇾ―ㇾ之」。㊁うつ(擊)。○〔呂氏春秋〕「―二其腹一」。㊂ひく(彈)。○〔論〕「―ㇾ瑟希」。㊃なる、ならす(鳴)。○〔屈平〕「呂望之―ㇾ刀兮」。㊄鐘の擊つ處。○〔周〕「鳧氏爲ㇾ鐘、于上謂二之―一」。㊅振動す、うごかす、うごく、ふるふ、ふる。○〔易〕「―二天下之動一者存二乎辭一」、又「―ㇾ之舞ㇾ之以盡ㇾ神」。㊆扇熾す、あふぐ、あふる、おこる、おこす。○〔漢〕「膠東魯國―二鑄鹽鐵一」。

三畫

【〓】 ケキ、キヤク。吉逆切 陌 鼓の聲にいふ字。

四畫

【〓】 ホウ、ブ。蒲蒙切 東 鼓の聲にいふ字。

【〓】 鼓に同じ。

五畫

【〓】 サフ、ソフ。七盍切 合 鼓の聲にいふ字、一說に、鼓の邊を打つにいふ字。

【〓】 ハウ、ビヤウ。蒲孟切 梗 碼―は、石の聲にいふ語。

【鼕】 トウ、ヅ。徒冬切 冬 徒東切 東 鼓の聲にいふ字。○〔唐〕「號爲二―・―鼓一」。

【〓】 フ。馮無切 虞 フ、ホ。斐父切 麌 軍聲の喧しきにいふ字、かまびすし。○〔書、傳〕「乃鼓―譟」。

【〓】 テフ。他協切 葉 ㊀鼓に聲なし、つゞみならず。㊁ゆるし、(寬)。

六畫

【〓】 ハウ、ホウ。匹江切 江 鼓の聲にいふ字。

【〓】 タフ、トフ。土盍切 合 鼓鼛の聲にいふ字。

【〓】 タフ、ドフ。徒合切 カフ、コフ。苦盍切 合 鼓の聲にいふ字。○〔史〕「鏗鎗鏜―」。

【〓】 トウ、ヅ。徒冬切 冬 チウ、ヂユ。持中切 東 鼓の聲にいふ字。

【鼘】 イン、オン。於巾切 眞 エン。烏懸切 先 鼓の聲にいふ字。

【鼖】 フン、ホン。符分切 文 長さ八尺の大鼓、軍事にうちならすもの。○〔周〕「以二―鼓一鼓二軍事一」。

【鼗】 タウ、ドウ。徒刀切 豪

柄を持ちて搖かせば兩耳の自ら擊ち鳴るべく作りたる小鼓、ふりつづみ。○[書]「下二管鼗鼓一」。

(鼗之圖)

【𪔃】カウ、コウ。古刀切 豪　つゞみ（鼓）。

七畫

【𪔂】トウ、ヅ。徒紅切 東　鼓の聲にいふ字。

八畫

【𪔎】タフ、トフ。托合切 合　㊀鼓聲寛し、ゆるし。㊁鼓聲雜沓す、かまびすし。

【鼘】エン。縈圓切 先　イン、オン。於巾切 眞　鼓の聲にいふ字。○[詩]「鼘鼘鼓一一」。

【鼙】ヘイ、バイ。部迷切 齊　馬上にてつゞみうつ鼓、うまのりつゞみ、せめつゞみ、軍中にて鼓の節を裨助するに用ふ、騎鼓。○[周]「旅-師執レ一」。

【𪔠】鼙に通じ用ふ。○[搜神記]「琵-琶作二一-婆一」。

【鼚】チャウ。褚羊切 陽

鼓の聲にいふ字。○[玉篇]「一-乎鼓レ之」。

【𪔜】リウ、ル。戾中切 東　㊀鼓の音にいふ字。㊁鼓に聲なし。

【𪔗】コウ、ク。枯公切 東　鼓聲の震ふにいふ字。○[靈樞經]「一一然不レ堅」。

【鼛】カウ、コウ。古勞切 豪　長さ一丈二尺ある大鼓、おほつゞみ。○[詩]「一-鼓弗レ勝」。

九畫

【𪔣】トウ、ヅ。徒弄切 送　鼓の聲にいふ字。

【𪔨】テフ。他協切 葉　鼓に聲なし。

【𪔤】鼓に同じ。

【𪔦】カン、ゲン。胡讒切 咸　鼓の聲にいふ字。

【𪔧】テフ。他協切 葉　シフ。七入切 緝　鼓に聲なし。

【鼖】フン、ホン。符文切 文　大鼓。

【𪔭】サウ。蘇郎切 陽　鼓の匡、つゞみばこ。

十畫

【鼜】セキ、シャク。倉歷切 錫　サウ、ソウ。七到切 號　夜を守る鼓、さきだいこ。○[周]「軍-旅夜鼓レ一」。

十一畫

【鼝】鼘に同じ。○[張衡]「雷-鼓一一一」。

【鼞】タウ。土郎切 陽　鼓の聲にいふ字。

【𪔷】イン、オン。于禁切 沁　鼓の聲にいふ字。

十二畫

【鼟】トウ。他登切 蒸　鼓の聲にいふ字。

【𪔵】トウ、ヅ。徒冬切　ロウ、ル。盧冬切 冬　リウ、リユ。力中切 東　ハウ、ホウ。皮江切 江　鼓の聲にいふ字。

鼠　部

【鼠】シヨ、ソ。書呂切 語　[說文]上象レ齒、下象二腹爪尾一。

㊀穴に棲みて善く盜を爲す一種の小獸、ねずみ。○[詩]「穹-窒熏レ一」。㊁癙に同じ、うれふ（憂）。○[詩]「一-思泣-血」。

（碩鼠）大なる鼠、おほねずみ。○[詩]「一一碩-鼠、無レ食二我黍一」。

（水鼠）みづねずみ。○[雲仙錄]志二穴-氷-旁作-隙、似レ鼠而小、食二蔬-荚魚蝦一」。

（氷鼠）鼠の一種。○[東方朔]「生二北-荒積-氷下一、皮-毛柔可レ爲レ席」。

（火鼠）鼠の一種。○[神異經]「有二野-一一一、人取二其毛一績レ之、號二火浣布一」。

（耳鼠）むさゝび。○[山海經]丹-熏-山有レ獸、狀如レ鼠、以二其尾一飛」。

（香鼠）おやからねずみ。○[字彙]「河-南-禹-州密-縣雪-霽-山一一一、長寸-餘、飢-齧畢レ死、糞-穢-毒-路、大-路則死」。

（天鼠）鼠の一種。○[王羲之]「一一一皆可レ治二耳-聾一」。

（𪕊鼠）鳥の名。○[山海經]「栒-狀之山有レ鳥、狀如レ雞而鼠毛、其名曰二一一一」。

（鹸鼠）馬の脂肉の下。○[齊民要術]「相-馬-法一-一欲レ方」。

（首鼠）兩端を持すると。○[史]「何爲二一一一兩-端一」。

（腐鼠）くされたゞれたるねずみ。○[列]「飛-鳶適墜二一一一而中レ之」。

（社鼠）社中のねずみ又、君側の姦臣にも喩へていふ。○[晏子]「景-公問曰、治レ國何患、晏-子對曰、患二夫一一一、鼠之所二以不レ可レ得レ殺者、以レ社故也、夫國亦有レ人焉、人-主左-右是也、此亦國之一一也」。

（隱鼠）田鼠、鼢鼠などの名あり、たねずみ、もぐらもち。○[本草]「隱-鼠一名二一一一、形如レ鼠而大尾、黑-色長-鼻」。

（禮鼠）鼠の一種、人を見れば前足を交へ禮をなすが如くするより名づく。○[韓愈]「一一一拱而立」。

（拱鼠）前に同じ。○[關尹子]「師二一一一立レ縉」。

（仙鼠）かはほり、蝙蝠。○[方言]「蝙蝠自レ關而東、謂二之服-翼一、或謂二之一一一、或謂二之飛-鼠一、或謂二之老-鼠一」。「小者或曰二一一一」。

（甘鼠）小さき鼠、はつかねずみ。○[埤雅]「鼠之最小者」。

（苗鼠）のねずみ。○[廣志]「一一一者野-鼠也」。

（栗鼠）鼠の屬、りす。○[埤雅]「鼠狼一名鼪、今謂二之一一一」。

（鼯鼠）栗鼠の屬、もゝんぐわともむさゝびともいふ。○[爾]「一一一夷-由」。「一一一似レ之」。

（兀兒鼠）一種のねずみ。○[甘肅地志]「涼州有二一一一者一、似レ鼠」。

三畫

【鼠刃】ジン、ニン。而振切 [震]
鼠。

【鼠勺】シャク、サク。之若切 [藥]
胡地の風鼠。

【鼠勺】ハウ、ヘウ。巴校切 [效]
鼠の屬、能く飛びて虎豹の物を食らふとぞ、こびれずみ。

【鼠勺】シャク、サク。即略切 [藥]
鼠に似て小さき獸。

【鼠勺】テキ、チャク。丁歷切 [錫]
鼠の名。

四畫

【鼠今】カン、ゴン。胡男切 [覃]
鼠の屬

【鼠今】カン、コン。古南切 [覃]
ゐもり、(蜥-蜴)。

【鼢】フン、ポン。房吻切 [吻]
地鼠、つちれずみ、一說に、鼴鼠、もぐらもち。○[爾]「——鼠」

【鼢】フン、ポン。符分切 [文] 符問切 [問]
田中の鼠、たれずみ。

【鼠冘】チン、ヂン。直林切 [侵]
水鼠、みづれずみ。

【鼣】ハイ、ベ。符廢切 [隊] 吠
聲は犬のほゆるが如き一種の鼠。

【鼠方】ハウ、バウ。分房切 [陽]
地鼠、ちれずみ。

【鼤】ブン、モン。無分切 [文]
斑尾の鼠、まだらをのれずみ。

【鼤】ブン、モン。文運切 [問]
鼠のあや。

五畫

【鼠平】ヘイ、ビヤウ。薄經切 [青]
㊀鼠の子。㊁斑鼠、まだられずみ。

【鼥】ハツ、バチ。蒲撥切 [曷]
肥えたる鼠。

【此鼠】シ。即移切 [支]
尾の雉に似たる鼠、ひでりれずみ。

【鼦】古文の貂の字。○[史]「狐——裘千-皮」。

【鼠卯】リウ、ル。力求切 [尤] 力九切 [有]
竹鼠、たけれずみ、竹根を食ひし土穴に棲む大いさ兎の如しといふ

【鼠令】レイ、リヤウ。郎丁切 [青]
鼠冋——は、まだられずみ、斑鼠。

【鼠冋】ケイ、キヤウ。古螢切 [青]
前條に同じ。

【鼨】シウ、シュ。職戎切 [東]
トウ、ヅ。徒冬切 [冬]
豹の文ある鼠、まだられずみ。

【鼩】ク、コ。其俱切 [虞]
㊀鼱——、鼩——は、はつかれずみ。㊁ちれずみ、のられずみ。

【鼪】セイ、シヤウ。所庚切 [庚]
飛生鼠、むさゝび、一說に、いたち、(鼬)。○[莊]「往二——鼬之逕一」。

【鼫】セキ、ジヤク。常隻切 [陌]
㊀五技鼠、をかつぎ、大いさ鼠の如く頭は兎の如く尾に毛あり、全身青黃色なり、好みて田中の粟豆を食らふ。○[易]「如二——鼠一」。㊁けら、(螻-蛄)。○[本草]「螻-蛄一名二——鼠一」。

【鼠冗】ジヨウ、ニユ。而隴切 [腫]
鼠の屬。

【鼬】イウ、ユ。余救切 [宥]
㊀鼲に似たる一種の獸、全身赤黃色にて大いなる尾あり、いたち、鼪鼠、地猴、黃鼠狼。○[韓愈]「倏-閃雜二鼲——一」。㊁羽毛の飛揚する貌にいふ字。○[馬融]「羽-毛紛其彯——」。(鼯鼬) むさゝびといたちと。○[魏]「鼯——之所二棲宿一」。

六畫

【鼠并】ヘイ、ビヤウ。步甖切 [青]
鼠。

【鼠各】カク、ガク。下各切 ラク。盧各切 [藥]
支那の邊地の鼠、其の皮は裘となすに堪ふとぞ。

【鼭】シ、ジ。市之切 [支]
鼠の名。

【鼠耳】ジ、ニ。而止切 [紙]
鼠の名。

七畫

【鼮】テイ、ヂヤウ。特丁切 [青] 徒徑切 [徑]
豹の如き文彩ある鼠、まだられずみ。○[正字通]「攸對曰、——鼠也」。

【鼠師】鼯の本字。

【鼯】ゴ、グ。五乎切 [虞]
蝙蝠の如き肉翅ある一種の獸、翅尾項脅の毛は紫赤色、背上は蒼艾色腹下は黃、喙頷は雜白、脚短く爪長し飛ぶこと三尺許なり、むさゝび、もゝんぐわ、飛生鼠、夷由 ○[馬融]「——鼠夜叫」。(狌鼯) 猩々とむさゝびと。○[宋]「——之性」。(山鼯) 山中に棲みをるむさゝび。○[賈島]「——隔レ水啼」。

【鼠吳】前條に同じ。

【鼠足】ショク、ソク。趨玉切 [沃]
——鼩は、小鼠。

【鼠夋】シユン。祖峻切 [震]
をかつぎ、(石-鼠)。

八畫

【鼠艮】テン、チン。南見切 [霰]
鼠の如き大いさにて木に棲むもの、きれずみ。

【〓】スヰ。之惟切 支
鼠。

【鼱】セイ、シャウ。子盈切 庚
——鼩は、はつかれずみ、ちれずみ。○〔漢〕「猶二——鼩之襲一レ狗」。

【〓】〓に同じ。

九畫

【〓】〓に同じ。

【鼲】コン、ゴン。乎昆切 元
一種の鼠、おじぎねずみ、時煖かなれば出でて穴口に坐し人を見れば前の兩足を頸下に交へ拱立して揖するが如きさまをなし乃ち穴に竄入す、其の皮は裘につくるべし、禮鼠、拱鼠、猶狸　○〔魏〕「——貂譲二諱於林木一」。

【鼳】ケキ、キヤク。古闃切 陌
鼠に似て馬の蹄あるさいふ一種の獸。

【〓】アイ。於蓋切 泰　エイ。於例切 霽
〓——は、互に尾を相銜みてつらなり行く一種の小鼠、つられずみ。

【〓】コ、ウ。戸呉切 虞
〓〓の屬、くもざる。

【〓】ケキ、キヤク。戸狄切 錫
鼠の名。

【鼴】エン、オン。於幰切 阮　於蹇切 先
㊀鼠に似たる一種の小獸、全身黑色にして尾短く鼻長し、常に地中に陰伏穿行しをりくゝ地をうごもち起こす、もぐらもち、隱鼠、犂鼠。○〔本草〕「——鼠在二地中一行」。
㊁大いさ水牛に似たる一種の山獸。○〔本草、註〕「今諸山-林中有レ獸大如二水-牛一形、有レ力而鈍、亦名二——鼠一」。

【鼵】トツ、トチ。陀骨切 月
鼠に似たる一種の小獸。

十畫

【〓】アク、ヤク。於革切　エキ、ヤク。伊昔切 陌
鼠の屬。

【〓】コク。古祿切 屋
いたち、（鼬）。

【〓】前條に同じ。

【〓】タウ、ダウ。徒郎切 陽
〓——は、鼠の屬。

【〓】ハク。補各切 藥
前條に同じ。

【鼶】シ。息移切 支　セイ、サイ。先齊切　テイ、ダイ。杜兮切 齊
鼠猨、いたち。

【〓】〓に同じ。

【鼷】ケイ、ガイ。胡雞切 齊
一種の小鼠、はつかれずみ、往々螫毒ありて人又は牛馬の皮膚を嚙むに其の嚙まれしもの瘡をなすも痛さを覺えずさいふより、別名は、あまくちれずみ、甘口鼠。○〔春秋〕「——鼠食二郊-牛之角一」。

【鼸】ケン。丘檢切 琰
うぐろもち、（田-鼠）。

【〓】〓に同じ。

【鼹】鼴に同じ。

十一畫

【〓】シヤク、サク。郎約切 藥
雀鼠、おじぎれずみ。

【〓】シヨウ、シユ。將容切 冬
——鼩は、ちれずみ。

【〓】リ。呂支切 支
つられずみ。

十二畫

【〓】〓に同じ。

【〓】ハツ、パチ。蒲撥切 曷
肥えたる鼠。

【〓】ヘン、ホン。附袁切 元
まろれずみ、（白-鼠）、一說に、螢底蟲、わらぢむし。

十四畫

【〓】セツ、ゼチ。昨結切 屑
猿の類。

十五畫

【鼺】ルヰ。倫爲切 支
鼯鼠の別名、むさゝび、もゝんぐわ。○〔晉〕「騰-猨飛——」。

十七畫

【〓】サン、ゼン。士緘切 咸
鼠の貌にいふ字。

鼻　部

【鼻】ヒ、ビ。父二切 寘　——〔說文〕引レ气自畀也。
㊀面の中央に高くなれるところ、はな呼吸を通じ香臭を嗅ぐ官。○〔孟〕「西-施蒙二不-潔一則人皆掩レ——而過レ之」。
㊁はし、（端）。○〔國〕「——寸」。
㊂はじめ、（始）。○〔揚雄〕「或——二祖於汾-陽一」。
㊃つまみ、（鈕）、とつて、（把）。○〔隋〕「銅-印銅——」。
㊄獸のはなを穿ちはなぎはな綱などをさほし繫ぐ。○〔張衡〕「——二赤-象一圏二巨-象一」。

〔反鼻〕蝮蛇の別名。○〔漢、註〕「蝮-蛇一名二——一」。
〔阿鼻〕梵語にて佛說の無間地獄のこと。○〔內典〕「——此曰二無-間一」。
〔積鼻〕はたのおび、ふどし。○〔史〕「身自著二——一〔褌〕」。
〔酸鼻〕痛み悲しむ。○〔高唐賦〕「誠可レ爲二——一」。
〔隆鼻〕たかきはな。○〔漢〕「——大-口」。
〔高鼻〕前に同じ。○〔史、註〕「長-頸而——」。
〔亢鼻〕前に同じ。○〔莊〕「豚之——者」。
〔巨鼻〕大いなるはな。○〔元〕「廣-顙——」。
〔脅鼻〕はね高くふしあるはな。○〔論衡〕「蘇-秦——」。
〔尖鼻〕とがりばな。○〔拾遺記〕「尖-頭——」。

二畫

【鼽】ゲウ。五刑切 嘯　ギウ、グ。牛救切

仰鼻、あふむきばな。○[王沈]「鼻[illegible]—而刺レ天」。

【⿰鼻乙】アツ、エチ。乙黠切 黠
鼻の貌にいふ字。

二畫

【⿰鼻丩】ゲウ。魚了切 篠 キウ、ク。古幼切 宥
鼻折る。

【⿰鼻斗】ケウ。苦弔切 嘯
仰鼻、あふむきばな。

【⿰鼻九】ケウ、ゲウ。詰弔切 嘯
仰鼻、あふむきばな。

【鼽】キウ、グ。巨鳩切 尤
寒冒にて涕通ぜず鼻の塞がるを、はなつまり。○[禮]「季-秋行二夏-令一民多二鼽-嚏一」。

【⿱九鼻】前條に同じ。

三畫

【鼾】カン。侯幹切 翰
いびき、ねいき(臥-息)。○[程史]「一-榻之下、豈容二他-人之—-睡一哉」。

【鼾】カン。虛干切 寒
鼻聲、はないき。○[集韻]「吳人謂二鼻聲一爲レ—」。

【鼿】ゴツ、ゴチ。五忽切 月
㊀仰鼻、あふむきばな。
㊁獸の鼻にて物を搖かすにいふ字。

【⿰鼻几】クワイ、エ。呼恢切 灰
豕土を掘る、つちほる。

四畫

【䶊】ヂク、ニク。尼六切 屋
鼻血、はなぢ。

【⿰鼻及】キフ、コフ。許及切 緝
鼻息の聲、はないきごゑ。○[王延壽]「鼻齂-齁以—-歙」。

【⿰鼻隹】クワイ、エ。呼廻切 灰
猪物を食らふ。

【⿰鼻欠】⿰鼻合に同じ。

五畫

【齀】ゴツ、ゴチ。五忽切 月
鼿に同じ、鼻にて物を搖かす。○[張協]「—レ林蹶レ石」。

【⿰鼻占】テン、トン。丁廉切 鹽
⿰鼻兼—は、鼻の垂るゝ貌にいふ語。

【⿰鼻丘】キウ、ク。丘救切 宥
仰鼻、あふむきばな。

【齁】コウ、ク。呼侯切 尤 コ、ク。苦故切 遇
鼻息、はないき。○[王延壽]「鼻齂-—以歙-歘」。

【⿰鼻包】ハウ、ベウ。皮教切 效
面の瘡、もがさ。

六畫

【⿰鼻危】齀に同じ。

【⿰鼻至】テイ、タイ。都計切 霽
鼻より氣を噴く、はなひる、ひる、又、鼻疾、はなのやまひ。○[揚雄]「決二其鼻聾—一」。

【⿰鼻圭】クワイ、ケ。枯回切 灰
鼻息の聲、はないき。○[王延壽]「鼻—齁以歙-歘」。

【⿰鼻合】カフ、ケフ。呼洽切 洽
鼻息、はないき。

【⿰鼻巠】⿰鼻帝に同じ。

七畫

【⿰鼻希】キ。虛几切 紙 キ。許豈切 尾
㊀臥息、ねいき、いき。
㊁涕を拭ふ、はなふく。

【⿰鼻夷】テイ、タイ。他計切 霽 キ。許几切 紙
涕に同じ、はなしる。

【⿰鼻弟】テイ、タイ。土禮切 薺
涕を去る、はなかむ。

【⿰鼻弟】テイ、タイ。土兮切 齊
薄る貌にいふ字、せまる。

【⿰鼻夾】⿰鼻合に同じ。

【⿰鼻血】䶊に同じ。

【⿰鼻血】キク、コク。許六切 屋
鼻を擤む、はなかむ。

八畫

【齂】カイ、ケ。許介切 卦 キ。虛器切 寘 バツ、メチ。莫黠切 黠 キ。詡鬼切 尾 許貴切 未
臥息、いびき、いき。

九畫

【⿰鼻扁】ヘン。補典切 銑
㊀薄き貌にいふ字、うすし。
㊁鼻息の止まざる貌にいふ字。

【齃】アツ、アチ。烏割切 曷
鼻莖、はなばしら。○[史]「唐-擧相二蔡-澤一蹙—」。

【⿰鼻帝】⿰鼻壹に同じ。

十畫

【⿰鼻兼】レン、ロン。勒兼切 鹽
—⿰鼻占は、鼻の垂るゝ貌にいふ語。

【齅】キウ、ク。許救切 宥
鼻に氣を收む、鼻に臭を感ず、かぐ。○[論]「三—而作」。

【齆】ヲウ、ウ。烏貢切 送
鼻の病。

十一畫

【齇】サ、セ。莊加切 麻
鼻上の皰、ざくろばな。

【⿰鼻卒】ソツ、ソチ。蘇骨切 月

鼻聲、はないき、

【⿰鼻翏】 レウ。力弔切 [嘯]
仰鼻、あふむきばな。

十二畫

【⿰鼻死】 鼽に同じ。

【⿰鼻朁】 シン、ソン。子禁切 [寢]
高き鼻。

【⿰鼻替】 俗の⿰鼻朁の字。

十三畫

【⿰鼻會】 アイ、烏快切 [卦] エ。烏外切 [泰]
喘ぐ息。

【⿰鼻會】 クワイ、ケ。呼外切 [泰]
鼻息、はないき。

【⿰鼻會】 クワイ、ケ。火夬切 [卦]
いきす、いき(息)。

【⿰鼻農】 ドウ、ノウ。奴冬切 [冬]
㊀鼻涕、はなしる。㊁鼻疾。

【⿰鼻農】 ドウ、ヌ。奴凍切 [送]
鼻の涕の多き病。

十六畫

【⿰鼻疐】 テイ、タイ。丁計切 [霽]
氣を噴くこと、鼻の疾。

【⿰鼻歷】 レキ、リヤク。狼狄切 [錫]
㊀かぐ(嗅)。㊁高き鼻。

十七畫

【⿰鼻毚】 サン、ゼン。士咸切 [咸]
鼻高し。

齊　部

【齊】 セイ、サイ。徂兮切 [齊] (說文)禾麥吐レ穗上平也。
㊀ひとし。
(い)平正なり、たゞし。○〔荀〕「｜明而不レ竭」。
(ろ)同一なり、おなじ。○〔呂氏春秋〕「與レ我｜者」。
(は)すべて彼此の差違區別なきにいふ字。○〔莊〕「以化二於｜民一」。
㊁おしなべて、みな、ひとしく。○〔史〕「民不三｜出二于南畝一」。
㊂ひとしと爲す、ひとしくす。○〔淮〕「｜二死生一」。
㊃そろふ。
(い)ひとしくあり、ひとしくあらしむ、ひとしくす。○〔楚辭〕「與二日月一兮｜レ光」。
(ろ)とゝのふ(整)。○〔荀〕「平レ政以｜レ民」。
(は)わかつ、わかる(辨)。○〔易〕「｜二大小一者存二乎卦一」。
(に)つらぬ、つらなる(列)。○〔淮〕「｜二靡曼之色一」。
(ほ)そなふ、そなはる(備)。○〔荀〕「四者｜也」。
(へ)かぎる(限)。○〔家語〕「惡乎｜」。
㊄おごそか(莊)、又、つゝしむ(肅)。○〔左〕「子雖二｜聖一不二先レ父食一」。
㊅制限、ほど、かぎり。○〔晉〕「無二復｜限一」。
㊆中正、中位。○〔列〕「華胥氏之國、不レ知下斯二｜國一幾千萬里上」。
㊇つよし、壯、すみやか(速)。○〔史〕「幼而徇｜」。
㊈國の名、又、人の姓。
㊉旋回の水、うづまけるみづ。○〔莊〕「與レ｜俱入」。
㊉一臍に通じ用ふ、ほぞ。○〔左〕「後君噬レ｜」。
〔整齊〕とゝのふ。○〔史〕「其次｜之」。
〔總齊〕すべとゝのふ。○〔晉〕「｜二八荒一」。

【齊】 セイ、ザイ。在禮切 [薺]
恭慤の貌にいふ字、うやうやし、つゝしむ。○〔禮〕「廟中｜｜」。

【齊】 セイ、ザイ。在詣切 [霽]
㊀和合したる藥味、くすり。○〔禮〕「凡食｜視二春時一」。
㊁一定のますめによりてつくりたる混和酒。○〔周〕「五｜三酒」。
〔火齊〕珠の名。○〔班固〕「翡翠｜｜」。

【齊】 セイ、サイ。子計切 [霽]
調和したる食味、くひもの。○〔周〕「八珍之｜」。

【齊】 シ。津私切 [支]
㊀衣下の裳、もすそ。○〔論〕「攝レ｜升レ堂」。
㊁裳下の緝、ぬひ。○〔禮〕「兩手摳レ衣去レ｜尺」。

【齊】 サイ、セイ。莊皆切 [佳]
齋に同じ、ものいみ。○〔禮〕「｜之爲レ言齊也」。
〔致齊〕三日間の心の齋戒。○〔禮〕「｜二于內一、散二齊于外一、齊之日、思二其居處一、思二其笑語一、思二其志意一、思二其所一レ樂、思二其所一レ嗜」。
〔散齊〕七日間の行爲のものいみ。○〔禮〕「散｜七日以定レ之」。
〔[illegible]齊〕おごそかにつゝしむ。○〔禮〕「周旋｜｜」。

【齊】 セイ、ザイ。牋西切 [齊]
㊀齏に同じ。○〔周、註〕「五｜、昌本、脾析、蜃、豚拍、深蒲」。
㊁躋に同じ、のぼる、のぼす。○〔禮〕「地氣上｜」。

【齊】 シ、ジ。疾私切 [支]
薺に通じ用ふ。○〔禮〕「趨以二采｜一」。

【齊】 セン、ゼン。子淺切 [銑]
剪に同じ、きる、そろふ。○〔儀〕「馬不レ｜レ髦」。

二畫

【齊】 セイ、ザイ。前西切 [齊]
やまひ(病)。

三畫

【齊】 セイ、ザイ。在奚切 [齊]
美しき貌にいふ字。

【齊】 セイ、サイ。子計切 [霽]
麻紵を緝ぐ、つむぐ。

【齋】 サイ、セイ。側皆切 [佳]
㊀飲食動作を妄にせずして清潔謹直を守るにいふ字、思慮意念を愼みて專一精明に止まるにいふ字、いさぎよし、おごそか、うやうやし、つゝしむ、ものいむ、ものいみ。○〔莊〕「是祭祀之｜、非二心｜一也」。
㊁燕居の室、へや。○〔歐陽修〕「即二其東偏之室一、治爲二私之居一、名曰二畫舫｜一」。
〔清齋〕(い)ものいみして心をきよらかにもつ。〔呉語〕「｜｜禮太素」。(ろ)淨室のこと。○〔楞嚴經〕「｜｜淨室也」。「[illegible]」。
〔山齋〕山中にある燕居の室。○〔徐陵〕「竹室｜｜」。

〔寢齋〕寢室。○〔韋應物〕「吏卒升二|||一」。〔禪齋〕佛齋といふに同じ、佛寺のこと。○〔殷堯藩〕「獨歩到二|||一」。

【齋】シ。津私切 支
縗に同じ、喪の服。○〔孟〕「|・疏之服」。

【𪗆】セイ、サイ。祖雞切 齊
さへ、(材)。

【𪗈】サイ、セイ。側皆切 佳
齋に同じ。○〔詩〕「有二|季女一」。

【𪗉】セイ、ザイ。祖奚切 齊
うつくし、(好)。

四畫

【齌】セイ、ザイ。在詣切 霽 セイ、サイ。七稽切 霽
餔を炊ぐ釜。

【𪗊】
臍の本字。

五畫

【齍】シ。即夷切 支 セイ、ザイ。牋西切 才詣切 霽
㊀黍稷を盛る祭器。○〔周〕「奉二玉|一」。㊁粢に同じ。○〔周〕「共二|盛一」。

【𪗋】シ。即移切 支 ——又、粢に作る。
黍稷の器に在るもの、祭の飯。

六畫

【𪗌】サイ、セイ。側皆切 佳
燕居の室、ゐま、へや。

【𪗍】シ。即夷切 支
裳下の緝、衣下の裳、ぬひ、もすそ。○〔漢〕「攝レ|升レ堂」。

七畫

【齎】セイ、サイ。祖稽切 齊
㊀もたらす。
(い)持ち行く。「里二不レ|レ糧」。○〔史〕「鄭・莊行二千-里一、不レ|レ糧」。
(ろ)持ち來たる。○〔謝觀〕「|二此嘉-端一」。
㊁おくる、(遺)、あたふ、(與)。○〔史〕「|二貸子・錢一」。
㊂つく、(付)。○〔儀〕「|二皮・馬一」。
㊃おくろ、(送)、はなむけす、(餞)。○〔周〕「設二道|之奠一」。
㊄そなふ、そなはる、(備)。○〔淮〕「願以レ技|二一-卒一」。
㊅途中の財用、もたらす裝具、たまもの、錢財、禮物、そなへつくるもの、使用品。○〔史〕「盡以二其裝|一買二一-石醇-醪一」。
㊆歎息の聲にいふ字。○〔易〕「|-咨涕-洟」。
〔輕齎〕輕装といふに同じ。○〔王安石〕「聊復辦二|・|一」。

【𪗎】シ。即夷切 支
資に同じ。○〔周〕「會二其財|一」。

八畫

【𪗏】セイ、サイ。徂兮切 齊
ひとし、(等)。

九畫

【齏】セイ、サイ。祖雞切 齊
㊀切韲、膾酢、きざみな、なます。○〔周、註〕「凡醯・醬所レ和細切爲レ|」。
㊁くだく、(碎)、まず、(和)、みだろ、(亂)、つくろ、(制)。○〔莊〕「|二萬-物一不レ爲レ戾」。

〔懲羹吹齏〕あつものを食らひ其の熱きにこりてよりは冷きなますをも吹きさまして食らふ、即ち一たび禍患に會して臆病心に陥り憂ふべからざる事にも憂ふるにいふ語。○〔唐〕「|二熱-|一者|二冷-|一」。

十一畫

【𪗐】セイ、ザイ。前西切 齊
鯉に似たる一種の小魚。

【𪗑】シ。即移切 支
黍稷を盛る器。

齒　部

【齒】シ。昌里切 紙 ―(說)象二口齒之形一。(文)
㊀口の斷(はぐき)にならび生ずる骨、は。○〔周〕「自二生-|一以-上登二於天-府一」。
㊁きば、(牙)。○〔詩〕「元-龜象-|」。
㊂すべて物の口に於ける「は」の如き狀をなせるものゝ稱。○〔釋名〕「齊魯謂二四-|杷一爲レ權」。
㊃はの生ふるを、はを加ふるを。○〔相兒經〕「早-坐早-行、早-|早-語」。
㊄よはひ。
(い)年壽、とし。○〔國〕「非レ義不レ盡レ|」。
(ろ)年次、さしばへ。○〔中〕「所二以序一レ|」。
㊅よはひす。
(い)列次す、ならぶ。○〔左〕「使下后-子與二子-干一|上」。
(ろ)としを數ふ、かぞふ。○〔禮〕「|二路-馬一有レ誅」。
㊆たぐひ、(類)。○〔管〕「同レ|以レ|」。
㊇ゑろす、(錄)。○〔禮〕「終-身不レ|」。
㊈石などの白くしてならべる貌にいふ字。○〔韓愈〕「白-石|・|」。

〔兒齒〕齒の落ちて更に生ずるものにて此の齒生ずれば長生の徵といふ、みづは。○〔詩〕「旣多受レ祉、黄-髮|・|」。
〔羊齒〕草の名、馬齒ともいふ。○〔爾、註〕「蔓・細-葉、葉羅生而毛、似二|・|一、今江-東呼爲二雁-齒一」。
〔脣齒〕くちびるとはと、又、二者接近して相係るよりは國境を接して相依る國勢の喩に用ふる語。○〔魏〕「吳蜀|・|相依」。
〔尙齒〕よはひ高き者を上としてたふとぶ。○〔禮〕「有-虞-氏貴レ德而|レ|」。
〔弱齒〕前に同じ。○〔家語〕「上|レ|則下益悌」。
〔齲齒〕むしば。○〔史〕「齊中-大夫病二|・|一」。
〔切齒〕はをくひしばり憤激す。○〔史〕「此臣之日-夜|・|腐-心也」。
〔皓齒〕よごれなき白色のは。○〔漢〕「|・|娥-眉」。
〔素齒〕前に同じ。○〔傅休奕〕「|・|結二朱-脣一」。
〔稚齒〕よはひわかし。○〔列〕「皆擇二|・|姣婧者一以盈レ之」。
〔暮齒〕老年のこと。○〔隋〕「暨二乎|・|一」。
〔黑齒〕くろきは、又、蠻族の名。○〔唐〕「鑿-齒・穫-貊有二|・|一金-齒・銀-齒三-種一」。
〔屐齒〕木履のは。○〔晉〕「不レ覺二|・|之折一」。
〔齊齒〕ひとしく相ならぶ。○〔禮〕「與二家-僕一雜-居|・|非レ禮也」。
〔年齒〕よはひ、年齡。○〔後漢〕「不レ拘二|・|一」。
〔舊齒〕よはひたけたり、又、其の者。○〔晉〕「升二-敬|・|一」。
〔宿齒〕宿老といふに同じ。○〔晉〕「|・|舊-臣」。
〔觿齒〕幼年のこと、こども。○〔晉〕「可三以長二|・|一」。
〔幼齒〕前に同じ。○〔隋〕「雖レ在二|・|一」。
〔收齒〕收錄といふに同じ、取りあげ用ふ。○〔北〕「不レ加二|・|一」。
〔壯齒〕壯年のこと。○〔隋〕「昔在二|・|一猶不レ如レ人」。
〔含齒〕はをあらはさゞること、又、列子の戴髮含齒の語より人間のことにいふ。○〔宋〕「賚及二|・|一」。
〔鋸齒〕のこぎりのは。○〔論衡〕「魚之啄・齧|・|道」。
〔堅齒〕はを健全にす。○〔抱朴子〕「或服二|・|之者一」。
〔乳齒〕ちのみば。○〔齊民要術〕「相-馬法一-歲上-下生二|・|一各二」。
〔玉齒〕たまをならべたる如きうつくしきは。〔李白〕「粲-然啓二|・|一」。

一畫

【齓】 齔に同じ。○[史]「既ー而遭レ之。」

二畫

【⿰齒八】 ハツ、ハチ。普八切 [黠] 齒の聲にいふ字。

【齔】 シン、初菫 ソン。切 [軫] 初覲切 [震] チン、丑忍 トン。切 [軫] ⊖男女七八歳のころ初生の齒の毀れ脱けて更に新齒の生ずるにいふ字、かはる、又、其のかはる前の毀齒、みそッぱ、かけば。○[周]「未レー者」。⊜はのぬけかはる年ごろ、いとけなし、こども。○[後漢]「年皆童ー」。（髫齔）男女七八歳の幼者にいふ語。○[北]「ーー就レ學」。（沖齔）前に同じ。○[後漢]「諸在二ーー一」。

三畫

【齕】 コツ、下沒 ゴチ。切 [月] ケツ、胡結 ゲチ。切 [屑] かじる、かむ、（齧）。○[禮]「削レ瓜庶人ーレ之」。

【⿰齒山】 俗の齧の字。

【⿰齒也】 チ、ヂ。直離切 [支]

【⿰齒干】 ガン、五板 ゲン。切 [潸] ゲン、語偃 ゴン。切 [阮] ⊖齒齗の貌にいふ字。⊜かむ、（齧）。

【⿰齒干】 カン、ゲン。戸板切 [潸] 齒の見はるゝ貌にいふ字。

四畫

【⿰齒开】 齖に同じ。

【⿰齒巴】 ハ、邦加 ヘ。切 [麻] ハ、步化 ベ。切 [禡] ーー齖は齒の出づる貌にいふ語、又、齒の正しからざる貌にいふ語。

【⿰齒亢】 カウ、ガウ。胡郎切 [陽] かむ、（齧）

【⿰齒內】 ダフ、ノフ。諾盍切 [合] 茹嚼して齧まず、かむ、かじる。

【⿰齒內】 ダフ、チフ。呢洽切 [洽] ⿰齒內ーーは、齒の動く貌にいふ語。

【齖】 ガ、五加 ゲ。切 [麻] 魚駕切 [禡] ⊖齟ーーは、齒平かならず、齵ーーは、齒ーーは…。⊜聱ーーは、人語か聽きいれざるを。○[唐]「能學二聱ーー二、レ正しからず。

【齗】 ギン、魚斤 ゴン。切 [文] ⊖齒の本の肉、はぐき。○[舊唐]「數二墮-齒之ーー一」。⊜辯じ爭ふ貌にいふ字、あらそふ。○[史]「洙-泗之閒ーーー如也」。⊜互に忿疾す、いかりにくむ。○[後漢]「朝-臣ーーー」。

【齗】 ギン。宜引切 [軫] 犬の爭ふ貌にいふ字。

【齗】 ガン、ゲン。牛閑切 [刪] 爭ひ訟ふ、あらそふ。

【齗】 キン、口謹 コン。切 ギン、語近 ゴン。切 [吻] 口の上の肉、はぐき。

【齗】 ゲン、語蹇 ゴン。切 [阮] ゼン、忍善 テン。切 [銑] コン。口很切 [願] 笑ふ。

【齗】 コン。苦本切 [阮] 齒の見はるゝ貌にいふ字、一說に、かむ、（齧）。

【⿰齒今】 キン、巨禁 ゴン。切 [沁] 巨今切 [侵] ⊖舌の病。⊜ーー悼は、憐みて急に哀む、かなしむ。

【⿰齒斤】 古文の齦の字。

【齘】 カイ、ゲ。胡介切 [卦] ⊖怒りて切齒す、はぎしろ、はがみす。○[北]「三禁ーー良久乃止」。⊜齒の上下相抵ろ、あたる。○[周]「凡甲-衣之欲二其無ヒー」。（蚧齘）切齒して怒ると。○[唐]「雖二女子-能ーー薄レ賊」。（齒齘）齒の上下ふれあたる處。○[正韻]「ーー齒上-下相抵處」。（瀉齘）いかる。○[廣雅]「ーー怒也」。

【⿱乞齒】 齕に同じ。○[莊]「ーレ草飲レ水」。

五畫

【⿰齒占】 タン、テン。陟陷切 [陷] 齒を剔ぐ、はをさぐ。

【齙】 ハウ、ベウ。步交切 [肴] 齒露はる、はあらはる。

【⿰齒史】 シ、師止切 [紙] 齒好し。

【齚】 サク、シャク。側革切 [陌] かじろ、かむ、（齧）。○[史]「杜門ーレ舌自-殺」。

【⿰齒出】 シツ、ジチ。仕乙切 [質] かむ、（齧）、一說に、物を齧む聲にいふ字。

【⿰齒可】 カ、丘加 ケ。切 [麻] 丘駕切 [禡] かじろ、かむ、（齧）。○[柳宗元]「僉騰-沸而ー」。

【⿰齒可】 カ。口箇切 [箇] ーー⿰齒我は、齒の貌にいふ語。

【齛】 セイ。始制 エイ。以制切 [霽] セツ、私列 セチ。切 [屑] かむ、（齕）。

【⿰齒它】 チ、ヂ。直宜切 [支] はぐき、（齗）。

【齜】 サイ、仕皆 セイ。切 [佳] シ。側宜切 [支] ⊖切齒、はぎしり。⊜口を開きて齒を見はす。⊜齒正しからず。

【齜】 シ。莊宜切 [支] 齲病、むしば。

【⿰齒此】 サイ、莊皆 セイ。切 [佳] サ、鋤加 ゼ。切 [麻] 齒齊はず、そろはず。

【⿰齒立】 リフ。力入切 [緝] ラフ、盧盍 ロフ。切 [合]

乾物を齧む聲にいふ字、堅き物を啖らふ聲にいふ字。

【齝】チ。丑之切 シ。書之切 支 食らひしものを吐きて更に齧む、またかむ。○「爾」「牛曰レ—」。

【⿰齒司】齝に同じ。

【⿰齒失】テツ、徒結切 屑 デチ。切 チツ。竹一切 質 堅きものを嚙む貌にいふ字。

【⿰齒巨】キョ、臼許切 語 コ。切 ク、顆羽切 麌 コ。切 一 齗腫る、はぐきはる。二 齗固からず。

【齞】ゲン。研繭切 銑 語蹇切 阮 倪甸切 霰 口を開きて齒を見はす、脣短くして齒を掩はず。○「宋玉」「—脣歷齒」。

【齟】ショ、在呂切 語 ゾ。切 サ、鋤加切 麻 ゼ。切 一 —齬は、一前一却上下の齒相値はざるにいふ字、すべて物事の相値はざるにいふ字、くひちがふ。○「揚雄」「其志—齬」。二 かむ（齧）。

【⿰齒且】サ、セ。莊加切 麻 一 物を嚙む聲にいふ字。二 齭—は、大いなる齒。

【⿱多齒】タ、テ。陟加切 麻 齭—は、齧む。

【齠】テウ、デウ。田聊切 蕭 かはる、みそっぱ（齔）。○「韓詩外傳」「男子八月而生レ齒八歲而—齒」。

【齡】レイ、リヤウ。郎丁切 青 よはひ、とし（齒）。○「晉」「延ニ億—ニ」。○「唐」「偕至ニ—・—ニ」。
（長齡）長年といふに同じ、たけたるよはひ。
（依齡）前に同じ。○「阮籍」「列仙停ニ—・—ニ」。
（弱齡）年わかし。○「宋」「帝自ニ—・—ニ」。
（妙齡）前に同じ。○「宋」「—・—秀發」。
（幼齡）幼少のとし。○「孟郊」「—・—思ニ奮飛ニ」。
（稚齡）前に同じ。○「王績」「童稚—・—」。
（頹齡）老年にいたりたること。○「謝靈運」「撫ニ摧積ニ—・—ニ」。
（餘齡）餘生といふに同じ、殘後の久しからざるよはひのこと。○「韓愈」「吾其寄ニ—・—ニ」。
（遐齡）長壽ながいき。○「魏」「以ニ知命ニ稱ニ—・—ニ」。
（年齡）よはひ。○「劉禹錫」「安可レ測ニ—・—ニ」。
（增齡）よはひをます ○「郭璞」「不レ—・—」。
（延齡）前に同じ。○「宋之問」「偷ニ—・—之術ニ」。
（耄齡）七八十のよはひ。○「宋」「年已近ニ—・—ニ」。

[illegible]

【⿰齒旨】ケイ、ガイ。研計切 霽 齧む。

【⿰齒名】ベイ、ミヤウ、莫丁切 青 は、齒）。

【⿰齒圭】カイ、ゲ。宜佳切 佳 齒齊はず、そろはず。

【⿰齒寺】チ。抽知切 支 牛草を食らふ。

【齤】ケン、ゴン。巨員切 先 缺齒、かけば、一說に、曲齒、まがりば、一說に、笑ひて齒を見はす貌にいふ字。○「淮」「若士者—然而笑」。

【⿰齒至】チツ。陟栗切 質 テツ、大結切 屑 デチ。切 物を齧む聲にいふ字。

【齲】ク、コ。丘主切 麌 齒の朽ち缺けたる病ひ。

【⿰齒色】サク、シャク。山責切 陌 齒を露はす貌にいふ字。

【齥】セツ、私列切 屑 セチ。切 エイ。以制切 霽 かむ、にどかむ（齝）。

【⿰齒舌】クワツ、クワチ。古活切 曷 物を嚙む聲にいふ字、齒の聲にいふ字。

【齦】コン。康很切 阮 かむ、（齧）。○「揚雄」「琢レ齒依レ—」。

【齦】カン、ゲン。起限切 潸 物を嚙む聲にいふ字。

【齦】ギン、ゴン。語斤切 文 齒根の肉、はぐき。○「李禎」「香—皓齒疑ニ貝編ニ」。

【⿰齒吉】カツ、ケチ。赫轄切 黠 物を齧む聲にいふ字、かみならす。

【齧】ゲツ、ゲチ。倪結切 屑 一 かむ。
(い)齒を物に加ふ、くひつく。○「禮」「毋レ—レ骨」。
(ろ)齒にて物を碎く、齒にて物を殘ふ、かみくだく、かじる。○「後漢」「衆蛇競來—レ索」。
(は)齒を相切す、はがみす。○「南」「自—ニ其齒ニ」。
(に)侵蝕す。○「戰」「水—ニ其墓ニ」。
二 一種の草、なかぜり。○「爾」「—苦菫」。
（蹄齧）ひづめにてけると齒にてかむと。○「韓愈」「怒相—・—者」。「防ニ禽獸—・—ニ」。
（觸齧）つのにて突くと齒にてかむと。○「周、註」
（齰齧）かむこと。○「急就篇、註」「主ニ—・—者也」、
（食齧）かみくらふ。○「釋名」「如レ有ニ所ニ—・—也」。
（侵齧）潦水波浪などのきしべの土砂をくひとる如く破壞し去るにいふ語。○「水經、註」「—ニ—金堤ニ」。
（噬齧）かむ、又、かみくらふ。○「爾雅」「食相—・—」。
（嚙齧）前に同じ。○「蘇軾」「—・—盘ニ根柢」。
（咬齧）前に同じ。○「蘇軾」「—ニ—衣服ニ穿ニ房戶ニ」。「爭—・—」。
（噂齧）つかみあひかみあふこと。○「陸龜蒙」「虎豹—・—」。
（剝齧）かはなどをはぎくらふこと。○「蘇軾」「—ニ—草木・啖ニ泥土ニ」。「夜室—・—」。
（齩齧）〃などをかじりかむにいふ語。○「蘇軾」「長

【齨】キウ、ク。其久切 有 臼の如くに中のくぼめる齒、うすば。

【齩】カウ、ゲウ。五巧切 巧 かむ、（齧）。○「漢」「易レ子而—ニ其骨ニ」。

【⿰齒列】ラツ、盧達切 曷 ラチ。切 レツ、力蘖切 屑 レチ。切 一 かむ、（齧）。二 齧む聲にいふ字。

【⿱絜齒】前條に同じ。

【⿰齒并】ヘイ、ヒヤウ。必郢切 梗 ヘン、ベン。蒲眠切 先 泣齒、いちまいば。○「春秋元命苞」「武王—齒」。

【⿰齒合】カフ、侯閤切 合 コフ。切 タフ、他合切 トフ。切 カフ、轄夾切 洽 ケフ。切

くらふ、はむ（食）。

七畫

【⿰齒告】コク。古沃切 沃 象牙を治む。

【⿰齒吉】コク。胡谷切 屋 カク、コク。克角切 覺 齒の聲にいふ字。

【⿰齒言】齗に同じ。

【齪】サク、ソク。測角切 覺 ❶齒の聲にいふ字。❷孔を開く具。❸齷――は、齒の細密なるにいふ語、急促局陿の貌にいふ語、こまし、ちひさし、せまし、せまる。○〔史〕「委-瑣握――」。〔冗齪〕不急の小事。○〔書〕「所レ言皆――」。

【齪】シュク、ソク。初六切 屋 廉謹の貌にいふ字、うや〳〵し。

【⿰齒足】ショク、ソク。叉足切 沃 齒齊ふ、そろふ。

【⿰齒啇】齪に同じ。

【⿰齒我】ガ。牛箇切 箇 齖――は、齒の貌にいふ語。

【⿰齒夋】サン。蘇官切 寒 齒酸し。

【⿰齒夾】カフ、ケフ。侯夾切 洽 ❶曲がれる齒。❷重なり生ふる齒。❸かく、（缺）。❹噍む聲にいふ字、かむおと。

【⿰齒含】ガン、ゴン。吾含切 覃 齒齦、はぐき。

【齹】サ、ザ。咋何切 歌 才可切 哿 齒の差跌するにいふ字、はくひちがふ。

【齫】コン。苦本切 阮 ❶かむ（齧）。❷齒の起こる貌にいふ字。○〔荀〕「――然而齒墜矣」。

【⿱折齒】齧に同じ。

【齬】ギョ、ゴ。魚擧切 語 語居切 魚 齒相値はず、くひちがふ。○〔揚雄〕「其志齟――」。

【⿱佗齒】タ、ダ。徒何切 歌 馬の齒長し。

【⿱隋齒】タ、ダ。徒何切 歌 齒正しからず。

【⿱殺齒】齾に同じ。

八畫

【⿰齒制】ケイ。居例切 霽 狂犬、やまいぬ。○〔馬融〕「獄ニ――熊ニ」。

【⿱臤齒】ケン。牽典切 銑 ―齞は、齒の露はる丶貌にいふ語。

【齼】ショ、ソ。創擧切 語 齒酢のために傷む、いたむ。

【⿰齒卒】ソツ、ゾチ。咋沒切 月 シツ、ソチ。測乙切 質

かむ、（齧）。

【⿰齒其】キ。去其切 支 かむ、（齧）。

【⿰齒臽】カン、ケン。乎韽切 陷 はがみす、はぎしりす、（怒-齒）。

【⿰齒來】タイ。卓皆切 佳 當來切 灰 かむ、（齧）、又、齧む聲にいふ字。

【齮】ギ。魚倚切 紙 かむ、（齧）。

【⿰齒戔】サン、セン。士板切 潸 ――齗は、齒の正しからざるを。

【⿰齒戔】サン、セン。仕限切 潸 齒の跌ふれたる貌にいふ字。

【齯】ゲイ、ガイ。五雞切 齊 ジ、ニ。如支切 支 老人の齒の脫落し盡きて更に生ひたる齒、長命の相なりといふ、みづは。○〔爾〕「黃髮――齒壽也」。

【⿰齒宜】ギ。魚羇切 支 ガイ、ゲ。五佳切 佳 齗――は、齒の露はる丶貌にいふ語。

【⿰齒宜】ガイ、ゲ。牛懈切 卦 齘――は、切齒、はぎしり。

【⿰齒差】前條に同じ。○〔王延壽〕「齒――」。

【齰】サク、シヤク。側革切 陌 サ、ゼ。助駕切 禡 かむ、（齧）。○〔漢〕「上使レ――レ癰」。

【齺】シウ、シユ。側鳩切 尤 ❶くひちがふ、（齱）。❷齒の聚まれる貌にいふ字。❸齒偏る、かたよる。❹齪に同じ、せまし、せまる。○〔漢〕「拙――好ニ苛-禮ニ」。

【齱】ソウ、ス。仕垢切 有 ――齱は、齒正しからざるを。

【⿰齒取】シュク、ソク。仕六切 屋 齒叢り生ふ。

【[illegible]】コツ、コチ。古忽切 月 かむ、（齧）。

【⿰齒隹】齪に同じ。

九畫

【⿱咸齒】カン、ケン。工咸切 咸 ❶かむ、（齧）。❷口に入れ持ちて齧まず。

【⿱咸齒】ガン、ゲン。魚咸切 咸 齒の高き貌にいふ字。

【⿱合齒】カフ、ケフ。苦洽切 洽 ❶齧む貌にいふ字。❷齧む聲にいふ字。❸齒の曲がり生ふる貌にいふ字。

【齲】ク、コ。區禹切 麌 齒腐る、齒齲ばむ、齒啓く、齒朽ち缺く、齒の中くぼむ、くさる、ひらく、かく、むしばむ、又、其の齒、かけば、くされば、むしば。○〔史〕「齊中大夫病ニ――齒ニ」。

【齃】カツ、ガチ。何葛切 曷
齧—は、物を齧む聲にいふ語。

【⿰齒各】カ、ケ。丘駕切 禡
——[illegible]は、齒の出づる貌にいふ語。

【⿱斤齒】ギン、ゴン。宜謹切 吻
齒齊ふ、そろふ。

【齳】グン、ゴン。魚吻切 吻
齒脫す、なし、ぬく。○[韓詩外傳]「——然而齒墜」。

【齫】コン。苦本切 阮
齒の見はるゝ貌にいふ字、一說に、齧む。

【⿱剌齒】ラツ、ラチ。郎達切 曷
——[illegible]は、物を嚙む聲にいふ語。

【齴】ゲン。魚蹇切 阮
齒露はる、齒を露はす、あらはる、わらふ。○[王延壽]「齒[illegible]-々以——」。

【⿰齒彥】ガン、ゲン。語限切 潸
高峻の貌にいふ字。○[張衡]「棧——巉嶮」。

【齵】ゴウ、グ。五婁切 尤
齒相値る、物相値る、くひちがふ、もさる。○[周]「察二其菑蚤之不レ——」。

【⿰齒禺】グ、ゴ。遇俱切 虞
重なり生ずる齒、やへば、一說に、齒偏る、かたよる。

【⿰齒則】シツ、シチ。士乙切 質
物を歠む聲にいふ字、かむ。

【齶】ガク。五各切 藥
咢に同じ、はぐき。○[柳宗元]「嫺-頷齗——」。

【齷】アク、オク。於角切 覺
覺の韻の齪の㊁の條を見よ。

【⿰齒臿】サフ、セフ。測洽切 洽
——[illegible]は、齒の動く貌にいふ語。

【⿰齒柴】
齜に同じ。

【⿰齒胥】ショ、ソ。寫與切 魚
齒酸し、すし。

【⿰齒查】
俗の齟の字。

【⿰齒咸】
[illegible]に同じ。

十畫

【齸】エキ、ヤク。伊昔切 陌　イツ、イチ。夷質切 質　エイ、アイ。壹計切 霽
㊀かみかへす、(齝)。○[爾]「麋-鹿曰レ——」。㊁のど、(咽)。○[爾註]「江-東名レ咽爲レ——」。

【齹】サ、ザ。昨何切 歌　シ。楚宜切 支　シ、ジ。仕知切 支
㊀齒齊はず、くひちがふ。㊁齒本、はぐき。

【⿰齒差】
前條に同じ。

【⿰齒兼】ガン、ゲン。五銜切 咸　ゲン。牛廉切 鹽　魚窆切 豔
齒齊はず、くひちがふ。

【⿰齒悤】シ。叉緇切 支
にごかむ、(齝)。

【⿸屑齒】セツ、セチ。千結切 屑
㊀齒差ふ、くひちがふ。㊁骨を治む。㊂おくば、(奥-齒)。

【⿰齒豈】ガイ。五來切 灰
髓牙、おくば。

【⿰齒芻】シウ、ス。側鳩切 尤
㊀齒擠く、くじく。㊁かむ、(齧)。㊂馬の口中の橛、なかぐつわ。㊃牙無きを、きばなし。

【齪】サク、ゾク。士角切 覺
㊀上下の齒相近づく、上下の齒相迸ふ、ちかづく、くひあはず、轉じて物の上下相迎ふるにいふ字、むきあふ。○[荀]「——然上下相信」。㊁かむ、(齧)。○[管]「車-轂——」。

【⿰齒尃】ハク、バク。補莫切 藥
堅き物を嚥む、物を嚙む聲にいふ字。

【⿰齒眞】テン。都年切 先
左右の牙齒、きば、いときりば。○[儀]「左——右——」。

【⿰齒倉】シヤウ、サウ。千羊切 陽
㊀齒旁の小齒。㊁齧む聲にいふ字。

【⿰齒害】カイ、ゲ。渠介切 卦
睡中切齒の聲にいふ字、はぎしり、くひしばる。

【⿰齒屑】
[illegible]に同じ。

十一畫

【⿰齒匿】チヨク、ニク。昵力切 職
齒病、はいたみ。

【齇】サ、セ。則加切 麻　ショ、ゾ。狀所切 語
齒正しからず、くひちがふ。

【⿰齒將】シヤウ、サウ。千羊切 陽
小さき齒。

【⿰齒產】サン、セン。初產切 潸
小兒の齒。

【⿰齒責】サク、ジヤク。士革切 陌
齒相値ふ、又、齧む。

【⿰齒堇】キン、コン。口謹切 吻
——齗は、齒の貌にいふ語。

十二畫

【⿰齒單】グン、ゴン。魚吻切 吻
齒の無き貌にいふ字。

【⿱猌齒】ギン。宜引切 軫
笑ふ、一說に、齒齊ふ。

【⿱猌齒】ギン、ゴン。魚巾切 眞
笑ひて齒を露はす、わらふ。

【⿱敖齒】ギン、ゴン。魚斤切 文　齒の出づる貌にいふ字。

【⿰齒堯】ガウ、ゲウ。五巧切 巧　かむ、(齧)。

【⿰齒最】サイ、セ。楚快切 卦　齒を剔ぐ、さぐ。

【⿰齒幾】キ、ゲ。渠希切 微　齒危し。

【⿰齒閒】カン。居安切 寒　かむ貌にいふ字。○[易林]「――嚙々」。

十三畫

【⿰齒楚】ショ、ソ。創擧切 語　ソ、倉故切 遇　ス。　齒醋に傷む、いたむ。○[曾茶山]「瓠-犀微―遠-山顰」。

【⿰齒葛】カツ、ケチ。居轄切 黠　齒の聲にいふ字、はのおと。

【⿱豤齒】コン。枯昆切 元　㊀いむ、(齧)。㊁へらす、(減)。

【⿱豤齒】コン。枯本切 阮　家物を齧む、かむ。

【⿰齒僉】サン、セン。側咸切 咸　――齺は、齒牙なき狀にいふ語。○[王延壽]「口嗛-哨以――齺」。

【⿰齒罝】ショ、ソ。側魚切 魚　齒の齊はざる貌にいふ字。

【⿰齒禁】キン、ゴン。巨禁切 沁　㊀口を閉づ、くちつぐむ。㊁內に曲がる齒、まがりば、(鉤-齒)。

【⿰齒義】ギ。語綺切 紙　齧む。

十四畫

【⿰齒齊】セイ、ザイ。才詣切 霽　齧む。

【⿰齒截】サツ、サチ。初八切 黠　㊀齒利し。㊁すなまじる、(磣)。

十五畫

【⿰齒巤】ラフ、ロフ。盧盍切 合　齧む聲にいふ字、かむおと。

十六畫

【⿰齒歷】レキ、リヤク。狼狄切 錫　齒病。

十七畫

【⿱聯齒】レン。力延切 先　齒の見はるゝ貌にいふ字。

【⿰齒薄】嚼に同じ。

【⿰齒毚】サン、ゼン。鋤咸切 咸　―齴は、齒高し。

二十畫

【齴】ゲン。魚欠切 豔　㊀好き貌にいふ字。㊁齒齊はず、くひちがふ。

【齴】ガン、ゲン。魚銜切 咸　齒高し。

【齴】カン、ゲン。五陷切 陷　⿰齒毚の字を見よ。

【齾】カツ、ゲチ。五轄切 黠　カツ、ガチ。牙葛切 曷　㊀缺齒、かけば。㊁器缺く、かく。㊂獸の食餘、くひあまり。

龍部

【龍】リョウ、リユ。盧容切 冬　〔說文〕从肉飛之形童省聲　㊀想像上の動物、雲を呼びて雨を起こし、鱗蟲の長と稱せらるゝもの、たつ。○[易]「時乘ニ六――御レ天」。㊁たけ八尺已上の馬。○[禮]「駕ニ蒼―一」。㊂天子の象にいひ、又、通達の義にもいふ字。○[易]「九-五飛―在レ天一」。㊃俊傑の稱。○[三國]「諸-葛-孔-明臥-―也」。㊄寵に同じ、いつくしみ、いつくしむ。○[詩]「何ニ天之―一」。

(潛龍) ひそみかくれて見はれざるたつ、又、世上にあらはれざる大人君子の義に喩へ用ふるとあり。○[易]「初-九――勿レ用」。

(見龍) 已に形をあらはしたるたつ。○[易]「――在レ田」。

(蛟龍) 鱗あるたつ、みづち。○[史]「太-公見ニ――於上一」。

(應龍) つばさあるたつ、ひりよう。○[埤雅]「有レ翼曰ニ――一」。

(虬龍) つのあるたつ。○[埤雅]「有レ角曰ニ――一」。

(螭龍) つのなきたつ、あまりよう、角龍。○[埤雅]「無レ角曰ニ――一」。「連-組-

(蟠龍) ひそみゐて天に升らざるたつ。○[莊]「――

(游龍) (い)水に游泳するたつ。○[後漢]「馬如ニ――一」。(ろ)草の名、水澤の中に生ずるものにて馬蓼とも水紅草ともいふ。○[詩]「隰有ニ――一」。

(燭龍) 神の名、一に燭陰ともいふ。○[莊]「――在ニ雁-門北一、蔽ニ於委-羽之山一、不レ見レ日」。

(黃龍) 黃色をおびたるたつ ○[史]「黃-帝得ニ土-德一――見一」。

(伏龍) 伏臥したるたつ、又、かくれたる大人物などの義に喩へて用ふる語。○[蜀誌]「此間自有ニ――鳳-雛一」。

(錢龍) (い)一種の龍蛇。○[南]「梁-元-帝幸ニ玄-洲-苑一、見ニ大-黑-蛇盤ニ屈於前一、小蛇遶レ之、皆黑色、宮人曰、此非レ怪也、恐是――、乃取ニ錢數千萬ニ鎭レ之」。(ろ)錢をつなぎ結びて作りたるたつ。○[拾遺]「長-安坡上-巳結レ―爲レ―、作ニ錢-帛-會一」。

(翠龍) 穆天子の乘りたりといふ馬のと、又、すぐれたるあを馬にもいふ。○[揚雄]「乘ニ――一」。

(袞龍) 帝王の服に畫きたるたつのあや、又、轉じて帝王のみからだをはゞかり稱するに用ふるとあり。○[王涯]「遙指ニ南-山ニ對ニ――一」。

(天龍) 天上にあるたつ。○[別行]「龍有ニ四-種一、一――、守ニ天-宮一、持-住不レ落者」。

(升龍) のぼりりよう。○詩、傳「上-公但有ニ降-龍一、而無ニ――一」。

(降龍) くだりりよう。○[儀疏]「天-子升-龍、諸-侯――」。「戰ニ。

(水龍) 戰船のと。○[隋]「若命ニ――一、終屆ニ

(竹龍) 竹を束ねていかだとなしたるものにて周の世宗水戰に用ひたりといふ。○[五]「周-世-宗伐ニ南-唐一攻ニ壽-州一、東互竹凡數十萬竿一、上施ニ板-屋一、號曰ニ――一、載ニ甲-士ニ攻レ之」。

【龍】ロウ、ル。力董切 董　壟に同じ。○[孟]「無レ私ニ―-斷一」。

【龍】ロウ、ル。盧貢切 送

竹樹深き處、ふげみ。○[李華]「元猿啼二深——一」。

【龍】バウ、モウ。莫江切 江 黒白の雜色、まだら。○[周]「上公用レ——」。

三畫

【龓】リヨウ、リユ。盧容切 冬 かしらづつみ。

【龏】キヨウ、紀庸切 冬 ク。居用切 宋 ㊀つゝしむ（慤）。㊁のぼる（升）。

【龔】アク、オク。於角切 覺 ともしびのおほひ（燭-蔽）。

【龐】ハウ、ボウ。皮江切 江 ㊀高き屋。○[范純仁]「誰者食レ肉居二高——一」。㊁高大なり、おほいなり。○[柳宗元]「形之——也類レ有レ德」。㊂亂雜の貌にいふ字、みだる。○[周]「不レ和政——」。㊃人の姓。

【龎】ロウ、ル。盧東切 東 リヨウ、リユ。力鍾切 冬 ホウ、ブ。蒲蒙切 東 充實せるにいふ字、みつ、あつし。○[詩]「四-牡——」。

四畫

【䶬】籠に同じ。

【龑】エン。於檢切 琰 高く明かなる貌にいふ字、ほがらか。

【𪚱】ロウ、ル。盧紅切 東 禾の病。

【曨】ロウ。盧東切 東 赤き色、あか。

六畫

【儱】ロウ、ル。盧紅切 東 ㊀兼有す、たもつ。○[漢]「——二貨-物一」。㊁馬鞍、馬絡、ふたぐら、おもがひ。

【䮾】ロウ、ル。力孔切 董 イウ、ウ。云九切 有 のる（乘）、ひく（牽）。

【龍】ケン。古賢切 先 テフ。丁篋切 葉 ゲツ、ゲチ。倪結切 屑 龍の髮ひれ。

【龍】テン。隳緣切 先 龍の背の堅き骨。

【龔】キヨウ、ク。俱容切 冬 ㊀そなふ（給）、たてまつる（奉）。㊁恭に同じ、つゝしむ。○[梁元帝]「——二行天-罰一」。

【瓏】リヨウ、リユ。力鍾切 冬 旱を禱るに用ふる玉龍。

【龕】カン、コン。口含切 覃 ㊀龍の貌にいふ字。㊁うく（受）、もる（盛）。○[揚雄]「揚-越曰レ—、受盛也」。㊂戡に同じ、ころ、さだむ。○[揚雄]「劉——二南-陽一」。㊃物の聲にいふ字。○[揚雄]「—、嘁、㖮、嗁、聲一「理一」。㊄かつ（勝）。○[謝靈運]「—レ暴貧二神-理一」。㊅浮圖の塔、塔下の室。○[杜甫]「禪-—只晏-如」。

（山龕）山中の佛寺。○[沈烱]「——擬二夜-禪一」。

（佛龕）てら、佛寺。○[鷄林志]「龜山有二——一」。

（石龕）石塔のこと。○[戴叔倫]「——蒼-蘚積」。

七畫

【龍】リヨウ、リユ。力鍾切 冬 かんなぎ（巫）。

八畫

【䨪】ロウ。盧東切 東 ㊀雷の聲にいふ字。㊁靇に同じ。

十六畫

【龖】タフ、ドフ。徒合切 サフ、ソフ。悉合切 合 飛龍、二龍、又、おそる（震-怖）。

十七畫

【靇】レイ、リヤウ。郎丁切 青 ㊀たつ（龍）。㊁かみ（神）。㊂よし（善）。

龜部

【龜】キ。居追切 支 ㊀四靈の一にして甲蟲の長、かめ。○[禮]「麟鳳—龍謂二之四-靈一」。㊁かめの甲。○[周]「攻レ—用二春-時一」。㊂かめの甲を灼きてうらなふこと。○[左思]「謀レ—謀レ筮」。㊃有位有官者の佩物。○[謝靈運]「解レ—在二景-平一」。㊄たから（貨）、古昔はかめの甲をたからとして通用したりき。○[漢]「入用莫レ如レ—」。㊅背梁、せぼね。○[左]「射レ麋麗レ—」。㊆すゝむ、ひさし。○[玉篇]「久也、進也外骨內肉、天-性無レ雄」。

（蓍龜）易筮のめどぎと龜卜に用ふるかめと。○[易]「莫レ大二乎——一」。

（靈龜）五色を備へたりといふふしぎなるかめ。○[爾]「二曰二——一」。

（神龜）神妙なるかめ。○[爾]「一曰二——一」。

（雙龜）蛇の頭にして水棲のもの。○[南都賦]「其水蟲則有二——鳴-蛇一」。

（攝龜）陵龜ともいふ、かめの小さきものといふ。○[爾]「三曰二——一」。

（文龜）甲に文彩あるかめ。○[爾]「五日二——一」。

（山龜）山上に在りて草を食らふと稱するかめ。○[爾]「七日二——一」。

（筮龜）卜占に用ふるかめ、一に占龜ともいふ。○[爾]「六日二——一」。

（旋龜）一種のかめ。○[山海經]「鳥首虺尾名曰二——一」。

（環龜）兵士などの四面に屯守すること。○[司馬法]「兼-舍——」。

（蓴龜）蓴菜といふ水草の異名。○[續酉陽雜俎]「蓴-根羹之絕-美、江-東謂二之——一」。

（猊龜）一種のかめにして能く犬を噬むものといふ。○[南越志]「初-寧縣多二——一、頭似レ蠵、不下堪二常-龜同一と。

【龜】キウ、ク。居求切 尤 —玆は、西域の國、又、漢の縣の名。

【龜】キン、グン。俱倫切 眞 皸瘃、ひび、ひびきる。○[莊]「宋人有下善爲二不——手之藥一者上」。

【龜】龜の本字。

三畫

【𪚦】キ。去爲切 支

女のあざな。

四畫

【龜毛】セウ、ゼウ。茲消切 蕭
毛の飾り。

【龜勾】コウ、ク。居候切 尤
龜の類。

【龜冉】ゼン、子ン。汝閻切 鹽
龜の甲のへり。

【龜冉】ダン、ナン。那含切 覃
距龜。

【龜朮】ショク、ソク。千玉切 沃
――蜘は、海中の大蝦。

【龜焦】セウ。即消切 蕭
トふに龜を灼くこと。

【火龜】前條に同じ。

五畫

【龜夸】ハ。補火切 哿
龜の屬。

【龜去】キョ、コ。丘據切 御

【龝】古文の秋の字。

【秋龜】古文の秋の字。
ひき（蟾）。

八畫

【龜敫】カウ、ゲウ。何孝切 效
龜の頭を縮むろにいふ字、ちゞむ。

十一畫

【龜雈】ケイ、ケ。戸圭切 齊
大いなる龜、おほがめ。

十二畫

【龜敝】鼈に同じ。

龠部

【龠】ヤク。以灼切 藥
㊀三孔ある竹管の樂器、ふえ、衆聲に和するに用ふ。○〔詩〕「左手執レ―」。
㊁量の名、一合の十分の一、古代は千二百の黍粒の量なりといふ、又、其の量器、ます。○〔漢〕「合レ―爲レ合」。

四畫

【龠亢】ヤク。弋灼切 藥

【龡】吹の本字、ふく、ふえふく。○〔周〕「掌レ教二國子舞レ羽―レ龠」。
あふぐ（仰）。

【龠斤】ギン、語巾切 眞　ゴン　魚斤切 文
大篪、おほぶえ。

【龠斤】チン、他問切 問　トン。

五畫

【龢】古文の和の字。○〔左〕「如二樂之―一」。

八畫

【龣】カク、古岳切 覺　コク。　ロク。盧谷切 屋
五音の一、角に同じ。○〔魏〕「宮、商、―、徵、羽」。

【龠炊】スヰ。呂垂切 支　尺僞切 寘
吹に同じ。

【龠昌】古文の唱の字。

九畫

【龠虒】ヒ。匹寐切 寘

十畫

【龠音】アン、エン。於限切 潸
法敗る、やぶる。
諳に同じ、こゑひくし。

【龤】諧に同じ。

【龥】ユ、羊戍切 遇　ヤク。弋灼切 藥
　ヨ。
㊀よぶ、よばふ（呼）。○〔書〕「無辜―レ天」。
㊁やはらぐ（和）。○〔書〕「率二―衆庶一」。

【龠兼】レン、ロン。力鹽切 鹽
今の杖鼓。

【龠虒】篪に同じ。○〔楚辭〕「鳴レ―兮吹レ竽」。

十六畫

【龠龜】セウ。思條切 蕭
今簫に作る。

二十畫

【龠焦】セウ。先雕切 蕭
簫に同じ。

漢和大字典 終

國訓

二畫

厂 雁の字と音同じきより雁の字に借り用ふる字、かり、がん。

丁 ちやう。(い)偶數、ちやうのかず。(ろ)まち、町。(は)書物の紙を數ふるに用ふる字。

三畫

丸 まる。(い)全きこと、全體。(ろ)まどかなること、圓形。(は)城の郭內の稱。(に)人物、船又は器具などの名に添へ用ふる字。

四畫

匂 ㊀にほふ。(い)香氣あり、かをる。(ろ)うるはしく見ゆ、つやめく。㊁音の字に借り用ふる字。

尤 もッとも。(い)道理至極。(ろ)但し、はたまた。

五畫

平 ひたすらに、なにとぞ、ひらに。

乎 奇數、はん。

叶 成る、能くす、かなふ。

丼 どんぶり。(い)陶製の一種の鉢。(ろ)かみいれをいるゝもの

仕 爲すの敬語に用ふる字、つかまつる。

申 請ふ、爲す、まうす。

六畫

扨 上の意をうけて下にうつるときに用ふる字、漢文にては然而の意、さうして、さて。

存 思ふ、知る、ぞんず。

七畫

伽 とぎ。(い)貴人などに侍りて其の徒然を慰むるを、又、病人などにつき旁ひて其の病氣を護るを、倍伴、看病。(ろ)倍伴の人、看病の人。

床 とこ。(い)ねや、ねんじよ、ふしど。(ろ)たゝみのしん。(は)とこのまの略。(に)車の屋。

忍 ㊀しのぶ。(い)思ふ、慕ふ。(ろ)人目に觸れざるやうになす、ひそかになす、かくす、かくる、ひそむ。(は)草の名、しのぶぐさ。㊁しのび。(い)しのぶこと、ひそか。(ろ)敵陣又は人家の狀を探りにしのび入る者。

沖 水の陸より遠く隔たりたる處、おき。

抔 等の字の如くに、それのみとは限らぬ意を示す字、など。

呉 與ふ、くる、くれる。

私 自家の謙稱、わたし、わたくし。

辿 たどる。(い)探りもとむ。(ろ)知らぬ道を迷ひて尋ねありく。(は)心をこめて其の道を求め考ふ。

扱 あつかふ。(い)せわをなす、とりさばく。(ろ)つかふ、もちふ。(は)當惑す。

杜 樹木繁茂して神祠ある處、もり。

作 さく。
(い)體裁、裝飾、こしらへ。
(ろ)耕作のみのり。

折 をり。
(い)へぎをり曲げて造りたる匣、へぎ。
(ろ)そのとき、ばあひ、機會。

八畫

坪 つぼ。
(い)土地の廣さを量るに用ふる字、卽ち六尺四方の稱、又、他の平方の稱にも用ひ、錦などには一尺四方の稱。
(ろ)建造物などの一區域を爲せる處。

咄 談話、ものがたり、はなし。

芝 一種の蔓草、蔓の地につける處には細き根を生じて細き葉を生ず、芝草又は類草などの名あり、しば。

侘 ㊀わぶ。
(い)幽居を樂しむ、閑靜にすむ。
(ろ)つらくおもふ、くるしくおもふ。
㊁なげかはし、わぶべくあり、幽寂なり、わびし。

社 神明を祀り置く舍の汎稱、やしろ。

戻 ㊀もとの處へ還る、もどる。
㊁もどす。
(い)もとの處へ還す。
(ろ)嘔吐を催す、はく。

門 大砲を數ふるに用ふる字、もん。

帖 紙をある定まりたる數に分けたる稱、でふ。

屆 ㊀申し上ぐ、書面にて申し上ぐ、とゞく。
㊁とゞくるを、とゞくる書面、とゞけ。

返 ㊀かへし。
(い)返事、返歌、かへしぶみ、かへしうた。
(ろ)漢文の和讀に顚倒して讀む字、かへし字。
㊁かへり。
(い)返事、返歌、かへりぶみ、かへりうた。
(ろ)かへりみち、もどりみち、歸途、
(は)漢文のかへし字を示す點、かへりてん。

卸 商品を請け賣りする人に問屋よりわたして賣らすを、おろしうり、おろし。

宛 あて。
(い)それとさすを。
(ろ)それ〴〵に割りつくるを。
㊁箇々、づつ。

和 いろ〳〵の物事に冠らせて日本の義に用ふる字、わ。

九畫

拵 ㊀作る、調製す、かまふ、こしらふ。
㊁かまへ、つくり、こしらへ。

砌 をり、ころ、時などの義に用ふる字、みぎり。

若 弱の字と音相同じきより老弱の弱の字に借り用ふる字、わかし。

柄 がら。
(い)人倫のつゞきあひ。
(ろ)みぶん、ぶんざい、しな、くらゐ。
(は)相伴へる狀態を形容するに用ふる字。

挊 生業を勵み營む、かせぐ。

十畫

俵 藁にて作れる苞、たはら。

倩 熟の字の義に同じ、つら〳〵。

〓 海中に產する一種の動物、たこ、章魚。

併 さりながら、しかし。

倥 心に油斷ありてそんず、ぬかる。

差 ㊀さす。
(い)液體を注ぎ入る。
(ろ)盃を獻じ又は傘を翳すなどにいふ字。
(は)潮の滿ち來たるにいふ字。
(に)指し示す、其れと定む。
(ほ)尺度にて物を測る。
㊁さし。
(い)ものさし、尺度。
(ろ)液體を他の器に注ぐに用ふる器。

捌 さばく。
(い)理非をときわく。
(ろ)商品を賣り拂ふ。

能 謠曲にあはせて演ずる舞樂の名、のう、能藝。

蚫 一種の介蟲、あはび、石決明。

徒 いたづら。
(い)小兒の惡戲。
(ろ)男女の私通。

捗 はかゆく、はかどる。

株 かぶ
(い)官許又は規約によりて特に其の職業を營み得るを。
(ろ)會社等に出資したる者の權利、又、其の權利を證明せる手形。

胴 どう。
(い)動物の身幹(四肢と首とを除きて)の稱、又、足に對して腰より上部の稱。
(ろ)鎧又は具足にて腹部を被ふ部分。
(は)つゞみの中央。

栬 霜にかゝりて葉の紅になりたる木、もみぢ。

荒 ㊀はげし、たけし、あらし。㊁はげしくなる、たけくなる、ある。

紋 家々の定めの徽章、もん。

十二畫

偖 扠に同じ、さて。

淋 しづかにてこゝろぼそし、いみじくしづかなり、さびし。

掟 政令規定法律など、おきて。

梶 船の進む方向を定めとゝのふるために船尾につくる具、かぢ。

蚟 一種の蟲、たまむし、吉丁蟲。

尉 老翁の稱、じよう。

雫 水のしたゝり、しづく。

掛 かゝり。
(い)勤務のうけもち。
(ろ)結構、かまへ、つくりかた。
(は)攻むるを。
(に)費用、つひえ。
(ほ)おこり、はじまり。

陸 物の面形位地などの正しきを、ろく。

崎 陸地の海中に突き出でたる處、さき。

笧 水の流れを防ぐために設けたる竹柵、しがらみ。

据 すう。
(い)置く、設く。
(ろ)灸點す。

悴 或は俗字の倅の字を用ふるをあり、他人に對して己が子の謙稱、又はわかき人をいやしめて呼ぶにいふ、せがれ。

筊 竹にて作り鰻鰌などを捕らふる具、ど。

這 手をつきて行く、はらばふ、はふ。

娵 息子の妻又は女子の嫁したる當時の者の稱、よめ。

寄 よる。
(い)一處にあつまる、たゝまる。
(ろ)途すがら人を訪ふ。

組 ㊀くむ。
(い)伴伍す、徒黨す。
(ろ)相搏す、とりくむ。
㊁伴伍、徒與、くみ。

健 したゝか。
(い)はなはだしく、ひどく、
(ろ)あまた、おほく。

十二畫

揃 不同なし、整備す、ならぶ、そろふ。

茸 木のくされ又は土より生ずる一種の植物、きのこ、たけ。

晴 ㊀解け開く、はる(思ひなど)。㊁散らし消す、はらす。㊂おもてだつを、おほやけ、はれ。

犇 推しあひて騒ぎ立つ、ひしめく。

揉 不和、混雑、いさかひ、ごた〳〵、もめ。

貰 他より贈りものをうく、請ひうけて吾がものとす、もらふ。

渡 ㊀生計、なりはひ、わたらひ、又、生計を營む、わたらふ。
㊁わたる。
(い)遍くいたる、ひろく通ず。
(ろ)經歷す、過ぐ。
(は)續き移る、通り行く。
(に)授かる。
㊂わたす。
(い)送り移す、續く。
(ろ)交付す、授く。
(は)あまねく及ぼす。
㊃外國よりの到來、わたり。

筈 然るべくあるを、はず。

嵐 暴風雨、あらし。

筒 つゝ。(い)鐵砲。(ろ)井戸側。

番 ㊀つがふ。(い)二つのもの組み合ふ。(ろ)牝牡つるむ。(は)つがはしむ、組み合はす。(に)弦に當つ。(ほ)ことばを固む。㊁つがひ。(い)くみあひたるもの、くみあひ。(ろ)牝牡、めすをす。

給 動作の詞に敬語として添へ用ふる字、たまふ。

貼 包みたる藥を數ふるに用ふる字、てふ。

割 わり。(い)わりあひ、わりまへ。(ろ)全き數の十分の一。

第十三畫

椹 一種の木、葉はひのきに似て木は槇に似て、葉のうら白し、さはら。

椿 一種の木、葉は茶に似て大きく硬くしてさきとがり光澤うるはし、花は秋冬にもあれど春に最も多くして甚だ鮮麗なり、實はしぼりて油をとるべし、其の類極めて多し、つばき。

蛸 [illegible]に同じ。

嵩 ㊀高さ、廣がり、多さ、かさ。㊁かさ多くなる、かさばる、かさむ。

極 物事の決定整頓、きまり、おちつき、とゝのひ。

楠 一種の木、葉はいびつにてさきの處とがりて枝梢に群がり生ず、夏の頃小き花を開き小き實を結ぶ、其の高さは一丈餘なるものあり、くすのき、樟樹。

遉 流石又は有繫、ともかく、本分を失はざるを褒むる意、又、本分を失ふを欲せざる意などにもいふ、然すがに、さはいふものの、さすがに。

殿 ㊀高貴の人の尊稱、との。㊁他人の姓名の下に添へて敬ひ呼ぶに用ふる字、どの。

詫 謝罪、わび、又、罪を謝す、わぶ。

溜 ㊀集まる、たまる、又、たまるを、たまる場所、たまり。㊁集む、たむ、又、たむるを、たむる場所、ため。

砲 大ばう、おほづつ。

鉢 はち。(い)皿より深く瓶より平き器。(ろ)兜の頭上を被ふ部分。(は)頭蓋骨、あたまのはち。

誂 賴み造るを、注文するを、あつらへ。

預 ㊀物を引き受けて守る、自身のもとに借りて置く、あづかる。㊁物を委托す、假りに人手に渡す、あづく。㊂あづかるを、あづかりたるをの謂、あづかり。

第十四畫

漢 いろ〳〵の物事の上に冠らせて支那の義に用ふる字。

槇 (い)一種の木、いぬまきの畧稱。(ろ)檜、杉などの總稱。まき。

蛟 海中に産する一種の介蟲、どぶ貝に似てどぶ貝より形大いなり、玉珧ともいふ、たひらぎ。

蜷 湖川溝渠に生ずる一種の介蟲、色黑くして形は筆の頭の如し、又、海中に生ずるものもあり、みなにな。

鮠 淡水中に産する一種の小魚、はえ、鰷魚。

態 ことさらにの意にも、いさゝかながらの意にもいふ字、わざと。

認 調ふ、調へ食らふ、したゝむ。

第十五畫

嘸 他を思ひやる意を表はす字、さだめし、さぞかし、さぞ。

樛 一種の木、けやきの類にて材のはだに縱横の木理あるもの、つき。

鮍 海中に産する一種の魚、身圓く頭ひらたくして大きく、口廣く下唇は上唇よりも長くして、形鱵に似たり、こち。

暮 ㊀くらす。(い)年月をすごす、日を送る。(ろ)活計をいとなむ。㊁なりはひ、たつき、くらし、活計。

髱 頭髪を結びためて項後に張り出だしたるもの、つと、たぶ、たぼ。

噇 多人數の一時に高く聲を出だすさまにいふ字、どッと。

樋 水を遠きにやり又は雨滴を承くる具、ひ、とひ。

魳 海中に産する一種の魚、形は機の梭に似て圓く長くして口ばしとがれり、かます、梭魚。

稼 家業に勵む、はたらく、かせぐ。

潟 灣又は湖の稱、かた。

熨 のしあはび、うちあはび、のし。

十六畫

樣 人の姓名の下に添へて敬ひ呼ぶに用ふる字、さま。

澳 沖に同じ。

樒 一種の木、葉のへりに稜ありてとがりたる刺あり、秋冬の交にちひさき花を開く、ひゝらぎ。

膳 ぜん。(い)食物を盛りたる器をのする盤臺、をしきの類。(ろ)椀を數ふるにいふ字。

銹 金屬の酸化、さび。

鋺 金屬製の椀、かなまり。

錧 ふいがうの大いなるもの、たゝら。

鮎 一種の魚、春の初に川と海との間に生じて川流を泝り、秋の末に川と海との間に歸り子を生みて死ぬといふ、あゆ、香魚。

儚 取りとめたることなし、もろし、はかなし。

擋 如何にしても、なにとしても、とても。

縞 布帛などの織文にて縱横に種々の色絲もて線を現はしたるもの、しま。

癪 胸部にさしこみを生じて痙攣を起こす病、しやく。

錠 戸のしまりとする具、じやうまへ、じやう。

澪 湖海川流などの中にて舟路となるべき一條の深き水脈、みを、みよ。

十七畫

積 ㊀運び載す、つむ。㊁數を見計らふ、あらかじめ考ふ、つもる。㊂豫算、心算、つもり。

薄 一種の草、形は葦に似て小く長さ四五尺あり、秋に至りて長莖を生じ白く赤ばみたる花を開く、其の穗のさま尾に似たれば尾花ともいふ、すゝき。

鏈 環をあまた連られあみたるもの、くさり。

鍔 刀心を貫きて刃と柄との間におきて握る手の防ぎとするもの、其の形方圓種々あり、つば。

餅 糯米を蒸して搗き潰したるもの、もち。

鮊 魳に同じ。

鮬 一種の魚、鱸の小きもの、せいご。

鮠 鮀に同じ。

鮩 蝦の一種にて極めてこまかくぬかえびと稱するもの、あみ。

檜 一種の木、葉はかへの葉に似てひらたく、實は杉の實に似てとげなく、材ははだ白くこまやかにして多く柱などに用ふ、ひのき、扁柏。

縮 緯を紡ぎ經をば紡がずして織りたる布、ちゞみ。

戴 謹みてもらひ受く、いたゞく。

十八畫

鎰 錠の開閉に用ふる具、かぎ。

磯 いそ。(い)海涯の巖石ある處。(ろ)冠のひたひぎはのところ。

磖　はたと。(い)物の相撃つ聲にいふ字。(ろ)ふと、にはかになど事のさしあたる狀にいふ字。

鎬　刀の刃のむねにとほり高く起こりたるすぢ、しのぎ。

䱍　淡水中に生ずる一種の魚、鱗ほそくしてねずみ色と赤き色との縦なるすぢありて、長さ六七寸ばかりあり、うぐひ、うごひ、いぐひ。

䱂　海中に産する一種の魚、形さばに似てあぎとあり、尾のさきにわたりて硬き鱗あり、鰺のを、あぢ。

鮹　蛸に同じ。

十九畫

藪　竹木の亂れ生じたるところ、又、特に竹やぶの略、やぶ。

鯡　海中に生ずる一種の魚、形このしろに似て圓く長く、鱗は細かなり、にしん、青魚。

鯛　海中に産する一種の魚、鯽に似たる形して鱗鰭ともに赤し、たひ、赤鬃魚。

瀞　波の靜かなる處、とろ。

襠　衣服又は袴などの幅のたらざる處に添ふるきれ、まち。

襖　ほねの兩面より紙を張りたる障子、ふすま、ふやうじ、ふすま。

二十畫

鯷　海中に産する一種の魚、鰮に似て一二寸ばかりなる小きもの、ひしこいわし、又、畧してひしこともいふ。

鯣　するめ烏賊を割き開きて乾したるもの、するめ、小蛸魚。

鰒　海中に産する一種の魚、蝌蚪に似たる形して、全身鱗なく腹のふくれたるを毬の如し、ふぐ、河豚。

鰍　淡水中に産する一種の魚、形はぜに似て、鱗こまかく頭大きく口廣く、水底沙石の上に在りて浮ばず、多く溪流中に産す、ごり、かじか。

鐚　づくてつなどにて作りたる悪質の錢、びた。

觸　官より布告す、あまねく告ぐ、ふる。

露　少しも、さらに、つゆ。

廿一畫

鐺　刀劍の鞘のしりのかざり、こじり。

鰢　一種の魚、いなの小きもの、つくら、關東にてはすばしりといふ。

鰤　いなだの二三尺ばかりに生育したるものの稱、ぶり。

廿二畫

灘　波濤の險悪なる海洋、あらうみ、おほうみ、なだ。

轡　くつわ。(い)馬の口に含まする金屬製の具、くつばみともいふ。(ろ)紋所の名。

[魚婁]　鮬に同じ。

鰺　䱂に同じ。

鰹　海中に産する一種の魚、いなだに似たる形して口尖りて鱗は頭のめぐりにのみつき、背は青く腹は白く光り肉はあつくして赤し、松魚とも稱す、かつを。

疊　たゝみ。(い)室内の床に敷くもの。(ろ)下駄の表につくるもの。

廿三畫

鱓　ひしこを乾しかわかしたるもの、一に田作ともいふ、ごまめ。

國訓　終

國字

四畫

匁　もんめ。(い)銀目にて一兩の六十分の一。(ろ)秤目にて一貫の千分の一。

五畫

辷　すべる。(い)足なめらかにしてとどまらず。(ろ)なめらかに行く、滯らずに通ず。(は)御位をおりさせ給ふ、遜位。(に)退出す。(ほ)居ながらにじり移る。

叺　藁むしろなどを綴りあはせて作りたる袋、米穀などを入るゝに用ふるもの、かます。

凧　竹の骨に紙を張り糸をつけ風の力にて空中に揚ぐる玩具、いかのぼり、たこ、紙鳶。

六畫

辻　道路の四方に通じたるところ、つじ、十字街。

込　㊀こむ。(い)入れみたす、こもらす、つむ。(ろ)含ます、もたす。(は)こもる、いりみつ。(に)多人數群がる。㊁物の大小のまじりたるを、こみ。

凩　秋の末より冬にかけて疾く吹く風、こがらし。

凪　なぎ。(い)風やむこと。(ろ)波風止みて海のおだやかなること。

七畫

杣　そま。(い)材木を植ゑつけたる山林、そま山。(ろ)そま山より伐採したる材木、そま木。(は)そま木をとることを業とせる者、そまびと。

狆　狗の一種、形ちひさくて猫の如く家の内に畜ふもの、ちん。

八畫

迚　㊀如何になすとも、とても。㊁とて。(い)てにはのトとテとの間に他語を畧せるもの、として、とおもひて、といひてなど。(ろ)といへども、とも。

枡　ます。(い)物の分量をはかるに用ふる器、(升、量)。(ろ)芝居の土間のしきり。

毟　毛髪又は草などをつかみて引き拔く、むしる。

九畫

峠　やまさかの路の登りはてたる處、たうげ、(嶺)。

畑　地を耕して麥豆などを植うる處、はたゝはたけ、あげた、陸田、白田、火田。

柾　木理のすぐにとほりたるを、まさめ、まさ。

栂　一種の木、樹葉とも樅に似たり、常に柱などに用ふ、とが、つが。

俤　おもかげ。(い)かほつき、おもざし、面容。(ろ)すがた、かたち、容貌。

籾　もみ。(い)米の穀皮を去らざるもの。(ろ)米の穀皮、もみがら。

十畫

栃　一に杤に作る、一種の木、かしに似たる葉にてあやあり、夏の頃黄なる花を開きて栗よりも圓き實を結ぶ、其の實を粉となして餅などにつくるべし、さち、(橡)。

畠　畑に同じ。

榊　さかき。(い)一種の木、常綠木にて神を祭るに供するもの、秋の頃小さき白色の花を開き濃き紫色の小さき實を結ぶ、賢木。(ろ)神樂歌の曲の名。

[illegible]　一に[illegible]に作る、一種の蔓草、小さき白色の花を開き青色の實を結ぶ、ところ(薢)。

桛　つむにて取りたる絲をかくる具、かせひ、かせぎ、かせ。

[illegible]　病のたち、志やう。

十一畫

笹　さゝ。(い)一種の竹、たけ低く幹細く葉も細きもの、さゝだけ、さゝ、小竹。(ろ)神樂歌の曲の名。

躮　せがれ。(い)他人に對して己が子の謙稱、賤息。(ろ)わかき人をいやしめて呼ぶ稱。

閊　さゝはりありてとほらず、さしつかへ、つかへ、つかふ、つかへ、抵捂。

梻　一種の木、夏の季つ頃小さくして白き色の花を開き稜角ある實を結ぶ、香氣あるをもて枝葉を佛前墓前に供へ、又、葉を製して抹香とす、志きみ(樒)。

十二畫

梺　山のすそ、ふもと、山足。

颪　山上より吹きおろす風、おろし。

裃　肩ぎぬと半袴と同色のもの、龍紋又は麻などをこもんに染めてしたてたりといふ、かみしも。

[illegible]　布帛の幅、はゞ、の。

鈨　一に鉅に作る、刀劍の鍔もとをかたむる金具、はゞき。

椙　一種の木、葉は針の如き刺あり、眞直に生長する木にて、大いなるは高さ五六丈に達し圍は五六抱なるもあり、材は柱、天井、板屏など極めて多く用ひらる、すぎ(杉)。

[illegible]　月影などの分明なるにいふ字、さやかなり、さやけし。

椛　草木の葉の霜にあひてあかくなりたるものにいふ、もみぢ、紅葉。

[illegible]　はたらきて又は歩みて疲勞せるにいふ字、くたびる、くたびれ。

十三畫

榀　壁の骨とするもの、かべしたぢ、こまひ。

遖　一に天晴とも書す、ほめたゝふるときに使用する字、あっぱれ。

働　㈠はたらく。(い)勉めて事を爲す、骨折りて事を行ふ。(ろ)動きて功を奏す、功能を現す。(は)活動す、動作す。㈡はたらかしむ、つかふ、はたらかす。㈢はたらき、てがら、ほねをり、志るし。

魞　魚の名、ゑそ、又、一說に魚を捕らふるために竹木などを編みて之を水中に立てつらぬるもの、ゑりともいふ、後說眞なるに似たり。

鳰　一種の水禽、鴨に似たる形して鴨よりも小さく、水中にくゞり入りて魚を捕らふ、にほ、鸊鷉。

綛　織物染物などにかすりたる如く模樣をあらはしたるもの、かすり、飛白。

楾　水を盛りて他の物に注ぐに用ふる具、柄の中に水を通はす道あり、其の柄の半は內にありて半は外にあるより半挿といふ、はにざふ、又、音便にてはんざふ、(匜)。

十四畫

躵　敵を窺ふ、目を注ぎて狙ふ、ねらふ。

鎹　兩頭のまがり尖りたる釘、木石などをあはせつなぐに用ふるもの、かすがひ、螞蝗絆。

糀　精米を蒸してもやしを加へ之をねかしてかびを生ぜしめ酒などを作る料にするもの、かうぢ(麴)。

聢　志かと。(い)たしかに、(確)。(い)あきらかに、ちがひなく、分明に。

十五畫

鞆　古昔、弓射る時に左の臂につけたる具、とも。

鞐 骨角牙金屬などにて作りたる小さきかぎの如きものにて、書帙足袋などにつけてひきかくるもの、こはぜ、小鉤。

鋲 釘の一種にて頭部は多く圓形をなす、びやう。

諚 貴人のおほせ、多く御の字を添へて用ふ、ごぢやう、(命)。

魸 一種の魚、淡水中に産す、全身鱗なくなめらかにして髯あり、頭口ならびに大きくしてひらたし、なまづ、(鮧)。

縅 ㊀鎧をなどすに用ひたる絲又は革、をどし。㊁鎧の小札を絲又は革にて綴る、をどす。

十六畫

躾 禮儀作法などを教へ習はすと、しつけ、習禮儀容。

錵 刀刃に雲形の如くにあらはるゝあや、にえ。

鮴 一種の魚、淡水中に産す、はぜに似たる形して頭圓く長さ一寸ばかりあり、いさゞ、鯊魚。

鮗 一種の魚、背青く腹白く形あぢに似てひらたし、このしろ、(鰶)。

鴫 一種の鳥、形くひなに似て嘴長し、夏秋の頃田に住むを田しぎといひ林に住むを山しぎといふ、しぎ、(鷸)。

噺 ものがたり、はなし。

十七畫

襅 ちはや。(い)たすきの類。(ろ)巫女の服。

鮱 春淡水に生じ後海水に入る一種の魚、即ち、ぼら(鯔魚)の成長したるもの、おぼぼら。

鯎 一種の魚、淡水中に産す、形あめの魚に似、鱗細かにして鰭の色赤く肉にはり多し、長さ六七寸に達す、うぐひ、(鯎)。

鮲 まて、又、こち、の訓あれども詳ならず。

鴇 一種の鳥、鷺に似たる形して雞冠なく、羽の色は赤ばみて嘴は黒し、とき、又、つきともいふ、桃花鳥、鷺朱。

十八畫

鎹 [illegible]に同じ。

鎺 鈨に同じ。

鯐 初生のぼら(鯔魚)の二三寸ばかりなるもの、すばしり。

鯑 鰊ーーは、鯡のはらゝごを風乾にしたるもの、かずのこ、(鯑)。

鯒 一種の魚、はうばうに似たる形して、口廣くして下唇は上唇よりもさしいで、頭は大きくしてひらたく、身は圓く鰭はながし、こち。

鯏 一種の介蟲、蚌蛤の屬、形はまぐりに似たる形して、殼の面に細かなるすぢあり、あさり。此の字は蜊の訛字なるべし。

鵥 一種の鳥、形は鳩よりもやゝ小さく、毛はまだらにて翅は紫黒色をなせり、かしどり、かけすともいふ。

[illegible] 一種の蟲、朝にうまれ夕に死ぬるといふ極めて命みじかき小さき蟲、ひをむし、(蜏)。

麿 まろ(麻と呂との二字を合はせたるもの)。(い)自己の稱、われ、おのれ。(ろ)他人の稱、そなた、きみ。(は)人の名の下に添へ用ふる字。

十九畫

鯱 一種の海獸、頭は虎の如く、背に刺ありて鯨をもさし殺す、其の大きなるは六七尺もありといふ、しやちほこ、又、畧してしやちともいふ。

鯰 魸に同じ。

鯲 一種の魚、泥水中に産しはだなめらかにして長さ三四寸あり、鰻に似てそれよりも短くして色赤黒し、どぢやう、泥鰌魚。

[illegible] 一種の鳥、きくいたゞき、此の鳥頂に菊花の形したる黄毛を戴けるより此の名あり、戴勝鳥。

二十畫

鰚 一種の海魚、ますの異名なりともいふ、腹赤の二字を用ふることあり、はらか。

鰙 一種の魚、淡水中に産す、形あゆに似て小さし、はえ、又、はや、はい、さもいふ、(鰷)。

鯤 一種の魚、淡水中に産す、形なまづに似てあぎとの下に硬き刺あり、全身なめらかにして色黄ばめり、ぎゞ。

廿一畫

鰯 一種の海魚、このしろに似たる形して、圓く小さく、腹は白く光りありて背は青ぐろし、いわし(鰮)。

鰰 一種の海魚、長さ七八寸にして其の色しろかれの如し、はたはた、雷魚。

廿二畫

鑓 細長き樫の柄のさきに刃物をつけたる武器、やり(槍)。

⿰魚巽 鱈に同じ。

鱈 一種の海魚、北海に産す、口大きく鱗こまやかにして、形すゞきに似たり、たら、大口魚。

鱇 鮟――は、一種の海魚、形琵琶に似て圓くひらたし、あんかう、華臍魚、琵琶魚。

廿三畫

鱚 一種の海魚、頭とがり身圓くして形かますに似たり、きす。

⿰魚惠 一種の海魚、背にあを黒きまだらありて鱗細かく、形いなだに似たり、さば、青花魚(鯖)。

廿四畫

軈 やがて。
(い)すなはち、そのまゝに、たゞちに、とりもなほさず。
(ろ)ほどもなく、まもなく、少時、須臾。

襷 勞作する時に袖を高くくゝりおく紐、たすき。

鱫 ――鰤は、一種の魚、あゆの年をこしたるもの、あいきやう。

⿰魚鄕 鱫の字を見よ。

鱪 一種の海魚、ぶりに似たる形して、頭圓く尾小さく身まろく色あをぐろし、しいら、勒魚。

鱩 鰰に同じ。

廿六畫

⿰魚輩 鱈に同じ。

國字終

篆文

一部

一 丁 七 上
下 丌 丂 丈 不
否 丏 三 丑
丕 亘 且 丘 世
丙 丞

丨部

丨 丩 丫 丯 丰
中 丵

丶部

丶 主 宔 丹 凡

丿部

丿 乀 拂 厂 乂
刈 㕛 么 乇 乃
迺 久 之 乏 乍
乎 乑 𠂢 派 乘
垂 陲 乖 乗 乘

乙部

乙 乚 鳦 九 也
乳 乾

亅部

了 予 争 事

二部

二 亍 于 亙 五 井 亙 極 亞 亟

亠部

交 亥 亨 烹 享 京 亭 亮 亶 亹

人部

人 亼 介 仁 仌 冰 今 仍 代 仒 鬒 氛 令 付 仙 以 伏 伍 企 伋 仲 任 伊 休 伐 仰 佗 何 何 俎

佌 佚 伯 余 佞 佐 佛 作 但 徂 禮 似 佁 你 來 供 侃 侖 佼 侍 侉 依 佩 侈 侑 併 佳 使 佰 俞 俠 俊 俗 係 傳 俜 侯 族 俌 侮 侵 保 侯 便 信 倦 券 傷 倡 俯 頻 俛 值 修 倚 倪 倒 倭 倏 倍 倨 倉 倫 偉 健

偶 傢 侯 傑 偃

假 偷 婾 偏 停 傳

備 傀 傷 僉 傴

傳 傲 僖 僰 僧

僕 價 僑 儉 儆

儀 儇 僻 儐 儒

優 儷 儼

儿部

儿 兀 阮 元 允

兄 充 光 先 兆

克 兌 兒 兇 兔

兜 兢

入部

入 亾 內 全 兩

兩 緉 [illegible]

八部

八 兮 六 公 共

兵 典 豢 兼 冀

冂部

冂 幎 冃 冊 冉

同 再 冒 冓 冕

㒼

冖部

冞 冠 冥 冢 蒙

家 冤

冫部

勹部

勹 勺 勿 包 匈

匋 陶 匏 匐 冢

復 匓

匕部

匕 匕 化 北 旨

眞 匙

匚部

匚 匜 匡 筐 匠

匣 匪 篚 匱 匵

櫝

匸部

匸 匽 區

十部

十 千 升 午 卅

廿 半 華 卓 協

叶 叶 南 博 簙

卜部

卜 卝 占 卣 卦

卦 卤 迺

卩部

卩 卯 卬 却 卭

卯 印 危 卵 卷

捲 巹 卽 卿

厂部

厂 厚 原 源 厥

厲 礪 厴

厶部

厶 去 突 厹 去

厽 壘 參 復

又部

又 叉 权 扠 友 父

及 反 叒 叏 叔

受 叕 取 叟

叡 睿 叢 叢

口部

口 台 叶 句 只

台 咎 右 扣 叩

詁 可 古 史 叫

噭 訆 嚳 嚚 号

司 召 吒 吅 合

詥 名 同 各 吁

向 吉 后 吏 吳

含 昏 吾 吻 吹

龡 启 啟 告 吟

吸 歙 吼 吞 吝

呈 呂 脊 君 呵

咤 呦 呼 嘑

咎 命 和 龢 音

呱 周 咼 咸 哂

哇 咨 咳 鼓 員

單 品 㗊 哉 哲

喆 哭 唐 唇 哽
啗 啖 問 唾 商
唯 啄 啞 瘂 商
喟 噴 喬 喉 啻
喪 啼 嘑 喧 吅 哀
弼 喜 嗣 嗟 嗇
喝 啇 喿 譟 嘖
嘖 鳴 嘆 募 募
嘉 嘗 嗥 嗷
單 獸 嘲 啁 謿
嘯 嘶 噍 嚼 器
嗌 嚱 嚭 嚭 嚇
嚌 嚚 嚏 譁 嚴
嚣

口部

口 回 四 因 回 迴
囟 囧 困 困 固
囿 圓 圃 圂 溷
圉 國 園 圓 圜
圖

土部

土 壬 挺 圭 珪
圯 地 在 坐 坑
均 坡 坴 坳 坤
坙 垓 垚 垔 埌
圻 垣 城 埋 蘁

培 陪 堇 堆 崖
型 基 堅 堂 堀
堀 堵 堪 戡 或 堯
壞 塤 凷 塊
塏 闓 塞 塍 墦 塞
塞 墊 墫 隝
鎛 塹 墁 鏝 槾
隧 硺 墓 墊 [illegible]
墣 增 墮 壁
廦 壂 曝 壖 壓
厭 壓 墨 壑

士部

士 壬 壯 壴 壻

壹 壺 壽

夂部

夂 夅 夆

夊部

夊 复 夋 夏 夔

夕部

夕 夗 外 夙 夤
多 夜 夢 㝱

大部

大 天 夭 夬 夨
仄 昃 側 夫 失
夰 央 夲 尖 夸
夷 侇 跠 痍 使 夾 鋏 夾

帤 帑 帛 帙 帚 帝

帥 帨 帢 師 帷

常 裳 帶 帽 幄

幌 橫 幔 幕

幒 幣 幢 幫 幬

干部

干 平 幵 年 幷

幺部

幺 幻 幼 𢆶 幽 幾

广部

广 序 庖 庚 府 腑

度 席 庭 庶 庵

康 穅 糠 庾 廌

廉 庸 廇 福 霤

廓 廛 廏 廣 廛

廚 廢 癈 廡 橆

廩 龐 廬

廴部

廴 延 廷 延 建 道

廾部

廾 拱 弁 弄 弇 畀 羃

弋部

忠忡忭忤忼
慷念忸忽曶
桊怒悑怖怛
恴思怠急性
怨怯忽怱怳
恕恣恥恢愸
恙恩恪恭恤卹
恚嫕恆息鄎
悟悔𣫭悝悄
愀悠悉恐悍
悅悚惟惄㥄
悶懣惛殙惠
患悴頼惕惢

情悻婞惢悲
惡甚悽想惰婧
愜婡慊愛
愚惲愈瘉惹愍
潛意惱慈慇
愷凱愼憂慮慘
憯慢嫚慧慕
慶愬愒憑凭
溯憝憐憙慨
嘅慳掔憔顦㥁
痛惷憲憶意
懋懇憸譣應
懕懥懸縣懷褱

攸 敞 敍 捻 尚
敝 擨 散 徹 敦 敬
敷 叀 數 敵 夐
敵 數 斁 蘩 斆 學
斆 變

文部

文 斐 斑 彪 瞵
斕

斗部

斗 斝 斞

斤部

斤 斥 斧 所 斯
新 斮 劃 斵 斷

方部

方 㫃 於 施 旂
旃 旝 旆 旅 旁 族
旋 旌 旒 旗 旞
旛 旟

无部

无 旣 先 簪

日部

日 旦 早 旬 旭
旱 易 昔 腊 昆 昏
昉 旺 昌 明 昭
侶 昱 易 星 是
昴 昦 春 晃 曠

權 集 樊 樂

欠部

欠 次 欣 欲 呷

欶 敕 欲 欸 唉

款 欽 歃 歆 歌

哥 謌 歈 歐 歎

噴 歎 嘆 歟 歠

咉 歡 懽

止部

止 㞢 路 踴 正

此 步 武 址 歪

歲 歷 厤 歸

歹部

歺 死 奴 物 殁

殄 殊 殖 殘 戔

殞 殪

殳部

殳 殺 段 殷 殺

殼 殽 崤 毀 殿

毅 豪 毀

毋部

毋 毌 毋 每 毒

比部

比 昆 毚 毚

毛部

毛 毬 毯 毳 氅

氄

氏部

氏 民 氐 氓 眂

气部

氈 气 氣 氛 雰 槩 餼 盬

水部

水 汀 休 溺 裘

求 永 江 汝 汜

池 汙 洿 㤁 汞

汲 沈 沉 沐 流

沿 没 叟 沝 沔

洎 沛 泝 注 沚

洔 決 訣 抉 沖 种

沓 諮 譯 泛 汎

氾 滐 治 況 河

酤 沽 𠬝 泊 泠

波 洇 泓 沱 泝

遡 沮 沸 濤 治

泉 泐 劫 防 泄

詍 呭 泰 太 洗

洒 活 游 津

洫 減 洪 洛 浮

㲋 流 瀹 浣 浩

涕 涇 涉 涅

兗 郝 浪 浙 涎
海 混 添 淮 淵
淑 淺 深 涿 [illegible]
涯 涫 涸 瀚 淨
瀞 淩 涵 涼 颯
清 淫 婬 淳 溫 渤
湖 湄 湧 湍 渭
湜 湶 淼 渺 渴
激 湛 湯 溢 準 准
埻 滕 潑 滌 滂
溓 漫 漾 漘 漂
漚 漱 滸 漏 屚
漁 滫 漩 檠

漑 摡 滿 漢 潭
潮 潒 潨 澗 潛
灊 澄 澆 澀 濇
潘 澮 澹 澱 黰
澡 睘 濃 醲 穠 襛
澤 濤 濟 泲 濬 浚
濮 濱 頻 瀕 濫
爁 瀰 瀰 濿 瀑
瀅 瀛 瀾 漣 淪
鬻 瀼 法 金 灥
游

火部

火 灰 災 烖 灼 焯

炊 炒 燭 炎 炙 烕

炅 熲 苣 炬 炫

旬 眴 烝 烘 烈

颮 烽 焉 焱 無

无 然 焚 焦

熏 煑 煩

犖 惸 照 煌 煥 奐

煏 熯 煖 熙 煙

烟 熊 熏 熬 熱

熟 熾 燈 𤇾 燚

燂 燕 燧 燬

焜 營 爕 爕 燾

燹 燼 爟 烜 爨

爪部

爪 抓 爭 爰 爯

亂 爲 爵

爻部

爻 爻爻 爽 叕

爿部

牀 漿 牆

片部

片 版 牖

牙部

牙

牛部

瓦部

瓦 瓮 甕 瓴 瓷 甄 甈 甍 甌 甑 甗

甘部

甘 甚 甜

生部

生 甡 產 甥 甤 甤 甡

用部

用 甫

田部

田 由 甲 申 甶 甹 甹 男 甾 畝 畀 畀 〈 甽 畎 畏 畐 畕 畜 留 畚 畬 畢 畦 異 畬 番 當 畺 疆 暢 疇 畿 折 疊 戰

疋部

疋 雅 疌 捷 疐 蹟 疏 疑

疒部

疒 疫 頔 痡 瘀 病 疵 疾 痛 痾

疣 瘻 痺 瘴 瘦
瘡 創 瘠 痤 瘳
癒 欶 瘶 瘳 療
癡 蛘 癢 癩 癯

癶部
癸 登 發

白部
白 百 皁 的 皆
替 皚

皮部
皮 皯 皺 播

皿部
皿 盂 盈 盅 盍
盉 盌 盌 盎 益
盒 盗 盛 盟 琖
盞 醆 盡 盤 槃 柈
監 盥 盧 盬 鹽

目部
目 具 盲 直 臬
眉 旻 盾 眊 眄
看 省 渻 相 眠
𥄒 䀠 眷 脩 睆
睦 睢 督 睫 睹
覩 睿 睽 瞋 瞬

箇 管 節 箸
築 篆 篋 箭 篤
篙 竺 篩 篡 篪
篝 篠 籃 匭
篽 魰 簏 簎 猎
簫 箾 簡 簠 籀
簷 籍 籜 籗
籧 籆 鐗

米部

米 絑 料 撩 粒
飧 粟 粵 粢 粲
燦 粽 糉 糊 糝
糟 糜 糞 叁

糴 糲 糴 糵 糴

糸部

糸 系 糾 紂 約
紅 紀 紆 紙 紘
素 索 累 紮 細
紵 紲 紹 終
絲 紋 絕 絡 絣
綳 絢 絛 縮 給
經 綏 綌 綠
緊 綱 綻 綴 綸
綰 緆 緆 緹 繆
綿 維 綽 緵 綦
緩 練 鍊 煉

繳 線 緗 緍 縊
經 緘 緒 緇 縊
縢 縕 縒 縠 縣
縹 繇 繇 繅 繰
縻 縿 繁 縱 綜
縮 茜 織 繖 傘
繞 繡 續 繚 繒
繑 繭 繯 繫 闠
繽 繩 繻 纂 繼
纊 纇 纍 纉 纘
纖 纖

缶部

缶 缸 缻 缺 缾

罄 罊 罌 罃 櫑 罍
罍 罏 爐 罏

网部

罔 網 罕 罟
罝 罞 罦 罛 罼
罩 罹 罬 輟 置
罧 槮 署 罥
罵 罶 罽 罷
羅 羈

羊部

羊 羌 美 媺 羍
羔 羕 羚 羞
義 羨 羣 窘 羹

肉 肌 臆 肌 肏

肜 肖 肙 肢 胑

肺 肭 肯 肱 厷

肩 肥 股 育 毓

蛆 胙 祚 胔 胃

胇 胄 胄 胥 胗

疹 胤 胡 匈 胷

能 胯 脂 脅 脊

脉 脘 挩 脩 脤

腎 腋 腆 腐 腕

腴 腦 剴 腥

腸 膆 鮭 骭 膝

膵 膚 膢 膰

燔 膳 鐥 膺 臀

臊 鱢 膿 瞼 臉

臍 臘 臚 臠 裖

臣部

臣 臤 礥 臥 臧

臨

自部

自

白 皇 臯 臭 齅

臱 寡 鵙 闃 臬

至部

至 致 臺 臻

臼部

臼 臼 鞫 擢 匊
臾 臿 舀 舂
舄 舄 鵲 舅 與
与 興 舊

舌部

舌 舍 舒 舐

舛部

舛 僢 舜 舞 翌

舟部

舟 服 般 航 斻 船
朕 艘

艮部

艮 良 艱

色部

色

艸部

艸 草 节 芳 [illegible] 艾
芊 笈 芃 芎
卉 茻 芰 芩 芸
芻 花 芮 芳 芹
芥 芬 苗 若 苑
英 范 笵 苟 苫
苛 落 荇 茄 茄
苦 茅 茂 茗 苜
荀 茻 莽 茜 茵
鞇 苞 荇 荒 荅

苕荊茘荼
莞茶莅莊
荽莫萁莧
菔蔞縷菊鞠
鞠菟菑
萍菹菱菌
菅茨葛
葩葦範葬蔽
萼鄂萱著筋
葵揆葦葉
落零萬蒼蒲蒱
蓋蒯
著蒸蔗

蔦蔣蓧
蔑蔘蔥
蔕蓬蓮蔡
蕎蕩
蕫蔿蘧
蕭薇薄薪
薑薦薊
鄭薜薔
藉藍藏
藜藩藝藥
薛藹蘆藤蘇
蘇諸藻藻
蘭蘞蘗叢

虍部

虍 虎 虔 虒 虓 虘 處 虛 虜 號 虞 虡 虢 虣 虧 虩 虐

虫部

虫 虺 虬 虹 蚊 蚡 蚡 蚍 螾 蚓 蚤 蚌 蠆 蛇 蛓 蛛 蛩 蚰 蛾 蜉 蜃

蜂 蜀 蜙 蜚 蜜 蜘 蝕 蜾 蜽 蝄 蜮 蜩 蜴 螺 蜻 蟜 蝸 蟜 蠢 蟠 蟹 蠋 蠆 蠶 蠥 蟁 蠱 蠛 蠹 蠰 蠭 蠻 蟲

血部

血 衆

行部

谷 谷 啣 臄 噱

谸 芉 谿 溪 磎

豆部

豆 梪 豈 鼓 豉

登 甄 豊 禮 豎 豎

豐 豓 譏 豔

豕部

豕 豚 豘 象 豦 豪

毫 豫 豬 豷

豸部

豸 豻 犴 豺 豹

貂 貆 貐 貉 貌

貍 貙 貛

貝部

貝 貞 負 貢 贛 員

貟 責 貫 貪 貨

貧 貰 貳 貼 帖

聑 貽 詒 貶 貿

貸 貣 貴 買 賀

貴 費 賊 資 貫

賓 賣 賫 賞 賜

賡 質 嚌 賢 賴

賣 儥 賽 贅 贊

贏 臚

赤部

赤 赧 赦 赩 赫 赬

辛部

辛 辜 辟 辠 罪

辣 辭 辯 辥 辦

辨 辣

辰部

辰 農

辵部

辵 巡 卂 迅 迒

迎 近 迣 述 迪

迥 迤 迢 迮 筰

笮 迭 迫 敀 迷

逃 送 退 追 迹

迸 逞 逖 逷 逋

速 諫 逐 連 聯

透 逡 造 途 塗

涂 逢 逵 馗

進 逸 逶 倭 逭

逼 福 遄 違

遐 假 遇 逌 遒

逮 達 運 過 道

遂 遲 遜 遙

遣 遘 覯 遞 遰

遠 遮 遭 適 遯

遷 還

遼 遴 選 導 遺

遽 邁 邇 邃 邋

邊 通

邑部

邑 邕 雍 廱 雝 邪
邢 邦 那 邯
邵 邾 郅 郃 郁
戫 彧 郝 𨛜 巷
郢 郜 郡 郎 郤
部 鄄 郵 都 郾
鄉 鄑 鄙 啚 郭
鄭 鄰 鄧 鄹 鄦
酈 鄒

酉部

酉 酋 酒 配 酏
酬 酸 酹 醬 醇
醅 醋 酢 醉 醜
醟 醢 醫 醯 醵
𨠊 釁 釂 [illegible] 糤
醶 釅

采部

采 釋

里部

里 重 野 埜 量 釐

金部

金 鬴 釜 針 鍼 箴
釗 釣 釵 叉 鈕

青部

青 靜 請

非部

非 靠 靡

面部

面 偭 愐 靦 靨

革部

革 鞾 靴 靳 靼
鞣 鞋 鞈 鞶 鞠
鞹 韗 鞭 鞠
窾 趣 鞶 韣

韋部

韋 韓 韘 韍 韜
弢 韡 煒

韭部

韭 韱

音部

音 韶 韻 響 韽

頁部

頁 項 頂 順 須
碩 傾 領 放 領
纈 穎 頡 額 頪
隤 類 沬 頭 𦣞 頤
頣 顏 頎 額 顓 頷
題 顛 瘨 趙
槇 類 願 顧 顯

皓 晶 顯 顥 顲

顛

風部

風 飌 颯 飂 飆 猋

飄

飛部

飛

食部

食 飧 飭 飲 飫

飯 飪 恁 飽 飾 飼

飤 餂 餐 餉 饟

餌 餅 餈 養 餗

餒 餧 餘 館 餟

啜 腏 籑 饌 餐

餱 餳 餼 饎

餼 糦 饙 饋 饋

餽 饑 飢 饒 饐

饔 饘 飦 饕 叨

饗 饜 饞

首部

首 馘

香部

香 薌 馨

馬部

馬 馮 馴 馳 趍

馽 駒 駕 駐

魚部

鳥部

鹵部

鹿部

麥部

麻部

麻 麼 䵋

黃部

黃 黇

黍部

黍 黎 黐 黏 黏 黎 黐

黑部

黑 黔 默 黛 點 黜 黥 黨 黠 黯 黷 黷 遺

黹部

黹 黼

黽部

黽 黿 鼂 鼉 鼉 蛙 鼃 鼄

鼎部

鼎 鼐 鎡

鼓部

鼓 鼓 鼓 鼛 鼖 鼙 鼗 鞀 鞉

鼠部

鼠 鼢 鼫 鼬 鼱

鼻部

鼻

篆文 續

齊部

齊 齋 齍 齎 齌 齏 齏

齒部

齒 齔 齗 齣 齟 齡 齦 齹 齰 齮 齲

龍部

龍 龔 龏

龜部

龜

龠部

龠 籥

明治三十六年二月十四日印刷
明治三十六年二月十八日發行

漢和大辭典
上製正價金四圓

不許複製

監修者　重野安繹
監修者　三島毅
監修者　服部宇之吉
編輯兼發行者　龜井忠一
東京市神田區裏神保町一番地
印刷者　神保周造
東京市神田區裏神保町一番地
印刷所　三省堂印刷部
東京市神田區三崎河岸第十二號地

發賣所　三省堂書店
東京市神田區裏神保町一番地